servicenow

チューリッヒのガバナンス、リスク、コンプライアンス

最終更新日: **2025**年**12**月**17**日

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

これらの資料は、翻訳ソフトウェアを使用してお客様の便宜のために翻訳されています。正確な翻訳をご提供できるよう相当な努力を払っておりますが、いかなる自動翻訳も人間の翻訳者に代わることはなく、そのようなことは意図されておりません。翻訳は「現状のまま」提供されています。他言語への翻訳の的確性、信頼性または正確性については、明示または黙示を問わず、いかなる保証も行われません。翻訳ソフトには限界があるため、一部のコンテンツが正確に翻訳されていない場合があります。これらの資料の公用言語は英語です。翻訳の際に生じる相違または不一致は、コンプライアンスまたは履行の目的に関しては拘束力を有さず、法的効力はないものとします。

ここで示したいくつかの例と図は、説明の目的でのみ提供されています。ServiceNow 製品またはサービスへの実際の関連付けやつながりは意図されておらず、推測されるものではありません。

ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の商標または登録商標です。その他の会社名および製品名は、それぞれの所有者の商標です。

下記の ServiceNow ウェブサイト利用規約をお読みください。 www.servicenow.com/terms-of-use.html

自動翻訳

本社
2225 Lawson Lane
Santa Clara, CA 95054
United States
(408) 501-8550

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

servicenow

目次

ガバナンス、リスク、コンプライアンス....7
GRC と ServiceNow Store....13
初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする....13
GRC コンテンツパックと統合をインストールする....19
GRCアプリケーションの更新....20
インスタンスの次の GRC ファミリリリースへアップグレードする....21
AI リスクとコンプライアンス....21
探索....23
構成....46
使用方法....52
参照....80
監査管理....86
探索....87
構成....88
使用方法....94
統合....172
監査ワークスペース....173
アナリティクスとレポート....232
参照....242
事業継続性管理....254
探索....256
構成....306
管理....422
統合....700
参照....704
コンプライアンスケース管理....728
探索....729
構成....742
使用方法....755
参照....780
継続的な承認とモニタリング....783
探索....786
構成....789
使用方法....790
アナリティクスとレポート....860
参照....868
モデルリスク管理....887
探索....888
構成....891

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

使用方法 893
参照 901
オペレーショナルレジリエンス 905
探索 907
構成 922
管理 1002
監視 1232
参照 1259
Policy and Compliance Management (ポリシーとコンプライアンス管理) 1282
探索 1283
実装 1289
使用方法 1337
Now Assist 1641
統合 1655
アナリティクスとレポート 1675
参照 1697
プライバシー管理 1710
探索 1711
構成 1737
使用方法 1752
従業員センターとリスクポータルの統合 1778
プライバシーケース管理 1779
パーソナルデータ権 (PDR) 1824
レポート 1836
参照 1846
規制変更管理 1858
探索 1859
構成 1877
使用方法 1884
規制タスクの管理 1907
Now Assist 1947
参照 1967
リスク管理 1975
探索 1976
構成 2028
統合 2052
使用方法 2087
リスクワークスペース の使用 2241
統合リスク管理 の GRC：メトリクス 2337
リスク管理 のアナリティクスおよびレポート作成ソリューション 2398
参照 2438
スマートアセスメントエンジン 2460

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

探索.....2461
構成.....2466
管理.....2474
参照.....2528
サードパーティリスク管理.....2542
探索.....2545
構成.....2573
統合.....2637
デューデリジェンスを要求.....2661
サードパーティリスクのアセスメント.....2666
サードパーティリスクの監視.....2687
デューデリジェンス要求の承認または却下.....2738
契約プロセスの管理.....2743
VRMクラシック UI での作業.....2753
デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿を使用する.....2777
サードパーティポータルの管理.....2819
リスクインテリジェンスレポートとスコアの使用.....2837
参照.....2841
共通の GRC 機能.....2939
規制以外のアラートのアサイン構成担当者.....2939
規制機関ライブラリ.....2940
推奨のコンテキストとテンプレート.....2945
GRCのモバイルエクスペリエンス.....2952
GRC アプリケーションの用語.....2952
GRC コンテンツパック.....2964
GRC の統合.....2982
GRC ユースケースアクセラレータ.....2993
360° Relationship Visualization.....3123
機能ドメインを持つタグレコード.....3138
アイテム生成プロセスの使用.....3139
承認を設定するために 承認コンフィギュレーター を使用 承認の設定.....3151
機密レコード.....3161
ユーザー階層.....3169
GRC テーブルでのユーザーグループベースのアクセス.....3173
GRC でのコンテンツ参照.....3174
エンティティベースのアクセス.....3180
問題を管理します。.....3197
Now Assist.....3208
GRCのドメインセパレーション.....3223
ブレッドクラムナビゲーション.....3227
GRC のタクソノミー管理.....3227
ランディングページ構成モジュール.....3228

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークスペースの自分のタスク....3237
エンティティを探索....3239
例外の表示と更新....3274
サイバーセキュリティエグゼクティブダッシュボード....3275
高度なアプリケーションリスクダッシュボード....3276
ライセンスの概要ダッシュボード....3281
Microsoft Word を使用したベースの監査レポートテンプレート ドキュメントデザイナー....3286
[store-future: BEGIN review]
[End]
ドキュメントデザイナーを使用したドキュメントテンプレートの構成....3287
ワークスペースページ....3295
GRCの参照....3299

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ガバナンス、リスク、コンプライアンス

ビジネスリスクにリアルタイムで対応します。統合されたリスクプログラムでセキュリティと IT をつなぎ、継続的な監視、優先順位付け、および自動化を行います。

ガバナンス、リスク、コンプライアンス アプリケーション

AI リスクとコンプライアンス



AI リスクとコンプライアンスアプリケーションを使用して、人工知能 (AI) 機能を倫理的に管理し、AI リスクを軽減し、コンプライアンスを確保する方法について説明します。

監査管理



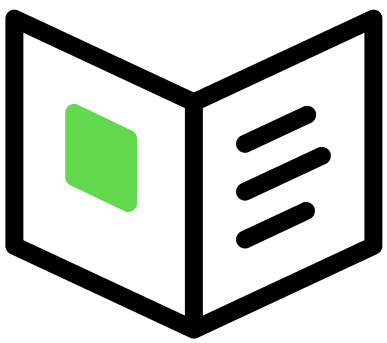
リスクデータを使用して、監査計画のスコーピングと優先順位付けを行い、部門横断型のプロセスを自動化します。

事業継続性管理



効果的かつ効率的に災害からの計画、訓練、復旧を行います。

コンプライアンスケース管理



コンプライアンスケースをレポート、調査、分析、解決します。

継続的な承認とモニタリング



IT システムをオンラインにし、継続的に監視するプロセスを加速します。

オペレーショナルレジリエンス



テクノロジー、人材、プロセス、施設のレジリエンスをリアルタイムで可視化します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポリシーとコンプライアンス管理



ポリシーのライフサイクルを自動化および管理し、コンプライアンスを継続的に監視します。

プライバシー管理



企業全体のプライバシーリスクとコンプライアンスをリアルタイムで管理します。

規制変更管理



主要なコンテンツプロバイダーとの統合により、今日の複雑な規制状況に対応します。

リスク管理



きめ細かいビジネスインパクトアナリシスにより、リスクに適切に優先順位を付けて対応できます。

スマートアセスメントエンジン



自動化により、リスクアセスメントプロセスの手作業による負担とコストを削減します。

サードパーティリスク管理

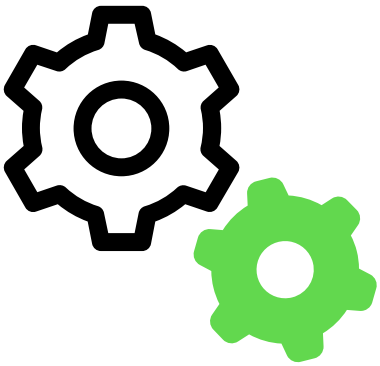


サードパーティエコシステム内のリスクを継続的に監視、検出、評価、緩和、および修正します。

自動翻訳

一般的な GRC 機能

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



GRC 製品全体で、エンティティ、360 度ビュー、タスクランディングページ、およびセキュリティ機能の機能を活用できます。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

ServiceNow GRC でビジネスリスクにリアルタイムで対応する

ServiceNow ガバナンス、リスク、コンプライアンス (GRC) は、大規模な企業全体に存在する非効率的なプロセスを統合されたリスクプログラムに変換するために役立ちます。GRC アプリケーションでは、継続的な監視と自動化により、コンプライアンスとリスクをリアルタイムで把握でき、意思決定の改善と組織全体やベンダーのパフォーマンスの向上を実現できます。

統合されたリスクフレームワークにビジネス、セキュリティ、IT をつなぐことで、サイロ化された非効率的な手作業のプロセスを単一のプラットフォームにビルドされた統一プログラムに変革できるのは、ServiceNow アプリケーションだけです。

GRC 機能の特長については、詳細情報カードを表示してダウンロードしてください。



緊急時に直面するアクティビティを簡素化および自動化

自然災害や COVID-19 などのパンデミックの最中でも、事業継続性への取り組みを結集します。



ポリシーのライフサイクルを自動化および管理し、コンプライアンスを継続的に監視します。

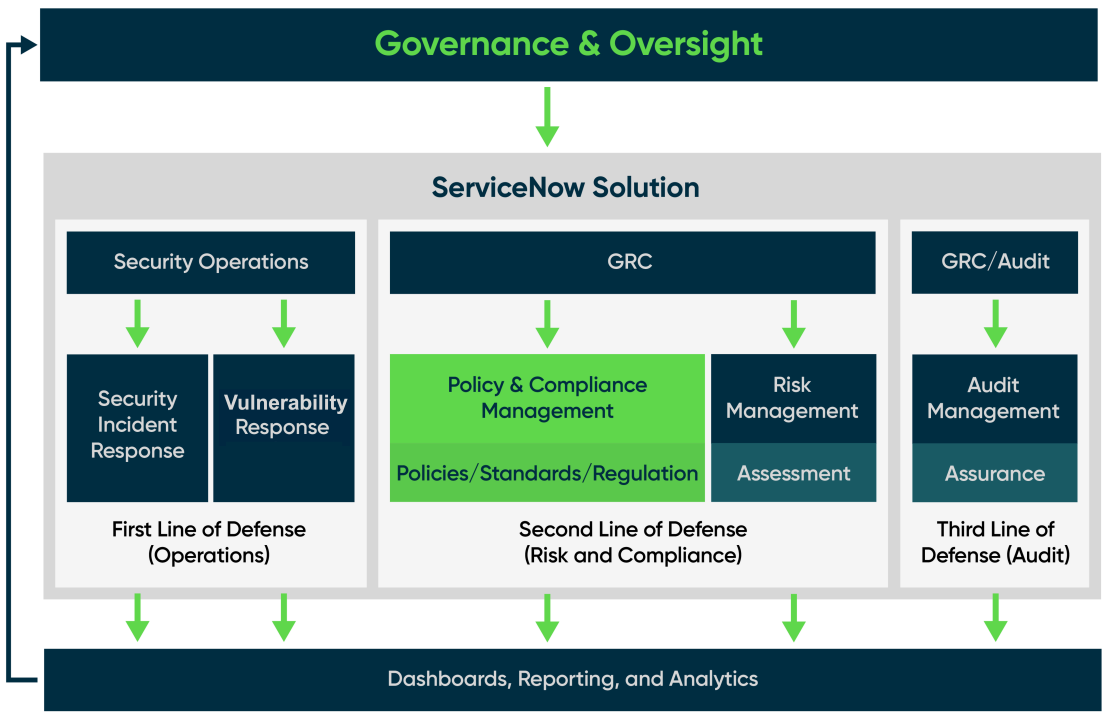
コンプライアンスに対するすべての取り組みをより体系的かつシンプルにし、透明性と信頼性を高めることができる単一のプラットフォームを採用することは、最も理にかなっています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

	きめ細かいビジネスインパクトアナリシスにより、リスクに適切に優先順位を付けて対応できます。 Integrated Risk Management でビジネスリスクにリアルタイムで対応します。
	リスクデータを使用して、監査計画のスコーピングと優先順位付けを行い、部門横断型のプロセスを自動化します。 監査コストを削減し、効率を向上させ、リスクを最小限に抑えます。
	ベンダーエコシステム内のリスクを継続的に監視、検出、評価、緩和、および修正します。 ベンダーが機密性の高いシステムやデータに関与する機会が増えるにつれ、リスクとコンプライアンスに対するベンダーの体制が、自社のセキュリティにとってさらに重要となります。ベンダーを定期的に評価し、発生した問題をプロアクティブに軽減することが重要です。

ポリシーのライフサイクルを自動化および管理し、コンプライアンスを継続的に監視する

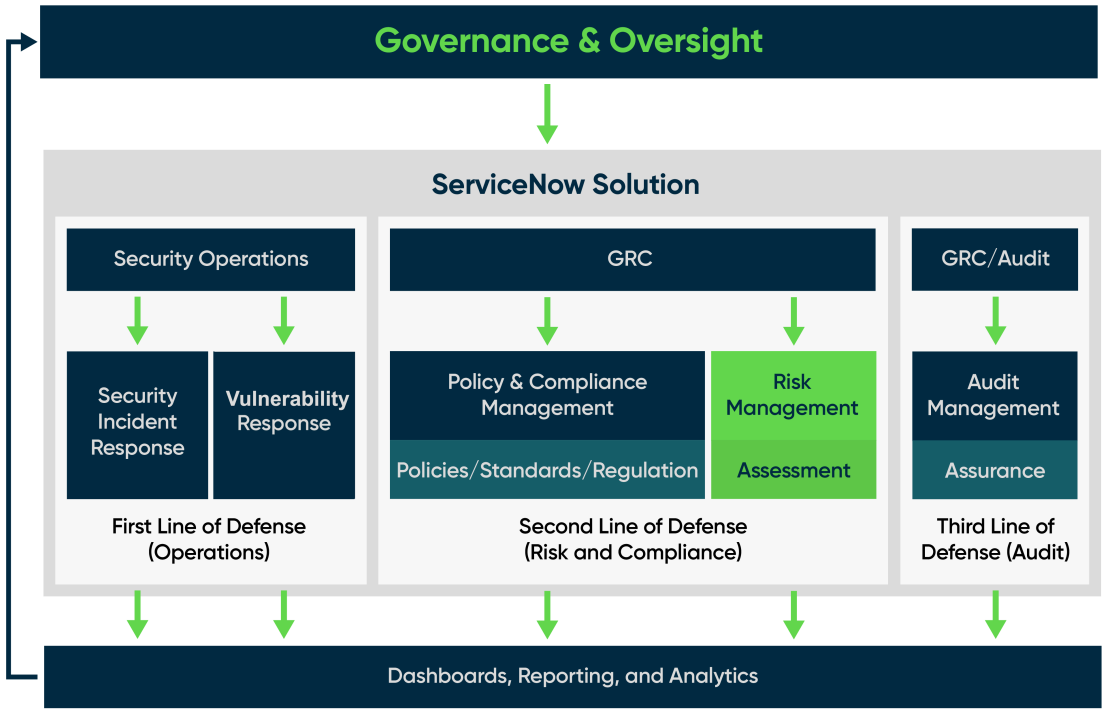


ServiceNow® ポリシーとコンプライアンス管理 製品では、一元的なプロセスにより、ポリシー、標準、および内部コントロール手順を作成および管理することができます。このプロセスによって自動的に、手順と外部規制が相互に割り当てられます。またこのアプリケーションは、制御アクティビティの識別、評価、および継続的な監視のための構造化ワークフローも提供しています。

自動翻訳

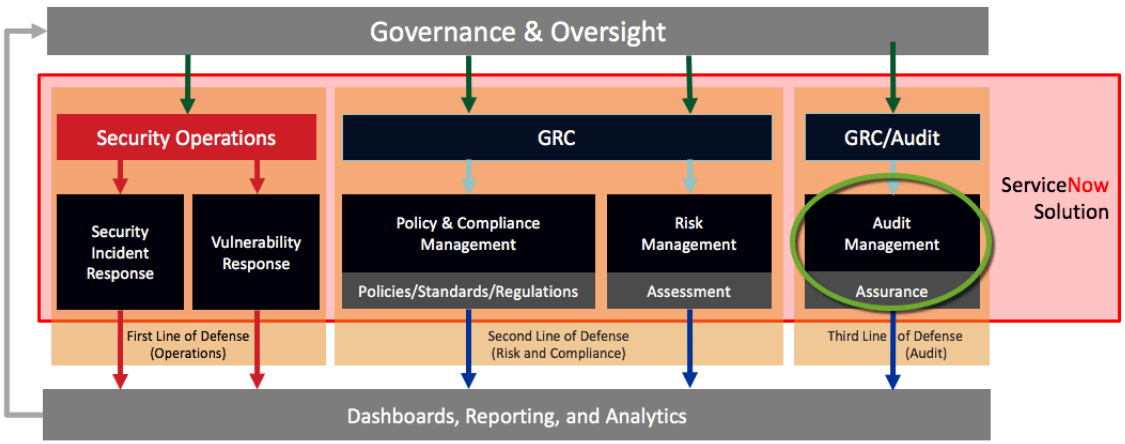
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

きめ細かいビジネスインパクトアナリシスにより、リスクに適切に優先順位を付けて対応することが可能



ServiceNow リスク管理 製品では、一元的なプロセスにより、ビジネスオペレーションに悪影響を与える可能性のあるエンタープライズや IT のリスクを特定、評価、対応、および継続的に監視することができます。アプリケーションは、リスクアセスメント、リスクインジケーター、およびリスク問題を管理するための構造化されたワークフローも提供します。

リスクデータを使用して、監査計画のスコーピングと優先順位付けを行い、部門横断型のプロセスを自動化



ServiceNow 監査管理 製品は、内部監査チームの作業ストリームを自動化することで、リソースと生産性を最適化し、何度も繰り返される監査結果を排除します。監査管理 はコンプライアンスとリスクのデータを使用して、監査エンゲージメントのスコーピング、計画、優先順位付けを行います。ポリシーと手順、リスク、およびコントロールのブレークダウンを継続的にレビューすることで、監査が失敗する前に問題を修正する機会が得られます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow 規制変更管理 アプリケーションを使用することで、顧客が今後の規制変更を確認し、その影響を評価し、リスクおよびコンプライアンス関連の変更を実装して、全体的な規制コンプライアンスを確保することができるよう推進します。

ベンダーエコシステム内のリスクを継続的に監視、検出、評価、緩和、および修正する

ベンダーが機密性の高いシステムやデータに関与する機会が増えるにつれ、リスクとコンプライアンスに対するベンダーの体制が、自社のセキュリティにとってさらに重要となります。ベンダーを定期的に評価することは重要ですが、これまではスプレッドシートやメール、従来の原始的なリスク管理ツールを使用していたために、時間がかかり、エラーも発生しやすくなっていました。

ベンダーリスク管理 アプリケーションは、ベンダーのリスクや問題の核心を突いたレポート、一貫したアセスメントと修正のプロセス、および自動化されたアセスメント手順により、ベンダーリスクの管理方法を変革します。ステークホルダーとのやり取りを容易にし、透明性と説明責任を促進し、ベンダー関連のリスクを効果的に監視する手段を提供します。

全体的なエンタープライズリスク管理の優先度に合わせて ベンダーリスク管理 を調整することで、リスクを重点的にまとめたビューを作成し、大規模な企業におけるより強力なリスク体制を実現できます。

学習内容

- 事業継続性計画とは
- ビジネスレジリエンスとは
- Compliance Management とは
- GRC とは
- Operational Resilience とは
- オペレーショナルリスク管理とは
- ランサムウェアとは
- サードパーティリスク管理 (TPRM) とは

開始するには

- 実装スペシャリストと協力して、目的のビジネス成果を達成します。詳細については、Customer Success Center でご確認ください。
- ガバナンス、リスク、コンプライアンス コースを活用して専門知識をビルドし、短期間で ROI を実現します。サインアップするには、「ServiceNow のトレーニングと認定」を参照してください。

アプリケーションと機能

- AI リスクとコンプライアンス
- Audit Management
- 事業継続性管理
- コンプライアンスケース管理
- 継続的な承認とモニタリング
- Operational Resilience
- ポリシーとコンプライアンス管理

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- プライバシー管理
- 規制変更管理
- リスク管理
- スマートアセスメントエンジン
- サードパーティリスク管理
- GRC と ServiceNow Store
- 共通の GRC 機能

GRC と ServiceNow Store

すべての GRC アプリケーションは ServiceNow Storeから入手可能で、新しい機能や更新された機能をより迅速に取得できます。GRC アプリケーションを使用する前に、アプリケーションのエンタイトルメントがあること (つまり、使用するための有効なライセンスがあること) を確認する必要があります。ServiceNow Store からそアプリケーションをダウンロードして有効化することができます。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

ダウンロード可能 GRC なアプリケーションのリストは次のとおりです。

- 監査管理 (およびサポートされる統合)
- 事業継続性管理
- オペレーショナルレジリエンス
- ポリシーとコンプライアンス管理 (およびサポートされる統合機能)
- 規制変更管理
- リスク管理 (およびサポートされる統合機能)
- ベンダーリスク管理 (およびサポートされる統合機能)

ServiceNow Storeから Security Operations および GRC アプリケーションをダウンロードする方法については、この 5 分間の動画をご覧ください。 この 5 分間の動画では ServiceNow Store から Security Operations および GRC アプリケーションをダウンロードする方法を説明します

GRC 製品を取得するために使用するプロセスは、製品の初回ダウンロードであるか、以前に ServiceNow Store からインストールした製品の更新であるか、またはあるファミリリリースから次のファミリリリースへのアップグレードであるのかによって異なります。

初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする

ServiceNow Store からアプリケーションを初めてダウンロードする場合は、いくつかの簡単なステップを実行します。ServiceNow Store で実行されるステップと、ServiceNow AI Platform のインスタンスで実行されるステップがあります。

始める前に
必要なロール：admin

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

このタスクについて
ServiceNow Store を使用すると、コア製品とアプリケーションをダウンロードできます。製品には、グループとしてライセンスされる 1 つ以上のアプリケーションが含まれています。

次の GRC コアアプリケーションを有効にすると、依存関係プラグインが自動的にインストールされます。

- Audit Management
- ポリシーとコンプライアンス管理
- リスク管理

たとえば、リスク管理アプリケーションを有効化すると、リスク管理依存関係プラグインも有効になります。

重要:
ベンダーリスク管理 では、ベンダーリスク管理 アプリケーションを有効にする前に ベンダーリスク管理 依存関係プラグインを有効にする必要があります。詳細については、「エンタイトルメントされた GRC ServiceNow Store アプリケーションを有効化する」を参照してください。

手順

1. アプリケーションとその依存アプリケーションに対するエンタイトルメント (またはライセンス) があることを確認します。
2. アプリケーションを有効化し、インスタンスで実行します。

関連情報

プラグインのリスト

GRC 製品またはアプリケーションのエンタイトルメントを取得する

アプリケーションのインストールの最初のステップは、アプリケーションまたは製品およびその関連付けられたアプリケーションに有効な ServiceNow エンタイトルメントがあることを確認することです。

始める前に
必要なロール：admin
エンタイトルメントを実行する個人には、Now Support アカウントと、検討中のインスタンスのアプリケーションを要求する権限が必要です。

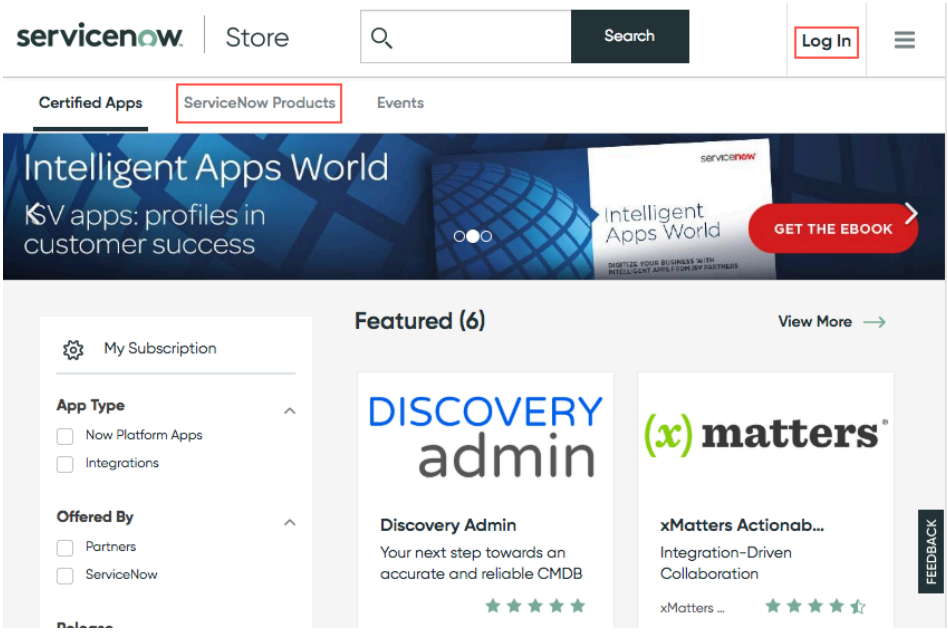
注:
このプロセスは、本番インスタンスにダウンロードしたアプリケーションにのみ適用されます。準本番インスタンスまたは開発インスタンスにアプリケーションをダウンロードする場合は、エンタイトルメントの取得は必要ありません。に進む のアクティブ化 ServiceNow Store application .

自動翻訳

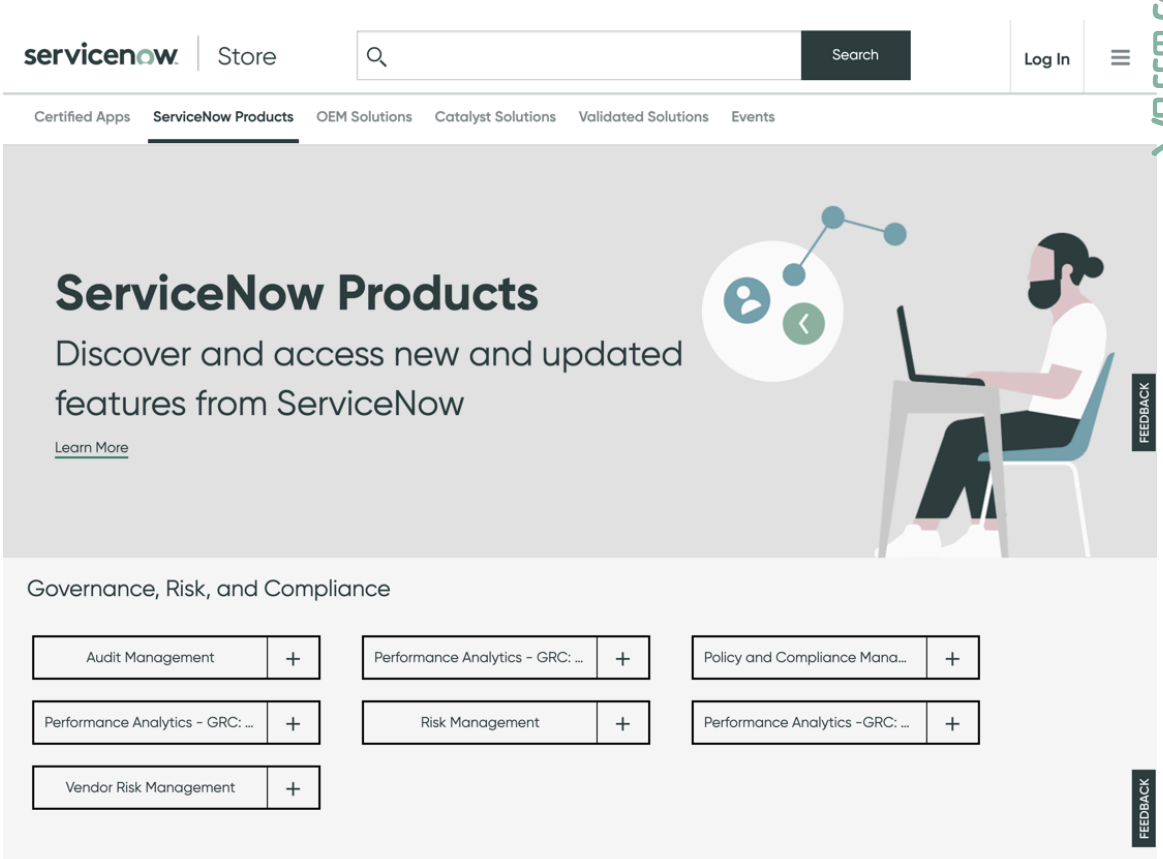
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. に移動します ServiceNow Store .



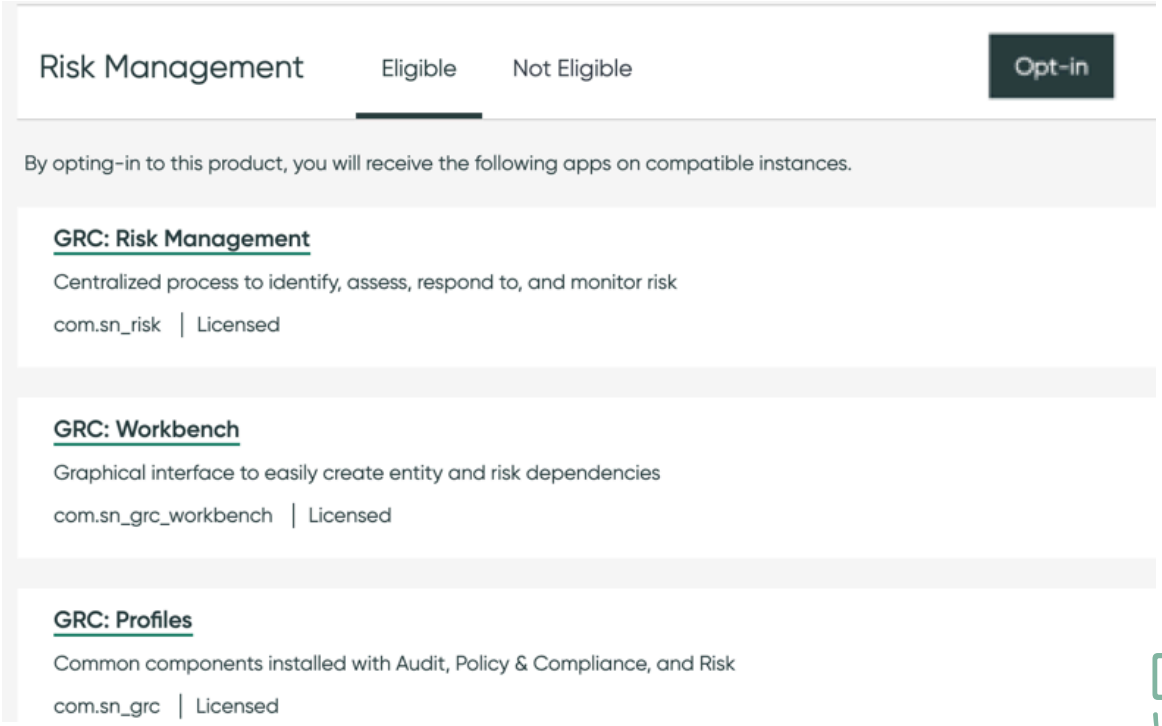
2. [ログイン] をクリックし、HI の認証情報を使用してログインします。
3. **[ServiceNow** 製品] タブをクリックして、利用可能なすべての ServiceNow製品を表示します。統合とその他のタイプのコンテンツが [認定アプリ **(Certified Apps)]** タブに表示されます。



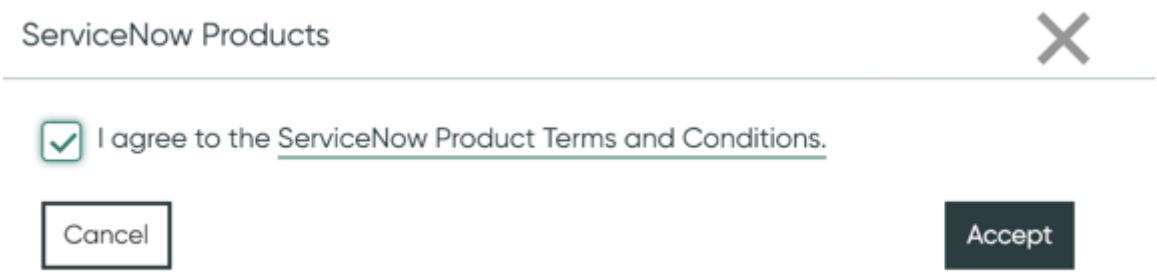
注:
この例では、リスク管理 製品のエンタイトルメントを取得するものとします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. エンタイトルメントを取得する製品の製品名をクリックします。
エンタイトルメントを取得している製品に関連付けられているすべてのアプリケーションが一覧表示されます。コア製品のエンタイトルメントを取得すると、その下にリストされているアプリケーションについてもエンタイトルメントを取得します。



5. [オプトイン] をクリックして、一覧表示されている製品とアプリケーションのエンタイトルメントがあることを確認します。
ServiceNowの契約条件を読んで同意するように求められます。



6. チェックボックスをオンにし、[受け入れ] をクリックします。
7. 製品名の横にチェックマークが表示され、[エンタイトルメントを管理 (Manage Entitlements)] ボタンが表示されます。

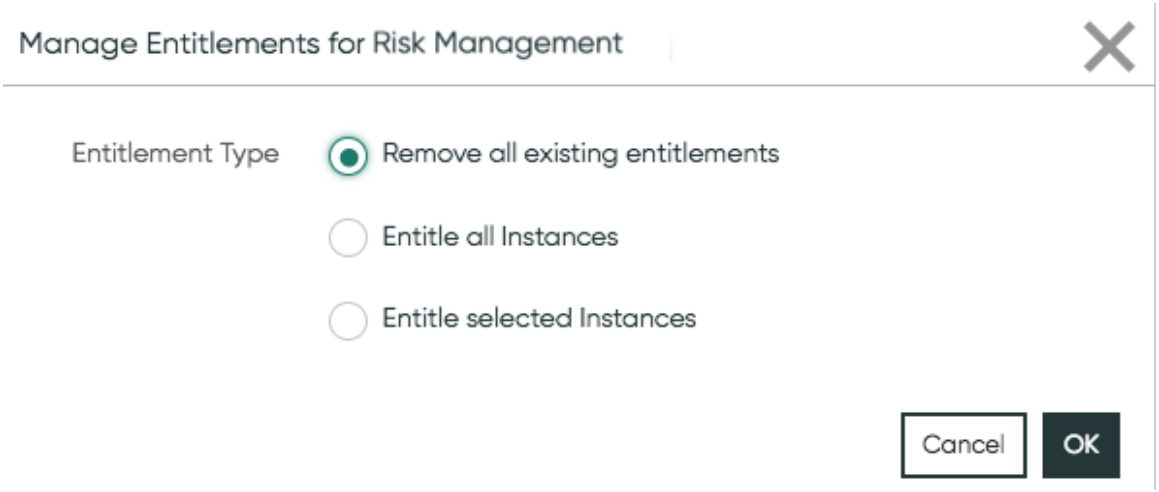


このチェックマークは、ユーザーが製品とそれに関連付けられたアプリケーションに登録されていることを示します。エンタイトルメントを管理します。これは、この製品および後からインストールする他の製品に対する 1 回限りのプロセスです。

8. オプション: [エンタイトルメントの管理 **(Manage Entitlements)]** をクリックして、エンタイトルメントが付与されているアプリケーションの影響を受けるインスタンスを変更できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



9. ServiceNow の契約条件に同意し、エンタイトルメントを管理した後に、製品名の横にあるプラス記号 (+) をクリックすると、他の製品にエンタイトルメントを付与できます。

> **注:**
> これで、製品を有効にする準備ができました。

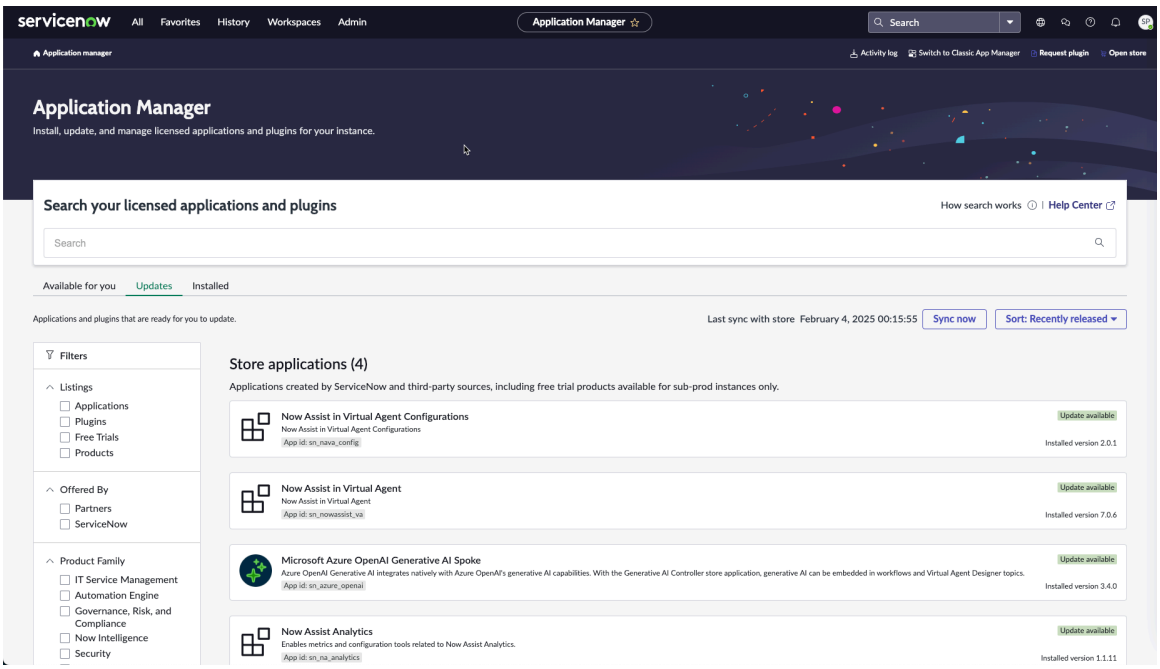
エンタイトルメントされた **GRC ServiceNow Store** アプリケーションを有効化する

アプリケーションにエンタイトルメントが付与された後、そのアプリケーションを有効化できます。このプロセスは、準本番インスタンスにダウンロードしたアプリケーションに適用されます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. 移動先 システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.



自動翻訳

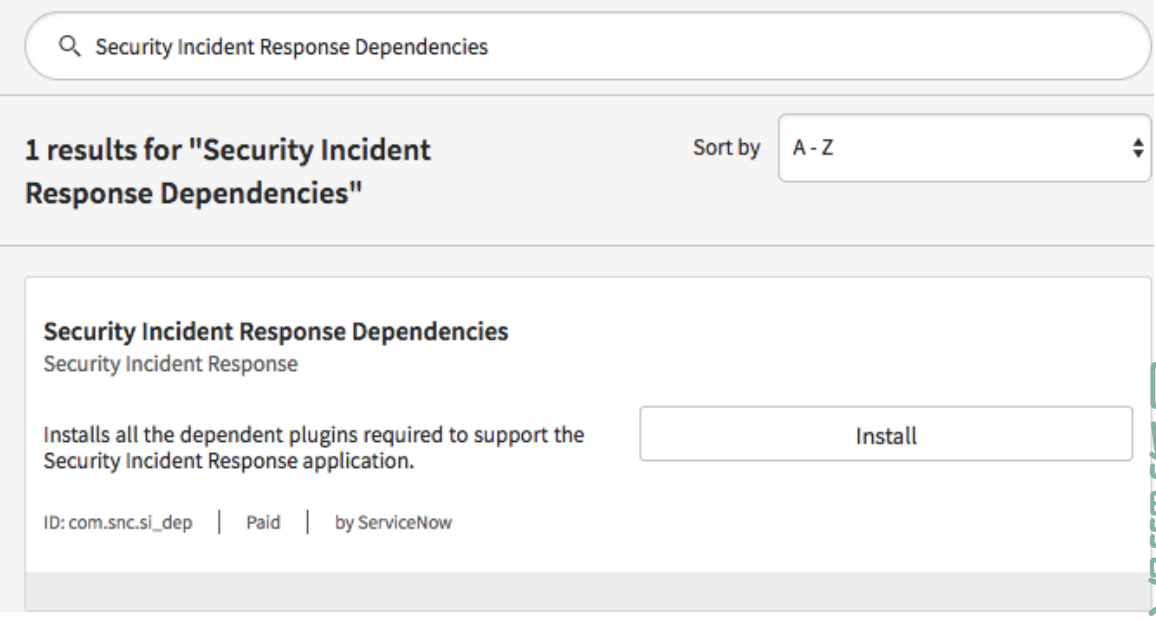
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:

Orlando 以降では、コアアプリケーションを有効化すると、依存関係プラグインが自動的に有効化されます。たとえば、監査管理 Audit Management アプリケーションを有効化すると、Audit Management Dependencies プラグインも有効になります。

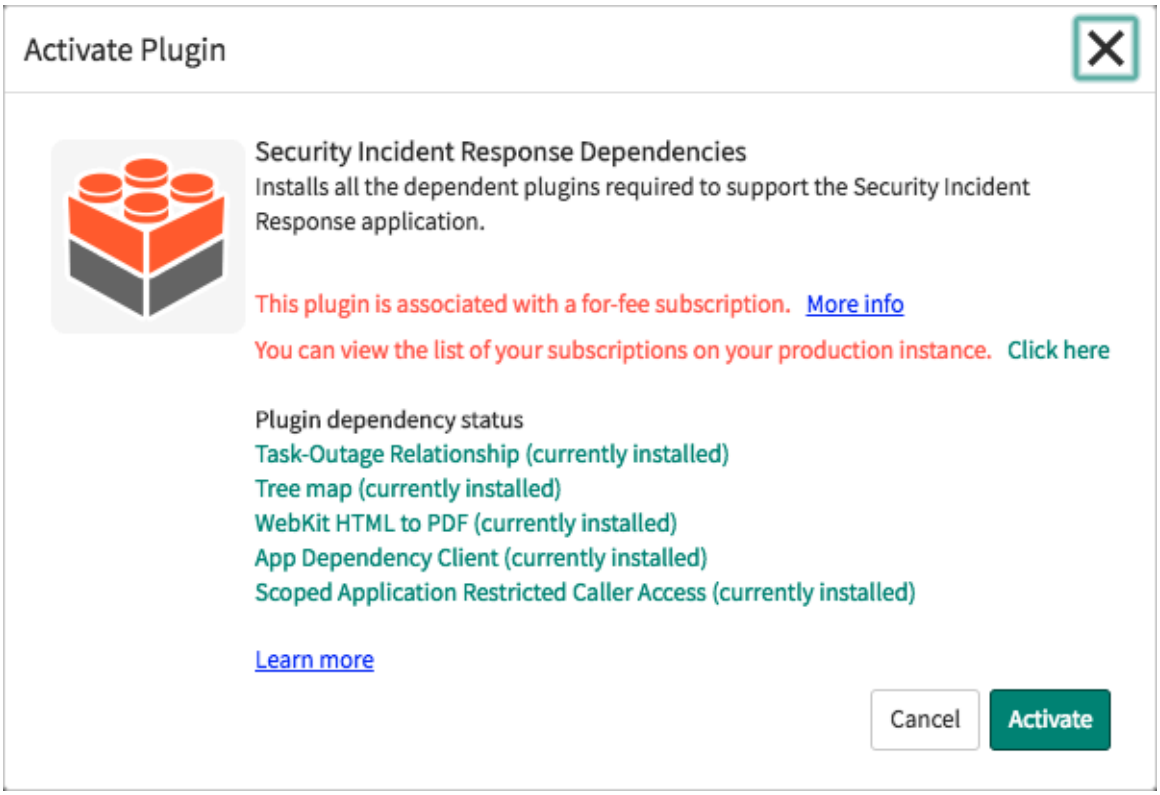
重要：前のメモの情報は ベンダーリスク管理 アプリケーションには適用されません。ベンダーリスク管理 を有効にする場合は、次の手順に進みます。他の GRC アプリケーションを有効にする場合は、ステップ 2 ～ 5 はオプションです。

2. 有効にするアプリケーションの依存関係プラグインを検索します。
   たとえば、セキュリティインシデントレスポンス をアクティブ化する場合は、セキュリティインシデントレスポンス Dependencies プラグインを見つけます。



3. [**Install** (インストール)] をクリックします。
   [プラグインをアクティブ化] ダイアログボックスが表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. [プラグインをアクティブ化] ダイアログボックスで、[アクティブ化] をクリックします。
5. アクティブ化が完了したら、[フォームを閉じてリロード] をクリックします。
6. アクティブ化するコア製品を検索します。
7. デモデータをロードする場合は、[デモデータのロード] チェックボックスをオンにします。
8. [インストール] をクリックします。
   アプリケーションはインスタンスへ自動的にインストールされます。

> **注:**
> [デモデータのロード] チェックボックスをオンにしないと、後でアプリケーションマネージャーからデモデータをインストールできません。初期インストール後にデモデータをインストールまたは再インストールする方法については、HI ナレッジベース記事「Work around to install demo data if application is already installed (アプリケーションが既にインストールされている場合にデモデータをインストールする方法) [KB0722909]」を参照してください。

GRC コンテンツパックと統合をインストールする

ServiceNow のすべての統合を ServiceNow Storeで利用できます。ポリシーとコンプライアンス管理 などのコアアプリケーションは、ストアの **[ServiceNow** 製品] タブに表示されます。コンテンツパックと統合アドオンは、[認定アプリ **(Certified Apps)]** タブに表示されます。

始める前に
必要なロール：admin
ストアのインストールには、 Now Support アカウントと、検討中のインスタンスのアプリケーションを要求するための権限が必要です。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. インストールするアプリケーションを見つけて、[インストール] をクリックします。
   - 準本番インスタンスにアプリをインストールする場合、アプリケーションはインスタンスにインストールされます。
   - 本番インスタンスにアプリをインストールしようとしていて、有効なライセンスがある場合 (つまり、アプリケーションのエンタイトルメントがある場合)、アプリケーションはインスタンスにインストールされます。
   - 本番インスタンスにアプリをインストールしようとしていて、有効なライセンスがない場合、メッセージが表示されます。次のステップを実行します。

   a. [ストア内検索] をクリックして ServiceNow Store を開きます。

   b. アプリケーションを見つけて、そのタイルをクリックします。

   c. [取得] をクリックし、Now Support ログイン認証情報を入力します。

   d. [インストールを要求] をクリックします。

   > **注:**
   > ServiceNow によって開発されたストアアプリケーションの場合は、[取得] ボタンが表示されます。

   e. [要求] をクリックします。
   インスタンス名と要求の理由を入力し、[要求] をクリックします。詳細なインストール手順が記載されたメールが送信されます。

   f. 移動先 システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
   インストール可能なアプリケーションのリストが表示されます。

   g. [インストール] をクリックします。
   アプリケーションを見つけて選択し、[インストール] をクリックします。アプリケーションはインスタンスに自動でインストールされます。

以前に **ServiceNow Store** からダウンロードした **GRC** アプリケーションを更新する

以前にアプリケーションを ServiceNow Store からダウンロードしていて新バージョンが入手可能な場合、インスタンスで更新できます。更新すると、最新バージョンのアプリケーションがアプリケーションパッケージとともにアプリケーションストアからインストールされます。

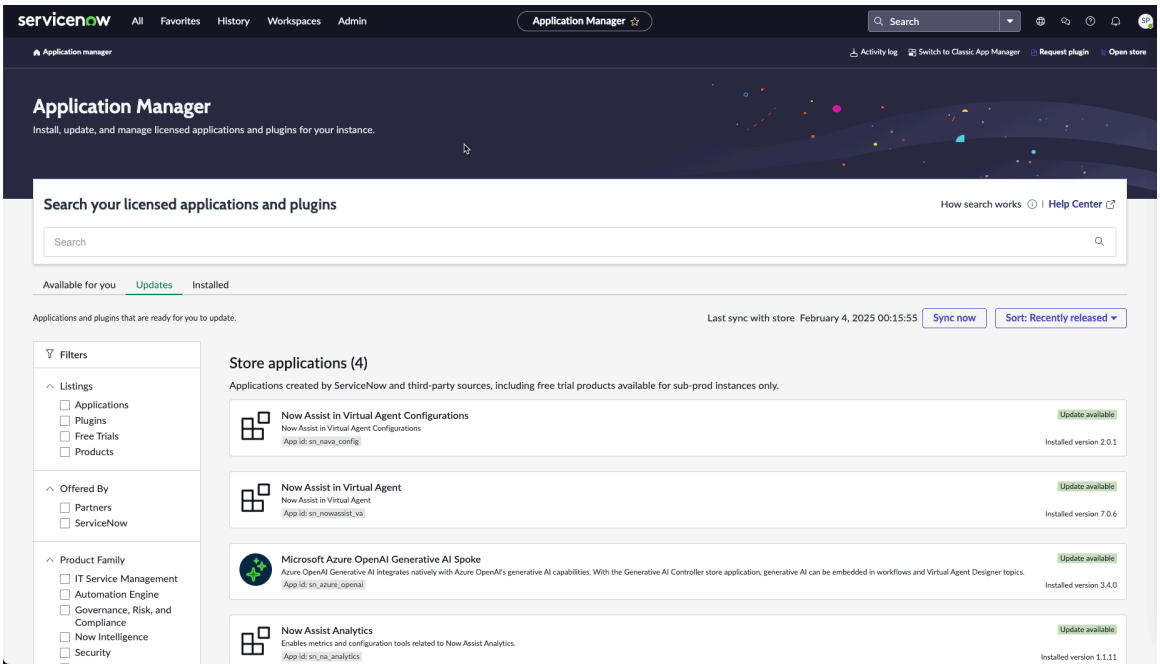
始める前に
必要なロール：admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.



2. 更新するアプリケーションを検索します。
3. 更新するバージョンを選択し、[更新] をクリックします。
   アプリケーションはインスタンスで自動的に更新されます。

インスタンスの次の GRC ファミリリリースへアップグレードする

現在、いずれかのファミリリリース (London など) を実行していて、次のリリースにアップグレードする場合は、ServiceNow Store からアプリケーションを取得する必要はありません。プラットフォームが必要な最低バージョンに更新されると、アプリケーションが自動的に更新されます。

AI リスクとコンプライアンス

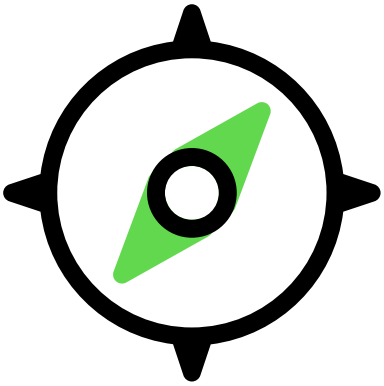
リスクマネージャーおよびコンプライアンスマネージャーは、ServiceNow® AI リスクとコンプライアンスアプリケーションとServiceNow AI コントロールタワーを使用して、組織が AI システムに関する規制およびポリシーに準拠していることを確認できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

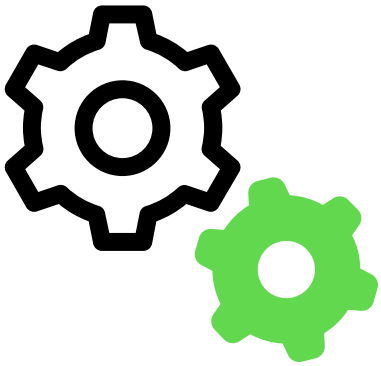
開始するには

探索



AI リスクとコンプライアンス アプリケーションを使用して、人工知能 (AI) 機能を倫理的に管理し、AI リスクを軽減し、コンプライアンスを確保する方法について説明します。

構成



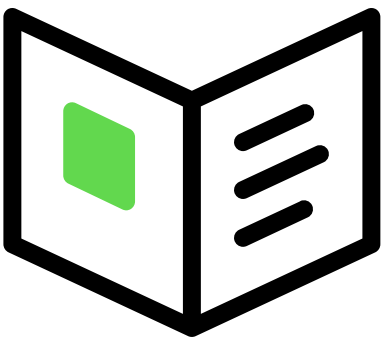
AI 資産のリスクアセスメントを管理するようにアセスメントを構成します。

使用方法



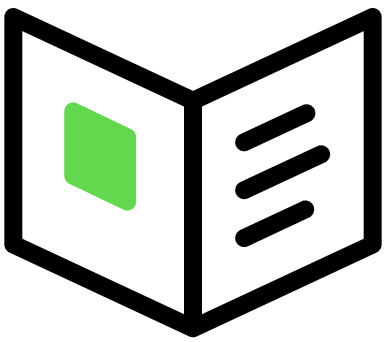
AI システム、AI モデル、データセットを要求し、AI ケースと AI 照会を作成する方法について説明します。

参照



AI リスクとコンプライアンスの一部としてインストールされるロールやテーブルなどのコンポーネントに関する詳細を取得します。

AI コントロールタワー



AI コントロールタワーがすべての AI 資産とその他の AI 資産を管理および追跡する方法の詳細を取得します。

役に立つリソース

役立つ情報を提供できる ServiceNow リソースは次のとおりです。

カスタマーサービス & サポート

カスタマーサービス & サポート

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

AI リスクとコンプライアンス の探索

AI リスクとコンプライアンス アプリケーションを使用して、人工知能 (AI) 機能を倫理的に管理し、AI リスクを軽減し、コンプライアンスを確保する方法について説明します。

AI リスクとコンプライアンスの概要

AI リスクおよびコンプライアンスチームは、AI に関連するリスクを特定して評価する責任があります。これには、AI 機能が責任を持って実装されていることを確認するための法的、規制的、倫理的考慮事項の評価が含まれます。彼らの役割は、業界標準と倫理原則へのコンプライアンスを維持しながら、組織がAIソリューションを採用できるようにするガイドラインとフレームワークを確立することです。AI リスクとコンプライアンス アプリケーションを使用すると、組織のリスクおよびコンプライアンスチームは AI 機能と資産を管理できます。

AI リスクとコンプライアンス ユーザー

次の表にリストされているユーザーは、汎用ロールを表します。これらの各ロールは、さまざまな組織で異なるタイトルと名前で識別される場合があります。AI リスクとコンプライアンスアプリケーション内の特定のロールについては、「AI リスクとコンプライアンスとともにインストールされるロール」を参照してください。

ユーザー

ユーザー	説明
AI プロダクトオーナー、ビジネスユーザー、IT 資産オーナー、AI 実践者	• ワークスペースまたは 従業員センターを通じて、AI ユースケース、モデル、データセットを作成する要求を開始します。 • AI システムのパフォーマンスを監視し、継続的な改善を推進し、ビジネスインパクトを評価します。 • AI 製品のライフサイクル全体を通じて、ガバナンス、倫理、および法務標準へのコンプライアンスを維持します。 • 主要な開発および管理ポイントで責任ある AI プラクティスに積極的に関与し、検出と再利用のために承認された AI 資産にアクセスします。
AI スチュワード	• AI システムが公平性、透明性、説明責任、差別の禁止などの倫理原則に準拠していることを確認し、危害や偏見を防ぐためにモデルと出力を定期的にレビューします。 • トレーニングデータ、アルゴリズム、結果のバイアスを特定して対処することで AI の意思決定の公平性を促進し、定期的な影響とリスクの評価を実施します。 • アイデアから廃止まで、AI モデルのライフサイクル全体を監督し、チーム間の連絡役として部門間のガバナンスを統合し、データプライバシー、セキュリティ、知的財産保護のコンプライアンスを確保します。 • 定期的なテスト、監視、更新を通じて、プライバシーに関する懸念や技術的な誤動作などの潜在的なリスクを特定して軽減し、ワークフローの更新と問題管理を通じてポリシーや規制の変更に迅速に適応します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーザー (続く)

ユーザー	説明
最高リスク責任者	• 責任ある AI 使用のためのフレームワークを確立し、倫理ガイドライン、業界規制、リスク管理ポリシーを確実に遵守します。 • AI 戦略の実装を処理します。
AI リスクおよびコンプライアンスアナリスト	各種法令・基準等、リスクステートメント、ポリシー、コントロールなどのコンプライアンスおよびリスクインベントリを表示および管理し、 高度なリスク ダッシュボードにアクセスします。
AI リスクとコンプライアンス アドミン	• 適合性アセスメントなどのリスクアセスメント方法、寄与要因、影響度テンプレート (適合性アセスメントなど) を構成して、リスクと影響度アセスメントのフレームワークを設定します。 • 影響度評価の自動化ルールを設定して、適用可能な AI リスクとコントロールを特定します。 • AI ケースタイプを定義し、フォームフィールドとアサインにビジネスルールを適用し、ビジネスニーズを満たすレポートテンプレートを設計します。

AI リスクとコンプライアンス のワークフロー

次のセクションでは、 AI コントロールタワー アプリケーションで AI 資産が作成され、資産が展開されて監視対象に移行するまで、資産のリスクが AI リスクとコンプライアンス アプリケーションで評価されるときに関係する手順について説明します。

新しい AI システムが導入または拡張されると、リスクアセスメントと AI 影響度評価が実施されます。これらのアセスメントにより、AI システムのリスクレベルを示すスコアが生成されます。関連するステークホルダーから承認が得られたら、開発またはビルドフェーズが開始されます。開発中は、リスクとコンプライアンスの観点から、コントロールが証明され、問題が追跡および管理され、必要に応じてポリシー例外が発生します。開発後、AI システムは次のことを確認するためにレビューされます。

- 適合性評価の完了
- 未解決の問題とポリシー例外のレビューと解決
- リスクの再評価

これらの評価に基づいて、AI システムの展開が承認または却下されます。

AI 資産の作成と展開のワークフローは次のとおりです。

1. ビジネスユーザーは、 従業員センター または AI コントロールタワー ワークスペースを使用して、新しい AI ユースケースを送信します。
2. 新しいインベントリレコードがワークスペースに自動的に作成されます。
3. AI センターオブエクセレンス (COE) チームが、送信されたユースケースをレビューします。
4. 関連資産がインベントリに追加され、ユースケースが次のステージに進む必要があるかどうかを判断するのに役立ちます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. AI リスクとコンプライアンスワークスペースで、AI 影響度評価または AI 適合性アセスメントのいずれかが開始されます。
6. アサインされたビジネスユーザーがワークスペースでアセスメントを完了します。
7. アセスメント結果に基づいて、潜在的なリスクと必要なコントロールが特定され、マッピングされます。
8. アセスメントが承認されると、適切なチームによって AI ユースケースがビルドされます。
9. 完成したソリューションは、正式なレビュープロセスを経ます。
10. コンプライアンスとパフォーマンスを確保するために、継続的な監視が実行されます。
11. レビューが正常に完了すると、ソリューションは本番環境に展開されます。

AI リスクとコンプライアンス のメリット

AI リスクとコンプライアンスアプリケーションは、AI を使用する組織が直面する次の課題に対処します。

- AI戦略の欠如:一般的に合意されたAI戦略や企業目標との整合性がない。
- 一元管理がない:すべてのステークホルダーと最高 AI 責任者が協力して AI の使用を管理するための単一のプラットフォームがありません。
- 責任ある AI ガイドラインがない:倫理的で責任ある AI 使用に関するガイドラインがない。
- リスクアセスメントプロセスなし:社内およびサードパーティの AI のリスクを評価するプロセスがありません。
- スケーラビリティと監視の問題:AI展開の拡張、パフォーマンスの追跡、プライバシーなどの新たなリスクの継続的な監視における課題。

次の表に、 AI リスクとコンプライアンス アプリケーションを使用するメリットを示します。

福利厚生	機能	ロール
一貫したガバナンスにより、ライフサイクル全体にわたって AI システム、モデル、データセットを管理し、可視性、制御、コンプライアンスを向上させます。	AI asset lifecycle	AI スチュワード
AI システム、モデル、データセットの影響度評価を実行して、高リスクの AI 資産を特定します。	AI ユースケースの影響度評価を実行する	必要なロールは次のとおりです。 • AI コントロールタワー:AI 資産オーナー • AI リスクとコンプライアンス:AI リスクとコンプライアンスユーザー
追加情報とテストに基づいて、AI システムと AI 資産に関連付けられた個々のリスクのリスクアセスメントを実行します。	AI システムでリスクアセスメントを実行AI 資産のリスクに関するリスクアセスメントを開始	AI リスクおよびコンプライアンスアナリスト

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

福利厚生	機能	ロール
構造化されたケース管理プロセスを通じて、AI 関連のケースと問題を管理および監督します。	AI リスクとコンプライアンス ワークスペースで AI ケースを作成する AI リスクとコンプライアンス ワークスペースで AI の問題を作成する	必要なロールは次のとおりです。 • AI ケース:AI ケースアナリストおよび AI ケースマネージャー • AI の問題:AI リスクとコンプライアンスマネージャーおよび AI リスクとコンプライアンスアナリスト
AI フレームワークコンテンツパックを使用して、規制要件に沿ったコンプライアンス対応の AI 資産インベントリを構築します。	• AI assets • AI 資産のコントロール証明書を作成	AI リスクおよびコンプライアンスアナリスト

次に探索する内容

AI リスクとコンプライアンスを構成して使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- AI リスクとコンプライアンスの構成
- AI リスクとコンプライアンス の使用
- AI リスクとコンプライアンスの参照

AI 資産

AI 資産は、人工知能テクノロジーを活用して特定の機能を実行したり、定義されたビジネスニーズに対応したりするデジタルリソースです。

AI 資産には、デジタル環境で使用されるデータセット、機械学習モデル、仮想エージェント、自然言語処理システム、およびコンピュータービジョンアプリケーションが含まれます。これらのテクノロジーは、組織のデジタルインフラストラクチャの重要な要素を表し、さまざまな運用ドメインにわたる AI 主導の機能に貢献します。

追加のAI対応ツールは、デジタルシステムをさらに強化し、ビジネスプロセス全体の自動化、分析、インテリジェントな意思決定をサポートします。

評価では、AI 資産が公平性、透明性、説明責任などの倫理原則に沿っていると同時に、内部ガバナンスポリシーと適用される規制要件に準拠していることが検証されます。継続的な監視とリスクアセスメントは、組織の信頼を維持し、運用およびコンプライアンスのリスクを最小限に抑えるための鍵です。

埋め込みヒートマップと残存リスクスコアウィジェットにより、各 AI 資産の概要レコード内で集計されたリスクが直接可視化されます。これらの可視化は、累積的なリスクエクスポージャーを示し、AI システム、モデル、データセット全体の潜在的な脆弱性を強調することで、一元的な監視をサポートします。詳細については、「AI リスクとコンプライアンス ワークスペース」を参照してください。

固有のリスクと残存リスクをリアルタイムで監視することで、高リスク領域を特定し、適用されたコントロール対策の有効性を評価することができます。ビジュアルツールを通じて得られたデータ主導の洞察は、リスク体制の評価を改善し、AI 資産ランドスケープ全体の軽減戦略に情報を提供します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

- AI システム
- AI モデル
- データセット

AI システム

AI システムは、正式なガバナンスフレームワークの下で開発、展開、管理される AI を利用したソリューションです。このフレームワークにより、システムがライフサイクル全体を通じて責任を持ち、コンプライアンスを遵守し、リスクを認識した方法で動作するようになります。

AI システムは、組織のデジタル環境または運用環境内で機能し、ビジネスアクティビティをサポートします。自動化を可能にし、データ主導の意思決定を強化し、全体的なプロセス効率を向上させます。このシステムには、機械学習モデル、自然言語処理エンジン、コンピュータービジョンツールなどのコンポーネントが含まれています。

これらのコンポーネントは、多くの場合、データセット、アルゴリズム、およびコンピューティングインフラストラクチャによってサポートされています。これらを組み合わせることで、システムは最小限の人間の介入でデータを分析し、パターンを認識し、結果を生成できます。各 AI システムは、構造化された評価プロセスの対象となります。このプロセスでは、機能、セキュリティ、および社会的影響に関連する潜在的なリスクを評価します。また、適用される規制、業界標準、および内部ガバナンスポリシーへのコンプライアンスを検証します。

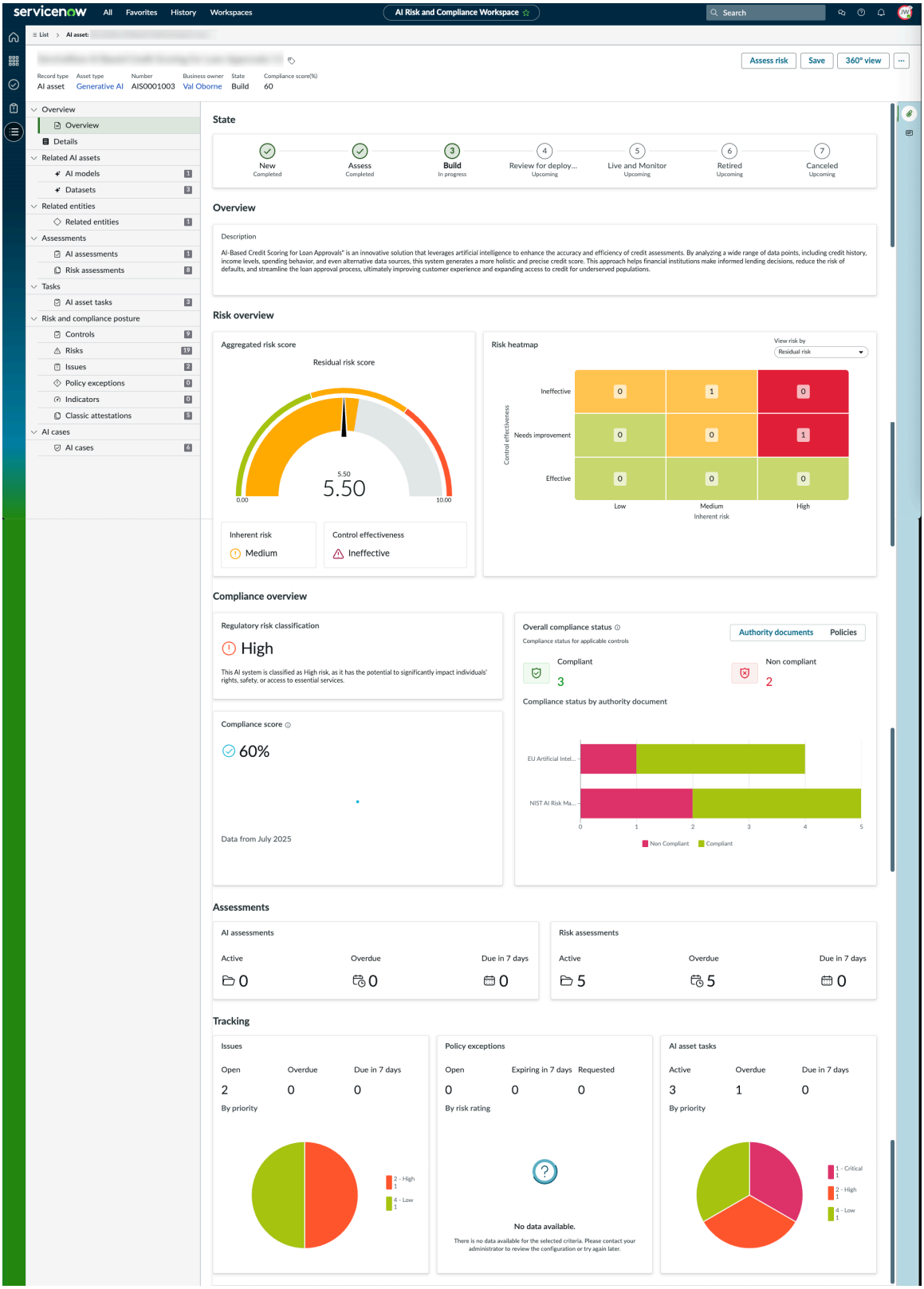
ガバナンスフレームワークは、ライフサイクル全体を通じて AI システムを管理するために適用されます。これにより、システムが安全に動作し、予測可能で説明可能な信頼できる結果が得られるようになります。公平性、説明責任、透明性などの倫理原則は、定義されたコントロールと監視のメカニズムを通じて適用されます。定期的な監視は、責任あるAIの使用をサポートし、意図しない結果のリスクを軽減します。

次の画像は、AI システムの概要ページを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AI システムの概要ページ



AI システムレコードは、集計されたリスクスコアを提供します。リスクアセスメント方法論 (RAM) ロールアップとして AI インベントリのリスクアセスメントがあり、集計されたリスクスコアを形成するエンティティの個々のリスクスコア。集計されたリスクスコアは、AI システムレコードの [詳細] タブの [集計されたリスクスコア] セクションで確認できます。リスクスコアのロールアップ方法の詳細については、「 高度なリスクアセスメントのリスクスコアロールアップ」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

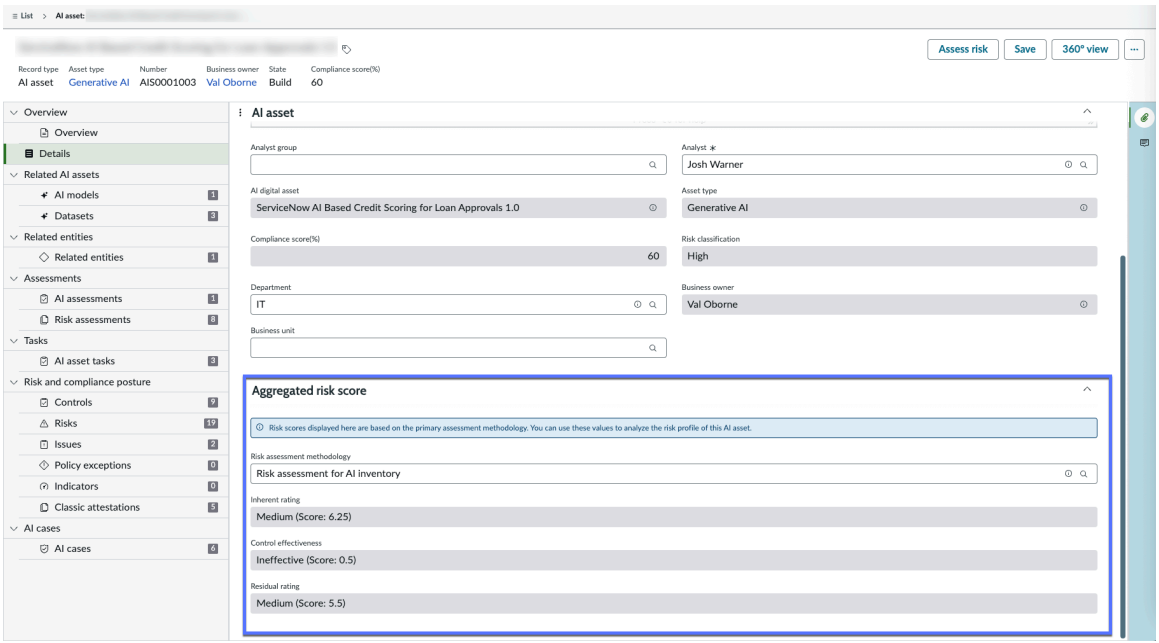
重要:
集計されたリスクスコアを表示するには、で 高度なリスクアセスメントへの移行 (sn_risk_advanced.migrate_to_advanced_risk) を有効にする必要があります。 すべて > 高度なリスク > プロパティ.

注:
このセクションは、 高度なリスク アプリケーションがインストールされている場合にのみ表示されます。

集計されたリスクスコアは、バイアス、ドリフト、セキュリティなどの個々のリスクを統合して、部門またはエンタープライズレベルの AI リスクプロファイルに通知し、より高いレベルの可視化と監視を可能にします。たとえば、バイアスの兆候を示すいくつかの顧客向け AI モデルは、組織のリスクにつながる可能性があります。集計されたリスクスコアにより、 AI リスクとコンプライアンスチームは、断片化されたリスクアセスメントを超えて、複数のモデル、チーム、および事業部門にわたる AI リスクの統合ビューを取得できます。

次の画像は、[集計されたリスクスコア] セクションを示しています。

集計されたリスクスコア



関連 AI 資産

[関連 AI 資産] セクションには、AI システムについて次のリストが表示されます。

- AI モデル:この AI システム内の AI モデル。
- データセット:この AI システム内で使用されるデータセット。

AI モデル

AI モデルは、構造化されたガバナンスフレームワークに従って設計、展開、監視されます。これらのフレームワークにより、ライフサイクル全体を通じて、AI モデルの倫理的使用、規制コンプライアンス、およびリスク軽減が保証されます。

AI モデルは、機械学習やその他の AI 技術を使用して大規模なデータセットでトレーニングすることによって開発されます。このモデルは、データの関係を学習して、新しい目に見えない入力の結果を一般化します。AI モデルは、言語処理、画像認識、レコメンデーションシステムなどのアプリケーションで使用されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

各モデルは、分類、回帰、コンテンツ生成などの定義されたタスクを実行します。実際のシナリオで、精度、信頼性、および堅牢性を評価する必要があります。モデルは、バイアス、不透明性、意図しない動作などのリスクについても評価されます。

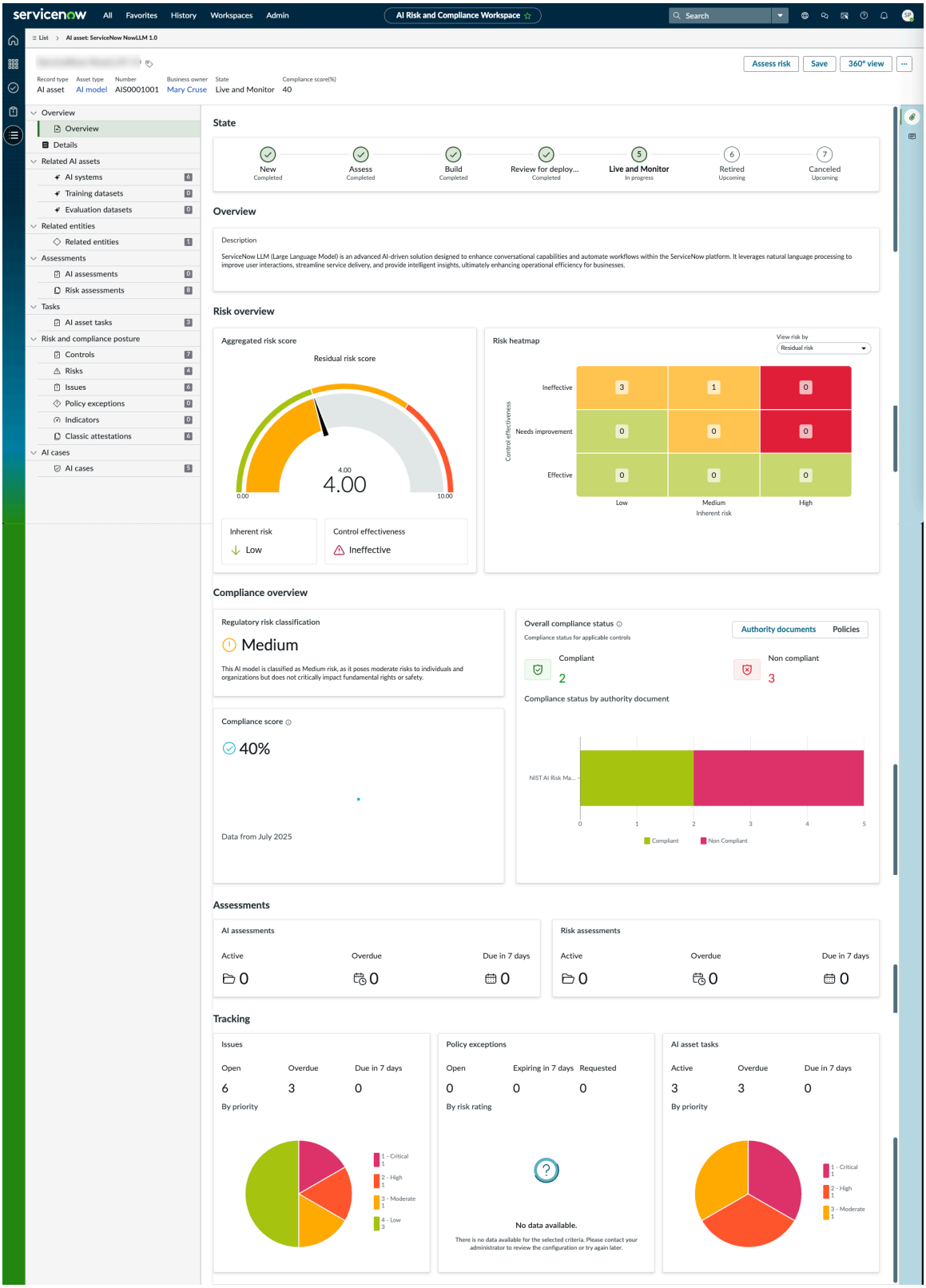
定期的な妥当性確認とパフォーマンス監視により、継続的なモデルの有効性と安定性が確保されます。明確な文書化は、透明性を維持し、情報に基づいた意思決定をサポートします。倫理ガイドラインと法的基準への準拠は、モデルのライフサイクル全体を通じて重要です。

次の画像は、AI モデルの概要ページを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AI モデルの概要ページ



AI モデルレコードは、集計されたリスクスコアを提供します。リスクアセスメント方法論 (RAM) ロールアップとして AI インベントリのリスクアセスメントがあり、集計されたリスクスコアを形成するエンティティの個々のリスクスコア。集計されたリスクスコアは、AI システムレコードの [詳細] タブの [集計されたリスクスコア] セクションで確認できます。リスクスコアのロールアップ方法の詳細については、「 高度なリスクアセスメントのリスクスコアロールアップ」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

重要:
集計されたリスクスコアを表示するには、で 高度なリスクアセスメントへの移行 (sn_risk_advanced.migrate_to_advanced_risk) を有効にする必要があります。 すべて > 高度なリスク > プロパティ.

注:
このセクションは、 高度なリスク アプリケーションがインストールされている場合にのみ表示されます。

集計されたリスクスコアは、バイアス、ドリフト、セキュリティなどの個々のリスクを統合して、部門またはエンタープライズレベルの AI リスクプロファイルに通知し、より高いレベルの可視化と監視を可能にします。たとえば、バイアスの兆候を示すいくつかの顧客向け AI モデルは、組織のリスクにつながる可能性があります。集計されたリスクスコアにより、 AI リスクとコンプライアンスチームは、断片化されたリスクアセスメントを超えて、複数のモデル、チーム、および事業部門にわたる AI リスクの統合ビューを取得できます。

関連 **AI** 資産

[関連 AI 資産] セクションには、AI モデルについて次のリストが表示されます。

- AI システム:この AI モデルを使用する AI システム。
- トレーニングデータセット:この AI モデル内で使用されるトレーニングデータセット。
- 評価データセット:この AI モデル内で使用される評価データセット。

データセット

データセットは、組織のポリシー、規制、倫理基準に沿って AI システムを開発、展開、監視するために使用される構造化データのキュレーションされたコレクションです。

AI データセットは、リスクアセスメント、コンプライアンスステータス、所有権、監査証跡、パフォーマンスメトリクスなど、AI モデルに関する重要な情報をキャプチャすることで、ガバナンス目標をサポートします。また、組織内での効果的な監視、説明責任、および意思決定を可能にします。データセットの品質と構成は、AI モデルのパフォーマンス、公平性、精度に直接影響します。適切にキュレーションされたデータセットは、モデルが意味のあるパターンを学習し、実際のシナリオで信頼性の高い出力を生成することを検証するのに役立ちます。

各データセットは、完全性、正確性、および目的のユースケースとの関連性について評価する必要があります。データセットの偏りは、不公平または不正確なモデル予測につながる可能性があるため、特定して軽減する必要があります。データリネージを追跡することで、データセットの使用方法や維持方法のトレーサビリティ、透明性、説明責任を確認することができます。

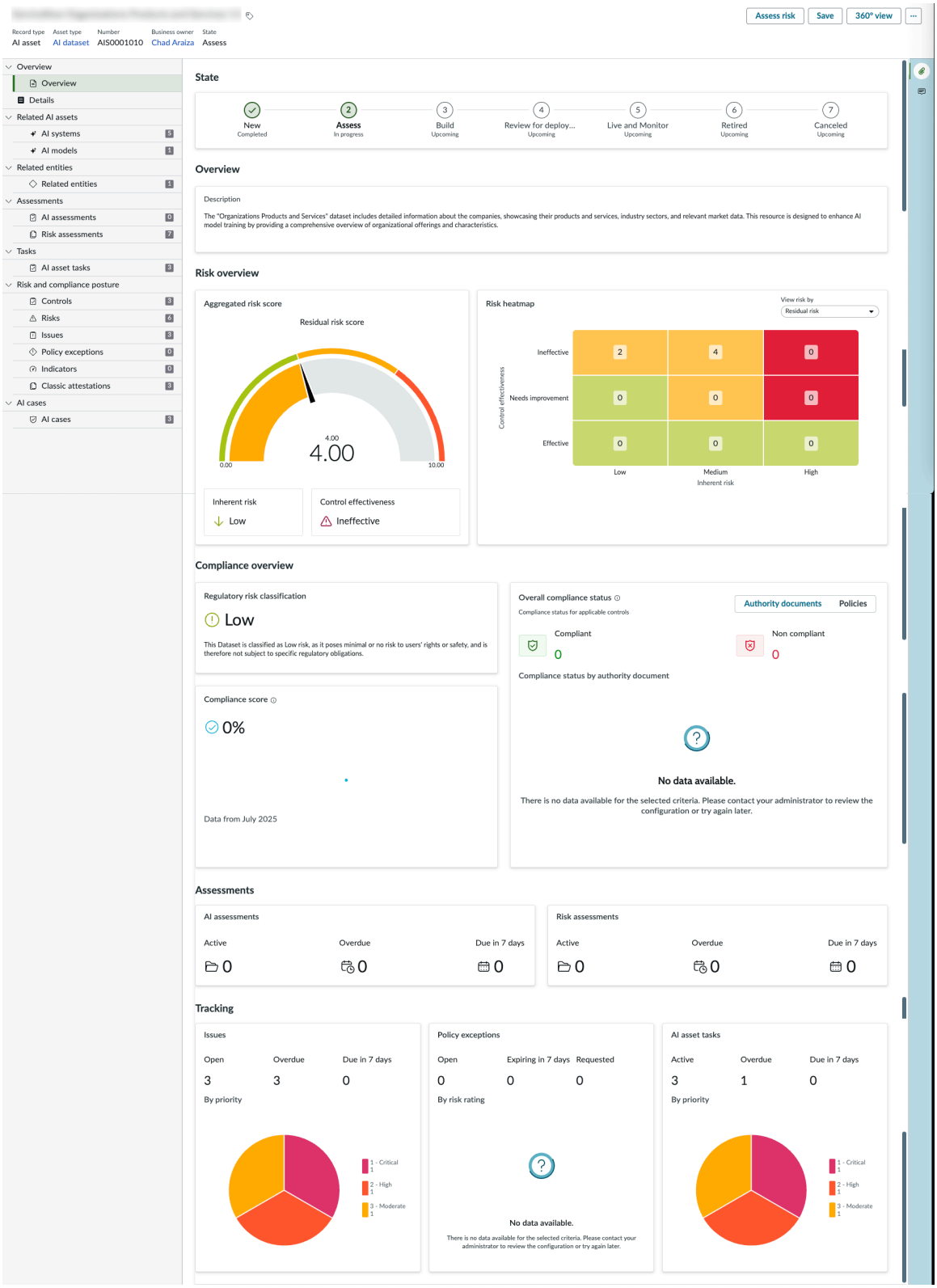
データセットは、プライバシー法や組織のデータ処理ポリシーなどのデータ保護規制に準拠する必要があります。定期的なレビューと更新は、データセットの品質を維持し、進化するデータ標準やビジネスニーズを反映するのに役立ちます。

次の画像は、データセットの概要ページを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データセットの概要ページ



AI データセットレコードは、集計されたリスクスコアを提供します。リスクアセスメント方法論 (RAM) ロールアップとして AI インベントリのリスクアセスメントがあり、集計されたリスクスコアを形成するエンティティの個々のリスクスコア。集計されたリスクスコアは、AI システムレコードの [詳細] タブの [集計されたリスクスコア] セクションで確認できます。リスクスコアのロールアップ方法の詳細については、「 高度なリスクアセスメントのリスクスコアロールアップ」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

重要:
集計されたリスクスコアを表示するには、で 高度なリスクアセスメントへの移行 (sn_risk_advanced.migrate_to_advanced_risk) を有効にする必要があります。 すべて > 高度なリスク > プロパティ.

注:
このセクションは、 高度なリスク アプリケーションがインストールされている場合にのみ表示されます。

集計されたリスクスコアは、バイアス、ドリフト、セキュリティなどの個々のリスクを統合して、部門またはエンタープライズレベルの AI リスクプロファイルに通知し、より高いレベルの可視化と監視を可能にします。たとえば、バイアスの兆候を示すいくつかの顧客向け AI モデルは、組織のリスクにつながる可能性があります。集計されたリスクスコアにより、 AI リスクとコンプライアンスチームは、断片化されたリスクアセスメントを超えて、複数のモデル、チーム、および事業部門にわたる AI リスクの統合ビューを取得できます。

関連 AI 資産

[関連 AI 資産] セクションには、AI データセットについて次のリストが表示されます。

- AI システム:この AI データセットを使用する AI システム。
- AI モデル:この AI データセットを使用する AI モデル。

AI リスクとコンプライアンス ワークスペース

AI リスクとコンプライアンスワークスペースを使用すると、AI リスクおよびコンプライアンスマネージャーは、企業の AI 資産のリスク体制全体を表示できます。

AI リスクおよびコンプライアンスマネージャーは、次のようないくつかの重要な理由から、AI システム、モデル、データセットなどの AI 資産に関連するリスクを完全に把握する必要があります。

- 包括的なリスクアセスメント:すべての潜在的なリスクを完全に理解することで、マネージャーは徹底的なリスクアセスメントを実施できます。これには、脆弱性、潜在的な障害、および AI が害や非準拠を引き起こす可能性のある領域の特定が含まれます。
- 規制コンプライアンス:多くの業界には、AIシステムが遵守しなければならない特定の規制と標準があります。リスクを完全に把握することで、AI 資産がこれらの規制に準拠していることを確認し、法的なペナルティを回避し、組織の評判を維持できます。
- データのプライバシーとセキュリティ:AIシステムは、多くの場合、機密データを処理します。リスクを理解することは、このデータを侵害、不正アクセス、および誤用から保護するための堅牢なセキュリティ対策を実装するのに役立ちます。
- 運用効率:リスクを特定して軽減することで、マネージャーは AI システムの全体的な効率と信頼性を向上させることができます。これにより、ダウンタイム、エラー、およびコストのかかる修正の必要性が削減されます。
- 問題管理:問題が発生した場合、リスクを完全に把握することで、より効果的かつ迅速な対応が可能になります。マネージャーは根本原因を迅速に特定し、影響を軽減するための適切な措置を講じることができます。

AI リスクとコンプライアンスワークスペースのホームページは、これらの要件を満たしており、次のタブに関連データが表示されます。

- [リスクとコンプライアンス (Risk and compliance)] ダッシュボード
- Operations (運用) ダッシュボード
- AI ケースダッシュボード

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AI リスクとコンプライアンスワークスペースにアクセスするには、次に移動します: すべて > **AI** リスクとコンプライアンスワークスペース.

ハイパーリンクを選択すると、これらの各タブに表示されるデータの詳細が表示されます。

[リスクとコンプライアンス] タブ

AI リスクとコンプライアンスの [リスクとコンプライアンス (Risk & compliance)] タブには、AI 資産インベントリのリスク分類と、選択した各種法令・基準等およびポリシーのコンプライアンス体制が表示されます。

AI 資産とは、人工知能システムの開発、展開、運用に不可欠なさまざまなコンポーネントやリソースを指します。これらの資産には次のものが含まれます。

1. AI システム:AI アルゴリズムとプロセスを実行する完全なソフトウェアまたはハードウェアインフラストラクチャ。これには、機械学習プラットフォーム、自然言語処理システム、およびその他の AI駆動型アプリケーションが含まれます。
2. AI モデル:特定のタスクを実行するためにデータでトレーニングされる数学モデルおよび計算モデル。これらのモデルは、単純な線形回帰モデルから複雑なディープラーニングニューラルネットワークまで多岐にわたります。
3. データセット:AI モデルのトレーニング、検証、およびテストに使用されるデータのコレクション。

これらの AI 資産を理解して管理することは、AI システムの有効性、信頼性、および組織が定義した規制および倫理基準への準拠を確保するために重要です。

リスクとコンプライアンスダッシュボードには、次のセクションがあります。どのセクションでも、各ウィジェットのデータにドリルダウンできます。

コンプライアンスの概要

規制リスク分類

このセクションには、ドーナツグラフを使用して、AI システム、AI モデル、データセットのリスク分類が表示されます。リスクは、定性的には [高]、[低]、[中]、および [許容できない] に分類されます。これらの分類は、AI 資産のリスクアセスメントに基づいています。

各種法令・基準等およびポリシー別のコンプライアンス

このセクションには、実装されたコントロールに基づくコンプライアンスが表示されます。デフォルトでは、ライブラリで提供されている次のフレームワークのコンプライアンススコアが表示されます。

- NIST AI リスク管理フレームワーク:このフレームワークには、関連する 4 つの主要な引用、つまりマッピング、測定、管理、統制が表示されます。各引用のコンプライアンススコアは、そのコントロール証明書に基づいて表示されます。
- EU 人工知能法:このフレームワークには、引用および子引用として表示される複数の章があります。各引用はコントロール目標にマッピングされ、コンプライアンスの割合スコアが得られます。

コンプライアンスデータを表示するには、[各種法令・基準等] または [ポリシー] の 2 つのオプションのいずれかを選択します。さらに、ドロップダウンフィルターを使用して特定の各種法令・基準等またはポリシーを選択することで、全体的なコンプライアンススコアのパーセンテージと、準拠および非準拠の各種法令・基準等およびポリシーの数を表示できます。また、早急な対応が必要なすべての問題と、各各種法令・基準等またはポリシーに関連する AI ケースを確認することもできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

各種法令・基準等は、 AI リスクとコンプライアンス フレームワークの初期セットアップを支援するための情報提供およびガイダンスのみを目的として提供されています。法的助言や規制遵守の保証を構成するものではありません。お客様は、コンテンツのすべての使用が、その管轄区域で適用される法律、規制、指令、および業界標準に準拠していることを確認する責任を単独で負います。

注:
ホームページに表示する各種法令・基準等とポリシーを設定できます。詳細については、「 コンプライアンス体制のプロパティを設定する」を参照してください。

リスク概要

このセクションでは、組織内の AI 資産のリスク体制を監視および追跡します。**AI** 資産フィルターを使用すると、AI 資産インベントリのタイプ別にリスク体制に関するインサイトをフィルタリングできます。

集計されたリスクスコアによる AI システム

このセクションには、ドーナツグラフを使用して集計されたリスクスコア別に AI システムの分類が表示されます。リスクスコアは、定性的に 「高 」と 「低」に分類されます。

リスクヒートマップ

リスクヒートマップウィジェットには、AI 資産内で特定されたすべてのリスクが可視化されて表示されます。デフォルトでは、残存リスクフィルターが適用されますが、固有リスクレベルに基づいてフィルタリングできます。ヒートマップがセグメント化され、フィルターに基づいてセグメンテーションが変更されます。アクティビティは、リスクとコントロールの有効性、または影響度と可能性のそれぞれの組み合わせに該当します。この組み合わせは、選択したリスク分類フィルターに基づきます。複数のリスク RAM が公開されている場合は、リスクアセスメント方法論 (RAM) でリスクヒートマップをフィルタリングできます。

規制状況の概要

このセクションを表示するには GRC：規制変更管理 アプリケーションをインストールする必要があります。詳細については、「 規制変更管理のインストール」を参照してください。

概要

- アラート

  このセクションには、ドーナツグラフを使用して、ワークフローのステータス別またはライフサイクルフェーズ別の規制アラートの分布が表示されます。

- 変更タスク

  このセクションには、ドーナツグラフを使用して、ワークフローのステータス別またはライフサイクルフェーズ別の規制変更タスクの分布が表示されます。

アセスメント

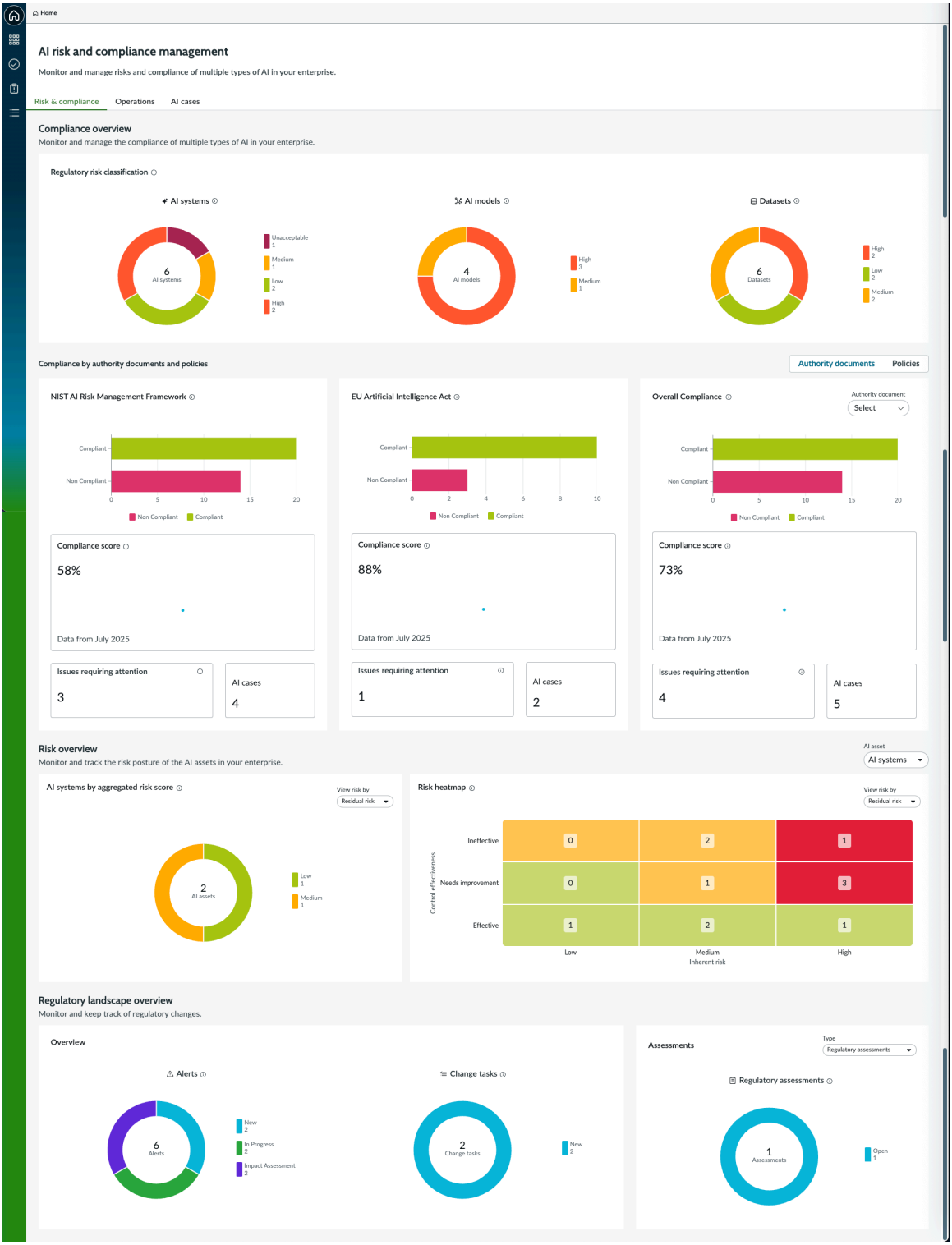
このセクションには、規制の影響度評価と規制変更にリンクされたリスクアセスメントがドーナツグラフで表示されます。デフォルトでは、規制アセスメントフィルターが適用されますが、リスクアセスメントに変更できます。

次の画像は、[リスクとコンプライアンス (Risk & compliance)] ダッシュボードを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクとコンプライアンスダッシュボード



[操作] タブ

AI リスクとコンプライアンスワークスペースの [操作] タブには、州および部門別の AI システムの概要が表示されます。リスクアセスメント、AI アセスメント、コントロール保証、優先度別の問題のブレークダウン、リスク評価別のポリシー例外を表示できます。また、優先度別の AI ケースの数も表示されます。

[操作] タブには、次の表に示すウィジェットが表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

注:
各ウィジェットのデータにドリルダウンできます。

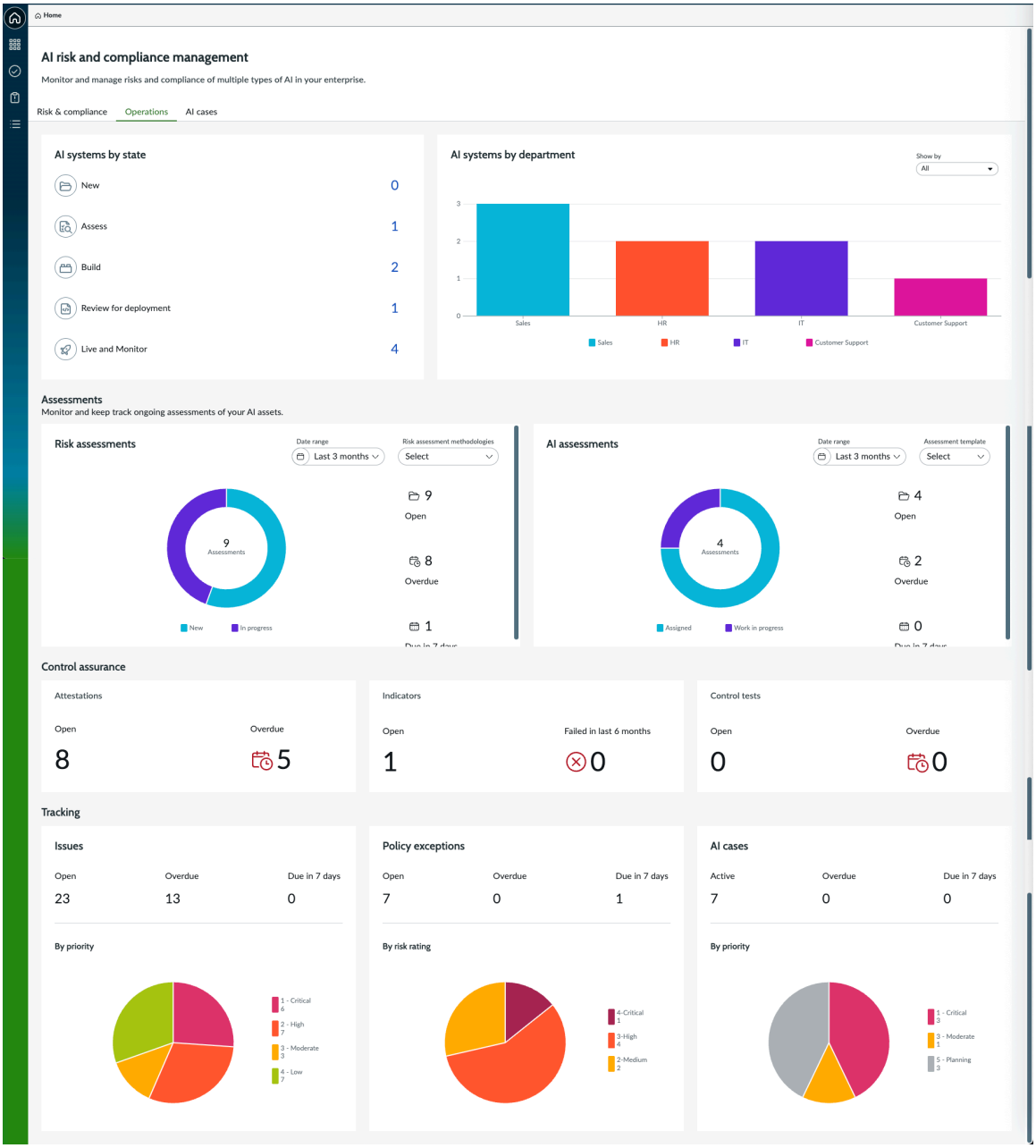
ウィジェット	説明
状況別の AI システム	AI システムの数を、新規、評価、ビルド、展開のレビュー、ライブおよびモニターなどのステータス別に表示します。
部門別の AI システム	人事、営業、カスタマーサポート、IT などの部門ごとの AI システムの数を表示します。このウィジェットでは、[表示方法] ドロップダウンリストを使用して、AI システムを [未定]、[高]、[中]、[低]、[許容できない] などのリスク分類別に表示できます。
アセスメント	
リスクアセスメント	オープン、進行中、期限切れ、期限が 7 日以内のアセスメントの数を表示します。
AI アセスメント	ドラフト、アサイン済み、および対応中の状況のアセスメントの数を表示します。また、オープン、期限切れ、期限が 7 日以内のアセスメントの数も表示されます。
コントロール保証	
証明書	未解決で期限切れの証明書の数を表示します。
インジケーター	過去 6 か月間にオープンになったインジケーターと失敗したインジケーターの数を表示します。
コントロールテスト	未解決で期限切れのコントロールテストの数を表示します。
トラッキング	
問題	オープン、期限切れ、7 日以内に期限切れの問題の数を表示し、優先度別の問題の円グラフも表示します。
ポリシー例外	オープン、期限切れ、期限が 7 日以内のポリシー例外の数を表示し、リスク評価別のポリシー例外の円グラフも表示します。
AI ケース	アクティブ、期限切れ、期限が 7 日以内の AI ケースの数を表示し、優先度別の AI ケースの円グラフも表示します。

次の画像は、AI リスクとコンプライアンスダッシュボードを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[操作] タブ



[AI ケース] タブ

AI リスクとコンプライアンスダッシュボードを使用して、AI ケースワークフローを追跡、監視、分析し、ワークフローのボトルネックを特定し、AI 関連リスクの説明責任を確認します。AI スチュワードは、ダッシュボードを使用して AI 関連の問い合わせのステータスと傾向を追跡することもできます。

AI ケース

[AI リスクとコンプライアンス (AI risk and compliance)] ダッシュボードの **[AI ケース]** タブには、AI リスク、ケースアクティビティ、コンプライアンスの追跡、ガバナンスの適用を追跡するために使用できる主要なメトリクス、傾向、実行可能なタスクが表示されます。ケースレベルのインサイト、タスクレベルの追跡、および自分の責任と進捗状況に対する説明責任を得ることができます。AI スチュワードは、違反が見つかった場合にケースを報告できます。AI アナリストもケースをフォローし、解決策を考え出します。

次の各ウィジェットのデータをドリルダウンして、AI ケースの詳細を確認できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

状況別の AI ケースステータス

レポートされた AI ケースの分布をライフサイクルステータス別またはワークフローステータス別に表示します。

優先度別の AI ケースステータス

優先度 (重大、高、中、低、計画) に基づく AI ケース。

AI ケース

報告された AI ケースの概要:

- すべて:すべての AI ケース
- 期限切れ:期日を過ぎた AI ケース。
- 期限が 7 日以内:期限が 7 日以内の AI ケース。
- 未アサイン:誰にもアサインされていない AI ケース。

名前、サブタイプ、ケースアナリスト、優先度、ステータスなどの各ケースの属性は、リストビューで使用できます。各カードを選択すると、そのカテゴリの AI ケースがリストビューに表示されます。

トレンド

AI ケースに関連付けられている視覚的パターンと履歴データ:

- サブタイプ別の AI ケースウィジェット:AI ケースサブタイプのさまざまなカテゴリ別の傾向。事業部門、場所、または主な原因別にデータをグループ化して、部門またはシステム全体の問題または AI ケースのパターンに関するコンテキストインサイトを得ることができます。AI 資産でフィルタリングできます。

- オープンケースおよびクローズ済みケースウィジェット:指定した期間におけるケース解決の履歴傾向。過去 12 か月間の履歴傾向を確認できます。履歴傾向は、ステークホルダーがボリュームの変動とケースのクローズ効率を分析するのに役立ちます。

  たとえば、過去 12 か月間に 4,200 件のケースが作成され、3,960 件のケースがクローズされたとします。ケースクローズの平均期間は2.8日で、症例数のピークは2025年1月(510件の症例が作成されました)で、最も速い症例解決月は2025年3月でした。過去 12 か月間で、ケースクローズの効率が着実に向上し、平均解決時間が前年比で 12% 減少していることがわかります。

トラッキング

タスクおよび問題レベルでの AI ケースの進捗状況:

- アクションタスク
  - 期限切れ、7 日以内に期限、または未アサイン状況のタスクの数。
  - [ドラフト] や [対応中] などのステータス別のタスク分布。
- 問題
  - AI ケースにリンクされている問題の数。状況 (新規、レビュー、応答など)。
  - AI ケースにリンクされている問題の数 (期限切れ、7 日以内に期限、未アサインなどの詳細別)。

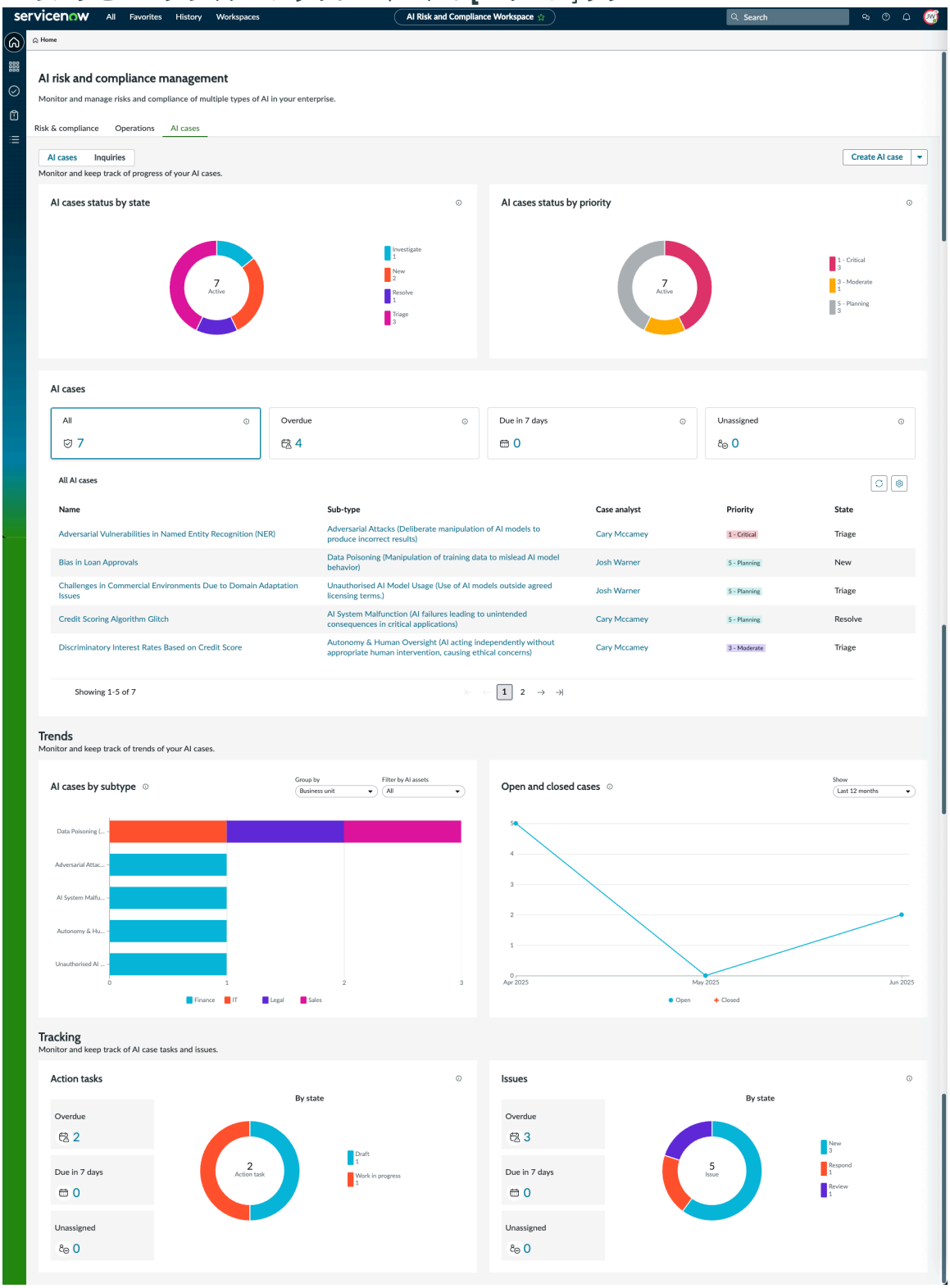
[**AI** ケースを作成] ボタンを使用すると、モニタリングダッシュボード内で新しい AI ケースレコードを開始できます。このアクションは通常、AI モデルまたはデータセットに関連する問題、リスク、またはコンプライアンスに関する懸念を文書化、調査、または追跡するために使用されます。[問題を作成] ボタンを使用して、AI ケースに関連する問題を作成します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次の例は、[AI リスクとコンプライアンス (AI Risk and compliance)] ダッシュボードの **[AI** ケース] タブを示しています。

AI リスクとコンプライアンスダッシュボードの **[AI** ケース] タブ



照会

[AI リスクとコンプライアンス (AI risk and compliance)] ダッシュボードの [照会] タブには、AI 照会ワークフローの構造ビューがあります。ダッシュボードの次のウィジェットを使用して、コンプライアンスを追跡し、照会のステータスと進捗状況を監視します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次の各ウィジェットのデータをドリルダウンして、AI ケースの詳細を確認できます。

状況別の照会ステータス

州別の問い合わせの数。新規、トリアージ、処理中、および承認された照会は、ドーナツグラフで表されます。

優先度別の照会ステータス

優先度別の問い合わせの数。照会には、[重大]、[高]、[中]、[低]、または [計画] の優先度を設定できます。

照会

すべての AI 照会の要約リスト。ステータス、優先度、アサインなどのパラメーターに基づいてフィルタリングできます。

照会の本質的な属性は、運用上の関連性または緊急性に基づいています。各照会エントリには、次のようなメタデータが含まれています。

- 名前
- 要求者
- アサイン先
- 状況
- 優先度

トレンド

組織全体の照会アクティビティに対する傾向ベースのインサイト。これらの可視化は縦断的分析をサポートし、計画とコンプライアンスの応答性を向上させます。

> **注:**
> 縦断的分析とは、部門、チーム、またはシステム全体のデータポイントを一定期間にわたって分析するプロセスのことです。

AI 資産や時間範囲などのフィルターは、分析を絞り込むのに役立ちます。

- 事業部門別の照会:組織のさまざまな部門または機能領域にわたる照会の分布を確認できます。この分布は、AI 関連のほとんどの懸念の発生元を特定するのに役立ち、より的を絞ったリスク軽減または認識向上トレーニングを計画できます。
- オープンおよびクローズ済みの問い合わせ:選択した時間範囲内に開始および解決された問い合わせの量を追跡できます。この追跡により、ワークフローのパフォーマンスを追跡し、将来のキャパシティを計画できます。

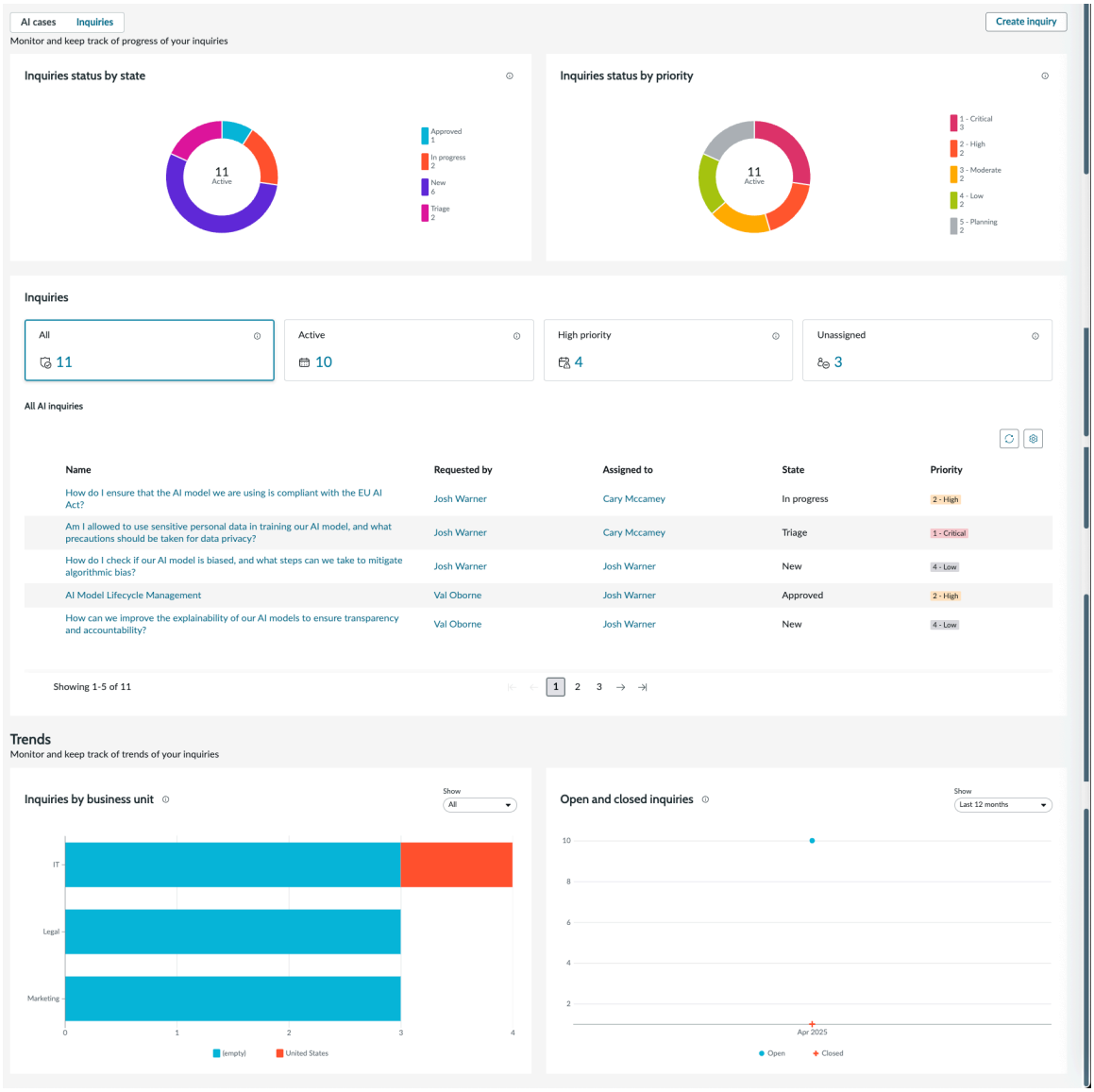
[照会を作成] ボタンを使用して、新しい照会を開始します。AI 関連の懸念事項や説明要求をタイムリーに報告できます。

次の例は、AI リスクとコンプライアンスダッシュボードの [照会] タブを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AI リスクとコンプライアンスダッシュボードの [問い合わせ] タブ



AI リスクヒートマップワークベンチ

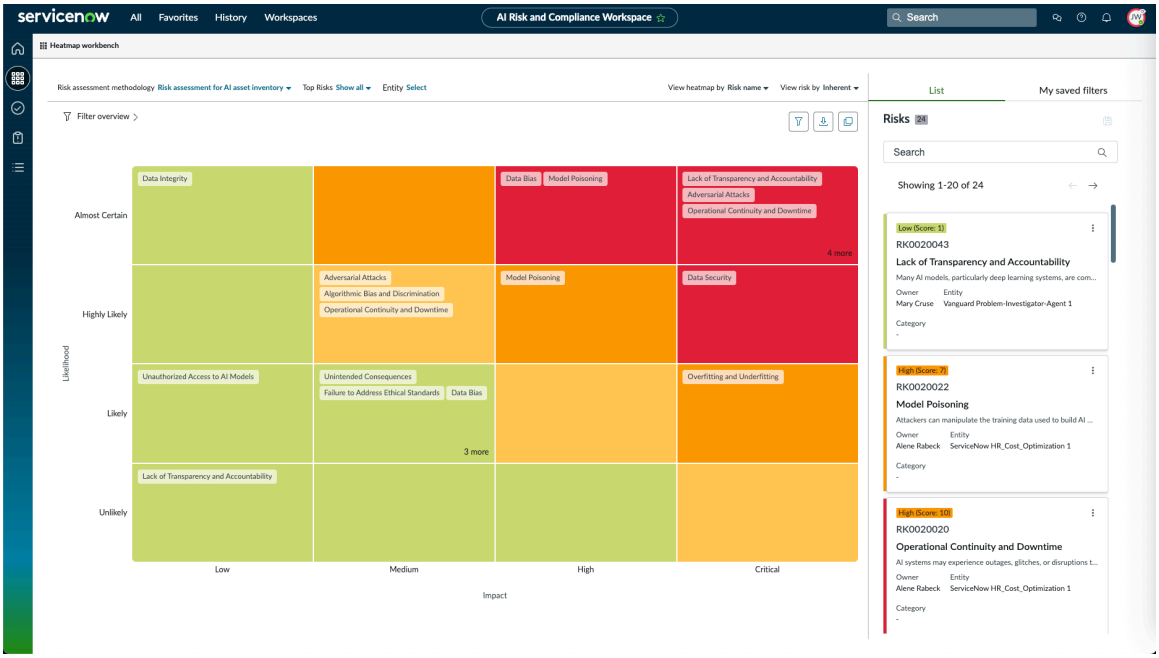
リスクヒートマップは、リスクデータをグラフィカルに表現したものです。マトリクスに含まれる個々の値は、意味を示す色で表されます。リスクヒートマップを使用すると、AI リスクアセスメント結果を便利で視覚的に魅力的な簡潔な形式で確認できます。

ヒートマップのデータは、リスクアセスメントから取得されます。ヒートマップとそのフィルターの詳細については、「リスクヒートマップを構成」を参照してください。次の図は、リスクヒートマップを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AI リスクヒートマップ



のタスクランディングページ AI リスクとコンプライアンス

AI リスクとコンプライアンスワークスペースの [タスク] ページには、処理待ちのタスク、グループのタスク、およびウォッチリストにあるタスクが 1 つのペインで表示されます。ダッシュボードから直接タスクを更新することもできます。

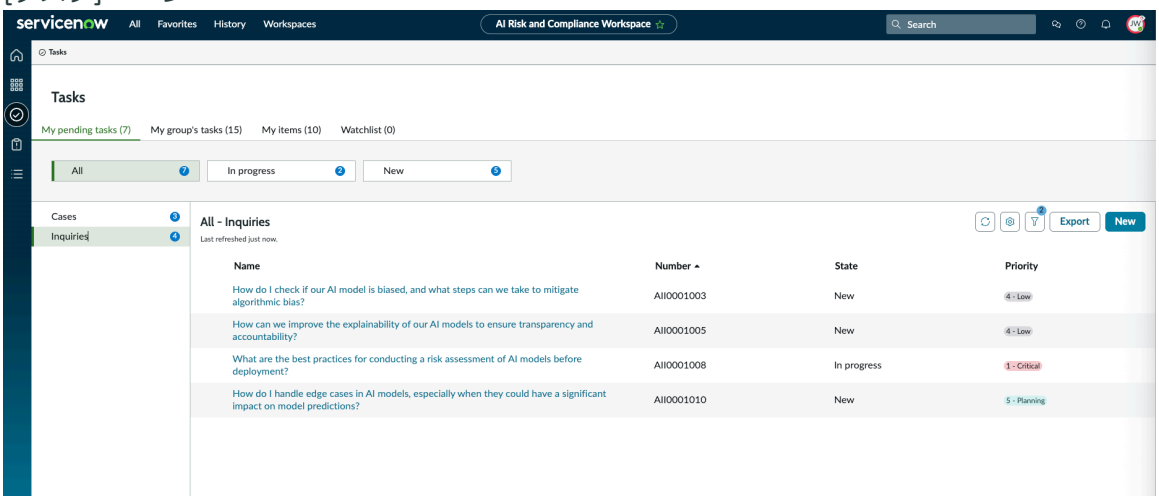
[タスク] ページのタブ

AI リスクとコンプライアンスワークスペースの [タスク] ページには、次のタブが表示されます。

- 自分の処理待ちのタスク
- 自分のグループのタスク
- 自分のアイテム
- ウォッチリスト

次の例に、ログインしているユーザーの [タスク] ページのサンプルを示します。sn_grc_ai_gov.ai_risk_and_compliance_analyst ロールを持つユーザーは、タスクワークスペースを表示できます。

[タスク] ページ



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

自分の保留中タスク

[自分の処理待ちのタスク] セクションは、自分にアサインされたすべてのケースとタスクにアクセスするのに役立ちます。このセクションには、次の情報が含まれています。

- **AI** 資産タスク:自分にアサインされたすべての AI 資産タスク。
- **AI** 資産:自分にアサインされたすべての AI 資産。
- 一括リスクアセスメント:自分にアサインされた一括リスクアセスメント。
- ケース:自分が作業するためにアサインされたすべての AI ケース。
- 照会:AI 照会でレビュー待ちです。たとえば、AI ケースアナリストが照会を作成し、それを照会オーナーにアサインして処理させたとします。照会の所有者が照会を完了し、レビューのために送信しました。このようなお問い合わせはすべてこのセクションでご覧いただけます。
- 問題:AI ケースに起因するすべての問題が表示されます。
- リスクアセスメント:AI システムのすべてのリスクアセスメントが表示されます。

自分のグループのタスク

[自分のグループのタスク] セクションは、自分のアサイン先グループにアサインされたすべてのケースとタスクにアクセスするのに役立ちます。このセクションには、次の情報が含まれています。

- ケース:自分のアサイン先グループにアサインされたすべての AI ケース。
- 照会:アサイン先グループによるレビュー待ちのすべての照会。

自分のアイテム

[自分のアイテム] セクションは、自分に割り当てられたさまざまなアイテムにアクセスするのに役立ちます。このセクションには、次の情報が含まれています。

- **AI** 資産タスク:自分にアサインされたすべての AI 資産タスク。
- 一括リスクアセスメント:自分にアサインされた一括リスクアセスメント。
- 照会:AI 照会でレビュー待ちです。
- 問題:AI ケースに起因するすべての問題が表示されます。
- ポリシー例外:AI システムのすべてのポリシー例外が表示されます。

ウォッチリスト

[ウォッチリスト] セクションは、自分がウォッチリストに追加されたすべてのケースとタスクにアクセスするのに役立ちます。

リストを編集

[タスク] ページの任意のタブでレポート列を追加または削除できます。列を追加または削除するには:

1. 必要なタブに移動し、必要なカテゴリを選択します。
2. [リストアクション] アイコン () を選択し、[列を編集] を選択します。
3. 必要な列を [利用可能な列] のリストから [選択した列] に、またはその逆に移動して移動します。
4. **[OK]** を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

選択した列が追加または削除されます。

AI リスクとコンプライアンスの構成

AI リスクとコンプライアンスアプリケーションを使用するには、アプリケーションをダウンロードしてアクティブ化してから、アセスメントテンプレートを公開し、アセスメントとその自動化ロジックを設定して、正確なリスクアセスメントスコアを確保する必要があります。

構成の概要

1. AI リスクとコンプライアンス をインストール
2. AI リスクとコンプライアンスコンテンツのインストール
3. アセスメントテンプレートを公開する
4. に対してアクティブ化されるフロー AI リスクとコンプライアンス

AI リスクとコンプライアンス をインストール

admin ロールをお持ちであれば、 AI リスクとコンプライアンス アプリケーション (sn_grc_ai_gov) をインストールできます。このアプリケーションには、デモデータが含まれています。まだインストールされていない場合は、関連する ServiceNow Store アプリケーションとプラグインをインストールします。

始める前に

- アプリケーションとその関連するすべての ServiceNow Store アプリケーションに有効な ServiceNow エンタイトルメントがあることを確認してください。詳細については、次を参照してください。 のエンタイトルメントを取得する ServiceNow 製品またはアプリケーション.
- 依存関係、ライセンスやサブスクリプションの要件、およびリリースの互換性については、ServiceNow Store の AI リスクとコンプライアンス アプリケーションリストを確認してください。
- エンタイトルメントを確認して、 AI リスクとコンプライアンスにアクセスできるかどうかを確認してください。

必要なロール：admin

このタスクについて

次のアイテムが AI リスクとコンプライアンス Management とともにインストールされます。

- プラグイン
- ストアアプリケーション
- ロール
- テーブル

詳細については、「AI リスクとコンプライアンスの参照」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. フィルター基準と検索バーを使用して、 AI リスクとコンプライアンス 管理 (sn_grc_ai_gov) を検索します。

   名前または ID でアプリケーションを検索できます。アプリケーションが見つからない場合は、ServiceNow Store へのリクエストが必要になることがあります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[インストール] ボタンの横のリストに、使用可能なバージョンが表示されます。

3. リストからバージョンを選択し、[インストール] を選択します。

   表示される [インストールの詳細を確認] ダイアログボックスに、アプリケーションとともにインストールされている依存関係が一覧表示されます。

4. プロンプトが表示された場合は、ServiceNow Store へのリンクに従って、依存関係のエンタイトルメントを取得します。
5. オプション: 利用できるデモデータをインストールするには、[デモデータのロード] チェックボックスをオンにします。
   デモデータは、一般的なユースケース向けのアプリケーション機能を説明するサンプルレコードです。開発またはテストインスタンスで初めてアプリケーションをインストールする場合は、デモデータを読み込みます。
6. **[Install** (インストール)] を選択します。

AI リスクとコンプライアンス コンテンツパック

ServiceNow AI リスクとコンプライアンスコンテンツパックは、リスクマネージャーおよびコンプライアンスマネージャーが、組織が AI システムに関する規制とポリシーに準拠していることを確認できるようにする基本的なコンテンツを提供します。

リスクアセスメント方法論 (RAM)

コンテンツパックは、デフォルトで次の RAM を提供します。

- AI システムのリスク分類。
- AI インベントリのリスクアセスメント。
- AI モデルまたはデータセットのリスク分類。

アセスメントテンプレート

コンテンツパックをダウンロードしてインストールすると、次のアセスメントテンプレートがデフォルトで利用可能になります。

AI システム

- AI 影響度評価。
- ラボ AI 影響度評価
- 高リスク AI アセスメントアンケート。
- EU AI 法適合性評価のための AI 影響度評価。
- EU AI 法適合性アセスメント - Zurich リリースからドラフトステータスで利用できます。
- 高リスク AI システムの基本的権利影響度評価 (FRIA) - Zurich リリース以降、ドラフトステータスで使用できます。

> **注:**
> アセスメントを使用するには、アセスメントを [ドラフト] ステータスで公開する必要があります。

AI モデル

AI 資産インベントリに関する AI 影響度評価。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

AI ケース

AI ケースアセスメントアンケート。

AI リスクとコンプライアンスコンテンツのインストール

admin ロールをお持ちであれば、 AI リスクとコンプライアンスコンテンツ アプリケーション (sn_grc_ai_gov_cont) をインストールできます。このアプリケーションは、フレームワーク、引用、コントロール目標、リスクステートメント、およびアセスメントテンプレートの一元化されたリポジトリです。このアプリケーションを使用すると、さまざまな規制やフレームワークを採用する際の運用上の有利なスタートを切ることができます。

免責事項

重要:
この製品に含まれる事前パッケージコンテンツは、AI リスクおよびコンプライアンスフレームワークの初期セットアップを支援するための情報提供およびガイダンスのみを目的として提供されています。法的助言や規制遵守の保証を構成するものではありません。お客様は、コンテンツのすべての使用が、その管轄区域で適用される法律、規制、指令、および業界標準に準拠していることを確認する責任を単独で負うものとします。お客様は、このコンテンツを使用することにより、特定の法律、規制、および運用上のコンテキストに基づいて、すべての情報の正確性と関連性を独自に検証、カスタマイズ、および維持する必要があることを認めます。プロバイダーは、そのようなコンテンツの使用に基づいて行われた決定について一切の責任を負いません。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

AI リスクとコンプライアンスコンテンツアプリケーションは、NIST AI リスク管理フレームワークや EU 人工知能法などのフレームワークの事前定義されたライブラリをインストールして、企業の運用アクティビティを開始します。

- 機関
- 各種法令・基準等
- 信頼できるソースコンテンツ
- コントロール目標
- リスクステートメント
- AI アセスメントテンプレート
- AI リスクアセスメント方法

次のアプリケーションも AI リスクとコンプライアンス コンテンツとともにインストールされます。

- 360度の関係の可視化(sn_grc_36度)
- AI コントロールタワー コア (sn_ai_governance)
- AI リスクとコンプライアンス 管理 (sn_grc_ai_gov)
- データ基盤モデル (sn_cmdb_foundation)
- データレジストリ (sn_data_registry)
- データグリッド UI コンポーネント (sn_datagrid)
- GRC 機能ロール (sn_grc_ftr_role)
- ドキュメントテンプレート (sn_doc)
- GRC:共通ワークスペース要素 (sn_grc_workspace)

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- GRC：承認コンフィギュレーター (sn_grc_appr)
- GRC:ポリシーとコンプライアンス (sn_compliance)
- GRC:リスクヒートマップ (sn_risk_heatmap)
- GRC:プロファイル (sn_grc)
- GRC:リスク管理 (sn_risk)
- GRC:分類管理 (sn_grc_taxonomy)
- GRC:リスク共有共通コンポーネント (sn_irm_shared_cmn)
- 規制機関ライブラリ (sn_reg_body_mgmt)
- スマートアセスメントのアセスメント後のアクション (sn_smart_imp_auto)
- レコード:垂直 (sn_rec_pg_vertical)
- スマートアセスメントコア (sn_smart_asmt)
- sn-reusable-impact-framework (sn_impact_fwk)
- sn-smart-assessment-designer (sn_smart_asmt_desg)
- sn-smart-assessment-connected (sn_smart_asmt_conn)
- ワークスペースインスペクター (sn_inspector)
- SPM 共通 UI コンポーネント (sn_spm_com_ui_comp)

手順

1. フィルター基準と検索バーを使用して、 AI リスクとコンプライアンス コンテンツアプリケーション (sn_grc_ai_gov_cont) を検索します。

   名前または ID でアプリケーションを検索できます。アプリケーションが見つからない場合は、ServiceNow Store への要求が必要になることがあります。

   [インストール] ボタンの横のリストに、使用可能なバージョンが表示されます。

2. **[Install** (インストール)] を選択します。

AI リスクとコンプライアンスコンテンツを検証

AI リスクとコンプライアンスコンテンツが正しくインストールされているかどうかを確認します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. 移動先 すべて > プラグイン.
2. アプリケーションマネージャーで、 AI リスクとコンプライアンスを検索します。
3. [インストール済み] 関連リストで、[AI リスクとコンプライアンス コンテンツと AI リスクとコンプライアンス の管理] が表示されていることを確認します。
4. 検索項目 ワークスペース > アセスメントワークスペース.
5. [アセスメントテンプレート] リストで、 高リスク **AI** システムの基本的権利影響評価 **(FRIA)** と **EU AI** 法適合性アセスメント が、公開ステータスが false の状態でリストに表示されていることを確認します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
AI リスクとコンプライアンスコンテンツがインストールされ、検証されます。

次のタスク
AI リスクとコンプライアンス ワークスペースの構成

AI リスクとコンプライアンス ワークスペースの構成

UI ビルダーを使用してAI リスクとコンプライアンスワークスペースを構成します。

始める前に
必要なロール：admin、ui_builder_admin

このタスクについて
は、特定のユーザーを対象とするビルド済みの構成可能なワークスペースエクスペリエンスを提供します。これらのビルド済みワークスペースは、エクスペリエンスを最初から作成する代わりに、UI ビルダーで更新および変更できます。ServiceNow が提供するビルド済みワークスペースのリストについては、「 List of workspaces 」を参照してください。既存の構成可能ワークスペースエクスペリエンスを更新するには、「 Open a Configurable Workspace experience 」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. ワークスペースの構成を編集するには、 アプリケーションスコープ を **[AI** リスクとコンプライアンス管理] に設定します。
3. [ページコレクション] を選択します。
4. **[AI** リスクとコンプライアンス] ホームページのタブを選択します。
5. [ページとバリアント] セクションで、編集するページを選択します。
6. 必要な変更を加えます。

タスクの結果
変更は、対応するページの AI リスクとコンプライアンス ワークスペースに反映されます。

次のタスク
Create a Configurable Workspace experience

Create a Configurable Workspace page

UI Builder (UI ビルダー)

UI ビルダーの設定と使用に関する詳細な追加ドキュメントを入手できます。

AI リスクとコンプライアンス プロパティの設定

AI リスクとコンプライアンスプロパティを設定して、ホームページに表示する各種法令・基準等とポリシーを指定します。AI システムのリスクアセスメントに使用するデフォルトの RAM を指定することもできます。

始める前に
必要なロール:sn_grc_ai_gov.ai_risk_and_compliance_admin

このタスクについて
構成した各種法令・基準等とポリシーは、 AI リスクとコンプライアンス ホームページのリスクとコンプライアンスダッシュボードのコンプライアンスの概要セクションで使用されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

手順

1. 移動先 すべて > **AI** リスクとコンプライアンス > **AI** リスクとコンプライアンスワークスペース > アドミニストレーション > プロパティ.
2. sn_grc_ai_gov.highlighted_authority_document プロパティを設定して、ホームページに表示する各種法令・基準等を指定します。
   [コンプライアンス体制レポートの各種法令・基準等を選択 **(Select authority documents for compliance posture reporting**)] フィールドに、最大 2 つの各種法令・基準等をカンマで区切って入力します。
3. sn_grc_ai_gov.highlighted_policy プロパティを構成して、ホームページに表示するポリシーを指定します。
   [コンプライアンス体制レポートのポリシーを選択 **(Select policies for compliance posture reporting**)] フィールドに、最大 2 つのポリシーをカンマで区切って入力します。
4. sn_grc_ai_gov.aisystem_primary_ram プロパティを構成して、AI システムのデフォルトのリスクアセスメント方法論 (RAM) を指定します。
   [AI システムのデフォルトプライマリー **RAM (Default primary RAM for AI system**)] フィールドに RAM を入力します。この RAM は、すべてのリスクアセスメントのデフォルト RAM として使用されます。

アセスメントテンプレートを公開する

新しい AI システムを作成する場合、または既存の AI システムを更新する場合は、影響度評価や適合性評価などの必要なアセスメントを開始する前に、アセスメントテンプレートを公開します。アセスメントを開始できるように、アセスメントテンプレートを公開する必要があります。

始める前に
必要なロール:sn_grc_ai_gov.ai_risk_and_compliance_manager

このタスクについて
次のアセスメントには、デフォルトで 2 つのアセスメントテンプレートが用意されています。

- AI 影響度評価:AI 影響度評価は、AI システムの有効性と個人の権利の尊重の両方を保証します。プライバシー、差別の禁止、その他の人権に対する潜在的な影響を特定して対処することで、AI システムが EU AI 法や NIST AI リスクおよびコンプライアンスフレームワークなどのグローバルな規制やフレームワークに確実に準拠していることを確認できます。これにより、システムが組織の AI ポリシーに従って倫理的かつ責任を持って運用されます。
- EU AI 法適合性評価の AI 影響度評価: EU AI 法適合性評価の AI 影響度評価は、AI システムが EU 人工知能法 (AI 法) に準拠しているかどうかを評価するために使用される構造化されたプロセスであり、特にリスク分類に焦点を当て、基本的権利、安全性、透明性の要件への準拠を確保します。この評価の目的は、リスクの高いAIシステムがユーザー、社会、または環境に害を及ぼさないようにし、AI法に基づく規制義務を満たすことです。

これらのテンプレートはどちらも、デフォルトで [ドラフト] ステータスで使用できます。sn_grc_ai_gov.ai_risk_and_compliance_manager ロールを持つユーザーがアセスメントを公開できます。アセスメントが公開されると、ステータスは [公開済み] に変わります。

手順

1. 移動先 すべて > アセスメントワークスペース.
2. 次のテンプレートを一度に 1 つずつ選択して開きます。
   - **AI** 影響度アセスメント
   - **EU AI** 法への適合性に関する **AI** 影響度評価
3. **[Publish** (公開)] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
テンプレートが公開され、アセスメントに使用できるようになりました。テンプレートのステータスが **true** に変わります。

次のタスク

- ビジネスルールの作成
- AI 資産の AI アセスメントを開始
- AI ユースケースの影響度評価を実行する
-

AI リスクとコンプライアンス の使用

AI リスクとコンプライアンスを使用して、AI システム、AI モデル、AI データセットなどを要求し、リスク体制を判断するためのアセスメントを実行します。

AI ユースケースの要求

AI ユースケースの開発または調達を要求して、組織内での AI 主導型ソリューションの必要性を開始して文書化します。このプロセスにより、AI の実装がビジネスゴールに沿っており、規制に準拠し、技術的に実現可能であることが保証されます。

始める前に
必要なロール:AI リスクおよびコンプライアンスビジネスユーザー (従業員センター)、sn_ai_asset_mgmt.ai_asset_owner (AI コントロールタワーダッシュボード)

このタスクについて
AI システムの要求機能を使用すると、AI ベースのソリューションの開発または調達の要求を開始できます。カスタム AI モデル、自動化ツール、高度な分析システムのいずれが必要な場合でも、このプラットフォームは主要な要件をキャプチャして承認を促進することでプロセスを合理化します。

たとえば、金融機関は、AI ベースのクレジットスコアリングシステムを実装することで、ローン承認プロセスを改善したいと考えています。経理チームは、リスクアセスメントの詳細、クレジットデータ分析、自動化された意思決定などの要件を詳述した AI 要求を送信します。開発または調達を進める前に、要求の実現可能性、予算、およびコンプライアンスが確認されます。

手順

1. 従業員センター または AI コントロールタワーダッシュボードから AI システムを要求します。
   - 移動先 すべて > セルフサービス > 従業員センター.
   - 移動先 すべて > **AI** コントロールタワー.
2. 従業員センターランディングページで、 テクノロジーサービス > **AI** 資産.
   a. **[AI** ユースケースを要求] カードを選択します。
3. AI コントロールタワーダッシュボードで、リスト アイコンをクリックし、AI 資産インベントリに移動します。
   a. **[AI** 資産の追加] を選択します。
   b. **AI** システム を選択し、次へ を選択して続行します。
4. フォームで、フィールドに入力します。

   [AI システムの要求] フォームのフィールド値の説明については、「 [AI ユースケースを要求] フォーム」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

5. オプション: 添付ファイルを追加するには、[添付ファイルの追加] を選択します。
6. オプション: フォームをドラフトとして保存し、後で編集するには、[ドラフトとして保存] を選択します。
7. **[Submit** (送信)] を選択します。
   このフォームを送信すると、AI センターオブエクセレンスチームがフォームをレビューし、プロセスをガイドします。

次のタスク
AI モデルを要求する

[AI ユースケースを要求] フォーム

[AI ユースケースを要求] フォームは、AI ベースのソリューションを開発または調達するための要求プロセスを簡素化するように設計されています。この入力フォームでは、AI ソリューションの開発と展開を進める前に、必要なすべての詳細、補足ドキュメント、およびコンプライアンスに関する考慮事項がキャプチャされていることを確認します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

[AI ユースケースを要求] フォーム

フィールド	説明
詳細	
名前	AI ユースケースまたは AI システムの一意の名前。たとえば、 ローン承認の AI ベースのクレジットスコアリングなどです。
状況	AI システムのステータスがドラフト、開発、展開のいずれであるかを示します。状況の詳細については、「AI asset lifecycle」を参照してください。
バージョン	AI システムのバージョン番号。例:v1.0。
モデルカテゴリ	システムが学習して決定する方法を分類する AI モデルカテゴリ。オプションは次のとおりです。 • エージェント **AI**:計画、決定、アクションの実行により、目標を達成するために自律的に行動します。 • クラシック **AI**:固定ルールに従って構造化された問題を解決します。 • 生成 **AI**:データから学習して、テキスト、画像、コードなどのコンテンツを作成します。
説明	AI システム、そのコア機能、および使用目的の簡単な説明。
ドキュメント	データセットソース、トレーニングプロセス、およびモデルの動作に関するサポートドキュメント。
所有権	
プロバイダー	AI システムの提供を担当する組織。ServiceNow など。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[AI ユースケースを要求] フォーム (続く)

フィールド	説明
部門	AI システムを管理する事業部門。たとえば、マーケティングや営業などです。
管理担当者	AI システムの管理を担当するユーザー。
AI モデルとデータセット	
AI モデル	システムの学習および意思決定プロセスを定義する AI モデル。例:GPT 3.5 ターボ。
データセット	AI モデルをトレーニングまたはテストするためのデータセット。たとえば、 ServiceNow 顧客の購入履歴 1.0 などです。

AI モデルを要求する

特定のビジネスニーズに合わせて調整された AI システムをカスタマイズまたは展開するために、AI モデルの開発または調達を要求します。

始める前に

必要なロール:AI リスクおよびコンプライアンスビジネスユーザー (従業員センター)、sn_ai_asset_mgmt.ai_asset_owner (AI コントロールタワーダッシュボード)

このタスクについて

AI モデルは、機械学習または人工知能技術を使用してデータを分析し、パターンを認識し、予測や意思決定を行うプログラムまたはシステムです。データセットでトレーニングされ、最小限の人間の介入で複数のタスクを実行できます。

手順

1. 従業員センター または AI コントロールタワーダッシュボードから AI モデルを要求します。
   - 移動先 すべて > セルフサービス > 従業員センター.
   - 移動先 すべて > **AI** コントロールタワー.
2. 従業員センターランディングページで、 テクノロジーサービス > **AI** 資産.
   a. **[AI** モデルを要求する] カードを選択します。
3. AI コントロールタワーダッシュボードで、リスト  アイコンをクリックし、AI 資産インベントリに移動します。
   a. **[AI** 資産の追加] を選択します。
   b. [モデル] を選択し、[次へ] を選択して続行します。
4. フォームで、フィールドに入力します。

   [AI モデルを要求] フォームのフィールド値の説明については、「 [AI モデルを要求] フォーム」を参照してください。
5. オプション: 添付ファイルを追加するには、[添付ファイルの追加] を選択します。
6. オプション: フォームをドラフトとして保存し、後で編集するには、[ドラフトとして保存] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. **[Submit** (送信)] を選択します。
   このフォームを送信すると、AI センターオブエクセレンスチームが要求をレビューし、必要な承認とガイダンスを提供します。

[AI モデルを要求] フォーム

[AI モデルを要求] フォームは、AI モデルを開発または調達するための要求プロセスを簡素化するように設計されています。この問診票フォームでは、承認プロセスを進める前に、必要なすべての詳細、補足ドキュメント、およびコンプライアンスに関する考慮事項がキャプチャされていることを確認します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

[AI モデルを要求] フォーム

フィールド	説明
詳細	
名前	AI モデルの一意の名前。たとえば、ServiceNow Now LLM 1.0 です。
状況	AI モデルのステータスがドラフト、開発中、または展開済みのいずれであるかを示します。状況の詳細については、「AI asset lifecycle」を参照してください。
バージョン	AI モデルのバージョン番号。例:v1.0。
説明	AI システム、そのコア機能、および使用目的の簡単な説明。たとえば、 ServiceNow 大規模言語モデル (LLM) は、 ServiceNow プラットフォーム内の会話機能を強化し、ワークフローを自動化するように設計された高度な AI 主導型ソリューションです。自然言語処理を活用して、ユーザーのインタラクションを改善し、サービスデリバリを合理化し、インテリジェントなインサイトを提供し、最終的に企業の運用効率を向上させます。
所有権	
プロバイダー	AI モデルの提供を担当する組織。ServiceNow など。
管理担当者	AI モデルの管理を担当するユーザー。
サードパーティモデル	
モデルカード	AI モデルの目的、アーキテクチャ、パフォーマンス、透明性のための倫理的考慮事項に関する詳細なドキュメント。
モデルの重み情報	追加のモデル情報 (利用可能な場合)。たとえば、重み付けとバイアスプロジェクトを参照してください。 **注:** この情報は、主に組織内で開発された AI モデルに適用されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[AI モデルを要求] フォーム (続く)

フィールド	説明
サポートされている言語	AI モデルでサポートされている言語。たとえば、英語、フランス語、イタリア語、ドイツ語、スペイン語などです。
ベースモデル	プライマリ AI モデルに関連するベースモデル。ベースモデルは、大規模なデータセットで事前にトレーニングされた基本的な AI モデルであり、特定のユースケースに合わせてさらに微調整できます。これらのモデルは、ドメイン固有のデータと要件に適応させることで、特殊な AI モデルを開発するための開始点として機能します。例:Mixtral。 **注:** 基本モデルは、組織内で開発された AI モデルにのみ適用されます。
トレーニング手順	AI モデルのトレーニングに使用される手順。オプションは次のとおりです。 • ディシジョンツリー:意思決定に使用されるツリー状のモデルで、各ノードが条件を表し、分岐が結果につながります。分類および回帰タスクに広く使用されています。 • 半教師あり学習:少量のラベル付きデータと大量のラベルなしデータを組み合わせて学習効率を向上させる機械学習アプローチ。 • 命令の分割: AI モデルがタスク固有の指示でトレーニングされ、人間のようなコマンドに従う能力を向上させるプロセス。 • **Supervised Finetuning**: 事前トレーニング済みモデルをラベル付きデータでさらにトレーニングして、特定のタスクのパフォーマンスを向上させる手法。 • ディープニューラルネットワーク:ディープラーニングで使用される、データの複雑なパターンを学習できる相互接続されたニューロンの複数のレイヤーを備えたAIモデルの一種。 • 線形回帰:従属変数と1つ以上の独立変数の間の関係を直線を使用してモデル化する統計的手法。 • ロジスティック回帰:シグモイド関数を使用して確率を推定することにより、カテゴリの結果 (はいまたはいいえなど) を予測する分類アルゴリズム。 • ランダムフォレスト:複数の決定木を組み合わせて精度を向上させ、分類タスクと回帰タスクの過適合を減らすアンサンブル学習方法。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[AI モデルを要求] フォーム (続く)

フィールド	説明
	• 教師あり学習:モデルがラベル付きデータから学習し、入力を正しい出力にマッピングする機械学習アプローチ。 • 教師なし学習:モデルが事前定義されたカテゴリなしでラベルなしデータのパターンと構造を識別する学習方法。 • 強化学習:エージェントが環境と対話し、報酬とペナルティを通じて最適なアクションを学習する学習アプローチ。 • 転移学習:事前トレーニング済みモデルを新しい関連するタスクに適合させて、より少ないトレーニングデータでパフォーマンスを向上させる手法。
コンテキストウィンドウ	応答または予測を生成するときに AI モデルが処理できるトークンの数。例:16385。
モデルサイズ (MB)	AI モデルが占有するストレージスペース (MB)。 注: [モデルサイズ **(MB)]** フィールドは整数値のみをサポートしています。
モデルパラメーター情報	AI モデルの動作とパフォーマンスを決定する、トレーニング中に学習された内部変数。たとえば、モデルのパラメーターの数が 175 であるとします。
評価メトリクスレポート	テストまたは評価中に AI モデルの有効性を評価するために使用されるパフォーマンス測定結果。たとえば、モデルの精度が 85% で、幻覚率が 15% であるとすることができます。
トレーニングデータセット	AI モデルのトレーニングに使用されるデータセットのコレクション。
評価データセット	AI モデルの評価またはテストに使用されるデータセットのコレクション。たとえば、P1 インシデントデータセットなどです。
その他詳細	
展開の指針	トレーニング済み AI モデルを実稼働環境に統合して展開するプロセス。
必要なインフラストラクチャ	AI モデルの展開と実行に必要なハードウェアリソースとソフトウェアリソースの説明。たとえば、A100タイプのグラフィックスプロセッシングユニット(GPU)が1つ必要であるとすることができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データセットを要求する

データセットを要求して、傾向の分析、AI モデルのトレーニング、またはデータに基づく意思決定のサポートを行います。

始める前に

必要なロール:AI リスクおよびコンプライアンスビジネスユーザー (従業員センター)、sn_ai_asset_mgmt.ai_asset_owner (AI コントロールタワーダッシュボード)

手順

1. 従業員センター または AI コントロールタワーダッシュボードからデータセットを要求します。
   - 移動先 すべて > セルフサービス > 従業員センター.
   - 移動先 すべて > **AI** コントロールタワー.
2. 従業員センターランディングページで、 テクノロジーサービス > **AI** 資産.
   a. [データセットの要求] カードを選択します。
3. AI コントロールタワーダッシュボードで、リスト アイコンをクリックし、AI 資産インベントリに移動します。
   a. **[AI** 資産の追加] を選択します。
   b. [データセット] を選択し、[次へ] を選択して続行します。
4. フォームで、フィールドに入力します。

   [データセットを要求] フォームのフィールド値の説明については、「 [データセットを要求] フォーム」を参照してください。
5. オプション: 添付ファイルを追加するには、[添付ファイルの追加] を選択します。
6. オプション: フォームをドラフトとして保存し、後で編集するには、[ドラフトとして保存] を選択します。
7. **[Submit** (送信)] を選択します。
   このフォームを送信すると、AI センターオブエクセレンスチームが要求をレビューし、必要な承認とガイダンスを提供します。

次のタスク

AI 照会を提起する

[データセットを要求] フォーム

[データセットを要求] フォームは、データセットを調達するための要求プロセスを簡素化するように設計されています。この問診票フォームでは、承認プロセスを進める前に、必要なすべての詳細、補足ドキュメント、およびコンプライアンスに関する考慮事項がキャプチャされていることを確認します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

[データセットを要求] フォーム

フィールド	説明
詳細	
名前	データセットの一意の名前。たとえば、 従業員の財務データなどです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[データセットを要求] フォーム (続く)

フィールド	説明
状況	データセットのステータスがドラフト、開発、または展開済みのいずれであるかを示します。
バージョン	データセットのバージョン番号。例:v1.0。
データタイプ	データセットを分類するデータタイプ。オプションは次のとおりです。 • **Image** (画像) • テーブル • テキスト • ビデオ
説明	データセット、そのコア機能、および使用目的の簡単な説明。たとえば、 従業員財務データデータセットには、給与の詳細、ボーナス、福利厚生、控除など、従業員の財務状態に関する包括的な情報が含まれています。また、費用、貯蓄、投資拠出に関する情報も含まれる場合があり、AI モデルをトレーニングするための従業員の財務プロファイルの全体像を提供します。
所有権	
プロバイダー	データセットの提供を担当する組織。ServiceNow など。
管理担当者	データセットの管理を担当するユーザー。
その他詳細	
ソース	データセットのソースに関する関連情報。たとえば、 従業員の財務データは、給与、福利厚生、報酬のすべての情報を安全に管理および処理する社内財務アプリケーションから供給されます。このシステムにより、各従業員の財務詳細について正確で最新の記録が保証されます。
ベースデータセット	分析、モデリング、またはさらなるデータ処理の参照として使用される基盤データセットまたはプライマリデータセット。
データセットカード	データセットの目的、アーキテクチャ、パフォーマンス、および透明性のための倫理的考慮事項に関する詳細なドキュメント。たとえば、このデータセットは地域25～35からのローン申請に限定されており、人口統計学的制約によるバイアスを反映している可能性があります。

AI 照会を提起する

AI システム、モデル、またはデータセットとそのビジネスアプリケーションに関する質問を送信します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

始める前に
必要なロール:sn_ai_case_mgmt.ai_case_business_user

手順

1. 移動先 すべて > セルフサービス > 従業員センター.
2. 従業員センターランディングページで、 テクノロジーサービス > **AI** 資産.
3. **[AI** を発生させる **(Raise an AI)]** 照会カードを選択します。
4. フォームで、フィールドに入力します。

   [AI 照会を開始 (Raise an AI inquiry)] フォームのフィールド値の説明については、「 AI 照会フォームを発生させる」を参照してください。

5. オプション: 添付ファイルを追加するには、[添付ファイルの追加] を選択します。
6. オプション: フォームをドラフトとして保存し、後で編集するには、[ドラフトとして保存] を選択します。
7. **[Submit** (送信)] を選択します。
   フォームが保存され、AI 照会が作成されます。

タスクの結果
照会は AI 照会チームにアサインされ、必要なインサイトとサポートが提供されます。AI リスクとコンプライアンスアナリストロールまたは AI ケースアナリストロールを持つユーザーは、作成された AI 照会を処理します。

AI 照会は、[新規]、[トリアージ]、[処理中]、[承認待ち]、および [クローズ済み] 状況を遷移します。

次のタスク
から AI ケースを報告する 従業員センター

AI 照会フォームを発生させる

従業員センターの [AI 照会を開始 (Raise an AI)] 照会フォームを使用して、AI システム、モデル、データセット、およびそれらのビジネスアプリケーションに関する質問を送信します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

AI 照会フォームを発生させる

フィールド	説明
詳細	
名前	AI 照会の一意の名前。たとえば 、AI モデルのトレーニングに機密性の高い個人データを使用することは許可されていますか、また、データプライバシーを確保するためにどのような予防措置を講じる必要がありますか?
説明	AI 照会に関する詳細な説明。たとえば、 機密データの許容される使用と、AI モデルのトレーニング中に機密データを保護するために必要な措置を明確にすることなどです。
優先度	AI 照会の緊急度。これにより、AI 照会チームは要求を効果的にトリアージし、要求の重要度に基

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AI 照会フォームを発生させる (続く)

フィールド	説明
	づいて応答できます。オプションは次のとおりです。 • 重大 • 高 • 中 • 低 • 計画立案
要求者	要求を作成した人物の名前。
代理で要求済み	要求を作成した人物の名前。
事業部門	AI 照会の影響を受ける事業部門。たとえば、[セールス] です。
場所	要求が作成された場所。たとえば、日本。

から **AI** ケースを報告する 従業員センター

システムの動作、影響を受けるユーザー、関連データなどの詳細な説明を入力して、AI ケースを報告します。迅速な解決のために、サポート添付ファイルなどの必要な情報がすべて含まれていることを確認します。

始める前に

必要なロール:sn_ai_case_mgmt.ai_case_business_user

手順

1. 移動先 すべて > セルフサービス > 従業員センター.
2. 従業員センターランディングページで、 テクノロジーサービス > **AI** 資産.
3. **[AI** ケースを報告] カードを選択します。
4. フォームで、フィールドに入力します。

   [AI ケースを報告] フォームのフィールド値の説明については、「 [AI ケースを報告] フォーム」を参照してください。

5. オプション: 添付ファイルを追加するには、[添付ファイルの追加] を選択します。
6. オプション: フォームをドラフトとして保存し、後で編集するには、[ドラフトとして保存] を選択します。
7. **[Submit** (送信)] を選択します。
   フォームが保存され、AI ケースが作成されます。

タスクの結果

ケースは AI ケースチームにアサインされ、必要なインサイトとサポートが提供されます。AI リスクとコンプライアンスアナリストロールまたは AI ケースアナリストロールを持つユーザーは、作成された AI ケースで作業します。

AI ケースの状況は、[新規]、[トリアージ]、[調査]、[解決]、[ケースの事後レビュー]、[クローズ] の各状況を遷移します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

次のタスク
AI 資産の AI アセスメントを開始

[AI ケースを報告] フォーム

従業員センター の [AI ケースを報告] フォームを使用して、必要な詳細を含む AI ケースを報告します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

[AI ケースを報告] フォーム

フィールド	説明
詳細	
タイトル	AI ケースの一意のタイトル。例: 不適切な AI の推奨事項。
説明	AI ケースに関する詳細な説明。たとえば、特に誤った AI の推奨事項などの場合は、予想される推奨事項、実際の提案、コンテキスト、影響、問題の再現手順 などの情報を含めます。
分類	
ケースタイプ	AI ケースのタイプ。このフィールドは自動的に **[AI** ケース] に設定されます。
ケースサブタイプ (Case subtype)	ケースのサブタイプ。例:敵対的攻撃 (不適切な結果を生成するために AI モデルを意図的に操作すること)。
スケジュール	
発生日	AI ケースが発生した日付。たとえば、ケースは 2025 年 2 月 18 日に発生した可能性があります。
検出日	ケースが検出された日付。たとえば、ケースは 2025 年 2 月 18 日に発生しても、2025 年 3 月 12 日に検出される場合があります。
ケース発生元	
影響を受ける事業部門	報告された AI ケースの影響を受ける事業部門。たとえば、経理。
発生場所 (Location of occurrence)	AI ケースが作成された場所。たとえば、日本。
影響を受ける部門	AI ケースの影響を受ける部門。たとえば、カスタマーサポート。
発生サブ場所 (Sub-location of occurrence)	ケースが発生したサブ場所。たとえば、サブ場所は東京です。

AI リスクとコンプライアンスワークスペースで AI ケースを作成する

システムの動作、影響を受けるユーザー、関連データなどの詳細な説明を入力して、 AI リスクとコンプライアンス ワークスペースで AI ケースを作成します。迅速な解決のために、サポート添付ファイルなどの必要な情報がすべて含まれていることを確認します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール:sn_ai_case_mgmt.ai_case_business_user、sn_ai_case_mgmt.ai_case_analyst、または sn_ai_case_mgmt.ai_case_manager

手順

1. 移動先 すべて > **AI** リスクとコンプライアンス > **AI** リスクとコンプライアンスワークスペース.
2. AI ケースダッシュボードの **[AI** ケース] タブで、[**AI** ケースを作成] を選択します。
3. フォームで、フィールドに入力します。
   [AI ケースの新規作成 (Create New AI Case)] フォームのフィールド値の説明については、「 [AI ケースの新規作成 (Create New AI Case)] フォーム」を参照してください。
4. **[Save** (保存)] を選択します。
   フォームが保存され、AI ケースが作成されます。

タスクの結果
ケースは AI ケースチームにアサインされ、必要なインサイトとサポートが提供されます。AI リスクとコンプライアンスアナリストロールまたは AI ケースアナリストロールを持つユーザーは、作成された AI ケースで作業します。

AI ケースの状況は、[新規]、[トリアージ]、[調査]、[解決]、[ケースの事後レビュー]、[クローズ] の各状況を遷移します。

次のタスク
AI 資産の AI アセスメントを開始

[AI ケースの新規作成 **(Create New AI Case)]** フォーム

AI リスクとコンプライアンスワークスペースの [新規 AI ケースを作成] フォームを使用して、必要な詳細を含む AI ケースを報告します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

[AI ケースの新規作成 **(Create new AI case)]** フォーム

フィールド	説明
番号	要求の番号。このフィールドは自動的に要求番号に設定されます。
名前	AI ケースの名前。例: 不適切な AI の推奨事項。
説明	AI ケースに関する詳細な説明。たとえば、特に不適切な AI の推奨事項などの場合は、予想される推奨事項、実際の提案、コンテキスト、影響、問題の再現手順 などの情報を含めます。
タイプ	AI ケースのタイプ。このフィールドは自動的に **[AI** ケース] に設定されます。
サブタイプ	ケースのサブタイプ。例:敵対的攻撃 (不適切な結果を生成するために AI モデルを意図的に操作すること)。
状況	要求のワークフローのステータス。このフィールドは自動的に [新規] に設定されます。
優先度	AI ケースの緊急度。これにより、AI ケースチームは要求を効果的にトリアージし、要求の重要

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[AI ケースの新規作成 (Create new AI case)] フォーム (続く)

フィールド	説明
	度に基づいて対応できるようになります。オプションは次のとおりです。 • 重大 • 高 • 中 • 低 • 計画立案
要求者	要求を作成した人物の名前。
代理で要求済み	要求を作成した人物の名前。
プライマリエンティティ	AI ケースの影響を受けるエンティティ。影響を受ける領域で識別されたエンティティのみをプライマリエンティティとして選択できます。
エンティティオーナー	エンティティのオーナーになっているユーザー。このフィールドは、[影響領域] 関連リストで選択されたエンティティに基づいて自動的に設定されます。
アサイン	
アサイン先グループ	要求にアサインされるグループ。 **注:** アサイン先グループは、構成セットアップ中に要求タイプに事前に構成されます。
ケースアナリスト	AI ケースを分析して作業するアナリスト。AI ケースアナリストはアサイン先グループに属しています。
ウォッチリスト	AI ケースについて通知する必要がある人物。
アカウントエグゼクティブ	AI ケースの責任者。
プライマリ作成元	
場所	AI ケースが発生した場所。たとえば、日本。
サブ場所	AI ケースが発生したサブ場所。たとえば、サブ場所は東京です。
影響を受ける事業部門	報告された AI ケースの影響を受ける事業部門。たとえば、経理。
影響を受ける部門	AI ケースの影響を受ける部門。たとえば、カスタマーサポート。
ソース	AI ケース作成のソース。ケースが手動で作成された場合、このフィールドは自動的に [手動] に設定されます。ケースが 従業員センターから報告された場合、フィールドにはソースが [従業員センター] として表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[AI ケースの新規作成 (Create new AI case)] フォーム (続く)

フィールド	説明
追加のソース (Additional source)	ケースが手動で作成された場合の AI ケースの報告方法。このフィールドは、[ソース] フィールドで [手動] が選択され、レコードが保存されている場合にのみ使用できます。選択肢は次のとおりです。 • メール • 電話
スケジュール	
発生日	AI ケースが発生した日付。たとえば、ケースは 2025 年 2 月 18 日に発生した可能性があります。
検出日	ケースが検出された日付。たとえば、ケースは 2025 年 2 月 18 日に発生しても、2025 年 3 月 12 日に検出される場合があります。
報告日	ケースが報告された日付。
ケースクローズ SLA (Case closure SLA)	ケースのクローズ予定日。
調査開始予定 (Investigation planned start)	ケース調査の開始予定日。
調査の実際の開始 (Investigation actual start)	ケース調査の実際の開始日。
修正開始予定 (Remediation planned start)	ケースの修正の開始予定日。
修正の実際の開始 (Remediation actual start)	ケースの修正の実際の開始日。
調査終了予定 (Investigation planned end)	ケース調査の終了予定日。
調査の実際の終了 (Investigation actual end)	ケース調査の実際の終了日。
修正終了予定 (Remediation planned end)	ケース修正の終了予定日。
修正の実際の終了 (Remediation actual end)	ケースの修正の実際の終了日。
違反分析	
違反ステータス	違反が発生したかどうかを示すステータス。選択肢は次のとおりです。 • 未定:この値がデフォルト値です。 • 違反検出 **(Breach detected)**：違反が確認された場合。 • 将来の可能性 **(Future potential)**：違反が発生していないが、将来発生する可能性がある場合。 • 違反ではない:違反が検出されない場合。
違反開始 (Breach start)	違反が開始された日付。このフィールドは、[違反ステータス] フィールドで [違反検出 **(Breach detected)**] または [将来の可能性 **(Future**

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[AI ケースの新規作成 (Create new AI case)] フォーム (続く)

フィールド	説明
	potential)] が選択されている場合にのみ表示されます。
レポートステータス	規制機関に報告されている AI ケースのステータス。このフィールドは、ケースに関連付けられた規制のレポートステータスに基づいて自動的に設定されます。AI ケースに多くの規制があり、1 つの規制がレポート可能と識別された場合でも、ケースのレポートステータスは [レポート可能] に設定されます。このフィールドのデフォルト値は [未定 **(To be determined)]**です。
違反終了 (Breach end)	違反が終了した日付。このフィールドは、[違反ステータス] フィールドで [違反検出 **(Breach detected)]** または [将来の可能性 **(Future potential)]** が選択されている場合にのみ表示されます。
特定された違反の重大性 (Breach significance identified)	ユーザーが重大な違反を特定した日付。このフィールドは、[違反ステータス] フィールドで [違反検出 **(Breach detected)]** または [将来の可能性 **(Future potential)]** が選択されている場合にのみ表示されます。
根本原因分析	
主な原因	AI ケース発生の主な原因。このフィールドは、[原因と結果 (Cause and consequences)] 関連リストで選択されている主な原因に自動的に設定されます。
主な結果	AI ケースの主な原因の結果。
すべての観察事項	AI ケースに関して行われた観察事項。
是正措置	AI ケースに対処するために修正措置が取られたかどうかを示すフィールド。選択肢は次のとおりです。 • はい • いいえ
全体的な予防措置 (Overall preventive measures)	ケースのために行われる予防措置。
アクティビティ	
作業メモ (プライベート)	要求に関するメモまたは情報。
追加コメント (顧客に表示)	顧客と共有する要求に関する追加情報。

AI リスクとコンプライアンスワークスペースで AI の問題を作成する

AI リスクとコンプライアンスワークスペースで報告された AI ケースの影響領域に関連する問題を特定して管理します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

始める前に
必要なロール:sn_grc_ai_gov.ai_risk_and_compliance_analyst または sn_grc_ai_gov.ai_risk_and_compliance_manager

このタスクについて
問題管理ライフサイクルの詳細については、「 問題を管理します。」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > **AI** リスクとコンプライアンス > **AI** リスクとコンプライアンスワークスペース.
2. AI ケースダッシュボードの **[AI** ケース] タブで、[問題を作成] を選択します。
3. フォームで、フィールドに入力します。
   [新しい問題を作成] のフィールド値の説明については、「 [新しい AI 問題を作成] フォーム」を参照してください。
4. **[Save** (保存)] を選択します。
   フォームが保存され、AI の問題が作成されます。

タスクの結果
作成された AI の問題は、コントロールのオーナーにアサインされます。AI の問題は、[新規]、[分析]、[対応]、[レビュー]、[完了してクローズ]、または [完了してクローズ] ステータスに移行します。sn_grc_ai_gov.ai_risk_and_compliance_analyst ロールを持つユーザーは、AI の問題を処理し、そのクローズを監視できます。

次のタスク
AI 資産の AI アセスメントを開始

[新しい **AI** 問題を作成] フォーム

[新規問題を作成] フォームを使用して、報告された AI ケースの影響を受ける領域に関連する問題を特定および管理します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

新規問題を作成フォーム

フィールド	説明
番号	問題の番号。このフィールドは自動的に要求番号に設定されます。
名前	問題の名前。例: Acme へのサイバー攻撃。
問題ソース	問題が作成されたソース。このフィールドは自動的に **[AI** ケース] に設定されます。
問題タイプ	問題のタイプ。オプションは次のとおりです。 • コントロール設計有効性の問題:コントロールの設計が不十分で、意図したリスクを効果的に防止または検出できません。 • コントロール運用有効性の問題:コントロールは適切に設計されていましたが、実行中に失敗したか、正しく実行されていませんでした。 • コントロールが要件を満たしていない:コントロールは実施されていますが、規制、ポリシー、またはビジネス要件を満たしていません。 • コントロールが存在しません:既知のリスクまたは要件に対処するコントロールが存在しません。 • 規制への違反:法律または規制が守られていないため、組織が罰則の対象となる可能性があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規問題を作成フォーム (続く)

フィールド	説明
	• ポリシーへの非準拠:内部ポリシーが遵守されておらず、リスクや非効率性につながる可能性があります。 • 既存のポリシーの改善または提案:明確さ、範囲、または有効性を向上させるために既存のポリシーを強化するための推奨事項。 • 新しいポリシーの推奨事項:現在カバーされていないギャップやニーズに対処するための新しいポリシーを作成する提案。 • プロセスの最適化または改善:ビジネスプロセスの効率、正確性、または有効性を向上させるために特定された機会。 • 観察:一般的なメモまたは所見は、現時点では問題ではないかもしれませんが、注意が必要です。 • データ侵害:機密データまたは個人データの不正なアクセス、開示、または損失。 • 詐欺:資産の不正流用など、個人または組織の利益を目的とした意図的な欺瞞。 • 虚偽表示:事実を誤って伝える財務報告または業務報告の誤りまたは脱落。 • トレーニング:注意が必要なナレッジまたはスキルのギャップまたはニーズ。 • ドキュメント:不足しているドキュメント、古いドキュメント、または不正確なドキュメントに関連する問題。 • リスクの問題:他の特定のカテゴリに該当しない可能性のある、広範なリスク関連の懸念事項。 • その他:上記のタイプに当てはまらないが、追跡して解決する価値のある問題。
分類	問題の分類。オプションは次のとおりです。 • コンプライアンス • **Risk** (リスク) • **Audit** (監査) • ベンダーリスク
場所	問題が発生した場所。たとえば、日本。
状況	問題のワークフロー状況。このフィールドは自動的に [レビュー] に設定されます。オプションは次のとおりです。 • 新規 • 分析 • 応答 • レビュー • 完了してクローズ • 未完了でクローズ イシュー管理ワークフローとライフサイクルの詳細については、「 問題を管理します。」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規問題を作成フォーム (続く)

フィールド	説明
サブステート	問題のサブステート。このフィールドは自動入力されます。
優先度	問題の緊急度。これにより、チームは要求を効果的にトリアージし、要求の重要度に基づいて応答できます。このフィールドは自動的に [レビュー] に設定されます。オプションは次のとおりです。 • 重大 • 高 • 中 • 低 • 計画
問題評価	問題の評価。オプションは次のとおりです。 • 非常に高 • 高 • 中 • 低 • 超低
説明	問題に関する詳細な説明。たとえば、ACME では、内部システムへの不正アクセスにつながるサイバー攻撃が発生しました。
アサイン	
アサイン先グループ	問題がアサインされているグループ。例:リスクマネージャー。
アサイン先	問題がアサインされているユーザー。
問題マネージャーグループ	問題がアサインされるマネージャーグループ。オプションは次のとおりです。 • コンプライアンスマネージャー • **IT** リスクマネージャー • リスクマネージャー
問題マネージャー	問題がアサインされているマネージャー。
ウォッチリスト	この問題について通知を受ける必要がある人物。
スケジュール	
期日	問題の期日。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規問題を作成フォーム (続く)

フィールド	説明
確認日	問題の確認日。このフィールドは自動入力されます。
作成日時	問題が作成された日付。このフィールドは自動的に現在の日時に設定されます。
クローズ済み	問題がクローズされた日付。
開始予定日	問題の開始予定日。
終了予定日	問題の終了予定日。
期間	日、時、分、秒単位での問題の期間。
実開始日	問題の実際の開始日。
実終了日	問題の実際の終了日。
実際の期間	日、時、分、秒単位での問題の実際の期間。
問題のグループ化	
問題グループルール	問題のグループルール。このフィールドは自動入力されます。
親問題	問題に関連付けられている親問題。
アクションプラン	
推奨事項	問題の推奨事項。たとえば、 サイバーセキュリティ対策を強化し、定期的なセキュリティトレーニングを提供します。
アクションプラン	問題のアクションプラン。たとえば、 ファイアウォールを最新バージョンにアップグレードし、すべての管理アカウントにマルチファクター認証を実装します。
アクティビティ	
作業メモ (プライベート)	問題に関するメモまたは情報。
追加コメント (顧客に表示)	顧客と共有する問題に関する追加情報。
設定	
機能ドメイン	問題が属している機能ドメイン。たとえば、問題が AI リスクとコンプライアンスのドメインに属している場合があります。

AI リスクとコンプライアンス での問題の修正

問題が作成、報告、特定、トリアージ、および調査された後、問題を修正できます。

始める前に
必要なロール:sn_grc_ai_gov.ai_risk_and_compliance_admin、sn_grc_ai_gov.ai_risk_and_compliance_manager、sn_grc_a

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

コントロールエラーやリスクエクスポージャーの原因となっている根本的な問題を解決する意思を示す印をつける問題を修正します。問題を受け入れて、既知のコントロールエラーやリスクの例外を作成する意図があることをマークします。[受入れ済み] のコントロールは、コントロールが再評価されるまでは、非準拠ステータスのままになります。これにより、監査中に所見を文書化するために問題を使用することができます。

手順

1. 修正する問題を開きます。
2. [修復タスク] タブをクリックします。

   注:
   修復タスクを作成するには、次の 2 つのオプションがあります。
   - このタスクを作成するための基礎として既存のタスクを使用するには、[提案された修復タスク] をクリックし、[コピー] をクリックします。選択した修復タスクのコピーが作成され、そのタスクの特定の情報が新しいタスクにコピーされます。他のフィールドは手動で入力できます。
   - [新規] をクリックして手動でタスクを作成します。
3. フォームのフィールドに入力します。

修復タスクフォーム

フィールド	説明
番号	一意の識別番号。
アサイン先	このタスクの作業を担当するユーザーを選択します。 修復タスクにアクセスするユーザーの階層を構成できます。詳細については、「User hierarchy access control for issue and remediation task records (問題および修復タスクレコードのユーザー階層のアクセス制御)」を参照してください。
問題	このタスクが作成された問題。
ステータス	タスクの現在のステータス。
優先度	影響度と緊急度に基づいて、このタスクを解決する必要がある優先度または順序を選択します。
ウォッチリスト	変更が発生したときに通知を受け取るユーザーを選択します。
作成/更新	タスクが作成および更新された日時を表示します。
名前	タスクの短い説明。これはタスクのリストに表示されます。
説明	タスクの詳細な説明を入力します。
メモとコメント	
追加コメント	必要に応じて、このタスクに関連する顧客向けのコメントを入力します。
作業メモ	問題の修正に関連する、顧客向け以外のメモを入力します。
タスク スケジュール	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
計画された期間	作業時間の見積もり。[開始予定日] と [終了予定日] を使用して計算されます。
開始予定日	タスクの作業の開始予定日時。
終了予定日	タスクの作業の終了予定日時。
実際の期間	実際の作業時間。[実開始日] と [実終了日] を使用して計算されます。
実開始日	このタスクの作業が開始された時間。
実終了日	このタスクの作業が完了した時間。
機密性	
機密	レコードの機密性を有効にするオプション。アサインされた機密ユーザーまたはユーザーの機密グループのみがレコードにアクセスできます。 機密オプションの詳細については、「監査およびコンプライアンスレコードの機密性フラグ」を参照してください。

4. [送信] をクリックします。

次のタスク
ビジネスルールの作成

ビジネスルールの作成

定義された条件が満たされたときにフォームフィールドの値を自動的に変更するビジネスルールを作成します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
ビジネスルールは、レコードが表示、挿入、削除されるとき、またはテーブルが照会されるときに実行されるサーバー側スクリプトです。ビジネスルール条件には、データベース操作に関連してビジネスルールを実行するタイミングと、ビジネスルールが適用されるレコード操作が含まれます。クライアントスクリプトや UI アクションなど、クライアント側の条件に関してプラットフォームで利用できる他のスクリプトオプションがあります。

注:
ビジネスルールは、スクリプティングに依存する従来の自動化ソリューションです。新しいプロセスの自動化にワークフロースタジオを使用して、拡張、再利用、理解、アップグレードが容易な自動化を作成します。多くの組織が本番環境でビジネスルールを用意しているため、このドキュメントを使用して既存のビジネスルールを操作する方法を学習してください。

手順

1. 移動先 すべて > システム定義 > ビジネスルール.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. [ビジネスルール] ページで、次の詳細を入力します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

ビジネスルールの新規フォーム

フィールド	説明
名前	ビジネスルールの名前。
テーブル	ビジネスルールが適用されるテーブル。
アクティブ	ビジネスルールをアクティブとしてマークするには、このオプションを選択します。
詳細	ビジネスルールに詳細スクリプティングを設定するには、このオプションを選択します。
実行タイミング	ビジネスルールを [挿入] または [更新] のどちらで実行するかを指定します。フィルター条件を使用して、ビジネスルールを実行する条件を指定します。
時期	ビジネスルールを実行するタイミングを指定します。 ○ 次の値より前 ○ 後 ○ 非同期 ○ 表示 このフィールドは、[詳細] を選択した場合にのみ表示されます。
順序	ビジネスルールの順序の値を指定します。この順序によって、ビジネスルールが表示される順序が決まります。 このフィールドは、[詳細] を選択した場合にのみ表示されます。
フィルター条件	ビジネスルールの AND 演算子と OR 演算子を使用して、必要なフィルター条件を追加します。
ロールの条件	ビジネスルールに必要なユーザーロールを選択します。
挿入	ビジネスルールを使用して挿入操作を実行するには、このオプションを選択します。
更新	ビジネスルールを使用して更新操作を実行するには、このオプションを選択します。
削除	ビジネスルールを使用して削除操作を実行するには、このオプションを選択します。 このフィールドは、[詳細] を選択した場合にのみ表示されます。
クエリ	ビジネスルールを使用してクエリ操作を実行するには、このオプションを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	このフィールドは、[詳細] を選択した場合にのみ表示されます。
アクション	
フィールド値を設定	[フィールド値を設定] 選択肢リストを使用して以下のフィールド値を指定します。 ○ 次の値： そのフィールドに使用可能なオプションによって決まる値。 ○ 次から取得：別のフィールドから取得した値。 ○ 次の値 (動的)：ビジネスルールを設定しているユーザー、または特定のロールを持つユーザーに関連のある値。
メッセージの追加	ビジネスルールのメッセージを追加するには、このオプションを選択します。
アクションの中止	アクションを中止するプロビジョンを追加するには、このオプションを選択します。
詳細	
条件	条件の名前を指定します。
スクリプト	このスクリプトでサポートされている最新の JavaScript 機能の使用をサポートするには、ECMAScript 2021 (ES12) モードをオンにします。このオプションをオフにすると、アプリケーションの JavaScript モードでサポートされている機能のみを使用できます。 ビジネスルールのスクリプトを入力します。

4. **[Submit** (送信)] を選択します。

タスクの結果

新しいビジネスルールが保存され、ビジネスルールのリストに表示されます。これで、ビジネスルールを使用する準備ができました。

ビジネスルールの詳細については、「 クラシックビジネスルール 」を参照してください。

AI 資産の AI アセスメントを開始

AI 資産全体の AI アセスメントを開始します。

始める前に

必要なロール:AI 資産オーナーまたは AI リスクおよびコンプライアンスアナリスト [sn_grc_ai_gov.ai_risk_and_compliance_analyst]

手順

1. 移動先 すべて > **AI** リスクとコンプライアンス > **AI** リスクとコンプライアンスワークスペース.
2. リスト アイコンを選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

3. リストから、AI アセスメントを開始する AI 資産を開きます。
4. [その他のアクション] メニューで、[アセスメントを開始] を選択します。
5. [AI アセスメントを送信] ダイアログボックスで、フィールドに入力します。

AI アセスメントフォームを送信

フィールド	説明
アセスメントテンプレート	AI アセスメントの実行に使用するアセスメントテンプレート。このドロップダウンリストには、公開されているすべてのアセスメントテンプレートのリストが表示されます。公開の詳細については、「 アセスメントテンプレートを公開する」を参照してください。 アセスメントテンプレートの詳細については、「 コンテンツパック」を参照してください。
関連エンティティ	影響度評価のために分析する必要があるエンティティ。このフィールドは、AI 資産の関連エンティティに自動的に設定されます。
アサイン先	アセスメントがアサインされているユーザー。このフィールドには、AI 資産の所有と管理を担当する事業主が自動的に入力されます。
期日	アセスメントを完了する必要がある日付。
タイトル	AI アセスメントのタイトル。
説明	AI アセスメントの説明。

6. [**Send**] を選択します。

次のタスク
AI ユースケースの影響度評価を実行する

AI ユースケースの影響度評価を実行する

AI ユースケースの影響度評価を実行して、著作権の問題、偏見、プライバシー侵害、誤情報、監視などのリスクを特定し、監視とリスク管理を改善できるようにします。

始める前に
必要なロール:AI 資産オーナーまたは sn_grc_ai_gov.ai_risk_and_compliance_business_user

手順

1. 移動先 すべて > **AI** コントロールタワー > **AI** 資産.
2. リストから必要な AI システムを開きます。
3. AI 資産ライフサイクルの [評価] ステージで、影響度評価のタスクを選択します。
4. [アセスメントを実施] を選択します。
5. オプション: 影響度評価を別のユーザーに再アサインするには、[再アサイン] を選択し、次の操作を行います。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [タスクを再アサイン] ダイアログボックスで、必要に応じてフィールドに入力します。

タスクを再アサイン

フィールド	説明
アサイニー	タスクを再アサインするユーザーの名前。
追加コメント	再割り当ての理由を示す補足情報。

b. [再アサイン] を選択します。

6. オプション: サイドバーディスカッションを開始するには、[その他] ... 、[ディスカッション] を選択します。

a. [Sidebar ディスカッションを開始] ダイアログボックスで、必要に応じてフィールドに入力します。

Sidebar ディスカッションを開始

フィールド	説明
件名	Sidebar ディスカッションのタイトルを指定するオプション。
参加者の追加	Sidebar ディスカッションの参加者を追加するオプション。 **注:** このレコードへのアクセス権を持つユーザーであれば、誰でもディスカッションに含めることができます。
参加者への簡単なメッセージの包含	Sidebar ディスカッションで議論されるフィードバックに関する簡単なサマリー。

b. [ディスカッションを開始] を選択します。

7. アセスメントを開始するには、[開始] を選択します。

8. 手順または参照情報を確認します。
質問を完了すると、レビュー用の追加の質問ガイダンステキストが表示されます。

9. アンケートで関連するすべての質問に回答します。
回答は自動的に保存され、それに基づいて、関連するリスクステートメントとコントロール目標がアセスメントに関連付けられます。AI リスクとコンプライアンスアナリストがアセスメントステータスを [完了してクローズ] としてマークすると、リスクとコントロールがそれぞれこれらのリスクステートメントとコントロール目標から生成され、AI 資産にマッピングされます。

注:
デフォルトのアセスメントアンケートを使用した場合にのみ、リスクとコントロールが自動的にマッピングされます。

10. [Submit (送信)] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
AI リスクとコンプライアンスアナリストは、送信された情報から導き出されたリスクとコントロールの提案されたリストとともに、完了したアセスメントを評価します。

「AI 資産のリスクアセスメントを開始」に進みます。

AI 資産のリスクアセスメントを開始

リスクアセスメントを開始して、リスク査定人が AI システムでリスクアセスメントを実行し、潜在的なリスクの可能性と影響を評価できるようにします。

始める前に
必要なロール:AI 資産オーナーまたは AI リスクおよびコンプライアンスアナリスト [sn_grc_ai_gov.ai_risk_and_compliance_analyst]

手順

1. 移動先 すべて > **AI** リスクとコンプライアンス > **AI** リスクとコンプライアンスワークスペース.
2. リスト アイコンを選択します。
3. リストから、リスクアセスメントを開始する AI 資産を開きます。
4. 移動先 アセスメント > リスクアセスメント.
5. [リスクの評価] を選択します。
6. [査定人と承認者を指定] ダイアログボックスで、フィールドに入力します。

査定人と承認者フォームを指定

フィールド	説明
関連エンティティ	評価する必要があるエンティティ。このフィールドは、AI システムの関連エンティティに自動的に設定されます。
リスクアセスメント方法	リスクを評価するために使用するリスクアセスメント方法論 (RAM)。
リスク査定人	リスクの評価を担当する人物。
承認者	アセスメントの承認を担当する担当者。

7. [アセスメントの送信] を選択します。

次のタスク
AI システムでリスクアセスメントを実行

AI システムでリスクアセスメントを実行

AI リスクとコンプライアンス アプリケーションを使用して、AI システムでリスクアセスメントを実行し、潜在的なリスクの可能性と影響を評価します。

始める前に
必要なロール:AI リスクおよびコンプライアンスアナリスト [sn_grc_ai_gov.ai_risk_and_compliance_analyst]

AI システムでリスクアセスメントを実行するには、 高度なリスク アプリケーションをインストールする必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > **AI** リスクとコンプライアンス > **AI** リスクとコンプライアンスワークスペース.
2. リスト アイコンを選択します。
3. リストから、リスクアセスメントを実行する AI システムを開きます。
4. 移動先 アセスメント > リスクアセスメント.
5. リスクアセスメントを開きます。
6. オプション: アセスメントを再アサインするには、[再アサイン] を選択し、次の操作を行います。
   a. 再割り当ての理由を選択します。
   b. 新しい査定人を選択します。
   c. [追加コメント] フィールドに、再アサインに関する追加の詳細を入力します。
   d. [再アサイン] を選択します。
7. アセスメントを開始するには、[アセスメントの開始] を選択します。
8. すべてのリスクアセスメントの質問または要素に回答します。
   回答は自動的に保存され、全体的なリスクスコアが計算されます。
9. オプション: 計算されたリスクスコアを変更するには、次の操作を行います。
   a. [計算されたスコアを変更したい] オプションを選択します。
   b. [規制リスク分類を上書き] フィールドから、適切な値を選択します。
   c. 計算されたスコアの変更の理由を説明するコメントを入力します。
10. **[Submit** (送信)] を選択します。
    アセスメントは、基準を満たしている場合はレビューと承認のために送信され、承認が必要ない場合は直接公開されます。

次のタスク
AI 資産のコントロール証明書を作成

AI 資産のコントロール証明書を作成

AI 資産のコントロール証明書を作成して、AI 資産の動作、データ使用量、パフォーマンス、およびリスク体制を管理するコントロールの存在、実装、および有効性を文書化します。これらの証明書は、AI 資産が関連する規制、倫理、セキュリティ、および運用標準に準拠していることを示す正式な証拠として機能します。

始める前に
必要なロール:AI リスクとコンプライアンスビジネスユーザー

手順

1. 移動先 すべて > **AI** リスクとコンプライアンス > **AI** リスクとコンプライアンスワークスペース.
2. リスト アイコンを選択します。
3. リストから、コントロール証明書を作成する AI 資産を開きます。
4. 移動先 リスクとコンプライアンス体制 > コントロール.
5. リストからコントロールを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. [証明] を選択します。

> **重要:**
> 証明書は、[ドラフト] または [監視] ステータスのコントロールに対してのみ作成できます。

次のタスク

- コントロールを証明。
- 同じ応答機能を使用してコントロール証明書をグループ化します。
- 異なる応答機能を使用してコントロール証明書をグループ化します。
- AI 資産のリスクに関するリスクアセスメントを開始。

AI 資産のリスクに関するリスクアセスメントを開始

AI システムの影響度評価中に特定されたリスクのリスクアセスメントを要求します。これらのリスクは、AI システムの影響度評価中に提供された応答に基づいて生成されます。

始める前に
必要なロール:sn_grc_ai_gov.ai_risk_and_compliance_analyst

手順

1. 移動先 すべて > **AI** リスクとコンプライアンス > **AI** リスクとコンプライアンスワークスペース.
2. リスト アイコンを選択します。
3. リストから、リスクアセスメントを要求する AI 資産を開きます。
4. 移動先 リスクとコンプライアンス体制 > リスク.
5. リストから必要なリスクを選択します。
6. [リスクの評価] を選択します。
7. [リスクアセスメントを要求] ダイアログボックスで、フィールドに入力します。

リスクアセスメントフォームを要求

フィールド	説明
アセスメント方法論	リスクを評価するために使用するリスクアセスメント方法論 (RAM)。これは、公開されたリスク RAM に基づいて自動入力されます。
査定人タイプ	リスクの評価を担当するユーザーまたはグループを選択するオプション。オプションは次のとおりです。 ○ **AI** システムアナリストと同じ:査定人として AI システムアナリストを選択するオプション。 ○ ユーザーの指定:リスクの評価を担当するユーザーを選択するオプション。 ○ グループの指定:リスクの評価を担当するグループを選択するオプション。
査定人	リスクの評価を担当するユーザーまたはグループ。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: 査定人タイプから **[AI** システムアナリストと同じ] が選択されている場合、このフィールドは自動的に AI システムアナリストの名前に設定されます。
承認者タイプ	リスクアセスメントの承認を担当するユーザーまたはグループを選択するオプション。オプションは次のとおりです。 ○ ユーザーを指定:リスクアセスメントの承認を担当するユーザーを選択するオプション。 ○ グループの指定:リスクアセスメントの承認を担当するグループを選択するオプション。 ○ なし:リスクアセスメントを承認するための特定のユーザーまたはグループがアサインされていない場合に選択するオプション。
承認者	アセスメントの承認を担当するユーザーまたはグループ。 注: このフィールドは、[承認者タイプ] で [ユーザーを指定] または [グループを指定] が選択されている場合にのみ使用できます。
期限切れまでの日数	アセスメントを開始してから完了する必要がある日数。たとえば、値を 10 に定義すると、アセスメントの期日はアセスメントが開始された日から 10 日後に設定されます。デフォルト値は 0 です。

8. [アセスメントを要求] を選択します。

次のタスク
リスクワークスペースで高度なリスクアセスメントを実行

AI リスクとコンプライアンスの参照

参照トピックには、 AI リスクとコンプライアンス アプリケーションとともにインストールされるテーブルやロールなどの追加情報が記載されています。

AI リスクとコンプライアンスとともにインストールされるロール

AI リスクとコンプライアンスは、企業全体の AI システムを管理するための日常の運用タスクを実行するために不可欠なロールをインストールします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

ロールと説明

ロールタイトル [名前]	説明	ロールを含む
AI リスクとコンプライアンス アドミン [sn_grc_ai_gov.ai_risk_and_compliance_admin]	AI リスクとコンプライアンス アドミニストレーターは、次のタスクを実行できます。 • リスクと影響度のアセスメントフレームワークを設定します。リスクアセスメント方法、リスク寄与要因、および影響度評価テンプレートを構成します。 • 影響度評価の自動化ルールを定義し、アセスメントの応答に基づいて適用可能なリスクとコントロールを決定します。 • AI ケースタイプを設定してプロファイルします。 • AI システムを削除します。	• sn_risk.admin • sn_smart_asmt.template_manager • sn_grc_ai_gov.ai_risk_and_compliance_man • sn_smart_asmt.assessment_admin • sn_grc_workspace.state_model_admin • sn_smart_asmt.template_contributor • sn_compliance.admin • sn_compliance.control_framework_admin* • sn_compliance.library_admin* • sn_compliance.policy_admin*
AI リスクとコンプライアンス マネージャー [sn_grc_ai_gov.ai_risk_and_compliance_manager]	AI リスクとコンプライアンス マネージャーは、システム上のすべての AI システムにアクセスし、次のタスクを実行できます。 • 影響度評価を開始します。 • AI システムのライフサイクルを管理します。 • リスクアセスメントを開始します。 • コントロール証明書を開始します。	• sn_grc_ai_gov.ai_risk_and_compliance_anal • sn_smart_asmt.template_contributor • sn_smart_asmt.template_manager • sn_risk.manager • sn_compliance.control_framework_manage • sn_compliance.library_manager* • sn_compliance.policy_manager*
AI リスクとコンプライアンス アナリスト [sn_grc_ai_gov.ai_risk_and_compliance_analyst]	AI リスクとコンプライアンス アナリストは、システム内でアサインされたすべての AI システムにアクセスでき、アサインされたレコードに対してのみ次のタスクを実行できます。 • 影響度評価を開始します。 • AI システムのライフサイクルを管理します。 • リスクアセスメントを開始します。 • コントロール証明書を開始します。	• sn_ai_case_mgmt.ai_case_analyst • sn_smart_asmt.assessment_reader • sn_grc_ai_gov.ai_risk_and_compliance_busi • sn_smart_asmt.template_reader • sn_risk_advanced.ara_approver • sn_grc_ai_gov.ai_risk_and_compliance_reac • sn_grc_workspace.user • sn_risk.user • sn_risk_advanced.ara_assessor • sn_compliance.library_user*

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールと説明 (続く)

ロールタイトル [名前]	説明	ロールを含む
		• sn_compliance.control_framework_user* • sn_compliance.policy_user*
AI リスクとコンプライアンスユーザー [sn_grc_ai_gov.ai_risk_and_compliance_business_user]	AI リスクとコンプライアンスユーザーは、次のタスクを実行できます。 • 従業員センターで AI ケースを作成します。 • アサインされたタスクを処理します。 • コントロール証明書を実行する。	• sn_grc_workspace.assessment_template_c • sn_smart_asmt.actor • sn_grc.business_user • sn_grc_workspace.user • sn_smart_asmt.assessment_reader • sn_compliance.control_framework_business • sn_compliance.library_business_user* • sn_compliance.policy_business_user*
AI リスクとコンプライアンスリーダー [sn_grc_ai_gov.ai_risk_and_compliance_reader]	AI リスクとコンプライアンスリーダーは、AI システムと AI 影響度評価への読み取りアクセス権を持つことができます。	• sn_risk.reader • sn_grc_workspace.user • sn_compliance.library_reader* • sn_compliance.control_framework_reader* • sn_compliance.policy_reader*
AI システムリーダー [sn_grc_ai_gov.ai_risk_and_compliance_ai_system_reader]	AI システムリーダーは、 AI コントロールタワー ワークスペースと AI リスクとコンプライアンス ワークスペースの AI システムへの読み取りアクセス権を持つことができます。	該当なし
AI ケースビジネスユーザー [sn_ai_case_mgmt.ai_case_business_user]	AI ケースビジネスユーザーは、従業員センターで AI ケースと AI 照会を作成できます。	sn_grc_case_mgmt.grc_case_business_user
AI ケースアナリスト [sn_ai_case_mgmt.ai_case_analyst]	AI ケースアナリストは、システムでアサインされた AI ケースと AI 照会をレビューし、アサインされたレコードに対してのみ次のタスクを実行できます。 • ポリシー、規制、企業全体のコンプライアンスリスクなど、影響を受ける領域および	• sn_grc_case_mgmt.grc_case_analyst • sn_ai_case_mgmt.ai_case_business_user

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールと説明 (続く)

ロールタイトル [名前]	説明	ロールを含む
	関連領域を特定して管理します。 • 影響を受ける領域に関連する問題を特定して管理し、根本原因を排除します。	
AI ケースマネージャー [sn_ai_case_mgmt.ai_case_manager]	AI ケースマネージャーは、すべての AI ケース、AI 照会、およびその関連情報を確認できます。	• sn_ai_case_mgmt.ai_case_analyst • sn_grc_case_mgmt.grc_case_manager
AI ケースアドミン [sn_ai_case_mgmt.ai_case_admin]	AI ケースアドミニストレーターは、タイププロファイルを管理して AI ケースを分離できます。アサインルールを設定し、AI ケースを削除できます。	• sn_grc_case_mgmt.grc_case_admin • sn_ai_case_mgmt.ai_case_manager

重要:
アスタリスク (*) で示されているロールは、機能ロールを示します。

注:
機能ロールを使用すると、個々のリスクおよびコンプライアンス機能にきめ細かくアクセスできるため、チームは必要な機能のみを共有できます。この機能により、広域 統合リスク管理 (IRM) ロールが機能固有のロールに置き換えられ、より適切に制御できます。プライバシー管理、環境、社会、ガバナンス管理、AI リスクとコンプライアンス などの非統合リスク管理ファミリーは、IRM 固有のデータまたはコアプラグイン機能へのアクセスが制限されています。このモデルにより、ドメイン固有の安全なアクセスが確保され、 GRC アプリケーション全体のガバナンスが簡素化されます。

機能ロールの詳細については、「 GRC 機能ロール」を参照してください。

AI リスクとコンプライアンスとともにインストールされるテーブル

テーブルは、AI リスクとコンプライアンス アプリケーションのアクティブ化とともに追加されます。

テーブルの説明については、次の表を参照してください。

インストールされるテーブル

テーブル	説明
AI システム [sn_grc_ai_gov_ai_system]	従業員センター を介して送信された AI ユースケースをキャプチャし、送信されたすべての要求の中央リポジトリとして機能します。
AI システムエンティティ [sn_grc_ai_gov_ai_system_entity_map]	関連する AI モデルとデータセットに関するリンクされた詳細など、問診票フォームを介して作成された AI システムのエンティティ情報を維持します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インストールされるテーブル (続く)

テーブル	説明
AI システムタスク [sn_grc_ai_gov_ai_system_task]	AI 影響度評価とシステム関連タスク (法務レビュー、アーキテクチャレビュー、セキュリティレビュー、その他の必要な評価など) を追跡します。
AI ケース [sn_ai_case_mgmt_ai_case]	AI 関連のケースと問い合わせを統合し、すべての AI エンゲージメントとサポート要求の包括的なビューを提供します。

AI リスクとコンプライアンス のフロー

フローは、トリガーと一連のアクションとフローロジックで構成されます。ワークフロースタジオでは、トリガー条件が満たされたとき、またはスクリプトによって呼び出されたときに、アクティブ化されたフローのみが実行されます。

AI リスクとコンプライアンス管理に対して有効化されたフロー

フローは、トリガーと一連のアクションとフローロジックで構成されます。(admin ロールを持つユーザー) がアクションとフローロジックをフローに追加すると、収集または作成されたデータがデータパネルに表示され、他のアクションやフローロジックで使用できます。フローのビルドおよび管理にあたっては、アプリケーションやプロセスが使用する ServiceNow AI Platform のテーブルおよびフィールドについて、ある程度の知識が必要になります。プロセスアナリストは、利用可能なアクションとフローロジックを使用してフローを作成したり、既存のフローをコピーしてテンプレートとして使用したりすることができます。

「Now Assist スキル用に AIRC AI システムを作成」フローは、 AI リスクとコンプライアンス アプリケーションに対してデフォルトでアクティブ化されています。

AI Asset Management に対して有効化されたフロー

AI 資産管理アプリケーションでは、[AI 資産タスクを展開] フローがデフォルトで有効になっています。

AI ケース管理に対して有効化されたフロー

AI ケース管理アプリケーションでは、AI 照会フローの承認がデフォルトで有効になっています。

AI ガバナンス用に有効化されたフロー IRM 統合

- AI Gov の詳細を展開する準備ができたら、AIRC AI モデルとデータセットフロー。
- AI Gov の詳細が評価フェーズに入ったら、AIRC AI モデルフローを実行します。
- AI Gov の詳細が評価フェーズに入ったら、AIRC データセットフローを実行します。
- AI Gov の詳細が開発用に承認された後の AI モデルとデータセットの AIRC フロー。
- AI Gov の詳細の展開が承認された後の AIRC フロー。
- AI Gov の詳細が開発用に承認された後の AIRC フロー。
- AI Gov の詳細が評価フェーズに入ったら、AIRC フローを実行します。
- AI Gov の詳細を展開する準備ができたら、AIRC フローを実行します。
- AI モデルとデータセットの展開が承認された後の AIRC フロー。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

- アナリストを AI システムにアサインします。
- 一括リスクアセスメントライフサイクルタスクを作成します。
- コントロール証明書のライフサイクルタスクを作成します。
- リスクアセスメントを生成します。

Example: AI Gov の詳細が評価フェーズに入った後の AIRC AI モデルフロー

AI スチュワードが AI モデルのレビューを開始し、AI 資産が評価フェーズに移行すると、AI モデルの AI 資産タスクと AI アセスメントが作成されます。

フローの作成とアクティブ化

フローは、トリガーと一連のアクションとフローロジックで構成されます。独自のフローを作成してアクティブ化し、ビジネスニーズに合わせてフローをカスタマイズします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. 移動先 すべて > プロセス自動化 > フローデザイナー.
   ワークフロースタジオが開きます。
2. 選択 新規 > フロー.
3. フローの次の詳細を入力します。

[新しいフロー] フォーム

フィールド	説明
フロー名	フローを識別する一意の名前を指定します。
アプリケーション	フローを作成するアプリケーションスコープを指定します。
説明	フローの説明を入力します。

4. [追加プロパティを表示] を展開します。
5. 次のプロパティの詳細を入力します。

追加のプロパティ

プロパティ	説明
保護	フローが読み取り専用の場合に指定します。
実行方法	フローの実行内容を選択して指定します。 ○ セッションを開始するユーザー ○ システムユーザー
ロールを使用して実行します	フローを実行するユーザーロール。
[フロー優先度] のデフォルト	実行を待機している他のフローに対するバックグラウンドフローの優先度を指定します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ	説明
	○ 低 ○ 中 (デフォルト) ○ 高

6. [**Build flow**] を選択します。
7. [トリガー] で [トリガーの追加] を選択し、トリガー式を作成します。
8. [詳細オプション] を定義し、[完了] を選択します。
9. [アクション] で 、[アクション]、[フローロジック]、または [サブフローを追加] を選択します。
10. [アクション]、[フローロジック]、または [サブフロー] を選択し、式をビルドします。
11. [エラー処理] で、[アクション]、[フローロジック]、または [サブフロー] を選択し、式をビルドします。
12. [テスト] を選択してフローをテストします。
13. [アクティブ化] を選択してフローをアクティブ化します。
    有効化されたフローは、フローのリストで確認できます。

監査管理

ServiceNow® 監査管理 アプリケーションには、監査エンゲージメントの計画、エンゲージメントの実行、監査委員会と役員会への結果の報告に関連する一連のアクティビティが含まれます。エンゲージメントレポートは、組織のリスクおよびコンプライアンス管理戦略が有効であることを主なステークホルダーに証明します。

監査ワークスペース

バージョン 13.0.2 の時点で、Audit Management ユーザーは 2 つのインターフェイスを使用できます。クラシックモデルと監査ワークスペースです。監査ワークスペースは、監査のスーパーバイザーと監査人が全体的な監査のタイムラインとステータスを表示し、エンゲージメントの予算とリソースを追跡して、コントロールテストと監査タスクの進捗状況を監視するための単一ペインビューを提供します。新しいワークスペースの詳細については、「リスクワークスペース」を参照してください。

ストアでアプリを要求する

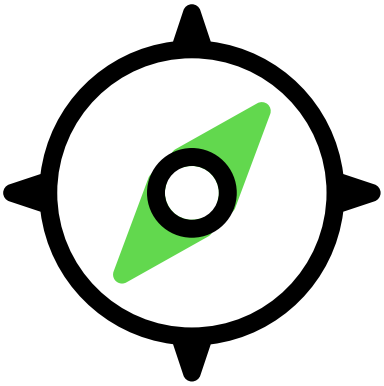
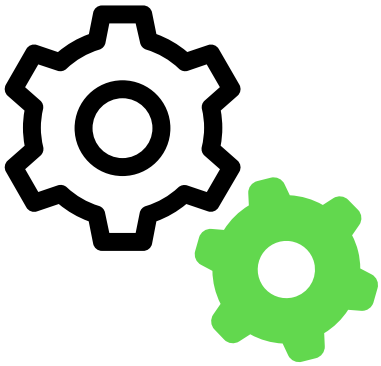
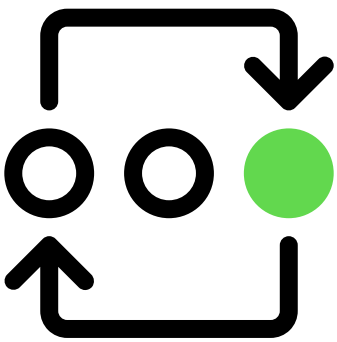
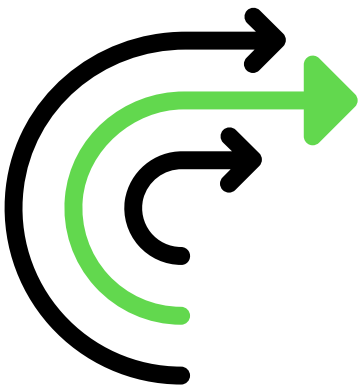
ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

GRC: 監査管理 製品を使用すると、内部監査のスケジュール、リソース計画の実施、およびエンゲージメントのスコーピングを行うことができます。監査アクティビティを実行し、継続的な監視結果を確認して、結果を報告することもできます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

開始するには

探索	構成	使用方法
		
の主な機能とメリットを詳しく確認する 監査管理	実装するチェックリストの構成 監査管理	監査タスクに 監査ワークスペース を使用
管理	**統合**	**アナリティクスとレポート**
		
を使用した監査計画 監査管理	タイムカード エンゲージメントタスクと監査タスクにかかった時間を追跡するための管理	監査結果とエンゲージメントのブレークダウンをレポート

自動翻訳

トラブルシューティングとサポート

- で質問や回答をする GRC コミュニティ
- 既知のエラーポータルで既知のエラー記事を検索する
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート

監査管理 の探索

監査管理 は、内部監査チームの作業ストリームを自動化することで、リソースと生産性を最適化し、何度も繰り返される監査結果を排除します。監査管理 はコンプライアンスとリスクのデータを使用して、監査エンゲージメントのスコーピング、計画、優先順位付けを行います。ポリシーと手

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

順、リスク、およびコントロールのブレークダウンを継続的にレビューすることで、監査が失敗する前に問題を修正する機会が得られます。

監査管理 ユーザー

監査人 (独立した機関、通常は取締役会に報告)。

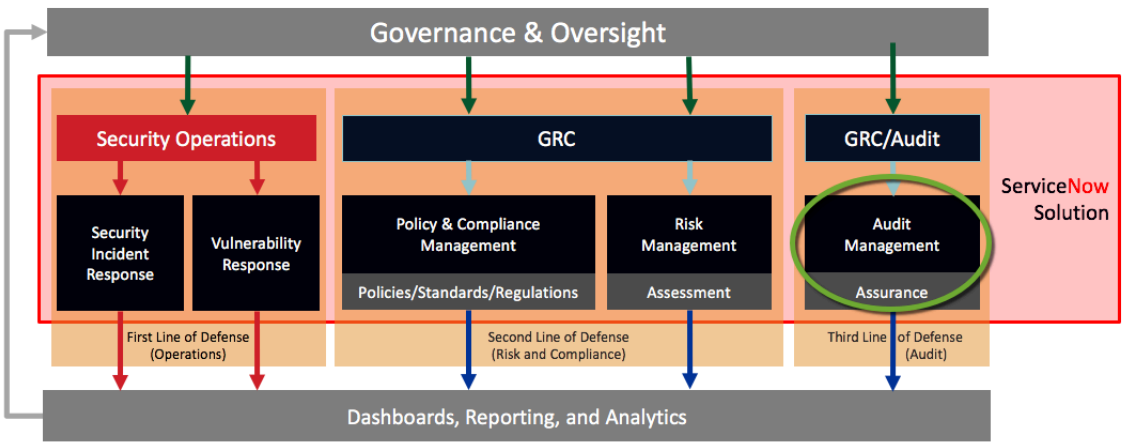
監査管理 の主要なアクティビティ

監査人の責任は次のとおりです。

- ポリシーおよび手順をレビュー
- リスクをレビュー
- コントロール設計をレビュー
- コントロールテスト設計をレビュー
- コントロールテスト結果をレビュー
- コントロールをテスト
- 観察事項を発行

監査管理 および **ServiceNow** プラットフォーム

Audit Management と **ServiceNow AI Platform**



注:
GRC アプリケーションの用語と業界用語の詳細については、「ガバナンス、リスク、コンプライアンス アプリケーションの用語の更新と業界の用語」を参照してください。

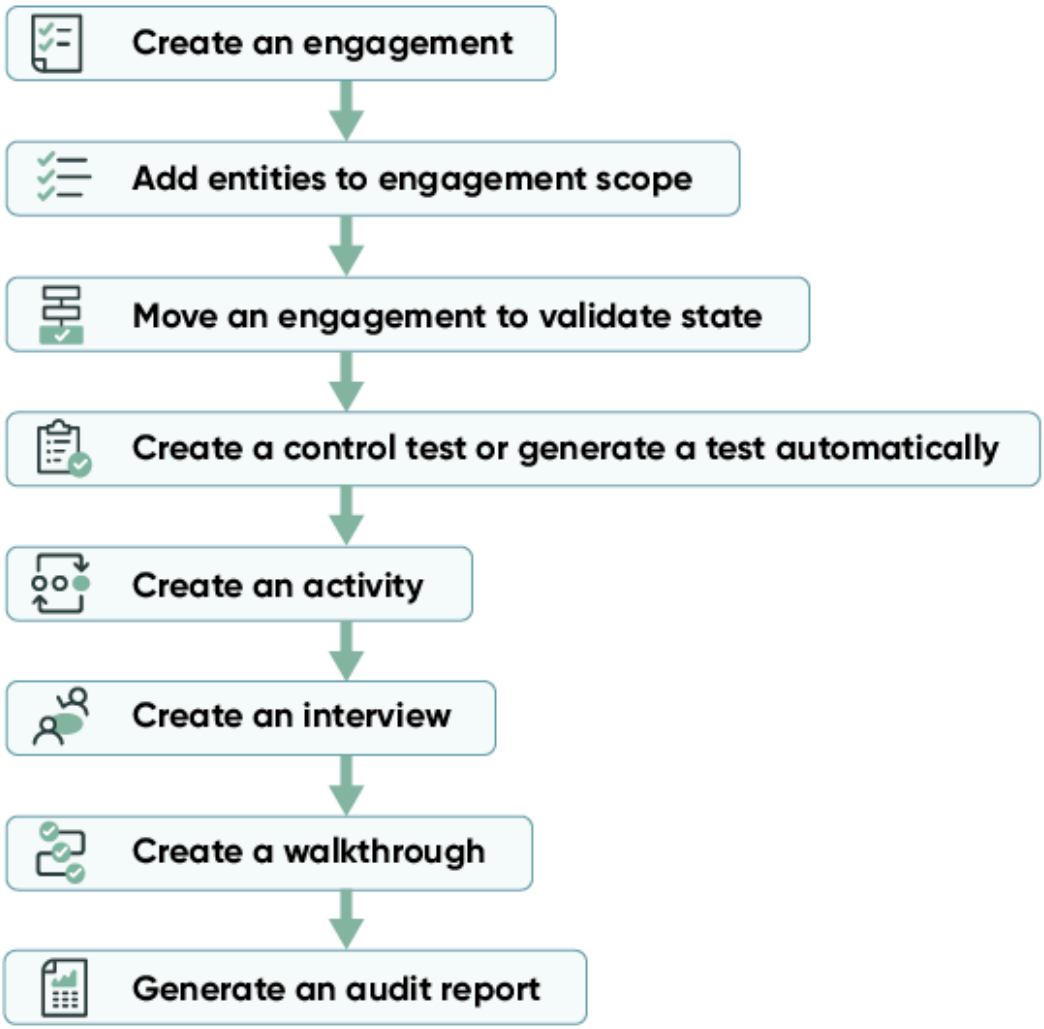
監査管理の構成

GRC 監査管理アプリケーションを実行するには、ServiceNow Store からダウンロードし、セットアップチェックリストの設定を構成してニーズを満たします。必須およびオプションのセットアップステップのほか、実装チェックリストが、セットアップを簡略化するために用意されています。

チェックリストの必須ステップのフローは次のとおりです。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Audit Management の実装ステップ



自動翻訳

監査管理をダウンロード

インスタンスで GRC: 監査管理 (com.sn_audit) を実行する前に、ServiceNow Store からダウンロードする必要があります。

GRC 監査管理 アプリケーションのセットアップチェックリスト

チェックリストには、 ServiceNow AI Platform® インスタンスで完了する必要があるセットアップタスクが含まれています。これらのタスクを完了すると、ベースシステムの運用準備が整います。監査管理 の機能を拡張するためのオプションのセットアップ手順も含まれています。

監査管理をダウンロード

インスタンスで GRC: 監査管理 (com.sn_audit) を実行する前に、ServiceNow Store からダウンロードする必要があります。

始める前に
必要なロール：admin

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする の指示に従います。

GRC 監査管理 アプリケーションのセットアップチェックリスト

このチェックリストには、ServiceNow AI Platform® インスタンスで完了する必要があるセットアップタスクが含まれています。これらのタスクを完了すると、ベースシステムの運用準備が整います。監査管理 の機能を拡張するためのオプションのセットアップ手順も含まれています。

始める前に
必要なロール：admin

このチェックリストトピックの PDF を作成し印刷することをお勧めします。そうすれば、完了したタスクにチェックを付けることができます。

PDF を生成するには、トピックの上部にある [PDF として保存 (save as PDF)] アイコン



( ) をクリックします。

手順

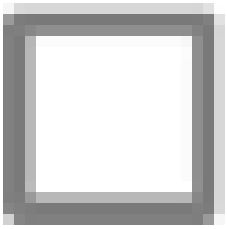
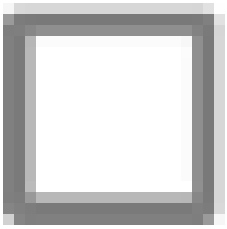
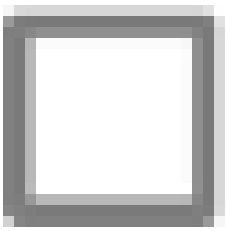
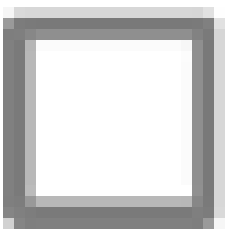
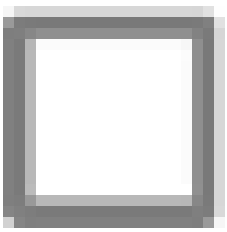
[選択したトピック **(Selected topic)**] をクリックします。

監査管理 アプリケーションのチェックリスト

アイテム	説明
	監査アドミニストレーターまたは監査マネージャーは、エンゲージメントを作成し、監査情報を管理して、監査に関連するエンティティ、コントロール、およびコントロールテストを含めます。詳細については、「エンゲージメントの作成」を参照してください。
	監査アドミニストレーターまたは監査マネージャーは、エンゲージメントを作成した後、監査エンゲージメントでスコープ対象となるエンティティを定義します。詳細については、「エンゲージメントスコープにエンティティを追加する」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アイテム	説明
	コントロールを定義したら、監査マネージャーは、定期的に実行されるコントロールテストを作成し、関連付けられているコントロールが正しく動作しているかどうかの証拠を文書化して提供します。詳細については、「エンゲージメントからコントロールテストを作成する」を参照してください。コントロールテストを自動的に生成することもできます。詳細については、「エンゲージメントからコントロールテストを自動的に生成する」を参照してください。
	コントロールを定義したら、監査マネージャーは、関連付けられているコントロールが正しく動作しているかどうかを調べ、その証拠を文書化して提供するアクティビティを作成します。詳細については、「監査タスクアクティビティを作成する」を参照してください。
	コントロールを定義したら、監査マネージャーは、コントロールオーナーと話し合うための面談を作成し、関連付けられているコントロールが正しく動作しているかどうかの証拠を文書化して提供します。詳細については、「面談を作成する」を参照してください。
	コントロールを定義したら、監査マネージャーは、観察するために実施するチュートリアルを作成し、関連付けられているコントロールが正しく動作しているかどうかの証拠を文書化して提供します。詳細については、「チュートリアルの作成」を参照してください。
	監査マネージャーは、エンゲージメントの結果を要約した監査レポートを生成して、レポートの結果をエグゼクティブに伝えることができます。詳細については、「エンゲージメントから監査レポートを生成する」を参照してください。

監査管理 のクイックスタートテスト

アプリケーションの開発やアップグレードの適用などの構成変更を行った後も、GRC: 監査管理 が引き続き正常に動作するかを検証します。自分のインスタンスに固有のデータを使用するときは、それが成功するように、これらのクイックスタートテストをコピーしてカスタマイズします。

GRC 監査管理

GRC: 監査管理 クイックスタートテストでは 監査管理 プラグイン (com.sn_audit) をアクティブ化して、デモデータをロードする必要があります。

GRC: 監査管理 テストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
GRC: 監査エンゲージメントを作成し、監査タスクを生成	監査エンゲージメントの作成を検証し、エンティティを関連付けてコントロールとテスト計画	Paris

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

GRC: 監査管理 テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	を生成します。テスト計画に関連付けられた監査タスクを生成します。	
GRC：マイルストーンを作成して処理	エンゲージメントにマイルストーンを作成します。なお、期限日を過去の、完了日を未来の日付することはできません。オープン状態のマイルストーンの場合、完了率は 0 で、マイルストーンのステータスの変化に応じて変わります。	Paris
GRC：コストとリソースプランのロールアップ	監査プランを作成し、それにエンゲージメントを関連付けます。このエンゲージメントにコストプランとリソース計画を追加すると、これらのコストがプランにロールアップされる点に注意してください。エンゲージメントにおけるこれらのコストに対するすべての編集は、プランに反映されます。	Paris
GRC：エンゲージメントプロジェクトマニュアルの作成および自動作成	検証ステータスのエンゲージメントについては、[詳細計画を有効にする] UI アクションが実行されている場合、エンゲージメントプロジェクトが作成され、「詳細計画機能」を持つ監査計画に関連付けられたエンゲージメントのステータスが [検証] に変更されると、エンゲージメントプロジェクトが自動的に作成されます。	Paris
GRC：詳細なリスクアセスメントを含む監査可能ユニット	「詳細なリスクアセスメント」としてメソッドを含む監査可能ユニットを作成し、査定人を追加してリスクアセスメントを評価することを要求します。査定人が応答し、コントロールアセスメントと残存アセスメントを実行してアセスメントを完了としてマークした後、リスクアセスメントフィールドが自動的に更新される必要があります。	Paris

Audit Management の詳細については、「Audit Management」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

関連情報

クイックスタートテスト

GRC Advanced Audit® アプリケーションのセットアップチェックリスト

ServiceNow AI Platform インスタンスで完了する必要があるセットアップタスクが含まれているチェックリストを完了します。これらのタスクを完了すると、ベースシステムの運用準備が整います。

始める前に
必要なロール：admin

このチェックリストトピックの PDF を作成し印刷することをお勧めします。そうすれば、完了したタスクにチェックを付けることができます。

手順

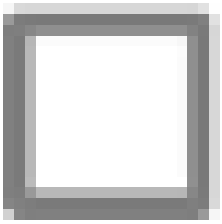
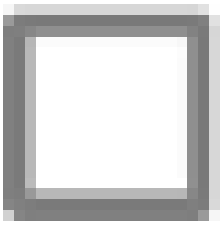
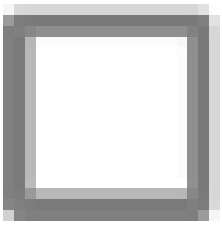
1. PDF を生成するには、トピックの上部にある [PDF として保存 (Save as PDF)] アイコン ( ) をクリックします。
2. [選択したトピック **(Selected topic)**] をクリックします。

監査管理 アプリケーションのチェックリスト

アイテム	説明
☐	監査マネージャーおよび IT プロジェクトマネージャーは、定期的な方法でさまざまなタイプの監査を管理し、論理的な方法でエンゲージメントをグループ化する監査計画を作成します。詳細については、「監査計画の作成」を参照してください。
☐	監査ユーザーまたは監査マネージャーは、事業部門、部門、ベンダー、製品、ビジネスプロセス、ビジネスアプリケーション、場所、各種法令・基準等、ポリシーなどのエンティティを持つ監査可能単位を作成し、監査可能単位でリスクアセスメントを実行します。詳細については、「監査可能単位を作成する」を参照してください。
☐	監査マネージャーは、詳細計画機能を使用して、エンゲージメントプロジェクトを自動的に作成するエンゲージメントを作成します。詳細については、「詳細計画を使用してエンゲージメントを作成する」を参照してください。
☐	監査マネージャーは、エンゲージメントの進捗状況を追跡するために使用できるマイルストーンを作成します。 エンゲージメントのマイルストーンを作成した後、マイルストーンに監査タスクを追加し、それらのタスクをマイルストーンとして追跡することもできます。詳細については、「エンゲージメントマイルストーンを作成する」を参照してください。
☐	リソースユーザーは、Resource Management アプリケーションから、デマンド、プロジェクト、プロジェクトタスク、インシデント、問題、変更などの任意のタスクのリソース計画を作成できます。承認のために送信するまで、計画を編集および調整できます。詳細については、「リソース計画の作成」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アイテム	説明
	IT プロジェクトマネージャーは、コスト計画を作成して、会計期間の原価費目の単位コストを指定します。プロジェクトコスト計画は、プロジェクトのコストをキャプチャします。詳細については、「コスト計画の作成」を参照してください。
	監査観察事項は監査の結果です。監査観察事項は、監査レポートの重要な部分として、レビュー、分析、面談、およびディスカッションの結果を表します。詳細については、「監査観察事項」を参照してください。
	監査ユーザーとして、証拠を要求します。証拠要求は、監査中にサポートドキュメントを要求するために監査およびコンプライアンスチームによって使用されます。監査人およびコンプライアンスチームは、防御の第一線にこれらのドキュメントを要求します。詳細については、「監査の証拠を要求する」を参照してください。

監査管理 の使用

監査マネジメントの範囲には、内部監査チームの作業ストリームの自動化、リソースと生産性の最適化、何度も繰り返される監査結果の排除が含まれします。

監査マネジメントの目的は次のとおりです。

- リスクが適切に特定され、定量化されるようにする
- 特定されたリスクを効果的に軽減する方法でコントロールが設計されるようにする
- 運用の有効性についてコントロールが適切に監視されるようにする
- コントロールの欠陥が特定され、修正されるようにする

監査レポートテンプレートをクラシック形式で作成する

監査レポートテンプレートを作成して、監査レポートを生成します。監査開発者は、HTML、スクリプト、または XML 形式のいずれかを使用して監査レポートテンプレートを作成できます。その後、監査レポートテンプレートを使用して、監査レポートにデータを表示できます。

始める前に
必要なロール：sn_audit.developer

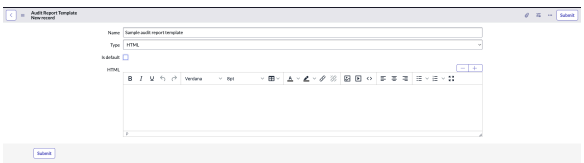
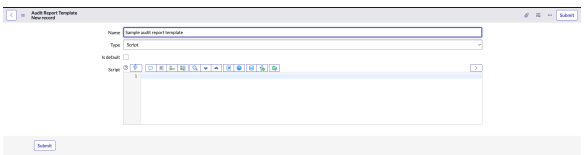
手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査レポート > 従来のレポートテンプレート.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

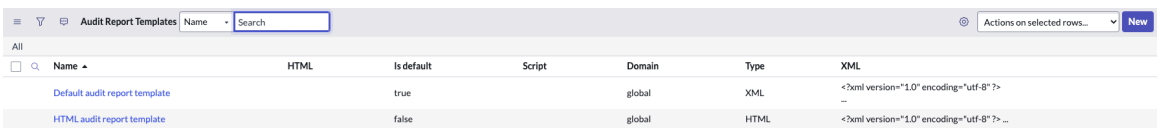
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

監査レポートテンプレートフォーム

フィールド	値
名前	監査レポートテンプレートの名前。
タイプ	監査レポートテンプレートのタイプ。使用可能なオプションは次のとおりです。 ○ スクリプト ○ **HTML** ○ **XML** これらの形式を使用して、監査レポートテンプレートを生成できます。これらのテンプレートは、監査レポートで HTML、スクリプト、または XML 形式でデータを表示するために使用されます。
デフォルトである	このテンプレートがすべての KB 記事のデフォルトテンプレートとして使用されることを示すオプション。
HTML	HTML コード。**[HTML]** オプションを選択すると、次の例に示すように、監査レポートテンプレートに HTML コードを追加できます。 
スクリプト	スクリプトコード。[スクリプト] オプションを選択すると、次の例に示すように、監査レポートテンプレートにスクリプトコードを追加できます。 
XML	XML コード。**[XML]** オプションを選択すると、次の例に示すように、監査レポートテンプレートに XML コードを追加できます。 

4. [送信] を選択します。
次の例に示すように、監査レポートテンプレートがリストビューに表示されます。



監査レポートテンプレートを使用して、定義された形式に従ってデータを監査レポートに表示できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

テストテンプレートとテスト計画を管理する

監査エンゲージメントには、コントロールの設計と運用の有効性を評価するコントロールテストアクティビティが含まれる場合があります。

テストテンプレートとテスト計画

コントロールテストを実施するには、エンゲージメントを開始する前に、監査マネージャーが関連するコントロールのテスト計画を作成します。監査マネージャーは、テストテンプレートを使用して、同様のコントロールに対して一度に複数のテスト計画を作成できます。

監査エンゲージメントの [検証] ステータスの間は、エンゲージメントのスコープでコントロールに関連付けられているテスト計画は、自動的にエンゲージメントに関連付けられます。監査マネージャーは、関連付けられたテスト計画からコントロールテストを生成し、必要に応じて個々のコントロールテストを作成できます。

テストテンプレートを作成する

Test Template (テストテンプレート) を使用すると、監査マネージャーは、ほぼ同じようなテストクライテリアを用いて多くのテスト計画を迅速に作成できます。

始める前に

必要なロール：sn_audit.admin、sn_audit.manager、または sn_audit.user

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査テスト > テストテンプレート.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

テストテンプレートフォーム

フィールド	説明
番号	一意の識別番号。
期間	テストの期間。
簡単な説明	テストテンプレートの簡潔および一般的な説明。
設計テスト*	
想定設計	コントロールの設計方法の想定内容。
設計評価手順	コントロールが効果的に設計されているか評価する方法を文書化します。
運用テスト*	
想定運用	コントロールの運用方法の想定内容。
運用評価手順	コントロールが効果的に動作しているか評価する方法を文書化

4. [送信] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

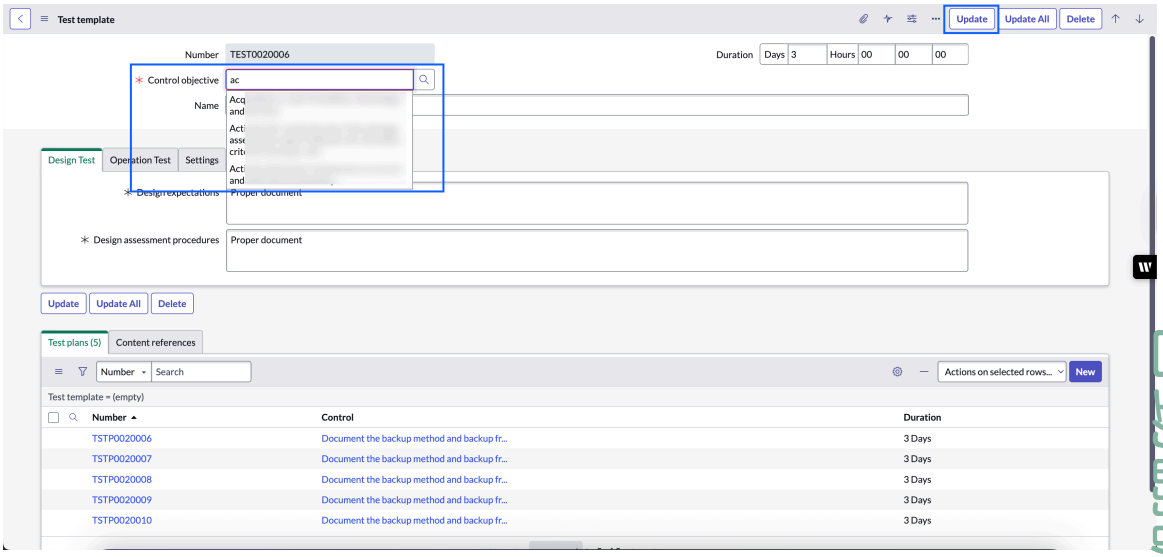
テストテンプレートをコントロール目標に関連付ける

監査オーナーは、Control Objective について汎用 Control Test Template (コントロールテストテンプレート) を作成できます。そのため、Control (コントロール) ごとに個別の Control Test (コントロールテスト) 計画を作成する必要はありません。

始める前に
必要なロール：sn_audit.admin または sn_audit.manager

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査テスト > テストテンプレート.
2. テストテンプレートレコードを開きます。
3. コントロール目標を選択し、[更新] をクリックします。



監査テスト計画の作成

テスト計画は、最初から作成することも、Test Template (テストテンプレート) を基に作成することもでき、機能をどのようにテストするかを示します。

始める前に
必要なロール：sn_audit.user、sn_audit.external_auditor

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査テスト > テスト計画.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

テストテンプレートフォーム

フィールド	説明
番号	一意の識別番号。
コントロール	このテスト計画がカバーするコントロール。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: このフィールドは、ポリシーとコンプライアンス管理 プラグインが有効化されている場合にのみ表示されます。
テストテンプレート	関連テストテンプレート。
期間	テストの予定期間。
名前	テスト計画の簡潔および一般的な説明。
設計テスト	
想定設計	コントロールの設計方法の想定内容。
設計評価手順	コントロールが効果的に設計されているか評価する方法を示すドキュメント。
運用テスト	
想定運用	コントロールの運用方法の想定内容。
運用評価手順	コントロールが効果的に動作しているか評価する方法を示すドキュメント。

4. [送信] をクリックします。

1つのテストテンプレートから複数のテスト計画を作成する

GRC: ポリシーとコンプライアンス管理 がインストールされている場合は、テストテンプレートを使用して、テスト計画のコントロール目標に関連付けられたすべてのコントロールに対してテスト計画を作成できます。

始める前に
必要なロール：sn_audit.manager または sn_audit.admin

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査テスト > テストテンプレート.
2. テスト計画を生成するテストテンプレートを選択します。
3. [すべてのコントロールのテスト計画を作成] 関連リンクをクリックします。

注:
このリンクは、現在のテストテンプレートから生成されたテスト計画がまだないテスト計画のコントロール目標に関連付けられているコントロールがある場合にのみ表示されます。

エンゲージメントを管理する

監査エンゲージメントプロセスには、エンゲージメントの作成、計画、スコーピング、実施、およびエンゲージメント結果に関するレポートが含まれます。

エンゲージメントプロセス

ベースシステム監査エンゲージメントプロセスには、エンゲージメント結果のスコーピング、検証、実施、および承認の手順が含まれています。また、オープンな監査タスクと問題をフォローアップし、最終的に監査エンゲージメントをクローズするための手順も含まれています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

エンゲージメントプロセスの状況

状況	説明
スコープ	[スコープ] ステータスでは、監査マネージャーは、監査エンゲージメントに関与するエンティティを定義します。たとえば、財務監査の場合、財務部門が依存するすべてのビジネスサービスと財務部門自体を含めることができます。 「エンゲージメントスコープにエンティティを追加する」を参照してください。
検証	エンゲージメントが [検証] ステータスに移行した後、エンゲージメントのスコープ内のエンティティに関連付けられたすべてのリスク、コントロール、およびテスト計画が監査に関連付けられます。エンゲージメントの監査期間中に収集されたインジケーターの結果も監査に関連付けられます。監査マネージャーは、リスク、コントロール、テスト計画、およびインジケーターの結果をレビューし、必要に応じてエンゲージメントのスコープを更新できます。監査マネージャーはエンゲージメントの監査タスクの作成と計画を開始することもできます。 エンゲージメントを [検証] ステータスに移行するには、現在 [スコープ] ステータスにある任意のエンゲージメントで [検証] をクリックします。
フィールドワーク	監査人は、アサインされた監査タスクを [フィールドワーク] ステータス中に完了します。これらのタスクには、Control Tests (コントロールテスト)、面談、チュートリアル、およびその他のアクティビティが含まれます。Control Tests (コントロールテスト) で発見された問題はエンゲージメントに関連付けられます。監査人は、エンゲージメントに関連付けられた一般的な問題を作成することもできます。監査マネージャーは、必要に応じて追加の監査タスクを作成できます。監査が完了すると、監査マネージャーは、エンゲージメントの結果 (満足、適切、または不適切) を指定し、意見の詳細を提供します。 エンゲージメントを [フィールドワーク] ステータスに移行するには、現在 [検証] ステータスにある任意のエンゲージメントで [フィールドワークに進む] をクリックします。 「監査タスク管理」を参照してください。
承認待ち	[承認待ち] ステータスでは、エンゲージメントの [承認者] フィールドで指定された承認者が、実施された監査タスクの結果と作成された問題をレビューします。承認者は、エンゲージメントの結果をレビューした後、エンゲージメントを承認または却下します。 エンゲージメントを [承認待ち] ステータスに移行するには、現在 [フィールドワーク] ステータスにある任意のエンゲージメントで [承認要求] をクリックします。 「エンゲージメントの承認または却下」を参照してください。
フォローアップ	エンゲージメントが承認された後、GRC: Advanced Audit の場合に、エンゲージメントに関連付けられた、オープンなタスク、問題、またはマイルストーンが残っている場合、エンゲージメントは自動的に [フォローアップ] ステータスに移行します。このステージでは、監査人は、エンゲージメントが完了としてマークされる前に、残りのすべての問題、タスク、およびマイルストーンをクローズする必要があります。
クローズ済み	エンゲージメントは、次の 3 つの条件のいずれかで [クローズ済み] ステータスに移行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンゲージメントプロセスの状況 (続く)

状況	説明
	• [スコープ]、[検証]、または [フィールドワーク] 状況では、エンゲージメントは未完了としてクローズされます。 • エンゲージメントが承認された後、オープンな監査タスク、問題、およびマイルストーンは存在しません。この場合、エンゲージメントは [承認待ち] ステータスから [クローズ済み] ステータスに自動的に移行します。 • すべてのフォローアップタスク、問題、およびマイルストーンがクローズされます。この場合、エンゲージメントは [フォローアップ] ステータスから [クローズ済み] ステータスに自動的に移行します。

監査タスク管理

監査タスクはエンゲージメント全体を通じて完了し、組織が外部規制と内部ポリシーに準拠していることを示す文書化された証拠を提供します。

監査タスクが作成または再アサインされると、アサインされたユーザーに通知が送信されます。タスクが予定期間の 75% に達すると、通知が送信されます。

詳細については、「監査ワークスペース での監査タスク管理」を参照してください。

エンゲージメントの作成

監査マネージャーは、エンゲージメントを作成して監査情報を管理し、その監査に関連するエンティティ、コントロール、およびコントロールテストを収集します。

始める前に

必要なロール：sn_audit.admin または sn_audit.manager

注:
エンゲージメントの詳細については、「エンゲージメントを管理する」を参照してください。

このタスクについて

コントールとコントール目標を定義する方法の詳細については、以下を参照してください。

- コントロールを作成
- コントロール目標を作成

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > エンゲージメント > 新規作成.
2. フォームで、フィールドに入力します。

エンゲージメントフォーム

フィールド	説明
番号	一意の識別番号。
状況	○ スコープ ○ 検証と計画 ○ フィールドワーク ○ 承認待ち

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

フィールド	説明
	○ フォローアップ日時 ○ クローズ済み
名前	エンゲージメントの名前。
タイプ	エンゲージメントのタイプ。以下から選択可能です。 ○ なし ○ 内部監査 ○ 外部監査 ○ SOX 監査 ○ IT 監査 ○ 財務監査 ○ コンプライアンス監査 ○ 認定監査 ○ 規制監査 ○ 運用監査 ○ 継続的な監査 ○ ベンダー監査 ○ 顧客監査 ○ ストア監査 ○ 品質監査 ○ プロジェクト監査
完了率 (%)	完了したエンゲージメントの割合を表す数値。
アサイン先	エンゲージメントにアサインされたユーザー。
監査人	エンゲージメントにアサインされた監査人。
承認者	エンゲージメントにアサインされた承認者。
説明	エンゲージメントの一般的な説明。
達成目標	エンゲージメントの表明された目標。
スケジュール	
エンゲージメント開始予定	エンゲージメントの予定開始日。
エンゲージメントの開始	エンゲージメントの開始日を自動的に決定する選択肢。以下から選択可能です。 ○ スコープ ○ 検証 ○ フィールドワーク
エンゲージメントの実際の開始	エンゲージメントが開始される実際の日付。
エンゲージメント終了予定	エンゲージメントの予定終了日。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
エンゲージメントの終了	エンゲージメントの開始日を自動的に決定する選択肢。以下から選択可能です。 ○ フォローアップ ○ クローズ済み
エンゲージメントの実際の終了	エンゲージメントが終了する実際の日付。
フィールドワーク開始予定	フィールドワークの予定開始日。
フィールドワーク終了予定	エンゲージメントで最初に設定された終了予定日。 **注:** このフィールドでは、デフォルトでフィールドワークの開始予定日に 1 日を加えた値が設定されます。
フィールドワーク予定期間	フィールドワークの予定日数と時間。フィールドワークの期間と開始予定日は、終了予定日を計算するために使用されます。監査タスクが定義されている場合、このフィールドには監査タスクの最長計画期間が入力されます。
フィールドワークの実際の開始	フィールドワークの実際の開始日。監査タスクが定義されている場合、このフィールドには監査タスクの最も早い実際の開始日が入力されます。
フィールドワークの実際の終了	フィールドワークの実際の終了日。監査タスクが定義されている場合、このフィールドには監査タスクの最も早い実際の終了日が入力されます。
フィールドワークの実際の期間	フィールドワークの開始日から終了日までの期間。
結果	
結果	○ 良好 ○ 適切 ○ 不適切
意見	選択した結果の正当性。
レポート	
ナレッジベース	使用するナレッジベース。
レポートテンプレート	エンゲージメント結果をレポートするナレッジベース記事を生成するために使用されるテンプレート。
KB 記事	エンゲージメント結果を含む最近生成されたナレッジベース記事
アクティビティ	
追加コメント	顧客が閲覧可能なコメント。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
作業メモ	アドミン監査マネージャーが表示できるコメント。
機密性	
機密	レコードの機密性を有効にするオプション。アサインされたユーザーまたはユーザーのグループのみがレコードにアクセスできます。 機密オプションの詳細については、「監査およびコンプライアンスレコードの機密性フラグ」を参照してください。

3. [送信] を選択します。

エンゲージメントから監査レポートを生成する

監査レポートを生成し、[フォローアップ] ステータスのエンゲージメントからさまざまなバージョンの監査レポートを維持します。

始める前に
必要なロール：sn_audit.manager

このタスクについて
エンゲージメントが [フォローアップ] ステータスの場合、監査リーダーは監査レポートを生成できます。監査レポートは、ナレッジベース (KB) 記事の形式で表されます。監査レポートが生成された後は、新しいレポートまたは KB 記事の代わりにインクリメントされたバージョンのレポートが作成されます。監査レポートに大幅な変更を加えてレポートを公開すると、レポートの新しいメジャーバージョンが作成されます。

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > エンゲージメント > すべてのエンゲージメント.
2. 監査レポートを生成するエンゲージメントを開きます。
3. [レポート] タブをクリックします。
   a. [ナレッジベース] フィールドで、ナレッジベースを選択します。
   b. [レポートテンプレート] フィールドで、テンプレートを選択します。
4. [レポートを生成] をクリックします。
5. 変更を加えずに KB 記事を公開するには、[公開] をクリックします。
6. KB 記事を編集するには、[編集] をクリックします。
   KB 記事のステータスが [ドラフト] で KB 記事ページが表示され、記事のマイナーバージョンが作成されます。
7. 必要に応じて KB 記事を編集し、[公開] をクリックします。

タスクの結果
インクリメントされたバージョンのレポートが [レポート] タブの **[KB** 記事] フィールドに表示されます。

以前のエンゲージメントからエンゲージメントを作成する

監査マネージャーは、以前のエンゲージメントからエンゲージメントを作成して、通年で実施される同様のエンゲージメントのスコープ、監査人、および承認者を再定義する必要性を削減できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：sn_audit.admin または sn_audit.manager

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > エンゲージメント > すべてのエンゲージメント.
2. 必要に応じて、検索フィルター基準をクリアします。
3. コピー元のエンゲージメントを開きます。
4. エンゲージメントのヘッダーを右クリックし、[エンゲージメントをコピー] をクリックします。

エンゲージメントからコントロールテストを作成する

コントロールを定義したら、監査マネージャーは、定期的に実行されるコントロールテストを作成し、関連付けられているコントロールが正しく動作しているかどうかの証拠を文書化して提供します。

始める前に
必要なロール：sn_audit.admin および sn_audit.manager

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > エンゲージメント > すべてのエンゲージメント.
2. 作成する監査タスクのエンゲージメントを開きます。
   次のいずれかの状況であるエンゲージメントに監査タスクをアサインします。
   - 検証
   - フィールドワーク
   - 承認待ち
3. [監査タスク] 関連リストで、[新規] をクリックします。
4. 監査タスクインターセプターで、[コントロールテスト] をクリックします。
5. フォームのフィールドに入力します。

コントロールテストフォーム

フィールド	説明
番号	一意の識別番号。
状況	○ オープン ○ 対応中 ○ レビュー ○ 完了してクローズ ○ 未完了でクローズ ○ スキップしてクローズ
親	親監査タスク。
コントロール有効性	コントロール有効性。
アサイン先	このコントロール テストに割り当てられたユーザー。
問題	このコントロールテストに関連する問題。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

フィールド	説明
テスト計画	このコントロールテストに関連付けられたテスト計画。
簡単な説明	コントロールテストの簡潔な説明。
スケジュール	
開始予定日	コントロールテストの開始予定日。
終了予定日	コントロールテストの終了予定日。
計画された期間	このコントロールテストの想定期間。実際の期間と同様に、計画された期間には合計アクティビティ時間が表示され、コントロールテストスケジュールが考慮されます。
実開始日	このコントロールテストが開始された日付。
実終了日	このコントロールテストが終了した日付。
実際の期間	コントロールテストの開始からコントロールテストの終了までのコントロールテストの期間。
設計テスト	
設計有効性	○ 有効 ○ 無効
想定設計	コントロールが効果的であるために適合する必要がある基本的要件。これにより、コントロールがコントロール目標を達成するために適切に設計されたかどうかがチェックされます。
設計評価手順	コントロールの設計が、コントロール目標を達成するために効果的かどうかを判断するために従う必要がある手順またはステップ。これは、想定設計に基づいています。
設計結果	設計アセスメント手順に基づくコントロールの設計のテスト結果。
運用テスト	
運用有効性	○ 有効 ○ 無効
想定運用	コントロール目標を達成するためにコントロールが効果的に動作していることを確認するために適合する必要がある想定。
運用評価手順	コントロールが正常に動作していると判断するために実行する必要がある、想定運用を遂行するための詳細なステップ。
運用結果	運用評価手順に基づくコントロールの運用のテスト結果。
アクティビティジャーナル	
作業メモ	監査マネージャーが表示可能なコメント。
追加コメント	顧客が閲覧可能なコメント。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

フィールド	説明
機密性	
機密	レコードの機密性を有効にするオプション。アサインされた機密ユーザーまたはユーザーの機密グループのみがレコードにアクセスできます。 機密オプションの詳細については、「監査およびコンプライアンスレコードの機密性フラグ」を参照してください。

6. [送信] をクリックします。

エンゲージメントからコントロールテストを自動的に生成する

エンティティをエンゲージメントに追加した後、コントロールテストを自動的に生成できます。

始める前に
必要なロール：sn_audit.admin および sn_audit.manager

手順
1. 移動先 すべて > 監査 > エンゲージメント > すべてのエンゲージメント.
2. コントロールテストを生成するエンゲージメントを開きます。
3. [テスト計画] 関連リストをクリックします。
4. コントロールテストを生成するテスト計画を選択します。
5. [コントロールテストを生成] をクリックします。

タスクの結果
各テスト計画のコントロールテストは、[監査タスク] 関連リストの下に作成されます。

監査タスクアクティビティを作成する

コントロールを定義したら、監査マネージャーは、関連付けられているコントロールが正しく動作しているかどうかを調べ、その証拠を文書化して提供するアクティビティを作成します。

始める前に
必要なロール: 監査管理 に必要なロールは、sn_audit.admin と sn_audit.manager です。

Lite Audit に必要なロールは次のとおりです。

- sn_grc_advanced.evidence_reader
- sn_grc_advanced.evidence_requester
- sn_grc_advanced.evidence_responder
- sn_grc_advanced.evidence_admin

手順
1. 移動先 すべて > 監査 > エンゲージメント > すべてのエンゲージメント.
2. 作成する監査タスクのエンゲージメントを開きます。
   次のいずれかの状況であるエンゲージメントに監査タスクをアサインします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 検証
- フィールドワーク

3. [監査タスク] 関連リストで、[新規] をクリックします。
4. 監査タスクインターセプターで、[アクティビティ] をクリックします。
5. フォームのフィールドに入力します。

アクティビティフォーム

フィールド	説明
番号	一意の識別番号。
状況	○ オープン ○ 対応中 ○ レビュー ○ 完了してクローズ ○ 未完了でクローズ ○ スキップしてクローズ
親	親監査タスク。
アサイン先	このアクティビティにアサインされたユーザー。
簡単な説明	アクティビティの簡潔な説明。
説明	アクティビティの詳細な説明。
スケジュール	
開始予定日	アクティビティを開始する予定日。
終了予定日	アクティビティが終了する予定日。
計画された期間	このアクティビティの予定期間。実際の期間と同様に、計画された期間には合計アクティビティ時間が表示され、アクティビティスケジュールが考慮されます。
実開始日	このアクティビティが開始された日付。
実終了日	このアクティビティが終了した日付。
実際の期間	プロジェクト開始からプロジェクトクローズまでのプロジェクトの実際の期間。
アクティビティ	
追加コメント	顧客が閲覧可能なコメント。
作業メモ	監査マネージャーが表示可能なコメント。
機密性	
機密	レコードの機密性を有効にするオプション。アサインされた機密ユーザーまたはユーザーの機密グループのみがレコードにアクセスできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	機密オプションの詳細については、「監査およびコンプライアンスレコードの機密性フラグ」を参照してください。

6. [送信] をクリックします。

面談を作成する

コントロールを定義したら、監査マネージャーは、コントロールオーナーと話し合うための面談を作成し、関連付けられているコントロールが正しく動作しているかどうかの証拠を文書化して提供します。

始める前に

必要なロール：sn_audit.admin および sn_audit.manager

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > エンゲージメント > すべてのエンゲージメント.
2. 作成する監査タスクのエンゲージメントを開きます。
   次のいずれかの状況であるエンゲージメントに監査タスクをアサインします。
   - 検証
   - フィールドワーク
   - 承認待ち
3. [監査タスク] 関連リストで、[新規] をクリックします。
4. 監査タスクインターセプターで、[面談] をクリックします。
5. フォームのフィールドに入力します。

面談フォーム

フィールド	説明
番号	一意の識別番号。
状況	○ オープン ○ 対応中 ○ レビュー ○ 完了してクローズ ○ 未完了でクローズ ○ スキップしてクローズ
親	親監査タスク。
アサイン先	この面談にアサインされたユーザー。
簡単な説明	面談の簡潔な説明。
説明	面談の詳細な説明。
スケジュール	
開始予定日	面談を開始する予定日。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
終了予定日	面談を終了する予定日。
計画された期間	この面談の予定期間。実際の期間と同様に、計画された期間には合計アクティビティ時間が表示され、面談のスケジュールが考慮されます。
実開始日	この面談が開始された日付。
実終了日	この面談が終了した日付。
実際の期間	面談の開始から面談の終了までの面談の期間。
アサイン	
主要連絡先	この面談についての連絡先となるユーザー。
その他の連絡先	この面談の連絡先となる他のユーザー (主要連絡先が利用できない場合)。
メモ	面談連絡先に関する追加のメモ。
アクティビティ	
追加コメント	顧客が閲覧可能なコメント。
作業メモ	監査アドミニストレーターおよび監査マネージャーが表示できるコメント。
機密性	
機密	レコードの機密性を有効にするオプション。アサインされた機密ユーザーまたはユーザーの機密グループのみがレコードにアクセスできます。 機密オプションの詳細については、「監査およびコンプライアンスレコードの機密性フラグ」を参照してください。

6. [送信] をクリックします。

チュートリアルを作成する

監査マネージャーは、コントロールを定義した後、関連付けられているコントロールが正しく動作しているかどうかを観察し、その証拠を文書化して提供するために実施するチュートリアルを作成します。

始める前に

必要なロール：sn_audit.admin および sn_audit.manager

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > エンゲージメント > すべてのエンゲージメント.
2. 作成する監査タスクのエンゲージメントを開きます。
   次のいずれかの状況であるエンゲージメントに監査タスクをアサインします。
   - 検証
   - フィールドワーク
   - 承認待ち

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

3. [監査タスク] 関連リストで、[新規] をクリックします。
4. 監査タスクインターセプターで、[チュートリアル] をクリックします。
5. フォームのフィールドに入力します。

チュートリアルフォーム

フィールド	説明
番号	一意の識別番号。
状況	○ オープン ○ 対応中 ○ レビュー ○ 完了してクローズ ○ 未完了でクローズ ○ スキップしてクローズ
親	親監査タスク。
アサイン先	このチュートリアルにアサインされたユーザー。
簡単な説明	チュートリアルの簡潔な説明。
説明	チュートリアルの詳細な説明。
スケジュール	
開始予定日	チュートリアルを開始する予定日。
終了予定日	チュートリアルを終了する予定日。
計画された期間	このチュートリアルの予定期間。実際の期間と同様に、計画された期間には合計アクティビティ時間が表示され、チュートリアルのスケジュールが考慮されます。
実開始日	このチュートリアルが開始された日付。
実終了日	このチュートリアルが終了した日付。
実際の期間	開始から終了までのチュートリアルの期間。
チュートリアル	
主要連絡先	このチュートリアルについての連絡先となるユーザー。
その他の連絡先	このチュートリアルの連絡先となる他のユーザー (主要連絡先が利用できない場合)。
実行ステップ	チュートリアルで実行するアクティビティの詳細。
説明	チュートリアルの意図的な目標。
追加情報	チュートリアルを実行するユーザーが認識する必要がある追加情報。
結果	チュートリアルで発生した内容の詳細。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
アクティビティ	
追加コメント	顧客が閲覧可能なコメント。
作業メモ	監査マネージャーが表示可能なコメント。
機密性	
機密	レコードの機密性を有効にするオプション。アサインされた機密ユーザーまたはユーザーの機密グループのみがレコードにアクセスできます。 機密オプションの詳細については、「監査およびコンプライアンスレコードの機密性フラグ」を参照してください。

6. [送信] をクリックします。

エンゲージメントからの KB 記事を生成する

監査マネージャーは、エンゲージメントの結果を要約した KB 記事を生成して、レポートの結果をエグゼクティブに伝えることができます。

始める前に

必要なロール：sn_audit_manager
[承認待ち]、[フォローアップ]、および [完了してクローズ] 状況のエンゲージメントの KB 記事を生成できます。

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > すべてのエンゲージメント.

2. エンゲージメントレコードを開きます。

3. 必要に応じて [レポート] タブのフィールドに入力します。

エンゲージメントフォームの [レポート] タブ

フィールド	説明
レポートテンプレート	この KB 記事に使用するレポートテンプレートを選択します。
KB 記事	一意の識別番号が自動的に入力される読み取り専用フィールド。

4. [レポートを生成] をクリックします。

エンゲージメントの承認または却下

エンゲージメントの承認者としてアサインされている監査ユーザーは、[承認待ち] ステータスのエンゲージメントを承認または却下できます。

始める前に

必要なロール：sn_audit.user

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 自分の監査承認.
2. エンゲージメントに関連付けられた承認レコードを開きます。
3. [承認] または [却下] をクリックします。
   次のいずれかのアクションが発生します。
   - エンゲージメントが承認され、オープンのタスクまたは問題が残っている場合、エンゲージメントは自動的に [フォローアップ] ステータスに移行されます。
   - エンゲージメントが承認され、オープンのタスクまたは問題が残っていない場合、エンゲージメントは自動的に [クローズ済み] ステータスに移行されます。
   - エンゲージメントが拒否された場合、エンゲージメントは自動的に [フィールドワーク] ステータスに戻されます。

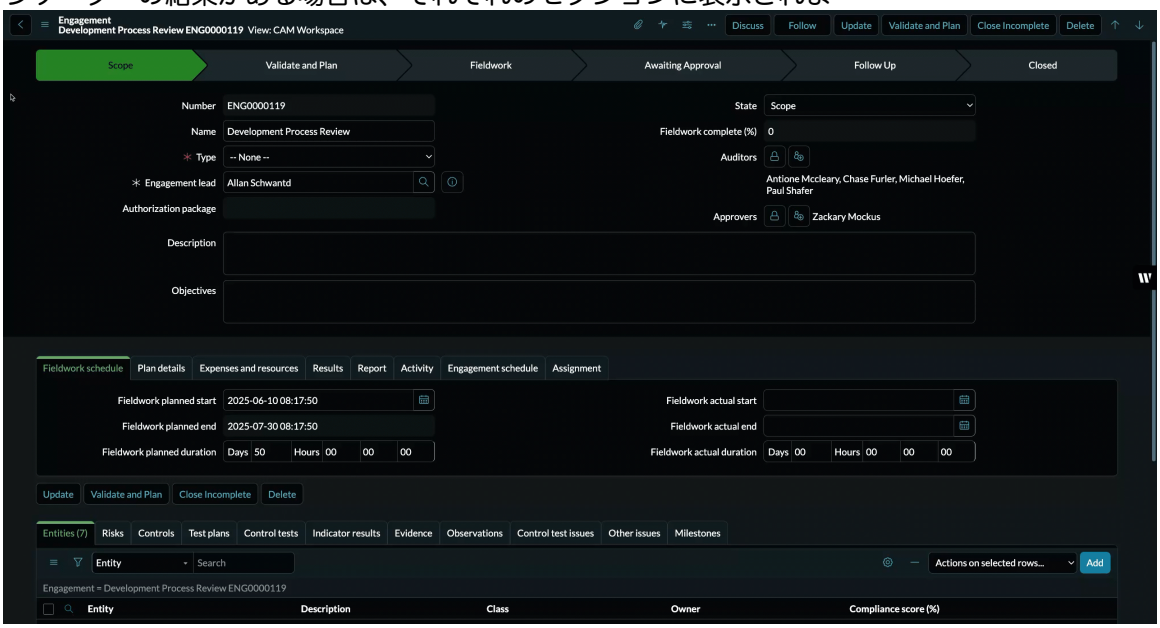
エンゲージメントスコープにエンティティを追加する

監査マネージャーは、監査エンゲージメントに関与するエンティティを定義できます。エンティティをエンゲージメントに追加すると、エンティティの対応するリスク、コントロール、テスト計画、およびインジケーターの結果もエンゲージメントに追加されます。

始める前に
必要なロール：sn_audit.manager または sn_audit.admin

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > エンゲージメント > すべてのエンゲージメント.
2. [スコープ] ステータスのエンゲージメントを開きます。
3. [エンティティ] 関連リストで、[追加] をクリックします。
4. 監査エンゲージメントに含まれる目的のエンティティを選択します。
5. [追加] をクリックします。
   エンティティに関連付けられたリスクとコントロール、テスト計画、およびインジケーターの結果がある場合は、それぞれのセクションに表示されます。



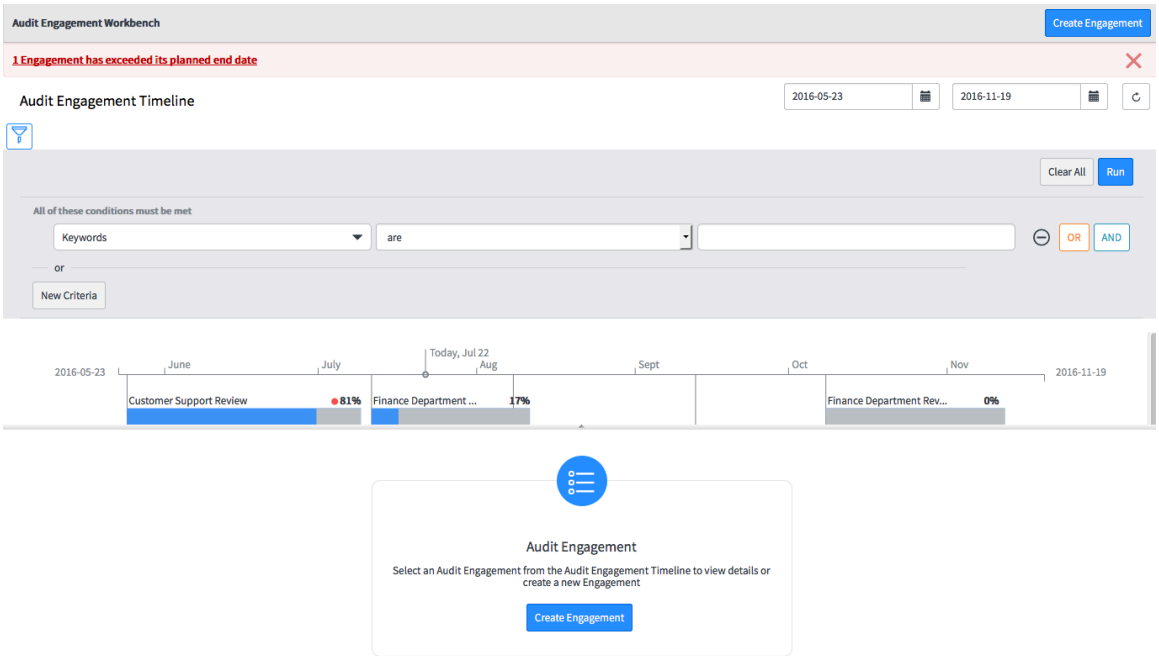
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

監査エンゲージメントの管理

エンゲージメントワークベンチでは、監査エンゲージメントを選択して詳細を表示するか、新しいエンゲージメントを作成できるタイムラインビューが利用できます。

監査エンゲージメントワークベンチ



監査ワークベンチからエンゲージメントを作成する

エンゲージメントワークベンチでは、監査エンゲージメントを選択して詳細を表示するか、新しいエンゲージメントを作成できるタイムラインビューが利用できます。監査マネージャーは、ワークベンチから直接エンゲージメントを作成して監査情報を管理し、その監査に関連するエンティティ、コントロール、およびコントロールテストを収集します。

始める前に

必要なロール：sn_audit.admin または sn_audit.manager

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > エンゲージメント > ワークベンチ.
2. [エンゲージメントを作成] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

エンゲージメントフォーム

フィールド	説明
名前	エンゲージメントの名前。
エンゲージメントリード	エンゲージメントにアサインされたユーザー。
説明	エンゲージメントの一般的な説明。
達成目標	エンゲージメントの目標。
フィールドワーク開始予定日	アクティビティを開始する予定日。
フィールドワーク予定期間	このアクティビティの予定期間。実際の期間と同様に、計画された期間には合計アクティ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	ビティ時間が表示され、アクティビティスケジュールが考慮されます。
エンゲージメント開始予定	エンゲージメントの作業の開始予定日。
エンゲージメント終了予定日	エンゲージメントの作業の終了予定日。
監査人	エンゲージメントにアサインされた監査人。
承認者	エンゲージメントにアサインされた承認者。

4. [作成] をクリックします。

ドキュメントとワークシートを監査管理でクラウドファイルとして管理

ドキュメントとワークシートをレコードへの添付ではなくMicrosoftなどのクラウドプロバイダーを使用して、監査管理クラウドファイルとして管理できます。

Washington DC リリース以降、エンゲージメントタスクレコードと監査タスクレコードでドキュメント統合機能がサポートされています。

Microsoftを使用したワークシートおよびドキュメント管理の主な利点

ドキュメント統合を使用すると、ユーザーに対して次のようなメリットがあります。

- Excel、Microsoft PowerPointプレゼンテーション、Microsoft Wordドキュメントなど、Microsoft OneDriveにある既存のドキュメントに接続します。
- ドキュメントを共有可能または共有不可能としてマークします。
- 複数の GRC レコードを持つ共有不可能なドキュメントを共有します。
- 構成可能な権限に基づいて、クラウドファイルへの読み取りおよび書き込みアクセスを制御します。
- Microsoft SharePointサイトに存在するドキュメントで共同作業を行います

クラウドファイル管理のユースケース

ドキュメント統合機能を使用すると、顧客のために次のような問題に対処できます。

- アクセス構成に基づいて、Microsoft を用いてドキュメントと作業文書を編集し、読み取ります。
- Microsoft SharePointサイトに存在するドキュメントとワークシートをServiceNowのGRCレコードにリンクします。
- Microsoft OneDrive で既存のドキュメントとワークシートに接続します。
- 既に他のGRCレコードにリンクされているクラウドファイルを参照してリンクします。
- レコード間で共有できないファイルを共有不可能としてマークし、 Microsoft 上の対応するクラウドファイルを ServiceNow内の他のレコードと共有できないようにします。
- クラウドファイルアクセスを構成して、定義された条件に基づいてユーザーに読み取りおよび書き込みアクセスを提供します。

ドキュメント統合タスクを管理するために必要なロール

ドキュメント統合タスクを管理には以下のロールが必要です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なロールと対応するタスク

ロール	タスク
監査役 (sn_audit_ws.auditor) および監査監督者 (sn_audit_ws.supervisor)	次のタスクを実行できます。 • Microsoft OneDriveで既存のドキュメントとワークシートにリンクします。 • アクセス構成に基づいて、Microsoftを用いてドキュメントと作業文書を編集し、読み取ります。 • 既に他のGRCレコードに接続されているクラウドファイルを参照してリンクします。
ワークスペースアドミニストレーター (sn_grc_workspace.admin)	クラウドファイルアクセスを構成して、定義された条件に基づいてユーザーに読み取りおよび書き込みアクセスを提供できます。

注:
Microsoft Office 365 を使用したドキュメントの管理に関する一般的なガイドラインについては、「KB1587297」を参照してください。

Microsoft を用いたドキュメント管理の必須条件を満たす

Microsoft を用いたドキュメント管理の必須条件を満たし、クラウドファイルを統合できるようにします。

始める前に
必要なロール：sn_grc_workspace.admin

このタスクについて
次のアプリケーションがインストールされていることを確認します。

- Document Management (com.snc.platform_document_management)
- Microsoft OneDrive Spoke for Document Service Framework (sn_docs_onedrive)

注:
監査ワークスペース に含まれる 統合ハブ のエンタイトルメントは、Microsoft 統合での使用のみに制限されます。その他のすべての使用には、適用可能な追加の 統合ハブ エンタイトルメントを購入する必要があります。

手順

1. Microsoft OneDrive 統合ハブ スポークの設定。

    - 権限許可タイプが *Authorization Code* の場合は、サービスアカウントを使用して *OAuth* トークンを生成します。Microsoft OneDrive で ServiceNow から行うファイル操作は、このサービスアカウントを使用して実行されます。エンド ユーザーは、このサービス アカウントが、ユーザーがファイルとリンクしようとしているファイルの所有者でもあることを確認する必要があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Azure アプリケーション登録に必要な API 権限は *openid*、*email*、*Files.Read*、*Files.ReadWrite.All*、*offline_access*、*User.Read*、*User.ReadBa* です。

- *Client Credentials* としての権限許可タイプの場合、Azure アプリケーション登録に必要な API 権限は *Files.Read.All* と *Files.ReadWrite.All* です。

詳細については、「Document Services Framework for Microsoft OneDrive」を参照してください。

2. クラウドファイル構成モジュールに移動し、エンゲージメントタスクと監査タスクに対してこの機能を構成します。

   クラウドファイル構成レコードが表示されます。

   フィールドの詳細については、「クラウドファイル構成レコードの作成」を参照してください。

エンゲージメントと監査タスクでクラウドファイルアクセスを作成

GRC ワークスペース アドミニストレーターは、クラウドファイル構成モジュールからエンゲージメントと監査タスクに関するクラウドファイル構成を作成します。

クラウドファイル構成モジュールにアクセスするために必要なロール

次のロールを持つ ワークスペース ユーザーは、クラウドファイル構成モジュールにアクセスできます。

ロール

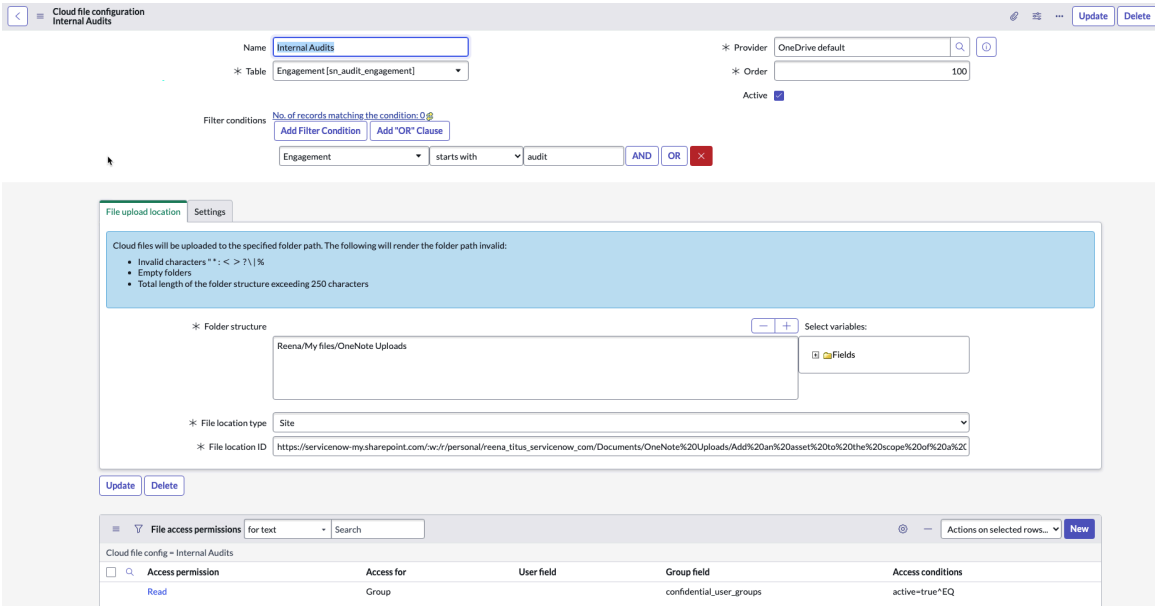
ロール	権限
ワークスペース アドミニストレーター [sn_grc_workspace.admin]	CRUD 権限
ワークスペース ユーザー [sn_grc_workspace.user]	読み取り権限

クラウドファイル構成モジュール

sn_grc_workspace.admin ロールを持つ ワークスペース アドミニストレーターは、例に示すように、クラウドファイル構成モジュールの次のフィールドを更新して権限を設定できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



- 名前：ドキュメントアクセスレコードの名前。例：エンゲージメントドキュメントアクセス権
- テーブル：ドキュメントアクセスレコードに使用されるテーブル。例：エンゲージメント [sn_audit_engagement]
- アクティブフラグ：クラウドファイル構成をアクティブとしてマークするフラグ。
- プロバイダー：ドキュメントアクセスレコードのプロバイダー。このフィールドのデフォルトオプションは Microsoft OneDrive です。
- クラウドアクション条件：クラウドファイルのフィルター条件。構成された条件に基づいて、アクションボタンが [クラウドファイル (Cloud files)] 関連リストにレンダリングされます。

クラウドファイル構成レコードの作成

クラウドドキュメントのアクセス権限を管理するクラウドファイル構成レコードを作成します。

始める前に

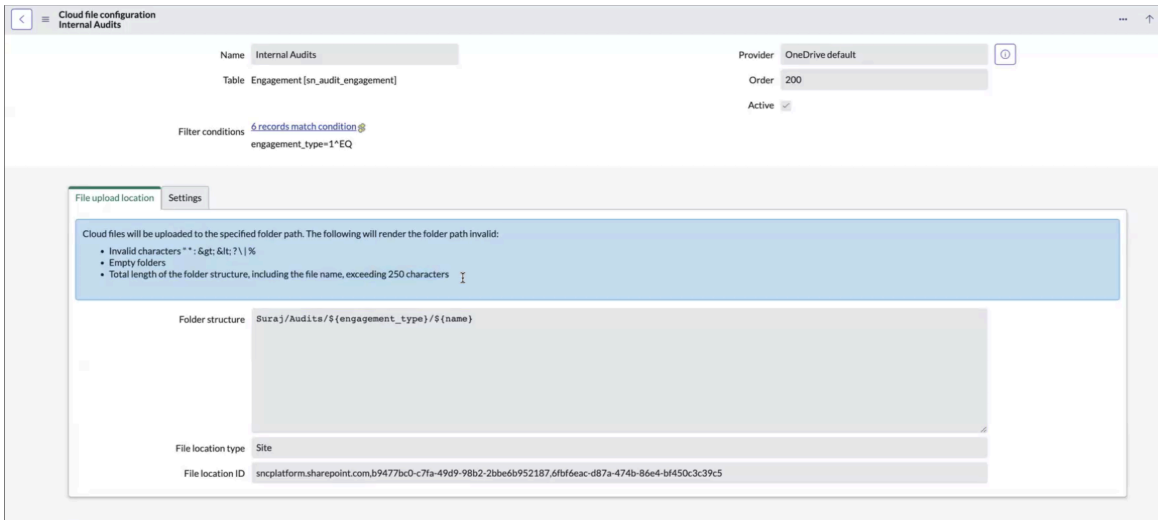
必要なロール：sn_grc_workspace.admin (CRUD)、sn_grc_workspace.user (読み取り)

手順

1. 移動先 すべて > **GRC Administration** > クラウドファイル構成.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. クラウドファイルの構成フォームで、各フィールドに記入します。

   フォーム内のフィールドの詳細については、「クラウドファイル構成レコードフォーム」を参照してください。親クラウドファイル構成がアクティブになると、例に示すように、クラウドファイル構成レコードのファイルアクセス権限を設定できるようになります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



クラウドファイルとフォルダーは、以下に基づいて検証されます。

フォルダー構造

フォルダー構造を動的に設定することも、静的なフォルダー構造を入力することもできます。

フォルダーパスで、エンゲージメントの名前 ${name} が変更され、それによりフォルダーパスも変更される可能性があります。ただし、動的フィールドの値が変更されても、このレコードの最初のファイルがアップロードされたフォルダーパスは、後続のすべてのアップロードで選択されます。

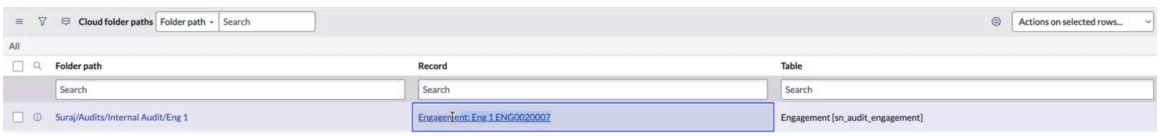
フォルダーアクセス

- フォルダーへのアクセス権はあるものの、フォルダー内のファイルへのアクセス権がない場合は、その特定のファイルを表示することはできませんが、フォルダー内のアクセス権がある他のファイルを表示することはできます。
- フォルダーへのアクセス権はないものの、フォルダー内のファイルにアクセスできる場合は、フォルダー内のアクセス権があるその特定のファイルのみを表示できます。

フォルダー名

フォルダーの名前またはフォルダーパスを変更する場合は、古いファイルパスから新しいファイルパスにすべてのファイルを手動で移行する必要があります。クラウドフォルダー構造でも同じ変更が必要です。

ファイルがアップロードされるフォルダーパスは、クラウドフォルダーパス [sn_grc_workspace_cloud_folder_path] テーブルのすべてのServiceNowレコードに対して保存されます。



4. [送信] を選択します。

クラウドファイル構成レコードフォーム

クラウドファイル構成レコードフォームで、レコードのアクセス権限を更新します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

クラウドファイル構成レコードフォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

クラウドファイル構成レコードフォーム

フィールド	説明
名前	クラウドファイル構成レコードの名前。例：エンゲージメントドキュメントアクセス権
テーブル	クラウドファイル構成レコードに使用するテーブル。例：エンゲージメント [sn_audit_engagement] このテーブルで使用されるすべてのファイルについて、アクセス許可はこのフォームで構成されます。
プロバイダー	クラウドファイル構成のプロバイダー。クラウド内でファイルが存在する場所。デフォルトのオプションは **OneDrive default** です。
順序	両方の構成がレコードに適用される場合に、同様の基準を持つ他方の構成との比較による、構成を実行する優先順位。
アクティブ	レコードをアクティブとしてマークするオプション。
フィルター条件	ドキュメントアクセスレコードを作成するために使用する条件。サンプル条件は、[ステータス]、[次の値のいずれか]、[オープン]、 [対応中]、[レビュー] のいずれかになります。
ファイルのアップロード場所	
フォルダー構造	クラウドファイルをアップロードする必要があるフォルダーパス。 フォルダー構造は、静的テキストと動的変数を使用して設定できます。
フィールド	選択したテーブルのすべてのフィールドを一覧表示するフィールドピッカー。
ファイル場所タイプ (File location type)	ファイルがアップロードされるMicrosoft SharePointサイトの既定のドキュメントライブラリ。
フィールド場所 ID (Field location ID)	[ファイル場所タイプ **(File location type)**] フィールドに記載されている選択されたファイルの場所タイプの ID。
設定	
クラウドアクション条件	[クラウドファイルをリンク (Link cloud file)] や [ファイルをクラウドにアップロード (Upload files to cloud)] などのクラウドアクションは、選択した条件に基づいて [クラウドファイル] タブに表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ファイルアクセス権限の設定

クラウドドキュメントのアクセス権限を管理するファイルアクセス権限レコードを作成します。

始める前に
必要なロール：sn_grc_workspace.admin (CRUD)、sn_grc_workspace.user (読み取り)

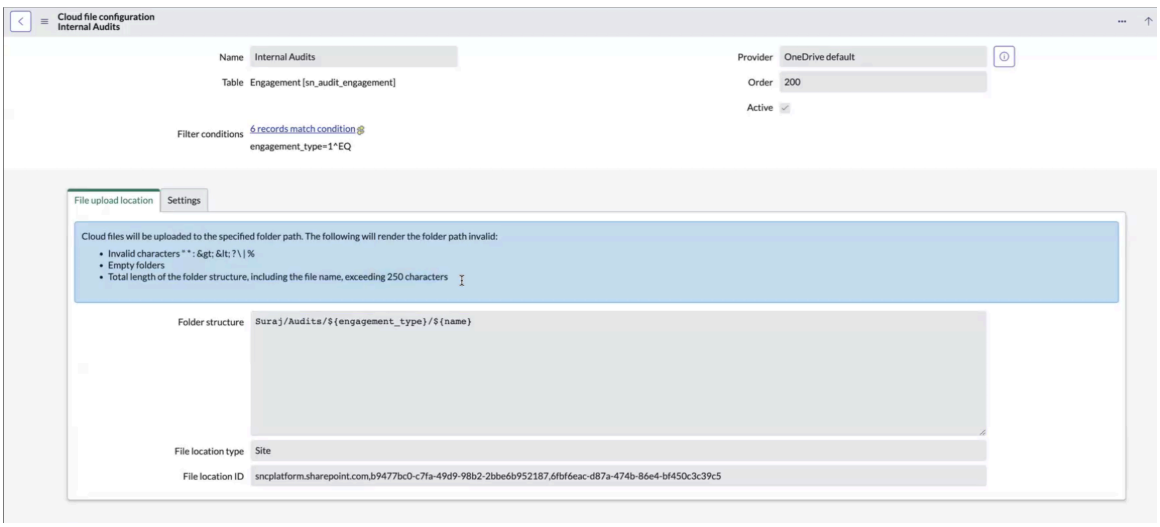
このタスクについて
デフォルトでは、ファイルアクセス権限はエンゲージメントタスクレコードと監査タスクレコードで有効になっています。グループに属しているユーザーは、[アクセスの要求 **(Request access)]** を選択し、ファイルへのアクセスを要求できます。[アクセスの要求 **(Request access)]** UI アクションは、グループメンバーのみが使用できます。クラウドファイル構成に含まれるユーザーは、[ファイルアクセスを更新 **(Refresh file access)]** 使用してファイルアクセスを更新または構成できます。[ファイルアクセスを更新 **(Refresh file access)]** アクションは、クラウドファイル構成にリストされているユーザーが使用できます。

手動で [アクセスの要求 **(Request access)]** および [ファイルアクセスを更新 **(Refresh file access)]** アクションを使用する代わりに、コントロールレコードやポリシーレコードなどの他のテーブルでファイルアクセス権限を構成できます。詳細については、「KB1587297」の構成手順を参照してください。

このタスクについて
ファイルアクセス権限レコードを使用すると、ユーザーはクラウドドキュメントのアクセス権限を管理できます。

手順

1. 移動先 すべて > **GRC Administration** > クラウドファイル構成.
2. アクティブな親クラウドファイル設定レコードを選択します。
   クラウドファイル構成レコードが表示されます。



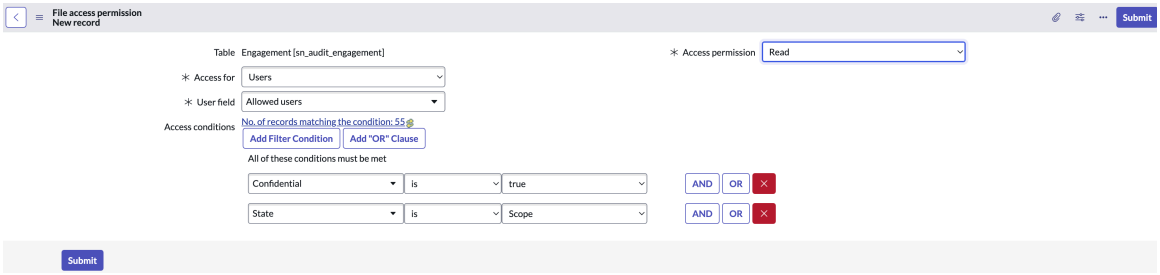
3. [ファイルのアクセス権限 (File access permissions)] 関連リストで、[新規] を選択します。

   [ユーザー] フィールドを使用すると、エンゲージメントリード、監査人などのエンゲージメントまたは監査タスクでユーザー (sys_user) フィールドのいずれかを選択できます。[ユーザー] フィールドで選択したユーザーに、クラウドファイルへのアクセス権限が付与されます。

   以下の例に示すように、レコードの 1 人以上のユーザーに対してファイルアクセス権限を設定できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



フォームの [グループ] フィールドを使用すると、アサイン先グループなどのエンゲージメントまたは監査タスクでグループ (sys_user_group) フィールドのいずれかを選択できます。グループに属しているユーザーに、クラウドファイルへのアクセス権限が付与されます。以下の例には、ファイルアクセスのグループ権限レコードが表示されています。



4. フォームのフィールドに入力します。
   フォーム内のフィールドの詳細については、「ファイルのアクセス権限レコードフォーム」を参照してください。
5. [送信] を選択します。
   フォームでの設定に基づいて、クラウドドキュメントに対する権限が評価されます。

ファイルのアクセス権限レコードフォーム

クラウドファイルのファイルアクセス権限レコードフォームを更新します。

ファイルのアクセス権限レコードフォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

ファイルのアクセス権限レコードフォーム

フィールド	説明
テーブル	アクセス権限が設定されているテーブルの名前。例：コントロール テスト [sn_audit_control_test]
アクセス対象	ユーザーまたはグループのアクセス。例：エンゲージメント [sn_audit_engagement] このテーブルで使用されるすべてのファイルについて、アクセス許可はこのフォームで構成されます。
ユーザーフィールド	ユーザーに対して構成可能なアクセス権限。選択したレコードのすべてのユーザーフィールドのツリー構造を表示します。アクセス権限が更新されると、自動的に更新され、ユーザーにアサインされます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ファイルのアクセス権限レコードフォーム (続く)

フィールド	説明
	注: このフィールドは、[アクセス対象 **(Access for)]** フィールドで [ユーザー] を選択した場合に表示されます。
グループフィールド	グループユーザーに対して構成可能なアクセス権限。選択したレコードのすべてのグループフィールドのツリー構造を表示します。初めて権限が更新されたとき、ドキュメントへのアクセス権限を持ちたいグループ内のすべてのグループメンバーは、ドキュメントにアクセスするために、エンゲージメントレコードを選択し、手動で [アクセスの要求 **(Request access)]** アクションを選択する必要があります。 グループユーザーが初回にレコードへのアクセス権限を自動的に受け取ることはありません。初回にアクセスを要求する必要があります。 当該レコードに対するその後の操作については、初回にアクセスを要求したユーザーのアクセス権限も更新されます。 注: このフィールドは、[アクセス対象 **(Access for)]** フィールドで [グループ] を選択した場合に表示されます。
アクセス権限	選択したユーザーに構成するアクセス権限のタイプ。[読み取り] や [書き込み] などです。
アクセス条件	ファイルアクセス権限をいつ適用するかを示す条件。

ファイルのアクセス権限

sn_grc_workspace.admin ロールを持つワークスペースアドミニストレーターは、ユーザーとグループに対してファイルアクセス権限を設定できます。

ファイルアクセス権限の条件

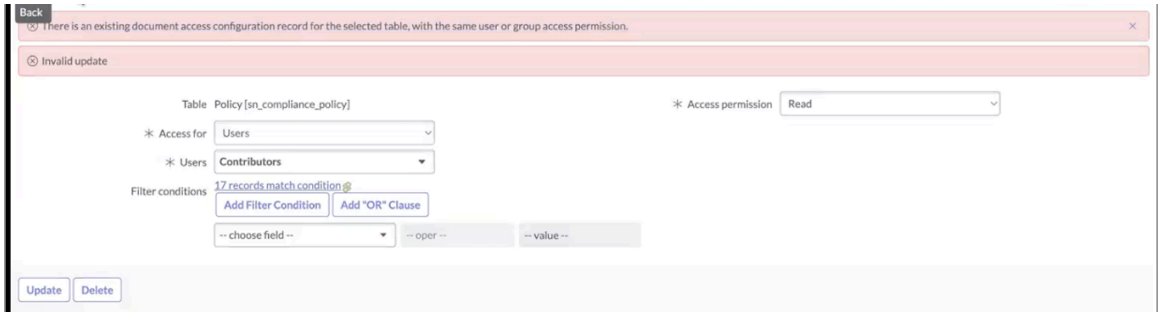
sn_grc_workspace.admin ロールを持つワークスペースアドミニストレーターは、ファイルアクセス権限にさまざまな条件を設定できます。

- [テーブル] フィールド、[アクセス権限] フィールド、および [ユーザー] フィールドの組み合わせに対して、[ファイルのアクセス権限 (File access permission)] レコードを 1 つだけ設定できます。指定したユーザーとアクセス権限のセットがあるテーブルに既存のレコードがある場合、同じアクセス権限を持つ重複レコードを作成することはできません。たとえば、貢献者がポリシー (sn_compliance_policy) レコードの読み取りアクセス権限を持っている場合、同じ条件で別のレコードを作成することはできません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- [テーブル] フィールド、[プロバイダー] フィールド、および [アクティブ] オプションの特定の組み合わせに対して、クラウドファイル構成レコードは 1 つだけ許可されます。次の例に示すように、アクティブなテーブルに対して重複した構成を指定することはできません。



- ユーザーが複数の [ユーザー] フィールドまたは [グループ] フィールドの一部である場合、より高い方のアクセス権がユーザーに付与されます。

GRCレコードへのソースリンクと参照リンク

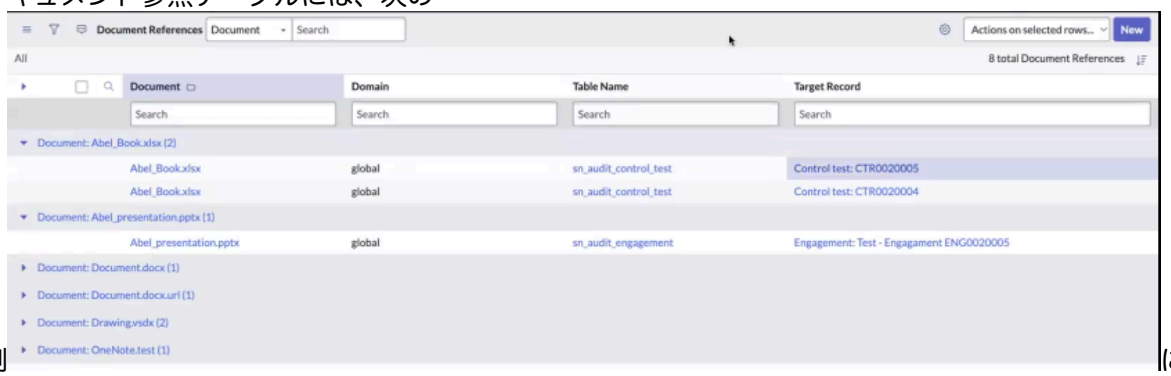
クラウドファイルが GRCレコードに初めて接続されると、その接続はGRCレコードへのソースリンクと見なされます。

同じクラウドファイルが別の GRCレコードにマッピングされている場合は、GRCレコードへの参照リンクと見なされます。

レコードへのソースリンクには常に書き込みアクセス権があり、GRCレコードへのGRC参照リンクには常に読み取りアクセス権があります。

レコードがクラウドファイルへのソースリンクとしてマッピングされると、構成はそのままクラウドファイルに適用されます。たとえば、構成に一部のユーザーの書き込みアクセスと一部のユーザーの読み取りアクセスが含まれている場合、同じ構成が維持され、ユーザーに適用されます。

ドキュメント参照テーブルには、次の例に示すように、GRCレコードへのソースリンクや参照リンクなど、1 つのドキュメントレコードがどのように参照されているかが示されます。



Engagement_memo.xslx の例を考えてみましょう。コントロールテスト CTR0020005 がソースリンク、コントロールテスト CTR0020004 が参照リンクです。コントロールテスト CTR0020004 の構成に一致する構成の場合、この構成のユーザーは全員、構成で書き込みアクセス権を付与されていたとしても、読み取りアクセス権のみを持つことになります。

リスクとコントロールのマトリックスレポートがエンゲージメントレコード 1 とエンゲージメントレコード 2 に接続されている次の例を考えてみましょう。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例：アクセスドキュメントと関連レコード

ドキュメント	ドキュメントが接続されているレコード
リスクとコントロールのマトリックスレポート	エンゲージメントレコード 1。これはアクセスドキュメントのソースです。
リスクとコントロールのマトリックスレポート	エンゲージメントレコード 2。これはアクセスドキュメントの参照です。

この例に割り当てられたアクセス許可については、次の表を参照してください。

例：割り当てられたアクセス許可

レコードに接続されているアクセスドキュメント	ユーザーフィールド値	アクセスタイプ	説明
エンゲージメントレコード 1	貢献者	書き込みアクセス権あり	ソースレコードの場合、権限は設定されているとおりであると見なされます。したがって、貢献者にはエンゲージメント 1 への書き込みアクセス権があります。
エンゲージメントレコード 2	レビュー担当者	書き込みアクセス権あり	同じアクセスレコードがエンゲージメント 2 にマッピングされ、これに対してレビュー担当者は書き込みアクセス権を持つはずです。エンゲージメントレコード 2 は参照レコードであるため、レビュー担当者には書き込みアクセス権ではなく読み取りアクセス権が与えられます。

ソースリンクの別のユースケース

クラウドドキュメントがレコードにマッピングされると、クラウドドキュメントのソースリンクになります。同じレコードが削除され、クラウドドキュメントが別のGRCレコードにマッピングされている場合、次のレコードがクラウドドキュメントのソースリンクになります。

たとえば、Engagement_memo.xlsx ファイルはエンゲージメント 1 とエンゲージメント 2 のレコードにマッピングされます。エンゲージメント 1 のレコードはソースリンクで、エンゲージメント 2 のレコードは参照リンクです。Engagement_memo.xlsx ファイルとエンゲージメント 1 レコードの間のマッピングが削除された場合、Engagement_memo.xlsx ファイルにはソースリンクがありません。Engagement_memo.xlsx ファイルがエンゲージメント 3 レコードにマッピングされている場合、エンゲージメント 3 レコードがドキュメントのソースリンクになります。

アクセス要求およびファイルアクセス更新アクション

デフォルトでは、ファイルアクセス権限はエンゲージメントタスクレコードと監査タスクレコードで有効になっています。他のレコードの場合は、フォームで [アクセスの要求 **(Request access)]** およ

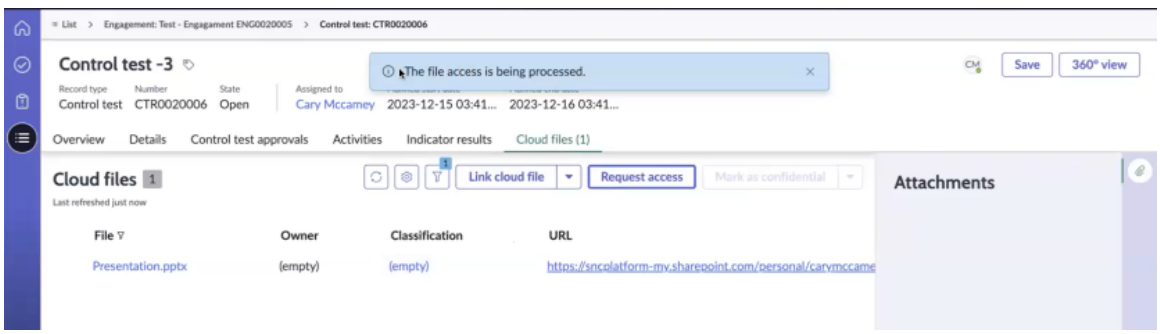
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

び [ファイルアクセスを更新 **(Refresh file access)**] アクションを使用できます。デフォルトでは、ファイルアクセス権限はエンゲージメントタスクレコードと監査タスクレコードで有効になっています。ユーザーがグループに属している場合は、[アクセスの要求 **(Request access)**] UI アクションを使用してファイルへのアクセスを要求できます。[アクセスの要求 **(Request access)**] UI アクションは、グループメンバーのみが使用できます。ユーザーがクラウドファイル構成に含まれる場合は、[ファイルアクセスを更新 **(Refresh file access)**] アクションを使用してファイルアクセスを更新または構成できます。[ファイルアクセスを更新 **(Refresh file access)**] アクションは、クラウドファイル構成で指定されたユーザーが使用できます。

手動で [アクセスの要求 **(Request access)**] および [ファイルアクセスを更新 **(Refresh file access)**] アクションを使用する代わりに、コントロールレコードやポリシーレコードなどの他のテーブルでファイルアクセス権限を構成するには、「KB1587297」の構成手順を参照してください。

グループに属するユーザーは、[アクセスの要求] アクションボタンを使用して、クラウドファイルへのアクセスを要求する必要があります。監査マネージャーグループの一員であるユーザーがフォームで [アクセスの要求] を選択すると、例に示すように [ファイルアクセスを処理しています。(The file access is being processed.)] という UI メッセージが表示されます。



クラウドファイルへのアクセスの要求は、グループユーザーにとって 1 回限りのアクティビティです。ユーザーが [アクセスの要求] を複数回選択し、そのアクセス権が既に付与されている場合は、[ファイルアクセスは既に許可されています。(File access has already been granted.)] というメッセージが表示されます。

ユーザーがクラウドファイルへのアクセスを要求し、要求が時間内に処理されない場合は、エラーメッセージが画面に表示されます。ファイルへのアクセスを再度要求するには、ユーザーは [ファイルアクセスの更新] を選択する必要があります。

ファイルをクラウドにアップロードする

ローカルドキュメントをローカル環境から Microsoft クラウドにアップロードし、クラウドファイルへのアクセスを管理します。

始める前に

必要なロール：sn_audit_ws.auditor、sn_audit_ws.supervisor

手順

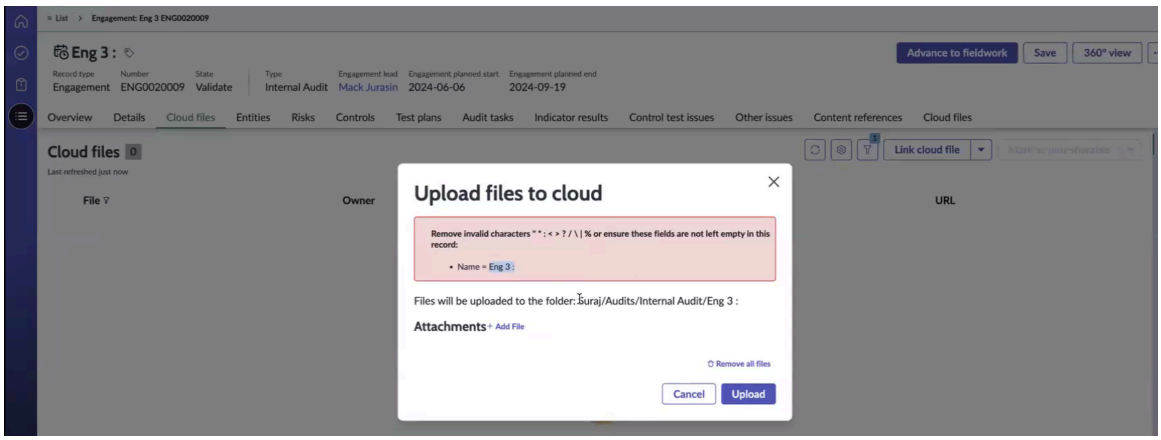
1. 移動先 すべて > 監査 > 監査ワークスペース.
2. タスクアイコン ( ) を選択します。
   リストには、自分にアサインされているエンゲージメントが表示されます。
3. 監査エンゲージメントを作成するか、既存のエンゲージメントレコードに移動して [クラウドファイル **(Cloud files)**] タブを選択します。
4. [クラウドファイル **(Cloud files)**] タブで、[ファイルをアップロード] を選択します。
5. [ファイルをクラウドにアップロードする (Upload files to cloud)] ポップアップで、ローカルシステムを参照し、アップロードするファイルを選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

6. [アップロード] ボタンをクリックします。
   [アップロード] オプションを選択する前にアクションをキャンセルした場合、ファイルはポップアップで選択されていますが、アップロードはされません。[アップロード] ボタンを選択しない限り、ファイルはクラウドにアップロードされません。

   ファイル名とフォルダー構造は、ファイルのアップロード中に検証されます。したがって、ファイルに名前を付けるときは注意してください。ファイル名に無効な文字が含まれていると、ファイルのアップロードアクションが失敗します。



7. ファイル名の無効な文字を削除するには、 ⋮ アイコンを選択し、正しいファイル名に変更します。
8. [クラウドファイル] タブのレコードに添付されているファイルの URL リンクをクリックして、Microsoft 内のクラウドファイルに移動します。

クラウドファイルへのリンク

ファイルパスとファイル名を使用して、Microsoft 上のクラウドファイルをワークスペース内の GRC レコードにリンクします。

始める前に

必要なロール：sn_audit_ws.auditor、sn_audit_ws.supervisor

[クラウドファイル] 関連リストのクラウドファイル UI アクションが、構成された条件に基づいてフォームに表示されていることを確認します。監査人とエンゲージメントリードに読み取りと書き込みのファイルアクセス権限が追加されていることを確認します。詳細については、「エンゲージメントと監査タスクでクラウドファイルアクセスを作成」を参照してください。

このタスクについて

Washington DC リリース以降、クラウドファイルの統合は、Microsoft との統合を使用して、エンゲージメントおよび監査タスクのレコードで有効になります。したがって、このタスクは、Microsoft OneDrive からエンゲージメントレコードへのクラウドファイルのリンクを参照します。

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査ワークスペース.
2. タスクアイコン ( ) を選択します。
   リストには、自分にアサインされているエンゲージメントが表示されます。
3. 監査エンゲージメントを作成するか、既存のエンゲージメントに移動して [クラウドファイル **(Cloud files)**] タブに移動します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [クラウドファイル **(Cloud files)**] タブで、[クラウドファイルをリンク **(Link cloud file)**] を選択します。
   [ファイルを追加] ポップアップが表示されます。
5. [ファイルの場所] フィールドに、Microsoft 上のファイルが存在するフォルダーのパスを入力します。
6. [ファイル名] フィールドに、ファイルとファイル形式を入力します。
   ファイル名には .docx、.ppt、.xls などのファイル拡張子も含める必要があります。
7. [共有不可能としてマーク **(Mark as non-sharable)**] オプションを選択します。
   このオプションを選択すると、レコードにリンクされているクラウドファイルが共有不可能としてマークされます。ServiceNow 内の他のレコードとリンクすることはできません。共有不可能なファイルを別の ServiceNow レコードにリンクしようとすると、エラーメッセージが表示されます。
8. ポップアップで [リンク] を選択します。
   Microsoft にファイルが接続されると、監査人またはエンゲージメントリードは、定義されたアクセス権限に基づいて読み取りまたは書き込みアクセス権を取得します。

   ファイルアクセス権限の詳細については、「エンゲージメントと監査タスクでクラウドファイルアクセスを作成」を参照してください。

参照クラウドファイルをリンク

既に他の GRC レコードに関連付けられている参照クラウドファイルをリンクします。共有可能なファイルのみをリンクできます。

始める前に

必要なロール：sn_audit.admin、sn_audit.manager、sn_grc_workspace.user

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査ワークスペース.
2. タスクアイコン ( ) を選択します。
3. 新しい監査エンゲージメントを作成するか、既存のエンゲージメントに移動して [クラウドファイル **(Cloud files)**] タブに移動します。
   リストには、ログインユーザーにアサインされているエンゲージメントが表示されます。
4. [クラウドファイル **(Cloud files)**] タブで、[参照ファイルをリンク **(Link reference file)**] を選択します。
   [参照ファイルをリンク (Link reference file)] ポップアップが表示されます。
5. [ファイルを選択] フィールドで、レコードにリンクする参照ファイルを選択します。

   このフィールドには、共有可能なクラウドファイルが入力されます。

   > **注:**
   > 共有不可能なドキュメントを参照ファイルとして他のレコードにリンクすることはできません。共有不可能とマークされたファイルは、ポップアップの利用可能なファイルリストには表示されません。

6. ポップアップで [リンク] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

他の GRC レコードに既に関連付けられている参照クラウドファイルがリンクされるようになりました。Microsoft にファイルが接続されると、監査人またはエンゲージメントリードは、定義されたアクセス権限に基づいて読み取りまたは書き込みアクセス権を取得します。

ファイルアクセス権限の詳細については、「エンゲージメントと監査タスクでクラウドファイルアクセスを作成」を参照してください。

クラウドファイルを共有不可能ファイルとしてマークする

既にリンクされているファイルを 1 つ選択し、共有不可能ファイルとしてマークします。クラウドファイルが共有不可能としてマークされると、別のレコードにリンクしたり、他のレコードから参照したりすることはできなくなります。

始める前に

必要なロール：sn_audit.admin または sn_audit.manager、sn_grc_workspace.user

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査ワークスペース.
2. タスクアイコン ( ) を選択します。
3. [エンゲージメント] リストでエンゲージメントを選択します。
   リストには、ログインユーザーにアサインされているエンゲージメントが表示されます。
4. **[Cloud documents** (クラウドドキュメント)] 関連リストで、クラウドドキュメントを選択します。
5. [供給不可能としてマーク **(Mark as non-sharable)]** を選択します。
   クラウドファイルが共有不可能ドキュメントとしてマークされている場合、他のレコードにリンクすることはできません。
   クラウドドキュメントは共有不可能ドキュメントとしてマークされます。他のレコードで共有や参照を行うことはできません。

クラウドファイルを共有可能ファイルとしてマークする

共有不可能なファイルを 1 つ選択し、共有可能としてマークします。クラウドファイルが共有可能としてマークされると、別のレコードにリンクしたり、他のレコードから参照したりできるようになります。

始める前に

必要なロール：sn_audit.admin、sn_audit.manager、sn_grc_workspace.user

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査ワークスペース.
2. タスクアイコン ( ) を選択し、リストからレコードを選択します。
3. [クラウドファイル] 関連リストで、クラウドドキュメントを選択します。
4. [共有可能としてマーク **(Mark as sharable)]** を選択します。
   クラウドファイルが共有可能ドキュメントとしてマークされている場合、他のレコードにリンクできます。
   クラウドファイルが共有可能としてマークされます。他のレコードで共有や参照を行うことができます。

リンクされたクラウドファイルをレコードから削除する

リンクされたクラウドファイルを 監査ワークスペース のレコードから削除します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：sn_audit.admin、sn_grc_workspace.user

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査ワークスペース.
2. タスクアイコン () を選択します。
3. [エンゲージメント] リストでエンゲージメントを選択します。
4. [クラウドファイル] 関連リストで、クラウドドキュメントを選択します。
5. [リンクされたファイルを削除] を選択します。
   次のメッセージを含む次の確認ポップアップが表示されます：リンクされたファイルを削除しますか？
6. ポップアップで [リンクファイルを削除] を選択します。
   クラウドファイルがレコードにリンクされると、テーブルに設定された権限に従ってファイルアクセス権限が更新されます。ファイルアクセス権限の詳細については、「エンゲージメントと監査タスクでクラウドファイルアクセスを作成」を参照してください。
   クラウドファイルがレコードから削除されたことを示す確認メッセージが表示されます。

GRC の主なリスクおよびコントロールインジケーターを管理する

継続的な監視には、主要なリスクおよびコントロールインジケーターの特定と作成に関連するアクティビティが含まれます。これらのインジケーターのサポート情報は、自動データ収集または手動タスクによって収集できます。インジケーターの結果は、コントロールの問題を作成し、リスクスコアを更新し、監査アクティビティとコントロールテストのサポート情報を提供するために使用されます。

インジケーターは、コントロールとリスクを監視するためにデータを収集し、監査証拠を収集します。インジケーターは単一のコントロールまたはリスクを監視します。

インジケーターテンプレート

インジケーターテンプレートを使用すると、類似するコントロールまたはリスクに複数のインジケーターを作成できます。

エンゲージメント概要

エンゲージメント概要は 監査管理 アプリケーションに含まれており、監査結果に対するエグゼクティブビュー、タスク別のエンゲージメントブレークダウンを提供し、懸念のある領域を迅速に特定できます。

エンゲージメント概要モジュールには、ユーザーのロールに応じた監査情報が表示されます。

監査エンゲージメント概要

監査アドミニストレーター、監査ユーザー、および監査マネージャーのロールを持つユーザーが、監査エンゲージメント概要を表示します。ベースシステムに次のレポートが含まれます。

監査エンゲージメント概要レポート

名前	ビジュアル	説明
エンゲージメントの結果	縦棒グラフ	各エンティティに対して実施された監査エンゲージメントの総数を表示します。グラフは、各エンティティの全体的な監査結果を表示するために積み重ねられます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

監査エンゲージメント概要レポート (続く)

名前	ビジュアル	説明
エンゲージメント別のエンティティ	ドーナツグラフ	各監査エンゲージメントのスコープに含まれるエンティティの合計数を表示します。
エンゲージメント別のコントロール	ドーナツグラフ	各監査エンゲージメントのスコープに含まれるコントロールの合計数を表示します。
エンティティ	ドロップダウンリスト	監査の結果を表示して比較する 1 つまたは複数のエンティティを選択します。
エンゲージメントを選択	ドロップダウンリスト	監査の結果を表示して比較する 1 つまたは複数のエンゲージメントを選択します。
満足のいくエンゲージメント	単一スコア	満足のいく結果でクローズしたエンゲージメントの数を表示します。
適切なエンゲージメント	単一スコア	適切な結果でクローズしたエンゲージメントの数を表示します。
不適切なエンゲージメント	単一スコア	不適切な結果でクローズしたエンゲージメントの数を表示します。
コントロールテスト結果	ドーナツグラフ	完了したコントロールテストの数。全体的なコントロール有効性評価で分類されます。
問題のブレークダウン	棒グラフ	エンゲージメント、ステータス、または応答別にグループ化された問題の数
監査タスクのブレークダウン	棒グラフ	タスクタイプ、アサイン先、トップタスク、およびステータス別にグループ化された監査タスクの数。タスクタイプ、アサイン先、トップタスク、およびステータス別に積み重ねられます。
期限切れの監査タスク	リスト	終了予定日を超えたオープンな監査タスクのリスト。

GRC インジケーターを作成する

コントロールとリスクを監視し、パフォーマンスの証拠を収集するインジケーターを作成します。

始める前に

必要なロール：compliance_admin または compliance_manager、risk_admin または risk_manager、audit_admin または audit_manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 次のいずれかに移動します。
   - ポリシーとコンプライアンス > インジケーター > インジケーター.
   - リスク > インジケーター > インジケーター.
   - 監査 > インジケーター > インジケーター.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

インジケーター

フィールド	説明
番号	一意の識別番号。
名前	インジケーターの名前。
テンプレート	関連するインジケーターテンプレート。
カテゴリ	選択されているコントロール/リスクに関連付けられたカテゴリ。このフィールドは編集できません。
アクティブ	インジケーターがアクティブかどうかを判断するオプション。
コントロール/リスク	関連するコントロールまたはリスク。
適用するレコード	[アイテム] に関連するプロファイル。
オーナー	インジケーターのオーナー。
所有グループ	インジケーターを所有するグループ。
テンプレートを上書き	このインジケーターに関連付けられたインジケーターテンプレートを上書きするオプション
最終結果 - 成功	コントロールが準拠していたか非準拠だったかを示すオプション。コントロールが準拠していた場合、チェックボックスはオンになります。
スケジュール	
収集頻度	インジケーターの結果の収集頻度。インジケータータスクと結果は、インジケータースケジュールに基づいて自動的に生成されます。
最初の開始日	インジケーターの結果の初回収集時刻。 このフィールドは、インジケーターまたはインジケーターテンプレートが初めて実行されるときに基づいて自動的に設定されます。このフィールドの値は変更できません。
次回実行日	このインジケーターテンプレートのすべてのダウンストリームインジケーターのインジケーター結果を収集する次回の実行時期。
期日の期間 (日数)	インジケータータスクの作成から期日までの結果の生成までの期日期間。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	作成日に追加された期日期間は、インジケータータスクの期日として反映されます。 このフィールドは、[タイプ] フィールドで [手動] が選択された場合にのみ表示されます。 詳細については、「インジケーターの夜間ジョブのパフォーマンス強化」を参照してください。
手法	
タイプ	結果は、タスクのアサインにより手動で、または基本フィルター条件、パフォーマンスアナリティクス、またはスクリプトを使用して自動的に収集できます。 ○ 手動：アサイニーが完了するインジケータータスクを作成するために使用されます。 ○ 基本：インジケーターが合格または不合格のコントロールを識別するかどうかを指定するために使用されます。 ○ スクリプト：必要なデータを収集するスクリプトを記述するために使用されます。
簡単な説明	このフィールドは、[タイプ] が [手動] の場合に存在します。問題の簡単な説明。
説明	このフィールドは、[タイプ] が [手動] の場合に存在します。インジケーターの結果の収集のための指示。
必須の値	このフィールドは、[タイプ] が [手動] の場合に存在します。
成功/失敗	このフィールドは、[タイプ] が [基本] の場合に存在します。インジケーターが成功または失敗します。
スクリプト	このフィールドは、[タイプ] が [スクリプト] の場合に存在します。必要なシステム情報を取得するスクリプト。
提出データ	
注: バージョン 10.1 以降、インジケーターの結果またはインジケータータスクから得られるサポートデータレコードの実際の履歴データが表示されます。以前は、収集されたレコードのリアルタイムステータスのみを表示できました。	
テーブル	サポートデータを使用して、他のアプリケーションから裏付け証拠を収集します。
サポートデータフィールド	選択したテーブルに基づくサポートデータフィールド。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

フィールド	説明
基準	サポートデータに対して適合する必要がある条件。
サンプル サイズ	サポートデータ用に選択するレコード数。

4. [送信] を選択します。

GRC インジケーターテンプレートを作成する

コンプライアンスマネージャーまたはリスクマネージャーは、多数のインジケーターを作成できるインジケーターテンプレートを作成します。

始める前に
必要なロール：

- sn_compliance.admin または sn_compliance.manager
- sn_risk.admin または sn_risk.manager
- sn_audit.admin または sn_audit.manager
- sn_grc.user

手順

1. 次のいずれかに移動します。
   - すべて > ポリシーとコンプライアンス > インジケーター > インジケーターテンプレート.
   - すべて > リスク > インジケーター > インジケーターテンプレート.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

インジケーターテンプレートフォーム

フィールド	説明
名前	インジケーターの名前。
説明	インジケーターの説明。
カテゴリ	インジケーターテンプレートを作成しているカテゴリ。たとえば、[リスク指標テンプレート] を選択して、リスク指標テンプレートを作成します。
有効	インジケーターテンプレートがアクティブかどうかを判断するオプション。
方法 (Method)	
タイプ	インジケーターテンプレートのタイプを決定するために使用される方法。選択肢は次のとおりです。 ○ [手動]：手動インジケーター は、ServiceNow インスタンスから取得できないデータに使用されます。これは、データがサードパーティの営業システムからの顧客

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	データなど外部システムからのものであるためです。 ○ [基本]：基本インジケーターは、インジケーターソースに基づく自動化されたインジケーターです。インジケータソースは、このテーブルのスコアが保存されるテーブルと頻度を指定します。 ○ [スクリプト]：スクリプト化したインジケーターはカスタムスクリプトを使用してデータを収集します。
値がターゲット値以上の場合の結果	結果構成フィールド。選択肢は次のとおりです。 ○ 合格 ○ 失敗 たとえば、このフィールドに `100` を入力するとします。インジケーターの結果の出力が 100 を超えると、このフィールドに設定された値に基づいて、インジケーターのステータスは合格または失敗になります。
ターゲットタイプ	ターゲット値のタイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ [なし]：インジケーターのターゲットまたはしきい値を設定しない場合は、このオプションを使用します。 ○ [パーセンテージ]：このオプションを使用して、パーセンテージ値でインジケーターの結果を決定します。 ○ [カウント]：このオプションを使用して、カウント値または合計数でインジケーターの結果を決定します。
ターゲット	インジケーターが成功か失敗かを決定する値。
説明	テンプレートの追加説明。
必須の値	手動インジケーターのインジケータータスクで値を必須にするかどうかを決定するオプション。 **注:** このオプションは、[タイプ] フィールドで [手動] が選択されている場合にのみ表示されます。このオプションは、[ターゲットタイプ] フィールドから [カウント] または [パーセンテージ] が選択されている場合に自動的に選択されます。
提出データ	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
注: バージョン 10.1 以降、インジケーターの結果またはインジケータータスクから得られるサポートデータレコードの実際の履歴データが表示されます。以前は、収集されたレコードのリアルタイムステータスのみを表示できました。	
提出データを含む	インジケーターを実行するたびにサポートデータまたは証拠の収集を有効にするオプション。
テーブル	サポートデータの収集に使用されるテーブル。
サポートデータフィールド	サポートデータの収集に使用されるソーステーブルのフィールド。
サンプルのコレクションタイプ	カウントやパーセンテージなど、サポートデータ収集のタイプ。
サンプルサイズ	サポートデータの収集に使用する必要があるレコードの最小数。 たとえば、基本インジケーターが大きなテーブルをクエリし、インジケーターの実行ごとに数千のレコードを返すことができます。すべてを保存する必要はありません。それらのレコードのサンプルのみで十分です。サンプルサイズに 100 を入力すると、クエリが数千を返しても 100 レコードのみが保存されます。
基本基準	
基準	ソーステーブルからデータをフィルターする基準。
参照フィールドを使用	[参照フィールド] の使用を有効にするオプション。
参照フィールド	サポートデータテーブルとエンティティの [適用するレコード] フィールド間の接続。
追加の基準	
ターゲットを持つインジケーターを作成するには、詳細フィルター基準を使用します。このセクションは、[タイプ] フィールドで [基本] を選択している場合にのみ表示されます。このセクションは、さらにフィルター基準を提供するために使用されます。	
追加の基準	ターゲット値を計算するためのデータをフィルタリングするための追加の基準。このセクションは、[ターゲットタイプ] フィールドで [パーセンテージ] が選択されている場合にのみ表示されます。
スケジュール	
収集頻度	インジケーターの結果の収集頻度。インジケータータスクと結果は、インジケータースケジュールに基づいて自動的に生成されます。
最初の開始日	インジケーターの結果の初回収集時刻。このフィールドは、インジケーターまたはインジケーターテンプレートが初めて実行されるとき

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	に基づいて自動的に設定されます。このフィールドの値は変更できません。
次回実行日	このインジケーターテンプレートのすべてのダウンストリームインジケーターのインジケーター結果を収集する次回の実行時期。
期日の期間 (日数)	インジケータータスクの作成から期日までの結果の生成までの期日期間。 作成日に追加された期日期間は、インジケータータスクの期日として反映されます。 このフィールドは、[タイプ] フィールドで [手動] が選択された場合にのみ表示されます。 詳細については、「インジケーターの夜間ジョブのパフォーマンス強化」を参照してください。

4. これらのエントリを完了すると、次の関連リストの情報も表示することができます。
   - コントロール目標/リスクステートメント
   - コンテンツ参照

   注:
   [コントロール目標/リスクステートメント] タブを使用すると、同じテンプレートを複数のコントロール目標、リスクステートメント、またはその両方に再利用できます。

5. [送信] を選択します。

監査およびコンプライアンスレコードの機密性フラグ

機密性フラグは、問題、エンゲージメント、観察事項、コントロールテスト、アクティビティ、面談、およびチュートリアルのレコードに、レコードレベルで設定できます。許可されたユーザーが、これらのレコードを表示および更新できます。

[機密] オプションを選択すると、エンゲージメントリーダー、監査人、および承認者になることができるユーザーのリストが [許可されたユーザー] として自動入力されます。

システムアドミニストレーターは、アクセス制御基準に基づいて、監査ユーザーや GRC ビジネスユーザーをリストに追加するか、既存のユーザーを一部削除して、リスト内のユーザーを許可されたユーザーとして設定できます。

また、監査ユーザーまたは GRC ビジネスユーザーではないユーザーをレコードにランダムに追加することもできます。ただし、監査ユーザーロールも GRC ビジネスユーザーロールも持たないすべての許可されたユーザーには、レコードにアクセスする場合、アドミンから機密ロール (sn_grc.confidential_user) を取得するように勧めるメール通知が送信されます。

レコードにアクセスできる [許可されたグループ] としてグループを選択することもできます。

すべての問題、修復タスク、証拠要求タスク、エンゲージメント、観察事項、および機密レコードとしてマークされたすべての監査タスクを、アプリケーションナビゲーターから GRC 機密レコードとして表示できます。詳細については、「Confidential records in common GRC features (一般的な GRC 機能の機密レコード)」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

同様に、監査およびコンプライアンスのワークスペースで作業している場合は、[タスク] ページの別のタブで [機密レコード] を監視できます。詳細については、ワークスペースの [自分のタスク] を参照してください。

システムレベルで機密性プロパティを有効にするには、次の手順を実行します。

1. 移動先 ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > **GRC** プロパティ.

   注:
   ユーザーには sn_grc.admin ロールが必要です。

2. [レコードレベルの機密性を有効にする] で [はい] を選択します。
3. [保存] をクリックします。

監査の問題と修正を管理する

問題を手動で作成して、監査の観察事項または修正を文書化したり、問題を受け入れたりすることができます。インジケーターの結果、証明書の結果、またはコントロールテストの有効性から自動的に生成されます。

さまざまなタイプの問題は、次の条件で作成されます。

問題
: インジケーターが失敗したときに作成されます。

コントロールの問題
: コントロールが実装されていないことを示すコントロール証明書が完了されたときに作成されます。

コントロールテストの問題
: コントロール有効性が無効に設定された状態でコントロールテストが完了してクローズしたときに作成されます。

その他の問題
: ユーザーが手動で作成します。

コントロールエラーやリスクエクスポージャーの原因となっている根本的な問題を解決する意思を示す印をつける問題を修正します。問題を受け入れて、既知のコントロールエラーやリスクの例外を作成する意図があることをマークします。[受入れ済み] のコントロールは、コントロールが再評価されるまでは、非準拠ステータスのままになります。これにより、監査中に所見を文書化するために問題を使用することができます。

問題と観察事項の詳細については、「 GRC の問題を手動で作成する と 監査観察事項」を参照してください。

GRC の問題を手動で作成する

GRC ユーザーは、手動で問題を作成して、ポリシー、リスク、または監査観察事項を文書化するか、GRC の問題を受け入れることができます。問題のソースを特定して、問題の分析と分類を行うこともできます。

始める前に

必要なロール：(製品ごと)

- ポリシーとコンプライアンス管理で：sn_grc.business_user、sn_grc.business_user_lite
- リスク管理:sn_grc.business_user
- 監査管理 で：sn_grc.business_usersn_grc.business_user_lite

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> 上記の製品のバージョン 12.0.1 以降では、問題フォームの [アサイン先] ユーザーの最低限のロールは GRC ビジネスユーザー [sn_grc.business_user] です。[問題マネージャー] の最低限のロールは GRC ユーザー [sn_grc._user] です。

問題に対するアクセス制御の制限の詳細については、「GRC business user role to control access and track usage of compliance tables (コンプライアンステーブルのアクセスを制御し、使用状況を追跡するための GRC ビジネスユーザーロール)」を参照してください。

手順

1. 次のいずれかに移動します。
   - すべて > ポリシーとコンプライアンス > 問題 > 新規作成.
   - リスク > 問題 > 新規作成.
   - 監査 > 問題 > 新規作成.

   > **注:**
   > 上記の製品のバージョン 12.0.1 以降では、問題フォームの [アサイン先] ユーザーの最低限のロールは GRC ビジネスユーザー [sn_grc.business_user] です。[問題マネージャー] の最低限のロールは GRC ユーザー [sn_grc._user] です。

2. 問題フォーム のフィールドに入力します。

   [日付] タブの期日は、問題の評価に基づいて自動的に計算されます。計算された期日は手動で上書きできます。[タスク SLA] 関連リストは、 期日に基づいて SLA を作成して表示します。

3. 問題レコードを保存します。
   画面の下部にあるタブを使用すると、問題を修正するためのさまざまなタスクを実行できます。ポリシー例外を追加し、修復タスクを作成できます。さらに、他の問題、インジケーターの結果、および問題に関連するタスク SLA を表示できます。

   > **注:**
   > バージョン 12.0.1 以降、[タスク **SLA]** タブは [期日] に基づいて SLA を作成して表示します。問題の [期日] までの 50% に達したとき、次に 75% に達したとき、その後、期日に達したときに、問題オーナーと問題マネージャーに通知が送信されます。[アサイン先] および [期日] フィールドが空でなく、問題が [新規] ステータスでない場合、その問題に対して SLA が作成されます。
   >
   > SLA の期日が変更されると、新しい SLA が作成されます。問題が [完了してクローズ] または [未完了でクローズ] に移行すると、SLA は完了です。また、[期日] または [アサイン先] フィールドが空であるか、ステータスが [新規] の場合、SLA はキャンセルされます。
   >
   > さらに、バージョン 12.0.1 以降では、アサイン先ユーザーおよび問題マネージャーのユーザーロール、および GRC ビジネスユーザーロールを持つユーザーを使用して修復タスクを作成できます。

問題フォーム

問題フォームを使用して、新しい問題を作成します。

問題フォーム

フィールド	説明
番号	一意の識別番号。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

問題フォーム (続く)

フィールド	説明
アサイン先グループ	この問題がアサインされているグループ。この問題でアクティビティが発生すると、各メンバーは通知を受信します。
アサイン先	問題を解決するためにアサインされたグループのメンバー。 バージョン 12.0.1 以降、ユーザーには少なくとも sn_grc.business_user ロールが必要です。 **注:** 問題のアサイン先にする必要があるユーザーについての提案を得るには、電球アイコンを使用します。電球アイコンは、GRC: Predictive Intelligence アプリケーションが有効になっており、フォームが保存され、[アサイン先] フィールドが非アクティブになっており、GRC プロパティが類似性分析として選択されている場合にのみ表示されます。詳細については、「ガバナンス、リスク、コンプライアンスのプロパティ」を参照してください。 問題レコードにアクセスするユーザーの階層を構成できます。詳細については、「User hierarchy access control for issue and remediation task records (問題および修復タスクレコードのユーザー階層のアクセス制御)」を参照してください。 バージョン 12.0.1 以降では、問題マネージャーがより多くの情報を要求すると、アサイン先ユーザーにメール通知が送信されます。 バージョン 12.0.1 以降、問題が [対応] ステータスに移行する場合、[アサイン先] フィールドへの入力は必須です。
問題ソース	問題が作成されたソース。このフィールドには、問題の作成方法に基づいて次のいずれかのオプションが自動的に入力されます。 • インジケーター失敗：問題はインジケーターの失敗によって作成されます • リスクアセスメント：問題はリスクで作成されます • リスクイベント：問題はリスクイベントで作成されます • コントロール証明書失敗：問題は非準拠コントロールが原因で作成されます

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

問題フォーム (続く)

フィールド	説明
	• コントロールテスト失敗：問題は、コントロールが無効で、コントロールテストが完了してクローズとしてマークされたときに作成されます • アドホック：問題は手動で作成されます
問題タイプ	問題の種類。選択肢は次のとおりです。 • コントロール設計有効性の問題 • コントロール運用有効性の問題 • コントロールは要件を満たしていません • コントロールが存在しません • 規制への非準拠 • ポリシーへの非準拠 • 既存のポリシーに対する改善または提案 • 新しいポリシーの推奨事項 • プロセス最適化または改善 • 観察事項 • データ漏洩 • 詐欺 • 虚偽 • トレーニング • ドキュメント • リスク問題 • その他
分類	問題タイプに基づく、リスク、コンプライアンス、または監査としての問題の分類。

問題マネージャーグループ	問題の管理とレビューを担当するグループ。
	バージョン 12.0.1 以降、次の機能拡張と要件が導入されました。
	• 問題マネージャーグループのメンバーは、次のいずれかのロールが必要です。
	  ○ sn_audit.manager
	  ○ sn_audit.user
	  ○ sn_compliance.manager
	  ○ sn_compliance.user
	  ○ sn_grc.manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

問題フォーム (続く)

フィールド	説明
	○ sn_grc.user ○ sn_risk.manager ○ sn_risk.user • 問題が [分析] ステータスに移行するときは、[問題マネージャーグループ] または [問題マネージャー] フィールドのいずれかへの入力が必須です。 • 問題がグループにアサインされると、メンバーはメール通知を受信します。さらに、問題が [レビュー] ステータスに移行すると、問題マネージャーはメール通知を受信します。
問題マネージャー	問題の管理とレビューを担当するユーザー。 バージョン 12.0.1 以降、次の機能拡張と要件が導入されました。 • 問題マネージャーには、少なくとも sn_grc.user ロールが必要です。 • アサイン先ユーザーが要求された情報を提供すると、問題マネージャーはメール通知を受信します。 • 問題が [分析] ステータスに移行する場合、このフィールドまたは [問題マネージャー] のいずれかへの入力が必須です。 • 問題が [応答] ステータスに移行する場合、このフィールドへの入力は必須です。
状況	• 新規 • 分析 • 応答 • 評価 • 完了してクローズ • 未完了でクローズ
サブステート	サブステートとサブステートに適用される詳細。
優先度	問題を解決すべき順序 (影響度と緊急度に基づく): • **1** - 重大 • **2** - 高 • **3** - 中

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

問題フォーム (続く)

フィールド	説明
	• **4 -** 低 • **5 -** 計画中
問題評価	バージョン 12.0.1 以降、問題マネージャーは問題に問題評価をアサインすることができます。問題評価に基づいて、[日付] タブの下にある [期日] が次のように計算されて表示されます。 • 非常に高い (2 日) • 高 (4 日) • 中 (8 日) • 低 (10 日) • 非常に低い (15 日) [期日] は手動で上書きできます。 **注:** sn_grc.manager および sn_grc_advanced.issue_triage_manager ロールを持つユーザーは、 ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > 問題評価 追加の問題評価を定義します。 問題が [対応] ステータスに移行すると、[問題評価] フィールドは読み取り専用になります。
問題グループルール	この問題にアサインされたグループルール。問題グループルールは、ルールで定義された条件に基づいて類似した問題を親問題にまとめてグループ化するために使用されます。このルールにより、同様の問題を同時に処理し、すべての問題が解決された後に親問題をクローズすることができます。それにより、すべての子問題がクローズされます。
親問題	この問題が属する親問題。
構成アイテム	この問題に関連付けられているアイテム。すべての子問題に同じ構成アイテムがある場合、親問題にコピーされます
場所	問題が発生した場所。
簡単な説明 バージョン 12.0.1 以降、このラベルは [名前] に変更されています。	問題の名前。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

問題フォーム (続く)

フィールド	説明
説明	問題のより包括的な説明。
詳細	
コントロール/リスク	この問題に関連付けられたコントロールまたはリスク。 コントロールが関連付けられると、コントロールの対応するエンティティが [エンティティ] フィールドに追加され、コントロール目標が [コントロール目標/リスクステートメント] フィールドに追加されます。これらのコントロール目標とエンティティは、このコントロールにリンクされているものです。 コントロールが問題フォームに関連付けられると、m2m レコードがソース [sn_grc_m2m_issue_item] テーブルに作成されます。レコードがソーステーブルに追加されるたびに、対応するレコード [問題からエンティティ] が宛先 [sn_grc_m2m_issue_to_entity] テーブルに追加され、コントロールの関連付けられたエンティティとコントロール目標の別のレコード [問題からコンテンツ] が宛先 [sn_grc_m2m_issue_content] テーブルに追加されます。
エンティティ	関連エンティティ。
ポリシー	問題に関連付けられたポリシー。
各種法令・基準等	問題に関連付けられた各種法令・基準等。
コントロール目標/リスクステートメント	この問題に関連するコントロール目標またはリスクステートメント。
推奨事項	リスク、コンプライアンス、または監査チームによって推奨される解決アクション。
アクションプラン	問題を修正するための計画。
日付	
開始予定日	問題の作業の開始予定日時。
終了予定日	問題の作業の終了予定日時。
計画された期間	問題に対する作業時間の見積もり。
確認日	(バージョン 12.0.1 以降) 問題が確認された日付。このフィールドは読み取り専用で、問題が [新規] から次のいずれかの状況に移行すると、当日の日付が表示されます。 • 分析 • レビュー • 対応

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

問題フォーム (続く)

フィールド	説明
	注: トリアージ問題が実際の問題に変換された場合、このフィールドには変換された日付が表示されます。
期日	(バージョン 12.0.1 以降) この日付は、GRC プロパティに基づいて自動入力されます。移動先 ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > **GRC** プロパティ.[問題の評価に基づいて期日を自動入力] プロパティが [はい] に設定されている場合、問題のリスク評価に対して事前定義された修復期間に基づいてこのフィールドが自動入力されます。それ以外の場合は、期日を手動で入力できます。 問題が [応答] ステータスに移行する場合、このフィールドへの入力は必須です。
実開始日	この問題の作業が開始された時間。
実終了日	[実際の期間] 入力フィールドによって決定される読み取り専用の値。
実際の期間	作業時間。
作成日時	問題が作成された日時。
クローズ済み	問題がクローズされた日時。
エンゲージメント	
エンゲージメント	関連するエンゲージメント。
アクティビティ	
追加コメント (顧客に表示)	問題に関する公開情報。[投稿] をクリックして、問題にコメントを追加します。
作業メモ	[作業メモ] チェックボックスをクリックして、[作業メモ] フィールドを表示します。問題の解決方法に関する情報、または既に採った解決手順 (該当する場合)。作業メモは、問題にアサインされているユーザーに表示されます。[投稿] をクリックして、問題に作業メモを追加します。
機密性	
機密	レコードの機密性を有効にするオプション。アサインされた機密ユーザーまたはユーザーの機密グループのみがレコードにアクセスできます。 機密オプションの詳細については、「監査およびコンプライアンスレコードの機密性フラグ」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

問題フォーム (続く)

フィールド	説明
リスクイベント	
リスクイベント	関連リスクイベント。

証拠要求

証拠要求は、監査中にサポートドキュメントを要求するために監査およびコンプライアンスチームによって使用されます。監査人およびコンプライアンスチームは、防御の第一線にこれらのドキュメントを要求します。

証拠とは、監査人が監査意見を決定する際に使用するすべての情報です。証拠には、財務ステートメントの基礎となる会計レコードに含まれる情報やその他の情報が含まれます。証拠は本質的に累積的です。これには、監査中に実行された監査手順から取得された証拠が含まれます。証拠には、以前の監査などの他のソースから取得された監査証拠も含まれる場合があります。

証拠要求は、監査の準備中または監査の告知後の計画フェーズ中に頻繁に導入されます。要求されたドキュメントは、監査チームが、スコープ内のコントロールとプロセスを理解し、フィールドワークテストを開始するために使用されます。監査はさまざまなステージを経て進行するため、監査チームは頻繁に新しい要求をリストに追加します。コンプライアンスチームは、収集された証拠をコントロールテストに使用します。最新リリース以降、予定されていない証拠要求は 監査管理 および ポリシーとコンプライアンス管理でサポートされています。証拠要求機能のメリットは次のとおりです。

- 防御の第 2 線および第 3 線で、すべての証拠要求を迅速に作成して送信するのに役立ちます。
- 要求と証拠の管理に役立ちます。
- コミュニケーション用のツールを提供することで、複数のメールが不要になります。
- コンプライアンスチームは、コントロールオーナー、ビジネスステークホルダー、およびプロセスオーナーに証拠を要求できます。
- 監査チームは、コントロールオーナー、ビジネスステークホルダー、プロセスオーナー、およびコンプライアンスチームに証拠を要求できます。
- 提出する証拠の期日の指定を有効にします。
- アサイニーにメールのリマインダーを送信する機能を提供します。
- アサイニーは サービスポータル から直接証拠を提供できます。
- 証拠要求の簡素化されたマネージャー承認は、機密性や重要度などのさまざまな基準に基づくことができます。
- アサイニーは、Box や SharePoint などの一般的な証拠フォルダーに証拠を保存できます。
- 要求者とアサイニー間のコミュニケーションチャネルが改善され、承認プロセスが簡素化されています。
- 改善された機密性の制約は、権限のないユーザーが要求情報を表示することを防止します。

証拠は、エンゲージメントおよびすべての監査テーブルから要求できます。証拠を要求する方法を理解するには、「監査の証拠を要求する」を参照してください。

証拠要求ワークフローとユーザー

証拠要求は、顧客が防衛の第一線および第二線で必要な情報を電子的に要求するために役立ちます。監査対象の個人は、ドキュメントをすぐにシステムにアップロードできるため、手動での処理時間が大幅に短縮されます。

証拠要求ワークフローは次のとおりです。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

1. sn_audit.user ロールを持つ監査ユーザーが証拠を要求し、その要求を別のユーザーにアサインします。この要求者は、自分自身のために証拠を要求するか、別の監査ユーザーまたは GRC ユーザーの代わりに要求を出すことができます。要求者は、証拠タスクが誤って作成されたと判断した場合、その特定の証拠タスクをキャンセルできます。証拠要求をキャンセルする機能は、要求が [ドラフト] ステータス の場合に利用できます。要求者は、タスクが [レビュー] ステータスに達するまで、いつでも証拠要求タスクをキャンセルできます。
2. 証拠要求を作成した後、証拠収集レコードを作成し、要求者が証拠を要求する必要があります。証拠収集レコードには、証拠収集の指示、アサイン先、およびアサイン先グループが含まれています。[証拠を要求] をクリックすると、証拠要求タスクが生成され、グループまたはユーザーにアサインされます。
3. アサイニーは、要求された証拠を提供するためのリンクを含むメールを受信します。

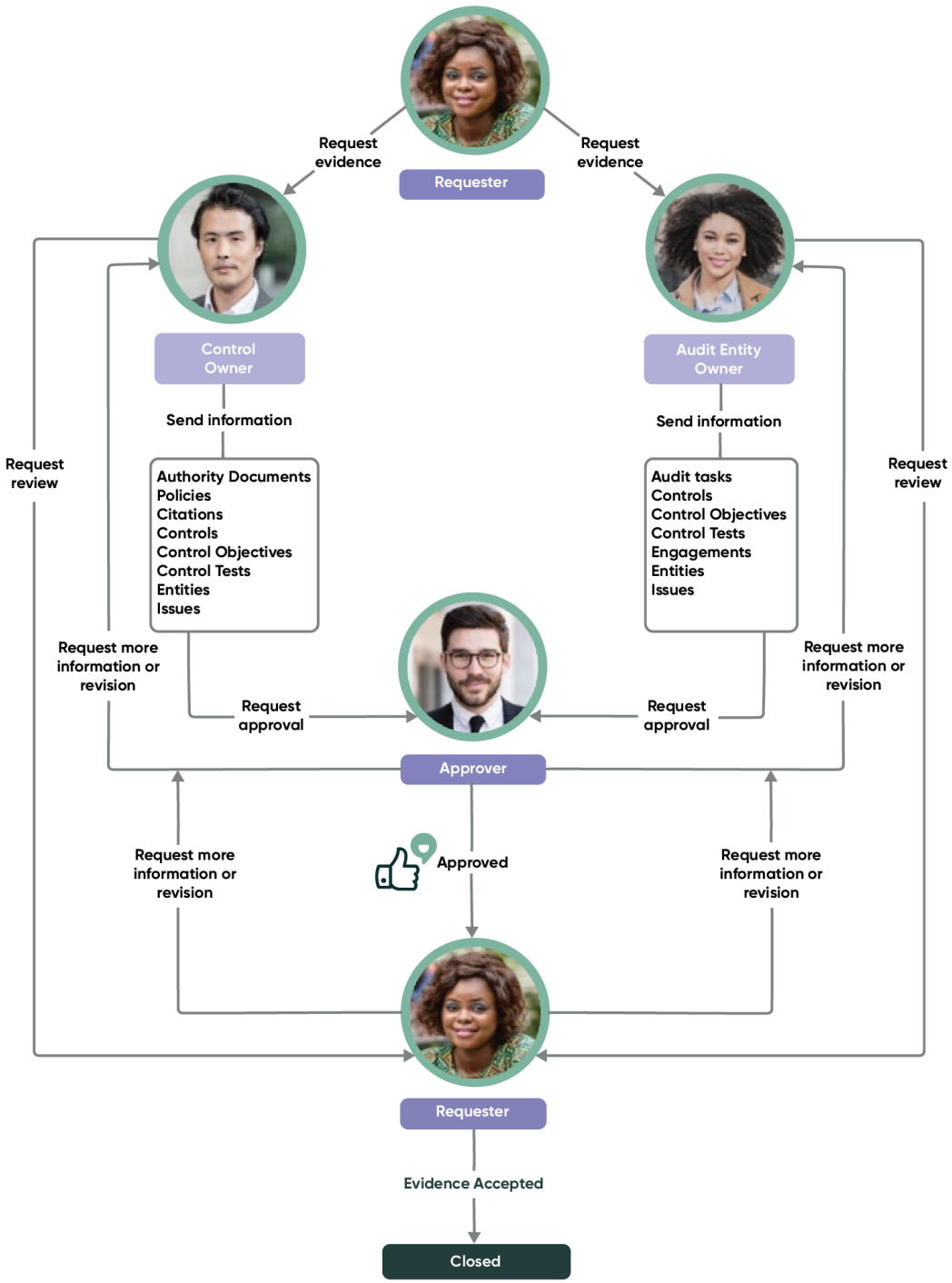
   注:
   要求者が証拠を要求した後にアサイニーを変更した場合、元のアサイニーは要求を表示できなくなります。要求をアサインされたユーザーのみが要求を表示できます。この機能により、機密性が確保されます。

4. アサイニーは、要求された証拠を添付するか、必要な証拠を含む URL または場所を指定できます。
5. アサイニーは、証拠を検証および承認するための承認者を追加することもできます。証拠が事実上機密である場合は、承認者の追加が必要です。
6. 承認者は証拠をレビューし、それを承認するか、リビジョンを要求するか、証拠に関するさらなる詳細を要求することができます。
7. 承認者が証拠を承認した場合、要求者は証拠を受け取り、それをさらに処理できます。
8. 要求者は証拠をレビューし、次のいずれかを実行できます。
   - 証拠を承認する。
   - レビューを要求する。
   - 証拠に関するさらなる詳細を要求する。
   - 証拠要求が不要になった場合はキャンセルする。
   - 要求を削除する。
9. 要求者がすべての証拠タスクを受け入れると、要求はクローズされます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

証拠要求ワークフローを次の図に示しま



す。

次の表は、証拠要求ワークフロー中のロールとその責任を示しています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

証拠要求ユーザー、責任、および要件

ユーザー	役割	要件
内部監査人	• 監査テストを実行する。 • 監査テストを要求する。 • すべての監査結果と収集された証拠をレビューする。	• コンプライアンスとリスクアクティビティへの可視化。 • チームの作業を計画するためのジョブキュー (処理待ち、現在、予定)。 • 監査結果を追跡および監視する。 • 監査アクティビティを追跡および監視する。
コンプライアンスマネージャー、監査マネージャー	• 証拠を要求できる。 • コンプライアンステストの証拠を要求する。 • すべての結果と収集された証拠をレビューする。	• コンプライアンスアクティビティへの可視化。 • チームの作業を計画するためのジョブキュー (処理待ち、現在、予定)。 • コンプライアンスの結果を追跡および監視する。
コンプライアンスユーザー、コントロールオーナー	• コントロールが実装されていることを確認する。 • コントロールを証明する。 • コントロールをテストする。 • 監査人によって要求された監査証拠を提供する。	• 日々のアクティビティを指定するジョブキュー。 • 所有するアクティビティとタスクの所要時間とパフォーマンスを追跡する。 • 所有するタスクと監査人からの追加要求が履行されるように確保する。

監査の証拠を要求する

監査中の任意のステージで証拠を要求します。証拠が要求されたアイテムの詳細は、証拠の提供責任者にも提供されます。

始める前に

必要なロール: 監査管理 に必要なロールは sn_audit.user です。

Lite Audit に必要なロールは次のとおりです。

- sn_grc_advanced.evidence_reader
- sn_grc_advanced.evidence_requester
- sn_grc_advanced.evidence_responder
- sn_grc_advanced.evidence_admin

このタスクについて

証拠は、次の 3 つの方法で要求できます。

自動翻訳

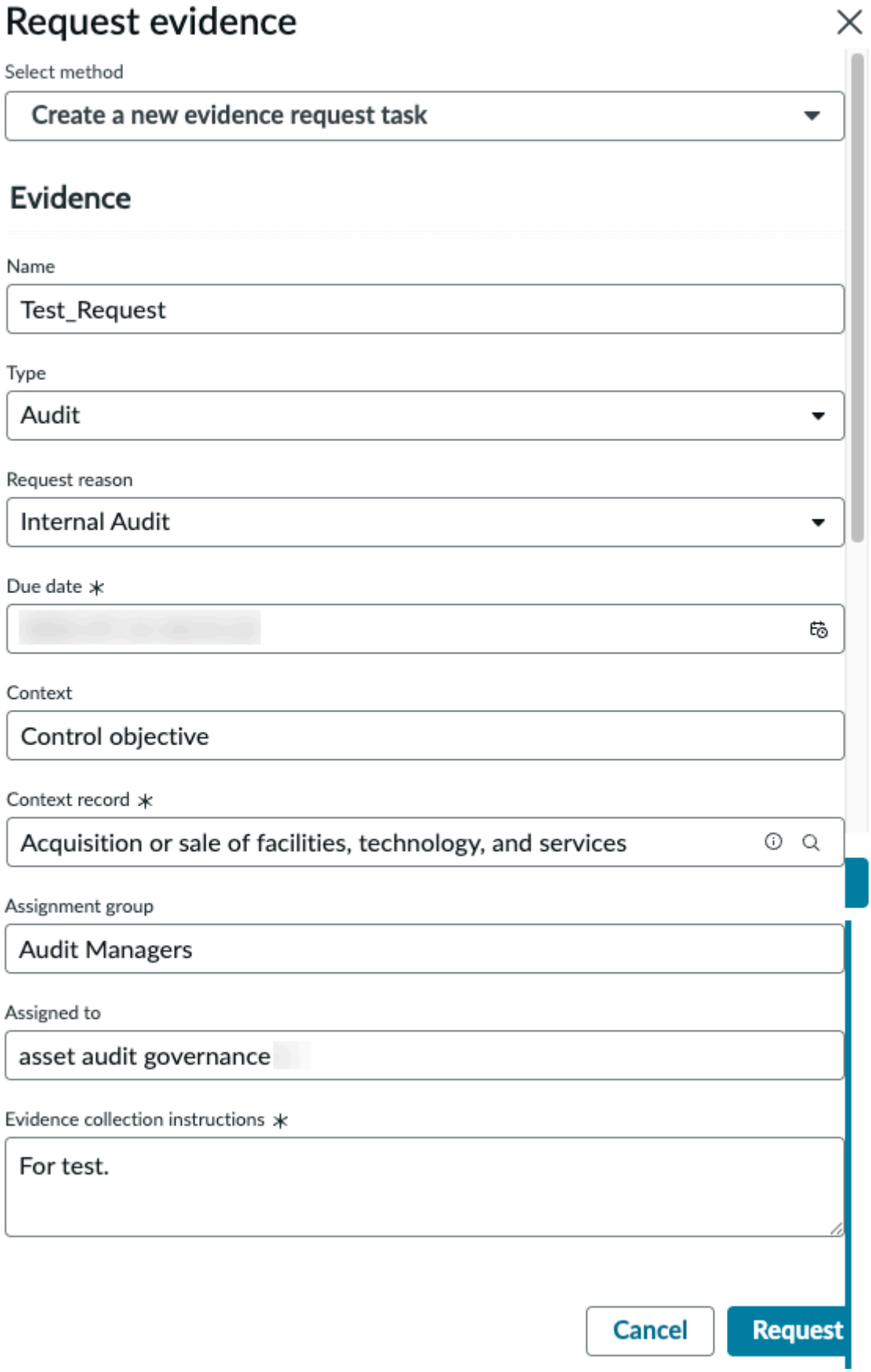
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- [自分の証拠] モジュールから証拠レコードを作成する。
- エンゲージメントレコード内のエンティティ、コントロール、監査タスク、コントロールテストの問題、およびその他の問題から作成する。これらのソースから証拠を要求するには、 監査 > エンゲージメント > 自分のエンゲージメント. エンゲージメントレコードを開き、証拠を要求する関連リストを選択します。[選択した行のアクション] リストから、[証拠を要求] を選択します。ここでは、新しい証拠要求を作成するか、既存の証拠要求に要求を追加できます。証拠要求は作成されますが、証拠要求タスクは作成されません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[証拠を要求] ページで [新しい証拠要求タスクを作成] を選択して、要求タスクを作成しま



す。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- エンティティ、コントロール、コントロール目標、コントロールテスト、エンゲージメント、問題のテーブルから作成されます。ただし、ユーザーがこれらのテーブルから証拠を要求すると、実際の証拠要求タスクではなく証拠要求が作成されます。ユーザーは、生成された証拠要求レコードに移動し、証拠要求タスクを追加する必要があります。

この手順では、[自分の証拠 **(My Evidence)]** モジュールから証拠を要求する方法について説明します。

手順

1. 移動先 監査 > 自分の証拠要求.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

証拠要求フォーム

フィールド	説明
番号	証拠要求の一意の番号。
要求者	証拠を要求するユーザー。このフィールドは、自動的に入力されます。
代理で要求済み	証拠を要求されているユーザー。
アサイン先グループ	証拠を提供するためにアサインされたグループ。
アサイン先	証拠の提供を担当するユーザー。
状況	要求のステータス。デフォルトのステータスは [ドラフト] です。
タイプ	デフォルトのタイプは [監査] です。
要求理由	証拠を要求する理由。
ウォッチリスト	収集された証拠の表示に関心があるユーザー。ウォッチリストに追加されたユーザーは、 監査 > 証拠要求 > 証拠要求ウォッチリスト をクリックして要求を表示します。
簡単な説明	証拠要求の簡潔な説明。
説明	証拠要求の詳細な説明。
スケジュール	
期日	証拠の送信予定日。
オープン	要求がオープンされた日付。この日付は自動的に更新されます。
クローズ済み	要求がクローズされた日付。この日付は自動的に更新されます。
アクティビティ	
作業メモ	必要な可能性があるメモを入力します。
アクティビティ	要求のアクティビティログ。
機密性	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
機密	レコードの機密性を有効にするオプション。アサインされた機密ユーザーまたはユーザーの機密グループのみがレコードにアクセスできます。 機密オプションの詳細については、「監査およびコンプライアンスレコードの機密性フラグ」を参照してください。
コンテキスト	コンテキストレコードのテーブル。
コンテキストレコード	証拠要求のコンテキストレコード。
ソース	証拠が開始されるオブジェクト。これを上のテーブルに追加します。

4. フォームを保存します。
[証拠収集の詳細] 関連リストが表示されます。この関連リストは、証拠が要求されているアイテムを一覧表示するために使用されます。
5. [新規] をクリックします。
6. フォームのフィールドに入力します。

証拠収集の詳細フォーム

フィールド	説明
証拠要求	証拠要求タスクの一意の番号。
証拠対象	証拠が要求されているレコード。
アサイン先グループ	証拠を提供するためにアサインされたグループ。このグループのユーザーには、sn_grc.business_user ロールが必要です。
アサイン先	証拠の提供を担当するユーザー。
証拠収集手順	証拠を提供するための指示。たとえば、サポートドキュメント、ファイルなどのリストです。

7. **[OK]** をクリックします。
8. [送信] をクリックします。
9. [証拠を要求] をクリックします。
証拠要求が既に [対応中] ステータスであり、新しい証拠収集の詳細が追加された場合、証拠要求タスクはすぐにアサイニーに送信されます。
[証拠] 関連リストに証拠のリストが表示され、要求をアサインされたユーザーは、要求された証拠を提供するためのメール通知を受信します。また、要求のステータスが [対応中] に変更されます。

要求された証拠を提供する

要求された場合は証拠を提供します。証拠が要求されると、証拠を提供する必要があるユーザーはメールを受信します。証拠を提供するプロセスが開始されます。

始める前に

必要なロール：sn_grc.business_user

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

このタスクについて
アサイニーは、要求された証拠を提供するためのメールを受信すると、要求された証拠を提供するか、別のユーザーに要求を再アサインすることができます。アサイニーは、要求された証拠を送信する前に承認者を追加して、証拠のセキュリティを強化することもできます。アサイニーが要求を他のユーザーに再アサインした場合、元のアサイニーは要求を表示できなくなります。提供された証拠が承認者を必要としない場合、アサイニーは証拠のレビューを直接要求でき、要求者は証拠をレビューするための通知を受け取ります。

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 証拠要求 > 自分の証拠要求タスク.
2. 証拠を提供するレコードを開きます。
3. [作業を承認] をクリックします。
4. フォームのフィールドに入力します。

証拠フォーム

フィールド	説明
番号	証拠要求の番号。この値はデフォルトで生成されます。
要求者	証拠を要求するユーザー。この値はデフォルトで生成されます。
代理で要求済み	証拠を要求されているユーザー。この値はデフォルトで生成されます。
アサイン先グループ	証拠を提供するためにアサインされたグループ。このグループのユーザーには、sn_grc.business_user ロールが必要です。
アサイン先	証拠の提供を担当するユーザー。この値はデフォルトで生成されます。
状況	要求のステータス。
サブステート	なし。この値はデフォルトで生成されます。
要求理由	証拠を要求する理由。
承認者	レビューのために要求者に返される前に証拠を承認するユーザー。通常、承認者は証拠を提供するユーザーのマネージャーです。
ウォッチリスト	収集された証拠の表示に関心があるユーザー。
名前	証拠要求の名前。この説明はデフォルトで生成され、証拠を要求するために作成されたレコードからフェッチされます。
説明	証拠要求の詳細な説明。この値はデフォルトで生成され、証拠を要求するために作成されたレコードからフェッチされます。
要求の詳細	
証拠要求	タスクに関連付けられた証拠要求の一意の ID。この値はデフォルトで生成され、証拠を要

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	求するために作成されたレコードからフェッチされます。
証拠対象	証拠が要求されているレコード。
証拠対象の説明	証拠が要求されているレコードの説明。この値はデフォルトで生成され、証拠を要求するために作成されたレコードからフェッチされます。
証拠 URL	ユーザーが添付ファイルではなくリンクとして証拠を共有する場合の証拠の URL。たとえば、共有フォルダーへのリンクを指定することができます。

5. 添付された証拠の承認を要求するには、[承認要求] をクリックします。
6. 承認者が必要ない場合は、[レビューを要求] をクリックします。

証拠レビュー前に証拠を承認する

要求者が証拠を表示する前に、提供されている証拠を承認します。証拠要求に応じて証拠が提供される場合、証拠を要求者に送り返す前に、その証拠を承認する必要があります。この機能により、証拠のセキュリティと機密性が保証されます。

始める前に
必要なロール：sn_grc.business_user

このタスクについて
承認者は、証拠を承認する要求を受信した後、次のいずれかを実行できます。

- 問題や懸念がない場合は、要求を承認する。
- 添付された証拠が正しくないか、修正が必要な場合は、その証拠のリビジョンを要求する。
- 承認者が添付された証拠に関する詳細を必要とする場合は、情報を要求する。

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 証拠要求 > 自分の承認.
2. 証拠を承認するレコードを開きます。
3. フォームで添付された証拠をレビューし、次のいずれかのオプションをクリックします。

オプション	説明
承認	添付された証拠を承認します。要求者は、提供された証拠を取得します。
リビジョンを要求	添付された証拠のレビューを要求します。リビジョンを要求するときにコメントを入力します。アサイニーは、添付された証拠をレビューするための通知を受け取ります。
情報を要求	添付された証拠に関する詳細情報を求めます。アサイニーは、添付された証拠に関する詳細を提供するための通知を受け取ります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

証拠要求を承認、却下、またはキャンセルする

要求した証拠を受信したら、証拠要求を承認、却下、またはキャンセルします。証拠要求を要求した後、要求者が証拠を受け取ると、その証拠要求を承認、却下、またはキャンセルできます。

始める前に
必要なロール：sn_audit.user および sn_compliance.manager

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 証拠要求 > 自分の処理待ちのレビュー.
2. 証拠フォームで、添付された証拠をレビューし、次のいずれかのオプションをクリックします。

オプション	説明
証拠を承認	提供された証拠を承認します。
リビジョンを要求	証拠のレビューを要求します。適切でない場合は、変更を要求します。
キャンセル	証拠要求タスクをキャンセルします。
削除	証拠要求タスクを削除します。

監査計画の概要

監査計画を使用すると、体系的かつ論理的な方法ですべての監査エンゲージメントを計画できます。

監査エンゲージメントは複数のタスクを含むプロジェクトのようなものであり、適切な計画なしにすべての監査アクティビティを管理することは困難です。すべての監査、プロジェクト、およびコストを含む明確に定義された計画があると、監査マネージャーは効率的にタスクを実行できます。

監査計画の使用とメリット

監査チームは、組織内で複数の監査を実施します。監査計画を作成することで、監査チームは監査とエンゲージメントをより適切に計画できます。監査計画を作成することで、ロール sn_audit.manager を持つ監査人ディレクターまたは監査リーダーは次のことができます。

- エンゲージメントを効果的に計画し、年次内部監査計画で設定された目標が確実に達成されるようにする。
- 監査人が状況の適切な証拠を取得できるようにする。
- 監査コストを妥当なレベルに維持する。
- 潜在的な問題が迅速に特定されるようにする
- 明確に定義された方法で監査タスクを実行するために監査人によって決定された監査プログラムのスコープを取得する。

監査計画ワークフロー

- 監査の目的の定義
- リスクアセスメント
- 監査スコーピング
- 監査スケジュールの概要とマイルストーンを含む詳細な監査タイムライン

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 必要なスキル別のリソース計画と監査チームのビルド
- コスト計画

高度な計画機能を備えた監査計画を作成し、その計画にエンゲージメントを追加し、エンゲージメントを [検証] または **[** フィールドワーク] ステータスに移行すると、関連付けられたエンゲージメントプロジェクトが自動的に生成されます。

> **注:**
> プロジェクトは、PPM Standard プラグインがインストールされていて、ユーザーが it_project_manager ロールを持っている場合にのみ作成されます。ユーザーが it_project_manager ロールを持たず、sn_audit.manager ロールしかない場合は、計画で高度な計画機能が有効になっていても、エンゲージメントが [検証] または [フィールドワーク] 状況に移行したとき、対応するプロジェクトがありません。

監査計画にエンゲージメントを追加した後は、エンゲージメントの親計画を柔軟に変更することもできます。以下の点に注意することが重要です。

- エンゲージメントは、計画が [ドラフト] 、[承認待ち]、および [承認済み] 状況の場合にのみ計画に対して追加または削除できます。
- エンゲージメントの親計画は、そのエンゲージメントが [スコープ]、[検証] 、および [フィールドワーク] 状況である場合にのみ変更できます。

監査計画の作成

定期的な方法でさまざまなタイプの監査を管理し、論理的な方法でエンゲージメントをグループ化する監査計画を作成します。

始める前に

必要なロール：sn_audit.manager、it_project_manager (プロジェクトを作成するため)

Advanced Audit プラグイン (com.sn_audit_advanced) を有効にします。

このタスクについて

監査計画が作成され、エンゲージメントが計画に追加されると、その計画は承認のために承認者に送信されます。

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > プラン > 新規作成.
2. フォームで、フィールドに入力します。

計画フォーム

フィールド	説明
番号	計画の一意の番号。
名前	計画の名前たとえば、給与の年次監査計画などです。
解決までの期限	計画の期間。以下から選択可能です。 ○ 年ごと ○ 半年ごと ○ 四半期 ○ その他

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
開始日	計画の開始日。
終了日	計画の終了日。このフィールドは、[解決までの期限] フィールドでの選択に基づいて自動的に入力されます。[解決までの期限] フィールドが [その他] である場合は、終了日を手動で入力します。
所有グループ	計画の所有を担当するグループ。
オーナー	計画オーナー。
状況	計画の状況デフォルトのステータスは [ドラフト] です。
サブステート	計画のサブステート。このフィールドの値は、ワークフローに基づいて変更されます。
タイプ	計画のタイプ。以下から選択可能です。 ○ なし ○ 内部監査計画 ○ 外部監査計画 ○ SOX 監査 ○ コンプライアンス監査計画 ○ ベンダー監査計画 ○ 顧客監査計画
計画	エンゲージメントに使用する計画機能。以下から選択可能です。 ○ 基本計画機能： ○ 詳細計画機能：このオプションを選択すると、エンゲージメントプロジェクトが自動的に作成されます。
承認者	計画を承認するユーザー。
説明	計画の簡単な説明。
達成目標	計画の目標。
経費とリソース	
予算経費	計画に基づくエンゲージメントに割り当てられた予算。
予定経費	エンゲージメントからの計画経費のロールアップ。
実際の経費	エンゲージメントからの実際の経費のロールアップ。
経費のコメント (Expense comments)	経費の詳細に関するメモ。
予算リソース	計画に基づくエンゲージメントに割り当てられた時間数。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
予定リソース	エンゲージメントからの計画リソースのロールアップ。
実際のリソース	エンゲージメントからの実際のリソースのロールアップ。
リソースのコメント (Resource comments)	リソースの詳細に関するメモ。

3. フォームを保存します。
   [エンゲージメント] 関連リストが表示されます。
4. [エンゲージメント] 関連リストで、[新規] または [編集] をクリックしてエンゲージメントを追加します。
5. [承認を要求] をクリックします。
   ステータスが [ドラフト] から [承認待ち] に変わります。

計画を承認

計画の作成後に承認者としてアサインされた場合は、計画を承認します。計画のレビューを要求したり、計画作成者に計画に関する詳細情報を要求したりすることもできます。

始める前に
必要なロール：sn_audit.manager

手順
1. 移動先 すべて > 監査 > 自分の計画承認.
2. 承認する計画を選択して開きます。
3. 計画をレビューし、次のいずれかのオプションをクリックします。

オプション	説明
承認	作成された計画を承認します。
リビジョンを要求	計画のレビューを要求します。適切でない場合は、変更を要求します。
情報を要求	計画についての追加情報を要求します。
キャンセル	計画をキャンセルします。

詳細計画を使用してエンゲージメントを作成する

詳細計画機能を使用して、エンゲージメントプロジェクトを自動的に作成するエンゲージメントを作成します。エンゲージメントプロジェクトが作成された後、リソース計画とコスト計画をエンゲージメントに追加できます。これらの計画の値は、エンゲージメントと監査計画にロールアップします。

始める前に
詳細計画機能を使用するには、次のストアアプリケーションとプラグインを有効にする必要があります。

- GRC Advanced Audit プラグイン (com.sn_audit_advanced)
- GRC プロファイル
- GRC ポリシーとコンプライアンス管理
- GRC リスク管理

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

- GRC Advanced Core
- GRC 高度なリスク
- GRC 監査管理
- プロジェクトポートフォリオ管理 Standard

エンゲージメントの監査計画を作成することを選択できます。

注:
GRC モジュールのアプリケーションの詳細については、「ガバナンス、リスク、コンプライアンス」を参照してください。

必要なロール：sn_audit.manager

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > エンゲージメント > 新規作成.
2. フォームで、フィールドに入力します。

エンゲージメントフォーム

フィールド	説明
番号	エンゲージメントの一意の識別番号。
名前	エンゲージメントの名前。
タイプ	エンゲージメントのタイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ なし ○ 内部監査 ○ 外部監査 ○ SOX 監査 ○ IT 監査 ○ 財務監査 ○ コンプライアンス監査 ○ 認定監査 ○ 規制監査 ○ 運用監査 ○ 継続的な監査 ○ ベンダー監査 ○ 顧客監査 ○ ストア監査 ○ 品質監査 ○ プロジェクト監査

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: 監査のタイプの詳細については、「監査タイプ」を参照してください。
アサイン先	エンゲージメントにアサインされたユーザー。
状況	エンゲージメントの進捗状況。選択肢は次のとおりです。 ○ スコープ ○ 検証 ○ フィールドワーク ○ Awaiting Approval (承認待ち) ○ フォローアップ ○ 完了してクローズ ○ 未完了でクローズ 注: これらの状況それぞれの詳細については、「エンゲージメントを管理する」を参照してください。
完了率 (%)	完了したエンゲージメントの割合。
監査人	エンゲージメントにアサインされた監査人。
承認者	エンゲージメントにアサインされた承認者。
説明	エンゲージメントの一般的な説明。
達成目標	エンゲージメントの表明された目標。
スケジュール	
エンゲージメント開始予定	エンゲージメントの予定開始日。
エンゲージメントの開始	エンゲージメントの開始日を自動的に決定する選択肢。選択肢は次のとおりです。 ○ スコープ ○ 検証 ○ フィールドワーク
エンゲージメントの実際の開始	エンゲージメントが開始する実際の日付。
エンゲージメント終了予定	エンゲージメントの予定終了日。
エンゲージメントの終了	エンゲージメントの終了日を自動的に決定する選択肢。選択肢は次のとおりです。 ○ フォローアップ ○ クローズ済み

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: [フォローアップ] および [クローズ済み] 状況の詳細については、「エンゲージメントを管理する」を参照してください。
エンゲージメントの実際の終了	エンゲージメントが終了する実際の日付。
フィールドワーク開始予定	フィールドワークの予定開始日。
フィールドワーク終了予定	エンゲージメントで最初に設定された終了予定日。 注: このフィールドは、自動的にフィールドワークの開始予定日の 1 日後に設定されます。
フィールドワーク予定期間	フィールドワークの予定日数と時間。フィールドワークの期間と開始予定日は、終了予定日を計算するために使用されます。監査タスクが定義されている場合、このフィールドは監査タスクの最長計画期間に自動的に設定されます。
フィールドワークの実際の開始	フィールドワークの実際の開始日。監査タスクが定義されている場合、このフィールドは監査タスクの最も早い実際の開始日に自動的に設定されます。
フィールドワークの実際の終了	フィールドワークの実際の終了日。監査タスクが定義されている場合、このフィールドは監査タスクの最新の実際の終了日に自動的に設定されます。
フィールドワークの実際の期間	フィールドワークの開始日から終了日までの期間。
結果	
結果	エンゲージメントの結果。選択肢は次のとおりです。 ○ 良好 ○ 適切 ○ 不適切
意見	選択した結果の正当性。
レポート	
ナレッジベース	レポートテンプレートを選択するために使用するナレッジベース。
レポートテンプレート	エンゲージメント結果を報告するナレッジベース記事を生成するために使用されるテンプレート。
KB 記事	エンゲージメント結果を含む最近生成されたナレッジベース記事。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
アクティビティ	
追加コメント	顧客が表示できるコメント。
作業メモ	アドミニストレーターおよび監査マネージャーが表示できるコメント。
計画の詳細	
親計画	エンゲージメントを関連付ける計画。
機密性	
機密	レコードの機密性を有効にするオプション。アサインされた機密ユーザーまたはユーザーの機密グループのみがレコードにアクセスできます。 機密オプションの詳細については、「監査およびコンプライアンスレコードの機密性フラグ」を参照してください。
経費とリソース	
予算経費	エンゲージメントの予算経費。
予定経費	エンゲージメントの推定経費。コスト計画が定義されている場合、このフィールドには推定経費が自動的に表示されます。
残りの予算経費	[予算経費] と [予定経費] の差。このフィールドは自動的に設定されます。
実際の経費	発生した実際の経費。タイムカードが定義されている場合、このフィールドは自動的に設定されます。
予算リソース	エンゲージメントの予算リソース (時間)。
予定リソース	エンゲージメントのための推定リソース (時間)。リソース計画が定義されている場合、このフィールドは自動的に設定されます。
実際のリソース	エンゲージメントの実際のリソース (時間)。タイムカードが定義されている場合、このフィールドは自動的に設定されます。
プロジェクトの詳細	
プロジェクト	自動的に作成されたエンゲージメントプロジェクト。このフィールドは、[検証と計画] をクリックすると入力されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: このフィールドは、エンゲージメントが [検証] または [フィールドワーク] ステータスのときに、[詳細計画を有効にする] をクリックした場合にも入力されます。このフィールドは、次のいずれかが当てはまる場合にも入力されます。 ○ フィールドが、詳細計画機能を備えた計画に既にリンクされている。 ○ ユーザーに必須ロールがある。 ○ エンゲージメントが正しいステータスにある。
タイムカード承認者	エンゲージメントにアサインされたユーザー。このフィールドで承認者を変更することもできます。 注: 複数のユーザーが選択されている場合は、リストの全員がタイムカードを承認する必要があります。

3. [検証と計画] をクリックします。

   注:
   [検証と計画] ボタンは、Advanced Audit プラグインが有効になっている場合にのみ表示されます。

   プロジェクトの詳細が入力されます。
4. [詳細計画を有効にする] をクリックします。

タスクの結果
エンゲージメントのバックグラウンドでエンゲージメントプロジェクトが作成されます。[リソース計画] および [コスト計画] 関連リストも表示されます。

次のタスク
リソース計画を作成し、コスト計画を作成します。

リソース計画からのエンゲージメントの監査人を追加する

リソース計画からのエンゲージメントで監査人に監査タスクをアサインします。リソース計画は、監査人に関連付けられたコストを追跡します。エンゲージメントを計画する際には、このコストを考慮することが重要です。

始める前に
リソース計画が作成されたエンゲージメントレコードがある場合、リソース計画は [割り当て済み] ステータスである必要があります。リソース計画の [リソース割り当て] セクションのユーザーには、監査人として追加できるリソースが含まれています。追加する監査人には、sn_audit.user または外部監査人ロール、および pps_resource ロールが必要です。[リソース計画] 関連リストとそれに関連付けられたワークフローは、GRC Advanced Audit および プロジェクトポートフォリオ管理 プラグインが有効になっている場合にのみ利用できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

必要なロール：sn_audit.manager

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > エンゲージメント.
2. 監査人を追加するエンゲージメントレコードを開きます。
3. [リソース計画] 関連リストをクリックします。
4. [監査人を追加] ボタンをクリックします。
   必要なロールを持つリソースがまだ存在しない場合は、自動的に [監査人] フィールドに追加されます。

監査可能単位を作成する

事業部門、部門、ベンダー、製品、ビジネスプロセス、ビジネスアプリケーション、場所、各種法令・基準等、ポリシーなどのエンティティを持つ監査可能単位を作成し、監査可能単位でリスクアセスメントを実行します。

始める前に

必要なロール：sn_audit.user または sn_audit.manager

GRC Advanced Audit プラグイン (com.sn_audit_advanced) を有効にします。

このタスクについて

監査可能単位を作成し、監査可能単位で実行するリスクアセスメントのタイプを決定できます。リスクアセスメントが完了した後、監査マネージャーは、リスク評価に基づいてエンティティを監査するかどうかを決定できます。監査可能単位は、エンゲージメントのエンティティとみなすことができます。

手順

1. 移動先 すべて > 監査領域 > すべての監査可能単位.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

監査可能単位フォーム

フィールド	説明
番号	監査可能単位の一意の番号。
名前	監査可能単位の名前。たとえば、買掛金 - 経理。
所有グループ	監査可能単位を所有するグループ。
オーナー	監査可能単位のオーナー。
状況	監査可能単位のステータス。デフォルトのステータスは [ドラフト] です。
優先度	監査可能単位の優先度。
説明	監査可能単位の簡潔な説明。
リスクアセスメント	
メソッド	監査可能単位のリスク評価を取得するリスクアセスメントのタイプ。以下から選択可能です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ 基本リスクアセスメント。このオプションでは、リスク評価の値を手動で入力できます。 ○ 詳細なリスクアセスメント。このオプションは、Advanced Audit プラグインが有効になっている場合に表示されます。このオプションを選択すると、[リスクアセスメント] 関連リストが表示されます。
リスク評価	基本リスクアセスメントから取得された監査可能単位のリスク評価。このフィールドは、[メソッド] フィールドに [基本リスクアセスメント] がある場合に表示されます。
固有リスク評価	固有のリスクスコア。このフィールドの値は、高度なリスクアセスメントから導出されます。このフィールドは、[方法] フィールドに [詳細なリスクアセスメント] がある場合に表示されます。
コントロール有効性	コントロール有効性スコア。このフィールドの値は、高度なリスクアセスメントから導出されます。このフィールドは、[方法] フィールドに [詳細なリスクアセスメント] がある場合に表示されます。
残存リスク評価	残存リスクスコア。このフィールドの値は、高度なリスクアセスメントから導出されます。このフィールドは、[方法] フィールドに [詳細なリスクアセスメント] がある場合に表示されます。

自動翻訳

4. [方法] フィールドで [基本リスクアセスメント] を選択した場合は、[送信] をクリックします。
5. [方法] フィールドで [詳細なリスクアセスメント] を選択した場合は、[リスクを評価] をクリックします。
   a. [査定人] フィールドで、リスクアセスメントの査定人を選択します。
   b. [承認者] フィールドで、アセスメントの承認者を選択します。
   c. [送信] をクリックします。
   左上にリスクアセスメントインスタンスのリンクが作成され、査定人はリスクアセスメントを実行するための通知を受け取ります。詳細なリスクアセスメントが実行された後、[リスクアセスメント] 関連リストにアセスメントが表示されます。
6. 次の利用可能な関連リストをクリックし、必要に応じてエンティティを追加します。
   ○ 事業部門
   ○ 部門
   ○ ベンダー
   ○ 製品
   ○ ビジネスプロセス
   ○ ビジネスアプリケーション
   ○ 場所

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 各種法令・基準等
- ポリシー

監査タイプ

監査には多数のタイプがあり、各監査タイプには監査エンゲージメントでの固有の用途があります。

監査タイプ	説明
内部監査	内部監査は、会社の内部コントロール、コーポレートガバナンス、および会計プロセスをチェックします。
外部監査	外部監査は、組織によって準備された財務ステートメントの独立した調査です。
SOX 監査	サーベンスオクスリー (SOX) コンプライアンス監査は、会社が内部コントロールをどの程度適切に管理しているかを示すメトリクスです。SOX では特に情報セキュリティについて言及されていませんが、実用的な目的では、内部コントロールは財務データを処理するインフラストラクチャを扱うあらゆるタイプのプロトコルであると理解されています。
IT 監査	IT 監査は、組織の情報技術インフラストラクチャ、ポリシー、および運用の調査と評価です。
財務監査	財務監査は、組織の財務レポートおよび財務レポートプロセスの独立した客観的な評価です。財務監査の主な目的は、財務ステートメントが正確かつ完全であるという合理的な保証を規制当局、投資家、ディレクター、およびマネージャーに提供することです。
コンプライアンス監査	コンプライアンス監査は、組織が外部の法律、ルール、規制、または社内規則、コントロール、ポリシーや手順などの内部ガイドラインに従っていることを確認するための独立した評価です。
認定監査	認定監査は、正式な ISO 9001 認定を発行する前に、登録機関が ISO 9001 標準に準拠していることを検証するために実施する監査です。
規制監査	規制監査の目的は、プロジェクトが規制と標準に準拠していることを検証することです。
運用監査	運用監査では、効率性と有効性を高めるための改善の特定を目的として、組織がビジネスを行う方法を検査します。
継続的な監査	継続的な監査は、会計慣行、リスクコントロール、コンプライアンス、情報技術システム、およびビジネス手順を継続的に調査する内部プロセスです。通常、継続的な監査はテクノロジー主導型で、エラーチェックとデータ検証をリア

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

監査タイプ	説明
	ルタイムで自動化するように設計されています。
ベンダー監査	ベンダー監査は、2 つのエンティティ間の契約または合意の規約、条件および意図に対する請負会社またはベンダーのコンプライアンスの客観的なアセスメントを達成することを目的として会社に対して実施されます。
顧客監査	顧客監査は、会社が顧客によってどのように認識されているかを詳細にレビューし、各顧客のニーズをレビューして、顧客の各ビジネスで会社が果たしている役割を評価します。
ストア監査	ストア監査は、ハードデータを使用して小売業の拠点の健全性を評価します。小売業者、スタッフ、またはサードパーティが、ストアやポップアップショップを調べて、順調に動作および販売されているものとそうでないものに関する情報を収集します。
品質監査	品質監査は、内部または外部の品質監査人または監査チームによって実施される品質システムの体系的な調査のプロセスです。
プロジェクト監査	プロジェクト監査は、プロジェクトの正式なレビューであり、多くの場合、プロジェクト管理標準がどの程度維持されているかを評価します。監査は通常、特別に指定された監査部門、プロジェクトマネジメントオフィス、承認された管理委員会、または外部監査人によって実施されます。

自動翻訳

マイルストーンを管理する

マイルストーンは、エンゲージメントの進捗状況を追跡するために使用できます。

エンゲージメントのマイルストーンを作成した後、マイルストーンに監査タスクを追加し、それらのタスクをマイルストーンとして追跡することもできます。マイルストーンを担当するユーザーにマイルストーンをアサインできます。ユーザーがマイルストーンにアサインされると、アサインを知らせる通知が送信されます。マイルストーンがアサインされたユーザーには sn_audit.user ロールが必要です。エンゲージメントが [フォローアップ] ステータスに移行し、オープンな監査タスク、オープンなマイルストーン、およびオープンな観察事項がない場合、エンゲージメントは [クローズ済み] ステータスに移行します。

エンゲージメントからマイルストーンを作成した後、次に移動してマイルストーンを管理できます: 監査 > マイルストーン > 自分のマイルストーン.

エンゲージメントマイルストーンを作成する

エンゲージメントのマイルストーンを作成して、エンゲージメントの進捗状況を追跡します。マイルストーンに監査タスクを追加することもできます。

始める前に
Advanced Audit プラグインを有効にします。

必要なロール：sn_audit.manager

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > エンゲージメント.
2. マイルストーンを作成するエンゲージメントを開きます。
3. [マイルストーン] 関連リストをクリックします。
4. [新規] をクリックします。
5. フォームのフィールドに入力します。

マイルストーンフォーム

フィールド	説明
番号	マイルストーンの一意の番号。この番号は自動的に生成されます。
タイプ	監査マイルストーンタイプ。以下から選択可能です。 ○ スコーピング ○ 計画 ○ フィールドワーク ○ フォローアップ ○ レポート ○ クローズ
名前	マイルストーンの名前。
アサイン先グループ	マイルストーンを担当するグループ。グループメンバーには、sn_audit.user ロールが必要です。
アサイン先	マイルストーンの作業担当者。
状況	マイルストーンのステータス。デフォルトのステータスは [オープン] です。
完了率 (%)	マイルストーン完了率。このフィールドに値を入力すると、ステータスが [対応中] に変わります。
親	マイルストーンの親エンゲージメント。
主要マイルストーン	マイルストーンを重要としてマークするオプション。
オートコンプリートとクローズ	関連付けられたすべての監査タスクが完了してクローズされたときに、マイルストーンを完了してクローズとしてマークするオプション。このオプションが有効になると、完了してクローズとしてマークされたタスクの数に応じて完了率が自動的に更新されます。
説明	マイルストーンの簡単な説明。
スケジュール	
期日	マイルストーンの予定完了日。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
完了日	マイルストーンの実際の完了日。
クローズ日	マイルストーンの実際のクローズ日。
アクティビティ	
作業メモ	マイルストーンの作業メモ。
追加コメント (顧客に表示)	マイルストーンに関連するコメント (存在する場合)。

6. フォームを保存します。
   [監査タスク] 関連リストが表示されます。
7. メンバーの編集フォームで、必要な監査タスクを [コレクション] 列の利用可能な監査タスクから [監査タスクリスト] 列に移動し、[保存] をクリックします。
   マイルストーンが作成されます。

監査タスクからマイルストーンを作成する

監査タスクをマイルストーンとして作成して追跡します。

始める前に
必要なロール：sn_audit.manager

手順
1. 移動先 すべて > 監査 > マイルストーン > すべてのマイルストーン
2. 追跡する監査タスクを含むマイルストーンを開きます。
3. [監査タスク] 関連リストから、追跡する監査タスクを開きます。
4. [マイルストーンとして追跡] をクリックします。
   マイルストーンが作成され、タスクがマイルストーンに追加されます。

監査観察事項

監査観察事項は監査の結果です。監査観察事項は、監査レポートの重要な部分として、レビュー、分析、面談、およびディスカッションの結果を表します。

監査観察事項は、重大な問題に監査マネージャーの注意を引くために使用されます。観察事項はシステムのログに記録されます。たとえば、銀行の業務が監査されている場合、監査観察事項は、銀行の業務が監査基準に照らしてどのように行われているかについての証拠に基づいています。コントロールテスト、面談、およびチュートリアル中に、監査観察事項が記録されます。監査ユーザーは、エンゲージメントが [フォローアップ] または [クローズ済み] 状況でない場合、エンゲージメントから観察事項を作成できます。観察事項は、すべてのタイプの監査タスクから作成することもできます。

監査人が監査を完了すると、監査人は監査マネージャーに監査観察事項を提示します。監査人は、監査観察事項を使用して、問題、検出、および推奨事項のサマリーを提示できます。監査チームは、観察事項をレビューして、その観察事項が報告可能な問題であるかどうかを判断します。監査チームは、観察事項を推奨事項、観察事項、またはベストプラクティスとして追跡できるかどうかを決定することもできます。

ライフサイクルでは、監査観察事項は次の状況に移行します。

1. ドラフト
2. レビュー
3. 応答

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

4. 確定
5. クローズ済み

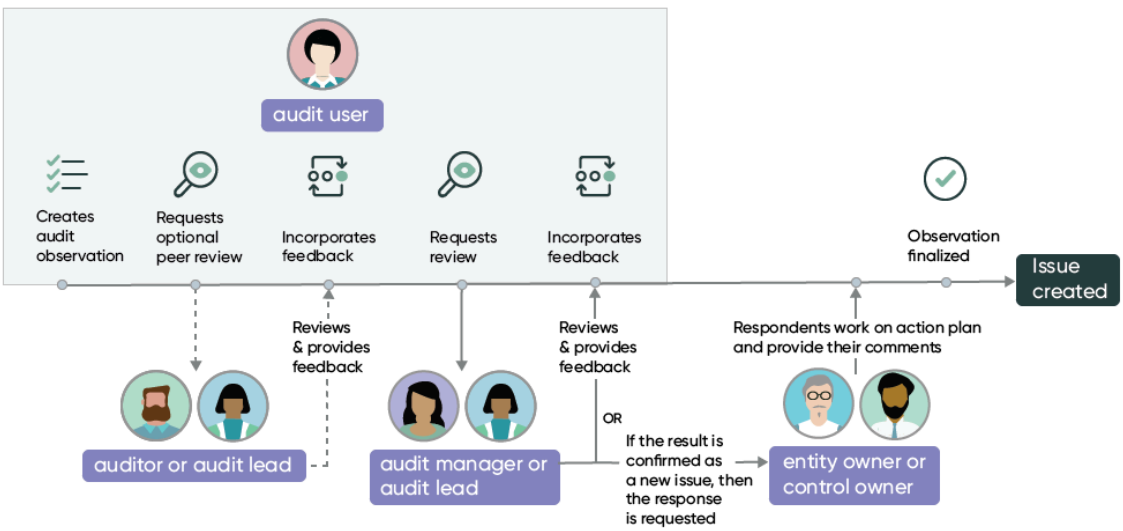
観察事項のワークフローは次のとおりです。

1. sn_audit.user ロールを持つ監査ユーザーが観察事項を作成します。
2. 観察事項の作成者は、回答者とピアレビュー担当者を観察事項にアサインします。回答者はエンティティオーナーとコントロールオーナーです。ピアレビュー担当者は、エンゲージメントの監査人および監査リーダーです。
3. 観察事項の作成者は、観察事項のピアレビューを要求できます。その場合、次のようになります。
   a. ピアレビュー担当者は、ピアレビューを実行するための通知を受信します。ピアレビュー担当者は、以下でタスクを表示できます。 監査 > 観察事項 > 自分のピアレビュー待ち.
   b. ピアレビュー担当者がレビューを完了します。

   注:
   ピアレビューが要求されると、ステータスは [ドラフト] のままになりますが、サブステートは [ピアレビューが要求されました] サブステートに変わります。

4. 観察事項の作成者は、レビューを要求することもできます。レビュー担当者は、監査マネージャーまたは監査リーダーになることができます。
   a. レビュー担当者は、レビューを実行するための通知を受信します。レビュー担当者は、以下の項目でタスクを表示できます。 監査 > 観察事項 > 自分の処理待ちのレビュー.
   b. レビュー担当者は、観察事項の改訂を要求するか、回答者からの応答を要求することができます。レビュー担当者は、適切なオプションを選択して [結果] セクションでフィードバックを提供することもできます。
5. レビュー担当者が回答者からの応答を要求した場合、回答者は次の場所に移動して観察事項に応答します 監査 > 観察事項 > 自分の応答待ち.
6. 観察事項が [確定] ステータスに移行します。
7. 観察事項がクローズされ、問題が作成されます。

監査観察事項ワークフロー



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンゲージメントの経費とリソースをロールアップする

監査プロジェクトには、関連付けられたコスト、予算、およびリソースがあります。これらのコスト、予算、およびリソースのロールアップでは、監査マネージャーは全体のコストとリソースを統合された方法で表示できます。

新しいリリースから、監査管理 アプリケーションに Advanced Audit と呼ばれる新しいプラグインが導入されました。Advanced Audit プラグインを有効にして プロジェクトポートフォリオ管理 アプリケーションをインストールすると、プロジェクト管理機能を活用してエンゲージメントプロジェクトを自動的に作成できます。

監査計画を作成する場合、監査マネージャーはエンゲージメントに関与するすべての経費とリソースを表示できる必要があります。Advanced Audit プラグインを有効にすると、統合ビューのすべてのエンゲージメントの経費とリソースコストをロールアップできます。詳細計画機能を使用して、個々のエンゲージメントの経費とリソースをエンゲージメントの親計画に自動的にロールアップすることもできます。

プロジェクト予算のロールアップ

エンゲージメントプロジェクトが自動的に作成された後、ユーザーが it_portfolio_manager ロールを持っている場合、ユーザーはプロジェクト予算を作成できます。予算が作成されると、予算コストがエンゲージメントプロジェクトからエンゲージメントの [予算経費] フィールドにコピーされます。詳細計画機能を使用して自動的に計画を作成すると、関連付けられたエンゲージメントとエンゲージメントプロジェクトから [経費] フィールドと [リソース] フィールドの値がロールアップされます。プロジェクト予算を割り当てるには、「プロジェクトへの予算の割り当て」を参照してください。プロジェクト予算を割り当てると、予算コストフィールドのデータがエンゲージメントにコピーされます。たとえば、予算経費が 100 ドルのエンゲージメントがあるとします。次に、このエンゲージメントのエンゲージメントプロジェクトのプロジェクト予算を作成し、予算コストを 200 ドルとして入力すると、エンゲージメントの予算経費 100 ドルが上書きされ、200 ドルに置き換えられます。

実際の経費とリソースのロールアップ

エンゲージメントプロジェクトで実績工数が更新されると、その値がエンゲージメントの実際のリソースにコピーされます。[実際のリソース] と [実際の経費] の両方が [実績工数] および [実績コスト] フィールドからコピーされます。

リソース計画のロールアップ

プロジェクトポートフォリオ管理 を使用すると、リソース計画とコスト計画をエンゲージメントに追加できます。詳細計画を使用してエンゲージメントを作成する方法については、「詳細計画を使用してエンゲージメントを作成する」を参照してください。

リソース計画を作成し、それが [割り当て済み] ステータスになると、リソース計画のすべての確認済みおよび割り当て済みの時間が、エンゲージメントプロジェクトの予定リソースに合計されます。リソース計画が作成されると、値が自動的にロールアップされるため、エンゲージメントフォームの [予定リソース] フィールドに時間を手動で入力することはできません。[予定リソース] フィールドに時間を手動で入力するには、作成したリソース計画を削除する必要があります。

コスト計画のロールアップ

リソース計画の結果として作成されていない独立したコスト計画を作成する場合、エンゲージメントフォームの [予定経費] フィールドに手動で値を入力することはできません。[予定リソース] フィールドは引き続き編集できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

監査管理 と タイムカード 管理の統合

監査ユーザーと監査マネージャーは、タイムカード 管理機能を使用して、エンゲージメントとエンゲージ上のその他のタスクの時間をログ記録および取得できるようになりました。

タイムカード 管理機能を使用すると、ユーザーはアサインされたタスクの時間を提示および追跡できます。タイムカード管理機能では：

- タイムカードユーザーは、タイムカードとタイムシートを使用して、タスクの作業時間を記録できます。ユーザーは、タイムカードとタイムシートを承認のために送信できます。
- タイムカードとタイムシートは承認のために、ユーザータイムシートポリシーの [プロジェクト以外の時間の承認者] フィールドに基づいてルーティングされます。タイムカード承認者ロールを持つマネージャーは、時間を記録し、リソースのタイムシートを送信することもできます。

監査管理 を タイムカード 管理と統合すると、次のタイムカードをレポートできます。

- エンゲージメント
- 監査タスク
- 問題
- マイルストーン

タイムカード 管理機能と GRC Advanced Audit の統合を使用するには、次のプラグインを有効にする必要があります。

- プロジェクトポートフォリオ管理
- GRC：Advanced Audit

注:
エンゲージメントの詳細計画を有効にする必要があります。

監査ユーザーがタイムカードを使用して時間を記録すると、タイムシートポリシーで定義された承認者に基づいてタイムカードが承認のために送信されます。タイムシートポリシーの詳細については、「タイムシートポリシー」を参照してください。

注:
承認者が指定されていないか、ユーザーにアサインされたタイムシートポリシーの [プロジェクト以外の時間の承認者] フィールドで [なし] が選択されている場合、[タイムカード承認者] フィールドのユーザーはそのエンゲージメントに関連付けられたタイムカードを承認できます。[プロジェクト以外の時間の承認者] フィールドで [ユーザーマネージャー] または [自動] が選択されている場合、承認者は上書きされずにそのまま残ります。タイムカードの承認に必要なロールの詳細については、「詳細計画機能に必要なロール」を参照してください。

タイムカードを作成するには、「タイムカードを作成する」を参照してください。

ユーザーは、エンゲージメントにアクセスすることなく、タイムシートポータルから直接タイムカードを送信できます。タイムカードを送信するには、「タイムカードを送信する」を参照してください。タイムシートポータルからタイムカードを送信するには、「タイムシートポータル からタイムカードを送信する」を参照してください。

タイムカードおよび経費とリソースのロールアップ

バージョン 12.0.1 の 監査管理 のリリースでは、エンゲージメントにプロジェクトが関連付けられている場合、タイムカードが承認され、経費ラインが処理された後、[実際のリソース] と [実際の経費] の両方の値がエンゲージメントにロールアップされます。エンゲージメントのプロジェクトを作成する前にタイムカードを作成して時間を記録することはできますが、プロジェクトの作成後にタイムカードを作成することをお勧めします。このタスクにより、経費とリソースの正確なレポートが保

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

証されます。[タイムカード] 関連リストは、プロジェクトが作成された後にのみエンゲージメントに表示されます。

関連情報

詳細計画機能に必要なロール

監査ワークスペース

監査ワークスペースは、監査スーパーバイザーと監査人が全体的な監査のタイムラインとステータスを表示し、エンゲージメントの予算とリソースを追跡して、優先度の高い観察事項と問題をトレースし、継続中のコントロールテストと監査タスクの進捗状況を監視するための単一ペインビューです。

新しい 監査ワークスペース のハイライト

ワークスペースは、新しいユーザーエクスペリエンスを提供します。

- 監査スーパーバイザーおよび監査人のデフォルトのホームページには、アクション可能なインサイトとクイックリンクが表示されます。
- 各ユーザーのニーズに基づいてモジュールを一覧表示する体系的ナビゲーションメニュー。
- 開業医、ビジネスユーザー、およびエグゼクティブ向けのエクスペリエンスが改善された、デザインし直されたページレイアウト。
- 全体的なビューと、表示されている内容に固有のアクション可能なインサイトを提供するレコードページ。
- スコアと評価を検討し、レコードの企業全体のデータ関係を視覚化するための 360 度ビュー。

監査スーパーバイザーのビュー

監査スーパーバイザーは、ワークスペースを使用して次のことができます。

- 計画とエンゲージメントを定義する
- 予算とリソースをエンゲージメントにアサインする
- エンゲージメントの進捗状況を追跡する

監査人ビュー

ワークスペースを使用する監査人は、次のことができます。

- コントロールの有効性をテストする
- 証拠を要求する
- 観察事項を作成する
- すべての監査アクティビティを完了する

監査スーパーバイザー向け 監査ワークスペース

監査スーパーバイザーは、計画に従って内部監査を整理および管理します。

監査スーパーバイザーワークスペースの概要

監査ワークスペースは、監査スーパーバイザーが作業をより適切に管理できるようにパーソナライズされたエクスペリエンスを提供します。監査タスクをより適切に遂行するのに役立つ 4 つの主要なセクションがあります。

概要

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

監査のタイムラインと概要を提供します。

追跡中

監査タスク、問題、観察事項のサマリーを提供します。

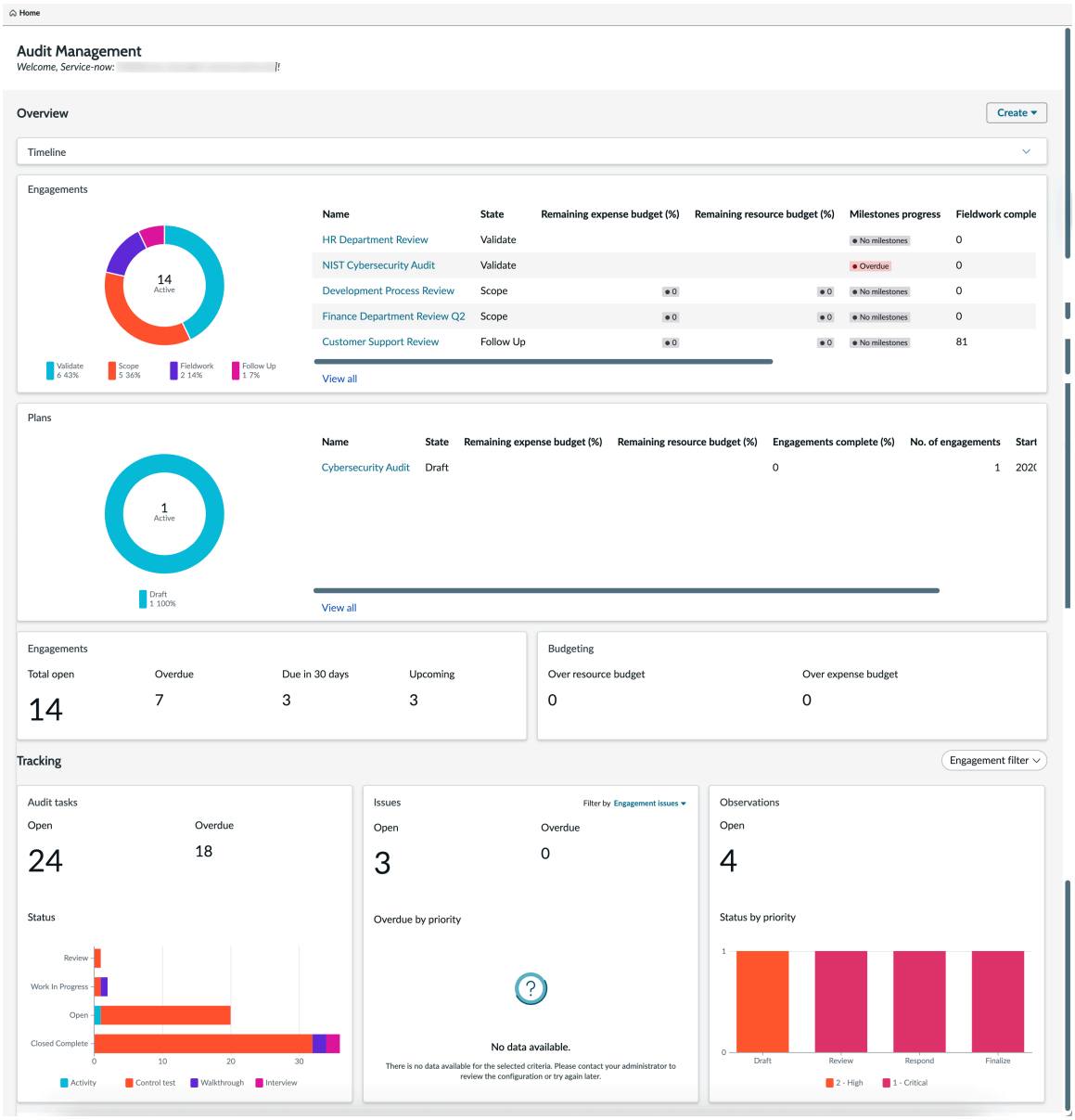
監査をオープン

オープンな計画とエンゲージメントの詳細を提供します。

タスク

ログインしているユーザーのタスクとグループのタスクのサマリーを提供します。

監査スーパーバイザーのワークスペース

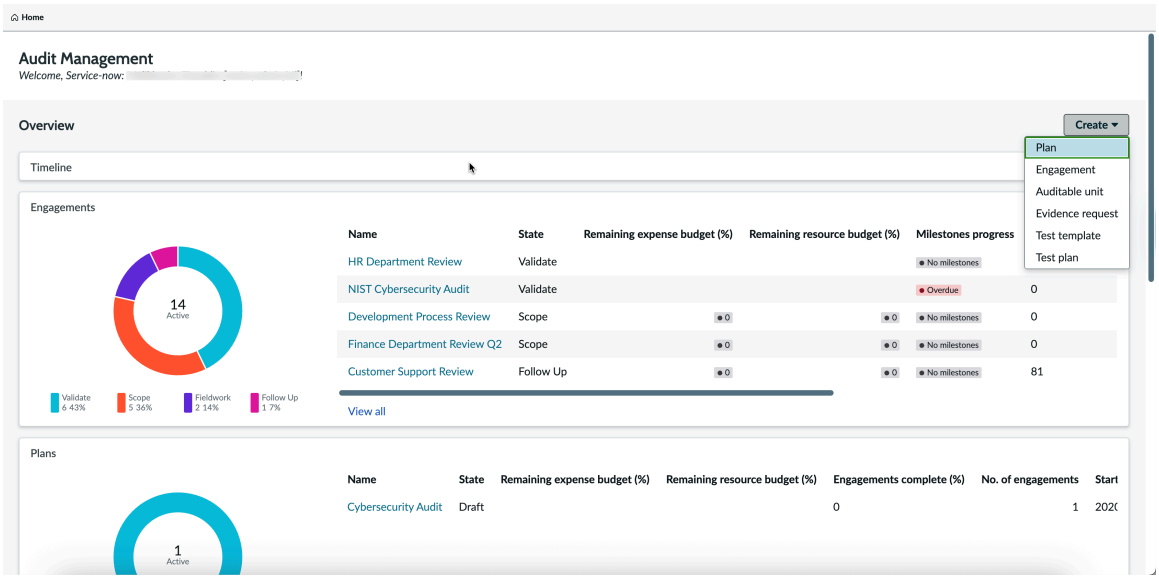


監査スーパーバイザーのワークスペースには、新しいレコードを作成するためのクイックリンクも用意されています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

監査スーパーバイザーのレコードを作成するためのリンク



監査スーパーバイザーの責任には、監査のプロセスの監督、ポリシーに関する推奨事項の作成、組織による国際的および政府のコンプライアンス義務の履行の確保が含まれます。

監査スーパーバイザーのタスク

次の表に、監査スーパーバイザーとしてのロールで実行する主なタスクを一覧します。

監査スーパーバイザーのタスク

アクティビティ	タスク
監査プログラムを計画およびスケジュールし、承認のために計画を送信します。	計画を作成
計画を承認します。	計画を承認
監査エンゲージメントを作成し、進捗状況を監視します。	監査エンゲージメントを作成
リスクアセスメントを実行し、リスク評価に基づいて監査可能単位とエンティティをスコーピングします。	監査可能単位を作成しリスクのあるエンティティをスコーピングする
コントロールテスト手順を文書化するテスト計画を作成します。内部コントロールプロセスを評価するためのチュートリアルと面談を調整します。	• テストテンプレートを作成する • テスト計画を作成する
監査の観察事項、問題をレビューし、それらをフォローアップします。	• エンゲージメントの問題を作成 • エンゲージメントの観察事項を作成
監査エンゲージメントをレビューして承認します。	エンゲージメントの承認または却下
監査に基づいて推奨事項とレポートを作成し、これらのアイデアを上級アドミニストレーターに提示します。	エンゲージメントのレポートを生成

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

監査ワークスペースにテストテンプレートを作成する

テストテンプレートを作成し、それを使用して、同じテスト基準の多くを適用するテスト計画を作成します。

始める前に

必要なロール：
sn_audit.manager、sn_audit_ws.supervisor、sn_audit.user、sn_audit_ws.auditor

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査ワークスペース.
2. [作成] をクリックして、[ホーム] ページから [テストテンプレート] を選択します。
   監査ワークスペースリストページに移動して、テストテンプレートを作成することもできます。
   a. リストアイコン ( ) をクリックします。
   b. 実行リストで [テストテンプレート] をクリックします。
   c. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

新しいテストテンプレートフォームを作成

フィールド	説明
番号	一意の識別番号。
名前	テストテンプレートの名前。
コントロール目標	コントロールテストのガイダンスとして機能する目標。
期間	日、時、分、秒単位でのテストの期間。
設計テスト	
想定設計	コントロールが効果的であるために適合する必要がある基本要件。
設計評価手順	コントロールの設計が、コントロール目標を達成するために効果的かどうかを判断するために従う必要がある手順またはステップ。これは、想定設計に基づいています。
運用テスト	
想定運用	コントロール目標を達成するためにコントロールが効果的に動作していることを確認するために適合する必要がある想定。
運用評価手順	コントロールが正常に動作していると判断するために実行する必要がある、想定運用を遂行するための詳細なステップ。

4. [保存] をクリックします。
5. ビジネスに影響する異なるタイプの重大な監査データ間の関係を視覚的に調べるには、**[360** 度ビュー] ボタンをクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. 作成したテストテンプレートのコンテンツに関連付けられたすべてのテスト計画を更新するには、[すべて更新] ボタンをクリックします。
7. テスト計画がまだ存在しない場合に、テストテンプレートのように、コントロール目標に関連するすべてのコントロールのテスト計画を作成するには、[すべてのコントロールのテスト計画を作成] ボタンをクリックします。

監査ワークスペース でテスト計画を作成する

コントロールテスト手順を文書化するテスト計画を作成します。テスト計画は、最初から作成することも、テストテンプレートを基に作成して、機能をどのようにテストするかを示すこともできます。

始める前に

必要なロール：
sn_audit.manager、sn_audit_ws.supervisor、sn_audit_ws.auditor、sn_audit.user

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査ワークスペース.
2. [作成] をクリックして、[ホーム] ページから [テスト計画] を選択します。
   監査ワークスペースリストページに移動して、テスト計画を作成することもできます。
   a. リストアイコン ( ) をクリックします。
   b. 実行リストで [テスト計画] をクリックします。
   c. [新規] をクリックします。

   [検証] または [フィールドワーク] ステータスのエンゲージメントからテスト計画を作成するには、テスト計画を選択し、[テスト計画] 関連リストで [コントロールテストを生成] ボタンをクリックします。
3. テスト計画のコンテンツをテストテンプレートのコンテンツに変更するには、[テンプレートに戻す] ボタンをクリックします。
4. フォームのフィールドに入力します。

新しいテスト計画の作成フォーム

フィールド	説明
番号	一意の識別番号。
名前	テスト計画の名前。
コントロール	このテスト計画がカバーするコントロール。
エンティティ	エンティティは、[コントロール] フィールドで選択された値に基づいて自動入力されます。
テストテンプレート	関連テストテンプレート。 テストテンプレートを選択すると、[設計テスト] セクションと [運用テスト] セクションのすべてのフィールドにテストテンプレートの値が入力されます。
期間	テストの予定期間。
設計テスト	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
想定設計	コントロールが効果的であるために適合する必要がある基本要件。
設計評価手順	コントロールの設計が、コントロール目標を達成するために効果的かどうかを判断するために従う必要がある手順またはステップ。これは、想定設計に基づいています。
運用テスト	
想定運用	コントロール目標を達成するためにコントロールが効果的に動作していることを確認するために適合する必要がある想定。
運用評価手順	コントロールが正常に動作していると判断するために実行する必要がある、想定運用を遂行するための詳細なステップ。

5. [保存] をクリックします。
6. ビジネスに影響する異なるタイプの重大な監査データ間の関係を視覚的に調べるには、**[360** 度ビュー] ボタンをクリックします。

監査ワークスペース で計画を作成する

定期的な方法でさまざまなタイプの監査を管理し、論理的な方法でエンゲージメントをグループ化する計画を作成します。

始める前に

Advanced Audit プラグイン (com.sn_audit_advanced) を有効にします。

必要なロール：sn_audit_ws.supervisor または sn_audit.manager

このタスクについて

監査計画が作成され、エンゲージメントが計画に追加されると、その計画は承認のために承認者に送信されます。

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査ワークスペース > 計画 > すべての計画.
2. オプション: または、 監査 > 監査ワークスペース > 計画 > 自分の計画.
3. **[New** (新規)] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

計画フォーム

フィールド	説明
番号	計画の一意の番号。
名前	計画の名前たとえば、給与の年次監査計画などです。
タイプ	計画のタイプ。以下から選択可能です。 ○ なし ○ 内部監査計画

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ 外部監査計画 ○ SOX 監査 ○ コンプライアンス監査計画 ○ ベンダー監査計画 ○ 顧客監査計画
状況	計画の状況デフォルトのステータスは [ドラフト] です。
サブステート	計画のサブステート。このフィールドの値は、ワークフローに基づいて変更されます。
説明	計画の簡単な説明。
達成目標	計画の目標。
スケジュール	
解決までの期限	計画の期間。選択肢は次のとおりです。 ○ 年ごと ○ 半年ごと ○ 四半期 ○ その他
開始日	計画の開始日。
終了日	計画の終了日。このフィールドは、[解決までの期限] フィールドでの選択に基づいて自動的に設定されます。[解決までの期限] フィールドが [その他] である場合は、終了日を手動で入力します。
アサイン	
所有グループ	計画の所有を担当するグループ。
オーナー	計画オーナー。
承認者	計画を承認する必要があるユーザー。
経費	
予算経費	計画に基づくエンゲージメントに割り当てられた予算。
予定経費	エンゲージメントからの計画経費のロールアップ。
実際の経費	エンゲージメントからの実際の経費のロールアップ。
経費メモ	経費の詳細に関するメモ。
リソース	
予算リソース	計画に基づくエンゲージメントに割り当てられた時間数。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
予定リソース	エンゲージメントからの計画リソースのロールアップ。
実際のリソース	エンゲージメントからの実際のリソースのロールアップ。
リソースメモ	リソースの詳細に関するメモ。
アクティビティ	
作業メモ	この計画に関するメモ。これらのメモは内部使用向けで、顧客には表示されません。
追加コメント (顧客に表示)	計画に関する追加コメントは、顧客に表示されます。

5. フォームを保存します。
   [概要] ページのステッパーで、計画プロセスフローの進行に合わせて計画の状況を監視できます。
6. [エンゲージメント] 関連リストで、次のいずれかの操作を行います。
   - エンゲージメントを追加するには、[新規] を選択します。
   - 既存のエンゲージメントを追加するには、[追加] を選択します。
7. [承認を要求] を選択します。
   ステータスが [ドラフト] から [承認待ち] に変わります。

タスクの結果
計画が承認のために承認者に送信されます。計画が承認されると、フォームの [承認者] フィールドと [承認日] フィールドに値が自動的に設定されます。

監査ワークスペース で監査エンゲージメントを作成する

ワークスペースでエンゲージメントを作成し、監査スーパーバイザーにアサインします。ワークスペースを使用して、エンゲージメントをスケジュールし、詳細を計画して、経費を予算計上します。

始める前に
必要なロール：sn_audit.manager、sn_audit_ws.supervisor

このタスクについて
監査スーパーバイザーは、エンゲージメントを作成して、監査情報を管理し、その監査に関連するエンティティ、コントロール、およびコントロールテストを収集できます。監査エンゲージメントを監督し、その実行を監視して、指定された時間に完了されていることを確認します。

手順
1. 移動先 すべて > 監査 > 監査ワークスペース.
2. [作成] リストを選択して、[ホーム] ページから [エンゲージメント] を選択します。
   監査ワークスペースリストページに移動して、エンゲージメントを作成することもできます。
   a. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
   b. [実行] リストで [すべてのエンゲージメント] または [自分のエンゲージメント] を選択します。
   c. [新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

新しいエンゲージメントの作成フォーム

フィールド	説明
番号	エンゲージメントの一意の識別番号。
名前	エンゲージメントの名前。
タイプ	エンゲージメントでの特定の使用に基づく監査タイプ。
状況	エンゲージメントの進捗状況。デフォルトのステータスは [スコープ] です。
フィールドワーク完了率 (%)	完了したエンゲージメントの割合。
説明	エンゲージメントの一般的な説明。
達成目標	エンゲージメントの表明された目標。
アサイン	
エンゲージメントリード	指示に従ってエンゲージメントを監督および完了する監査スーパーバイザー。
監査人	エンゲージメントにアサインされた監査人。
承認者	エンゲージメントにアサインされた承認者。
エンゲージメントスケジュール	
フィールドワーク開始予定	エンゲージメントの予定開始日。
フィールドワーク終了予定	エンゲージメントの予定終了日。
フィールドワーク予定期間	フィールドワークの予定日数と時間。フィールドワークの期間と開始予定日は、終了予定日を計算するために使用されます。監査タスクが定義されている場合、このフィールドは監査タスクの最長計画期間に自動的に設定されます。
フィールドワークの実際の開始	フィールドワークの実際の開始日。監査タスクが定義されている場合、このフィールドは監査タスクの最も早い実際の開始日に自動的に設定されます。
フィールドワークの実際の終了	フィールドワークの実際の終了日。監査タスクが定義されている場合、このフィールドは監査タスクの最新の実際の終了日に自動的に設定されます。
フィールドワークの実際の期間	フィールドワークの開始日から終了日までの期間。
計画の詳細	
親計画	エンゲージメントに関連付けられる計画。
開始日	計画の開始日。
終了日	計画の終了日。
経費とリソース	
予算経費	エンゲージメントの計算済み経費。
予定経費	エンゲージメントの推定経費。
実際の経費	発生した実際の経費。
予算リソース	エンゲージメントのための予算リソース (日、時間、分、秒)。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
予定リソース	エンゲージメントのための推定リソース (日、時間、分、秒)。リソース計画が定義されている場合、このフィールドは自動的に設定されます。
実際のリソース	エンゲージメントのための実際のリソース (日、時間、分、秒)。
結果	
結果	エンゲージメントの結果。選択肢は次のとおりです。 ○ 良好 ○ 適切 ○ 不適切
意見	選択した結果の正当性。
レポート	
テンプレートタイプ	エンゲージメントレコードの監査レポートを生成するために使用されるテンプレートのタイプ。 ○ クラシックレポートテンプレート:エンゲージメントレコードが [フォローアップ] または [クローズ済み] ステータスの場合、HTML、スクリプト、XML などのクラシックレポートテンプレートを使用してレポートを生成します。 詳細については、「監査レポートテンプレートをクラシック形式で作成する」と「クラシックレポートテンプレートでエンゲージメントのレポートを生成する」を参照してください。 ○ Word レポートテンプレート:エンゲージメントレコードが [検証]、[フィールドワーク]、または [フォローアップ] ステータスの場合、 Microsoft Word テンプレートを使用してレポートを生成します。 詳細については、「Microsoft Wordテンプレートを使用してエンゲージメントの監査レポートを生成する」を参照してください。 [レポートを生成] ボタンは、各 [テンプレートタイプ] で言及されているステータスのエンゲージメントレコードでのみ使用できます。一度に 1 つのレポートのみ生成できます。
レポートテンプレート	エンゲージメント結果を報告するナレッジベース記事を生成するために使用されるテンプレート。 このフィールドは、Word レポート生成後の参照フィールドです。
レポートのナレッジベース	使用するナレッジベース。
レポート	添付ファイルを表示する参照フィールド。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: この添付ファイルフィールドには、Word テンプレートがクラウド対応の場合は URL が含まれ、Word テンプレートがクラウド対応でない場合はシステム添付ファイルが含まれます。 さらに、レポートは添付ファイルとしてエンゲージメントレコードにも添付されます。添付ファイルアイコン (を選択すると、Word ドキュメントを表示またはダウンロードできます。クラウドベースのレポートの場合、レポートはクラウドファイルにも存在します。
アクティビティ	
追加コメント	顧客も表示できるコメント。
作業メモ (プライベート)	アドミニストレーターと監査スーパーバイザーのみが表示できるコメント。
機密性	
機密	レコードの機密性を有効にするオプション。アサインされた機密ユーザーまたはユーザーの機密グループのみがレコードにアクセスできます。 機密オプションの詳細については、「監査およびコンプライアンスレコードの機密性フラグ」を参照してください。

注:

- エンゲージメントレコードの作成時に [テンプレートタイプ] フィールドで [クラシックレポートテンプレート] オプションを選択した場合、レポートは HTML、スクリプト、または XML テンプレートを使用して作成されます。詳細については、「監査レポートテンプレートをクラシック形式で作成する」を参照してください。
- エンゲージメントの作成時に [テンプレートタイプ] フィールドで **[Word** レポートテンプレート] オプションを選択した場合、レポートは Word テンプレートを使用して作成されます。詳細については、「Microsoft Wordテンプレートを使用してエンゲージメントの監査レポートを生成する」を参照してください。

4. [保存] を選択します。
   監査エンゲージメントに関与するエンティティを定義できます。
5. [概要] ページで、[その他の問題] タブを選択します。
   作成したエンゲージメントに 1 つ以上の関連する既存の問題を追加できます。既存の問題をエンゲージメントにマッピングすることで、オープンな問題の数を減らすことができます。

   a. [追加] ボタンを選択します。

   b. [問題] ポップアップから関連する問題を選択します。

   c. [追加] を選択します。
      選択した問題は、関連する問題としてエンゲージメントに追加され、エンゲージメントの問題 [sn_grc_m2m_issue_engagement] テーブル内のエンゲージメントと問題の間に m2m 関係が

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

作成されます。[新規] ボタンを選択して、[新しい問題を作成 (Create New Issue)] フォームに移動し、エンゲージメントの問題を作成することもできます。

d. エンゲージメントにマッピングされている問題を削除するには、問題を選択して [削除] をクリックします。
削除アクションでは、m2m テーブル内のエンゲージメントと問題の間のマッピングまたは関連付けのみが削除され、問題レコードは削除されません。

> **注:**
> エンゲージメントが [廃止] ステータスの場合、[新規]、[追加]、[削除] などの UI アクションボタンは使用できません。

概要ページからのエンゲージメントの管理

説明、日付、スコープ、目標などの基本情報を含むエンゲージメントを作成して保存すると、概要ページが表示されます。

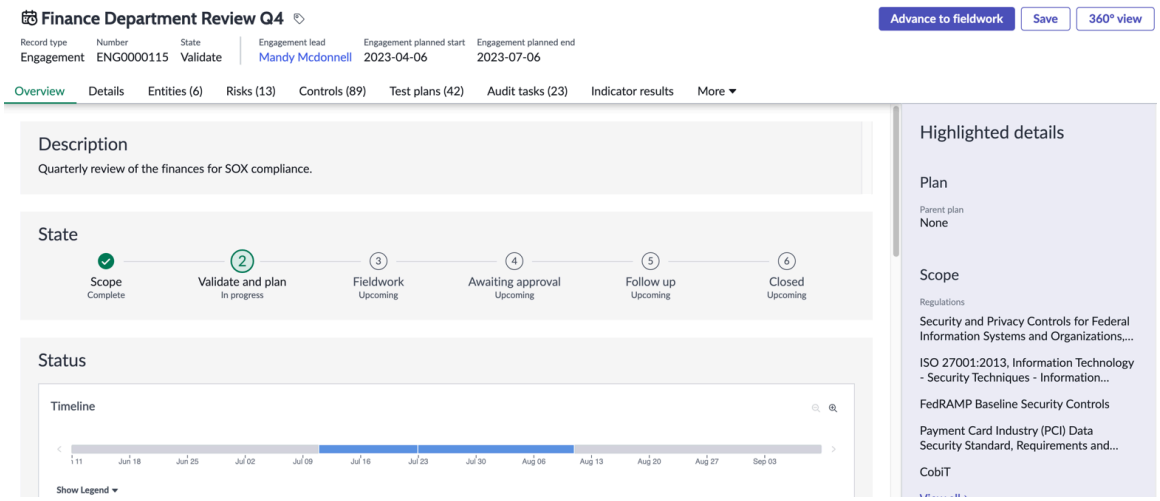
監査エンゲージメントの概要ページ

概要ページを使用して、必要な詳細を確認し、ステッパーで監査エンゲージメントの状況フローを監視します。次のことが可能です。

- 監査エンゲージメントを定義する
- チームメンバーをエンゲージメントにアサインする
- フィールドワークを実行してレビューする
- 問題を管理する
- 各種関連アイテムを使用して監査エンゲージメントを完了する

アイコンを選択すると、エンゲージメントのスコープが表示されます。

監査エンゲージメントの概要



監査可能単位を作成しリスクのあるエンティティをスコーピングする

監査可能単位を作成して、リスクのある可能性のあるビジネスエンティティを特定し、それらに監査をスコーピングします。

始める前に

必要なロール：
sn_audit.manager、sn_audit_ws.supervisor、sn_audit.user、sn_audit_ws.auditor

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
監査可能単位は、事業部門、製品またはサービス、法人、規制に必要な監査、プロセス、プログラム、システム、ポリシー、規制、財務ステートメントなどのさまざまなエンティティの組み合わせです。

監査可能単位の性質とスコープを決定した後の目標は、リスクアセスメントを実行し、リスク評価に基づいて監査可能単位とエンティティをスコーピングすることです。

「Perform advanced risk assessment in the Risk workspace (リスクワークスペースで高度なリスクアセスメントを実行)」も参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査ワークスペース.
2. [作成] をクリックして、[ホーム] ページから [監査可能単位] を選択します。
   監査ワークスペースリストページに移動して、監査可能単位を作成することもできます。
   a. リストアイコン () をクリックします。
   b. [スコーピング] リストで [すべての監査可能単位] または [自分の監査可能単位] をクリックします。
   c. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

新しい監査可能単位の作成フォーム

フィールド	説明
番号	監査可能単位の一意の番号。
名前	監査可能単位の名前。たとえば、買掛金 - 経理。
状況	監査可能単位のステータス。デフォルトのステータスは [ドラフト] です。
優先度	監査可能単位の優先度。
説明	監査可能単位の簡潔な説明。
アサイン	
所有グループ	監査可能単位を所有するグループ。
オーナー	監査可能単位のオーナー。
リスクアセスメント	
メソッド	監査可能単位のリスク評価を取得するリスクアセスメントのタイプ。以下から選択可能です。 ○ 基本リスクアセスメント：リスク評価の値を手動で入力できます。 ○ 詳細なリスクアセスメント：Advanced Audit プラグインが有効になっている場合に表示されます。このオプションを選択すると、[リスクアセスメント] 関連リストが表示されます。
リスク評価	基本リスクアセスメントから取得された監査可能単位のリスク評価。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
固有リスク評価	固有のリスクスコア。このフィールドの値は、高度なリスクアセスメントから導出されます。このフィールドは、リスクアセスメント方法が [詳細なリスクアセスメント] の場合に表示されます。
コントロール有効性	コントロール有効性スコア。このフィールドの値は、高度なリスクアセスメントから導出されます。このフィールドは、[方法] フィールドに [詳細なリスクアセスメント] がある場合に表示されます。
残存リスク評価	残存リスクスコア。このフィールドの値は、高度なリスクアセスメントから導出されます。このフィールドは、[方法] フィールドに [詳細なリスクアセスメント] がある場合に表示されます。

4. [保存] をクリックします。
5. 事業部門、部門、ベンダー、製品、ビジネスプロセスなどのエンティティを監査可能単位に追加するには、[詳細] ページでそれぞれの関連リストをクリックします。
6. それぞれのポップアップからレコードを選択します。
7. [追加] をクリックします。
8. [有効化] をクリックします。
   監査可能単位のステータスが [有効] になります。
9. 監査可能単位を廃止するには、[その他のアクション] アイコン (•••) の [廃止] ボタンをクリックします。
10. GRC：高度なリスクアプリケーションがインストールされていて、[リスクアセスメント方法] を [詳細なリスクアセスメント] として選択した場合は、 [リスクを評価] ボタンをクリックしてリスクを評価できます。
    詳細については、「監査可能単位を作成する」のリスクアセスメント方法を参照してください。

エンゲージメントのマイルストーンを作成する

エンゲージメントのマイルストーンを作成して、エンゲージメントの進捗状況を追跡します。マイルストーンに監査タスクを追加することもできます。

始める前に

必要なロール：sn_audit.manager、sn_audit_ws.supervisor

このタスクについて

マイルストーンは、エンゲージメントの進捗状況を追跡するために使用されます。

エンゲージメントのマイルストーンを作成した後、マイルストーンに監査タスクを追加することもできます。これらのタスクをマイルストーンとして追跡できます。

マイルストーンを担当するユーザーにマイルストーンをアサインできます。アサインされたユーザーには sn_audit.user ロールが必要です。アサインされたユーザーは、アサインに関する通知を受信します。

エンゲージメントが [フォローアップ] ステータスに移行し、オープンな監査タスク、オープンなマイルストーン、またはオープンな観察事項がない場合、エンゲージメントは [クローズ済み] ステータスに移行します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査ワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [実行] リストで [すべてのエンゲージメント] または [自分のエンゲージメント] を選択します。
4. [名前] 列のエンゲージメントレコードへのリンクを選択します。
5. [マイルストーン] タブを選択します。
6. [新規] を選択します。
7. フォームのフィールドに入力します。

新しいマイルストーンの作成フォーム

フィールド	説明
番号	マイルストーンの一意の番号。この番号は自動的に生成されます。
名前	マイルストーンの名前。
親	マイルストーンの親エンゲージメント。
タイプ	監査マイルストーンタイプ。以下から選択可能です。 ○ スコーピング ○ 計画 ○ フィールドワーク ○ フォローアップ ○ レポート ○ クローズ
状況	マイルストーンのステータス。デフォルトのステータスは [オープン] です。
完了率 (%)	完了したマイルストーンの割合。 このフィールドに値を入力すると、ステータスが [対応中] に変わります。
主要マイルストーン	マイルストーンを重要としてマークするオプション。
オートコンプリートとクローズ	関連付けられたすべての監査タスクが完了してクローズされたときに、マイルストーンを完了してクローズとしてマークするオプション。 このオプションを有効にすると、完了してクローズとしてマークされたタスクの数に応じて完了率が自動的に更新されます。
説明	マイルストーンの簡単な説明。
アサイン	
アサイン先グループ	マイルストーンを担当するグループ。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	グループメンバーは、sn_audit.user ロールをアサインされている必要があります。
アサイン先	マイルストーンの作業担当者。
スケジュール	
期日	マイルストーンの予定完了日。
完了日	マイルストーンの実際の完了日。
クローズ日	マイルストーンの実際のクローズ日。
アクティビティ	
追加コメント	顧客も表示できるコメント。
作業メモ (プライベート)	アドミニストレーターと監査スーパーバイザーのみが表示できるコメント。

8. [保存] を選択します。
   デフォルトの [概要] ページの [ステータス] バナー で、マイルストーンレコードの説明を確認し、そのステータスを監視できます。

監査ワークスペース での監査タスク管理

監査タスクはエンゲージメント全体を通じて完了し、組織が外部規制と内部ポリシーに準拠していることを示す文書化された証拠を提供します。

監査タスクは次のとおりです。

- コントロールテスト
- アクティビティ
- 面談
- チュートリアル

コントロールテストは、[検証] または [フィールドワーク] ステータスで生成してアサインできます。ただし、アクティビティ、面談、チュートリアルなどの他の監査タスクも スコープ ステータスで作成できます。

監査タスクが作成または再アサインされると、アサインされたユーザーに通知が送信されます。タスクが予定期間の 75% に達すると、通知が送信されます。

エンゲージメントからコントロールテストを作成する

定期的に実行されるコントロールテストを作成し、関連付けられたコントロールが正しく動作しているかどうかの証拠を文書化して提供します。

始める前に

必要なロール：sn_audit.manager、sn_audit_ws.supervisor

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査ワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [実行] リストで [すべてのエンゲージメント] または [自分のエンゲージメント] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

次のいずれかの状況にあるエンゲージメントに監査タスクをアサインします。

- 検証
- フィールドワーク

4. [名前] 列のエンゲージメントレコードへのリンクを選択します。
エンゲージメントレコードの詳細が [概要] タブに表示されます。
5. [監査タスク] 関連リストを選択します。
6. 関連リストの下にあるグループ化ボタンをクリックして、リストから [新しいコントロールテスト] を選択します。
7. フォームのフィールドに入力します。

新しいコントロールテストの作成フォーム

フィールド	説明
番号	一意の識別番号。
名前	コントロールテストの名前。
親	親エンゲージメント。
テスト計画	このコントロールテストに関連付けられたテスト計画。
状況	コントロールテストのステータス。デフォルトのステータスは [オープン] です。
コントロール有効性	コントロール有効性。
問題	このコントロールテストに関連する問題。
アサイン	
アサイン先	コントロールテストにアサインされたユーザー。
スケジュール	
開始予定日	コントロールテストの予定開始日。
終了予定日	コントロールテストの予定終了日。
計画された期間	コントロールテストの想定期間。実際の期間と同様に、計画された期間には合計アクティビティ時間が表示され、コントロールテストスケジュールが考慮されます。
実開始日	コントロールテストの実開始日。
実終了日	コントロールテストの実終了日。
実際の期間	コントロールテストの開始からコントロールテストの終了までのコントロールテストの期間。
設計テスト	
設計有効性	○ なし ○ 有効 ○ 無効

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
想定設計	コントロールが効果的であるために適合する必要がある基本要件。このフィールドで、コントロールがコントロール目標を達成するために適切に設計されたかどうかがチェックされます。
設計評価手順	コントロールの設計が、コントロール目標を達成するために効果的かどうかを判断するために従う必要がある手順またはステップ。この手順は想定設計に基づいています。
設計結果	設計アセスメント手順に基づくコントロールの設計のテスト結果。
運用テスト	
操作有効性	○ なし ○ 有効 ○ 無効
想定運用	コントロール目標を達成するためにコントロールが効果的に動作していることを確認するために適合する必要がある想定。
運用評価手順	コントロールが正常に動作していると判断するために実行する必要がある、想定運用を遂行するための詳細なステップ。
運用結果	運用評価手順に基づくコントロールの運用のテスト結果。
アクティビティ	
作業メモ (プライベート)	監査マネージャーと監査スーパーバイザーのみが表示できるコメント。
追加コメント	顧客も表示できるコメント。
機密性	
機密	レコードの機密性を有効にするオプション。アサインされた機密ユーザーまたはユーザーの機密グループのみがレコードにアクセスできます。 機密オプションの詳細については、「監査およびコンプライアンスレコードの機密性フラグ」を参照してください。

8. [保存] を選択します。
   レコードがコントロールテストのプロセスフローを通じて進行する過程で、 [概要] ページの[ステータス] バナーで説明の確認とコントロールテストのステータスの監視が可能です。

監査ワークスペース でのアクティビティの作成

関連付けられたコントロールが正しく動作しているかどうかを調べ、証拠を文書化して提供するアクティビティを作成します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

始める前に
必要なロール：sn_audit.manager、sn_audit_ws.supervisor

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査ワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [実行] リストで [すべてのエンゲージメント] または [自分のエンゲージメント] を選択します。
   次のいずれかの状況にあるエンゲージメントに監査タスクをアサインします。
   - 検証
   - フィールドワーク
4. [名前] 列のエンゲージメントレコードへのリンクを選択します。
   エンゲージメントレコードの詳細が [概要] タブに表示されます。
5. [監査タスク] 関連リストを選択します。
6. 関連リストの下にあるグループ化ボタンをクリックして、リストから [新しいアクティビティ] を選択します。
7. フォームのフィールドに入力します。

新しいアクティビティを作成フォーム

フィールド	説明
番号	一意の識別番号。
名前	アクティビティの名前。
親	親監査タスクまたは親エンゲージメント。
状況	アクティビティの状況。デフォルトのステータスは [オープン] です。
説明	アクティビティの詳細な説明。
アサイン	
アサイン先	アクティビティにアサインされたユーザー。
スケジュール	
開始予定日	アクティビティの予定開始日。
終了予定日	アクティビティの予定終了日。
計画された期間	アクティビティの予定期間。実際の期間と同様に、計画された期間には合計アクティビティ時間が表示され、アクティビティスケジュールが考慮されます。
実開始日	アクティビティの実開始日。
実終了日	アクティビティの実終了日。
実際の期間	アクティビティの開始から終了までの実際の期間。
アクティビティ	
追加コメント	顧客も表示できるコメント。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
作業メモ (プライベート)	監査マネージャーと監査スーパーバイザーのみが表示できるコメント。
機密性	
機密	レコードの機密性を有効にするオプション。アサインされた機密ユーザーまたはユーザーの機密グループのみがレコードにアクセスできます。 機密オプションの詳細については、「監査およびコンプライアンスレコードの機密性フラグ」を参照してください。

8. [保存] を選択します。
   アクティビティのステータス は、[概要] ページの [ステータス] バナーで監視できます。

監査ワークスペース で面談を作成する

関連付けられているコントロールが正しく動作しているかどうか、コントロールオーナーと話し合うための面談を作成し、証拠を文書化して提供します。

始める前に
必要なロール：sn_audit.manager、sn_audit_ws.supervisor

手順
1. 移動先 すべて > 監査 > 監査ワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [実行] リストで [すべてのエンゲージメント] または [自分のエンゲージメント] を選択します。
   次のいずれかの状況にあるエンゲージメントに監査タスクをアサインします。
   - 検証
   - フィールドワーク
4. [名前] 列のエンゲージメントレコードへのリンクを選択します。
   エンゲージメントレコードの詳細が [概要] タブに表示されます。
5. [監査タスク] 関連リストを選択します。
6. 関連リストの下にあるグループ化ボタンをクリックして、リストから [新規面談] を選択します。
7. フォームのフィールドに入力します。

新規面談の作成フォーム

フィールド	説明
番号	一意の識別番号。
名前	面談の名前。
親	親エンゲージメント。
状況	面談の進捗状況。デフォルトのステータスは [オープン] です。
説明	面談の詳細な説明。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

フィールド	説明
アサイン	
アサイン先	面談にアサインされたユーザー。
主要連絡先	面談についての連絡先となるユーザー。
その他の連絡先	連絡先となる他のユーザー (主要連絡先が利用できない場合)。
メモ	面談連絡先に関する追加のメモ。
スケジュール	
開始予定日	面談の予定開始日。
終了予定日	面談の予定終了日。
計画された期間	面談の予定期間。実際の期間と同様に、計画された期間には合計アクティビティ時間が表示され、面談のスケジュールが考慮されます。
実開始日	面談の実開始日。
実終了日	面談の実終了日。
実際の期間	面談の開始から終了までの実際の期間。
アクティビティ	
追加コメント	顧客も表示できるコメント。
作業メモ (プライベート)	監査マネージャーと監査スーパーバイザーのみが表示できるコメント。
機密性	
機密	レコードの機密性を有効にするオプション。アサインされた機密ユーザーまたはユーザーの機密グループのみがレコードにアクセスできます。 機密オプションの詳細については、「監査およびコンプライアンスレコードの機密性フラグ」を参照してください。

8. [保存] を選択します。
   レコードがさまざまなプロセスフローを進行する過程で、 [概要] ページの [状況] バナーで監査の面談タスクの状況の監視が可能です。

監査ワークスペース でチュートリアルを作成する

関連付けられているコントロールが正しく動作しているかどうかを観察するチュートリアルを作成して実施し、証拠を文書化して提供します。

始める前に

必要なロール：sn_audit.manager、sn_audit_ws.supervisor

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査ワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

3. [実行] リストで [すべてのエンゲージメント] または [自分のエンゲージメント] を選択します。
次のいずれかの状況にあるエンゲージメントに監査タスクをアサインします。
   - 検証
   - フィールドワーク
4. [名前] 列のエンゲージメントレコードへのリンクを選択します。
エンゲージメントレコードの詳細が [概要] タブに表示されます。
5. [監査タスク] 関連リストを選択します。
6. 関連リストの下にあるグループ化ボタンをクリックして、リストから [新規チュートリアル] を選択します。
7. フォームのフィールドに入力します。

新規チュートリアルの作成フォーム

フィールド	説明
番号	一意の識別番号。
名前	チュートリアルの名前。
親	親エンゲージメント。
状況	面談の進捗状況。デフォルトのステータスは [オープン] です。
説明	チュートリアルの詳細な説明。
アサイン	
アサイン先	チュートリアルにアサインされたユーザー。
主要連絡先	チュートリアルについての連絡先となるユーザー。
その他の連絡先	連絡先となる他のユーザー (主要連絡先が利用できない場合)。
スケジュール	
開始予定日	チュートリアルの予定開始日。
終了予定日	チュートリアルの予定終了日。
計画された期間	チュートリアルの予定期間。実際の期間と同様に、計画された期間には合計アクティビティ時間が表示され、チュートリアルのスケジュールが考慮されます。
実開始日	チュートリアルが開始された日付。
実終了日	チュートリアルが終了した日付。
実際の期間	チュートリアルの開始から終了までの期間。
チュートリアル	
実行ステップ	チュートリアルで実行するアクティビティの詳細。
説明	チュートリアルの意図的な目標。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
追加情報	チュートリアルを実行するユーザーが認識する必要がある追加情報。
結果	チュートリアルで発生した内容の詳細。
アクティビティ	
追加コメント	顧客も表示できるコメント。
作業メモ (プライベート)	監査マネージャーと監査スーパーバイザーのみが表示できるコメント。
機密性	
機密	レコードの機密性を有効にするオプション。アサインされた機密ユーザーまたはユーザーの機密グループのみがレコードにアクセスできます。 機密オプションの詳細については、「監査およびコンプライアンスレコードの機密性フラグ」を参照してください。

8. [保存] を選択します。
   [概要] ページの [ステータス] バナーで、チュートリアルの説明を確認し、そのステータスを監視できます。

エンゲージメントスコープにエンティティを追加しエンゲージメントを検証する

選択した監査可能単位に関連するエンティティをエンゲージメントに追加します。さらに、監査可能単位用に作成されたエンティティ以外のエンティティをエンゲージメントに追加することもできます。

始める前に

必要なロール：sn_audit.manager、sn_audit_ws.supervisor

このタスクについて

[スコープ] ステータスでは、監査スーパーバイザーは、監査エンゲージメントに関与するエンティティを定義できます。たとえば、財務監査の場合、財務部門が依存するすべてのビジネスサービスと財務部門自体を含めることができます。

エンティティをエンゲージメントに追加すると、エンティティの対応するリスク、コントロール、テスト計画、およびインジケーターの結果もエンゲージメントに追加されます。

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査ワークスペース.
2. リストアイコン ( ) をクリックします。
3. [実行] リストで [すべてのエンゲージメント] または [自分のエンゲージメント] をクリックします。
   エンティティスコープを [スコープ] ステータスのエンゲージメントに設定することができます。
4. [名前] 列のエンゲージメントレコードへのリンクをクリックします。
   エンゲージメントレコードの詳細が [概要] タブに表示されます。
5. [エンティティ] 関連リストをクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. [監査可能単位を追加] ボタンをクリックします。
7. [監査可能単位] ポップアップで、監査エンゲージメントに含まれる目的のエンティティを選択します。
これらの監査可能単位は、既にエンティティが作成されているものです。
8. [追加] をクリックします。
エンティティに関連付けられたリスクとコントロール、テスト計画、およびインジケーターの結果がある場合は、それぞれのセクションに表示されます。

   エンゲージメントが既に [検証] ステータスの場合、リスク、コントロール、およびテスト計画は自動的に追加されます。その他の関連アイテムは、[検証] または [検証と計画] ボタンをクリックした場合にのみ追加されます。

   注:
   GRC: Advanced Audit アプリケーションがインストールされていない場合のみ [検証] ボタンが表示され、それ以外の場合は [検証と計画] ボタンが表示されます。

   監査可能単位をエンティティとして監査エンゲージメントに追加すると、エンゲージメントを検証して計画できます。

9. 監査可能単位用に作成されたエンティティ以外のエンティティを追加するには、[その他のエンティティを追加] ボタンをクリックします。

   注:
   GRC: Advanced Audit アプリケーションがインストールされている場合、[監査可能単位を追加] および [その他のエンティティを追加] フィールドが表示されます。それ以外の場合は、[追加] ボタンがページに表示されます。

10. [検証と計画] ボタンをクリックします。
エンゲージメントが [検証] ステータスに移行した後、エンゲージメントのスコープ内のエンティティに関連付けられたすべてのリスク、コントロール、およびテスト計画が監査に関連付けられます。エンゲージメントが [検証] ステータスに移行すると、エンティティの直接的なコントロールとリスクのみが監査の対象になります。エンゲージメントの監査期間中に収集されたインジケーターの結果も監査に関連付けられます。

    監査スーパーバイザーは、リスク、コントロール、テスト計画、およびインジケーターの結果をレビューし、必要に応じてエンゲージメントのスコープを更新できます。エンゲージメントの監査タスクの作成と計画を開始することもできます。

エンゲージメントの問題を作成する

問題を作成して、ポリシー、リスク、または監査の観察事項を文書化するか、GRC の問題を受け入れます。問題のソースを特定して、問題の分析と分類を行うこともできます。

始める前に
必要なロール：sn_audit.manager、sn_audit_ws.supervisor

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査ワークスペース.
2. リストアイコン ( ) をクリックします。
3. [実行] リストで [すべてのエンゲージメント] または [自分のエンゲージメント] をクリックします。
4. [名前] 列のエンゲージメントレコードへのリンクをクリックします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

エンゲージメントレコードの詳細が [概要] タブに表示されます。

5. [その他の問題] 関連リストをクリックします。
6. [新規] をクリックします。
7. フォームのフィールドに入力します。

新規問題を作成フォーム

フィールド	説明
番号	一意の識別番号。
名前	問題の名前。
問題ソース	問題が作成されたソース。このフィールドには、問題の作成方法に基づいて次のいずれかのオプションが自動的に入力されます。 ○ インジケーター障害：問題はインジケーターの障害によって作成されます。 ○ リスクアセスメント：問題はリスクで作成されます。 ○ リスクイベント：問題はリスクイベントで作成されます。 ○ コントロール証明書失敗：問題は非準拠コントロールが原因で作成されます。 ○ コントロールテスト失敗：問題は、コントロールが無効で、コントロールテストが完了してクローズとしてマークされた場合に作成されます。 ○ アドホック：問題は手動で作成されます。
問題タイプ	問題の種類。
分類	問題タイプに基づく、リスク、コンプライアンス、または監査としての問題の分類。
状況	○ 新規 ○ 分析 ○ 応答 ○ 評価 ○ 完了してクローズ ○ 未完了でクローズ
サブステート	サブステートとサブステートに適用される詳細。
優先度	問題を解決すべき順序 (影響度と緊急度に基づく)： ○ 1 - 重大 ○ 2 - 高 ○ 3 - 中

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ 4 - 低 ○ 5 - 計画中
問題評価	問題マネージャーは、問題に問題評価をアサインすることができます。問題評価に基づいて、[日付] タブの [期日] が次のように計算されて表示されます。 ○ 非常に高い (2 日) ○ 高 (4 日) ○ 中 (8 日) ○ 低 (10 日) ○ 非常に低い (15 日) [期日] は手動で上書きできます。
説明	問題の包括的説明。
アサイン	
アサイン先グループ	問題がアサインされているグループ。この問題でアクティビティが発生すると、各メンバーは通知を受信します。
アサイン先	問題を解決するためにアサインされたグループのメンバー。
問題マネージャーグループ	問題の管理とレビューを担当するグループ。
問題マネージャー	問題の管理とレビューを担当するユーザー。
ウォッチリスト	問題を表示するために追加されたユーザー。
スケジュール	
期日	期日は GRC プロパティ *`Auto populate due date based on issue rating`* に基づいて自動入力されます。[はい] に設定されている場合、問題のリスク評価に対して事前定義された修復期間に基づいてフィールドが自動入力されます。それ以外の場合は、期日を手動で入力できます。 問題が [応答] ステータスに移行する場合、このフィールドへの入力は必須です。
確認日	問題が確認された日付。このフィールドは読み取り専用で、問題が [新規] から次のいずれかの状況に移行すると、現在の日付が表示されます。 ○ 分析 ○ レビュー ○ 応答

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: トリアージ問題が実際の問題に変換された場合、このフィールドには変換された日付が表示されます。
作成済み	問題が作成された日時。
クローズ済み	問題がクローズされた日時。
開始予定日	問題の作業の開始予定日時。
終了予定日	問題の作業の終了予定日時。
計画された期間	作業時間の予定期間。[開始予定日] と [終了予定日] を使用して計算されます。
実開始日	問題の作業が開始された時間。
実終了日	問題の作業が完了した時間。
実際の期間	作業時間の期間。[実開始日] と [実終了日] を使用して計算されます。
詳細	
コントロール/リスク	この問題に関連付けられたコントロールまたはリスク。
コントロール目標/リスクステートメント	この問題に関連するコントロール目標またはリスクステートメント。
エンティティ	関連エンティティ。
構成アイテム	問題に関連付けられたアイテム。すべての子の問題に同じ構成アイテムがある場合、親の問題にコピーされます。
場所	問題が発生した場所。
リスクイベント	関連リスクイベント。
エンゲージメント	関連エンゲージメント。
ポリシー	問題に関連付けられたポリシー。
各種法令・基準等	問題に関連付けられた各種法令・基準等。
問題のグループ化	
親問題	問題が属する親問題。
問題グループルール	問題にアサインされたグループルール。 問題グループルールは、ルールで定義された条件に基づいて類似した問題を親問題にまとめてグループ化するために使用されます。これにより、同様の問題を同時に処理し、すべての問題が解決された後に親問題をクローズすることができます。それにより、すべての子問題がクローズされます。
アクションプラン	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
推奨事項	リスク、コンプライアンス、または監査チームによって推奨される解決アクション。
アクションプラン	問題を修正するための計画。
機密性	
機密	レコードの機密性を有効にするオプション。アサインされた機密ユーザーまたはユーザーの機密グループのみがレコードにアクセスできます。 機密オプションの詳細については、「監査およびコンプライアンスレコードの機密性フラグ」を参照してください。
アクティビティ	
作業メモ (プライベート)	問題の解決方法に関する情報、または既に採った解決手順 (該当する場合)。作業メモは、問題にアサインされているユーザーに表示されます。
追加コメント	問題に関する公開情報。

8. [保存] をクリックします。

監査ワークスペースを使用して監査中に証拠を要求

監査ワークスペースを使用して監査中の任意のステージで証拠を要求します。証拠が要求されたアイテムの詳細は、証拠の提供責任者にも提供されます。

始める前に
必要なロール：sn_audit.user

手順

1. 移動先 すべて > 監査ワークスペース.
2. 監査ワークスペース でリストアイコン ( ) を選択します。
3. 移動先 証拠要求 > 自分の要求.
4. **[New** (新規)] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

証拠要求フォーム

フィールド	説明
番号	証拠要求の一意の番号。
名前	この要求の名前。
要求者	証拠を要求するユーザー。このフィールドは、自動的に入力されます。
代理で要求済み	証拠を要求されているユーザー。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
タイプ	作成される証拠のタイプ。[監査] または [コンプライアンス] のいずれかです。
コンテキスト	コントロール目標に関連付けられた証拠を要求します。
コンテキストレコード	コントロール目標に関連付けられたレコードを選択します。
要求理由	証拠を要求する理由。
状況	要求のステータス。デフォルトのステータスは [ドラフト] です。
サブステート	要求の追加ステータス。
説明	証拠要求の詳細な説明。
アサイン	
アサイン先グループ	証拠を提供するためにアサインされたグループ。
アサイン先	証拠の提供を担当するユーザー。
ウォッチリスト	収集された証拠の表示に関心があるユーザー。ウォッチリストに追加されたユーザーは、 監査 > 証拠要求 > 証拠要求ウォッチリスト をクリックして要求を表示します。
スケジュール	
期日	証拠の送信予定日。
オープン	要求がオープンされた日付。この日付は自動的に更新されます。
クローズ済み	要求がクローズされた日付。この日付は自動的に更新されます。
アクティビティ	
作業メモ	必要な可能性があるメモを入力します。
アクティビティ	要求のアクティビティログ。
機密性	
機密	レコードの機密性を有効にするオプション。アサインされた機密ユーザーまたはユーザーの機密グループのみがレコードにアクセスできます。 機密オプションの詳細については、「監査およびコンプライアンスレコードの機密性フラグ」を参照してください。

6. フォームを保存します。
[概要] ページのステッパーで証拠のステータスを監視します。証拠を受け入れ、証拠のリビジョンを要求し、情報を要求すると、レコードは一連の論理ステップを進行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[証拠収集の詳細] 関連リストが表示されます。この関連リストは、証拠が要求されているアイテムを一覧表示するために使用されます。

7. [新規] をクリックします。
8. フォームのフィールドに入力します。

証拠収集の詳細フォーム

フィールド	説明
数値	証拠収集の詳細の一意の番号。
名前	この要求の名前。
証拠収集タイプ	証拠が要求されているレコード。 監査ユーザーロールを持つユーザーである場合、使用可能なオプションは次のとおりです。 ○ 監査タスク ○ 各種法令・基準等 ○ 引用 ○ コントロール ○ コントロール目標 ○ コントロールテスト ○ エンゲージメント ○ エンティティ ○ 問題 ○ ポリシー 要求が監査ユーザーロールを持つユーザーによって入力された場合、使用可能なオプションは次のとおりです。 ○ 監査タスク ○ コントロール ○ コントロール目標 ○ コントロールテスト ○ エンゲージメント ○ エンティティ ○ 問題
証拠対象	証拠が適用されるすべてのテーブルを一覧表示します。
証拠要求	証拠要求タスクの一意の番号。
アサイン	
アサイン先グループ	証拠を提供するためにアサインされたグループ。このグループのユーザーに

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	は、sn_grc.business_user ロールが必要です。
アサイン先	証拠の提供を担当するユーザー。
説明	
証拠収集手順	証拠を提供するための指示。たとえば、サポートドキュメント、ファイルなどのリストです。

9. [保存] を選択します。
10. [証拠要求を選択] を選択します。
    証拠要求が既に [対応中] ステータスであり、新しい証拠収集の詳細が追加された場合、証拠要求タスクはすぐにアサイニーに送信されます。
    [証拠] 関連リストに証拠のリストが表示され、要求をアサインされたユーザーは、要求された証拠を提供するためのメール通知を受信します。また、要求のステータスが [対応中] に変更されます。説明を表示できます。[概要] ページのステッパーで、証拠要求プロセスフローの進行に合わせて証拠要求のステータスを監視します。

監査ワークスペースを使用して証拠を要求し、監査応答を評価します

監査ワークスペースを使用して監査中の任意のステージで証拠を要求します。証拠が要求されたアイテムの詳細は、証拠の提供責任者にも提供されます。

始める前に

必要なロール:sn_grc-advance.evidence-requestor

このタスクについて

この手順で [新しい証拠要求タスクを作成] を選択すると、応答を直接作成できます。これにより、最初にコレクションの詳細を作成する必要がなくなります。通常、証拠応答を処理する前に、コレクションの詳細ごとに応答が作成されます。タスクを直接作成する場合は、この手順はスキップされます。

手順

1. 移動先 監査 > エンゲージメント > 自分のエンゲージメント.
2. エンゲージメントレコードを開き、証拠を要求する関連リストを選択します。
3. [証拠] タブを選択します。
4. [新規] を選択して、新しい証拠要求タスクを作成します。
   [証拠を要求] ページが表示されます。
5. フォームで、フィールドに入力します。

証拠要求フォーム

フィールド	説明
名前	この要求の名前。
タイプ	作成される証拠のタイプ。[監査] または [コンプライアンス] のいずれかです。
要求理由	証拠を要求する理由。
期日	証拠の送信予定日。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

フィールド	説明
コンテキスト	コントロール目標に関連付けられた証拠を要求します。
コンテキストレコード	コントロール目標に関連付けられたレコードを選択します。
アサイン先グループ	証拠を提供するためにアサインされたグループ。 **注:** このフィールドに資産管理ロール (sn_audit_response.asset_governance) が含まれている場合、この応答は ITAM に属します。
アサイン先	証拠の提供を担当するユーザー。 **注:** このフィールドに資産管理ロール (sn_audit_response.asset_governance) が含まれている場合、この応答は ITAM に属します。

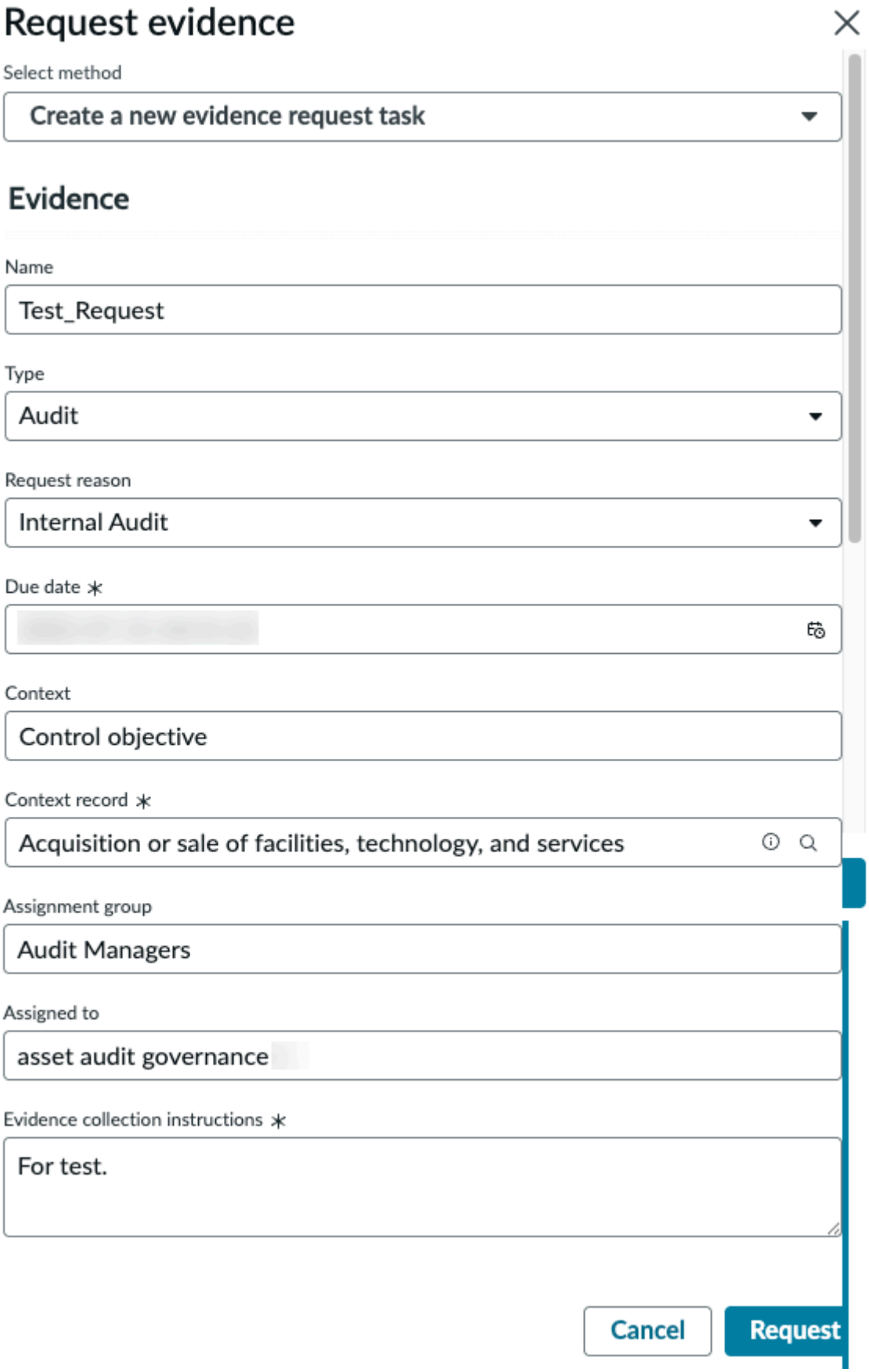
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
証拠の提供を担当するユーザー。	証拠を提供するための指示。たとえば、サポートドキュメント、ファイルなどのリストです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

監査ワークスペース の監査観察事項

監査観察事項は監査の結果です。監査観察事項は、監査レポートの重要な部分として、レビュー、分析、面談、およびディスカッションの結果を表します。

監査観察事項の概要

監査観察事項は、重大な問題に監査スーパーバイザーの注意を引くために使用されます。観察事項はシステムのログに記録されます。たとえば、銀行の業務が監査されている場合、監査観察事項は、銀行の業務が監査基準に照らしてどのように行われているかについての証拠に基づいています。コントロールテスト、面談、およびチュートリアル中に、監査観察事項が記録されます。監査ユーザーは、エンゲージメントが [フォローアップ] または [クローズ済み] 状況でない場合、エンゲージメントから観察事項を作成できます。観察事項は、すべてのタイプの監査タスクから作成することもできます。

監査人が監査を完了すると、監査人は監査スーパーバイザーに監査観察事項を提示します。監査人は、監査観察事項を使用して、問題、検出、および推奨事項のサマリーを提示できます。監査チームは、観察事項をレビューして、その観察事項が報告可能な問題であるかどうかを判断します。監査チームは、観察事項を推奨事項、観察事項、またはベストプラクティスとして追跡できるかどうかを決定することもできます。

ライフサイクルでは、監査観察事項は次の状況に移行します。

1. ドラフト
2. レビュー
3. 応答
4. 確定
5. クローズ済み

ワークスペースでの監査観察事項のステータスワークフロー

1. sn_audit.user ロールを持つ監査ユーザーが観察事項を作成します。「エンゲージメントの観察事項を作成する」を参照してください。
   a. 観察事項を作成するには、次の場所に移動します: すべて > 監査 > 監査ワークスペース.
   b. リストアイコン ( ) をクリックします。
   c. [実行] リストで [すべてのエンゲージメント] または [自分のエンゲージメント] をクリックします。
   d. [名前] 列のエンゲージメントレコードへのリンクをクリックします。
   e. [観察事項] タブをクリックします。
   f. [新規] をクリックします。
   g. 新しい観察事項の作成フォームのフィールドに入力します。
2. 観察事項の作成者は、回答者とピアレビュー担当者を観察事項にアサインします。回答者はエンティティオーナーとコントロールオーナーです。ピアレビュー担当者は、エンゲージメントの監査人および監査リーダーです。
3. 観察事項の作成者は、観察事項のピアレビューを要求できます。その場合、次のようになります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. ピアレビュー担当者は、ピアレビューを実行するための通知を受信します。ピアレビュー担当者は、以下でタスクを表示できます。 自分の保留中タスク > すべて ワークスペースのタスクアイコン ( ) をクリックします。

> **注:**
> ピアレビュー担当者は、次の場所に移動することもできます タスク > 自分のタスク > オープン ワークスペースのホームページで。

b. ピアレビュー担当者がレビューを完了します。

> **注:**
> ピアレビューが要求されると、ステータスは [ドラフト] のままになりますが、サブステートは [ピアレビューが要求されました] に変わります。

4. 観察事項の作成者は、レビューを要求することもできます。レビュー担当者は、監査スーパーバイザーまたは監査リーダーになることができます。
   a. レビュー担当者は、レビューを実行するための通知を受信します。レビュー担当者は、次の場所に移動してタスクを表示できます 自分の保留中タスク > すべて > 観察事項.
   b. レビュー担当者は、観察事項の改訂を要求するか、回答者からの応答を要求することができます。レビュー担当者は、適切なオプションを選択して [結果] セクションでフィードバックを提供することもできます。
5. レビュー担当者が回答者からの応答を要求した場合、回答者は次の場所に移動して観察事項に応答します 監査 > 観察事項 > 自分の応答待ち.
6. 観察事項が [確定] ステータスに移行します。
7. 観察事項がクローズされ、問題が作成されます。

エンゲージメントの観察事項を作成する

監査観察事項を作成して、問題、検出、および推奨事項のサマリーを提示します。その後で、監査チームは、観察事項をレビューして、その観察事項が報告可能な問題であるかどうかを判断できます。

始める前に

必要なロール：
sn_audit.manager、sn_audit_ws.supervisor、sn_audit.user、sn_audit_ws.auditor

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査ワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [実行] リストで [すべてのエンゲージメント] を選択します。
4. [名前] 列のエンゲージメントレコードへのリンクを選択します。
5. [観察事項] タブを選択します。
6. [新規] を選択します。
7. フォームのフィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい観察事項の作成フォーム

フィールド	説明
番号	一意の識別番号。
名前	観察事項の名前。
エンゲージメント	この観察事項に関連付けられたエンゲージメント。
ソース	観察事項のソースまたは作成元。
問題タイプ	観察事項を作成する理由。以下から選択可能です。 ○ コントロール設計有効性の問題 ○ コントロール運用有効性の問題 ○ コントロールが存在しません ○ コントロールが要件を満たしていない (Control doesn't meet requirement) ○ その他の観察事項
状況	観察事項のステータス。
サブステート	観察事項のサブステート。
優先度	観察事項の優先度。選択肢は次のとおりです。 ○ 1 - 重大 ○ 2 - 高 ○ 3 - 中 ○ 4 - 低
説明	観察事項の詳細な説明。
アクションプラン	結果として発生した問題を解決するための計画。
アサイン	
オーナー	観察事項の作成者および担当者であるユーザー。
ピアレビュー担当者	ピアレビューを担当する監査人の 1 人。
回答者	アクション計画の完了を担当するユーザー。 回答者は、親エンゲージメントに関連付けられたエンティティまたはコントロールのオーナーになることができます。
レビュー担当者グループ	観察事項をレビューするためにアサインされたグループ。
レビュー担当者	観察事項のレビューを担当するユーザー。
ウォッチリスト	観察事項の次の更新に興味を持っているユーザー。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
詳細	
コントロール	観察事項に関連付けられたコントロール。
コントロール目標	観察事項に関連付けられたコントロール目標。
エンティティ	観察事項に関連付けられたエンティティ。
監査タスク	観察事項に関連付けられた監査タスク。
結果	
結果	観察事項の結果。選択肢は次のとおりです。 ○ 観察事項として追跡 ○ 推奨事項として追跡 ○ ベストプラクティスとして追跡 ○ 新しい問題として確認済み ○ 既存の問題として確認済み ○ アクションは必要ありません
説明	選択した結果の説明。
アクティビティ	
作業メモ (プライベート)	観察事項に関するメモ。作業メモは、観察事項にアサインされたユーザーに表示されます。
追加コメント	観察事項に関する公開情報。
セキュリティ	
機密	レコードの機密性を有効にするオプション。アサインされた機密ユーザーまたはユーザーの機密グループのみがレコードにアクセスできます。

自動翻訳

監査レコードのアクセスを制御する機密性フラグ

機密性フラグは、問題、エンゲージメント、観察事項、コントロールテスト、アクティビティ、面談、およびチュートリアルのレコードに、レコードレベルで設定できます。これらのレコードを表示および更新するように決定されたユーザーが、機密ユーザーです。

[機密性] オプションを選択すると、エンゲージメントリーダー、監査人、および承認者になることができるユーザーのリストが [機密ユーザー] として自動入力されます。

アクセス制御基準に基づいて、監査ユーザーまたは GRC ビジネスユーザーをリストに追加したり、既存のユーザーの一部を削除したりして、それらを機密ユーザーとして設定できます。

また、監査ユーザーと GRC ビジネスユーザーのどちらでもないユーザーをレコードにランダムに追加することもできます。ただし、監査ユーザーロールも GRC ビジネスユーザーロールも持たないすべての機密ユーザーには、レコードにアクセスする場合、アドミニストレーターから機密ロール (sn_grc.confidential_user) を取得するように勧めるメール通知が送信されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レコードにアクセスできる [機密グループ] としてグループを選択することもできます。詳細については、「一般的な GRC 機能の機密レコード」を参照してください。

システムレベルで機密性プロパティを有効にするには、次の手順を実行します。

a. 移動先 システムプロパティ > すべてのプロパティ.

b. *sn_grc.enable_record_confidentiality* システムプロパティを選択します。

c. [値] フィールドに「**true**」と入力します。このアクションは、レコードレベルの機密性を有効にします。

d. [更新] を選択します。

8. [保存] を選択します。
レコードがさまざまな状況を通じて進行する過程で、デフォルトの [概要] ページの [状況] バナーで観察レコードの状況の監視が可能です。

監査ワークスペース 狭

Lite 監査ワークスペースは、Audit Management ワークスペースの簡易バージョンです。このワークスペースでは、エンゲージメントへのアクセス、既存のエンティティのエンゲージメントへの追加、アクティビティの作成を行うことができます。詳細コアストアアプリがインストールされている場合は、証拠をエンゲージメントに関連付けることもできます。

Lite 監査ワークスペース には、次のロールが付属しています。

- sn_audit.shared_admin
- sn_audit.shared_manager
- sn_audit.shared_user
- sn_audit.shared_approver

さまざまなロールのアクセス

次の表に、さまざまなロールでアクセスできる機能を示します。

さまざまなロールへのアクセス

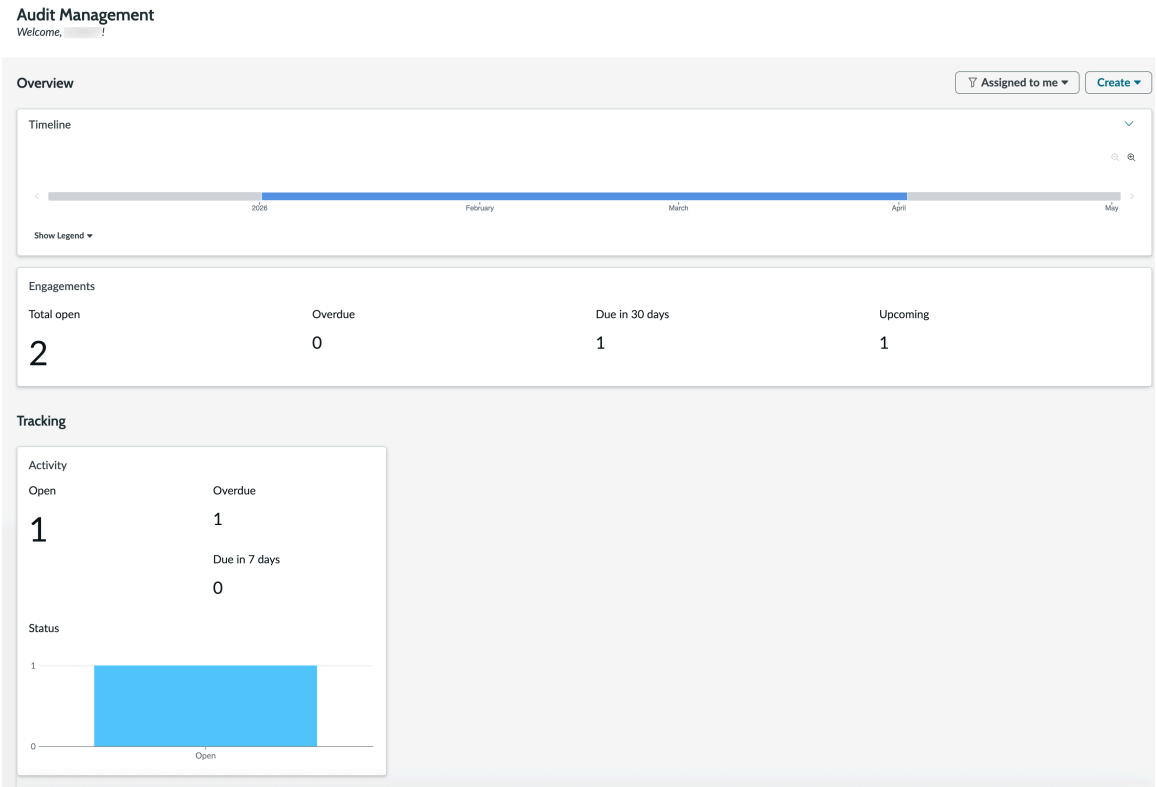
機能	作成	読み取り	更新	削除
エンゲージメント	共有監査マネージャー	共有監査ユーザー	共有監査マネージャー	共有監査アドミン
アクティビティ	共有監査マネージャー	共有監査ユーザー	共有監査マネージャー	共有監査アドミン
エンティティからエンゲージメント	共有監査マネージャー	共有監査ユーザー	共有監査マネージャー	共有監査マネージャー

Lite 監査ワークスペース ホームページへのアクセス

移動先 すべて > 監査ワークスペース.

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

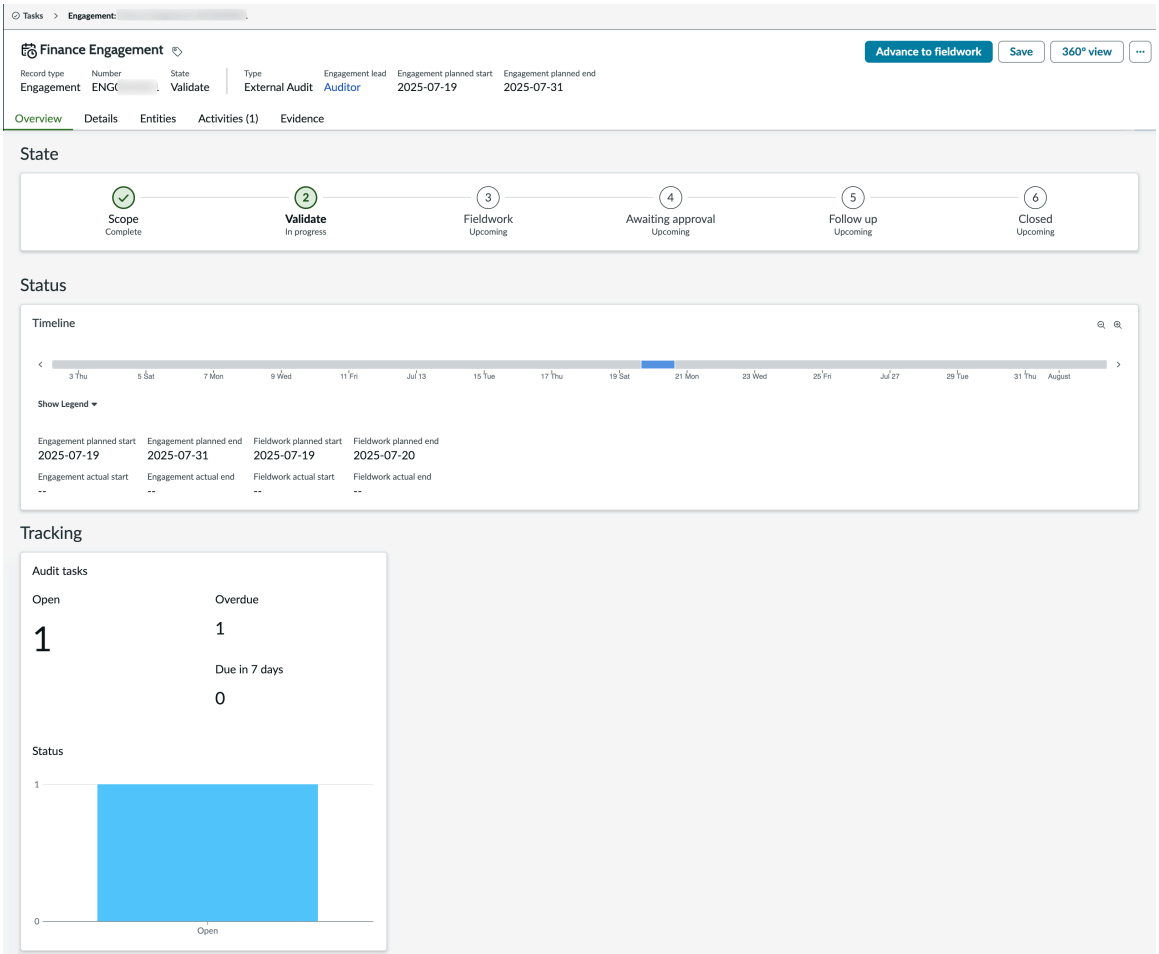


監査人またはエンゲージメントリードとしてアサインされているすべてのエンゲージメントを表示できます。これらのエンゲージメントに関連付けられたアクティビティを表示することもできます。

ホームページから、sn_audit.shared_manager ロールを持っている場合は新しいエンゲージメントを作成でき、sn_grc_advanced.evidence_requester ロールを持っている場合は証拠要求を作成できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



証拠機能へのアクセス

証拠機能を使用すると、証拠要求、収集の詳細、および証拠応答にアクセスできます。さまざまな操作を実行するために、次の機能ロールが導入されています。

- sn_grc_advanced.evidence_reader:証拠要求、収集の詳細、および証拠応答を読み取ることができます。
- sn_grc_advanced.evidence_requester:証拠要求、収集の詳細、および証拠応答を作成および更新できます。また、証拠応答をレビュー、承認、または却下するためのアクセス権があります。
- sn_grc_advanced.evidence_responder:証拠要求、収集の詳細、および証拠応答を作成および更新できます。
- sn_grc_advanced.evidence_admin:証拠要求、収集の詳細、および証拠応答を作成、読み取り、更新、削除できます。

エンティティスコーピング

エンゲージメント内のエンティティのスコープを設定すると、監査に関与するエンティティが特定されます。たとえば、財務監査では、財務部門と、それが依存するすべてのビジネスサービスが含まれる場合があります。

アクティビティ監査タスク

監査アクティビティでは、組織が外部規制と内部ポリシーに準拠していることを示す証拠を収集して文書化します。詳細については、「監査タスクアクティビティを作成する」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

証拠要求

監査証拠とは、監査人が監査意見を形成するために使用するすべての情報を指します。これには、会計記録、財務諸表、およびその他の関連ソースからのデータが含まれます。証拠は累積的であり、現在の監査手順と以前の監査から取得される場合があります。詳細については、「監査の証拠を要求する」を参照してください。

コントロールテストのテストステップの作成

テストステップの客観的な有効性とコントロールテストの操作有効性、望ましい有効性を適用して、コントロールテストのコントロール有効性を判断します。詳細なレベルでコントロールテストをチェックするために、テストステップが適用されます。

始める前に

必要なロール：sn_audit.admin および sn_audit.manager

手順

1. 移動先 ワークスペース > 監査ワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [実行] で [すべてのエンゲージメント] を選択します。
4. エンゲージメントを選択します。

   注:
   [有効] ステータスのエンゲージメントのテストステップを作成できます。

5. [監査タスク] タブを選択します。
6. [名前] 列でコントロールテストリンクを選択します。

   注:
   CTRで始まる 数値 はコントロールテストです。

7. [テストステップ] タブを選択してテストステップのリストを表示し、新しいテストステップを作成します。

   注:
   エンゲージメント内のテスト計画から生成されたコントロールテストステップのリストを表示することもできます。詳細については、「エンゲージメントからコントロールテストを自動的に生成する」を参照してください。

8. [新規] を選択して、コントロール テストの新しいテスト ステップ計画を作成します。
9. 新しいテストステップ計画フォームで、次の詳細を入力します。
   - 識別子:テストステップの識別子。
   - コントロールテスト:コントロールテスト計画の名前。デフォルトでは、このフィールドは自動的に入力されます。
   - アセスメント目標:アセスメント目標。アセスメント目標は、コントロールを評価する方法のガイドラインです。
   - テスト計画の 目標有効性 の値:
     - なし:アセスメント手順がまだ分析も評価もされていないことを示します。
     - 有効

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 無効
- 適用外:アセスメント手順が有効でないか、このコントロールテストチェックに必要でないことを示します。

コントロールテストのコントロール有効性は次のように判断されます。

欲求の有効性	運用有効性	目標の有効性	コントロール有効性
なし/有効	なし/有効	有効	有効
有効	有効	適用外/なし/有効	有効
無効	無効	適用外/なし/有効/無効	無効
無効	無効	無効	無効
なし/有効	なし/有効	有効	有効
なし	なし	1 つは有効で、もう 1 つは無効	無効
なし	なし	1 つは [なし] で、もう 1 つは [適用外]	なし

コントロールテストが [オープン] または [対応中] ステータスである限り、テストステップの目標の有効性が [なし] であるかどうかは関係ありません。ただし、すべてのテストステップのアセスメント目標を [有効]、[無効]、[該当なし]、または [なし] としてマークするまで、コントロールテストを [レビュー] ステータスに移行することはできません。コントロールテストを [レビュー] または [完了してクローズ] ステータスに移行するために、テストステップ目標を確認して [なし] ステータスから移行する必要があることを示すエラーメッセージが表示されます。

10. [保存] をクリックして、テスト ステップ計画を保存します。

テスト計画にテストステップ計画を作成する

監査ワークスペースからテスト計画を選択し、[テストステップ計画] タブを開き、識別子やアセスメント目標などの詳細を入力して、テストステップ計画を作成します。

始める前に

必要なロール：sn_audit.admin または sn_audit.manager

このタスクについて

テストステップ計画は、コントロール目標に基づいてコントロールのテスト計画に対して生成されます。各コントロール目標には特定のテストテンプレートがあり、このテストテンプレート用にテストステップテンプレートが作成されます。テスト計画は、コントロール目標のテストテンプレートから生成されます。テストステップ計画は、テストステップテンプレートから生成されます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > 監査ワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [実行] で [テスト計画] を選択します。
4. テスト計画のリストからテストテンプレートレコードを選択します。
5. [テストステップ計画] タブを選択して、テストステップ計画のリストを表示し、新しいテストステップ計画を作成します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

6. [新規] を選択して、新しいテスト ステップ計画を作成します。
7. テストステップ計画フォームで、次の詳細を入力します。
   - 識別子:テストステップ計画の識別子。
   - テスト計画:テスト計画の名前。デフォルトでは、このフィールドは自動的に入力されます。
   - アセスメント目標:アセスメント目標。アセスメント目標は、コントロールを評価する方法のガイドラインです。
8. [保存] を選択して、テスト ステップ計画を保存します。

テストテンプレートでテストステップテンプレートを作成する

監査ワークスペースからテストステップテンプレートを作成し、テストテンプレートに追加して、コントロールアセスメントステップを定義します。

始める前に

必要なロール：sn_audit.admin、sn_audit.manager、または sn_audit.user

手順

1. 移動先 ワークスペース > 監査ワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [実行] で [テストテンプレート] を選択します。
4. テストテンプレートのリストからテストテンプレートレコードを選択します。
5. [テストステップテンプレート] タブを選択して、テストステップテンプレートのリストを表示し、新しいテストステップテンプレートを作成します。
6. [新規] を選択して、新しいテスト ステップ テンプレートを作成します。
7. テストステップ計画フォームで、次の詳細を入力します。
   - 識別子:テストステップテンプレートの識別子。
   - アセスメント目標:アセスメント目標。アセスメント目標は、コントロールを評価する方法のガイドラインです。
8. [保存] を選択して、テスト ステップ テンプレートを保存します。
9. [テストステップテンプレート] タブを選択して、新しく作成したテストステップテンプレートをテストテンプレートに追加します。
10. [追加] を選択して、テスト ステップ テンプレートを追加します。
11. テストステップテンプレートを選択します。
12. [追加] を選択してテストテンプレートに追加します。

監査ワークスペース でエンゲージメントを承認または却下する

監査ユーザーがエンゲージメントの承認者としてアサインされている場合は、[承認待ち] ステータスのエンゲージメントを承認または却下できます。

始める前に

必要なロール：sn_audit.user、sn_audit_ws.auditor

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査ワークスペース.
2. タスクアイコン ( ) をクリックします。
   ワークスペースが開き、承認待ちのエンゲージメントを含む、自分にアサインされたすべてのエンゲージメントが一覧表示されます。
3. [自分の処理待ちのタスク] 関連リストの [自分の承認が必要] ボタンをクリックします。
4. リンクをクリックして、[ステータス] 列のエンゲージメントに関連付けられた承認レコードを開きます。
5. [ステータス] リストで [承認] または **[** 却下] をクリックします。
6. [保存] をクリックします。
   次のいずれかのアクションが発生します。
   - エンゲージメントが承認され、オープンのタスクまたは問題が残っている場合、エンゲージメントは自動的に [フォローアップ] ステータスに移行されます。
   - エンゲージメントが承認され、オープンのタスクまたは問題が残っていない場合、エンゲージメントは自動的に [クローズ済み] ステータスに移行されます。
   - エンゲージメントが拒否された場合、エンゲージメントは自動的に [フィールドワーク] ステータスに戻されます。

Microsoft Wordテンプレートを使用してエンゲージメントの監査レポートを生成する

[検証] ステータスまたは後続のステータス Microsoft Word テンプレートを使用して、エンゲージメントレコードの監査レポートを生成します。生成されたレポートは、クラウド (Microsoft SharePoint) 上の [クラウドファイル (Cloud files)] タブで管理することも、エンゲージメントの sys_attachmentとして管理することもできます。

始める前に
必要なロール：
sn_audit.manager、sn_audit_ws.supervisor、sn_irm_shared_cmn.word_template_reader

1. エンゲージメントレコードに Word テンプレートを適用し、監査ワークスペース でレポートを生成するには、監査マネージャーロール (sn_audit.manager) と Word テンプレートリーダーロール (sn_irm_shared_cmn.word_template_reader) が必要です。さらに重要なことは、 監査ワークスペースにアクセスできることです。
2. エンゲージメントのレポートを生成するには、レコードが [検証]、[フィールドワーク]、または [フォローアップ] ステータスである必要があります。
3. エンゲージメントレコードに [レポートを生成] ボタンを表示するには、レコードの作成時に [テンプレートタイプ] フィールドで **[Word** レポートテンプレート **(Word report template)]** オプションを選択しておく必要があります。

重要:
Microsoft Wordテンプレートを作成してエンゲージメントレコードに監査レポートを生成する前に、ServiceNow Document Designer for Word プラグインを設定する必要があります。

詳細については、「Content configuration (コンテンツ構成)」および「Create Word template record for an audit engagement (監査エンゲージメントに Word テンプレートレコードを作成する)」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
監査 Word レポートを生成するには、次の場所に移動する必要があります すべて > 監査 > 監査レポート をクリックし、Word テンプレートに対して次の管理手順を設定します。

- コンテンツ構成を作成する
- Word レポートテンプレートの作成
- Word テンプレートカテゴリを作成

- エンゲージメントレコードの作成時に [テンプレートタイプ] フィールドで [クラシックレポートテンプレート] オプションを選択した場合、レポートはナレッジベースとして生成されますが、入力テンプレートは HTML、スクリプト、または XML です。詳細については、「Create an audit report template (監査レポートテンプレートを作成する)」を参照してください。
- エンゲージメントの作成時に [テンプレートタイプ] フィールドで **[Word** レポートテンプレート] オプションを入力テンプレートとして選択した場合、生成される Word テンプレートレポートは Word ファイルです。

Microsoft Word テンプレートを 1 つ以上の監査エンゲージメントレコードに適用し、Word 形式で監査レポートを生成できます。Word ドキュメントを使用して、他のステークホルダーと共同でレポートを編集できます。

このプロセスには次の 2 つのステップがあります。

1. 監査管理者は、Word テンプレートモジュールに移動して、特定のテーブルまたはドキュメントのレコードを構成できます。
2. 監査マネージャー、監査スーパーバイザー、または監査人は、テンプレートリーダー (sn_irm_shared_cmn.word_template_reader) ロールも持っている場合、Word レポートテンプレートをエンゲージメントレコードに関連付けて監査レポートを生成できます。

生成されたレポートを sys_attachment として管理するか、クラウド上の 監査ワークスペース で管理するかを選択することもできます。

生成されたレポートは、レポートのコラボレーションのために Microsoft SharePoint または Google ドライブ サイトに保存できます。

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査ワークスペース.
2. [リスト] アイコン () を選択します。
3. [実行] リストで [すべてのエンゲージメント] を選択します。
4. レポートを生成するエンゲージメントレコードを選択します。

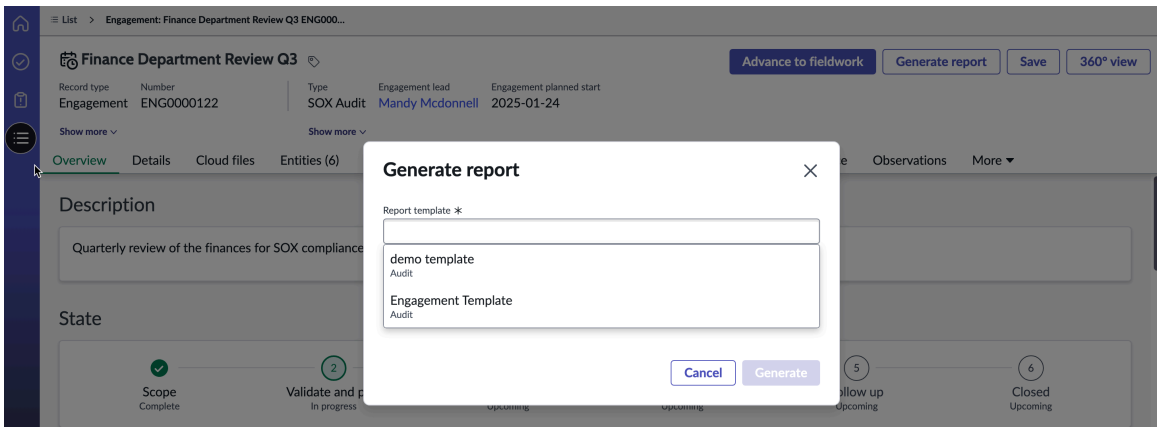
   注:
   レコードはスコープ対象である必要があります。[検証]、[フィールドワーク]、または [フォローアップ] ステータスである必要があります。

5. [レポートを生成] ボタンを選択します。
   ServiceNow Document designer for Word プラグインを有効にする必要があります。これを行った場合にのみ、[レポートを生成] ボタンが表示されるようになります。
6. [レポートを生成] ポップアップの [レポートテンプレート] フィールドで監査レポート名を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- エンゲージメントに関連があり、アクティブで [公開済み] ステータスのすべての Word テンプレートが表示され、選択できるようになります。



このレコードに対して作成された Word テンプレートがない場合は、その旨を示すメッセージが表示されます。

- Word テンプレートがクラウド対応の場合、レポートが生成後に保存される場所を示すメッセージがポップアップ表示されます。
- エンゲージメントレコードのクラウドファイル構成を設定していなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。クラウドファイル構成を有効にするには、「ドキュメントとワークシートを監査管理でクラウドファイルとして管理」を参照してください。

7. [レポートの名前 **(Name of report)]** フィールドにレポートの一意の名前を入力します。
8. [生成] を選択します。
   レポートの生成が開始されたことを示すメッセージが表示されます。
9. Word テンプレートフォームで [クラウド対応] オプションを選択しなかった場合は、添付ファイル (アイコンを選択してレポートをダウンロードします。
   レポートが添付ファイルとして生成されていることを確認するメッセージが表示されます。
   a. [アクション] ( ) アイコンを選択し、[ダウンロード] オプションをクリックします。
   b. ダウンロードした Word ファイルを選択して、監査レポートを表示します。
10. Word テンプレートで [クラウド対応 **(Cloud enabled)]** オプションを選択した場合は、クラウドベースのレポートの [クラウドファイル (Cloud files)] タブを選択します。
    a. クラウドフォルダーパスの URL リンクを選択して、Microsoft SharePoint サイトで Word ドキュメントを開きます。
    b. クラウドで監査エンゲージメントレポートの内容を表示し、レポートを協力者と共有します。
       エンゲージメントフォームの [レポート] セクションの [レポート] フィールドで、最新のレポートを URL または添付ファイルとして確認することもできます。

       クラウドドキュメント管理の詳細については、「ドキュメントとワークシートを監査管理でクラウドファイルとして管理」を参照してください。

レポートを生成するたびに、Word レポートの添付ファイルが作成されます。デフォルトでは、最新の Word レポートのみがレコードに添付されます。ただし、最新の添付ファイルを使用して新しいレポートが生成された場合でも、以前の添付ファイルを保持するように設定できるシステムプロパティがあります。

デフォルトでは、このプロパティは false に設定されています。これは、レポートが再度生成されると、システム添付としての以前の Word レポートがエンゲージメントレコードから削除され

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ることを意味します。したがって、エンゲージメントには最新のレポートがレコードに添付されます。

監査アドミンは、プロパティを true に設定して、エンゲージメントレコードを含む以前の添付ファイルを保持できます。以前のすべての添付ファイルは、[添付ファイル] セクションで表示できます。以前の添付ファイルを保持すると、エンゲージメントの監査記録を追跡するのに役立ちます。

プロパティをリセットするには、次に移動します: すべて > 監査 > アドミニストレーション > プロパティ. 「監査管理 および Advanced Audit とともにインストールされるプロパティ」を参照してください。

監査レポートの **Microsoft Word** テンプレートレコードを作成する

Microsoft Word テンプレートでエンゲージメントに関する監査レポートを生成して、簡単で分かりやすい方法で監査人とコラボレーションします。

始める前に

必要なロール：
sn_audit.admin、sn_irm_shared_cmn.word_template_creator、sn_irm_shared_cmn.word_template_reader

- Word テンプレート作成者ロール (sn_irm_shared_cmn.word_template_creator) には、Word テンプレート [sn_irm_shared_cmn_word_template] テーブルと Word テンプレートカテゴリ [sn_irm_shared_cmn_word_template_category] テーブルのすべてのレコードに対する作成アクセス権、読み取りアクセス権、更新アクセス権、および削除アクセス権があります。
- 最低限のロールは、Word テンプレートテーブルと Word テンプレートカテゴリテーブルのレコード読み取りアクセス権を持つ Word テンプレートリーダーロール (sn_irm_shared_cmn.word_template_reader) です。
- 最低限のロールは、Word テンプレートテーブルと Word テンプレートカテゴリテーブルのレコード読み取りアクセス権を持つ Word テンプレートリーダーロール (sn_irm_shared_cmn.word_template_reader) です。

  監査ワークスペース でのみ、Word テンプレートでエンゲージメントレコードに監査レポートを生成できます。

- エンゲージメントレコードに Word テンプレートを適用し、 監査ワークスペースでレポートを生成するには、監査マネージャーロール (sn_audit.manager) が必要です。「エンゲージメントに監査レポートを生成する」を参照してください。

  監査ワークスペース でのみ、Word テンプレートでエンゲージメントレコードに監査レポートを生成できます。エンゲージメントレコードに Word テンプレートを適用し、 監査ワークスペースでレポートを生成するには、監査マネージャーロール (sn_audit.manager) が必要です。「エンゲージメントに監査レポートを生成する」を参照してください。

重要:
Microsoft Wordテンプレートを作成してエンゲージメントレコードに監査レポートを生成する前に、ServiceNow Document Designer for Word プラグインを設定する必要があります。

詳細については、「Content configuration (コンテンツ構成)」を参照してください。

このタスクについて

監査管理者は、Word テンプレートモジュールに移動して、特定のテーブルまたはドキュメントのレコードを構成できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査レポート > **Word** レポートテンプレート.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。
   フォームの各フィールドに入力する値については、「Word template form (Word テンプレートフォーム)」を参照してください。
4. [送信] を選択します。

次のタスク
エンゲージメントレコードのテンプレートタイプとして Word レポートテンプレートを選択する必要があります。次に、監査ワークスペース でレポートを生成します。

詳細については、次を参照してください。

- での監査エンゲージメントの作成 監査ワークスペース.
- エンゲージメントの監査レポートを生成します。

Word テンプレートフォーム

次の表では、Word テンプレートフォームのフィールド値について説明します。

Word テンプレートフォーム

フィールド	説明
名前	[テーブル] フィールドで選択されたテーブルの Word テンプレートの一意の名前。
カテゴリ	Word テンプレートが属する分類またはグループ。 たとえば、監査関連の Word テンプレートの監査などがあります。 Word テンプレートカテゴリを作成するには、「Word テンプレートカテゴリフォーム」を参照してください。
テーブル	Word テンプレートが作成されるレコードテーブル。
ドキュメント	コンテンツ構成に基づいて作成された Word テンプレート。 **注:** ドキュメントは docx ファイルのみである必要があります。他の形式のドキュメントを添付すると、エラーメッセージが表示されます。
ステータス	Word テンプレートレコードのステータスは、デフォルトで [ドラフト] になります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Word テンプレートフォーム (続く)

フィールド	説明
	• ドラフト：レコードを開くと、デフォルトは [ドラフト] ステータスになります。 • 公開済み：Word テンプレートレコードが公開されている場合。[公開済み] ステータスのレコードは更新できません。 • 編集：レコードの詳細を更新できるステータス。 **注:** [編集] ステータスの Word テンプレートレコードは、レポート生成に使用できません。レコードは [レポートを生成] ポップアップで選択できません。「クラシックレポートテンプレートでエンゲージメントのレポートを生成する」を参照してください。
アクティブ	このレコードを有効化するオプション。
Word ドキュメント生成構成	
クラウド対応	生成されたレポートをエンゲージメントレコードの sys_attachment として、またはクラウドドキュメントとして管理するオプション。 クラウドアップロード設定に基づいて、Microsoft SharePoint または Google ドライブ サイトからクラウド内のドキュメントにアクセスできます。 詳細については、「ドキュメントとワークシートを監査管理でクラウドファイルとして管理」を参照してください。
後処理アクション	生成された Word テンプレートレポートをエンゲージメントレコードの [レポート] セクションのフィールドで更新するオプション。 オプションは次のとおりです。 • 監査 **Word** テンプレートとレポートフィールドへの入力:Word レポートベースのテンプレートを選択した場合、エンゲージメントレコードの [レポート] セクションのフィールドが Word レポートに入力されます。 **注:** このオプションは、 監査管理 アプリケーションがインストールされている場合にのみ使用できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Word テンプレートフォーム (続く)

フィールド	説明
	• なし:レポートはシステム添付ファイルまたはクラウドファイルとして生成されます。ただし、生成された Word レポートにエンゲージメントレコードのレポートベースのフィールドを追加または更新する後処理アクションは発生しません。

Word テンプレートカテゴリフォーム

次の表では、Word テンプレートカテゴリフォームのフィールド値について説明します。テンプレートカテゴリを使用すると、類似のレポートを分類し、それに応じてフィルタリングできます。たとえば、監査または CAM はカテゴリです。

Word テンプレートカテゴリフォーム

フィールド	説明
名前	Word テンプレートカテゴリの一意の名前。
アクティブ	レコードを有効にするオプション。

クラシックレポートテンプレートでエンゲージメントのレポートを生成する

エンゲージメントの結果を要約したレポートを生成して、レポートの結果をエグゼクティブに伝えます。

始める前に

必要なロール：sn_audit.manager、sn_audit_ws.supervisor

このタスクについて

[承認待ち]、[フォローアップ]、または **[** 完了してクローズ] 状況のエンゲージメントのレポートを生成できます。

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査ワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [実行] リストで [すべてのエンゲージメント] または [自分のエンゲージメント] を選択します。
4. [名前] 列のエンゲージメントレコードへのリンクを選択します。
   エンゲージメントは [承認待ち]、**[** フォローアップ] 、または [完了してクローズ] 状況である必要があります。
5. [詳細] タブを選択します。
6. エンゲージメントフォームの [レポート] セクションに詳細を入力していない場合は、フィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンゲージメントフォームの [レポート] セクション

フィールド	説明
レポートテンプレート	エンゲージメント結果を報告するナレッジベース記事を生成するために使用されるテンプレート。
レポートのナレッジベース	使用するナレッジベース。

7. [保存] を選択します。
8. レポートを生成するには、[レポートを生成] ボタンを選択します。

監査人向け監査ワークスペース

監査人ワークスペースは、監査アクティビティを管理するための一元化されたワークスペースです。

監査人ワークスペースの概要

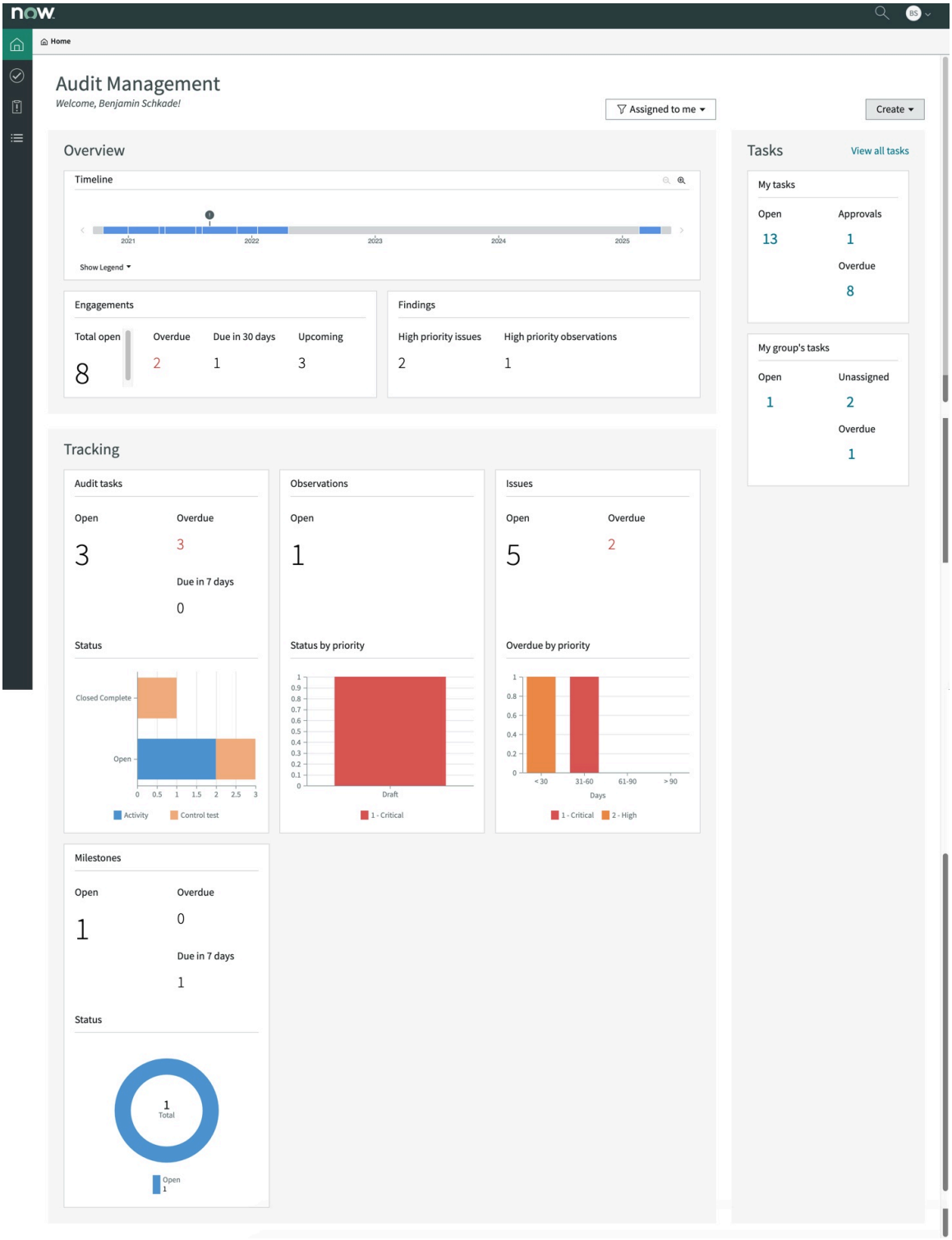
監査人は、会社の運用および財務プロセスを分析して、業界および連邦規制へのコンプライアンスを確認します。財務レポートを準備し、内部コントロールをレビューして、証拠を収集し、監査テストを実施して、監査結果をフォローアップします。

監査人ワークスペースを使用して、監査人はコントロールテスト、アクティビティ、面談、チュートリアルなどのフィールドワークを実行できます。作業と結果を文書化し、監査結果を解決またはフォローアップすることができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

監査人向けワークスペース



監査人のタスク

次の表に、監査人としてのロールで実行できる主なタスクを一覧します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

監査人のタスク

アクティビティ	タスク
レコード、レポート、運用プラクティス、およびドキュメントを調べて、内部コントロールへのコンプライアンスを確認します。	アサインされたコントロールテストを更新する。
コントロールテスト手順を文書化するテスト計画を作成します。	テスト計画を作成する。
内部コントロールプロセスを評価するためのチュートリアルと面談を調整します。	アサインされた他の監査タスクを更新する。
コントロール実装の証拠を要求およびレビューします。	監査タスクの証拠を要求する。
連邦、州、および地域のセキュリティに関する法的要件に準拠します。	監査人にアサインされた監査タスクの観察事項を作成する。

監査ワークスペースでアサインされたコントロールテストを更新する

監査ワークスペースを使用して、レコード、レポート、運用プラクティス、およびドキュメントを確認して、確立された内部コントロール手順へのコンプライアンスを確認します。

始める前に

必要なロール：sn_audit_ws.auditor、sn_audit.user

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査ワークスペース.
2. タスクアイコン () をクリックします。
   ワークスペースが開き、[自分の処理待ちのタスク] 関連リストで自分にアサインされた [すべて] のタスクが一覧表示されます。
3. ステータスを [対応中] に移行し、詳細を入力します。
   必要な情報をすべて入力すると、コントロールテストを [レビュー] ステータスに移行できます。
4. 自分の承認が必要なコントロールテストを承認するには、[自分の承認が必要] ボタンをクリックします。
   a. リンクをクリックして、[ステータス] 列のコントロールテストを開きます。
   b. コントロールテストの詳細をレビューし、[ステータス] リストをクリックして、要求されたコントロールテストを適切な状況に更新します。

      以下から選択可能です。

      - 未要求
      - 要求済み
      - 承認済み
      - 却下
      - キャンセル
      - 不要

   c. [保存] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. [詳細] タブをクリックします。
6. コントロールテストの詳細をレビューし、[ステータス] リストをクリックして、適切な状況に更新します。
   これで、コントロールテストのステータスを [完了してクローズ] に移行できるようになりました。
7. [保存] をクリックします。

監査ワークスペースでアサインされた他の監査タスクを更新する

通知を受信したときに、アサインされたチュートリアルや面談などの監査タスクを更新します。

始める前に
必要なロール：sn_audit_ws.auditor、sn_audit.user

このタスクについて
監査タスクはエンゲージメント全体を通じて完了し、組織が外部規制と内部ポリシーに準拠していることを示す文書化された証拠を提供します。

手順
1. 移動先 すべて > 監査 > 監査ワークスペース.
2. タスクアイコン ( ) をクリックします。
   ワークスペースの [自分の処理待ちのタスク] タブに [すべて] のタスクのリストが開きます。自分にアサインされた [すべて] - [監査タスク] を表示できます。
3. [名前] 列で、更新する監査タスクレコード (面談、アクティビティまたはチュートリアル) をクリックします。
   レコードが [概要] タブに開き、そのステータスのワークフローが表示されます。
4. [詳細] タブをクリックして、監査タスクの詳細をレビューして更新します。
   他の詳細を入力するだけでなく、監査タスクの状況を [対応中]、[レビュー]、または [完了してクローズ] に移行することもできます。
5. [保存] をクリックします。

監査タスクの観察事項を作成する

既存および新規のセキュリティ法を調査することで、連邦政府の州および地域のセキュリティの法的要件に準拠するための監査タスクの観察事項を作成します。

始める前に
必要なロール：sn_audit_ws.auditor、sn_audit.user

このタスクについて
観察事項を作成すると、要件の遵守を強制できるため、連邦および地域のセキュリティの法的要件を遵守するために必要なアクションについてアドミニストレーターにアドバイスできます。

手順
1. 移動先 すべて > 監査 > 監査ワークスペース.
2. タスクアイコン ( ) をクリックします。
   ワークスペースの [自分の処理待ちのタスク] タブに [すべて] のタスクのリストが開きます。自分にアサインされた [すべて] - [監査タスク] を表示できます。
3. [名前] 列で、観察事項を作成する監査タスクレコードをクリックします。
   レコードが [概要] タブに開き、そのステータスのワークフローが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [観察事項] タブをクリックします。
5. [新規] をクリックします。
6. 新しい観察事項の作成フォームに詳細を入力します。
7. [保存] をクリックします。

のマトリクスレポート 監査ワークスペース

マトリクスレポートは、 監査ワークスペースでグリッド形式またはテーブル形式で表示するように構成できる構造化レポートです。マトリクスレポートを使用して、リスクとコントロールの評価など、さまざまなオブジェクト間の関係を分析できます。

マトリクスには行と列があり、各行は構成された列のオブジェクトを表します。列には、名前、説明、所有者、リスク評価、その他のデータポイントなどの詳細が含まれます。

リスクとコントロールのマトリックスなどのマトリクスレポートを使用できます。これは、リスクとそれらのリスクを軽減するために設計された内部コントロールを評価および文書化するために監査で使用されます。マトリクスは、組織のコントロール環境の有効性を評価し、組織を潜在的なリスクにさらす可能性のあるギャップを特定するための構造化されたフレームワークとして機能します。

監査人はこのマトリクスを使用して、すべての重大なリスクに適切なコントロールが適用され、効果的に機能していることを確認します。

マトリクスレポートレジストリを構成して、監査マトリクスレポートのベーステーブルを設定します

マトリクスレポートレジストリを構成して、ベーステーブルを選択します。ターゲットテーブルとの関係を作成して、監査関連レコードまたはランディングページのレポートの詳細を構成できます。

始める前に
必要なロール:sn_matrix_report.admin

手順

1. 移動先 すべて > マトリクスレポート > マトリクスレポートレジストリ.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. [名前] フィールドにマトリクスレポートレジストリの名前を入力します。
4. ベーステーブルリストからベーステーブルを選択します。
5. **[Submit** (送信)] を選択します。
6. [名前] をクリックして、作成したマトリクスレポートレジストリを選択します。
   構成のベースレベルが自動的に入力され、ベースターゲットテーブルがそこに入力され、任意のフィルター条件を選択できます。次のレベルの構成では、マトリクスレポートのベーステーブルとターゲットテーブルの間に新しい関係を追加します。
7. [マトリクス関係] 関連リストで、[新規] を選択します。
8. フォームで、フィールドに入力します。
   フィールド値の説明については、「マトリクス関係フォーム」を参照してください。
9. **[Submit** (送信)] を選択します。
   マトリクスレポート構成のレベル 0 であるベーステーブルを構成しました。新しい構成を追加することもできます。たとえば、ベーステーブルを [リスク] として選択した場合は、コントロール (レベル 1) に関連するリスクなどの構成を追加できます。レベル 2 では、コントロールと問題の関係を構成できます。ソースとしての親レコードは、データが取得されるレコードを識別するのに

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

役立ちます。マトリクスレポートレジストリでは、ソーステーブルと関係を同じにすることはできません。

マトリクスレポートの列見出しを構成するには、「 ターゲットテーブルフィールドをマトリクスレポートの列として構成」を参照してください。

マトリクス関係フォーム

次の表は、マトリクス関係フォームのフィールド値の説明を示しています。

マトリクス関係フォーム

フィールド	説明
名前	マトリクス関係の名前。
ソース	現在の関係のソース。
ソーステーブル	関係のソーステーブル。
関係性	ソーステーブルとターゲットテーブルの間の関係。
ターゲットテーブル	関係性のターゲットテーブル。
フィルター条件	必須フィールドデータをフィルタリングするためにターゲットテーブルに設定される条件。
順序	レポートで列が表示される順序。

ターゲットテーブルフィールドをマトリクスレポートの列として構成

ターゲットテーブルのフィールドをマトリクスレポートの列見出しとして構成します。これは、監査マトリクスレポートの第 2 レベルの構成です。

始める前に

必要なロール:sn_matrix_report.admin

手順

1. 移動先 すべて > マトリクスレポート > マトリクスレポートレジストリ.
2. 作成したマトリクスレポート レジストリの名前 を選択します。
3. マトリクスレポートの列を構成するには、[マトリクス関係] 関連リストの [名前] 列でレコードを選択します。
4. [マトリクス列構成] 関連リストで [新規] を選択して、ターゲットテーブルのフィールドを構成します。
5. フォームで、フィールドに入力します。
   フィールド値の説明については、「マトリクス列構成フォーム」を参照してください。
6. **[Submit** (送信)] を選択します。
   ターゲットテーブルの 1 つのフィールドをマトリクスレポートの列として構成しました。ターゲットテーブルの他のフィールドもマトリクスレポートの列として構成するには、[マトリクス列構成] 関連リストで [新規] を再度選択します。

次のタスク

マトリクス関係が完了したら、 のマトリクスレポート構成の作成 監査ワークスペースできます。

マトリクス列構成フォーム

次の表では、[マトリクス列構成] フォームのフィールド値について説明します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

マトリクス列構成フォーム

フィールド	説明
ターゲットテーブル	選択したターゲットテーブルがフィールドのデフォルトになります。
フィールド	選択したターゲットテーブルのフィールド。
フィールドラベル	レポートに表示される列のラベル。 フィールド名は、デフォルトで [フィールドラベル] の表示名です。必要に応じてラベルを変更できます。
順序	列がレポートに表示される順序。

のマトリクスレポート構成の作成 監査ワークスペース

マトリクスレポート構成を作成し、レポートに名前を付け、ランディングページまたはレコードページとしての表示タイプを決定し、ベーステーブルにフィルター条件を設定します。

始める前に
必要なロール:sn_matrix_report.admin

手順

1. 移動先 すべて > マトリクスレポート > マトリクスレポート構成.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。
   フィールド値の説明については、「マトリクスレポート構成フォーム」を参照してください。
4. **[Submit** (送信)] を選択します。

次のタスク
この構成は、 監査ワークスペース ユーザーが 監査ワークスペースでマトリクスレポートを表示するのに役立ちます。アドミニストレーターは、マトリクスレポート構成のすべての手順を完了しました。これで、ユーザーとして のランディングページとレコードページでマトリクスレポートを表示 監査ワークスペースできます。

マトリクスレポート構成フォーム

次の表では、マトリクスレポート構成フォームのフィールド値について説明します。

マトリクスレポート構成フォーム

フィールド	説明
名前	レポートに表示されるマトリクスのタイトル。
マトリクスレポート	マトリクスレポートレジストリ参照。
ベーステーブル	マトリクスレポートレジストリのベーステーブル。
ワークスペース	このレポート構成が適用されるワークスペース。
表示タイプ	ランディングページやレコードページなどの表示タイプ。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

マトリクスレポート構成フォーム (続く)

フィールド	説明
デフォルトである	デフォルトの表示タイプのオプション。このフィールドは、ランディングページタイプに対してのみ表示されます。
マトリクス構成	
フィルターオン	ベーステーブルに適用される追加のフィルター条件。 この構成またはレポートが表示されるレコードまたはテーブル。このフィールドは、ランディングページタイプに対してのみ表示されます。
構成対象	この構成またはレポートが表示されるレコードまたはテーブル。 このフィールドは、レコードページタイプに対してのみ表示されます。
フィルター条件	構成されたテーブルのフィルター条件。
ベーステーブル関係	構成済みテーブルとベーステーブルの間の関係。

のランディングページとレコードページでマトリクスレポートを表示 監査ワークスペース

データを構造化された形式で示す 監査ワークスペース でマトリクスレポートを表示します。

始める前に

必要なロール:sn_audit_ws.auditor

このタスクについて

アドミニストレーターとして、マトリクスレポートレジストリ、関係構成、および列構成を完了しました。ユーザーは、 監査ワークスペースでレポートを表示できます。

このレポートは、リスクとコントロールの評価など、さまざまなオブジェクト間の関係を分析するのに役立ちます。リスクとコントロールのマトリクスを通じて、リスクと、それらのリスクを軽減するように設計された内部コントロールを評価して文書化できます。

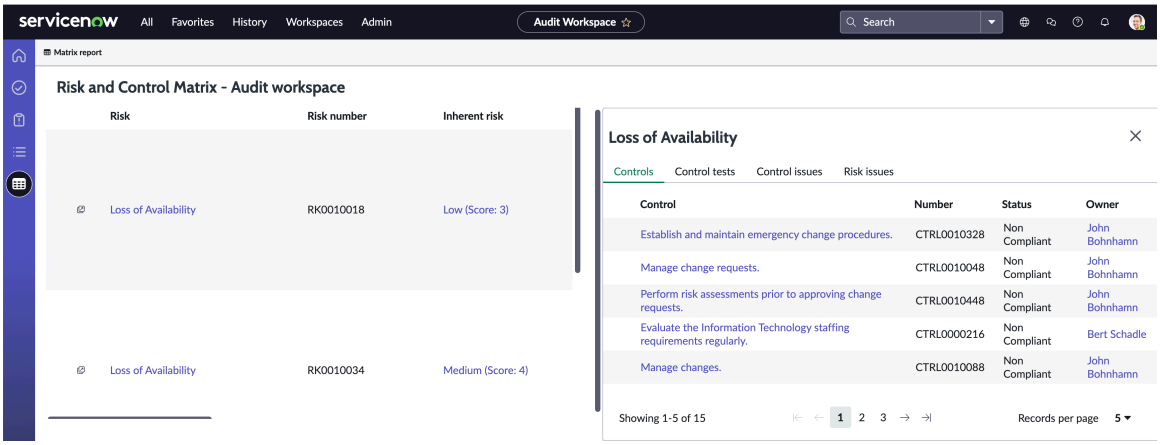
手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査ワークスペース.
2. マトリクスレポートアイコン ( を選択し、構成したマトリクスレポートをクリックします。
3. ランディングページの表示タイプのマトリクス構成については、 監査ワークスペースでマトリクスレポートを表示できます。
4. [関連情報を表示] アイコン () を選択して、マトリクスレポートの完全な表形式ビューを取得します。

   ソースレコードの詳細は、上位 2 つの注文について左ペインに表示されます。構成したターゲットテーブルのフィールドは、右ペインに列見出しとして表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

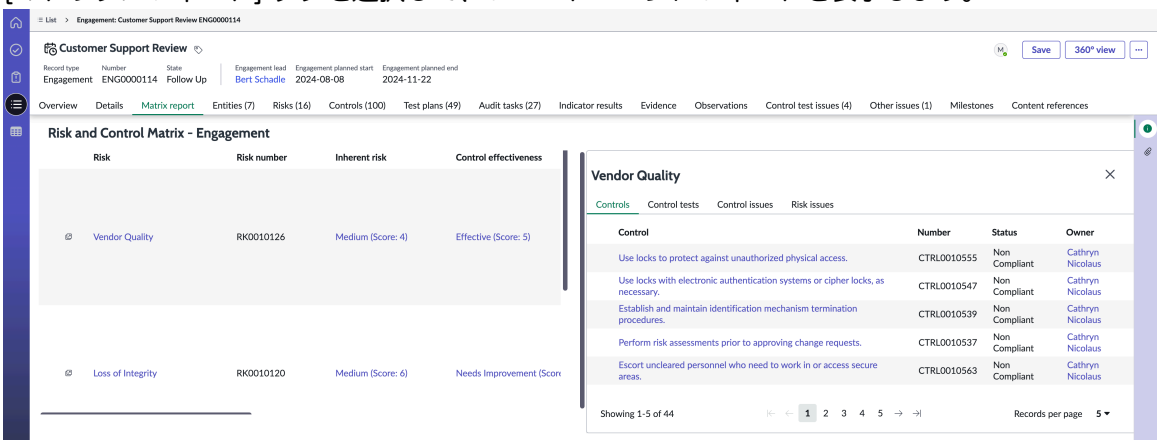


リスクはベースソーステーブルであるため、リスク関連のすべてのフィールドが左ペインに表示されます。レベル 0 はリスクで、デフォルトのベーステーブルです。リスクレコードからフェッチされるすべてのデータはレベル 1 です。

たとえば、前の図では、左ペインにリストされている 可用性損失 リスクについて、右ペインのターゲットテーブルから構成したリスク関連の詳細をすべて表示できます。コントロールテーブルから取得されたコントロールの詳細、コントロールのテスト計画、コントロールに関連する問題、およびリスクに関連する問題はすべて、右ペインの構成から取得された個別のタブに表示されます。

レコードページの表示タイプのマトリクス構成では、 監査ワークスペースのリストビューでマトリクスレポートを表示できます。

5. 監査ワークスペースのリストアイコン ( ) を選択します。
6. マトリクスレポート構成の構成済みテーブルから任意のレコードを選択します。
   たとえば、エンゲージメントレコードの場合は、[実行] リストの [すべてのエンゲージメント] からレコードを選択します。
7. 右ペインのレコードリストからレコードを選択します。
   選択したレコードの [概要] ページが開きます。
8. [マトリクスレポート] タブを選択して、レコードページにレポートを表示します。



監査管理 のアナリティクスおよびレポート作成ソリューション

プラットフォームアナリティクス には事前構成済みのダッシュボードが含まれます。これらのダッシュボードには、アクション可能なデータ表示方法が豊富に用意されており、ビジネスプロセスとビジネスプラクティスの改善に役立ちます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC: Audit Management アナリティクスおよびレポートのソリューションは ServiceNow Store で利用できます。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

プラットフォームアナリティクス データの可視化では、 パフォーマンスアナリティクス インジケーター データを使用してデータを経時的に表示し、ビジネスプロセスを分析して改善が必要な領域を特定するのに役立ちます。プラットフォームアナリティクスソリューション を使用すると、最小限のセットアップで パフォーマンスアナリティクス からアプリケーションに関する値を取得できます。いつでも独自のオブジェクトを作成することもできます。

GRC: Audit Management の分析およびレポートソリューションを有効にするには、次の手順を実行します。

1. ServiceNow Store にアクセスし、パフォーマンスアナリティクス - GRC: Audit Management アプリケーションおよび関連付けられたアプリケーションのエンタイトルメントを取得します。「」を参照してください。 をインストールする ServiceNow 製品 ServiceNow Store。
2. インスタンスで、次に移動します: システムアプリケーション > すべてのアプリケーション > すべて.
3. GRC： Audit Management アプリケーションを見つけてインストールします。

> **重要:**
>
> 監査管理 アプリケーションのバージョン 18.1.5 以降では、監査エンゲージメント概要ダッシュボードや監査マネージャーダッシュボードなどの、Audit Management のアナリティクスおよびレポートソリューションを ネクストエクスペリエンス UI フレームワークで使用できます。
>
> 詳細については、「監査エンゲージメント概要 パフォーマンスアナリティクスダッシュボード」と「監査マネージャーパフォーマンスアナリティクスダッシュボード」を参照してください。

監査エンゲージメント概要 パフォーマンスアナリティクスダッシュボード

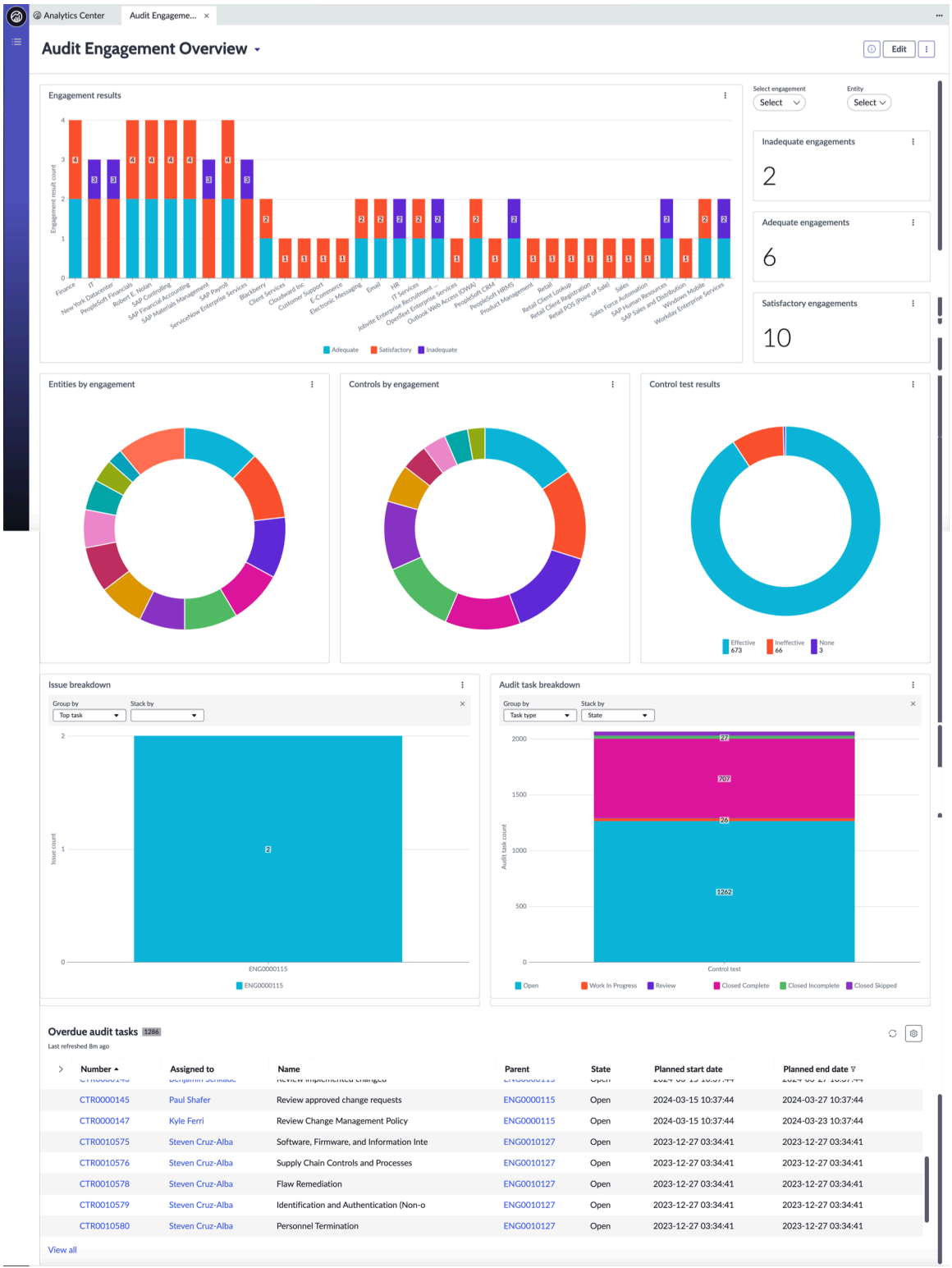
監査エンゲージメント概要ダッシュボードは 、監査結果に対するエグゼクティブビューおよびタスク別のエンゲージメントブレークダウンを提供し、懸念のある領域を迅速に特定できます。

監査エンゲージメント概要ダッシュボード

> **重要:**
> 監査管理 アプリケーションのバージョン 18.1.5 以降では、監査エンゲージメント概要ダッシュボードを ネクストエクスペリエンス UI フレームワークで使用できます。
>
> Vancouverまたは Washington DCを使用している場合は、ネクストエクスペリエンス UI フレームワークでダッシュボードを表示できます。

ネクストエクスペリエンス UI フレームワークの監査エンゲージメント概要ダッシュボードにアクセスするには、次に移動します: すべて > 監査 > アナリティクス概要.

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

このソリューションには、次のロールとタスクが関連付けられています。

- 監査マネージャー (sn_audit.manager)：組織内の脆弱性の全体的なステータスと量を明確に可視化します。
- 監査アドミニストレーター (sn_audit.admin)：懸案分野をすばやく特定します。
- 監査アナリスト (sn_audit.user)：組織にとっての重要度に基づいて、どのリスク/タスクに焦点を当てるかを優先順位付けします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レポート

名前	タイプ	説明
適切なエンゲージメント	単一スコア	適切な結果でクローズしたエンゲージメントの数を表示します。
監査タスクのブレークダウン	水平バー	タイプ、ステータス、およびアサイン先別のアクティブな監査タスクの合計数
コントロールテスト結果	ドーナツグラフ	完了したコントロールテストの数。全体的なコントロール有効性評価で分類されます。
エンゲージメント別のコントロール	ドーナツグラフ	監査エンゲージメント別のオープンコントロール数のブレークダウン
エンゲージメントの結果	棒グラフ	各エンティティに対して実施された監査エンゲージメントの総数を表示します。グラフは、各エンティティの全体的な監査結果を表示するために積み重ねられます。
不適切なエンゲージメント	単一スコア	不適切な結果でクローズしたエンゲージメントの数を表示します。
問題のブレークダウン	水平バー	エンゲージメント、ステータス、または応答別にグループ化された問題の数
期限切れの監査タスク	リスト	終了予定日を超えたオープンな監査タスクのリスト。
エンゲージメント別のプロファイル	ドーナツグラフ	監査の結果を表示して比較する 1 つまたは複数のエンティティを選択します。
満足のいくエンゲージメント	単一スコア	満足のいく結果でクローズしたエンゲージメントの数を表示します。

監査エンゲージメント概要 - プレミアムダッシュボード

重要:
PA フィルターを備えた監査エンゲージメント概要ダッシュボードが、監査管理 プラグインの一部として利用できるようになりました。

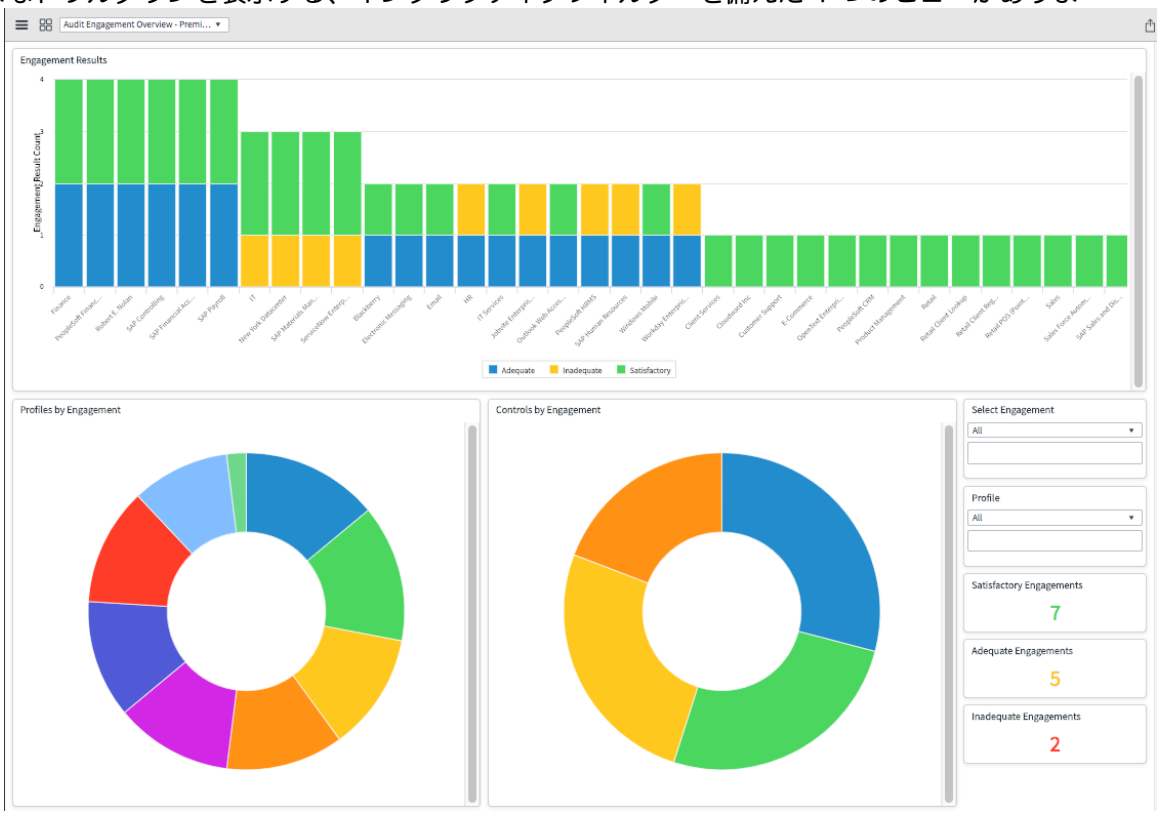
バージョン 18.1.5 以降、監査エンゲージメント概要 - プレミアム版ダッシュボードは、将来的に廃止される扱いになっています。新しいインスタンスでは使用できなくなります。

このダッシュボードはインタラクティブフィルタリングを使用するため、パフォーマンスアナリティクスのライセンスバージョンが必要です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

監査エンゲージメント概要 ダッシュボードには、エンゲージメント結果に関するレポートとさまざまなドリルダウンを表示する、インタラクティブフィルターを備えた 1 つのビューがあります。



監査マネージャーパフォーマンスアナリティクスダッシュボード

監査マネージャーダッシュボードは、監査エンゲージメントと関連する監査アクティビティの現在のビューを提供します。sn_audit.manager ロールを持つユーザーは、このダッシュボードを表示できます。この監査マネージャーダッシュボードは、詳細 GRC ダッシュボードの一部です。

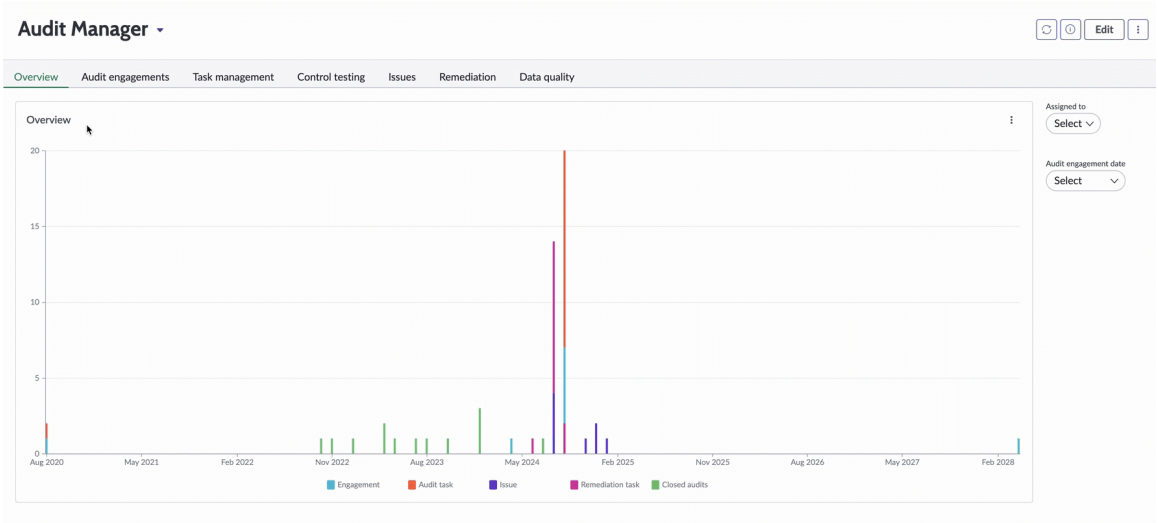
監査マネージャーダッシュボード

重要:
監査管理アプリケーションのバージョン 18.1.5 以降では、監査マネージャーダッシュボードをネクストエクスペリエンス UI フレームワークで使用できます。

Vancouverまたは Washington DCを使用している場合は、ネクストエクスペリエンス UI フレームワークでダッシュボードを表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



注:
監査アクティビティの詳細なレポートについては、次の表を参照してください。

ネクストエクスペリエンス UI フレームワークでダッシュボードを開くには、 すべて > 監査 > アナリティクス監査マネージャーダッシュボード.

監査マネージャーダッシュボードは、次のような監査アクティビティをキャプチャする詳細なレポートを提供します。

- さまざまなオープンおよびクローズ済みエンゲージメントの概要
- 監査タスクとコントロールテストステータスの概要
- 監査の問題とコントロールテストの失敗の概要
- アクティブな修復タスク
- クローズ済み監査
- 監査のデータ品質

このダッシュボードは、次の質問に対する有用な回答を提供します。

- オープン、期限切れ、クローズ済み、および予定されている監査とは何ですか？監査エンゲージメントの日付範囲とは何ですか？監査タスクは誰にアサインされますか？
- 主要な監査エンゲージメントは何ですか？エンゲージメントの結果は適切または満足いくものですか？
- さまざまな監査タスクとは何ですか？タスクの完了率はどのくらいですか？
- 指定された時間内にいくつのテストが完了しましたか？
- 問題と修復タスクは時間どおりに完了していますか？

sn_audit.manager ロールを持つユーザーは、データをグループ化または積み重ねることによってレポートのグラフを表示および調整できます。監査とそのアクティビティをグループ化して積み重ねるには、[ステータス]、[アサイン先]、[結果]、[名前] などの一般的なフィルターを使用します。

レポートをさらに絞り込むためのさまざまなインタラクティブフィルターが用意されています。たとえば、[アサイン先] フィルターを使用して、Abel Tuter にアサインされた監査を表示できます。

[概要] タブは、色分けされた棒グラフレポートを提供します。監査タスク、問題、修復タスクなどの監査エンゲージメントと監査アクティビティの最新ビューが表示されます。個々のレポートでさらにドリルダウンすることができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[概要] タブのレポートでデータをフィルターするには、次のインタラクティブフィルターを使用します。

- アサイン先
- 監査エンゲージメントの日付

[監査エンゲージメント] タブには、監査エンゲージメントの概要が示され、次のレポートが表示されます。

[監査エンゲージメント] タブ

レポート	説明
未解決の監査	オープンな監査エンゲージメントの数
期限切れの監査	時間経過に伴う期限切れの監査
予定されている監査	今後の監査エンゲージメントの月次カウント
開始された監査	開始された監査エンゲージメントの月次カウント
クローズ済み監査	クローズ済み監査エンゲージメント

[監査エンゲージメント] タブのレポートでデータをフィルターするには、次のインタラクティブフィルターを使用します。

- アサイン先
- 監査エンゲージメントの日付

[タスク管理] タブには、監査タスクの概要が示され、次のレポートが表示されます。

[タスク管理] タブ

レポート	説明
アクティブなタスク	アクティブタスクの数
期限切れのタスク	期限が切れたタスク
今週が期限のタスク	期限が指定した 1 週間以内のタスク
予定されている監査タスク	予定されている監査タスク
時間どおりに完了したタスク	ユーザーが時間どおりに完了したタスクの数
終了予定日の後に完了したタスク	終了予定日の後で完了したタスク
完了したタスク	経時的に完了したタスクの数

[タスク管理] タブのレポートでデータをフィルターするには、次のインタラクティブフィルターを使用します。

- アサイン先
- 監査エンゲージメントの日付
- タスクタイプ

  タスクタイプの例としては、面談、チュートリアル、アクティビティ、およびコントロールテストがあります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[コントロールテスト] タブには、コントロールテストに関する詳細情報が表示されます。さらにドリルダウンすると、コントロールテストに関する詳細情報を表示できます。このタブには次のレポートが表示されます。

[コントロールテスト] タブ

レポート	説明
アクティブなテスト	アクティブなテストの数
期限切れのテスト	期限切れのテストの数
今週が期限のテスト	期限が指定した 1 週間以内のテスト
予定されているテスト	予定されているコントロールテスト
時間どおりに完了したテスト	時間どおりに完了したテストの数
終了予定日の後に完了したテスト	終了予定日の後で完了したテスト
週別のオープンなテスト	指定した 1 週間以内にオープンであるテスト
月別の完了したテスト	1 か月で完了したテストの数

[コントロールテスト] タブのレポートでデータをフィルターするには、次のインタラクティブフィルターを使用します。

- アサイン先
- 監査エンゲージメントの日付
- 運用有効性
- 設計有効性

[問題] タブには、監査の下で作成されたすべての問題と、コントロールテストの失敗によって生成された問題の概要が表示されます。このタブには次のレポートが表示されます。

[問題] タブ

レポート	説明
アクティブな問題	さまざまなユーザーにアサインされたアクティブな問題の数
期限切れの問題	さまざまなユーザーにアサインされた期限切れの問題
応答待ちの問題	オープンで応答待ちの問題
今週が期限の問題	期限が指定した 1 週間以内のテスト
予定されている問題	予定されている問題の数
終了予定日前に完了した問題	終了予定日前に完了した問題
終了予定日の後に完了した問題	終了予定日の後で完了した問題
時間どおりに完了した問題	ユーザーが時間どおりに完了した問題の数
月別の完了した問題	1 か月で完了した問題の数

[問題] タブのレポートでデータをフィルターするには、次のインタラクティブフィルターを使用します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- アサイン先
- 監査エンゲージメントの日付
- 問題エンティティ
- 問題ステータス
- 問題の優先度
- 問題応答

[修正] タブには、監査問題に作成された修復タスクの概要が示され、次のレポートが表示されます。

[修正] タブ

レポート	説明
アクティブな修復タスク	アクティブな修復タスクの数
期限切れの予定された修正	期限切れの修復タスクの数
今週が期限の修復タスク	期限が指定した 1 週間以内の修復タスク
予定されている修復タスク	近々予定されている修復タスク
終了予定日前に完了した修復タスク	終了予定日前に完了した修復タスク
終了予定日後に完了した修復タスク	終了予定日後に完了した修復タスク
時間どおりに完了した修復タスク	ユーザーが時間どおりに完了した修復タスクの数
月別の完了した問題の修復タスク	1 か月で完了した修復タスクの数

[修正] タブのレポートでデータをフィルターするには、次のインタラクティブフィルターを使用します。

- アサイン先
- 監査エンゲージメントの日付
- 修復タスクの優先度

[データ品質] タブには、監査、監査の問題、修復タスク、およびコントロールテストのデータが正しい方法でキャプチャされているかどうかを検証するレポートが表示されます。このタブには次のレポートが表示されます。

データ品質タブ

レポート	説明
アサイニーなしのアクティブな監査	未アサインのアクティブな監査のリスト
タスクなしの監査	タスクのない監査のリスト
エンティティなしのアクティブな監査	エンティティのないアクティブな監査のリスト
アサイニーのない監査タスク	未アサインの監査タスクのリスト
結果のない運用テスト	結果のない運用テストのリスト
説明のないアクティブな監査	説明のないアクティブな監査のリスト
結果のない設計テスト	結果のない設計テストのリスト

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データ品質タブ (続く)

レポート	説明
説明のない問題	説明のない問題のリスト
アサイニーのないコントロールテスト	未アサインのコントロールテストのリスト
アサイン先グループのない問題	アサイン先グループのない問題のリスト
修復タスクのない問題	修復タスクのない問題のリスト
テスト計画のないコントロールテスト	テスト計画のないコントロールテストのリスト
アサイニーのない問題	未アサインの問題のリスト
推奨事項のない問題	推奨事項のない問題のリスト
説明のない問題	説明のない問題のリスト
アサイニーのない修復タスク	未アサインの修復タスクのリスト
アイテムのない問題	アイテムのない問題のリスト
問題のない修復タスク	問題のない修復タスクのリスト

レポートの [アサイン先] フィルターを使用して、[データ品質] タブのレポートでデータをフィルターします。

クラシック UI の監査マネージャーダッシュボード

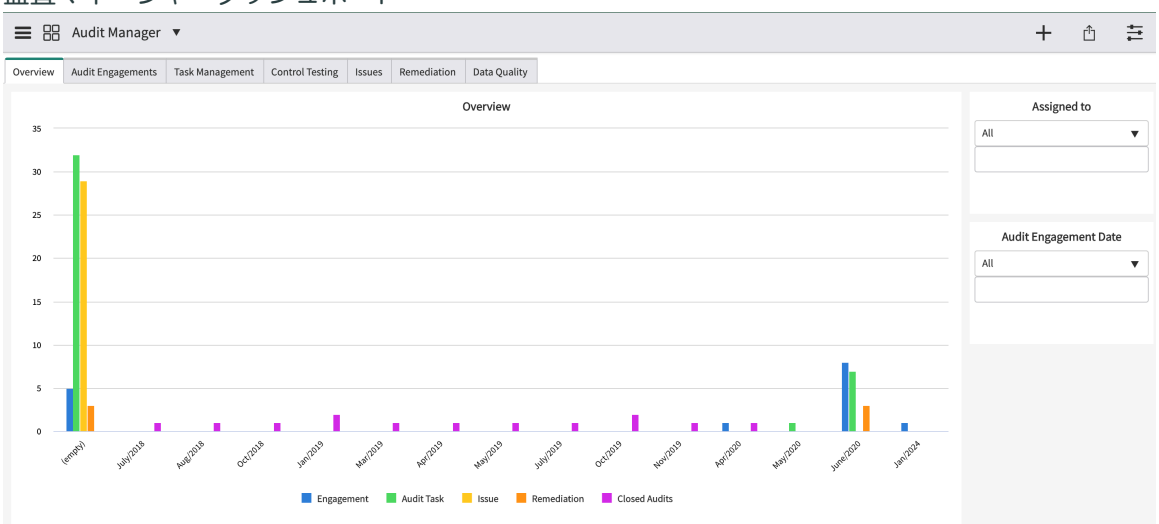
重要:
監査管理 アプリケーションのバージョン 18.1.5 以降では、監査マネージャーダッシュボードを ネクストエクスペリエンス UI フレームワークで表示できます。

監査マネージャーダッシュボードを表示するには、次の GRC アプリケーションを有効にします。

- GRC 監査管理 (com.sn_audit)
- GRC 詳細ダッシュボード (com.sn_grc_pa_advanced)

監査マネージャーダッシュボードを表示するには、次に移動します:監査 > 監査マネージャーダッシュボード. レポートを表示するには、sn_audit.manager ロールでログインします。

監査マネージャーダッシュボード



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

詳細 ガバナンス、リスク、コンプライアンス アプリケーションリスクダッシュボード

監査管理の参照

この後のセクションでは、監査管理 で使用されるテーブルのロールとアクセス制限について説明します。

監査管理 とともにインストールされるコンポーネント

GRC: 監査管理 (com.sn_audit) プラグインを有効にすると、複数のテーブル、ユーザーロール、およびその他のコンポーネントが追加または変更されます。

監査管理 および **Advanced Audit** とともにインストールされるプロパティ

プロパティは、GRC: 監査管理 のアクティブ化とともに追加されます。

名前	説明	アプリケーション
sn_audit.retain_report_attachments	レポートが生成されるたびに、エンゲージメントレコードとともに以前の Word レポートの添付ファイルを保持します • タイプ: 文字列 • デフォルト値：いいえ	監査管理
sn_audit.knowledge_base	監査レポートを公開するために使用されるナレッジベースの名前 • タイプ：文字列 • デフォルト値：監査	監査管理
sn_audit_advanced.default_adv_notification_duedate_duration	マイルストーンの期日からのデフォルト期間 (日数) で、これに基づいて通知が送信されます。 • タイプ：整数 • デフォルト値：8	GRC: 高度な監査
sn_audit_advanced.role_documentation_link	(PPM 統合により) 高度な計画機能を有効にして使用するためのロール要件のドキュメントリンク。 タイプ: 文字列	GRC: 高度な監査
sn_audit_advanced.ppm_project_documentation_link	プロジェクト機能とロール要件のドキュメントリンク。	GRC: 高度な監査

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前	説明	アプリケーション
	タイプ: 文字列	
sn_audit_advanced.rollup_documentation_link	プロジェクトから関連するエンゲージメントおよび計画までの経費とリソースのロールアップ詳細のドキュメントリンク。 タイプ: 文字列	GRC: 高度な監査

監査管理 とともにインストールされるロール

ロールは、GRC: 監査管理 のアクティブ化とともに追加されます。

ロールタイトル [名前]	説明	含んでいるロール
監査アドミン [sn_audit.admin]	継承された権限に加えて、監査管理者はエンゲージメント、監査タスク、テストテンプレート、およびテスト計画を削除できます。	• sn_audit.manager • sn_grc.admin
監査承認者 [sn_audit.approver]	監査承認者は、エンゲージメントと監査計画を承認できます。このロールを持つユーザーは承認者リストに含めることができ、このロールは Lite オペレーターロールとして分類されます。	sn_audit.reader
監査リーダー [sn_audit.reader]	このユーザーは、エンゲージメント、計画、観察事項、監査タスクなどの監査関連エンティティを表示でき、監査管理 アプリケーションのすべてのエンティティに対して排他的な読み取りアクセス権を持ちます。このロールは、Lite オペレーターロールとして分類されます。	sn_grc.reader
監査開発者 [sn_audit.developer]	継承された権限に加えて、監査開発者は監査レポートテンプレートを追加および削除できます。	• sn_audit.admin • sn_grc.developer
外部監査人 [sn_audit.external_auditor]	外部監査人は、エンゲージメントの監査人としてアサインでき、監査タスクにアサインすることができます。クローズ済みエンゲージメント、自分にアサインされた監査タスク、クローズ済み監査タスクを表示できます。ポリシーとコンプライア	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールタイトル [名前]	説明	含んでいるロール
	ンス管理 プラグインまたは リスク管理 プラグインがインストールされている場合は、[監視] ステータスの公開されたポリシーおよびすべてのコントロールやリスクを表示することもできます。	
監査マネジメント [sn_audit.manager]	監査マネージャーは、継承された権限に加えて、監査タスク (コントロールテスト、アクティビティ、チュートリアル、面談など)、エンゲージメント、テスト計画、テストテンプレート、問題、修復タスク、およびエンティティを作成できます。Advanced Core がインストールされている場合、監査マネージャーは証拠要求を作成することもできます。	• sn_audit.user • sn_grc.manager
監査ユーザー [sn_audit.user]	継承された権限に加えて、監査ユーザーには監査タスクをアサインすることができ、テストテンプレートおよびテスト計画を作成できます。監査ユーザーは、リスク管理 アプリケーションとモジュールおよび ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションとモジュールへの読み取り専用アクセス権を持ちます。	• sn_compliance.reader • sn_grc.reader • sn_grc.user
エンゲージメントプロジェクトマネージャー [sn_audit_advanced.engagement_project_manager]	詳細計画を立案し、計画またはエンゲージメントを処理できる監査リーダー。 このロールは、GRC: Advanced Audit プラグインがアクティブ化された後に使用できます。	• sn_audit.manager • resource_manager • it_project_manager

監査管理 とともにインストールされるテーブル

テーブルは、GRC: 監査管理 のアクティブ化とともに追加されます。

テーブル	説明
アクティビティ [sn_audit_activity]	監査タスク [sn_audit_task] を拡張し、監査アクティビティを保存します
監査タスク [sn_audit_task]	計画タスク [planned_task] を拡張します。これは監査に関連付けられたすべてのタスクの汎用テーブルです

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブル	説明
基本監査テスト [sn_audit_base_test]	テストテンプレートとテスト計画のベーステーブル
コントロールテスト [sn_audit_control_test]	監査タスク [sn_audit_task] を拡張し、コントロールテストを保存します
コントロールからエンゲージメント [sn_audit_m2m_control_engagement]	コントロールとエンゲージメント間の多対多の関係を保存します
エンゲージメント [sn_audit_engagement]	計画タスク [planned_task] を拡張し、エンゲージメントを保存します
面談 [sn_audit_interview]	監査タスク [sn_audit_task] を拡張し、面談を保存します
エンティティからエンゲージメント [sn_audit_m2m_profile_engagement]	エンティティとエンゲージメント間の多対多の関係を保存します
リスクからエンゲージメント [sn_audit_m2m_risk_engagement]	リスクとエンゲージメント間の多対多の関係を保存します
テスト計画 [sn_audit_test_plan]	基本監査テスト [sn_audit_base_test] を拡張し、テスト計画を保存します
テスト計画からエンゲージメント [sn_audit_m2m_test_plan_engagement]	テスト計画とエンゲージメント間の多対多の関係を保存します
テストテンプレート [sn_audit_test_template]	基本監査テスト [sn_audit_base_test] を拡張し、テストテンプレートを保存します
チュートリアル [sn_audit_walkthrough]	監査タスク [sn_audit_task] を拡張し、チュートリアルを保存します
監査レポートテンプレート [sn_audit_report_template]	定義された xml、html、またはスクリプトベースの監査レポートテンプレートを保存します
アセスメント手順 [sn_audit_asmnt_procedure_control_test]	コントロールテストのアセスメント目標を保存します。[識別子] および [アセスメント目標] フィールドの値は、アセスメント手順計画テーブルからコピーされます。
アセスメント手順計画 [sn_audit_asmnt_procedure_test_plan]	テスト計画用に生成されました。 テスト計画に加えられた変更は、 コントロールテストテーブル [sn_audit_asmnt_procedure_control_test] に反映されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブル	説明
アセスメント手順テンプレート [sn_audit_asmnt_procedure]	アセスメント目標を保存
アセスメントのテンプレートテスト手順 [sn_audit_m2m_test_temp_asmnt_procedure]	テストテンプレートとアセスメント手順の間の多対多の関係を保存

注:
依存プラグインによってインストールされる追加のテーブルはすべて GRC: 監査管理 にも必要です。

Advanced Audit とともにインストールされるテーブル

テーブルは、GRC: Advanced Audit のアクティブ化とともに追加されます

テーブル	説明
マイルストーンに対する監査タスク sn_audit_advanced_m2m_audit_task_milestone	監査タスクとマイルストーン間の多対多の関係を保存します。
監査可能単位 sn_audit_advanced_auditable_unit	監査可能単位を保存します。
各種法令・基準等に対する監査可能単位 sn_audit_advanced_m2m_unit_authority_document	監査可能単位と各種法令・基準等との間の多対多の関係を保存します。
ビジネスアプリケーションに対する監査可能単位 sn_audit_advanced_m2m_unit_business_application	監査可能単位とビジネスアプリケーションとの間の多対多の関係を保存します。
ビジネスプロセスに対する監査可能単位 sn_audit_advanced_m2m_unit_business_process	監査可能単位とビジネスプロセスとの間の多対多の関係を保存します。
事業部門に対する監査可能単位 sn_audit_advanced_m2m_unit_business_unit	監査可能単位と事業部門との間の多対多の関係を保存します。
部門に対する監査可能単位 sn_audit_advanced_m2m_unit_cmn_department	監査可能単位と部門との間の多対多の関係を保存します。
場所に対する監査可能単位 sn_audit_advanced_m2m_unit_location	監査可能単位と場所との間の多対多の関係を保存します。
ポリシーに対する監査可能単位 sn_audit_advanced_m2m_unit_policy	監査可能単位とポリシーとの間の多対多の関係を保存します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブル	説明
製品に対する監査可能単位 sn_audit_advanced_m2m_unit_product_model	監査可能単位と製品との間の多対多の関係を保存します。
ベンダーに対する監査可能単位 sn_audit_advanced_m2m_unit_vendor	監査可能単位とベンダーとの間の多対多の関係を保存します。
エンゲージメントプロジェクト sn_audit_advanced_engagement_project	プロジェクトテーブルを拡張し、エンゲージメントのエンゲージメントプロジェクトを保存します。
マイルストーン sn_audit_advanced_milestone	計画タスクテーブルを拡張し、マイルストーンを保存します。
観察事項 sn_audit_advanced_observation	トリアージテーブルを拡張し、観察事項を保存します。
プラン sn_audit_advanced_plan	計画タスクテーブルを拡張し、計画を保存します。

注:
依存プラグインによってインストールされる追加のテーブルはすべて GRC: 監査管理 にも必要です。

プロジェクトポートフォリオ管理 のエンゲージメントプロジェクト計画に必要なロール

詳細計画機能を使用すると、Advanced Audit と プロジェクトポートフォリオ管理 (PPM) 製品を統合できます。この機能は、エンゲージメントに同等のプロジェクトを作成し、エンゲージメントプロジェクトからリソース計画やコスト計画などに使用できる計画機能を提供します。

エンゲージメントプロジェクト計画機能とロール

エンゲージメントプロジェクト計画機能を使用するために必要なロールを理解するには、次の表を参照してください。

エンゲージメントプロジェクト計画機能とロール要件

機能	説明	ロールとそのスコープ
リソース計画	リソース要求者は、リソースの可用性の確認、およびプロジェクトとプロジェクトタスクのリソース計画の作成および管理をプロジェクトワークスペースで行います。詳細については、「プロジェクトのリソース計画を作成および管理する」を参照してください	• 少なくとも resource_user ロールを持つユーザーは [新規] ボタンを使用してリソース計画を追加でき、it_project_manager ロールを持つユーザーは [管理] ボタンを使用して新しいリソース計画を管理および追加できます。resource_manager ロールを持つユーザーは、リソー

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンゲージメントプロジェクト計画機能とロール要件 (続く)

機能	説明	ロールとそのスコープ
		ス計画を確認して割り当てることができます。 • sn_ppm_read、timecard_user、または resource_user ロールを持つユーザーは、エンゲージメントプロジェクトのリソース計画を表示できます。
コスト計画	プロジェクトコスト計画は、プロジェクトのコストをキャプチャします。コスト計画を作成して、会計期間の原価費目の単位コストを指定します。詳細については、「プロジェクトのコスト計画を作成する」を参照してください	• sn_audit.user または sn_audit.manager ロールと it_project_manager を持つユーザーは、コスト計画を管理できます。it_project_manager ロールを持つユーザーは、新しいコスト計画を追加できます。sn_audit.user または sn_audit.manager と project_manager ロールを持つユーザーは、新しいコスト計画を追加できます。 • sn_audit.user または sn_audit.manager ロールと project_manager ロールを持つユーザーは、新しいコスト計画を追加できます。PPM では、project_manager ロールの代わりに it_project_manager ロールを使用することをお勧めします。it_project_manager ロールを持つユーザーは、新しいコスト計画を追加することもできます。
エンゲージメントプロジェクトの関連リンク	ユーザーは、ロールと権限に基づいて表示される関連リンクを使用して、プロジェクト予算の入力、プロジェクトの移動、エンゲージメントプロジェクトの完了推定の計算を行うことができます。	• プロジェクト予算を作成するには、portfolio_manager ロールが必要です。ユーザーロールを手動で追加する場合は、portfolio_manager ロールの代わりに it_portfolio_manager ロールを使用します。 • 完了推定を計算し、プロジェクトを移動するには、project_manager ロールが必要です。ユーザーロールを手動で追加している場

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンゲージメントプロジェクト計画機能とロール要件 (続く)

機能	説明	ロールとそのスコープ
		合は、portfolio_manager ロールの代わりに it_portfolio_manager ロールを使用します。

関連情報

詳細計画機能に必要なロール

詳細計画機能に必要なロール

詳細計画機能を使用すると、Advanced Audit と プロジェクトポートフォリオ管理 (PPM) 製品を統合できます。この機能は、エンゲージメントに同等のプロジェクトを作成し、エンゲージメントからリソース計画やコスト計画などに使用できる計画機能を提供します。

エンゲージメント計画機能とロール

詳細計画機能の新機能を使用するには、次のロールが必要です。

エンゲージメント計画機能とロール要件

機能名	説明	ロールとそのスコープ
リソース計画	リソース要求者は、リソースの可用性の確認、およびプロジェクトとプロジェクトタスクのリソース計画の作成および管理をプロジェクトワークスペースで行います。詳細については、「プロジェクトのリソース計画を作成および管理する」を参照してください	• sn_audit.manager と resource_user または resource_manager ロールを持つユーザーは、リソース計画を管理および追加できます。resource_manager ロールを持つユーザーは、リソース計画を確認して割り当てることもできます。 • 既にエンゲージメントへのアクセス権があり、sn_ppm_read または timecard_user または resource_user ロールも持っているユーザーは、エンゲージメントでリソース計画を表示できます。
コスト計画	プロジェクトコスト計画は、プロジェクトのコストをキャプチャします。コスト計画を作成して、会計期間の原価費目の単位コストを指定します。詳細については、「プロジェクトのコスト計画を作成する」を参照してください	• sn_audit.user または sn_audit.manager に加えて it_project_manager を持つユーザーは、コスト計画を管理できます。 • sn_audit.user または sn_audit.manager に加えて project_manager ロールを

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンゲージメント計画機能とロール要件 (続く)

機能名	説明	ロールとそのスコープ
		持つユーザーは、新しいコスト計画を追加できます。 **注:** PPM 製品では、project_manager ロールの代わりに it_project_manager ロールを使用することをお勧めします。 • 既にエンゲージメントへのアクセス権があり、sn_ppm_finance_read または demand_manager または program_manager または portfolio_manager または project_manager のロールも持っているユーザーは、エンゲージメントのコスト計画を表示できます。
リソース割り当て	リソース要求者がリソース計画を作成した後、リソースマネージャーはリソースを確認して、プランを [確認済み] ステータスに移行できます。リソースマネージャーは、リソースをプランに割り当て、それを [割り当て済み] ステータスに移行できます。 カレンダーとスケジュールの情報に基づいて、リソースマネージャーはリソースの可用性を表示し、確認して特定のタスクに割り当てることができる管理下のリソースを選択します。詳細については、「リソース割り当て」を参照してください。	• ユーザーは、リソース計画から pps_resource と sn_audit.user または sn_audit.external_auditor の両方のロールをエンゲージメントの監査人フィールドに追加する必要があります。 • ユーザーは、リソース計画に pps_resource ロールをリソースとして追加する必要があります。
タイムカードレポート	エンゲージメントのタイムカードとエンゲージメントの他のタスクに時間を記録できます。エンゲージメントに関連付けられたプロジェクトがある場合は、実際の経費と実際のリソースの値がロールアップします。タイムカードを作成するには、「タ	• タイムカードを作成するには、timecard_user ロールが必要です。 • エンゲージメント、監査タスク、マイルストーン、問題へのアクセス権が既にあり、sn_ppm_read または timecard_approver または timecard_admin ロールも

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンゲージメント計画機能とロール要件 (続く)

機能名	説明	ロールとそのスコープ
	イムカードを作成する」を参照してください。	持っているユーザーは、エンゲージメント、監査タスク、マイルストーン、および問題に関するすべてのタイムカードを表示できます。 • エンゲージメント、監査タスク、マイルストーン、問題へのアクセス権が既にあり、timecard_user ロールも持っているユーザーは、エンゲージメント、監査タスク、マイルストーン、および問題に関してレポートしたタイムカードのみを表示できます。 • 送信されたタイムカードを承認するには、timecard_approver ロールが必要です。ユーザーに割り当てられたタイムシートポリシーによって、承認プロセスが決まります。

関連情報

プロジェクトポートフォリオ管理 のエンゲージメントプロジェクト計画に必要なロール

ドメインセパレーションと 監査管理

監査管理 ではドメインセパレーションがサポートされています。 ドメインセパレーションでは、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

サポートレベル：ベーシック

- アプリケーションサービスプロバイダーのユースケースに合わせてデータが適切なドメインに送られるようにするビジネスロジックが存在します。
- このアプリケーションは、ドメインセパレーションを完全にサポートしています。ドメインセパレーションには、ユーザーインターフェイス、キャッシュキー、レポート、ロールアップ、および集計からのドメインの分離が含まれます。
- インスタンスのオーナーは、複数のテナント間で正常に機能するようにアプリケーションをセットアップする必要があります。

サンプルユースケース：サービスプロバイダーがチャットを使用してテナント顧客のメッセージに応答する場合、お客様がサービスプロバイダーの応答を確認できるようにする必要があります。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメインセパレーションのサポート)」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

監査管理 でドメインセパレーションテーブルを使用するメリット

ドメインセパレーションは、以下の顧客にとって最適です。

- ビジネスエンティティ間で絶対的なデータ分離を適用する必要がある (データ分離)。
- 各ドメインのビジネスプロセス定義とユーザーインターフェイスをカスタマイズする (委任管理)。
- 単一のインスタンスでグローバルなプロセスとグローバルなレポートを維持します。

これらのユーザーは、ドメインスコープを展開するか折りたたんで、他のドメインからのデータを表示または非表示にすることができます。

注:
ユーザーは、ドメインの可視化によって明示的に付与されたドメインのデータに常にアクセスできます。

監査管理 におけるドメインセパレーションの仕組み

GRC はデータの分離をサポートしていますが、ロジックおよびプロセスの分離を完全にはサポートしていません。

- GRC アプリケーション内のタイプのレコードの多くは、ユーザープロセスによって自動的に生成されます。エンティティ、コントロール、リスク、インジケーター、およびコントロールテストはすべて、自動的に生成できるフィールドです。自動で生成されたレコード (および手動で生成された GRC レコード) の場合、レコードのドメインは、レコードの作成または生成を担当するユーザーのドメインと同じです。
- ドメインセパレーションされた GRC 実装で作業する場合は、自動生成を念頭に置いておく必要があります。ユーザーは、適切なドメインレベルでレコードを作成および生成して、それらが適切なユーザーセットに表示されるようにする必要があります。

  たとえば、次のようなドメインがあるとします。

  - Global
    - Top
      - Domain A
      - Domain B

- ドメイン A および B のユーザーによって評価されるリスクまたはコントロールがある場合は、リスクまたはコントロールをグローバルレベルで生成するか、手動で作成する必要があります。リスクまたはコントロールがドメイン B で作成された場合、インデックス作成が原因で、ドメイン A でリスクまたはコントロールを再作成することはできません。
- トップおよびドメイン A のユーザーによって評価されるリスクまたはコントロールがある場合は、ドメイン A でリスクまたはコントロールを作成できます。

リスクとコントロールがグローバルドメイン内にない限り、ユーザーは上位のドメイン内にあるリスクまたはコントロールケースを、下位のドメインのユーザーにアサインできません。上記の例では、トップドメインにコントロールがある場合、証明書のために、そのコントロールをドメイン A または B のユーザーにアサインしないでください。これらのユーザーはコントロールにアクセスできないため、証明書またはアセスメントのアンケートは生成されません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

同様に、ユーザーは、上位ドメインのコントロール目標とリスクステートメントを下位ドメインの証明書とアセスメントにアサインしないでください。アサインすると、証明書またはアセスメントアンケートが生成されません。

ユースケース

IT 用の GRC データを他の部門の GRC データから分離できます。GRC アプリケーションを使用している各ビジネスエリアは、他の部門と共有できない分離データを保有できます。そのため、各部門には独自のエンティティ、ポリシー、コントロール、リスクなどがあります。

IT ドメインからのコントロールを調べる場合、ユーザーはドメインスコープを展開してファイナンスドメインの値を表示するか、ドメインスコープを折りたたんで IT ドメインに一致するコントロールのみを表示するかを選択できます。

デフォルトでは、ドメインセパレーションは、タスク [task] および構成アイテム [cmdb_ci] テーブルとその拡張に、ドメインフィールドを追加します。

sys_domain フィールドをテーブルの辞書定義に追加することで、作成する任意の新しいテーブルにドメインセパレーションを拡張することができます。デフォルトでは、システム専用ドメインは、適切な場合に、プラットフォームとベースラインアプリケーションテーブルを分離します。

> ⚠ **警告:**
> ServiceNow では、予期しない結果が生じる可能性があるため、ドメインセパレーション プラットフォームテーブル (辞書エントリ [sys_dictionary] や辞書エントリオーバーライド [sys_dictionary_override] テーブルなどの sys_prefix を持つテーブル) は推奨されません。

このユースケースでは、クライアントスクリプト、ビジネスルール、ワークフロー、プロセスなどをドメインセパレーションできます。

ドメインセパレーションでの動作がマルチテナントのサポートを提供している間は、マルチテナントはまだ単一のインスタンス内に含まれています。つまり、一部のグローバルプロパティ、グローバルデータ、およびグローバルプロセスは、すべてのドメインで共有されます。たとえば、ログインページのシステムの [記憶する] オプションはグローバルであり、ドメインごとに指定できません。

すべてのシステムのプロパティを完全に分離する必要があり、グローバルレポートまたはグローバルプロセスを必要としない場合、インスタンスの分離が最適なオプションです。

監査管理オブジェクトへのドメイン値の割り当て

監査管理 テーブルに関連するマネージドサービスプロバイダーによるデータ分離を管理するために、ドメインアサインプロセスに次の変更が加えられました。

GRC 監査管理

監査管理 のオブジェクト	ドメインソース
アクティビティ	アクティビティまたはエンゲージメントを作成するユーザー
監査レポートテンプレート	ユーザー
監査タスク	エンゲージメント
コントロールテスト	エンゲージメント
コントロールからエンゲージメント	エンゲージメント
エンティティからエンゲージメント	エンゲージメント
面談	エンゲージメント

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC 監査管理 (続く)

監査管理 のオブジェクト	ドメインソース
エンゲージメントの問題	エンゲージメント
リスクからエンゲージメント	エンゲージメント
テスト計画	ユーザー
テスト計画からエンゲージメント	エンゲージメント
テストテンプレート	テンプレートを作成するユーザー
チュートリアル	エンゲージメント

GRC Advanced Audit

Advanced Audit	ドメインソース
マイルストーンに対する監査タスク	監査タスクまたはコントロールテスト
監査可能単位	ユーザー
各種法令・基準等に対する監査可能単位	監査可能単位
ビジネスアプリケーションに対する監査可能単位	監査可能単位
ビジネスプロセスに対する監査可能単位	監査可能単位
監査可能単位から事業部門	監査可能単位
部門に対する監査可能単位	監査可能単位
場所に対する監査可能単位	監査可能単位
ポリシーに対する監査可能単位	監査可能単位
製品に対する監査可能単位	監査可能単位
ベンダーに対する監査可能単位	監査可能単位
エンゲージメント	ユーザー
エンゲージメントプロジェクト	エンゲージメント
マイルストーン	エンゲージメント
観察事項	エンゲージメント
計画	ユーザー

関連情報

サービスプロバイダーのドメインセパレーション

事業継続性管理

ServiceNow® 事業継続性管理 アプリケーションを使うことで、破壊的なインシデント発生時に、許容可能なレベルで製品とサービスを提供し続けることが可能になります。このアプリケーションの継続的なアクティビティは、運用面のリスクを軽減し、問題や中断への対応、反応、および復旧する組織の能力を高めることを目的としています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

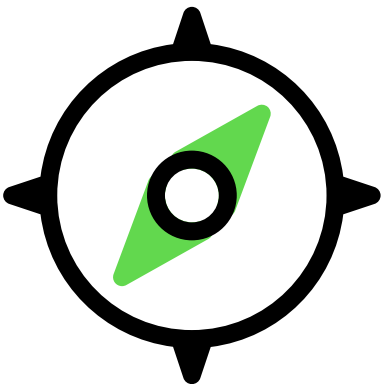
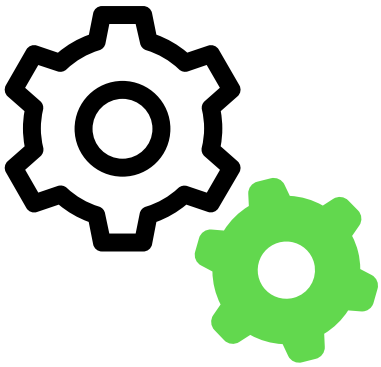
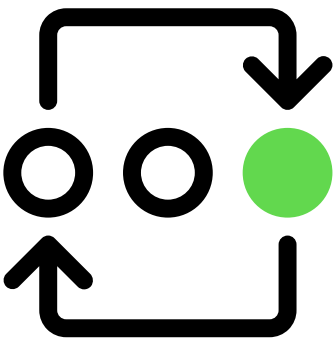
事業継続性管理の概要

事業継続性管理 製品には、継続的な管理アクティビティを実行するためのフレームワークが入っています。事業継続性管理 アプリケーションは、組織が次の目標を達成するために役立ちます。

- 明確なガバナンス構造を確立する。
- ビジネスインパクトアナリシスとリスクに基づいて、ビジネスプロセス、相互依存関係、および復旧目標の一貫した分類を定義する。
- 事業継続性計画を策定し、継続的に改善する。
- 中断イベント中およびその後のプロセス継続性を特定、分析、および管理する。

事業継続性管理 の詳細については、「事業継続性管理 の探索」を参照してください。

はじめに

探索  の主な機能の詳細 BCM	構成  BCMアプリケーションのセットアップ	管理  事業継続性タスクの管理
通知  での緊急通知の送信 Everbridge	クラシックワークスペース  クラシック BCM ワークスペースの使用	参照  BCMとともにインストールされるコンポーネント

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

事業継続性管理 UI ビルダー ワークスペース のサポート

Yokohama リリース以降は、事業継続性管理 アプリケーションを UI ビルダー ワークスペース で設定できます。UI ビルダー は、ネクストエクスペリエンスのコンポーネント を使用して ワークスペース ページをビルドまたはカスタマイズするための Web ユーザーインターフェイスビルダーです。

次世代のユーザーインターフェイスの詳細については、「Next Experience UI」を参照してください。

BCM での UI ビルダー 管理タスクの詳細については、「UI ビルダー 用のセットアップ」を参照してください。

BCM UIB ワークスペースで事業継続性タスクを構成する方法については、「BCMワークフロータスクの管理」を参照してください。

注:
Yokohama リリース以降、BCM クラシック ワークスペース は将来の廃止に備えて準備されます。新しいインスタンスではナビゲーションに表示されなくなりますが、引き続きサポートされます。この機能の最新のエクスペリエンスは BCM UIB ワークスペース で提供されます。

トラブルシューティングとヘルプの取得

- GRC コミュニティで質問や回答をする
- Known Error Portal で既知のエラー記事を検索
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート
- 開発者トレーニング
- 開発者ドキュメント

事業継続性管理 の探索

事業継続性管理 アプリケーションを使用して、事前定義されたテンプレートとワークフローを使用して事業継続性タスクを管理する方法について説明します。

事業継続性管理 の概要

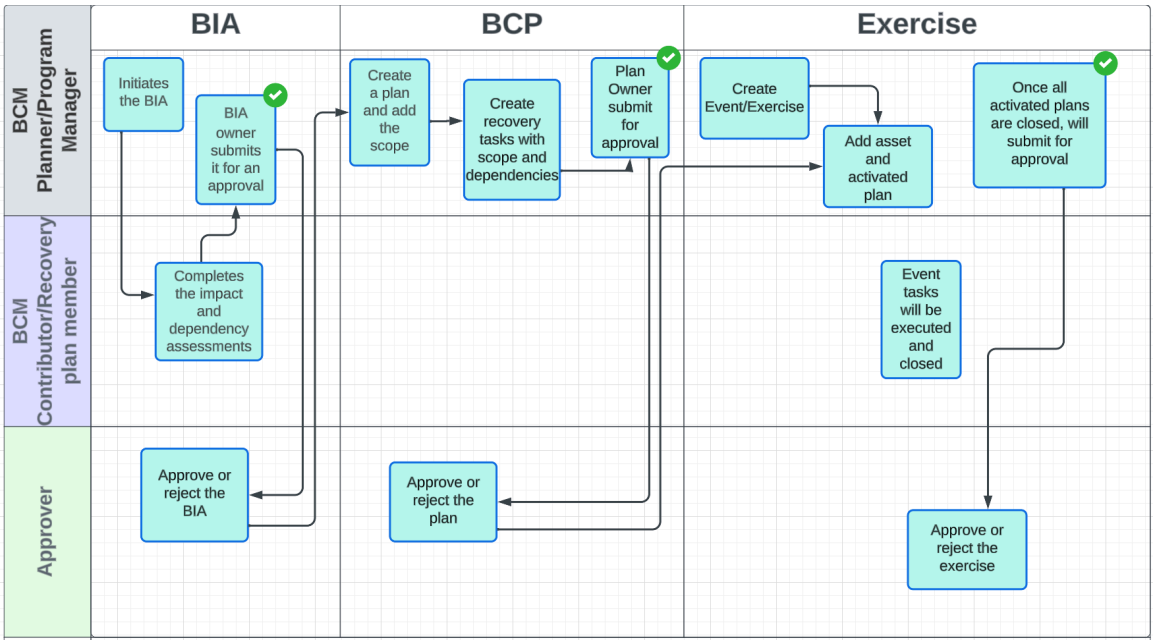
事業継続性管理 アプリケーションには、ビジネスインパクトアナリシス、事業継続性計画、演習管理、危機管理などの継続的な管理アクティビティを実行するためのフレームワークが入っています。事業継続性管理 アプリケーションの構造化されたワークフローにより、組織が問題に対応し、中断から短期間で復旧する能力が向上します。

事業継続性管理 のワークフロー

事業継続性管理 アプリケーションの一般的なワークフローでは、事業継続性タスクを管理するために次のステップを行います。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



1. アドミニストレーターが ServiceNow Store から 事業継続性管理 アプリケーションをダウンロードする。
2. BCM アドミニストレーターが、事業継続性アクティビティを実行するための 事業継続性管理 アプリケーションとテンプレートを設定する。
3. BCM プログラムマネージャーまたはビジネスインパクトアナリシス (BIA) アドミニストレーターが、中断がビジネスプロセスと IT アプリケーションに及ぼす影響を判断するためのビジネスインパクトアナリシスを作成する。BIA アドミニストレーターが、インシデントの結果にも注目して、通常のビジネスオペレーションを再開するための復旧時間を見積もる。
4. BCM プログラムマネージャーまたは BCM リードがアセスメントをレビューし、ビジネスインパクトアナリシスを承認する。
5. BCM プログラムマネージャーまたは事業継続性計画 (BCP) アドミニストレーターが、事業継続性計画を作成し、それに関連する資産、スコープ、ドキュメント、関連計画、復旧チーム、損失シナリオ、および復旧タスクを追加する。その後 BCP アドミニストレーターが、事業継続性計画のレビューと承認を求める承認要求を BCM リードに送信する。
6. BCM プログラムマネージャーが演習イベントを作成し、資産とその依存関係を追跡して、演習イベントを承認する。
7. BCM プログラムマネージャーが、危機イベントに対応し、資産とそれに関連する依存関係を追跡して、復旧タスクを管理して中断の悪影響を軽減する。
8. BCM プログラムマネージャーが、クライシスマップ インターフェイスからのアラートを管理し、応答ワークフローを開始してダウンタイムを最小限に抑える。
9. BCM アドミニストレーターまたは BCM プログラムマネージャーが、Everbridge 通知システムで緊急通知を送信し、危機アラートについてステークホルダーに通知する。

事業継続性管理 のメリット

事業継続性管理 アプリケーションには次のメリットがあります。

メリット	機能	ユーザー
ホームページのインタラクティブダッシュボードから事業継続性アクティビティを管理します。	ホームページビュー	BCM プログラムマネージャー

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メリット	機能	ユーザー
[自分のタスク] ビューの単一のダッシュボードから、個人とチームのタスクを監視します。	[自分のタスク] ページビュー	BCM プログラムマネージャー
ビジネスインパクトアナリシスを作成して、重要なビジネスサービスと IT アプリケーションを評価します。	ビジネスインパクトアナリシスの作成	BCM プログラムマネージャーまたは BIA アドミニストレーター
応答戦略を含めた事業継続性計画を準備し、BCM リードとプログラムマネージャーによるレビューを受けます。	事業継続性計画の作成	BCM プログラムマネージャーまたは BCP アドミニストレーター
イベントを継続的にテストおよび実行して、事業継続性計画を確定します。	演習を作成	BCM プログラムマネージャーまたは BCM 計画者
実際の危機イベントに対応し、関連するイベントタスクを管理します。	危機イベントの開始	BCM プログラムマネージャーまたは BCM 計画者
クライシスマップ のアラートに応答し、アラートを管理するための復旧タスクを実行します。	マップインターフェイスからのアラートの管理	BCM アドミニストレーターまたは BCM プログラムマネージャー
Everbridge で緊急通知を送信して、危機アラートについてステークホルダーに通知します。	を使用した通知の送信 Everbridge	BCM アドミニストレーターまたは BCM プログラムマネージャー

自動翻訳

サンゴのテーマ

珊瑚が 事業継続性ワークスペースのデフォルトのテーマになりました。このテーマは、ユーザーエクスペリエンスを向上させるためにブランド中立のイラストを特徴とする新鮮なルックアンドフィールを提供します。ダークテーマオプションは、Web およびモバイルエクスペリエンスで使用できます。

BCM Pro および **IRM Pro** ライセンスでインストールされるロール

Yokohama リリース以降、オペレーショナルレジリエンス ロールは BCM Pro と IRM Pro ライセンスの関係を含むように変更されています。

オペレーショナルレジリエンス IRM Pro ライセンスのユーザー、マネージャー、アドミニストレーターは、対応するレポート、チャート、データにアクセスできるようになりました。同様に、オペレーショナルレジリエンス BCM Pro ライセンスのユーザー、マネージャー、およびアドミニストレーターは、対応するレポート、グラフ、およびデータにアクセスできるようになりました。

改訂された オペレーショナルレジリエンス ロールの詳細については、「オペレーショナルレジリエンスとともにインストールされるロール」を参照してください。

BCM 構成可能ワークスペース

バージョン 5.x.x 以降、事業継続性管理 アプリケーションは BCM 構成可能ワークスペース をサポートしています。BCM 構成可能ワークスペース の直感的な機能を使用して、事業継続性タスクを実行できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

BCM 構成可能ワークスペース の機能強化

BCM 構成可能ワークスペース (別名 事業継続性ワークスペース) では、ユーザーに提供されるユーザーエクスペリエンスが強化され、簡素化されています。BCM アプリケーションユーザーは、BCM 構成可能ワークスペース を通じて次のような BCM クラシック ワークスペース の機能拡張を利用できます。

1. ホームページのインタラクティブダッシュボードから、危機イベント、ビジネスインパクトアナリシス、計画立案、および演習を管理する。
2. [自分のタスク] ページで個人やチームのタスクを監視し、処理待ちのタスクを迅速に処理する。
3. クライシスマップ のアラートに応答し、復旧タスクを効果的に管理する。
4. ビジネスインパクトアナリシス、計画立案、演習、および危機イベントレコードの 360-Degree Relationship データを可視化し、すべての依存関係の全体像を見る。

クラシック ワークスペース 内の 事業継続性ワークスペース は BCM 構成可能ワークスペース を指すように自動的に更新されます。BCM クラシック ワークスペース の詳細については、「BCMクラシックの使用ワークスペース」を参照してください。

詳細な構成が可能でロール主導型の ワークスペース

BCM 構成可能ワークスペースは構成可能で、ロール主導型です。組織内のユーザーまたはロールごとにカスタマイズされた一意のものです。特定のユーザーロールにログインしてさまざまな機能を実行できます。ユーザーインターフェイスのビューは互いに異なります。

BCM アプリケーションのユーザーロールの詳細については、「事業継続性管理とともにインストールされるコンポーネント」を参照してください。

アプリケーションをインストールしてアクティブ化するストアアプリの詳細については、「事業継続性管理 および ServiceNow Store」を参照してください。

BCM クラシックワークスペースのサポート

Vancouverリリース以降、BCM 構成可能ワークスペースは最新のユーザーエクスペリエンスを提供しています。Xanaduリリース後、BCMクラシックワークスペースは廃止される予定です。BCM クラシックワークスペースは、Xanaduリリース後も URL を介して引き続き使用できますが、ナビゲーションには表示されなくなります。BCM 構成可能ワークスペースを使用すると、Xanaduリリース後の円滑な移行が保証されます。

BCM クラシックワークスペースは旧式のユーザーインターフェイスであり、Xanaduリリースで導入された新機能や拡張機能と互換性がありません。アップグレード後もBCMクラシックワークスペースを引き続き使用すると、ServiceNow でサポートされない問題やエラーが発生する可能性があります。

中断を避けるために、Xanaduリリースの前または直後にBCM 構成可能ワークスペースに移行すると、最新の機能と最高のユーザーエクスペリエンスが提供されます。

BCMアプリケーションのユーザー

BCMアプリケーションは、次のタイプのユーザーにとっての中心的なワークベンチです。

- BCMアドミン
- BCMマネージャー
- BCM計画者
- BCM貢献者
- BCMビューアー

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

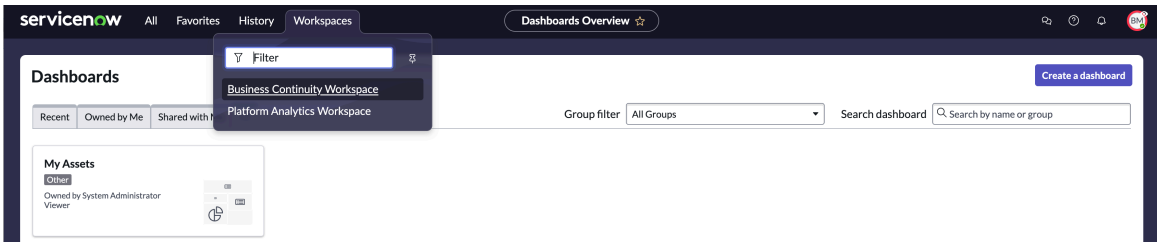
自動翻訳

- ビジネスユーザー
- IT アプリケーションオーナー

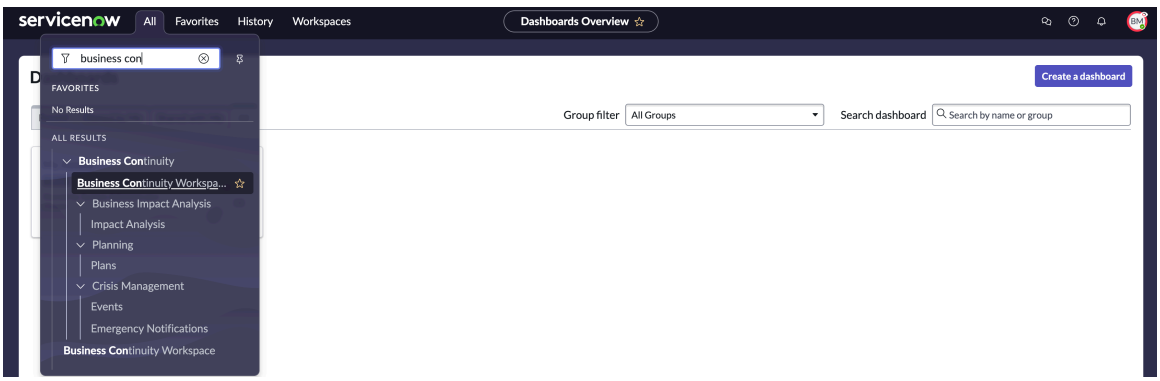
BCM 構成可能ワークスペース への移動

特定のユーザーロールで事業継続性管理アプリケーションにログインすると、次のいずれかのオプションを使用して事業継続性ワークスペースに移動できます。

- 最初のオプション:移動先 事業継続性ワークスペース>ワークスペース 次の例に示すように、アプリケーションインスタンスで行います。



- 2 番目のオプション:移動先 すべての>事業継続性>事業継続性ワークスペース 次の例に示すように、アプリケーションインスタンスで行います。



注:
クラシック ワークスペースビュー内の事業継続性ワークスペースは、BCM 構成可能ワークスペースへ移動するように自動的に更新されます。

事業継続性ワークスペースのアイコン

事業継続性ワークスペースを起動すると、ワークスペースビューのサイドバーに次のアイコンが表示されます。

- ホームページ：事業継続性タスクを一元化されたビューに表示します。
- [タスク] ページ：ログインしているユーザーのタスクの概要が表示されます。詳細については、「[自分のタスク] ページビュー」を参照してください。
- リスト：ビジネスインパクトアナリシス、計画立案、演習、および危機イベントレコードの数とステータスを表示します。詳細については、「リストビュー」を参照してください。
- クライシスマップ：さまざまな場所からのリアルタイムの脅威アラートを 1 つのマップビューに表示します。詳細については、「クライシスマップ ビュー」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

BCM 構成可能ワークスペースでの機能コンポーネントの管理

BCMアプリケーションの次の機能コンポーネントを、BCM 構成可能ワークスペースで管理できます。

ビジネスインパクトアナリシス

ビジネスインパクトアナリシスを実行すると、高リスクな資産を特定し、重要なビジネス機能やサービスに対する中断の影響を判断するために役立ちます。影響を分析することで、ビジネスを再開するための復旧時間を見積もったり、インシデントと中断の結果を重点的に見たりすることもできます。

ビジネスインパクトアナリシスの作成については、「ビジネスインパクトアナリシス」を参照してください。ビジネスインパクトアナリシスの構造化ワークフロータスクの詳細については、「BIA 向けの構造化されたワークフロー」を参照してください。

事業継続性計画

事業継続性タスクを計画することで、重要なビジネスプロセスと IT 機能の継続性および復旧に関する計画を策定できます。災害復旧により、組織の重要なデータとそのテクノロジーシステムを保護、復旧、復元することができます。また、各アクティビティの事業継続性戦略を策定することもできます。

事業継続性計画の作成については、「事業継続性計画」を参照してください。事業継続性計画の構造化ワークフロータスクの詳細については、「BCP の構造化ワークフロー」を参照してください。

演習管理

シミュレートされた危機で計画をの演習を行うイベントを作成すると、継続的なテストによって事業継続性計画を検証するために役立ちます。そうすると、計画の有効性と、シミュレートされた危機の間の使いやすさを向上させることができます。

演習イベントの詳細については、「訓練」を参照してください。演習管理の構造化ワークフロータスクの詳細については、「演習用の構造化ワークフロー」を参照してください。

危機管理

実際の危機イベントを管理することは、中断によるビジネスシステムへの悪影響を軽減するために役立ちます。そうすると、アクションに優先順位を付け、適切な戦略を適用してダウンタイムを最小限に抑えることができます。

危機イベントの詳細については、「危機イベント」を参照してください。危機管理の構造化ワークフロータスクの詳細については、「危機イベントの構造化されたワークフロー」を参照してください。

注:
事業継続性管理 の設定については、「BCM の全般管理セットアップ」を参照してください。

ホームページビュー

事業継続性ワークスペース のホームページは、BCM アプリケーションのランディングページとして機能します。

事業継続性ワークスペース のホームページ

事業継続性ワークスペース のホームページには、インタラクティブダッシュボードの BCM 機能コンポーネントの概要が表示されます。ビジュアル化は、ワークスペース ユーザーが自分のタスクのス

自動翻訳

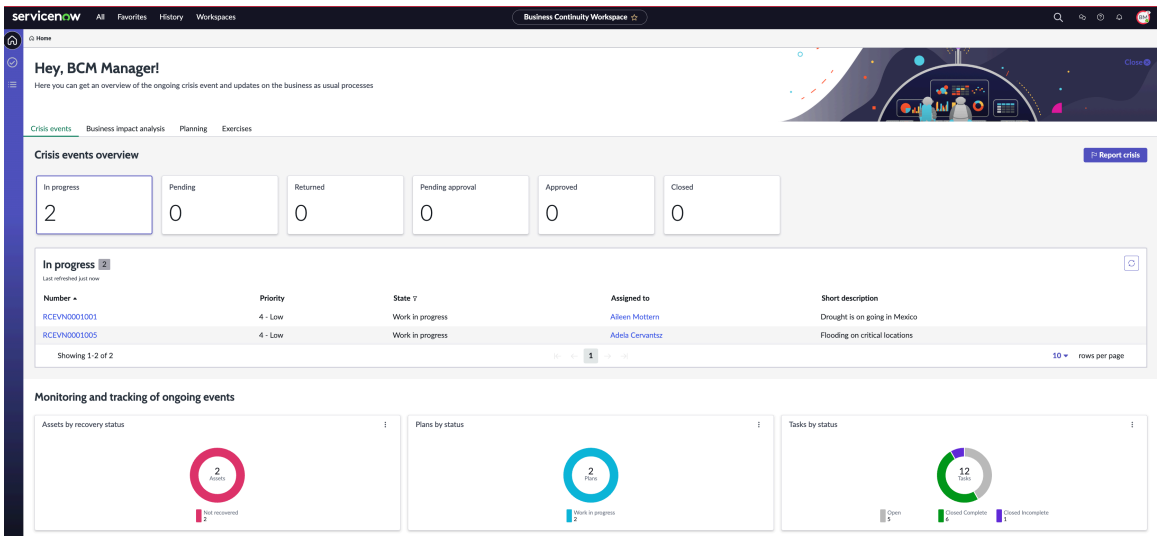
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テータスを把握し、それらを体系的に処理するために役立ちます。ホームページに表示される情報は次のとおりです。

- 危機イベント
- ビジネスインパクトアナリシス
- 計画
- 訓練

[危機イベント] タブ

ホームページの [危機イベント] タブには、危機イベントに関する情報を提供するさまざまなカードが表示されます。さまざまな状況の危機イベント、選択した危機イベントの詳細、および危機イベントの監視と追跡を確認できます。次の例は、[危機イベント] タブのカードを示しています。



[危機イベント] タブのカードの説明については、次の表を参照してください。

[危機イベント] タブのカード

カード	説明
危機イベントの概要 (Crisis events overview)	さまざまな状況の危機イベントの概要。表示可能な危機イベントの詳細の状況は次のとおりです。 対応中 [対応中] ステータスの危機イベントの数。 保留中 [保留中] ステータスの危機イベントの数。 戻り [戻り] ステータスの危機イベントの数。 承認待ち [承認待ち] ステータスの危機イベントの数。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[危機イベント] タブのカード (続く)

カード	説明
	承認済み [承認済み] ステータスの危機イベントの数。 クローズ済み [クローズ済み] ステータスの危機イベントの数。
選択したイベントカードの詳細	選択したカードのステータスに対する危機イベントの詳細。たとえば、[危機イベントの概要 **(Crisis events overview)]** で [対応中] を選択した場合、[対応中] ステータスの危機イベントの詳細がこのパネルに表示されます。表示可能な危機イベントの詳細は次のとおりです。 アクティブ 危機イベントの状況。ステータスは **True** または **False**です。リンクを選択すると、危機イベントレコードを開くことができます。 アクティビティ期限 危機イベントを期限とするアクティビティ。 参加者 危機イベントの参加者。 承認 危機イベントの承認情報。 承認履歴 危機イベントの承認履歴。 アサイン先 危機イベントへの対応を担当するアサイニーの名前。列でアサイニー名を選択すると、レコードフォームが開き、次のタブが表示されます。 • 詳細 • ロール • グループ • 委任 アサイン先グループ 危機イベントのアサイン先グループ。 ビジネス時間 危機イベントのビジネス時間。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[危機イベント] タブのカード (続く)

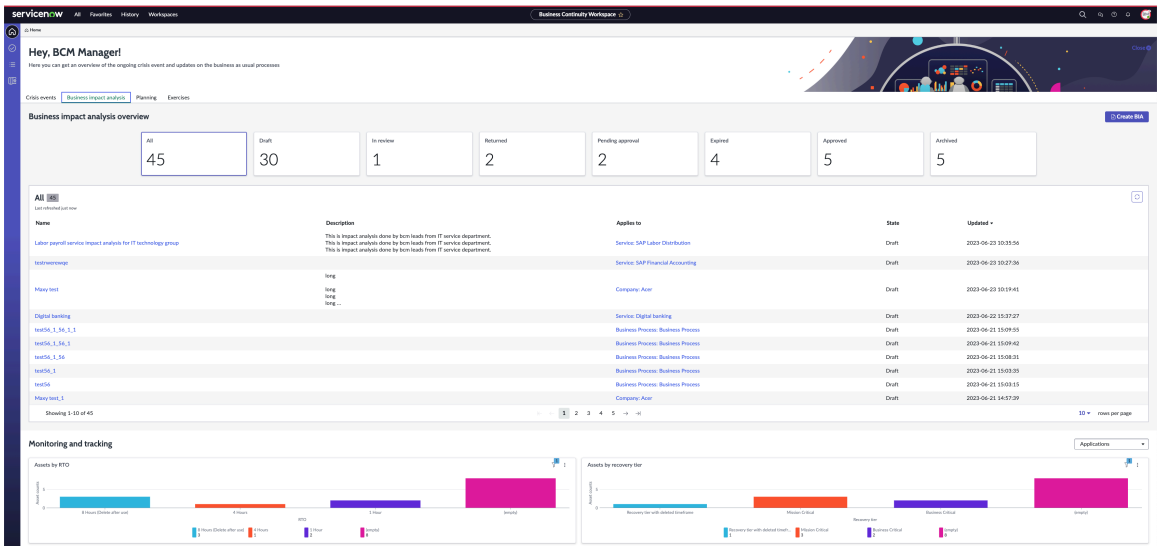
カード	説明
	サービス 危機イベントによって影響を受けたサービス。
進行中のイベントの監視と追跡 (Monitoring and tracking of ongoing events)	すべての危機イベントのグラフ表示。危機イベントに関連する資産、計画、およびタスクに基づいて、円グラフ形式で情報をフィルタリングできます。 復旧ステータス別の資産 進行中のイベントの資産の数を復旧ステータス別に表示します。円グラフで表示される資産の詳細情報は次のとおりです。 • 未復旧 • 復旧済み 画像の例は、合計 18 の資産のうち、17 の資産がまだ復旧されておらず、1 つの資産が復旧されていることを示しています。 ステータス別の計画 進行中のイベントの計画を次のステータス別に表示します。 • 保留中 • 処理中 • 完了してクローズ タスク (ステータス別) 進行中のイベントのタスクを次のステータス別に表示します。 • オープン • 保留中 • 未完了でクローズ • 完了してクローズ • スキップしてクローズ
[危機を報告**(Report crisis)]** アクションボタン	危機を報告し、[危機イベント] タブから危機イベントを作成するためのアクションボタン。[危機を報告**(Report crisis)]** を選択すると、危機イベントの詳細を入力できる [新規イベントを作成] フォームが起動します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ビジネスインパクトアナリシス] タブ

ホームページの [ビジネスインパクトアナリシス] タブには、ビジネスインパクトアナリシスに関する情報を提供するさまざまなカードが表示されます。さまざまな状況のビジネスインパクトアナリシス、選択した分析の詳細、および分析の監視と追跡を確認できます。次の例は、[ビジネスインパクトアナリシス] タブのカードを示しています。



[ビジネスインパクトアナリシス] タブのカードの説明については、次の表を参照してください。

[ビジネスインパクトアナリシス] タブのカード

カード	説明
ビジネスインパクトアナリシスの概要	さまざまな状況のビジネスインパクトアナリシスの概要。表示可能なビジネスインパクトアナリシスの詳細の状況は次のとおりです。 すべて BCM アプリケーションでのビジネスインパクトアナリシスの総数。 ドラフト [ドラフト] ステータスのビジネスインパクトアナリシスの数。 レビュー中 [レビュー中] ステータスのビジネスインパクトアナリシスの数。 戻り [戻り] ステータスのビジネスインパクトアナリシスの数。 承認待ち [承認待ち] ステータスのビジネスインパクトアナリシスの数。 期限切れ [期限切れ] ステータスのビジネスインパクトアナリシスの数。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ビジネスインパクトアナリシス] タブのカード (続く)

カード	説明
	承認済み [承認済み] ステータスのビジネスインパクトアナリシスの数。 アーカイブ化済み [アーカイブ化済み] ステータスのビジネスインパクトアナリシスの数。
選択したビジネスインパクトアナリシスカードの詳細	選択したカードのステータスに対するビジネスインパクトアナリシスの詳細。たとえば、[危機イベントの概要 **(Crisis events overview)]** で [対応中] を選択した場合、[対応中] ステータスのビジネスインパクトアナリシスの詳細がこのパネルに表示されます。ビジネスインパクトアナリシスの以下の詳細が、表形式で表示されます。 名前 ビジネスインパクトアナリシスの名前。 説明 ビジネスインパクトアナリシスの説明。 適用先 ビジネスインパクトアナリシスが適用されるサービス、プロセス、または会社。 状況 ビジネスインパクトアナリシスのステータス。 更新日時 ビジネスインパクトアナリシスが更新される日時。
進行中のビジネスインパクトアナリシスの監視と追跡	すべてのビジネスインパクトアナリシスを、それに関連する資産についてグラフィカルなパイチャート形式で表現したもの。 RTO 別の資産 目標復旧時間 (RTO) が異なる資産の数を表示します。この画像は、RTO が 8 時間の 3 つの資産と、RTO が 4 時間の 1 つの資産の例を示しています。 復旧階層別の資産 復旧階層が異なる資産の数を表示します。この画像は、ミッションクリティカルな復旧階層を持つ 3

自動翻訳

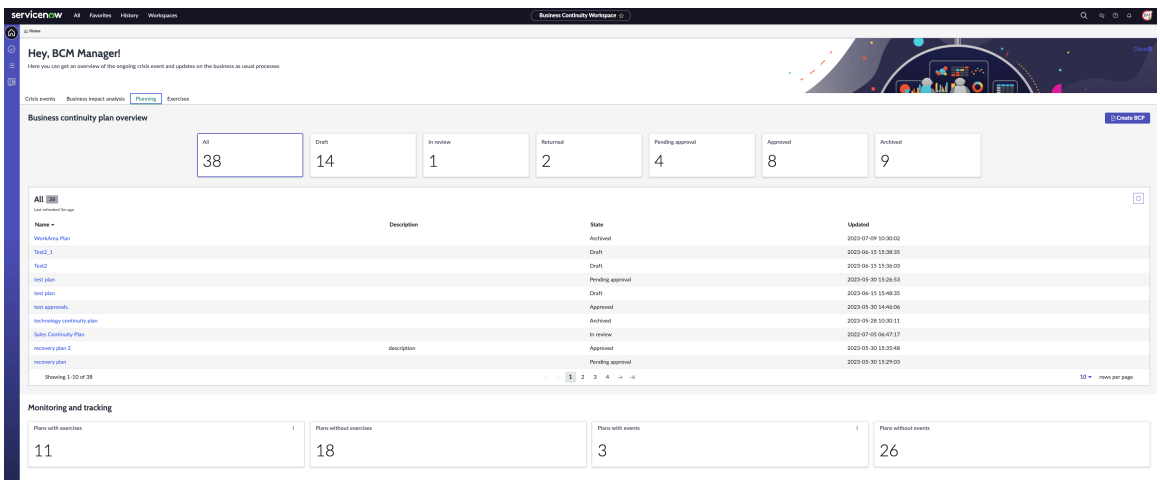
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ビジネスインパクトアナリシス] タブのカード (続く)

カード	説明
	つの資産と、ビジネスクリティカルな復旧階層を持つ 2 つの資産の例を示しています。
[BIA を作成] アクションボタン	[ビジネスインパクトアナリシス] タブからビジネスインパクトアナリシスを作成するためのアクションボタン。**[BIA を作成]**を選択すると、ビジネスインパクトアナリシスの詳細を入力できる [新規インパクト分析を作成 **(Create New Impact analysis)]** フォームが起動します。

[計画] タブ

ホームページの [計画] タブには、事業継続性計画に関する情報を提供するさまざまなカードが表示されます。事業継続性計画、選択した計画の詳細、および計画の監視と追跡を確認できます。次の例は、[事業継続性計画] タブのカードを示しています。



[計画] タブのカードの説明については、次の表を参照してください。

[計画] タブのカード

カード	説明
事業継続性計画の概要	さまざまな状況の事業継続性計画の概要。事業継続性計画は、次の状況のいずれかで表示されます。 すべて BCM アプリケーションのすべての事業継続性計画。 ドラフト [ドラフト] ステータスの事業継続性計画。 レビュー中 [レビュー中] ステータスの事業継続性計画。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

[計画] タブのカード (続く)

カード	説明
	戻り [戻り] ステータスの事業継続性計画。 承認待ち [承認待ち] ステータスの事業継続性計画。 承認済み [承認済み] ステータスの事業継続性計画。 アーカイブ化済み [クローズ済み] ステータスの事業継続性計画。
選択した事業継続性計画カードの詳細	選択したカードのステータスに対する事業継続性計画の詳細たとえば、[事業継続性計画の概要] で [対応中] を選択した場合、[対応中] ステータスの事業継続性計画の詳細がこのパネルに表示されます。ビジネスインパクトアナリシスの以下の詳細が、表形式で表示されます。 名前 事業継続性計画の名前。 説明 事業継続性計画の説明。 状況 事業継続性計画の状況。 更新日時 事業継続性計画が更新される日時。
監視と追跡	すべてのアクティブな事業継続性計画を次の円グラフ形式でグラフィカルに表現したもの。 訓練を含む計画 カードを選択して、演習を含む計画を表示できます。 訓練のない計画 カードを選択して、演習のない計画を表示できます。 イベントを含む計画 カードを選択して、イベントを含む計画を表示できます。 イベントのない計画 カードを選択して、イベントのない計画を表示できます。

自動翻訳

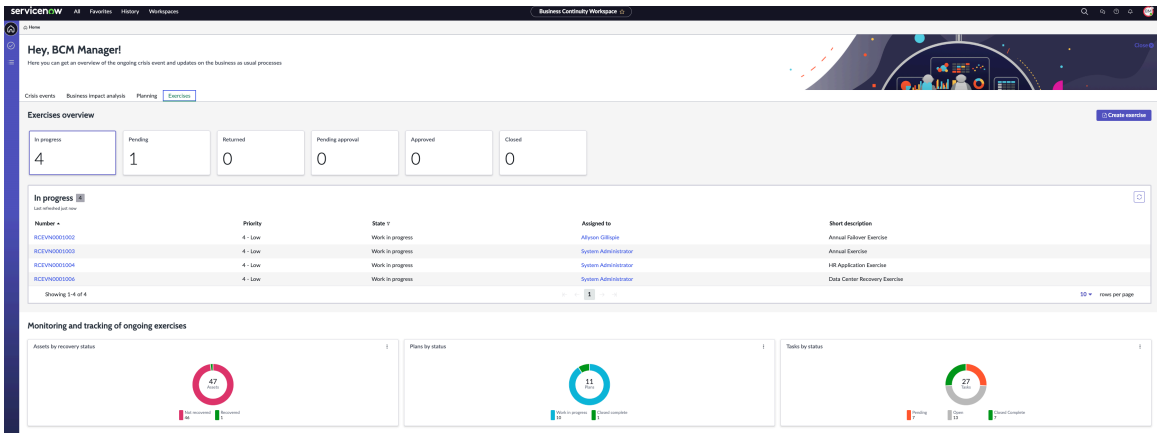
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[計画] タブのカード (続く)

カード	説明
[BCPを作成] アクションボタン	[計画] タブから事業継続性計画を作成するためのアクションボタン。**[BCP**を作成]を選択すると、事業継続性計画の詳細を入力できる [新規計画を作成] フォームが起動します。

演習

ホームページの [演習] タブには、演習イベントに関する情報を提供するさまざまなカードが表示されます。さまざまな状況の演習イベント、選択した演習イベントの詳細、および演習イベントの監視と追跡を確認できます。次の例は、[演習] タブのカードを示しています。



[演習] タブのカードの説明については、次の表を参照してください。

[演習] タブのカード

カード	説明
演習の概要(Exercises overview)	さまざまな状況の演習イベントの概要。表示可能な演習イベントの詳細の状況は次のとおりです。 対応中 [対応中] ステータスの演習イベント。 保留中 [保留中] ステータスの演習イベント。 戻り [戻り] ステータスの演習イベント。 承認待ち [承認待ち] ステータスの演習イベント。 承認済み

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[演習] タブのカード (続く)

カード	説明
	[承認済み] ステータスの演習イベント。 クローズ済み [クローズ済み] ステータスの演習イベント。
選択したステータスの演習の概要	選択したカードのステータスに対する演習イベントの詳細。たとえば、[演習の概要**(Exercises overview)]** で [対応中] を選択した場合、[対応中] ステータスの演習イベントの詳細がこのパネルに表示されます。演習イベントの以下の詳細が、表形式で表示されます。 アクティブ 演習イベントの状況。ステータスは **True** または **False**です。リンクを選択すると、演習イベントレコードを開くことができます。 アクティビティ期限 演習イベントを期限とするアクティビティ。 参加者 演習イベントの参加者。 承認 演習イベントに関する承認情報。 承認履歴 演習イベントの承認履歴。 アサイン先 危機イベントへの対応を担当するアサイニーの名前。列でアサイニー名を選択すると、レコードフォームが開き、次のタブが表示されます。 • 詳細 • ロール • グループ • 委任 アサイン先グループ 演習イベントのアサイン先グループ。 ビジネス時間 演習イベントのビジネス時間。 サービス

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[演習] タブのカード (続く)

カード	説明
	演習イベントのサービス。
進行中の演習の監視と追跡 (Monitoring and tracking of ongoing exercises)	すべてのアクティブな演習を次の円グラフ形式でグラフィカルに表現したもの。 復旧ステータス別の資産 進行中のイベントの資産の数を復旧ステータス別に表示します。円グラフで表示される資産の詳細情報は次のとおりです。 • 未復旧 • 復旧済み 画像の例は、合計 18 の資産のうち、17 の資産が復旧されておらず、1 つの資産が復旧されていることを示しています。 ステータス別の計画 進行中のイベントの計画を次のステータス別に表示します。 • 保留中 • 処理中 • 完了してクローズ タスク (ステータス別) 進行中のイベントのタスクを次のステータス別に表示します。 • オープン • 保留中 • 未完了でクローズ • 完了してクローズ • スキップしてクローズ
[演習を作成] アクションボタン	[演習] タブから演習イベントを作成するためのアクションボタン。[演習を作成] を選択すると、演習イベントの詳細を入力できる [新規イベントを作成] フォームが起動します。

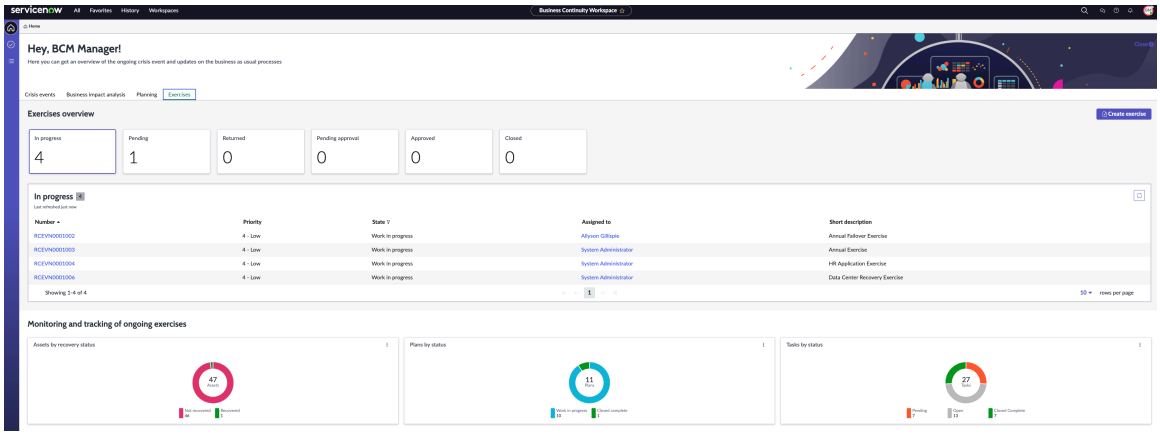
BCM マネージャーと BCM 計画者のホームページビュー

BCM アプリケーションにログインすると、ユーザーロール、責任、およびアサインされたタスクに従ってホームページビューが表示されます。

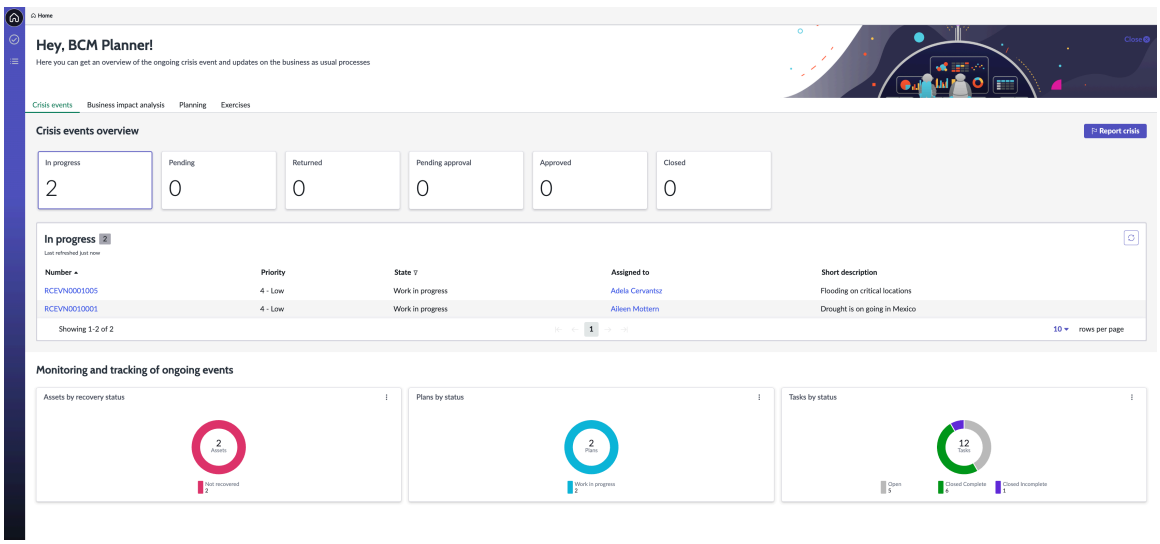
BCM マネージャーの一般的なホームページビューは、次の例のように表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



BCM 計画者の一般的なホームページビューは、次の例のように表示されます。



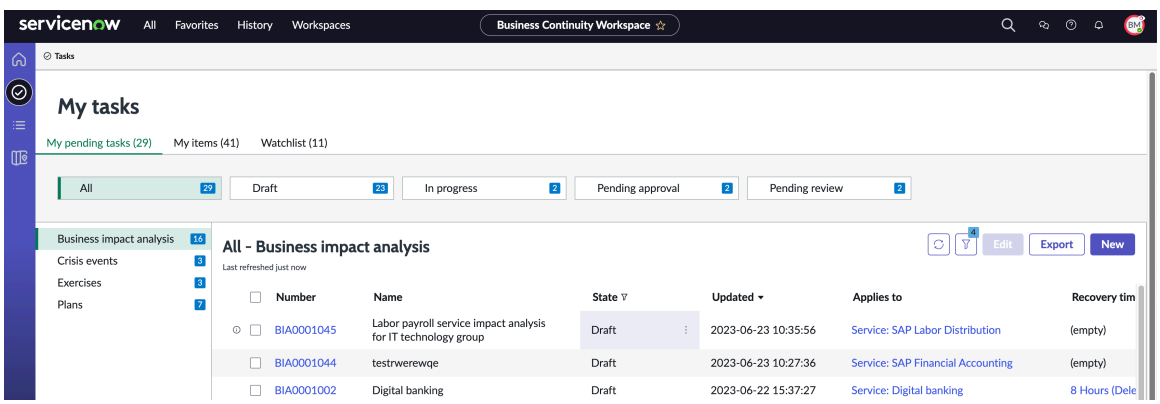
ホームページのタブとそれに関連するアクションの詳細については、「ホームページビュー」を参照して ください。

[自分のタスク] ページビュー

[自分のタスク] ページには、処理待ちのタスク、自分のユーザーグループにアサインされたタスク、およびウォッチリストにあるタスクが 1 つのペインに表示されます。

[タスク] ページのタブ

次の例に示すように、ログインしているユーザーにアサインされたタスクが [タスク] ページに表示されます。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

BCM UIB ワークスペース の [タスク] ページには、次のタブが表示されます。

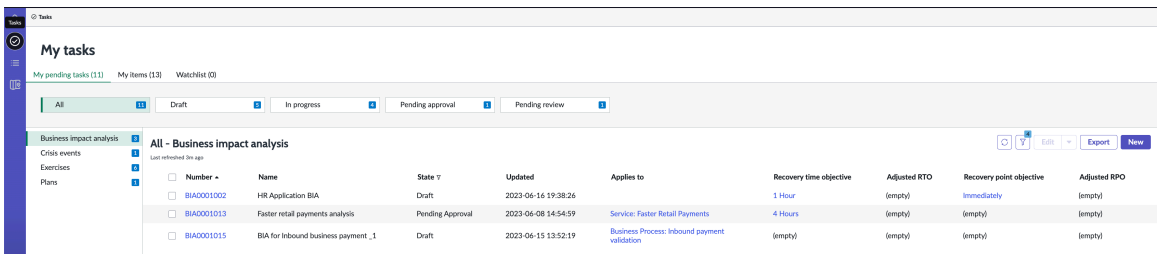
- 自分の保留中タスク：自分にアサインされている処理待ちのタスクと、自分のアクションが必要なタスクの概要が表示されます。次のタイプの状況を使用して、保留中のタスクをフィルタリングできます。
  - すべて
  - ドラフト/新規
  - 処理中
  - 自分の承認が必要
  - 自分のレビューが必要
  - 期限切れ
  - 保留中の応答

  注:
  [タスク] ページに表示されるデータは、ユーザーのロールに基づいています。

- 自分のアイテム：ログインしているユーザーにアサインされているタスクのリストが表示されます。

- ウォッチリスト：自分がウォッチリストに入っているタスクのリストが表示されます。タスクが承認または完了すると、[ウォッチリスト] タブに通知が表示されます。

次の例に、ログインしているユーザーの一般的な [自分のタスク] ページを示します。



アプリケーションの [自分のタスク] ページ構成モジュールの詳細については、「マイタスクページ構成」を参照してください。

注:
[自分の処理待ちのタスク]、 [自分のアイテム]、および [ウォッチリスト] タブでは、進行中のレコードのみを表示できます。クローズ済みレコードとキャンセル済みレコードは、これらのタブには表示されません。BCM UIB ワークスペース のそれぞれのフォームで、クローズ済みレコードとキャンセル済みレコードを表示できます。

BCM アドミンロールを持っている場合は、[タスク] ページ構成モジュールを更新して BCM UIB ワークスペース をカスタマイズできます。[タスク] ページの構成を更新するには、次の場所に移動します すべての**>** [全般管理] **>** マイタスクページ構成 インスタンス内にあります

BCM マネージャーまたは BCM ユーザーロールを持っている場合は、ホームページで事業継続性タスクに関連する推奨事項を取得することもできます。

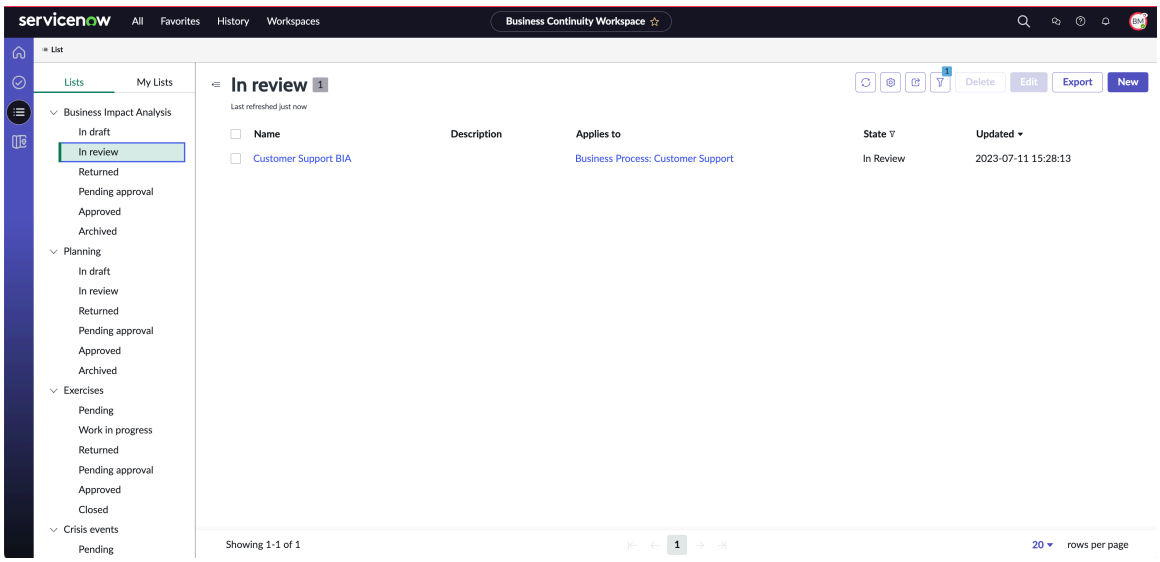
[タスク] ページの詳細情報を表示するには、「タスクページ設定レコードを更新する」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リストビュー

BCM UIB ワークスペース のリストビューには、すべての BCM 機能コンポーネントのスコープとその主要なメトリクス情報が表示されます。

リストビューを使用して、ビジネスインパクトアナリシス、計画立案、演習、および危機イベントレコードの数とステータスを確認します。BCM UIB ワークスペース の一般的なリストビューを次の例に示します。



各グループのレコードは現在のステータスに従ってリストされ、レコードの詳細を構成できます。[新規] を選択すると、レコードを作成できます。[名前] 列でレコードのリンクを選択して、その詳細を表示できます。

BCM UIB ワークスペース のリストビューを使用して、次の事業継続性タスクを完了します。

- 中断がビジネスサービス、プロセス、およびアプリケーションに及ぼす影響を評価する。ビジネスインパクトアナリシスの実行の詳細については、「ビジネスインパクトアナリシス」を参照してください。
- イベント発生時のリスクを軽減するための事業継続性計画を作成する。事業継続性計画タスクの管理の詳細については、「事業継続性計画」を参照してください。
- シミュレートされた危機で計画の演習を行うためのイベントを作成する。イベントの実行の詳細については、「訓練」を参照してください。
- 実際の危機に計画を適用する。危機イベントの管理の詳細については、「危機イベント」を参照してください。

BCM UIB ワークスペース での事業継続性タスクの管理の詳細については、「BCMワークフロータスクの管理」を参照してください。

レコードの 360 度リレーションシップデータの監視

ビジネスインパクトアナリシス、計画立案、演習、および危機イベントレコードに使用する 360 度リレーションシップデータを監視できます。各レコードの依存関係の概要を見ることもできます。

360 度ビューの構成は、 **360** 度ビューの構成 > **360** 度ビューの構成.BCMアドミニストレーターロールを持っている場合は、でレコードの関係を構成できます。 **360** 度ビューの構成 > 関係のレジストリ.

360 度のリレーションシップレジストリとビューの構成の詳細については、「360 度のリレーションシップレジストリとビューの構成」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

ビジネスインパクトアナリシスの 360 度リレーションシップを見るには、「BIA の 360 度の関係を可視化」を参照してください。

事業継続性計画の 360 度リレーションシップを見るには、「BCP の 360 度の関係を可視化」を参照してください。

演習イベントまたは危機イベントの 360 度リレーションシップを見るには、「演習と危機の 360 度の関係を表示する」を参照してください。

クライシスマップ ビュー

インスタンスに GRC: クライシスマップ アプリケーションをインストールすると、リストビューにクライシスマップ のアイコンが表示されます。クライシスマップ アプリケーションを BCM と統合して、マップビュー内のさまざまな場所からのリアルタイムの脅威アラートを分析できます。そうすることで、事業継続性ワークスペース から修復アクションを実行し、危機イベントを管理できます。

クライシスマップ に表示されるパネル

クライシスマップ アプリケーションは、次の各パネルで構成されています。

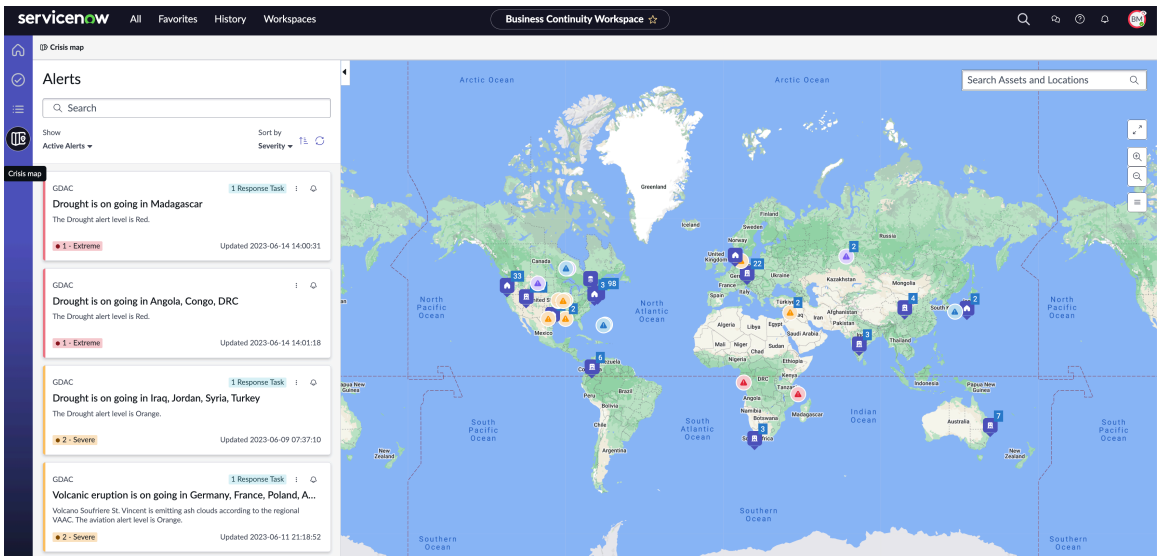
- [アラート] パネル
- アラートの場所を示すマップビュー

注:

クライシスマップ の検索機能を有効にするには、*sn_bcm_map.use_google_places_lib* システムプロパティを設定する必要があります。プロパティの設定の詳細については、「BCM とともにインストールされるプロパティ」を参照して下さい。

GRC: クライシスマップ アプリケーションでクライシスマップ機能を有効にするには、Google マップを設定する必要があります。詳細については、「Google Maps API の設定」を参照してください。

クライシスマップ アプリケーションの一般的なビューを次の例に示します。



クライシスマップ でのフィード、アラート、およびイベントの詳細については、「クライシスマップ インターフェイス」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

BCM アドミンのタスク

BCM アドミニストレーターは、クライシスマップ に対して次のセットアップタスクを実行する必要があります。

- ベースシステムによって提供される脅威フィードの統合を有効にする。
- Crisis Management アプリケーションに追加の脅威フィードを設定します。この設定により、脅威に関するアラートが危機管理者に送信され、適切なアクションを適時に実行できるようになります。

クライシスマップ のセットアップタスクの詳細については、構成セクションの「クライシスマップのセットアップ」を参照してください。

クライシスマップ の [アラート] パネル

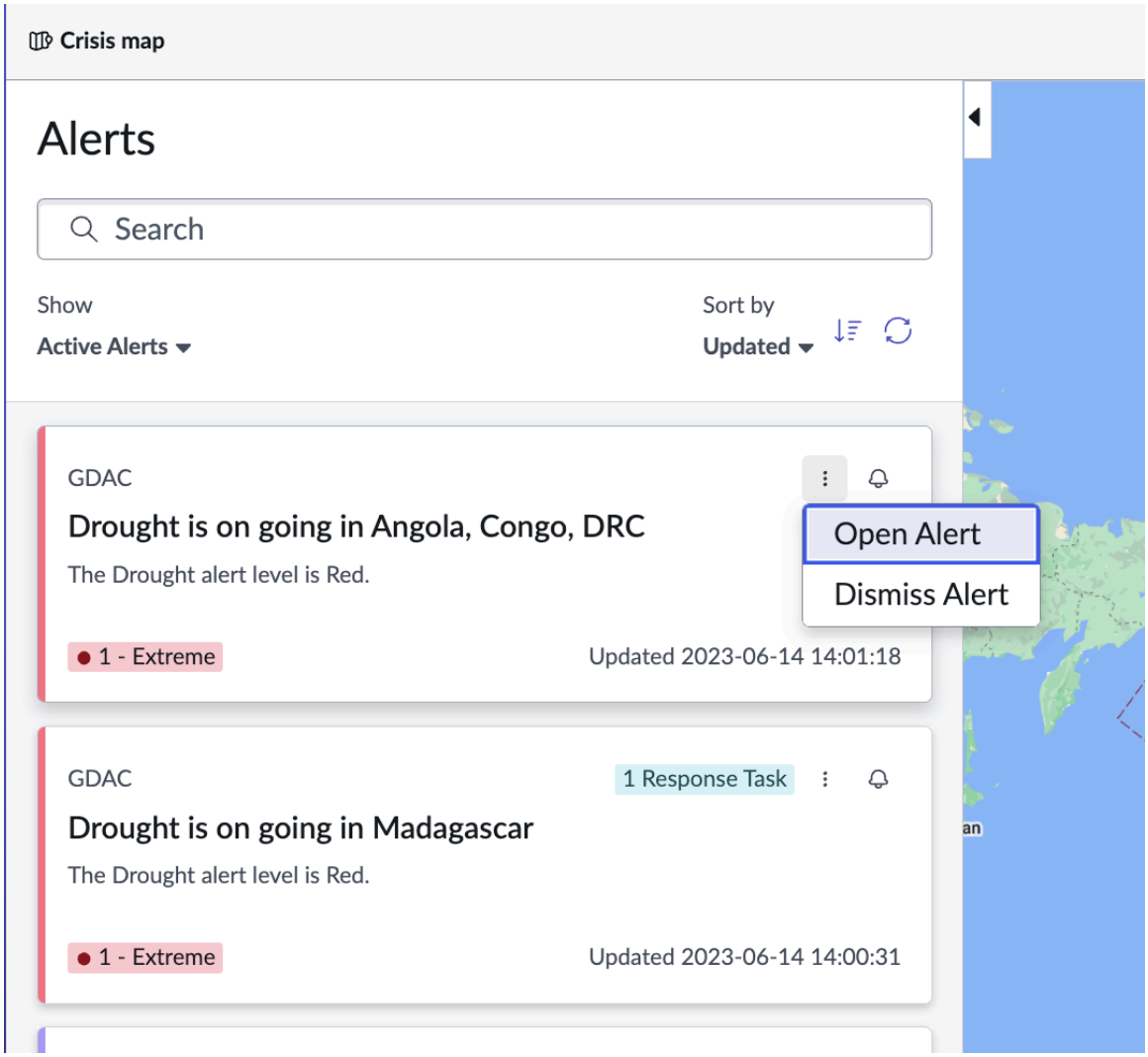
クライシスマップ の [アラート] パネルには、次の詳細が表示されます。

- 検索フィールド：特定のキーワードを使用してアラートを検索できます。
- 表示：このオプションを選択すると、次のタイプのアラートを表示できます。
  - アクティブアラート
  - アラート解除しました
- ソート基準：このオプションを選択すると、アラートをソートできます。次のオプションのいずれかを選択します。
  - 重大度：[極度] や [重大] などの重大度に基づいてアラートをソートして表示するには、このオプションを選択します。
  - 作成日時：作成日に基づいてアラートをソートして表示するには、このオプションを選択します。
  - 更新日時：更新された日付に基づいてアラートをソートして表示するには、このオプションを選択します。
  - ソート順を変更：アラートを昇順または降順で表示するには、このオプションを選択します。
  - 更新：アラート表示を更新するには、このオプションを選択します。

アラートパネルでアラートを開いたり閉じたりすることができます。次の例に示すように、ベルのアイコンを選択してアラートに登録することもできます。

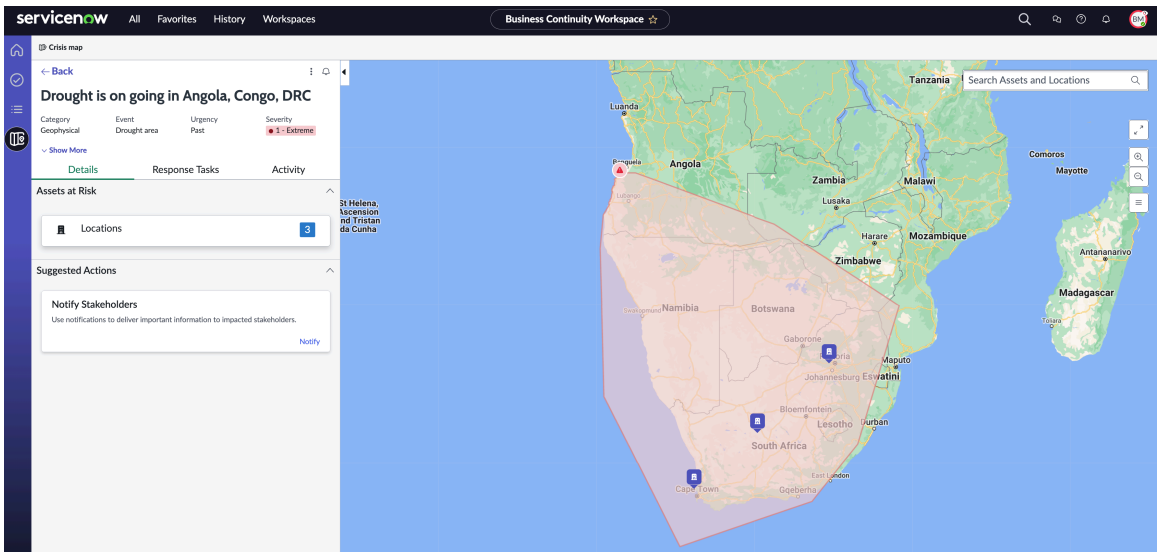
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



[アラート] パネル

[アラート] パネルでアラートを選択すると、次の例で示すように、カテゴリやイベントなどのアラートの詳細を含むズームインビューが起動します。



[アラート] パネルでは、ひとつのアラートの次の詳細を表示できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

[アラート] パネルの情報

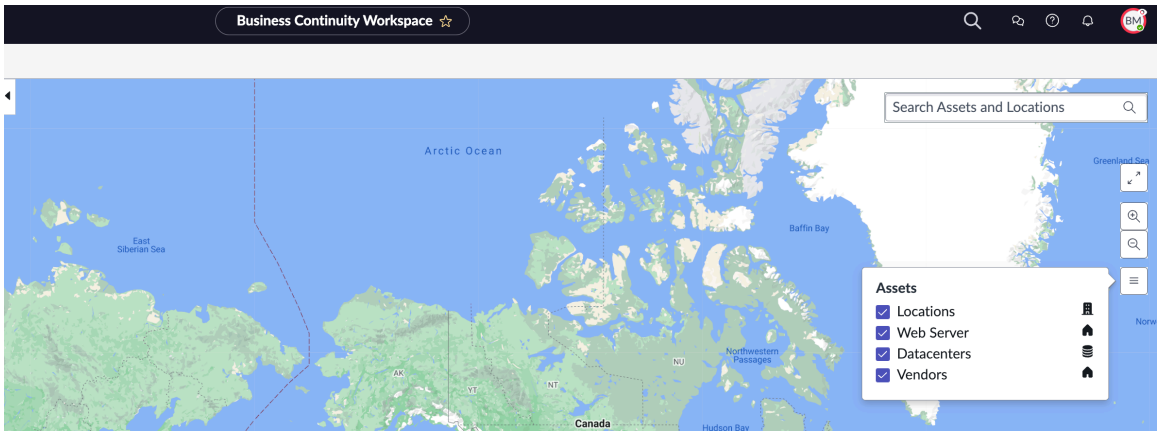
フィールド	説明
アラートのタイトル	アラートのタイトル (「アンゴラ、コンゴ、コンゴ民主共和国で干ばつが進行中です (Drought is ongoing in Angola, Congo, DRC)」など)。
カテゴリ	地球物理学などのアラートのカテゴリ。
イベント	アラートのイベント (「干ばつの地域 (Drought area)」など)。
緊急度	アラートの緊急度 (「過去」など)。
重大度	アラートの重大度 (「極度」など)。
確実性	アラートの確実性 (「不明」など)。
ソース	アラートのソース (GDAC など)。
緯度	アラートの緯度 (-14.0701845 など)。
経度	アラートの経度 (13.0958574 など)。
Web URL	アラートの Web URL (「Web https://www.gdacs.org/report.aspx?eventtype=DR&eventid=1014416」など)。
説明	アラートの説明 (「干ばつアラートレベルは Red です (The Drought alert level is Red)」など)。
[詳細] タブ	
リスクのある資産	場所ごとのリスクのある資産の数。場所を選択して、[名前]、[連絡先]、[電話番号]、[市区町村]、[緯度]、[経度]、[更新日時] などの詳細を表示できます。右側のパネルのマップビューには、アラートのズームインされた場所とハイライト表示された領域が表示されます。
応答タスク	アラートに関連付けられている応答タスク。
アクティビティ	アラートに関連するアクティビティ。[アクティビティ] パネルと、メモを追加できる [作成] セクションが表示されます。
提案されたアクション	アラートに対して提案されたアクション。たとえば、[ステークホルダーに通知] に「通知を使用して、影響を受けるステークホルダーに重要な情報を配信します。」と表示するなどです。
戻る	[アラート] パネルビューに移動するオプション。

クライシスマップ のマップビュー

Google マップを設定すると、次の例に示すように、マップビューでアラートの場所を表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



マップビューでは、次の詳細を表示できます。

マップビューの詳細

アイコン	説明
[資産と場所の検索] 検索バー	マップビューの検索バー。アラートの影響を受ける場所やデータセンターを入力できます。場所を検索すると、会社の結果のリストとレコードの表示値がそれらのアイコンとともに表示され、Google マップピンアイコンが表示されます。
ズームインとズームアウト	マップのズームレベルを変更し、特定の領域を表示するためのズームコントロールボタン。
レイヤーアイコン	資産の場所、データセンター、コア会社などの資産を選択してマップ上に表示するレイヤーアイコン (レイヤーコントロールアイコン)。 マップ上のレイヤーは、Google マップ上でピンとして表示され、構成可能です。資産の場所、資産、データセンター、コア会社などのすべてのレイヤーの詳細は、構成されたアイコンによってマップ上に表示されます。 レイヤーアイコンを使用すると、選択した資産のみを表示することも、すべての資産を表示することもでき、マップ上でオンとオフを切り替えることができます。危機管理者は、アクティブなアラートを表示するときに、他の資産ではなく、その時点で重要になる可能性のある単一の資産に集中することで、情報に基づいた意思決定を行うことができます。次の資産が表示されます。 • 場所 • Web サーバー • データセンター • ベンダー
リセットアイコン	マップからすべての検索結果をクリアするリセットアイコン。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスインパクトアナリシス

ビジネスインパクトアナリシスは、影響度カテゴリと依存関係を評価し、ビジネスプロセスまたはビジネス機能に対するサービスの中断の結果を予測する際の構造化されたプロセスです。

事業継続性計画の重要なコンポーネント

ビジネスインパクトアナリシスは、組織の事業継続性計画の不可欠なコンポーネントです。この中には、重要な情報システムに関する情報と、リスクを最小限に抑えるための戦略を含む計画立案コンポーネントが含まれています。

ビジネスマネージャーは、ビジネス全体の成長に寄与する可能性のある難しい意思決定を行う必要があります。場合によっては、予期しないイベントやサービスの中断によって破壊的な影響が生じることがあります。ビジネスインパクトアナリシスを実行することで、ビジネスにおけるこのような懸念を軽減することができます。イベントや意思決定の潜在的な影響を評価することで、ビジネスが将来の結果を予測し、業務停止から正常に回復できます。

ビジネスインパクトアナリシスのユースケースの詳細については、「ビジネスインパクトアナリシスのユースケース」を参照してください。

ビジネスインパクトアナリシスの作成で実行するステップ

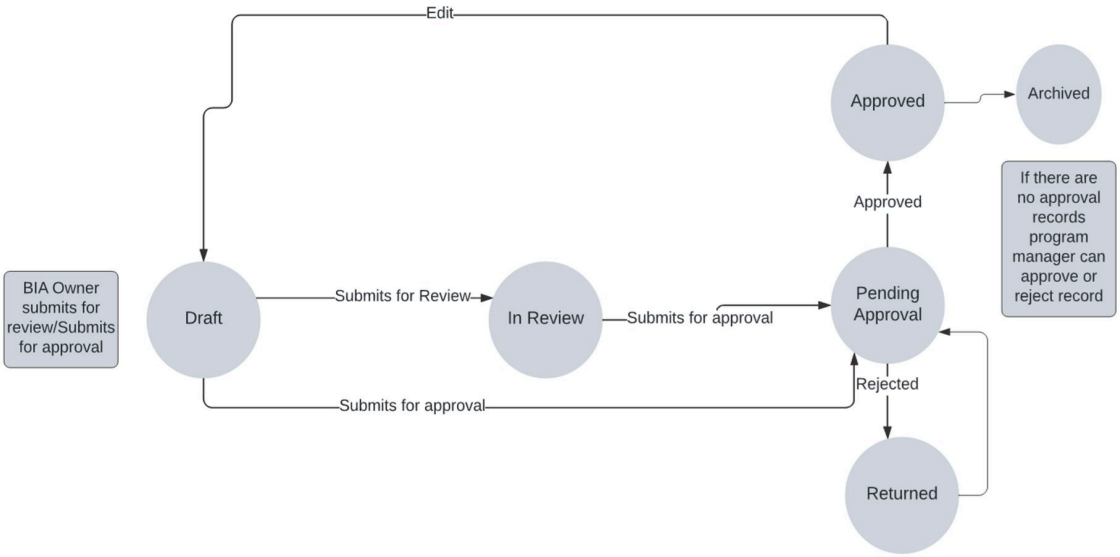
一般的に、ビジネスインパクトアナリシスの作成では次のようなステップを実行します。

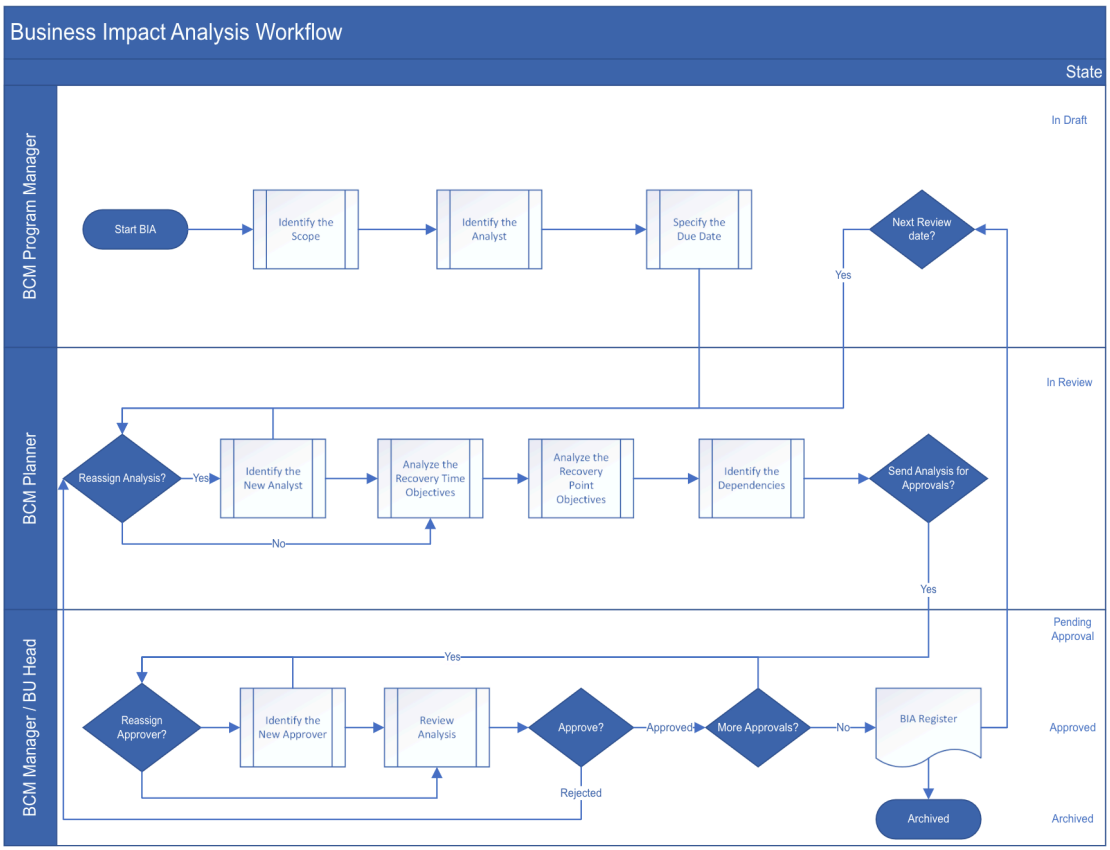
- ビジネスインパクトアナリシスオーナーが、ホームページ、または BCM UIB ワークスペースのリストビューのビジネスインパクトアナリシスレコードページから、ビジネスインパクトアナリシスを作成する。
- BIA オーナーは、[詳細] タブでビジネスインパクトアナリシスの詳細を追加する。
- BCM アプリケーションのさまざまなユーザーが、[アセスメント] タブのビジネスインパクトアナリシスに関するアセスメントアンケートに回答する。
- 受け取った回答に基づいて、BCM アプリケーションが、ビジネスインパクトアナリシスの目標復旧時間 (RTO)、目標復旧時点 (RPO)、および依存関係を計算する。
- ビジネスインパクトアナリシスオーナーが情報をレビューし、サービスのビジネスマネージャーまたはアプリケーションの IT マネージャーへ、レビューと承認のために分析を送信する。
- ビジネスマネージャー、IT マネージャー、または BCM リードが、ビジネスインパクトアナリシスの詳細をレビューして、承認または却下する。
- 承認されたビジネスインパクトアナリシスが [承認済み] に移行し、その後 [アーカイブ済み] ステータスに移行する。
- ビジネスインパクトアナリシスオーナーは、分析の PDF を生成して参照用にコピーを保存できる。

ビジネスインパクトアナリシスの一般的なワークフローを次の例に示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。





ビジネスインパクトアナリシスアドミニストレーターのセットアップタスク

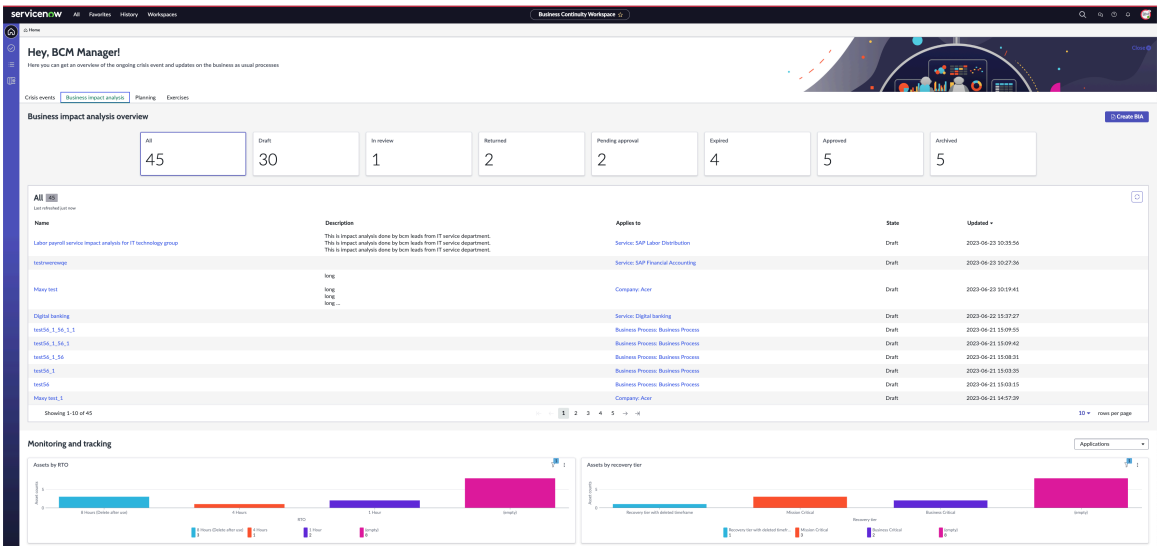
ビジネスインパクトアナリシスアドミニストレーターは、「ビジネスインパクトアナリシスのためのセットアップ」で BCP セットアップタスクの情報を確認できます。

事業継続性ワークスペースでのビジネスインパクトアナリシスの作成

ビジネスインパクトアナリシスオーナーは、次のいずれかのオプションを使用して、事業継続性ワークスペースでビジネスインパクトアナリシスを作成できます。

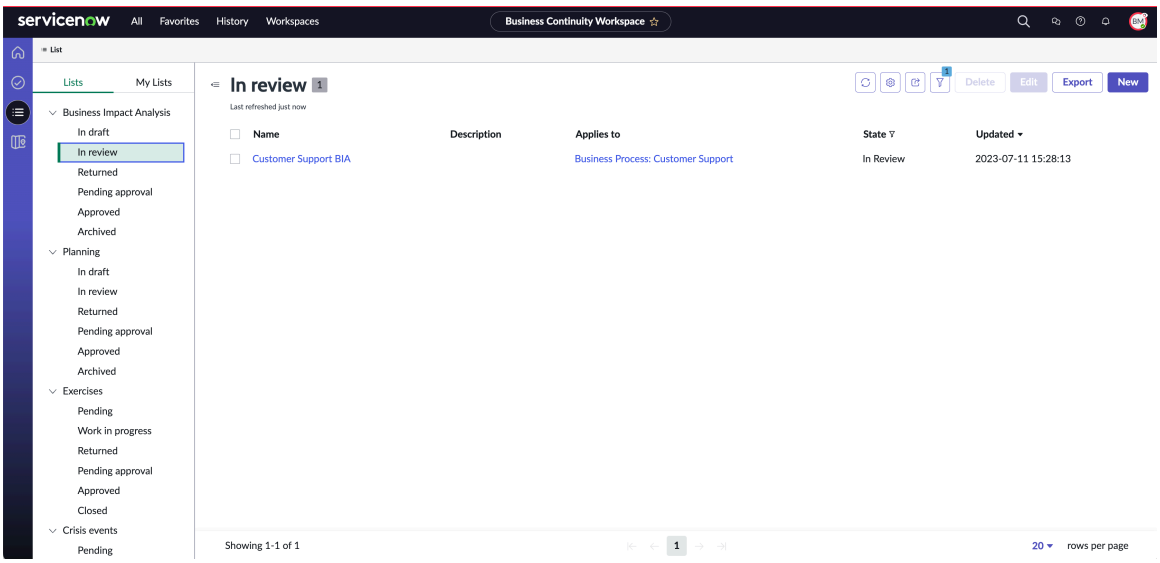
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ホームページの [ビジネスインパクトアナリシス] タブに移動して、次の例のように **[BIA を作成]** を選択します。



ホームページの [ビジネスインパクトアナリシス] タブのカードとアクションボタンの説明については、「ホームページビュー」を参照してください。

- 次の例で示すように、リストビューに移動して、[ビジネスインパクトアナリシス] レコードで [新規] を選択する方法もあります。



事業継続性ワークスペースでビジネスインパクトアナリシスを作成するには、「ビジネスインパクトアナリシスの作成」を参照して下さい。ビジネスインパクトアナリシスに関連するタスクの管理の詳細については、「BIA 向けの構造化されたワークフロー」を参照してください。

ビジネスインパクトアナリシスのユースケース

事業継続性管理 アプリケーションを使用して、ビジネスサービスやプロセス、およびデータセンターやアプリケーションなどの技術的なエンティティに対するダウンタイムの影響を評価できます。組織に対するビジネスインパクトアナリシスを作成する際は、事業継続性タスクの管理に使用される一般的なユースケースの参照が可能です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
環境は、お客様によってそれぞれ異なります。ここで述べるユースケースのシナリオが示すのは、あくまでもここに記されているユースケースの一般的な実装です。実際の実装は異なる場合があります。

インパクト分析を実行することの重要性

インパクト分析の実行は、事業継続性タスクを管理するための重要なステップです。インパクト分析の実行には次のメリットがあります。

- 通常のビジネス機能の意図しない中断を防止し、最小限に抑えます。
- 組織にとって重要なビジネスプロセスを特定し、将来の問題を防止するための戦略を策定するために役立ちます。
- 財務資産および技術資産の保護に関する計画立案を支援します。
- 将来の改善領域に関するガイダンスとサポートを提供します。

インパクト分析のカテゴリ

インパクト分析は、次のカテゴリに大まかに分類できます。

ビジネスインパクトアナリシス

主にビジネスサービスやビジネスプロセスを管理するビジネスユーザーは、サービスとプロセスに対するダウンタイムの影響を判断する必要があります。プロセス関連のビジネスインパクトアナリシスを実行することで、ビジネスが次の目標を達成するために役立ちます。

- プロセスまたは手順の変更に備えて準備する。
- プロセスに関連する問題を特定する。
- 予期しない事象によって発生する可能性のあるリスクを軽減する。

技術的インパクト分析

主にデータセンターや IT システムを管理するアプリケーションユーザーや IT マネージャーは、データとアプリケーションに対するダウンタイムの影響を判断する必要があります。技術的インパクト分析を実行することで、実装された製品やアプリケーションでの技術的な変更の影響を分析するために役立ちます。分析により、アプリケーションの特定のセクションや機能の変更によって影響を受ける可能性がある情報システムの領域に関する情報が得られます。

ビジネスインパクトアナリシスの作成の目標と方法

ビジネスインパクトアナリシスは通常、ビジネスサービスまたはビジネスプロセスを分析するため、ビジネスユーザーによって実行されます。たとえば、ファイナンスアナリストがビジネスインパクトアナリシスを実行すると、ビジネスプロセスまたはビジネスサービスのダウンタイムの影響を推定できます。

目標

ビジネスインパクトアナリシスを実行する目標は、次の情報を判断することです。

- プロセスの重要度を特定する。
- ビジネスがビジネスサービスまたはビジネスプロセスなしで存続できる時間を判断する。

ビジネスインパクトアナリシスを実行する方法

ビジネスユーザーがビジネスサービスまたはプロセスを分析するには、次のアセスメントの質問のいくつかに対する回答を推測します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ビジネスサービスまたはビジネスプロセスに影響を与える影響度カテゴリまたは要因は何か？
- ビジネスプロセスまたはビジネスサービスのダウンタイムの影響はどのようなものか？
- 影響を受ける顧客は何人か？
- 組織のダウンタイムの収益への影響はどのようなものか？
- その他に組織が被る可能性のあるペナルティはあるか？
- 組織の風評被害はあるか？
- 推定ダウンタイムのメディア報道などの損害を修復するための追加コストはいくらか？
- ビジネスプロセスを効率的に実行するために普段から必要となる支援システムは何か？

BCM リードまたはマネージャーがこれらのアセスメントの質問に回答することで、ビジネスインパクトアナリシスを作成する目標を定義するために役立ちます。

技術的インパクト分析の作成の目標と方法

技術的インパクト分析は通常、データを格納するアプリケーションやシステムを分析するために、IT オーナーによって実行されます。たとえば、財務組織の IT オーナーが技術的インパクト分析を実行することで、アプリケーションの重要度とタイムライン、およびデータをバックアップする頻度を判断できます。

目標

技術的インパクト分析を実行する目標は、次の情報を判断することです。

- アプリケーションの重要度。
- アプリケーションなしで組織が存続できるタイムライン。
- データをバックアップする頻度

技術的インパクト分析を実行する方法

ビジネスユーザーがビジネスインパクトアナリシスを実行するには、次のアセスメントの質問例に対する回答を推測します。

- アプリケーションが機能しない場合、ビジネスにどのような影響があるか？
- 影響を受ける従業員は何人か？
- アプリケーションは外部につながっているか？
- アプリケーションが外部につながっている場合、影響を受ける顧客は何人か？
- アプリケーションが処理するデータはどのような種類か？
- データはどのくらいの頻度で変更されるか？

ビジネスユーザーがこれらのアセスメントの質問に回答することで、技術的インパクト分析の目標を決定するために役立ちます。

ビジネスインパクトアナリシスワークフローの使用

BCM アプリケーションのユーザーは、ビジネスインパクトアナリシスワークフローを使用してビジネスインパクトアナリシスを実行できます。

BCM を使用してビジネスインパクトアナリシスを作成する場合は、次のユースケース例が考えられます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 事前定義済みのテンプレートに基づくビジネスプロセスまたはアプリケーションの復旧階層を評価する。
- 目標復旧時点を特定する。
- 目標復旧時間を特定する。
- ベンダー、アプリケーション、施設、その他の基本的な要素などの依存関係を特定する。

ビジネスインパクトアナリシスワークフローの前提条件として、組織の BCM アドミニストレーターが BCM アプリケーションで BIA テンプレートを設定します。テンプレートを使用することで、アセスメントアンケートの形式でのサーベイ型ユーザーエクスペリエンスが可能になります。

BCM アドミニストレーターは、BIA テンプレートで組織とシナリオに適した質問を設定できます。BCM アドミンロールで BIA テンプレートを設定する方法の詳細については、「従来のアセスメントを使用した BIA テンプレートの構成」を参照してください。

BCM リードまたは BCM プログラムマネージャーは、ビジネスインパクトアナリシスレコードの [アセスメント] タブでアセスメントアンケートに回答できます。主にビジネスサービスとビジネスプロセスを使用する場合、回答は目標復旧時間のアセスメントと依存関係アセスメントの重要なデータポイントとして機能します。回答に基づいて、ビジネスプロセスまたはビジネスサービスの重要度と推奨タイムラインが決定されます。

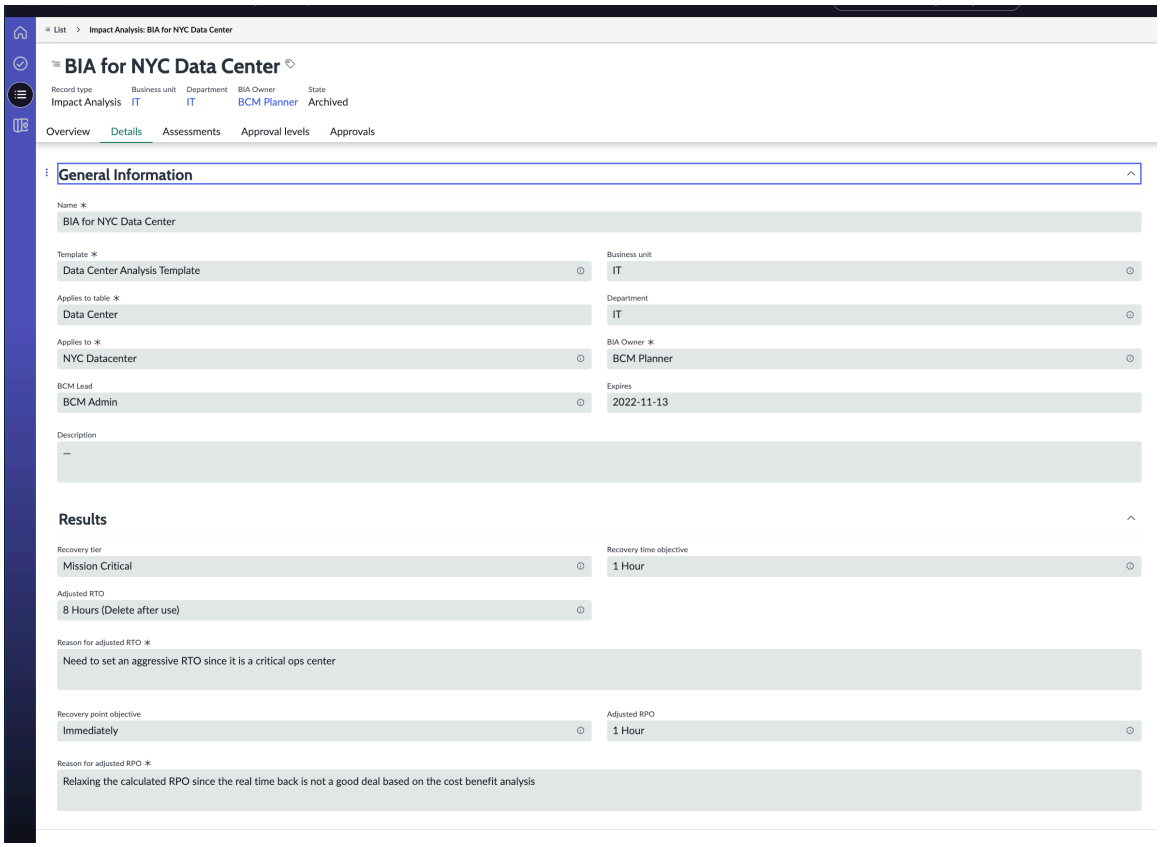
IT システム、データ、およびアプリケーションを処理する BCM リードまたは BCM プログラムマネージャーの場合、回答は目標復旧時点アセスメントの重要なデータポイントとして役立ちます。受診したアンケート回答に基づいて、アプリケーションがビジネスプロセスまたはビジネスサービスの重要度と推奨タイムラインを計算します。

BCM でのインパクト分析の結果

アンケートへの回答の受信後、BCM アプリケーションがビジネスインパクトアナリシスの結果を計算します。結果は、次の例に示すように、ビジネスインパクトアナリシスレコードの [詳細] タブの [結果] セクションに表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



BCM アプリケーションで、ビジネスインパクトアナリシスレコードに次の主要な結果が表示されます。

復旧階層

BCM アプリケーションがプロセスの重要度を特定します。これを復旧階層と呼びます。たとえば、復旧階層の中にはビジネスにとって必須でないものもあれば重要なものもあります。

達成目標復旧時間

BCM アプリケーションは、組織がビジネスプロセスなしで存続できる時間、すなわち目標復旧時間 (RTO) を判断するのに役立ちます。

調整済み RTO

ビジネスインパクトアナリシスのオーナーは、実用的な理由で目標復旧時間の値を調整できます。調整された値は、[結果] セクションの [調整済み **RTO]** フィールドに表示されます。自分がビジネスインパクトアナリシスオーナーであり、アセスメント中に何らかの理由で RTO 値を調整した場合、調整の理由が [調整済み **RTO** の理由] フィールドに表示されます。

依存関係

BCM アプリケーションを使用することで、ビジネスプロセスを効率的に実行するために普段から必要となる支援システムや依存関係を判断できます。ビジネスに存在する依存関係としては、次のようなものがあります。

- 人 (People)
- 施設 (Facility)
- アプリケーション
- ベンダー

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

目標復旧時間、目標復旧時点、および復旧階層の詳細については、「RTO、RPO、復旧階層」を参照してください。

ビジネスインパクトアナリシス (BIA) テンプレート

事業継続性管理 アプリケーションには、ビジネスインパクトアナリシスを作成するための事前設定済みビジネスインパクトアナリシス (BIA) テンプレートが入っています。BCM または BIA アドミニストレーターは、事業継続性管理 アプリケーションの **BIA** テンプレートモジュールを使用できます。そうすることで、ビジネスインパクトアナリシスに使用するテンプレートのタイプ、要素、影響度カテゴリなどを選択できます。

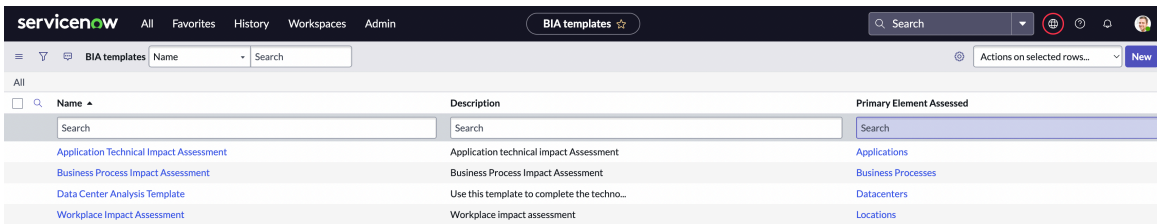
BIA テンプレートを使用するメリット

BIA テンプレートには、ビジネスプロセスが依存する影響カテゴリや依存関係グループなどの情報が保存されます。BIA テンプレートを使用することのメリットは次のとおりです。

- ビジネスインパクトアナリシスの作成プロセスが簡素化されます。
- テンプレートを事前に入力することで、時間とリソースが節約されます。
- BIA テンプレートの使用対象となるプライマリオブジェクトタイプを定義できます。たとえば、アプリケーションの技術的インパクト分析テンプレートを使用して、IT アプリケーションの技術的インパクト分析を実行できます。
- 依存関係グループが BIA に自動的に入力されます。
- 組織に直接関連する影響度カテゴリを選択できます。

BCM に入っている BIA テンプレート

sn_bcm.admin ロールを持っている場合は、アプリケーションをインストールするとき、または **BIA** テンプレートモジュールで BIA テンプレートを設定するときに、デモデータとともにインストールされた BIA テンプレートが表示されます。デモデータとともに 事業継続性管理 アプリケーションにインストールされる BIA テンプレートを、次の例で示します。



BIA テンプレートの構成

sn_bcm.admin ロールを持っていれば、BIA テンプレートで次の詳細情報を設定できます。

名前と説明

[名前] フィールドと [説明] フィールドを使用して名前を検索し、ビジネスインパクトアナリシスに適したテンプレートを選択します。

評価されたプライマリー要素

ビジネスプロセスや CI サービスなど、評価する予定の要素のタイプを選択します。

影響度カテゴリ

ビジネスインパクトアナリシス中に特定の影響度カテゴリを評価します。たとえば、ダウンタイムによる財務への影響と法的影響を評価することを計画しているとします。

依存関係アセスメント

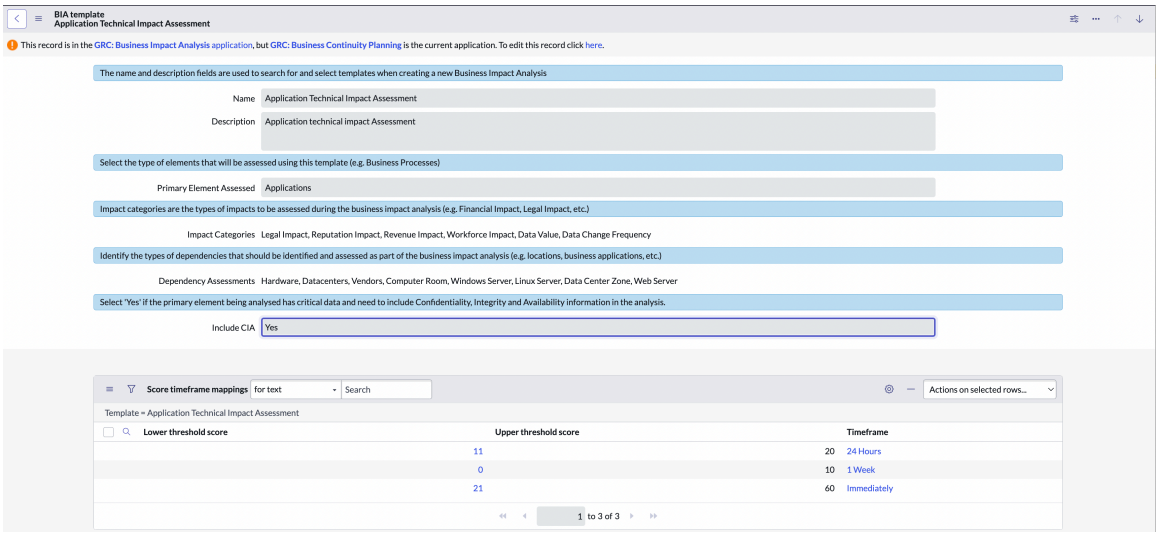
ビジネスインパクトアナリシスの依存関係を特定します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIA を含める

分析対象のプライマリ要素に重要なデータがある場合は、ビジネスインパクトアナリシスに CIA (機密性、完全性、使用可否) の情報を含めます。

次の例は、インスタンスでの BIA テンプレートの構成例を示しています。

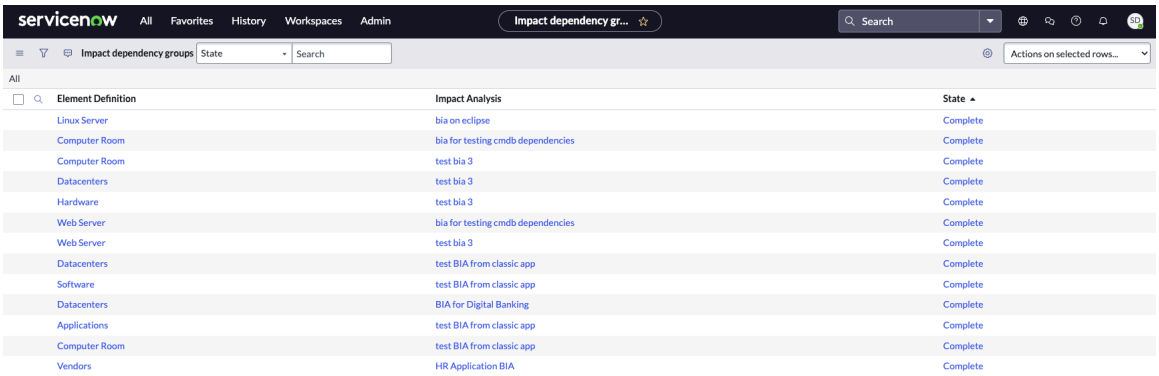


BIA テンプレートの構成

sn_bcm.admin ロールで BIA テンプレートを構成する方法の詳細については、「従来のアセスメントを使用した BIA テンプレートの構成」を参照してください。

影響度依存関係グループ

ビジネスインパクトアナリシスの作成に使用される BIA テンプレートには、依存関係グループが関連付けられています。アセスメントを実施すると、依存関係グループが BIA に自動的に入力されます。テンプレートに関連付けられているそれらのグループの数に応じて、それらのグループをアプリケーション、ハードウェア、ベンダー、職場などとして専用のコンテナーに表示できます。



それぞれが依存関係グループであり、そのコンテナー内の各グループに属するアイテムを追加または削除できます。

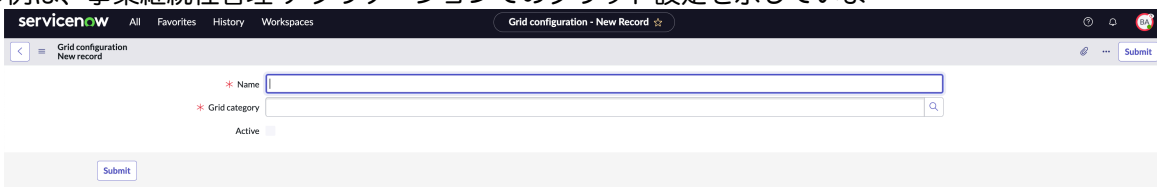
グリッドの設定とカテゴリ

グリッド構成を設定することで、構成された列で BIA 依存関係アセスメントグリッドをレンダリングできます。グリッド設定が適用可能な依存関係アセスメントなどのグリッドカテゴリが定義可能です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次の例は、事業継続性管理 アプリケーションでのグリッド設定を示していま

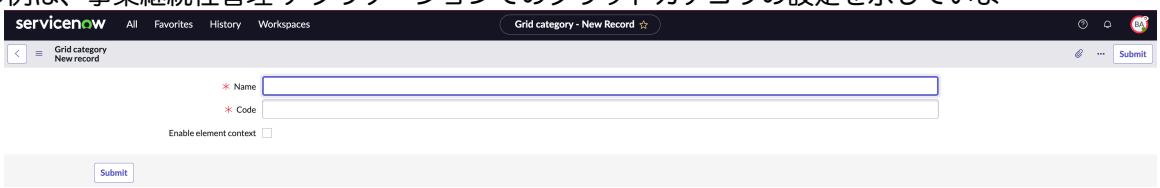


す。

> **注:**
> グリッド設定は BCM クラシック ワークスペース でのみ使用されます。Yokohama リリース以降、BCM クラシック ワークスペース は将来の廃止に備えて準備されます。

事業継続性管理 アプリケーションでのグリッドの設定方法の詳細については、「BIA 依存関係アセスメントでのグリッド構成の設定」を参照してください。

次の例は、事業継続性管理 アプリケーションでのグリッドカテゴリの設定を示していま



す。

> **注:**
> グリッドカテゴリは BCM クラシック ワークスペース でのみ使用されます。Yokohama リリース以降、BCM クラシック ワークスペース は将来の廃止に備えて準備されます。

事業継続性計画

事業継続性計画は、イベント発生時のリスクへの対応とその軽減に役立ちます。アクティビティ、ドキュメント、損失シナリオ、復旧チーム、承認などのプライマリスコープに対処し、計画することができます。そうすることで、事業継続性計画タスクの構造化されたワークフローを BCM UIB ワークスペース で構成できます。

考えうるさまざまな破壊的なシナリオに対して包括的な事業継続性計画を作成すれば、危機や何らかの不利な状況に組織が立ち向かうための準備がととのいます。

事業継続性計画を作成するためのステップ

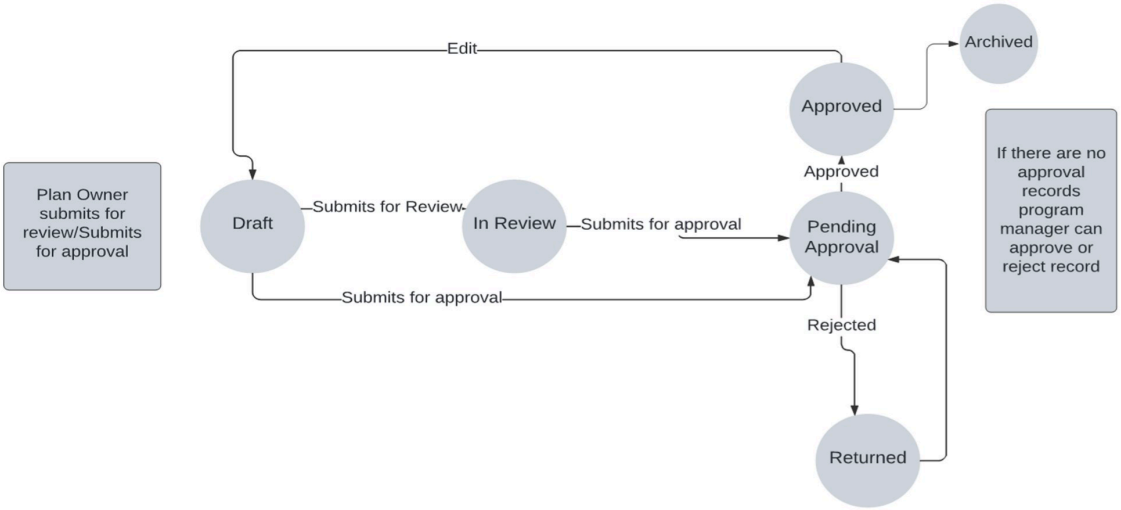
一般的に、事業継続性計画の作成では次のようなステップを実行します。

- BCM プログラムマネージャーまたは計画者が、BCM UIB ワークスペース のホームページまたは [計画] レコードページのリストビューから事業継続性計画を作成する。
- BCM プログラムマネージャーまたは計画者が、スコープ、ドキュメントセクション、復旧チーム、関連計画など、事業継続性計画の詳細情報を追加する。
- ビジネスインパクトアナリシスオーナーが情報をレビューし、サービスのビジネスマネージャーまたはアプリケーションの IT マネージャーへ、レビューと承認のために分析を送信する。
- ビジネスマネージャー、IT マネージャー、または BCM リードが、事業継続性計画の詳細をレビューして承認する。
- 承認された事業継続性計画が [承認済み] に移行し、その後 [アーカイブ済み] ステータスに移行する。
- 事業継続性計画のオーナーが、計画の PDF を生成して参照用にコピーを保存できる。

事業継続性計画の一般的なワークフローを次の例に示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



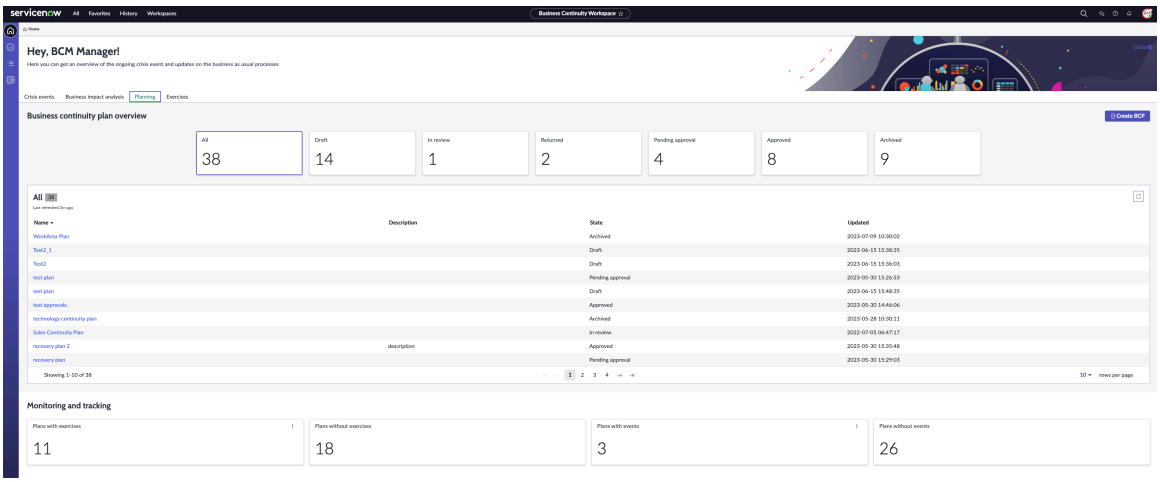
事業継続性計画立案のためのセットアップタスク

BCP アドミニストレーターは、「事業継続性計画のためのセットアップ」で BCP セットアップタスクの詳細を確認できます。

事業継続性ワークスペース での事業継続性計画の作成

事業継続性計画の所有者は、次のいずれかのオプションを使用して、事業継続性ワークスペース で事業継続性計画を作成できます。

- ホームページの [計画] タブに移動して、次の例に示す **[BCP を作成]** を選択します。



  ホームページの [計画] タブのカードとアクションボタンの説明については、「ホームページビュー」を参照してください。

- リストビューに移動し、[計画] レコードで [新規] を選択する方法もあります。

事業継続性ワークスペース で事業継続性計画を作成するには、「事業継続性計画の作成」を参照して下さい。事業継続性計画に関連する管理タスクの詳細については、「BCP の構造化ワークフロー」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

BCP に関連する資産と計画

事業継続性計画に関連する資産と計画を特定できます。その後、計画ステージで資産を復旧できます。依存関係アセスメント中に CMDB から ビジネスインパクトアナリシス (BIA) に渡される構成アイテムの関係性データを再利用して、計画内の資産を特定します。

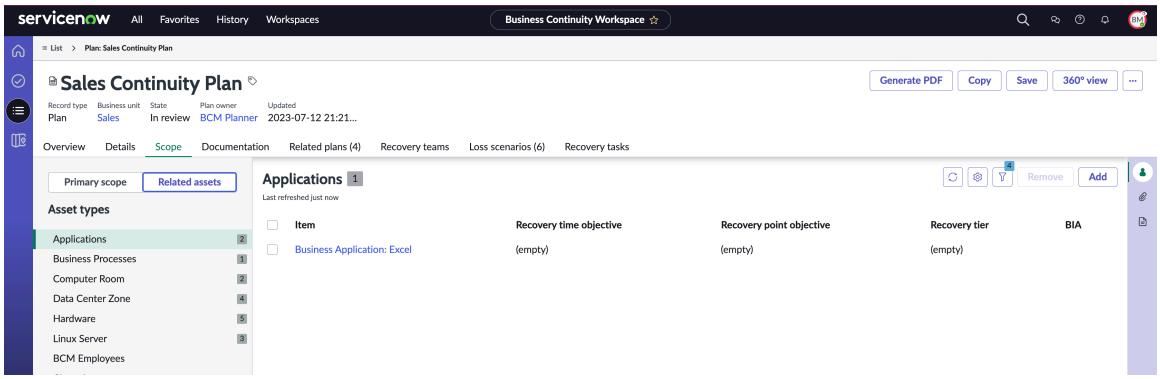
関連資産

レコードの [プライマリスコープ] パネルのアイテムとしてビジネスプロセスまたは場所を追加し、スコープ対象のアイテムがビジネスインパクトアナリシスに関連している場合、ビジネスインパクトアナリシスのすべての関連資産が計画の [関連資産] パネルにリストされます。

つまり、ビジネスインパクトアナリシスで依存関係として追加された CMDB 構成アイテムは、関連資産として計画にプルされます。これらの関連資産のソースは、ビジネスインパクトアナリシスとして表示されます。

計画を作成するときは、計画の対象となるプライマリ要素も選択します。事業継続性計画で選択したスコープまたは計画のプライマリ要素に基づいて、アプリケーションは計画フェーズ中に関連資産と関連計画を追加します。これらのアイテムは、ビジネスプロセス、重要なビジネスアプリケーション、データセンター、または場所で作業するリソースである可能性があります。これらのすべての依存関係は、ビジネスインパクトアナリシスに保存されている場合、ビジネスインパクトアナリシスの作成中に追加された他の依存関係に加えて、[関連資産] パネルの計画にコピーされます。

次の例は、事業継続性計画のプライマリスコープと関連資産を示しています。



関連計画

資産が計画にコピーされた後、いずれかの関連資産に計画が添付されている場合、これらの計画が自動的にプルされ、[関連計画] タブに一覧表示されます。計画内の資産は、イベント中に計画によって復旧されるエンティティです。関連する計画が計画作成フェーズに組み込まれたら、復旧タスクを作成することもできます。計画者は、メイン計画とその依存サブ計画の復旧タスクの実行順序を設定できます。

復旧チーム、損失シナリオ、復旧タスク

事業継続性計画ワークスペースは、事業継続性計画を完了するようにガイドします。復旧チームを作成し、ユーザーのロールを定義して、チームに計画の実行を指示できます。部門または事業部門の継続性計画を作成するときは、事業継続性計画に対する損失シナリオを特定する必要があります。

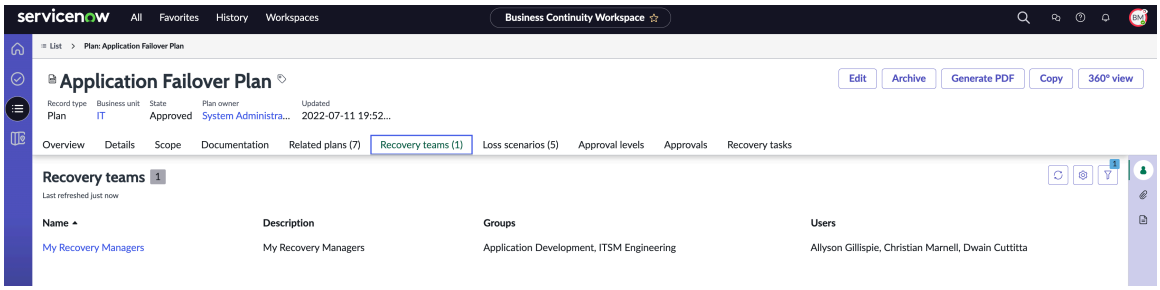
復旧チーム

復旧チームの名前と説明を入力して復旧チームを作成することも、既存の復旧チームを更新することもできます。それぞれのリストから 1 人以上のユーザーとグループを選択できます。

復旧チームの説明には、復旧チームにアサインされたユーザーとグループの責任も示されています。次の例に示すように、復旧チームを作成し、ユーザーとグループのアサインを後で追加することもできます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳



復旧グループとアサイン先グループ

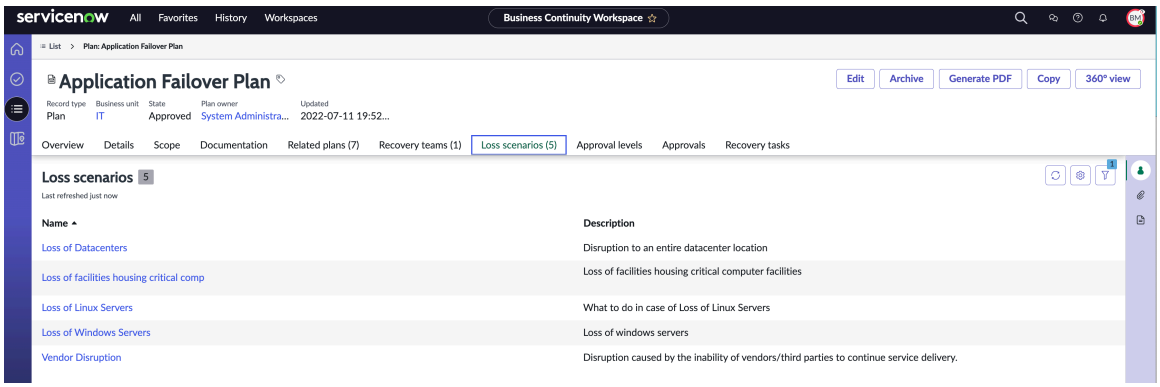
事業継続性計画のオーナーは、計画の詳細のドラフト作成中に、1 つ以上の復旧グループと個々のユーザーを復旧チームに割り当てることができます。オーナーは復旧タスクの作成中に、それらを 1 つ以上のアサイン先グループと適切な復旧チームに割り当てることができます。他の担当者を復旧タスクのアサインに追加することもできます。

Loss scenarios (損失シナリオ)

損失シナリオを特定することで、ビジネスは将来の破壊的なイベントに備え、通常どおり業務を継続できます。

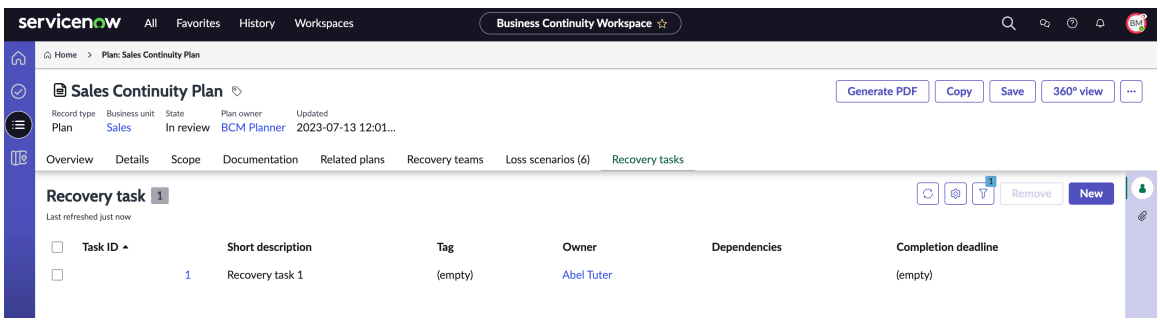
BCM アドミンロールがある場合は、計画テンプレートを使用して事業継続性計画を作成します。計画テンプレートで特定された損失シナリオが、作成した計画に自動的に関連付けられます。

計画には、一連の基本的な損失シナリオが添付されています。次の例に示すように、その後、BCM UIB ワークスペース の要件に応じて損失シナリオを計画に追加できます。



復旧タスク

オーナーを特定して復旧タスクをグループにアサインし、復旧のプロセスと手順を実行できます。次の例に示すように、復旧タスクには、復旧するアイテムの詳細と完了する必要がある時間が指定されています。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

事業継続性計画のユースケース

このセクションでは、事業継続性管理アプリケーションで事業継続性計画に使用される一般的なユースケースについて説明します。これらのユースケースは個別に展開することも、組み合わせて特定のニーズを満たすこともできます。

事業継続性計画は、計画の実装に必要な復旧戦略、パートナー、チーム、ツール、およびプロセスに基づいて構築できます。

金融会社に対するランサムウェア攻撃の例を考えてみましょう。この攻撃により、ユーティリティ、輸送、支払いなどの重要なサービスが中断される可能性があります。事業継続性計画が策定されている場合、緊急時の IT コンサルタントおよび専門家は、次の予防措置を講じることができます。

- IT サービスをシャットダウンします。
- 計画内の災害データ復旧コンポーネントからサービスを復元します。
- 重要なデータサーバーをオフサイトの場所に移動して、損傷を制御します。

事業継続性計画の一般的なユースケース

典型的な **BCP** ユースケース

ユースケース名	説明	ロール	ユースケースのアクション
標準化された復旧計画の作成	BCP は、計画資産、アクティビティ、復旧チーム、ドキュメント、ポリシー、手順などのアクションアイテムに対処することによって、イベント発生時のリスクを設定して軽減するのに役立ちます。 計画レコードは、以前のステータスサイクルを経ます。 • ドラフト -> レビュー中 -> 承認待ち -> 承認済み -> アーカイブ済み • [承認待ち] ステータスでは、計画を却下して [戻り] ステータスに戻すことができます。	BCM 計画者、BCM マネージャー、BCM アドミン	ユーザーが計画を作成します。
計画の依存関係の更新	計画の依存関係を更新します。 1. ユーザーが計画内で影響を受ける資産を表	BCM 計画者、BCM マネージャー、BCM アドミン	ユーザーが [依存関係を更新 (Update dependencies)] ボタンを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

典型的な **BCP** ユースケース (続く)

ユースケース名	説明	ロール	ユースケースのアクション
	示および構成できるようにする。 2. 各資産の RTO、RPO、復旧階層を監視し、資産がダウンしたときのギャップ/リスクを特定する。 3. プライマリ資産と関連資産の関係を表示する。		2. スケジュール済みジョブ「BCP 依存関係スナップショットを更新」が実行されます。
計画の依存関係の構成	次のような構成をユーザーが計画に必要な依存関係を構成するための構成を提供します。 **1.** CMDB、BIA 下流、BIA 上流などの依存関係からプルするソースを構成する。 **2.** ソースから最後に更新されたレコードをプルするか、すべてのレコードをプルするかを選択します **3.** メールで通知するユーザーとグループを構成する。 **4.** 依存関係を更新するたびに更新される計画のフィールドを構成する。 **5.** 構成を適用する計画のタイプを構成する。	BCM アドミン	ユーザーが次の場所に移動してレコードを作成または更新します。 [すべて] -> [依存関係更新構成の計画 (Planning dependency update configuration)]
ドキュメントの作成	計画のコンテキスト内で必要な目標、目的、およびスコープを文書化するためのセクションとテンプレートをユーザーに提供します。	BCM 計画者、BCM マネージャー、BCM アドミン	ユーザーがドキュメントセクションが定義された計画テンプレートを使用して計画を作成します。 2. ユーザーが [ドキュメント] タブで [新規セクションの

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

典型的な **BCP** ユースケース (続く)

ユースケース名	説明	ロール	ユースケースのアクション
			作成 (Create new section)] を選択します。
復旧チームの作成	復旧プロセス中に計画の実行を担当するチームを定義します。現在、復旧タスクで使用されています。	BCM 計画者、BCM マネージャー、BCM アドミン	ユーザーが復旧チーム関連リストで [新規] ボタンを選択します。
計画の損失シナリオの監視	計画に含めることができる危機シナリオ (データセンターの損失やベンダーの中断など) を作成し、資産の依存関係または復旧戦略を損失シナリオに追加します。	BCM 計画者、BCM マネージャー、BCM アドミン	ユーザーが損失シナリオが定義された計画テンプレートを使用して計画を作成します。 2. ユーザーが [損失シナリオ (Loss scenarios)] タブで [追加] を選択します。
承認のため送信	グループ、ユーザー、またはルールを含む承認構成を作成して、承認プロセスを標準化します。	BCM 計画者、BCM マネージャー、BCM アドミン	[承認のため送信 (Submit for approval)] を選択します。
PDF の生成	計画の詳細 (スコープ、資産の依存関係、関連計画、復旧チーム、復旧タスク) を PDF 形式で要約します。 2.ドキュメントテンプレートとドキュメントスクリプトを使用して、ユーザーがスクリプトを記述し、PDF をフォーマットできるようにします。	BCM 計画者、BCM マネージャー、BCM アドミン	ユーザーが [PDF の生成 (Generate PDF)] ボタンを選択します。
計画をコピー	詳細と関連リストを含む既存の計画をコピーします。	BCM 計画者、BCM マネージャー、BCM アドミン	ユーザーが [コピー] ボタンを選択します。
関連計画の追加	関連計画の関係を計画の関連リストに追加します。	BCM 計画者、BCM マネージャー、BCM アドミン	ユーザーが関連計画を追加します。
計画の依存関係を追加する際に、同じ計画に	同じ計画が既に階層に含まれている場合は、処理を停止します。計	BCM 計画者、BCM マネージャー、BCM アドミン	ユーザーがアクティブ化された計画を計画

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

典型的な **BCP** ユースケース (続く)

ユースケース名	説明	ロール	ユースケースのアクション
対する循環タスクの作成を避けます。	画段階では、このような計画の依存関係を作成しないようにします。復旧タスクの計画の依存関係によって循環が発生しないことを確認します。		復旧タスクに追加します。
タスクの実行順序	計画のタスクは、タスクの依存関係に基づいて並列や連続にすることができます。したがって、計画内のタスクは順序付けする必要があります。	BCM 計画者、BCM マネージャー、BCM アドミン	ユーザーが復旧タスクを追加します。

要素定義と変数

要素定義は、ビジネスインパクトアナリシスで評価される構成アイテムです。要素定義も事業継続性計画内に復元されます。アドミンロールを持っていれば、要素の特定の依存関係に要素変数を設定できます。

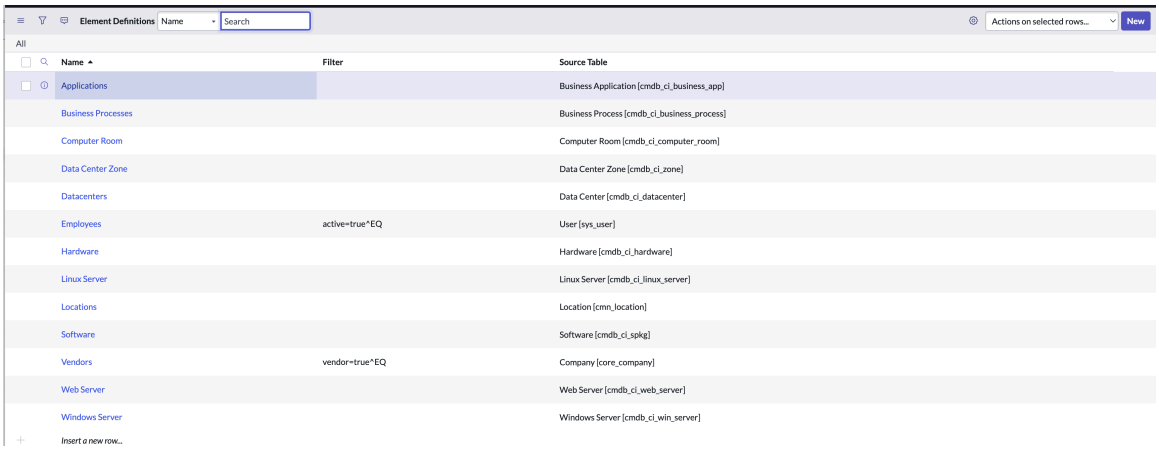
BCM アドミニストレーターは、事業継続性管理 アプリケーションで要素定義を構成できます。一般的に、次の要素定義が 事業継続性管理 アプリケーションで定義されます。

- アプリケーション
- ビジネスプロセス
- コンピュータールーム
- データセンターゾーン
- データセンター
- 従業員
- Linux サーバー
- 場所
- ソフトウェア
- ベンダー
- Web サーバー
- Windows サーバー

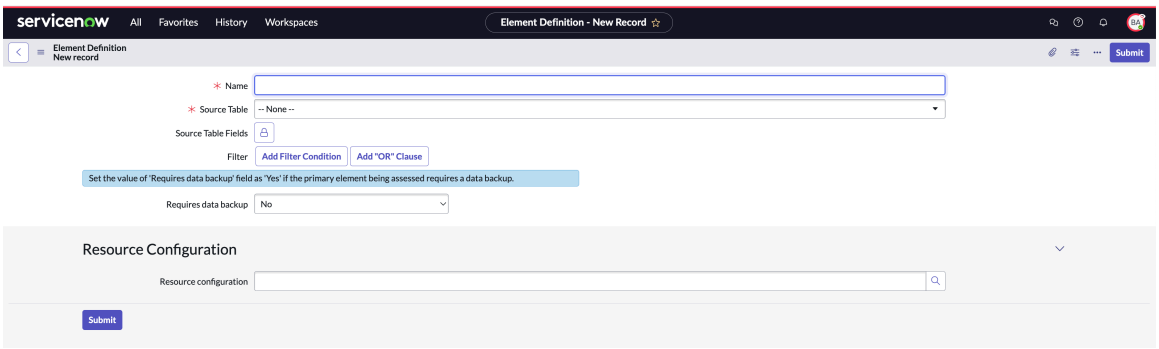
次の例は、インスタンス内の要素定義を示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



次の例で、事業継続性管理 アドミニストレーターによる要素定義の構成を示します。



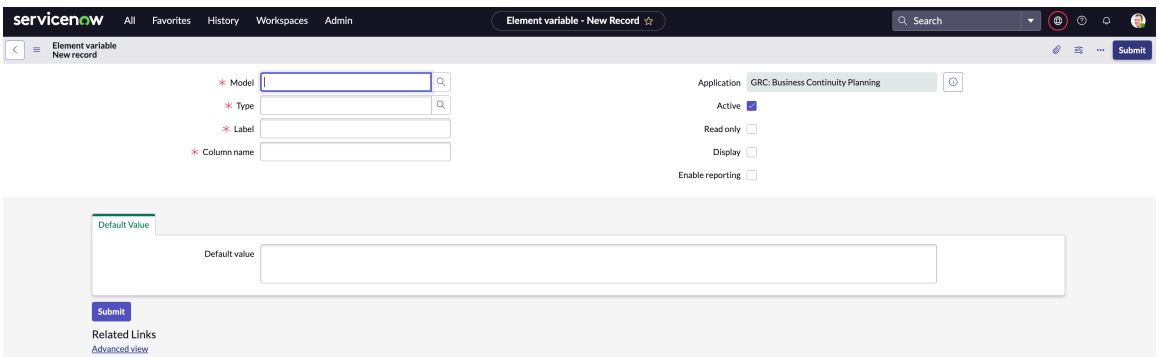
要素定義の構成

BCM アドミニストレーターロールを使用して要素定義を構成する方法の詳細については、「要素定義の構成」を参照してください。

注:
Xanadu リリース以降、ハードウェア要素定義の要素定義フィルターが更新されました。Windows Server 要素定義に Windows Server 資産を追加したり、Linux サーバー要素定義に Linux サーバー資産を追加したりできるようになりました。ただし、ハードウェア要素定義のフィルターに Windows Server 資産または Linux サーバー資産を追加することはできません。

要素変数の構成

機能システムアドミニストレーターは、要素の特定の依存関係に必要な要素変数を設定できます。次の例は、アドミンから見た要素変数レコードを示しています。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

事業継続性管理 アプリケーションでアドミンロールで要素変数を構成する方法の詳細については、「要素定義の要素変数の構成」を参照してください。

訓練

演習は、継続的なテストと継続性計画の改善を提供するために行います。演習を使用して事業継続性計画を確定し、実際の危機イベントでの有効性と使いやすさを向上させることができます。BCM UIB ワークスペース で演習を管理できます。

演習を作成するためのステップ

一般的に、演習の作成では次のようなステップを実行します。

- BCM プログラムマネージャーが、BCM UIB ワークスペース のホームページまたは [演習] レコードページのリストビューから、演習を作成する。
- BCM プログラムマネージャーが、資産、計画、イベントタスクといった演習の詳細を追加する。
- BCM プログラムマネージャーが、演習に関連するイベントタスクを承認のために送信する。
- アサインされた BCM プログラムマネージャーが、イベントタスクの詳細を確認し、演習を承認する。
- 演習が [承認済み] ステータスに移行する。その後、承認済みの演習が [アーカイブ済み] ステータスに移行する。
- BCM プログラムマネージャーが、詳細の PDF を生成し、参照用にコピーを保存できる。

演習のタイプ

BCMアプリケーションは、次のタイプの演習を作成します。

- 機能的
- シミュレーション
- テーブルトップ
- チュートリアル

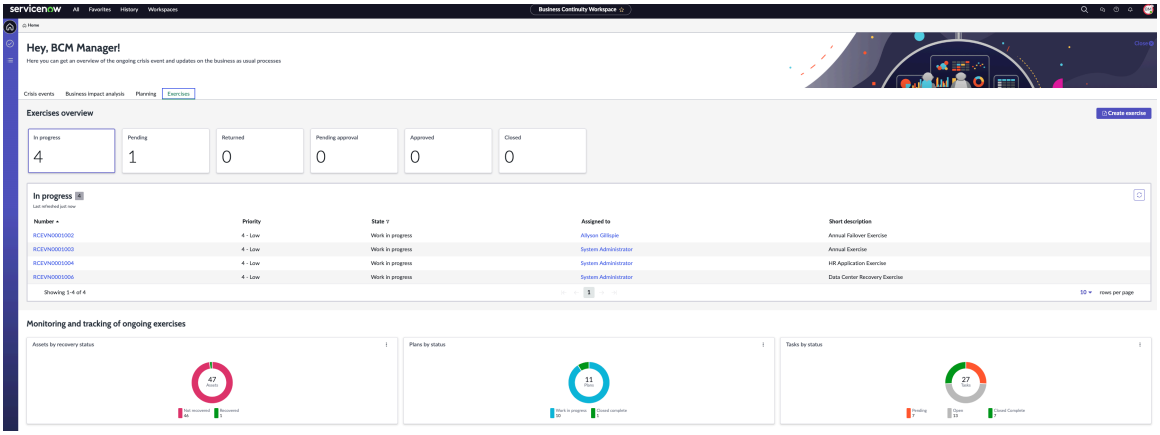
技術的には、すべてのエクササイズは同じように扱われます。ただし、タスクが自動的に生成されるのは機能演習のみで、シミュレーション演習、テーブルトップ演習、およびチュートリアル演習の実装に技術的な違いはありません。

事業継続性ワークスペース での演習の作成

BCM プログラムマネージャーは、次のいずれかのオプションを使用して 事業継続性ワークスペースに演習を作成できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ホームページの [演習] タブに移動して、次の例に示す [演習を作成] を選択します。



  ホームページの [演習] タブのカードとアクションボタンの説明については、「ホームページビュー」を参照してください。

- リストビューに移動し、[演習] レコードで [新規] を選択する方法もあります。

事業継続性ワークスペース で演習を作成するには、「演習用の構造化ワークフロー」を参照してください。

危機イベント

BCM UIB ワークスペース で危機イベントを管理すると、組織全体の重要なビジネス機能とプロセスのダウンタイムを最小限に抑えることができます。危機イベントは、危機イベント発生時の財務、評判、法務、規制遵守への影響を最小限に抑えるためにも用いられます。

危機イベントの作成手順

一般的に、危機イベントの作成では次のようなステップを実行します。

- BCM プログラムマネージャーが、BCM UIB ワークスペース のホームページ、または [危機イベント] レコードページのリストビューから、危機イベントを作成する。
- BCM プログラムマネージャーが、資産、計画、イベントタスクといった危機イベントの詳細を追加する。
- BCM プログラムマネージャーが、演習イベントに関連するイベントタスクを承認のために送信する。
- アサインされた BCM プログラムマネージャーが、イベントタスクの詳細を確認し、イベントを承認する。
- 危機イベントが [承認済み] ステータスに移行する。承認済みの危機イベントが [アーカイブ済み] ステータスに移行する。
- BCM プログラムマネージャーが、詳細の PDF を生成し、参照用にコピーを保存できる。

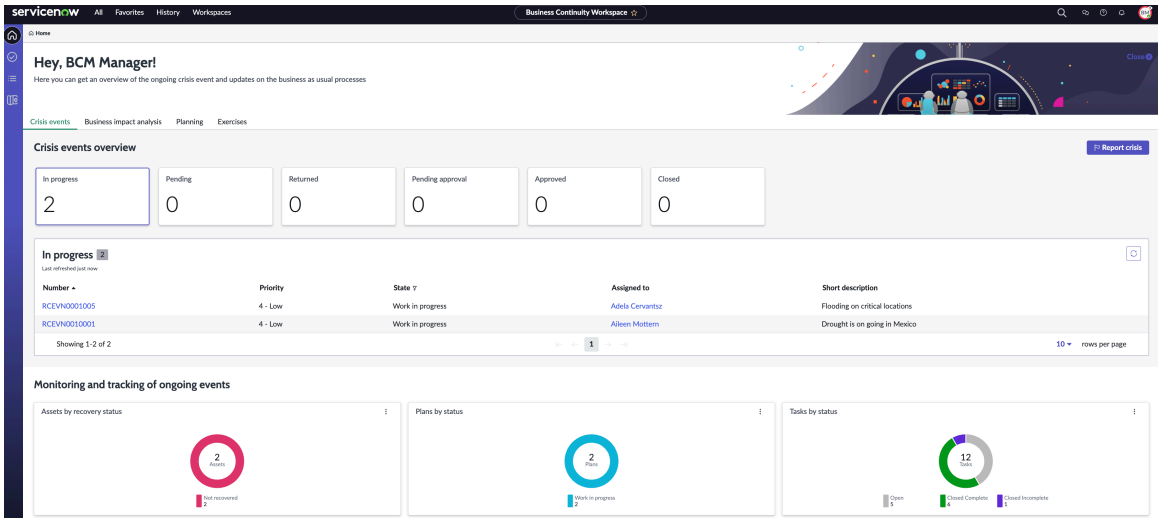
事業継続性ワークスペース での危機イベントの作成

BCM プログラムマネージャーは、次のいずれかのオプションを使用して 事業継続性ワークスペース に危機イベントを作成できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ホームページの [危機イベント] タブに移動して、次の例に示す [危機を報告 **(Report crisis)]** を選択します。



  ホームページの [危機イベント] タブのカードとアクションボタンの説明については、「ホームページビュー」を参照してください。

- リストビューに移動し、[危機イベント] レコードで [新規] を選択する方法もあります。

事業継続性ワークスペース で危機イベントを作成するには、「危機イベントの構造化されたワークフロー」を参照してください。

クライシスマップインターフェイス

クライシスマップ を BCM アプリケーションと統合し、危機管理の応答ワークフローを開始できます。クライシスマップ アプリケーションをインストールした後、BCM アプリケーションインスタンスで [脅威とアラートのデータフィード] モジュールを表示できます。

BCM のフィード、アラート、およびイベント

クライシスマップ アプリケーションを BCM アプリケーションと統合すると、クライシスマップビューでさまざまな場所のフィード、アラート、およびイベントを表示および分析できます。

フィード

フィードは頻繁に更新されるニュースコンテンツで、世界中の Web サイトで提供されます。フィードフォームの **[Web]** フィールドにフィードチャネルの URL を手動で入力することで、ニュースフィードに登録できます。

アラート

アラートは、特定の場所と時間に発生したインシデントを報告する通知です。まず、インシデントまたはイベントが発生したことが報告されます。次に、アラートにより、アクションを実行するために関係者にインシデントを報告または通知する通知がトリガーされます。

イベント

アラートの重大度に基づいて、発生したインシデントをステークホルダーに通知する、または危機イベントを宣言するなどのアクションを実行できます。ビジネスオペレーションを妨げるイベントは、危機イベントになる可能性があります。危機イベントの詳細については、「クライシスマップ ビュー」を参照してください。その後、イベントの影響を受ける場所の事業継続性計画をアクティブ化できます。

自動翻訳

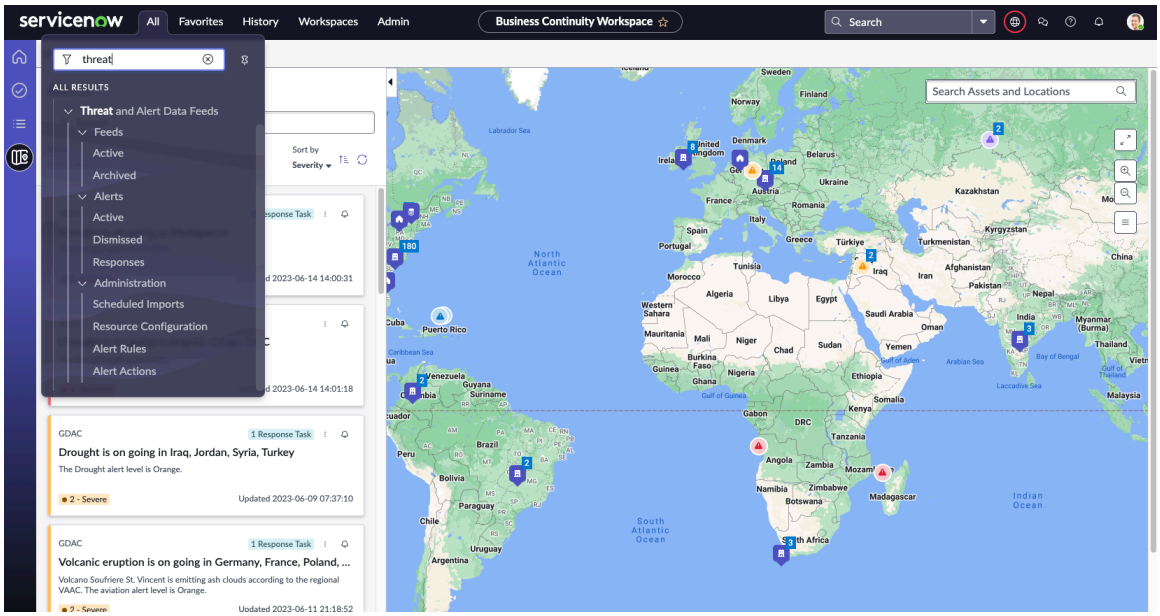
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

BCM の [脅威とアラートのデータフィード] モジュール

BCM の [脅威とアラートのデータフィード] モジュールには、次の情報が表示されます。

- フィード
- アラート
- 管理

[脅威とアラートのデータフィード] モジュールは、次の例で表示されます。



BCM のフィードモジュール

脅威フィードは、組織に危険をもたらす可能性のある潜在的な脅威または現在の脅威のデータインテリジェンス情報です。ビジネスルーチンを停止させたり、ビジネスプロセスを無効にしたりする可能性があります。クライシスマップ アプリケーションは、GDAC フィードや Weather Gov アラートなどのサードパーティソースからフィードを受信します。

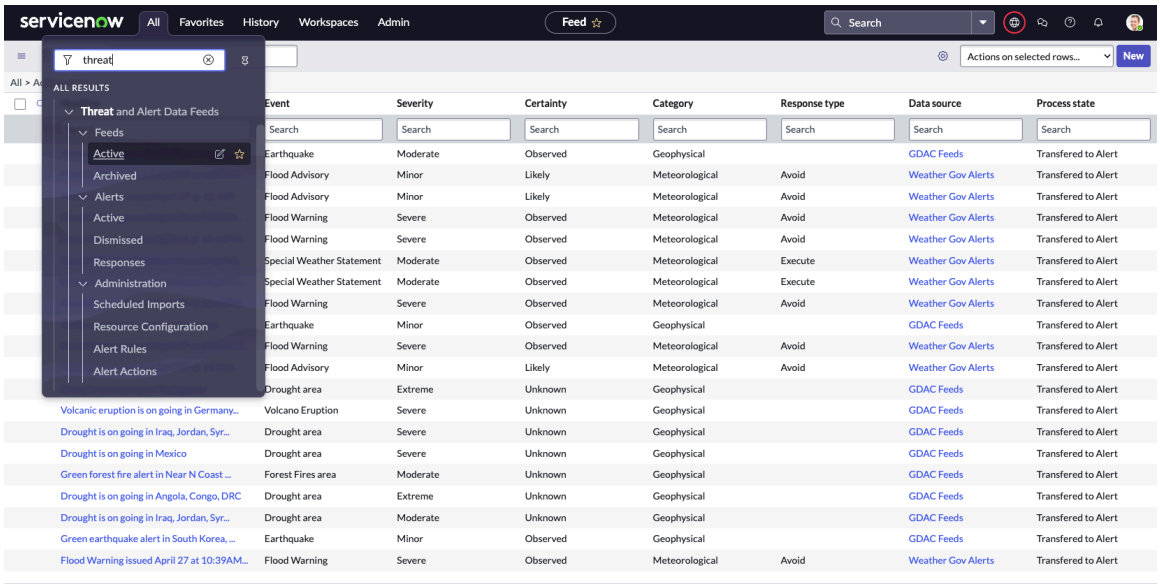
BCM の [フィード] モジュールには、次のタイプのフィードが表示されます。

- アクティブなフィード
- アーカイブ化済みフィード

次の例は、アクティブなフィードのサンプルビューを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



[リストのカスタマイズ] アイコンを使用して、[フィード] モジュールのリスト列を設定できます。たとえば、アラートに次の追加の詳細を表示できます。

- 見出し
- イベント
- 重大度
- 確実性
- カテゴリ
- 応答タイプ
- データソース
- プロセスステータス

脅威フィードには、次のサンプルリストに示すように、リアルタイムの中断イベントに関する情報が含まれています。

- 内乱または暴動
- 洪水注意報
- 洪水警報
- 干ばつ地域
- 地震
- 台風
- 山火事または山火事警報
- 戦争または軍事衝突
- 火山の噴火

BCM のアラートモジュール

アラートは、特定の場所と時間に発生したインシデントを報告する通知です。まず、インシデントまたはイベントが発生したことが報告されます。次に、アラートにより、アクションを実行するために関係者にインシデントを報告または通知する通知がトリガーされます。

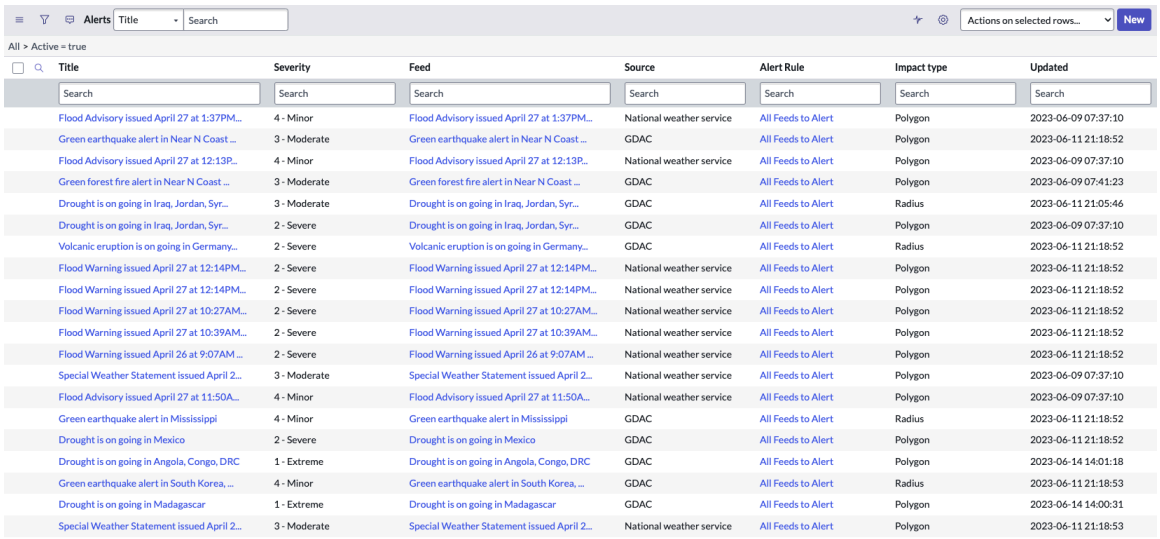
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

BCM の [アラート] モジュールには、次のタイプのフィードが表示されます。

- アクティブアラート
- 解除済みアラート
- アラート応答

アクティブアラートのサンプルビューを次の例に示します。



Title	Severity	Feed	Source	Alert Rule	Impact type	Updated
Flood Advisory issued April 27 at 1:37PM...	4 - Minor	Flood Advisory issued April 27 at 1:37PM...	National weather service	All Feeds to Alert	Polygon	2023-06-09 07:37:10
Green earthquake alert in Near N Coast ...	3 - Moderate	Green earthquake alert in Near N Coast ...	GDAC	All Feeds to Alert	Polygon	2023-06-11 21:18:52
Flood Advisory issued April 27 at 12:13P...	4 - Minor	Flood Advisory issued April 27 at 12:13P...	National weather service	All Feeds to Alert	Polygon	2023-06-09 07:37:10
Green forest fire alert in Near N Coast ...	3 - Moderate	Green forest fire alert in Near N Coast ...	GDAC	All Feeds to Alert	Polygon	2023-06-09 07:41:23
Drought is on going in Iraq, Jordan, Syr...	3 - Moderate	Drought is on going in Iraq, Jordan, Syr...	GDAC	All Feeds to Alert	Radius	2023-06-11 21:05:46
Drought is on going in Iraq, Jordan, Syr...	2 - Severe	Drought is on going in Iraq, Jordan, Syr...	GDAC	All Feeds to Alert	Polygon	2023-06-09 07:37:10
Volcanic eruption is on going in Germany...	2 - Severe	Volcanic eruption is on going in Germany...	GDAC	All Feeds to Alert	Radius	2023-06-11 21:18:52
Flood Warning issued April 27 at 12:14PM...	2 - Severe	Flood Warning issued April 27 at 12:14PM...	National weather service	All Feeds to Alert	Polygon	2023-06-11 21:18:52
Flood Warning issued April 27 at 12:14PM...	2 - Severe	Flood Warning issued April 27 at 12:14PM...	National weather service	All Feeds to Alert	Polygon	2023-06-11 21:18:52
Flood Warning issued April 27 at 10:27AM...	2 - Severe	Flood Warning issued April 27 at 10:27AM...	National weather service	All Feeds to Alert	Polygon	2023-06-11 21:18:52
Flood Warning issued April 27 at 10:39AM...	2 - Severe	Flood Warning issued April 27 at 10:39AM...	National weather service	All Feeds to Alert	Polygon	2023-06-11 21:18:52
Flood Warning issued April 26 at 9:07AM ...	2 - Severe	Flood Warning issued April 26 at 9:07AM ...	National weather service	All Feeds to Alert	Polygon	2023-06-11 21:18:52
Special Weather Statement issued April 2...	3 - Moderate	Special Weather Statement issued April 2...	National weather service	All Feeds to Alert	Polygon	2023-06-09 07:37:10
Flood Advisory issued April 27 at 11:50A...	4 - Minor	Flood Advisory issued April 27 at 11:50A...	National weather service	All Feeds to Alert	Polygon	2023-06-09 07:37:10
Green earthquake alert in Mississippi	4 - Minor	Green earthquake alert in Mississippi	GDAC	All Feeds to Alert	Radius	2023-06-11 21:18:52
Drought is on going in Mexico	2 - Severe	Drought is on going in Mexico	GDAC	All Feeds to Alert	Polygon	2023-06-11 21:18:52
Drought is on going in Angola, Congo, DRC	1 - Extreme	Drought is on going in Angola, Congo, DRC	GDAC	All Feeds to Alert	Polygon	2023-06-14 14:01:18
Green earthquake alert in South Korea, ...	4 - Minor	Green earthquake alert in South Korea, ...	GDAC	All Feeds to Alert	Radius	2023-06-11 21:18:53
Drought is on going in Madagascar	1 - Extreme	Drought is on going in Madagascar	GDAC	All Feeds to Alert	Polygon	2023-06-14 14:00:31
Special Weather Statement issued April 2...	3 - Moderate	Special Weather Statement issued April 2...	National weather service	All Feeds to Alert	Polygon	2023-06-11 21:18:53

[リストのカスタマイズ] アイコンを使用して、[アラート] モジュールのリスト列を設定できます。たとえば、アラートに次の詳細を表示できます。

- タイトル
- 重大度
- フィード
- ソース
- アラートルール
- 影響タイプ
- 更新日時

[脅威とアラートのデータフィード] モジュールの管理タスク

BCM アドミンロールがある場合、セットアップタスクの詳細については「クライシスマップのセットアップ」を参照してください。

BCM の [管理] モジュールには、次のタイプのフィードが表示されます。

スケジュール済みインポート

内部および外部から取得した脅威フィードのサブスクリプションを管理するには、定義された間隔でデータソースからデータインポートをスケジュール設定する必要があります。スケジュール済みインポートの詳細については、「スケジュール設定済みデータインポートレコードの構成」を参照してください。

リソース構成

組織の資産またはリソースを クライシスマップ にプロットするには、アプリケーションでリソースを構成する必要があります。リソース構成の詳細については、「リソース構成レコードの構成」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アラートルール

クライシスマップでフィードをアラートとして表示するには、アラートルールを構成します。アラートルールの詳細については、「アラートルールの設定」を参照してください。

アラートアクション

クライシスマップ ダッシュボードから重大なアラートに対応するには、「アラートアクションの設定」を参照してください。

- クライシスマップ の管理タスクの詳細については、「クライシスマップのセットアップ」を参照してください。
- クライシスマップ で場所を検索するには、*sn_bcm_map.use_google_places_lib* システムのプロパティを設定する必要があります。詳細については、「BCM とともにインストールされるプロパティ」を参照してください。

危機マップ

危機マップでのアラートの管理の詳細については、「の構造化ワークフロー クライシスマップ」を参照してください。

Everbridge での緊急通知

BCM アプリケーション内の Crisis Management を、Everbridge 通知システム と統合できます。そうすることで、差し迫った緊急事態を警告する緊急通知を個人やグループに送信できます。適切に確立された配信チャネルを通じて、一方向の通知と双方向のコミュニケーションを提供します。

事業継続性管理 アプリケーションの Crisis Management は、Everbridge を使用して特定の危機対応アクティビティを指示します。この統合は、重要なイベントに関する通知をステークホルダーに送信し、効果的な双方向配送チャネルでステークホルダーからの応答を調整するのに役立ちます。

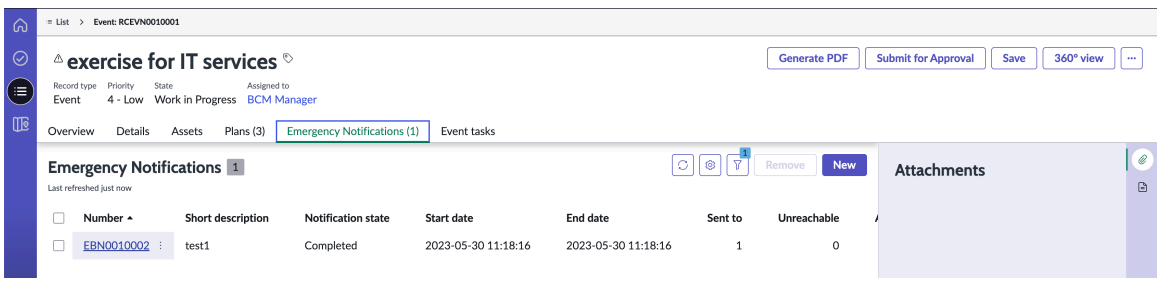
通知を送信するには、正しい連絡先、グループ、および配送チャネルが必要です。配送チャネルは Everbridge で作成および保存されます。特定の組織 ID 用の配送チャネルをインポートする必要があります。これらの配送チャネルは、通知の送信と連絡先の作成に使用されます。

緊急通知を送信するプロセス

Everbridge で、[ドラフト] ステータスから [完了]ステータスまでのアクティビティの完全なワークフローをトリガーするイベント通知を送信できます。事業継続性ワークスペース からすべてのアクティビティを監視できます。

事業継続性ワークスペース から緊急通知を送信すると、アクションによってインシデントが作成され、Everbridge でのインシデントの通知が適切な連絡先とグループに送信されます。

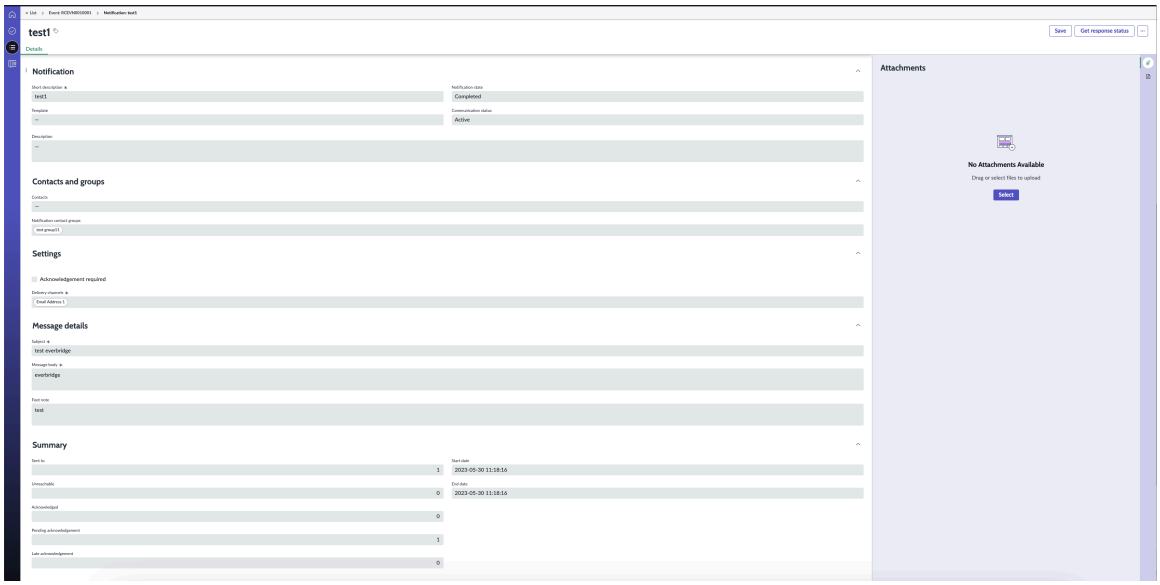
イベントの緊急通知は、イベントの [緊急通知] タブに表示されます。次の例に示すように、通知のステータス、開始日、終了日などの緊急通知の詳細を表示できます。



次の例のような緊急通知フォームが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



連絡先に送信された通知の概要

通知フォームの [サマリー] セクションには、通知が送信された連絡先およびグループのリストが表示され、その連絡先やグループの応答も記録されます。また、通知が届かなかった連絡先の数、通知に確認応答した連絡先の数、および処理待ちの確認応答の数も表示されます。この情報は Everbridge から取得され、次の例に示すように 事業継続性ワークスペース に表示されます。

連絡先に送信された通知の概要



通知フォームの [サマリー] セクションには、次の情報が含まれています。

送信先
: 通知の送信先となった連絡先の数。

到達不可能
: 通知が送信されなかった連絡先の数。

確認済み

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

通知の受信を確認した連絡先の数。

確認応答待ち

通知の受信を確認しなかった連絡先の数。

確認応答の遅れ

通知期間が経過した後に通知の受信を確認した連絡先の数。

通知を配信できなかった連絡先が多数存在する場合は、同じ危機イベントの別の通知を作成できます。前回の通知は多くの連絡先に届かなかったため、今回はマネージャーのチームに送信できます。

Crisis Management を Everbridge と統合するための管理タスク

Crisis Management を Everbridge 通知システム と統合するための管理タスクの詳細については、「Everbridge 通知のセットアップ」を参照してください。

事業継続性管理の構成

組織の事業継続性タスクを実行するように、事業継続性管理 アプリケーションを構成します。

構成の概要

事業継続性管理 を構成するには、アドミニストレーターが ServiceNow® Store からアプリケーションをインストールし、セットアップする必要があります。

注:
BCM ロールを持っている場合は、このセクションで説明されているセットアップタスクを実行できます。

- Store から 事業継続性管理 アプリケーションをインストールします。詳細については、「事業継続性管理からの ServiceNow Store のインストール」を参照してください。

  注:
  GRC: ビジネスインパクトアナリシス、GRC：事業継続性計画、または GRC：危機管理をインストールすると、 GRC：事業継続性管理 – コアおよび GRC：事業継続性管理 – コンポーネントが自動的にインストールされます。

- ユーザーに必要なロールがアサインされていることを確認します。詳細な手順とロールのリストについては、「事業継続性管理とともにインストールされるコンポーネント」を参照してください。
- BCM アドミンロールで管理タスクを実行して、事業継続性管理 アプリケーションを設定します。詳細については、「BCM の全般管理セットアップ」を参照してください。

  注:
  [全般管理] セットアップで、自分のタスクページ構成とプロパティを表示できます。

- BIA アドミンロールで管理タスクを実行して、ビジネスインパクトアナリシスのセットアップを完了します。詳細については、「ビジネスインパクトアナリシスのためのセットアップ」を参照してください。

  注:
  BCM UIB ワークスペースでビジネスインパクトアナリシスを作成すると、BCM リードを BIA フォーム自体の分析にアサインできます。

- BCP アドミンロールで管理タスクを実行して、事業継続性計画のセットアップを完了します。詳細については、「事業継続性計画のためのセットアップ」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
BCM UIB ワークスペースで事業継続性計画を作成すると、BCM リードを BCP フォーム自体の分析にアサインできます。

- ビジネスインパクトアナリシス、事業継続性計画、またはイベントの PDF テンプレートを書式設定します。詳細については、「BIA、BCP、およびイベントの PDF テンプレートのフォーマット設定」を参照してください。
- 360 度の関係レジストリと関係ビューを構成します。詳細については、「360 度のリレーションシップレジストリとビューの構成」を参照してください。
- Everbridge で通知を設定します。詳細については、「Everbridge 通知のセットアップ」を参照してください。
- 危機マップを設定します。詳細については、「クライシスマップのセットアップ」を参照してください。
- アドミニストレーターが実行するセットアップタスクを確認します。詳細については、「システムアドミニストレーターによるセットアップ」を参照してください。
- UI ビルダー のセットアップ情報を確認します。詳細については、「UI ビルダー 用のセットアップ」を参照してください。

注:

BCM クラシック ワークスペース と BCM 構成可能ワークスペース はどちらも ワークスペース ビューを使用します。他の UI ビューでカスタマイズを行った場合は、以前のリリースから Yokohama リリースにアップグレードする前またはアップグレードした後に、同じカスタマイズを適用する必要があります。

BCM クラシック ワークスペース のカスタムコンポーネント構成の詳細については、記事 KB1442692 を参照してください。

レポートとカスタム変更を BCM 構成可能ワークスペース に移行する方法については、記事 KB1444397 を参照してください。

事業継続性管理 および **ServiceNow Store**

事業継続性管理 アプリケーションは ServiceNow Store から入手可能です。このアプリケーションにより、新しい機能や更新された機能をより迅速に取得できます。事業継続性管理 アプリケーションを使用する前に、それらを使用するエンタイトルメントがあることを確認する必要があります。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして、利用可能なすべてのアプリを表示し、要求をストアに送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースメモ情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

ServiceNow Storeで利用可能な BCM アプリケーションのリストを以下に示します。

アプリケーション	説明
GRC: ビジネスインパクトアナリシス	事業継続性管理チームが、ビジネスプロセス、アプリケーション、場所などの重要なリソースに対する中断の影響を評価するための構造化されたワークフローを提供します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーション	説明
GRC：事業継続性計画	事業継続性管理チームが事業継続性および災害復旧計画を作成、レビュー、および承認する機能を提供します。
GRC: Crisis Management	事業継続性管理チームが、計画の実行中および実際の危機状況進行中に事業継続性計画を有効にする機能を提供します。
GRC：Everbridge 通知機能の危機管理統合 (com.snc.bcm.app_crisis_ebn_intg)	通知を作成して送信し、応答を追跡するために、Everbridge との統合を提供します。
GRC：クライシスマップ (com.snc.app_bcm_crisis_map)	Feeds and Alert Management アプリケーションと統合して、BCM クライシスマップで脅威のアラートとリスクのある資産を表示する機能を提供します。また、Crisis Management イベントと通知ワークフローをトリガーして、適切なアクションを実行します。
GRC：承認コンフィギュレーター (sn_grc_appr)	承認ルールの定義に基づいて複数レベルの承認を定義する機能を提供します。

注:
GRC: ビジネスインパクトアナリシス、GRC: Business Continuity Planning、または GRC: Crisis Management をインストールすると、GRC: Business Continuity Management – Core、GRC: Business Continuity Management – Components、および GRC：承認コンフィギュレーターが自動的にインストールされます。

GRC: Business Continuity Management – Core は、事業継続性管理アプリケーションに必要なデータを構成する機能を提供します。このアプリケーションは、Business Continuity Management アプリケーション向けの GRC: Business Continuity Management – Components: Now Design System コンポーネントもインストールします。

自動翻訳

BCM アプリケーションのエンタイトルメントを取得します

アプリケーションのインストールの最初のステップは、アプリケーションまたは製品およびその関連付けられたアプリケーションに有効な ServiceNow エンタイトルメントがあることを確認することです。

始める前に

必要なロール：admin

エンタイトルメントを実行する個人には、Now Support アカウントと、検討中のインスタンスのアプリケーションを要求する権限が必要です。

手順

1. [ServiceNow Store] に移動します。
2. [ログイン] を選択し、Now Support 認証情報を使用してログインします。
3. **[ServiceNow** 製品] タブを選択して、利用可能なすべての ServiceNow Store 製品を表示します。
   統合とその他のタイプのコンテンツが [認定アプリ **(Certified Apps)]** タブに表示されます。
4. エンタイトルメントを取得する製品の製品名を選択します。
   エンタイトルメントを取得している製品に関連付けられているすべてのアプリケーションが一覧表示されます。コア製品のエンタイトルメントを取得すると、その下にリストされているアプリケーションについてもエンタイトルメントを取得します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. [オプトイン] を選択して、一覧表示されている製品とアプリケーションのエンタイトルメントがあることを確認します。
   ServiceNow Storeの契約条件を読んで同意するように求められます。
6. チェックボックスをオンにし、[受け入れ] を選択します。

   注:
   製品名の横にチェックマークが表示され、[エンタイトルメントを管理 **(Manage Entitlements)]** ボタンが表示されます。

   このチェックマークは、ユーザーが製品とそれに関連付けられたアプリケーションに登録されていることを示します。エンタイトルメントを管理します。これは、この製品および後からインストールする他の製品に対する 1 回限りのプロセスです。

7. [エンタイトルメントの管理 **(Manage Entitlements)]** を選択して、エンタイトルメントが付与されているアプリケーションの影響を受けるインスタンスを変更できます。
   ServiceNow Store の契約条件に同意し、エンタイトルメントを管理した後に、製品名の横にあるプラス記号 (+) を選択すると、他の製品にエンタイトルメントを付与できます。

   これで、アプリケーションをインストールする準備ができました。

事業継続性管理からの **ServiceNow Store** のインストール

admin ロールをお持ちであれば、事業継続性管理 アプリケーションをインストールできます。このアプリケーションには、デモデータが含まれています。まだインストールされていない場合は、関連するストアアプリケーションをインストールします。

始める前に
必要なロール：admin

ServiceNow Store で、アプリケーションとその依存アプリケーションに対するエンタイトルメント (またはライセンス) があることを確認する必要があります。

手順

1. 移動先 システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. フィルター基準と検索バーを使用して 事業継続性管理 アプリケーションを検索します。

   名前または ID でアプリケーションを検索できます。アプリケーションが見つからない場合は、ServiceNow Store へのリクエストが必要になることもあります。

   ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

3. [インストール] を選択します。
4. アプリケーションのインストールダイアログボックスで、アプリケーションの依存関係を確認します。

   依存関係、ライセンスやサブスクリプションの要件、およびリリースの互換性の情報については、インスタンスのアプリケーションリストを確認してください。

   事業継続性管理 アプリケーション (com.snc.sn_bcm) では、次の必要なアプリケーションをダウンロードする必要があります。

   - BCM core (com.snc.bcm.app_bcm_core)
   - BIA (com.snc.bcm.app_bcm_bia)

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

- BCP (com.snc.bcm.app_bcm_planning)
- 危機管理 (com.snc.bcm.app_bcm_exercise)
- Everbridge 統合を使用した危機マップ (com.snc.bcm.app_crisis_ebn_intg)
- データレジストリ (com.snc.data_registry_dep)
- Gantt UI Builder Component (servicenow-now-gantt)
- データレジストリアプリケーション (app-grc-data-registry)
- キュメントテンプレート (app-document-templates)
- データ関係フレームワーク (app-grc-relationship-config)
- GRC 共通ワークスペース (app-grc-base-workspace)
- GRC：承認コンフィギュレーター (app-bcm-approval-config)
- IRM 共有コンポーネント (irm-shared-common-components)

5. デモデータが利用可能になり、ロードするには、[デモデータのロード] を選択します。

   一部のアプリケーションには、デモデータ (一般的なユースケース向けのアプリケーション機能を説明するサンプルレコード) が含まれています。開発またはテストインスタンスで初めてアプリケーションをインストールする場合は、デモデータを読み込みます。

   > **注:**
   > インストール時にストアアプリケーションの [デモデータのロード] チェックボックスをオンにしないと、後で アプリケーションマネージャーからデモデータをインストールできません。初期インストール後にデモデータをインストールまたは再インストールする方法については、HI ナレッジベースで「アプリケーションが既にインストールされている場合にデモデータをインストールする方法 [KB0722909]」記事を参照してください。

6. [インストール] を選択します。

   > **注:**
   > GRC: ビジネスインパクトアナリシス、GRC：事業継続性計画、または GRC：危機管理をインストールすると、 GRC：事業継続性管理 – コアおよび GRC：事業継続性管理 – コンポーネントが自動的にインストールされます。

BCM Lite オペレーター

事業継続性管理 アプリケーションのユーザーライセンス条件は柔軟です。オペレーターが読み取り専用アクセス権を持っているかどうかや、特定のタイプのタスクを完了できるかどうかに基づいて、条件が決まります。

Lite オペレーター分類の概要

Lite オペレーターとして分類される 事業継続性管理 ロールは、次のタスクを担当するユーザーです。

- ビジネスインパクトアナリシス (BIA) 計画がビジネスインパクトアナリシスに寄与する要因として追加されたときに、その計画に対応する。
- [リストビュー] または [自分のタスク] ページのレコードから、アサインされた承認レコードを承認する。

Lite オペレーターがタスクに応答できるようにするには、アクティビティのための適切なロールをオペレーターにアサインし、承認者としてレコードに追加する必要があります。この条件が満たされると、Lite オペレーターはレコードを承認または却下し、ワークフローメモを提供できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

BCP または BIA 計画テンプレートを構成する方法の詳細については、「事業継続性計画テンプレートの構成」および「従来のアセスメントを使用した BIA テンプレートの構成」を参照してください。

事業継続性管理 アプリケーションのアクティブ化とともにインストールされるすべてのロールについては、「事業継続性管理とともにインストールされるコンポーネント」を参照してください。

BCM Lite オペレーターのロール

BCM Lite オペレーターのロール (sn_bcm_lite.lite_operator) には、次の表に示すロールが含まれています。

BCM Lite オペレーターのロールの分類

ロール	説明	追加情報
sn_bcm_contributor	ユーザーが貢献者としてタグ付けされている BIA に応答できるようにします。	BIA オーナーは、ユーザーを貢献者として BIA に追加する必要があります。
sn_bcm.core_viewer	ユーザーがワークスペース UI で BIA、計画、演習、およびイベントを表示できるようにします。	
sn_bia.bia_contributor	ユーザーが貢献者としてタグ付けされている BIA に応答できるようにします。	BIA オーナーは、ユーザーを貢献者として BIA に追加する必要があります。
sn_bcm.recovery_team_member	ユーザーがアサインされた復旧タスクを受信して応答できるようにします。	
sn_bcm_viewer	ユーザーが BCM アプリケーションのすべてのレコードを表示できるようにします。	
sn_bcp.plan_viewer	ユーザーが計画を読み取り専用形式で表示できるようにします。	
sn_bia.bia_viewer	ユーザーが BIA 応答を読み取り専用形式で表示できるようにします。	
sn_recovery.event_viewer	ユーザーが演習またはイベントを読み取り専用形式で表示できるようにします。	復旧イベントメンバーが演習全体のコンテキストを把握できるようにするためにこの読み取り専用の情報が必要です。ただし、ユーザーはアサインされたタスクにのみ応答できます。
sn_crisis_ebn.viewer	ユーザーが緊急通知を読み取り専用形式で表示できるようにします。	
sn_recovery.event_member	演習またはイベント中に、ユーザーがアサインされた復旧タスクを受信して応答できるようにします。	復旧タスクは復旧チームメンバーにアサインする必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Lite オペレーターにアサインできない BCM ロール

オペレーターロールは、Lite オペレーターにアサインできません。ユーザーにロールを割り当てた場合、そのユーザーはオペレーターとしてカウントされ、柔軟なライセンスモデルは使用できなくなります。

次のロールは Lite オペレーターにアサインできません。

- sn_bia.bia_admin
- sn_bia.bia_manager
- sn_bia.bia_planner
- sn_bcp.plan_admin
- sn_bcp.plan_manager
- sn_recovery.event_manager
- sn_recovery.event_user
- sn_crisis_ebn.admin
- sn_crisis_ebn.user

ロールの割り当ての詳細については、Now Support ナレッジベースの「GRC ビジネスユーザーロール [KB0864247]」の記事を参照してください。

注:
記事を表示するには、Now Support にログインする必要があります。

Lite オペレーターのアクティビティと制限

次の表に、Lite オペレーターのアクティビティと制限事項を示します。

BCM Lite オペレーターのアクティビティと制限

アクティビティ	説明	作成	読み取り	更新	承認
ビジネスインパクトアナリシス (BIA)	• BIA 分析に応答します。 • 完了した分析を表示します。 • BIA ワークフローに参加します。 • 分析をレビューし、承認または却下します。		X	X	X
事業継続性計画 (BCP)	• 公開された継続性および災害復旧		X		X

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

BCM Lite オペレーターのアクティビティと制限 (続く)

アクティビティ	説明	作成	読み取り	更新	承認
	計画を表示およびダウンロードします。 • 計画ワークフローに参加します。 • 分析をレビューし、承認または却下します。				
事業継続性演習	• 演習の詳細を表示します。 • 復旧タスクに参加します。 • 演習結果ワークフローに参加します。 • 分析をレビューし、承認または却下します。		X		X
危機イベント	• 危機の詳細を報告および表示します。 • 復旧タスクに参加します。 • 演習結果ワークフローに参加します。 • 分析をレビューし、承認または却下します。		X		X

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

BCM Lite オペレーターのアクティビティと制限 (続く)

アクティビティ	説明	作成	読み取り	更新	承認
復旧タスクのステータスの更新	• 演習と危機イベントからの復旧タスクを受け取ります。 • 進捗状況とステータスをイベントコーディネーターに報告します。		X	X	X
緊急通知テンプレート	• 緊急通知を表示します。 • ワークフローに参加します。		X		X

BCM の全般管理セットアップ

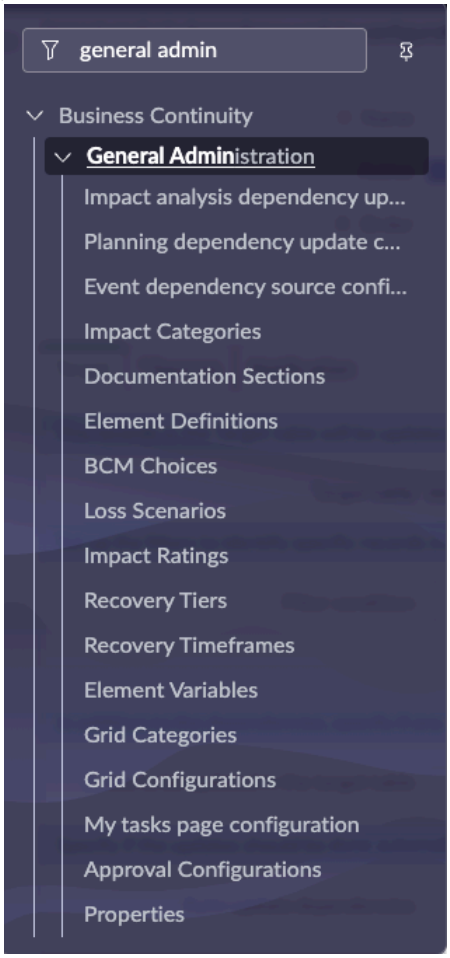
BCM アドミニストレーターは、特定の管理タスクを実行して、事業継続性管理 アプリケーションを設定できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[全般管理] モジュール

次の例に示すように、BCM アプリケーションに関連付けられている管理タスクは、アプリケーション UI の [全般管理] モジュールに一覧表示されます。



sn_bcm.admin ロールを持つ 事業継続性管理 アドミニストレーターは、事業継続性管理 アプリケーションに関連付けられている管理タスクを実行する責任があります。

通常、事業継続性管理 アドミニストレーターは次の管理タスクを実行します。

- 影響度カテゴリを構成します。詳細については、「BIA の影響度カテゴリの構成」を参照してください。
- ドキュメントセクションを構成します。詳細については、「ドキュメントセクションを構成」を参照してください。
- 要素定義を構成します。詳細については、「要素定義の構成」を参照してください。
- 損失シナリオを構成します。詳細については、「計画での損失シナリオの構成」を参照してください。
- 影響度評価を構成します。詳細については、「影響度評価の構成」を参照してください。
- 復旧階層を構成します。詳細については、「BIA の復旧階層の構成」を参照してください。
- 復旧の解決までの期限を構成します。詳細については、「復旧の解決までの期限の設定」を参照してください。
- 要素変数を構成します。詳細については、「要素定義の要素変数の構成」を参照してください。
- 自分のタスクページ構成モジュールを表示します。詳細については、「マイタスクページ構成」を参照してください。
- 承認構成を設定します。詳細については、「承認構成」を参照してください。

自動翻訳

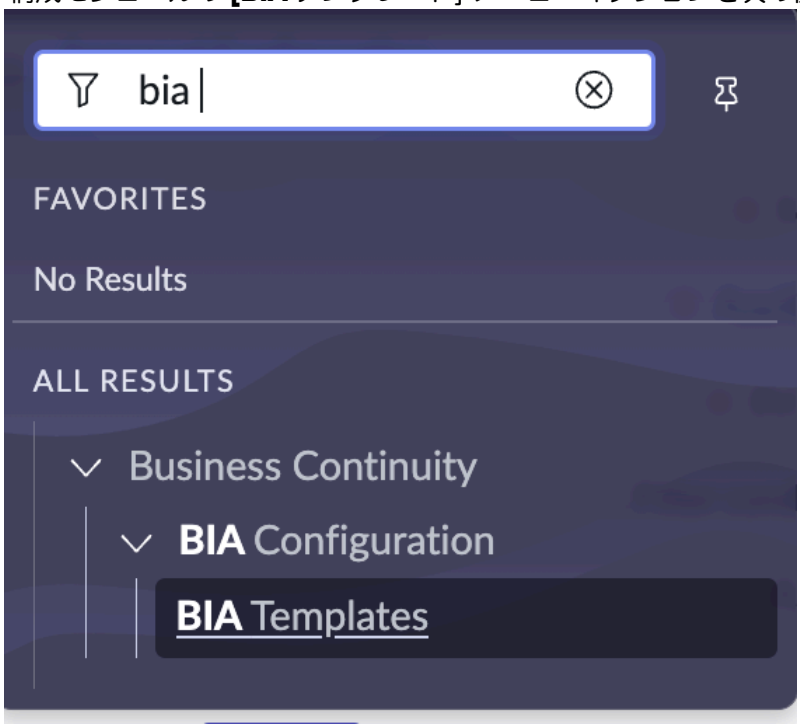
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- プロパティを構成します。詳細については、「BCM のプロパティ」を参照してください。
- グリッド構成とカテゴリの詳細については、「BIA アセスメントのグリッドの構成」および「グリッドカテゴリの設定」を参照してください。

BIA 構成モジュール

BCM アドミニストレーターは、BIA 構成モジュールで BIA テンプレートを構成します。BIA テンプレートを構成することは、ビジネスインパクトアナリシスを実行するための前提条件です。

BIA 構成モジュールの **[BIA** テンプレート] メニューオプションを次の例に示しま



す。

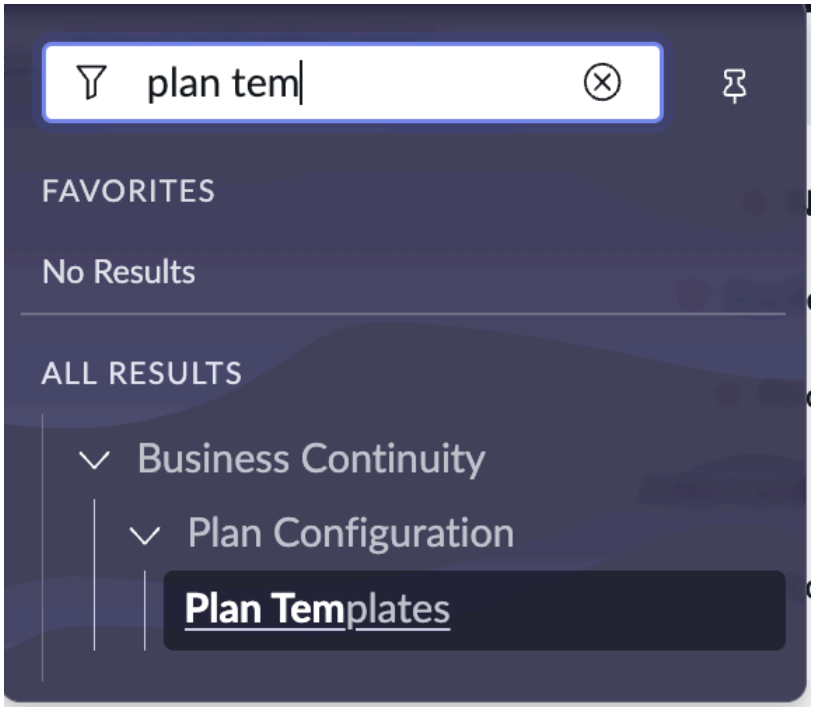
BIA テンプレートの構成の詳細については、「従来のアセスメントを使用した BIA テンプレートの構成」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

計画テンプレートモジュール

通常、事業継続性管理 アドミニストレーターは計画テンプレートモジュールを使用して、事業継続性計画テンプレートを構成します。次の例に、計画テンプレートモジュールを示します。



事業継続性計画テンプレートの構成の詳細については、「計画テンプレートの構成」を参照してください。

依存関係構成情報レコード

BCM アドミニストレーターは、依存関係構成情報レコードを構成します。

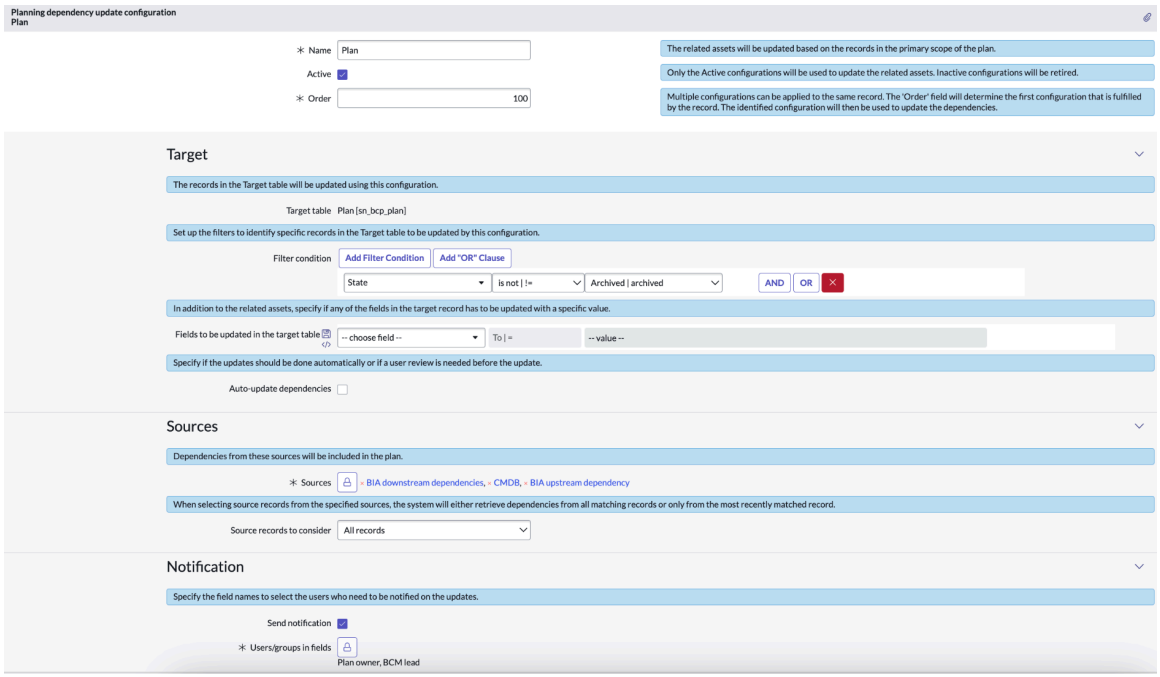
アドミニストレーターは、アドミニストレータービュー (UI 16 ビュー) で依存関係更新構成情報レコードを構成して、CMDB のソースデータと関係に基づいて、BIA の依存関係、関連資産、ソースの自動更新をスケジュール設定します。

注:
Xanadu リリース以降、ビジネスインパクトアナリシス、計画、およびイベントに関連する依存関係に関する最新情報にアクセスできるようになりました。依存関係の最新の更新にアクセスするには、影響分析依存関係の更新構成、依存関係更新構成の計画、およびイベント依存関係ソースの構成レコードで、[考慮するソースレコード] オプションから [すべてのレコード] または [最新レコードのみ **(Latest record only)**] を選択します。選択に基づいて、アプリケーションはすべてのソースから依存関係をプルするか、各ソースの最新レコードからのみ依存関係をプルします。

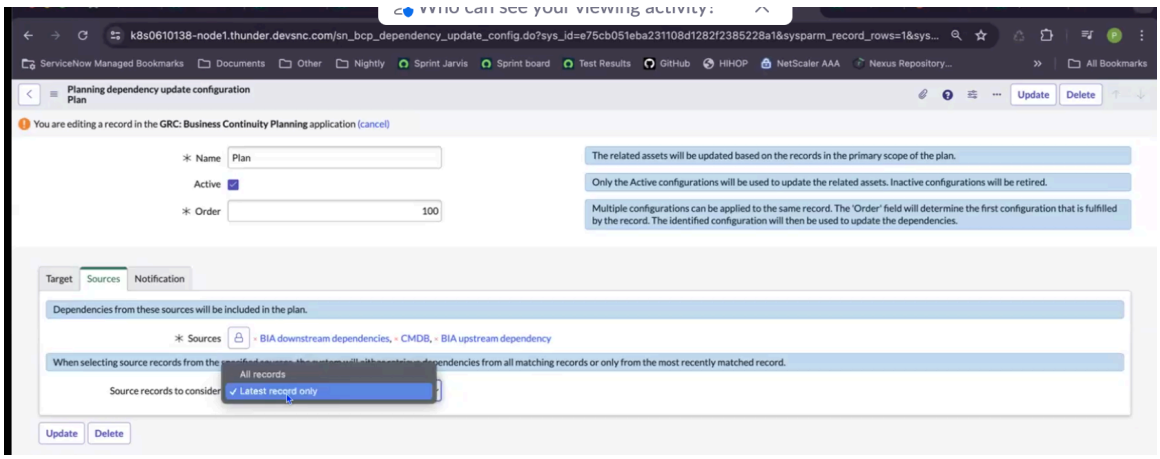
次の例は、依存関係更新構成情報計画レコードを示しています。

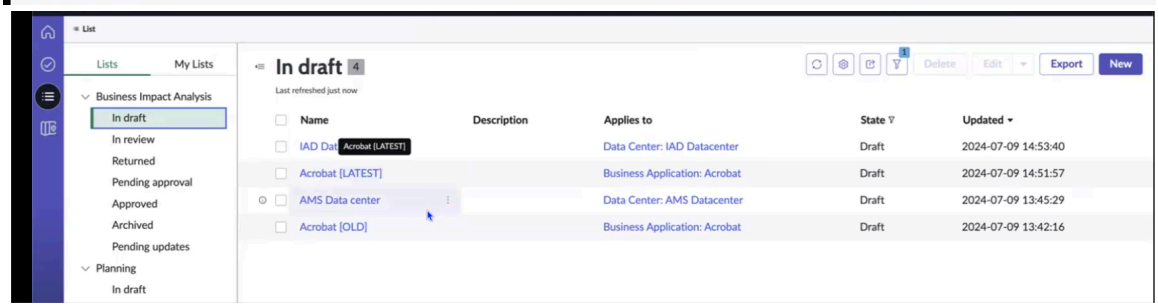
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



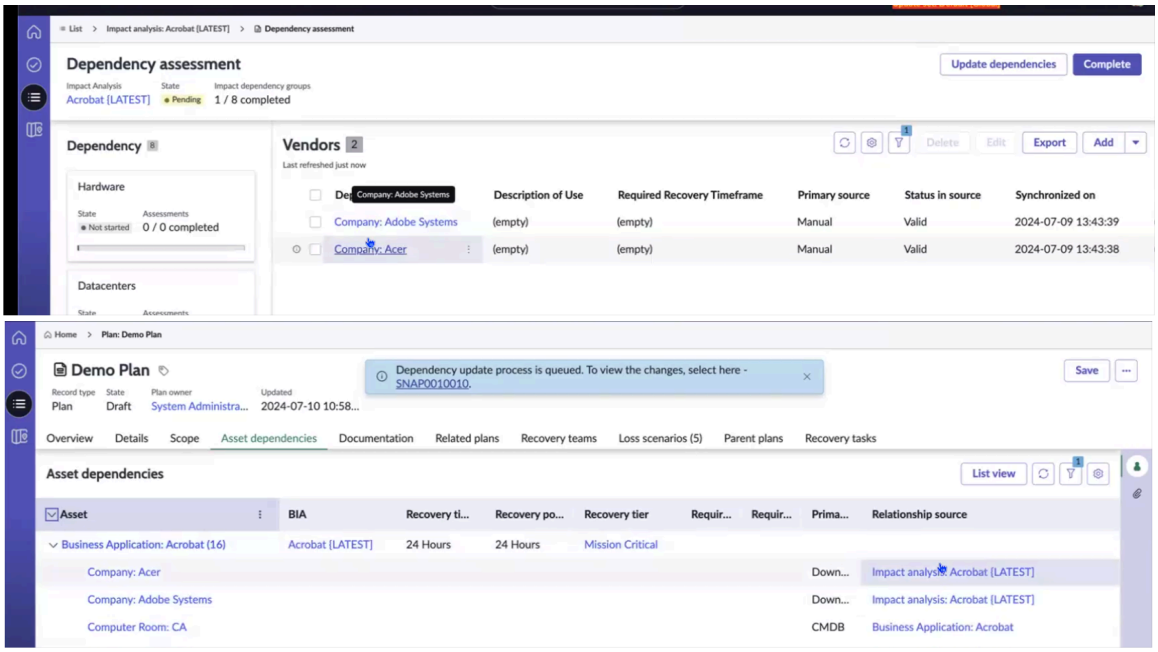
Acrobat で 2 つの BIA を実行する例を考えてみましょう。その構成は例に示すようになります。[すべてのレコード] オプションが選択されていて、計画レコードから [依存関係を更新] UI アクションを選択すると、アプリケーションによって要件を満たすすべての BIA レコードの依存関係がすべてプルされます。例に示すように、[BIA 最新 (BIA Latest)] と [BIA 旧 (BIA Old)] の両方のレコードの依存関係が計画にプルされます。





[最新レコードのみ] オプションを選択し、計画レコードから [依存関係を更新] UI アクションを選択すると、アプリケーションは 2 つの BIA のいずれかのレコードを考慮し、その BIA レコードの依存関係アセスメントをフェッチします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



計画レコードの [依存関係を更新] UI アクションと*Update BCP dependencies snapshot*スケジュール済みジョブを機能させるには、影響分析依存関係の更新構成、依存関係更新構成の計画、およびイベント依存関係ソースの構成レコードを策定する必要があります。

影響分析、計画、およびイベントの最新の依存関係更新のプル

影響分析、計画、およびイベントの最新の依存関係の更新をプルできます。[すべてのレコード] または [最新レコードのみ (Latest record only)] 機能の選択は、影響分析依存関係更新構成、依存関係更新構成の計画、およびイベント依存関係ソース構成レコードで可能です。

影響分析依存関係の更新では、すべての BIA レコードまたは最新の BIA レコードをプルすると、同じ情報が得られる場合があります。依存関係更新構成の計画とイベント依存関係の更新では、すべての BIA レコードまたは最新の BIA レコードをプルすると、最新の依存関係の更新がプルされます。

依存関係は、次の計画のソースからフェッチされます。

- BIA 上流依存関係
- BIA 下流依存関係
- CMDB

依存関係は、次のイベントのソースからフェッチされます。

- BIA 上流依存関係
- BIA 下流依存関係
- CMDB
- プライマリ資産の計画
- 関連資産の計画

インパクトアナリシス依存関係更新の構成の詳細については、「影響分析依存関係の更新の構成」を参照してください。

依存関係更新構成の計画の構成の詳細については、「依存関係更新計画の構成」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

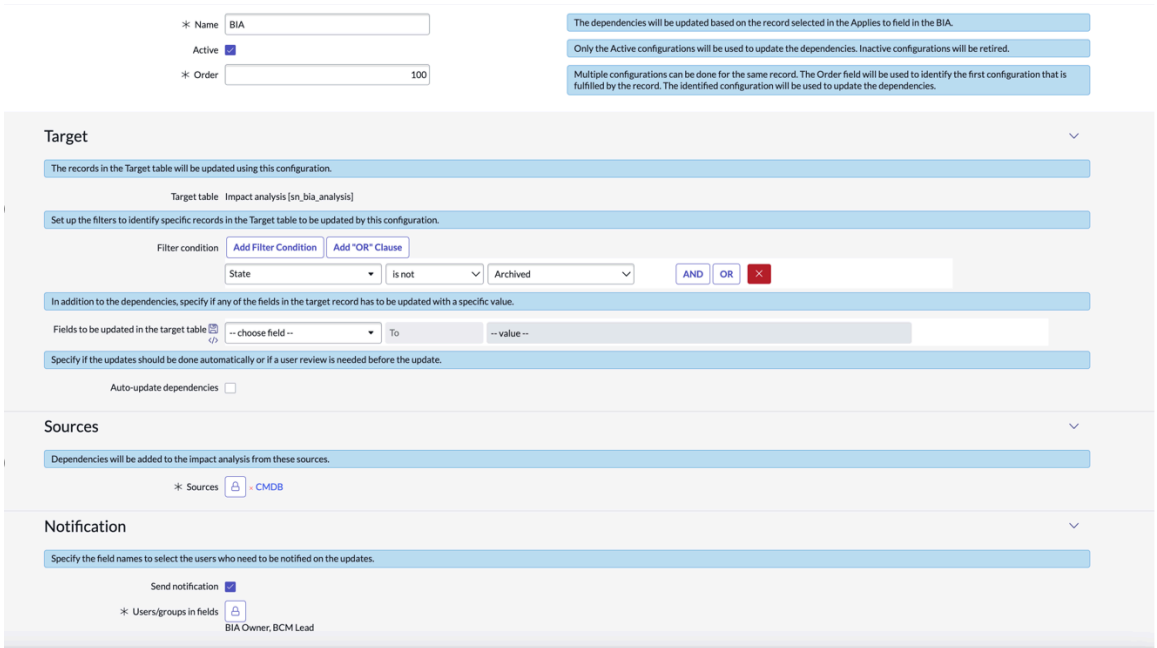
イベント依存関係を追加するためのソースの構成については、「イベント依存関係を追加するためのソースの構成」を参照してください。

影響分析依存関係の更新の構成

BCM アドミニストレーターは、影響分析依存関係の更新構成情報レコードを設定して、CMDB のソースデータと関係に基づいて、BIA 依存関係の自動更新をスケジュール設定できるようにします。

影響分析依存関係の更新情報構成レコード

BCM アドミニストレーターは、アプリケーション UI の [全般管理] に移動して、影響分析依存関係の更新構成情報レコードにアクセスします。次の例に示すように、レコードには、名前、順序、ターゲットレコード、ソース、通知設定などの構成の詳細が含まれています。



依存関係を追加するためのソースの構成

影響分析依存関係の更新構成情報レコードで、BIA の最新の依存関係をフェッチするためにソースを設定します。CMDB 依存関係を読み取るための CMDB のソースが作成されます。BIA の [適用先] フィールドは入力資産です。これは、BIA が何に対して行われるかに基づいて CMDB から依存関係を取得します。

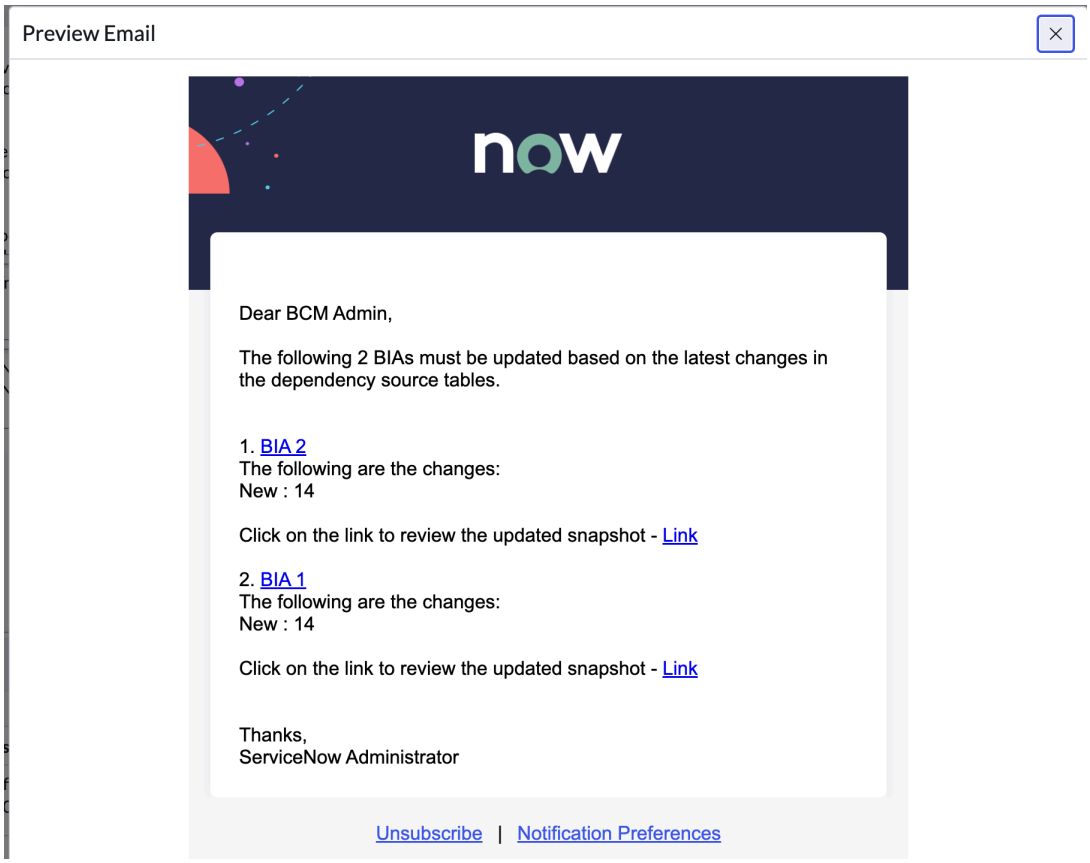
注:
BIA の最新の依存関係は、CMDB 関係からのみフェッチできます。

依存関係を自動更新して通知設定を行う

BCM アドミニストレーターは、次の例に示すように、[依存関係を自動更新 **(Auto-update dependencies)]** オプションを選択して、BIA の依存関係の自動更新スケジュールを設定します。

BCMアドミニストレーターは [通知を送信] オプションを選択して、更新された依存関係について BIA オーナーに通知します。メール通知には、次の例に示すように、BIA レコードの依存関係の更新の詳細が含まれています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



スナップショットレコードは、リストビューから BIA の [処理待ちの更新] レコードに表示されます。デルタスナップショットレコードには、BIA と BIA の [追加済み]、[更新済み]、[削除済み] の資産など、更新された依存関係構成の詳細が表示されます。

BIA オーナーは、BIA の依存関係アセスメントに表示される [依存関係を更新 **(Update dependencies)]** UI アクションを選択して、CMDB 資産と依存関係を手動で更新します。BIA オーナーまたは BIA 承認者は、依存関係の更新を確認し、BIA への変更を保存します。

影響分析依存関係更新構成情報レコードの設定の詳細については、「影響分析依存関係の更新構成の設定」を参照してください。

影響分析依存関係の更新構成の設定

影響分析依存関係更新構成情報レコードを設定して、(依存関係が更新される) BIA レコード、そのターゲットレコード、ソース、および通知設定を構成します。

始める前に

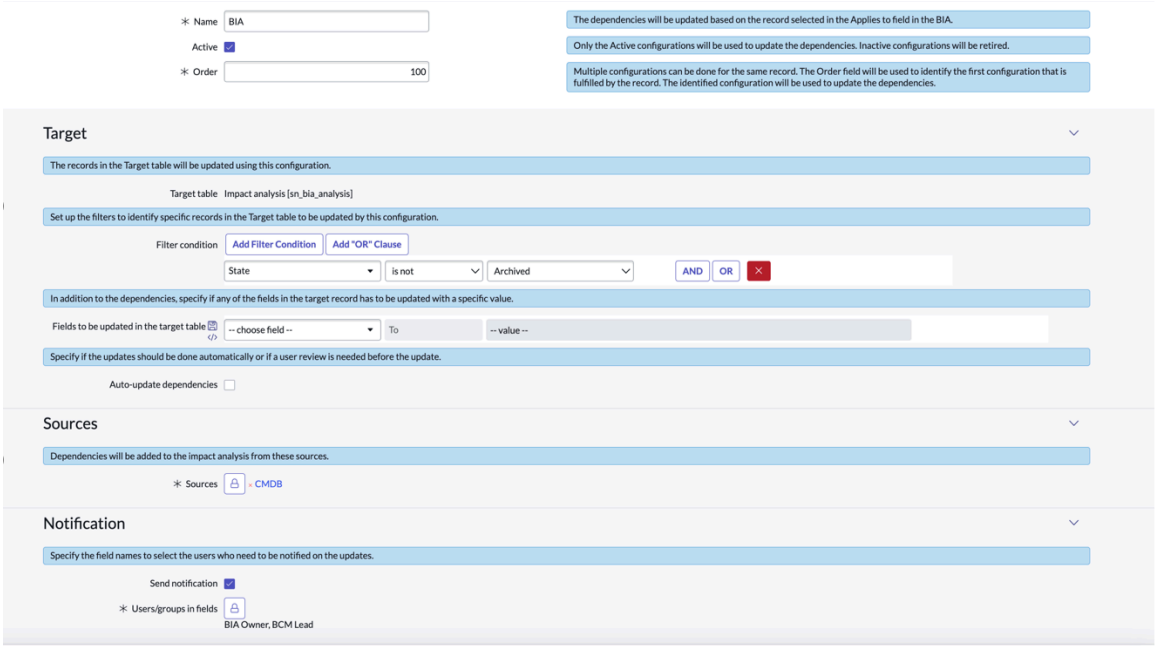
必要なロール：sn_bcm.admin、sn_bcp.plan_admin

手順

1. 移動先 事業継続性 > 全般管理 > 影響分析依存関係の更新構成.
2. **[New** (新規)] を選択します。

   次の例は、影響分析依存関係の更新構成情報レコードを示しています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



3. フォームのフィールドに入力します。

   フォーム内のフィールドの詳細については、「影響分析依存関係の更新構成フォーム」を参照してください。

4. [送信] を選択します。

   影響分析依存関係更新構成情報レコードでBCMアドミニストレーターが設定した構成に従って、BIA で依存関係が更新されます。

   BIA オーナーと承認者は、更新された依存関係をレビューし、BIA ワークフローを完了します。BIA での依存関係の自動更新のスケジュール設定の詳細については、「依存関係の自動更新のスケジュール設定」を参照してください 。

影響分析依存関係の更新構成フォーム

影響分析依存関係の更新構成フォームを使用して、BIA レコード名、ターゲットレコード、ソース、および通知設定など、依存関係更新の詳細を構成します。

影響分析依存関係の更新構成レコードフォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

影響分析依存関係の更新構成レコードフォーム

フィールド	説明
名前	依存関係更新構成ルールの名前。
アクティブ	アクティブな構成を選択するオプション。アクティブな構成が依存関係の更新に使用されます。非アクティブな構成は廃止されます。
順番	レコードによって実行される最初の構成を識別するフィールド。識別された構成は依存関係の更新に使用されます。同じレコードに対して複数の構成を行うことができます。フィルター条

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

影響分析依存関係の更新構成レコードフォーム (続く)

フィールド	説明
	件が同じ場合は、0 などの最小順序が優先されます。
ターゲット	
ターゲットテーブル	BIA レコードを含む影響分析 [sn_bia_analysis] テーブル。これらのレコードは、影響分析依存関係の更新構成情報レコードで設定された構成に従って更新されます。
フィルター条件	ターゲットテーブル内の特定のレコードを識別するためのフィルター条件。これらのレコードは、影響分析依存関係の更新構成情報レコードで設定された構成に従って更新されます。
ターゲットテーブルで更新するフィールド	依存関係に加えて特定の値で更新できるターゲットレコードのフィールド。
依存関係の自動更新	依存関係を自動的に更新するオプション。 BCM アドミニストレーターは、更新を自動的に実行するか、更新前にユーザーレビューが必要かを指定できます。
ソース	
ソース	影響分析に依存関係を追加するための適用可能なソース。BIA レコードの場合、使用されるソースは CMDBです。
考慮するソースレコード	特定のレコードまたはすべてのレコードを選択するオプション。指定されたソースからソースレコードを選択すると、一致するすべてのレコードから、または最後に一致した BIA レコードからのみ依存関係が取得されます。
通知	
通知を送信	更新についてユーザーまたはユーザーグループに通知するオプション。
フィールド内のユーザーまたはグループ	更新に関する通知を受け取る sn_bia_analysis のユーザーまたはグループのフィールドを選択するオプション。たとえば、更新を受信する BIA オーナーと BCM リードを選択できます。

依存関係更新計画の構成

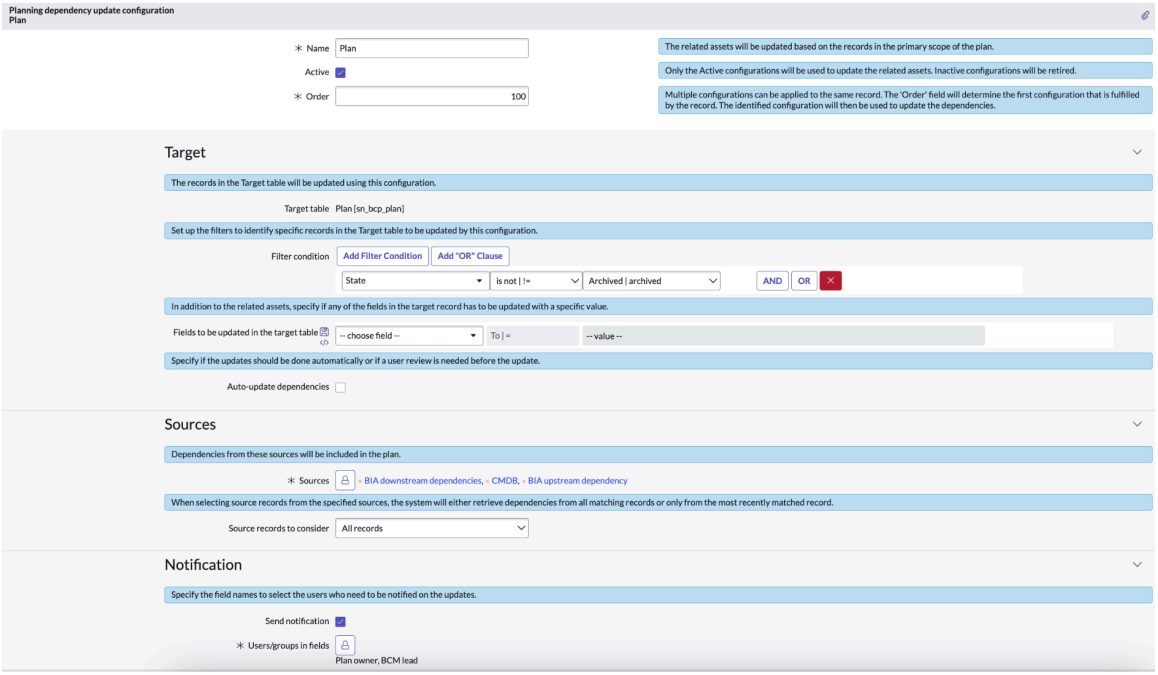
BCM アドミニストレーターは、依存関係更新構成情報計画レコードを設定して、CMDB および BIA のソースデータと関係に基づいて、計画内の関連資産の自動更新をスケジュール設定できるようにします。

依存関係更新構成情報計画レコード

BCM アドミニストレーターは、次の例に示すように、計画レコード、そのターゲットレコード、ソース、および通知設定の詳細を、依存関係更新構成情報計画レコードで設定します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳



依存関係をフェッチするためのソースの構成

BCM アドミニストレーターは、BIA アップストリーム依存関係、BIA ダウンストリーム依存関係、CMDB などのさまざまなソースから計画の最新の依存関係をフェッチするためにソースを構成します。

注:
計画では、すべてのプライマリスコープ資産の依存関係がフェッチされます。

依存関係の自動更新

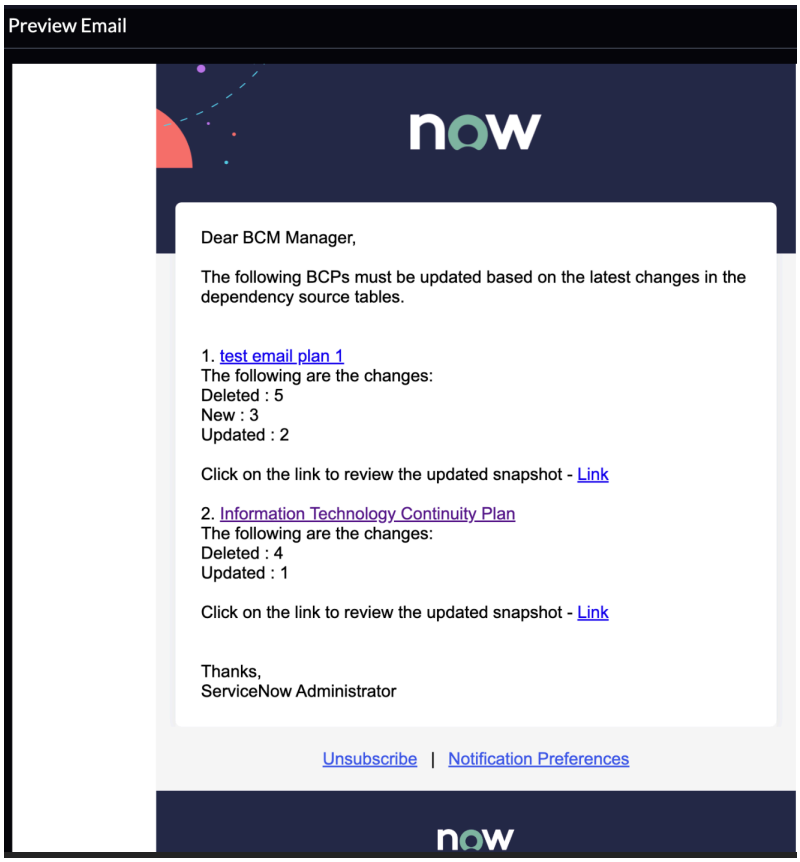
BCM アドミニストレーターは、依存計画更新構成情報計画レコードの [ターゲット] タブにある [依存関係を自動更新 **(Auto-update dependencies)]** オプションを選択して、計画内の関連資産の自動更新スケジュールを設定します。

通知環境の設定

BCM アドミニストレーターは、[通知を送信] オプションを選択して、計画オーナーの通知設定を行います。例に示すように、計画依存関係が更新されるたびに、計画依存関係の更新と更新されたスナップショットレコードへのリンクに関するメールが計画オーナーに送信されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



計画のオーナーと BCM リードは、スナップショットレコードから依存関係の更新をレビューします。デルタスナップショットレコードには、選択した計画レコードの [追加済み]、[更新済み]、[削除済み] の資産など、更新された依存関係が表示されます。

依存関係更新構成情報計画レコードの設定についての詳細は、「依存関係更新構成の計画のセットアップ」を参照してください。

依存関係更新構成の計画のセットアップ

依存関係更新構成情報計画レコードを設定して、(依存関係が更新される) 計画レコード、そのターゲットレコード、ソース、および通知設定を構成します。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.admin、sn_bcp.plan_admin

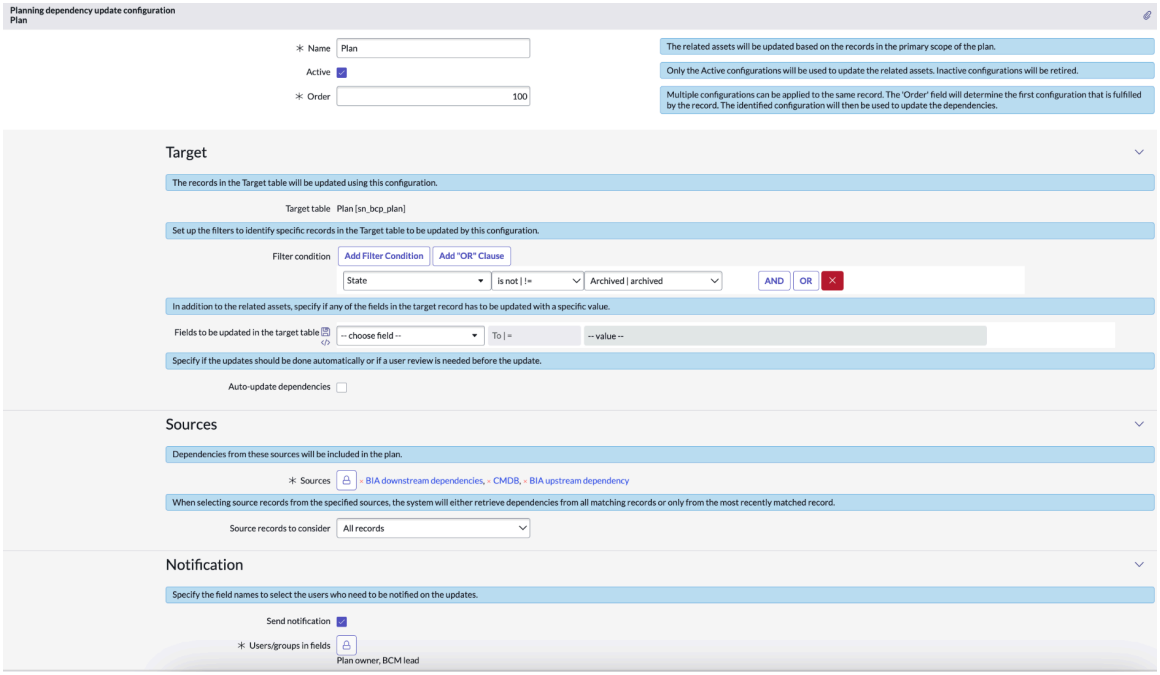
手順

1. 移動先 事業継続性 > 全般管理 > 依存関係更新構成の計画.
2. **[New** (新規)] を選択します。

次の例は、依存関係更新構成情報計画レコードを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



3. フォームのフィールドに入力します。

   フォーム内のフィールドの詳細については、「依存関係更新構成の計画フォーム」を参照してください。

4. [送信] を選択します。

   依存関係更新構成情報計画レコードのBCM管理でBCMアドミニストレーターが設定したソースと設定に従って、計画レコードの計画依存関係の更新が自動更新されます。

   BCP オーナーと承認者は、更新された依存関係をレビューし、BCP ワークフローを完了します。

依存関係更新構成の計画フォーム

計画依存関係更新構成フォームを使用して、計画レコード、そのソース、および基本設定 (計画レコード名、ソース、通知設定など) を設定し、計画内の関連資産の自動更新スケジュールを設定します。

依存関係更新構成の計画レコードフォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

依存関係更新構成の計画レコードフォーム

フィールド	説明
名前	計画レコードの名前関連資産は、計画レコードのプライマリスコープに基づいて更新されます。
アクティブ	アクティブな構成を選択するオプション。アクティブな構成が依存関係の更新に使用されます。非アクティブな構成は廃止されます。
順番	レコードによって実行される最初の構成を識別するフィールド。識別された構成は依存関係の

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

依存関係更新構成の計画レコードフォーム (続く)

フィールド	説明
	更新に使用されます。同じレコードに対して複数の構成を行うことができます。
ターゲット	
ターゲットテーブル	計画レコードを含む計画 [sn_bcp_plan] テーブル。これらのレコードは、依存関係更新構成の計画レコードで設定された構成に従って更新されます。
フィルター条件	ターゲットテーブル内の特定のレコードを識別するためのフィルター条件。これらのレコードは、依存関係更新構成の計画レコードで設定された構成に従って更新されます。
ターゲットテーブルで更新するフィールド	特定の値で更新できるターゲットレコードのフィールド。
依存関係の自動更新	依存関係を自動的に更新するオプション。 BCM アドミニストレーターは、更新を自動的に実行するか、更新前にユーザーレビューが必要かを指定できます。
ソース	
ソース	計画に関連資産を追加するために適用可能なソース。事業継続性計画レコードには、次のソースが使用されます。 • BIA アップストリーム • BIA 下流 • CMDB
考慮するソースレコード	特定のレコードまたはすべてのレコードを選択するオプション。指定されたソースからソースレコードを選択すると、一致するすべてのレコードから、または最後に一致した BIA レコードからのみ依存関係が取得されます。
通知	
通知を送信	更新についてユーザーまたはユーザーグループに通知するオプション。
フィールド内のユーザーまたはグループ	更新に関する通知を受け取るユーザーまたはグループを選択するオプション。たとえば、更新を受信するために計画オーナーと BCM リードが選択されています。

イベント依存関係を追加するためのソースの構成

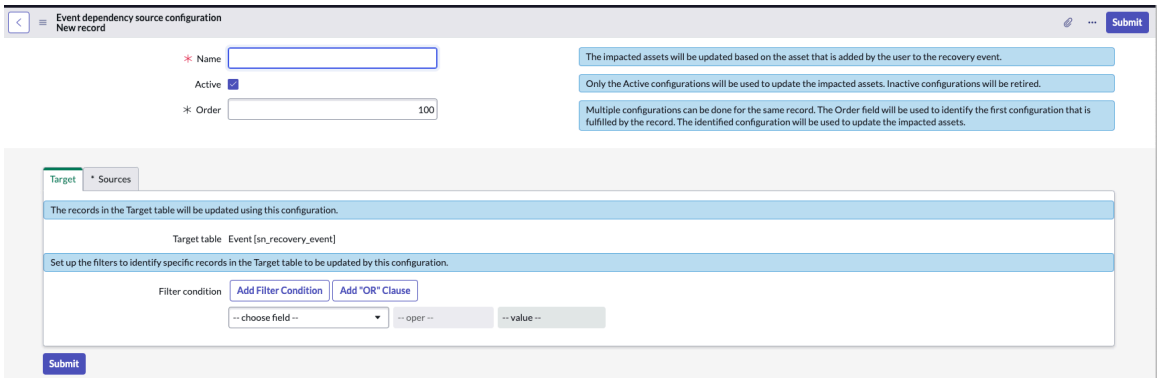
BCM アドミニストレーターは、イベント依存関係ソース構成情報レコードでソースを構成し、BIA、CMDB、計画のソースデータおよび関係に基づいて、影響を受ける資産がイベントと演習に追加されるようにします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

イベント依存関係ソースの構成情報レコード

次の例に示すように、イベント依存関係ソース構成情報レコードには、イベントレコード名、そのターゲットレコード、ソースなどのイベント依存関係の詳細が含まれています。



依存関係は、ユーザーが [依存関係を更新 **(Update dependencies)]** UI アクションを選択することで、すべてのソースのイベントに組み込まれます。イベントが作成されて計画にリンクされると、イベント依存関係構成がアクティブで、そのソースに計画が含まれている場合、[依存関係を更新 **(Update dependencies)]** UI アクションを選択しなくても、プライマリ資産とその関連資産が計画から自動的に取得されます。

依存関係は、次のイベントのソースからフェッチされます。

- BIA 上流依存関係
- BIA 下流依存関係
- CMDB
- プライマリ資産の計画
- 関連資産の計画

注:
イベントでは、すべての資産の依存関係が手動で追加されます (ソースは手動)。

イベント依存関係ソースの構成情報レコードの設定についての詳細は、「イベント依存関係ソースの構成情報レコードを構成する」を参照してください。情報

イベント依存関係ソースの構成情報レコードを構成する

イベント依存関係ソースの構成情報レコードで、イベント依存関係を追加するためのソースを構成します。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin、sn_bcp.plan_admin

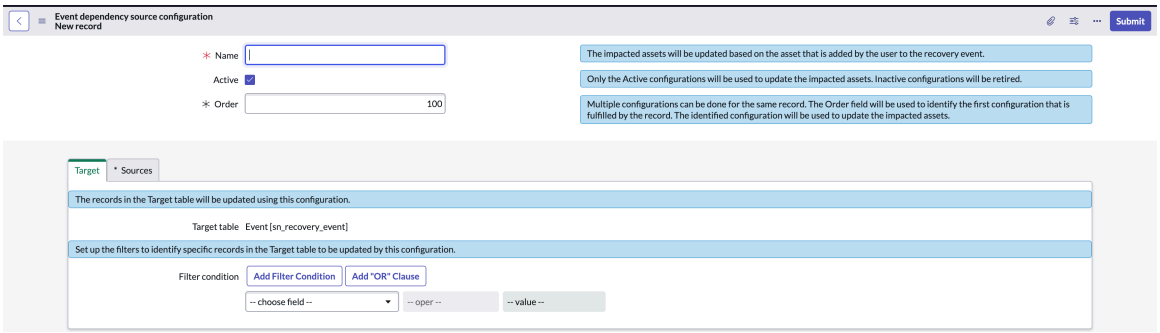
手順

1. 移動先 事業継続性 > 全般管理 > イベント依存関係ソースの構成.
2. **[New** (新規)] を選択します。

   次の例は、イベント依存関係ソース構成情報レコードを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



3. フォームのフィールドに入力します。

   フォーム内のフィールドの詳細については、「イベント依存関係ソースの構成フォーム」を参照してください。

4. [送信] を選択します。

   イベント依存関係ソース構成情報レコードでBCMアドミニストレーターが設定したソースに従って、依存関係がイベントに追加されます。

イベント依存関係ソースの構成フォーム

イベント依存関係ソース構成フォームを使用して、イベントレコード名、そのターゲットレコード、ソースなどのイベント依存関係の詳細を BCM アプリケーションに追加します。

イベント依存関係ソースの構成レコードフォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

イベント依存関係ソースの構成レコードフォーム

フィールド	説明
名前	復旧イベントの名前。影響を受ける資産は、ユーザーが復旧イベントに追加した資産に基づいて更新されます。
アクティブ	アクティブな構成を選択するオプション。アクティブな構成が依存関係の更新に使用されます。非アクティブな構成は廃止されます。
順番	レコードによって実行される最初の構成を識別するフィールド。識別された構成は、影響を受ける資産の更新に使用されます。同じレコードに対して複数の構成を行うことができます。
ターゲット	
ターゲットテーブル	イベントレコードを含むイベント [sn_recovery_event] テーブル。これらのレコードは、イベント依存関係ソースの構成情報レコードで設定された構成に従って更新されます。
フィルター条件	ターゲットテーブル内の特定のレコードを識別するためのフィルター条件。これらのレコードは、イベント依存関係ソースの構成情報レコードで設定された構成に従って更新されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

イベント依存関係ソースの構成レコードフォーム (続く)

フィールド	説明
ソース	
ソース	影響を受ける資産を復旧イベントに追加するための適用可能なソース。イベントレコードには、次のいずれかのソースを使用できます。 • BIA アップストリーム依存関係 • BIA 下流依存関係 • CMDB • プライマリ資産の計画 • 関連資産の計画
考慮するソースレコード	特定のレコードまたはすべてのレコードを選択するオプション。指定されたソースからソースレコードを選択すると、一致するすべてのレコードから、または最後に一致した BIA レコードからのみ依存関係が取得されます。

BIA の影響度カテゴリの構成

ビジネスインパクトアナリシスの実行時に、ビジネスの影響度カテゴリを構成します。事業継続性管理 アプリケーションナビゲーターの [インパクトカテゴリ] モジュールを使用して、名前、影響度カテゴリが寄与する基準、適用可能な期間、最大 RTO 値などを定義します。

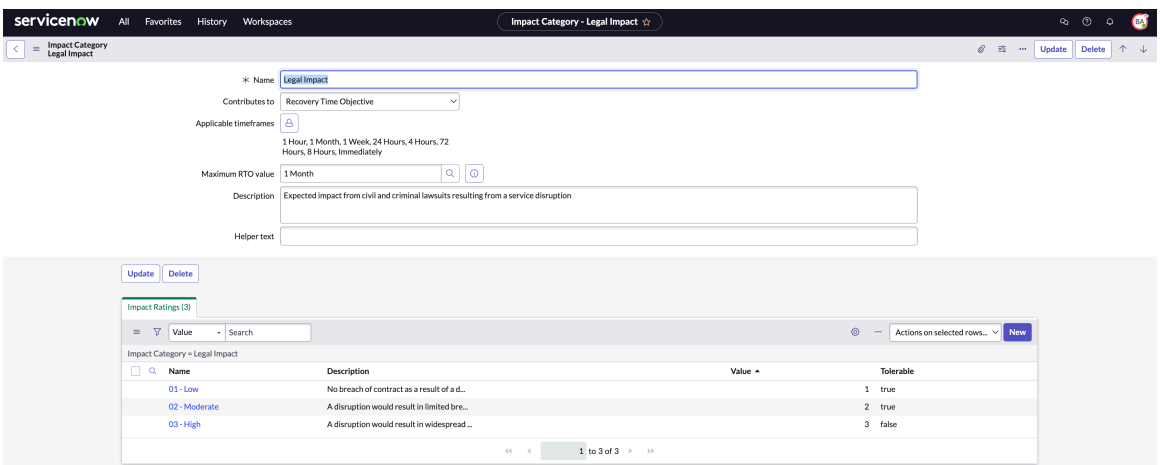
始める前に

必要なロール：sn_bcm.admin

手順

1. 移動先 事業継続性 > 全般管理 > **Impact Category** (影響カテゴリ).
2. **[New** (新規)] を選択します。

   次の例は、影響度カテゴリのデモデータとともにインストールされている影響度評価を示しています。



3. フォームのフィールドに入力します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

フォーム内のフィールドの詳細については、「[影響度カテゴリ] のレコードフォーム」を参照してください。

4. [送信] を選択します。

[影響度カテゴリ] のレコードフォーム

BCM UIB ワークスペース で、[影響度カテゴリ] のレコードフォームを使用して、名前、影響度カテゴリが寄与する基準、適用可能な期間、最大 RTO 値といった、影響度カテゴリに関する詳細情報を追加します。

[影響度カテゴリ] のレコードフォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

[影響度カテゴリ] のレコードフォーム

フィールド	説明
名前	影響度カテゴリの名前。
寄与する	ビジネス中断への影響の結果としての RPO または RTO への寄与度。影響度カテゴリが目標復旧時点に寄与している場合、影響分析の質問関連リストが表示されます。
適用可能な解決までの期限	ビジネスプロセス中断の期間。このフィールドは、[寄与する] フィールドの値が **[RTO]** の場合にのみ表示されます。
最大 RTO 値	中断後にビジネスで要素の復旧が必要になる時間の上限を計算するメトリクス。
説明	影響度カテゴリの簡単な説明。
ヘルパーテキスト	ヘルパーテキストを追加するフィールド。アセスメントの質問にどう回答するかのヒントをユーザーに提供します。ヘルパーテキストは、ビジネスインパクトアナリシスレコードの中でユーザーに表示されます。

ドキュメントセクションの構成

事業継続性計画のドキュメントセクションを、構造化された形式で構成できます。目的、スコープ、対象範囲、目標、成功基準といった計画の概要を説明できます。

事業継続性計画の詳細は、別個のドキュメントセクションで文書化できます。事業継続性管理 アプリケーションの [全般管理] セクションで、事前設定されたドキュメントセクションを表示できます。

事業継続性計画が作成されると、計画テンプレートで選択された 1 つ以上のドキュメントセクションが入力されます。

事業継続性管理 アプリケーションには、計画テンプレートのデモデータとともにインストールされる次のドキュメントセクションがあります。

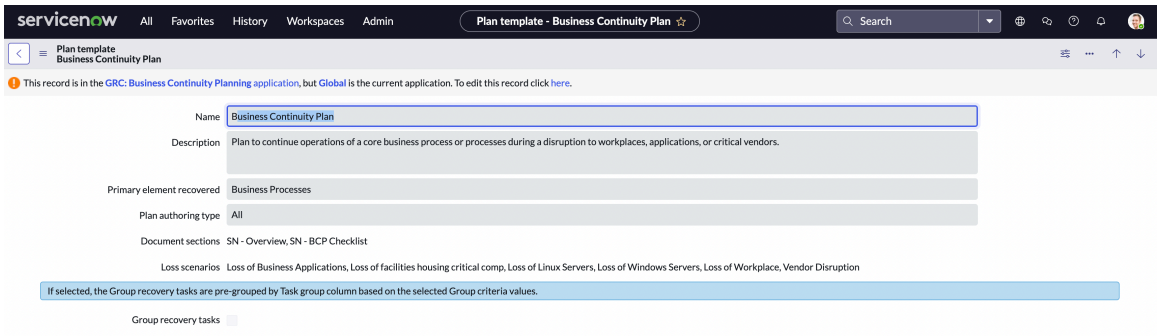
- BCP - 仮定
- BCP - 目標 (BCP-Objectives)
- BCP - スコープ (BCP-Scope)

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- BIA - 概要 (BIA-Overview)
- SN-BCP チェックリスト (SN-BCP Checklist)
- SN - 概要 (SN-Overview)

[SN - 概要 (SN-Overview)] および **[SN-チェックリスト (SN-Checklist)** ドキュメントセクションを含むサンプルの事業継続性計画テンプレートを次の例に示します。

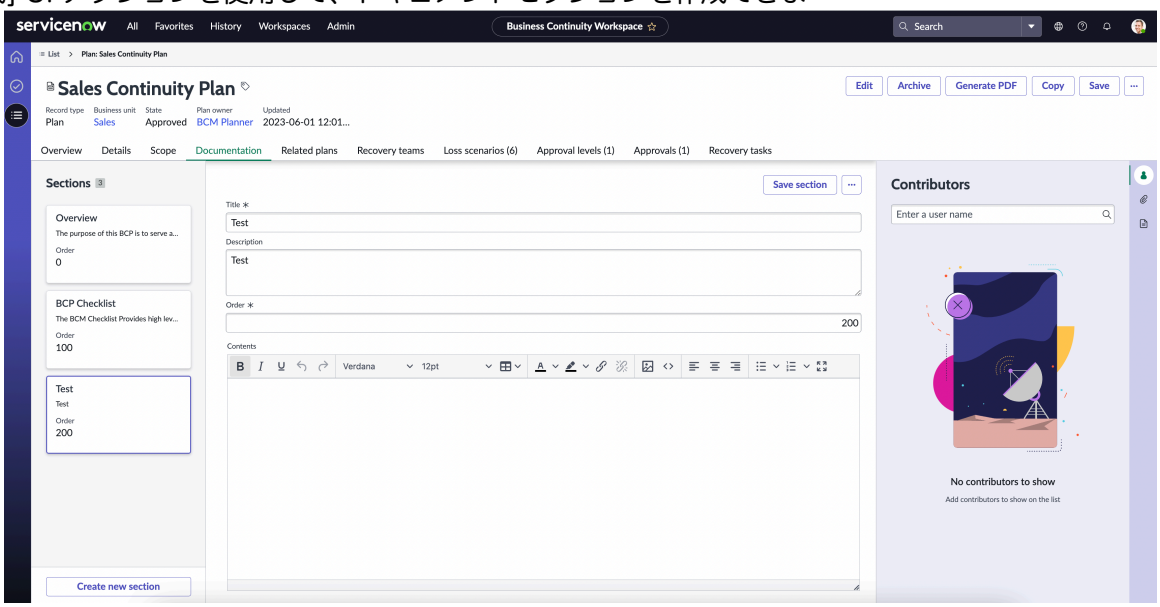


ビジネス要件のドキュメントセクションの作成

BCM アドミンロールがある場合は、[全般管理] にリストされているドキュメントセクションテンプレートを使用して、ドキュメントセクションを作成できます。ドキュメントセクションテンプレートを使用してドキュメントセクションを構成するには、「ドキュメントセクションを構成」を参照してください。

注:
計画テンプレートを使用せずに [ドキュメント] タブでドキュメントセクションを作成すると、そのドキュメントセクションでは [テンプレートにリセット] UI アクションを使用できません。

事業継続性ワークスペース の [ドキュメント] タブでドキュメントセクションを作成することもできます。次の例に示すように、[新規セクションの作成] UI アクションを使用して、ドキュメントセクションを作成できます。



事業継続性ワークスペースでのビジネス計画のドキュメントセクション作成の詳細については、「ドキュメントセクションを作成する」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ドキュメントセクションを構成

事業継続性管理 アプリケーションで計画のドキュメントセクションを構成します。ドキュメントセクションを使用することで、高レベルの詳細項目のチェックリストや、計画の目的、計画の目的と対象範囲を説明するスコープといった構造化されたセクションで、計画を説明することができます。

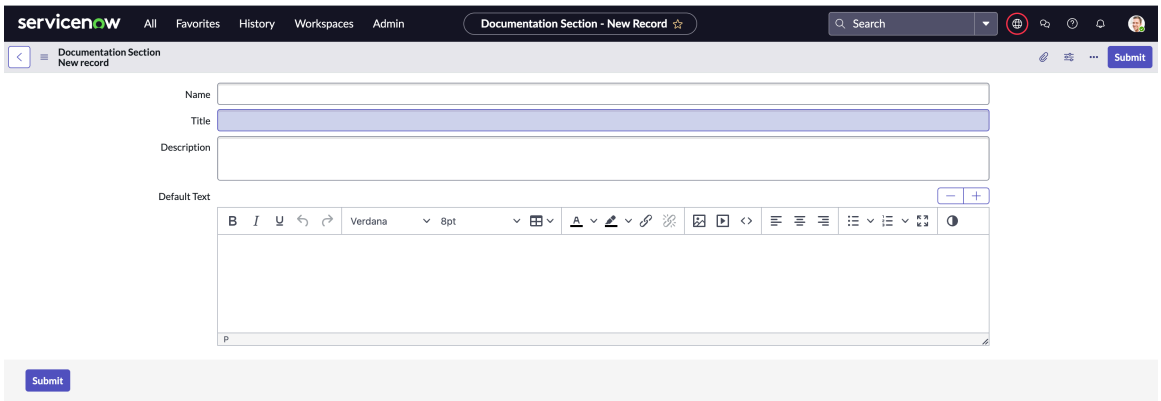
始める前に

必要なロール：sn_bcm.admin、sn_bcp.plan_admin

手順

1. 移動先 事業継続性 > 全般管理 > ドキュメントセクション.
2. **[New** (新規)] を選択します。

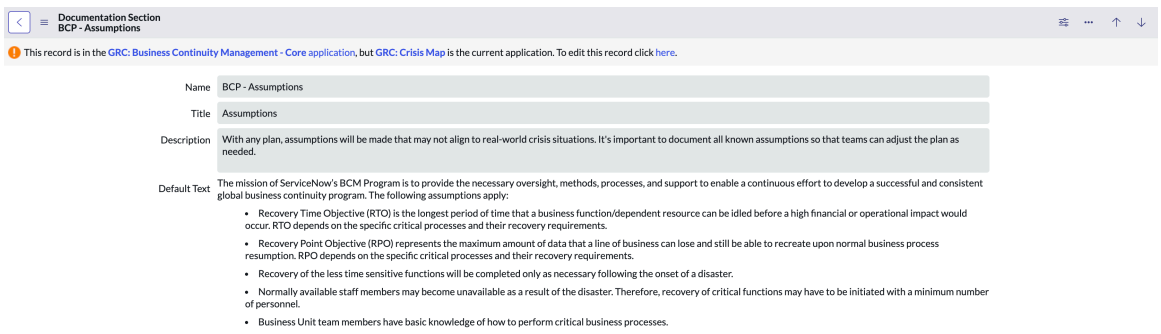
   ドキュメントセクションテンプレートを次の例に示します。



3. フォームのフィールドに入力します。

   フィールドの詳細については、「[ドキュメントセクション] のレコードフォーム」を参照してください。

   次の例は、デモデータからのドキュメントセクションテンプレートを示しています。



4. [送信] を選択します。

[ドキュメントセクション] のレコードフォーム

BCM UIB ワークスペース の構造化セクションで、[ドキュメントセクション] のレコードフォームを使用して計画を設定します。

[ドキュメントセクション] のレコードフォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ドキュメントセクション] のレコードフォーム

フィールド	説明
名前	ドキュメントセクションの名前。
タイトル	ドキュメントセクションのタイトル。
説明	ドキュメントセクションに関する簡単な説明。
デフォルトテキスト	ドキュメントセクションに関連するデフォルトのテキスト。このテキストは、後に計画が策定されてドキュメントセクションが追加された時点で、計画に応じて編集できます。

要素定義の構成

要素定義を構成して、ビジネスインパクトアナリシスで評価し、事業継続性計画で復旧する必要がある構成アイテムを特定します。事業継続性管理アプリケーションナビゲーターの [要素定義] モジュールを使用して、要素定義を構成します。

始める前に

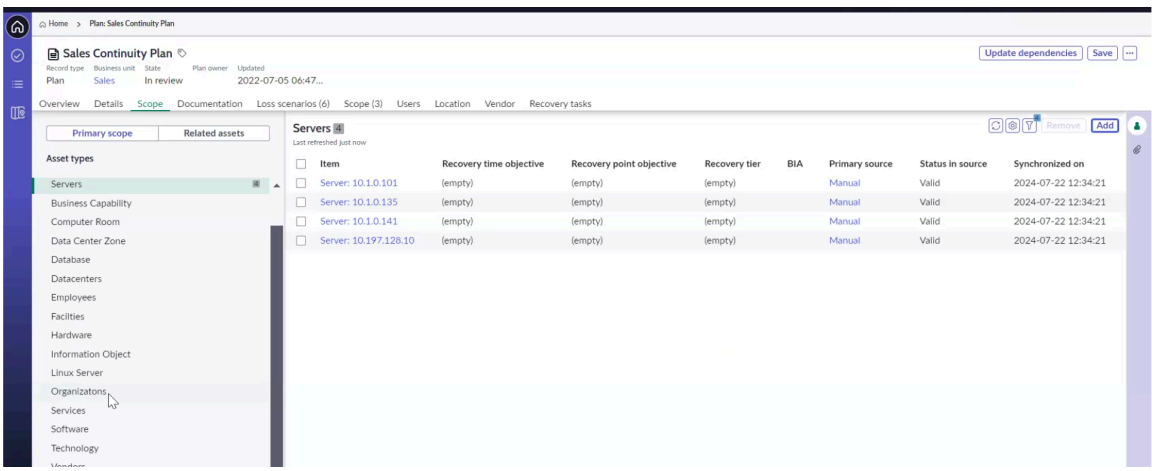
必要なロール：sn_bcm.admin

このタスクについて

1 つの資産が複数のカテゴリに適合するような重複する要素定義を作成することは避けてください。各要素定義は一意であり、他の要素と重複しないようにする必要があります。たとえば、Linux サーバーは本質的にサーバーであるため、サーバーと Linux サーバーを別個の要素定義として定義しないでください。BCM アプリケーションは、これらの定義の両方ではなく、一方のみを使用するように構成されているため、要素定義は 1 つのカテゴリにのみ表示されます。

サーバーと Linux サーバーを重複のない別個の要素定義として定義する場合は、クラスが Linux ではないことを指定するフィルターをサーバー要素定義に適用します。このアプローチでは、2 つの定義間の相互排他性が維持されます。

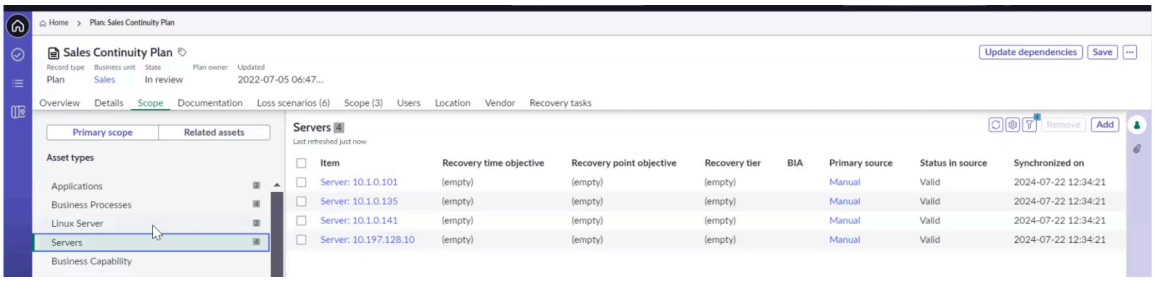
例に示すように [サーバー] 資産タイプを選択し、[追加] を選択すると、Solaris、ESX、Windows などを含むすべてのサーバーが構成に表示されます。



サーバー要素を汎用バケットとして定義する場合は、例に示すように、任意のサーバータイプを選択できます。サーバー資産タイプには、子アイテムとして Linux サーバーがあります。ただし、Linux サーバーと呼ばれる別の資産タイプが [資産タイプ (Asset types)] リストで使用できます。

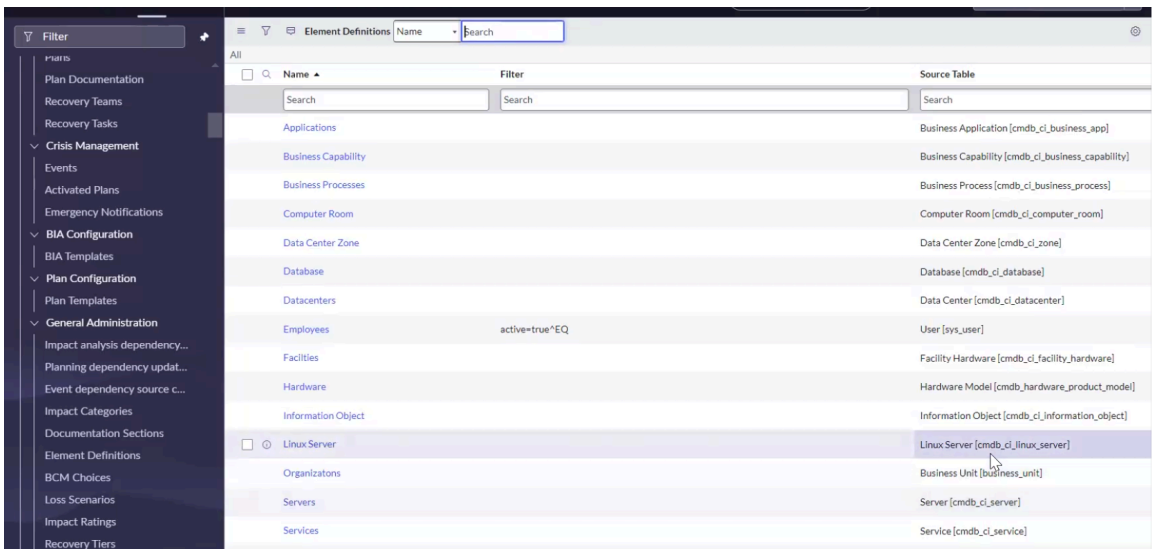
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



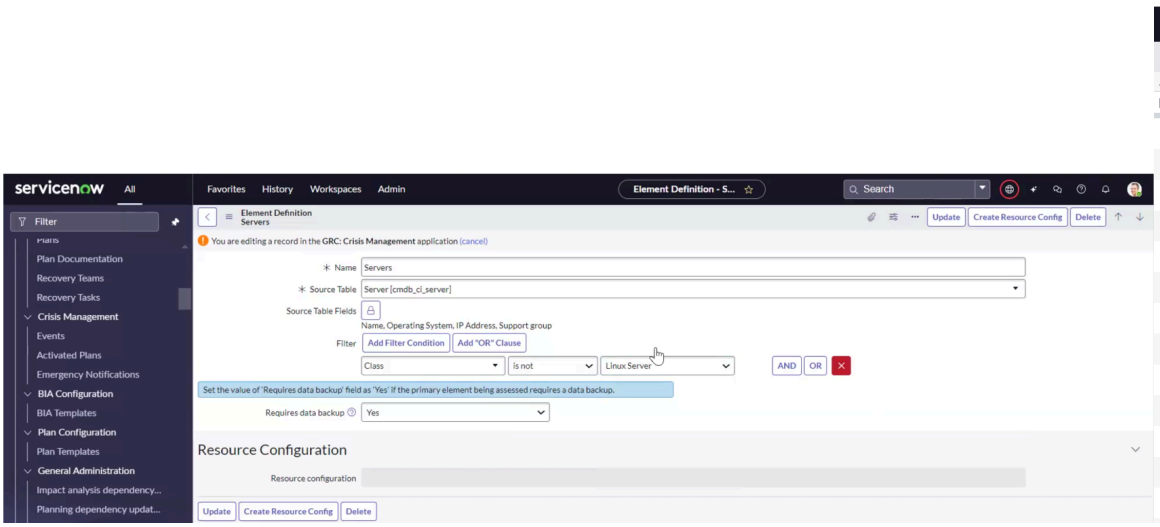
リストでは、資産タイプが計算され、2 つの Linux サーバーと 4 つのサーバー (そのうちの 1 アイテムが Linux サーバー) として表示されます。資産の更新または再ロード後に、資産タイプが再計算され、表示が変わる可能性があります。たとえば、資産タイプが 3 つの Linux サーバーと 3 つのサーバーまたは 0 個の Linux サーバーと 6 つのサーバーと表示される場合があります。サーバーの要素定義には Linux サーバーも含まれているため、資産タイプは異なる方法で計算されます。

このようなシナリオでは、他のルールと重複するルールを構成すると、エラーが発生する可能性があります。ワークアラウンドとして、次の例に示すように、リストアイテムを相互排他的に構成し、フィルター条件を適切に構成する必要があります。



自動翻訳

このシナリオでは、サーバーが親テーブルで、Linux サーバーが子テーブルです。サーバーテーブル (レコード) で、*Class is not Linux Server*オプションを選択して、クラスが Linux サーバーではないフィルター条件を設定します。

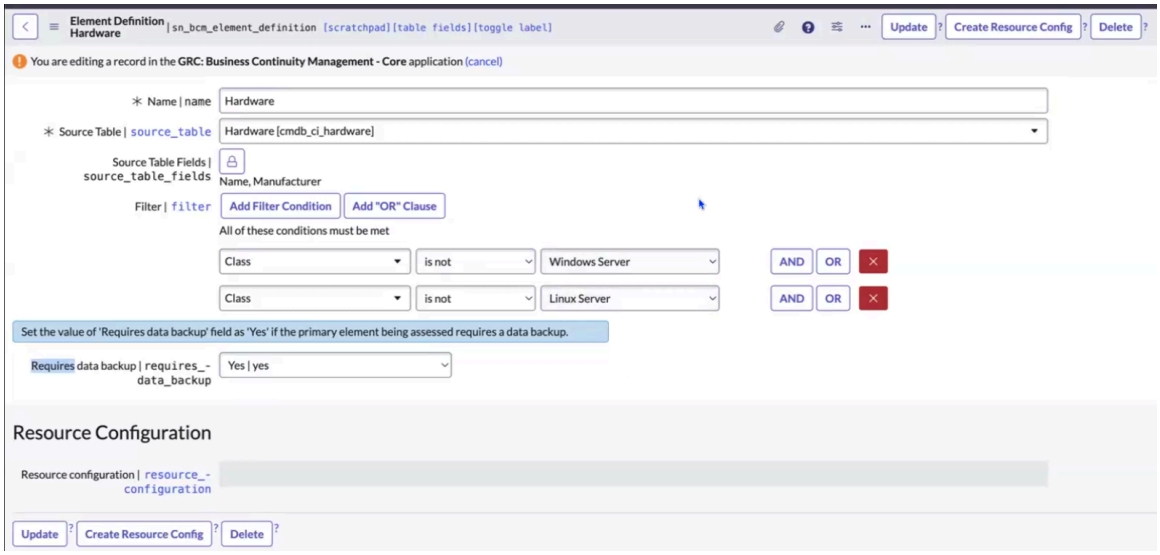




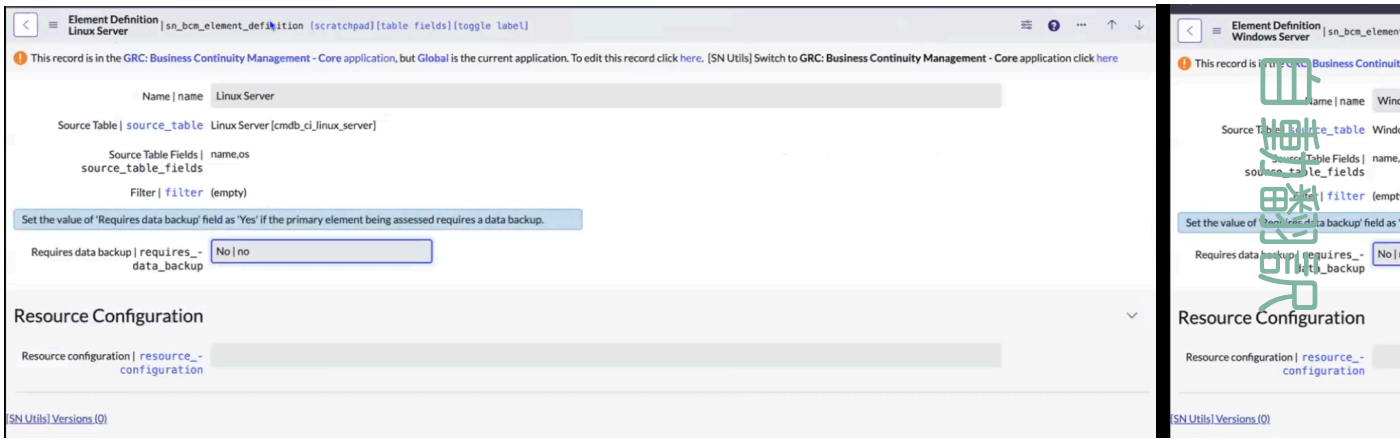
これは、サーバー要素定義に Linux サーバーを除くすべてのサーバーが含まれることを意味します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Xanadu リリース以降、ハードウェア要素定義の要素定義フィルターが更新されました。例に示すように、ハードウェア要素の下に Windows Server 資産や Linux サーバー資産を追加することはできません。



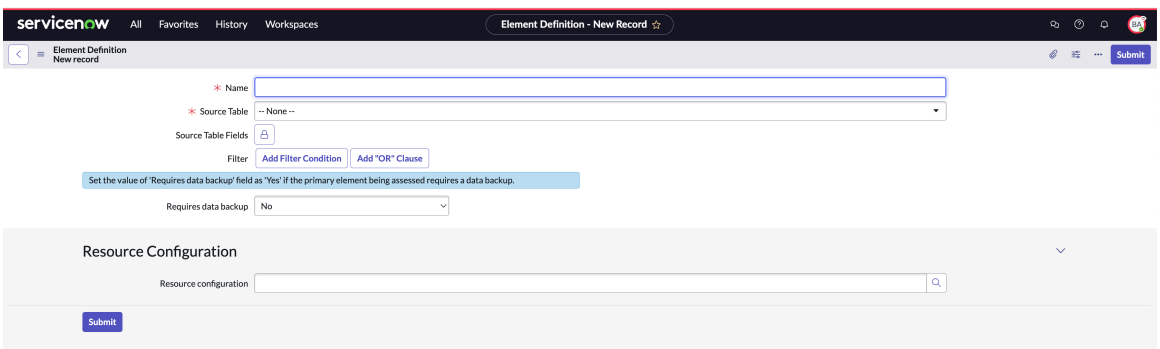
ただし、次の例に示すように、Windows Server 要素定義に Windows Server 資産を追加したり、Linux サーバー要素定義に Linux サーバー資産を追加したりできるようになりました。



手順

1. 移動先 事業継続性 > 全般管理 > 要素定義.
2. **[New** (新規)] を選択します。

   次の例は、要素定義レコードを示しています。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> 要素定義のフィルター条件は、ポップアップを使用して特定の構成アイテム (CI) を追加するために使用されます。[依存関係を更新] UI アクションでは、要素定義のフィルターも考慮され、BIA の [適用先 **(Applies to)]** フィールドにリストされている構成アイテムの関連 CI が取得されます。これらの関係は CI 関係性テーブルから取得されます。

3. フォームのフィールドに入力します。
   フォーム内のフィールドの詳細については、「[要素定義] のレコードフォーム」を参照してください。
4. [送信] を選択します。

[要素定義] のレコードフォーム

[要素定義] のレコードフォームを使用し、BCM UIB ワークスペース を使用してビジネスアプリケーションのセットで復旧階層を構成します。

[要素定義] のレコードフォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

[要素定義] のレコードフォーム

フィールド	説明
名前	要素定義の名前。使用されている言語に基づいて翻訳を表示するテキストフィールドである translated_textフィールドタイプを使用します。
ソーステーブル	構成アイテムのレコードの詳細を格納するテーブル。
ソーステーブルフィールド	参照用に選択できるソーステーブルの列見出し。
フィルター	要素定義のフィルター条件を追加します。 **注:** Xanadu リリース以降、ハードウェア要素定義の要素定義フィルターが更新されました。Windows Server 要素定義に Windows Server 資産を追加したり、Linux サーバー要素定義に Linux サーバー資産を追加したりできるようになりました。ただし、ハードウェア要素定義のフィルターに Windows Server 資産または Linux サーバー資産を追加することはできません。
データのバックアップが必要	プライマリ要素にデータのバックアップが必要かどうかを示すオプション。技術資産は、システムまたはデータベースに保存されている重要な IT 情報に関連するため、データのバックアップが必要です。
リソース構成	要素定義のリソース構成。使用可能なオプションは次のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[要素定義] のレコードフォーム (続く)

フィールド	説明
	• ロケーション • **Web** サーバー • データセンター • ベンダー リソース構成レコードの設定については、「リソース構成レコードの構成」を参照してください。

要素定義の要素変数の構成

要素の特定の依存関係の要素変数を構成します。これを行うには、事業継続性管理アプリケーションナビゲーターの要素変数モジュールを使用します。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.admin

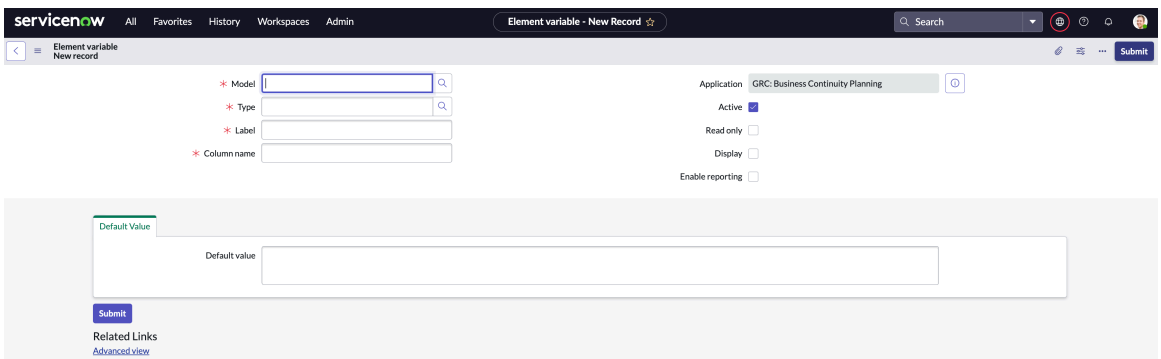
このタスクについて

要素変数は、グリッド構成で使用されるカスタム要素です。機能システムアドミニストレーターは、特定の要素の依存関係に不可欠な特定のカスタム列を含めるように要素変数を構成できます。

手順

1. 移動先 事業継続性 > 全般管理 > 要素変数.
2. **[New** (新規)] を選択します。

   次の例は、アドミンから見た要素変数レコードを示しています。



3. フォームのフィールドに入力します。
   フォーム内のフィールドの詳細については、「[要素変数] のレコードフォーム」を参照してください。
4. [送信] を選択します。

[要素変数] のレコードフォーム

要素変数のレコードフォームを使用して、要素変数を構成します。要素変数は、グリッド構成で使用されるカスタム要素です。要素の特定の依存関係に必要な特定のカスタム列である要素変数を設定できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[要素変数] のレコードフォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

[要素変数] のレコードフォーム

フィールド	説明
モデル	要素定義 [sn_bcm_element_definition] 参照。要素定義に対して複数の要素変数を作成できます。
タイプ	モデルテーブルのフィールドクラス。
ラベル	BIA 依存関係グリッドの依存関係グループに名前を表示します。
列名	テーブル内の列名。
アプリケーション	このレコードを含んでいるアプリケーション。
アクティブ	要素変数をアクティブにするオプション。
読み込み専用	要素変数を読み取り専用として表示するオプション。
表示	要素変数を表示するオプション。
レポートを有効にする	要素変数をレポートするオプション。
デフォルト値	
デフォルト値	要素変数のデフォルト値の説明。

計画での損失シナリオの構成

事業継続性管理 アプリケーションの損失シナリオテンプレートを使用して、特定された損失シナリオの計画を設定します。発生しうる災害に対するニーズと要件が一覧で記載された、文書化された計画を使用します。

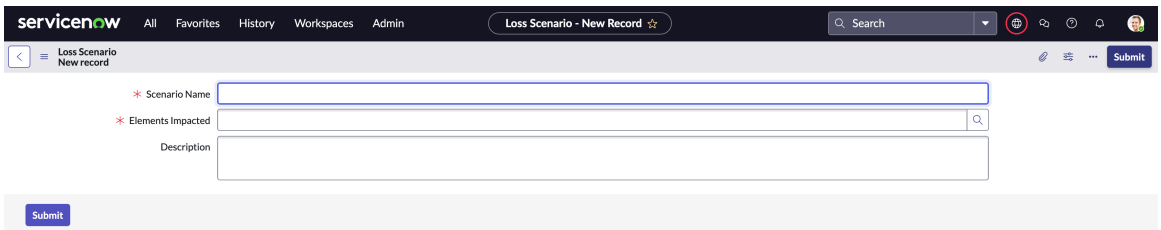
始める前に

必要なロール：sn_bcm.admin、sn_bcp.plan_admin

手順

1. 移動先 事業継続性 > 全般管理 > 損失シナリオ.
2. **[New** (新規)] を選択します。

   損失シナリオフォームを次の例に示します。



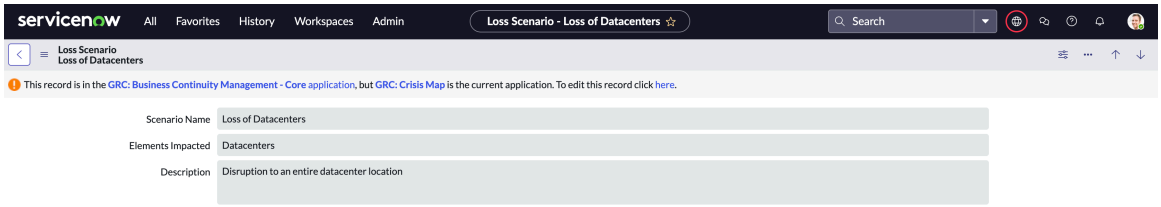
3. フォームのフィールドに入力します。

   フィールドの詳細については、「[損失シナリオ] のレコードフォーム」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

次の例は、損失シナリオの詳細を示しています。



4. [送信] を選択します。

[損失シナリオ] のレコードフォーム

BCM UIB ワークスペース で [損失シナリオ] のレコードフォームを使用して、特定された損失シナリオの計画を構成します。

[損失シナリオ] のレコードフォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

[損失シナリオ] のレコードフォーム

フィールド	説明
シナリオ名	影響シナリオの名前
影響を受ける要素	損失シナリオのために影響を受けるアイテムまたは資産。
Description (説明)	損失シナリオに関する簡単なメモ。

影響度評価の構成

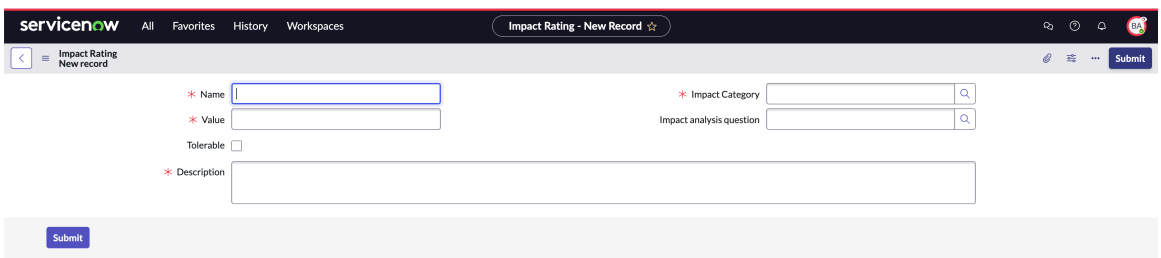
影響度カテゴリを低、中、高、または重大として評価するための影響度評価を構成します。事業継続性管理 アプリケーションナビゲーターの [影響度評価] モジュールを使用すると、ビジネスダウンタイムが発生したときの損失の大きさを測定できます。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin

手順

1. 移動先 事業継続性 > 全般管理 > 影響度評価.
2. **[New** (新規)] を選択します。

次の例は、影響度評価テンプレートを示しています。



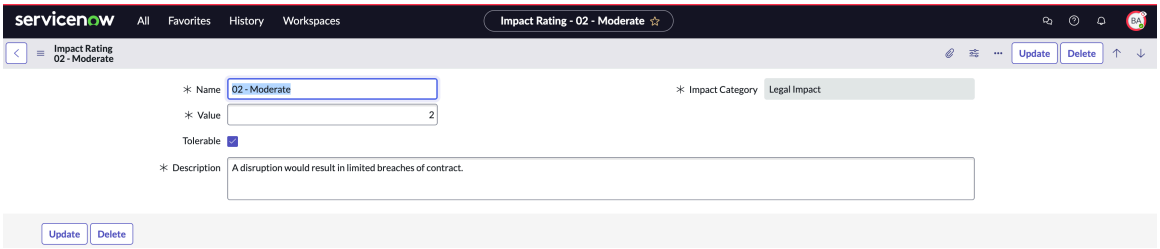
3. フォームのフィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フォーム内のフィールドの詳細については、「[影響度評価] のレコードフォーム」を参照してください。

次の例は、デモデータによる影響度評価を示しています。



4. [送信] を選択します。

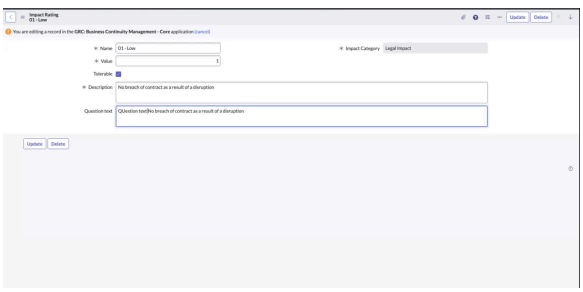
[影響度評価] のレコードフォーム

BCM UIB ワークスペース で [影響度評価] のレコードフォームを使用して、低、中、高、重大などの影響度カテゴリを評価します。

[影響度評価] のレコードフォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

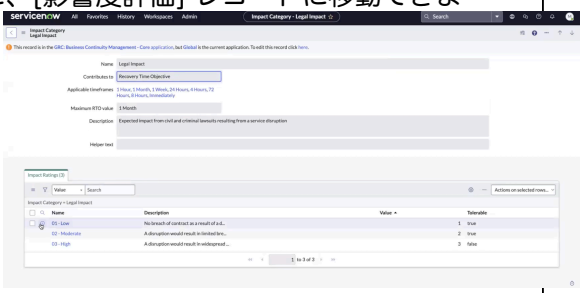
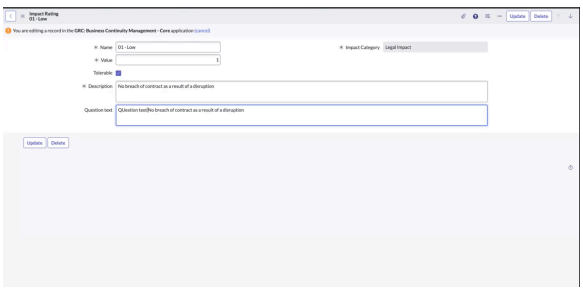
[影響度評価] のレコードフォーム

フィールド	説明
名前	影響度評価の名前。
値	影響評価の数値。それぞれの影響度評価に固有の数値を関連付けることができます。同じ値を BCM アプリケーション内の他の影響度評価に利用することはできません。 たとえば、次に示すように、値 *1* を *01-Low* 影響度カテゴリに割り当てることができます。そうした後に、値 *1* を BCM アプリケーションインスタンス内の他の影響度評価に割り当てることはできません。 
Impact カテゴリ	影響度のカテゴリ。たとえば、人員の影響、規制の影響、収益の影響などです。
影響分析の質問	影響分析で利用可能な質問のリスト。このフィールドは、ビジネス中断の影響度カテゴリが RPO に寄与している場合に表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[影響度評価] のレコードフォーム (続く)

フィールド	説明
許容範囲	RTO の影響を許容範囲内として有効にするためのオプション。このチェックボックスは、影響度カテゴリが RTO に寄与する場合にのみ表示されます。
説明	影響度評価に関する簡単な説明。
質問のテキスト	質問のテキストを変更するフィールド。影響度カテゴリの目標復旧時間については、RTO アセスメントアンケートに表示される質問を変更できます。次の例で示すように、[影響度評価] レコードに移動できます。  次の例で示すように、RTO アセスメントの質問テキストを更新します。  変更された質問は、ビジネスインパクトアナリシスレコードの RTO アセスメントに表示されます。

BIA の復旧階層の構成

同様の範囲の目標復旧時間 (RTO) 値に従う一連のビジネスアプリケーションで、復旧階層を構成します。事業継続性管理 アプリケーションナビゲーターの [復旧階層] モジュールを使用して、復旧階層を構成します。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.admin

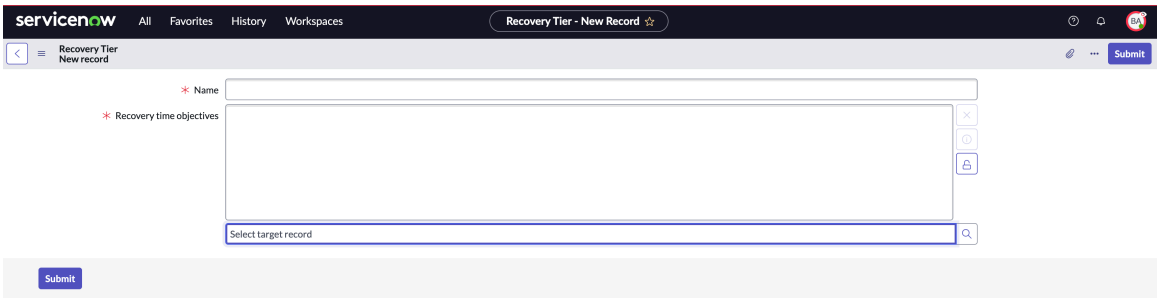
手順

1. 移動先 事業継続性 > 全般管理 > 復旧階層.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

   復旧階層レコードを次の例に示します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳



フォーム内のフィールドの詳細については、「[復旧階層] レコードフォーム」を参照してください。

4. [送信] を選択します。

[復旧階層] レコードフォーム

[復旧階層] レコードフォームを使用し、BCM UIB ワークスペース を使用してビジネスアプリケーションのセットで復旧階層を構成します。

[復旧階層] レコードフォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

[復旧階層] レコードフォーム

フィールド	説明
名前	復旧階層レベルの名前。
目標復旧時間	災害後にビジネスの要素をどの程度迅速に復旧する必要があるかを計算するメトリクス。

復旧の解決までの期限の設定

復旧階層の復旧期間を設定します。復旧期間は、中断イベントが発生したときに開始し、通常業務が再開可能になると終了します。事業継続性管理 アプリケーションの [復旧期間] モジュールを使用して、復旧期間のタイムラインを設定できます。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.admin

手順

1. 移動先 事業継続性 > 全般管理 > 復旧の解決までの期限.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. [名前] フィールドに、復旧期間の名前を入力します。
4. [開始] フィールドに、復旧期間のタイムラインの開始を日、時間、分、秒で入力します。

   次の例は、事業継続性管理 アプリケーションでの復旧の解決までの期限の構成を示しています。



5. [送信] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

グリッドカテゴリの設定

グリッド構成のグリッドカテゴリ (依存関係アセスメント) を設定します。事業継続性管理 アプリケーションナビゲーターの [グリッドカテゴリ] モジュールを使用して、グリッドカテゴリを設定します。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin

このタスクについて
BCM 構成可能ワークスペースから BIA 依存関係グループのカスタム列 (グリッド構成) を作成するには、KB1645940 を参照してください。

手順

1. 移動先 事業継続性 > 全般管理 > グリッドカテゴリ.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。
   フォーム内のフィールドの詳細については、「グリッドカテゴリのレコードフォーム」を参照してください。
4. [送信] を選択します。

グリッドカテゴリのレコードフォーム

BCM UIB ワークスペース で、グリッドカテゴリのレコードフォームを使用して、グリッド構成のグリッドカテゴリ (依存関係アセスメントなど) を設定します。

グリッドカテゴリのレコードフォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

グリッドカテゴリのレコードフォーム

フィールド	説明
名前	グリッドカテゴリの名前。
コード	グリッドカテゴリのコード。
要素コンテキストを有効にする	グリッドカテゴリの要素コンテキストを有効にするオプション。

BIA アセスメントのグリッドの構成

構成された列で BIA 依存関係アセスメントグリッドをレンダリングするようにグリッドを構成します。事業継続性管理 アプリケーションナビゲーターの [グリッド構成] モジュールを使用して、グリッドを構成します。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin

手順

1. 移動先 すべて > 事業継続性 > 全般管理 > グリッド構成.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細については、「グリッド構成のレコードフォーム」を参照してください。

4. [送信] を選択します。

グリッド構成のレコードフォーム

クラシック ワークスペースで BIA アセスメントのグリッドを設定するには、グリッド構成情報レコードフォームを使用します。

グリッド構成のレコードフォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

グリッド構成のレコードフォーム

フィールド	説明
名前	グリッド構成の名前
グリッドカテゴリ	構成が適用されるグリッドカテゴリ。例：DEP_ASSMNT。
アクティブ	レコードをアクティブに設定するオプション。このオプションが無効になっている場合、グリッドは構成されたビューに基づいてレンダリングされます。カテゴリと要素に対してアクティブにできる構成は 1 つに限定されます。

マイタスクページ構成

事業継続性管理 アプリケーションユーザーの場合は、[全般管理] モジュールの [自分のタスクページ構成] を使用して、自分にアサインされたタスクを確認できます。

自分のタスクページ構成モジュール

BCM アプリケーションに関連付けられている管理タスクは、アプリケーション UI の [全般管理] モジュールに一覧表示されます。次の例に示すように、[全般管理] モジュールで自分のタスクページ構成を確認できます。

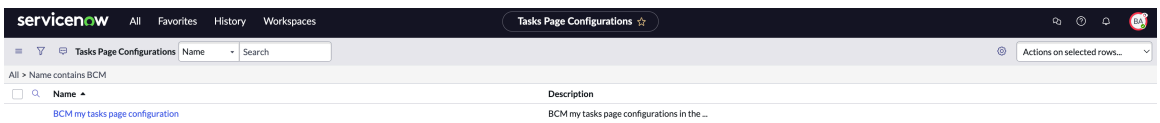
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

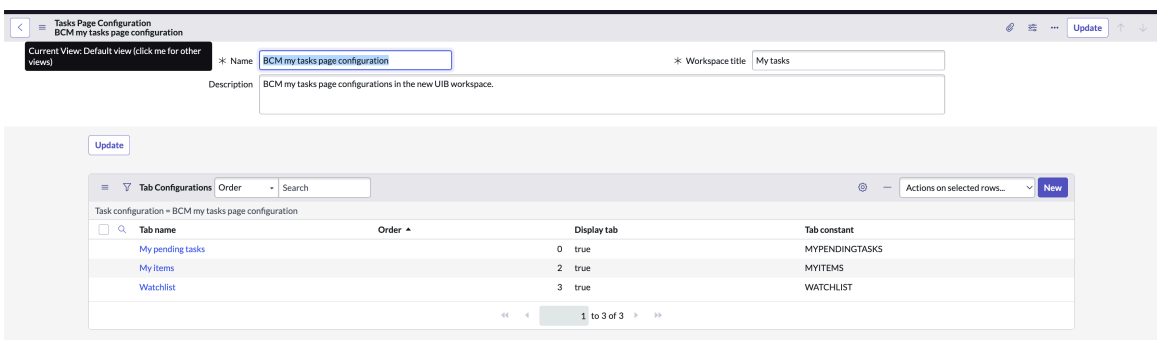


BCM アドミンロールを持っている場合は、[自分のタスクページ構成] で BCM タスクをカスタマイズできます。

次の例に、リストビュー内の [自分のタスクページ構成] モジュールを示します。



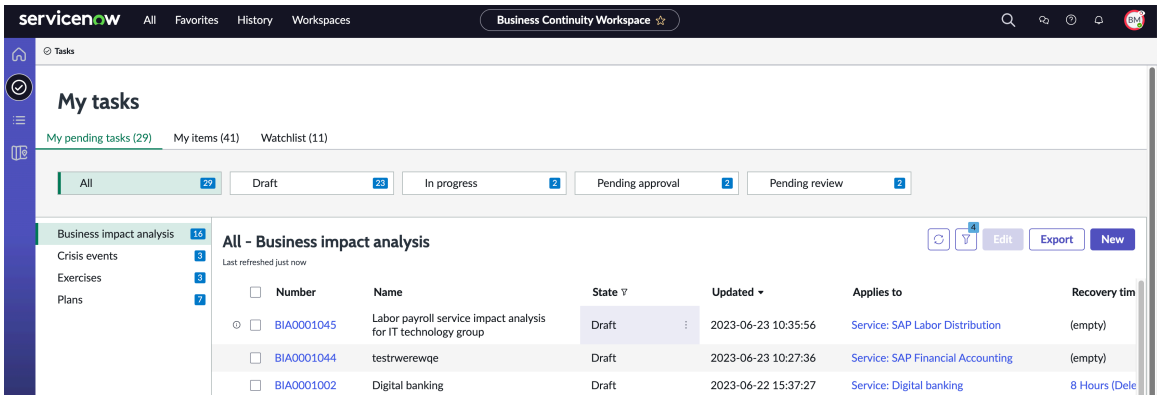
次の例に、[自分のタスクページ構成] モジュールのレコードを示します。



次の例に示すように、ホームページの [自分のタスク] ページに、ログインしているユーザーにアサインされたタスクが表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳



BCM UIB ワークスペース での [自分のタスク] ページの詳細については、「[自分のタスク] ページビュー」を参照してください。

承認構成

Approver Configurator は、ビジネスルール定義に基づいて複数のレベルの承認を定義する機能を提供します。

ビジネスインパクトアナリシスとビジネス計画で複数レベルの承認を設定するには、次の設定手順を構成する必要があります。

- 承認構成の設定
- 承認レベルの設定
- 承認ルールの設定

注:

Business Continuity Management アプリケーションのロールの詳細については、「事業継続性管理とともにインストールされるコンポーネント」を参照してください。

GRC：承認コンフィギュレーターアプリケーションのロールの詳細については、「GRC：承認コンフィギュレーターとともにインストールされるロール」を参照してください。

承認構成の設定

複数レベルの承認を有効にする承認構成を設定し、承認ルールに基づいて各レベルの承認者を選択します。

始める前に

承認構成のために、GRC：承認コンフィギュレーター (sn_grc_appr) アプリケーションをインストールする必要があります。

必要なロール：sn_bcm.admin

注:
ワークフロースクリプトアクティビティはアクセス制御をバイパスしてすべてのテーブルとデータベース操作に対するアクセス権を付与するため、このロールをユーザーに付与することはユーザーに admin ロールを付与することと同等です。スクリプトアクティビティはアプリケーションスコープ設定はバイパスしません。

手順

1. 移動先 事業継続性 > 全般管理 > 承認構成.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[承認構成] フォーム

フィールド	説明
名前	承認構成の名前。
適用先	ビジネスインパクトアナリシス、事業継続性計画、イベントなどのテーブル、またはレコードが承認のために送信されるテーブルなど。
優先度	優先度の高い承認設定を優先します。
フィルター条件	[適用先] フィールドを参照してテーブルに適用される条件。 承認者の評価用に、ビジネスドキュメントのフィルター条件に一致する優先度の高い承認構成が選択されます。
アクティブ	承認構成を有効にするオプション。

注:
同じ優先度で複数の承認構成をテーブルに適用することはできません。

4. [送信] をクリックします。

承認レベルの設定

BIA、BCP、またはイベントワークフロープロセスの各ステップをサポートするために、ユーザーまたはグループに複数レベルの承認をアサインします。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin

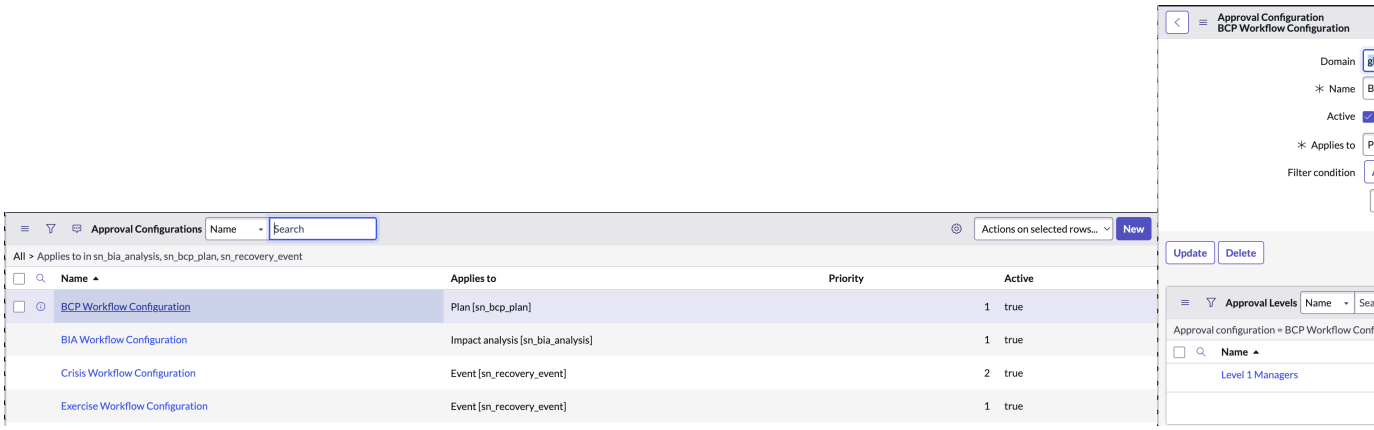
注:
ワークフロースクリプトアクティビティはアクセス制御をバイパスしてすべてのテーブルとデータベース操作に対するアクセス権を付与するため、このロールをユーザーに付与することはユーザーに admin ロールを付与することと同等です。スクリプトアクティビティはアプリケーションスコープ設定はバイパスしません。

手順

1. 移動先 事業継続性 > 全般管理 > 承認構成.
   BCMアプリケーションでは、次の承認構成がベースシステムでサポートされています。
   - BCP ワークフロー構成
   - BIA ワークフロー構成
   - 危機ワークフローの構成
   - 演習ワークフローの構成

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

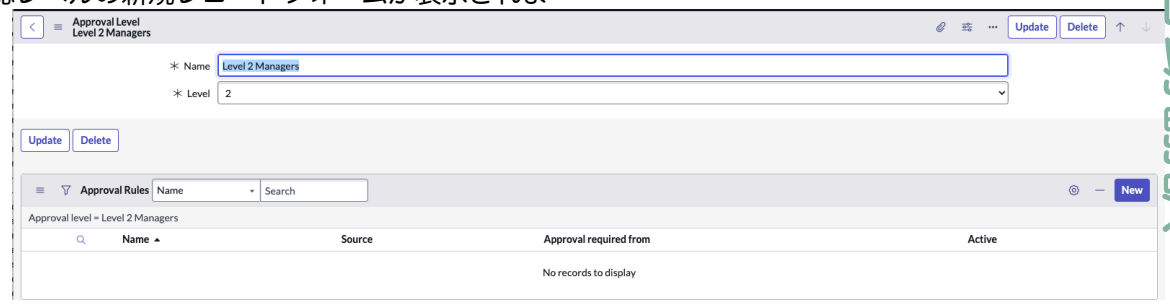


既存の BCP、BIA、危機、または演習の構成を更新できます。さらに、BCP、BIA、危機、または訓練に対して複数レベルの承認構成を設定できます。[承認レベル] 関連リストに示されているように、ベースシステムの一部として、レベル 1 の承認レベルがデフォルトでサポートされています。

2. BCP ワークフロー構成などの既存の構成に対して複数の承認レベルを設定するには、リストから **BCP** ワークフロー構成 レコードを選択し、サブステップを完了します。

   BCP ワークフロー設定レコードが表示されます。

   a. BCP ワークフロー設定レコードの関連リストで [新規] を選択します。
   承認レベルの新規レコードフォームが表示されま



す。

   b. フォームに「レベル 2 マネージャー」などの承認レベルレコードの名前を入力し、レベル 2 などのレベルを選択して、[送信] を選択します。
   例に示すように、レベル 2 マネージャーレコードなどの新しく作成された承認レベルレコードが関連リストに表示されま

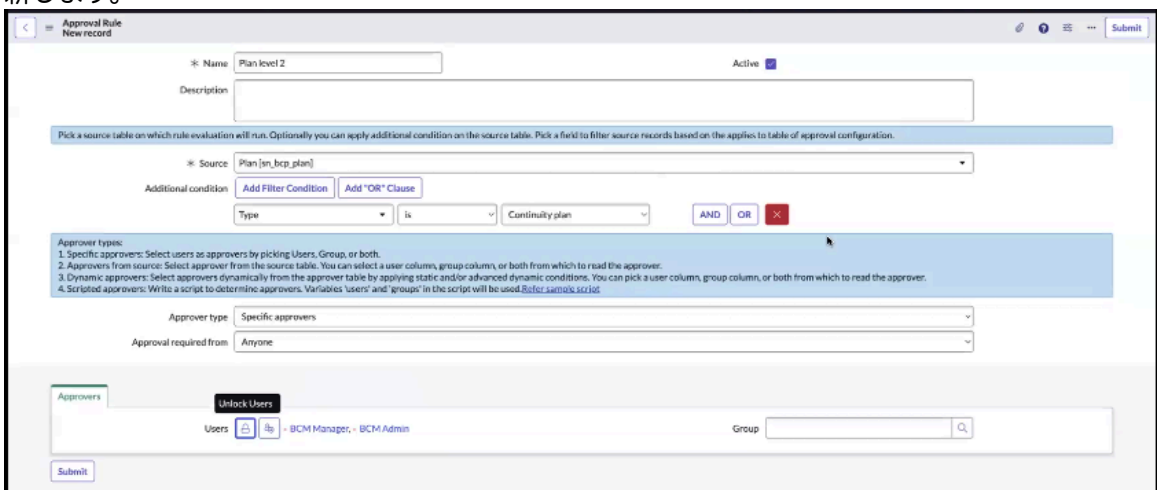


す。

3. 新しく構成された承認レベルレコードの承認ルールを構成するには、承認レベルレコードの [承認ルール] 関連リストで [新規] を選択し、手順を完了します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. 例に示すように、フィルター条件と承認者タイプを更新して、継続性計画の承認ルール構成を更新します。



フィルター条件では、承認ルールが評価されるルールのソーステーブルを選択できます。必要に応じて、ソーステーブルに追加条件を適用できます。承認構成の [適用先] テーブルに基づいてソースレコードをフィルタリングするフィールドを選択できます。レベル 1 がレベル 2 をトリガーするレコードを構成できます。詳細については、「[承認ルールの新規レコード] フォーム」を参照してください。

b. **[Submit** (送信)] を選択します。

これで、承認ルールが承認レベル用に構成されました。事業継続性計画が BCM 構成可能ワークスペース で作成され、後でレビューと承認のために送信されると、例に示すように、事業継続性計画の [承認レベル] タブに複数の承認レベルが表示されます。



承認ルールの設定

承認者タイプと 1 人またはすべてのステークホルダーからの承認要件を選択して、各承認レベルで承認のルールを設定します。承認ルールを適用するソーステーブルにフィルター条件を定義します。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.admin

このタスクについて

特定の承認者、選択したソーステーブルからの承認者、動的承認者、またはビジネスドキュメントを承認するために選択した承認者を選択できます。承認者は、BIA オーナー、BCM リード、BCM マネージャー、BCM アドミン、貢献者、または選択したソース テーブルのうち 1 名または全員です。

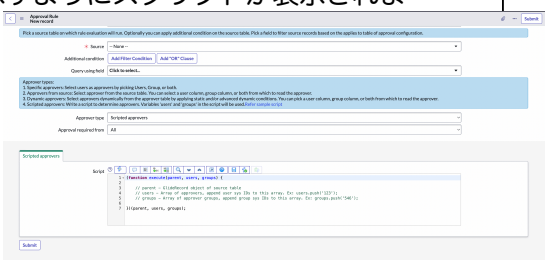
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 事業継続性 > 全般管理 > 承認構成.
2. リスト内の承認構成レコードをクリックします。
3. [承認レベル] セクションで [名前] 列の承認レベルレコードをクリックします。
4. [承認ルール] セクションで [新規] をクリックします。
5. フォームのフィールドに入力します。

承認ルールフォーム

フィールド	説明
名前	承認ルールの名前。
ソース	承認ルールが適用されるテーブル。
フィールドを使用するクエリー	承認テーブルとソーステーブルを接続するフィールド。
他の条件	ソーステーブルに適用されるフィルター条件。
承認者タイプ	承認者のタイプ。 ○ 特定の承認者：選択した承認者。 ○ ソースからの承認：ソーステーブルからのユーザーまたはグループ。 ○ 動的承認者：任意のテーブルから動的に選択された承認者。 ○ スクリプト化済み承認者：承認者を決定するためのスクリプト。下の例に示すようにスクリプトが表示されます。 

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: セキュリティ上の理由から、BCM アドミニストレーターは、承認ルールフォームの [スクリプト] フィールドへの書き込みアクセス権がありません。承認コンフィギュレーター 開発者のみに、承認ルールフォームの [スクリプト] フィールドへの作成および書き込みアクセス権があります。 BCM admin ロールを持っている場合は、[承認者タイプ] リストから次のタイプの承認者のみを使用して承認ルールを設定できます。 ○ 特定の承認者 ○ ソースからの承認 GRC：承認コンフィギュレーター アプリケーションのロールの詳細については、「GRC：承認コンフィギュレーターとともにインストールされるロール」を参照してください。
次の承認が必要：	承認してもらう必要がある 1 人以上のステークホルダー。
説明	承認ルールに関する簡単なメモ。
承認者	
次からの承認者：	承認者テーブル。 このフィールドは、承認者タイプが [ソースからの承認] または [動的承認者] である場合のみ使用できます。[ソースからの承認] の場合は、デフォルトでソーステーブルになります。
フィルター基準	承認者テーブルからのレコードをフィルターするための条件。 このフィールドは、承認者タイプが [動的承認者] である場合のみ使用できます。
詳細	スクリプト化された動的条件を設定するためのオプション。
ユーザーフィールド	承認者テーブルからのユーザー参照または承認者のリスト。
グループフィールド	承認者テーブルからの承認者としてのユーザーグループ参照。
動的条件	承認者テーブルに高度なフィルターを適用するためのスクリプトフィールド。
ユーザー	承認者として指定された 1 人以上のユーザー。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
グループ	承認者のグループ。
スクリプト化済み承認者	
スクリプト	承認者を決定するためのスクリプト：スクリプト内のユーザーおよびグループが承認者として選択されます。

6. [送信] をクリックします。

Example: CMDB 依存関係からのアサイニーを承認者として追加するサンプルスクリプト

フォームのフィールド値：

名前

承認者としての CMDB 依存関係のアサイニー。

ソース

依存関係 [sn_bia_dependency]。

フィールドを使用するクエリー

依存関係グループの影響分析

承認者タイプ

スクリプト化済み承認者

承認者を追加するサンプルスクリプト

```
(function execute(parent, users, groups) {

    // parent - GlideRecord object of source table
    // users - List of approvers
    // groups - List of approver groups
    var gr = new GlideRecord('cmdb_ci');
    gr.addQuery('sys_id', parent.depends_on);
    gr.query();

    while (gr.next()) {
        users.push(gr.assigned_to.toString());
    }

})(parent, users, groups);
```

BCM のプロパティ

[プロパティ]モジュールで BCM プロパティを設定できます。

事業継続性管理 アプリケーションユーザーの場合は、[全般管理] モジュールの [プロパティ] で、事業継続性管理 アプリケーションのプロパティを表示できます。

次の例に示すように、[全般管理] モジュールで [プロパティ] メニューオプションを表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次の例に示すように、[プロパティ] モジュールを選択して、BCM アプリケーションのプロパティを表示および構成できま



す。

BCM のプロパティの詳細については、「BCM とともにインストールされるプロパティ」を参照してください。

BCM とともにインストールされるプロパティ

プロパティは、事業継続性管理 のアクティブ化とともに追加されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

BCM プロパティ

Sr. いいえ	名前	説明
1	計画の PDF を生成するために使用するデフォルトの計画テンプレート名 [sn_bcp.default_pdf_plan_template]	• スコープ：GRC: Business Continuity Planning • タイプ：文字列 • デフォルト値：事業継続性計画テンプレート (デフォルト)
2	事業継続性計画（BCP）の復旧タスクの 2 つのタスク ID の間隔 [sn_bcp.taskIdOffset]	• スコープ：GRC: Business Continuity Planning • タイプ：数値 • デフォルト値：1
3	直接 DOM アクセスを無効にするクライアントスクリプトの Strict モードを制御するオプション。このプロパティは、ビジネスインパクトアナリシス (BIA) で上書きするために使用されます。 [sn_bia.glide.script.block.client.globals]	• スコープ：GRC: ビジネスインパクトアナリシス • タイプ：[はい] または [いいえ]
4	BCM アプリケーションのログ記録レベル [sn_bcm.logging.verbosity]	• スコープ：GRC：事業継続性管理 - コア • タイプ：選択リスト (デバッグ、情報、警告、エラー) • デフォルト値：警告
5	計画ドキュメントのオーダー列のデフォルトインクリメント値 [sn_bcp.document_order_increment]	• スコープ：GRC: Business Continuity Planning • タイプ：数値 • デフォルト値：100
6	イベント/訓練の依存関係の更新に許可される最大時間 (時間単位) [sn_recovery.max_dependency_update_processing_time]	• スコープ：GRC：クライシスマップ • タイプ：数値 • デフォルト値：3

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

BCM プロパティ (続く)

Sr. いいえ	名前	説明
7	計画の資産の依存関係 RL でグループに表示するレコードの最大数 [sn_bcp.asset_dependencies_max_records_in_group]	• スコープ：GRC: Business Continuity Planning • タイプ：数値 • デフォルト値：20
8	Google マップの「Places」API の使用を有効/無効にします [sn_bcm_map.use_google_places_lib]	• スコープ：GRC：クライシスマップ • タイプ：true または false • デフォルト値：false **注:** 危機マップ機能を有効にする前に、Google Maps API を購入して設定していることを確認してください。
9	依存関係の更新に許可される最大時間 (時間単位) [sn_bcm.max_依存関係_更新_処理_時間]	• スコープ：GRC：事業継続性管理 - コア • タイプ：数値 • デフォルト値：24
10	各レベルの最大リレーションシップ [sn_bia.cmdb_max_relationships_per_level]	• スコープ：GRC: ビジネスインパクトアナリシス • タイプ：数値 • デフォルト値：5000
11	ビジネスルールでの非同期オーダー計算のイベントタスク数制限 [sn_recovery.sync_task_order_calculation_limit]	• スコープ：GRC：クライシスマップ • タイプ：整数 • デフォルト値：500
12	UI に表示する要素定義の最大数 [sn_bcm.element_definitions_limit]	• スコープ：GRC：事業継続性管理 - コア • タイプ：数値 • デフォルト値：20

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

BCM プロパティ (続く)

Sr. いいえ	名前	説明
13	カテゴリ影響度アセスメントの質問応答のデフォルト制限 [sn_bcm.config.category_impact.response_limit]	• スコープ：GRC: ビジネスインパクトアナリシス • デフォルト値：10
14	イベントで作成される有効化された計画の最大レベル [sn_recovery.max_activated_plan_levels]	• スコープ：GRC：事業継続性管理 - コア • タイプ：整数 • デフォルト値：10
15	すべての必須の質問に回答するか、すべての質問 (必須およびオプション) に回答したら、インパクトアセスメントを完了としてマークします。 [sn_bia.determine_impact_assessment_status]	• スコープ：GRC: ビジネスインパクトアナリシス • タイプ:必須の質問またはすべての質問 • デフォルト値:必須の質問
16	ビジネスルールでの同期オーダー計算の復旧タスク数制限 [sn_bcp.sync_task_order_calculation_task_limit]	• スコープ：GRC: Business Continuity Planning • タイプ：整数 • デフォルト値：500

ビジネスインパクトアナリシスのためのセットアップ

ビジネスインパクトアナリシスに関連付けられている管理タスクは、事業継続性管理 アプリケーションの [全般管理] モジュールに一覧表示されます。

一般的には、sn_bia.bia_admin ロールを持つ BIA アドミニストレーターが BIA テンプレートを構成します。詳細については、「従来のアセスメントを使用した BIA テンプレートの構成」を参照してください。

従来のアセスメントを使用した **BIA** テンプレートの構成

従来のアセスメントを使用して、 事業継続性ワークスペース でビジネスインパクトアナリシス (BIA) テンプレートを構成します。評価する要素のタイプ、影響度カテゴリ、および依存関係を選択します。従来のアセスメントでは、影響度カテゴリを選択する古い方法が使用されます。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin

このタスクについて
ベースシステムで提供される次の事前構成済みの BIA テンプレートを使用できます。

- アプリケーションの技術的影響度評価
- ビジネスプロセスの BIA

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

- ビジネスプロセス影響度評価
- ビジネスサービス影響度評価
- Data Center Analysis Template (データセンター分析テンプレート)
- サービスオファリングの影響度評価
- 職場影響度評価

Yokohama リリース以降、従来のアセスメントまたはスマートアセスメントを使用して BIA テンプレートを構成できます。従来のアセスメントではドロップダウンの質問のみが表示されますが、スマートアセスメントでは複数の質問タイプが有効になり、アンケートへの回答に基づいて RTO、RPO、および復旧階層の計算が構成されます。

手順

1. 移動先 すべて > 事業継続性 > **BIA** 構成 > **BIA** テンプレート.
   インスタンスで提供される事前構成済みの BIA テンプレートを使用することも、このオプションを選択して新しい BIA テンプレートを構成することもできます。
2. **[New** (新規)] を選択します。

   BIA テンプレートレコードが表示されます。

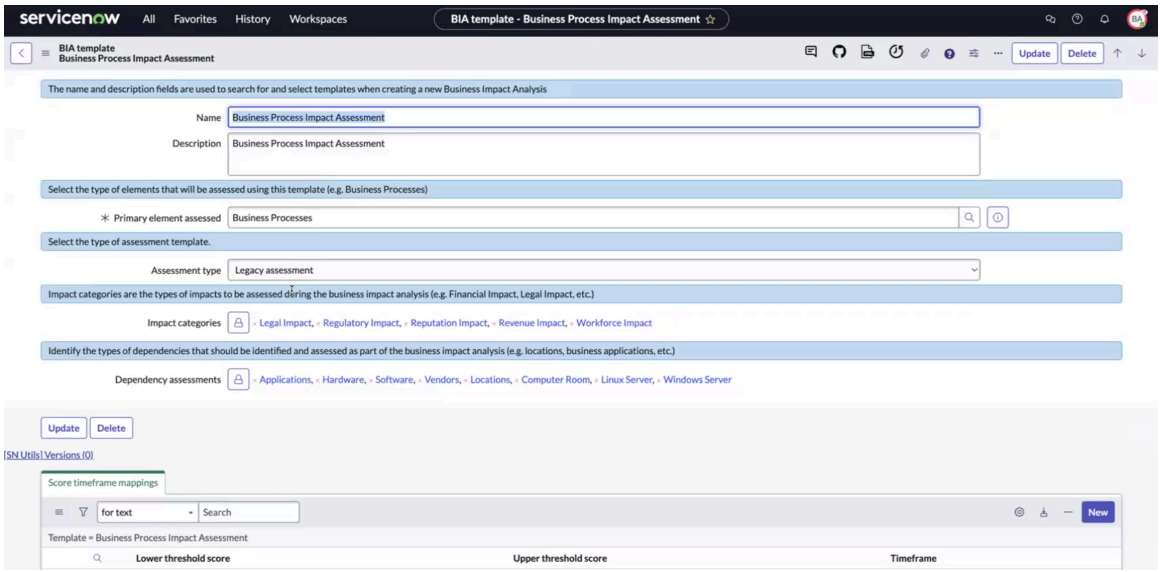


3. フォームで、フィールドに入力します。
   フォーム内のフィールドの詳細については、「従来のアセスメントの BIA テンプレートフォーム」を参照してください。
4. BIA テンプレートの名前と説明を追加します。
5. このテンプレートを使用する要素のタイプ (ビジネスプロセスなど) を選択します。
6. BIA を実行するための従来のアセスメントを選択するには、[アセスメントタイプ] フィールドで [従来のアセスメント] を選択します。

   例に、従来のアセスメントを含む BIA テンプレートのサンプルを示します。

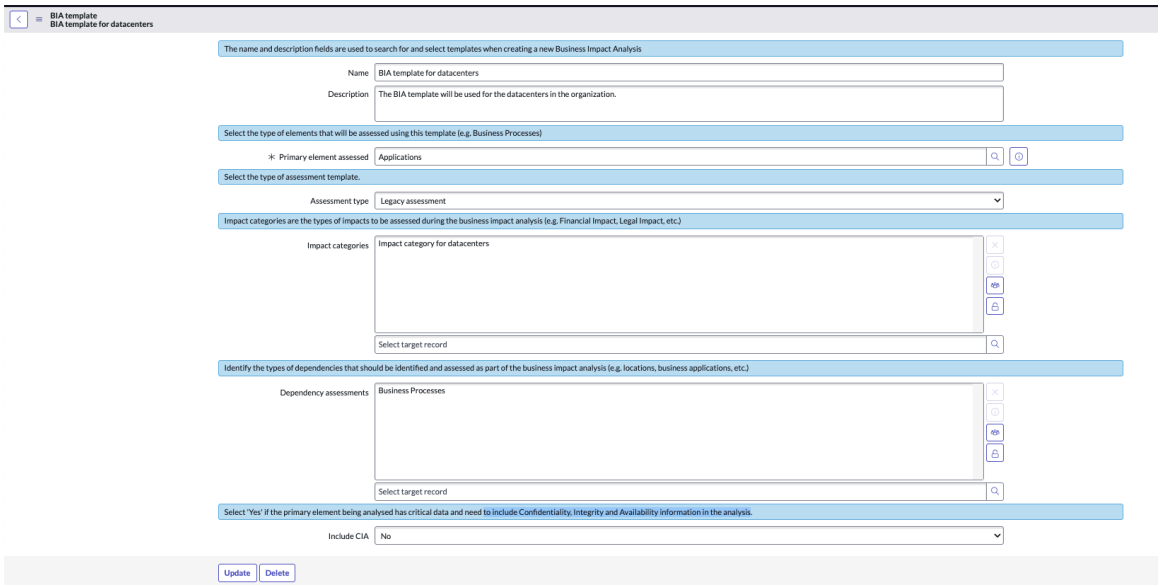
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



7. 影響のタイプを評価するには、[影響度カテゴリ] フィールドで影響度カテゴリを選択します。法務影響、規制の影響、評判への影響、収益への影響など、さまざまな影響度カテゴリを選択できます。影響度カテゴリに基づいて、目標復旧時間 (RTO) と目標復旧時点 (RPO) を計算できます。BIA の影響度カテゴリの構成については、「BIA の影響度カテゴリの構成」を参照してください。
8. [依存関係アセスメント] フィールドで依存関係を選択します。
9. BIA のプライマリ要素の機密性、完全性、可用性 (CIA) 情報を含めるには、[はい] を選択します。

   サンプルの BIA テンプレートを次の例に示します。



10. **[Update** (更新)] を選択します。
    従来のアセスメントを含む BIA テンプレートがインスタンスで構成されます。

従来のアセスメントの **BIA** テンプレートフォーム

BIA テンプレートフォームを使用して、従来のテンプレートでビジネスインパクトアナリシスを構成します。名前、説明、要素、影響度カテゴリなどの詳細をフォームに追加できます。

従来のアセスメントを含む **BIA** テンプレートフォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

従来のアセスメントを含む **BIA** テンプレートフォーム

フィールド	説明
名前	BIA テンプレートの名前。たとえば、アプリケーションのダウンタイムアセスメントなどです。
説明	テンプレートの簡単な説明。
評価されたプライマリ要素	このテンプレートを使用して評価されているプライマリオブジェクトタイプまたは要素。
アセスメントタイプ	BIA のアセスメントタイプ。オプションは次のとおりです。 • 従来のアセスメント • スマートアセスメント [従来のアセスメント] オプションを選択します。
影響カテゴリ	組織に関連し、ビジネスインパクトアナリシス中に評価される影響度のカテゴリ。収益、法務、規制、評判などへの影響があります。
依存関係アセスメント	ビジネス機能が依存するアイテムまたは資産のカテゴリ (場所やビジネスアプリケーションなど)。依存関係はビジネスインパクトアナリシスの一部として特定され、評価されます。
CIA を含める	BIA に機密性、整合性、可用性を含めるオプション。利用可能なオプションは次のとおりです： • はい:分析対象のプライマリ要素に重要なデータがあり、分析に機密性、完全性、および可用性の情報を含める必要があるかどうかについては、フラグを [はい] に設定します。 • いいえ:分析対象のプライマリ要素に重要なデータがない場合は、フラグを [いいえ] に設定します。 このフィールドは、同じフォームの [評価されたプライマリー要素] フィールドに対して選択された要素でデータのバックアップが必要な場合にのみ表示されます。

スマートアセスメント テンプレートを作成する

アセスメントワークスペースから BIA テンプレートで使用するスマートアセスメントテンプレートと影響自動化を作成します。BCM アドミニストレーターは通常、 アセスメントワークスペース でアプリケーションユーザーの目標復旧時点 (RPO) と目標復旧時間 (RTO) のアセスメントテンプレートを設定します。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

注:
例に示されているフローはデモフローです。要件に応じてフローを設定できます。

BIA で スマートアセスメントエンジン を使用するための依存アプリ

BIA で スマートアセスメントエンジン アプリケーションを使用するには、次のストアアプリが (ハード依存関係として) 必要です。

1. Smart Assessment Core [com.sn_smart_asmt]
2. スマートアセスメントデザイナー [com.sn_smart_asmt_desg]
3. スマートアセスメント接続 [com.sn_smart_asmt_conn]

スマートアセスメントアセスメント後のアクション [com.sn_smart_imp_auto] ストアアプリは、BIA で スマートアセスメントエンジン アプリケーションを使用するためのオプションです (ソフト依存関係)。スマートアセスメントから RTO や RPO などの BIA フィールドに入力するインパクトオートメーションを使用するには、BIA とともに自動的にインストールされないため、 Xanadu 以降のリリースにインストールする必要があります。

スマートアセスメントエンジンの初期セットアップチェックリストを表示するには、「スマートアセスメントエンジンの構成」を参照してください。

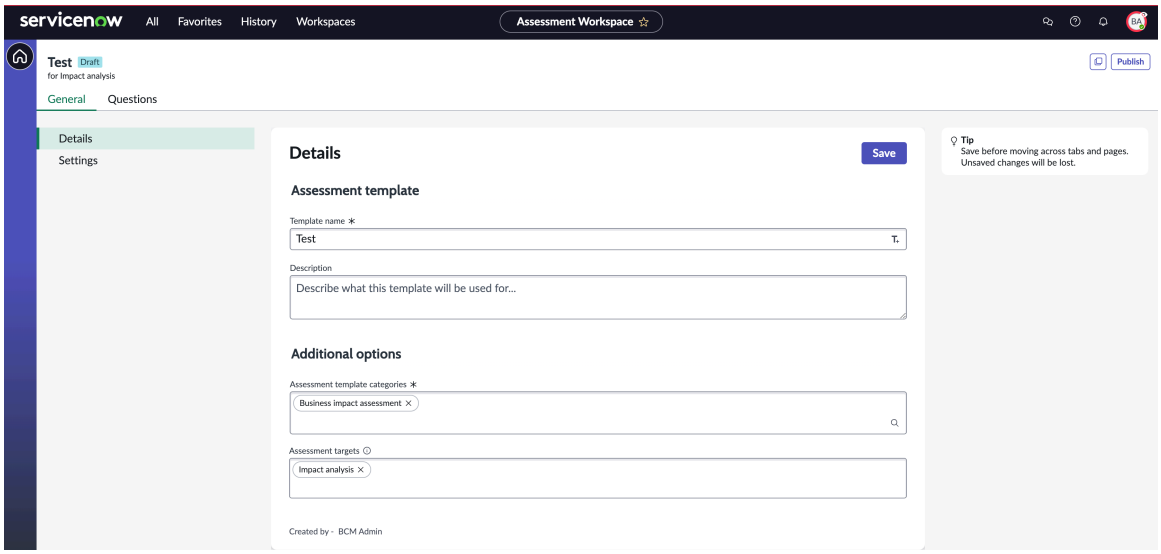
このタスクについて
スマートアセスメントテンプレートをインパクトアセスメントテンプレートとして構成するには、次の手順に従います。

- [全般] タブの [詳細] セクションで選択された [アセスメントテンプレート] カテゴリは [ビジネスインパクトアセスメント] です。ビジネスインパクトアセスメントテンプレートカテゴリには sn_bcm.core_viewer ロールがあります。sn_bcm.core_viewer ロールを持つユーザーは、これらのテンプレートのみを表示できます。
- [アセスメントターゲット] フィールドのアセスメントターゲットは [影響分析 のみ] に設定されます。
- アセスメントリーダーロール:指定されたロールを持つユーザーに読み取り専用アクセス権を割り当てます。アセスメントリーダーロールをアサインすると、査定人でなくてもアセスメントを読み取り専用モードで表示できます。BCM アドミニストレーターは通常、[sn_bcm.core_viewer] ロールをアセスメントリーダーロールとしてアサインします。これにより、従来のアセスメントと同じ機能が提供されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 例に示すように、アセスメントテンプレートは [公開済み] ステータスになっている必要があります。

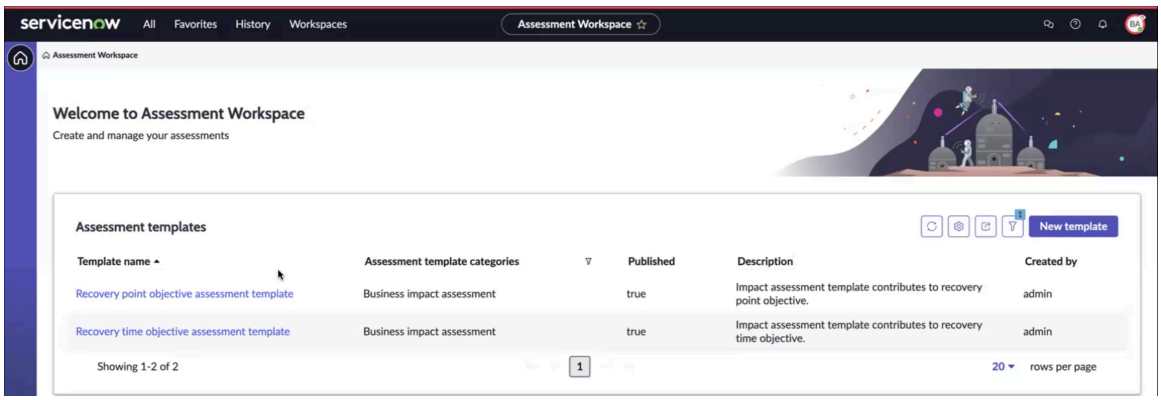


スマートアセスメントを使用して BIA テンプレートを構成するには、「 での BIA テンプレートの構成 スマートアセスメント」を参照してください。

手順

1. 移動先 ワークスペース > アセスメントワークスペース.
2. [新しいテンプレート] を選択します。

   アセスメントテンプレートを作成して、アセスメントワークスペースでアセスメントを管理できます。次の例は、インスタンスで利用可能なデモデータを示しています。



   [アセスメントテンプレートを作成] フォームが表示されます。

3. [アセスメントテンプレートの作成] フォームで、フィールドに入力して [作成] を選択します。

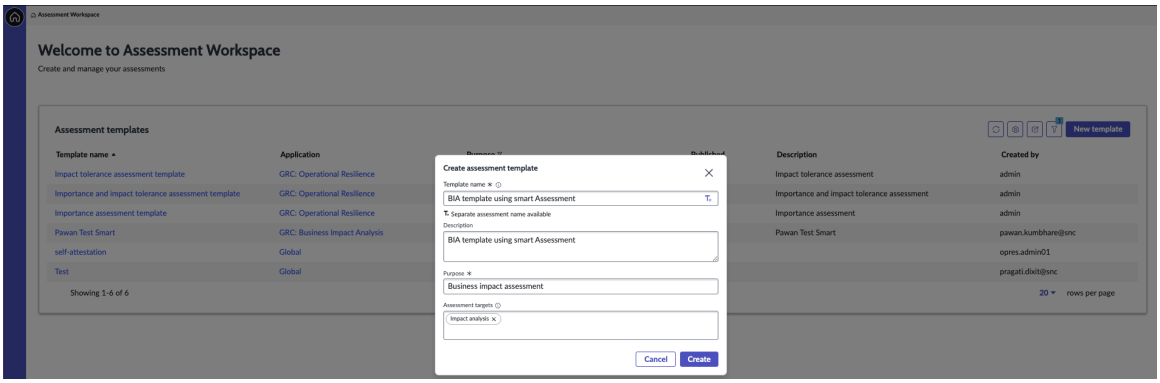
   アセスメントテンプレートの作成フォーム

フィールド	説明
テンプレート名	テンプレートの一意でわかりやすい名前 (例: スマートアセスメントを使用した BIA テンプレート)。

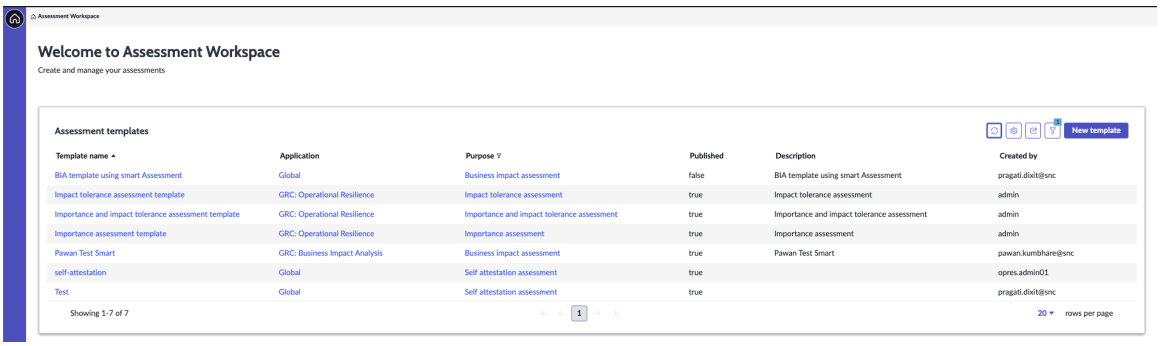
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
説明	テンプレートが使用されている理由などのテンプレートの説明。
目的	ビジネスインパクトアセスメントなどのテンプレートの目的または使用目的。
アセスメントターゲット	アセスメントに使用されるテーブルレコード。



例に示すように、新しく作成された BIA テンプレートが アセスメントワークスペース の [アセスメントテンプレート] リストに表示されます。



[新しいテンプレート] を選択すると、[全般] タブと [質問] タブが表示されます。これで、テンプレートに、質問に回答するための手順、質問、オプションのガイダンス、および関連する質問をグループ化するセクションを入力できるようになりました。

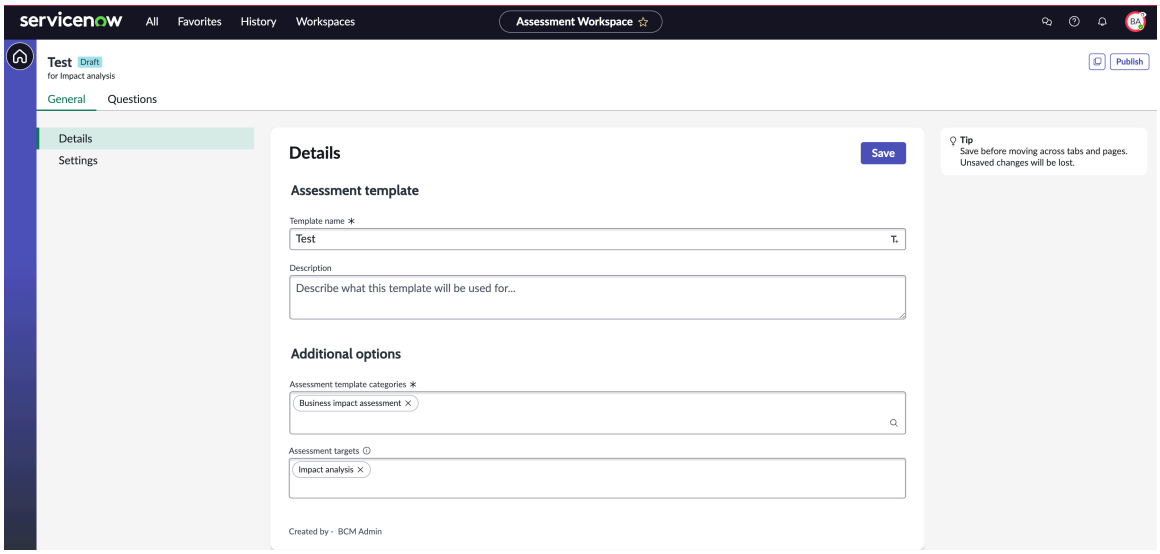
4. テンプレートを選択し、[全般] タブで次の手順を実行します。

a. [全般] タブの [詳細] セクションに表示されるテンプレートの詳細を確認します。

- 例に示すように、[全般] タブの [詳細] セクションで選択されたアセスメントテンプレートカテゴリが [ビジネスインパクトアセスメント] であることを確認します。ビジネスインパクトアセスメントテンプレートカテゴリには sn_bcm.core_viewer ロールがあります。sn_bcm.core_viewer ロールを持つユーザーは、これらのテンプレートのみを表示できます。
- [アセスメントターゲット] フィールドのアセスメントターゲットは [影響分析 のみ] に設定されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

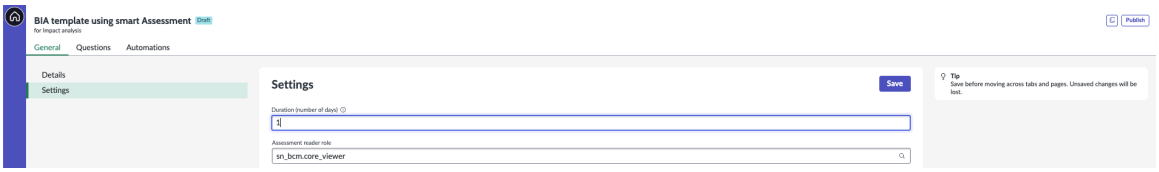
- アセスメントリーダーロール:指定されたロールを持つユーザーに読み取り専用アクセス権を割り当てます。



b. [設定] セクションで、アセスメントの期間を日数で追加します。

c. [アセスメントリーダーロール] フィールドでロールをアサインします。

スマートアセスメントテンプレート構成では、リーダーロールを追加するためのこのオプションが提供されます。アセスメントリーダーロールをアサインすると、査定人でなくてもアセスメントを読み取り専用モードで表示できます。BCM アドミニストレーターは通常、BCM コアビューアー [sn_bcm.core_viewer] ロールを BIA のアセスメントリーダーロールとしてアサインします。これにより、従来のアセスメントと同じ機能が提供されます。



d. **[Save** (保存)] を選択します。

アセスメントテンプレートの作成については、「 アセスメントテンプレートを作成する」を参照してください。
レコードの変更が正常に保存されました。

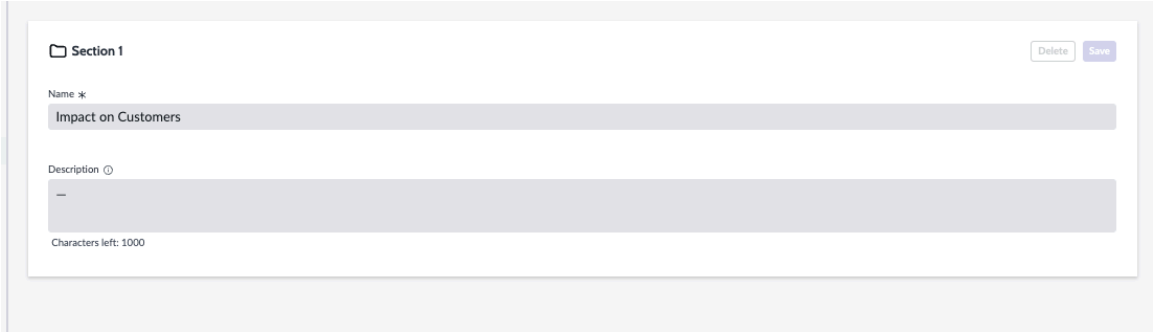
5. [質問] タブでアセスメント質問を設定します。

a. 質問のセクションを追加するには、 **[+** セクションの追加] を選択し、 [名前] フィールドに質問を追加し、その説明を追加して [保存] を選択します。

例にサンプルの質問を示します。

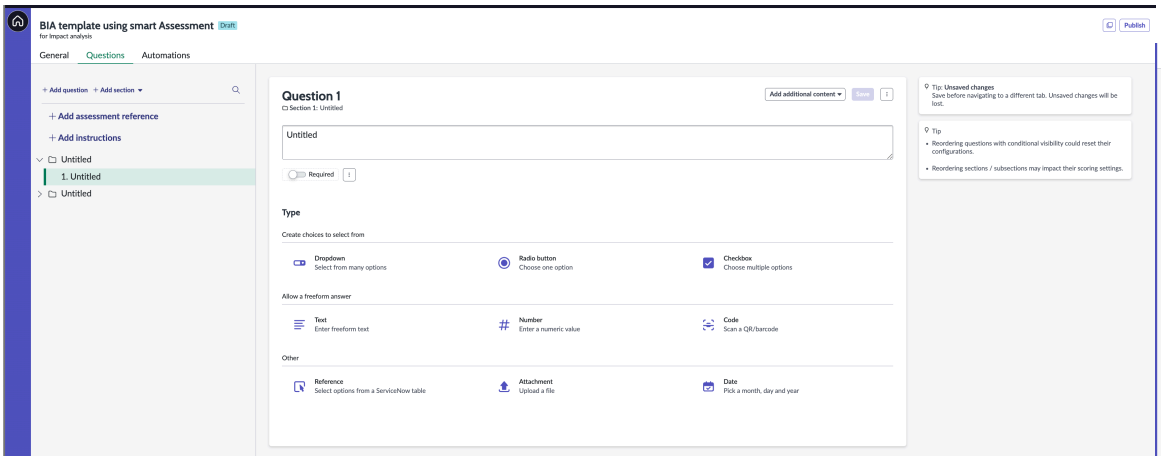
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



b. 質問を追加するには、 **[+** 質問を追加] を選択し、テキストを入力して必須またはオプションにし、回答のタイプを選択します。

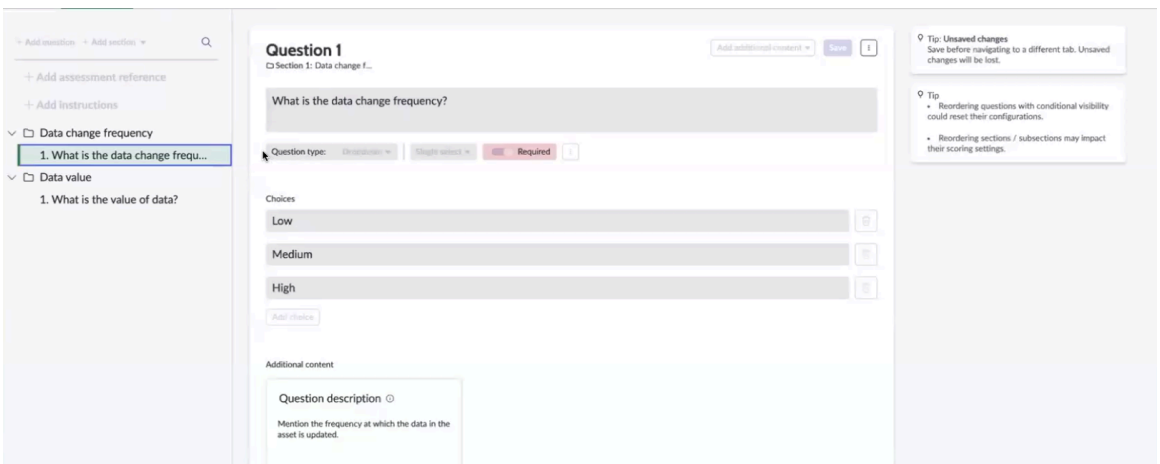
次の例は、オプションを含むモーダルを示しています。



c. 評価の参照データを追加するには、 [評価参照の追加] を選択し、目的の列を選択して [追加] を選択します。
これらのカードは、アセスメントターゲットに関する情報を追加するためにサイドパネルに表示されます。

d. テキストボックスに手順を追加してコンテキストを設定し、質問に適切に回答する方法を回答者に通知します。

アセスメントテンプレートに手順と質問を追加する方法については、「 アセスメントテンプレートに手順と質問を追加する」を参照してください。

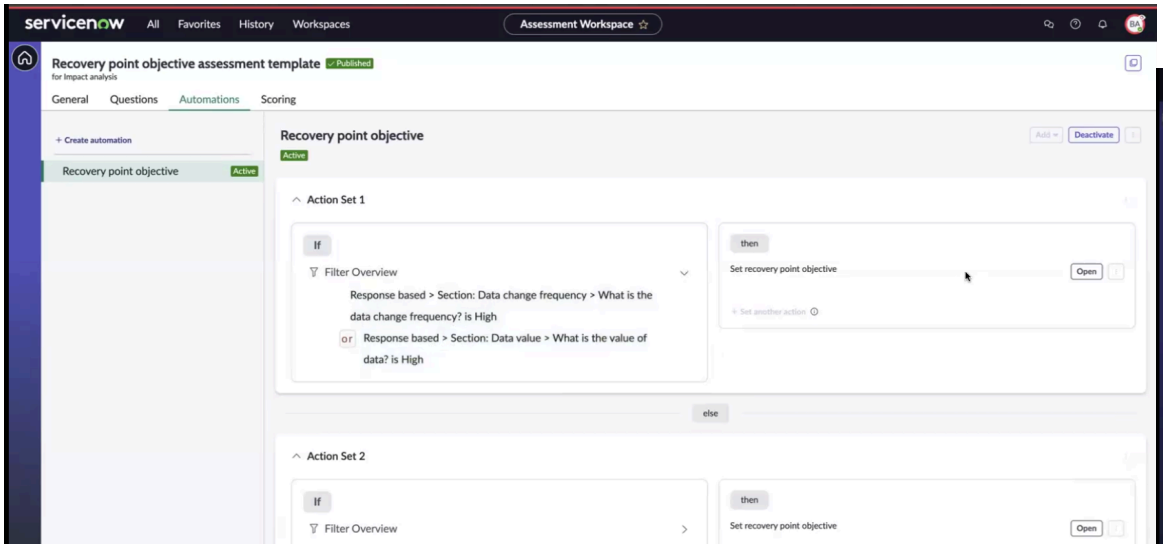


© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

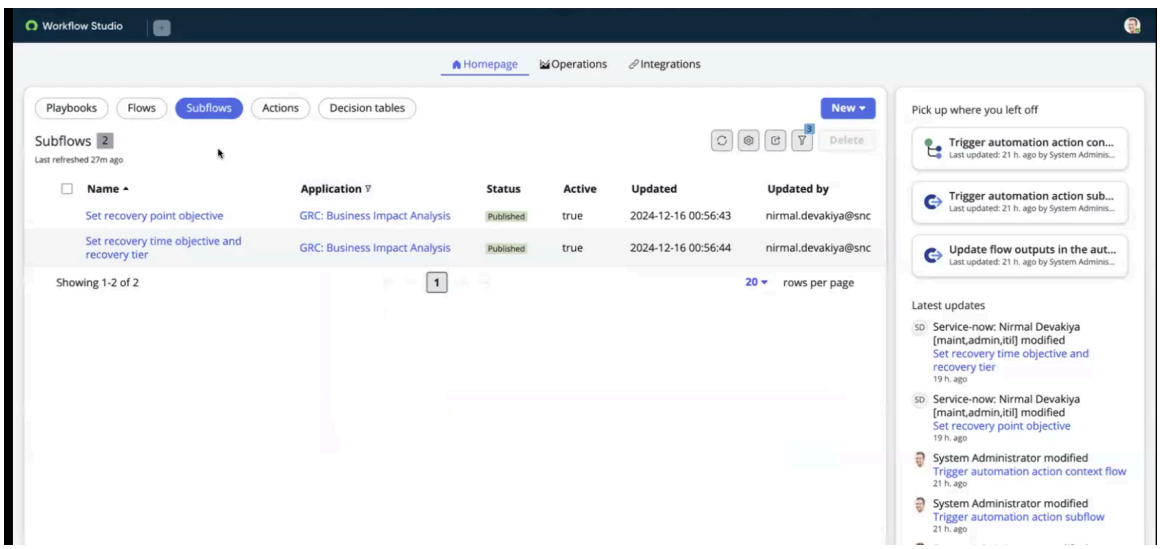
6. [自動化] タブで自動化ルールを設定します。

a. ユーザーの応答を表示し、[開く] を選択して、ユーザーの応答に基づいて自動的にトリガーされるアクションを表示します。

システムはユーザーの応答をレビューし、アクションおよび対応する期間を推奨します。たとえば、ユーザーが「データ変更の頻度」が 「高 」または「データの値が 高」と回答した場合、例に示すように、システムによって計算される提案された復旧期間は [即時] になります。



自動化セットアップでは、フローデザイナーで 2 つのフローが作成されます。

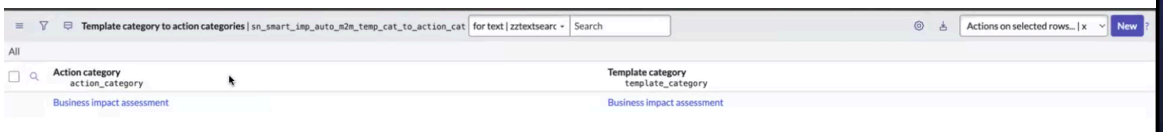


b. [サブフロー] プロパティで、[カテゴリ] フィールドが [ビジネスインパクトアセスメント] に設定されていることを確認します。

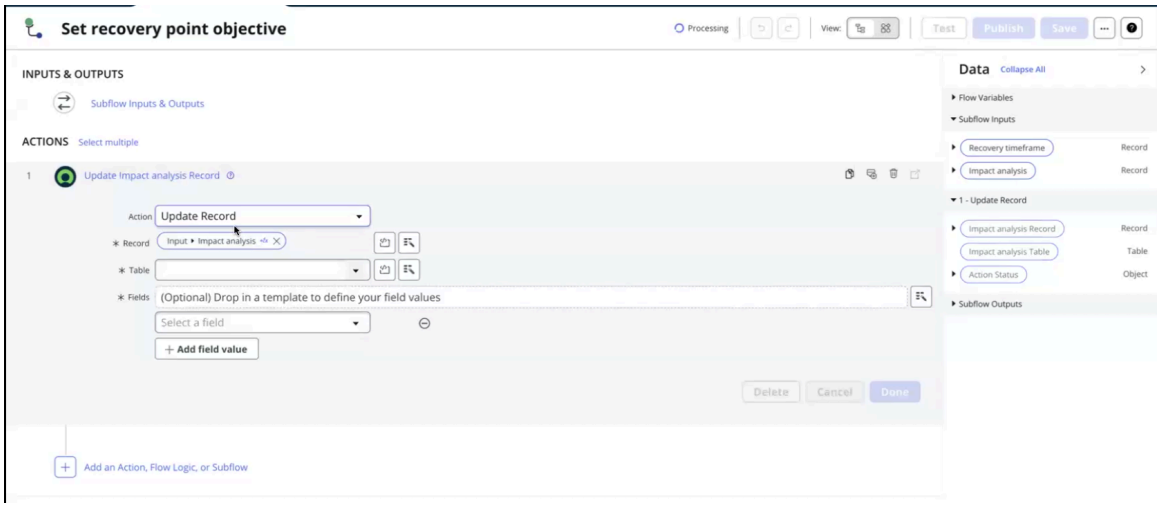
例に示すように、アクションカテゴリとテンプレートカテゴリが BIA にマッピングされると、[目標復旧時点を設定] フロー が [アクションタイプ] フィールドドロップダウンに表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。





例に示すように、[目標復旧時点を設定] フローを選択すると、影響分析レコードが更新されます。



自動翻訳

7. **[Save** (保存)] を選択します。
8. テンプレートを公開するには、[公開] を選択します。
   アセスメントテンプレートが公開され、アセスメントの送信に使用できることを示すメッセージが表示されます。**[OK]** を選択するか、[テンプレート リストに戻る] を選択できます。アセスメントテンプレートに [自動化] タブと [スコアリング] タブが表示されます。

での **BIA** テンプレートの構成 スマートアセスメント

スマートアセスメントを使用して、事業継続性ワークスペースでビジネスインパクトアナリシス (BIA) テンプレートを構成します。BIA で評価される要素のタイプ、影響度カテゴリ、および依存関係を選択します。スマートアセスメントでは、BIA のカスタムスマートアセスメントテンプレートを選択できます。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.admin

このタスクについて

スマートアセスメントテンプレートを使用して作成された BIA では、アセスメントセクションにスマートアセスメントのインスタンスが含まれます。 BCM ユーザーはアセスメントを完了でき、送信すると、 BCM アドミンによって設定された自動化がトリガーされ、定義された構成に基づいて、RTO、RPO、復旧階層などの影響分析データが更新されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

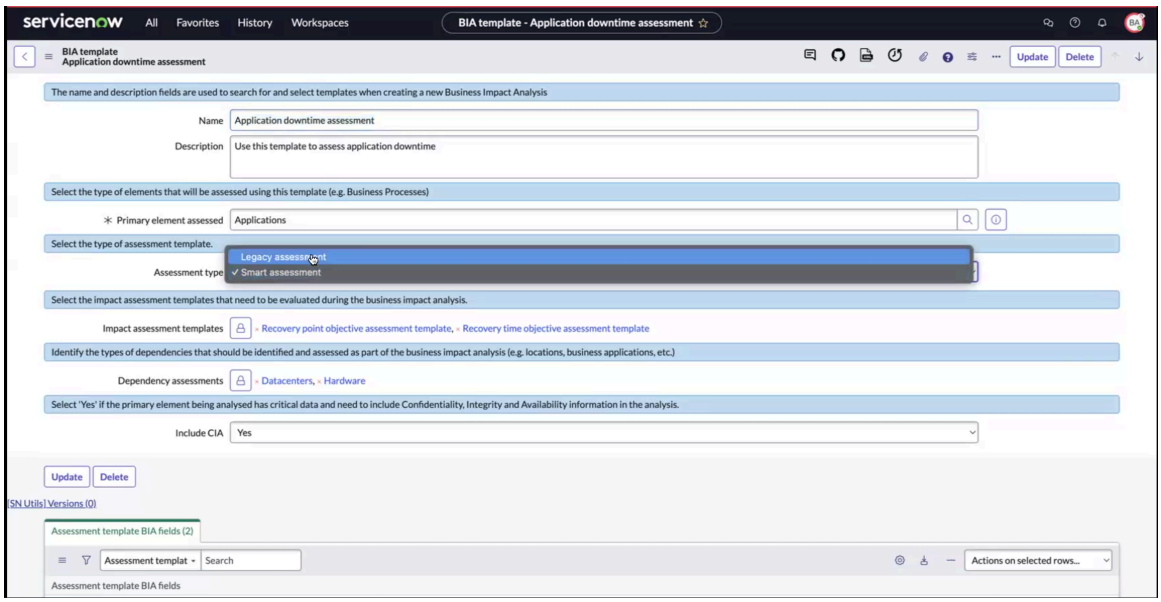
スマートアセスメントの影響カテゴリ完了構成:スマートアセスメントの影響カテゴリ完了を構成するには、 すべての>事業継続性>全般管理>プロパティ.*Mark the Impact Assessment as Complete once all required questions are answered, or all questions (required and optional) are answered*プロパティを設定します。必須の質問またはすべての質問に基づいて完了を表示するオプションを選択します。

スマートアセスメントエンジンの初期セットアップチェックリストについては、「スマートアセスメントエンジンの構成」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > 事業継続性 > **BIA** 構成 > **BIA** テンプレート.
2. **[New** (新規)] を選択します。
   インスタンスで事前設定された BIA テンプレートを使用することも、このオプションを選択して新しい BIA テンプレートを構成することもできます。
3. フォームで、フィールドに入力します。
   フォーム内のフィールドの詳細については、「従来のアセスメントの BIA テンプレートフォーム」を参照してください。
4. アセスメントタイプとして [スマートアセスメント] を選択します。

   例に、スマートアセスメントタイプの BIA テンプレートのサンプルを示します。



   スマートアセスメントを選択すると、BIA テンプレートフォームに [影響度カテゴリ] フィールドが表示されません。代わりに、[影響度評価テンプレート] フィールドが表示されます。表示されているテンプレート (目標復旧時点や目標復旧時間など) は、従来のアセスメントと同様の形式のデモデータです。

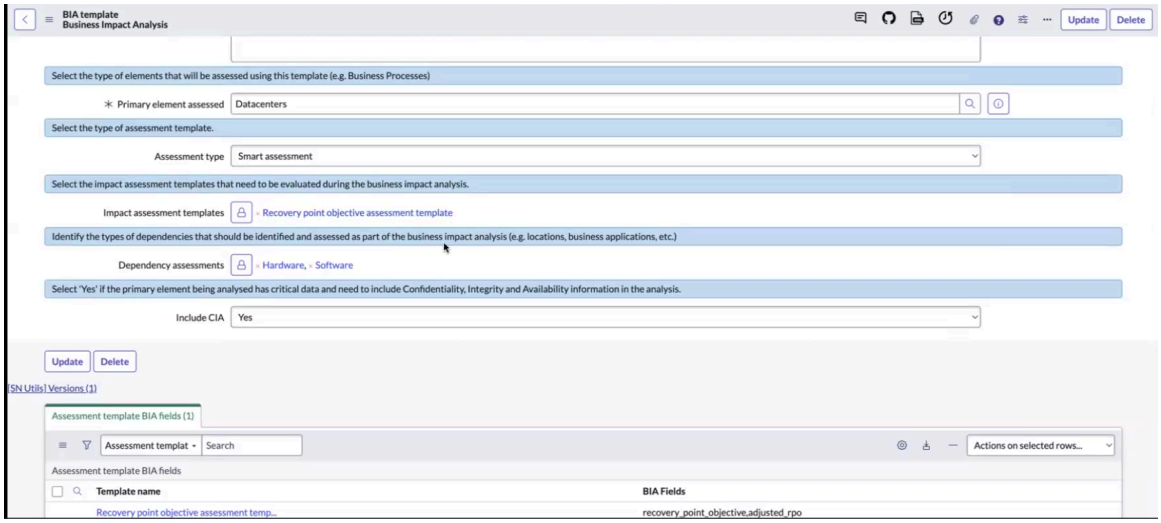
   インパクトアセスメントテンプレートは、「 スマートアセスメント テンプレートを作成する」で概説されている手順に従って構成したスマートアセスメントテンプレートです。

5. アセスメントの影響度評価テンプレートを選択します。
6. 必要に応じてその他の設定を行います。
7. BIA テンプレートを保存するには、[送信] を選択します。
8. ワークスペース内の影響分析レコードのアセスメントカードに結果フィールドを表示するには、BIA テンプレートを開き、BIA フィールドを影響度評価テンプレートにマッピングして、マッピングを保存します。

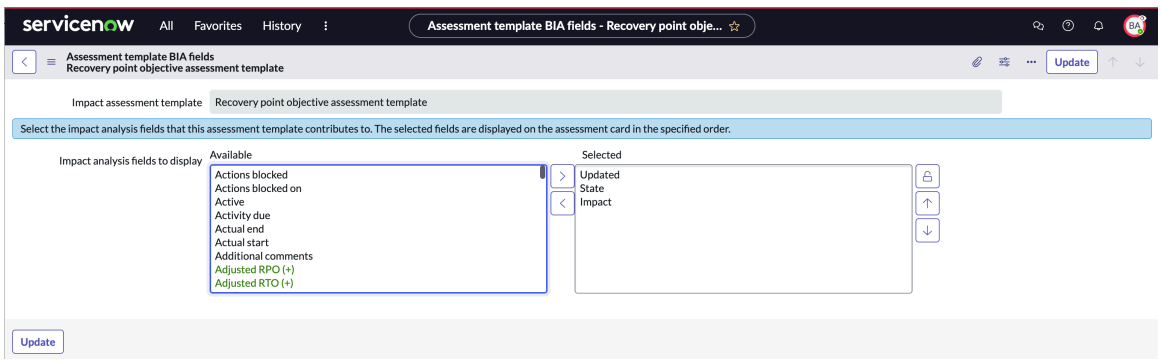
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

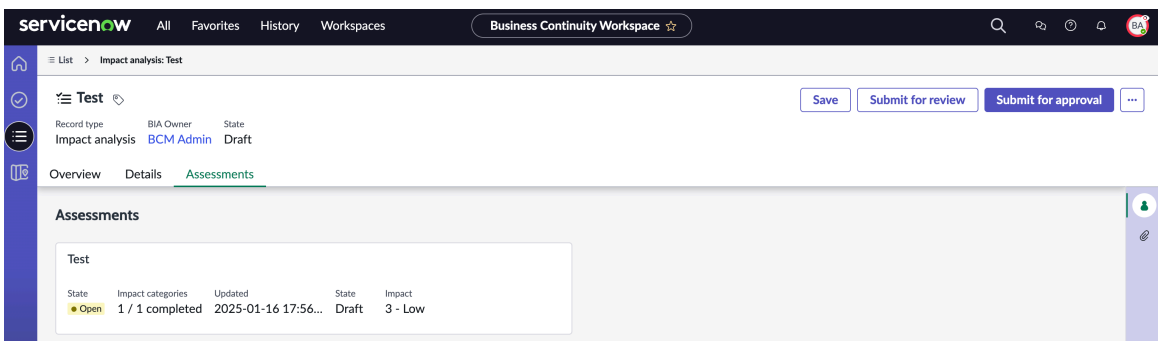
スマートアセスメントタイプの BIA テンプレートがインスタンスで設定されます。BIA テンプレートの関連リストは、選択した影響度評価テンプレートによって異なります。たとえば、目標復旧時点テンプレートを選択すると、BIA フィールドにマッピングされた同じ関連リストが表示されます。詳細については、「スマートアセスメント テンプレートを作成する」を参照してください。



関連リストを選択すると、アセスメントテンプレート BIA フィールドレコードが開きます。ここでは、RPO または RTO の詳細の概要を表示し、カードのフィールド順序に優先順位を付けることができます。アセスメントが寄与する BIA フィールドを選択すると、指定した順序で BIA アセスメントカードに表示されます。たとえば、図に示す選択が使用されている場合、カードには選択したフィールドが表示されます。



次の例は、BIA 用に作成された目標復旧時点カード、目標復旧時間カード、および依存関係アセスメントを示しています。



以前は、[アセスメント] タブには単一のアセスメントカードと [アセスメントを開く] ボタンが表示されていました。Yokohama リリース以降、レイアウトは 2 列の配置に更新されました。アセスメントカードが動的に表示されるようになり、複数のアセスメントを BIA に添付できるよう

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

になりました。たとえば、1 枚のカードが単独で連続して表示され、7 枚のカードが 4 行に配置されます (3 行にそれぞれ 2 枚のカードが表示され、1 行に 1 枚のカードが配置されます)。

注:
選択した BIA フィールドは、空でない場合にのみカードに入力されます。

[依存関係アセスメント] カードを選択すると、BIA アセスメントが開きます。BCMユーザーがアセスメントを送信すると、スマートアセスメントテンプレートで構成された自動化によって構成された結果フィールドが更新されます。

スマートアセスメントの **BIA** テンプレートレコードフォーム

BIA テンプレートレコードフォームを使用して、スマートアセスメントによるビジネスインパクトアナリシスを構成します。名前、説明、評価対象のプライマリ要素などの詳細を追加し、フォームで影響度評価テンプレートを選択できます。

スマートアセスメントを使用した **BIA** テンプレートレコードフォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

スマートアセスメントを含む **BIA** テンプレートレコードフォーム

フィールド	説明
名前	BIA テンプレートの名前。
説明	テンプレートについての簡単な説明。
評価されたプライマリ要素	プライマリオブジェクトタイプ、またはテンプレートを使用する評価対象の要素。
アセスメントタイプ	BIA のアセスメントタイプ。オプションは次のとおりです。 • 従来のアセスメント • スマートアセスメント [スマートアセスメント] オプションを選択します。
インパクトアセスメントテンプレート	影響度評価テンプレートのタイプ。目標復旧時点アセスメントテンプレートまたは目標復旧時間アセスメントテンプレートを選択できます。詳細については、「スマートアセスメント テンプレートを作成する」を参照してください。
依存関係アセスメント	データセンター、ハードウェアなど、ビジネス機能が依存するアイテムまたは資産のカテゴリ。依存関係はビジネスインパクトアナリシスの一部として特定され、評価されます。
CIA を含める	BIA に機密性、整合性、可用性を含めるオプション。分析対象のプライマリ要素に重要なデータがあり、分析に機密性、完全性、および可用性の情報を含める必要があるかどうかについては、フラグを [はい] に設定します。 このフィールドは、同じフォームの [プライマリ要素評価済み] フィールドで選択された要素に

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スマートアセスメントを含む **BIA** テンプレートレコードフォーム (続く)

フィールド	説明
	データのバックアップが必要な場合にのみ表示されます。

事業継続性計画のためのセットアップ

BCP アドミニストレーターは、事業継続性管理 アプリケーションの [全般管理] セクションに一覧表示されている特定の管理タスクを実行できます。

事業継続性計画の管理タスクは、アプリケーションナビゲーターの [全般管理] セクションに一覧表示されます。

sn_bcp.plan_admin ロールを持つ BCP 計画アドミニストレーターが実行する管理タスクとしては、一般的に次のようなものがあります。

- 計画テンプレートの構成：詳細については「事業継続性計画テンプレートの構成」を参照してください。
- 事業継続性計画のドキュメントセクションの構成：詳細については「ドキュメントセクションを構成」を参照してください。
- 事業継続性計画のド損失シナリオの構成：詳細については「計画での損失シナリオの構成」を参照してください。

計画テンプレートの構成

BCP 計画マネージャーは、破壊的なイベントの発生時にそれぞれの事業部門で使用できる事業継続性計画を作成できます。事業継続性管理 アプリケーションには、事前設定済みの事業継続性計画テンプレートが入っています。この事前設定済み計画テンプレートを使用すると、計画作成のプロセスを合理化できます。ビジネス要件に合わせた計画テンプレートを自分で作成することもできます。

事業継続性計画の事前設定済み計画テンプレートは、アプリケーションナビゲーターの [全般管理] セクションで見られます。

計画テンプレートを使用すると、復旧すべきドキュメントセクション、損失シナリオ、およびプライマリ要素が入った標準的な計画レイアウトを作成できます。計画テンプレートは、計画のコンテンツ、そのタスク、および計画の効果的な実装に重点を置くために役立ちます。

計画を作成することで、組織は中断が発生したときに優先的に復旧する必要があるプロセス、場所、および資産を特定できます。計画タイプを選択すると、復旧する要素と復旧する必要がある時間を特定するのに役立ちます。

事業継続性計画テンプレートの使用

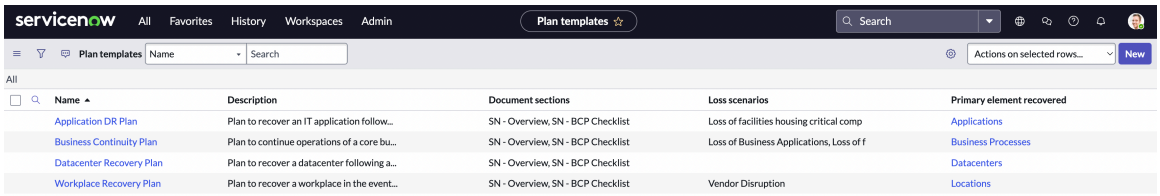
事業継続性管理 アプリケーションには、デモデータと一緒にインストールされる、次の事業継続性計画テンプレートが入っています。

- アプリケーション **DR** 計画**(Application DR Plan)**
- 事業継続性計画
- データセンター復旧計画**(Datacenter Recovery Plan)**
- 職場復旧計画**(Workplace Recovery Plan)**

デモデータと一緒にインストールされる事業継続性計画テンプレートを、次の例で示します。

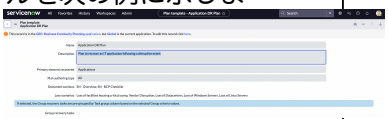
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



事業継続性管理 アプリケーションで使用できるデモデータの計画テンプレートの各タイプの詳細については、次の表を参照してください。

デモデータの計画テンプレート

名前	復旧されたプライマリー要素	説明
アプリケーション DR 計画 (Application DR Plan)	アプリケーション	中断イベント後に IT アプリケーションを復旧する計画。アプリケーション DR 計画 (Application DR Plan) のテンプレートのサンプルを次の例に示します。 
事業継続性計画	ビジネスプロセス	職場やアプリケーションや重要なベンダーの中断にも主要なビジネスプロセスの運用を継続するための計画。事業継続性計画のテンプレートのサンプルを次の例に示します。 
データセンター復旧計画 (Datacenter Recovery Plan)	データセンター	自然災害や、データセンターの可用性に影響を与える重大なイベントが発生した後にデータセンターを復旧するための計画。データセンター復旧計画 (Datacenter Recovery Plan) のテンプレートのサンプルを次の例に示します。 
職場復旧計画(Workplace Recovery Plan)	場所	複数の職場のうち 1 つが使用不可または居住不可能になった場合に職場を復旧するための計画。職場復旧計画 (Workplace Recovery Plan) のテンプレートのサンプルを次の例に示します。 

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネス要件に合わせた計画テンプレートの作成

デモデータのテンプレートを使用する代わりに、具体的な要件に合わせたテンプレートを作成できます。ビジネス要件の計画テンプレートを作成する方法の詳細については、「事業継続性計画テンプレートの構成」を参照してください。

事業継続性計画テンプレートの構成

事業継続性計画テンプレートを、ビジネスの 事業継続性管理 アプリケーションで構成します。計画テンプレートを使用すれば、従業員や Web サーバーといった特定のプライマリ要素を復旧できます。同様に、ドキュメント、損失シナリオ、復旧タスクといったさまざまな計画作成タイプの計画テンプレートを作成できます。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin

このタスクについて
sn_bcm.admin ロールには sn_bcp.plan_admin ロールが含まれています。[計画テンプレート] メニューを表示するには、sn_bcm.admin ロールが必要です。BCM アドミニストレーターは [計画テンプレート] メニューに移動でき、その後、計画のアドミニストレーターは計画テンプレートを更新できます。

計画テンプレートを構成すると、次のことができます。

- 復旧する必要があるプライマリオブジェクトタイプを定義する。
- 計画の開始時に含める必要があるドキュメントセクションを定義する。
- テンプレートを使用して損失シナリオを特定し、それに応じて計画する。

手順

1. 移動先 すべて > 事業継続性 > 計画構成 > 計画テンプレート.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. [計画テンプレート] フォームのフィールドに記入します。
   フィールドの詳細については、「[計画テンプレート] フォーム」を参照してください。
4. [送信] を選択します。

[計画テンプレート] フォーム

BCM UIB ワークスペース の [計画テンプレート] フォームを使用して、事業継続性計画の詳細を入力します。

[計画テンプレート] フォーム
フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

[計画テンプレート] フォーム

フィールド	説明
名前	計画テンプレートの名前。例:職場復旧計画。
説明	計画テンプレートについての簡単な説明。
復旧したプライマリ要素 (Primary Element Recovered)	計画で復旧対象として識別されたプライマリオブジェクトタイプまたは要素。例:場所。
Plan authoring type (計画作成タイプ)	このテンプレートを使用して継続性計画を作成するときに選択できる計画のさまざまなス

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[計画テンプレート] フォーム (続く)

フィールド	説明
	テージまたはセクション。これらの選択肢は、計画の詳細を入力するプロセスを進めるにつれて、BCP ワークスペースにタブとして表示されます。 • すべて (デフォルト):このテンプレートを使用する計画には、ドキュメント、損失シナリオ、復旧タスク、復旧チームなどのすべての選択肢が表示されます。これらのオプションは、ワークスペース内にタブとして表示されます。 • ドキュメント:このテンプレートを使用する計画では、選択した依存関係とともにドキュメントオプションが表示されます。[ドキュメント] タブ、および復旧タスクと復旧チームのタブにアクセスして、ワークスペースで表示できます。 • 損失シナリオ:損失シナリオと、復旧タスク、復旧チーム、およびこのテンプレートを使用する計画内の選択されたその他の依存関係。 • 復旧タスク:このテンプレートを使用する計画タイプに関連付けられた復旧タスクと復旧チーム。
ドキュメントセクション	計画に含めるドキュメントセクション。利用可能なオプションは次のとおりです： • **BCP -** 仮定 • **BCP -** 目標 **(BCP-Objectives)** • **BCP -** スコープ **(BCP-Scope)** • **BIA -** 概要 **(BIA-Overview)** • **SN-BCP** チェックリスト **(SN-BCP Checklist)** • **SN -** 概要 **(SN-Overview)**
Loss scenarios (損失シナリオ)	計画に含める損失シナリオ。利用可能なオプションは次のとおりです： • 重要な補償を収容する施設の損失 • **Linux** サーバーの損失 • データセンターの損失 • 職場の損失 • ビジネスアプリケーションの損失 • 人員の損失

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[計画テンプレート] フォーム (続く)

フィールド	説明
	• ベンダーの中断 • **Windows** サーバーの損失 損失シナリオを作成してテンプレートに追加することもできます。損失シナリオの作成の詳細については、「損失シナリオを追加」を参照してください。
Group recovery tasks (復旧タスクのグループ化)	復旧タスクをグループ化するオプション。選択すると、選択した [グループ分け基準] 基準の値に基づいて、タスクが事前にグループに編成されます。利用可能なオプションは次のとおりです： • **Assignment group** (アサイン先グループ) • 自動フロー • 完了期限 • 構成アイテム • **Created by** (作成者) • 説明 • ドキュメント • 計画 **(Plan)** • 所有者 • 復旧戦略 • 復旧チーム • 関連計画 • スコープ • 簡単な説明 • タグ • **Tag assets** (資産のタグ付け) • タスクの分類 • タスクグループ • 更新者

BIA、BCP、およびイベントの **PDF** テンプレートのフォーマット設定

ビジネスインパクトアナリシス、事業継続性計画、またはイベントの PDF を生成するために使用される PDF テンプレートの形式を設定します。組織の要件とテンプレートに従って PDF をフォーマットできます。

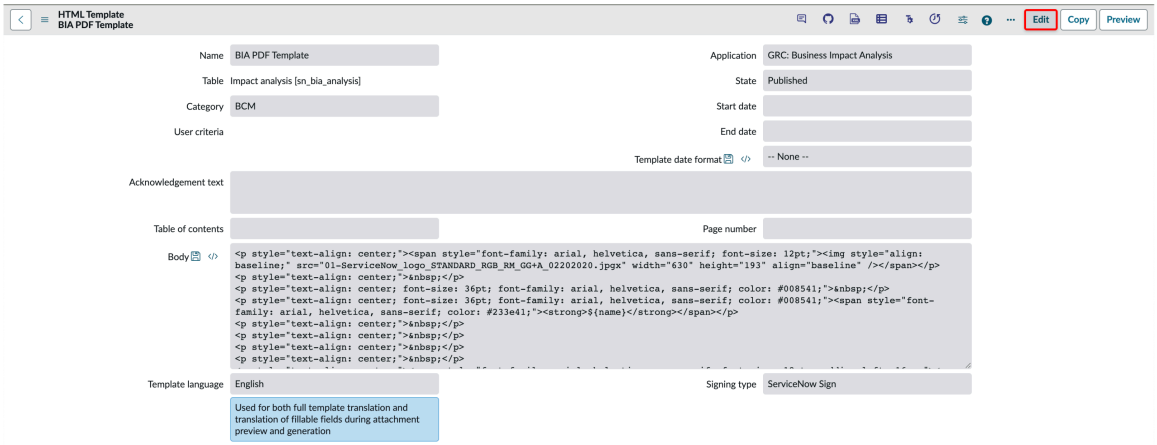
始める前に

必要なロール:sn_bcm.admin、sn_bcm.planner、sn_bcm.program_manager

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

BCM アドミンロール (sn_bcm.admin) は、 ドキュメントテンプレート ロール (sn_doc.reader および sn_doc.writer) を直接含めるのではなく、sn_bcm.core_manager ロールを介して継承します。これらの継承されたロールにより、BCM アドミニストレーターは ドキュメントテンプレート (sn_doc_template) の作成、読み取り、書き込みを行うことができます。BCM 製品では、 ドキュメントテンプレート アプリケーションを使用して PDF を生成および印刷します。その結果、BCM アドミニストレーターは BCM ドキュメントテンプレート内の PDF のコンテンツを編集できます。



次のトピックで説明されている手順に従って、ビジネスインパクトアナリシス、事業継続性計画、またはイベントの PDF をダウンロードしていることを確認してください。

- PDF 形式または Microsoft Word 形式での BIA レポートの生成
- PDF 形式または Microsoft Word 形式での BCP レポートの生成
- PDF または PDF でのイベントレポートの生成 Microsoft Word

このタスクについて

Xanadu リリース以降、ビジネスインパクトアナリシス、計画、およびイベントの PDF のコンテンツは、新しいレイアウトを実装することによって改善されています。

- 各種イベントタスクを表形式で記載します。
- 資産所有者の詳細とビジネスインパクトアナリシスの説明を含めます。
- 計画資産の依存関係の概要を示すテーブルを表示します。
- 最初のページに PDF の作成日を記載します。

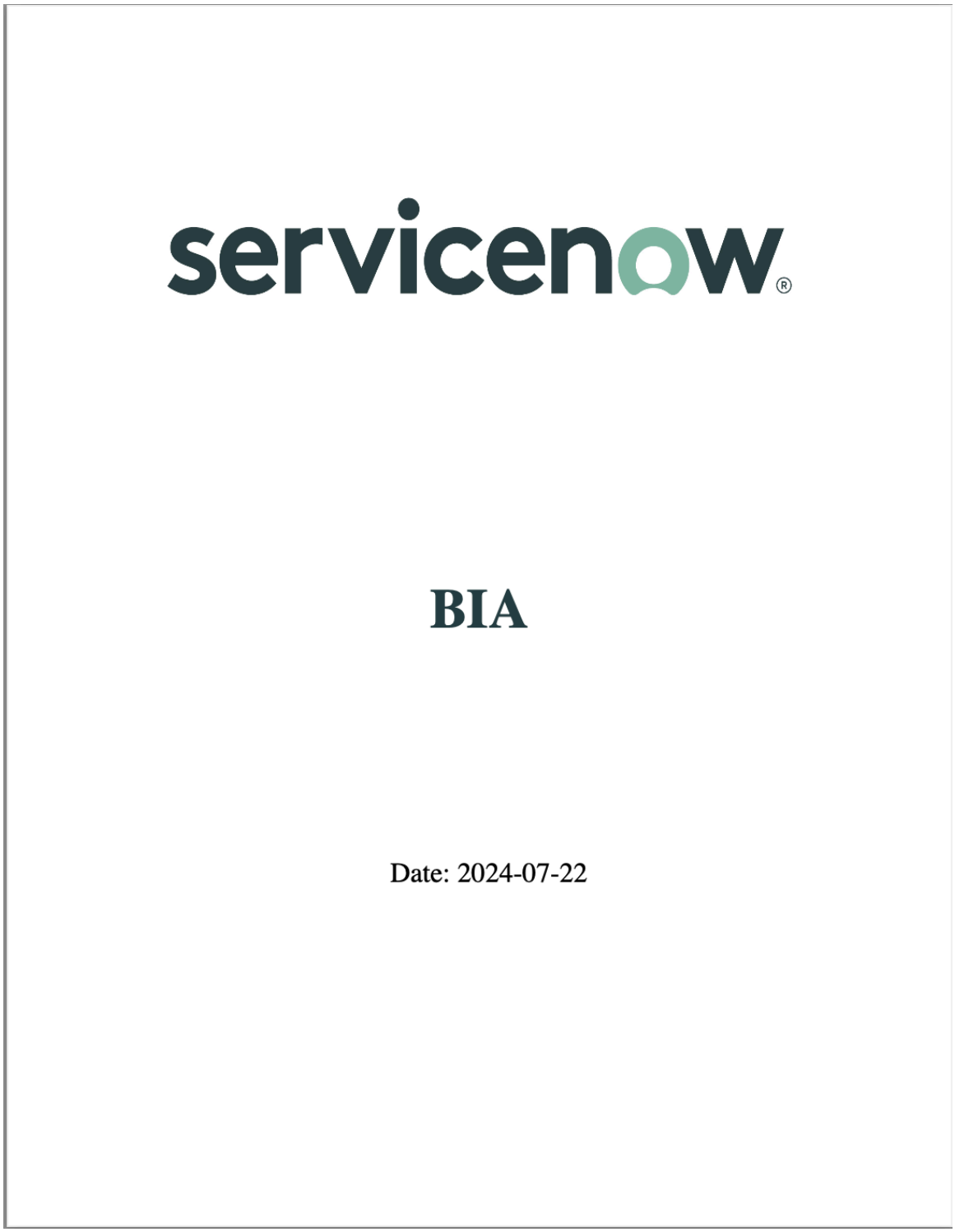
手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで、[ビジネスインパクトアナリシス] レコードに移動し、[詳細] タブに保存されている PDF を開きます。
3. 組織のテンプレートに従って、PDF のタイトルとフォントを更新します。

   次の例は、要件に応じて更新できる PDF を示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

同じプロセスを使用して、ビジネスインパクトアナリシス、事業継続性計画、演習、または危機イベントの PDF を更新できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:

BCM アドミニストレーター (sn_bcm.admin) ロールを使用すると、インスタンスの [すべてのドキュメントテンプレート] に移動して、 BCM アプリケーションで提供されるドキュメントテンプレートを表示できます。

編集および入力可能な PDF テンプレートを使用して、PDF を書式設定することもできます。PDF のカスタマイズに使用できる PDF ドキュメントテンプレートの詳細については、「Configure a PDF document template」を参照してください。

4. PDF を保存します。

   PDF は保存して後で参照できます。PDF を編集するには、まずローカル ドライブに保存してから編集します。

5. レポートを印刷するには、保存した PDF または Microsoft Word コピーを開き、[印刷] を選択します。

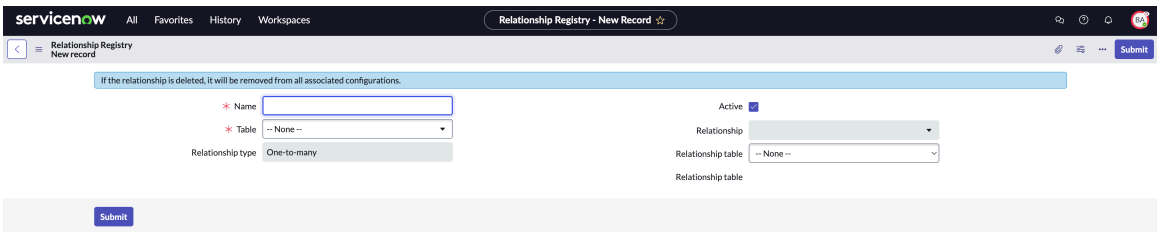
360 度のリレーションシップレジストリとビューの構成

sn_bcm.admin ロールで、360 度ビューの構成を設定します。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin

手順

1. 移動先 すべて > **360** 度ビューの構成 > **360** 度ビューの構成.
2. レコードの関係を設定するには、次に移動します: **360** 度ビューの構成 > 関係のレジストリ.
   次の例のようなフォームが表示されます。



3. フォームで、フィールドに入力します。

新しい関係のレジストリを作成する

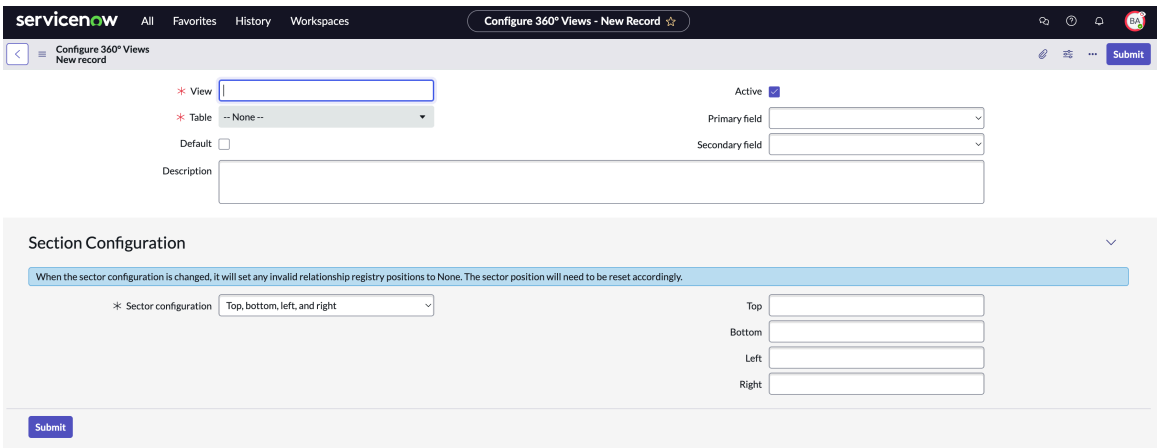
フィールド	説明
名前	このレジストリのわかりやすい名前。
テーブル	関係を定義するテーブル。
関係性タイプ	定義する関係のタイプ： ○ 1 対多 ○ 多対多

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ スクリプト化：ServiceNow AI Platform からのカスタム関係 ○ 1 対 1：選択したテーブルのフィールドとして利用可能な関係
有効	関係が有効な場合に選択します。
関係	選択した関係タイプの関係テーブル。たとえば、エンティティテーブルの関係を定義していて、多対多の関係タイプを選択した場合、関係テーブルのリストは、エンティティテーブルに適用されるすべての多対多の関係で構成されます。
関係テーブル	[関係] フィールドで選択したテーブル名。

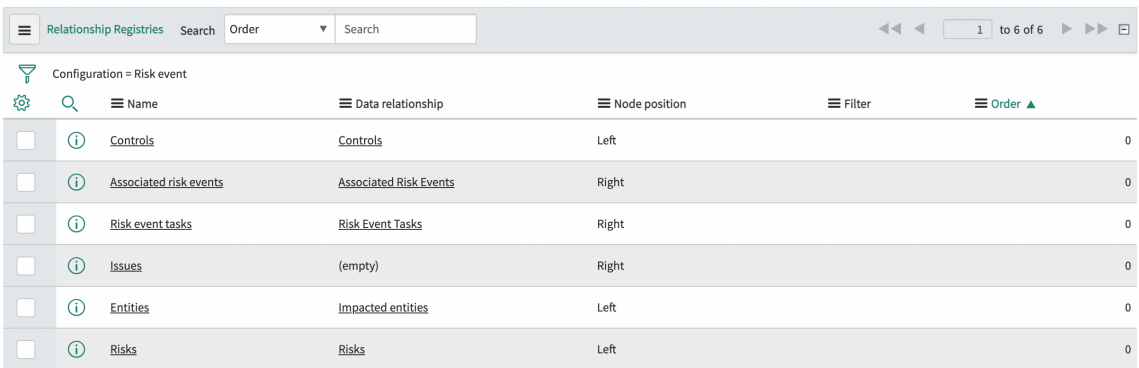
4. **[Submit** (送信)] を選択します。
5. レコードの 360 度ビューを設定するには、次に移動します: **360** 度ビューの構成 > **360** 度ビューの構成.
   次の例のようなフォームが表示されます。



6. レコードを保存します

   [関係のレジストリ] 関連リストが表示されます。

関係のレジストリ



7. [**Select Relationships]** を選択します。
8. フォームで、フィールドに入力します。

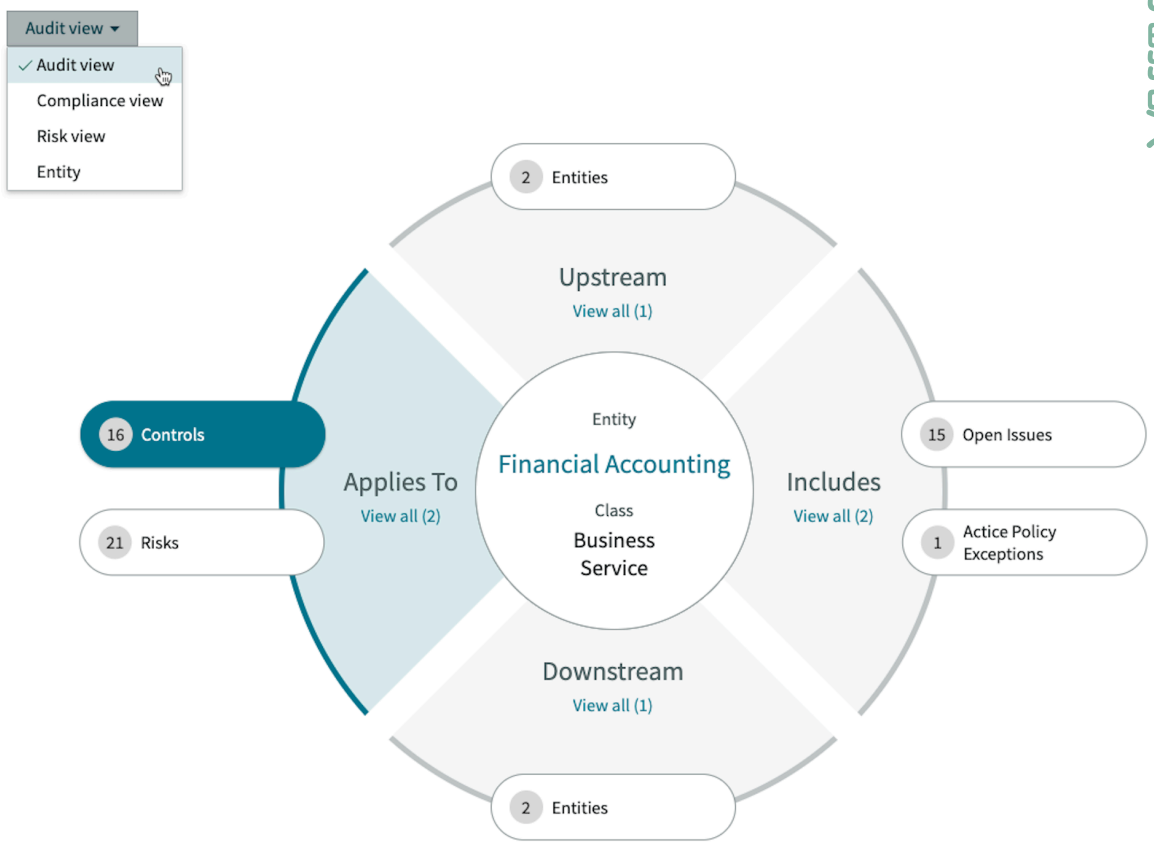
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データの関係に対する **DataNav** 構成

フィールド	説明
名前	この関係を特定する名前。
データの関係	以前に定義したデータの関係。
関係テーブル	選択したデータの関係に関連付けられたテーブル。
ノード位置	この関係の追加先に定義済みのセクター。
フィルター	表示する関係のタイプを定義する条件を入力します。たとえば、失敗したすべてのコントロールの条件を定義できます。
設定 (Configuration)	関係に対して定義された構成。
テーブル	関係に対して定義されたテーブル。
順序	指定された [順序] の値に基づいて、360 度ビュー内の要素の位置が変更されます。 たとえば、要素の順序値を 0 から 1 に変更すると、360 度ビューでその位置が隣に移動します。

9. **[Submit** (送信)] を選択します。
これで、定義した新しいビューが 360 度ビューで利用できるようになります。

新しいビューを選択する



360 度ビュー構成の詳細については、「360 度ビューを構成する」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Everbridge 通知のセットアップ

セットアップ手順は、Everbridge 通知システム との一貫した接続と正常な通知配信ワークフローの確立に役立ちます。BCM アドミニストレーターとアプリケーションユーザーは、BCM UIB ワークスペース で緊急通知を設定できるように、特定の前提条件データを構成する必要があります。

緊急通知を送信し、通知ワークフローを監視するには、次の前提条件構成を設定する必要があります。

- 接続を作成し、Everbridge で認証情報を認証するには、「接続の作成と認証情報の認証」を参照してください。
- Everbridge から連絡先の配信の詳細を取得し、それらを使用して通知を送信するには、「Everbridge からの配送チャネルのインポート」を参照してください。
- Everbridge から連絡先のタイプの詳細を取得するには、「からのレコードタイプのインポート元 Everbridge」を参照してください。
- 連絡先にメールまたは SMS を送信するように通知テンプレートを事前設定するには、「緊急通知のテンプレートの作成」を参照してください。
- 通知を送信するための連絡先を作成するには、「緊急通知の連絡先の作成」を参照してください。
- ユーザーテーブルから連絡先をフィルタリングするルールを設定するには、「連絡先インポートルールの作成」を参照してください。
- 連絡先のグループを作成するには、「通知連絡先グループの作成」を参照してください。

さまざまなセットアップ手順が統合にどのように接続されるかを示すフロー図は、次のとおりです。

緊急通知のセットアップフロー



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続の作成と認証情報の認証

接続を確立し、Everbridge インスタンスを使用してログイン認証情報を認証します。そうすることで、配送チャネルを使用して通知を送信できます。この接続は、Everbridge インスタンスとの通信を送受信するために役立ちます。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin

手順

1. 移動先 事業継続性 > エバーブリッジの通知の構成 > 接続と認証情報エイリアス.
2. [新しい接続および資格情報の作成] 関連リンクを選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。
   フィールドの詳細については、「接続と資格情報フォームを作成」を参照してください。
4. [作成] を選択します。
   Everbridge インスタンスとの通信を送受信するための接続が確立されます。

接続と資格情報フォームを作成

[接続と資格情報を作成] フォームを使用して、接続を確立し、Everbridge インスタンスでログイン認証情報を認証します。

接続および認証情報フォームを作成

接続および認証情報フォームを作成

フィールド	説明
接続名	接続の名前。「エバーブリッジ接続」と入力します。
接続 URL	Everbridge の API ベースアドレス。
組織 ID	Everbridge の組織 ID。 **注:** 組織 ID は Everbridge インスタンスから取得できます。
インシデントテンプレート ID	Everbridge インシデントテンプレートの一意の ID。 **注:** ID は Everbridge インスタンスから取得できます。
認証情報名	Everbridge 認証情報の名前です。
ユーザー名	Everbridge の API ユーザーのユーザー名。
パスワード	接続を検証して確立するためのパスワード。

Everbridge からの配送チャネルのインポート

Everbridge インスタンスから配送チャネルをインポートします。そうすることで、配信チャネルを介して簡単に通知を送信できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin

このタスクについて
危機の発生時に、ステークホルダーとの連絡に関する問題に直面する可能性があります。ステークホルダーが使う配信方法が変わっているために、通知が到達しない可能性があります。連絡先と選択したグループに到達するための配信チャネルをインポートすると、より簡単かつ管理しやすい方法で通知を送信できます。

手順

1. 移動先 事業継続性 > エバーブリッジの通知の構成 > 配送チャネル.
2. [インポート] を選択します。
   すべての配送チャネルが Everbridge インスタンスから正常にインポートされます。通知が成功すると、Everbridge から確認のメッセージが届きます。

からのレコードタイプのインポート元 **Everbridge**

組織 ID のレコードタイプを Everbridge からインポートし、それを使用して通知対象の連絡先を作成します。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin

このタスクについて
レコードタイプは、Everbridge に保存される情報であり、通知対象の連絡先を作成するために必要です。

手順

1. 移動先 事業継続性 > エバーブリッジ通知の設定 > レコードタイプ.
2. [インポート] を選択します。
   カテゴリを持つ組織 ID のレコードタイプが Everbridge インスタンスからインポートされます。レコードタイプがインポートされていない場合、エラーメッセージが表示されることがあります。

緊急通知のテンプレートの作成

事前定義済みの情報を使用してテンプレートを作成します。これを使用して、緊急時にユーザーに通知を送信できます。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin

このタスクについて
メールのドラフトを使用してサンプルテンプレートを定義できます。サンプルテンプレートには、特定の事業所や施設に影響を与える可能性がある特定の緊急の危機に関する通知形式を含めることができます。

手順

1. 移動先 事業継続性 > エバーブリッジの通知の構成 > 通知テンプレート.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。
   フィールドの詳細については、「[通知テンプレート] フォーム」を参照してください。
4. [送信] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[通知テンプレート] フォーム

[通知テンプレート] フォームを使用して、通知を送信するための事前定義済み情報を含むテンプレートを作成します。

[通知テンプレート] フォーム

[通知テンプレート] フォーム

フィールド	説明
名前	通知テンプレートの名前。
説明	テンプレートの目的に関する簡単なメモ。
配送チャネル	通知の送信に使用する通信チャネル。
件名	通知のタイトル。
メッセージ本文	通知の導入テキストメッセージ。
脚注	通知の終結メッセージまたは脚注。
SMS テキスト	SMS を介して送信されるテキストメッセージ。

緊急通知の連絡先の作成

緊急通知を送信する連絡先を手動で作成し、Everbridge インスタンスと同期します。

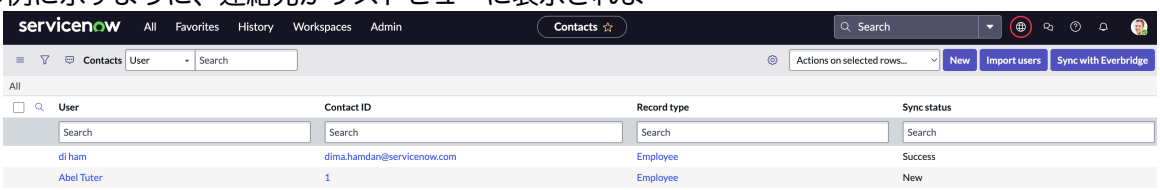
始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin

このタスクについて
ユーザーリストから連絡先を作成した後、連絡先を更新して Everbridge インスタンスと同期できます。

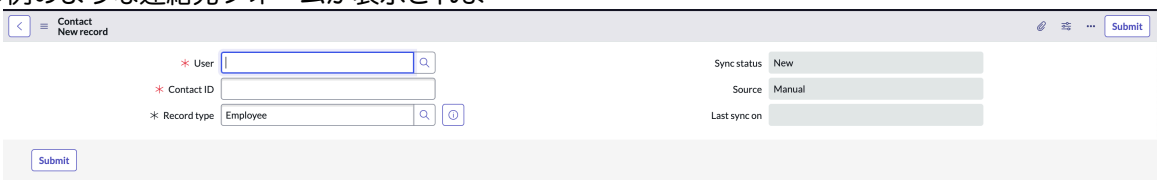
配送チャネルが Everbridge インスタンスから配送チャネルテーブルにインポートされます。インポートされた配送チャネルを使用することで、連絡先の配信の詳細を手動で作成することができます。

手順

1. 移動先 事業継続性 > エバーブリッジの連絡先の構成 > 連絡先.
   次の例に示すように、連絡先がリストビューに表示されます。



2. [新規] を選択します。
   次の例のような連絡先フォームが表示されます。



3. フォームのフィールドに入力します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

手動で作成した連絡先をユーザーテーブルから削除できます。ただし、連絡先は [新規] 状況である必要があります。参照されているユーザーレコードが削除されると、毎週実行されるスケジュール済みジョブによって連絡先テーブルから連絡先が削除されます。

フィールドの詳細については、「[連絡先] フォーム」を参照してください。

4. [送信] を選択します。
5. 連絡先同期ルールに基づいて連絡先をインポートするには、[ユーザーをインポート] ボタンを選択します。
同期ルールを使用して連絡先をインポートするために、最初に必要な操作 - 連絡先インポートルールの作成。フォームページを更新して、インポートされたユーザーのリストを取得します。

   [ユーザーをインポート] アクションは、連絡先同期ルールに基づいてユーザーテーブル [sys_user] を読み取り、連絡先テーブルにレコードを作成します。
6. 連絡先のリストを Everbridge のリストと同期するには、[エバーブリッジと同期] ボタンを選択します。
連絡先が Everbridge と同期されると、同期アクションのステータスが [同期ステータス] フィールドに記録されます。Everbridge で正常に同期された連絡先の一意の ID は、連絡先テーブルに外部連絡先 **ID** として記録されます。

[連絡先] フォーム

[連絡先] フォームを使用して連絡先を手動で作成し、その連絡先を Everbridge と同期します。

[連絡先] フォーム

[連絡先] フォーム

フィールド	説明
ソース	連絡先のソース。 • ユーザーリストから手動で連絡先を作成した場合は [手動] です。 • 同期ルールを使用して連絡先を作成した場合は [同期ルール] です。
前回の同期日	連絡先が最後に Everbridge と同期された日付。
連絡先 ID	連絡先の一意の ID。
同期ステータス	連絡先が作成されたときの同期ステータス。連絡先の作成時のデフォルトは [新規] です。次のようなステータスもあります。 • 成功：連絡先が Everbridge と正常に同期された場合 • エラー：同期中にエラーが発生した場合 • 更新済み：連絡先または配信の詳細が変更された場合
ユーザー	ユーザーテーブル [sys_user] からのユーザー参照。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[連絡先] フォーム (続く)

フィールド	説明
外部連絡先 ID	Everbridge 内の連絡先 ID。
同期エラー	連絡先と Everbridge の同期中に発生したエラー。

連絡先インポートルールの作成

ユーザーテーブルに適用する連絡先インポートルールを作成します。そうすることで、緊急通知の連絡先にするユーザーを抽出できます。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin

このタスクについて
連絡先インポートルールを適用するデフォルトのテーブルが、ユーザーテーブル [sys_user] に適用されます。ユーザーテーブルの sys_id と、連絡先テーブルの一意の連絡先 ID がマッピングされます。

手順

1. 移動先 事業継続性 > エバーブリッジの連絡先の構成 > 連絡先インポートルール.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。
   詳細については、「[連絡先インポートルール] フォーム」を参照してください。
4. [送信] を選択します。

[連絡先インポートルール] フォーム

[連絡先インポートルール] フォームを使用して、ユーザーテーブルに適用できる連絡先インポートルールを作成します。

[連絡先インポートルール] フォーム

[連絡先インポートルール] フォーム

フィールド	説明
名前	インポートルールの名前。
テーブル	ルールのユーザーテーブル [sys_user]。
フィルター条件	レコードをフィルタリングするためにユーザーテーブルに適用される条件。
レコード タイプ	レコードタイプのデフォルトカテゴリ。
ユーザーマッピング	ユーザーテーブルからの一意のユーザー参照。
連絡先 ID マッピング	Everbridge との同期に使用される各連絡先の一意の ID。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

通知連絡先グループの作成

ServiceNow AI Platform のグループを使用して通知連絡先グループを作成します。グループメンバーを緊急通知の連絡先として使用します。グループメンバーを連絡先として Everbridge と同期し、同期されていないメンバーを例外として追跡します。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin

手順

1. 移動先 事業継続性 > エバーブリッジの連絡先の構成 > 通知連絡先グループ.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。
   詳細については、「[通知連絡先グループ] フォーム」を参照してください。
4. [送信] を選択します。
5. グループを Everbridge のグループと同期するには、[グループをエバーブリッジに同期] を選択します。
   ページを更新して、グループの同期ステータスを取得します。

   グループが Everbridge と同期されなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。
6. Everbridge と同期されなかったグループメンバーの名前を表示するには、[グループユーザー例外] 関連リストを選択します。

Example:
1 つのグループに 5 人のメンバーがいて、そのうちの 4 人が既に Everbridge と既に同期され、連絡先として存在しています。グループを同期すると、4 人の同期されたグループメンバーを含むグループが Everbridge に作成されます。ただし、同期されていない 1 人のメンバーは、例外としてログ記録され、同期に失敗した理由に関するメッセージが表示されます。

最初にこの特定の連絡先を同期してから、グループを Everbridge と同期させることができます。

[通知連絡先グループ] フォーム

[通知連絡先グループ] フォームを使用して、通知連絡先グループを作成します。

[通知連絡先グループ] フォーム

[通知連絡先グループ] フォーム

フィールド	説明
グループ	ユーザーグループテーブルへの参照。
同期ステータス	グループの同期ステータス。グループの作成時のデフォルトは [新規] です。 • 成功：連絡先グループが Everbridge と正常に同期されました。 • エラー：同期中にエラーが発生した場合 • 更新：連絡先グループが変更された場合
前回の同期日	グループが最後に Everbridge と同期された日付。

自動翻訳

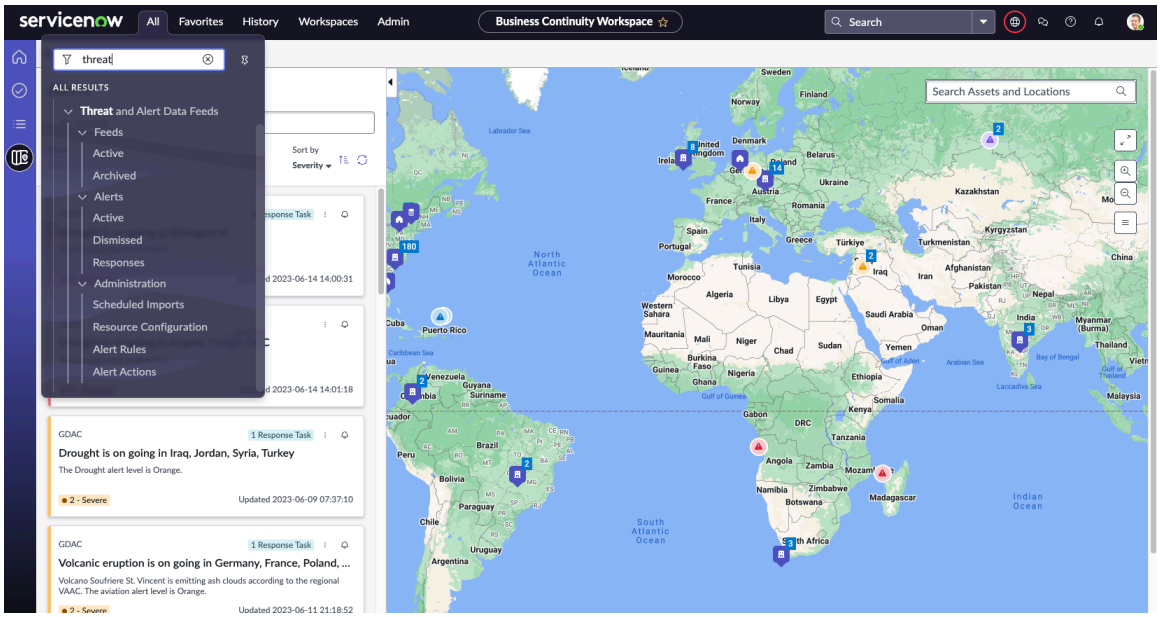
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライシスマップのセットアップ

BCM アドミニストレーターは、クライシスマップ インターフェイスを設定するための管理タスクを実行できます。

BCM アドミニストレーターは クライシスマップ で、脅威アラートとデータフィードを設定するための管理タスクを実行できます。管理タスクは、次の例に示すように、[脅威とアラートのデータフィード] モジュールの [管理] に表示されます。

注:
危機マップ機能を有効にする前に、Google Maps API を購入して設定していることを確認してください。



BCM アドミンロールを持っている場合は、次の管理タスクを実行して クライシスマップ を設定します。

- スケジュール済みインポート：危機マップアプリケーションのスケジュール設定済みデータインポートレコードを構成します。詳細については、「スケジュール設定済みデータインポートレコードの構成」を参照してください。
- リソース構成：Crisis Map アプリケーションのリソース構成レコードを構成します。詳細については、「リソース構成レコードの構成」を参照してください。
- アラートルール：危機マップでのアラートルールを構成して、フィードをアラートとしてダッシュボードに表示できる条件を指定できるようにします。詳細については、「アラートルールの設定」を参照してください。
- アラートアクション：Crisis Map アプリケーションの UIB ワークスペース でアラートアクションを設定します。詳細については、「アラートアクションの設定」を参照してください。

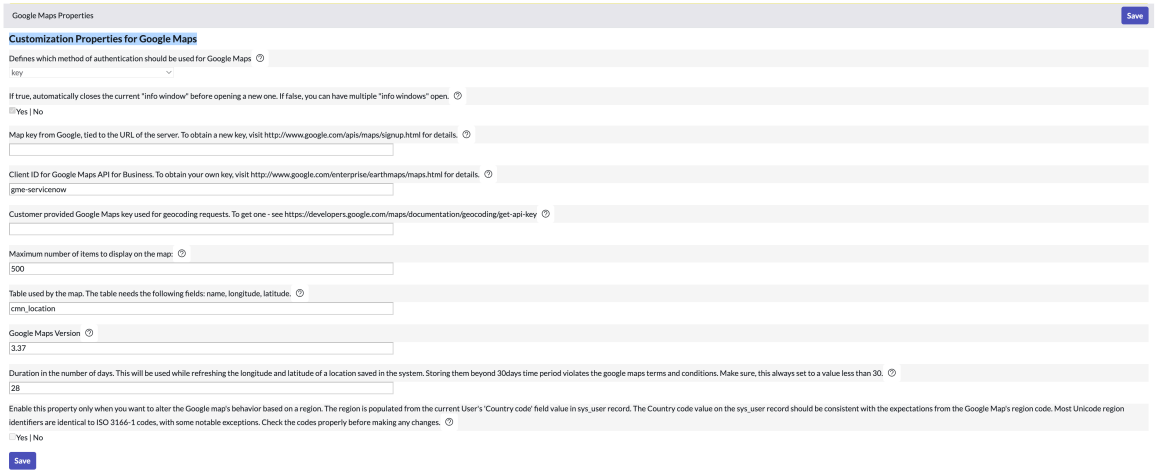
Google Map のカスタマイズプロパティ

クライシスマップアプリケーションのユーザーは、**Google** マップのプロパティモジュールで、Google マップのカスタマイズプロパティを設定できます。

クライシスマップアプリケーションで **Google Map** のプロパティモジュールを選択すると、次の例に示すようにアプリケーションのカスタマイズプロパティを表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



プロパティの詳細については、「Googleマップのカスタマイズプロパティテーブル」を参照してください。

Googleマップのカスタマイズプロパティテーブル

Google マップのカスタマイズプロパティについて、次の Google マッププロパティ表に示します。

Google Map のカスタマイズプロパティ

名前	説明
Google Maps に使用する認証手法を定義します google.maps.method	• タイプ：選択リスト (クライアント ID、キー) • デフォルト値：キー
true の場合、新しいウィンドウが開く前に現在の「情報ウィンドウ」が自動的に閉じます。false の場合、複数の「情報ウィンドウ」を開くことができます。 google.maps.auto_close	• タイプ：yes または no • True の場合、新しいウィンドウが開く前に現在の情報ウィンドウが自動的に閉じます。
サーバーの URL と結合された、Google からのマップ キー。新しいキーを入手するには、http://www.google.com/apis/maps/signup.html を参照してください。 google.maps.key	注: Fam-map コンポーネントは、認証に設定されたキー (google.maps.key) とクライアント ID (google.maps.client) を使用します。キーまたはクライアント ID のいずれかのオプションを使用する必要があります。
Google Maps API for Business のクライアント ID。ご自分のキーを入手するには、http://www.google.com/enterprise/earthmaps/maps.html を参照してください。 google.maps.client	• サーバーの URL と結合された、Google からのマップ キー。 • デフォルト値：gme-servicenow

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Google Map のカスタマイズプロパティ (続く)

名前	説明
ジオコーディング要求に使用する顧客提供の Google Maps キー。取得するには、https://developers.google.com/maps/documentation/geocoding/get-api-key を参照してください。 google.maps.key.geocoding	• ジオコーディング要求に使用される Google Map キー。 • デフォルト値：なし
マップに表示する最大項目数 google.maps.max_items	• マップに表示する最大項目数。 • デフォルト値：500
マップが使用するテーブル。テーブルには、名前、経度、緯度のフィールドが必要です。 google.maps.table	• マップが使用するテーブル。 • デフォルト値：cmn_location
Google Map バージョン google.maps.version	• Google Map バージョン • デフォルト値：3.37
期間 (日数)。これは、システムに保存されている場所の経度と緯度を更新するときに使用されます。30 日の期間を超える保存は、Google マップの契約条件に違反します。これは常に 30 未満の値に設定されるようにしてください。 google.maps.refresh.latlong.duration	• 期間 (日数)。 • デフォルト値：28
このプロパティは、地域に基づいて Google Map の動作を変更する場合にのみ有効にします。地域は、sys_user レコードの現在のユーザーの [国コード] フィールド値から入力されます。sys_user レコードの国コード値は、Google Map の地域コードから推測される値と一致している必要があります。ほとんどの Unicode 地域識別子は ISO 3166-1 コードと同じですが、いくつかの例外があります。変更を加える前にコードを適切に確認してください。(Enable this property only when you want to alter the Google map's behavior based on a region. The region is populated from the current User's 'Country code' field value in sys_user record. The Country code value on the sys_user record should be consistent with the expectations from the Google Map's region code. Most Unicode region identifiers are identical to ISO 3166-1 codes, with some notable exceptions. Check the codes properly before making any changes.)]	• このプロパティは、地域に基づいて Google Map の動作を変更する場合にのみ有効にします。 • タイプ：yes または no

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Google Map のカスタマイズプロパティ (続く)

名前	説明
google.maps.localization.region.enable	

Google Fam-map コンポーネントで使用されるマップ **API**

クライシスマップの Fam-map コンポーネントは、さまざまな Google マップ API を利用して、インタラクティブなマッピング機能を提供します。このセクションでは、Fam-map コンポーネントに統合されている Google Maps API とその使用情報を示します。

マップ - 動的マップ **JavaScript API**

マップ - 動的マップ **JavaScript API**

製品	説明	ライブラリー
Maps JavaScript API	FAM マップコンポーネントは、Dynamic Maps JavaScript API に依存してダイナミックマップをロードします。この API を使用すると、マップを動的に作成および操作できます。また、コンポーネントのインタラクティブ機能の基盤も提供します。 詳細なドキュメントと価格情報については、「https://developers.google.com/maps/documentation/javascript」を参照してください。	@googlemaps/js-api-loader

機能とモジュール

さまざまな機能	モジュール	デフォルト	使用法
マーカー	google.maps.Marker	有効	基本
マーカークラスター	@googlemaps/markerclusterer	有効	基本
カスタムオーバーレイビュー	google.maps.OverlayView	有効	基本
ポリライン	google.maps.Polyline	有効	基本
多角形	google.maps.Polygon	有効	基本
サークル	google.maps.Circle	有効	基本
レクタングル	google.maps.Rectangle	有効	基本
FeatureStyleFunction	google.maps.FeatureStyleFunctionOptions	無効	基本

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

機能とモジュール (続く)

さまざまな機能	モジュール	デフォルト	使用法
マップスタイルのカスタマイズ	featureType、elementType およびスタイラーで使用可能なすべての値のリストについては、「https://developers.google.com/maps/documentation/javascript/style-reference」を参照してください。	有効	基本

マップのプロパティ

名前	説明	タイプ	必須
mapProperties	ロード時に設定する Google マップのプロパティ	アレイ	いいえ

場所のプロパティ

製品	説明	モジュール	デフォルト	使用法
近くの検索	請求は、ユーザーが使用するフィールドによって異なります。	google.maps.places.PlacesService(mapRef).nearbySearch	無効	基本
場所の詳細	請求は、ユーザーが使用するフィールドによって異なります。	google.maps.places.PlacesService	無効	基本
オートコンプリート - 要求あたり +	オートコンプリート – 要求ごとの SKU では、セッショントークンを含まない呼び出しまたは要求のいずれかに対して課金されます：JavaScript：Maps JavaScript API の場所オートコンプリートサービス	google.maps.places.AutocompleteService().getQueryPredictions({input, language})	無効	基本

注:
ジオマップコンポーネントでのプロパティとハンドラーの使用方法の詳細については、ジオマップの Readme ファイルを参照してください。ジオマップコンポーネントの Google Maps API については、KB 記事：KB1588661 を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スケジュール設定済みデータインポートレコードの構成

Crisis Map アプリケーションのスケジュール設定済みデータインポートレコードを構成します。その後、UIB ワークスペースで内部または外部ソースから脅威フィードへのサブスクリプションを管理できます。

始める前に
必要なロール：admin

危機マップ機能を有効にするには、Google マップを設定する必要があります。詳細については、「Google Maps API の設定」を参照してください。

このタスクについて
脅威フィードは、組織のセキュリティに対する潜在的な脅威または現在の脅威に関する状況認識を提供します。脅威アラートには、天気アラート、パンデミックアラート、地政学的状況、またはセキュリティインシデントやシステム停止などの内部イベントが含まれます。

手順

1. 移動先 脅威とアラートのデータフィード > アドミニストレーション > スケジュール済みインポート.
   ベースシステム内には、次の 2 つのスケジュール設定済みデータインポートが存在します。

名前	データソース
GDAC フィードソース	GDAC フィード
Weather.gov の重大なアラートのスケジュール済みインポート	Weather.gov アラート

2. 新しいスケジュール設定済みデータインポートを追加するには、[新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。
   スケジュール設定済みデータインポートの詳細については、「[スケジュール設定済みデータインポート] フォーム」を参照してください。
4. [送信] を選択します。
5. 既存の予定されているデータインポートを実行するには、危機管理の脅威とアラートデータフィードアプリケーションでレコードを編集するためのリンクを選択します。
6. 既存のスクリプトを更新するには、[更新] を選択します。
7. 既存のスクリプトを削除するには、[削除] を選択します。

タスクの結果
データインポートレコードが [スケジュール設定済みデータインポート] レコードページに表示されます。

[スケジュール設定済みデータインポート] フォーム

BCM UIB ワークスペース の [スケジュール設定済みデータインポート] フォームを使用して、スケジュールされているデータインポートレコードに関する詳細を追加します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[スケジュール設定済みデータインポート] フォーム

フィールド	説明
名前	スケジュール済みインポートの名前。通常、ソースは名前です。
データソース	インポートに使用される脅威およびアラートデータの内部または外部ソース。
実行方法	脅威アラートをインポートする権限を持つユーザー。
有効	アラートをアクティブとして有効にするためのオプション。
アプリケーション	Read-onlyフィールド。このフィールドは、危機マップに関連するアイテムを区別するのに役立ちます。
実行	データがインポートされる頻度。
時刻	データインポートの時間 (時間、分、秒)。
条件付き	脅威アラートのインポートに条件付きスクリプトが必要かどうかを示すオプション。
同時インポート	同時インポートを有効にするオプション。
インポート前処理スクリプトの実行	インポート前処理スクリプトの実行を有効にするオプション。
インポート後処理スクリプトの実行	インポート後処理スクリプトの実行を有効にするオプション。

自動翻訳

リソース構成レコードの構成

UIB ワークスペース で、Crisis Map アプリケーションのリソース構成レコードを構成します。そうすることで、組織の資産を危機マップにプロットできます。資産には、場所、従業員、データセンター、サプライヤーなどがあります。リソースの設定は、アラートルールを設定するための入力としても必要です。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.program_manager

危機マップ機能を有効にするには、Google マップを設定します。詳細については、「Google Maps API の設定」を参照してください。

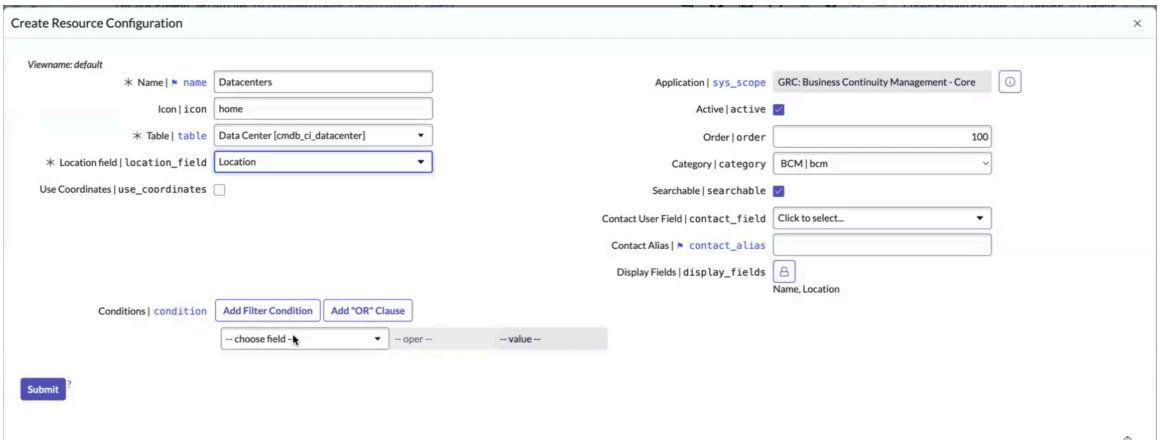
手順

1. 移動先 脅威とアラートのデータフィード > アドミニストレーション > リソース構成.
2. 新しいリソース構成レコードを追加するには、[新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

   [リソース構成] フォームの詳細については、「[リソース構成] フォーム」を参照してください。

   サンプルリソース構成を図に示します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. **[Submit** (送信)] を選択します。

タスクの結果
リソースが [リソース構成] レコードページに表示されます。

[リソース構成] フォーム

BCM UIB ワークスペース の [リソース構成] フォームを使用して、リソース構成レコードの詳細を追加します。

[リソース構成] フォーム

フィールド	説明
名前	マップのビジュアル化で使用されるリソース構成の名前。
アイコン	マップ上のリソースアイテムを表す画像。
テーブル	マップ上にプロットするリソースのテーブル。
場所フィールド	マップ上の場所として使用されるテーブルの [場所] 列。
座標を使用	位置情報管理マップにリソースをプロットできるようにするためのオプション。
アプリケーション	Read-onlyフィールド。このフィールドは、危機マップに関連するアイテムを区別するのに役立ちます。
アクティブ	リソース構成がアクティブであることを示すオプション。
順序	レコードの順序。
カテゴリ	レコードのカテゴリ。値は **[BCM]** です。複数のアプリケーションがコンポーネントを使用する場合に、BCM 関連のリソースを識別するのに役立ちます。
検索可能	マップのビジュアル化でリソースが検索可能かどうかを示すオプション。
連絡先ユーザーフィールド	フォーカスされているリソースに関するコミュニケーションの連絡先。
連絡先エイリアス	識別のための連絡先。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[リソース構成] フォーム (続く)

フィールド	説明
表示フィールド	連絡先として表示するために選択されたフィールド。
条件	テーブルからのレコードをフィルタリングするための条件。

アラートルールの設定

危機マップでアラートルールを構成して、フィードがダッシュボードにアラートとして表示されるタイミングを定義できるようにします。アラートが無効になる条件を指定して、ダッシュボードから消すこともできます。

始める前に

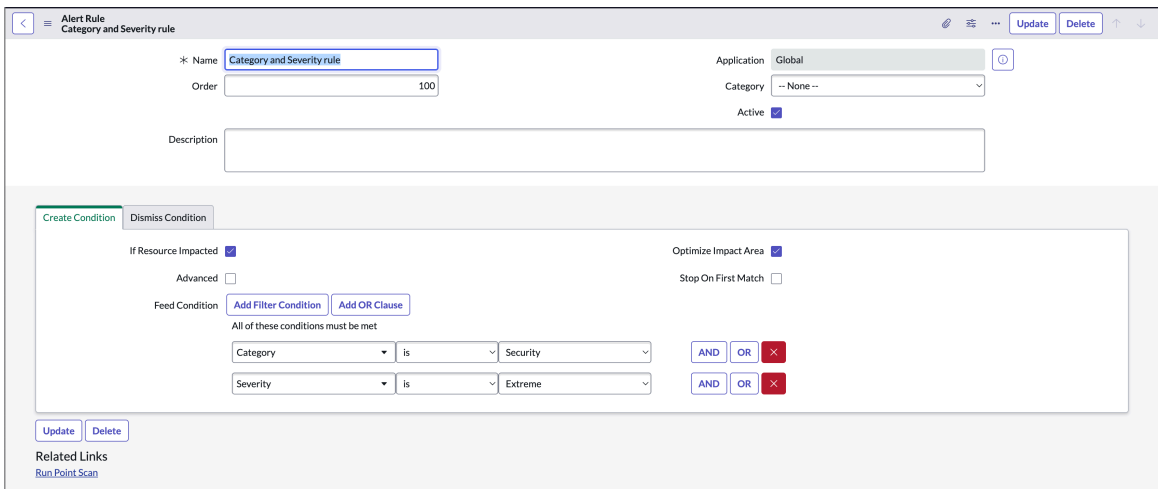
必要なロール：sn_bcm.program_manager

手順

1. 移動先 脅威とアラートのデータフィード > アドミニストレーション > アラートルール.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。
   [アラートルール] フォームの詳細については、「[アラートルール] フォーム」を参照してください。
4. アラートルールの名前、説明、順序、およびカテゴリを追加します。
5. [条件を作成] タブで、アラートルールの条件を定義します。

   影響を受けるリソースに対処したり、特定の影響領域を最適化したりするための条件を作成できます。

   次の例は、特定のカテゴリと重大度のアラートルールを示しています。

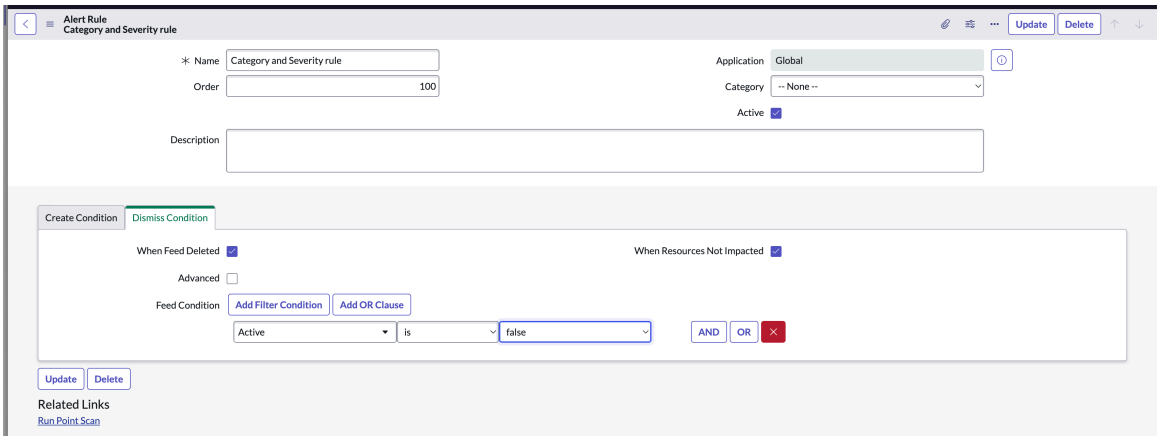


6. [条件の却下] タブで、アラートルールの条件を定義します。

   フィードが削除された場合、またはリソースが影響を受けない場合は、条件を解除できます。次の例は、アラートルールの条件を解除する方法を示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



7. [Submit (送信)] を選択します。

タスクの結果

アラートルールが [アラートルール] レコードページに表示されます。

[アラートルール] フォーム

BCM UIB ワークスペース の [アラートルール] フォームを使用して、アラートルールの詳細を追加します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

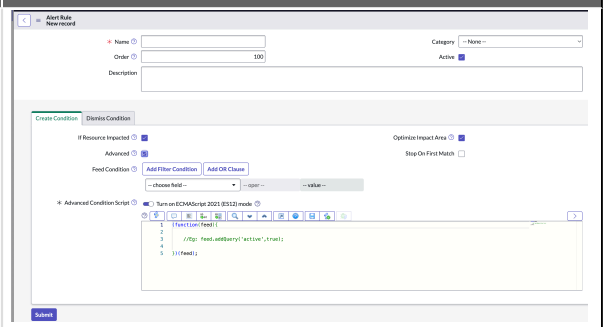
[アラートルール] フォーム

フィールド	説明
名前	アラートルールの名前。
順序	アラートルールの表示順序。デフォルトでは 100 です。
アプリケーション	Read-onlyフィールド。このフィールドは、危機マップに関連するアイテムを区別するのに役立ちます。
カテゴリ	レコードのカテゴリ。値は **[BCM]** です。複数のアプリケーションがコンポーネントを使用する場合に、BCM 関連のリソースを識別するのに役立ちます。
アクティブ	ルールをアクティブに設定するオプション。
説明	アラートに関する詳細。
条件を作成	
リソースが影響を受けるかどうか	リソースが影響を受ける場合にアラートルールを有効にするオプション。このオプションを選択すると、フィードの影響を受ける領域内のリソースに対してのみアラートが作成されます。
詳細	アラートルールの条件スクリプトを使用して詳細フィルタールールを有効にするためのオプション。例に示すように、詳細条件スクリプトを使用します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[アラートルール] フォーム (続く)

フィールド	説明
	 ECMAScript 2021 (ES12) モードを有効にすると、スクリプトでサポートされている最新の JavaScript 機能を使用できます。無効にすると、アプリケーションのデフォルトの JavaScript モードでサポートされている機能に制限されます。
影響領域の最適化	パフォーマンスを向上させるための最適化を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。有効にすると、フィードの影響領域が最適化され、パフォーマンスが向上します。
最初の一致で停止	ルールの最初の一致で条件を停止するオプション。条件またはパターンが満たされると、システムはそれ以降の評価または処理を停止し、最初に成功した一致に関連付けられたアクションが実行されます。
フィード条件	設定されたルールに基づいてアラートをフィルタリングするための条件。これらのフィルター条件を使用して、フィードアラートのルールを設定します。フィルター条件を設定すると、登録したフィードリソースからの数千のフィードから、事業所にとって重要なアラートをフィルタリングできます。事業所には、企業のオフィス、従業員の場所、データセンター、サプライヤーなどがあります。 
詳細条件スクリプト	詳細条件スクリプトの構成。このフィールドは、[詳細] オプションが選択されている場合に表示されます。条件 (アクティブなアラートなど) に基づいてフィードをフィルタリングするスクリプトを入力します。詳細ルールオプションを使用して、条件スクリプトでフィルタールールを設定します。たとえば、資産の場所への危機の近接度に基づいて条件を設定できます。ルールをアクティブにすることもできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[アラートルール] フォーム (続く)

フィールド	説明
条件の却下	
フィードが削除されたとき	フィードが削除された場合に、ダッシュボードからアラートを消す必要があることを示すオプション。
詳細	アラートルールの条件スクリプトを使用して詳細フィルタールールを有効にするためのオプション。
リソースへの影響がなくなったとき	影響を受けるリソースがない場合に、ダッシュボードからアラートを消す必要があることを示すオプション。
フィード条件	設定されたルールに基づいてアラートをフィルタリングするための条件。
詳細条件スクリプト	詳細条件スクリプトの構成。このフィールドは、[詳細] オプションが選択されている場合に表示されます。条件 (アクティブなアラートなど) に基づいてフィードをフィルタリングするスクリプトを入力します。

アラートアクションの設定

BCM 構成可能ワークスペースのクライシスマップインターフェイスからアラートアクションを設定します。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.program_manager

このタスクについて

クライシスマップインターフェイスからアラートを開いたり閉じたりすることができます。詳細については、「マップインターフェイスからのアラートの管理」を参照してください。

手順

1. 移動先 脅威とアラートのデータフィード > アドミニストレーション > アラートアクション.
   ベースシステム内で使用できるアラートアクションは次の 2 つです。

名前	説明
通知	影響半径内にいるステークホルダーと資産アドミニストレーターにメール通知を送信するために使用されます。
危機を宣言	アラートと重要な資産の組み合わせを危機イベントとして宣言するために使用されます。

2. 新しいアラートアクションを追加するには、[新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。
   フィールドの詳細については、「[アラートアクション] フォーム」を参照してください。
4. [送信] を選択します。
   アラートアクションは、危機マップダッシュボードからフォローアップできます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

タスクの結果
アラートアクションが [アラートアクション] レコードページに表示されます。

[アラートアクション] フォーム

BCM UIB ワークスペース の [アラートアクション] フォームを使用して、アラートアクションの詳細を追加します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

[アラートアクション] フォーム

フィールド	説明
タイトル	アラートアクションのタイトル。
説明	アラートアクションの詳細な説明。
名前	危機マップダッシュボードのアクションの名前。
アクション名	アラートアクションの一意の名前。
1 回実行	ダッシュボードからのアクションの 1 回以上の実行を示すオプション。
タイプ	実行するアクションのタイプ。使用可能なオプションは次のとおりです。 • タスク • スクリプト • フロー
タスクタイプ	アラートアクションのタスクタイプ。たとえば、資産タスクやカタログタスクなどです。
アプリケーション	Read-only フィールド。このフィールドは、アクションの一般的なリストから危機管理に関連するアイテムをフィルタリングするためのフラグとして使用されます。
アクティブ	アラートアクションがアクティブであることを示すオプション。
順序	ダッシュボードでの表示順序。
自動的に実行	条件に基づいてアクションを自動的に実行できるようにするオプション。
ロール	タスクを正常に実行できるユーザーロール。
表示フィールド	アクションが実行された後に応答アクションに表示されるフィールド。
条件	アクションを実行する条件。
タスクスクリプト	ユーザーがダッシュボードのアクションのコントロールを選択したときに実行されるタスクスクリプト。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

システムアドミニストレーターによるセットアップ

システムアドミニストレーターは、特定のセットアップタスクを実行して、事業継続性管理 アプリケーションを設定できます。

一般的な管理タスクを設定するには、前提条件データを構成する必要があります。ワークスペースを使用するさまざまなユーザー向けの事業継続性ワークスペースを設定するには、次の構成が必要です。

- 参照フィールドのレコードの数を更新するには、「参照フィールドのレコード数を更新」を参照してください。
- 依存関係アセスメントの要素定義の数を更新するには、「要素定義の数を更新する」を参照してください。
- 事業継続性管理 (BCM) アプリケーションで承認構成を設定するには、「承認構成」を参照してください。
- BCM アプリケーションメニューオプションを参照するには、「BCM ユーザー向けのアプリケーションメニューオプション」を参照してください。

参照フィールドのレコード数を更新

事業継続性管理 (BCM) ワークスペースの参照フィールドに表示されるレコードの数を更新します。*referenceFieldLoadLimit* システムプロパティを設定すると、グリッド構成ページの各参照フィールドに表示されるレコードの数を制御できます。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
次のタブで、参照フィールドの *referenceFieldLoadLimit* システムプロパティを設定できます。

- ビジネスインパクトアナリシスの **[RTO** 影響度評価] タブ、**[RPO** 影響度評価] タブ、および [依存関係アセスメント] タブ
- [計画] の [復旧タスク] タブ
- [演習] の [影響度] タブと [イベントタスク] タブ

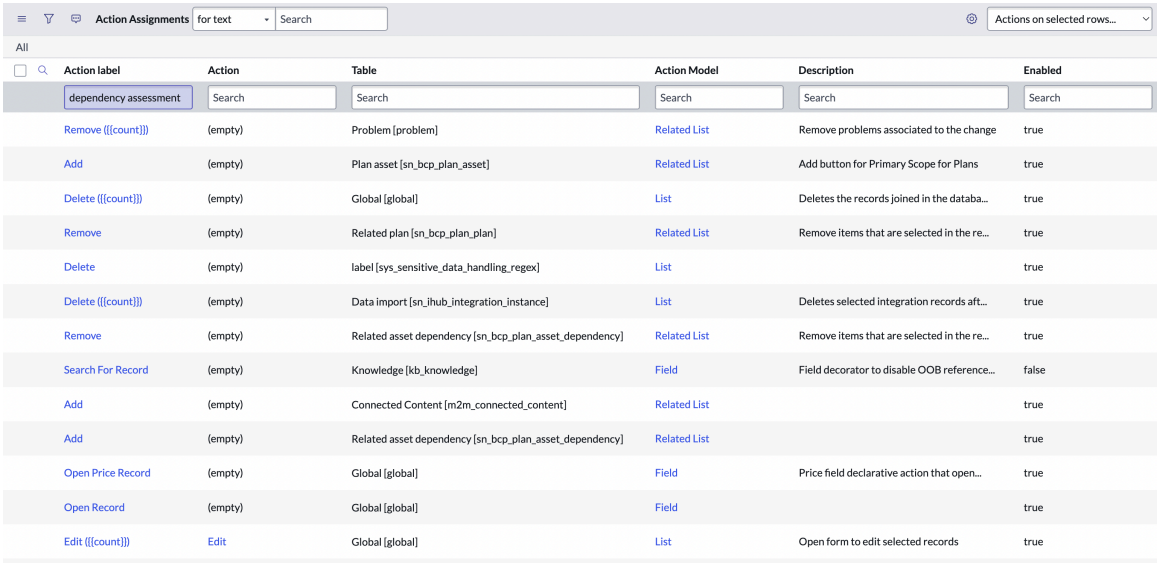
手順

1. 移動先 すべて > **sys_declarative_action_assignment.list** BCM アプリケーションインスタンスで行います。

   次の例に示すように、[アクションのアサイン] テーブルのリストビューが表示されます。

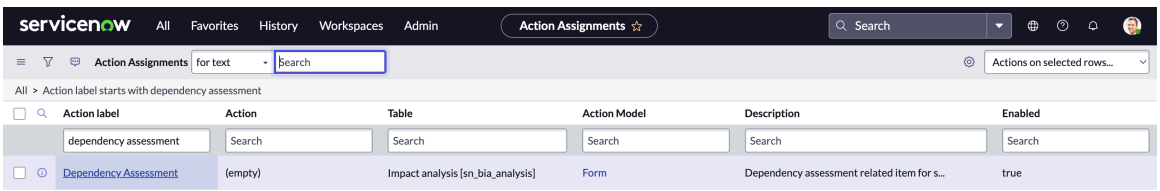
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

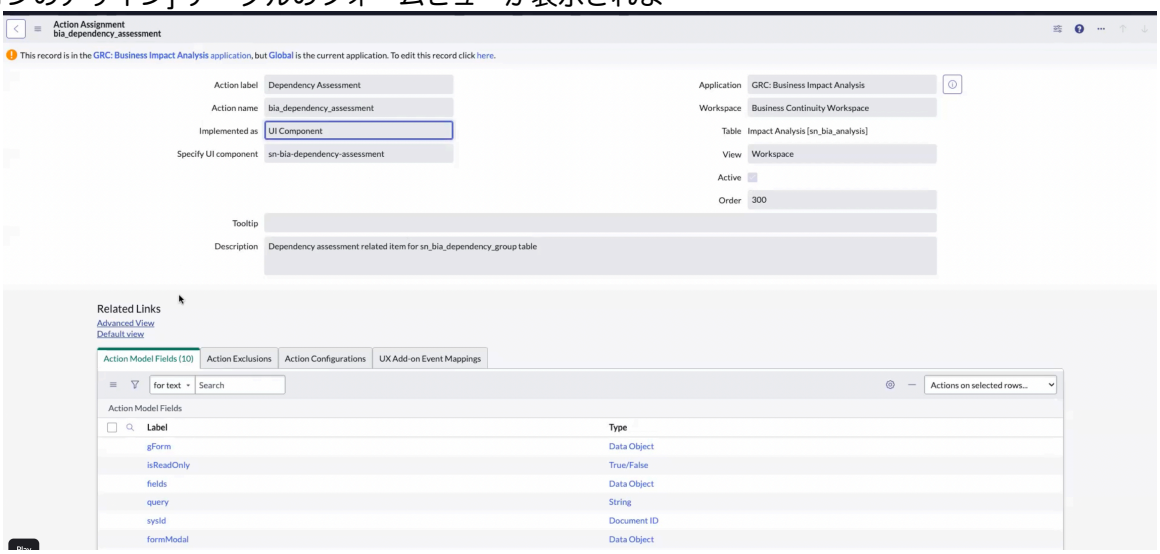


2. [アクションラベル] 列にアセスメントアクションの名前を入力して、アセスメントを選択します。

次の例では、アセスメントのサンプルテキストの文字列が表示されています。



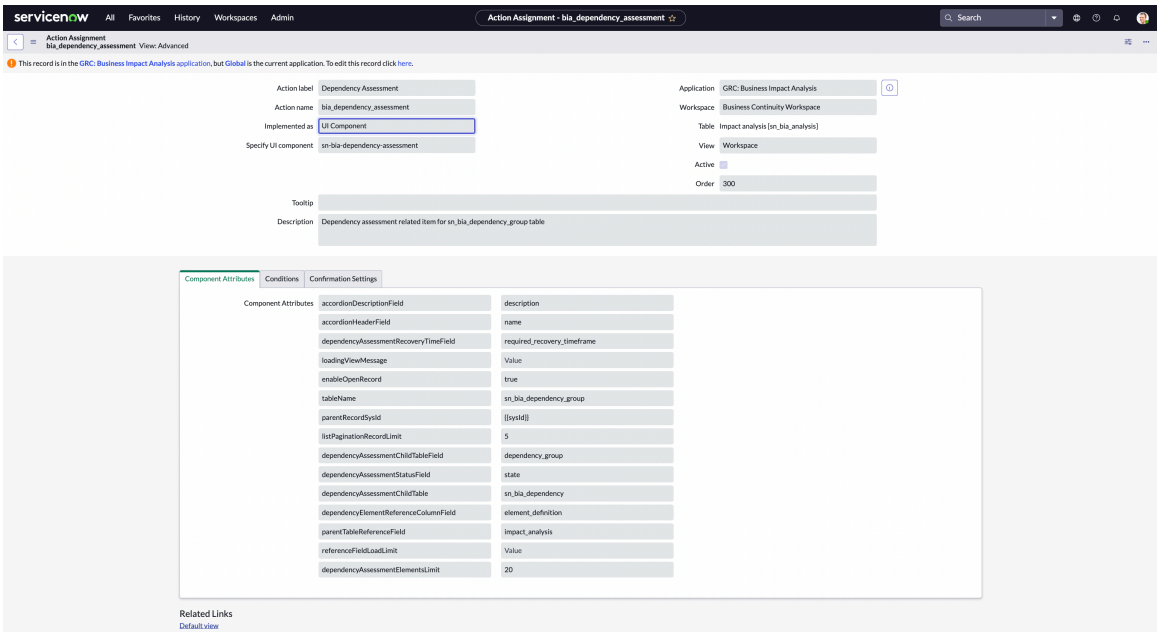
アセスメントを選択すると、次の例に示すように、[アクションのアサイン] テーブルのフォームビューが表示されます。



3. [アクションのアサイン] テーブルのフォームビューで、[詳細ビュー]を選択します。

[詳細ビュー]を選択すると、次の例に示すように、選択したアクションのプロパティが [コンポーネント属性] タブに表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

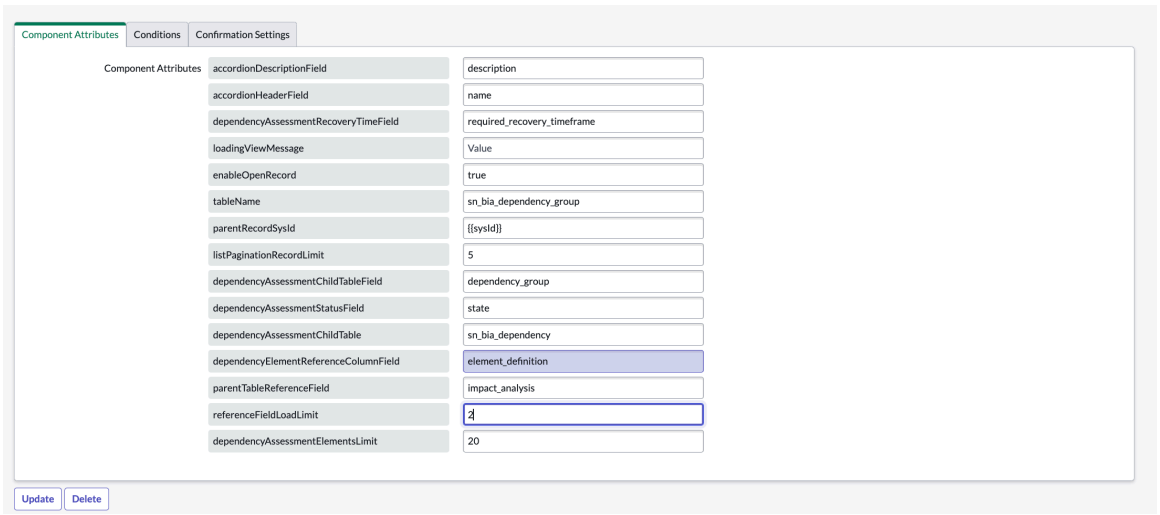


「このレコードを編集するにはここをクリックしてください。」という情報メッセージが画面に表示されます。

4. 選択したレコードの *referenceFieldLoadLimit* プロパティを更新するには、情報メッセージで [ここ] を選択します。

   referenceFieldLoadLimit プロパティを更新することで、グリッド構成ページのレコード数を制御できます。

   次に、*referenceFieldLoadLimit* プロパティの構成例を示します。



5. [更新] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

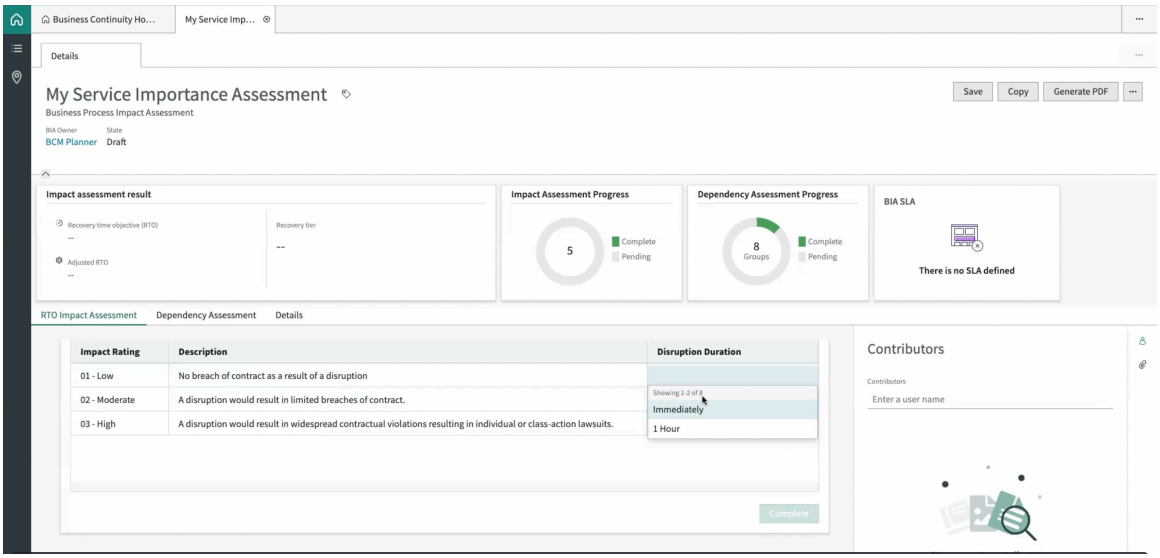
選択したアセスメントの *referenceFieldLoadLimit* プロパティを次の例で示すように構成しまし



た。

注:
このタスクのコンテキストで概説したように、*referenceFieldLoadLimit* プロパティを設定して、さまざまなグリッド構成ページの参照フィールドの数を制御できます。

次の例は、**[RTO** 影響度評価] タブの [中断期間] フィールドで更新されたレコード数を示しています。



要素定義の数を更新する

Business Continuity Management (BCM) ワークスペース の [依存関係アセスメント] タブに表示される要素定義の数を更新します。*dependencyAssessmentElementsLimit* システムプロパティを構成して、ビジネスインパクトアナリシスの依存関係アセスメントに使用される要素定義の数を制御できます。

始める前に

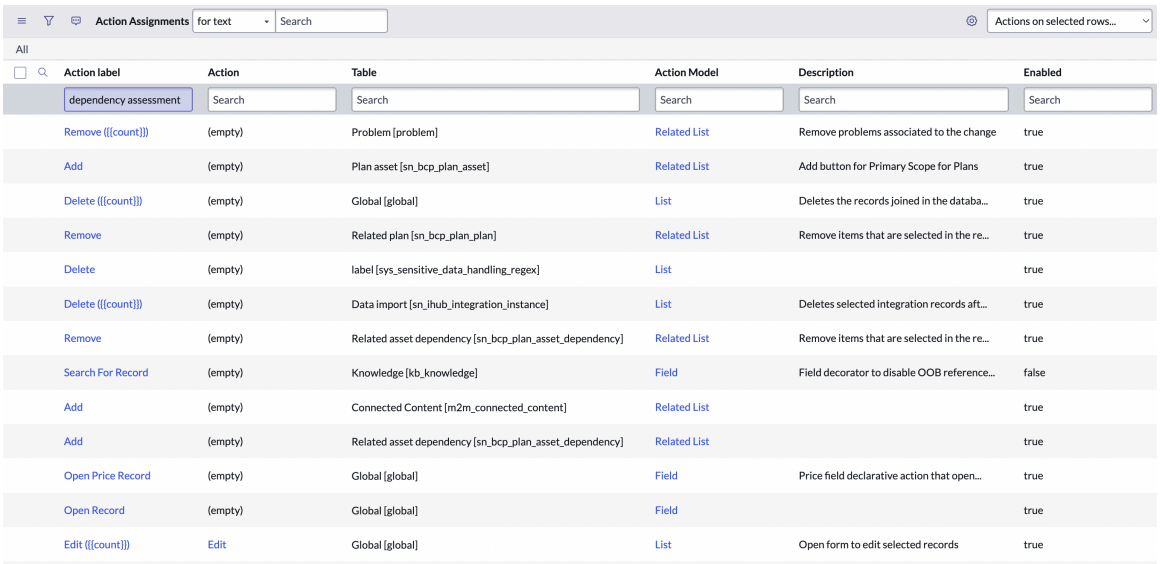
必要なロール：admin

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

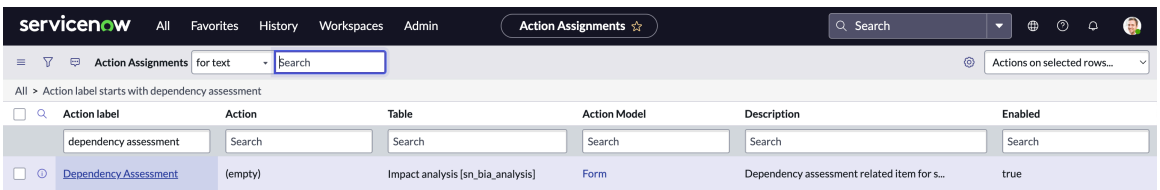
1. 移動先 すべて > **sys_declarative_action_assignment.list** BCM アプリケーションインスタンスで行います。

   次の例に示すように、[アクションのアサイン] テーブルのリストビューが表示されます。

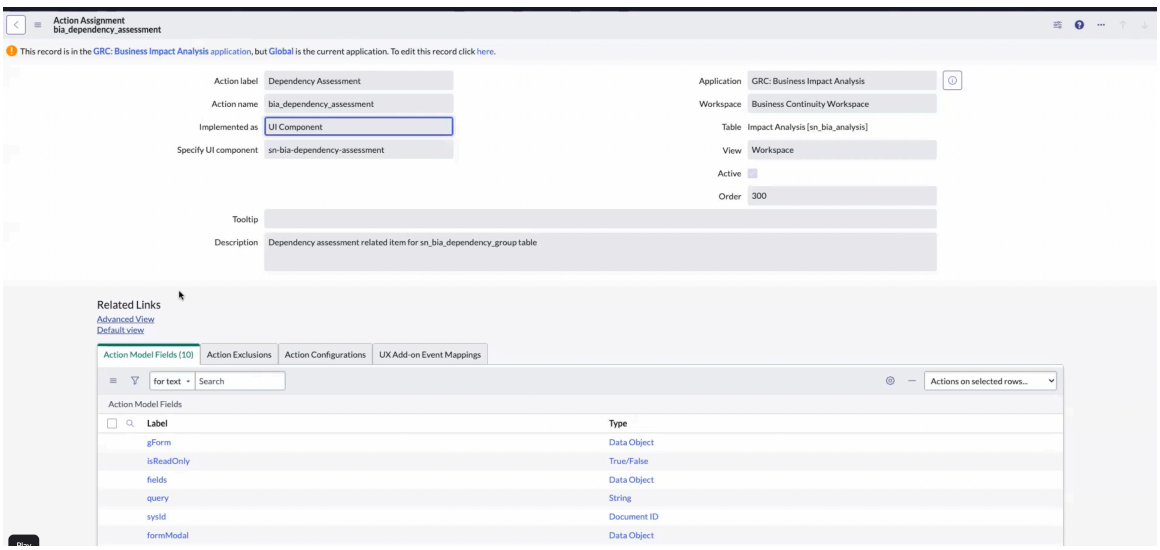


2. [アクションラベル] 列に [依存関係アセスメント] などのアセスメントの名前を入力して、アセスメントを選択します。

   サンプルテキストの文字列が次の例に表示されます。



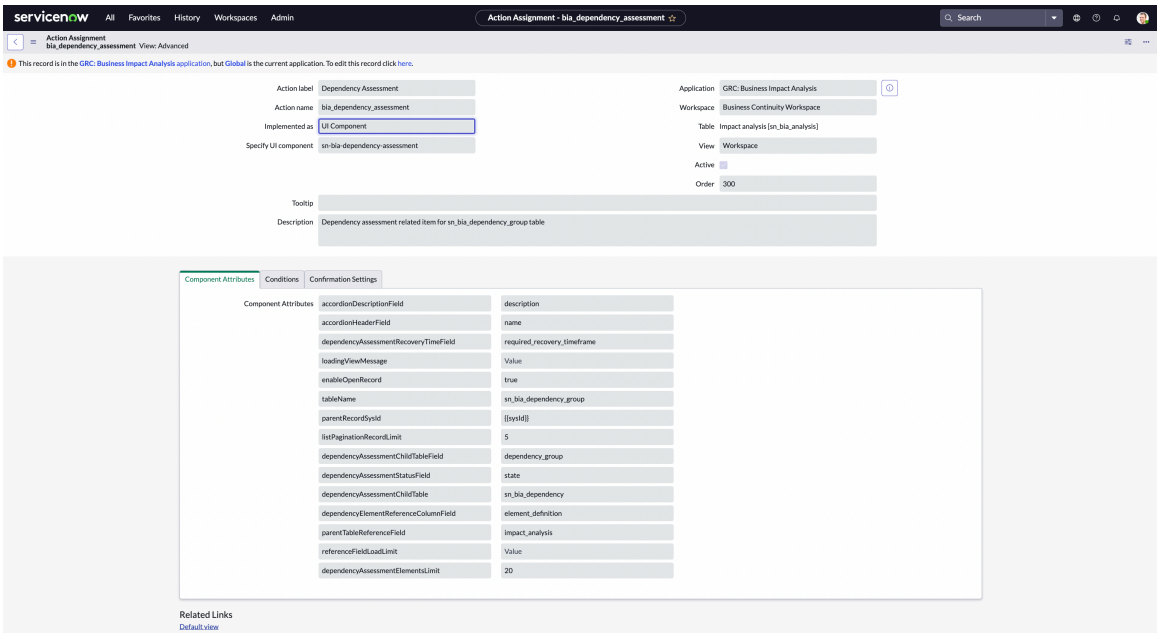
   アセスメントを選択すると、次の例に示すように、[アクションのアサイン] テーブルのフォームビューが表示されます。



3. [アクションのアサイン] テーブルのフォームビューで、[詳細ビュー]を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[詳細ビュー]を選択すると、次の例に示すように、選択したアクションのプロパティが [コンポーネント属性] タブに表示されます。



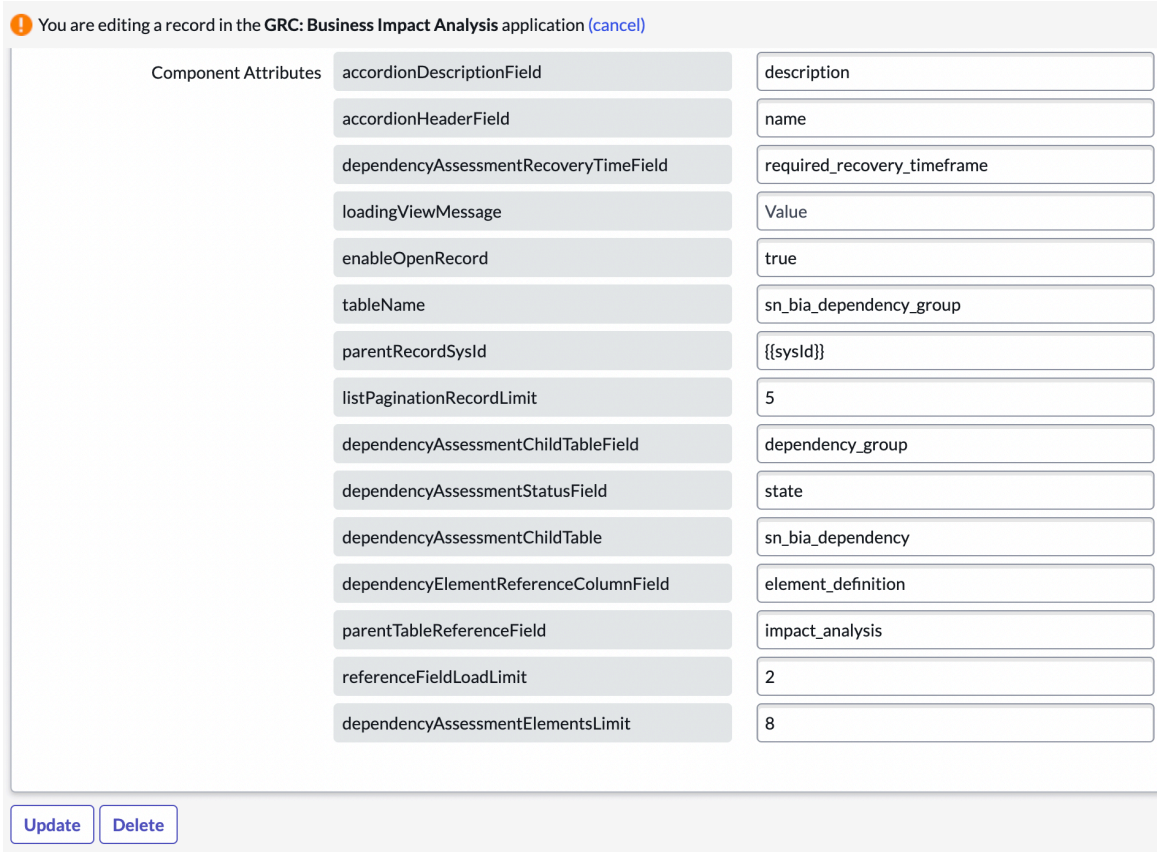
「このレコードを編集するにはここをクリックしてください。」という情報メッセージが画面に表示されます。

4. *dependencyAssessmentElementsLimit* プロパティを更新するには、情報メッセージで [ここ] を選択します。

   dependencyAssessmentElementsLimit プロパティを更新することで、依存関係アセスメントの要素定義の数をコントロールできます。

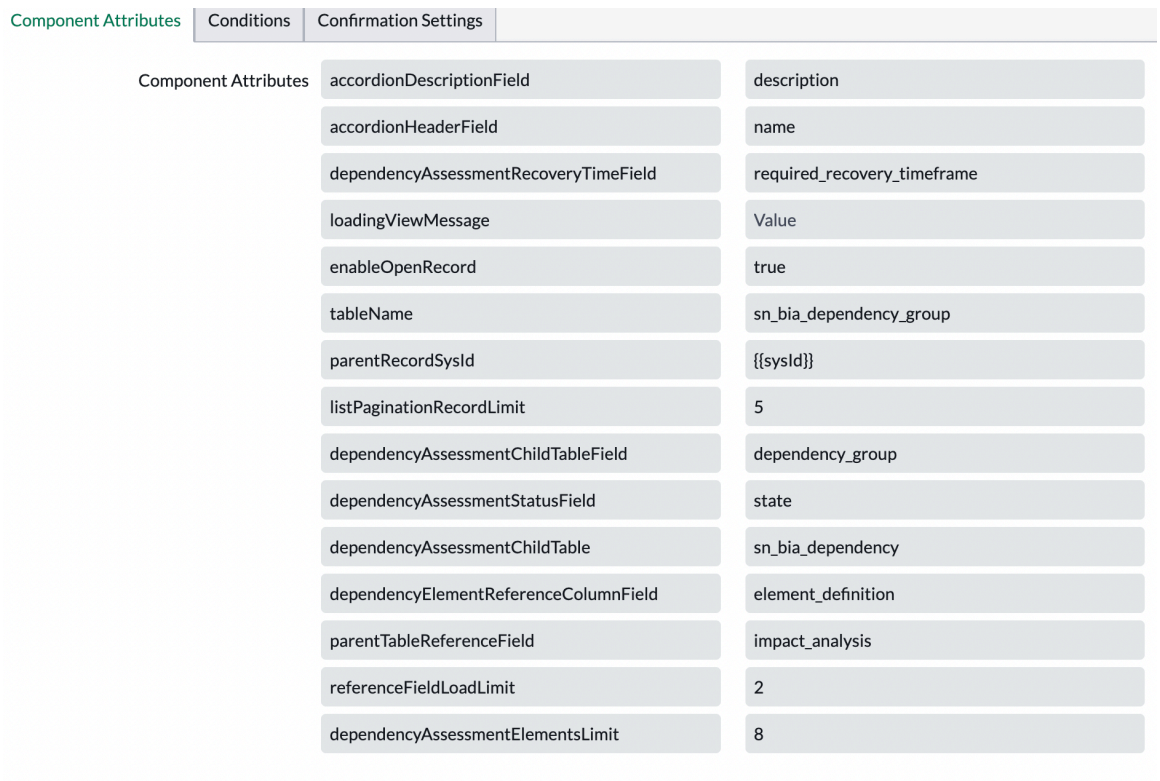
   次に、*dependencyAssessmentElementsLimit* プロパティの構成例を示します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. [更新] を選択します。

dependencyAssessmentElementsLimit プロパティを次の例で示すように構成しました。



要素定義の更新された数は、[依存関係アセスメント] タブに表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

BCM ユーザー向けのアプリケーションメニューオプション

次の表に、事業継続性管理アプリケーションのメインユーザーが表示および移動できるアプリケーションメニューオプションを示します。

BCM アプリケーションメニューオプション

ユーザーロールの詳細については、インストールされるロールの表を参照してください。

	BCM アドミン	BCM アドミニストレーターは、[事業継続性] メニューからすべてのメニューオプションにアクセスできます。 • 事業継続性ワークスペース • ビジネスインパクトアナリシス • 計画 • Crisis Management • BIA 構成 • 計画構成 • 全般管理
	BCM プログラムマネージャー	BCM プログラムマネージャーは、次のメニューオプションを表示してアクセスできます。 • 事業継続性ワークスペース • 影響分析を作成するには: 事業継続性 > ビジネスインパクトアナリシス > 影響分析 • 計画を作成するには: 事業継続性 > 計画 > プラン • イベントを作成するには: 事業継続性 > 危機管理 > イベント

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

	BCM 計画者	BCM 計画者は、次のメニューオプションを表示してアクセスできます。 • 事業継続性ワークスペース • 影響分析を作成するには: 事業継続性 > ビジネスインパクトアナリシス > 影響分析 • 計画を作成するには: 事業継続性 > 計画 > プラン • イベントを作成するには: 事業継続性 > 危機管理 > イベント
	BCM ビューアー	ワークスペースを表示するには: 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース

自動翻訳

UI ビルダー 用のセットアップ

UI ビルダー を使用して、BCM ワークスペース ページとコンポーネントを設定および拡張できます。

UI ビルダー について

UI ビルダー は、ネクストエクスペリエンスのコンポーネント とカスタム Web コンポーネント を使用するドラッグアンドドロップ式の Web ユーザーインターフェイスビルダーです。

ワークスペース ページとコンポーネントをビルドしてカスタマイズするには、ui_builder_admin ロールが必要です。

インスタンスの UI ビルダー への移動

アプリケーションインスタンスで、 すべての **Now Experience** フレームワーク**> UI** ビルダー**>** をクリックし、 UI ビルダー ホームページから作業するエクスペリエンスを選択します。

UI ビルダー の使用方法の詳細については、「UI Builder quick start」を参照してください。

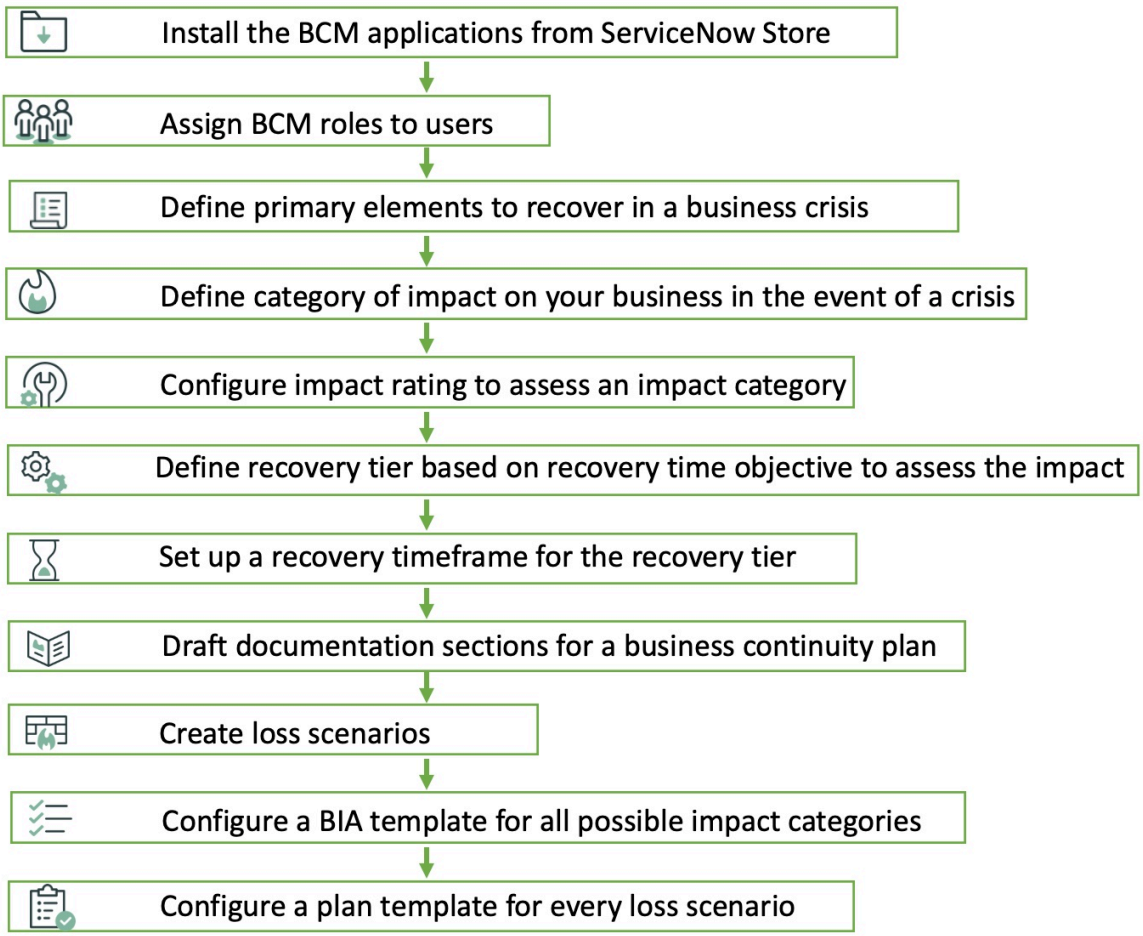
事業継続性管理 の実装

事業継続性管理 アプリケーションチェックリストのステップに従って ServiceNow Store から 事業継続性管理 をダウンロードし、操作の準備をします。

チェックリストの実装ステップのフローを次に示します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

BCM 実装チェックリストのグラフィカルフローチャート



チェックリストに関する情報

*Graphical flowchart of BCM implementation checklist*に記載されている手順の詳細については、以下のセクションを参照してください。

- ServiceNow Store から 事業継続性管理 をインストールするには、「事業継続性管理からの ServiceNow Store のインストール」を参照してください。
- BCM ロールの詳細については、「事業継続性管理とともにインストールされるコンポーネント」を参照してください。
- フローチャートにリストされている管理セットアップの詳細については、「BCM の全般管理セットアップ」を参照してください。以下のタスクについては、このセクションを参照してください。
  - ビジネス危機から回復するための主要な要素を定義するには、「要素定義の構成」を参照してください。
  - 危機発生時のビジネスへの影響のカテゴリを定義するには、「BIA の影響度カテゴリの構成」を参照してください。
  - 影響度カテゴリを評価するための影響度評価を構成するには、「影響度評価の構成」を参照してください。
  - 目標復旧時間に基づいて復旧階層を定義して影響を評価するには、「BIA の復旧階層の構成」を参照してください。
  - 復旧階層の復旧の解決までの期限を設定するには、「復旧の解決までの期限の設定」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 事業継続性計画のドキュメントセクションのドラフトを作成するには、「ドキュメントセクションを構成」を参照してください。
- 損失シナリオを作成するには、「計画での損失シナリオの構成」を参照してください。

- 影響度カテゴリの BIA テンプレートを構成するには、「従来のアセスメントを使用した BIA テンプレートの構成」を参照してください。

> **注:**
> BCM UIB ワークスペースでビジネスインパクトアナリシスを作成すると、BCM リードを BIA フォーム自体の分析にアサインできます。

- 損失シナリオの計画テンプレートを構成するには、「計画テンプレートの構成」を参照してください。

> **注:**
> BCM UIB ワークスペースで事業継続性計画を作成すると、BCM リードを BCP フォーム自体の分析にアサインできます。

クラシックでの **BCM** のセットアップ ワークスペース

事業継続性管理 (BCM) アプリケーションをセットアップして使用するには、特定の前提条件データを設定する必要があります。

BCM アプリケーションデータを構成すると、あらゆる種類の危機に必要なテンプレートをワークスペースに装備できます。アイテムや資産などの要素を定義し、影響度を分類し、復旧の階層レベルと期間を設定できます。BCM ユーザーは、ワークスペースでタスクを完了するために必要なすべての正しい最新のデータを見つけることができます。

ワークスペースを使用するさまざまなユーザー向けの事業継続性ワークスペースを設定するには、次の構成が必要です。

- スコープ対象の BCM アプリケーションに対するユーザーロールとアクセス制御の制限については、「事業継続性管理とともにインストールされるコンポーネント」を参照してください。
- 要素定義を設定するには、次を参照してください。 の要素定義の構成 事業継続性管理.
- 影響度カテゴリを設定するには、次を参照してください。 の影響度カテゴリの構成 事業継続性管理.
- 影響度カテゴリの影響度評価を設定するには、「影響度カテゴリを評価するための影響度評価の構成」を参照してください。
- 影響度を評価するための復旧階層を構成するには、「影響度評価のための復旧階層の構成」を参照してください。
- 復旧階層の復旧期間を設定するには、「復旧階層の復旧期間の設定」を参照してください。
- 計画のドキュメントセクションを構成するには、「事業継続性計画のドキュメントセクションの構成」を参照してください。
- 列表示用のグリッドを構成するには、「BIA 依存関係アセスメントでの列表示用のグリッドの構成」を参照してください。
- 損失シナリオを特定して計画に追加するには、「損失シナリオの計画の構成」を参照してください。
- BIA テンプレートを構成するには、「ビジネスインパクトアナリシステンプレートの構成」を参照してください。

自動翻訳

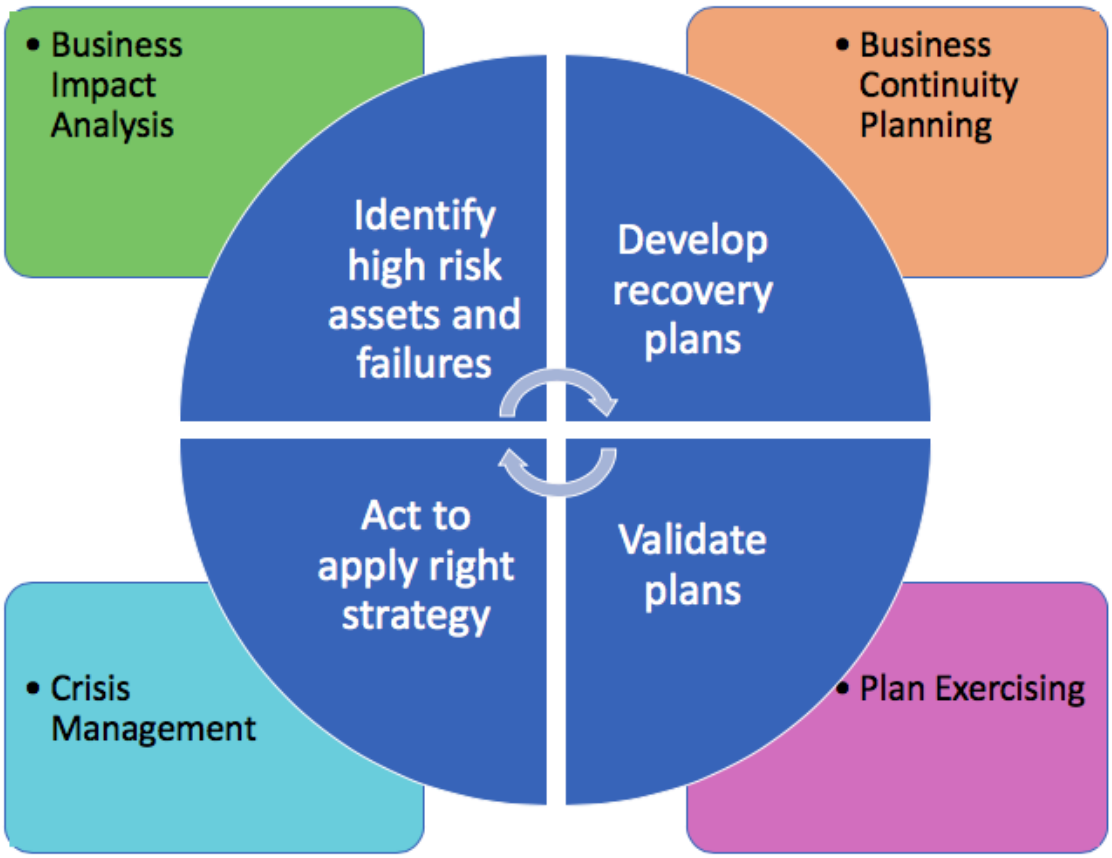
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- BCP テンプレートを構成するには、「事業継続性計画テンプレートの構成」を参照してください。
- さまざまな BCM ユーザーが利用できるアプリケーションメニューオプションについては、「事業継続性管理ユーザー用のアプリケーションメニューオプション」を参照してください。

BCM UIB ワークスペース 横向き

BCM UIB ワークスペース をコンソールのように使用して、事業継続性タスクを表示および管理します。ビジネスインパクトアナリシス、事業継続性計画、演習、および危機イベントを監視、実行、レビュー、およびレポートできます。

BCM アプリケーションの統合



事業継続性管理 の要素定義の構成

要素定義を構成して、ビジネスインパクトアナリシスで評価し、事業継続性計画で復旧する必要がある構成アイテムを特定します。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.admin

手順

1. 移動先 事業継続性 > 全般管理 > 要素定義.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[要素定義] フォーム

フィールド	説明
名前	要素定義の名前。
ソーステーブル	構成アイテムのレコードの詳細を格納するテーブル。
ソーステーブルフィールド	参照用に選択できるソーステーブルの列見出し。
データのバックアップが必要	プライマリ要素にデータのバックアップが必要かどうかを示すオプション。技術資産は、システムまたはデータベースに保存されている重要な IT 情報に関連するため、データのバックアップが必要です。 「ビジネスインパクトアナリシスの詳細を表示する」を参照してください。

4. [送信] をクリックします。

影響度カテゴリを評価するための影響度評価の構成

ビジネスのダウンタイムが発生したときの損失の程度を測定できるように、各カテゴリの評価を構成します。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin

このタスクについて
影響度評価を定義して、影響度カテゴリを低、中、高、または重大として評価できます。

手順

1. 移動先 事業継続性 > 全般管理 > 影響度評価.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

[影響度評価] フォーム

フィールド	説明
名前	影響度評価の名前。
値	影響度評価の数値。
影響度カテゴリ	影響度のカテゴリ。たとえば、人員の影響、規制の影響、収益の影響などです。
影響分析の質問	このフィールドは、ビジネス中断の影響度カテゴリが RPO に寄与している場合に表示されます。
許容範囲	RTO の影響を許容範囲内として有効にするためのオプション。このチェックボックスは、影

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	響度カテゴリが RTO に寄与する場合にのみ表示されます。
説明	影響度評価に関する簡単な説明

4. [送信] をクリックします。

影響度評価のための復旧階層の構成

復旧階層を構成して使用し、単一の復旧時間と名前を、目標復旧時間 (RTO) 値の類似する範囲に割り当てます。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin

このタスクについて
復旧階層は、サポートレベル、エスカレーション、コミュニケーションなどの組織の期待とも関連付けられています。
復旧階層は次の領域で使用されます。

- BIA スコアおよび影響度評価結果
- 要素復旧時間

復旧階層の例を次に示します。

- 階層 1 – ミッションクリティカル：2 時間の RTO。
- 階層 5 – 重要ではない：1 週間の RTO。

復旧階層の数に制限はありませんが、組織内で 4 ～ 6 の復旧階層を設定できます。

注:
復旧階層は、最も近い復旧階層の最大時間を選択することで、BIA と要素 RTO で自動的に計算されます。

手順

1. 移動先 事業継続性 > 全般管理 > 復旧階層.
2. **[New]** をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

[復旧階層] フォーム

フィールド	説明
名前	復旧階層レベルの名前。
目標復旧時間	災害後にビジネスの要素をどの程度迅速に復旧する必要があるかを計算するメトリクス。

4. [送信] をクリックします。

BIA 依存関係アセスメントでのグリッド構成

列表示用のグリッド構成は、要素に対応する依存関係グリッド内の特定の列をキャプチャするのに役立ちます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

構成テーブルからフィールドを選択して、各依存関係グループグリッドに目的の列を表示するように、次の構成を設定します。

- BIA 依存関係アセスメントグリッドの要素変数の設定
- BIA 依存関係アセスメントでのグリッド構成の設定

BIA 依存関係アセスメントグリッドの要素変数の設定

機能システムアドミニストレーターは、要素の特定の依存関係に必要な特定のカスタム列である要素変数を設定できます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. 移動先 すべて > 事業継続性 > 全般管理 > 要素変数.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

[要素変数] フォーム

フィールド	説明
モデル	要素定義 [sn_bcm_element_definition] 参照。要素定義に対して複数の要素変数を作成できます。
タイプ	モデルテーブルのフィールドクラス。
ラベル	BIA 依存関係グリッドの依存関係グループに名前を表示します。
列名	テーブル内の列名。
有効	要素変数をアクティブにするオプション。
読み込み専用	要素変数を読み取り専用として表示するオプション。
必須	要素変数を必須として設定するオプション。
表示	要素変数を表示するオプション。
レポートを有効にする	要素変数をレポートするオプション。
参照仕様	
参照	要素変数を含むテーブルへの参照。
参照修飾子の条件	参照用に設定されたフィルター条件。
選択リストの仕様	
選択肢	リスト選択肢の仕様。
デフォルト値	
デフォルト値	デフォルト値の説明。

4. [送信] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

BIA 依存関係アセスメントでのグリッド構成の設定

構成された列で BIA 依存関係アセスメントグリッドをレンダリングするようにグリッド構成を設定します。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin

手順

1. 移動先 すべて > 事業継続性 > 全般管理 > グリッド構成.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

[グリッド構成] フォーム

フィールド	説明
名前	グリッド構成の名前
グリッドカテゴリ	構成が適用されるグリッドカテゴリ。例：DEP_ASSMNT。
要素定義	BIA で評価される構成アイテム。グリッドカテゴリで、[要素コンテキストを有効にする] が true の場合、グリッド構成は要素に基づく必要があります。
有効	レコードをアクティブに設定するオプション。このオプションが無効になっている場合、グリッドは構成されたビューに基づいてレンダリングされます。カテゴリと要素に対してアクティブにできる構成は 1 つに限定されます。
グリッド列の設定	
フィールドソース	フィールドはこのソースから選択する必要があります。たとえば、依存関係、要素、要素変数テーブルなどです。
ソーステーブル	フィールドを含むテーブル。
フィールド	フィールドの名前
順序	グリッド内の列の表示順序。
フィルターを有効にする	列にフィルターを設定するオプション。
グループ化を有効にする	列のグループ化を有効にするオプション。
ソートを有効にする	列のソートを有効にするオプション。

4. [送信] をクリックします。

復旧階層の復旧期間の設定

インシデントまたは危機が発生してから通常業務を再開できるまでの復旧期間を設定します。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 事業継続性 > 全般管理 > 復旧の解決までの期限.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

[復旧期間] フォーム

フィールド	説明
名前	復旧期間の名前。
開始時刻	復旧期間の開始時間。復旧操作を開始する時刻。

4. [送信] をクリックします。

ドキュメントセクションの構成

構造化されたセクションで計画を説明する計画のドキュメントセクションを構成し、高レベルの詳細、計画の目的、計画の目的と範囲を説明するスコープ、その目標と成功基準のチェックリストを提供します。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin

手順

1. 移動先 事業継続性 > 全般管理 > ドキュメントセクション.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

[ドキュメント] セクションフォーム

フィールド	説明
名前	ドキュメントセクションの名前。
タイトル	ドキュメントセクションのタイトル。
説明	ドキュメントセクションに関する簡単な説明。
デフォルトテキスト	ドキュメントセクションに関連するデフォルトのテキスト。このテキストは、後に計画が策定されてドキュメントセクションが追加された時点で、計画に応じて編集できます。

4. [送信] をクリックします。

損失シナリオの計画の構成

損失シナリオを特定して文書化することで、発生する可能性のある特定の災害に対するニーズと要件を計画に含めることができます。潜在的な脅威ごとに固有の復旧手順が必要であり、損失シナリオの必要性はそれぞれ異なります。潜在的な影響を受ける損失に対応して運用を維持できるように、計画を立案する必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin

このタスクについて
対応する計画を作成できる損失シナリオを定義する機能を設定します。その後、計画テンプレートに損失シナリオを含めて、BCM プログラムマネージャーと計画オーナーがすべての重大な潜在的損失シナリオを考慮できるようにします。

手順

1. 移動先 事業継続性 > 全般管理 > 損失シナリオ.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

[損失シナリオ] フォーム

フィールド	説明
シナリオ名	影響シナリオの名前
影響を受ける要素	損失シナリオのために影響を受けるアイテムまたは資産。
Description (説明)	損失シナリオに関する簡単なメモ。

4. [送信] をクリックします。

ビジネスインパクトアナリシステンプレートの構成

ビジネスインパクトアナリシス (BIA) テンプレートを定義して、BIA を作成し、標準のオブジェクトタイプを割り当てます。オブジェクトタイプは、ビジネスプロセス、アプリケーション、施設などであり、それらの影響度は BIA で評価されます。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin

このタスクについて
BIA テンプレートを構成すると、次のことができます。

- テンプレートを使用するプライマリオブジェクトタイプを定義します。
- BIA 中に評価する特定の影響度カテゴリを選択します。
- BIA 中に特定する必要がある依存関係のタイプを定義します。

プライマリ要素のビジネスインパクトアナリシスを行うときは、要素にデータのバックアップが必要かどうかに基づいて、その復旧時間を評価することもできます。プライマリ要素がサーバーまたはデータベースに関連する技術資産である場合は、重要な情報が保存され、ビジネス価値を高めるため、データのバックアップが必要です。目標復旧時間または目標復旧時点のどちらかに寄与する影響度カテゴリをフィルタリングできます。これは、影響分析を行うときに重要なプライマリ要素の復旧目標を特定するのに役立ちます。

評価されたプライマリ要素がデータのバックアップを必要とする場合 (要素定義フォームで [データのバックアップが必要] フィールドが [はい])、それらが目標復旧時点または目標復旧時間に貢献するかどうかを示すすべての影響度カテゴリが [影響カテゴリ] フィールドに表示されます。プライマリ要素がデータのバックアップを必要としない場合は、RTO に寄与する影響度カテゴリのみが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 事業継続性 > **BIA** 構成 > **BIA** テンプレート.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

[BIA テンプレート] フォーム

フィールド	説明
名前	BIA テンプレートの名前。
説明	テンプレートについての簡単な説明。
評価されたプライマリー要素	プライマリオブジェクトタイプまたはテンプレートが使用される対象の要素。
影響度カテゴリ	組織が直面する可能性のある影響のカテゴリ。収益、法務、規制、評判などがあります。
依存関係アセスメント	ビジネス機能が依存するアイテムまたは資産のカテゴリ。
CIA を含める	機密性、完全性、および可用性を BIA に含めるオプション。 このフィールドは、[評価されたプライマリー要素] フィールドでデータのバックアップが必要な場合にのみ表示されます。プライマリ要素でデータのバックアップが必要な場合は、[要素定義] フォームでフラグを [はい] に設定します。「Business Continuity Management の要素定義の構成」を参照してください。

4. [送信] をクリックします。

事業継続性計画テンプレートの構成

事業継続性計画 (BCP) テンプレートを構成して、標準オブジェクトタイプを使用して事業継続性計画を作成して割り当てます。オブジェクトタイプには、ビジネスプロセス、アプリケーション、従業員、ハードウェア、ソフトウェアなどがあります。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin

このタスクについて
計画テンプレートを構成すると、次のことができます。

- 復旧する必要があるプライマリオブジェクトタイプを定義する。
- 計画の開始時に含める必要があるドキュメントセクションを定義する。
- テンプレートを使用して損失シナリオを特定し、それに応じて計画する。

手順

1. 移動先 事業継続性 > 計画構成 > 計画テンプレート.
2. [**New**] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. フォームのフィールドに入力します。

[計画テンプレート] フォーム

フィールド	説明
名前	計画テンプレートの名前。
説明	計画テンプレートについての簡単な説明。
復旧したプライマリ要素 (Primary Element Recovered)	計画で復旧対象として識別されたプライマリオブジェクトタイプまたは要素。
計画作成タイプ	このテンプレートを使用して継続性計画を作成するときにオプションとして使用できる、計画のさまざまなフェーズやセクション。これらのオプションは、計画の詳細を完了するときに BCP ワークスペースにタブとして表示されます。 ○ すべて (デフォルト)：このテンプレートを使用する計画には、[ドキュメント]、[損失シナリオ]、[復旧タスク]、[復旧チーム] などのすべてのオプションが表示されます。これらのオプションは、ワークスペースでタブとして表示できます。 ○ ドキュメント：このテンプレートを使用する計画には、選択した依存関係とともにドキュメントオプションが表示されます。[復旧タスク] および [復旧チーム] とともに [ドキュメント] タブをワークスペースに表示できます。 ○ 損失シナリオ：このレプリケーションを使用する計画には、[復旧タスク]、[復旧チーム]、およびその他の選択された依存関係とともに、損失シナリオが表示されます。 ○ 復旧タスク：このテンプレートを使用する計画タイプに関連付けられた復旧タスクと復旧チームを表示します。
グループ復旧タスク	値別のグループに基づいて、復旧タスクグリッドの [グループ] 列でタスクを事前にグループ化するオプション。
グループごと	[グループ復旧タスク] オプションが有効になっている場合にフィールドが表示されます。[グループごと] の値に基づいて [グループ] 列で、復旧タスクが事前にグループ化されます。

4. [送信] をクリックします。

事業継続性管理 の影響度カテゴリの設定

影響度カテゴリを構成して、組織でビジネスプロセスのダウンタイムが発生する期間を定義します。この期間に基づいて、ビジネスプロセスが依存する資産の目標復旧時間 (RTO) を決定できます。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.admin

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

このタスクについて
目標復旧時間 (RTO) の測定は、次のことを確認するのに役立ちます。

- 資産は、親の依存関係をサポートするのに間に合うように復旧される。
- 資産復旧機能のギャップを特定できる。
- 損失シナリオがある場合は、資産の復旧の優先順位が設定される。

RTO ではビジネス機能が復元されるまでの許容時間を計算しますが、目標復旧時点 (RPO) では機能の最大許容データ損失を超えていないことを確認します。

手順

1. 移動先 事業継続性 > 全般管理 > **Impact Category** (影響カテゴリ).
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

[影響度カテゴリ] フォーム

フィールド	説明
名前	影響度カテゴリの名前。
寄与する	ビジネス中断への影響の結果としての RPO または RTO への寄与度。影響度カテゴリが目標復旧時点に寄与している場合、影響分析の質問関連リストが表示されます。
適用可能な解決までの期限	ビジネスプロセス中断の期間。このフィールドは、[寄与する] フィールドの値が [RTO] の場合にのみ表示されます。
最大 RTO 値	中断後にビジネスで要素の復旧が必要になる時間の上限を計算するメトリクス。
説明	影響度カテゴリの簡単な説明。

4. [送信] をクリックします。
5. 影響度カテゴリが目標復旧ポイントに寄与している場合は、[影響度カテゴリ] リストで作成したレコードをクリックします。
   a. [影響分析の質問] 関連リストで [新規] をクリックします。
   b. [質問] フィールドに、影響度カテゴリに関する影響度に関する質問を入力します。
   [影響度カテゴリ] フィールドには、ビジネス影響度のカテゴリが自動的に入力されます。
   c. [説明] フィールドに影響度分析に関する簡単な説明を入力します。
   d. [送信] をクリックします。

BCMワークフロータスクの管理

事業継続性管理 アプリケーションの機能を使用して、BCM 構成可能ワークスペース で事業継続性ワークフロータスクを管理できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

BCM 構成可能ワークスペース での事業継続性タスクの実行

このセクションで概説されているタスクを実行して、組織の事業継続性を管理します。事業継続性ワークスペース (別名 BCM 構成可能ワークスペース) で、ビジネスインパクトアナリシス、事業継続性計画、演習イベントを作成したり、危機イベントを管理したりすることができます。

BCM 構成可能ワークスペース で事業継続性タスクを実行するには、次のセクションを参照してください。

- ビジネスインパクトアナリシスに関連するタスクについては、「BIA 向けの構造化されたワークフロー」を参照してください。
- 事業継続性計画に関連する管理タスクについては、「BCP の構造化ワークフロー」を参照してください。
- 演習イベントに関連するタスクについては、「演習用の構造化ワークフロー」を参照してください。
- 危機イベントに関連するタスクについては、「危機イベントの構造化されたワークフロー」を参照してください。

BIA 向けの構造化されたワークフロー

このセクションで概説するタスクを実行して、事業継続性 ワークスペース (別名 BCM 構成可能ワークスペース) でビジネスインパクトアナリシスを作成します。

一般的に、ビジネスインパクトアナリシスオーナーは次のタスクを実行します。

- ビジネスインパクトアナリシスを作成する。詳細については、「ビジネスインパクトアナリシスの作成」を参照してください。
- 影響度カテゴリを評価し、レビューと承認のために分析を送信する。

  注:
  BIA の承認レコードが既に作成されている場合、[承認] ボタンと [却下] ボタンは BIA フォームに表示されません。

  詳細については、「影響度カテゴリと依存関係の評価」を参照してください。
- BCM リードとして、BIA を承認する。詳細については、「ビジネスインパクトアナリシスの承認」を参照してください。
- 参照用に分析の PDF を生成して保存する。

Xanadu リリースでの BIA の更新

Xanadu リリース以降、次の更新を実装することで、ビジネスインパクトアナリシスの信頼性が向上しました。

- 依存アイテムとその復旧目標 (目標復旧時間 (RTO)、目標復旧時点 (RPO)、復旧階層など) に関する最新の BIA にアクセスします。
- BIA の依存関係アセスメントの列を構成します。
- CMDBから依存関係の自動更新をスケジュールします。
- 更新を手動で確認した後に実行するように構成します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
BIA に承認レコードが作成されている場合、[承認] ボタンと [却下] ボタンは BIA フォームに表示されません。ユーザーが [承認] ボタンまたは [却下] ボタンを表示するには、次の条件を満たす必要があります。

- ユーザーは sn_bia.bia_manager ロールを持っている必要があります。
- BIA は [承認待ち] ステータスである必要があります。
- BIA に承認レコードを作成しないでください。

ビジネスインパクトアナリシスに関する追加情報

- ホームページの [ビジネスインパクトアナリシス] タブの詳細については、「ホームページビュー」を参照してください。
- ビジネスインパクトアナリシスの詳細については、「ビジネスインパクトアナリシス」を参照してください。
- ビジネスインパクトアナリシスで行う管理タスクの詳細については、「ビジネスインパクトアナリシスのためのセットアップ」を参照してください。

影響度カテゴリと評価

影響度カテゴリは、ビジネスインパクトアナリシス中に評価できる影響度のタイプです。組織の BCM アドミニストレーターは、影響カテゴリと、組織でダウンタイムが発生する可能性のある期間を定義する責任を負っています。この情報は、資産の目標復旧時間と目標復旧時点を決定するために使用されます。

影響度カテゴリの大まかな分類

破壊的なイベントが原因でビジネスサービスやプロセスやアプリケーションでダウンタイムが発生した場合、その影響はさまざまなカテゴリに大まかに分類できます。

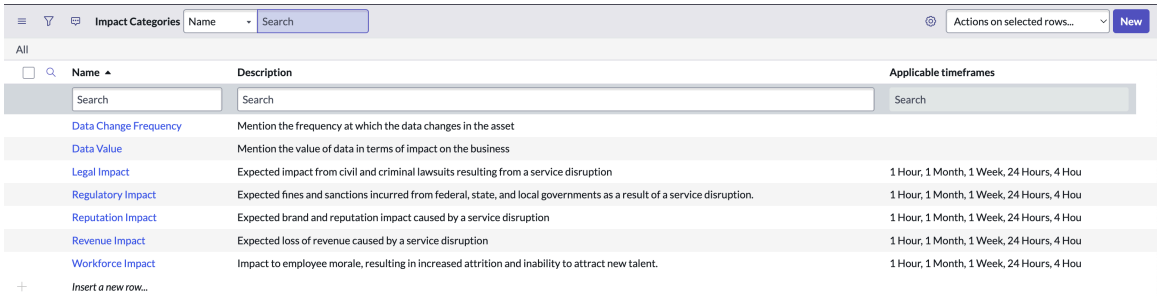
- 法的影響：サービス中断に起因する民事訴訟や罰金などの法的な影響を伴う影響として分類されます。
- 規制上の影響：既存の規制の変更や新しいポリシーの導入による影響として分類されます。
- 評判への影響 (Reputation impact)：会社のブランドイメージや評判への影響として分類されます。
- 収益への影響：財務的損失または収益の低下による影響として分類されます。
- 人員への影響(Workforce impact)：破壊的なイベントが人員に与える影響として分類されます。たとえば、パンデミック後にある会社の離職率が上昇し、従業員の士気が低下するなどです。

BCM の影響度カテゴリ

BCM アドミンロールを持っていると、デモデータとともにインストールされている影響度カテゴリを確認して、BCM アプリケーションの [影響度カテゴリ] モジュールで新しい影響度カテゴリを設定できます。次の例は、デモデータとともにインスタンスにインストールされている影響度カテゴリを示しています。

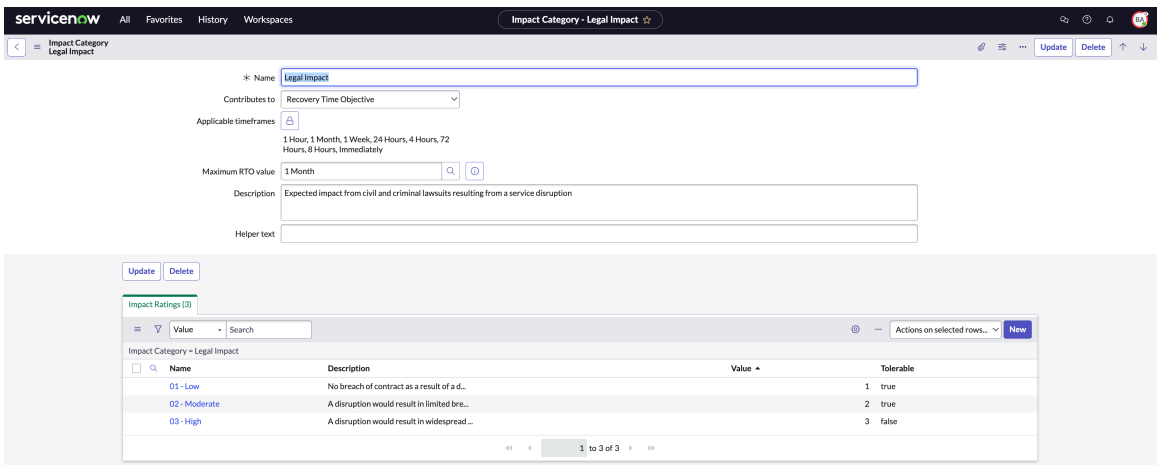
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



影響度カテゴリの構成

BCM アドミニストレーターは、影響度に関する主要な情報を追加することで、影響度カテゴリを構成したり変更したりできます。次の例は、インスタンス内の影響度カテゴリの構成の詳細を示しています。



BCM アドミニストレーターは、新しい影響度カテゴリについて、次の詳細を設定できます。

名前

法的影響や評判への影響など、影響に適した名前を追加して、サービス、プロセス、またはアプリケーションのダウンタイムの影響を分類します。

寄与する

影響が目標復旧時間と目標復旧時点のどちらに寄与するかを選択します。

適用可能な解決までの期限

影響度カテゴリに適用可能な期間を設定します。

最大 RTO 値

影響度カテゴリの最大 RTO 値を定義します。

説明

影響度カテゴリの説明を追加します。

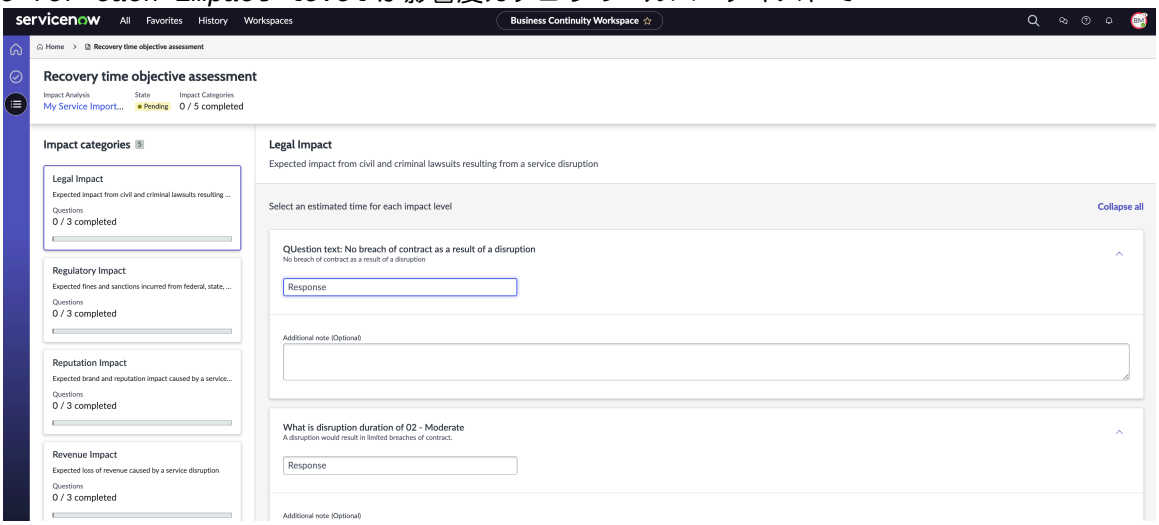
ヘルパーテキスト

アセスメントの質問にどう回答するかのヒントをユーザーに提供するヘルパーテキストを追加します。ヘルパーテキストは、ビジネスインパクトアナリシスレコードの中でユーザーに表示されます。次の例では、*`Select an estimated`*

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

`time for each impact level` が影響度カテゴリのヘルパーテキストで



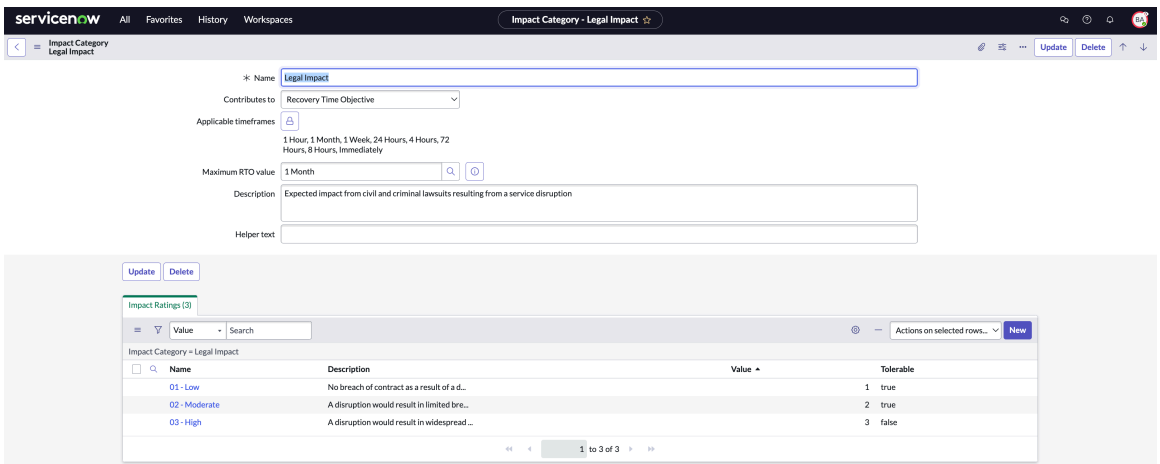
す。

アドミニストレーターによる影響度カテゴリの構成

sn_bcm.admin ロールで影響度カテゴリを構成する方法の詳細については、「BIA の影響度カテゴリの構成」を参照してください。

BCM での影響度評価

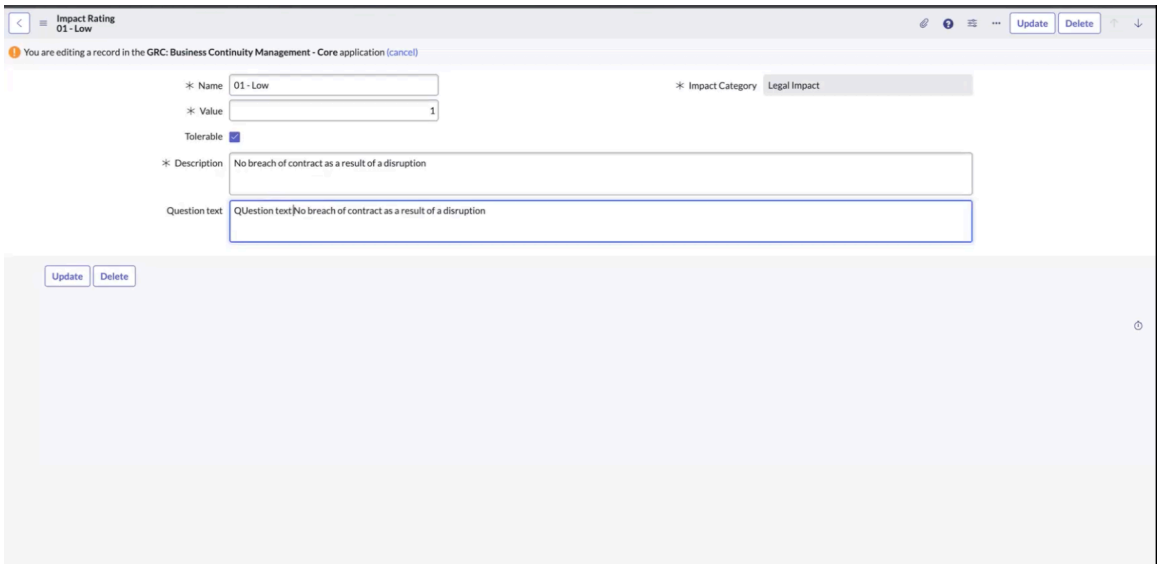
BCM アドミンロールを持っている場合は、デモデータとともにインストールされている影響度評価を確認して、[影響度評価] モジュールで具体的な影響度評価を定義できます。次の例は、影響度カテゴリのデモデータとともにインストールされている影響度評価を示しています。



影響度カテゴリの影響度評価を、次の例で示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



影響度評価の構成

BCM アドミニストレーターは、ビジネスインパクトアナリシスの影響度評価について、次の詳細情報を設定できます。

名前
: 影響度評価に固有の名前を割り当てます。

影響度カテゴリ
: 影響度評価が関連付けられている影響度カテゴリを分類します。

値
: それぞれの影響度評価に固有の数値を割り当てます。同じ値を BCM アプリケーション内の他の影響度評価に再利用することはできません。

許容範囲
: RTO の影響を許容範囲内として有効にするためのオプションを選択します。このチェックボックスは、影響度カテゴリが目標復旧時間に寄与する場合にのみ表示されます。

説明
: 影響度評価に関する説明を追加します。

質問のテキスト
: 影響度カテゴリの目標復旧時間の影響度評価レコード内の質問のテキストを変更します。変更された質問は、ビジネスインパクトアナリシスレコードの RTO アセスメントフォームに表示されます。

アドミニストレーターによる影響度評価の構成

sn_bcm.admin ロールで影響度評価を構成する方法の詳細については、「影響度評価の構成」を参照してください。

RTO、RPO、復旧階層

予期しない中断イベントが原因で、組織内のビジネスプロセスがダウンタイムに直面する可能性があります。ビジネスプロセスを復旧階層に分類し、組織が運用に大きな影響を与えることなく処理できるデータ損失の時間と量を計算することが重要です。

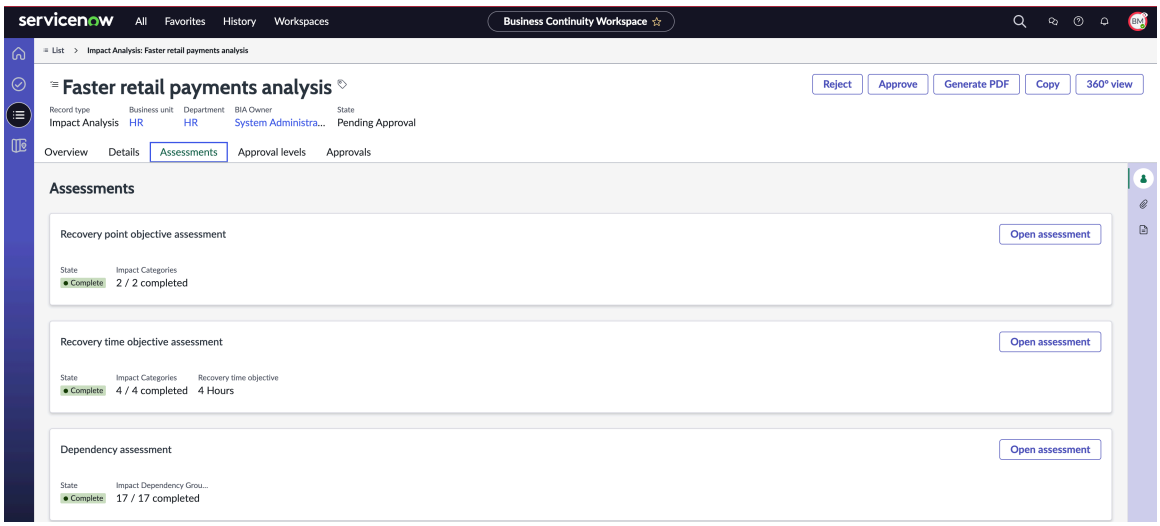
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

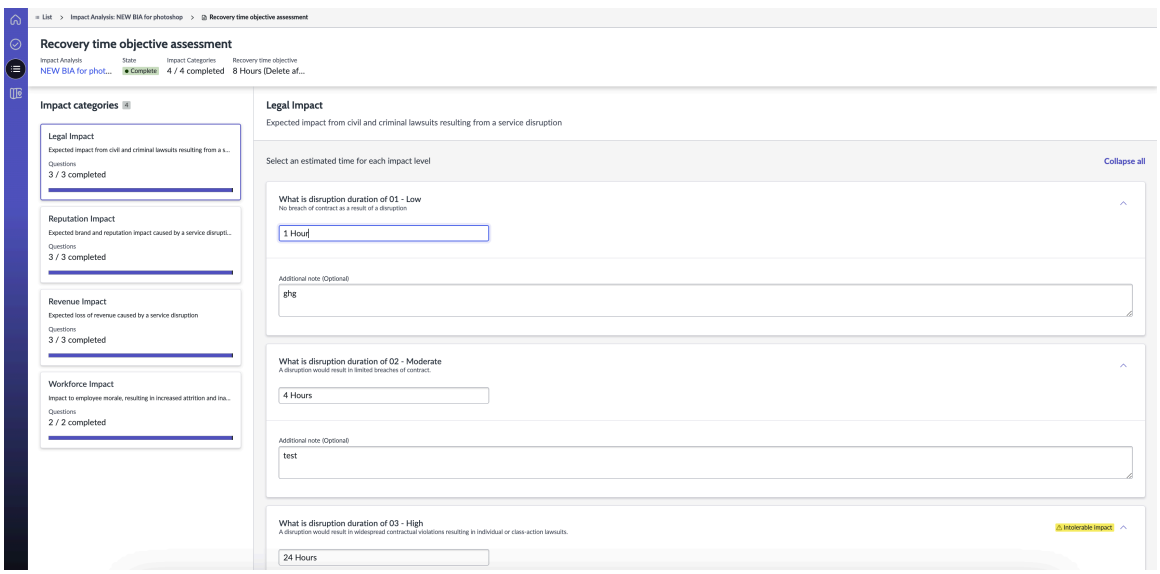
達成目標復旧時間

目標復旧時間 (RTO) は、コンピューター、システム、ネットワーク、またはアプリケーションが機能停止イベントやデータ損失の後にビジネスオペレーションに大きな影響を与えることなく復旧するためにかかる最大時間です。

ビジネスユーザーと IT オーナーは、BCM UIB ワークスペース の BIA コンポーネントのアセスメントに応答することで、それぞれビジネスインパクトアナリシスと技術的影響分析を実行できます。[アセスメント] タブのサンプルビューを次の例に示します。



ビジネスユーザーの場合は、[アセスメント] タブの [目標復旧時間のアセスメント] に応答することで、ビジネスサービスとプロセスの目標復旧時間を見積もることができます。質問は、BCM アドミニストレーターが設定した構成に従って、[目標復旧時間のアセスメント] タブに表示されます。サンプルの目標復旧時間 アセスメントとデモデータを次の例に示します。



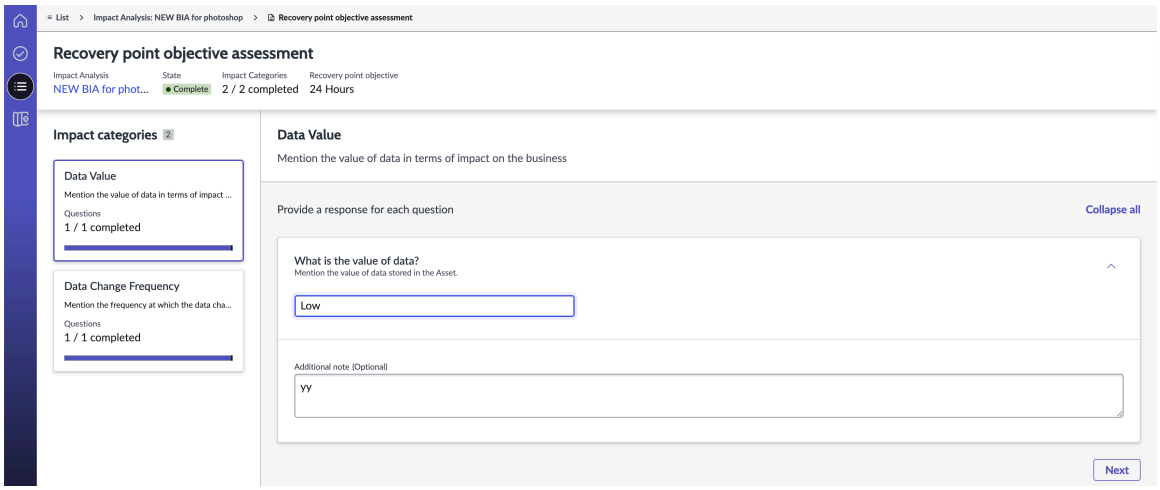
達成目標復旧ポイント

目標復旧時点 (RPO) は、ビジネスプロセスが運用に大きな影響を与えることなく処理できる最大許容データ損失を定義します。

IT オーナーは、BIA の目標復旧時点アセスメントに応答することで、データアプリケーションとシステムの目標復旧時点を推定できます。次の例に示すように、BCM アドミニストレーターが設定した構成に基づいて、質問が [目標復旧時間のアセスメント] タブに表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

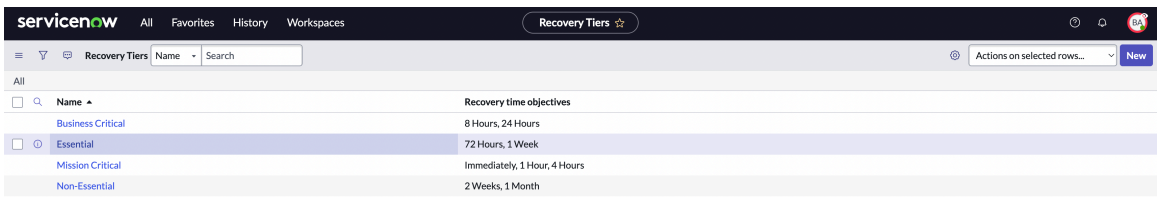
自動翻訳



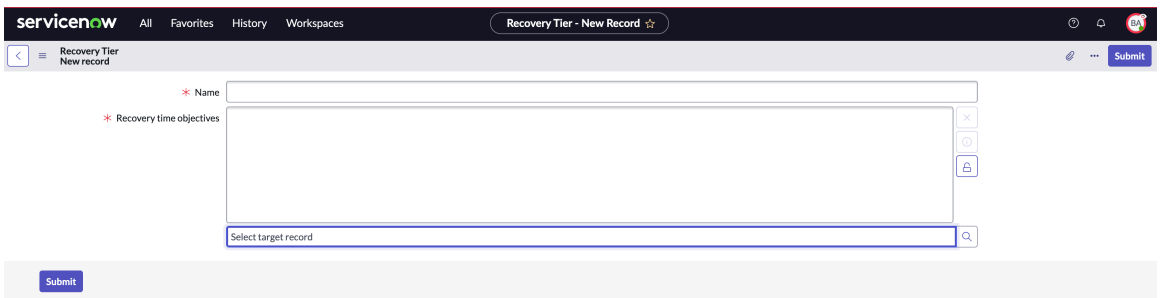
復旧階層

BCM アドミニストレーターは、1 つのタイプの復旧階層で、同様の範囲の目標復旧時間 (RTO) 値に従う一連のビジネスアプリケーションを分類できます。たとえば、ミッションクリティカルな復旧階層の場合、目標復旧時間は [即時]、[1 時間]、[4 時間] にすることができます。

次の例では、復旧階層とそれに関連する目標復旧時間が表示されます。



BCM アドミニストレーターは、次の例に示すように、復旧階層を構成し、その目標復旧時間を設定できます。



復旧階層は、サポートレベル、エスカレーション、コミュニケーションなどの組織の期待とも関連付けられています。復旧階層は次の領域で使用されます。

- BIA スコアおよび影響度評価結果
- 要素復旧時間

復旧階層の数に制限はありませんが、組織内で 4 ～ 6 の復旧階層を設定できます。復旧階層は、最も近い復旧階層の最大時間を選択することで、BIA と要素 RTO で自動的に計算されます。

復旧階層は、重要性と重要度に基づいて分類できます。

- ミッションクリティカル
- ビジネスクリティカル
- 必須

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 必須ではない
- 重大
- 重大ではない

アドミニストレーターによる復旧階層構成

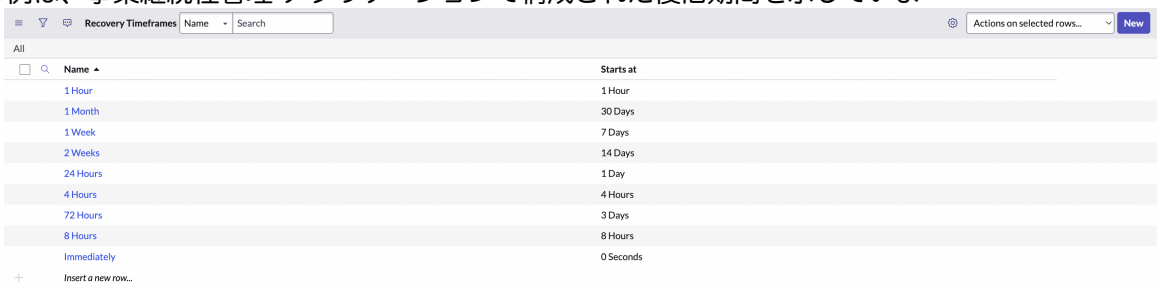
事業継続性管理 アプリケーションで復旧階層を構成する方法の詳細については、「BIA の復旧階層の構成」を参照してください。

復旧の解決までの期限

復旧階層の復旧の解決までの期限を設定できます。中断イベントが発生したときに開始し、通常業務を再開できるまでの期間です。BCM アドミニストレーターは、復旧期間とその開始時間を設定できます。次の例に示すように、さまざまな復旧期間を設定できます。

- 即座
- 1 時間
- 4 時間
- 8 時間
- 24 時間
- 72 時間
- 1 週間
- 2 週間

次の例は、事業継続性管理 アプリケーションで構成された復旧期間を示していま



す。

次の例は、事業継続性管理 アプリケーションでの復旧の解決までの期限の構成を示していま



す。

事業継続性管理 アプリケーションで復旧の解決までの期限を構成する方法の詳細については、「復旧階層の復旧期間の設定」を参照してください。

RTO と RPO の計算

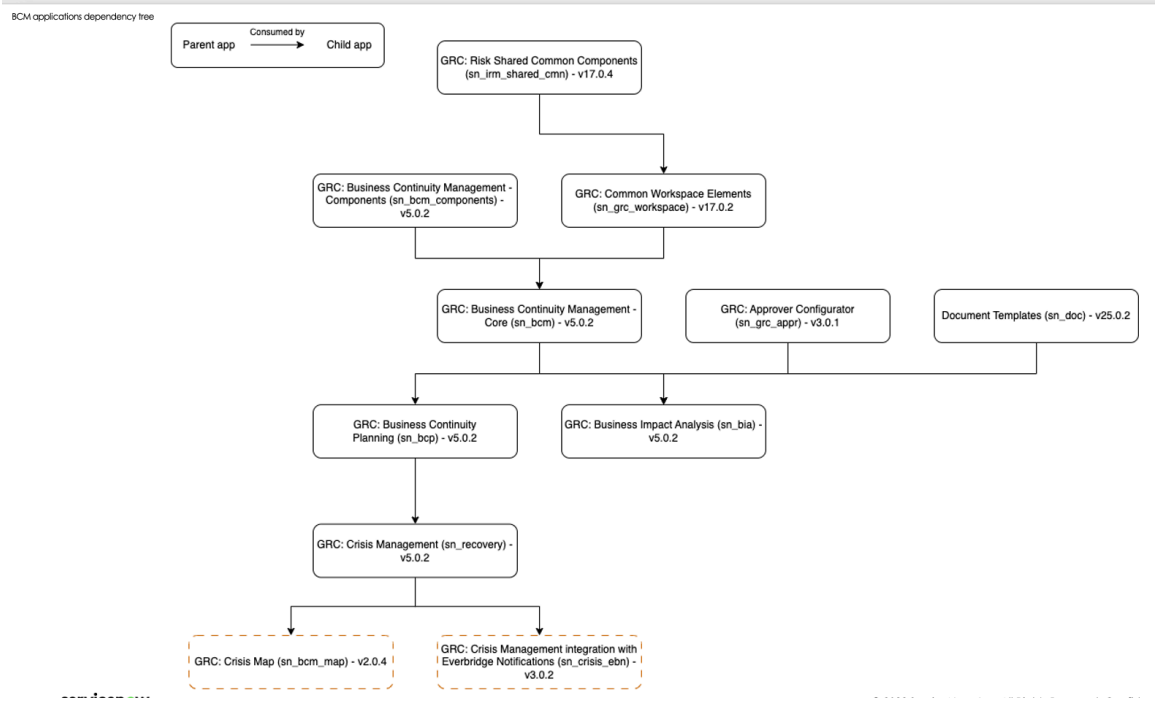
BCM アプリケーションは、ビジネスインパクトアナリシス (BIA) で目標復旧時間 (RTO) と目標復旧時点 (RPO) を計算するためのアセスメントアンケートを提供します。BIA の前提条件として、BCM アドミニストレーターは影響度評価を定義し、アセスメントの質問を設定します。アセスメントに対する応答を受信した後、BCM アプリケーションは RTO と RPO を計算します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

BCM 依存関係ツリー

ビジネスインパクトアナリシス (BIA) で目標復旧時間 (RTO) と目標復旧時点 (RPO) を計算する前に、必要なすべての BCM アプリケーションがインストールされていることを確認してください。次の図は、親アプリケーションが子アプリケーションによってどのように使用されるかを示す BCM 依存関係ツリーを示しています。



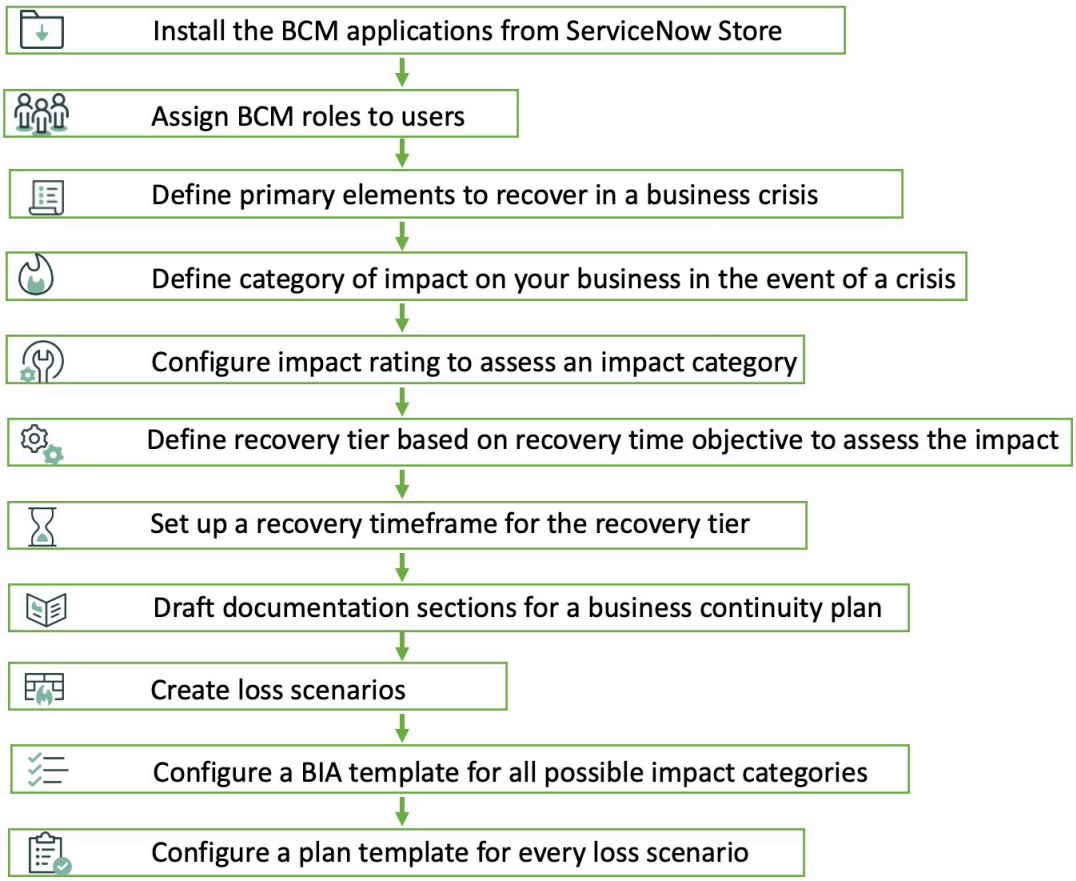
BCM の実装

影響度カテゴリを評価するための影響度評価を設定することは、事業継続性管理における重要なステップです。これらの影響度カテゴリを設定することの重要性を理解するには、チェックリストに概説されているように、 BCM プロセスを実装するために必要な手順を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

BCM実装チェックリストのグラフィカルフローチャート



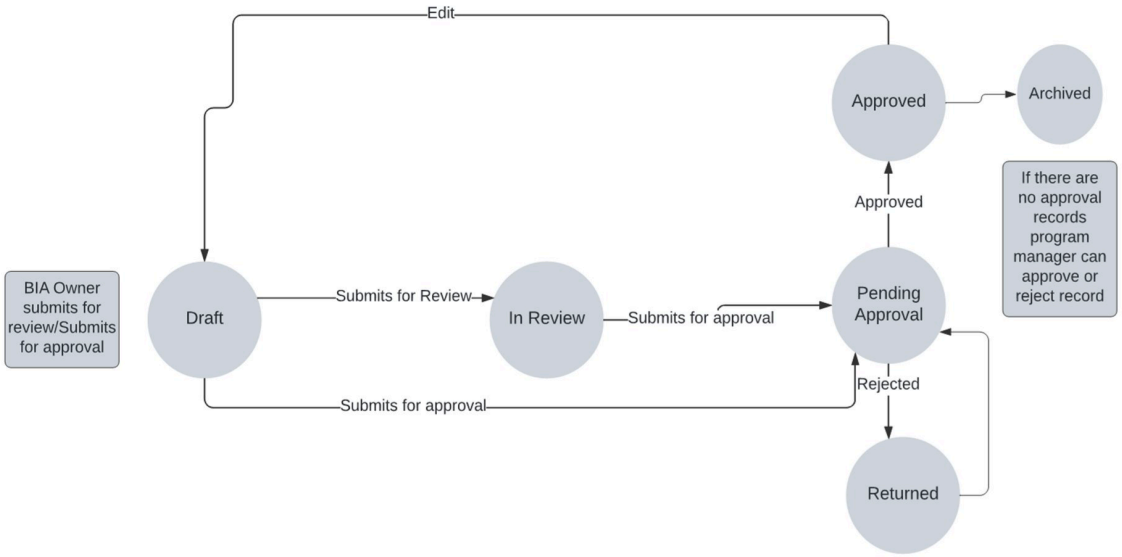
BIA ワークフロー

ビジネスインパクトアナリシス (BIA) オーナーがレビューのために BIA を送信すると、BIA は [レビュー] ステータスに更新されます。BIA オーナーがアセスメントアンケートの質問に回答します。IT アナリストまたは IT オーナーは、BIA の目標復旧時点アセスメントに応答することで、データアプリケーションとシステムの目標復旧時点を推定できます。BCM アドミニストレーターが設定した構成に基づいて、質問は BIA の [目標復旧時点アセスメント] タブに表示されます。

BIA ワークフローのサンプルを次の例に示します。

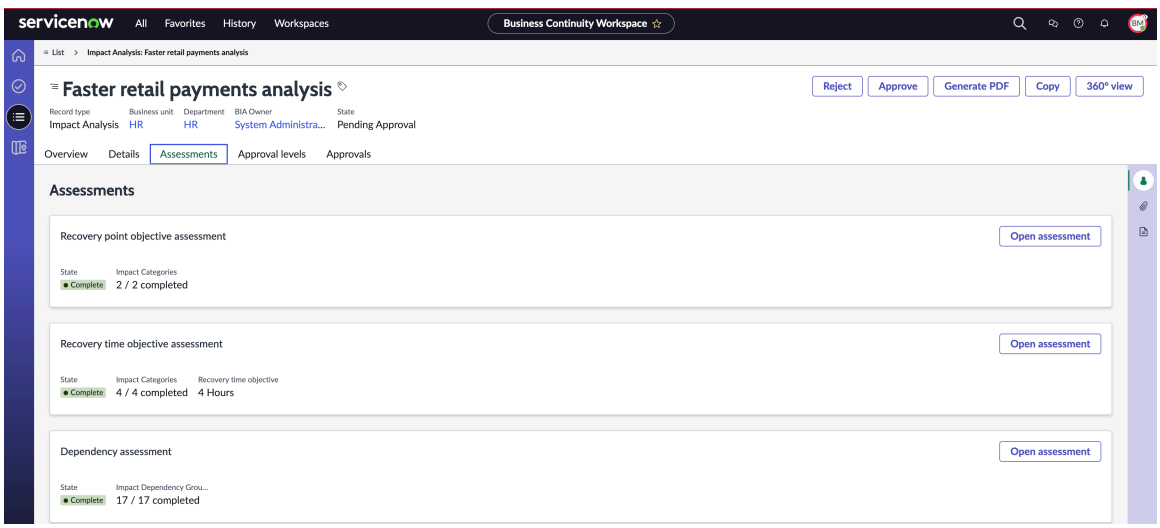
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



アセスメントに回答する

ビジネスユーザーと IT オーナーは、 BCM UIB ワークスペース内の BIA コンポーネントのアセスメントに応答することで、ビジネスインパクトアナリシスを実行します。[アセスメント] タブのサンプルビューを次の例に示します。



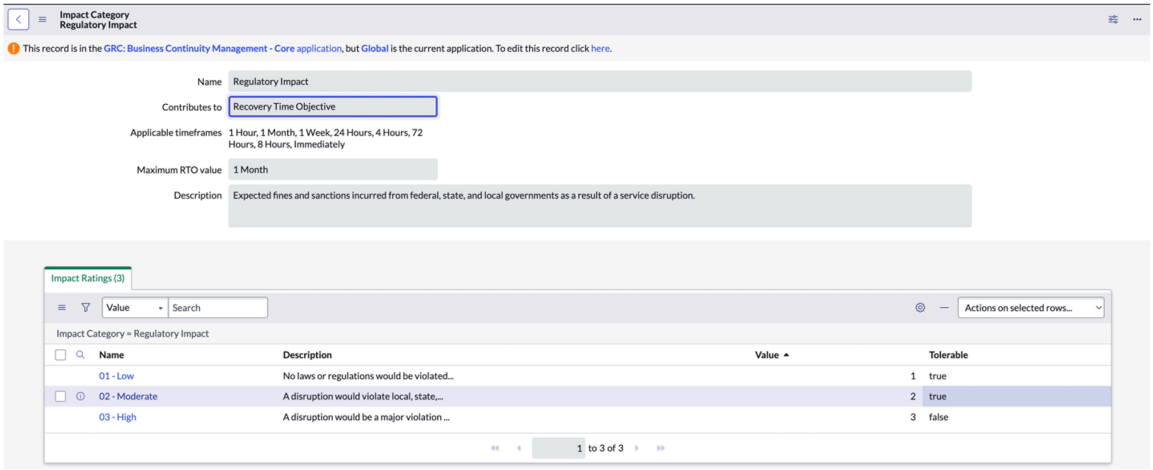
IT オーナーは、BIA の目標復旧時点アセスメントに応答することで、データアプリケーションとシステムの目標復旧時点を推定できます。

影響度カテゴリと評価を構成するためのアドミンビュー

BCM アドミニストレーターは、影響度カテゴリの 1 つ以上の影響度評価 (低、中、 高 など) を含めるようにアセスメントアンケートを構成します。次の例に

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

示すように、[影響度評価] 関連リストが影響度カテゴリレコードに表示されま



す。

BCM アドミニストレーターは、影響度カテゴリに従って、影響度評価の非許容のしきい値を指定します。最初の許容できない影響度カテゴリの中断期間は、目標復旧時間 (RTO) に対して選択されます。影響度評価には、次のような値が指定されます。

- 低 = 1
- 中 = 2
- 高 = 3

影響度カテゴリの評価は、例に示すように中断期間に基づいて計算されます。

影響度カテゴリの計算

Regulatory Impact

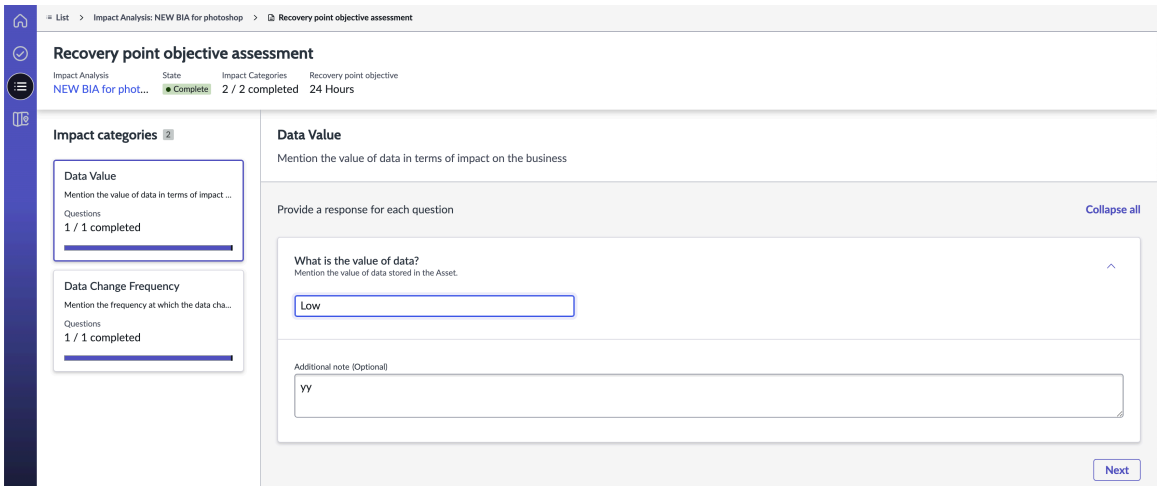
Expected fines and sanctions incurred from federal, state, and local governments as a result of a service disruption.

Impact Rating	Description	Disruption Duration
01 - Low	No laws or regulatio...	4 Hours
02 - Moderate	A disruption would v...	24 Hours
03 - High	A disruption would ...	72 Hours

次の例に示すように、BCM アドミニストレーターが設定した構成に基づいて、質問が [目標復旧時点のアセスメント] タブに表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



BIA の RPO スコアの計算 (例付き)

各質問の回答に数値がある次のシナリオを考えてみましょう。アプリケーションは、最も高い応答値に基づいて、各 RPO 影響度カテゴリのカテゴリスコアを計算します。

BIA:	AMS Data center		
Impact category	**Question**	**Answer (value)**	**Category score**
Data value	What is the value of data?	Medium (30)	40
	What is acceptable loss of data?	**High (40)**	
Data change frequency	What is the data change frequency?	**Low (20)**	20

アプリケーションは、すべての RPO カテゴリから最も高いカテゴリスコアを選択します。次の例では、最高のカテゴリスコアは 40 です。

BIA:	AMS Data center		
Impact category	**Question**	**Answer (value)**	**Category score**
Data value	What is the value of data?	Medium (30)	**40**
	What is acceptable loss of data?	High (40)	
Data change frequency	What is the data change frequency?	Low (20)	20

アプリケーションは、テンプレートレベルで定義されたスコア期間マッピングを使用して、適切な期間値を決定します。この例では、カテゴリスコアは 40 で、下限しきい値スコアと上限しきい値のスコアの間にあります。このスコアにマッピングされる期間は「即時」です。したがって、システムで計算された RPO 値は「即時」です。

Impact category	**Question**	**Answer (value)**	**Category score**
Data value	What is acceptable loss of data?	High (40)	**40**

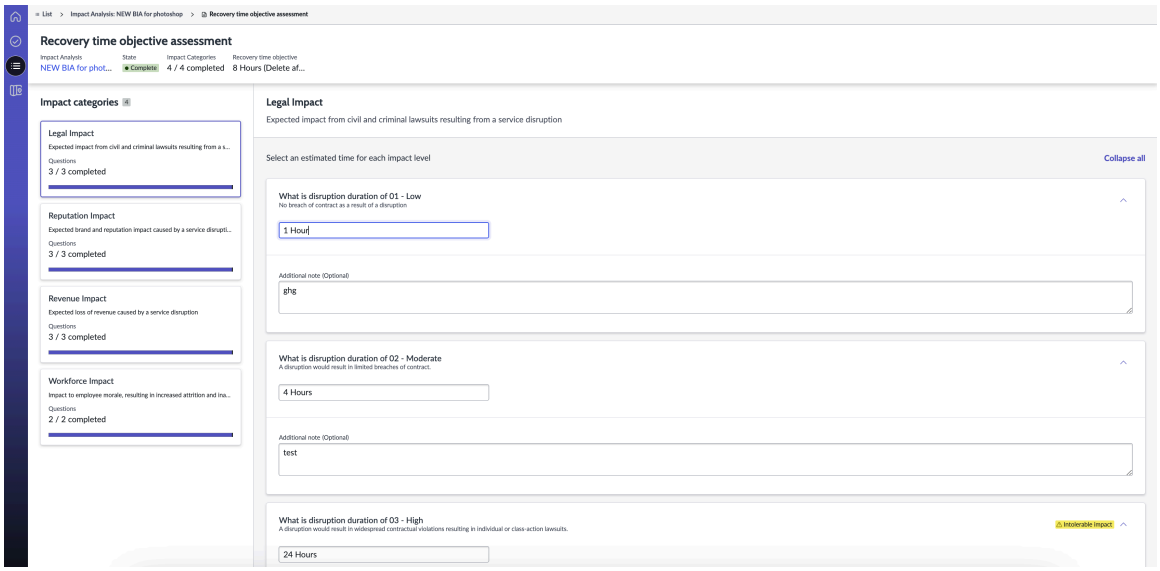
BIA template:	**Data Center Analysis Template**	
Lower threshold score	**Upper threshold score**	**Timeframe**
0	10	1 Week
11	20	24 Hours
21	60	**Immediately**

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

目標復旧時間のアセスメント

ビジネスユーザーの場合は、[アセスメント] タブの [目標復旧時間のアセスメント] に応答することで、ビジネスサービスとプロセスの目標復旧時間を見積もることができます。質問は、BCM アドミニストレーターが設定した構成に従って、[目標復旧時間のアセスメント] タブに表示されます。サンプルの目標復旧時間のアセスメントを次の例に示します。



BIA の RTO スコアの計算 (例付き)

各質問の回答に数値が割り当てられている次のシナリオを考えてみましょう。アプリケーションは、各 RTO 影響度カテゴリの最高の許容値を識別します。

BIA:	AMS Data center			
Impact category	**Impact rating**	**Answer**	**Tolerable**	**Value**
Legal Impact	Low	1 Hour	True	10
	Moderate	**4 Hours**	**True**	**20**
	High	8 Hours	False	30
Revenue Impact	Low	8 Hours	True	10
	Moderate	**72 Hours**	**True**	**20**
	High	1 Month	False	30

アプリケーションは、各 RTO 影響度カテゴリの「許容可能なダウンタイム」値を、最高の許容値よりも高い値の影響度評価として計算します。値が存在しない場合、アプリケーションは最大 RTO 値 (影響度カテゴリで定義) を "許容可能なダウンタイム" として使用します。すべての RTO 影響度カテゴリの中で最も低い「許容可能なダウンタイム」値に基づいて RTO スコアが計算されます。

次の例では、最も低い「許容可能なダウンタイム」値に基づく RTO スコアは 8 時間です。

注:
「許容可能なダウンタイム」値の復旧階層が存在しない場合、RTO を計算できません。

BIA:	AMS Data center			
Impact category	**Impact rating**	**Answer**	**Tolerable**	**Value**
Legal Impact	Low	1 Hour	True	10
	Moderate	**4 Hours**	**True**	**20**
	High	8 Hours	False	30
Revenue Impact	Low	8 Hours	True	10
	Moderate	**72 Hours**	**True**	**20**
	High	1 Month	False	30

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RTO 計算の例

別のサンプル RTO 計算について、次のシナリオを検討してください。BCM アドミニストレーターは、[収益への影響度] カテゴリの許容できない影響度評価を構成し、許容できない影響を定義しました。ビジネスインパクトアナリシスのオーナーは、収益への影響が 100 万ドルを超える可能性のあるタイムラインを特定する必要があります。次の表に示すさまざまなシナリオのサンプル RTO 計算を参照してください。

サンプルシナリオ

シナリオ	許容できない影響	説明
シナリオ 1	[影響度評価] テーブルで、[許容範囲] フィールドが **[false]** に設定されている。	アドミニストレーターが [低] の規制上の影響を許容できないと指定した場合、対応する中断期間が目標復旧時間 (RTO) として設定されます。 この例では、**[01 -** 低] 影響度評価の中断期間は 4 時間に設定されています。したがって、影響度カテゴリの目標復旧時間 (RTO) は 4 時間より長くなります。 中程度の影響の中断期間の方が短い場合でも、計算では、[許容範囲] フィールドが **[false]** に設定されている、最初に英数字順にソートされた影響度評価の値が選択されます。
シナリオ 2	[影響度評価] テーブルで、[許容範囲] フィールドが **[false]** に設定されている。	アドミニストレーターが [中] の規制上の影響を許容できないと指定した場合、対応する中断期間が目標復旧時間 (RTO) として設定されます。 この例では、**[02 -** 中] 影響度の中断期間は 24 時間に設定されています。したがって、影響度カテゴリの目標復旧時間 (RTO) は 24 時間より長くなります。
シナリオ 3	[影響度評価] テーブルで、[許容範囲] フィールドが **[false]** に設定されている。	次の例に示すように、アドミニストレーターが [高] の規制上の影響を許容できないと指定した場合、対応する中断期間が目標復旧時間 (RTO) として設定されます。 

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サンプルシナリオ (続く)

シナリオ	許容できない影響	説明
		この表形式の例では、**[03 -** 高] 影響度の中断期間は 72 時間に設定されています。したがって、影響度カテゴリの目標復旧時間は 72 時間より長くなります。
シナリオ 4	[低]、[中]、[高] の影響度評価の [許容範囲] フィールドが **[true]** に設定されている。	アドミニストレーターがすべての影響度評価を許容可能として設定した場合、テンプレートの [最大 **RTO** 値] フィールドで指定された値が目標復旧時間 (RTO) として選択されます。 次の例では、アドミニストレーターがすべての影響度評価を許容可能として設定しています。したがって、目標復旧時間 (RTO) は、[最大 **RTO** 値] フィールドで指定された値に従って 1 か月です。 

BIA の全体的な影響度評価結果の計算

影響度カテゴリの [中断期間] を更新すると、BIA の RTO が自動的に更新されます。BIA の RTO は、各影響度カテゴリの中で最も低い許容可能なダウンタイムとして設定されます。

たとえば、法務、評判、人員、規制の 4 つの影響度カテゴリがある BIA について考えます。法務の影響度カテゴリの中断期間の値を更新すると、BIA の RTO 値が各影響度カテゴリの最も低い許容可能な中断期間に基づいて再計算されます。復旧階層は組織ごとに異なり、再計算された RTO 値に基づいて設定されます。

RTO 値	復旧階層
即時	ミッションクリティカル
1 時間	ミッションクリティカル
4 時間	ミッションクリティカル
8 時間	ビジネスクリティカル
24 時間	ビジネスクリティカル
72 時間	必須
1 週間	必須

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RTO 値	復旧階層
2 週間	必須ではない
1 か月	必須ではない

BIA 状況と UI アクション

ビジネスインパクトアナリシスを作成すると、特定の UI アクションが各ステータスに関連付けられます。

ビジネスインパクトアナリシスの状況とその UI 関連アクション

ビジネスインパクトアナリシスに関連付けられている状況と UI アクションが次の表で説明されています。

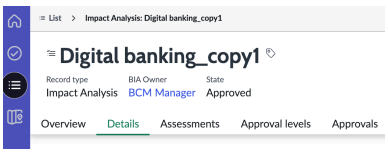
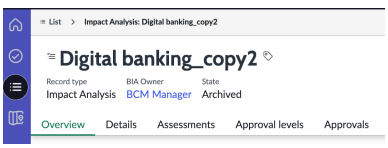
ビジネスインパクトアナリシスの状況とそれに関連する UI アクション

ビジネスインパクトアナリシスのステータス	UI アクション	アクションの説明
ドラフト	ビジネスインパクトアナリシスレコードリストビューで、[新規] を選択します。 注: ホームページの [ビジネスインパクトアナリシス] セクションに移動し、**[BIA を作成]** を選択することもできます。	[新規影響分析を作成 (Create New Impact analysis)] フォームで [新規] を選択するか、ホームページで **[BIA を作成]** を選択すると、レコードはデフォルトで [ドラフト] ステータスで作成されます。 [詳細] タブでは、ビジネスインパクトアナリシス (BIA) の詳細を追加できます。[アセスメント] タブでは、[目標復旧時点のアセスメント]、[目標復旧時間のアセスメント]、および [依存関係アセスメント] に応答できます。
レビュー中	[レビューのため送信] を選択します。	[新規影響分析を作成 (Create New Impact analysis)] フォームで [レビューのため送信] を選択すると、ビジネスインパクトアナリシスのステータスが [レビュー中] に更新され ます。
承認待ち	[承認のため送信] を選択します。	[新規影響分析を作成 (Create New Impact analysis)] フォームで [レビューのため送信] を選択すると、ビジネスインパクトアナリシスのステータスが [承認待ち] に更新され ます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスインパクトアナリシスの状況とそれに関連する **UI** アクション (続く)

ビジネスインパクトアナリシスのステータス	**UI** アクション	アクションの説明
承認済み	[承認] を選択します。	[新規影響分析を作成 (Create New Impact analysis)] フォームで [承認] を選択すると、ビジネスインパクトアナリシスのステータスが [承認済み] に更新されます。[概要] タブには、次の例に示すように、状況の進行が表示されます。  ビジネスインパクトアナリシスが [承認済み] ステータスの場合、読み取り専用形式になります。[承認済み] ステータスでは、[目標復旧時点のアセスメント]、[目標復旧時間のアセスメント]、および [依存関係アセスメント] のみ表示できます。
アーカイブ化済み	[新規影響分析を作成 (Create New Impact analysis)] フォームで、**[** アーカイブ] を選択します。	次の例に示すように、[新規影響分析を作成 (Create New Impact analysis)] フォームで [アーカイブ] を選択すると、ビジネスインパクトアナリシスのステータスが [アーカイブ化済み] に更新され ます。  BCM リリース 9.0.x 以降では、フォームの [編集] ボタンを選択することで、アーカイブされたビジネスインパクトアナリシス (BIA) を [ドラフト] ステータスに戻すことができます。 [新規影響分析を作成 (Create New Impact analysis)] フォームで、次の追加の UI アクションを実行できます。 PDF の生成

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスインパクトアナリシスの状況とそれに関連する **UI** アクション (続く)

ビジネスインパクトアナリシスのステータス	**UI** アクション	アクションの説明
		参照用にビジネスインパクトアナリシスの PDF をダウンロードします。[詳細] タブの [アクティビティ] パネルで PDF 添付ファイルが利用できます。 ビジネスインパクトアナリシスの PDF の作成については、「PDF 形式または Microsoft Word 形式での BIA レポートの生成」を参照してください。 コピー 後で参照できるように、ビジネスインパクトアナリシスの PDF のコピーをテンプレートとして保存します。 360 度ビュー 名前、使用されたテンプレート、依存関係、BIA 結果など、ビジネスインパクトアナリシスの 360 度表現を可視化します。 ビジネスインパクトアナリシスの 360 度リレーションシップを見るには、「BIA の 360 度の関係を可視化」を参照してください。 削除 参照する必要がなくなった場合は、ビジネスインパク

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスインパクトアナリシスの状況とそれに関連する **UI** アクション (続く)

ビジネスインパクトアナリシスのステータス	**UI** アクション	アクションの説明
		トアナリシスを削除します。 編集 アプリケーションで、ビジネスインパクトアナリシスを編集します。 保存 アプリケーションで、ビジネスインパクトアナリシスを保存します。
戻り	[却下] を選択します。	[新規影響分析を作成 (Create New Impact analysis)] フォームで [却下] を選択した場合、ビジネスインパクトアナリシスのステータスが [戻り] に設定されます。[戻り] ステータスのビジネスインパクトアナリシスを編集できます。再度レビューのために更新して送信することができます。

注:
スケジュール済みジョブが毎週実行され、期限切れになったビジネスインパクトアナリシスが [アーカイブ化済み] ステータスに移行します。

辞書、UI ポリシー、要素変数の構成

リリース 6.1.x 以降、アドミニストレーターは依存関係のさまざまな側面を設定できるようになりました。これには、辞書、UI ポリシー、要素変数、および UI ビューが含まれます。これらの構成は、BIA の依存関係アセスメント内で依存関係のリストビューとフォームビューの特定の列、必須フィールド、およびの全体的な表示を決定する上で重要なロールを果たします。

辞書エントリ [sys_dictionary] は各テーブルの追加の詳細を提供し、それらのテーブルの列を定義する目的で使用されます。辞書エントリの詳細については、「Data dictionary tables」を参照してください。

UI ポリシーは、フォーム上の情報の動作を動的に変更するために使用されます。アドミニストレーターは、UI ポリシーを設定して、フィールドを表示または非表示にしたり、特定の条件に基づいてフィールドを必須または読み取り専用にしたりできます。UI ポリシーの詳細については、「Using UI policies」を参照してください。

要素変数は、レコードの追加データを定義するために使用され、そのレコードの動作と属性をよりきめ細かく制御できます。要素変数の詳細については、「要素定義の要素変数の構成」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

表示ルールは、テーブルのフィルター条件と実行順序を定義するために使用され、そのテーブル内でのデータのビューと表示方法をカスタマイズする方法を提供します。表示ルールの詳細については、「Create a view rule」を参照してください。

依存関係の辞書、UI ポリシー、要素変数、および UI ビューを構成する際に、アドミニストレーターは重要なロールを果たします。タスクには一般的に次のものが含まれます。

1. 必須またはオプションのフィールドを追加するようにインスタンスの辞書レコードを構成するか、依存関係の既存のフィールドを必須またはオプションとしてマークする。
2. インスタンス内の要素変数レコードを構成して、必須またはオプションの要素変数を追加する。
3. 依存関係アセスメントの要素定義と UX ビュールールを構成する。
4. 依存関係のフィールドを必須またはオプションとしてマークするように UI ポリシーを構成する。リリース 6.1.x 以降、依存関係のフィールドを必須またはオプションとして指定するために、UI ポリシーが使用されるようになりました。UI ポリシーは、依存関係アセスメント内の特定の要素定義または複数の要素定義に対して作成できます。
5. リストとフォーム両方の UI ビューを構成して、リストビューとフォームビューのテーブルのリストレイアウトに表示される列を指定する。
6. BIA スコープで表示ルールを定義する。表示ルールに定義されているフィルター条件と実行順序に基づいて、依存関係に対して表示される UI ビューが決まります。

> **注:**
> 適切な機能を確保するには、BCMコアアプリケーションスコープ内で UI ポリシーと要素変数を定義することが重要です。

BCMアプリケーションは、辞書、UI ポリシー、Glide 変数 (要素変数)、および表示ルールの構成に基づいて、各依存関係の必須フィールドを取得します。これらの構成が適切に設定されると、セットアッププロセスは完了したと見なされます。

> **注:**
> クライアントスクリプトを使用してフィールドを必須としてマークすることはサポートされていません。また、フィールドを必須またはオプションとしてマークするための UI ポリシーの [スクリプトを実行] オプションもサポートされていません。

依存関係のすべての必須フィールドが入力された場合、または依存関係に必須フィールドがない場合、BCMアプリケーションは依存関係アセスメントを自動的に完了します。

UI ビュー [sys_ui_view] テーブル、テーブルリストレイアウト、およびリストビューとフォームビュー両方の表示ルールを構成する詳細な手順については、KB1645940 を参照してください。

以前のバージョンからリリース **6.1.x** へのアップグレード

以前のバージョンからリリース 6.1.x へのアップグレードプロセス中に、[復旧の解決までに必要な期限] の必須フィールドが辞書から削除されます。ただし、[復旧の解決までに必要な期限] フィールドは Applications 要素変数にのみ必須であり、UI ポリシーの一部として追加されることに注意してください。他の要素変数には、依存関係アセスメントの一部としての必須フィールドはありません。

アドミニストレーターは、柔軟に独自の設定を構成して、フィールドを必須またはオプションにすることができます。さらに、要素変数のビューをカスタマイズし、要素定義に基づいてさまざまな列を表示することができます。

ソフトウェアがリリース 6.1.x にアップグレードされると、ビジネスインパクトアナリシス (BIA) について、各依存関係のステータスが [戻り **(Returned)]**、[レビュー中]、および [ドラフト] ステータスで再評価されます。各依存関係に必須フィールドがあるかどうか、およびすべての必須フィールドが入力されているかどうかがチェックされます。これらのチェックに基づいて、各依存関係のステータスが適宜更新されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

修正スクリプトの実行

修正スクリプトとは、アプリケーションのインストールまたはアップグレード後にアドミニストレーターが実行するサーバー側の JavaScript コードのことです。その目的は、BIA 依存関係の辞書、UI ポリシー、または要素変数の構成でアドミニストレーターが行ったメタデータの変更が正確に反映されるようにすることです。

依存関係のステータスを適切に更新するには、アドミニストレーターは必須フィールドに入力してから修正スクリプトを実行する必要があります。修正スクリプトを実行すると、次のテーブルに基づいて依存関係のステータスが更新されます。

修正スクリプトを実行した後の依存関係のステータス

すべての必須フィールドが入力されている	依存関係のステータス
いいえ	処理待ち
はい	完了

依存関係が [処理待ち] ステータスの場合、BIA ユーザーはその依存関係に関連付けられた必須フィールドに入力する必要があります。必須フィールドへの入力が完了すると、依存関係アセスメント全体が完了として自動的にマークされます。必須フィールドに入力した後に修正スクリプトを実行すると、依存関係のステータスが [完了] に更新されます。

修正スクリプトの詳細については、「Fix scripts」を参照してください。

BIA を実施するための最新のアセスメントテンプレートの使用

Yokohama リリース以降、最新のアセスメントテンプレートを使用してビジネスインパクトアナリシス (BIA) を実施できるようになりました。BIA テンプレートが スマートアセスメントエンジンに統合され、従来のアセスメントとともにスマートアセスメントを使用できるようになりました。

BIA とのデータ連携 スマートアセスメントエンジン

ビジネスインパクトアナリシス (BIA) を スマートアセスメントエンジン と統合すると、さまざまな質問タイプの影響分析アセスメントを構成し、1 つの BIA に対して複数の影響度評価テンプレートを設定し、ユーザーの応答に基づいて、目標復旧時間 (RTO)、目標復旧時点 (RPO)、復旧階層 (RT)、中断の最大許容期間 (MTPD) などのメトリクスを計算できます。

スマートアセスメントテンプレートを使用して作成された BIA では、アセスメントセクションにスマートアセスメントのインスタンスが含まれます。スマートアセスメントエンジン で導入されたアセスメントテンプレートを使用すると、さまざまな質問タイプを作成し、既存のデータソースからの回答を自動化することができます。BCMユーザーはアセスメントを完了でき、送信すると、BCM アドミニストレーターによって設定された自動化がトリガーされ、目標復旧時間 (RTO)、目標復旧時点 (RPO)、復旧階層、最大許容ダウンタイムなどの影響分析データが更新されます。 定義された構成に基づきます。

統合に使用されるコンポーネント

スマートアセスメントエンジン との BIA 統合では、次のBCMコンポーネントが使用されます。

- BCM コア
- BIA
- スマートアセスメントエンジン

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

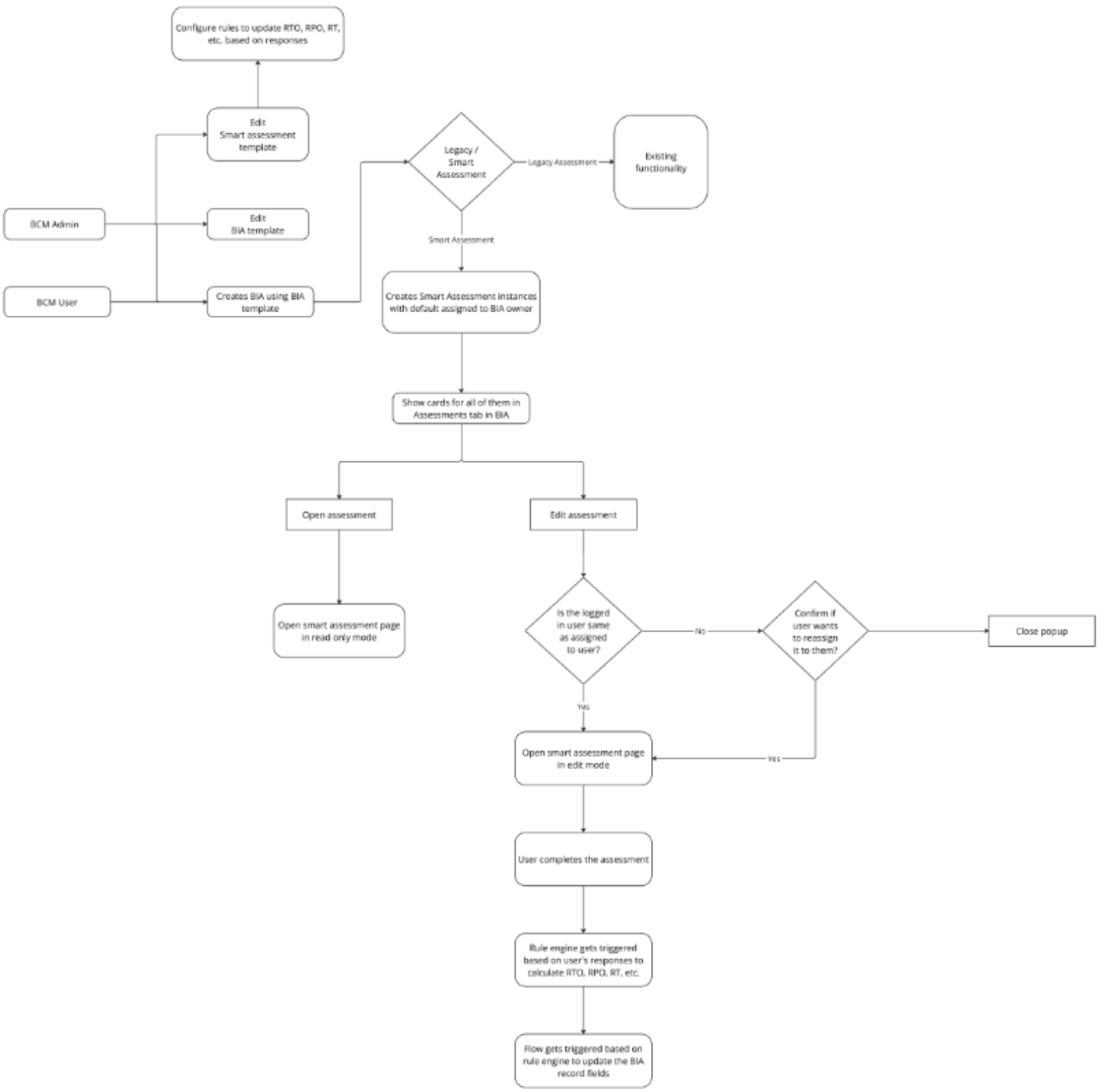
BIA を BIA®と統合するためのワークフロー スマートアセスメントエンジン

ServiceNow スマートアセスメントエンジン (SAE) アプリケーションは、自動化によってアセスメントプロセスの手作業による負担とコストを削減するのに役立ちます。

スマートアセスメントエンジンアプリケーションのテンプレートデザイナーを使用して、アセスメントテンプレートを作成し、手順、質問、および参照情報を追加できます。

スマートアセスメントエンジンではルールエンジンが使用され、ルールはユーザーの応答に基づいています。1 つのアセスメントテンプレート (RTO、RPO、RT に対して 1 つのアセスメントのみ) を入力することも、複数のアセスメントテンプレート (RTO、RPO、RT ごとに 1 つ) を入力することもできます。

BIA を スマートアセスメントエンジン と統合するためのワークフローを図に示します。



BIA テンプレートの構成

BIA テンプレートは、従来のアセスメントまたはスマートアセスメントで構成できます。従来のアセスメントではドロップダウンの質問のみが表示されますが、スマートアセスメントでは複数の質問タイプが有効になり、アンケートへの回答に基づいて RTO、RPO、および復旧階層の計算が構成されます。詳細については、「ビジネスインパクトアナリシスのためのセットアップ」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

ロールと責任

スマートアセスメントテンプレートのロールと責任を次の表に示します。

スマートアセスメントテンプレートのロールと責任

ロール	責任	含まれるロール
アドミニストレーター [admin]	スマートアセスメントテンプレート内のルールに基づいて BIA レコードを更新するフローを設定できるシステムアドミニストレーターロール。	
BCM アドミニストレーター [sn_bcm.admin]	BCM 次のタスクを実行できるアドミニストレーターロール。 • スマートアセスメントテンプレートを読み書きします。 • BIA テンプレートを構成します。 • スマートアセスメントテンプレート内でルールを構成します。	• [sn_smart_asmt.template_manager]: スマートアセスメントテンプレートを作成するためのアクセス権を付与します。 • [sn_smart_imp_auto.automation_creator]: スマートアセスメント影響自動化の作成者ロールが含まれます。
BCM core_viewer [sn_bcm.core_viewer]	BCM スマートアセスメントテンプレートを読み取ることができるコアビューアーロール。	• [sn_smart_asmt.assessment_reader]: スマートアセスメントインスタンスへの読み取りアクセス権を付与するスマートアセスメントリーダーロールが含まれています。 • [sn_smart_imp_auto.automation_reader]: スマートアセスメント影響自動化リーダーロールが含まれています。 • [sn_smart_asmt.template_reader]: スマートアセスメントテンプレートのリーダーロールが含まれています。
BCM プログラムマネージャー [sn_bcm.program_manager]	BCM プログラムマネージャー	• [sn_smart_asmt.actor]:スマートアセスメントインスタンスへの更新アクセスを提供するスマートアセスメントアクターロールが含まれています。 • [sn_smart_asmt.reassign]: スマートアセスメント再アサインロールが含まれています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スマートアセスメントテンプレートのロールと責任 (続く)

ロール	責任	含まれるロール
BCM 貢献者 [sn_bcm.contributor]	BCM 投稿者	• [sn_smart_asmt.actor]:スマートアセスメントインスタンスへの更新アクセス権を付与するためのスマートアセスメントアクターロールが含まれています。 • [sn_smart_asmt.reassign]:スマートアセスメント再アサインロールが含まれています。
BCM 計画者 [sn_bcm.planner]	BCM 計画者	• [sn_smart_asmt.actor]:スマートアセスメントインスタンスへの更新アクセス権を付与するためのスマートアセスメントアクターロールが含まれています。 • [sn_smart_asmt.reassign]:スマートアセスメント再アサインロールが含まれています。

注:
スマートアセスメントテンプレートカテゴリ:BIA のカテゴリが スマートアセスメントエンジンに作成されます。BCM core_viewer [sn_bcm.core_viewer] ロールは、BIA のスマートアセスメントテンプレートカテゴリでアサインされます。

スマートアセスメントインスタンスのロールと責任

ロール	責任
BIA ビューアー [sn_bia.viewer]	アセスメントを読み取ることができる BIA ビューアーロール。
BIA 貢献者 [sn_bia.contributor]	次のタスクを実行できる BIA 貢献者ロール: • アセスメントを読むことができます (BIA の貢献者リストに含まれている場合)。 • アセスメントを受けることができます (BIA の貢献者リストに含まれており、BIA のステータスが [ドラフト]、[レビュー中]、 および [戻り] の場合)。
BIA プランナー [sn_bia.planner]	次のタスクを実行できる BIA 計画者ロール:

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スマートアセスメントインスタンスのロールと責任 (続く)

ロール	責任
	• アセスメントを読むことができます (BIA のオーナーの場合)。 • アセスメントを受けることができます (BIA のオーナーであり、BIA のステータスが [ドラフト]、[レビュー中]、 および [戻り] の場合)。
BIA マネージャー [sn_bia.manager]	次のタスクを実行できる BIA マネージャーロール: • アセスメントを読むことができます。 • BIA が [ドラフト]、[レビュー中]、または [戻り] ステータスのときにアセスメントに応答できます。

UI アクション

スマートアセスメントの実行に使用される UI アクションをテーブルに示します。

スマートアセスメントを実行するための **UI** アクション

ロール	責任
アセスメントを開く	アセスメントを開くアクション。BIA ビューアー、BIA 貢献者、BIA 計画者、および BIA マネージャーは、インパクト分析を読むことができ、[アセスメントを開く] UI アクションを表示することもできます。この UI アクションにより、読み取り専用モードで [スマートアセスメント] ページにリダイレクトされます。
アセスメントを編集	アセスメントを編集するアクション。BIA プランナー、BIA 貢献者、および BIA マネージャーは、インパクト分析を記述でき、[アセスメントを編集] UI アクションを表示することもできます。この UI アクションにより、編集モードのスマートアセスメントページにリダイレクトされます。

アセスメントインスタンスのスマートアセスメントコンポーネントを含む **UI** ページ

スマートアセスメントコンポーネントのみを含む UI ページが BCM コアアプリケーションで作成され、 BCM ワークスペース ユーザーがアクセスできます。このページでは、ユーザーがスマートアセスメントを読み取り専用モードまたは編集モードで開くことができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーザー エクスペリエンス

- BCM アドミニストレーターは、 事業継続性ワークスペースからスマートアセスメントテンプレートを設定できます。
- BIA テンプレートがスマートアセスメントテンプレートを使用するように構成されている場合、BIA の [アセスメント] タブからアセスメントリストでスマートアセスメントインスタンスカードを表示できます。
- スマートアセスメントインスタンスカードでは、 アセスメントの編集 と オープンアセスメントの両方を表示することも、ロールに基づいて [アセスメントを開く] ボタンのみを表示することもできます。
- [アセスメントを開く] アクションにより、応答を読むための [スマートアセスメント] ページが開きます。
- [アセスメントを編集] アクションにより、応答を編集するための [スマートアセスメント] ページが開きます。

ビジネスインパクトアナリシスの作成

BCM UI ビルダー ワークスペース でビジネスインパクトアナリシス (BIA) を作成して、計画に必要な情報を取得します。

始める前に
必要なロール：
sn_bia.bia_admin、sn_bia.bia_manager、sn_bcm.program_manager、sn_bcm.planner

このタスクについて
Yokohama リリース以降、従来のアセスメントまたはスマートアセスメントを使用してビジネスインパクトアナリシス (BIA) テンプレートを構成できます。スマートアセスメントには複数の質問タイプがあり、Impact Automation を使用して回答に基づいて RTO、RPO、復旧階層を計算します。従来のアセスメントまたはスマートアセスメントで BIA テンプレートを構成するには、「 従来のアセスメントを使用した BIA テンプレートの構成 」または「 での BIA テンプレートの構成 スマートアセスメント」を参照してください。

Xanadu リリース以降、最新の BIA レコードの更新された依存関係を使用して、資産の依存関係アセスメントを実施できるようになりました。これらの更新された依存関係を使用すると、ビジネスインパクトアナリシスを正確に実行できます。ビジネスインパクトアナリシスは、次の更新を実装することで強化されています。

- 依存アイテムとその復旧目標 (目標復旧時間 (RTO)、目標復旧時点 (RPO)、復旧階層など) に関する最新の BIA にアクセスします。
- BIA の依存関係アセスメントの列を構成します。
- CMDBから依存関係の自動更新をスケジュールします。
- 更新を手動で確認した後に実行するように構成します。

さらに、[関連アイテム BIA (Related item BIA)]、[関連アイテムの目標復旧時間 (RTO) (Related Item Recovery Time Objective (RTO))]、[関連アイテムの目標復旧時点 (RPO) (Related Point Objective (RPO))]、および [関連アイテムの復旧階層 (Related item Recovery Tier)] 列の情報を使用して、復旧の解決までに必要な期限とデータバックアップのニーズを確認します。更新された値は、BIA レコードの [復旧の解決までに必要な期限] 列と [必要なデータのバックアップ] 列に表示されます。

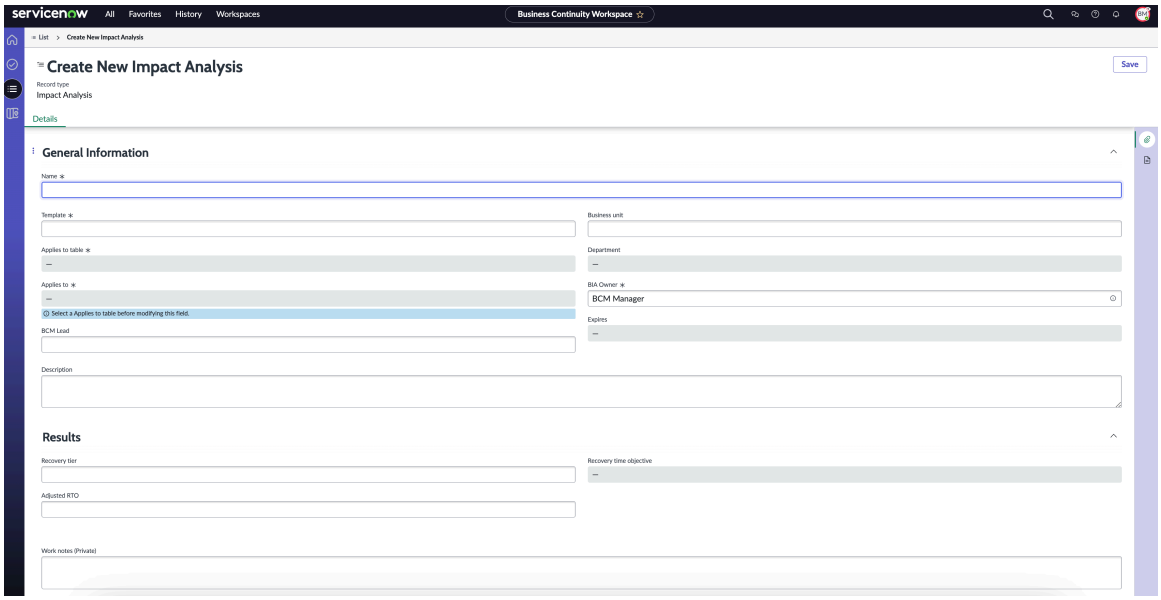
BIA マネージャー (sn_bia.bia_manager) に、ドキュメントテンプレートの読み取りおよび書き込み権限を付与するドキュメントライター (sn_doc.writer) ロールが含まれるようになりました。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

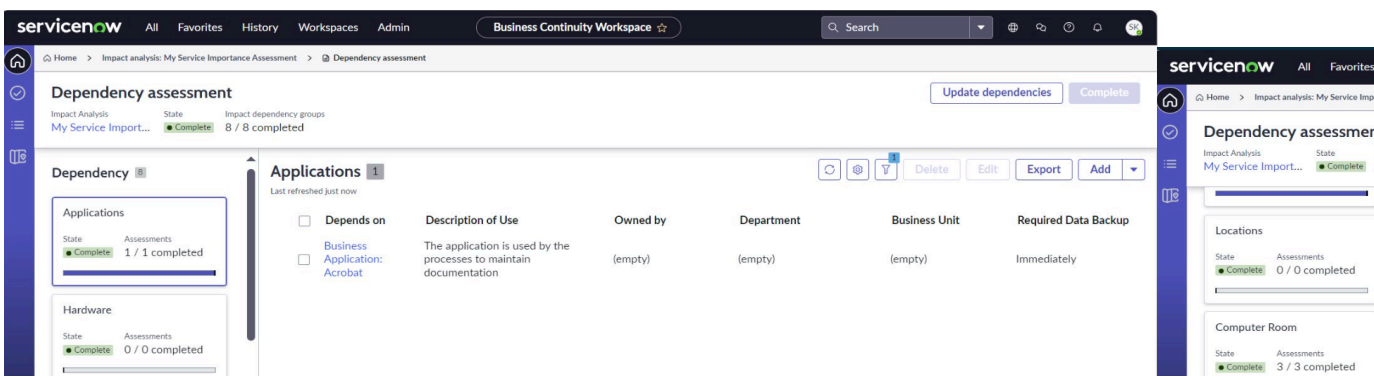
手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで、[ビジネスインパクトアナリシス] に移動して、[新規] を選択します。
   次の例に示すように [新規インパクト分析を作成 **(Create New Impact analysis)]** フォームが表示されます。



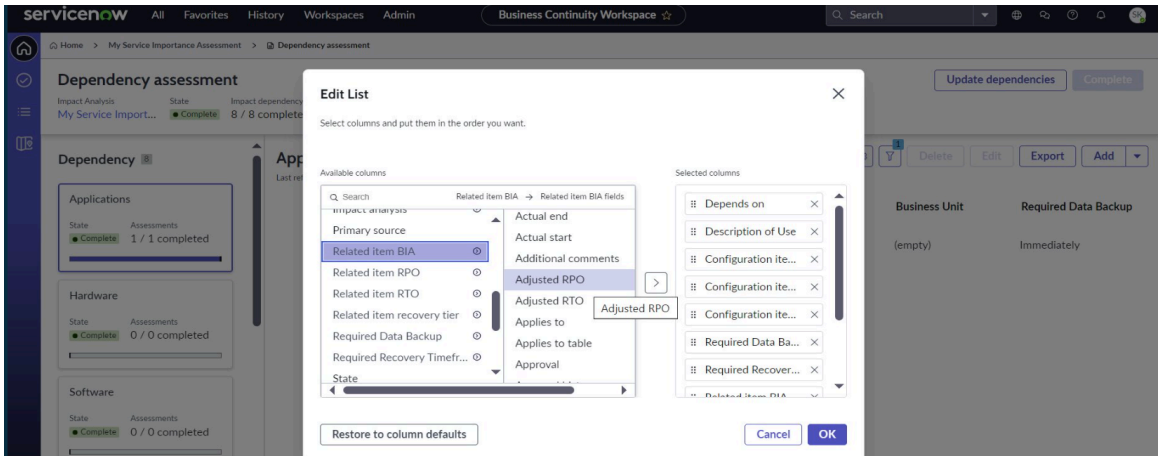
3. [新規インパクト分析を作成 **(Create New Impact analysis)]** フォームの [詳細] タブで、必須フィールドに入力します。
   フィールドの詳細については、「[新規インパクト分析を作成 (Create New Impact analysis)] フォーム」を参照してください。
   ビジネスインパクトアナリシスが [ドラフト] ステータスで作成され、リストビューに表示されます。ビジネスインパクトアナリシスのステータスと詳細が次のタブに表示されます。
   - 概要：ビジネスインパクトアナリシスの現在のステータスと全体的なステータス進行状況を表示できます。
   - 詳細：名前、テンプレート、事業部門、部門など、ビジネスインパクトアナリシスの詳細を追加できます。
   - アセスメント:ビジネスインパクトアナリシスのアセスメントアンケートへの回答は、 目標復旧時間のアセスメント、 目標復旧時点のアセスメント、および 依存関係アセスメント カードに入力できます。
4. [アセスメント] タブで、影響分析アセスメントと依存関係アセスメントを表示します。

   例に示すように、依存関係タイプに固有のデータを追跡できます。



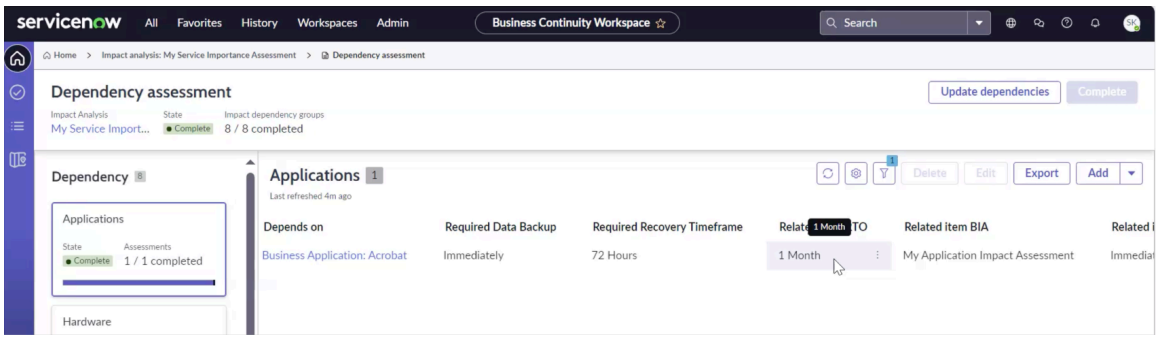
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例に示すように、関連する BIA の詳細を追加できます。



サービスの重要性アセスメントを実施するシナリオを考えてみましょう。このアセスメントは、ビジネスサービスオーナーまたはビジネスプロセスオーナーによって実行されます。また、プロセスを効果的に完了して提供できるように、チーム、アプリケーション、ハードウェアリソース、ベンダー、場所など、日常業務をサポートするために必要なすべての依存関係が含まれています。

Xanadu リリース以降、依存関係アセスメントを実施すると、同じレコード内に依存関係がプルされ、要件が表示されます。例えば、ビジネスアプリケーション：Acrobat のビジネス要件では、ダウンタイムがビジネスによって設定された目標復旧時間 (RTO)である 72 時間を超えてはならないと規定されています。

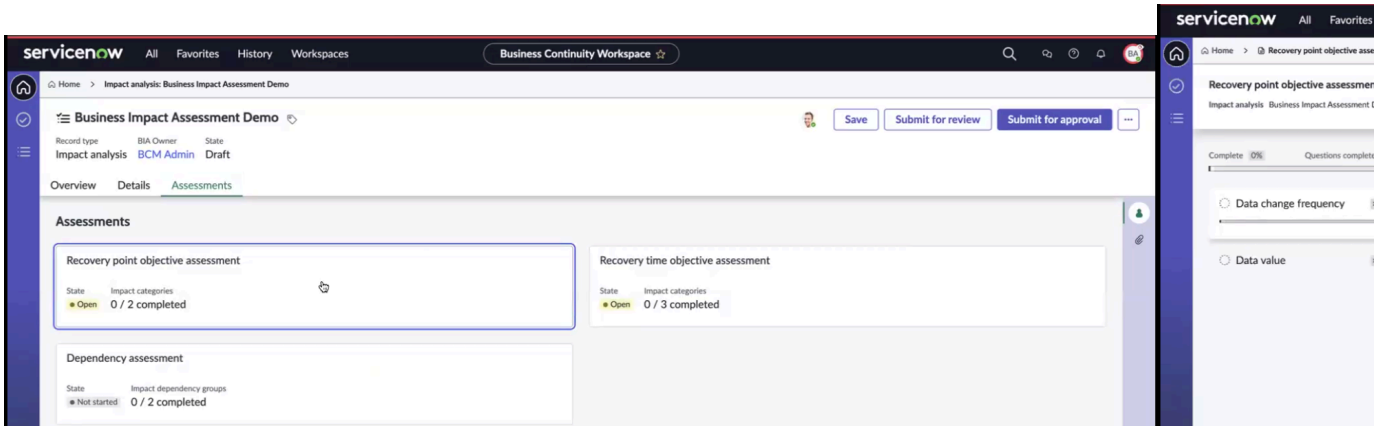


ただし、IT チームによってコミットされた RTO は、関連アイテム RTO に示されているように、1 か月です。さらに、[関連アイテム のビジネスインパクトアナリシス(BIA)]、[関連アイテムの目標復旧時間 (RTO) (Related Item Recovery Time Objective (RTO))]、[関連アイテムの目標復旧時点 (RPO) (Related Point Objective (RPO))]、および [関連アイテムの復旧階層 (Related item Recovery Tier)] 列から取得した詳細を同じ画面に表示することにより、BIA オーナーはデータを評価し、復旧の解決までに必要な期限とデータバックアップ要件を決定できます。

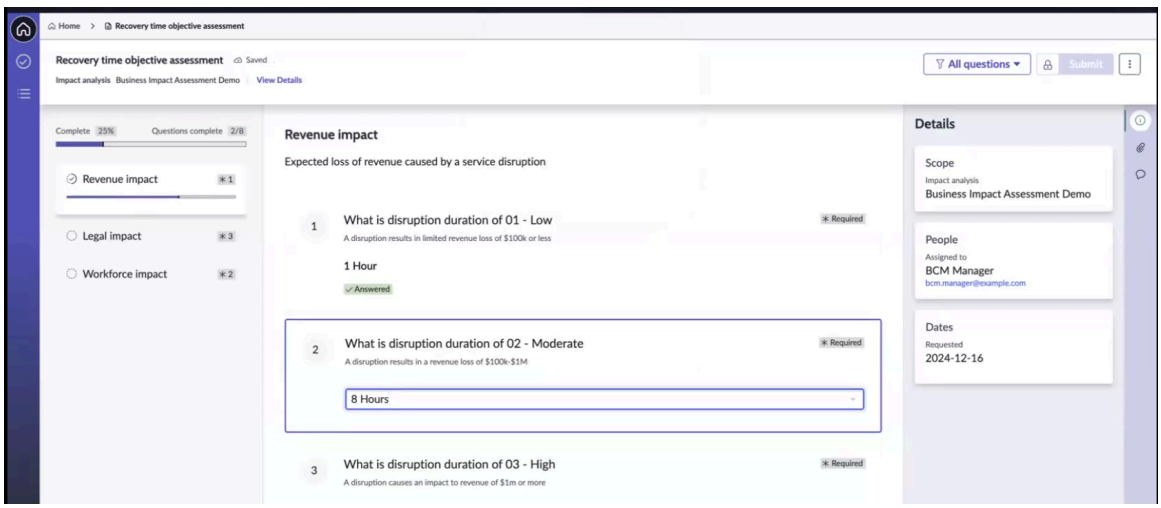
5. アセスメントのオーナーとしてインパクトアナリシスアセスメントを起動し、カードを選択して質問に回答します。

   以前は、BIA の [アセスメント] タブに単一のアセスメントカードと [アセスメントを開く] ボタンが表示されていました。Yokohama リリース以降、BIA の [アセスメント] タブのカードのレイアウトが更新され、複数のアセスメントと依存関係アセスメントが 2 列の配置で表示されるようになりました。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



次の例は、目標復旧時間 (RTO) アセスメントを示しています。



アセスメントカードが動的に表示されるようになり、複数のアセスメントを BIA に添付できるようになりました。たとえば、カードが 1 つある場合、そのカードは単独で一列に表示されます。カードが7枚ある場合は、4列(3列に2枚のカード、1列に1枚のカード)に並べられます。複数のアセスメントを追加することも、1 つのアセスメントのみを追加することもできます。

6. アセスメントアンケートの回答を確認し、[送信] を選択します。
更新が正常に処理されたことを示すメッセージが表示されます。
7. **[OK]** を選択します。
[アセスメント] タブのアセスメントカードが更新されます。[依存関係アセスメント] カードを選択すると、BIA アセスメントが開きます。
8. アセスメントを別のユーザーに再アサインするには、 [その他のアクション] を選択し、 [再アサイン] を選択します。
アセスメントが別のユーザーに再アサインされたことを示すメッセージが表示されます。アサインされたユーザーのみがアセスメントに回答できます。

> **注:**
> 自分にアサインされていないアセスメントを開くと、アセスメントを編集すると再アサインされるというメッセージが表示されます。現在アサインされているユーザーは、アセスメントを編集できなくなりました。アセスメントをキャンセルするには [キャンセル] を選択し、アセスメントを編集して再アサインするには [編集] を選択し、アセスメントを読み取り専用モードで表示するには [表示] を選択します。
>
> [再割り当て] を選択すると、システム内のすべてのユーザーのリストが表示されます。BIA を再アサインするには、BCM ロールを持つユーザーを選択する必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

9. リストから貢献者をビジネスインパクトアナリシスに追加するには、サイドバーの [貢献者] アイコンを選択して [貢献者] パネルを起動し、貢献者を追加します。

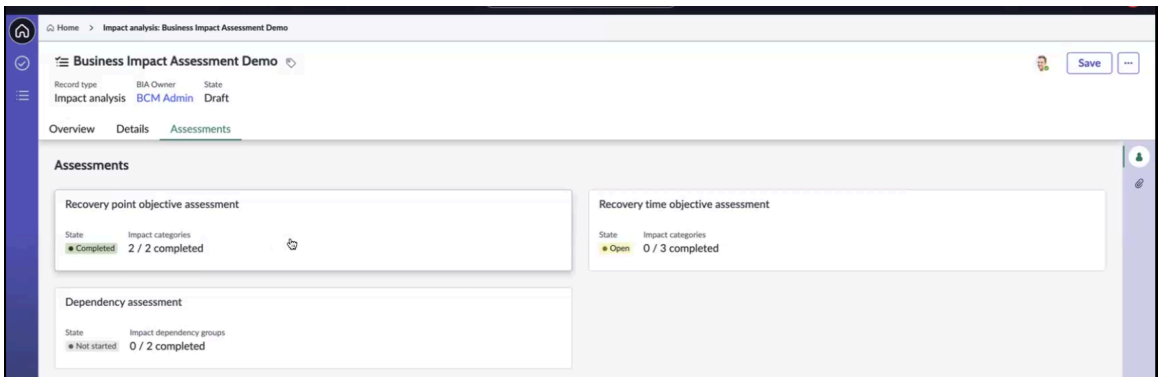
   BIA オーナーまたは BCM マネージャーは、貢献者をビジネスインパクトアナリシスに追加できます。

   > **注:**
   > sn_bia.bia_contributor ロールを持つ BIA 貢献者が持っているのは BIA への読み取りアクセス権ですが、[アセスメント] タブでアセスメントを完了することができます。

   BIA 貢献者は、貢献者のリストを編集できません。

10. **[Submit** (送信)] を選択します。

    アセスメントが正常に送信されたことを示すメッセージが表示されます。



    アセスメントの結果を更新する場合は、カードを選択して詳細を更新できます。その後、アセスメントは再び [オープン] ステータスに移行します。アセスメントを再度受けて再送信できるので、ワークフローは完了です。

11. アーカイブされた BIA を [ドラフト] ステータスに戻すには、[編集] ボタンを選択します。
    BCM リリース 9.0.x 以降では、フォームの [編集] ボタンを選択することで、アーカイブされたビジネスインパクトアナリシス (BIA) をドラフトステータスに戻すことができます。ビジネスに影響を与える分析と関連レコードをより柔軟に管理するのに役立ちます。
12. BIA でさらにアクションを実行するには、 [その他のアクション] を選択します。
13. BIA レコードを保存するには、[保存] を選択します。

[新規インパクト分析を作成 **(Create New Impact analysis)]** フォーム

[新規インパクトアナリシスを作成 (Create New Impact analysis)] フォームを使用して、ビジネスインパクトアナリシス、アセスメント、承認などの詳細を BCM 構成可能ワークスペースに追加します。

[新規インパクト分析を作成 **(Create New Impact analysis)]** フォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

[新規インパクト分析を作成 **(Create New Impact analysis)]** フォーム

フィールド	説明
[概要] タブ (分析の作成時に表示)	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新規インパクト分析を作成 **(Create New Impact analysis)]** フォーム (続く)

フィールド	説明
状況	ビジネスインパクトアナリシスの状況のステッパーコンポーネント。
[詳細] タブ	
名前	ビジネスインパクトアナリシスの名前。ビジネスインパクトアナリシスを 255 文字以内で説明します。
テンプレート	ビジネスインパクトアナリシスを作成するためのモデルとして使用できるテンプレート。 BIA テンプレートには、アセスメントのタイプに対応する識別されたプライマリ要素 (アプリケーション、ビジネスプロセス、および場所)、影響度カテゴリ、および依存資産があります。
テーブルに適用	ビジネスプロセス、ビジネスアプリケーション、またはビジネスインパクトアナリシスで評価されるその他の資産。このフィールドは、選択したテンプレートに従って自動入力されます。
適用先	分析が適用されるプロセス。
BCM リード	分析にアサインされた BCM リード。
業務部門	テンプレートのプライマリ要素データを格納するテーブル。
部門	ビジネスプロセスを使用する部門。選択した事業部門に基づいて部門を選択できます。
BIA オーナー	ビジネスインパクトアナリシスを所有し、完了する責任を負っている人物。BCM リードはビジネスインパクトアナリシスをレビューできます。
有効期限	分析の有効期限。このフィールドは自動入力されます。
説明	プロセスの説明。
結果	
中断の最大許容期間	製品またはサービスが組織に許容できない結果をもたらす前に利用できない状態でいられる最大時間。 **注:** Yokohamaリリース以降、アセスメントの質問を BIA の特定のフィールドまたはアセスメント全体にタグ付けできます。同様に、BIA で対処する複数のアセスメントの質問にタグを付けることができます。1 つの質問で複数のフィールドに値を入力することもできます。
達成目標復旧時間	読み取り専用です。インパクト分析の目標復旧時間のシステム計算値。
達成目標	読み取り専用です。影響分析の目標復旧時点のシステムで計算された値。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新規インパクト分析を作成 **(Create New Impact analysis)]** フォーム (続く)

フィールド	説明
復旧ポイント	
機密性	分析の機密性情報。
可用性	分析の完全性情報。
完全性	分析の機密性情報。アセスメント内のデータと資産の機密性、可用性、および完全性を計算するためのアンケートを 1 つ用意することもできます。
復旧階層	ビジネスインパクトアナリシスの復旧階層。
調整済み RTO	手動で調整された RTO。
調整済み RPO	手動で調整される RPO。
[Compose (作成)] セクション	
作業メモ	ビジネスインパクトアナリシスの作業メモ。このフィールドは自動入力されます。
アクティビティ	フィールドの変更日、影響度、ステータス、重大度など、BIA のアクティビティの詳細。
レコードのサイドバーに表示されるアイコン	
貢献者	レコードのサイドパネルに表示されるアイコン。パネルからビジネスインパクトアナリシスへの貢献者を追加できます。
添付ファイル	ビジネスインパクトアナリシスの PDF が添付されているパネル。
テンプレート	ビジネスインパクトアナリシスのテンプレートを入力するパネル。このパネルでは、すべてのテンプレートまたはカスタマイズされたテンプレートを表示できます。

依存関係の自動更新のスケジュール設定

CMDB のソースデータと関係に基づいて、ビジネスインパクトアナリシスの依存関係の自動更新をスケジュールできます。BCM アプリケーションから、ビジネスインパクトアナリシス依存関係の更新の詳細が記載されたメール通知を受信できます。

依存関係の自動更新のスケジュール設定

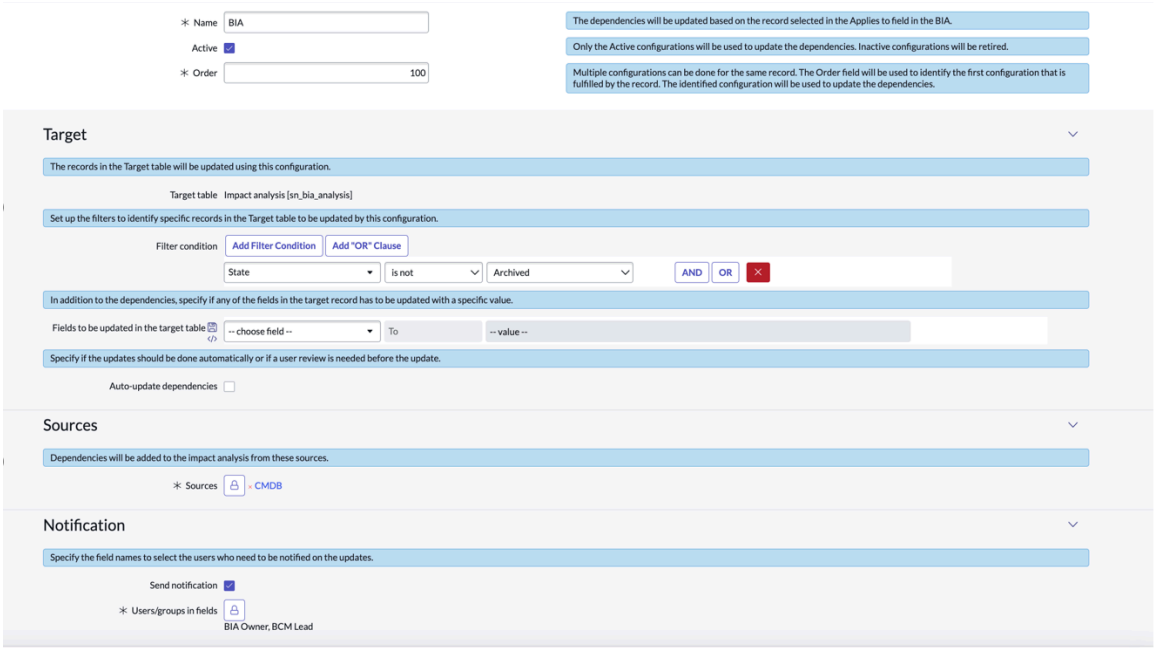
BCM アドミニストレーターは、CMDB のソースデータと関係に基づいて、インパクトアナリシス依存関係更新構成モジュールで BIA 依存関係の自動更新をスケジュールできます。自動更新構成モ

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

ジュールにアクセスするには、 事業継続性ワークスペース > 全般管理 > 影響分析依存関係の更新構成.

インパクトアナリシスの依存関係更新構成モジュールを次の例に示します。



BCM アドミニストレーターが [依存関係の自動更新] オプションを選択すると、BCMアプリケーションは BIA 内の依存関係の自動更新をスケジュールします。同様に、[通知を送信] オプションを選択すると、依存関係の更新に関する自動メールが BCM アプリケーションから BIA オーナーに送信されます。

BIA 依存関係のソースは CMDBです。

注:
HR アプリケーション BIA、売掛金管理 BIA など、BIA レコードの [適用先] フィールドにリストされている BIA の依存関係がフェッチされます。

インパクトアナリシス依存関係更新構成モジュールの設定は 1 回限りのアクティビティです。インパクトアナリシス依存関係更新構成モジュールでソースが構成されると、依存関係の更新が BIA で同期されます。

インパクトアナリシス依存関係更新構成モジュールの設定の詳細については、「影響分析依存関係の更新の構成」を参照してください。

Xanadu リリースで更新された依存関係の使用

Xanadu リリース以降、最新の BIA レコードの更新された依存関係を使用して、資産の依存関係アセスメントを実施できるようになりました。[関連アイテム BIA]、[関連アイテムの目標復旧時間 (RTO)]、[関連アイテムの目標復旧時点 (RPO)]、および [関連アイテムの復旧階層] 列の情報は、復旧の解決までに必要な期限とデータバックアップのニーズを確認するために使用され、BIA レコードの [復旧の解決までに必要な期限] 列と [必要なデータバックアップ] 列に表示されます。

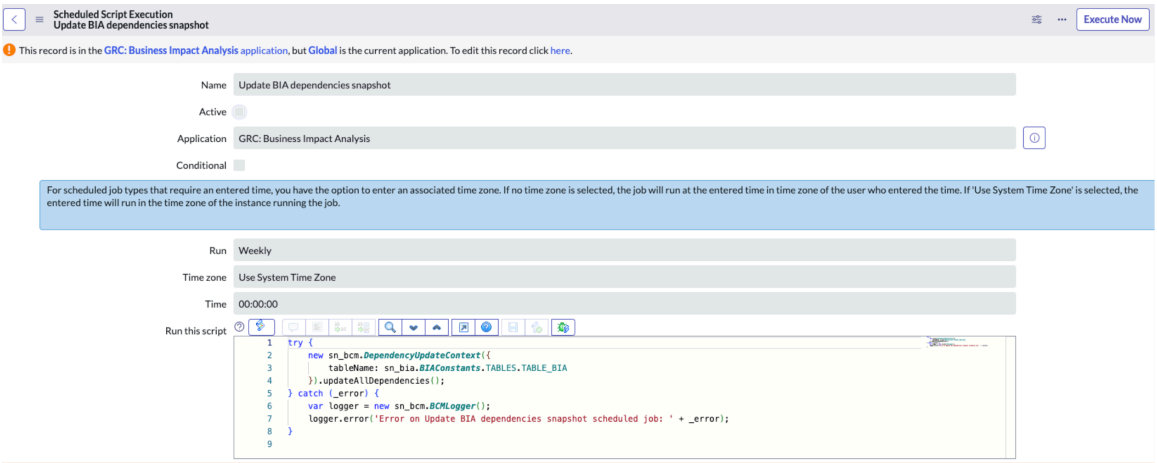
依存関係構成モジュールのソース BIA レコードオプションについての詳細は、「依存関係更新構成の計画のセットアップ」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

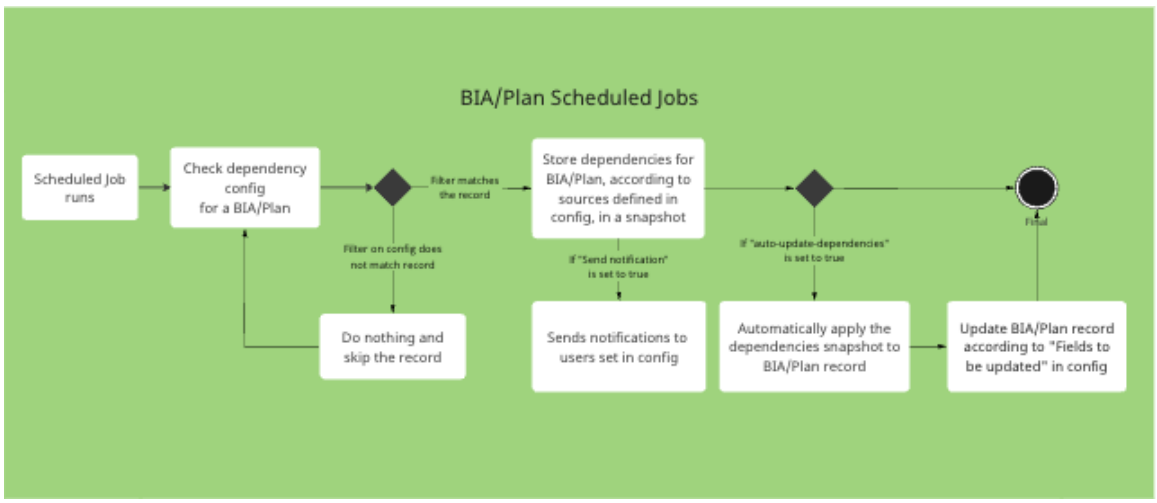
スケジュール済みジョブを使用した依存関係の自動更新

Update BIA dependencies snapshot スケジュール済みジョブは、ベースシステムの一部として出荷されます。定期的に実行され、依存関係の更新をフェッチします。スケジュール済みジョブを次の例に示します。



スケジュール済みジョブは、デフォルトでは非アクティブです。スケジュール済みジョブを定期的に実行するには、システムアドミニストレーターが [アクティブ] オプションを選択し、[今すぐ実行] を選択してスケジュールを設定します。その後、スケジュール済みジョブが定期的に実行され、BIA レコードで変更がスキャンされ、更新された BIA レコードの依存関係の更新をフェッチします。BIA 更新ごとにスナップショットレコードが作成されます。

スケジュール済みジョブは、次の例に示すように、ワークフローを処理して関係の変更を確認し、依存関係の更新を自動的に保存します。



1. スケジュール済みジョブは毎週実行され、各 BIA レコードの依存関係構成をチェックして、インパクトアナリシス依存関係更新構成モジュールの [ソース] タブで定義されている CMDB から BIA 依存関係をフェッチします。すべてのアクティブな BIA と、各 BIA のプライマリ資産および依存資産のリストが生成されます。BIA に対して新しい依存関係が追加、更新、または削除されると、スケジュール済みジョブは、ユーザーの変更を表示する BIA のスナップショットレコードを作成します。

   注:
   デフォルトでは、スケジュール済みジョブは、**[** アーカイブ済み] ステータスでないすべての BIA レコードで更新された依存関係をチェックします。

自動翻訳

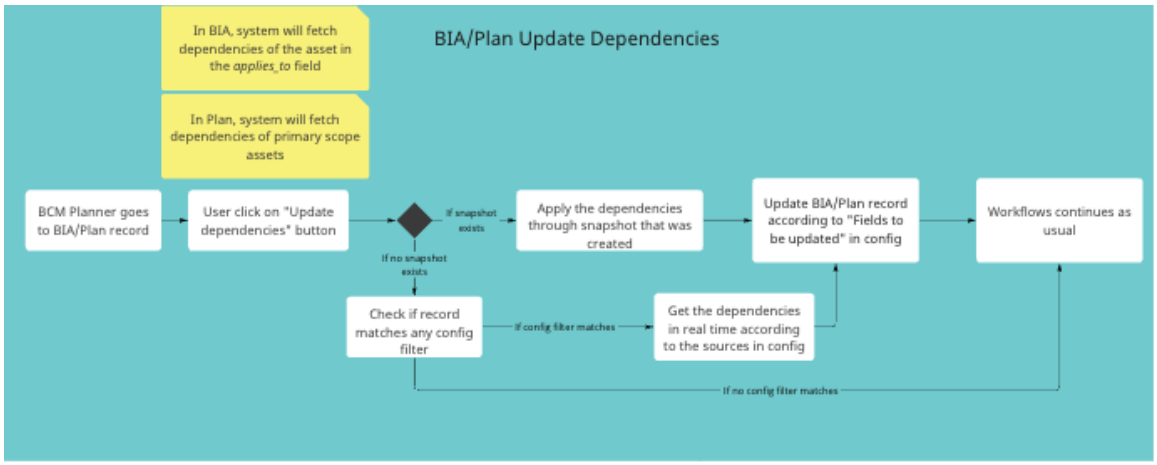
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. スケジュール済みジョブは、構成 (影響分析依存関係更新構成モジュール) で設定されたフィルター条件を参照します。条件が BIA レコードと一致する場合、スケジュール済みジョブは、BIA の依存関係をフェッチし、構成で定義されたソースに従ってスナップショットレコードに保存します。フィルター条件が BIA レコードと一致しない場合、アプリケーションはレコードをスキップします。
3. アプリケーションは、インパクトアナリシス依存関係更新構成モジュールで定義された優先度に基づいて、資産リストを 1 つのリストに結合します。アプリケーションは、資産リストを既存の資産リストと比較し、各資産に **[** 追加済み]、[更新済み]、または [削除済み] ステータスをアサインします。
4. アプリケーションはまた、新しい資産を要素定義にリストされている資産と比較し、要素定義の条件を検証します。アプリケーションは資産のスナップショットを作成し、依存関係スナップショットレコードの依存関係の更新を自動完了します。
5. インパクトアナリシス依存関係更新構成モジュールで [通知を送信] オプションが [**True**] に設定されている場合、構成内の BIA レコードセットのユーザーには、スケジュール済みジョブを通じて依存関係の更新が通知されます。
6. インパクトアナリシス依存関係更新構成モジュールで [依存関係を自動更新] オプションが **[True]** に設定されている場合、スケジュール済みジョブによって依存関係スナップショットが BIA レコードに自動的に適用されます。
7. 最後のステップとして、スケジュール済みジョブは、構成内の更新するフィールドに従って BIA レコードを更新します。

依存関係の手動更新

BCM アプリケーションユーザーは、[依存関係を更新] UI アクションを使用して、BIA の依存関係を瞬時に更新できます。このようにすることで、週次スケジュールに従ってスケジュール済みジョブが実行される前に、依存関係を手動で更新できます。[依存関係を更新] UI アクションは、BIA の依存関係アセスメントに一覧表示されます。その後、依存関係がソースで更新され、BIA 更新のスナップショットレコードが作成されます。

[依存関係を更新] UI アクションを使用し、依存関係を手動で更新する方法については、次のワークフローを参照してください。



1. BCM 計画者が BIA レコードに移動します。アプリケーションは、BIA の [適用先] フィールドで定義された資産の依存関係をフェッチします。
2. BCM計画者は 、BIA の依存関係アセスメントにリストされている [依存関係を更新] UI アクションを選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. BIA 更新のスナップショットレコードが存在する場合、システムはスナップショットを介して依存関係を適用し、構成内の [更新するフィールド] に従って BIA を更新します。その後、BIA ワークフローは、レビューや承認の要求などの次のステップに進みます。

   BIA 更新のスナップショットレコードが存在しない場合、 BCM 計画者は BIA レコードがいずれかの構成フィルターに一致するかどうかを確認します。

   - BIA レコードがいずれかの構成フィルターに一致する場合、アプリケーションは構成内のソースに従ってリアルタイムで依存関係を取得します。次に、構成内の [更新するフィールド] に従って BIA レコードを更新します。その後、BIA ワークフローが次のステップに進みます。
   - BIA レコードが構成フィルターと一致しない場合、BIA ワークフローは次のステップに進みます。

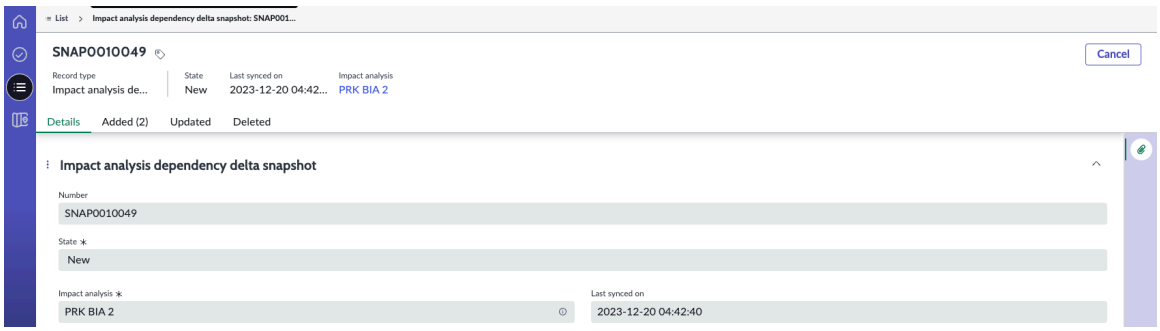
依存関係を手動で更新する方法の詳細については、「BIA 依存関係の更新」を参照してください。

注:

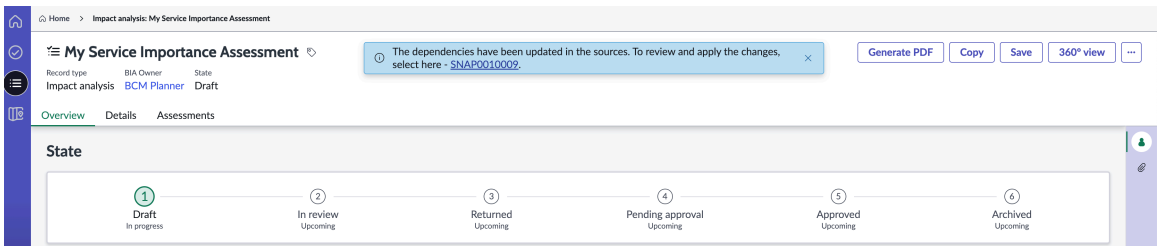
注:
インパクトアナリシス依存関係更新構成モジュールは、スケジュール済みジョブの使用と、手動での依存関係の更新 ([依存関係を更新] UI アクションを使用) に使用されます。

BIA のスナップショットレコード

スナップショットレコードは、スケジュール済みジョブまたは [依存関係を更新] 手動 UI アクションのいずれかを使用して、BIA 更新ごとに作成されます。BIA に対して新しい依存関係が追加、更新、または削除されると、スナップショットレコードに変更の差分が表示されます。スナップショットレコードは、事業継続性ワークスペース のビジネスインパクトアナリシスリストビューの [保留中の更新] モジュールに一覧表示されます。スナップショットレコードを次の例に示します。



スナップショットレコードが作成されると、アプリケーションは BIA の依存関係アセスメントに次の UI メッセージを表示して、依存関係の更新についてユーザーに次のように通知します： ソースで依存関係が更新されました。 変更を確認して適用するには、ここを選択します - <link>。UI メッセージを次の例に示します。



スナップショットレコードは、記録保持の目的で使用されます。BCM アプリケーションは、BIA ごとに一度に 1 つのアクティブなスナップショットを保存します。依存関係が更新されるたびに、

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スナップショットが常に最初に作成されます。システムはすべてのレコードを 1 つずつ処理するため、スナップショットレコードはシステム内で 1 つずつ自動コミットされます。

[完了] ステータスで数か月間更新されていないスナップショットは、アプリケーションから自動的に削除されます。

BIA レコードの依存関係に変更がない場合、その BIA レコードのスナップショットレコードは作成されません。

BIA 依存関係の更新に関連付けられたロール

次のロールを持つユーザーは、通常、BIA で依存関係の更新を確認します。

- BCM プログラムマネージャー、BCM 計画者、および BCM マネージャーは、最新の依存関係を更新できます。
- BCM アドミニストレーターは、インパクトアナリシス依存関係更新の構成モジュールを構成できます。

依存関係アセスメントを更新できるユーザーは、BIA の依存関係の更新をインポートできます。

データリレーションシップフレームワーク

資産に対してビジネスインパクトアナリシス (BIA) を実行する場合は、依存関係アセスメントを実行して BIA の依存関係を評価する必要があります。CMDB 内の依存関係が更新された場合、BIA に手動でインポートするのは面倒な作業になる可能性があります。Yokohama リリース以降、データリレーションシップフレームワーク アプリケーション (com.sn_app_grc_relationship_config) は、BIA の依存関係をフェッチするために、基礎となるフレームワークを使用して BCM アプリケーションをサポートします 。データリレーションシップフレームワークアプリケーションは、デフォルトで BCM アプリケーションと共にインストールされます。

データリレーションシップフレームワーク の詳細については、「データリレーションシップフレームワーク」を参照してください。

BIA 依存関係の更新

影響分析依存関係更新構成モジュールでスケジュール済みジョブが有効になっていない場合は、スナップショットからビジネスインパクトアナリシス (BIA) の依存関係を手動で更新します。アクティブな BIA で依存関係を更新できます。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.program_manager、sn_bcm.planner、sn_bcm.admin

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. [ドラフト] ステータスの BIA を開き、[アセスメント] タブに移動します。

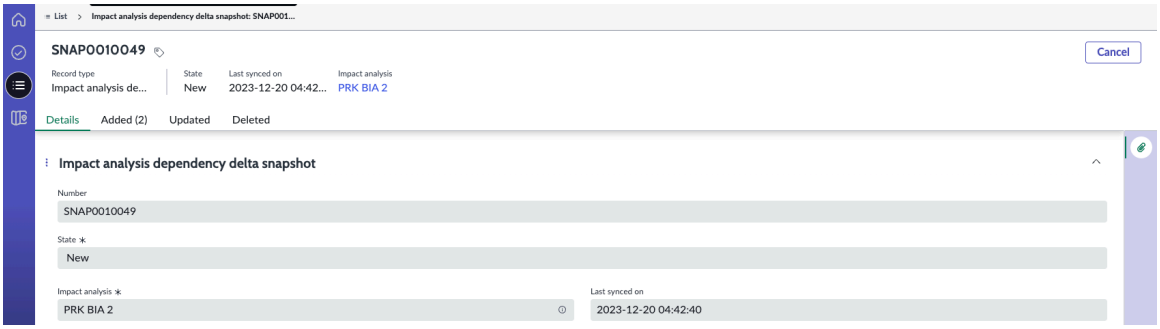
   ソースで依存関係が更新されている場合、スケジュール済みジョブが依存関係をフェッチし、「To review and apply the changes, select here - SNAP0010078.」という UI メッセージが画面に表示されます。スナップショットレコードを選択して更新を表示できます。

3. スナップショットレコードを表示するには、[ビジネスインパクトアナリシス] リストビューで更新保留中のモジュールを選択し、スナップショットレコードを選択します。

   影響分析依存関係のデルタスナップショットが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



- 追加:[追加済み] タブには、ソースから新しく追加された資産が表示されます。
- 更新済み:[更新済み] タブには、ソースから更新された資産が表示されます。
- 削除済み:[削除済み] タブには、以前にプルされたソースから削除された資産が表示されます。スナップショットがコミットされると、これらの資産はすべて無効としてマークされます。

BCM アプリケーションは、BIA のアクティブなスナップショットを 1 つずつ保存します。[完了] ステータスで過去 6 か月間更新されていないスナップショットは、アプリケーションから自動的に削除されます。

4. 依存関係を手動で更新するには、依存関係アセスメントで [アセスメントを開く] を選択します。
5. [依存関係を更新 **(Update dependencies)]** を選択します。

> **注:**
> システムが依存関係を更新しているときは、BIA レコードの UI アクションがブロックされ、BIA 状況を続行できなくなります。システムが依存関係のインポートを完了しない限り、ユーザーは BIA の状況を進めることはできません。ユーザーが BIA の状況を進める前に、依存関係アセスメントの依存関係を完了しておく必要があります。すべての依存関係がインポートされ、依存関係アセスメントの依存関係が完了すると、ユーザーは BIA レコードのワークフローを続行できます。

UI メッセージが画面に表示されます：Dependencies are being updated. Refresh the page to view the updated dependencies and complete the assessment.

6. BIA への変更を保存するには、[保存] を選択します。
BIA オーナーと承認者は、BIA への変更を保存することで依存関係を更新できます。

影響度カテゴリと依存関係の評価

BCM UIB ワークスペース で影響度カテゴリと依存関係を評価して、計画に必要な情報を取得します。ビジネスインパクトアナリシスを使用して、アイテムの目標復旧時間を特定し、依存関係が最も少ない資産と最も重要度が高い資産に優先順位を付けます。この情報を使用して、計画段階で復旧戦略を確立します。

始める前に
必要なロール：sn_bia.bia_admin、sn_bcm.program_manager、または sn_bcm.planner

このタスクについて
Xanadu リリース以降、次の新しい列が BIA 依存関係テーブルに追加されました。これらの列の値は、依存関係アセスメントの [依存関係の更新 **(Update dependencies)]** ボタンを選択することでリフレッシュできます。

- 関連アイテム BIA：依存関係アイテムに対して実行された最新のアーカイブされていない影響分析
- 関連アイテム RTO：上記影響分析の目標復旧時間。調整済み RTO の値がある場合は、RTO の代わりに使用されます。

自動翻訳

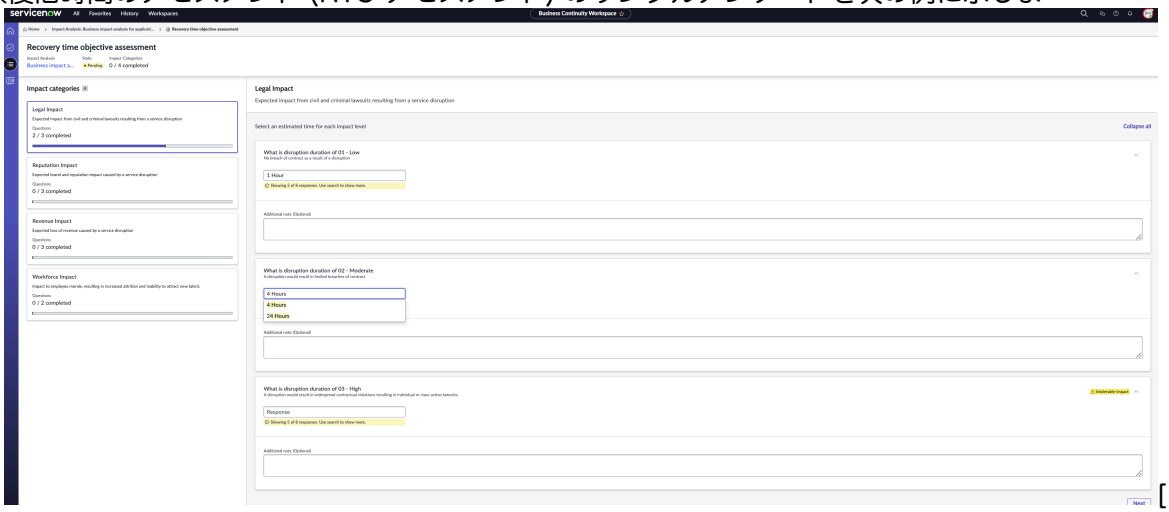
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 関連アイテム RPO：上記影響分析の目標復旧時点。調整済み RPO の値がある場合は、RPO の代わりに使用されます。
- 関連アイテム復旧階層：上記影響分析の復旧階層。

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. 既存のビジネスインパクトアナリシスを更新するには、[名前] 列のビジネスインパクトアナリシスレコードへのリンクを選択し、[アセスメント] タブに移動します。
3. ビジネスプロセスでのさまざまなタイプのビジネスインパクトカテゴリを評価するには、[目標復旧時間のアセスメント] タブをクリックします。

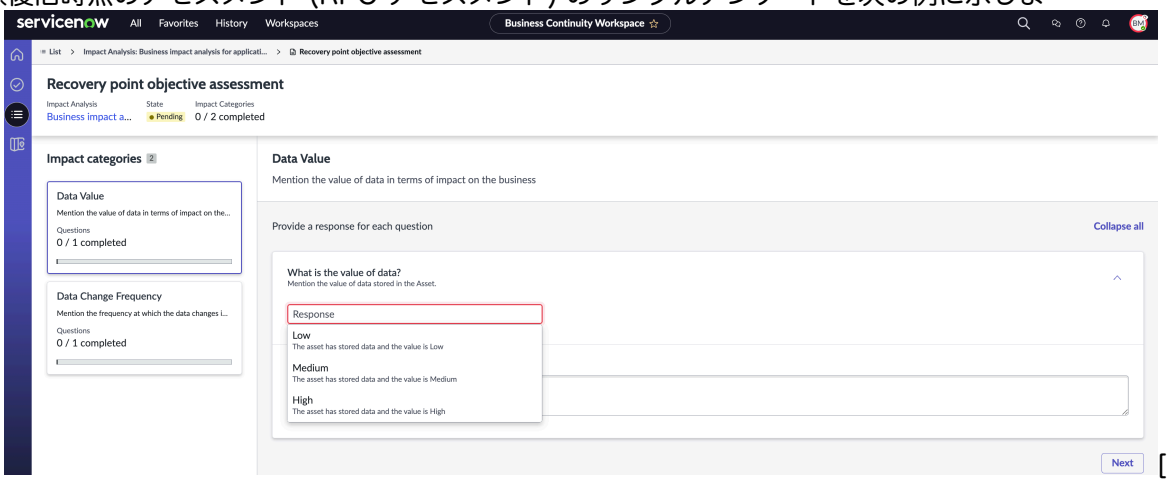
   目標復旧時間のアセスメント (RTO アセスメント) のサンプルアンケートを次の例に示します。



   [目標復旧時間のアセスメント] で、すべての影響度カテゴリを設定する必要があります。ビジネスプロセスは、デフォルトで、ビジネスインパクトアナリシスに使用したテンプレートから一連の影響度カテゴリを取得します。詳細については、「影響度カテゴリの確認とそのダウンタイムの評価」を参照してください。

4. 目標復旧時間のアセスメントアンケートの質問に回答して、[次へ] を選択します。
   目標復旧時間とその計算の詳細については、「 RTO、RPO、復旧階層」および「 RTO と RPO の計算」を参照してください。
5. 資産のデータコンポーネントに関連する質問に回答するには、**[** 目標復旧時点のアセスメント] タブを選択します。

   目標復旧時点のアセスメント (RPO アセスメント) のサンプルアンケートを次の例に示します。



   [目

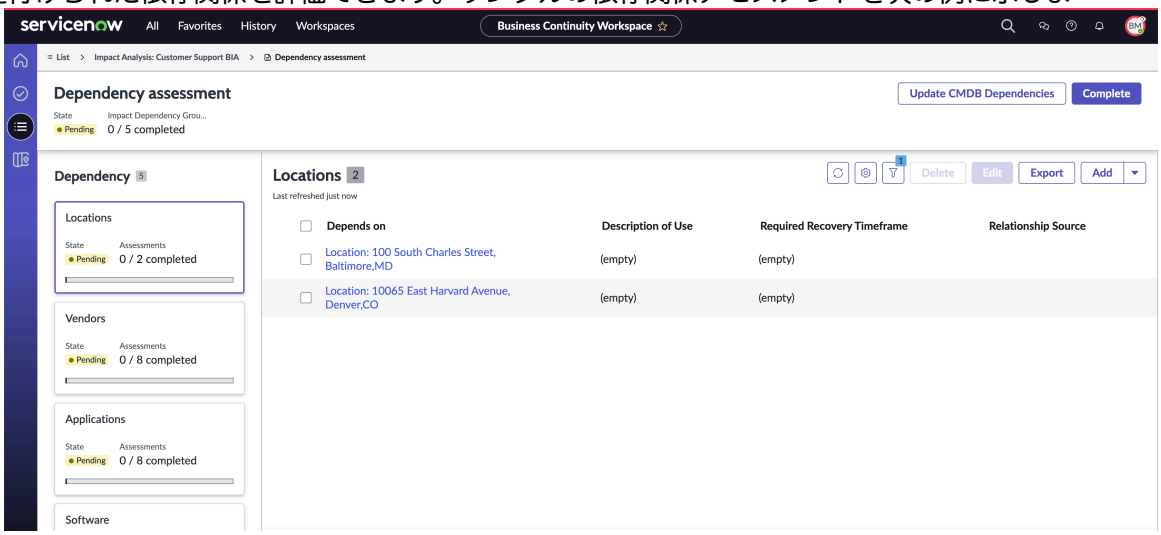
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

標復旧次点のアセスメント] で、すべての影響度カテゴリを設定する必要があります。詳細については、「技術資産がビジネスに与える RPO の影響度の評価」を参照してください。目標復旧時点とその計算の詳細については、「 RTO、RPO、復旧階層」および「 RTO と RPO の計算」を参照してください。

6. 目標復旧時点のアセスメントの質問に回答して、[次へ] を選択します。
   質問に回答して、目標復旧時点のアセスメントを完了します。
7. 依存関係を評価して、それぞれの依存関係の中でビジネスプロセスが依存するアイテムを特定するには、[依存関係アセスメント] タブを選択します。

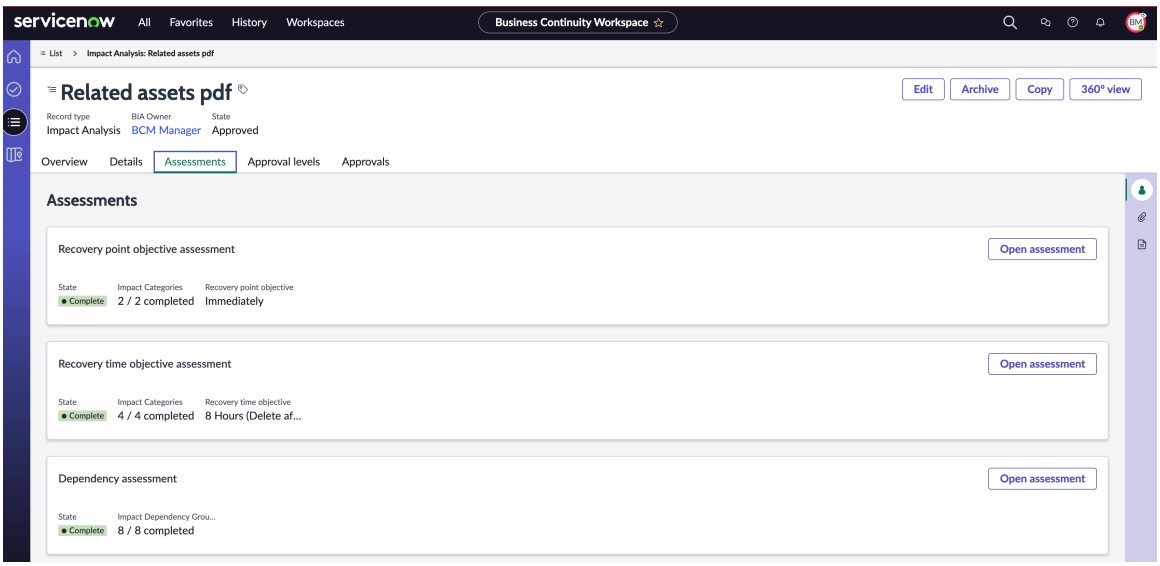
   [依存関係] パネルで依存関係を選択すると、グループとそのグループに属するアイテムが表示されます。たとえば、グループが [場所] の場合、1 つ以上の場所を選択して、その場所に関連付けられた依存関係を評価できます。サンプルの依存関係アセスメントを次の例に示します。



8. 依存関係グループにアイテムを追加するには、次のいずれかのオプションを選択します。

   ビジネスプロセスで使用する資産の重要度に基づいて、事業継続性計画と復旧計画に優先順位を付けることができます。

   完了したアセスメントを、次の例に示します。各アセスメントのステータスが [完了] としてマークされ、緑色で強調表示されています。完了したアセスメントを開いて、いつでも参照できるように詳細を表示できます。



自動翻訳

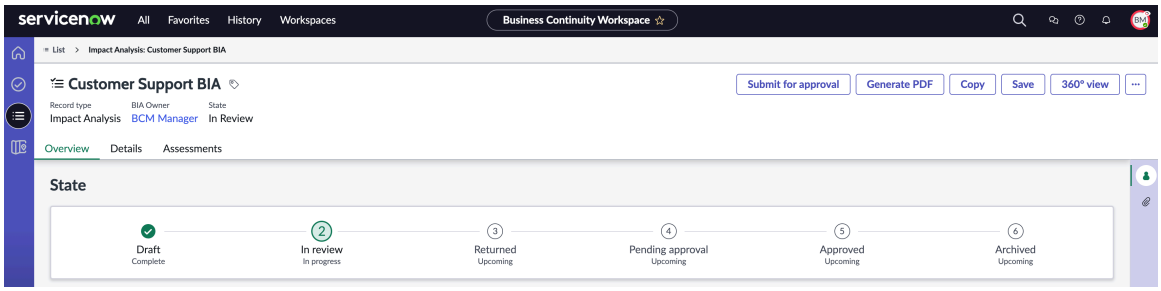
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

9. [レビューのため送信] を選択します。

   注:
   レビューのためにビジネスインパクトアナリシスを送信する前に、すべてのアセスメントが完了し、[詳細] タブの **[BCM リード]** フィールドで BCM リード の名前が更新されていることを確認してください。

   ビジネスインパクトアナリシスが、レビューのために BIA オーナーまたは BCM リードに送信されます。ビジネスインパクトアナリシスは [レビュー中 **(In Review)**] ステータスに更新されます。

10. BIA オーナーまたは BCM リードである場合は、ビジネスインパクトアナリシスでアセスメントを確認します。



11. [承認のため送信] を選択します。
    ビジネスインパクトアナリシスが [承認待ち] ステータス に更新されます。

    注:
    BIA の承認レコードが既に作成されている場合、[承認] ボタンと [却下] ボタンは BIA フォームに表示されません。

12. [保存] を選択します。

13. **[PDF** の生成 **(Generate PDF)]** ボタンを選択して、PDF 形式で BIA を生成します。
    PDF が生成されたことを示すメッセージが表示されます。

    PDF のダウンロード

    Customer Support BIA PDF has been successfully generated for download

    メッセージ内のリンクを選択して、PDF をダウンロードします。

    - BIA への表示専用アクセス権がある場合は、PDF を生成するオプションを使用して、ドキュメントをローカルハードドライブにダウンロードできます。
    - [承認] ステータスになる前に BIA をダウンロードできます。
    - デフォルトでは、BIA が承認された後に PDF が生成されて添付されます。

14. BIA を [承認済み] ステータスから [ドラフト] ステータスに移行するには、[編集] ボタンを選択します。

15. BIA のコピーを作成するには、[コピー] ボタンを選択します。
    BIA を読み取りおよび作成する権限がある場合は、BIA をコピーすることもできます。

    a. [影響分析をコピー] ポップアップに新しい BIA の名前を入力します。
       コピー操作では、[影響分析をコピー] ポップアップに入力した名前で BIA の正確なレプリカが作成されます。また、すべての依存関係と依存関係グループも新しい BIA にコピーされます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

b. [確認] を選択します。

- 元の BIA からコピーされた新しい BIA には、元の BIA と同様の RTO、RPO の影響度、依存関係アセスメントの構造の詳細があります。
- ただし、これらの各アセスメントの影響度カテゴリの詳細は、コピーされた BIA の依存関係の詳細のみを評価するために編集可能になっています。
- RTO または RPO の影響度評価が完了している BIA がコピーされると、コピーされた新しい BIA には [保留 **(Pending)]** ステータスの新しいアセスメントはありません。元の BIA の RTO および RPO の影響度評価の影響度カテゴリが [完了 **(Complete)]** ステータスである場合、 コピーされた BIA の影響度カテゴリも [完了 **(Complete)]** ステータスになります。
- したがって、コピーした BIA に関連する中断期間、応答、および必要な復旧期間を評価して入力する必要があります。
- [結果] セクションで詳細を評価できます。RTO と RPO の値は、アセスメントの完了後に再計算されます。
- アクティビティと作業メモは新しい BIA にコピーされません。新しい BIA に関連するこの情報を入力します。
- 元の BIA に添付されているすべての形式の添付ファイルが新しい BIA にコピーされます。ただし、**[PDF** を生成] ボタンを使用して元の BIA 用に生成された PDF は、アセスメントデータが元の BIA に関連しているため、新しい BIA にコピーされません。コピーされた BIA のアセスメントの詳細を変更して PDF を生成する柔軟性があるため、元の BIA 用に生成された PDF をコピーしても意味がありません。

> **注:**
> [ドラフト] ステータスの BIA (およびその関連テーブル) を削除できます。BCM 計画者とプログラムマネージャーは、[レビュー中 **(In Review)]** および [戻り **(Returned)]** ステータスの BIA を削除できますが、BCM アドミニストレーターは、状況に関係なく BIA を削除できます。

自動翻訳

ビジネスインパクトアナリシスの承認

BCM アプリケーションの BCM UI ビルダー ワークスペース で、ビジネスインパクトアナリシスを承認します。ビジネスインパクトアナリシスのオーナーまたはビジネスインパクトアナリシスの BCM リードであれば、ビジネスインパクトアナリシスを承認できます。

始める前に

必要なロール：
sn_bia.bia_admin、sn_bia.bia_manager、sn_bcm.program_manager、sn_bcm.planner

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. 既存のビジネスインパクトアナリシスを更新するには、[名前] 列のビジネスインパクトアナリシスレコードに移動します。
3. フォームで [承認] を選択します。
   ビジネスインパクトアナリシスのオーナーまたはビジネスインパクトアナリシスの BCM リードであれば、ビジネスインパクトアナリシスを承認できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
BIA の承認レコードが作成されている場合、 承認 または 却下 アクションは BIA フォームに表示されません。ユーザーが [承認] または [却下] アクションを表示するには、次の条件を満たす必要があります。

- ユーザーは sn_bia.bia_manager ロールを持っている必要があります。
- BIA は [承認待ち] ステータスである必要があります。
- BIA に承認レコードを作成しないでください。

ビジネスインパクトアナリシスを承認すると、ステータスは [承認済み] に更新されます。

セルフサービスでの **BIA** の依存関係の更新

貢献者ロールを使用して、影響度カテゴリ結果、RPO 影響分析応答、影響度依存関係グループのステータス、および BCM アプリケーションの [アクティビティ] セクションで作業メモを更新します。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.contributor または sn_bcm.viewer

貢献者リストに含まれている BCM 貢献者の場合、または BCM ビューアーである場合、ビジネスインパクトアナリシス (BIA) の依存関係の詳細を更新できます。

手順

1. 移動先 すべて > セルフサービス > 影響分析.
2. 自分に割り当てられたビジネスインパクトアナリシスレコードと自分が貢献できる BIA のリストを表示します。
3. BIA レコードを選択し、詳細を表示します。
4. BIA の [ステータス] を更新します。
5. レコードを更新するには、[更新] を選択します。

BIA の **360** 度の関係を可視化

BCM UIB ワークスペース でビジネスインパクトアナリシスとその関連エンティティの 360 度の関係を可視化します。ビジネスインパクトアナリシスの作成中は、いつでも 360 度ビューにアクセスできます。

始める前に
必要なロール：sn_bia.bia_admin、sn_bcm.program_manager、または sn_bcm.planner

このタスクについて
360 度ビューの構成は、 **360** 度ビューの構成 > **360** 度ビューの構成.BCMアドミニストレーターロールを持っている場合は、でレコードの関係を構成できます。 **360** 度ビューの構成 > 関係のレジストリ.

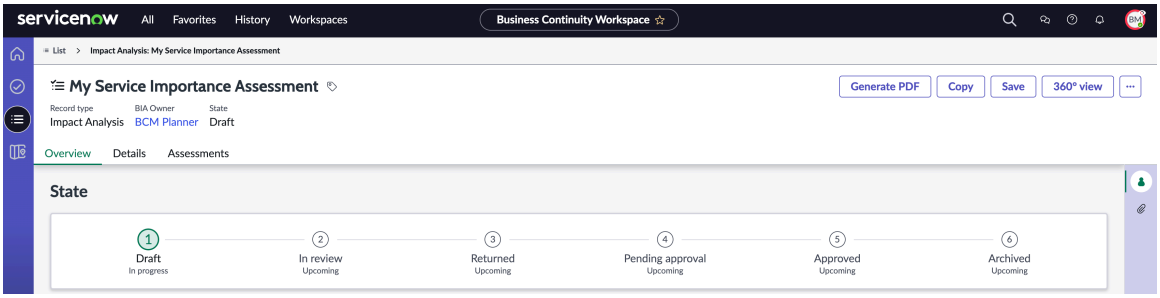
手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで、[ビジネスインパクトアナリシス] に移動して、リストからレコードを選択します。
   ビジネスインパクトアナリシスレコードが表示されます。
3. **[360** 度ビュー] を選択します。

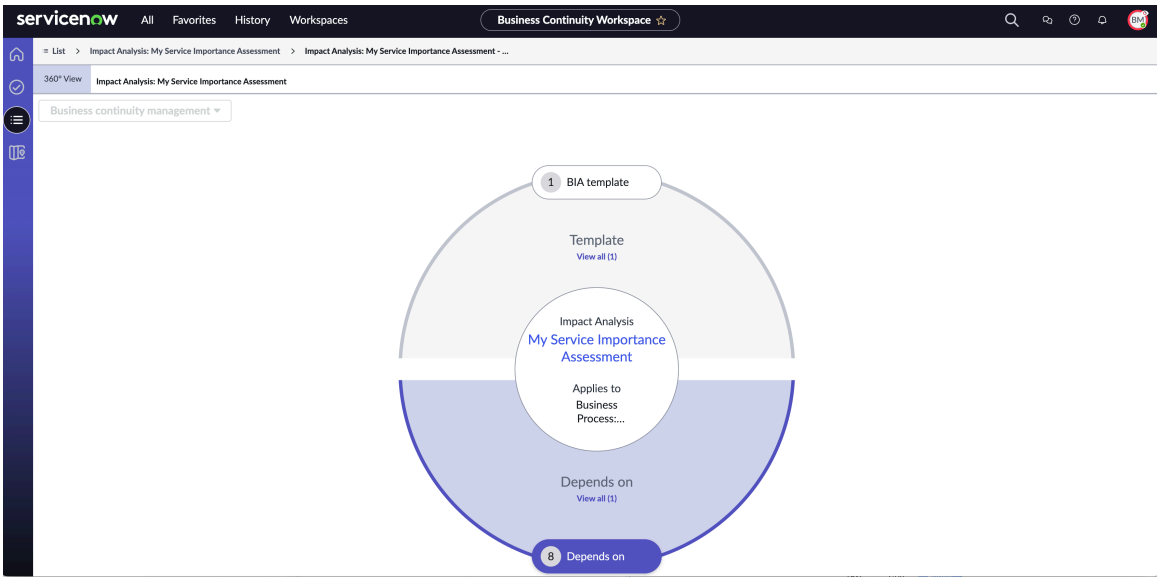
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

次の例に示すように、**[360** 度ビュー] を選択して BIA の関係を表示できます。



次の例は、ビジネスインパクトアナリシスとその詳細の 360 度ビューです。



ビジネスインパクトアナリシスの 360 度ビューには、次の詳細が表示されます。

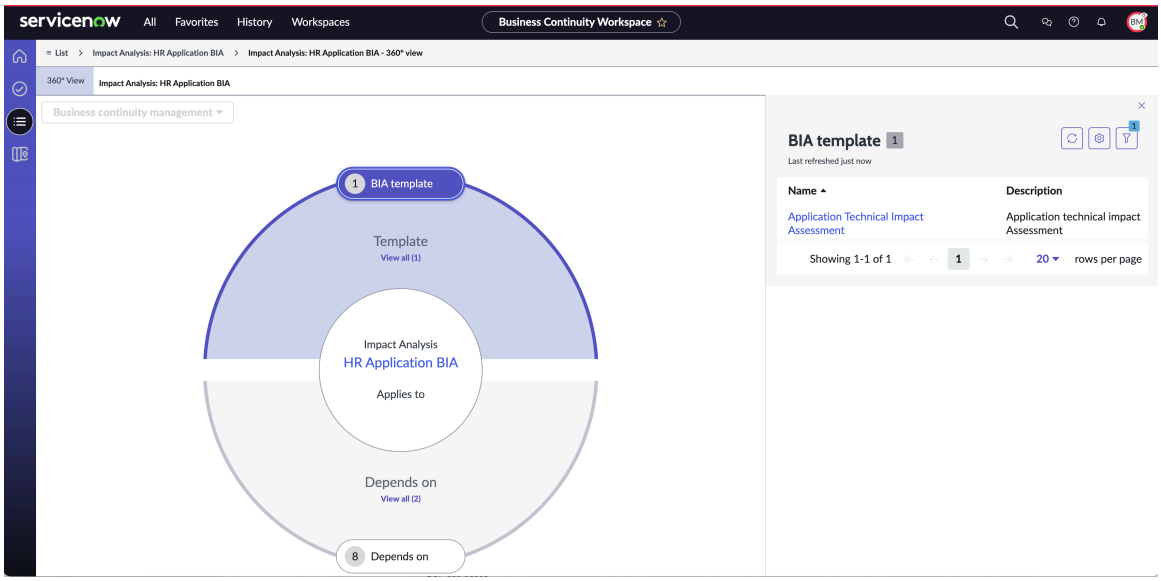
- [影響分析]：ビジネスインパクトアナリシスの名前 (自分のサービス重要性アセスメントなど)。
- [適用先]：ビジネスプロセスやビジネスサービスなど、ビジネスインパクトアナリシスが適用されるエンティティ。
- [テンプレート]：テンプレートの名前や説明などの BIA テンプレートの詳細。**[BIA** テンプレート] カプセルを選択し、BIA テンプレートの詳細を表示できます。
- [依存先]：ビジネスインパクトアナリシスに関連付けられた依存関係。[依存先] カプセルを選択して、その詳細を表示できます。

4. ビューで **[BIA** テンプレート] を選択します。

次の例に示すように、テンプレートの名前や説明などの BIA テンプレートの詳細がビューの右側のパネルに表示されます。

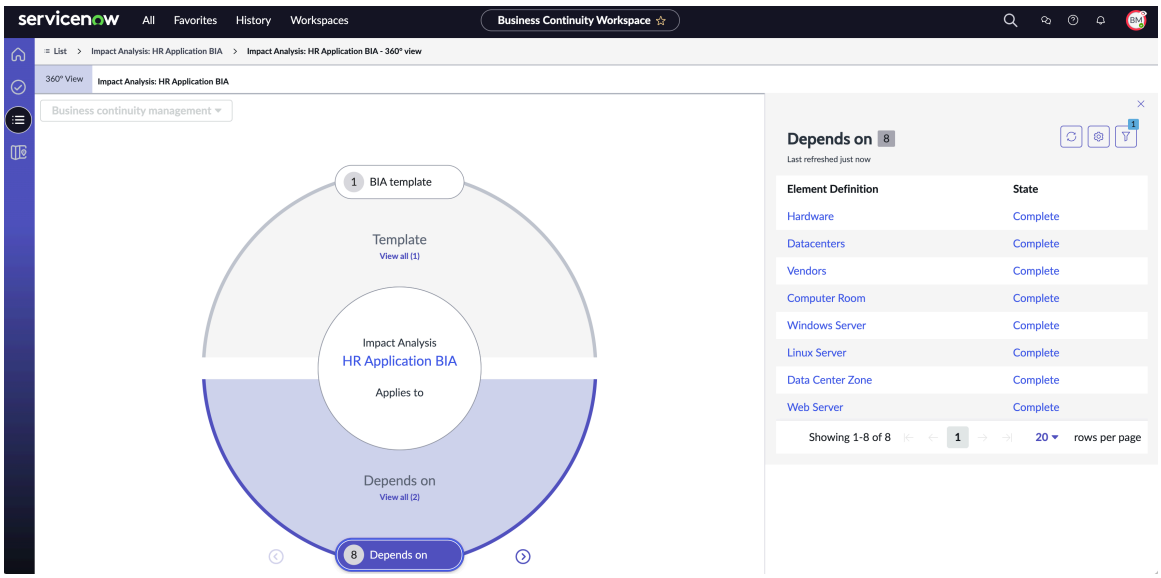
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. ビューで [依存先] を選択します。

次の例に示すように、依存関係の詳細がビューの右側のパネルに表示されます。

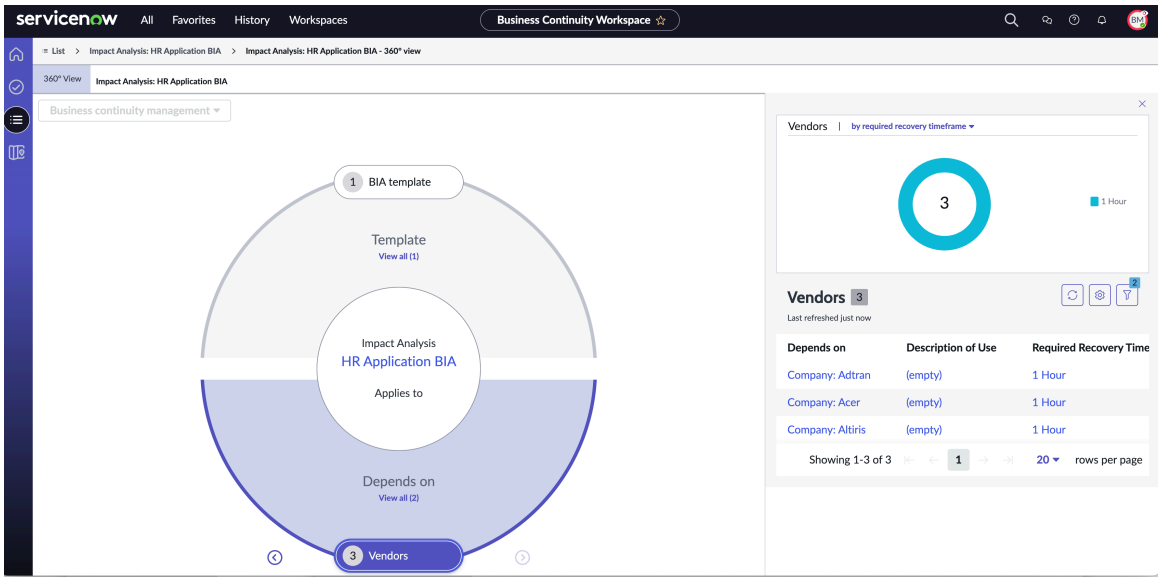


6. ビューで [ベンダー] を選択します。

次の例に示すように、ベンダーの詳細がビューの右側のパネルに表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



7. 再度 BIA に移動するには、ページのブレッドクラムナビゲーションで BIA またはリストビューを選択します。

PDF 形式または Microsoft Word 形式での BIA レポートの生成

BCM 構成可能ワークスペース でビジネスインパクトアナリシスの PDF またはMicrosoft Wordコピーを生成し、後で参照できるように保存することができます。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.program_manager、sn_bcm.planner

このタスクについて
ビジネスニーズに合わせて PDF をフォーマットするには、「BIA、BCP、およびイベントの PDF テンプレートのフォーマット設定」を参照してください。

Xanadu リリース以降、ビジネスインパクトアナリシス、計画、およびイベントの PDF のコンテンツは、新しいレイアウトを実装することによって改善されています。

- 各種イベントタスクを表形式で記載します。
- 資産所有者の詳細とビジネスインパクトアナリシスの説明を含めます。
- 計画資産の依存関係の概要を示すテーブルを表示します。
- 最初のページに PDF の作成日を記載します。

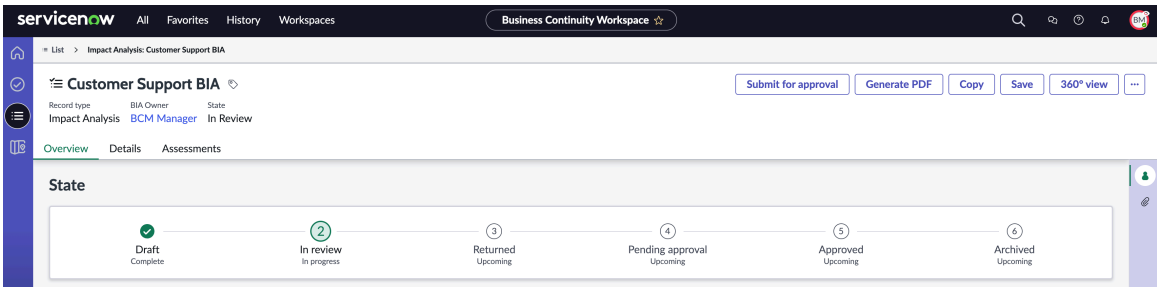
手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで、[ビジネスインパクトアナリシス] に移動し、[レビュー] または次のステータスにあるビジネスインパクトアナリシスを選択します。
3. フォームで **[PDF**の生成] を選択します。

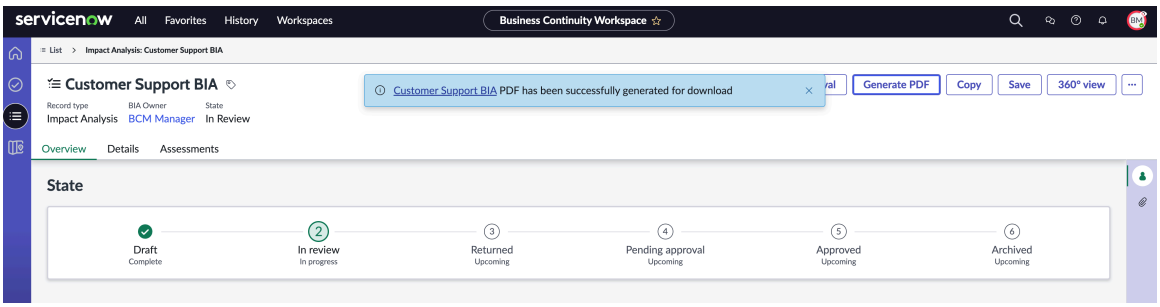
   次の例は、ビジネスインパクトアナリシスフォームの **[PDF** の生成] オプションを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



次の例は、「<BIA の名前> ダウンロード用 PDF が正常に生成されました」というメッセージが画面に表示されているところを示しています。

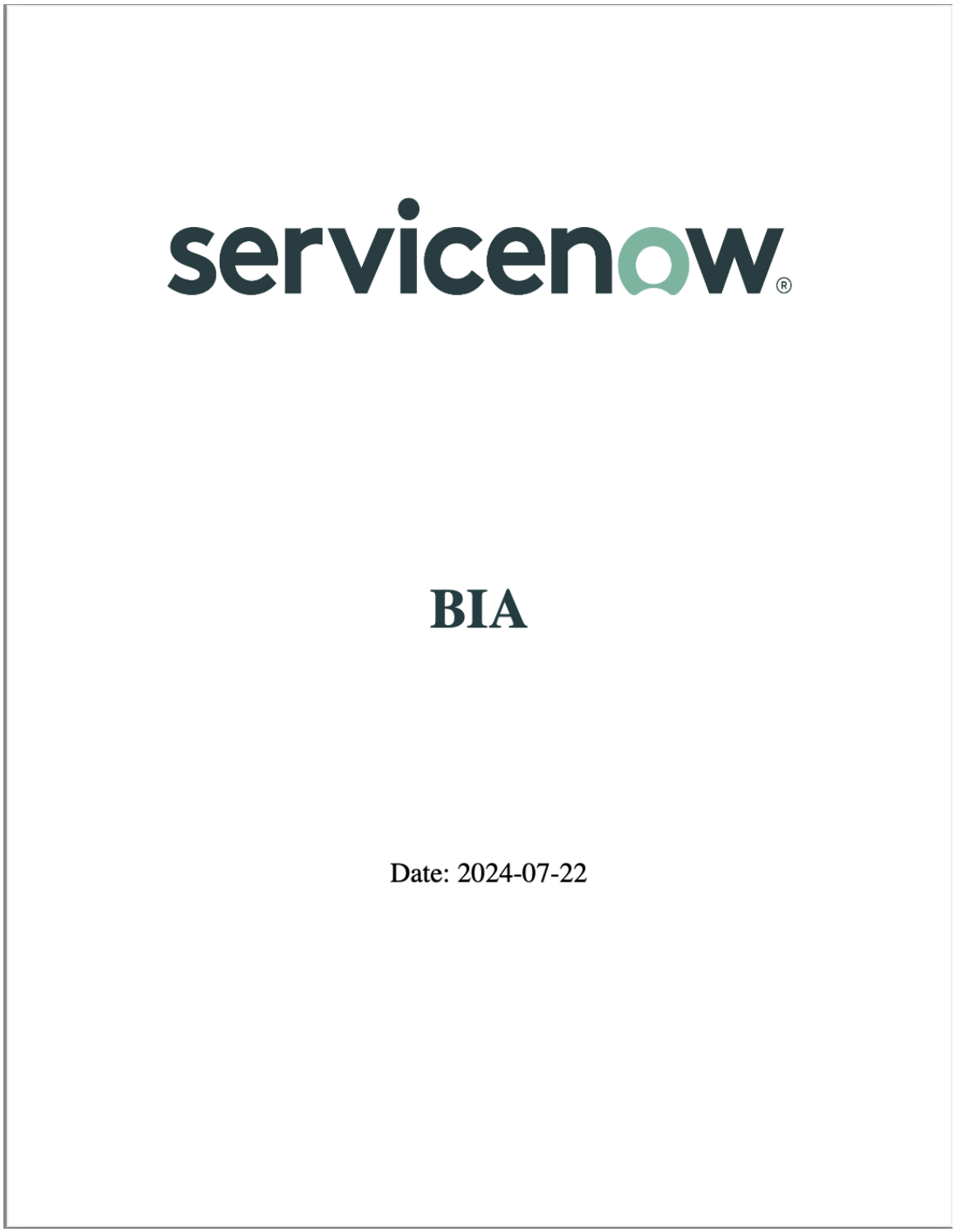


4. PDF をダウンロードするには、メッセージ内のリンクを選択します。

   次の例は、ビジネスインパクトアナリシスフォームの PDF を示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

5. システムに PDF を保存します。
6. Microsoft Word で BIA レポートを作成するには、[**MS Word** を生成] を選択します BIA レコードのレポートを Microsoft Word 形式で生成します。BIA レコードの Microsoft Word コピーが正常に生成され、ダウンロードできます。
7. BIA レポートを印刷するには、保存した PDF またはコピー Microsoft Word を開き、[印刷] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

BCP の構造化ワークフロー

このセクションで概説されている構造化されたワークフローを実行して、事業継続性ワークスペース (別名 BCM 構成可能ワークスペース) で事業継続性計画を作成します。

通常、事業継続性計画オーナーは次のタスクを実行します。

- 計画テンプレートから事業継続性計画を作成する。詳細については、「事業継続性計画の作成」を参照してください。
- 計画に資産とスコープを追加する。詳細については、「BCP に資産とスコープを追加」を参照してください。
- ドキュメントセクションを作成する。詳細については、「ドキュメントセクションを作成する」を参照してください。
- 関連計画と復旧チームを追加する。詳細については、「関連計画と復旧チームの追加」を参照してください。
- 損失シナリオ、復旧戦略、および復旧タスクを追加する。詳細については、「損失シナリオを追加」、「依存関係の復旧戦略の追加」、「復旧タスクを追加」を参照してください。
- 参照用に分析の PDF を生成して保存する。詳細については、「PDF 形式または Microsoft Word 形式での BCP レポートの生成」を参照してください。

Xanadu リリースでの BCP の更新

Xanadu リリース以降、ネストされた関連計画の処理が改善されました。この機能拡張は、タスクの実行中に循環依存関係を引き起こす可能性のある問題を検出して強調表示することで、潜在的な循環依存関係の管理を支援します。

さらに、調整された復旧タイムラインにより、計画期間と実際の期間を監視できます。タスクは、計画内のすべての資産に適用することも、まったく適用しないこともできます。これにより、資産、タスク、計画などのさまざまなレベルで復旧の解決までの期限の正確なアグリゲーションが容易になります。

事業継続性計画に関する追加情報

- ホームページの [計画] タブの詳細については、「ホームページビュー」を参照してください。
- 事業継続性計画の詳細については、「事業継続性計画」を参照してください。
- 事業継続性計画における管理タスクの詳細については、「事業継続性計画のためのセットアップ」を参照してください。

BCP の状況と UI アクション

事業継続性計画 (BCP) を作成すると、特定の UI アクションが各ステータスに関連付けられます。

事業継続性計画と関連付けられている状況と UI アクション

次の表で、事業継続性計画に関連付けられている状況と UI アクションについて説明します。

事業継続性計画と関連付けられている UI アクションと状況

更新された BCP のステータス	UI アクション	説明
ドラフト	事業継続性計画レコードのリストビューで、[新規] を選択します。	[新規計画を作成] フォームで [新規] を選択するか、ホームページで **[BIA を作成]** を選択すると、レコードはデフォルト

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

事業継続性計画と関連付けられている **UI** アクションと状況 (続く)

更新された **BCP** のステータス	**UI** アクション	説明
	注: ホームページの [計画] セクションに移動し、**[BIA** を作成] を選択することもできます。	で [ドラフト] ステータスで作成されます。 [詳細] タブで、事業継続性計画の詳細を追加します。次のタブで詳細を追加します。 • スコープ • ドキュメント • 関連計画 • 復旧チーム • 損失シナリオ • 復旧タスク
レビュー中	[レビューのため送信] を選択します。	[新規計画を作成] フォームで [レビューのため送信] を選択すると、事業継続性計画の状況が [レビュー中] に更新され ます。
承認待ち	[承認のため送信] を選択します。	[新規計画を作成] フォームで [承認のため送信] を選択すると、事業継続性計画の状況が [承認待ち] に更新され ます。
承認済み	[承認] を選択します。	[新規計画を作成] フォームで [承認] を選択すると、事業継続性計画の状況が [承認済み] に更新され ます。[概要] タブには、事業継続性計画の進捗状況が表示されます。 事業継続性計画が [承認済み] ステータス の場合、それ以上編集することはできません。
アーカイブ化済み	[新規計画を作成] フォームで、[アーカイブ] を選択します。	[新規計画を作成] フォームで [アーカイブ] を選択すると、事業継続性計画の状況が [アーカイブ化済み] に更新され ます。 BCM リリース 9.0.x 以降では、フォームの [編集] ボタンを選択することで、アーカイブされた事業継続性計画 (BCP) を [ドラフト] ステータスに戻すことができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

事業継続性計画と関連付けられている **UI** アクションと状況 (続く)

更新された **BCP** のステータス	**UI** アクション	説明
		[新規計画を作成] フォームで、次のUI アクションを実行できます。 PDF の生成 参照用に事業継続性計画の PDF をダウンロードします。[詳細] タブの [アクティビティ] パネルで PDF 添付ファイルが利用できます。 ビジネスインパクトアナリシスの PDF の作成については、「PDF 形式または Microsoft Word 形式での BCP レポートの生成」を参照してください。 コピー 後で参照できるように、ビジネスインパクトアナリシスの PDF のコピーをテンプレートとして保存します。 360 度ビュー 名前、スコープ、関連計画、関連タスクなど、事業継続性計画の 360 度表現を可視化します。事業継続性計画の 360 度リレーションシップを表示するには、「 BCP の 360 度の関係を可視化」を参照してください。 削除 継続性計画を削除します。 編集

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

事業継続性計画と関連付けられている UI アクションと状況 (続く)

更新された BCP のステータス	UI アクション	説明
		事業継続性計画を編集します。 保存 事業継続性計画を保存します。
戻り	[却下] を選択します。	BCP が却下されると、[戻り] に設定されます。[戻り] ステータスの事業継続性計画を編集できます。

事業継続性計画の作成

BCM UIB ワークスペースで事業継続性計画を作成します。

始める前に

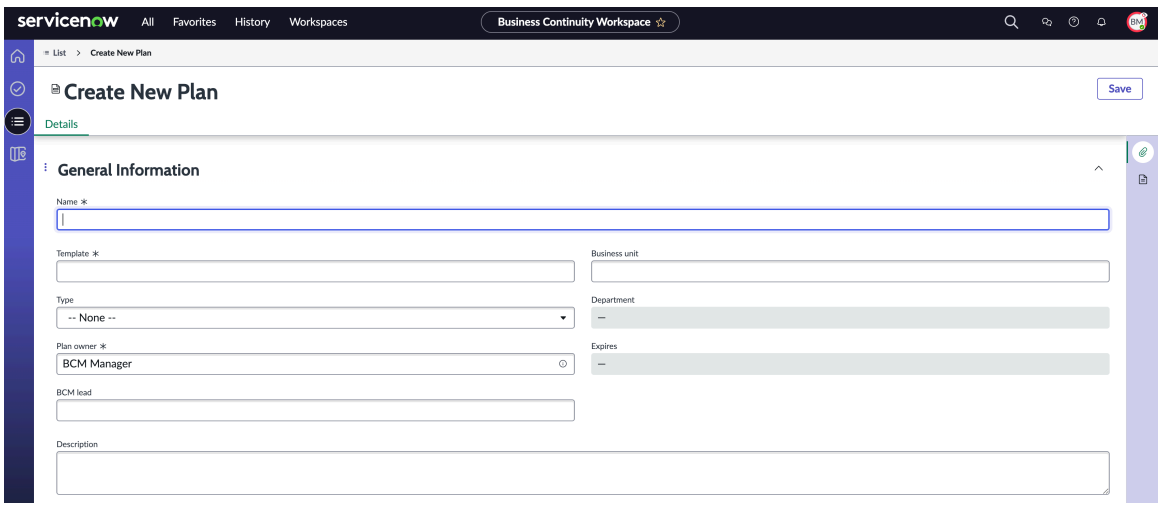
必要なロール:sn_bcp.plan_contributor または sn_bcp.plan_manager

BCP 計画マネージャー (sn_bcp.plan_manager) には、ドキュメントテンプレートの読み取りおよび書き込み権限を付与するドキュメントライター (sn_doc.writer) ロールが含まれるようになりました。

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで、[計画] に移動し、[新規] を選択します。

   次の例に示すように [新規計画を作成] フォームが表示されます。



3. [新規計画を作成] フォームの [詳細] タブで、必須フィールドに入力します。
   フィールドの詳細については、「[新規計画を作成] フォーム」を参照してください。

   事業継続性計画 (BCP) が [ドラフト] ステータスで作成され、リストビューに表示されます。事業継続性計画の状況と詳細が次のタブに表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 概要：BCP の現在のステータスと全体的なステータス進行状況を表示できます。
- 詳細：名前、テンプレート、タイプ、計画オーナーなど、計画の詳細を追加できます。
- **Scope** (スコープ)：

  計画のスコープに資産を追加し、計画テンプレートで定義されているプライマリ要素を表示できます。Xanadu リリース以降、計画レコードの [スコープ **(Scope)]** タブにあった [プライマリスコープ (Primary scope)] と [関連資産 (Related asset)] の切り替えの代わりに、[資産の依存関係 **(Asset dependencies)]** タブに資産に関する詳細情報が表示されるようになりました。

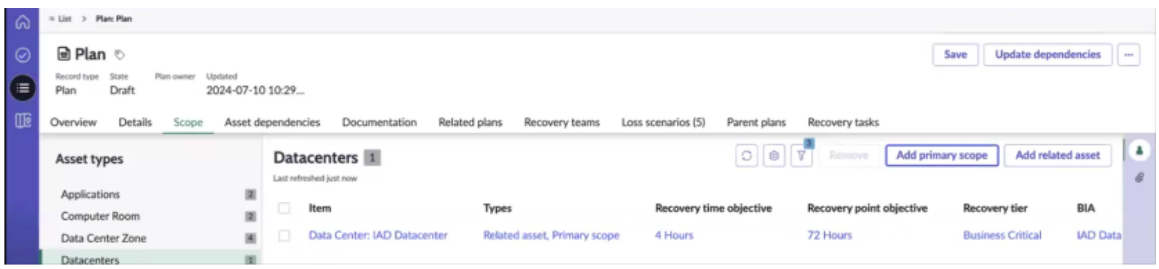
  さらに、計画レコードの [スコープ **(Scope)]** タブの [タイプ (Type)] 列の名前が [タイプ (Types)] 列に変更され、資産をプライマリスコープと関連資産の両方に分類できるようになりました。プライマリスコープと関連資産は同じリストに表示されるようになりました。資産のソースを示すために使用されていた [ソース (Source)] 列は [資産の依存関係 **(Asset dependencies)]** タブに移動されました。

  [スコープ **(Scope)]** タブの [BIA] 列がドキュメント ID タイプから参照タイプに更新されたため、アドミニストレーターは BIA レコードを選択してアクセスし、その情報を更新し、計画レコードにドット連結することができるようになりました。これにより、プロセスが簡素化され、時間と労力が節約されます。2 つのビジネスインパクトアナリシスに同一の資産依存関係がある場合は、最新の BIA がこれらの関係のソースとして認識されます。

  事業継続性計画を作成するときは、計画レコードのプライマリ資産に基づいて、目標復旧時間 (RTO)、目標復旧時点 (RPO)、復旧階層、BIA リンクなどの詳細を入力できます。依存関係を更新すると、これらの列の資産の詳細が、アーカイブされていない最新の BIA レコードの情報でリフレッシュされます。資産がダウンストリーム BIA からのものである場合、復旧の解決までの期限と必要なデータのバックアップの列が更新され、その資産の最新データが表示されます。

  [プライマリスコープを追加 **(Add primary scope)]** および [関連資産を追加 **(Add related asset)]** UI アクション：資産をプライマリスコープとしてマークしたり、関連資産として割り当てたり、関連資産として計画内のプライマリスコープにリンクしたりできます。このアプローチにより、資産タイプの分類が簡素化され、計画レコードページで関係を直接表示できるようになります。プライマリスコープが運用上停止しているときに影響を受ける資産が表示されるため、時間と労力を節約できます。また、プライマリアイテムと関連アイテムのギャップを監視できます。

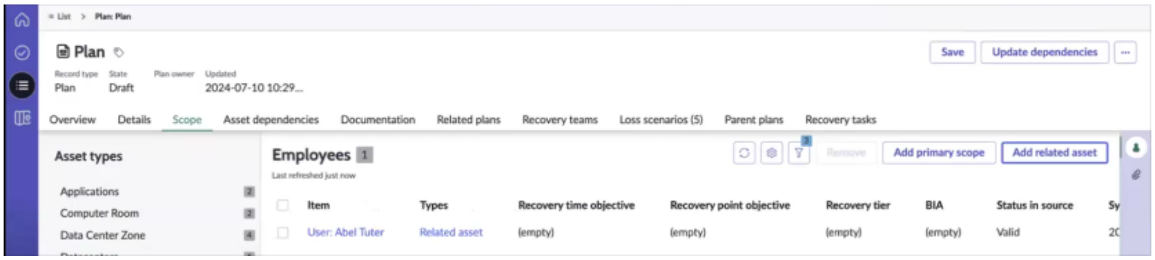
  次の例は、IAD データセンターがプライマリスコープの関連資産とプライマリスコープ自体の両方として追加されることを示しています。



  [関連資産を追加 **(Add related asset)]** アクションを使用すると、関連資産を追加してプライマリ資産に関連付けることができます。たとえば、IAD データセンターで雇用されている Abel Tuter が関連資産として追加されます。

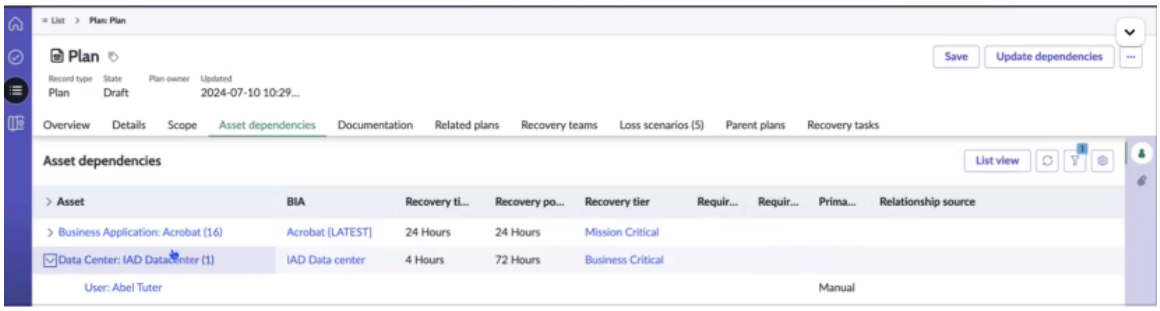
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



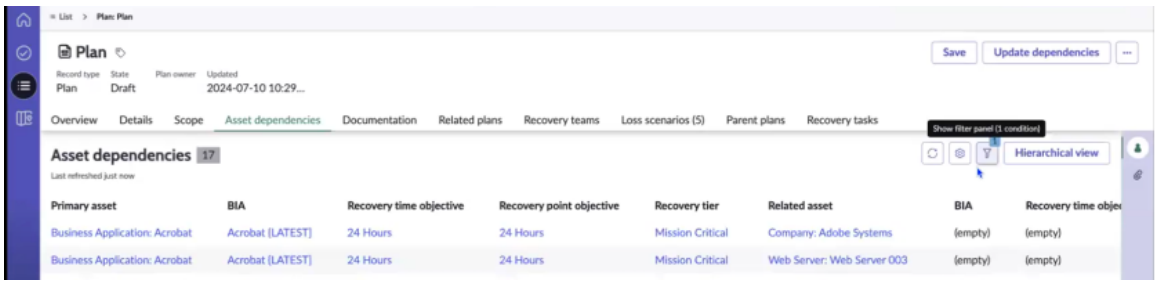
- 資産の依存関係：

[資産の依存関係 **(Asset dependencies)]** タブには、親資産とその子資産の関係を示す階層ビューが表示されます。この例では、Abel Tuter が IAD データセンターの関連資産であることが示されています。

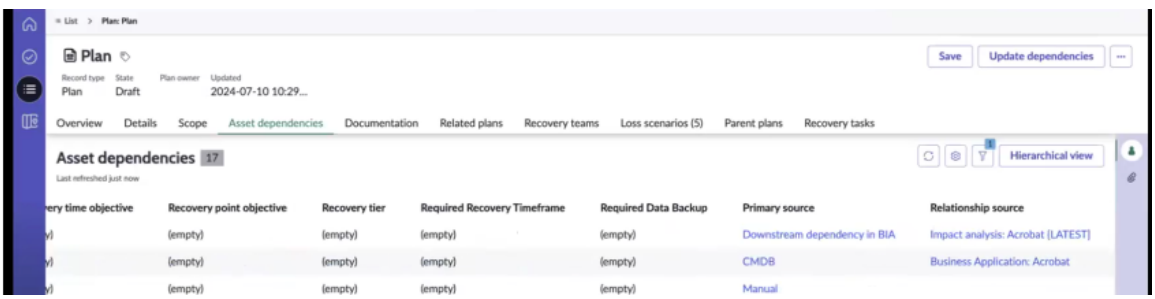


ユーザー Abel Tuter は手動で追加されたため、[プライマリソース (Primary souce)] 列に手動ソースとして示されます。

依存関係は、階層ビューとリストビューで追跡できます。階層ビューから、すべてのアセットがリスト形式で表示されるリストビューに切り替えることができます。リストビューには、最大 20 個の子資産が表示されます。計画に 20 を超える資産が含まれている場合は、資産を選択して関連する資産を表示できます。

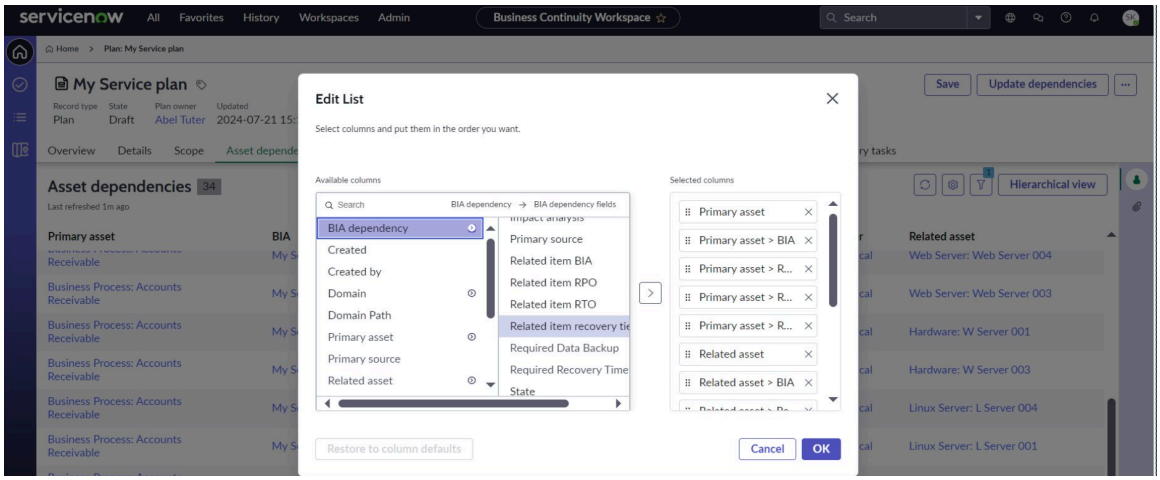


例えば、「ビジネスアプリケーション：Acrobat」はプライマリ資産と見なされ、「Company: Adobe Systems」は関連資産として識別されます。資産のソースが [プライマリソース (Primary source)] 列に表示されます。



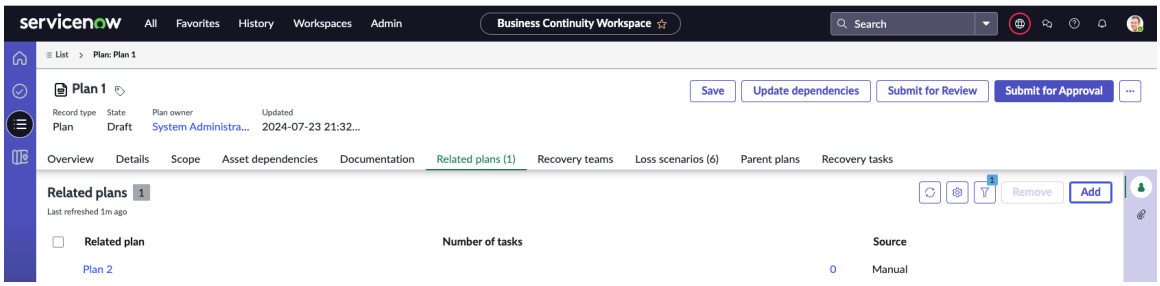
例に示すように、計画内の依存アイテムから詳細を追加できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

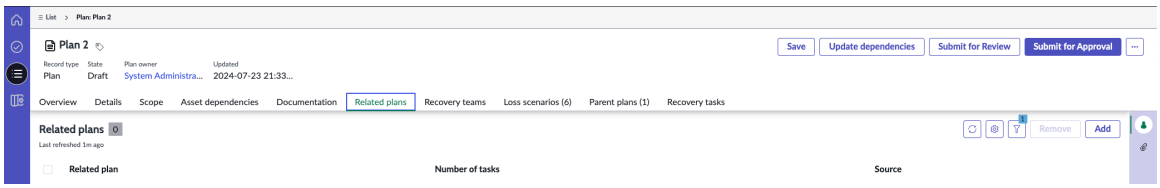


- ドキュメント：ドキュメントセクションで、計画の復旧機能を記録できます。
- 関連計画：

  関連計画を計画レコードに追加できます。これは、復旧タスク中に呼び出すことができます。現在の親計画がイベントに追加されると、その特定のタスクから関連計画を呼び出すことができます。次の例は、プラン 2 が関連計画としてプラン 1 にリンクされていることを示しています。



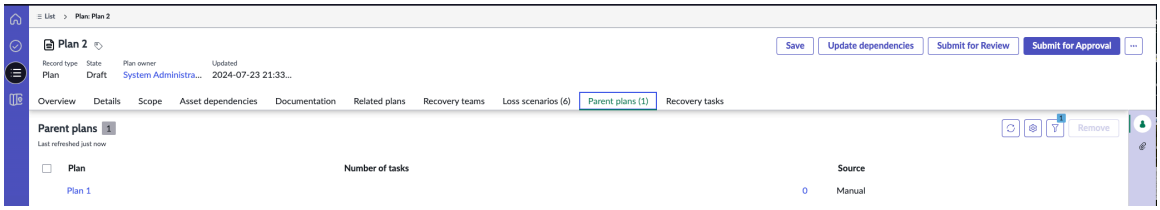
  以前は、プランを関連計画として追加すると、自動的に元の計画にリンクされていました。たとえば、プラン 1 とプラン 2 が存在し、プラン 2 がプラン 1 の関連計画としてリンクされている場合、プラン 1 は自動的にプラン 2 にリンクされます。ただし、Xanaduリリースの導入に伴い、このプロセスは一方向の関係に変更されました。関連計画レコードは、元の計画レコードへのリンクを作成することはありません。たとえば、プラン 2 は元の計画レコードであるプラン 1 へのリンクを作成しません。



  リンクを手動で挿入するには、[関連計画 **(Related Plans)]** タブに移動し、そこにリンクを追加します。この更新により、計画関係を親子関係または兄弟関係として指定できます。

- 復旧チーム：事業継続性計画の復旧チームを作成できます。
- 損失シナリオ：事業継続性計画に適用可能な損失シナリオを追加できます。
- 親計画：現在の計画を呼び出している親計画を確認できます。たとえば、プラン 2 は、プラン 1 に存在するいずれかのタスクで呼び出すことができます。

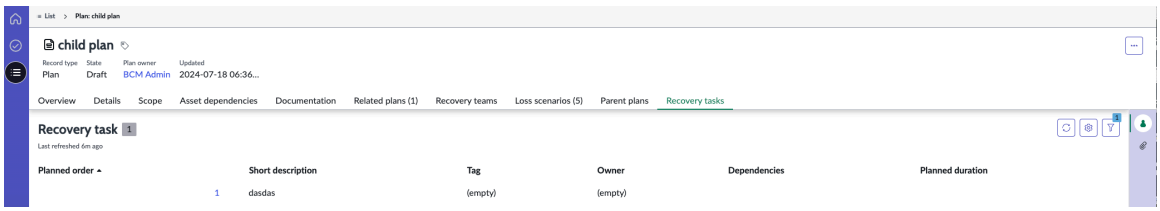
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



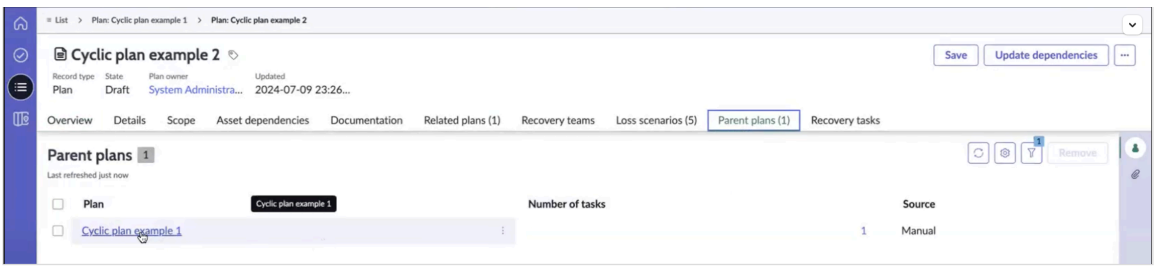
計画レコードでは親計画を追加できませんが、関連計画にリンクされている親計画を表示することはできます。[親計画] タブは、表示目的でのみ使用されます。

- 復旧タスク：

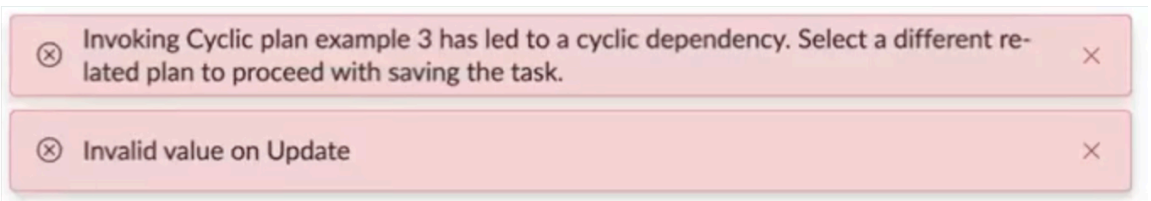
  事業継続性計画に復旧タスクを作成できます。



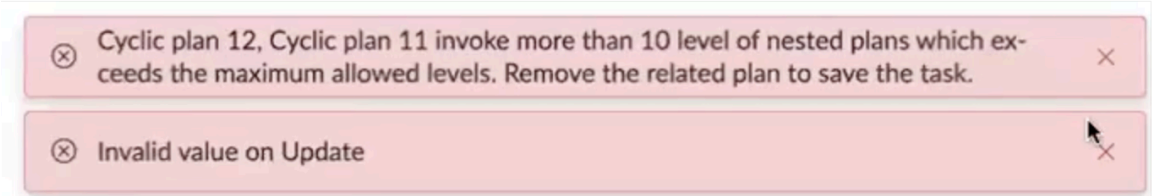
循環依存関係は、2 つ以上の復旧タスクが直接的または間接的に相互に依存している場合に発生します。Xanaduリリース以降、復旧タスクの循環依存関係を防止し、同じ計画が複数回トリガーされないようにできるようになりました。



たとえば、プラン 1 の復旧タスクがプラン 2 をトリガーし、プラン 2 がプラン 3 をトリガーし、その後プラン 3 がプラン 1 をトリガーする場合、このシーケンスは循環依存関係を作成します。例に示すように、計画をトリガーした結果として循環依存関係が発生したことをユーザーに通知し、代替の関連計画の選択を提案するエラーメッセージが表示されます。このような場合は、別の関連計画を選択することで、イベント中のこうした問題を回避できます。



計画が 10 レベルを超えてアクティブ化された場合、または 10 レベルを超える計画を含む階層リンクが作成された場合は、レコードを保存する前に計画を削除するように勧める次のエラーメッセージが表示されます。

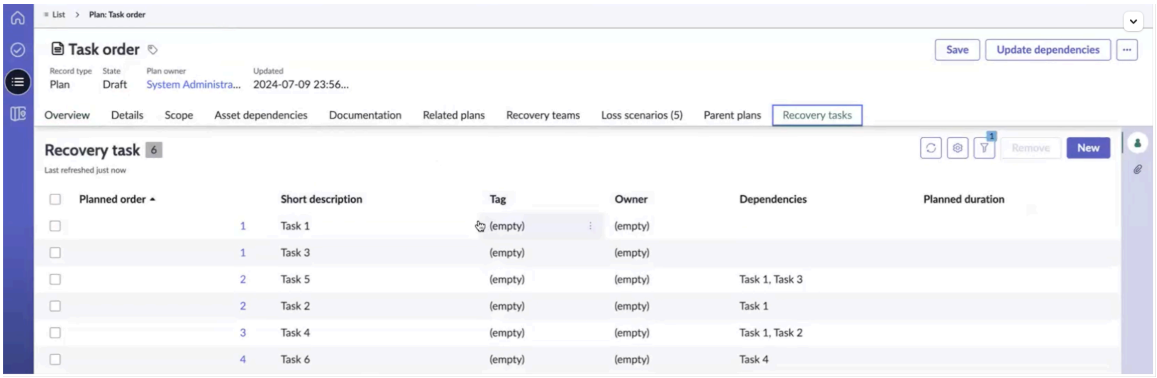


自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Xanadu リリース以降、復旧タスクは依存関係に基づいて整理されます。タスクには依存関係を柔軟にアサインすることができ、アプリケーションはアサインされた依存関係に基づいてこれらのタスクの順序を決定します。依存関係がリンクされていないタスクがある場合は、同時に処理できます。

注:
*sn_bcp.sync_order_calculation_task_limit*プロパティを編集して復旧タスクオーダーのカウントを変更し、同期的に計算されるようにできます。



図に示されているタスクのシーケンスについて、次の例で明確に説明します。

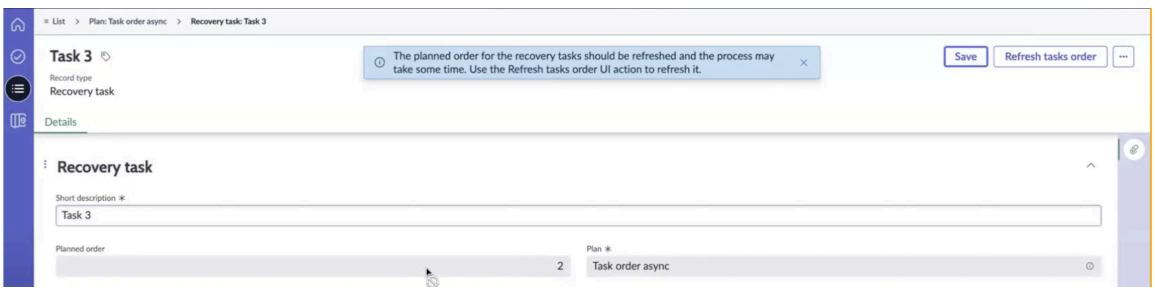
a. タスク 1 とタスク 3 は互いに独立しているため、同時に実行でき、両方に計画オーダー 1 がアサインされます。

b. タスク 5 はタスク 1 とタスク 3 の両方に依存しているため、計画オーダー 2 がアサインされます。

c. タスク 6 は、計画オーダー 3 のタスク 4 に依存しています。タスク 6 の計画オーダーは 4 に設定されます。

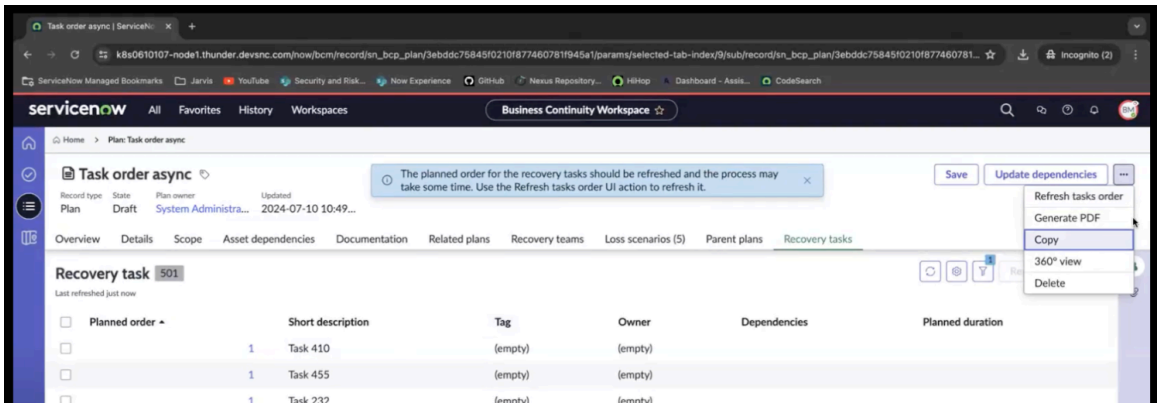
タスクは同時に実行できるため、複数のユーザーが一度に同じ計画で共同作業を行うことができます。タスクの依存関係が更新されてタスクが保存されると、削除された依存関係に基づいてタスクの計画オーダーが再計算されます。

500 を超える復旧タスクがあり、依存関係が更新された場合、これらの復旧タスクの計画オーダーはすぐには更新されません。代わりに、[タスクオーダーをリフレッシュ **(Refresh tasks order)]** UI アクションを使用して復旧タスクの計画オーダーを更新することを提案する情報メッセージが表示されます。



例に示すように、タスクオーダーをリフレッシュするオプションには、計画レコードのメニューからもアクセスできます。

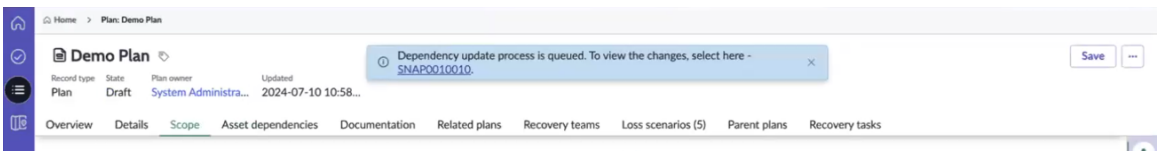
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



計画内の復旧タスクを並べ替える必要がある場合は、並べ替えプロセスに時間がかかる可能性があることがメッセージを使用してユーザーに通知されます。[タスクオーダーをリフレッシュ **(Refresh tasks order)]** UI アクションを使用して順序を更新できます。

4. [スコープ **(Scope)]** タブで、プライマリスコープとその関連資産を追加します。

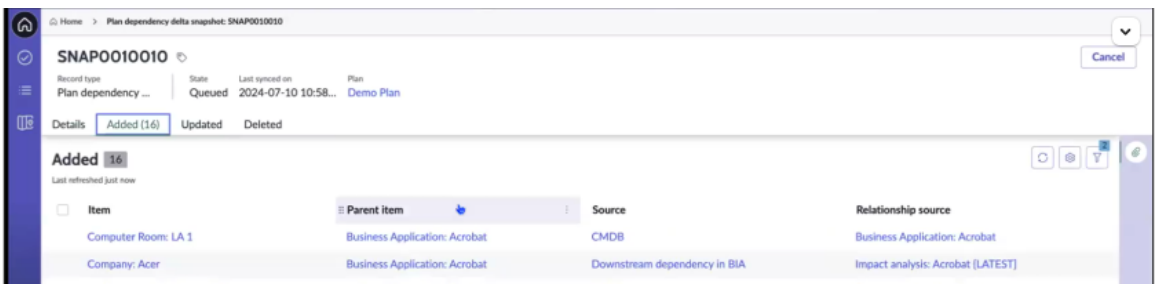
   依存関係を更新するには、[依存関係を更新 **(Update dependencies)]** ボタンを選択します。これにより、関連資産とその関係の両方がプルされます。「依存関係を更新しています。更新された依存関係を表示するには、ページをリフレッシュしてください」というメッセージが表示されます。



   依存関係の更新はスナップショットレコードで表示できます。



   [追加済み] タブの [親アイテム (Parent item)] 列には、新しい資産の親アイテムが表示されます。例に示すように、親アイテムに依存するすべてのアイテムが [アイテム] 列に表示されます。[ソース] 列には、ソースが BIA のCMDB、手動、またはダウンストリームのいずれの依存関係から派生するかが表示されます。これは、BIA ダウンストリームに使用されます。BIA レコードリンクを選択すると、依存関係がこの BIA レコードから派生していることが表示されます。



5. リストから貢献者を事業継続性計画レコードに追加するには、サイドバーの [貢献者] アイコンを選択して [貢献者] パネルを起動します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

sn_bcp.plan_contributor ロールを持つ BCP 貢献者には、事業継続性計画への読み取り、書き込み、および削除のアクセス権があります。BCP マネージャー、BCM リード、または計画貢献者ロールを持っている場合は、貢献者を追加または削除できます。BCP 貢献者は、貢献者のリストを編集したり BCP を編集したりできます。

6. アーカイブされた事業継続性計画 (BCP) を [ドラフト] ステータスに戻すには、[編集] ボタンを選択します。
   BCM リリース 9.0.x 以降では、フォームの [編集] ボタンを選択することで、アーカイブされた事業継続性計画 (BCP) を [ドラフト] ステータスに戻すことができます。これにより、事業継続性計画と関連レコードをより柔軟に管理できるようになります。
7. BCP でさらにアクションを実行するには、[その他のアクション] を選択します。
8. **[Save** (保存)] を選択します。
   計画が [ドラフト] ステータスで保存され、計画レコードのリストビューに表示されます。
9. **[360** 度ビュー **(360° view)]** ボタンを選択して、復旧タスクの計画オーダーをリフレッシュします。
10. [**PDF** の生成] ボタンを選択して、PDF 形式で BCP を生成します。
11. BCP のコピーを作成するには、[コピー] ボタンを選択します。
12. **[360** 度ビュー **(360° view)]** ボタンを選択して、計画の 360 度関係を生成します。
13. 計画を削除するには、[削除] を選択します。

[新規計画を作成] フォーム

BCM UIB ワークスペース の [新規計画を作成] フォームを使用して、事業継続性計画 (BCP) についての詳細を追加します。

[新規計画を作成] フォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

[新規計画を作成] フォーム

フィールド	説明
[概要] タブ	
状況	事業継続性計画の状況を表示するステッパーコンポーネント。
[詳細] タブ	
名前	事業継続性計画の名前。BCP は 255 文字以内で説明します。
テンプレート	BCP を作成するためのモデルとして使用できるテンプレート。 テンプレート BIA には、アセスメントのタイプに対応する識別されたプライマリ要素 (アプリケーション、ビジネスプロセス、および場所)、影響度カテゴリ、および依存資産があります。
タイプ	事業継続性計画のタイプ。利用可能なオプションは次のとおりです：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新規計画を作成] フォーム (続く)

フィールド	説明
	• Continuity plan (継続性計画) • Recovery plan (復旧計画) • 危機対応計画
事業部門	事業継続性計画の作成対象となる事業部門。使用可能なオプションは次のとおりです。 • 経理 • HR • IT • 法務 • マーケティング • 営業
部門	事業部門に関連する部門。選択した事業部門に基づいて部門を選択できます。
計画オーナー	事業継続性計画のオーナー。
有効期限	Read-onlyフィールド。計画の有効期限。
BCM リード	事業継続性計画の BCM リード。
説明	事業継続性計画の説明。
レコードのサイドバーに表示されるアイコン	
貢献者	レコードのサイドパネルに表示されるアイコン。パネルから事業継続性計画への貢献者を追加できます。
添付ファイル	事業継続性計画の PDF が添付されているパネル。
テンプレート	事業継続性計画のテンプレートを入力するパネル。このパネルでは、すべてのテンプレートまたはカスタマイズされたテンプレートを表示できます。

関連資産の自動更新のスケジュール設定

CMDB のソースデータと関係に基づいて、計画内の関連資産の自動更新スケジュールを設定できます。BCM アプリケーションから、計画依存関係の更新の詳細が記載されたメール通知を受信できます。依存関係は、BIA アップストリーム依存関係、BIA ダウンストリーム依存関係、CMDB などのさまざまなソースからフェッチされます。

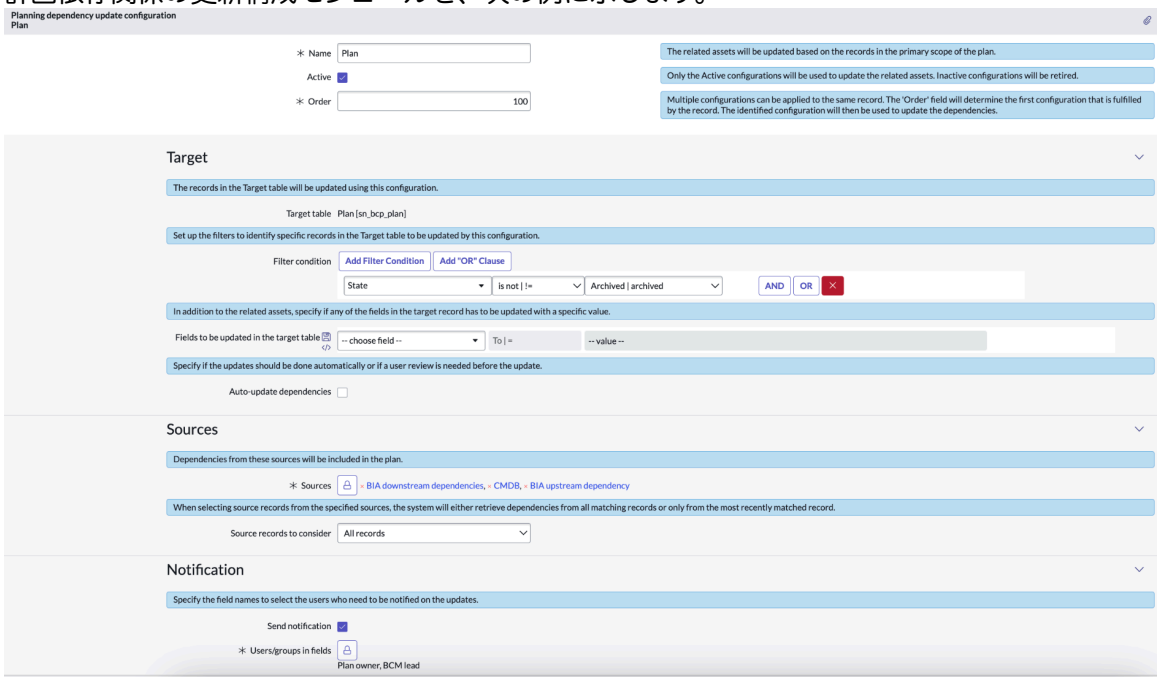
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連資産の自動更新のスケジュール設定

BCM アドミニストレーターは、計画依存関係の更新構成モジュールの計画内で関連資産を自動更新するスケジュールを、CMDB のソースデータと関係に基づいて設定できます。自動更新構成モジュールにアクセスするには、 事業継続性ワークスペース > 全般管理 > 依存関係更新構成の計画.

計画依存関係の更新構成モジュールを、次の例に示します。



BCMアドミニストレーターが [依存関係の自動更新] オプションを選択すると、BCM アプリケーションは計画内の関連資産の自動更新スケジュールを設定します。同様に、[通知を送信] オプションを選択すると、依存関係の更新に関する自動メールが BCM アプリケーションから計画オーナーに送信されます。

計画依存関係は、BIA アップストリーム依存関係、BIA ダウンストリーム依存関係、CMDB などのさまざまなソースからフェッチされます。

注:
計画では、すべてのプライマリスコープ資産の依存関係がフェッチされます。

計画依存関係の更新構成モジュールの設定は 1 回限りのアクティビティです。計画依存関係の更新構成モジュールでソースが構成されると、計画内で更新が同期されます。

計画依存関係更新構成モジュールの設定の詳細については、「依存関係更新計画の構成」を参照してください。

Xanadu リリースで更新された依存関係の使用

Xanadu リリース以降、最新の BIA レコードの更新された依存関係を使用して、資産の依存関係アセスメントを実施できるようになりました。[関連アイテム BIA]、[関連アイテムの目標復旧時間 (RTO)]、[関連アイテムの目標復旧時点 (RPO)]、および [関連アイテムの復旧階層] 列の情報は、復旧の解決までに必要な期限とデータバックアップのニーズを確認するために使用され、BIA レコードの [復旧の解決までに必要な期限] 列と [必要なデータバックアップ] 列に表示されます。

依存関係構成モジュールのソース BIA レコードオプションについての詳細は、「依存関係更新構成の計画のセットアップ」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
要素定義のフィルター条件は、ポップアップを使用して特定の構成アイテム (CI) を追加するために使用されます。[依存関係を更新] UI アクションでは、要素定義のフィルターも考慮され、BIA の [適用先 **(Applies to)]** フィールドにリストされている構成アイテムの関連 CI が取得されます。これらの関係は CI 関係性テーブルから取得されます。

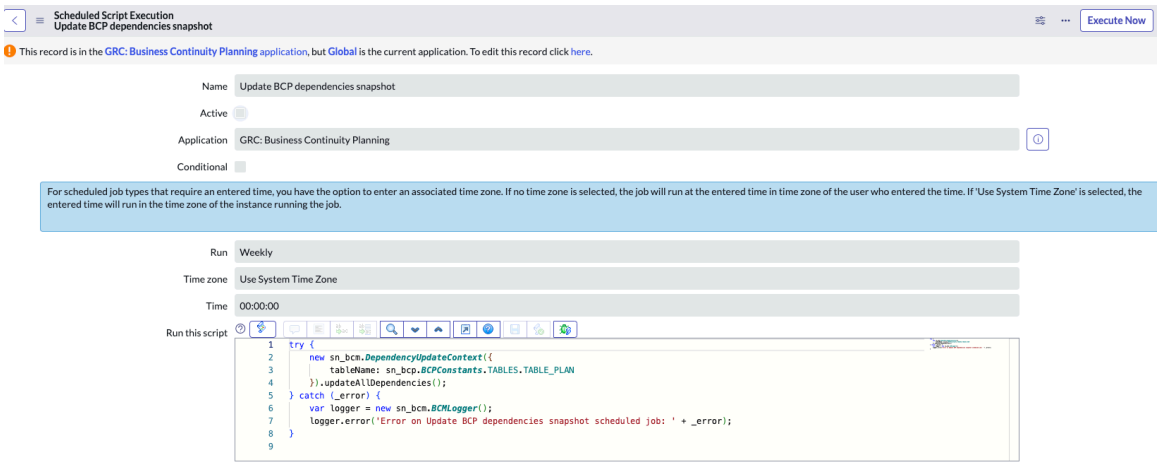
計画内の関連資産の自動更新に関連付けられたロール

一般に、次のロールを持つユーザーが計画内の関連資産を更新します。

- BCM プログラムマネージャー、BCM 計画者、BCM マネージャーは、計画内の関連資産を更新できます。
- BCM アドミニストレーターは、計画依存関係の更新構成モジュールを構成できます。

スケジュール済みジョブを使用した依存関係の自動更新

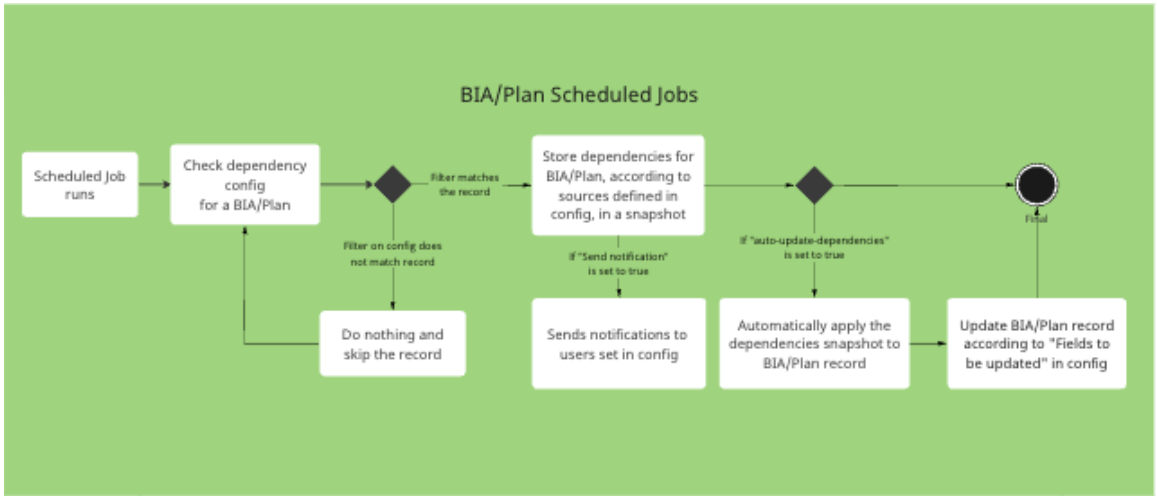
`Update BCP dependencies snapshot` スケジュール済みジョブは、ベースシステムの一部として出荷されます。定期的に実行され、計画内で更新された関連資産をフェッチします。スケジュール済みジョブを次の例に示します。



スケジュール済みジョブは、デフォルトでは非アクティブです。スケジュール済みジョブを定期的に実行するには、システムアドミニストレーターが [アクティブ] オプションを選択し、[今すぐ実行] を選択してスケジュールを設定します。その後、スケジュール済みジョブが定期的に実行され、計画レコードで変更がスキャンされ、計画レコードの更新された関連資産がフェッチされます。計画レコードを更新すると、毎回スナップショットレコードが作成されます。

スケジュール済みジョブは、次の例に示すように、ワークフローを処理して関係の変更を確認し、依存関係の更新を自動的に保存します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



1. スケジュール済みジョブは毎週実行され、各計画レコードの関連資産構成をチェックし、計画依存関係更新構成モジュールの [ソース] タブで定義されたソースから関連資産をフェッチします。
2. スケジュール済みジョブは、構成 (計画依存関係更新構成モジュール) で設定されたフィルター条件を参照します。条件が計画レコードと一致する場合、スケジュール済みジョブは、構成で定義されたソースに従って、計画の関連資産をフェッチしてスナップショットレコードに保存します。フィルター条件が計画レコードと一致しない場合、アプリケーションはレコードをスキップします。
3. 計画依存関係更新構成モジュールで [通知を送信] オプションが **True** に設定されている場合、構成内の計画立案レコードセットのユーザーには、スケジュール済みジョブを通じて更新された関連資産が通知されます。
4. 計画依存関係更新構成モジュールで [依存関係の自動更新] オプションが **True** に設定されている場合、スケジュール済みジョブは計画の依存関係スナップショットを計画レコードに自動的に適用します。
5. 最後のステップとして、スケジュール済みジョブは、構成内の更新するフィールドに従って計画レコードを更新します。

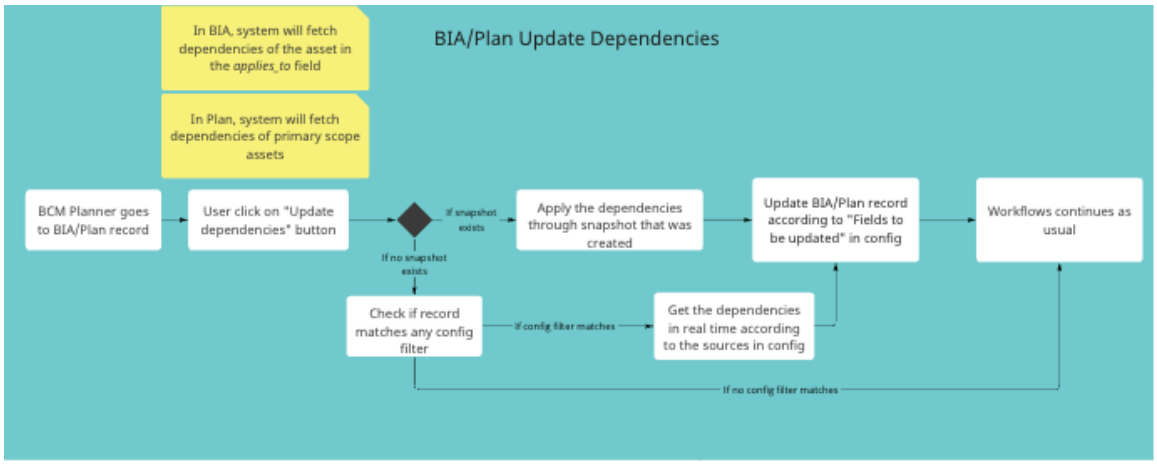
自動翻訳

依存関係の手動更新

BCM アプリケーションユーザーは、[依存関係を更新] UI アクションを使用して、計画の依存関係を瞬時に更新できます。このようにすることで、週次スケジュールに従ってスケジュール済みジョブが実行される前に、依存関係を手動で更新できます。その後、ソースの依存関係が更新され、計画レコード更新のスナップショットレコードが作成されます。

[依存関係を更新] UI アクションを使用して計画立案の依存関係を手動で更新する方法については、次のワークフローを参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



1. BCM 計画者が計画レコードに移動します。アプリケーションは、計画で定義されているプライマリスコープ資産の依存関係をフェッチします。
2. BCM 計画者は [依存関係を更新] UI アクションを選択します。
3. 更新用のスナップショットレコードが存在する場合、BCM 計画者はスナップショットを介して計画依存関係を適用し、構成内で更新するフィールドに従って計画を更新します。その後、計画ワークフローは、レビューや承認の要求などの次のステップに進みます。

   更新用のスナップショットレコードが存在しない場合、BCM 計画者は計画レコードがいずれかの構成フィルターに一致するかどうかをチェックします。

   - 計画レコードがいずれかの構成フィルターに一致する場合、アプリケーションは構成内のソースに従ってリアルタイムで依存関係を取得します。次に、BCM 計画者は構成内で更新する項目に従って計画レコードを更新します。その後、計画ワークフローは次のステップに進みます。
   - 計画レコードが構成フィルターと一致しない場合、計画ワークフローは次のステップに進みます。

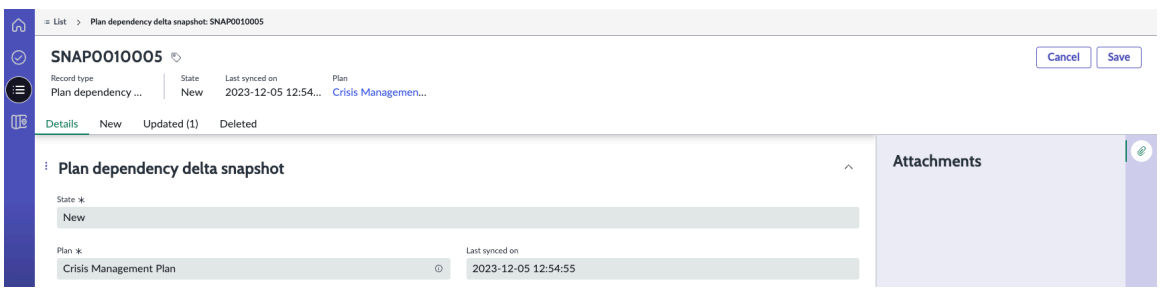
計画依存のマニュアル更新の詳細については、「計画依存関係の更新」を参照してください。

注:

注:
計画依存関係の更新構成モジュールは、スケジュール済みジョブの使用と、計画依存関係の手動更新 ([依存関係の更新] UI アクションを使用) に使用されます。

計画のスナップショットレコード

スケジュール済みジョブが設定された間隔で実行されると、アプリケーションに各計画更新のスナップショットレコードが作成されます。スナップショットレコードには、計画の新規/更新/削除済み資産など、構成変更のデルタが含まれています。スナップショットレコードは、事業継続性ワークスペース の計画リストビューの更新保留中モジュールに一覧表示されます。スナップショットレコードを次の例に示します。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

スナップショットレコードが作成されると、アプリケーションは、計画的な依存関係の更新についてユーザーに通知する UI メッセージを表示します。BCM アプリケーションは、計画のアクティブなスナップショットを 1 つずつ保存します。[完了] ステータスで 6 か月間更新されていないスナップショットは、アプリケーションから自動的に削除されます。

計画レコードの依存関係に変更がない場合、その計画レコードのスナップショットレコードは作成されません。

データリレーションシップフレームワーク

事業継続性計画を作成するときは、計画内の関連資産を更新する必要があります。Yokohama リリース以降、データリレーションシップフレームワーク (com.sn_app_grc_relationship_config) アプリケーションは、計画内の関連資産をフェッチするための基礎となるフレームワークを備えた BCM アプリケーションをサポートします。データリレーションシップフレームワーク アプリケーションは、デフォルトで BCM アプリケーションと共にインストールされます。

データリレーションシップフレームワーク の詳細については、「データリレーションシップフレームワーク」を参照してください。

計画依存関係の更新

計画依存関係の更新構成モジュールでスケジュール済みジョブが有効になっていない場合は、スナップショットから計画の依存関係を手動で更新します。アクティブな計画で依存関係を更新できます。

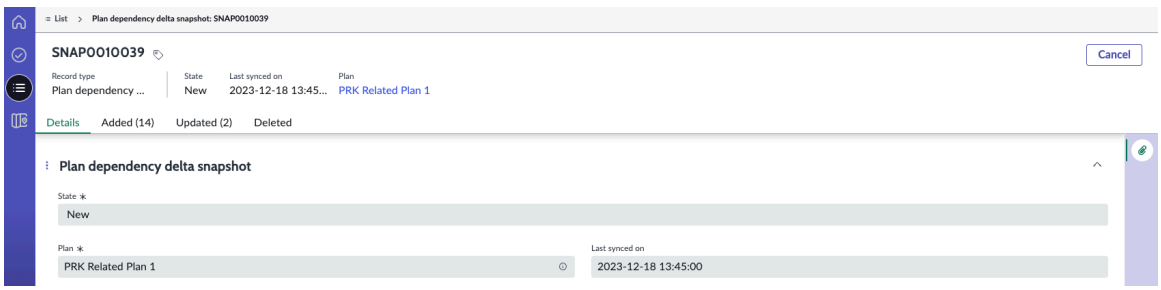
始める前に
必要なロール：sn_bcm.program_manager、sn_bcm.planner、sn_bcm.admin

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. [ドラフト] ステータスの BCP を開き、[スコープ] タブに移動します。

   ソースで依存関係が更新されている場合、スケジュール済みジョブは依存関係をフェッチします。スナップショットレコードを選択して更新を表示できます。
3. スナップショットレコードを表示するには、[計画] リストビューで更新保留中のモジュールを選択し、スナップショットレコードを選択します。

   計画依存関係のデルタスナップショットが表示されます。



   BCM アプリケーションは、BCP のアクティブなスナップショットを 1 つずつ保存します。[完了] ステータスで過去 6 か月間更新されていないスナップショットは、アプリケーションから自動的に削除されます。
4. 依存関係を手動で更新するには、計画に移動し、[依存関係の更新 **(Update dependencies)**] を選択します。
   UI メッセージが画面に表示されます：Dependencies are being updated.

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. 計画への変更を保存するには、[保存] を選択します。
   計画オーナーと BCM リードは、計画への変更を保存することで、計画の依存関係を更新できます。

BCP に資産とスコープを追加

資産とスコープを事業継続性計画 (BCP) に追加します。その後、 BCM 構成可能ワークスペース内のプライマリ要素を表示できます。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin、sn_bcm.program_manager、または sn_bcm.planner

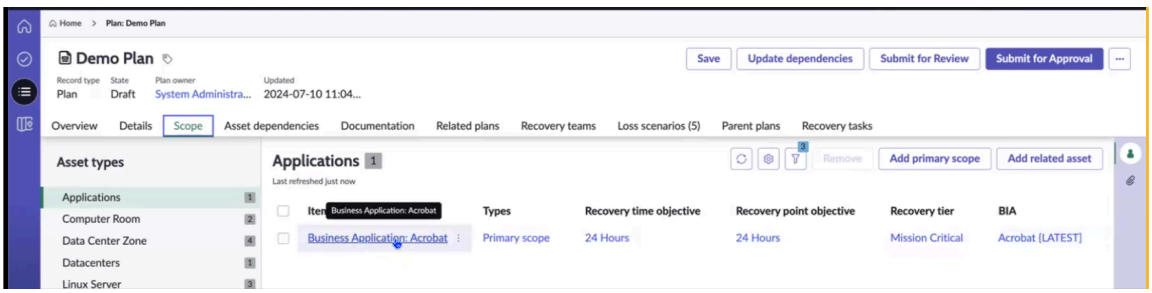
このタスクについて
計画内でプライマリ資産を選択し、その関連資産を追跡できます。計画レコードの [タイプ] 列に示されているように、同じ資産を計画内のプライマリ資産または関連資産のいずれかに指定することもできます。[資産の依存関係 **(Asset dependencies)]** タブで関連資産を追加するには、計画の **[** 更新された依存関係 **(Update Dependencies)]** ボタンを選択します。関係のソースは、構成管理データベース (CMDB)、手動、BIA 上流、BIA 下流などのソースを含む [プライマリソース (Primary Source)] 列に表示されます。

[スコープ **(Scope)]** タブの [タイプ] 列を確認して、資産の分類を確認できます。資産は、プライマリスコープタイプ、関連資産タイプ、またはその両方として分類できます。依存関係の発生元である上流 BIA や CMDB 資産など、関連資産の関係性のソースを把握するには、計画資産レコードとスナップショットレコードの [関係性ソース (Relationship source)] 列を参照してください。[資産の依存関係 **(Asset dependencies)]** タブの [関係性ソース (Relationship source)] 列には、この関係を引き出す実際のレコードが表示されます。2 つのビジネスインパクトアナリシス (BIA) の資産の依存関係が同じ場合、最新の BIA が関係性ソースとして認識され、計画の [タイプ] 列に表示されます。

計画フォームの階層ビューを使用して、資産の親子関係を表示できます。ビューを切り替えて、リストビューまたは階層ビューのいずれかを表示できます。依存関係が更新されると、例に示すように、[スコープ **(Scope)]** タブと [資産の依存関係 **(Asset dependencies)]** タブの次の列の値が更新され、参照用に色分けされます。

- BIA
- 目標復旧時間 (RTO)
- 目標復旧ポイント (RPO)
- 復旧階層 (RT)

最新の BIA レコードから更新された依存関係を使用して、資産の依存関係アセスメントを実行できます。これらの更新された依存関係を使用することで、ビジネスインパクトアナリシスを正確に実行できます。さらに、資産に不可欠な復旧期間とデータバックアップのニーズを判断するのに役立ちます。これらは、BIA レコードの [必要な復旧期間 (Required Recovery Timeframe)] 列と [必要なデータバックアップ (Required Data Backup)] 列に表示されます。



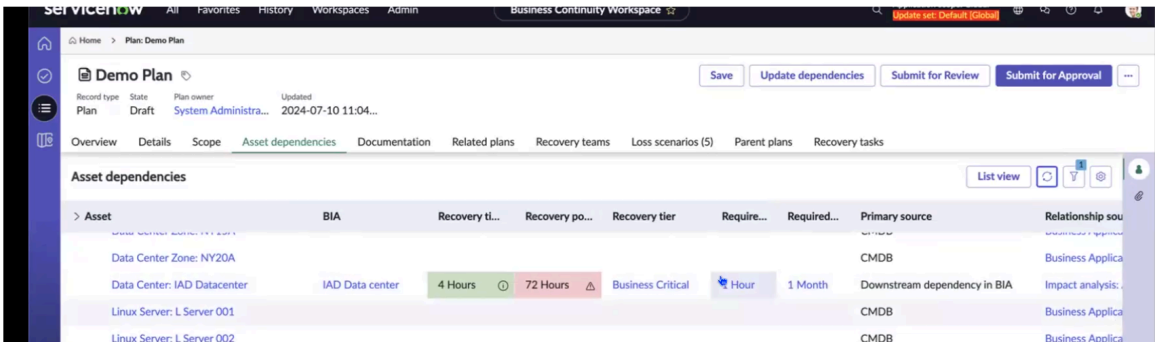
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

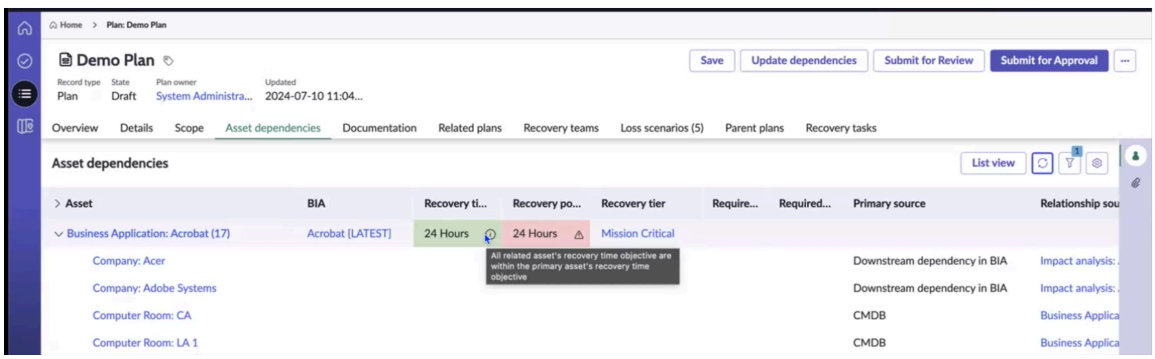
階層ビューは、計画内のプライマリ資産と関連資産間で BIA、目標復旧時間 (RTO)、目標復旧時点 (RPO)、および復旧階層 (RT) の値を評価するために使用されます。事業継続性管理 (BCM) 計画者がこれらのメトリクスを比較する際には、色分けが役立ちます。

- プライマリ資産の RTO または RPO 値が関連資産の RTO または RPO 値よりも低い行は、赤色でマークされます。
- プライマリ資産の RTO または RPO 値が関連資産の RTO または RPO 値を超えている行は、緑色でマークされます。
- プライマリ資産と関連資産の RTO または RPO 値が同じである行は、黄色でマークされます。
- プライマリ資産の RTO または RPO 値が欠落している行は、色付けされないままになります。

たとえば、プライマリ資産の RTO 値が関連資産の RTO 値を超えると、緑色でマークされます。プライマリ資産の RTO 値が関連資産の RTO 値よりも低い場合は、赤色でマークされます。



列の情報アイコンにカーソルを合わせると、例に示すように、プライマリ資産と関連資産の比較データが表示されます。



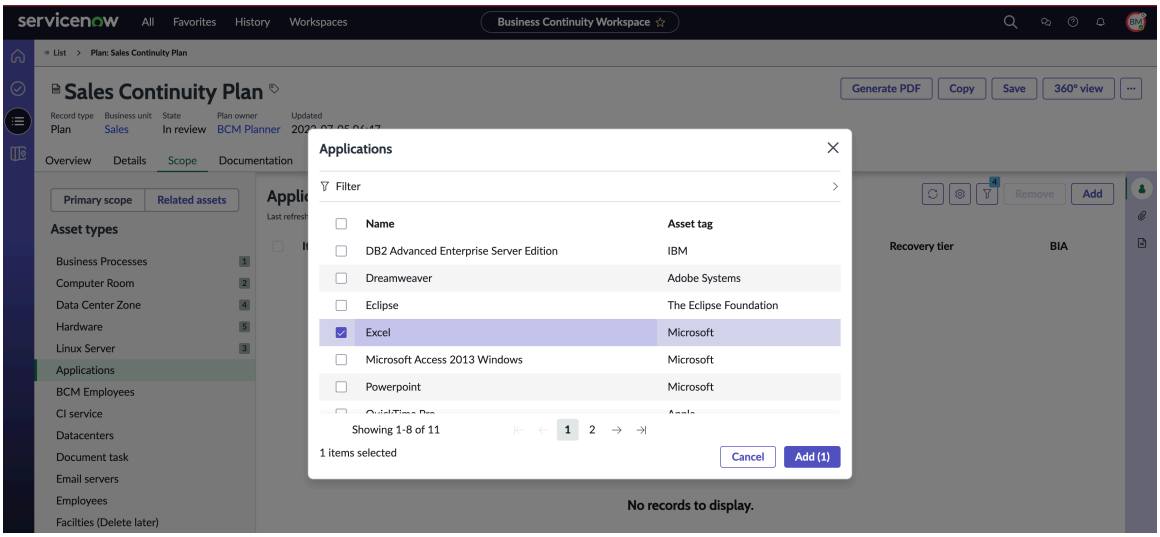
手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで、[計画] に移動し、[名前] 列で計画レコードへのリンクを選択します。
3. [スコープ **(Scope)]** タブを選択し、事業継続性計画のプライマリスコープを追加します。
   計画が計画テンプレートから作成されている場合は、計画テンプレートで定義されているプライマリ要素を表示できます。
4. [資産の依存関係 **(Asset dependencies)]** タブを選択します。

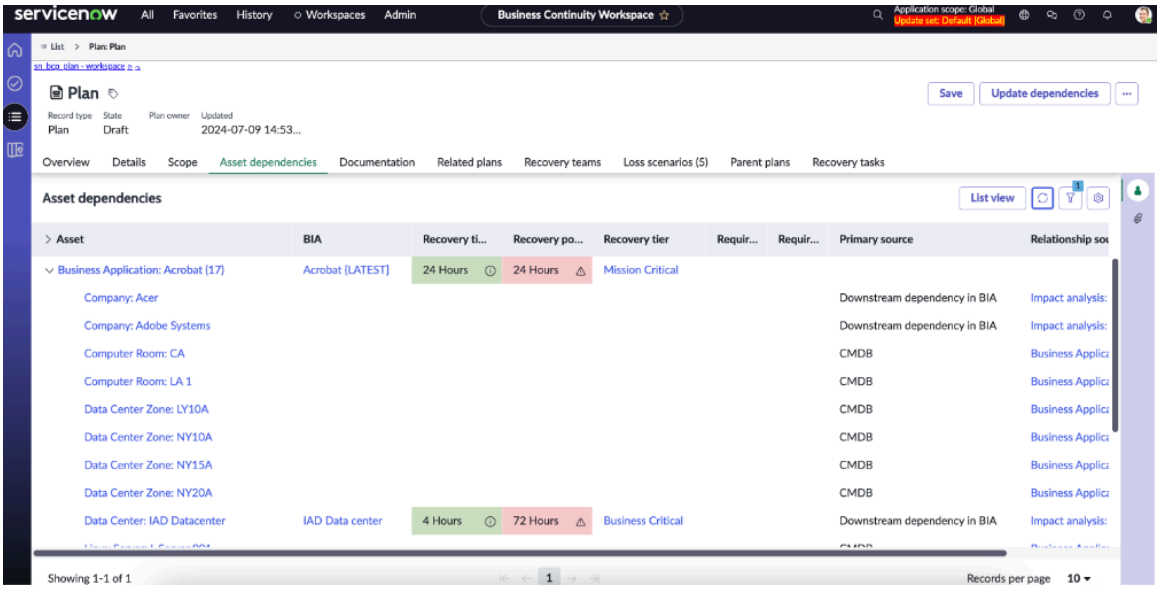
   資産の依存関係は資産の関係性を示し、資産が運用上停止しているときにユーザーがリスクまたはギャップを評価できるようにします。次の例は、事業継続性計画に資産タイプを追加する方法を示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



さまざまな資産タイプが設定された計画のサンプルを次の例に示します。



5. [保存] を選択します。

ドキュメントセクションを作成する

事業継続性計画のドキュメントセクションを作成します。その後、BCM UIB ワークスペース で事業継続性計画の復旧機能を文書化できます。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.admin、sn_bcm.program_manager、または sn_bcm.planner

このタスクについて

ドキュメントセクションで使用できる UI アクションは次のとおりです。

- 更新：既存のドキュメントセクションを更新します。
- 削除：既存のドキュメントセクションを削除します。
- テンプレートにリセット：既存のドキュメントセクションを、[ドキュメントセクション] テンプレートにリセットします。利用可能なテンプレートを表示するには、アプリケーションナビゲーターで [事業継続性] の [ドキュメントセクション] に移動します。既存のドキュメントセクション

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

では、[更新]、[削除]、および [テンプレートにリセット] のアクションを使用できます。新しいドキュメントセクションでは、[テンプレートにリセット] アクションは使用できません。

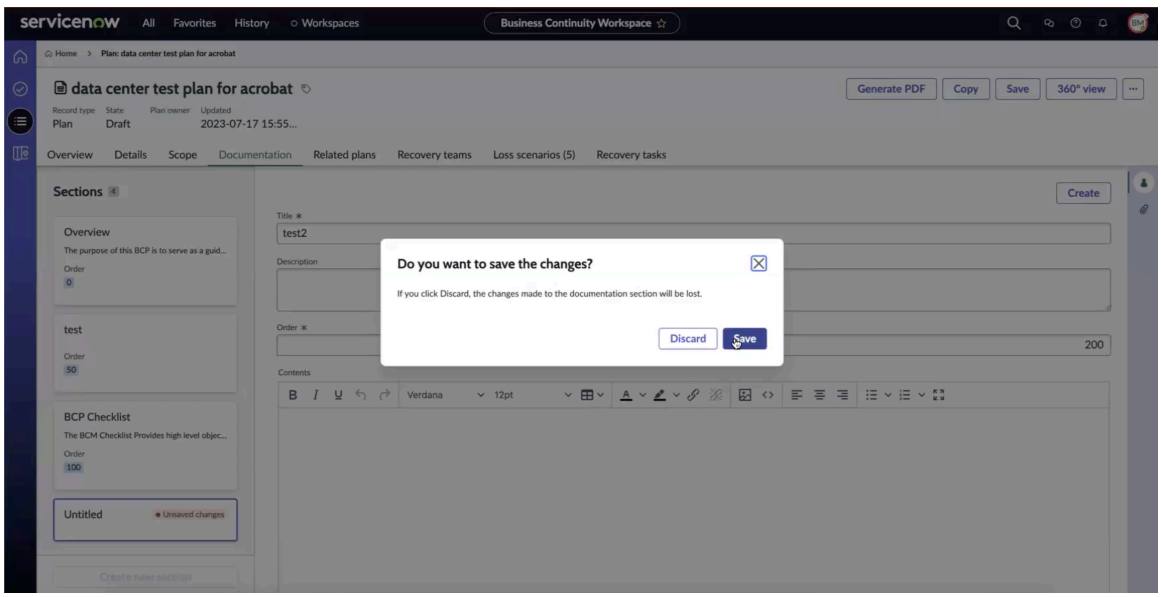
> **注:**
> 計画テンプレートを使用せずに [ドキュメント] タブでドキュメントセクションを作成すると、そのドキュメントセクションでは [テンプレートにリセット] UI アクションを使用できません。

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで、[計画] に移動し、[名前] 列で計画レコードへのリンクを選択します。
3. 計画の [ドキュメント] タブを選択します。
4. [新規セクションの作成] を選択します。

   事業継続性計画にドキュメントセクションを追加できます。

   ドキュメントセクションを作成し、変更を保存せずに移動すると、次の例に示すように、ドキュメントセクションは [未保存の変更] タグがついて [無題] としてマークされます。「変更を保存しますか？」というメッセージが画面に表示されます。

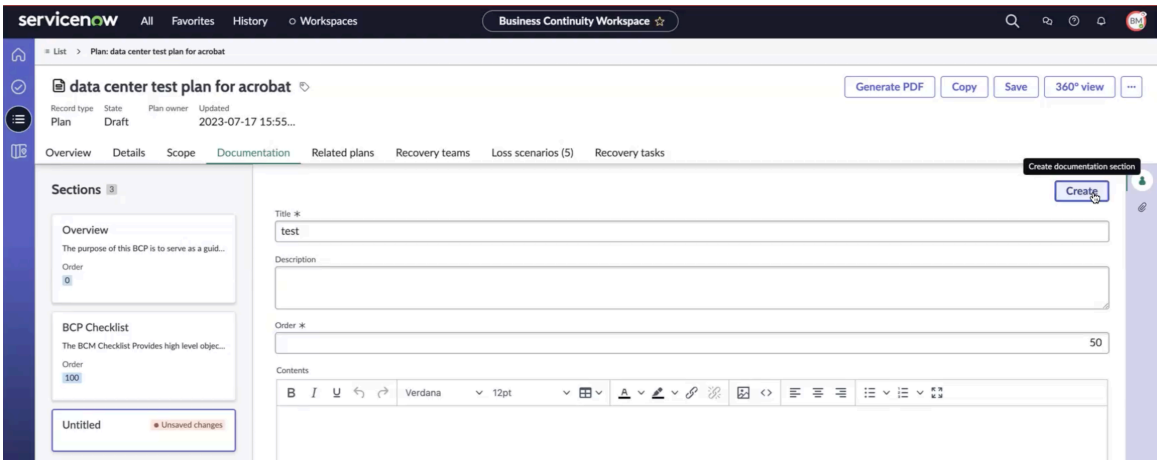


   [保存] を選択すると、ドキュメントセクションが計画に保存されます。[破棄] を選択すると、ドキュメントセクションへの変更は保存されません。

5. ドキュメントセクションを作成するには、[作成] を選択します。

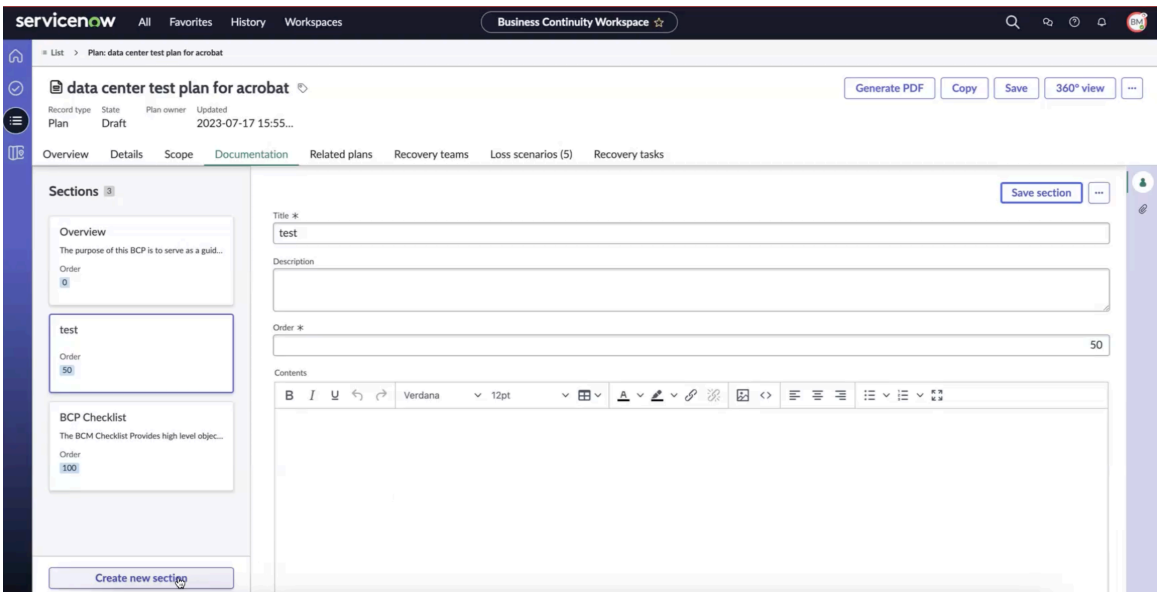
   次の例は、事業継続性計画の中に [概要] および [BCP チェックリスト] ドキュメントセクションがある様子を示しています。[概要] ドキュメントセクションの順序値は 0 です。[BCP チェックリスト] ドキュメントセクションの順序値は 100 です。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



[セクション] パネルの 2 番目のセクションとして表示されるドキュメントセクションを作成するには、0 より大きく 100 より小さい順序値 (50 など) を割り当てます。

順序値が 50 のドキュメントセクションは、[ドキュメント] タブの [セクション] パネルに 2 番目のドキュメントセクションとして表示されます。

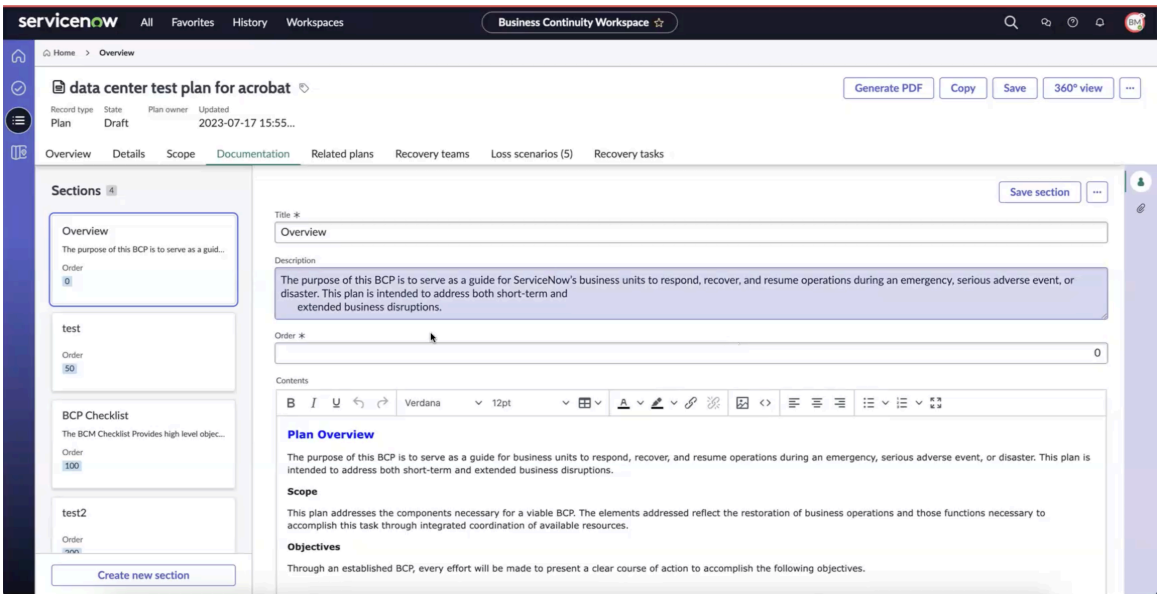


6. ドキュメントセクションを計画に保存するには、[セクションを保存]を選択します。

   事業継続性計画にドキュメントセクションが保存されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



7. 計画のドキュメントセクションを削除するには、[削除] を選択します。
8. ドキュメントセクションをテンプレートにリセットするには、その他のアクション (**[...]**) アイコンを選択し、[テンプレートにリセット **(Reset to template)]** を選択します。

関連計画と復旧チームの追加

事業継続性の関連計画と復旧チームを、事業継続性計画に追加します。そうすると、BCM UIB ワークスペースで詳細を表示できます。

始める前に

必要なロール:sn_bcm.admin、sn_bcm.program_manager、sn_bcm.planner、sn_bcp.plan_manager

このタスクについて

ワークスペースビューに一覧表示する関連計画を追加できます。関連計画が演習またはイベントに追加されると、タスクが依存関係としてタグ付けされている場合は、タスクからトリガーされます。

以前は、関連計画を追加すると、計画レコードへのリンクがそのレコードリストに自動的に組み込まれました。ただし、Xanaduリリースの導入により、このプロセスは一方向の関係に変更され、関連する計画レコードには元の計画レコードへのリンクは表示されなくなりました。リンクを手動で挿入するには、[関連計画 (Realted Plans)] タブに移動してリンクを追加します。この更新により、計画関係を親子関係または兄弟関係として柔軟に指定できます。

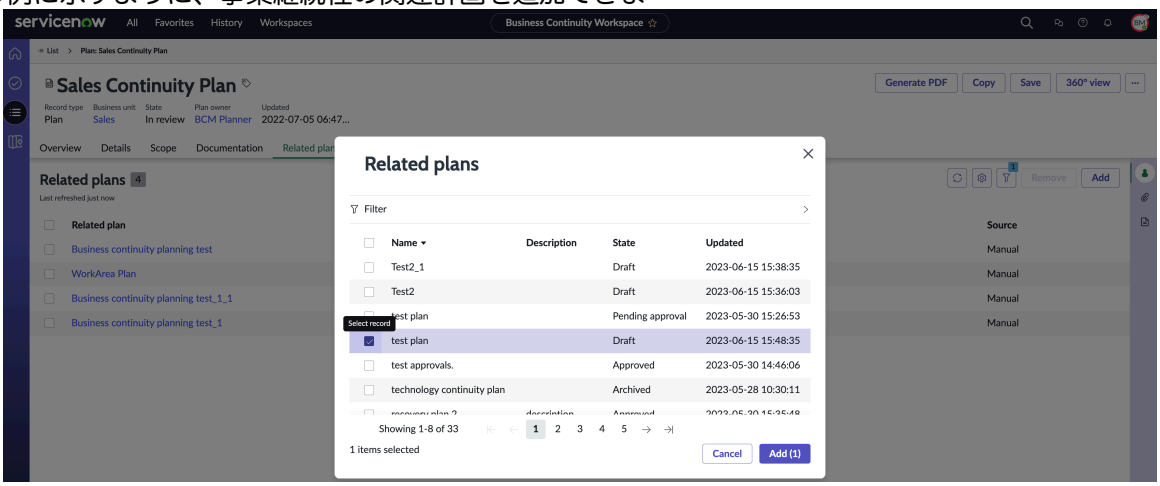
手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで、[計画] に移動し、[名前] 列で計画レコードへのリンクを選択します。
3. 関連計画 タブを選択し、追加 を選択します。

自動翻訳

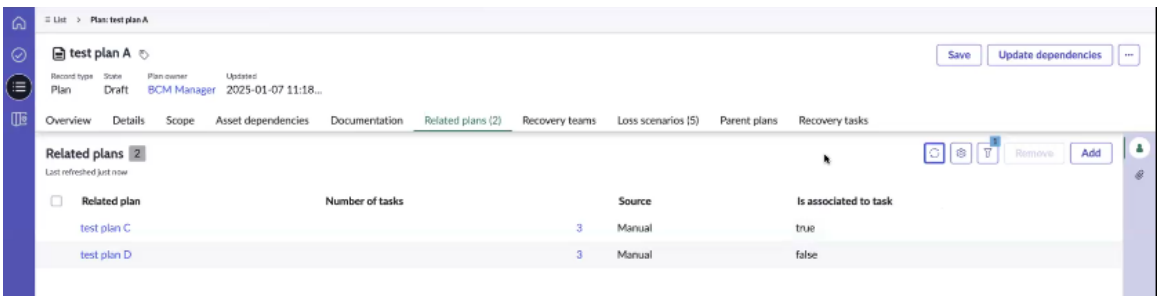
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次の例に示すように、事業継続性の関連計画を追加できま



す。

新しい列 [タスクに関連付けられている] が [関連計画] テーブルに追加されました。このフィールドは、関連計画が復旧タスクに関連付けられている場合は True に設定され、それ以外の場合は False に設定されます。この例は、テストプラン C がプラン A のタスク 1 に関連付けられているため、[タスクに関連付けられている] 列が True に設定されていることを示しています。

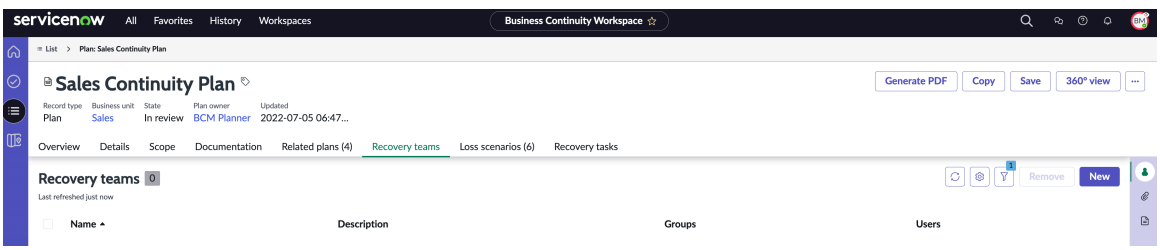


注:
タスクに関連付けられた関連計画は、イベントの子計画として作成されます。関連計画がどのタスクにも関連付けられていない場合、関連計画として作成されますが、イベントの子計画としては作成されません。

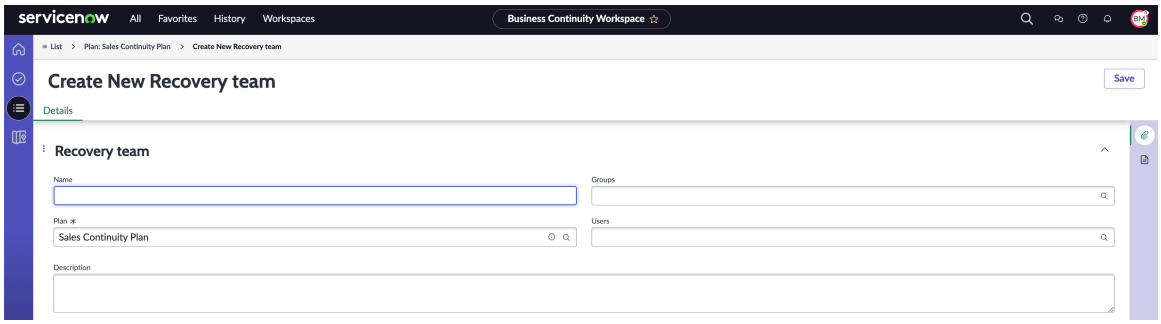
関連計画を復旧タスクに関連付けると、フロー内で計画がトリガーされるタイミングと場所を特定でき、復旧プロセス中に計画を追跡および管理するのに役立ちます。

4. [復旧チーム] タブを選択し、[新規] を選択します。

次の例に示すように、計画に復旧チームを追加できます。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



。

5. [保存] を選択します。
   関連計画と復旧チームが事業継続性計画に追加されます。

関連計画の復旧タスクへの関連付け

関連する計画を復旧タスクに関連付けることができるようになり、復旧中の計画を簡単に特定して管理できるようになりました。その後、自動生成されたネストされた計画をイベントで使用できるため、計画を追加する手作業を減らし、システムパフォーマンスを向上させることができます。

計画間の依存関係を構成するには、関連する計画を復旧タスクに関連付ける必要があります。関連計画がイベントの復旧タスクに関連付けられるたびに、このタスクから新しい有効化された計画が作成されます。

イベントでネストされた計画を使用する方法の詳細については、「ネストされた計画の使用」を参照してください。

損失シナリオを追加

損失シナリオを追加し、関連資産の依存関係を事業継続性計画内で定義します。そうすると、BCM UIB ワークスペース で資産の詳細を表示し、特定された損失シナリオの復旧戦略を計画できます。

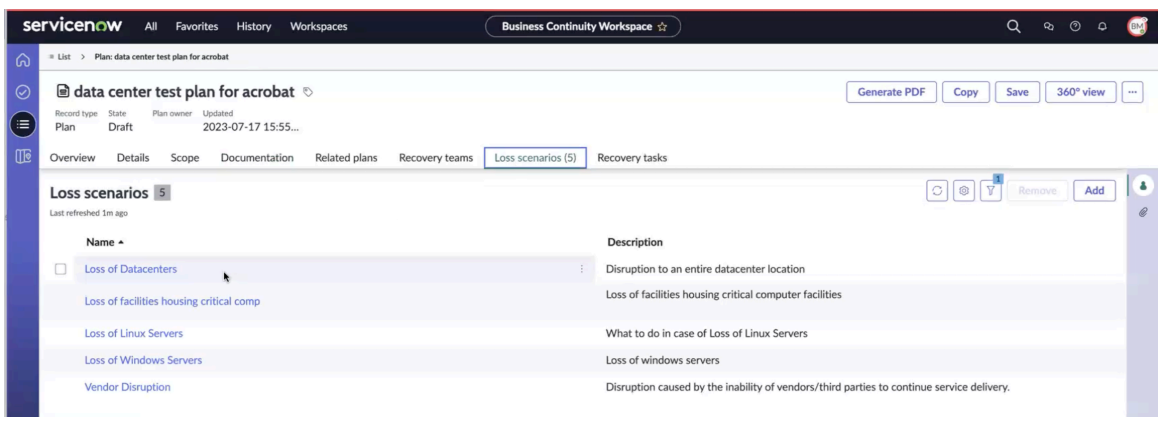
始める前に

必要なロール：sn_bcm.admin、sn_bcm.program_manager、または sn_bcm.planner

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで、[計画] に移動し、[名前] 列で計画レコードへのリンクを選択します。
3. [損失シナリオ] タブを選択し、[追加] を選択します。

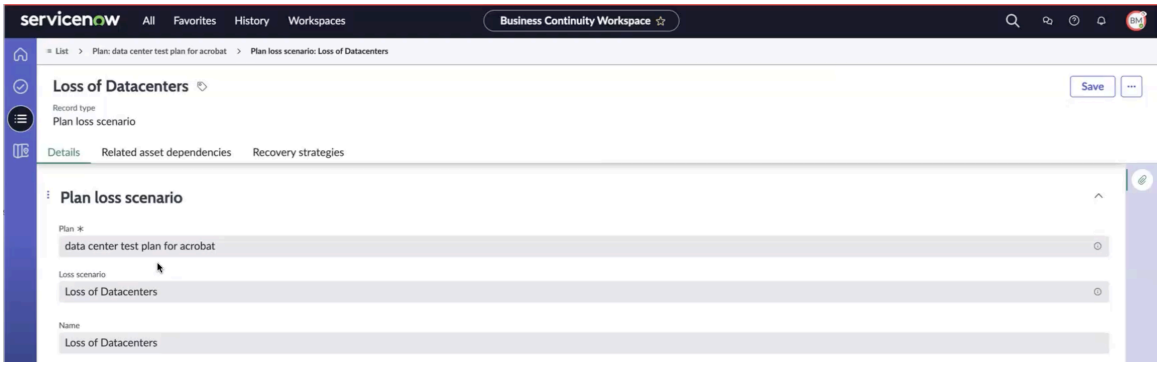
   損失シナリオを事業継続性計画に追加できます。次の例では、データセンターの損失のシナリオを選択して事業継続性計画に追加できます。



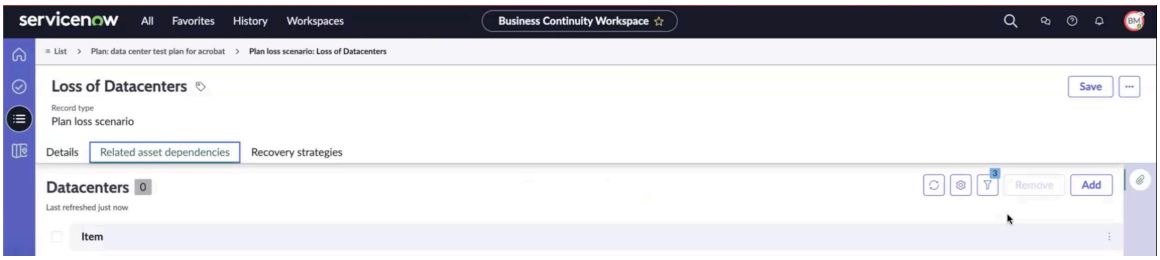
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次の例に示すように、シナリオのレコードの損失が表示されます。

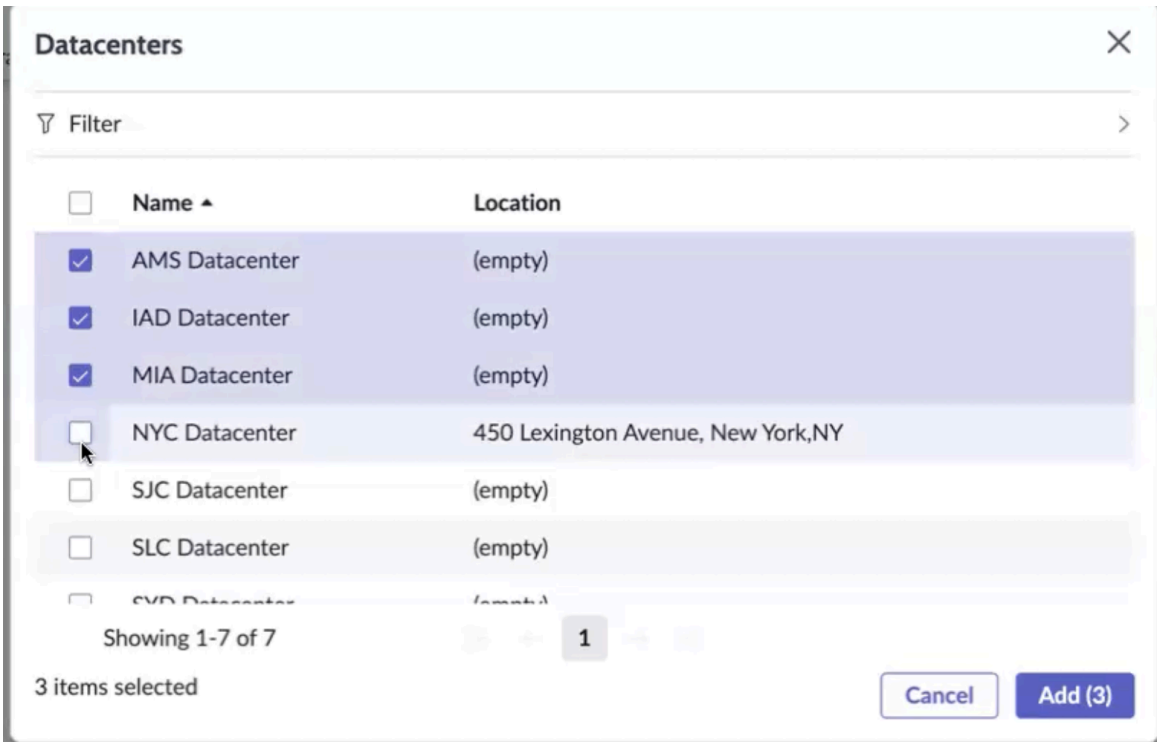


4. [関連資産の依存関係] タブに移動し、[追加] を選択します。
次の例に示すように、関連資産の依存関係を損失シナリオに追加できます。



5. リストから依存関係を選択し、[追加] を選択します。

次の例に示すように、依存関係を損失シナリオに追加できます。



6. [保存] を選択します。
関連資産の依存関係が、[関連資産の依存関係] タブに一覧表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

依存関係の復旧戦略の追加

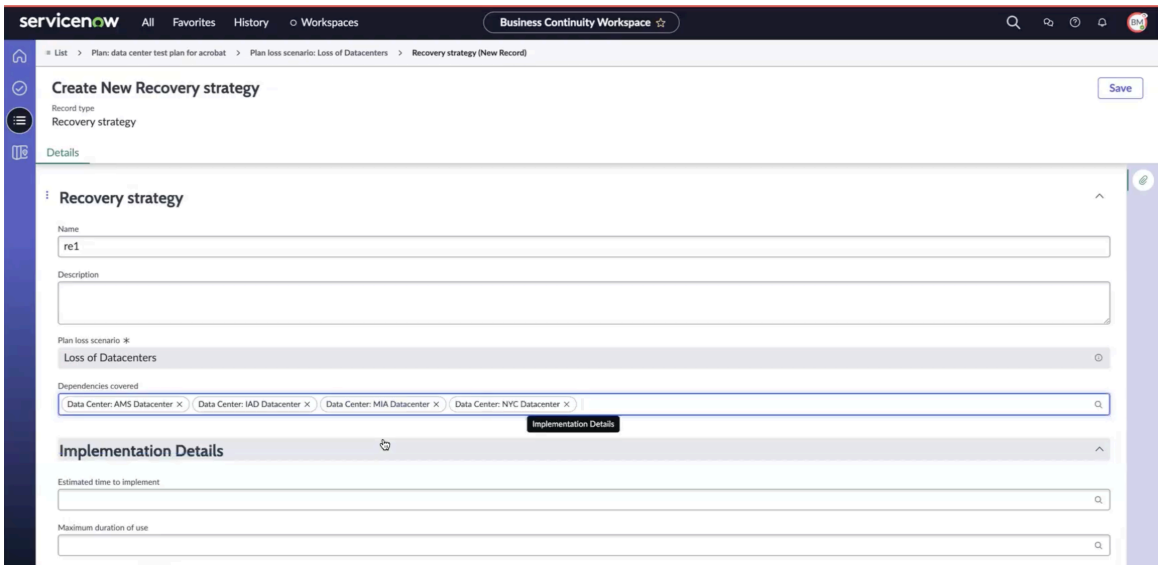
関連資産の依存関係の復旧戦略を追加し、戦略の実装にかかる時間を見積もります。そうすることで、特定された損失シナリオで資産を迅速に稼働させることができます。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.program_manager または sn_bcm.planner

手順

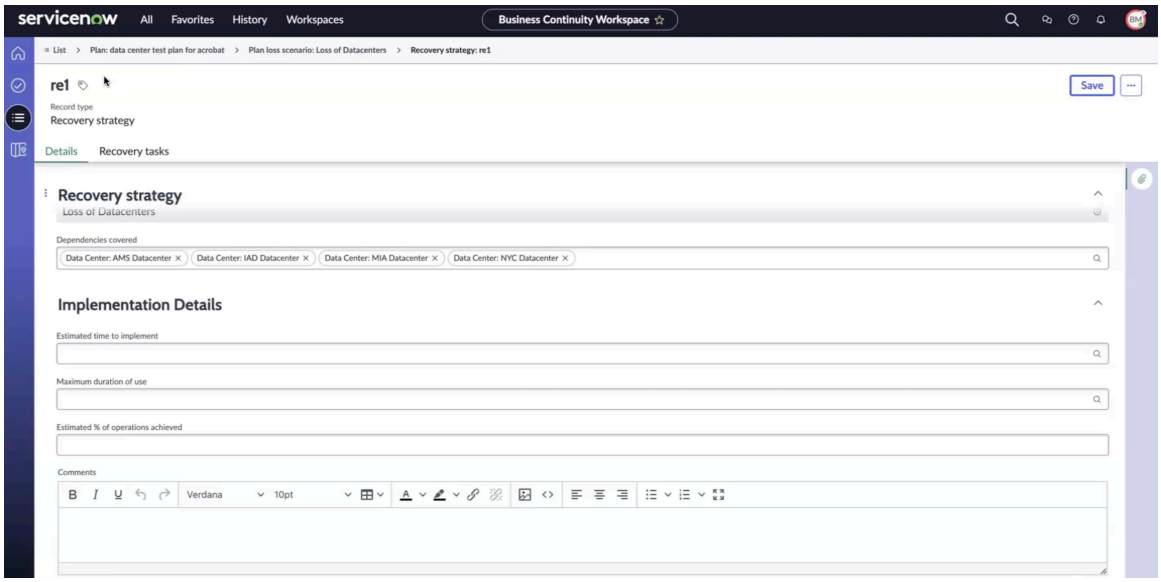
1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで、計画レコード内の損失シナリオに移動します。
3. [復旧戦略] タブに移動し、[新規] を選択します。
   次の例に示すように [新規の復旧戦略を作成 (Create new Recovery strategy)] フォームが表示されます。



4. フォームのフィールドに入力します。
   フォーム内のフィールドの詳細については、「[新規の復旧戦略を作成 (Create new Recovery strategy)] フォーム」を参照してください。
5. [保存] を選択します。
   次の例に示すように、復旧戦略を保存できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



[復旧タスク] タブが [復旧戦略] フォームに表示されます。

次のタスク
次のステップでは、復旧戦略の一環で 1 つ以上の復旧タスクを追加できます。

[新規の復旧戦略を作成 **(Create new Recovery strategy)]** フォーム

BCM UIB ワークスペース の [新規の復旧戦略を作成 (Create new Recovery strategy)] フォームを使用して、特定された損失シナリオの復旧戦略に関する詳細を追加します。

[新規の復旧戦略を作成 **(Create new Recovery strategy)]** フォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

[新規の復旧戦略を作成 **(Create new Recovery strategy)]** フォーム

フィールド	説明
[詳細] タブ	
名前	事業継続性計画で特定された損失シナリオの復旧戦略の名前。
説明	復旧戦略の説明。
損失シナリオの計画	復旧戦略が計画されている損失シナリオ。
依存関係	関連資産に関連付けられている依存関係。
実装の詳細	
実装予定時間	復旧戦略の実装にかかる推定時間。
最大使用期間	復旧戦略の最大使用期間。
達成した推定運用率（%）	復旧戦略で達成された操作の割合の推定。
コメント	復旧戦略に関連するコメント。BCM アドミニストレーターまたは計画者は、計画内のコメントを更新できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

復旧タスクを追加

計画された復旧戦略の一部として復旧タスクを追加します。復旧タスクは 1 つの損失シナリオに 1 つ以上追加できます。これらの復旧タスクは損失シナリオ自体に表示されます。より迅速な災害復旧 (DR) のために、計画内の復旧タスクを自動化します。

始める前に

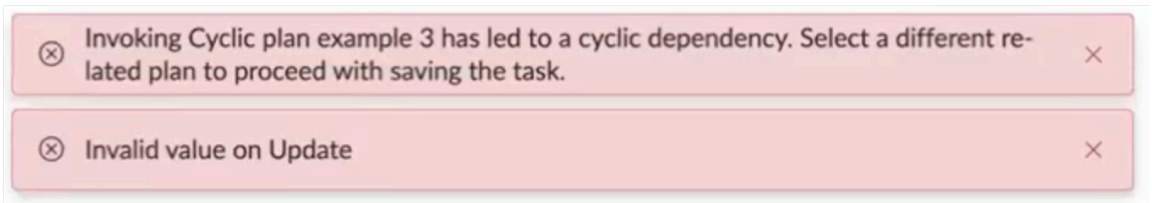
必要なロール：sn_bcm.admin、sn_bcm.program_manager、または sn_bcm.planner

このタスクについて

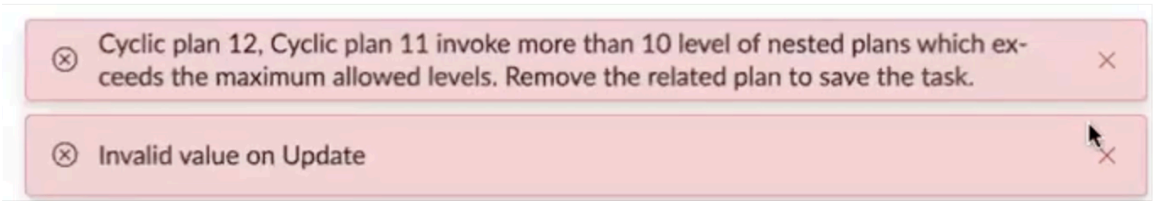
Xanadu リリース以降、復旧タスクの循環依存関係を回避して、他の計画から同じ計画が繰り返し呼び出されるのを防ぐことができます。



たとえば、復旧タスクの循環計画例 1 が循環計画例 2 を呼び出し、循環計画例 2 が循環計画例 3 を呼び出し、循環計画例 3 が循環計画例 1 を呼び出すとします。循環計画例 2 と循環計画例 3 の間にリンクを追加しようとしても、追加できません。例に示されているようなエラーメッセージが表示され、イベントでこのような問題が発生しないようにするために、別の関連計画を選択するようにユーザーに求めます。



同様に、計画が 10 レベルを超えてアクティブ化された場合、または 10 レベルを超える計画を含む階層リンクが作成された場合は、レコードを保存する前に計画を削除するように提案する次のエラーメッセージが表示されます。



事業継続性管理アプリケーションのバージョン 6.1.x 以降では、事業継続性計画プロセスへの復旧タスクの自動化の統合が導入されています。この自動化は、効率を高め、時間を節約し、人為的なミスのリスクを最小限に抑えることを目的としています。復旧タスクへの必要なアクセス権を持つユーザーは、タスクを手動または自動のいずれかに分類できます。通常、これらのタスクは依存関係によって順番に整理されます。

復旧タスクを自動化するには、アドミニストレーターまたはアプリケーション開発者が自動フローを作成し、それをタスクに関連付けます。タスクが [オープン] ステータスに移行すると (計画が演習または実際のイベントの一部としてアクティブ化されると)、自動フローがトリガーされます。ただし、システムエラーが原因で自動フローが失敗する場合があります。このような場合、復旧タスクへのアクセス権を持つユーザーは、手動タスクをバックアップとしてアクティブ化し、指定されたバックアップ担当者にアサインできます。バックアップ担当者は、タスクフローを完了するためのシステム生成メールを受信します。計画ユーザーは、事業継続性計画の演習を実施し、得られた結果に基づいて改善する機会があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで、計画レコード内の損失シナリオに移動します。
3. [復旧タスク] タブに移動し、[新規] を選択します。

事業継続性計画のレベルで追加された復旧タスクは、[復旧タスク] タブに表示されます。次の例に示すように、事業継続性計画に復旧タスクを追加できます。

依存関係に基づいてシステムによって計算されたタスクの順番を使用できます。依存関係を持たないタスクを最初に開始することができるので、アサインされる順番が高くなります。タスクの順番を更新または保存するたびに、すべてのタスクの順番が再計算されて表示されます。

計画に 500 を超えるタスクがある場合、タスクの順番が自動的に更新されることはありません。タスクの順番を設定するには、手動での介入が必要です。計画および復旧タスクレコードで利用可能な [依存関係を更新 **(Update dependencies)]** UI アクションを選択するようにユーザーに通知する情報メッセージが表示されます。

注:

計画では複数の資産にタグを付けることは可能ですが、特定のシナリオでは特定の資産に集中できます。Xanadu リリース以降、特定の資産を復旧タスクにタグ付けし、イベントまたは演習中に各資産を復旧するのに要する時間を正確に計算できるようになりました。イベント内の資産の実際の期間と合計工数は、資産のタグ付けに基づいて決定されます。[資産にタグを付ける **(Tag assets)]** フィールドには、資産を復旧タスクにアサインするための次のオプションがあります。

- なし
- 特定
- すべて

たとえば、[資産にタグを付ける**(Tag assets)]** フィールドで [特定の資産 **(Specific assets)]** を選択すると、[資産スコープ **(Asset scope)]** フィールドが表示され、選択した復旧タスクでタグ付けできる資産を指定できます。

復旧タスクでタグ付けされた資産は、イベントタスクの影響を受ける資産に含まれます。資産に復旧タスクを適切にタグ付けすることで、各資産の復旧時間を正確に計算できます。新しく作成されたイベントタスクに関連付けられた資産のみがコピーされることに注意してください。

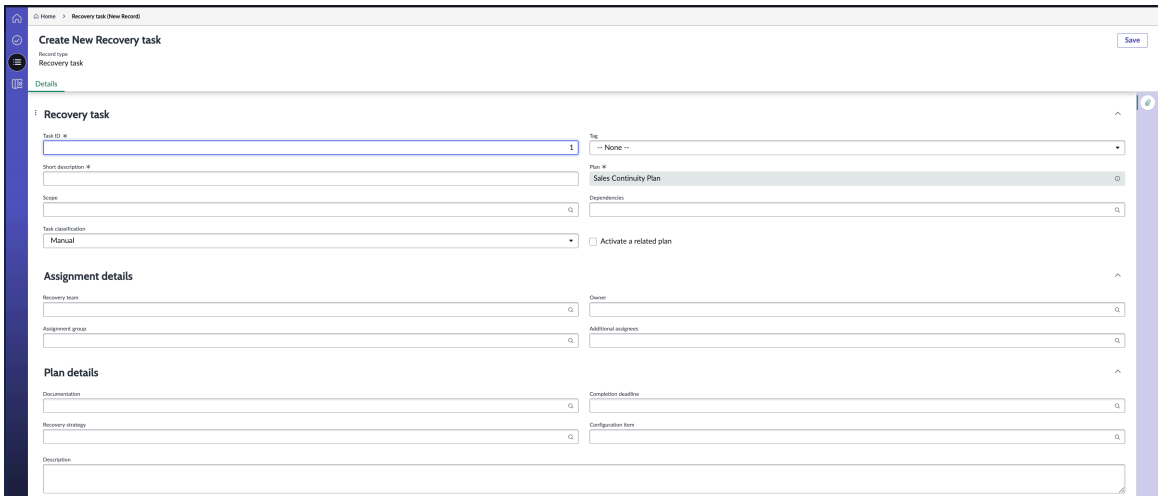
Xanadu リリースから、[計画期間 **(Planned duration)]** という新しいフィールドが復旧タスクフォームに追加されました。[計画期間 **(Planned duration)]** フィールドは、期間を示すために使用される参照フィールドの [完了期限 **(Completion deadline)]** フィールドに代わるものです。[完了期限 **(Completion deadline)]** フィールドは計画タスクレコードから削除されます。

[計画期間 **(Planned duration)]** フィールドでは、タスクの完了に必要な予想時間を入力できます。イベントと演習が実行された後、このフィールドのデータに再アクセスして変更できます。タスクの進捗状況と完了までに必要な時間の詳細が表示されます。

[新しい復旧タスクの作成(Create New Recovery task)] フォームが表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳



4. フォームのフィールドに入力します。
   フォーム内のフィールドの詳細については、「新しい復旧タスクの作成フォーム」を参照してください。
5. [保存] を選択します。
   UI で復旧タスクが更新されます。

新しい復旧タスクの作成フォーム

BCM UIB ワークスペース で新しい復旧タスクの作成フォームを使用して、復旧タスクに関する詳細を入力します。

新しい復旧タスクの作成フォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

新しい復旧タスクの作成フォーム

フィールド	説明
復旧タスク	
簡単な説明	復旧タスクの簡単な説明。
計画オーダー	復旧タスクの計画オーダー。復旧タスクの順序は自動的に決定され、[計画オーダー] フィールドに入力されます。この順序は、タスクの依存関係の概要を示す [依存関係] フィールドの値から導出されます。たとえば、タスク 2 がタスク 1 に依存している場合、タスク 1 には順番 1 がアサインされ、タスク 2 には順番 2 がアサインされます。1 つのタスクが他の 2 つのタスクに依存するシナリオでは、依存関係の中で計画オーダーが最も高いタスクが使用されます。2 つのタスクそれぞれがタスク 1 に依存している場合、これらのタスクの計画オーダーが両方とも 2 になることがあります。 **注:** 復旧タスクの計画オーダーを更新するには、[タスクオーダーをリフレッシュ **(Refresh task order)]** UI アクションを使用します。
タスク ID	各タスクにアサインされた一意の番号。特に印刷された PDF で、特定の順序でタスクを表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい復旧タスクの作成フォーム (続く)

フィールド	説明
資産にタグを付ける (Tag assets)	すべての資産、資産なし、または特定の資産を復旧タスクに関連付けるオプション。イベントに記録される実際の期間と労力は、次のオプションで示されているように、資産にタグ付けする方法によって決まります。 • すべて：計画のすべての資産を復旧タスクに関連付けます。 • なし：復旧タスクに関連付ける計画の資産はありません。 • 特定の資産 **(Specific assets)**：[資産スコープ **(Asset scope)]** フィールドを表示するには、このオプションを選択します。これにより、計画内でタグ付けされた資産のスコープを定義できます。 この構成が策定され、イベント中に計画がアクティブ化されると、資産にタグが付けられます。イベントに記録される時間と労力は、資産のタグ付け方法によって決まります。
資産スコープ (Asset scope)	[資産にタグを付ける **(Tag assets)]** フィールドで [特定の資産 **(Specific assets)]** オプションが選択されている場合にのみ、このフィールドが表示されます。復旧タスクに関連付ける特定の資産を選択できます。この復旧タスクからイベントタスクが生成されると、これらの選択された資産が関連する資産としてイベントタスクに表示されます。計画から復旧タスクにリンクされた資産は、イベントタスクの資産として複製されます。
タグ	復旧タスク用にマークされたタグ。
プラン	復旧タスクに関連付けられた計画。
関連のある計画をアクティブ化	復旧タスクに関連のある計画をアクティブ化するオプション。 拡張アプリケーションソフトウェアは、実行中にエラーが発生する可能性があるため、復旧タスク間に循環依存関係がないか確認します。タスクで循環依存関係が検出されると、エラーメッセージが表示され、そのタスクに対する以降のアクションができなくなります。タスクの依存関係レベルが 10 を超える場合、復旧タスクレコードは保存できません。 復旧タスクの予定期間を記録したり、依存関係に基づいて整理された計画内の復旧タスクの順序を表示したりすることもできます。
タスクの分類	復旧タスクの分類。使用可能なオプションは次のとおりです。 • 手動：復旧タスクを手動タスクとして分類します。 • 自動：復旧タスクを自動タスクとして分類します。復旧タスクを自動タスクとして分類すると、[自動フロー] フィールドがフォームに表示されます。災害復旧を迅速化するために、復旧タスクを自動化できます。
依存関係	復旧タスクに関連する依存関係。
計画期間	日、時、分、秒単位で示された復旧タスクの計画期間。このフィールドは、いくつかの側面を判断するために重要です。 • 実行中に予定された開始時刻と終了時刻の設定。 • 実行中に発生した遅延の計算。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい復旧タスクの作成フォーム (続く)

フィールド	説明
	このフィールドのデフォルト設定は 00:00:00:00 です。 以前は期間を示すために使用されていた参照フィールドであった [完了期限] フィールドは、計画タスクレコードから削除されました。
フロー変数 (自動フロー)	タスクの自動化カテゴリで利用可能な自動フロー。自動フローは、タスクが [オープン] ステータスに移行したとき (計画が演習または実際のイベントの一部としてアクティブ化されたとき) にトリガーされます。必要なフロー変数を追加して、自動フローに入力できます。
変数	フローに追加された変数。このフィールドは、自動フローを保存した後にのみ表示されます。
割り当ての詳細	
復旧チーム	復旧タスクがアサインされている復旧チーム。
アサイン先グループ	タスクがアサインされているグループ。
Owner (所有者)	復旧タスクにアサインされた所有者。
その他の担当者	復旧タスクに追加でアサインされた担当者。
バックアップ担当グループ (Backup assignee group)	バックアップ担当者が属するグループ。
バックアップ担当者 (Backup assignee)	実行中に自動タスクが失敗した場合のバックアップとして使用される担当者。
計画の詳細	
ドキュメント	事業継続性計画で定義されたドキュメントセクション。
復旧戦略	[復旧戦略] タブで定義された復旧戦略。
構成アイテム (CI)	復旧タスクに関連付けられた構成アイテム。
説明	復旧計画の説明。

復旧タスクの自動化

事業継続性計画内の手動復旧タスクを自動化します。最初に手動復旧タスクを自動タスクとして分類してから、自動化フローを添付することができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：ワークフロースタジオの admin、sn_bcm.admin、sn_bcm.program_manager、または sn_bcm.planner

このタスクについて
アドミニストレーターやローコード開発者は、自動化フローを構築する責任があります。そこで、BCM 計画者以上のロールを持つユーザーは自動化フローを復旧タスクに添付します。ワークフロースタジオはこの目的で使用されますが、権限の制限によりローカルの開発者ペルソナが必要です。ワークフロースタジオのロールには追加のライセンスは必要ありません。ただし、いくつかの特別なロールが必要です。ワークフロースタジオロールと権限の詳細については、「User access to Workflow Studio flows」を参照してください。

このフローには、次のステップが含まれます。

1. ユーザーは、適切なアクセスと制御を確保するための権限を定義し、自動化プロセスを処理するサブフローを作成します。
2. 次に、ユーザーは入力を定義して、自動化フローに必要な情報を提供します。
3. 自動化プロセスには、手動タスクを自動化し、その完了ステータスを更新するアクションが含まれます。

自動タスクは、手動タスクが発生するまで順番に実行されます。自動タスクが失敗した場合、それを再度トリガーするには手動操作が必要です。自動化プロセスで障害が発生した場合は、再トリガーして確実に完了させることができます。タスクが失敗した場合、バックアップの担当者はメールで通知され、失敗に対処するために必要な手動アクションを実行する必要があります。これにより、自動化の問題が発生した場合でも、復旧プロセスがスムーズに続行されます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース をクリックし、計画レコードを選択します。
2. [復旧タスク **(Recovery tasks)]** タブで、自動化する手動復旧タスクを選択します。

   事業継続性計画の手動復旧タスクを自動化できます。
3. ワークフロースタジオを開き、[新しいサブフローを作成] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

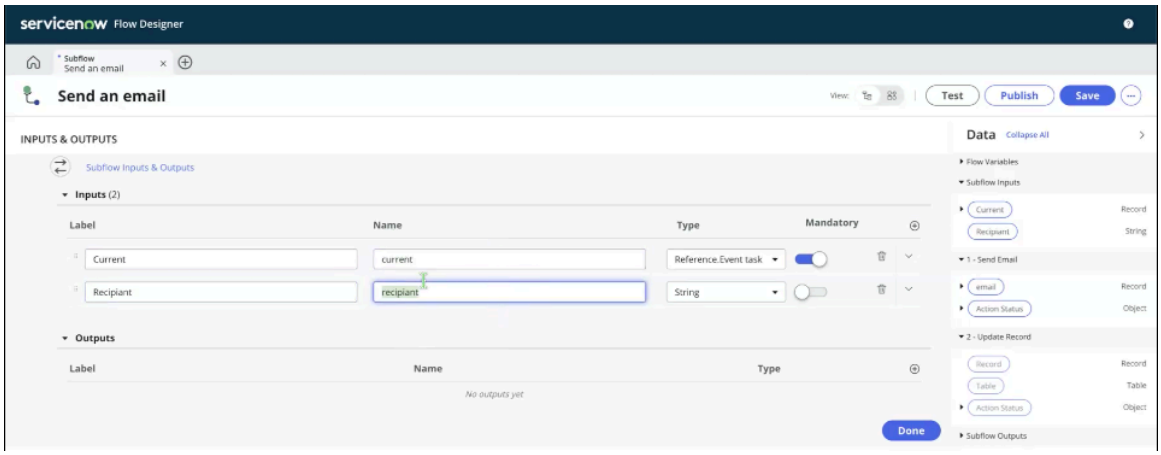
   BCM アプリケーションのタスクを自動化するためにカスタマイズされたサブフローを作成する方法の詳細については、「サブフローの作成フォーム」を参照してください。

   サブフローの作成の詳細については、「Create a subflow in Workflow Studio」を参照してください。

   サブフローのプロパティが入力されます。
5. [送信] を選択します。
   サブフローは、タスクを自動化するように設計されています。サブフローの [アクション] セクション内に、[アクション]、[フローロジック **(Flow Logic)]**、および [サブフロー] タブが表示されます。
6. サブフローの入力を作成して、サブフローが実行開始されたときに使用できるデータを指定します。

   タスクにリンクされたレコードへの参照を確立するために、サブフローの [入力] と [出力] セクションで入力の名前とタイプを指定できます。入力を定義することで、自動化の実行を担うタスクへの参照を作成できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



a. [ラベル] フィールドで入力のラベルを選択します。
サブフロー内には、カレント変数と呼ばれる特別な変数があります。[入力] セクションでカレント変数を選択すると、自動化をトリガーしたタスクに自動的に置き換えられます。これにより、サブフロー内の特定のタスクを動的に参照して処理できます。

b. [名前] フィールドで入力の名前を選択します。
[名前] フィールドでは、変数名を **current** (すべて小文字) に定義する必要があります。タイプは常に **Document ID.Event task** である必要があります。

c. [タイプ] フィールドで入力のタイプを選択します。
たとえば、入力のタイプとして **[Document ID.Event task]** を選択できます。

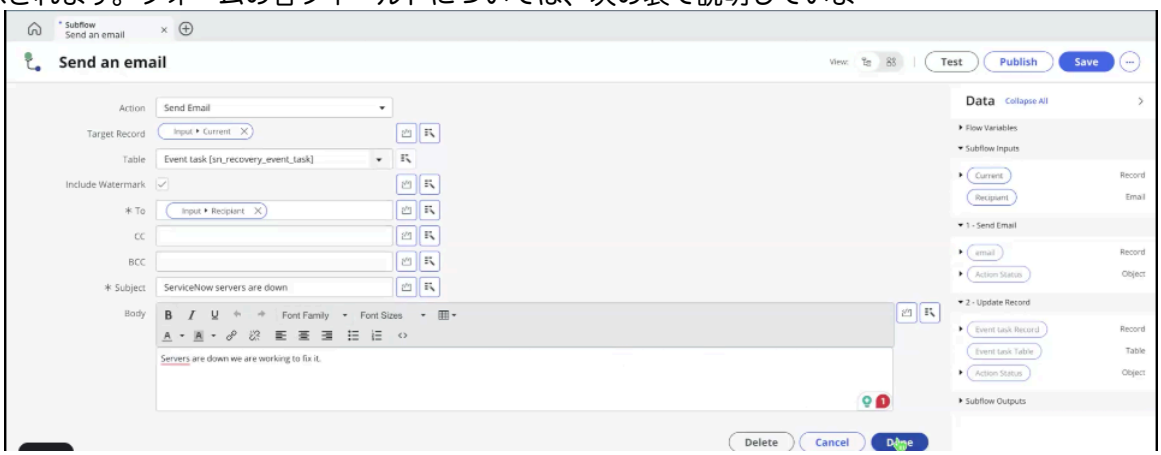
d. この入力を必須としてマークするには、[必須] オプションを選択します。
サブフローの入力と出力の作成については、「Create a subflow in Workflow Studio」を参照してください。

e. [+] を選択して、新しい入力を追加します。

フロー変数を作成すると、ワークフロースタジオでアクセスできます。サブフローの入力と出力の作成については、「Create a subflow in Workflow Studio」を参照してください。

7. [アクション] セクションで、[メール送信] を選択します。

[メール送信] セクションを展開すると、次の例に示すようなフィールドが表示されます。フォームの各フィールドについては、次の表で説明しています。

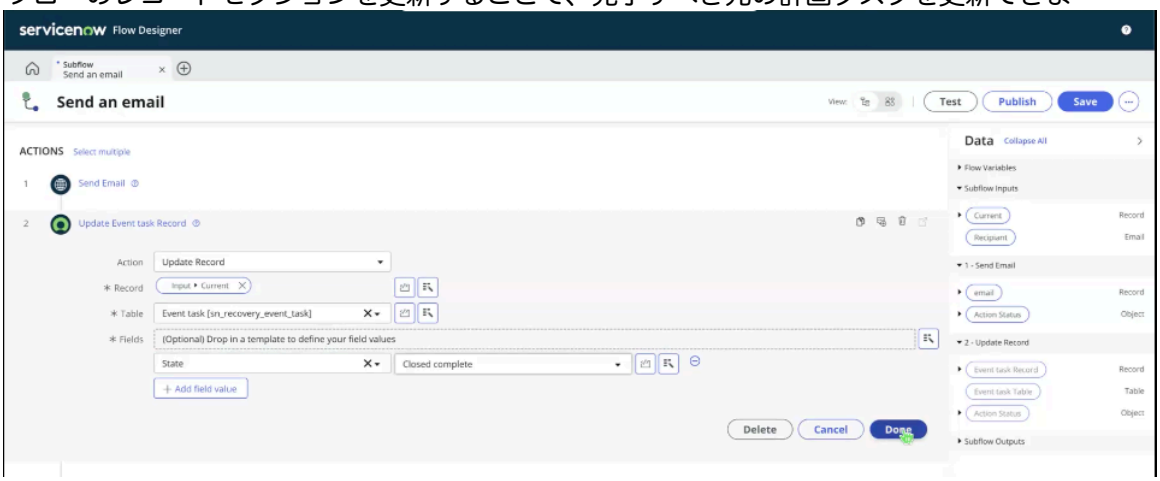


© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[メール送信] フィールド

アクション	サブフローのアクションの名前。 デフォルト： メール送信
ターゲットレコード	サブフローに使用される関連するタスクレコード。
テーブル	タスクが存在するテーブルの名前。たとえば、イベントタスク [sn_recovery_event_task] などです。
ウォーターマークを追加する	タスクに関連付けられたファイルにウォーターマークを追加するオプション。
宛先 (To)	直接の宛先にするべき受信者のメールアドレス。
CC	コピー受信者のメールアドレス。メールで直接アドレス指定されている受信者のリストを表示できます。
BCC	名前がメールに表示されないコピー受信者のメールアドレス。
件名	問題とメールを送信する理由を説明するメールの件名。
本文	問題に関する説明とアクションステップ。

8. [完了] を選択します。
自動化がトリガーされると、タスクは完了したと見なされます。この特定のシナリオでは、選択したユーザーにメールが自動的に送信されます。
9. サブフローの [アクション] セクションで [レコードを更新] を選択します。
サブフローのレコードセクションを更新することで、完了すべき元の計画タスクを更新できます。



   a. [アクション] フィールドで、[レコードを更新] を選択します。

   b. [レコード] フィールドで、[カレント **(Current)]** を選択します。

   c. [ステータス] フィールドで、[完了してクローズ] を選択します。

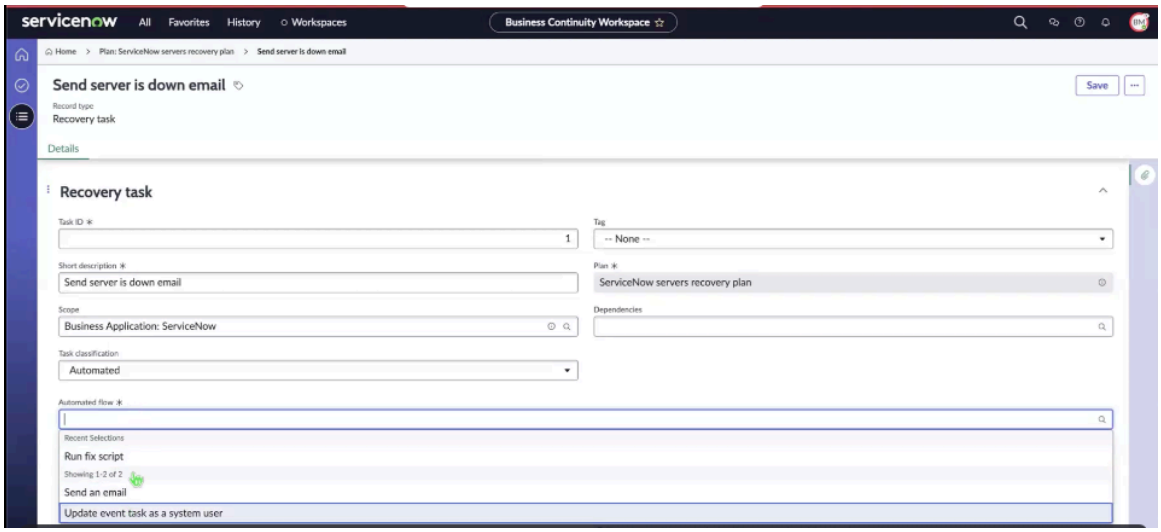
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

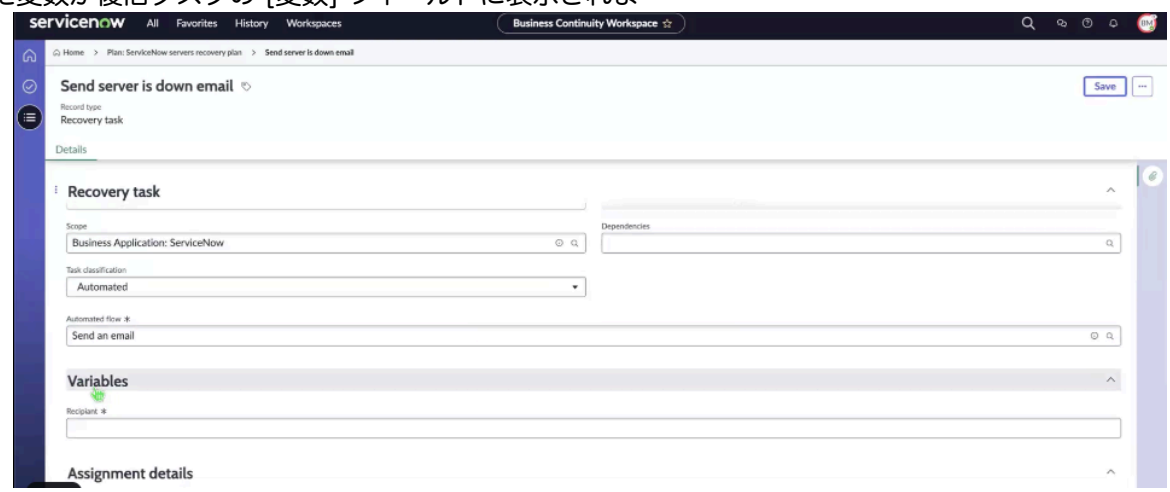
d. [完了] を選択します。
レコードのステータスが [完了] に移行します。

10. ワークフローを公開するには、[公開 **(Publish)]** を選択します。
サブフローが使用されるすべてのインスタンスに変更が適用されます。同様に、自動化として実行できる新しいフローをサブフローに定義できます。

11. sn_bcm.program_manager ロールで計画の [復旧タスク] タブに移動し、編集中の手動復旧タスクを開きます。
復旧タスクフォームが表示されます。



12. [タスクの分類 **(Task classification)]** フィールドで、[自動化 **(Automated)]** を選択して手動タスクを自動タスクに変更し、[保存] を選択します。
フォームの保存後にフロー変数が表示されます。
タスクを選択して保存すると、自動フローに関連付けられた変数が復旧タスクの [変数] フィールドに表示されます。



13. [アサインの詳細] で、[バックアップ担当者 **(Backup assignee)]** フィールドが入力されていることを確認します。

手動タスクを自動タスクに変換すると、フォームに [バックアップ担当者 **(Backup assignee)]** フィールドが表示されます。エラーにより自動化フローが失敗した場合は、メール通知がバックアップ担当者に送信されます。このメールは、自動化フローの失敗と、タスクを解決するために手動操作が必要であることを通知します。バックアップ担当者は、タスクを完了し、解決を成功させるために必要なアクションを実行できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

14. [保存] を選択します。
復旧タスクフォームに、自動タスクが表示される [タスクの分類 (Task classification)] 列が含まれるようになりました。これらの自動タスクは、計画の一部として自動的に実行されます。

サブフローの作成フォーム

サブフローの作成フォームを使用して、事業継続性計画内の手動復旧タスクを自動化します。

サブフローの作成フォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

サブフローの作成フォーム

フィールド	説明
サブフロー名	サブフローの名前。例えば、メールを送信するための手動タスクを自動化する場合は、このサブフローに「メール送信サブフロー (Send an email subflow)」という名前を付けることができます。
説明	サブフローの説明。
アプリケーション	サブフローを作成するアプリケーションスコープ。BCM タスクの場合は、GRC：事業継続性管理 を選択できます。
アクセス可能	サブフローにアクセスできるすべてのアプリケーションスコープ。
カテゴリ	サブフローのカテゴリまたは論理グループ。BCM 自動化タスクの場合は、[BCM：タスク自動化 **(BCM: Task automation)]** カテゴリを選択できます。
保護	サブフローを読み取り専用としてマークするオプション。自分が所有するアプリケーションスコープでサブフローを作成する場合に、このフィールドの値を選択できます。サブフローの編集権限と保護。次のオプションのいずれかを選択します。 • [なし]：デフォルト値。サブフローを編集するには、このオプションを選択します。 • 読み取り専用：サブフローを読み取り専用としてマークします。サブフローの作成者のみが編集できます。
サブフロー注釈	サブフローの注釈。ワークフロースタジオでサブフローのタイトルの下のヘルプテキストは、フロー設計者がフロー内でサブフローが使用されるときにサブフローの機能を理解できます。
実行方法	サブフローを実行するユーザーを定義するオプション。次のオプションのいずれかを選択します。 • セッションを開始するユーザー：フローをトリガーしたユーザーから更新を実行する必要がある場合は、セッションオプションを開始したユーザーを選択します。たとえば、承認者から承認メールを受信する場合は、このオプションを使用します。 • システムユーザー：サブフローを実行するシステムユーザーを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サブフローの作成フォーム (続く)

フィールド	説明
ロールを使用して実行	サブフローを実行するロールです。[実行方法] が [セッションを開始するユーザー] に設定されている場合にのみ、このオプションを利用できます。たとえば、計画ユーザーには、メールを送信するための email_api_send ロールと、BCM タスクを読み取るための sn_bcm.program_manager ロールが必要です。

サブフローの作成の詳細については、「Create a subflow in Workflow Studio」を参照してください。

承認のために BCP を送信する

承認のために事業継続性計画 (BCP) を送信します。そうすると、BCM UIB ワークスペースで詳細を表示できます。

始める前に

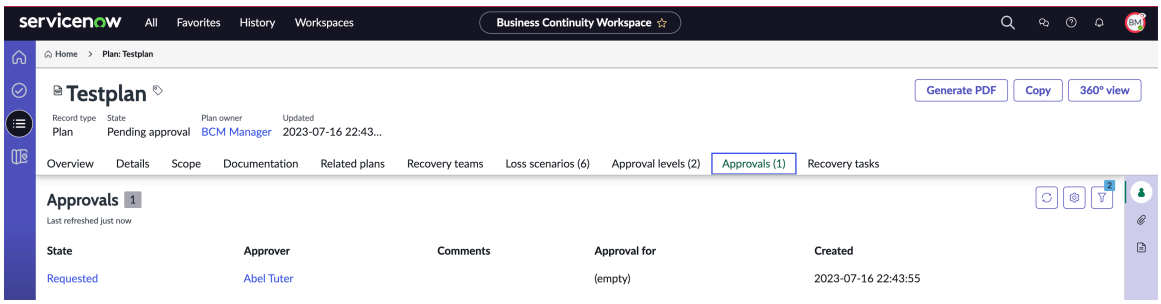
必要なロール：sn_bcm.admin、sn_bcm.program_manager、または sn_bcm.planner

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで、[計画] に移動し、[名前] 列で計画レコードへのリンクを選択します。
3. [レビューのため送信] を選択します。
   事業継続性計画は、[レビュー] ステータスです。
4. [承認のため送信] を選択します。
   事業継続性計画は、[承認待ち] ステータスに更新されます。事業継続性計画は、レビューのために事業継続性計画オーナーに送信されます。
5. [承認] を選択します。

> **注:**
> BCP の承認レコードが作成されている場合、 承認 または 却下の アクションは BCP フォームに表示されません。ユーザーが [承認] または [却下] アクションを表示するには、次の条件を満たす必要があります。
>
> - ユーザーには sn_bcp.plan_manager ロールが必要です。
> - BCP は [承認待ち] ステータスである必要があります。
> - BCP に承認レコードを作成しないでください。

BCM リードまたは BCM プログラムマネージャーロールを持っている場合は、計画を承認できます。次の例に示すように、[承認レベル] タブと [承認] タブに情報が表示されます。

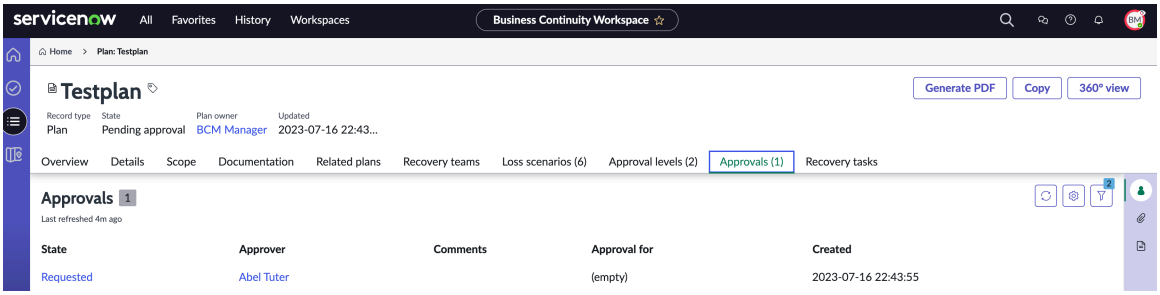


自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

計画に複数の承認レベルを設定するには、「 承認レベルの設定」を参照してください。

注:
計画を作成し、承認レベルと承認が要求された情報が [承認レベル] タブと [承認] タブにリストされている場合、例に示すように、[承認] および [却下] アクションボタンは事業継続性計画フォームに表示されません。



事業継続性計画を承認するとき、ステータスは [承認済み] に更新されます。

BCP の 360 度の関係を可視化

事業継続性計画 (BCP) とそれに関連するエンティティの 360 度の関係を BCM UIB ワークスペース で可視化します。事業継続性計画の作業中に、いつでも 360 度ビューにアクセスできます。

始める前に

必要なロール：sn_bia.bia_admin、sn_bcm.program_manager、または sn_bcm.planner

このタスクについて

360 度ビューの構成は、 **360** 度ビューの構成 > **360** 度ビューの構成.BCMアドミニストレーターロールを持っている場合は、でレコードの関係を構成できます。 **360** 度ビューの構成 > 関係のレジストリ.

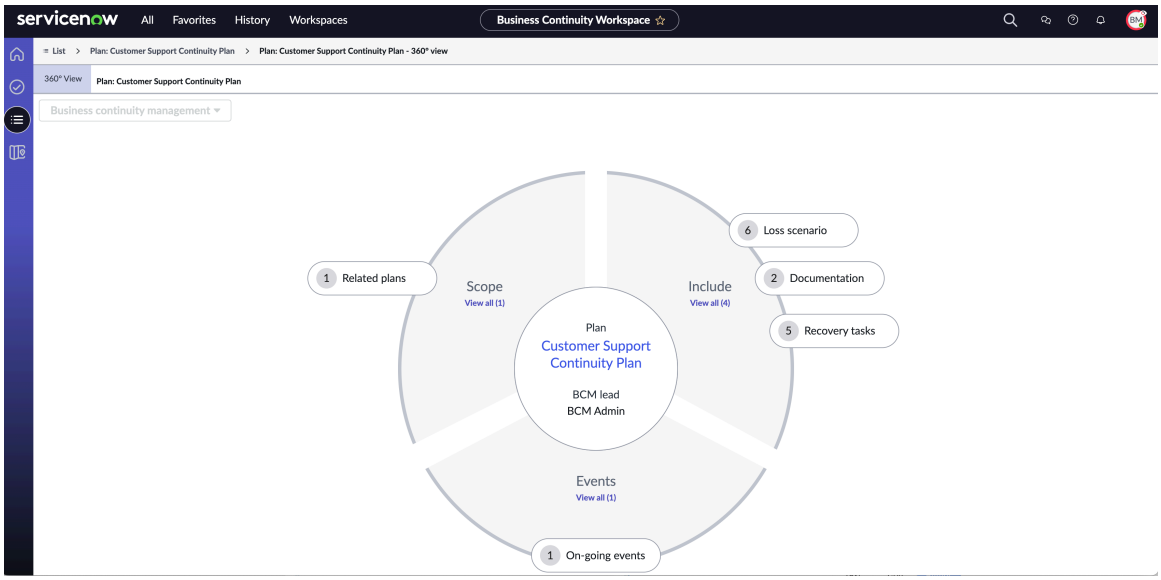
手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで、[計画] に移動して、リストからレコードを選択します。
   事業継続性計画レコードが表示されます。
3. **[360** 度ビュー] を選択します。

   次の例は、事業継続性計画とその詳細の 360° ビューです。

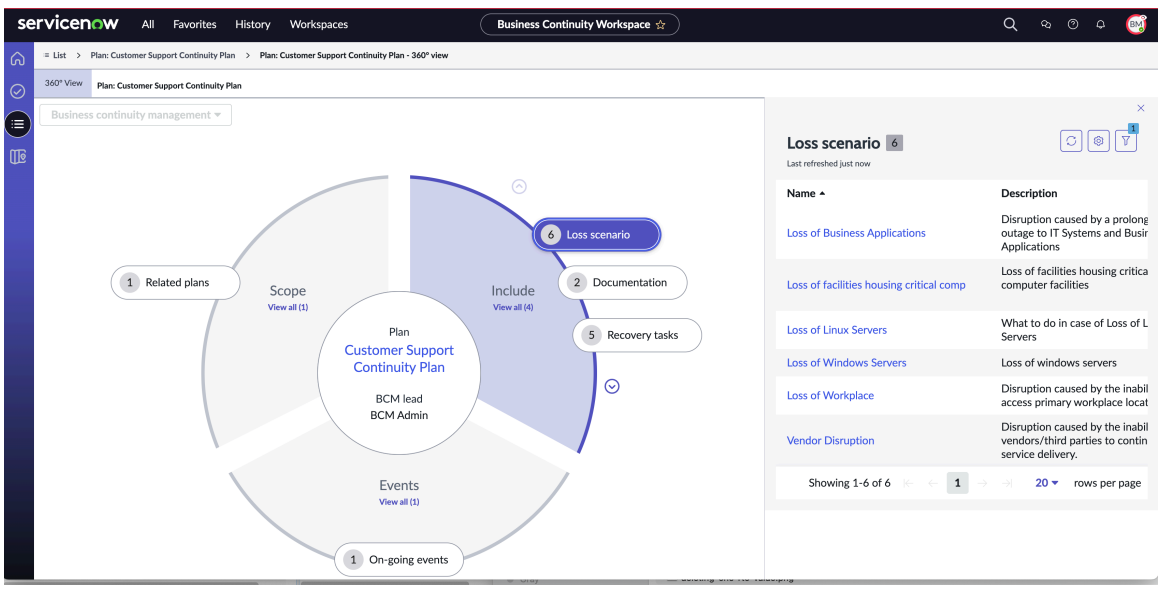
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



- [名前]：カスタマーサポート継続性計画などの事業継続性計画の名前。事業継続性計画を選択して、その詳細を表示できます。
- **BCM** リード：事業継続性計画のアサイン済み BCM リード。
- [スコープ]：[関連計画] などの事業継続性計画のスコープ。
- [イベント]：[進行中のイベント **(Ongoing events)]** など、事業継続性計画に関連付けられているイベント。
- [包含]：次の例に示すように、[損失シナリオ]、[ドキュメント]、[復旧タスク] などの事業継続性計画に関連付けられているエンティティ。

次の例は、カスタマーサポート継続性計画とその関連エンティティの 360 度関係ビューを示しています。360 度ビューで [損失シナリオ] カプセルを選択すると、カスタマーサポート継続性計画に関連する損失シナリオの詳細が右側の損失シナリオパネルに表示されます。



4. 再度計画に移動するには、ブレッドクラムナビゲーションで計画またはリストビューを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PDF 形式または Microsoft Word 形式での BCP レポートの生成

BCM 構成可能ワークスペースで事業継続性計画の PDF またはMicrosoft Wordコピーを生成し、後で参照できるように保存することができます。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.program_manager、sn_bcm.planner

このタスクについて

ビジネスニーズに合わせて PDF をフォーマットするには、「BIA、BCP、およびイベントの PDF テンプレートのフォーマット設定」を参照してください。

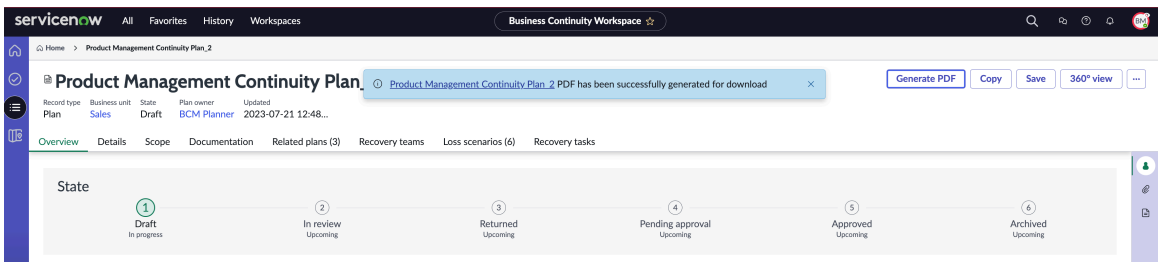
Xanadu リリース以降、ビジネスインパクトアナリシス、計画、およびイベントの PDF のコンテンツは、新しいレイアウトを実装することによって改善されています。

- 各種イベントタスクを表形式で記載します。
- 資産所有者の詳細とビジネスインパクトアナリシスの説明を含めます。
- 計画資産の依存関係の概要を示すテーブルを表示します。
- 最初のページに PDF の作成日を記載します。

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで、[計画] に移動し、[レビュー] または次のステータスになっている事業継続性計画レコードを選択します。
3. フォームで **[PDFの生成]** を選択します。

   次の例は、「<BCPの名前> ダウンロード用 PDF が正常に生成されました」というメッセージが画面に表示されているところを示しています。

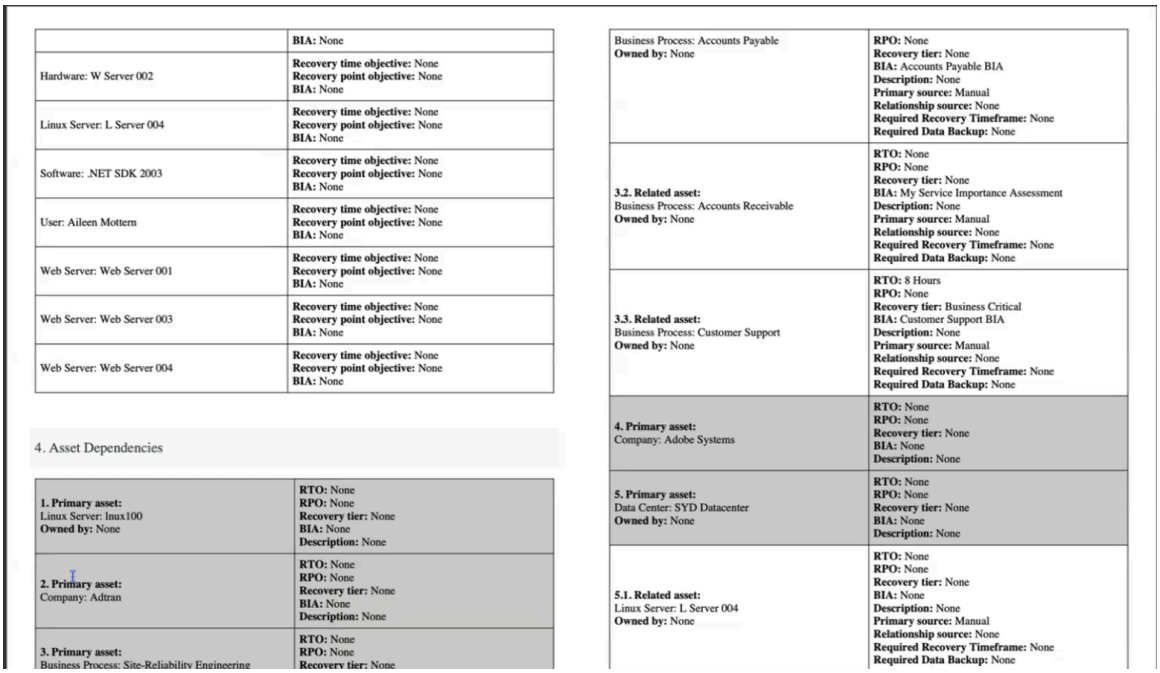


4. PDF をダウンロードするには、メッセージ内のリンクを選択して PDF を開きます。

   次の例で、事業継続性計画の PDF を示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



	BIA: None
Hardware: W Server 002	**Recovery time objective:** None **Recovery point objective:** None **BIA:** None
Linux Server: L Server 004	**Recovery time objective:** None **Recovery point objective:** None **BIA:** None
Software: .NET SDK 2003	**Recovery time objective:** None **Recovery point objective:** None **BIA:** None
User: Aileen Mottern	**Recovery time objective:** None **Recovery point objective:** None **BIA:** None
Web Server: Web Server 001	**Recovery time objective:** None **Recovery point objective:** None **BIA:** None
Web Server: Web Server 003	**Recovery time objective:** None **Recovery point objective:** None **BIA:** None
Web Server: Web Server 004	**Recovery time objective:** None **Recovery point objective:** None **BIA:** None

4. Asset Dependencies

1. Primary asset: Linux Server: linux100 **Owned by:** None	**RTO:** None **RPO:** None **Recovery tier:** None **BIA:** None **Description:** None
2. Primary asset: Company: Adtran	**RTO:** None **RPO:** None **Recovery tier:** None **BIA:** None **Description:** None
3. Primary asset: Business Process: Site-Reliability Engineering	**RTO:** None **RPO:** None **Recovery tier:** None
Business Process: Accounts Payable **Owned by:** None	**RPO:** None **Recovery tier:** None **BIA:** Accounts Payable BIA **Description:** None **Primary source:** Manual **Relationship source:** None **Required Recovery Timeframe:** None **Required Data Backup:** None
3.2. Related asset: Business Process: Accounts Receivable **Owned by:** None	**RTO:** None **RPO:** None **Recovery tier:** None **BIA:** My Service Importance Assessment **Description:** None **Primary source:** Manual **Relationship source:** None **Required Recovery Timeframe:** None **Required Data Backup:** None
3.3. Related asset: Business Process: Customer Support **Owned by:** None	**RTO:** 8 Hours **RPO:** None **Recovery tier:** Business Critical **BIA:** Customer Support BIA **Description:** None **Primary source:** Manual **Relationship source:** None **Required Recovery Timeframe:** None **Required Data Backup:** None
4. Primary asset: Company: Adobe Systems	**RTO:** None **RPO:** None **Recovery tier:** None **BIA:** None **Description:** None
5. Primary asset: Data Center: SYD Datacenter **Owned by:** None	**RTO:** None **RPO:** None **Recovery tier:** None **BIA:** None **Description:** None
5.1. Related asset: Linux Server: L Server 004 **Owned by:** None	**RTO:** None **RPO:** None **Recovery tier:** None **BIA:** None **Description:** None **Primary source:** Manual **Relationship source:** None **Required Recovery Timeframe:** None **Required Data Backup:** None

5. システムに PDF を保存します。
   PDF を保存すると後で参照できます。
6. Microsoft Word で BCP レポートを作成するには、[**MS Word** の生成] を選択します
   Microsoft Word形式で BCP レコードのレポートを生成します。BIA レコードの Microsoft Word コピーが正常に生成され、ダウンロードできます。
7. BCP レポートを印刷するには、保存した PDF または Microsoft Word コピーを開き、[印刷] を選択します。

演習用の構造化ワークフロー

このセクションで概説されている構造化されたワークフローを実行して、事業継続性 ワークスペース (BCM 構成可能ワークスペース とも呼ばれる) で演習を管理します。

通常、BCM プログラムマネージャーは、以下のタスクを実行して、イベントを演習します。

- 演習を作成します。詳細については、「演習を作成」を参照してください。
- 演習に資産と計画を追加します。詳細については、「影響を受ける資産の追跡と関連計画の追加」を参照してください。
- 演習にイベントタスクを追加します。詳細については、「演習へのイベントタスクの追加」を参照してください。
- 演習イベントのイベントタスクを送信します。詳細については、「承認を要求してイベントを承認する」を参照してください。

演習に関する追加情報

- ホームページの [演習] タブの詳細については、「ホームページビュー」を参照してください。
- 演習の詳細については、「訓練」を参照してください。

タスクの一括編集

事業継続性管理 アプリケーションのバージョン 6.1.x 以降では、イベントレコードに対して編集アクセス権を持つユーザーは、イベントタスク関連リストからタスクの一括編集を直接実行できるようになりました。この機能は、複数のイベントタスクを同時に管理しているユーザーに役立ちます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの一括編集の詳細については、「危機イベントの構造化されたワークフロー」を参照してください。

演習および危機イベントの状況

このセクションでは、演習と危機イベントの進行状況について説明します。

演習および危機イベントの状況

演習および危機イベントの状況

状況	説明
保留中	イベントの最初のステータス。
保留中の承認	承認が要求されたときのイベントの状況。[承認のため送信] を選択すると、イベントが [承認待ち] ステータスに設定されます。このステータスでは、イベントフォームで [作業メモ] フィールドのみを更新できます。 イベントに承認ルールが設定されている場合は、承認が生成され、承認者に送信されます。要求されたステータスのイベントに承認レコードが関連付けられていない場合は、**[Reject** (却下)] または **[Approve** (承認)] を選択できます。 [承認] タブで、イベントの承認の詳細を、承認者の名前、承認のレベル、および承認のステータスとともに表示できます。 [承認履歴] タブで、承認ステータス、承認者の名前、イベント番号などのイベントの承認履歴を表示できます。 **注:** BCM プログラムマネージャーである場合は、[承認] および [却下] ボタンを表示できます。
戻り	イベントが却下されたときのイベントの状況。ステータスは [戻り] に設定されます。[承認のため送信]、[完了してクローズ]、または [未完了でクローズ] の状況に移行できます。このアクションはイベントにのみ関連しているため、フォーム内の説明、結果、作業メモを更新することができます。 イベントのステータスが **[Returned** (差し戻し済み)] のときは、イベント資産のステータスを編集することができます。 [戻り] ステータスから先では、イベントタスクへのコメントと添付ファイルの追加のみを実行できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

演習および危機イベントの状況 (続く)

状況	説明
未完了でクローズ	イベントが未完了のときのイベントのステータス。
完了してクローズ	すべてのタスクが完了すると、イベントのステータスが [対応中] から [完了してクローズ] に移行します。
承認済み	イベントの [承認済み] ステータス。イベントが承認されると、ステータスが **[Approved** (承認済み)] になります。 次の追加の UI アクションを実行できます。 PDF の生成 演習または危機イベントの PDF を参照用にダウンロードします。[PDF の生成] を選択すると、 [詳細] タブの [アクティビティ] パネルで PDF 添付ファイルが利用できます。 演習または危機イベントの PDF を生成する方法については、「PDF または PDF でのイベントレポートの生成 Microsoft Word」を参照してください。 コピー 後で参照できるように、演習または危機イベントのコピーをテンプレートとして保存します。 360 度ビュー 演習または危機イベントの 360 度表現を可視化します。 演習イベントまたは危機イベントの 360 度リレーションシップを見るには、「演習と危機の 360 度の関係を表示する」を参照してください。 削除 演習または危機イベントを削除します。 編集 演習または危機イベントを編集します。 保存

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

演習および危機イベントの状況 (続く)

状況	説明
	演習または危機イベントを保存します。
クローズ済み	イベントの [クローズ済み] ステータス。

イベントタスクの次の状況移行を確認します。

イベントタスクの状況移行

状況	説明
オープン	イベントタスクの [オープン] ステータス。イベントが開始されると、依存復旧タスクを持たないそのイベントのイベントタスクが [オープン] ステータスに移行します。
保留中	イベントタスクの [保留中] ステータス。他の復旧タスクに依存するイベントタスクは、イベントの開始時に [保留中] ステータスになります。依存タスクがクローズされると、親イベントタスクが [オープン] ステータスに移行します。
タスクをスキップ	イベントタスクの [タスクをスキップ] アクション。このアクションは、BCM プログラムマネージャーとしてログインしている場合にのみ使用できます。スキップアクションは、タスクが [処理待ち] または [オープン] ステータスにあり、イベントが [対応中] ステータスである必要がある場合に表示されます。[タスクをスキップ] を選択すると、タスクが [スキップしてクローズ] ステータスに移行します。このステータスでの実際の開始時間と終了時間は空です。
トリガー	イベントタスクの [トリガー] アクション。このアクションは、BCM プログラムマネージャーとしてログインしている場合にのみ使用できます。タスクは [保留中] ステータスです。[トリガー] を選択すると、依存関係に関係なくタスクが [オープン] ステータスに移行します。
対応中	イベントタスクの [対応中] ステータス。タスクは [オープン] ステータスです。[対応中] を選択すると、タスクが [対応中] ステータスに移行します。このステータスの [実際の開始] フィールドで、タスクの実際の開始時間を更新できます。実際の開始時間を更新しない場合、現在の日付と時刻が実際の開始時間として記録されます。次に利用可能なオプションは、[完了してク

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

イベントタスクの状況移行 (続く)

状況	説明
	ローズ] または [未完了でクローズ] ステータスです。
未完了でクローズ	イベントタスクの [未完了でクローズ] ステータス。タスクの実際の終了時間が [実際の終了] フィールドに記録されます。実際の終了を更新しない場合、現在の日付と時刻が実際の終了時間として記録されます。[作業メモ] フィールドで必要な情報を更新し、タスクを保存します。
完了してクローズ	イベントタスクの [完了してクローズ] 状況。タスクは、このステータスでクローズ済みで完了しています。タスクの実際の終了時間が [実際の終了] フィールドに記録されます。実際の終了を更新しない場合、現在の日付と時刻が実際の終了時間として記録されます。

演習を作成

BCM UIB ワークスペース で演習を作成します。その後で、予定されている日に事業継続性および復旧計画をテストし、イベントタスクの完了を監視できます。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.planner、sn_bcm.program_manager

このタスクについて

Xanadu リリース以降、アクティブ化された計画の時間フィールドと、依存イベントタスクから計算されたイベント資産の時間フィールドを使用できます。演習にリンクされた計画がアクティブ化されると、[対応中] ステータスではなく [オープン] ステータスで表示されるようになりました。タグ付けされた資産を含まない復旧タスクがある計画の場合でも、イベントタスクを開始することができます。アクティブ化された計画にリンクされている 1 つ以上のタスクが [対応中] ステータスに更新されると、アクティブ化された計画のステータスは [対応中] に変更されます。

タスクの完了に必要な時間は、次のレベルで集計されます。

- 計画
- 資産

次のフィールドと列は、計画の時間の計算に役立ちます。

- 計画が [対応中] ステータスに移行すると、開始日が記録されます。最終タスクの完了日時が終了日として記録されます。
- [合計工数] 列は、計画に含まれるすべてのタスクの期間を合計することによって算出されます。
- **[**オープン] ステータスのままのタスク がある (タスクが [クローズ済み] ステータスではない) 場合、[合計工数] 列と [合計所要時間] 列は空白のままになります。
- 新しいアドホックタスクが開始されると、[合計工数]、[合計所要時間]、および [ステータス] 列がリセットされます。
- 計画に含まれるすべてのタスクが完了すると、[合計工数]、[合計所要時間]、および [ステータス] 列が更新され、計画が完了してクローズされたことが反映されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

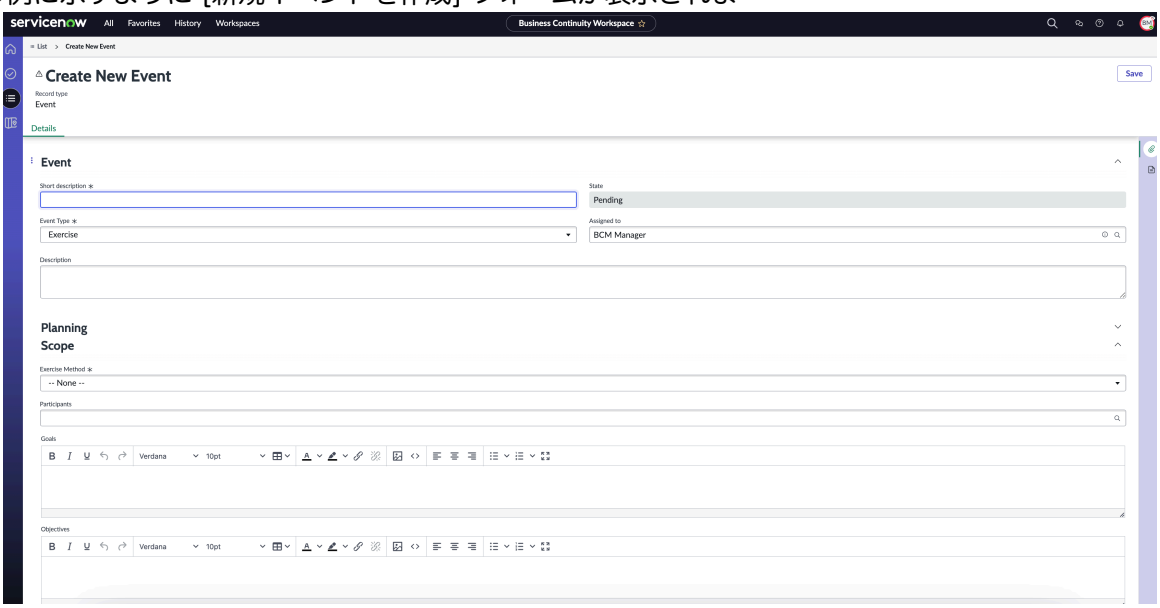
- 計画にタスクがリストされていない場合は、実際の開始日時と実際の終了日時を手動で調整する必要があります。

- タスクが [クローズ済み] としてマークされている場合は、リストビューで必須の [開始日時] フィールドおよび [終了日時] フィールドのチェックボックスがオンであることを確認します。

次のフィールドと列は、資産の時間を算出するために使用されます。

- 資産の場合、開始日と終了時間は資産のタスクに基づいて入力されます。たとえば、資産が 2 つのタスクの一部である場合、最初のタスクの開始日が [開始日] フィールドに記録され、最後のタスクの終了日が [終了時間] フィールドに記録されます。
- [合計工数] 列は、資産がタグ付けされているすべてのタスクの期間を合計して算出されます。
- 計画に [クローズ済み] ステータスではないタスクがある場合、[合計工数] 列と [合計所要時間] 列は空白のままになります。
- 新しいアドホックタスクが開始されると、[合計工数]、[合計所要時間]、および [ステータス] 列がリセットされます。
- 資産がタグ付けされているいずれかのタスクのステータスが [失敗してクローズ] とマークされている場合、資産のステータスは [復旧済み] に更新されません。資産のすべてのタスクがクローズされると、資産のステータスは [復旧済み] に更新されます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで、次の場所に移動します: 訓練 > 保留中 [新規] を選択します。
   次の例に示すように [新規イベントを作成] フォームが表示されま
   

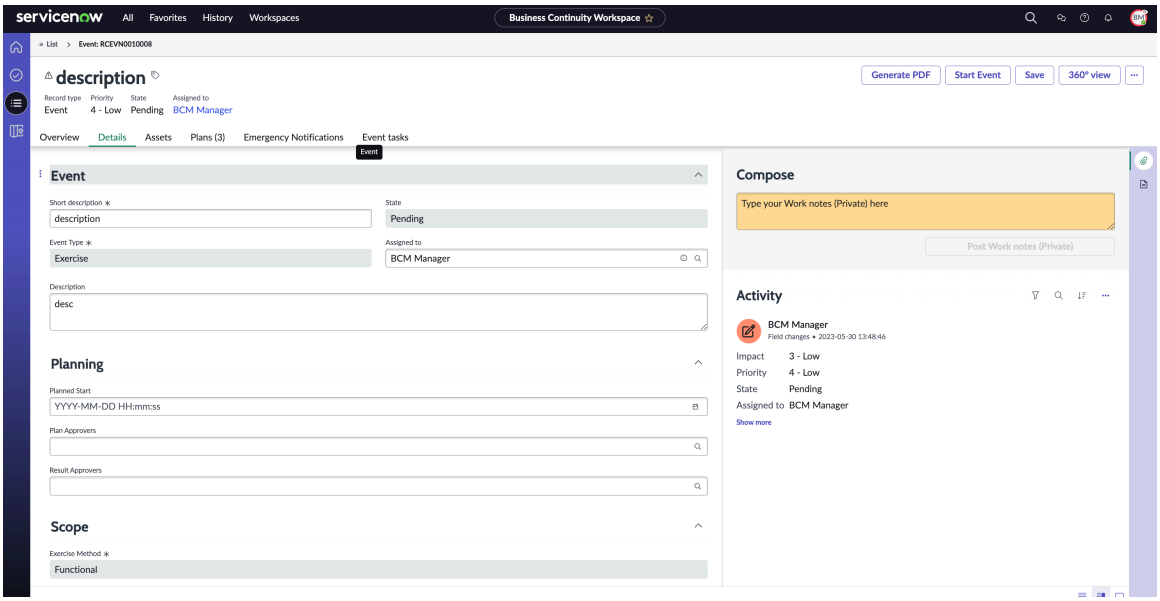
   す。
3. [新規イベントを作成] フォームの [詳細] タブで、必須フィールドに入力します。
   フィールドの詳細については、「[演習イベントの作成 (Create Exercise Event)] フォーム」を参照してください。
   演習イベントが [処理待ち] ステータス で作成され、リストビューに表示されます。演習イベントの状況と詳細が次のタブに表示されます。
   - 概要：演習イベントの現在のステータスと全体的なステータス進行状況を表示できます。
   - 詳細：[簡単な説明]、[アサイン先]、[訓練方法] などのフォームのフィールドを更新できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 資産：影響を受けるアイテムタイプまたは資産タイプに対して復旧するプライマリ要素を選択できます。
- 計画：選択した資産のアドホック計画をイベントに追加できます。
- 緊急通知：演習イベントの緊急通知を作成できます。
- イベントタスク：アドホックタスクをイベントに追加できます。

次の例では、イベントフォームを示しています。



4. イベントに対してさらにアクションを実行するには、 [その他のアクション] を選択します。

5. [Save (保存)] を選択します。
イベントは [処理待ち] ステータスで保存されます。

[演習イベントの作成 **(Create Exercise Event)]** フォーム

BCM UIB ワークスペース の [演習イベントの作成(Create Exercise Event)] フォームを使用して、演習イベントの詳細を追加します。

[演習イベントの作成 **(Create Exercise Event)]** フォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

[演習イベントの作成 **(Create Exercise Event)]** フォーム

フィールド	説明
[詳細] タブ	
簡単な説明	イベントの簡単な説明
イベントタイプ	イベントのタイプ。演習イベントの場合、イベントタイプは [演習]です。
状況	デフォルトは [処理待ち] ステータスです。
アサイン先	アサイン先グループのユーザー。[アサイン先グループ] フィールドが空の場合は、任意のユーザーを選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

[演習イベントの作成 **(Create Exercise Event)]** フォーム (続く)

フィールド	説明
説明	演習イベントの説明。
計画	
開始予定	演習イベントの開始予定日 (*YYYY-MM-DD HH:mm:ss* 形式)。
計画承認者	演習イベントの計画承認者。
結果承認者	演習イベントの結果承認者。
スコープ	
訓練方法	演習の方法。使用可能なオプションは次のとおりです。 • シミュレーション • 机上訓練 • チュートリアル • 機能 技術的には、すべてのエクササイズは同じように扱われます。ただし、タスクが自動的に生成されるのは機能演習のみで、シミュレーション演習、テーブルトップ演習、およびチュートリアル演習の実装に技術的な違いはありません。 **注:** 演習イベントの場合、演習方法はデフォルトで [機能] です。
参加者	演習の参加者。
目標	訓練の最終目標。
Objectives (目的)	演習の具体的な目標。

ネストされた計画の使用

システムプロパティを構成して、イベントで有効化された計画レベルを制御します。システムは、イベント内にネストされた計画を自動的に作成するため、計画を追加する手作業が削減され、システムパフォーマンスが向上します。イベントタスクの [依存関係] フィールドを更新することで、複数の有効化された計画間に依存関係を追加することもできます。

計画とイベントの変更

Yokohama リリース以降、計画とイベントの新しい変更は、計画フェーズと関連計画の作成に重点を置いています。

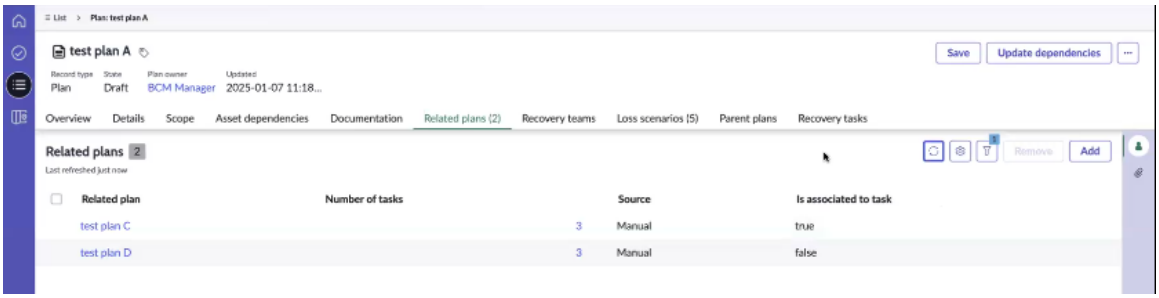
関連計画と復旧タスクの関連付け

関連する計画を復旧タスクに関連付けることができるようになり、復旧中の計画トリガーを特定して管理できるようになりました。

新しいフィールド [タスクに関連付けられている] が [関連計画] テーブルに追加されました。関連計画が復旧タスクに関連付けられている場合、このフィールドは True に設定されます。関連付けられていない場合、このフィールドは False に設定されます。

自動翻訳

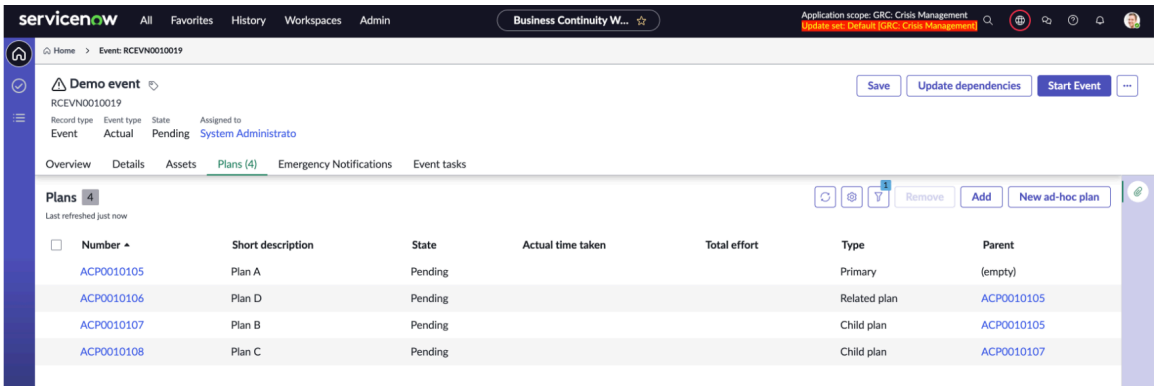
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



注:
[関連計画] タブにリストされている関連計画が復旧タスクに関連付けられると、イベントに子計画として作成されます。どのタスクにも関連付けられていない場合は、子計画としてではなく、関連計画として作成されます。

イベントへの計画の追加

計画がイベントに追加されると、その関連計画とその階層全体が含まれます。イベントに手動で追加されたプランは、有効化されたプライマリプランと呼ばれます。タスクの関連付けのない計画は、関連計画と呼ばれます。復旧タスクに関連付けられた計画は、子計画と呼ばれます。



計画の階層の使用

以前は、プライマリ計画とそれに直接関連する計画のみがイベントに含まれていました。Yokohamaリリースでは、*sn_recovery.max_activated_plan_levels*プロパティを設定して、イベント内の有効化された計画の深さを最大 10 レベルまで制御できます。

有効化された計画レベルのプロパティのリセット

次の例に示すように *sn_recovery.max_activated_plan_levels* プロパティをカスタマイズして、イベントで作成される有効化された計画のレベルを制御できます。

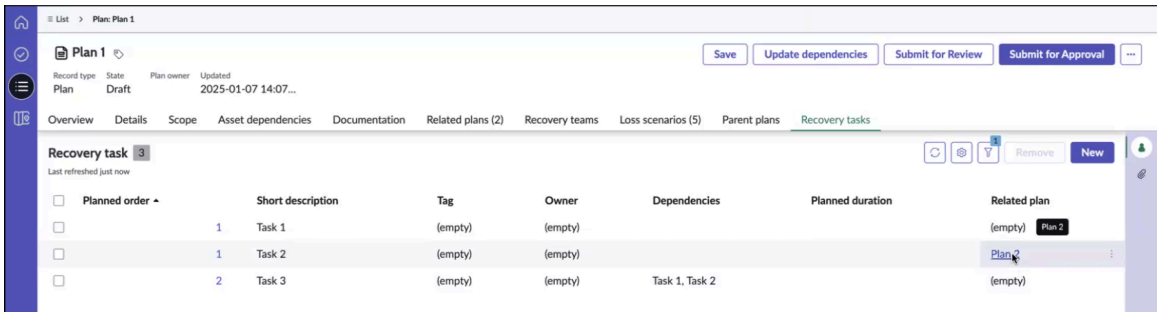
- 手動で追加された計画のみを作成するには、プロパティを 1 に設定します。
- プライマリ計画とその第 1 レベルの関連計画のみを作成するには、プロパティを 2 に設定します。

複数レベル計画のサンプルユースケース

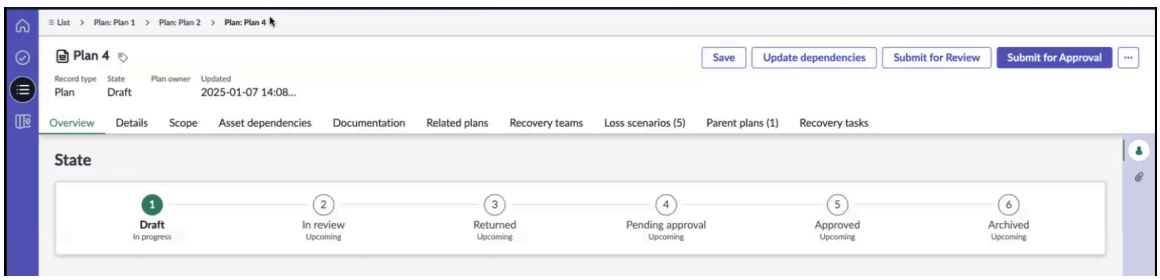
複数レベルの階層計画をイベントに追加できます。システムプロパティが構成されていて、いくつかの関連計画に復旧タスクが関連付けられている、次のユースケースを考えてみましょう。関連する計画がイベントに追加されるイベントが作成されます。

プライマリ計画であるプラン 1 には、関連計画としてプラン 2 とプラン 3 があります。プラン 1 には、タスク 1、タスク 2、およびタスク 3 の 3 つの復旧タスクが含まれます。タスク 2 には、関連計画としてプラン 2 があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

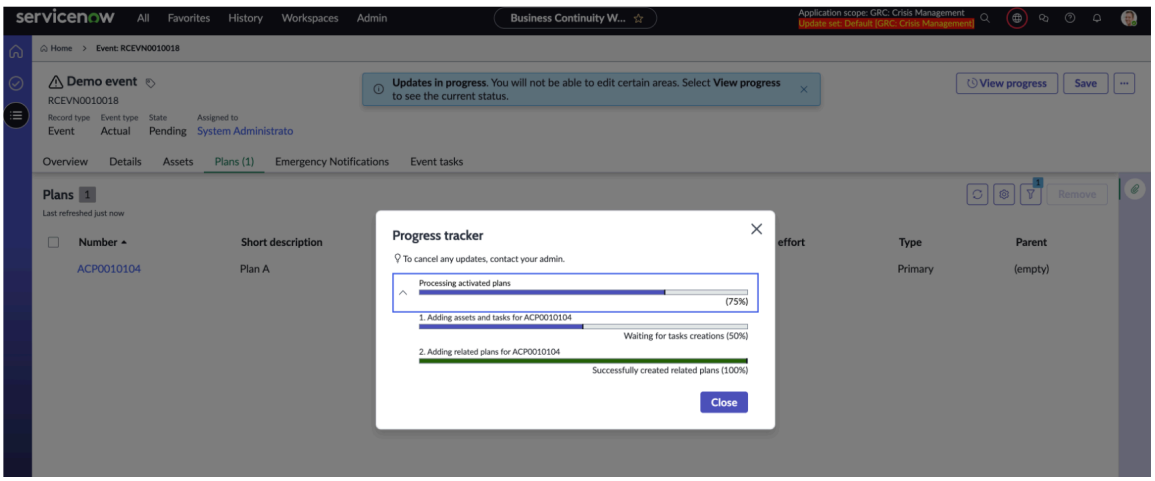


同様に、プラン 2 には、タスク 1、タスク 2、タスク 3 の 3 つの復旧タスクがあります。例に示すように、プラン 1 はプラン 2 をトリガーし、プラン 2 はプラン 4 をトリガーします。



以前は、プラン 1 のようなプライマリ計画がイベントに含まれる場合、プラン 2 やプラン 3 などの関連計画の第 1 レベルのみが追加されていました。プラン4のようなより深いレベルは含まれていませんでした。ネストされた計画機能を使用すると、プラン 4 を含む最大 10 レベルの深さの計画を階層に追加できます。

イベントを作成してプラン 1 を追加すると、関連する計画、資産、およびタスクが自動的に含まれます。[進行状況の表示] ボタンを選択すると、[進行状況のトラッカー] ウィンドウが開き、計画、資産、タスク、および関連計画の追加の進捗状況とステータス、およびバックグラウンドプロセスのステップとステータスが表示されます。

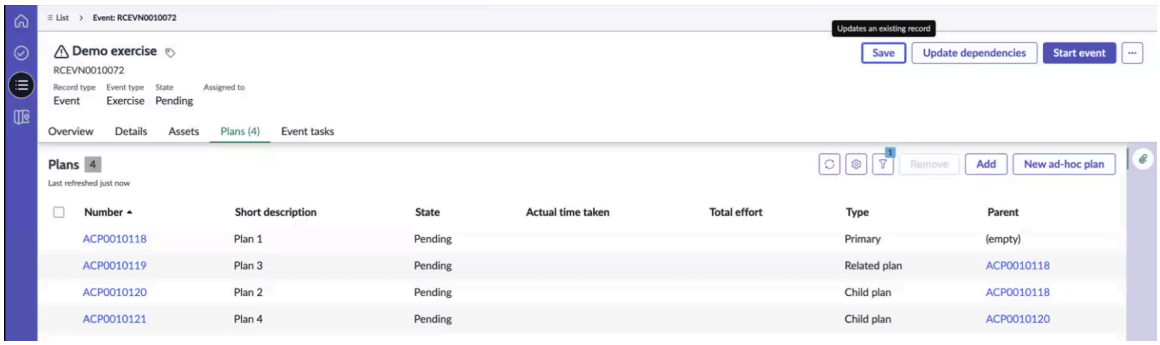


すべてのプロセスが完了すると、ページを更新して最新の更新を確認するように求めるメッセージが表示されます。メッセージを閉じてから、作成された計画とイベントタスクを表示できます。

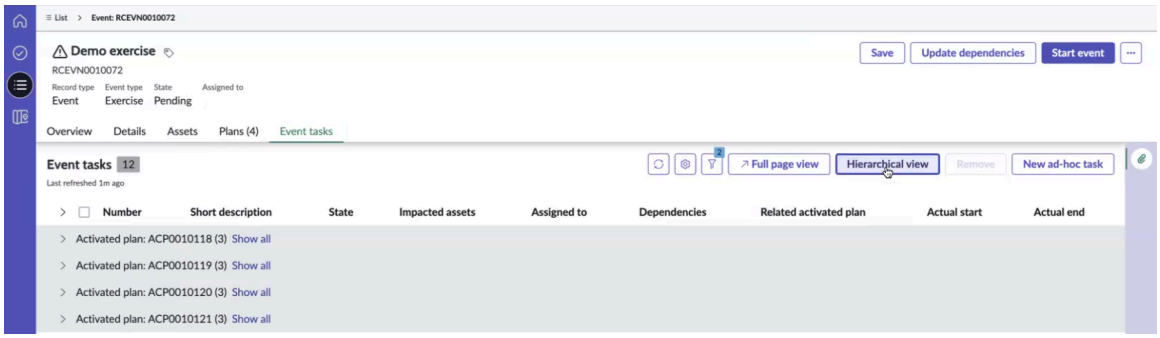
例に示すように、プラン 1 がプライマリプランです。プラン 3 は復旧タスクに関連付けられていないため、プラン 1 の関連計画としてマークされます。プラン 2 とプラン 4 は復旧タスクに関連付けられているため、子計画です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

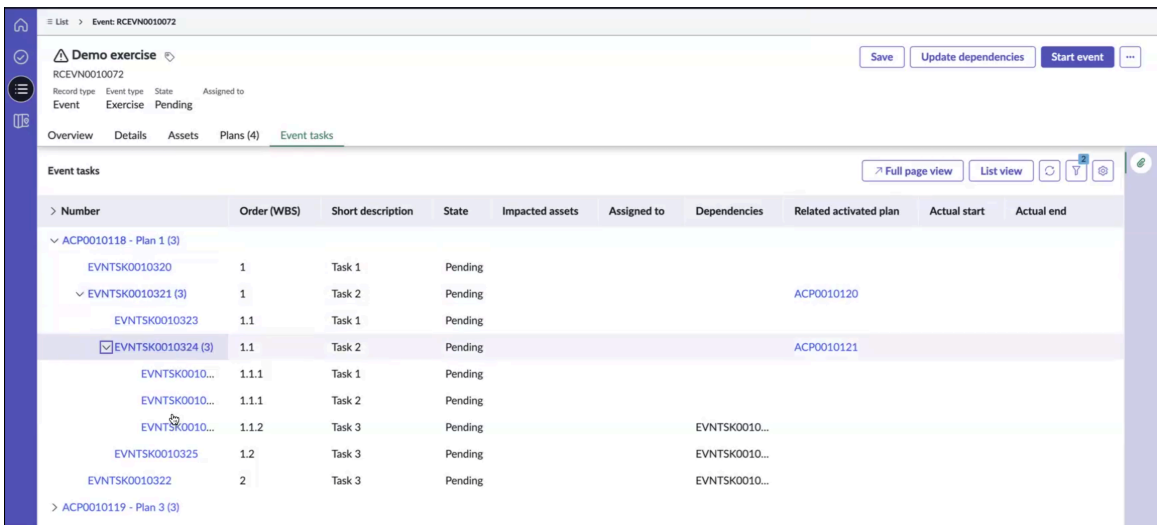


イベントタスク:イベントタスクは、デフォルトでリストビューに表示されます。階層ビューに切り替えると、プライマリ計画と関連計画を最上位レベルとする階層が表示されます。



この例では、プライマリ計画 (ACP0010118) と関連計画 (ACP0010119) を最上位レベルに、イベントタスクと計画の階層を示しています。

- プラン 1 (ACP0010118) には 3 つのイベントタスクがあります。2 番目のイベントタスク (EVNTSK0010321) はプラン 2 (ACP0010120) をトリガーし、別のイベントタスク (EVNTSK0010324) はプラン 4 をトリガーします。
- プラン 3 (ACP0010119) には、関連するアクティブ化された計画がありません。
- 2 つの子計画 (ACP0010120 と ACP0010121) が子レベルに表示されます。



リストビュー、階層ビュー、および全ページビューの間を移動する

イベントタスクの作業中は、リストビュー、階層ビュー、および全ページビューの間を移動できます。

リストビュー

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

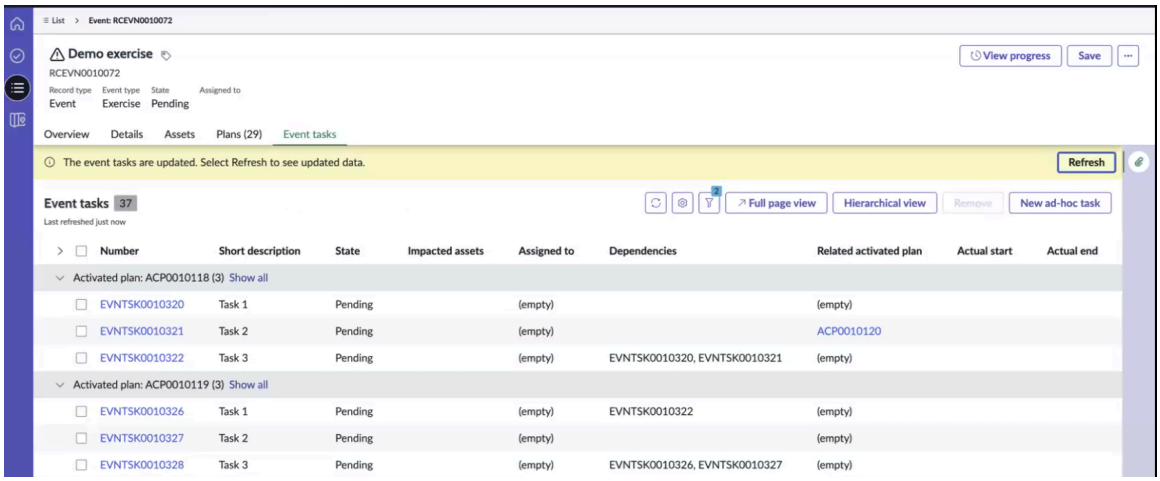
イベントタスクをリスト形式で配置して、階層を読みやすく、すばやく理解できるようにします。長いテキストをふるいにかけることなく、特定の情報をスキャンして見つけるのに役立ちます。

階層ビュー

計画の依存関係とイベントタスクの順序を可視化します。デフォルトでは、リストビューにはプライマリ計画と関連計画のみが表示されます。階層ビューに切り替えて、完全な計画階層を表示します。

> **注:**
> リストビューでイベントタスクと計画の情報を編集できますが、階層ビューは読み取り専用です。

作業分割構成 (WBS) は、依存関係に基づいてタスクを配置します。有効化された計画の場合、WBS 順序は、イベントタスクと計画の両方の依存関係を考慮して計算されます。



全ページを表示

一度に多くのタスクを表示し、計画階層とタスクの包括的な概要を表示できます。リストビュー、階層ビュー、または全ページビューを切り替えることができます。

元のレコードに戻るには、[レコードに戻る] ボタンを選択します。

レベルごとのレコード

UI ナビゲーション

デフォルトでは、最初のレベルには 10 のプランのみが表示されます。他にもある場合は、[さらに表示] ボタンを選択して追加のレコードを表示します。たとえば、100 個のプランがある場合、最初は 10 個のみが表示され、[さらに表示] を選択すると次のセットが読み込まれます。

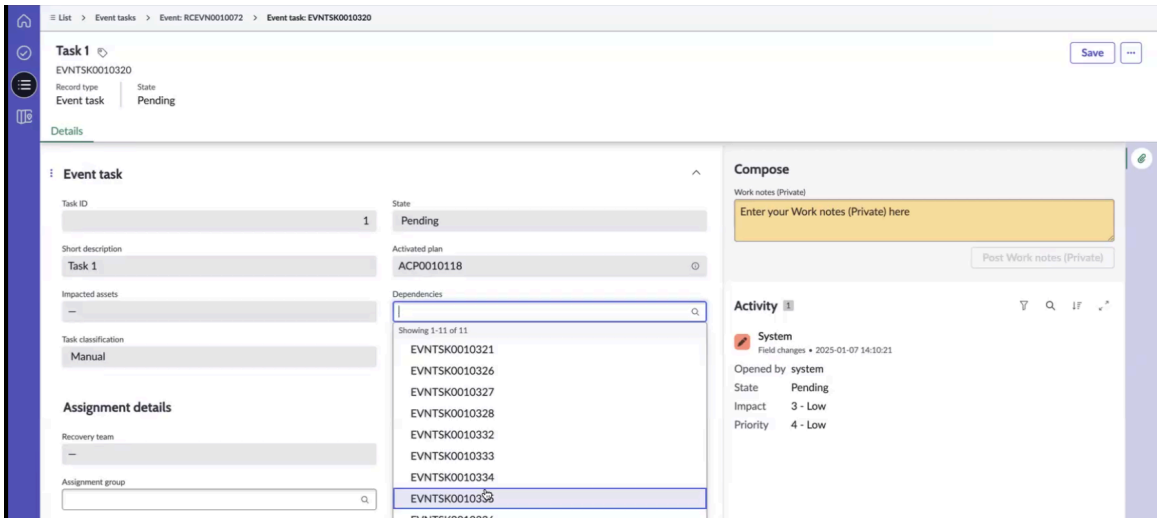
計画間の依存関係の構成

例に示すように [依存関係] フィールドを更新することで、計画間の依存関係を構成できます。

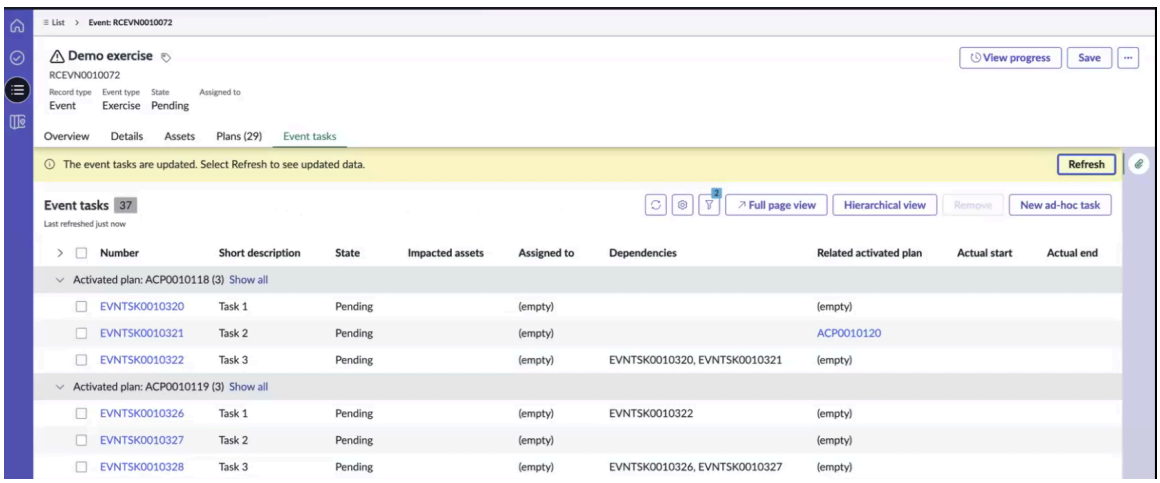
> **注:**
> 依存関係を追加できるのは、第 1 レベルのアクティブ化された計画間のみです。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳



この例は、別の有効化された計画 (ACP0010118) に依存する有効化された計画 (ACP0010119) を示しています。同様に、イベントタスク (EVNTSK0010326) は、その依存タスク (EVNTSK0010322) が完了した後にのみ開始できます。



注:
プライマリ計画または関連計画のイベントタスクは、同じまたは別のプライマリ計画または関連計画のイベントタスクに依存関係として関連付けることができます。子計画のイベントタスクは、同じ子計画内の依存関係としてのみ関連付けることができます。

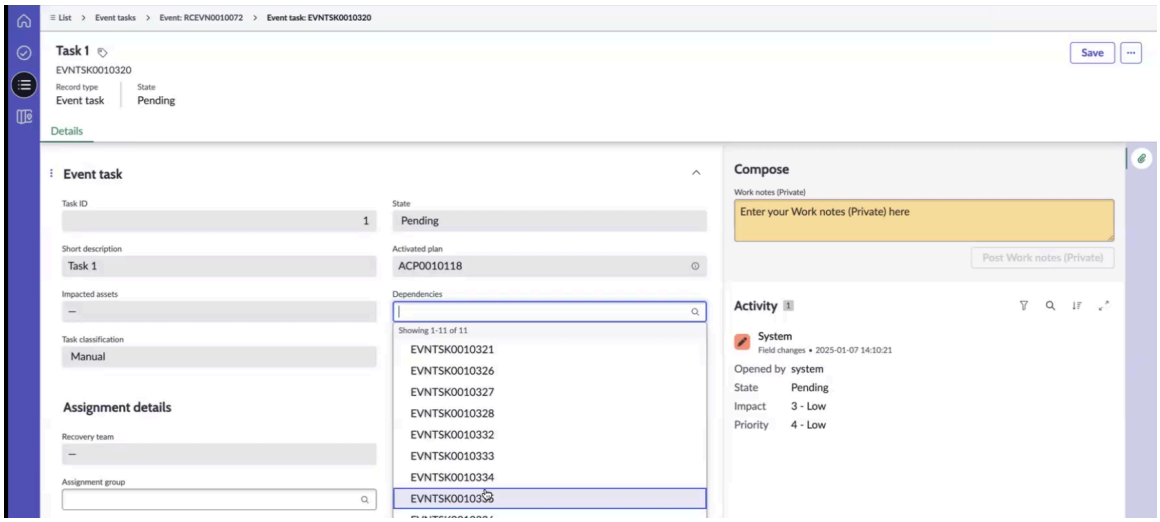
例に示すように、イベントタスクが更新されるたびに、イベントタスクが更新されたことを示すメッセージが表示されます。[更新] を選択すると、更新されたデータがロードされます。

タスクの依存関係は、プライマリ計画と関連計画に追加できますが、子計画には追加できません。子計画のイベントタスクの場合、依存関係は同じ子計画からのみ選択できます。たとえば、プラン 4 では、タスク 3 (EVNTSK0010331) は同じ子プラン内のタスク (EVNTSK0010329 と EVNTSK0010330) に依存します。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プライマリ計画および関連計画にタスクの依存関係を追加する場合、他のプライマリ計画または関連計画のタスクのみを [依存関係] フィールドで選択できます。



イベントタスクの順序を更新するプロパティの構成

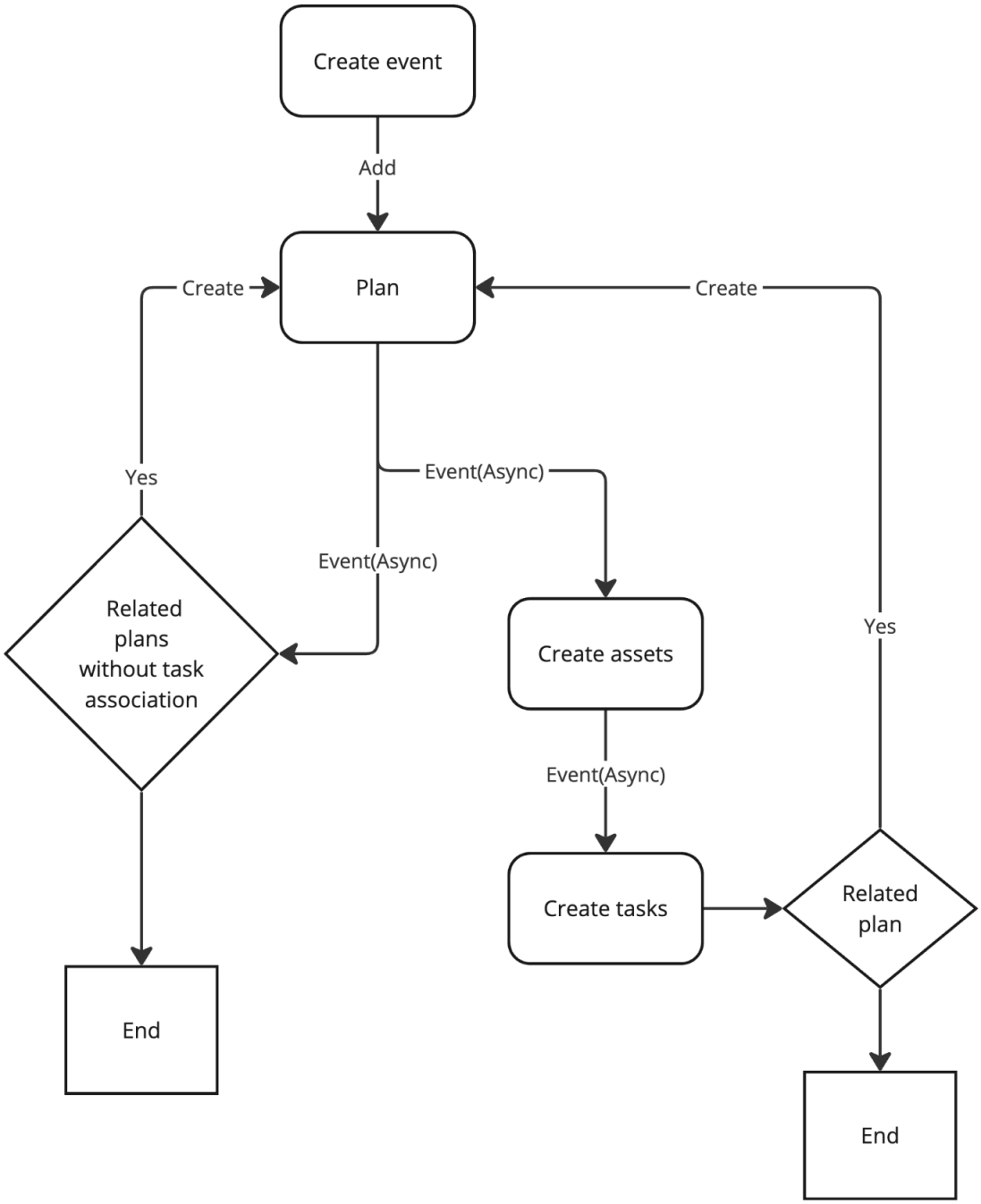
タスクの依存関係が更新されるたびに、イベントタスクの順序が更新されます。500 を超えるイベントタスクが影響を受ける場合、順序は非同期に計算されます。*sn_recovery.sync_task_order_calculation_limit*プロパティは、非同期計算の制限をデフォルトで 500 タスクに設定します。タスク数がこの制限を超えて依存関係が更新されると、タスクオーダーの計算が非同期になり、イベント、イベントタスク、および有効化された計画に [タスクオーダーをリフレッシュ] ボタンが表示されます。このボタンを選択すると、イベントタスクオーダーが手動で更新されます。

ネストされた計画を作成するプロセス

以前は、関連計画は有効化されたプライマリ計画に対してのみ作成されていました。Yokohama リリース以降、関連する有効化された計画を、すべての有効化された計画タイプのイベントタスクから作成できます。ネストされた計画の作成例を次の図に示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



ネストされた計画を作成する手順は次のとおりです。

1. イベントを作成します。
2. 計画をイベントに追加します。有効化された計画は、計画タイプをプライマリとして設定して作成されます。
3. 関連計画を作成するイベントがトリガーされます。計画にタスクの関連付けのない関連計画があり、計画レベルがプロパティで定義されたデフォルト値よりも低い場合、タイプが関連計画として設定されたアクティブ化された計画が作成されます。
4. 1 つ以上のイベント資産を生成するイベントが作成されます。
5. 資産が作成されると、イベントがトリガーされてイベントタスクが作成されます。
6. イベントタスクに関連計画があり、そのレベルがプロパティで定義されたレベルより低い場合、タイプを子計画として設定された有効化された計画が作成されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

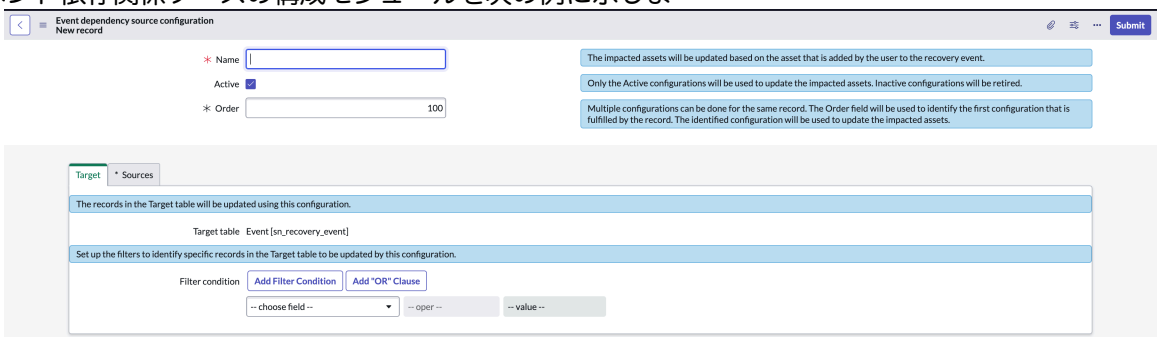
影響を受ける資産の依存関係の追加

CMDB、BIA および計画のソースデータと関係に基づいて、影響を受ける資産の依存関係をイベントと演習に追加できます。

イベント依存関係ソースの構成モジュールでのソース設定

BCM アドミニストレーターは、イベント依存関係ソース構成モジュールでイベントの依存関係を取得するようにソースを構成できます。自動更新構成モジュールにアクセスするには、 事業継続性ワークスペース > 全般管理 > イベント依存関係ソースの構成.

イベント依存関係ソースの構成モジュールを次の例に示しま



す。

BCM アドミニストレーターがターゲットレコード、レコードのフィルター条件、およびソースを更新して、イベント依存関係をフェッチできる場合。

依存関係は、ユーザーが [依存関係を更新 **(Update dependencies)]** UI アクションを選択した場合にのみ、イベントに追加されます。依存関係は、次のイベントのソースからフェッチされます。

- BIA 上流依存関係
- BIA 下流依存関係
- CMDB
- プライマリ資産の計画
- 関連資産の計画

> **注:**
> イベントでは、すべての資産の依存関係が手動で追加されます (ソースは手動)。

イベント依存関係のソース構成モジュールの設定は 1 回限りのアクティビティです。イベント依存関係のソース構成モジュールでソースが設定されると、イベント内で更新が同期されます。

イベント依存関係ソースの構成モジュールの設定についての詳細は、「イベント依存関係ソースの構成情報レコードを構成する」を参照してください。

イベント依存関係の更新に関連付けられたロール

一般に、次のロールを持つユーザーは、イベントで依存関係の更新を確認します。

- BCM プログラムマネージャー、BCM 計画者、および BCM マネージャーは、最新の依存関係を更新できます。
- BCM アドミニストレーターは、イベント依存関係ソースの構成モジュールを設定できます。

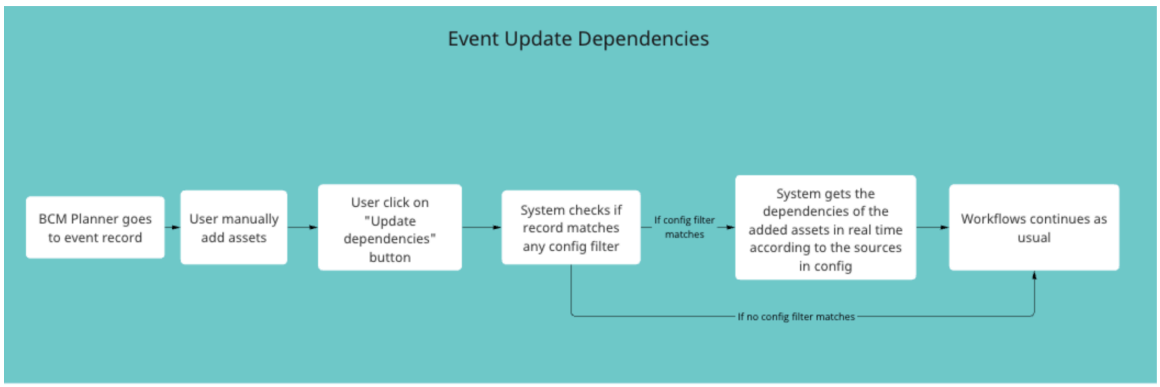
イベントと演習で依存関係を手動で更新するためのワークフロー

BCM アプリケーションユーザーがイベントレコードで [依存関係を更新] UI アクションを選択すると、ソースが [手動] になっているすべての資産の依存関係が手動で追加されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

BCM アプリケーションは、次の例に示すように、イベントと演習で影響を受ける資産を更新するワークフローを実行します。



1. BCM 計画者がイベントレコードに移動します。
2. BCM 計画者は [依存関係を更新] UI アクションを選択して、資産を手動で追加します。
3. アプリケーションは、イベントレコードがいずれかの構成フィルターに一致するかどうかを確認します。
4. イベントレコードがいずれかの構成フィルターに一致する場合、システムは構成で定義されたソースに従って、追加された資産の依存関係をリアルタイムで取得します (イベント依存関係ソース構成モジュール)。
5. イベントレコードがどの構成フィルターにも一致しない場合、イベントワークフローは次のステップに進み、イベントワークフローは次のステップに進みます。

イベント依存の手動更新の詳細については、「イベント依存関係の更新」を参照してください。

データリレーションシップフレームワーク

Yokohama リリース以降、データリレーションシップフレームワーク (com.sn_app_grc_relationship_config) アプリケーションは、影響を受ける資産の依存関係をイベントと演習に追加するための基礎となるフレームワークを備えた BCM アプリケーションをサポートします。データリレーションシップフレームワーク アプリケーションは、デフォルトで BCM アプリケーションと共にインストールされます。

データリレーションシップフレームワーク の詳細については、「データリレーションシップフレームワーク」を参照してください。

イベント依存関係の更新

[依存関係を更新] UI アクションを選択して、イベントの依存関係を手動で更新します。アクティブなイベントの依存関係を更新できます。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.program_manager、sn_bcm.planner、sn_bcm.admin

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. [処理待ち] ステータスのイベントを開きます。
3. 依存関係を手動で更新するには、[依存関係を更新] を選択します。
   UI メッセージが画面に表示されます：Dependencies are being updated.

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. イベントへの変更を保存するには、[保存] を選択します。
   計画オーナーと BCM リードは、イベントへの変更を保存することで、イベントの依存関係を更新できます。

影響を受ける資産の追跡と関連計画の追加

影響を受ける資産を追跡し、関連する計画を演習に追加します。そうすると、BCM UIB ワークスペース で演習の資産と計画を監視できます。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.admin、sn_bcm.program_manager、または sn_bcm.planner

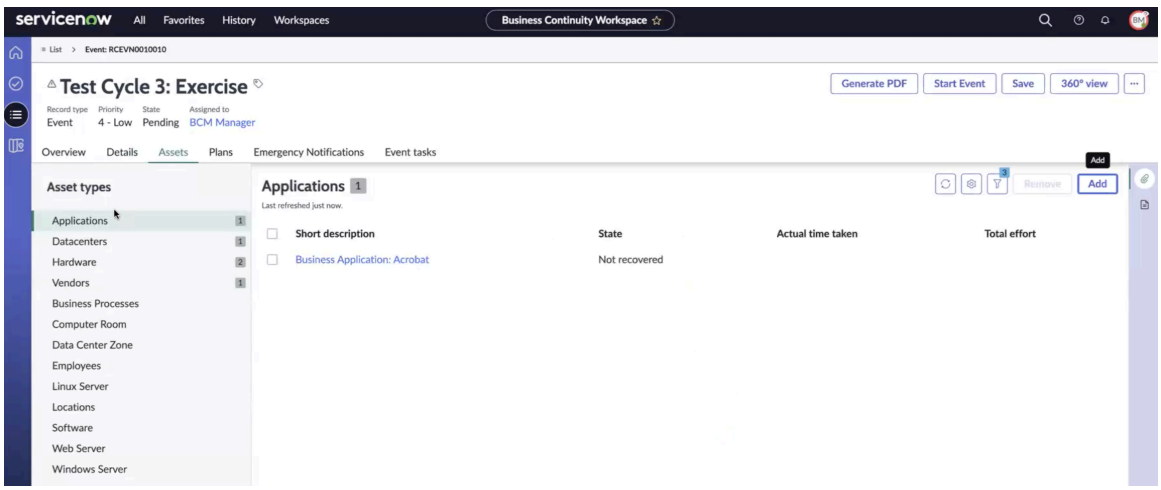
手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで、次の場所に移動します: 訓練 > 保留中 をクリックし、リスト内の演習イベントを選択します。
3. [資産] タブで、[追加] を選択します。

   演習中に復旧する資産を追加できます。資産のプライマリ要素が [資産タイプ] として一覧表示されます。プライマリ要素は、計画テンプレートで識別される要素定義タイプに属します。資産をイベントに追加すると、関連する依存関係がイベントにプルされます。依存関係が [資産タイプ] パネルに表示されます。

   > **注:**
   > Xanadu リリース以降、資産がタグ付けされていない復旧タスクが計画に含まれている場合でも、危機管理者はイベントタスクを開始できるようになりました。アクティブ化されたすべての計画に 1 つ以上のタグ付き資産が必要であるという以前の要件は削除されました。

   アプリケーションに対して [追加] を選択すると、そのアプリケーションのビジネスインパクトアナリシスで特定したすべての依存関係も演習に追加されます。次の例は、演習の [資産タイプ] パネルの [Business Application: Acrobat] の依存関係を示しています。

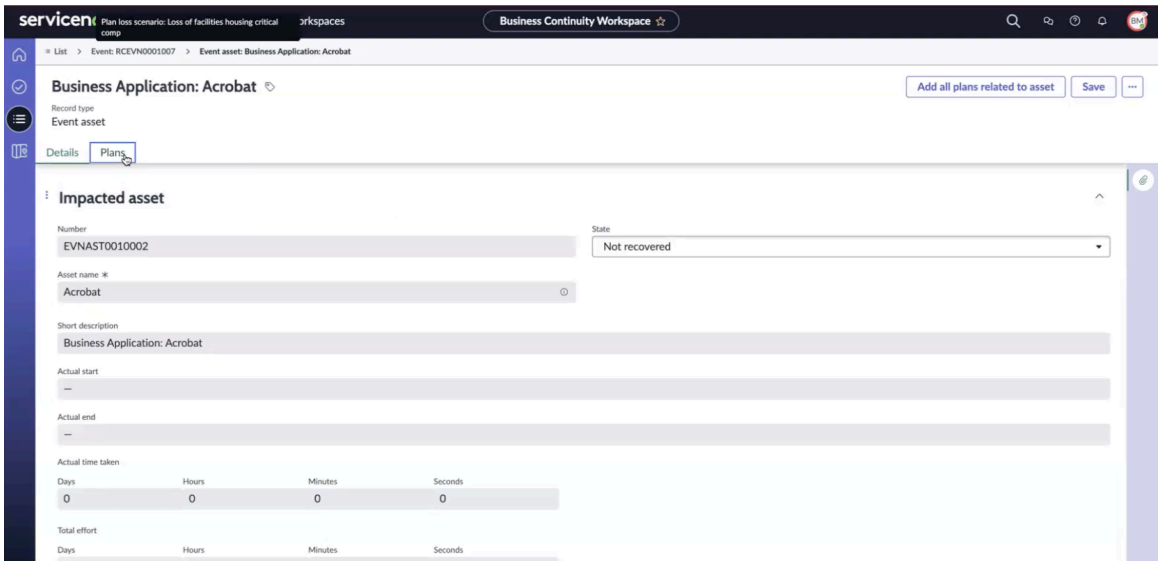


4. [アプリケーション] リストでアプリケーションを選択し、[計画] タブに移動します。

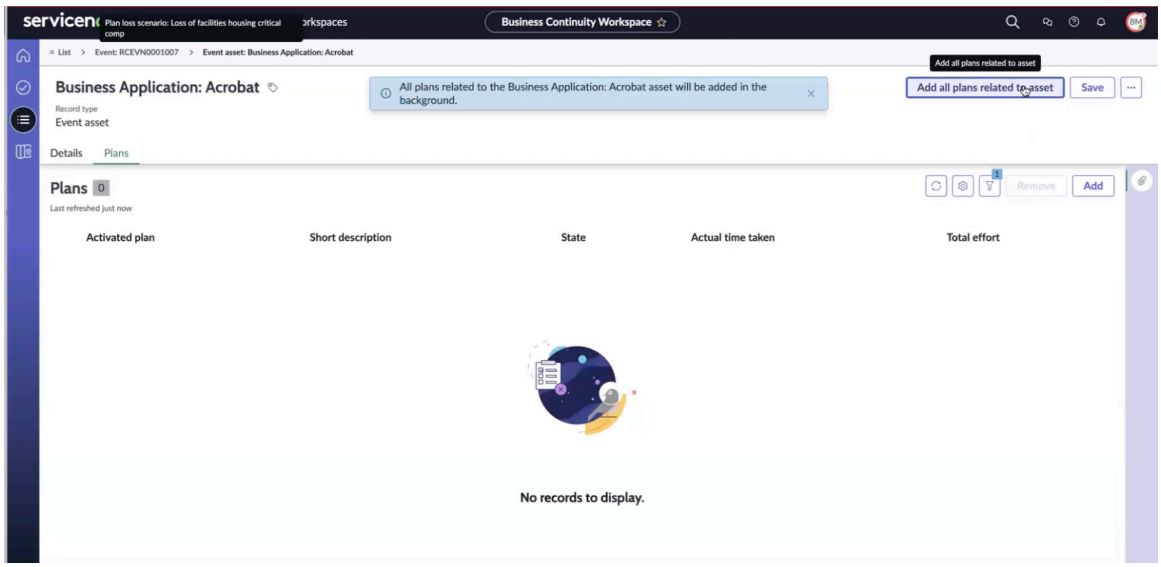
   [計画] タブには、次の例のとおりに移動できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳



5. [資産に関連するすべての計画を追加] を選択します。
次の例に示すように、選択したアプリケーションに関連するすべての計画がバックグラウンドで追加されたことを示す情報メッセージが表示されます。



6. [保存] を選択します。

資産に関連付けられたすべてのイベントタスクが完了すると、影響を受ける資産の実際の終了時間が [詳細] タブで更新されます。これらのタスクが完了すると、実際の終了時間が記録され、実際の所要時間が計算されます。合計工数は、この資産に関連するすべてのタスクにかかった合計時間に基づいて計算されます。完了後、影響を受ける資産のステータスが [復旧済み] に更新されます。いずれかのタスクが [失敗してクローズ **(Close failed)]** ステータスになっている場合、影響を受ける資産のステータスは更新されず、[未復旧 **(Not recovered)]** とマークされます。

計画の復旧タスクフォームの [資産にタグを付ける **(Tag assets)]** フィールドで、資産を選択できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 資産をすべて選択すると、計画に存在するすべての資産が、イベントタスクの影響を受ける資産に追加されます。
- 特定の資産を選択すると、計画に存在するその特定の資産のみが、イベントタスクの影響を受ける資産に追加されます。
- 資産を選択しない場合、計画に存在する資産は、イベントタスクの影響を受ける資産に追加されません。

演習は [処理待ち] ステータスで保存されます。

演習へのイベントタスクの追加

BCM UIB ワークスペースの演習にイベントタスクを追加します。そうすると、演習に関連付けられているタスクを監視して完了できます。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.planner、sn_bcm.program_manager

このタスクについて

事業継続性管理アプリケーションのバージョン 6.1.x 以降では、タスクを管理するために次の拡張機能がサポートされています。

- 一括編集を実行し、タスクのステータスを変更してプロセスの効率を向上する。
- タスクの個別管理に費やす時間を短縮する。
- Microsoft Excelなどのツールで演習やイベントをオフラインで実行するユーザーの効率を向上するこの拡張機能により、オフラインからオンラインへのタスク管理の移行が簡素化されます。
- BCMマネージャーロールまたはBCM計画者ロールを持っている、またはイベントにアサインされたユーザーである場合に、イベントタスクの [ステータス **(State)**] フィールドを編集する。
- 自動化されたタスクにのみ、[手動として再トリガー **(Retrigger as manual)**] UI アクションを使用する。

演習または実際のイベントの一部として計画がアクティブ化されると、自動フローがトリガーされます。

一括編集の機能拡張により、イベントタスクを柔軟に管理できます。BCMマネージャー、BCM 計画者、またはイベントにアサインされたユーザーは、次のタスクを実行することで、タスクを効率的に管理できます。

- [アサイン **(Assignment)**] フィールドなどの複数のフィールドを編集する。
- 復旧タスクリストの [タスクステータス]、[実開始日]、[実終了日]、[アサイン先 **(Assigned to)**]、[アサイン先グループ]、および [その他の担当者] フィールドで複数の復旧タスクを一度に編集する。
- 誤ってクローズされたクローズ済みタスクを編集のために開く。このシナリオでは、[失敗してクローズ **(Closed failed)**] タスクステータスがタスクに追加されます。タスクを [失敗してクローズ **(Closed failed)**] ステータスに移行すると、プログラムマネージャー (sn_bcm.program_manager) がタスクのブロックを解除して [完了してクローズ **(Closed complete)**] ステータスに移行しない限り、演習全体が停止します。

タスクの一括編集の詳細については、「演習用の構造化ワークフロー」と「危機イベントの構造化されたワークフロー」を参照してください。

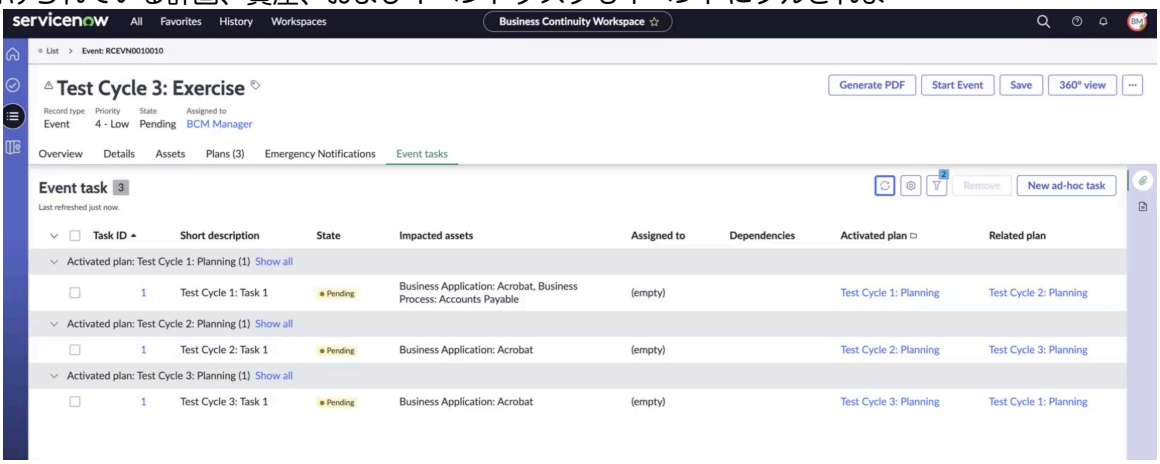
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで、次の場所に移動します: 訓練 > 保留中 をクリックし、リスト内の演習イベントを選択します。
3. [イベントタスク] タブを選択します。

> **注:**
> 演習方法が [機能] の場合、当該の演習イベントの [イベントタスク] タブが表示されます。

計画を演習イベントに追加または更新すると、次の例に示すように、計画に関連付けられている計画、資産、およびイベントタスクもイベントにプルされます。



次の例は、タスク 3 がタスク 1 に依存する、循環関係にあるタスクを示しています。

- [テストサイクル 1：タスク 1 (Test Cycle 1: Task 1)] が [テストサイクル 2：計画 (Test Cycle 2: Planning)] をアクティブ化します。
- [テストサイクル 2：タスク 1 (Test Cycle 2: Task 1)] が [テストサイクル 3：計画 (Test Cycle 3: Planning)] をアクティブ化します。
- [テストサイクル 3：タスク 1 (Test Cycle 3: Task 1)] が [テストサイクル 1：計画 (Test Cycle 1: Planning)] をアクティブ化します。

4. アドホックタスクをイベントに追加するには、[新しいアドホックタスク] を選択します。

> **注:**
> [対応中] ステータスの演習イベントにアドホックタスクを追加すると、アクティブ化された計画が [対応中] ステータスの場合、タスクは [オープン] ステータスになります。アクティブ化された計画が [処理待ち] ステータスの場合、タスクは [処理待ち] ステータスになります。

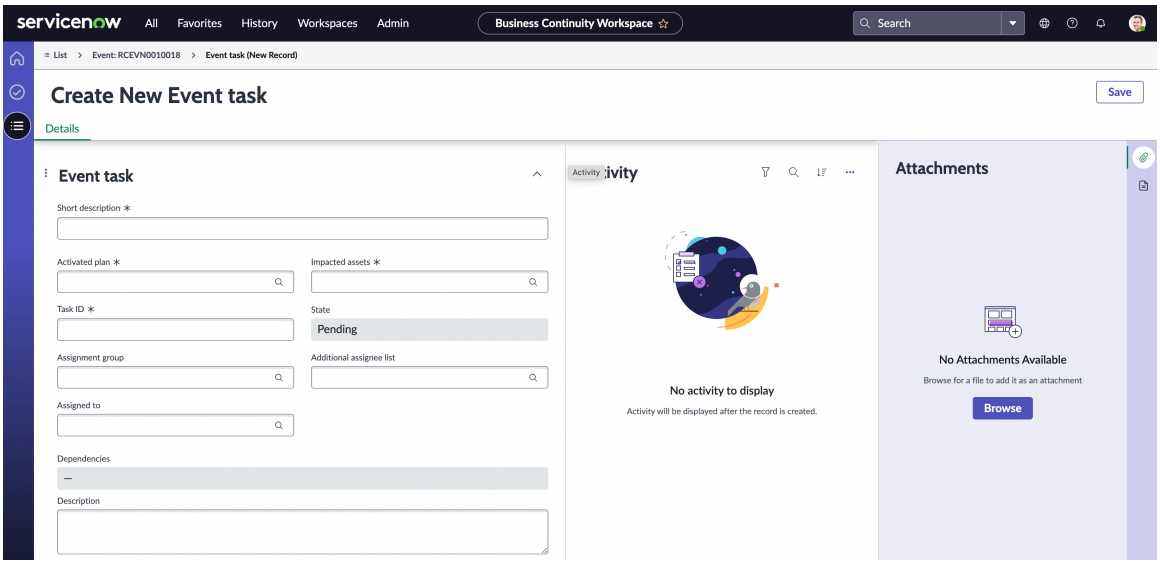
[新規イベントタスクの作成 (Create New Event Task)] フォーム内のフィールドの詳細については、「[新規イベントタスクの作成 (Create New Event Task)] フォーム」を参照してください。

> **注:**
> [完了してクローズ] または [未完了でクローズ] ステータスの有効化された計画に対してアドホックタスクを作成することはできません。

次の例に示すように [新規イベントタスクの作成 **(Create New Event Task)]** フォームが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

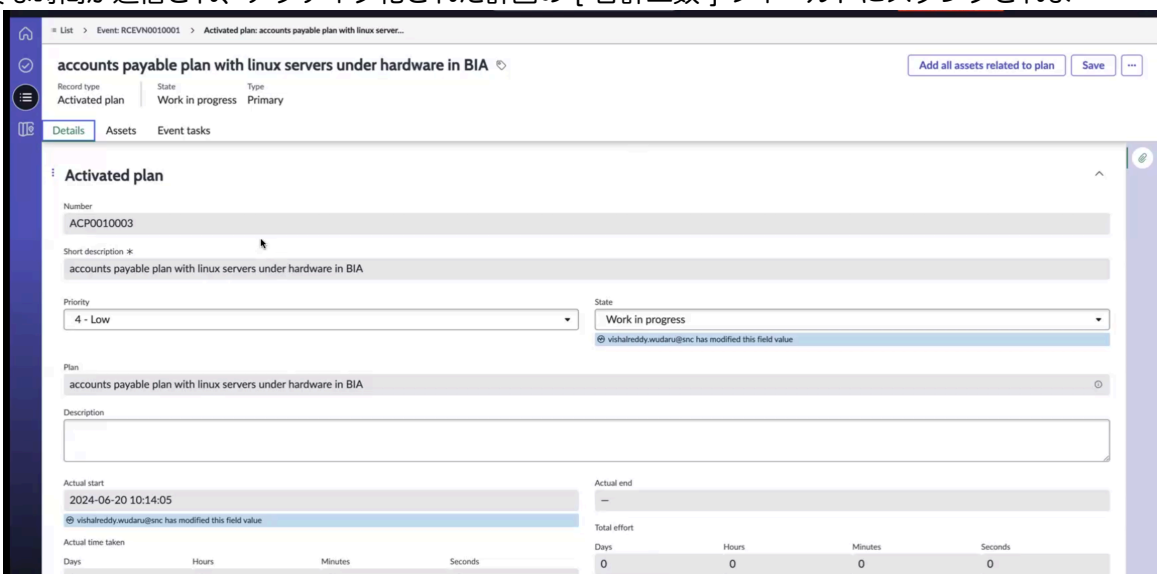


5. 演習を開始するには、[イベントを開始] を選択します。

Xanadu リリース以降、演習にリンクされたアクティブ化された計画を監視できるようになりました。これらの計画は、[対応中] ステータスではなく [オープン] ステータスで表示されるようになりました。[オープン] ステータスには、アクティブ化された計画の正確なステータスが表示されます。アクティブ化された計画の実際の期間は、開始日から終了日までで計算されます。アクティブ化された計画にリンクされているタスクが [対応中] ステータスに更新されると、アクティブ化された計画のステータスが [対応中] に更新されます。

アクティブ化された計画でイベントタスクを開始し、そのステータスを [対応中] に更新すると、アクティブ化された計画のステータスも [対応中] に更新されます。アクティブ化された計画が [対応中] に移行するための条件は、少なくとも 1 つのイベントタスクで作業が開始されることです。それまでは、アクティブ化されたすべての計画が [オープン] ステータスのままになります。

アクティブ化された計画のステータスが [オープン] から [対応中] に変更されるたびに、実開始日が [実開始日] フィールドに記録されます。すべてのイベントタスクが完了すると、実終了日が計算され、[実終了日] フィールドに記録されます。実開始日と実終了日に基づいて、実際の所要時間が [実際の所要時間 **(Actual time taken)]** フィールドに記録されます。各タスクの完了に必要な時間が送信され、アクティブ化された計画の [合計工数] フィールドにスタンプされます。



複数の復旧タスクを一度に編集できます。

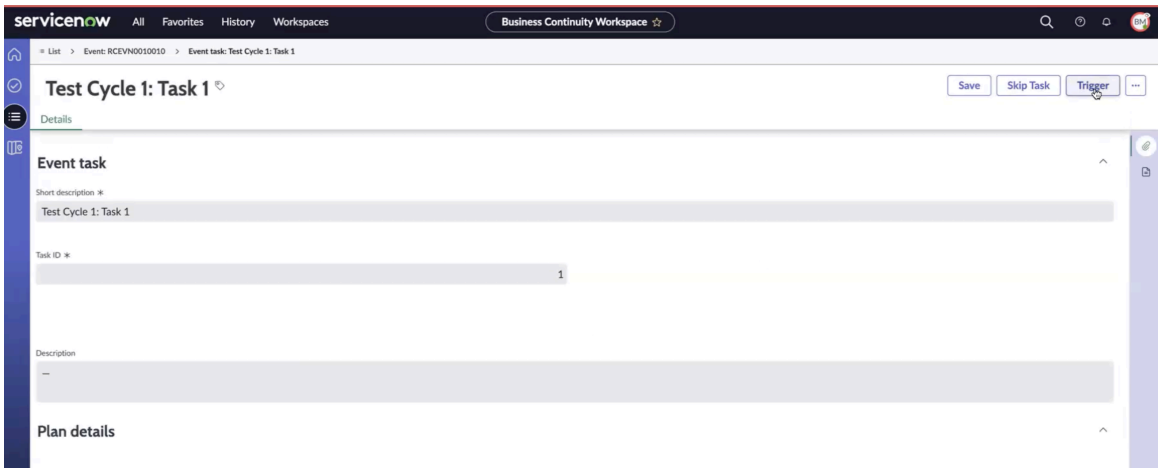
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

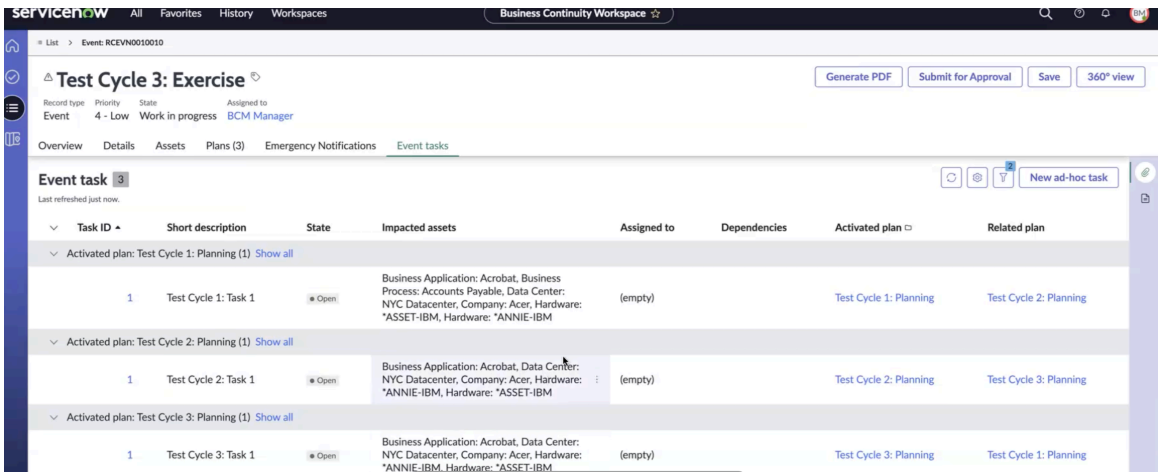
イベントタスクに循環依存関係があることを示すメッセージが表示されます。このイベントのタスクは手動でトリガーする必要があります。

6. 最初のタスクを選択し、[トリガー]を選択します。

   タスクを手動でトリガーするプロセスを、次の例に示します。



   次の例に示すように、タスクの状況を [オープン] に更新し、すべての依存タスクを 1 つずつ開きます。



7. 演習イベントのイベントタスクのすべての有効化された計画を完了し、[承認のため送信] を選択します。
8. PDF を生成するには、**[PDF の生成]** を選択します。
   危機イベントへの編集アクセス権がある場合は、イベントのコピーを PDF 形式でローカルハードドライブに保存できます。

   注:
   デフォルトでは、イベントがクローズされた後に PDF が生成されて添付されます。

9. [詳細] タブの [結果] セクションに移動し、イベントタスクの [実際の開始日] と [実際の終了日] を更新します。
10. 必要に応じてアサインフィールドを更新します。
11. [アクティビティ] セクションの [作業メモ] フィールドにイベントタスク関連情報を入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

12. [保存] を選択します。

13. 更新アイコン ( ) を選択して、資産または計画の更新されたステータスと、資産の復旧にかかった実際の時間を表示します。

[新規イベントタスクの作成 **(Create New Event Task)]** フォーム

BCM UIB ワークスペース の [新規イベントタスクの作成 (Create New Event Task)] フォームを使用して、イベントタスクの詳細を追加します。

[新規イベントタスクの作成 **(Create New Event Task)]** フォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

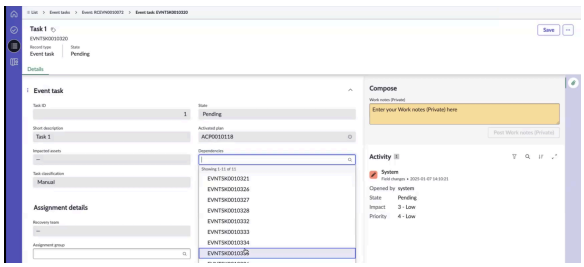
[新規イベントタスクの作成 **(Create New Event Task)]** フォーム

フィールド	説明
[詳細] タブ	
タスク ID	イベントタスクの ID。デフォルトは、計画の既存のイベントタスクの次の番号です。
簡単な説明	イベントタスクについての簡単なメモ。
影響を受ける資産	イベントタスクに対して影響を受ける資産。
タスクの分類	イベントタスクの分類。オプションは、[手動] と [自動] です。
状況	デフォルトは [処理待ち] ステータスです。
アクティブ化された計画	イベントタスクに対してアクティブ化された計画。
依存関係	タスクの依存関係。計画レベルからコピーされたタスクの場合、依存関係は計画復旧タスクからコピーされます。アドホックタスクの依存関係を追加することはできません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新規イベントタスクの作成 **(Create New Event Task)]** フォーム (続く)

フィールド	説明
	注: Yokohama リリース以降、イベントタスクの依存関係を手動で追加したり、[依存関係] フィールドのリストからイベントタスクを選択したりできるようになりました。該当するイベントタスクのみがこのフィールドに表示されます。 
実開始日	イベントタスクの開始日時。
作業終了日時	イベントタスクの終了日時。
割り当ての詳細	
アサイン先グループ	イベントタスクがアサインされているグループ。
アサイン先	アサイン先グループのユーザー。[アサイン先グループ] フィールドが空の場合は、任意のユーザーを選択します。
他の受託者リスト	イベントタスクにアサインされた追加ユーザー。
復旧チーム	イベントタスクに関連付けられた復旧チーム。
類似タスクグループ	
類似タスクグループ	イベントタスクをアサインできる類似のタスクグループ。対象となるイベントタスクのみがグループに表示されます。
元のタスク	システムによってアサインされた元のタスク。イベントが開始されると、システムは最初に実行されたイベントタスクを元のタスクとして識別します。他の類似タスクは、グループ内の重複タスクとして変更されます。タスクが類似タスクグループに追加されると、システムはそれを [保留中] ステータスとしてマークします。依存関係のあるタスクは、依存関係の

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新規イベントタスクの作成 **(Create New Event Task)]** フォーム (続く)

フィールド	説明
	ある 1 つのタスクのみがグループに追加され、依存関係が解決されると、元のタスクが完了したときに重複するタスクがクローズされるように管理できます。[元のタスク] フィールドはいつでも編集できません。イベントタスクの実行が開始された後にのみ自動アサインされます。
計画の詳細	
計画	イベントタスクに関連付けられた計画の詳細。
復旧タスク	イベントタスクに関連付けられた復旧タスク。
アクティビティ	
作業メモ	内部で共有されているイベントタスクに関する情報。

イベントでのアクションアイテムの作成

BCM リリース 9.0.x 以降、危機管理者は、危機イベントまたは演習中に、イベントがオープンである限り、いつでも復旧メンバーまたはチームのアクションタスクを作成できます。危機管理者は、これらのタスクをイベント資産や復旧計画にマッピングすることなく、その場で作成できます。これらのアクションタスクも、イベント復旧タイムラインには含まれません。

リアルタイムのアクションアイテム

アクションアイテムを使用して、リアルタイムでタスクをアサインできます。たとえば、危機管理者は、演習後に特定のオフィス所在地に負傷者がいないことを確認するアクションアイテムをアサインしたり、次のステップに進む前に事業継続性計画のレビューを誰かに要求したりできます。

アクションアイテムを使用して、危機イベント中にアセスメントを実施することもできます。たとえば、火災が発生した場合、アクションアイテムをアサインして状況を評価し、重大度を判断し、影響を受ける従業員と建物を特定できます。アセスメントを実行し、アクションアイテムをアサインすることができます。

アクションアイテムに関連付けられたフィールドとステータス

[アクションアイテム] タブには、アドホックタスクに関連する次の詳細が含まれています。

- 実開始日
- 実終了日
- 合計所要時間
- イベント (参照)
- 簡単な説明
- 説明
- 期日
- タスク番号
- タイプ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- タスク
- アセスメント

次のワークフロー (状況) がアクションアイテムに関連付けられています。

アクションアイテムに関連する状況

状況	説明
オープン	アクションアイテムの最初のステータス。
対応中	作業開始時のアクションアイテムのステータス。アクションアイテムが [対応中] ステータスに移行すると、その開始時間が自動キャプチャされます。
スキップ	関連しない場合のアクションアイテムの [アサイン済み] ステータス。アクションアイテムがスキップされ、関連性がないと見なされると、その時間フィールドが削除され、合計時間は 0 になります。
クローズ (完了、未完了)	アクションアイテムタスクの最終ステータス。アクションアイテムが完了すると、終了時間が自動キャプチャされます。

BCM マネージャーまたは計画者は、アクションアイテムを更新し、それらに関連付けられたアドホックタスクを再オープンできます。

次のフィールドを使用して、アクションアイテムタスクをグループまたはチームメンバーにアサインできます。

- **Assignment group** (アサイン先グループ)
- アサイン先
- 他の受託者リスト

イベントタスクとアクションアイテムの比較

アクションアイテムは、危機およびイベントのイベントタスクとは異なります。次の表に、イベントタスクとアクションアイテムの違いの概要を示します。

イベントタスクとアクションアイテムタスクの比較

フィールド/クライテリア	イベントタスク	アクションアイテム
詳細	• 簡単な説明 • 説明 • タスク番号 • 依存関係 • アクティブ化された計画	• 簡単な説明 • 説明 • タスク番号 • タイプ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

イベントタスクとアクションアイテムタスクの比較 (続く)

フィールド/クライテリア	イベントタスク	アクションアイテム
	• 影響を受ける資産 • タスク ID	
アサイン	• アサイン先グループ • アサイン先 • 復旧チーム • 他の受託者リスト	• アサイン先グループ • アサイン先 • 他の受託者リスト
アクセス	• 計画オーナー、プログラムマネージャーは、アクションアイテムを作成/更新/削除できます。 • イベント復旧メンバーは、自分にアサインされているアクションアイテムの読み取り/更新ができます。	• 計画オーナー、プログラムマネージャーは、アクションアイテムを作成/更新/削除できます。 • イベント復旧メンバーは、自分にアサインされているアクションアイテムの読み取り/更新ができます。
ワークフロー	保留中 -> オープン -> 対応中 -> スキップ -> クローズ (完了、未完了、失敗)	オープン -> 対応中 -> スキップ -> クローズ済み (完了、未完了)
依存関係	はい	いいえ
自動化	はい	いいえ
順序	はい (依存関係に基づいて自動計算されます)。	いいえ。アクションアイテムタスクの順序は計算されません。
時間計算	イベントタスクの時間はアクティブ化された計画と影響を受ける資産にロールアップされます	いいえ。アクションアイテムタスクの時間はロールアップされません。

アクションアイテムに関連付けられたロール

次のロールがアクションアイテムに関連付けられています。

アクションアイテムタスクに関連付けられたロール

ロール	説明
計画オーナー	計画オーナーがイベントオーナーである場合は、アクションアイテムを作成、読み取り、更新、削除できます。
プログラムマネージャー	すべてのイベントのアクションアイテムを作成、読み取り、更新、および削除できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクションアイテムタスクに関連付けられたロール (続く)

ロール	説明
閲覧者	すべてのアクションアイテムを読み取ることができます。
復旧イベント/計画オーナー	アサインされているすべてのアクションアイテムを読み取り、更新できます。

イベントにタスクとアセスメントタイプのアクションアイテムを作成します

イベントと スマートアセスメント の統合を使用して、イベントに関連する必要なアクションアイテムを作成します。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.planner、sn_bcm.program_manager

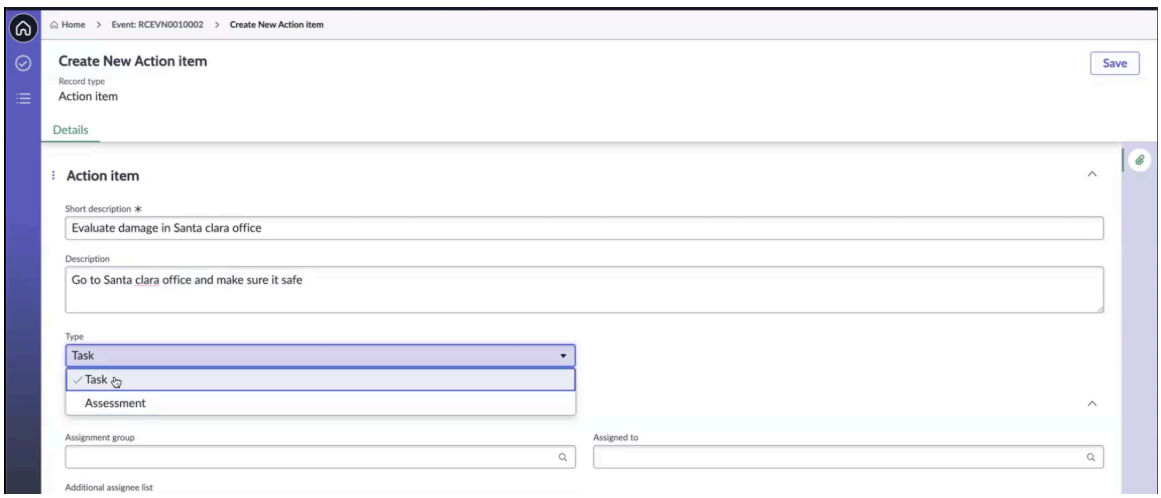
このタスクについて

危機イベントをスマートアセスメントエンジンと統合するためのスマートアセスメントテンプレートが作成されていることを確認します。

手順

1. リストビューで、次の場所に移動します: 危機イベント > 保留中 をクリックし、リスト内の危機イベントを選択します。
2. ホームページまたはイベントを作成してイベントページから危機イベントを報告します。
   a. イベントの説明を追加します。
   b. [アサイン先] フィールドを更新して、ユーザーにアサインします。
   c. **[Save** (保存)] を選択します。
   アプリケーションでイベントが作成されます。イベントの開始前でも、[アクションアイテム] タブを更新することで、イベントに関連するアクションアイテムを作成できます。
3. イベントの アクション アイテム タブで、 新規 を選択します。

   [新規アクションアイテムを作成] フォームが表示されます。



4. フォームで、フィールドに入力します。
   フィールドの詳細については、「危機イベントの [新規アクションアイテムを作成] フォーム」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. アクションアイテムの説明と簡単な説明を追加します。

b. [タスク] または [アセスメント] を選択して、アクションタスクのタイプを選択します。

c. アサイン先グループまたはチームメンバーと追加のアサイニーリストを追加します。

d. [タイムライン] セクションで期日を割り当てます。

e. [Save (保存)] を選択します。
アクションアイテムレコードが [オープン] ステータスで作成され、アクションアイテムがイベントの [アクションアイテム] タブに表示されます。

5. アクションアイテムが不要な場合にスキップするには、[タスクをスキップ] を選択します。

6. アクションアイテムをタスクとして処理するには、[タイプ] フィールドで [タスク] を選択します。

a. アクションアイテムタスクを処理するには、[対応中] を選択します。
アクションアイテムのステータスが [対応中] に更新されます。アクションアイテムタスクの実際の開始日時が記録され、[アクションアイテム] タブの [実際の開始] 列に表示されます。

b. アクションアイテムタスクを完了するには、アクションアイテムレコードで [完了してクローズ] を選択します。
アクションアイテムのステータスが [完了してクローズ] に更新されます。アクションアイテムタスクにかかった実際の終了日時は自動的にキャプチャされ、[アクションアイテム] タブの [実際の終了日] 列と [実際の所要時間] 列に表示されます。

7. アクションタスクをアセスメントとしてマークするには、[新規アクションアイテムの作成] フォームの [タイプ] フィールドでそのタイプを [アセスメント] として選択します。

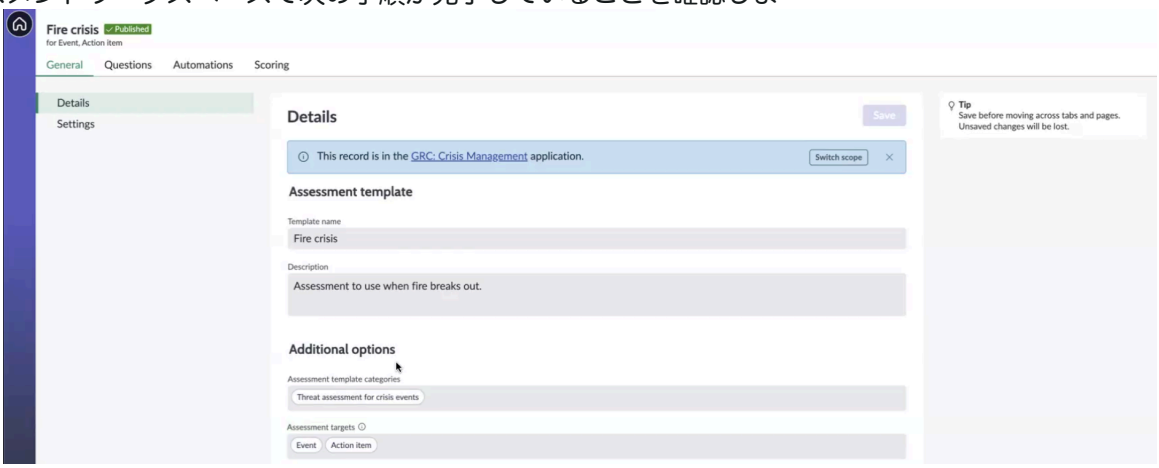
a. [アセスメントテンプレート] フィールドでアセスメントテンプレートを選択します。

アクションタスクをアセスメントとして選択すると、[アセスメントテンプレート] フィールドがフォームに表示されます。アプリケーションは スマートアセスメント を使用してアセスメントを実行します。BCM アドミニストレーターが スマートアセスメントエンジン を使用して、必要なテンプレートを事前にアセスメントワークスペースに作成していることを確認します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
目的の スマートアセスメント テンプレートを 事業継続性ワークスペースのアクションアイテムフォームのドロップダウンに表示するには、 アセスメントワークスペースで次の手順が完了していることを確認します。



- [詳細] セクションで、例に示されている火災危機テンプレートなど、必要なテンプレートを選択します。
- [アセスメントテンプレートカテゴリ] フィールドで [危機イベントの脅威アセスメント] カテゴリを選択します。別のカテゴリを選択すると、目的のテンプレートが 事業継続性ワークスペースに表示されません。
- [アセスメントターゲット] フィールドで、ターゲットとしてイベントとアクションアイテムを選択します。
- アセスメントを読むには、[設定] セクションの [アセスメントリーダーロール] フィールドで、コアビューアー (sn_bcm.core_viewer) などのリーダーロールを最小ロールとして指定します。通常、コアビューアー (sn_bcm.core_viewer) ロールは、すべてのロールで共有されるため、指定されます。
- アセスメントテンプレートを公開します。

これらの条件が満たされた場合にのみ、アクションアイテムフォームのドロップダウンでテンプレートを選択できます。

スマートアセスメントテンプレートの設定については、「アセスメントテンプレートを作成する」を参照してください。

b. アサイン先グループまたはチームメンバーと追加のアサイニーリストを追加し、タイムラインを選択してレコードを保存します。

c. アクションアイテムアセスメントの作業を続行するには、[対応中] を選択します。

d. 別のユーザーとしてアセスメントへの応答を表示するには、 [応答の表示] を選択します。

e. アサイニーとしてアセスメントに回答するには、[アセスメントを実施] を選択します。

f. すべての質問に回答し、[送信] を選択します。

g. 回答をレビューしたことを確認し、モーダルでもう一度 [送信] を選択します。
応答が送信され、確認が画面に表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

h. アクションアイテムのアセスメントを完了するには、[完了してクローズ] を選択します。
アクションアイテムアセスメントのステータスが [完了してクローズ] に更新されます。

8. アクションタスクを再トリガーするには、[再トリガー] を選択します。
9. アクションタスクを保存するには、[保存] を選択します。
このステップにより、アクションアイテムレコードのワークフローが完了します。

イベントの [新しいアクションアイテムを作成] フォーム

BCM 構成可能ワークスペースの [新規アクションアイテムを作成] フォームを使用して、危機イベントに関するアクションアイテムを追加します。

新しいアクションアイテムの作成フォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

新しいアクションアイテムの作成フォーム

フィールド	説明
[詳細] タブ	
番号	アクションアイテムレコードに自動的に割り当てられる番号 (EVNITM0010020 など)。
簡単な説明	アクションアイテムの簡単な説明。
説明	アクションアイテムの詳細な説明。
状況	アクションアイテムレコードの自動アサインステータス。
タイプ	選択するアクションアイテムのタイプ。利用可能なオプションは次のとおりです： • タスク • アセスメント
アセスメントテンプレート	スマートアセスメントエンジンに基づくテンプレート。
割り当ての詳細	
アサイン先グループ	アクションアイテムがアサインされているアサイン先グループ。
他の受託者リスト	アクションアイテムの追加担当者リスト。
アサイン先	アクションアイテムがアサインされているユーザー。
タイムライン	
実開始日	アクションアイテムの実際の開始日時。
実際の所要時間	アクションアイテムにかかった実際の時間 (日、時間、分、秒)。
作業終了日時	アクションアイテムの実際の終了日時。
期日	アクションアイテムの期日。

イベント内の類似イベントタスクのグループ化

BCMでは、同じ計画を複数回アクティブ化すると、複数の冗長なタスクが発生する可能性があります。BCM リリース 9.0.x 以降、イベントの [類似のタスクグループ] タブは、類似したシナリオの

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

複数の計画から重複するタスクをグループ化することで、冗長なタスクを排除するのに役立ちます。この機能により、イベントタスク管理が簡素化され、作業の重複が削減されます。

元のタスクと重複タスクの進行

類似のタスクグループ機能を使用すると、イベントユーザーは特定の状況を解決することを目的とした複数の計画から類似のタスクをグループ化できます。グループ内の元のタスクが自動的に指定され、重複するタスクは [保留] ステータスに移行します。元のタスクが完了すると、イベントユーザーはそれをクローズ済みとしてマークします。重複タスクは [クローズ済みの重複] としてマークされます。

元のタスクと重複タスクの両方の進行状況は次のとおりです。

初期タスクステータス

タスクがグループに属する場合、最初は [オープン] ステータスではなく [保留] ステータスに移行します。「保留中」状態になる最初のタスクが、自動的に元のタスクとして指定されます。

[オープン] ステータスへの移行

他のすべてのタスクが [保留中] ステータスに移行すると、グループ内の元のタスクは [オープン] ステータスに移行します。

重複タスクの処理

重複タスクは、元のタスクがクローズされてユーザーに割り当てられなくなるまで保留されたままになります。元のタスクが完了すると、グループ内の重複タスクは自動的に [重複してクローズ] としてマークされます。

重複タスクの変更

重複するタスクを直接変更することはできません。それらに対してアクションを実行するには、まず関連するグループからそれらを削除する必要があります。

レポートと時間計算

重複するタスクの場合、元のタスクのステータスフィールドと時間フィールドを使用して、有効化された計画と資産にロールアップされます。重複タスクに要した時間は、アクティブ化された計画と資産の [合計工数] フィールドに含まれません。

元のタスクの再トリガー

元のタスクが再トリガーされた場合、重複タスクは元のタスクのステータス変更の影響を受けずに [クローズ済みの重複] ステータスのままになります。

タスクグループ化ルール

類似した復旧タスク参照を持つタスクは、システムによって自動的にグループ化されます。内部依存関係を持つタスクはグループ化できませんが、異なるグループに追加することはできます。関連計画をトリガーするタスクを類似のタスクグループに追加することはできません。

柔軟性と制御性

類似のタスクグループからタスクのリンクを解除したり、イベントタスクからタスクを削除したりすることができます。

この機能は、冗長なタスク実行を排除し、タスク管理を強化することで、複雑な演習やイベント中の運用効率を大幅に向上させます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

イベントでの類似のタスクグループの作成

イベントに関連付けられた類似または重複するイベントタスクを識別し、[類似のタスクグループ] タブでグループ化して、類似のタスクグループに追加します。イベントタスク管理を簡素化し、作業の重複を減らすのに役立ちます。

始める前に

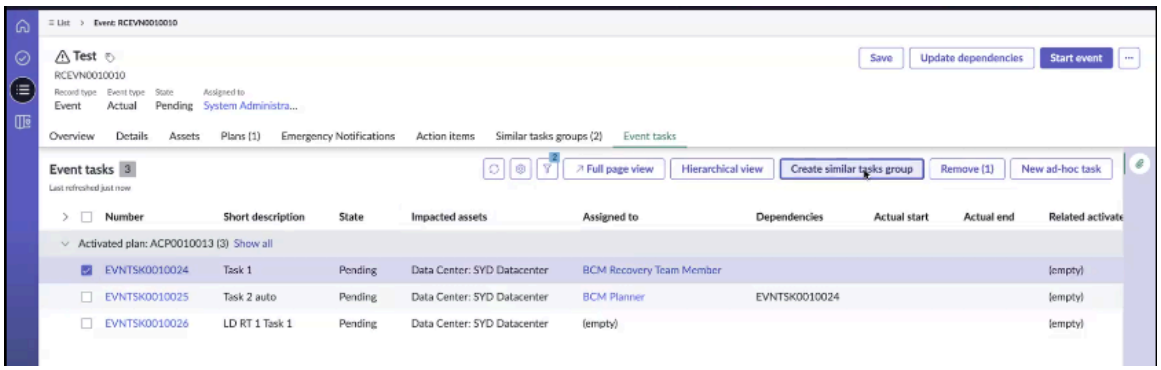
必要なロール：sn_bcm.planner、sn_bcm.program_manager

このタスクについて

類似のタスクグループを作成し、イベントの [ドラフト] ステータスでのみタスクを追加できます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース > 訓練 > 保留中 をクリックし、リストからイベントを選択します。
2. 類似のイベントタスクグループを作成するには、次のいずれかのオプションを使用します。
   - [イベントタスク] タブで類似のイベントタスクを選択し、[類似のタスクグループを作成] UI アクションを選択します。

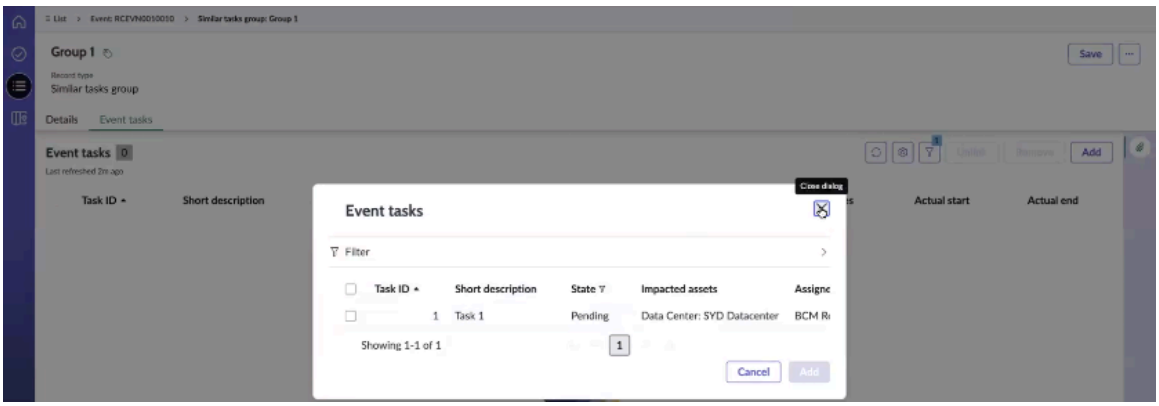


   a. [類似のタスクを作成] グループで、グループの名前を追加し、[作成] を選択します。

   b. グループが作成され、[類似タスクグループ] リストに表示されていることを確認します。

   - 次の手順を実行して、[類似のタスクグループ] タブからイベントタスクを追加します。

   a. 類似のタスク グループ タブで 新規 を選択し、保存 を選択します。



   b. グループの [イベント タスク] タブで [追加] を選択し、タスクの一覧から該当するタスクを選択して [追加] を選択します。

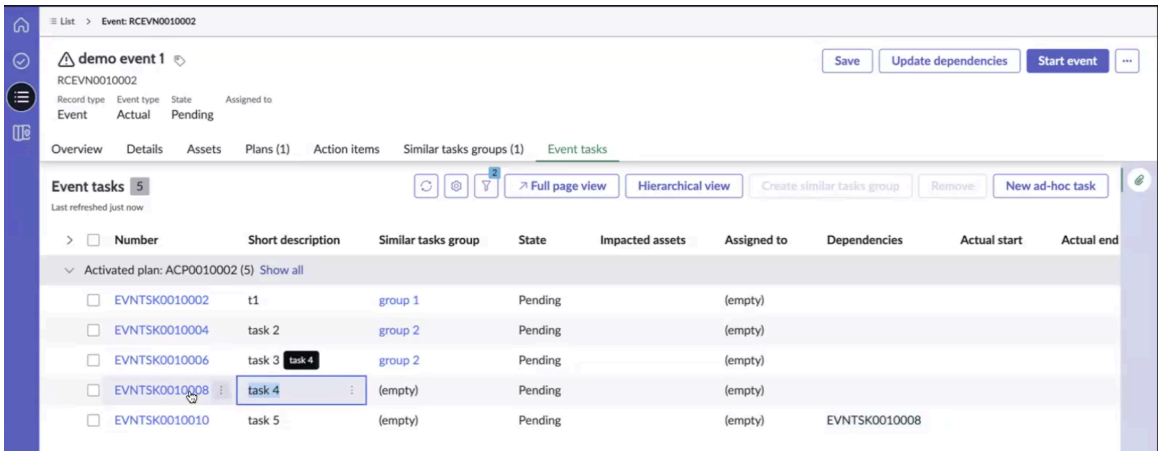
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

該当するイベントタスクが [類似のタスク] グループに追加されます。

> **注:**
> [イベントタスク] タブで [追加] を選択すると、該当するイベントタスクのみがモーダルに表示され、循環依存関係を防ぐことができます。

依存関係のあるイベントタスクを類似のタスクグループに追加するために、循環依存関係の検証チェックが実行されます。イベントタスクとその依存イベントタスクを同じ類似のタスクグループに追加することはできません。たとえば、タスク 4 をイベントタスクグループに追加し、タスク 5 がタスク 4 に依存している場合、例に示すように、タスク 5 をタスク 4 と同じグループに追加することはできません。



イベントが開始されると、システムは最初に実行されたイベントタスクを元のタスクとして識別します。他の類似タスクは、グループ内の重複タスクとしてマークされます。

> **注:**
> 類似タスクグループの [元のタスク] フィールドは、イベントタスクの実行開始時に自動的にアサインされ、手動で編集することはできません。

イベントが開始されると、依存関係のあるタスクは、その依存関係が解決されるまで [処理待ち] ステータスのままになります。この例のEVNTSK0010008などの依存関係がクローズされると、タスクは [保留] ステータスに移行します。

3. グループからイベントタスクを削除するには、[類似タスク] グループレコードで [リンクを解除] を選択します。
   イベントタスクが [類似タスク] グループから削除されます。
4. イベントタスクを削除するには、[削除] を選択します。
   イベントタスクがイベントから削除されます。

グループ内のイベントタスクのステータス変更

類似タスクグループ内の元のイベントタスクと重複するイベントタスクは、元のタスクがクローズされるまで、さまざまな状況を移行します。

次の表で、元のイベントタスクと重複イベントタスクの状況移行について説明します。

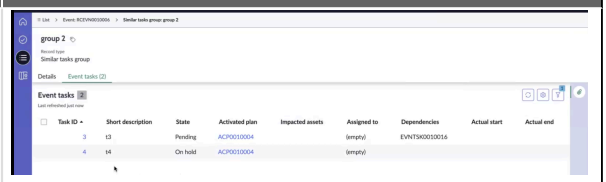
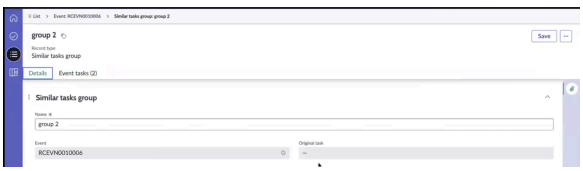
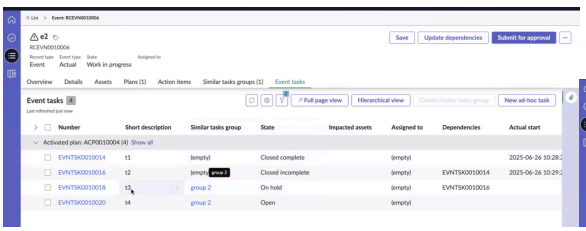
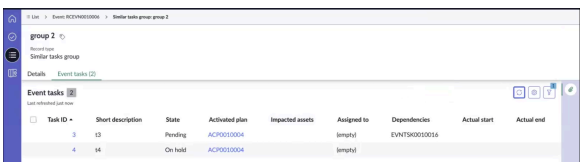
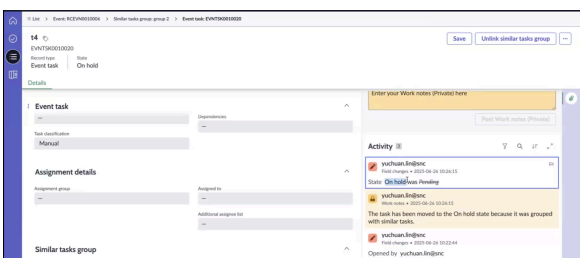
イベントタスクの状況移行

説明	タスクステータス
イベントには、グループ化された類似のタスクが含まれています。	例には、類似のイベントタスクがグループ化されているリストのイベントが示されています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

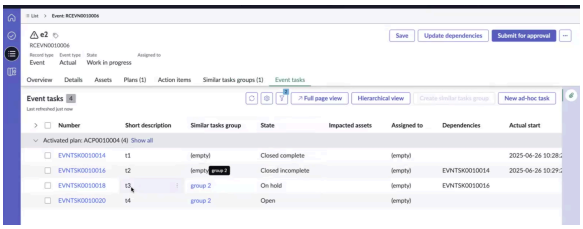
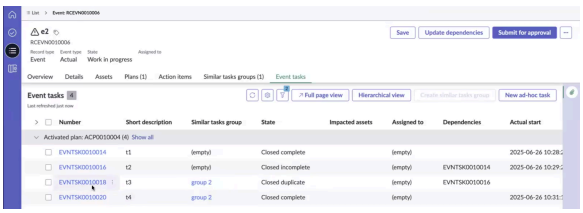
自動翻訳

イベントタスクの状況移行 (続く)

説明	タスクステータス
	
イベントを開始する前に、[元のタスク] フィールドを指定してください。	イベントを開始する前は、[類似タスク] グループの [元のタスク] フィールドは空で、読み取り専用ステータスです。 
イベントが開始されると、元のタスクが自動的にアサインされます。	例のグループ 2 の t4 (EVNTSK0010020) など、イベントの最初のタスクは、類似タスクグループの元のタスクになります。次の例は、タスク 4 (t4) に依存関係がないことを示しています。 
元のタスクと重複タスクの状況	元のタスクは [保留中] ステータスに更新され、重複するタスクは [保留中] ステータスになります。  コンテキスト上、元のタスクの作業メモは、類似のタスクグループによってグループ化されたため、タスクが [保留中] に移動されるように更新されます。 

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

イベントタスクの状況移行 (続く)

説明	タスクステータス
類似タスクグループの依存関係がクローズされます。	タスク 4 はタスク 3 に依存し、タスク 3 はタスク 2 に依存し、タスク 2 はタスク 1 に依存します。したがって、最初にクローズされます。 
t1 を閉じると、t2 は [オープン] ステータスに移行します。	タスク t2 はオープンです。
t2 を閉じると、t3 は [保留] 状態に移行します。	タスク t3 は保留中です。
グループ内のすべてのタスクが [保留中] であるため、元のタスク (t4) は [オープン] ステータスに移行します。	タスク t4 はオープンです。
最後のステップです。元のタスクをクローズすると、重複タスクは自動的に [重複してクローズ] ステータスに移行します。	重複タスク (t3) は、自動的に [クローズ済みの重複] ステータスに移行します。 

イベントタスクで [類似のタスクグループのリンクを解除] UI アクションを選択することで、類似のタスクグループからイベントタスクのリンクを解除できます。

元のタスクを手動タスクとして再トリガーし、イベントタスクで [手動タスクとして再トリガー **(Re-trigger as a manual task**)] UI アクションを選択することで、通常のイベントタスクと同様にワークフローを完了することができます。元のタスクは [オープン] ステータスに移行しますが、その重複タスクは [クローズ済みの重複] ステータスのままになります。

自動タスクのインポートとイベントの開始

演習の事業継続性計画から自動タスクをインポートします。演習中に自動タスクを使用すると、効率が向上し、ユーザーの応答時間が短縮されます。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.planner、sn_bcm.program_manager

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで、次の場所に移動します: 訓練 > 保留中 [新規] を選択します。
   [新規イベントを作成] フォームが表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

3. [新規イベントを作成] フォームの [詳細] タブで、必須フィールドに入力します。
フィールドの詳細については、「[新規イベントタスクの作成 (Create New Event Task)] フォーム」を参照してください。
4. ワークスペースビューの [計画] リストに移動し、イベントに関連付けられた計画を選択します。

   計画を選択すると、関連するタスクがイベントにプルされます。タスクは [イベントタスク] タブに表示されます。[イベントタスク] タブに表示されるタスク間に依存関係がある場合、通常は順番に実行されます。

5. [イベントを開始 **(Start event)]** を選択します。

   イベントを開始すると、依存関係がないイベントタスクが実行されます。タスクが完了すると、そのタスクに依存する後続のタスクが実行されます。たとえば、タスクが [未完了でクローズ] または [失敗してクローズ **(Closed failed)]** ステータスに移行した場合、タスクを選択してそのアクティビティの詳細を確認することもできます。画面にエラーメッセージが表示された場合は、それを調べて問題を特定し、適切な是正措置を講じることができます。たとえば、コード変数が正の値でなければならないことがエラーメッセージに示されている場合は、それに応じてコード変数を更新できます。

   タスクが [失敗してクローズ **(Closed failed)]** ステータスに移行すると、その依存タスクはトリガーされません。タスクが [未完了でクローズ] または [失敗してクローズ **(Closed failed)]** ステータスの場合は、自動フローでエラーが発生し、バックアップ担当者による手動の介入が必要であることを通知するメール通知がバックアップ担当者に送信されます。

6. 依存関係を手動で更新するには、[依存関係を更新] を選択します。
依存関係が更新されていることを示す UI メッセージが表示されます。
7. フォームの [結果] セクションに実際の開始、実際の終了、結果を追加し、[保存] を選択します。
承認のためにイベントを送信する前に、すべての計画とタスクがクローズされていることを確認してください。
8. [自動化を再トリガー **(Re-trigger automation)]** を選択します。
自動フローがトリガーされ、もう一度実行されます。
9. 自動フローが再度失敗した場合は、[手動タスクとして再トリガーする] を選択します。
タスクが [オープン] ステータスに移行します。

   a. イベントタスクを更新し、[対応中] を選択します。

   b. [完了してクローズ] を選択します。
   イベントタスクを手動で更新することもできます。タスクを [完了してクローズ] としてマークすると、後続のイベントタスクが自動的にトリガーされます。次のタスクが手動タスクの場合、そのタスクにアサインされたユーザーは、イベントタスクのワークフローの完了に進むことができます。

10. [保存] を選択します。
その後、イベントタスクがインスタンス内に保存されます。

承認を要求してイベントを承認する

BCM UIB ワークスペース で演習を承認します。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.planner、sn_bcm.program_manager

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで、次の場所に移動します: 訓練 > 保留中 をクリックし、リスト内の演習イベントを選択します。
3. イベントの承認者としてログインし、リストビューでイベントを選択します。
4. [未完了でクローズ] を選択します。
   イベントに関連付けられたイベントタスクが完了していない場合は、イベントの状況を [未完了でクローズ] に更新できます。
5. [承認のため送信] を選択します。

   注:
   演習の承認レコードが作成されている場合、 承認 または 却下の アクションはフォームに表示されません。ユーザーが [承認] または [却下] アクションを表示するには、次の条件を満たす必要があります。
   - ユーザーには sn_recovery.event_manager ロールが必要です。
   - 演習は [承認待ち] ステータスである必要があります。
   - 演習に承認レコードを作成しないでください。

6. [完了してクローズ] を選択します。
   イベントの状況を [完了してクローズ] に更新できます。

セルフサービスからの復旧タスクの表示

危機イベントまたは演習から資産を復旧するために、自分または復旧タスクチームにアサインされた復旧タスクを表示します。BCM プログラムマネージャーからタスクがアサインされると、セルフサービスアプリケーションメニューからそれらのタスクを表示できます。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.recovery_team_member

手順

1. 移動先 セルフサービス > 自分の復旧タスク.
2. 自分に、自分が属するアサイン先グループに、または自分が属する復旧チームにアサインされ、イベントの状況が [処理待ち] ステータスではない、イベントタスクのリストを表示します。
   復旧タスクの名前と説明を表示できます。
3. 更新するイベントタスクの [タスク **ID]** へのリンクを選択します。
   [実際の開始] と [実際の終了] の詳細を更新できます。
4. [イベントタイプ] 列をソートして、危機関連のタスクを一番上に表示します。
5. [イベントタスクタイプ] 列を表示して、計画されたイベントかアドホックイベントかを確認します。
6. イベントタスクアクティビティにメモを追加するには、[詳細] タブの [アクティビティ] セクションを選択し、[作業メモ] フィールドに情報を追加します。
7. タスクを [対応中] ステータスに更新するには、[対応中] を選択します。
8. タスクをクローズするには、[未完了でクローズ] または [完了してクローズ] を選択します。
9. レコードを更新するには、[更新] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

演習と危機の 360 度の関係を表示する

BCM UIB ワークスペース で、演習または危機イベントと関連付けられたエンティティの 360 度の関係を可視化します。演習と危機イベントの作成中は、いつでも 360 度ビューにアクセスできます。

始める前に

必要なロール：sn_bia.bia_admin、sn_bcm.program_manager、または sn_bcm.planner

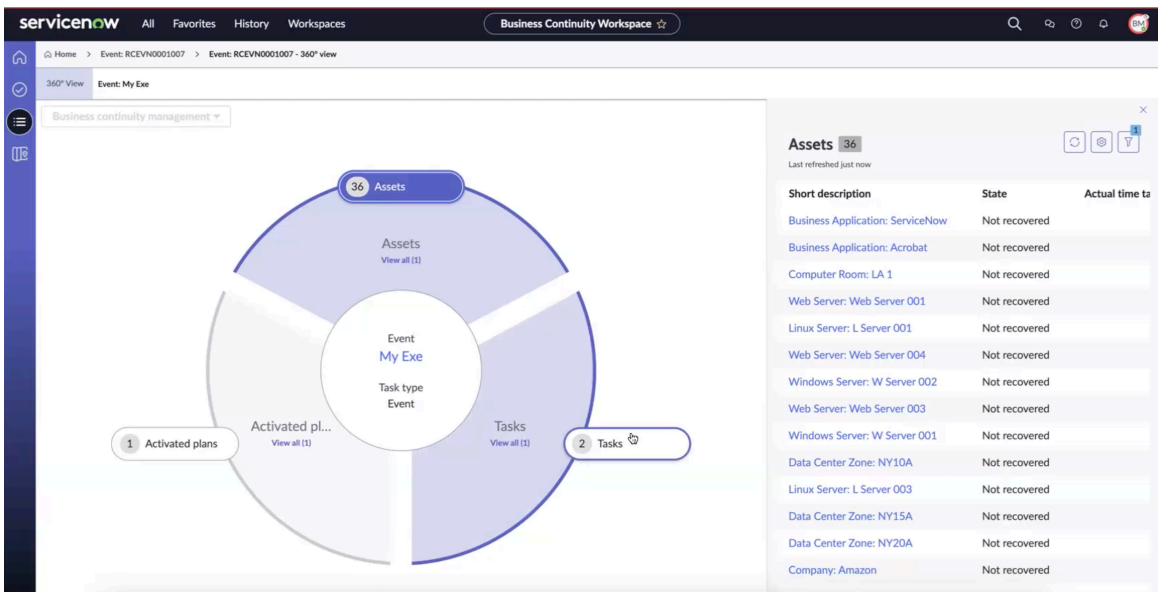
このタスクについて

360 度ビューの構成は、 **360** 度ビューの構成 > **360** 度ビューの構成.BCMアドミニストレーターロールを持っている場合は、でレコードの関係を構成できます。 **360** 度ビューの構成 > 関係のレジストリ.

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで、[演習] に移動して、リストからレコードを選択します。
   演習イベントレコードが表示されます。危機イベントにも同じ手順が適用されます。
3. イベントレコードで **[360** 度ビュー] を選択します。

   次の例に示すように、選択したイベントの 360 度ビューが表示されます。



   選択したイベントの 360 度ビューには、次の詳細が表示されます。

   - 有効化された計画：資産に関連付けられている有効化された計画。
   - 資産：イベントによって影響を受ける資産。
   - タスク：イベントに関連付けられているタスク。

   360 度ビューで [資産] カプセルを選択すると、例に示すように、イベントの資産の詳細が右側の [資産] パネルに表示されます。

4. 再度イベントに移動するには、ブレッドクラムナビゲーションでイベントまたはリストビューを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PDF または PDF でのイベントレポートの生成 Microsoft Word

BCM 構成可能ワークスペース内の演習または危機イベントの PDF またはMicrosoft Wordコピーを生成し、後で参照できるように保存してください。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.planner、sn_bcm.program_manager

このタスクについて

ビジネスニーズに合わせて PDF をフォーマットするには、「BIA、BCP、およびイベントの PDF テンプレートのフォーマット設定」を参照してください。

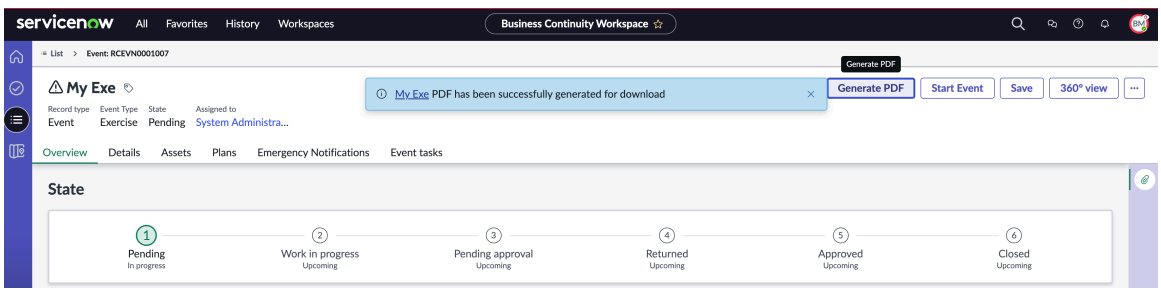
Xanadu リリース以降、ビジネスインパクトアナリシス、計画、およびイベントの PDF のコンテンツは、新しいレイアウトを実装することによって改善されています。

- 各種イベントタスクを表形式で記載します。
- 資産所有者の詳細とビジネスインパクトアナリシスの説明を含めます。
- 計画資産の依存関係の概要を示すテーブルを表示します。
- 最初のページに PDF の作成日を記載します。

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで、[演習] に移動し、[レビュー] または次のステータスになっているイベントレコードを選択します。
   危機イベントの PDF を生成するときと同じプロセスを使用できます。
3. フォームで **[PDF**の生成] を選択します。

   次の例は、「<演習イベントの名前> ダウンロード用 PDF が正常に生成されました」というメッセージが画面に表示されているところを示しています。

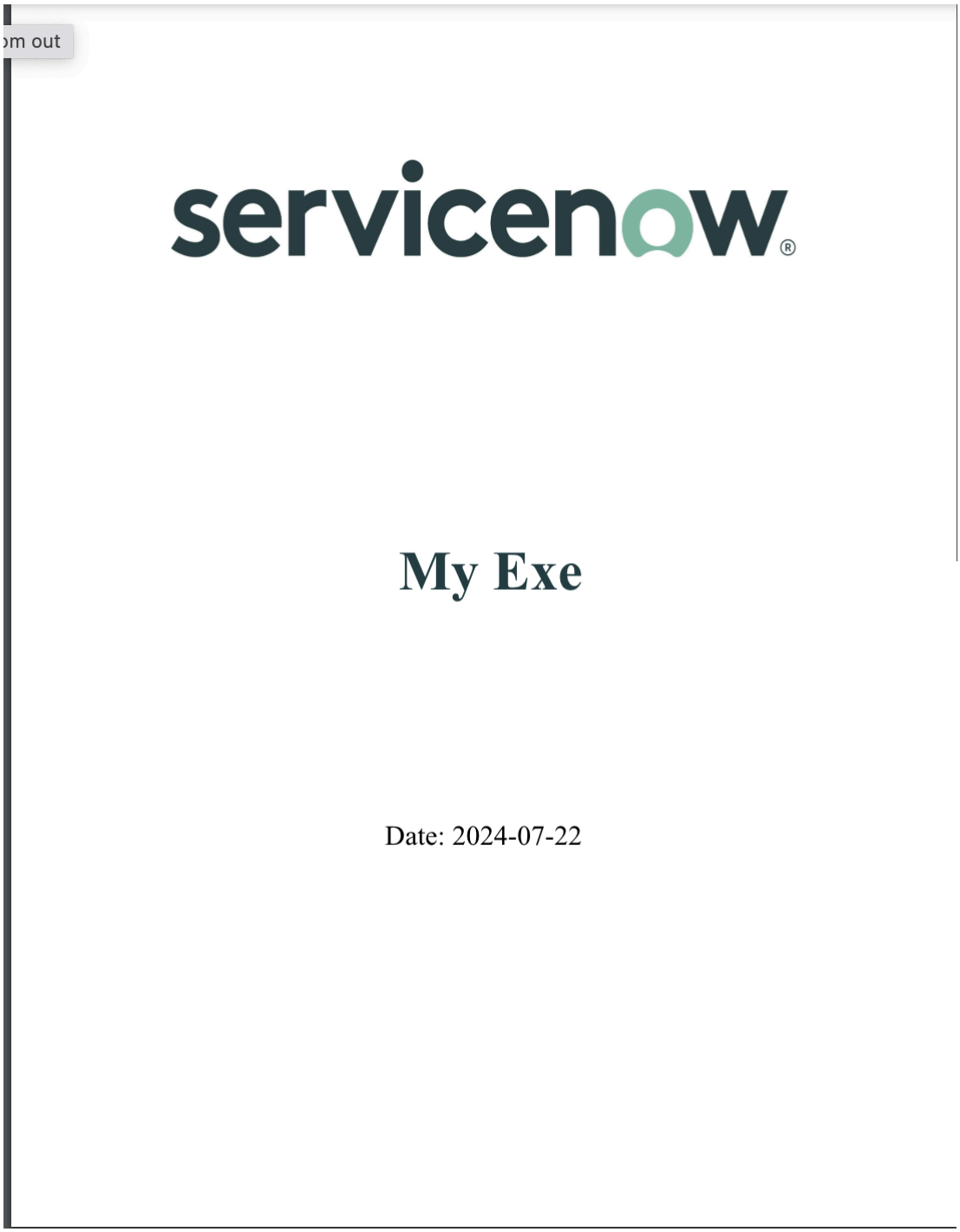


4. PDF をダウンロードするには、メッセージ内のリンクを選択します。

   次の例は、演習の PDF がローカルにダウンロードされたことを示しています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳



5. システムに PDF を保存します。
   PDF を保存すると後で参照できます。
6. Microsoft Word でイベントレポートを作成するには、[**MS Word** を生成] を選択します
   イベントまたは危機レコードのレポートを Microsoft Word 形式で生成します。BIA レコードの Microsoft Word コピーが正常に生成され、ダウンロードできます。
7. レポートを印刷するには、保存した PDF または Microsoft Word コピーを開き、[印刷] を選択します。

危機イベントの構造化されたワークフロー

構造化されたワークフローを実行して、事業継続性ワークスペース (別名 BCM 構成可能ワークスペース) で危機イベントを管理します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

通常、BCM プログラムマネージャーは、以下のタスクを実行して、危機イベントに対応します。

- 危機イベントを作成します。詳細については、「危機イベントの開始」を参照してください。
- 危機イベントに資産と計画を追加します。詳細については、「影響を受ける資産の追跡と関連計画の追加」を参照してください。
- 危機イベントにイベントタスクを追加します。詳細については、「危機イベントにタスクを追加する」を参照してください。
- 演習イベントのイベントタスクを送信します。詳細については、「承認を要求して危機を承認する」を参照してください。

危機イベントに関する追加情報

- ホームページの [危機イベント] タブの詳細については、「ホームページビュー」を参照してください。
- 危機マップインターフェイスでの脅威、フィード、アラートの詳細については、「クライシスマップインターフェイス」を参照してください。
- 危機マップインターフェイスでの管理タスクの詳細については、「クライシスマップのセットアップ」を参照してください。
- 危機イベントの詳細については、「危機イベント」を参照してください。

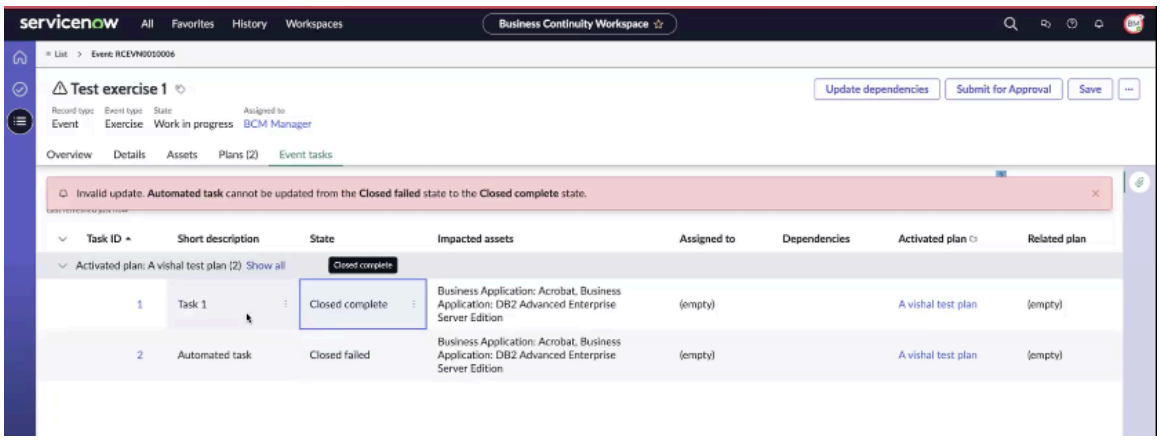
イベントタスク関連リストからのタスクの一括編集

事業継続性管理 アプリケーションのバージョン 6.1.x 以降では、イベントレコードに対して編集アクセス権を持つユーザーは、イベントタスク関連リストからタスクの一括編集を直接実行できるようになりました。この機能は、複数のイベントタスクを同時に管理しているユーザーに役立ちます。

復旧タスクリストで、必要な編集権限を持つユーザーは次のフィールドを同時に変更できます。

- ステータス
- アサイン先
- 実際の開始日
- 実終了日
- アサイン先グループ

イベントが開始されると、これらのユーザーは、リストビューまたはフォームビューからイベントタスクのステータスを変更することもできます。リストビューからイベントタスクのステータスを更新するプロセスを次の例に示します。ステータス移行が許可されていない場合は、更新が無効であることを示すエラーメッセージが表示されます。



次の表に、イベントタスクに許可されるステータス移行の詳細を示します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

イベントタスクに許可されるステータス移行

ステータスからの移行	[保留中] ステータス	[オープン] ステータス	[対応中] ステータス	[完了してクローズ] ステータス	[未完了でクローズ] ステータス	[スキップしてクローズ] ステータス	[失敗してクローズ] ステータス
処理待ち	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ
オープン	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	はい	いいえ
対応中	いいえ	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい
完了してクローズ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
未完了でクローズ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
スキップしてクローズ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
失敗してクローズ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ

注:
ステータス移行に関するすべての変更と、開始日または終了日の更新は、タスクアクティビティログに一覧表示されます。

イベントタスクのステータス移行に関する以下の主要事項をご確認ください。

1. イベントタスクは、**[**完了してクローズ] ステータスからのみ開くことができます。
2. イベントタスクが [オープン] ステータスに移行すると、そのイベントタスクのユーザーはタスクをさらに編集できます。
3. その後、タスクを [オープン] ステータスから [スキップしてクローズ] ステータスに移行できます。
4. イベントへのアクセス権を持つユーザーのみが、イベントタスクを再オープンできます。復旧タスクのメンバーはイベントタスクのステータスを変更できますが、イベントタスクを再度開くことはできません。

次の表は、イベントタスクに利用可能な UI アクションと対応するイベントタスクのステータスをまとめたものです。

UI アクションと対応するイベントタスクのステータス

UI アクション	イベントタスクのステータス	メモ
トリガー	処理待ち	この条件は、イベントが開始された場合にのみ適用できます。
タスクをスキップ	処理待ち、オープン、対応中	-
対応中	オープン	-
完了してクローズ	対応中	-
未完了でクローズ	対応中	-
失敗してクローズ	対応中	-

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

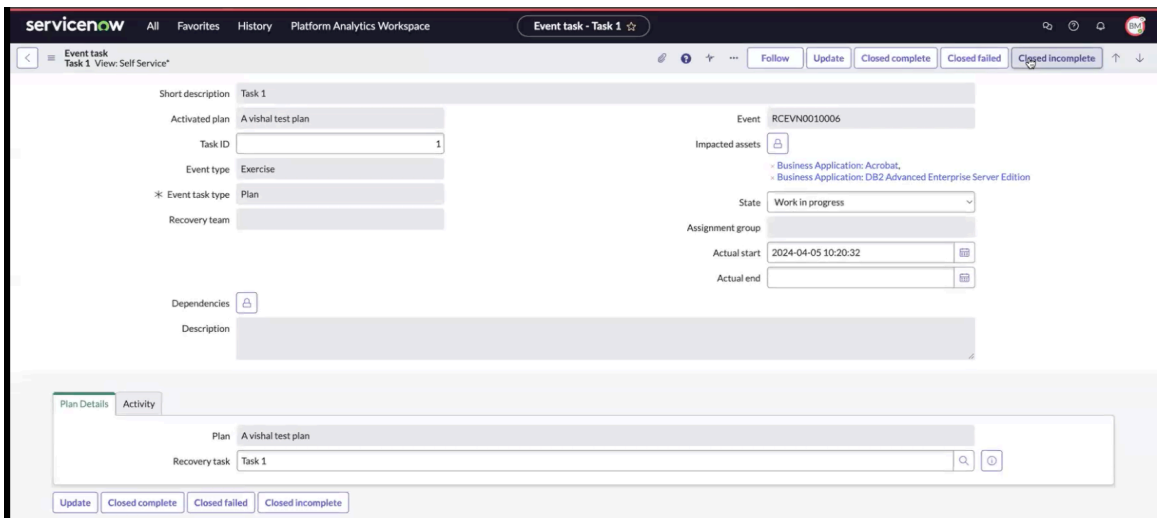
UI アクションと対応するイベントタスクのステータス (続く)

UI アクション	イベントタスクのステータス	メモ
手動タスクとして再トリガー	クローズ済み	-
自動化を再トリガー	対応中、クローズ済み	この条件は、自動化されたタスクにのみ適用できます。

タスクが誤ってクローズされた場合、イベントタスクのユーザーはタスクを再オープンして必要な編集を行うことができます。それによって、復旧プロセスの正確性と完全性を維持できます。

復旧タスクメンバーとしてイベントタスクを更新する

通常、復旧タスクのメンバーはイベントタスクのステータスを更新します。イベントページまたはワークスペースへのアクセス権はありませんが、インスタンス内の [自分の復旧タスク] に移動して復旧タスクにアクセスできます。例に示すように、UI アクションを変更することで、イベントタスクのステータスを変更できます。



たとえば、復旧タスクのメンバーがタスクを [完了してクローズ] とマークすると、フォーム上のすべてのフィールドがロックされます。これは、復旧タスクのメンバーはフィールドを変更できないが、アクティビティメモを追加できることを意味します。イベントタスクへのアクセス権を持つユーザーのみが、フォームのフィールドを編集できます。

イベントへの自動タスクのインポートについては、「自動タスクのインポートとイベントの開始」を参照してください。

危機イベントの開始

BCM UIB ワークスペース で危機イベントを開始します。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.planner、sn_bcm.program_manager

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで、次の場所に移動します: 危機イベント > 保留中 [新規] を選択します。
   [新規イベントを作成] フォームが表示されます。
3. [新規イベントを作成] フォームの [詳細] タブで、必須フィールドに入力します。

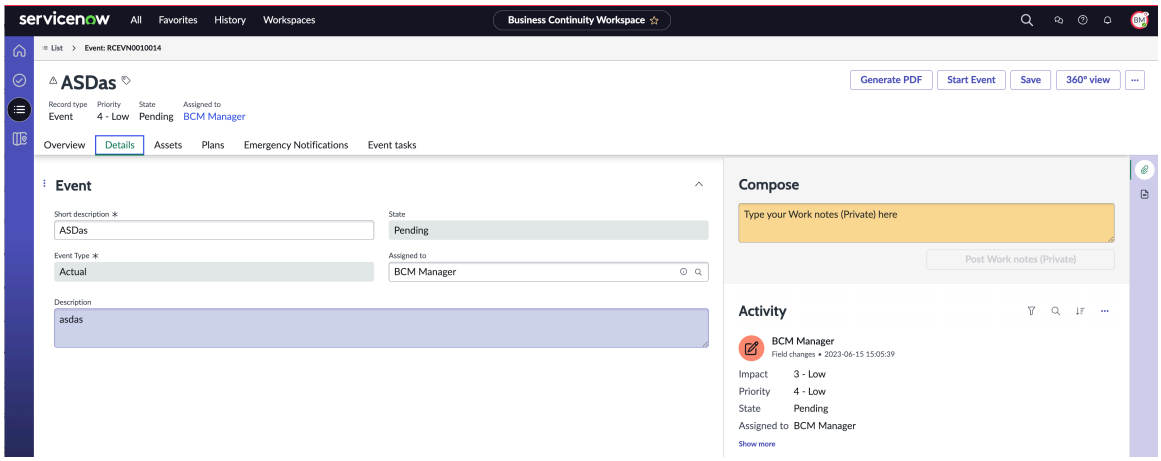
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

注:
危機イベントの場合、イベントタイプは [実績]です。

フィールドの詳細については、「[危機イベントの作成(Create Crisis Event)] フォーム」を参照してください。

次の例に示すように、危機イベントが [処理待ち] ステータスで作成されます。



危機イベントの状況と詳細は、次のタブに表示されます。

- 概要：危機イベントの現在のステータスと全体的なステータス進行状況を表示できます。
- 詳細：簡単な説明、ステータス、イベントタイプ、アサイニーなど、危機イベントの詳細を表示できます。
- 資産：影響を受けるアイテムタイプまたは資産タイプに対して復旧するプライマリ要素を選択できます。
- 計画：選択した資産のアドホック計画を危機イベントに追加できます。
- 緊急通知：Everbridge 統合を使用して危機イベントの通知を作成できます。
- イベントタスク：危機イベントにアドホックタスクを追加できます。

4. 危機イベントに対してさらにアクションを実行するには、[その他のアクション] を選択します。

5. **[Save** (保存)] を選択します。
危機イベントは [処理待ち] ステータス で保存され、レコードの [危機イベント] リストビューに表示されます。

[危機イベントの作成**(Create Crisis Event)]** フォーム

BCM UIB ワークスペース の [危機イベントの作成(Create Crisis Event)] フォームを使用して、危機イベントに関する詳細を追加します。

[危機イベントの作成**(Create Crisis Event)]** フォーム
フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

[危機イベントの作成**(Create Crisis Event)]** フォーム

フィールド	説明
[詳細] タブ	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[危機イベントの作成**(Create Crisis Event)**] フォーム (続く)

フィールド	説明
簡単な説明	危機イベントに関する簡単な説明。
状況	イベントの状況。デフォルトは [処理待ち] ステータスです。
イベントタイプ	イベントのタイプ。危機イベントの場合、イベントタイプは [実績]です。
アサイン先	アサイン先グループのユーザー。[アサイン先グループ] フィールドが空の場合は、任意のユーザーを選択します。
説明	イベントの説明。

ネストされた計画の使用

システムプロパティを構成して、イベントで有効化された計画レベルを制御します。システムは、イベント内にネストされた計画を自動的に作成するため、計画を追加する手作業が削減され、システムパフォーマンスが向上します。イベントタスクの [依存関係] フィールドを更新することで、複数の有効化された計画間に依存関係を追加することもできます。

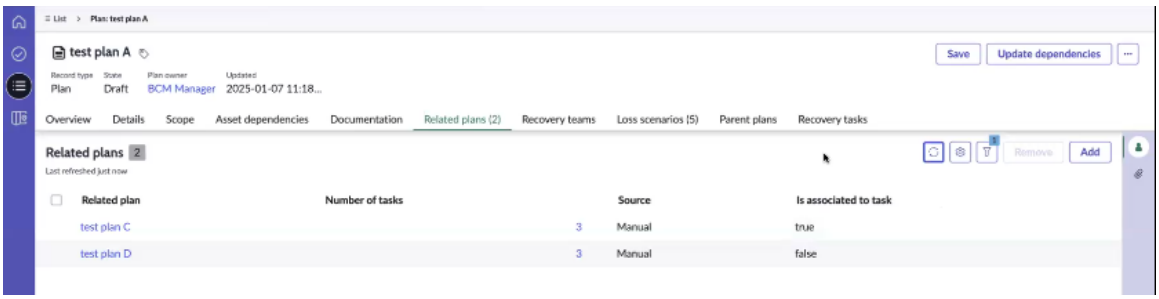
計画とイベントの変更

Yokohama リリース以降、計画とイベントの新しい変更は、計画フェーズと関連計画の作成に重点を置いています。

関連計画と復旧タスクの関連付け

関連する計画を復旧タスクに関連付けることができるようになり、復旧中の計画トリガーを特定して管理できるようになりました。

新しいフィールド [タスクに関連付けられている] が [関連計画] テーブルに追加されました。関連計画が復旧タスクに関連付けられている場合、このフィールドは True に設定されます。関連付けられていない場合、このフィールドは False に設定されます。

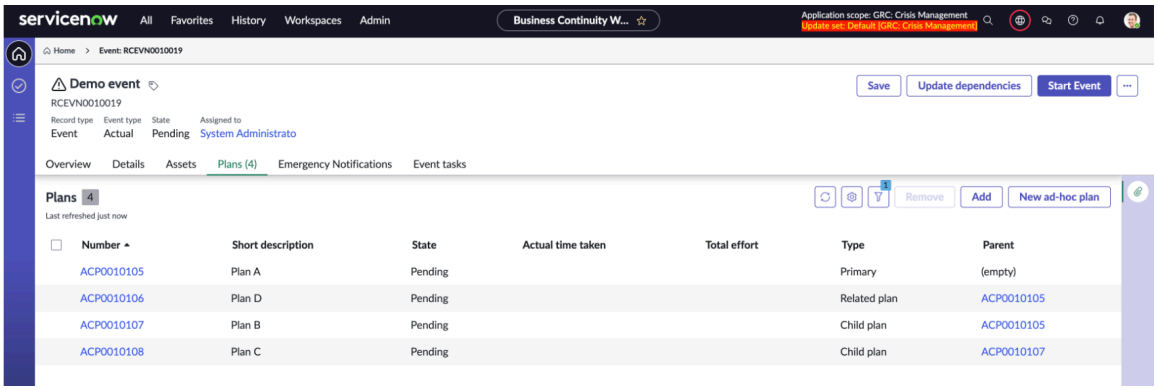


注:
[関連計画] タブにリストされている関連計画が復旧タスクに関連付けられると、イベントに子計画として作成されます。どのタスクにも関連付けられていない場合は、子計画としてではなく、関連計画として作成されます。

イベントへの計画の追加

計画がイベントに追加されると、その関連計画とその階層全体が含まれます。イベントに手動で追加されたプランは、有効化されたプライマリプランと呼ばれます。タスクの関連付けのない計画は、関連計画と呼ばれます。復旧タスクに関連付けられた計画は、子計画と呼ばれます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



計画の階層の使用

以前は、プライマリ計画とそれに直接関連する計画のみがイベントに含まれていました。Yokohamaリリースでは、*sn_recovery.max_activated_plan_levels*プロパティを設定して、イベント内の有効化された計画の深さを最大 10 レベルまで制御できます。

有効化された計画レベルのプロパティのリセット

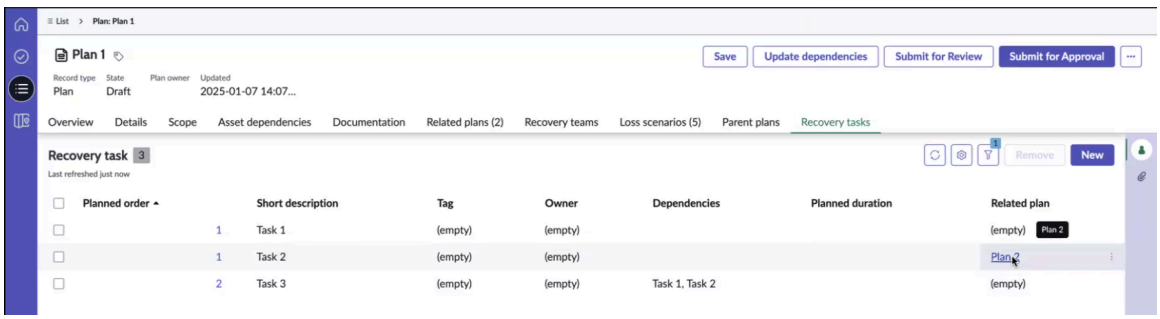
次の例に示すように *sn_recovery.max_activated_plan_levels* プロパティをカスタマイズして、イベントで作成される有効化された計画のレベルを制御できます。

- 手動で追加された計画のみを作成するには、プロパティを 1 に設定します。
- プライマリ計画とその第 1 レベルの関連計画のみを作成するには、プロパティを 2 に設定します。

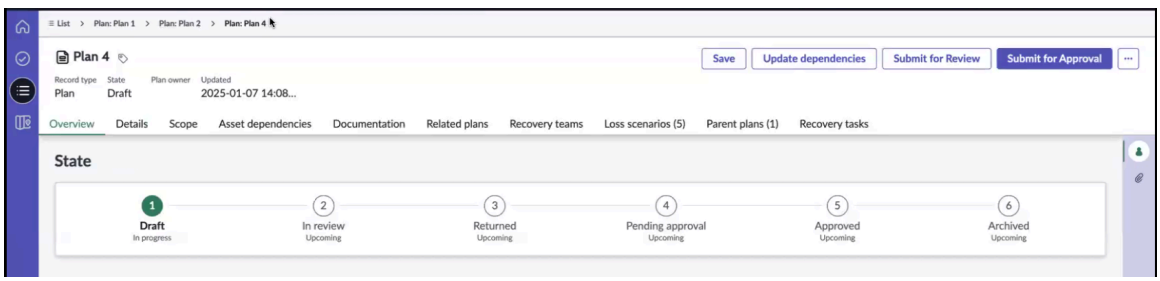
複数レベル計画のサンプルユースケース

複数レベルの階層計画をイベントに追加できます。システムプロパティが構成されていて、いくつかの関連計画に復旧タスクが関連付けられている、次のユースケースを考えてみましょう。関連する計画がイベントに追加されるイベントが作成されます。

プライマリ計画であるプラン 1 には、関連計画としてプラン 2 とプラン 3 があります。プラン 1 には、タスク 1、タスク 2、およびタスク 3 の 3 つの復旧タスクが含まれます。タスク 2 には、関連計画としてプラン 2 があります。



同様に、プラン 2 には、タスク 1、タスク 2、タスク 3 の 3 つの復旧タスクがあります。例に示すように、プラン 1 はプラン 2 をトリガーし、プラン 2 はプラン 4 をトリガーします。

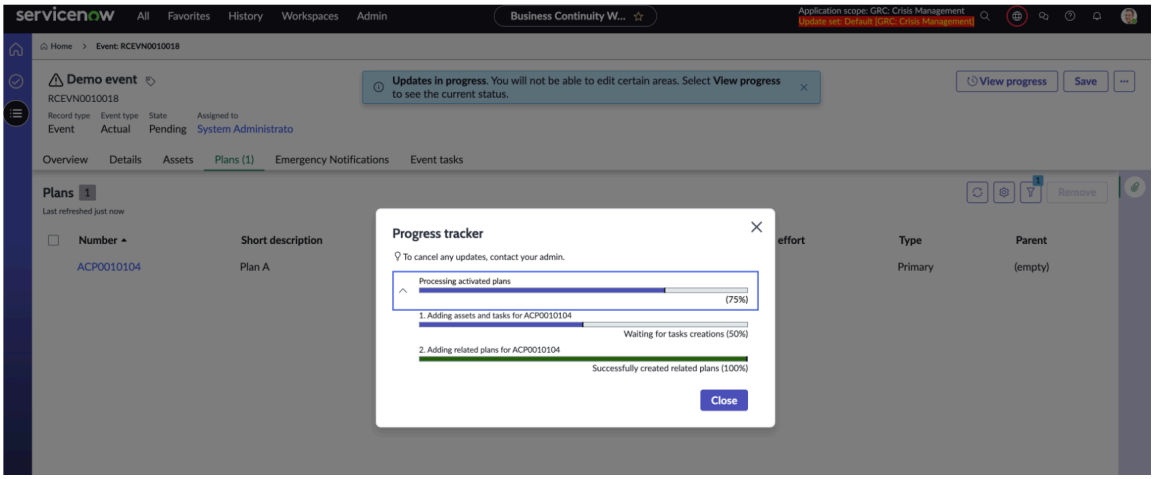


自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

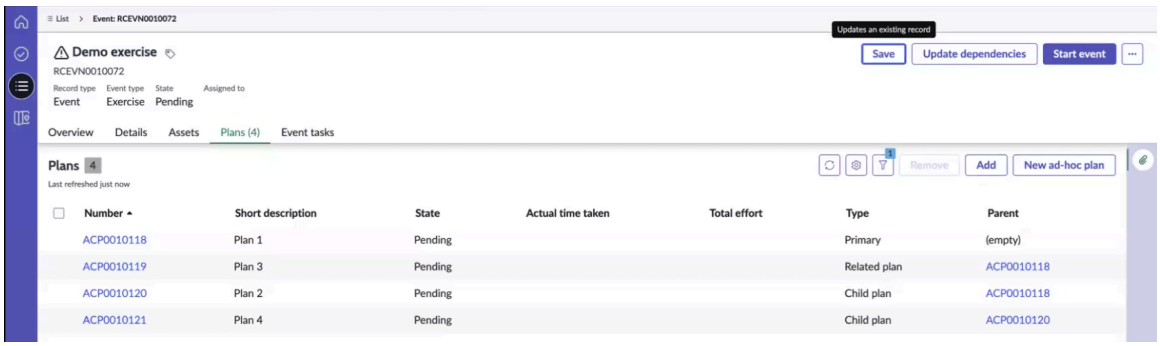
以前は、プラン 1 のようなプライマリ計画がイベントに含まれる場合、プラン 2 やプラン 3 などの関連計画の第 1 レベルのみが追加されていました。プラン4のようなより深いレベルは含まれていませんでした。ネストされた計画機能を使用すると、プラン 4 を含む最大 10 レベルの深さの計画を階層に追加できます。

イベントを作成してプラン 1 を追加すると、関連する計画、資産、およびタスクが自動的に含まれます。[進行状況の表示] ボタンを選択すると、[進行状況のトラッカー] ウィンドウが開き、計画、資産、タスク、および関連計画の追加の進捗状況とステータス、およびバックグラウンドプロセスのステップとステータスが表示されます。

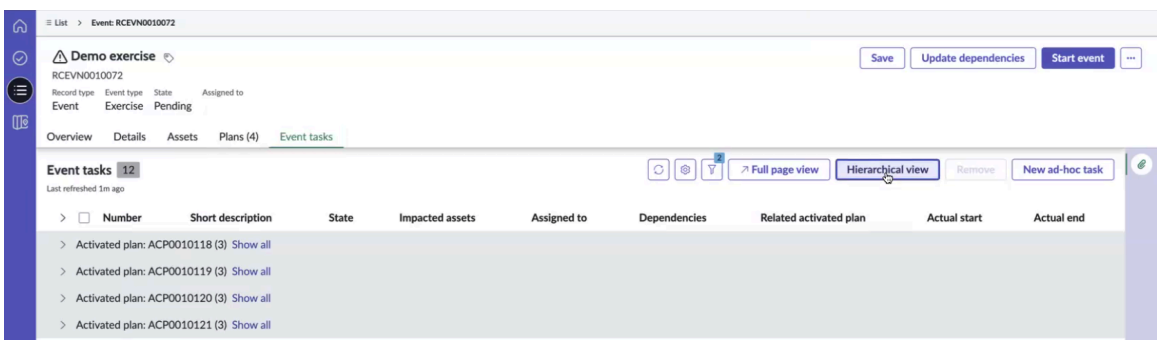


すべてのプロセスが完了すると、ページを更新して最新の更新を確認するように求めるメッセージが表示されます。メッセージを閉じてから、作成された計画とイベントタスクを表示できます。

例に示すように、プラン 1 がプライマリプランです。プラン 3 は復旧タスクに関連付けられていないため、プラン 1 の関連計画としてマークされます。プラン 2 とプラン 4 は復旧タスクに関連付けられているため、子計画です。



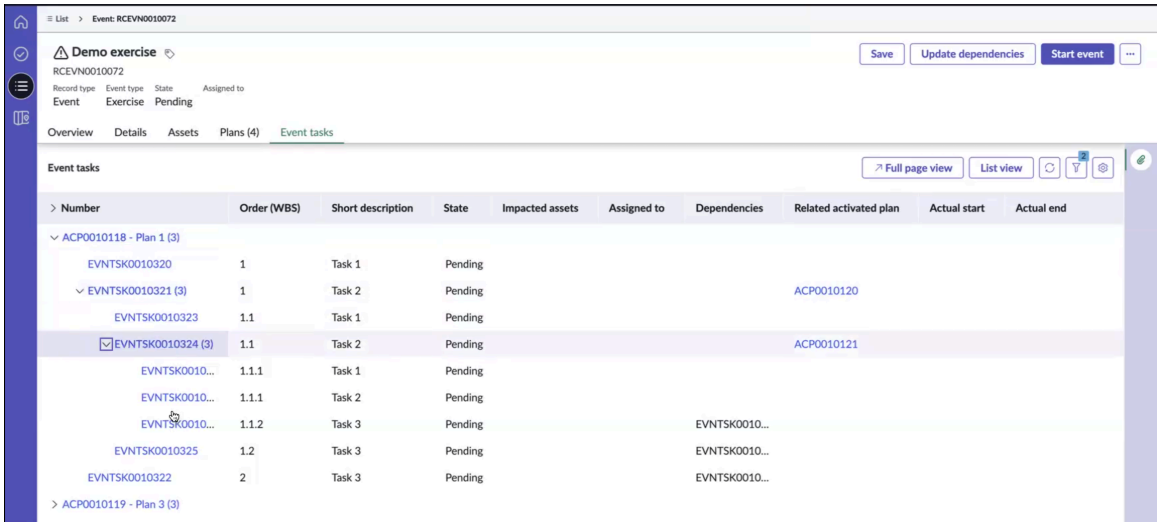
イベントタスク:イベントタスクは、デフォルトでリストビューに表示されます。階層ビューに切り替えると、プライマリ計画と関連計画を最上位レベルとする階層が表示されます。



この例では、プライマリ計画 (ACP0010118) と関連計画 (ACP0010119) を最上位レベルに、イベントタスクと計画の階層を示しています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- プラン 1 (ACP0010118) には 3 つのイベントタスクがあります。2 番目のイベントタスク (EVNTSK0010321) はプラン 2 (ACP0010120) をトリガーし、別のイベントタスク (EVNTSK0010324) はプラン 4 をトリガーします。
- プラン 3 (ACP0010119) には、関連するアクティブ化された計画がありません。
- 2 つの子計画 (ACP0010120 と ACP0010121) が子レベルに表示されます。



リストビュー、階層ビュー、および全ページビューの間を移動する

イベントタスクの作業中は、リストビュー、階層ビュー、および全ページビューの間を移動できます。

リストビュー

イベントタスクをリスト形式で配置して、階層を読みやすく、すばやく理解できるようにします。長いテキストをふるいにかけることなく、特定の情報をスキャンして見つけるのに役立ちます。

階層ビュー

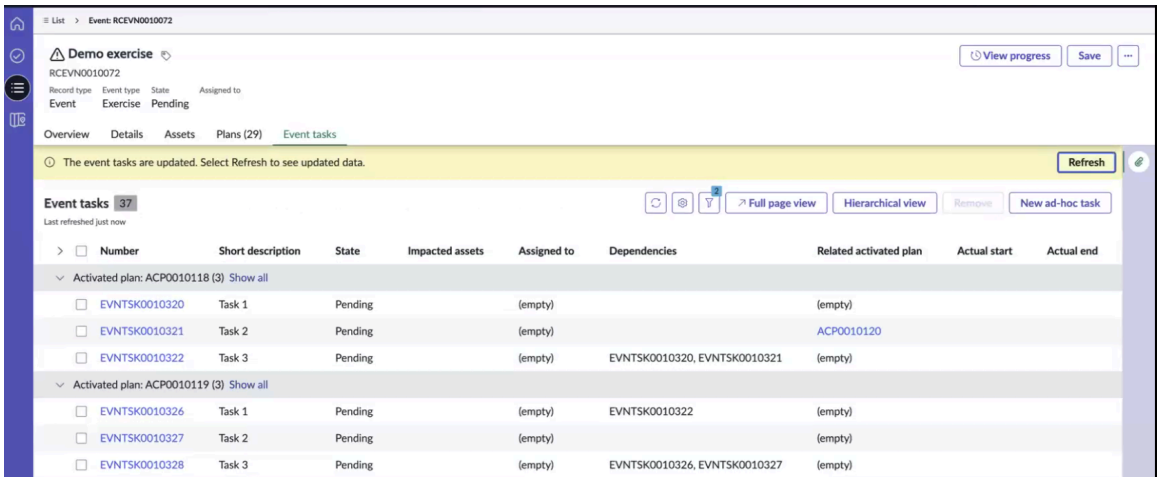
計画の依存関係とイベントタスクの順序を可視化します。デフォルトでは、リストビューにはプライマリ計画と関連計画のみが表示されます。階層ビューに切り替えて、完全な計画階層を表示します。

> **注:**
> リストビューでイベントタスクと計画の情報を編集できますが、階層ビューは読み取り専用です。

作業分割構成 (WBS) は、依存関係に基づいてタスクを配置します。有効化された計画の場合、WBS 順序は、イベントタスクと計画の両方の依存関係を考慮して計算されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



全ページを表示

一度に多くのタスクを表示し、計画階層とタスクの包括的な概要を表示できます。リストビュー、階層ビュー、または全ページビューを切り替えることができます。

元のレコードに戻るには、[レコードに戻る] ボタンを選択します。

レベルごとのレコード

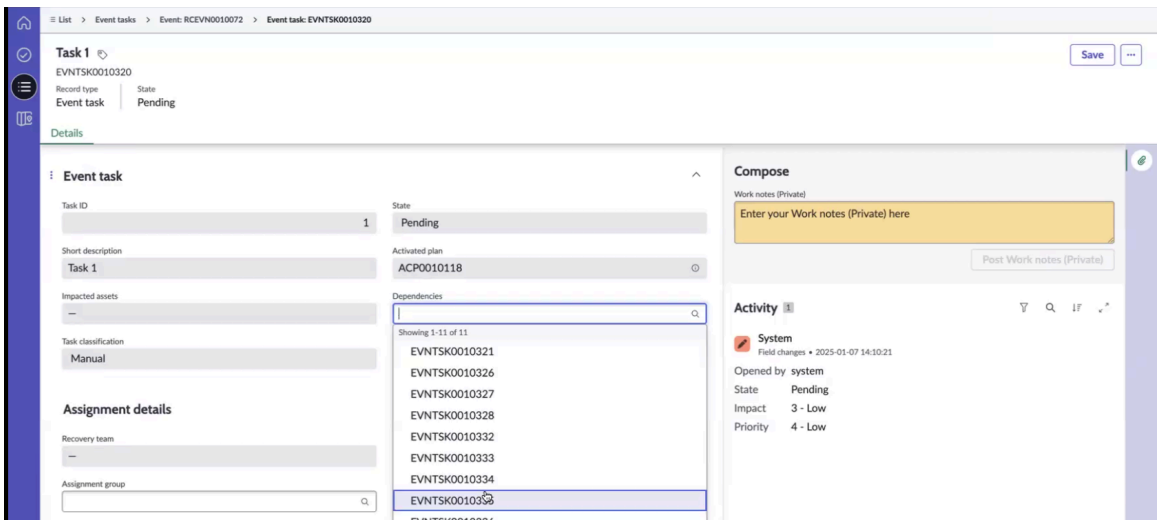
UI ナビゲーション

デフォルトでは、最初のレベルには 10 のプランのみが表示されます。他にもある場合は、[さらに表示] ボタンを選択して追加のレコードを表示します。たとえば、100 個のプランがある場合、最初は 10 個のみが表示され、[さらに表示] を選択すると次のセットが読み込まれます。

計画間の依存関係の構成

例に示すように [依存関係] フィールドを更新することで、計画間の依存関係を構成できます。

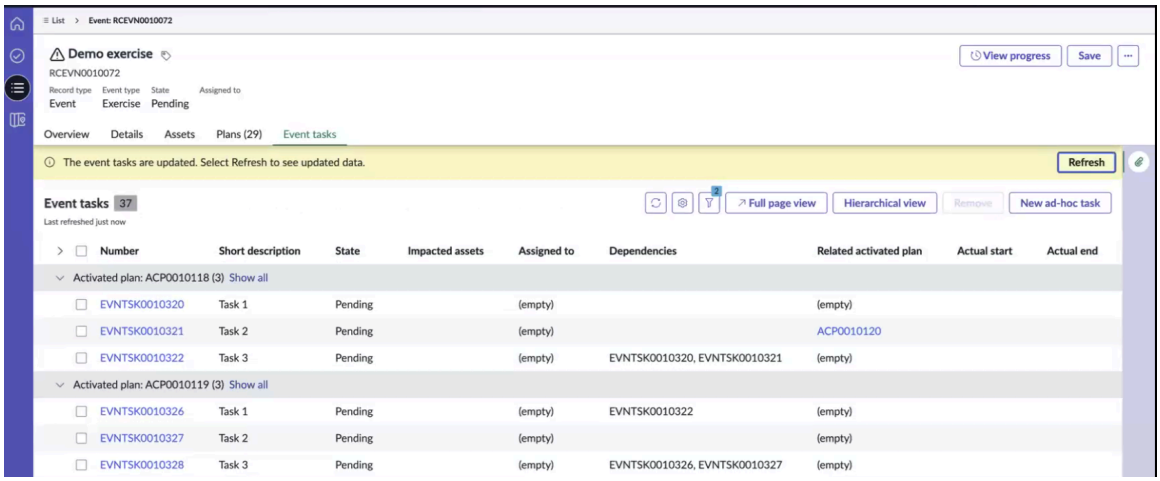
注:
依存関係を追加できるのは、第 1 レベルのアクティブ化された計画間のみです。



この例は、別の有効化された計画 (ACP0010118) に依存する有効化された計画 (ACP0010119) を示しています。同様に、イベントタスク (EVNTSK0010326) は、その依存タスク (EVNTSK0010322) が完了した後にのみ開始できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳



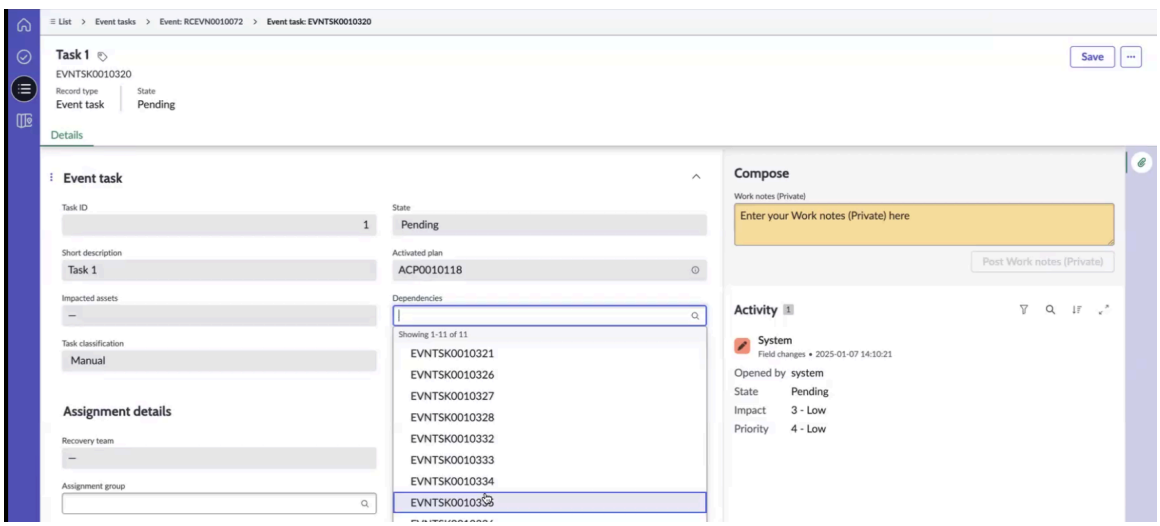
注:
プライマリ計画または関連計画のイベントタスクは、同じまたは別のプライマリ計画または関連計画のイベントタスクに依存関係として関連付けることができます。子計画のイベントタスクは、同じ子計画内の依存関係としてのみ関連付けることができます。

例に示すように、イベントタスクが更新されるたびに、イベントタスクが更新されたことを示すメッセージが表示されます。[更新] を選択すると、更新されたデータがロードされます。

タスクの依存関係は、プライマリ計画と関連計画に追加できますが、子計画には追加できません。子計画のイベントタスクの場合、依存関係は同じ子計画からのみ選択できます。たとえば、プラン 4 では、タスク 3 (EVNTSK0010331) は同じ子プラン内のタスク (EVNTSK0010329 と EVNTSK0010330) に依存します。



プライマリ計画および関連計画にタスクの依存関係を追加する場合、他のプライマリ計画または関連計画のタスクのみを [依存関係] フィールドで選択できます。



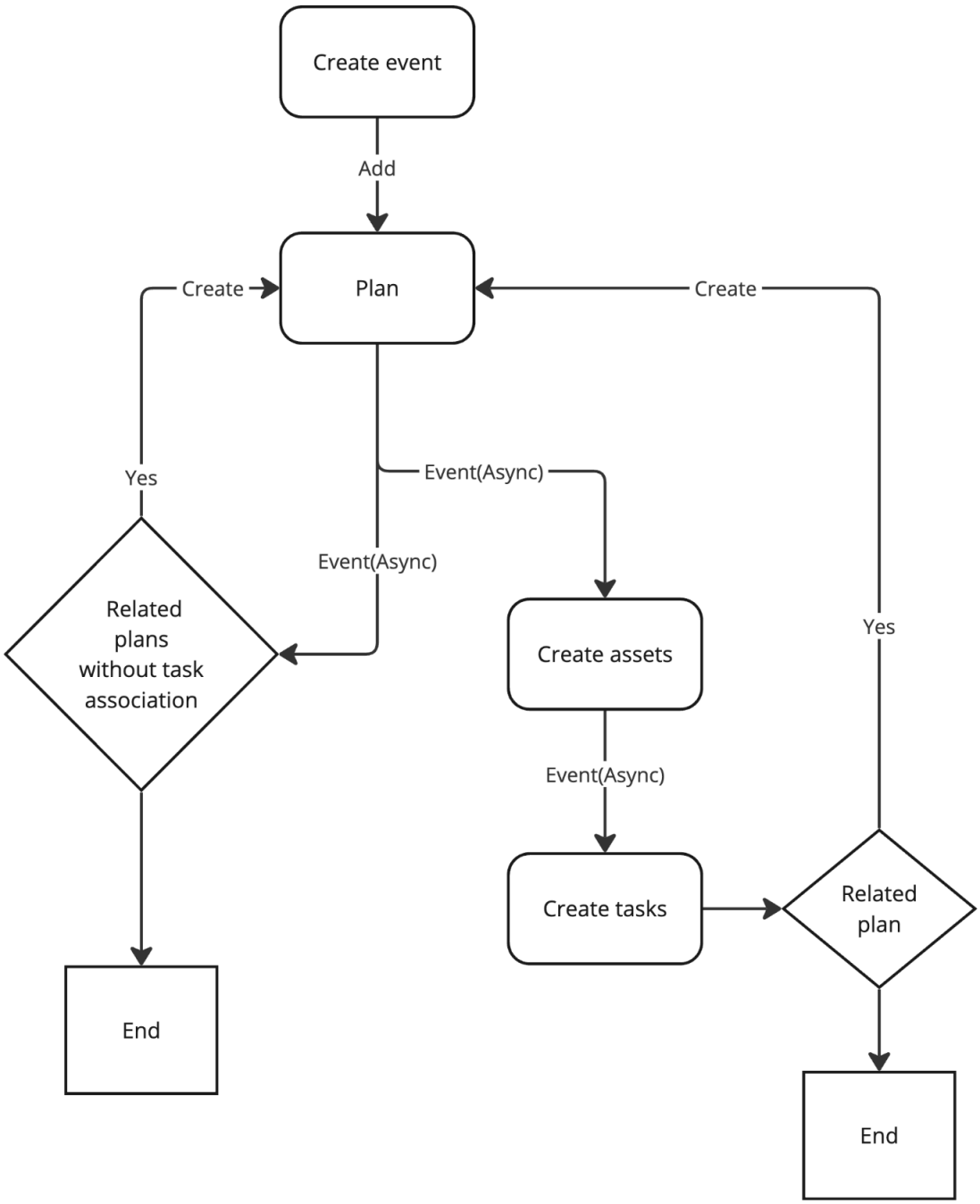
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

イベントタスクの順序を更新するプロパティの構成

タスクの依存関係が更新されるたびに、イベントタスクの順序が更新されます。500 を超えるイベントタスクが影響を受ける場合、順序は非同期に計算されます。*sn_recovery.sync_task_order_calculation_limit*プロパティは、非同期計算の制限をデフォルトで 500 タスクに設定します。タスク数がこの制限を超えて依存関係が更新されると、タスクオーダーの計算が非同期になり、イベント、イベントタスク、および有効化された計画に [タスクオーダーをリフレッシュ] ボタンが表示されます。このボタンを選択すると、イベントタスクオーダーが手動で更新されます。

ネストされた計画を作成するプロセス

以前は、関連計画は有効化されたプライマリ計画に対してのみ作成されていました。Yokohama リリース以降、関連する有効化された計画を、すべての有効化された計画タイプのイベントタスクから作成できます。ネストされた計画の作成例を次の図に示します。



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ネストされた計画を作成する手順は次のとおりです。

1. イベントを作成します。
2. 計画をイベントに追加します。有効化された計画は、計画タイプをプライマリとして設定して作成されます。
3. 関連計画を作成するイベントがトリガーされます。計画にタスクの関連付けのない関連計画があり、計画レベルがプロパティで定義されたデフォルト値よりも低い場合、タイプが関連計画として設定されたアクティブ化された計画が作成されます。
4. 1 つ以上のイベント資産を生成するイベントが作成されます。
5. 資産が作成されると、イベントがトリガーされてイベントタスクが作成されます。
6. イベントタスクに関連計画があり、そのレベルがプロパティで定義されたレベルより低い場合、タイプを子計画として設定された有効化された計画が作成されます。

影響を受ける資産の追跡と関連計画の追加

危機イベント中に、影響を受ける資産を追跡し、関連する計画を演習に追加します。BCM UIB ワークスペース で、危機イベント中に演習の資産と計画を監視できます。その後、計画ステージで資産を復旧できます。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.admin、sn_bcm.program_manager、または sn_bcm.planner

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで、次の場所に移動します: 危機イベント > 保留中 をクリックし、リスト内の危機イベントを選択します。
3. [資産] タブを選択し、[追加] を選択します。

   危機中に復旧する資産を追加できます。資産のプライマリ要素が [資産タイプ] として一覧表示されます。プライマリ要素は、計画テンプレートで識別される要素定義タイプに属します。資産をイベントに追加すると、関連する依存関係がイベントにプルされます。依存関係が [資産タイプ] パネルに表示されます。

   注:
   アプリケーションに対して [追加] を選択すると、そのアプリケーションのビジネスインパクトアナリシスで特定したすべての依存関係も演習に追加されます。

4. [アプリケーション] リストでアプリケーションを選択し、[計画] タブに移動します。
   計画を危機イベントに追加すると、計画に関連付けられている計画、資産、およびイベントタスクもイベントにプルされます。
5. [資産に関連するすべての計画を追加] を選択します。
   インスタンスで選択したアプリケーションに関連する計画がある場合、その計画が演習イベントに追加されます。
6. [保存] を選択します。
   危機イベントは [処理待ち] ステータスで保存されます。

危機イベントにタスクを追加する

BCM UIB ワークスペース で、危機イベントにタスクを追加します。そうすると、危機イベントに対応するために必要なアクションを監視して完了できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.planner、sn_bcm.program_manager

このタスクについて
イベントレコードへの編集アクセス権を持つユーザーは、復旧タスクリストの次のフィールドを同時に編集できます。

- ステータス
- アサイン先
- 実際の開始日
- 実終了日
- アサイン先グループ

詳細については、「危機イベントの構造化されたワークフロー」を参照してください。

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで、次の場所に移動します: 危機イベント > 保留中 をクリックし、リスト内の危機イベントを選択します。
3. [イベントタスク] タブを選択します。

   注:
   危機イベントの場合、イベントタイプは [実績]です。

   計画を危機イベントに追加または更新すると、計画に関連付けられている計画、資産、およびイベントタスクもイベントにプルされます。
4. アドホックタスクをイベントに追加するには、[新しいアドホックタスク] を選択します。

   注:
   危機イベントに対して是正処置を実行できるように、危機イベントにアドホックタスクが追加されます。[対応中] ステータスの危機イベントにアドホックタスクを追加すると、アクティブ化された計画が [対応中] ステータス の場合、タスクは [オープン] ステータスになります。アクティブ化された計画が [処理待ち] ステータス の場合、タスクは [処理待ち] ステータス になります。

   [新規イベントタスクの作成 (Create New Event Task)] フォーム内のフィールドの詳細については、「[新規イベントタスクの作成 (Create New Event Task)] フォーム」を参照してください。

   注:
   [完了してクローズ] または [未完了でクローズ] ステータスの有効化された計画に対してアドホックタスクを作成することはできません。

5. 危機イベントを開始するには、[イベントを開始]を選択します。
   イベントを開始すると、イベント状況が [対応中] に更新されます。

   注:
   イベントタスクに循環依存関係がある場合、このイベントのタスクを手動でトリガーする必要があります。

6. 最初のタスクを選択し、[トリガー]を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. 危機イベントのイベントタスクのすべての有効化された計画を完了し、[承認のため送信] を選択します。
8. PDF を生成するには、**[PDF** の生成] を選択します。
   危機イベントへの編集アクセス権がある場合は、イベントのコピーを PDF 形式でローカルハードドライブに保存できます。

   > **注:**
   > デフォルトでは、イベントがクローズされた後に PDF が生成されて添付されます。

9. [詳細] タブの [結果] セクションに移動し、イベントタスクの [実際の開始日] と [実際の終了日] を更新します。
10. 必要に応じてアサインフィールドを更新します。
11. [アクティビティ] セクションの [作業メモ] フィールドにイベントタスク関連情報を入力します。
12. [保存] を選択します。
13. 更新アイコン ( ) を選択して、資産または計画の更新されたステータスと、資産の復旧にかかった実際の時間を表示します。

自動タスクのインポートとイベントの開始

実際のイベントで事業継続性計画から自動タスクをインポートします。実際のイベント中に自動タスクを使用すると、効率が向上し、ユーザーの応答時間が短縮されます。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.planner、sn_bcm.program_manager

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで、次の場所に移動します: 危機イベント > 保留中 [新規] を選択します。
   [新規イベントを作成] フォームが表示されます。
3. [新規イベントを作成] フォームの [詳細] タブで、必須フィールドに入力します。

   > **注:**
   > 危機イベントの場合、イベントタイプは [実績]です。

   フィールドの詳細については、「[危機イベントの作成(Create Crisis Event)] フォーム」を参照してください。
4. ワークスペースビューの [計画] リストに移動し、イベントに関連付けられた計画を選択します。

   計画を選択すると、関連するタスクがイベントにプルされます。タスクは [イベントタスク] タブに表示されます。[イベントタスク] タブに表示されるタスク間に依存関係がある場合、通常は順番に実行されます。
5. [イベントを開始 **(Start event)]** を選択します。

   イベントを開始すると、依存関係がないイベントタスクが実行されます。タスクが完了すると、そのタスクに依存する後続のタスクが実行されます。たとえば、タスクが [未完了でクローズ] または [失敗してクローズ **(Closed failed)]** ステータスに移行した場合、タスクを選択してそのアクティビティの詳細を確認することもできます。画面にエラーメッセージが表示された場合は、それを調べて問題を特定し、適切な是正措置を講じることができます。たとえば、コード変数が正の値でなければならないことがエラーメッセージに示されている場合は、それに応じてコード変数を更新できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

タスクが [失敗してクローズ **(Closed failed)**] ステータスに移行すると、その依存タスクはトリガーされません。タスクが [未完了でクローズ] または [失敗してクローズ **(Closed failed)**] ステータスの場合は、自動フローでエラーが発生し、バックアップ担当者による手動の介入が必要であることを通知するメール通知がバックアップ担当者に送信されます。

6. [自動化を再トリガー **(Re-trigger automation)**] を選択します。
   自動フローがトリガーされ、もう一度実行されます。
7. 自動フローが再度失敗した場合は、[手動タスクとして再トリガー **(Re-trigger as a manual task)**] を選択します。
   タスクが [オープン] ステータスに移行します。

   a. イベントタスクを更新し、[対応中] を選択します。

   b. [完了してクローズ] を選択します。
      イベントタスクを手動で更新することもできます。タスクを [完了してクローズ] としてマークすると、後続のイベントタスクが自動的にトリガーされます。次のタスクが手動タスクの場合、そのタスクにアサインされたユーザーは、イベントタスクのワークフローの完了に進むことができます。

8. [保存] を選択します。
   その後、イベントタスクがインスタンス内に保存されます。

危機イベントでのアクションアイテムの作成

BCM リリース 9.0.x 以降、危機管理者は、危機イベントまたは演習中に、イベントがオープンである限り、いつでも復旧メンバーまたはチームのアクションタスクを作成できます。危機管理者は、これらのタスクをイベント資産や復旧計画にマッピングすることなく、その場で作成できます。これらのアクションタスクも、イベント復旧タイムラインには含まれません。

リアルタイムのアクションアイテム

アクションアイテムを使用して、リアルタイムでタスクをアサインできます。たとえば、危機管理者は、演習後に特定のオフィス所在地に負傷者がいないことを確認するアクションアイテムをアサインしたり、次のステップに進む前に事業継続性計画のレビューを誰かに要求したりできます。

アクションアイテムを使用して、危機イベント中にアセスメントを実施することもできます。たとえば、火災が発生した場合、アクションアイテムをアサインして状況を評価し、重大度を判断し、影響を受ける従業員と建物を特定できます。アセスメントを実行し、アクションアイテムをアサインすることができます。

アクションアイテムに関連付けられたフィールドとステータス

[アクションアイテム] タブには、アドホックタスクに関連する次の詳細が含まれています。

- 実開始日
- 実終了日
- 合計所要時間
- イベント (参照)
- 簡単な説明
- 説明
- 期日
- タスク番号

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

- タイプ
- タスク
- アセスメント

次のワークフロー (状況) がアクションアイテムに関連付けられています。

アクションアイテムに関連する状況

状況	説明
オープン	アクションアイテムの最初のステータス。
対応中	作業開始時のアクションアイテムのステータス。アクションアイテムが [対応中] ステータスに移行すると、その開始時間が自動キャプチャされます。
スキップ	関連しない場合のアクションアイテムの [アサイン済み] ステータス。アクションアイテムがスキップされ、関連性がないと見なされると、その時間フィールドが削除され、合計時間は 0 になります。
クローズ (完了、未完了)	アクションアイテムタスクの最終ステータス。アクションアイテムが完了すると、終了時間が自動キャプチャされます。

BCM マネージャーまたは計画者は、アクションアイテムを更新し、それらに関連付けられたアドホックタスクを再オープンできます。

次のフィールドを使用して、アクションアイテムタスクをグループまたはチームメンバーにアサインできます。

- **Assignment group** (アサイン先グループ)
- アサイン先
- 他の受託者リスト

イベントタスクとアクションアイテムの比較

アクションアイテムは、危機およびイベントのイベントタスクとは異なります。次の表に、イベントタスクとアクションアイテムの違いの概要を示します。

イベントタスクとアクションアイテムタスクの比較

フィールド/クライテリア	イベントタスク	アクションアイテム
詳細	• 簡単な説明 • 説明 • タスク番号 • 依存関係 • アクティブ化された計画	• 簡単な説明 • 説明 • タスク番号 • タイプ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

イベントタスクとアクションアイテムタスクの比較 (続く)

フィールド/クライテリア	イベントタスク	アクションアイテム
	• 影響を受ける資産 • タスク ID	
アサイン	• アサイン先グループ • アサイン先 • 復旧チーム • 他の受託者リスト	• アサイン先グループ • アサイン先 • 他の受託者リスト
アクセス	• 計画オーナー、プログラムマネージャーは、アクションアイテムを作成/更新/削除できます。 • イベント復旧メンバーは、自分にアサインされているアクションアイテムの読み取り/更新ができます。	• 計画オーナー、プログラムマネージャーは、アクションアイテムを作成/更新/削除できます。 • イベント復旧メンバーは、自分にアサインされているアクションアイテムの読み取り/更新ができます。
ワークフロー	保留中 -> オープン -> 対応中 -> スキップ -> クローズ (完了、未完了、失敗)	オープン -> 対応中 -> スキップ -> クローズ済み (完了、未完了)
依存関係	はい	いいえ
自動化	はい	いいえ
順序	はい。順序は依存関係に基づいて自動計算されます。	いいえ、アクションアイテムタスクの順序は計算されません。
時間計算	はい。イベントタスクの時間は、有効化された計画と影響を受ける資産にロールアップされます。	いいえ。イベントタスクの時間はアクションアイテムタスクにロールアップされません。

アクションアイテムに関連付けられたロール

次のロールがアクションアイテムに関連付けられています。

アクションアイテムタスクに関連付けられたロール

ロール	説明
計画オーナー	計画オーナーがイベントオーナーである場合は、アクションアイテムを作成、読み取り、更新、削除できます。
プログラムマネージャー	すべてのイベントのアクションアイテムを作成、読み取り、更新、および削除できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクションアイテムタスクに関連付けられたロール (続く)

ロール	説明
閲覧者	すべてのアクションアイテムを読み取ることができます。
復旧イベント/計画オーナー	アサインされているすべてのアクションアイテムを読み取り、更新できます。

タスクとアセスメントタイプのアクションアイテムを作成

危機イベントと危機 スマートアセスメント の統合を使用して、危機イベントに関連する必要なアクションアイテムを作成します。アクションアイテムのタイプは、タスクタイプとアセスメントタイプにすることができます。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.planner、sn_bcm.program_manager

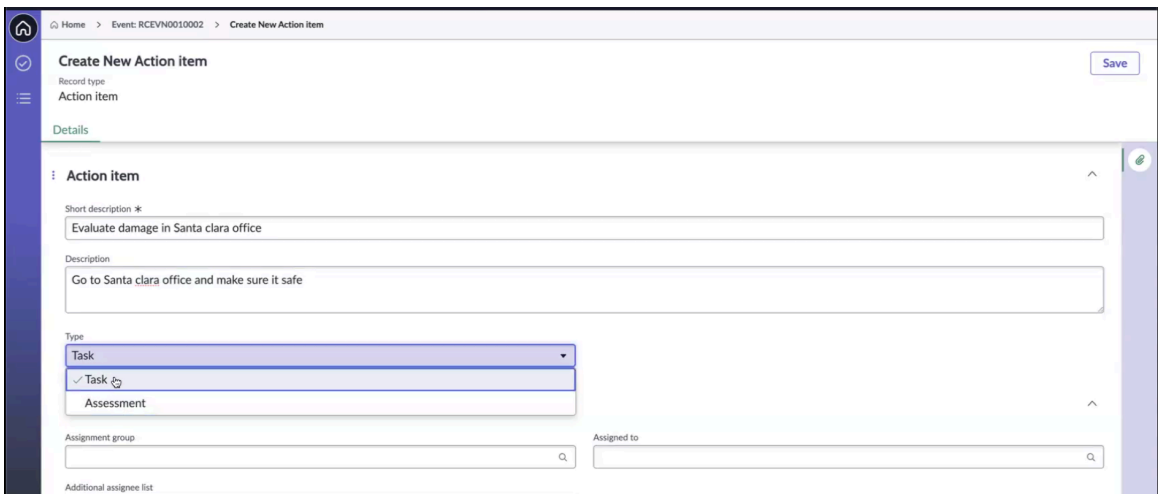
このタスクについて

危機イベントをスマートアセスメントエンジンと統合するためのスマートアセスメントテンプレートが作成されていることを確認します。

手順

1. リストビューで、次の場所に移動します: 危機イベント > 保留中 をクリックし、リスト内の危機イベントを選択します。
2. ホームページまたはイベントを作成してイベントページから危機イベントを報告します。
   a. イベントの説明を追加します。
   b. [アサイン先] フィールドを更新して、ユーザーにアサインします。
   c. **[Save** (保存)] を選択します。
   アプリケーションでイベントが作成されます。イベントの開始前でも、[アクションアイテム] タブを更新することで、イベントに関連するアクションアイテムを作成できます。
3. イベントの アクション アイテム タブで、 新規 を選択します。

   [新規アクションアイテムを作成] フォームが表示されます。



4. フォームで、フィールドに入力します。
   各フィールドの説明については、「危機イベントの [新規アクションアイテムを作成] フォーム」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

a. アクションアイテムの説明と簡単な説明を追加します。

b. [タスク] または [アセスメント] を選択して、アクションタスクのタイプを選択します。

c. アサイン先グループまたはチームメンバーと追加のアサイニーリストを追加します。

d. [タイムライン] セクションで期日を割り当てます。

e. [Save (保存)] を選択します。
アクションアイテムレコードが [オープン] ステータスで作成され、アクションアイテムがイベントの [アクションアイテム] タブに表示されます。

5. アクションアイテムが不要な場合にスキップするには、[タスクをスキップ] を選択します。

6. アクションアイテムをタスクとして処理するには、[タイプ] フィールドで [タスク] を選択します。

a. アクションアイテムタスクを処理するには、[対応中] を選択します。
アクションアイテムのステータスが [対応中] に更新されます。アクションアイテムタスクの実際の開始日時が記録され、[アクションアイテム] タブの [実際の開始] 列に表示されます。

b. アクションアイテムタスクを完了するには、アクションアイテムレコードで [完了してクローズ] を選択します。
アクションアイテムのステータスが [完了してクローズ] に更新されます。アクションアイテムタスクにかかった実際の終了日時は自動的にキャプチャされ、[アクションアイテム] タブの [実際の終了日] 列と [実際の所要時間] 列に表示されます。

7. アクションタスクをアセスメントとしてマークするには、[新規アクションアイテムの作成] フォームの [タイプ] フィールドでそのタイプを [アセスメント] として選択します。

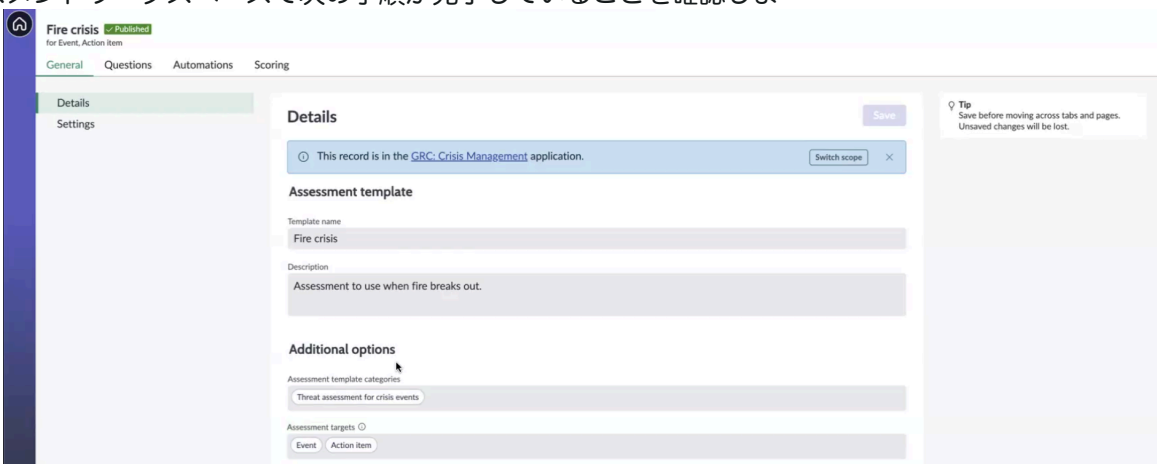
a. [アセスメントテンプレート] フィールドでアセスメントテンプレートを選択します。

アクションタスクをアセスメントとして選択すると、[アセスメントテンプレート] フィールドがフォームに表示されます。アプリケーションは スマートアセスメント を使用してアセスメントを実行します。BCM アドミニストレーターが スマートアセスメントエンジン を使用して、必要なテンプレートを事前にアセスメントワークスペースに作成していることを確認します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
目的の スマートアセスメント テンプレートを 事業継続性ワークスペースのアクションアイテムフォームのドロップダウンに表示するには、 アセスメントワークスペースで次の手順が完了していることを確認します。



i. [詳細] セクションで、例に示されている火災危機テンプレートなど、必要なテンプレートを選択します。

ii. [アセスメントテンプレートカテゴリ] フィールドで [危機イベントの脅威アセスメント] カテゴリを選択します。別のカテゴリを選択すると、目的のテンプレートが 事業継続性ワークスペースに表示されません。

iii. [アセスメントターゲット] フィールドで、ターゲットとしてイベントとアクションアイテムを選択します。

iv. アセスメントを読むには、[設定] セクションの [アセスメントリーダーロール] フィールドで、コアビューアー (sn_bcm.core_viewer) などのリーダーロールを最小ロールとして指定します。通常、コアビューアー (sn_bcm.core_viewer) ロールは、すべてのロールで共有されるため、指定されます。

v. アセスメントテンプレートを公開します。
これらの条件が満たされた場合にのみ、アクションアイテムフォームのドロップダウンでテンプレートを選択できます。

スマートアセスメントテンプレートの設定については、「アセスメントテンプレートを作成する」を参照してください。

b. アサイン先グループまたはチームメンバーと追加のアサイニーリストを追加し、タイムラインを選択してレコードを保存します。

c. アクションアイテムアセスメントの作業を続行するには、[対応中] を選択します。

d. 別のユーザーとしてアセスメントへの応答を表示するには、 [応答の表示] を選択します。

e. アサイニーとしてアセスメントに回答するには、[アセスメントを実施] を選択します。

f. すべての質問に回答し、[送信] を選択します。

g. 回答をレビューしたことを確認し、モーダルでもう一度 [送信] を選択します。
応答が送信され、確認が画面に表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

h. アクションアイテムのアセスメントを完了するには、[完了してクローズ] を選択します。
アクションアイテムアセスメントのステータスが [完了してクローズ] に更新されます。

8. アクションタスクを再トリガーするには、[再トリガー] を選択します。
9. アクションタスクを保存するには、[保存] を選択します。
このステップにより、アクションアイテムレコードのワークフローが完了します。

危機イベントの [新規アクションアイテムを作成] フォーム

BCM 構成可能ワークスペースの [新規アクションアイテムを作成] フォームを使用して、危機イベントに関するアクションアイテムを追加します。

新しいアクションアイテムの作成フォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

新しいアクションアイテムの作成フォーム

フィールド	説明
[詳細] タブ	
番号	アクションアイテムレコードに自動的に割り当てられる番号 (EVNITM0010020 など)。
簡単な説明	アクションアイテムの簡単な説明。
説明	アクションアイテムの詳細な説明。
状況	アクションアイテムレコードの自動アサインステータス。
タイプ	選択するアクションアイテムのタイプ。利用可能なオプションは次のとおりです： • タスク • アセスメント
アセスメントテンプレート	スマートアセスメントエンジンに基づくテンプレート。
割り当ての詳細	
アサイン先グループ	アクションアイテムがアサインされているアサイン先グループ。
他の受託者リスト	アクションアイテムの追加担当者リスト。
アサイン先	アクションアイテムがアサインされているユーザー。
タイムライン	
実開始日	アクションアイテムの実際の開始日時。
実際の所要時間	アクションアイテムにかかった実際の時間 (日、時間、分、秒)。
作業終了日時	アクションアイテムの実際の終了日時。
期日	アクションアイテムの期日。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

危機における類似のタスクグループの作成

[類似のタスクグループ] タブを使用して、危機イベントに関連する類似のタスクまたは重複タスクを特定してグループ化します。類似のタスクをグループ化することで、イベントタスク管理を最適化し、冗長な作業を最小限に抑えることができます。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.planner、sn_bcm.program_manager

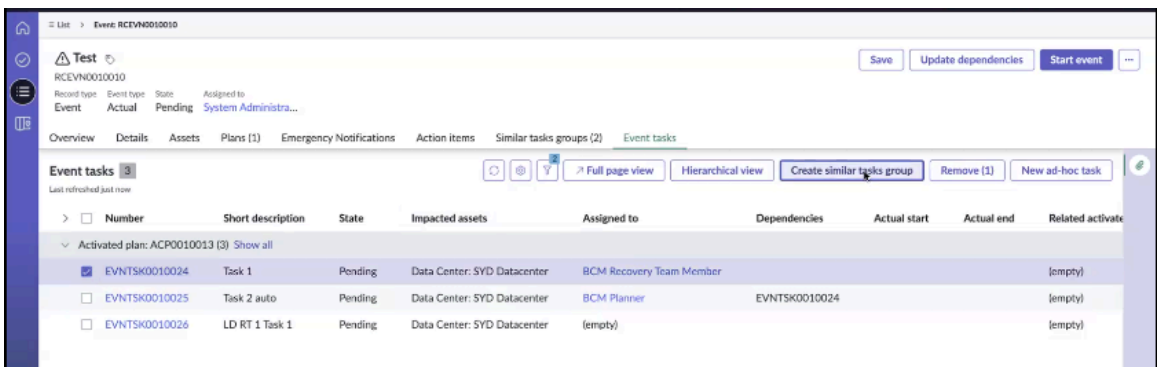
このタスクについて
類似のタスクグループを作成し、イベントの [ドラフト] ステータスでのみタスクを追加できます。

重複するイベントタスクの識別とグループ化については、 イベント内の類似イベントタスクのグループ化を参照してください。

類似のタスクグループ内のイベントタスクのステータス変更については、「 グループ内のイベントタスクのステータス変更」を参照してください。

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース > 訓練 > 保留中 をクリックし、リストからイベントを選択します。
2. 類似のイベントタスクグループを作成するには、次のいずれかのオプションを使用します。
   - [イベントタスク] タブで類似のイベントタスクを選択し、[類似のタスクグループを作成] UI アクションを選択します。

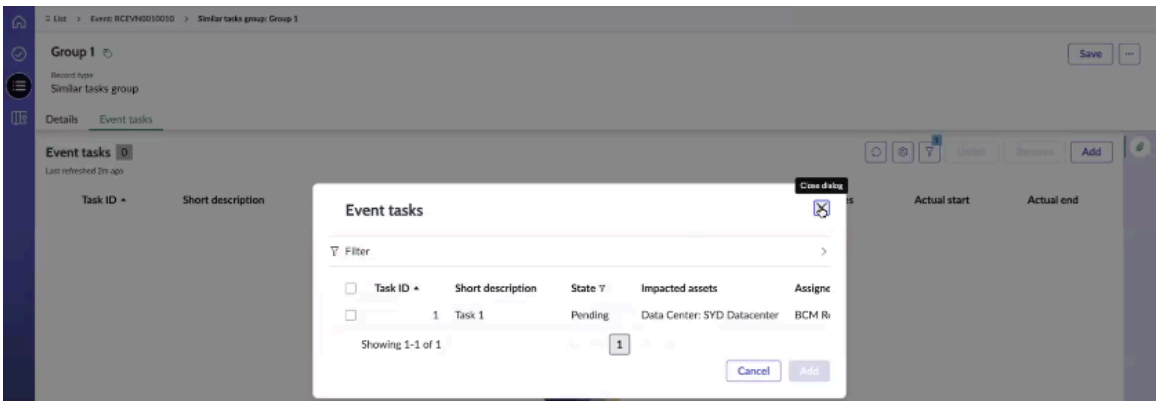


   a. [類似のタスクを作成] グループで、グループの名前を追加し、[作成] を選択します。
   b. グループが作成され、[類似タスクグループ] リストに表示されていることを確認します。
   - 次の手順を実行して、[類似のタスクグループ] タブからイベントタスクを追加します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

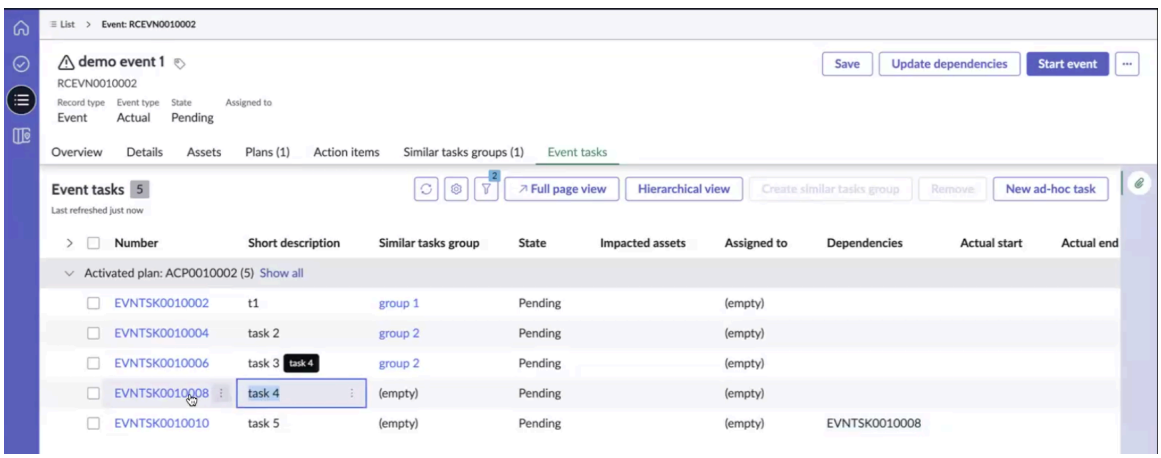
a. 類似のタスク グループ タブで 新規 を選択し、保存 を選択します。



b. グループの [イベント タスク] タブで [追加] を選択し、タスクの一覧から該当するタスクを選択して [追加] を選択します。
該当するイベントタスクが [類似のタスク] グループに追加されます。

> **注:**
> [イベントタスク] タブで [追加] を選択すると、該当するイベントタスクのみがモーダルに表示され、循環依存関係を防ぐことができます。

依存関係のあるイベントタスクを類似のタスクグループに追加するために、循環依存関係の検証チェックが実行されます。イベントタスクとその依存イベントタスクを同じ類似のタスクグループに追加することはできません。たとえば、タスク 4 をイベントタスクグループに追加し、タスク 5 がタスク 4 に依存している場合、例に示すように、タスク 5 をタスク 4 と同じグループに追加することはできません。



イベントが開始されると、システムは最初に実行されたイベントタスクを元のタスクとして識別します。他の類似タスクは、グループ内の重複タスクとしてマークされます。

> **注:**
> 類似タスクグループの [元のタスク] フィールドは、イベントタスクの実行開始時に自動的にアサインされ、手動で編集することはできません。

イベントが開始されると、依存関係のあるタスクは、その依存関係が解決されるまで [処理待ち] ステータスのままになります。この例のEVNTSK0010008などの依存関係がクローズされると、タスクは [保留] ステータスに移行します。

3. グループからイベントタスクを削除するには、[類似タスク] グループレコードで [リンクを解除] を選択します。
イベントタスクが [類似タスク] グループから削除されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

4. イベントタスクを削除するには、[削除] を選択します。
   イベントタスクがイベントから削除されます。

承認を要求して危機を承認する

BCM UIB ワークスペース での危機イベントを承認

始める前に

必要なロール：sn_bcm.planner、sn_bcm.program_manager

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで、次の場所に移動します: 危機イベント > 保留中 をクリックし、リスト内の危機イベントを選択します。
3. イベントの承認者としてログインし、リストビューでイベントを選択します。
4. [承認のため送信] を選択します。
5. [承認] を選択します。
6. [保存] を選択します。
7. [完了してクローズ] を選択します。
   イベントの状況を [完了してクローズ] に更新できます。
8. [未完了でクローズ] を選択します。
   イベントの状況を [未完了でクローズ] に更新できます。

の構造化ワークフロー クライシスマップ

BCM 構成可能ワークスペース の クライシスマップ インターフェイスを使用して、組織のビジネスオペレーションに対する潜在的な脅威に関するアラートを受信できます。そうすることで、応答ワークフローを開始してアラートを管理できます。

通常、BCM プログラムマネージャーは、クライシスマップ インターフェイスからアラートを管理するために次のタスクを実行します。

- クライシスマップでアラートを管理する。詳細については、「マップインターフェイスからのアラートの管理」を参照してください。
- クライシスマップ でコントロールを設定して、アラートをカスタマイズする。詳細については、「アラートをカスタマイズするためのコントロールの設定」を参照してください。
- クライシスマップでリソースレイヤーのクラスタリングを表示する。詳細については、「レイヤークラスタリングを選択」を参照してください。
- クライシスマップの影響を受ける領域内の資産を監視する。詳細については、「影響を受ける領域内の資産の監視」を参照してください。
- 危機管理の応答ワークフローを開始する。詳細については、「応答ワークフローの開始」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライシスマップ に関する追加情報

- BCM 構成可能ワークスペース の クライシスマップ ビューの詳細については、「クライシスマップ ビュー」を参照してください。
- クライシスマップ での脅威、フィード、アラートの詳細については、「クライシスマップインターフェイス」を参照してください。
- クライシスマップ での管理タスクの詳細については、「クライシスマップのセットアップ」を参照してください。

UIBページを採用してパフォーマンスを向上させる

Yokohama リリース以降、クライシスマップ アプリケーションはUI ビルダー (UIB) ページでビルドされるようになりました。以前は、使い捨てコンポーネントでは、ユーザーインターフェイス (UI) のカスタマイズ、フィルターの追加、 クライシスマップのデザインの変更を行う機能が制限されていました。UIBページを採用することで、実装を完全に制御できるようになり、特定のユースケースのサポートを拡張できます。

以前のリリースで使用されていたシングルユースコンポーネントの制限

クライシスマップアプリケーションのシングルユースコンポーネントには、いくつかの制限がありました。

- 構成の柔軟性の欠如:コンポーネントが構成用に開かれていなかったため、ユーザーインターフェイス (UI) をカスタマイズするオプションが制限されていました。
- カスタマイズオプションの制限:カードなどの要素のデザインを変更したり、さまざまなフィルターやソートオプションを追加したり、ページ上の他の機能を更新したりする機能が制限されました。
- 調整の制限:特定のニーズに合わせてアプリケーションを調整する機能が制限されていました。

UIBページを採用するメリット

クライシスマップアプリケーションにUIBページを採用すると、次のようなメリットがあります。

構成の柔軟性

UIBページでは実装を完全に制御でき、独自のユースケースに合わせて拡張できます。また、開発作業を最小限に抑え、より多くの構成オプションを提供するのにも役立ちます。アラートは、ステータス (アクティブまたは非アクティブ)、重大度レベル、場所 (リージョン)、およびソースに基づいてフィルタリングできます。このセットアップにより、アラートの詳細の微調整、検索の実行、およびアクションの編集が可能になり、マップ上のアラートと資産の両方を簡単に見つけることができます。さらに、[詳細] カードでアラートのセカンダリ値を設定できます。

アクセシビリティ

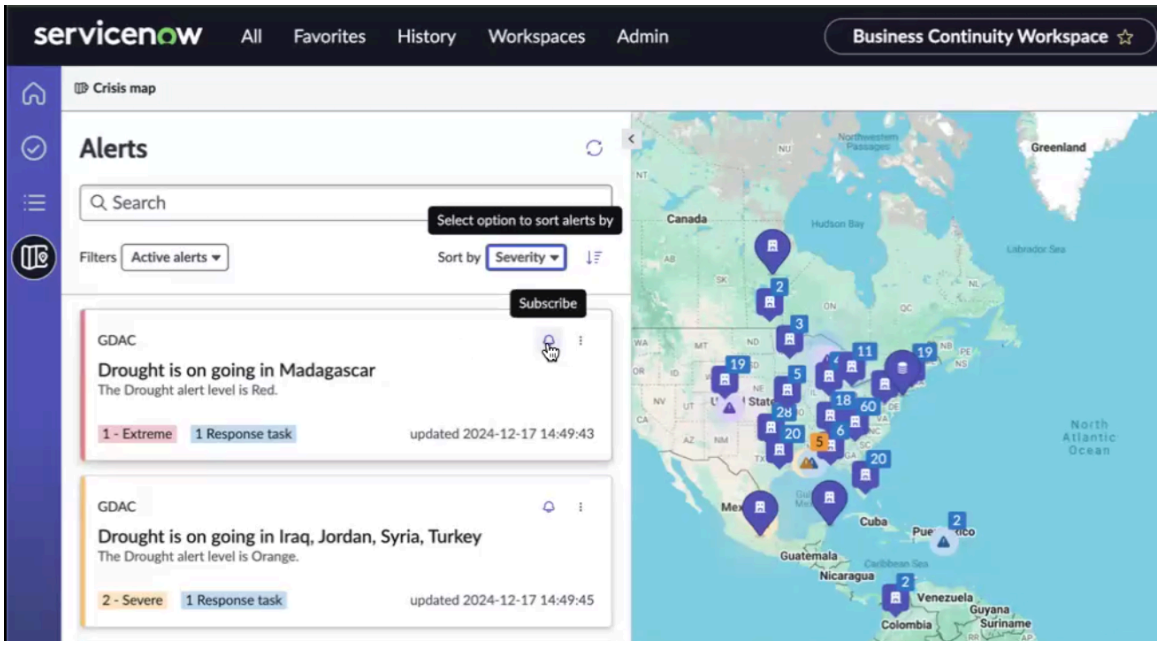
以前にマップに使用されていた FAM マップ [sn-fam-map] コンポーネントが古くなり、新しい更新や欠陥の修正がサポートされなくなりました。また、さまざまなアクセシビリティの問題もありました。FAM マップ [sn-fam-map] コンポーネントを ジオマップ コンポーネントに置き換えると、古いコンポーネントは廃止されたため、これらのアクセシビリティの問題に対処して新機能を実装できます。

アラートに対するアクション

図に示すように、 クライシスマップ アプリケーションには、アラートのリスト、重大度によるソート、場所、ベンダー、データセンターなどのリソースの表示などの拡張機能が含まれるようになりました。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



アラートに対するアクション:マップ内のアラートに対して次のアクションを実行できます。

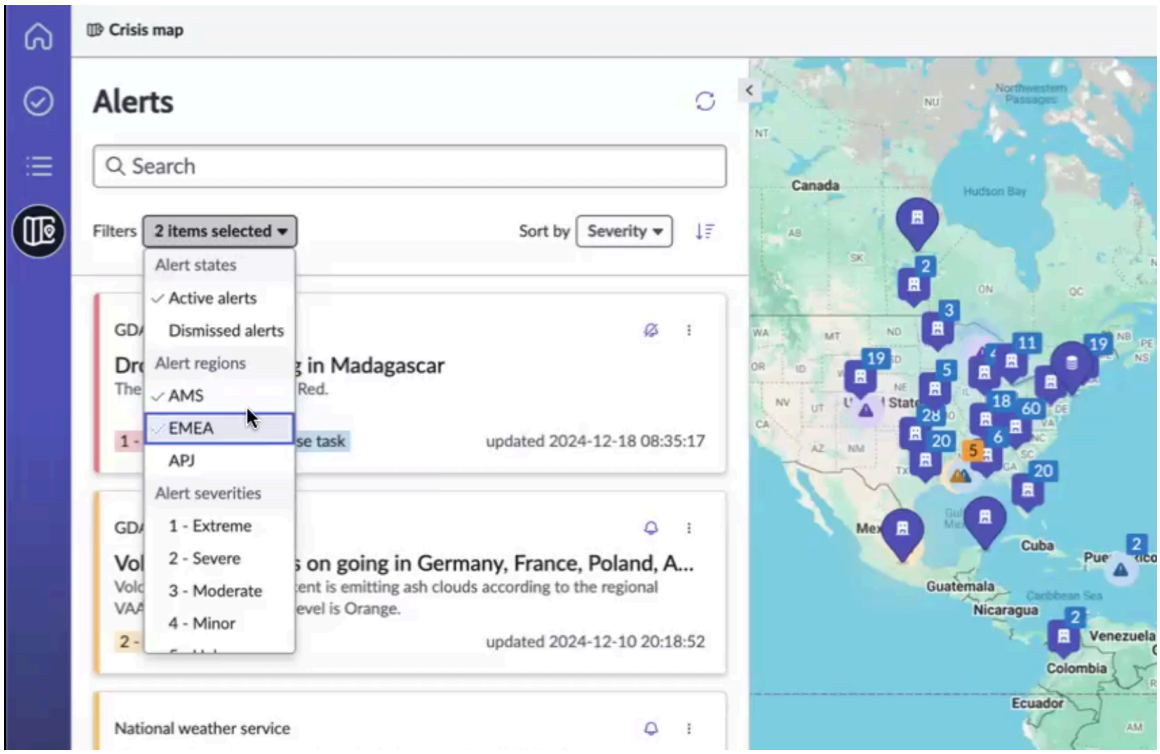
- [ソート基準] オプションを選択して、 アラートを [重大度]、[作成済み]、および [更新済み] オプションでソートします。ソートアイコン [ ] を使用して、アラートを昇順または降順でソートすることもできます。
- アラートを登録するには、[登録] アイコンを選択します 「 アラートを購読済み:マダガスカルで干ばつが進行中です (Alert subscribed: Drought is ongoing in Madagascar)」などのサブスクリプション通知が画面に表示されます。
- [ ] を選択します。 アイコンをクリックすると、アラートを開いたり閉じたりできます。アラートに関連するアクションは記録され、アラートレコードの [アクティビティ] パネルに表示されます。

アラートの追加フィルター

地域や重大度などのマップ上の追加のフィルターにより、アラートの可視化が向上します。以前は、アクティブなアラートと却下されたアラートの間でのみフィルタリングできました。例に示すように、アラートをフィルタリングするオプションが増えました。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



1. アラートステータス:アクティブアラートや却下アラートなどのステータス別にアラートをフィルタリングします。
2. アラートリージョン:南北アメリカ、南北アメリカと EMEA の両方など、地域別にアラートをフィルタリングします。
3. アラート重大度:アラートを重大度 (赤、赤と黄の両方など) でフィルタリングします。
4. 検索機能:複数のフィールドを検索してアラートをフィルタリングします。
   - ソース:GDAC などのソースを検索すると、GDAC フィードからのすべてのアラートが表示されます。
   - アラート名:特定のアラート名 (マダガスカルスターなど) を検索します。
   - 重大度:アラートを、極度、重大、中、マイナー、不明などの重大度レベルで検索します。
   - 説明:特定の説明または説明のフレーズを使用して、アラートを検索します。たとえば、強度のレベルを検索すると、説明にこのフレーズを含むアラートが表示されます。

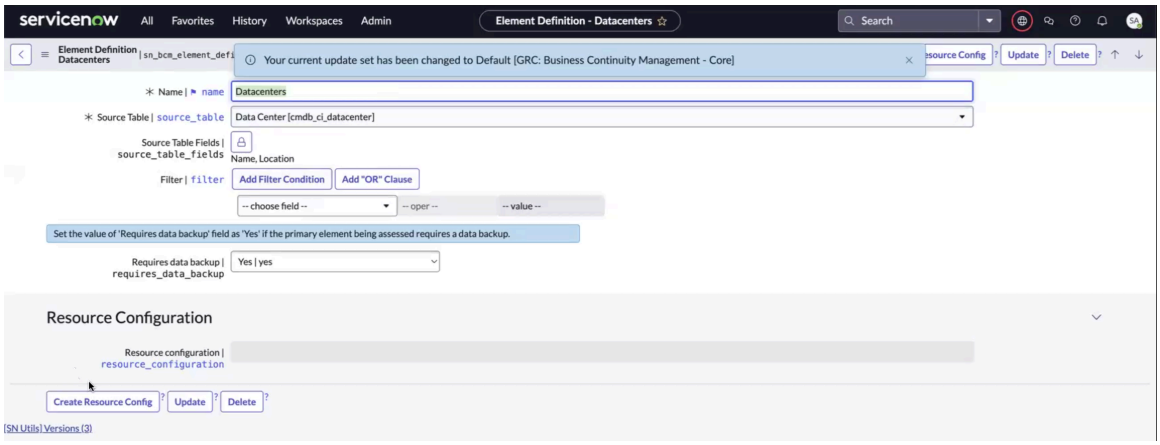
これらの新しいフィルターと検索オプションにより、ページに表示されるアラートをより柔軟に制御できます。

リソース構成

カスタムアイコンとフィールド:場所やベンダーなどのマップ上のリソースは、アイコン、テーブル、場所フィールドを指定するオプションを使用して、 BCM 要素定義テーブルで定義されます。例に示すように、要素定義レコードを更新してリソースを追加すると、データセンターリソースがマップに追加されます。

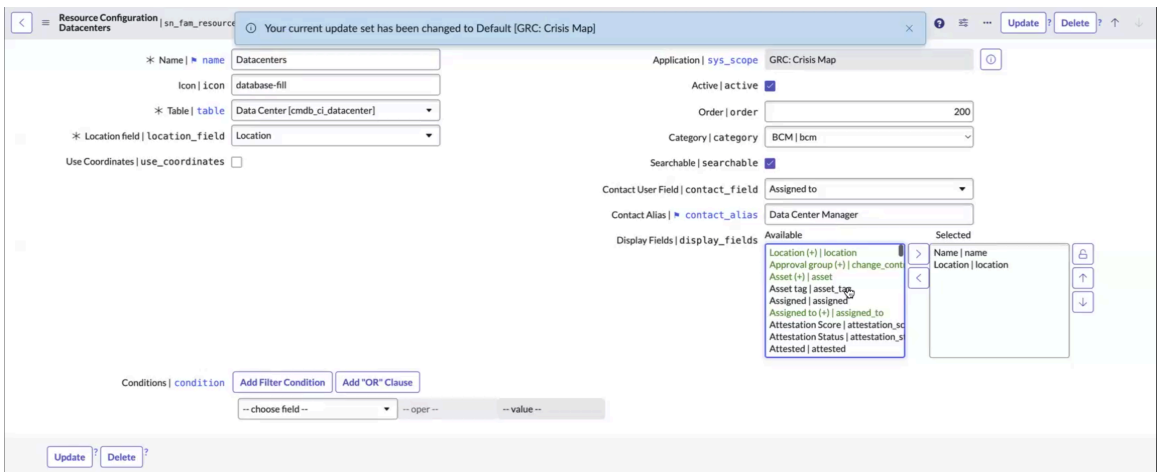
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



BCMカテゴリ内のアクティブなリソースのみが表示されます。また、名前、場所、追加情報など、リソースを選択したときに表示するフィールドを設定することもできます。

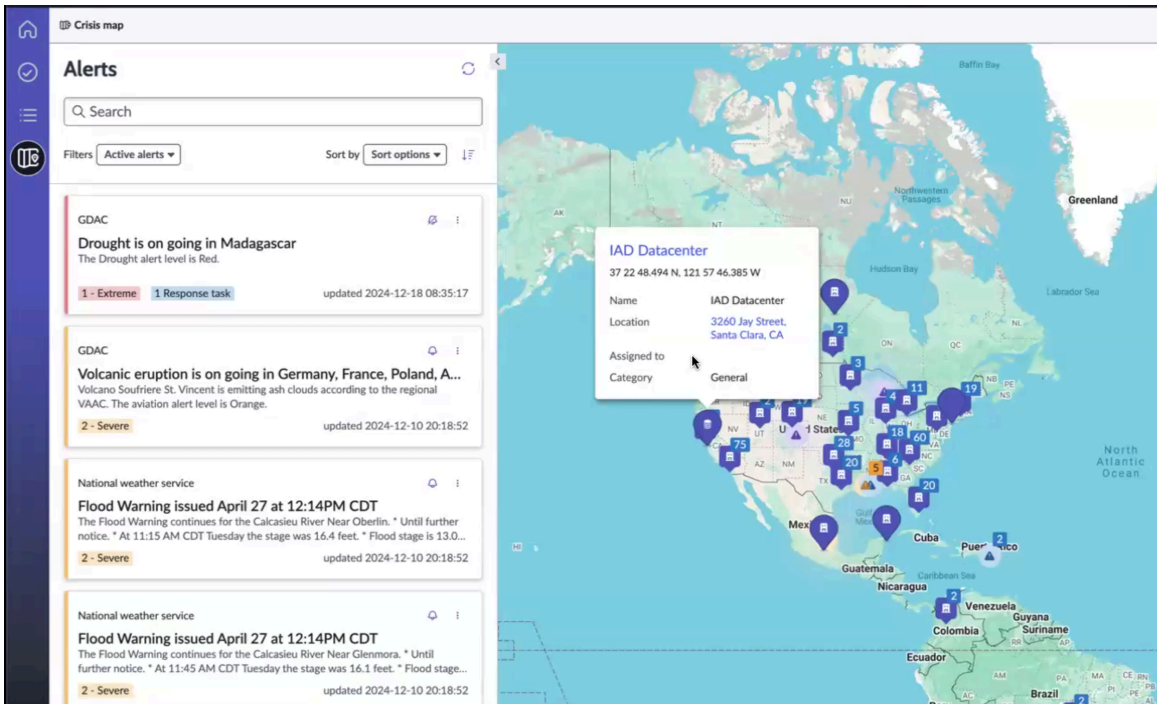
リソース構成の表示 フィールドは 、マップに表示される情報をカスタマイズするために使用されます。[アサイン先] や [カテゴリ] などのフィールドを追加して、データセンターに割り当てられたユーザーとカテゴリを表示できます。不要になったフィールドを削除することもできます。さらに、フィルター条件を追加して、特定の基準に一致するレコードのみを表示することもできます。たとえば、特定の名前のフィルターを設定すると、例に示すように、その名前に一致するデータセンターのみが表示されます。



この条件は、関連するフィールドを表示し、マップ内のデータの焦点を絞ったビューを分析するのに役立ちます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



BCM リリース 9.0.x 以降、クライシスマップ アプリケーションが拡張されました。マップに 10,000 を超えるリソースを表示できるようになりました。同様に、アプリケーションは 1,000 件を超えるアラートをパフォーマンスの問題なしに処理します。

クライシスマップ でリソース構成を作成する方法については、「リソース構成レコードの構成」を参照してください。

アラートの詳細ページ

アラートを選択すると、アラートの緯度と経度を中心とする小さなエリアにマップがズームインし、特定の場所に焦点を合わせたビューが提供されます。

アラートの詳細には、アラートに関する追加情報が表示されます。

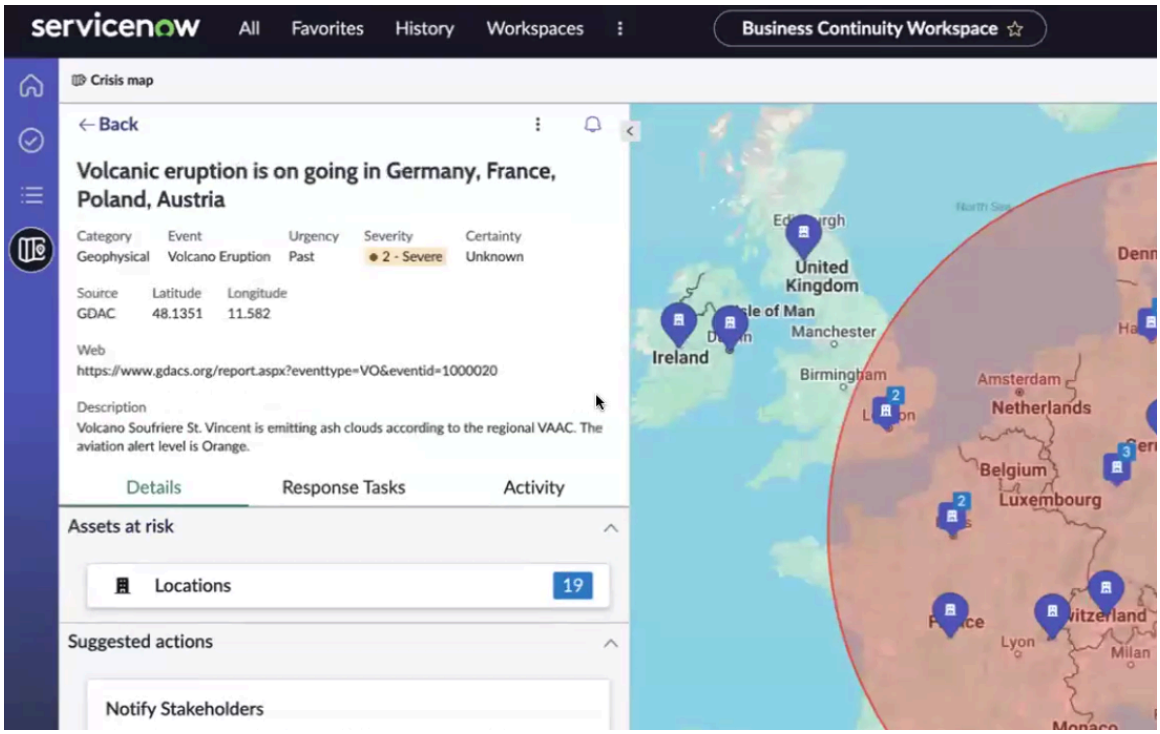
1. アラート名
2. ワークスペース内の値と同様のセカンダリ値。

BCM リリース 9.0.x 以降、アラートにページネーションが追加され、ユーザーの読みやすさが向上しました。

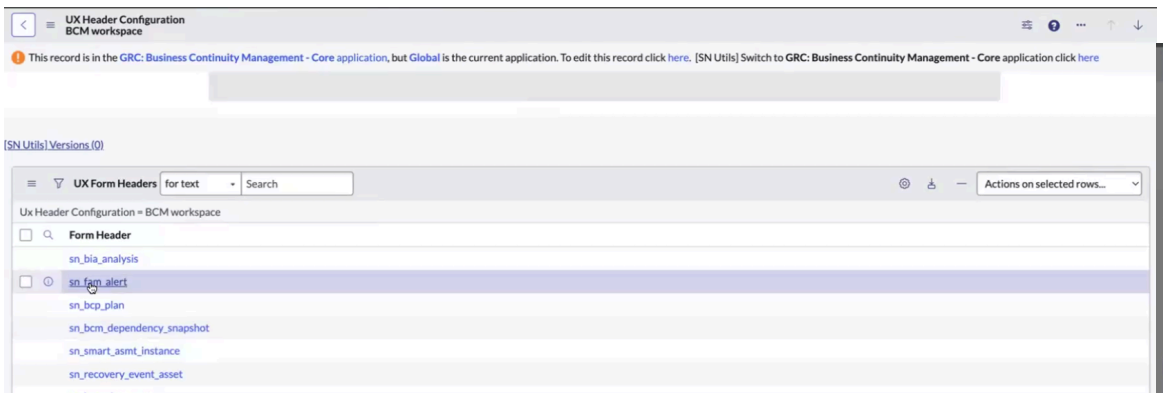
これらのセカンダリ値が構成可能になりました。以前は修正されていましたが、ニーズに合わせてカスタマイズできるようになりました。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



これらのセカンダリ値を設定するには、 **UX** ヘッダー構成 > **BCM** ワークスペース > **UX** フォームヘッダー **(sn_fam_alert)**. サンプル構成に示すように、変更するアラートを選択し、表示または削除するセカンダリ値を選択できます。



フォームヘッダーの詳細については、「Set up a form header in Configurable Workspace」を参照してください。

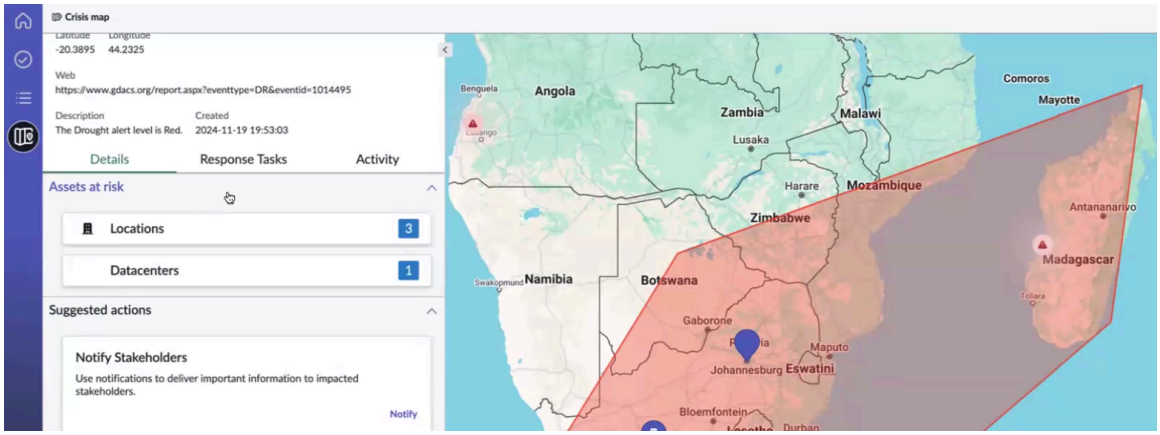
ズームとフォーカス:アラートを選択すると、アラートの場所を中心とする小さなエリアにマップがズームされます。

構成可能なセカンダリ値:アラートの詳細ページに、緊急度、重大度、カテゴリなどの構成可能なセカンダリ値が含まれるようになり、表示にフィールドを追加できるようになりました。セカンダリ値は、リスト内のすべてのアラートに適用されます。

[リスクのある資産] セクションは、アラートの [詳細] タブに表示されます。[応答タスク] タブには、応答タスク番号、タイトル、ステータス、アサイン先、作成日などのセカンダリ値が表示されます。

例に示すように、[リスクのある資産] セクションには、アラートに関連付けられているすべての資産の概要が表示されます。各要素定義を選択してリスクのある資産を表示し、特定のアラートに対してリスクのある資産を監視できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



アラートに対して提案されたアクションが [アラート] パネルに表示されます。これらのアクションには、ステークホルダーへの通知 (メールを送信する機能を使用)、応答タスクの作成、危機イベントのクリアなどのステップが含まれます。カスタムアラートアクションは、スクリプトを使用して実装することもできます。

カスタムアラートアクション

カスタムアラートアクションを追加するには、[アラートアクション] セクションで検索します。ユーザー入力のモデルを含む 2 つのベースシステムアラートアクションが提供されます。カスタムアラートアクションの場合、独自のスクリプトを実装できますが、現時点では、これらのスクリプトは入力やカスタムモデルなしで実行されます。

たとえば、[スクリプトをテスト] アクションを選択すると、入力なしでスクリプトが実行されます。ログをチェックして、スクリプトが実行されたことを確認できます。ログには、テストスクリプトアラートアクションが実行されたことを示すメッセージが表示されます。

アラートアクションのカスタムスクリプトを追加できます。また、システムはベースシステムとカスタムアクションの両方をサポートしています。この移行により、ユーザーの クライシスマップ アプリケーションの構成、アクセシビリティが向上し、将来的にサポートできるようになります。アラートアクションの詳細については、「 アラートアクションの設定」を参照してください。

ユーザーエクスペリエンスとアクセシビリティの向上

以前の クライシスマップ リリースのさまざまなアクセシビリティの問題は、 ジオマップ [sn_geo_map] コンポーネントの実装によって解決され、FAM マップ [sn-fam-map] コンポーネントが置き換えられ、ユーザーエクスペリエンスが向上しました。

マップインターフェイスからのアラートの管理

クライシスマップインターフェイスからアラートを管理して、資産の場所を基準とした脅威とその地理的位置を特定し、影響を受ける領域を開く、閉じる、編集する、または変更を元に戻すオプションを選択します。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin または sn_bcm.program_manager

このタスクについて
クライシスマップインターフェイスは、パフォーマンスの問題なしに 10,000 を超えるリソースと 1,000 を超えるアラートを処理できるように最適化されています。

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで、[危機マップ] アイコンを選択します。

自動翻訳

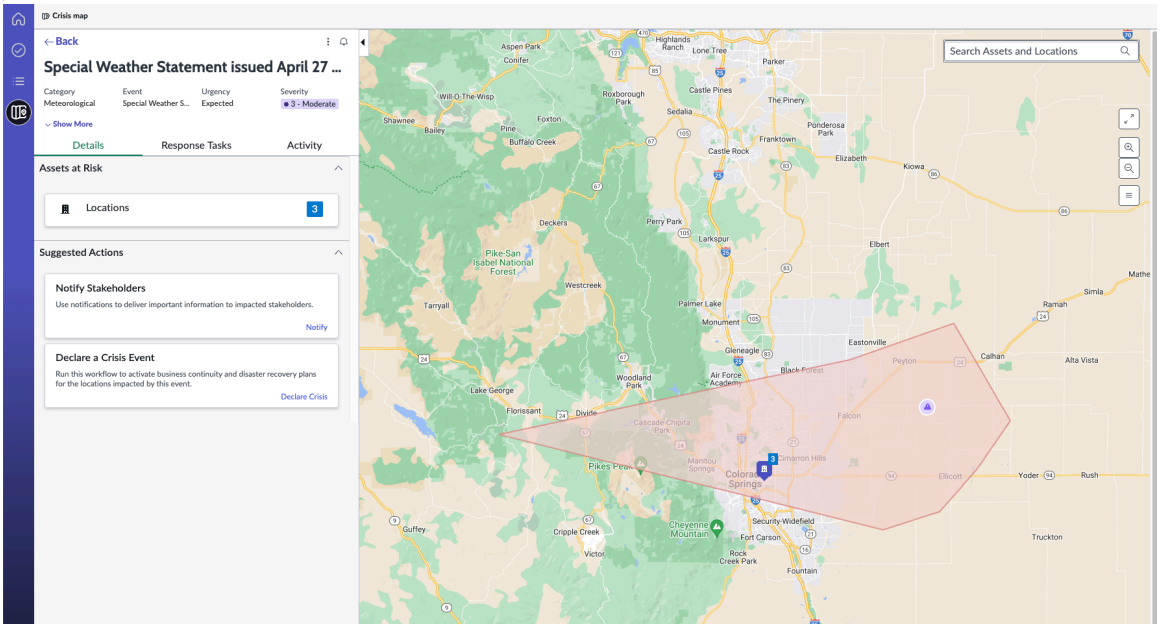
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. アラートのレコードを選択します。
   BCM リリース 9.0.x 以降、アラートにページネーションが追加され、ユーザーの読みやすさが向上しました。

   このアクションにより、[アラート] パネルにアラートレコードが開きます。レコードのヘッダーに、レコードの詳細が表示されます。

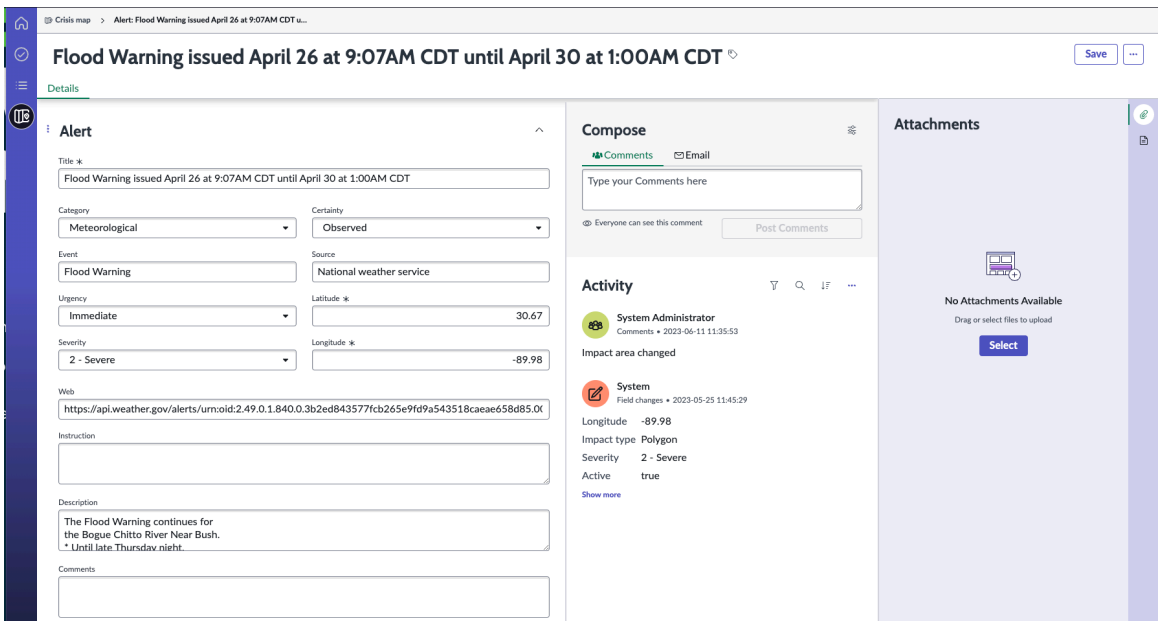
   [詳細] タブの [リスクのある資産] セクションに、リスクのある資産が表示できます。[提案されたアクション] セクションに、**[** ステークホルダーに通知] や [危機イベントを宣言 **]** などの提案されたアクションが表示されます。

   アラートの詳細ビューを開くと、次の例に示すように、影響を受けるエリアがマップ上にアラートに対応して表示されます。



4. フォームビューでアラートの詳細を開くには、[アラートメニュー] アイコン (⋮) で、[オープンアラート] オプションを選択します。

   このアクションにより、次の例で示すように、別の [詳細] タブでレコードが開きます。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

5. アラートに関連付けられている応答タスクを表示するには、[応答タスク] タブを選択します。
6. アラートのアクティビティを表示し、[作成] セクションにコメントを追加するには、[アクティビティ] タブを選択します。
7. アラートをソートするには、[ソート基準] オプションを選択します。
   アラートは、[重大度]、[作成済み]、および [更新済み] オプションでソートできます。ソートアイコン] を使用して、アラートを昇順または降順でソートすることもできます。
8. アラートに登録するには、[登録] アイコンを選択します
   アラートまたはそのソースフィードアイテムが更新されると、ワークスペース通知 (Alert subscribed: Drought is ongoing in Madagascar など) が画面に表示されます。
9. アラートを開くには、] アイコンを選択し、 [アラートを開く] を選択します。
   アラートフォームが表示されます。アラートを編集する場合は、必要な変更を加えて [保存] を選択します。
10. アラートを解除するには、[ ] アイコンを選択し、[アラートを解除] を選択します。

    アラートが従業員の場所、データセンター、コア会社、または事業所への脅威を現在示していない場合に、アラートを解除できます。アラート内容が業務の妨げにならないことがわかっている場合は、リストビューとその詳細ビューでアラートを解除できます。

    リストビューでアラートを解除すると、リストから削除されます。詳細ビューからアラートを解除すると、そのアラートは削除されてリストビューに戻るので、リスト内の他のアラートを確認できます。どちらの場合も、アラートの解除に関する確認メッセージが表示されます。

    アラートが却下されたことを示すメッセージが画面に表示されます。
11. 影響を受ける領域を編集するには、アラートメニューアイコンを選択します。

    a. [影響領域を編集] オプションを選択します。

    b. マップ上に開いた [影響領域を編集] ポップオーバーで、影響を受ける領域の形状に応じて [カスタム形状] または [カスタム半径] を選択します。
       - カスタム形状:影響を受ける領域が多角形の場合は、[カスタム形状]を選択します。
       - カスタム半径:影響を受ける領域が円の場合は、[カスタム半径]を選択します。

    c. 資産の場所を含めるには、影響を受ける領域の境界上の点を選択してドラッグします。

    d. **[Save** (保存)] を選択します。

    e. 影響領域を元に戻すには、 その他のオプション アイコンを選択し、 影響領域を元に戻す を選択します。

アラートをカスタマイズするためのコントロールの設定

BCM UIB ワークスペース の クライシスマップ インターフェイスでコントロールを設定します。その後、資産、場所などのアラートをカスタマイズできます。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin または sn_bcm.program_manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで [危機マップ] を選択します。

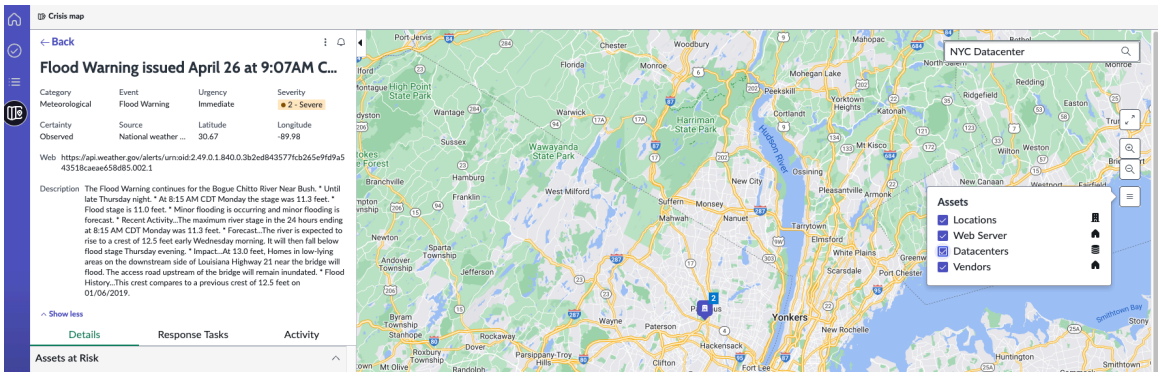
   アラートセクションはワークスペースの左側にあり、マップビューは右側にあります。

3. 右側のマップビューで [資産と場所の検索 **(Search assets and locations)]** 検索フィールドを選択し、アラートの影響を受ける場所またはデータセンターを入力します。
   場所を検索すると、会社の結果のリストとレコードの表示値がそれらのアイコンとともに表示され、Google マップピンアイコンが表示されます。

   従業員の場所またはデータセンターがわからない場合は、レイヤーコントロールを使用します。

4. マップのズームレベルを変更し、特定の領域を表示するには、[ズームイン] および [ズームアウト] コントロールボタンを使用します。
5. マップ上で資産を選択して表示するには、[レイヤー] アイコンを選択します。

   次の例に示すように、[場所]、**[Web** サーバー]、[データセンター]、[ベンダー] などの資産がマップに表示されます。



6. すべての検索結果のマップをクリアするには、[リセット] アイコンを選択します。

レイヤークラスタリングを選択

BCM UIB ワークスペース の クライシスマップ でレイヤークラスタリングを選択します。その後、マップで資産またはリソースを表示できます。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.admin または sn_bcm.program_manager

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで [危機マップ] を選択します。
3. [レイヤー] アイコンを選択します。

   マップ上のレイヤーは、Google マップ上でピンとして表示され、構成可能です。資産の場所、資産、データセンター、コア会社などのすべてのレイヤーの詳細は、構成されたアイコンによってマップ上に表示されます。

   レイヤーコントロールを使用すると、選択した資産のみを表示することも、すべての資産を表示することもでき、マップ上でオンとオフを切り替えることができます。危機管理者は、アクティブな

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

アラートを表示するときに、他の資産ではなく、その時点で重要になる可能性のある単一の資産に集中することで、情報に基づいた意思決定を行うことができます。

4. 選択したリソースまたは資産をマップに表示するには、その資産のチェックボックスをオンにします。

   選択した資産のアイコンがマップに表示されます。レイヤーアイコンは黒い境界線内に表示されますが、アラートアイコンは白い円内に表示されます。

5. マップ上の [資産] アイコンを選択すると、その詳細が表示されます。
   たとえば、横に番号もカウントも付いていないデータセンターアイコンを選択すると、リソース構成テーブル [sn_fam_resource_config] で構成した表示情報を含むポップオーバーが表示されます。

   [リソース構成] フォームで、データセンターテーブル [cmdb_co_datacenter] の [電力] および [消費電力] フィールドを表示フィールドとして構成した場合、そのデータセンターの消費電力の詳細がその場所座標とともに表示されます。

6. 横に番号の付いた [資産] アイコンを選択します。

   マップがズームインし、そのクラスター内のカウントと一致するすべての資産が表示されます。さらにクラスター内の各資産を選択すると、任意の資産にドリルダウンして、ポップオーバーにその詳細を表示できます。

   一度に表示できるポップオーバーは 1 つだけです。別のノードを選択すると、ポップオーバーが非表示になります。

7. マップの検索結果をクリアするには、マップでの [リセット] アイコンを選択します。

影響を受ける領域内の資産の監視

事業所の近くでアラートの脅威が確認されたときに、BCM UIB ワークスペース でクライシスマップリスクのある資産を監視します。これにより、影響を受けるエリア内のリソースを保護し、組織の重大な損失を防ぐことができます。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.admin または sn_bcm.program_manager

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで [危機マップ] を選択します。
3. アラートレコードを選択して、詳細ビューでアラートを開きます。

   フォームヘッダーには、アラートのさまざまな詳細が表示されます。

   - アラートのタイトル
   - アラートのカテゴリ
   - アラートがすぐに発生するか、将来発生するかを示すアラートの緊急度
   - 損失の重大度
   - 発生する可能性についての確実性
   - アラートフィードのソース
   - 影響を受ける領域の座標

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

- 受信したフィードアラートの提供元のソースまたは Web サイト
- 説明

4. [リスクのある資産] セクションを展開すると、リスクのあるすべての資産が表示されます。
[リスクのある資産] には、アラートの影響を受ける領域内にある場所、データセンター、およびコア会社が一覧表示されます。影響を受けるこれらの資産の数も表示されます。マップ上の影響を受ける領域を表示し、提案されたアクションを実行できます。

   マップ上のアラートの影響を受ける領域の境界は、薄紫色でマークされます。マップ上のこの影響を受ける領域内のリスクのある資産を表示できます。場所、データセンター、またはコア会社のいずれかがアラートの影響を受ける場合は、影響を受けるゾーンを編集して資産を含めることができます。

5. いつでもアラートの詳細ビューを直接開くことができるように、アラートの URL を保存またはブックマークします。
6. [リスクのある資産] セクションで、場所やデータセンターなどの資産カードを選択します。
レコードのリストビューが新しいタブで開きます。
7. 資産の詳細を表示するには、[名前] 列でレコードへのリンクを選択します。
緯度と経度を含む資産の完全な詳細を表示できます。

応答ワークフローの開始

BCM UIB ワークスペース で復旧チームの対応ワークフローを開始します。そうすることで、ステークホルダーに通知し、脅威に対応して必要なアクションをステークホルダーが実行できるようになります。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin または sn_bcm.program_manager

手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで [危機マップ] を選択します。
3. アラートのレコードを選択します。

   アラートとその重大度を表示しながら、適切なアクションを開始し、それぞれのステークホルダーが危機に対応して処理できるように Crisis Management ワークフローをトリガーできます。[提案されたアクション] セクションには、開始できるさまざまな応答が一覧表示されます。

   ステークホルダーに通知

   アラートが原因でリスクがある資産について重要なステークホルダーに通知します。

   危機イベントを宣言

   復旧チームで資産を復旧するための復旧タスクを有効にするイベントを開始します。

4. 差し迫った危機をステークホルダーにメールで通知するには、[ステークホルダーに通知] カードの [通知] ボタンを選択します。
開いたモーダルウィンドウで 1 人以上の関係者を特定し、情報を伝達します。この 2 ステップのプロセスで対象者を特定し、メールを作成して対象者に送信します。

   a. [ステークホルダーに通知] ポップアップのリストから対象者を選択します。
   通知する必要があると思われる追加の対象者をリストから選択できます。

   b. [次へ] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. プロセスのステップ 2 で、アラートの詳細を確認し、[メール本文] フィールドで適切にメールのドラフトを作成します。

d. [通知の送信] ボタンを選択します。
アクションが実行されたことを示すメッセージが表示されます。

5. 影響を受ける場所の事業継続性計画または災害復旧計画を有効にするには、[危機イベントを宣言] カードで [危機を宣言] を選択します。

a. [危機イベントを宣言] フォームが開くため、ここに危機イベントの簡単な説明を入力します。

b. [次へ] を選択します。

c. 脅威アラートの半径内にあるリスクのある資産を選択します。

d. [危機イベントを開始] ボタンを選択します。

これらのアクションをトリガーすると、アラート通知アクションと危機イベントの宣言をトリガーするための個別のスクリプトが実行されます。アクションが実行されたことを確認するメッセージが表示されます。[応答タスク] タブに移動して、アクションと復旧イベントの詳細を表示できます。

リスクのあるすべての資産は、イベント [sn_recovery_event] に関連するイベント資産テーブル [sn_recovery_event_asset] にコピーされます。

次のタスク

1. 復旧イベントの場合は、[応答タスク] カードの任意の場所を選択してイベントの詳細に移動します。
2. イベントの [詳細] タブで、必要に応じて詳細を更新します。
3. [イベントを開始] ボタンを選択します。その後、危機のイベントが有効になります。この復旧イベントの関連するすべての計画とそれに関連するタスクがアクションに設定されます。Crisis Management ワークフローが影響を受けた資産の復旧を開始します。詳細については、「危機イベント」を参照してください。

リスクのあるすべての資産は、イベント [sn_recovery_event] に関連するイベント資産テーブル [sn_recovery_event_asset] にコピーされます。

を使用したレポートの生成 ドキュメントデザイナー

BCM リリース 9.0.x 以降、ServiceNow ドキュメントデザイナーwith Word アプリケーション (sn_grc_doc_design) は BCM と統合されています。これにより、BIA、BCP、およびイベントのカスタマイズされたレポートを Microsoft Word 形式で生成できます。この統合は、以前のテンプレートで生成された不適切な改ページや PDF で時々発生するカットオフ情報などの問題に対処します。

ServiceNow ドキュメントデザイナー **with Word** アプリケーションの使用

ServiceNow ドキュメントデザイナー with Word アプリケーションは、ローコードソリューションを提供し、広範な技術的専門知識がなくても、Microsoft Wordドキュメントのさまざまな側面を構成できます。ServiceNowが提供するテンプレートは、同社のブランドガイドラインに沿って設計されており、一貫性のある専門的なドキュメントを保証します。

ServiceNow ドキュメントデザイナー Word アプリケーションを使用して、ビジネスインパクトアナリシス (BIA)、事業継続性計画 (BCP)、およびイベントの直感的で監査可能なMicrosoft Wordレポートを ServiceNow インスタンスから直接生成します。アプリケーションの Microsoft Word テンプレートを構成して、テーブルや列などのレコードの特定のデータをレポートに含めます。オプ

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

ションには、事前定義されたテンプレートの使用、ローコード実装でのカスタマイズ、会社固有のガイドラインを満たす独自のテンプレートの作成などがあります。

これらのレポートは、 ServiceNow インスタンス内で保存することも、クラウドドキュメントとして Microsoft SharePoint に保存することもできます。

BCM でドキュメントデザイナー を使用するメリット

ServiceNow ドキュメントデザイナー Word アプリケーションを使用すると、ServiceNowテーブルからフィールドや関連リストなどのメタデータを取得できます。また、テーブル内のレコードごとに繰り返されるコンテンツブロックを追加することもできます (10 の問題に対して 10 ブロックなど)。テンプレートを特定のレコードに適用し、 Microsoft Word 形式でレポートを作成します。

でレポートテンプレートを構成および管理するためのワークフロー BCM

BCMアプリケーションでレポートテンプレートを構成および管理するには、指定された順序で次の手順を実行します。

Microsoft Word でレポートを生成するためのワークフロー

ステップ	説明
アプリケーションのインストールとロールのアサイン	ServiceNow ドキュメントデザイナー with Word (sn_grc_doc_design) アプリケーションとその依存プラグインをインストールします。詳細については、「ServiceNow ドキュメントデザイナー Word と一緒にインストール」を参照してください。 テンプレートの管理に必要な管理ロールは、sn_grc_doc_design.admin と sn_bcm.admin です。sn_bcm.manager ロールを持つマネージャーは、レポートを生成して、 ServiceNow インスタンスまたはクラウド (Microsoft Office 365) に保存できます。
テンプレート関係レジストリを設定します。	詳細については、「テンプレート構成の設定」を参照してください。
データの関係、コンテンツ構成、およびスクリプト化された変数を構成します	テンプレートでデータの関係を構成して、Microsoft Word レポートに表示されるようにします。詳細については、「データの関係を構成する」、「コンテンツ構成の設定」、および「スクリプト化された変数の定義」を参照してください。
ServiceNow ドキュメントデザイナー アドインのインストール	アドインを Microsoft Word ドキュメントにインストールします。詳細については、「ドキュメントデザイナーアドインをインストールする」を参照してください。
新しく作成した Microsoft Word テンプレートをアップロードします	新しく作成した Microsoft Word テンプレートをアップロード すべて > 事業継続性 > 全般管理 > **Word** テンプレート. または、 BCM インスタンスで提供されている事前定義されたテンプレートを使用して、 Microsoft Word 形式でレポートを生成します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Word でレポートを生成するためのワークフロー (続く)

ステップ	説明
レコードの BIA、BCP、およびイベントレポートを生成します。	事業継続性ワークスペース内のレコードの BIA、BCP、およびイベントレポートを生成し、ServiceNowインスタンスまたはクラウドに保存します。詳細については、「BIA、BCP、およびイベントのレポートの生成」を参照してください。

オプションのアプリケーションとして ドキュメントデザイナー をダウンロードする

ServiceNow ドキュメントデザイナー with Word アプリケーションはオプションです。BIA、BCP、および演習の PDF を生成する既存の BCM 機能を使用するか、 ServiceNow ドキュメントデザイナー Word アプリケーションを使用して Microsoft Word ドキュメントを生成することができます。ServiceNow Store から手動でダウンロードしてインストールする必要があります。

ServiceNow ドキュメントデザイナー with Word アプリケーションは、次のアプリケーションに依存しています。

- データレジストリ (sn_data_registry)、19.1.0
- Microsoft 365 for ServiceNow Reporting (sn_esg_msoff_intg), 20.0.1
- Microsoft Office アドイン (sn_office_addin)

を使用するための推奨リリースバージョン ドキュメントデザイナー

構成できる列とコンテンツブロックの数に関するいくつかの制限は、広範なデータ要件があるため、使いやすさに影響を与える可能性があります。ServiceNow ドキュメントデザイナー Word アプリケーションを使用するには、Xanadu リリースのパッチ 8 以降である必要があります。

に関連するトラブルシューティング情報 ドキュメントデザイナー

ServiceNow Word アドインで問題が発生した場合は、次の点を確認してください。

- 最新バージョンのアドインがインストールされていることを確認します。
- ServiceNowインスタンスの URL と認証情報を確認してください。
- ドキュメントデザイナーアプリケーションにアクセスするために必要な権限があることを確認します。

これらの手順に従うことで、Word アドインで ServiceNow ドキュメントデザイナー を効果的に使用して、 ServiceNow インスタンスでドキュメントを作成および管理できます。

ServiceNow ドキュメントデザイナー **Word** と一緒にインストール

ServiceNow ドキュメントデザイナー with Word (sn_grc_doc_design) をオプションのアプリケーションとしてインストールします。このアプリケーションは、BIA、BCP、および演習レポートを ServiceNow インスタンスとの間でMicrosoft Word形式で生成、カスタマイズ、アップロードするために使用されます。

始める前に
必要なロール:sn_bcm.admin、sn_bcm.manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. フィルター基準と検索バーを使用して ServiceNow ドキュメントデザイナー 、with Word アプリケーションを検索します。
3. **[Install** (インストール)] を選択します。
   ServiceNow ドキュメントデザイナー Word アプリケーションが ServiceNow® インスタンスにインストールされている。

テンプレート構成の設定

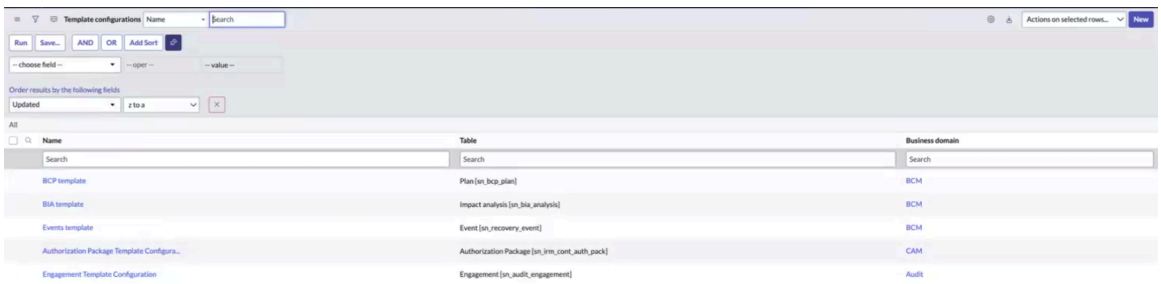
全般管理セットアップのテンプレート構成モジュールを使用して、テンプレート関係レジストリを設定します。必要なデータがレポートに表示されるように、 ドキュメントデザイナー アプリケーションを使用するためのデータの関係、コンテンツ構成、およびスクリプト化された変数を構成します。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin

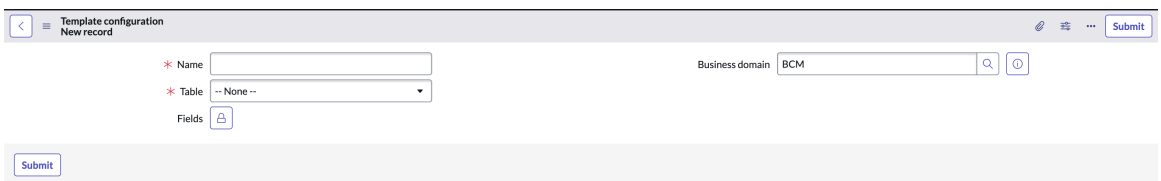
手順

1. 移動先 すべて > 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース > 全般管理.
2. [テンプレート構成] モジュールで、[新規] を選択してテンプレートを作成します。
   事前定義されたテンプレートを使用する代わりに、[テンプレート構成] モジュールで新しいテンプレートを作成できます。

   ベースバージョンで利用可能な事前定義された Microsoft Word テンプレートが、[テンプレート構成] モジュールに表示されます。この例では、BIA テンプレート、BCP テンプレート、およびイベントテンプレートを示しています。



   次の例は、インスタンスでテンプレート構成を作成する方法を示しています。



3. フォームで、フィールドに入力します。

テンプレート構成フォーム

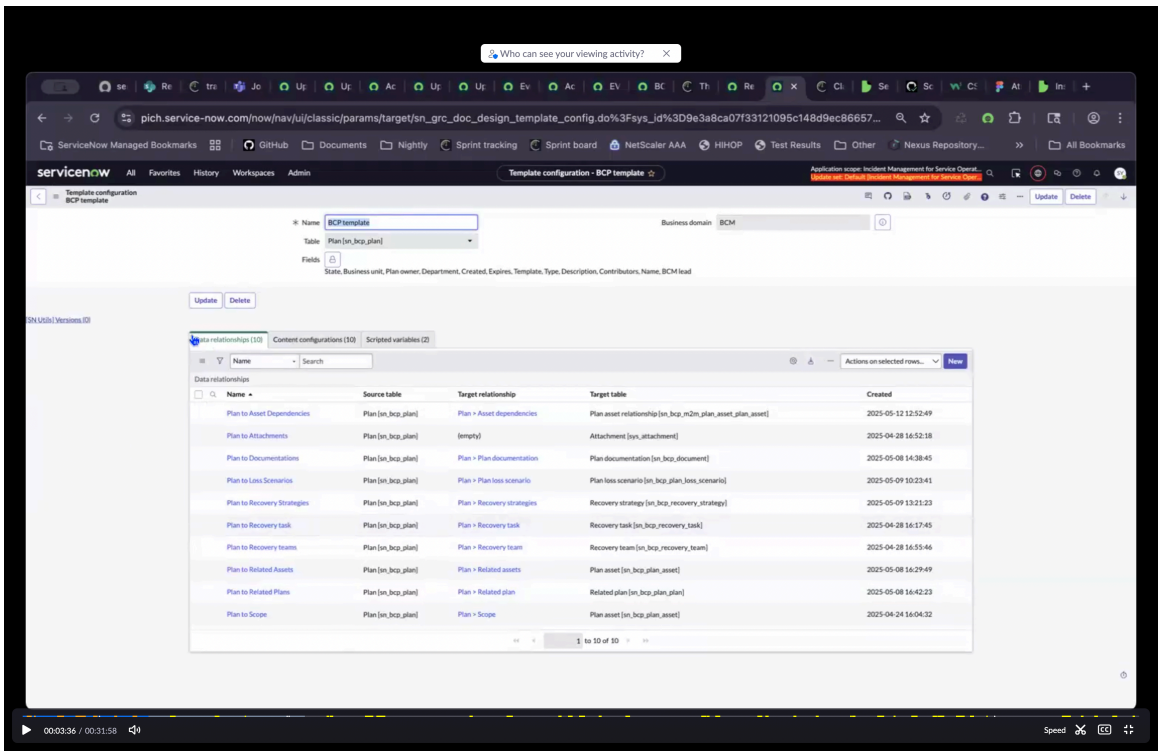
フィールド	説明
名前	テンプレート構成の名前。たとえば、 BIA テンプレート構成 や BCP テンプレート構成を指定できます。
テーブル	レポートが生成されるテーブル。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

フィールド	説明
フィールド	レポートにデータを表示する必要があるフィールド。必要なフィールドを [利用可能] リストから [選択済み] リストに移動します。
ビジネスドメイン	テンプレートの構成元のドメイン。この例では **BCM** に設定されています。

次の例は、「BCP テンプレート」のテンプレート構成を示しています。



4. **[Submit** (送信)] を選択します。
5. 既存のテンプレートを編集するには、リストからテンプレートを選択し、データの関係、コンテンツ構成、およびスクリプト化された変数を編集します。
   事前定義されたテンプレートのデータの関係、コンテンツ構成、およびスクリプト化された変数を更新できます。
6. **[Update** (更新)] を選択します。

次のタスク

新しく作成されたテンプレートの場合は、テンプレート構成からデータ関係パスを作成して、必要なテーブルに移動します。詳細については、「データの関係を構成する」を参照してください。

データの関係を構成する

テンプレート構成モジュールでデータの関係を構成します。これは、テンプレート構成のレコードから任意のテーブルに移動するのに役立ちます。これらのパスを作成すると、 BCM レポートテンプレートの各レコードから必要なデータをフェッチできます。

始める前に

必要なロール:sn_grc_doc_design.admin および sn_bcm.admin

自動翻訳

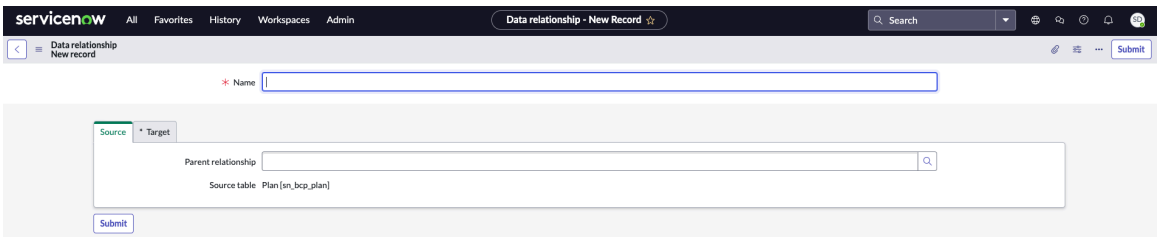
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
データの関係を作成するときに、復旧チームの計画や関連資産の計画など、選択したレコードをテンプレート関係レジストリのテーブル ([sn_bcp_plan] など) に接続する方法を指定できます。その後、これらの各レコードに移動するためのパスを確立できます。関係は必要な数だけ作成できます。

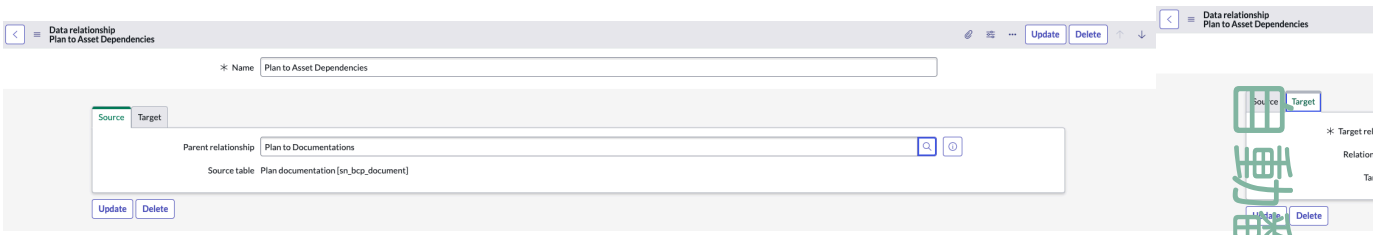
手順

1. 移動先 すべて > 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース > 全般管理.
2. [テンプレート構成] モジュールで、作成したテンプレート構成を開きます。
3. [データの関係] 関連リストで、[新規] を選択します。

   データの関係の新しいレコードが表示されます。



   ソースとターゲットの関係を追加できます。



4. フォームで、フィールドに入力します。

   データの関係フォーム

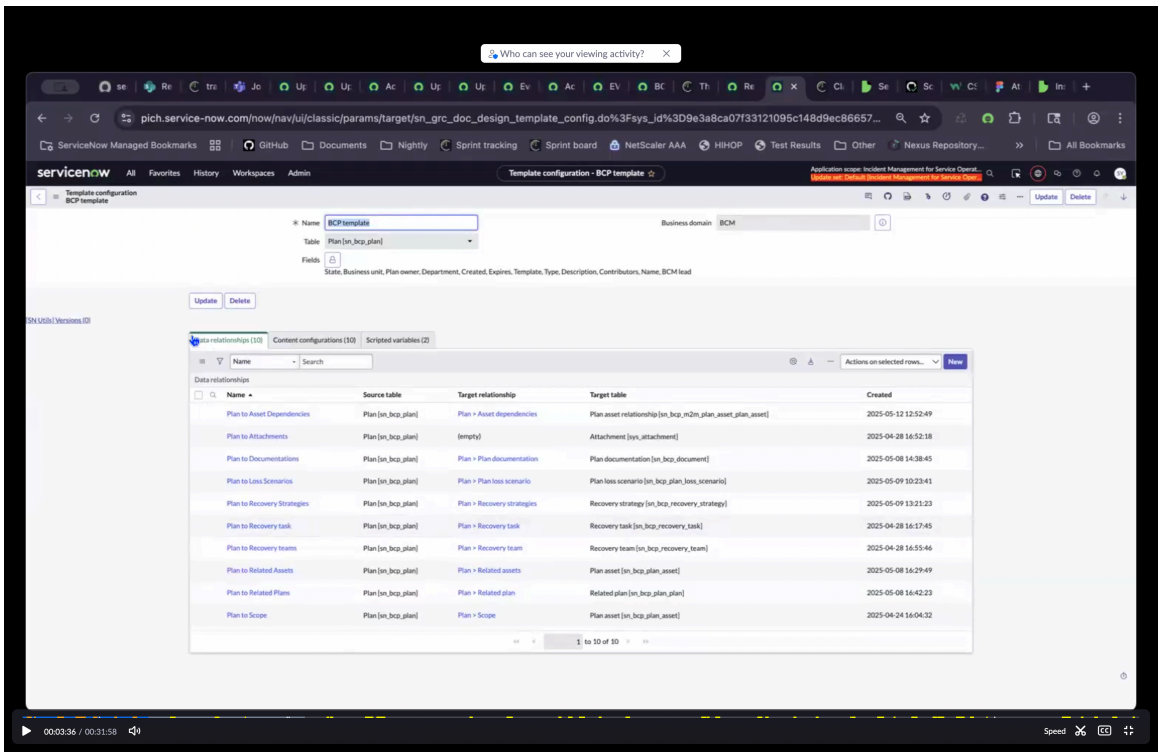
フィールド	説明
名前	移動先のレベル。たとえば、「ドキュメントに対する計画」を指定できます。
ソース	
親関係	データの関係の親。
ソーステーブル	作成されたデータの関係に使用されるソーステーブル。このフィールドは自動的に設定されます。
ターゲット	
ターゲット関係	既存の関係を選択するか、ターゲットの関係を作成します。たとえば、[計画と資産の依存関係] を選択できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: 詳細については、「Setting up the 360º views (360 度ビューの設定)」を参照してください。登録できるのは、表示するデータのタイプ間の既存の関係のみです。
関係性タイプ	多対多や 1 対多などの関係性のタイプ。このフィールドは、[ターゲット関係] フィールドでの選択に基づいて自動的に入力されます。
ターゲットテーブル	データの取得元のテーブル。このフィールドは、自動的に入力されます。

5. **[Submit** (送信)] を選択します。

例に [データの関係] 関連リストを示します。



次のタスク
コンテンツ構成を作成して、レポートでフェッチするデータのタイプを指定します。詳細については、「コンテンツ構成の設定」を参照してください。

コンテンツ構成の設定

テンプレート構成モジュールでコンテンツ構成を設定し、レポートテンプレートの作成時に表示またはフェッチするデータを定義します。修復タスクや最優先の問題のリストなど、レコードのリストまたは集計データを表示するように構成できます。任意のテーブルから最大 200 件のレコードをフェッチできます。

始める前に
必要なロール:sn_grc_doc_design.admin および sn_bcm.admin

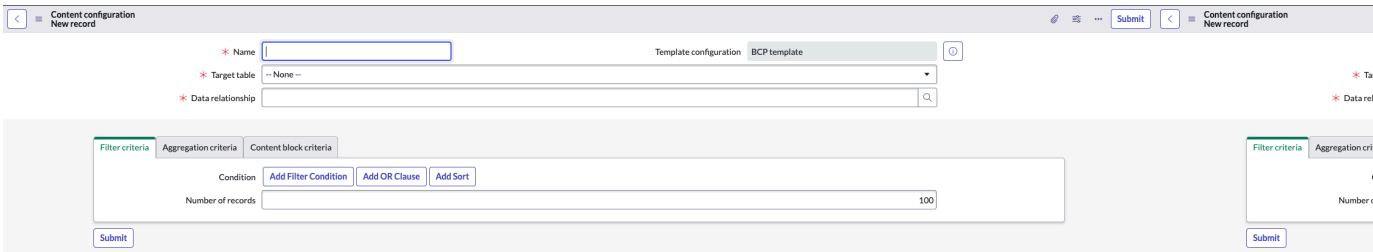
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

手順

1. 移動先 すべて > 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース > 全般管理.
2. コンテンツ構成を作成するテンプレートを開きます。
3. [コンテンツ構成] 関連リストで、[新規] を選択します。

   コンテンツ構成の新しいレコードとその関連リストが表示されます。



4. フォームで、フィールドに入力します。

コンテンツ構成フォーム

フィールド	説明
名前	コンテンツ構成の名前。たとえば、資産の依存関係などです。
テンプレート構成	コンテンツ構成を定義するテンプレート構成。このフィールドは、ステップ 2 で選択した構成に基づいて自動的に設定されます。
ターゲットテーブル	データのフェッチ元のテーブル。
データの関係	コンテンツ構成を作成するデータの関係。以前に作成したデータの関係のみを選択できます。
フィルター基準	フィルター条件と表示可能なレコードの数。
アグリゲーションのクライテリア	コンテンツ設定レコードに使用する集計クエリ。コンテンツ設定レコードの [データ列] 関連リストと [中間フィルター] 関連リストを使用します。
コンテンツブロックのクライテリア	コンテンツブロックにテーブルとして挿入するテーブルまたはデータを指定するための親ブロック構成

自動翻訳

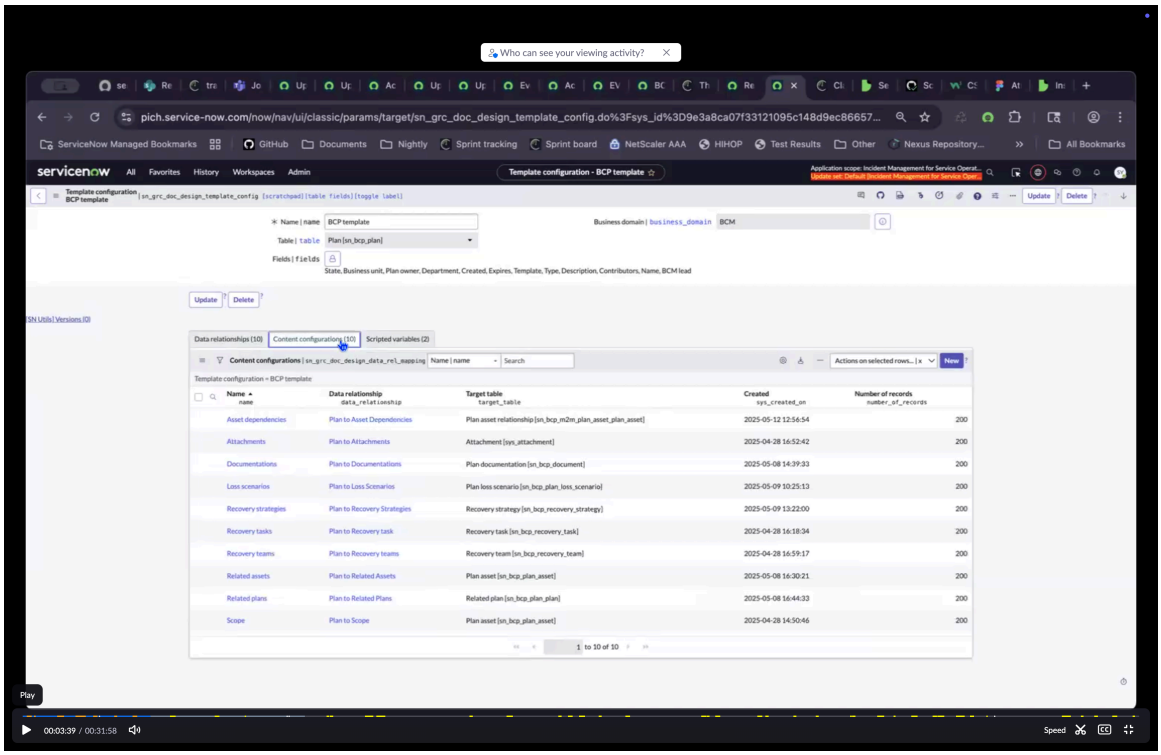
5. 必要に応じて、フィルター基準と集計基準を作成します。
6. コンテンツブロックにテーブルとして挿入するテーブルまたはデータを指定するには、[コンテンツブロック基準] タブを選択します。
   a. [親ブロック構成] フィールドで、必要なコンテンツ構成を選択します。
   b. **[Submit** (送信)] を選択します。
7. [データ列] 関連リストで、選択したテーブルからレポートに使用する列を指定します。
   使用可能な標準列を指定するか、列のカスタムスクリプトを記述できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
テーブルとコンテンツブロックに最大 20 列を追加できます。同様に、特定のコンテンツブロックは、 Xanadu で 200 回、 Zurich で 500 回繰り返すことができます。

8. レポートテンプレートに表示する必要がある列の順序を指定します。
9. **[Update** (更新)] を選択します。

例に [コンテンツ構成] 関連リストを示します。



次のタスク
レポート用のスクリプト化された変数を作成します。詳細については、「スクリプト化された変数の定義」を参照してください。

スクリプト化された変数の定義

BCMアプリケーションでレポートテンプレートを作成するためのテンプレート構成モジュールを使用して、スクリプト化された変数のデータを定義します。データはテキスト形式または HTML 形式で設定できます。

始める前に
必要なロール:sn_grc_doc_design.admin および sn_bcm.admin

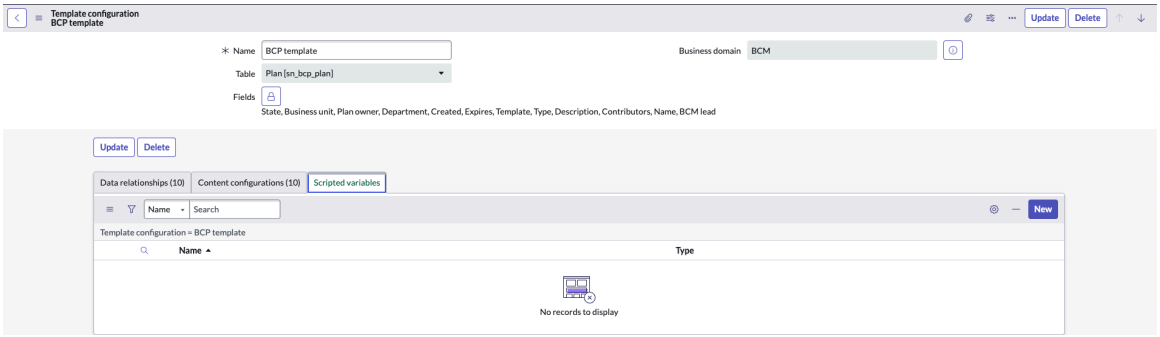
手順

1. 移動先 すべて > 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース > 全般管理.
2. スクリプト化された変数を作成するテンプレートを開きます。

[スクリプト化された変数] 関連リストが表示されます。

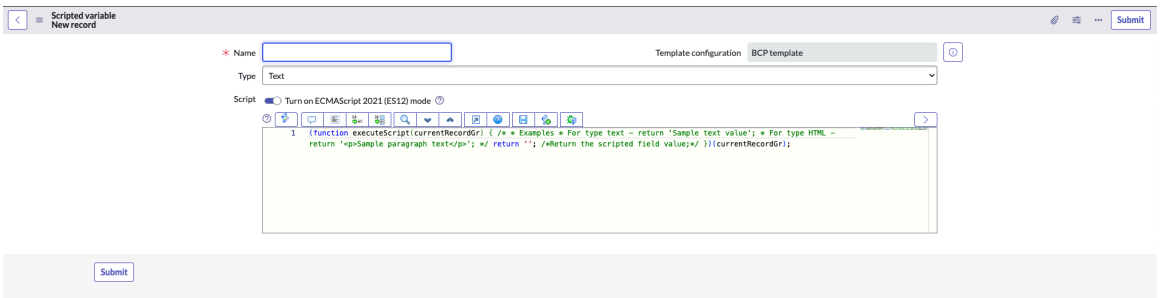
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



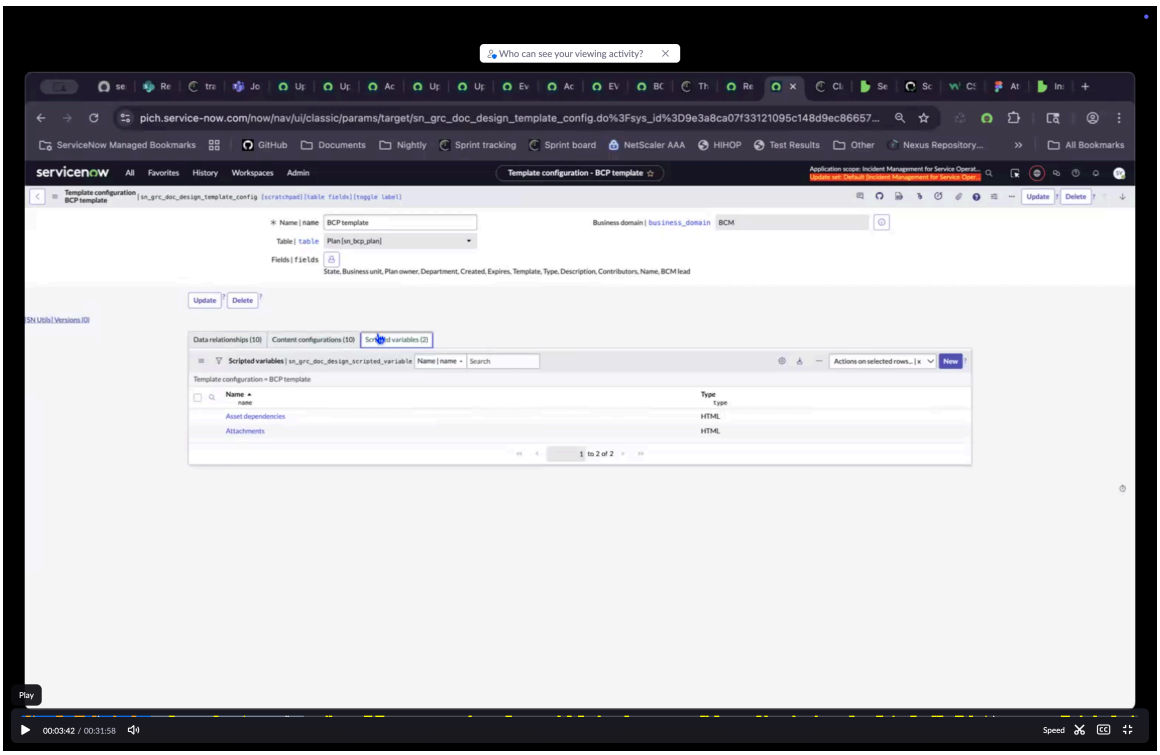
3. [スクリプト化された変数] 関連リストで、[新規] を選択してスクリプト化された変数を作成します。

   スクリプト化された変数の新しいレコードが表示されます。



4. フォームで、スクリプト化された変数の名前、タイプ、およびカスタムスクリプトを追加します。
5. **[Submit** (送信)] を選択します。

   例では、[資産の依存関係] や [添付ファイル] などのテンプレートのスクリプト化された変数を示しています。



6. 既存のスクリプト化された変数を編集するには、関連リストから変数を選択して変更を加え、[更新] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Word ドキュメントテンプレートの管理

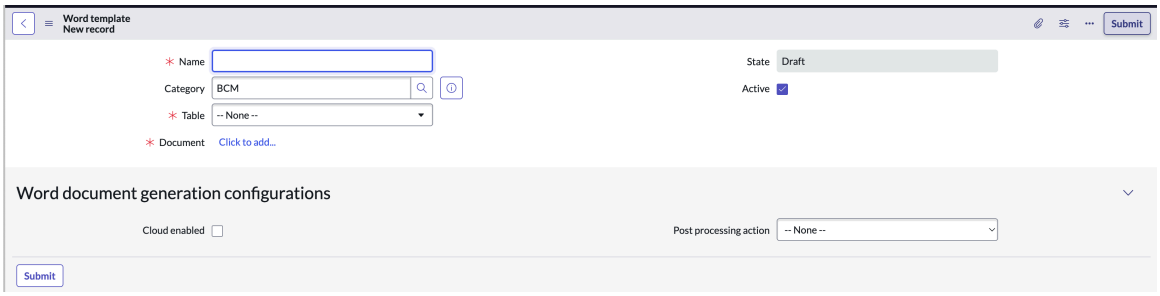
BCM アプリケーションのアドミンモジュールを使用して、Word ドキュメントテンプレートを一元管理します。この機能を使用すると、BIA、BCP、またはその他のイベントのテンプレートを作成または編集して、カスタマイズおよび制御されたドキュメント生成を行うことができます。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin

手順

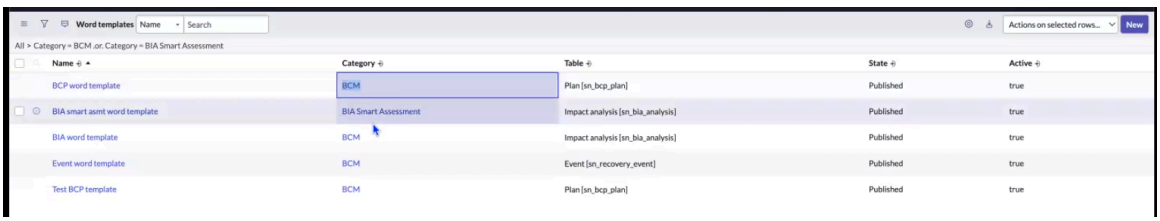
1. 移動先 すべて > 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース > 全般管理.
2. Word テンプレート モジュールで、 新規 を選択して Word テンプレートを作成します。

   Word テンプレートフォームが表示されます。



3. フォームで、フィールドに入力します。
   フィールドの詳細については、「Word テンプレートフォーム」を参照してください。

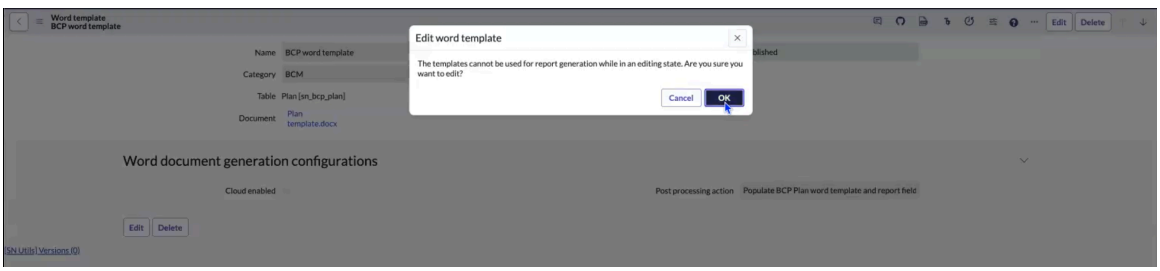
   インスタンスで提供される Word テンプレートには、BCM と BIA スマートアセスメントの 2 つのカテゴリがあります。



   注:
   Word テンプレートを BCM カテゴリで更新していることを確認します。

4. 既存の事前定義されたテンプレートを編集するには、リストから目的の Microsoft Word テンプレートを開き、[編集] UI アクションを選択します。

   [Word テンプレートの編集] ウィンドウに次のメッセージが表示されます。 編集ステータスでは、テンプレートをレポート生成に使用することはできません。編集してもよろしいですか?



5. **[OK]** を選択します。
6. Word テンプレートレコードを更新するには、次の手順を実行します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

a. レコードの名前、カテゴリ、テーブル、またはアクティブなオプションを更新します。

b. 新しいドキュメントを Word テンプレートに追加するには、[ドキュメント] フィールドで指定された [更新] オプションを選択します。

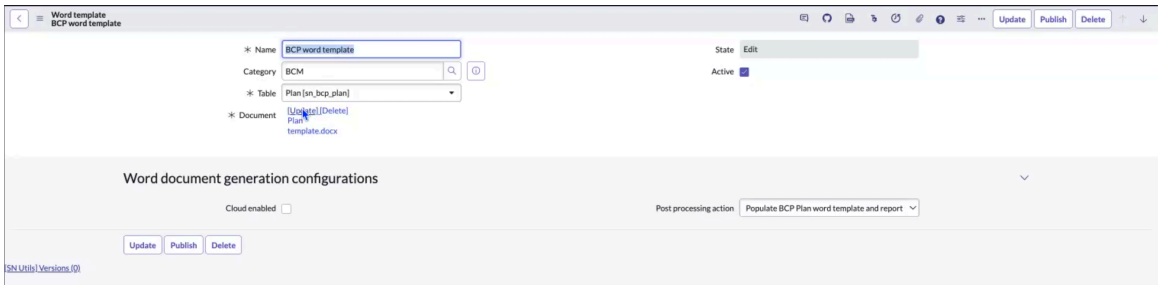
c. [ドキュメント] フィールドで [クリックして追加...] を選択します。

d. [添付ファイルの選択:] ダイアログ ボックスで、[ファイルの選択] を選択し、[**OK]** を選択します。

e. テンプレートに関連付けられている既存のドキュメントを更新するには、[ドキュメント] フィールドで [更新] オプションを選択します。

f. Word テンプレート レコードで 更新 を選択します。
Word テンプレートレコードが更新され、更新されたテンプレートがリストビューに表示されます。

事前定義されたテンプレートを更新するプロセスを例に示します。



7. Word テンプレートを削除するには、レコードで [削除] を選択します。
8. Word テンプレートを公開するには、レコードで [公開] を選択します。

Word テンプレートフォーム

Word テンプレートフォームを使用して、 事業継続性ワークスペースでレポートを作成するための Word テンプレートの詳細を追加します。

Word テンプレートフォーム

Word テンプレートフォーム

フィールド	説明
名前	[テーブル] フィールドで選択されたテーブルの Word テンプレートの一意の名前。
カテゴリ	Word テンプレートが属する分類またはグループ。 たとえば、BCM 関連の Word テンプレートの BCM などです。
テーブル	Word テンプレートを作成するテーブル。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

Word テンプレートフォーム (続く)

フィールド	説明
ドキュメント	BIA template.docxや計画template.docxなどのコンテンツ構成に基づいて作成された Word テンプレート。 **注:** ドキュメントは docx ファイルのみである必要があります。他の形式のドキュメントを添付すると、エラーメッセージが表示されます。
ステータス	Word テンプレートレコードのステータスは、デフォルトで [ドラフト] になります。 • ドラフト:レコードを開くと、デフォルトで [ドラフト] ステータスになります。 • 公開済み:Word テンプレートレコードが公開されたとき。[公開済み] ステータスのレコードは更新できません。 • 編集:レコードの詳細を更新できるステータス。 **注:** [編集] ステータスの Word テンプレートレコードは、レポートの生成に使用できません。レコードは [レポートを生成] ポップアップで選択できません。
アクティブ	このレコードを有効化するオプション。
Word ドキュメント生成構成	
クラウド対応	生成されたレポートをエンゲージメントレコードの sys_attachment として、またはクラウドドキュメントとして管理するオプション。 クラウドアップロード設定に基づいて、Microsoft SharePoint または Google ドライブ サイトからクラウド内のドキュメントにアクセスできます。
後処理アクション	生成された Word テンプレートレポートをエンゲージメントレコードの [レポート] セクションのフィールドで更新するオプション。 オプションは次のとおりです。 • **BIA Word** テンプレートとレポートフィールドの入力:このテンプレートを選択すると、BIA レコードの [レポート] セクションのフィールドが Word レポートに入力されます。 • **BCP** 計画 **Word** テンプレートとレポートフィールドへの入力:このテンプレートを選択

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Word テンプレートフォーム (続く)

フィールド	説明
	すると、BCP 計画レコードの [レポート] セクションのフィールドが Word レポートに入力されます。 • 復旧イベント **Word** テンプレートとレポートフィールドの入力:このテンプレートを選択すると、復旧イベントレコードの [レポート] セクションのフィールドが Word レポートに入力されます。 • なし:レポートはシステム添付ファイルまたはクラウドファイルとして生成されます。ただし、生成された Word レポートにレコードのレポートベースのフィールドを追加または更新する後処理アクションは発生しません。

ドキュメントデザイナーアドインをインストールする

Microsoft WordServiceNow ドキュメントデザイナーアドインをインストールします。その後、ビジネスニーズに応じて、BIA、BCP、イベントレポート、および Microsoft Word テンプレートをカスタマイズできます。

始める前に

次のプラグインがアクティブであることを確認してください。

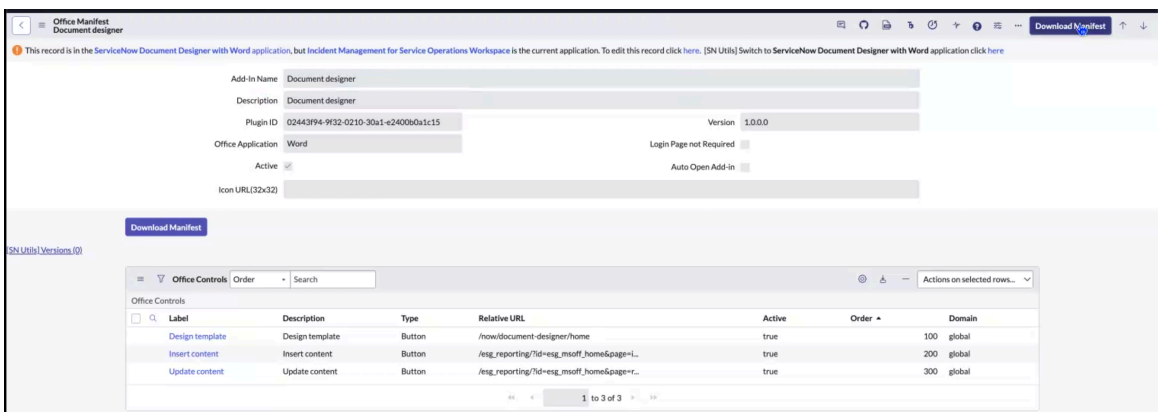
- sn_grc_doc_design
- sn_outlook_addin

必要なロール： sys_admin

手順

1. 移動先 すべて > **Office** 用 **ServiceNow** アドイン > **Office** アドインマニフェスト.
2. [Office マニフェスト] リストから、**[ServiceNow Document Designer]** を選択します。
3. [マニフェストをダウンロード] を選択します。

   マニフェストファイルがローカルドライブにダウンロードされます。



4. アドインを有効にするには、ステップ 3 でダウンロードしたマニフェストファイルを使用できる Microsoft 365 アカウントマネージャーにお問い合わせください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

次のタスク
マニフェストファイルの展開方法の詳細な手順については、Now Support ナレッジベースで「Deploy add-ins in the Microsoft 365 admin center (Microsoft 365 アドミンセンターでアドインを展開する) [KB1307378]」の記事を参照してください。

ブラウザーで Microsoft Word のアドインに対して HTTP 応答ヘッダーを構成するには、Now Support ナレッジベースで「Response header resolution (応答ヘッダー解決) [KB1434453]」の記事を参照してください。

Microsoft Wordドキュメントをテンプレートとして保存

ドキュメントデザイナーで提供されているデザインテンプレートを使用して、Microsoft Wordドキュメントをテンプレートとして保存し、インスタンスで再利用可能なテンプレートを作成できるようにします。

始める前に
必要なロール:sn_bcm.admin、sn_bcm.manager

このタスクについて
ServiceNow ドキュメントデザイナー with Word (sn_grc_doc_design) プラグインをインストールしてアクティブ化します。詳細については、「ServiceNow ドキュメントデザイナー Word と一緒にインストール」を参照してください。

テンプレートが構成されていることを確認します。詳細については、「テンプレート構成の設定」を参照してください。

手順

1. テンプレートの作成に使用する Microsoft Word ドキュメントに移動します。
   アドインのインストール後は、必ず Microsoft Word を再起動してください。
2. Microsoft Word で、[アドイン] を選択し、[ドキュメント デザイナー] を選択します。
3. リボンの [デザイン テンプレート] を選択します。
4. ServiceNowインスタンスにログインするには、次の手順を実行します。
   a. ServiceNowログイン画面で、[ユーザー名] フィールドと [パスワード] フィールドに認証情報を入力します。
   b. [BCM アドミニストレーターまたはBCMマネージャーの認証情報を使用してログインする] を選択します。
   c. Microsoft Office 365アプリケーションの ServiceNow アドインがインスタンスの ServiceNow アカウントに接続できるようにするには、[許可] を選択します。

   [ServiceNow ドキュメントデザイナー] ペインに、デザインテンプレートが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. [ServiceNow ドキュメントデザイナー (ServiceNow Document Designer)] ペインで、次のフィールドに入力します。

   a. [データ] タブを選択してから [データ要素] フィールドを選択し、リストからテンプレートに表示するフィールドを選択します。
   設定されたフィールドのみを選択できます。

   b. データを挿入する位置にマウスデバイスを移動させて、[ロゴ]、[タイプ]、[名前] などのフィールドを挿入します。

   c. [テーブル] タブを選択し、[テーブル要素] フィールドで、リストからテンプレートに表示する構成済みのテーブル要素を選択します。
   たとえば、優先度の高い上位 5 つの問題のリストなどです。

6. 繰り返し表示できるスタイルを持つコンテンツブロックを挿入するには、[ブロック] を選択します。

   a. ドキュメントで、スタイルを繰り返すために使用する必要があるコンテンツを追加します。

   b. [コンテンツブロックのソース (Content block source)] フィールドで、コンテンツブロックにマッピングするアイテムを選択します。

   c. [コンテンツブロックを追加] を選択します。
   ドキュメント内のコンテンツはコンテンツブロックにラップされ、[データ] オプションと [テーブル] オプションを使用できます。

   d. コンテンツブロックの構成済みの列からデータを挿入するには、[データ] を選択します。

   e. **[Add** (追加)] を選択します。

   f. テーブルからコンテンツを挿入するには、[テーブル] を選択します。
   目的のテーブルを選択したら、[列の編集] を選択して、必要に応じて列を並べ替えることができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

g. **[Add** (追加)] を選択します。

注:

潜在的なエラーを回避するには:

- 別のコンテンツブロック内にコンテンツブロックを追加しないでください。
- 10 個を超える画像を追加しないでください。
- 1 つのコンテンツブロック内に複数のテーブルを追加しないでください。
- 2 つを超えるコンテンツブロックを追加しないでください。

7. テンプレートを保存してインスタンスにアップロードします。
保存した Microsoft Word ドキュメントをテンプレートとして使用できます。

関連情報

Set up Microsoft 365 reporting configuration

Add additional reporting configuration filters for a Microsoft 365 configuration record

Add related fields to a Microsoft 365 configuration record

BIA、BCP、およびイベントのレポートの生成

BIA、BCP、およびイベントのカスタマイズされたレポートを、それぞれのレコードから Microsoft Word 形式で直接生成します。この機能により、組織内の影響分析、計画、およびイベントのレポートを簡素化できます。

始める前に

必要なロール:sn_bcm.manager および sn_grc_doc_design.reader

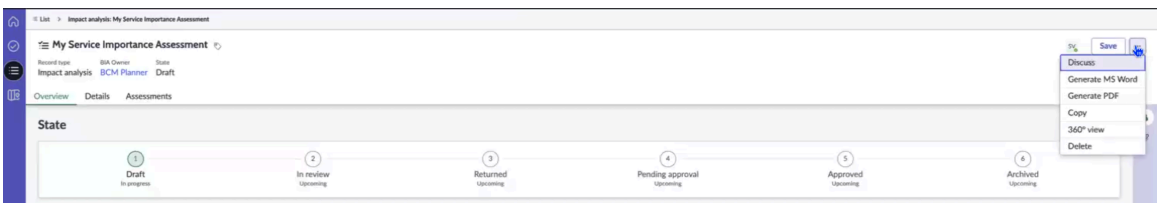
このタスクについて

sn_bcm.retain_report_attachments システムプロパティを構成することで、既存のレポート添付ファイルを保持するか置換するかを制御できます。

手順

1. 移動先 すべて > 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューから BIA、BCP、またはイベントレコードを開きます。
3. Microsoft Word形式でレコードのレポートを生成するには、**[...]** を選択し、レコードビューで **MS Word** の生成を選択します。

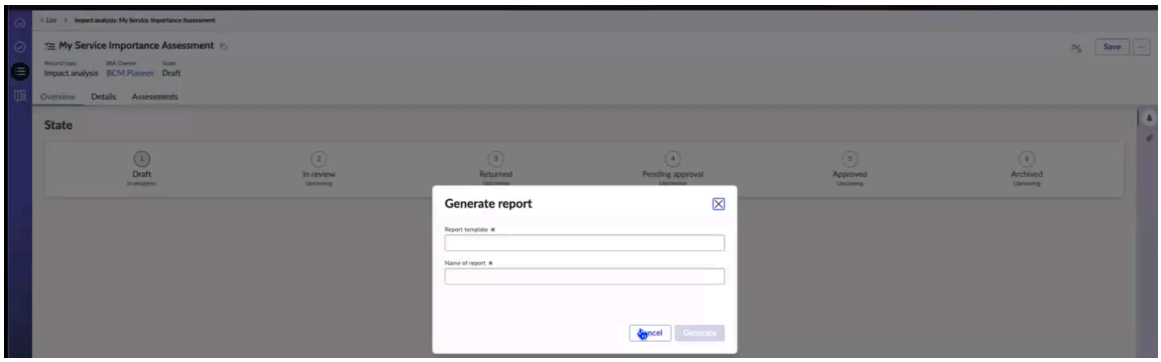
UI アクションを含む BIA レコードを例に示します。



[レポートを生成] ウィンドウが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. BIA、BCP、またはイベントのレポートテンプレートを選択し、レポートの名前を追加します。
5. [生成] を選択します。
「 Report is being generated」というメッセージが画面に表示されます。レコードをすぐに更新して、更新を表示します。
6. レコードの [詳細] タブに移動し、[アクティビティ] セクションにリストされているレポートを表示します。
レポートは Microsoft Word 形式で生成され、レコードの [アクティビティ] セクションに表示されます。
7. レポートを ServiceNow インスタンスまたはクラウド (Microsoft Office 365) にダウンロードします。
BIA、BCP、およびイベントの生成済みレポートは、後で参照できるように、 ServiceNow インスタンスまたはクラウド (Microsoft Office 365) に保存できます。

モバイルデバイスから事業継続性計画を管理する

事業継続性計画マネージャーおよび事業継続性計画ビューアーは、AndroidまたはiOSモバイルデバイスで 事業継続性管理 モバイルアプリケーションを使用して、事業継続性計画をそれぞれ管理および表示します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

モバイルデバイスから ServiceNow AI Platform インスタンスにログインすると、ログイン後にランディング画面が表示されます。

BCM モバイルアプリケーションの設定

モバイルデバイスと BCM モバイルアプリケーションのServiceNow AI Platformを設定します。

始める前に
必要なロール:sn_bcp.plan_admin

手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > ストアから入手可能 をクリックし GRC コアアプリケーションと ServiceNow AI Platform インスタンスをインストールします。

> **注:**
> GRC コアアプリケーションと ServiceNow AI Platform インスタンスは、ファミリーリリースが同じである必要があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

a. GRC: GRC：プロファイル アプリケーションがインスタンスにインストールされていることを確認するには、[プラグイン] に移動して GRC：プロファイル を検索します。

b. GRC：プロファイル コアアプリケーションがまだインストールされていない場合は、[インストール] をクリックして、インストールします。

c. GRC：プロファイル アプリケーションをインストールしたら、事業継続性管理をインストールします。

GRCコアアプリケーションはすべて ServiceNow Store から入手できます。

GRC コアアプリケーションのエンタイトルメントの取得、ダウンロード、およびインストールの詳細については、「GRC と ServiceNow Store」を参照してください。

GRC コアアプリケーションをインストールすると、GRC モバイルアプリケーション の依存関係プラグイン (com.glide.sg および com.glide.sg.agent_native_client) も自動的にインストールされます。

これらの依存関係プラグインがインストールされ、有効化されていることを確認するには：

a. [プラグイン] に移動します。

b. プラグイン ID (com.glide.sg および com.glide.sg.agent_native_client) を検索します。

c. 有効化されていない場合は、これらのプラグインを有効化します。

2. モバイルデバイスで表示する ServiceNow AI Platform インスタンスに BCM モバイルアプリケーションをインストールします。

> 注:
> BCMモバイルアプリと ServiceNow AI Platform インスタンスは、ファミリーリリースが同じである必要があります。

エンタイトルメントの取得、 BCM モバイルアプリのダウンロード、インストールの詳細については、「 GRC と ServiceNow Store」を参照してください。

3. モバイルユーザーを ServiceNow AI Platform インスタンスで admin ロールを持つユーザーとして、必要な ServiceNow AI Platform ロールをアサインします。

4. sn_bcm.manager ロールを持つモバイルユーザーとして、モバイルデバイスに最新の ServiceNow エージェントアプリをダウンロードしてインストールします。

最新の Agent アプリは、Apple iOS App Store と Google Play ストアで入手できます。

タスクの結果

モバイルデバイスと BCM モバイルアプリケーションのServiceNow AI Platformが正常に設定されました。次のステップでは、モバイルデバイスで ServiceNow エージェントアプリを使用して ServiceNow AI Platform インスタンスにログインします。

BCM モバイルアプリケーションにログインします

BCM モバイルアプリを開き、BCM を持つServiceNow AI Platform® インスタンスをモバイルデバイスに追加します。

始める前に

必要なロール:sn_bcm.manager

「BCM モバイルアプリケーションの設定」で説明されているセットアップ手順を完了していることを確認します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

手順

1. モバイルデバイスで、**ServiceNow** エージェントアプリをタップします。
   ServiceNow AI Platform インスタンスにまだログインしていない場合は、[インスタンス] 画面が表示されます。
2. BCM コアアプリケーションを含む ServiceNow AI Platform インスタンスがまだモバイルデバイスに追加されていない場合は、次の手順に従って追加します。

   a. 表示される [インスタンス] 画面で、プラスアイコン ( ) をタップします。
   ServiceNow AI Platform インスタンスのアドレスを入力して保存するように求める画面が表示されます。

   b. フィールドに入力します。

フィールド名	説明
インスタンスアドレスを入力するか、QR コードをスキャンしてください。	1 つ選択して続行します。 ▪ フィールドの .service-now.com の前に、ServiceNow AI Platform インスタンスの名前を入力します (例:bcm-mobile)。 ▪ アドレスを入力します。これは、モバイルデバイスで表示する ServiceNow AI Platform インスタンスの URL のアドレスです。 ▪ QR コードをスキャンします。 モバイルアプリの詳細については、ServiceNow 製品ドキュメント Web サイト の「モバイルアプリを使用してインスタンスにログインする」を参照してください。
(オプション) ニックネームを入力	このインスタンスのニックネームを入力します。デバイスに複数のインスタンスが存在する場合、ニックネームを使用することで、ServiceNow AI Platform インスタンスをすばやく見つけることができます。

   c. [保存してログイン **(Save and Login)**] をタップします。

3. 表示される ServiceNow ログイン画面で、追加する ServiceNow AI Platform インスタンスの [ユーザー名] と [パスワード] を入力し、[ログイン] をタップします。
   計画リストを含む BCM ランディング画面が表示されます。BCM モバイルアプリに正常にログインしました。
4. モバイルデバイスでインスタンスにログインすると、そのインスタンスがデバイスのデフォルトの ServiceNow AI Platform インスタンスになります。
   デバイス上の別の ServiceNow AI Platform インスタンスを表示するには、デフォルトのインスタンスからログアウトする必要があります。ログアウトするには：

   a. 画面の下部にある [その他] をタップします。
   [その他] 画面が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

b. [設定] をタップします。

c. 表示される画面で、[ログアウト] をタップします。
[インスタンス] 画面に、モバイルデバイスに追加した ServiceNow AI Platform インスタンスが表示されます。

d. オプション: 別のインスタンスをタップしてログインするか、前の手順に従って別のインスタンスを追加します。

5. 認証情報を使用してアプリにログインします。

6. BCM モバイルアプリインターフェイスにアクセスします。

Trouble?

デバイスで **ServiceNow** エージェントアプリをタップした後に BCM モバイルアプリのインスタンス画面が表示されない場合は、**ServiceNow** エージェントアプリがデバイスで信頼できるアプリとして許可されていることを確認してください。信頼できるアプリとしてのアクセスを許可するには、デバイスの [設定] および [一般的なデバイス管理] に移動し、オプション ([アプリを信頼 **(Trust app)**] など) をタップしてアクセスを許可します。

ログイン画面に認証情報を入力した後にエラーメッセージが表示された場合は、ServiceNow AI Platform インスタンスのユーザー名とパスワードが正しいことを確認してください。

ランディング画面の表示に問題がある場合は、ネットワーク接続を確認してください。

ServiceNow エージェントアプリをタップしても [インスタンス] 画面を表示できない場合は、デバイスからアンインストールしてください。Apple iOS App Store または Google Play ストアから最新バージョンのアプリを入手して、再インストールしてみてください。

次のタスク
計画リストを表示し、計画の PDF を生成します。

計画リストを監視して **PDF** を生成する

BCM モバイルアプリケーションで事業継続性計画 (BCP) のリストを監視します。計画レコードの PDF を保存して生成することができます。

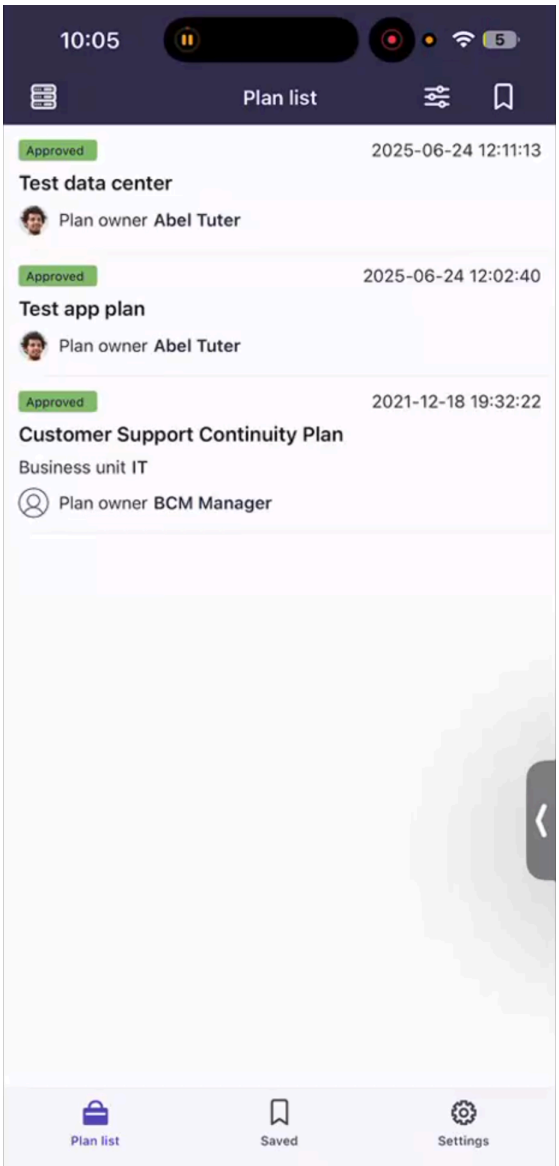
始める前に
必要なロール:sn_bcp.plan_manager、sn_bcp.plan_viewer

手順

1. モバイルアプリの事業継続性計画 (BCP) リストビューに移動します。

BCM モバイルアプリケーションでは、計画一覧画面がユーザーに表示されます。BCP 計画ビューアーは、エージェントを介してインスタンスにログインすると、計画リストにアクセスできます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



インスタンスは、 BCM モバイルアプリケーションを唯一のエージェントアプリケーションにすることができます。複数のエージェントアプリケーションがある場合は、すべてのアプリケーションを含む画面が表示され、BCP 計画ビューアーは BCM モバイルアプリケーションを選択して、計画リストに移動できます。承認された計画のリストが表示されます。

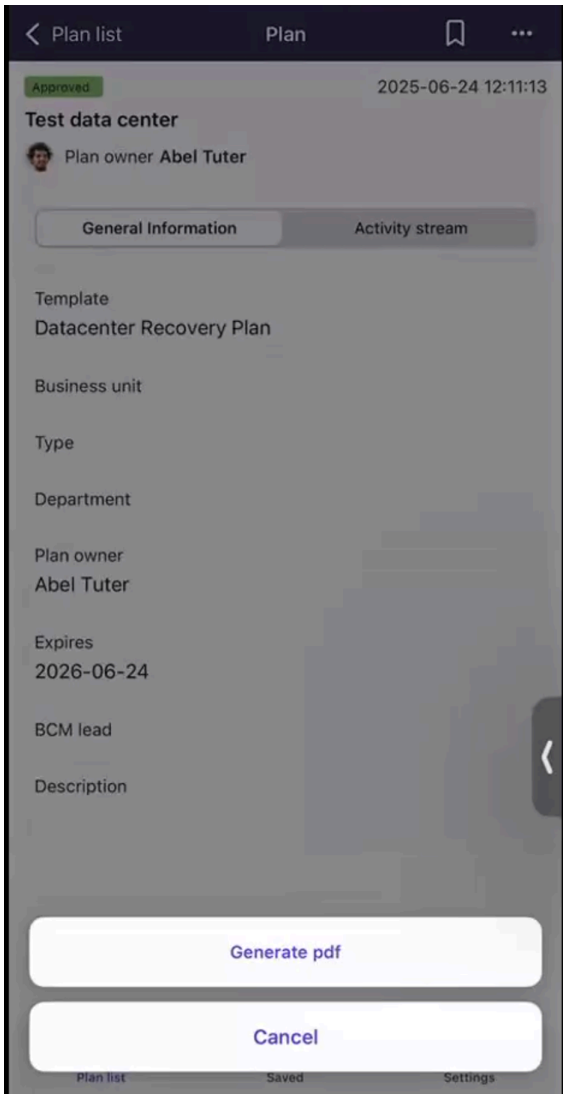
これらの各計画にアクセスするために、BCP 計画ビューアは計画を 1 つずつ選択できます。

2. 計画レコードを選択し、その詳細を表示します。
3. 計画の PDF を生成するには、計画を選択し、右上隅にある 3 つのドットを選択して、[**PDF** の生成] を選択します。

   UI アクションを選択して、計画の PDF を生成できます。

自動翻訳

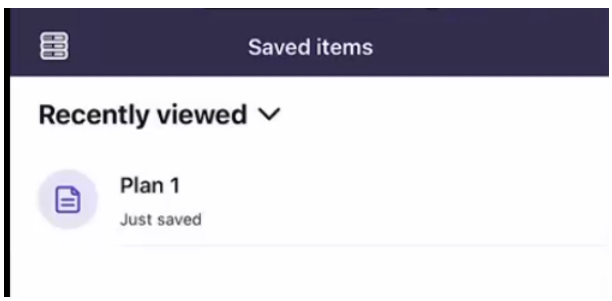
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



PDF が生成され、「計画」PDF がダウンロード用に正常に生成されたことを示すメッセージが表示されます。

4. 特定のプランを保存するには、プラン ビューの右上隅にあるリボン アイコンを選択し、[アイテムの保存] ダイアログ ボックスでプランの名前を入力し、[完了] を選択します。
保存機能はベースバージョンの一部として提供されます。

   選択した計画の PDF がインスタンスに保存されます。同様に、計画マネージャーまたは計画閲覧者は、アプリの [保存されたアイテム] タブで保存されたすべてのレコードを表示できます。



BCMクラシックの使用ワークスペース

このセクションでは、事業継続性管理 クラシック ワークスペースの事業継続性タスクの管理について説明します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

BCMクラシックワークスペースのサポート

Vancouverリリース以降、BCM 構成可能ワークスペースは最新のユーザーエクスペリエンスを提供しています。Xanaduリリース後、BCMクラシックワークスペースは廃止される予定です。BCMクラシックワークスペースは、Xanaduリリース後も URL を介して引き続き使用できますが、ナビゲーションには表示されなくなります。BCM 構成可能ワークスペースを使用すると、Xanaduリリース後の円滑な移行が保証されます。

BCM クラシックワークスペースは旧式のユーザーインターフェイスであり、Xanaduリリースで導入された新機能や拡張機能と互換性がありません。アップグレード後もBCMクラシックワークスペースを引き続き使用すると、ServiceNow でサポートされない問題やエラーが発生する可能性があります。

中断を避けるために、Xanaduリリースの前または直後にBCM 構成可能ワークスペースに移行すると、最新の機能と最高のユーザーエクスペリエンスが提供されます。

BCM 構成可能ワークスペースでの事業継続性タスクの管理の詳細については、「BCMワークフロータスクの管理」を参照してください。

事業継続性管理 クラシック ワークスペース のカスタマイズ

事業継続性管理 クラシック ワークスペース で、特定の要件に合わせて基本的な設定と機能を設定できます。

> **注:**
> BCM クラシック ワークスペース は今後廃止される予定です。新しいインスタンスではナビゲーションに表示されなくなりますが、引き続きサポートされます。この機能の最新のエクスペリエンスは BCM UIB ワークスペース で提供されます。

BCM クラシック ワークスペース で一般に使用されるカスタムコンポーネントの構成方法については、記事 KB1442692 を参照してください。

> **注:**
> ナレッジベース 記事を表示するには、Now Support にログインする必要があります。

BCM UIB ワークスペース へのレポートとカスタム変更の移行

事業継続性管理 アプリケーションの既存のユーザーで、UI アクションをカスタマイズしている場合は、カスタマイズしたアクションを BCM UIB ワークスペース に移行する必要があります。

> **注:**
> BCM クラシック ワークスペース は今後廃止される予定です。新しいインスタンスではナビゲーションに表示されなくなりますが、引き続きサポートされます。この機能の最新のエクスペリエンスは BCM UIB ワークスペース で提供されます。

事業継続性管理 アプリケーションに付属していた UI アクションは、事業継続性管理 アプリケーションソフトウェアの一部として BCM UIB ワークスペース に移行されました。

特定の要件に合わせていくつかの UI アクションをカスタマイズした場合は、手動で 事業継続性管理 UI ビルダー ワークスペース に移行する必要があります。

レポートとカスタム変更を BCM UIB ワークスペース に移行する方法については、記事 KB1444397 を参照してください。

ビジネスインパクトアナリシスの構造化ワークフロー

ビジネスインパクトアナリシスは、ビジネスプロセスまたはビジネス機能の中断の結果を予測するのに役立ちます。

ビジネスプロセスは、ビジネスサービスまたは製品を顧客に提供するためにビジネス組織が行う一連のタスクです。ビジネスプロセスが中断すると、組織の収益と評判に大きな影響を与える可能性があ

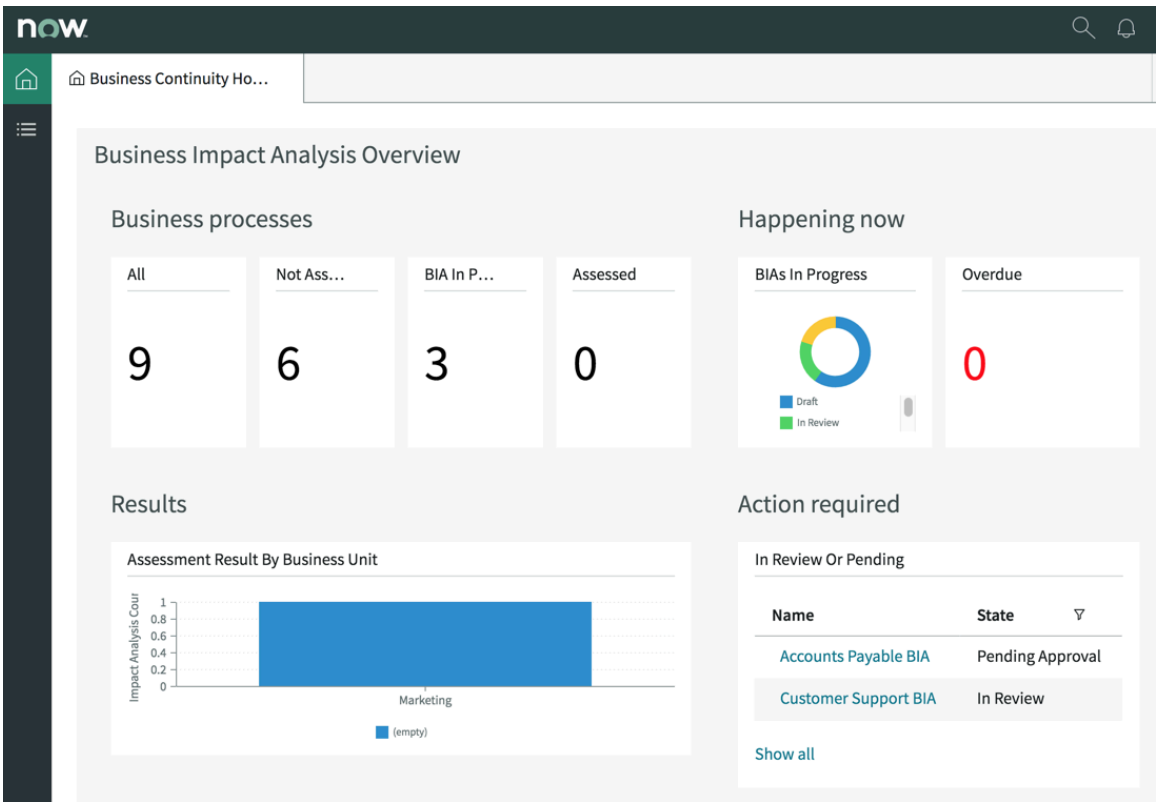
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ります。ビジネスインパクトアナリシス (BIA) を実行して、重要なプロセスを特定して優先順位を付け、影響を定量化または認定し、復旧の依存関係を特定します。理想的には、重要なプロセスのビジネスインパクトアナリシスを年に 1 回実行する必要があります。

重要なビジネスプロセスの中断のアセスメントは、ビジネスの収益、法務の問題、人員の混乱、またはビジネスの評判への結果的な影響を推定するのに役立ちます。また、影響を受ける可能性があるビジネスアプリケーション、テクノロジー、またはベンダーに対するビジネスプロセスの依存関係を特定することもできます。この分析では、復旧戦略の開発に必要な情報を収集します。

ビジネスインパクトアナリシスの概要



ビジネスインパクトアナリシスの影響度評価

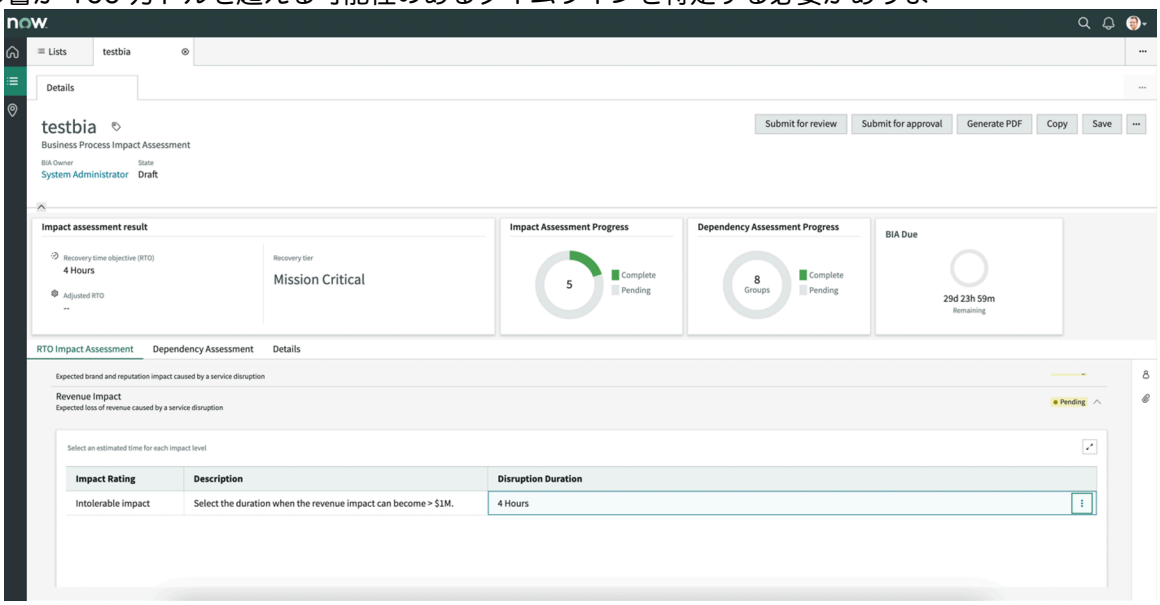
組織の 事業継続性管理 (BCM) アドミニストレーターは、ビジネスインパクトアナリシス (BIA) の影響度評価を定義し、影響がビジネスプロセスに対して許容可能かどうかを決定します。影響度評価の詳細については、「影響度カテゴリを評価するための影響度評価の構成」を参照してください。BCM アドミニストレーターが設定した構成に従って、質問は **[RTO** 影響度評価] タブに表示されます。

BCM アドミニストレーターが、[収益への影響度] カテゴリに許容できない影響度評価を構成した、次の例を検討してください。BCM アドミニストレーターは、許容できない影響と見なされるものを定義しています。BIA オーナーは、収益へ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

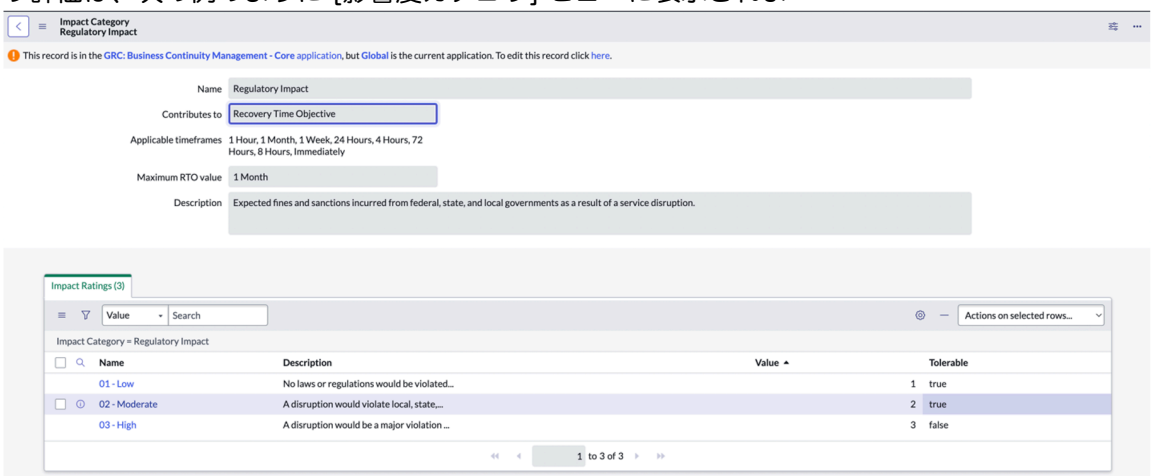
の影響が 100 万ドルを超える可能性のあるタイムラインを特定する必要がありま



す。

影響度カテゴリの複数の影響度評価

BCM アドミニストレーターが、影響度カテゴリの複数の影響度評価を含むようにアセスメントアンケートを構成している場合、影響度カテゴリ評価は、次の例のように [影響度カテゴリ] ビューに表示されま



す。

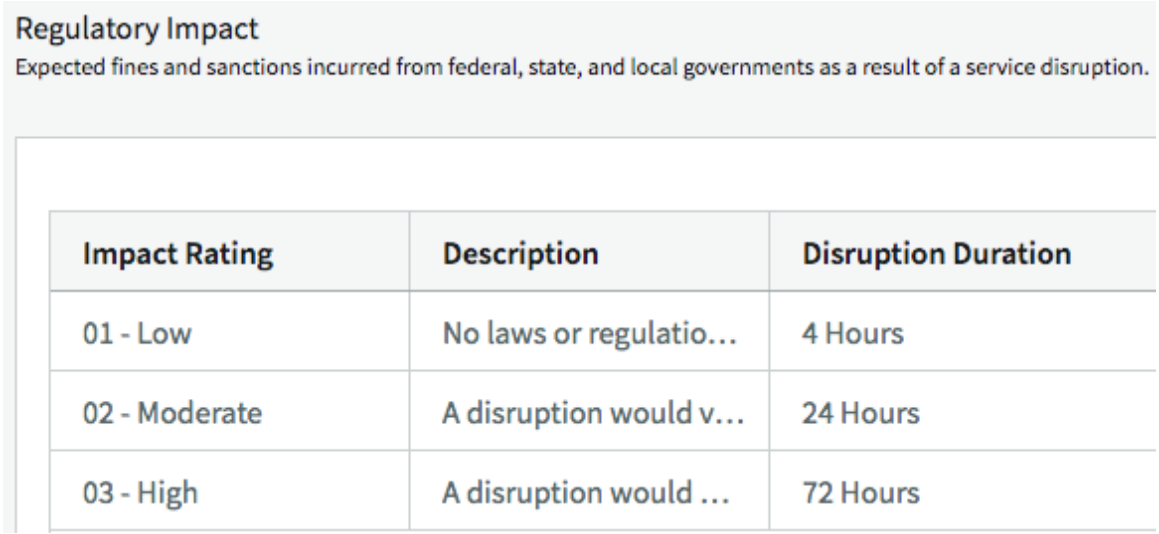
BCM アドミニストレーターは、影響度カテゴリごとに、影響度評価の非許容のしきい値を指定できます。最初の許容できない影響度カテゴリの中断期間は、目標復旧時間 (RTO) に対して選択されます。影響度評価には、次のような値が指定されます。

- 低 = 1
- 中 = 2
- 高 = 3

RTO 計算のサンプルについては、次の例を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

影響度カテゴリの計算を示す例



RTO 計算の例

シナリオ	許容できない影響	説明
シナリオ 1	[影響度評価] テーブルで、[許容範囲] フィールドが **[false]** に設定されている。	アドミニストレーターが [低] の規制上の影響を許容できないと指定した場合、対応する中断期間が目標復旧時間 (RTO) として設定されます。 この例では、**[01 -** 低] 影響度評価の中断期間は 4 時間に設定されています。したがって、影響度カテゴリの目標復旧時間 (RTO) は 4 時間より長くなります。 中程度の影響の中断期間の方が短い場合でも、計算では、[許容範囲] フィールドが **[false]** に設定されている、最初に英数字順にソートされた影響度評価の値が選択されます。
シナリオ 2	[影響度評価] テーブルで、[許容範囲] フィールドが **[false]** に設定されている。	アドミニストレーターが [中] の規制上の影響を許容できないと指定した場合、対応する中断期間が目標復旧時間 (RTO) として設定されます。 この例では、**[02 -** 中] 影響度の中断期間は 24 時間に設定されています。したがって、影響度カテゴリの目標復旧時間 (RTO) は 24 時間より長くなります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RTO 計算の例 (続く)

シナリオ	許容できない影響	説明
シナリオ 3	[影響度評価] テーブルで、[許容範囲] フィールドが **[false]** に設定されている。	次の例に示すように、アドミニストレーターが [高] の規制上の影響を許容できないと指定した場合、対応する中断期間が目標復旧時間 (RTO) として設定されます。  この表形式の例では、**[03 -** 高] 影響度の中断期間は 72 時間に設定されています。したがって、影響度カテゴリの目標復旧時間は 72 時間より長くなります。
シナリオ 4	[低]、[中]、[高] の影響度評価の [許容範囲] フィールドが **[true]** に設定されている。	アドミニストレーターがすべての影響度評価を許容可能として設定した場合、テンプレートの [最大 **RTO** 値] フィールドで指定された値が目標復旧時間 (RTO) として選択されます。 次の例では、アドミニストレーターがすべての影響度評価を許容可能として設定しています。したがって、目標復旧時間 (RTO) は、[最大 **RTO** 値] フィールドで指定された値に従って 1 か月です。 

目標復旧時点 (RPO) に貢献する影響度カテゴリの影響分析の質問からのカテゴリスコアの計算

影響度カテゴリが **RPO** に寄与している場合は、その RPO カテゴリの各影響分析の質問を、事業上の重要度、運用上の重要度、ビジネスに必須、または運用に必須などのデータの値に基づいて評価します。その RPO の全質問の中での最大値は、その影響度カテゴリのカテゴリスコアと見なされ、影響度カテゴリ結果テーブル [sn_bia_category_result] に保存されます。

BIA の全体的な影響度評価結果の計算

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

影響度カテゴリの [中断期間] を更新すると、BIA の RTO が自動的に更新されます。BIA の RTO は、各影響度カテゴリの中で最も低い許容可能なダウンタイムとして設定されます。

たとえば、法務、評判、人員、規制の 4 つの影響度カテゴリがある BIA について考えます。法務の影響度カテゴリの中断期間の値を更新すると、BIA の RTO 値が各影響度カテゴリの最も低い許容可能な中断期間に基づいて再計算されます。復旧階層は組織ごとに異なり、再計算された RTO 値に基づいて設定されます。

RTO 値	復旧階層
即時	ミッションクリティカル
1 時間	ミッションクリティカル
4 時間	ミッションクリティカル
8 時間	ビジネスクリティカル
24 時間	ビジネスクリティカル
72 時間	必須
1 週間	必須
2 週間	必須ではない
1 か月	必須ではない

ビジネスインパクトアナリシスの作成

ビジネスインパクトアナリシス (BIA) を作成して、計画に必要な情報を取得します。BIA を使用して、アイテムの目標復旧時間を特定し、最も重要な依存関係を持つ資産と最も重要でない依存関係を持つ資産に優先順位を付けます。この情報を使用して、計画段階で復旧戦略を確立します。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.program_manager または sn_bcm.planner

手順

1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. [アクション] セクションで **[BIA** を開始] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

[BIA を開始] フォーム

フィールド	説明
名前	ビジネスインパクトアナリシスの名前。 BIA の説明を 255 文字以内で入力します。
テンプレート	BIA を作成するためのモデルとして使用できるテンプレート。 テンプレート BIA には、アセスメントのタイプに対応する識別されたプライマリ要素 (アプリケーション、ビジネスプロセス、および場所)、影響度カテゴリ、および依存資産があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
テーブルに適用	テンプレートのプライマリ要素データを格納するテーブル。
適用先	ビジネスプロセス、ビジネスアプリケーション、または BIA で評価されるその他の資産。
事業部門	ビジネスプロセスを使用し、BIA が評価される事業部門。
部門	ビジネスプロセスを使用する部門。
BIA オーナー	BIA を所有し、完了する責任を負っている人物。BCM リードは BIA をレビューできます。

4. [送信] をクリックします。

   BIA は [ドラフト] ステータスで作成されます。

   BIA の状況移行：

   ドラフト中

   BIA が編集中のステータスです。RTO、RPO、および依存関係アセスメントを追加します。レビューのために BIA を送信できます。その場合は、BCM リードが BIA にアサインされていることを確認してください。または、BIA オーナーが承認のために BIA を送信できます。

   レビュー中

   BIA をレビューし、承認のために送信します。このステータスになっているときは、BCM アドミニストレーターは BIA オーナーと BCM リードを変更できます。

   承認待ち

   [承認のため送信] をクリックすると、BIA が [承認待ち] ステータスに設定されます。承認構成、承認レベル、および承認ルールが BIA に対して評価され、承認者が決定されます。BIA に対して要求されたステータスの承認レコードがない場合、BCM プログラムマネージャーは [却下] または [承認] のいずれかを選択できます。承認のために送信する前に、RTO、RPO、および依存関係アセスメントを追加する必要があります。承認待ちステータスでは、BIA は読み取り専用であり、RTO、RPO、および依存関係アセスメントの詳細を変更することはできません。計画とその関連テーブルのステータスが読み取り専用になります。

   戻り

   BIA は編集可能です。BCM アドミニストレーターは、このステータスで BIA オーナーを変更できます。BIA が却下されると、[戻り] ステータスに設定されます。

   承認済み

   BIA が承認済みステータスになっているときは、BIA は読み取り専用になり、RTO、RPO、および依存関係アセスメントの詳細を変更することはできません。ステータスを変更するための唯一のオプションは、[アーカイブ化済み] ステータスに移行することです。

   アーカイブ化済み

   BIA がアーカイブされると、読み取り専用になります。影響度依存関係グループ、影響度カテゴリの結果、および BIA が影響度評価タブと依存関係アセスメントタブに入力するデータを取得する依存関係など、基礎となるすべてのテーブルが読み取り

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

専用になります。これらのタブの情報は編集できなくなります。このステータスでは、BIA の PDF を生成することもできます。

注:
スケジュール済みジョブが毎週実行され、期限切れになった BIA が [アーカイブ化済み] ステータスに移行します。

プロセスの影響度カテゴリと依存関係の評価

ビジネスインパクトアナリシス (BIA) のさまざまなコンポーネントを評価します。まず、ビジネスプロセスの影響度カテゴリを評価して決定します。次に、さまざまな依存関係タイプ間でビジネスプロセスが必要とする基礎となる依存関係を特定します。

始める前に

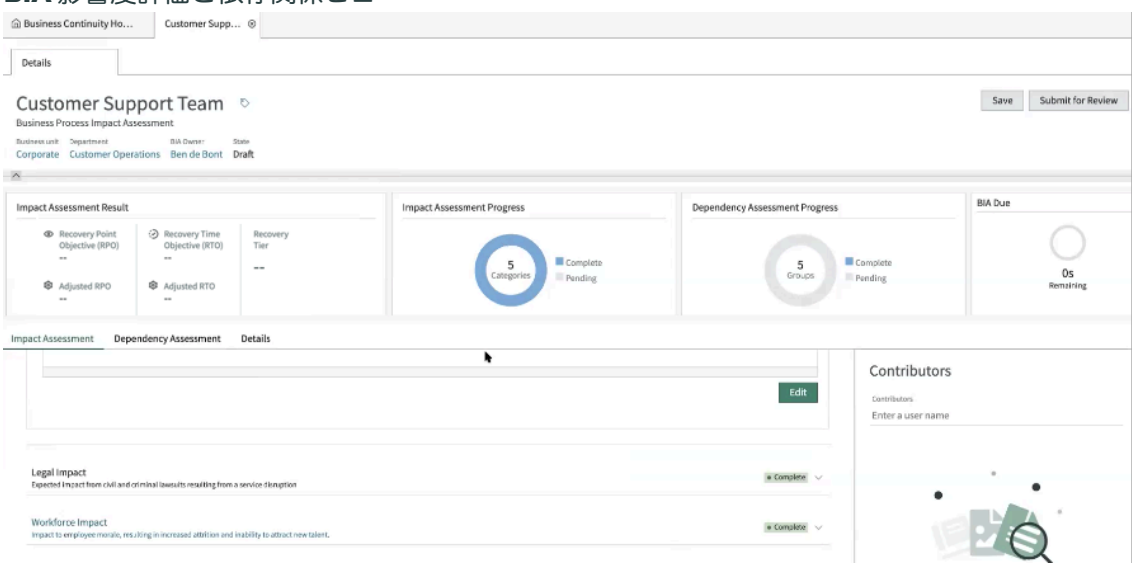
必要なロール：sn_bcm.program_manager または sn_bcm.planner

手順

1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) をクリックします。
   デフォルトでは、[ビジネスインパクトアナリシス] リストの [ドラフト] ステータスのレコードが開きます。
3. ビジネスインパクトアナリシス (BIA) レコードを作成するには、[新規] をクリックします。
4. 既存の BIA を更新するには、[名前] 列のレコードへのリンクをクリックします。

   影響度評価の結果、その進捗状況、およびビジネスアプリケーション、ハードウェア、ソフトウェア、またはベンダーに対するビジネスプロセスの依存関係に関する情報を提供するさまざまなカードを表示できます。

BIA 影響度評価と依存関係ビュー



影響度評価結果

このカードは、評価対象のアイテムの復旧階層レベルのアセスメント結果と、評価されるアイテムの目標復旧時間を提供します。

- 目標復旧時点 (RPO)：ビジネス中断期間中に、データ損失が許容レベルを超える可能性を評価するメトリクス。RPO の結果は、BIA で評価されたプライマリ要素がデータのバックアップを必要とする場合にのみ、影響度評価結果カードに表示さ

自動翻訳

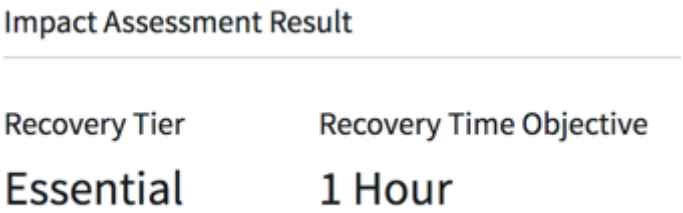
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

れます。それ以外の場合、カードには目標復旧時間 (RTO) と復旧階層の結果のみが表示されます。

- 目標復旧時間：中断後にビジネスが要素またはアイテムをどの程度迅速に復旧する必要があるかを計算するメトリクス。RTO は、災害後に運用が正常に復旧するまでにビジネスが存続できる期間として測定されます。RTO が 4 時間で、アイテムの復旧までに 4 時間以上かかる場合は、ビジネスでかなりの損失が発生する可能性があります。
- 復旧階層：危機の状態で復旧する必要があるアイテムと復旧する必要がある時間に応じて、組織によって定義する復旧階層が異なります。[即時]、**[1** 時間]、または **[4** 時間] の目標復旧時間は、差し迫ったものであり、ミッションクリティカルな復旧レベルに該当します。一方、2 週間から 1 か月の RTO は、重要ではない復旧階層であり、ビジネスに大きな損失をもたらさない可能性があります。

注:
要件に応じて、復旧階層と RTO のマッピングを構成できます。

影響度評価結果



影響度評価の進捗状況

このコンポーネントは、アセスメント処理待ちのカテゴリに関連して評価および完了した影響度のカテゴリを示します。影響度の各カテゴリのアセスメントを完了すると、[影響度評価の進捗状況] リボンコンポーネントの進捗状況を確認できます。色分けされたリボンコンポーネントは、処理待ちの影響度カテゴリのアセスメントを完了するように求めています。

影響度評価の進捗状況



依存関係アセスメントの進捗状況

ビジネスプロセスが、機能するためにさまざまな資産クラスまたはタイプに依存していることを特定します。アセスメントでは、ビジネスプロセスとビジネスアプリケーション、ソフトウェア、職場、またはベンダーとの関係を特定します。または、プロセスが使用する資産タイプ。ビジネスプロセスが依存するビジネスアプリケーショ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ン、ソフトウェアまたはハードウェア、およびベンダーの評価を完了すると、依存関係アセスメント円グラフの進捗状況が進行します。

依存関係アセスメントの進捗状況円グラフ



BIA SLA

ビジネスインパクトアナリシスには、ビジネスプロセスのアセスメントを完了させる制限時間の指定も必要です。デフォルトでは、SLA タイマーは 30 日に設定されており、BIA がドラフト (ドラフトステータス) から、完了した時間 ([承認済み] ステータス) までの時間がマークされます。

5. ビジネスプロセスのさまざまなタイプのビジネスインパクトカテゴリを評価するには、**[RTO** 影響度評価] タブをクリックします。
すべての影響度カテゴリは構成可能です。ビジネスプロセスは、デフォルトで、ビジネスインパクトアナリシスに使用したテンプレートから一連の影響度カテゴリを取得します。詳細については、「影響度カテゴリの確認とそのダウンタイムの評価」を参照してください。
6. ビジネスインパクトとデータ変更頻度に関する資産のデータ価値に関する質問に答えるには、**[RPO** 影響度評価] タブをクリックします。
詳細については、「技術資産がビジネスに与える RPO の影響度の評価」を参照してください。
7. 依存関係グループを確認し、ビジネスプロセスが依存する各グループ内のアイテムを特定するには、[依存関係アセスメント] タブをクリックします。
ビジネスプロセスで使用する資産の重要度に基づいて、事業継続性計画と復旧計画に優先順位を付けることができます。詳細については、「復旧計画の優先順位付けのための重要な依存関係の特定」を参照してください。

影響度カテゴリの順序

[RTO 影響度評価]、**[RPO** 影響度評価]、および [依存関係アセスメント] タブに影響度カテゴリが表示される順序は、BIA で使用されるテンプレートで影響度カテゴリが作成される順序によって異なります。

RTO 影響度評価グリッドの影響度評価の順序と RPO 影響度評価グリッドの質問の順序は、それぞれ BIA の影響度評価スケールと影響分析の質問によって定義されます。

ただし、BIA にアクセスできるユーザーは誰でも、RPO 影響度グリッド、RTO 影響度カテゴリ、および依存関係グループの順序を変更できます。

依存関係グループグリッドの列

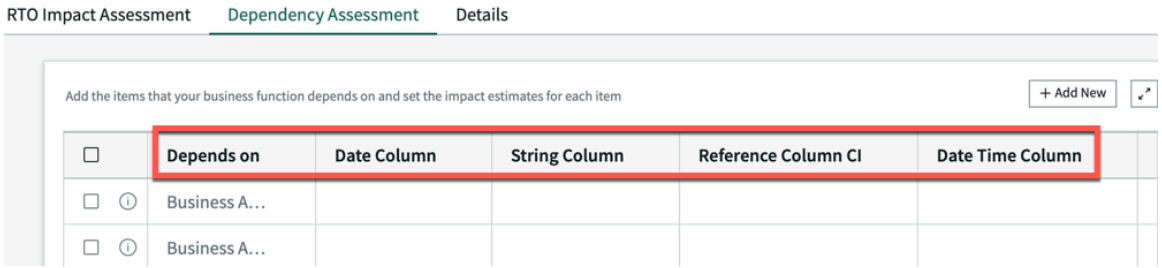
依存関係グループの要素の列構成をセットアップし、グリッド構成をアクティブとして有効にした場合、要素定義がグリッド構成の要素定義と一致する、対応する依存関係グループの依存関係グリッドでこれらの列を表示できます。

自動翻訳

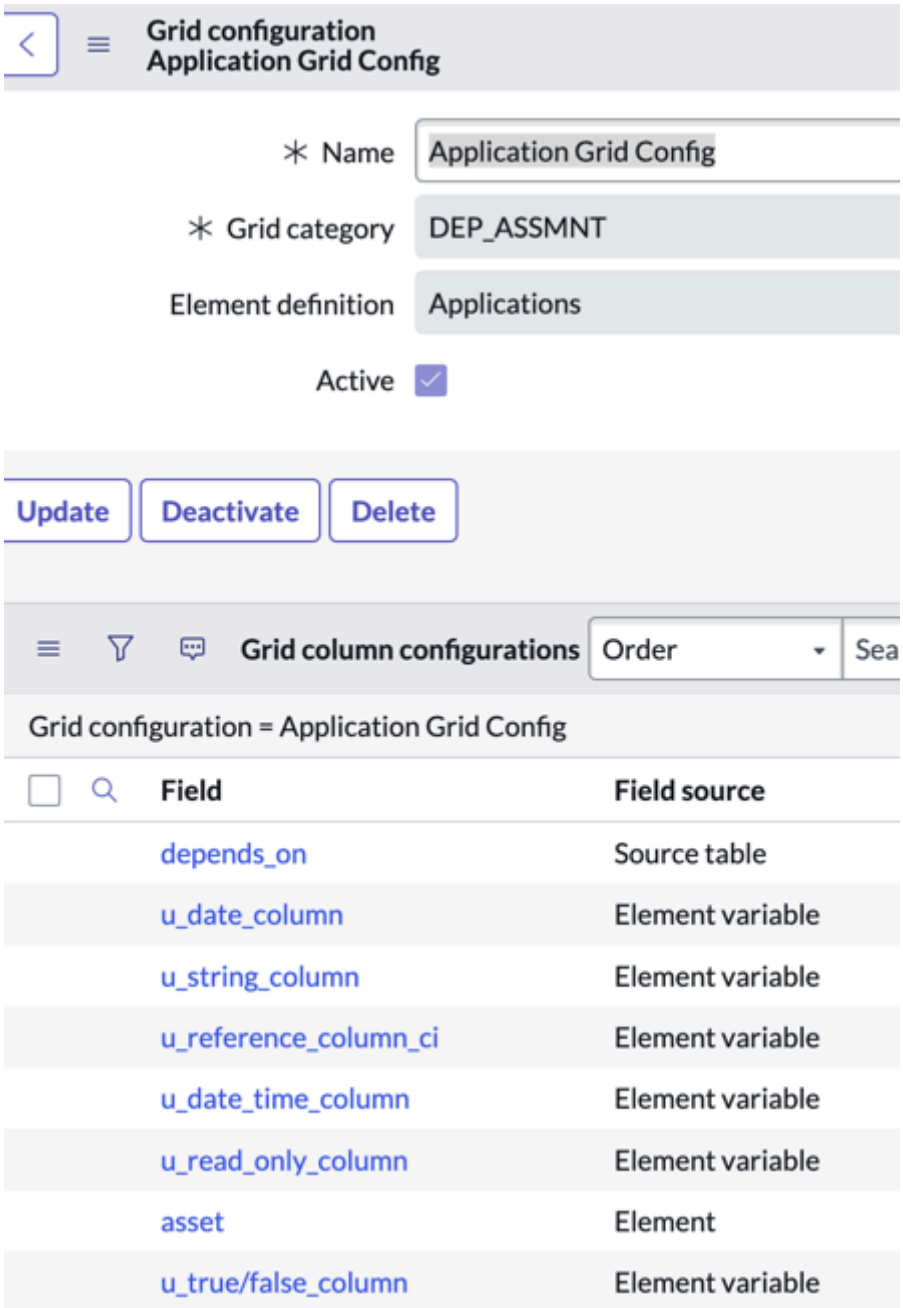
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

それ以外の場合は、構成されたビューに基づいてレンダリングされたグリッドを表示できます。これは、依存関係グループの必要なデータバックアップ値に応じて、IT 資産ビューまたは非 IT 資産ビューのいずれかになります。

依存関係アセスメントのグリッド列



グリッド構成のセットアップ



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

依存関係用に作成された変数のアドホックレポートの場合：[レポートを有効にする] オプションが **true** に設定されている要素変数で定義した変数と一致するように、依存関係レポートソース [sn_bia_dependency_report_source] テーブルに列を追加します。毎週実行されるスケジュール済みジョブ：

- 以下を取得します。
  - 影響分析が承認済みステータスで、過去 7 日間に更新され、期限切れになっていない依存関係 (sn_bia_dependency)
  - 対応する要素
- さらに、レポートテーブルのデータを更新します。

必要な列を表示するには、要素変数とグリッド構成を設定する必要があります。詳細については、「Grid configuration for column display (列表示のグリッド構成)」を参照してください。

8. 依存関係アセスメントで RTO、RPO、および依存関係グループの影響度カテゴリの表示順序を変更するには、次に移動します: 事業継続性 > ビジネスインパクトアナリシス > 影響カテゴリ結果.
   a. インパクト分析レコードをクリックします。
   b. RTO および RPO の影響度カテゴリの順序を変更するには、[影響度カテゴリ結果] 関連リストをクリックし、[順序] 列の順序を変更します。
   c. 依存関係グループの順序を変更するには、 [影響度依存関係グループ] 関連リストをクリックして順序を変更します。

影響度カテゴリの確認とその復旧時間の評価

影響度カテゴリを確認して、組織でビジネスプロセスのダウンタイムが発生する期間を定義します。ダウンタイムまたは中断期間を分析します。これは、評価対象の資産の目標復旧時間を決定するのに役立ちます。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.planner、sn_bcm.program_manager

このタスクについて

BCM アドミニストレーターは、ビジネスに関連する影響度カテゴリを構成します。クラシック BCM ワークスペースでの影響度カテゴリの構成の詳細については、「影響度カテゴリを評価するための影響度評価の構成」および「ビジネスインパクトアナリシスの構造化ワークフロー」を参照してください。

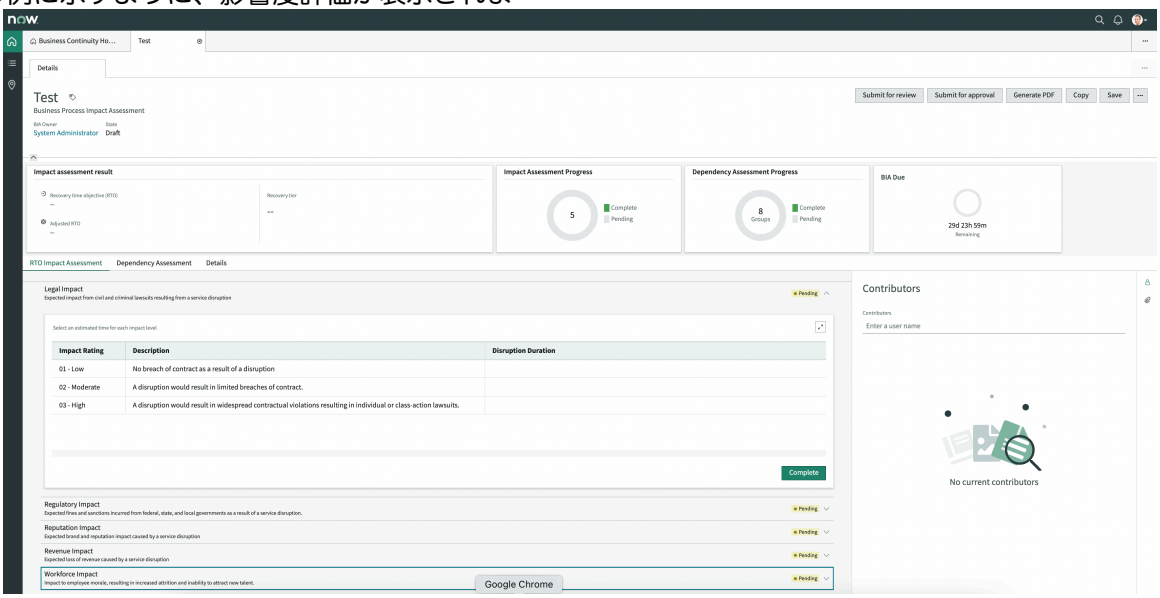
手順

1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [名前] 列で、[ドラフト] ステータスの BIA レコードへのリンクを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次の例に示すように、影響度評価が表示されます。



4. ビジネスインパクトカテゴリをその復旧時間で更新するには、**[RTO** 影響度評価] タブを選択します。
   影響度カテゴリのステータスが [保留中] に変わり、グリッドが編集可能になります。
5. 各影響度評価の [中断期間] セルをダブルクリックします。

   中断期間は、アセスメントの質問への回答と対象分野の専門知識に基づいて推定される中断の期間です。BIA オーナーは、アセスメントの質問への回答と対象分野の専門知識に基づいて、適切な中断期間を選択する必要があります。中断期間は、目標復旧時間 (RTO) の計算に使用されます。
6. 影響の重要度に応じて表示されるリストから期間を選択します。

   影響度カテゴリのすべての影響度評価について、中断期間の入力を完了するように求められます。

   値のリストには、目標復旧時間 (RTO) タイプの影響度カテゴリに対して適用可能な期間として設定されている期間のみが表示されます。
7. 次の影響度評価の [中断期間] セルを選択して値を入力し、同様に保存します。
8. 影響度カテゴリのすべての影響度評価の期間を評価した後、[完了] ボタンを選択します。
   [編集] ボタンをもう一度選択しなければ、ステータスが [完了] に変わり、編集は終了します。

技術資産がビジネスに与える **RPO** の影響度の評価

[RPO 影響度評価] タブを使用して資産情報を入力します。復旧の目的、資産のデータ価値、資産内のデータ変更の頻度に応じて、情報が重要になる可能性があります。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.program_manager または sn_bcm.planner

このタスクについて

すべての要素でデータのバックアップが必要なわけではありませんが、IT ハードウェアやソフトウェアなどのテクノロジー資産は、重要な情報コンテンツのためにデータのバックアップが必要です。

手順

1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. リストアイコン ( ) をクリックします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デフォルトでは、[ビジネスインパクトアナリシス] リストの [ドラフト] ステータスのレコードが開きます。

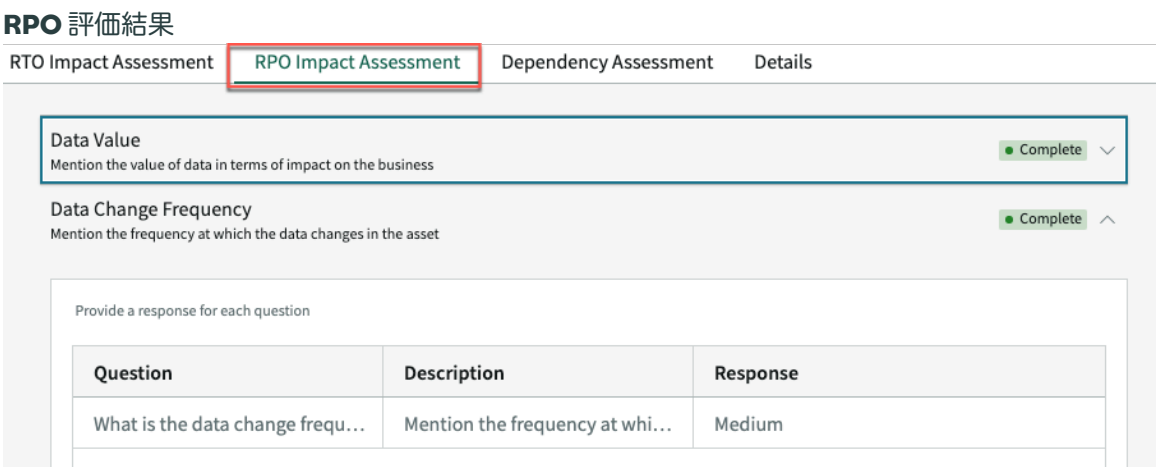
3. ビジネスインパクトアナリシス (BIA) レコードを作成するには、[新規] をクリックします。
4. 既存の BIA を更新するには、[名前] 列のレコードへのリンクをクリックします。
5. 目標復旧時点の BIA を評価するには、**[RPO** 影響度評価] タブをクリックします。
   [RPO 影響度評価] タブは、BCM アドミニストレーターが 事業継続性管理 の要素定義の構成 で [データのバックアップが必要] フィールドを [はい] に設定した場合にのみ表示されます。
6. [データ値] グリッドの [応答] セルに、ビジネスに対する RPO 影響度に関する資産のデータ値を入力します。
7. [完了] をクリックします。
8. 資産のデータが変更される頻度を指定するには、[データ変更頻度] グリッドの質問に対する回答を入力します。
9. RPO 関連のすべての質問に回答したら、[完了] をクリックします。

タスクの結果

影響度評価結果の目標復旧時点 **(RPO)** の計算

影響度カテゴリが RPO に寄与している場合、RPO は次のように計算されます。

RPO は、RPO 影響度評価の影響度カテゴリで各質問に対して指定した評価または応答によって異なります。



影響度カテゴリの影響度分析の各質問に対して選択した応答に基づいて、RPO が計算されます。

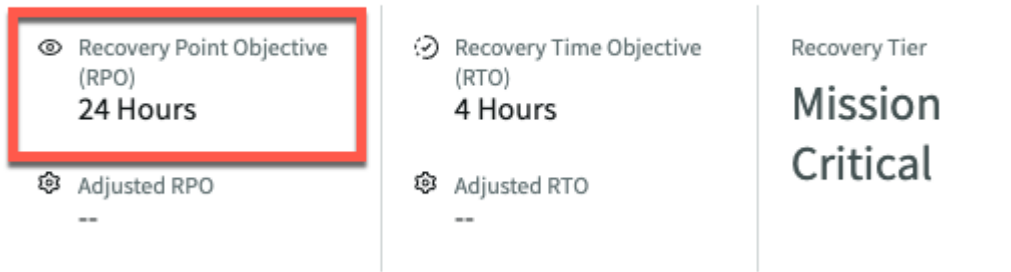
たとえば、2 つの質問の応答が [中] (値が 20) で、1 つの質問が [高] (値が 30) の場合、値が最大の応答が考慮されます。したがって、この場合、影響度評価は [高] と見なされ、値は 30 になります。

影響度評価には、影響度評価テーブル [sn_bcm_impact_rating] で事前に設定された整数値があります。この値は、影響度カテゴリ結果テーブル [sn_bia_category_result] の対応する影響度カテゴリのカテゴリスコアとして更新されます。すべての影響度カテゴリ間で最大のカテゴリスコアが選択されます。このスコアは、下限しきい値と上限しきい値の範囲内になります。最大スコアが含まれるしきい値範囲は、BIA の影響度評価結果カードで目標復旧時点 **(RPO)** としてスタンプされる期間に対応します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

影響度評価結果カードの **RPO** 値



しきい値スコアと期間のマッピング結果は、スコア期間マッピングテーブル [sn_bia_score_timeframe_mapping] に保存されます。

復旧計画の優先順位付けのための重要な依存関係の特定

[依存関係アセスメント] タブを使用して、明確なオブジェクトタイプまたは依存関係グループに属するアイテムまたは資産を識別します。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.planner、sn_bcm.program_manager

このタスクについて

使用方法の説明とアイテムの復旧期間を追加し、アイテムのデータのバックアップ機能を提供します。グループの依存関係を評価すると、ビジネスプロセスの基礎となる依存アイテムまたは資産を把握するのに役立ちます。このアセスメントは、計画フェーズ中に復旧戦略を確立する必要がある重要な依存関係に優先順位を付けるのに役立ちます。

ビジネスインパクトアナリシスの作成に使用する BIA テンプレートには、依存関係グループが関連付けられています。アセスメントを行うと、依存関係グループが BIA に自動的に入力されます。テンプレートに関連付けられているそれらのグループの数に応じて、それらのグループをアプリケーション、ハードウェア、ベンダー、職場などとして専用のコンテナーに表示できます。それぞれが依存関係グループであり、そのコンテナー内の各グループに属するアイテムを追加または削除できます。

注:
依存アイテムを追加または削除できるのは、適切なアクセス権を持つユーザーのみです。

手順

1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. リストアイコン ( ) をクリックします。
3. [ドラフト] ステータスの [名前] 列のレコードへのリンクをクリックします。
4. グループを確認し、各グループ内のアイテムを特定するには、[依存関係アセスメント] タブをクリックします。
   コンテナーをクリックすると、グループおよびグループに属するアイテムを確認できます。たとえば、グループがアプリケーションの場合、エンタープライズリソースプランニングやカスタマーリレーションシップマネジメントなどの評価対象のビジネスプロセスに関連するアイテムを選択できます。
5. 依存関係グループにアイテムを追加するには、そのコンテナーの [新しく追加] ボタンをクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- クラス拡張を使用して構成アイテムを入力し、テクノロジーまたはソフトウェアを検出するのがアプリケーション、ハードウェア、またはソフトウェアの依存関係グループである場合は、「CMDB の CI 関係に基づく依存関係の追加」を参照してください。
- [ベンダー] または [場所] グループの場合は、それに応じて資産を追加します。モーダルフォームには複数のアイテムを追加できます。コンテナー内のグリッドが編集可能になり、アイテムの各セルにデータを入力できます。

依存関係グループのステータスが [処理待ち]に変わります。

a. [依存先] セルのリストからアイテムを選択します。

b. [使用の説明] セルをダブルクリックし、アイテムの機能またはロールを入力します。

c. [復旧の解決までに必要な期限] セルで、アイテムを復元する期間を選択します。

d. [必要なデータのバックアップ] セルで、資産のデータバックアップを提供できる期間を選択します。
[要素定義] フォームで要素を設定するときに、[データのバックアップが必要] フィールドを [はい] に設定できます。ただし、BIA が作成されるときに、アプリケーションは必要なデータバックアップ情報を要素定義から BIA の依存関係グループにコピーします。この時点で、依存関係グループの必要なデータバックアップが true である場合、[必要なデータのバックアップ] 列がグリッドに表示されます。

6. 依存関係グリッドを全画面に拡大してグリッド値を編集するには、全画面アイコン ( )をクリックします。
[画面を折りたたむ] アイコン ( )を使用して、グリッドを折りたたんで通常の画面サイズに戻します。
7. 依存アイテムでグループを更新するには、[編集] ボタンをクリックします。
依存関係グループのステータスが [処理待ち]に変わります。
8. 以前に識別された依存関係アイテムを削除するには、チェックボックス内のアイテムを選択し、[削除] ボタンをクリックします。
[削除] をクリックすると、依存関係テーブル [sn_bia_dependency] からレコードが削除されます。
9. [完了] をクリックしてグループのアセスメントを完了します。
[完了] をクリックする前に、アイテムのすべてのセルにデータを入力していることを確認してください。入力していないセルがある場合は、不完全なセルに入力するように求められます。コンテナーが閉じ、ステータスが [完了]に設定され、次のコンテナーに移動します。[編集] ボタンをもう一度クリックしないと編集できません。
10. [保存] をクリックして、BIA とその依存関係の詳細を保存します。
11. [レビューのため送信] をクリックして、BCM プログラムマネージャーのレビューのために BIA を送信します。
12. [依存関係を追加] をクリックして、BIA のすべての依存関係セクションの依存 CI をまとめて追加します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

依存関係グループが CMDB の構成アイテム (CI) に依存する場合、それらの CI は各セクションの対応するグループの依存アイテムとしてリンクされます。

注:
依存関係グループからその CI への依存関係マッピングは、最大 5 段階のレベルで追跡されます。これらの 5 つのレイヤー内のアイテムは、BIA テンプレートでのみ定義されている依存関係アセスメントに依存アイテムとして追加されます。たとえば、アプリケーション、ハードウェア、およびソフトウェアがビジネスプロセス BIA テンプレートで依存関係アセスメントとして定義されている場合、依存関係アセスメントの最大 5 つのレベルにマッピングされている CI のみが追加されます。

CI を選択して各依存関係グループに個別に追加するには、「CMDB の CI 関係に基づく依存関係の追加」を参照してください。

要素定義のフィルター条件は、ポップアップを使用して特定の構成アイテム (CI) を追加するために使用されます。[依存関係を更新] UI アクションでは、要素定義のフィルターも考慮され、BIA の [適用先 **(Applies to)**] フィールドにリストされている構成アイテムの関連 CI が取得されます。これらの関係は CI 関係性テーブルから取得されます。

CMDB の CI 関係に基づく依存関係の追加

CI 関係を参照してアイテムを追加し、依存関係グループに直接関連するアイテムにドリルダウンします。リスクのある資産のビジネスインパクトアナリシスを評価しながら、アイテムの関係と依存関係グループをマッピングできます。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.planner、sn_bcm.program_manager

このタスクについて
クラス拡張を使用して構成アイテムを入力し、テクノロジーまたはソフトウェアを検出するのがアプリケーション、ハードウェア、またはソフトウェアの依存関係グループである場合は、BIA 依存関係グループとのアイテムの関係に基づいてレコードをフィルタリングすることでアイテムを追加できます。または、すべてのレコードからアイテムを選択するだけでグループにアイテムを追加できます。

たとえば、ビジネス機能である売掛金が、ビジネスプロセスを完了するためにビジネスアプリケーションである Acrobat に依存する場合があります。したがって、この関係は Depends on::Used by としてキャプチャされます。売掛金ビジネス機能は Acrobat アプリケーションアイテムに依存し、Acrobat アプリケーションは売掛金によって使用されます。同様に、ビジネス機能は、ビジネスプロセスを実行するためにソフトウェア技術やハードウェアなどの他の依存関係グループに依存する場合があります。

手順

1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) をクリックします。
3. [ドラフト] ステータスの [名前] 列のレコードへのリンクをクリックします。
4. グループを確認し、各グループ内のアイテムを特定するには、[依存関係アセスメント] タブをクリックします。
5. 依存関係グループにアイテムを追加するには、そのコンテナーの [新しく追加] ボタンをクリックします。
6. すべてのレコードからアイテムをフィルタリングするには、[すべてのレコードから] ボタンをクリックします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [次へ] をクリックします。

b. [アイテムを追加] ポップアップからアイテムを選択します。

c. [追加] をクリックします。

7. 依存関係グループとの関係に基づいてアイテムをフィルタリングするには、**[CMDB** 依存関係に基づく (レベル **1) (Based on CMDB dependencies (Level 1))]** をクリックします。

a. [次へ] をクリックします。

b. 関係に基づいてアイテムを選択します。

c. [次へ] をクリックします。

d. アイテムを選択します。

e. [追加] をクリックします。
依存関係グループグリッドには、BIA に依存するアイテムが一覧表示されます。すべてのレコードからアイテムを追加する場合、関係ソース は **BCM** です。CMDB 依存関係に基づいている場合は、**CMDB** です。

> **注:**
> **[CMDB** 依存関係に基づく (レベル **1) (Based on CMDB dependencies (Level 1))]**を選択した場合、直接関連するアイテム、または CMDB で識別された関係タイプに基づく依存関係のレベル 1 にあるアイテムのみが、[アイテムを追加] ポップアップに一覧表示されます。一方、[すべてのレコードから] を選択した場合は、CMDB 内の関係に関係なく、それぞれのテーブルのすべてのアイテムが表示され、最大 5 レベルまで追跡されます。

8. 依存アイテムの詳細を表示するには、 をクリックします。
ビジネス機能が依存するアイテムの依存関係の詳細が新しいタブで開きます。必要な復旧期間、必要なデータバックアップ、およびビジネス機能でのその使用方法の説明を更新し、詳細を保存できます。

ビジネスインパクトアナリシスの詳細を表示する

[詳細] タブを使用して、ビジネスインパクトアナリシスの一般情報を表示します。要件に応じて、プライマリ要素の目標復旧時間と目標復旧時点の結果を調整することもできます。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.planner、sn_bcm.program_manager

手順

1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.

2. [リスト] アイコン ( ) をクリックします。

3. [ドラフト] ステータスの [名前] 列のレコードへのリンクをクリックします。

4. ビジネスインパクトアナリシスの詳細を表示するには、[詳細] タブをクリックします。

一般情報

BIA の名前、その説明、関連する事業部門と部門など、ビジネスインパクトアナリシスのアセスメントの一般的な詳細を表示します。BIA の作成に使用したテンプレートを表示することもできます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

結果

結果は資産レベルで追跡できます。したがって、プライマリスコープはプライマリ要素または資産を復旧することです。復旧要件の定義は、災害のタイプと各資産の復旧が必要になる時間によって異なります。

- 復旧階層：復旧に関するプライマリ要素の重要度のレベル。
- 目標復旧時間 (RTO)：ビジネス中断後にビジネスのプライマリ要素または資産をいつまでに復旧する必要があるかという最長時間。
- 調整済み **RTO**：計算された RTO を調整する場合は、このフィールドを編集して値を追加します。
- 調整済み **RTO** の理由：RTO 値を調整する理由を入力します。
- 目標復旧時点 (RPO)：災害後、どの時点にプライマリ要素を復元する必要があるか。また、中断イベント中にビジネスが維持できるデータ損失の最大量も示します。
- 調整済み **RPO**：このフィールドを編集して、プライマリ要素の RPO を入力します。

  注:
  [目標復旧時点] および [調整済み **RPO]** フィールドは、プライマリ要素がデータバックアップを必要とし、[要素定義] フォームで [はい] とフラグが付けられている場合にのみ表示されます。

- 調整済み **RPO** の理由：このフィールドは、[調整済み **RPO]** フィールドに値を入力すると表示されます。RPO 値を調整する理由を入力します。
- [機密性]、[完全性]、および [可用性]：プライマリ要素に重要なデータが含まれている場合は、機密性、完全性、および可用性 (CIA) の詳細を追加します。CIA の詳細は、BIA が準拠する必要がある基本的なセキュリティ目標です。これらの標準に準拠しないと、ビジネスと生産性に大きな損失が発生するだけでなく、信頼性が失われる可能性があります。

  注:
  [機密性]、[完全性]、および [可用性] フィールドは、使用した ビジネスインパクトアナリシステンプレートの構成 で **[CIA** を含める] フィールドを [はい] に既に設定している場合にのみ表示されます。

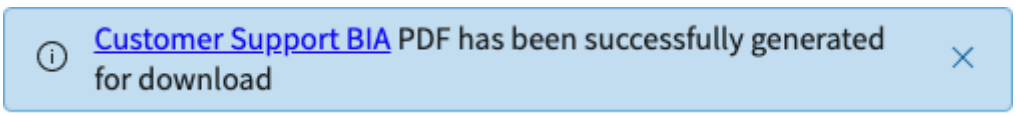
  RTO と RPO の値を調整していない場合でも、システムで計算された RTO と RPO の値をそれぞれのフィールドに表示できます。

アクティビティ

BIA に関する追加コメント。

5. [保存] をクリックします。
6. **[PDF** の生成] ボタンをクリックして、PDF 形式で BIA を生成します。
   PDF が生成されたことを示すメッセージが表示されます。

PDF のダウンロード



メッセージ内のリンクをクリックして PDF をダウンロードします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

- BIA への表示専用アクセス権がある場合は、PDF を生成するオプションを使用して、ドキュメントをローカルハードドライブにダウンロードできます。
- [承認] ステータスになる前に BIA をダウンロードできます。
- デフォルトでは、BIA が承認された後に PDF が生成されて添付されます。

7. BIA を [承認済み] ステータスから [ドラフト] ステータスに移行するには、[編集] ボタンをクリックします。
8. BIA のコピーを作成するには、[コピー] ボタンをクリックします。
   BIA を読み取りおよび作成する権限がある場合は、BIA をコピーすることもできます。

   a. [影響分析をコピー] ポップアップに新しい BIA の名前を入力します。
      コピー操作では、[影響分析をコピー] ポップアップに入力した名前で BIA の正確なレプリカが作成されます。また、すべての依存関係と依存関係グループも新しい BIA にコピーされます。

   b. [確認] をクリックします。
      - 元の BIA からコピーされた新しい BIA には、元の BIA と同様の RTO、RPO の影響度、依存関係アセスメントの構造の詳細があります。
      - ただし、これらの各アセスメントの影響度カテゴリの詳細は、コピーされた BIA の依存関係の詳細のみを評価するために編集可能になっています。
      - 元の BIA の RTO および RPO の影響度評価の影響度カテゴリが [完了 **(Complete)]** ステータスである場合、 コピーされた BIA の影響度カテゴリも [完了 **(Complete)]** ステータスになります。
      - したがって、コピーした BIA に関連する中断期間、応答、および必要な復旧期間を評価して入力する必要があります。
      - [結果] セクションで詳細を評価できます。RTO と RPO の値は、アセスメントの完了後に再計算されます。
      - アクティビティと作業メモは新しい BIA にコピーされません。新しい BIA に関連するこの情報を入力します。
      - 元の BIA に添付されているすべての形式の添付ファイルが新しい BIA にコピーされます。ただし、**[PDF** を生成] ボタンを使用して元の BIA 用に生成された PDF は、アセスメントデータが元の BIA に関連しているため、新しい BIA にコピーされません。コピーされた BIA のアセスメントの詳細を変更して PDF を生成する柔軟性があるため、元の BIA 用に生成された PDF をコピーしても意味がありません。

      注:
      [ドラフト] ステータスの BIA およびその関連テーブルを削除できます。BCM 計画者とプログラムマネージャーは、[レビュー中 **(In Review)]** および [戻り **(Returned)]** 状況の BIA を削除できますが、BCM アドミニストレーターは、ステータスに関係なく BIA を削除できます。

ビジネスインパクトアナリシスの承認状況フローの表示

複数の承認レベルでビジネスインパクトアナリシスを指示するときに、承認プロセスの各レベルで送信された承認状況移行と承認者の詳細を表示します。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.planner、sn_bcm.program_manager、sn_bcm.viewer

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) をクリックします。
   [ドラフト] および [レビュー中] ステータスを除く任意のステータスのビジネスインパクト分析 (BIA) の承認レコードを表示できます。
3. [名前] 列でビジネスインパクトアナリシスレコードへのリンクをクリックします。
4. BIA の承認の詳細を表示するには、[承認] 関連リストをクリックします。
   BIA に対して要求されたステータスの承認レコードがない場合、BIA の [却下] または [承認] を選択できます。

   注:
   BCM プログラムマネージャーである場合は、[承認] および [却下] ボタンを表示できます。

5. [名前] 列の承認レコードへのリンクをクリックします。
   承認の名前、承認レベル、現在のステータス、およびユーザーやグループなどの承認者の詳細を表示できます。
6. 影響分析の承認履歴を表示するには、[詳細] タブをクリックします。

   a. [承認履歴] 関連アイテムをクリックします。
      承認者の完全な承認履歴と、作成日時の詳細を表示できます。

   複数レベルの BIA 承認の状況移行：

   未要求

   承認が各レベルの承認者にまだ送信されていない状態。

   要求済み

   承認はそのレベルの承認者に送信されています。それに応じて、後続のすべてのレベルの承認のステータスが [未要求] に変わります。

   承認済み

   1 人以上の承認者がそれぞれのレベルで BIA を承認しました。それに応じて、次のレベルの承認のステータスが [要求済み] に移行します。

   却下

   1 人以上の承認者がその特定のレベルで BIA を却下しました。承認者の 1 人が BIA を却下した場合でも、[却下] ステータスに移行します。それに応じて、後続のすべてのレベルの承認のステータスが [不要] に移行します。

   不要

   あるレベルの承認者が BIA を承認または却下した場合、後続のすべての承認レベルのステータスが [不要] に移行します。

セルフサービスで **BIA** の依存関係の詳細を更新する

貢献者ロールを使用して、影響度カテゴリ結果、RPO 影響分析応答、影響度依存関係グループのステータス、およびアクティビティ関連アイテムの作業メモを更新します。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.contributor

貢献者リストに含まれている BCM 貢献者の場合は、ビジネスインパクトアナリシス (BIA) の依存関係の詳細を更新できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

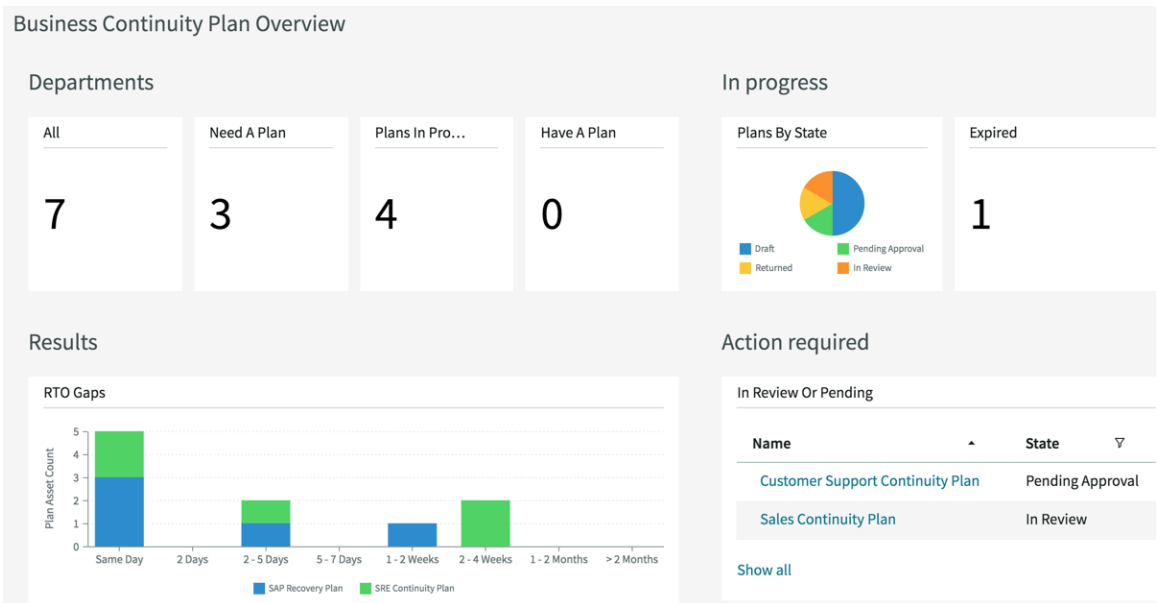
1. 移動先 すべて > セルフサービス > 影響分析.
2. 自分に割り当てられたビジネスインパクトアナリシスのと自分が貢献できる BIA のリストを表示します。
3. インパクト分析レコードをクリックします。
4. [影響度カテゴリ結果] 関連リストをクリックします。
5. 任意の RTO 影響度評価レコードを選択して、中断期間の詳細を更新します。
6. 影響分析応答を更新するには、RPO 影響度カテゴリレコードをクリックします。
7. 影響度依存関係グループのステータスを更新するには、 [影響度依存関係グループ] 関連リストをクリックします。
   依存関係グループの依存関係を追加、更新、削除することもできます。
8. BIA に作業メモを追加するには、[アクティビティ] タブをクリックします。
9. 変更の後に [更新] をクリックします。

事業継続性計画のための構造化されたワークフロー

事業継続性計画 (BCP) は、計画資産、アクティビティ、復旧チーム、ドキュメント、ポリシー、手順などのアクションアイテムに対処することによって、イベント発生時のリスクを設定して軽減するのに役立ちます。

BCP は、ServiceNow AI Platform® での事業継続性計画と災害復旧計画の管理に必要なすべてのデータを統合します。エンタープライズデータのカタログを単一のレコードシステムに編成します。レコードを作成する代わりに、必要なデータを選択するだけで済みます。既存の情報を活用し、復旧のために論理的に関連付けてデータを配置することで、計画の作成が簡単になります。

事業継続性計画ワークスペースの概要



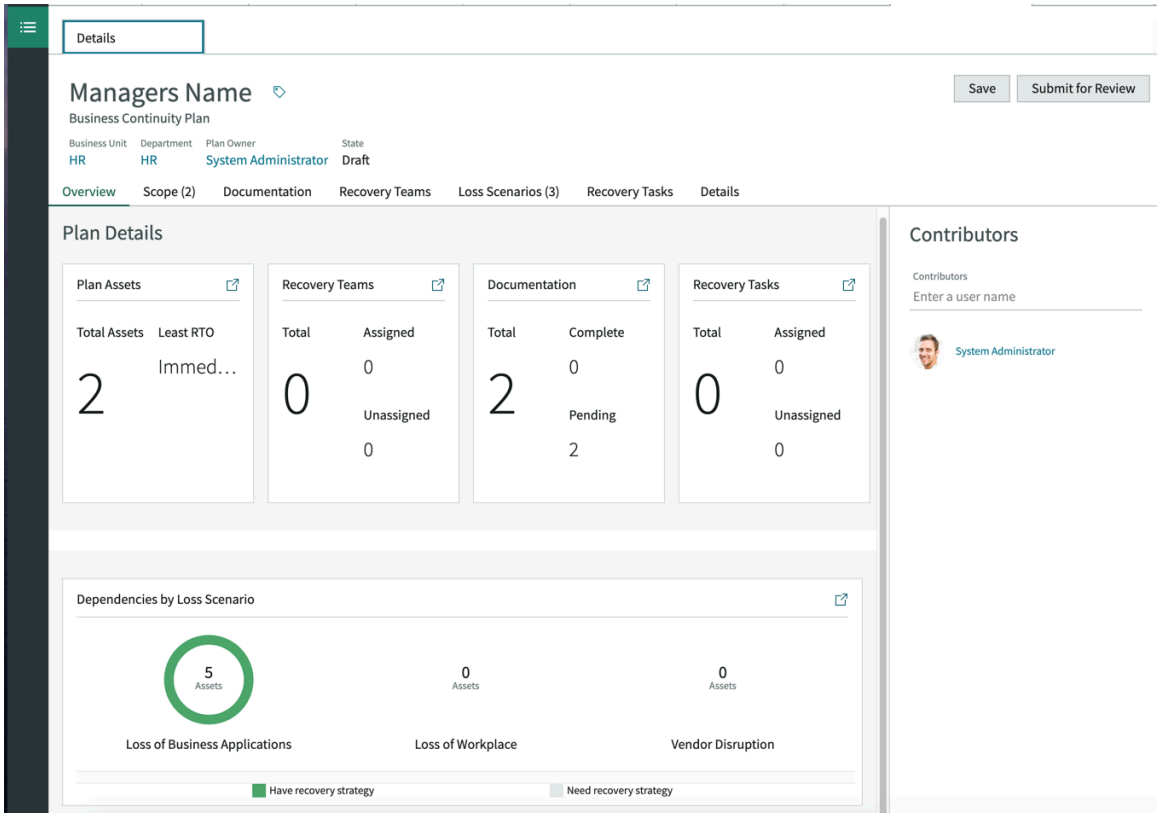
プログラムマネージャー、計画者、および閲覧者は、作業するカスタムワークスペースを取得します。これは、計画関連のアクティビティの現在のステータスを提示します。ワークスペースは、特定のロールを持つユーザーがアクセスできる計画を開くための安全なポータルです。

計画タブを開いてタスクを完了する機能を備えたユーザーインターフェイスひとつだけで計画をビルドできます。次の計画タスクに進み、計画の詳細を追加、削除、または更新できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

事業継続性計画ワークフロー



考えられるさまざまな破壊的なシナリオに対応する包括的なアクションプランと、損失シナリオ時に迅速に行動する責任を負う専任チームにより、組織は危機または困難な状況に対処できます。

計画テンプレートからの事業継続性計画の作成

プログラムマネージャーは、ビジネス中断時に使用できる各事業部門向けの計画を作成できます。計画タイプごとに特定の計画テンプレートを使用して、計画作成プロセスを簡素化できます。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.program_manager、sn_bcm.planner

このタスクについて

要件に適した事前設定された計画テンプレートを使用して計画を作成できます。計画テンプレートを使用すると、ドキュメントセクション、損失シナリオを自動的に追加し、復旧する必要があるプライマリ要素を特定する標準的な計画レイアウトが得られます。計画テンプレートは、計画のコンテンツ、そのタスク、および計画の効果的な実装に重点を置くために役立ちます。

計画を作成することで、組織は中断が発生したときに優先的に復旧する必要があるプロセス、場所、および資産を特定できます。計画タイプを選択すると、復旧する要素と復旧する必要がある時間を特定するのに役立ちます。

BCM プログラムマネージャーは、[新規] ボタンをクリックして計画を作成できます。計画のテンプレートを選択すると、送信後にテンプレート内のすべての関連情報が計画にコピーされます。

手順

1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. 事業継続性ホームページから計画を作成するには、[計画を作成] をクリックします。
3. さまざまな状況の既存の計画のリストを表示して計画レコードを作成するには、リストアイコン ( ) をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [計画] リストで [ドラフト] ステータスをクリックします。

b. [新規] をクリックします。

4. [計画を作成] モーダルフォームに計画の詳細を入力します。
5. 計画の名前を入力し、計画テンプレートを選択します。

   ビジネスチーム専用の命名規則に従って、255 文字以内で計画名を記述します。

   参照されたテンプレートの詳細が計画にコピーされます。計画に適用可能な事業部門、部門、および計画オーナーを選択します。

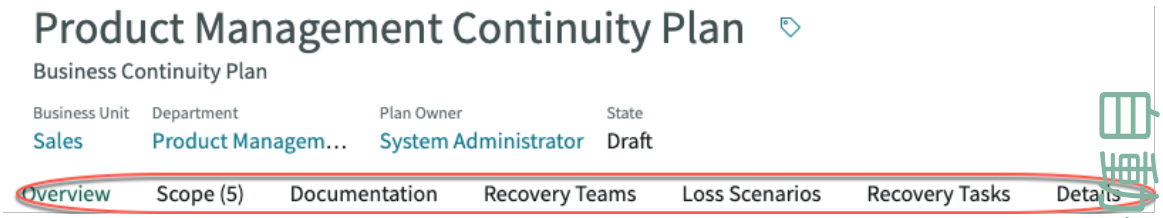
6. [送信] をクリックします。

   作成した計画がレコードビューで開きます。このビューでは、[事業部門]、[部門]、[計画オーナー]、および [ステータス] のヘッダーの下に計画の詳細が表示されます。

   注:

   [計画ビュー] で使用できるタブは、この計画で使用される事業継続性計画テンプレートの構成の [計画作成タイプ **(Plan authoring type)]** フィールドで選択した値によって異なります。

   計画作成タイプの値

   テンプレートを使用して計画を作成すると、計画テンプレートに関連付けられた計画ドキュメントが、作成した計画のドキュメントセクションにコピーされます。

7. [概要] タブで計画の詳細を確認します。
8. [詳細] タブをクリックして、計画の詳細を更新します。
9. 計画を保存して後で詳細を更新するには、[保存] をクリックします。
10. 保存してレビューのために送信するには、 [レビューのため送信] をクリックします。

    注:
    [ドラフト] ステージの場合にのみ、レビューのために計画を送信できます。

    レビューのために計画を送信すると、計画は [レビュー中] ステータスに移行します。

    計画オーナーは、計画に詳細を追加し、さまざまな状況間を移行させて最終的に承認を得ることができます。

    注:
    [ステータス] フィールドは読み取り専用です。ここには計画の状況が示されます。計画に対するアクションを UI で実行することで、ステータスはここから [承認済み] まで遷移します。

    ドラフト中

    計画を編集中のときのステータスです。計画にドキュメントセクションを追加し、復旧チームを特定してオーナーのための復旧タスクを設定し、レビューのために計画を送信します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レビューのために送信するには、BCM リードが計画にアサインされていることを確認してください。それ以外の場合は、承認のために計画を送信できます。

計画オーナーがレビューのために計画を送信すると、ステータスが [レビュー中] に変わります。計画オーナーの計画の状況が、[承認のため送信] に変更されます。

レビュー中

計画オーナーは、計画をレビューおよび編集し、承認のために送信できます。

承認待ち

[承認のため送信] をクリックすると、計画が [承認待ち] ステータスに設定されます。承認構成、承認レベル、および承認ルールが計画に対して評価され、承認者が決定されます。計画に対して要求されたステータスの承認レコードがない場合、BCM プログラムマネージャーは計画の [却下] または [承認] のいずれかを選択できます。計画とその関連テーブルのステータスは読み取り専用です。

戻り

計画が却下されると、[戻り] ステータスに設定されます。

承認済み

計画が承認されると、[承認済み] ステータスに移行します。

計画とそれに関連するタブはすべて読み取り専用です。この状態でステータスを変更するための唯一のオプションは、[アーカイブ化済み] ステータスに移行することです。

アーカイブ化済み

計画をアーカイブすると、読み取り専用になります。計画がデータを取得して計画資産、関連資産の依存関係、復旧戦略、ドキュメント、復旧チーム、損失シナリオ、復旧タスクの各タブに入力する際の基になるテーブルは、すべて読み取り専用になります。これらのタブの情報は編集できません。

注:
スケジュール済みジョブが毎週実行され、期限切れになった計画が [アーカイブ済み] ステータスに移行します。

11. 計画をさまざまな場所にエクスポートし、ユーザーが危機的な状況で計画を実行できるようにするには、**[PDF を生成]** をクリックします。

注:
計画貢献者 (sn_bcp.plan_contributor) または計画マネージャー (sn_bcp.plan_manager) は、PDF を生成できます。

[承認済み] および [アーカイブ化済み] 状況を除くすべての状況で計画の PDF を生成できます。計画が承認されると、デフォルトで PDF が生成され、計画に添付されます。

計画は、そのサマリー、復旧チーム、損失シナリオ、復旧タスク、および復旧チームの一員であるすべてのメンバーの連絡先番号のリストを含む付録のテーブルとともに全体がエクスポートされます。

スコアカードでの計画の詳細の表示

[概要] タブを使用すると、事業継続性計画と緊急計画がどの程度堅牢であるかを簡単に理解できます。このタブには、重要な計画要素のスコアの概要がそれぞれのスコアカードとして表示されます。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.program_manager、sn_bcm.planner

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
緊急アクションプランは、職場に合わせてカスタマイズし、潜在的な緊急事態のソースに関する情報をすべて含める必要があります。計画は、次の詳細を含む包括的なものでなければなりません。

- 復旧が必要な資産
- 各資産タイプの復旧担当チーム
- 計画がアサインされる指定グループ
- アサイン先グループに表示されるオーナー
- 計画の実行方法に関する詳細な説明

手順

1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) をクリックします。
3. [計画] リストで [ドラフト] ステータスをクリックします。
4. [名前] 列の計画レコードへのリンクをクリックします。
   [概要] タブには、計画の目標に向けた進捗状況をグラフィカルに表現したスコアカードが表示されます。

   [概要] タブで表示できるさまざまなスコアカードは、この計画で使用される 事業継続性計画テンプレートの構成 の [計画作成タイプ **(Plan authoring type)]** フィールドで選択した値によって異なります。

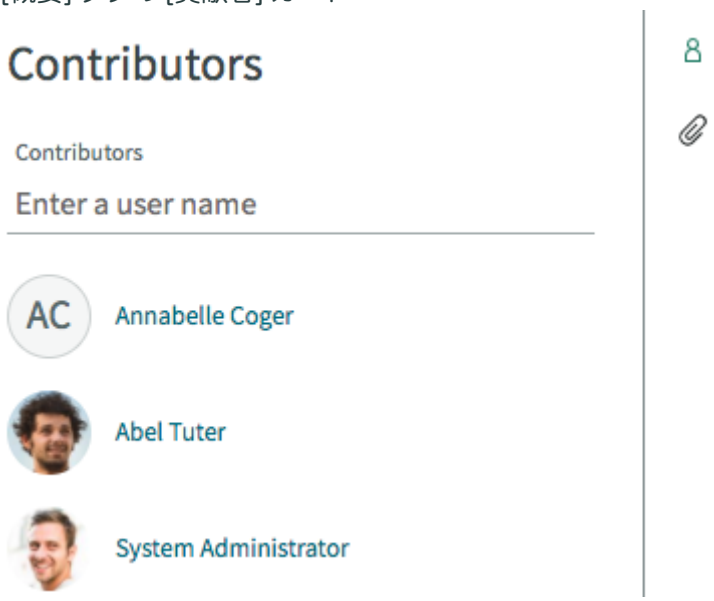
   注:
   計画が [承認済み] ステータスの場合は、[計画の使用率と結果] セクションを表示できます。ただし、計画がどのステータスであるかに関係なく、[計画の詳細] セクションで計画のすべての詳細を表示できます。詳細については、「計画使用率の詳細の計画概要スコアカード」を参照してください。

5. [保留中] ステータスのドキュメントセクションを完了するか、未アサインの復旧チームのチームと個人を特定するか、または特定の計画アクティビティを実行するグループをアサインするには、それぞれのスコアカードウィジェットでセクションに移動アイコン ( ) をクリックして、必要な情報を追加し、計画を完了に設定します。
6. 計画に貢献者を追加するには、[貢献者] フィールドをクリックしてユーザーを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[概要] タブの [貢献者] カード



事業継続性計画を完全かつ堅牢にするには、計画に関する情報について支援および貢献できる人々からのインプットが必要です。これらの貢献者は、特定のタスクをアサインできるユーザーでもあります。計画に必要な数の貢献者を追加できます。

7. 不要になった貢献者を計画から削除するには、貢献者の名前の横にある [削除] ボタンをクリックします。

計画使用率の詳細の計画概要スコアカード

[概要] タブには、計画の詳細と、計画を使用する演習および実際のイベントが表示されます。また、計画が損失シナリオでの資産の復旧にどの程度成功したかも示します。

計画の使用率と結果

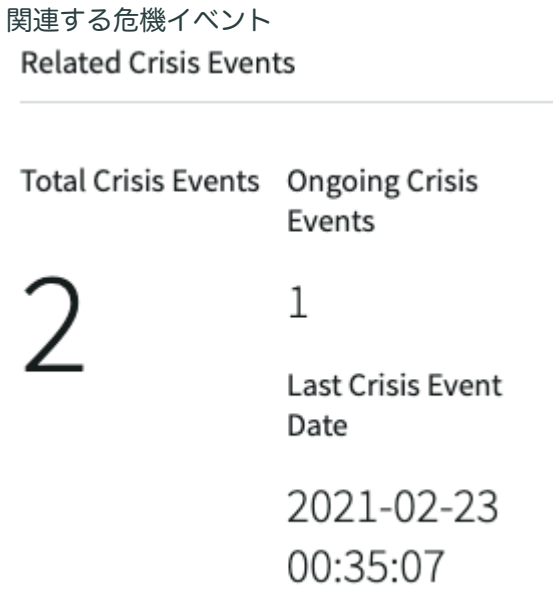
[計画の使用率と結果] セクションには、表示している現在の計画を使用する危機イベントと演習イベントの詳細が表示されます。

関連する危機事象

- 危機イベントの合計数：現在の計画を使用する危機イベントの合計数。
- 進行中の危機イベント：現在進行中の危機イベントの数。
- 前回の危機イベントの日付：前回発生した危機イベントの実際の終了日時。

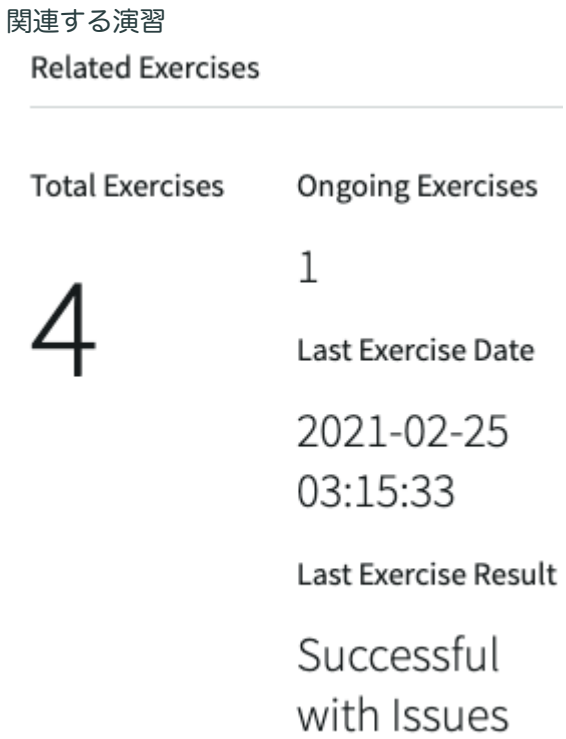
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



関連する演習

- 合計演習回数：現在の計画を使用する演習の合計数。
- 継続的な演習：現在進行中の演習イベントの数。
- 前回の演習日：最後に完了した演習イベントの実際の終了日時。
- 前回の演習結果：前回完了した演習イベントが成功したかどうかを示します。



演習結果

カラーのドーナツグラフは、完了した演習イベントの中で成功した数、失敗した数、問題がありながら成功した数を示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

演習結果

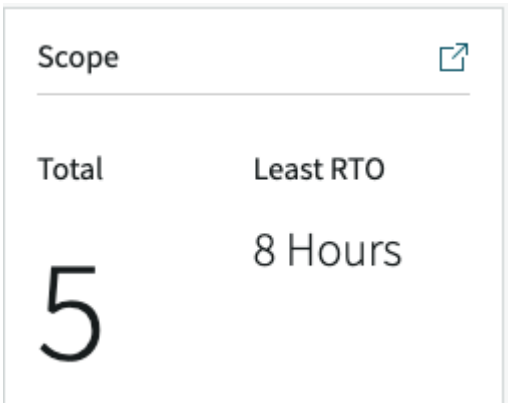


計画の詳細

スコープ

計画で [合計] として識別されたすべての資産を表示します。プライマリ要素がサポートするすべての RPO と RTO のうち、RPO と RTO の最小値が表示されます。

計画資産スコアカード



復旧チーム

スコアカードは、危機発生時に行動するための責任の明確なガイドラインを持つチームと個人を特定するのに役立ちます。

アサインされたスコアは、計画の復旧ロールがグループまたはユーザーに割り当てられていることを示します。未アサインのスコアは、復旧ロールがグループまたはユーザーに割り当てられていないことを示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

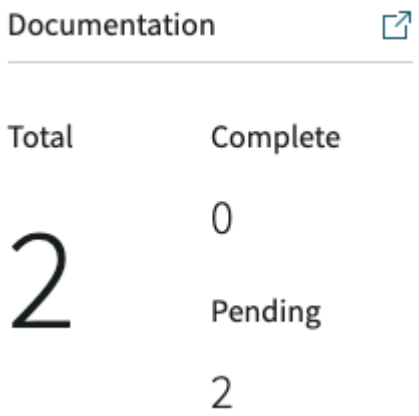
復旧チームスコアカード



ドキュメント

計画に添付されているドキュメントセクションの合計数を表示します。ブレークダウンには、計画に従って更新され、[完了] ステータスになっているドキュメントセクションのステータスが表示されます。[処理待ち] ステータスは、まだ編集中のドキュメントセクションを示します。

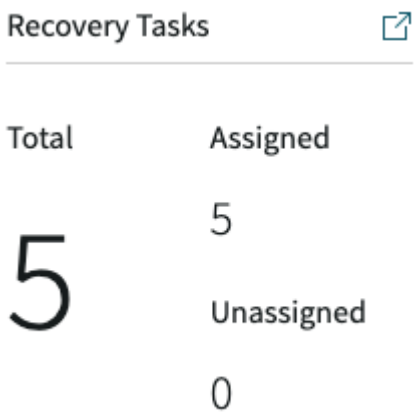
ドキュメントスコアカード



復旧タスク

復旧タスクスコアカードは、復旧プロセス中に計画のアクティビティを実行するために識別されたグループとグループの所有者を示します。

復旧タスクスコアカード



自動翻訳

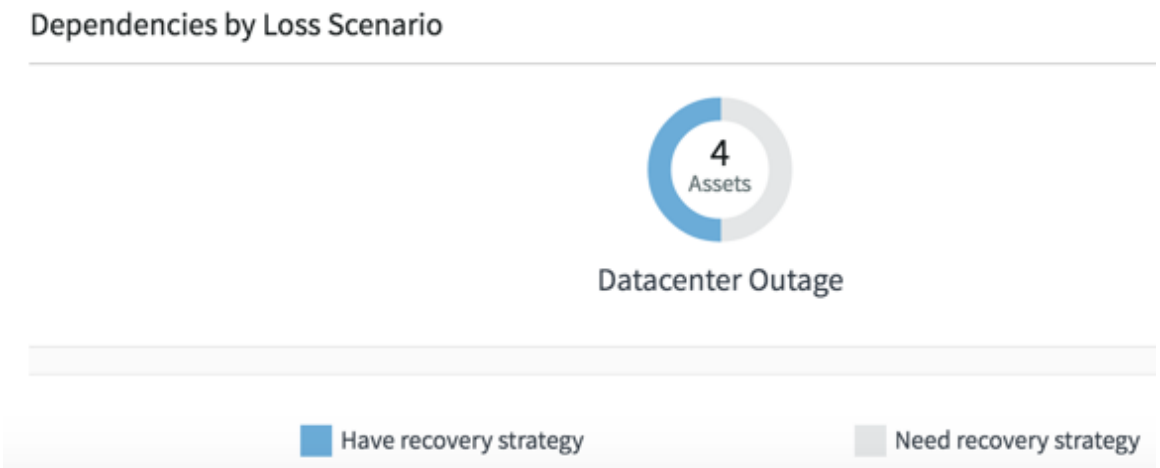
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

計画に対して識別されたアクティビティの合計数のうち、アサインされたスコアは、グループがアサインされたアクティビティの数を示します。未アサインのスコアは、グループがアサインされていない計画アクティビティを示します。

損失シナリオ別の依存関係

ドーナツグラフは戦略の対象となる資産を示し、資産に戦略があるかどうかを色で示します。損失シナリオ計画では、1 つの資産に少なくとも 1 つの戦略が必要です。ただし、1 つの戦略で複数の資産をカバーすることもできます。

損失シナリオ別の依存関係



事業継続性計画のスコープへの資産の追加

[スコープ] タブを使用して、計画のスコープに資産を追加します。ビジネスインパクトアナリシス (BIA) アプリケーションがインストールされている場合は、計画テンプレートで定義されたプライマリ要素、その目標復旧時間 (RTO) と目標復旧時点 (RPO) の詳細、およびビジネスインパクトアナリシスを表示できます。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.admin、sn_bcm.program_manager、または sn_bcm.planner

手順

1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) をクリックします。
3. [計画] リストで [ドラフト] ステータスをクリックします。
4. [名前] 列の計画レコードへのリンクをクリックします。
5. [スコープ] タブをクリックします。
   計画が計画テンプレートから作成されている場合は、計画テンプレートで定義されているプライマリ要素を表示できます。
6. 計画に新しいスコープを追加するには、[追加] をクリックします。
7. [アイテムを追加] モーダルで、計画資産を選択します。
8. [追加] をクリックします。
   [アイテムを追加] モーダルに表示される資産は、計画テンプレートの [復旧したプライマリ要素 **(Primary Element Recovered)]** フィールドで識別された要素定義タイプに属します。

   計画資産の追加時に資産に承認済み BIA が添付されている場合、承認済み BIA が資産の **[BIA]** 列に自動的に追加されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

BIA が計画スコープに添付されている場合、RTO と RPO の値は BIA から入力されるため編集できません。

注:

- BIA アプリケーションがインストールされている場合、**[RTO]** および **[RPO]** フィールドが表示され、編集できません。**[BIA]** フィールドは表示され、編集可能です。BIA アイコン (🔗) をクリックして、BIA を添付できます。
- BIA がインストールされていない場合、**[RTO]** および **[RPO]** フィールドが表示され、編集できます。
- 承認された BIA が計画に添付されている場合、**[RTO]**、**[RPO]**、および **[BIA]** フィールドに値が入力され、これらのフィールドは読み取り専用で編集できません。

9. 計画資産を更新するか、BIA をリンクするには、[名前] 列で資産をクリックします。

a. BIA アイコン (🔗) をクリックします。
資産に対して承認された BIA がある場合、リンクをクリックすると BIA が自動的に資産に添付されます。資産の重要度に基づいて RTO と RPO の値を調整した場合、調整済み RTO と調整済み RPO の値が、システムで計算された RTO と RPO の値よりも優先されます。 🔗 をクリックすると、調整済み RTO と調整済み RPO の値が [目標復旧時間] フィールドと [目標復旧時点] フィールドに表示されます。

b. [保存] をクリックします。

10. 計画リストから資産を削除するには、アイテムを選択して [削除] をクリックします。

関連資産と関連計画の追加

計画ステージの資産を復旧するための関連資産とその参照計画を特定します。依存関係アセスメント中に CMDB から ビジネスインパクトアナリシス (BIA) に渡される構成アイテムの関係性データを再利用して、計画内の資産を特定します。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.admin、sn_bcm.program_manager、または sn_bcm.planner

このタスクについて

この機能拡張により、CMDB の CI 関係に基づいて依存関係を追加するときに、CMDB の構成アイテムの関係データが ビジネスインパクトアナリシス (BIA) に渡されます。BIA を実行した場合、その後に関連資産データが計画フェーズに移行します。計画フェーズでは、これらの BIA 依存アイテムを関連資産として識別できます。さらに、BIA を完了し、関連資産に計画がある場合は、関連資産の既存の計画を計画フェーズで関連計画として追加し、イベント復旧プロセスの実行フェーズでサブ計画として追加することもできます。

したがって、新しい資産を特定して資産を復旧するための計画を作成する代わりに、CI 関係に基づいて CMDB から構成アイテムとして追加される BIA 依存アイテムを使用し、これらのアイテムを計画ステージで関連資産として再利用できます。

この機能により、次のことが可能になります。

- 計画中に CMDB と BIA で確立された依存関係に基づいて関連資産を特定します。
- メイン計画を作成し、別の関連計画を参照するタスクを設定します。

自動翻訳

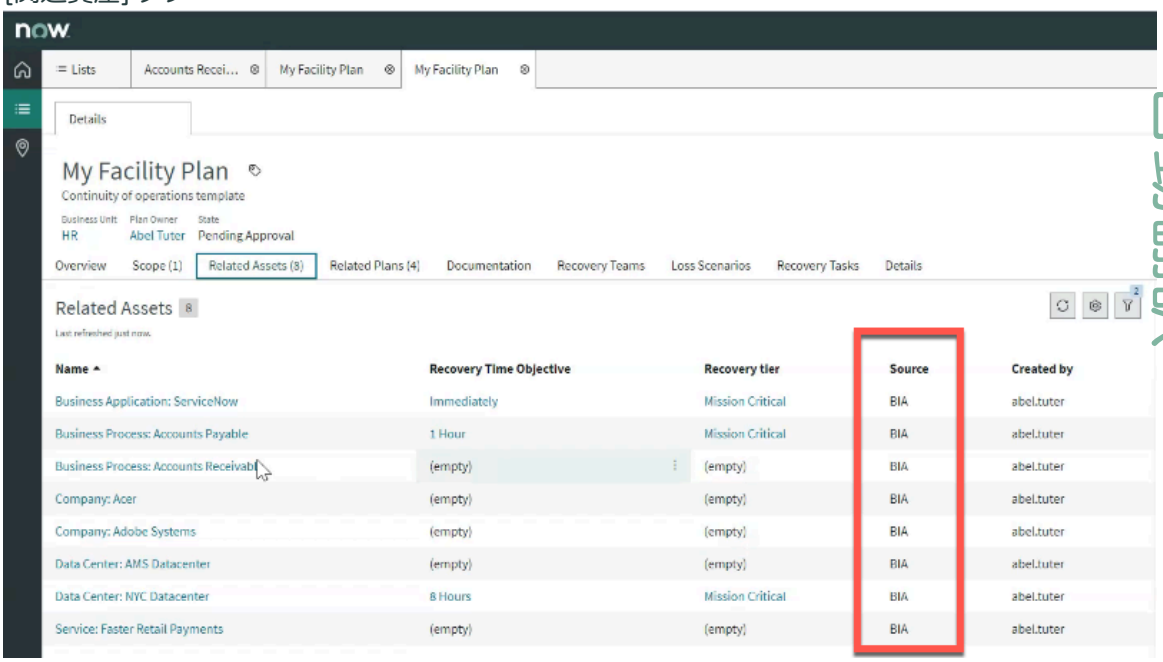
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) をクリックします。
3. [計画] リストで [ドラフト] ステータスをクリックします。
4. [名前] 列の計画レコードへのリンクをクリックします。
5. [関連資産] タブをクリックして、BIA から計画にプルされた資産を表示します。
   [スコープ] タブのアイテムとしてビジネスプロセスまたは場所を追加し、スコープ対象のアイテムが BIA に関連している場合、BIA のすべての関連資産が計画の [関連資産] タブに表示されます。つまり、BIA で依存関係として追加された CMDB 構成アイテムは、関連資産として計画にプルされます。これらの関連資産のソースは BIA として表示されます。

   計画を作成するときは、計画の対象となるプライマリ要素も選択します。事業継続性計画で選択したスコープまたは計画のプライマリ要素に基づいて、アプリケーションは計画フェーズ中に関連資産と関連計画を追加します。これらのアイテムは、ビジネスプロセス、重要なビジネスアプリケーション、データセンター、または場所で作業するリソースである可能性があります。これらのすべての依存関係は、BIA に保存されている場合、BIA の作成中に追加された他の依存関係に加えて、[関連資産] タブの計画にコピーされます。

   [関連資産] タブ



> **注:**
> ビジネスインパクトアナリシスを実行しない限り、構成されたアイテムデータの関連アイテムは計画にフローされませんが、関連資産と関連計画を計画フェーズで手動で追加することもできます。

6. 資産を手動で追加するには、[追加] ボタンをクリックします。
   a. [アイテムを追加] ポップアップで影響を受けるアイテムのタイプを選択します。
   b. [次へ] をクリックし、影響を受けるアイテムタイプに属するアイテムを選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. [追加] をクリックします。

> **注:**
> アイテムが BIA からのものではなく、計画フェーズ中に追加された場合、追加した影響を受けるアイテムのソースは [手動] です。

7. 関連資産を削除するには、関連資産を選択して [削除] をクリックします。

8. [関連計画] タブをクリックして、[関連資産] タブのアイテムに関連する計画を表示します。
資産が計画にコピーされた後、いずれかの関連資産に計画が添付されている場合、これらの計画が自動的にプルされ、[関連計画] タブに一覧表示されます。計画内の資産は、イベント中に計画によって復旧される資産です。

関連する計画が計画作成フェーズに組み込まれたら、復旧タスクを作成することもできます。計画者は、メイン計画とその依存サブ計画の復旧タスクの実行順序を設定できます。

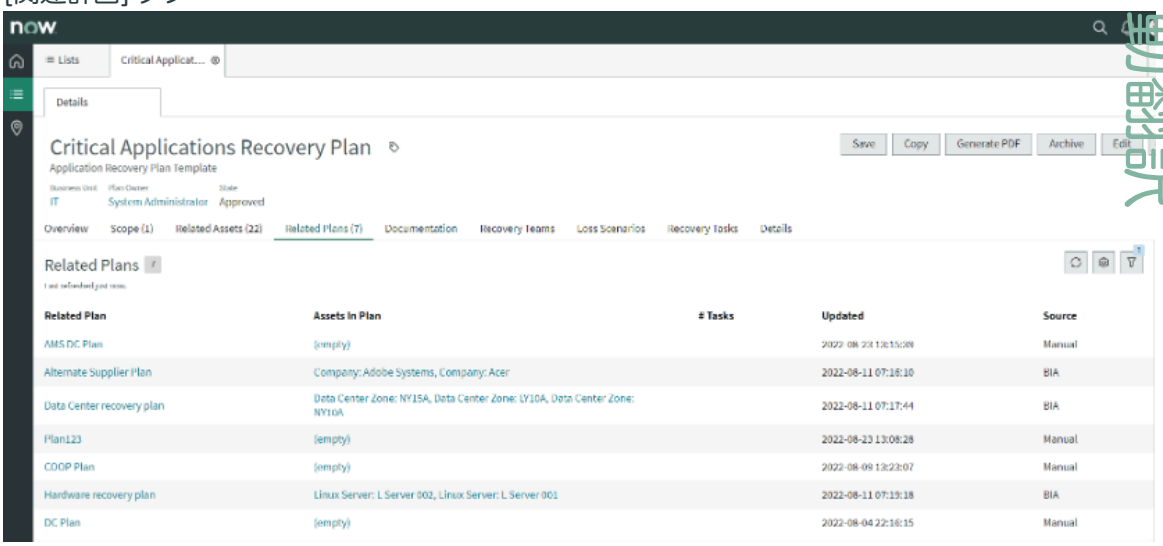
BIA を実行していないか、計画を BIA にスコーピングしていない場合は、このステージで計画を手動で追加できます。

9. 計画を手動で追加するには、[追加] ボタンをクリックします。

a. [追加] ポップアップで計画を選択します。

b. [追加] をクリックします。

[関連計画] タブ



> **注:**
> 計画は BIA からのものではなく、計画フェーズ中に追加したので、追加した関連計画のソースは [手動] です。

10. 関連計画を削除するには、関連計画を選択して [削除] をクリックします。

次のタスク
メイン計画の復旧タスクで関連する計画の 1 つを参照し、イベントで実行順序を決めることができます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

計画ドキュメントセクションの作成と管理

ドキュメントセクションを使用して、計画の復旧機能を文書化します。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.admin、sn_bcm.program_manager、または sn_bcm.planner

このタスクについて

目標、目的、スコープなど、計画のコンテキストで必要なすべての追加情報を、ドキュメント内の個別のセクションとして文書化します。

手順

1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. リストアイコン ( ) をクリックします。
3. [計画] リストで [ドラフト] ステータスをクリックします。
4. [名前] 列の計画レコードへのリンクをクリックします。
5. 計画の [ドキュメント] 関連リストをクリックします。
   ドキュメントの各セクションを個別のテキストボックスに表示できます。計画の作成に使用した計画テンプレートの一部であるドキュメントセクションは、この計画のデフォルトになります。ドキュメントに新しいセクションを作成することも、既存のセクションを編集することもできます。
6. ドキュメントセクションを編集するには、編集アイコン ( ) をクリックします。
   このアイコンを使用して、ドキュメントセクションのタイトルと説明のテキストを編集します。
7. セクション内のテキストを編集するには、テキストボックスの [編集] ボタンをクリックします。
8. すべての更新を元に戻し、ドキュメントセクションの元のテキストに戻すには、[テンプレートにリセット] をクリックし、[リセット] をクリックしてアクションを確定します。

   注:
   [テンプレートにリセット] ボタンは、ドキュメントセクションが [完了] ステータスではなく、[処理待ち] ステータスになっている場合にのみ有効になります。

   リセットすると、ドキュメントセクションのテキストとともにタイトルと説明の両方が、計画テンプレートのタイトル、説明、およびドキュメントコンテンツにリセットされます。

9. ステップを削除するには、削除アイコン ( ) をクリックします。
   このアクションにより、ドキュメントセクションが削除されます。
10. [ドキュメント] タブでセクションを作成するには、[新規セクション] をクリックします。
    a. [新規セクション] ポップアップで、セクションのタイトルと説明を入力します。
    b. [作成] をクリックします。
    c. [編集] ボタンをクリックして、セクションのテキストボックスに内容を入力します。
11. 更新を保存してコンテンツの編集を続行するには、[保存] をクリックします。
12. 保存して編集モードを終了するには、[完了] をクリックします。
    [完了] をクリックすると、 と の両方のアイコンが無効になります。アイコンを有効にするには、ドキュメントセクションのテキストボックスの [編集] ボタンをクリックします。
13. 後続のセクションを表示してすべてのセクションをスクロールするには、編集が完了した後にセクションを折りたたみます。

計画レベルでのセクションの順序の変更

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ドキュメント] 関連リストに表示されるセクションの順序を変更して、ユーザーがセクションを論理的な順序で確認できるようにすることができます。ただし、[計画ドキュメント] フォームの [順序] フィールドに整数値を入力して、計画内の各ドキュメントセクションについてセクションの順序を設定する必要があります。このカスタマイズは、計画テンプレートレベルで設定された順序設定より優先されます。

計画テンプレートレベルでのセクションの順序の変更

計画テンプレートのドキュメントセクションの順序も定義できます。この順序は、テンプレートを使用するすべての計画に適用されます。ただし、テンプレートの作成時に [計画テンプレート] フォームのセクションの順序を変更できるのは、BCM アドミンのみです。

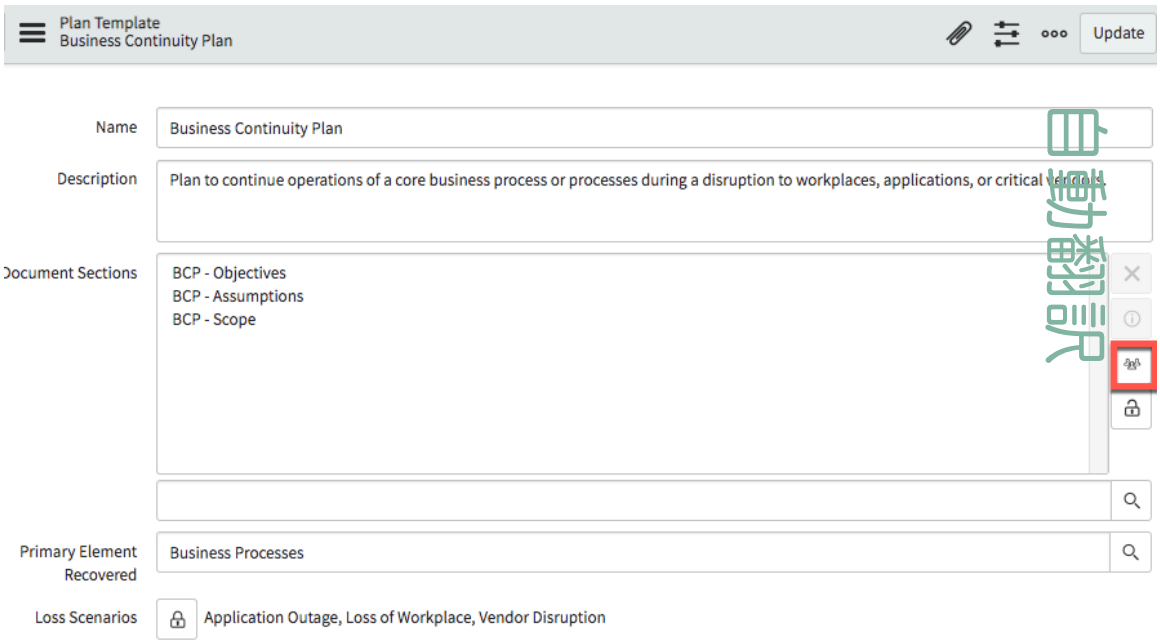
a. セクションの順序を並べ替えるには、次に移動します: 事業継続性 > 計画構成 > 計画テンプレート

b. [名前] リンクの計画テンプレートをクリックします。

c. ドキュメントセクションのロック解除アイコン ( ) をクリックします。

d. 複数の追加/削除アイコン ( ) をクリックし、[ドキュメントセクション] フィールドでアイテムを優先順位に移動します。

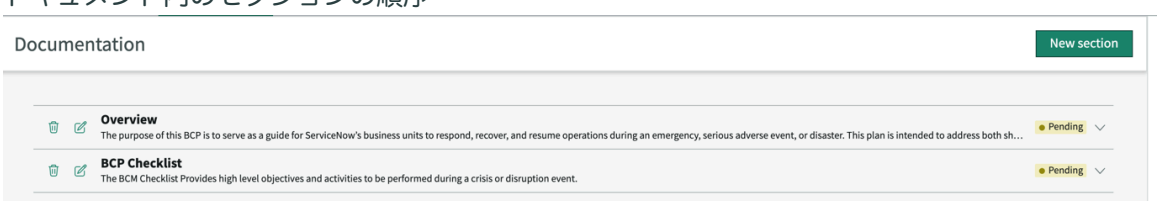
ドキュメントセクション



e. [更新] をクリックします。

プログラムマネージャー、計画者、ビューアー、または BCM アドミニストレーターが計画でそのテンプレートを使用するとき、ワークスペース内のセクションは並べ替えられた順序でのみ表示できます。

ドキュメント内のセクションの順序



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

復旧チームへのロールと責任のアサイン

個人とグループを特定して復旧チームにアサインし、危機の状況で行動するためのロールおよびロールの責任を認識するようにします。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin、sn_bcm.program_manager、または sn_bcm.planner

このタスクについて
事業継続性計画ワークスペースは、復旧チームを作成し、ユーザーのロールと責任を定義し、ユーザーとグループを復旧チームに適切にアサインし、チームに計画の実行を指示することで、計画を完了するための手順をガイドします。

手順

1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) をクリックします。
3. [計画] リストで [ドラフト] ステータスをクリックします。
4. [名前] 列の計画レコードへのリンクをクリックします。
5. 計画の [復旧チーム] タブをクリックします。
6. 復旧チームを作成してユーザーとグループをチームに割り当てるには、[新規] をクリックします。名前と説明を入力して復旧チームを作成するか、既存のチームを更新できます。それぞれのリストからユーザーやグループを 1 つ以上選択します。復旧チームの説明には、復旧チームにアサインされているユーザーやグループの責任も記載します。復旧チームを作成し、ユーザーとグループのアサインを後回しにすることもできます。
7. [送信] をクリックします。

損失シナリオを特定して計画に合わせる

部署または事業部門の継続性計画や復旧計画を作成する場合は、計画に対する損失シナリオを特定し、調整する必要があります。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.program_manager

このタスクについて
計画オーナーによる損失シナリオの特定は、突然の中断イベントに備え、通常どおりにビジネス機能を続行するのに役立ちます。

計画テンプレートを使用して計画を作成すると、計画テンプレートで識別された損失シナリオが作成した計画に自動的に関連付けられます。計画には、一連の基本的な損失シナリオが添付されています。その後、要件に応じて損失シナリオを計画に追加できます。

手順

1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) をクリックします。
3. [計画] リストで [ドラフト] ステータスをクリックします。
4. [名前] 列の計画レコードへのリンクをクリックします。
5. 開いた計画の [損失シナリオ] タブをクリックします。
   このタブを使用して、予測可能なすべての中断シナリオに備えて計画し、そのような状況での応答と復旧を管理します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. [追加] をクリックして、損失シナリオを計画に追加します。
7. [損失シナリオを追加] モーダルフォームからシナリオ名を選択します。
8. [追加] をクリックします。

   損失シナリオは計画に関連付けられています。損失シナリオの計画テーブル [sn_bcp_plan_loss_scenario] には、計画と損失シナリオの関係が保存されます。
9. 関連資産の依存関係を計画の損失シナリオに追加するには、[名前] 列で損失シナリオレコードへのリンクをクリックします。
10. [関連資産の依存関係] 関連リストで [追加] をクリックして、依存アイテムを追加します。

    a. 基になる要素定義のすべてのレコードからアイテムをフィルタリングするには、[すべてのレコードから] ボタンをクリックします。
    損失シナリオがビジネスアプリケーションの損失である場合、影響を受けるすべてのアプリケーションがフィルタリングされ、一覧表示されます。

    b. [次へ] をクリックします。

    c. [アイテムを追加] ポップアップからアイテムを選択します。

    d. [追加] をクリックします。

    a. BIA に添付されている計画スコープに依存するアイテムをフィルタリングするには、[計画スコープに基づく] をクリックします。
    b. リストから計画スコープを選択します。
    c. [次へ] をクリックします。
    d. BIA に添付されている選択した計画スコープアイテムの依存関係を選択します。
    e. [追加] をクリックします。

資産の依存関係に対する復旧戦略の確立

[損失シナリオ] タブを使用して、資産の依存関係を追加し、さまざまな損失シナリオに対処するための復旧戦略を特定します。特定された損失シナリオの復旧戦略を備えた計画は、存在するギャップに対処するのに役立ちます。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.program_manager または sn_bcm.planner

このタスクについて

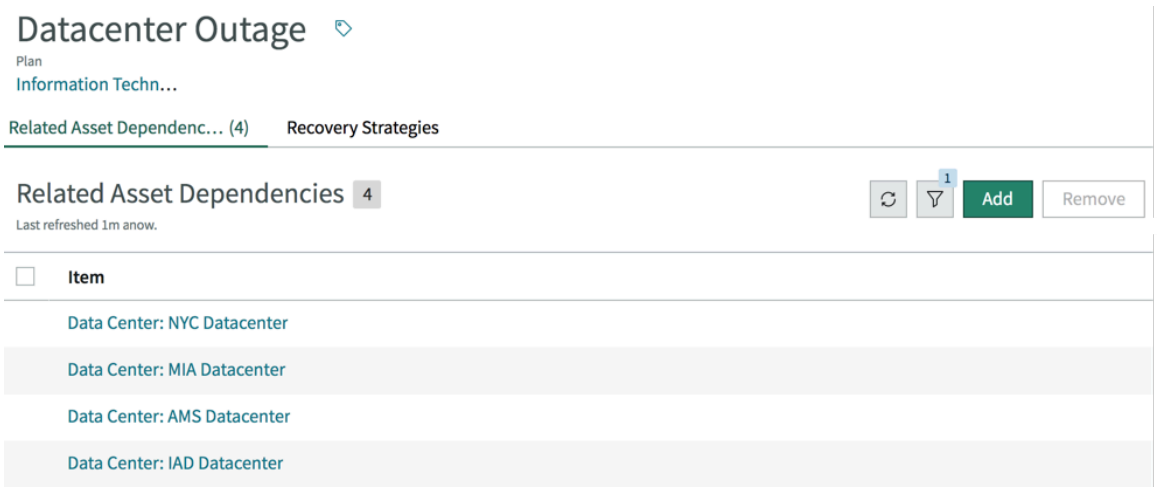
プログラムマネージャーは、計画者が所有する計画のさまざまな損失シナリオに対する復旧戦略があるかどうかを確認できます。このようなアセスメントにより、これらのシナリオに備えることができます。

計画に関連付けられた損失シナリオの詳細を表示したときに、その計画に関連付けられている資産と、これらの各資産の復旧戦略を表示することもできます。たとえば、NYC データセンターは、カスタマーサポート計画のデータセンター機能停止損失シナリオの関連資産にすることができます。NYC データセンターを稼働させるための戦略を実装する時間を見積もることで、復旧戦略を作成できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連資産の戦略範囲



手順

1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) をクリックします。
3. [計画] リストで [ドラフト] ステータスをクリックします。
4. [名前] 列の計画レコードへのリンクをクリックします。
5. 計画の [損失シナリオ] タブをクリックします。
6. [名前] 列の損失シナリオレコードへのリンクをクリックします。
7. 影響を受け、損失シナリオの計画に依存する可能性がある関連資産を既存の資産のリストに追加するには、[関連資産の依存関係] タブをクリックします。
   詳細については、「損失シナリオを特定して事業継続性計画に合わせる」を参照してください。
8. 計画から資産を削除するには、アイテムを選択して [削除] をクリックします。

   注:
   計画に応じて資産を追加または削除できるのは、プログラムマネージャーまたは計画オーナーになっている場合のみです。

9. 戦略を確立して重要な資産を復旧するには、[復旧戦略] タブをクリックします。
   a. [新規] ボタンをクリックします。
   b. 復旧戦略の名前と説明を入力し、資産を復旧するための実装の詳細を決定します。
   c. [保存] をクリックします。
10. 計画の損失シナリオの復旧戦略に復旧タスクを追加するには、[復旧タスク] タブをクリックします。

    復旧タスクは復旧戦略レベルでも計画レベルでも作成できます。「復旧タスクの作成、更新、およびグループ化」を参照してください。

復旧タスクの作成、更新、およびグループ化

さまざまな災害状況からビジネスを復旧するためのタスクを計画内に作成します。復旧が必要な重要な資産を決定し、タスクを完了する必要がある時間を見積もることで、タスクに優先順位を付けます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.admin、sn_bcm.program_manager、または sn_bcm.planner

このタスクについて
オーナーを特定してタスクをグループにアサインし、復旧のプロセスと手順を実行します。タスクには、復旧させるアイテムの詳細情報や、完了までに許される時間が含まれます。

手順

1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. [リスト] アイコン () をクリックします。
3. [計画] リストで [ドラフト] ステータスをクリックします。
4. [名前] 列の計画レコードへのリンクをクリックします。
5. 計画の [復旧タスク] タブをクリックします。
   [復旧タスク] タブには、編集可能なリスト内のすべてのデータが表示されます。データの各列を必要な方法でソート、グループ化、およびフィルタリングすることで、タスクに優先順位を付けることができます。
6. 復旧タスクを作成するには、[新規] をクリックします。

   a. フォームのフィールドに入力します。

[復旧タスクの作成] フォーム

フィールド	説明
タスク ID	各タスクにアサインされた番号。グリッド内の他のタスクに対するタスクの位置を示します。 特に印刷された PDF で、特定の順序でタスクを表示できます。
スコープ	タスクが復旧する資産。フィールドが空の場合、タスクは計画レベルで資産を復旧します。それ以外の場合は、復旧タスクスコープを復旧します。
復旧チーム	復旧タスクがアサインされているチーム。
アサイン先グループ	タスクがアサインされているグループ。
別の計画を参照	復旧タスクが個別のタスクではなく、独自のタスクセットを含む個別の計画を参照することを示すオプション。 チェックボックスがオフの場合、復旧タスクは演習時のタスク ID 順序に従って正常に実行されます。
プランを選択してください	[関連計画] タブのリストから計画します。タスクに参照された関連計画がある場合、参照された計画のタスクが実行されてから、続けてメイン計画内の残りの復旧タスクが順番に実行されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	フィールドは、[別の計画を参照] チェックボックスが有効になっている場合にのみ表示されます。
アサイン先グループ	タスクがアサインされているグループ。
依存関係	タスクは資産と計画に依存し、循環依存関係は除外されます。
ドキュメント	計画の実行に関する詳細。
Recovery strategy (復旧戦略)	計画で特定された資産を復旧する目標。
完了期限	復旧タスクを完了する必要がある時間。
構成アイテム	このタスクで復旧されるアイテムまたは資産。
説明	復旧タスクに関する簡単なメモ。

注:
復旧タスクは復旧戦略レベルでも計画レベルでも作成できます。

b. [作成] をクリックします。

復旧タスクグリッド

計画のために作成したすべての復旧タスクがグリッドに表示されます。復旧タスクテーブルのフィールドに基づいて復旧タスクをグループ化できます。グループ化は、必要に応じて復旧タスクをグループ化し、集中してタスクグループを管理するのに役立ちます。

注:
フィールド別にグループ化するには、計画を作成する前に、計画テンプレートの [グループ復旧タスク] オプションと [グループ] フィールドの値を選択して、BCM アドミニストレーターとしてグループ基準値を設定する必要があります。

依存関係

依存関係列には、資産スコープレベルと計画レベルに一致する復旧タスクが表示されます。ただし、スコープレベルの場合は、スコープレベルに一致する復旧タスクと、スコープのないタスクも表示されます。

計画レベルの場合は、計画レベルでのみ一致する復旧タスクが表示されます。計画レベルの復旧タスクにはスコープがないことを考慮してください。

タスク間に循環依存関係がある場合、それらの復旧タスクは [依存関係] 列に表示されません。

タスクグループ

計画テンプレートの [グループ] フィールドに基づいてタスクをグループ化します。

7. セル内のデータを編集するには、セルをダブルクリックして再度クリックします。

8. グループ化とフィルターを適用するには、垂直の省略記号アイコンをクリックします。

ソート

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

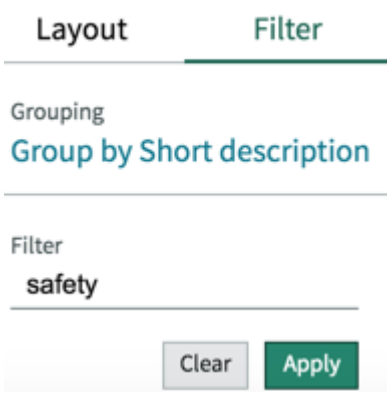
各列レベルでデータをソートできます。列ヘッダーを最初にクリックすると、列のデータが昇順でソートされます ( )。次にクリックすると、ソートが降順になります ( )。もう一度クリックすると、ソートが取り消されます。

フィルター

列フィルターを適用して、シンプルなテキストを含むデータをフィルタリングします。たとえば、安全性についての簡単な説明を使用してタスクをフィルタリングできます。

簡易番号フィルターを使用して、時間が重要なデータをフィルタリングします。たとえば、[完了期限] 列にフィルターを適用して、ビジネスの中断を 1 時間以内に完了する必要があるタスクをフィルタリングできます。

タスクのグループ化とフィルター



9. フィルターを削除するには、[クリア] ボタンをクリックします。
10. 1 つ以上の復旧タスクを削除するには、レコードを選択して [削除] ボタンをクリックします。

事業継続性計画の一般的な詳細の表示

計画の [詳細] タブを使用して、計画に使用されるテンプレート、そのタイプ、およびその他の詳細に関する一般的な情報を表示します。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.admin、sn_bcm.program_manager、または sn_bcm.planner

手順

1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) をクリックします。
3. [計画] リストで [ドラフト] ステータスをクリックします。
4. [名前] 列の計画レコードへのリンクをクリックします。
5. 事業継続性計画 (BCP) の [詳細] タブをクリックします。
   このタブには、計画の詳細の概要が表示されます。必要に応じて情報を編集できます。
6. 計画の詳細を更新した後、[保存] をクリックします。
7. PDF を生成して BCP のコピーをローカルハードドライブにダウンロードするには、**[PDF** の生成] をクリックします。
   BCP PDF へのダウンロード可能なリンクを含むメッセージが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
計画が承認されると、PDF が生成され、計画に添付されます。

8. 計画を [承認済み] ステータスから [ドラフト] ステータスに移行するには、[編集] ボタンを選択します。
9. 計画のコピーを作成するには、[コピー] ボタンをクリックします。
BIA を編集する権限がある場合は、BIA をコピーすることもできます。BCM 計画者とプログラムマネージャーは、計画が [ドラフト]、[レビュー中]、および [戻り] 状況の場合に、その計画とその関連テーブルレコードを削除できます。BCM アドミニストレーターは、そのステータスに関係なく計画を削除できます。

   a. [計画をコピー] ポップアップに新しい計画の名前を入力します。

   b. [確認] をクリックします。

   - コピー操作では、[計画をコピー] ポップアップに入力した名前で計画の正確なレプリカが作成されます。コピーされた計画が [ドラフト] ステータスに移行します。
   - このアクションでは、元の計画の計画資産、計画ドキュメントセクション、復旧チーム、損失シナリオ、関連する資産の依存関係と復旧戦略、および復旧タスクが、コピーされた計画にコピーされます。
   - コピーされた計画のドキュメントセクションは [処理待ち] ステータスです。必要に応じて各セクションを編集し、[完了] ステータスに移動します。
   - 依存関係は、計画がコピーされるときに入力されます。

ビジネス計画の承認状況フローの表示

複数の承認レベルでビジネス計画を指示するときに、承認プロセスの各レベルで送信された承認状況移行と承認者の詳細を表示します。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.planner、sn_bcm.program_manager、sn_bcm.viewer

手順

1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) をクリックします。
[ドラフト] および [レビュー中] 状況を除く任意の状況でビジネス計画の承認レコードを表示できます。
3. [名前] 列のビジネス計画レコードへのリンクをクリックします。
4. 計画の承認の詳細を表示するには、[承認] 関連リストをクリックします。
計画に対して要求されたステータスの承認レコードがない場合、計画の [却下] または [承認] のいずれかを選択できます。
5. [名前] 列の承認レコードへのリンクをクリックします。
承認の名前、承認レベル、現在のステータス、およびユーザーやグループなどの承認者の詳細を表示できます。
6. 計画の承認履歴を表示するには、[詳細] タブをクリックします。

   a. [承認履歴] 関連リストをクリックします。
   承認者の詳細および作成日時とともに、完全な承認履歴を表示できます。

   複数レベルの計画承認の状況移行：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

未要求

承認が各レベルの承認者にまだ送信されていない状態。

要求済み

承認はそのレベルの承認者に送信されています。それに応じて、後続のすべてのレベルの承認のステータスが [未要求] に変わります。

承認済み

1 人以上の承認者がそれぞれのレベルで計画を承認しました。それに応じて、次のレベルの承認のステータスが [要求済み] に移行します。

却下

1 人以上の承認者がその特定のレベルで計画を却下しました。それに応じて、後続のすべてのレベルの承認のステータスが [不要] に移行します。

不要

あるレベルの承認者が 計画を却下した場合、後続のすべての承認レベルのステータスが [不要] に移行します。

演習と危機管理のための構造化されたワークフロー

事業継続性とは、組織のリスクを軽減し、中断に対応して復旧する能力を向上させることを目的とした一連の継続的なアクティビティです。このように、復旧と演習の管理は、継続的なテストと継続性計画の改善に役立ち、危機が発生したときのビジネスの中断を最小限に抑えます。

復旧と演習の管理の目標は次のとおりです。

復旧管理の演習の計画

- 継続的なテストと継続性計画の改善を提供します。
- シミュレートされた危機イベントと実際の危機イベントにおける計画の有効性と使いやすさを向上させます。

Crisis Management

- 重要なビジネス機能やプロセスが組織全体で使用できなくなることを最小限に抑えます。
- 危機イベント発生時の財務、評判、法務、規制遵守への影響を最小限に抑えます。

演習イベントの開始

演習イベントを作成して、予定されている日に事業継続性および復旧計画をテストし、イベントタスクの完了を監視します。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.planner、sn_bcm.program_manager

手順

1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. ワークスペースの [アクション] セクションで [演習を開始する] リンクをクリックします。
3. モーダルフォームのフィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

演習作成フォーム

フィールド	説明
簡単な説明	演習イベントの名前。
アサイン先	演習イベントを作成したユーザーの名前が自動的に入力されます。BCM プログラムマネージャーは、フィールドを更新できます。
訓練方法	イベントを実装するための方法。方法として、シミュレーション、 TableTop、チュートリアルを使用できます。 ○ シミュレーション：必要な機器、消耗品、および担当者を使用して実際の災害をシミュレートする環境。 ○ Tabletop：チームが部屋で計画を分析し、ギャップを探すことによって演習を実行します。 ○ チュートリアル：チームの各メンバーが、計画のコンポーネントを詳細に確認して、弱点を特定します。 ○ 機能：計画に含まれていないアドホックタスクを含めるオプション。
開始予定	演習イベントの開始予定日。
説明	演習イベントの詳細な説明。

4. [送信] をクリックします。
   演習イベントが作成され、[処理待ち] ステータスになります。

危機イベントの開始

訓練イベントとは異なり、危機イベントは突然発生します。ビジネスは、課題に直面した場合に備え、ビジネス上の損失を防ぐために重要なビジネス機能を迅速に復旧できる必要があります。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.planner、sn_bcm.program_manager

このタスクについて
危機は事前の通知なしに突然発生するため、危機に対する計画が準備されていない可能性があります。しかしイベントを準備しておき、要件に応じて危機イベントにタスクを追加することはできます。

手順

1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. [アクション] セクションで [危機イベントの開始 **(Start a Crisis Event)]** リンクをクリックします。
3. モーダルフォームのフィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[危機イベントを報告] フォーム

フィールド	説明
簡単な説明	危機イベントの名前。
アサイン先	危機イベントを作成したユーザーの名前が自動的に入力されます。BCM プログラムマネージャーは、フィールドを更新できます。
説明	危機イベントの詳細説明。

4. [送信] をクリックします。
危機イベントが作成され、[処理待ち] ステータスになります。

イベントの詳細の確認と演習イベントの開始

[詳細] タブでイベントの詳細を確認し、イベントを開始して事業継続性または復旧計画をテストし、イベントの完了を監視します。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.planner、sn_bcm.program_manager

手順

1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. リストアイコン ( ) をクリックします。
3. [演習] リストで [処理待ち] ステータスをクリックします。
4. [番号] 列のイベントレコードへのリンクをクリックします。
5. [詳細] タブで演習イベントの詳細を確認し、必要に応じて更新します。

演習イベントの詳細

フィールド	説明
イベント	
簡単な説明	イベントの簡単な説明
イベントタイプ	イベントタイプを自動的に入力します
状況	イベントの現在のステータス。
アサイン先	イベントを管理および完了するイベントコーディネーター。
説明	イベントの詳細な説明。
計画	
開始予定	イベントの開始予定日。
計画承認者	イベント演習の承認者。
結果承認者	計画の結果を承認するユーザー。
スコープ	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
訓練方法	イベントを実装するための方法。以前に選択した演習方法を自動的に入力します。
目標	演習イベントで達成する目標。
具体的な目標	イベントの目標。
結果	
実際の開始日	演習の実開始日。
実際の終了日	演習が完了した日付。
締め切り	演習イベントがクローズした日付。 イベントがクローズ済みステータスに移行すると、このフィールドが表示されます。
結果	演習の結果。
結果サマリー	演習イベントのサマリー。
推奨される改善	演習イベントの改善方法に関する推奨事項。
アクティビティ	
作業メモ	演習イベントに関する追加情報。

注:
[処理待ち] ステータスでは [結果] セクションを表示できません。ただし、他のすべての状況ではこのセクションを表示できます。

6. [保存] をクリックします。
イベントが [処理待ち] ステータスになります。
7. 詳細を更新した後に、演習の [イベントを開始] をクリックします。
演習を開始すると、[ステータス] フィールドが [対応中] ステータスに移行します。結果承認者は、演習が予定日に実施されなかった場合、演習の実際の開始日と終了日を更新できます。演習の成果または結果を更新します。結果は、成功、成功 (問題あり)、不成功のいずれかになります。今後の演習で使用できるように、結果のサマリーと推奨される改善を入力してください。
8. 演習イベントのイベントタスクのすべての有効化された計画が完了したら、[承認のため送信] ボタンをクリックします。

承認のために演習イベントを送信する前に、[実際の開始] および [実際の終了] の日付を入力する必要があります。[結果] セクションで詳細を更新します。変更を加えた後、承認のために送信する前にフォームを保存します。

承認待ち

[承認のため送信] をクリックすると、イベントが [承認待ち] ステータスに設定されます。このステータスでは、[作業メモ] フィールドのみを更新できます。

イベントに対して承認ルールが構成されている場合は、承認が生成されて承認者に送信されます。イベントに対して要求されたステータスの承認レコードがない場合、イベントの [却下] または [承認] を選択できます。

[承認] 関連リストで、承認の名前、承認レベル、および承認のステータスなどの承認の詳細を表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[承認履歴] 関連リストを選択すると、承認ステータス、承認者の名前、イベント番号、承認が要求された日付、およびコメント (ある場合) が表示されます。

> **注:**
> BCM プログラムマネージャーである場合は、[承認] および [却下] ボタンを表示できます。

戻り

イベントが却下されると、[戻り] ステータスに設定されます。[承認のため送信]、[完了してクローズ]、または [未完了でクローズ] の状況に移行できます。これはイベントに関連しているため、説明、結果、作業メモなどのフォーム内の特定のセクションのみを更新できます。

イベントが [戻り] ステータスの場合は、イベント資産のステータスを編集できます。

[戻り] ステータスから先では、イベントタスクへのコメントと添付ファイルの追加のみを実行できます。

完了してクローズおよび未完了でクローズ

[イベントをクローズ] ボタンをクリックすると、イベント状況を [完了してクローズ] または [未完了でクローズ] に設定できます。

承認済み

イベントが承認されると、[承認済み] ステータスに設定されます。イベント状況を [完了してクローズ] または [未完了でクローズ] に設定できます。

9. PDF を生成するには、**[PDF** の生成] ボタンをクリックして PDF をダウンロードします。
演習イベントへの編集アクセス権がある場合は、イベントのコピーを PDF 形式でローカルハードドライブに保存できます。

> **注:**
> デフォルトでは、イベントがクローズされた後に PDF が生成されて添付されます。

自動翻訳

危機イベントを管理する

[詳細] タブで危機イベントの詳細を確認して更新します。ビジネスを中断させる危機が発生した場合に備えてイベントを準備します。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.planner、sn_bcm.program_manager

手順

1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) をクリックします。
3. [危機イベント] リストで [処理待ち] ステータスをクリックします。
4. [番号] 列のイベントレコードへのリンクをクリックします。
5. 危機イベントの詳細を確認し、必要に応じて更新します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

危機イベントの詳細

フィールド	説明
イベント	
簡単な説明	イベントの名前または説明。
イベントタイプ	イベントタイプを自動的に入力します
状況	イベントの現在のステータス。
アサイン先	危機を管理するイベントコーディネーター。
説明	イベントの詳細な説明。
追加情報	
実際の開始日	危機イベントの実開始日。
実際の終了日	危機イベントが終了した日付。
締め切り	イベントがクローズした日付。 イベントがクローズ済みステータスに移行すると、このフィールドが表示されます。
アクティビティ	
作業メモ	危機イベントに関する追加情報。
作成	
作業メモ (プライベート)	危機イベントに関する追加情報。

6. [参照] ボタンをクリックして、任意のドキュメントを添付ファイルとして追加します。
7. [保存] をクリックします。
   イベントが [処理待ち] ステータスになります。
8. 危機イベントを開始するには、[イベントを開始] ボタンをクリックします。
   イベントを開始すると、[対応中] ステータスに移行します。
9. 危機イベントのイベントタスクのすべての有効化された計画が完了したら、[承認のため送信] ボタンをクリックします。

   承認のためにイベントを送信する前に、[実際の終了] の日付を入力して、フォームを保存する必要があります。

   承認待ち

   [承認のため送信] をクリックすると、イベントが [承認待ち] ステータスに設定されます。このステータスでは、[作業メモ] フィールドのみを更新できます。

   イベントに対して承認ルールが構成されている場合は、承認が生成されて承認者に送信されます。イベントに対して要求されたステータスの承認レコードがない場合、イベントの [却下] または [承認] を選択できます。

   [承認] 関連リストで、承認の名前、承認レベル、および承認のステータスなどの承認の詳細を表示できます。

   [承認履歴] 関連リストを選択すると、承認ステータス、承認者の名前、イベント番号、承認が要求された日付、およびコメント (ある場合) が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> BCM プログラムマネージャーである場合は、[承認] および [却下] ボタンを表示できます。

戻り

イベントが却下されると、[戻り] ステータスに設定されます。[承認のため送信]、[完了してクローズ]、または [未完了でクローズ] の状況に移行できます。これはイベントに関連しているため、説明、結果、作業メモなどのフォーム内の特定のセクションのみを更新できます。

イベントが [戻り] ステータスの場合は、イベント資産のステータスを編集できます。

[戻り] ステータスから先では、イベントタスクへのコメントと添付ファイルの追加のみを実行できます。

完了してクローズおよび未完了でクローズ

イベントが承認された場合、イベントをクローズするオプションだけが使用可能になります。[イベントをクローズ] ボタンをクリックすると、イベント状況を [完了してクローズ] または [未完了でクローズ] に設定できます。

承認済み

イベントが承認されると、[承認済み] ステータスに設定されます。イベント状況を [完了してクローズ] または [未完了でクローズ] に設定できます。

10. PDF を生成するには、**[PDF** の生成] ボタンをクリックして PDF をダウンロードします。危機イベントへの編集アクセス権がある場合は、イベントのコピーを PDF 形式でローカルハードドライブに保存できます。

> **注:**
> デフォルトでは、イベントがクローズされた後に PDF が生成されて添付されます。

自動翻訳

イベントの詳細を表示し、イベントタスクの完了を監視する

イベントの詳細を表示し、影響を受けるアイテムを追加してイベントを開始します。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.planner、sn_bcm.program_manager

手順

1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. 事業継続性ワークスペースのホームページからアクティブな演習または危機イベントを更新するには、[自分の演習] セクションの [イベント] 列でイベントレコードへのリンクをクリックします。
3. ワークスペースのリストビューからイベントを更新するには、リストアイコン ( ) をクリックします。
4. レコードが演習イベントで処理待ちステータスの場合は、[演習] リストの [処理待ち] リンクをクリックします。
5. [番号] 列のイベントレコードへのリンクをクリックします。
6. [詳細] タブでイベントの詳細を確認します。

イベントのすべての詳細を表示および更新できます。ただし、イベントタイプは編集できません。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

危機管理者は、[詳細] タブで提供された情報を使用して危機イベントを報告できる必要があります。詳細については、「危機イベントの管理」を参照してください。

7. [影響度] タブをクリックして、影響を受けるアイテムを追加します。
影響を受けるアイテムと有効化された計画のリストをイベントに追加するには、「影響を受ける資産と計画のイベントへの追加」を参照してください。
8. [イベントタスク] タブをクリックします。
このタブは、すべての危機イベントに対して表示されますが、演習は機能タイプのイベントのみです。

   サイドパネルとして表示される [計画] セクションには、イベントに追加されたすべての有効化された計画が表示されます。

   計画が有効化されると、スコープが空のすべての復旧タスク、および有効化された計画の影響を受ける資産とスコープが一致するタスクが、その有効化された計画のイベントタスクとして追加されます。

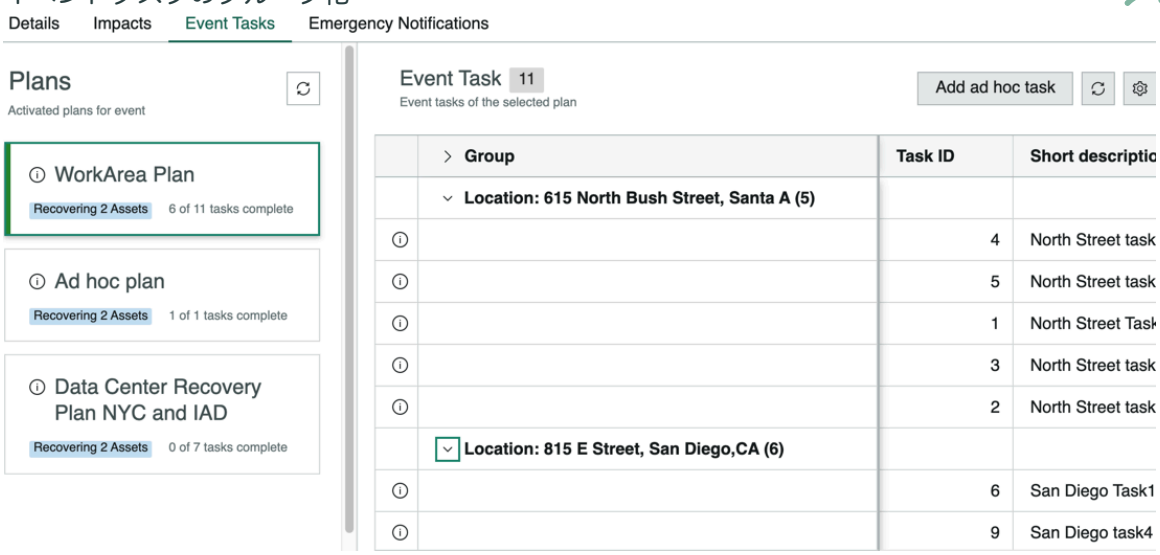
   有効化された各計画は、復旧中の資産の数と、その有効化された計画に対して完了したイベントタスクの数を示すインタラクティブカードです。有効化された計画をイベントタスクに追加すると、その計画のすべての復旧タスクがイベントタスクとしてイベントに追加されます。

   イベントの既存の計画に含まれていないイベントのタスクをアドホックタスクとして作成することもできます。

   a. 有効化された計画カードをクリックして、関連するイベントタスクを表示します。
   選択した有効化済みの計画カードが緑色でハイライト表示され、その計画のすべてのイベントタスクが右ペインのグリッドに表示されます。

      計画が事前にグループ化されている場合、イベントタスクも事前にグループ化されます。事前にグループ化されたイベントタスクを表示するには、グリッドの最初の列である [タスクグループ] 列を使用します。

イベントタスクのグループ化



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> 有効化された計画が関連資産を復旧するために別の計画を参照している場合、それらのすべての関連計画は、左ペインでメインの有効化された計画の下に [関連計画] として一覧表示されます。
>
> 復旧イベントの計画と実行の詳細については、「イベントの関連計画資産のデータフロー、計画、実行、および復旧」を参照してください。

b. イベントにアドホックタスクを追加するには、[アドホックタスクを追加] ボタンをクリックします。

[新規イベントタスクの作成 **(Create New Event Task)]** フォーム

フィールド	説明
簡単な説明	イベントタスクについての簡単なメモ。
タスク ID	デフォルトは、計画の既存のイベントタスクの次の番号です。
アサイン先グループ	イベントタスクがアサインされているグループ。
アサイン先	アサイン先グループのユーザー。[アサイン先グループ] フィールドが空の場合は、任意のユーザーを選択します。
他の受託者リスト	追加のユーザー。
影響を受ける資産	イベントタスクに対して影響を受ける資産。
状況	デフォルトは [処理待ち] ステータスです。
依存関係	計画レベルからコピーされたタスクの場合、依存関係は計画復旧タスクからコピーされます。アドホックタスクの依存関係を追加することはできません。
説明	イベントタスクに関する情報。
アクティビティ	
作業メモ	内部で共有されるイベントタスクに関する情報。

c. [保存] をクリックします。

> **注:**
> [完了してクローズ] または [未完了でクローズ] ステータスの有効化された計画に対してアドホックタスクを作成することはできません。

d. 既存のイベントタスクを更新するには、 グリッド内のタスクの ⓘ をクリックします。

e. イベントタスクの [実際の開始] と [実際の終了] の日付を更新します。

f. 必要に応じてアサインフィールドを更新します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

g. [アクティビティ] セクションの [作業メモ] フィールドにイベントタスクの関連情報を入力します。

h. [保存] をクリックします。

イベント資産を復旧するための実際の期間と合計工数の計算：

イベント資産を復旧するための実際の期間は、実際の終了 - イベント資産の実際の開始によって計算されます。

- イベント資産の実際の開始は、イベント資産に対して実行されたイベントタスク (つまり、イベント資産を影響を受ける資産として持つイベントタスク) の最小開始時間です。タスクのない有効化済み計画の最小開始時間。
- イベント資産の実際の終了は、イベント資産に対して実行されたイベントタスク (つまり、イベント資産を影響を受ける資産として持つイベントタスク) の最大終了時間です。タスクのない有効化された計画の最大終了時間。

イベント資産の合計工数は、イベント資産に対して実行されるすべてのイベントタスクにかかる実際の時間をロールアップすることによって計算されます。つまり、イベント資産を含むイベントタスク内の影響を受ける資産です。タスクのない資産に関連付けられ、有効化された計画すべての合計工数。

イベントタスクの実際の期間

実際の開始時間と実際の終了時間の時間差。

タスクを含み有効化された計画の実際の期間

有効化された計画の実際の開始時間と実際の終了時間の差。次のようになります。

- 有効化された計画の実際の開始は、その計画のイベントタスクの最小開始時間です。
- 有効化された計画の実際の終了は、その計画のイベントタスクの最大終了時間です。

タスクのない有効化された計画の実際の期間

有効化された計画の実際の開始時間と実際の終了時間の差。

タスクを含み有効化された計画の合計工数

計画に属するすべてのイベントタスクの実際の期間の合計。

タスクのない有効化された計画の合計工数

有効化された計画の実際の開始時間と実際の終了時間の差。

イベントタスクの状況移行：

オープン

イベントが開始されると、依存復旧タスクを持たないそのイベントのイベントタスクが [オープン] ステータスに移行します。

処理待ち

他の復旧タスクに依存するイベントタスクは、イベントの開始時に [処理待ち] ステータスになります。依存タスクがクローズされると、親イベントタスクが [オープン] ステータスに移行します。

タスクをスキップ

このボタンは、BCM プログラムマネージャーとしてログインしている場合にのみ使用できます。[スキップ] ボタンは、タスクが [処理待ち] または [オープン] ステータスにあり、イベントが [対応中] ステータスである必要がある場合に表示されま

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

す。[タスクをスキップ] をクリックすると、タスクが [スキップしてクローズ] ステータスに移行します。このステータスでの実際の開始時間と終了時間は空白です。

トリガー

このボタンは、BCM プログラムマネージャーとしてログインしている場合にのみ使用できます。タスクは [処理待ち] ステータスです。[トリガー] をクリックすると、依存関係に関係なくタスクが [オープン] ステータスに移行します。

対応中

タスクは [オープン] ステータスです。[対応中] ボタンをクリックすると、タスクが [対応中] ステータスに移行します。このステータスの [実際の開始] フィールドで、タスクの実際の開始時間を更新できます。実際の開始を更新しない場合、現在の日付と時刻が実際の開始時間として記録されます。次に利用可能なオプションは、[完了してクローズ] または [未完了でクローズ] ステータスです。

完了してクローズ

タスクは完了してクローズされます。タスクの実際の終了時間が [実際の終了] フィールドに記録されます。実際の終了を更新しない場合、現在の日付と時刻が実際の終了時間として記録されます。

未完了でクローズ

タスクの実際の終了時間が [実際の終了] フィールドに記録されます。実際の終了を更新しない場合、現在の日付と時刻が実際の終了時間として記録されます。[作業メモ] フィールドで必要な情報を更新し、タスクを保存します。

影響を受ける資産と計画のイベントへの追加

継続性計画と復旧計画をイベントに関連付けてテストすることで、そのパフォーマンスを数値化します。計画の成功は、計画に添付されたイベントタスクの正常な完了によって測定できます。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.planner、sn_bcm.program_manager

このタスクについて

優れた事業継続性計画は、ビジネスインパクトアナリシスと破壊的な状況に伴うリスクの慎重なアセスメントの結果です。ただし、計画はイベントでテストされた後にのみ実行可能になります。

手順

1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. 事業継続性ワークスペースのホームページからアクティブな演習または危機イベントを更新するには、[自分の演習] セクションの [イベント] 列でイベントレコードへのリンクをクリックします。
3. ワークスペースのリストビューからイベントを更新するには、リストアイコン ( ) をクリックします。
4. レコードが演習イベントで処理待ちステータスの場合は、[演習] リストの [処理待ち] リンクをクリックします。
5. [番号] 列のイベントレコードへのリンクをクリックします。
6. [影響度] タブをクリックして、影響を受けるアイテムのリストを表示します。
   資産、資産の復旧のための有効化された計画、およびイベント資産のアドホック計画を追加できます。
7. [影響度] タブをクリックして、影響を受けるアイテムのリストを表示します。

   影響グリッドに、影響を受ける資産と有効化された計画が表示されます。以下のことを行うことができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 影響を受ける資産とその資産に関連する計画を追加する
- グリッド内のそれぞれの資産の下にある資産に関連する計画を表示する
- 計画の参照のないアドホック計画を追加する
- 情報アイコン (ⓘ) をクリックして、資産復旧と有効化された計画の詳細を表示する
復旧タスクエンティティの計算の背後にあるロジックについては、「イベント資産を復旧するための実際の期間と合計工数の計算」を参照してください。

影響を受ける資産が CMDB の依存関係に基づいて自動的に BIA に入力された CMDB CI データであり、これらの資産が計画でスコープ指定されている場合、資産の復旧時に関連資産と関連計画が、[影響度] タブで、影響を受ける資産および有効化された計画として演習イベントに自動的に取り込まれます。

復旧イベントの計画と実行の詳細については、「イベントの関連計画資産のデータフロー、計画、実行、および復旧」を参照してください。

8. [資産を追加] ボタンをクリックして、イベント内の資産を復旧します。

   a. [資産を追加] ポップアップで、影響を受けるアイテムタイプまたは復旧するプライマリ要素を選択します。

   b. [次へ] をクリックします。

   c. [資産を追加] ポップアップで影響を受けるアイテムまたは資産を選択します。

   d. [保存] をクリックします。
   グリッドの [簡単な説明] 列に資産が表示されます。これらの資産がイベントに追加されると、イベント資産になります。グリッドには、復旧されているかどうかを示す資産のステータス、および復旧にかかった実際の時間も表示されます。

9. [計画を追加] ボタンをクリックします。
資産は、承認された計画の一部である場合もあれば、計画がない場合もあります。

   グループ化されたボタンを使用して、必要な数の計画をイベントに追加します。ただし、イベントに追加できるアドホック計画は 1 つだけです。イベントのアドホック計画が作成されると、[アドホック計画を追加] ボタンが表示されます。このアドホック計画は、資産を選択したときに [アドホック計画] ポップアップに表示されます。

   [アドホック計画を追加] ボタンは、イベントのアドホック計画を作成した後に表示されます。アドホック計画モーダルで選択した資産に同じものがマッピングされます。

   - 影響を受ける資産が含まれている計画を選択するには、[影響を受ける資産の計画を表示] を選択します。
     a. [影響を受ける資産を選択] フィールドで、影響を受ける資産を選択します。
     b. [次へ] をクリックします。
     c. [追加する計画を選択] ポップアップで、影響を受ける資産の計画を選択します。

        このアクションにより、有効化された計画がまだ存在しない場合は計画が作成され、影響を受ける資産が、有効化された計画に対する影響を受ける資産 [sn_recovery_impacted_asset_to_activated_plan] テーブルの有効化された計画にマッピングされます。

   - すべての計画を表示し、計画から資産を選択するには、[すべての計画を表示] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [次へ] をクリックします。

b. [追加する計画を選択] モーダルのリストから計画を選択します。

c. [次へ] をクリックします。

d. [選択した計画の資産を選択] モーダルから、選択した計画の影響を受ける資産を選択します。

このアクションにより、影響を受ける資産、有効化された計画が追加され、影響を受ける資産が、有効化された計画に対する影響を受ける資産 [sn_recovery_impacted_asset_to_activated_plan] テーブルの有効化された計画にマッピングされます。

計画は有効なイベントに対して有効化されているため、イベントが [処理中] ステータスになると、計画または資産を削除できません。

e. [確認] をクリックして、選択した計画の有効化を続行します。このメッセージは、[処理中] ステータスのイベントに対して表示されます。

注:
影響を受けるアイテムまたはイベント資産、有効化された計画、およびそれらのステータスがグリッドに表示されます。

10. [アドホック計画を追加] ボタンをクリックします。
イベントに資産を追加した後、[アドホック計画を追加] ボタンをクリックして、イベントの選択した資産のアドホック計画を追加できます。

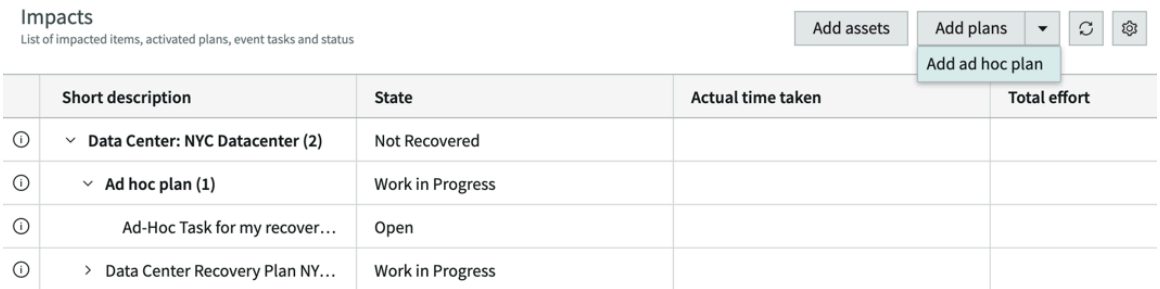
注:
このアクションにより、イベントにアドホック計画がまだ存在しない場合に計画が追加されます。アドホック計画がイベントに追加された後は、[アドホック計画を追加] ボタンをクリックするたびに、選択したすべての影響を受ける資産がこの既存のアドホック計画に追加されます。

アドホック計画はイベントに対して 1 件のみ作成できます。

- イベントが開始されるか [処理待ち] ステータスになるまでは、資産、有効化された計画、およびタスクであるイベントの影響度を削除できます。
- 演習または危機イベントが [対応中] ステータスの場合、関連する影響度は削除できません。
- イベントが [完了してクローズ] または [未完了でクローズ] 状況の場合、イベント資産、有効化された計画、またはイベントタスクを追加することはできません。

[簡単な説明] 列で選択した資産と計画をグリッドの階層に表示できます。

影響度グリッド



11. 影響度の詳細を更新するには、それぞれのレコードの ⓘ をクリックして、フォームビューでイベント資産と有効化された計画を起動します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

a. 有効化された計画の詳細を表示するには、影響度グリッドでそれぞれの計画レコードの ⓘ をクリックします。
有効化された計画番号、計画名、その簡単な説明、計画の状況、優先度、および説明の詳細を表示できます。

b. 計画名の横にある [レコードを開く] リンクをクリックします。



このアクションにより、計画が別のタブで開き、その詳細を完全に表示できます。

影響を受ける資産の編集可能な詳細

影響を受ける資産の詳細では、資産が復旧されたかどうかを示すステータスと、資産の復旧の実際の所要時間のみを編集できます。残りの影響を受ける資産の詳細は表示専用です。

完全な化された計画の編集可能な詳細

計画の状況、優先度、および説明を編集できます。ただし、完全な化された計画番号またはその簡単な説明は編集できません。

影響を受けるイベントタスクの編集可能な詳細

[アサイン先グループ]、[アサイン先]、および [追加担当者リスト] フィールドのみを編集できます。残りのフィールドは読み取り専用です。

12. [保存] をクリックします。

13. 更新アイコン ( ) をクリックして、資産または計画の更新されたステータスと、資産の復旧にかかった実際の時間を表示します。

イベントでのデータフロー、計画、および実行

構成アイテムデータが ServiceNow AI Platform で利用可能な場合は、同じアイテムを使用してビジネスインパクトアナリシス (BIA) の依存関係を評価できます。その後、BIA の依存関係を計画およびイベントで使用できます。構成アイテム (CI) は、計画とイベントに手動で追加することもできます。

順次復旧される資産を含む新しい計画を追加することもできます。

自動データフローの利点は次のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- CMDB に作成された構成アイテム (CI) データは BIA で再利用できます。BIA からの依存関係が計画とイベントで使用されます。
- 特に参照計画が、それぞれの資産を復旧するために他の部門またはチームの計画者によって管理される場合、メイン計画の残りのタスクを実行する前に、メイン計画のタスク内の関連する参照計画に分岐することができます。
- 実行のフローはタスク ID に従って順序付けされ、スキップされるイベントタスクはありません。

CMDB から BIA へ、および BIA から計画への自動データフロー

ServiceNow AI Platform のレコードが CMDB の構成アイテムとして作成されると、そのレコードとそのすべての関連アイテムを資産として利用して、BIA の依存関係を評価できるようになります。

CMDB

データは CI として作成され、レコードは CMDB に格納されます。CMDB では、この CI は、他の関連アイテムに依存する関係または使用される関係によって他のアイテムに関連付けられます。たとえば、データセンター NYC の場合は、SAP オンプレミスアプリケーションと他の Web サーバー、ビジネスプロセス、場所などに依存する可能性があります。

BIA

CMDB 依存関係に基づいて BIA を評価するとき、CMDB CI とその関連アイテムが BIA でのアセスメント用のアイテムとして自動的に利用可能になります。これらの依存関係を追加することができ、これらのアイテムのソースは CMDB として追跡されます。したがって、CMDB で作成されたデータは BIA で依存関係として使用できます。さらに、BIA で他の依存関係を手動で作成することもできます。たとえば、データセンター NYC とその依存 SAP オンプレミスアプリケーションは、BIA で依存関係として追加できます。さらに、Facility: New York などの依存関係を手動で追加することもできます。

プラン

計画段階で BIA 依存アイテムをスコープ指定し、スコープとして追加した場合、スコープ指定されたアイテムの依存関係は関連資産として使用できます。また、これらの資産の既存の計画は関連計画として利用できます。さらに、新しい計画を追加することもできます。たとえば、Data Center: NYC の計画が作成され、それに伴って、SAP オンプレミスアプリケーションや Facility: New York (BIA で作成) などの関連資産の関連計画も自動的に計画フェーズに移行します。BIA からのアイテムに加えて、新しい資産を計画に手動で追加することもできます。

計画の [復旧タスク] タブで、別の計画を参照し、関連する計画のリストから計画を選択することもできます。

訓練

イベントでは、BIA の依存関係に基づいて、影響を受ける資産と有効化された計画が自動的に [影響度] タブに取り込まれます。演習と関連する影響のプライマリスコープに加えて、資産と計画を手動で追加することもできます。これらはすべて復旧のために演習に取り込まれます。

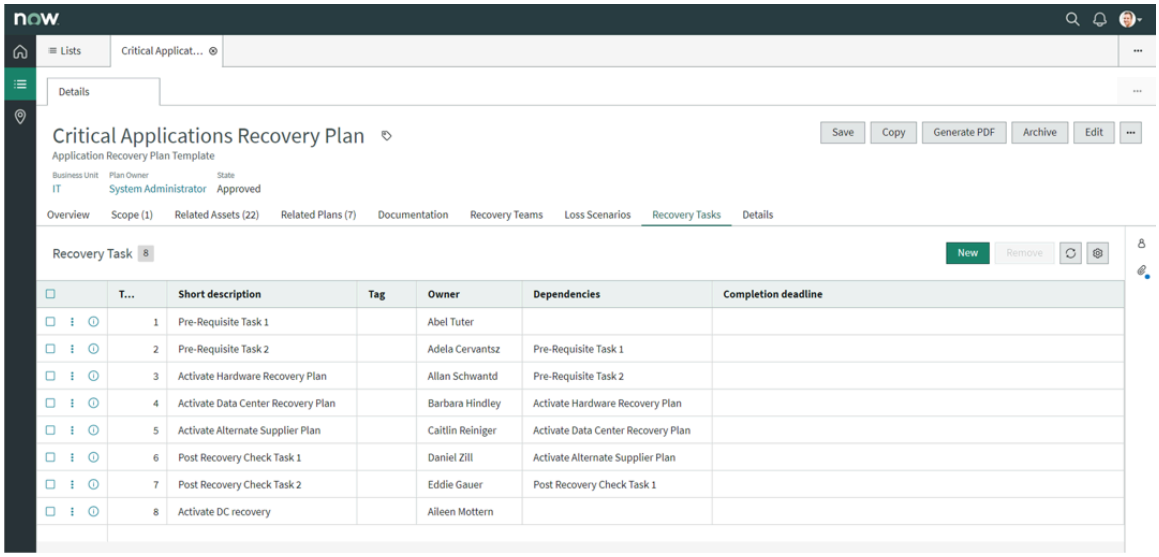
計画フェーズ

この計画フェーズでは、計画者は関連する資産を特定し、関連する計画を追加し、復旧を実行するための順序と依存関係を設定できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

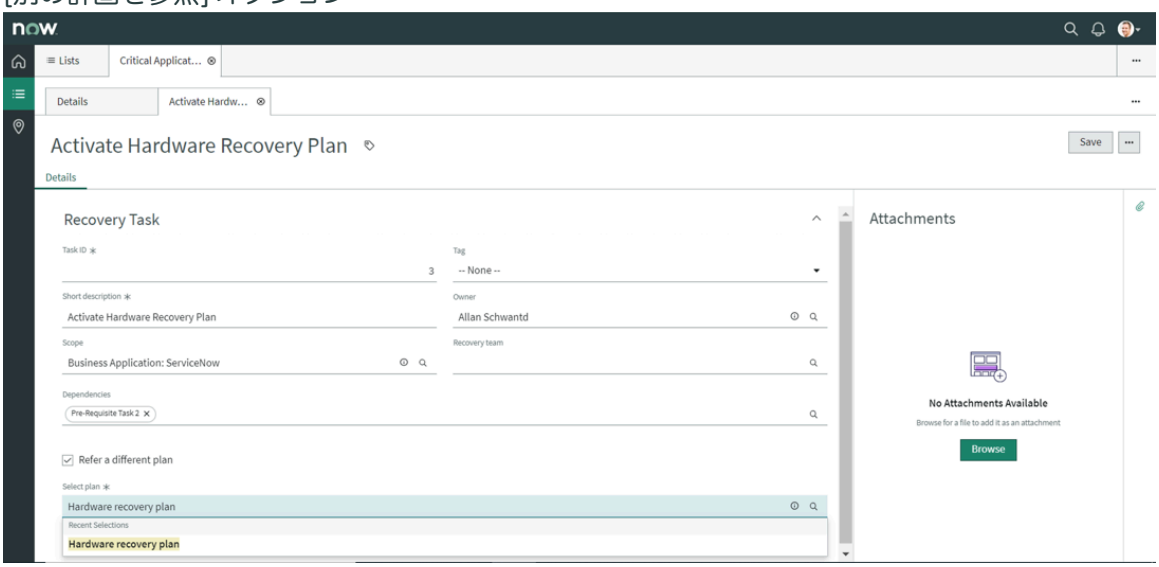
自動翻訳

関連計画を有効化するための復旧タスク



データセンター B の資産を復旧する前にデータセンター A の資産を復旧する必要がある場合は、データセンター A の復旧プロセスに従う別の計画を参照できます。この場合、メイン計画の [復旧タスク] の [別の計画を参照] オプションを使用し、関連する計画を選択してデータセンター A を復旧します。参照されている計画には、この特定のタスクに関してアプリケーションが実行する独自のタスクセットがあります。メイン計画のイベントタスク内で参照された計画の実行順序を設定することもできます。

[別の計画を参照] オプション

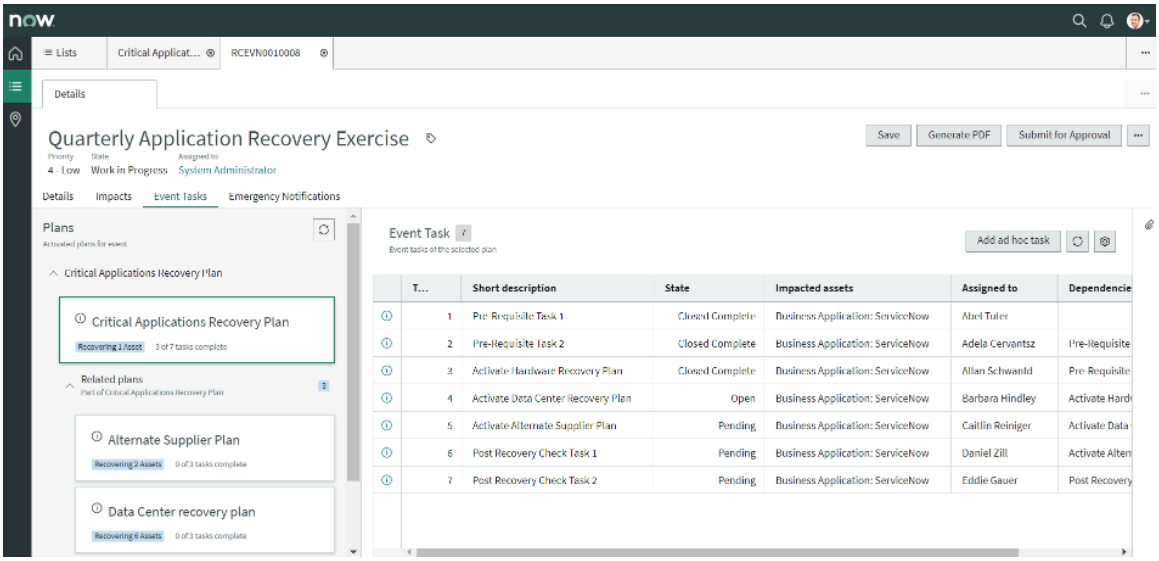


追跡および実行フェーズ

追跡および実行フェーズでは、イベント復旧中に関連する計画を有効化できます。演習の [影響] タブで影響を受ける資産を追加すると、すべての関連資産と関連計画が取り込まれます。同様に、計画を追加した場合、そのすべてのサブ計画も追加されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連計画の実行順序



[イベントタスク] タブに移動して、選択したメイン計画のイベントタスクの実行を追跡します。イベントの [イベントを開始] ボタンをクリックすると、タスクの実行がトリガーされます。左ペインの [プラン] セクションで有効化されたメイン計画を選択すると、選択した計画のすべてのイベントタスクを、イベントタスクとして右ペインに一覧表示することができます。左側の [計画] セクションで、メイン計画の下に [関連計画]があります。メイン計画のイベントタスクはタスク ID の順序で実行されますが、シーケンス内の特定のタスクに参照計画または関連計画がある場合、アプリケーションはその計画に分岐し、その計画にリストされているすべてのタスクを実行して、シーケンスを完了した後で、分岐した元のメイン計画に戻ってシーケンス内の残りのタスクを完了します。したがって、メイン計画の下に復旧タスクのメインリストがあり、その中に独自の復旧サブタスクのセットを含むサブ計画があります。アプリケーションは、参照された計画内のすべてのタスクを順番に実行してから、メイン計画の残りの復旧タスクを順番に実行します。

注:

プライマリメイン計画では、関連する参照計画がその中に存在する場合、アプリケーションは参照されたサブ計画のみを実行し、サブ計画に含まれる可能性がある他の関連計画は実行しません。サブ計画がある場合に限り、実行の階層は最初のレベルで停止します。

セルフサービスからの復旧タスクの表示

危機または演習 (機能タイプ) イベントから資産を復旧するために、自分または所属している復旧タスクチームにアサインされたタスクを表示します。BCM プログラムマネージャーからタスクがアサインされると、セルフサービスアプリケーションメニューからいつでもそれらのタスクを表示できます。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.recovery_team_member

手順

1. 移動先 セルフサービス > 自分の復旧タスク.
2. 自分に、自分が属するアサイン先グループに、または自分が属する復旧チームにアサインされたイベントタスクのリストを表示します。
3. [イベントタイプ] 列をソートして、危機関連のタスクを一番上に表示します。
4. [イベントタスクタイプ] 列を表示して、計画されたイベントかアドホックイベントかを確認します。
5. 更新するイベントタスクのタスク **ID** へのリンクをクリックします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

[実際の開始] と [実際の終了] の詳細を更新できます。

6. イベントタスクアクティビティにメモを追加するには、[アクティビティ] 関連リストをクリックし、[作業メモ] フィールドに情報を追加します。
7. タスクを処理中ステータスフィールドに更新するには、[対応中] ボタンをクリックします。
8. タスクをクローズするには、[完了してクローズ] または [未完了でクローズ] ボタンをクリックします。
   詳細については、「イベントタスクの状況移行」を参照してください。
9. 変更の後に [更新] をクリックします。

Crisis Management マップ

Crisis Management アプリケーションを Crisis Management マップと統合して、組織のビジネスオペレーションを継続する上での潜在的な脅威に関するアラートを受信できます。

脅威フィードとは、組織に危険をもたらし、業務ルーチンを停止させたり、ビジネスプロセスを無効化したりする可能性のある潜在的な脅威や現在の脅威に関するデータインテリジェンス情報です。脅威フィードには、以下が含まれますが、これらに限定されません。

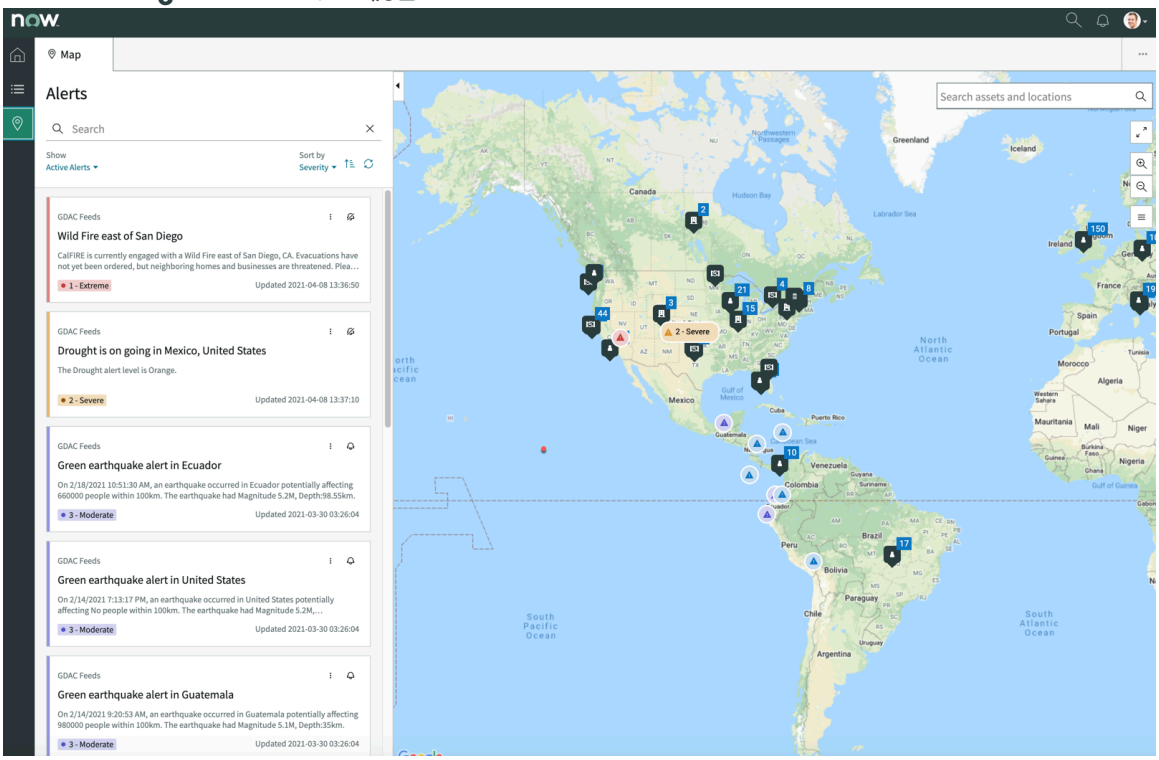
- 悪天候または竜巻
- ハリケーン
- 地震
- 山火事または山火事注意報
- 洪水
- 市民の暴動や反乱
- 戦争または軍事衝突

BCM アドミニストレーターは、ベースシステムによって提供される脅威フィードの統合を有効または無効にすることができます。Crisis Management アプリケーションで追加の脅威フィードを設定することもできます。セットアップした統合と構成は、危機管理者に脅威のアラートを送信し、適切なアクションを適時に実行できるようにします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Crisis Management マップの統合



危機マップの設定

Crisis Management マップを資産の地理的な場所と統合する前に、危機マップにアクティブなアラートを表示するために行う必要がある特定の構成があります。

フィード、アラート、イベントについて

フィード

フィードは頻繁に更新されるニュースコンテンツで、世界中の Web サイトで提供されます。フィードフォームの **[Web]** フィールドにフィードチャネルの Web アドレスまたは URL を手動で入力することで、ニュースフィードに登録できます。

アラート

アラートは、特定の場所と時間に発生したインシデントを報告する通知です。まず、インシデントまたはイベントが発生したことが報告されます。次に、アラートにより、アクションを実行するために関係者にインシデントを報告または通知する通知がトリガーされます。

イベント

アラートの重大度に基づいて、発生したインシデントをステークホルダーに単純に通知するか、危機イベントを宣言するアクションを実行できます。ビジネスオペレーションを妨げるイベントは、危機イベントになる可能性があります。その場合、危機管理ワークフローを実行して、イベントの影響を受ける場所の事業継続性計画と災害復旧計画をアクティブ化することができます。

危機マップを統合するためのセットアップ手順

危機マップのビジュアル化で脅威とアラートのフィードを表示するには、次の構成手順が必要です。

- 危機マップで場所を検索するには、システムのプロパティ を設定します。
- 内部および外部から取得した脅威フィードのサブスクリプションを管理するには、スケジュール設定済みデータインポートを設定します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 組織の資産またはリソースを危機マップにプロットするには、リソースを設定します。
- 危機マップでフィードをアラートとして表示する条件を指定するには、アラートルールを設定します。
- 最後に、危機マップダッシュボードから重大なアラートに対処するために、 アラートアクションを設定します。

危機マップ内の場所の検索の設定

危機マップ上の検索場所を管理するシステムプロパティを設定します。

始める前に
必要なロール：アドミニストレーター

このタスクについて
GRC：クライシスマップアプリケーションで危機マップ機能を有効にするには、Google マップを設定する必要があります。詳細については、「Google Maps API の設定」を参照してください。

> **注:**
> 危機マップ機能を有効にする前に、Google Maps API を購入して設定していることを確認してください。

手順

1. システムのプロパティテーブル [sys_properties] を開くには、アプリケーションナビゲーションフィルターの左ペインに「sys_properties.list」と入力します。
2. [名前] 列で sn_bcm_map.use_google_places_lib を検索します。
3. Google マップで場所を検索するには、sn_bcm_map.use_google_places_lib システムプロパティの [値] 列で値を **True** に設定します。

スケジュール設定されている機器マップのデータインポートの構成

スケジュール設定済みデータインポートを構成して、内部および外部ソースからの脅威フィードのサブスクリプションを管理します。

始める前に
必要なロール：システムアドミニストレーター

危機マップ機能を有効にするには、Google マップを設定する必要があります。詳細については、「Google Maps API の設定」を参照してください。

このタスクについて
脅威フィードは、組織のセキュリティに対する潜在的な脅威または現在の脅威に関する状況認識を提供します。脅威アラートには、天気アラート、パンデミックアラート、地政学的状況、またはセキュリティインシデントやシステム停止などの内部イベントが含まれます。

手順

1. 移動先 脅威とアラートのデータフィード > アドミニストレーション > スケジュール済みインポート.
   ベースシステム内には、次の 2 つのスケジュール設定済みデータインポートが存在します。

名前	データソース
GDAC フィードソース	GDAC フィード

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

名前	データソース
Weather.gov の重大なアラートのスケジュール済みインポート	Weather.gov アラート

2. 新しいスケジュール設定済みデータインポートを追加するには、[新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

[スケジュール設定済みデータインポート] フォーム

フィールド	説明
名前	スケジュール済みインポートの名前。通常、ソースは名前です。
データソース	インポートに使用される脅威およびアラートデータの内部または外部ソース。
実行方法	脅威アラートをインポートする権限を持つユーザー。
有効	アラートをアクティブとして有効にするためのオプション。
アプリケーション	Read-only フィールド。このフィールドは、危機マップに関連するアイテムを区別するのに役立ちます。
実行	データがインポートされる頻度。
条件付き	脅威アラートのインポートに条件付きスクリプトが必要かどうかを示すオプション。
同時インポート	同時インポートを許可するオプション。
インポート前処理スクリプトの実行	インポート前処理スクリプトの実行を有効にするオプション。
インポート後処理スクリプトの実行	インポート後処理スクリプトの実行を有効にするオプション。

4. [送信] をクリックします。

危機マップのリソースの構成

組織の資産を危機マップにプロットするためのリソースを設定します。資産には、場所、従業員、データセンター、サプライヤーなどがあります。リソースの設定は、アラートルールを設定するための入力としても必要です。

始める前に

必要なロール：システムアドミニストレーター

危機マップ機能を有効にするには、Google マップを設定します。詳細については、「Google Maps API の設定」を参照してください。

手順

1. 移動先 脅威とアラートのデータフィード > アドミニストレーション > リソース構成.
2. 新しいスケジュール設定済みデータインポートを追加するには、[新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

[リソース構成] フォーム

フィールド	説明
名前	マップのビジュアル化で使用されるリソース構成の名前。
アイコン	マップ上のリソースアイテムを表す画像。
テーブル	マップ上にプロットするリソースのテーブル。
場所フィールド	マップ上の場所として使用されるテーブルの [場所] 列。
座標を使用	位置情報管理マップにリソースをプロットできるようにするためのオプション。
アプリケーション	Read-only フィールド。このフィールドは、危機マップに関連するアイテムを区別するのに役立ちます。
有効	リソース構成がアクティブであることを示すオプション。
カテゴリ	値は BCM アプリケーションです。複数のアプリケーションがコンポーネントを使用する場合に、BCM 関連のリソースを識別するのに役立ちます。
検索可能	マップのビジュアル化でリソースが検索可能かどうかを示すオプション。
連絡先ユーザーフィールド	フォーカスされているリソースに関するコミュニケーションの連絡先。
連絡先エイリアス	識別のための連絡先。
表示フィールド	連絡先として表示するために選択されたフィールド。
条件	テーブルからのレコードをフィルタリングするための条件。

4. [送信] をクリックします。

危機マップにアラートを表示するアラートルールの設定

アラートルールを設定して、フィードをアラートとしてダッシュボードにポップアップ表示する条件を指定します。アラートが無効になる条件を指定して、ダッシュボードから消すこともできます。

始める前に

必要なロール：アドミニストレーター

このタスクについて

ビジネスの中断を引き起こす可能性のある差し迫った危険、潜在的な損害、またはリスクを危機管理者に通知するアラートを設定します。資産の場所から境界内で発生する可能性があるイベントまたはフィードを通知するためのフィルター条件を設定します。

アラートルールの構成：アラートルールを評価するための簡単な条件を定義し、アラートを生成するフィードアイテムを決定します。これらのアラートは Crisis Management マップに表示されます。

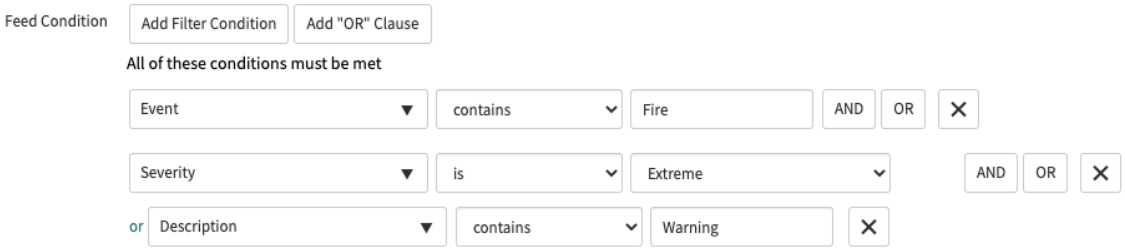
フィード条件フィルター

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

これらのフィルター条件を使用して、フィードアラートのルールを設定します。フィルター条件を設定すると、登録したフィードリソースからの数千のフィードから、事業所にとって重要なアラートをフィルタリングできます。事業所には、企業のオフィス、従業員の場所、データセンター、サプライヤーなどがあります。

フィード条件



詳細条件スクリプトフィルター

詳細ルールオプションを使用して、条件スクリプトでフィルタールールを設定します。たとえば、資産の場所への危機の近接度に基づいて条件を設定できます。ルールをアクティブにすることもできます。

手順

1. 移動先 脅威とアラートのデータフィード > アドミニストレーション > アラートルール.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

[アラートルール] フォーム

フィールド	説明
名前	アラートルールの名前。
アクティブ	ルールをアクティブに設定するオプション。
アプリケーション	Read-only フィールド。このフィールドは、危機マップに関連するアイテムを区別するのに役立ちます。
順序	アラートルールの表示順序。デフォルトでは 100 です。
説明	アラートに関する詳細。
条件を作成	
リソースが影響を受けるかどうか	リソースが影響を受ける場合にアラートルールを有効にするオプション。
詳細	アラートルールの条件スクリプトを使用して詳細フィルタールールを有効にするためのオプション。
影響領域の最適化	マップエリアを最適化するかどうかを示すオプション。最適なパフォーマンスを得るには、このチェックボックスをオンにします。
フィード条件	設定されたルールに基づいてアラートをフィルタリングするための条件。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
詳細条件スクリプト	このフィールドは、[詳細] オプションが選択されている場合に表示されます。条件 (アクティブなアラートなど) に基づいてフィードをフィルタリングするスクリプトを入力します。
条件の却下	
フィードが削除されたとき	フィードが削除された場合に、ダッシュボードからアラートを消す必要があることを示すオプション。
リソースへの影響がなくなったとき	影響を受けるリソースがない場合に、ダッシュボードからアラートを消す必要があることを示すオプション。

4. [送信] をクリックします。

アラートアクションの設定

アラートアクションは、危機マップダッシュボードから実行できるフォローアップアクションです。

始める前に

必要なロール：システムアドミニストレーター

手順

1. 移動先 脅威とアラートのデータフィード > アドミニストレーション > アラートアクション.
   ベースシステム内で使用できるアクションは次の 2 つです。

名前	説明
通知	影響半径内にいるステークホルダーと資産アドミニストレーターにメール通知を送信するために使用されます。
危機を宣言	アラートと重要な資産の組み合わせを危機イベントとして宣言するために使用されます。

2. 新しいアラートアクションを追加するには、[新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

[アラートアクション] フォーム

フィールド	説明
タイトル	アラートアクションのタイトル。
説明	アラートアクションの詳細な説明。
名前	危機マップダッシュボードのアクションの名前。
アクション名	アラートアクションの一意の名前。
1 回実行	ダッシュボードからのアクションの 1 回以上の実行を示すオプション。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
タイプ	実行するアクションのタイプ。タスク、スクリプト、またはフローを指定できます。
タスクタイプ	アクションに使用されるタスクタイプ。
アプリケーション	Read-only フィールド。このフィールドは、アクションの一般的なリストから危機管理に関連するアイテムをフィルタリングするためのフラグとして使用されます。
アクティブ	アラートアクションがアクティブであることを示すオプション。
順序	ダッシュボードでの表示順序。
自動的に実行	条件に基づいてアクションを自動的に実行できるようにするオプション。
ロール	タスクを正常に実行できるユーザーロール。
表示フィールド	アクションが実行された後に応答アクションに表示されるフィールド。
条件	アクションを実行する条件。
タスクスクリプト	ユーザーがダッシュボードのアクションのコントロールをクリックしたときに実行されるタスクスクリプト。

4. [送信] をクリックします。

自動翻訳

危機マップインターフェイスでのアラートの表示と管理

事業継続性管理 は危機マップと統合され、資産の場所から脅威とその位置情報を特定する機能を提供します。

始める前に

これは、脅威をビジネス危機として特定するだけでなく、ステークホルダーに通知し、ビジネスを中断させる可能性がある場合は危機イベントとして宣言するためにも役立ちます。

> **注:**
> 危機マップ機能の Business Crisis Management Map (sn-crisis-map) アプリケーションをアクティブにします。

必要なロール：BCM アドミニストレーターまたは BCM プログラムマネージャー

このタスクについて

危機マップを使用してフィードを管理し、重大度に基づいてアラートを優先順位付けし、イベントを作成します。その後で、危機管理ワークフローを実行して、イベントの影響を受ける場所の事業継続性計画と復旧計画をアクティブ化することができます。

手順

1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. マップアイコン ( ) をクリックします。

   アラートセクションはワークスペースの左側にあり、マップビューは右側にあります。

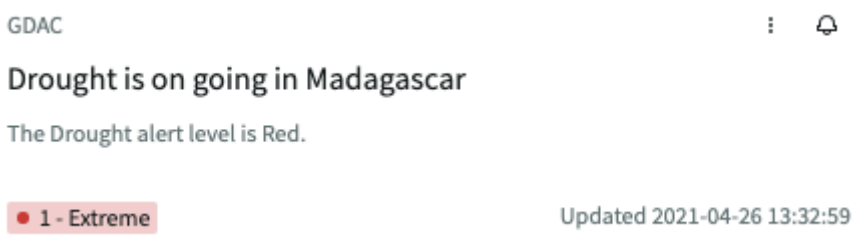
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アラートコントロール機能	説明
アラートを検索	リストからアラートを検索してフィルタリングするためのキーワード。
アクティブまたは却下されたアラートを選択	アクティブなアラートまたは却下されたアラートを選択するためのリスト。アラートが却下されると、非アクティブになります。
ソートする列を選択	重大度、作成日、または更新日に基づいてアラートを選択して表示するリスト。
ソート順の変更 ( )	昇順または降順のアラートのソート順。
アラートの更新 ( )	アラートリストを更新し、更新後にコンポーネントをマッピングするオプション。

脅威アラートは、重大度に基づいて、または設定したソート順で、リストビューに表示されます。アラートのリストでアラートをポイントすると、脅威の影響に関する追加の詳細を表示できます。

リスト内の各アラートレコードには、次の詳細が含まれています。

アラートリストのアラートレコード



タイトル
: アラートの名前。

説明
: アラートの影響に関する簡単なメモ。

重大度
: 脅威の影響度。極度、重大、中、マイナー、または不明のいずれかです。

更新の詳細
: アラートの最終更新日とタイムスタンプ。

3. アラートレコードをクリックして詳細ビューでアラートを開き、マップ上の対応する影響領域を表示します。
4. アラートのリストビューに戻るには、[戻る] ボタンをクリックします。
5. フォームビューでアラートの詳細を開くには、 アラートメニューアイコン ( ) で、[オープンアラート] をクリックします。
このアクションにより、別の [詳細] タブでレコードが開きます。
6. アラートリストに戻るには、[マップ] タブをクリックします。
7. アラートが従業員の場所、データセンター、コア会社、または事業所への脅威を現在示していない場合は、アラートメニューの [アラートを解除] オプションをクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アラート内容がビジネスオペレーションの妨げにならないことがわかっている場合は、リストビューとその詳細ビューでアラートを解除できます。リストビューでアラートを解除すると、リストから削除されます。詳細ビューからアラートを解除すると、そのアラートは削除されてリストビューに戻るので、リスト内の他のアラートを確認できます。どちらの場合も、アラートの解除に関する確認メッセージが表示されます。

8. アラート通知に登録するには、登録アイコン ( ) をクリックします。
アラートまたはそのソースフィードアイテムが更新されるたびに、メールとワークスペース通知を受信します。

マップ上のアラートを動的にカスタマイズするためのコントロールの設定

危機マップ上の一連のコントロールを使用して、資産の場所にとって重要なアラートを表示します。

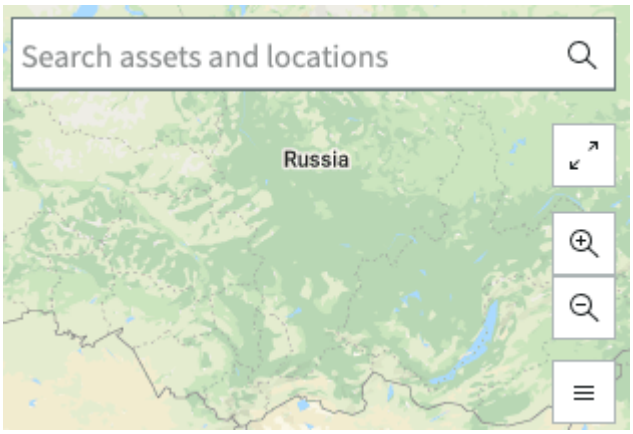
始める前に

必要なロール：BCM アドミニストレーターまたは BCM プログラムマネージャー

このタスクについて

危機マップをカスタマイズして、マップに表示するレイヤーを表示できます。コントロールを使用して、場所、従業員の場所、またはコア会社を表示します。

アラートの表示を制御するパネル



検索バーは、資産と場所を検索するのに役立ちます。一連のズームコントロールを使用すると、ズームインおよびズームアウトして、そのレイヤーに表示されている情報を含む領域に焦点を当てることができます。レイヤーは、マップ上の追加の詳細を取得するのに役立ちます。リセットボタンを使用してコントロールの設定をクリアします。

手順

1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. マップアイコン ( ) をクリックします。

   アラートセクションはワークスペースの左側にあり、マップビューは右側にあります。
3. [資産と場所の検索 **(Search assets and locations)**] フィールドをクリックし、アラートの影響を受ける場所またはデータセンターを入力します。
場所を検索すると、会社の結果のリストとレコードの表示値がそれらのアイコンとともに表示され、Google マップピンアイコンが表示されます。

   従業員の場所またはデータセンターがわからない場合は、レイヤーコントロールを使用します。
4. マップのズームレベルを変更し、特定の領域を表示するには、ズームコントロールボタン、ズームイン ( ) およびズームアウト ( ) を使用します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. 資産の場所、データセンター、コア会社などの資産を選択してマップ上に表示するには、レイヤーアイコン (≡) をクリックします。
6. すべての検索結果のマップをクリアするには、リセットアイコン (⤢) をクリックします。

リソースレイヤーのクラスタリングの表示

資産またはリソースをマップに表示します。

始める前に

必要なロール：BCM アドミニストレーターまたは BCM プログラムマネージャー

このタスクについて

資産、データセンター、コア会社など、マップに表示されるレイヤーは、ユーザーが構成したリソースです。これらの各レイヤーは、それぞれのリソーステーブルからデータをフェッチします。資産、データセンター、およびコア会社のリソースは、それぞれ場所、データセンター、および会社テーブルからデータを取得します。

互いに近くにある資産の場所はクラスター化され、資産の累積数が資産アイコンの横に表示されます。

手順

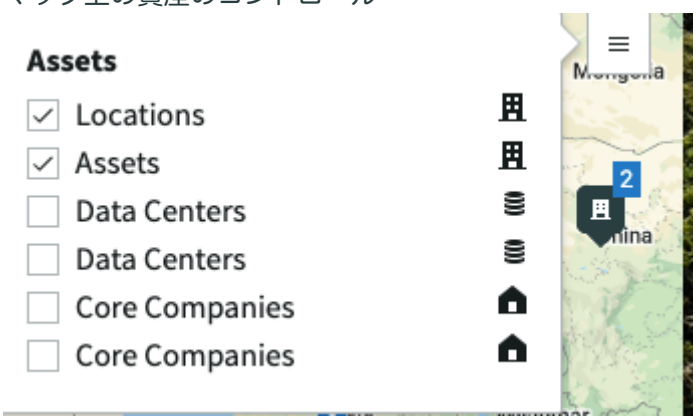
1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. マップアイコン ( ) をクリックします。
3. レイヤーアイコン (≡) をクリックします。

   マップ上のレイヤーは、Google マップ上でピンとして表示され、構成可能です。資産の場所、資産、データセンター、コア会社などのすべてのレイヤーの詳細は、構成されたアイコンによってマップ上に表示されます。

   レイヤーコントロールを使用すると、選択した資産のみを表示することも、すべての資産を表示することもでき、マップ上でオンとオフを切り替えることができます。危機管理者は、アクティブなアラートを表示するときに、他の資産ではなく、その時点で重要になる可能性のある単一の資産に集中することで、情報に基づいた意思決定を行うことができます。

4. 選択したリソースまたは資産をマップに表示するには、その資産のチェックボックスをオンにします。

   マップ上の資産のコントロール

   選択した資産のアイコンがマップに表示されます。レイヤーアイコンは黒い境界線内に表示されますが、アラートアイコンは白い円内に表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

5. マップ上の資産アイコンをクリックすると、その詳細が表示されます。

   たとえば、横に番号またはカウントがないデータセンターアイコン ( ) をクリックすると、リソース構成テーブル [sn_fam_resource_config] で構成した表示情報を含むポップオーバーが表示されます。

   [リソース構成] フォームで、データセンターテーブル [cmdb_co_datacenter] の [電力] および [消費電力] フィールドを表示フィールドとして構成した場合、そのデータセンターの消費電力の詳細がその場所座標とともに表示されます。

6. 横に番号の付いた資産アイコンをクリックします。

   マップがズームインし、そのクラスター内のカウントと一致するすべての資産が表示されます。さらにクラスター内の各資産をクリックすると、任意の資産にドリルダウンして、ポップオーバーにその詳細を表示できます。

   一度に表示できるポップオーバーは 1 つだけです。別のノードをクリックすると、ポップオーバーが消えます。

7. マップ上の検索結果をクリアするには、リセットアイコン ( ) をクリックします。

影響を受ける領域内のリスクのある資産を表示

事業所の近くにあるアラートの脅威が原因で問題になっているリソースのリストを表示します。リソースを保護し、重大な損失を防ぐためのアクションを実行します。

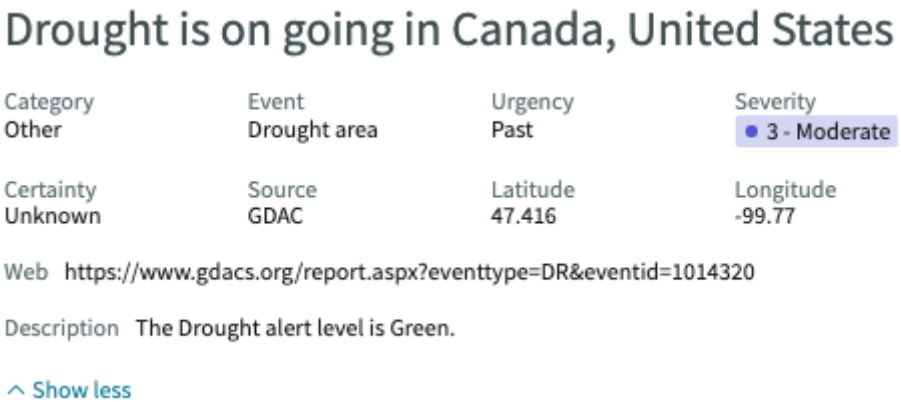
始める前に
必要なロール：BCM アドミニストレーターまたは BCM プログラムマネージャー

手順

1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. マップアイコン ( ) をクリックします。
3. アラートレコードをクリックして、詳細ビューでアラートを開きます。

   フォームヘッダーには、アラートのさまざまな詳細が表示されます。

   リスクのある資産フォームのヘッダー

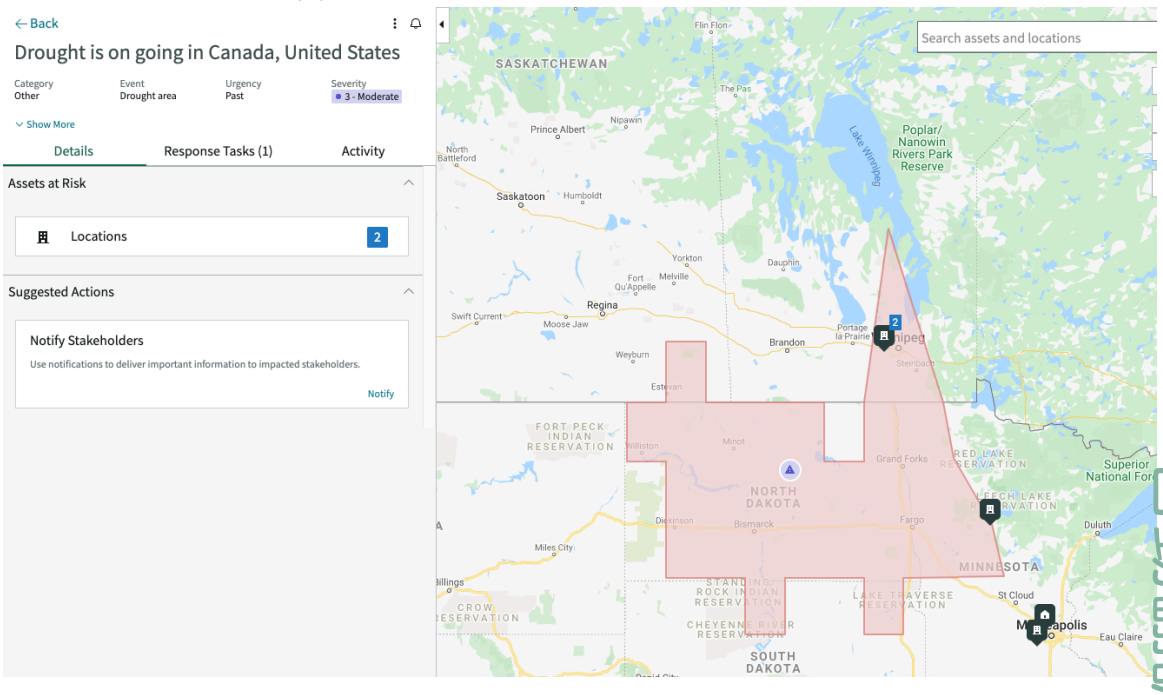
   - アラートのタイトル
   - アラートのカテゴリ
   - アラートがすぐに発生するか、将来発生するかを示すアラートの緊急度

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 損失の重大度
- 発生する可能性についての確実性
- アラートフィードのソース
- 影響を受ける領域の座標
- 受信したフィードアラートの提供元のソースまたは Web サイト
- その説明

マップ内のリスクのある資産



4. [リスクのある資産] セクションを展開すると、リスクのあるすべての資産が表示されます。[リスクのある資産] には、アラートの影響を受ける領域内にある場所、データセンター、およびコア会社が一覧表示されます。影響を受けるこれらの資産の数も表示されます。マップ上の影響を受ける領域を表示し、提案されたアクションを実行できます。

   マップ上のアラートの影響を受ける領域の境界は、薄紫色でマークされます。マップ上のこの影響を受ける領域内のリスクのある資産を表示できます。場所、データセンター、またはコア会社のいずれかがアラートの影響を受ける場合は、影響を受けるゾーンを編集して資産を含めることができます。

5. 影響を受ける領域を編集するには、アラートメニューアイコン (⋮) をクリックします。

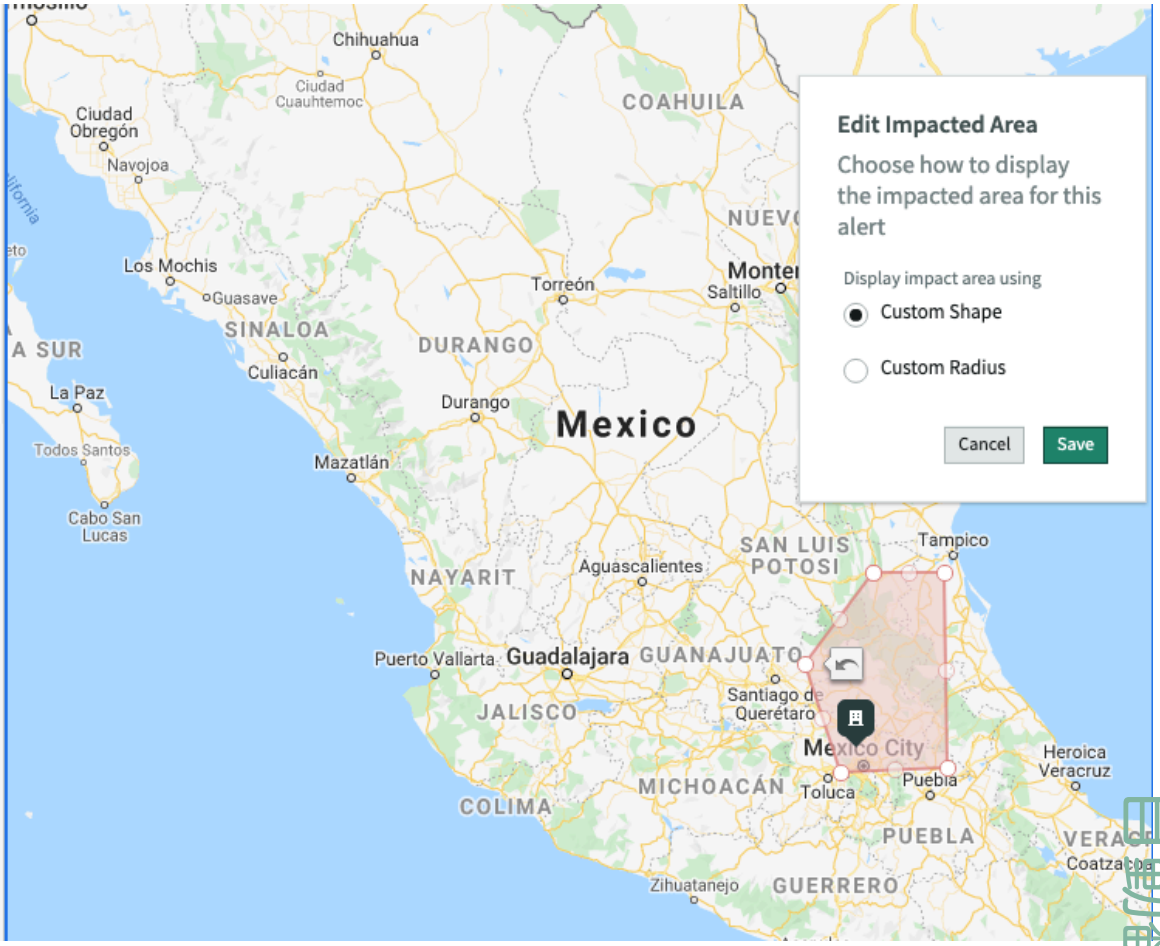
   a. [影響領域を編集] オプションをクリックします。

   b. マップ上に開いた [影響領域の編集] ポップオーバーで、影響を受ける領域の形状に応じて [カスタム形状] または [カスタム半径] を選択します。
      - カスタム形状：影響を受ける領域が多角形の場合は、[カスタム形状] を選択します。
      - カスタム半径：影響を受ける領域が円の場合。

   c. 資産の場所を含めるには、影響を受ける領域の境界上の点をドラッグします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

影響領域を編集



d. [保存] をクリックします。

6. いつでもアラートの詳細ビューを直接開くことができるように、アラートの URL を保存またはブックマークします。
7. [リスクのある資産] セクションで、場所やデータセンターなどの資産カードをクリックします。レコードのリストビューが新しいタブで開きます。
8. 資産の詳細を表示するには、[名前] 列でレコードへのリンクをクリックします。緯度と経度を含む資産の完全な詳細を表示できます。

ステークホルダーに通知し、応答ワークフローを開始する

ステークホルダーに通知し、組織全体の復旧チームの複数のワークフローを開始し、脅威に対応して必要なアクションを実行できるように支援します。

始める前に

必要なロール：BCM アドミニストレーターまたは BCM プログラムマネージャー

手順

1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. マップアイコン ( ) をクリックします。
3. アラートレコードをクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

危機管理者は、アラートとその重大度を表示しながら、適切なアクションを開始し、それぞれのステークホルダーが危機に対応して処理できるように Crisis Management ワークフローをトリガーできます。[提案されたアクション] セクションには、開始できるさまざまな応答が一覧表示されます。

ステークホルダーに通知

アラートが原因でリスクがある資産について重要なステークホルダーに通知します。

危機イベントを宣言

復旧チームで資産を復旧するための復旧タスクを有効にするイベントを開始します。

4. 差し迫った危機をステークホルダーにメールで通知するには、[ステークホルダーに通知] カードの [通知] ボタンをクリックします。
開いたモーダルウィンドウで 1 人以上の関係者を特定し、情報を伝達します。この 2 ステップのプロセスで対象者を特定し、メールを作成して対象者に送信します。

   a. [ステークホルダーに通知] ポップアップのリストから対象者を選択します。
   通知する必要があると思われる追加の対象者をリストから選択できます。

   b. [次へ] をクリックします。

   c. プロセスのステップ 2 で、アラートの詳細を確認し、[メール本文] フィールドで適切にメールのドラフトを作成します。

   d. [通知の送信] をクリックします。
   アクションが実行されたことを示すメッセージが表示されます。

5. 影響を受ける場所の事業継続性計画または災害復旧計画を有効にするには、[危機イベントを宣言] カードで [危機を宣言] をクリックします。

   a. 開いた [危機イベントを宣言] モーダルウィンドウに危機イベントの簡単な説明を入力します。

   b. [次へ] をクリックします。

   c. 脅威アラートの半径内にあるリスクのある資産を選択します。

   d. [危機イベントを開始] ボタンをクリックします。

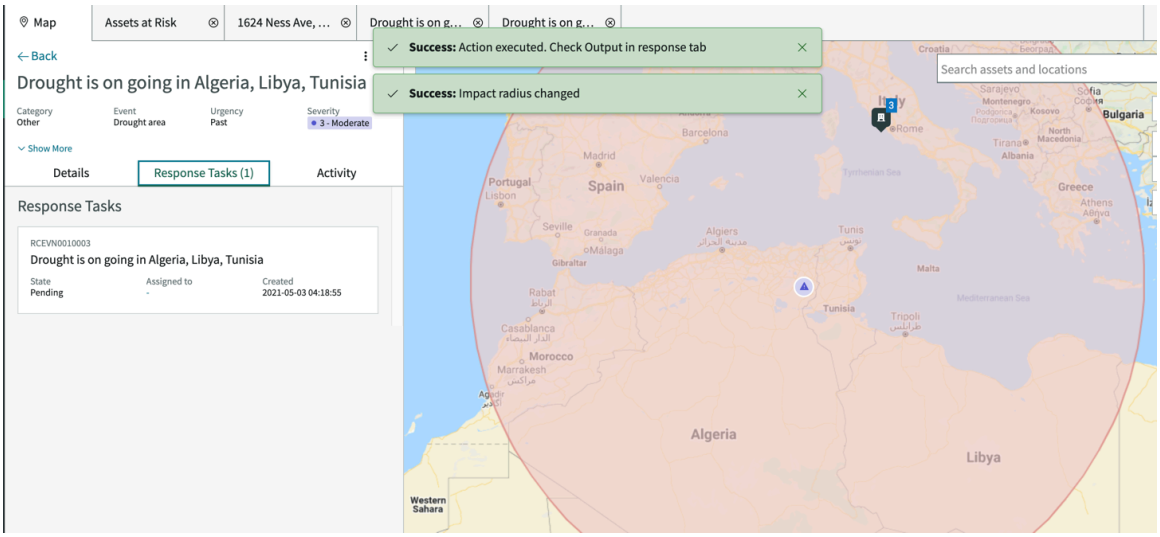
   これらのアクションをトリガーすると、アラート通知アクションと危機イベントの宣言をトリガーするための個別のスクリプトが実行されます。アクションが実行されたことを確認するメッセージが表示されます。[応答タスク] タブに移動して、アクションと復旧イベントの詳細を表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクのあるすべての資産は、イベント [sn_recovery_event] に関連するイベント資産テーブル [sn_recovery_event_asset] にコピーされます。

危機イベントの宣言



次のタスク

1. 復旧イベントの場合は、[応答タスク] カードの任意の場所をクリックしてイベントの詳細に移動します。
2. イベントの [詳細] タブで、必要に応じて詳細を更新します。
3. [イベントを開始] ボタンをクリックします。その後、危機のイベントが有効になります。この復旧イベントの関連するすべての計画とそれに関連するタスクがアクションに設定されます。Crisis Management ワークフローが影響を受けた資産の復旧を開始します。詳細については、「危機イベントの管理」を参照してください。

   リスクのあるすべての資産は、イベント [sn_recovery_event] に関連するイベント資産テーブル [sn_recovery_event_asset] にコピーされます。

自動翻訳

危機管理とエバーブリッジの統合

事業継続性管理 アプリケーション内の Crisis Management を、エバーブリッジ通知システムと統合できます。エバーブリッジシステムを使用すると、差し迫った緊急事態を警告する緊急通知を個人またはグループに送信できます。適切に確立された配信チャネルを通じて、一方向の通知と双方向のコミュニケーションを提供します。

事業継続性管理 アプリケーションの Crisis Management は、エバーブリッジを使用して特定の危機対応アクティビティを指示します。この統合は、重要なイベントに関する通知をステークホルダーに送信し、効果的な双方向配送チャネルでステークホルダーからの応答を調整するのに役立ちます。

通知を送信するには、正しい連絡先、グループ、および配送チャネルが必要です。配送チャネルはエバーブリッジで作成および保存されます。特定の組織 ID 用の配送チャネルをインポートする必要があります。これらの配送チャネルは、通知の送信と連絡先の作成に使用されます。

緊急通知の設定手順

緊急通知機能を設定するには、BCM アドミニストレーターとして特定の前提条件データを設定する必要があります。設定手順は、Everbridge との一貫した接続と、エバーブリッジ側での正常な通知配信ワークフローの確立に役立ちます。

Crisis Management ワークスペースを使用して緊急通知を送信し、通知ワークフローを監視するには、さまざまなユーザー向けに次の構成を設定する必要があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- エバーブリッジで接続を作成して認証情報を認証するには、「 エバーブリッジでの接続の作成と認証情報の認証」を参照してください。
- エバーブリッジから連絡先の配信の詳細を取得し、それらを使用して通知を送信するには、「エバーブリッジからの配送チャネルのインポート」を参照してください。
- エバーブリッジから連絡先のタイプに関する詳細を取得するには、「エバーブリッジからのレコードタイプのインポート」を参照してください。
- 連絡先にメールまたは SMS を送信するように通知テンプレートを事前設定するには、「緊急通知のテンプレートの定義」を参照してください。
- 通知を送信するための連絡先を作成するには、「緊急通知の連絡先の作成」を参照してください。
- ユーザーテーブルから連絡先をフィルタリングするルールを設定するには、「連絡先インポートルールの作成」を参照してください。
- 連絡先のグループを作成するには、「通知連絡先グループの作成」を参照してください。

さまざまなセットアップ手順が統合にどのように接続されるかを示すフロー図は、次のとおりです。

緊急通知セットアップフロー



エバーブリッジでの接続の作成および認証情報の認証

最初のステップとして、エバーブリッジインスタンスとの接続を確立してログイン認証情報を認証し、配送チャネルを使用して通知を送信します。この接続は、通信の送信だけでなく受信にも役立ちます。

始める前に

必要なロール：BCM admin (sn_bcm.admin)

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

手順

1. 移動先 事業継続性 > エバーブリッジの通知の構成 > 接続と認証情報エイリアス.
2. [新しい接続および資格情報の作成] 関連リンクをクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

接続と資格情報フォームを作成

フィールド	説明
接続名	接続の名前。「エバーブリッジ接続」と入力します。
接続 URL	エバーブリッジ API ベースアドレス。
組織 ID	エバーブリッジの組織 ID。 注: 組織 ID はエバーブリッジインスタンスから取得できます。
インシデントテンプレート ID	エバーブリッジインシデントテンプレートの一意の ID 注: ID はエバーブリッジインスタンスから取得できます。
認証情報名	エバーブリッジ認証情報の名前です。
ユーザー名	エバーブリッジの API ユーザーのユーザー名。
パスワード	接続を検証して確立するためのパスワード。

4. [作成] をクリックします。

エバーブリッジからの配送チャネルのインポート

エバーブリッジで接続と資格情報を設定した後に、エバーブリッジから配送チャネルをインポートする必要があります。これらの配送チャネルを使用すると、通知を簡単に送信できます。

始める前に
必要なロール：BCM admin (sn_bcm.admin)

このタスクについて
危機発生時には、ステークホルダーとの連絡を取る方法がなかなか見つけられないことがあります。試行している配信方法が使用できなくなっている可能性があるため、通知が到達しないかもしれません。連絡先や選択したグループに連絡するための配送チャネルをインポートすることで、通知サービスの確実性が向上し、管理しやすくなります。

手順

1. 移動先 事業継続性 > エバーブリッジの通知の構成 > 配送チャネル.
2. [インポート] をクリックします。
   すべての配送チャネルがエバーブリッジから正常にインポートされます。成功した場合は確認メッセージが表示されますが、それ以外の場合はエラーメッセージが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エバーブリッジからのレコードタイプのインポート

組織 ID のレコードタイプをエバーブリッジからインポートし、それを使用して連絡先を作成します。

始める前に
必要なロール：BCM admin (sn_bcm.admin)

このタスクについて
レコードタイプは、エバーブリッジに保存される情報であり、連絡先を作成するために必要です。

手順

1. 移動先 事業継続性 > エバーブリッジ通知の設定 > レコードタイプ.
2. [インポート] をクリックします。
   カテゴリを持つ組織 ID のレコードタイプがエバーブリッジからインポートされます。インポートに成功した場合は確認メッセージが表示されますが、それ以外の場合はエラーメッセージが表示されます。

緊急通知のテンプレートの定義

緊急時にユーザーに迅速に通知を送信するために使用できるテンプレートを事前定義された情報を使用して作成します。

始める前に
必要なロール：BCM admin (sn_bcm.admin)

このタスクについて
たとえば、特に事業所や施設が攻撃されるといった特定の緊急事態に関して、メール情報の原案となるテンプレートを定義できます。

手順

1. 移動先 事業継続性 > エバーブリッジの通知の構成 > 通知テンプレート.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

[通知テンプレート] フォーム

フィールド	説明
名前	通知テンプレートの名前。
説明	テンプレートの目的に関する簡単なメモ。
配送チャネル	通知の送信に使用する通信チャネル。
件名	通知のタイトル。
メッセージ本文	通知の導入テキストメッセージ。
脚注	通知のクロージングメッセージ。
SMS テキスト	SMS を介して送信されるメッセージ。

4. [送信] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

緊急通知の連絡先の作成

ServiceNow ユーザーリストを使用して連絡先を手動で作成し、連絡先をエバーブリッジと同期して緊急通知を送信します。

始める前に

必要なロール：BCM admin (sn_bcm.admin)

このタスクについて

ユーザーリストから連絡先を作成した後、連絡先を更新してエバーブリッジと同期できます。

配送チャネルは、エバーブリッジから配送チャネルテーブルにインポートされます。インポートされた配送チャネルを使用して、連絡先の配信の詳細を手動で作成するか、システムアドミニストレーターが簡単にインポートすることができます。

手順

1. 移動先 事業継続性 > エバーブリッジの連絡先の構成 > 連絡先.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

[連絡先] フォーム

フィールド	説明
ソース	○ ユーザーリストから手動で連絡先を作成した場合は [手動] です。 ○ 同期ルールを使用して連絡先を作成した場合は [同期ルール] です。
前回の同期日	連絡先が最後にエバーブリッジと同期された日付が自動入力されます。
連絡先 ID	連絡先の一意の ID。
同期ステータス	連絡先の作成時のデフォルトは [新規] です。次のようなステータスもあります。 ○ 成功：連絡先がエバーブリッジと正常に同期された場合。 ○ エラー：同期中にエラーが発生した場合。 ○ 更新済み：連絡先または配信の詳細が変更された場合。
ユーザー	ユーザーテーブル [sys_user] からのユーザー参照。
外部連絡先 ID	エバーブリッジ内の連絡先 ID
同期エラー	連絡先とエバーブリッジの同期中にエラーが発生しました。

手動で作成した連絡先をユーザーテーブルから削除できます。ただし、連絡先は [新規] 状況である必要があります。参照されているユーザーレコードが削除されると、毎週実行されるスケジュール済みジョブによって連絡先テーブルから連絡先が削除されます。

4. [送信] をクリックします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

5. 作成した連絡先の配送の詳細を作成するには、[配送の詳細] 関連リストで [新規] をクリックします。

   a. インポートしたリストから配送チャネルを選択します。

   b. 値を入力します。
   配送チャネルがメールの場合は、メール ID を入力します。

   c. 通知を送信するために配送チャネルを優先順位付けする順序設定を入力します。

   d. [送信] をクリックします。

6. 同期ルールを使用して連絡先をインポートするには、最初に連絡先インポートルールを作成する必要があります。
7. 連絡先同期ルールに基づいて連絡先をインポートするには、[ユーザーをインポート] ボタンをクリックします。
   フォームページを更新して、インポートされたユーザーのリストを取得します。

   [ユーザーをインポート] アクションは、連絡先同期ルールに基づいてユーザーテーブル [sys_user] を読み取り、連絡先テーブルにレコードを作成します。

8. 連絡先のリストをエバーブリッジのリストと同期するには、[エバーブリッジと同期] ボタンをクリックします。
   連絡先がエバーブリッジと同期されると、同期アクションのステータスが [同期ステータス] フィールドに記録されます。エバーブリッジで正常に同期された連絡先の一意の ID は、連絡先テーブルに外部連絡先 **ID** として記録されます。

連絡先インポートルールの作成

ユーザーテーブルに適用する連絡先インポートルールを作成し、緊急通知用の連絡先としてユーザーを除外します。

始める前に
必要なロール：BCM admin (sn_bcm.admin)

このタスクについて
連絡先インポートルールは、デフォルトのテーブルであるユーザーテーブル [sys_user] に適用されます。ユーザーテーブルの sys_id である一意のユーザー参照と、エバーブリッジと同期される連絡先テーブルの一意の連絡先 ID がマッピングされます。

手順

1. 移動先 事業継続性 > エバーブリッジの連絡先の構成 > 連絡先インポートルール.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

[連絡先インポートルール] フォーム

フィールド	説明
名前	インポートルールの名前。
テーブル	デフォルトでユーザーテーブル [sys_user] に設定されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

フィールド	説明
フィルター条件	レコードをフィルタリングするためにユーザーテーブルに適用される条件。
レコードタイプ	レコードタイプのデフォルトカテゴリ。
ユーザーマッピング	ユーザーテーブルからの一意のユーザー参照。
連絡先 ID マッピング	エバーブリッジとの同期に使用される各連絡先の一意の ID。

4. [送信] をクリックします。

通知連絡先グループの作成

ServiceNow AI Platform のグループを使用して通知連絡先グループを作成します。グループメンバーを緊急通知の連絡先として使用します。グループメンバーを連絡先としてエバーブリッジと同期し、同期されていないメンバーを例外として追跡します。

始める前に

必要なロール：BCM admin (sn_bcm.admin)

手順

1. 移動先 事業継続性 > エバーブリッジの連絡先の構成 > 通知連絡先グループ.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

[通知連絡先グループ] フォーム

フィールド	説明
グループ	ユーザーグループテーブルへの参照。
同期ステータス	グループの作成時のデフォルトは [新規] です。 ○ 成功：連絡先グループがエバーブリッジと正常に同期されました。 ○ エラー：同期中にエラーが発生した場合。 ○ 更新：連絡先グループが変更された場合。
前回の同期日	グループが最後にエバーブリッジと同期された日付が自動入力されます。

4. [送信] をクリックします。
5. グループをエバーブリッジのグループと同期するには、[グループをエバーブリッジに同期] をクリックします。
   ページを更新して、グループの同期ステータスを取得します。

   グループがエバーブリッジと同期されなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。
6. エバーブリッジと同期されなかったグループメンバーの名前を表示するには、[グループユーザー例外] 関連リストをクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example:
1 つのグループに 5 人のメンバーがいて、そのうちの 4 人が既にエバーブリッジと既に同期され、連絡先として存在しています。グループを同期すると、4 人の同期されたグループメンバーを含むグループがエバーブリッジに作成されます。ただし、同期されていない 1 人のメンバーは、例外としてログ記録され、同期に失敗した理由に関するメッセージが表示されます。

最初にこの特定の連絡先を同期してから、グループをエバーブリッジと同期させることができます。

緊急通知の作成とそのワークフローの監視

イベントワークスペースの [緊急通知] タブを使用して、演習方法が [機能] の危機イベントまたは演習イベントの通知を作成します。

始める前に
必要なロール：sn_bcm.planner、sn_bcm.program_manager、または sn_bcm.admin

このタスクについて
エバーブリッジで [ドラフト] から [完了] ステータスへのアクティビティの完全なワークフローをトリガーするイベント通知をワークスペースから送信します。ここでは、すべてのアクティビティをワークスペースから監視できます。

ワークスペースから緊急通知を送信すると、アクションによってインシデントが作成され、エバーブリッジでのインシデントの通知が適切な連絡先とグループに送信されます。

手順

1. 移動先 事業継続性 > 事業継続性ワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) をクリックします。
3. [危機イベント] リストで [処理待ち] ステータスをクリックします。

   注:
   [訓練方法] が [機能] の場合は、演習イベントの緊急通知を作成できます。

4. [番号] 列のイベントレコードへのリンクをクリックします。
5. [緊急通知] 関連リストをクリックします。
6. [新規] をクリックします。
   新しい通知フォームが別のタブで開きます。
7. フォームのフィールドに入力します。

新しい通知の作成フォーム

フィールド	説明
簡単な説明	緊急通知のタイトル
テンプレート	メールの件名と連絡先の配送チャネルを含む事前設定されたテンプレート。
通知ステータス	ServiceNow ワークスペース内の通知のステータス。
通信ステータス	エバーブリッジの通知のステータス。
説明	通知の説明
連絡先とグループ	
連絡先	通知の送信先の個人。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	エバーブリッジと正常に同期された連絡先が一覧表示されます。
通知連絡先グループ	通知の送信先になる連絡先のグループ。 正常に同期された連絡先グループが一覧表示されます。
設定	
確認応答必須	連絡先からの受信した通知の確認応答が必要な場合のオプション。
配送チャネル	通知の送信に使用する通信チャネル。
メッセージの詳細	
件名	通知のタイトル。
メッセージ本文	通知の導入テキストメッセージ。 テンプレートが選択されている場合、メッセージの詳細がテンプレートから自動的に入力されます。
脚注	通知のクロージングメッセージ。
SMS テキスト	SMS を介して送信されるメッセージ。

作成する通知はドラフトステージです。

8. 通知を保存して後で送信するには、[保存] をクリックします。
9. ドラフトステージの通知を削除するには、[削除] をクリックします。
10. [送信] をクリックします。

    送信アクションは、エバーブリッジで通知を作成します。

    ワークスペースで危機イベントの通知を作成して送信すると、エバーブリッジで対応するインシデントが通知とともに作成されます。

11. 通知の送信でエラーが発生したかどうかを確認するには、ページを更新します。
    送信中にエラーが発生した場合、[通知ステータス] は [エラー] に移行します。
12. [通信ステータス] フィールドで、連絡先に送信された通知のステータスをエバーブリッジから取得するには、[応答ステータスを取得] ボタンをクリックします。
    [サマリー] セクションには、通知が送信された連絡先とグループのリストとそれらの応答が表示されます。また、通知が届かなかった連絡先の数、通知に確認応答した連絡先の数、および処理待ちの確認応答の数も表示されます。この情報はエバーブリッジから取得され、ワークスペースに表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

連絡先に送信された通知の概要



送信先
: 通知の送信先となった連絡先の数。

到達不可能
: 通知が送信されなかった連絡先の数。

確認済み
: 通知の受信を確認した連絡先の数。

確認応答処理待ち
: 通知の受信を確認しなかった連絡先の数。

確認応答の遅れ
: 通知期間が経過した後に通知の受信を確認した連絡先の数。

通知を配信できなかった連絡先が多数存在する場合は、同じ危機イベントの別の通知を作成します。前回の通知は多くの連絡先に届かなかったため、今回はマネージャーのチームに送信できます。

承認のためにイベントを送信する前に、処理中のすべての通知をクローズする必要があります。

a. [ドラフト] または [エラー] ステータスの通知を削除するには、[番号] 列の緊急通知レコードへのリンクをクリックします。

> **注:**
> [送信を試行中]、[保留中]、または [完了] ステータスの通知を削除することはできません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

b. その他のアクションアイコン ( ) で [削除] をクリックします。

> **注:**
> これでイベントがクローズされ、エバーブリッジの対応するインシデントもクローズされたため、このイベントの通知をこれ以上作成することはできません。

緊急通知のワークフローステータス

次の表は、エバーブリッジ側で緊急通知が進行するまざまな状況を示しています。エバーブリッジ側から連絡先に正常に配信されるまで、ワークスペースで通知の配信を追跡し、そのステータスを監視できます。

緊急通知の状況フロー

機器イベントについて作成した緊急通知が、エバーブリッジに送信されると、対応するインシデントが通知とともに作成されます。ワークスペース内のイベントの簡単な説明は、エバーブリッジで通知を含むインシデントとして作成されます。

通知ステータス

ServiceNow 事業継続性管理 ワークスペースから作成されて送信された緊急通知は、[通知ステータス] フィールドで追跡されます。

通信ステータス

エバーブリッジで受信された緊急通知と、それが配信されるまでに移動するさまざまなステージは、[通信ステータス] フィールドで追跡されます。

緊急通知ワークフローステータス

通知ステータス	通信ステータス
ドラフト：ドラフトはワークスペースに保存されます。	
送信を試行中：ワークスペースから通知が送信されています。	
エラー：エバーブリッジで通知を作成中にエラーが発生しました。	
処理中：通知がエバーブリッジで正常に作成されました。	アクティブ：通知が作成され、アクティブになっています。 インシデントとインシデントの通知が作成されます。通知は、エバーブリッジで設定された期間、アクティブなままになります。
	送信済み：設定された時間が経過すると、ステータスは [送信済み] に移行します。
完了：通知が送信されます。	
	停止：通知の送信が停止されています。

を使用した通知の送信 **Everbridge**

BCM 構成可能ワークスペース で Everbridge を使用して緊急通知を送信し、危機イベントについてステークホルダーに知らせることができます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

通常は、BCM プログラムマネージャーがステークホルダーに緊急通知を送信します。緊急通知の作成の詳細については、「緊急通知の作成」を参照してください。

Everbridge に関する追加情報

- Everbridge での緊急通知の詳細については、「Everbridge での緊急通知」を参照してください。
- Everbridge のセットアップタスクの詳細については、「Everbridge 通知のセットアップ」を参照してください。

緊急通知のワークフローステータス

Everbridge で危機イベントの緊急通知を送信するとき、対応するインシデントが通知とともに作成されます。Everbridge から連絡先に正常に配信されるまで、事業継続性ワークスペース で通知の配信を追跡し、そのステータスを監視できます。

緊急通知の状況フロー

緊急通知の状況フローには、Everbridge の緊急通知のさまざまな状況が一覧表示されます。事業継続性ワークスペース 内のイベントの簡単な説明は、Everbridge で通知を含むインシデントとして作成されます。

通知ステータス

ServiceNow 事業継続性管理 ワークスペース から作成されて送信された緊急通知は、[通知ステータス] フィールドで追跡されます。

通信ステータス

Everbridge で受信された緊急通知と、それが配信されるまでに移動するさまざまなステージは、[通信ステータス] フィールドで追跡されます。

緊急通知ワークフローステータス

通知ステータス	通信ステータス
ドラフト：通知のドラフトは 事業継続性ワークスペース に保存されます。	なし
送信を試行中：事業継続性ワークスペース から通知が送信されています。	なし
エラー：Everbridge で通知を作成中にエラーが発生しています。	なし
処理中：通知が Everbridge で正常に作成されました。	アクティブ：通知が作成され、アクティブになっています。 インシデントとインシデントの通知が作成されます。通知は、Everbridge で設定された期間、アクティブなままになります。
停止	停止：通知の送信が停止されています。
送信済み	送信済み：設定された時間が経過すると、ステータスは [送信済み] に移行します。
完了：通知が送信されます。	完了：ステータスは [完了] に移行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

緊急通知の作成

BCM UIB ワークスペース で緊急通知を作成します。そうすることで、Everbridgeを使用してステークホルダーに通知できます。

始める前に

必要なロール：sn_bcm.planner、sn_bcm.program_manager、または sn_bcm.admin

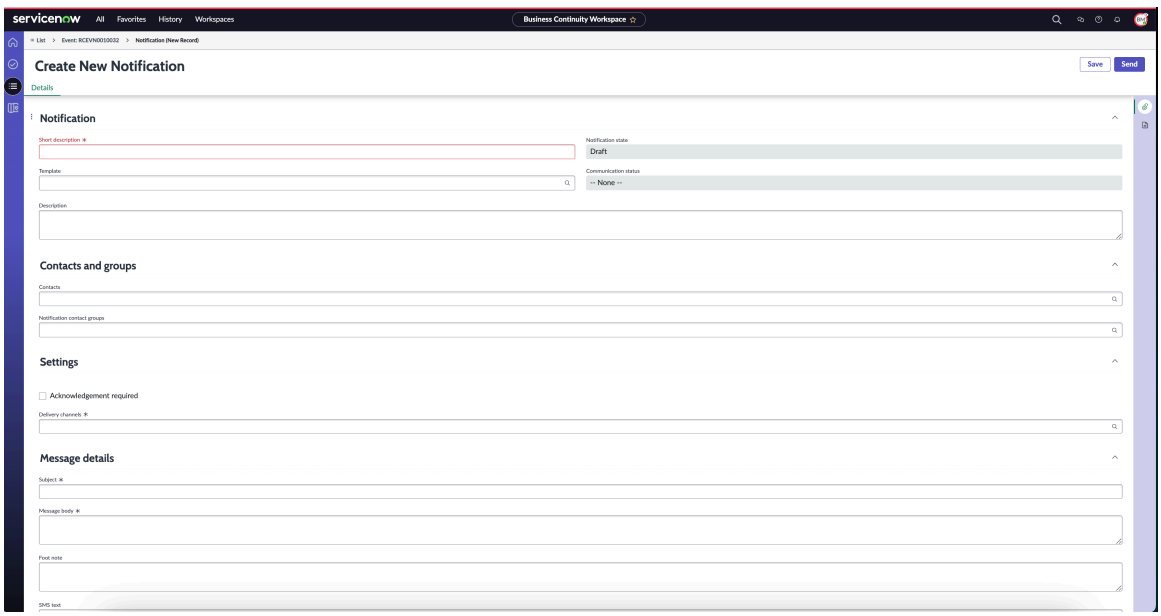
手順

1. 移動先 ワークスペース > 事業継続性ワークスペース.
2. リストビューで、次の場所に移動します: 危機イベント [処理待ち] ステータスです。

   注:
   [訓練方法] が [機能] の場合は、演習イベントの緊急通知を作成できます。

3. [番号] 列のイベントレコードへのリンクを選択します。
4. [緊急通知] タブを選択します。
5. [新規] を選択します。

   次の例のような新規通知フォームが表示されます。

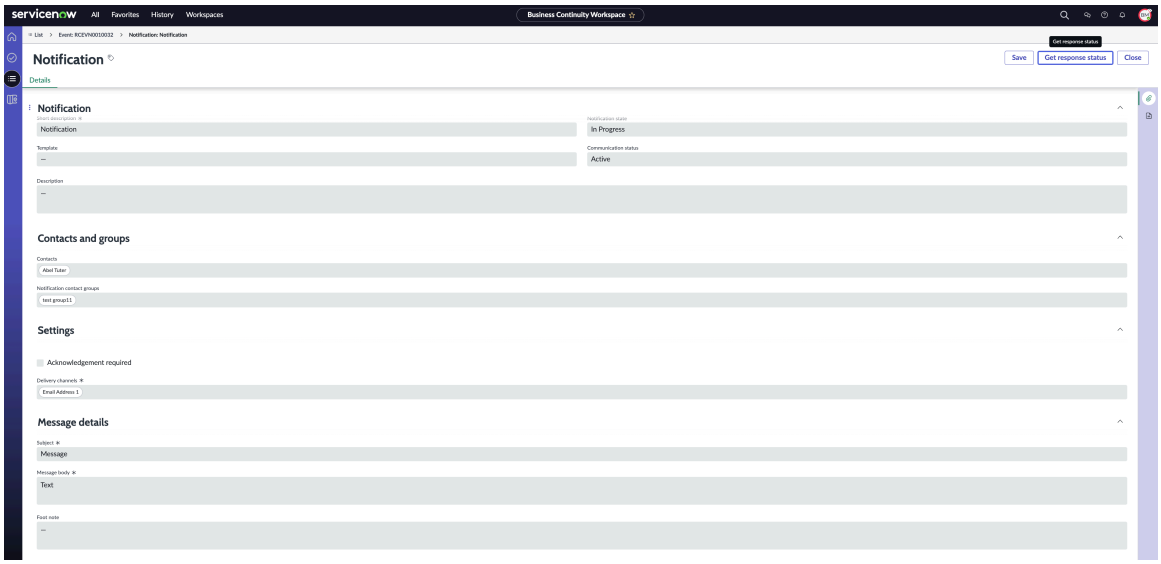


6. フォームのフィールドに入力します。
   フォーム内のフィールドの詳細については、「新しい通知の作成フォーム」を参照してください。
7. 通知を保存して後で送信するには、[保存] を選択します。
8. [送信] を選択します。

   Everbridgeで次の例のような通知が作成されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



事業継続性ワークスペース で危機イベントの通知を作成して送信すると、Everbridgeで対応するインシデントが通知とともに作成されます。

9. 通知の送信でエラーが発生したかどうかを確認するには、ページを更新します。
   エラーが原因で通知が送信されない場合、通知ステータスは [エラー]に移行します。
10. [通信ステータス] フィールドで、連絡先に送信された通知のステータスをEverbridgeから取得するには、[応答ステータスを取得] を選択します。

    承認のためにイベントを送信する前に、[処理中] のすべての通知をクローズする必要があります。

    a. [ドラフト] または [エラー] ステータスの通知を削除するには、[番号] 列の緊急通知レコードへのリンクを選択します。

    > **注:**
    > [送信を試行中]、[保留中]、または [完了] ステータスの通知を削除することはできません。

    b. その他のアクションアイコンで [削除] を選択します。

    > **注:**
    > これでイベントがクローズされ、Everbridgeの対応するインシデントもクローズされたため、このイベントの通知をこれ以上作成することはできません。

11. [保存] を選択します。
    緊急通知を保存できます。

新しい通知の作成フォーム

BCM UIB ワークスペース の [新しい通知の作成] フォームを使用して、緊急通知に関する詳細を追加します。

新しい通知の作成フォーム

フィールド	説明
簡単な説明	緊急通知のタイトル

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい通知の作成フォーム (続く)

フィールド	説明
テンプレート	メールの件名と連絡先の配送チャネルを含む事前設定されたテンプレート。
通知ステータス	ServiceNow ワークスペース内の通知のステータス。
通信ステータス	Everbridge内の通知のステータス。
説明	通知の説明
連絡先とグループ	
連絡先	通知の送信先の個人。 Everbridgeと正常に同期された連絡先が一覧表示されます。
通知連絡先グループ	通知の送信先になる連絡先のグループ。 正常に同期された連絡先グループが一覧表示されます。
設定	
確認応答必須	連絡先からの受信した通知の確認応答が必要な場合のオプション。
配送チャネル	通知の送信に使用する通信チャネル。
メッセージの詳細	
件名	通知のタイトル。
メッセージ本文	通知の導入テキストメッセージ。 テンプレートが選択されている場合、メッセージの詳細がテンプレートから自動的に入力されます。
脚注	通知のクロージングメッセージ。
SMS テキスト	ショートメッセージサービス (SMS) を介して送信されるテキストメッセージ。

BCMの参照

参照トピックには、事業継続性管理 アプリケーションとともにインストールされるテーブル、ロール、およびプロパティなどの追加の情報が記載されています。

事業継続性管理とともにインストールされるコンポーネント

事業継続性管理 アプリケーションのアクティブ化によって、数種類のコンポーネントがインストールされます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インストールされるロール

ロール タイトル [名前]	説明	含んでいるロール	利用可能なコープ
BCM アドミン [sn_bcm.admin]	コアデータを含むすべてのテーブルに対する作成、読み取り、書き込み、および削除アクセス権。	• sn_bcp.plan_admin • sn_grc_workspace.admin • sn_crisis_ebn.admin • sn_grc_workspace.task_admin • sn_data_registry.admin • sn_grc_doc_design.admin • sn_bcm.core_manager • sn_irm_shared_cmn.word_template_creator • dependency_views • sn_smart_asmt.template_manager:スマートアセスメントテンプレートを作成するためのアクセス権を付与します。 • sn_bia.bia_admin • sn_bcm.program_manager • sn_grc_appr.admin **注:** BCM アドミニストレーターには、承認コンフィギュレーター アドミンロールは含まれていますが、承認コンフィギュレーター 開発者ロールは含まれていません。 セキュリティ上の理由から、承認コンフィギュレーター アドミニストレーターが持っているのは、承認ルールフォームの [スクリプト] フィールドへの読み取りアクセス権です。GRC：承認コンフィギュレーター アプリケーションでの 承認コンフィギュレーター 開発者ロールを持っている場合は、承認ルールフォームの [スクリプト] フィールドへの作成および書き込みアクセス権があります。 GRC：承認コンフィギュレーター アプリケーションのロールの詳細については、「GRC：承認コンフィギュレーターとともにインストールされるロール」を参照してください。	事業継続管理 – コア
BCM プログラムマネージャー [sn_bcm.program_manager]	すべての BCM アプリケーションテーブルに対	• sn_bia.bia_manager • sn_bcp.plan_manager	事業継続管理 – コア

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロール タイトル [名前]	説明	含んでいるロール	利用可能なコープ
	する作成、読み取り、書き込み、および削除アクセス権。	• sn_recovery.event_manager • sn_bcm.core_viewer • workspace_user • service_viewer • sn_bcp.plan_contributor • sn_smart_asmt.actor:スマートアセスメントインスタンスへの更新アクセス権を付与するスマートアセスメントアクターロールが含まれています。 • sn_smart_asmt.reassign:スマートアセスメント再アサインロールが含まれます。	
BCM 計画者 [sn_bcm.planner]	計画者が作成または所有するすべてのBCP、BIA、演習、および危機イベントに対する作成、読み取り、書き込み、および削除アクセス権。	• sn_smart_asmt.actor:スマートアセスメントインスタンスへの更新アクセス権を付与するスマートアセスメントアクターロールが含まれています。 • canvas_user • sn_bia.bia_planner • sn_crisis_ebn.user • service_viewer	事業継続理 – コア

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロール タイトル [名前]	説明	含んでいるロール	利用可能なコープ
	注: BCM 計画者ロールを持っていても演習のオーナーでないという場合、演習から資産を削除したり、演習から計画を削除したりすることはできませんが、資産または計画を追加することはできます。さらに、計画のオーナーでない場合は、訓練や危機イベントには承認済みの計画しか追加できません。	• sn_recovery.event_user • sn_bia.bia_viewer • sn_smart_asmt.reassign:スマートアセスメント再アサインロールが含まれます。 • workspace_user • sn_bcp.plan_contributor	
BCM 貢献者 [sn_bcm.contributor]	• すべての BIA、演習、および危機イベントテーブルへの読み取りアクセス権。 • 貢献者が貢献者リストに含まれている場合の BCP テーブルへの読み取りアクセス権。	• sn_bia.bia_contributor • service_viewer • sn_smart_asmt.reassign:スマートアセスメント再アサインロールが含まれます。 • sn_bcm.core_viewer • sn_smart_asmt.actor:スマートアセスメントインスタンスへの更新アクセス権を付与するためのスマートアセスメントアクターロールが含まれています。	事業継続理 – コア

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロール タイトル [名前]	説明	含んでいるロール	利用可能コープ
	• グループが処理待ちステータスの場合は、既存の依存関係を作成および削除します。 • RTO、RPO、および依存関係カテゴリステータスフィールド、RTO および RPO 編集可能フィールドの中断期間、および依存関係アセスメントの編集可能フィールドへの書き込みアクセス権。 • RTO、RPO、依存関係アセスメントのステータスを更新。 • 貢献者フィールドは、フォームの通常のフィールドではないことに注意してください。アスタリスク (*) を使用して貢献者を検索することはできません。		
BCM ビューアー [sn_bcm.viewer]	BCM アプリケーションのすべてのデータを表示します。	• sn_fam.user • canvas_user • service_viewer • sn_crisis_ebn.viewer • workspace_user • sn_bcp.plan_viewer • sn_bia.bia_viewer	事業継続理 – コア

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロール タイトル [名前]	説明	含んでいるロール	利用可能なコープ
		• sn_bcm.core_viewer • sn_recovery.event_viewer	
BCM core_viewer [sn_bcm.core_viewer]	スマートアセスメントテンプレートを読み取ることができる BCM コアビューアーロール。	• sn_grc_workspace.task_reader • sn_smart_asmt.assessment_reader:スマートアセスメントインスタンスへの読み取りアクセス権を付与するためのスマートアセスメントリーダーロールが含まれています。 • sn_smart_asmt.template_reader:スマートアセスメントテンプレートのリーダーロールが含まれます。 • sn_data_registry.reader • sn_grc_workspace.user • sn_grc_rel_config.reader	
BCM 復旧チームメンバー [sn_bcm.recovery_team_member]	BCM プログラムマネージャーによってアサインされた危機イベントと演習の復旧タスクのリストを表示します。	• sn_recovery.event_member • sn_recovery.event_viewer • sn_bcp.plan_viewer • sn_bcm.core_viewer	事業継続理 – コア
BCP 計画マネージャー [sn_bcp.plan_manager]	すべての計画に対する作成、読み取り、書き込み、および削除アクセス権。	• sn_doc.writer • fd_read_flow	
BIA マネージャー [sn_bcp.plan_manager]	すべての BIA に対する作成、読み取り、書き込み、および削除アクセス権。	sn_doc.writer	
ドキュメントライター [sn_doc.writer]	ドキュメントテンプレートに対する読み取りおよび書き込み権限。	• sn_doc.reader • doc_page_number_config_writer • doc_toc_config_writer • localization_editor	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロール タイトル [名前]	説明	含んでいるロール	利用可能なコープ
承認構成アドミン [sn_grc_appr.admin]	すべての承認者構成セットアップテーブルに対する作成、読み取り、書き込み、および削除アクセス権。	注: BCM アプリケーションで承認設定レコードを承認するには、BCM ロールが必要です。BCM ロールを持たないユーザーを承認設定レコードの承認プロセスに追加すると、アクセス不可能ステータスが原因でレコードにアクセスできなくなる可能性があります。	事業継続性管理 – Approve Configu
承認者 [sn_grc_appr.approver]	すべての承認者テーブルに対する作成、読み取り、書き込み、および削除アクセス権。		事業継続性管理 – Approve Configu

危機管理のロール

名前	タイプ	含まれるロール	説明
sn_recovery.event_manager	演算子	• sn_doc.writer • fd_read_flow	すべての復旧イベントに対する読み取り、書き込み、作成、および削除のアクセスを許可します。
sn_recovery.event_member	Lite オペレーター	fd_read_flow	復旧イベントに対する読み取り、書き込み、および作成アクセスを許可します。
sn_recovery.event_user	演算子	fd_read_flow	復旧イベントに対する読み取り、書き込み、および作成アクセスを許可します。
sn_recovery.event_viewer	Lite オペレーター	fd_read_flow	すべての復旧イベントに対する読み取りアクセスを許可します。

自動翻訳

BCM Lite オペレーターのロール

BCM lite オペレーターロールの詳細については、「BCM Lite オペレーター」を参照してください。

インストールされるテーブル

テーブル	説明	インストール対象のスコープ
BCM 選択 [sn_bcm_choice]	BCM アドミニストレーターが BCM アプリケーション	事業継続性管理 – コア

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブル	説明	インストール対象のスコープ
	の選択オプションを設定するために使用します。	
ドキュメントセクション [sn_bcm_document]	計画のドキュメントのセクションを保存します。	事業継続性管理 – コア
要素定義 [sn_bcm_element_definition]	アクティビティ定義のすべてのデータを保存します。	事業継続性管理 – コア
要素変数 [sn_bcm_element_variable]	要素定義用に構成されたカスタム列を保存します。	事業継続性管理 – コア
グリッド構成 [sn_bcm_grid_configuration]	特定のグリッドの構成を保存します。たとえば、依存関係アセスメントグリッドです。グリッド構成には複数のグリッド列構成を含めることができます。	事業継続性管理 – コア
グリッド列構成 [sn_bcm_grid_column_configuration]	グリッド構成で表示する必要がある列のデータを保存します。	事業継続性管理 – コア
影響分析の質問 [sn_bcm_impact_analysis_question]	影響カテゴリの影響分析の質問を保存します。	事業継続性管理 – コア
影響度カテゴリ [sn_bcm_impact_category]	BIA の適用可能な期間と最大 RTO 値を保存します。	事業継続性管理 – コア
影響度評価 [sn_bcm_impact_rating]	影響カテゴリの影響度評価を保存します。	事業継続性管理 – コア
損失シナリオ [sn_bcm_loss_scenario]	損失シナリオで影響を受ける要素を保存します。	事業継続性管理 – コア
復旧階層 [sn_bcm_recovery_tier]	復旧階層レベルに適用される復旧期間を保存します。	事業継続性管理：コア
復旧の解決までの期限 [sn_bcm_timeframe]	復旧期間が開始される期間を保存します。	事業継続性管理 – コア
復旧タスク [sn_bcp_recovery_task]	すべての事業継続性および復旧計画のアクティビティタスクを保存します。	事業継続性管理：計画
関連プラン [sn_bcp_plan_plan]	プライマリ計画の関連計画を BCP に保存します。	事業継続性管理 – 計画
計画ドキュメント [sn_bcp_document]	計画テンプレートの一部であるドキュメントセクショ	事業継続性管理 – 計画

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブル	説明	インストール対象のスコープ
	ンのコンテンツを保存します。	
プラン [sn_bcp_plan]	事業継続性および復旧計画の状況を保存します。	事業継続性管理 – 計画
資産計画 [sn_bcp_plan_asset]	すべての計画の計画資産の RPO、RTO、RTA、および RTO ギャップを保存します。	事業継続性管理 – 計画
関連資産の依存関係 [sn_bcp_plan_asset_dependency]	資産を計画損失シナリオに依存する構成アイテムとして保存します。	事業継続性管理 – 計画
損失シナリオの計画 [sn_bcp_plan_loss_scenario]	計画と損失シナリオの関係を保存します。	事業継続性管理 – 計画
タスクの計画 [sn_bcp_plan_task]	計画タスクに対して識別された構成アイテムを保存します。	事業継続性管理 – 計画策定
復旧戦略 [sn_bcp_recovery_stratedy]	損失シナリオの計画で特定された資産に関連付けられた復旧戦略を保存します。	事業継続性管理 – 計画
復旧チーム [sn_bcp_recovery_team]	計画の復旧チームにアサインされたユーザーとグループを保存します。	事業継続性管理 – 計画
計画テンプレート [sn_bcp_template]	各計画テンプレートに対して識別されたドキュメントセクション、要素定義、および損失シナリオを保存します。	事業継続性管理 – 計画
依存関係レポートのソース [sn_bia_dependency_report_source]	レポートで追跡される列を格納します。依存関係テーブルのアドホックレポートを作成するときに使用されます。	事業継続性管理 – インパクトアナリシス
影響分析 [sn_bia_analysis]	BIA と使用するテンプレートに関連するすべてのデータを保存します。	事業継続性管理 – インパクトアナリシス
影響度カテゴリ結果 [sn_bia_category_result]	すべての BIA の影響カテゴリの結果を保存します。	事業継続性管理 – インパクトアナリシス
依存関係 [sn_bia_dependency]	依存関係グループとそのアイテムの詳細を保存します。	事業継続性管理 – インパクトアナリシス

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブル	説明	インストール対象のスコープ
影響度依存関係グループ [sn_bia_dependency_group]	BIA に関連付けられた要素定義または依存関係グループを保存します。	事業継続性管理 – インパクトアナリシス
結果 [sn_bia_result]	カテゴリ結果、中断期間、および影響度評価データを保存します。	事業継続性管理 – インパクトアナリシス
BIA テンプレート [sn_bia_template]	ビジネスプロセスが依存する影響カテゴリと依存関係グループを保存します。	事業継続性管理 – インパクトアナリシス
スコアの期限のマッピング [sn_bia_score_timeframe_mapping]	しきい値スコアと期間のマッピング結果を保存します。	事業継続性管理 – インパクトアナリシス
有効化された計画 [sn_recovery_activated_plan]	演習または実際のイベントで有効化された復旧計画のリストを保存します。	事業継続性管理 – Recovery Exercise Management
イベント [sn_recovery_event]	イベントの状況とオーナーの詳細を保存します。	事業継続性管理 – Recovery Exercise Management
イベント資産 [sn_recovery_event_asset]	資産名と資産が回収されたかどうかのステータスを実際のイベントまたは演習イベントで保存します。	事業継続性管理 – Recovery Exercise Management
イベントタスク [sn_recovery_event_task]	イベントタスクのステータスの詳細とアサイニーを保存します。	事業継続性管理 – Recovery Exercise Management
有効化された計画に対する影響を受ける資産 [sn_recovery_impacted_asset_to_activated_plan]	影響を受ける資産を有効化された計画にマッピングします。	事業継続性管理 – Recovery Exercise Management
承認 [sn_recovery_approval]	イベントの承認の詳細を保存します。	事業継続性管理 – Recovery Exercise Management
承認構成 [sn_grc_appr_approval_configuration]	BIA、BCP、イベント、任意のテーブルなどのビジネスドキュメントに適用される承認構成情報を保存します。	事業継続性管理 – Approver Configurator

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブル	説明	インストール対象のスコープ
承認レベル [sn_grc_appr_approval_level]	ビジネスドキュメントの承認構成の承認レベル情報を保存します。	事業継続性管理 – Approver Configurator
承認ルール [sn_grc_appr_approval_rule]	ビジネスドキュメントに適用される承認ルールの情報を保存します。	事業継続性管理 – Approver Configurator
承認 [sn_grc_appr_approval]	各承認レベルの承認者の情報を保存します。	事業継続性管理 – Approver Configurator
承認 [sn_bia_approval]	各承認レベルの BIA 承認者の情報を保存します。	事業継続性管理 – インパクトアナリシス
承認 [sn_bcp_approval]	各承認レベルの BCP 承認者の情報を保存します。	事業継続性管理 – 計画

インストールされるプロパティ

事業継続性管理 アプリケーションとともにインストールされるプロパティについては、「BCM とともにインストールされるプロパティ」を参照してください。

事業継続性管理 のスクリプトインクルード

事業継続性管理 アプリケーションをダウンロードすると、いくつかのスクリプトインクルードがインスタンスに追加されます。

Yokohama リリース用に更新されたスクリプトインクルード

Yokohama リリース用に更新されたスクリプトインクルード

スクリプトインクルード	説明
ActivePlanCandidateFilter	BCP アクティブプランフィルターで使用されるユーティリティ機能が含まれています。
アセスメントテンプレートBIAFieldsUtilBase	選択したアセスメントテンプレートから AssessmentTemplateBIAFields レコードを作成する際に使用される関数。
アセスメントテンプレートBIAFieldsUtil	AssessmentTemplateBIAFieldsUtilBase の BIA 作成機能を上書きするスクリプトインクルード。
BCPConstants	BCP 定数で使用されるユーティリティ機能が含まれています。
BCPDataVisualizationUtilsBase	BCP データ可視化で使用されるユーティリティ機能が含まれています。
BCPDependencySnapshotUpdateStrategyBase	計画の依存関係を更新するための API が含まれています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Yokohama リリース用に更新されたスクリプトインクルード (続く)

スクリプトインクルード	説明
BCPDocumentationRecordAPIBase	BCP ドキュメントレコード API ベースで使用されるユーティリティ機能が含まれています。
BCPDocumentationRecordAPI	BCP ドキュメントレコード API で使用されるユーティリティ機能が含まれています。☒
BCPRecordUI	BCP レコード UI ページで使用されるユーティリティ機能が含まれています。☒
BCPRecordUIBase	BCP レコード UI ベースで使用されるユーティリティ機能が含まれています。☒
BCPRecordAPI	BCP レコード API で使用されるユーティリティ機能が含まれています。
BCPTemplateUtilsBase	BCP テンプレートユーティリティベースで使用されるユーティリティ機能が含まれています。
BIAAjax プロセッサ	クライアントスクリプトからの Ajax 要求を処理するヘルパークラス。実装方法:1.BIA テンプレートフォームの [CIA を含める] フィールドのヴィジビリティを決定すること (2.)評価されたプライマリ要素のソーステーブル名で [テーブルに適用] フィールドを設定するには。
BIARecordAPIBase	BIA レコードとやり取りするためにビルドされた API。この API の目的は、BIA レコードの実装の詳細を非表示にし、BIA レコードのデータを取得および更新するための構造化された API をコンシューマーに提供することです。
BIAAssessmentUIBase	ビジネスインパクトアナリシスアセスメント UI ページをサポートするユーティリティクラス。
BIAUtil	検証を含む BIA テーブルの挿入と更新を処理するスクリプト設定は、依存関係グループ要素定義に基づくテーブルフィールドに依存します。
BIASmartAssessmentBase	すべてのスマートアセスメント機能をサポートするユーティリティクラス。
BIASmartアセスメント	BIASmartAssessmentBase のスマートアセスメント関連の関数を上書きするスクリプトインクルード
BIAConstants	BIA 定数のジェネリッククラス
BIACopyUtilBase	既存の BIA をコピーし、ドラフトステータスの新しい BIA を生成するユーティリティ。
BIARecordCreationUtilBase	テンプレートから BIA を作成する際に使用する関数
BIAFilterUtilBase	BIA テーブルに参照修飾子を提供する関数を含むスクリプト。
BIADependencySnapshotUpdateStrategyBase	BIA の依存関係を更新するための API が含まれています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Yokohama リリース用に更新されたスクリプトインクルード (続く)

スクリプトインクルード	説明
DependencySnapshotUpdateStrategyBase	依存関係の更新アクションとスケジュール済みジョブの API が含まれています。
EventDependencyUpdateStrategyBase	イベントの依存関係を更新するための API が含まれています。
PlanRestAPIResourceUtil	BCP プラン REST API リソースユーティリティで使用されるユーティリティ機能が含まれています。
PlanRestAPIResourceUtil	BCP プラン REST API リソースユーティリティで使用されるユーティリティ機能が含まれています。
PopulateBIAForPlanAsset	計画と資産の BIA を入力するために使用されるユーティリティ機能が含まれています。
PlanCopyUtilBase	BCP プランコピーユーティリティベースで使用されるユーティリティ機能が含まれています。
PlanUtil	BCP プランユーティリティで使用されるユーティリティ機能が含まれています。
PlanCommonUtils	プラン共通ユーティリティで使用されるユーティリティ機能が含まれています。
RecoveryTasksUtil	BCP 復旧タスクユーティリティで使用されるユーティリティ機能が含まれています。

ネストされたイベントに使用されるスクリプト

使用されるスクリプト

名前	説明
EventTaskGanttUIBase	イベントタスク階層ビューをサポートするユーティリティクラス。
イベントタスクガント UI	EventTaskGanttUIBase のイベントタスク階層ビュー関数を上書きするスクリプトインクルード。
EventSandboxCallableUtilsBase	サンドボックス呼び出し可能関数を含むユーティリティクラス。
EventSandboxCallableUtil	EventSandboxCallableUtilsBase のイベント関連関数を上書きするスクリプトインクルード。
イベントレコード進捗状況トラッカーベース	イベントの進行状況トラッカー機能をサポートするユーティリティクラス。
EventRecordProgressTracker	EventRecordProgressTrackerBase の進行状況トラッカー関連の関数を上書きするスクリプトインクルード。
BCMRecoveryConstants	復旧定数のジェネリッククラス。
EventRecordAPIBase	イベントレコードを操作する API。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

使用されるスクリプト (続く)

名前	説明
EventTaskUtil	イベントタスクのユーティリティクラス。
ActivatedPlanRecordAPIBase	アクティブ化された計画レコードとやり取りするための API。

データリレーションシップフレームワーク

データリレーションシップフレームワーク アプリケーション (sn_grc_rel_config) は、CMDB、BIA、BCP などのさまざまなソースから BIA、計画、およびイベントの依存関係をフェッチするための基礎となるフレームワークを備えた BCM アプリケーションをサポートします。Yokohama リリース以降、データリレーションシップフレームワーク (sn_grc_rel_config) アプリケーションは BCM アプリケーションとともにデフォルトでインストールされます。

依存関係を取得するためのフレームワーク

データリレーションシップフレームワーク (sn_grc_rel_config) には、メインオブジェクトタイプを他のオブジェクトタイプに関連付ける方法の設定が保存されます。これにより、ユーザーは依存関係の更新のソース (メインノード) を構成し、子ノードとの関係を構成し、選択したオブジェクトの依存関係をフェッチできるようになります。

スケジュール済みジョブは、オブジェクト構成データを定期的にスキャンし、依存関係が更新されているかどうかをチェックします。依存関係に変更が見られる場合、スケジュール済みジョブは、設定されたソース (BIA、BCP、CMDB など) のいずれかから選択されたオブジェクトの依存関係をフェッチします。

データリレーションシップフレームワーク のメリット

データリレーションシップフレームワークでは、BCM アプリケーションのユーザーに次のようなメリットがあります。

- さまざまなソースから依存関係をフェッチするための単一の API を提供します。
- メインノード (ソース) の構成をサポートし、資産やリスクなどの子ノードとの関係を維持します。
- ユーザーがさまざまなソースを選択してパフォーマンスを制御できるようにします。

データリレーションシップフレームワーク に関連付けられたロール

データリレーションシップフレームワーク アプリケーションには、次のロールが関連付けられています。

データリレーションシップフレームワーク に関連付けられたロール

ロール	説明
データリレーションシップフレームワーク アドミニストレーター [sn_grc_rel_config.admin]	メインノードと子ノードの関係など、オブジェクトタイプの関係を構成します。
データリレーションシップフレームワーク リーダー [sn_grc_rel_config.reader]	データリレーションシップフレームワークで定義されているオブジェクトタイプのデータを表示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データリレーションシップフレームワーク に関連付けられたロール (続く)

ロール	説明
	注: すべての BCM アプリケーションユーザーには、データリレーションシップフレームワーク のリーダーロールがあります。

フレームワークのテーブル

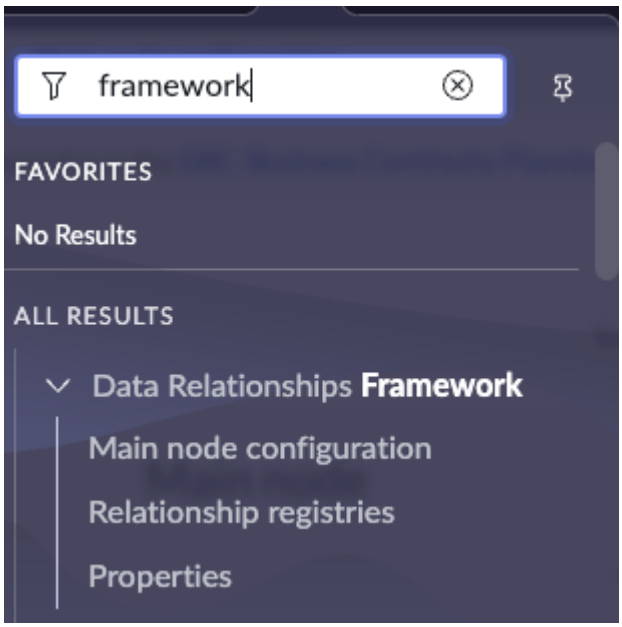
データリレーションシップフレームワーク をサポートするために、次の新しいテーブルが追加され、既存のテーブルが改訂されました。

データリレーションシップフレームワーク で使用されるテーブル

新規および既存のテーブル	テーブル	説明
新規テーブル	メインノード構成 [sn_grc_rel_config_main_node_config]	依存関係のフェッチ元であるメインノードの構成を保存するテーブル。
新規テーブル	ノード関係構成 [sn_grc_rel_config_node_rel_config]	メインノードと子ノードの依存関係を決定する構成を保存するテーブル。また、メインノード構成への参照も保持します。
既存のテーブル	関係のレジストリ [sn_data_registry_relationship]	オブジェクトと他のオブジェクトの関係を決定するテーブル。

関係を構成するためのモジュール

BCM アプリケーションユーザーは、アプリケーションナビゲーターでデータ関係フレームワークに移動し、そのモジュールにアクセスして関係を構成できます。

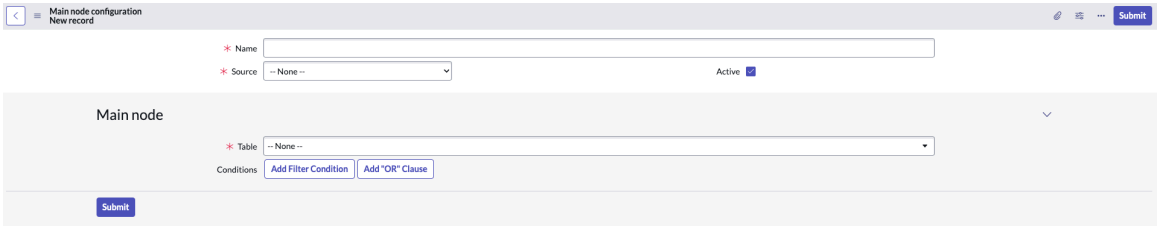


データリレーションシップフレームワーク アプリケーションは、次の各パネルで構成されています。

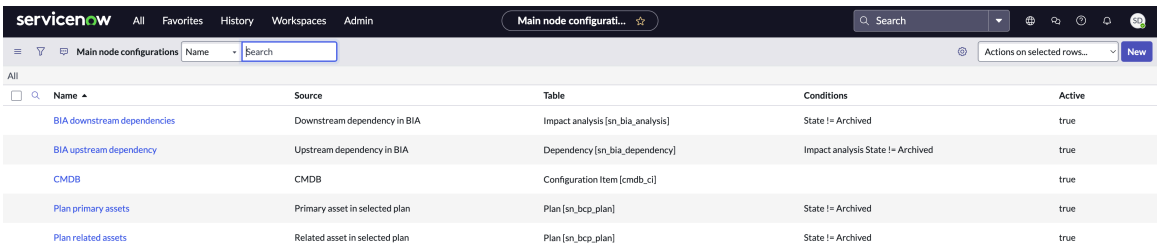
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. メインノード構成：次の例に示すように、名前、ソース、テーブル名、ファイラー条件などのメインノードの詳細を設定します。



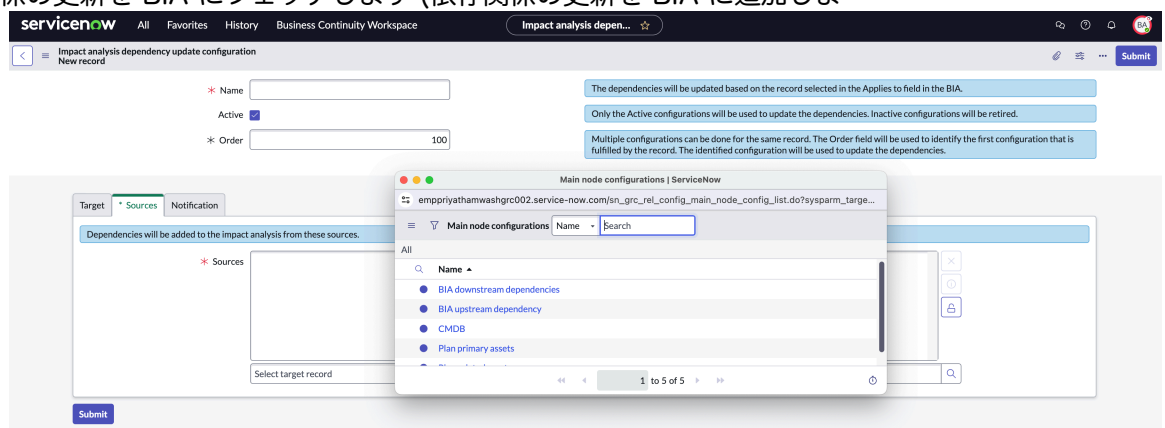
次の例に示すように、次のメインノード構成がベースシステムのソースとして提供されます。



- BIA アップストリーム依存関係
- BIA ダウンストリーム依存関係
- CMDB
- プライマリ資産の計画
- 関連資産の計画

BCM アドミニストレーターは、メインノード構成を使用して、次のタスクを実行します。

- 影響分析依存関係の更新構成モジュールを構成し、これらのソースから依存関係の更新を BIA にフェッチします (依存関係の更新を BIA に追加します)。



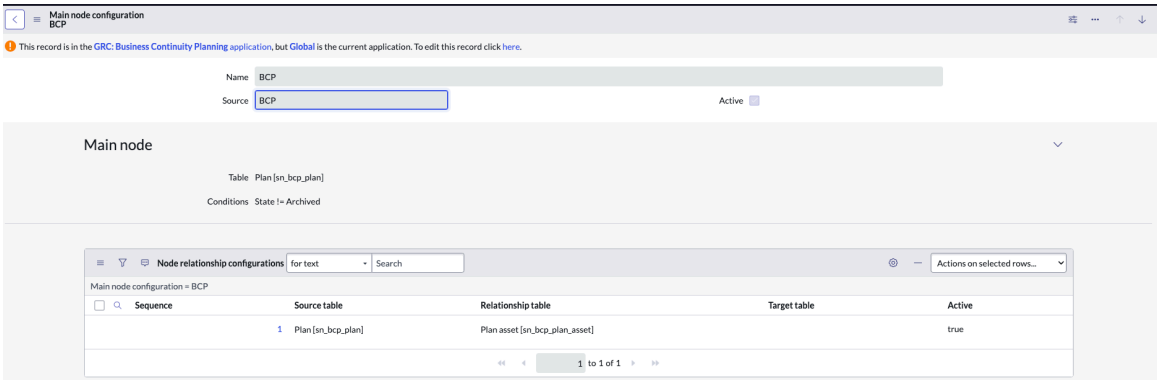
- 計画依存関係の更新構成モジュールを構成し、これらのソースから依存関係の更新を計画にフェッチします (更新された関連資産を計画に追加します)。
- イベント依存関係のソース構成モジュールを構成し、イベント依存関係の更新のソースを構成します (更新された影響を受ける資産を復旧イベントに追加します)。

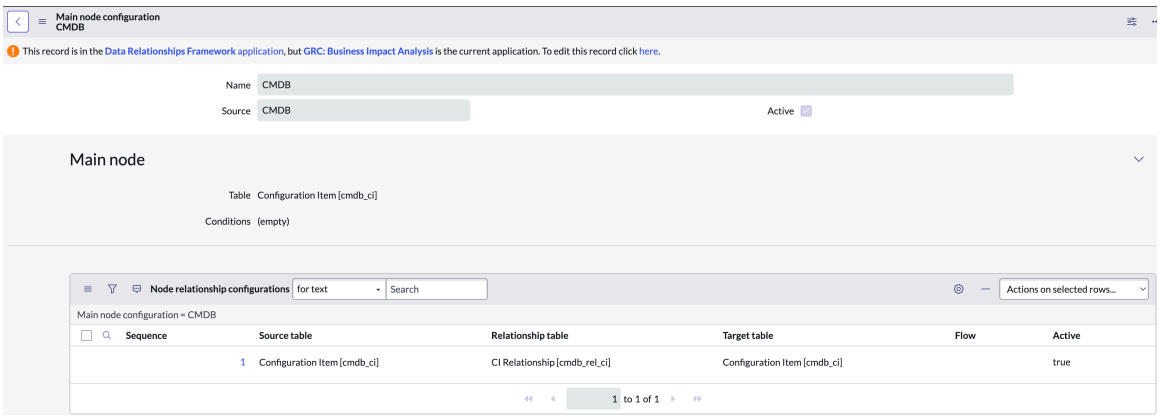
注:
データのプル方法に関するすべての情報は、レコードに添付されているメインノード構成に保存されます。この構成によって、データがプルされる順序が決まります。プルされるデータの量とそのプル方法を減らすには、メインノード構成とレコードの両方で条件を設定する必要があります。これにより、必要なデータのみが取得されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

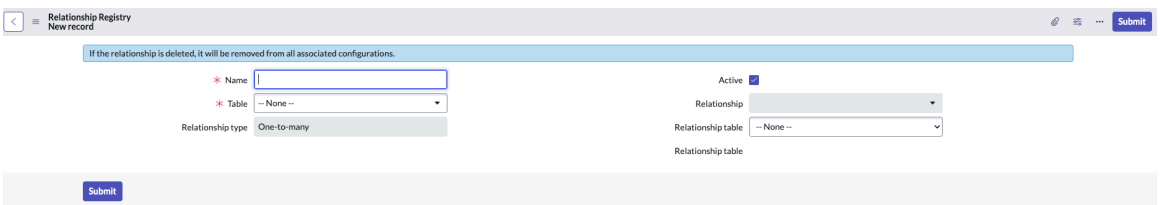
計画のメインノード構成レコードと CMDB を次の例に示します。



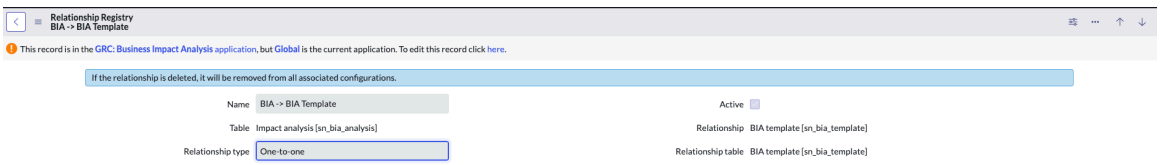


メインノード構成レコードの作成については、「メインノード設定レコードの作成」を参照してください。

2. 関係のレジストリ：メインノードの関係のレジストリを構成します。関係レジストリは GRC の 360 度構成の一部であり、ユーザーは 1 つのオブジェクトがどのように関連オブジェクトを持つかを定義できます。名前、テーブル、関係タイプ、関係テーブルなど、関係レジストリレコードの構成の詳細がフォームに表示されます。



BIA および BIA テンプレートの関係レジストリレコードのサンプルを次の例に示します。

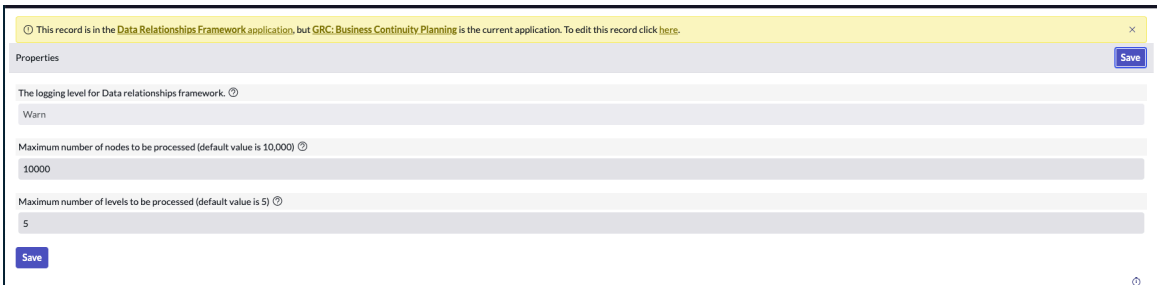


関係レジストリレコードの作成については、「関係レジストリレコードの作成」を参照してください。

3. プロパティ：データリレーションシップフレームワーク のプロパティを次の例に示すように構成します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

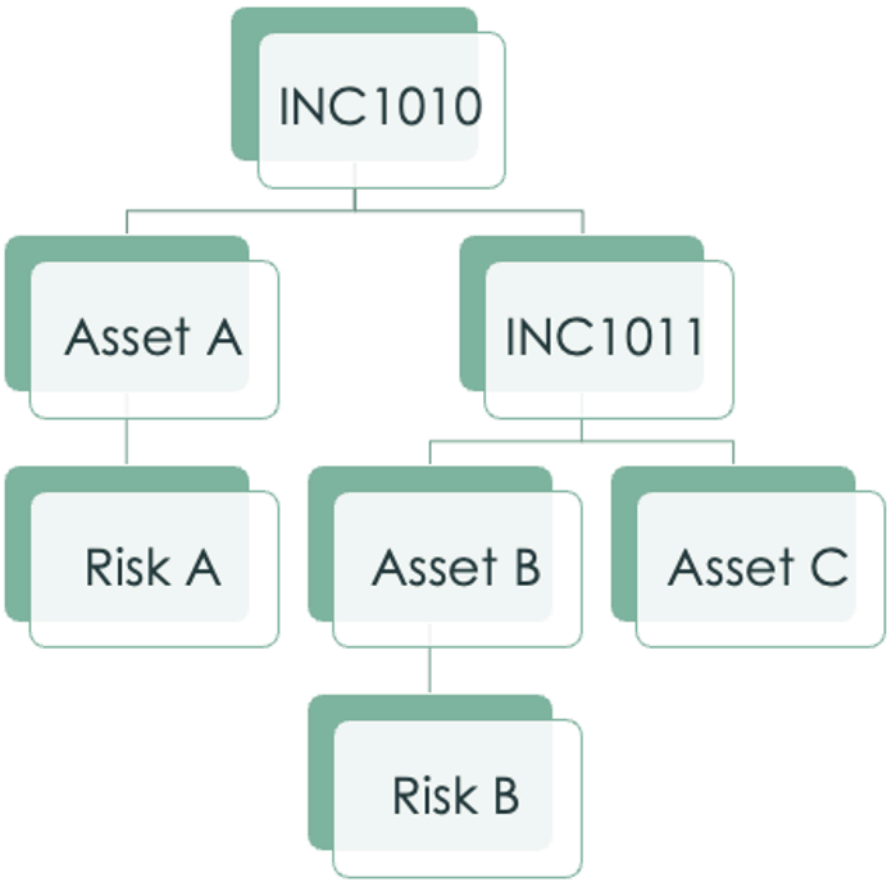


プロパティの構成方法については「データリレーションシップフレームワーク のプロパティ設定」を参照してください。

データリレーションシップフレームワーク のユースケース

データリレーションシップフレームワーク は、メインノードをその子ノードにマッピングしたり、資産をリスクにマッピングしたりするなど、ノードと資産の関係を構成するために使用されます。

メインノード構成とその関係を示す次のようなユースケースを考えてみましょう。



この例では、INC1010 はメインノードで、ソースはインシデントです。INC1010 には 2 つの子ノードがあります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. 資産 A：資産 A の影響を受ける構成アイテムはリスク A です。
2. INC1011：INC1011の影響を受ける構成アイテム (CI) は資産 B と資産 C です。資産 B に関して影響を受ける構成アイテムはリスク B です。

基礎となる データリレーションシップフレームワーク では、次の関係が構成されます。

- メインノード：
  - INC1010 -> 資産 A
  - INC1010 -> INC1011
- ノードの関係：
  - 資産 A -> リスク A
  - INC1011 -> 資産 B
  - INC1011 -> 資産 C
  - 資産 B -> リスク B
- 入力ノード：
  - ソース = インシデント
  - レコード = INC1010
  - 最大レベル = 5
  - 最大ノード数 = 1000
- 出力ノード：
  - INC1010
  - 資産 A
  - INC1011
  - リスク A
  - 資産 B
  - 資産 C
  - リスク B
- エッジ：
  - INC1010 -> 資産 A
  - INC1010 -> INC1011
  - 資産 A -> リスク A
  - INC1011 -> 資産 B
  - INC1011 -> 資産 C
  - 資産 B -> リスク B

データリレーションシップフレームワーク の使用制限

データリレーションシップフレームワーク には次のような制限があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- オブジェクトに対してフェッチされたデータを別の目的で再利用することはできません。
- フレームワークで提供されるソースは、依存関係の更新をオブジェクトにフェッチするために使用する必要があります。データをフェッチするための独自のソースを設定することはできません。

設定レコードの管理セットアップの詳細については、「 依存関係構成情報レコード」を参照してください。

メインノード設定レコードの作成

メインノード設定レコードを作成して、依存関係をフェッチするためのソースを設定します。名前、ソース、テーブル名、ファイラー条件など、メインノードの詳細を設定できます。

始める前に
必要なロール：sn_grc_rel_config.admin

手順

1. 移動先 すべて > データ関係フレームワーク > メインノード構成.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。
   フォーム内のフィールドの詳細については、「メインノード構成の新規レコードフォーム」を参照してください。
4. [送信] を選択します。
   メインノード構成レコードが [メインノード構成 (Main node configurations)] リストに表示されます。

メインノード構成の新規レコードフォーム

メインノード構成の新規レコードフォームを使用して、データリレーションシップフレームワークにメインノード構成レコードを作成します。

メインノード構成の新規レコードフォーム

メインノード構成の新規レコードフォーム

フィールド	説明
名前	メインノード構成レコードの名前。BCP などです。
ソース	メインノード設定レコードのソース。使用可能なオプションは次のとおりです。 • **BIA** アップストリーム依存関係 • **BIA** ダウンストリーム依存関係 • **CMDB** • プライマリ資産の計画 • 関連資産の計画
アクティブ	レコードがアクティブかどうかを示すオプション。
テーブル	関係を設定するために使用されるテーブル。たとえば、計画 [sn_bcp_plan] などです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メインノード構成の新規レコードフォーム (続く)

フィールド	説明
条件	構成レコードの関係を設定するために使用されるフィルター条件。たとえば、条件を「*"Status in source" "is" "Valid"*」として設定できます。

関係レジストリレコードの作成

関係レジストリレコードを作成して、テーブルで定義されているレコードとオブジェクトの間に関係を設定します。名前、ソース、テーブル名、ファイラー条件など、メインノードの詳細を設定できます。

始める前に

必要なロール：sn_grc_rel_config.admin

手順

1. 移動先 すべて > データ関係フレームワーク > 関係レジストリ.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。
   フォーム内のフィールドの詳細については、「関係レジストリの新規レコードフォーム」を参照してください。
4. [送信] を選択します。
   関係レジストリレコードが [リレーションシップレジストリ] リストに表示されます。

関係レジストリの新規レコードフォーム

関係レジストリレコードフォームを使用して、オブジェクト間の関係レジストリを作成します。

関係レジストリの新規レコードフォーム

関係レジストリの新規レコードフォーム

フィールド	説明
名前	関係レジストリレコードの名前。「BIA 分析 -> 問題」などです。
テーブル	関係レジストリレコードを設定するために使用されるテーブル。影響分析 [sn_bia_analysis] などです。
関係性タイプ	関係レジストリレコードの関係タイプ。使用可能なオプションは次のとおりです。 • **1** 対 **1**：1 つのレコードが別のテーブルの 1 つのレコードに対応しています。 • **1** 対多：1 つのレコードが別のテーブルの 1 つまたは複数のレコードに対応しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関係レジストリの新規レコードフォーム (続く)

フィールド	説明
	• 多対多：1 つまたは複数のレコードが、別のテーブルの 1 つまたは複数のレコードに対応しています。 • スクリプト化された関係：スクリプトを使用して、テーブル間の関係を定義します。
アクティブ	関係レジストリレコードがアクティブであることを示すオプション。
リレーションシップ	[テーブル] フィールドで定義されているオブジェクトとの関係を設定するために使用されるテーブル。たとえば、問題 [sn_grc_issue] です。
リレーションシップテーブル	Read-only フィールド。[リレーションシップ] フィールドで選択したテーブルは、デフォルトではリレーションシップテーブルとして表示されます。たとえば、問題 [sn_grc_issue] です。

データリレーションシップフレームワーク のプロパティ設定

データリレーションシップフレームワーク アプリケーションのプロパティを構成します。

始める前に
必要なロール：sn_grc_rel_config.admin

手順

1. 移動先 すべて > データ関係フレームワーク > プロパティ.
2. フォームのプロパティを更新します。
   フォームのプロパティについての詳細は、「データリレーションシップフレームワーク のプロパティフォーム」を参照してください。
3. [保存] を選択します。

データリレーションシップフレームワーク のプロパティフォーム

データリレーションシップフレームワーク のプロパティフォームを使用して、データリレーションシップフレームワーク API の関係プロパティを構成します。

データリレーションシップフレームワーク のプロパティフォーム

データリレーションシップフレームワーク のプロパティフォーム

フィールド	説明
データリレーションシップフレームワーク のログレベル	データリレーションシップフレームワーク のログレベル。使用可能なオプションは次のとおりです。 • デバッグ • 参考情報

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データリレーションシップフレームワーク のプロパティフォーム (続く)

フィールド	説明
	• 警告 • エラー デフォルト値は [警告] です。
処理される最大ノード数	データリレーションシップフレームワーク API が呼び出されたときに処理されるノードの最大数。 デフォルト値は 10,000 です。たとえば、API が呼び出されると、最大で 10,000 ノードの結果が表示されます。
処理される最大レベル数	データリレーションシップフレームワーク API が呼び出されたときに処理されるレベルの最大数。 デフォルト値は 5 です。たとえば、API が呼び出されると、最大 5 レベルの関係が処理され、5 レベルより深くなることはありません。

ドメインセパレーションと事業継続性管理

事業継続性管理 ではドメインセパレーションがサポートされています。ドメインセパレーションでは、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

サポートレベル：ベーシック

- アプリケーションサービスプロバイダーのユースケースに合わせてデータが適切なドメインに送られるようにするビジネスロジックが存在します。
- このアプリケーションは、ドメインセパレーションを完全にサポートしています。ドメインセパレーションには、ユーザーインターフェイス、キャッシュキー、レポート、ロールアップ、および集計からのドメインの分離が含まれます。
- インスタンスのオーナーは、複数のテナント間で正常に機能するようにアプリケーションをセットアップする必要があります。

サンプルユースケース：サービスプロバイダーがチャットを使用してテナント顧客のメッセージに応答する場合、お客様がサービスプロバイダーの応答を確認できるようにする必要があります。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメインセパレーションのサポート)」を参照してください。

事業継続性管理 はドメインセパレーションをサポートします。テーブルは、ドメイン ID とドメインパスでストライプ化されます。事業継続性管理 のドメインセパレーションは、アプリケーションのドメインまたは親ドメイン内のユーザーのみがデータにアクセスできることを意味します。事業継続

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

性管理 のすべての機能は、事業継続性管理 のアクションがドメイン内のユーザーによって実行される限り、そのドメインセパレーションされた環境で機能します。

事業継続性管理 におけるドメインセパレーションの仕組み

事業継続性管理 では、ドメインセパレーションはデータレベルでのみサポートされています。クロスレベルのスケジュール済みジョブデータのセットアップはサポートされていません。したがって、データレベルの分離を遵守するために、各ドメインでスケジュール済みジョブをコピーする必要があります。

事業継続性管理 のドメインセパレーションを設定するには

1. ドメインを作成し、そのドメインに 事業継続性管理 ユーザーを作成します。
2. 指定されたユーザー (そのドメイン内の 事業継続性管理 アドミン) のみが、アプリケーションのドメインに構成データを入力する必要があります。
3. アプリケーションのドメイン内のユーザーのみが、ドメイン内でデータをアップロードまたは作成する必要があります。

ドメインセパレーションを成功させるには、次のガイドラインに従ってください。

- 構成データのアップロード、編集、またはエクスポートを実行するためにドメインごとに個別のユーザーを作成します。
- 特定のアプリケーションの構成データを複数のドメインでアップロードまたは作成することは避けてください。
- アプリケーションのドメイン内のユーザーのみが、ドメイン内でデータをアップロードまたは作成する必要があります。
- ポリシーとエクスポーターは、アプリケーションのドメインまたはグローバルドメインのいずれかに存在する必要があります。

事業継続性管理 のドメインセパレーションテーブル

すべての 事業継続性管理 テーブルに [ドメイン] 列があります。

関連情報

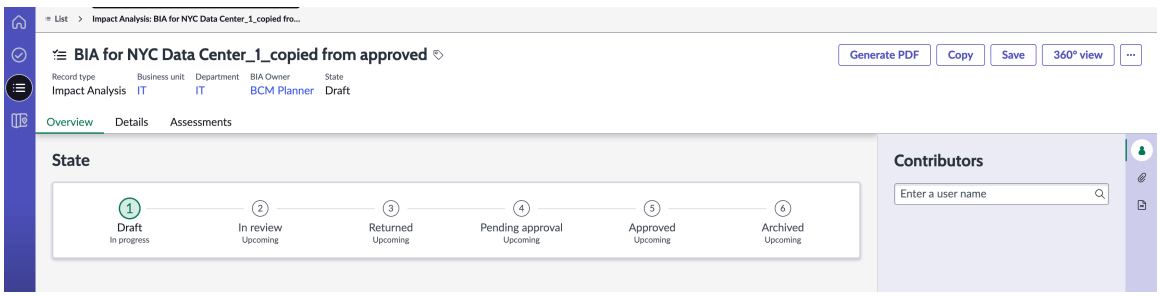
サービスプロバイダーのドメインセパレーション

BCM レコードの GRC レコードページテンプレート

Yokohama リリース以降、GRC レコードは共通の GRC レコードページテンプレートを使用します。レコードページの新しいバリアントを活用して、ページ作成を合理化し、メンテナンスを簡素化し、ページ所有コストを最小限に抑えることができます。

標準的なレコードページの移行では、すべての BCM レコードに対して一貫したスタイリングと統一された外観を構成できます。レコードのヘッダーを構成して、優先度、期日、問題ソース、問題タイプなどの追加情報を表示することもできます。

GRC レコードテンプレートのある BCM アプリケーション内のレコードを次の例に示します。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

注:
バージョン 17.x アプリにアップグレードする場合は、前のレコードページに戻すこともできます。

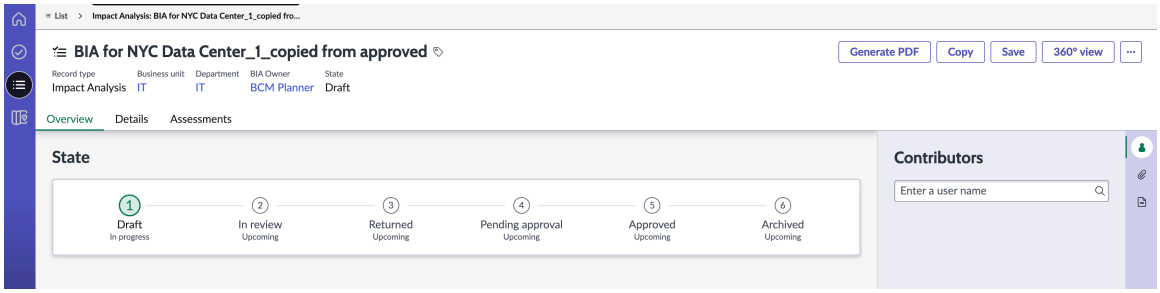
レコードの [概要] タブのステッパーコンポーネント

[概要] タブのステッパーコンポーネントには、レコードの状況の進行状況が表示されます。

レコードの [概要] タブのステッパーコンポーネント

[概要] タブのステッパーコンポーネントには、レコードの状況の進行状況が表示されます。

レコードの現在のステータスの数値は、次の例に示すように、参照のためにステッパーコンポーネントでハイライト表示されます。



一般的なレコードは、状況が次のように進行します。

- ドラフト
- レビュー中
- 戻り
- 承認待ち
- 承認済み
- アーカイブ化済み

レコードをさらに更新する必要があり、レコードの承認者によって却下された場合、アプリケーションソフトウェアによって [戻り] ステータスに設定されます。レコード所有者がレコードの詳細を更新すると、承認ワークフローが再度実行されます。

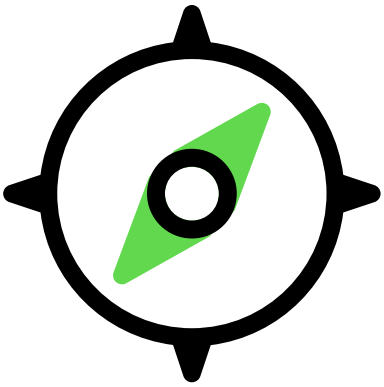
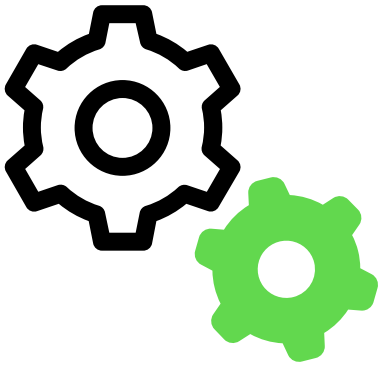
コンプライアンスケース管理

ServiceNow® GRC：コンプライアンスケース管理アプリケーションを使用して、コンプライアンスケースをレポート、調査、分析、解決したり、コンプライアンス要求を作成したりします。

コンプライアンスケース管理アプリケーションは、苦情や違反などのコンプライアンスケースをレポート、調査、および解決するのに役立ちます。コンプライアンスケース管理アプリケーションは、コンプライアンスケースや要求に基づいて、高度に構成可能なワークフローを提供します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

探索	構成	使用方法
		
コンプライアンスチームが コンプライアンスケース管理 アプリケーションを使用する方法について説明します。	コンプライアンスケース管理 アプリケーションを構成します。	コンプライアンスケース、要求、ケースタスクなどを作成します。
参照		
		
テーブルやロールなどのコンポーネントに関する詳細を取得します。		

自動翻訳

コンプライアンスケース管理 の探索

GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションを使用して、コンプライアンスケースをレポート、調査、分析、解決したり、組織に対してコンプライアンスケースを作成したりする方法について説明します。

コンプライアンスケース管理のメリット

コンプライアンスケース管理 アプリケーションは、組織に次のメリットをもたらします。

- 要求、苦情、違反などのコンプライアンスケースまたはイベントをレポート、調査、および解決します。
- ポリシーの変更、説明、照会などのコンプライアンス要求を作成します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

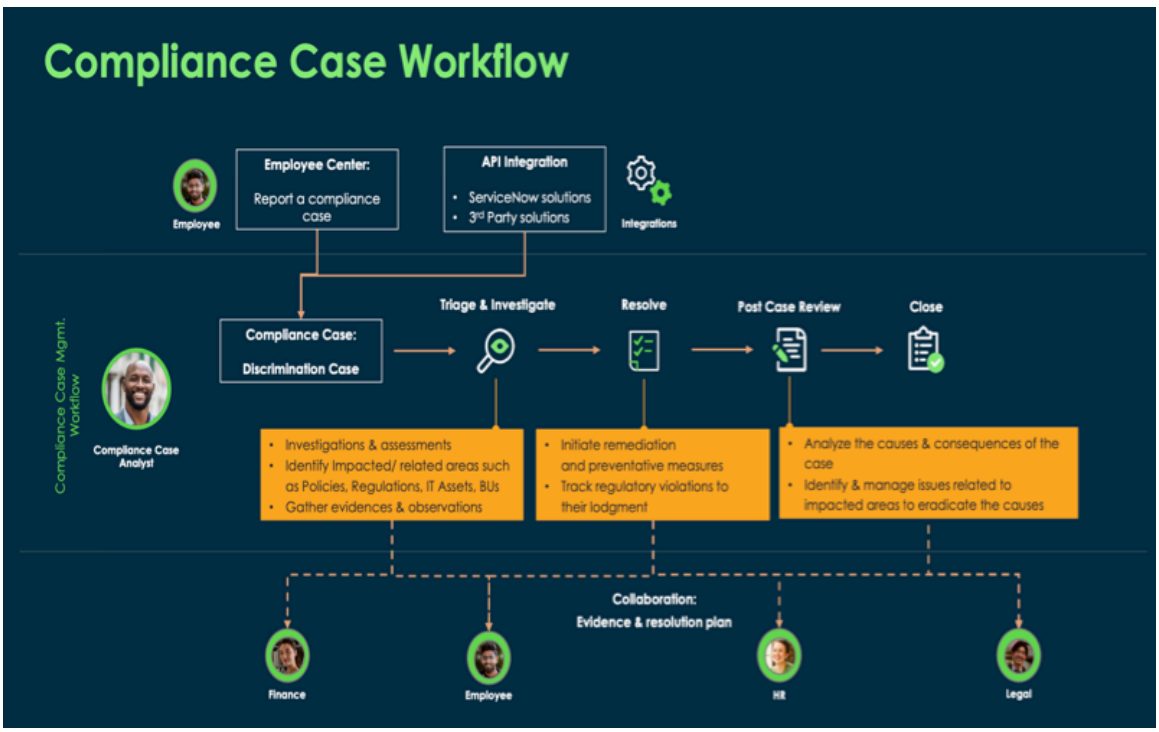
- イベントの影響によって違反した規制を、イベントが報告された日付とともに記録します。
- 複数のチームと容易に協力して、コンプライアンスケースと要求を調査および管理します。
- コンプライアンスケースまたは要求に基づく、高度に構成可能なワークフローを提供します。
- 包括的なリスクビューを取得して、ポリシー違反やコントロールの失敗をリスクに結び付けます。
- データを共有し、機能グループ間でコミュニケーションを取ります。
- ケースを分析し、調査とアセスメントを実行します。これには、さまざまなチームとの共同作業やケースタスクの作成とアサインなども含まれます。

コンプライアンスケースワークフロー

コンプライアンスケース管理 アプリケーションのワークフローは、コンプライアンスチームの注意が必要なケースをレポートおよび管理できるようにするプロセスです。

次の図に、GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションのワークフローを示します。

GRC：コンプライアンスケース管理 のワークフロー



ワークフローのさまざまなステージは次のとおりです。

- コンプライアンスケースのレポート
- コンプライアンスケースのトリアージ
- コンプライアンスケースの調査と評価
- コンプライアンスケースの解決
- ケースの事後レビューとクローズ

コンプライアンスケースのレポート

ビジネスユーザーまたはコンプライアンスチームは、従業員センターアプリケーションでコンプライアンス違反をレポートできます。コンプライアンスケースチームは、コンプライアンスワークスペースアプリケーションでケースをレポートできます。詳細については、「GRC：コンプライアンスケース管理 でコンプライアンスケースをレポートする」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

コンプライアンスケースのトリアージ

コンプライアンスケースがレポートされた後、コンプライアンスチームが有効性の観点からケースをトリアージします。チームは、ケースに対処するケースアナリストをアサインします。

コンプライアンスケースの調査と評価

コンプライアンスケースアナリストは、複数のチームと協力して、ケースに関する調査、証拠の収集、詳細と応答の取得を行います。その後、ケースアナリストは、ケースタスクを作成してレポートされたケースの調査とアセスメントを開始し、ケースタスク所有者にそれらをアサインします。

ケースタスク所有者は、要求された詳細を追加して、レビューのためにケースアナリストに送信します。ケースアナリストは、調査とアセスメントへの応答に基づいて以下を実行します。

- コンプライアンスケースの影響を受ける領域を追加します。たとえば、影響を受ける可能性のある影響を受ける領域またはレコードは、コンプライアンスケースの影響を受けるエンティティ、コントロール、場所、またはユーザーです。詳細については、「影響を受ける領域をコンプライアンスケースに追加する」を参照してください。
- コンプライアンスケースに関連する領域を追加します。たとえば、関連する領域には、ポリシー、各種法令・基準内項目、コントロール目標、またはリスクイベントが含まれます。詳細については、「関連する領域をコンプライアンスケースに追加する」を参照してください。
- コンプライアンスケースの影響を受ける可能性があるコンプライアンス規制を追加します。詳細については、「コンプライアンスケースにコンプライアンス規制を追加する」を参照してください。
- レポートされたコンプライアンスケースまたはイベントの根本原因、および組織に対するその結果など、このコンプライアンスケースの原因と結果を追加します。詳細については、「コンプライアンスケースに原因と結果を追加する」を参照してください。

コンプライアンスケースの解決

報告されたケースのすべての分析が完了した後、ケースアナリストはケースを解決するための修復アクションと予防措置を開始します。ケースアナリストは、報告可能な規制違反を追跡して、規制機関にそれらが報告されていることを確認します。

ケースの事後レビューとクローズ

ケースアナリストがケースの原因と結果を分析します。その後、ケースアナリストは、根本原因分析を実施して、ケースの原因を取り除きます。ケースアナリストは、ケースをレビューして、影響を受ける領域に関連する問題を特定および管理できます。詳細については、「コンプライアンスケースの問題の追加」を参照してください。最後に、コンプライアンスアナリストが、さまざまなチームと緊密に連携して、コンプライアンスケースをレビューしてクローズします。

コンプライアンス要求ワークフロー

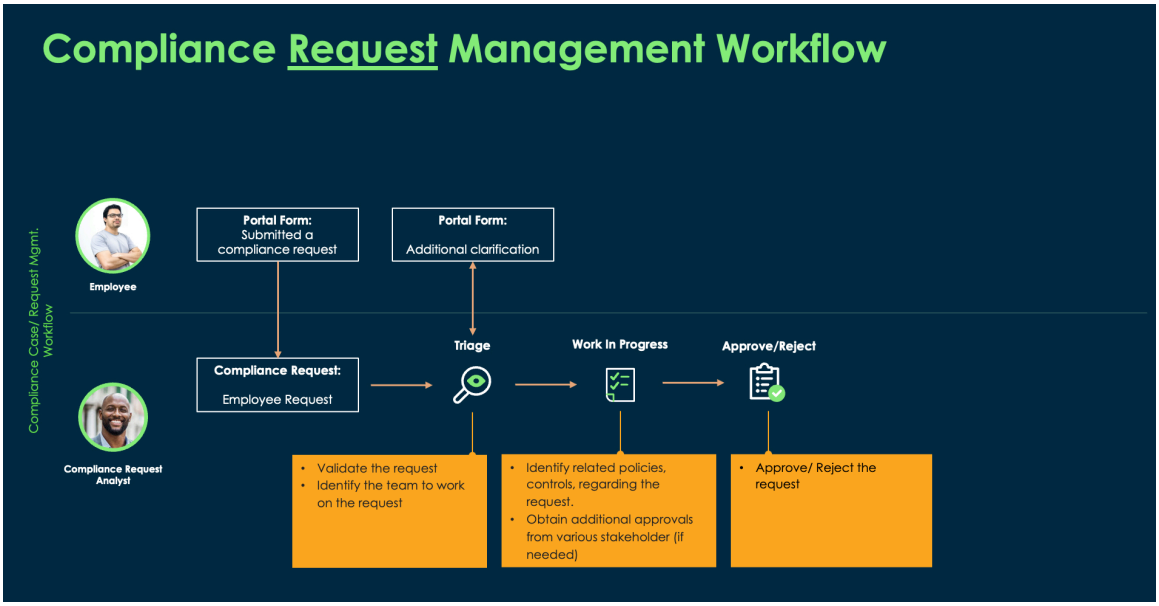
コンプライアンスケース管理 アプリケーションの要求ワークフローを使用して、組織内のコンプライアンス要求を作成および管理します。このワークフローを使用することで、コンプライアンスチームがコンプライアンス要求に効果的かつ効率的に対処することが可能になります。

次の図に、GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションでのコンプライアンス要求のワークフローを示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC：コンプライアンスケース管理 のワークフロー



コンプライアンス要求のステージには、次のようなものがあります。

- コンプライアンス要求を発生させる
- コンプライアンス要求のトリアージ
- コンプライアンス要求の作業
- 要求の承認の待機
- コンプライアンス要求のキャンセル
- コンプライアンス要求のクローズ

コンプライアンス要求を発生させる

ビジネスユーザーまたはコンプライアンスチームは、従業員センターアプリケーションでコンプライアンス要求を発生させることができます。コンプライアンスケースチームは、コンプライアンスワークスペース アプリケーションで要求を発生させることができます。詳細については、「GRC：コンプライアンスケース管理 でコンプライアンス要求を発生させる」を参照してください。

コンプライアンス要求のトリアージ

コンプライアンス要求が発生した後、コンプライアンスチームは、ケースを処理する要求アナリストをアサインします。要求アナリストは、有効性の観点からケースをトリアージします。要求アナリストがこの評価を実施することで、有効かつ適切な要求のみがコンプライアンスプロセスを先へ進めるようになります。要求アナリストが要求を検証して有効と判断すると、要求は [処理中] ステータスに移行します。

コンプライアンス要求の作業

[対応中] ステージで、発生した要求のすべての要件を要求アナリストが判断します。要求アナリストは、要求の適格性を確認し、要求に関連するポリシー、コントロール、引用、コントロール目標などのサポートドキュメントを特定します。アナリストはそのコンプライアンス要求を承認または却下できます。必要に応じて、アナリストはさまざまなステークホルダーからの承認を求めることができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

要求の承認の待機

要求のレビューが終了すると、承認または却下に関する決定を行うこのステージに到達します。このステージでは、発生した要求を評価します。要求が必要な基準を満たしている場合、その要求は承認されます。満たしていない場合は却下されます。その場合、却下の正当な理由が要求者に提示されます。要求は承認のために複数のユーザーに送信でき、いずれかのユーザーが承認または却下できます。[任意の承認者 **(Any Approvers)]** オプションを使用すると、アサインされた承認者のいずれかから承認または却下を受け取るとすぐに要求をクローズできます。詳細については、「承認ワークフローを作成する」を参照してください。

コンプライアンス要求のキャンセル

このステージでは、要求がコンプライアンス要求でない場合、要求をキャンセルする必要があります。要求は、正当な理由があればキャンセルできます。その理由は要求者に提示されます。要求は、[トリアージ]、[処理中]、[承認待ち] 状況など、どのステージでもキャンセルできます。

コンプライアンス要求のクローズ

コンプライアンス要求が完全に処理され、承認または却下されると、[クローズ済み] ステージに移行します。このステージは、要求に関連するすべての必要なアクションが実行されたことを示します。要求は解決済みと見なされ、それ以上のアクションは必要ありません。

コンプライアンスケース管理 ランディング ページ

GRC：コンプライアンスケース管理 ランディングページには、すべてのコンプライアンスケース関連情報の概要が表示されます。GRC：コンプライアンスケース管理 ランディングページからケースや要求や問題を作成することもできます。

必要なロール：sn-compliance-case-manager または sn-compliance-case-analyst

コンプライアンスケース管理のランディングページの概要

ランチャー ( ) アイコンを使用して、コンプライアンスケース管理のランディングページを起動できます。

GRC：コンプライアンスケース管理 ランディングページは、次のセクションで構成されています。

- ケース
- 要求
- 自分のタスク

[ケース] セクション

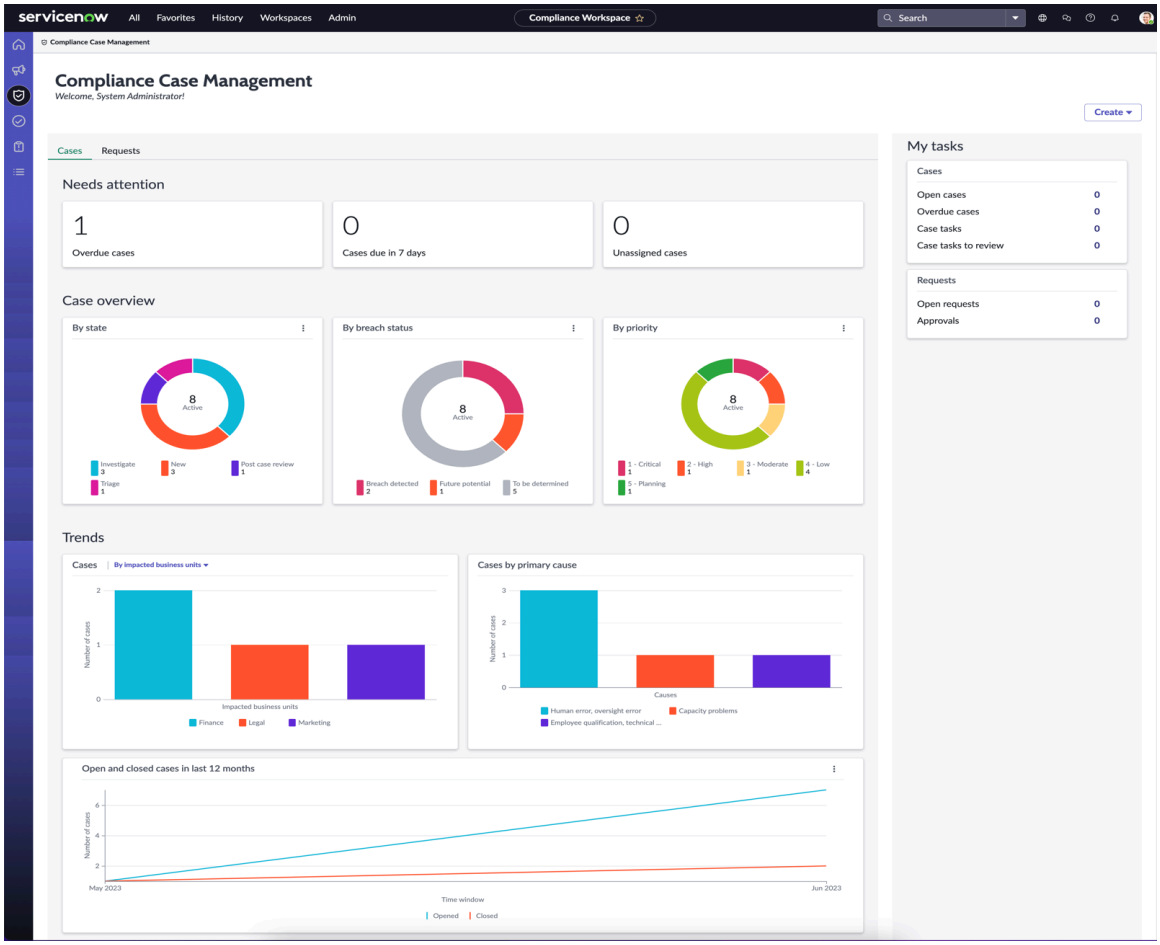
[ケース] セクションには、コンプライアンスケースに関する情報を提供するカードがあります。ここで、注意が必要なケース、概要、傾向、および監視情報を確認できます。

次の例で、GRC：コンプライアンスケース管理 ランディングページのケースで利用可能なカードを示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC：コンプライアンスケース管理 ランディングページ



次の表で、GRC：コンプライアンスケース管理 ランディングページのケースで利用可能なカードについて説明します。

[ケース] セクション

カード	説明
要注意	次のような、即時の対応が必要なイベントやケースの概要。 期限切れのケース クローズ日を過ぎたケース。 期限が 7 日以内のケース クローズ日が今後 7 日以内であるケース。 未アサインのケース まだケースアナリストにアサインされていないケース。 ドリルダウン機能があります。個々のセクターをクリックすると、リストビューに移動し、より豊富なコンテキスト情報を取得できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ケース] セクション (続く)

カード	説明
Case overview (ケース概要)	すべてのアクティブなケースを、ステータス、違反ステータス、および優先度別にグラフィックで示したもの。 ステータス別 アクティブなケースの数を、それらのワークフロー状況別に表示します。たとえば、コンプライアンスケースマネージャーは、調査ステータスのアクティブなケースの数を表示できます。 違反ステータス別 違反が検出された場合、または将来違反の可能性がある場合、または違反ステータスがまだ特定されていない場合のアクティブなケースの数を表示します。 優先度別 ケースレベルで定義された優先度別に、アクティブなケースの数を表示します。 ドリルダウン機能があります。個々のセクターをクリックすると、リストビューに移動し、より豊富なコンテキスト情報を取得できます。
トレンド	次のケースに関する傾向： • 影響を受ける事業部門と地理的な場所別のレポートされたケース。 • Syb タイプ別のケース。 • 主要原因別のレポートされたケースの数。 • 過去 365 日間にオープンおよびクローズされたケースの数。
追跡中	追跡対象となるアイテム： • コンプライアンスケースのオープンな問題の数 • 期限切れの問題の数 • 今後 7 日間で期限切れになる問題の数 ドリルダウン機能があります。個々のセクターをクリックすると、リストビューに移動し、より豊富なコンテキスト情報を取得できます。

自動翻訳

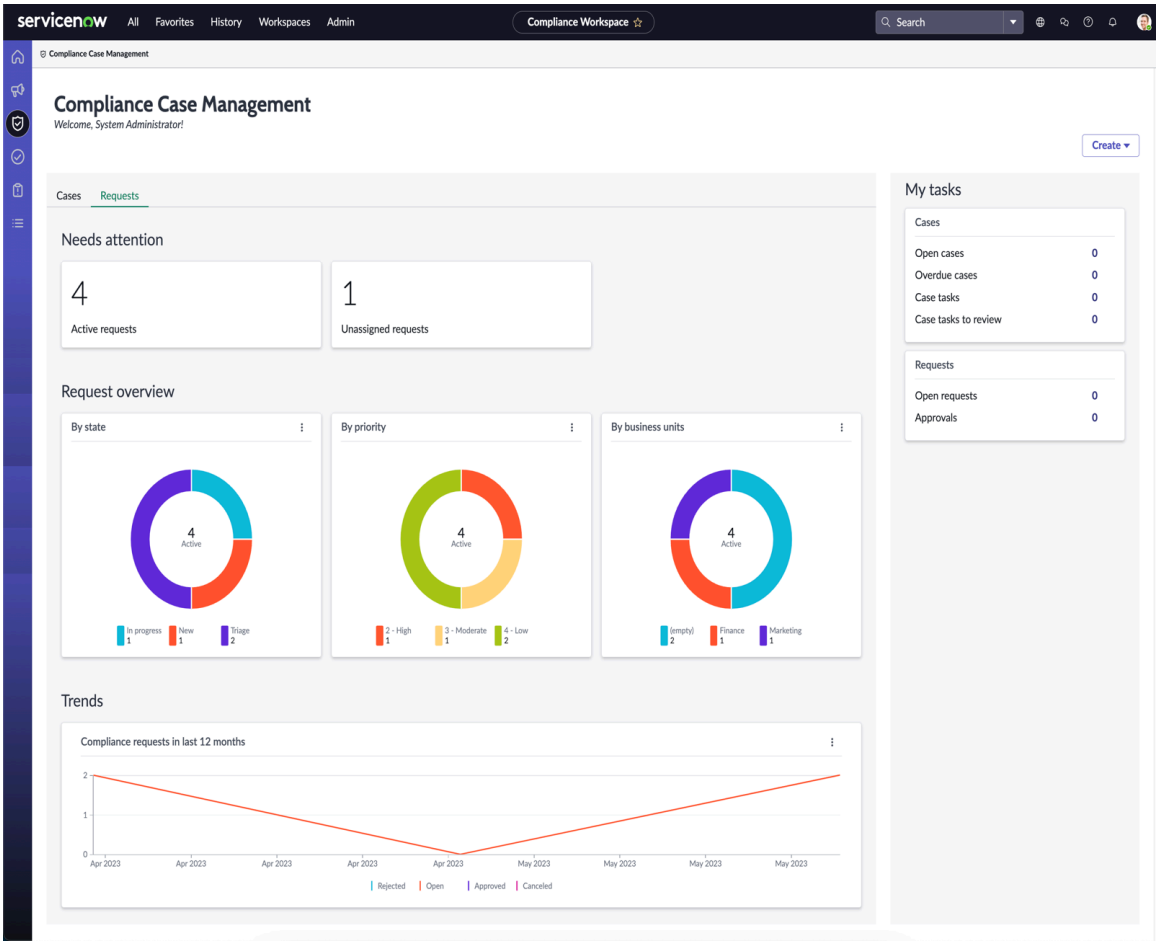
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[要求] セクション。

[要求] セクションには、コンプライアンス要求に関する情報を提供するカードがあります。ここで、注意が必要な要求、概要、および傾向を確認できます。

次の例で、GRC：コンプライアンスケース管理 ランディングページの要求で利用可能なカードを示します。

GRC：コンプライアンスケース管理 ランディングページ



次の表で、GRC：コンプライアンスケース管理 ランディングページの要求で利用可能なカードについて説明します。

カード	説明
要注意	次のような、即時の対応が必要な要求の概要。 アクティブ要求 すべての未解決の要求。 未アサインの要求 まだアサインされていない要求。 ドリルダウン機能があります。個々のセクターをクリックすると、リストビューに移動し、より豊富なコンテキスト情報を取得できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カード	説明
要求の概要	すべてのアクティブな要求を、ステータス、優先度、および事業部門別にグラフィックで示したもの。 ステータス別 アクティブな要求の数を、それらのワークフロー状況別に表示します。たとえば、コンプライアンスケースマネージャーは、対応中ステータスのアクティブなケースの数を表示できます。 優先度別 要求レベルで定義された優先度別に、アクティブな要求の数を表示します。 事業部門別 事業部門別に分類されたアクティブな要求の数を表示します。 ドリルダウン機能があります。個々のセクターをクリックすると、リストビューに移動し、より豊富なコンテキスト情報を取得できます。
トレンド	過去 12 か月間にオープン、承認、却下、およびキャンセルされたコンプライアンス要求の数、およびサブタイプ別の要求の数。 ドリルダウン機能があります。個々のセクターをクリックすると、リストビューに移動し、より豊富なコンテキスト情報を取得できます。

自動翻訳

[自分のタスク] セクション

[自分のタスク] セクションは、ケースと要求の個々のセクションで構成されています。

[ケース] セクションでは、自分にアサインされたすべてのケースとタスクにアクセスできます。

オープンケース
: 自分にアサインされているすべてのケース。

期限切れのケース
: 自分にアサインされているすべての期限切れのケース。

ケースタスク
: 作業するために自分にアサインされているすべてのケースタスク。

レビューするケースタスク
: レビューが必要な処理待ちのケースタスク。たとえば、ケースアナリストがケースタスクを作成し、それを作業するためにケースタスク所有者にアサインしたとします。ケースタスク所有者がケースタスクを完了し、レビューのためにアナリストに送信しました。次に、アナリストがこれらのケースタスクをレビューして完了する必要があります。

[要求] セクションでは、自分にアサインされたすべての要求にアクセスできます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

未解決の要求
: 自分にアサインされているすべての要求。

承認
: 自分の承認待ちのすべての要求。

[コンプライアンスケースの概要 (Compliance Case Overview)] 関連リストを使用する

[コンプライアンスケースの概要 (Compliance Case Overview)] 関連リストには、ケースに関する詳細が表示されます。たとえば、GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションで、ケースに関連する説明、ステータス、スケジュールとマイルストーン、ケースタスク、および問題を表示できます。

[コンプライアンスケース管理 概要] 関連リストには、次のセクションが含まれています。

- 説明
- 状況
- ケーススケジュールとマイルストーン
- ケースタスク概要
- 追跡中
- 添付ファイル

[説明] セクション

[説明] セクションには、コンプライアンスケースの作成時に入力できる詳細情報が含まれています。たとえば、目的、実行するアクション、タイムライン、適用可能なルールと規制、および関連する証拠またはドキュメントを追加できます。このセクションを使用すると、ケースのコンテキストを理解し、解決に必要な手順を実行できます。

[ステータス] セクション

[状況] セクションには、コンプライアンスケースのワークフロー状況が含まれています。たとえば、このセクションには、新規、トリアージ、調査、解決、ケースの事後レビュー、クローズなど、コンプライアンスケースのさまざまなステージが表示されます。これらの状況によって、ケースの状況が決まります。コンプライアンスケースアドミニストレーターは、GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションでこれらの状況を設定できます。詳細については、「コンプライアンス状況モデルの作成」を参照してください。

[ケーススケジュールとマイルストーン] セクション

[ケーススケジュールとマイルストーン] セクションには、タイムライン範囲のケースライフサイクル中のすべてのマイルストーンまたはイベントの詳細が含まれています。このセクションには、ケースがレポート、発生、検出、クローズされた日付など、主要なイベントの概要が表示されます。[イベントを表示] オプションを選択した後、イベントをフィルターして、タイムライン範囲に次のオプションを表示することもできます。

ケース作成日
: ケースが作成された日付。

検出日
: ケースが検出された日付。

発生日
: ケースが発生した日付。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

マイルストーン

調査と修正のマイルストーンに関連する日付。

違反

違反分析に関連する日付。

今日

タイムライン上の現在の日付。

ケースクローズ

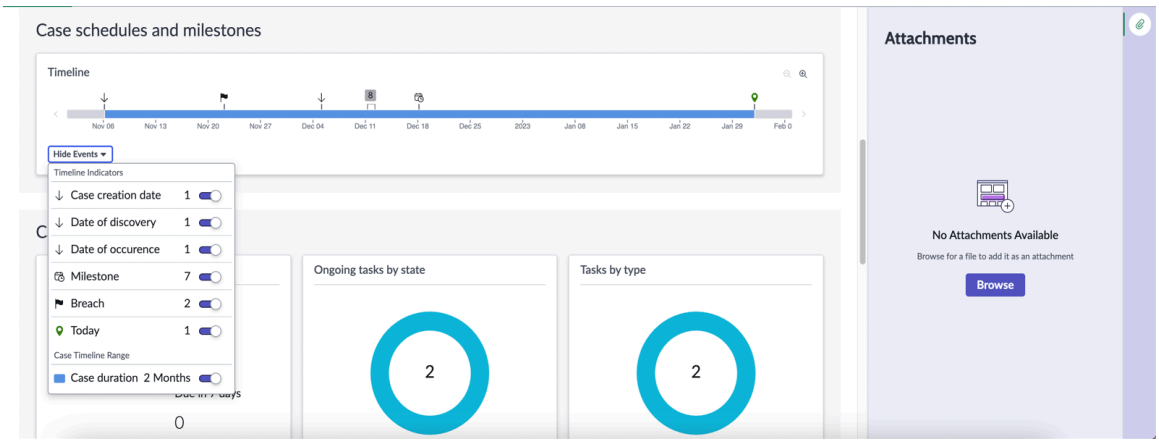
ケースがクローズされた日付、またはケースクローズのサービスレベルアグリーメント (SLA) が満たされた日付。

ケース期間

ケースが作成された日付から最後のマイルストーンの日付まで。

次の例は、[イベントを表示] オプションを選択した後に使用できるオプションを示しています。

ケーススケジュールとマイルストーン



注:
[イベントを表示] オプションを選択した後に表示されるオプションは、ケースで利用可能なイベントとマイルストーンに限定されます。

[ケースタスク概要] セクション

[ケースタスク概要] セクションには、次のサブセクションが含まれています。

タスク

ケースタスクの合計数、期限切れのケースタスク、および 7 日以内に期限切れになるケースタスクを表示します。

ステータス別の進行中のタスク

状況別のアクティブなケースタスクの数。

タイプ別のタスク

ケースタイプ別のアクティブなケースタスクの数。

[追跡中] セクション

[追跡中] セクションには、次の情報が表示されます。

- コンプライアンスケースのオープンな問題の数
- 期限切れの問題の数
- 今後 7 日間で期限切れになる問題の数

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

[添付ファイル] セクション

[添付ファイル] セクションでは、ファイルを添付ファイルとしてケースにアップロードできます。このセクションでは、追加されたすべての添付ファイルを検索できます。

でのスマートアセスメント コンプライアンスケース管理

スマートアセスメントエンジンを使用して、コンプライアンスケースアクションタスクでスマートアセスメントを実行します。

スマートアセスメントエンジン機能を使用すると、コンプライアンスケースチームがコンプライアンスケースのアセスメントを開始できます。これらのアセスメントは、コンプライアンスケースアナリストがコンプライアンスケースの調査中に影響を受ける領域と関連領域を特定するのに役立ちます。また、組織内の従業員が必要な規制を遵守しているかどうかを判断するのにも役立ちます。アナリストは、ステークホルダーから観察事象と証拠を収集し、解決策に到達できます。この スマートアセスメントエンジン には多くのメリットがあり、その一部を以下に示します。

- 繰り返しタスクの自動化
- アセスメントテンプレートの構成
- 進行状況インジケーターを表示し、応答を自動的に保存します
- アセスメント回答者の特定
- アセスメントに回答する期日を定義します

アセスメントワークスペースでは、コンプライアンスケース管理で利用可能なテンプレートを表示できます。アセスメントテンプレートカテゴリが [コンプライアンスケース管理] に設定され、アセスメントターゲットが [アクションタスク] および [コンプライアンスケース] に設定されていることを確認する必要があります。公開されているアセスメントテンプレートのみが、アセスメントの実行に使用できます。財務侵害アセスメントなど、さまざまなタイプのアセスメント用に設計されたテンプレートをカスタマイズできるため、コンプライアンスチームは、より焦点を絞ったターゲットを絞った違反分析を実施できます。

スマートアセスメントエンジン の詳細については、「スマートアセスメントエンジン の探索」を参照してください。

でスマートアセスメントを有効にするための前提条件 コンプライアンスケース管理

スマートアセスメントスコープ対象のアプリケーション

ベースシステム は、コンプライアンスケース管理 プラグインがインストールされると、GRC スマートアセスメントテンプレートをユーザーに出荷します。ただし、以下のスコープ対象のアプリケーションが必要です。

1. Smart Assessment core (sn_smart_asmt)
2. スマートアセスメント移行ツール (sn_smart_asmt_mig)。詳細については、「従来のメトリクスタイプをアセスメントテンプレートに移行する」を参照してください。
3. スマートアセスメント接続済み (sn_smart_asmt_conn)
4. スマートアセスメントデザイナー (sn_smart_asmt_desg) 詳細については、「テンプレートデザイナーの使用」を参照してください。

スマートアセスメントシステムプロパティを有効にする

アドミニストレーターは、コンプライアンスケースマネージャーがスマートアセスメントメソッドを使用してアクションタスクを評価するために、*sn_grc_case_mgmt.enable_smart_assessments* システムプロパティを **true** に設定します。

テンプレートを移行する

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スマートアセスメントエンジンで新しいテンプレートを作成します。詳細については、「従来のアセスメントメトリクスタイプからアセスメントテンプレートを作成する」を参照してください。

スマートアセスメントを開始するには、コンプライアンスケースアドミニストレーター (sn_comp_case.compliance_case_admin) がアセスメントアンケートを構成します。アクションタスクが [ドラフト] ステータスから [アサイン 済み] ステータスに移行すると、アセスメントが送信されます。アセスメント結果に基づいて、適切な是正措置が特定され、実施されます。スマートアセスメントエンジン の探索でアンケートを構成する方法の詳細については、「スマートアセスメントエンジンの構成」を参照してください。アクションタスクでスマートアセスメントを実行する方法については、「 アクションタスクでスマートアセスメントを実行する」を参照してください。

関連情報

アクションタスクでスマートアセスメントを実行する

コンプライアンスケースの 360° Relationship Visualization

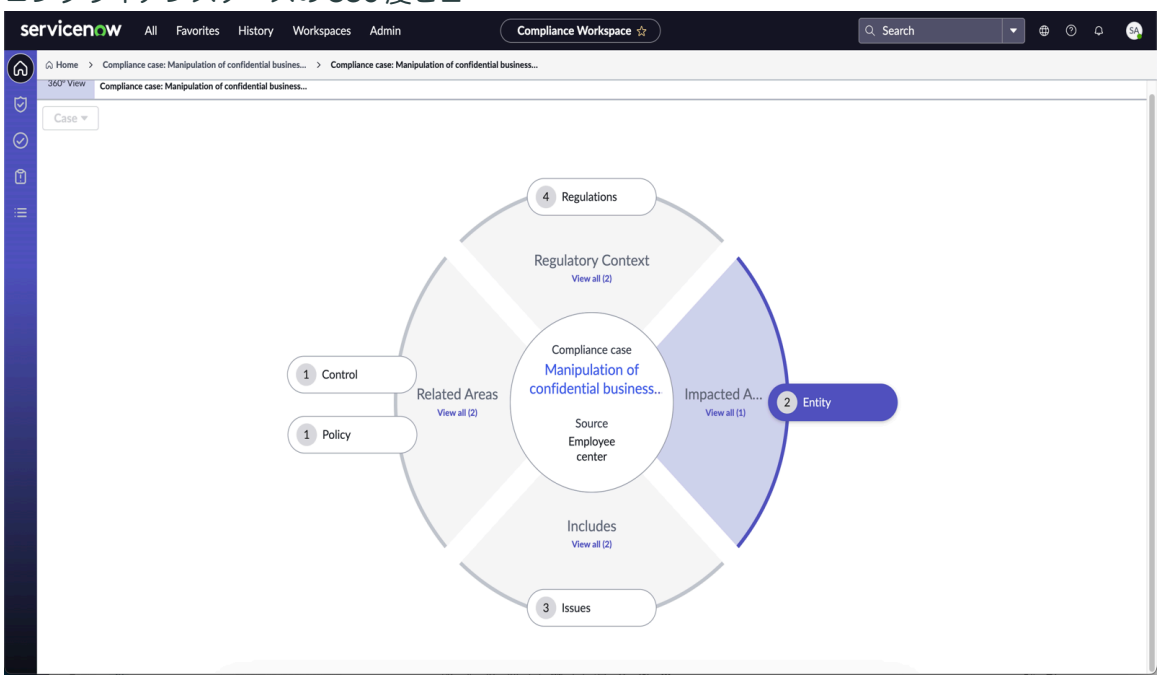
360 度コンプライアンスケースビューを使用して、コンプライアンスケースとそれに関連するすべてのレコードの関係を独自の可視化で探索します。この機能を使用するには、コンプライアンスケース管理 を 360˚ Relationship Visualization アプリケーションと統合する必要があります。

コンプライアンスケースの 360 度ビュー

コンプライアンスケースレコードから 360 度ビューを起動すると、選択したレコードとそれに関連するすべてのレコードとの関係を可視化できます。この可視化により、これらのオブジェクトがコンプライアンスケース内でどのようにやり取りし、相互に関連しているかについての貴重なインサイトが得られます。表示されたレコードに対してアクションを実行できます。たとえば、より深く掘り下げて詳細を調べたり、レコードを作成したりすることができます。

次の例は、コンプライアンスケースの 360 度ビューを示しています。

コンプライアンスケースの 360 度ビュー



360 度ビューを探索する方法とビューを起動する方法については、「360 度ビューを探索する」を参照してください。

360˚ Relationship Visualization を使用できるユーザー、そのロールおよび責任の詳細については、「360˚ Relationship Visualization」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

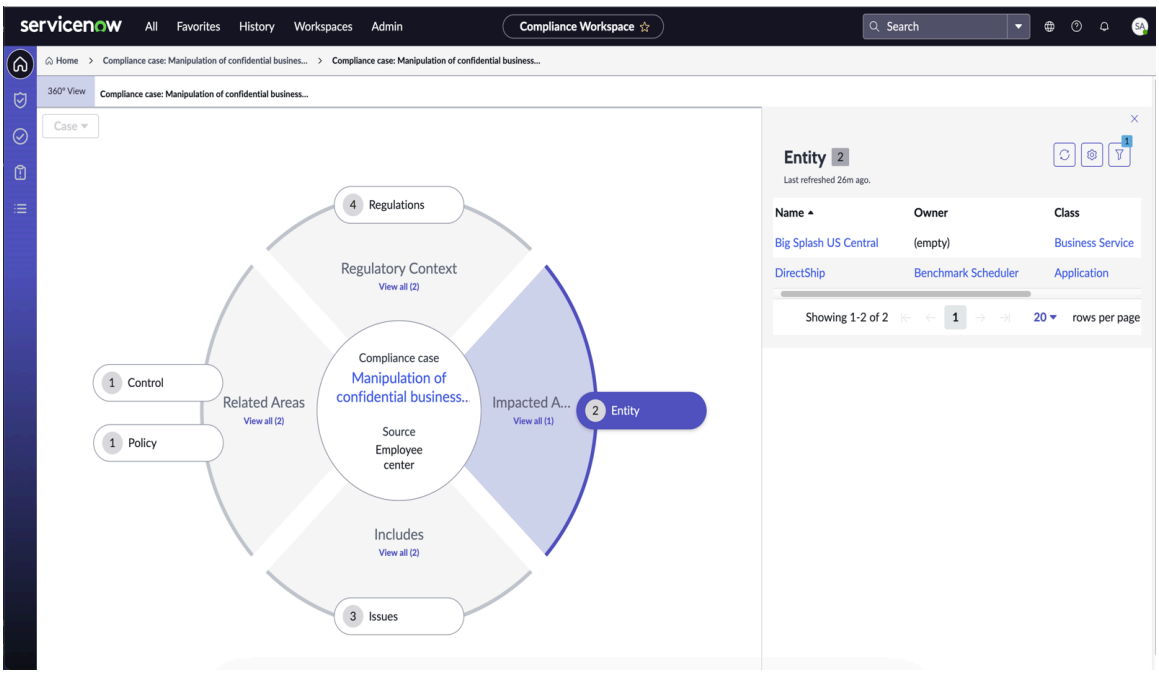
コンプライアンスケースと統合されたコンプライアンスインベントリの 360 度ビュー

コンプライアンスケースレコードの 360 度ビューでは、ケースに関連付けられているさまざまなレコードを総合的に、かつ詳細に見ることができます。関連するオブジェクトは、エンティティ、信頼できるソースコンテンツ、規制、ケースタスク、問題、コントロール、およびポリシーです。たとえば、[エンティティ] オプションを選択すると、コンプライアンスケースに関連するエンティティのリストを探索できます。コンプライアンスケースが発生したソースを見ることもできます。

360 度ビューを使用すると、コンプライアンスケースが発生したソースに関する情報を見ることができます。

次の例は、コンプライアンスケースにリンクされているエンティティを示しています。

コンプライアンスケースにリンクされたエンティティ



コンプライアンスケース管理の構成

コンプライアンスケース管理 アプリケーションを構成して、コンプライアンスケースまたはコンプライアンス要求をレポート、調査、分析、解決できます。

GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションを構成するには、ここに示すタスクの順序に従います。これらのタスクは、コンプライアンスケースおよびコンプライアンス要求を効果的に管理するために役立ちます。

コンプライアンスケース管理をダウンロード

インスタンスで コンプライアンスケース管理 アプリケーションを実行する前に、ServiceNow Store からダウンロードする必要があります。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
ServiceNow Store アプリケーションを使用すると、コア製品とアプリケーションをダウンロードできます。製品には、グループとしてライセンスされる 1 つ以上のアプリケーションが含まれています。たとえば、GRC アプリケーションは製品です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. ServiceNow Store アプリケーションで、アプリケーションとその依存アプリケーションに対するエンタイトルメント (またはライセンス) があることを確認する必要があります。

   注:
   このプロセスは、本番インスタンスにダウンロードされたアプリケーションにのみ適用されます。非本番インスタンスまたは開発インスタンスにアプリケーションをダウンロードする場合は、エンタイトルメントを取得する必要はありません。に進む のアクティブ化 ServiceNow Store application .

2. アプリケーションを有効化し、インスタンスで実行します。

コンプライアンスケース管理 のインストール

admin ロールを持っている場合は、GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーション (sn_comp_case) をインストールできます。デモデータや関連する ServiceNow Store アプリケーションおよびプラグインがまだインストールされていなくても、このアプリケーションに含まれています。

始める前に
必要なロール：admin

アプリケーションとその関連するすべての ServiceNow Store アプリケーションに有効な ServiceNow エンタイトルメントがあることを確認してください。詳細については、次を参照してください。 のエンタイトルメントを取得 ServiceNow 製品またはアプリケーション .

このタスクについて
コンプライアンスケース管理 とともに次のアイテムがインストールされます。

- プラグイン
- ストアアプリケーション
- ロール
- スケジュール済みジョブ
- テーブル

詳細については、「コンプライアンスケース管理とともにインストールされるテーブル」と「コンプライアンスケース管理とともにインストールされるロール」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. フィルター基準と検索バーを使用して、コンプライアンスケース管理 アプリケーション (sn_comp_case) を検索します。

   名前または ID でアプリケーションを検索できます。アプリケーションが見つからない場合は、ServiceNow Store に要求する必要が生じる場合があります。

   [インストール] ボタンの横のリストに、利用可能なバージョンが表示されます。
3. リストからバージョンを選択し、[インストール] を選択します。

   表示される [インストールの詳細を確認] ダイアログボックスに、アプリケーションとともにインストールされている依存関係が一覧表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. プロンプトが表示された場合は、ServiceNow Store へのリンクに従って、依存関係のエンタイトルメントを取得します。
5. オプション: 利用できるデモデータをインストールするには、[デモデータのロード] チェックボックスをオンにします。
   デモデータは、一般的なユースケース向けのアプリケーション機能を説明するサンプルレコードです。開発またはテストインスタンスで初めてアプリケーションをインストールする場合は、デモデータを読み込みます。
6. **[Install** (インストール)] を選択します。

ケースタイプを作成する

GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションでケースタイプを作成し、発生のタイプ別にコンプライアンスケースを分類します。たとえば、財務ケース、倫理規範、HR ケースなどのケースタイプを作成できます。

始める前に

必要なロール：sn_compliance_case_admin

このタスクについて

ケースタイプを設定し、発生のタイプ別にコンプライアンスケースを分類できます。コンプライアンスアナリストとコンプライアンスマネージャーは、ケースタイプを定義した後に、ケースフォームでケースタイプを選択できます。ケースタイプは、コンプライアンスケースのワークフロー状況と移行条件を指定する状況モデルにマッピングされます。ワークフローの状況と移行を定義するには、「コンプライアンス状況モデルの作成」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > コンプライアンスケース管理 > ケースタイプ.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

   ケースタイプフォームのフィールド値の説明については、「ケースタイプフォーム」を参照してください。

4. フォームのコンテキストメニューを開いて [保存] を選択します。
   [ケースサブタイプ (Case subtypes)] 関連リストが表示されます。
5. [ケースサブタイプ (Case subtypes)] 関連リストで [新規] を選択し、ケースサブタイプを定義します。
6. フォームのフィールドに入力します。

ケースサブタイプフォーム

フィールド	説明
ラベル	表示されるケースサブタイプのラベル。
名前	ケースサブタイプの名前。例：利益相反
親	親ケースタイプ。このフィールドは、自動的に親のケースタイプに設定されます。
アクティブ	ケースサブタイプをアクティブまたは非アクティブとして選択するオプション。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
説明	ケースサブタイプの目的の説明。この説明は、アドミニストレーターがケースサブタイプを理解するためのものです。

7. [送信] を選択します。
8. オプション: デフォルトの表示ルールを使用する代わりに表示ルールを作成するには、「表示ルールを作成」を参照してください。
9. オプション: デフォルトのアサインルールを使用する代わりにアサインルールを作成するには、「アサインルールの作成」を参照してください。

ケースタイプフォーム

コンプライアンスケース管理 アプリケーションでケースタイプフォームを使用して、タイプ別にコンプライアンスケースを分類します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

ケースタイプフォーム

フィールド	説明
ラベル	表示されるケースタイプのラベル。
名前	ケースタイプの名前。例：倫理規範。
ケースカテゴリ	ケースタイプのカテゴリ。このフィールドは、コンプライアンスケース **[sn_comp_case_compliance_case]** に自動的に設定されます。
アクティブ	ケースタイプをアクティブまたは非アクティブとして選択するオプション。
説明	このケースタイプの説明。この説明は、アドミニストレーターがケースサブタイプを理解するためのものです。
状況モデル	
状況モデル	ケースタイプのワークフロー状況。詳細については、「コンプライアンス状況モデルの作成」を参照してください。
アセスメント構成	
アセスメントテンプレート	ケースタイプのアセスメントテンプレート。*sn_grc_case_mgmt.enable_smart_assessments* システムプロパティが **true** に設定されている場合は、アクションタスクでスマートアセスメントを実行するために使用するスマートアセスメントテンプレートを指定できます。詳細については、「アセスメントテンプレートを作成する」を参照してください。関連情報
テンプレート構成	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ケースタイプフォーム (続く)

フィールド	説明
ドキュメントテンプレート	このケースタイプに関連付けられたコンプライアンスケースのポータブルドキュメント形式 (PDF) レポートを生成するテンプレート。

表示ルールを作成

GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションのワークスペースとデフォルトビューの表示ルールを定義します。ルールを定義することで、コンプライアンスケースや要求フォームの表示方法を制御できます。

始める前に

必要なロール：sn_compliance_case_admin

手順

1. 移動先 すべて > コンプライアンスケース管理 > ケースタイプ.
2. リストからケースタイプを開きます。
3. ケースタイプフォームで [表示ルール] を選択します。
4. [新規] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。
   表示ルールフォームのフィールド値の説明については、「表示ルールフォーム」を参照してください。
6. [送信] を選択します。

表示ルールフォーム

表示ルールフォームを使用して、GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションのワークスペースとデフォルトの表示ルールを定義します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

表示ルールフォーム

フィールド	説明
名前	ルールを識別する名前。
テーブル	この表示ルールが適用されるテーブル。このフィールドは、コンプライアンスケース **[sn_comp_case_compliance_case]** に自動的に設定されます。
表示	ルールを作成している表示オプション。 • デフォルトビュー：クラシック環境でフォームビューを定義します。 • ワークスペース：ワークスペースでフォームビューを定義します。
制限されたエクスペリエンス	この表示ルールを 1 つまたは複数のワークスペースに対して有効にするオプション。
アプリケーション	この表示ルールが適用されるアプリケーションの名前。このフィールドは自動的に GRC：コンプライアンスケース管理に設定されます。
実行順序	この表示ルールが実行される順序。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

表示ルールフォーム (続く)

フィールド	説明
アクティブ	表示ルールを有効にするオプション。
条件	
ロール	この表示ルールが適用されるロール。
条件	表示ルールの条件を設定する条件ビルダー。
フォームの設定	
詳細および UI アクションを非表示	関連リストの [詳細] タブを非表示にするオプション。
ジャーナル入力フィールドを非表示	ワークスペースフォームのジャーナルフィールドを無効にするオプション。
セクションのナビゲーションを非表示	ワークスペースフォームでジャンプ先セクションのナビゲーションを無効にするオプション。
セクションの折りたたみを無効にする	デフォルトのフォームセクションの折りたたみを無効にするオプション。
フォームタブ	
デフォルトタブの順序	ワークスペースフォームでデフォルトのタブの順序を選択するオプション。
タブの順序	ワークスペースフォームでタブの順序を選択するオプション。このフィールドは、[デフォルトタブの順序] オプションを選択解除した場合にのみ表示されます。
デフォルトタブへのフォーカス	このルールで指定されたテーブルで、レコードを開いた時点でフォーカスさせるアイテム。

自動翻訳

アサインルールの作成

コンプライアンスケース管理 アプリケーションを使用して、アサインルールを作成し、コンプライアンスケースタイプまたは要求タイプに適用します。アサインルールを使用することで、コンプライアンスケースを処理する適切なユーザーまたはグループを決定できます。

始める前に

必要なロール：sn_compliance_case_admin

このタスクについて

アサインルールを作成し、事前定義の条件に基づいてユーザーやグループにケースまたは要求を自動的にアサインすることができます。

手順

1. ケースタイプのアサインルールを定義するには、次に移動します: すべて > コンプライアンスケース管理 > ケースタイプ.
2. 要求タイプのアサインルールを定義するには、次に移動します: すべて > コンプライアンスケース管理 > 要求タイプ.
3. リストからケースタイプまたは要求タイプを開きます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. ケースタイプまたは要求タイプのフォームで、[アサインルール] を選択します。
5. [新規] を選択します。
6. フォームのフィールドに入力します。
   アサインルールフォームのフィールド値の説明については、「アサインルールフォーム」を参照してください。
7. [送信] を選択します。

アサインルールフォーム

アサインルールフォームを使用して、コンプライアンスケース管理 アプリケーションでケースアサインルールを定義します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

アサインルールフォーム

フィールド	説明
名前	アサインルールの名前。
アプリケーション	このアサインルールが適用されるアプリケーションの名前。このフィールドは自動的に GRC：コンプライアンスケース管理に設定されます。
アクティブ	アサインルールを有効にするオプション。
適用先	
テーブル	このアサインルールが適用されるテーブル。このフィールドは、コンプライアンスケース **[sn_comp_case_compliance_case]** に自動的に設定されます。
条件	アサインルールの条件を設定する条件ビルダー。
アサイン先	
ユーザー	ケースまたは要求がアサインされるユーザー。
グループ	ケースまたは要求がアサインされるグループ。
スクリプト	
スクリプト	高度なアサインルールを定義するスクリプト。

要求タイプの作成

GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションで要求タイプを作成し、コンプライアンス要求を分類および管理します。要求タイプを作成した後、コンプライアンスアナリストとマネージャーは要求フォームで必要な要求タイプを選択できます。

始める前に

必要なロール：sn_compliance_case_admin

手順

1. 移動先 すべて > コンプライアンスケース管理 > 要求タイプ.
2. **[New** (新規)] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

3. フォームのフィールドに入力します。

   要求タイプフォームのフィールド値の説明については、「要求タイプフォーム」を参照してください。

4. フォームのコンテキストメニューを開いて [保存] を選択します。
   [サブタイプ] 関連リストが表示されます。
5. [サブタイプ] 関連リストで [新規] を選択し、要求サブタイプを定義します。
6. フォームのフィールドに入力します。

サブタイプフォーム

フィールド	説明
ラベル	サブタイプについて表示されるラベル。
名前	サブタイプの名前。たとえば、「ポリシーの更新」など。
親	親要求のタイプ。このフィールドは、自動的に親の要求タイプに設定されます。
アクティブ	サブタイプをアクティブまたは非アクティブとして選択するオプション。
ケースカテゴリ	サブタイプのカテゴリ。このフィールドは、コンプライアンスケース **[sn_comp_case_compliance_request]** に自動的に設定されます。
説明	サブタイプの目的の説明。この説明は、アドミニストレーターが要求サブタイプを理解するためのものです。

7. [送信] を選択します。
8. オプション: デフォルトのルールを使用する代わりに表示ルールを作成するには、「表示ルールを作成」を参照してください。
9. オプション: デフォルトのアサインルールを使用する代わりにアサインルールを作成するには、「アサインルールの作成」を参照してください。

要求タイプフォーム

コンプライアンスケース管理 アプリケーションで要求タイプフォームを使用して、タイプ別にコンプライアンス要求を分類します。

次の表で、フィールド値を一覧形式で説明します。

要求タイプフォーム

フィールド	説明
ラベル	要求タイプに表示されるラベル。
名前	要求タイプの名前。例：ポリシーの更新/照会。
カテゴリ	要求タイプのカテゴリ。このフィールドは、コンプライアンスケース

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

要求タイプフォーム (続く)

フィールド	説明
	[sn_comp_case_compliance_request] に自動的に設定されます。
アクティブ	要求タイプをアクティブまたは非アクティブとして選択するオプション。
説明	この要求タイプの説明。この説明は、アドミニストレーターが要求タイプを理解するためのものです。
状況モデル	
状況モデル	要求タイプのワークフロー状況。詳細については、「コンプライアンス状況モデルの作成」を参照してください。
テンプレート構成	
ドキュメントテンプレート	この要求タイプに関連付けられたコンプライアンス要求の PDF (Portable Document Format) レポートを生成するテンプレート。

コンプライアンス状況モデルの作成

状況モデルを作成して、コンプライアンスケースタイプと要求タイプのワークフロー状況と移行条件を定義します。

始める前に

必要なロール：sn_compliance_case_admin

このタスクについて

状況モデルは、レコードのワークフローを説明する状況のリストです。状況モデルを使用すると、特定のケースタイプや要求タイプの状況移行を定義できます。ケースタイプまたは要求タイプは、状況モデルで定義されたワークフロー状況と移行条件に従います。

手順

1. 移動先 すべて > コンプライアンスケース管理 > ステータスモデル.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

   GRC 状況モデルフォームのフィールド値の説明については、「GRC 状況モデルフォーム」を参照してください。

4. [送信] を選択します。

GRC 状況モデルフォーム

GRC 状況モデルフォームを使用して、コンプライアンスケース管理 アプリケーションのワークフロー状況と移行条件を定義します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC 状況モデルフォーム

フィールド	説明
名前	状況モデルの名前。例：違反ケース。
アプリケーション	この状況モデルが適用されるアプリケーションの名前。このフィールドは自動的に GRC：コンプライアンスケース管理に設定されます。
アクティブ	状況モデルをアクティブまたは非アクティブとして選択するオプション。
テーブル名	ビジネス構成に状況モデルを適用する必要があるアプリケーションのリスト。このフィールドは、コンプライアンスケース **[sn_comp_case_compliance_case]** に自動的に設定されます。
ステータスモデル	この状況モデルが適用されるテーブル内の状況モデル値を保持するフィールド。これはテーブル名に依存し、対応する状況モデル値のリストを表示します。
ステータスフィールド	この状況モデルが適用されるテーブル内の状況値を保持するフィールド。テーブル名に依存します。このフィールドは自動的に [ステータス] に設定されます。この値は構成に合わせて変更できます。
添付ファイルを管理	このアイコンを選択し、添付する必要があるファイルを選択します。

コンプライアンスケースまたは要求のワークフロー状況を作成する

コンプライアンスケース管理 アプリケーションでコンプライアンスケースまたは要求のライフサイクルを定義するための、ケースまたは要求のワークフロー状況を作成します。GRC 状況モデルは、テーブルの一部として作成される状況と状況移行を構成するためのものです。

始める前に

必要なロール：sn_compliance_case_admin

このタスクについて

コンプライアンスケースの新しいステータスを作成するには、アドミンがコンプライアンスケーステーブルの [ステータス] フィールドに新しいステータスを作成する必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > コンプライアンスケース管理 > ステータスモデル.
2. ワークフローを追加する状況モデルを開きます。
3. [GRC ワークフローステータス] 関連リストで [新規] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

   [ワークフロー状況] フォームのフィールド値の説明については、「ワークフロー状況フォーム」を参照してください。

5. [送信] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフロー状況フォーム

ワークフロー状況フォームを使用して、GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションのワークフロー状況を定義します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

ワークフロー状況フォーム

フィールド	説明
状況	該当するステータスを選択します。 コンプライアンスケースのワークフロー状況の名前： • 新規 • トリアージ • 調査 • 解決 • ケースの事後レビュー • クローズ • キャンセル コンプライアンス要求のワークフロー状況の名前： • 新規 • トリアージ • 処理中 • キャンセル • 承認待ち • 承認済み • 却下 • クローズ済み
アプリケーション	この表示ルールが適用されるアプリケーションの名前。このフィールドは自動的に GRC：コンプライアンスケース管理に設定されます。更新できません。
モデル	このワークフロー状況を使用する状況モデル。このフィールドは自動的に状況モデル名に設定されます。更新できません。
表示タイプ	ワークフロー状況の表示タイプオプション：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフロー状況フォーム (続く)

フィールド	説明
	• ノードとして：親ステータスとして選択するオプション。 • サブレベルとして **(As sub-level)**：親ステータスのサブステータスとして選択するオプション。
オプション	ステータスをオプションとして選択するオプション。このフィールドは、[表示タイプ] で [ノードとして] を選択した場合のみ表示されます。
ステッパーラベル	ステータスのステッパーコンポーネントに表示されるラベル。このフィールドは、[表示タイプ] で [サブレベルとして **(As sub-level)]** を選択した場合のみ表示されます。ラベルは [ステータス] セクションではなく [概要] ページで更新されます。
親モデルのステータス	サブレベルステータスの親ステータス。このフィールドは、[表示タイプ] で [サブレベルとして **(As sub-level)]** を選択した場合のみ表示されます。

モデル状況移行の定義

GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションを使用して、移行条件を定義し、コンプライアンスケースがさまざまなワークフロー状況を遷移する方法を制御します。

始める前に

必要なロール：sn_compliance_case_admin

このタスクについて

状況移行は、テーブルに定義された各ステータスを開始または終了するための条件のリストです。状況移行テーブルで、条件ビルダーを使用して、各ステータスの開始または終了に必要な条件のリストを作成します。

手順

1. 移動先 すべて > コンプライアンスケース管理 > ステータスモデル.
2. モデル状況移行を定義する状況モデルを開きます。
3. モデル状況移行を定義するには、必要なワークフロー状況を選択します。
4. [モデル状況移行] コンテキストメニューで、[新規] を選択します。
5. 選択したステータスから移行するステータスを選択します。
6. オプション: ワークフロー状況の自動移行を有効にするには、[自動移行] オプションを選択します。
7. フォームのコンテキストメニューを開いて [保存] を選択します。
   [GRC モデル状況移行条件] 関連リストが表示されます。
8. [GRC モデル状況移行条件] コンテキストメニューで、[新規] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

9. フォームのフィールドに入力します。

   GRC モデル状況移行フォームのフィールド値の説明については、「GRC モデル状況移行条件フォーム」を参照してください。

10. [送信] を選択します。

GRC モデル状況移行条件フォーム

GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションで GRC モデル状況移行条件フォームを使用して、移行条件を定義し、コンプライアンスケースや要求がさまざまなワークフロー状況を遷移する方法を制御します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

GRC モデル状況移行条件

フィールド	説明
名前	条件の名前。
状況移行	状況の移行。このフィールドは自動的にモデル状況移行の値に設定されます。
アプリケーション	この条件が適用されるアプリケーションの名前。このフィールドは自動的に GRC：コンプライアンスケース管理に設定されます。
アクティブ	モデル状況移行条件を有効にするオプション。
説明	この状況移行の説明。たとえば、新規状況の [説明] フィールドに、「新しい状況は分析状況にのみ移行可能」などと入力できます。
エラーメッセージ	条件が満たされない場合に表示されるエラーメッセージ。
必要	移行条件： • タスクは承認を実施済み：関連するタスクに受入済みまたは却下済みの承認がある場合、条件を満たします。 • タスクは承認されました：タスクが承認されたときに、条件を満たします。 • タスクが却下される：タスクが却下されたときに、条件を満たします。 • 移行条件：この状況移行の条件。 • 移行スクリプト：この状況移行の高度な条件。
条件	この状況移行に定義する条件。このフィールドは、[必須] から [移行条件] が選択されている場合にのみ表示されます。
スクリプト	この状況移行に定義するスクリプト。このフィールドは、[必要] から [移行スクリプト] が選択されている場合にのみ表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントテンプレートを作成する

アセスメントテンプレートを作成し、査定人またはレビュー担当者からの応答を要求します。このテンプレートは、GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションのアセスメントメトリクスタイプフォームを使用して作成できます。

始める前に
必要なロール：sn_compliance_case_admin

このタスクについて
デフォルトのテンプレートを使用する代わりにアンケートテンプレートを作成して、コンプライアンスケースを評価できます。アセスメントテンプレートを設定すると、そのケースタイプのアクションタスクセクションで使用できるようになります。

手順

1. 移動先 すべて > コンプライアンスケース管理 > アセスメントテンプレート.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。
   アセスメントメトリクスタイプフォームのフィールド値の説明については、「アセスメントメトリクスタイプフォーム」を参照してください。
4. [送信] を選択します。

アセスメントメトリクスタイプフォーム

GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションでアセスメントメトリクスタイプフォームを使用して、アセスメントアンケートテンプレートを作成します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

アセスメントメトリクスタイプフォーム

フィールド	説明
名前	アセスメントテンプレートの名前。
アセスメント期間	アセスメントが生成された時点から、アセスメントを完了するまでに許容される時間。
テーブル	レコードを含むテーブル。このフィールドは、自動的に **GRC** コアケース **[sn_grc_case_mgmt_core_case]**に設定されます。
状況	アセスメントの状態。このフィールドは自動的に [ドラフト] に設定されます。
ロール	このテンプレートに関連付けられた結果とアクセスレコードを表示できるロール。
説明	アセスメントテンプレートの目的と作成理由。
前書き	アセスメントに回答するビジネスユーザー向けのガイダンステキスト。

コンプライアンスケース管理 の使用

GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションを使用して、コンプライアンスケースをレポートし、ケースのライフサイクルを管理します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ネクストエクスペリエンスディスカッションとチャットコラボレーション

コンプライアンスケースで、オプションの中から [ディスカッション] を選択します。ネクストエクスペリエンスチャットコラボレーションとディスカッションを使用して、仮想エージェントとコラボレーションします。

- ネクストエクスペリエンスチャットとディスカッションを使用して、コミュニケーションを簡素化し、コンプライアンスケース/要求に取り組んでいる分散されたリスクチームとコンプライアンスチーム間のコラボレーションを強化します。
- ディスカッションの予備情報とコンテキストを入力します。ディスカッションで支援および協力できる該当分野のエキスパートを特定します。マネージャーは、ドッキングされたウィンドウ機能を使用して、同時に複数のディスカッションにアクセスできます。
- ディスカッションで支援および協力できる該当分野のエキスパートを特定します。
- マネージャーは、ドッキングされたウィンドウ機能を使用して、同時に複数のディスカッションにアクセスできます。

GRC：コンプライアンスケース管理 でコンプライアンスケースをレポートする

GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションを使用して、コンプライアンスチームが注意する必要があるコンプライアンスケースまたはイベントをレポートできます。

ビジネスユーザーは、次のいずれかのオプションを使用してケースをレポートできます。

- 従業員センター からコンプライアンスケースをレポートする
- コンプライアンスワークスペース でコンプライアンスケースを作成する

従業員センター からコンプライアンスケースをレポートする

従業員センター アプリケーションを使用して、組織のポリシーまたはガイドラインの違反をレポートします。ケースをレポートすることで、会社の財務、評判、および成長に影響を与える可能性がある不適切な規制アクションを削減し、回避することができます。

始める前に

必要なロール：sn_grc_emp_user.grc_employee or sn_comp_case.compliance_case_business_user

手順

1. 移動先 すべて > セルフサービス > 従業員センター.
2. 従業員センター ランディングページで、[リスクとコンプライアンス] タブを選択します。
3. [リスクとコンプライアンスを参照 (Browse Risk & Compliance)] セクションで、[コンプライアンスケースをレポート **(Report a compliance case)]** を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

   コンプライアンスケースをレポートフォームのフィールド値の説明については、「コンプライアンスケースをレポートフォーム」を参照してください。

5. オプション: コンプライアンスケースをレポートフォームで、[添付ファイルを 追加] を選択して補足資料または証拠を添付します。
6. [送信] を選択します。

コンプライアンスケースをレポートフォーム

従業員センター でコンプライアンスケースをレポートフォームを使用して、コンプライアンスケースをレポートします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

コンプライアンスケースをレポートフォーム

フィールド	説明
名前	ケースの名前。例：漏洩した訴訟の判定。
説明	ケースの簡単な説明。
ケースタイプ	レポートされたケースのタイプ。このフィールドは自動的に [コンプライアンスケース] に設定されます。
ケースサブタイプ	レポートされたケースのサブタイプ。例： データ盗難/紛失。
発生日	ケースが発生した日付。たとえば、ケースは 2024 年 2 月 18 日に発生した可能性があります。
検出日	ケースが検出された日付。たとえば、ケースは 2024 年 2 月 18 日に発生しても、2024 年 3 月 12 日に検出される場合があります。
ケース発生元	
影響を受ける事業部門	報告されたケースまたはイベントの影響を受ける事業部門。
影響を受ける部門	ケースによって影響を受ける部門。たとえば、カスタマーサポート。
発生場所 (Location of occurrence)	ケースの発生場所。たとえば、場所は日本です。
発生サブ場所 (Sub-location of occurrence)	ケースが発生したサブ場所。たとえば、サブ場所は東京です。
添付ファイルを追加	
添付ファイルを追加	参照ファイルを選択するか、クリップボードファイルをコピーして貼り付けます

コンプライアンスワークスペース でコンプライアンスケースを作成する

コンプライアンスケース管理 アプリケーションを使用して、組織のポリシーまたはガイドラインの違反をレポートします。ケースをレポートすることで、会社の財務、評判、および成長に影響を与える可能性がある不適切な規制アクションを削減し、回避することができます。

始める前に

必要なロール：sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst および sn_compliance_ws.corporate_compliance_manager

このタスクについて

ユーザーは電話やメールを介して、コンプライアンスチームにケースをレポートできます。コンプライアンスチームは コンプライアンスワークスペース でこれらのケースを作成し、関連する詳細をケースに添付できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > コンプライアンスワークスペース.
2. コンプライアンスケース管理アイコン ( ) を選択します。
3. [作成] で利用可能なオプションから、[ケース] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。
   コンプライアンスケースの作成フォームのフィールド値の説明については、「コンプライアンスケースフォーム」を参照してください。
5. [保存] を選択します。

コンプライアンスケースフォーム

GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションでコンプライアンスケースの作成フォームを使用して、コンプライアンスケースをレポートします。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

コンプライアンスケースの作成フォーム

フィールド	説明
番号	ケースの番号。このフィールドは自動的にケース番号に設定されます。
名前	ケースの名前。例：漏洩した訴訟の判定。
タイプ	ケースのタイプ。このフィールドは自動的に [コンプライアンスケース] に設定されます。
サブタイプ	ケースのサブタイプ。例： 詐欺と横領。
ステータス	ケースのワークフロー状況。このフィールドは自動的に [新規] に設定されます。
優先度	ケースの優先度。 • **1** - 重大 • **2** - 高 • **3** - 中 • **4** - 低 • **5** - 計画中
要求者	ケースを報告したユーザー。
代理で要求済み	ケースを作成したユーザーの名前。
プライマリエンティティ	ケースの影響を受けるエンティティ。このフィールドは、[影響領域] 関連リストで特定されたエンティティに自動的に設定されます。
エンティティオーナー	エンティティのオーナーであるユーザー。このフィールドは、[影響領域] 関連リストで選択されたエンティティに基づいて自動的に設定されます。
説明	ケースの簡単な説明。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンプライアンスケースの作成フォーム (続く)

フィールド	説明
アサイン	
アサイン先グループ	ケースをアサインするグループ。 注: アサイン先グループは、構成セットアップ中にケースタイプに事前に構成されます。
ウォッチリスト	ケースについて通知する必要があるユーザー。
ケースアナリスト	ケースを分析して作業できるアナリスト。ケースアナリストはアサイン先グループに属しています。
アカウントエグゼクティブ	ケースの責任者。
プライマリ作成元 (Primary origin)	
場所	ケースが発生した場所。たとえば、日本。
サブ場所	ケースが発生したサブ場所。たとえば、サブ場所は東京です。
影響を受ける事業部門	レポートされたケースまたはイベントの影響を受ける事業部門。たとえば、経理。
影響を受ける部門	ケースによって影響を受ける部門。たとえば、カスタマーサポート。
ソース	ケースのレポート元のソース： • 手動：ケースがコンプライアンスワークスペースから作成された場合、フィールドにはソースが [手動] として表示されます。 • 従業員センター：ケースが 従業員センター からレポートされた場合、フィールドにはソースが [従業員センター] として表示されます。
ソースレコード	ケースの作成元のソースオブジェクトのソースレコード。たとえば、ケースがリスクイベントから報告された場合、このフィールドにはケースの報告元のリスクイベントの名前が表示されます。
追加のソース (Additional source)	ケースが手動で作成された場合のケースの報告方法。このフィールドは、[ソース] フィールドで [手動] が選択され、レコードが保存されている場合にのみ使用できます。選択肢は次のとおりです。 • メール：メールで受信した情報からケースを作成する場合。 • 電話：電話で受け取った情報からケースを作成する場合。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンプライアンスケースの作成フォーム (続く)

フィールド	説明
Schedule (スケジュール)	
発生日	ケースが発生した日付。たとえば、ケースは 2024 年 2 月 18 日に発生した可能性があります。
検出日	ケースが検出された日付。たとえば、ケースは 2024 年 2 月 18 日に発生しても、2024 年 3 月 12 日に検出される場合があります。
ケース作成日	ケースが作成された日付。このフィールドは自動的に現在の日時に設定されます。
ケースクローズ SLA (Case closure SLA)	ケースのクローズ予定日。この日付は、ケース作成日に基づいて自動的に計算されます。
調査開始予定 (Investigation planned start)	ケース調査の開始予定日。
調査終了予定 (Investigation planned end)	ケース調査の終了予定日。
調査の実際の開始 (Investigation actual start)	ケース調査の実際の開始日。
調査の実際の終了 (Investigation actual end)	ケース調査の実際の終了日。
修正開始予定 (Remediation planned start)	ケースの修正の開始予定日。
修正終了予定 (Remediation planned end)	ケース修正の終了予定日。
修正の実際の開始 (Remediation actual start)	ケースの修正の実際の開始日。
修正の実際の終了 (Remediation actual end)	ケースの修正の実際の終了日。
違反分析	
違反ステータス	違反が発生したかどうかを示すステータス。 • 未定 **(To be determined)**：違反がまだ決定されていない場合。 • 違反検出 **(Breach detected)**：違反が確認された場合。 • 将来の可能性 **(Future potential)**：違反が発生していないが、将来発生する可能性がある場合。 • 違反ではない **(Not a breach)**：違反が検出されない場合。
レポートステータス	規制機関にレポートされているケースのステータス。このフィールドは、ケースに関連付けられた規制のレポートステータスに基づいて自動的に設定されます。ケースに多くの規制があり、1 つの規制がレポート可能と識別された場合でも、ケースのレポートステータスはレポート可能に設定されます。このフィールドのデフォルト値は [未定 **(To be determined)]**です。
違反開始 (Breach start)	違反が開始された日付。このフィールドは、[違反ステータス] フィールドで [違反検出 **(Breach**

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンプライアンスケースの作成フォーム (続く)

フィールド	説明
	detected)] または [将来の可能性 **(Future potential)]** が選択されている場合にのみ表示されます。
違反終了 (Breach end)	違反が終了した日付。このフィールドは、[違反ステータス] フィールドで [違反検出 **(Breach detected)]** または [将来の可能性 **(Future potential)]** が選択されている場合にのみ表示されます。
特定された違反の重大性 (Breach significance identified)	ユーザーが違反が重大だと特定した日付。このフィールドは、[違反ステータス] フィールドで [違反検出 **(Breach detected)]** または [将来の可能性 **(Future potential)]** が選択されている場合にのみ表示されます。
根本原因分析	
主な原因 (Primary cause)	レポートされたケースの主な原因。このフィールドは、[原因と結果 (Cause and consequences)] 関連リストで選択されている主な原因に自動的に設定されます。
結果	レポートされたケースの主な原因からの結果。例：物理資産の破損
すべての観察事項	ケースに関する観察事項。
実施された修正 (Remediation taken)	ケースに対処するために修正処置が行われたかどうかを示すオプション。 • はい • いいえ
全体的な予防措置 (Overall preventive measures)	ケースを修正するために行われる予防措置。
アクティビティ	
作業メモ (プライベート)	ケースに関するメモまたは情報。
追加コメント (顧客に表示)	顧客と共有するケースに関する追加情報。
保存	コンプライアンスケースの詳細を保存します。

GRC：コンプライアンスケース管理 でコンプライアンス要求を発生させる

GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションを使用して、コンプライアンスチームにコンプライアンス要求を作成することができます。たとえば、コンプライアンス要求を送信して、組織のポリシーとガイドラインに関するアドバイスやガイダンスを求めることができます。

次のいずれかのオプションを使用して、コンプライアンス要求を発生させることができます。

- 従業員センター からコンプライアンス要求を発生させる
- コンプライアンスワークスペース でのコンプライアンス要求の作成

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

従業員センター からコンプライアンス要求を発生させる

従業員センター アプリケーションを使用して、組織のポリシー、照会、およびガイドラインに関するコンプライアンス要求を作成します。ガイダンス、説明、または承認を求めることで、組織内のコンプライアンス文化の維持に貢献できます。

始める前に

必要なロール：sn_grc_emp_user.grc_employee or sn_comp_case.compliance_case_business_user

手順

1. 移動先 すべて > セルフサービス > 従業員センター.
2. 従業員センター ランディングページで、[リスクとコンプライアンス] タブを選択します。
3. [リスクとコンプライアンスを参照 (Browse Risk & Compliance)] セクションで、[コンプライアンス要求をレポート **(Report a Compliance Request)]** を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

   [コンプライアンス要求をレポート (Report a Compliance Request)] フォームのフィールド値の説明については、「[コンプライアンス要求を提起 (Raise a Compliance Request)] フォーム」を参照してください。
5. オプション: [コンプライアンス要求をレポート (Report a Compliance Request)] フォームで、[添付ファイルを追加] を選択して補足資料または証拠を添付します。
6. [送信] を選択します。

[コンプライアンス要求を提起 **(Raise a Compliance Request)]** フォーム

従業員センター で [コンプライアンス要求を提起 (Raise a Compliance Request)] フォームを使用して、コンプライアンス要求を提起します。

次の表で、フィールド値を一覧形式で説明します。

[コンプライアンス要求をレポート **(Report a Compliance Request)]** フォーム

フィールド	説明
名前	要求の名前。たとえば、すべての正社員に必須の要求として、「ポリシー更新 - 年次健康診断 (Policy Update - Annual medical examination)」があります。
説明	要求の簡潔な説明
要求タイプ	要求のタイプ。
優先度	要求の優先度。次のものがあります。 • **1** - 重大 • **2** - 高 • **3** - 中 • **4** - 低 • **5** - 計画中
要求者	要求を作成した人物の名前。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[コンプライアンス要求をレポート **(Report a Compliance Request)**] フォーム (続く)

フィールド	説明
代理で要求済み	要求を作成した人物の名前。
事業部門	要求の影響を受ける事業部門。たとえば、「Legal」。
ロケーション	要求が作成された場所。たとえば、日本。

コンプライアンスワークスペース でのコンプライアンス要求の作成

コンプライアンスケース管理 アプリケーションを使用して、組織のポリシー、照会、およびガイドラインに関するコンプライアンス要求を作成します。ガイダンス、説明、または承認を求めることで、組織内のコンプライアンス文化の維持に貢献できます。

始める前に

必要なロール：sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst および sn_compliance_ws.corporate_compliance_manager

手順

1. 移動先 すべて > コンプライアンスワークスペース.
2. コンプライアンスケース管理アイコン ( ) を選択します。
3. コンプライアンスケース管理 ランディングページで、[作成] を選択します。
4. [作成] リストで使用可能なオプションから、[要求] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。
   コンプライアンスケースの作成フォームのフィールド値の説明については、「コンプライアンス要求フォーム」を参照してください。
6. [保存] を選択します。

コンプライアンス要求フォーム

GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションで [新しいコンプライアンス要求の作成 (Create new compliance request)] フォームを使用して、コンプライアンス要求をレポートします。

次の表で、フィールド値を一覧形式で説明します。

[新しいコンプライアンス要求の作成 **(Create new compliance request)**] フォーム

フィールド	説明
番号	要求の番号。このフィールドは自動的に要求番号に設定されます。
名前	要求の名前。たとえば、すべての正社員に必須の要求として、「ポリシー更新 - 年次健康診断 (Policy Update - Annual medical examination)」があります。
説明	要求の簡潔な説明
タイプ	コンプライアンス要求の性質を分類するタイプ。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新しいコンプライアンス要求の作成 **(Create new compliance request)**] フォーム (続く)

フィールド	説明
ステータス	要求のワークフローのステータス。このフィールドは自動的に [新規] に設定されます。
優先度	要求の優先度。次のものがあります。 • なし • **1** - 重大 • **2** - 高 • **3** - 中 • **4** - 低 • **5** - 計画中
要求者	要求を作成した人物の名前。
代理で要求済み	要求を作成した人物の名前。
アサイン	
アサイン先グループ	要求にアサインされるグループ。 **注:** アサイン先グループは、構成セットアップ中に要求タイプに事前に構成されます。
承認者	要求を承認する必要がある人物。
アサイン先	この要求にアサインされている人物。
ウォッチリスト	要求について告知すべきユーザー。
プライマリ作成元 (Primary origin)	
事業部門	要求の影響を受ける事業部門。たとえば、「Legal」。
ロケーション	要求が作成された場所。たとえば、日本。
スケジュール	
作成済み	要求が作成された日付。このフィールドは自動的に現在の日時に設定されます。
承認日	要求が承認された日付。
アクティビティ	
作業メモ (プライベート)	要求に関するメモまたは情報。
追加コメント (顧客に表示)	顧客と共有する要求に関する追加情報。
保存	コンプライアンスケースの詳細を保存します。

コンプライアンスケースタスクワークフロー

GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションで、複数のチームと協力して調査を行い、影響度アセスメントを実行し、証拠を収集して詳細と応答を取得してレビューすることができます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

コンプライアンスアナリストは、コンプライアンスケースがレポートされた後に、ケースタスクを作成し、それらのタスクをさまざまなケースタスク所有者にアサインできます。ケースタスク所有者は、タスクを処理し、レビューのためにケースアナリストにそれらを送信します。ケースタスクには次の 3 つのタイプがあります。

アセスメント

アセスメントケースタスクでは、ケースタスク所有者がアセスメントを受け、応答を提供する必要があります。このタイプのケースタスクは、再アサインのみできます。

調査

調査ケースタスクでは、ケースタスク所有者が観察事項を提供する必要があります。

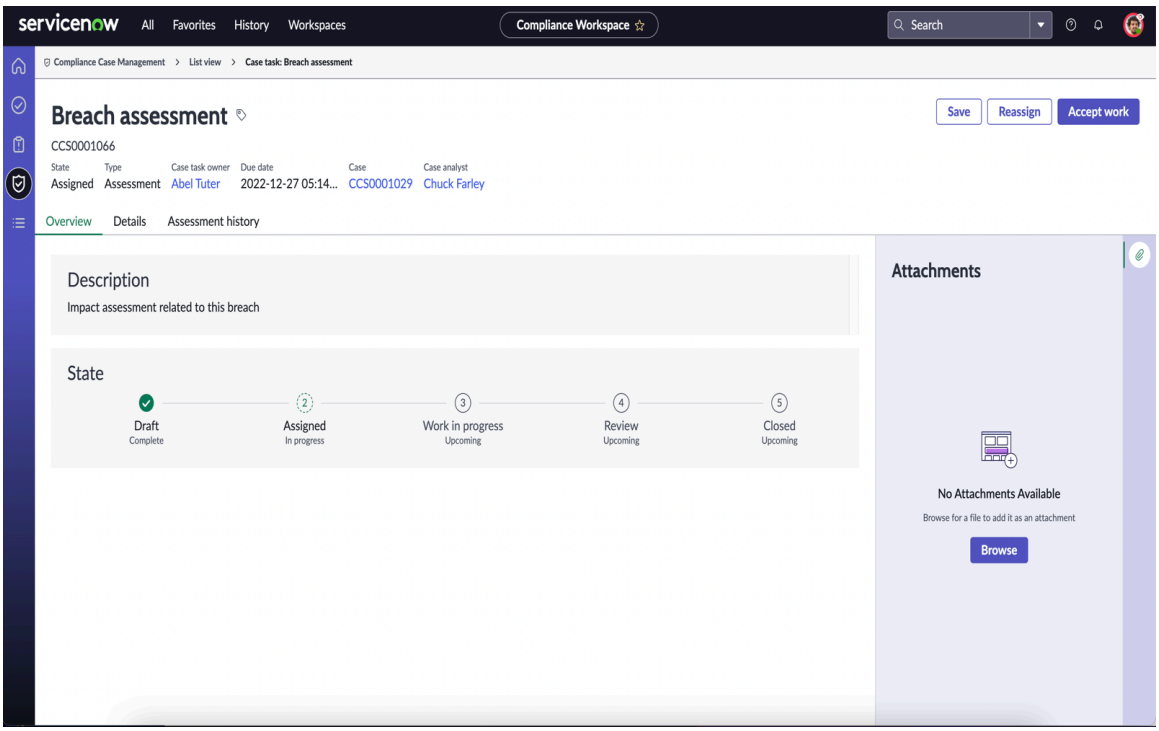
その他

その他ケースタスクでも、ケースタスク所有者が観察事項を提供する必要があります。

ケースタスク所有者は、タスクを処理し、レビューのためにケースアナリストにそのタスクを送信します。

次の例は、ケースタスクのライフサイクルを示しています。

ケースタスクワークフロー



アクションタスクの作成

GRC：コンプライアンスケース管理アプリケーションでレポートされたケースを分析および評価できるように、調査、証拠の収集、アセスメントを実行するためのアクションタスクを作成します。各ケースには、複数のチームの異なる所有者にアサインできる複数のケースタスクを含めることができます。

始める前に

必要なロール：sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst

このタスクについて

コンプライアンスチームにケースがレポートされた後に、コンプライアンスケースアナリストはケースタスクを作成し、それらのタスクを関連するタスク所有者にアサインできます。これにより、コンプライアンスケースアナリスは、さまざまなチームと協力して、ケースに関連する観察事項を調査、評価、およびキャプチャできます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. リスト アイコンを選択します。
3. [リスト] セクションで、[すべてのケース] を選択します。
4. アクションタスクを作成するケースを開きます。
5. [アクションタスク] 関連リストを選択します。
6. **[New** (新規)] を選択します。
7. フォームで、フィールドに入力します。

   アクションタスクフォームのフィールド値の説明については、「 ケースタスクフォーム」を参照してください。

8. **[Save** (保存)] を選択します。
9. タスクをアクションタスク所有者にアサインするには、[タスクをアサイン] を選択します。
10. オプション: 確認ダイアログボックスで、メモを入力します。
11. [確認] ダイアログボックスで [アサイン済みに移動 **(Move to assigned)]** を選択します。
    レコードのステータスが [アサイン済み] に変更され、アクションタスクがアクションタスク所有者にアサインされます。
12. オプション: 指定したアクションタスク所有者がアクションタスクを承認する前に、アクションタスクを別のユーザーに再アサインするには、[再アサイン] を選択します。

    注:
    タイプが [アセスメント] であるケースタスクのみを再アサインできます。

    a. [アサイン先グループ] フィールドで、関連するグループを選択します。
    b. [アクションタスクオーナー] フィールドで、新しいオーナーを選択します。
    c. [アクションタスクを再アサイン] ダイアログボックスで、[再アサイン] を選択します。

ケースタスクフォーム

GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションでケースタスクフォームを使用して、レポートされたコンプライアンスケースのケースタスクを作成します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

ケースタスクフォーム

フィールド	説明
番号	ケースタスクの番号。このフィールドは自動的に設定されます。
状況	ケースタスクのワークフロー状況。このフィールドは自動的に [ドラフト] に設定されます。
タイトル	ケースに対して作成されるタスクの名前。たとえば、誤って請求された遅延手数料の調査。
タイプ	タスクのタイプ。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ケースタスクフォーム (続く)

フィールド	説明
	• アセスメント：ケースに関するユーザーからの応答を収集します。 **注:** 必要に応じて、ケースタスクタイプが [アセスメント] のケースタスクのみを別のタスク所有者に再アサインできます。 • 調査：レポートされたケースの調査を実行するケースタスクを作成します。たとえば、誤って遅延手数料を請求された原因を特定したい場合があります。 • その他：設定するタスクのその他のタイプ。
優先度	ケースタスクの優先度。
アセスメントテンプレート	記録されたケースの評価に使用できるアセスメントテンプレート。このフィールドは、[タイプ] フィールドで [アセスメント] が選択された場合にのみ表示されます。 **注:** 各ケースタイプは、構成時に特定のアセスメントテンプレートにマッピングできます。ケースにマッピングされたテンプレートのみを選択できます。たとえば、ケースタイプが [金融詐欺] の場合、金融詐欺タイプに固有のアセスメントテンプレートを選択できます。選択したアセスメントテンプレートを含むオープンアセスメントが既に作業中である場合、同じアセスメントテンプレートを選択することはできません。
説明	ケースタスクの簡単な説明。この説明は、ケースタスクを処理するユーザーに役立ちます。
アサイン	
アサイン先グループ	ケースタスクを処理するグループ。ケースタスク所有者が指定されていない場合、選択したグループに属するすべてのユーザーがケースタスクを処理できます。
ケースタスク所有者	ケースタスクを所有するユーザー。このフィールドで選択するユーザーは、アサイン先グループのメンバーである必要があります。
ウォッチリスト	ケースについて通知する必要があるユーザー。
スケジュール	
期日	ケースタスクを完了する必要がある日付

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ケースタスクフォーム (続く)

フィールド	説明
	注: 期日は、ケースフォームの [ケースクローズ **SLA]** フィールドで指定された日付より前である必要があります。
受諾日 (Accepted date)	ケースが受諾された日付。
作成済み	ケースが作成され、ケースタスク所有者にアサインされた日付。
タスクのクローズ日 (Task closure date)	タスクがクローズされた日付。
サマリー	
観察事項	ケースタスクの処理中にケースについて行った観察事項。
アクティビティ	
追加コメント	ケースタスクに関する追加情報。

アクションタスクの処理

アクションタスクを承認し、ケースアナリストから要求された詳細を入力して、 GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションでレビューのためにアクションタスクを送信します。アクションタスクがアサイン先グループにアサインされると、アサイン先グループのすべてのユーザーがそのタスクを承認して作業できます。

始める前に

必要なロール：sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst

このタスクについて

アクションタスクが [アセスメント] タイプの場合、アクションタスクオーナーは、ケースから発生した損失を判断するためにアセスメントを受ける必要があります。この場合、タスク所有者は作業を承認してからアセスメントを受けることができます。アクションタスクのタイプが [調査] または [その他] の場合、アクションタスクオーナーはタスクを承認し、観察事項を提供し、レビューのためにケースアナリストにケースを送信できます。

手順

1. 移動先 セルフサービス > 従業員センター.
2. [自分のタスク] モジュールからタスクにアクセスします。
3. [アクションタスク] で、自分にアサインされたタスクを開きます。
4. [オープン] セクションで、[作業を承認] を選択します。
5. 確認ダイアログボックスで [作業を承認] を選択します。
6. アクションタスクのタイプに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク

1. コンプライアンスケースの影響を受ける領域を追加します。たとえば、影響を受ける可能性のある影響を受ける領域またはオブジェクトは、コンプライアンスケースの影響を受けるエンティティ、コントロール、場所、またはユーザーです。詳細については、「影響を受ける領域をコンプライアンスケースに追加する」を参照してください。
2. コンプライアンスケースに関連する領域を追加します。たとえば、関連する領域には、ポリシー、各種法令・基準内項目、コントロール目標、またはリスクイベントが含まれます。詳細については、「関連する領域をコンプライアンスケースに追加する」を参照してください。
3. このコンプライアンスケースの原因と結果を追加します。たとえば、レポートされたコンプライアンスケースまたはイベントの根本原因と、組織に対するその結果を追加できます。詳細については、「コンプライアンスケースに原因と結果を追加する」を参照してください。
4. 影響を受ける可能性があるコンプライアンス規制をコンプライアンスケースに追加します。詳細については、「コンプライアンスケースにコンプライアンス規制を追加する」を参照してください。
5. コンプライアンスケースに関連する問題を追加または作成します。詳細については、「コンプライアンスケースの問題の追加」を参照してください。

アセスメントタイプのアクションタスクを再アサイン

アセスメントタイプのアクションタスクを GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションの別のユーザーに再アサインします。たとえば、アクションタスクが誤ってアサインされた場合、またはアクションタスク所有者によって受け入れられない場合、ケースアナリストまたはアクションタスク所有者は、コンプライアンスアクションタスクを別のアクションタスク所有者に再アサインできます。

始める前に

必要なロール：sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst

このタスクについて

ケースアナリストは、タスクがアクションタスクオーナーにアサインされた後、そのタスクを別のユーザーに再アサインできます。

アクションタスクオーナーは、タスクを承認して作業を開始し、部分的に完了したタスクを別のユーザーに再アサインすることもできます。部分的に完了したアクションタスクを別のユーザーに再アサインすると、提供したデータもコピーされ、新しいアクションタスクオーナーが使用できるようになります。新しくアサインされたタスク所有者は、その所有者の要件に基づいてアクションタスクを変更できます。

注:
再アサインできるのは、[タイプ] フィールドが [アセスメント] に設定されているケースタスクのみです。

手順

1. 移動先 セルフサービス > 従業員センター.
2. [自分のタスク] モジュールからタスクにアクセスします。
3. 作業するタスクを開きます。
4. [オープン] セクションで、[再アサイン] を選択します。
   [アクションタスクを再アサイン] ダイアログボックスが表示されます。
5. [アサイン先グループ] フィールドでアサイン先グループを選択します。
6. [アクションタスクオーナー] フィールドで、オーナーを選択します。
7. [アクションタスクを再アサイン] ダイアログボックスで、[再アサイン] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

アクションタスクのレビューとクローズ

アクションタスクオーナーが GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションでケースの応答と観察事項を提供した後、アクションタスクを確認してクローズします。

始める前に
必要なロール：sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. [タスク] モジュールで、レビューするタスクを開きます。
3. アクションタスクをレビューし、次のいずれかのオプションを選択します。

影響を受ける領域をコンプライアンスケースに追加する

GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションで、コンプライアンスケースまたはイベントの影響を受ける領域またはオブジェクトを追加します。

始める前に
必要なロール：sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst

このタスクについて
コンプライアンスケースによって影響を受ける領域またはオブジェクト (エンティティ、コントロール、会社、ユーザーなど) を指定できます。コンプライアンスアドミニストレーターは、アプリケーションセットアップで影響を受ける領域のオプションを設定することもできます。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. リスト  アイコンを選択します。
3. リストから [すべてのケース] を選択します。
4. 影響領域を追加するケースを開きます。
5. [影響領域] 関連リストを選択します。
6. [追加] を選択します。
7. ドロップダウンリストから影響領域タイプを選択します。
   この値は構成できません。
   選択したレコードタイプに関連するレコードを選択できます。
8. 使用可能なリストからレコードを選択します。
   [タイプの選択 **(Select type)]** フィールドを変更すると、現在の選択がクリアされます。
9. [追加] を選択します。
10. [保存] を選択します。

関連する領域をコンプライアンスケースに追加する

GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションで、レポートされたコンプライアンスケースまたはイベントに関連する領域を追加します。

始める前に
必要なロール：sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
コンプライアンスケースまたはレポートされたイベントに関連する領域を指定できます。関連する領域には、ポリシー、各種法令・基準内項目、コントロール目標、コントロール、およびリスクイベントが含まれます。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. リスト アイコンを選択します。
3. リストから [すべてのケース] を選択します。
4. 関連する領域を追加するケースを開きます。
5. [関連領域] 関連リストを選択します。
6. [追加] を選択します。
7. 関連領域タイプを選択します。
   選択したレコードタイプに関連するレコードを選択できます。
8. 使用可能なリストからレコードを選択します。
   [タイプの選択 **(Select type)]** フィールドを変更すると、現在の選択がクリアされます。
9. [追加] を選択します。
10. [保存] を選択します。

コンプライアンスケースに原因と結果を追加する

GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションを使用して、レポートされたコンプライアンスケースまたはイベントの根本原因と、組織に対するその結果を定義します。

始める前に
必要なロール：sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst

このタスクについて
コンプライアンスケースまたはイベントに複数の原因を追加し、主な原因を定義することができます。コンプライアンスケースの主な原因は 1 つのみです。疑わしくても確認されていない原因を追加することもできます。コンプライアンスケース管理 アプリケーションを使用すると、レポートされたケース、実行されるアクションプランまたは修正計画に基づいて結果を追加できます。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. リスト アイコンを選択します。
3. リストから [すべてのケース] を選択します。
4. 原因と結果を追加するケースを開きます。
5. [新規] を選択します。
6. フォームのフィールドに入力します。
   原因と結果フォームのフィールド値の説明については、「原因と結果フォーム」を参照してください。
7. [保存] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

原因と結果フォーム

GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションで原因と結果フォームを使用して、ケースが組織に及ぼす原因と結果を定義します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

原因と結果フォーム

フィールド	説明
原因	ケースまたはイベントの原因。
原因ステータス (Cause status)	原因のステータス： • 疑わしい **(Suspected)**：原因が確認されていない場合。 • 確認済み：原因が確認された場合。
主な原因 (Primary cause)	原因を主な原因として選択するオプション。
原因の説明	原因の簡単な説明。
結果とアクション	
結果	ケースまたはイベントの結果。報告されたケースに対して複数の結果を選択できます。
実行されたアクション	ケースに対処するために実行されたアクションまたは対策。
サマリー	
観察事項	全体的な観察事項がある場合は記録します。

コンプライアンスケースにコンプライアンス規制を追加する

レポートされたコンプライアンスケースによって影響を受ける、または影響を受ける可能性のある規制を追加します。ServiceNow プラットフォームでは、規制は各種法令・基準等としてキャプチャされます。ケースに規制を追加すると、侵害または違反している規制を特定し、組織がこのケースに関してペナルティや罰金が課されないようにすることができます。

始める前に

必要なロール：sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst

このタスクについて

ケースアナリストは、レポートされたケースに関連する規制を選択して追加できます。デフォルトでは、システムに存在するすべての規制が表示されます。規制を追加した後で、違反している規制を分析し、そのレポートステータスを設定する必要があります。レポートステータスは、規制をレポートする必要があるかどうかの判断に役立ちます。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. リスト アイコンを選択します。
3. リストから [すべてのケース] を選択します。
4. 規制を追加するケースを開きます。
5. [規制] 関連リストを選択し、次のアクションを実行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [追加] を選択します。

b. 追加する規制を選択します。

c. [追加] を選択します。

6. 規制のレポートステータスを設定するには、規制を選択して開きます。

7. フォームのフィールドに入力します。

規制フォーム

フィールド	説明
ケース	規制を追加するケース。このフィールドは自動的にケース名に設定されます。
レポートステータス	規制をすぐにレポートする必要があるか、将来レポートする必要があるか、まったくレポートする必要がないかを判断するステータス。オプションは次のとおりです。 ○ 未定 **(To be determined)**：違反をレポートする必要があるかどうかわからない場合。 ○ レポート可能：違反をレポートする必要がある場合。 ○ レポート不要 **(Non-reportable)**：違反をレポートする必要がない場合。 ○ レポートの可能性あり **(Potentially reportable)**：今後、ケースの調査に基づいて違反がレポートされる可能性がある場合。
各種法令・基準等	規制を形成する各種法令・基準等。
報告日 (Lodgement date)	規制が規制機関にレポートされた日付。
説明	分析に基づく規制違反の簡単な説明。

8. [保存] を選択します。

コンプライアンスケースの問題の追加

レポートされたコンプライアンスケースの影響領域に関連する問題を特定して追加します。GRC：コンプライアンスケース管理 ランディングページから問題を作成することもできます。

始める前に

必要なロール：sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.

2. リスト アイコンを選択します。

3. リストから [すべてのケース] を選択します。

4. 問題を追加するケースを開き、次のオプションのいずれかを選択します。

5. [保存] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

問題を作成フォーム

GRC：コンプライアンスケース管理で問題を作成フォームを使用して、コンプライアンスケースに問題を追加したり、結果や観察事項、コンプライアンスの欠陥、またはそれぞれの所有者がすぐに対応する必要がある事項を報告したりします。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

問題を作成フォーム

フィールド	説明
問題	
数値	問題の番号。このフィールドは自動的に入力されます。
名前	問題の名前。
問題ソース	コンプライアンスケース分析などの問題のソース。このフィールドは自動的に入力されます。
問題タイプ	問題タイプは、報告される問題の性質を分類する方法です。このフィールドには、問題が作成された方法に基づいて次のオプションのいずれかが自動的に入力されます。 • コントロール設計有効性の問題 • コントロール運用有効性の問題 • コントロールが要件を満たしていない (Control doesn’t meet requirement) • コントロールが存在しない (Control doesn’t exist) • 規制への非準拠 • ポリシーへの非準拠 • 既存のポリシーに対する改善または提案 • 新しいポリシーの推奨事項 • プロセス最適化または改善 • 観察事項 • データ漏洩 • 詐欺 • 虚偽 • トレーニング • ドキュメント
分類	問題の分類。このフィールドには、次のオプションのいずれかが自動的に入力されます。 • 監査 • Compliance • Operational Resilience • リスク • ベンダー

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

問題を作成フォーム (続く)

フィールド	説明
場所	問題の場所。
状況	問題のステータス。 • 新規 • 分析 • 応答 • レビュー • 完了してクローズ • 未完了でクローズ
サブステート	問題のサブステートは、問題のサブタイプです。このフィールドは自動的に入力されます。
優先度	問題の優先度： • 重大 • 高 • 中 • 低 • 計画
問題評価	問題の評価： • 非常に高 • 高 • 中 • 低 • 超低
説明	問題の承認者。
アサイン	
アサイン先グループ	問題のアサイン先グループ。コンプライアンスチームや倫理/コンプライアンスチームなどです。
アサイン先	問題がアサインされるユーザー。
問題マネージャーグループ	この記録済みの問題の処理をアサインされたユーザー。 • コンプライアンスマネージャー • **IT** リスクマネージャー • リスクマネージャー

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

問題を作成フォーム (続く)

フィールド	説明
問題マネージャー	問題がアサインされるマネージャー。
ウォッチリスト	問題のウォッチリストに含まれているユーザー。
スケジュール	
期日	問題の期日。
確認日	問題の確認日。このフィールドは、将来の日付の自動計算に基づいて自動的に入力されます。
開始予定日時	問題の開始予定日。
終了予定日	問題の終了予定日。
期間	日、時、分、秒単位での問題の期間。
作成済み	問題が作成された日付。このフィールドは、現在のシステム日付に基づいて自動的に入力されます。
クローズ済み	問題がクローズされた日付。
実開始日	問題の実際の開始日。
実終了日	問題の実際の終了日。
実際の期間	日、時、分、秒単位での問題の実際の期間。
問題のグループ化	
親問題	この問題に関連付けられた親問題。
問題グループルール	問題のグループルール。このフィールドは自動入力されます。
アクションプラン	
推奨事項	問題の推奨事項。
アクションプラン	問題のアクションプラン。
アクティビティ	
作業メモ	問題の作業メモ。
追加コメント	問題の追加コメント。
設定	
機能ドメイン	問題の機能ドメイン。

その他のアクション

フィールド以外にも、コンプライアンスケースレコードで実行できるアクションがいくつかあります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

- 添付ファイル：関連する添付ファイルをコンプライアンスケースレコードに追加するには、サイドバーでこのアイコンを選択します。
- メールの作成：メールを作成します。
- ドラフトを破棄 - メールのドラフトバージョンを破棄します。
- メール送信 - すべての詳細を記載したメールを送信します。
- 新しいメールを作成： 新しいメールを作成します。
- ドラフトを表示：システム内の既存のドラフトを表示します。
- 保存：コンプライアンスケースの詳細を保存します。
- 360 度ビュー：すべての関係を含むコンプライアンスケースを 360 度ビューで表示します。
- PDF のエクスポート：コンプライアンスケースを PDF としてエクスポートします。
- 削除：コンプライアンスケースを削除します。

レポートを **PDF** にエクスポートする

GRC：コンプライアンスケース管理アプリケーションで事前定義またはカスタマイズされたテンプレートを使用して、コンプライアンスケースまたは要求のレポートを、ポータブルドキュメント形式 (PDF) で作成します。この機能により、利害関係者は、アプリケーションにアクセスできない場合でもデータにアクセスできるようになります。

始める前に

必要なロール：sn_comp_case.compliance_case_analyst

このタスクについて

コンプライアンスデータを PDF レポートにエクスポートして、監査チーム、パートナー、または社内委員会と簡単に共有できるようにすると、アプリケーションにアクセスする必要がなくなります。コンプライアンスアドミニストレーターは、事前定義されたテンプレートを選択するか、カスタマイズされたドキュメントテンプレートを作成してレポートを生成できます。詳細については、「Configure a PDF document template」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. リスト アイコンを選択します。
3. コンプライアンスケースレポートを生成するには、[すべてのケース] を選択します。
4. コンプライアンス要求レポートを生成するには、[すべての要求 **(All requests)**] を選択します。
5. PDF レポートとしてエクスポートするコンプライアンスケースまたはコンプライアンス要求を開きます。
6. [その他のアクション] アイコン ( ) を選択します。
7. **[PDF** のエクスポート] を選択します。
   [PDF のエクスポート **(Export PDF)]** ボタンは、レコードタイプでドキュメントテンプレートが指定されている場合にのみ表示されます。
8. PDF レポートを生成するテンプレートを選択します。
9. [エクスポート] を選択します。
   PDF レポートが生成され、レコードの [添付ファイル] セクションで利用できるようになります。
10. PDF レポートのローカルコピーをダウンロードするには、PDF レポートの アイコンをクリックし、[ダウンロード] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

GRC：コンプライアンスケース管理 でのメールの作成

GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションを使用して、コンプライアンスケースと要求のメールを作成して送信します。この機能は、組織内外のさまざまなステークホルダーとコミュニケーションを取るうえで役立ちます。

始める前に

必要なロール：sn_grc_case_mgmt.grc_case_analyst

このタスクについて

ケースと要求に関するメールを作成し、複数のステークホルダーに送信できます。たとえば、記録されたコンプライアンスケースに関する義務的な意見や提案については、法務部門に相談できます。ケースまたは要求レコードページからメールを管理できます。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. リスト アイコンを選択します。
3. メールを作成するには、次のオプションを使用します。
4. [その他のアクション] アイコン ( ) を選択します。
5. [メールの作成] を選択します。
6. フォームのフィールドに入力します。

メールのドラフトフォーム

フィールド	説明
宛先 (To)	受信者のメール ID。このフィールドに複数のメール ID をカンマで区切って追加して、複数の受信者にメールを送信できます。
件名	メールの簡単な概要またはタイトル。
メールメッセージ	メッセージの本文には、受信者に伝える情報、要求、または詳細を記載します。このセクションには、テキストの書式設定、添付ファイルの追加、およびリンクを含めることができます。 **注:** ServiceNow インスタンスへのアクセス権を持たない ServiceNow ユーザーと外部のステークホルダーの両方にメールを送信できます。参照しているレコードがユーザーにわかるように、メールの件名または本文に基本的なレコードの詳細を入力する必要があります。

7. オプション: 添付ファイルを追加するには、[ファイルの添付 **(Attach File)**] を選択します。
8. [メール送信] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

期日の構成

事前定義済みのルールを設定して、期日の計算を自動化します。ルールは、新しいレコードがアプリケーションにレポートされると実行され、有効になるように設計されています。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
機関、規制、または管轄の組み合わせにルールベースの条件を適用し、期日の自動計算のタイムラインを管理します。

手順

1. 移動先 すべて > コンプライアンスケース管理 > 期日設定 > 新規.
2. ルール構成の名前を入力します。
3. ルックアップリストから [規制機関 **(Regulatory agency)]** を選択します。
4. ルックアップリストから [管轄] を選択します。
5. ルックアップリストから [規制 **(Regulation)]** を選択します。
   [規制機関 **(Regulatory agency)]**、[管轄]、および [規制 **(Regulation)]** のすべてを選択することは必須ではありません。いずれか 1 つを選択できます。
6. 条件を定義します。
7. [適用先 **(Applies to)]** を選択します。
   [適用先 (Applies to)] フィールドは、機関プロファイルが適用されるレコードタイプを参照します。現在のリリースでは、コンプライアンスケースのみが適用されます。
8. 必要なフィルター条件と論理演算子を選択して [基準 **(Criteria)]** を設定します。
9. [送信] を選択します。
   期日の計算を自動化するための事前定義されたルールが保存されます。この事前定義されたルールは、以降に作成されるすべてのコンプライアンスケースに適用されます。

アクションタスクでスマートアセスメントを実行する

従業員センターの [タスク] ページを使用すると、すべてのアセスメントを含むすべてのタスクの統合ビューを表示できるため、効率的にタスクにアクセスして完了することができます。

始める前に
次のことを確認します。

- *sn_grc_case_mgmt.enable_smart_assessments* システムプロパティが有効になります。
- アセスメントテンプレートが構成され、公開されます。

必要なロール:sn_comp_case.compliance_case_business_user

このタスクについて
コンプライアンスケースアクションタスクが [ドラフト] から [アサイン済み] ステータスに移行すると、アセスメントが開始されます。アセスメントタイプのアクションタスクでスマートアセスメントを実行し、スマートアセスメントプロパティが有効になっている場合、アセスメントは統一されたタスクランディングページに表示されます。[タスク] ページに表示されるタスクは、ログインしているユーザーに固有であるため、ユーザーは自分にアサインされたすべてのタスクを完了するのに役立ちます。アセスメントの正当な回答者でない場合は、適切な回答者にアセスメントを再アサインできます。アセスメントのランディングページには、 ディスカッション 機能を使用してステークホルダーとコラボレーションするオプションなど、さまざまな機能があります。アセスメントへの応

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

答を一時停止した場合、応答を失うことなく [再開] アクションを使用して応答に戻ることができます。

手順

1. 移動先 すべて > 従業員センター > **GRC** タスク > 自分の **To Do** > オープン > 自分の保留中タスク > アクションタスク.
2. 評価するアクションタスクを選択します。
3. [開始] を選択します。
4. アンケートに回答します。
   画面の横に各質問の詳細なガイダンスを表示できます。ガイダンスは、質問に答えるのに役立ちます。
5. **[Submit** (送信)] を選択します。
6. 成功ダイアログ ボックスで、 **[OK]** を選択します。
7. アセスメントを送信した後、アセスメントを表示するには、[表示] を選択します。

タスクの結果
アセスメントが送信されると、アセスメントのステータスが [レビュー] に更新され、アセスメントのステータスが [完了] に設定されます。コンプライアンスケースアナリストがアセスメントをレビューし、アセスメントのステータスを [完了してクローズ] に更新します。

コンプライアンスケース管理の参照

参照トピックには、GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションとともにインストールされるテーブル、ロールなどの追加の情報が記載されています。

コンプライアンスケース管理とともにインストールされるテーブル

テーブルは、GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションのアクティブ化とともに追加されます。

GRC：コンプライアンスケース管理 アプリケーションで追加されたテーブルの説明については、次の表を参照してください。

インストールされるテーブル

テーブル	説明
GRC ケース [sn_grc_case_mgmt_case]	すべてのコンプライアンスケースの詳細を保存します。
ケース分類 [sn_grc_case_mgmt_case_classification]	コンプライアンスケースの分類を保存します。
ケースタスク [sn_grc_case_mgmt_case_task]	コンプライアンスケースに対して作成されたすべてのケースタスクを保存します。
ケースタイプ	ケースタイプとケースサブタイプの詳細を保存します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

インストールされるテーブル (続く)

テーブル	説明
[sn_grc_case_mgmt_case_type]	
原因 [sn_grc_case_mgmt_cause]	ライブラリに追加され、ケースにマッピングされた原因を保存します。
原因と結果フォーム [sn_grc_case_mgmt_cause_consequence]	ケースにマッピングされた原因と結果を保存します。
結果 [sn_grc_case_mgmt_consequence]	ライブラリに追加され、ケースにマッピングされた結果を保存します。
GRC コアケース [sn_grc_case_mgmt_core_case]	ケースのコア機能の詳細を保存します。
影響領域 [sn_grc_case_mgmt_impacted_area]	ケースにマッピングされた影響領域を保存します。
アセスメントインスタンスへのケースタスク [sn_grc_case_mgmt_m2m_case_task_asmt_instance]	アセスメントタイプのケースタスクのアセスメントの詳細を保存します。
ケースへの問題 [sn_grc_case_mgmt_m2m_issue_case]	ケースにマッピングされた問題を保存します。
規制 [sn_grc_case_mgmt_regulation]	ケースにマッピングされた規制を保存します。
関連する領域 [sn_grc_case_mgmt_related_area]	ケースにマッピングされた関連する領域を保存します。
コンプライアンスケース [sn_comp_case_compliance_case]	コンプライアンスケースのレコードを保存します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンプライアンスケース管理とともにインストールされるロール

GRC：コンプライアンスケース管理は、企業がそれぞれのタスクを実行するためのコンプライアンスケースの管理に向けて、それぞれの日常の運用タスクを実行するために不可欠なロールをインストールします。

ロールと説明

ロールタイトル [名前]	説明	含んでいるロール
コンプライアンスケースビジネスユーザー [sn_comp_case.compliance_case_business_user]	コンプライアンスケースビジネスユーザーは、次のタスクを実行できます。 • 従業員センターからのコンプライアンスケースと要求の作成 • ケースタスクを処理します。 。	sn_grc_case_mgmt.grc_case_business_user
コンプライアンスアナリスト [sn_comp_case.compliance_case_analyst]	コンプライアンスケースアナリストは、ケースをレビューできます。コンプライアンスケースアナリストは、次のタスクを実行できます。 • ケースアナリストにアサインされた主要なステークホルダー、影響領域、関連する領域、原因と結果、規制、および問題をレビューする。 • 未アサインのケースをレビューする。	• sn_grc_case_mgmt.grc_case_analyst • sn_comp_case.compliance_case_business_u
コンプライアンスケースマネージャー [sn_comp_case.compliance_case_manager]	コンプライアンスケースマネージャーは、作成されたケースをレビューして作業できます。コンプライアンスケースマネージャーは、次のタスクを実行できます。 • ケースアナリストにアサインされた主要なステークホルダー、影響領域、関連する領域、原因と結果、規制、および問題をレビューする。 • すべてのケースをレビューする。	• sn_comp_case.compliance_case_analyst • sn_grc_case_mgmt.grc_case_manager
コンプライアンスケースアドミン [sn_comp_case.compliance_case_admin]	コンプライアンスケースアドミニストレーターは、コンプライアンスケース管理 アプリケーションを設定できます。次のタスクを実行できます。	• sn_grc_case_mgmt.grc_case_admin • sn_comp_case.compliance_case_manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールと説明 (続く)

ロールタイトル [名前]	説明	含んでいるロール
	• ケースタイプを作成する。 • 状況モデルと移行を作成する。 • アセスメントテンプレートを作成する。 • ケースを削除する。 • ケースアナリストにアサインされた主要なステークホルダー、影響領域、関連する領域、原因と結果、規制、および問題をレビューする。	注: アクションタスクのアセスメントに スマートアセスメントエンジン を使用する場合、コンプライアンスケースアドミンに次のロールが付与されます。 • sn_risk_advanced.ara_assessor • sn_smart_asmt.assessment_admin • sn_grc.business_user
GRC 従業員ユーザー [sn_grc_emp_user.grc_employee]	GRC 従業員ユーザーは、従業員センター からのコンプライアンスケースと要求の作成を行うことができます。	NA

詳細については、「https://www.servicenow.com/products/employee-center.html」を参照してください。

継続的な承認とモニタリング

継続的な承認とモニタリング (CAM) では、NIST Risk Management Framework (RMF) で定義されている 7 つのステップを採用して、セキュリティ体制について十分な情報に基づいた意思決定を行うことができます。

https://player.vimeo.com/video/1001739779?h=ff3de57991&badge=0&autopause=0&app_id=58479

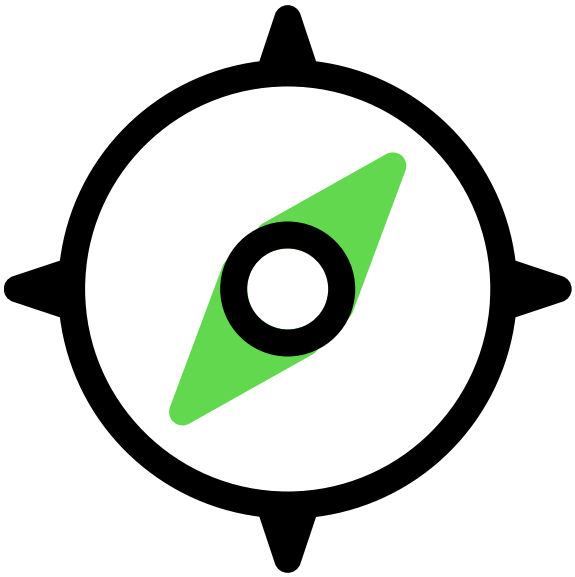
このビデオでは、米国政府が連邦政府機関に義務付けたリスク管理フレームワークの 7 つのステップの概要を説明し、企業がインフラストラクチャに対するリスクを特定して排除するのに役立ちます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

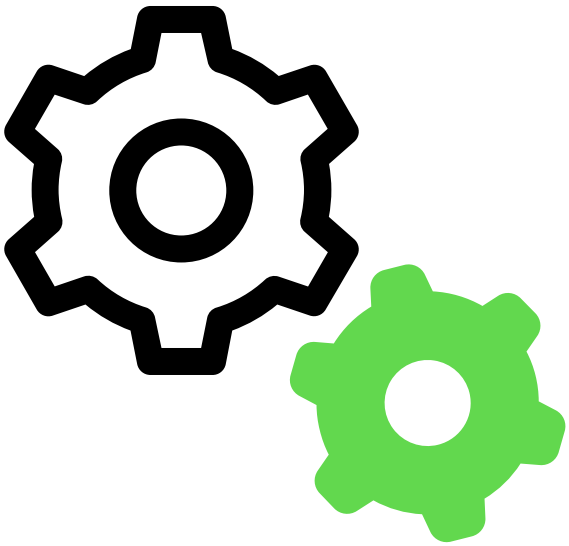
開始

探索



CAM アプリケーションは、NIST の Risk Management Framework (RMF) を自動化するための標準化されたアプローチを適用します。

構成



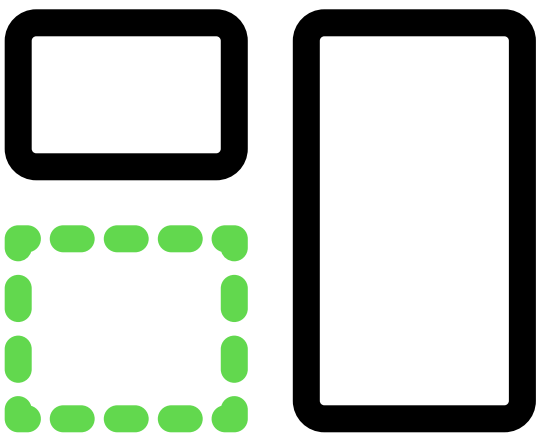
チェックリストのステップに従って ServiceNow Store から CAM をダウンロードし、操作の準備をします。

RMF ステップ 0 - 準備



準備ステップでは、認証境界、コントロールオーバーレイ、および情報タイプを設定し、実際の認証パッケージを作成できます。

RMF ステップ 1 - 分類



分類ステップでは、考えられる最悪のケースのシナリオに従って情報システムの重要度または機密性を定義します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RMF ステップ 2 - コントロールの選択



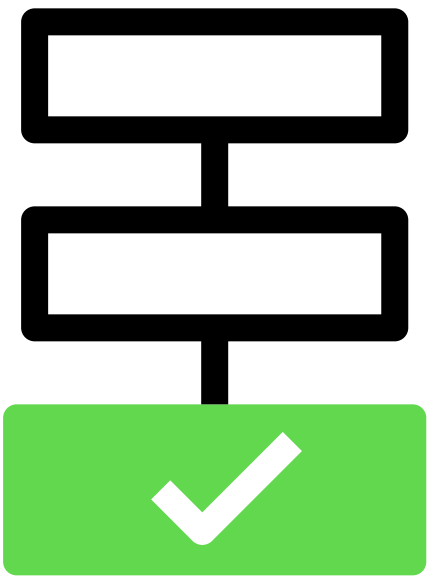
パッケージの影響度レベルが承認されたら、ベースラインコントロールを選択します。

RMF ステップ 3 - コントロールの実装



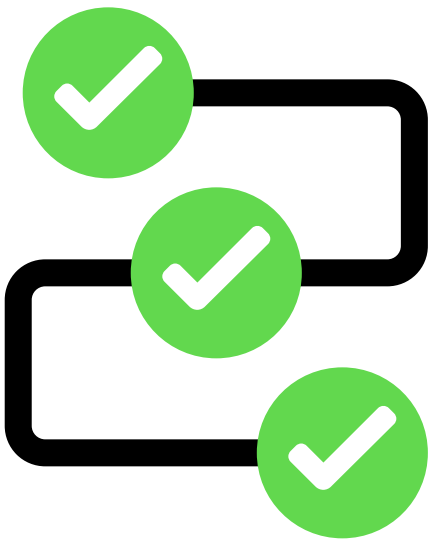
実装するコントロールを選択し、それらに対して可能なアクションを実行すると、 コントロールを実装できます。

RMF ステップ 4、5、および 6



コントロールを実装すると、内部および外部のコントロールを評価し、アクションプランとマイルストーン (POA&M) を生成し、変更要求と脆弱性一致アイテムを管理できます。

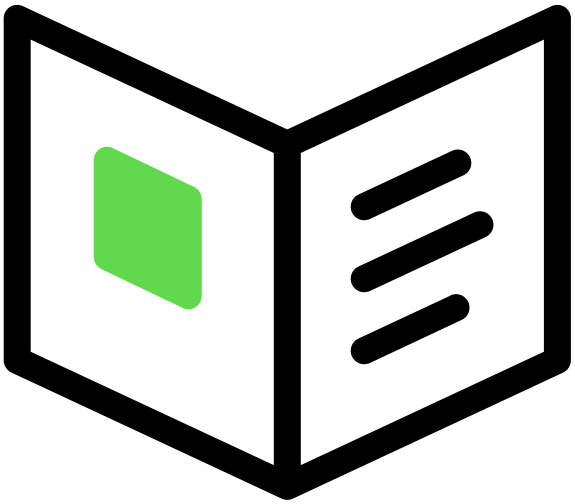
コントロールとアセスメント目標の実装



NIST 800-53A – アセスメント目標は、CAM アプリケーションの ベースシステム に含まれています。アセスメント目標は、リビジョン 5 のコントロール目標にマッピングされます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

監視と管理	参照
	
CAM ワークスペース は、セキュリティポリシーとガイドラインへの準拠を保証するために、NIST Risk Management Framework へのコンプライアンスを継続的に監視および管理できる一元化されたハブです。	参照トピックでは、CAM アプリケーションとともにインストールされるテーブル、プロパティ、フォーム、およびロールについて詳しく説明します。

自動翻訳

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

継続的な承認とモニタリング (com.sn_irm_cont_auth_monitor) プラグインは個別のサブスクリプションとして利用でき、アクティベーションが必要です。

トラブルシューティングとサポート

- について質問し、他のリソースを調べる 継続的な承認とモニタリング の ServiceNow コミュニティ
- 既知のエラーポータルで既知のエラー記事を検索する
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート

CAM の探索

ユーザーにとっての CAM のメリットとワークフローについて説明します。

CAM の概要

CAM アプリケーションは、NIST の Risk Management Framework (RMF) を自動化するための標準化されたアプローチを適用します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CAM ユーザー

CAM ロールは、CAM ユーザーロール にリストされています。

[ロールと責任] タブ

ユーザー/ロール	説明
システムオーナー	情報システムの調達、開発、統合、変更、運用、および維持を担当するユーザー。
認定担当者 (AO)	既知のリスクレベルで運用環境に情報システムを受け入れる責任を負うユーザー。通常、この担当者は CISO または代理 CISO レベルです。
正式な指定代理人の承認 (AODR)	1 つ以上の AODR。
セキュリティコントロール査定人 (SCA)	情報システムのコントロールのアセスメントの実施を担当するユーザー。
情報システムセキュリティマネージャー (ISSM)	ISSO によって指定された情報システムのセキュリティ管理アクティビティの実施を担当するユーザー。
情報システムセキュリティ責任者 (ISSO)	適切な運用セキュリティ体制が情報システムに対して維持されていることを確認する責任を負うユーザー。
情報所有者	法定、管理、および運用権限を担当するユーザー。
システムユーザー	システムで実際の作業を行う責任があるユーザー。

CAM でサポートされる RMF ワークフロー

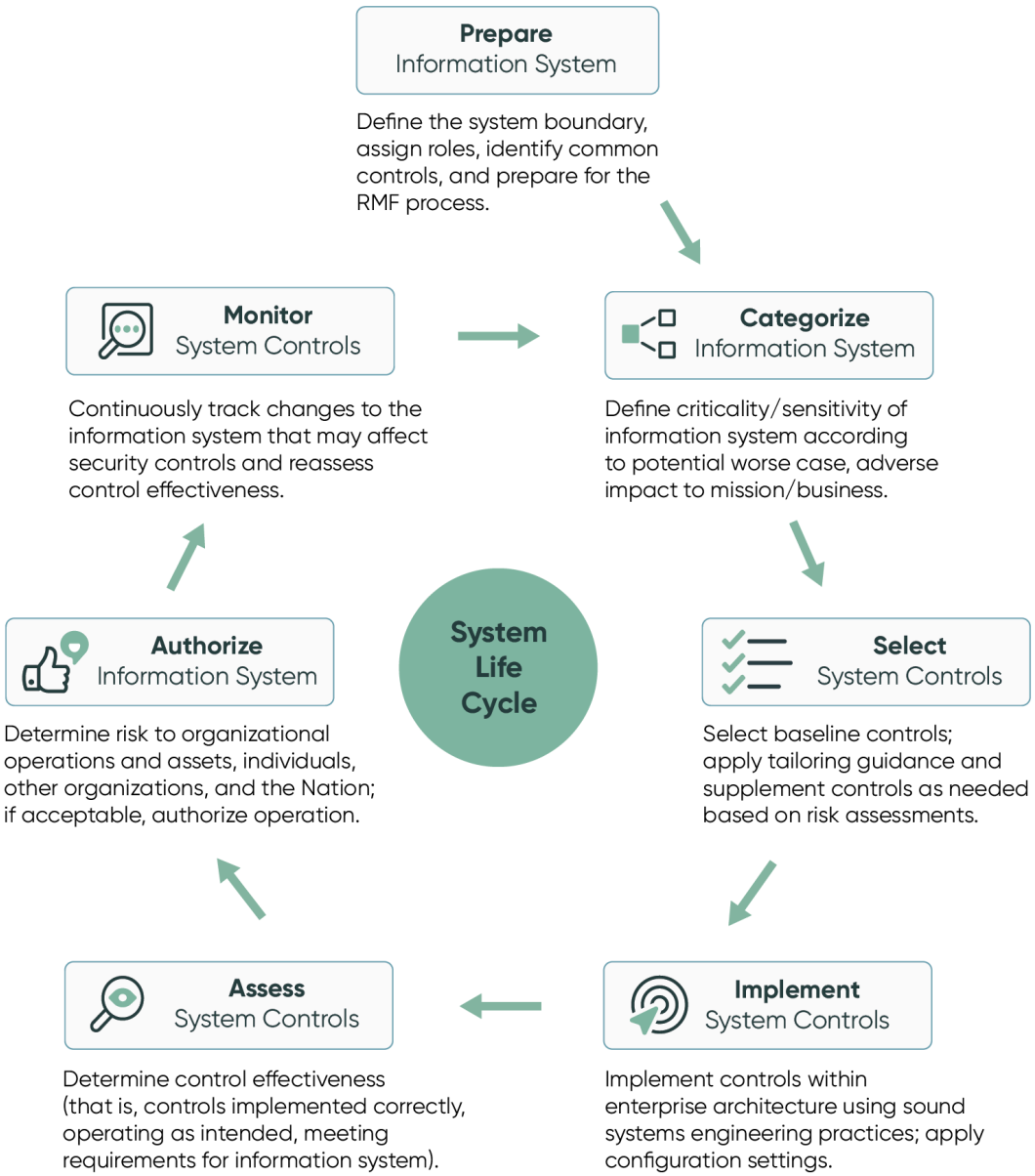
米国連邦政府によって、米国の経済的および国家安全保障上の利益を支援するために必要なレジリエンスを提供することが RMF に義務付けられています。CAM では、RMF で定義されている 7 つのステップを採用して、セキュリティ体制について十分な情報に基づいた意思決定を行うことができます。

RMF は、ここに示されている 7 つのステップで構成されています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RMF セキュリティライフサイクル



次に探索する内容

CAMを構成して使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- CAMの構成
- RMF ステップ 0 - 認証パッケージの準備
- RMF ステップ 1 - 認証パッケージの分類
- RMF ステップ 2 - 認証パッケージのコントロールの選択
- RMF ステップ 3 - コントロールの実装
- RMF ステップ 4、5、および 6 - 評価、許可、およびモニター
- CAM でのコントロールとアセスメント目標の実装

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- CAM ワークスペース での継続的な認証タスクとモニタリングタスク
- CAMの参照

CAMの構成

チェックリストのステップに従って ServiceNow Store から CAM をダウンロードし、操作の準備をします。

設定の概要

1. 継続的な承認とモニタリング セットアップのチェックリスト

   チェックリストには、ベースシステム を準備するために完了する必要があるタスクが含まれています。

2. 初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする

   ServiceNow Store から CAM をダウンロードします。

3. ユーザーおよびグループに 継続的な承認とモニタリング のロールをアサインする

   ユーザーとグループにロールをアサインして、CAM アプリケーションを使用する準備をします。

継続的な承認とモニタリング セットアップのチェックリスト

チェックリストには、ベースシステム を準備するために完了する必要があるタスクが含まれています。

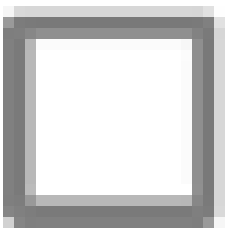
始める前に
必要なロール：admin、sn_irm_cont_auth.admin

手順

チェックリストトピックの PDF を作成して印刷し、完了したらチェックオフします。

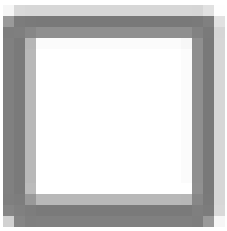
PDF を生成するには、トピックの上部にある **[PDF** として保存] アイコン (PDF) を選択してから、[選択したトピック] を選択します。

CAM のセットアップチェックリスト

アイテム	説明
	システムアドミニストレーターロールを持つユーザーは、GRC コアアプリケーションが ServiceNow AI Platform インスタンスにインストールされていることを確認します。 注: GRC アプリケーションと ServiceNow AI Platform インスタンスは、ファミリーリリースが同じである必要があります。 **a.** GRC: GRC プロファイルアプリケーションがインスタンスにインストールされていることを確認するには、[プラグイン] に移動して、[GRC プロファイル] を検索します。 **b.** GRC プロファイルコアアプリケーションがインストールされていない場合は、[インストール] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アイテム	説明
	c. 必要に応じて、次のアプリケーションもインストールします。 ○ GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 ○ GRC: リスク管理 ○ GRC: 監査管理 **d.** アプリケーションをインストールした後、継続的な承認とモニタリング コアアプリケーションをインストールします。 インスタンスに表示されていないアプリケーションがある場合は、ServiceNow Store からダウンロードできます。GRC コアアプリケーションのエンタイトルメントの取得、ダウンロード、およびインストールの詳細については、「GRC と ServiceNow Store」を参照してください。
	CAM 管理者ロールを持つユーザーは、「ユーザーおよびグループに 継続的な承認とモニタリング のロールをアサインする」で説明されている通りに必要なロールを持つアサインされたユーザーです。

タスクの結果
お疲れさまでした！CAM ベースシステム が正常に設定されました。ベースシステムに含まれる要素の多くは、特定のビジネスニーズに合わせてカスタマイズできます。詳細については、チェックリストのリンクを参照してください。

ユーザーおよびグループに 継続的な承認とモニタリング のロールをアサインする

ユーザーとグループにロールをアサインして、CAM アプリケーションを使用する準備をします。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて

手順

1. 移動先 すべて > ユーザー管理 > ユーザー.
2. ユーザー名を選択します。
3. [ロール] タブを選択し、[編集] を選択します。
4. ユーザーに割り当てるロールをコレクション側からロールリストに移動し、[保存] を選択します。
   ロールの説明は CAM ユーザーロールに記載されています。
5. 各ユーザーまたはグループでこの処理を繰り返します。

> **注:**
> Employee Operator プラグインがインストールされている場合、各ロール (承認担当者、エグゼクティブリーダー、リーダーなど) は Lite ロールとして分類されます。

CAM の使用

CAMサービスを提供するには、NIST Risk Management Framework (RMF) で定義された 7 つのステップを実装し、コントロールとアセスメント目標を実装し、継続的な承認と監視を実行します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

1. RMF ステップ 0 - 認証パッケージの準備

   準備ステップでは、認証境界、コントロールオーバーレイ、および情報タイプを設定し、実際の認証パッケージを作成できます。

2. RMF ステップ 1 - 認証パッケージの分類

   分類ステップでは、考えられる最悪のケースのシナリオに従って情報システムの重要度または機密性を定義します。 ここには、パッケージの NIST の情報タイプを選択し、その情報タイプを使用してパッケージの影響度レベルを定義する作業が含まれます。

3. RMF ステップ 2 - 認証パッケージのコントロールの選択

   パッケージの影響度レベルが承認されたら、ベースラインコントロールを選択します。

4. RMF ステップ 3 - コントロールの実装

   実装するコントロールを選択し、それらに対して可能なアクションを実行すると、 コントロールを実装できます。

5. RMF ステップ 4、5、および 6 - 評価、許可、およびモニター

   コントロールを実装すると、内部および外部のコントロールを評価し、アクションプランとマイルストーン (POA&M) を生成し、変更要求と脆弱性一致アイテムを管理できます。

6. CAM でのコントロールとアセスメント目標の実装

   NIST 800-53A – アセスメント目標は、CAM アプリケーションの ベースシステム に含まれています。アセスメント目標は、リビジョン 5 のコントロール目標にマッピングされます。

7. CAM ワークスペース での継続的な認証タスクとモニタリングタスク

   CAM ワークスペース は、セキュリティポリシーとガイドラインへの準拠を保証するために、NIST Risk Management Framework へのコンプライアンスを継続的に監視および管理できる一元化されたハブです。

自動翻訳

RMF ステップ 0 - 認証パッケージの準備

準備ステップでは、認証境界、コントロールオーバーレイ、および情報タイプを設定し、実際の認証パッケージを作成できます。

準備ステップでのアクション

- 認証境界の定義
- 認証パッケージの作成

認証境界の定義

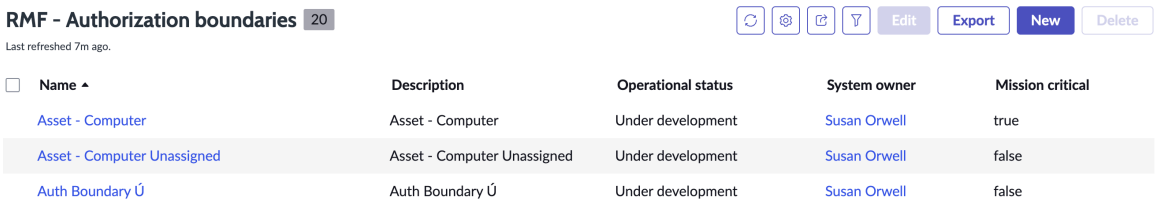
認証境界は、CAM アプリケーションを使用して継続的に管理および監視できる特定のシステムのスコープを定義します。

始める前に
必要なロール：sn_irm_cont_auth.system_owner または sn_irm_cont_auth.admin

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

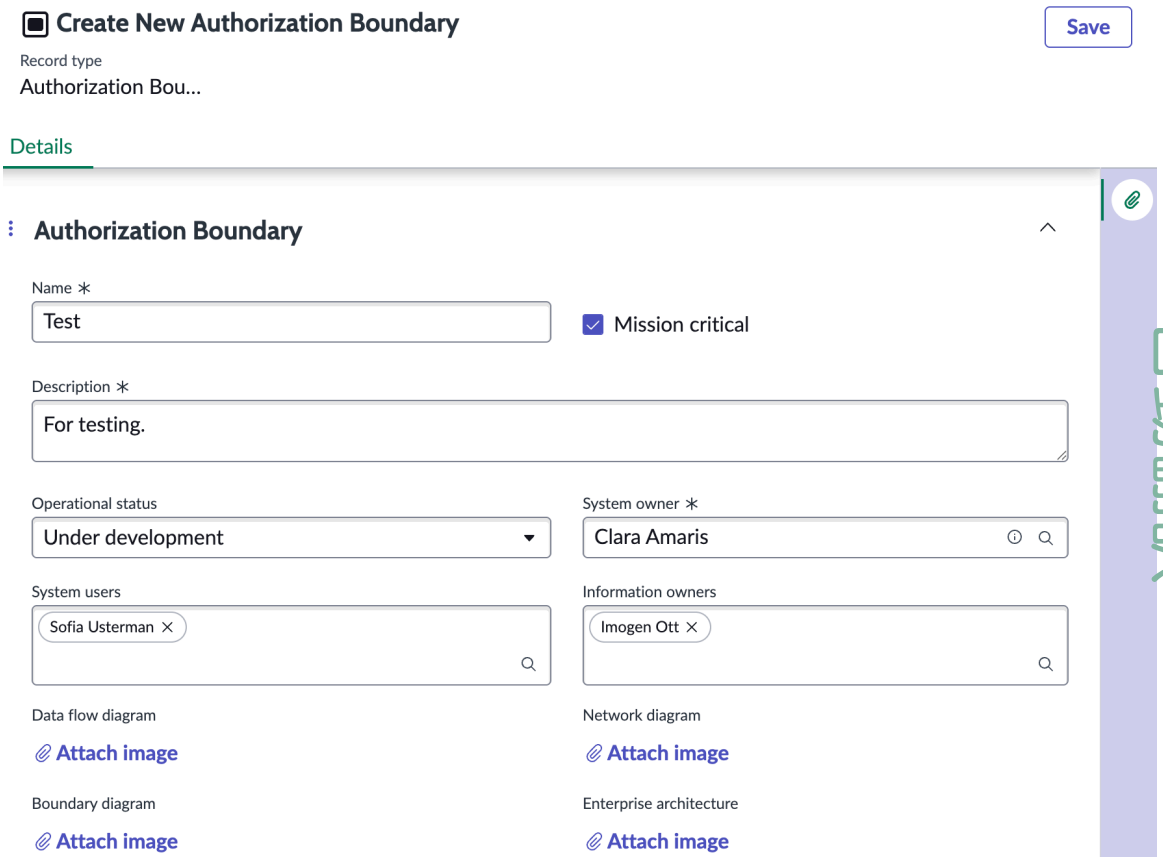
手順

1. 移動先 すべて > 継続的な認可とモニタリング > すべての認証境界.



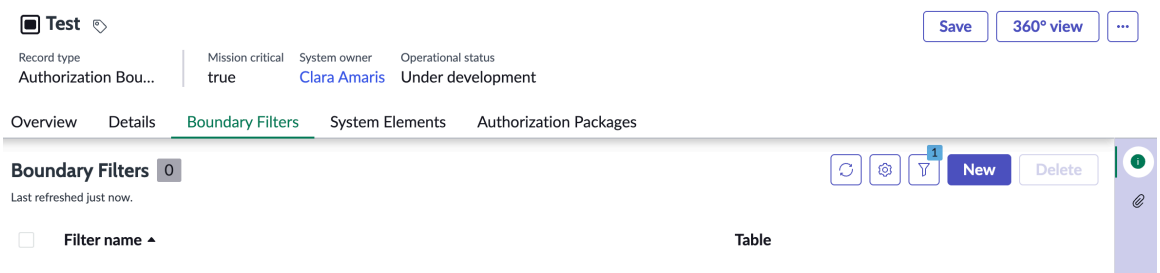
2. [新規] を選択してから、フォームに入力します。

設定の説明は、「認証境界フォームのフィールド」に記載されています。



3. レコードを保存します。

表示されるタブを使用して、所有しているシステムとシステムの部分を特定し、認証プロセスを実行します。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [境界フィルター] タブを使用して、すべてのシステム要素を識別するためのフィルターを作成できます。
   フィルターを実行すると、結果が [システム要素] タブに表示されます。
5. 認証プロセスに含める必要がない要素が表示された場合は、それらの要素を選択し、画面の下部にある [選択した行のアクション] リストから [削除] を選択できます。
6. [新規] を選択して、認証境界のシステム要素のリストに追加の資産またはシステムを含めることができます。

次のタスク

これで、認証境界を定義する手順は完了です。次のステップは、承認によって処理される認証パッケージを作成することです。[認証パッケージ] タブをクリックするか、ナビゲーションペインからプロセスを開始できます。詳細については、「認証パッケージの作成」を参照してください。

認証パッケージの作成

認証から運用プロセスを経て送信する資産またはシステムの認証境界を定義した後、その目的に合う認証パッケージを作成する必要があります。パッケージは、RMF によって義務付けられている 7 つのステップを踏んで処理されます。

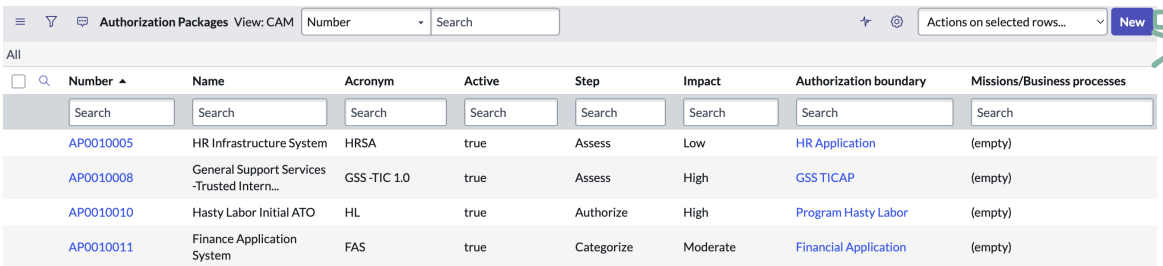
始める前に

必要なロール：sn_irm_cont_auth.system_owner または sn_irm_cont_auth.admin

> **注:**
> これらのロールは、[準備] ステータスから移行した後にのみ、認証パッケージにアクセスするために必要です。

手順

1. 移動先 すべて > 継続的な認可とモニタリング > すべての認証パッケージ.

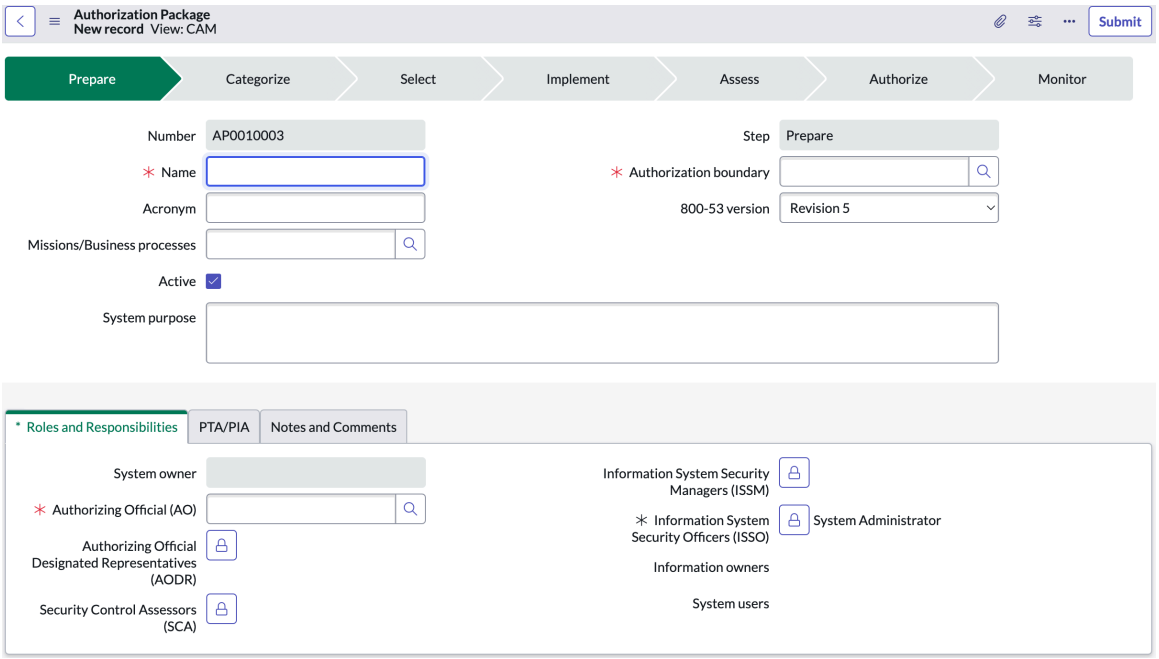


Number	Name	Acronym	Active	Step	Impact	Authorization boundary	Missions/Business processes
AP0010005	HR Infrastructure System	HRSA	true	Assess	Low	HR Application	(empty)
AP0010008	General Support Services -Trusted Intern...	GSS -TIC 1.0	true	Assess	High	GSS TICAP	(empty)
AP0010010	Hasty Labor Initial ATO	HL	true	Authorize	High	Program Hasty Labor	(empty)
AP0010011	Finance Application System	FAS	true	Categorize	Moderate	Financial Application	(empty)

2. [新規] を選択してから、フォームに入力します。

   設定の説明は、「認証パッケージフォームのフィールド」に記載されています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

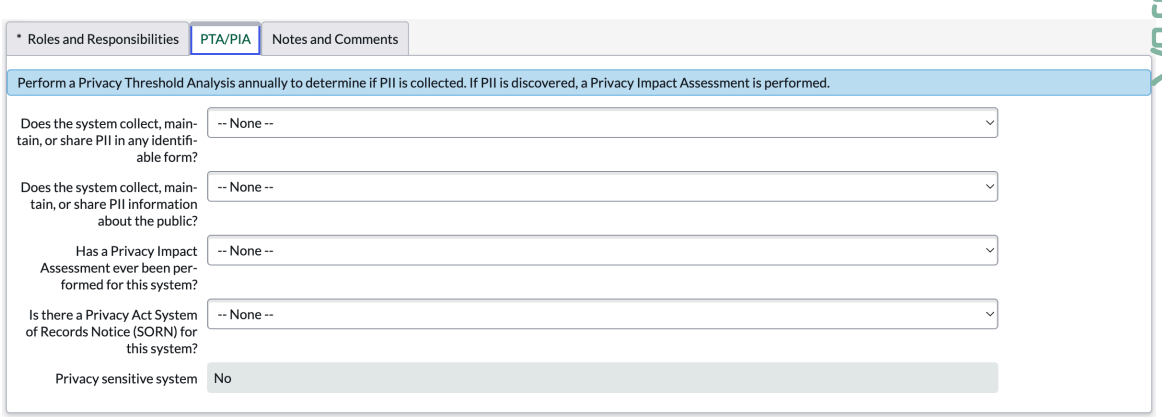


3. レビューおよび承認プロセス中に、[ロールと責任] タブを選択し、さまざまなステークホルダーの責任を指定します。

   設定の説明は、「ロールと責任」に記載されています。

4. **[PTA/PIA]** タブを選択し、質問に回答してプライバシーしきい値分析を実行します。

   PTA は、さまざまなタイプの個人識別可能情報 (PII) が認証されているシステムに存在するかどうかを識別します。



5. すべての質問に対して [いいえ] と答えた場合は、プライバシー影響分析を受ける必要はありません。[送信] を選択できます。
6. いずれかの質問に対して [はい] と答えた場合は、プライバシー影響分析を受ける必要があります。

   a. [アセスメント回答者] フィールドで、ロックアイコンを選択し、アセスメントを受けるユーザーを選択します。

   b. 回答者を選択したら、ロックアイコンをもう一度選択します。

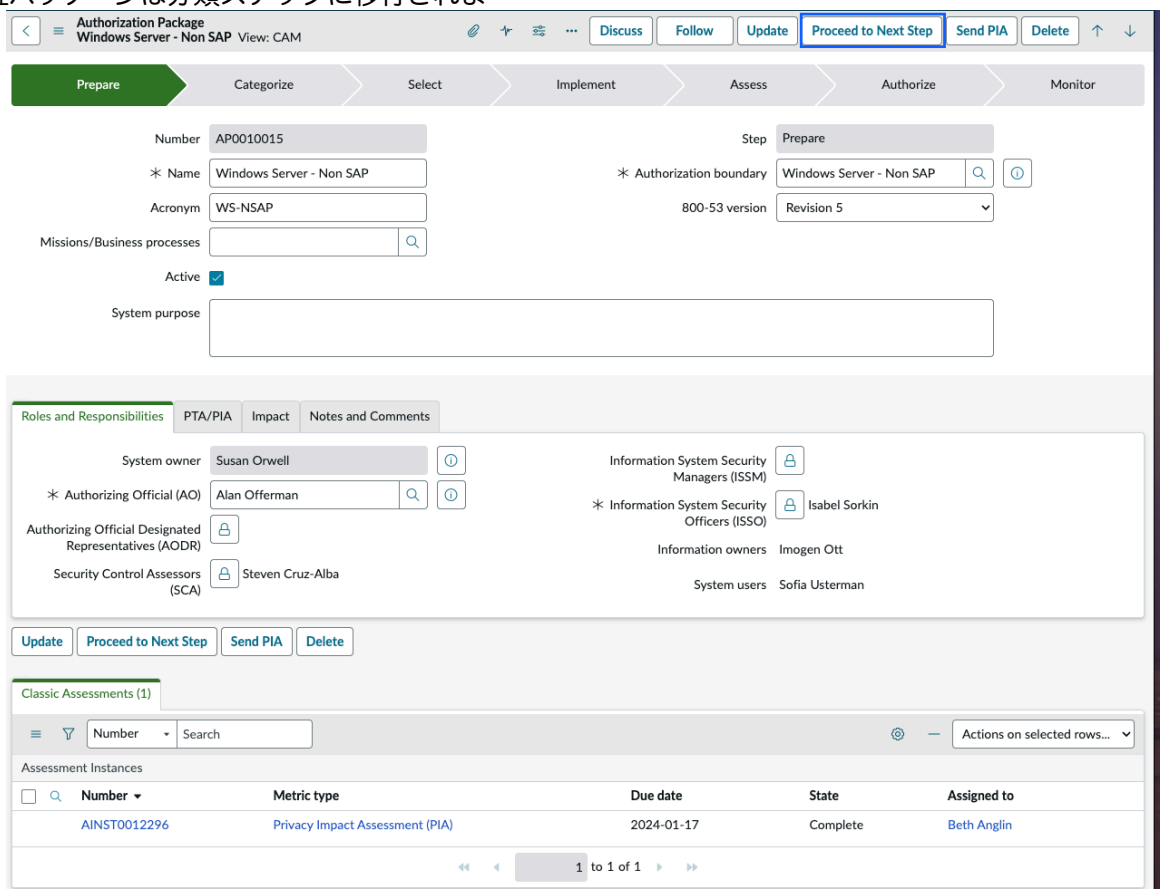
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. [送信] を選択します。
選択した回答者にアセスメント要求通知が送信されます。

d. PIA が完了すると、認証パッケージフォームの関連リストにアセスメントの応答が表示されます。

7. [メモとコメント] タブを選択して、顧客向けのメモをパッケージに追加します。

8. [次のステップに進む] を選択して、パッケージを次のステップに移行します。
認証パッケージは分類ステップに移行されます。



RMF ステップ 1 - 認証パッケージの分類

分類ステップでは、考えられる最悪のケースのシナリオに従って情報システムの重要度または機密性を定義します。 ここには、パッケージの NIST の情報タイプを選択し、その情報タイプを使用してパッケージの影響度レベルを定義する作業が含まれます。

始める前に

[分類] を使用するために必要なロール：

- sn_irm_cont_auth.system_owner
- sn_irm_cont_auth.info_system_sec_manager
- sn_irm_cont_auth.info_system_sec_officer

認証パッケージへの書き込みに必要なロール：

- sn_irm_cont_auth.admin
- sn_irm_cont_auth.system_owner

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- sn_irm_cont_auth.info_system_sec_manager
- sn_irm_cont_auth.authorization_official
- sn_irm_cont_auth.info_system_sec_officer

情報タイプを選択するために必要なロール：

- sn_irm_cont_auth.admin
- sn_irm_cont_auth.system_owner

パッケージフォームの上書きフィールドに書き込むために必要なロール：
sn_irm_cont_auth.system_owner

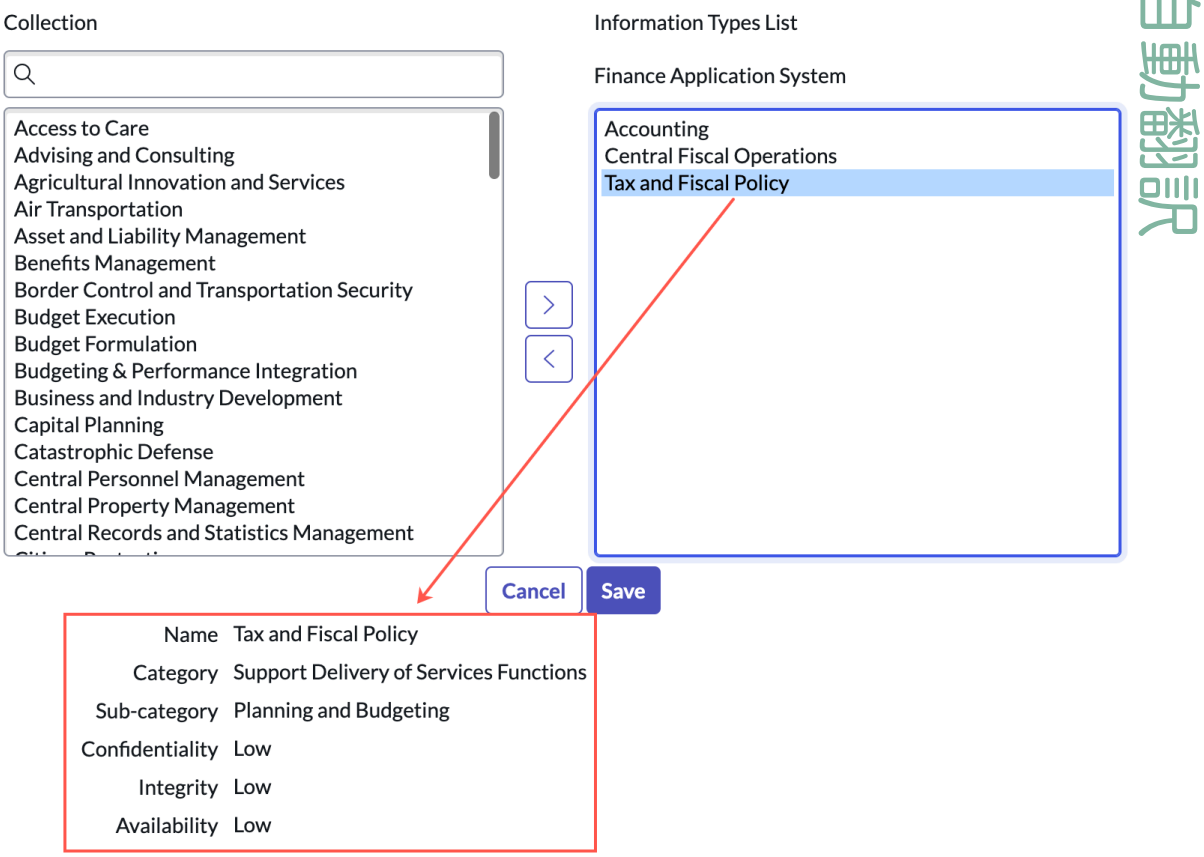
このタスクについて

認証パッケージフォームで [分類] をクリックすると、[影響度 **(Impact)]** フィールド、[影響度 **(Impact)]** タブ、および [情報タイプ] 関連リストがフォームに表示されます。

手順

1. [情報タイプ] タブで、[編集] を選択します。

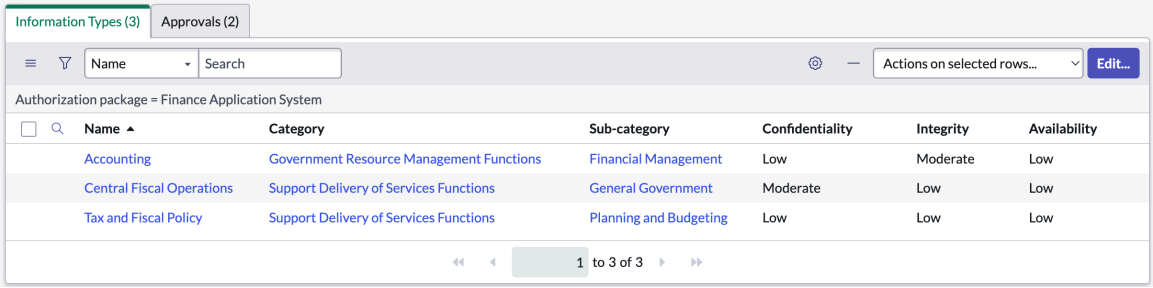
> **注:**
> 情報タイプを選択すると、名前、カテゴリ、機密性、完全性、可用性 (CIA) 評価など、選択した情報タイプに関するガイダンスが表示されます。



2. この認証パッケージに対して選択する情報タイプを複数選択し、それらを [情報タイプリスト (Information Type List)] ボックスに移動します。
3. 選択が完了したら、[保存] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[情報タイプ] 関連リストには、選択した情報タイプのガイダンス情報が含まれています。

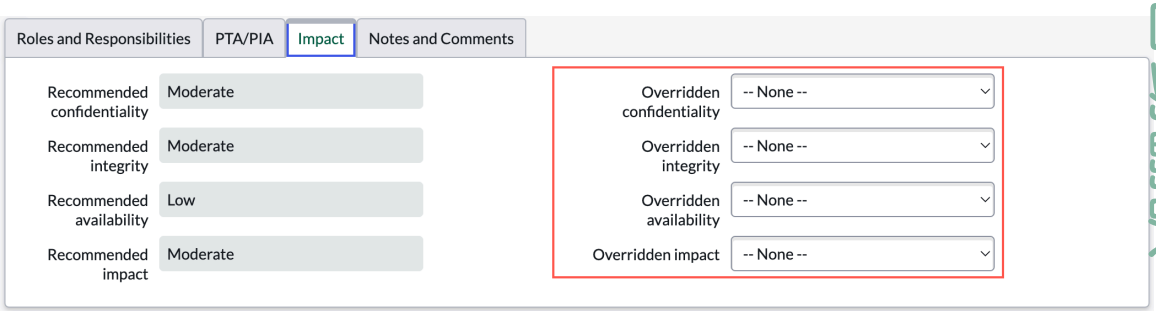


4. [影響度] タブを選択し、選択した情報タイプの推奨影響度を確認します。

> **注:**
> [推奨] フィールドに表示される影響は、選択した情報タイプの最悪のケースのシナリオを反映しています。たとえば、高 CIA レベルの情報タイプを選択した場合、[影響度 **(Impact)]** タブの [推奨] フィールドにはすべて高レベルのリスクが表示されます。CIA レベルは、選択した情報タイプの全体的な影響度を計算するために使用され、[影響度 **(Impact)]** フィールドにそれが表示されるようになりました。

5. 影響度レベルを上書きするには、[上書き] フィールドを変更し、理由を入力します。

上書きを指定すると、[影響度 **(Impact)]** フィールドが更新 CIA レベルに基づいて更新されます。

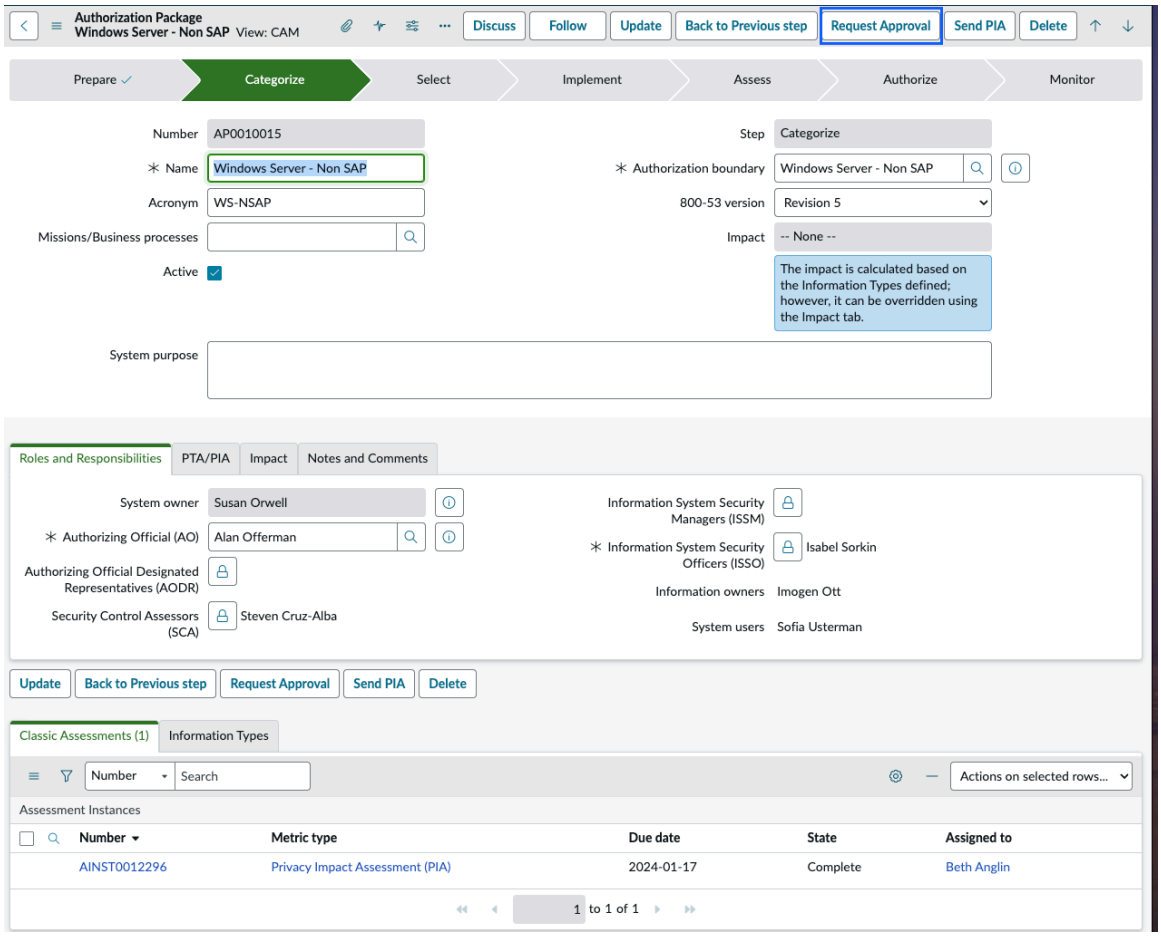


> **重要:**
> [影響度 **(Impact)]** フィールドが、承諾するデータの影響を正確に反映していることが重要です。ここから先のプロセスはすべて、その影響度レベルに依存します。NIST ガイドラインによると、実装する必要があるコントロールの数は、次のように影響度に依存します。
>
> - 高リスク = 343 コントロール
> - 中リスク = 262 コントロール
> - 低リスク = 125 コントロール

6. 影響度を定義したら、[承認を要求] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



承認要求が承認担当者に送信されます。承認担当者はナビゲーションペインから [自分の承認] にアクセスし、パッケージ内の情報を確認します。承認を受け取ると、パッケージは [選択] ステータスに移行します。

RMF ステップ 2 - 認証パッケージのコントロールの選択

パッケージの影響度レベルが承認されたら、ベースラインコントロールを選択します。

始める前に
必要なロール：sn_im_cont_baseline_control_objective テーブルにアクセスするには：sn_irm_cont_auth.system_owner、sn_irm_cont_auth.info_system_sec_officer、sn_irm_cont_auth.admin

[適用外としてマーク] にアクセスするために必要なロール：sn_irm_cont_auth.info_system_sec_officer、sn_irm_cont_auth.info_system_sec_manager、sn_irm_cont_auth

GRC 継続的な承認とモニタリング

GRC：継続的な承認とモニタリング クイックスタートテストでは 継続的な承認とモニタリング プラグイン (com.sn_compliance) をアクティブ化して、デモデータをロードする必要があります。

GRC: 継続的な承認とモニタリング クイックスタートテストテストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
GRC：システム所有者による AB および AP の責任とロールの作成と検証	システム所有者は、認証境界と認証パッケージの責任とロールを作成および検証します。	Quebec (Paris および Orlando と互換性がある)

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC: 継続的な承認とモニタリング クイックスタートテストテストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	情報所有者とシステムユーザーは、認証境界を選択したときにあらかじめ設定されています。	
GRC：システム所有者によるアプリモジュールの可視化の検証	システム所有者ペルソナが [継続的な承認と監視] アプリケーションメニューを表示することでき、そのメニューに次のモジュールを表示できることを確認します。 • すべての認証境界 • すべての認証パッケージ • 情報タイプライブラリー • コントロールオーバーレイ • コントロール目標 • コントロール • すべてのエンゲージメント	Quebec (Paris および Orlando と互換性がある)
GRC：システム所有者による要求の最初の認証と自分の認証モジュール	システム所有者が承認を要求します。	Quebec (Paris および Orlando と互換性がある)
SO：AB および AP の責任とロールの作成と検証	システム所有者が認証境界フォームのフィールドに入力して認証境界を作成できるかどうかを検証します。 また、同じ SO がフォームビューから認証パッケージを作成できるかどうかも検証します。	Quebec (Paris および Orlando と互換性がある)

継続的な承認とモニタリング の詳細については、「Continuous Authorization and Monitoring」を参照してください。

このタスクについて

認証パッケージフォームで承認が得られると、[コントロールオーバーレイ] フィールドと一連の [コントロール] 関連リストがフォームに表示されます。

手順

1. [ベースラインコントロール] 関連リストを選択します。
   このリストには、パッケージの計算された影響度レベルのベースラインコントロールが表示されます。実装されるコントロールの数 (NIST で定義) は、影響度レベル (高、中、低) によって異なります。
2. コントロールのリストでは、次のアクションを実行できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ベースラインコントロールのアクション

アクション	説明
リストにコントロールを追加する	[追加] を選択してから、追加するコントロールを選択し、[ベースラインコントロールを作成] を選択します。 **注:** コントロール目標を追加する場合、同じ参照 ID を持つ複数のコントロール目標を選択してベースラインコントロールに追加することはできません。コントロール目標の参照 ID が既にベースラインコントロールリストに存在する場合、コントロール目標を追加することはできません。
コントロールオーバーレイを使用してコントロールを追加する	[コントロールオーバーレイ] フィールドからコントロールオーバーレイを選択します。 **注:** プライバシーオーバーレイやその他のタイプのコントロールオーバーレイは、政府機関によって義務付けられている場合がありますが、それらを作成して特定の数のコントロールをリストに追加できます。
特定のコントロールを適用外として識別する	コントロールを選択してから [選択] を選択し、理由を入力して、[確認] を選択します。 この方法でマークしたコントロールは、[ベースラインコントロール] リストから削除され、[適用外のコントロール] 関連リストに移動します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクション	説明
	注: ○ 同じ参照 ID を持つコントロール目標を、ベースラインコントロールリストから適用外のコントロールに移動することはできません。 ○ 同じ参照 ID を持つコントロール目標を、ベースラインコントロールから適用外のコントロールへ、または適用外のコントロールからベースラインコントロールに移動することはできません。 ○ [適用外のコントロール] リストから同じ参照 ID を持つ 2 つのコントロール目標を選択すると、[ベースラインコントロールに戻る] アクションが無効になります。
共通コントロールからコントロールを継承する	共通コントロールを作成し、そこからリスクガイダンスを継承できるように他の下位コントロールをアサインすることができます。たとえば、施設全体を処理するコントロールがある場合、共通コントロールから保護とコンプライアンスを継承する関連コントロールを識別できます。 共通コントロールを作成するには、コントロールを選択してから、[共通コントロールを作成]、**[OK]** の順に選択して、確認します。共通コントロールからコントロールが継承できるようにする方法については、「共通コントロールからの継承」を参照してください。

自動翻訳

3. [承認を要求] を選択します。

   承認要求が承認担当者に送信されます。承認担当者はナビゲーションペインから [自分の承認] にアクセスし、パッケージ内の情報を確認します。承認を受け取ると、パッケージは [実装] ステータスに移行します。

   パッケージを [分類] ステータスに戻すには、[前のステップに戻る] を選択します。すべてのベースラインコントロールが削除されるため、パッケージを [選択] ステータスに再度移行させるには、承認を得る必要があります。

ベースラインコントロールの設定

ベースラインコントロールを使用すると、コントロールを継承したり、コントロールを共通としてマークしたり、ハイブリッドコントロールを作成したりできます。ハイブリッドコントロールを作成して、共通コントロールから要件を部分的に継承し、残りの要件はベースラインコントロールから生成されたコントロール用に作成します。

始める前に

必要なロール：
sn_irm_cont_auth.system_owner、sn_irm_cont_auth.info_system_sec_officer、sn_irm_cont_auth.info_syster

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
ハイブリッドコントロールは、共通コントロールから要件を部分的に継承できるだけでなく、共通コントロールの要件を最大限に活用しながら、そのコントロールの残りの要件を自己実装する柔軟性も備えています。

CAM には、NIST 800-53-r5 に基づいてコントロール目標からコントロールを継承する 2 つの方法があります。

プロバイダーから継承

コントロールは直接かつ完全に継承されます。たとえば、共通のプロバイダーである建物 A が提供するコントロール目標が火災防止であり、このコントロール目標には火災警報、煙検知、散水の 3 つの異なる要件がある場合、このコントロールは共通コントロールとして識別することで直接継承されます。

注:
1 つの認証パッケージに関連付けられたコントロールが、その認証パッケージ内で共通のコントロールプロバイダーとしてマークされており、かつその特定のパッケージが [監視] ステータスである場合、別の認証パッケージの共通のプロバイダーになることができます。その場合に限り、共通コントロールと呼ばれます。

ハイブリッド継承

コントロールは部分的に継承されます。この場合、コントロールの要件の 1 つまたはいくつかだけが継承されます。前述の例を考慮すると、ハイブリッド継承は以下の組み合わせで有効になります。

- 火災警報器などの要件の内の 1 つは建物 A から継承でき、他の 2 つの要件は自己実装できます。
- 火災警報器などの要件の内の 1 つは建物 A から継承でき、煙探知などの別の要件は建物 B から継承できます。残りの要件は自己実装できます。
- すべての要件は継承されます。少なくとも 1 つの要件は継承され、1 つは自己実装されなければならないため、この継承は部分継承ではありません。したがって、この継承はハイブリッド継承とは言えません。

注:
認証パッケージの役割と責任は、認証パッケージがあるステータスから別のステータスに移行する際に、認証パッケージをレビューして承認する必要がある承認担当者 (AO) にアサインされなければなりません。情報システムセキュリティ責任者 (ISSO) は、共通コントロールにマークを付けたり、ハイブリッドコントロールを作成したり、またはこれらのコントロール目標が NIST に基づいているため、該当しないコントロールを特定したりする必要があります。承認担当者 (AO) が承認した後、認証パッケージは [実装 (Implement)] ステータスに移行します。

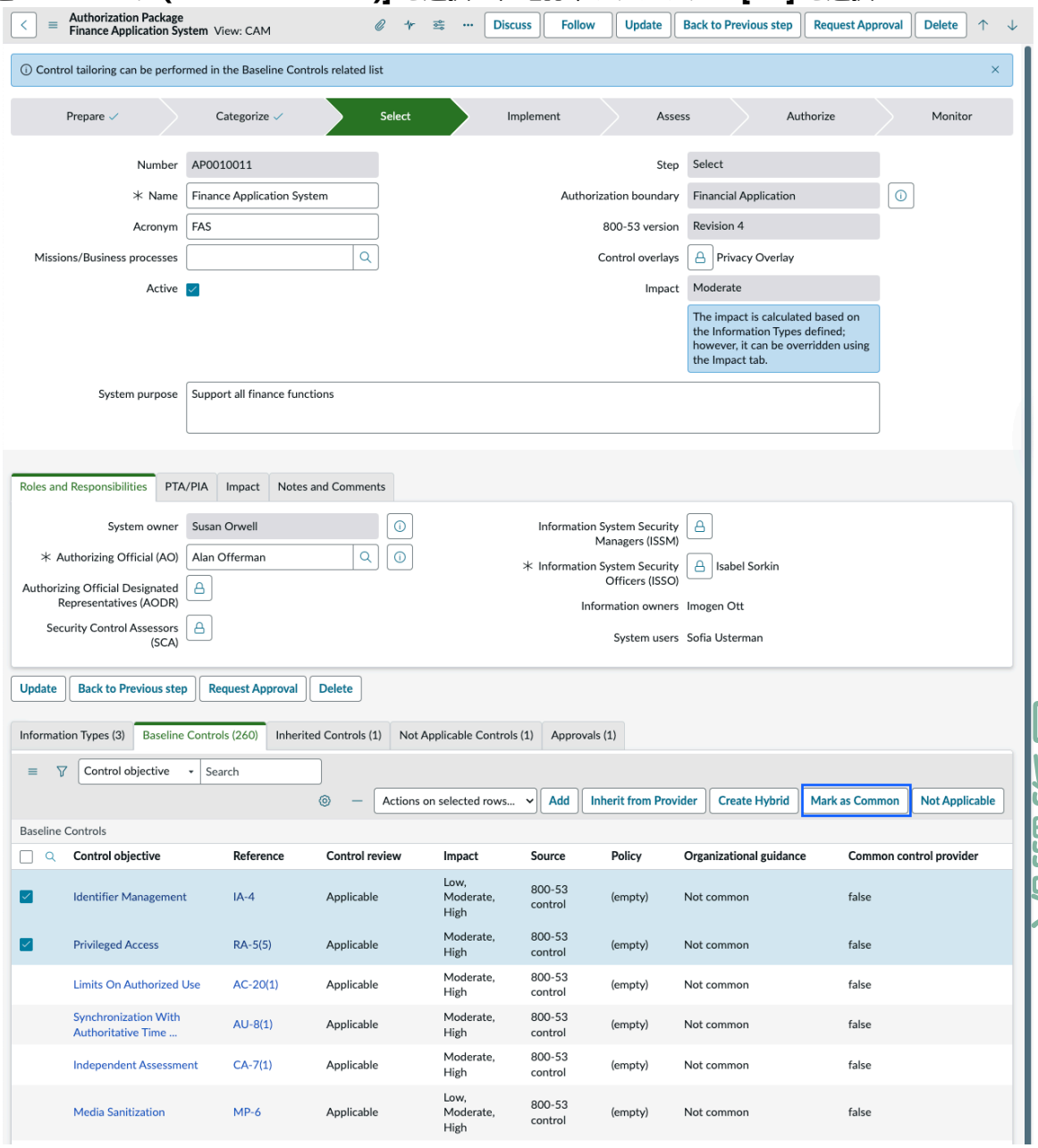
手順

1. 移動先 すべて > 継続的な認可とモニタリング > すべての認証パッケージ.
2. [選択 **(Select)]** ステータスにあり、ベースラインコントロールが追加されている認証パッケージレコードを選択します。
   [選択 **(Select)]** ステータスでは、すべてのベースラインコントロールが追加されており、各ベースラインコントロールの役割を識別できます。コントロールを継承したり、コントロールを共通としてマークしたり、ハイブリッドコントロールを作成したりできます。
3. 共通コントロールプロバイダーからのベースラインコントロールを共通コントロールとしてアサインするには、[ベースラインコントロール] タブで共通コントロールとしてアサインするコントロール目標を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [共通としてマーク **(Mark as Common)]** を選択し、確認ポップアップで **[OK]** を選択しま



す。

b. [承認を要求] を選択して、承認を要求します。
承認後、認証パッケージは [実装 (Implement)] ステータスに移行します。[実装 (Implement)] ステータスに移行する前に、コントロール目標フォームの [コントロールを自動的に作成 **(Creates controls automatically)]** オプションが、すべてのベースラインコントロールとハイブリッドコントロールに対して true である必要があります。そうでない場合は、コントロール目標のリストでエラーメッセージがポップアップ表示され、[コントロールを自動的に作成 **(Creates controls automatically)]** オプションを true にするよう促されます。

c. メッセージ内でコントロール目標リンクを選択し、それぞれのコントロール目標フォーム内のすべてのコントロール目標に対して、[コントロールを自動的に作成 **(Creates controls automatically)]** オプションを有効にします。

認証パッケージが承認されると、[コントロール] タブにコントロールが作成されます。その後、認証パッケージを [評価 (Assess)] ステータスに移行できます。このステータスでは、セキュリ

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ティコントロール査定人 (SCA) は、コントロールをテストするためにエンゲージメントを作成するエンゲージメントリーの役割を求められます。このステータスの後、認証パッケージは [承認 (Authorize)] ステータスに移行します。

認証パッケージが他の認証パッケージの共通コントロールプロバイダーとして使用できるようになるには、その認証パッケージが [監視] ステータスである必要があります。認証パッケージが [監視] ステータスに移行し、ベースラインコントロールのいくつかで共通コントロールプロバイダーフラグが true に設定されると、それらのベースラインコントロール用に生成されたコントロールが他の認証パッケージの共通コントロールプロバイダーになります。

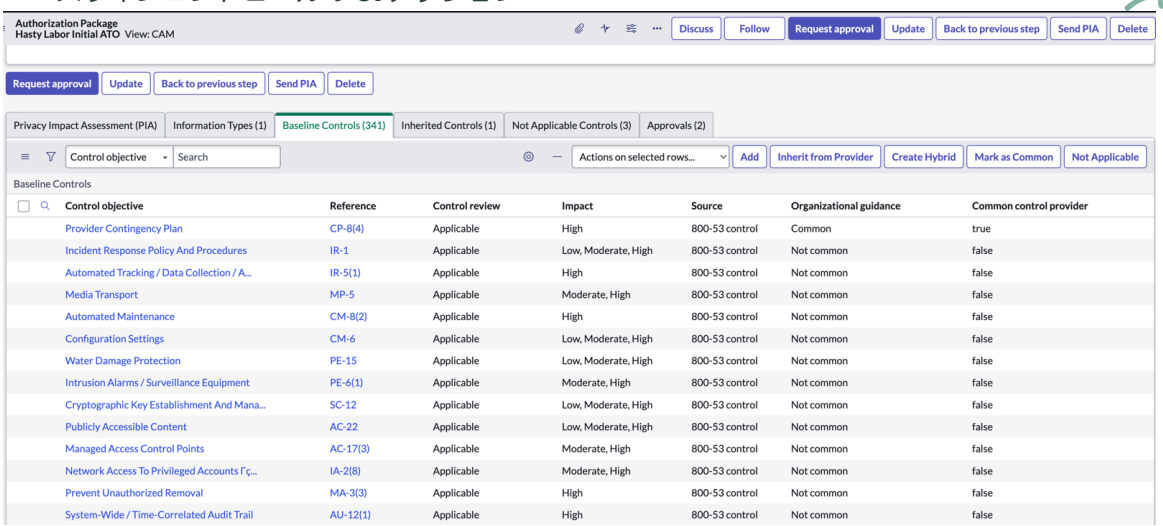
4. 特定の共通コントロールプロバイダーの共通コントロールから要件を継承するか、ハイブリッドコントロールを作成するには、[ベースラインコントロール] タブでコントロール目標を 1 つだけ選択します。

   a. [ハイブリッドを作成 **(Create Hybrid)]** を選択します。
   [ハイブリッドコントロールを作成 (Create hybrid control)] ポップアップには、グループ内のエンティティがリストされます。エンティティ別にグループ化すると、コントロール目標の参照番号に追加される要件番号が多くなる場合に便利です。共通コントロールプロバイダーの一部から要件を部分的に継承し、残りの要件を自己実装することができます。自己実装された要件が 1 つもない状態で、すべてのカテゴリのプロバイダーからすべてのコントロール要件を選択して継承すると、要件は部分的に継承されるのではなく、すべての要件が完全に継承されることになり、これは許可されません。ハイブリッドコントロールを作成するには、少なくとも 1 つの自己実装要件が必要です。

   b. エンティティのグループから、そのコントロールの自己実装のための要件を 1 つ以上残して、要件を選択します。

   c. [追加] を選択します。
   [ハイブリッドコントロール] 関連リストに、選択したベースラインコントロールが表示されます。ベースラインコントロールは、コントロール目標と認証パッケージの M2M です。

ベースラインコントロールの **UI** アクション



   d. 階層リストの表示/非表示 (▶) アイコンを選択して、継承された要件を表示します。
   ここにリストされていないその他の要件は、すべて自己実装されるものです。

> **注:**
> ハイブリッドコントロールの作成には、コントロール要件を持つ共通コントロールプロバイダーのみを使用できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

5. 共通プロバイダーからコントロールを継承するには、[ベースラインコントロール] 関連リストからコントロール目標を選択します。

   a. [プロバイダーから継承 **(Inherit from Provider)]** を選択し、[共通コントロールから継承 (Inherit from Common Control)] ポップアップで [共通コントロール (Common control)] リストを選択します。

   b. 継承元のコントロールを選択してから、[確認] を選択します。
   選択したコントロールのエンティティが共通プロバイダーになります。これらの認証パッケージごとに、継承コントロールの関連リストがあります。この関連リストの [継承元] フィールドには、どのコントロールが共通コントロールプロバイダーであるかに関する情報が表示されます。

   > **注:**
   > 直接継承であるプロバイダーからの継承には、コントロールの要件がない可能性があります。

6. 特定のベースラインコントロールを適用外としてマークし、ワークフローから除外してコントロールが生成されないようにするには、ベースラインコントロールを選択します

   a. [適用外] を選択します。

   b. [理由] フィールドにアクションを正当化するメモを入力してから、[確認] を選択します。
   このアクションにより、選択したベースラインコントロールのステータスが [未実装 **(Not implemented)]** に変更されます。

   [選択 **(Select)]** ステータスでは、生成するコントロールタイプのセットアップを行いました。セットアップが完了したら、認証パッケージを承認できます。

7. [承認を要求] を選択します。
   その後、認証パッケージは [実装 **(Implement)]** ステータスに移行します。このステータスで、セットアップに基づいてコントロールが作成されます。

共通コントロールからの継承

共通コントロールを作成した後、その共通コントロールから保護とコンプライアンスを継承できる他のコントロールを識別できます。

始める前に

必要なロール：sn_irm_cont_auth.system owner、sn_irm_cont_auth.info_system_sec_officer、または sn_irm_cont_auth.admin

このタスクについて

次のシナリオを考えます。あなたと私はシステムオーナーです。あなたは何百台ものサーバーを所有しており、私はそれらがインストールされている施設を所有しています。認証パッケージの影響度レベルに基づいて、NIST はサーバーを保護するために特定の数のコントロールを実装することを推奨しています。ただし、そのうちの次の 2 つを実装する手段がありません。

- 防火対策
- 訪問者のアクセス制御

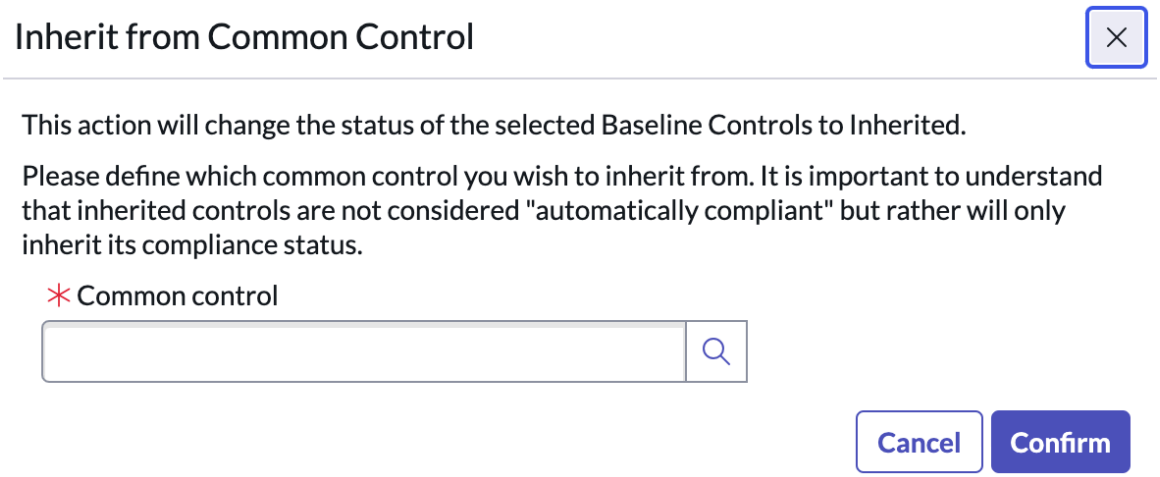
あなたは施設に消火システム、火災報知器、煙探知器があることを認識しています。また、施設にバッジシステムで保護されたドアがあることもわかっています。そこで、私からこれらのコントロールの保護とコンプライアンスを継承することにします。私がこれらのコントロールに準拠している限り、あなたも準拠しています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

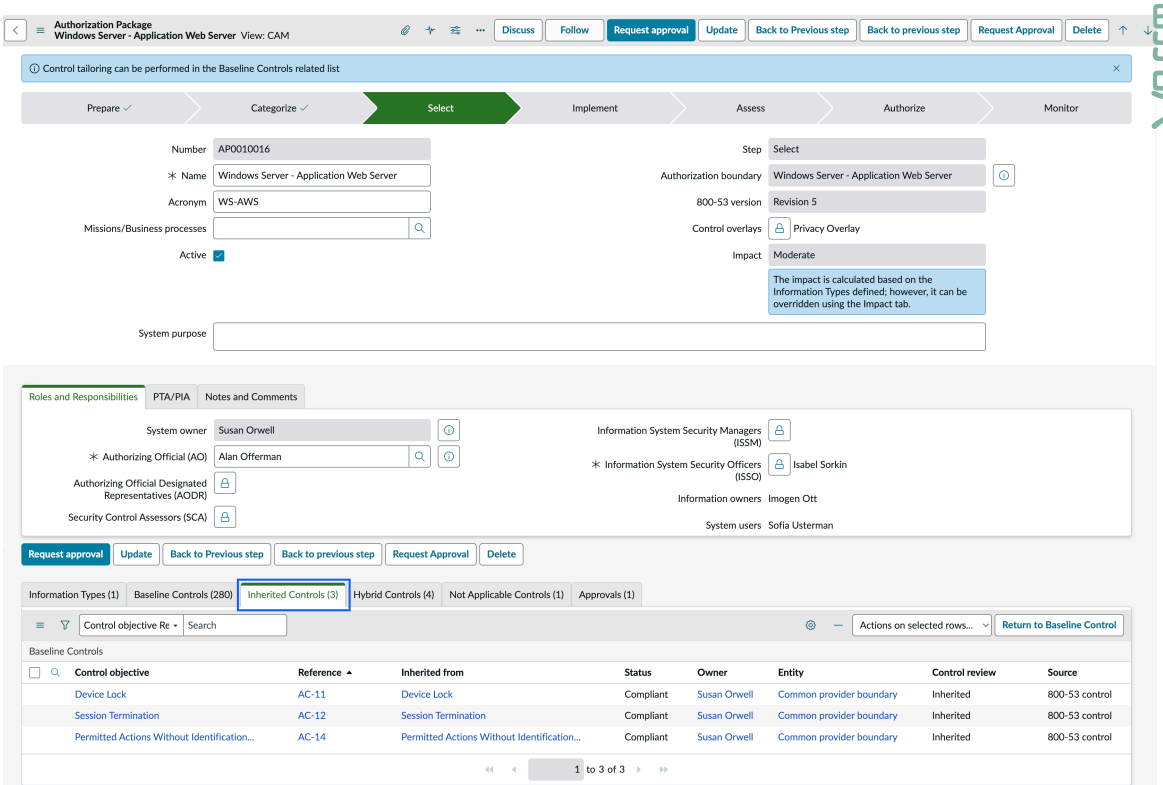
手順

1. 移動先 すべて > 継続的な認可とモニタリング > すべての認証パッケージ.
2. [選択] ステータスで認証パッケージを開きます。
3. 共通コントロールから継承するコントロールを選択します。
4. [プロバイダーから継承] を選択します。



5. 保護の継承元の共通コントロールを選択し、[確認] を選択します。

   [継承コントロール] 関連リストに、コントロール目標、および保護とコンプライアンスの継承元である共通コントロールが表示されるようになりました。



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RMF ステップ 3 - コントロールの実装

実装するコントロールを選択し、それらに対して可能なアクションを実行すると、 コントロールを実装できます。

始める前に

必要なロール：sn_irm_cont_auth.information_type、sn_irm_cont_auth.information_owner、または sn_irm_cont_auth.admin

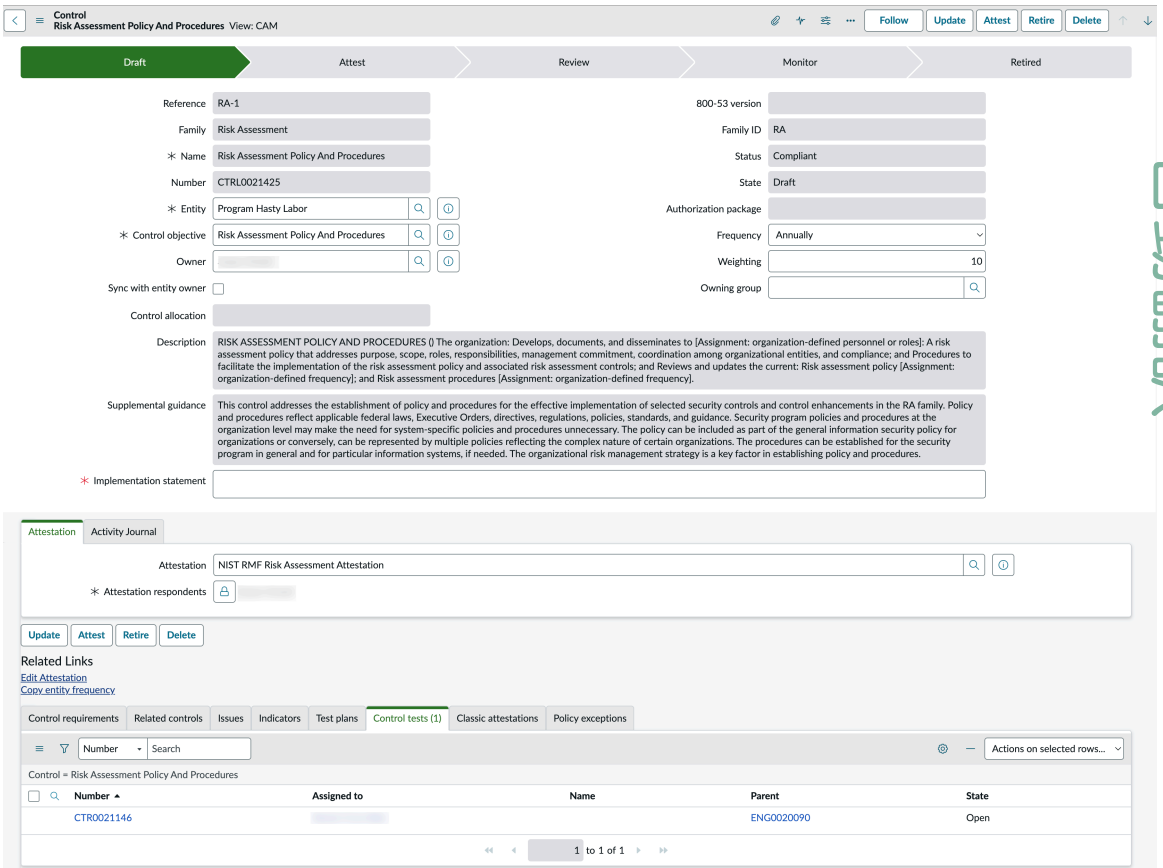
このタスクについて

認証パッケージフォームで承認が得られると、[実装されたコントロールの割合] フィールドと [コントロール] 関連リストがフォームに表示されます。

[コントロール] 関連リストには、選択した認証境界内のコントロール目標から作成されたすべてのコントロールが含まれています。

手順

1. コントロールのリストから、コントロール番号 (CTRL プリフィックス付き) を選択して、コントロールを開きます。



2. システムオーナーおよび他の技術者またはセキュリティ担当者によって実行される実装プロセスでは、ベース GRC システムに固有のコントロール管理ワークフローが使用されます。

   詳細については、以下を参照してください。

   - コントロールを管理
   - コントロール証明書を管理
   - コントロールインジケーターを管理

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. コントロールの実装中は、[実装されたコントロールの割合] フィールドで進捗状況が追跡されます。
4. すべてのコントロールの実装プロセスを完了したら、[評価] を選択して、パッケージを [評価] ステータスに移行します。

   パッケージを [選択] ステータスに戻すには、[前のステップに戻る] を選択します。すべてのアクティブなコントロールが廃止されるため、パッケージが [実装] ステータスに再度移行するためには、承認を得る必要があります。

RMF ステップ 4、5、および 6 - 評価、許可、およびモニター

コントロールを実装すると、内部および外部のコントロールを評価し、アクションプランとマイルストーン (POA&M) を生成し、変更要求と脆弱性一致アイテムを管理できます。

始める前に

必要なロール：

- sn_irm_cont_auth.system_owner
- sn_irm_cont_auth.info_system_sec_officer
- sn_irm_cont_auth.authorization_official
- sn_irm_cont_auth.info_system_sec_manager
- sn_irm_cont_auth.admin

このタスクについて

評価プロセスは、通常、システムオーナーまたはコントロールを実装した担当者以外のユーザーによって実行されます。
[評価] ステータスでは、[コントロールアセスメント] および [リスクサマリー] 関連リスト、および **[POA&M]** 、[変更要求]、[セキュリティインシデント]、および [脆弱性一致アイテム] タブが認証パッケージフォームに追加されます。

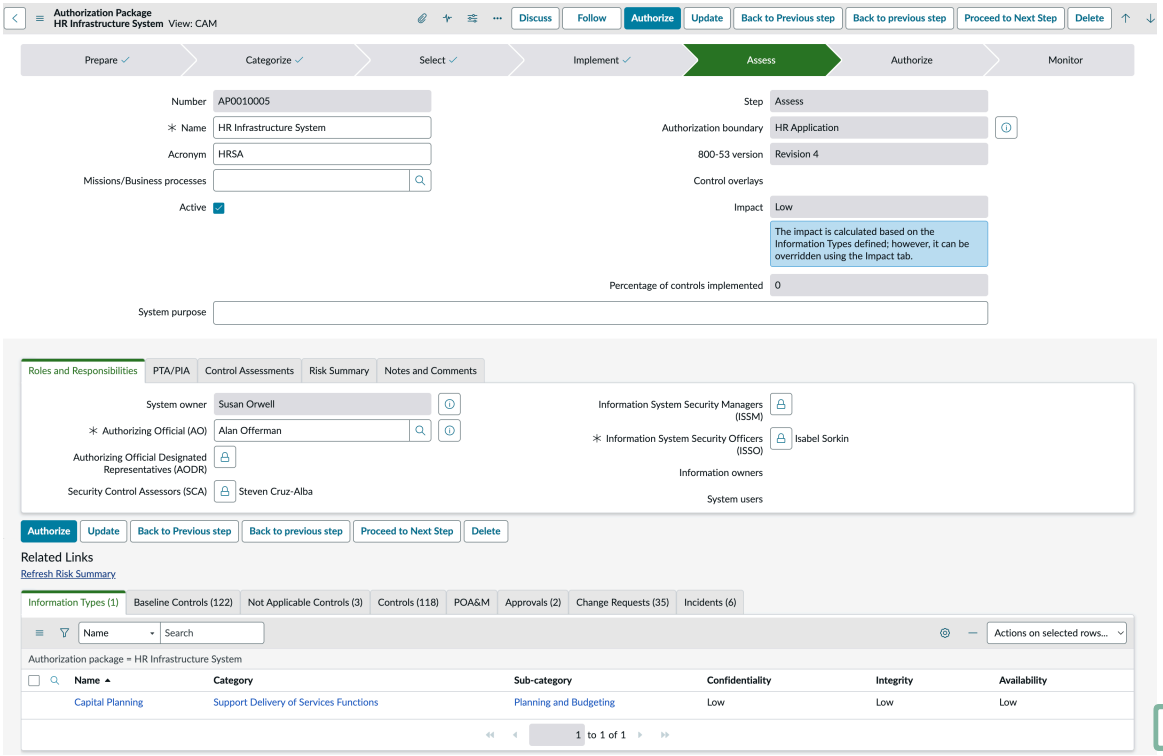
注:
大量の変更要求、インシデントレコード、またはその両方が 1 つの認証パッケージに関連している場合、CAM のパフォーマンスが遅くなることがあります。トランザクションの応答時間が長い場合は、KB0861865 に詳述されている手順の実行を検討してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

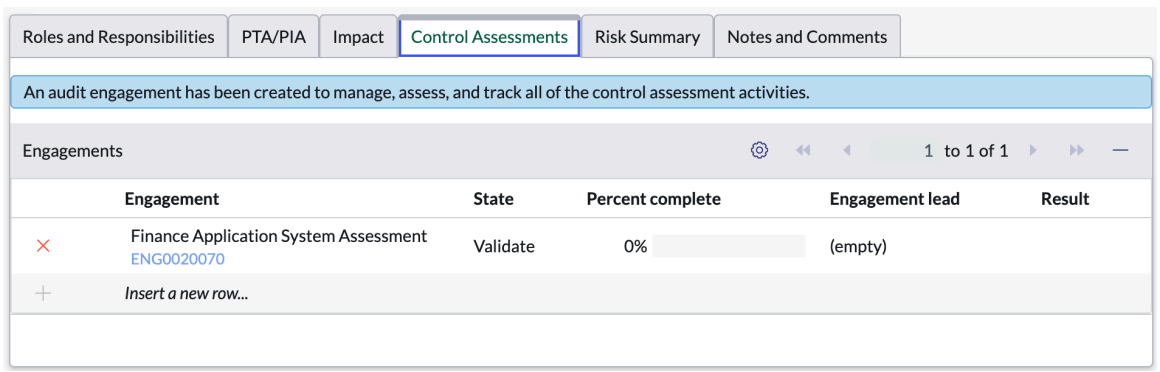
1. [実装] ステータスの認証パッケージの場合は、[評価] を選択します。



> **注:**
> 監査エンゲージメントが自動的に作成されます。

パッケージを [実装] ステータスに戻すには、[前のステップに戻る] を選択します。エンゲージメントのステータスが [未完了でクローズ] になります。[評価] を選択すると、エンゲージメントが作成されます。

2. [コントロールアセスメント] 関連リストを選択して、監査エンゲージメントを表示します。



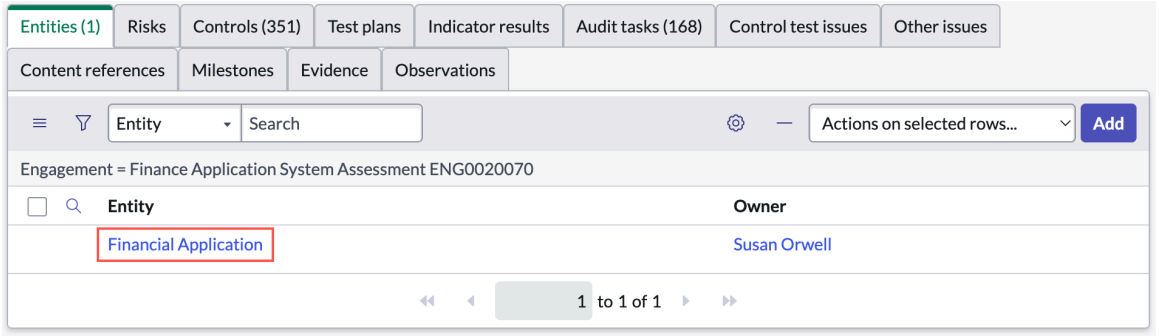
> **注:**
> 監査エンゲージメントが自動的に SCA にアサインされます。

3. エンゲージメント番号を選択してエンゲージメントを開きます。

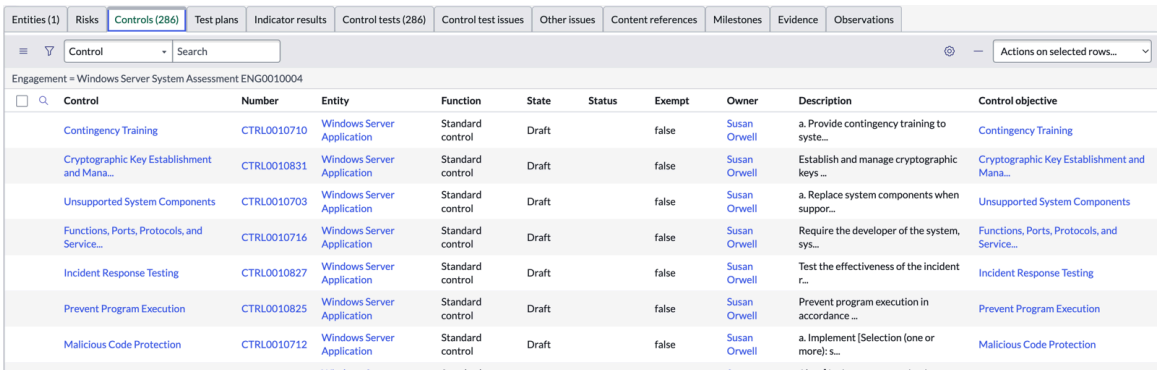
[エンティティ] タブにパッケージの認証境界が表示されていることに注意してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



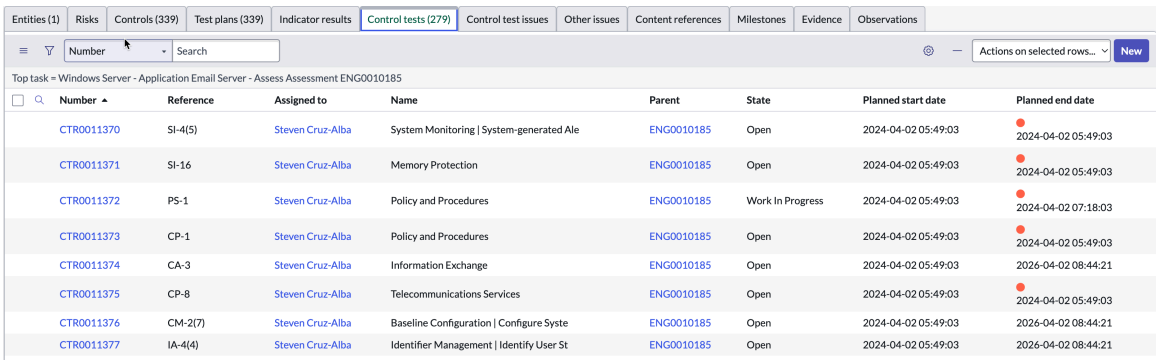
4. [コントロール] タブを選択すると、チームが実装したすべてのコントロールが表示されます。



5. [テスト計画] タブを選択します。
コントロールのテスト計画が自動的に作成されます。テスト計画についての詳細は「テスト計画のアセスメント手順計画の生成」を参照してください。

6. [コントロールテスト] タブを選択して、コントロールを評価するためのタスクを表示します。

> **注:**
> デフォルトビューの [監査タスク] タブの名前が、CAM ビューの [コントロールテスト] タブに変更されます。関連リストのラベル名はさまざまで、デフォルトビューまたは CAM ビューに固有の名前になります。ビューは、[他のアクション] アイコン (☰) を選択して変更できます。

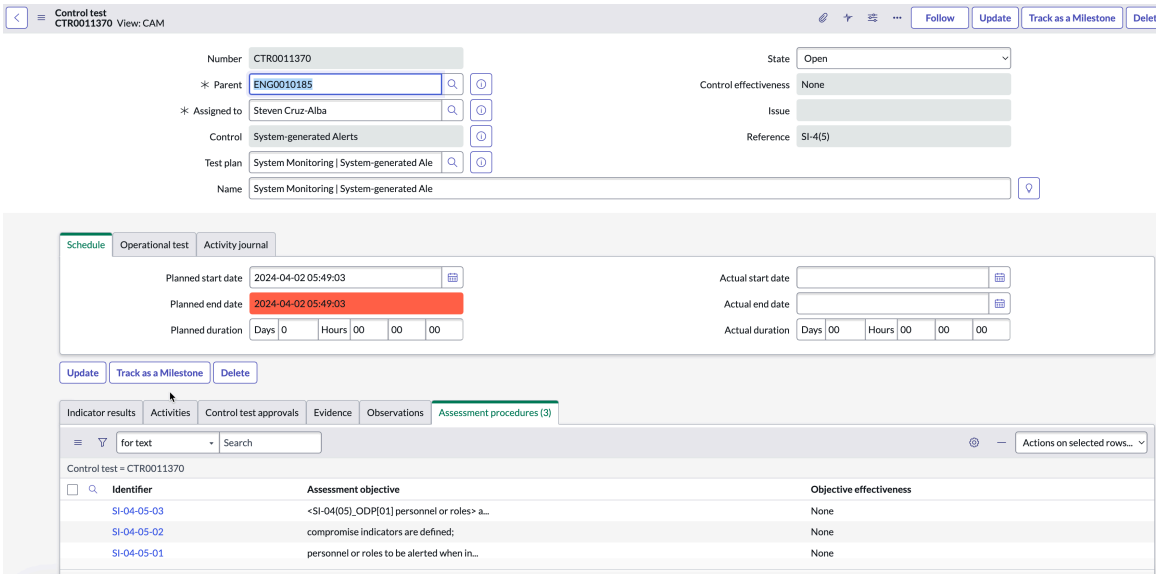


テスト計画についての詳細は「コントロールテストのコントロール有効性を判断する」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

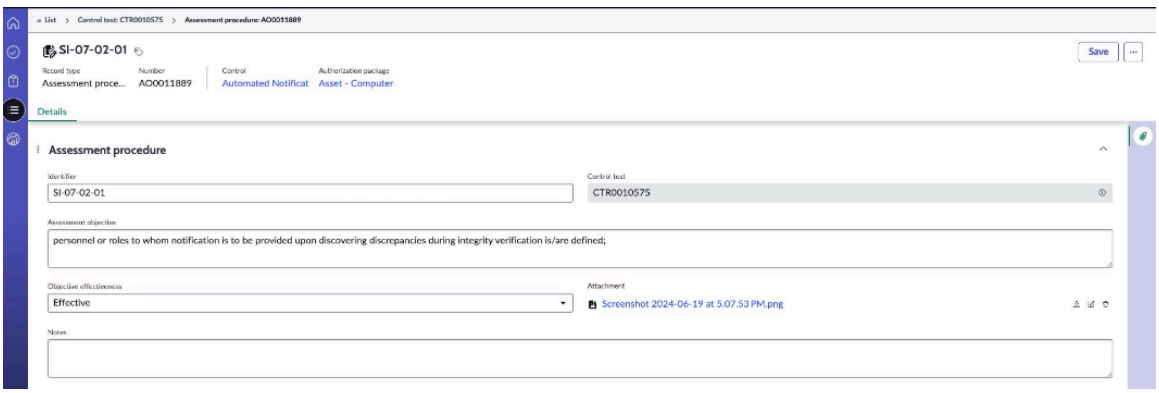
a. コントロールテストを選択します。



b. [アセスメント手順 **(Assessment procedures)]** リストから、レコードを選択します。

c. [ファイルの添付 **(Attach File)]** リンクを選択して、テストの証明として証拠ドキュメントを添付します。

d. [メモ **(Notes)]** フィールドを選択して、追加のアセスメントの詳細を入力します。



7. デフォルトビューで監査タスクを選択し、設計テストと操作テストを実行して、コントロールの有効性を判断します。

このプロセスの詳細については、「エンゲージメントを管理する」を参照してください。

> **注:**
> 評価フェーズ中に発生した問題はすべて **[POA&M]** タブに表示されます。さらに、パッケージ内のシステム要素をターゲットとする未解決の変更要求または脆弱性一致アイテムがすべて、これらのタブの下に表示されます。

8. システムオーナーは、システムを脅かす可能性のある POA&M の問題、変更要求、および脆弱性一致アイテムをレビューして文書化する必要があります。

9. レビューが完了したら、 [承認 **(Authorize)]** を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
[監視] ステータスでは、インジケーターがある場合は継続的な監視が可能です。そうでない場合は、コントロールを手動で確認できます。詳細については、「コントロールインジケーターを管理」を参照してください。

[レポートを生成] を選択して、認証パッケージの FedRAMP システムセキュリティプラン (SSP) ドキュメントを PDF 形式で生成できます。

パッケージが [認可] ステータスに移行します。すべて問題がなければ、[承認を要求**(Request Approval)]** をクリックします。承認要求が承認担当者に送信されます。承認担当者はナビゲーションペインから [自分の承認] にアクセスし、パッケージ内の情報を確認します。承認を受け取ると、パッケージは [監視] ステータスに移行します。

CAM でのコントロールとアセスメント目標の実装

NIST 800-53A – アセスメント目標は、CAM アプリケーションの ベースシステム に含まれています。アセスメント目標は、リビジョン 5 のコントロール目標にマッピングされます。

注:

- NIST SP 800-53 は、連邦政府情報システムおよび連邦組織のためのセキュリティコントロールとプライバシーコントロールです。
- NIST SP 800-53A は、連邦政府情報システムおよび連邦組織のセキュリティコントロール：効果的なセキュリティアセスメント計画を評価するためのガイドです。

各テストテンプレートにはアセスメント手順テンプレートがあります。このテンプレートは、ServiceNow ベースシステムによって、NIST 800-53 リビジョン 5 で定められたコントロール目標の CAM ユーザーにインポートされます。各アセスメント手順テンプレートには、識別子とアセスメント目標があります。アセスメント目標により、コントロールのテスト方法が決定します。

コントロールテストでは新しい CAM ビューを使用できます。ここでは設計有効性が削除され、運用テストという運用有効性のみが存在します。

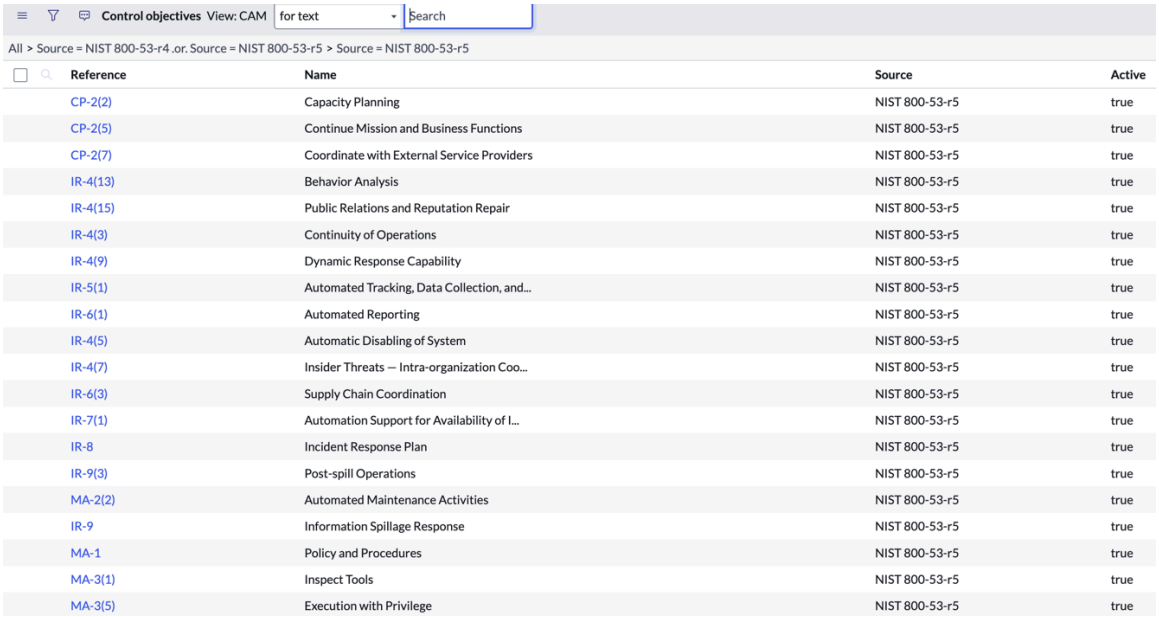
CAM では、コントロールは複数のアセスメント手順を使用して、より詳細なレベルでテストされます。コントロールテストでは、コントロールの有効性を測定します。コントロールテストの有効性は、その操作の有効性と評価手順の有効性によって測定され、それに基づいてコントロールテストのコントロール有効性が決定されます。コントロールテストに失敗することは、アセスメント目標を達成できなかったことを意味します。

コントロールテストの実施中、検査、面接、テストなどの新しいコントロールテスト基準を使用できます。これらのフィールドは読み取り専用ですが、テストテンプレートおよびテスト計画レベルで説明を更新できます。一連のアセスメント手順は、コントロールテスト中に関連リストとして使用できます。アセスメント手順は目標レベルであり、「有効」「無効」「なし」以外に「適用外」としてマークすることもできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

NIST 800-53 リビジョン **5** に基づくコントロール目標



Control objectives View: CAM | for text | Search

All > Source = NIST 800-53-r4 .or. Source = NIST 800-53-r5 > Source = NIST 800-53-r5

Reference	Name	Source	Active
CP-2(2)	Capacity Planning	NIST 800-53-r5	true
CP-2(5)	Continue Mission and Business Functions	NIST 800-53-r5	true
CP-2(7)	Coordinate with External Service Providers	NIST 800-53-r5	true
IR-4(13)	Behavior Analysis	NIST 800-53-r5	true
IR-4(15)	Public Relations and Reputation Repair	NIST 800-53-r5	true
IR-4(3)	Continuity of Operations	NIST 800-53-r5	true
IR-4(9)	Dynamic Response Capability	NIST 800-53-r5	true
IR-5(1)	Automated Tracking, Data Collection, and...	NIST 800-53-r5	true
IR-6(1)	Automated Reporting	NIST 800-53-r5	true
IR-4(5)	Automatic Disabling of System	NIST 800-53-r5	true
IR-4(7)	Insider Threats — Intra-organization Coo...	NIST 800-53-r5	true
IR-6(3)	Supply Chain Coordination	NIST 800-53-r5	true
IR-7(1)	Automation Support for Availability of I...	NIST 800-53-r5	true
IR-8	Incident Response Plan	NIST 800-53-r5	true
IR-9(3)	Post-spill Operations	NIST 800-53-r5	true
MA-2(2)	Automated Maintenance Activities	NIST 800-53-r5	true
IR-9	Information Spillage Response	NIST 800-53-r5	true
MA-1	Policy and Procedures	NIST 800-53-r5	true
MA-3(1)	Inspect Tools	NIST 800-53-r5	true
MA-3(5)	Execution with Privilege	NIST 800-53-r5	true

テスト計画のアセスメント手順計画の生成

評価ステータスのコントロールに対して自動的に生成されたテスト計画を使用して、コントロールがアセスメント手順計画に従って評価されているかどうかを確認および判断します。

始める前に

必要なロール：
sn_irm_cont_auth.system_owner、sn_irm_cont_auth.info_system_sec_officer、sn_irm_cont_auth.authorizati

このタスクについて

アセスメント手順計画は、コントロール目標に基づいてコントロールのテスト計画に対して生成されます。各コントロール目標には特定のテストテンプレートがあり、アセスメント手順テンプレートは、このテストテンプレートに対して作成されます。テスト計画は、コントロール目標のテストテンプレートから生成されます。アセスメント手順計画は、アセスメント手順テンプレートから生成されます。

手順

1. 移動先 すべて > 継続的な認可とモニタリング > すべてのコントロール.
2. テスト計画を作成する評価済みコントロールを選択します。
3. [テスト計画] 関連リストを選択し、[番号] 列の [テスト計画] リンクを選択します。
   [テスト計画] フォームが開き、このテスト計画の生成元のテストテンプレートの名前や、このテスト計画に基づいて評価されるコントロールの名前など、テスト計画の詳細を表示できます。

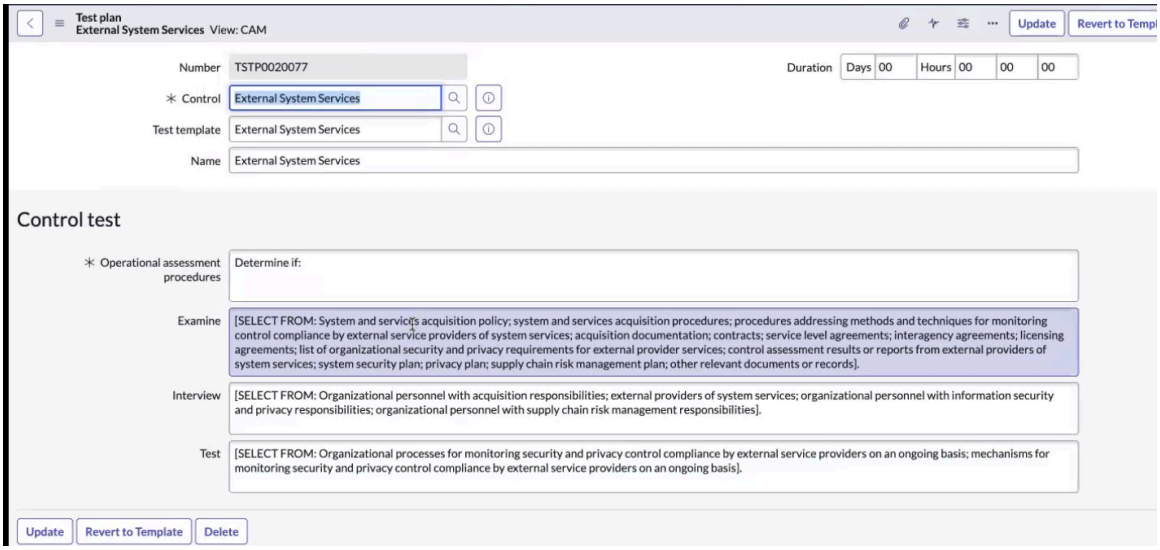
   ベースシステム には、NIST 800-53 リビジョン 5 コントロールのテストテンプレートが含まれています。これらのテストテンプレートからテスト計画が自動的に作成され、認証パッケージが [実装] ステータスから [評価] ステータスに移行するたびに、コントロールテストが、テストテンプレートから生成されたテスト計画から作成されます。

   [コントロールテスト] セクションには、[運用評価手順 **(Operational assessment procedures)]**、[検査]、[面談]、[テスト] などのフィールドの説明があります。検査、面談、およびテストの説明は、NIST ガイドラインから取得され、テストテンプレートフォームに追加されます。テスト計画フォームで、フィールドの説明を更新できます。

自動翻訳

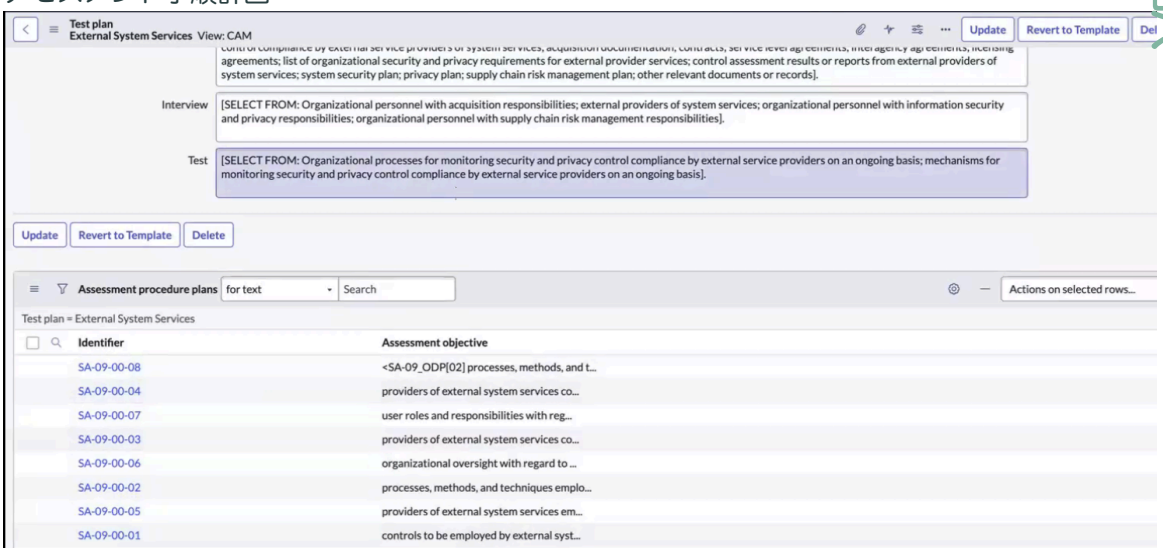
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テスト計画の [コントロールテスト] タブ



4. 説明を更新するには、フィールドを選択してテキストを更新し、[更新] を選択します。
5. 関連付けられたテストテンプレートの元のコントロールテストの説明に戻すには、[テンプレートに戻す **(Revert to Template)]** を選択します。
6. 確認ポップアップで **[OK]** を選択して確定します。
7. アセスメント手順計画を開いてアセスメント目標を表示するには、[アセスメント手順計画] セクションの [識別子] 列のリンクを選択します。
   [アセスメント手順計画] フォームでは、アセスメント手順計画の識別子、テスト計画の名前、およびアセスメント目標を表示できます。アセスメント目標は、コントロールを評価する方法に関するガイドラインです。必要に応じて、目標を更新します。

アセスメント手順計画



8. コントロールを評価するために生成されたコントロールテストを表示するには、エンゲージメントフォームの [コントロールテスト] 関連リストに移動します。
   「RMF ステップ 4、5、および 6 - 評価、許可、およびモニター」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コントロールテストのコントロール有効性を判断する

アセスメント手順の目標の有効性とコントロールテストの運用有効性を適用して、コントロールテストのコントロール有効性を判断します。アセスメント手順は、詳細なレベルでコントロールテストをチェックするために適用されます。

始める前に

必要なロール：
sn_irm_cont_auth.system_owner、sn_irm_cont_auth.info_system_sec_officer、sn_irm_cont_auth.authorizati

手順

1. 移動先 すべて > 継続的な認可とモニタリング > すべてのエンゲージメント.
2. エンゲージメントを選択します。
3. [コントロールテスト] タブを選択し、[番号] 列のコントロールテストのリンクを選択します。
4. [コントロールテスト] フォームが開き、[コントロール有効性] フィールドにコントロールの有効性が表示されます。
5. [運用テスト **(Operational test)**] タブを選択すると、コントロールテストの運用有効性が表示されます。

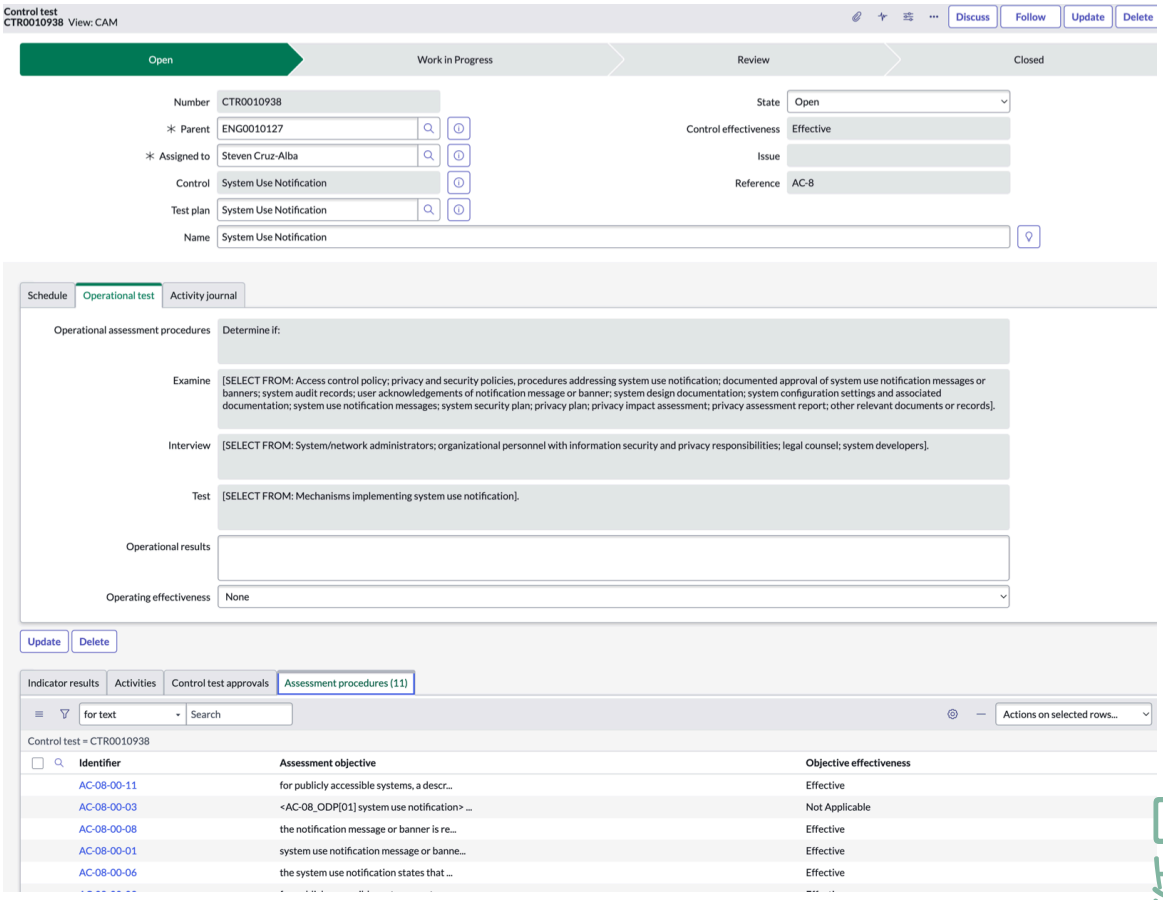
   注:
   [検査]、[面談] および [テスト] フィールドは、NIST コントロール目標から事前に入力されており、コントロールテストレベルでは編集できません。これらの説明を編集する必要がある場合は、テスト計画フォームで編集できます。「テスト計画のアセスメント手順計画の生成」を参照してください。

6. すべてのアセスメント手順の目標の有効性を表示するには、[アセスメント手順 (Assessment procedures)] 関連リストを選択します。
   生成されるアセスメント手順の数は、テスト計画から生成されたアセスメント手順計画の数とまったく同じです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コントロールテストのコントロール有効性



コントロールテストの操作有効性の値は次のとおりです。

- なし
- 無効
- 有効

アセスメント目標の目標有効性の値は次のとおりです。

- なし：アセスメント手順がまだ分析も評価もされていないことを示します。
- 有効
- 無効
- 適用外：アセスメント手順が有効でないか、このコントロールテストチェックに必要でないことを示します。

コントロールテストのコントロール有効性は次のように判断されます。

操作有効性	目標の有効性	コントロール有効性
有効/無効/なし	いずれかが無効	無効
有効	適用外/なし/有効	有効
無効	適用外/なし/有効/無効	無効
無効	無効	無効

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

操作有効性	目標の有効性	コントロール有効性
なし/有効	有効	有効
なし	1 つは有効で、もう 1 つは無効	無効
なし	1 つは [なし] で、もう 1 つは [適用外]	なし

コントロールテストが [オープン] または [対応中] ステータスである限り、アセスメント手順の目標の有効性が [なし] であるかどうかは関係ありません。ただし、すべてのアセスメント目標を [有効]、[無効]、または [適用外] としてマークするまで、コントロールテストを [レビュー] ステータスに移行することはできません。エラーメッセージが表示され、コントロールテストを [レビュー] または [完了してクローズ] ステータスに移行するために、アセスメント目標を確認して [なし] ステータスから移行する必要があることを示します。

7. [アセスメント手順 (Assessment procedures)] 関連リストの [識別子] 列にあるリンクを選択して、[アセスメント手順] フォームを表示します。
フォーム内のフィールドはすべて読み取り専用ですが、例外としてコントロールテストが [オープン] または [対応中] ステータスの場合には [目標有効性] フィールドを編集できます。[目標の有効性 **(Objective effectiveness)]** フィールドは、[レビュー] 状況、または [完了してクローズ]、[未完了でクローズ]、[スキップしてクローズ] などのクローズ済み状況でのみ読み込まれます。
8. 評価手順の目標有効性の値を更新する場合は、[更新] を選択して変更を保存します。

コントロール要件の定義

コントロール目標レベルでコントロールを生成する場合、要件として、より詳細なレベルでコントロールを分類できます。

コントロール要件を定義すると、次のようなユーザーに役立ちます。

- セキュリティコントロール査定人 (SCA)：コントロールテストにさまざまな側面がある場合に、コントロールの各要件を個別に評価します。
- 認定担当者 (AO)、情報システムセキュリティ責任者 (ISSO)、および情報システムセキュリティマネージャー (ISSM)：コントロール全体の失敗を評価するのではなく、コントロールの非準拠につながった失敗した要件を理解します。
- コントロールに対して識別された証明書の回答者：コントロールレベルではなく、より詳細なレベルにあるコントロール要件レベルで応答します。

CAM ユーザーは、コントロールを分解して要件を制御し、要件をより効率的に管理し、それらを個別に証明し、パッケージを承認することができます。また、コントロールが生成されたときに、要件を定義してコントロール目標レベルで作成することもできます。

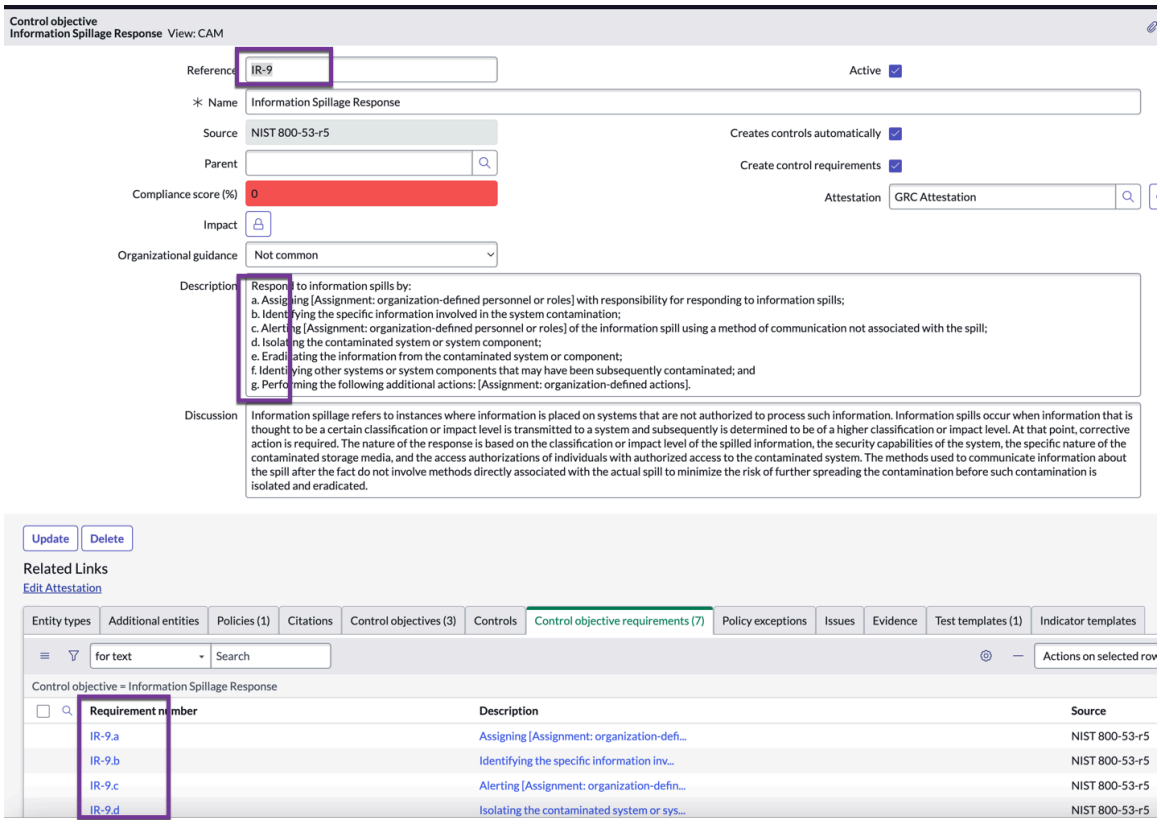
詳細については、「コントロール要件の詳細ビュー」を参照してください。

コントロール要件としてのコントロール目標の説明から **NIST** コンテンツを作成する

ベースシステム は、NIST 800-53 リビジョン 5 コントロール目標から生成されたコントロール要件を CAM ユーザーに出荷します。コントロール目標フォームの [説明] フィールドには、サブポイントとサブ番号として分類された要件がリストされます。コントロール目標の参照は、[説明] フィールドの各サブ番号または節と結合され、コントロール目標要件の [要件番号 **(Requirement number)]** として参照されます。たとえば、コントロール目標参照が IR-9 で、コントロール目標の説明がサブ番号 (a) で始まる場合、これら 2 つを組み合わせて最初のコントロール目標要件を IR-9.a として生成し、可能な場合はさらにサブ番号を追加します。したがって、約 7 つのサブ説明がある場合は、7 つの管理要件が生成されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



コントロール要件の変更

[ステップを選択 (Select step)] にある認証パッケージを承認して、コントロールを作成します。承認後、認証パッケージは実装ステップに移動し、コントロールが生成されます。この場合でも、コントロールレベルでコントロール要件の実装ステータスを変更できます。

始める前に

必要なロール：sn_irm_cont_auth.system_owner

このタスクについて

[ベースラインコントロール] タブの [コントロールレビュー **(Control review)**] フィールドで、値が [適用可能 **(Applicable)**] または [ハイブリッド] であるすべてのベースラインコントロールに対してコントロールが生成されます。さらに、生成されるコントロールのタイプは、コントロールフォームの [コントロール割り当て **(Control allocation)**] フィールドによって決定され、システム固有またはハイブリッドのいずれかになります。

- システム固有であり適用可能とマークされているベースラインコントロールから直接取得されるすべてのコントロールに対して、コントロールが作成されます。
- ハイブリッドセットアップに基づく要件を備えたハイブリッドコントロールに対して、コントロールが作成されます。
- 継承したコントロールに対してコントロールは作成されません。

すべてのコントロールは [実装] ステータスで生成されますが、このステータスでもコントロールレベルでセットアップを更新できます。

手順

1. 移動先 すべて > 継続的な認可とモニタリング > すべての認証パッケージ.
2. ステータスが [実装] であり、コントロール設定を変更したい認証パッケージを選択します。
3. [コントロール] 関連リストを選択します。

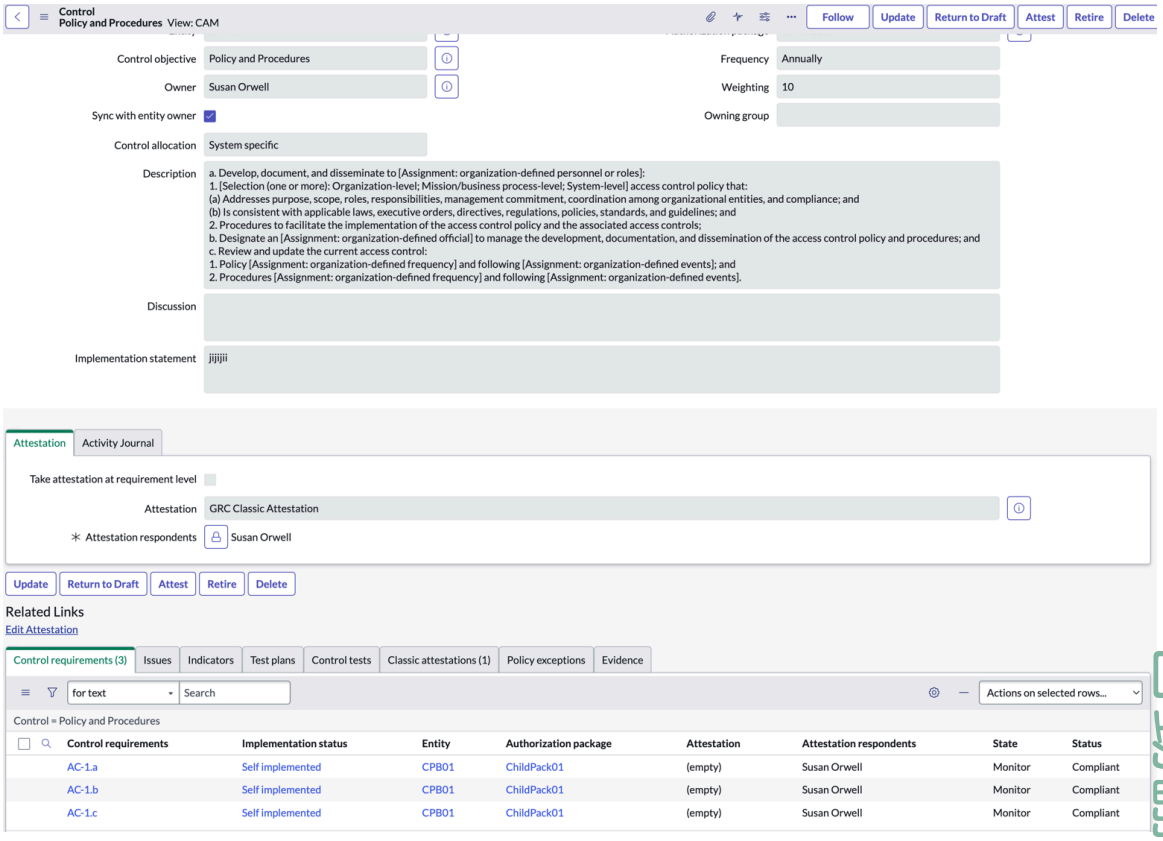
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

生成されたコントロールの数が [コントロール] 関連リストに表示されます。

Number of Controls = Baseline Controls + Hybrid Controls

4. 設定を変更するコントロールを選択します。



5. 特定の要件のプロバイダーを変更するには、[コントロール要件 (Control requirements)] 関連リストでコントロール要件を選択します。

   a. [プロバイダーを変更 **(Change Provider)]** を選択します。

   b. [共通コントロールから継承] ポップアップで [共通コントロール] リストフィールドを選択します。
   フィルタークエリには、まだ選択していないプロバイダーのみが、選択対象として一覧表示されます。

   c. [確認] を選択します。

   [確認] を選択すると、クエリフィルターは [コントロール要件 (Control requirements)] リストの認証パッケージから現在のプロバイダーを削除します。[アクティビティジャーナル] 関連リストを選択した場合も、プロバイダーが変更され [アクティビティ] フィールドに記録されたというメッセージが表示されます。

   要件のプロバイダーは、[プロバイダーを変更 **(Change Provider)]** を使用した場合にのみ変更できます。ただしこのアクションで、プロバイダーの変更によって要件が自動的に遵守されるとは限りません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **重要:**
> このセットアップを変更する場合は、コントロールフォームの [コントロール割り当て **(Control allocation)]** フィールドの値を変更する選択を行わないでください。これがハイブリッドコントロールであり、[実装ステータス] が [自己実装] になっているのがこの要件のみである場合、コントロール割り当て値が [システム固有] である別のコントロールにプロバイダーを変更すると、すべての要件の [実装ステータス] が [継承] であれば要件がすべて継承されるため、コントロール割り当てはハイブリッドではなくなります。
>
> ハイブリッドコントロールの場合、少なくとも 1 つの要件を継承し、少なくとも 1 つを自己実装する必要があります。

- すべての要件は、システム固有のコントロールに対して自己実装されています。
- 少なくとも 1 つの要件を自己実装済みにする必要があります。残りはハイブリッドコントロールに継承できます。継承されている場合、コントロール要件は [ベースラインコントロール] 関連リストから取得されるプロバイダーから継承されます。

6. コントロール要件の実装ステータスを [自己実装済み] に変更するには、[コントロール要件 (Control requirements)] 関連リストでコントロール要件を選択します。

   a. [自己実装に変換 **(Convert to Self implemented)]** を選択します。

   b. 確認のポップアップで、[はい] を選択します。
   コントロール要件の選択肢には、既に自己実装ステータスになっているものが含まれることもあります。ただし、この操作の後は、[継承] ステータスだった要件のみが [自己実装] に変換されます。

   この UI アクションによって、コントロールプロバイダーとコントロールの間にあった m2m 関係は削除されます。その後、新しい選択で新しい m2m 関係が作成されます。変更を説明するメッセージは、コントロールフォームの [アクティビティジャーナル] タブの [アクティビティ] フィールドにも記録されます。

7. コントロール要件を [自己実装済み] から [継承] ステータスに変更するには、[コントロール要件 (Control requirements)] 関連リストで要件を選択します。

   a. [継承に変換 **(Convert to Inherited)]** を選択します。

   b. [共通コントロールから継承] ポップアップで [共通コントロール] リストフィールドを選択します。
   そのコントロール要件を継承可能なすべてのプロバイダーの中から選択できます。この UI アクションの後、以前の自己実装コントロール要件が削除され、選択した新しい要件がプロバイダーから継承されます。同時に、[ハイブリッドコントロール (Hybrid Controls)] 関連リストの認証パッケージレベルでも設定が変更され、そのベースラインコントロールの要件選択に変更が反映されます。

   これがハイブリッドコントロールの自己実装ステータスの唯一の要件である場合、継承に変換することはできません。

8. ハイブリッドコントロールのコントロール要件のリストを表示するには、階層的な表示を行う [階層リストの表示/非表示] アイコン ( ) を選択して階層表示を行います。
   [ハイブリッドコントロール (Hybrid Controls)] 関連リストでも、 を使用できます。さらに、[コントロール] 関連リストから上記の 3 つのアクション (自己実装に変換、継承へ変換、プロバイダーの変更) を実行することもできます。

   [実装] ステータスからは、[選択] ステータスに戻すことができます。これを実行すると、[実装] ステータスで作成され、アクティブだったコントロールがすべて削除または廃止されます。[選択]

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ステータスの場合は、すべてのハイブリッドコントロールのセットアップを変更し、コントロールをもう一度生成できます。

9. ハイブリッドコントロールをベースラインコントロールに戻すには、[ハイブリッドコントロール (Hybrid Controls)] 関連リストでコントロールを選択します。

   a. [ベースラインコントロールに戻る **(Return to Baseline Control)]** を選択し、確認ポップアップで **[OK]** を選択します。

   このアクションにより、ハイブリッドコントロールの以前の要件選択が削除されます。また、ベースラインコントロールの [コントロールレビュー **(Control review)]** フィールドが [ハイブリッド] から [適用可能] に更新されます。このベースラインコントロールの手順を設定し、[ハイブリッドを作成 **(Create Hybrid)]** を選択できます。このコントロールで利用可能な現在のコントロール要件を表示できます。ハイブリッドコントロールをベースラインコントロールに戻すには、次の 4 つのセットアップ変更が可能です。

   - [選択] ステータスに戻す際にはシステム固有のコントロールである必要があり、これを継承済みとしてマークできます。
   - ハイブリッドを継承に変換します。
   - コントロールをベースラインに戻し、共通のマークを付けて共通プロバイダーにします。
   - コントロールを適用外に変換して、ワークフローから外されるようにします。これに対してコントロールは生成されません。

   [継承コントロール] 関連リストで [ベースラインコントロールに戻る **(Return to Baseline Control)]** を選択した場合も、継承されたコントロールがベースラインコントロールに戻ります。この場合、ベースラインコントロールの [コントロールレビュー **(Control review)]** フィールドが [継承] から [適用可能] に更新されます。

要件の生成とアップグレードステップの制御

コントロール目標フォームの [コントロールを自動的に作成] および [コントロール要件を作成] オプションと、認証パッケージのステータスは、コントロール要件を作成するうえで重要です。

コントロール要件生成ロジック

コントロール目標フォームで [コントロールを自動的に作成] および [コントロール要件を作成] オプションを有効にすると、アイテム生成フローがトリガーされ、コントロールとコントロール要件がそれぞれ自動的に作成されます。コントロールのステータスに応じて、生成されたコントロール要件のステータスが変化します。

認証パッケージが [選択] ステータスから [実装] ステータスに移行したときに [コントロール要件を作成] オプションが選択されている場合、コントロールが生成されます。同時に、コントロール目標要件のコントロール要件も生成されます。コントロール要件は、コントロール目標要件が存在し、フラグが true の場合にのみ生成されます。コントロール目標要件が存在してもフラグが false の場合、コントロール要件は生成されません。

コントロール目標の作成中にフラグが false に設定され、要件が生成されなかった場合でも、この特定のコントロール目標に関連付けられたコントロールにコントロール目標要件があり、コントロールがアクティブで [ドラフト] ステータスであれば、フラグを選択してコントロール目標レコードを保存することで、コントロール要件を生成できます。コントロールが [ドラフト] 以外のステータスである場合、コントロール要件は生成されません。ただし、たとえば [監視] ステータスだったコントロールが [ドラフト] ステータスに戻る場合、[コントロール要件の作成] オプションが選択されていれば、コントロール要件が生成されます。

コントロール目標の要件を新しく追加

[コントロール目標要件 (Control objective requirements)] 関連リストの [新規] または [編集] を使用して、コントロール目標にコントロール目標要件を追加する場合と同様です。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

更新

コントロール目標要件の説明を更新した場合、コントロールが [ドラフト] ステータスであれば、対応するコントロール要件の説明が更新されます。コントロールがその他の状況にある場合、コントロールが [ドラフト] 状況に戻ると説明が更新されます。

削除

コントロール目標のコントロール目標要件のいくつかが削除された場合、それに応じて、コントロールのコントロール要件を削除することはできません。代わりに手動要件としてマークされます。この条件は、どのステータスのコントロールにも該当します。後でコントロールが [ドラフト] ステータスに移行した場合、これらの要件から手動タグを削除できます。一方、コントロール目標要件がいくつか削除された後に新しいコントロールが作成された場合、新しいコントロールには削除された要件がなく、既存の番号のみが含まれます。

認証パッケージが [実装] ステータスから [選択] ステータスに移行すると、関連付けられている CAM のコントロールがすべて廃止され、それに応じて関連付けられている要件もすべて廃止されます。これらのアクションはすべて、アイテム生成によって処理されます。

必要なアップグレード手順

Yokohama リリースにアップグレードすると、次のアクションが実行されます。

1. コントロールフォームに [認証パッケージ] フィールドと [コントロール割り当て] フィールドが新たに追加されました。これらのフィールドの値は、既存の CAM コントロールに対して入力されます。
2. すべての NIST 800-53-revision 5 コントロール目標について、[コントロール目標] フォームの [コントロール要件を作成] オプションは、デフォルトで **True** に設定されています。
3. コントロール要件は、[ドラフト] ステータスの NIST 800-53-revision 5 コントロール目標から、既存のすべてのコントロールに対して作成されます。

CAM ワークスペース での継続的な認証タスクとモニタリングタスク

CAM ワークスペース は、セキュリティポリシーとガイドラインへの準拠を保証するために、NIST Risk Management Framework へのコンプライアンスを継続的に監視および管理できる一元化されたハブです。

CAM ワークスペース ホームページからのセキュリティの監視と管理

CAM ワークスペース は、セキュリティポリシーとガイドラインへの準拠を保証するために、ユーザーとシステムが NIST Risk Management Framework のコンプライアンスを遵守していることを継続的に監視および管理できる一元化されたハブです。

ホームページへのアクセス

移動先 すべて > **CAM** ワークスペース.

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CAM オブジェクトの全体的なステータスを表示する



[概要] セクション

認証境界は、CAMアプリケーションを使用して継続的に管理および監視できる特定のシステムのスコープを定義します。

境界総数

ドーナツグラフには、組織内に存在する境界総数の相対比率が運用ステータスごとに表示されます。

ステップ別のパッケージ (Packages by step)

棒グラフには、NFT の各ステップにあるパッケージの数が表示されます。ただし、選択した境界に対してアクティブなパッケージは 1 つだけです。

ミッションクリティカルな境界

棒グラフには、ミッションクリティカルな境界の数が運用ステータスごとに表示されます。

影響別のパッケージ (Packages by impact)

アクティブなパッケージは、低、中、高の影響度に分類され、[選択]、[実装]、[評価]、[承認]、[監視] などの NFT ステータスで表されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パッケージのエージング

さまざまなステップでパッケージの経過時間を追跡し、各ステップで認証パッケージが何日間保持されたかを示します。パッケージが前のステップに戻ると、ウィジェットは後続のステップに対して記録された日数をクリアします。現在のステップと前のステップで費やされた日数のみが表示されます。

[追跡中] セクション

アクティブなコントロール、コントロールテスト、およびアクションプランとマイルストーン (POA&M) を別個のウィジェットとして追跡し、これらのCAMオブジェクトの全体的なステータスを提供します。

コントロールレポート

アクティブ、準拠、および非準拠コントロールの合計数。円グラフには、ステータスが比例して表示されます。

コントロールテストレポート

期限切れのアクティブなコントロールテストの合計数、および [オープン]、[対応中]、および [レビュー] ステータスのコントロールテストの数。これらの CAM コントロールテストでは、親はエンゲージメントで、エンゲージメントは認証パッケージに関連付けられています。

POA&M レポート

オープンおよび期限切れの POA&M の数に加え、期限切れの POA&M が優先度ステータス別に積み上げ横棒グラフに表示されます。POA&M は、認証パッケージ、またはパッケージのコントロール、エンゲージメント、コントロールテストに関連する問題です。

タスクセクション

自分と自分のグループの処理待ちのタスクが表示されます。[すべてのタスクを表示] を選択して、「CAM タスクの監視と管理」の説明に従ってタスクランディングページを開きます。

CAM ロールは、CAM ユーザーロール にリストされています。

必要なロール

- 承認担当者 (sn_irm_cont_auth.authorization_official)：認証パッケージを承認および更新します。
- CAMアドミン (sn_irm_cont_auth.admin)：CAMのすべてのシステムアドミンタスクを実行します。
- エグゼクティブリーダー (sn_irm_cont_auth.executive_read): CAM ワークスペースの読み取り。
- 情報所有者 (sn_irm_cont_auth.information_owner)：認証パッケージの情報タイプを更新します。
- 情報システムセキュリティマネージャー (sn_irm_cont_auth.info_system_sec_manager)：情報システムのセキュリティ管理アクティビティを実施します。
- 情報システムセキュリティ責任者 (sn_irm_cont_auth.info_system_sec_officer):適切な運用セキュリティ体制が情報システムに対して維持されていることを確認します。
- リーダー (sn_irm_cont_auth.reader)、 CAM ワークスペースを読み取る。
- スケジューラー (sn_irm_cont_auth.scheduler)：アプリケーションのすべてのスケジュール済みジョブを実行します。
- セキュリティコントロール査定人 (SCA)：情報システムの管理、運用、および技術的なセキュリティコントロールの徹底的なアセスメントを実施します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- システムオーナー (sn_irm_cont_auth.system_owner)：情報システムの調達、開発、統合、変更、運用、および保守を行います。
- システムユーザー (sn_irm_cont_auth.system_user)：認証境界を更新し、境界フィルター、要素、マイルストーン、および受け入れタスクを設定します。

CAM ワークスペースのホームページへのアクセス

ホームページにアクセスするには、次の場所に移動します すべて > **CAM** ワークスペース.

NIST セキュリティ体制の監視と管理

CAM ワークスペース から [CAM の概要]、[AO の概要]、および [SCA の概要] ダッシュボードにアクセスして、データを監視および分析して、CAM レポートを表示します。

始める前に
必要なロール：
sn_irm_cont_auth.admin、sn_irm_cont_auth.authorization_official、sn_irm_cont_auth.info_system_sec_mana

このタスクについて

手順

1. 移動先 すべて > **CAM** ワークスペース をクリックし、[ダッシュボード] アイコン (ユーザーロールに適したダッシュボードが開きます。
2. [ダッシュボードリストの変更] アイコン ( ) を選択して、表示するダッシュボードを選択します。

   CAM概要ダッシュボード

   CAM 概要ダッシュボードには、CAM セキュリティ体制の重要な側面に関するレポートを含む複数のタブがあります。

   CAM アドミニストレーター [sn_irm_cont_auth.admin] ロールを持つユーザーは、ダッシュボードを表示できます。

   「CAM概要ダッシュボード」を参照してください。

   [AO の概要] ダッシュボード

   [AO の概要] ダッシュボードの [認証パッケージ] タブでは、すべてのパッケージのステータスを一元的に表示できます。[ベースラインコントロール] タブのレポートには、システム内のベースラインコントロールの概要が示されます。

   [AO の概要] ダッシュボードの [ベースラインコントロール] タブのレポートには、システム内のベースラインコントロールの概要が記載されています。

   承認担当者 [sn_irm_cont_auth.authorization_official] ロールを持つユーザーは、ダッシュボードを表示できます。

   「[AO の概要] ダッシュボード」を参照してください。

   [SCA の概要] ダッシュボード

   [SCA の概要] ダッシュボードを使用すると、発生したコントロールアセスメントを表示および管理できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CAM アドミニストレーター (sn_irm_cont_auth.admin) ロールまたはセキュリティコントロール査定人 (sn_irm_cont_auth.sec_control_assessor) ロールを持つユーザーは、ダッシュボードを表示できます。

「[SCA の概要] ダッシュボード」を参照してください。

CAM タスクの監視と管理

タスクページを使用して、承認、コントロール証明書、および自分と自分のグループにアサインされたその他のすべてのアイテムを処理します。

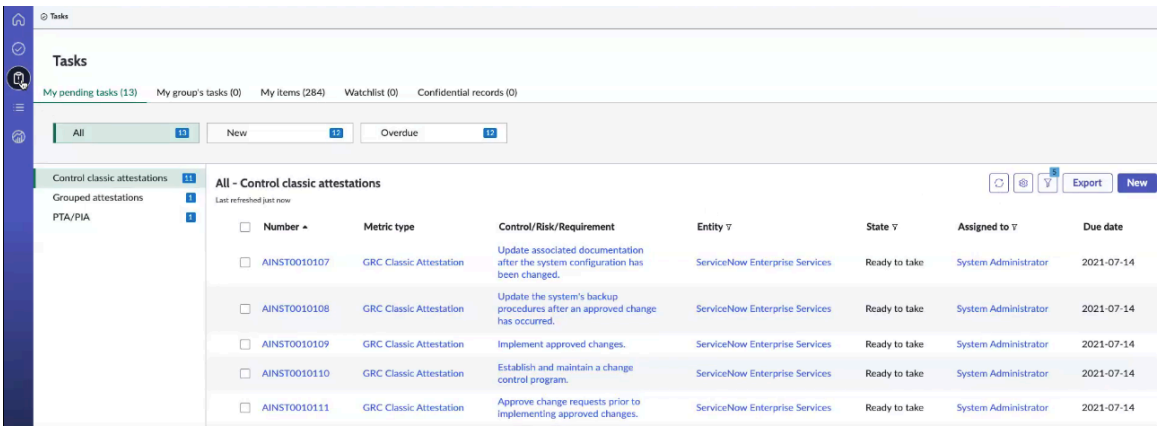
始める前に
必要なロール：

- sn_irm_cont_auth.authorization_official
- sn_irm_cont_auth.information_owner
- sn_irm_cont_auth.info_system_sec_manager
- sn_irm_cont_auth.info_system_sec_officer
- sn_irm_cont_auth.sec_control_assessor
- sn_irm_cont_auth.system_owner
- sn_irm_cont_auth.scheduler
- sn_irm_cont_auth.system_user
- sn_irm_cont_auth.admin
- sn_irm_cont_auth.reader
- sn_irm_cont_auth.executive_read

手順

1. 移動先 すべて > **CAM** ワークスペース をクリックし、[タスク] アイコン (
2. 適切なタブに移動します。

注:
ユーザーまたはユーザーグループに処理待ちのタスクまたは関連付けられたタスクがない場合は、タブに [すべてのタスクが完了しました] というメッセージが表示されます。



自分の処理待ちのタスク

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自分にアサインされた処理待ちのタスクを監視します。タスクページ構成モジュールの [自分の処理待ちのタスク] タブの下にある [すべて] タブには、従来のコントロール証明書、グループ化された証明書、プライバシーしきい値分析 (PTA) またはプライバシー影響度評価 (PIA) などのリストが表示されます。タスクが自分に関連する場合は、ワークスペース UI の [自分の処理待ちのタスク] セクションに入力されます。

アサインされたタスクがない場合、[自分の処理待ちのタスク] タブにデータは表示されません。自分にアサインされたオープンでアクティブなタスクのみが [自分の処理待ちのタスク] タブに表示されます。

自分のグループのタスク

自分が所属するユーザーグループにアサインされたタスクを監視します。[自分のグループのタスク **(My group's tasks)]** ページには、自分が所属するユーザーグループにアサインされた処理待ちのタスクが表示されます。ユーザーグループに処理待ちのタスクがない場合は、 [すべてのタスクが完了しました] というメッセージが表示されます。タスクをフィルターするグループをリストから選択します。

自分のアイテム

自分にアサインされたタスクと、問題、ポリシー例外、修復タスクなど、自分が報告した問題を監視します。[自分のアイテム] タブには、自分が作成したアイテムまたは自分がオープンしたアイテムのリストが表示されます。たとえば、システムユーザーの場合、このタブには認証パッケージと問題が一覧表示されます。

ウォッチリスト

自分が含まれるウォッチリストのタスクを監視します。[自分のウォッチリスト] タブ構成には、自分が含まれるウォッチリストのタスクのリストが表示されます。

機密レコード

機密レコードを機密としてマークし、適切なユーザーがこれらのレコードにアクセスできることを確認します。[機密レコード] タブ構成には、選択したテーブルの機密レコードが表示されます。

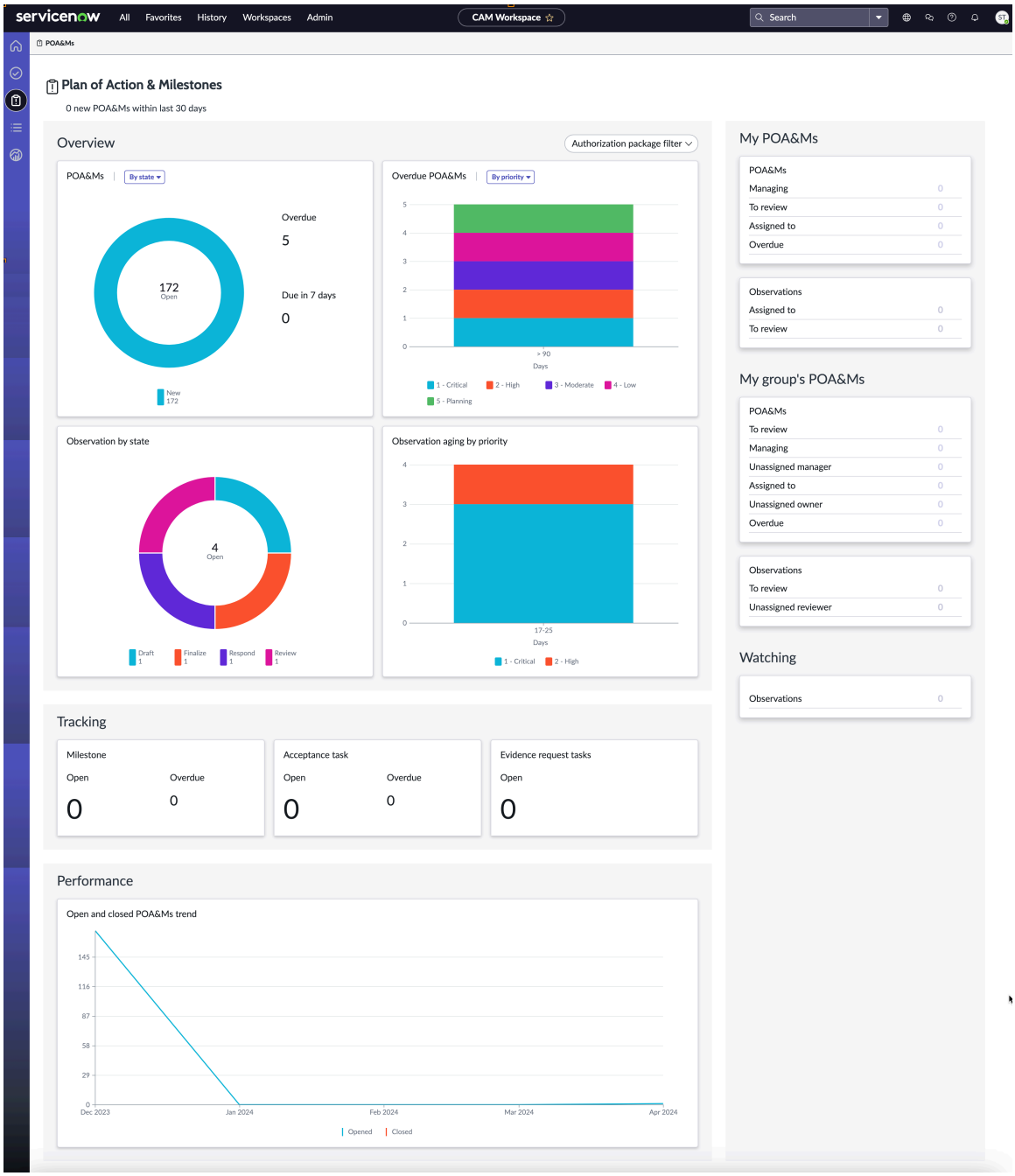
POA&M での問題の管理

CAM アプリケーションでは、認証パッケージに関連するすべての問題は、アクションプランとマイルストーン (POA&M) と呼ばれます。これらの問題は、パッケージの問題、コントロールの問題、エンゲージメントの問題、またはパッケージに関連するコントロールテストの問題である可能性があります。

[POA&M] ページでは、 CAM アプリケーションに属するさまざまなステータスのすべての認証パッケージの問題を表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



[POA&M] ページ専用の認証パッケージ フィルタは、選択したパッケージに関連付けられているすべての POA&M をフィルタします。

注:
認証パッケージの問題 [sn_irm_cont_auth_m2m_issue_auth_pack] テーブルには、認証パッケージに関連付けられた POA&M に関連するデータが格納されます。

概要

POA&M：ドーナツグラフには、POA&M の合計数が、デフォルトでステータス別にグループ化されて表示されます。ただし、POA&M は、優先度、POA&M タイプ、および評価によってグループ化することもできます。この可視化では、アクティブな POA&M のみが表示されます。フィルタを適用して、必要に応じてデータを可視化できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

期限切れの POA&M (Overdue POA&Ms)：積み上げ棒グラフには、期限日別にグループ化され、優先度別に積み上げられた期限切れの POA&M が表示されます。積み上げは、POA&M の評価に更新することもできます。

ステータス別の観察事項 (Observation by state)：ドーナツグラフには、ステータス別の POA&M が表示されます。

優先度別の観測経過時間 (Observations aging by priorit)：:積み上げ棒グラフには、優先度別に POA&M が表示されます。

パフォーマンス

オープンおよびクローズ済みの POA&M の傾向を表示します。

自分の POA&M (My POA&Ms)

自分に割り当てられたさまざまなステータスの POA&M を監視します。

自分のグループの POA&M (My group's POA&Ms)

自分が所属するユーザーグループにアサインされた POA&M を監視します。

必要なロール

CAM ワークスペースにアクセスできるすべてのユーザーは、POA&M のランディングページにもアクセスできます。CAM ワークスペースユーザーの完全なリストについては、CAM ワークスペースにアクセスできるユーザーのリストを参照してください。

POA&M のランディングページへのアクセス

[POA&Ms] ページにアクセスするには、 すべて > **CAM** ワークスペース をクリックし、[POA&Ms] アイコン(

認証境界要素に関するレポートを表示する

認証境界の概要ページを使用して、組織のセキュリティ対策のパラメーターを定義します。

始める前に

必要なロール：

- sn_irm_cont_auth.authorization_official
- sn_irm_cont_auth.information_owner
- sn_irm_cont_auth.info_system_sec_manager
- sn_irm_cont_auth.info_system_sec_officer
- sn_irm_cont_auth.sec_control_assessor
- sn_irm_cont_auth.system_owner
- sn_irm_cont_auth.scheduler
- sn_irm_cont_auth.system_user
- sn_irm_cont_auth.admin
- sn_irm_cont_auth.executive_read

このタスクについて

たとえば、組織が多数のデータセンターを所有しているとします。pplication servers in San Diego data center など、境界内でパラメーターを定義できます。この境界とパラメーターを設定すると、境界内のオブジェクトを監視し、スコープを設定できます。

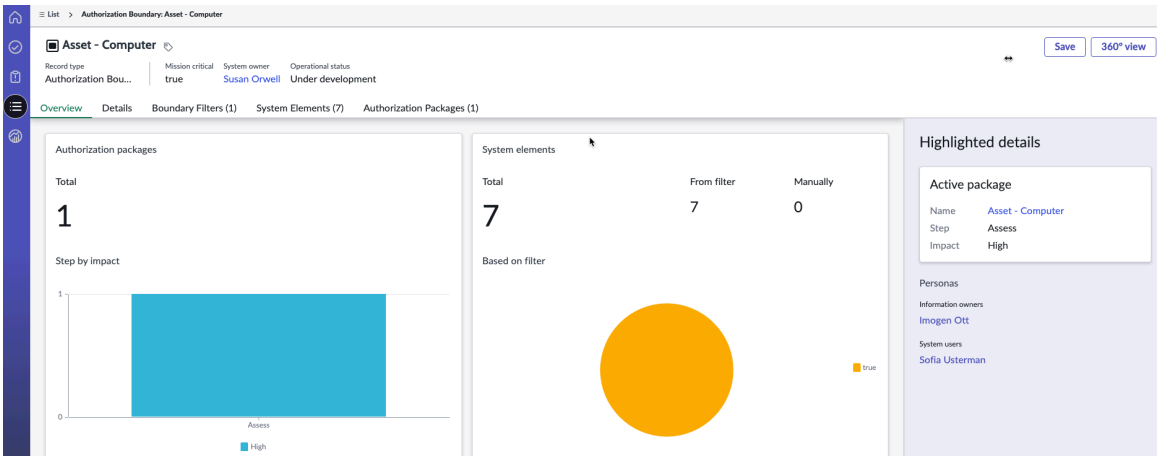
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

手順

1. 移動先 すべて > **CAM** ワークスペース をクリックし、[リスト] アイコン ()

2. 左ペインの [RMF の認証境界 (Authorization boundaries in the RMF)] リストから、右ペインの認証境界レコードを選択します。
境界の概要ページには、境界内で使用可能なすべての認証パッケージが表示されます。ただし、サイドバーを選択すると、アクティブなパッケージが表示されます。



3. サイドバーアイコン ()を選択します。
[注目の詳細 (Highlighted details section displays)] セクションには次の項目が表示されます。
   - アクティブなパッケージの名前、そのステータス、および影響度。境界に既にアクティブなパッケージが存在する場合、その境界に別のパッケージを作成することはできません。
   - パッケージへのリンクを選択すると、関連付けられたアクティブな認証パッケージに移動できます。
   - 認証境界の更新を直接担当し、重要なロールを担うユーザー。

4. 別のパッケージを作成するには、[認証パッケージ (Authorization Packages)] 関連リストを選択し、パッケージの [アクティブ] 列で false を選択して既存のパッケージを非アクティブ化します。このアクションにより、現在のパッケージが非アクティブ化され、[新規] を選択してパッケージを作成できます。アクティブなパッケージ動作が 1 つしかない境界は、NIST 800-53 リビジョン 5 に従います。

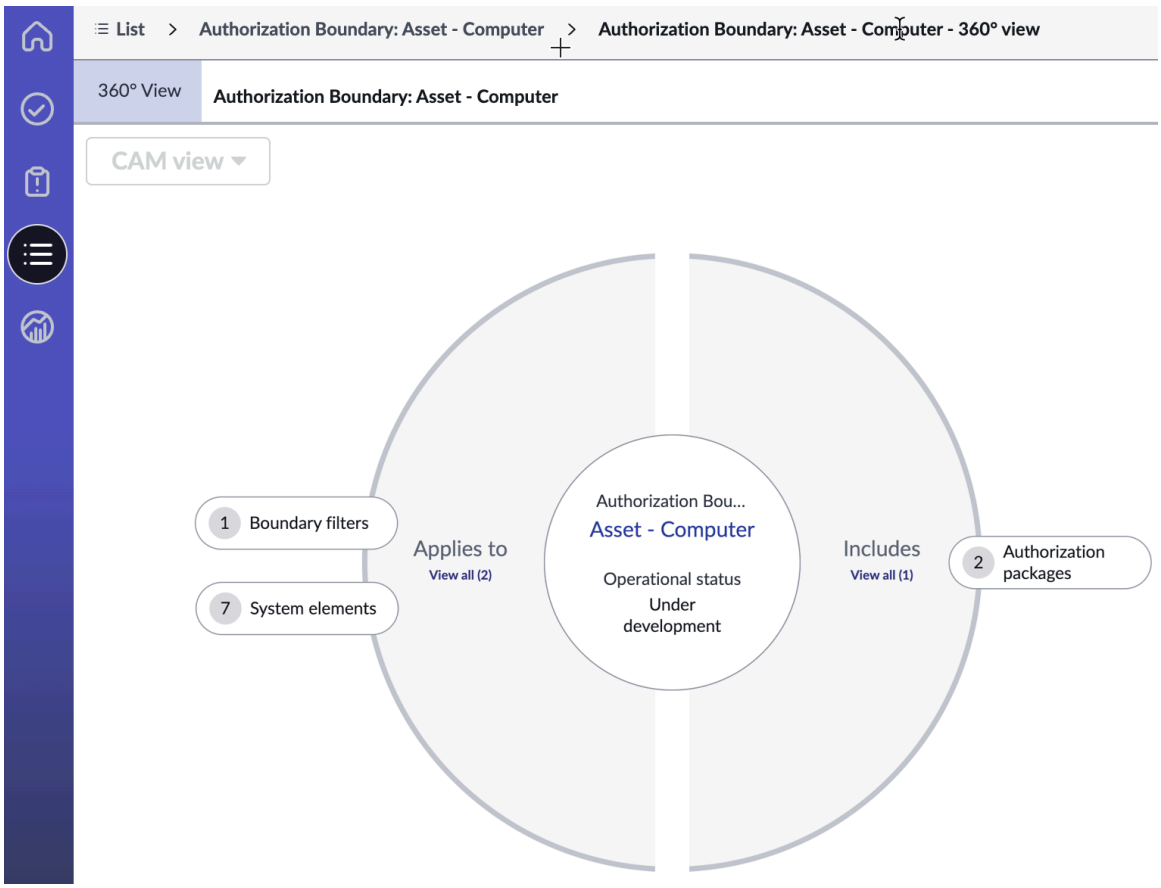
   この認証境界内では、コンピューターとしての資産タグなどの境界フィルターを設定できます。この設定されたフィルター条件により、フィルター条件を満たすすべての要素がシステム要素として追加されます。

5. 選択した認証境界とそれに関連するすべてのオブジェクトとの関係を個別に可視化して表示するには、**[360** 度ビュー **(360° view)]** を選択します。
360 度ビュー は、認証境界、認証パッケージ、コントロール、コントロール目標、コントロールオーバーレイ、コントロールテスト、テストテンプレート、テスト計画、エンゲージメントの [概

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

要] ページと、インジケーター、インジケーターテンプレート、および POA&M の [詳細] ページに追加されます。



次のタスク
サイドバーでアクティブなパッケージの名前を選択して、認証パッケージの概要ページに移動します。

CAM ワークスペースでのパッケージの詳細の表示

認証パッケージの概要ページを使用して、組織のセキュリティ体制にアクセスするのに役立つドキュメントと証拠を表示します。

始める前に
必要なロール：

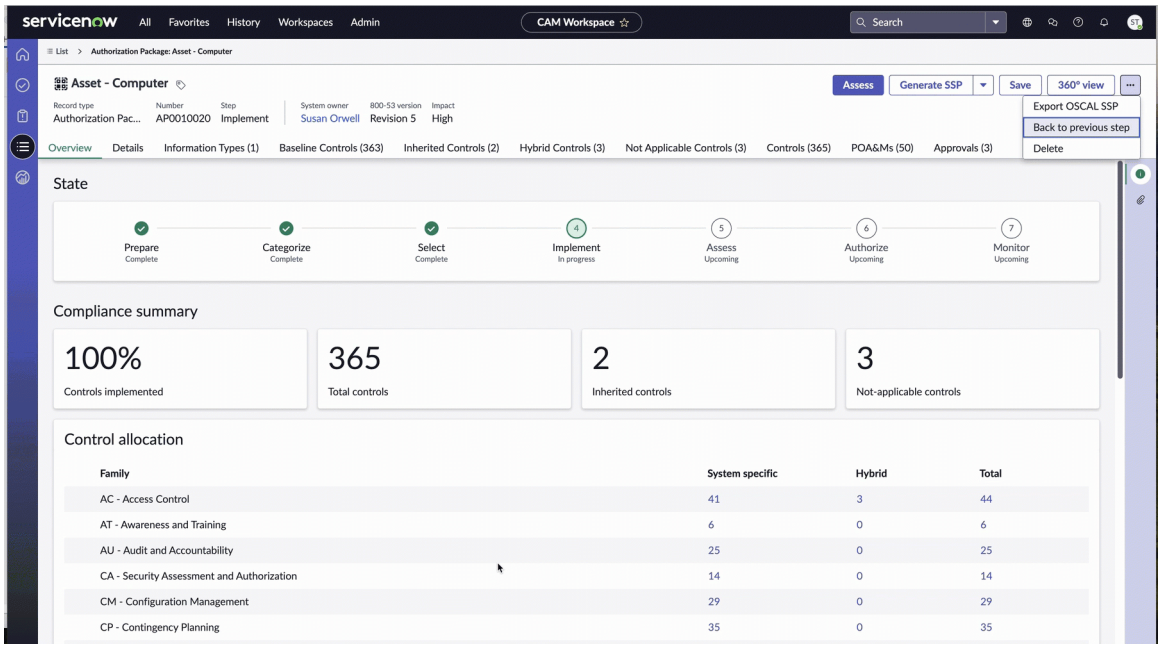
- sn_irm_cont_auth.authorization_official
- sn_irm_cont_auth.information_owner
- sn_irm_cont_auth.info_system_sec_manager
- sn_irm_cont_auth.info_system_sec_officer
- sn_irm_cont_auth.sec_control_assessor
- sn_irm_cont_auth.system_owner
- sn_irm_cont_auth.scheduler
- sn_irm_cont_auth.system_user
- sn_irm_cont_auth.admin
- sn_irm_cont_auth.executive_read

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > **CAM** ワークスペース.
2. [リスト] ページに移動するには、リストアイコン( )を選択します。
3. [RMF の認証パッケージ (Authorization packages in the RMF)] リストから、認証パッケージレコードを選択します。
   ステッパーコンポーネントには、パッケージの現在のステータスと、監視ステータスに到達するためのロードマップが表示されます。



コンプライアンスのサマリー

このパッケージに含まれるコントロールの合計数を表示します。パッケージの継承されたコントロールと該当しないコントロールの分割数も表示されます。実装されたコントロールには、監視ステータスのコントロールの割合が含まれています。

注:

- 同じ参照 ID を持つコントロール目標を、ベースラインコントロールリストから適用外のコントロールに移動することはできません。
- [適用外のコントロール] リストから同じ参照 ID を持つ 2 つのコントロール目標を選択すると、[ベースラインコントロールに戻る] アクションが無効になります。
- 同じ参照 ID を持つコントロール目標を、ベースラインコントロールから適用外のコントロールへ、または適用外のコントロールからベースラインコントロールに移動することはできません。

割り当てをコントロール

ファミリー別にグループ化され、システム固有およびハイブリッドに分類されたコントロール。

概要

コントロール、コントロールテスト、POA&M の合計数とそれらのステータスを表示します。

詳細

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

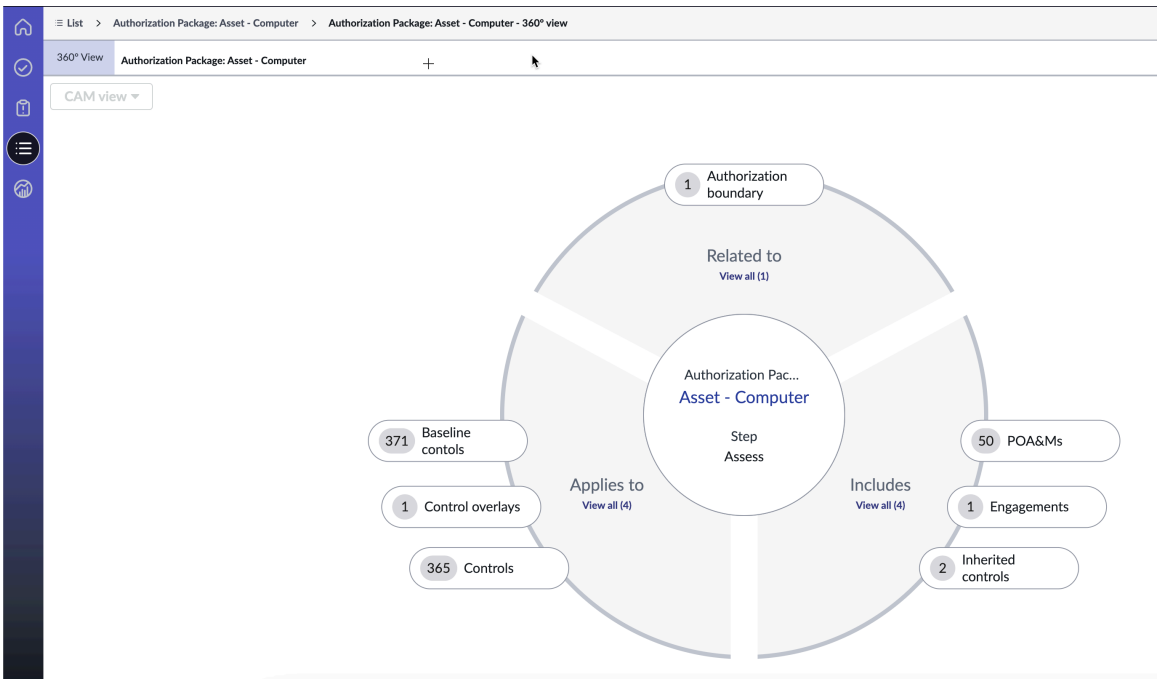
コントロール要件ウィジェットのコントロールのよりきめ細かい詳細、アセスメント手順ウィジェットのコントロールテストの詳細。

[詳細] タブで、認証パッケージが [承認] ステップに移動すると、次の詳細を表示できます。

- 次の承認日:この日付は、認証パッケージが承認ステップに移動されたときに生成されます。次の認証日は、パッケージがこのステップに移動された日から 3 年に設定されます。
- 次回のエンゲージメント日:次回のエンゲージメント日は、[システムのプロパティ] ページで定義された日数に基づいて事前入力されます。詳細については、「継続的な承認とモニタリング システムプロパティ」を参照してください。

  この日付になると、コントロール、以前のエンゲージメントから引き継がれたテスト計画、新しく関連付けられたコントロールテストとアセスメント手順を含む新しいエンゲージメントが作成されます。

4. サイドバーアイコン( )を選択します。
   [注目の詳細 (Highlighted details section displays)] セクションには次の項目が表示されます。
   - プライバシーに配慮したパッケージのシステムステータス。
   - 境界へのリンクを選択すると、このパッケージが関連付けられている認証境界に移動できます。
   - 影響カードには、パッケージの機密性、完全性、および可用性ステータスが表示され、それに基づいてパッケージの影響が決定されます。
   - 認証パッケージの更新で重要なロールを担うユーザーもリスト表示されます。
5. 選択した認証パッケージとそれに関連するすべてのオブジェクトとの関係を個別に可視化して表示するには、**[360 度ビュー (360° view)]** を選択します。
   360 度ビュー は、認証境界、認証パッケージ、コントロール、コントロール目標、コントロールオーバーレイ、コントロールテスト、テストテンプレート、テスト計画、エンゲージメントの [概要] ページと、インジケーター、インジケーターテンプレート、および POA&M の [詳細] ページに追加されます。



6. [**SSP** の生成] を選択して、システムセキュリティ計画 (SSP) を生成します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

[その他のアクション] アイコン ( ) を選択して、セキュリティアセスメントレポート (SAR) やアクションプランとマイルストーン (POA&M) などの ATO 成果物レポートを生成することもできます。

CAMATO 成果物の詳細については、「認証パッケージの ATO アーティファクト」を参照してください。

7. OSCAL SSP を生成するには、その他のアクションアイコン( )から **[OSCAL SSP** のエクスポート **(Export OSCAL SSP)]** オプションを選択します。
詳細については、「OSCAL 形式でのエクスポート」と「OSCAL SSP のエクスポート」を参照してください。
8. 認証パッケージの前のステップに移動して詳細を更新するには、その他のアクションアイコン ( ) から [前のステップに戻る**(Back to previous step)]** オプションを選択します。
[前のステップに戻る**(Back to previous step)]** アクションを選択すると、現在のステータスに移行したときに実行されるすべてのアクションが取り消されます。たとえば、パッケージが実装ステータスの場合、選択ステータスに戻ると、生成された既存のコントロールはすべて廃止されます。選択ステータスでは、ベースラインコントロールに再度アクセスし、必要に応じて必要なアクションを実行できます。ただし、この操作は継続的な承認とモニタリングアドミニストレーター (sn_irm_cont_auth.admin)のみが実行できます。
9. 認証パッケージに関連するコントロールを表示するには、[コントロール] 関連リストを選択します。

   a. リストからコントロールを選択します。
   継続的な承認とモニタリング アプリケーションでは、コントロールの [概要] ページのヘッダーにコントロールの割り当てカテゴリを表示できます。コントロールの割り当ては、システム固有またはハイブリッドのいずれかです。

   b. サイドバーアイコン( )を選択して、NIST 参照の詳細を表示します。

   c. [詳細] 関連リストを選択します。
   コントロールのコントロール目標が属するファミリーは、[ファミリー] フィールドと [ファミリー **ID]** フィールドで確認できます。これらのフィールドは、コントロールフォームでは読み取り専用です。

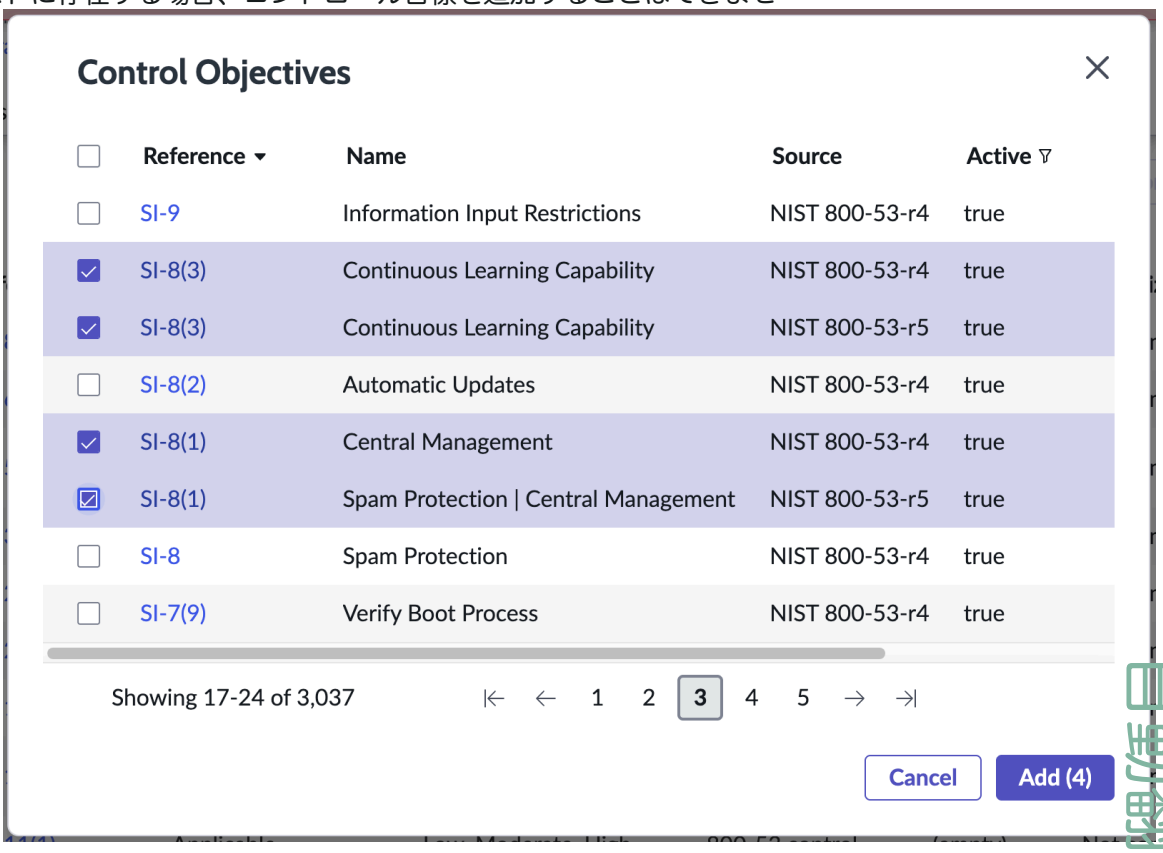
   認証パッケージ概要ページの [コントロールの割り当て**(Control allocation)]** リストには、システム固有とハイブリッドに分けられたファミリー別にグループ化されたコントロールが表示されます。

10. 追加 を選択し、追加するコントロールを選択し、追加 を選択して、選択したコントロール目標をベースライン コントロールに追加します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
コントロール目標を追加する場合、同じ参照 ID を持つ複数のコントロール目標を選択してベースラインコントロールに追加することはできません。コントロール目標の参照 ID が既にベースラインコントロールリストに存在する場合、コントロール目標を追加することはできません。

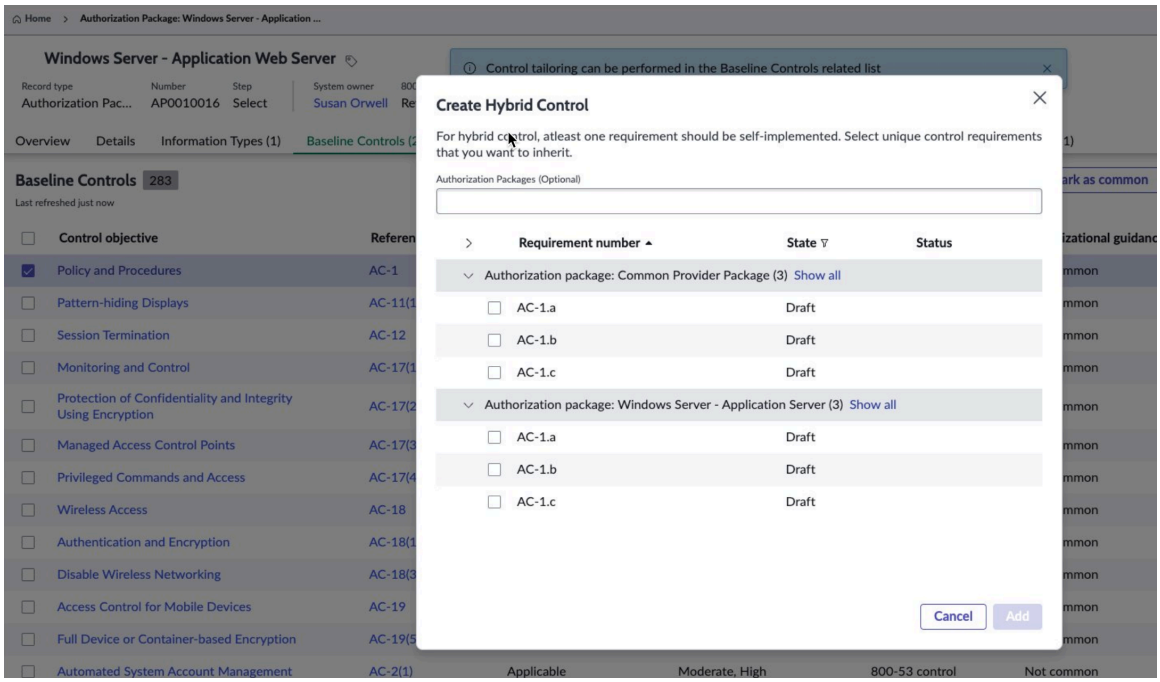


11. ベースラインコントロールの要件を継承するには、[ベースラインコントロール] タブでコントロール目標を 1 つだけ選択します。
自己実装型要件が 1 つ必要ですが、残りの要件は共通コントロールプロバイダーから継承できます。

パッケージは [選択] ステータスである必要があります。ハイブリッドコントロールの作成には、コントロール要件を持つ共通コントロールプロバイダーのみを使用できます。

a. [ハイブリッドを作成 **(Create Hybrid)]** を選択します。
[ハイブリッドコントロールを作成(Create hybrid control)] ポップアップには、グループ内のパッケージがリストされます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



b. [認証パッケージ(オプション)**(Authorization Package (Optional))]** フィールドにパッケージを入力します。
必要なパッケージをすべて入力します。そこから要件を選択することができます。

c. パッケージのグループから要件を選択します。その際、そのコントロールの自己実装のために要件を 1 つ以上残します。
ハイブリッドコントロールを作成しており、その要件は選択したパッケージから継承されます。

d. [Add (追加)] を選択します。

12. 関連するコントロール目標に移動するには、サイドバーで該当するコントロール目標へのリンクを選択します。
NIST によって供給されるコントロール目標の参照は、コントロール目標のヘッダーで [ソース **ID]** としてキャプチャされます。

コントロールは [ファミリー] でグループ化され、[ファミリー **ID]** で定義された ID で省略されます。これらのフィールドは編集可能で、コントロールが属するグループを識別するのに役立ち、[コントロールの割り当て(Control allocation)] セクションでレポート目的で使用されます。ファミリーとファミリー ID のコンテンツは、NIST 800-53 に基づいて更新されます。詳細については、「コントロール要件の詳細ビュー」を参照してください。

a. 関連コントロール目標関連リストを選択します。
パッケージの実装に影響を与えるものの、異なるファミリーに属するすべてのコントロール目標は、関連コントロール目標としてグループ化されます。これらのコントロール目標は、NIST によって提供されます。マップ済みのコントロール目標に基づいたパッケージ内のすべての関連コントロールは、関連コントロール目標としてリンクされます。

関連コントロール関連リストには、同じエンティティを持つ関連コントロール目標のコントロールが含まれます。

b. 関連コントロール目標を追加するには、[追加] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. コントロール目標を選択し、[追加] を選択します。
このリストには、パッケージの関連コントロール目標リストにまだ追加されていないコントロール目標が表示されます。

ベースラインコントロールにオーバーレイを適用する

ベースラインコントロール目標へのオーバーレイを認証パッケージに含めるには、足し算、引き算、またはカスタムアクションのいずれかを使用します。

始める前に

必要なロール：admin

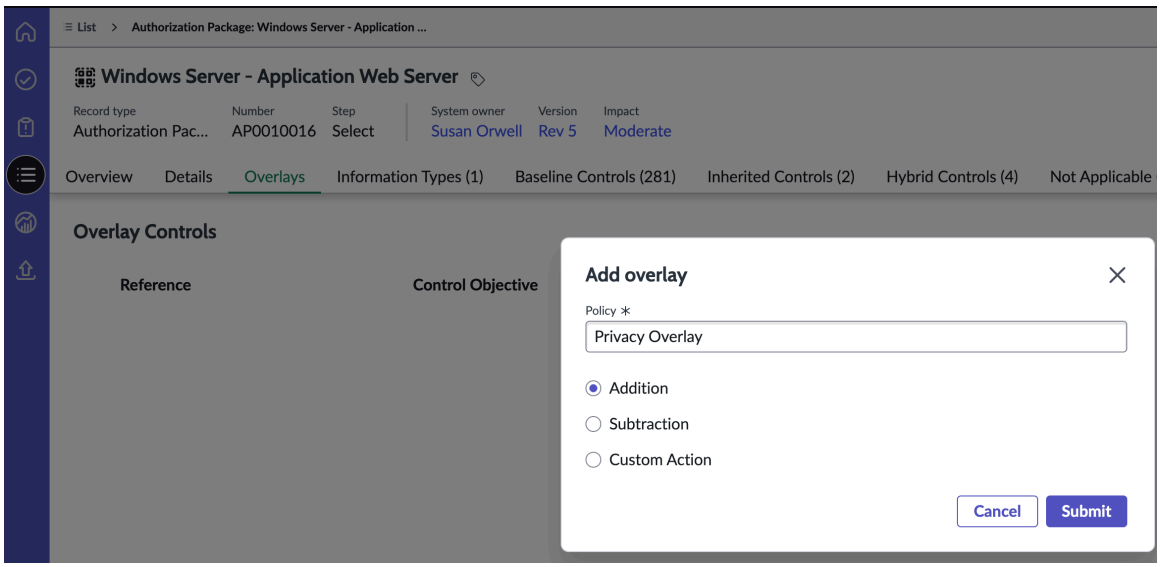
手順

1. 移動先 すべて > **CAM** ワークスペース.
2. [リスト] ページに移動するには、リストアイコン( )を選択します。
3. [RMF の認証パッケージ (Authorization packages in the RMF)] リストから、認証パッケージレコードを選択します。
4. オーバーレイを選択して、認証パッケージにオーバーレイを追加、編集、または削除します。
オーバーレイにポリシーを追加するには、認証パッケージが 選択 ステップに含まれている必要があります。

a. [追加] を選択して、オーバーレイにポリシーを追加します。
[オーバーレイを追加] ポップアップウィンドウが表示されます。

b. [ポリシー] フィールドに少なくとも 2 文字を入力して、使用可能なポリシーを表示してリストから選択します。

> **注:**
> ソース CAM: Control Overlay があり、状態が [公開済み] で、コントロール目標を含むポリシーのみが [ポリシー] ドロップダウン フィールドに表示されます。



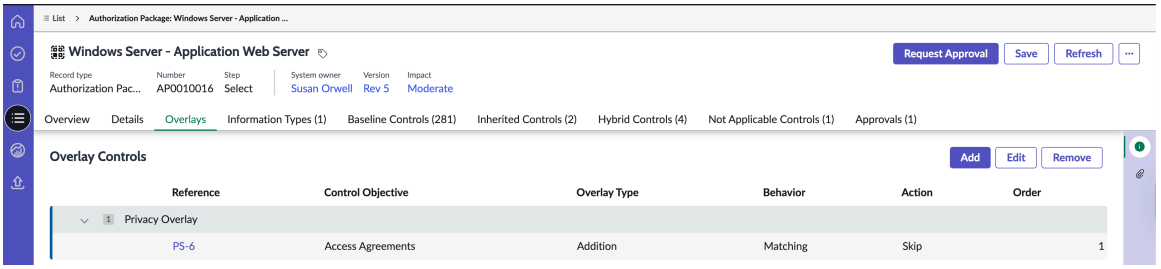
c. 次のいずれかのアクションを選択して、オーバーレイを認証パッケージに適用します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 追加:[追加] を選択して、ポリシーからベースラインコントロールにコントロール目標を追加します。

  注:
  すべてのコントロール目標は、参照 ID に基づいて追加されます。

  - 同じ参照 ID を持つコントロール目標が既にベースラインコントロールに存在する場合、 動作 は [一致] に設定され、 アクション は [スキップ] になります。スキップアクションでは、選択したオーバーレイポリシーのベースラインコントロールにコントロール目標が追加されることはありません。
  - オーバーレイポリシーに、ベースラインコントロールとは異なる参照 ID を持つコントロール目標が含まれている場合、 動作 は [個別] に設定され、 アクション は [新規作成] になります。オーバーレイポリシーの新しいコントロール目標は、ソースをコントロールオーバーレイとしてベースラインコントロールに追加されます。



- 減算:選択したオーバーレイポリシーとベースラインコントロールの間で一致する参照 ID を持つコントロール目標を [適用外のコントロール] 状態に移行するには、[減算] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

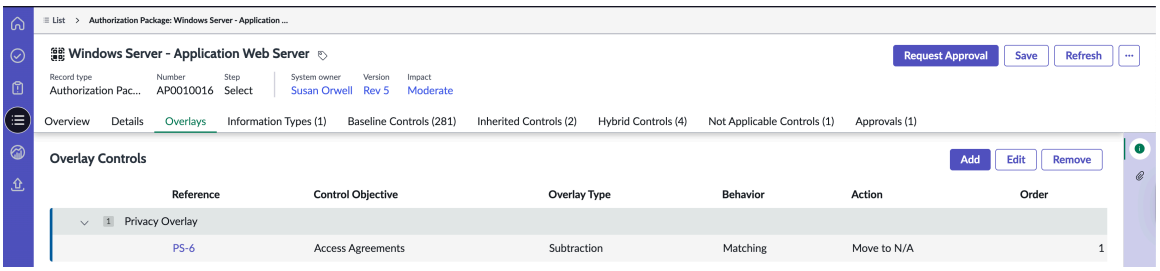
注:

- 同じ参照 ID を持つコントロール目標がベースラインコントロールに既に存在する場合:
  - 動作が [一致] に設定される
  - アクションは [適用外に移動] です

    選択したオーバーレイとベースラインコントロールの間で一致するコントロール目標は、[適用外のコントロール] タブに表示されます。

    このシナリオでは、ベースラインコントロールのソースは同じままです。ベースラインコントロールの [理由] フィールドが更新され、この変更が示されます。

    [適用外のコントロール] タブでコントロール目標を手動で選択し、[ベースラインコントロールに戻る] を使用して、認証パッケージのベースラインコントロールに戻すこともできます。



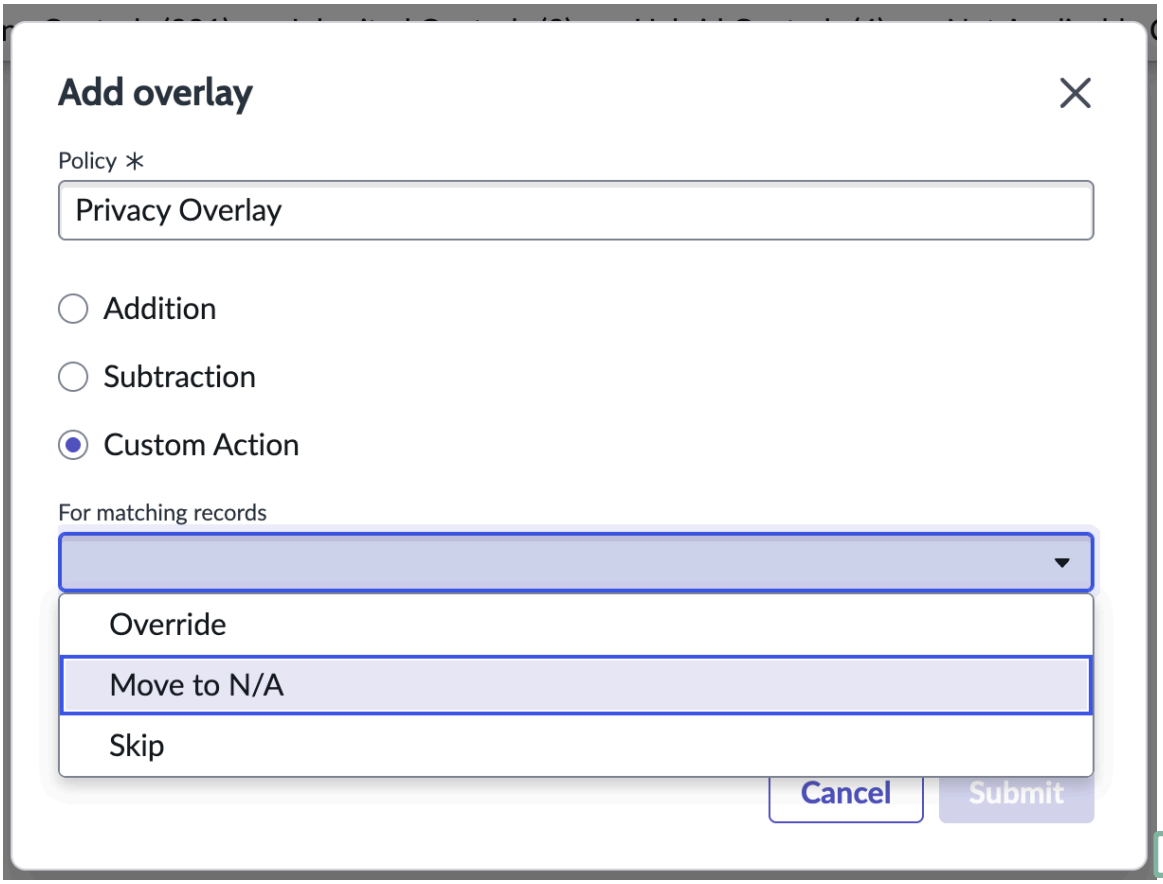
  - オーバーレイポリシーに、ベースラインコントロールとは異なる参照 ID を持つコントロール目標が含まれている場合:
    - 動作が [個別] に設定される
    - アクション は スキップです

      スキップアクションは、ベースラインコントロールからコントロール目標を適用外ステータスに移行しません。

- カスタムアクション: カスタムアクション を選択します。使用可能なアクションは次のとおりです。
  - 一致するレコードの場合 (参照 ID はベースラインコントロールおよび選択したオーバーレイポリシーと同じです):
    - 上書き:ベースラインコントロール目標を、選択したオーバーレイポリシーのコントロール目標に置き換えます。
    - 該当なしに移動:一致する参照 ID を持つコントロール目標を [適用外] ステータスに移行します。
    - スキップ:一致するレコードを無視します。選択したポリシーの認証パッケージは変更されません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

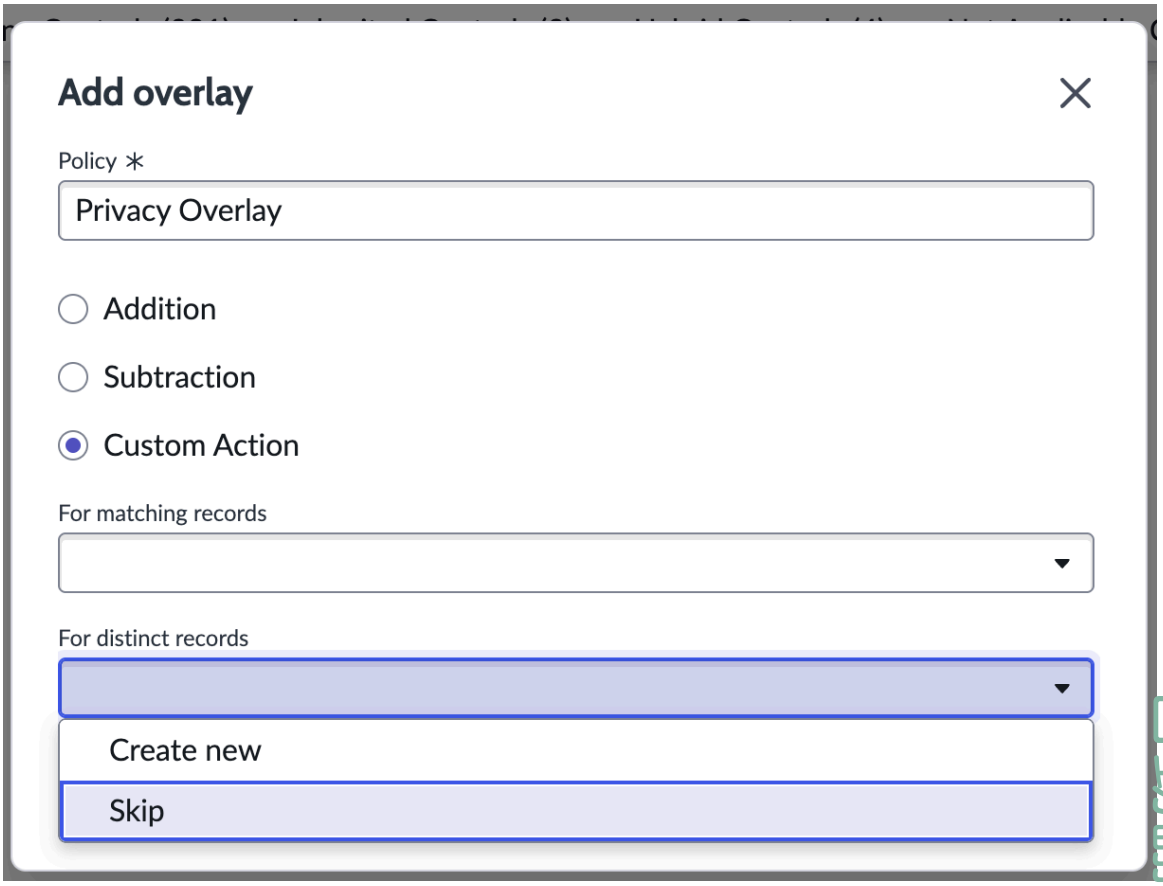


- 個別のレコード (ベースラインコントロールに参照 ID が存在しない) の場合:

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 新規作成:選択したオーバーレイポリシーの新しいコントロール目標を認証パッケージに追加します。
- スキップ:個別のレコードを無視します。認証パッケージには追加されません。



注:
既存のベースラインコントロールの場合、オーバーレイポリシーにハイブリッド、継承、または共通コントロール目標が含まれている場合、アクションはデフォルトでスキップされます。それに応じて、動作もハイブリッド、継承、または共通になります。

d. [オーバーレイコントロール] リストビューページから [編集] を選択して、リストで利用可能なオーバーレイを変更します。

注:
リストされたオーバーレイのみを編集できます。以前に選択したポリシーアクションがデフォルトで適用されるため、更新を続行するには別の操作を選択する必要があります。

e. [送信] をクリックして、ポリシーに [追加]、[減算]、または [カスタムアクション] 操作を適用します。

認証パッケージの **ATO** アーティファクト

システムセキュリティ計画 (SSP)、セキュリティアセスメントレポート (SAR)、アクションプランとマイルストーン (POA&M)、セキュリティアセスメント計画 (SAP)、運用権限 (ATO レター)、エグゼクティブサマリーなどの運用権限 (ATO) アーティファクトを Microsoft Word 形式で認証パッケージから生成します。 ATO アーティファクトを Microsoft Word 形式で生成すると、編集、コラボレーション、コンプライアンスが容易になり、プロフェッショナルで移植可能なドキュメントを確認できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ATO アーティファクトは、セキュリティ標準へのパッケージの準拠をサポートするシステムを承認する際に生成されるドキュメントと証拠です。

SSP、SAR、POA&MS、SAP、ATO Letter、およびエグゼクティブサマリーは、認証パッケージに対して生成できるレポートです。システムセキュリティの有効性に関する統合された詳細なレポートを提供します。

SSP
: 情報システムのセキュリティ要件の概要を説明するドキュメント。システムがセキュリティ要件にどのように準拠するか、または要件を満たすためにどのように計画するかについて説明します。

SAR
: セキュリティコントロールで検出された脆弱性を修正する際に査定人のアセスメント結果と推奨ガイドラインを提供する構造化ドキュメント。

POA&M
: 計画の要素の達成方法、タスクを達成するためのマイルストーン、およびマイルストーンを完了するためのタイムラインに関する詳細を提供するドキュメント。

SAP
: NIST SP 800-37 および組織のポリシーに従ったセキュリティコントロールと保護手段の評価とテストの概要を示すドキュメント。

ATO レター
: セキュリティフレームワークへの準拠と包括的なリスクアセスメントに基づくドキュメント。

エグゼクティブ サマリー
: パッケージの包括的なセキュリティ評価を概説し、連邦政府のセキュリティ要件および関連する認証フレームワークで検証するドキュメント。

注:
CAM ワークスペース でコンテンツを更新できる Microsoft Word で、SSP、SAR、POA&MS、SAP、ATO Letter、およびエグゼクティブサマリーレポートを生成できます。一方 クラシック UI では、認証パッケージフォームの [レポートの生成] を使用して SSP レポートを PDF 形式で生成できます。

事前定義された CAM Microsoft Word テンプレートを設定するには、次に移動する必要があります: すべて > 継続的な承認とモニタリング > アドミニストレーション をクリックし、次の管理手順を設定します。

- ATO アーティファクトレポートテンプレートの構成
- 継続的な承認とモニタリングとともにインストールされるコンポーネント

ATO アーティファクトを生成

認証パッケージの概要レコードページから、運用権限 (ATO) アーティファクトを Microsoft Word 形式で生成します。このアクションにより、 CAM から ATO アーティファクトをダウンロードできます。

始める前に
必要なロール：

- sn_irm_cont_auth.admin
- sn_irm_cont_auth.authorization_official
- sn_irm_cont_auth.executive_read
- sn_irm_cont_auth.info_system_sec_manager

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

- sn_irm_cont_auth.info_system_sec_officer
- sn_irm_cont_auth.system_owner

重要:

- Microsoft Wordテンプレートを作成して ATO アーティファクトレポートを生成する前に、ServiceNow ドキュメントデザイナー for Word プラグインを設定します。

  詳細については、「ATO アーティファクトレポートテンプレートの構成」を参照してください。

- どのレポートタイプを使用してそれぞれの ATO アーティファクトを生成するかを確認します。

  詳細については、「継続的な承認とモニタリング システムプロパティ」を参照してください。

手順

1. 移動先 ワークスペース > **CAM** ワークスペース.
2. [リスト] ページに移動するには、リストアイコン ( ) を選択します。
3. [RMF の認証パッケージ] リストから、レポートを生成する認証パッケージレコードを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

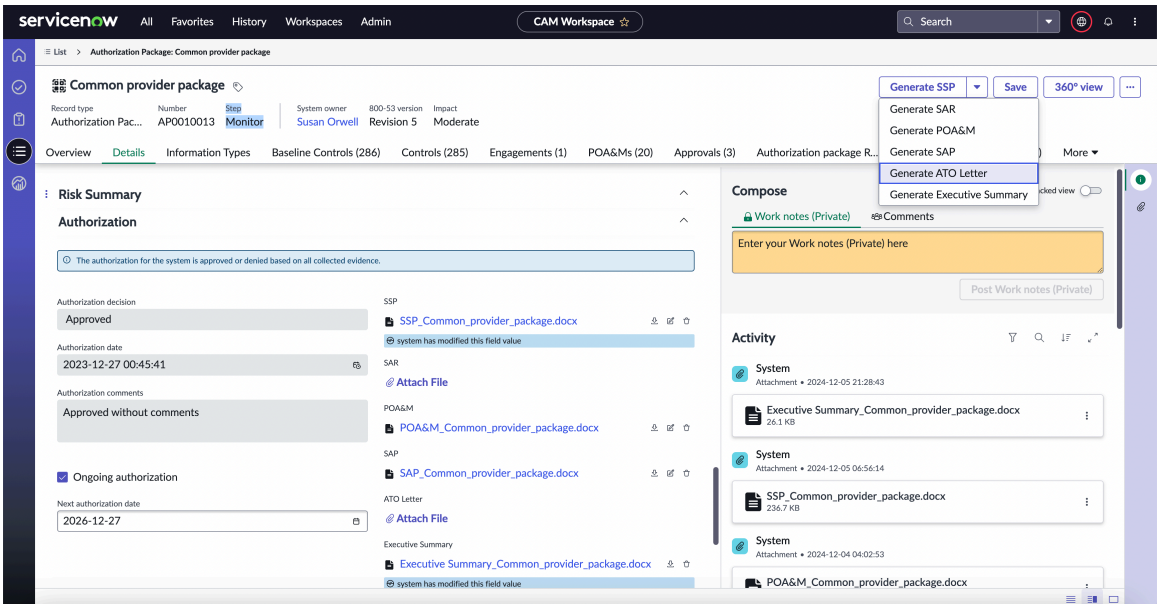
重要:
ATO アーティファクトを生成するには、レポートが次のステータスである必要があります。

状況	ATO アーティファクト
実装、評価、認可、または監視	○ SSP ○ POA&M **注:** ○ SSP レポートを正常に生成するには、ドキュメントデザイナー プラグインの繰り返しプロパティ「com.snc.word_doc_api.max_repetitions」を 200 に設定する必要があります。詳細については、「ドキュメントデザイナー の参照情報」を参照してください。 ○ データ制限が中または高の認証パッケージの場合は、テンプレート構成でレコード数を 200 に増やして、SSP レポートを正常に生成します。詳細については、「のコンテンツ構成の作成 CAM」を参照してください。
評価、認可、または監視	○ SAP ○ SAR
許可または監視	○ ATO レター ○ エグゼクティブ サマリー

4. パッケージの SSP レポートを生成するには、**[SSP を生成 (Generate SSP)]** を選択します。
5. 次のレポートを生成するには、ドロップダウンアクションアイコン( )を選択します。
   - パッケージの SAR レポートを生成するには、 **[SAR の生成]** を選択します。
   - パッケージの POA&M レポートを生成するには、[**POA&M** の生成] を選択します。
   - パッケージの SAP レポートを生成するには、[**SAP** の生成] を選択します。
   - パッケージの ATO レターレポートを生成するには、[**ATO** レターの生成]を選択します。
   - パッケージのエグゼクティブサマリーレポートを生成するには、[エグゼクティブサマリーの生成]を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. [**Proceed**] を選択します。
Microsoft Wordファイルが生成されると、レポートが正常に生成されたことを示すバナーメッセージが表示されます。

> **注:**
> HTML テンプレートからレポートを生成する場合、[続行] を選択した後も、レポートが完全に生成されるまで画面は表示されたままになります。
>
> Word テンプレートからレポートを生成すると、[続行] 画面が非表示になり、レポートの生成がバックグラウンドで実行されます。

7. メッセージを閉じ、サイドバーで添付ファイルを選択します。
Microsoft Wordドキュメントは、[詳細] 関連リストのパッケージの [承認] セクションにも添付されます。レポートの横にあるダウンロードアイコンを選択して、ファイルをダウンロードすることもできます。

8. *.docx* 拡張子のファイルの横にある [その他のアクション] アイコン ( ) を選択し、[ダウンロード] オプションを選択します。

> **重要:**
> ファイルがローカルリポジトリに自動的にダウンロードされるように、URL のポップアップブロッカーがオフになっていることを確認します。

ダウンロードしたファイルがMicrosoft Word形式で開き、すべての詳細が表示されます。レポートは、タイムスタンプとそれを生成したユーザーとともに、パッケージの [アクティビティ] セクションにも添付されます。

実装ステップ以降、認証パッケージに対して生成されたすべての ATO ドキュメントが [承認ドキュメント] タブに表示されます。

HTML テンプレートを使用して認証パッケージの ATO アーティファクトを生成する機能を使用するには、Now Supportナレッジベースの記事「Configurations Required to Enable Report Generation for Authorization Package in CAM Workspace (CAM ワークスペースで認証パッケージのレポート生成を有効にするために必要な構成) [KB1649486]」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CAM OSCAL

Open Security Controls Assessment Language (OSCAL) は、コントロール関連情報を表現するための標準化された方法を提供し、IT セキュリティの相互運用性、一貫性、および自動化を可能にします。JSON 形式のみをサポートしています。 CAM は OSCAL バージョン 1.1.2 をサポートしています。

OSCAL は、米国国立標準技術研究所 (NIST) によって開発された機械可読形式のセットです。これは、セキュリティコントロールアセスメント、コンプライアンスレポート、およびリスク管理プロセスの自動化をサポートするように設計されています。

CAM は、カタログモデルとシステムセキュリティ計画(SSP)モデルの両方の OSCAL データのエクスポートとインポートをサポートしています。

CAM サポートされている OSCAL モデル

CAM OSCAL は、次のモデルをサポートしています。

カタログ

NIST によると、カタログモデルは、コントロールのカタログの構造化された機械可読表現を提供します。したがって、カタログモデルの一部として、 CAM を使用して次のコントロール関連情報を取得できます。

- コントロール目標：これらはコントロールにマッピングされます。コントロール目標の [参照] フィールドは、NIST コントロールにマッピングされます。コントロール目標の要件は、NIST のコントロールのステートメントにマッピングされます。したがって、コントロール目標の [説明] フィールドの各部分は、NIST のコントロールのサブパートと一致します。各コントロール目標の子コントロール目標がコントロールフィールドにマッピングされます。コントロール目標の関連コントロール目標は、[リンク] フィールドにマッピングされます。
- コントロール目標要件：コントロール目標の説明からさらに分類されたステートメントまたはコントロール要件。
- テストテンプレート：コントロールで実行されるテスト。各コントロールには少なくとも 1 つのテストテンプレートがあり、そのテンプレートには 1 つのアセスメント目標があります。
- アセスメント手順：テストテンプレートまたはコントロールで実行されるテストのアセスメント目標です。

オーバーレイカタログ

オーバーレイコントロール：これらはコントロール目標で構成されるポリシーであり、NIST の一部ではありませんが、認証パッケージに含めることができます。

プロファイル

NIST によると、プロファイルモデルは、ベースラインの構造化された機械可読表現を提供します。プロファイルモデルは、1 つ以上のコントロールカタログから選択されたコントロールのベースラインも表しています。

ベースラインコントロール：影響度に基づいて自動入力されるコントロール目標の小さなセット。影響度は、認証パッケージの情報タイプに基づいて決定されます。

- 包含コントロール：ベースラインコントロールであり、認証パッケージの一部です。
- 除外コントロール：適用外としてマークされているベースラインコントロールです。

プロファイルは、カタログとオーバーレイカタログの両方で構成されます。

システムセキュリティ計画 (SSP)

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

NIST によると、OSCAL SSP モデルを使用すると、システムオーナーは、特定のベースラインまたは OSCAL プロファイルのコンテキスト内で情報システムのシステム実装を表現できます。または、情報システムのコントロール実装の説明を表します。

- 認証境界：認証境界は、CAM アプリケーションを使用して継続的に管理および監視できる特定のシステムのスコープを定義します。
- 認証パッケージ：RMF によって義務付けられている 7 つのステップを通じて資産またはシステムを処理する目的で作成されます。詳細については、「NIST RMF プロセスの概要」を参照してください。
- 情報タイプ：情報タイプは、分類ステップで定義された情報システムの重要度に基づいて、パッケージの影響度レベルを定義します。
- コントロール：コントロール目標が [実装] ステータスに移行すると、コントロールになります。
- コントロール要件：コントロール目標が [実装] ステータスに移行すると、コントロールになります。それに応じて、コントロール目標要件はコントロール要件に変換されます。
- 継承コントロール：親認証パッケージから完全に継承されるコントロール。これは、そのような各コントロールのすべてのコントロール要件も完全に継承されることを意味します。
- ハイブリッドコントロール：これらは親認証パッケージから部分的に継承されます。

OSCAL 形式でのエクスポート

CAM は、米国国立標準技術研究所 (NIST) で使用される Open Security Controls Assessment Language (OSCAL) をサポートしており、標準化された機械可読形式でコントロール関連情報を提供します。 CAM は、カタログ、プロファイル、および SSP モデルをサポートしています。

モデルのデータを取得するためのソーステーブル

ソーステーブル	JSON プロパティ
カタログ	
コントロール目標	コントロール
コントロール目標要件に対するコントロール目標	ステートメントパーツ
アセスメントのテンプレートテスト手順	アセスメント目標パーツ
コントロール目標	ガイダンス
テストテンプレート	アセスメント方法 (例)
テストテンプレート	アセスメント方法 (インタビュー)
プロファイル	
ベースラインコントロール	包含コントロール
ベースラインコントロール	除外コントロール
SSP	
認証境界	コンポーネント
認証パッケージ	レバレッジ認証
認証境界	セキュリティ影響レベル

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソーステーブル	JSON プロパティ
コントロール要件	ステートメント
認証境界	コンポーネント別
情報タイプ	情報タイプ

OSCAL SSP のエクスポート

認証パッケージの概要レコードページから、zip ファイルを生成し、レコードのマッピングされたコンテンツの詳細を OSCAL 形式でエクスポートします。OSCAL SSP を生成するには、選択した認証パッケージが実装済みステータス以降である必要があります。このアクションにより、認証パッケージを CAM からエクスポートできます。

始める前に
必要なロール：

- sn_irm_cont_auth.admin
- sn_irm_cont_auth.system_owner
- sn_irm_cont_auth.authorization_official
- sn_irm_cont_auth.info_system_sec_manager
- sn_irm_cont_auth.info_system_sec_officer

手順

1. 移動先 ワークスペース > **CAM** ワークスペース.
2. CAM ワークスペースで、リストアイコン ( )を選択します。
3. **RMF** リストから [認証パッケージ] を選択します。
4. リストビューから、SSP ファイルを生成する認証パッケージレコードを選択します。

   注:
   OSCAL SSP を生成するには、認証パッケージが [実装]、[評価]、[認可]、または [監視] ステータスである必要があります。

5. OSCAL SSP をエクスポートするには、[**OSCAL SSP** の生成] を選択します。

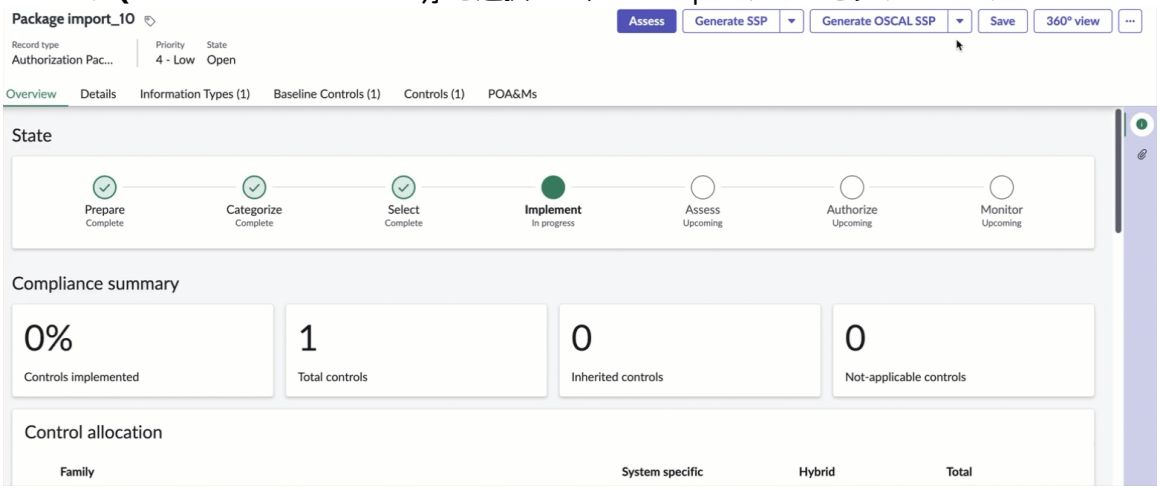
   注:
   Xanadu バージョンを使用している場合は、「 OSCAL 形式でデータをエクスポートする 」のステップ 5 から開始します。

6. ポップアップウィンドウで [続行] を選択して、レポートの生成を開始します。
   Word ファイルが生成中であることを示すメッセージが表示されます。JSON ファイルといくつかの図を含む zip が生成されます。JSON ファイルをダウンロードする前に、ページを更新する必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. [**OSCAL SSP** の生成 **(Generate OSCAL SSP)**] ドロップダウンリストから [**OSCAL SSP** のダウンロード **(Download OSCAL SSP)**] を選択して、SSP zip ファイルをダウンロードします。



> **重要:**
> SSP zip ファイルがローカルリポジトリに自動的にダウンロードされるように、URL のポップアップブロッカーがオフになっていることを確認します。

catalog.json、overlay-catalog.json、profile.json、ssp.json ファイルを表示できます。さらに、パッケージのそれぞれのフィールドと境界に添付された図がリンクされている場合は、zip のコンテンツでも使用できます。図には、カタログデータフロー図、ネットワークアーキテクチャ図、または認証境界図があり、zip にした png ファイルとして入手できます。

> **注:**
>
> - overlay-catalog.jsonファイルには、認証パッケージにリンクされているポリシーのみが含まれています。認証パッケージにリンクされているカタログオーバーレイがない場合、overlay-catalog.jsonファイルは生成されません。
> - エクスポートの OSCAL 動作をカスタマイズするには、Now Supportナレッジベースの「OSCAL Model customization support (OSCAL モデルのカスタマイズサポート) [KB1650397]」の記事を参照してください。

OSCAL インポートエラーの詳細については、Now Supportナレッジベースの OSCAL インポート [KB1794095] の記事を参照してください。

OSCAL カタログのエクスポート

[コントロール目標] リストビューページから、選択したコントロール目標のカタログを OSCAL JSON 形式でエクスポートできます。このアクションにより、 CAMからコントロール目標をエクスポートできます。

始める前に
必要なロール：

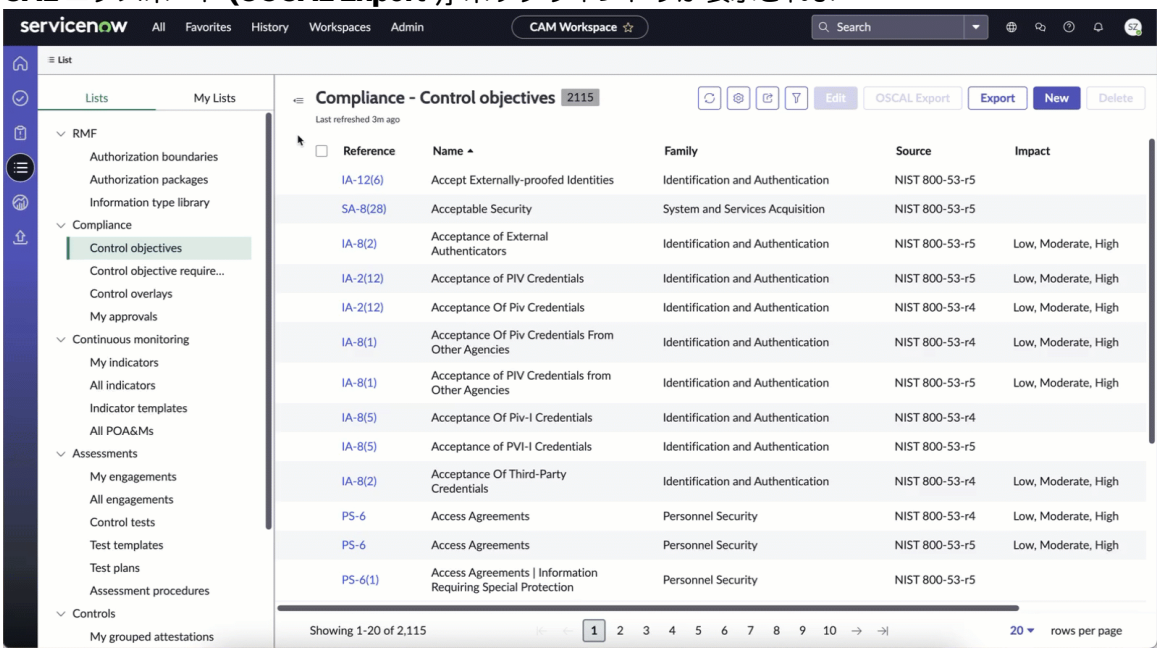
- sn_irm_cont_auth.authorization_official
- sn_irm_cont_auth.info_system_sec_manager
- sn_irm_cont_auth.info_system_sec_officer
- sn_irm_cont_auth.system_owner
- sn_irm_cont_auth.reader

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 ワークスペース > **CAM** ワークスペース.
2. CAM ワークスペースで、リストアイコン ( )を選択します。
3. [コンプライアンス] リストから [コントロール目標] を選択します。
4. リストビューから、エクスポートする必要があるコントロール目標レコードを 1 つ以上選択します。
5. **[OSCAL** エクスポート] を選択します。
   [OSCAL エクスポート **(OSCAL Export**)] ポップウィンドウが表示されます。



6. ポップアップウィンドウで、[タイトル] と [バージョン] を入力し、[エクスポート] を選択します。

> **重要:**
> カタログ JSON ファイルがローカルリポジトリに自動的にダウンロードされるように、URL のポップアップブロッカーがオフになっていることを確認します。

カタログの JSON ファイルがローカルリポジトリにダウンロードされます。

OSCAL 形式でインポート

CAM OSCAL インポートは、セキュリティコントロールデータの統合を簡素化するように設計されたプレイブックスタイルのエクスペリエンスを提供します。

このガイド付きプロセスでは、OSCAL (Open Security Controls Assessment Language) 形式を使用して、カタログモデルとシステムセキュリティ計画 (SSP) モデルの両方で JSON ファイルのインポートをサポートします。OSCAL インポートランディングページから、以前にインポートした OSCAL ファイルのリストを現在のステータスとともに表示できます。新しいインポートを開始するには、[すべての **OSCAL** インポート] ランディングページから [新規インポート] を選択します。インポートプロセスは、次の構造化されたステージをガイドします。

- 詳細:インポートステータス通知の OSCAL モデル、ソース、受信者などのインポートの詳細を入力します。
- 添付ファイル: [詳細] タブで選択したモデルに対応する OSCAL 形式のファイルをアップロードします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- カタログ OSCAL モデルの場合、インポートプロセスを続行するには、カタログファイルをアップロードする必要があります。
- SSP OSCAL モデルの場合、次のファイルをアップロードする必要があります。
  - カタログ
  - プロファイル
  - SSP
  - オーバーレイ:複数のオーバーレイファイルをアップロードできます。

- ロールと責任:インポートされたファイルの特定のロールにユーザーをアサインします。これらのユーザーは、認証パッケージの各ステップを通じてロールを保持します。

  注:
  このタブは、SSP OSCAL モデルが選択されている場合にのみ適用されます。

- プレビューと上書き:アップロードするファイルのリストと、作成またはスキップされるファイルの数を確認します。インポート、スキップ、上書きなどの適切なアクションを実行します。

  注:
  スキップステータスのファイルのみを上書きできます。また、パッケージを上書きすると、そのパッケージに関連付けられているすべてのデータが上書きされます。

CAM インポート OSCAL 機能を使用すると、次の操作を実行できます。

- OSCAL カタログのインポート
- OSCAL SSP のインポート

OSCAL インポートエラーおよびコントロールカタログの詳細については、Now Supportナレッジベースの OSCAL インポート [KB1794095] の記事を参照してください。

OSCAL カタログのインポート

[新しいインポートプレイブックエクスペリエンス] ページから、カタログモデルの OSCAL ファイルを CAM ワークスペースにインポートできます。このタスクでは、インポートプロセスを開始するために必要な JSON ファイルをアップロードして処理することに重点を置いています。

始める前に
必要なロール：

- sn_irm_cont_auth.info_system_sec_manager
- sn_irm_cont_auth.info_system_sec_officer
- sn_irm_cont_auth.admin

注:

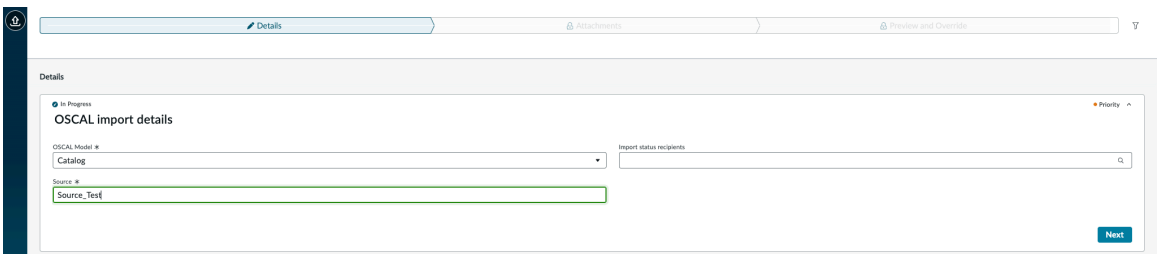
- インポートするカタログファイルは JSON 形式であり、OSCAL-CLI ツールを使用して検証し、検証エラーがないか https://github.com/usnistgov/oscal-cli する必要があります。
- インポートプロセスが完了すると、受信者にメールで通知されます。

OSCAL カタログインポートは同期プロセスです。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

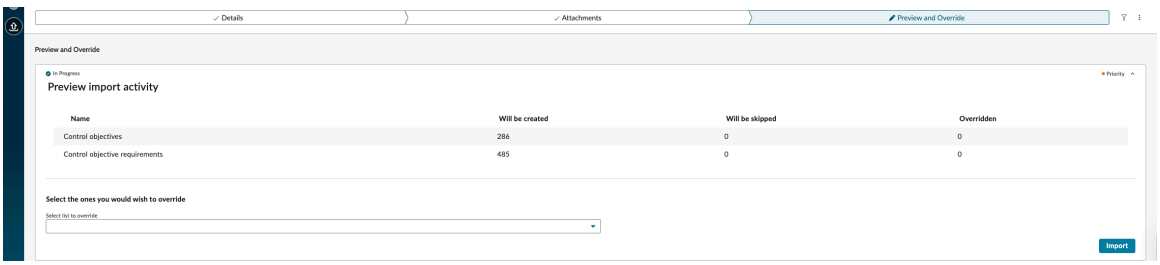
1. 移動先 ワークスペース > **CAM** ワークスペース.
2. CAM ワークスペースで、OSCAL インポートランディングページアイコン ( ) を選択します。
3. [すべての **OSCAL** インポート] ランディングページから [新しいインポート] を選択します。
4. **[OSCAL Model]** ドロップダウンリストから [**Catalog**] を選択します。
   デフォルトでは、カタログモデルが選択されています。
5. ソース名を入力します。
   入力したソース名は、インポートされたコントロール目標の名前として使用されます。同じソース名のコントロール目標が存在する場合、そのファイルはインポート中にスキップされます。



6. オプション: インポートステータスの受信者の名前を入力します。
   OSCAL のインポートが完了したら、通知するユーザーを一覧表示できます。受信者は、インポートステータスに関するメール通知を受信します。
7. [次へ] を選択して、OSCAL インポートプロセスの次のステップに進みます。
   カタログファイルを添付するための [添付ファイル] タブが表示されます。
8. [添付ファイル] タブで [ファイルを添付] を選択して、ローカルリポジトリからカタログファイルを添付します。



9. [次へ] を選択して、アップロードしたファイルを確認します。
   [プレビュー] タブと [上書き] タブが表示されます。



10. [プレビューと上書き] タブで、作成、スキップ、または上書きする詳細を確認してから、次のいずれかを実行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- [インポート] を選択して、カタログモデルをインポートします。

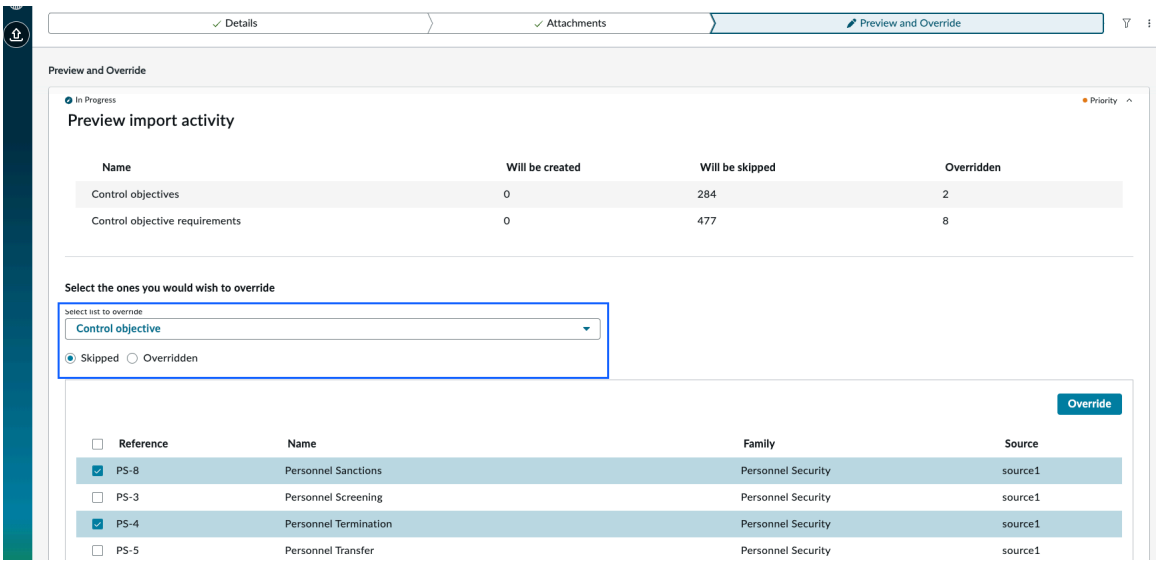
  注:
  すべてのデータが新規であり、インポートする必要がある場合、インポートアクションによってそれぞれのデータの新しいレコードが作成されます。この場合、ファイルをスキップしたり上書きしたりすることはできません。ただし、既存のソースと一致するレコードを含むファイルをインポートする場合は、データをスキップまたは上書きするオプションがあります。

- データを上書きするには、次のアクションを実行します。

  a. 上書きするデータを選択するには、[上書きするリストを選択] を選択します。

  b. スキップする参照をリストするには、[スキップ] を選択します。

  注:
  ドロップダウンから選択したデータに基づいて、データが [スキップされます] ステータスの場合は、上書きのみできます。コントロール目標を上書きすると、関連付けられているすべてのコントロール目標要件も上書きされます。



  c. リストから上書きする参照を選択します。

  d. [上書き] を選択して、選択した 1 つ以上の参照を上書きします。

  選択した参照に上書きのフラグが付けられ、プレビューリストで 上書き 数が増えます。

- データをスキップするには、次のアクションを実行します。

  a. スキップするデータを選択するには、[上書きするリストを選択] を選択します。

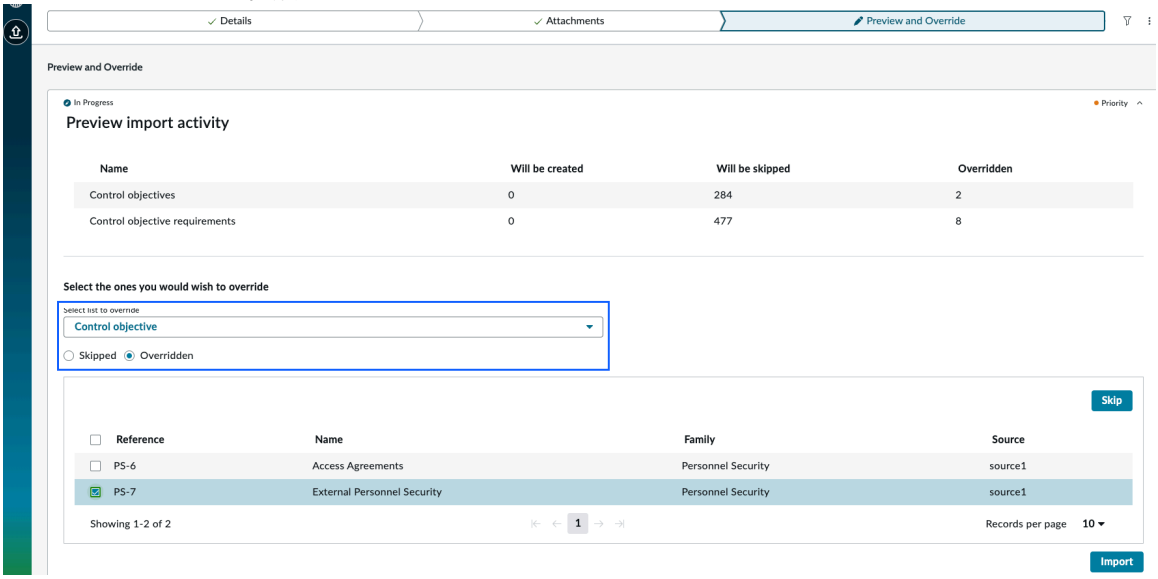
  b. スキップする参照をリストするには、[上書き] を選択します。

  注:
  [上書き] ステータスの場合は、スキップのみできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. リストからスキップする参照を選択しま



す。

d. [スキップ] を選択して、選択した 1 つ以上の参照を上書きします。

選択した参照にスキップのフラグが付けられ、プレビューリストで [スキップされる] カウントが増加します。

11. [インポート] を選択して、カタログファイルをインポートします。

注:

- CAM OSCAL カタログインポートモデルは、テストテンプレートとアセスメント手順がカタログ JSON ファイルに含まれている場合、それらをサポートしません。
- インポートプロセス中にエラーが発生した場合は、ポップアップに表示されるエラーメッセージを確認し、必要な是正措置を講じてください。

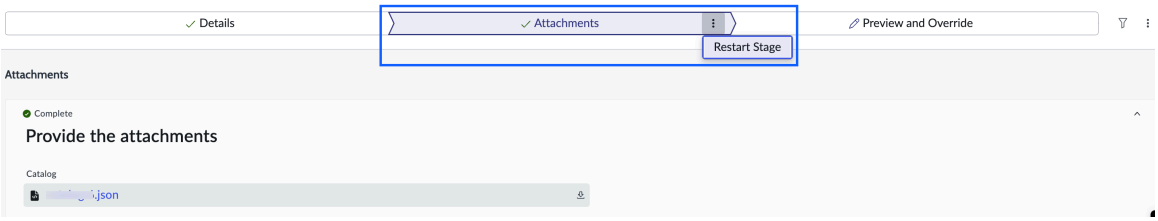
インポートステータスレポートは、[すべての **OSCAL** インポート] ランディングページで表示できます。

必要なすべてのコントロール目標は、指定されたソースで作成されます。

OSCAL インポートエラーの詳細については、Now Supportナレッジベースの OSCAL インポート [KB1794095] の記事を参照してください。

12. オプション: インポートプロセス中にエラーが発生した場合は、ポップアップに表示されるエラーメッセージを確認し、必要な是正措置を講じてください。

[添付ファイル] タブの添付ファイルアクションアイコン ([ ) を選択して [ステージの再起動] を選択し、添付ファイルを再開することもできま



す。

注:

プレイブックアクションアイコン ( ) を選択して [プレイブックを再起動] を選択し、プレイブックを再起動することもできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

OSCAL SSP のインポート

[新しいインポートプレイブックエクスペリエンス] ページから、システムセキュリティ計画 (SSP) モデルの OSCAL ファイルを CAM ワークスペースにインポートできます。このアクションにより、認証パッケージデータを OSCAL 形式でシームレスにアップロードできます。

始める前に
必要なロール：

- sn_irm_cont_auth.info_system_sec_manager
- sn_irm_cont_auth.info_system_sec_officer
- sn_irm_cont_auth.admin

注:

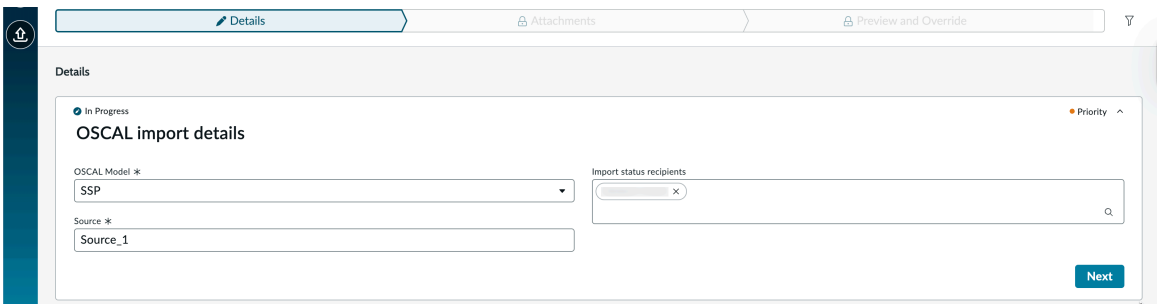
- インポートするカタログ、カタログオーバーレイ、SSP、およびプロファイルファイルは JSON 形式にし、OSCAL-CLI ツールを使用して検証し、検証エラーがないか https://github.com/usnistgov/oscal-cli する必要があります。
- インポートプロセスが完了すると、受信者にメールで通知されます。
- 特定のペルソナ CAM マッピングする必要があるユーザー。

OSCAL SSP インポートは同期プロセスです。

OSCAL インポートの詳細を入力

手順

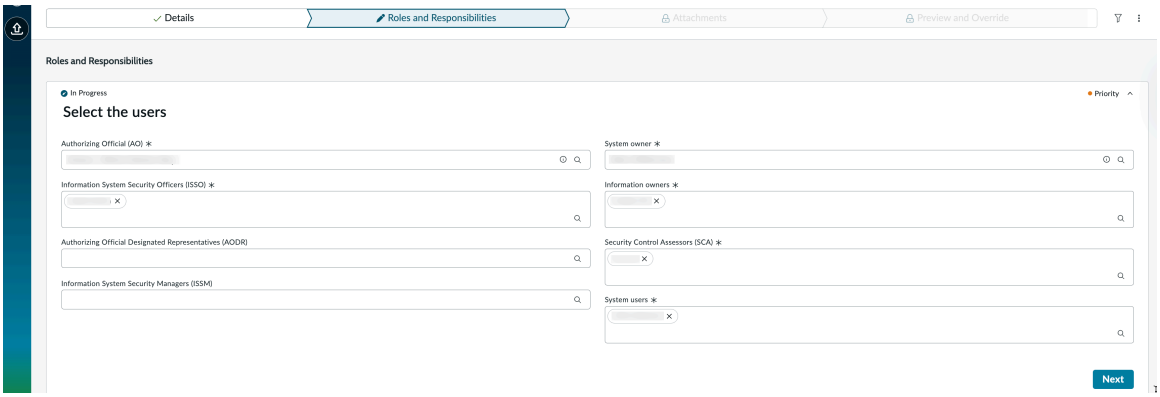
1. 移動先 ワークスペース > **CAM** ワークスペース.
2. CAM ワークスペースで、OSCAL インポートランディングページアイコン ( ) を選択します。
3. [すべての **OSCAL** インポート] ランディングページから [新しいインポート] を選択します。
4. **[OSCAL Model]** ドロップダウン リストから **[SSP]** を選択します。
5. ソース名を入力します。
6. オプション: インポートステータスの受信者の名前を入力します。
   OSCAL のインポートが完了したら、通知するユーザーを一覧表示できます。受信者は、インポートステータスに関するメール通知を受信します。



7. [次へ] を選択して、OSCAL インポートプロセスの次のステップに進みます。
   インポートプロセスのユーザーをマッピングするための [ロールと責任] タブに移動します。
8. [ロールと責任] タブでユーザーを選択します。
   インポートされたファイルの特定のロールにユーザーをアサインします。これらのユーザーは、認証パッケージの各ステップを通じてロールを保持します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

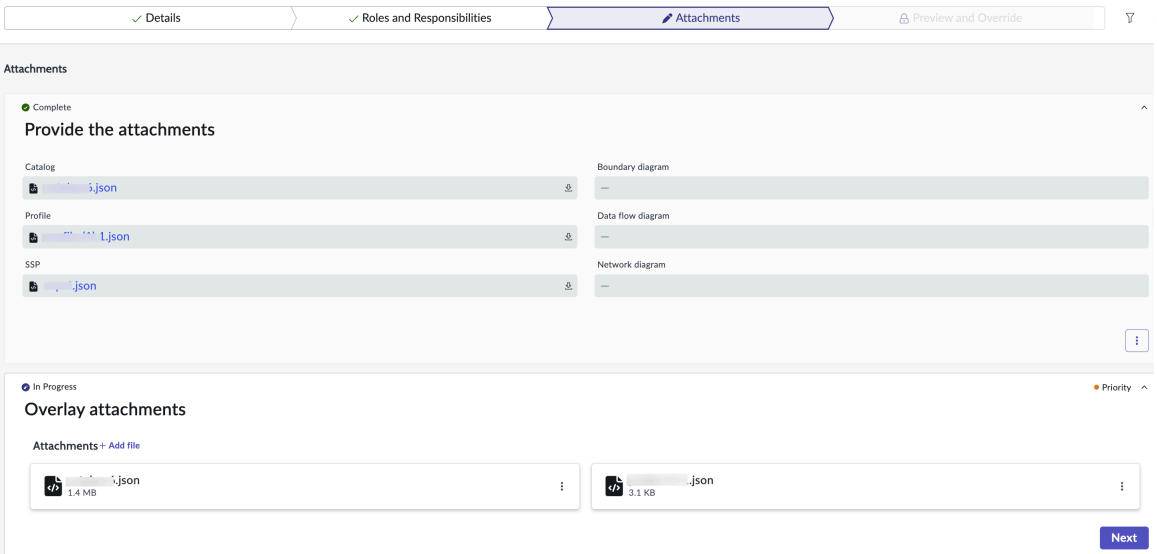
自動翻訳



9. [次へ] を選択して、OSCAL インポートプロセスの次のステップに進みます。
SSP ファイルを添付するための [添付ファイル] タブが表示されます。
10. [添付ファイル] タブで個々のファイルを添付し、[次へ] を選択してオーバーレイファイルをアップロードします。

   注:
   カタログ、プロファイル、SSP は添付する必要があるファイルです。
   - カタログ:コントロール目標とその関連オブジェクトの詳細が含まれます。
   - プロファイル:1 つ以上のコントロールカタログから選択したコントロールのベースラインが含まれます。
   - カタログオーバーレイ:オーバーレイポリシーとそのコントロール目標、およびオーバーレイの動作に関する情報が含まれています。この動作は、オーバーレイが認証パッケージに含まれている加算または減算に依存します。詳細については、「ベースラインコントロールにオーバーレイを適用する」を参照してください。複数のオーバーレイファイルをアップロードすることもできます。
   - **SSP:**認証境界、認証パッケージ、システム要素、情報タイプ、コントロール、共通コントロール、継承、ハイブリッドコントロールなどの詳細が含まれます。
   - データフロー図、 境界図、 およびネットワーク図:これらの図は認証境界に添付されます。

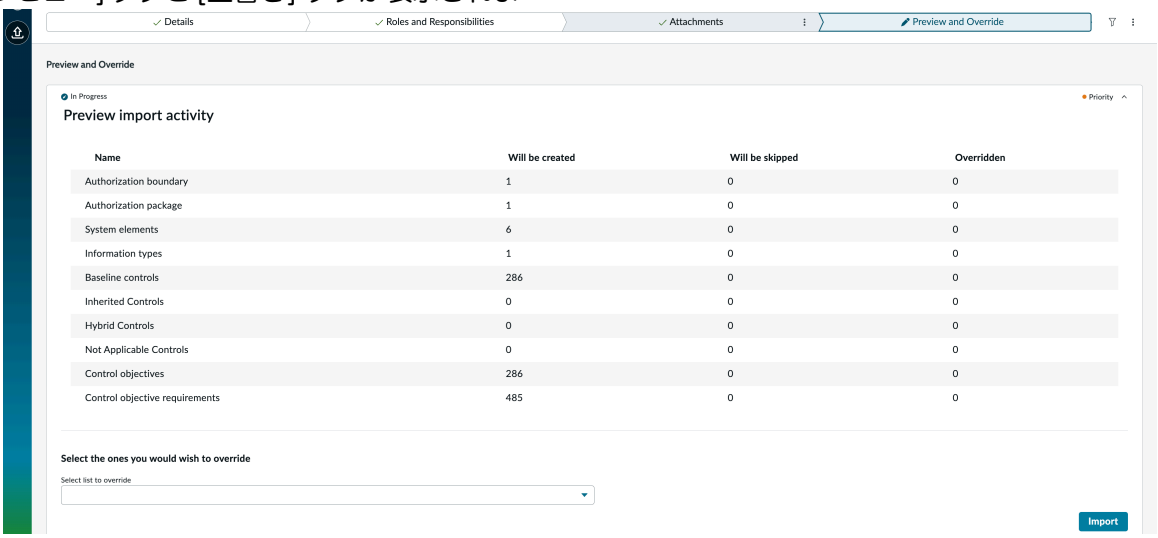
11. [ファイルの追加] を選択して、オーバーレイ ファイルを添付します。
複数のオーバーレイファイルをアップロードすることもできま



す。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

12. [次へ] を選択して、アップロードしたファイルを確認します。
[プレビュー] タブと [上書き] タブが表示されま



す。

13. [プレビューと上書き] タブで、作成、スキップ、または上書きする詳細を確認してから、次のいずれかを実行します。

- [インポート] を選択して SSP モデルをインポートします。

  注:
  すべてのデータが新規であり、インポートする必要がある場合、インポートアクションによってそれぞれのデータの新しいレコードが作成されます。この場合、ファイルをスキップしたり上書きしたりすることはできません。ただし、同じソースと一致するレコードを持つファイルをインポートする場合は、データをスキップするオプションがあります。

- データを上書きするには、次のアクションを実行します。

  a. 上書きするデータを選択するには、[上書きするリストを選択] を選択します。

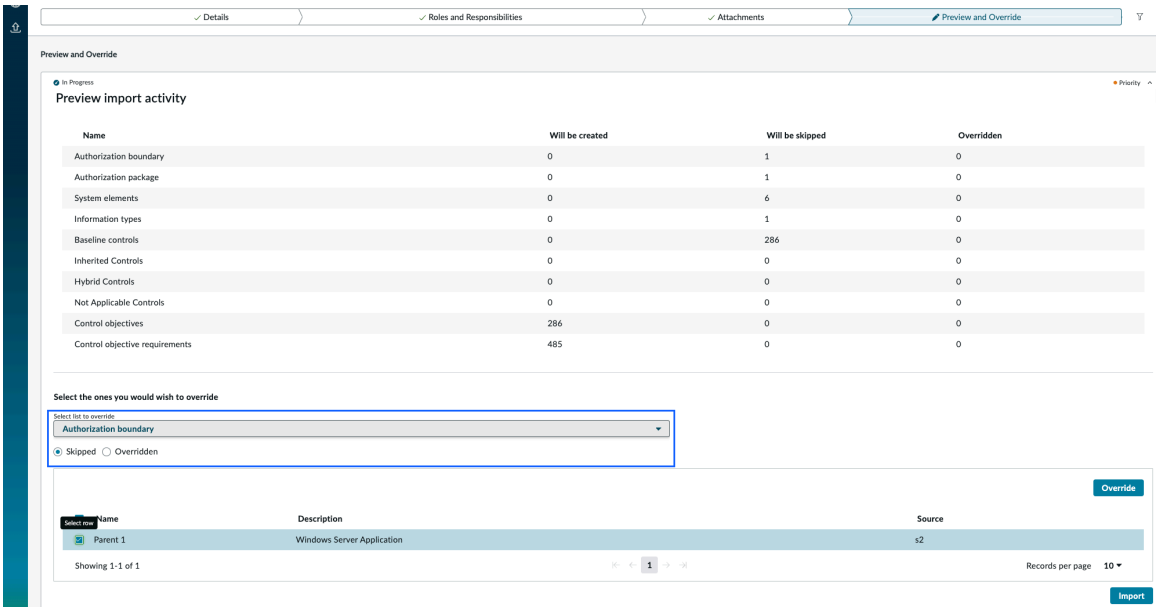
  b. スキップする参照をリストするには、[スキップ] を選択します。

  注:
  ドロップダウンから選択したデータに基づいて、データが [スキップされます] ステータスの場合は、上書きのみできます。コントロール目標を上書きすると、関連付けられているすべてのコントロール目標要件も上書きされます。

  c. リストから上書きする参照を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



d. [上書き] を選択して、選択した 1 つ以上の参照を上書きします。

選択した参照に上書きのフラグが付けられ、プレビューリストで 上書き 数が増えます。

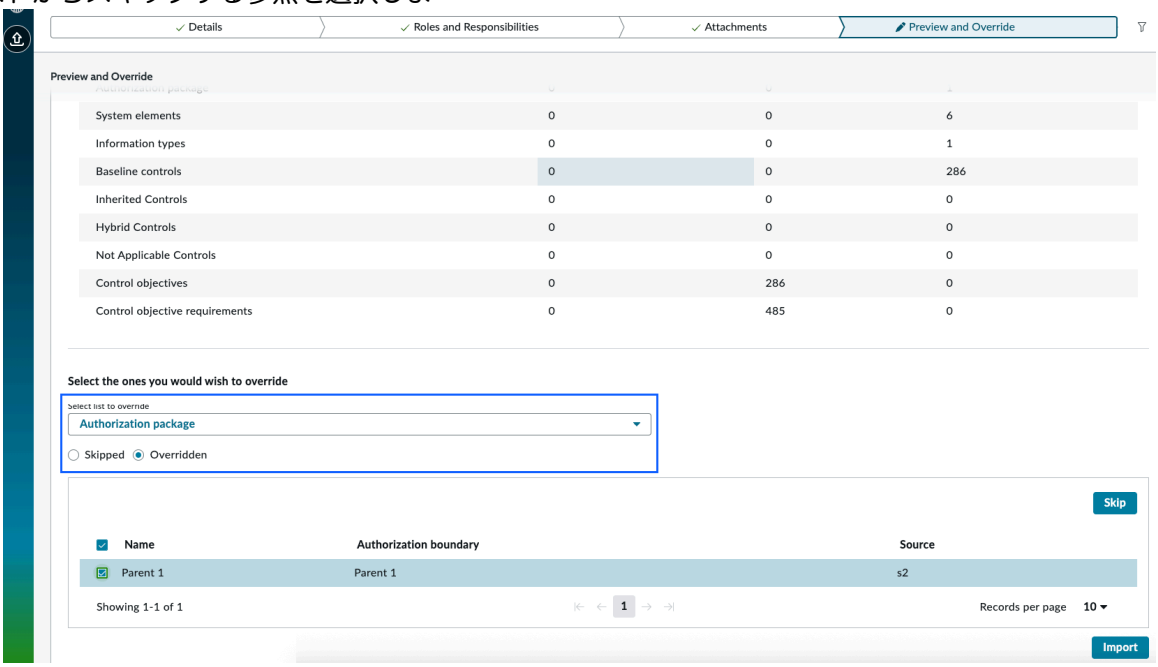
○ データをスキップするには、次のアクションを実行します。

a. スキップするデータを選択するには、[上書きするリストを選択] を選択します。

b. スキップする参照をリストするには、[上書き] を選択します。

> **注:**
> [上書き] ステータスの場合は、スキップのみできます。

c. リストからスキップする参照を選択しま



す。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

d. [スキップ] を選択して、選択した 1 つ以上の参照を上書きします。

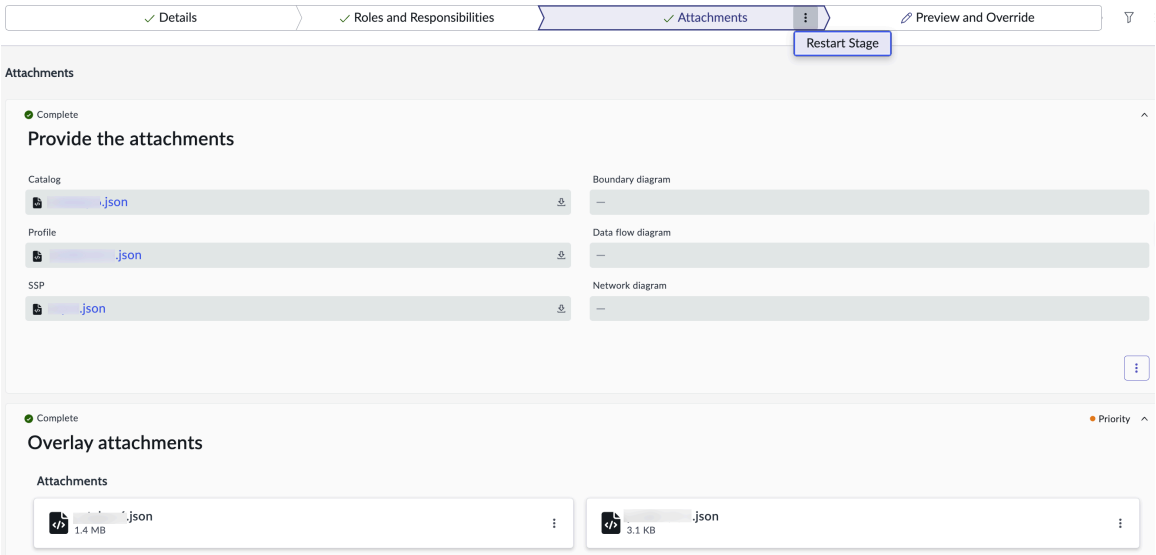
選択した参照にスキップのフラグが付けられ、プレビューリストで [スキップされる] カウントが増加します。

14. [インポート] を選択して SSP ファイルをインポートします。

> **注:**
> インポートプロセス中にエラーが発生した場合は、ポップアップに表示されるエラーメッセージを確認し、必要な是正措置を講じてください。

インポートステータスレポートは、[すべての **OSCAL** インポート] ランディングページで表示できます。

15. オプション: インポートプロセス中にエラーが発生した場合は、ポップアップに表示されるエラーメッセージを確認し、必要な是正措置を講じてください。
[添付ファイルとロールと責任] タブの添付ファイルまたはロールと責任アクションアイコン ([⋮]) を選択して [ステージを再起動] を選択し、特定のステージを再開することもできます。



> **注:**
> プレイブックアクションアイコン (⋮) を選択して [プレイブックを再起動] を選択し、プレイブックを再起動することもできます。

OSCAL 名前空間

CAM特定の情報を含めるには、一意の名前空間を持つカスタムプロパティを使用して、必要に応じて影響度を追加し、コンテンツを調整します。

フィールド	説明
影響	コントロール目標の影響をキャプチャします。
正当性	ベースラインコントロールを適用不可とする理由。ベースラインコントロールを適用不可にした場合にのみ存在します。
ソース	ベースラインコントロール目標のソース。
アクティブ	コントロール目標がアクティブかどうかを示します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

フィールド	説明
behavior	ポリシーのコントロール目標の参照とベースラインコントロールのコントロール目標の参照を比較します。 一致するレコード (ベースラインコントロールと同じ参照 ID) の場合: • 上書き:ベースラインコントロール目標を、選択したポリシーのコントロール目標に置き換えます。 • 該当なしに移動:一致する参照 ID を持つコントロール目標を [適用外] ステータスに移行します。 • スキップ:一致するレコードを無視します。選択したポリシーの認証パッケージは変更されません。 個別のレコード (ベースラインコントロールに参照 ID が存在しない) の場合: • 新規作成:選択したポリシーの新しいコントロール目標を認証パッケージに追加します。 • スキップ:個別のレコードを無視します。認証パッケージには追加されません。 詳細については、「CAM ワークスペースでのパッケージの詳細の表示」を参照してください。
構成	足し算、減算、カスタムアクションなどの構成を使用してベースラインコントロールにポリシーを適用する。
アクション	動作と構成の組み合わせ。
順序	ポリシーを適用した順序。
impact-change-justification	推奨される影響度が変更された場合。このプロパティには、変更の理由が含まれます。
カテゴリ	情報タイプのカテゴリ。
sub_category	情報タイプのサブカテゴリ。
識別可能な形式の pii-in-identififi-form	PII 情報 pii-in-identififi-form。
pii-information-about-public	PII 情報 pii-information-about-public。
privacy-impact-assessment	PII 情報 privacy-impact-assessment。
レコード通知システム	PII 情報記録システム通知。
privacy-sensitive-system	PII 情報プライバシーに配慮したシステム。

CAM のアナリティクスおよびレポート作成ソリューション

プラットフォームアナリティクスソリューション には、ServiceNow AI Platform 製品とともに使用するために、パッケージ化されたパフォーマンスアナリティクスとレポートのコンテンツが含まれ

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

ています。このソリューションは、CAM パフォーマンスアナリティクスダッシュボードレポートを追跡および分析するのに役立ちます。

CAMアナリティクスダッシュボード

必要なロール

このソリューションには、次のロールとタスクが関連付けられています。

- CAM アドミニストレーター (sn_irm_cont_auth.admin): CAM 概要ダッシュボードでレポートを表示します。
- 承認担当者 (sn_irm_cont_auth.authorization_official):AO の概要ダッシュボードでレポートを表示します。
- セキュリティコントロール査定人 (sn_irm_cont_auth.sec_control_assessor):SCA 概要ダッシュボードを表示します。
- エグゼクティブリーダー (sn_irm_cont_auth.executive_read):すべての CAM ダッシュボードでレポートを表示します。
- システムオーナー (sn_irm_cont_auth.system_owner):すべてのダッシュボードにアクセスします。
- 情報システムセキュリティマネージャー (sn_irm_cont_auth.info_system_sec_manager):すべてのダッシュボードにアクセスします。
- 情報システムセキュリティ責任者 (sn_irm_cont_auth.info_system_sec_officer):すべてのダッシュボードにアクセスします。

CAM概要ダッシュボード

CAM 概要ダッシュボードには、CAM セキュリティ体制の重要な側面に関するレポートを含む複数のタブがあります。

ダッシュボードへのアクセス

CAM アドミニストレーター [sn_irm_cont_auth.admin] またはエグゼクティブリーダー (sn_irm_cont_auth.executive_read) ロールを持つユーザーは、CAM 概要ダッシュボードのタブを表示できます。

次のロールを持つユーザーは、ダッシュボードにアクセスできます。

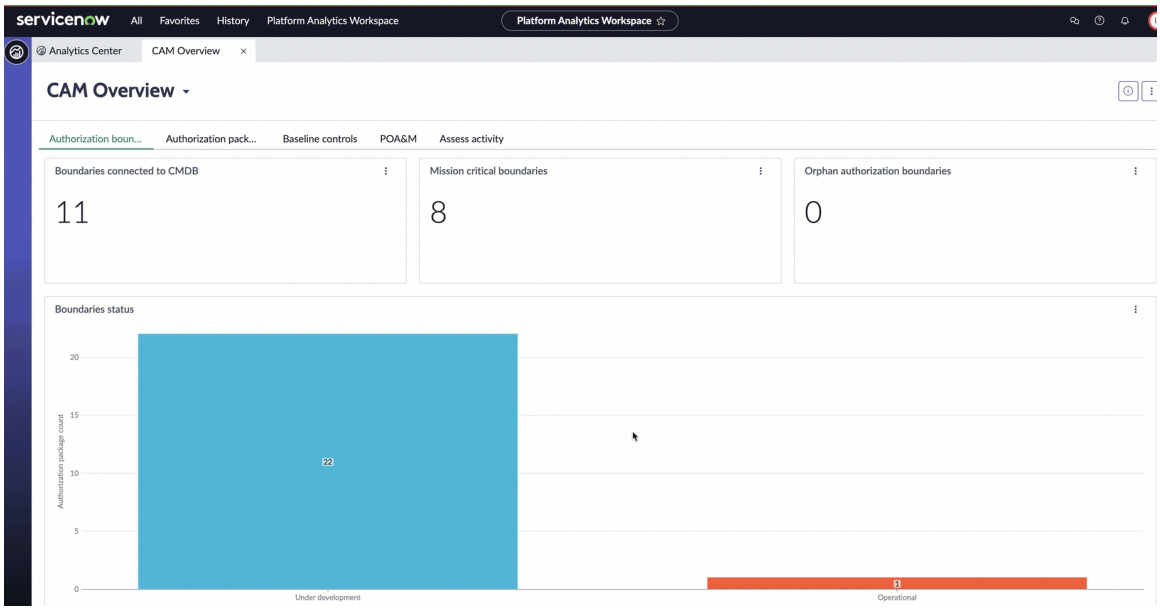
- CAM アドミニストレーター (sn_irm_cont_auth.admin)
- エグゼクティブリーダー (sn_irm_cont_auth.executive_read)
- システムオーナー (sn_irm_cont_auth.system_owner)
- 情報システムセキュリティマネージャー (sn_irm_cont_auth.info_system_sec_manager)
- 情報システムセキュリティ責任者 (sn_irm_cont_auth.info_system_sec_manager)

ダッシュボードを開くには、次の場所に移動します。 すべて > 継続的な認可とモニタリング > アナリティクスダッシュボード > **CAM** の概要.

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ダッシュボードのタブ



タイトル	タイプ	ソーステーブル	説明
[認証境界] タブ			
CMDB に接続された境界 (Boundaries connected to CMDB)	単一スコア	システム要素 [sn_irm_cont_auth_boundary_element]	CMDB で機能するように定義された認証境界の数。
ミッションクリティカルな境界 (Mission critical boundaries)	単一スコア		ミッションクリティカルとして定義された認証境界の数。詳細については、「認証境界の定義」を参照してください。
孤立した認証境界 (Orphan authorization boundaries)	単一スコア		認証パッケージに関連しない認証境界の数。
境界ステータス (Boundaries status)	棒グラフ		各ステータスの認証境界の数。
[認証パッケージ (Authorization packages)] タブ			
上書きされた影響度があるパッケージ (Packages with overridden impact)	単一スコア 。		上書きされた影響度のある認証パッケージの数。詳細については、「RMF ステップ 1 - 認証パッケージの分類」を参照してください。
承認待ちがあるパッケージ (Packages pending approval)	単一スコア 。		承認が要求されたが、まだ承認を受け取っていない認証パッケージの数。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タイトル	タイプ	ソーステーブル	説明
影響別のパッケージ	棒グラフ		影響度レベル別に分類された認証パッケージの数。
ステップ別のパッケージ (Packages by step)	棒グラフ		ステップ別 (たとえば、監視、アクセス、選択など) に分類された認証パッケージの数。
[ベースラインコントロール] タブ			
継承されたコントロールを含むパッケージ (Packages with inherited controls)	単一スコア		共通コントロールから継承されたベースラインコントロールを含む認証パッケージの数。
共通コントロールを含むパッケージ (Packages with common controls)	単一スコア		共通コントロールが作成および実装された認証パッケージの数。
実装されていないコントロールを含むパッケージ (Packages with unimplemented controls)	単一スコア 。		共通コントロールが作成されても、まだ実装されていない認証パッケージの数。
[POA&M] タブ			
処理待ちの POA&M (Pending POA&Ms)	単一スコア		承認待ちのアクションプランとマイルストーン (POA&M) の数。
POA&M とマイルストーン (POA&Ms with milestones)	単一スコア		マイルストーンを含む POA&M の数。
受け入れタスクを含む POA&M (POA&Ms with acceptance tasks)	単一スコア		受け入れタスクを含む POA&M の数。
期限切れの POA&M (Overdue POA&Ms)	単一スコア		期限切れのマイルストーンまたは受け入れタスクがある POA&M の数。
ステータス別の POA&M (POA&Ms by state)	棒グラフ		ステータス別に分類された POA&M の数。
POA&M を含むパッケージ (Packages with POA&Ms)	棒グラフ		POA&M を含む認証パッケージの数。
優先度別の POA&M (POA&Ms by priority)	棒グラフ		優先度別に分類された POA&M の数。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タイトル	タイプ	ソーステーブル	説明
応答別の POA&M (POA&Ms by response)	棒グラフ		応答別に分類された POA&M の数。
[アクティビティの評価] タブ			
不適切なエンゲージメント	単一スコア		不適切な結果でクローズしたエンゲージメントの数。
満足のいくエンゲージメント	単一スコア		満足のいく結果でクローズしたエンゲージメントの数。
適切なエンゲージメント	単一スコア		適切な結果でクローズしたエンゲージメントの数。
エンゲージメント別のコントロール	棒グラフ		エンゲージメント別に分類されたコントロールの数。
監査タスクのブレークダウン	棒グラフ		タスクタイプ、アサインされたユーザー、トップタスク、またはステータス別にグループ化または積み重ねられた監査タスク。
POA&M ブレークダウン	棒グラフ		エンゲージメント、ステータス、または応答別にグループ化または積み重ねられた、あるいはその両方である POA&M。
コントロールテスト結果	ドーナツグラフ		完了したコントロールテストの数。全体的なコントロール有効性評価で分類されます。
エンゲージメントの結果	棒グラフ		各エンティティに対して実施された監査エンゲージメントの総数。グラフは、各エンティティの全体的な監査結果を表示するために積み重ねられます。
期限切れの監査タスク	リスト		終了予定日を超えたオープンな監査タスクのリスト。

[AO の概要] ダッシュボード

承認担当者 [sn_irm_cont_auth.authorization_official] ロールを持つユーザーは、AO の概要モジュールのレポートを表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

重要:
CAM のバージョン 18.1.2 以降では、Vancouver または Washington DC のユーザーは、ネクストエクスペリエンス UI フレームワークで [AO の概要] ダッシュボードを表示できます。

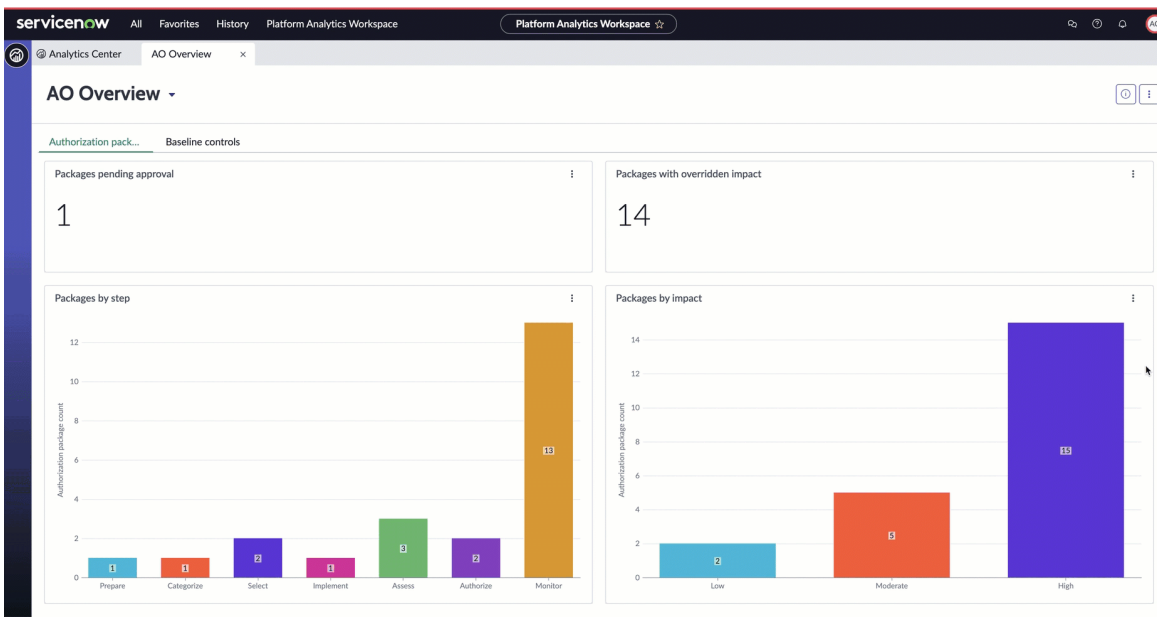
ナビゲーションステップとダッシュボードの外観の詳細については、「CAM のアナリティクスおよびレポート作成ソリューション」を参照してください。

ダッシュボードへのアクセス

次のロールを持つユーザーは、ダッシュボードにアクセスできます。

- CAM アドミニストレーター (sn_irm_cont_auth.admin)
- エグゼクティブリーダー (sn_irm_cont_auth.executive_read)
- 認定担当者 (sn_irm_cont_auth.authorization_official)

ダッシュボードを開くには、次の場所に移動します。 すべて > 継続的な認可とモニタリング > アナリティクスダッシュボード > **AO** の概要.



[AO の概要] - [認証パッケージ] タブ

[AO の概要] ダッシュボードの [認証パッケージ] タブでは、すべてのパッケージのステータスを一元的に表示できます。[ベースラインコントロール] タブのレポートには、システム内のベースラインコントロールの概要が示されます。

[認証境界] タブのレポート

レポート	説明
承認待ちがあるパッケージ (Packages Pending Approval)	承認が要求されたが、まだ承認を受け取っていない認証パッケージの数。
上書きされた影響度があるパッケージ (Packages with Overridden Impact)	上書きされた影響度のある認証パッケージの数。詳細については、「RMF ステップ 1 - 認証パッケージの分類」を参照してください。
ステップ別のパッケージ (Packages by Step)	ステップ別 (たとえば、監視、アクセス、選択など) に分類された認証パッケージの数。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

[認証境界] タブのレポート (続く)

レポート	説明
影響別のパッケージ (Packages by Impact)	影響度レベル別に分類された認証パッケージの数。
承認待ち	承認待ちがあるすべてのパッケージのリスト。

[AO の概要] - [ベースラインコントロール] タブ

[AO の概要] ダッシュボードの [ベースラインコントロール] タブのレポートには、システム内のベースラインコントロールの概要が記載されています。

[ベースラインコントロール] タブのレポート

レポート	説明
実装されていないコントロールを含むパッケージ (Packages with Unimplemented Controls)	共通コントロールが作成されても、まだ実装されていない認証パッケージの数。
継承されたコントロールを含むパッケージ (Packages with Inherited Controls)	共通コントロールから継承されたベースラインコントロールを含む認証パッケージの数。
共通コントロールを含むパッケージ (Packages with Common Controls)	共通コントロールが作成および実装された認証パッケージの数。
コンプライアンススコア (%)	名前または番号でグループ化されたポリシーのコンプライアンススコアの割合。

[SCA の概要] ダッシュボード

[SCA の概要] ダッシュボードを使用すると、発生したコントロールアセスメントを表示および管理できます。

ダッシュボードへのアクセス

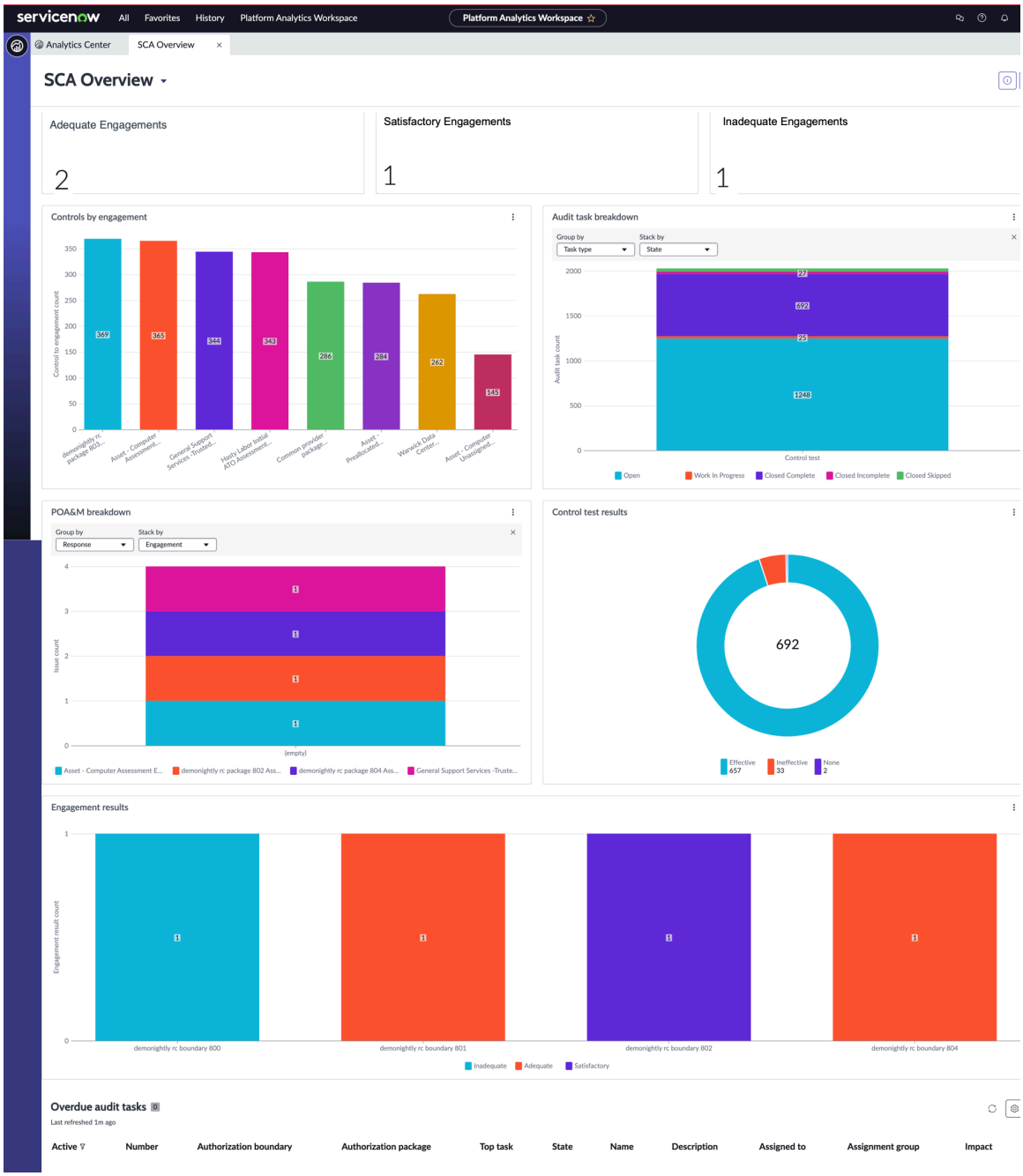
次のロールを持つユーザーは、ダッシュボードにアクセスできます。

- CAM アドミニストレーター (sn_irm_cont_auth.admin)
- エグゼクティブリーダー (sn_irm_cont_auth.executive_read)
- セキュリティコントロール査定人 (sn_irm_cont_auth.sec_control_assessor)

ダッシュボードを開くには、次の場所に移動します。 すべて > 継続的な認可とモニタリング > アナリティクスダッシュボード > **SCA** の概要.

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



SCA 概要ダッシュボードのレポート

SCA 概要ダッシュボードのレポート

レポート	説明
適切なエンゲージメント	適切な結果でクローズしたエンゲージメントの数。
満足のいくエンゲージメント	満足のいく結果でクローズしたエンゲージメントの数。
不適切なエンゲージメント	不適切な結果でクローズしたエンゲージメントの数。
エンゲージメント別のコントロール	エンゲージメント別に分類されたコントロールの数。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

SCA 概要ダッシュボードのレポート (続く)

レポート	説明
監査タスクのブレークダウン	タスクタイプ、アサインされたユーザー、トップタスク、またはステータス別にグループ化または積み重ねられた監査タスク。
POA&M ブレークダウン (POA&M Breakdown)	エンゲージメント、ステータス、または応答別にグループ化または積み重ねられた、あるいはその両方である POA&M。
コントロールテスト結果	完了したコントロールテストの数。全体的なコントロール有効性評価で分類されます。
エンゲージメントの結果	各エンティティに対して実施された監査エンゲージメントの総数。グラフは、各エンティティの全体的な監査結果を表示するために積み重ねられます。
期限切れの監査タスク	終了予定日を超えたオープンな監査タスクのリスト。

CAMの参照

参照トピックでは、CAM アプリケーションとともにインストールされるテーブル、プロパティ、フォーム、およびロールについて詳しく説明します。

CAM ユーザーロール

ユーザーとグループにロールをアサインして、 CAM アプリケーションを使用できるように準備します。

ロールの権限と責任

ロールタイトル [名前]	説明	含まれるロール
承認担当者 (sn_irm_cont_auth.authorization_official)	既知のリスクレベルで運用環境に情報システムを受け入れる責任を負います。 承認担当者は、認証パッケージを承認および更新できます。	• sn_irm_cont_auth.reader
継続的な承認とモニタリングアドミニストレーター (sn_irm_cont_auth.admin)	CAM アプリケーションのすべてのシステム管理業務を担当します。	• sn_audit.manager • sn_compliance.admin • sn_doc.admin • sn_irm_cont_auth.reader • sn_irm_cont_auth.scheduler
エグゼクティブリーダー (sn_irm_cont_auth.executive_read)	CAM アプリケーションのすべてのモジュールの読み取り専用アクセス権があります。	sn_irm_cont_auth.reader。このロールを持つユーザーは、CAM ワークスペースにアクセスできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールタイトル [名前]	説明	含まれるロール
情報所有者 (sn_irm_cont_auth.information_owner)	法定、管理、または運用権限と、その生成、収集、処理、配布、および廃棄を管理するポリシーと手順の確立を担当します。ユーザーは、認証パッケージの情報タイプを更新することもできます。	• sn_audit.user • sn_irm_cont_auth.reader
情報システムセキュリティマネージャー (sn_irm_cont_auth.info_system_sec_manager)	情報システムのセキュリティ管理アクティビティの実施を担当します。システムレベルのサイバーセキュリティプログラムを開発および維持します。 認証パッケージを更新できます。	• sn_compliance.user • sn_irm_cont_auth.reader
情報システムセキュリティ責任者 (ISSO) (sn_irm_cont_auth.info_system_sec_officer)	適切な運用セキュリティ体制が情報システムに対して維持されていることを確認する責任があります。 認証パッケージを更新できます。	• sn_compliance.user • sn_irm_cont_auth.reader
読者 (sn_irm_cont_auth.reader)	読み取り専用ロール。このロールを持つユーザーは、 CAM ワークスペースにアクセスできます。	• sn_audit.reader • sn_grc_workspace.task_reader • sn_grc_workspace.user • sn_compliance.reader • sn_incident_read • sn_change_read • sn_vul.read_all • sn_si.read
スケジューラー (sn_irm_cont_auth.scheduler)	アプリケーションのすべてのスケジュール済みジョブの実行を担当します。このロールはテクニカルユーザー向けです。	sn_irm_cont_auth.system_owner
セキュリティコントロール査定人 (sn_irm_cont_auth.sec_control_assessor)	情報システムの管理、運用、および技術的なセキュリティコントロールの徹底的なアセスメントの実施を担当します。	• sn_audit.manager • sn_compliance.user • sn_irm_cont_auth.reader
システムオーナー (sn_irm_cont_auth.system_owner)	情報システムの調達、開発、統合、変更、運用、および維持を担当します。	• sn_audit.user • sn_compliance.user • sn_irm_cont_auth.reader

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールタイトル [名前]	説明	含まれるロール
システムユーザー (sn_irm_cont_auth.system_user)	システムで実際の作業を担当します。認証境界、フィルター、要素、マイルストーン、および受け入れタスクを更新できます。	• sn_audit.user • sn_irm_cont_auth.reader • ビジネスユーザー

コントロール要件の詳細ビュー

コントロールフォームのCAMビューには、コントロール要件の詳細をキャプチャするために追加されたフィールドがあります。

コントロール目標フォームのCAMビューでコントロール要件の詳細に対応するために、[コントロール目標要件 (Control objective requirements)] 関連リストが追加されました。

注:
ビュー内のコントロール目標フォームとコントロールフォームのCAMビューは、ポリシーとコンプライアンス管理で使用されているコントロール目標フォームおよびコントロールフォームとほぼ同じです。ただし、フォームのフィールドがいくつか削除され、コントロール要件の詳細をキャプチャするためのフィールドがいくつか追加されています。

コントロール目標フォームの**CAM**ビュー

コントロール目標フォームの**CAM**ビュー

フィールド	説明
参照	一意に定まる数値の識別子またはコンテンツ参照番号。
ファミリー	ファミリーにグループ化されたコントロール目標。
アクティブ	コントロール目標をアクティブ化するオプション。
ファミリー ID	コントロール目標ファミリーの一意の ID。
名前	コントロール目標の名前。
ソース	コントロール目標のソース (テストテンプレートが提供される NIST 800-53 リビジョン 5)。
親	現在のコントロール目標の子ではないコントロール目標。この関係は、循環する親子関係を避けるためです。
コンプライアンススコア (%)	このコントロール目標に対して計算されたコンプライアンススコアの割合とそのカラーコード： • 80 以上：緑 • 50 ～ 80：黄 • 50 未満：赤
コントロールを自動的に作成	[関係性を追加] とエンティティを選択することでエンティティが [追加エンティティ (Additional entities)] 関連リストから関連付けられたときに、コントロールが自動的に作成されることを示すオプション。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コントロール目標フォームの**CAM**ビュー (続く)

フィールド	説明
コントロール要件を作成	コントロール目標のコントロール要件を自動的に生成するオプション。 注: コントロール目標の要件がない場合は、コントロール要件もありません。
証明書	評価指標タイプへの参照デフォルトで **[GRC** 証明書 **(GRC Attestation)]** が選択されています。 注: ユーザーがコントロール証明書を変更すると、関連するコントロール目標証明書タイプも変更されます。
影響度	ターゲットおよびデータの機密性、完全性、または可用性の損失に起因するビジネス機能への潜在的な影響。
組織ガイダンス	NIST のセキュリティコントロール定義は、組織によって共通コントロール定義として指定された場合、1 つ以上の組織ターゲットによって継承可能です。
説明	コントロール目標の説明。
補足ガイダンス	NIST 800-53 リビジョン 4 から提供されたコントロール目標の場合、コントロール目標の実装の方向。
ディスカッション	NIST 800-53 リビジョン 5 によって供給されたコントロール目標である場合、NIST によって供給されるコンテンツ関連情報。

コントロール目標は単なるガイドラインであり、エンティティやオブジェクトに固有のものではありません。コントロール目標とコントロール目標要件の関係は多対多であるため、1 つのコントロール目標を任意のコントロール目標要件にリンクでき、また 1 つのコントロール目標要件を任意の数のコントロール目標にリンクできます。

[コントロール目標要件 **(Control Objective Requirements)]** 関連リスト

フィールド	説明
要件番号	コントロール目標の要件番号。
アクティブ	要件をアクティブにするオプション。
説明	コントロール目標の要件に関する詳細な説明。

[コントロール目標要件 (Control objective requirements)] 関連リストで [新規] を選択し、必要であれば、生成される要件に基づいてコントロール目標の要件を作成できます。または [編集] を選択して、既存のコントロール目標要件をコントロール目標に追加します。

注:

- コントロール目標が [非アクティブ] ステータスの場合、コントロール目標要件の作成や追加はできません。そのため、[新規] と [編集] は使用できません。
- コントロール目標要件が非アクティブである場合、コントロール目標をコントロール目標要件に追加することはできません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コントロールフォームのCAMビュー

コントロールフォームのCAMビュー

フィールド	説明
参照	一意の識別子。
名前	コントロールの名前。
Number (数値)	コントロールを一意に識別する番号。
エンティティ	関連エンティティ。 **注:** エンティティのステータスを [廃止] ステータスから [アクティブ] に変更すると、エンティティに対して手動で作成されたコントロールも [ドラフト] ステータスに移行します。
コントロール目標	関連コントロール目標。
オーナー	ポリシーを所有するユーザー。 **注:** オーナーは常に回答者として追加されます。選択したコントロールオーナーは、所有グループに属しています。
状況	コントロールステータス。利用可能な選択肢は次のとおりです。 • 準拠 • 非準拠 • 適用外
状況	コントロールステータス。利用可能な選択肢は次のとおりです。 • [ドラフト]：コントロールがコントロール目標から作成された場合、コントロールはこのステータスになります。このステータスでは、すべてのコンプライアンスユーザーがコントロールを変更できます。ワンオフコントロールを作成する場合のみ利用できます。ワンオフコントロールは可能ですが、推奨されません。 • [証明]：[証明] を選択して証明書を取得すると、コントロールはこのステータスに移行します。 **注:** コントロールをドラフトに戻すと、証明書はキャンセルされます。 • [レビュー]：コントロールは、証明書フェーズからレビューに自動的に移行されます。 • [監視]：このステータスでは、すべてのコンプライアンスマネージャーがコントロールを [レビュー] から [監視] に移行できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コントロールフォームの**CAM**ビュー (続く)

フィールド	説明
	• [廃止]：コンプライアンスマネージャーまたはアドミニストレーターは、コントロールを [監視] から [廃止] に移行できます。 **注:** コントロールが廃止された場合： ○ 関連付けられているインジケーターが実行されない ○ 関連付けられている証明書がキャンセルされる ○ 関連付けられているコントロール目標を変更してもコントロールが更新されない
認証パッケージ	コントロールが関連付けられている認証パッケージ、またはコントロールの作成元である認証パッケージ。
頻度	オプションのリスト： • イベント駆動型 • 日次 • 週次 • 月次 • 四半期ごと • 半年ごと • 年次 証明書は、コントロールまたはコントロール要件に対して選択された値に基づいて送信されます。 **注:** コントロールの [頻度] フィールドとエンティティの [証明書頻度] フィールドの違いについては、KB0694607 を参照してください。
重み	コントロールスコアの有効性の計算に使用される値。
所有グループ	ポリシーを所有するグループ。
割り当てをコントロール	作成されるコントロールのタイプ：システム固有またはハイブリッドのいずれか。
説明	コントロールの説明。
ディスカッション	NIST 800-53 リビジョン 5 のコンテンツ関連情報。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コントロールフォームの**CAM**ビュー (続く)

フィールド	説明
補足ガイダンス	NIST 800-53 リビジョン 4 に基づくコントロールの場合、コントロール実装の方向。
実装ステートメント	コントロールの実装方法の説明。 コントロールが認証パッケージから作成され、[ドラフト] ステータスである場合、この情報は必須です。
証明書	
要件レベルで証明書を取得する	コントロールレベルではなく、コントロール要件レベルで証明書を送信するオプション。
証明書	オプションのリストから選択します。 • 他の証明書タイプを構成できます。 • このフィールドに値が入力されると、[証明書の回答者] の値が必須になり、オーナーが回答者になります。 注: ユーザーがコントロール目標で証明書タイプを変更すると、関連するすべてのコントロールも変更されます。
証明書の回答者	• このコントロールの証明書にアサインされたユーザー。 • sn_grc.user ロールを持つユーザーのみを応答者として追加できます。 注: [証明書] と [証明書回答者] の両方のフィールドが設定されている場合、[証明 **(Attest)]** を選択すると証明書が作成されます。
アクティビティジャーナル	
追加コメント	コントロールに関する公開情報。
アクティビティ	コントロール状態変更のメッセージログ。

[コントロール要件 **(Control Requirements)]** 関連リスト

フィールド	説明
Number (数値)	一意に定まるコントロール要件の番号。
要件番号	参照番号。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[コントロール要件 **(Control Requirements)**] 関連リスト (続く)

フィールド	説明
コントロール	コントロール要件が関連付けられているコントロール。
状況	コントロール要件のステータス。
状況	要件のステータス。
頻度	コントロールの頻度。
説明	コントロール要件の説明。
証明書	
証明書	証明書メトリクスタイプ。
証明書の回答者	コントロール要件を証明するユーザー。
アクティビティジャーナル	
追加コメント	コントロール要件に関する情報。 コントロール目標要件の関連付けが解除される (削除される) と、コントロール要件は手動になります。この情報はこのフィールドに記録されます。
アクティビティ	コントロール要件のステータス変更のメッセージログ。

コントロール要件に対するコンプライアンスの影響

コントロール目標要件は、コントロール目標に対して作成されます。コントロール要件は、コントロール目標に関連付けられているすべてのコントロールに対して生成されます。ただし、2 つのレベルのいずれかで証明書が不合格になったり、問題が作成されたりするため、コントロールまたはコントロール要件が非準拠になる可能性があります。

コントロール要件への問題の関連付けとコントロールステータスへの影響

問題は、証明書を使用してコントロール要件に対して作成できます。[要件レベルで証明書を取得する] オプションを有効にすると、コントロールレベルでコントロールの証明書を送信する代わりに、すべてのコントロール要件の証明書を送信できます。[要件レベルで証明書を取得する] オプションは、コントロールフォームの [証明書] 関連リストにあります。

証明書が失敗すると、問題が作成されます。証明書の失敗が原因で作成された問題では、[問題ソース] フィールドが [要件証明書失敗] としてタグ付けされています。

コントロール要件の参照は、問題フォームの [詳細] 関連リストの [コントロール/リスク] フィールドで確認できます。

[store-future: BEGIN review]手動での問題作成：コントロール要件フォームの [問題] 関連リストで [新規] を選択すると、コントロール要件の問題を作成できます。

注:
コントロールが廃止された場合、[新規] は非表示になり、問題を作成できなくなります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

コントロール要件レベルで問題が生じると、ステータスが非準拠になります。コントロール要件は基本的にコントロールに関連しているため、問題はコントロールフォームの [問題] 関連リストにも追加されます。コントロール要件が非準拠であるため、コントロールも非準拠になります。[End]

問題をクローズするには、応答を提供し、それを問題フォームに保存します。応答は [修復] または [承認] のいずれかになります。

- [修正] を選択し、問題のステータスを [完了してクローズ] に設定した場合、コントロール要件に他の未解決の問題がなければ、コントロール要件は準拠になります。
- [承認] を選択すると、問題がまだ存在し、それを受け入れたことになります。この場合、他の未解決の問題がない状態で問題をクローズしても、コントロール要件のステータスは非準拠のままです。

したがって、コントロール要件ステータスを準拠させるには、応答を [承認] ではなく [修復] に設定する必要があります。

コントロール要件が非準拠になると、コントロールも常に非準拠になります。コントロール要件のステータスが適合になった場合、さらに 2 つの基準をコントロールレベルでチェックします。

- コントロールに未解決の問題があってはなりません。
- コントロールのコントロール要件が 1 つでも非準拠であってはなりません。

この 2 つの条件が満たされると、コントロールのステータスは [準拠] になります。満たされない場合、コントロール要件のステータスが [準拠] になっていても、コントロールのステータスは [非準拠] のままになります。

- コントロールおよびコントロール要件が [ドラフト] または [証明] ステータスの場合、証明書に合格してコントロールおよびコントロール要件を準拠させることができます。
- コントロールおよびコントロール要件が [レビュー] または [監視] ステータスの場合、ステータスを [証明] に戻し、証明書に合格してコントロールおよびコントロール要件を準拠させることができます。
- コントロール要件が [監視] または [廃止] ステータスの場合、コントロール要件の問題を作成することはできません。

コントロール要件のステータスに対するインジケーターテストとコントロールテストの影響

このコントロール要件の証明書の失敗の結果として作成された問題が原因で、コントロール要件が非準拠になる可能性があります。コントロールに未解決の問題がない場合、または既存の問題をクローズした場合であっても、コントロール要件は非準拠のままです。インジケータータスクの [結果] は [合格] ですが、コントロールのコントロール要件の 1 つが非準拠であるため、コントロールはまだ非準拠のままです。コントロールのコントロール要件を明示的に [準拠] として作成する必要があります。インジケーターテストに合格すると、コントロールは [準拠] になります。

コントロールテストの場合も同様です。

コントロールステータスの変化とコントロール要件への影響

ドラフト

コントロール要件はすべて、コントロールが [ドラフト] ステータスのときに生成されます。

コントロールが [ドラフト] ステータスに移行すると、関連するコントロール要件も [ドラフト] ステータスに移行します。

証明

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

コントロールが他のステータスから [証明] ステータスに移行すると、[要件レベルで証明書を取得する] オプションとは無関係に、コントロールのすべてのコントロール要件も [証明] ステータスに移行します。

> **注:**
> [証明] を選択すると、コントロールレベルで 1 つの証明書を取得するか、または [要件レベルで証明書を取得する **(Take attestation at requirement level)]** オプションによってガイドされるコントロール要件レベルで複数の証明を取得するかを選択できます。

レビュー

コントロールレベルの証明で [要件レベルで証明書を取得する] オプションが選択されていない場合、証明書が完了した後にコントロールは [レビュー] ステータスに移行します。同時に、コントロールの関連付けられたコントロール要件がすべて [レビュー] ステータスに移行します。

コントロール要件レベルの証明書で [要件レベルで証明書を取得する] オプションが選択されている場合、証明書はすべてのコントロール要件のすべての証明書回答者に個別に送信されます。証明書が完了すると、コントロール要件レベルで証明書の結果が合格か不合格かとは関係なく、コントロール要件は [レビュー] ステータスに移行します。証明書が合格した場合はコントロール要件のステータスが [準拠] になり、失敗した場合はコントロール要件が [非準拠] になります。すべてのコントロール要件の証明書が完了し、それらがすべて [レビュー] ステータスになると、コントロールは [レビュー] ステータスに移行します。

監視

コントロールが [監視] ステータスに移行すると、関連するコントロール要件も [監視] ステータスに移行します。

コントロールがアクティブのままで、ステータスが [ドラフト] にも [証明] にも戻っていない限り、コントロール要件は [監視] ステータスのままです。

廃止

コントロールが [廃止] の場合、コントロール要件は [廃止] ステータスに移行します。

コントロールを削除すると、そのコントロールに関連付けられているすべてのコントロール要件が削除されます。

証明フローのシナリオの詳細については、Now Support ナレッジベースの記事「コントロールおよびコントロール要件の証明ワークフロー [KB0555561]」を参照してください。

継承された要件がコントロールのライフサイクルに与える影響

1. コントロール要件のいずれかが非準拠になると、対応するコントロールも非準拠になります。
2. 継承されたコントロール要件のいずれかが非準拠になると、コントロールも非準拠になります。
3. コントロールの証明書が失敗すると問題が作成され、コントロールは非準拠になります。
4. コントロール要件の証明書が失敗すると問題が作成され、コントロール要件は非準拠になります。そのため、関連付けられたコントロールも非準拠になります。
5. そのような条件でハイブリッドコントロールの継承されたコントロール要件の 1 つが廃止されると、自動化された問題が作成されます。問題が作成された理由は、[問題] フォームの [問題ソース] フィールドに [プロバイダーコントロールが廃止されました] として反映されます。[問題] フォー

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ムの [アクティビティ] 関連リストにも、メッセージが適宜記録されます。この問題を解決するには、共通コントロールプロバイダーを変更するか、コントロール要件を自己実装に変換します。

6. コントロールが [ドラフト] ステータスで、その要件の 1 つが廃止された場合、コントロールを [ドラフト] から [証明] ステータスに移行することはできません。

注:
詳細については、Now Support ナレッジベースの記事「運用上の変更と、制御のプロセスフローとその要件への影響 [KB1587264]」を参照してください。

認証境界フォームのフィールド

認証境界は、CAM アプリケーションを使用して継続的に管理および監視できる特定のシステムのスコープを定義します。

認証境界フォーム

フィールド	説明
名前	この境界の一意でわかりやすい名前。
説明	この境界の説明。
運用ステータス	境界のステータスを設定するオプション。運用ステータス： • 開発中 • 再認可 • オペレーショナル • 廃止
ミッションクリティカル	境界をミッションクリティカルとして設定するオプション。
システムオーナー	情報システムの調達、開発、統合、変更、運用、および維持を担当するユーザー。
情報所有者	法定、管理、および運用権限を担当するユーザー。
システムユーザー	システムで実際の作業を行う責任があるユーザー。
図	必要に応じて、または 構成管理データベース (CMDB) がない場合は、データフロー、ネットワーク、および境界図を追加します。

認証パッケージフォームのフィールド

認証から運用プロセスを経て送信する資産またはシステムの認証境界を定義した後、その目的に合う認証パッケージを作成する必要があります。パッケージは、RMF によって義務付けられている 7 つのステップを踏んで処理されます。

認証パッケージ

フィールド	説明
番号	自動的に生成された認証パッケージ番号。
名前	パッケージの名前。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
頭字語	必要な場合にパッケージを識別するための頭字語。
ミッション/ビジネスプロセス	この認証パッケージの適切なビジネスプロセス。ビジネスプロセスは、ServiceNow AI Platform (たとえば、次の場所など) で定義されます。 ポリシーおよびコンプライアンス > スコーピング > ビジネスプロセス.
アクティブ	認証パッケージをアクティブにします。
ステップ	現在パッケージに割り当てられている RMF ステップ。
認証境界	このパッケージの認証境界。
システムの目的	この認証パッケージの目的。
800-53 バージョン	認証パッケージの NIST バージョン。

ロールと責任

特定のタスクに必要な CAM ロールは、「 CAM ユーザーロール 」に記載されています。

ユーザー/ロール	説明
システムオーナー	情報システムの調達、開発、統合、変更、運用、および維持を担当するユーザー。
認定担当者 (AO)	既知のリスクレベルで運用環境に情報システムを受け入れる責任を負うユーザー。通常、この担当者は CISO または代理 CISO レベルです。
正式な指定代理人の承認 (AODR)	1 つ以上の AODR。
セキュリティコントロール査定人 (SCA)	情報システムのコントロールのアセスメントの実施を担当するユーザー。
情報システムセキュリティマネージャー (ISSM)	ISSO によって指定された情報システムのセキュリティ管理アクティビティの実施を担当するユーザー。
情報システムセキュリティ責任者 (ISSO)	適切な運用セキュリティ体制が情報システムに対して維持されていることを確認する責任を負うユーザー。
情報所有者	法定、管理、および運用権限を担当するユーザー。
システムユーザー	システムで実際の作業を行う責任があるユーザー。

継続的な承認とモニタリングとともにインストールされるコンポーネント

GRCのアクティブ化:CAMプラグインは、いくつかのテーブル、ユーザーロール、およびその他のコンポーネントを追加または変更します。

継続的な承認とモニタリング システムプロパティ

デフォルトのプロパティは、 CAM プラグインのアクティブ化とともに設定されます。

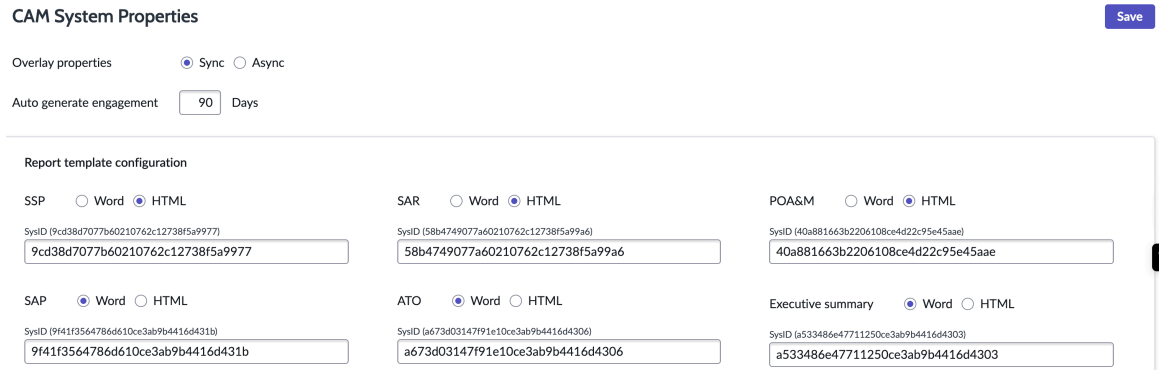
CAMレポートのプロパティを設定するには、次に移動します: すべて > 継続的な承認とモニタリング > アドミニストレーション > レポートプロパティ.

[エンゲージメントの自動生成] フィールドに日数を入力すると、認証パッケージに次のエンゲージメントが自動的に作成されます。システムプロパティの [エンゲー

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

ジメントの自動生成] フィールドに入力された日数は、次の認証日から差し引かれて次のエンゲージメント日が決定され、認証パッケージに記録されます。詳細については、「CAM ワークスペースでのパッケージの詳細の表示」を参照してください。



名前	説明	オプション	デフォルト値
sn_irm_cont_auth.sn_irm_cont_auth_ssp_report_type	システムセキュリティ計画 (SSP) レポートに使用するテンプレートのタイプを指定します。デフォルトでは HTML テンプレートが適用されますが、顧客の要件に基づいて Word テンプレートを使用するように構成することもできます。	• HTML テンプレート (デフォルト) • Word テンプレート	• HTML:9cd38 • 単語:5b755a8
sn_irm_cont_auth.sn_irm_cont_auth_sar_report_type	SAR レポートに使用するテンプレー	• HTML テンプレート (デ	• HTML:58b47 • ワード:e30fe8

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前	説明	オプション	デフォルト値
	トのタイプを指定します。デフォルトではHTML テンプレートが適用されますが、顧客の要件に基づいてWord テンプレートを使用するように構成することもできます。	フォルト) • Word テンプレート	
sn_irm_cont_auth.sn_irm_cont_auth_poam_report_type	アクションプランとマイルストーン(POA&M)レポートに使用するテンプレートのタイプを指定します。デフォルトではHTML テンプレートが適用されますが、顧客の要件に基づいてWord テンプレートを使用するように構成することもできます。	• HTML テンプレート (デフォルト) • Word テンプレート	• HTML:40a88 • 単語:23b7838

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前	説明	オプション	デフォルト値
sn_irm_cont_auth.sn_irm_cont_auth_sap_report_type	SAP レポートに使用するテンプレートのタイプを指定します。デフォルトでは Word テンプレートが適用されますが、顧客の要件に基づいて HTML テンプレートを使用するように構成できます。	• HTML テンプレート • Word テンプレート (デフォルト)	• HTML:該当な • 単語:9f41f35
sn_irm_cont_auth.sn_irm_cont_auth_ato_letter_report_type	運用当局 (ATO レター) レポートに使用するテンプレートのタイプを指定します。デフォルトでは Word テンプレートが適用されますが、顧客の要件に基づいて HTML テンプレートを使用するように構成できます。	• HTML テンプレート • Word テンプレート (デフォルト)	• HTML:該当な • ワ:a673d

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前	説明	オプション	デフォルト値
sn_irm_cont_auth.sn_irm_cont_auth_executive_summary_report_type	エグゼクティブサマリーレポートに使用するテンプレートのタイプを指定します。デフォルトでは Word テンプレートが適用されますが、顧客の要件に基づいて HTML テンプレートを使用するように構成できます。	• HTML テンプレート • Word テンプレート (デフォルト)	• HTML:該当な • 単語:a53348

自動翻訳

ATO アーティファクトレポートテンプレートの構成

ServiceNow ドキュメントデザイナーと Word アドインを使用して、ATO アーティファクトレポートテンプレートを構成します。

Word アドインを使用して ServiceNow ドキュメントデザイナーを正常に構成し、ATO アーティファクトレポートテンプレートを作成するには、次の手順を実行します。

ServiceNow Document Designer アドインをインストールする

ServiceNow Document Designer アドインを Microsoft Word ドキュメントにインストールします。このアドインは、監査および CAM レポートテンプレートを作成するために必要です。

始める前に
次のプラグインがアクティブであることを確認してください。

- sn_grc_doc_design
- sn_outlook_addin

必要なロール： sys_admin

手順

1. 移動先 すべて > **Office** 用 **ServiceNow** アドイン > **Office** アドインマニフェスト.
2. [Office マニフェスト] リストから、**[ServiceNow Document Designer]** を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [マニフェストをダウンロード] を選択します。
4. アドインを有効にするには、ステップ 3 でダウンロードしたマニフェストファイルを使用できる Microsoft 365 アカウントマネージャーにお問い合わせください。

次のタスク
マニフェストファイルの展開方法の詳細な手順については、Now Support ナレッジベースで「Deploy add-ins in the Microsoft 365 admin center (Microsoft 365 アドミンセンターでアドインを展開する) [KB1307378]」の記事を参照してください。

ブラウザーで Microsoft Word のアドインに対して HTTP 応答ヘッダーを構成するには、Now Support ナレッジベースで「Response header resolution (応答ヘッダー解決) [KB1434453]」の記事を参照してください。

のコンテンツ構成の作成 CAM

ATO アーティファクトを作成する場合は、レコードリストでもアグリゲーションでも、表示またはフェッチするデータを定義します。たとえば、クローズ済み POA&M のリストを表示するか、システム要素のリストを表示するかを指定します。任意のテーブルから最大 200 件のレコードをフェッチできます。

始める前に
必要なロール:sn_grc_doc_design.admin および sn_irm_cont_auth.admin

手順

1. 移動先 すべて > 継続的な承認とモニタリング > アドミニストレーション > テンプレート構成.
2. コンテンツ構成を作成するテンプレートを開きます。
3. [コンテンツ構成] 関連リストで、[新規] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

コンテンツ構成フォーム

フィールド	説明
名前	コンテンツ構成の名前。たとえば、「修復タスクのリスト」など。
テンプレート構成	コンテンツ構成を定義するテンプレート構成。このフィールドは、ステップ 2 で選択した構成に基づいて自動的に設定されます。
ターゲットテーブル	データのフェッチ元のテーブル。
データの関係	コンテンツ構成を作成するデータの関係。以前に作成したデータの関係のみを選択できます。

5. 必要に応じて、フィルター基準と集計基準を作成します。
6. コンテンツブロックにテーブルとして挿入するテーブルまたはデータを指定するには、[コンテンツブロック基準] タブを選択します。
   a. [親ブロック構成] フィールドで、必要なコンテンツ構成を選択します。
   b. **[Submit** (送信)] を選択します。
7. [データ列] 関連リストで、選択したテーブルからレポートに使用する列を指定します。使用可能な標準列を指定するか、列のカスタムスクリプトを記述できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. ATO アーティファクトレポートテンプレートに表示する必要がある列の順序を指定します。
9. **[Update** (更新)] を選択します。

Word テンプレートフォーム

次の表では、Word テンプレートフォームのフィールド値について説明します。

Word テンプレートフォーム

フィールド	説明
名前	[テーブル] フィールドで選択されたテーブルの Word テンプレートの一意の名前。
カテゴリ	Word テンプレートが属する分類またはグループ。 たとえば、監査関連の Word テンプレートの監査などがあります。 Word テンプレートカテゴリを作成するには、「Word テンプレートカテゴリフォーム」を参照してください。
テーブル	Word テンプレートが作成されるレコードテーブル。
ドキュメント	コンテンツ構成に基づいて作成された Word テンプレート。 **注:** ドキュメントは docx ファイルのみである必要があります。他の形式のドキュメントを添付すると、エラーメッセージが表示されます。
ステータス	Word テンプレートレコードのステータスは、デフォルトで [ドラフト] になります。 • ドラフト：レコードを開くと、デフォルトは [ドラフト] ステータスになります。 • 公開済み：Word テンプレートレコードが公開されている場合。[公開済み] ステータスのレコードは更新できません。 • 編集：レコードの詳細を更新できるステータス。 **注:** [編集] ステータスの Word テンプレートレコードは、レポート生成に使用できません。レコードは [レポートを生成] ポップアップで選択できません。「クラシックレポートテンプレートでエンゲージメントのレポートを生成する」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Word テンプレートフォーム (続く)

フィールド	説明
アクティブ	このレコードを有効化するオプション。
Word ドキュメント生成構成	
クラウド対応	生成されたレポートをエンゲージメントレコードの sys_attachment として、またはクラウドドキュメントとして管理するオプション。 クラウドアップロード設定に基づいて、Microsoft SharePoint または Google ドライブ サイトからクラウド内のドキュメントにアクセスできます。 詳細については、「ドキュメントとワークシートを監査管理でクラウドファイルとして管理」を参照してください。
後処理アクション	生成された Word テンプレートレポートをエンゲージメントレコードの [レポート] セクションのフィールドで更新するオプション。 オプションは次のとおりです。 • 監査 **Word** テンプレートとレポートフィールドへの入力:Word レポートベースのテンプレートを選択した場合、エンゲージメントレコードの [レポート] セクションのフィールドが Word レポートに入力されます。 注: このオプションは、 監査管理 アプリケーションがインストールされている場合にのみ使用できます。 • なし:レポートはシステム添付ファイルまたはクラウドファイルとして生成されます。ただし、生成された Word レポートにエンゲージメントレコードのレポートベースのフィールドを追加または更新する後処理アクションは発生しません。

Word テンプレートカテゴリフォーム

次の表では、Word テンプレートカテゴリフォームのフィールド値について説明します。テンプレートカテゴリを使用すると、類似のレポートを分類し、それに応じてフィルタリングできます。たとえば、監査または CAM はカテゴリです。

Word テンプレートカテゴリフォーム

フィールド	説明
名前	Word テンプレートカテゴリの一意の名前。
アクティブ	レコードを有効にするオプション。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

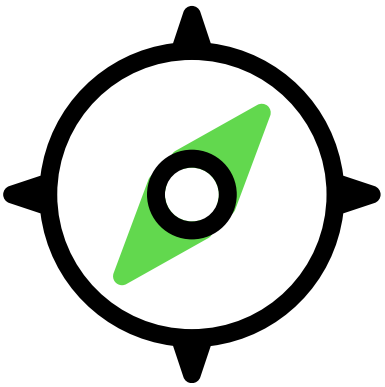
自動翻訳

モデルリスク管理

ServiceNow® モデルリスク管理アプリケーションを使用すると、ライフサイクル全体を通じてモデルに関連するリスクを特定、評価、検証、および対処できます。

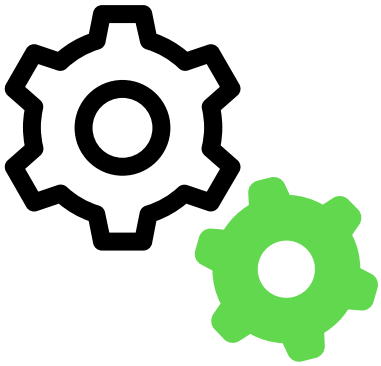
開始するには

探索



モデルリスク管理 アプリケーションを使用して、定量的モデルに関連するリスクを特定、評価、軽減する方法について説明します。

構成



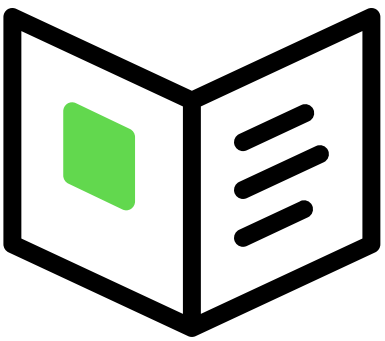
モデルに関連するリスクを管理するように モデルリスク管理 アプリケーションを構成します。

使用方法



モデルを要求し、モデルリスクを評価し、問題を管理し、モデルリスクタスクを検証する方法について説明します。

参照



モデルリスク管理 アプリケーションとともにインストールされるコンポーネント (ロール、プロパティ、テーブルなど) に関する詳細を取得します。

役に立つリソース

役立つ情報を提供できる ServiceNow リソースは次のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow コミュニティ

ServiceNow コミュニティ

Customer Success Center

Customer Success Center

ServiceNow

http://servicenow.com

ServiceNow Store

http://servicenow.com

支える

- https://support.servicenow.com/now
- 既知のエラーポータル

"?>

モデルリスク管理 の探索

モデルリスク管理 アプリケーションを使用して、定量的モデルに関連するリスクを特定、評価、軽減する方法について説明します。

モデルリスク管理の概要

モデルリスク管理 (MRM) アプリケーションは、組織がモデルの使用に関連するリスクを積極的に管理するのに役立つ統合ソリューションを提供します。モデルライフサイクル全体を通じてモデルのリスクを特定、評価、検証、および対処するための構造化されたアプローチを提供します。このアプローチにより、一貫性のないモデル監視または不適切なモデル監視によって発生する運用およびコンプライアンスのリスクが軽減されます。

たとえば、金融機関はリスクのある価値 (VaR) モデルを使用して、潜在的な取引損失を推定します。適切な検証がないと、モデルがリスクを過小評価し、資本配分が不十分になる可能性があります。MRM アプリケーションを使用することで、銀行はモデルを定期的に検証し、仮定を文書化し、問題を追跡して、規制基準を満たしていることを確認できます。これにより、リスクが軽減され、より良い意思決定がサポートされます。

モデルリスク管理 ユーザー

ユーザー

ユーザー	説明
モデル所有者	• モデルを所有して監督します。 • 従業員センターまたはサービスポータルに新しいモデルを要求します。 • モデルの品質を保証し、そのパフォーマンスを監視します。
モデル開発者	• ビジネスニーズに基づいてモデルを設計します。 • 要件に基づいてモデルをビルドします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

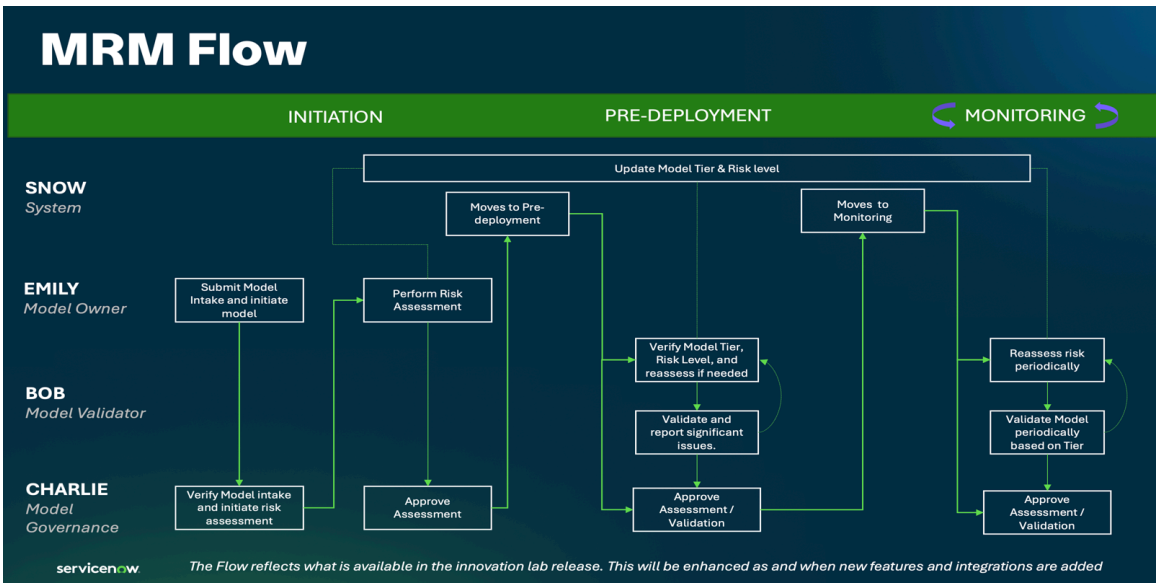
ユーザー (続く)

ユーザー	説明
モデル検証ツール	モデルの検証を実施して、その精度とロバスト性を確認します。
モデルガバナンス	• モデルのリスクとコンプライアンスを評価します。 • モデルを承認します。
経営幹部	戦略的な監督を行い、モデルリスクインサイトに基づいて高レベルの意思決定を行います。

モデルリスク管理 のワークフロー

次のセクションでは、 従業員センター でのモデルリスクの送信から、そのモデルに関連するリスクのアセスメントと監視までの手順について説明します。

を使用したモデルリスクの送信と管理 モデルリスク管理



1. モデルオーナーは 従業員センター を使用して、新しいモデル要求を送信します。
2. 新しいモデルリスクレコードが モデルリスクワークスペースに自動的に作成されます。
3. モデルガバナンスチームは、送信されたモデルをレビューし、ステークホルダーなどの必要な詳細を入力してから、関連するアセスメントを作成します。
4. モデルオーナーは、モデルガバナンスチームによって提起されたモデルのリスクアセスメントを実行します。
5. モデルガバナンスチームがアセスメントをレビューして承認します。その後、モデルリスクは [展開前] ステージに移行します。
6. モデルガバナンスチームは、検証タスクを作成し、バリデータに割り当てます。
7. モデル検証ツールは、モデルを検証し、必要なドキュメントを収集し、問題を報告して、モデルが使用に適しているかどうかを判断します。
8. 検証タスクは、 承認コンフィギュレーターで構成されている定義された承認者に承認のために送信されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

9. その後、モデルリスクは [監視] ステージに移行します。
10. モデルリスクは定期的に評価および検証され、規制コンプライアンスと効果的なリスク管理が確保されます。

モデルリスク管理 のメリット

モデルリスク管理のメリット

メリット	機能	ユーザー
従業員センターで新しいモデルを要求して、モデルの取り込みプロセスを開始し、レビューと承認のために必要なすべての詳細をキャプチャします。	新しいモデルを要求	モデル所有者
詳細を検証し、ステークホルダーをアサインして、アセスメントを作成することで、モデルリスクアセスメントを開始します。	モデルリスクアセスメントを開始	モデルガバナンス
モデルガバナンスチームによって開始されたモデルリスクアセスメントを実行して、定量的モデルに関連するリスクを特定して評価します。	モデルリスクアセスメントの実行	モデル所有者
検証ツール用の検証タスクを作成して、モデルを評価し、必要なドキュメントを収集し、問題を報告し、モデルが使用に適しているかどうかを判断します。	検証タスクの作成	モデルガバナンス
モデルリスク検証を実行して、モデルを評価および検証し、必要なドキュメントを収集し、問題を報告して、モデルが使用に適しているかどうかを判断します。このプロセスにより、モデルが必要な基準を満たし、展開の準備ができていることが確認されます。	モデルリスク検証の実行	モデル検証ツール

次に探索する内容

モデルリスク管理を構成して使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- モデルリスク管理の構成
- モデルリスク管理 の使用
- モデルリスク管理の参照

モデルリスクワークスペース

この モデルリスクワークスペース により、モデルリスクガバナンスチームとモデルバリデーターは、即時の対応が必要なアクションアイテムを表示できます。

この モデルリスクワークスペース により、モデルリスクガバナンスチームとモデル検証ツールに、モデル関連のタスクと問題を監視、追跡、および処理するための一元化されたダッシュボードが提供されます。重要な情報を簡単にアクセスできるタブに整理することで、ユーザーが作業に優先順位を付け、タイムリーなリスク管理アクションを実行できるようになります。

期限切れのアイテム、今後の期限、重大な問題、およびライフサイクル全体のモデルのステータスが表示されます。ワークスペースを使用すると、チームは情報に基づいた意思決定を迅速に行えるようになり、複数のページやレポートを操作する必要性が軽減されます。

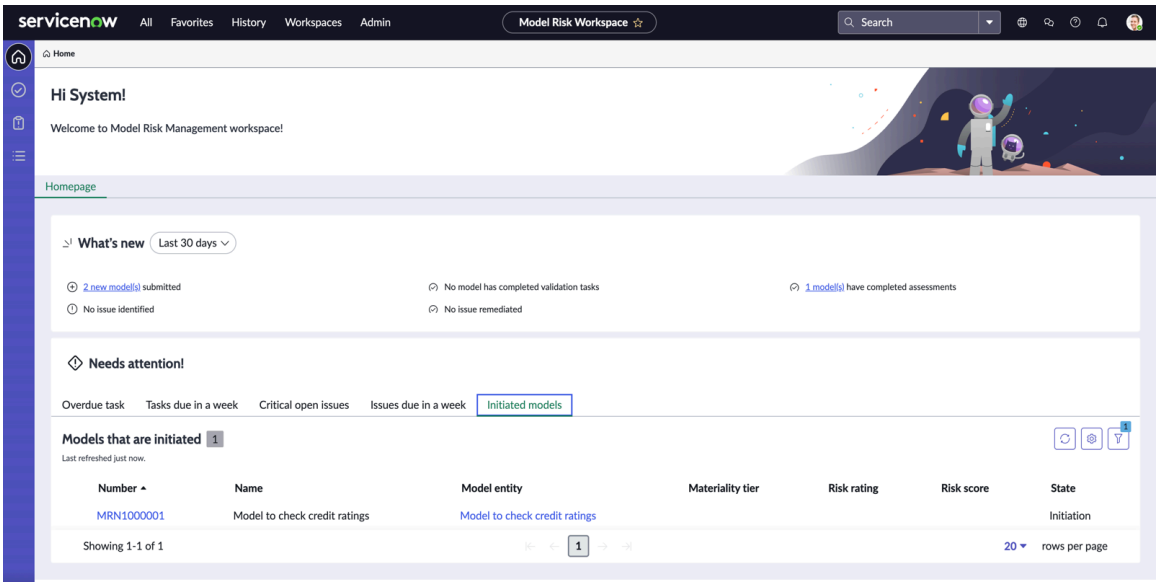
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AI リスクとコンプライアンスワークスペースにアクセスするには、次に移動します: すべて > モデルリスクワークスペース.

モデルリスクワークスペースのホームページには、次の情報が含まれています。

モデルリスクワークスペース



タブ	説明
最新情報	[新機能] セクションには、選択した期間 (30 日、60 日、90 日) に基づく情報が表示されます。
要注意	
期限切れのタスク	期日を過ぎてすぐにアクションが必要なモデルリスクタスクを一覧表示します。
期限が 1 週間以内のタスク	期限が 7 日以内のモデルリスクタスクを一覧表示し、事前に計画できるようにします。
重大なオープン中の問題	コンプライアンスや運用に重大な影響を与える可能性のある、モデルリスクに関連する未解決の重大度の高い問題を表示します。
期限が 1 週間以内の問題	今後 7 日以内に解決する必要がある問題が表示され、事前に計画を立てることができます。
開始されたモデル	作成されたが、アセスメントや検証などの後のライフサイクルステージにまだ進んでいないモデルを一覧表示します。

モデルリスク管理の構成

モデルリスク管理 アプリケーションの実装を計画および構成します。このトピックに記載されている手順を実行できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

構成の概要

1. モデルリスク管理 をインストール

   admin ロールを使用して モデルリスク管理 アプリケーション (sn_model_risk_mgmt) をインストールします。このアプリケーションは、関連する ServiceNow Store アプリケーションとプラグインをインストールします (まだインストールされていない場合)。

2. https://www.servicenow.com/community/grc-articles/scoring-configuration-for-model-risk-assessments/ta-p/3321686

   モデルリスクを評価するために使用する スマートアセスメント テンプレートの採点ロジックを構成します。

モデルリスク管理 をインストール

モデルリスク管理 アプリケーション (sn_model_risk_mgmt) は admin ロールでインストールできます。このアプリケーションは、関連する ServiceNow Store アプリケーションとプラグインをインストールします (まだインストールされていない場合)。

始める前に

- アプリケーションとその関連するすべての ServiceNow Store アプリケーションに有効な ServiceNow エンタイトルメントがあることを確認してください。詳細については、次を参照してください。 のエンタイトルメントを取得する ServiceNow 製品またはアプリケーション.
- 依存関係、ライセンスやサブスクリプションの要件、およびリリースの互換性については、ServiceNow Store の モデルリスク管理 アプリケーションリストを確認してください。
- エンタイトルメントを確認して、 モデルリスク管理にアクセスできるかどうかを確認してください。

必要なロール:sn_model_risk_mgmt.admin

このタスクについて

モデルリスク管理 とともに次のアイテムがインストールされます。

- プラグイン
- ストアアプリケーション
- ロール
- テーブル
- プロパティ

詳細については、「モデルリスク管理の参照」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. フィルター基準と検索バーを使用して、 モデルリスク管理 アプリケーション (sn_model_risk_mgmt) を検索します。

   名前または ID でアプリケーションを検索できます。アプリケーションが見つからない場合は、ServiceNow Store への要求が必要になることがあります。

   [インストール] ボタンの横のリストに、使用可能なバージョンが表示されます。

3. リストからバージョンを選択し、[インストール] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

表示される [インストールの詳細を確認] ダイアログボックスに、アプリケーションとともにインストールされている依存関係が一覧表示されます。

4. プロンプトが表示された場合は、ServiceNow Store へのリンクに従って、依存関係のエンタイトルメントを取得します。
5. オプション: 利用できるデモデータをインストールするには、[デモデータのロード] チェックボックスをオンにします。
   デモデータは、一般的なユースケース向けのアプリケーション機能を説明するサンプルレコードです。開発またはテストインスタンスで初めてアプリケーションをインストールする場合は、デモデータを読み込みます。
6. **[Install** (インストール)] を選択します。

モデルリスク管理 の使用

モデルリスク管理を使用して、定量的モデルに関連するリスクを特定、評価、および軽減します。

新しいモデルを要求

従業員センターで新しいモデルを要求して、モデルの取り込みプロセスを開始し、レビューと承認のために必要なすべての詳細をキャプチャします。

始める前に
必要なロール:sn_model_risk_mgmt.model_owner

手順

1. 移動先 すべて > セルフサービス > 従業員センター.
2. 従業員センター ランディングページで、[リスクとコンプライアンス] を選択します。
3. [新しいモデル取り込み] カードを選択します。
4. フォームで、フィールドに入力します。

   新しいモデルの問診票フォームのフィールド値の説明については、「 新しいモデルの問診票フォーム」を参照してください。

5. **[Submit** (送信)] を選択します。
   新しいモデルリスクレコードが作成され、レビューのためにモデルガバナンスチームに送信されます。

新しいモデルの問診票フォーム

[新しいモデルの問診票] フォームを使用して、目的、所有者、データソース、モデルの複雑さ、期待される出力などの詳細を入力して、新しいモデルを要求します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

新しいモデルの問診票フォーム

フィールド	説明
モデルの名前は何ですか？	モデルの目的と機能を反映するモデルの一意の名前。例: VaR-キャッシュフロー予測モデル。
モデルの機能について簡単に説明していただけますか？	モデルの機能とその機能を説明する簡単なサマリー。たとえば、 このモデルでは、市場データ入力に基づく価格設定モデル、リスクのある価

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しいモデルの問診票フォーム (続く)

フィールド	説明
	値、および予測キャッシュフローを使用して、市場リスクエクスポージャーを計算します。
このモデルの目的は何ですか？	モデルが対処するように設計されている特定の事業達成目標または問題。
モデルのオーナーは誰ですか？	モデルの監督とパフォーマンスを担当する個人またはグループ。
モデル開発者は誰ですか？	モデルの設計とビルドを担当するユーザーまたはグループ。
これはどのタイプのモデルですか？	統計、機械学習、ルールベースなどのモデルの分類。オプションは次のとおりです。 • 統計モデル • AI モデル
このモデルはサードパーティプロバイダーから供給されていますか？	モデルが外部ベンダーから取得されたか、サービスプロバイダーから取得されたかを示します。
このモデルはどのカテゴリに該当しますか？	モデルのユースケースに基づく内部分類。オプションは次のとおりです。 • 小売業:個人ローン、クレジットカード、消費者リスクアセスメントなど、個々の顧客の製品またはサービス向けに設計されたモデル。 • 企業:通常、より大きなエクスポージャーまたは複雑な金融商品を含む、ビジネスまたは機関投資家に使用されるモデル。
このモデルの入力として使用されるデータは？	モデルが使用するデータソースまたはデータセットの詳細。
モデルの期待される出力はどのくらいですか？	入力データに基づいてモデルによって生成された結果または予測。たとえば、リスクのある価値 (VaR) や予測キャッシュフローなどです。
予想されるモデルの複雑度レベルはどのくらいですか？	モデルの複雑さの推定レベル。オプションは次のとおりです。 • シンプル • 中 • 複雑

モデルリスクアセスメントを開始

詳細を検証し、ステークホルダーをアサインしてモデルリスクアセスメントを開始し、 モデルリスク管理 アプリケーションを使用してアセスメントを作成します。

始める前に

必要なロール:sn_model_risk_mgmt.model_governance

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > モデルリスクワークスペース.
2. リスト  アイコンを選択します。
3. リストから、次の場所に移動します モデル > 開始.
4. 開始するモデルを選択します。
5. [詳細] カードのフィールドに入力します。

詳細カード

フィールド	説明
名前	モデルの目的と機能を反映するモデルの一意の名前。フィールド値は、モデル問診票フォームエントリから自動入力されます。必要に応じて名前を編集できます。
説明	モデルの機能とその機能を説明する簡単なサマリー。フィールド値は、モデル問診票フォームエントリから自動入力されます。必要に応じて説明を編集できます。
目的	モデルが対処するように設計されている特定の事業達成目標または問題。フィールド値は、モデル問診票フォームエントリから自動入力されます。必要に応じて目的を編集できます。
アクティブ	モデルが使用中かどうかを示します。
モデル分類	アイテムがモデルとして適格かどうかを識別します。オプションは次のとおりです。 ○ モデル:モデルとして扱われる基準を満たしています。 ○ 非モデル:モデルとしての分類基準を満たしていません。
分類	
モデルタイプ	統計、機械学習、ルールベースなどのモデルの分類。オプションは次のとおりです。 ○ 統計モデル ○ AI モデル
サードパーティモデル	モデルが外部ベンダーから取得されたか、サービスプロバイダーから取得されたかを示します。
重要度階層	モデルの重要性または潜在的な影響のレベル。オプションは次のとおりです。 ○ なし ○ 階層 1 ○ 階層 2 ○ 階層 3 ○ 階層 4
モデルカテゴリ	モデルのユースケースに基づく内部分類。オプションは次のとおりです。 ○ 小売業:個人ローン、クレジットカード、消費者リスクアセスメントなど、個々の顧客の製品またはサービス向けに設計されたモデル。 ○ 企業:通常、より大きなエクスポージャーまたは複雑な金融商品を含む、ビジネスまたは機関投資家に使用されるモデル。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
モデルの複雑度	モデルの複雑さの推定レベル。オプションは次のとおりです。 ○ シンプル ○ 中 ○ 複雑
仕様	
入力データ	モデルが使用するデータソースまたはデータセットの詳細。
出力データ	入力データに基づいてモデルによって生成された結果または予測。たとえば、リスクのある価値 (VaR) や予測キャッシュフローなどです。
添付ファイル	サポートファイルまたはドキュメントを添付するオプション。

6. **[Mark as Complete** (完了としてマーク)] を選択します。
モデルワークフロープレイブックのステークホルダーステージが開きます。
7. [編集] を選択して、ペルソナ、グループ、およびユーザーを定義します。

> **注:**
> 選択したグループに属しているユーザーを表示できます。たとえば、Abel Tuter が Model Governance グループのメンバーである場合、グループフィールドで Model Governance を選択すると、ユーザーフィールドに Abel Tuter の名前が表示されます。

8. [完了としてマーク] を選択して、次のステージに進みます。
モデルワークフロープレイブックでアセスメントステージが開きます。
9. [アセスメントを作成] を選択します。
10. [モデルリスクタスク] ダイアログで、フィールドに入力します。

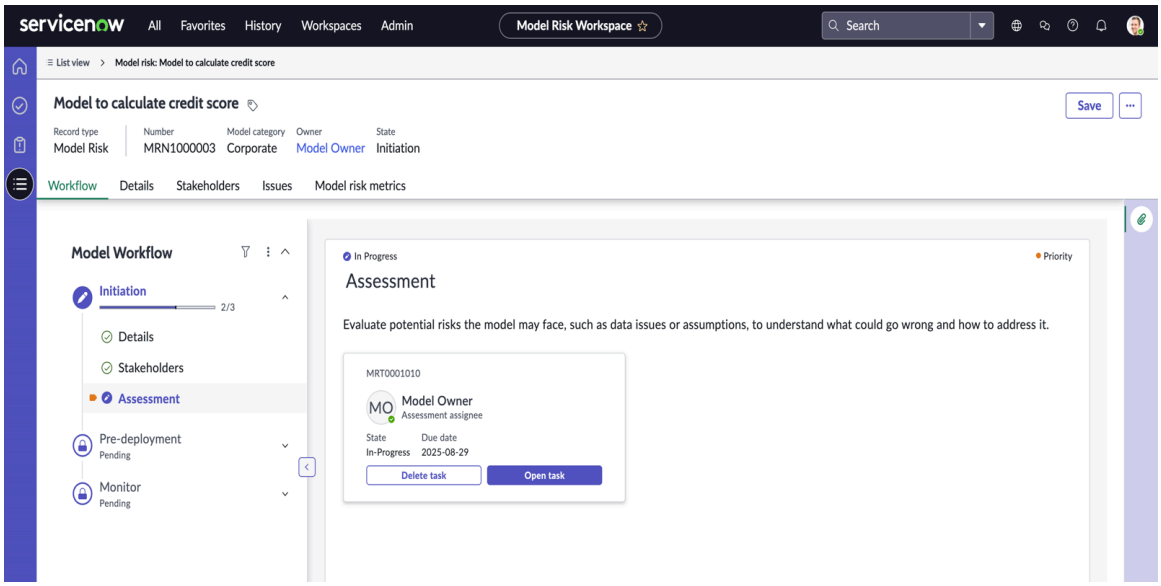
モデルリスクタスク

フィールド	説明
タスクタイプ	モデルリスクタスクのタイプ。このフィールドは自動的に [アセスメント] に設定されます。
レビュー担当者	アセスメントタスクのレビューと承認を担当する人物。
アセスメントテンプレート	アセスメントの構造、質問、および採点ロジックの概要を示す事前定義されたテンプレート。このフィールドには、デフォルトのアセスメントテンプレートが自動的に入力されます。
アセスメントアサイニー	アセスメントタスクを完了するためにアサインされた個人。
期日	アセスメントタスクを完了する必要がある日付。

11. **[Create** (作成)] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



モデルリスクタスクが作成され、モデルオーナーにアサインされます。

次のタスク
モデルリスクアセスメントの実行

モデルリスクアセスメントの実行

モデルガバナンスチームによって開始されたモデルリスクアセスメントを実行し、 モデルリスク管理 アプリケーションを使用して定量的モデルに関連するリスクを特定して評価します。

始める前に
必要なロール:sn_model_risk_mgmt.model_owner

> **注:**
> GRCタスクページからモデルリスクアセスメントを実行するには、business_user ロールまたは business_user_lite ロールのいずれかを sn_model_risk_mgmt.model_owner に割り当てる必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > セルフサービス > 従業員センター.
2. [自分のアクティブなアイテム] で **GRC** タスク を選択します。
3. [自分の To Do] カードからモデルリスクアセスメントを選択します。
4. マテリアリティアセスメントに記載されているすべての要素または質問に回答します。
5. リスクアセスメントにリストされているすべての要素または質問に回答します。
6. **[Submit** (送信)] を選択します。
   回答を送信した後は、変更できなくなります。

タスクの結果
モデルリスクタスクが承認のために送信されます。承認者が構成されていない場合、タスクは [展開前] ステータスに移行します。

検証タスクの作成

検証ツール用の検証タスクを作成して、モデルを評価し、必要なドキュメントを収集し、問題を報告し、モデルが使用に適しているかどうかを判断します。このプロセスにより、モデルが必要な基準を満たし、展開の準備ができていることが確認されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール:sn_model_risk_mgmt.model_governance

手順

1. 移動先 すべて > モデルリスクワークスペース.
2. リスト アイコンを選択します。
3. リストから、次の場所に移動します モデル > 展開前.
4. 検証タスクを作成するモデルを選択します。
5. [展開前] ステータスで、[タスクの作成] を選択します。
6. [モデルリスクタスク] ダイアログで、フィールドに入力します。

モデルリスクタスク

フィールド	説明
タスクタイプ	モデルリスクタスクのタイプ。このフィールドは自動的に [検証] に設定されます。
レビュー担当者	アセスメントタスクのレビューと承認を担当する人物。
検証チェックリストテンプレート	アセスメントの構造、質問、および採点ロジックの概要を示す事前定義されたテンプレート。
検証チェックリストのアサイニー	検証タスクを完了するためにアサインされた個人。このフィールドには、ステークホルダーリストで検証ツールとして選択されたアサイニー名が自動的に入力されます。
期日	検証タスクを完了する必要がある日付。

次のタスク
モデルリスク検証の実行

モデルリスク検証の実行

モデルリスク検証を実行して、モデルを評価および検証し、必要なドキュメントを収集し、問題を報告して、モデルが使用に適しているかどうかを判断します。このプロセスにより、モデルが必要な基準を満たし、展開の準備ができていることが確認されます。

始める前に
必要なロール:sn_model_risk_mgmt.model_validator

このタスクについて
モデルリスク検証タスクには、次のステージが含まれています。

- ドキュメント コレクション
- 検証チェックリスト
- 問題
- 検証結果

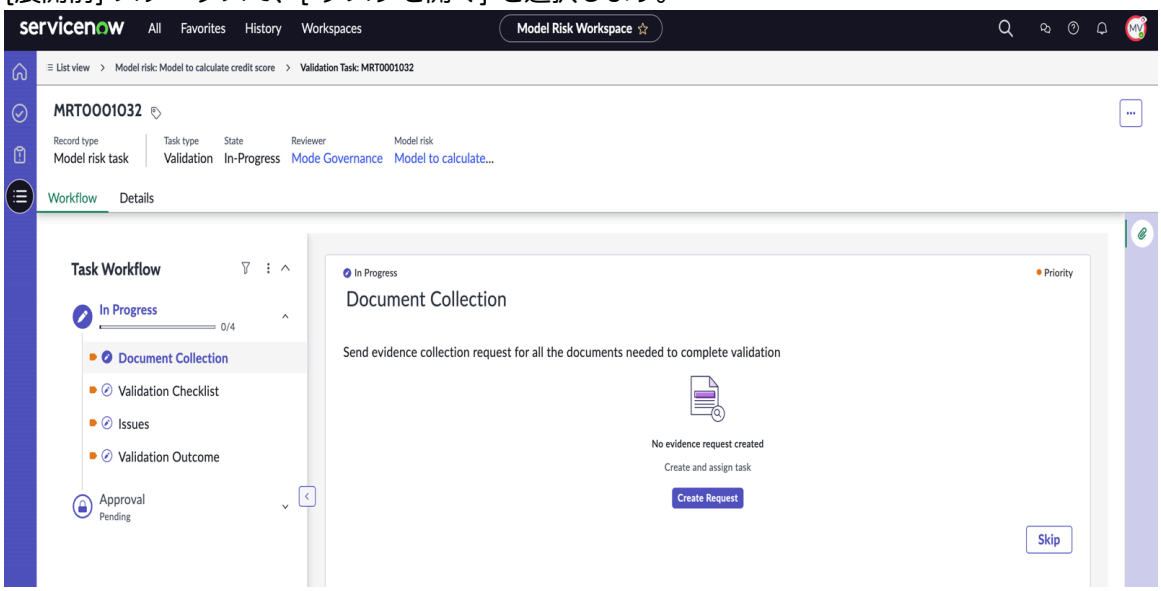
リストされたアクティビティは、任意の順序で実行できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > モデルリスクワークスペース.
2. リスト アイコンを選択します。
3. リストから、次の場所に移動します モデル > 展開前.
4. 検証を実行するモデルを選択します。
5. [展開前] ステータスで、[タスクを開く] を選択します。



モデルリスク検証タスクワークフローが開きます。

6. 証拠収集要求を送信するには、[要求の作成] を選択します。
   詳細については、「モデルの証拠を要求」を参照してください。
7. [検証チェックリスト] ステージで、[開く] を選択して検証を実行します。
8. 検証タスクにリストされているすべての要素または質問に回答します。
9. **[Submit** (送信)] を選択します。
   回答を送信した後は、変更できなくなります。
10. オプション: 問題ステージでは、モデルに新規および既存の問題を追加できます。
11. [検証結果] ステージで、モデルの使用に適しているかどうかの結果を選択し、承認のために送信します。

> **注:**
> 承認のためにタスクを送信する前に、すべてのアクティビティを完了する必要があります。

タスクの結果

モデル検証タスクが承認のために送信されます。承認者が設定されていない場合、タスクは完了としてマークされます。

関連情報

モデルの証拠を要求

モデルの証拠を要求

モデルの検証を完了するために必要なすべてのドキュメントの証拠収集要求を送信します。証拠要求は、検証ツールがモデルの検証を実行するために必要な情報をモデルオーナーに電子的に要求するのに役立ちます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール:sn_model_risk_mgmt.model_validator

手順

1. 移動先 すべて > モデルリスクワークスペース.
2. リスト アイコンを選択します。
3. リストから、次の場所に移動します モデル > 展開前.
4. 証拠を要求するモデルを選択します。
5. フォームで、フィールドに入力します。

   証拠要求フォームのフィールド値の説明については、「 証拠を要求フォーム」を参照してください。

6. [要求] を選択します。

証拠を要求フォーム

このフォームを使用して、モデルの検証を実行するために必要な情報をモデルオーナーに電子的に要求します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

証拠を要求フォーム

フィールド	説明
方法を選択	
名前	
タイプ	
要求理由	
期日	
コンテキスト	
アサイン先グループ	
アサイン先	
証拠収集手順	

展開前ステージでアセスメントを作成

でアセスメントを作成する

始める前に
必要なロール:必要なロール:sn_model_risk_mgmt.model_governance

手順

1. 移動先 すべて > モデルリスクワークスペース.
2. リスト アイコンを選択します。
3. リストから、次の場所に移動します モデル > 展開前.

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. アセスメントタスクを作成するモデルを選択します。
5. [展開前] ステータスで、 [アセスメントの作成] を選択します。
6. [モデルリスクタスク] ダイアログで、フィールドに入力します。

モデルリスクタスク

フィールド	説明
タスクタイプ	モデルリスクタスクのタイプ。このフィールドは自動的に [アセスメント] に設定されます。
レビュー担当者	アセスメントタスクのレビューと承認を担当する人物。
アセスメントテンプレート	アセスメントの構造、質問、および採点ロジックの概要を示す事前定義されたテンプレート。このフィールドには、カテゴリがモデルリスクであるデフォルトのアセスメントテンプレートが自動的に入力されます。
アセスメントアサイニー	アセスメントタスクを完了するためにアサインされた個人。
期日	アセスメントタスクを完了する必要がある日付。

7. **[Create** (作成)] を選択します。

次のタスク
モデルリスクアセスメントの実行

モデルリスク管理の参照

参照トピックには、 モデルリスク管理 アプリケーションとともにインストールされるテーブル、プロパティ、ロールなどの追加情報が記載されています。

モデルリスク管理とともにインストールされるロール

モデルリスク管理アプリケーションは、モデルを管理するためのそれぞれの日常的な運用タスクを実行するために不可欠なロールをインストールします。

ロールと説明

ロールタイトル [名前]	説明	ロールを含む
MRM アドミン [sn_model_risk_mgmt.admin]	MRM (モデルリスク管理) アドミニストレーターは、次のタスクを実行できます。 • モデルリスク管理の承認構成を構成します。 • モデルリスク管理スコアリング構成を作成します。 • モデルリスクワークスペースのモデルリスク管理カテゴ	• sn_grc_appr.admin • sn_model_risk_mgmt.model_risk_reader • sn_smart_asmt.template_manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールと説明 (続く)

ロールタイトル [名前]	説明	ロールを含む
	リに属するアセスメントテンプレートを作成または変更します。	
モデルリスクガバナンス [sn_model_risk_mgmt.model_governance]	Model Risk Governance ロールを持つユーザーは、次のタスクを実行できます。 • モデルリスク管理の承認構成を構成します。 • モデルリスクワークスペースにアクセスする。 • 送信されたすべてのモデルに対してエンドツーエンドのワークフロータスクを実行します。 • モデルリスクワークスペースのモデルリスク管理カテゴリに属するアセスメントテンプレートを作成または変更します。	• sn_model_risk_mgmt.model_risk_create • sn_smart_asmt.template_manager • sn_grc_advanced.evidence_admin • sn_grc_appr.admin • sn_grc.reader • sn_grc.business_user • sn_model_risk_mgmt.model_risk_delete
モデルリスクコーディネーター [sn_model_risk_mgmt.risk_coordinator]	モデルリスクコーディネーターは、次のタスクを実行できます。 • モデルリスクワークスペースにアクセスする。 • モデルの取り込みとタスクにアクセスし、ユーザーがステークホルダーとしてアサインされている場合は必要に応じてアクションを実行します。 • モデルリスクおよびアサインされたモデルリスクのタスクを実行および変更します。	• sn_grc.business_user • sn_grc_advanced.evidence_admin • sn_model_risk_mgmt.model_risk_reader • sn_grc.reader
モデル検証ツール [sn_model_risk_mgmt.model_validator]	モデルバリデーターは、次のタスクを実行できます。 • モデルリスクワークスペースにアクセスする。 • モデルリスクワークスペースおよびGRCタスクページから、アサインされたモデルのスマートアセスメントを実行します。	• sn_grc.business_user • sn_grc_advanced.evidence_admin • sn_smart_asmt.actor • sn_model_risk_mgmt.model_risk_reader • sn_grc.reader

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールと説明 (続く)

ロールタイトル [名前]	説明	ロールを含む
	• ユーザーがステークホルダーとしてアサインされているモデルリスクを表示します。 • アサインされたモデルリスクタスクを実行および変更します。	
モデルエグゼクティブリーダー [sn_model_risk_mgmt.executive_reader]	モデルエグゼクティブリーダーは、次のタスクを実行できます。 • モデルリスクワークスペースにアクセスする。 • モデルの取り込み、タスク、問題など、 モデルリスク ワークスペース で利用可能なすべての情報を表示します。	• sn_model_risk_mgmt.model_risk_reader • sn_grc_advanced.evidence_reader • sn_grc.reader • sn_grc_appr.approver
モデルタスク承認者 [sn_model_risk_mgmt.task_approver]	モデルタスク承認者は、次のタスクを実行できます。 • 指定された承認者であるモデルリスクとモデルリスクタスクを表示します。 • アサインされたモデルリスクタスクを承認します。	• sn_grc_appr.approver • sn_grc.reader • sn_model_risk_mgmt.task_read
モデル所有者 [sn_model_risk_mgmt.model_owner]	モデルオーナーは、次のタスクを実行できます。 • 従業員センターまたはサービスポータルに新しいモデルを要求します。 • business_userロールまたはbusiness_user_liteロールのいずれかがアサインされている場合に、 GRC タスクページからスマートアセスメントを実行します。	• sn_grc_advanced.evidence_responder • sn_smart_asmt.actor
sn_model_risk_mgmt.task_read	指定されたステークホルダーであるモデルリスクタスクを表示します。	• sn_grc.reader • sn_smart_asmt.assessment_reader
sn_model_risk_mgmt.task_create	モデルリスクタスクを作成します。	sn_model_risk_mgmt.task_write

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールと説明 (続く)

ロールタイトル [名前]	説明	ロールを含む
sn_model_risk_mgmt.task_write*	モデルリスクタスクを変更します。	sn_model_risk_mgmt.task_read
sn_model_risk_mgmt.task_delete*	モデルリスクタスクを削除します。	sn_model_risk_mgmt.task_read
sn_model_risk_mgmt.model_risk_reader*	指定されたステークホルダーであるモデルリスクを表示します。	• sn_model_risk_mgmt.task_read • sn_smart_asmt.template_reader
sn_model_risk_mgmt.model_risk_write*	モデルリスクを変更します。	• sn_model_risk_mgmt.model_risk_reader • sn_model_risk_mgmt.task_write
sn_model_risk_mgmt.model_risk_create*	モデルリスクを作成します。	• sn_model_risk_mgmt.task_create • sn_model_risk_mgmt.model_risk_write
sn_model_risk_mgmt.model_risk_delete*	モデルリスクを削除します。	sn_model_risk_mgmt.model_risk_read

重要:
アスタリスク (*) が付いているロールは機能ロールです。

詳細については、「https://www.servicenow.com/products/employee-center.html」を参照してください。

モデルリスク管理 とともにインストールされるテーブル

テーブルは、モデルリスク管理 アプリケーションのアクティブ化とともに追加されます。

テーブルの説明については、次の表を参照してください。

インストールされるテーブル

テーブル	説明
モデルリスク [sn_model_risk_mgmt_model_risk]	従業員センターを介して送信されたモデル取り込み口をキャプチャし、送信されたすべてのモデル要求の中央リポジトリとして機能します。
モデルリスクタスク [sn_model_risk_mgmt_model_risk_task]	モデルリスクワークフローでモデルリスクに対して作成されたモデルリスクタスクをキャプチャします。
モデルリスクタスク承認 [sn_model_risk_mgmt_model_risk_task_approval]	承認構成を通じて、モデルリスクタスクに対して生成されたすべての承認レコードの承認ステータスをキャプチャします。
モデルリスクの問題	モデルリスクに添付されているすべての問題間の多対多 (M2M) マッピングを保存します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インストールされるテーブル (続く)

テーブル	説明
[sn_model_risk_mgmt_m2m_issue_model_risk]	
モデルリスクタスクの問題 [sn_model_risk_mgmt_m2m_issue_model_risk_task]	モデルリスクタスクに添付されたすべての問題間の M2M マッピングを保存します。
モデルリスク構成 [sn_model_risk_mgmt_model_risk_configuration]	スマートアセスメントテンプレート用に作成されたモデルリスクアセスメントスコア付け構成を [モデルリスク管理] カテゴリに保存します。
[SAE に対するモデルリスク構成] セクション [sn_model_risk_mgmt_m2m_model_scoring_section]	モデルリスク構成スクリプトで使用するために追加されたすべてのスマートアセスメントセクション間の M2M マッピングを保存します。
SAE 質問に対するモデルリスク構成 [sn_model_risk_mgmt_m2m_model_scoring_question]	モデルリスク構成スクリプトで使用するために追加されたすべてのスマートアセスメント質問間の M2M マッピングを保存します。
モデルリスクスコア [sn_model_risk_mgmt_model_risk_score]	スマートアセスメントが送信され、アセスメントタスクが完了するたびに、モデルリスクスコアリング構成の実行によって計算されたスコアを保存します。

オペレーショナルレジリエンス

オペレーショナルレジリエンス は、事業に悪影響のあるイベントを予測および防止し、そこから復旧して適応することによって、組織がそれらのイベントに対応する能力です。

オペレーショナルレジリエンス の概要

変化する今日のビジネス状況では、組織は予期しないときにさまざまなオペレーショナルリスクに直面する可能性があります。ビジネスのすべての機能は、オペレーショナルレジリエンスを維持および促進する上で重要な役割を果たします。たとえば、リスクチームは、オペレーショナルリスクを特定して対応するために適切なガバナンスを設定する必要があります。IT チームは、既存の脅威と潜在的な脅威を特定して対処する必要があります。

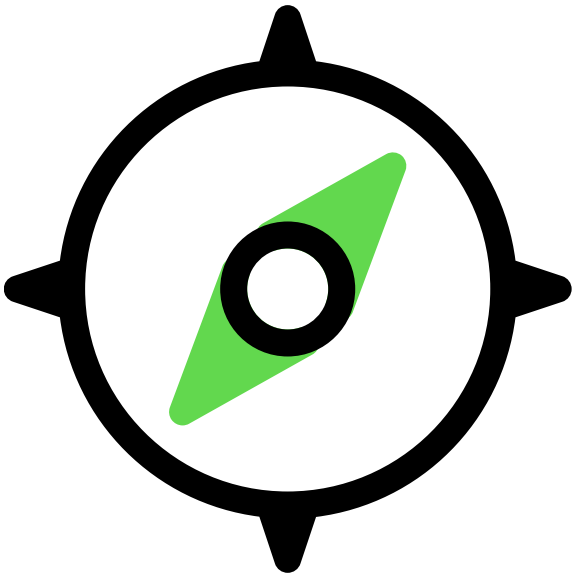
ServiceNow® GRC：オペレーショナルレジリエンス アプリケーションを使用すると、パンデミック、異常気象、ハッキングなどの事業に悪影響のあるイベントの発生中でも、組織はビジネスサービスを提供し続けることができます。オペレーショナルレジリエンス を使用すると、複数の場所からデータを監視およびレポートし、顧客への影響を最小限に抑えながら潜在的な中断から迅速に復旧できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

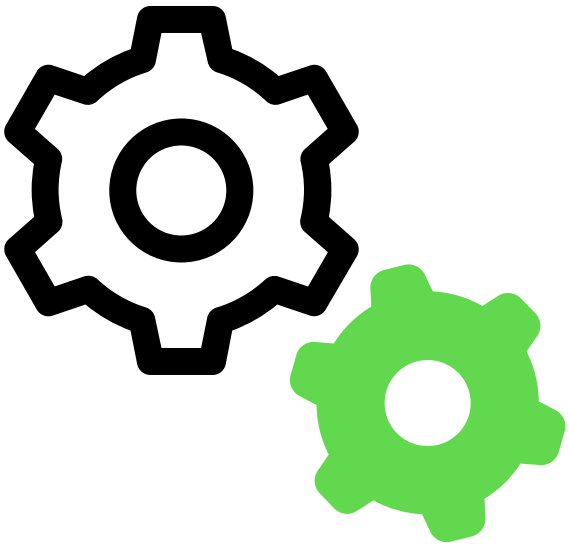
開始

探索



「オペレーショナルレジリエンス」を参照してください。

構成



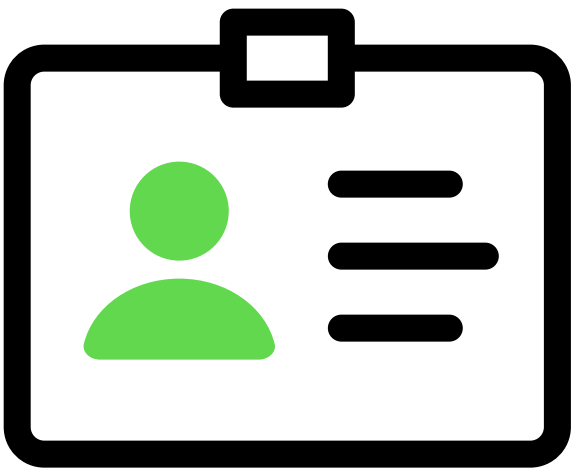
オペレーショナルレジリエンス アプリケーションの構成

管理



オペレーショナルレジリエンスタスクを管理

参照



オペレーショナルレジリエンスとともにインストールされるコンポーネント

学習する

Operational Resilience とは

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

その他のリソース

- GRC コミュニティで質問や回答をする
- Known Error Portal で既知のエラー記事を検索
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート
- 開発者トレーニング
- 開発者ドキュメント

オペレーショナルレジリエンス の探索

オペレーショナルレジリエンス アプリケーションでは、ビジネスサービスの詳細、エンティティ、コアビジネス領域のステータスなど、オペレーショナルレジリエンスのステータスを完全に把握できます。

オペレーショナルレジリエンス の概要

オペレーショナルレジリエンス アプリケーションは、組織がさまざまなビジネス機能にわたって統一されたビジョンを達成し、レジリエンスをビルドするのに役立ちます。1 つのプラットフォームでオペレーショナルレジリエンス アプリケーションを使用することで、次の例に示すように、さまざまなチームが 1 つの場所でサービスの健全性を監視できます。

オペレーショナルレジリエンス による統一されたビジョン



オペレーショナルレジリエンス アプリケーションは、さまざまな部門がオペレーショナルレジリエンスを効果的にビルドするのに役立ちます。

- IT 部門は、プロセスを自動化し、アプリケーションのフェイルオーバーシステムの可用性と機能を追跡できます。
- HR 部門は、市場の傾向、リソースプール、および定着リスクを明確に把握できます。
- 施設部門は、少ないメンテナンスで日常のビジネスオペレーションを管理するのに役立つ主要な改善の実装に集中できます。
- セキュリティ部門は、物理的な脆弱性とサイバー脅威に効率的に対処できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ファイナンスチームは、契約上の問題、サプライチェーンリスク、および全体的なファイナンスを効果的に管理できます。
- リスクチームは、潜在的なリスクを分析し、ビジネスオペレーションに対するサービスの影響を軽減できます。

オペレーショナルレジリエンス および 事業継続性管理

オペレーショナルレジリエンス は、組織全体に影響を与えるおそれのある中断に迅速に対応するための計画立案アプローチを導入します。事業継続性管理 は、運用の中断を防ぐために組織が積極的に講じるべき措置を定義します。

オペレーショナルレジリエンス とは、レジリエンスの統計情報をプロアクティブにモニタリングし、どのようなコストがかかってもサービスデリバリーが行われるようにすることです。 事業継続性管理 は、ビジネス中断の分析、災害復旧計画の準備、およびビジネスプロセスレベルでの危機イベントへの対応に関するものです。

上述のように、オペレーショナルレジリエンス は、ダッシュボードで会社の運用レジリエンス統計を明確に把握できるようにします。これには、事業継続性管理、リスク、コントロール、サービス統計などの統計が含まれます。一方、 事業継続性管理 は、ビジネスプロセスレベルで運用します。

BCM Pro および **IRM Pro** ライセンスでインストールされるロール

オペレーショナルレジリエンス IRM Pro ライセンスを持つユーザー、マネージャー、アドミニストレーターは、関連するレポート、グラフ、データにアクセスできるようになりました。同様に、 オペレーショナルレジリエンス BCM Pro ライセンスを持っているユーザーも、それぞれのレポート、チャート、およびデータにアクセスできます。

更新されたロールの詳細については、「 オペレーショナルレジリエンスとともにインストールされるロール」を参照してください。

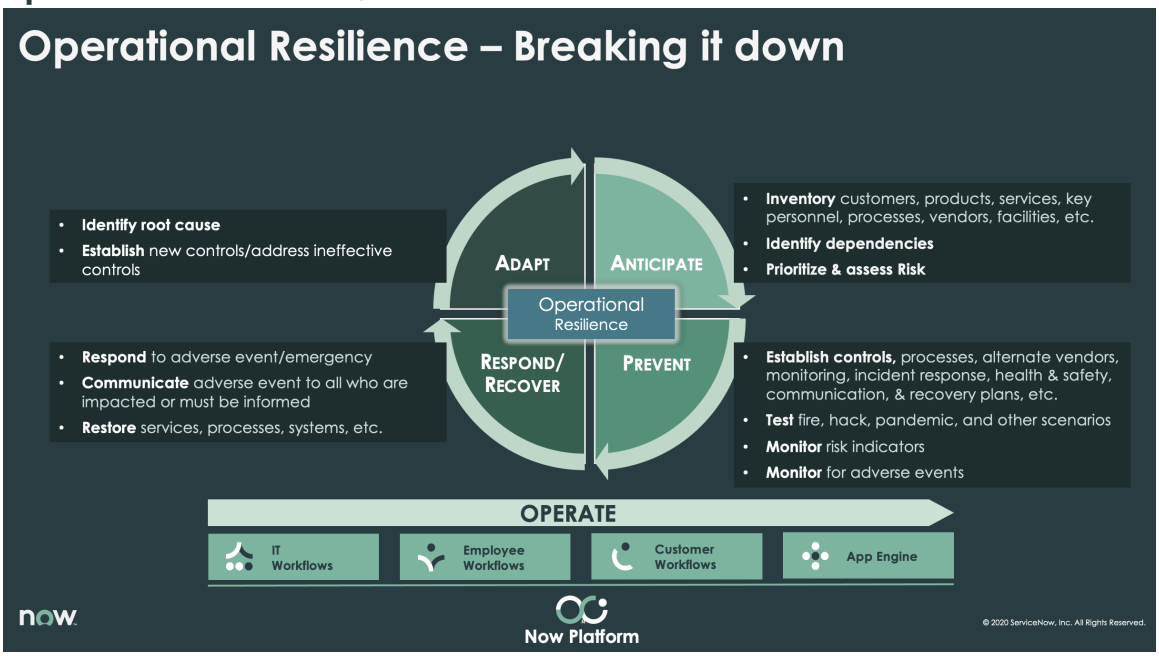
オペレーショナルレジリエンス のワークフロー

オペレーショナルレジリエンス アプリケーションは、レジリエンスマネージャーとアドミニストレーターが組織の安全性と健全性を達成するのに役立つ、4 ステージの連続したワークフローを実現します。悪影響を与えるイベントを予測および防止して、そこから復旧して適応することで、そのようなイベントに備え、対処することができます。オペレーショナルレジリエンスのステージを次の例に示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Operational Resilience ワークフローの **4** つのステージ



組織のレジリエンスをビルドするには、レジリエンスライフサイクルの各ステージを分析します。

1. 予想：壊滅的なイベントが発生したときに、どのサービス、人員、およびプロセスが重要であるかは必ずしも明確ではありません。組織のサイロ化、質の低いデータ、およびさまざまに異なるツールにより、リスクとビジネス間の依存関係を把握しにくくなる可能性があります。優先順位付けと計画立案がない場合、意思決定が不正確になる可能性があります。

オペレーショナルレジリエンス アプリケーションは、これらの課題を克服するために、what-if シナリオ分析を実行して、最善、最悪、および予想される結果に対してより適切な計画を作成するのに役立ちます。このアプリケーションは、保護する必要があるもののために準備し、ビジネスとリスクのコンテキストに応じて優先順位を付けるのに役立ちます。

2. 防止：ほとんどの運用手順は、リスクやコンプライアンスよりも効率を重視したものになっています。多くの場合、ビジネスは、自動化された予防コントロールではなく、手動の是正コントロールに依存しています。リスクや悪影響のあるイベントの早期警告は、手動のプロセスと断片化されたデータによって妨げられる可能性があります。このような慣行は、災害への対応を損なう可能性があります。

オペレーショナルレジリエンス アプリケーションは、潜在的な問題の可能性を適時に減らして効果的に軽減するための十分なコントロールを確立する手順を提供します。リスクとコンプライアンスのアクティビティを日常の業務に組み込むことで、少ない労力で運用をスムーズに進めることができます。インテリジェントなプロセスとポリシーは、新しい効率性を実現するために役立ちます。継続的な監視は、ターゲットのインシデントに対する即時の応答をトリガーします。

3. 対応/復旧：多くの企業は、悪影響のあるイベントに迅速かつ安全に対応できるように組織化されていません。内部またはベンダーやサプライヤーとのコミュニケーションが不十分です。特に情報が不完全または古い場合は、一瞬の決断が状況を悪化させる可能性があります。

オペレーショナルレジリエンス アプリケーションを使用して作成された継続性計画は、インシデントの制御不能なエスカレーションを防ぐのに役立ちます。事前に承認およびテストされた復旧計画により、状況に効果的に対応し、リスクを軽減し、復旧時間を短縮するように準備できます。

4. 適応：運用レジリエンスにより、災害から迅速かつ簡単に立ち直ることができます。ただし、これらのイベントが発生しても、学習機会とは見なされないことがよくあります。しかし、次のことが

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

言えます。学習機会と考えた場合、保護対策を改善し、次のイベントに効果的に対応する機会が得られます。これらのイベントから学習して適応することで、影響を最小限に抑え、迅速な復旧を実現できます。

火災、異常気象、パンデミック、データ漏洩などの悪影響を与えるイベントは、何がより効果的に機能するかについての教訓を提供します。オペレーショナルレジリエンス アプリケーションは、データの収集、結果の評価、チームへのフィードバックの提供に役立ちます。過去を可視化することにより、将来の運用パフォーマンスを向上させるためのビジョンをビジネスリーダーに提供します。

オペレーショナルレジリエンス のメリット

オペレーショナルレジリエンス アプリケーションには次のメリットがあります。

利点	機能	ユーザー
ビジネスサービスの重要性および影響許容度を分析します。	重要性および影響許容度アセスメントの実行	オペレーショナルレジリエンス マネージャーとユーザー
オペレーショナルレジリエンス ワークスペースでシナリオ分析を実行します。	シナリオ分析の実施	オペレーショナルレジリエンス マネージャーとユーザー
オペレーショナルレジリエンス ワークスペースでビジネスサービスの自己証明を行います。	自己証明書を使用したサービスの認定	オペレーショナルレジリエンス マネージャーとユーザー
オペレーショナルレジリエンス ワークスペースに問題、変更要求、インシデント、および機能停止を追加します。	問題の作成または追加	オペレーショナルレジリエンス マネージャーとユーザー
オペレーショナルレジリエンス ワークスペースで運用上の脆弱性を追加または削除します。	オペレーショナル脆弱性 の管理	オペレーショナルレジリエンス マネージャーとユーザー

サンゴのテーマ

Coral が 事業継続性ワークスペース のデフォルトのテーマになりました。このテーマは、ユーザーエクスペリエンスを向上させるためにブランド中立のイラストを特徴とする新鮮なルックアンドフィールを提供します。ダークテーマオプションは、Web およびモバイルエクスペリエンスで使用できます。

の主な依存関係 オペレーショナルレジリエンス

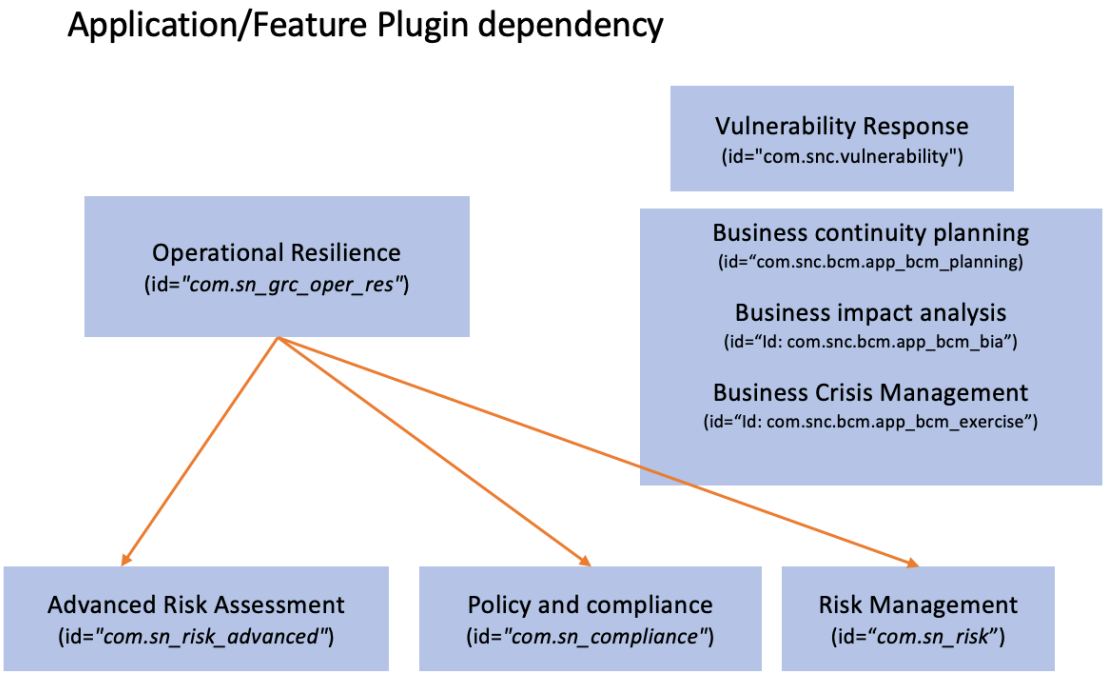
オペレーショナルレジリエンス アプリケーションをインストールする前に、GRC アプリケーションをインスタンスにインストールする必要があります。

次の例は、オペレーショナルレジリエンス の階層、必須の GRC アプリケーション、およびレポートダッシュボードに追加できるオプションの GRC アプリケーションを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オペレーショナルレジリエンス アプリケーションの階層



の必須およびオプションのプラグイン オペレーショナルレジリエンス

オペレーショナルレジリエンスアプリケーション (com.sn_grc_oper_res) は ServiceNow Store から入手できます。オペレーショナルレジリエンスには次のプラグインが必要です (ハード依存関係)。

1. GRC：共通ワークスペース要素 (com.sn_grc_workspace)
2. GRC：プロファイル (com.sn_grc)
3. GRC：コアケース管理 (com.sn_grc_case_mgmt)
4. データリレーションシップフレームワーク (com.sn_app_grc_relationship_config)
5. データレジストリ (com.sn_app_grc_data_registry)
6. GRC:リスク共有共通コンポーネント (com.irm-shared-common-components)
7. ドキュメントテンプレート (com.snc.app-document-templates)

次のプラグインは、 オペレーショナルレジリエンス のオプション (ソフト依存関係) です。

1. GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 (com.sn_compliance)
2. 高度なリスク (com.sn_risk_advanced)
3. GRC:リスク管理 (com.sn_risk)
4. GRC:事業継続性計画 (com.snc.bcm.app_bcm_planning)
5. GRC:ビジネスインパクトアナリシス (com.snc.bcm.app_bcm_bia)
6. GRC:危機管理 (com.snc.bcm.app_bcm_exercise)
7. 脆弱性対応 (com.snc.vulnerability)

インスタンスにインストールされているアプリケーションによっては、オペレーショナルレジリエンス レポートダッシュボードでレポートを表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オペレーショナルレジリエンス の 共通サービスデータモデル (CSDM)

リリース 20.1.x 以降、 オペレーショナルレジリエンス アプリケーションは最新の 共通サービスデータモデル (CSDM) (CSDM) をサポートしています。CSDM は、アドミニストレーターが ServiceNow® 製品とアプリケーションを構成するときに使用するデータフレームワークです。これにより、構成アイテム (CI) とその関係が適切に定義され、関連する 構成管理データベース (CMDB) テーブルに格納されます。

共通サービスデータモデル (CSDM)について (CSDM)

共通サービスデータモデル (CSDM) (CSDM) は、オペレーショナルレジリエンスレポートでサービスとビジネスサービス関連データを定義および管理するための堅牢なフレームワークを提供します。このモデルを実装すると、組織は次の目標を達成するために役立ちます。

- サービス、ビジネスサービス、およびインターフェイスを定義して管理します。
- リスク、コントロール、およびインシデントを特定して管理します。
- 事業継続性計画を策定および維持します。
- オペレーショナルレジリエンスと制御環境管理をサポートします。
- 情報に基づいた意思決定とサービスの最適化を可能にします。

このデータモデルにより、サービスの品質が高く、全体的なビジネスゴールとの整合性が確保されます。

CSDM のメリット

この CSDM は、組織にいくつかの重要なメリットをもたらします。

1. サービス管理の向上:サービス、ビジネスサービス、およびインターフェイスを定義して管理することで、組織は効率的かつ効果的なサービス/ビジネスサービスデリバリを確実に行うことができます。
2. オペレーショナルレジリエンスの向上:CSDMモデルは、リスク、コントロール、およびインシデントを特定して管理することで組織のレジリエンスを強化し、迅速な対応と中断からの復旧を可能にします。
3. 情報に基づいた意思決定: CSDM モデルは、ビジネスサービス、リスク、およびコントロールの包括的なビューを提供することで、情報に基づいた意思決定とサービスの最適化を促進します。

これらのメリットは、組織が戦略的目標を達成し、顧客満足度を高め、ダイナミックなビジネス環境で競争力を維持するのに役立ちます。

共通サービスデータモデル (CSDM) について

共通サービスデータモデル (CSDM)は、構成管理データベース (CMDB)を使用するすべての製品の標準データモデルです。

ServiceNow® AI Platform 製品、アプリケーション、および機能は CSDM に準拠しています。つまり、基盤となる CSDM データモデルにすべて同じアクセス権があります。この共有アクセスにより、アプリケーションの機能が大幅に向上します。

CSDMの詳細については、CSDM の概要 および コミュニティフォーラム を参照してください。

すべてのビデオの再生リストについては、「 すべての CSDM ビデオの再生リスト 」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

CSDMのハイライトオペレーショナルレジリエンス

以前に統合されたデータモデルは、サービスオファリングとアプリケーションサービスをサポートしていませんでした。最新の CSDM モデルでは、サービスオファリングとアプリケーションサービスの両方がサポートされるようになりました。

ステージングテーブルとピラー

オペレーショナルレジリエンス アプリケーションは、エンティティ階層テーブル [sn_grc_m2m_profile_profile] を使用して階層関係を保存します。たとえば、レコードにビジネスサービス (BS) として upstream_profile され、サービスオファリング (SO) として downstream_profile されている場合、ビジネスサービス (BS) が CSDM データモデルのサービスオファリング (SO) に直接接続していることを示します。

サービスプロセスのピラーは、 オペレーショナルレジリエンス内のすべてのステージングテーブルの親テーブルです。他のステージングテーブルは、そこからプロファイルフィールドを継承します。

ビジネスサービス (BS)、サービスオファリング (SO)、ビジネスプロセス (BP)、およびアプリケーションサービス (AS) の参照が [sn_oper_res_profile] テーブルに追加されます。

CSDMデータモデルに関連するテーブルの詳細については、「関連するテーブル CSDM」を参照してください。ピラーの詳細については、「 [ピラーの概要] タブ」を参照してください。

CSDM データワークフロービューとビジネスモデルビュー

CSDMモデルは、さまざまなビジネスモデルのビューに適用可能な、組織のレポートおよびレジリエンス環境を評価および強化するためのフレームワークを提供します。ServiceNow 製品はCSDMを認識し、構成管理データベース (CMDB)データはCSDMガイドラインに従って整理され、この構造を活用して機能を向上させます。

CSDM データワークフロー

CSDMデータワークフローを オペレーショナルレジリエンス と統合することで、さまざまなソースからのデータを使用して、コントロール環境の評価と改善をサポートします。データワークフローの概要は次のとおりです。

データコレクション

次のようなさまざまなソースからデータを収集します。

- リスク管理システム (リスク登録、リスクアセスメントなど)
- インシデント管理システム (インシデントレポート、根本原因分析など)
- 事業継続性管理 (BCM) システム (ビジネスインパクトアナリシス、復旧計画など)
- コンプライアンスおよび規制データ (監査レポート、規制要件など)
- 運用データ (重要業績評価指標 (KPI)、メトリクスなど)

データ統合

次のような手法を使用して、さまざまなソースのデータを一元化されたリポジトリまたはデータウェアハウスに統合します。

- データマッピングと変換
- データの正規化と標準化
- データ品質チェックと検証

データ分析

統合されたデータを分析して次のタスクを実行します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

- オペレーショナルレジリエンスのリスクとコントロールの欠陥を特定する
- コントロールとプロセスの有効性を評価する
- 中断がビジネスオペレーションに与える影響を評価する
- オペレーショナルレジリエンスデータの傾向とパターンを特定する

CSDM 統合

分析されたデータを使用して、 CSDM プロセスをサポートします。

- リスクアセスメントとコントロール目標の定義
- コントロールアクティビティの識別と文書化
- コントロールの評価とテスト
- 修復および是正アクション計画

レポートと可視化

次のタスクを実行するためのレポート機能と可視化機能を提供します。

- オペレーショナルレジリエンスと CSDM に関するインサイトをステークホルダーに伝える
- アクションの意思決定と優先順位付けをサポート
- 進捗状況を監視し、重要業績評価指標 (KPI) を追跡する

データワークフローに従うことで、組織は次のタスクを実行できます。

- オペレーショナルレジリエンスと CSDM データを統合して、包括的な制御環境アセスメントをサポートします
- オペレーショナルレジリエンスリスクの特定と軽減
- コントロールとプロセスの有効性の向上
- 事業継続性とレジリエンスの強化
- 情報に基づいた意思決定とアクションの優先順位付けをサポート

このデータ駆動型のアプローチにより、組織はオペレーショナルレジリエンスを積極的に管理し、全体的な目標をサポートする堅牢な制御環境を確保できます。

ビジネスモデルビュー

CSDM は、次の例に示すように、さまざまなビジネスモデルビューに適用できるフレームワークを提供します。

1. プロセスビュー:財務レポート、調達、顧客オンボーディングなど、特定のビジネスプロセスのコントロール環境を評価して改善します。
2. 機能ビュー:ファイナンス、HR、IT などの特定の機能領域のコントロール環境を評価します。
3. エンティティビュー:大規模な組織内の個々のエンティティまたは子会社のコントロール環境を評価します。
4. 部門横断ビュー:リスク管理、コンプライアンス、内部監査などの部門横断型のプロセスのコントロール環境を評価します。
5. エンタープライズビュー:組織全体のコントロール環境を評価して、一貫性のある効果的なコントロールフレームワークを確保します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

これらの各ビューでは、 CSDM モデルを使用して、組織が次のタスクを実行することができます。

- リスクの特定と評価
- コントロール目標とアクティビティの定義と文書化
- コントロール有効性を評価
- 継続的改善の文化を育む

CSDMモデルをさまざまなビジネスモデルのビューに適用することで、組織は次のアクティビティからメリットを得ることができます。

- さまざまなレベルでリスクを特定して軽減します
- プロセスの効率と有効性の向上
- コンプライアンスと規制遵守の強化
- 組織全体で一貫したコントロール環境を確保する

この柔軟なアプローチとメインノード構成の使用により、組織は特定のビジネスニーズに合わせてCSDM 実装をカスタマイズし、堅牢で効果的な制御環境を確保できます。

メインノード構成の設定については、「 メインノード構成」を参照してください。

CSDMモデルに沿ったオペレーショナルレジリエンスデータの収集については、「最新の CSDM セットアップに沿ったデータの収集とランディングページとダッシュボードのビュー」を参照してください。

メインノード構成

リリース 20.1.x 以降、 データリレーションシップフレームワークでサポートされているメインノード構成を、依存関係ロールアップチェーンを定義する オペレーショナルレジリエンス で使用できます。 オペレーショナルレジリエンス アドミニストレーターは、エンティティタイプとピラーを構成し、エンティティを生成してから、さまざまな CSDM オブジェクト間の関係を確立します。このセットアップが完了すると、 CMDB のデータが オペレーショナルレジリエンス にフェッチされ、ロールアップされた依存関係が ワークスペース ビューに表示されます。

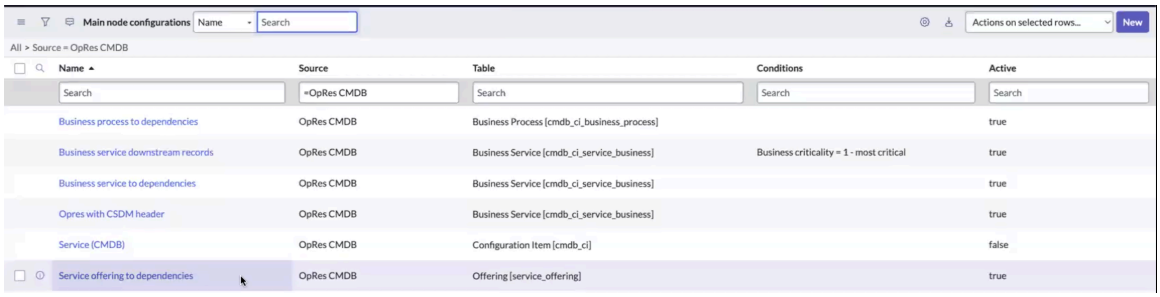
データリレーションシップフレームワーク (sn_grc_rel_config) アプリケーションは、CMDBからデータを取得するための基礎となるフレームワークを提供します。オペレーショナルレジリエンスのメインノード構成は、CSDMモデルのさまざまなビジネスビューをサポートしています。メインノード構成で定義された関係は、 CSDM モデルで指定された関係と一致します。

ベースバージョンに含まれるメインノード構成

メインノード構成は、 オペレーショナルレジリエンス ベースバージョンに含まれています。ソースが OpRes CMDB である次のメインノード構成は、すぐに利用可能な状態で出荷されます。

- ビジネスプロセスから依存関係
- 下流レコードへのビジネスサービス
- 依存関係に対するビジネスサービス
- CSDM ヘッダー付き OpRes
- サービス (CMDB)
- 依存関係に対するサービスオファリング

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



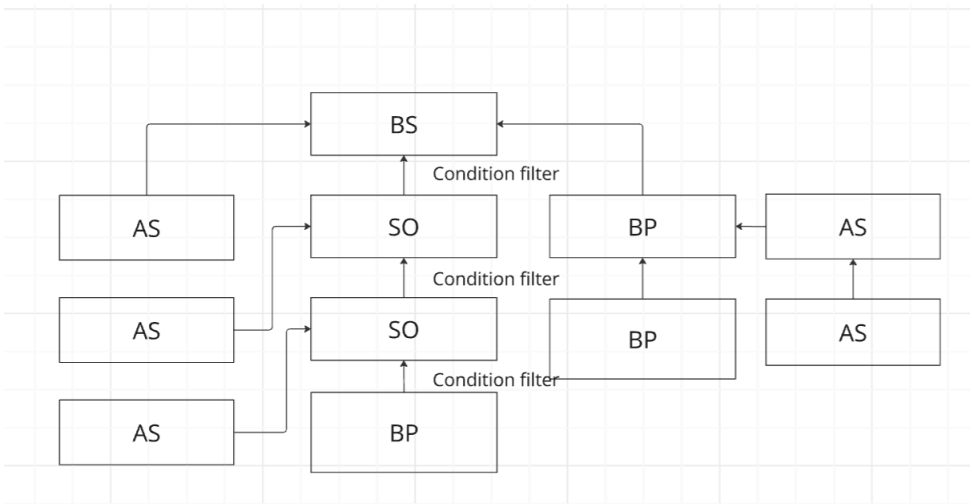
注:
メインノード構成は完全にカスタマイズ可能であり、構成ごとに、[ノード関係構成] 関連リストからノード関係を設定できます。ノード関係の構成を更新する方法の詳細については、「ノード関係構成レコードの作成」を参照してください。

1. ビジネスサービス用の OSDM ヘッダー構成 (Opres with CSDM header configuration):CSDM ヘッダー構成を使用した Opres は、ビジネスサービスの関係を定義し、主に新規顧客によって使用されます。

   この構成では、次のオブジェクト間の直接的および間接的な関係が設定されます。

   a. アプリケーションサービス
   b. ビジネスプロセス
   c. ビジネスサービス
   d. サービスオファリング

   次の図は、 オペレーショナルレジリエンス でベースバージョンとして利用可能な、CSDM ヘッダー構成を使用した OpRes の構造を示しています。ビジネスサービスには、1 つ以上のアプリケーションサービス、サービスオファリング、およびビジネスプロセスで構成された関係を設定できます。エンティティが生成され、スケジュール済みジョブが実行されると、依存関係がフェッチされ、親ビジネスサービスにロールアップされます。例に示すように、構成は複数レベルの依存関係をサポートしています。



   CSDM ヘッダーを使用した OpRes の構成の詳細については、「CSDM ヘッダーを使用した OpRes メインノード構成」を参照してください。

2. サービスのサービス (CMDB) 構成:サービス (CMDB) 構成は、サービスの関係を定義し、主に既存の顧客によって使用されます。子サービスを持つ親サービス、プロセス、依存関係など、1 つのレベルの依存関係のみをサポートします。子サービスにはプロセスと依存関係 (例に示すように

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Dep2 や Dep4 など) を含めることができ、プロセスには依存関係 (サンプル階層に示されている Dep3 など) を含めることができます。

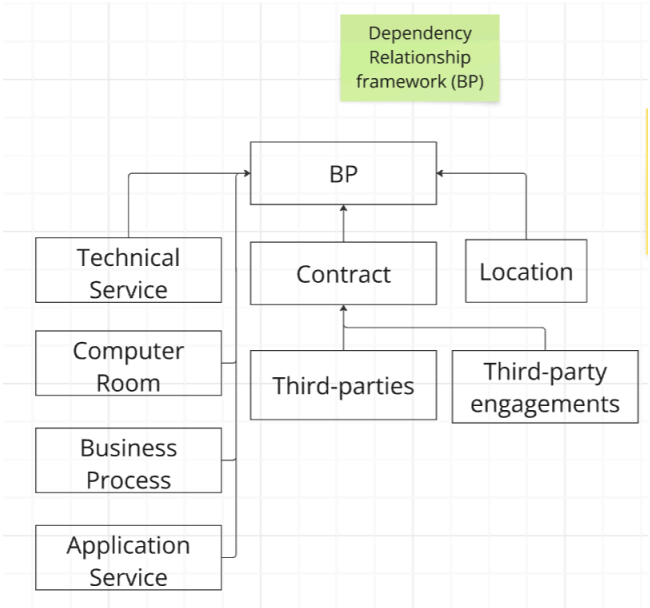


サービス (CMDB) 構成の詳細については、「サービス (CMDB) メインノード構成」を参照してください。

3. 依存関係構成:

依存関係構成では、ビジネスサービス、ビジネスプロセス、およびサービスオファリングに関連する依存関係の関係を定義します。

a. ビジネスプロセスから依存関係:ビジネスプロセスから依存関係の構成では、ビジネスプロセスからその依存関係との関係を定義します。次の図は、 オペレーショナルレジリエンス でベースバージョンとして利用可能なビジネスプロセスの依存関係フレームワークを示しています。ビジネスプロセスは、アプリケーションサービス、他のビジネスプロセス、テクニカルサービス、契約、サードパーティなどとの関係を持つことができます。エンティティが生成され、スケジュール済みジョブが実行されると、依存関係がフェッチされ、親ビジネスプロセスにロールアップされます。



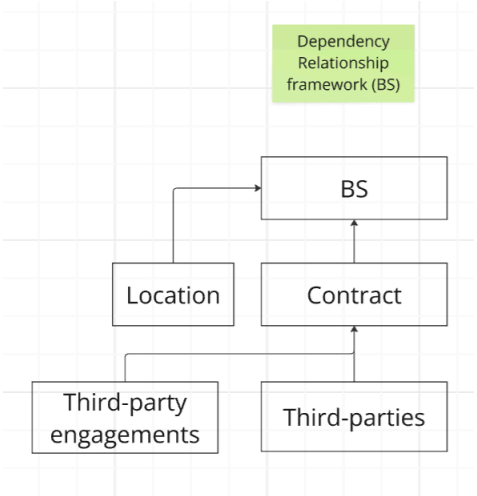
ビジネスプロセスから依存関係への構成の詳細については、「ビジネスプロセスから依存関係メインノード構成」を参照してください。

b. ビジネスサービスと依存関係:ビジネスサービスから依存関係の構成では、ビジネスサービスからその依存関係との関係を定義します。次の図は、 オペレーショナルレジリエンス でベースバージョンとして利用可能なビジネスサービスの依存関係フレームワークを示しています。ビジネスサービスは、場所、契約、サードパーティ、サードパーティエンゲージメントなどとの関係

自動翻訳

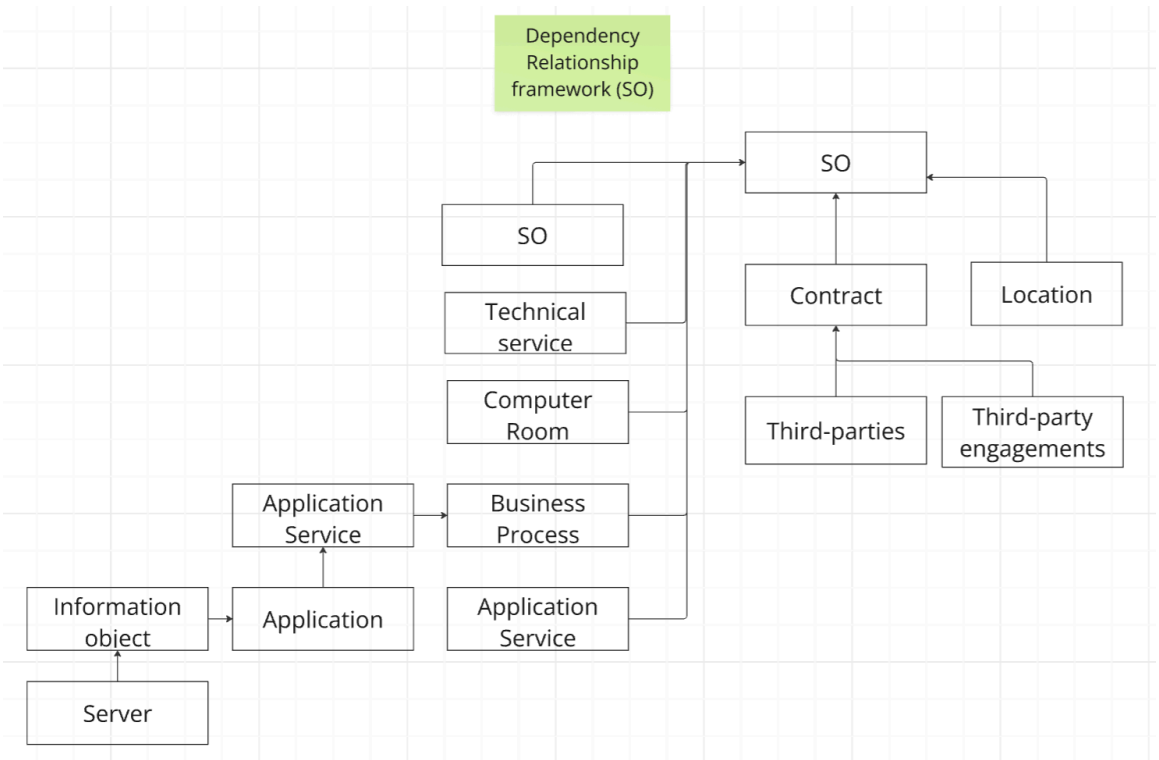
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

を持つことができます。エンティティが生成され、スケジュール済みジョブが実行されると、依存関係がフェッチされ、親ビジネスサービスにロールアップされます。



ビジネスサービスと依存関係の構成の詳細については、「ビジネスサービスから依存関係 メインノード構成」を参照してください。

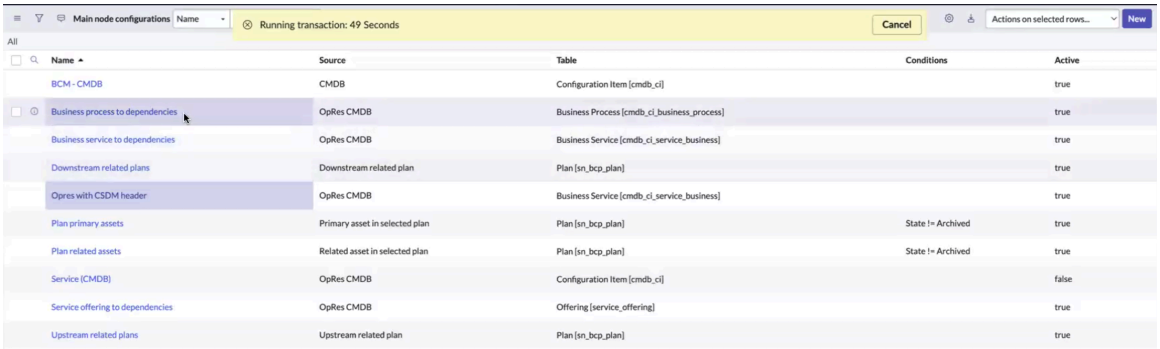
c. 依存関係へのサービスオファリング:依存関係へのサービスオファリング構成では、サービスオファリングからその依存関係への関係を定義します。次の図は、 オペレーショナルレジリエンス でベースバージョンとして利用可能なサービスオファリングの依存関係フレームワークを示しています。サービスオファリングは、アプリケーションサービス、他のビジネスプロセス、テクニカルサービス、契約、サードパーティなどとの関係を持つことができます。エンティティが生成され、スケジュール済みジョブが実行されると、依存関係がフェッチされ、親サービスオファリングにロールアップされます。



依存関係に対するサービスオファリング構成の詳細については、「依存関係に対するサービスオファリング メインノード構成」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. BCM 依存関係構成:事業継続性管理 アプリケーションがインスタンスにインストールされると、関連する依存関係BCMオペレーショナルレジリエンスアプリケーションにフェッチされます。例には、BCM-CMDB、ダウンストリーム関連計画、計画プライマリ資産、計画関連資産、アップストリーム関連計画など、 BCMに関連するメインノード構成が示されています。



BCM 依存関係構成の詳細については、「 BCM 関連依存関係 メインノード構成」を参照してください。

最新の CSDM モデルに合わせたデータ収集の詳細については、「 最新の CSDM セットアップに沿ったデータの収集」を参照してください。

メインノード構成を設定した後、エンティティが オペレーショナルレジリエンスで生成されていることを確認する必要があります。エンティティが オペレーショナルレジリエンス で生成され、関係がメインノード構成で作成された場合にのみ、 CMDB データをレポート用に オペレーショナルレジリエンス に取り込むことができます。

CSDMオブジェクト間の関係

メインノード構成を使用して、ビジネスサービス、サービスオファリング、ビジネスプロセス、アプリケーションサービスなどのさまざまな CSDM オブジェクト間の関係を構成できます。[sn_grc_m2m_profile_profileテーブル] は、これらの関係を確立するためのソーステーブルとして機能します。

異なるオブジェクト間の関係の確立

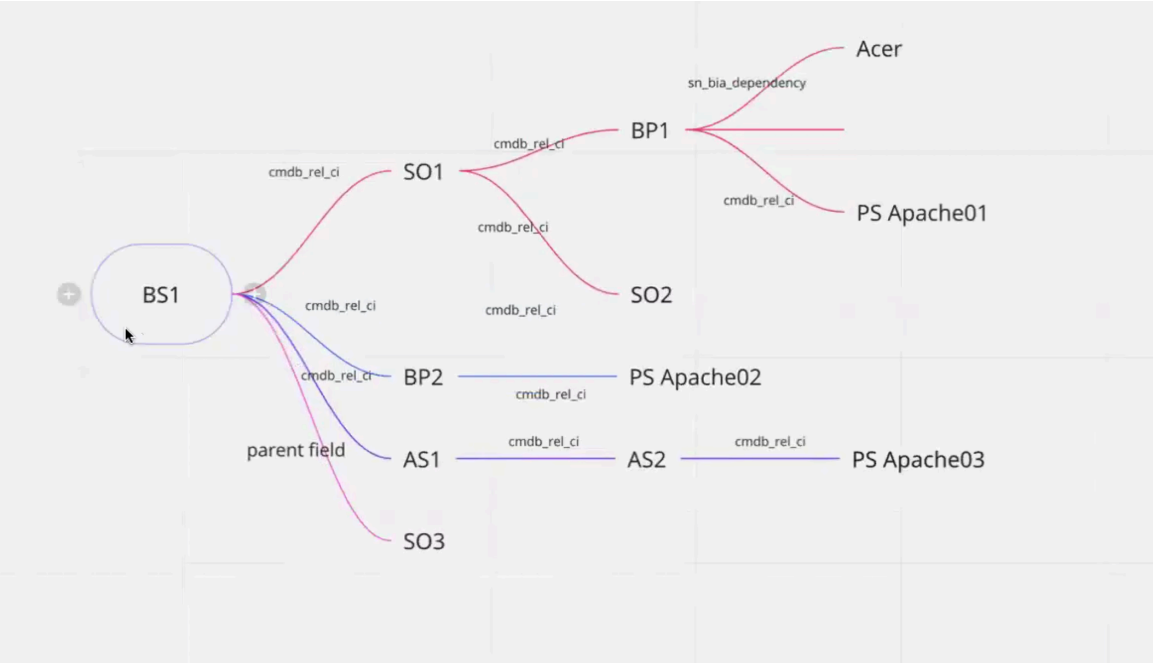
さまざまな CSDM オブジェクト間の関係を説明するために、次のビジネスサービス (BS1) の例を考えてみましょう。

例に示すように、ビジネスサービス (BS1) には、次のオブジェクトが含まれます。

- サービスオファリング (SO1)
- ビジネスプロセス (BP2)
- アプリケーションサービス (AS1)
- サービスオファリング (SO3)

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



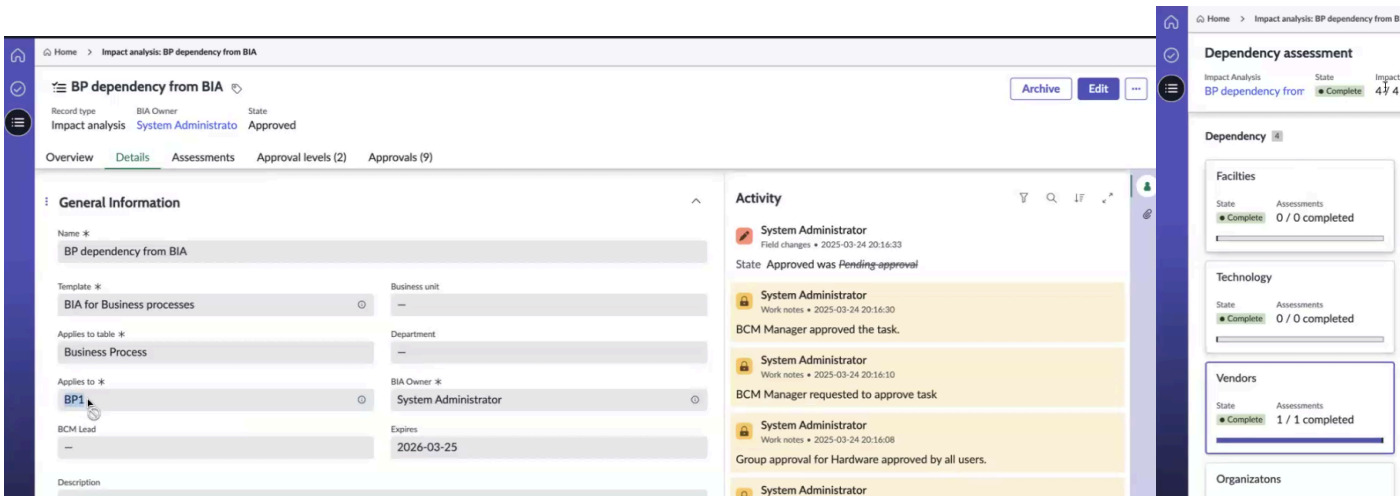
サービスオファリング (SO1) は、ビジネスプロセス (BP1) とサービスオファリング (SO2) に関連しています。BP1 には次の依存関係があります。

- エイサー
- PS Apache01

BP2 は PS Apache02 に依存しています。AS1 は AS2 に依存し、AS2 は PS Apache03 に依存しています。

注:
メインノード構成を設定するときは、エンティティが オペレーショナルレジリエンスで設定されていることを確認する必要があります。これらのエンティティが存在する場合にのみ、CSDM オブジェクト間の関係を確立し、データをレポート用に オペレーショナルレジリエンス に取り込むことができます。

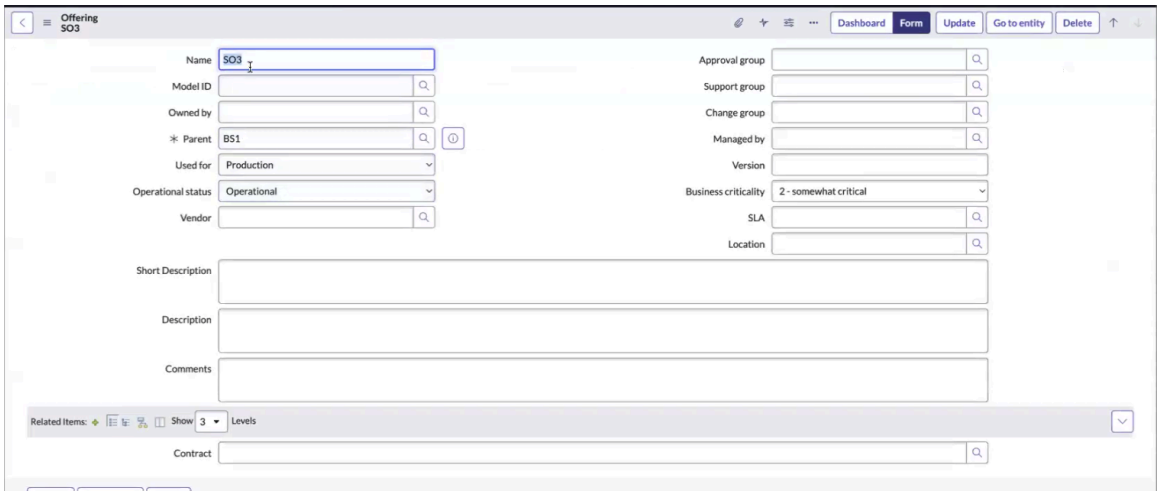
ビジネスインパクトアナリシス (BIA) の [適用先] フィールドには、依存関係を持つオブジェクトが表示されます。この例は、ビジネスプロセス (BP1) が依存関係として Acer を持つことを示しています。



また、依存関係は、[親] フィールドからサービスオファリングとアプリケーションサービスの オペレーショナルレジリエンス にも取り込まれます。たとえば、サービスオファリング (SO3) の親はビ

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ジネスサービス (BS1) です。したがって、スケジュール済みジョブが実行されると、ビジネスサービス (BS1) の構成済みの関係として SO3 がフェッチされます。



例に示すように、 CMDB 関係はすべて CI 関係 [cmdb_rel_ci] テーブルで維持されます。



これらの関係を オペレーショナルレジリエンスにするには、メインノード構成を使用する必要があります。詳細については、「メインノード設定レコードの作成」を参照してください。

ビジネスサービス、サービスオファリング、ビジネスプロセスなどのオブジェクト間に次の関係を確立できます。

関係の確立

エンティティ	関係性
ビジネスサービス	• ビジネスサービスのサービスオファリング:BS -> SO1、SO2 • ビジネスサービスのビジネスプロセス • ビジネスサービスのアプリケーションサービス • ビジネスサービスの依存関係

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関係の確立 (続く)

エンティティ	関係性
サービスオファリング	• サービスオファリングのビジネスプロセス • サービスオファリングのアプリケーションサービス • サービスオファリングの依存関係
ビジネスプロセス	• ビジネスプロセスのアプリケーションサービス • ビジネスプロセスの依存関係

同じ関係を複数のフォームに適用して使用できます。たとえば、ビジネスプロセス関係は、ビジネスサービスフォームとサービスオファリングフォームの両方で使用できます。

メインノードの構成については、「 メインノード構成」を参照してください。

オペレーショナルレジリエンスの構成

オペレーショナルレジリエンス アプリケーションを設定して、リスクと失敗したコントロールを特定し、サービスとプロセスを監視し、組織の完全なレジリエンスを確保します。

オペレーショナルレジリエンス の構成の概要

オペレーショナルレジリエンス アプリケーションの構成は、一般に次の手順で行います。

1. インスタンスに オペレーショナルレジリエンス アプリケーションをダウンロードします。手順については、「オペレーショナルレジリエンス アプリケーションのインストール」を参照してください。
2. ピラーの構成: オペレーショナルレジリエンス でピラーを構成します。新しいピラーを追加したり、既存のピラーを変更したりすることもできますが、ベースシステムに付属するピラーを保持することをお勧めします。詳細については、「ピラーを構成する」を参照してください。
3. エンティティタイプとエンティティフィルターの構成:エンティティタイプとエンティティフィルターをアクティブ化します。詳細については、「エンティティタイプとエンティティフィルターの構成」を参照してください。
4. メインノード構成:ベースシステムで利用可能なメインノード構成を更新するか、メインノード構成を追加します。詳細については、「メインノード設定レコードの作成」を参照してください。
5. プロパティ:ビジネスニーズに合わせてプロパティを構成します。詳細については、「オペレーショナルレジリエンス プロパティの設定」を参照してください。
6. ダッシュボードのカスタマイズ:要件に合わせて必要に応じてレポートを追加または削除して、ダッシュボードをカスタマイズします。詳細については、「柔軟なデータモデルの使用」と「ランディングページとダッシュボードのビュー」を参照してください。

メインノード構成の例

オペレーショナルレジリエンスアプリケーションで新しいメインノード構成を作成するには、次のエンドツーエンドの例を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Services to dependencies のサンプルメインノード構成を作成するには、「 サービスと依存関係の構成例」を参照してください。
- 依存関係に対するアプリケーションサービスのサンプルメインノード構成を作成するには、「 アプリケーションサービスと依存関係の構成の例」を参照してください。
- ビジネスサービスのエンドツーエンドワークフローを構成し、その CSDM 依存関係と危険フラグデータをフェッチして オペレーショナルレジリエンスするには、「 ビジネスサービスのエンドツーエンドワークフローのサンプル」を参照してください。
- サービスのエンドツーエンドワークフローを構成し、その CSDM 依存関係と危険フラグデータをフェッチして オペレーショナルレジリエンスするには、「 サービスのエンドツーエンドワークフローのサンプル」を参照してください。

その他の一般的な管理セットアップ タスクについては、「 一般的な管理タスクの完了」を参照してください。

オペレーショナルレジリエンス アプリケーションのインストール

ServiceNow Storeから GRC: オペレーショナルレジリエンス アプリケーションをインストールし、インスタンスで実行します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. 移動先 システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. フィルター基準と検索バーを使用して、 GRC：オペレーショナルレジリエンス (アプリID:sn_oper_res) アプリケーションを検索します。

   名前または ID でアプリケーションを検索できます。アプリケーションが見つからない場合は、ServiceNow Store へのリクエストが必要になることもあります。

   ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

3. **[Install** (インストール)] を選択します。
   アプリケーションの依存関係はデフォルトでインストールされます。
4. デモデータが利用可能になり、ロードするには、[デモデータのロード] を選択します。

   一部のアプリケーションには、デモデータ (一般的なユースケース向けのアプリケーション機能を説明するサンプルレコード) が含まれています。開発またはテストインスタンスで初めてアプリケーションをインストールする場合は、デモデータを読み込みます。

   > **注:**
   > インストール時にストアアプリケーションの [デモデータのロード] チェックボックスをオンにしないと、後で アプリケーションマネージャーからデモデータをインストールできません。初期インストール後にデモデータをインストールまたは再インストールする方法については、HI ナレッジベースで「アプリケーションが既にインストールされている場合にデモデータをインストールする方法 [KB0722909]」記事を参照してください。

5. **[Install** (インストール)] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

プラグインのリスト

ユーザーに オペレーショナルレジリエンス ロールをアサイン

オペレーショナルレジリエンス アプリケーションのユーザーに適切なロールを割り当てます。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.admin

このタスクについて

オペレーショナルレジリエンス アプリケーションを正常に使用するには、ユーザーに適切なロールをアサインする必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > ユーザー管理 > ユーザー.
2. ユーザーの名前をクリックします。
3. [ロール] タブをクリックします。
4. [編集] をクリックします。
5. ユーザーに割り当てるロールをコレクション側からロールリストに移動し、[保存] をクリックします。
6. 各ユーザーに対して、これらの手順を繰り返します。
   ロールに関する詳細については、「オペレーショナルレジリエンスとともにインストールされるロール」を参照してください。

ピラー、エンティティタイプを設定し、エンティティを生成する

オペレーショナルレジリエンスワークスペースからエンティティタイプとピラーを作成し、オペレーショナルレジリエンスアプリケーションのセットアップに基づいてエンティティを生成します。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.manager

このタスクについて

注:
オペレーショナルレジリエンスアドミニストレーターは、次のタスクを実行する必要があります。

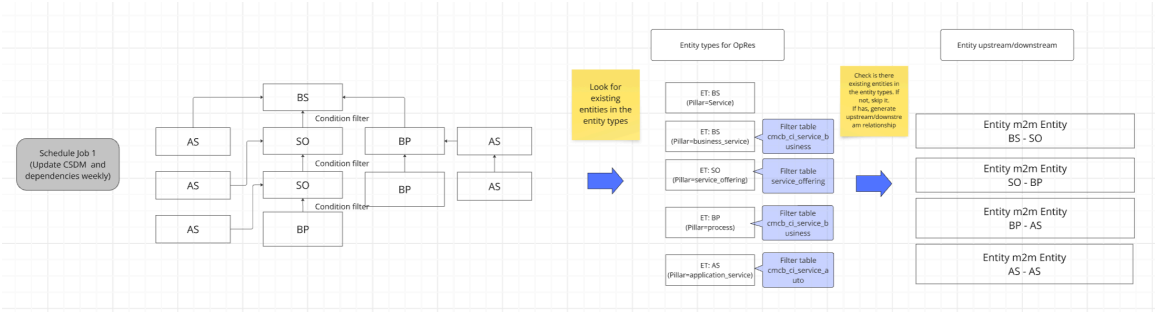
1. 必要なエンティティタイプをアクティブ化します。
2. 必要なエンティティフィルターをアクティブ化します。
3. 新しいピラーとエンティティタイプを作成するか、既存のピラーとエンティティタイプを更新します。
4. セットアップに基づいてエンティティを生成します。

オペレーショナルレジリエンス マネージャーはエンティティタイプを作成または更新できますが、エンティティタイプを削除することはできません。エンティティをエンティティタイプに手動で追加することも、 オペレーショナルレジリエンス マネージャーがエンティティフィルターを使用してエンティティを自動的に作成することもできます。エンティティは、スケジュール済みジョブの実行時に関係を作成するために必要です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CMDB関係が変更され、CMDB関係の両側にエンティティがある場合、エンティティ関係はオペレーショナルレジリエンス側に作成されます。ただし、エンティティ関係が作成または削除された場合、これらの変更は CMDBには反映されません。

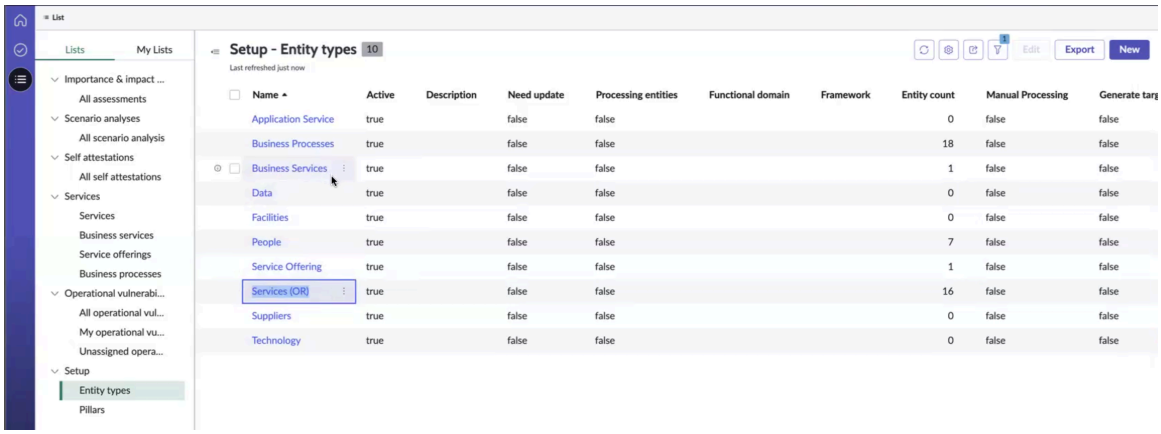


注:
CMDBで関係が変更されると、エンティティ階層への関係が作成されますが、エンティティ階層内の古い関係は削除されます。エンティティ階層で古い関係を手動で削除する必要がある場合があります。

手順

1. 移動先 オペレーショナルレジリエンスワークスペース > エンティティタイプ |柱 移動します

   エンティティタイプがリストビューに表示されます。



   サービスの場合は、サービス (OR) エンティティタイプを使用します。ビジネスサービスの場合は、ビジネスサービスエンティティタイプを使用します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:

サービス (OR)、ビジネスサービス、およびビジネスプロセスのエンティティタイプは、CSDM ヘッダー構成で OpRes によって使用されるメイン CSDM ピラーに関連付けられています。したがって、サービス (OR)、ビジネスサービス、およびビジネスプロセスのエンティティタイプを変更しないでください。追加、更新、または削除できるのは、次のエンティティタイプのみです。

a. アプリケーションサービス

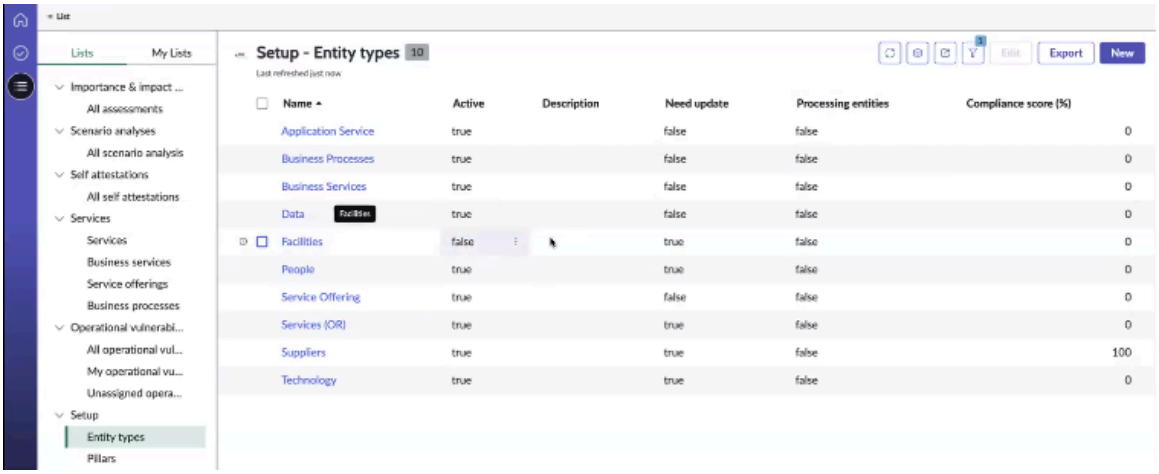
b. データ

c. 施設

d. 人々

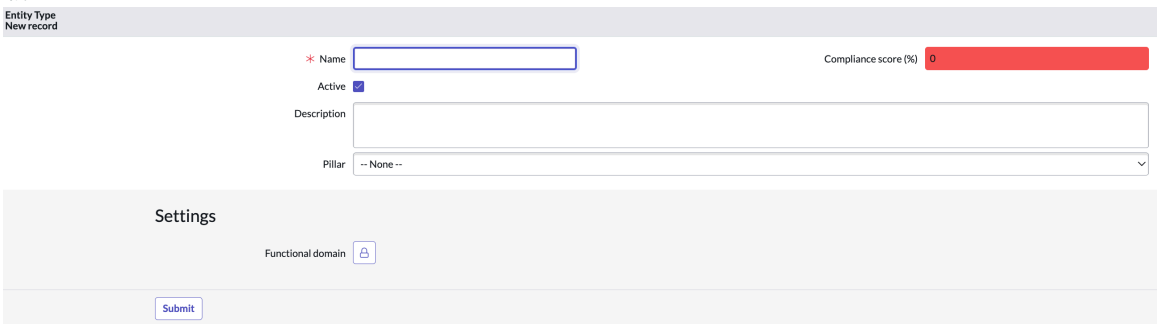
e. サプライヤー

f. テクノロジー



2. エンティティタイプを作成するには、[エンティティタイプ] ビューで [新規] を選択します。
3. エンティティタイプを作成するには、[エンティティタイプ] 画面に戻り、[新規] を選択します。

新しいエンティティタイプ

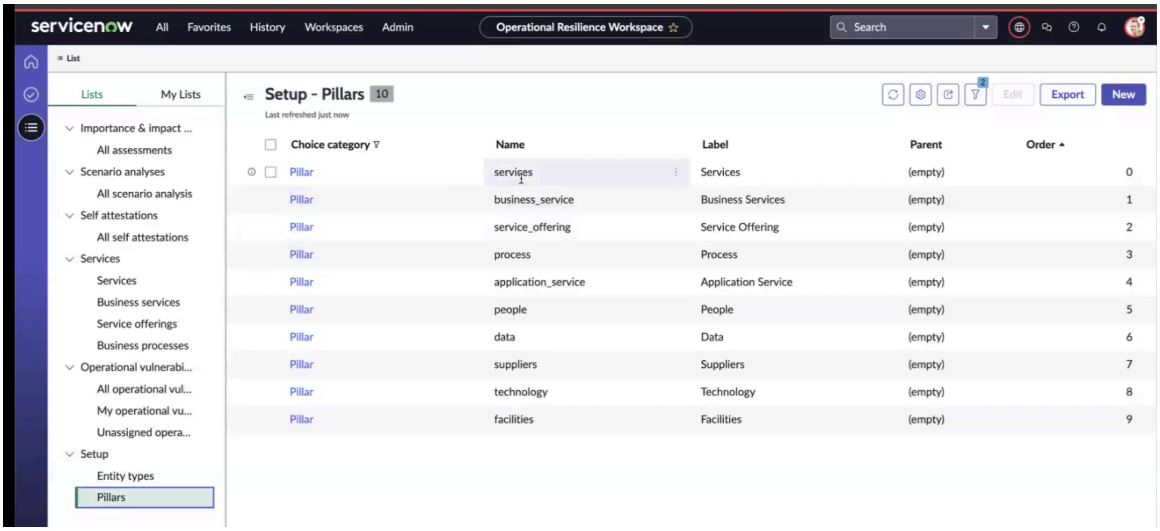


フィールドの詳細については、「エンティティタイプの新規レコードフォーム」を参照してください。

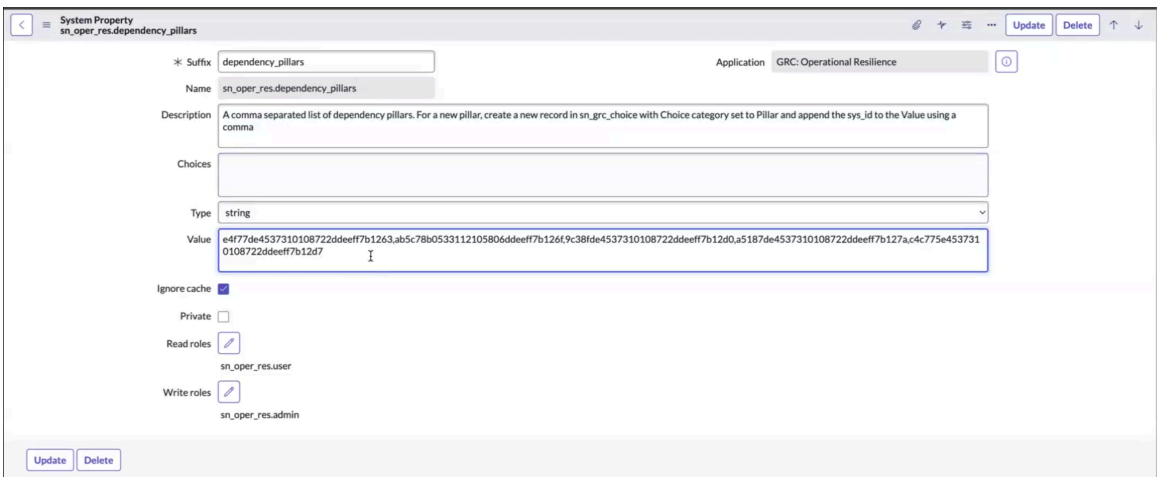
4. オペレーショナルレジリエンス アプリケーションからピラーを作成するには、[ピラー] ビューで [新規] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
メイン CSDM ピラー (メインノード構成の CSDM ヘッダーとともに Opres によって使用される) と補助ピラーを次の例に示します。主な CSDM 柱は、サービス、ビジネスサービス、サービスオファリング、およびプロセスです。サポートの柱は、アプリケーションサービス、人員、データ、サプライヤー、テクノロジー、および設備です。



既存のピラーを削除してピラーを追加する場合は、[値] フィールドでピラープロパティを手動で更新する必要があります。



5. ピラーを作成するには、 新規 を選択します。

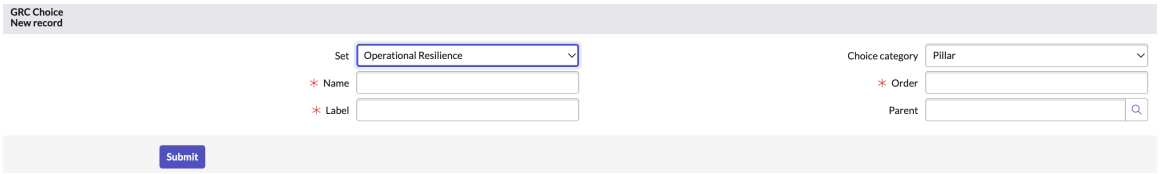
GRC 選択肢レコードを例に示します。

フィールドの詳細については、「GRC 選択肢フォーム」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ピラーを作成するための **GRC** 選択肢レコード



注:
エンティティタイプとピラーを作成し、 ワークスペース ビューまたは コア UI (UI16) ビューからエンティティを生成できます。エンティティタイプ、ピラー、およびエンティティを設定したら、 一般的な管理タスクの完了で概説した残りの必要な管理タスクを完了し、メインノード構成の設定に進みます。

次のタスク
残りの必要な管理タスクを完了するには、 一般的な管理タスクの完了の他のセクションを参照してください。

メインノード構成の設定については、「 メインノード構成」を参照してください。

ピラーを構成する

オペレーショナルレジリエンス アプリケーションの コア UI (UI16) ビューを使用してピラーを構成します。その後、ビジネスエンティティに関連するコア領域を定義できます。

始める前に
必要なロール：sn_oper_res.admin

このタスクについて
注:
前のステップ (ピラー、エンティティタイプを設定し、エンティティを生成する) でワークスペースビューからエンティティタイプとピラーを設定した場合は、このステップを無視してメインノード構成に進むことができます。

オペレーショナルレジリエンス ベースシステムには、テクノロジー、施設、人員、サービス、プロセス、サプライヤーなどの事前定義された要素が含まれています。ピラーを作成することも、ビジネス要件に対して事前定義されたピラーを使用することもできます。

これで、アプリケーションサービス、サービスオファリング、ビジネスサービス、およびデータのピラーがテーブルに追加されました。

ピラーが機能するために、エンティティタイプを使用して必要なエンティティが作成されます。

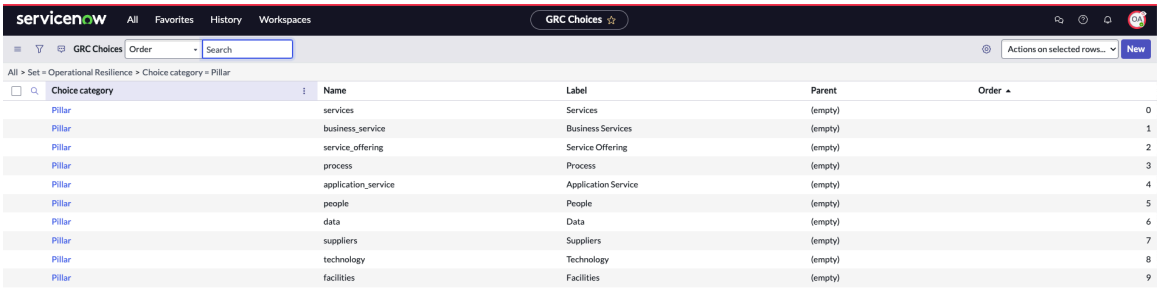
手順
1. 移動先 すべて > オペレーショナルレジリエンス > 管理者 > ピラー.

   次の例は、ベースシステムのピラーを示しています。ピラーごとに、デフォルトのエンティティタイプがベースシステムに含まれています。たとえば、テクノロジーピラーには、テクノロジーエンティティタイプが事前に選択されています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ベースシステムのピラー

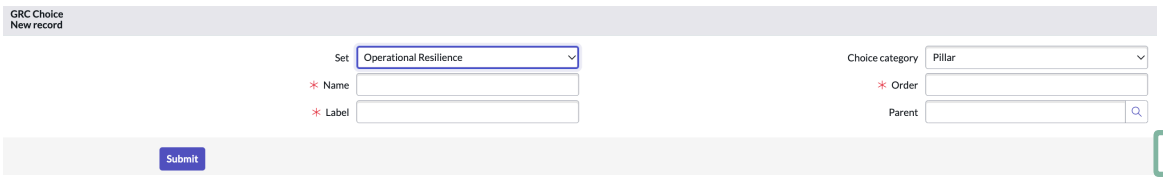


リリース 20.0.x 以降、次のエンティティタイプがテーブルに追加されました。

- アプリケーションサービス
- サービスオファリング
- ビジネスサービス
- データ

2. ピラーを作成するには、 新規 を選択します。

ピラーを作成するための **GRC** 選択肢レコード



3. フォームのフィールドに入力します。
   フィールド値の説明については、「GRC 選択肢フォーム」を参照してください。
4. [送信] を選択します。

GRC 選択肢フォーム

GRC 選択肢フォームを使用してピラーを設定し、ビジネスエンティティのコア領域を定義します。

GRC 選択肢フォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

GRC 選択肢フォーム

フィールド	説明
セット	オペレーショナルレジリエンス に設定されているビュー。
名前	ピラーが属する名前 (プロセス、サプライヤー、テクノロジー、施設、人員、サービス、プロセスなど)
ラベル	UI に表示されるピラーのラベル。
選択肢カテゴリ	デフォルトで [ピラー] に設定されているカテゴリ。
順序	ピラーの順序。
親	選択したピラーに関連付けられている親エンティティ。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンティティタイプとエンティティフィルターの構成

オペレーショナルレジリエンス アプリケーションの コア UI (UI16) ビューを使用して、エンティティタイプとエンティティフィルターを構成します。IT により、ビジネスエンティティに関連するデータを定義できます。

始める前に
必要なロール：sn_oper_res.admin

このタスクについて

注:
前のステップ (ピラー、エンティティタイプを設定し、エンティティを生成する) でワークスペースビューからエンティティタイプとピラーを設定した場合は、このステップを無視してメインノード構成に進むことができます。

ガバナンス、リスク、コンプライアンス 内のエンティティは、ユーザー、プロセス、部門、アプリケーション、またはオブジェクトです。ガバナンス、リスク、コンプライアンス のエンティティタイプは、類似の属性を持つエンティティのグループです。

オペレーショナルレジリエンス アプリケーションのエンティティタイプフォームには、エンティティのデータを定義するエンティティフィルターが事前設定されています。

ベースシステムで提供される事前定義されたエンティティタイプを使用するか、ビジネス要件に応じてエンティティタイプを作成できます。出荷されたこれらのエンティティタイプを使用して オペレーショナルレジリエンス を運用したり、必要に応じて編集したり、エンティティタイプを作成したりすることができます。

既存のレコードからエンティティを作成するには、[**OpRes** レポートに追加] UI アクションを選択して、エンティティレコードをエンティティタイプに追加します。

注:
オペレーショナルレジリエンスアドミニストレーターは、次のタスクを実行する必要があります。

1. 必要なエンティティタイプをアクティブ化します。
2. 必要なエンティティフィルターをアクティブ化します。
3. 新しいピラーとエンティティタイプを作成するか、既存のピラーとエンティティタイプを更新します。
4. セットアップに基づいてエンティティを生成します。

オペレーショナルレジリエンスマネージャーはエンティティタイプを作成できませんが、エンティティタイプを更新することはできます。

手順

1. 移動先 すべて > オペレーショナルレジリエンス > 管理者 > エンティティタイプ.
   リリース 20.1.x 以降、次のエンティティタイプがテーブルに追加されました。
   - アプリケーションサービス
   - サービスオファリング
   - ビジネスサービス
   - データ
2. エンティティタイプレコードの [名前] を選択し、その詳細を表示します。

   エンティティタイプでは、エンティティフィルターの組み合わせを使用してエンティティタイプにエンティティが選択されます。デフォルトでは、すべてのエンティティタイプとエンティティフィ

自動翻訳

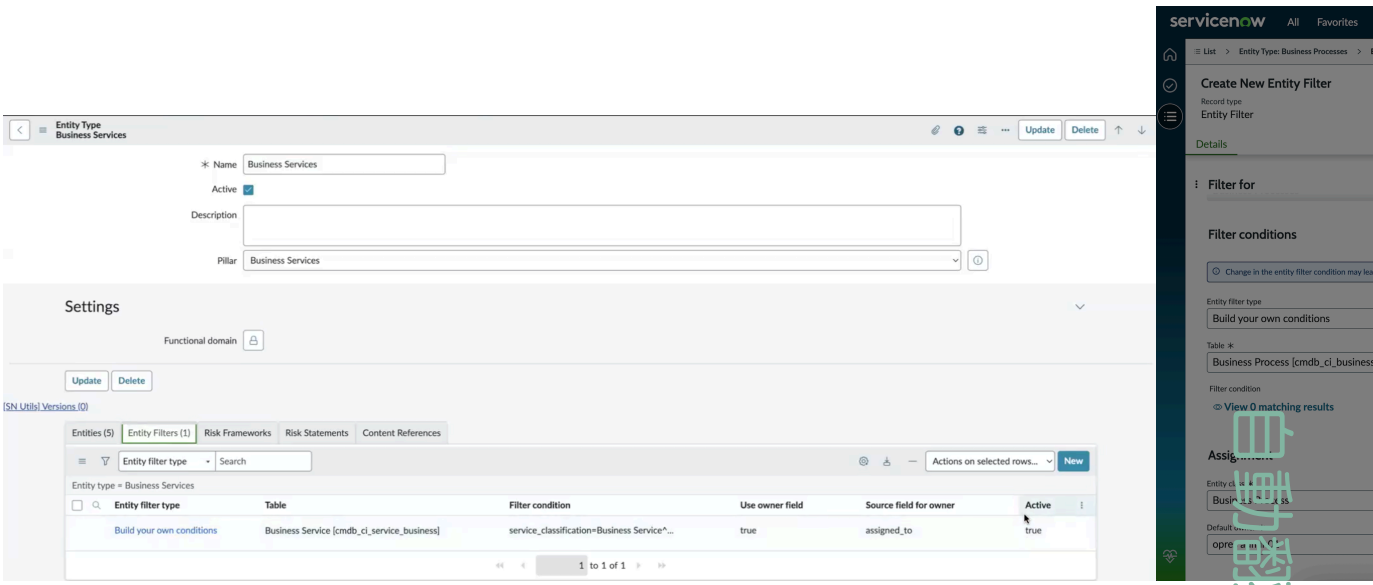
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ルターはアプリケーションで非アクティブになっています。必要に応じて、エンティティタイプとエンティティフィルターをアクティブ化できます。

> **注:**
> デフォルトのエンティティタイプは、アプリケーションのピラーにデータをプルするために使用されます。

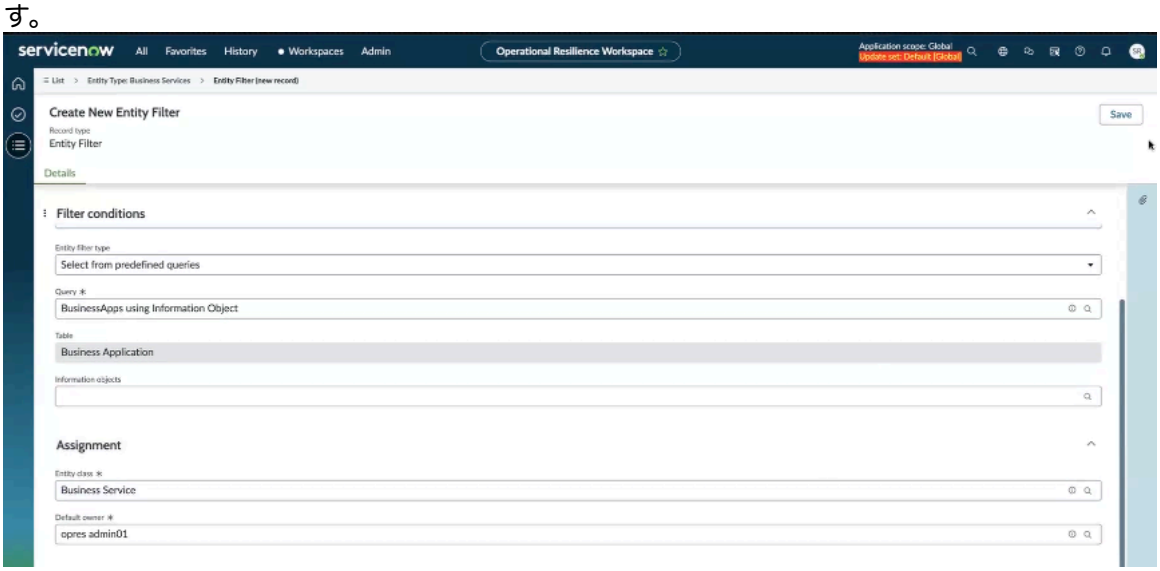
3. フィルター条件を更新するには、[エンティティフィルター] 関連リストを選択し、[独自の条件を作成] を選択します。

   例では、[エンティティフィルター] 関連リストと [独自の条件を作成] オプションが示されています。



エンティティフィルターは、 オペレーショナルレジリエンス アプリケーションに表示するために各エンティティタイプにプルされるデータの取得元テーブルを定義するために使用されます。フィルター条件では、サービス分類フィールドが「ビジネスサービスと運用」に設定され、サービスの運用ステータスが「運用中」である必要があります。これらの条件は、エンティティタイプがエンティティレコードを持つことができるかどうかを決定します。

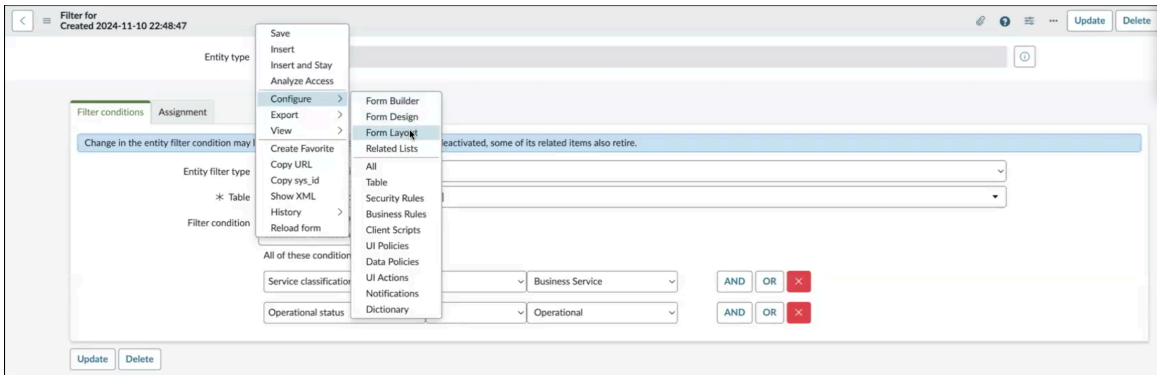
4. 独自の条件を作成する代わりに事前定義されたクエリを使用するには、[エンティティフィルタータイプ] フィールドで [事前定義されたクエリから選択] オプションを選択し、[保存] を選択します。



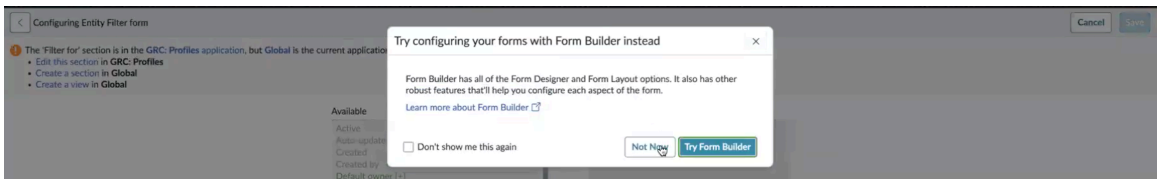
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. フォームの [ビジネスサービス] および [アプリケーションサービスエンティティ] タイプの [エンティティフィルター] 関連リストを確認します。
   選択したフィルターがエンティティに適用されていることを確認できます。
6. エンティティタイプを作成するには、[エンティティタイプ] 画面に戻り、[新規] を選択します。
7. フォームで、フィールドに入力します。
   フィールド値の説明については、「エンティティタイプの新規レコードフォーム」を参照してください。
8. **[Submit** (送信)] を選択します。
   新しく定義されたエンティティタイプが [エンティティタイプ] 画面に一覧表示されます。
9. エンティティフィルターページから直接エンティティフィルターをアクティブ化するには、次の手順を実行します。

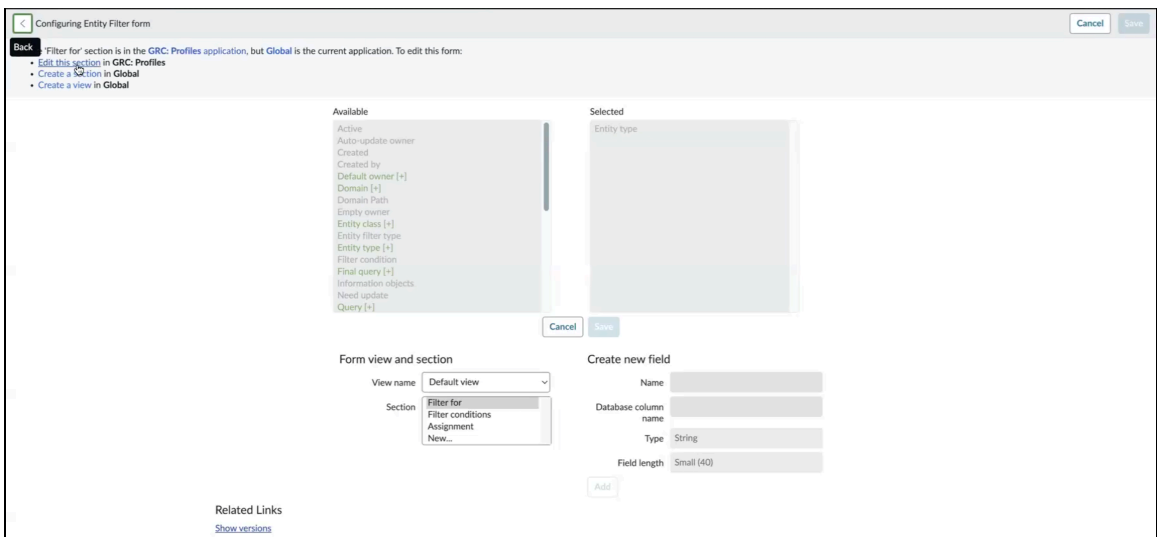
   a. エンティティフィルターレコードのページヘッダーを選択して長押し (または右クリック) し、 > フォームレイアウトの設定.



フォームビルダーを試すオプションが表示された場合は、[今はしない]を選択できます。



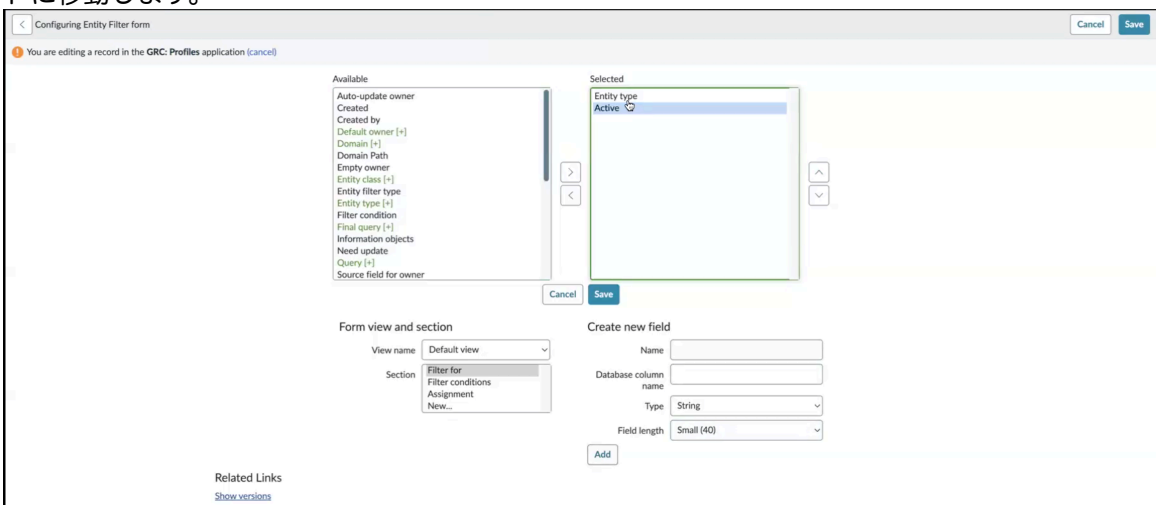
[エンティティフィルターの構成] フォームで [このセクションの編集] を選択して、ピッカーリストを表示できます。



自動翻訳

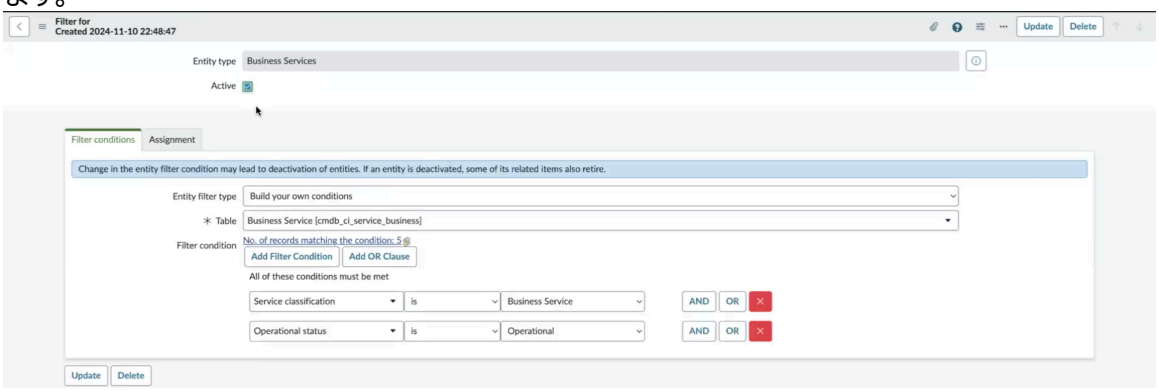
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

b. 左側の [利用可能] 選択リストから [アクティブ] を選択し、右矢印を使用して [選択済み] リストに移動します。



c. **[Save** (保存)] を選択します。
[エンティティフィルター] ページに、[アクティブ] ラベルの付いたチェックボックスが表示されます。

d. エンティティフィルターをアクティブ化するには、[アクティブ] チェックボックスをオンにします。



1 つのエンティティフィルターに対してこの変更が行われると、[エンティティフィルター] リスト内の他のすべてのレコードの [アクティブ] オプションがデフォルトで **True** に設定されます。

次のタスク
レポート用に 構成管理データベース (CMDB) データを オペレーショナルレジリエンス にフェッチできるように、メインノード構成を設定します。詳細については、「メインノード構成」を参照してください。

エンティティタイプの新規レコードフォーム

エンティティタイプの新規レコードフォームを使用して、ビジネス要件に応じてエンティティタイプを作成します。

エンティティタイプの新規レコードフォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

エンティティタイプの新規レコードフォーム

フィールド	説明
名前	ビジネスプロセス、サービス、施設などのエンティティタイプの名前。
コンプライアンススコア (%)	ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションで定義されたエンティティタイプのコンプライアンススコア (%)。自動入力フィールド。
有効	エンティティタイプをアクティブとしてマークするオプション。
説明	エンティティタイプの説明。
Pillar	リスクデータを整理するために使用され、エンティティタイプが割り当てられるカテゴリ。利用可能なオプションは次のとおりです。 • サービス • プロセス • サプライヤー • テクノロジー • 施設 • 人員
設定	
機能ドメイン	エンティティの機能ドメイン (IT やリスクコンプライアンスなど)。

メインノード設定レコードの作成

レポート用にデータを オペレーショナルレジリエンス にフェッチするためのメインノード構成レコードを作成します。メインノード構成はベースシステムで使用できます。既存のメインノード構成を使用することも、ビジネスニーズに合わせて新しいメインノード構成を作成することもできます。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.admin

このタスクについて

メインノード構成では、ソースデータのリンク方法を定義します。たとえば、あるテーブルを別のテーブルとどのように関連付けるかなどです。関係は、次の方法で定義できます。

直接

これは、いずれかのテーブルの直接参照フィールドを介して行うことも、m2m テーブルを介して行うこともできます。

間接

テーブルが直接関連していない場合は、スクリプトを使用してテーブルの関係を定義できます。スクリプトオプションを使用すると、柔軟性が向上します。ただし、ほとんどのユースケースでは、direct オプションが目的を果たします。

メインノード構成レコードを作成する前に、次の前提条件を満たしていることを確認してください。

1. 新しいメインノード構成は、sn_oper_res.admin ロールでのみ作成できます。
2. [オペレーショナルレジリエンスの構成] ページに記載されている構成セットアップ手順を完了しました。
3. デフォルトでは、 データリレーションシップフレームワーク (sn_grc_rel_config) アプリケーションがインスタンスにインストールされます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

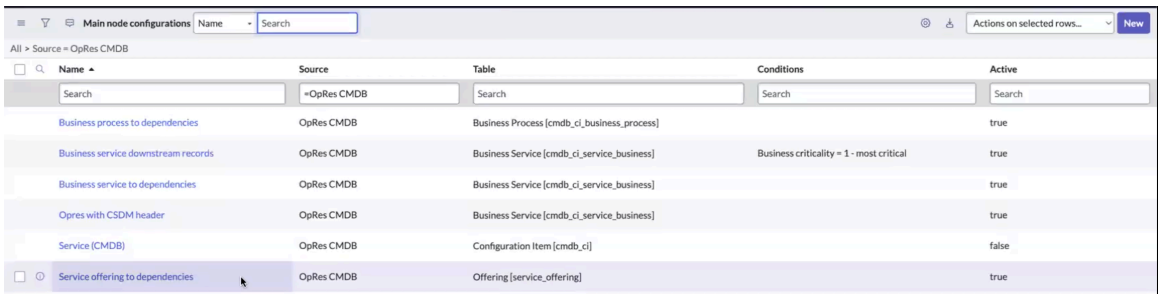
4. エンティティは オペレーショナルレジリエンス で生成されます。エンティティが生成され、メインノード構成で関係が作成された場合にのみ、 CMDB データをレポート用に オペレーショナルレジリエンス に取り込むことができます。
5. ソースが **OpRes CMDB** であるすべてのメインノード構成は並行して実行されます。
6. レポートを有効にするには、メインノード構成でエンティティが生成され、関係が確立されていることを確認します。これらの手順が完了した後にのみ、データをレポート用に取り込むことができます。

手順

1. 移動先 すべて > データ関係フレームワーク > メインノード構成.

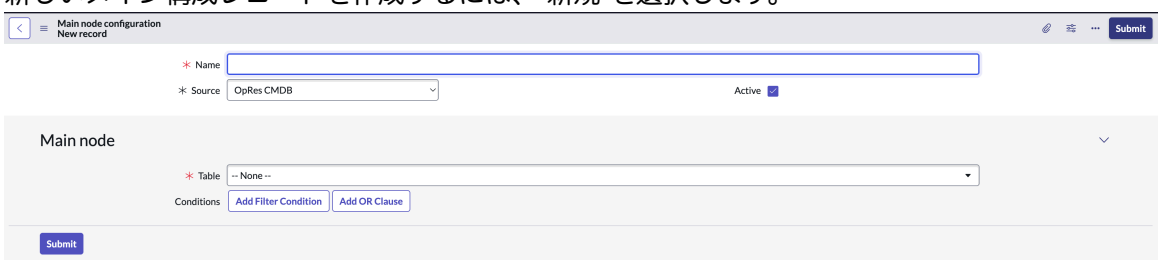
   注:
   スケジュール済みジョブがメインノード構成を取得するには、そのソースが **OpRes CMDB** で、ステータスが **True** (アクティブ) である必要があります。

   オペレーショナルレジリエンス のベースバージョンには、次のメインノード構成が含まれています。



   既存のメインノード構成を更新するか、インスタンスで新しい構成を設定できます。

2. 新しいメイン構成レコードを作成するには、 新規 を選択します。



   メインノード構成フォームが表示されます。

3. フォームで、フィールドに入力します。
   フォーム内のすべてのフィールドの説明については、「 メインノード構成フォーム」を参照してください。

   a. 構成の名前を入力します。

   b. オペレーショナルレジリエンススケジュール済みジョブで使用するには、ソースを **OpRes CMDB** として選択し、ステータスを **True** に設定します。

   c. 階層を開始するテーブル (サービスなど) を選択します。

      テーブルは、出力として受信されるツリー構造全体の開始点です。メインノード構成は、[cmdb_ci_service] などのテーブルで始まり、ツリー構造を生成します。テーブルをスキャンし

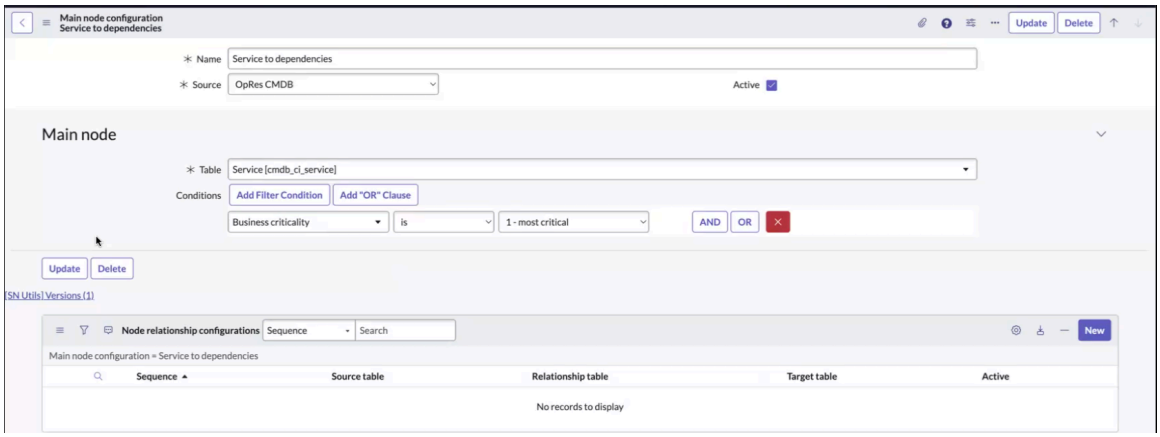
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

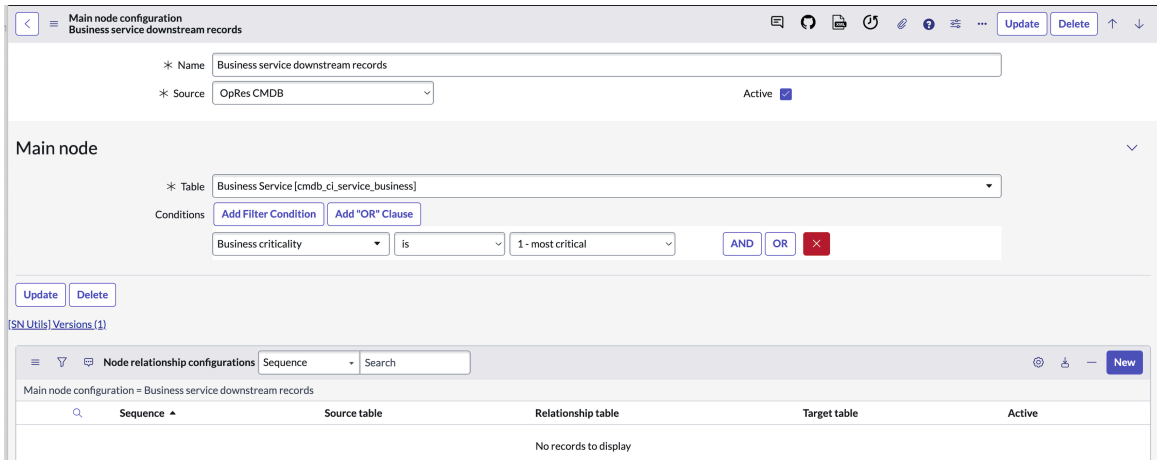
て、各レコードの階層を作成します。テーブル全体をスキャンする必要がなく、特定のビジネス要件がある場合は、関連するレコードのみがスキャンされるようにフィルター条件を適用できます。

d. このメインノード定義が作成されるレコードをフィルタリングする条件を追加します。

次の例は、「サービスと依存関係」構成のフィルター条件を示しています。

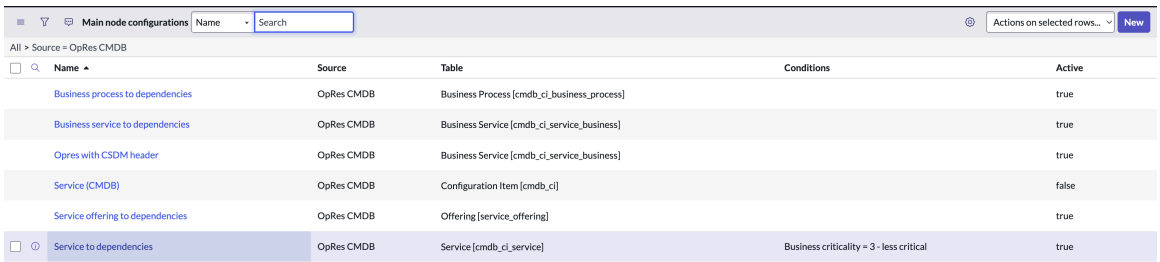


次の例は、ビジネスサービスのダウンストリームレコード構成を示しています。



e. [Submit (送信)] を選択します。

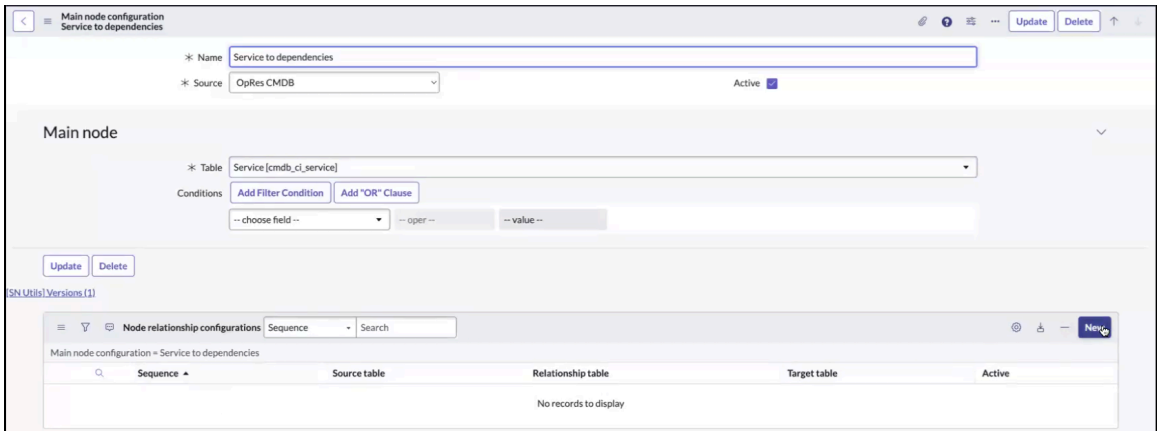
メインノード構成が作成され、[メインノード構成] リストに表示されます。



メインノード構成設定に基づいて、ビジネスサービス、サービス、オファリング、アプリケーションサービス、ビジネスプロセスのデータが CMDB から オペレーショナルレジリエンスに取り込まれます。

次のタスク
ノード関係構成で、ソーステーブルをターゲットテーブルに接続する方法を指定します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



詳細については、「ノード関係構成レコードの作成」を参照してください。

メインノード構成フォーム

メインノード構成フォームを使用して、 データリレーションシップフレームワークにメインノード構成レコードを作成します。

メインノード構成の新規レコードフォーム

メインノード構成の新規レコードフォーム

フィールド	説明
名前	メインノード構成レコードの名前。たとえば、「サービスと依存関係」などです。
ソース	メインノード構成レコードのソース。デフォルトでは、OpRes CMDB です。
アクティブ	レコードがアクティブかどうかを示すオプション。値は **True** または **False** です。
テーブル	関係性を設定するために使用されるテーブル。例:構成アイテム [cmdb_ci]。
条件	構成レコードの関係を設定するために使用されるフィルター条件。テーブルから特定のオブジェクトが必要な場合は、それに応じてフィルター条件を設定できます。

ノード関係構成レコードの作成

ノード関係構成レコードを作成し、ソーステーブル、構成アイテム (CI) 関係、非 CI 関係を含むノード関係を更新します。ノード関係の構成で、指定されたソーステーブルを別のテーブル (ターゲットテーブル) に接続する方法を定義します。

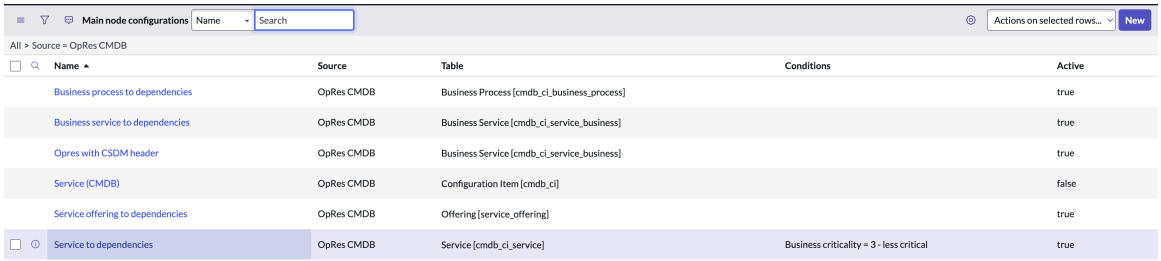
始める前に

必要なロール：sn_oper_res.admin

手順

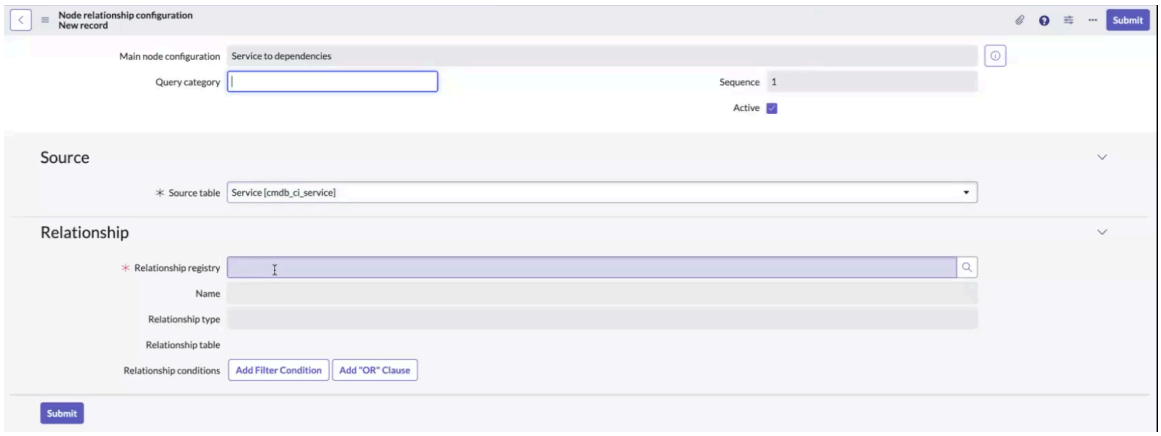
1. 移動先 すべて > データ関係フレームワーク > メインノード構成.
2. リストからメインノード構成を開きます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



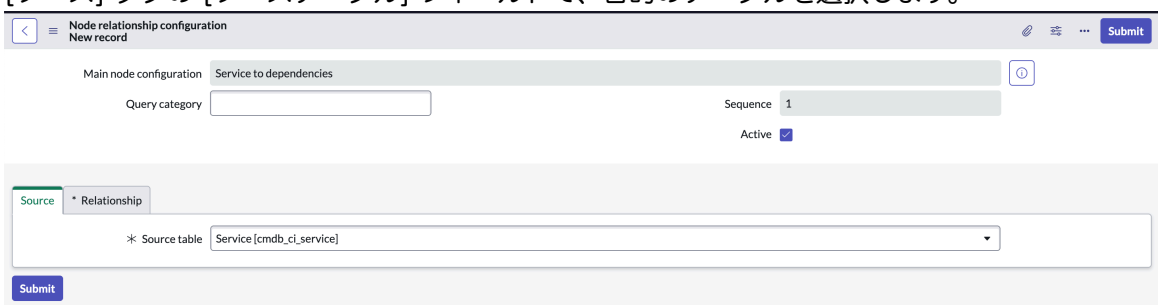
3. ノード関係の構成で、 新規 を選択します。

   ノード関係構成の新しいレコードが表示されます。



   フィールドの説明については、「 関係レジストリレコードフォーム」を参照してください。

4. [ソース] タブの [ソーステーブル] フィールドで、目的のテーブルを選択します。

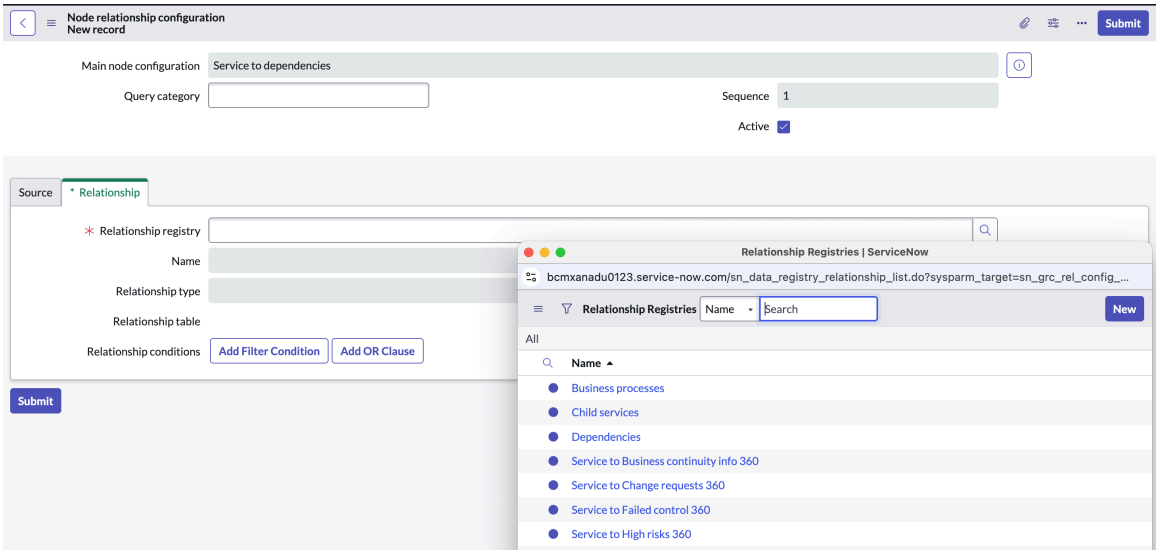


   デフォルトでは、メイン設定レコードにリストされているテーブル (この例ではサービス [cmdb_ci_service] テーブル) が自動的に選択されます。要件に応じて、自動提案されたテーブルまたは別のテーブルを選択できます。

5. [関係] タブの [関係レジストリ] フィールドで関係レジストリレコードを選択します。
   関係レジストリレコードは、ソーステーブルが別のテーブルにリンクする方法を定義します。

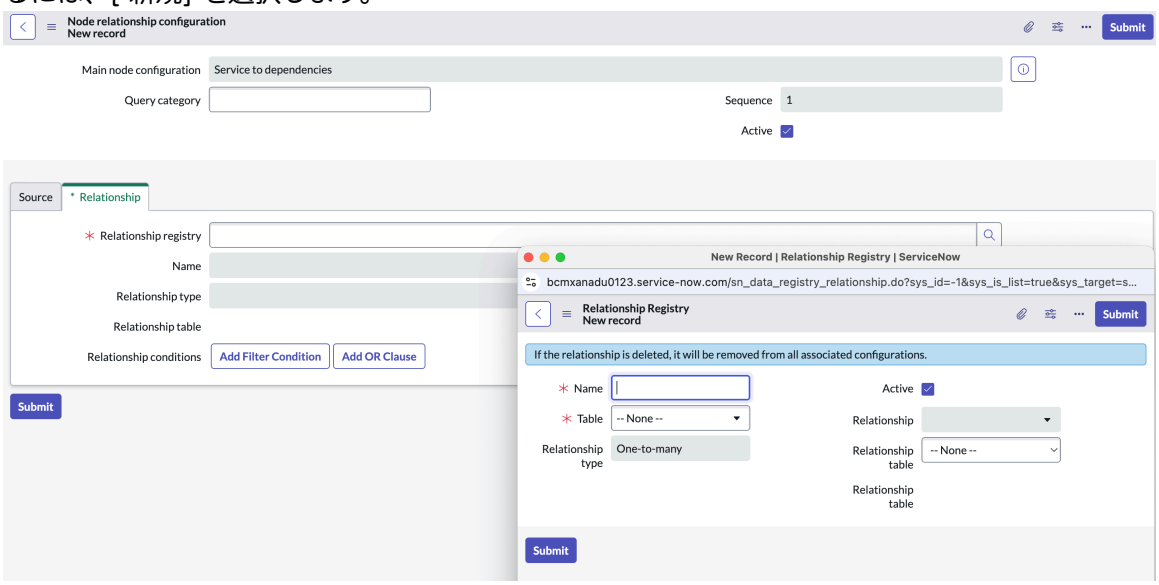
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [検索] アイコンを選択し、利用可能なリストから関係レジストリレコードを選択します。



検索アイコンを選択すると、ソーステーブルとしてサービスを含むすぐに利用可能な関係レジストリが表示されます。リストから関係レジストリを選択できます。

b. すぐに利用可能なリストからレコードを選択する代わりに、新しいレジストリレコードを選択するには、[新規] を選択します。



すぐに利用可能なオプションがニーズを満たさない場合は、新しいレジストリレコードを作成できます。

c. 新しい関係レジストリレコードにわかりやすい名前を追加します。
同じ名前のレジストリが他に存在する可能性があるため、混乱を避けるために適切な名前を追加できます。

d. [テーブル] フィールドで関係テーブルを選択します。
テーブルは、前の画面の [ソース] テーブルと同じである必要があります。このテーブル名は、メインノード設定レコードで定義したテーブルとは異なる場合があります。

e. [関係性タイプ] フィールドで、テーブルの関係性タイプを選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブルを選択すると、次のオプションがドロップダウンに表示されます。

i. **1** 対 **1**

ii. **1** 対多

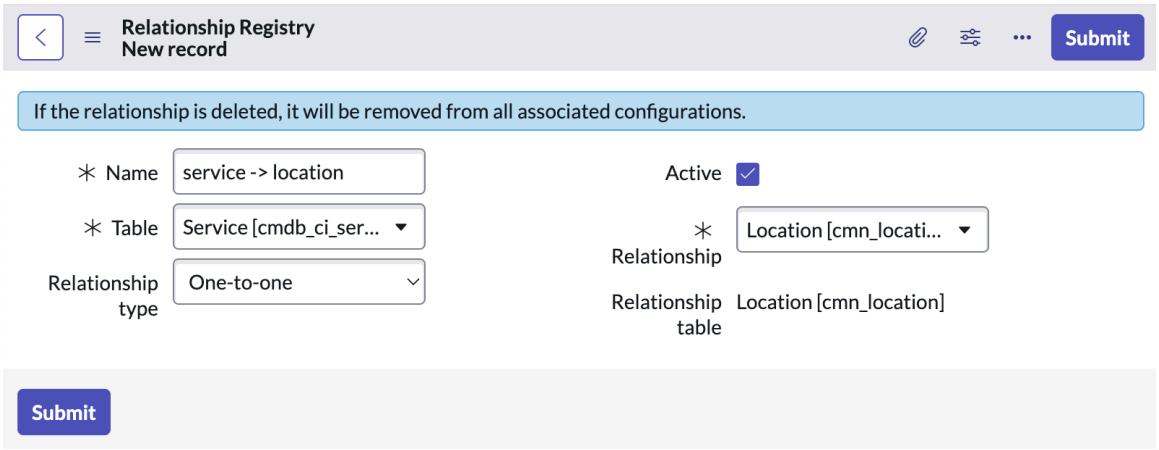
iii. 多対多

iv. スクリプト化された関係
選択したドロップダウン値に基づいて、異なるテーブルのリストが [関係] フィールドに表示されます。

f. [リレーションシップテーブル] フィールドでリレーションシップテーブルを選択します。

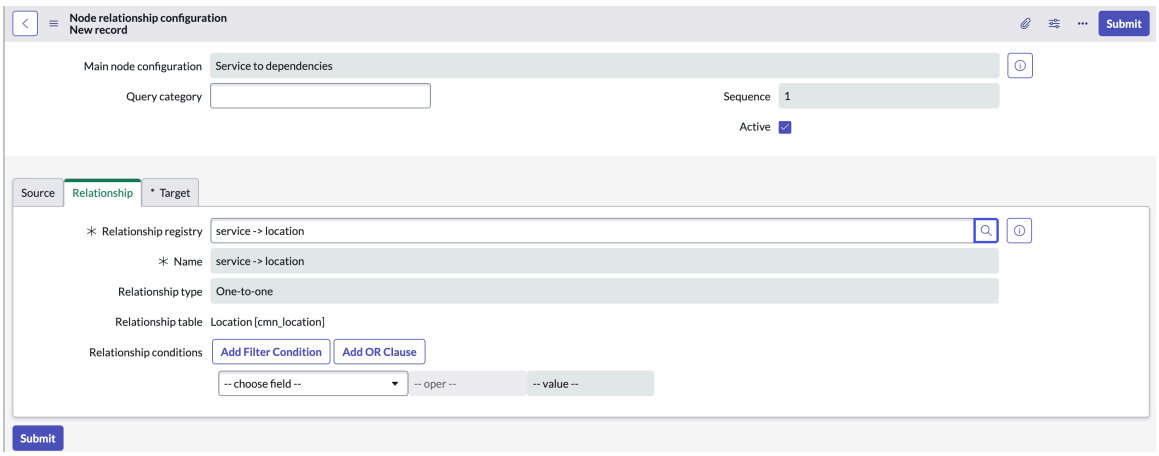
1 対 1 の関係タイプの場合、[リレーションシップ] フィールドには、ソーステーブルで参照フィールドとして使用されるテーブルのリストが表示されます。

テーブル名が [関係] フィールドに入力されます。



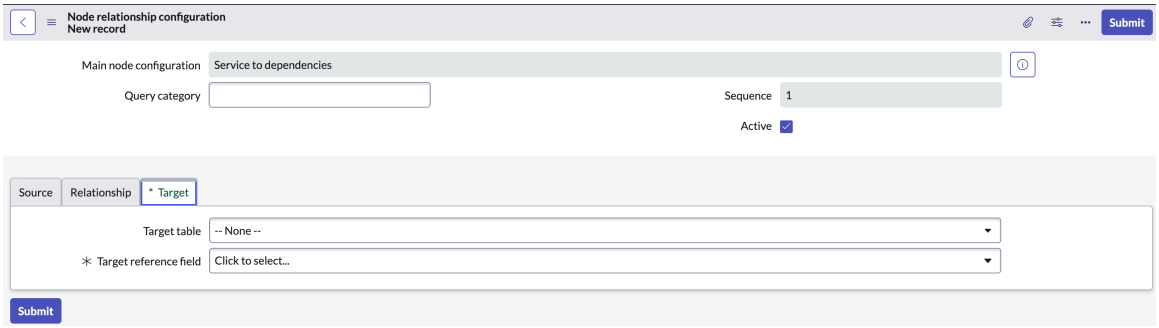
g. **[Submit** (送信)] を選択します。

ソーステーブルと関係レジストリを構成しました。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

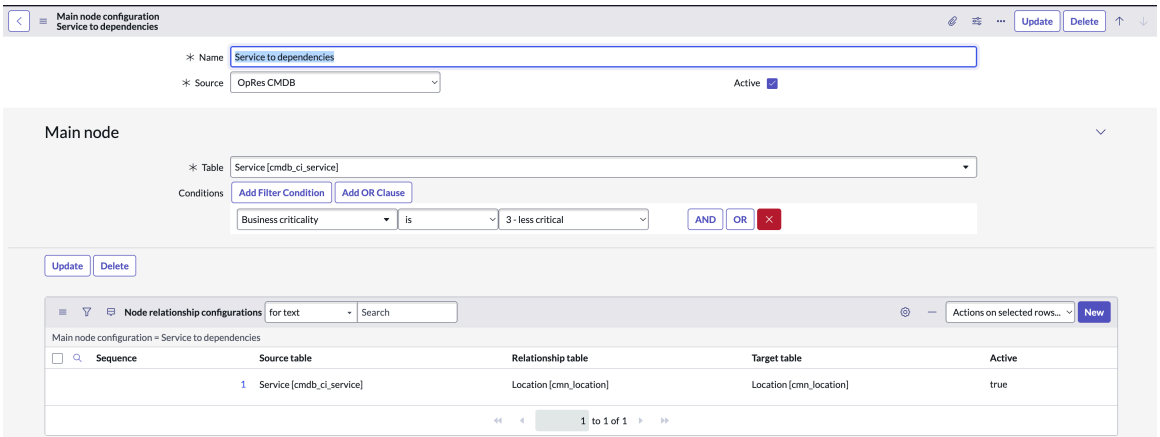
ターゲットテーブルを選択するには、次のステップでノード関係構成情報レコードの [ターゲット] セクションを構成します。



6. [ターゲット] タブを構成します。
このステップでは、すべての関係オプションについて説明します。

7. **[Submit** (送信)] を選択します。

これで、メイン構成情報レコードのノード関係構成が更新されました。この例は、 サービスと依存関係 メイン構成情報レコードのノード関係構成を示しています。



関係レジストリレコードフォーム

関係レジストリレコードフォームを使用して、オブジェクト間の関係レジストリを作成します。

関係レジストリの新規レコードフォーム

関係レジストリの新規レコードフォーム

フィールド	説明
名前	関係レジストリレコードの名前。「BIA 分析 -> 問題」などです。
テーブル	関係レジストリレコードを設定するために使用されるテーブル。影響分析 [sn_bia_analysis] などです。
関係性タイプ	関係レジストリレコードの関係タイプ。使用可能なオプションは次のとおりです。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

関係レジストリの新規レコードフォーム (続く)

フィールド	説明
	• **1** 対 **1**：1 つのレコードが別のテーブルの 1 つのレコードに対応しています。 • **1** 対多：1 つのレコードが別のテーブルの 1 つまたは複数のレコードに対応しています。 • 多対多：1 つまたは複数のレコードが、別のテーブルの 1 つまたは複数のレコードに対応しています。 • スクリプト化された関係：スクリプトを使用して、テーブル間の関係を定義します。
アクティブ	関係レジストリレコードがアクティブであることを示すオプション。
リレーションシップ	[テーブル] フィールドで定義されているオブジェクトとの関係を設定するために使用されるテーブル。たとえば、問題 [sn_grc_issue] です。
リレーションシップテーブル	Read-only フィールド。[リレーションシップ] フィールドで選択したテーブルは、デフォルトではリレーションシップテーブルとして表示されます。たとえば、問題 [sn_grc_issue] です。

オペレーショナルレジリエンス プロパティの設定

オペレーショナルレジリエンスのメインプロパティを設定して、レポート目的でアプリケーションにデータを取得してフェッチできるようにします。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.admin

このタスクについて

構成とカスタマイズ:アプリケーションプロパティを更新すると、構成と見なされます。スクリプトインクルードなど、機能の変更で オペレーショナルレジリエンスコードの変更が必要な場合は、カスタマイズとして分類されます。

手順

1. 移動先 すべて > システムプロパティ > すべてのプロパティ.
2. GRC：オペレーショナルレジリエンスアプリケーションのプロパティをフィルタリングします。
   GRC：オペレーショナルレジリエンスアプリケーションのプロパティが表示されます。プロパティのリストについては、「 オペレーショナルレジリエンス とともにインストールされるプロパティ」を参照してください。
3. *sn_oper_res.dependency_pillars*プロパティの依存関係ピラーの値を更新するには、ピラーのsys_idsを [値] フィールドに追加します。
   sys_idsをカンマで区切って追加できます (例:e4f77de4537310108722ddeeff7b1263,ab5c78b0533112105806ddeeff7b126f,9c38fde45373101 など)。次の柱とそれに対応するsys_idsを参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- アプリケーションサービス:e4f77de4537310108722ddeeff7b1263
- 人々:ab5c78b0533112105806ddeeff7b126f
- データ:9c38fde4537310108722ddeeff7b12d0
- サプライヤー: a5187de4537310108722ddeeff7b127a
- テクノロジー:c4c775e4537310108722ddeeff7b12d7
- 施設:2fad30345331121058O6ddeeff7b123f

4. *sn_oper_res.max_top*プロパティを更新します。
このプロパティは、ホームページの [修正が必要な上位の脆弱性] セクションで使用されます。プロパティ値が 5 に設定されている場合、最も影響を受けるエンティティを持つ上位 5 つの脆弱性のレコードが生成され、ホームページの [修正が必要な上位の脆弱性] レポートに表示されます。
5. *sn_oper_res.top_class_name* プロパティを設定して、任意のクラスをダッシュボードの最上位クラスとして指定します。
オペレーショナルレジリエンスリリース 21.0.x 以降、このプロパティが更新され、ビジネスサービス、ビジネスプロセス、アプリケーションサービスなどの任意のノードをトップノードにすることができます。このプロパティはダッシュボードにのみ適用され、ワークスペースフォームには適用されません。プロパティの構成については、「 柔軟なデータモデルの使用」を参照してください。
6. **[Update** (更新)] を選択します。
更新されたプロパティが保存されます。

サービスとプロセスの **360** 度ビューを構成する

サービス、ビジネスサービス、ビジネスプロセス、およびアプリケーションサービスの 360 度ビューを構成します。セクター構成、関係のレジストリ、および 360 度ビューでの位置を更新するテーブルを選択できます。

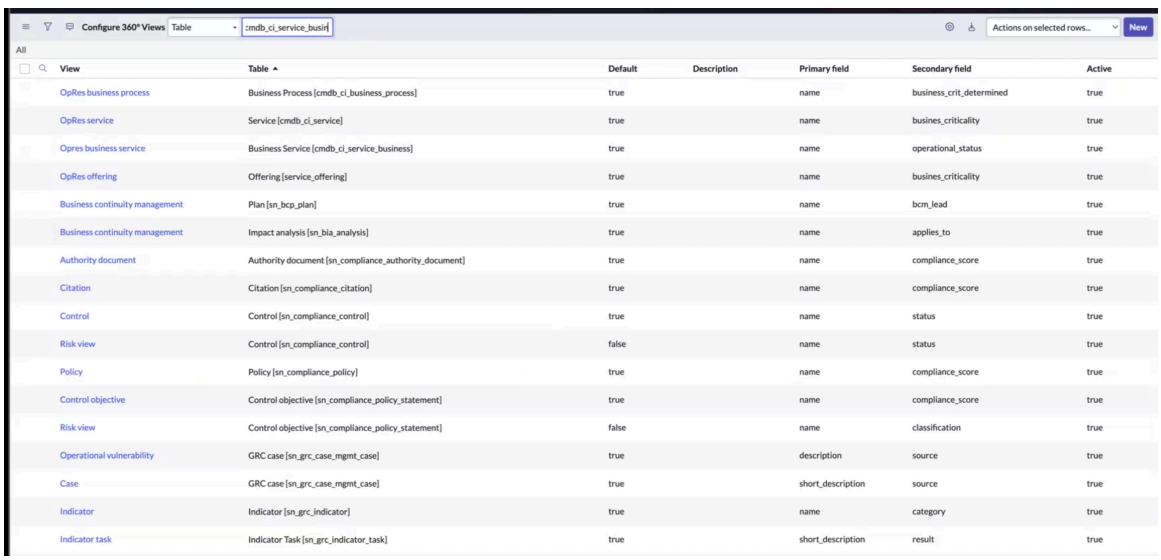
始める前に

必要なロール：sn_oper_res.admin

手順

1. 移動先 すべて > **360** 度ビューの構成 > **360** 度ビューの構成 > .
2. 360 度ビューを構成するテーブルを選択します。

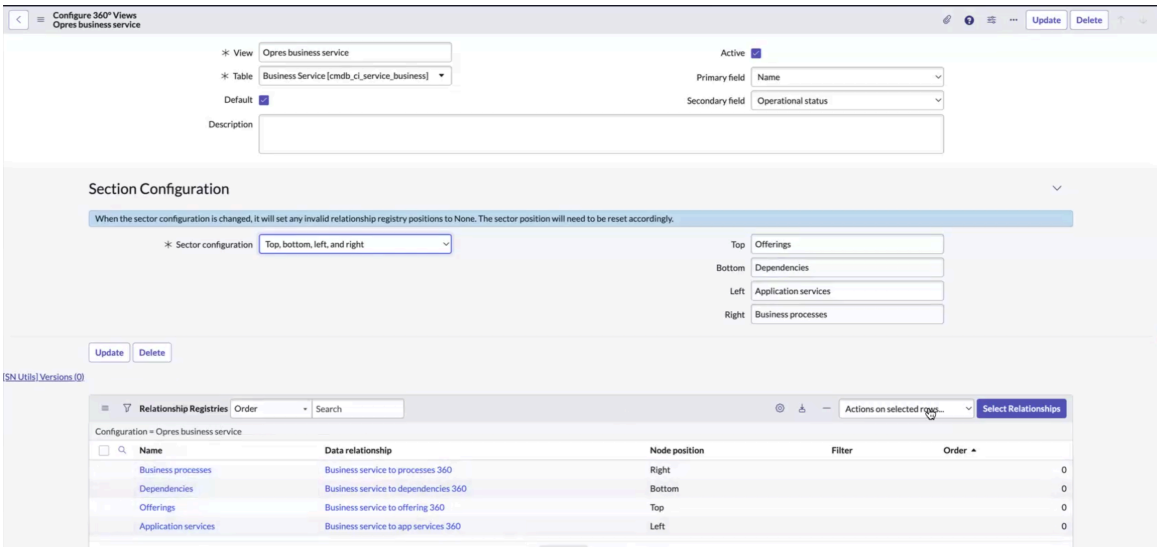
   例に示すように、リストビューからテーブルを選択できます。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

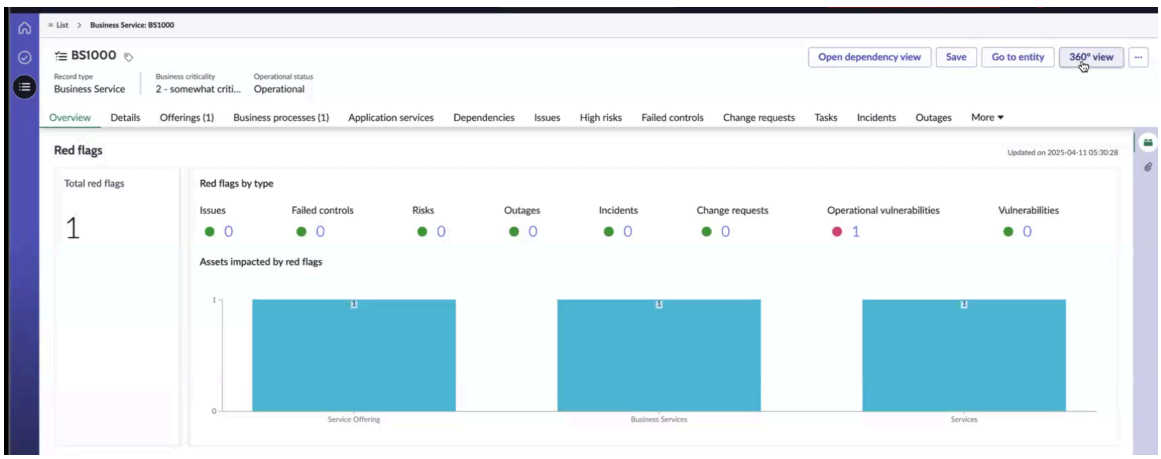
自動翻訳

選択したテーブルの [360 度ビューの構成] フォームが表示されます。



3. [セクター構成] フィールドで必要に応じて、上、下、左、右の位置のセクション構成を更新します。
4. 関係設定を更新するには、[関係レジストリ] 関連リストで [関係の選択] を選択します。
5. **[Update** (更新)] を選択します。
   選択した関係がアプリケーションに保存されます。
6. オペレーショナルレジリエンスワークスペース内の特定のフォームに移動します。
7. **[360** 度ビュー **(360° View)]** UI アクションを選択します。

   選択したテーブルの 360 度ビューに移動できます。

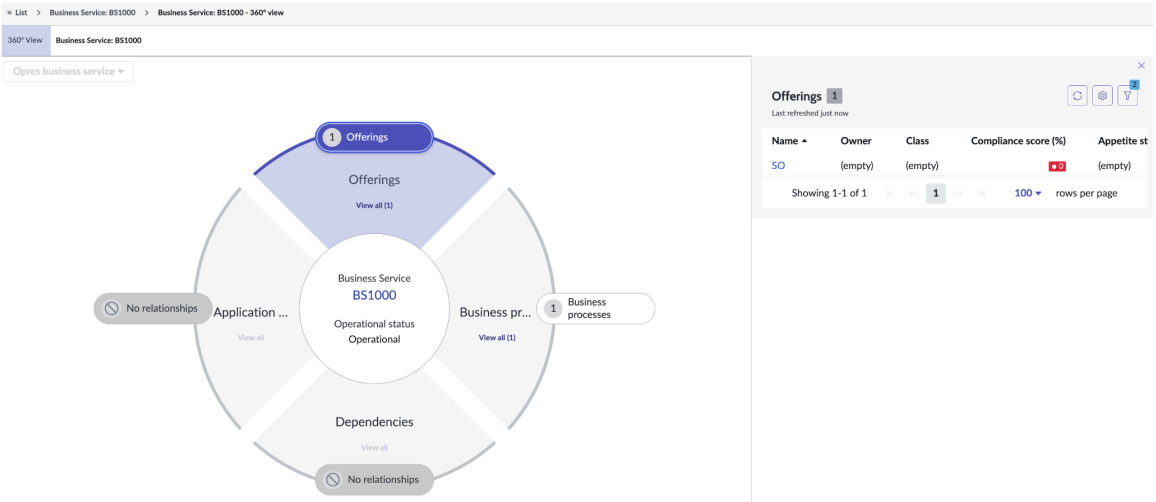


8. フォーム上の関係の位置を確認します。

   360 度ビューには、開いているサービス、ビジネスサービス、サービスオファリング、およびビジネスプロセスのコンテキスト情報が表示されます。ノードを選択すると、右側のパネルに選択したノードの詳細が表示されます。例に示すように、フォーム上の関係の配置と位置を確認できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



360 度ビューの詳細については、「 360 度ビューを探索する」を参照してください。

CSDM ヘッダーを使用した OpRes メインノード構成

新規顧客によって使用される CSDM ヘッダー付き OpRes のメインノード構成は、ビジネスサービス、ビジネスプロセス、サービスオファリング、アプリケーションサービスなどの CMDB オブジェクトを オペレーショナルレジリエンスにフェッチします。既存の顧客は通常、サービス (CMDB) メインノード構成を使用します。アドミニストレーターまたはUI ビルダーアドミニストレーターは、組織のニーズに基づいて、ワークスペースビューで [サービスの概要] タブまたは [ビジネスサービスの概要] タブを表示または非表示にすることができます。

CSDM ヘッダー構成を使用する OpRes の場合、 オペレーショナルレジリエンス アドミニストレーターは次の必須テーブルにレコードを設定します。

- ビジネスサービス [cmdb_ci_service_business]
- サービスオファリング [service_offering]
- ビジネスプロセス [cmdb_ci_business_process]
- アプリケーションサービス [cmdb_ci_service_auto]

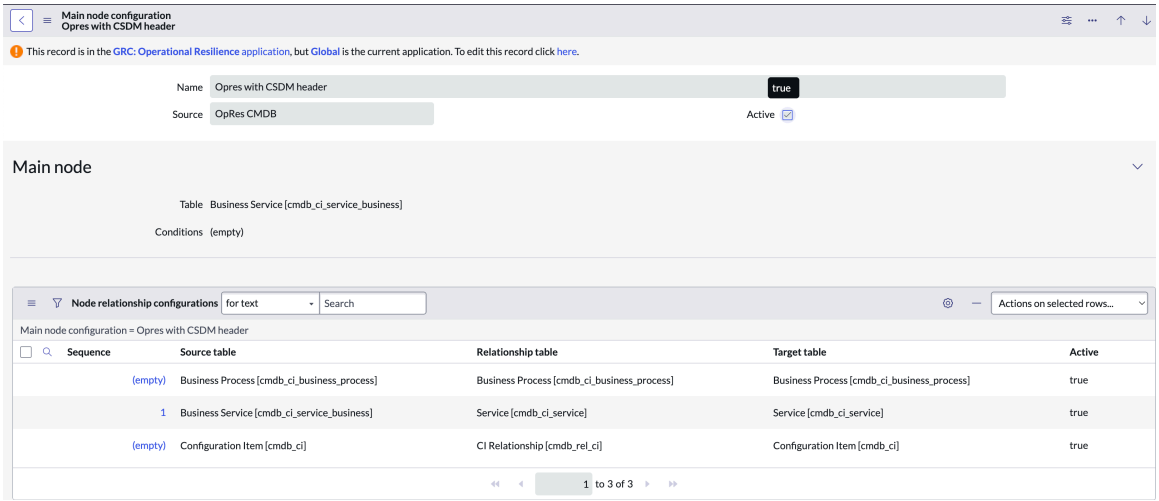
必要なテーブルにレコードを設定した後、 オペレーショナルレジリエンス アドミニストレーターは階層レベルを定義し、レコードの関係を追加します。たとえば、ビジネスサービスからサービスオファリングへ、サービスオファリングからビジネスプロセスへ、ビジネスプロセスからアプリケーションサービスへ階層を設定できます。

ノード関係の構成

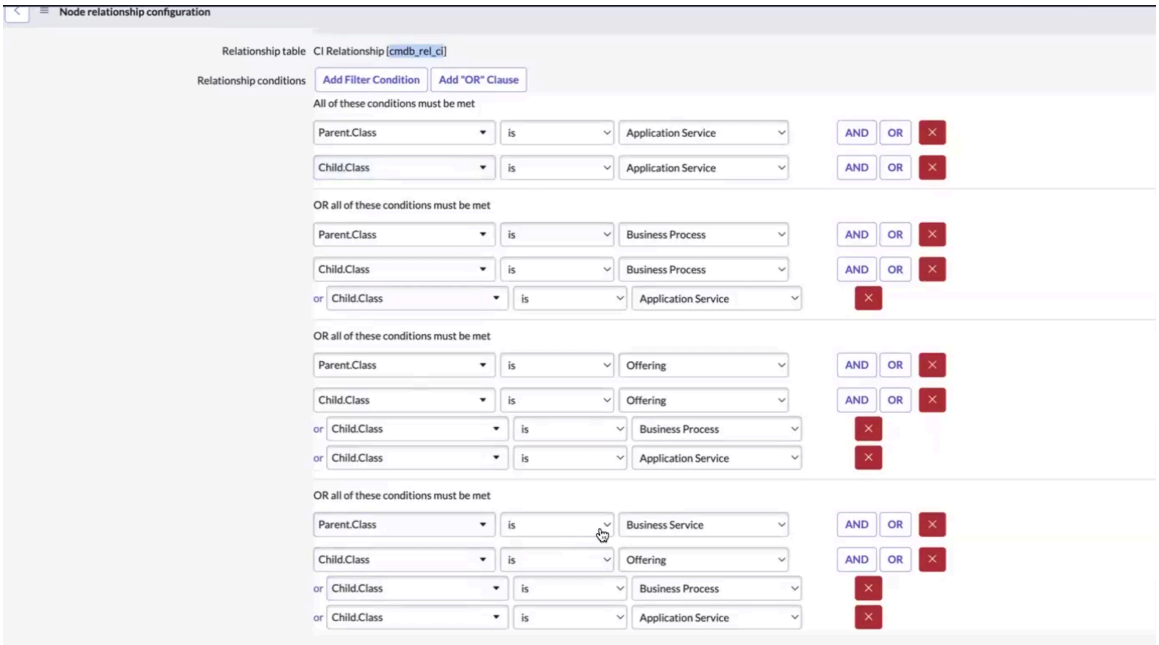
例に示すように、CSDM ヘッダーを使用した OpRes のメインノード構成で、シーケンス、ソーステーブル、関係テーブル、ターゲットテーブル、アクティブフラグなどのノード関係を設定できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

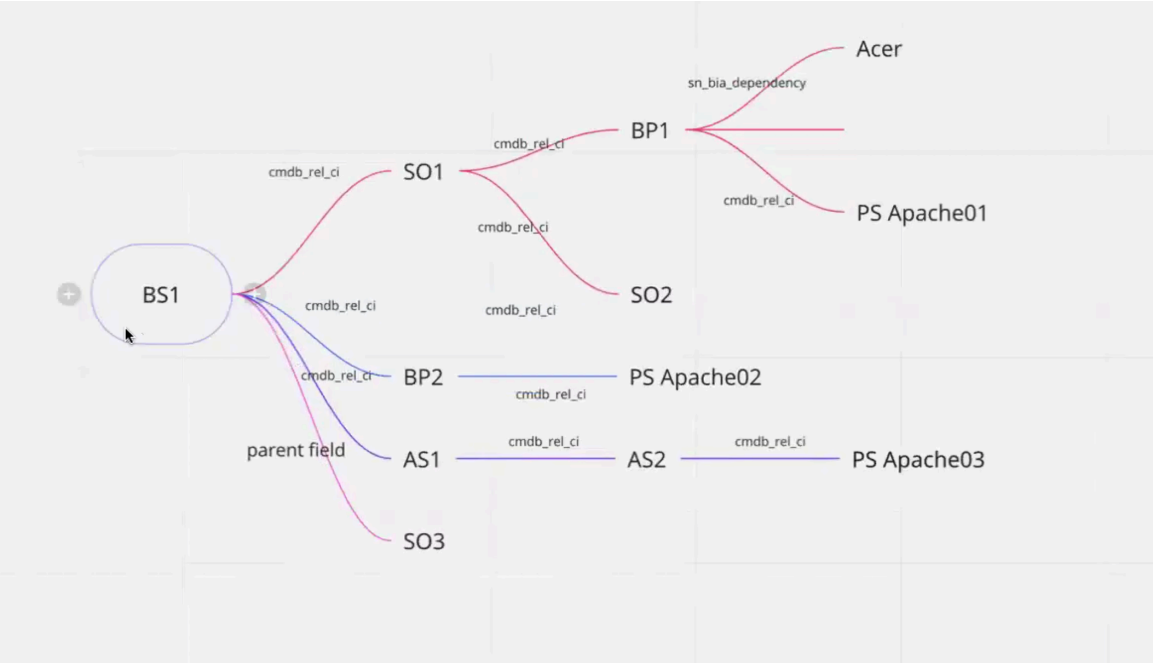


次の図は、ベースバージョンとして提供される、CSDM ヘッダーのメインノード構成を持つ OpRes のノード関係の構成を示しています。関係 [cmdb_rel_ci] テーブルごとに、結合された関係構成を設定できます。たとえば、親クラスとしてのビジネスサービスの場合、サービスオファリングとの関係、ビジネスプロセスとの関係、アプリケーションサービスとの関係を構成できます。



CMDBオブジェクトの関係を図に示します。図に示されているデータは、 CMDB テーブルに存在します。メインノードの関係は、アプリケーションにインポートする必要があるデータのタイプについて オペレーショナルレジリエンス に通知するように構成されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



ノード関係構成の更新については、次を参照してください。 ノード関係構成レコードの作成

.

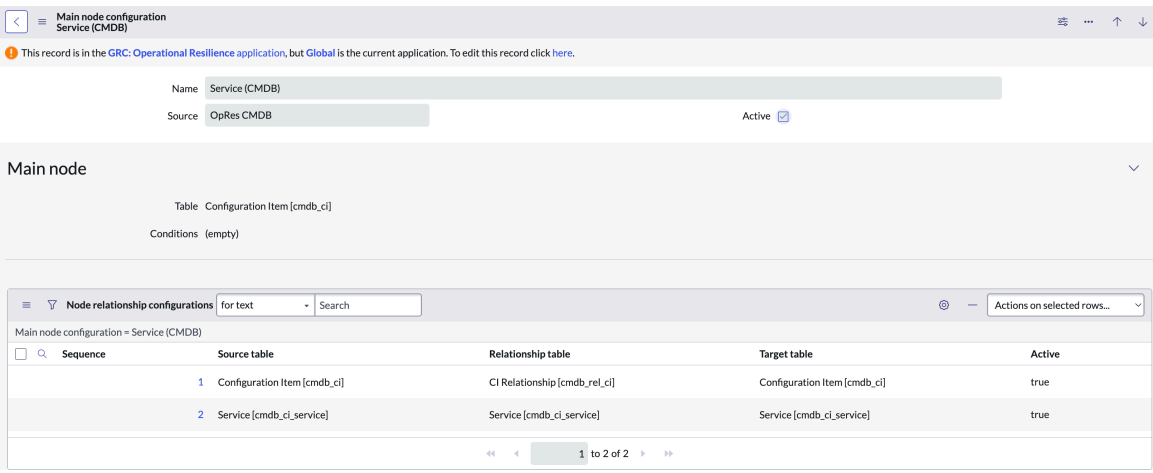
サービス (CMDB) メインノード構成

サービス (CMDB) メインノード構成は、サービスの関係を定義します。既存の顧客は通常、サービス (CMDB) メインノード構成を使用しますが、新規顧客は OSDM ヘッダー付き OpRes メインノード構成を使用します。アドミニストレーターは、組織のニーズに基づいて、サービスの概要またはビジネスサービスの概要を表示または非表示にすることができます。

サービス (CMDB) メインノード構成の場合、通常使用されるソースは OpRes CMDB で、使用されるテーブルは構成アイテム [cmdb_ci] です。

ノード関係の構成

例に示すように、サービス (CMDB) メインノード構成で、シーケンス、ソーステーブル、関係テーブル、ターゲットテーブル、アクティブフラグなどのノード関係を設定できます。



ビジネスプロセスから依存関係 メインノード構成

ビジネスプロセスから依存関係 メインノード構成では、ビジネスプロセスからその依存関係との関係を定義します。

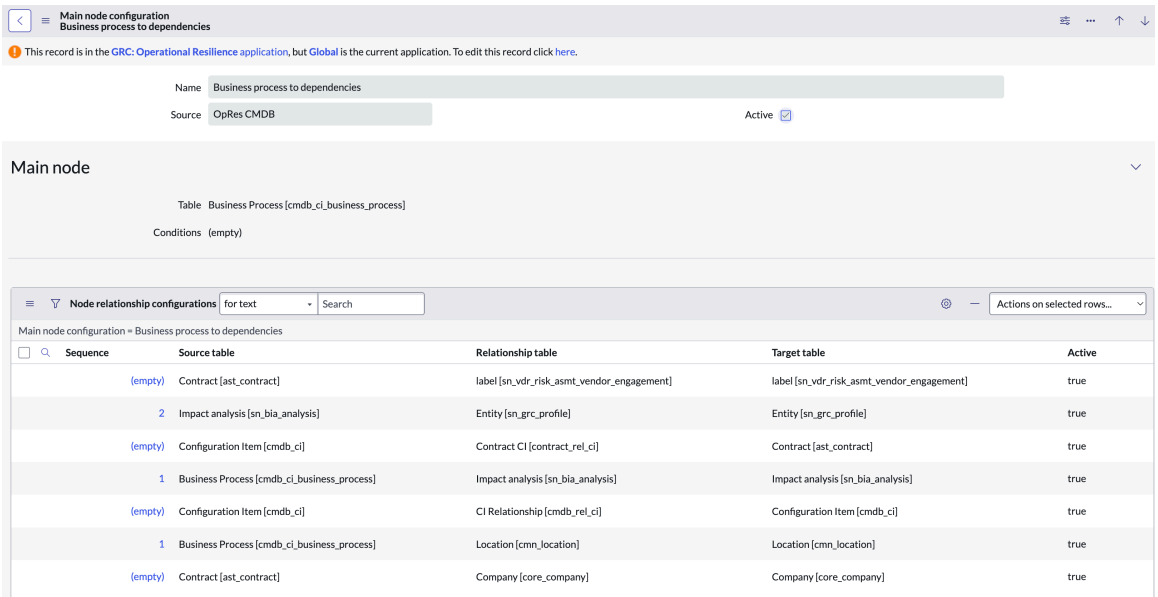
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

ビジネスプロセスから依存関係へのメインノード構成の場合、ソースは OpRes CMDB、テーブルはビジネスプロセス [cmdb_ci_business_process] です。

ノード関係の構成

例に示すように、依存関係に対するビジネスプロセスのメインノード構成で、シーケンス、ソーステーブル、関係テーブル、ターゲットテーブル、アクティブフラグなどのノード関係を設定できます。



ビジネスサービスから依存関係 メインノード構成

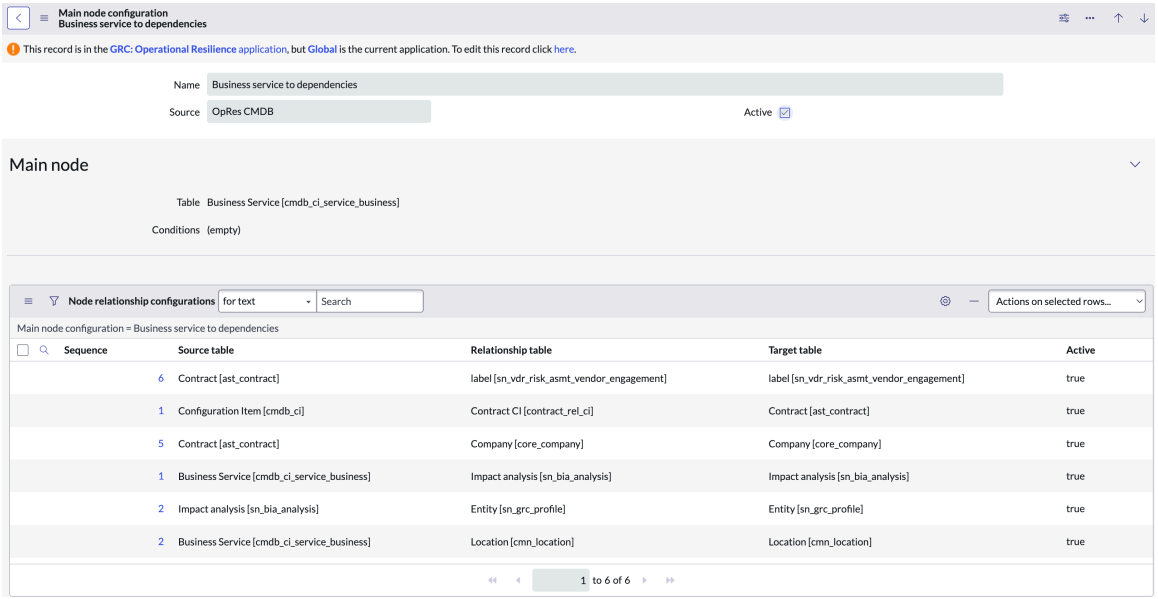
依存関係に対するビジネスサービス メインノード構成では、ビジネスサービスからその依存関係との関係を定義します。

ビジネスサービスと依存関係 (Business service to dependencies) メインノード構成の場合、ソースは OpRes CMDB、テーブルはビジネスサービス [cmdb_ci_service_business] です。

ノード関係の構成

例に示すように、依存関係に対するビジネスサービスのメインノード構成で、シーケンス、ソーステーブル、関係テーブル、ターゲットテーブル、アクティブフラグなどのノード関係を構成できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



TPRM 統合:ビジネスサービスと依存関係のノード関係構成に示されているように、 TPRM アプリケーションがインストールされている場合は、ビジネスサービスと契約の間、および契約から会社またはエンゲージメントへの関係を確立できます。

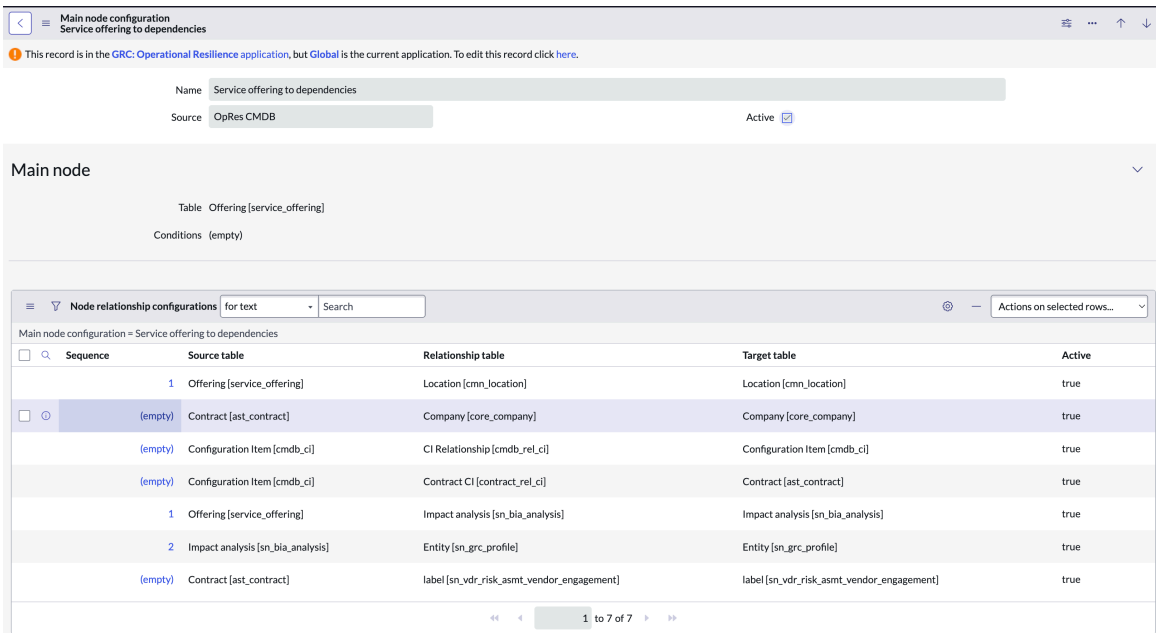
依存関係に対するサービスオファリング メインノード構成

依存関係に対するサービスオファリングのメインノード構成では、サービスオファリングからその依存関係への関係を定義します。

依存関係へのサービスオファリングメインノード構成では、ソースは OpRes CMDB で、テーブルはオファリング [service_offering] です。

ノード関係の構成

例に示すように、依存関係に対するサービスオファリングのメインノード構成で、シーケンス、ソーステーブル、関係テーブル、ターゲットテーブル、アクティブフラグなどのノード関係を構成できます。



自動翻訳

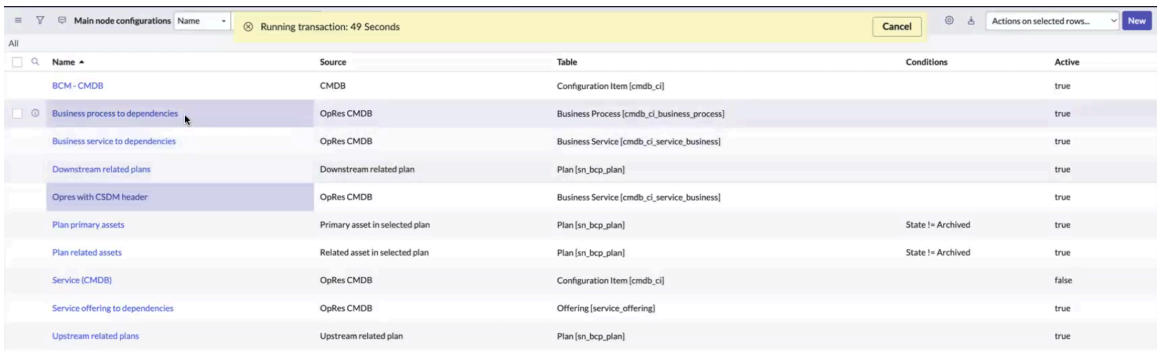
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

BCM 関連依存関係 メインノード構成

事業継続性管理 アプリケーションがインスタンスにインストールされると、BCM依存関係がオペレーショナルレジリエンスアプリケーションにフェッチされます。

事業継続性管理 アプリケーションがインスタンスにインストールされると、例に示すように、BCM依存関係がオペレーショナルレジリエンスアプリケーションにフェッチされます。

- BCM - CMDB
- 下流関連計画
- プライマリ資産の計画
- 関連資産の計画
- 上流関連計画



サービスと依存関係の構成例

サービスを依存関係にリンクするための、サービスから依存関係のサンプルメインノード構成レコードを作成します。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.admin

このタスクについて

オペレーショナルレジリエンスの構成順序と手順については、「オペレーショナルレジリエンスの構成」を参照してください。

メインノード構成レコードの作成手順については、「 メインノード設定レコードの作成」を参照してください。

手順

1. インスタンスに オペレーショナルレジリエンス アプリケーションをダウンロードします。
   オペレーショナルレジリエンスアプリケーションをダウンロードする手順については、「オペレーショナルレジリエンス アプリケーションのインストール」を参照してください。
2. ピラー、エンティティタイプ、エンティティフィルターを設定し、エンティティが生成されていることを確認します。
   オペレーショナルレジリエンスの構成ページの構成手順を参照してください。
3. デフォルトで利用可能な データリレーションシップフレームワーク アプリケーションがインスタンスで利用可能であることを確認します。
   メインノード設定レコードの作成に記載されている他の前提条件を完了していることを確認します。
4. 移動先 すべて > データ関係フレームワーク > メインノード構成.

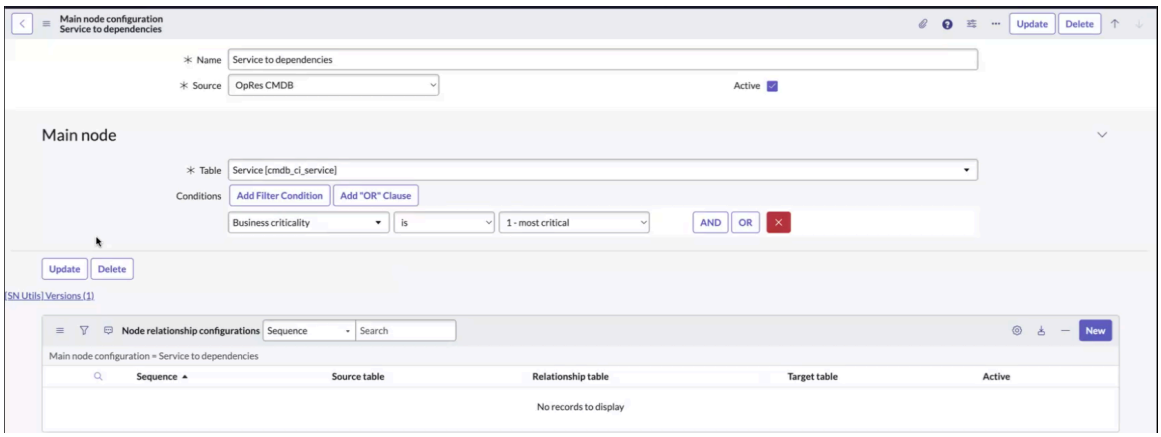
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> スケジュール済みジョブがメインノード構成を取得するには、そのソースが **OpRes CMDB** で、ステータスが **True** (アクティブ) である必要があります。

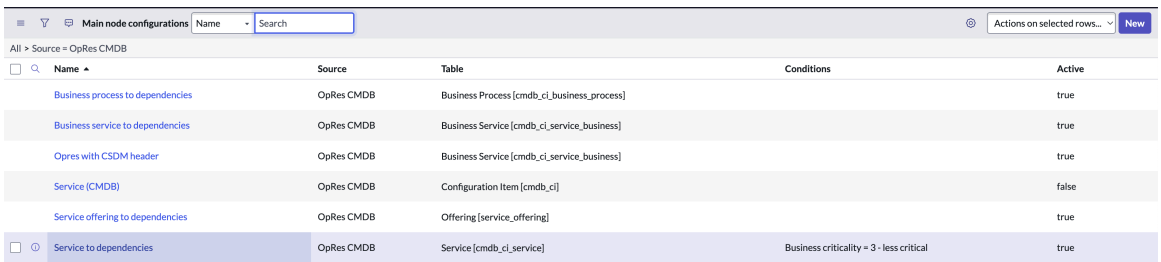
5. 新しいメイン構成レコードを作成するには、 新規 を選択します。
   フォーム内のすべてのフィールドの説明については、「 メインノード構成フォーム」を参照してください。
6. 構成の名前を 「Service **to Dependencies**」として追加します。
7. オペレーショナルレジリエンススケジュール済みジョブで使用するには、ソースを **OpRes CMDB** として選択し、ステータスを **True** に設定します。
8. 階層を開始するテーブル (サービスなど) を選択します。
9. このメインノード定義が作成されるレコードをフィルタリングする条件を追加します。

   次の例は、[サービスと依存関係 **(Service to Dependencies**)] 構成のフィルター条件を示しています。



10. **[Submit** (送信)] を選択します。

    サービスから依存関係 **(Service to Dependencies)** メインノード構成が作成され、メインノード構成リストに表示されます。

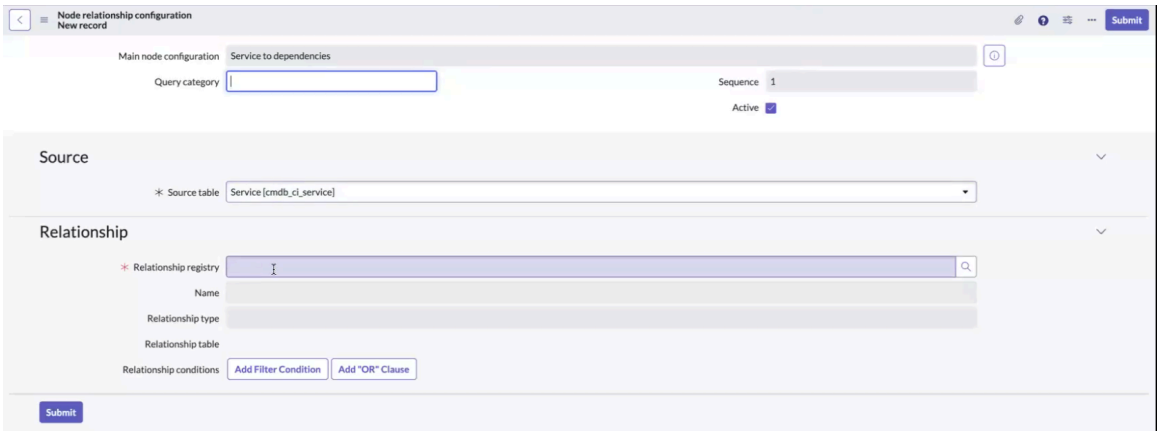


11. ノード関係を定義するには、 サービスから依存関係メイン ノード構成レコードを開き、ノード関係構成で 新規 を選択します。

    ノード関係構成の新しいレコードが表示されます。

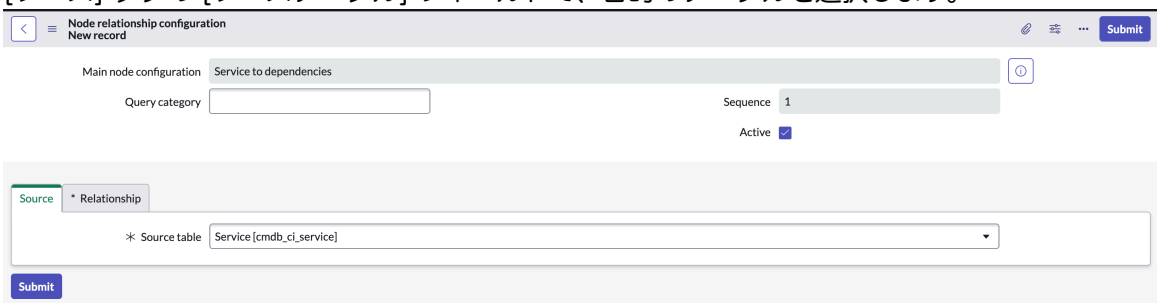
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



フィールドの説明については、「関係レジストリレコードフォーム」を参照してください。

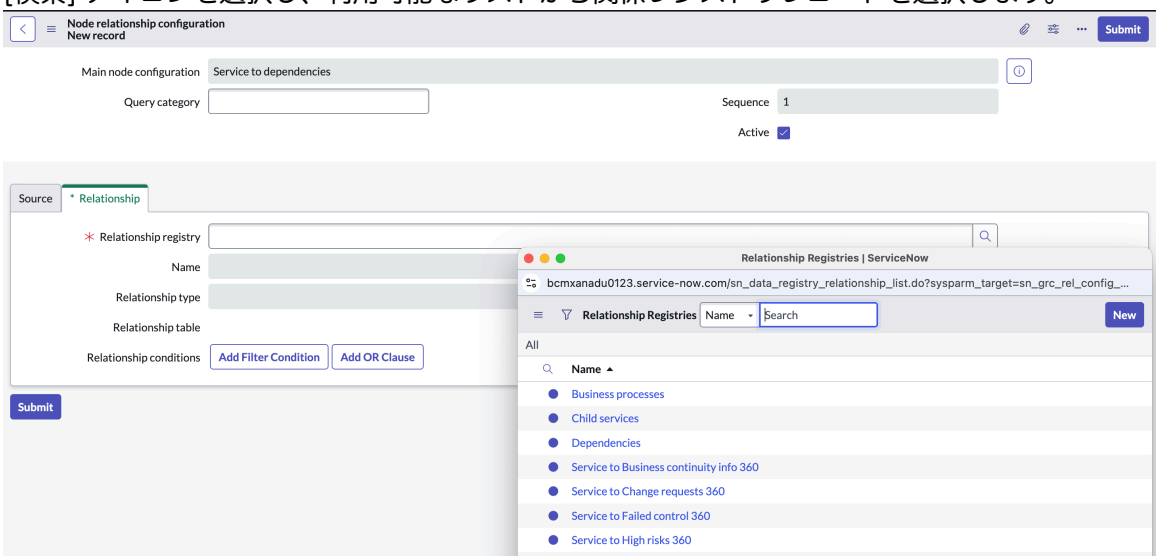
12. [ソース] タブの [ソーステーブル] フィールドで、目的のテーブルを選択します。



デフォルトでは、メイン設定レコードにリストされているテーブル (この例ではサービス [cmdb_ci_service] テーブル) が自動的に選択されます。要件に応じて、自動提案されたテーブルまたは別のテーブルを選択できます。

13. [関係] タブの [関係レジストリ] フィールドで関係レジストリレコードを選択します。
関係レジストリレコードは、ソーステーブルが別のテーブルにリンクする方法を定義します。

a. [検索] アイコンを選択し、利用可能なリストから関係レジストリレコードを選択します。



検索アイコンを選択すると、ソーステーブルとしてサービスを含むすぐに利用可能な関係レジストリが表示されます。リストから関係レジストリを選択できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

b. すぐに利用可能なリストからレコードを選択する代わりに、新しいレジストリレコードを選択するには、[新規] を選択します。

すぐに利用可能なオプションがニーズを満たさない場合は、新しいレジストリレコードを作成できます。

c. 新しい関係レジストリレコードにわかりやすい名前を追加します。
同じ名前のレジストリが他に存在する可能性があるため、混乱を避けるために適切な名前を追加できます。

d. [テーブル] フィールドで関係テーブルを選択します。
テーブルは、前の画面の [ソース] テーブルと同じである必要があります。このテーブル名は、メインノード設定レコードで定義したテーブルとは異なる場合があります。

e. [関係性タイプ] フィールドで、テーブルの関係性タイプを選択します。

テーブルを選択すると、次のオプションがドロップダウンに表示されます。

i. **1** 対 **1**

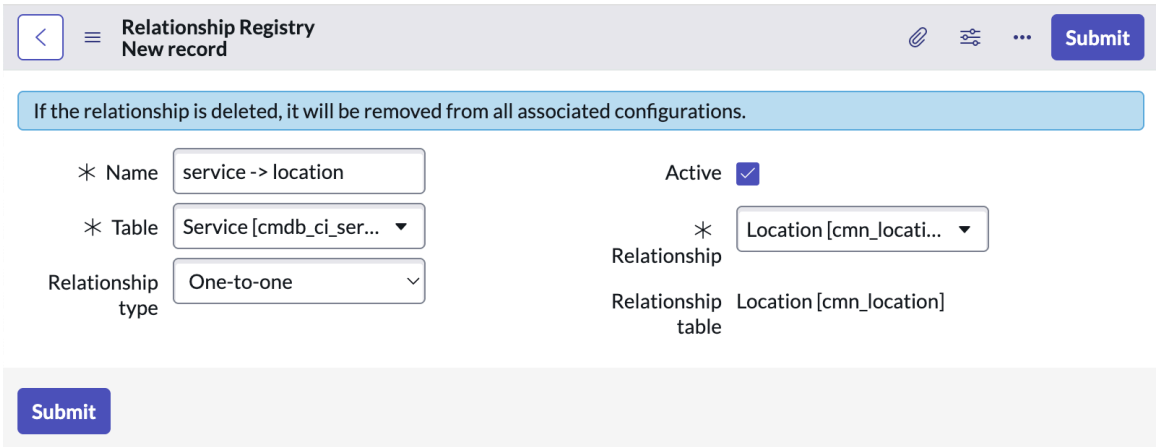
ii. **1** 対多

iii. 多対多

iv. スクリプト化された関係
選択したドロップダウン値に基づいて、異なるテーブルリストが [関係] フィールドに表示されます。この例では、 **1** 対 **1** オプションが考慮されます。

f. [リレーションシップテーブル] フィールドでリレーションシップテーブルを選択します。

1 対 1 の関係タイプの場合、[リレーションシップ] フィールドには、ソーステーブルで参照フィールドとして使用されるテーブルのリストが表示されます。



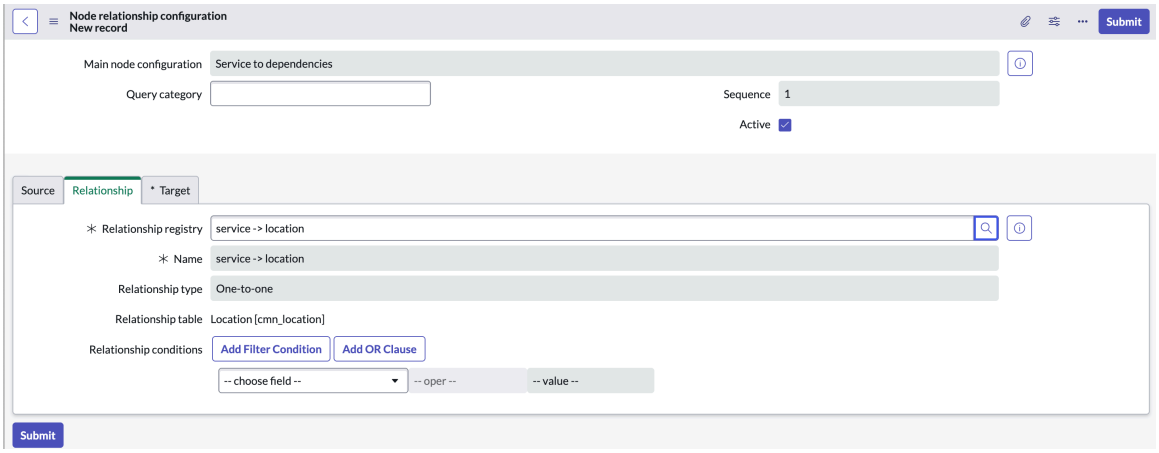
関係テーブルを選択すると、テーブル名が [関係] フィールドに入力されます。

g. **[Submit** (送信)] を選択します。

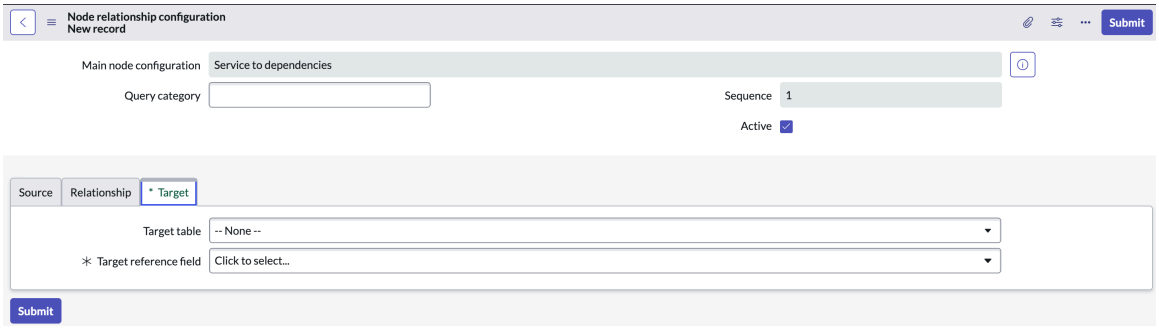
ソーステーブルと関係レジストリを構成しました。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

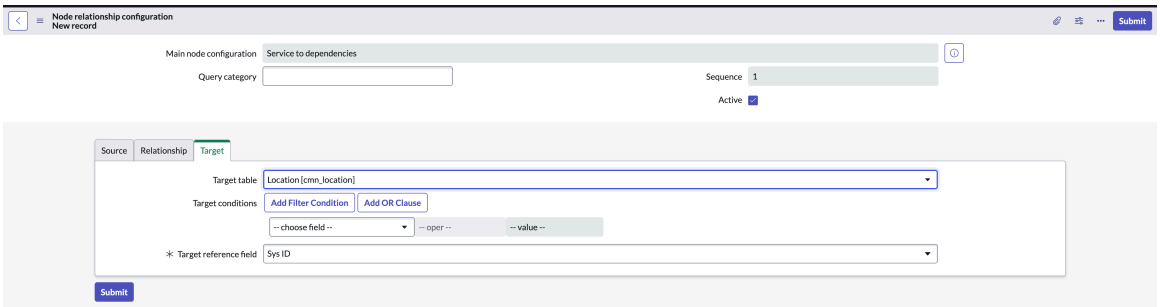


次のステップで、ノード関係設定レコードの [ターゲット] セクションを構成できます。



14. m2m 以外のテーブルの場合、[ターゲット] タブで [ターゲット参照フィールド] として [**Sys ID**] を選択し、[ターゲットテーブル] として [関係] テーブルを選択します。

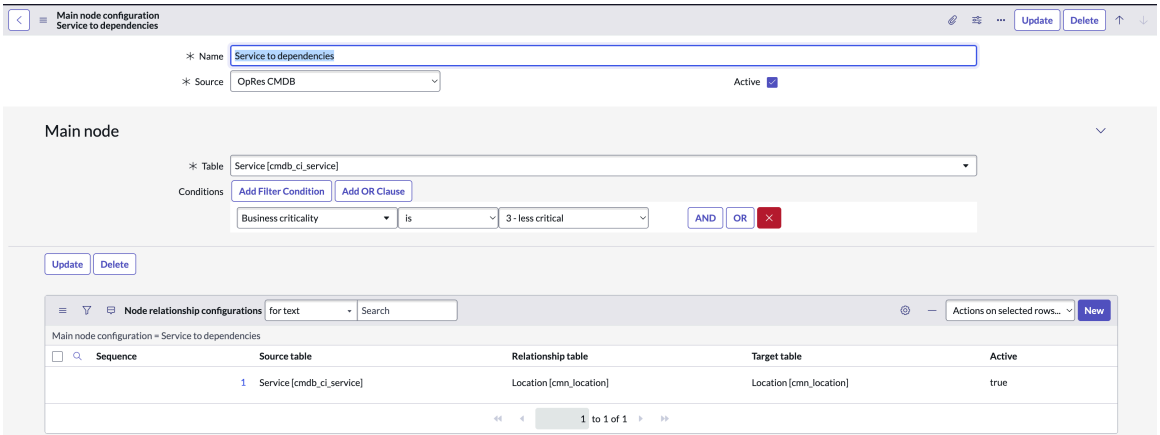
例では、ターゲットテーブルとターゲット参照フィールドを示しています。



15. **[Submit** (送信)] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

これで、サービスから依存関係メイン構成情報レコードのノード関係構成が更新されました。



アプリケーションサービスと依存関係の構成の例

依存関係に対するアプリケーションサービスの作成 アプリケーションサービスを依存関係にリンクするためのサンプルメインノード構成レコード。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.admin

このタスクについて

オペレーショナルレジリエンスの構成順序と手順については、「オペレーショナルレジリエンスの構成」を参照してください。

メインノード構成レコードの作成手順については、「 メインノード設定レコードの作成」を参照してください。

手順

1. インスタンスに オペレーショナルレジリエンス アプリケーションをダウンロードします。
   オペレーショナルレジリエンスアプリケーションをダウンロードする手順については、「オペレーショナルレジリエンス アプリケーションのインストール」を参照してください。
2. ピラー、エンティティタイプ、エンティティフィルターを設定し、エンティティが生成されていることを確認します。
   オペレーショナルレジリエンスの構成ページの構成手順を参照してください。
3. デフォルトで利用可能な データリレーションシップフレームワーク アプリケーションがインスタンスで利用可能であることを確認します。
   メインノード設定レコードの作成に記載されている他の前提条件を完了していることを確認します。
4. 移動先 すべて > データ関係フレームワーク > メインノード構成.

   注:
   スケジュール済みジョブがメインノード構成を取得するには、そのソースが **OpRes CMDB** で、ステータスが **True** (アクティブ) である必要があります。

5. 新しいメイン構成レコードを作成するには、 新規 を選択します。
   フォーム内のすべてのフィールドの説明については、「 メインノード構成フォーム」を参照してください。
6. 構成の名前を 「アプリケーションサービス」として依存関係に追加します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. オペレーショナルレジリエンススケジュール済みジョブで使用するには、ソースを **OpRes CMDB** として選択し、ステータスを **True** に設定します。
8. 階層を開始するテーブル (アプリケーションサービス [cmdb_ci_service_auto] など) を選択します。
9. このメインノード構成が作成されるレコードをフィルタリングする条件を追加します。これはオプションのステップです。

   例に、 依存関係に対するアプリケーションサービス のメインノード構成を示します。



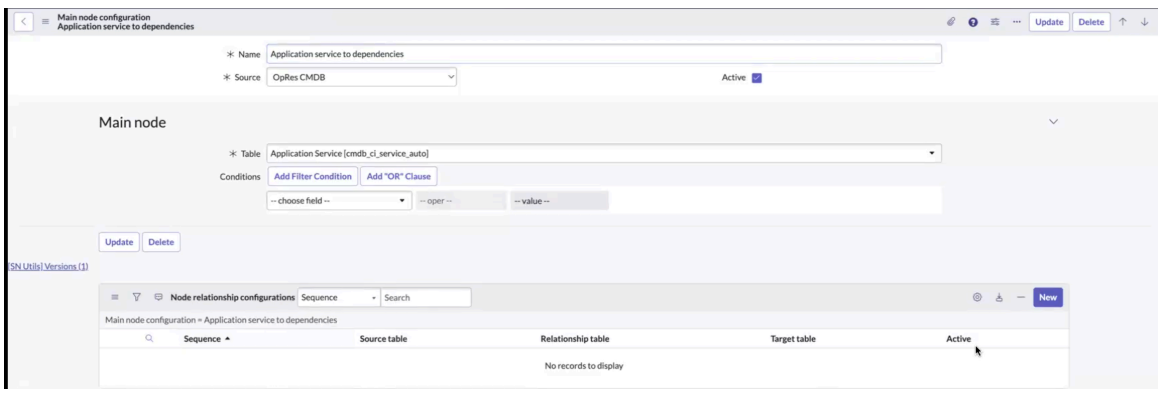
10. **[Submit** (送信)] を選択します。

    アプリケーションサービスと依存関係 **(Application service to dependencies**) メインノード構成が作成され、メインノード構成リストに表示されます。



11. アプリケーションサービスと依存関係のノード関係を定義するには、メインノード構成でリストからレコードを開き、[ノード関係構成] で [新規] を選択します。

    ノード関係構成の新しいレコードが表示されます。



    フィールドの説明については、「 関係レジストリレコードフォーム」を参照してください。

12. [ソース] タブの [ソーステーブル] フィールドで、目的のテーブルを選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

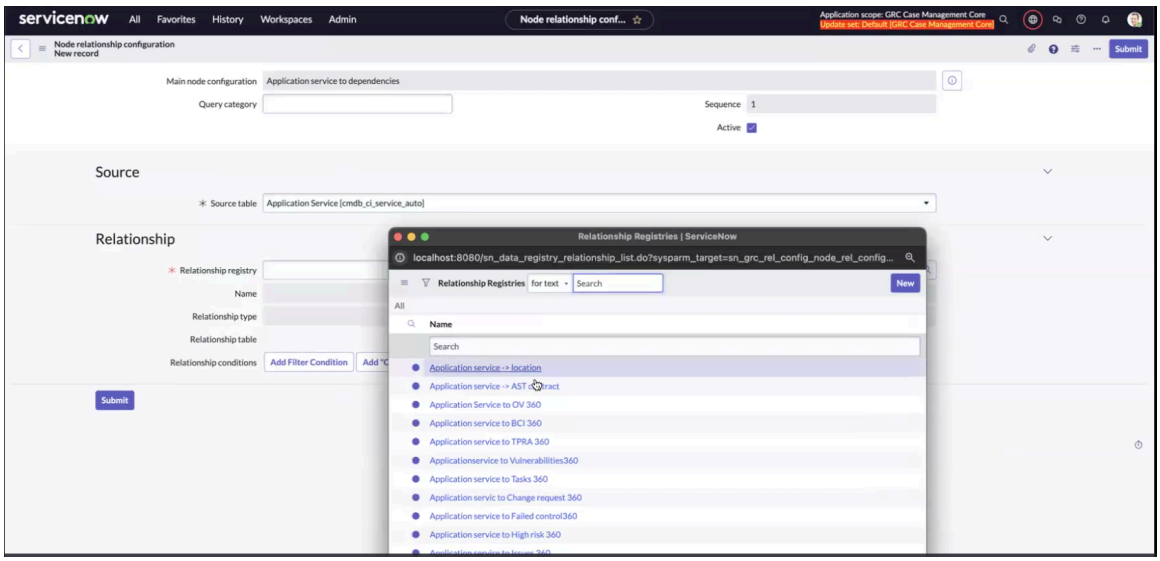
自動翻訳

デフォルトでは、メイン設定レコードにリストされているテーブル (アプリケーションサービス [cmdb_ci_service_auto] など) が自動的に選択されます。要件に応じて、自動提案されたテーブルまたは別のテーブルを選択できます。

13. [関係] タブの [関係レジストリ] フィールドで関係レジストリレコードを選択します。
関係レジストリレコードは、ソーステーブルが別のテーブルにリンクする方法を定義します。

a. [検索] アイコンを選択し、利用可能なリストから関係レジストリレコードを選択します。

検索アイコンを選択すると、ソーステーブルとしてサービスを含むすぐに利用可能な関係レジストリが表示されます。リストから関係レジストリを選択できます。



すぐに利用可能なオプションがニーズに合わない場合は、新しいレジストリレコードを作成することもできます。

b. 新しい関係レジストリレコードにわかりやすい名前を追加します。
同じ名前のレジストリが他に存在する可能性があるため、混乱を避けるために適切な名前を追加できます。

c. [テーブル] フィールドで関係テーブルを選択します。
テーブルは、前の画面の [ソース] テーブルと同じである必要があります。このテーブル名は、メインノード設定レコードで定義したテーブルとは異なる場合があります。

d. [関係性タイプ] フィールドで、テーブルの関係性タイプを選択します。

テーブルを選択すると、次のオプションがドロップダウンに表示されます。

i. **1** 対 **1**

ii. **1** 対多

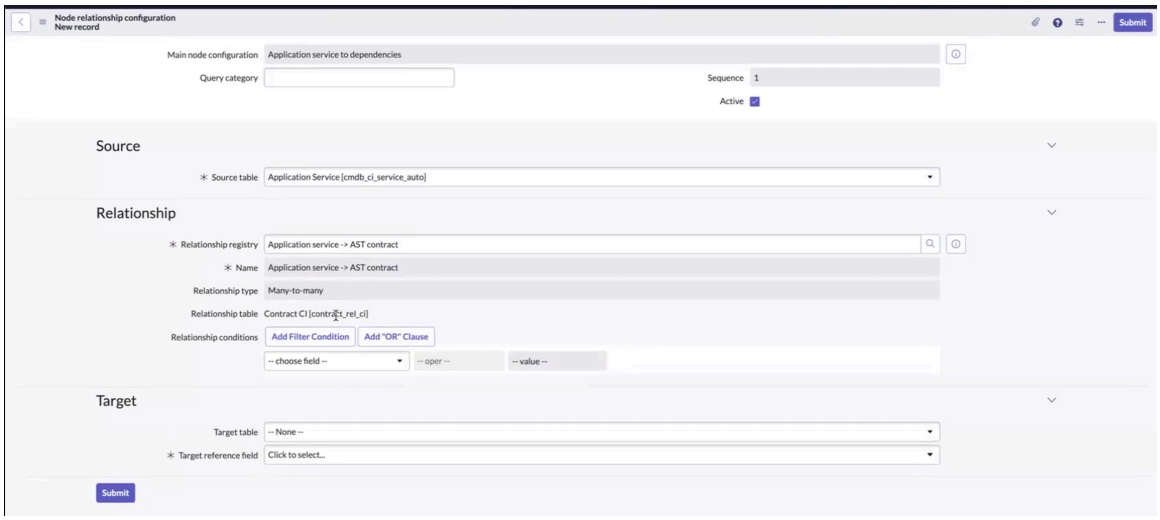
iii. 多対多

iv. スクリプト化された関係
選択したドロップダウン値に基づいて、異なるテーブルリストが [関係] フィールドに表示されます。この例では、 **1** 対 **1** のオプションを示しています。

e. [リレーションシップテーブル] フィールドでリレーションシップテーブルを選択します。

自動翻訳

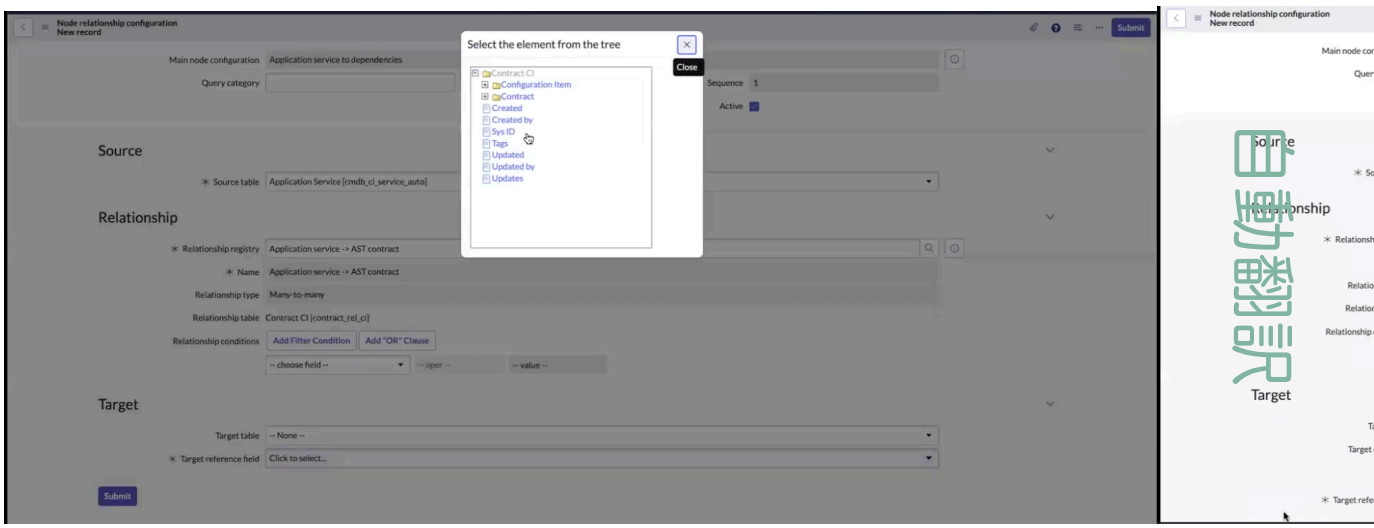
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



関係テーブルを選択すると、テーブル名が [関係] フィールドに入力されます。

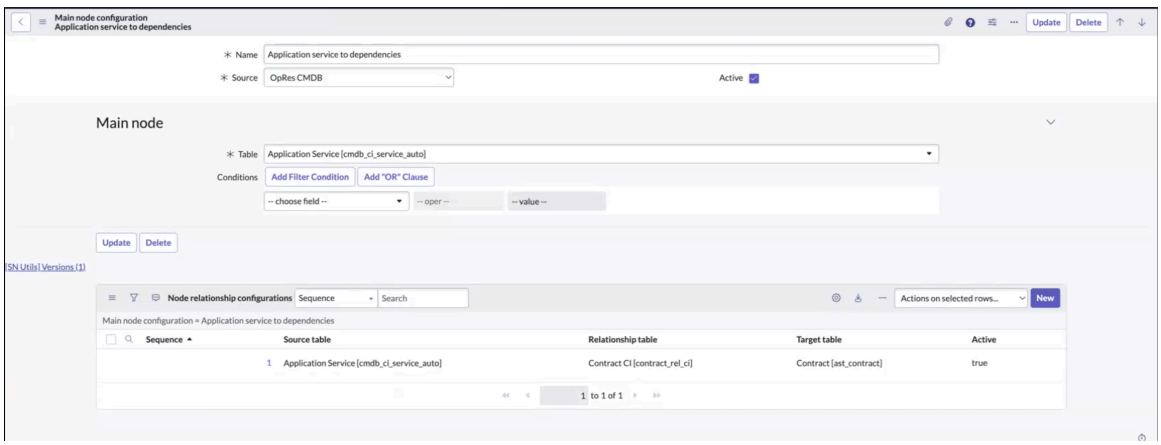
14. [ターゲット] タブでターゲットテーブルを選択します。

例では、ターゲットテーブルとターゲット参照フィールドを示しています。



15. [Submit (送信)] を選択します。

これで、アプリケーションサービスと依存関係メイン構成レコードのノード関係構成が更新されました。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスサービスのエンドツーエンドワークフローのサンプル

ビジネスサービスのエンドツーエンドのワークフローを構成して、オペレーショナルレジリエンスするCSDM依存関係と危険フラグのデータをフェッチします。必要なデータをフェッチする前に、エンティティが生成されてピラーに関連付けられていること、およびメインノード構成が設定されていることを確認する必要があります。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.manager

このタスクについて

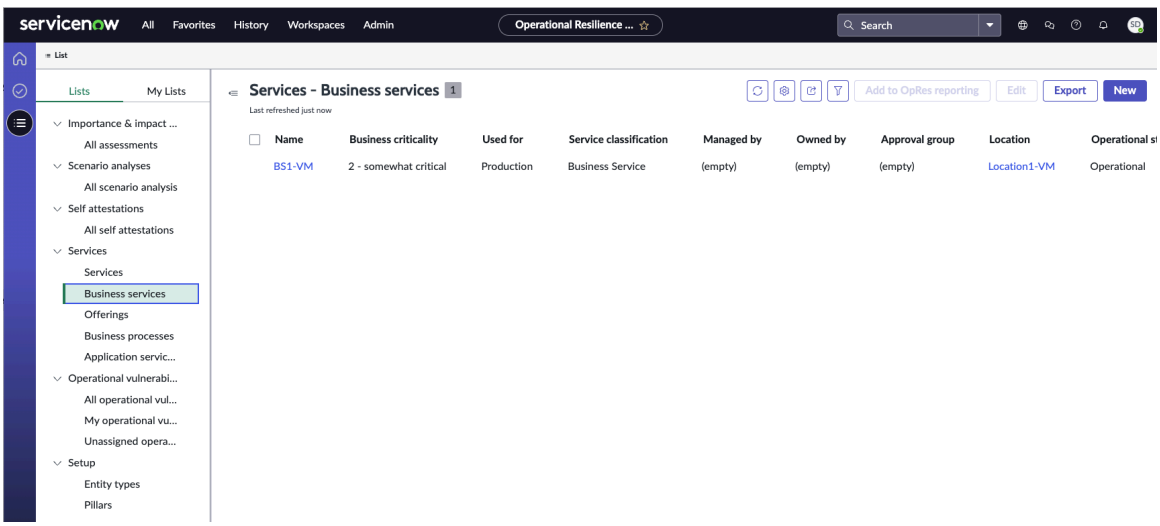
オペレーショナルレジリエンスの構成順序と手順については、「オペレーショナルレジリエンスの構成」を参照してください。

メインノード構成レコードの作成手順については、「 メインノード設定レコードの作成」を参照してください。

手順

1. インスタンスに オペレーショナルレジリエンス アプリケーションをダウンロードします。
   オペレーショナルレジリエンスアプリケーションをダウンロードする手順については、「オペレーショナルレジリエンス アプリケーションのインストール」を参照してください。
2. ピラー、エンティティタイプ、エンティティフィルターを設定し、エンティティが生成されていることを確認します。
   オペレーショナルレジリエンスの構成ページの構成手順を参照してください。
3. 移動先 オペレーショナルレジリエンスワークスペース > リスト > ビジネスサービス をクリックし、ビジネスサービスを選択します。

   図に示すように、BS1-VM などのビジネスサービスを選択できます。

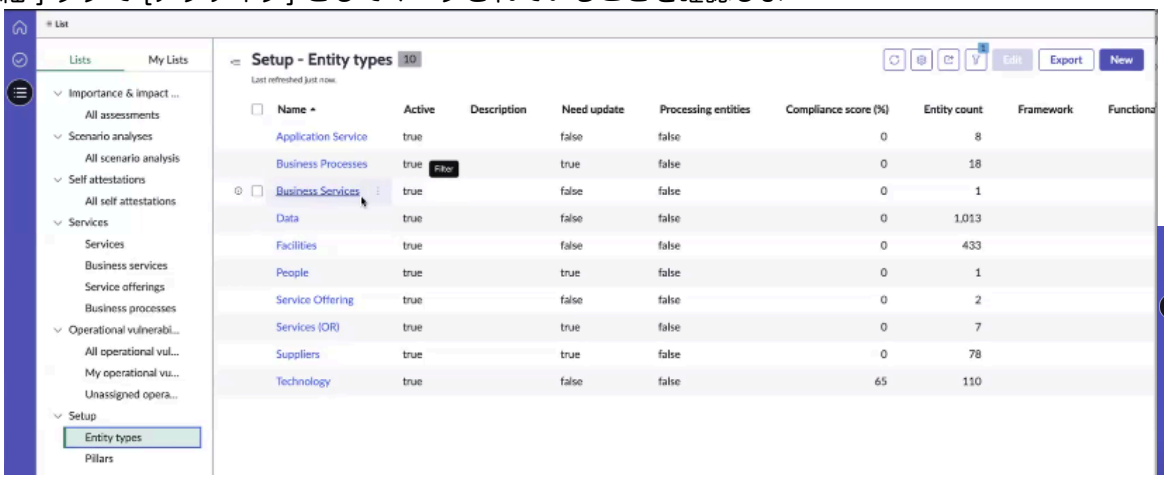


4. ビジネスサービスを オペレーショナルレジリエンス レポートに追加するには、リストからサービスを選択し、[**OpRes** レポートに追加] を選択します。
   選択したサービスが オペレーショナルレジリエンス レポートに追加されます。
5. エンティティがビジネスサービス用に作成され、[エンティティタイプ] ページの [ビジネスサービス] エンティティタイプに一覧表示され、そのページでアクティブに設定されていることを確認します。

   ビジネスサービスの [アクティブ] 列の値が **True** に設定されていることを確認できます。エンティティが [エンティティ] タブに表示され、

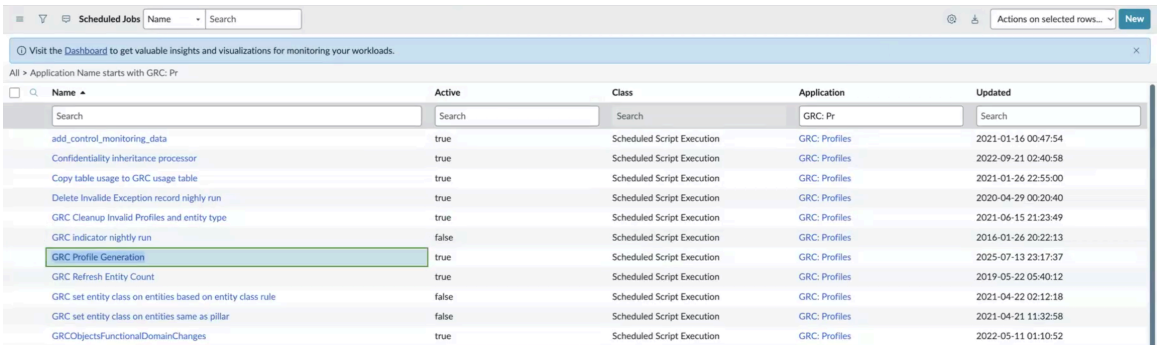
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[詳細] タブで [アクティブ] としてマークされていることを確認しま
す。 

注:
次の例は、エンティティフィルターを使用してエンティティを生成する方法を示しています。ただし、実際のエンティティを作成する場合は、エンティティフィルターを使用するのではなく、 *GRC Profile Generation* スケジュール済みジョブを実行する必要があります。

参考のために、 *GRC Profile Generation* ジョブの詳細が表示されます。

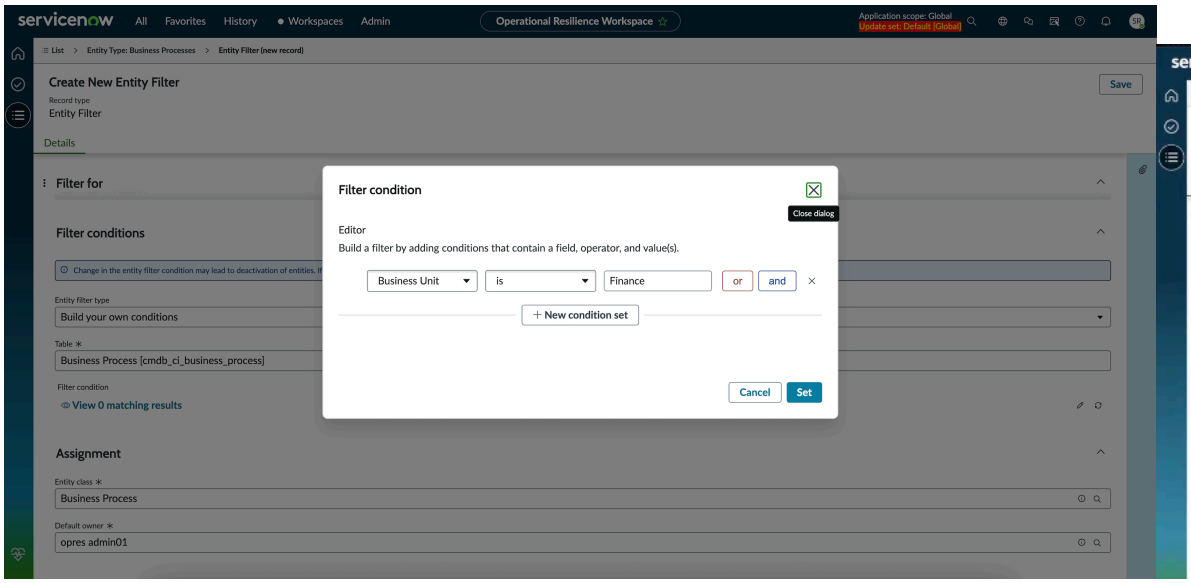


a. [エンティティフィルター] タブで、含めるビジネスサービスのフィルター条件を確認し、 オペレーショナルレジリエンスにフェッチします。

b. [エンティティフィルタータイプ] フィールドで [独自の条件を作成] または [事前定義されたクエリから選択] オプションを使用し、 [保存] を選択します。

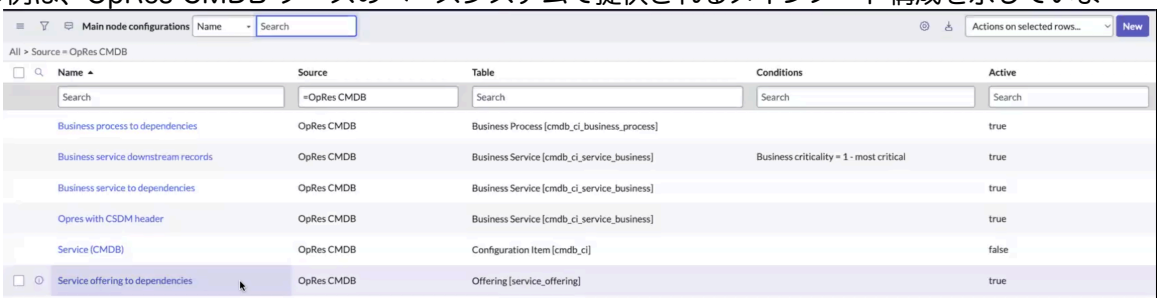
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例に示すように、独自の条件を作成することも、事前定義されたクエリを使用することもできます。



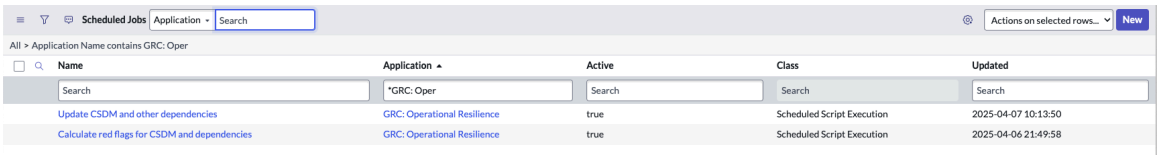
フィルター条件またはクエリが使用されると、選択したビジネスサービスのエンティティが生成されます。

6. 移動先 すべて > データ関係フレームワーク > メインノード構成 をクリックし、メインノード構成を選択します。
次の例は、OpRes CMDB ソースのベースシステムで提供されるメインノード構成を示しています。



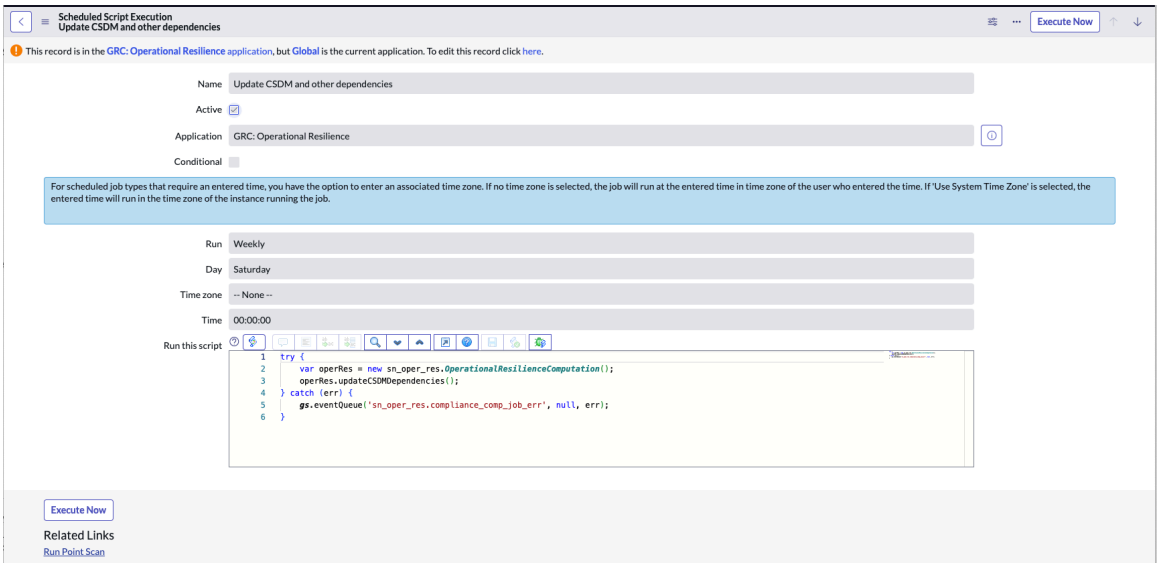
7. これらの関係をすべて オペレーショナルレジリエンスのエンティティ階層にフェッチするには、*`Update CSDM and other dependencies`* スケジュール済みジョブを実行します。

次の図は、すべてのスケジュール済みジョブを示しています。



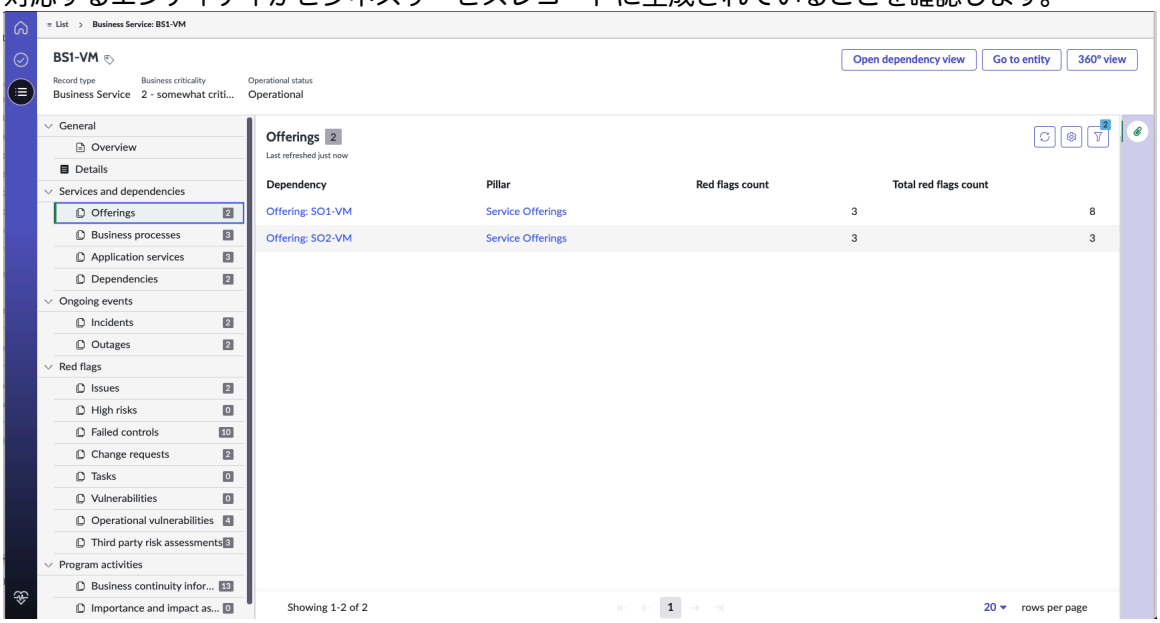
`Update CSDM and other dependencies` スケジュール済みジョブの UpdateCSDMDependencies 関数は、CSDM ヘッダーを使用した Opres のメインノード構成の一部として、ビジネスサービスのすべての依存関係をエンティティ階層にフェッチします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



スケジュール済みジョブが実行されると、メインノード構成に事前設定された関係のエンティティ階層が作成されます。

8. 対応するエンティティがビジネスサービスレコードに生成されていることを確認します。

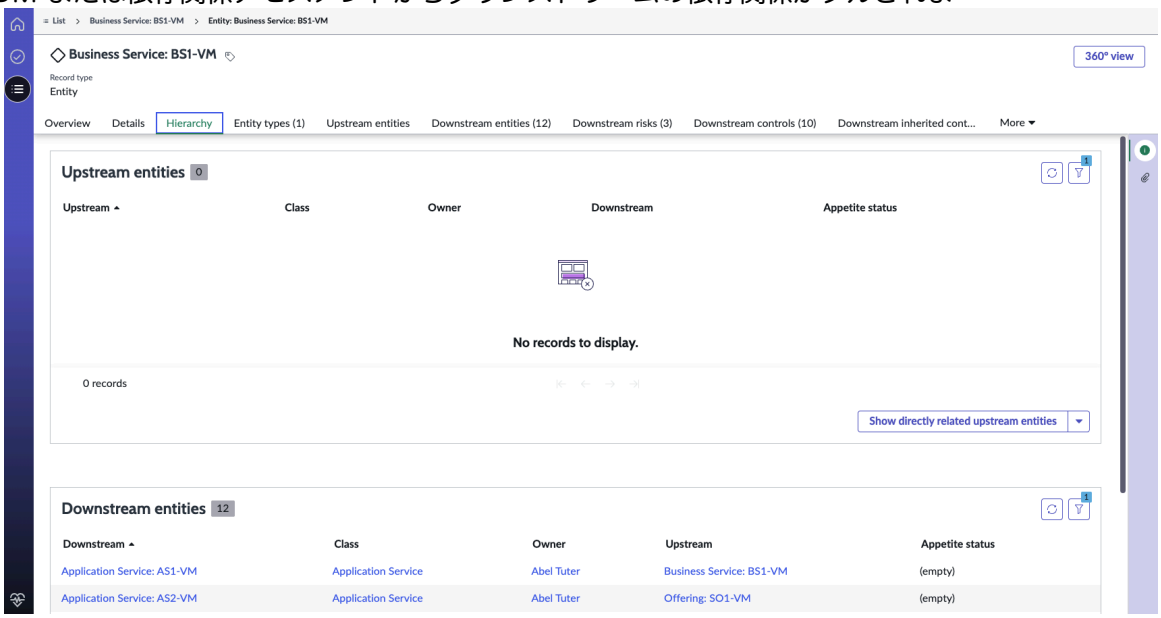


9. ビジネスサービスレコードで、 エンティティに移動 を選択し、 階層 タブを選択して、エンティティが互いにどのように継承されているかを表示します。

自動翻訳

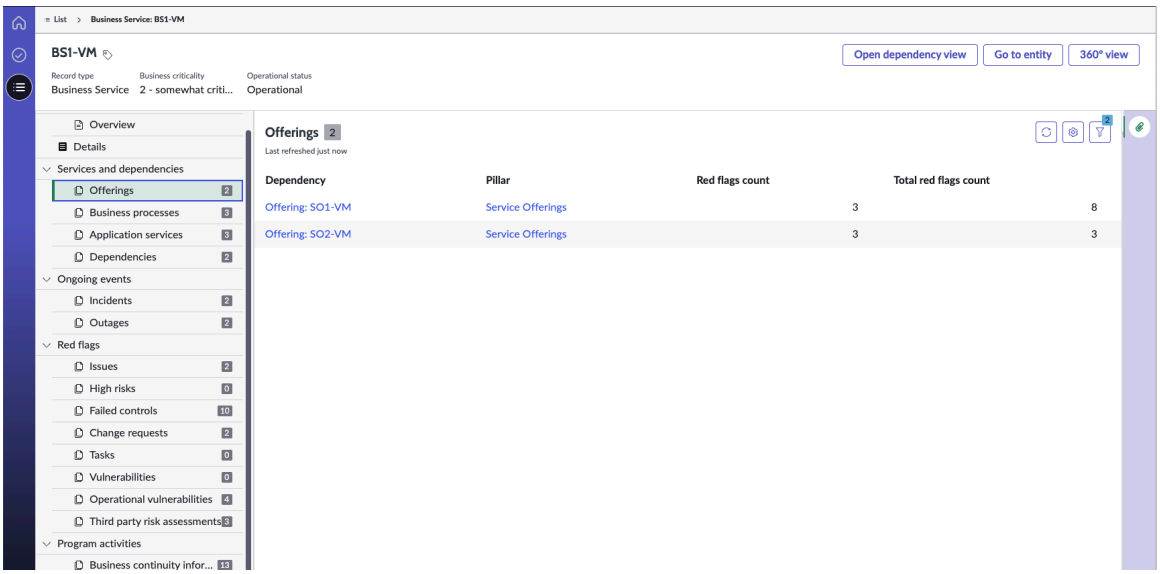
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

各メインノード構成でセットアップされたノード関係構成に基づいて、BIA の CSDM または依存関係アセスメントからダウンストリームの依存関係がプルされます。



10. 危険フラグを計算するには、 *Calculate red flags for CSDM and dependencies* スケジュール済みジョブを実行します。

    *Calculate red flags for CSDM and dependencies*スケジュール済みジョブがトリガーされると、すべてのステージングレコードがクリーンアップされ、危険フラグの計算が開始されます。

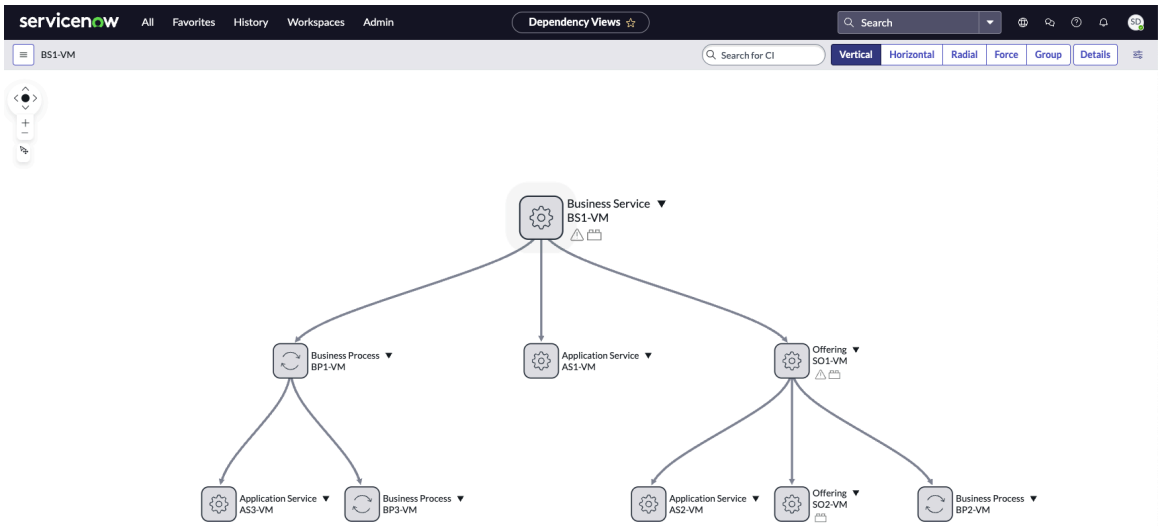


    問題、高リスク、失敗したコントロール、変更要求、タスク、インシデント、機能停止などの危険フラグデータは、依存関係ごとに一覧表示され、ビジネスサービスレコードの個別の危険フラグタブに一覧表示されます。

11. CMDBからビジネスサービスの依存関係を表示するには、ビジネスサービスレコードで [依存関係ビューを開く] オプションを選択します。

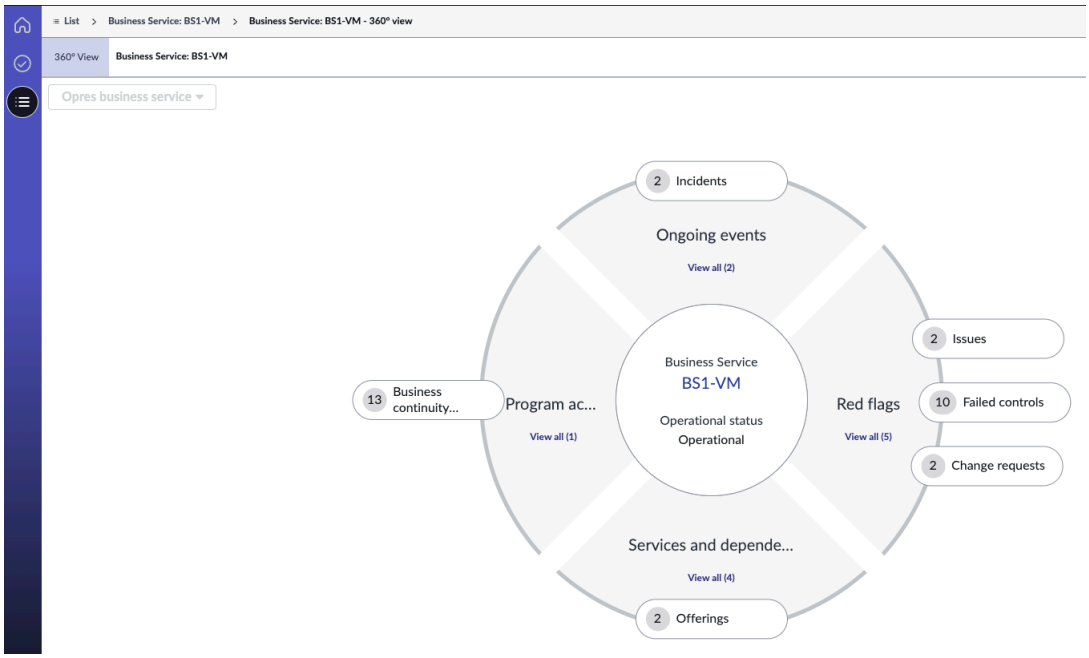
    依存関係ビューには、選択したビジネスサービスの関係が CMDB内でどのように構成されているかが表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



12. ビジネスサービスレコードの包括的な概要にアクセスするには、[**360** 度ビュー] オプションを選択します。

    ビジネスサービスレコードの 360 度ビューが表示されます。



サービスのエンドツーエンドワークフローのサンプル

CSDM依存関係と危険フラグデータをフェッチしてオペレーショナルレジリエンスするサービスのエンドツーエンドのワークフローを構成します。必要なデータをフェッチする前に、エンティティが生成されてピラーに関連付けられていること、およびメインノード構成が設定されていることを確認する必要があります。

始める前に
必要なロール：sn_oper_res.manager

このタスクについて
オペレーショナルレジリエンスの構成順序と手順については、「オペレーショナルレジリエンスの構成」を参照してください。

自動翻訳

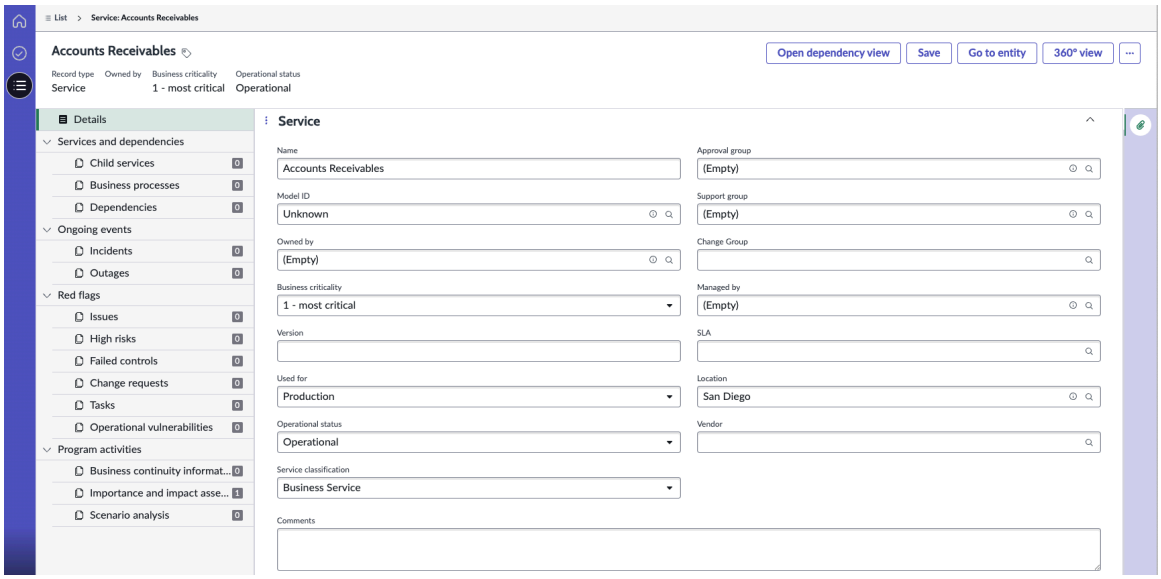
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メインノード構成レコードの作成手順については、「 メインノード設定レコードの作成」を参照してください。

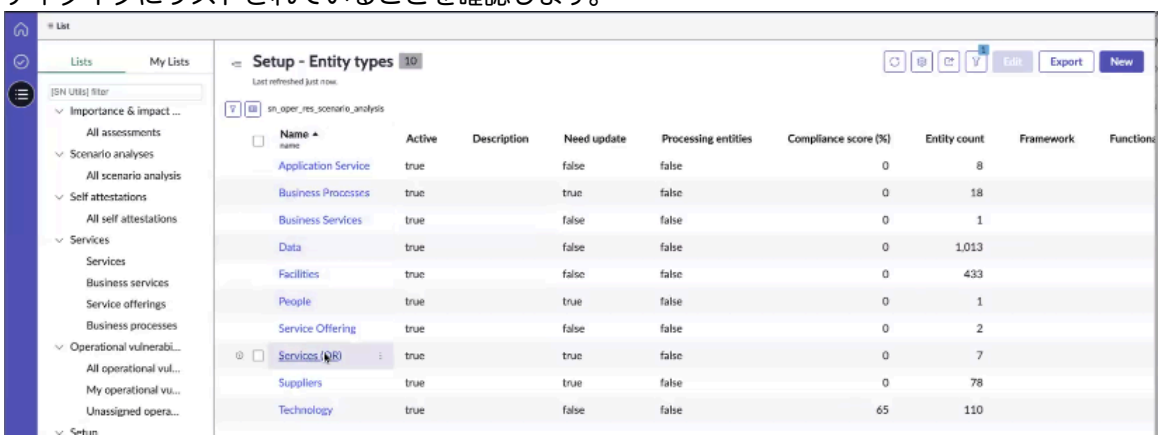
手順

1. インスタンスに オペレーショナルレジリエンス アプリケーションをダウンロードします。
   オペレーショナルレジリエンスアプリケーションをダウンロードする手順については、「オペレーショナルレジリエンス アプリケーションのインストール」を参照してください。
2. ピラー、エンティティタイプ、エンティティフィルターを設定し、エンティティが生成されていることを確認します。
   オペレーショナルレジリエンスの構成ページの構成手順を参照してください。
3. 移動先 オペレーショナルレジリエンスワークスペース > リスト > サービス をクリックし、サービスを選択します。

   図に示すように、サービスレコードを選択できます。

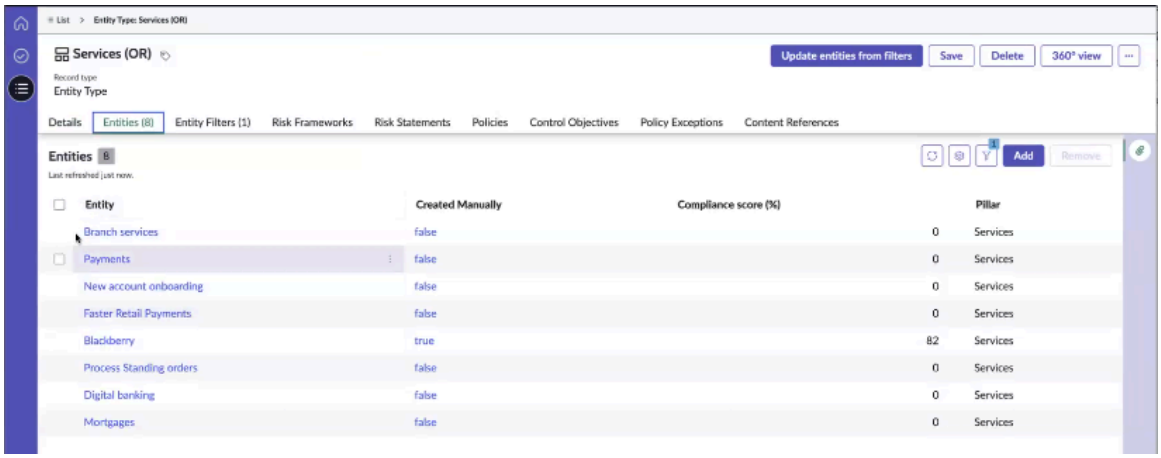


4. オペレーショナルレジリエンスレポートにサービスを追加するには、リストからサービスを選択し、[**OpRes** レポートに追加] を選択します。
   選択したサービスが オペレーショナルレジリエンス レポートに追加されます。
5. サービスのエンティティが作成され、[エンティティタイプ] ページの [サービス (OR)] エンティティタイプにリストされていることを確認します。



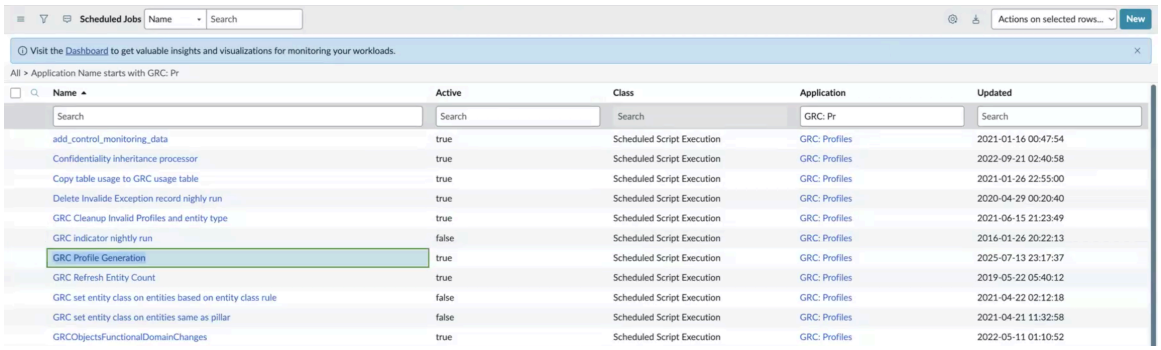
   エンティティが [エンティティ] タブに表示され、[詳細] タブで [アクティブ] としてマークされていることを確認します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



注:
次の例は、エンティティフィルターを使用してエンティティを生成する方法を示しています。ただし、実際のエンティティを作成する場合は、エンティティフィルターを使用するのではなく、 *GRC Profile Generation* スケジュール済みジョブを実行する必要があります。

参考のために、 *GRC Profile Generation* ジョブの詳細が表示されます。



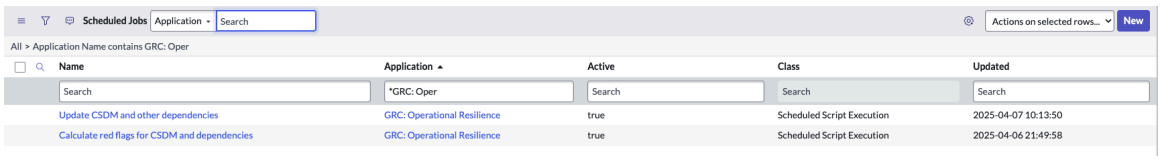
a. [エンティティフィルター] タブで、含めるサービスのフィルター条件を確認し、 オペレーショナルレジリエンスにフェッチします。

b. [エンティティ] フィルタータイプの [独自の条件を作成] または [事前定義されたクエリから選択] オプションを使用し、 [保存] を選択します。
選択したサービスのエンティティが生成されます。

6. 移動先 すべて > データ関係フレームワーク > メインノード構成 をクリックし、メインノード構成を選択します。

7. これらの関係をすべて オペレーショナルレジリエンスのエンティティ階層にフェッチするには、*Update CSDM and other dependencies* スケジュール済みジョブを実行します。

次の図は、すべてのスケジュール済みジョブとその設定されたスケジュールを示しています。



Update CSDM and other dependencies スケジュール済みジョブの UpdateCSDMDependencies 関数は、CSDM ヘッダーを使用した Opres のメインノード構成の一部として、ビジネスサービスのすべての依存関係をエンティティ階層にフェッチします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

スケジュール済みジョブが実行されると、メインノード構成に事前設定された関係のエンティティ階層が作成されます。

8. 危険フラグを計算するには、 *Calculate red flags for CSDM and dependencies* スケジュール済みジョブを実行します。
ビジネスサービスレコードでは、問題、高リスク、失敗したコントロール、変更要求、タスク、インシデント、機能停止などの危険フラグが更新されます。
9. 対応するエンティティがサービスレコードに生成されることを確認します。
10. サービス レコードで、 エンティティに移動 を選択し、 階層 タブを選択して、エンティティが互いにどのように継承されているかを表示します。

    各メインノード構成でセットアップされたノード関係構成に基づいて、BIA の CSDM または依存関係アセスメントからダウンストリームの依存関係がプルされます。
11. サービスの依存関係を表示するには、[依存関係ビューを開く] オプションを選択します。
12. サービスレコードの包括的な概要にアクセスするには、[**360** 度ビュー] オプションを選択します。

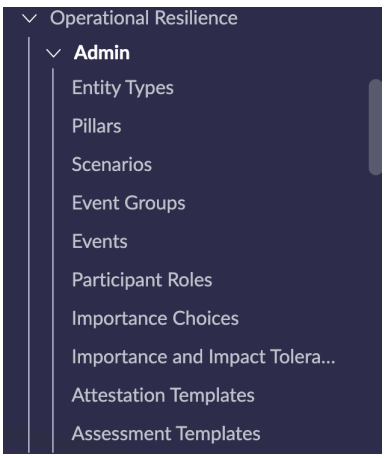
一般的な管理タスクの完了

sn_oper_res.admin ロールを持つユーザーは、オペレーショナルレジリエンス アプリケーションでセットアップタスクを実行できます。

クラシック オペレーショナルレジリエンス ビューの管理モジュール

sn_oper_res.admin ロールを持っている場合は、次の例に示すように、アドミンモジュールを設定し、 オペレーショナルレジリエンスワークスペース で管理タスクを設定できます。

クラシックビューの管理モジュール



sn_oper_res.admin ロールを持つユーザーは、管理モジュールを使用して次のエンティティを設定できます。

- エンティティタイプ

  注:
  オペレーショナルレジリエンスアプリケーションをインストールすると、エンティティタイプ [sn_grc_profile_type] テーブルにシードデータが挿入されます。エンティティタイプとエンティティフィルターの両方が非アクティブとしてインストールされます。これらを有効にすると、何千ものエンティティレコードが生成される可能性があります。

- ピラー

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- シナリオ
- イベントグループ
- イベント
- 参加者のロール
- 重要性の選択
- 重要性および影響許容度評価スケール
- 証明書テンプレート
- アセスメントテンプレート

注:
sn_oper_res.admin ロールを持つユーザーとしてアプリケーションにログインすると、管理モジュールを表示できます。

オペレーショナルレジリエンス アドミニストレーターは、ピラーを作成し、ダッシュボードでレポートを変更することもできます。

注:
sn_oper_res.admin ロールを持つユーザーは、エンティティタイプ、そのフィルター、およびピラーを変更できますが、変更する際には十分な注意が必要です。

管理セットアップタスク

sn_oper_res.admin ロールを持つユーザーは、次の一般的なセットアップタスクを完了できます。

- リスクを表すシナリオを作成します。詳細については、「シナリオを作成してイベントにリンクする」を参照してください。
- イベントをイベントグループに関連付けて分類します。詳細については、「シナリオのイベントグループの作成」を参照してください。
- シナリオに関連付けることができるイベントを作成します。詳細については、「シナリオのイベントの作成」を参照してください。
- シナリオ分析のための参加者ロールを追加します。詳細については、「シナリオ分析の参加者ロールの追加」を参照してください。
- 重要な選択肢モジュールを使用して、アセスメント評価を更新します。詳細については、「重要な選択肢モジュールを更新する」を参照してください。
- 重要性および影響度評価スケールを更新します。詳細については、「重要性および影響許容度評価スケールの設定」を参照してください。
- 証明書テンプレートを作成します。詳細については、「証明書テンプレートの作成と編集」を参照してください。

シナリオを作成してイベントにリンクする

オペレーショナルレジリエンス アプリケーションでシナリオを作成して、それをイベントに関連付け、ビジネスサービスへの影響を評価できるようにします。

始める前に
必要なロール：sn_oper_res.admin

自動翻訳

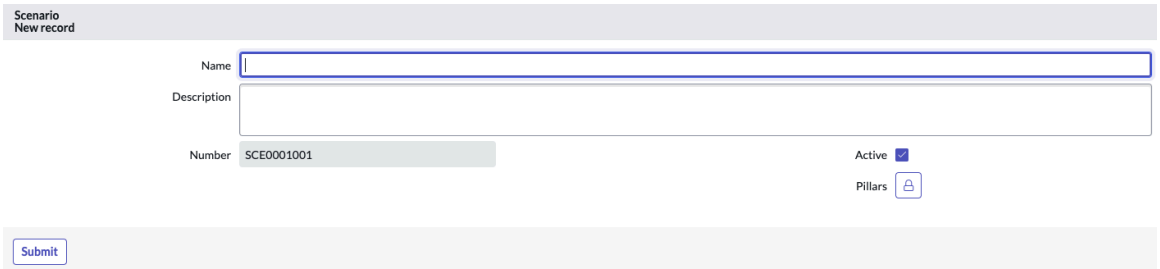
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
シナリオは、ビジネスに適用可能なリスクを判断するのに役立ちます。sn_oper_res.admin ロールを持っている場合は、オペレーショナルレジリエンス アプリケーションでシナリオを作成できます。シナリオを使用して、イベントが組織にどのように影響するかをテストできます。

手順

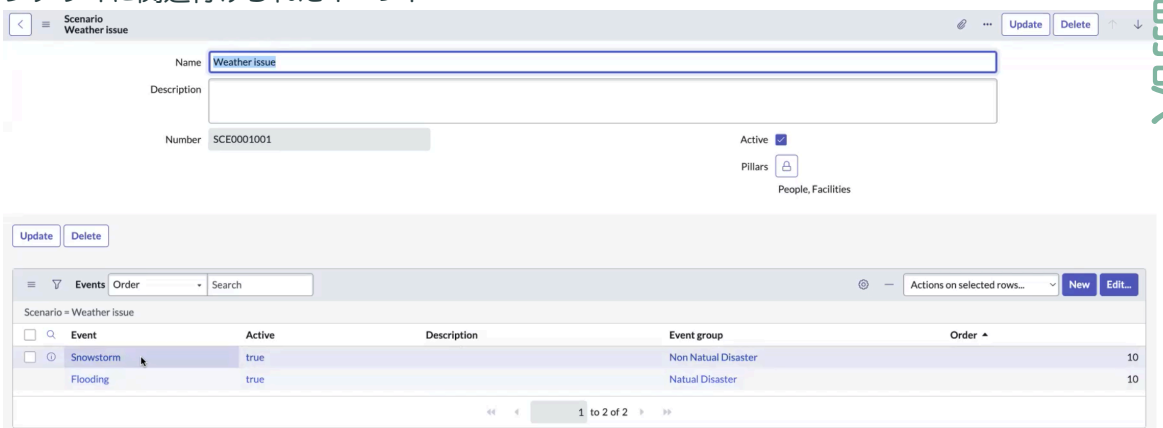
1. 移動先 すべて > オペレーショナルレジリエンス > 管理者 > シナリオ.
2. [**New**] をクリックします。
   シナリオの新規レコードフォームのサンプル構成を次の例に示します。

シナリオの新規レコードフォームのサンプル構成



3. フォームのフィールドに入力します。
   フィールド値の説明については、「シナリオの新規レコードフォーム」を参照してください。
4. [送信] をクリックします。
   イベントがシナリオに関連付けられました。次の例に示すように、[イベント] 関連リストには、関連するイベントが表示されます。

シナリオに関連付けられたイベント



   イベントの順序はシナリオに関連付けられており、デフォルトで関連リストに自動入力されます。

シナリオの新規レコードフォーム

シナリオの新規レコードフォームを使用してシナリオを作成し、シナリオに関連付けられたイベントが組織にどのように影響するかをテストします。

シナリオの新規レコードフォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

シナリオの新規レコードフォーム

フィールド	説明
名前	シナリオの名前。
説明	シナリオの説明。
数値	シナリオレコードの番号。このフィールドは自動入力されます。
有効	シナリオをアクティブとしてマークするオプション。
Pillar	シナリオに関連付けることができるピラーのリスト。オペレーショナルレジリエンス ベースシステムには、次のピラーが用意されています。 • 施設 • 人々 • プロセス • サプライヤー • テクノロジー
関連リスト (シナリオの追加後に表示)	
イベント	シナリオに関連付けられたイベント関連リストには、イベントの名前、そのアクティブステータス、説明、関連するイベントグループ、およびシナリオに関連付けられている順序が表示されます。イベントの順序はシナリオに関連付けられており、デフォルトで関連リストに自動入力されます。 **注:** 新しいイベントを追加するか、シナリオに関連付けられている既存のイベントを編集することができます。

自動翻訳

シナリオのイベントグループの作成

オペレーショナルレジリエンス アプリケーションでイベントグループを作成して、シナリオで定義されているイベントを分類できるようにします。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.admin

このタスクについて

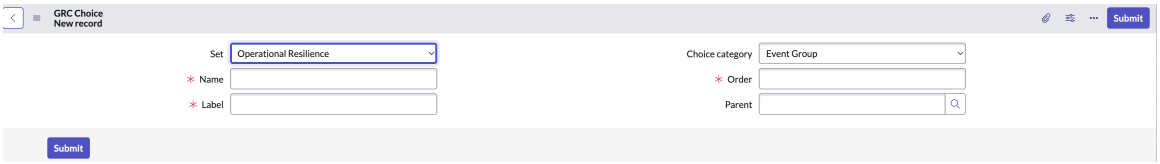
類似のタイプのイベントをシナリオのイベントグループに分類します。たとえば、洪水などの自然イベントを天気イベントグループに分類できます。同様に、停電はエネルギー問題のイベントグループに分類できます。

手順

1. 移動先 すべて > オペレーショナルレジリエンス > 管理者 > イベントグループ.
2. [**New**] をクリックします。
3. [名前] フィールドに、イベントグループの名前を入力します。
4. [ラベル] フィールドに、イベントグループのラベルを入力します。
   サンプルイベントグループの構成を次の例に示します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC 選択肢の新規レコードフォームのサンプル構成



5. [順番] フィールドにイベントグループの順番を入力し、[送信] をクリックします。
   イベントグループフォーム内のフィールドの詳細については、「GRC 選択肢の新規レコードフォーム」を参照してください。

GRC 選択肢の新規レコードフォーム

GRC 選択肢の新規レコードフォームを使用して、イベントを分類し、イベントグループに整理します。

GRC 選択肢の新規レコードフォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

GRC 選択肢の新規レコードフォーム

フィールド	説明
セット	デフォルトで オペレーショナルレジリエンス に設定されているビュー。
名前	イベントグループの名前。たとえば、 天気やエネルギーの問題などです。
ラベル	UI に表示されるイベントグループのラベル。
選択肢カテゴリ	デフォルトで [イベントグループ] に設定されているカテゴリ。
順序	イベントグループの順序。
親	イベントグループに関連付ける親カテゴリ。

シナリオのイベントの作成

オペレーショナルレジリエンス アプリケーションでイベントを作成して、それをシナリオに関連付け、サービスへの影響を評価できるようにします。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.admin

このタスクについて

sn_oper_res.admin ロールを持っている場合は、オペレーショナルレジリエンス アプリケーションでイベントを作成できます。イベントには、洪水や停電などがあります。類似したタイプのイベントをイベントグループに分類できます。

手順

1. 移動先 すべて > オペレーショナルレジリエンス > 管理者 > イベント.
2. [**New**] をクリックします。
3. [名前] フィールドで、イベントの名前を入力します。
4. [説明] フィールドに、イベントの説明を入力します。
5. [イベントグループ] フィールドで、イベントグループを選択します。

自動翻訳

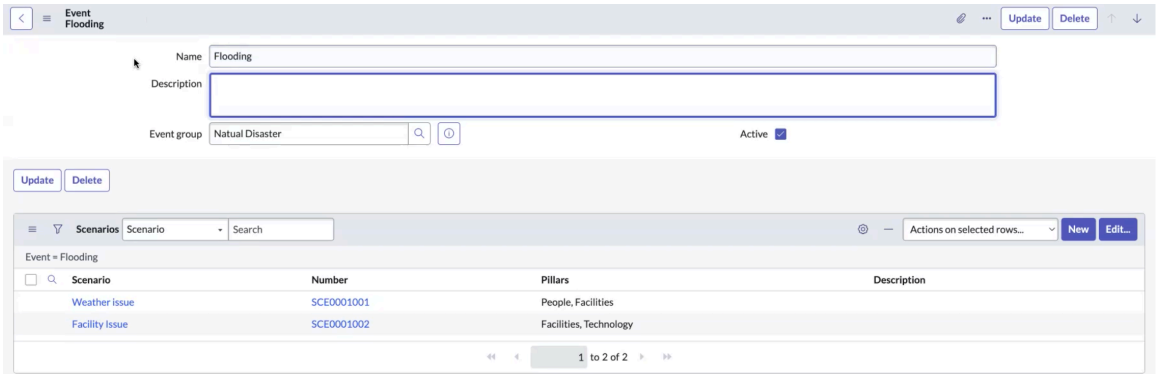
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フォームのフィールド値の説明については、「イベントの新規レコードフォーム」を参照してください。

注:
イベントは多くのシナリオに追加できますが、シナリオに追加できるのは 1 回のみです。

6. [送信] をクリックします。
次の例に示すように、イベントをイベントグループに分類できます。

イベントの新規レコードフォームのサンプル構成



例に示すように、イベントのシナリオはさまざまなピラーに関連付けることができます。

イベントの新規レコードフォーム

イベントの新規レコードフォームを使用してイベントを作成し、それをシナリオに関連付け、サービスへの影響を評価することができます。

イベントの新規レコードフォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

イベントの新規レコードフォーム

フィールド	説明
名前	イベントの名前。たとえば、洪水や地震などです。
説明	イベントの説明。
イベントグループ	イベントに関連付けるイベントグループ。たとえば、天気の問題などです。
有効	イベントをアクティブとしてマークするオプション。

シナリオ分析の参加者ロールの追加

オペレーショナルレジリエンス アプリケーションでシナリオ分析のための参加者ロールを追加して、参加者の観察事象と推奨事項をロールと機能別に収集できるようにします。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.admin

このタスクについて

重要なサービスのシナリオ分析など、シナリオ分析のタイプに応じて、関連するビジネス機能から参加者を追加し、さまざまなロールをアサインすることができます。たとえば、HR、法務、財務、または調達のロールを参加者に追加できます。

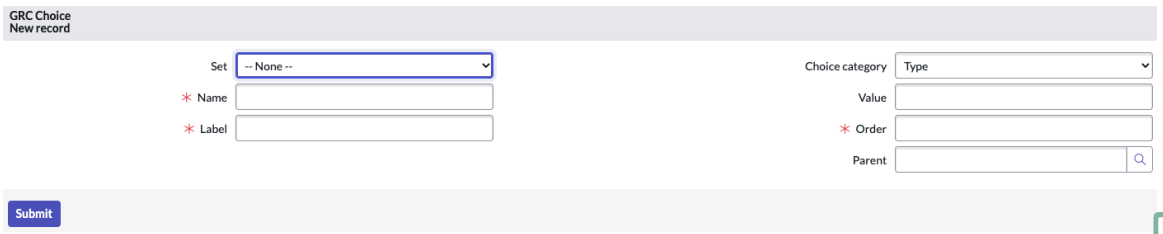
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > オペレーショナルレジリエンス > 管理者 > 参加者のロール をクリックし、[新規] をクリックします。
2. [設定] フィールドで、**[Operational Resilience]** を選択します。
3. [名前] フィールドに、参加者ロールの名前を入力します。
4. [ラベル] フィールドに、参加者ロールのラベルを入力します。
5. [選択肢カテゴリ] フィールドで、[ロール] を選択します。
6. [値] フィールドに、参加者ロールの選択肢の値を入力します。
7. [順序] フィールドに、参加者ロールの順序を入力します。
   このフィールドには、GRC 選択テーブルの参加者ロールの順序が表示されます。
8. [親] ルックアップリストのオプションで、親サービスを選択します。
   次の例に示す参加者ロールの構成例を参照してください。

GRC 選択肢の新規レコードフォームのサンプル構成



9. [送信] をクリックします。

タスクの結果
アプリケーション UI の参加者ロールモジュールでは、[ロール] リストビューに参加者ロールが表示されます。

GRC 選択肢の新規レコードフォーム

GRC 選択肢の新規レコードフォームを使用して、シナリオ分析のための参加者のロールを追加します。

ロールの **GRC** 選択肢の新規レコードフォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

GRC 選択肢の新規レコードフォーム

フィールド	説明
セット	デフォルトで オペレーショナルレジリエンス に設定されているビュー。
名前	ロールの名前。たとえば、施設や財務などです。
ラベル	UI に表示されるロールのラベル。
選択肢カテゴリ	デフォルトで [ロール] に設定されているカテゴリ。
値	ロールに設定した整数値。
順序	ロールの順序。このフィールドには、GRC 選択テーブルの参加者ロールの順序が表示されます。
親	ロールに関連付ける親カテゴリ。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

重要な選択肢モジュールを更新する

オペレーショナルレジリエンス アプリケーションのアセスメントの評価を更新して、ビジネスサービスのアセスメントの重要度と順序を更新できるようにします。

始める前に
必要なロール：sn_oper_res.admin

このタスクについて
重要な選択肢モジュールを使用して、アセスメント評価の重要度と順序を更新することができます。このタスクはオプションです。

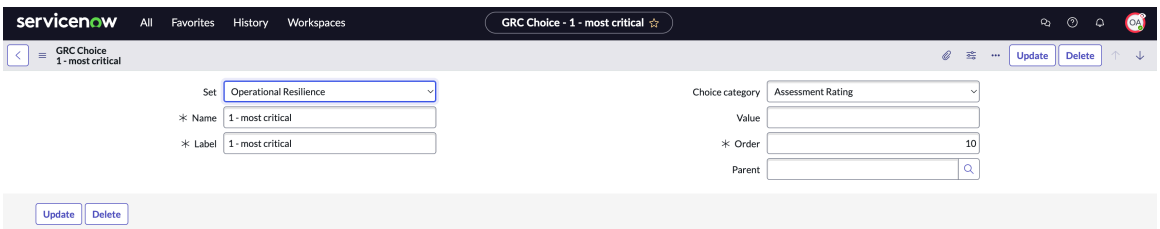
手順

1. 移動先 すべて > オペレーショナルレジリエンス > 管理者 > 重要性の選択.
   次の例に示すデフォルトのアセスメント評価が表示されます。

デフォルトのアセスメント評価



   サンプルのアセスメント評価を次の例に示します。



2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力し、[送信] を選択します。
   GRC 選択肢フォームのフィールド値の説明については、「GRC 選択肢フォーム」を参照してください。

GRC 選択肢フォーム

GRC 選択肢フォームを使用して、重要性の選択モジュールの重要度と選択肢の順序を更新することで、アセスメントの評価を設定します。

GRC 選択肢フォーム
フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

GRC 選択肢フォーム

フィールド	説明
セット	オペレーショナルレジリエンス に設定されているビュー。
名前	アセスメント評価の名前。たとえば、[1：最重要]などとします。
ラベル	アセスメント評価のラベル。たとえば、[1：最重要]などとします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC 選択肢フォーム (続く)

フィールド	説明
選択肢カテゴリ	選択肢カテゴリ。デフォルトで [アセスメント評価] に設定されています。
順序	アセスメント評価の順序をソートするために使用されるフィールド。重要性および影響度アセスメントのスコアに基づいて、アプリケーションは、対応する評価が選択されます。 
親	アセスメント評価に関連付けられている親設定。たとえば、テクノロジーの柱をアセスメント評価に関連付けることができます。

重要性および影響許容度評価スケールの設定

オペレーショナルレジリエンス アプリケーションで重要性および影響許容度評価スケールを設定して、ビジネスサービスの新しいパラメーターを定義できるようにします。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.admin

このタスクについて

重要性、影響許容度、影響許容度アイコンとその色、最小および最大の許容値、ビジネスサービスの許容度の順序などの新しいパラメーターを定義します。sn_grc_choice テーブルのオプションが *choice_category=opres_asmt_rating* および *set=operational_resilience* に設定されている場合、オペレーショナルレジリエンス アプリケーションは次のデフォルトの重要度評価スケールを提供します。このタスクはオプションです。

デフォルトの重要度評価スケール

重要性	影響許容度	影響許容度のアイコン	最小 - 最大スコア	順序
1 — 最重要	1 日	旗	76 ～ 100	10
2 — ある程度重要	2 日	三角形に感嘆符	51 ～ 75	20
3 — やや重要	3 日	双眼鏡	26 ～ 50	30
4 - 重要ではない	4 日	円にチェックマーク	0 ～ 25	40

新しいアンケートテンプレートが作成されると、アプリケーションはデフォルトの評価スケールのクローンをそのテンプレートに作成します。

sn_oper_res.admin ロールを持つユーザーは、個々のテンプレートの評価スケールを変更できます。

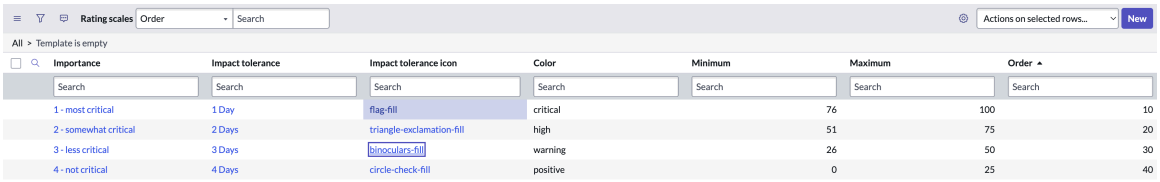
手順

1. 移動先 すべて > オペレーショナルレジリエンス > 管理者 > 重要性および影響許容度評価スケール.
   次の例に示すように、デフォルトの重要性および影響許容度評価スケールが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

重要性および影響許容度評価スケールモジュール



Importance	Impact tolerance	Impact tolerance icon	Color	Minimum	Maximum	Order
1 - most critical	1 Day	flag-fill	critical	76	100	10
2 - somewhat critical	2 Days	triangle-exclamation-fill	high	51	75	20
3 - less critical	3 Days	binoculars-fill	warning	26	50	30
4 - not critical	4 Days	circle-check-fill	positive	0	25	40

2. [新規] をクリックします。
   重要性、影響許容度、影響許容度アイコンとその色、最小および最大の許容値、ビジネスサービスの許容度の順序などの新しいパラメーターを定義することができます。
3. フォームでフィールドに入力し、[送信] をクリックします。
   評価スケールの新規レコードフォームのフィールド値の説明については、「評価スケールの新規レコードフォーム」を参照してください。

評価スケールの新規レコードフォーム

評価スケールの新規レコードフォームを使用して、デフォルトの重要度評価スケールを設定し、ビジネスサービスの評価スケールのパラメーターを定義します。

評価スケールの新規レコードフォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

評価スケールの新規レコードフォーム

フィールド	説明
重要性	サービスの重要度スケール利用可能なオプションは次のとおりです。 • **1 –** 最重要 • **2 –** ある程度重要 • **3 –** やや重要 • **4 –** 重要ではない
色	選択した許容度評価の色。使用可能なオプションは次のとおりです。 • なし • 青 • 茶色 • 重大 • グレイ • 緑 • 緑黄 • 高 • 情報 • 低 • マゼンタ • moderate

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

評価スケールの新規レコードフォーム (続く)

フィールド	説明
	• オレンジ色 • ピンク • プラス • 紫 • 青緑 • 警告 • 黄
順序	定義された重要性と許容期間の順序。
最小	中断の許容レベルの最小スコア。
最大	中断の許容レベルの最大スコア。
影響許容度	定義されたサービスの重要度に基づく影響許容期間 (日数)。
影響許容度のアイコン	選択した許容度評価の影響度許容度アイコン

証明書テンプレートの作成と編集

オペレーショナルレジリエンス アプリケーションでビジネスニーズに適したカスタマイズされた証明書テンプレートを作成します。証明書テンプレートをカスタマイズすることで、自己証明書の独自の質問を追加できます。独自のビジネスニーズに合わせて既存の証明書テンプレートを編集することもできます。

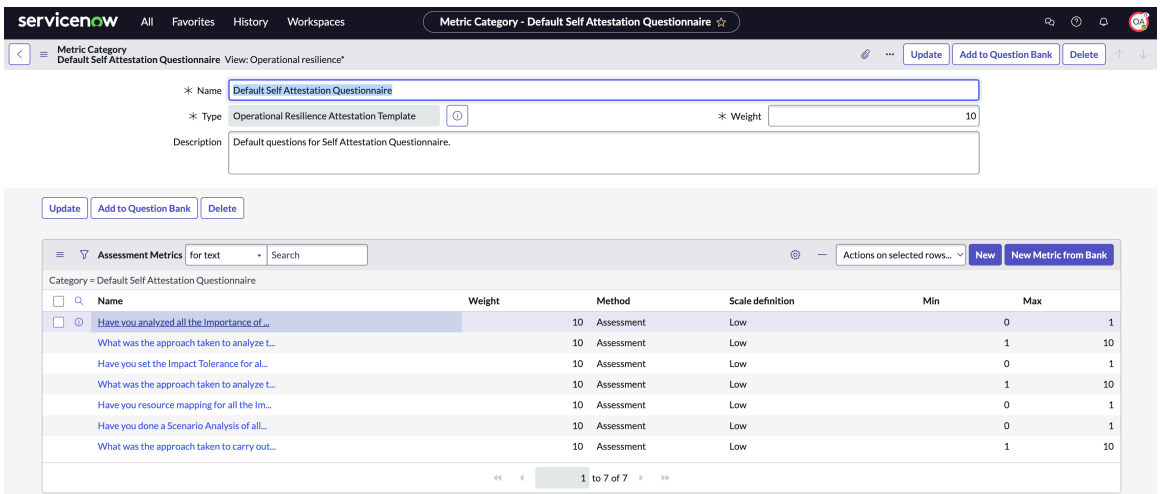
始める前に

必要なロール：sn_oper_res.admin

このタスクについて

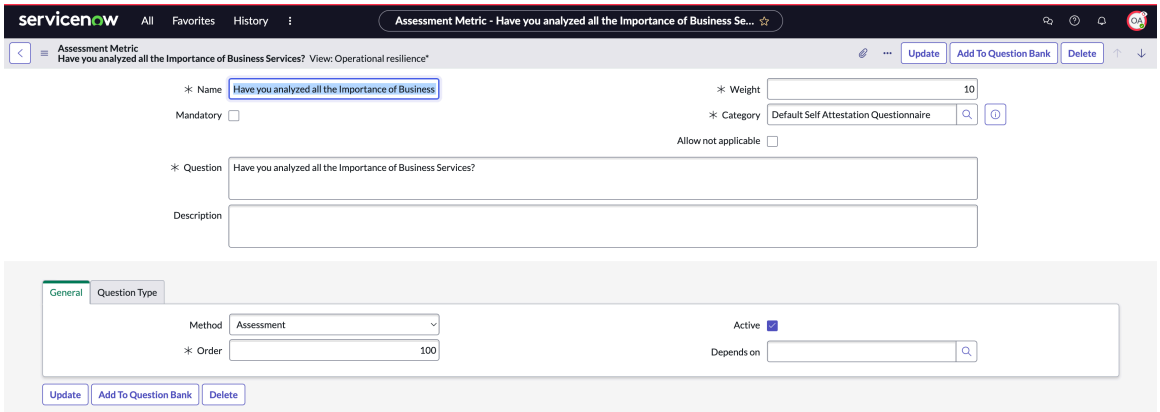
オペレーショナルレジリエンス アプリケーションは、ベースシステムの一部として証明書テンプレートを提供します。証明書テンプレートの作成はオプションです。

sn_oper_res.admin ロールがある場合は、独自のビジネスニーズに合わせて既存の証明書テンプレートを編集することもできます。次の例に示すように、証明書テンプレートの質問を選択して更新できます。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次の例に示すように、ビジネス要件に応じて質問を更新できます。



手順

1. 移動先 ワークスペース > アセスメントワークスペース をクリックして、アセスメントワークスペースのランディングページにアクセスします。
2. [新しいテンプレート] を選択し、[アセスメントテンプレートを作成] フォームに [テンプレートの詳細] を入力します。

   a. [全般] タブの [詳細] セクションにある [テンプレート名] フィールドにテンプレートの名前を入力します。
   自己証明書テンプレートの名前 (自己証明書アセスメントテンプレートなど) を追加できます。

   b. [説明] フィールドにテンプレートの詳細を追加します。

   c. [アセスメントテンプレート] リストから目的として [自己証明書アセスメント] を選択します。
   自己証明書プロセスにとって非常に重要であるため、正しい目的を選択していることを確認してください。

   d. アセスメントターゲットを [自己証明書] として選択します。

   e. **[Create** (作成)] を選択します。

   f. [設定] セクションで、評価の期間を日数で追加し、sn_oper_res.user などの評価リーダー ロールを割り当てて、[保存] を選択します。

   g. [質問] タブと [自動化] タブでそれぞれ質問を追加し、自動化を設定します。
   詳細については、「アセスメントテンプレートに手順と質問を追加する」と「応答の自動化」を参照してください。

   h. テンプレートを公開するには、[公開] を選択します。

3. 従来のテンプレートを更新するには、次の手順を実行します。

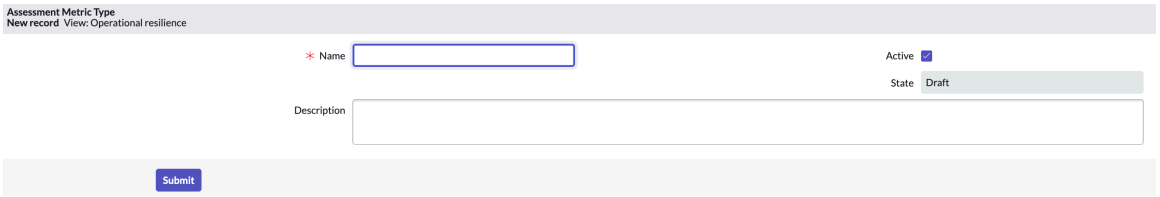
   a. 移動先 すべて > オペレーショナルレジリエンス > 管理者 > 証明書テンプレート.

   b. カスタマイズされたテンプレートを作成するには、[新規] を選択します。

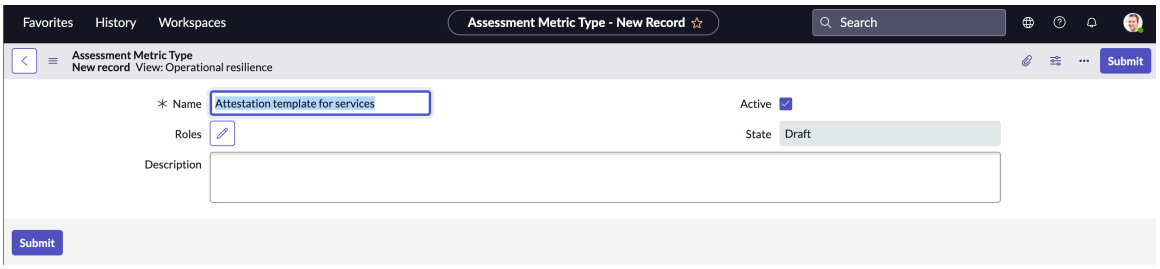
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カスタマイズされた証明書テンプレート



証明書テンプレート

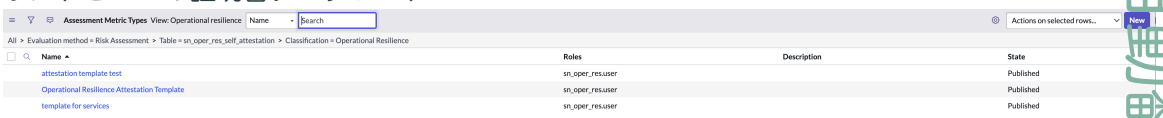


c. [アセスメントメトリクスタイプの新規レコード (Assessment Metric Type New Record)] フォームで、証明書テンプレートの名前を入力し、[送信] を選択します。

フォームのフィールド値の説明については、「アセスメントメトリクスタイプ新規レコード (Assessment Metric Type New Record) フォーム」を参照してください。

次の例に示すように、証明書テンプレートがテンプレートリストビューに表示されます。

リストビューの証明書テンプレート



[送信] を選択すると、カスタマイズされた証明書テンプレートに オペレーショナルレジリエンス テーブルとアプリケーションユーザーが追加されます。

自動翻訳

アセスメントメトリクスタイプ新規レコード **(Assessment Metric Type New Record)** フォーム

アセスメントメトリクスタイプ新規レコード (Assessment Metric Type New Record) フォームを使用して、証明書を作成するための証明書テンプレートを作成します。テンプレートフォームを使用して、レコードを作成します。

アセスメントメトリクスタイプ新規レコード **(Assessment Metric Type New Record)** フォーム

フォームのフィールド値の説明については、次の表を参照してください。

アセスメントメトリクスタイプ新規レコード **(Assessment Metric Type New Record)** フォーム

フィールド	説明
名前	テンプレートの名前。
説明	テンプレートに関する情報です。
有効	テンプレートを有効にするオプション。
状況	アセスメントの状態。利用可能なオプションは次のとおりです。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントメトリクスタイプ新規レコード **(Assessment Metric Type New Record)** フォーム (続く)

フィールド	説明
	• ドラフト • 公開済み このフィールドは自動入力されます。
メトリクスカテゴリ	[カテゴリ] は、与えられたメトリクスタイプのアセスメント可能なレコードを評価するためのテーマを表します。テンプレートの名前、カテゴリの説明、重み付け、順序などが表示されます。アセスメントアプリケーションの重み付けカテゴリとメトリクスの詳細については、「Assessment metric categories」を参照してください。

スマートアセスメント テンプレートの作成

運用上の脆弱性タイプで使用できる スマートアセスメント テンプレートと影響自動化を作成します。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.admin

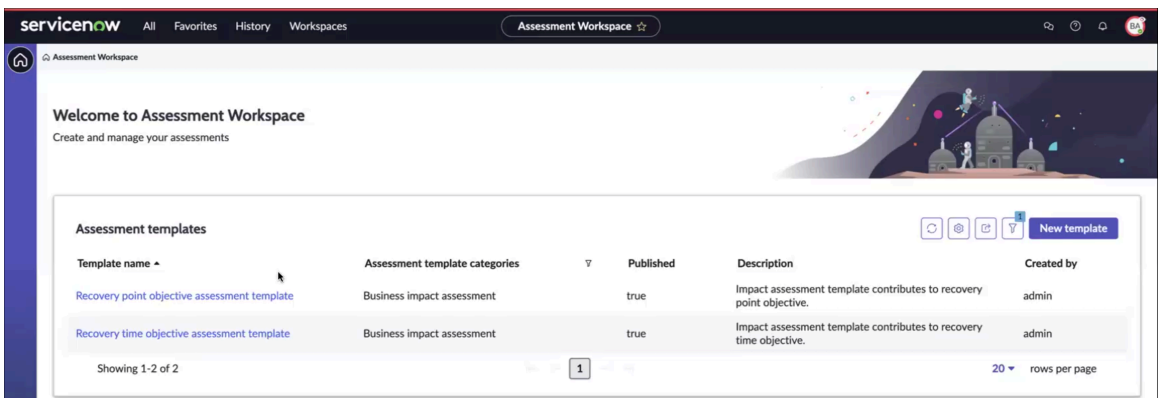
このタスクについて

オペレーショナルレジリエンス アドミニストレーターにはflow_designerロールが含まれており、必要に応じて自動化フローを更新できます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > アセスメントワークスペース または、 すべて > スマートアセスメントエンジン > アドミニストレーション > テンプレートカテゴリ.
2. [新しいテンプレート] を選択します。

   アセスメントテンプレートを作成して、 アセスメントワークスペースでアセスメントを管理できます。次の例は、インスタンス内のデモデータを示しています。



   [新しいテンプレート] を選択すると、[全般] タブと [質問] タブが表示されます。
3. アセスメントテンプレートの作成フォームで、フィールドに入力します。

自動翻訳

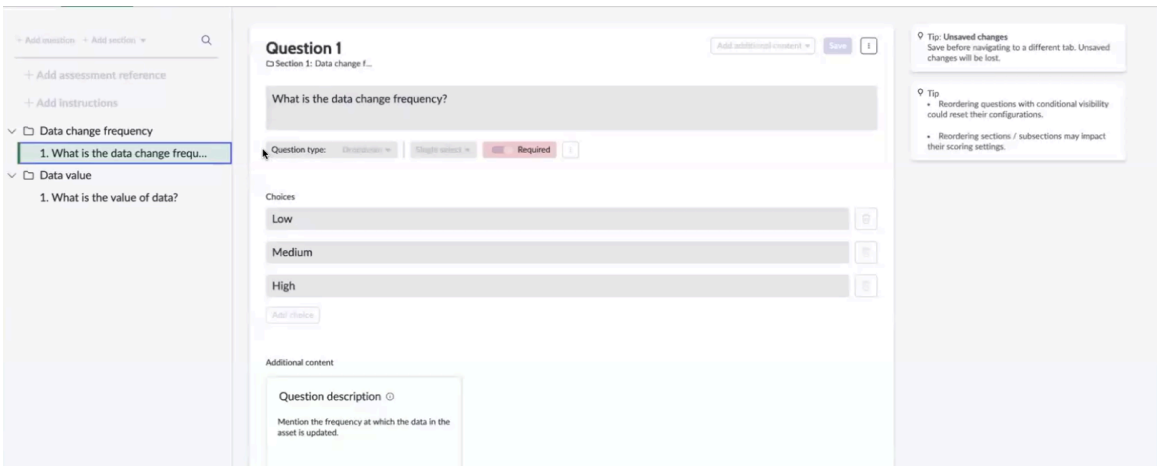
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントテンプレートの作成フォーム

フィールド	説明
テンプレート名	テンプレートの一意でわかりやすい名前 (例: スマートアセスメントを使用した BIA テンプレート)。
説明	テンプレートが使用されている理由などのテンプレートの説明。
目的	テンプレートの目的または使用目的 (自己証明書アセスメントなど)。
アセスメントターゲット	アセスメントに使用されるテーブルレコード。

これで、テンプレートに、質問に回答するための手順、質問、オプションのガイダンス、および関連する質問をグループ化するセクションを入力できるようになりました。

4. [全般] タブに移動します。
   a. [全般] タブの [詳細] セクションに表示されるテンプレートの詳細を確認します。
   b. [設定] セクションで、[アセスメントリーダーロール] フィールドにアセスメントリーダーロールを割り当てます。
   c. **[Save** (保存)] を選択します。
   アセスメントテンプレートの作成については、「 アセスメントテンプレートを作成する」を参照してください。
5. [質問] タブに移動し、アセスメントの質問を設定します。
   アセスメントテンプレートに手順と質問を追加する方法については、「 アセスメントテンプレートに手順と質問を追加する」を参照してください。



6. [自動化] タブで、ユーザーの応答を表示し、[開く] を選択して、ユーザーの応答に基づいて自動的にトリガーされるアクションを表示します。
7. [保存して公開] を選択します。
   アセスメントテンプレートが公開され、アセスメントの送信に使用できることを示すメッセージが表示されます。**[OK**] を選択するか、[テンプレート リストに戻る] を選択できます。アセスメントテンプレートに [自動化] タブと [スコアリング] タブが表示されます。スマートアセスメントテンプレートが作成され、インスタンスに保存されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
スマートアセスメントテンプレートを追加した後に脆弱性タイプを設定します。詳細については、「オペレーショナル脆弱性タイプの設定」を参照してください。

従来のアセスメントテンプレートの設定

オペレーショナルレジリエンスアプリケーションのデフォルトテンプレートを使用する代わりに、ビジネスニーズに合わせて独自のアンケート (アセスメント) テンプレートを作成します。

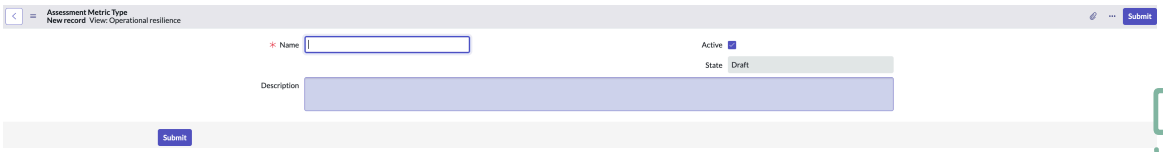
始める前に
必要なロール：sn_oper_res.admin

このタスクについて
独自のアンケート (アセスメント) テンプレートを作成し、査定人に応答を要求します。このタスクはオプションです。

手順

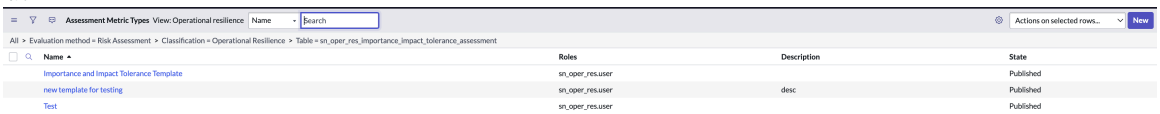
1. 移動先 すべて > オペレーショナルレジリエンス > アドミニストレーション > アセスメントテンプレート.
2. アセスメントテンプレートを作成するには、次の例に示すように [新規] をクリックします。

新しいリスクアセスメント



3. アセスメントメトリクスタイプフォームのフィールドに入力し、[送信] をクリックします。
次の例に示すように、新しいアセスメントテンプレートが [アセスメントメトリクスタイプ] リストに表示されます。

新しいアセスメント



アセスメントテンプレートフォームのフィールド値の説明については、「アセスメントメトリクスタイプフォーム」を参照してください。

アセスメントメトリクスタイプフォーム

デフォルトのテンプレートを使用する代わりに、アセスメントメトリクスタイプフォームを使用してアセスメントアンケートテンプレートを作成します。このフォームを使用して、査定人からの応答を要求することもできます。

アセスメントメトリクスタイプフォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

アセスメントメトリクスタイプフォーム

フィールド	説明
名前	アセスメントテンプレートの名前。
ロール	このテンプレートに関連付けられた結果とアクセスレコードを表示できる追加のユーザーロー

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

アセスメントメトリクスタイプフォーム (続く)

フィールド	説明
	ル。指定されたロールを持つユーザーは、テンプレートレコード、ならびに関連するカテゴリ、メトリクス、アセスメント可能なレコードとスコアカード、カテゴリユーザー、ステークホルダー、およびディシジョンマトリクスへの読み込みアクセス権を持ちます。
有効	アセスメントテンプレートを有効にするオプション。
状況	アセスメントのステータス：[ドラフト] または [公開] このフィールドは自動入力されます。
説明	アセスメントテンプレートに関する有用な情報。テンプレートとその目的の明確な説明を入力します。

HTML および PDF ドキュメントテンプレートの作成

オペレーショナルレジリエンス アプリケーションでビジネスニーズに適したカスタマイズされた HTML ドキュメントテンプレートを作成します。デフォルトの HTML テンプレートの代わりにカスタマイズされた HTML ドキュメントテンプレートを使用して、証明書をエクスポートできます。

始める前に
必要なロール：sn_oper_res.admin

このタスクについて
カスタマイズされた HTML ドキュメントテンプレートの作成はオプションです。

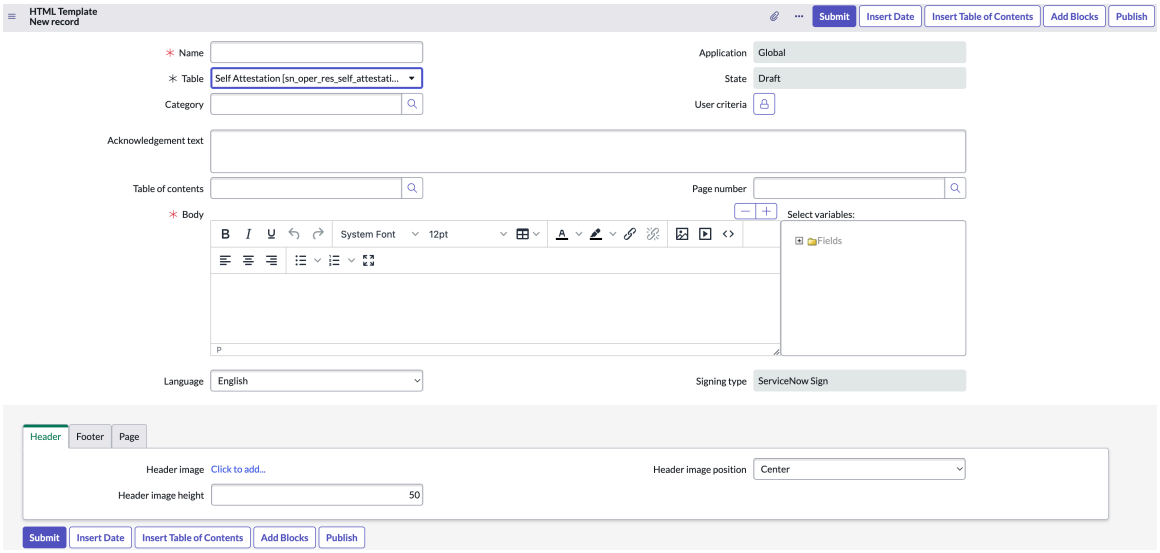
手順

1. 移動先 すべて > ドキュメントテンプレート > すべてのドキュメントテンプレート をクリックし、[新規] をクリックします。
   「*What kind of document template would you like to create?*」という質問がフォームに表示されます。使用可能なオプションは次のとおりです。
   - HTML ドキュメントテンプレート
   - PDF ドキュメントテンプレート
2. [**HTML** ドキュメントテンプレート] を選択します。
3. [テーブル] フィールドで、自己証明書 **[sn_oper_res_self_attestation]** テーブルを選択します。
   サンプルフォームを次の例に示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

HTML テンプレート



4. フォームでフィールドに入力し、[送信] をクリックします。
   新しいテンプレートが [ドキュメントテンプレート] リストに表示されます。フィールド値の説明については、「HTML テンプレートフォーム」を参照してください。

タスクの結果
sn_oper_res.manager ロールを持っている場合は、HTML テンプレートを使用して自己証明書レポートを生成できます。

HTML テンプレートフォーム

sn_oper_res.admin ロールを持っている場合は、デフォルトの HTML テンプレートを使用する代わりに、HTML テンプレートフォームを使用して HTML テンプレートを作成します。

HTML テンプレートフォーム

フォームのフィールド値の説明については、次の表を参照してください。

HTML テンプレートフォーム

フィールド	説明
名前	HTML テンプレートの一意の名前。
テーブル	テンプレートに使用されるテーブルのタイプ。デフォルト値は、自己証明書 [sn_oper_res_self_attestation] テーブルです。
カテゴリ	オペレーショナルレジリエンス などのドキュメントテンプレートのカテゴリ。
アプリケーション	グローバルなどのアプリケーションのタイプ。このフィールドは自動入力されます。
状況	グローバルなどのアプリケーションのステータス。このフィールドは自動入力されます。
ユーザー基準	GRC ビジネスユーザーなどのユーザー基準のターゲットレコード。
確認応答テキスト	HTML テンプレートの確認応答テキスト。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

HTML テンプレートフォーム (続く)

フィールド	説明
ページ番号	デフォルトなどの HTML テンプレートのページ番号。
本文	HTML テンプレートの本文テキスト。
言語	HTML テンプレートの言語。デフォルトは英語です。
署名タイプ	HTML テンプレートの署名タイプ。
関連リスト	
ヘッダー	ヘッダー画像に関する情報。オプションは次のとおりです。 • ヘッダーイメージ：クリックしてヘッダー画像を追加します。 • ヘッダーイメージの位置：次のオプションを使用してヘッダー画像を配置します。 ○ 左：ヘッダー画像をページの左側に配置します。 ○ 中央：ヘッダー画像をページの中央に配置します。 ○ 右：ヘッダー画像をページの右側に配置します。 • ヘッダーイメージの高さ：ヘッダー画像の高さの値 (ピクセル単位)。
フッター	フッター画像に関する情報。オプションは次のとおりです。 • フッターイメージ：クリックしてフッター画像を追加します。 • フッターイメージの位置：次のオプションを使用してフッター画像を配置します。 ○ 左：フッター画像をページの左側に配置します。 ○ 中央：フッター画像をページの中央に配置します。 ○ 右：フッター画像をページの右側に配置します。 • フッターイメージの高さ：フッター画像の高さの値を入力します。 • フッターテキスト：ドキュメントに脚注を追加します。 • フッターテキストの位置：次のオプションを使用してフッターテキストを配置します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

HTML テンプレートフォーム (続く)

フィールド	説明
	○ 左：フッターテキストをページの左側に配置します。 ○ 中央：フッターテキストをページの中央に配置します。 ○ 右：フッターテキストをページの右側に配置します。 • 垂直配置：次のオプションを使用してフッターテキストを配置します。 ○ フッターイメージの上：フッターテキストをフッター画像の上に配置します。 ○ フッターイメージの下：フッターテキストをフッター画像の下に配置します。
ページ	ページに関する情報。オプションは次のとおりです。 • ページサイズ：ページのサイズ。利用可能なオプションは次のとおりです。 ○ **A4**：HTML テンプレートのを A4 サイズのページにします。 ○ レター：HTML テンプレートをレターサイズのページにします。 ○ リーガル：HTML テンプレートをリーガルサイズのページにします。 • 上/下マージン：ページの上下のマージンの寸法 (ピクセル単位)。 • 左/右マージン：ページの左右のマージンの寸法 (ピクセル単位)。

自動翻訳

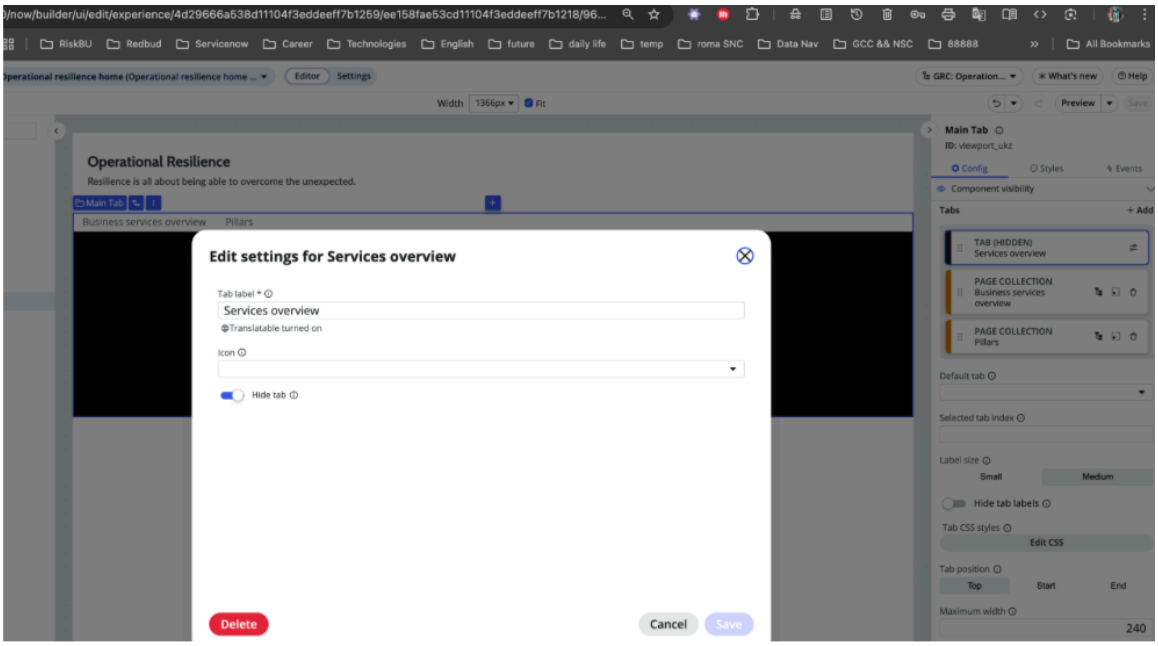
ワークスペースビューにビジネスサービスの概要タブを表示する

リリース 20.1.x 以降、オペレーショナルレジリエンスワークスペースのランディングページに [サービスの概要] タブと [ビジネスサービスの概要] タブが表示されます。アドミニストレーターまたは UI ビルダー アドミニストレーターは、組織のニーズに基づいて、これらのタブのいずれかをワークスペース ビューで表示または非表示にすることができます。

[ビジネスサービスの概要] タブの表示

[ビジネスサービスの概要] タブを表示し、[サービスの概要] タブを非表示にするには、UI ビルダーアドミニストレーターがUI ビルダーの [設定] タブを開き、例に示すように [タブを非表示にする] を選択します。

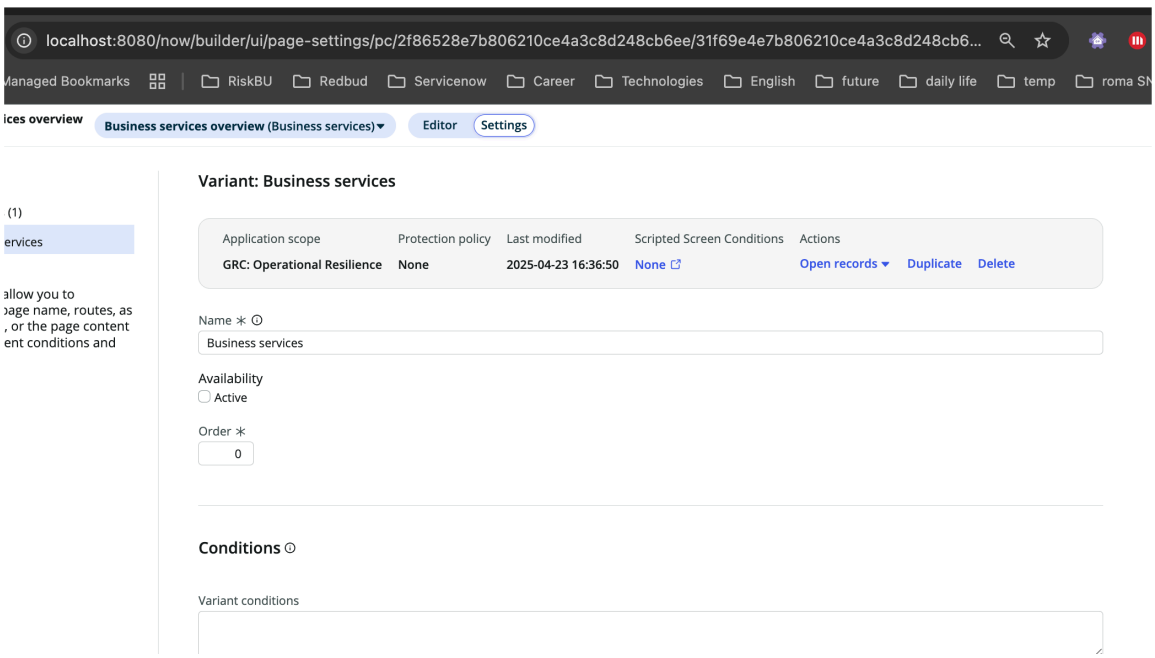
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



設定が保存されると、[ビジネスサービスの概要] タブが表示され、[サービスの概要] タブがランディングページで非表示になります。

[サービスの概要] タブの表示

[サービスの概要] タブを表示し、[ビジネス サービスの概要] タブを非表示にするには、UI ビルダー管理者がUI ビルダーの [設定] タブを開き、例に示すように [アクティブ] フラグの選択を解除します (非アクティブとしてマークします)。



設定が保存されると、[サービスの概要] タブが表示され、ランディングページの [ビジネスサービスの概要] タブが非表示になります。

タブを表示または非表示にするための **UIB** セットアップ

UI ビルダーアドミニストレーターは、必要に応じてワークスペースビューのタブを表示または非表示にするようにUI ビルダーページを構成できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細については、次の参照リンクを参照してください。

- タブの UIB セットアップ
- でのコンポーネントの表示に関するコミュニティ記事 UI ビルダー

オペレーショナル脆弱性モジュールの設定

組織内の運用上の脆弱性を特定して対処できるように、オペレーショナルレジリエンスワークスペースのオペレーショナル脆弱性機能を構成します。

オペレーショナル脆弱性 の構成の概要

オペレーショナル脆弱性機能は、デフォルトで オペレーショナルレジリエンス アプリケーションに含まれています。

オペレーショナルレジリエンスワークスペースの一般的な構成手順は次のとおりです。

1. オペレーショナル脆弱性レコードを作成して、運用上の脆弱性を報告します。
2. アサイン済みおよび未アサインの オペレーショナル脆弱性 レコードを確認します。オペレーショナルレジリエンスアドミニストレーター [sn_oper_res.admin] は、オペレーショナル脆弱性レコードをアサインすることができます。
3. アサインされた運用上の脆弱性の承認ステータスを確認します。
4. オペレーショナル脆弱性タイプを設定します。
5. 状況モデルとアクションタスクモデルを設定して、運用上の脆弱性レコードとアクションタスクの状況移行を定義します。
6. 脆弱性アセスメントテンプレートを設定して、アセスメント期間、関連テーブル、運用上の脆弱性のフィルター条件などの重要なアセスメントの詳細を構成します。
7. 運用上の脆弱性の PDF を生成するためのドキュメントテンプレート (HTML テンプレート) を設定します。

オペレーショナル脆弱性タイプの設定

オペレーショナル脆弱性タイプを設定します。オペレーショナル脆弱性のタイプと性質を定義することで、オペレーショナルレジリエンスアドミニストレーターは運用上の脆弱性を適切なチームに効率的にアサインし、問題をタイムリーに解決できます。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.admin

このタスクについて

オペレーショナルレジリエンス のアドミニストレーターは、オペレーショナルレジリエンスワークスペース内に 1 つの脆弱性タイプレコードのみを作成できます。

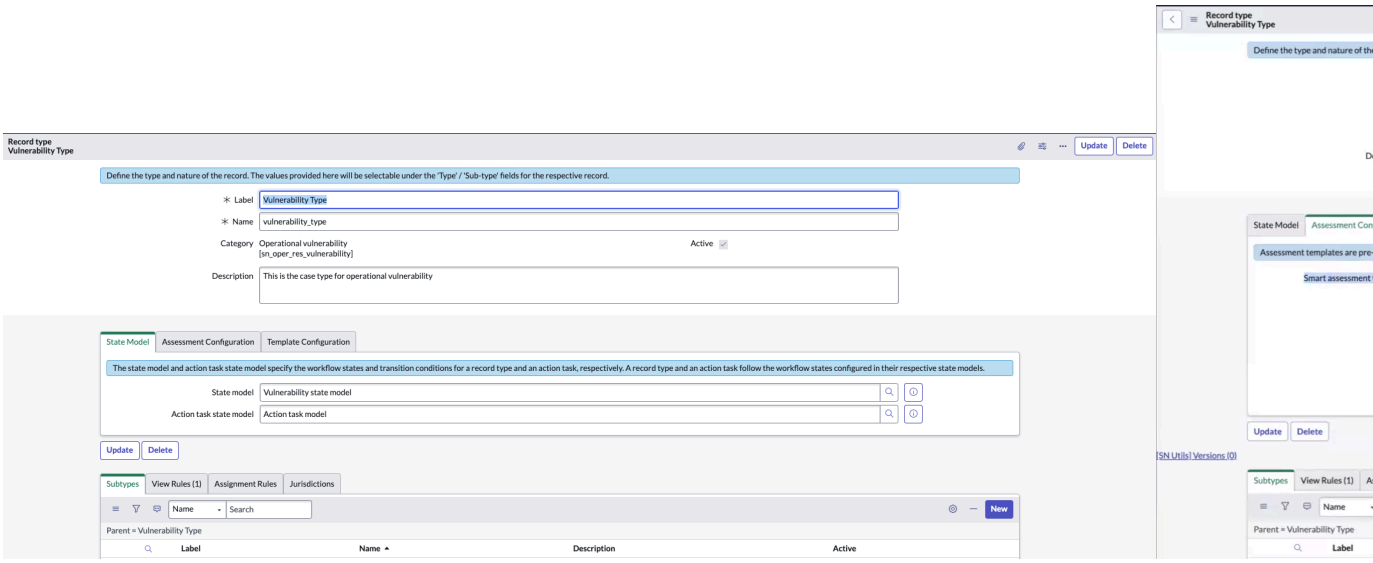
手順

1. 移動先 すべて > 運用上の脆弱性 > 脆弱性タイプ.
2. 脆弱性タイプレコードフォームで、フィールドに入力します。

   例に脆弱性タイプレコードフォームを示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



フィールドの詳細については、「脆弱性タイプフォーム」を参照してください。

3. 脆弱性タイプの スマートアセスメント テンプレートを選択します。
4. レコードを更新するには、[更新] を選択します。
   スマートアセスメントテンプレートは、運用上の脆弱性を処理するために使用されます。
5. レコードを削除するには、[削除] を選択します。

脆弱性タイプフォーム

[脆弱性タイプ] フォームで、 オペレーショナル脆弱性のフィールドに入力します。

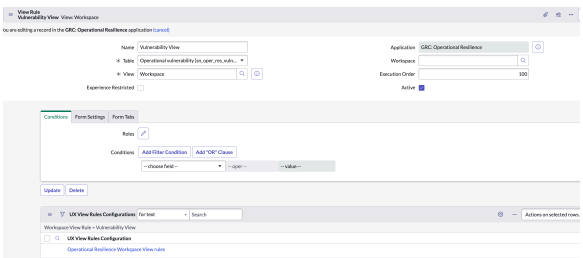
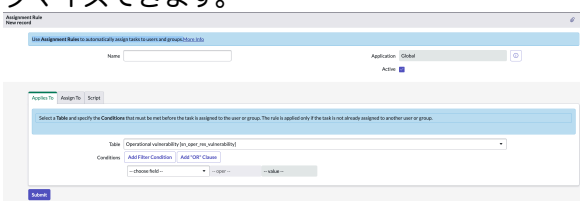
新しい運用上の脆弱性フォームの作成

フィールド	説明
ラベル	脆弱性タイプレコードのラベル。
名前	脆弱性タイプの名前。例:vulnerability_type。
カテゴリ	脆弱性タイプのカテゴリ。例:運用上の脆弱性 [sn_oper_res_vulnerability]。
説明	脆弱性タイプの説明。
アクティブ	脆弱性タイプをアクティブ化するオプション。
ステータスモデル	
ステータスモデル	脆弱性状況モデル状況モデルとアクションタスク状況モデルは、それぞれレコードタイプとアクションタスクのワークフロー状況と移行条件を指定します。
アクションタスクのステータス モデル	アクションタスクモデル。レコードタイプとアクションタスクは、それぞれの状況モデルで構成されたワークフロー状況に従います。
アセスメント構成	
アセスメントテンプレート	レコードの評価に役立つ査定人またはレビュー担当者からの応答を要求するための事前定義された形式。1 つまたは複数のアセスメントテン

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい運用上の脆弱性フォームの作成 (続く)

フィールド	説明
	プレートを使用して、アクションタスクで使用できます。脆弱性タイプに追加された スマート アセスメント テンプレートを使用します。
テンプレート構成	
ドキュメントテンプレート	脆弱性レコードの PDF を生成するために事前定義された形式。
関連リスト	
サブタイプ	脆弱性タイプレコードのサブタイプ。たとえば、ドキュメントの損失。
表示ルール	オペレーショナルレジリエンスワークスペースの脆弱性のフォームビューを定義するためのルール。ルールを指定すると、脆弱性に使用するビューを定義し、脆弱性フォームの表示方法を制御するのに役立ちます。たとえば、デフォルトビューやワークスペースビューなどです。 
アサインルール	デフォルトでタスクをユーザーとグループにアサインするためのルール。 **注:** アサインルールは、運用上の脆弱性が 従業員センターから作成された場合にのみ適用されます。それ以外の場合は適用されません。 [適用先] 関連リストでテーブルを選択し、タスクをユーザーまたはグループにアサインする前に満たす必要がある条件を指定できます。ルールは、そのタスクが別のユーザーまたはグループにまだアサインされていない場合にのみ適用されます。[スクリプト] 関連リストでは、スクリプトを使用してアサインルールをさらにカスタマイズできます。 
管轄	影響を受ける地域の管轄。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい運用上の脆弱性フォームの作成 (続く)

フィールド	説明
	注: 管轄は現在 オペレーショナル脆弱性ではサポートされていません。

状況モデルとアクションタスクモデルの設定

脆弱性状況モデルとアクションタスクモデルを設定して、 オペレーショナル脆弱性 レコードのワークフローを管理します。これらのモデルは、レコードタイプとアクションタスクのワークフロー状況と移行条件をそれぞれ定義します。オペレーショナル脆弱性レコードタイプとアクションタスクはどちらも、対応するモデルで構成されたワークフロー状況に従います。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.admin

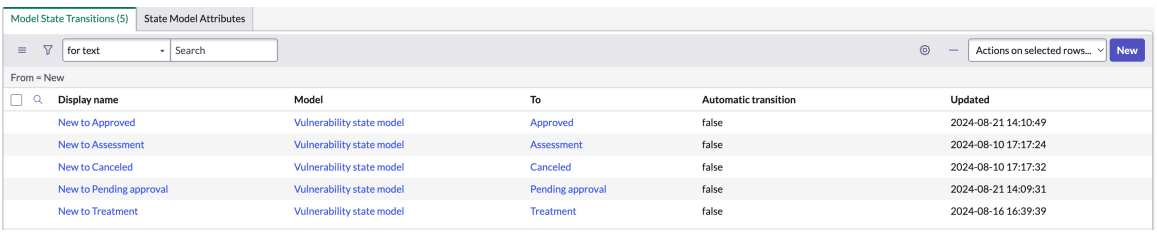
このタスクについて

運用上の脆弱性は、通常、次のワークフロー状況を辿ります。

- 新規:脆弱性がオープンされ、レビューの初期段階にあります。
- アセスメント:脆弱性は、適切な対処措置を決定するために評価されています。
- 処理:脆弱性は情報と証拠を収集するために積極的に調査されています。行動方針と治療は決定されています。
- 承認待ち:脆弱性は解決策を見つけるために作業されています。
- 承認済み:脆弱性が解決された後にレビューが行われています。
- クローズ済み:脆弱性はクローズ済みで、アクティブではなくなりました。
- キャンセル:この脆弱性はキャンセルされ、追跡されなくなりました。

状況移行条件が満たされると、各脆弱性状況が次の状況に更新されます。たとえば、例に示すように、[新規] ステータスを次のステータスに移行できます。

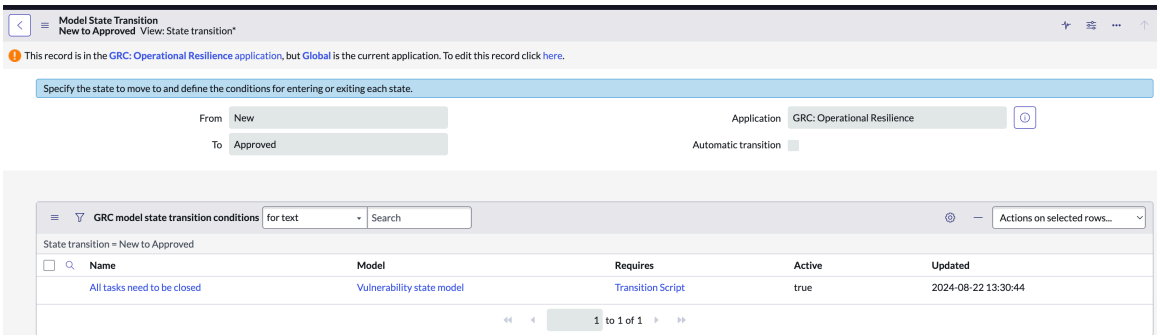
- アセスメント
- 処理
- 承認待ち
- 承認済み
- クローズ済み
- キャンセル



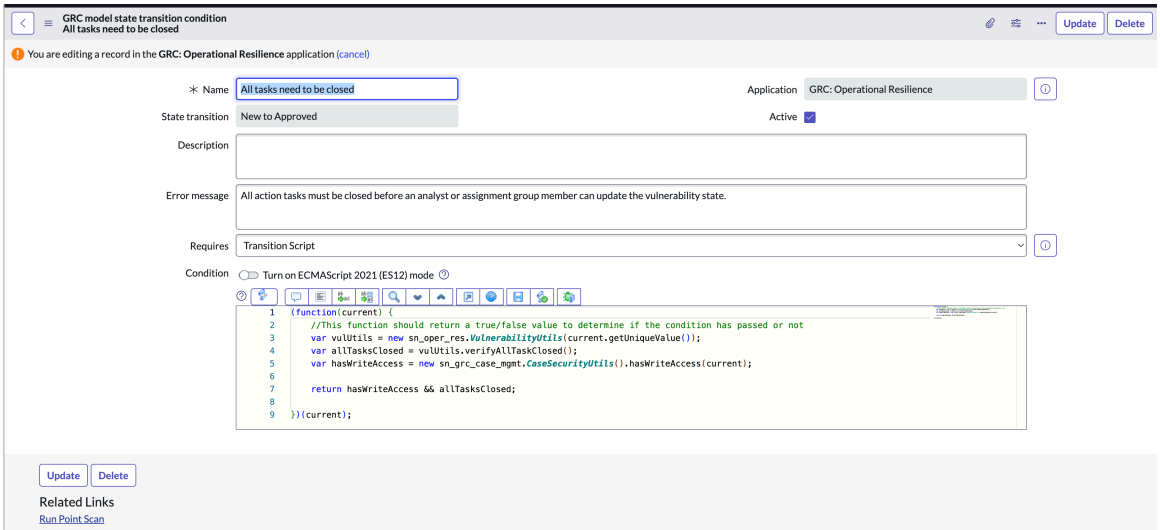
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 新規から承認済み:ユーザーは [新規から承認済み] を選択して、ステータス移行条件を表示できます。この条件が満たされると、例に示すように、脆弱性ステータスが [新規] から [承認済み] に更新されます。



すべてのアクションタスクがクローズされると、書き込みアクセス権を持つユーザーは、例に示すようにステータスを更新できます。



- 新規からアセスメントへ:状況移行条件が満たされると、脆弱性ステータスが [新規] から [アセスメント] に更新されます。
- 新規からキャンセル:ステータス移行条件が満たされると、脆弱性ステータスが [新規] から [キャンセル] に更新されます。この脆弱性はキャンセルされ、追跡されなくなります。
- 新規から承認待ち:ステータス移行条件が満たされると、脆弱性ステータスが [新規] から [承認待ち] に更新されます。この脆弱性は解決策を見つけるために作業中です。
- 新規から処理へ:ステータス移行条件が満たされると、脆弱性ステータスが [新規] から [処理] に更新されます。この脆弱性は、情報と証拠を収集するために積極的に調査されています。行動方針と治療は決定されています。

[モデル状況移行] 関連リストには、次のモデル状況移行が表示されます。 これらの状況は、組織の脆弱性管理プロセスによって異なる場合があります。

アクションタスクのワークフロー状況は、次のように定義されます。

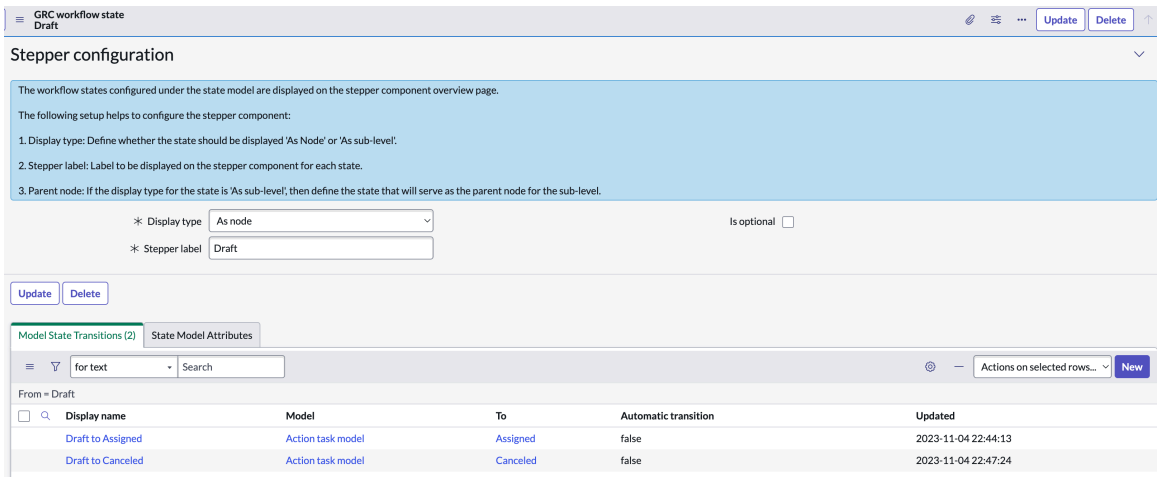
- ドラフト:アクションタスクはドラフトステージにあります。
- アサイン済み:アクションタスクが適切なユーザーにアサインされました。
- 対応中:アクションタスクの作業が進行中です。
- レビュー:アクションタスクはレビューステージにあります。

自動翻訳

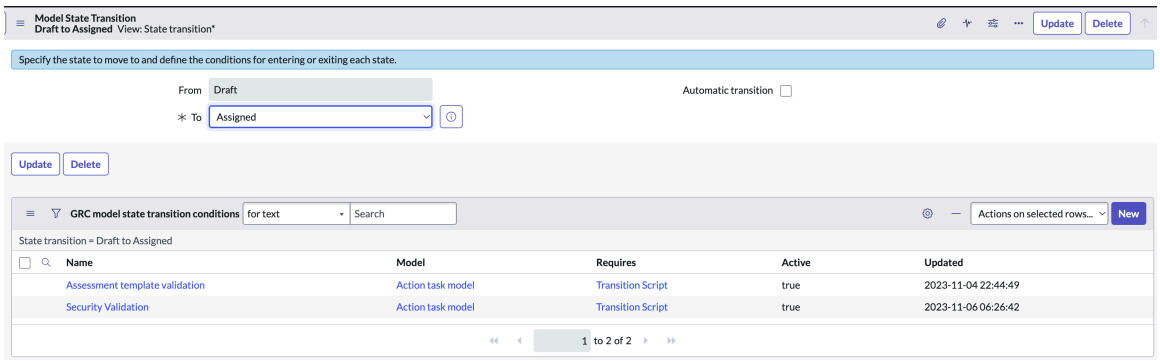
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 完了してクローズ:アクションタスクは [完了してクローズ] ステージにあります。
- 未完了でクローズ:アクションタスクは [未完了でクローズ] ステージにあります。
- キャンセル:アクションタスクがキャンセルされました。

アクションタスクの移行条件が満たされると、各アクションタスクのステータスが次のステータスに更新されます。たとえば、例に示すように、[ドラフト] ステータスを [アサイン] および [キャンセル] ステータスに移行できます。



条件が満たされると、例に示すように、アクションタスクが [ドラフト] から [アサイン] に更新されます。



ステータス移行条件が満たされると、ステータスが更新されるか、例に示すようにエラーメッセージが表示されます。

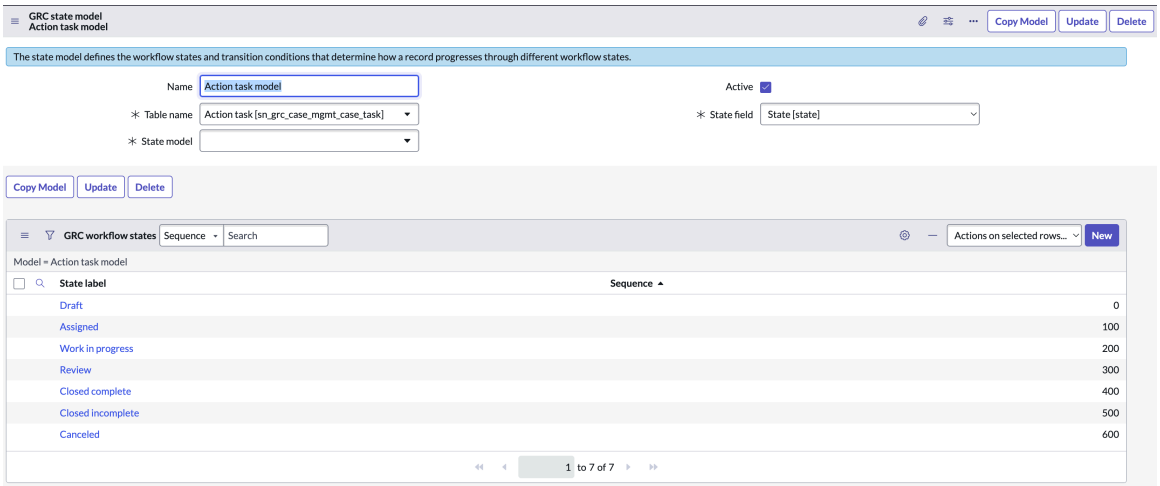


© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > 運用上の脆弱性 > ステータスモデル.
2. テーブル名を更新します。

   アクションタスクモデルを次の例に示します。

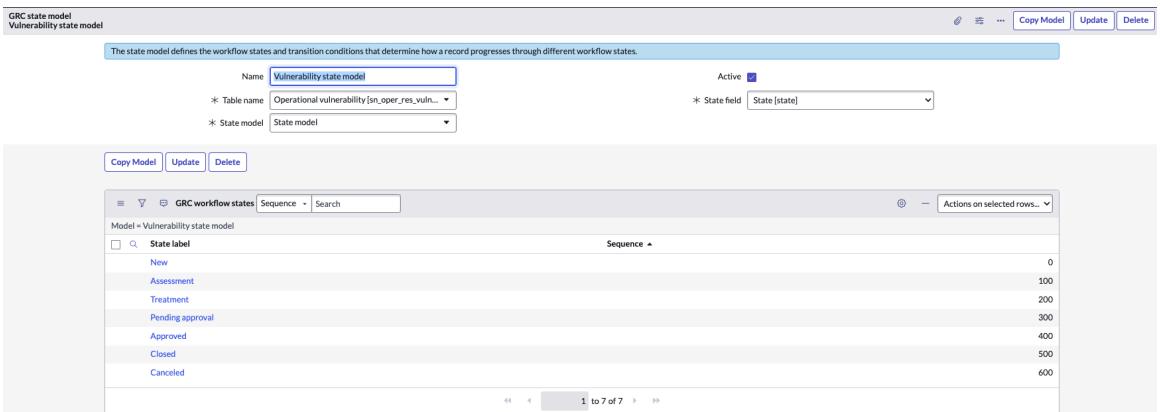


3. [状況モデル] フォームの他のフィールドに入力します。

   フィールドの詳細については、「GRC 状況モデルフォーム」を参照してください。

4. **[Submit** (送信)] を選択します。
5. 既存の状況モデルをコピーするには、状況モデルリストから選択し、[モデルをコピー] を選択します。

   次の例に示すように、既存の脆弱性状況モデルをコピーできます。



6. 既存の状況モデルを更新するには、リストから選択して [更新] を選択します。
7. 既存の状況モデルを削除するには、リストから選択して [削除] を選択します。

GRC 状況モデルフォーム

[GRC 状況モデル] フォームのフィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[状況モデル] フォーム

フィールド	説明
名前	状況モデルの名前。たとえば、 IT の脆弱性などです。
テーブル名	状況モデルが適用されるテーブル。利用可能なオプションは次のとおりです： • 脆弱性状況モデルを構成するには、 新規 を選択し、テーブル名として運用上の脆弱性 [sn_oper_res_vulnerability] を選択します。 • アクションタスクモデルを構成するには、 新規 を選択し、テーブル名としてアクションタスク [sn_grc_case_mgmt_case_task] を選択します。
ステータスモデル	この状況モデルが適用されるテーブル内の状況モデル値を保持するフィールド。
アクティブ	状況モデルがアクティブか非アクティブかを示すオプション。
ステータスフィールド	この状況モデルが適用されるテーブル内の状況値を保持するフィールド。このフィールドは自動的に [ステータス **[state]]** に設定されます。

状況移行モデルの定義

モデル状況の移行と条件を定義して、脆弱性がさまざまなワークフロー状況をどのようにトラバースするかを制御します。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.admin

このタスクについて

状況モデル内で設定されたワークフロー状況は、ステッパーコンポーネントの概要ページに表示されます。ステッパーコンポーネントを構成するには、次のセットアップを参照してください。

1. 表示タイプ:ステータスを [ノードとして**]** または [サブレベルとして] のいずれで表示するかを指定します。
2. ステッパーラベル:このラベルは、各ステータスのステッパーコンポーネントに表示されます。
3. 親ノード:ステータスの表示タイプが [サブレベルとして] に設定されている場合は、このサブレベルの親ノードとして機能するステータスを定義します。

手順

1. 移動先 すべて > 運用上の脆弱性 > ステータスモデル.
2. 新しいワークフロー状態を追加するには、[状態ラベル] 列で [新規] を選択します。
3. フォームで、フィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

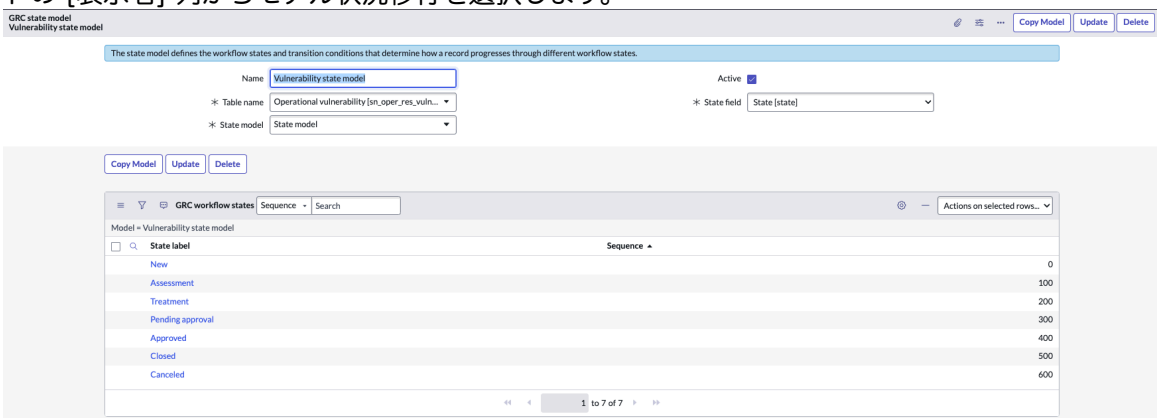
ワークフロー状況フォーム

フィールド	説明
状況	ワークフロー状況の名前。選択肢: 新規
モデル	このワークフロー状況を使用する状況モデル。このフィールドは自動的に状況モデル名に設定されます。
表示タイプ	ワークフロー状況の表示タイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ ノードとして **(As node)**：親ステータスとして表示されます。 ○ サブレベルとして **(As sub-level)**：親ステータスのサブステータスとして表示されます。
ステッパーラベル	ステータスのステッパーコンポーネントに表示されるラベル。このフィールドは自動的にステータスに設定されます。
オプション	ステータスをオプションとして選択するオプション。このフィールドは、[表示タイプ] で [ノードとして **(As node)]** を選択した場合のみ表示されます。

4. **[Update** (更新)] を選択します。

   この例は [アセスメント] ステータスを示しています。[モデル状況移行] および [状況モデル属性] 関連リストが表示されます。

5. [モデル状況移行] 関連リストからモデル状況移行を更新するには、[GRC ワークフロー状況] リストの [表示名] 列からモデル状況移行を選択します。

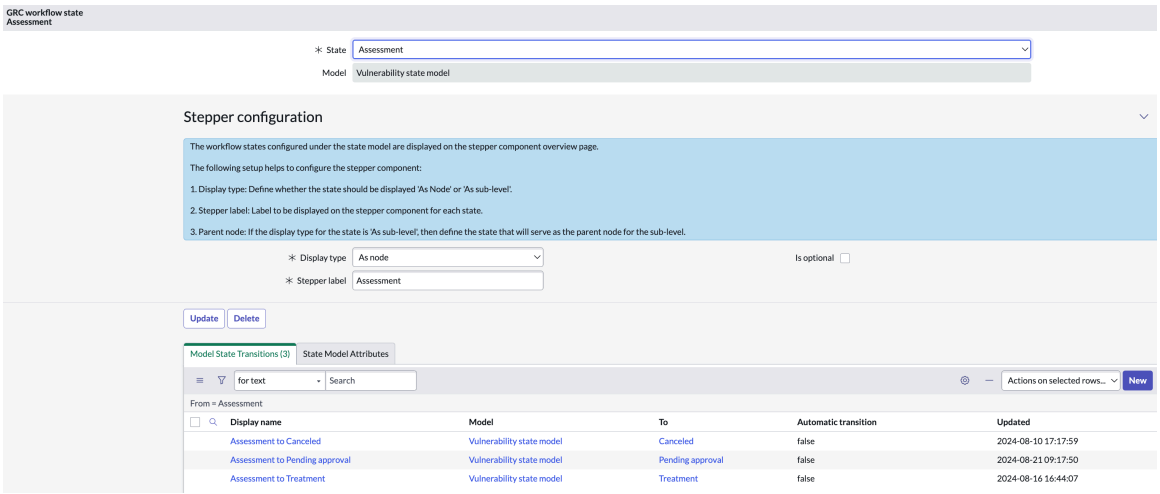


6. モデル状況移行を追加するには、[モデル状況移行] コンテキストメニューで [新規] を選択します。

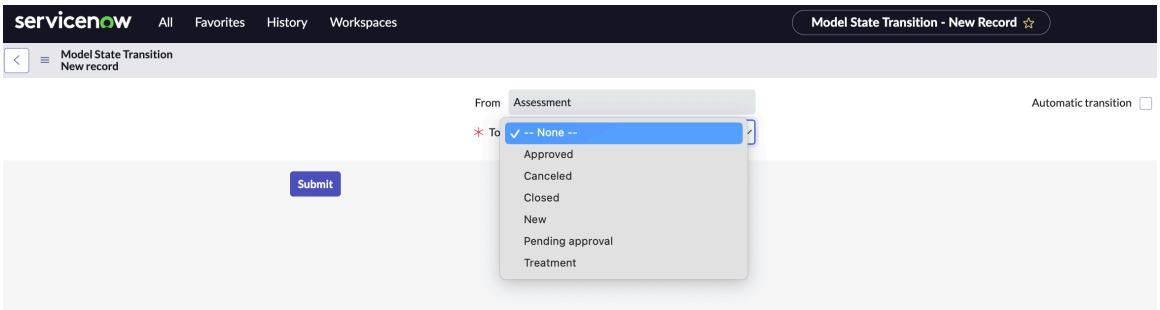
   例では、[モデルステータス移行] コンテキストメニューを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



モデルステータス移行の新規レコードが表示されます。



7. [モデルステータス移行] レコードフォームで、フィールドに入力します。

モデルステータス移行レコードフォーム

フィールド	説明
から	都道府県の名前。このフィールドは自動的に [ステータス **[state]]** に設定されます。
移動先	選択したステータスから移行するステータス
自動移行	ワークフロー状況の自動移行を有効にするオプション。

8. **[Submit** (送信)] を選択します。

新しく追加されたモデルステータス移行が、[モデルステータス移行] 関連リストに表示されます。

脆弱性アセスメントテンプレートの設定

オペレーショナル脆弱性のアセスメントパラメーターを定義して、脆弱性アセスメントテンプレートを作成します。アセスメントテンプレートは、メトリクスタイプのアセスメントに基づいています。これは、アセスメント期間、関連テーブル、フィルター条件などの重要なアセスメントの詳細を定義するのに役立ちます。

始める前に
必要なロール：sn_oper_res.admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > 運用上の脆弱性 > 脆弱性アセスメントテンプレート.
2. 脆弱性アセスメント (アセスメントメトリクスタイプ) テンプレートを作成するには、 新規 を選択します。
3. アセスメントメトリクスタイプレコードフォームのフィールドに入力します。

   フィールドの詳細については、「アセスメントメトリクスタイプフォーム」を参照してください。
4. 脆弱性タイプに追加された スマートアセスメント テンプレートを使用します。
5. **[Submit** (送信)] を選択します。
6. 既存のアセスメントテンプレートをコピーするには、リストからテンプレートを選択して [コピー] を選択します。
7. 既存のアセスメントテンプレートを更新するには、リストからテンプレートを選択して [更新] を選択します。
8. 既存のアセスメントテンプレートを削除するには、リストからテンプレートを選択して [削除] を選択します。

アセスメントメトリクスタイプフォーム

オペレーショナル脆弱性にデフォルトのテンプレートを使用する代わりに、[アセスメントメトリクスタイプ] フォームを使用してアセスメントアンケートテンプレートを作成します。

アセスメントメトリクスタイプフォーム

フィールドの説明については、次の表を参照してください。

アセスメントメトリクスタイプフォーム

フィールド	説明
名前	アセスメントテンプレートの名前。
アセスメント期間	アセスメントが生成されてから、アセスメントを完了するまでに許容される時間。
テーブル	このアセスメントテンプレートを適用するテーブル。
状況	アセスメントのステータスこのフィールドは自動的に [ドラフト] に設定されます。アセスメントテンプレートを作成したら、テンプレートを公開し、ステータスが [公開済み] に設定されていることを確認します。そうしないと、インスタンスを生成できません。
条件を強制	条件の適用がアクティブか非アクティブかを示すオプション。
ロール	このテンプレートへの読み取りアクセス権を持つロール。
尺度値	すべてのアセスメント結果のスケール値。
条件	アセスメントテンプレートのフィルター条件。
説明	アセスメントテンプレートの目的と作成理由。
関連リスト	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントメトリクスタイプフォーム (続く)

フィールド	説明
メトリクスカテゴリ	このアセスメントのすべてのメトリクスカテゴリ。メトリクスカテゴリフォームの詳細については、「 Metric Category form 」を参照してください。
アセスメント可能なレコード	メトリクスカテゴリに関連付けられたすべてのアセスメント可能なレコード。アセスメント可能なレコードの詳細については、「 Assessable records 」を参照してください。

ドキュメントテンプレートの設定

オペレーショナル脆弱性 レコードの PDF を生成するために使用するドキュメントテンプレート (HTML テンプレート) を設定します。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.admin

手順

1. 移動先 すべて > 運用上の脆弱性 > ドキュメントテンプレート.
2. ドキュメントテンプレートを作成するには、 新規 を選択します。
3. [HTML テンプレート] レコードフォームで、フィールドに入力します。

   フィールドの詳細については、「HTML テンプレートフォーム」を参照してください。
4. **[Submit** (送信)] を選択します。
5. PDF に日付変数を挿入するには、「 日付を挿入」を選択します。

   このボタンを複数回使用し、選択した変数に基づいてさまざまなタイプの日付を追加できます。
6. PDF に目次を挿入するには、「 目次を挿入」を選択します。
7. 詳細検索用のブロックを追加するには、[ブロックの追加] を選択します。

オプション	説明
既存のドキュメントブロックをテンプレートに追加するには	[ブロックを検索] で、既存のドキュメントブロックの名前を入力し、ドキュメントブロックを選択して、[挿入] を選択します。
新しいドキュメントブロックをテンプレートに追加するには	[新しいブロックの作成] を選択します。

8. テンプレートを公開するには、[公開] を選択します。
   適切な属性で PDF が生成されるように、テンプレートが公開されていることを確認します。
9. 既存のアセスメントテンプレートをコピーするには、リストからテンプレートを選択して [コピー] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

10. 既存のアセスメントテンプレートを更新するには、リストからテンプレートを選択して [プレビュー] を選択します。
11. 既存のアセスメントテンプレートを更新するには、リストからテンプレートを選択して [更新] を選択します。

HTML テンプレートフォーム

[HTML テンプレート] フォームのフィールドに入力します。

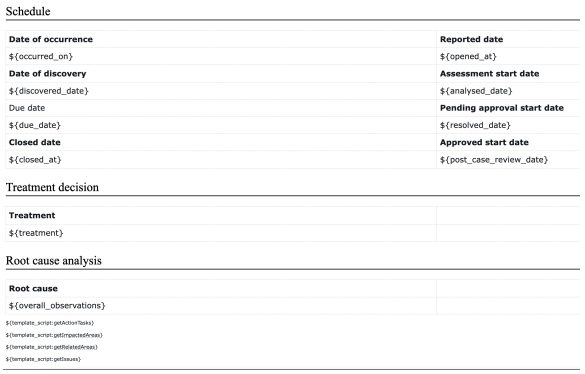
HTML テンプレートフォーム

フィールド	説明
名前	ドキュメントテンプレートの名前。
テーブル	テンプレートのタイプに関連付けられたテーブル。テーブルによって、使用可能な変数が決まります。 **注:** 選択したアプリケーションスコープに基づいて表示されるテーブル。
カテゴリ	テンプレートが追加されるドキュメントカテゴリ。
アプリケーション	作業しているアプリケーション。このフィールドは自動的に [グローバル] に設定されます。
状況	レコードのステータス。このフィールドは自動的に [ドラフト] に設定されます。
テンプレートの日付形式	ユーザーがドキュメントをプレビューするとき、添付ファイルを生成するとき、または参加者のドキュメントタスクを開始するときに日付を表示する形式。利用可能なオプションは次のとおりです： • **MM-dd-yyyy** • **MM/dd/yyyy** • **dd/MM/yyyy** • **dd-MM-yyyy** • **dd.MM.yyyy** • **yyyy-MM-dd**
ユーザー基準	このドキュメントの対象者基準。たとえば、米国の従業員専用の書類を作成できます。
確認応答テキスト	ドキュメントで使用する確認応答テキスト。
目次	テンプレートの目次。
ページ番号	テンプレートのページ番号。
本文	テンプレートの本文テキスト。 変数を挿入するには、目的の場所にカーソルを配置し、変数をクリックします。利用可能な変数は、[フィールド] に一覧表示されます。[本文] で書式設定ツールを使用して、太字、斜体、下線、

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

HTML テンプレートフォーム (続く)

フィールド	説明
	フォントスタイルなどの書式設定オプションを適用します。本文は、HTML テキストおよびトークン化された変数のプレースホルダーです。 たとえば、[全画面 表示] を選択して、PDF レイアウトの書式設定方法を表示できます。 PDF の [根本原因分析] (全体的な観察事項) セクションには、次の関連リスト情報を含めることができます  Schedule **Date of occurrence** / **Reported date** ${occurred_on} / ${opened_at} **Date of discovery** / **Assessment start date** ${discovered_date} / ${analysed_date} Due date / **Pending approval start date** ${due_date} / ${resolved_date} **Closed date** / **Approved start date** ${closed_at} / ${post_case_review_date} Treatment decision **Treatment** ${treatment} Root cause analysis **Root cause** ${overall_observations} ${template_script:getActionTasks} ${template_script:getImpactedAreas} ${template_script:getRelatedAreas} ${template_script:getIssues} • アクションタスク • 影響領域 • 関連領域 • 問題
変数を選択	テンプレートの本文で使用できる変数のリスト。変数は、選択したテーブルから情報を取得して、テンプレートをカスタマイズします。
テンプレートの言語	添付ファイルのプレビューと生成中に、フルテンプレートの翻訳と入力可能なフィールドの翻訳の両方に使用される言語。
署名タイプ	ドキュメントの署名に使用するアプリケーションを指定するオプション。このフィールドは自動的に **[ServiceNow** 署名] に設定されます。
ヘッダー	
ヘッダー画像	ヘッダーに表示する画像。この機能を使用して、会社のロゴを追加できます。
ヘッダー画像の高さ	ヘッダー内の画像の高さ。
ヘッダーイメージの位置	ヘッダー画像を表示する位置 (左、右、または中央)。
フッター	
フッター画像	フッターに表示する画像。
フッター画像の高さ	フッター内の画像の高さ。
フッターイメージの位置	フッター画像を表示する位置 (左、右、または中央)。
フッターテキスト	フッターに表示するテキスト。たとえば、所有権や機密情報に関するステートメントを追加できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

HTML テンプレートフォーム (続く)

フィールド	説明
フッターテキストの位置	フッター画像を表示する位置 (左、右、または中央)。
垂直配置	フッター画像に対する、テキストの縦方向の配置。
ページ	
ページサイズ	レター、A4、またはリーガルなど、リストから選択できるページのサイズ。
上/下マージン	ページの最上部から HTML コンテンツの開始位置までの空白、またはページの最下部から HTML コンテンツの最後までの空白。
左/右マージン	ページの左から HTML コンテンツの開始位置までの空白、またはページの右から HTML コンテンツの最後までの空白。

オペレーショナルレジリエンス の管理

GRC バージョン 16.x.x 以降、GRC：オペレーショナルレジリエンス アプリケーションに新しいワークスペースが導入されています。オペレーショナルレジリエンスワークスペース を使用して、レジリエンスタスクを管理し、単一のダッシュボードからレジリエンスメトリクスを監視できます。

オペレーショナルレジリエンスワークスペース の概要

オペレーショナルレジリエンスワークスペース は、改善されたユーザーエクスペリエンス (UX) と簡素化されたユーザージャーニーの一元化されたビューを提供します。オペレーショナルレジリエンスワークスペース の特長は次のとおりです。

- インタラクティブなフォームを使用して、レジリエンスタスクを設定します。
- レジリエンスメトリクスをダッシュボードで可視化します。
- GRC アプリケーションから、サービスフォームの関連タブでリスク、コントロール、および問題を追跡します。
- ビジネスサービスのインシデント、機能停止、脆弱性、および変更要求を修正します。

レジリエンスメトリクスのデータ視覚化コンポーネントは、次のページで表示できます。

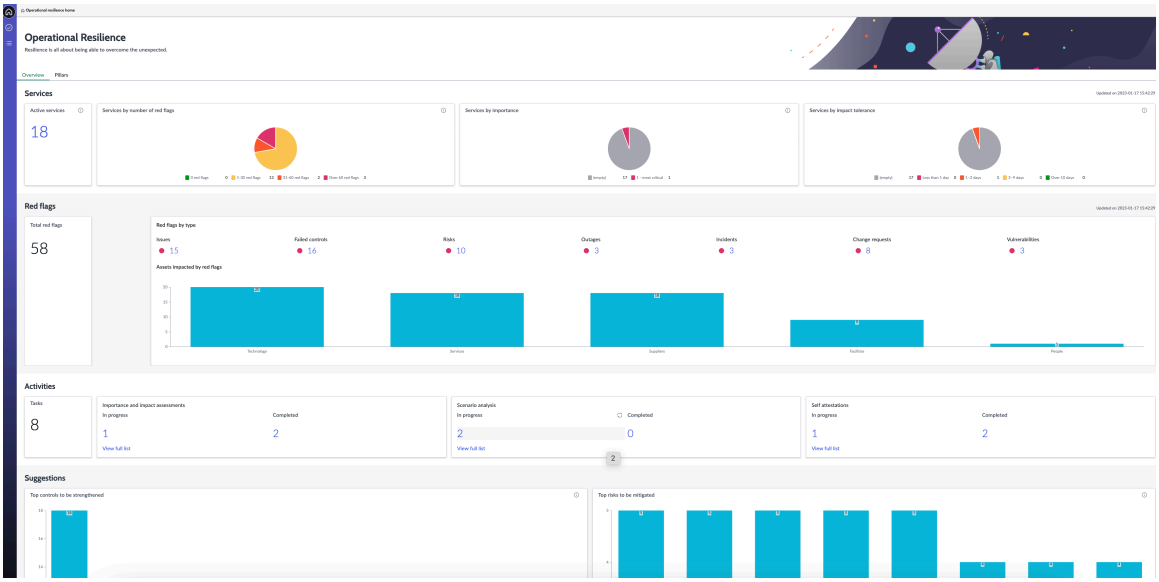
- ホームページ：ホームページでは、サービスのステータスとピラーがダッシュボードに表示されます。
- [タスク] ページ：[タスク] ページでは、個々のタスクとチームのタスクがダッシュボードに表示されます。
- [リスト] ページ：[リスト] ページには、重要性および影響許容度アセスメントやシナリオ分析などの構成可能なレジリエンスタスクがリスト形式で表示されます。

次の例では、ホームページ、[タスク] ページ、および [リスト] ページが表示されています。

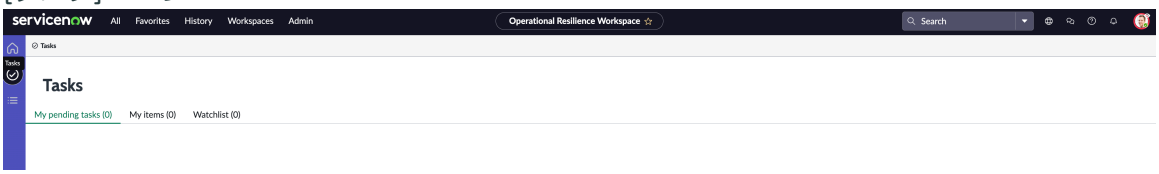
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

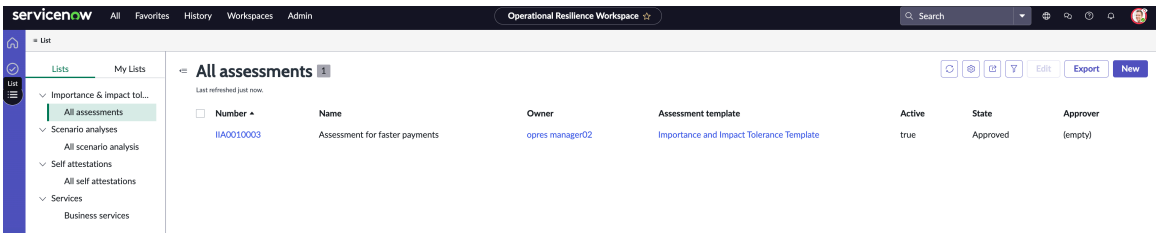
ホームページへ。



[タスク] ページ



リスト ページ



オペレーショナルレジリエンスワークスペース にアクセスするために必要なロール

オペレーショナルレジリエンスワークスペース には次のユーザーロールでアクセスできます。

- オペレーショナルレジリエンス アドミン [sn_oper_res.admin]
- オペレーショナルレジリエンス マネージャー [sn_oper_res.manager]
- オペレーショナルレジリエンス ユーザー [sn_oper_res.user]

注:
管理タスクの詳細については、「一般的な管理タスクの完了」を参照してください。

オペレーショナルレジリエンスワークスペース の構成可能な機能

オペレーショナルレジリエンスワークスペース で次の オペレーショナルレジリエンス 機能を構成できます。

- 重要性および影響許容度アセスメント
- シナリオ分析
- 自己証明

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ビジネスサービス
- 運用上の脆弱性

CMDBおよびBIAからの依存関係のフェッチ

オペレーショナルレジリエンス のCMDBからサービスまたはビジネスサービスの依存関係をフェッチできます。同様に、BCM アプリケーションがインストールされると、オペレーショナルレジリエンス のスケジュール済みジョブはビジネスインパクトアナリシス (BIA) の依存関係の変更も監視し、依存関係の更新をフェッチします。

サービスの CMDB から依存関係をフェッチしています

Yokohama リリース以降、データリレーションシップフレームワーク は、CMDB から依存関係をフェッチするための基本フレームワークを備えた オペレーショナルレジリエンス アプリケーションをサポートしています。デフォルトでは、データリレーションシップフレームワーク (app-grc-relationship-config) は オペレーショナルレジリエンス アプリケーションとともにインストールされます。CMDB 依存関係は、データリレーションシップフレームワーク から API を呼び出すことによって取得されます。

CMDB依存関係を取得するには、オペレーショナルレジリエンスアドミニストレーターが最初にデータリレーションシップフレームワークでサービス **(CMDB)** とラベル付けされたメインノード構成を有効にする必要があります。

取得された依存関係それぞれに対し、オペレーショナルレジリエンス アプリケーションは最初に既存のエンティティを検索します。既存のエンティティがない場合、依存関係はスキップされます。既存のエンティティがあり、そのエンティティが オペレーショナルレジリエンス のいずれかのエンティティタイプに属している場合、親エンティティのダウンストリームに追加されます。エンティティが施設/人/サプライヤー/テクノロジーなどのエンティティタイプに属していない場合は、オペレーショナルレジリエンス の対応するエンティティタイプに手動で追加する必要があります。

次の例は、ビジネスサービスの CMDB 関係のセットアップ例を示しています。サービス *Windows mobile* が依存関係を更新すると、*OWA-SD-01* のエンティティがそのエンティティのダウンストリームに追加され、*IronMail-SD-01* および *IronMail-SD-02* が子サービス エンティティ *Email* のダウンストリームに追加されます。

ビジネスサービスの関係のセットアップ例

ビジネスサービス	関連する依存関係、ビジネスプロセス、およびビジネスサービス：メール	ビジネスサービスに関連するプロセスと依存関係：メール
Windows モバイル	• 依存関係：*OWA-SD-01* • ビジネスプロセス：*Inbound payment validation* • ビジネスサービス：*Email*	• プロセス：*Fraud_escalation* • 依存関係 1：*IronMail-SD-01* (テーブルは cmdb_ci_email_server) • 依存関係 2：*IronMail-SD-02* (テーブルは cmdb_ci_email_server)

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスインパクトアナリシス (BIA) から依存関係をフェッチする

BCM アプリケーションがインストールされるとき、BIA の [適用先] フィールドが オペレーショナルレジリエンス で使用されるビジネスプロセスであれば、オペレーショナルレジリエンス は BIA の依存関係の更新をフェッチします。

オペレーショナルレジリエンス で BIA 依存関係をプルするには、次の条件を満たす必要があります。

- BIA が [承認済み] ステータスであること。
- BIA が [期限切れ] ステータスでないこと。
- 依存関係グループが完成していること。

注:
BIA レコードの [適用先] フィールドがビジネスプロセスエンティティタイプ内にある何らかのビジネスプロセスと一致する場合に限り、その依存関係はスケジュール済みジョブによってフェッチされます。

フェッチされた依存関係それぞれに対し、オペレーショナルレジリエンス アプリケーションは最初に既存のエンティティを検索します。依存関係に有効なエンティティが既にあり、そのエンティティが オペレーショナルレジリエンス のいずれかのエンティティタイプに属している場合、親エンティティのダウンストリームに追加されます。

CMDB 依存関係の更新または BIA 依存関係の更新をフェッチするには、次の条件に従います。

- 依存関係のエンティティがない場合はスキップされます。オペレーショナルレジリエンス は依存関係のエンティティを作成しません。
- 依存関係エンティティが非アクティブの場合は無視されます。
- 依存関係エンティティがアクティブでもピラーがない場合は無視されます。
- 依存関係エンティティがアクティブでピラーがあっても、どの オペレーショナルレジリエンス エンティティタイプにも属していない場合は無視されます。

依存関係の手動追加

エンティティが [施設]、[人員]、[サプライヤー]、[テクノロジー] などのエンティティタイプに属していない場合、オペレーショナルレジリエンス ユーザーは対応するエンティティタイプにエンティティを手動で追加する必要があります。☒ドミニストレーターとマネージャーは、スケジュール済みジョブを使用する代わりに、オペレーショナルレジリエンス 依存関係を手動で更新できます。

データリレーションシップフレームワーク のメインノード構成のサポート

データリレーションシップフレームワーク およびメインノードの構成については、「データリレーションシップフレームワーク」および「メインノード設定レコードの作成」を参照してください。

重要性および影響許容度アセスメントの実行

ビジネスサービスまたはサービスオファリングの重要性および影響許容度を分析することで、起こりうる中断がサービスのパフォーマンスにどのように影響するかを測定できます。オペレーショナルレジリエンスワークスペース のアセスメントアンケートテンプレートを使用して、選択したビジネスサービスとその子レコードの重要性および影響許容度を測定できます。

ビジネスサービスの重要性および影響許容度

ビジネスサービスの重要性は、サービスを使用する顧客の数、サービスが生み出す収益、会社のブランドへの影響などの要因によって決まります。ビジネスサービスの影響許容度を測定することで、ビジネスとその顧客に何らかの損失を与えることなく、サービスの稼働を停止しておくことができる期

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

間を確認できます。以前は、期間に関して値を指定する影響許容度は 1 つしかありませんでした。フォームには 4 種類の影響許容度フィールドがあります。

- 影響許容度 (期間)
- 影響許容度 (顧客への影響)
- 影響許容度 (財務の影響)
- 影響許容度 (トランザクション量)

sn_oper_res.admin ロールを持っている場合は、オペレーショナルレジリエンス で事前定義されたアセスメントアンケートテンプレートを作成および管理できます。sn_oper_res.manager ロールを使用すると、分析する 1 つ以上のビジネスサービスを選択し、アセスメントテンプレートを使用してビジネスサービスの重要性と影響許容度を計算できます。

スマートアセスメントを使用したサービスの重要性および影響許容度の評価

オペレーショナルレジリエンス、リリース 21.x.x 以降、スマートアセスメント機能は重要性および影響許容度アセスメントと統合され、重要性および影響許容度アセスメントを効率的に作成および管理できるようになりました。これには、従来のオプションとスマートオプションを備えたアセスメントタイプフィールド、デフォルトのテンプレート、自動データ更新などの機能が含まれています。先に進むには、すべてのアセスメントを完了する必要があります。完了すると、アセスメントは読み取り専用になり、承認の準備が整います。

キャンセルはサポートされていないため、システムではアセスメントを完了する必要があります。アセスメントスコープの定義は必須であり、スコープなしでアセスメントを作成することはできません。

拡張された承認フローでは、完了したアセスメントがレビューおよび検証され、その後、査定人が承認を要求し、承認者がアセスメントを承認してワークフローを完了します。スマートアセスメントにより、アセスメントを [応答待ち] ステータスに戻せるようになり、査定人はアセスメントを再受験して承認のために再送信できるようになりました。

アセスメントワークフローに関連付けられているタスクと状況

アセスメントワークフローのプロセスは次のとおりです。

- アセスメントのオーナーは 1 つ以上のビジネスサービスを選択し、オペレーショナルレジリエンスワークスペースで重要性および影響許容度アセスメントを送信します。このアクションでは、事前に入力されたアンケートテンプレートの質問を含む オペレーショナルレジリエンスワークスペースの [アセスメント] タブを作成します。
- アセスメントの査定人は、アセスメントへのリンクを含むメール通知を受け取ります。
- 査定人はアセスメントへのリンクを選択し、アンケートに回答します。アンケートに対する査定人の回答に基づいて、1 つ以上のビジネスサービスの重要度評価と許容期間のアセスメントが生成されます。
- アセスメントが完了した後、オーナーは回答をレビューし、重要性および影響許容度アセスメントの承認を要求します。オーナーの応答は、アセスメントの重要性と影響許容度評価を上書きすることができます。
- アセスメントの承認者が質問への回答を確認し、アセスメントを承認します。
- アセスメントのオーナーが オペレーショナルレジリエンスワークスペースでアセスメントをクローズします。

アセスメントタスクを実行すると、次のテーブルに示すように、オペレーショナルレジリエンスワークスペースでさまざまな状況を通じてアセスメントが更新されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントに関連付けられている状況と **UI** アクション

状況	関連する **UI** アクション	説明
ドラフト	すべてのアセスメントフォームで [新規] を選択します。	すべてのアセスメントフォームで [新規] を選択すると、レコードはデフォルトで [ドラフト] ステータスで作成されます。 [詳細] タブに移動し、アセスメントの詳細を追加します。[サービス] タブで、1 つ以上のビジネスサービスをアセスメントに関連付けます。
応答処理待ち	アセスメントフォームで [評価] を選択します。	[評価] を選択してアセスメントを続行すると、アプリケーションによって [アセスメント] タブのアセスメントのアンケートが入力されます。 アセスメントのステータスは自動的に [応答処理待ち] ステータスに更新されます。査定人は、アセスメントへのリンクを含むメール通知を受け取ります。 **注:** アセスメントを続行するには、少なくとも 1 つのサービスをアセスメントに関連付ける必要があります。
アセスメントを受信済み	アセスメントテンプレートで [送信] を選択し、アセスメントフォームで [保存] を選択してアセスメントを完了し、保存します。	アセスメントが [応答処理待ち] ステータスになっている場合は、アセスメントテンプレートで提供されたアセスメントの質問に回答できます。回答を送信するには、[送信] を選択します。アセスメントを保存するには、[保存] を選択します。アセスメントのステータスが [アセスメントを受信済み] に更新されます。 重要度評価と影響許容期間は、アンケートの回答に基づいて自動的に生成されます。 アセスメントのオーナーはアセスメントの承認を要求します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントに関連付けられている状況と UI アクション (続く)

状況	関連する UI アクション	説明
		アセスメントの査定人は、アセスメントに関するメール通知を受け取ります。
承認済み	アセスメントフォームで [承認を要求] を選択します。	アセスメントの承認者が質問への回答を確認し、[承認を要求] を選択します。アセスメントのステータスは自動的に [承認済み] に更新されます。
クローズ済み	アセスメントフォームで [クローズ] を選択します。	アセスメントは、[承認済み] ステータスの場合にのみクローズできます。アセスメントをクローズするには、アセスメントフォームで [クローズ] を選択します。アセスメントのステータスが [クローズ済み] に更新されます。

注:
sn_oper_res.admin ロールを持っている場合は、任意のステータスのアセスメントを削除できます。

sn_oper_res.admin ロールを持っている場合は、重要な選択肢モジュールでアセスメント評価の重要度と順序を更新することで、アセスメント評価を設定できます。アセスメント評価の設定の詳細については、「重要な選択肢モジュールを更新する」を参照してください。

オペレーショナルレジリエンス ロールに関する詳細については、「オペレーショナルレジリエンスとともにインストールされるロール」を参照してください。

重要性および影響許容度アセスメントの作成

スマートアセスメントアセスメントまたは従来のアセスメントを使用してアセスメントを実施し、ビジネスサービスの重要性および影響許容度を決定します。アセスメントアンケートは、回答に基づいて、サービスの重要性と顧客への影響を測定するのに役立ちます。フィードバックを評価することで、ビジネスサービスの重要性を効果的に評価し、顧客への影響を理解できます。

始める前に
必要なロール：sn_oper_res.user、sn_oper_res.manager

このタスクについて
オペレーショナルレジリエンス マネージャー (sn_oper_res.manager) には、 スマートアセスメント リーダーロール (sn_smart_asmt.assessment_reader) があります。ユーザーは スマートアセスメント テンプレートへの読み取り専用アクセス権を持ち、表示することはできますが、作成または編集することはできません。

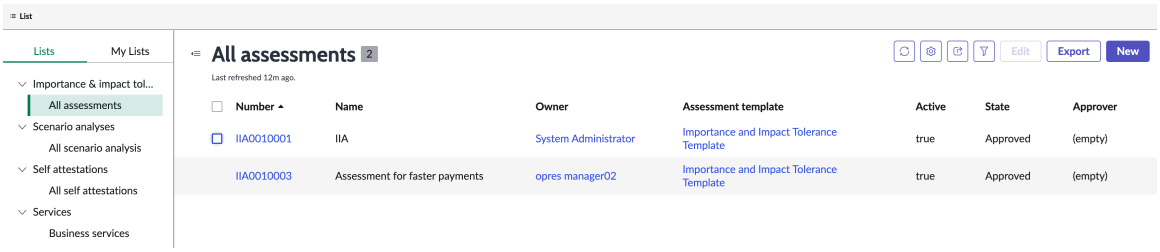
手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > リスト > 重要性および影響許容度アセスメント > すべてのアセスメント.
   次の例に示すように、 オペレーショナルレジリエンス アプリケーションの重要性および影響許容度アセスメント (IIA) が [すべてのアセスメント] リストビューに表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

すべてのアセスメントフォームのリストビュー



2. アセスメントを作成するには、 新規 を選択します。

   このアクションにより、アセスメントの詳細を追加できるアセスメントフォームが開きます。重要性および影響許容度アセスメントには、IIA0010018 などの番号が自動的に割り当てられます。

3. [名前] フィールドと [説明] フィールドに、アセスメントの名前と説明を入力します。
4. [アセスメントタイプ] フィールドでアセスメントのタイプを選択します。
   [アセスメントテンプレート] フィールドで、次のタイプのアセスメントを選択できます。
   - スマートアセスメント:[スマートアセスメントテンプレート] フィールドで、[アセスメントタイプ:スマートアセスメント] に対して複数のスマートアセスメントテンプレートを追加できます。
   - 従来のアセスメント:[アセスメントテンプレート] フィールドに、アセスメントタイプ:従来のアセスメントに対して単一のアセスメントテンプレートを追加できます。

5. [アサイニー] パネルで、アセスメントのオーナー、承認者、および査定人を選択します。

   注:
   承認者は、所有者と査定人以外のユーザーである必要があります。

   重要性および影響許容度アセスメントフォームのフィールド値の説明については、「重要性および影響許容度アセスメントフォーム」を参照してください。
6. [マイルストーン] パネルの [アセスメント期日] フィールドで、アセスメントの期日を選択します。
7. アセスメントを別の査定人に再アサインするには、[詳細] タブの [査定人] フィールドを更新します。

   この手順では、すべてのアセスメントカードを更新された査定人に再アサインします。

   注:
   オープンアセスメントのみを、別のユーザーに再アサインできます。完了したアセスメントは、既存の査定人にアサインされたままになります。再アサインは、アセスメントオーナー、要求者、または承認者に制限されています。アセスメントが [キャンセル] ステータスの場合、更新されたユーザーに再アサインされることはありません。

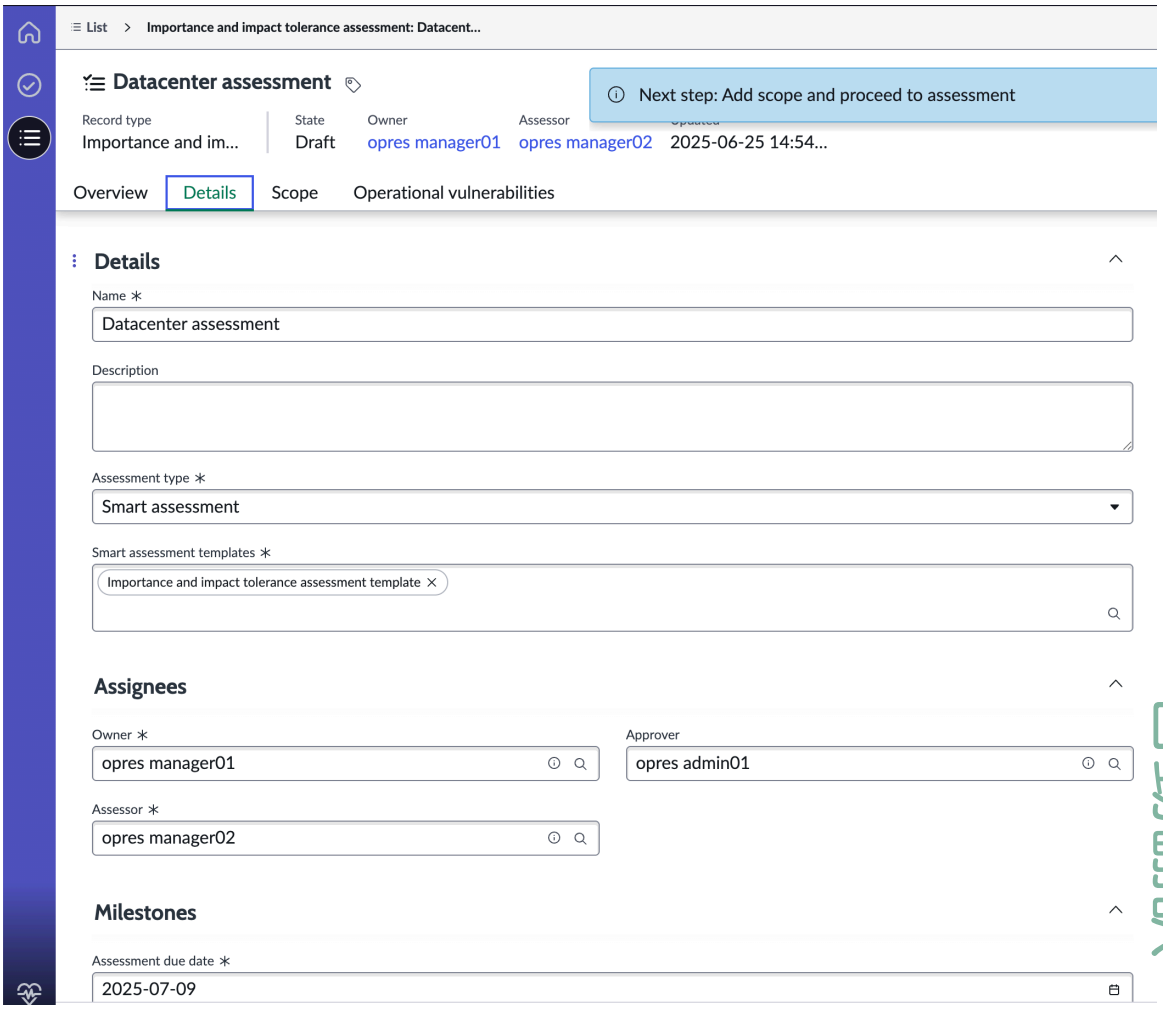
8. アセスメントに関するサイドバーディスカッションを開始するには、[その他のアクション] を選択し、[ディスカッション] を選択します。
   a. ディスカッションの件名を追加し、レコードにアクセスできる参加者を追加します。
   b. 参加者への簡単なメッセージを含めます。
   c. [ディスカッションを開始] を選択します。
9. アセスメントを削除するには、 削除 を選択し、削除を確認して **OK** を選択します。
10. アセスメントを保存するには、[保存] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントは [ドラフト] ステータスで作成されます。次の例に示すように、アセスメントの詳細がアセスメントフォームに表示されます。

重要性および影響許容度アセスメント



次のタスク
アセスメントのスコープを追加します。詳細については、「スコープを定義してアセスメントを開始する」を参照してください。

重要性および影響許容度アセスメントフォーム

オペレーショナルレジリエンスワークスペース の [重要性および影響許容度アセスメントを新規作成] フォームを使用して、ビジネスサービスのアセスメントを作成します。

重要性および影響許容度アセスメントフォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

重要性および影響許容度アセスメントフォーム

フィールド	説明
詳細	
番号	アセスメントに自動アサインされた番号。
名前	アセスメントの一意の名前 (例:決済サービスのアセスメント)。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

重要性および影響許容度アセスメントフォーム (続く)

フィールド	説明
説明	アセスメントの詳細な説明。
アセスメントタイプ	アセスメントのタイプ。スマートアセスメントまたは従来のアセスメントを選択できます。
スマートアセスメントテンプレート	スマートアセスメントエンジンでサポートされているテンプレート。アセスメント要件に基づいて、 重要性アセスメントテンプレート、 影響許容度アセスメントテンプレート、 重要性および影響許容度アセスメントテンプレート 、またはそれらすべてを選択できます。
アサイニー	
所有者	アセスメントのオーナー。
承認者	アセスメントの承認者。 **注:** 承認者は、所有者や査定人とは別のユーザーである必要があります。
査定人	アセスメントの査定人。査定人は、sn_oper_res.user ロールを持つ オペレーショナルレジリエンス ユーザーになります。
マイルストーン	
アセスメント期日	yyyy-mm-dd 形式のアセスメントの期日 (例:2025-12-02)。
作成	アセスメントに関するプライベート作業メモとコメント。
アクティビティ	アセスメントに関連するアクティビティの自動記録されたログ。

スコープを定義してアセスメントを開始する

重要性および影響許容度アセスメントにビジネスサービスを追加して、スコープを定義します。このアセスメントでは、ビジネスサービスに影響を与える可能性のある影響と中断の可能性を見積もることができます。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.manager

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > リスト > 重要性および影響許容度アセスメント > すべてのアセスメント をクリックし、作業しているアセスメントを選択します。
   [詳細] タブにアセスメントの詳細が表示されます。
   アセスメントの [スコープ] タブが表示され、評価対象のサービスを追加できます。
2. [スコープ] タブで [追加] を選択し、評価のサービスを選択して、もう一度 [追加] を選択します。
   サービスがリストに正常に追加されたことを示すメッセージが表示されます。サービスが [スコープ] タブに一覧表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

3. アセスメントを送信し、査定人からの応答を要求するには、[評価] を選択します。

   アセスメントのステータスが [応答処理待ち] に更新されます。

タスクの結果
アセスメントのステータスが [応答処理待ち] に更新されます。アセスメントの査定人は、 オペレーショナルレジリエンスワークスペースにあるアセスメントへのリンクを含むメール通知を受け取ります。

> **注:**
> 承認者がいない場合、アセスメントのステータスは自動的に [承認済み] ステータスに変わります。

次のタスク
査定人は、インスタンスにログインするか、通知で受信したアセスメントリンクを選択し、アセスメントに回答して結果を送信します。詳細については、「アセスメントを送信する」を参照してください。

アセスメントを送信する

重要性および影響許容度アセスメントの査定人としてログインし、アンケートに回答して、承認を得るためにアセスメントを オペレーショナルレジリエンスワークスペース 送信します。

始める前に
必要なロール：sn_oper_res.manager

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > リスト > 重要性および影響許容度アセスメント > すべてのアセスメント をクリックし、作業しているアセスメントを開きます。
2. アセスメントの査定人としてログインします。
3. [運用上の脆弱性] タブから、サービスに関連する運用上の脆弱性を追加します。
4. [アセスメント] タブで、アセスメントを選択し、質問に回答します。
   査定人は質問に回答できます。

   アセスメントが作成され、[アセスメント] タブに表示されます。アセスメントオーナーと査定人のみがアクセスできます。アセスメントオーナーがアセスメントにアクセスしようとすると、別のユーザーにアサインされていることを示すメッセージが表示されます。オーナーは、それを読み取り専用モードで表示したり、編集したりすることができます。これにより、査定人からオーナーへの書き込みアクセス権が再アサインされます。

5. アセスメントに貢献者を追加するには、コンテキストサイドバーで貢献者アイコン 貢献
   [貢献者] アイコンは、 スマートアセスメント Collaboration (sn_smart_collab) プラグインのインストールとともに表示されます。

   a. [+ 追加] ボタンを選択します。

   b. [貢献者を追加] ポップアップで、[このアセスメントに追加するユーザーを選択] フィールドにユーザーの名前を追加します。

      > **注:**
      > デフォルトでは、 オペレーショナルレジリエンス アプリケーションはユーザーをフィルタリングし、sn_oper_res.user ロール以上のユーザーのみを表示します。アセスメントオーナーは、これらの利用可能なユーザーから選択してアセスメントに追加できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

c. [共同作成者の追加] を選択します。
貢献者は、リストビューまたは [タスク] ページからアセスメントを表示できます。アセスメントに回答して変更を保存することはできますが、送信することはできません。アセスメントのプライマリオーナーのみが送信できます。

6. 処理待ちのアセスメントを終了するには、[すべての質問] または [未回答の質問] を選択します。
すべての質問を表示することも、未回答の質問のみを表示するようにフィルタリングすることもできます。
7. 質問に回答し、すべての質問に回答したことを確認して、回答を保存します。
8. アセスメントを再アサインするには、[その他のオプション] メニューから [再アサイン] を選択します。
確認メッセージが表示され、アセスメントを再アサインすると現在のアクセス権が失われることを警告します。確認して次のステップに進むことができます。再アサインが行われると、ユーザーは重要性アセスメントにアクセスできるようになります。
   a. モーダルのリストから目的のユーザーを選択し、[再アサイン] を選択します。
   アセスメントは、リストから選択したユーザーに再アサインされます。
9. アセスメントを送信するには、[送信] を選択します。
回答を確認し、送信が最終的なものであり、それ以降変更できない可能性があることを理解したことを示す確認メッセージが表示されます。
10. 回答を確認したことを確認するチェックボックスをオンにして、もう一度 [送信] を選択します。
更新が正常に処理され、アセスメントが送信されたことを示す確認メッセージが表示されます。
11. [アセスメント] タブを更新して、重要性アセスメントが完了し、そのステータスが [完了] になっていることを確認します。

アセスメントが送信されると、そのステータスが [アセスメントを受信済み **(Assessment received**)] に変わります。これにより自動化フローがトリガーされ、IIA ページの IIA 値が更新されます。

重要性および影響許容度アセスメントには、 顧客への影響度、 財務の影響度、トランザクション量の 3 つのフィールドが追加されました。これらは、アセスメント結果に基づいて全体的な影響許容度値を決定するために使用されます。

注:

アセスメントが完了し、[アセスメントを受信済み] ステータスになった後、オーナーには、必要に応じて計算された影響許容度値を上書きするオプションがあります。

アセスメントが完了し、[アセスメントを受信済み] ステータスになったら、オーナーは必要に応じて、計算された影響許容値を上書きできます。すべてのアセスメントが完了すると、IIA は自動的に [アセスメント受信済み] ステータスに移行し、[スコープ] タブの重要度の値が更新されます。

注:
アセスメントを再受験できなかった従来のアセスメントとは異なり、 スマートアセスメント方法ではアセスメントを再オープンして再受験できます。アセスメントがキャンセルまたは却下された場合、アセスメントが [アセスメントを受信済み] 状態のままだった従来のシステムとは異なり、応答待ちステータスに戻り、ユーザーが再受験できるようになります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

完了したアセスメントを再オープンできるのは、アセスメントの要求者/所有者およびアサインされた査定人のみです。アセスメントにアサインされた貢献者には、この機能はありません。

メール通知は、IIA の作成、スコープの更新、アセスメントのアサイン、再アセスメント、協力者の追加など、さまざまなステージで送信され、プロセス全体を通じてステークホルダーに最新情報が提供されるようにします。

次のタスク

重要性および影響許容度アセスメント (IIA) のオーナーが承認を要求します。詳細については、「アセスメントの承認を要求」を参照してください。承認者を指定しない場合、レコードは [承認済み] ステータスに移行します。

アセスメントの承認を要求

オペレーショナルレジリエンスワークスペースで、重要性および影響許容度アセスメントの承認を要求します。この承認によって、正確な評価がビジネスサービスに割り当てられていることを確認できます。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.manager

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > リスト > 重要性および影響許容度アセスメント > すべてのアセスメント 次に、作業中のアセスメントに移動します。
   アセスメントが [アセスメントを受信済み] ステータスの場合、そのオーナーはフォームで [承認を要求] UI アクションを表示できます。
2. アセスメントの承認を要求するには、[承認を要求] を選択します。

   アセスメントのステータスが [承認待ち] に更新されます。アセスメントの承認者は、アセスメントを承認するためのメール通知を受け取ります。アセスメントの承認が保留中であることを示すメッセージが表示されます。
3. インスタンスにログインし、所有者としてアセスメントを開き、[承認] タブに移動します。
4. アセスメントを承認、却下、またはキャンセルするには、[ステータス] 列をダブルクリックします。
5. アセスメントを却下するには、ステータスを [却下] に更新し、 **[OK]** を選択します。
6. アセスメントをキャンセルするには、状態を [キャンセル] に更新し、 **[OK]** を選択します。
7. アセスメントを承認するには、その状態を [承認済み] に更新し、 **[OK]** を選択します。
   アセスメントのステータスは、[承認] タブの [ステータス] 列とレコードの [概要] タブで [承認済み] に更新されます。これで、重要性および影響許容度アセスメントのワークフローは完了です。

次のタスク

重要性および影響許容度アセスメントが承認されると、ワークフローが完了します。非アクティブなアセスメントをクローズするには、「 アセスメントをクローズ」を参照してください。クローズしたアセスメントは非アクティブと見なされることに注意してください。

アセスメントをクローズ

オペレーショナルレジリエンスワークスペースで非アクティブな重要性および影響許容度アセスメントをクローズします。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
通常、アセスメントのオーナーは非アクティブなアセスメントをクローズします。

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > リスト > 重要性および影響許容度アセスメント > すべてのアセスメント.
2. オーナーは、クローズする非アクティブなアセスメントをリストから選択します。
3. アセスメントをクローズするには、[クローズ] を選択します。

   アセスメントのステータスが [クローズ済み] に更新されます。

シナリオ分析の実施

シナリオ分析を実行することで、ビジネスに影響を与える可能性のあるリスクを判断できます。シナリオとイベントがビジネスサービスに与える影響を分析できます。オペレーショナルレジリエンスワークスペースでシナリオ分析からアクションと改善を追跡することもできます。

シナリオ分析の概要

シナリオは、イベントが組織にどのように影響を与えるかをテストするために使用されるビジネス固有のリスクを表します。シナリオ分析を実行することで、シナリオと関連イベントがビジネスサービスに与える影響を分析できます。各サービスには、いくつかの依存関係が関連付けられています。*Compute Operational Resilience Compliance* スケジュール済みジョブがバックグラウンドで実行され、サービスの依存関係が入力されます。シナリオ分析のオーナーは、計画の承認を要求できます。

計画承認者が計画承認を承認すると、シナリオ分析の応答タスクがトリガーされます。分析の参加者は応答タスクを処理し、分析に観察事象を追加します。

シナリオ分析のオーナーは、サービスのステータスを確認し、中断の可能性を計算できます。応答タスクが完了したら、シナリオ分析の分析の承認を要求できます。分析承認者がシナリオ分析を承認したら、オペレーショナルレジリエンスワークスペースでそれをクローズしてそのステータスを監視できます。

シナリオ分析を設定するタスク

sn_oper_res.manager ロールを持っている場合は、次のようにシナリオ分析を設定できます。

1. ビジネスに適用可能なリスクを判断するのに役立つシナリオを作成します。
2. シナリオ分析フォームで、オーナー、計画承認者、および分析承認者をシナリオ分析にアサインします。
3. シナリオに適用可能なスコープと依存関係を追加します。
4. 1 つ以上のシナリオイベントをシナリオ分析に関連付けます。シナリオイベントに固有の参加者、サービス、依存関係、および問題を追加します。シナリオイベントが参加者に関連付けられると、対応タスクが [応答] タブで自動的に生成され、参加者にアサインされます。
5. シナリオ分析をシナリオの計画承認者に送信し、計画の承認を要求します。
6. シナリオ分析イベントに関する観察事象、ギャップ、および推奨事項を参加者から収集します。シナリオイベントの参加者は、財務部門や HR 部門など、関連するビジネス機能のユーザーであり、少なくとも sn_oper_res.user ロールを持っています。
7. 影響許容度を中断期間と比較して、サービスの違反があったかどうかを判断します。
8. オープンの対応タスクをクローズし、シナリオ分析に関連付けられているシナリオイベントをオープンします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

9. シナリオ分析をレビューのために分析承認者に送信し、シナリオの承認を要求します。
10. シナリオ分析をクローズして、オペレーショナルレジリエンスワークスペースでそのステータスを監視します。

シナリオ分析に関連付けられている状況と UI アクション

次の表で、シナリオ分析に関連付けられている状況と UI アクションについて説明します。

シナリオ分析に関連付けられている状況と UI

状況	UI アクション	説明
ドラフト	すべてのシナリオ分析フォームで、[新規] を選択します。	このステータスの UI アクションの詳細： • すべてのシナリオ分析フォームで、[新規] を選択し、[詳細] タブで情報を追加して、[保存] を選択します。レコードが [ドラフト] ステータスで自動的に作成されます。 • [スコープ] タブで、[追加] を選択して、使用可能なサービスのリストからサービスを追加します。 注: サービスは、オペレーショナルレジリエンス アプリケーションのサービス (OR) エンティティタイプから取得されます。 • オペレーショナルレジリエンス アプリケーションのいくつかのサービスは、Acer や Adran などの特定の依存関係に関連付けられています。依存関係に関連付けられているサービスを選択するには、[依存関係関連スコープの追加] を選択します。 • 次の例に示すように、[依存関係] タブで [追加] を選択して、依存関係をシナリオ分析に関連付けます。いくつかの依存関係は特定のサービスに関連付けられています。[スコープ関連の依存関係の

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

シナリオ分析に関連付けられている状況と **UI** (続く)

状況	UI アクション	説明
		追加] を選択すると、特定のサービスに関連する依存関係を追加できます。 • 選択内容を保存するには、[保存] を選択します。 • シナリオ分析フォームで、[計画承認を要求] を選択し、シナリオの計画承認者に計画の承認を要求します。 **注:** シナリオ分析を開始するには、少なくとも 1 つサービスを関連付ける必要があります。
計画承認待ち	[承認] タブに移動し、ステータスを [要求済み] から [承認済み] に更新して、シナリオ分析フォームで [保存] を選択します。	このステータスの UI アクションの詳細： • 分析の計画承認者は、[処理待ちの計画承認] ステータスの分析のスコープを確認する必要があります。関連付けられたサービス、参加者、シナリオイベント、および問題の設定を確認できます。 • 分析の計画を承認するには、[承認] タブに移動し、ステータスを [要求済み] から [承認済み] に更新して、シナリオ分析フォームで [保存] を選択します。 • シナリオ分析の計画を承認して保存すると、シナリオ分析のステータスが [分析] に更新されます。 • 計画を却下すると、シナリオ分析のステータスは [ドラフト] にリセットされます。
分析	[シナリオイベント] タブで、[追加] を選択してシナリオイベントを分析に追加します。[参加者] タブで、[追加] を選択して参加者を分析に追加します。	このステータスの UI アクションの詳細： • このステータスでは、シナリオ分析の参加者は、シナリオ分析フォームに作業メモを追

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

シナリオ分析に関連付けられている状況と **UI** (続く)

状況	**UI** アクション	説明
	[シナリオイベント] タブで、ステータスを [クローズ済み] に更新してシナリオイベントをクローズします。[分析承認を要求] を選択します。	加し、責任に基づいてイベントを処理できます。 **注:** シナリオ分析を続行する前に、少なくとも 1 つのサービス、1 人の参加者、および 1 つのシナリオイベントを追加する必要があります。 • [シナリオ分析] タブで、[追加] を選択して、1 つ以上のシナリオイベントを分析に関連付けます。 • [参加者] タブで、[追加] を選択して、1 人以上の参加者を分析に関連付けます。シナリオイベントが作成されると、応答タスクが自動的に作成され、参加者にアサインされます。参加者からフィードバックを収集し、フォーム上の関連イベントごとに参加者の観察事象、ギャップ、および推奨事項を確認できます。 • [応答] タブに移動し、シナリオイベントに関連付けられている応答タスクをクローズします。 • シナリオイベントの状況を [ドラフト] から [完了] に更新し、オープンされているシナリオイベントをクローズします。[保存] を選択します。 • 観察事象と推奨事項を基にして、シナリオ分析の詳細が、このステータスでシナリオ分析フォームに自動的に入力されます。分析承認者からの承認を要求するには、分析フォームで [分析承認を要求]

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

シナリオ分析に関連付けられている状況と **UI** (続く)

状況	UI アクション	説明
		を選択します。シナリオ分析のステータスが [分析の承認待ち] に更新されます。
分析の承認待ち	[承認] タブに移動し、ステータスを [要求済み] から [承認済み] に更新します。	分析承認者である場合は、このステータスで分析スコープを確認できます。選択したビジネスサービスの分析の進捗状況を確認します。その後、分析を承認または却下できます。
承認済み	分析フォームで、[保存] を選択します。	シナリオ分析を承認すると、シナリオ分析のステータスが [承認済み] に更新されます。シナリオ分析を却下すると、シナリオ分析のステータスは [分析] にリセットされます。 シナリオ分析のステータスが [承認済み] ステータスの場合は、シナリオ分析をクローズできます。
クローズ済み	分析フォームで、[閉じる] を選択します。	シナリオ分析のオーナーは、シナリオ分析をクローズできます。ステータスが [クローズ済み] に更新されます。

サービス **(OR)** エンティティタイプからのサービスエンティティの取得

次の例に示すように、オペレーショナルレジリエンス アプリケーションは、サービス (OR) エンティティタイプからサービスエンティティを取得します。

サービス **OR** エンティティタイプ

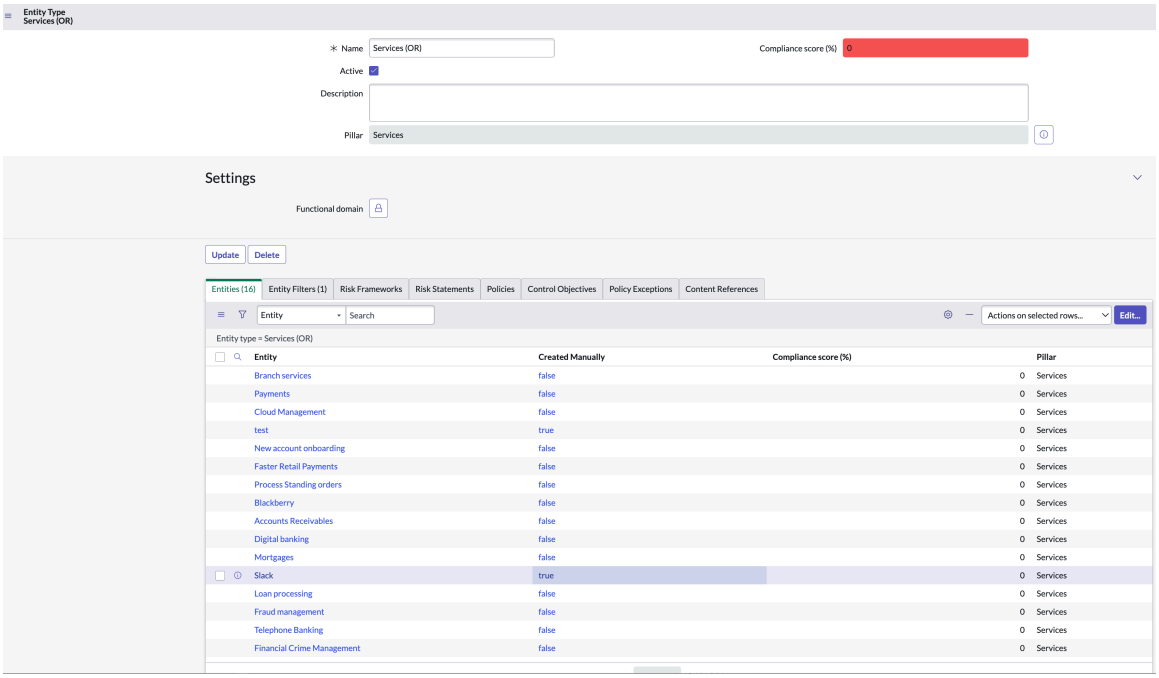


sn_oper_res.admin ロールを持つユーザーは、次の例に示すように、オペレーショナルレジリエンス アプリケーション UI でエンティティタイプモジュールとその関連リストを表示できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

サービス **OR** エンティティタイプのサービスエンティティ

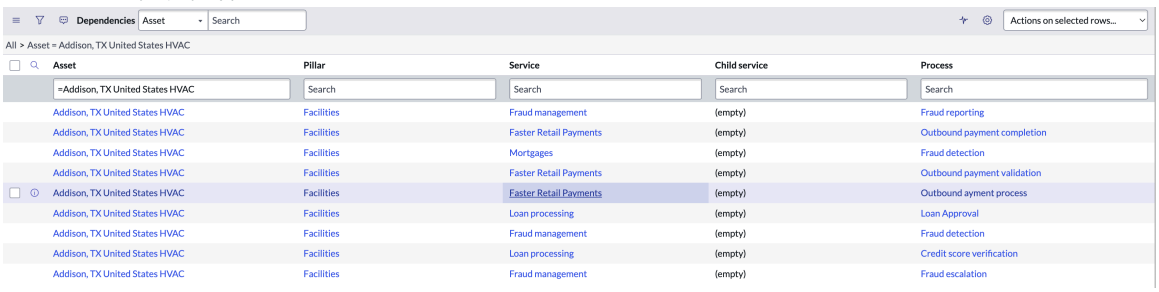


注:
施設、 人、サプライヤー、およびテクノロジーの各ピラーに属するエンティティのみを選択できます。サービスとプロセスのピラーは、エンティティのピラーのリストから除外されます。

サービスの依存関係

各サービスには、いくつかの依存関係が関連付けられています。*`Compute Operational Resilience Compliance`* スケジュール済みジョブがバックグラウンドで実行され、サービスの依存関係が入力されます。次の例は、Addison, TX United States HVAC エンティティが、Faster Retail Payments サービスをサポートするための依存関係としてリストされていることを示しています。

サービスの依存関係



施設、人員、サプライヤー、およびテクノロジーの各ピラーに属する依存関係のみを選択できます。サービスとプロセスのピラーは、依存関係のピラーのリストから除外されます。

応答タスク

シナリオ分析オーナーがシナリオイベントを作成して参加者を追加すると、その参加者用の応答タスクが自動的に作成されます。参加者がシナリオイベントにアサインされると、応答タスクが作成されます。参加者にメール通知が自動的に送信されます。

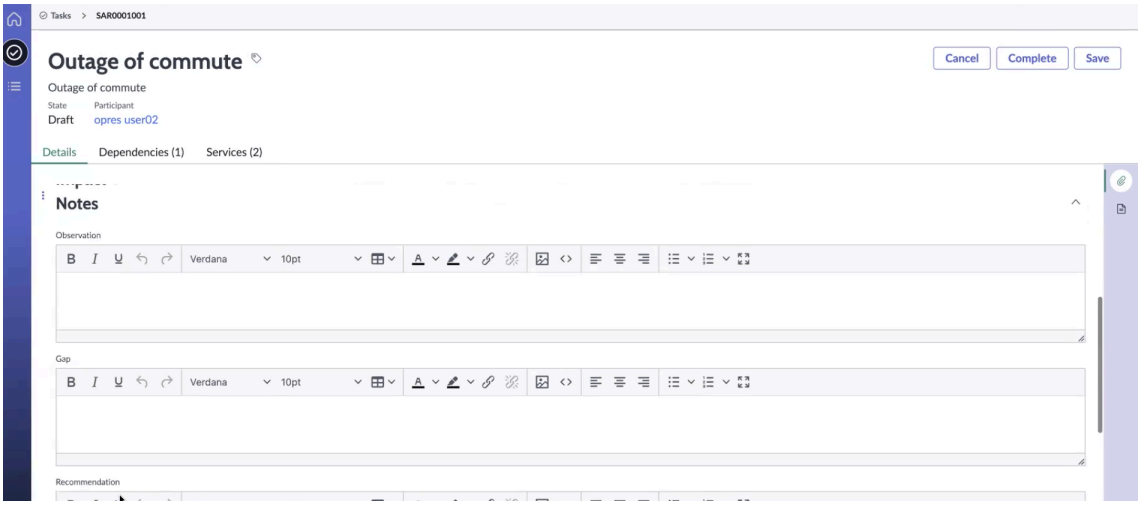
[応答] タブには、応答タスク番号、アサインされた参加者の名前、応答タスクのステータスなど、応答タスクの詳細が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

シナリオイベントの所有者は、サービスと依存関係を応答タスクに追加できます。応答タスクのアサイニーは、次の例に示すように、応答タスクを完了し、シナリオイベントに関するメモを追加して、シナリオイベントの影響期間を更新できます。

シナリオイベントに関するメモ



リリース **15.xx** からリリース **16.xx** へのアップグレードに関する既知の問題

リリース 15.xx からリリース 16.xx へのアップグレード中に、[分析] ステータスのシナリオ分析があり、参加者がすでにシナリオ分析に追加されている場合、応答タスクは自動的に作成されません。これは既知の問題です。

この問題の回避策として、オペレーショナルレジリエンス マネージャーは、そのシナリオ分析から参加者を削除し、同じシナリオ分析に追加する必要があります。オペレーショナルレジリエンス アプリケーションはその後でシナリオ分析の応答タスクを自動的に作成します。

注:
応答タスクなしでシナリオ分析を続行することもできます。

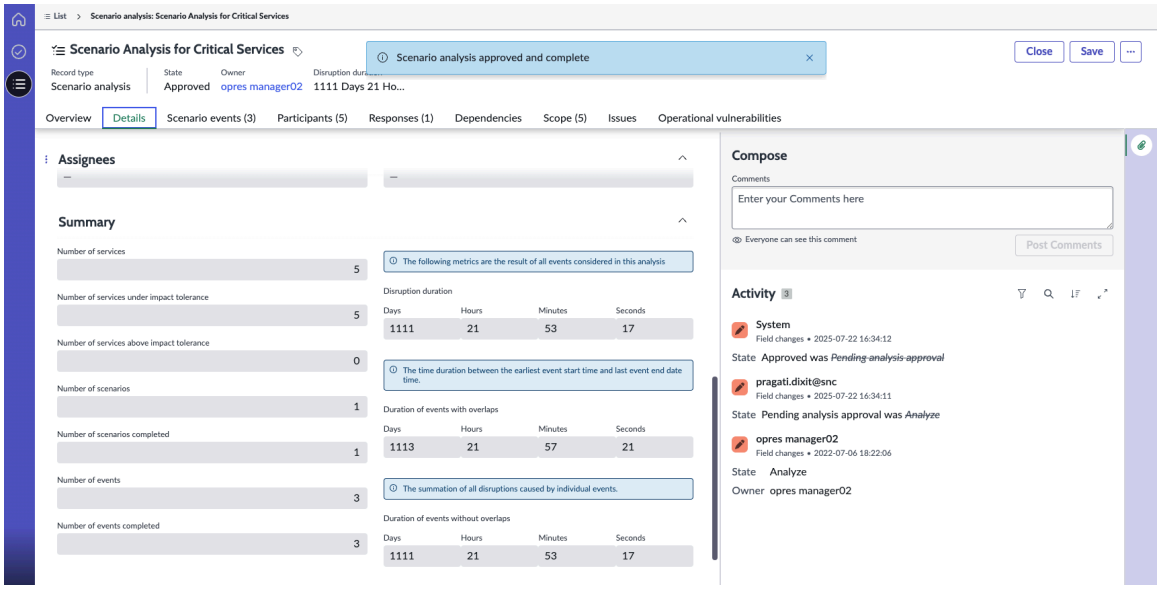
サービス、シナリオ、中断、およびイベントのサマリー

次の例に示すように、[サマリー] パネルでサービス、シナリオ、中断、およびイベントに関する情報を表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

シナリオ分析フォームの [サマリー] パネル



[サマリー] パネルには、ビジネスサービス、関連するシナリオ、中断、およびイベントに関する情報が表示されます。フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

サービス、シナリオ、中断、およびイベントのサマリー

フィールド	説明
サービスの数	シナリオ分析に関連付けられたサービスの数
影響許容度内のサービスの数	シナリオ分析に関連付けられ、影響許容度内のサービスの数
影響許容度を超えているサービスの数	シナリオ分析に関連付けられ、影響許容度を超えているサービスの数
シナリオの数	分析に関連付けられたシナリオの数
完了したシナリオの数	分析に関連付けられ、完了しているシナリオの数
イベント数	分析に関連付けられたイベントの数
完了したイベントの数	分析に関連付けられ、完了したイベントの数
中断期間	最後のイベントの終了時間と最初のイベントの開始時間の間の期間日数で表示されます。
重複のあるイベントの期間	重複するイベントと一時停止を含む、すべてのイベント期間のサマリー。日数と分数で表示されます。
重複のないイベントの期間	重複するイベントと一時停止を含まない、すべてのイベント期間のサマリー。日数と分数で表示されます。

シナリオ分析の作成

オペレーショナルレジリエンスワークスペース でビジネスサービスのシナリオ分析を作成します。シナリオと関連イベントの影響を分析できます。その後で、中断を計算し、いずれかのサービスが違反したかどうかを判断することができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：sn_oper_res.manager

このタスクについて
sn_oper_res.manager ロールを持っている場合は、シナリオ分析を作成できます。シナリオ分析のオーナーと sn_oper_res.admin ロールを持つユーザーのみが分析を編集できます。分析をレビューした後で、承認を要求できます。分析が [承認済み] ステータスの場合は、クローズできます。

手順

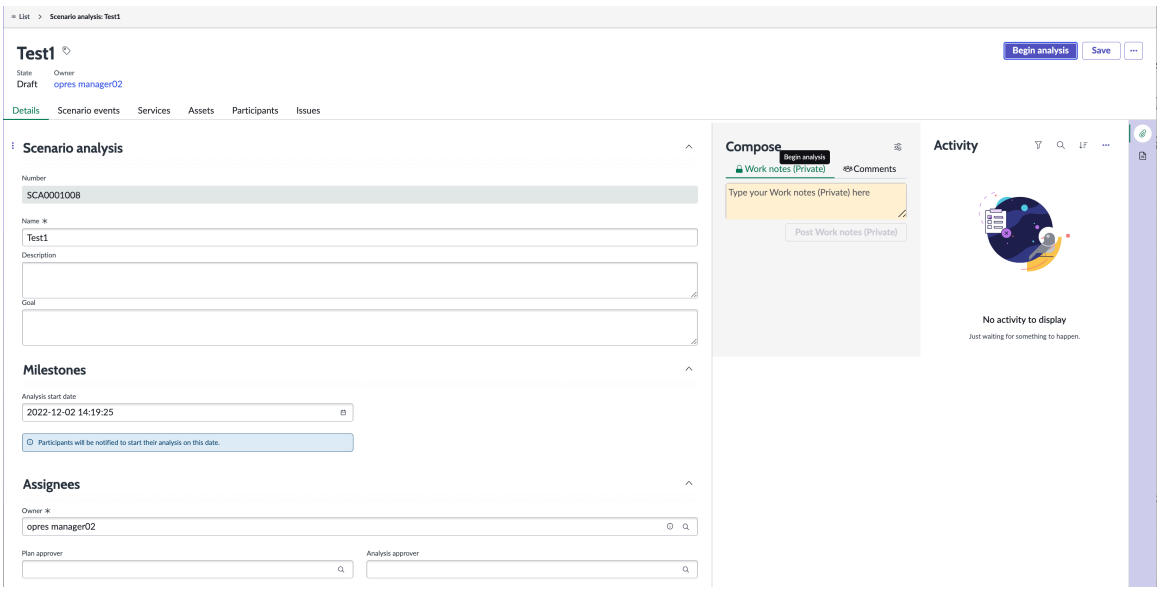
1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペースで、リストアイコン [をクリックし、[すべてのシナリオ分析] に移動します。
2. シナリオ分析を作成するには、[新規] を選択します。
   新規シナリオ分析を作成 (Create New Scenario analysis) フォームが表示されます。
3. [シナリオ分析] パネルで、シナリオ分析の名前、説明、および目標を入力します。
   シナリオ分析の番号は、システムによって自動的に入力されます。
4. [マイルストーン] パネルの [分析開始日] フィールドに、分析の開始日を *YYYY-MM-DD HH:mm:ss* 形式で入力します。
   参加者は、 オペレーショナルレジリエンスワークスペース 内のレコードにアクセスし、分析開始日に分析を開始するための通知リンクを受け取ります。
5. [アサイニー] パネルの [計画承認者] フィールドで、分析の計画承認者を選択します。
6. [分析承認者] フィールドで、分析の所有者、計画承認者、および分析承認者を選択します。

   ログインしているユーザーが分析のオーナーとして自動的にアサインされます。

   ユーザーの新規レコードフォームのフィールド値の説明については、「新規シナリオ分析を作成 (Create New Scenario analysis) フォーム」を参照してください。

   サンプルシナリオ分析フォームを次の例に示します。

   サンプルシナリオ分析フォーム



7. シナリオ分析に関するサイドバーディスカッションを開始するには、[その他のアクション] を選択し、[ディスカッション] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. ディスカッションの件名を追加し、レコードにアクセスできる参加者を追加します。

b. 参加者への簡単なメッセージを含めます。

c. [ディスカッションを開始] を選択します。

8. シナリオ分析を削除するには、 [削除] を選択し、削除を確認して **[OK]** を選択します。

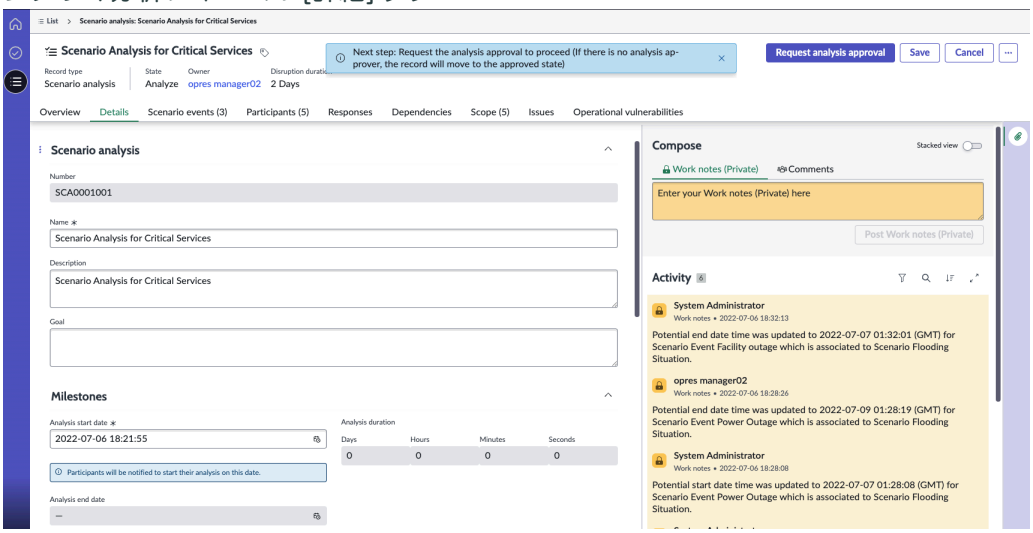
9. シナリオ分析を保存するには、 [保存] を選択します。

タスクの結果

シナリオ分析が保存され、そのステータスが [ドラフト] に更新されます。

次の例は、[詳細] タブで、シナリオ分析、その重要な日付、およびアサイニーの詳細を表示できることを示しています。

シナリオ分析フォームの [詳細] タブ



次のタスク

シナリオイベント、スコープ、資産、および参加者を分析に追加します。分析を開始するには、少なくとも 1 つのスコープを関連付ける必要があります。スコープと依存関係の追加の詳細については、「 スコープの関連付けと依存関係の定義」を参照してください。

新規シナリオ分析を作成 **(Create New Scenario analysis)** フォーム

オペレーショナルレジリエンスワークスペース の新規シナリオ分析を作成 (Create New Scenario analysis) フォームを使用して、シナリオ分析、マイルストーン、アサイニーなどの詳細を追加します。

新規シナリオ分析を作成 **(Create New Scenario analysis)** フォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

新規シナリオ分析を作成 **(Create New Scenario analysis)** フォーム

フィールド	説明
[シナリオ分析] パネル	
番号	シナリオ分析の番号。シナリオ分析を作成すると、アプリケーションによってシナリオ分析が作成され、一意の識別番号が割り当てられます。このフィールドは自動入力されます。
名前	シナリオ分析の名前。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

新規シナリオ分析を作成 **(Create New Scenario analysis)** フォーム (続く)

フィールド	説明
説明	シナリオ分析の説明。
目標	シナリオ分析を実行して達成する具体的な目標。たとえば、ビジネスにとって重要なサービスを分析することが目標である場合があります。
[マイルストーン] パネル	
分析開始日	シナリオ分析の開始日。分析のオーナーが分析開始日を入力します。この日付に分析を開始するように指示する通知が参加者に送信されます。
[アサイニー] パネル	
所有者	シナリオ分析のオーナー。
計画承認者	シナリオ分析計画の承認者。
分析承認者	シナリオ分析の承認者。
[作成] パネル	
作業メモ	レコードに関連付けられたアクティビティの作業メモ。
追加コメント (顧客に表示)	顧客と共有できるその他のコメント。
[アクティビティ] パネル	
アクティビティセクション	シナリオ分析に関連付けられた日時を含むアクティビティのリスト。
シナリオ分析に関連付けられたタブ	
シナリオイベント	**注:** シナリオ分析を続行する前に、少なくとも 1 つのサービス、1 つのシナリオイベント、1 人の参加者を追加する必要があります。 分析オーナーが分析に関連付けることができるシナリオイベント。オーナーは、[追加] を選択してシナリオイベントを分析に関連付けます。 シナリオイベントを分析に追加すると、イベントに関する次の詳細がフォームに表示されます。 • 名前。たとえば、施設停止などです。 • イベントグループ。たとえば、インフラストラクチャイベントなどです。 • シナリオ。たとえば、洪水などです。 • ピラー。たとえば、施設、人員、サプライヤー、テクノロジーなどです。 • 開始見込日時。たとえば、ユーザーがイベントの作業を開始する日時などです。 • 終了見込日時。たとえば、ユーザーがイベントの作業を終了する日時などです。 • 期間。たとえば、イベントの計算された期間です。 • 観察事項。たとえば、シナリオイベントに関する観察事項です。 • ギャップ。たとえば、シナリオイベントに関するギャップまたは不足している情報などです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規シナリオ分析を作成 **(Create New Scenario analysis)** フォーム (続く)

フィールド	説明
	• 推奨事項。たとえば、シナリオイベントに関する推奨事項などです。 • シナリオイベントの状況。
サービス	分析オーナーが分析に関連付けることができるサービス。オーナーは、[追加] を選択してサービスを分析に関連付けます。 サービスを分析に関連付けると、サービスに関する次の詳細がフォームに表示されます。 • 名前 • オーナー • 重要性 • 影響許容度 • 中断期間 • 違反ステータス • 逸脱 (%)
参加者	分析オーナーが分析に追加できる参加者。新しい参加者を追加するには、フォームで [新規] を選択します。 参加者を分析に追加すると、参加者に関する次の詳細がフォームに表示されます。 • 名前 • ロール • 説明
依存関係	シナリオ分析に追加される資産。 資産を分析に追加すると、資産に関する次の詳細がフォームに表示されます。 • 資産の名前。 • 関付けられている分析シナリオイベント
応答	シナリオイベントに関連付けられている応答タスク。応答フォームに次の詳細が表示されます。 • 番号 • 参加者 • 状況 • 簡単な説明 • 観察事項 • ギャップ • 推奨事項

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規シナリオ分析を作成 **(Create New Scenario analysis)** フォーム (続く)

フィールド	説明
問題	シナリオ分析に関連付けられている問題問題フォームに次の詳細が表示されます。 • 問題 • 番号 • 状況 • 優先度 • アサイン先 • 問題マネージャー • シナリオイベント
サマリー	
サービスの数	シナリオ分析に関連付けられたサービスの数
実開始日	シナリオ分析の実際の開始日。
実終了日	シナリオ分析の実際の終了日。このフィールドは自動入力されます。
実際の期間	シナリオ分析の実際の期間。このフィールドは自動入力されます。
影響許容度内のサービスの数	シナリオ分析に関連付けられ、影響許容度内のサービスの数
影響許容度を超えているサービスの数	シナリオ分析に関連付けられ、影響許容度を超えているサービスの数
シナリオの数	分析に関連付けられたシナリオの数
完了したシナリオの数	分析に関連付けられ、完了しているシナリオの数
イベント数	分析に関連付けられたイベントの数
完了したイベントの数	分析に関連付けられ、完了したイベントの数
中断期間	最後のイベントの終了時間と最初のイベントの開始時間の間の期間
重複のあるイベントの期間	重複するイベントと一時停止を含む、すべてのイベント期間のサマリー。
重複のないイベントの期間	重複するイベントと一時停止を含まない、すべてのイベント期間のサマリー。
承認者	シナリオ分析に関連付けられている承認者。

スコープの関連付けと依存関係の定義

サービスを追加してスコープを関連付け、サービスを追加してシナリオ分析との依存関係を定義します。その後、 オペレーショナルレジリエンスワークスペース でシナリオとイベントの影響の分析を開始できます。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > すべてのシナリオ分析 をクリックし、作業中のシナリオ分析を開きます。
2. [スコープ] タブで、[追加] を選択します。
   サービス (OR) エンティティタイプからフェッチされた利用可能なすべてのサービスのリストが表示されます。

   a. リストから 1 つ以上のサービスを選択し、[追加] を選択します。

      選択したサービスが分析スコープとして正常に追加されました。

   b. 依存関係に関連するスコープを追加するには、 [依存関係関連スコープの追加] を選択し、依存関係を選択して、もう一度 [追加] を選択します。

      注:
      オペレーショナルレジリエンス アプリケーションでは、一部のサービスで特定の依存関係を使用します。依存関係に関連付けられているサービスを追加できます。1 つ以上の依存関係関連サービスを分析に追加する前に、前の手順で説明したように、[依存関係] タブで 1 つ以上の依存関係を追加する必要があります。

3. シナリオ分析に依存関係を追加するには、[依存関係] タブで [追加] を選択します。

   a. リストから 1 つ以上の依存関係を選択し、[追加] を選択します。
      依存関係が [依存関係] タブに表示されます。

   b. 依存関係に関連するスコープを追加するには、 [スコープ関連の依存関係の追加] を選択し、依存関係を選択して、もう一度 [追加] を選択します。

4. **[Save** (保存)] を選択します。

計画承認を要求

分析承認者に計画承認を要求します。オペレーショナルレジリエンスワークスペースでシナリオ分析を続行できます。

始める前に
必要なロール：sn_oper_res.manager

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > すべてのシナリオ分析 をクリックし、作業中のシナリオ分析を選択します。
2. [計画承認を要求] を選択します。
   計画承認者は、シナリオ分析にログインしてプロセスを完了できます。

   シナリオ分析のステータスが [計画承認待ち] に更新されます。シナリオ分析のステータスとオーナーは、シナリオ分析フォームのヘッダーに表示されます。

3. シナリオ分析を承認、却下、またはキャンセルするには、[ステータス] 列をダブルクリックします。
4. シナリオ分析を却下するには、ステータスを [却下] に更新し、[**OK]** を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. シナリオ分析をキャンセルするには、ステータスを [キャンセル] に更新し、[**OK]** を選択します。
6. [計画承認待ち] ステータスでシナリオ分析を承認するには、ステータスを [承認済み] に更新して **[OK]** を選択します。
   シナリオ分析レコードのステータスが [分析] に更新されます。

次のタスク

次のステップとして、分析承認を要求します。詳細については、「シナリオ分析を送信して承認を受け取る」を参照してください。

シナリオ分析の計画の承認

計画承認者の場合は、オペレーショナルレジリエンスワークスペースでシナリオ分析の計画を承認します。メール通知を確認することで、シナリオ分析のアクションを追跡できます。

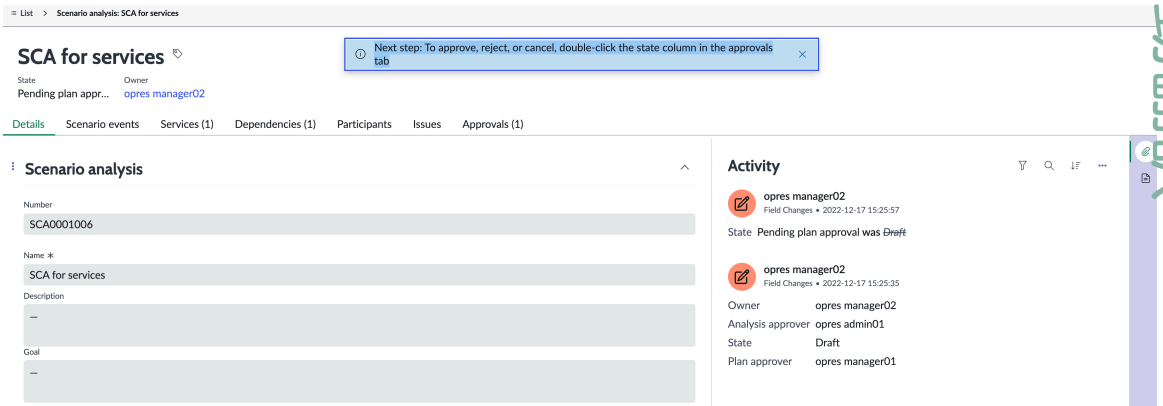
始める前に

必要なロール：sn_oper_res.manager

手順

1. 移動先 すべて > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > すべてのシナリオ分析 をクリックし、作業中のシナリオ分析を選択します。
2. シナリオ分析の計画承認者としてログインし、[承認] タブに移動します。
   サンプルシナリオ分析フォームを次の例に示します。

サンプルシナリオ分析フォーム

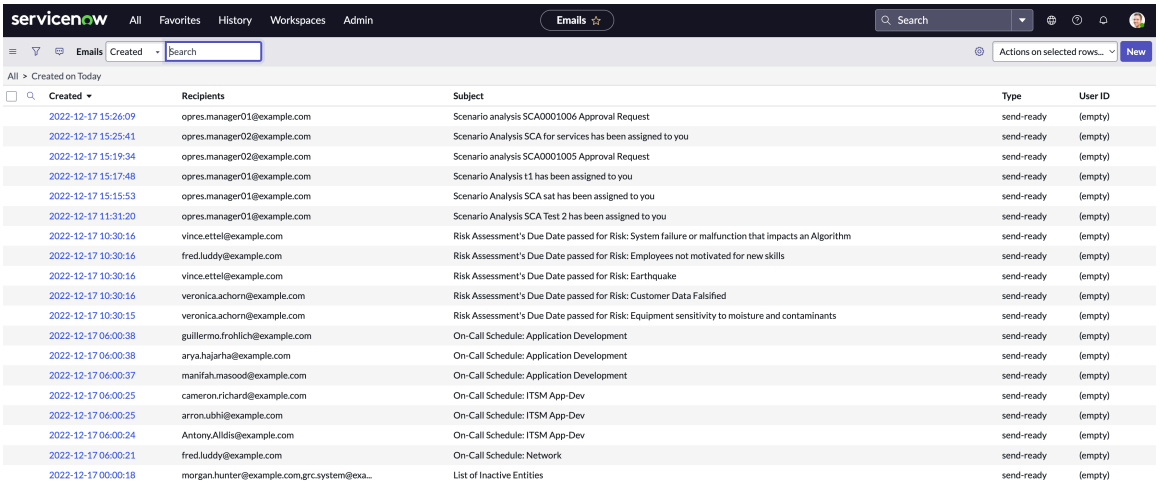


3. 通知のメールを確認します。

   a. アドミニストレーターとしてログインし、アプリケーション UI で [すべて] > [メール] に移動します。
      シナリオ分析の実行中、オーナー、承認者、および参加者にメール通知が自動的に送信されます。次の例に示すように、メール通知を表示できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

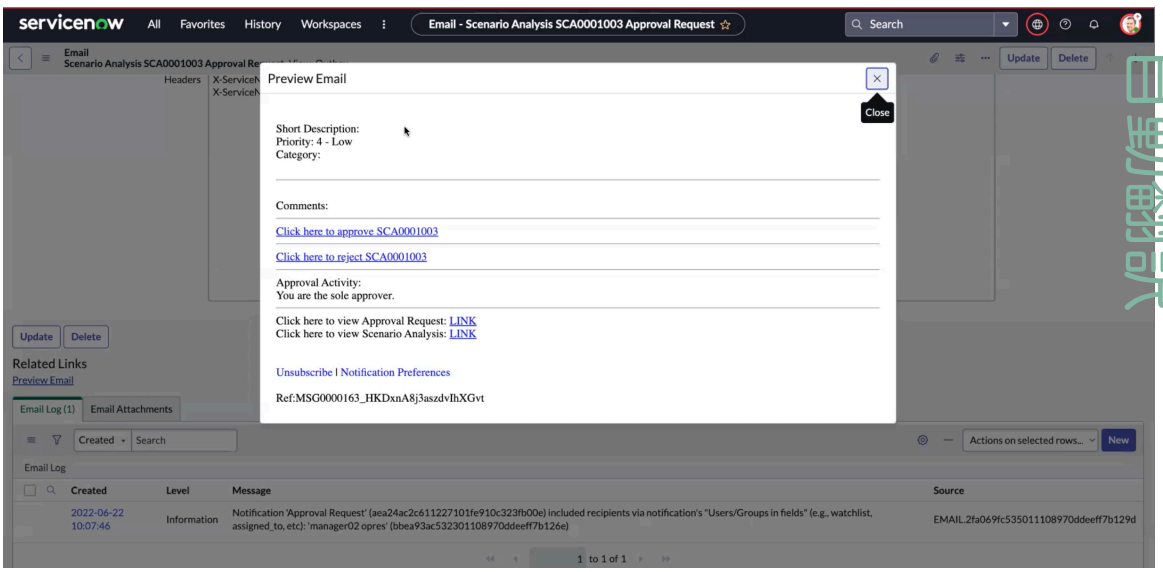
アプリケーション UI のメール通知



b. リストからメールレコードを選択します。

c. メール レコードで、[メールをプレビュー] を選択します。
次の例に示すようにメールのプレビューが表示されます。

アプリケーション UI のメール通知



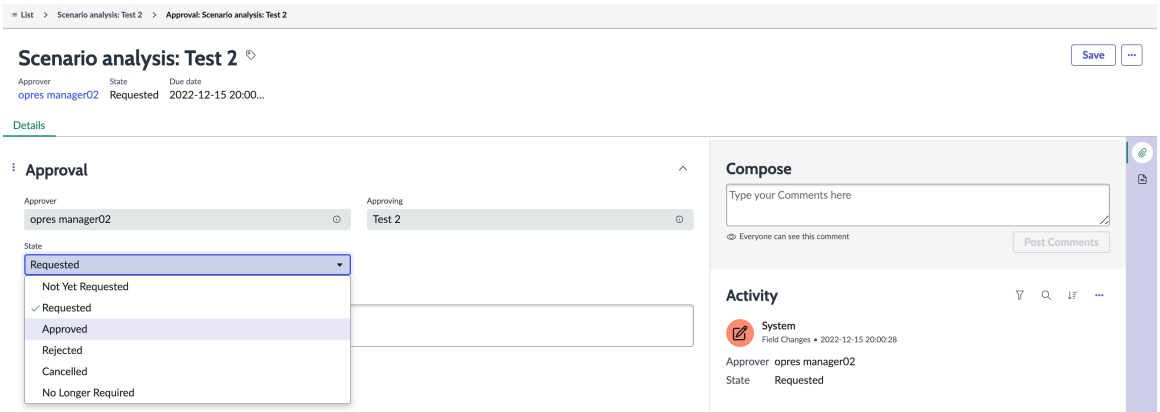
d. メールで、[承認]を選択します。

[コメント] セクションからシナリオ分析を承認または却下するか、例に示すように [承認要求] リンクを表示できます。承認された分析が [分析] ステータスに更新されます。却下されたシナリオ分析は [ドラフト] ステータスにリセットされます。

4. シナリオ分析を承認、却下、またはキャンセルするには、[承認] タブの [ステータス] 列をダブルクリックします。
シナリオ分析のステータスを更新するためのフォームのサンプルを次の例に示します。

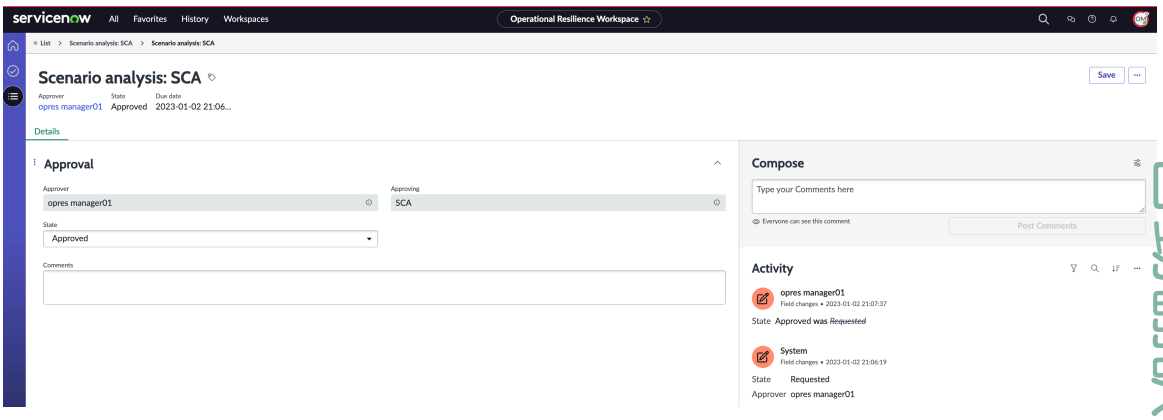
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

シナリオ分析のステータスを更新するためのフォームのサンプル



5. ステータスを [要求済み] から [承認済み] に更新します。
6. シナリオ分析フォームで、[保存] を選択します。
   次の例に示すように、計画承認者はシナリオ分析を承認します。

承認されたシナリオ分析



自動翻訳

分析へのシナリオイベントの追加

シナリオ分析にシナリオイベントを追加して、ビジネスサービスへのその影響を分析できます。シナリオ分析オーナーは、オペレーショナルレジリエンスワークスペース のシナリオ分析にステークホルダーとレビュー担当者を追加できます。その後、すべての参加者の観察事項を照合し、その入力を使用してシナリオを分析できます。

シナリオイベントを追加するためのワークフロー

次のいずれかのワークフローを完了すると、シナリオ分析にシナリオイベントを追加できます。

- 最初にシナリオ分析にシナリオイベント追加してから、参加者、依存関係、サービス、問題などを追加できます。このワークフローの詳細については、「シナリオイベントを追加」を参照してください。
- 最初にシナリオ分析に参加者を追加してから、シナリオイベント、サービス、問題などを追加することもできます。このワークフローの詳細については、「参加者の追加と応答の監視」を参照してください。

シナリオイベントを追加

シナリオ分析にシナリオイベントを追加して、ビジネスサービスへのその影響を分析します。オペレーショナルレジリエンスワークスペース でのシナリオ分析に参加者、依存関係、サービス、問題を追加することで、ビジネスサービスに対するシナリオイベントの影響を判断できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：sn_oper_res.manager

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > すべてのシナリオ分析 をクリックし、自分が所有するシナリオ分析を選択します。
2. [シナリオイベント] タブで [追加] を選択し、リストからイベントを選択して、もう一度 [追加] を選択します。

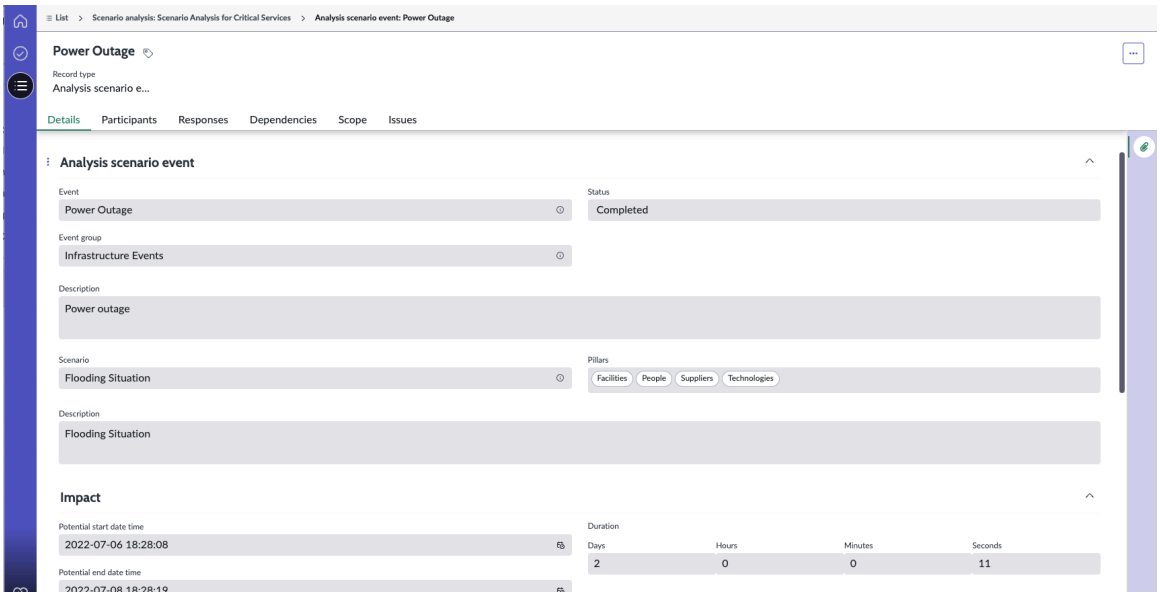
   a. **[Add** (追加)] を選択します。

   b. シナリオイベントフォームで、リストからイベントを選択し、[追加] を選択します。

      シナリオイベントフォームのフィールド値の説明については、「シナリオイベントフォーム」を参照してください。

      [シナリオイベント] タブに、選択したシナリオイベントが表示されます。

3. リストからシナリオイベントを開きます。
   次の例に示すようにシナリオイベントフォームが表示されます。



4. シナリオイベントフォームの [参加者] タブに移動し、利用可能なリストから参加者を追加するか、新しい参加者を追加します。

   a. **[New** (新規)] を選択します。
   [新しい参加者を作成] フォームが表示されます。

      シナリオ分析の名前は、デフォルトで自動的に入力されます。

   b. [ロール] フィールドで、参加者のロールを選択します。
   このロールでは、HR、法務、ファイナンス、テクノロジー、人材、データ、セキュリティ、サプライヤー階層 1、サプライヤー階層 2 のオプションを使用できます。

   c. [参加者] フィールドで、参加者フォームのリストから参加者を選択します。
   参加者を選択すると、ロールが [ロール] フィールドに自動的に入力されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

d. [手順] フィールドに、参加者向けの手順を追加します。

e. [Save (保存)] を選択します。

シナリオイベントを作成して参加者を追加すると、その参加者用の応答タスクが自動的に作成されます。参加者にメール通知が自動的に送信されます。

5. [応答] タブで応答タスクを選択し、フォームのフィールドに入力します。

a. オープンな応答タスクを完了し、[完了] を選択します。
応答タスクが完了し、応答タスクのステータスが [完了してクローズ] に更新されます。

[応答] タブには、応答タスク番号、アサインされた参加者の名前、応答タスクのステータスなど、応答タスクの詳細が表示されます。シナリオ分析応答タスクフォームのフィールド値の説明については、「シナリオ分析応答タスクフォーム」を参照してください。

6. [依存関係] タブで、 [追加] を選択して依存関係を追加するか、シナリオ イベントの [スコープ関連の依存関係の追加] を選択します。

7. [スコープ] タブで、 [追加] を選択してスコープを追加するか、 [シナリオ イベントの 依存関係関連スコープの追加] を選択します。

8. [問題] タブで、イベントに関連付けられている問題を選択します。

9. シナリオ分析のオーナーとしてログインし、オープンシナリオイベントに移動して、そのステータスを [ドラフト] から [完了] に更新します。

10. [開始見込日時] と [終了見込日時] を更新します。
シナリオイベントフォームが表示されます。

タスクの結果

シナリオ分析のステータスが [分析] に更新されます。

シナリオイベントフォーム

オペレーショナルレジリエンスワークスペース のシナリオイベントフォームを使用して、シナリオイベントをシナリオ分析に関連付けます。

シナリオイベントフォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

シナリオイベントフォーム

フィールド	説明
[詳細] タブ	
[分析シナリオイベント] パネル	
イベント名	イベントタイプの一意の名前。このフィールドは自動入力されます。
イベントグループ	イベントグループの一意の名前。このフィールドは自動入力されます。
ステータス	イベントの状況。使用可能なオプションは次のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

シナリオイベントフォーム (続く)

フィールド	説明
	• ドラフト • 完了
説明	イベントの説明。このフィールドは自動入力されます。
シナリオ	イベントに関連付けられたシナリオ。このフィールドは自動入力されます。
Pillar	イベントに関連付けられたピラー。このフィールドは自動入力されます。
説明	イベントの説明。このフィールドは自動入力されます。
[影響度] パネル	
開始見込日時	イベントの開始見込日時。このフィールドは自動入力されます。
終了見込日時	イベントの終了見込日時。
期間	イベントの期間。このフィールドは自動入力されます。
メモ	
観察事項	参加者によってイベントに追加された観察事項。
ギャップ	参加者によってイベントに追加されたギャップ。
推奨事項	参加者によってイベントに追加された推奨事項。
[参加者] タブ	
シナリオ分析	シナリオイベントに関連付けられているシナリオ分析。このフィールドは自動入力されます。
ロール	参加者のロール。使用可能なオプションは次のとおりです。 • HR • 法務 • 経理 • テクノロジー • 人々 • データ • セキュリティ • サプライヤー階層 1

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

シナリオイベントフォーム (続く)

フィールド	説明
	• サプライヤー階層 2 • サプライヤー階層 3
参加者	オペレーショナルレジリエンス アドミニストレーターやマネージャーなどのシナリオ分析の参加者。
説明	シナリオイベントの参加者向けの説明を追加するためのテキストボックス。
応答	番号、参加者、影響期間、ステータスなどの応答タスクに関する詳細。
依存関係	シナリオイベントに関連付けられている依存関係 (資産)。
スコープ	シナリオイベントに関連付けられているサービス。
問題	シナリオイベントに関連付けられている問題

シナリオ分析応答タスクフォーム

オペレーショナルレジリエンスワークスペースのシナリオ分析応答タスクフォームを使用して、シナリオイベントに関連付けられている応答タスクの詳細を追加します。

シナリオ分析応答タスクフォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

シナリオ分析応答タスクフォーム

フィールド	説明
[シナリオ分析応答 (Scenario Analysis Response)] パネル	
番号	シナリオ分析応答タスクの番号 (例：SAR0001006)。このフィールドは自動入力されます。
ロール	応答タスクのアサイニーのロール。
説明	応答タスクのアサイニー向けの説明。
[影響度] パネル	
影響期間	日、時、分、秒単位でのシナリオイベントの影響期間。
[メモ] パネル	
観察事項	応答タスクのアサイニーによって追加されたシナリオイベントに関する観察事項。
ギャップ	応答タスクのアサイニーによって追加されたシナリオイベントに関するギャップまたは不整合。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

シナリオ分析応答タスクフォーム (続く)

フィールド	説明
推奨事項	応答タスクのアサイニーによって追加されたシナリオイベントに関する推奨事項。
[シナリオ分析] パネル	
シナリオ分析	シナリオ分析の名前。
Pillar	シナリオ分析に関連付けられているピラー。
説明	シナリオ分析の説明。
目標	シナリオ分析を実行するための目標。

参加者の追加と応答の監視

最初にシナリオ分析に参加者を追加してから、シナリオイベント、サービス、問題などを追加します。シナリオ分析オーナーは、オペレーショナルレジリエンスワークスペース のシナリオ分析にステークホルダーとレビュー担当者を追加できます。その後、すべての参加者の観察事項を照合し、応答を監視してシナリオを分析できます。

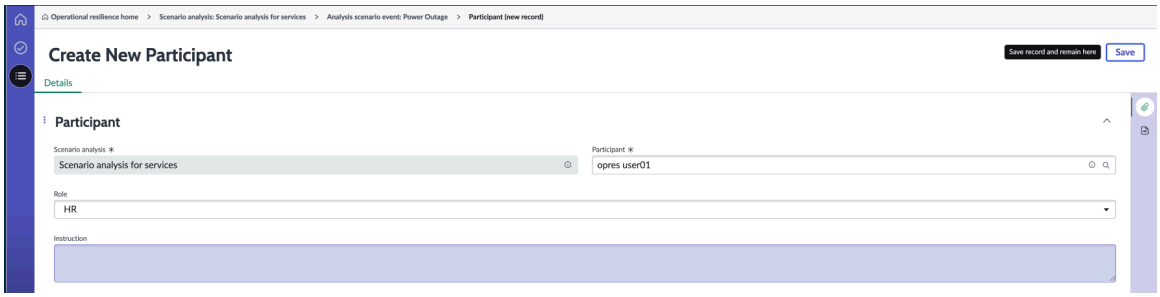
始める前に

必要なロール：sn_oper_res.manager

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > すべてのシナリオ分析 をクリックし、自分が所有するシナリオ分析を選択します。
2. シナリオイベントフォームの [参加者] タブに移動し、利用可能なリストから参加者を追加するか、新しい参加者を追加します。

   a. [新規] を選択します。
   次の例に示すように新規参加者の作成 (Create New Participant) フォームが表示されます。



   シナリオ分析の名前は、デフォルトで自動的に入力されます。

   b. [参加者] フィールドで、参加者フォームのリストから参加者を選択します。
   参加者を選択すると、ロールが [ロール] フィールドに自動的に入力されます。

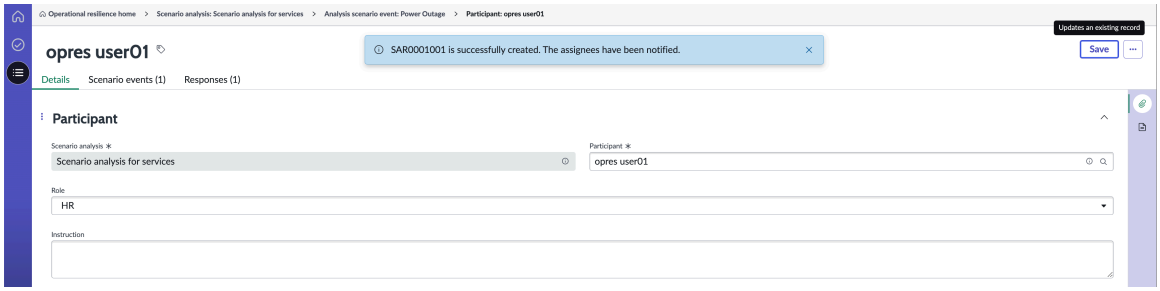
   c. [手順] フィールドに、参加者向けの手順を追加します。

   d. [保存] を選択します。

   次の例に示すように、参加者フォームにタブを表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



シナリオイベントを作成して参加者を追加すると、その参加者用の応答タスクが自動的に作成されます。次の例は、参加者がシナリオイベントにアサインされると、応答タスクが作成されることを示しています。

参加者にメール通知が自動的に送信されます。

シナリオ分析応答の [応答] タブには、応答タスク番号、アサインされた参加者の名前、応答タスクのステータスなどの応答タスクの詳細が表示されます。アサインされたユーザーにメール通知が送信されます。

3. [応答] タブで、フィールドに入力します。

   a. シナリオ分析応答のアサインされたユーザーとしてログインし、[影響期間] フィールドでシナリオ分析応答の影響期間を日、時間、分、秒単位で更新します。

   b. [観察事項]、[ギャップ]、および [推奨事項] フィールドにメモを追加します。

   c. シナリオ分析応答の依存関係とスコープを変更します。

   d. シナリオ分析応答を保存するには、 [保存] を選択します。

   e. シナリオ分析応答を完了としてマークするには、[完了] を選択します。
   シナリオ分析応答のステータスが [完了してクローズ] に更新されます。

   f. シナリオ分析応答レコードからログアウトします。

   シナリオ分析応答タスクフォームのフィールド値の説明については、「シナリオ分析応答タスクフォーム」を参照してください。

4. シナリオイベントの所有者としてログインします。
5. [依存関係] タブで、シナリオイベントの依存関係を追加します。
6. [スコープ] タブで、シナリオイベントのスコープを追加します。
7. [問題] タブで、イベントに関連付けられている問題を選択します。
8. オープン応答タスクが完了していることを確認します。
9. シナリオイベントの [開始見込日時] と [開始見込日時] が入力されていることを確認します。
10. シナリオイベントのステータスを [ドラフト] から [完了] に更新します。

次のタスク
問題または運用上の脆弱性をシナリオ分析に関連付けるには、「 問題と運用上の脆弱性をリンクする」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

問題と運用上の脆弱性をリンクする

新しい問題を作成するか、既存の問題を追加して、問題をシナリオ分析にリンクします。分析に運用上の脆弱性を含めて、レジリエンスのギャップを特定し、それらを軽減する計画を作成することもできます。

始める前に
必要なロール：sn_oper_res.manager

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > すべてのシナリオ分析 をクリックし、作業中のシナリオ分析を選択します。
2. シナリオ分析フォームで [問題] タブに移動します。

   既存の問題を分析に追加することも、分析に追加できる問題を作成することもできます。

   > **注:**
   > 未解決の問題をシナリオ分析に関連付けた場合でも、シナリオ分析の承認を要求できます。シナリオ分析の承認を要求するために未解決の問題をクローズする必要はありません。

3. [運用上の脆弱性] タブで、シナリオ分析に運用上の脆弱性を追加します。

   a. **[New** (新規)] を選択します。
   [新しい運用上の脆弱性を作成 (Create New Operational Vulnerability)] フォームが表示されます。

   b. フォームで、フィールドに入力します。
   フィールドの詳細については、「新しい運用上の脆弱性フォームの作成」を参照してください。

4. **[Save** (保存)] を選択します。

次のタスク
シナリオ分析承認を要求し、分析承認者としてシナリオ分析を承認します。詳細については、「シナリオ分析を送信して承認を受け取る」を参照してください。

シナリオ分析を送信して承認を受け取る

オペレーショナルレジリエンスワークスペースで承認を得るためにシナリオ分析を送信します。シナリオ分析の分析承認者は、詳細をレビューした後で承認します。シナリオ分析は、ワークフローの最後のステップです。

始める前に
必要なロール：sn_oper_res.manager

手順

1. 次のいずれかの方法で、作業中のシナリオ分析に移動します。
   - ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > すべてのシナリオ分析
   - ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > タスク > シナリオ分析承認

   [タスク] ページからシナリオ分析に移動する場合は、ステップ 2 と 3 をスキップして、ステップ 4 で説明しているようにシナリオ分析のステータスを更新できます。

2. [分析承認を要求] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> 分析結果を送信するには、少なくとも 1 つのスコープ、1 人の参加者、および 1 つのイベントを選択する必要があります。

シナリオ分析のステータスが [分析の承認待ち] に更新されます。

3. シナリオ分析に関連付けられたシナリオイベントが完了し、そのステータスが [完了] と表示されていることを確認します。

> **注:**
> シナリオイベントが完了する前に、開始見込日時と終了見込日時を空にすることはできません。

4. シナリオ分析の分析承認者として、インスタンスにログインし、シナリオ分析に移動します。
5. シナリオ分析を承認、却下、またはキャンセルするには、[承認] タブの [ステータス] 列をダブルクリックします。
6. シナリオ分析のステータスを [承認済み] に更新します。
7. **[Save** (保存)] を選択します。
   シナリオ分析が分析承認者によって承認され、シナリオ分析のステータスが [承認済み] に更新されます。このアクションにより、シナリオ分析ワークフローが完了します。

シナリオ分析をクローズ

オペレーショナルレジリエンスワークスペースのシナリオ分析を閉じます。通常、未完了またはキャンセルされたシナリオ分析は [クローズ済み] ステータスに移行します。クローズしたら、観察事項やメモをステークホルダーと共有できます。

始める前に
必要なロール：sn_oper_res.manager

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > すべてのシナリオ分析をクリックし、承認されたシナリオ分析を選択します。
2. **[Close** (閉じる)] を選択します。
   通常、未完了またはキャンセルされたシナリオ分析は [クローズ済み] ステータスに移行します。シナリオ分析のオーナーがシナリオ分析をクローズすると、そのステータスは [クローズ済み] に更新されます。

自己証明書を使用したサービスの認定

オペレーショナルレジリエンスワークスペースの自己証明書プロセスを完了することで、ビジネスサービスのオペレーショナルレジリエンスステータスを認定します。サービスに関する自己アセスメントアンケートに記入し、自己証明書レポートを生成し、PDF をアップロードして、記録用にレポートのコピーを保持します。選択したビジネスサービスとその子レコードに対して自己証明書を実行できます。

自己証明書の作成

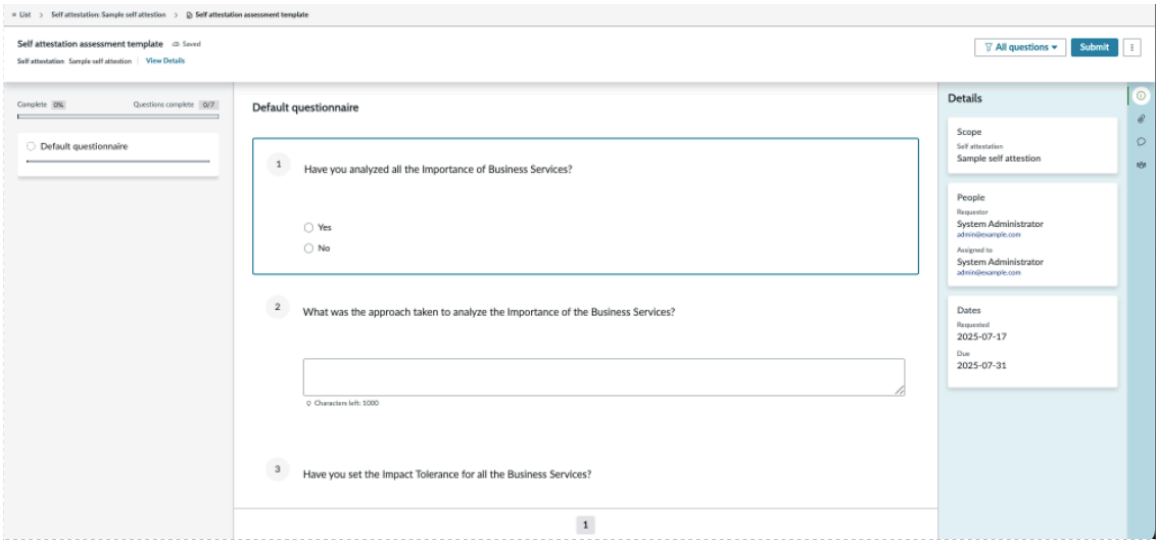
オペレーショナルレジリエンスアプリケーションで自己証明書を作成するには、次に移動します: すべて > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > すべての自己証明書 インスタンス内で

スマートアセスメントエンジンでサポートされている自己証明書テンプレートを使用して、サービスのアセスメントを送信します。次の例は、 オペレーショナルレジリエンスワークスペースの自己証明書テンプレートを示しています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

オペレーショナルレジリエンスワークスペースの自己証明書テンプレート



自己証明書タスクと各タスクに関連する状況

sn_oper_res.manager ロールを持っている場合、オペレーショナルレジリエンスワークスペースで次の自己証明書タスクを完了できます。

1. 自己証明書を開始して、1 つ以上のビジネスサービスを証明します。
2. アセスメントタイプとして スマートアセスメント を選択します。
3. 証明書テンプレートとして [Operational Resilience 証明書のテンプレート] を選択します。
4. 自己証明書フォームの自己証明書用の PDF テンプレートとして、デフォルトの自己証明書 HTML テンプレートを使用します。このテンプレートは、PDF の形式と電子署名をレポートに含めるオプションを提供します。証明書テンプレートの構成手順については、「証明書テンプレートの作成と編集」を参照してください。
5. ステータスを認定するサービスを自己証明書フォームに追加します。サービスの名前と説明、重要なサービスのシナリオ分析の詳細、シナリオ分析のアプローチなど、アセスメント内の事前定義された一連の質問に回答します。
6. アセスメントを送信し、サービスを証明します。
7. 自己証明書フォームの [アクティビティ] セクションから自己証明書の PDF をダウンロードし、記録のためにレポートのコピーを保存します。証明書 PDF テンプレートの構成手順については、「HTML および PDF ドキュメントテンプレートの作成」を参照してください。
8. 自己証明書をクローズして、自己証明書プロセスを完了します。

自己証明書プロセスで概説されている自己証明書タスクを完了すると、関連する状況が事前定義された順序で自動的に更新されます。これらのタスクの状況と対応する UI アクションについては、次の表で詳しく説明します。

自己証明書タスクに関連付けられている状況と **UI** アクション

状況	関連する **UI** アクション	説明
ドラフト	自己証明書フォームで [新規] を選択します。	[新規] を選択してサービスの自己証明書を送信すると、レコードはデフォルトで [ドラフト] ステータスで作成されます。自己証明書の情報は、自己証明書

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自己証明書タスクに関連付けられている状況と **UI** アクション (続く)

状況	関連する **UI** アクション	説明
		フォームの [詳細] タブに表示されます。
証明書待ち	自己証明書フォームで [証明] を選択します。	認定するサービスを選択するときは、証明書テンプレートを選択し、[証明] を選択して証明書の操作を続行します。アプリケーションは、自動的に [アセスメントのインスタンス] タブにアセスメントのインスタンスを作成します。 このアクションにより、自己証明書レコードのステータスが [証明書待ち] に移行します。 **注:** 証明書プロセスを続行するには、少なくとも 1 つのサービスを自己証明書に関連付ける必要があります。
キャンセル	自己証明書フォームで [キャンセル] を選択します。	自己証明書レコードが [証明書待ち] ステータスになっている場合は、自己証明書フォームで [キャンセル] を選択することで、誤った証明書または無効な証明書をキャンセルできます。これはオプションのステップです。自己証明書のステータスが [キャンセル済み] に更新されます。
証明書を受信済み	証明書テンプレートで [送信] を選択し、[保存] を選択して証明書プロセスを完了します。アンケートの回答を PDF にエクスポートするには、**[PDF** エクスポート] を選択します。	自己証明書レコードが [証明書待ち] ステータスになっている場合は、証明書テンプレートで指定されたアセスメント質問に回答できます。回答を送信するには、[送信] を選択し、[保存] を選択してアセスメントを保存します。自己証明書のステータスが自動的に [証明書を受信済み] に更新されます。 **[PDF** エクスポート] を選択してアンケートの回答を PDF にエクスポートし、自己証明書に署名して、記録のためにコ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自己証明書タスクに関連付けられている状況と **UI** アクション (続く)

状況	関連する **UI** アクション	説明
		ピーを保存します。自己証明書フォームの [アクティビティ] セクションから PDF をダウンロードできます。
クローズ済み	自己証明書フォームで [クローズ] を選択します。	証明書をクローズするには、自己証明書フォームで [クローズ] を選択します。自己証明書のステータスが [クローズ済み] に更新されます。

注:
自己証明書に無効なデータが含まれていて、自己証明書の所有者である場合は、自己証明書フォームで [削除] を選択して自己証明書を削除できます。自己証明書は、オペレーショナルレジリエンスワークスペースの自己証明書リストから削除されます。

自己証明書の **PDF** のダウンロード

自己証明書のオーナーは、自己証明書フォームの [アクティビティ] セクションから PDF をダウンロードできます。監査人、外部連絡先、またはステークホルダーとオフラインで共有することもできます。

自己証明書タスクを実行するために必要なロール

オペレーショナルレジリエンスワークスペースのユーザーは、次のロールでさまざまな自己証明タスクを実行できます。

- sn_oper_res.admin role ロールを持っている場合は、事前定義されたアセスメントアンケートテンプレートを作成および管理できます。
- sn_oper_res.manager ロールを持っている場合は、1 つ以上のサービスを選択し、自己証明書のテンプレートを選択して、事前定義された一連の回答を提供することで、サービスの運用レジリエンスプロファイルの自己証明書を完了することができます。

注:

オペレーショナルレジリエンス マネージャーまたは オペレーショナルレジリエンス アドミニストレーターロールを持つ自己証明書のオーナーである場合は、自己証明書の作成、詳細の更新、または自己証明書の削除を行うことができます。

オペレーショナルレジリエンス アドミニストレーターは、アセスメントアンケートテンプレートを作成および変更できます。オペレーショナルレジリエンス アプリケーションでアセスメントアンケートに回答するには、オペレーショナルレジリエンス マネージャーロールが必要です。

参照情報

オペレーショナルレジリエンスワークスペースでの自己証明書の送信の詳細については、「自己証明書アセスメントの実行」を参照してください。

オペレーショナルレジリエンスワークスペースの自己証明書フォームに表示されるフィールド値の説明については、「新しい自己証明書を作成 (Create New Self attestation) フォーム」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

オプションのタスクとして、sn_oper_res.admin ロールを持っている場合は、ベースシステムで提供されるデフォルトの証明書テンプレートを使用する代わりに、カスタマイズされた証明書テンプレートを作成できます。カスタマイズされた証明書テンプレートの作成については「証明書テンプレートの作成と編集」を参照してください。

自己証明書アセスメントの実行

自己証明書のアセスメントを作成し、 オペレーショナルレジリエンスワークスペース内のサービスのレジリエンスステータスを認定します。ベースシステムで提供される スマートアセスメント テンプレートを使用して自己証明書アセスメントを実行します。

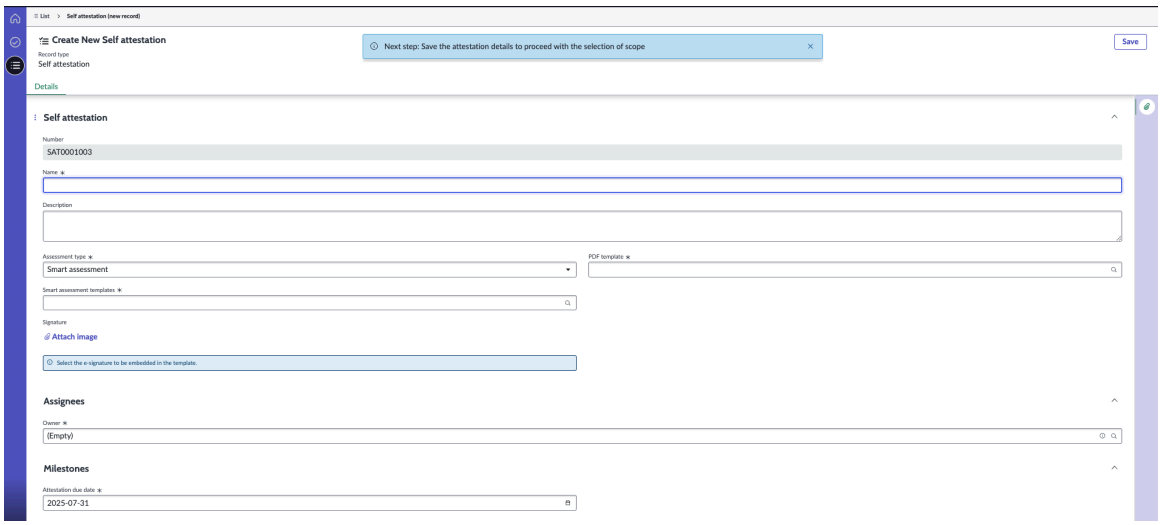
始める前に

必要なロール：sn_oper_res.manager

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース をクリックし、リストビューから [すべての自己証明書] を選択します。
2. **[New** (新規)] を選択します。
   オペレーショナルレジリエンスワークスペースで自己証明書アセスメントを作成できます。

   [新しい自己証明書を作成 (Create New Self-attestation)] フォームが表示されます。



3. [名前] フィールドと [説明] フィールドに、自己証明書の名前と説明を追加します。
4. [アセスメントタイプ] フィールドからアセスメントタイプを選択します。
   表に示すように、アセスメントのタイプを選択できます。

5. 従来のアセスメントを使用するには、[オペレーショナルレジリエンス証明書テンプレート] オプションを選択します。
   証明書テンプレートには、アセスメント用の事前定義された質問が含まれています。オペレーショナルレジリエンス アプリケーションは、ベースシステムの一部として証明書テンプレートを提供します。

   注:
   sn_oper_res.admin ロールを持っている場合は、独自のビジネスニーズに合わせてデフォルトの証明書テンプレートをカスタマイズできます。カスタマイズされた証明書テンプレートの作成については「証明書テンプレートの作成と編集」を参照してください。

6. スマートアセスメントを使用するには、[スマートアセスメントテンプレート] フィールドに入力されたデフォルトの自己証明書アセスメントテンプレートを選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

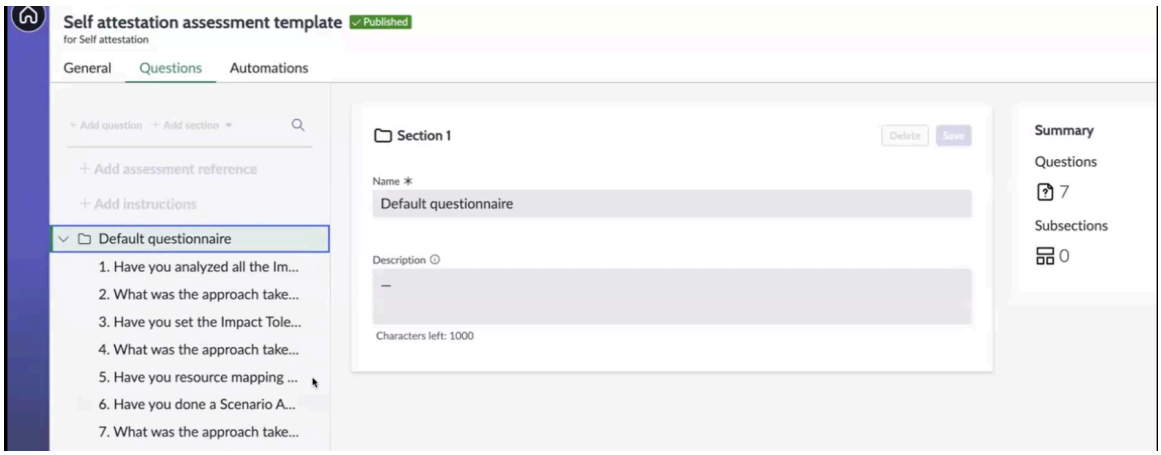
自動翻訳

ベースバージョンには、スマートアセスメントを使用したデフォルトの自己証明書アセスメントテンプレートと事前設定されたアンケートが含まれています。オペレーショナルレジリエンスアドミニストレーターは、アセスメントワークスペースで独自の証明書テンプレートを設定し、ニーズに合わせてさまざまなデータタイプから選択できます。

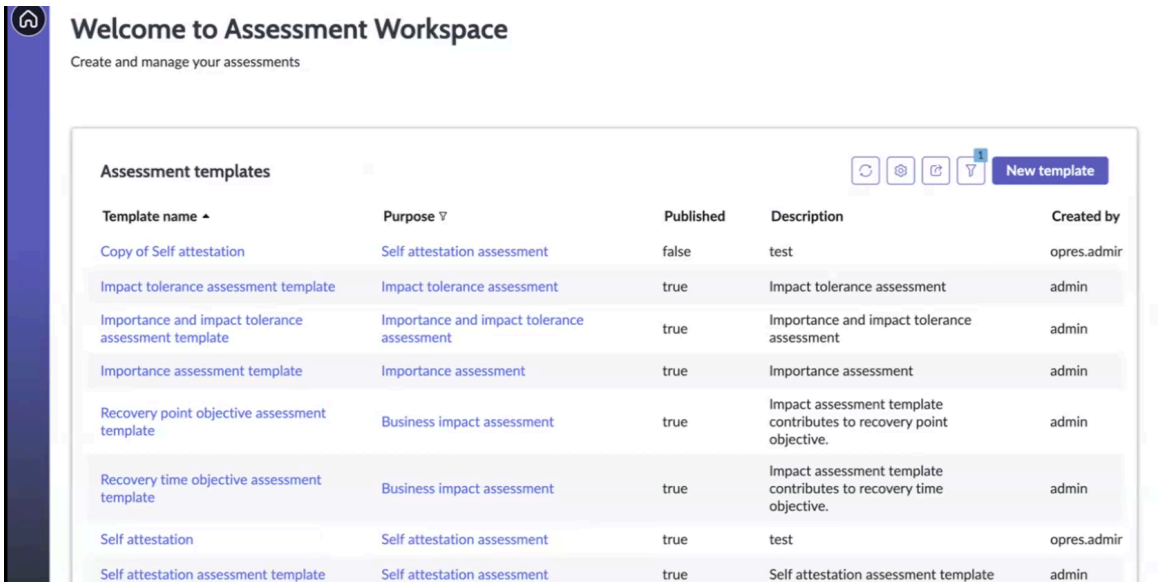
> **注:**
> 自己証明書プロセスを開始する前に、アドミニストレーターオペレーショナルレジリエンスアセスメントワークスペースで自己証明書テンプレートを設定して公開していることを確認します。自己証明書の スマートアセスメント テンプレートが設定されておらず、 アセスメントワークスペースで公開されていない場合、自己証明書フォームの [スマートアセスメントテンプレート] フィールドで選択するために表示されません。

スマートアセスメントテンプレートの設定については、「証明書テンプレートの作成と編集」を参照してください。

スマートアセスメントドキュメントの詳細については、「スマートアセスメント テンプレートの作成」および「アセスメントテンプレートを作成する」を参照してください。



テンプレートを作成するときは、例に示すように、アセスメントワークスペースの [アセスメントテンプレート] リストから目的として [自己証明書アセスメント] を選択していることを確認してください。



7. **[PDF** テンプレート] フィールドからデフォルトの自己証明書 **HTML** テンプレートを選択します。デフォルトの自己証明書 HTML テンプレートを使用して、自己証明書レポートの PDF を生成できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

> **注:**
> 自己証明書フォームの PDF テンプレートオプションにアクセスするには、 ドキュメントテンプレート アプリケーションがインスタンスにインストールされていることを確認します。PDF テンプレートオプションは、このアプリケーションが利用可能な場合にのみ表示されます。

8. [署名] フィールドで、[画像の添付] を選択して自己証明書の署名画像を添付します。
   次の情報メッセージが画面に表示されます：*`Select the e-signature to be embedded in the template.`*

   > **注:**
   > 署名画像のサポートされているファイル形式 (JPEG、PNG、BMP、GIF、ICO、SVG 形式など) を選択する必要があります。Microsoft Word 形式などのサポートされていないファイル形式を選択すると、次のエラーメッセージが画面に表示されます。*`Selected file type is invalid. Valid field types: JPEG, PNG, BMP, GIF, ICO, SVG.`*

   既存の画像を削除して新しい画像を追加する場合は、[署名] フィールドの削除アイコンを使用して、別の署名画像を追加できます。

9. [アサイニー] パネルで、[オーナー] フィールドを更新して、自己証明書のオーナーを選択します。
10. [マイルストーン] パネルで、自己証明書の期日を追加します。
    次の情報メッセージが画面に表示されます：*`Next step: Save the attestation details to proceed with the selection of services.`*
11. **[Save** (保存)] を選択します。
    自己証明書の詳細がインスタンスに保存されます。

    自己証明書は [ドラフト] ステータスで作成されます。

    [詳細] タブが自己証明書情報で更新されます。証明書の詳細が保存されます。自己証明書のスコープは [スコープ] タブで定義できます。

12. [スコープ] タブで [追加] を選択し、1 つ以上のサービスを選択して、モーダルでもう一度 [追加] を選択します。
    自己証明書レポートで認定するサービスを選択できます。

    > **注:**
    > 自己証明書を続行するには、少なくとも 1 つのサービスを追加する必要があります。

13. オーナーに証明書を送信するには、フォームで [証明] を選択します。
    自己証明書レコードが [証明書待ち] ステータスに移行し、そのアセスメントが作成されます。自己証明書レコードの所有者は、 オペレーショナルレジリエンスワークスペース内のレコードにアクセスするためのリンクを含むメール通知を受信します。

次のタスク

アセスメントに関する回答を要求し、自己証明書を認定のオーナーに送信します。詳細については、「自己証明書レポートを送信」を参照してください。

新しい自己証明書を作成 **(Create New Self attestation)** フォーム

自己証明書の所有者である場合は、オペレーショナルレジリエンスワークスペースの新しい自己証明書を作成 (Create New Self attestation) フォームを使用して、サービスの自己証明書を送信します。

新しい自己証明書を作成 **(Create New Self attestation)** フォーム

フォームのフィールド値の説明については、次の表を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

新しい自己証明書を作成 **(Create New Self attestation)** フォーム

フィールド	説明
[詳細] タブ	
番号	自己証明書レコードの番号。このフィールドは自動入力されます。
名前	自己証明書レコードの一意の名前。
説明	自己証明書レコードに関する有用な情報。
証明書テンプレート	ベースシステムで提供され、自己証明書の作成に使用されるデフォルトの証明書テンプレート。ベースバージョンには、スマートアセスメントを使用したデフォルトの自己証明書アセスメントテンプレートと事前設定されたアンケートが含まれています。
PDF テンプレート	証明書を PDF にエクスポートするためにベースシステムで提供されるデフォルトの PDF テンプレート。テンプレートの名前は *`Default Self Attestation HTML Template`* です。
署名	証明書に署名画像を添付するフィールド。テンプレートに埋め込むことができる電子署名を選択します。 **注:** 署名画像のサポートされているファイル形式 (JPEG、PNG、BMP、GIF、ICO、SVG 形式など) を選択する必要があります。
[アサイニー] パネル	
所有者	UI に表示される自己証明書レコードのラベル。このフィールドは自動入力されます。
[マイルストーン] パネル	
証明書の期日	証明書の期限日。
外部審査日	証明書が認定された日時。
[作成] パネル	
追加コメント (顧客に表示)	自己証明書の追加のコメント。このフィールドは自動入力されます。
作業メモ (プライベート)	自己証明書の追加の作業メモ。このフィールドは自動入力されます。
アクティビティ	自己証明書プロセスに関連付けられているアクティビティ。
添付ファイル	自己証明書の PDF など、自己証明書で利用可能な添付ファイル。フォームから PDF のダウンロード、名前の変更、または削除を行うことができます。
[スコープ] タブ (このタブは、証明書にサービスを追加した後に表示されます。)	
名前	ビジネスサービスの名前。
オーナー	ビジネスサービスのオーナー。
ビジネス上の重要度	サービスのビジネス上の重要度。
[アセスメント] タブ (このタブは証明書を送信した後に表示されます)	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい自己証明書を作成 **(Create New Self attestation)** フォーム (続く)

フィールド	説明
オペレーショナルレジリエンス証明書テンプレート	サービスのアセスメントアンケート **注:** 証明書の所有者である場合は、アセスメントを表示できます。質問に対する回答を入力し、自己証明書のアセスメントを送信することができます。

自己証明書レポートを送信

自己証明書レポートをその所有者に送信して認定を取得します。その後、記録用の オペレーショナルレジリエンスワークスペース で自己証明書レポートの PDF を生成できます。

始める前に
必要なロール：sn_oper_res.manager

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > リスト > 自己証明書 をクリックし、作業している自己証明書を選択します。
2. [アセスメント] タブで査定人またはオーナーとしてアセスメントの質問に回答します。
   [アセスメント] タブに、サービスのアセスメントアンケートが表示されます。査定人は、アセスメントの質問に回答できます。
3. 自己証明書を別の査定人に再アサインするには、[詳細] タブの [査定人] フィールドを更新します。
4. すべての質問に回答されていることを確認し、[送信] を選択します。
   アセスメントを送信すると、回答がアプリケーションに保存され、自己証明書のステータスが [証明書を受信済み] に更新されます。
   自己証明書が [証明書を受信済み] ステータスに更新されると、証明書が完了し、[**PDF** にエクスポート] ボタンがフォームに表示されます。
5. 自己証明書レポートを PDF 形式にエクスポートするには、[**PDF** にエクスポート] を選択します。
   ダウンロード用に生成された自己証明書 PDF は、自己証明書レコードのアクティビティセクションで利用でき、所有者、名前、説明、テンプレート名、質問への回答などの詳細が含まれています。
6. 自己証明書レコードを保存するには、[保存] を選択します。
7. 自己証明書レコードを閉じるには、[閉じる] を選択します。

最新の **CSDM** セットアップに沿ったデータの収集

リリース 20.1.x 以降、 オペレーショナルレジリエンス アプリケーションは最新の 共通サービスデータモデル (CSDM) (CSDM) をサポートしています。このセクションでは、 オペレーショナルレジリエンス でサービス、ビジネスサービス、サービスオファリング、およびビジネスプロセスを設定し、最新の CSDM セットアップに合わせてデータを収集する手順について詳しく説明します。

ビジネスサービスのデータセットアップ

オペレーショナルレジリエンス マネージャーは通常、サービスまたはビジネスサービス用にデータが設定されていることを確認し、ダッシュボードでレジリエンスメトリクスを監視します。サービス (CMDB) メインノード構成はサービス関連データをフェッチし、CSDM ヘッダーを備えた OpRes メインノード構成はビジネスサービス関連データを設定します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

ダッシュボードのビジネスサービスの概要

サービスは、メール、IT サービス、e コマース、テレフォンバンキングなどのビジネスレベルの機能を実行します。既存の顧客はサービス (CMDB) メインノード構成を使用し、新規顧客は CSDM ヘッダー付き OpRes メインノード構成を使用します。サービスフォームまたはビジネスサービスフォームには、リスク、問題、コントロールの失敗、および注意が必要なその他の領域が一覧表示されます。

注:
アドミニストレーターは、組織のニーズに基づいて、[サービスの概要] タブまたは [ビジネスサービスの概要] タブを表示または非表示にすることができます。詳細については、「ワークスペースビューにビジネスサービスの概要タブを表示する」を参照してください。

エンティティタイプとピラーのセットアップ

続行する前に、エンティティタイプとピラーが適切に構成されていることを確認してください。セットアップ手順については、 ピラー、エンティティタイプを設定し、エンティティを生成する を参照してください。

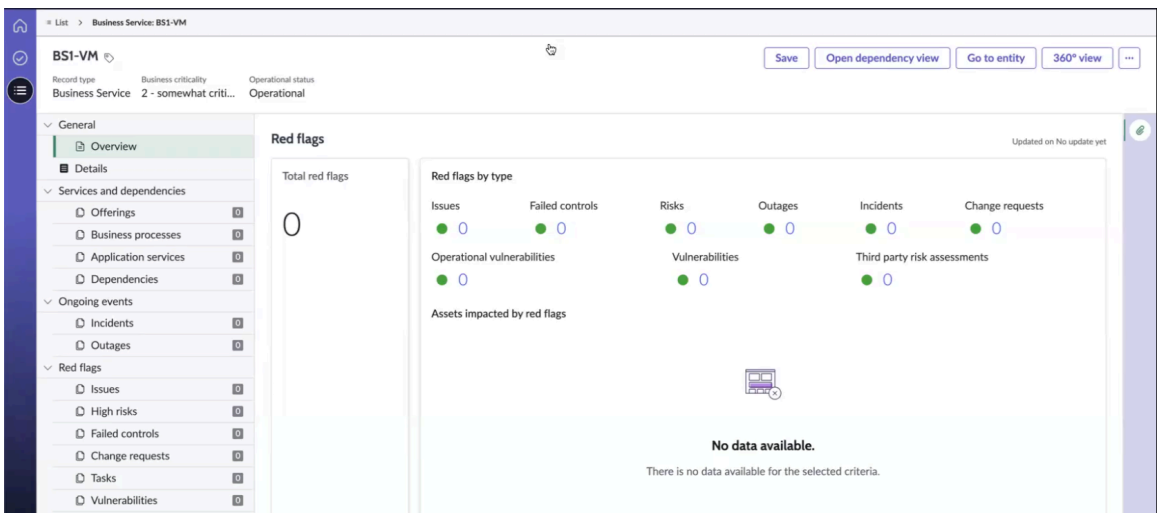
サービスレコードの垂直レイアウト

オペレーショナルレジリエンスリリース 21.0.x 以降、サービス、ビジネスサービス、オファリング、ビジネスプロセス、およびアプリケーションサービスモジュールのレコードは垂直レイアウトになっています。

オペレーショナルレジリエンスワークスペース内の垂直レイアウトでは、水平タブが不要になります。代わりに、ビジネスサービス、オファリング、ビジネスプロセス、およびアプリケーションサービスをマッピングして、より合理化された方法で関連情報を整理します。

[カードと支払] などの特定のビジネスサービスを表示するときは、この垂直メニューからすべての依存リストにアクセスできます。これには、サービスオファリング、ビジネスプロセス、アプリケーションサービス、依存関係、インシデント、および関連するメトリクスが含まれます。新しいレイアウトにより、ユーザーは関連情報に直接アクセスできるようになり、ナビゲーションが合理化され、全体的なユーザーエクスペリエンスが向上します。

このレイアウトには、サービスの依存関係、イベント、危険フラグデータ、関連する問題などの詳細情報が表示され、読みやすく、理解しやすくなっています。

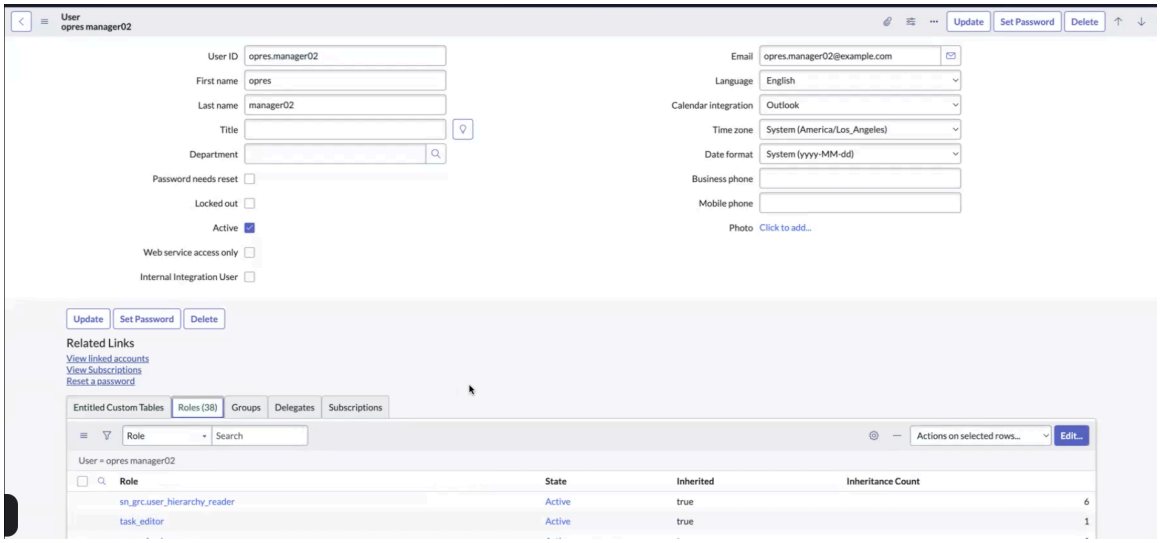


© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

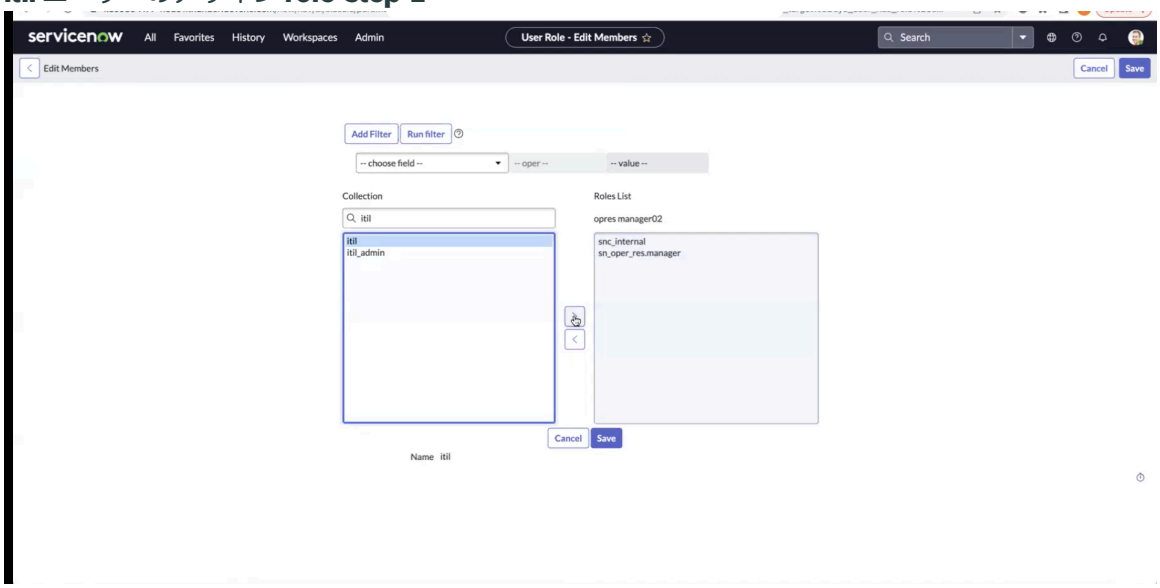
オペレーショナルレジリエンス アドミニストレーターまたはマネージャーへの itil ユーザーロールの割り当て

サービスの子サービスまたはプロセスを構成するには、次の手順で itil ユーザーロールを オペレーショナルレジリエンス アドミニストレーターまたはマネージャーに割り当てます。

itil ユーザーロールのアサイン



itil ユーザーのアサイン **role-step-2**



自動翻訳

注:

オペレーショナルレジリエンスワークスペース内のサービスとプロセスを追加または削除するには、sn_oper_res.manager ロールと itil ロール、または sn_oper_res.admin ロールと itil ロールが必要です。CMDBでは、itil ロールを付与すると、ユーザーはバックエンドに対してサービスとプロセスを追加または削除できます。ただし、 オペレーショナルレジリエンスワークスペース アプリケーションでは、sn_oper_res.user ロールを持つユーザーは オペレーショナルレジリエンスワークスペースでこれらの変更を行うことができません。

レポートへのサービスの追加

次の例に示すように、[**OpRes** レポートに追加 **(Add to OpRes reporting)**] UI アクションを選択することで、オペレーショナルレジリエンスレポートにサービスを追加できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
オペレーショナルレジリエンスレポートにサービスを直接追加する代わりに、目的のサービスのエンティティフィルターを設定します。エンティティフィルターの設定手順については、「エンティティタイプとエンティティフィルターの構成」を参照してください。

OpRes レポートにサービスを追加



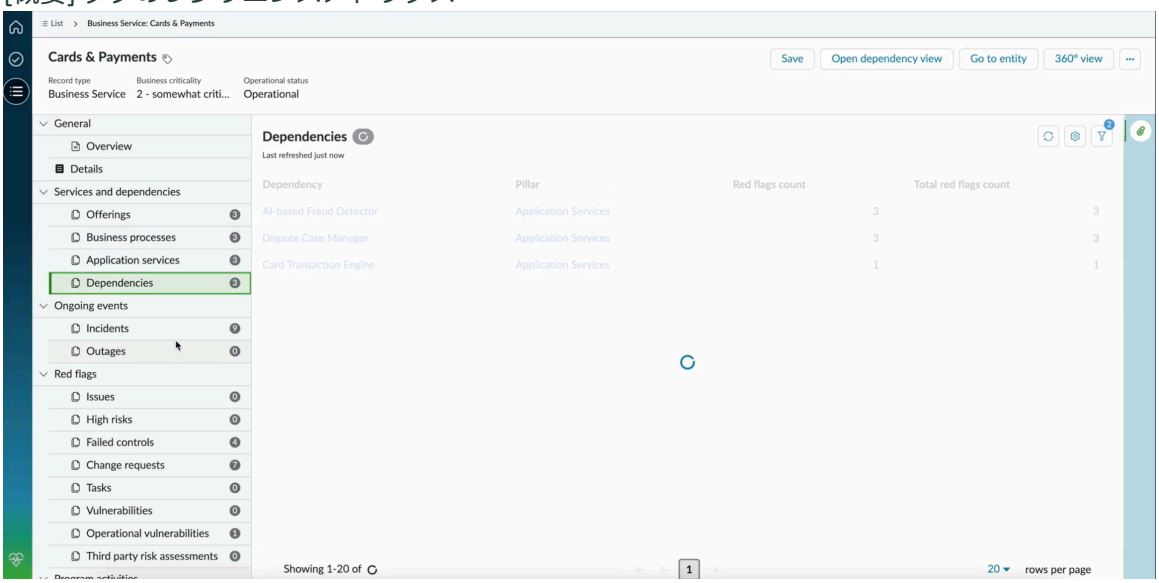
注:
オペレーショナルレジリエンスワークスペース で オペレーショナルレジリエンス レポートにサービスを追加した後、そのサービスの UI に **[OpRes** レポートに追加] オプションが表示されなくなります。

オペレーショナルレジリエンスレポートにサービスを追加した後、[サービス] フォームに [追加] または [新規] オプションを表示できます。これらのオプションを使用して、サービスとそのエンティティ間の関係を構成します。関連付けられたサービスまたはプロセスを削除するには、サービスまたはプロセスを選択し、[削除] を選択します。

サービスフォームの [概要] タブと [詳細] タブ

サービスフォームの [概要] タブでは、次の例に示すように、サービスのレジリエンスメトリクスを表示できます。

[概要] タブのレジリエンスメトリクス



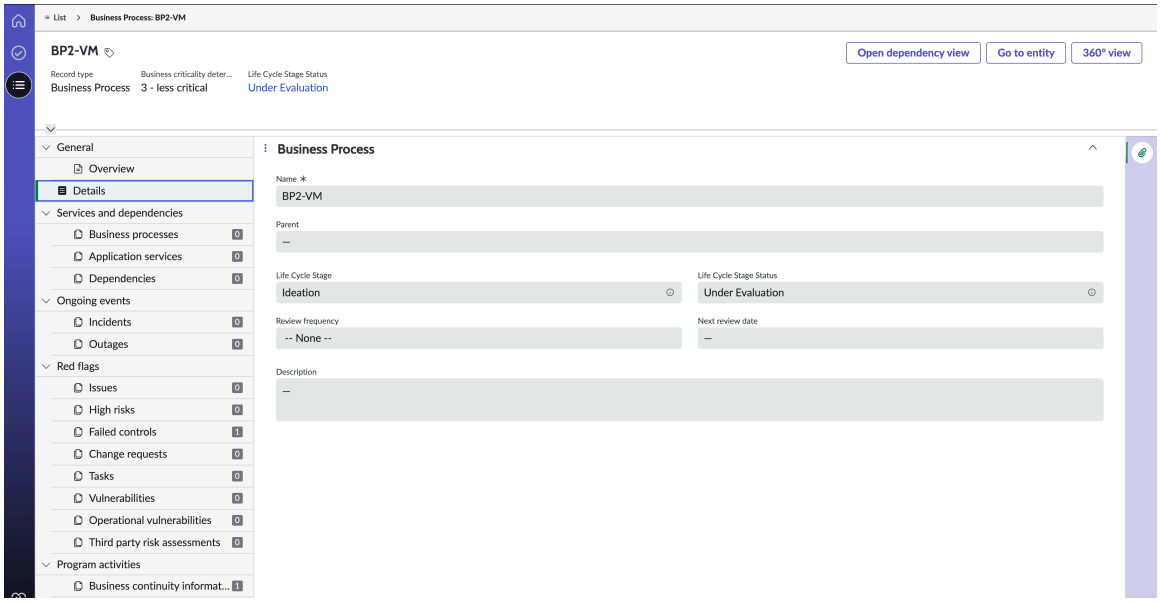
[危険フラグ] セクションには、危険フラグの合計数、タイプ別の危険フラグ、および危険フラグの影響を受ける資産の詳細が表示されます。

サービスフォームの [詳細] タブでは、次の例に示すように、サービスの主要な属性を表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

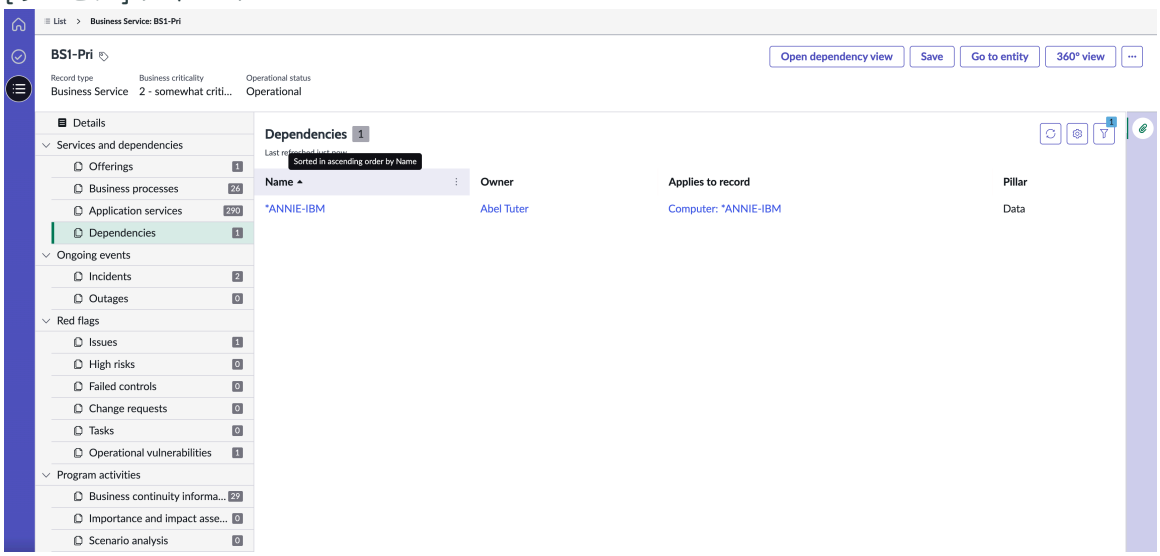
[詳細] タブ



サービスの子サービス、プロセス、および依存関係

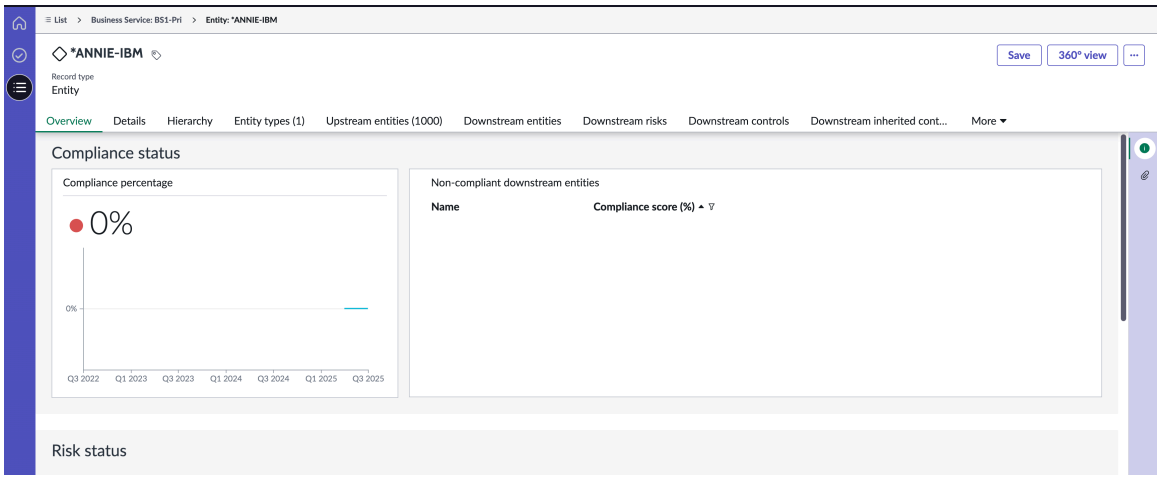
オペレーショナルレジリエンスレポートにサービスを追加すると、次の例に示すように、その子サービス、プロセス、および依存関係を表示および構成できます。

[サービス] フォーム



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



親エンティティとしてのビジネスサービスのないオブジェクトのデータのレポート

親エンティティとしてビジネスサービスまたはサービスがある場合、危険フラグまたは依存関係はそのビジネスサービスまたはサービスにロールアップされます。サービスオファリング (SO) やビジネスプロセス (BP) などのオブジェクトに親エンティティとしてのビジネスサービスまたはサービスがない場合でも、スケジュール済みジョブを実行すると、その依存関係がフェッチされ、危険フラグと統合されます。

サービスフォームのその他の関連リスト

統合とインストールされているアプリケーションに応じて、次の関連リストがサービスフォームに表示されます。

サービスフォームに表示されるその他の関連タブ

タブ	説明	新しいアクション	アクションを追加	アクションを削除
子サービス	サービスの子サービスのリスト。既存の子サービスをサービスに関連付けるには、 [追加] を選択します。ビジネスサービスの子サービスを作成するには、[新規] を選択します。	子サービスを追加できるフォーム。このフォームで、子サービスと現在のサービスの間の関係を作成できます。	複数のサービスを選択し、現在のサービスの子サービスとしてそれらを追加できるテーブルビュー。	サービスから子サービスを削除できるフォーム。
ビジネスプロセス	サービスに関連付けられているビジネスプロセスのリスト。	適用外	複数のプロセスを選択し、現在のサービスの子サービスとしてそれらを追加できるテーブルビュー。	サービスからプロセスを削除できるフォーム。
依存関係	サービスに関連付けられている依存関係のリスト。	適用外	複数の資産 (エンティティ) を選択し、現在のサービスのダウンストリームエンティティとしてそれら	サービスから資産を削除できるフォーム。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスフォームに表示されるその他の関連タブ (続く)

タブ	説明	新しいアクション	アクションを追加	アクションを削除
			を追加できるテーブルビュー。	
問題	サービスに関連付けられている問題のリスト。次の例に示すように、[追加] を選択して、既存の問題をサービスに関連付けることができます。サービスの問題を作成するには、 [新規] を選択することもできます。	サービスの問題を作成できるフォーム。	既存の問題をサービスに追加できるフォーム。	適用外
高リスク	サービスに関連付けられている高リスクアイテムまたは監視状況のリスクアセスメントのリスト。リスクは依存関係からロールアップされます。	適用外	適用外	適用外
失敗したコントロール	コントロールのステータスが非準拠であり、依存エンティティがサービスである、失敗したコントロールまたは共通コントロールのリスト。コントロールは依存関係からロールアップされます。	適用外	適用外	適用外
変更要求	サービスに関連付けられている変更要求のリスト。	変更要求フォーム変更要求フォームを送信すると、アプリケーションによって [サービス] テーブルにレコードが作成されます。	適用外	適用外
タスク	サービスに関連付けられているタスクのリスト。	作成するタスクのタイプを選択できるタスクテーブルのリスト。フォームを送信すると、アプリケーションによって [タスク	適用外	適用外

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスフォームに表示されるその他の関連タブ (続く)

タブ	説明	新しいアクション	アクションを追加	アクションを削除
		のあるサービス] テーブルにレコードが作成されます。		
インシデント	すべての依存関係とサービスに関連付けられているインシデントのリスト。	インシデントフォーム。インシデントフォームを送信すると、[サービス] テーブルにレコードが作成されます。	適用外	適用外
機能停止	すべての依存関係とサービスに関連付けられているオープン中の機能停止のリスト。	機能停止フォーム。フォームを送信すると、アプリケーションによって [サービス] テーブルにレコードが作成されます。	適用外	適用外
事業継続性計画	サービスに関連付けられている事業継続性計画のリスト。	適用外	適用外	適用外
脆弱性	サービスに関連付けられている脆弱性のリスト。	サービスの脆弱性。	適用外	適用外
重要性および影響度アセスメント	承認された重要性および影響度アセスメントのリスト	適用外	適用外	適用外
シナリオ分析	承認されたシナリオ分析のリスト。	適用外	適用外	適用外
運用上の脆弱性	サービスに関連する運用上の脆弱性。	適用外	適用外	適用外

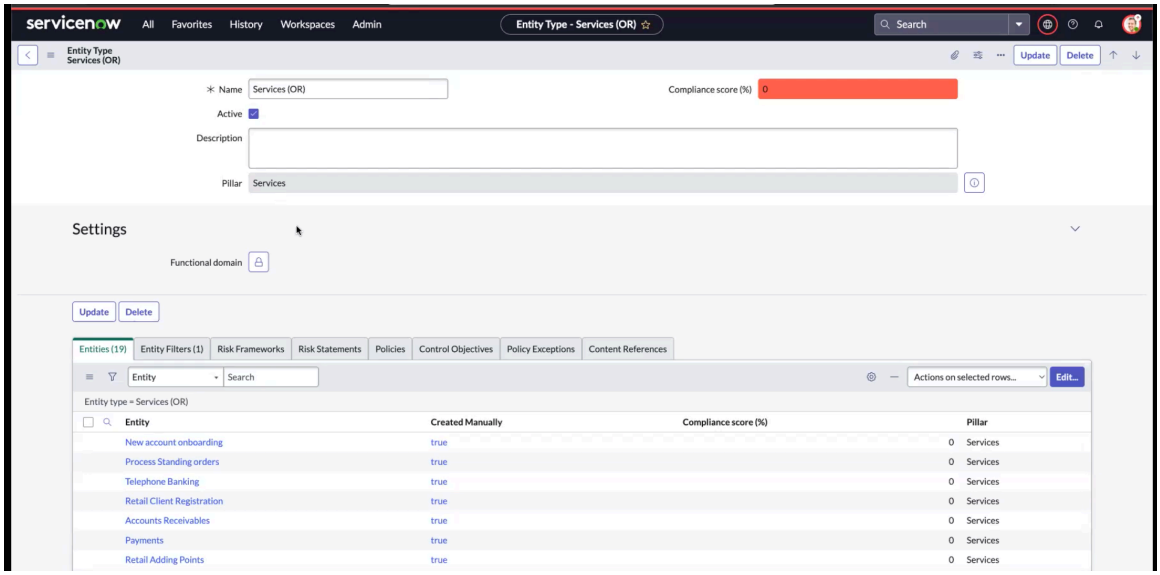
サービス **(OR)** タイプのエンティティとして追加されたサービス

オペレーショナルレジリエンスレポートにサービスを追加すると、次の例に示すように、サービスはサービス (OR) タイプのエンティティとして追加されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービス **(OR)** タイプのエンティティとして追加されたサービス

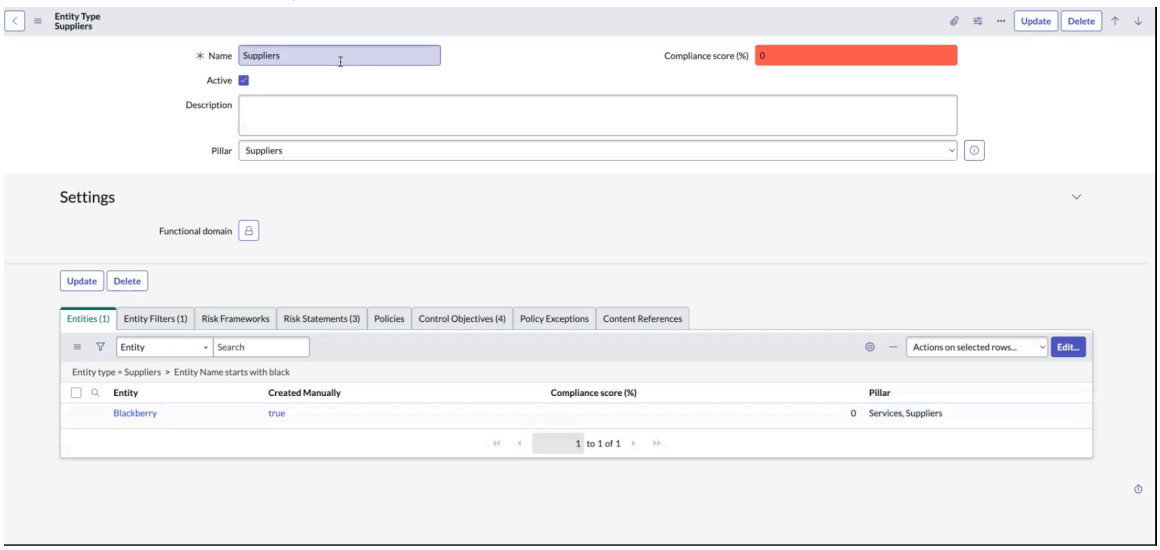


オペレーショナルレジリエンス内のすべてのサービスは、サービスのピラーに属します。例に示すように、エンティティの [ピラー (Pillar)] 列にはサービスピラーが表示されます。

注:
[cmdb_ci_service] テーブルの一部であるエンティティのみをサービス (OR) エンティティタイプに追加できます。

同様に、サービスは (エンティティとして) 複数のピラーに属することができます。次の例は、サービスとサプライヤーのピラーなど、2 つのピラーに属するサービスを示しています。

1 つのサービスに対する複数のピラー



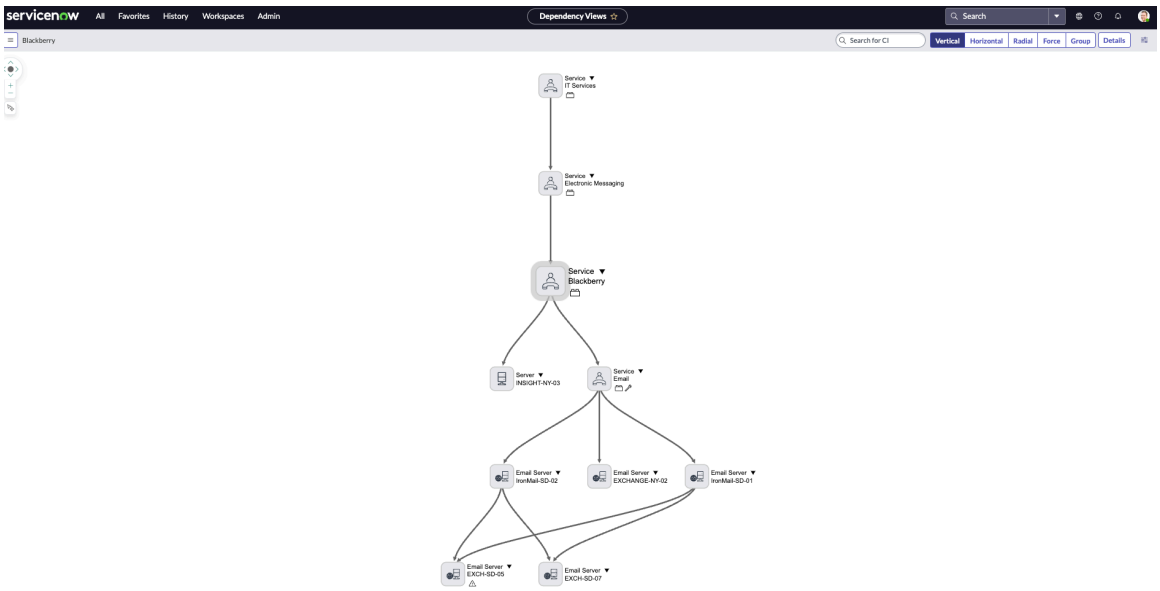
サービスの依存関係ビューと **360** 度ビューを開く

サービスフォームで、[依存関係ビューを開く] オプションを選択すると、サービスのインフラストラクチャ関係を表示できます。次の例に示すように、サービスの依存関係ビューには、親サービス、子サービス、およびプロセスとの関係が表示されます。

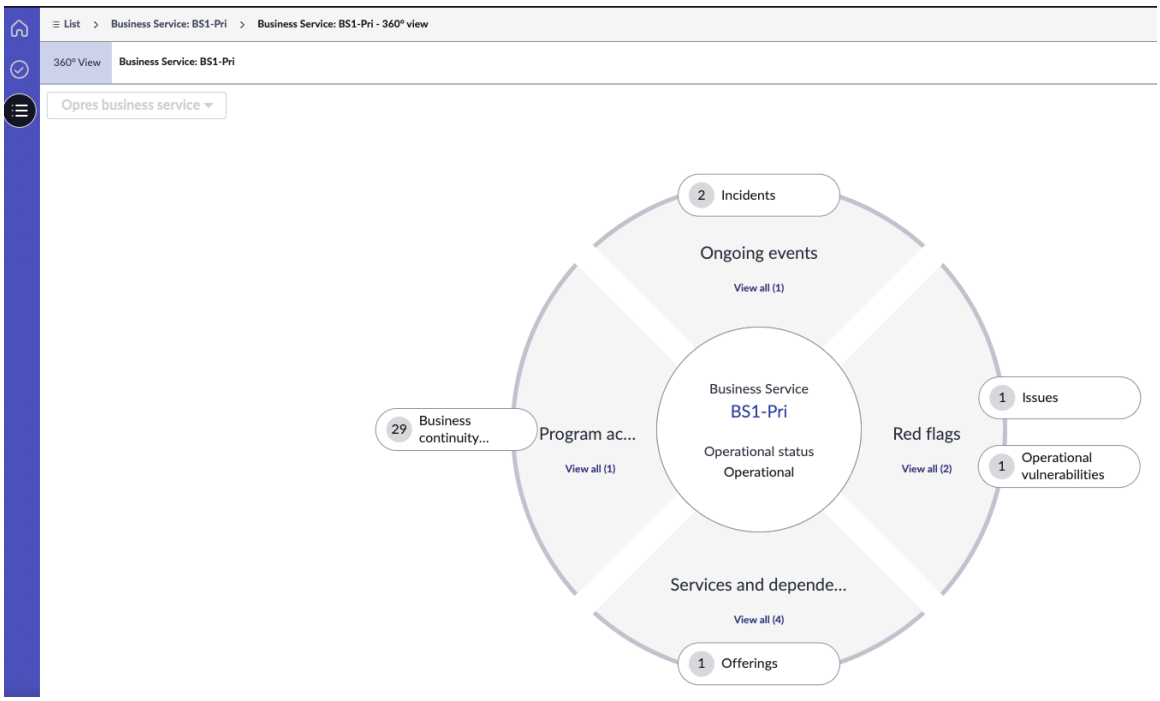
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスの依存関係ビュー



[360 度ビュー] タブでは、オペレーショナルレジリエンス マネージャーがサービスの 360 度ビューを監視し、そのパフォーマンスを測定できます。



オペレーショナルレジリエンスマネージャーロールを持っている場合は、サービスの 360 度ビューで次のエンティティを可視化できます。

- 親サービスと子サービス
- 組織内のプロセス、テクノロジー、人員、サプライヤー、施設などのピラーに関連する依存関係
- オペレーショナルレジリエンス メトリクス

柔軟なデータモデルの使用

オペレーショナルレジリエンス リリース 21.0.x 以降、柔軟なデータモデルは、データの可視化と依存サービスのフローを改善することで、運用レジリエンスメトリクスを強化します。また、危険フラグ、ビジネスサービスの重要性、および影響許容度に関するインサイトを含む複数のダッシュボードもサポートしています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

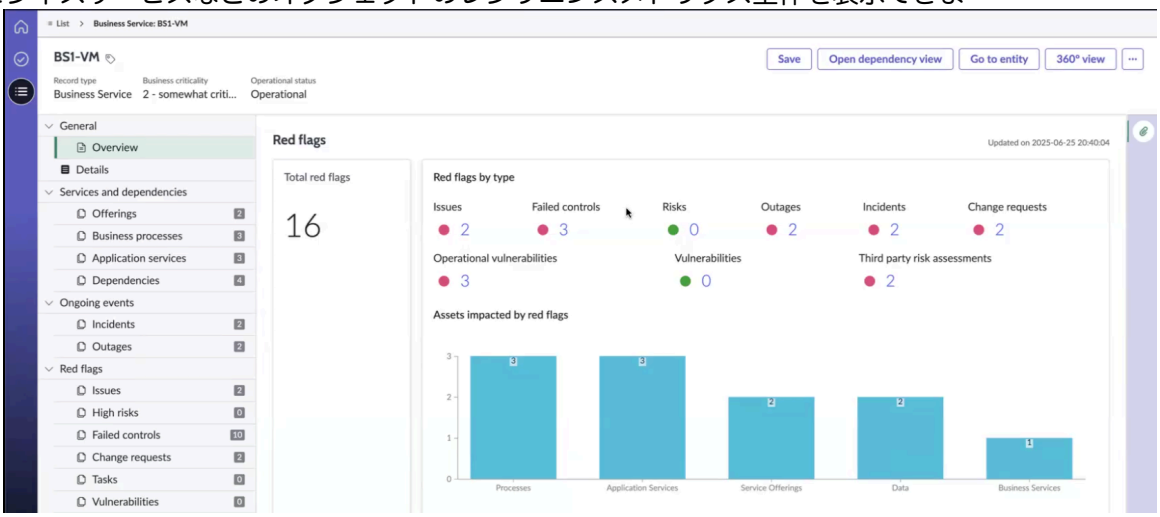
オペレーショナルレジリエンス、リリース 20.1.x 以降、データリレーションシップフレームワークでサポートされているメインノード構成が、依存関係ロールアップチェーンを定義するオペレーショナルレジリエンスとともに導入されました。ソースが OpRes CMDB のメインノード構成は、すぐに利用可能な状態で出荷されます。メインノード構成、新しいメインノード構成の作成、または既存のメインノード構成の更新については、「 メインノード構成」を参照してください。

以前のデータモデルでは、CSDM オブジェクト [sn_oper_res_profile] テーブルには、考えられるすべての組み合わせを含む依存関係チェーン全体が格納されていたため、データの取得が煩雑になり、メンテナンスが困難になっていました。このアプローチは廃止され、より効率的なモデルが採用されました。

柔軟なデータモデルの主な機能

柔軟なデータモデルには、オペレーショナルレジリエンスメトリクスを強化するいくつかの主要な機能があります。

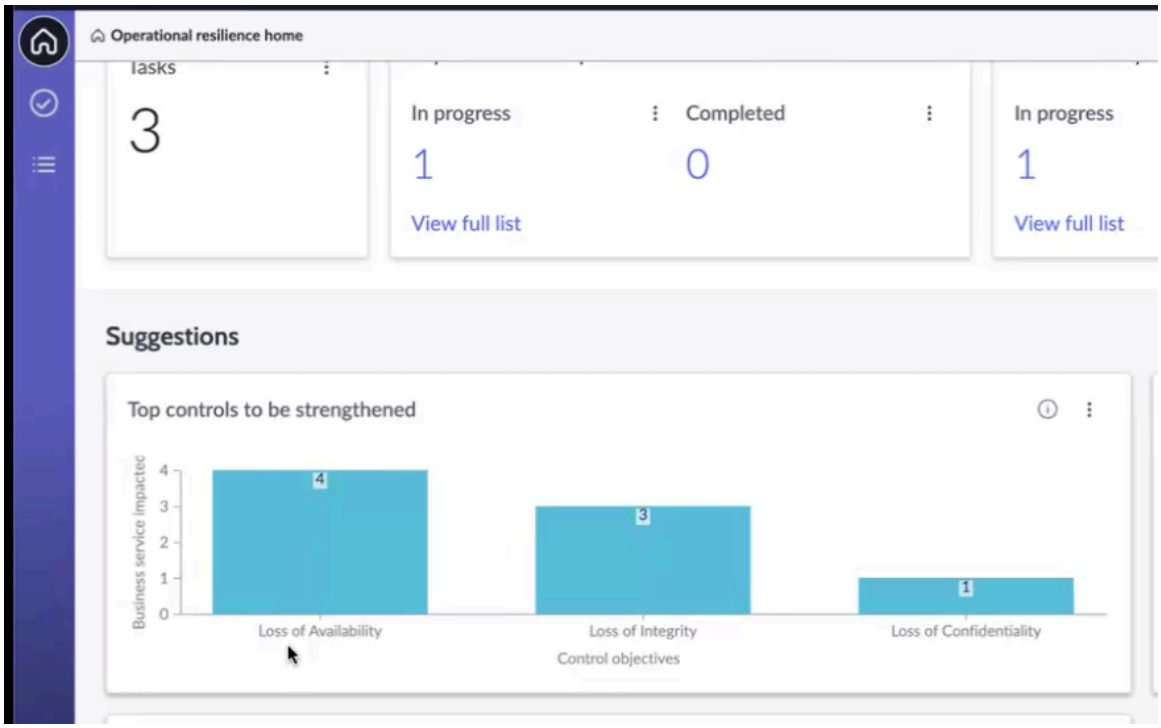
- データの可視化の強化:サービス、ビジネスサービス、オファリング、ビジネスプロセス、およびアプリケーションサービスモジュールは垂直レイアウトになり、従来の水平タブが置き換えられ、 オペレーショナルレジリエンスワークスペース内のナビゲーションが強化されました。垂直レイアウトの [概要] タブから、ビジネスプロセスやビジネスサービスなどのオブジェクトのレジリエンスメトリクス全体を表示できます。



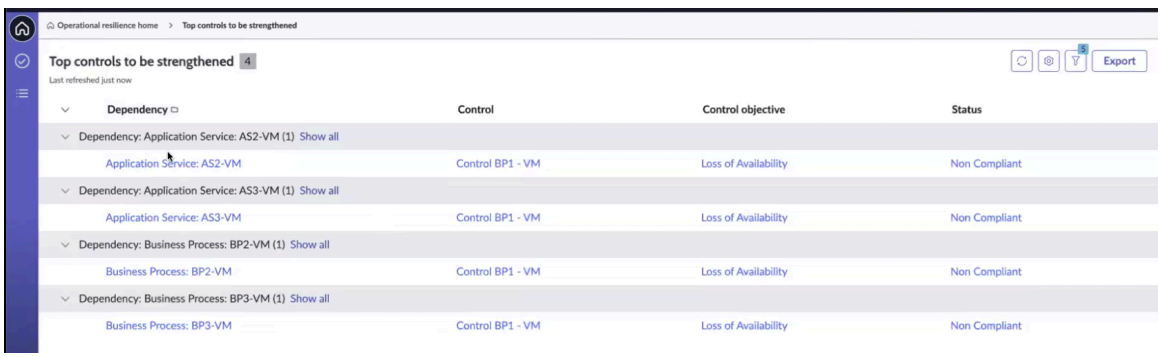
その後、選択したトップクラスに基づいて、ダウンストリームデータとさまざまなダッシュボードを表示できます。次の例は、ビジネスサービスに対して強化される上位のコントロールを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



グラフを選択すると、依存関係レコード、関連するコントロール、コントロール目標に関する詳細情報が表示されます。



- 簡素化されたナビゲーション:垂直レイアウトから、サービスオファリング、ビジネスプロセス、アプリケーションサービス、依存関係、インシデント、メトリクスなど、特定のビジネスサービスの関連リストとメトリクスに直接アクセスできます。

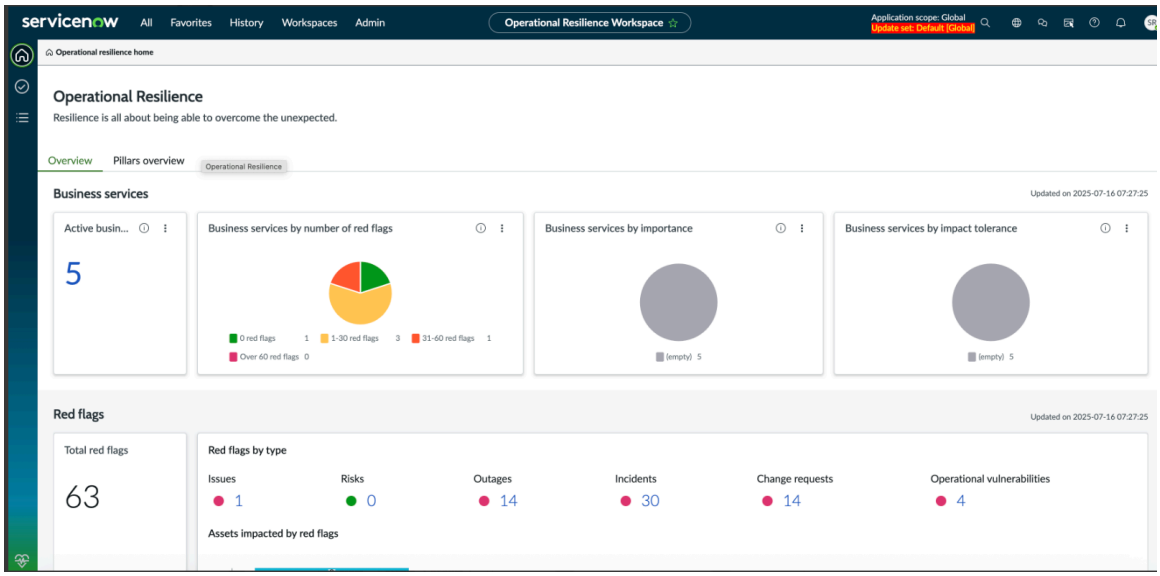
技術的な実装

オペレーショナルレジリエンス、リリース 21.0.x 以降、オペレーショナルレジリエンス構成のデータモデルが最適化されました。ビジネスサービスからプロセスへのオファリングなど、階層チェーン内の各ノードは、そのクラスノードおよび親ノードとともに [sn_oper_res_profile] CSDM オブジェクトテーブルに個別に格納されるようになりました。つまり、メインノード構成の一部である関連オブジェクト (たとえば、1,000 個のエンティティのうち 500 個) のみが格納されるため、データ管理の効率が向上します。

オペレーショナルレジリエンス リリース 21.0.x で導入された柔軟なデータモデルは、ダッシュボードの基盤を提供し、依存サービスのフローを追跡します。失敗したコントロール、インシデント、機能停止などのタイプ別の危険フラグや、フラグの数、重要度、影響許容度などのビジネスサービスメトリクスを含むデータは、柔軟なデータモデルの変更によってダッシュボードで更新されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



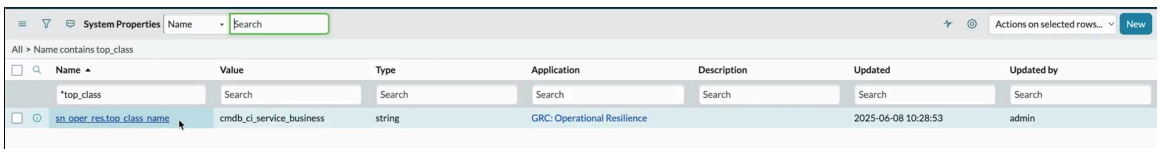
例に示されているデータは、危険フラグの数別のビジネスサービス、重要度別のビジネスサービス、影響許容度別のビジネスサービスなどのビジネスサービス用です。*sn_oper_res.top_class_name* プロパティを設定して、任意のクラスを最上位クラスとして指定できます。

sn_oper_res.top_class_name プロパティの構成

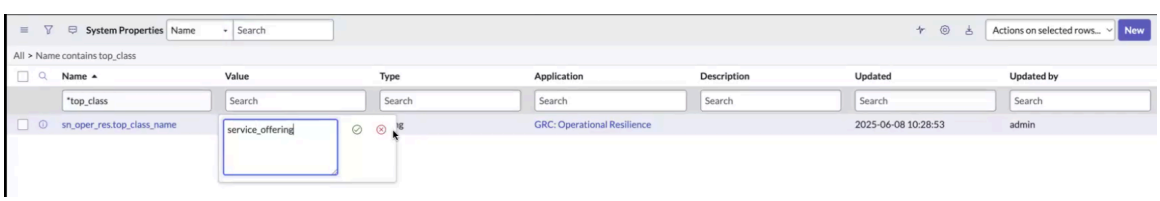
sn_oper_res.top_class_name プロパティを構成して、任意のクラスをダッシュボードビューのトップクラスとして指定し、ビジネスサービス、ビジネスプロセス、アプリケーションサービスなどの任意のノードをトップノードにすることができます。その後、ビジネスサービスの下にあるアプリケーションサービスの数など、選択したトップクラスに基づいて、ダウンストリームデータとさまざまなダッシュボードを表示できます。ダッシュボードでビジネスサービス、サービスオファリング、ビジネスプロセス、アプリケーションなどのさまざまなビューを切り替えて、関連するデータを適宜表示できます。

たとえば、ビジネスサービスのデータが表示されている場合は、 *sn_oper_res.top_class_name* プロパティを設定することで、最上位クラスをサービスオファリング、ビジネスプロセス、またはアプリケーションサービスに変更できます。その後、最上位クラスを別のオブジェクトに変更すると、その特定の最上位クラスに関するデータが表示されます。このプロパティはダッシュボードにのみ適用され、ワークスペースフォームには適用されません。プロパティの詳細については、「オペレーショナルレジリエンス プロパティの設定」を参照してください。

次の例は、最上位クラス名が *cmdb_ci_service_business* に設定されていることを示しています。

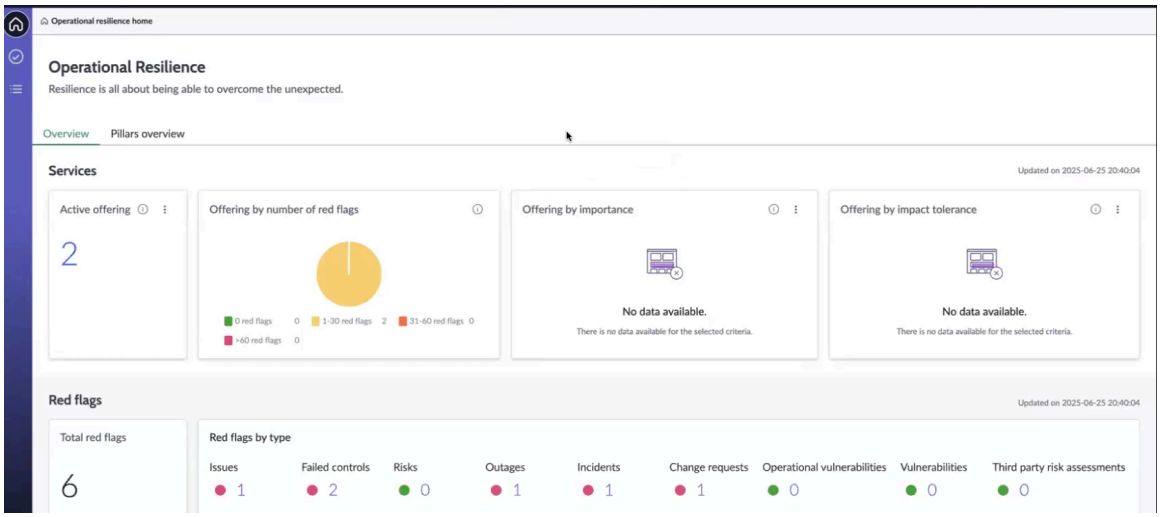


プロパティ値を変更してサービスオファリングまたはアプリケーションを表すと、対応するデータがダッシュボードに入力されます。次の例は、最上位クラス名を「サービスオファリング」に更新する方法を示しています。



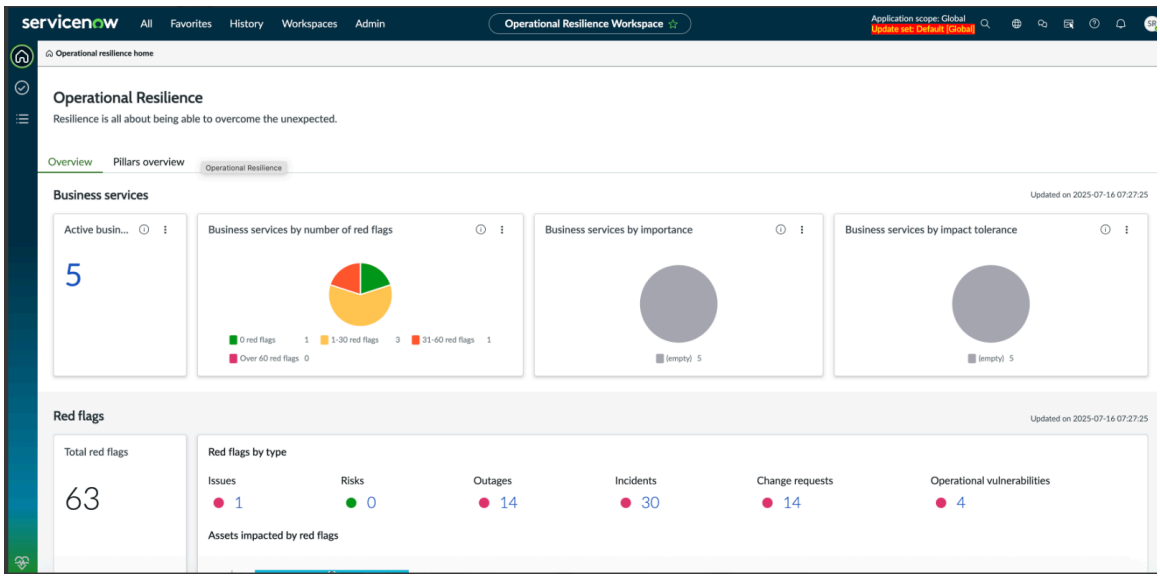
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例に示すように、更新されたプロパティ名に基づいて、サービスオファリングのデータが オペレーショナルレジリエンス ダッシュボードに表示されます。

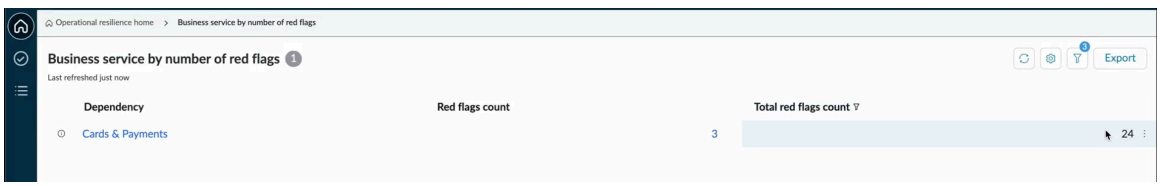


危険フラグの計算とロールアップ

*Calculate red flags for CSDM and dependencies*スケジュール済みジョブが実行されると、危険フラグデータがダッシュボードに入力されます。次の例のダッシュボードでは、[危険フラグの数別のビジネスサービス] セクションに 1 ～ 30 の範囲の危険フラグが表示されています。



カードを選択すると、ビジネスサービスの詳細なブレークダウンが表示されます。合計24件の危険信号が表示されており、そのうち3件は特に「カードと支払い」サービスに起因しています。次の図は、ロールアップ機能を示しています。これは、選択した [カードと支払 (Cards and Payments)] ビジネスサービスに関連付けられたエンティティの危険フラグを集約し、データの階層ビューを提供します。



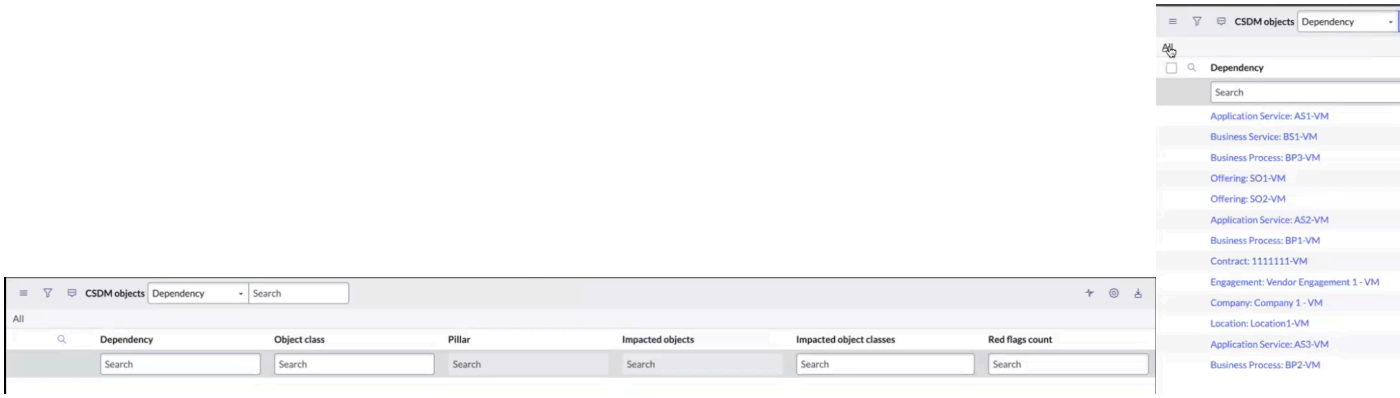
[危険フラグの総数] 列に表示される値「24」は、「カードと支払い」ビジネスサービスの下にあるすべてのエンティティの危険フラグのロールアップ値です。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CSDM オブジェクトテーブル

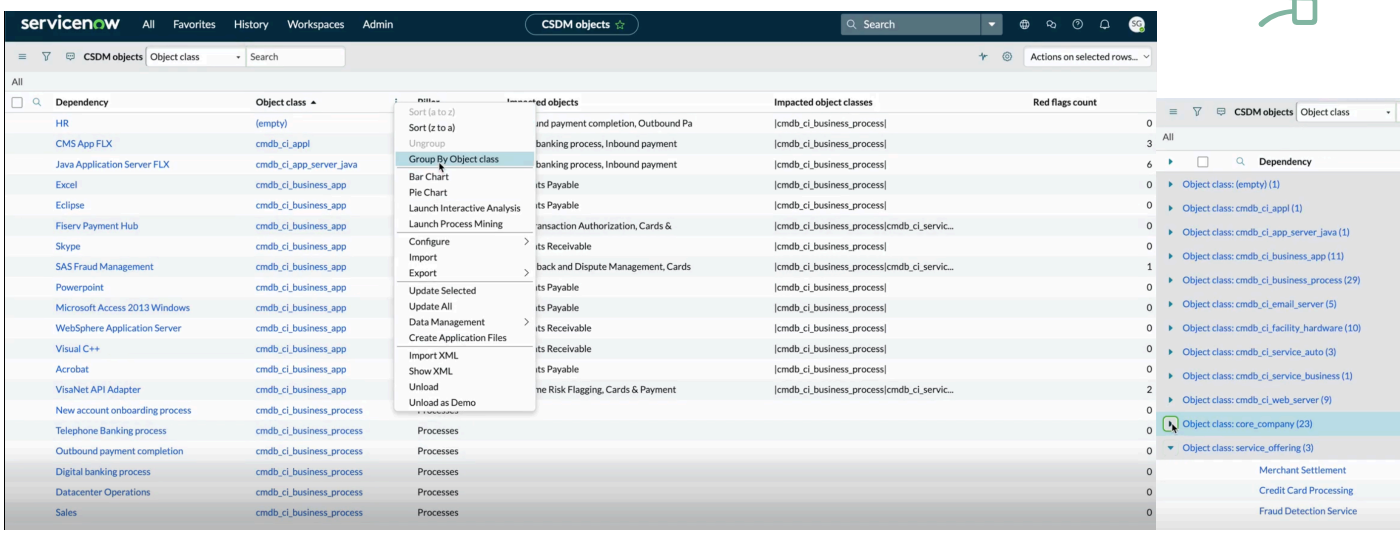
CSDM オブジェクト [sn_oper_res_profile.list] テーブルには、次の列が表示されます。

- [影響を受けるオブジェクト] 列には、親オブジェクトが表示されます。
- [影響を受けるオブジェクトクラス] 列にクラスが表示されます。
- 危険フラグの数列は、ノードに直接割り当てられている危険フラグの数を示します。
- [危険フラグの合計数] 列には、表に示すように、ノードとその子に直接割り当てられた危険フラグの合計数が表示されます。



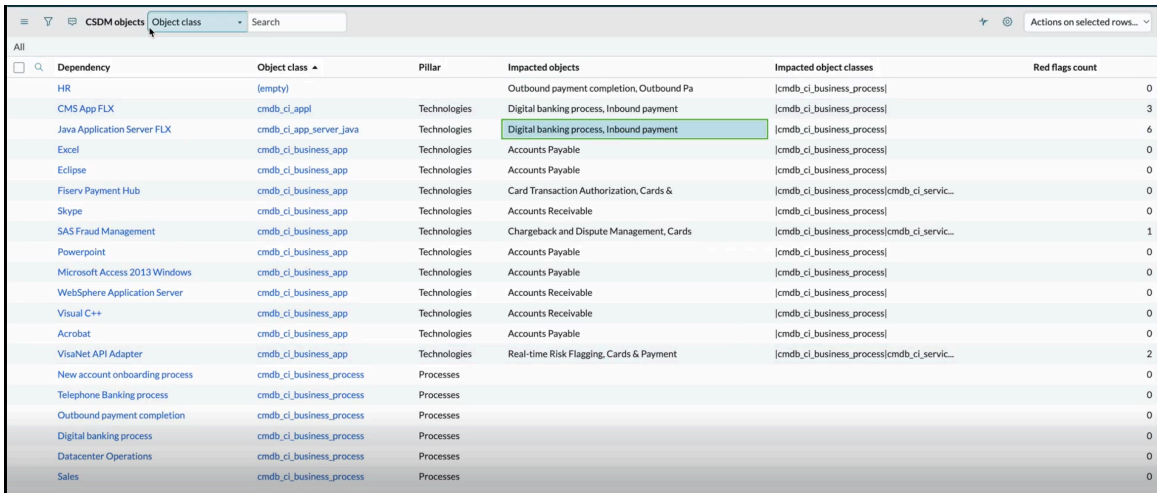
この例の [オブジェクトクラス] 列に表示されているオブジェクトクラスは、ビジネスアプリケーションやプロセスなどのさまざまなエンティティを明確に表しています。このデータは修正スクリプトを使用してシステムに入力され、情報が正確かつ最新の状態になるようにします。これらのスクリプトを使用することで、異なるオブジェクトクラス間の複雑な関係を効果的に表示および管理できます。

オブジェクトクラスに関してオブジェクトをグループ化できます。次に、サービスオファリング、コア会社、ビジネスプロセスなどのオブジェクトクラスを作成できます。



特定のオブジェクトクラスの上流の影響を受けるオブジェクトが [影響を受けるオブジェクト] 列に追加されます。たとえば、Java アプリケーションサーバー FLX には、デジタルバンキングプロセスや受信支払いなどのアップストリームの影響を受けるオブジェクトがあり、これらが追加されて [影響を受けるオブジェクト] 列に表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

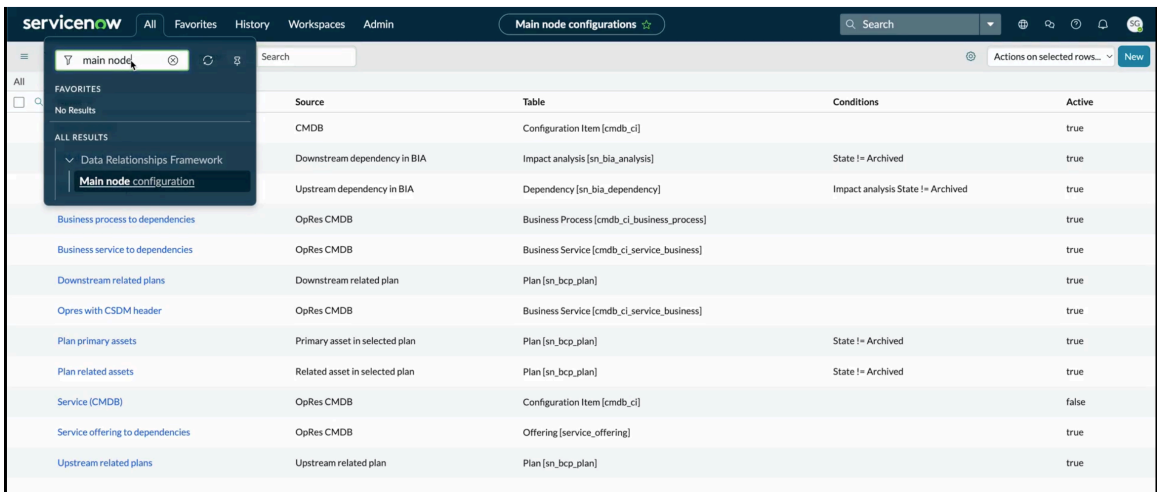


このプロセスは、最下位レベルのオブジェクトから始まり、その上のレベルを含めて、影響を受けるオブジェクトを設定します。その後、データはメインノード構成に直接統合されます。

メインノード構成

メインノード構成は、見たいもののデータフローを提供します。ソースが OpRes CMDB である次のメインノード構成は、すぐに利用可能な状態で出荷されます。

- ビジネスプロセスから依存関係
- 下流レコードへのビジネスサービス
- 依存関係に対するビジネスサービス
- CSDM ヘッダー付き OpRes
- サービス (CMDB)
- 依存関係に対するサービスオファリング



ビジネスサービスからビジネスプロセス、サービスオファリング、さらにアプリケーションへと至るフロー全体がメインノード構成で作成され、構成は影響を受けるオブジェクトにマッピングされます。

メインノード構成の設定については、「メインノード設定レコードの作成」を参照してください。

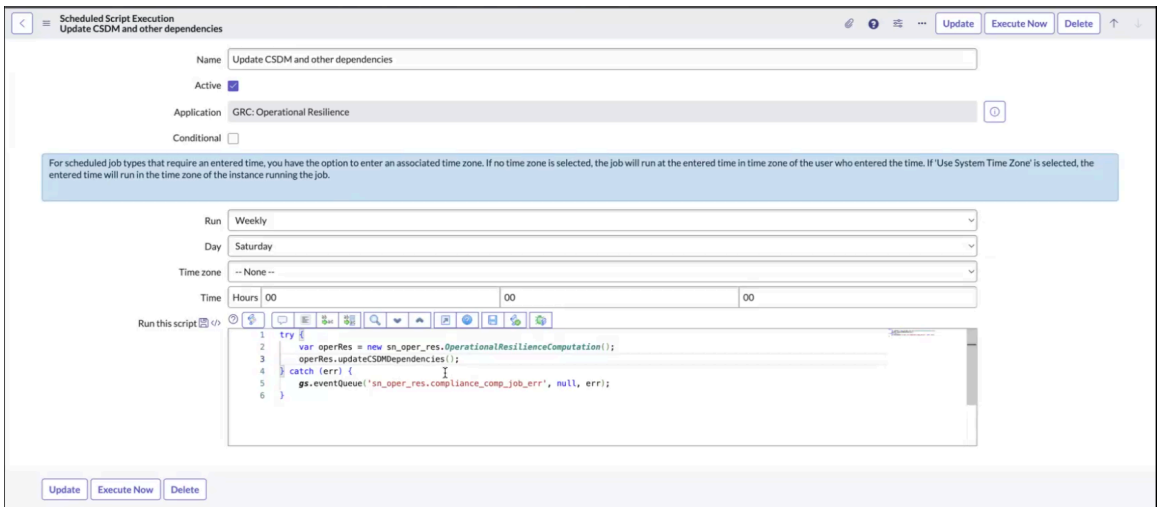
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スケジュール済みジョブの実行

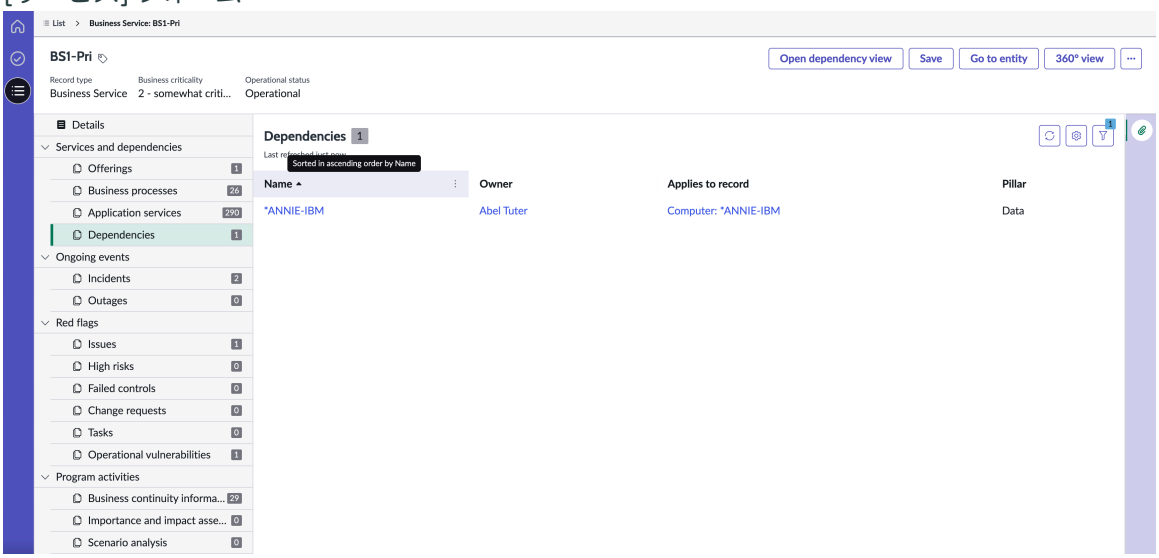
定期的に実行される 2 つのスケジュール済みジョブ (*Update CSDM and other dependencies* と *Calculate red flags for CSDM and dependencies*) により、CSDM オブジェクト [sn_oper_res_profile.list] テーブルと危険フラグにデータが入力されます。詳細については、「スケジュール済みジョブを実行」を参照してください。

すべてのメインノード構成は並行して処理されます。メインノード構成ごとに個別のイベントがトリガーされ、並列処理が可能になります。拡張された構成により、シーケンシャル処理の必要性がなくなり、効率が大幅に向上します。



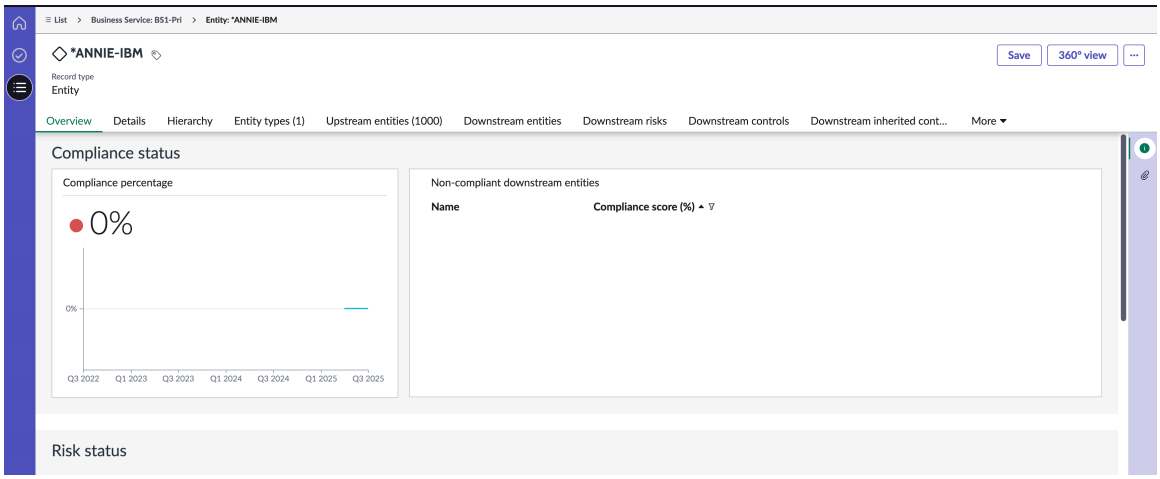
*Update CSDM and other dependencies*スケジュール済みジョブを実行した後、データは CSDM オブジェクトテーブルにフェッチされます。オブジェクトの依存関係が更新され、モジュールに表示されます。

[サービス] フォーム



自動翻訳

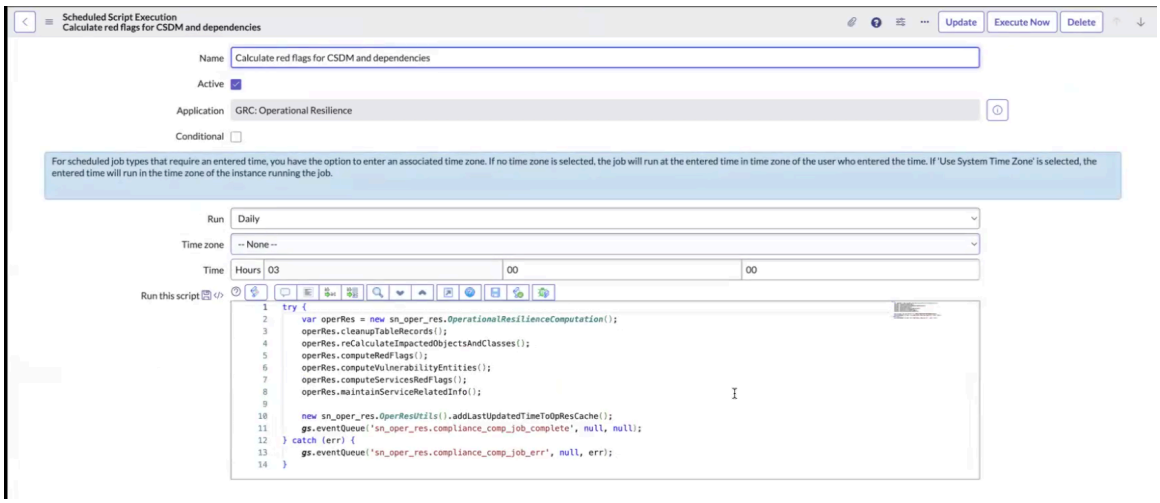
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



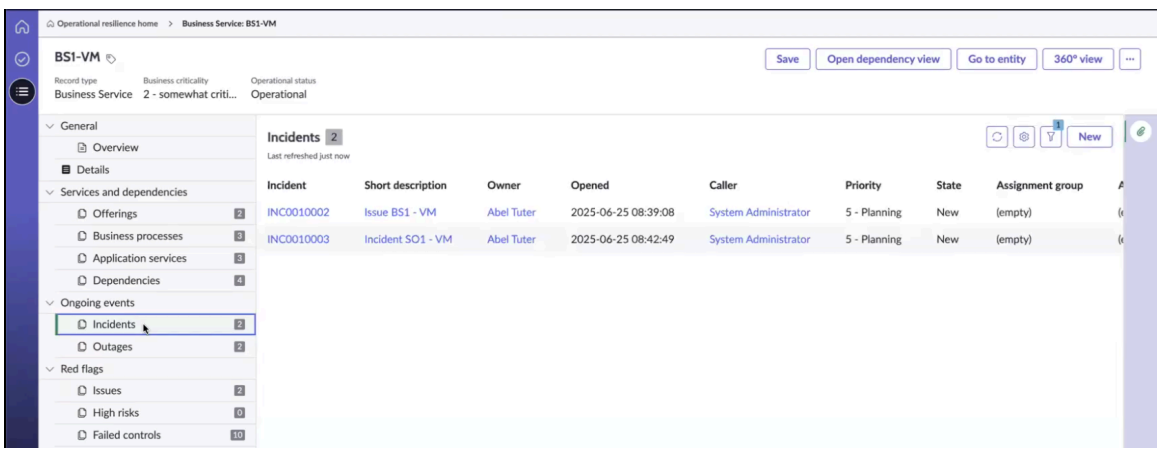
以前は、多対多のテーブルを走査して関連レコードを見つけるのに時間がかかりました。影響を受けるオブジェクトをテーブル自体に格納することで、単一の列から関連レコードを直接取得できるため、再帰的な階層を作成する必要がなくなり、効率が大幅に向上します。

依存関係は、最初にエンティティ [sn_grc_profile] (多対多) テーブルからフェッチされます。*Calculate red flags for CSDM and other dependencies*スケジュール済みジョブを実行すると、構成された設定に従って危険フラグデータがフェッチされ、ロールアップされます。

スケジュール済みジョブが完了すると、メインノード構成は不要になります。ダッシュボードは、最上位クラスプロパティを使用して危険フラグステージングテーブルを走査し、ビジネスサービスやサービスオファリングなど、指定されたレコードタイプに一致する下流の危険フラグを取得します。

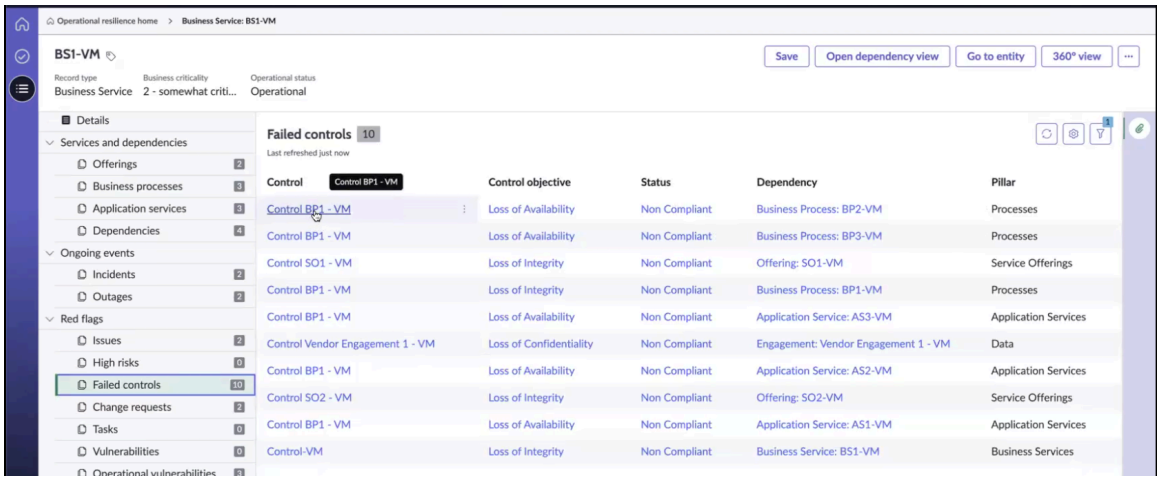


次の例は、インシデント SO1 - VM が SO1 からロールアップされることを示しています。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスプロセスとサービスオファリングからの失敗したコントロールはロールアップされ、モジュールに表示されます。



オペレーショナルレジリエンスレポートへのサービスの追加

オペレーショナルレジリエンスワークスペース内のCSDMモジュールから、サービス、ビジネスサービス、サービスオファリング、ビジネスプロセス、およびアプリケーションサービスを管理します。

始める前に

必要なロール：itil ユーザーロールを備えた sn_oper_res.manager、itil ユーザーロールを備えた sn_oper_res.admin

このタスクについて

オペレーショナルレジリエンスリリース 21.0.x 以降、サービス、ビジネスサービス、オファリング、ビジネスプロセス、およびアプリケーションサービスモジュールのレコードは垂直レイアウトになっています。

次のモジュールが オペレーショナルレジリエンスワークスペースに表示されます。

- サービス
- ビジネスサービス
- オファリング
- ビジネスプロセス
- アプリケーションサービス

注:
通常、サービスモジュールは既存の顧客によって使用され、ビジネスサービスモジュールは新規の顧客によって使用されます。

*Compute Operational Resilience Compliance*スケジュール済みジョブがバックグラウンドで毎日実行されると、オペレーショナルレジリエンスでサービスのステータスレポートを表示できます。オペレーショナルレジリエンスワークスペースのサービスモジュールは、主に既存の顧客によって使用されます。

手順

1. 移動先 オペレーショナルレジリエンスワークスペース > リスト > サービス.
   利用可能なサービスのリストがフォームに表示されます。
2. オペレーショナルレジリエンスにサービスを追加するには、[サービス] リストビューで [新規] を選択し、[新規サービスを作成] フォームでサービスの詳細を入力します。

自動翻訳

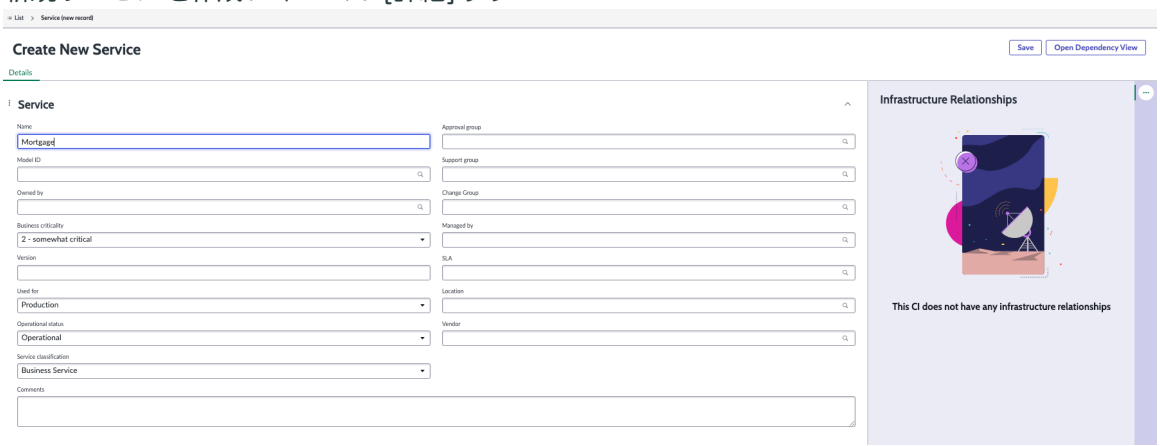
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
サービスを作成するには、itil ユーザーロールが必要です。itil ユーザーロールがない場合、サービスを作成するための [新規] ボタンは表示されません。

サービスフォームのフィールド値の説明については、「新規サービスを作成フォーム」を参照してください。
新規サービスを作成フォームが表示されます。

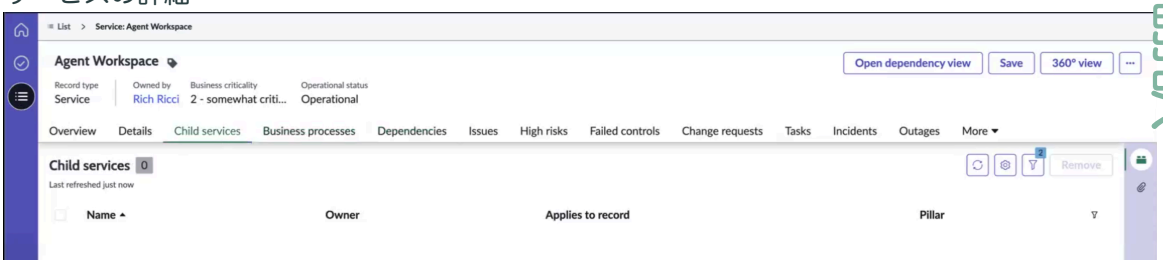
3. [詳細] タブで、フィールドに入力します。
サンプルの [詳細] タブを次の例に示します。

新規サービスを作成フォームの [詳細] タブ



4. サービスの詳細を保存するには、 [保存] を選択します。

サービスの詳細



20.x.x より前のリリースでは、親サービスから子サービスへ、子サービスからプロセスへ、プロセスから依存関係へなど、単一レベルの階層がサポートされていました。この階層は、既存の顧客のサービスでサポートされており、例に示すように [サービス] フォームに表示されます。

5. 選択したサービスを オペレーショナルレジリエンス レポートに追加するには、[**OpRes** レポートに追加] を選択します。
選択したサービスが オペレーショナルレジリエンス レポートおよびダッシュボードと同期されたことを示すメッセージが表示されます。

   a. エンティティ レコードに移動し、アップストリームおよびダウンストリームのエンティティを管理するには、 エンティティに移動 を選択します。

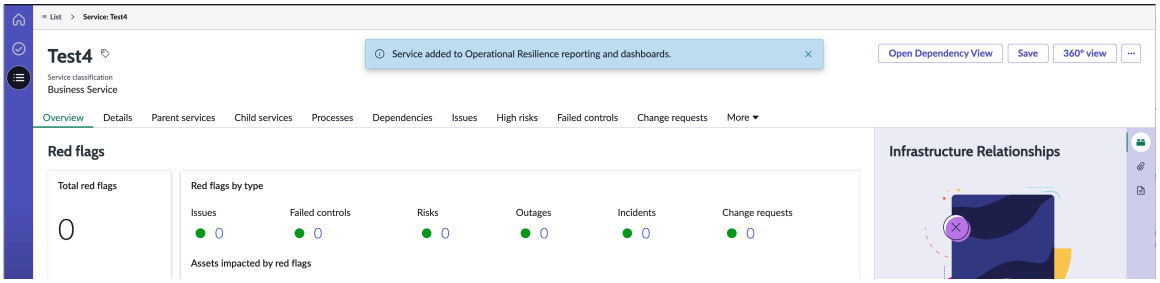
      オペレーショナルレジリエンスレポートにサービスを追加すると、そのエンティティレコードが作成され、[エンティティに移動] UI アクションがフォームに表示されます。

      次の例に示すように、サービスが オペレーショナルレジリエンス レポートに追加されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オペレーショナルレジリエンスレポートに追加されたサービス



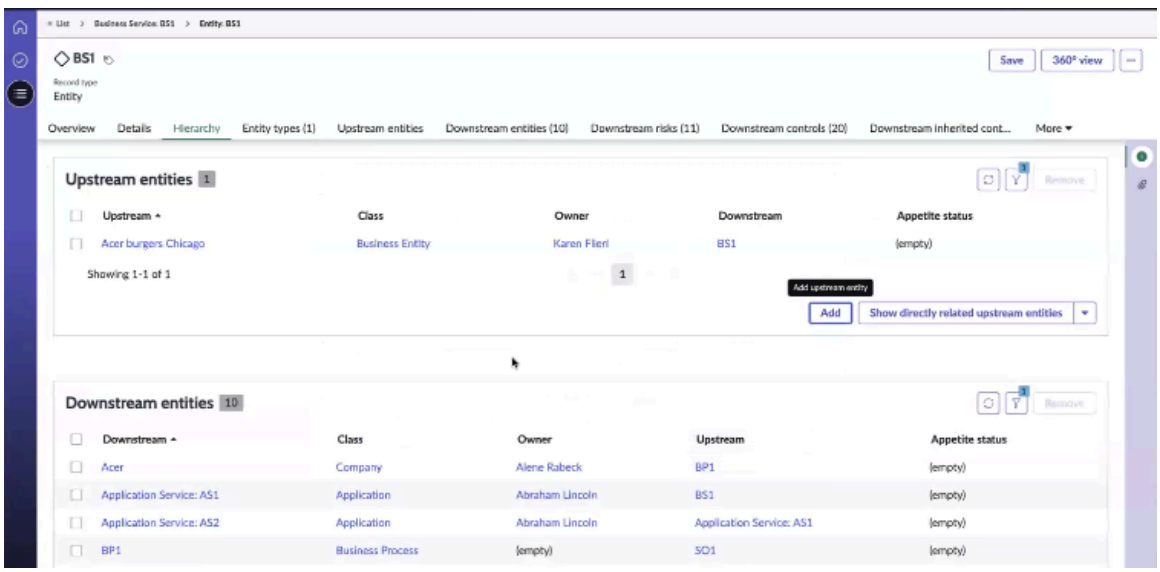
注:
オペレーショナルレジリエンスレポートにサービスを追加すると、サービスの **[OpRes** レポートに追加] オプションは [サービス] フォームに表示されなくなります。

6. 選択したレコードの上流と下流の関係を維持するには、 エンティティに移動 を選択します。
[エンティティに移動] ボタンは、レコードのエンティティが既に作成されている場合にのみ表示されます。これは、選択したレコードの上流および下流の関係を維持するために提供されます。オペレーショナルレジリエンス マネージャーは、アップストリームおよびダウンストリームの依存関係を追加できます。[エンティティに移動] を選択すると、選択したオブジェクトのエンティティレコードが表示されます。

   a. エンティティレコードの [階層] タブに移動します。

   b. 選択したレコードの上流または下流エンティティを追加します。

   例に示すように、上流または下流のエンティティをエンティティレコードに追加できます。



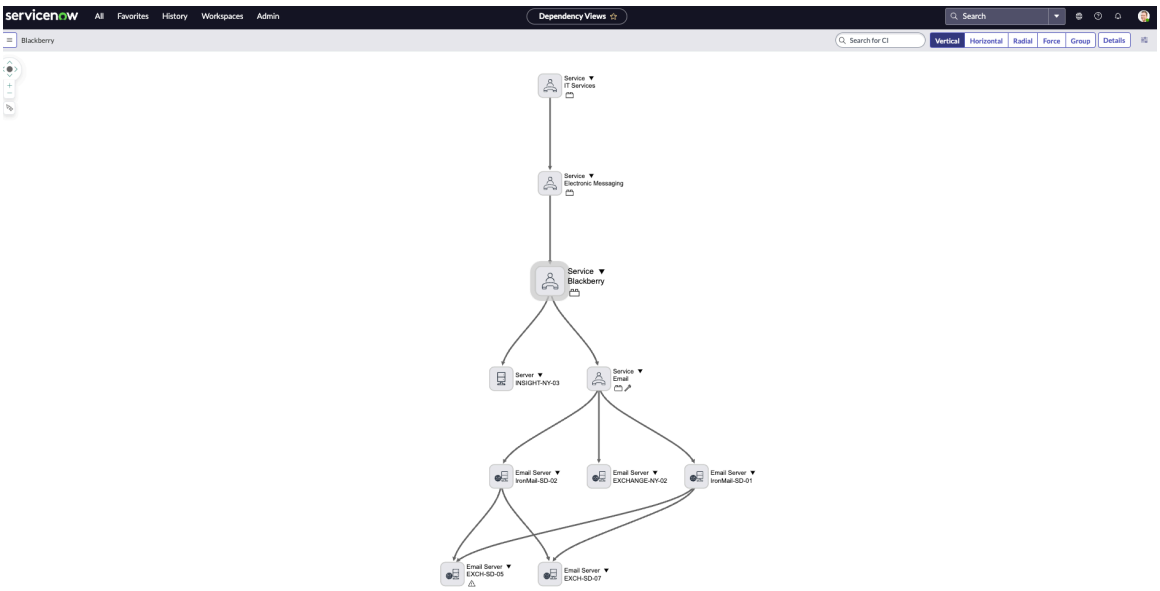
   c. 上流または下流の関係を保存するには、[保存] を選択します。

7. サービスのインフラストラクチャ関係を表示するには、[依存関係ビューを開く] を選択します。
次の例に示すように、サービスとその親サービスおよび子サービスのインフラストラクチャ関係が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

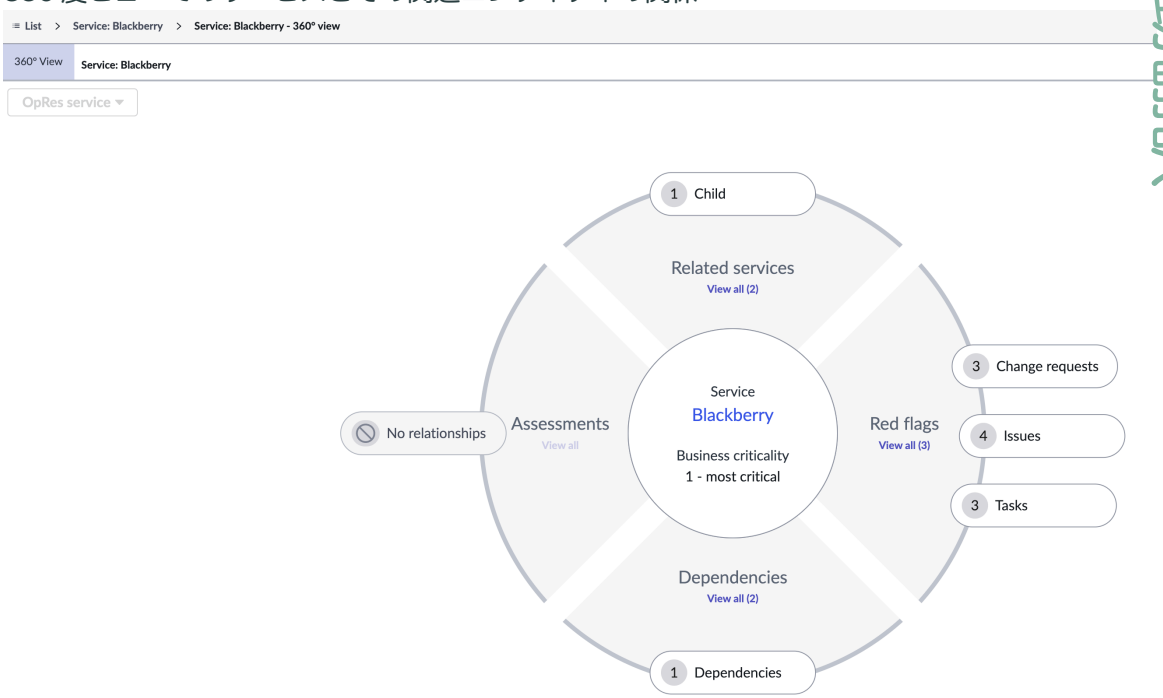
サンプルの依存関係ビュー



垂直ビュー、水平ビュー、放射状ビュー、カビュー、グループビュー、詳細ビューなど、目的のマップビューで依存関係を表示できます。

8. サービスとその関連エンティティの関係を表示するには、**[360 度ビュー]** を選択します。
360 度ビューのサービスとその関連エンティティ (依存関係、危険フラグなどの) との関係は、次の例に示すように表示されます。

360 度ビューでのサービスとその関連エンティティの関係

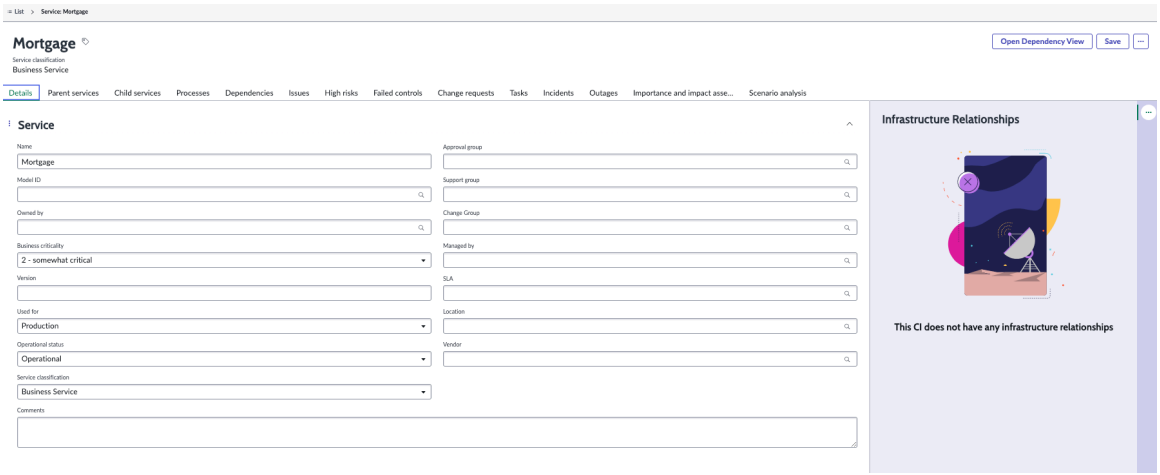


9. フォームの詳細を保存するには、[保存] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次の例に示すように サービスフォームが表示されます。

関連するタブを含む サービスフォーム



新規サービスを作成フォーム

オペレーショナルレジリエンスワークスペース の 新規サービスを作成フォームを使用して、ビジネスサービスを設定し、その関連リストを構成します。

新規サービスを作成フォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

新規サービスを作成フォーム

フィールド	説明
[詳細] タブ	
名前	サービスの名前。
承認グループ	サービスの承認を担当する承認グループ。例：アプリケーション開発グループまたはアプリケーションセキュリティグループ。
モデル ID	サービスのモデル ID。
サポートグループ	サービスのサポートグループ。
所有者	サービスの所有者。このフィールドは自動入力されます。
変更グループ	サービスの更新を担当する変更グループ。
事業上の重要度	サービスの重要度。利用可能なオプションは次のとおりです。 • 1 — 最重要 • 2 — ある程度重要 • 3 — やや重要 • 4 — 重要ではない
管理担当者	サービスを管理するユーザー。
バージョン	サービスのバージョン。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規サービスを作成フォーム (続く)

フィールド	説明
SLA	サービスのサービスレベルアグリーメント (SLA)。
使用環境	サービスが使用される使用カテゴリ。例：ステージング。利用可能なオプションは次のとおりです。 • 本番 • ステージング • QA • テスト • 開発 • デモンストレーション • トレーニング • 災害復旧
場所	サービスの物理的な場所。
運用ステータス	サービスの運用ステータス。利用可能なオプションは次のとおりです。 • オペレーショナル • 非稼働 • 修理中 • DR スタンバイ • 準備完了 • 廃止 • パイプライン • カタログ
ベンダー	サービスの運用を担当するベンダー。
サービスの分類	サービスの分類。利用可能なオプションは次のとおりです。 • ビジネスサービス • テクニカルサービス • アプリケーションサービス
コメント	サービスのコメントセクション。通常は、 オペレーショナルレジリエンス アドミニストレーターがサービスに関するコメントを追加します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連タブ

新規サービスを作成フォームで、ビジネスサービスの親サービス、子サービス、およびプロセスを追加できます。サービスの変更要求、インシデント、タスクなどの関連タブを構成することもできます。その後、ダッシュボードでサービス属性とレジリエンスメトリクスを表示できます。次の表では、サービスに関連付けられている関連タブについて説明します。

サービスに関連付けられている関連タブ

[関連レコード] タブ	説明
全般	
[概要] タブ	次の危険フラグデータを表示します。 **1.** 危険フラグの合計 **2.** タイプ別の危険フラグ ○ 問題 ○ 失敗したコントロール ○ リスク ○ 機能停止 ○ インシデント ○ 変更要求 ○ 運用上の脆弱性 ○ 脆弱性 ○ サードパーティのリスクアセスメント **3.** 危険フラグの影響を受ける資産
[詳細] タブ	選択したサービスレコードの詳細。フィールドとその説明の詳細については、このページの「新規サービスの作成フォーム」の表を参照してください。
サービスと依存関係	
子サービス	サービスに関連付けられている子サービス。 このタブには、子サービスに関する次のサンプル情報が表示されます。 • 依存関係 • ピラー • 影響を受けるオブジェクト • 危険フラグの数
ビジネスプロセス	サービスに関連付けられているプロセス。 このタブには、ビジネスプロセスに関する次のサンプル情報が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスに関連付けられている関連タブ (続く)

[関連レコード] タブ	説明
	• 依存関係 • ピラー • 影響を受けるオブジェクト • 危険フラグの数
依存関係	サービスに関連付けられている依存関係。 このタブには、依存関係に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 依存関係 • ピラー • 影響を受けるオブジェクト • 危険フラグの数
進行中のイベント	
インシデント	サービスに関連付けられているインシデント。 このタブには、インシデントに関する次のサンプル情報が表示されます。 • インシデント • 簡単な説明 • 所有者 • オープン • 問い合わせユーザー • 優先度 • 状況 • カテゴリ • アサイン先グループ • アサイン先 • 更新日時 • 更新者 • 依存関係 • ピラー
機能停止	現在のサービスに関連付けられている機能停止。サービスの機能停止を作成できます。 このタブには、機能停止に関する次のサンプル情報が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスに関連付けられている関連タブ (続く)

[関連レコード] タブ	説明
	• 番号 • 機能停止 • タイプ • 開始 • 終了 • 依存関係 • ピラー
危険フラグ	
問題	サービスに関連付けられている問題。 このタブには、問題に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 問題 • 優先度 • ステータス • 終了予定日 • 依存関係 • ピラー
高リスク	サービスに関連付けられている高リスク。 このタブには、高リスクに関する次のサンプル情報が表示されます。 • リスク • リスクアセスメント • リスクステートメント • リスク対応 • 固有の評価 • 計算済み固有評価 • 残存評価 • 計算済み残存評価 • 依存関係 • ピラー
失敗したコントロール	サービスに関連付けられている失敗したコントロール。 このタブには、失敗したコントロールに関する次のサンプル情報が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスに関連付けられている関連タブ (続く)

[関連レコード] タブ	説明
	• コントロール • コントロール目標 • ステータス • 依存関係 • ピラー
変更要求	サービスに関連付けられている変更要求。 このタブには、変更要求に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 変更要求 • 簡単な説明 • タイプ • 状況 • 開始予定日 • 終了予定日 • アサイン先 • 依存関係 • ピラー
タスク	サービスに関連付けられているタスク。 このタブには、タスクに関する次のサンプル情報が表示されます。 • タスク • 簡単な説明 • 状況 • タスクタイプ • 優先度 • アサイン先 • 依存関係 • ピラー
脆弱性	サービスに関連する脆弱性。 このタブには、脆弱性に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 脆弱性 • 依存関係 • ピラー

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスに関連付けられている関連タブ (続く)

[関連レコード] タブ	説明
運用上の脆弱性	サービスに関連する運用上の脆弱性。 このタブには、運用上の脆弱性に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 番号 • ケース • 関連領域 • 関連領域テーブル • タイトル • 関連領域タイプ • ドメイン
サードパーティのリスクアセスメント	サービスに関連付けられたサードパーティのリスクアセスメント。 このタブには、サードパーティリスクアセスメントに関する次のサンプル情報が表示されます。 • サードパーティのリスクアセスメント • 依存関係 • ピラー
プログラムアクティビティ	
事業継続性計画	サービスに関連付けられている事業継続性計画のリスト。 このタブには、計画に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 計画 • 資産の計画 • アクティブ化された計画 • イベント • イベント資産 • 依存関係 • ピラー • ステータス • RTO • RPO • BIA 日付 • RTO ギャップ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスに関連付けられている関連タブ (続く)

[関連レコード] タブ	説明
重要性および影響度アセスメント	サービスに関して実施される重要性および影響度アセスメント。 このタブには、アセスメントに関する次のサンプル情報が表示されます。 • 影響許容度 (期間) • 影響許容度アセスメント • 影響許容度 (期間) を上書きする理由 • 影響許容度を上書きする理由 (顧客への影響度) • 影響許容度を上書きする理由 (財務の影響) • 影響許容度 (トランザクション量) を上書きする理由 • 上書きされた重要性 • 影響許容度 (顧客への影響) • 影響許容度 (財務の影響) • 影響許容度 (トランザクション量) • 重要性
シナリオ分析	サービスに関連付けられているシナリオ分析。 このタブには、シナリオ分析に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 侵害ステータス • 中断期間 • 影響許容度 • 逸脱 (%) • 重要性 • シナリオ分析 • サービス • 作成者 • 作成日時 • ドメイン

オペレーショナルレジリエンスワークスペースで関連リストと危険フラグデータを表示するには、適切なユーザーロールが必要です。詳細については、「高揚したリストと危険フラグデータを表示するロール」テーブルを参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連リストと危険フラグデータを表示するロール

関連リストと危険フラグデータ	必要なロール	メモ
事業継続性情報関連リスト	BCM マネージャーロール	
失敗したコントロールの危険フラグ	BCM マネージャーロール	
リスクとサードパーティのリスクアセスメントの危険フラグ	IRM マネージャーロール	TPRM がインストールされていません TPRMがインストールされていない場合、オペレーショナルレジリエンスユーザーはIRMロールなしではリスクに関する危険フラグにアクセスできません。 TPRM がインストール済みです ただし、TPRMがインストールされている場合、オペレーショナルレジリエンスユーザーはTPRMビューアーロールを割り当てられているため、危険フラグとサードパーティリスク管理危険フラグの両方にアクセスできます。TPRMビューアーロールにはリスクビューアー機能が含まれているため、IRMロールは必要ありません。
ダッシュボードの残りの関連リストと危険フラグ	オペレーショナルレジリエンスロールでアクセス可能	

オペレーショナルレジリエンスレポートへのビジネスサービスの追加

オペレーショナルレジリエンスワークスペースでレポートオペレーショナルレジリエンスビジネスサービスを追加します。[sn_oper_res.manager] ロールを持つ オペレーショナルレジリエンス マネージャーは、ビジネスサービスフォームまたはリストアクションから、ビジネスサービス、サービスオファリング、ビジネスプロセス、およびアプリケーションサービスをエンティティタイプに追加できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：itil ユーザーロールを備えた sn_oper_res.manager、itil ユーザーロールを備えた sn_oper_res.admin

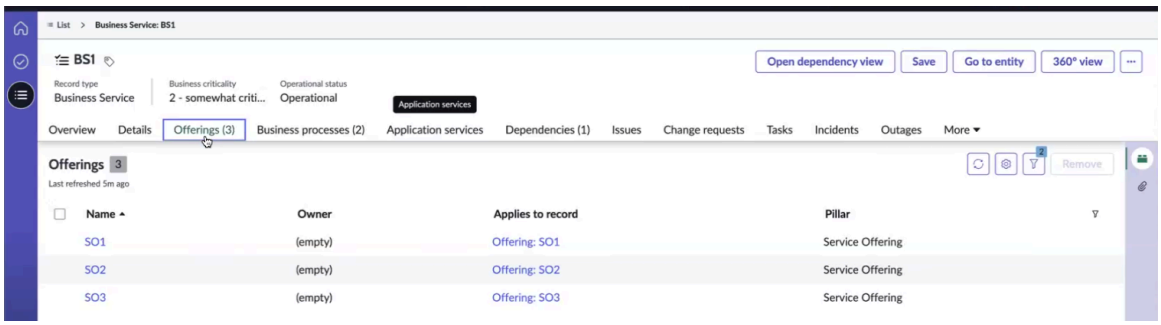
このタスクについて
オペレーショナルレジリエンスリリース 21.0.x 以降、サービス、ビジネスサービス、オファリング、ビジネスプロセス、およびアプリケーションサービスモジュールのレコードは垂直レイアウトになっています。

> **注:**
> 通常、サービスモジュールは既存の顧客によって使用され、ビジネスサービスモジュールは新規の顧客によって使用されます。

手順

1. 移動先 オペレーショナルレジリエンスワークスペース > リスト > ビジネスサービス.
2. ビジネスサービスの任意のレコードを 1 つ開きます。

   ビジネスサービスフォームのフォームビューが表示されます。



   例に示すように、ビジネスサービスにはサービスオファリングを含めることができます。SO1 などのサービスオファリングには、子サービスオファリング SO2 を埋め込むことができます。同様に、関連するビジネスプロセス、アプリケーションサービス、依存関係がフォームに表示されます。

   オペレーショナルレジリエンスマネージャーは、[依存関係ビューを開く]、[360 度ビュー] などの UI アクションを実行できます。レコードヘッダーで、 オペレーショナルレジリエンス マネージャーは、レコードタイプ、所有者、事業上の重要度、および運用ステータスを表示できます。

   次の関連リストが表示されます。

   - 概要
   - 詳細
   - サービスオファリング
   - ビジネスプロセス
   - アプリケーションサービス
   - 依存関係

   レコードの表示や削除などのすべての UI アクションは、関連リスト内の オペレーショナルレジリエンス マネージャーが実行できます。

   関連リストには [追加] および [削除] ボタンが表示され、マネージャーはこのボタンを使用して関連リストのレコードを追加または削除できます。関連リストレコードは、表示されるレコードのエンティティです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [依存関係ビューを開く] を選択して、レコードの階層関係を表示します。

   注:
   レコードの階層関係は、関係がレコードに追加された場合にのみ表示されます。

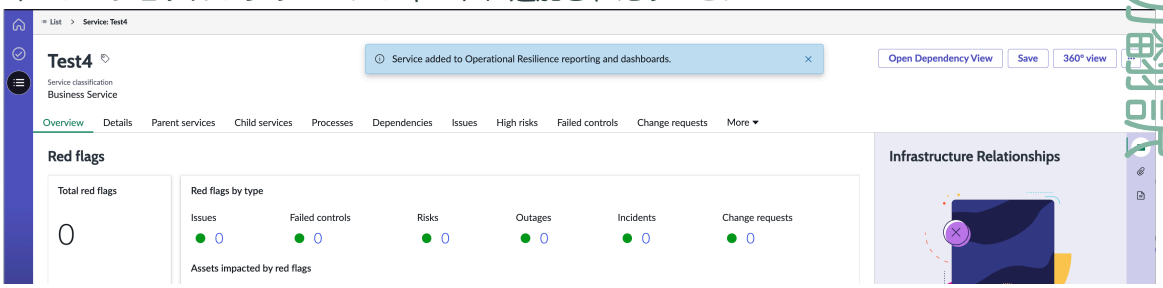
4. **[360** 度ビュー] を選択して、関連するすべてのレコードを表示します。
5. オペレーショナルレジリエンスアプリケーションにビジネスサービスを追加するには、[ビジネスサービス] リストビューで [新規] を選択し、[新規サービスを作成] フォームでサービスに関する詳細を入力します。
   ビジネスサービスフォームのフィールド値の説明については、「 新しいビジネスサービスの作成フォーム」を参照してください。
6. 既存のレコードの更新を保存するには、[保存] を選択します。
7. 選択したビジネスサービスを オペレーショナルレジリエンス レポートに追加するには、[**OpRes** レポートに追加] UI アクションを選択します。
   選択したビジネスサービスが オペレーショナルレジリエンス レポートおよびダッシュボードと同期されたことを示すメッセージが表示されます。

   a. エンティティ レコードに移動し、アップストリームおよびダウンストリームのエンティティを管理するには、 エンティティに移動 を選択します。

      オペレーショナルレジリエンスレポートにサービスを追加すると、そのエンティティレコードが作成され、[エンティティに移動] UI アクションがフォームに表示されます。

      次の例に示すように、サービスが オペレーショナルレジリエンス レポートに追加されます。

      オペレーショナルレジリエンスレポートに追加されたサービス

   注:
   オペレーショナルレジリエンスレポートにサービスを追加すると、サービスの **[OpRes** レポートに追加] オプションは [サービス] フォームに表示されなくなります。

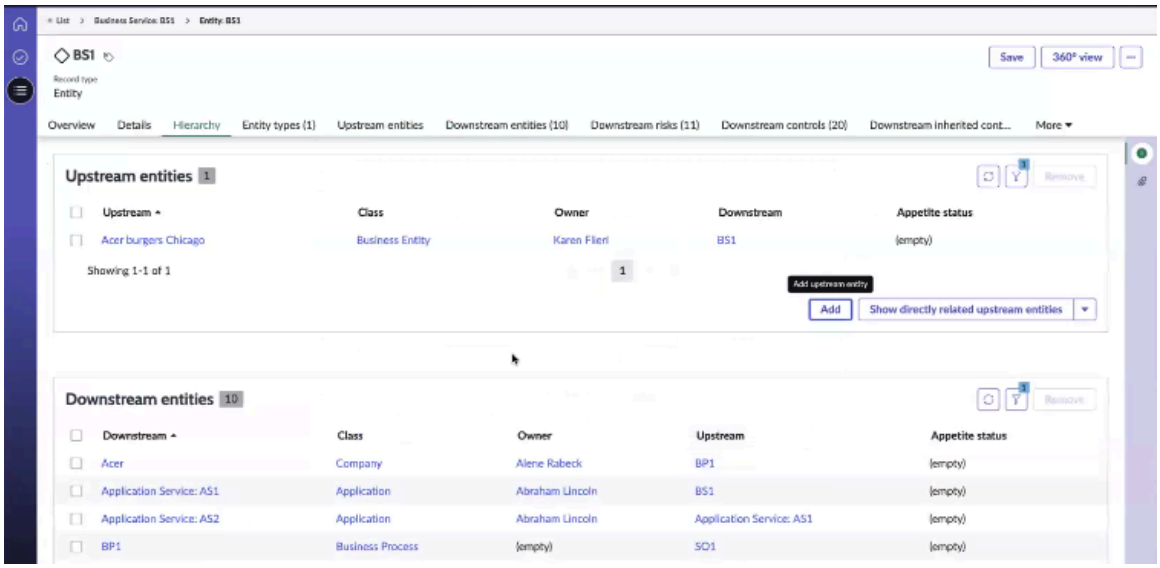
8. 選択したレコードの上流と下流の関係を維持するには、 エンティティに移動 を選択します。
   [エンティティに移動] ボタンは、レコードのエンティティが既に作成されている場合にのみ表示されます。これは、選択したレコードの上流および下流の関係を維持するために提供されます。
   オペレーショナルレジリエンス マネージャーは、アップストリームおよびダウンストリームの依存関係を追加できます。[エンティティに移動] を選択すると、選択したオブジェクトのエンティティレコードが表示されます。

   a. エンティティレコードの [階層] タブに移動します。

   b. 選択したレコードの上流または下流エンティティを追加します。

      例に示すように、上流または下流のエンティティをエンティティレコードに追加できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



c. 上流または下流の関係を保存するには、[保存] を選択します。

9. 選択したビジネスサービスの依存関係を表示するには、[依存関係ビューを開く] を選択します。垂直ビュー、水平ビュー、放射状ビュー、カビュー、グループビュー、詳細ビューなど、目的のマップビューで依存関係を表示できます。

10. 360 度ビューに移動し、ビジネスサービスのアップストリームおよびダウンストリームの関係、エンティティクラス、エンティティタイプを監視するには、 **360** 度ビューを選択します。

新しいビジネスサービスの作成フォーム

オペレーショナルレジリエンスワークスペース の [新規ビジネスサービスの作成 (Create New Business Service)] フォームを使用して、ビジネスサービスを設定し、その関連リストを構成します。

新しいビジネスサービスの作成フォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

新しいビジネスサービスの作成フォーム

フィールド	説明
[詳細] タブ	
名前	ビジネスサービスの名前。
承認グループ	ビジネスサービスの承認を担当する承認グループ。例：アプリケーション開発グループまたはアプリケーションセキュリティグループ。
モデル ID	ビジネスサービスのモデル ID。
サポートグループ	ビジネスサービスのサポートグループ。
オーナー	ビジネスサービスのオーナー。このフィールドは自動入力されます。
変更グループ	ビジネスサービスの更新を担当する変更グループ。
ビジネス上の重要度	ビジネスサービスの重要度。利用可能なオプションは次のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しいビジネスサービスの作成フォーム (続く)

フィールド	説明
	• 1 — 最重要 • 2 — ある程度重要 • 3 — やや重要 • 4 — 重要ではない
管理担当者	ビジネスサービスを管理するユーザー。
バージョン	ビジネスサービスのバージョン。
SLA	ビジネスサービスに関連付けられたサービスレベルアグリーメント (SLA)。
使用環境	ビジネスサービスが使用される使用カテゴリ。例：ステージング。利用可能なオプションは次のとおりです。 • 本番 • ステージング • QA • テスト • 開発 • デモンストレーション • トレーニング • 災害復旧
場所	ビジネスサービスの場所 (シアトル、フェアファクスなど)。
運用ステータス	ビジネスサービスの運用ステータス。利用可能なオプションは次のとおりです。 • オペレーショナル • 非稼働 • 修理中 • DR スタンバイ • 準備完了 • 廃止 • パイプライン • カタログ
ベンダー	ビジネスサービスの運用を担当するベンダー。
サービスの分類	ビジネスサービスの分類。利用可能なオプションは次のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しいビジネスサービスの作成フォーム (続く)

フィールド	説明
	• アプリケーションサービス • ビジネスサービス • テクニカルサービス
コメント	ビジネスサービスのコメントセクション。通常、オペレーショナルレジリエンス アドミニストレーターがビジネスサービスに関するコメントを追加します。

ビジネスサービスに関連付けられている関連タブ

[関連レコード] タブ	説明
全般	
[概要] タブ	次の危険フラグデータを表示します。 **1.** 危険フラグの合計 **2.** タイプ別の危険フラグ ○ 問題 ○ 失敗したコントロール ○ リスク ○ 機能停止 ○ インシデント ○ 変更要求 ○ 運用上の脆弱性 ○ 脆弱性 ○ サードパーティのリスクアセスメント **3.** 危険フラグの影響を受ける資産
[詳細] タブ	選択したビジネスレコードの詳細。フィールドとその説明の詳細については、このページの「新規サービスの作成フォーム」の表を参照してください。
サービスと依存関係	
子サービス	ビジネスサービスに関連付けられている子サービス。 このタブには、子サービスに関する次のサンプル情報が表示されます。 • 依存関係 • ピラー

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスサービスに関連付けられている関連タブ (続く)

[関連レコード] タブ	説明
	• 影響を受けるオブジェクト • 危険フラグの数
ビジネスプロセス	ビジネスサービスに関連付けられているプロセス。 このタブには、ビジネスプロセスに関する次のサンプル情報が表示されます。 • 依存関係 • ピラー • 影響を受けるオブジェクト • 危険フラグの数
依存関係	ビジネスサービスに関連付けられている依存関係。 このタブには、依存関係に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 依存関係 • ピラー • 影響を受けるオブジェクト • 危険フラグの数
進行中のイベント	
インシデント	ビジネスサービスに関連付けられているインシデント。 このタブには、インシデントに関する次のサンプル情報が表示されます。 • インシデント • 簡単な説明 • 所有者 • オープン • 問い合わせユーザー • 優先度 • 状況 • カテゴリ • アサイン先グループ • アサイン先 • 更新日時 • 更新者

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスサービスに関連付けられている関連タブ (続く)

[関連レコード] タブ	説明
	• 依存関係 • ピラー
機能停止	現在のビジネスサービスに関連付けられている機能停止。サービスの機能停止を作成できます。 このタブには、機能停止に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 番号 • 機能停止 • タイプ • 開始 • 終了 • 依存関係 • ピラー
危険フラグ	
問題	ビジネスサービスに関連付けられている問題。 このタブには、問題に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 問題 • 優先度 • ステータス • 終了予定日 • 依存関係 • ピラー
高リスク	ビジネスサービスに関連する高リスク。 このタブには、高リスクに関する次のサンプル情報が表示されます。 • リスク • リスクアセスメント • リスクステートメント • リスク対応 • 固有の評価 • 計算済み固有評価 • 残存評価

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスサービスに関連付けられている関連タブ (続く)

[関連レコード] タブ	説明
	• 計算済み残存評価 • 依存関係 • ピラー
失敗したコントロール	ビジネスサービスに関連付けられている失敗したコントロール。 このタブには、失敗したコントロールに関する次のサンプル情報が表示されます。 • コントロール • コントロール目標 • ステータス • 依存関係 • ピラー
変更要求	ビジネスサービスに関連付けられている変更要求。 このタブには、変更要求に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 変更要求 • 簡単な説明 • タイプ • 状況 • 開始予定日 • 終了予定日 • アサイン先 • 依存関係 • ピラー
タスク	ビジネスサービスに関連付けられているタスク。 このタブには、タスクに関する次のサンプル情報が表示されます。 • タスク • 簡単な説明 • 状況 • タスクタイプ • 優先度

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスサービスに関連付けられている関連タブ (続く)

[関連レコード] タブ	説明
	• アサイン先 • 依存関係 • ピラー
脆弱性	ビジネスサービスに関連する脆弱性。 このタブには、脆弱性に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 脆弱性 • 依存関係 • ピラー
運用上の脆弱性	ビジネスサービスに関連する運用上の脆弱性。 このタブには、運用上の脆弱性に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 番号 • ケース • 関連領域 • 関連領域テーブル • タイトル • 関連領域タイプ • ドメイン
サードパーティのリスクアセスメント	ビジネスサービスに関連付けられたサードパーティのリスクアセスメント。 このタブには、サードパーティリスクアセスメントに関する次のサンプル情報が表示されます。 • サードパーティのリスクアセスメント • 依存関係 • ピラー
プログラムアクティビティ	
事業継続性計画	ビジネスサービスに関連付けられている事業継続性計画のリスト。 このタブには、計画に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 計画 • 資産の計画 • アクティブ化された計画 • イベント

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスサービスに関連付けられている関連タブ (続く)

[関連レコード] タブ	説明
	• イベント資産 • 依存関係 • ピラー • ステータス • RTO • RPO • BIA 日付 • RTO ギャップ
重要性および影響度アセスメント	ビジネスサービスに対して実施される重要性および影響度アセスメント。 このタブには、アセスメントに関する次のサンプル情報が表示されます。 • 影響許容度 (期間) • 影響許容度アセスメント • 影響許容度 (期間) を上書きする理由 • 影響許容度を上書きする理由 (顧客への影響度) • 影響許容度を上書きする理由 (財務の影響) • 影響許容度 (トランザクション量) を上書きする理由 • 上書きされた重要性 • 影響許容度 (顧客への影響) • 影響許容度 (財務の影響) • 影響許容度 (トランザクション量) • 重要性
シナリオ分析	ビジネスサービスに関連付けられているシナリオ分析。 このタブには、シナリオ分析に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 侵害ステータス • 中断期間 • 影響許容度 • 逸脱 (%) • 重要性 • シナリオ分析

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスサービスに関連付けられている関連タブ (続く)

[関連レコード] タブ	説明
	• サービス • 作成者 • 作成日時 • ドメイン

オペレーショナルレジリエンスレポートへのサービスオファリングの追加

オペレーショナルレジリエンスレポートにサービスオファリングを追加します。

始める前に
必要なロール：sn_oper_res.manager

このタスクについて
オペレーショナルレジリエンスリリース 21.0.x 以降、サービス、ビジネスサービス、オファリング、ビジネスプロセス、およびアプリケーションサービスモジュールのレコードは垂直レイアウトになっています。

手順

1. 移動先 オペレーショナルレジリエンスワークスペース > リスト > サービス.
   次のモジュールが表示されます。
   - サービス
   - ビジネスサービス
   - サービスオファリング
   - ビジネスプロセス
2. オペレーショナルレジリエンスアプリケーションにサービスオファリングを追加するには、[サービスオファリング] リストビューで [新規] を選択し、[新規オファリングを作成] フォームでサービスオファリングに関する詳細を入力します。
3. **[Save** (保存)] を選択します。

[新規オファリングを作成] フォーム

オペレーショナルレジリエンスワークスペース の [新規オファリングを作成] フォームを使用して、サービスオファリングを設定し、その関連情報を構成します。

[新規オファリングを作成] フォーム
フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

[新規オファリングを作成] フォーム

フィールド	説明
[詳細] タブ	
名前	オファリングの名前 (データセンター向けサービスオファリングなど)。
承認グループ	サービスオファリングの承認を担当する承認グループ。たとえば、アプリケーション開発やア

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新規オファリングを作成] フォーム (続く)

フィールド	説明
	プリケーションセキュリティグループ (キャパシティ管理など) などです。
モデル ID	サービスオファリングのモデル ID (例:Dell Inc. 7700FullHD)。
サポートグループ	サービスオファリングのサポートグループ (アプリケーション開発など)。
所有者	サービスオファリングの所有者。
変更グループ	サービスオファリングの更新を担当する変更グループ (App Engine アドミンなど)。
事業上の重要度	サービスオファリングの重要度。利用可能なオプションは次のとおりです。 • 1 — 最重要 • 2 — ある程度重要 • 3 — やや重要 • 4 — 重要ではない
管理担当者	サービスオファリングを管理するユーザー。
バージョン	サービスオファリングのバージョン。
SLA	サービスオファリングに関連付けられたサービスレベルアグリーメント (SLA)。
使用環境	サービスオファリングが使用される使用カテゴリ。例：ステージング。利用可能なオプションは次のとおりです。 • 本番 • ステージング • QA • テスト • 開発 • デモンストレーション • トレーニング • 災害復旧
場所	サービスオファリングの物理的な場所。
運用ステータス	サービスオファリングの運用ステータス。利用可能なオプションは次のとおりです。 • オペレーショナル • 非稼働 • 修理中

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新規オファリングを作成] フォーム (続く)

フィールド	説明
	• DR スタンバイ • 準備完了 • 廃止 • パイプライン • カタログ
ベンダー	APC や Amazon など、サービスオファリングの運用を担当するベンダー。
サービスの分類	サービスの分類。利用可能なオプションは次のとおりです。 • アプリケーションサービス • ビジネスサービス • 技術管理サービス
コメント	サービスオファリングのコメントセクション。通常は、 オペレーショナルレジリエンス アドミニストレーターがオファリングに関するコメントを追加します。

オファリングに関連付けられている関連タブ

[関連レコード] タブ	説明
全般	
[概要] タブ	次の危険フラグデータを表示します。 **1.** 危険フラグの合計 **2.** タイプ別の危険フラグ ○ 問題 ○ 失敗したコントロール ○ リスク ○ 機能停止 ○ インシデント ○ 変更要求 ○ 運用上の脆弱性 ○ 脆弱性 ○ サードパーティのリスクアセスメント **3.** 危険フラグの影響を受ける資産

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オファリングに関連付けられている関連タブ (続く)

[関連レコード] タブ	説明
[詳細] タブ	選択したレコードの詳細。フィールドとその説明の詳細については、このページの「新規サービスの作成フォーム」の表を参照してください。
サービスと依存関係	
子サービス	オファリングに関連付けられている子サービス。 このタブには、子サービスに関する次のサンプル情報が表示されます。 • 依存関係 • ピラー • 影響を受けるオブジェクト • 危険フラグの数
ビジネスプロセス	オファリングに関連付けられているプロセス。 このタブには、ビジネスプロセスに関する次のサンプル情報が表示されます。 • 依存関係 • ピラー • 影響を受けるオブジェクト • 危険フラグの数
依存関係	オファリングに関連付けられている依存関係。 このタブには、依存関係に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 依存関係 • ピラー • 影響を受けるオブジェクト • 危険フラグの数
進行中のイベント	
インシデント	オファリングに関連付けられているインシデント。 このタブには、インシデントに関する次のサンプル情報が表示されます。 • インシデント • 簡単な説明 • 所有者

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オファリングに関連付けられている関連タブ (続く)

[関連レコード] タブ	説明
	• オープン • 問い合わせユーザー • 優先度 • 状況 • カテゴリ • アサイン先グループ • アサイン先 • 更新日時 • 更新者 • 依存関係 • ピラー
機能停止	現在のオファリングに関連付けられている機能停止。 このタブには、機能停止に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 番号 • 機能停止 • タイプ • 開始 • 終了 • 依存関係 • ピラー
危険フラグ	
問題	オファリングに関連付けられている問題。 このタブには、問題に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 問題 • 優先度 • ステータス • 終了予定日 • 依存関係 • ピラー
高リスク	オファリングに関連付けられている高リスク。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オファリングに関連付けられている関連タブ (続く)

[関連レコード] タブ	説明
	このタブには、高リスクに関する次のサンプル情報が表示されます。 • リスク • リスクアセスメント • リスクステートメント • リスク対応 • 固有の評価 • 計算済み固有評価 • 残存評価 • 計算済み残存評価 • 依存関係 • ピラー
失敗したコントロール	オファリングに関連付けられている失敗したコントロール。 このタブには、失敗したコントロールに関する次のサンプル情報が表示されます。 • コントロール • コントロール目標 • ステータス • 依存関係 • ピラー
変更要求	オファリングに関連付けられている変更要求。 このタブには、変更要求に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 変更要求 • 簡単な説明 • タイプ • 状況 • 開始予定日 • 終了予定日 • アサイン先 • 依存関係 • ピラー
タスク	オファリングに関連付けられているタスク。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オファリングに関連付けられている関連タブ (続く)

[関連レコード] タブ	説明
	このタブには、タスクに関する次のサンプル情報が表示されます。 • タスク • 簡単な説明 • 状況 • タスクタイプ • 優先度 • アサイン先 • 依存関係 • ピラー
脆弱性	オファリングに関連する脆弱性。 このタブには、脆弱性に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 脆弱性 • 依存関係 • ピラー
運用上の脆弱性	オファリングに関連する運用上の脆弱性。 このタブには、運用上の脆弱性に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 番号 • ケース • 関連領域 • 関連領域テーブル • タイトル • 関連領域タイプ • ドメイン
サードパーティのリスクアセスメント	オファリングに関連付けられたサードパーティのリスクアセスメント。 このタブには、サードパーティリスクアセスメントに関する次のサンプル情報が表示されます。 • サードパーティのリスクアセスメント • 依存関係 • ピラー
プログラムアクティビティ	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オファリングに関連付けられている関連タブ (続く)

[関連レコード] タブ	説明
事業継続性計画	オファリングに関連付けられている事業継続性計画のリスト。 このタブには、計画に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 計画 • 資産の計画 • アクティブ化された計画 • イベント • イベント資産 • 依存関係 • ピラー • ステータス • RTO • RPO • BIA 日付 • RTO ギャップ
重要性および影響度アセスメント	オファリングに対して実施される重要性および影響度アセスメント。 このタブには、アセスメントに関する次のサンプル情報が表示されます。 • 影響許容度 (期間) • 影響許容度アセスメント • 影響許容度 (期間) を上書きする理由 • 影響許容度を上書きする理由 (顧客への影響度) • 影響許容度を上書きする理由 (財務の影響) • 影響許容度 (トランザクション量) を上書きする理由 • 上書きされた重要性 • 影響許容度 (顧客への影響) • 影響許容度 (財務の影響) • 影響許容度 (トランザクション量) • 重要性
シナリオ分析	オファリングに関連付けられているシナリオ分析。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オファリングに関連付けられている関連タブ (続く)

[関連レコード] タブ	説明
	このタブには、シナリオ分析に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 侵害ステータス • 中断期間 • 影響許容度 • 逸脱 (%) • 重要性 • シナリオ分析 • サービス • 作成者 • 作成日時 • ドメイン

レポート オペレーショナルレジリエンス ビジネスプロセスの追加

レポート オペレーショナルレジリエンス ビジネスプロセスを追加します。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.manager

このタスクについて

オペレーショナルレジリエンスリリース 21.0.x 以降、サービス、ビジネスサービス、オファリング、ビジネスプロセス、およびアプリケーションサービスモジュールのレコードは垂直レイアウトになっています。

手順

1. 移動先 オペレーショナルレジリエンスワークスペース > リスト > サービス.
   次のモジュールが表示されます。
   - サービス
   - ビジネスサービス
   - サービスオファリング
   - ビジネスプロセス
2. オペレーショナルレジリエンスアプリケーションにビジネスプロセスを追加するには、[ビジネスプロセス] リストビューで [新規] を選択し、[新規ビジネスプロセスの作成 (Create New Business Process)] フォームでビジネスプロセスに関する詳細を入力します。
3. **[Save** (保存)] を選択します。

[新規ビジネスプロセスの作成 **(Create New Business Process)]** フォーム

オペレーショナルレジリエンスワークスペース の [新しいビジネスプロセスの作成 (Create New Business Process)] フォームを使用して、ビジネスプロセスを設定し、その関連リストを構成します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新規ビジネスプロセスの作成 **(Create New Business Process)**] フォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

[新規ビジネスプロセスの作成 **(Create New Business Process)**] フォーム

フィールド	説明
[詳細] タブ	
名前	ビジネスプロセスの名前。
親	ビジネスプロセスに関連付けられている親サービス。
ライフサイクルステージ	ビジネスプロセスのライフサイクルステージ (観念化など)。
ライフサイクルステージステータス	ライフサイクルステージのステータス (評価など)。
レビュー頻度	ビジネスプロセスのレビュー頻度。利用可能なオプションは次のとおりです： • 月ごと • 四半期単位 • 半年ごと/半期 • 年次
次のレビュー日	ビジネスプロセスの次のレビュー日。このフィールドはシステムによって自動的に割り当てられます。
説明	ビジネスプロセスの説明。

ビジネスプロセスに関連付けられている関連タブ

[関連レコード] タブ	説明
全般	
[概要] タブ	次の危険フラグデータを表示します。 **1.** 危険フラグの合計 **2.** タイプ別の危険フラグ ○ 問題 ○ 失敗したコントロール ○ リスク ○ 機能停止 ○ インシデント ○ 変更要求 ○ 運用上の脆弱性

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスプロセスに関連付けられている関連タブ (続く)

[関連レコード] タブ	説明
	○ 脆弱性 ○ サードパーティのリスクアセスメント **3.** 危険フラグの影響を受ける資産
[詳細] タブ	選択したビジネスプロセスレコードの詳細。
サービスと依存関係	
子サービス	ビジネスプロセスに関連付けられている子サービス。 このタブには、子サービスに関する次のサンプル情報が表示されます。 • 依存関係 • ピラー • 影響を受けるオブジェクト • 危険フラグの数
ビジネスプロセス	ビジネスプロセスに関連付けられているプロセス。 このタブには、ビジネスプロセスに関する次のサンプル情報が表示されます。 • 依存関係 • ピラー • 影響を受けるオブジェクト • 危険フラグの数
依存関係	ビジネスプロセスに関連付けられている依存関係。 このタブには、依存関係に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 依存関係 • ピラー • 影響を受けるオブジェクト • 危険フラグの数
進行中のイベント	
インシデント	ビジネスプロセスに関連付けられているインシデント。 このタブには、インシデントに関する次のサンプル情報が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスプロセスに関連付けられている関連タブ (続く)

[関連レコード] タブ	説明
	• インシデント • 簡単な説明 • 所有者 • オープン • 問い合わせユーザー • 優先度 • 状況 • カテゴリ • アサイン先グループ • アサイン先 • 更新日時 • 更新者 • 依存関係 • ピラー
機能停止	ビジネスプロセスに関連付けられている機能停止。サービスの機能停止を作成できます。 このタブには、機能停止に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 番号 • 機能停止 • タイプ • 開始 • 終了 • 依存関係 • ピラー
危険フラグ	
問題	ビジネスプロセスに関連付けられている問題。 このタブには、問題に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 問題 • 優先度 • ステータス • 終了予定日

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスプロセスに関連付けられている関連タブ (続く)

[関連レコード] タブ	説明
	• 依存関係 • ピラー
高リスク	ビジネスプロセスに関連する高リスク。 このタブには、高リスクに関する次のサンプル情報が表示されます。 • リスク • リスクアセスメント • リスクステートメント • リスク対応 • 固有の評価 • 計算済み固有評価 • 残存評価 • 計算済み残存評価 • 依存関係 • ピラー
失敗したコントロール	ビジネスプロセスに関連付けられている失敗したコントロール。 このタブには、失敗したコントロールに関する次のサンプル情報が表示されます。 • コントロール • コントロール目標 • ステータス • 依存関係 • ピラー
変更要求	ビジネスプロセスに関連付けられている変更要求。 このタブには、変更要求に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 変更要求 • 簡単な説明 • タイプ • 状況 • 開始予定日 • 終了予定日

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスプロセスに関連付けられている関連タブ (続く)

[関連レコード] タブ	説明
	• アサイン先 • 依存関係 • ピラー
タスク	ビジネスプロセスに関連付けられているタスク。 このタブには、タスクに関する次のサンプル情報が表示されます。 • タスク • 簡単な説明 • 状況 • タスクタイプ • 優先度 • アサイン先 • 依存関係 • ピラー
脆弱性	ビジネスプロセスに関連する脆弱性。 このタブには、脆弱性に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 脆弱性 • 依存関係 • ピラー
運用上の脆弱性	ビジネスプロセスに関連する運用上の脆弱性。 このタブには、運用上の脆弱性に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 番号 • ケース • 関連領域 • 関連領域テーブル • タイトル • 関連領域タイプ • ドメイン
サードパーティのリスクアセスメント	ビジネスプロセスに関連付けられたサードパーティのリスクアセスメント。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスプロセスに関連付けられている関連タブ (続く)

[関連レコード] タブ	説明
	このタブには、サードパーティリスクアセスメントに関する次のサンプル情報が表示されます。 • サードパーティのリスクアセスメント • 依存関係 • ピラー
プログラムアクティビティ	
事業継続性計画	ビジネスプロセスに関連付けられている事業継続性計画のリスト。 このタブには、計画に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 計画 • 資産の計画 • アクティブ化された計画 • イベント • イベント資産 • 依存関係 • ピラー • ステータス • RTO • RPO • BIA 日付 • RTO ギャップ
重要性および影響度アセスメント	ビジネスプロセスに対して行われる重要性および影響度アセスメント。 このタブには、アセスメントに関する次のサンプル情報が表示されます。 • 影響許容度 (期間) • 影響許容度アセスメント • 影響許容度 (期間) を上書きする理由 • 影響許容度を上書きする理由 (顧客への影響度) • 影響許容度を上書きする理由 (財務の影響) • 影響許容度 (トランザクション量) を上書きする理由 • 上書きされた重要性

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスプロセスに関連付けられている関連タブ (続く)

[関連レコード] タブ	説明
	• 影響許容度 (顧客への影響) • 影響許容度 (財務の影響) • 影響許容度 (トランザクション量) • 重要性
シナリオ分析	ビジネスプロセスに関連付けられているシナリオ分析。 このタブには、シナリオ分析に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 侵害ステータス • 中断期間 • 影響許容度 • 逸脱 (%) • 重要性 • シナリオ分析 • サービス • 作成者 • 作成日時 • ドメイン

自動翻訳

オペレーショナルレジリエンスレポートへのアプリケーションサービスの追加

オペレーショナルレジリエンスレポートにアプリケーションサービスを追加します。オペレーショナルレジリエンスリリース 21.0.x 以降、アプリケーションサービスモジュールはオペレーショナルレジリエンスワークスペースでサポートされています。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.manager

手順

1. 移動先 オペレーショナルレジリエンスワークスペース > リスト > サービス.
   次のモジュールが表示されます。
   - サービス
   - ビジネスサービス
   - オファリング
   - ビジネスプロセス
   - アプリケーションサービス
2. オペレーショナルレジリエンスアプリケーションにアプリケーションサービスを追加するには、[アプリケーションサービス] リストビューで [新規] を選択します。
3. フォームで、フィールドに入力します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションサービスの詳細をフォームに入力できます。フィールドの詳細については、「新しいサービスインスタンスの作成フォーム」を参照してください。

4. **[Save** (保存)] を選択します。

新しいサービスインスタンスの作成フォーム

オペレーショナルレジリエンスワークスペース の [新規サービスインスタンスを作成] フォームを使用して、アプリケーションサービスを設定し、その関連リストを構成します。

新しいサービスインスタンスの作成フォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

新しいサービスインスタンスの作成フォーム

フィールド	説明
[詳細] タブ	
名前	アプリケーションサービスの名前。
承認グループ	アプリケーションサービスの承認を担当する承認グループ (アナリティクス設定マネージャーやアプリケーションセキュリティグループなど)。
モデル ID	アプリケーションサービスのモデル ID (AT&T SoundPoint IP 560 など)。
サポートグループ	アプリケーションサービスのサポートグループ (App Engine アドミンなど)。
所有者	アプリケーションサービスの所有者。
変更グループ	アプリケーションサービスの更新を担当する変更グループ (アプリケーション開発など)。
事業上の重要度	アプリケーションサービスの重要度。利用可能なオプションは次のとおりです。 • 1 — 最重要 • 2 — ある程度重要 • 3 — やや重要 • 4 — 重要ではない
管理担当者	アプリケーションサービスを管理するユーザー。
バージョン	アプリケーションサービスのバージョン。
SLA	アプリケーションサービスに関連付けられたサービスレベルアグリーメント (SLA) (例:Finance 99.99)。
使用環境	アプリケーションサービスが使用される使用カテゴリ。例：ステージング。使用カテゴリで利用可能なオプションは次のとおりです。 • 本番 • ステージング • QA

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しいサービスインスタンスの作成フォーム (続く)

フィールド	説明
	• テスト • 開発 • デモンストレーション • トレーニング • 災害復旧
場所	アプリケーションサービスの場所と物理的な住所。
運用ステータス	アプリケーションサービスの運用ステータス。利用可能なオプションは次のとおりです。 • オペレーショナル • 非稼働 • 修理中 • DR スタンバイ • 準備完了 • 廃止 • パイプライン • カタログ
ベンダー	アプリケーションサービスの運用を担当するベンダー (Acer や Adobe Systems など)。
サービスの分類	サービスの分類。利用可能なオプションは次のとおりです。 • アプリケーションサービス • ビジネスサービス • 技術管理サービス
コメント	アプリケーションサービスのコメントセクション。通常、 オペレーショナルレジリエンス アドミニストレーターはアプリケーションサービスに関するコメントを追加します。

アプリケーションサービスに関連付けられている関連タブ

[関連レコード] タブ	説明
全般	
[概要] タブ	次の危険フラグデータを表示します。 **1.** 危険フラグの合計 **2.** タイプ別の危険フラグ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションサービスに関連付けられている関連タブ (続く)

[関連レコード] タブ	説明
	○ 問題 ○ 失敗したコントロール ○ リスク ○ 機能停止 ○ インシデント ○ 変更要求 ○ 運用上の脆弱性 ○ 脆弱性 ○ サードパーティのリスクアセスメント **3.** 危険フラグの影響を受ける資産
[詳細] タブ	選択したアプリケーションサービスレコードの詳細。
サービスと依存関係	
子サービス	アプリケーションサービスに関連付けられている子サービス。 このタブには、子サービスに関する次のサンプル情報が表示されます。 • 依存関係 • ピラー • 影響を受けるオブジェクト • 危険フラグの数
ビジネスプロセス	アプリケーションサービスに関連付けられているプロセス。 このタブには、ビジネスプロセスに関する次のサンプル情報が表示されます。 • 依存関係 • ピラー • 影響を受けるオブジェクト • 危険フラグの数
依存関係	アプリケーションサービスに関連付けられている依存関係。 このタブには、依存関係に関する次のサンプル情報が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションサービスに関連付けられている関連タブ (続く)

[関連レコード] タブ	説明
	• 依存関係 • ピラー • 影響を受けるオブジェクト • 危険フラグの数
進行中のイベント	
インシデント	アプリケーションサービスに関連付けられているインシデント。 このタブには、インシデントに関する次のサンプル情報が表示されます。 • インシデント • 簡単な説明 • 所有者 • オープン • 問い合わせユーザー • 優先度 • 状況 • カテゴリ • アサイン先グループ • アサイン先 • 更新日時 • 更新者 • 依存関係 • ピラー
機能停止	現在のアプリケーションサービスに関連付けられている機能停止。サービスの機能停止を作成できます。 このタブには、機能停止に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 番号 • 機能停止 • タイプ • 開始 • 終了

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションサービスに関連付けられている関連タブ (続く)

[関連レコード] タブ	説明
	• 依存関係 • ピラー
危険フラグ	
問題	アプリケーションサービスに関連付けられている問題。 このタブには、問題に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 問題 • 優先度 • ステータス • 終了予定日 • 依存関係 • ピラー
高リスク	アプリケーションサービスに関連付けられている高リスク。 このタブには、高リスクに関する次のサンプル情報が表示されます。 • リスク • リスクアセスメント • リスクステートメント • リスク対応 • 固有の評価 • 計算済み固有評価 • 残存評価 • 計算済み残存評価 • 依存関係 • ピラー
失敗したコントロール	アプリケーションサービスに関連付けられている失敗したコントロール。 このタブには、失敗したコントロールに関する次のサンプル情報が表示されます。 • コントロール • コントロール目標 • ステータス

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションサービスに関連付けられている関連タブ (続く)

[関連レコード] タブ	説明
	• 依存関係 • ピラー
変更要求	ビジネスサービスに関連付けられている変更要求。 このタブには、変更要求に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 変更要求 • 簡単な説明 • タイプ • 状況 • 開始予定日 • 終了予定日 • アサイン先 • 依存関係 • ピラー
タスク	アプリケーションサービスに関連付けられているタスク。 このタブには、タスクに関する次のサンプル情報が表示されます。 • タスク • 簡単な説明 • 状況 • タスクタイプ • 優先度 • アサイン先 • 依存関係 • ピラー
脆弱性	アプリケーションサービスに関連する脆弱性。 このタブには、脆弱性に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 脆弱性 • 依存関係 • ピラー
運用上の脆弱性	アプリケーションサービスに関連する運用上の脆弱性。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションサービスに関連付けられている関連タブ (続く)

[関連レコード] タブ	説明
	このタブには、運用上の脆弱性に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 番号 • ケース • 関連領域 • 関連領域テーブル • タイトル • 関連領域タイプ • ドメイン
サードパーティのリスクアセスメント	アプリケーションサービスに関連付けられたサードパーティのリスクアセスメント。 このタブには、サードパーティリスクアセスメントに関する次のサンプル情報が表示されます。 • サードパーティのリスクアセスメント • 依存関係 • ピラー
プログラムアクティビティ	
事業継続性計画	アプリケーションサービスに関連付けられている事業継続性計画のリスト。 このタブには、計画に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 計画 • 資産の計画 • アクティブ化された計画 • イベント • イベント資産 • 依存関係 • ピラー • ステータス • RTO • RPO • BIA 日付 • RTO ギャップ
重要性および影響度アセスメント	アプリケーションサービスに対して実施される重要性および影響度アセスメント。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションサービスに関連付けられている関連タブ (続く)

[関連レコード] タブ	説明
	このタブには、アセスメントに関する次のサンプル情報が表示されます。 • 影響許容度 (期間) • 影響許容度アセスメント • 影響許容度 (期間) を上書きする理由 • 影響許容度を上書きする理由 (顧客への影響度) • 影響許容度を上書きする理由 (財務の影響) • 影響許容度 (トランザクション量) を上書きする理由 • 上書きされた重要性 • 影響許容度 (顧客への影響) • 影響許容度 (財務の影響) • 影響許容度 (トランザクション量) • 重要性
シナリオ分析	アプリケーションサービスに関連付けられているシナリオ分析。 このタブには、シナリオ分析に関する次のサンプル情報が表示されます。 • 侵害ステータス • 中断期間 • 影響許容度 • 逸脱 (%) • 重要性 • シナリオ分析 • サービス • 作成者 • 作成日時 • ドメイン

自動翻訳

メインノードの構成と関係を確認する

メインノード構成が設定され、 オペレーショナルレジリエンスで関係が構成されていることを確認します。

始める前に

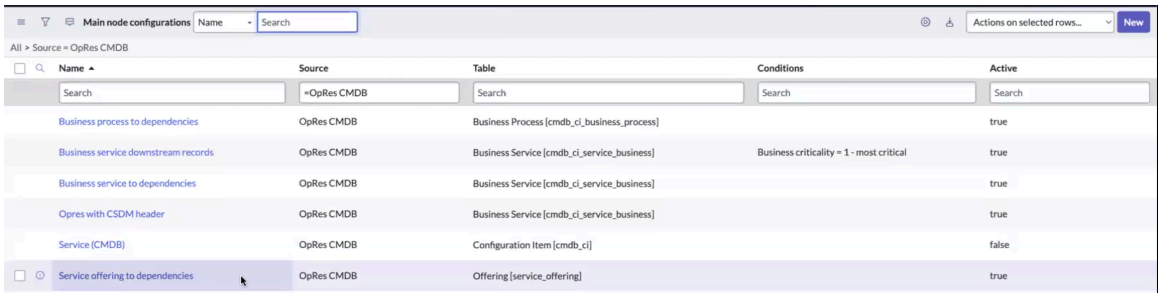
必要なロール：sn_oper_res.manager

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > データ関係フレームワーク > メインノード構成.

   ベースシステムで提供されているメインノード構成が表示されます。



2. CI と非 CI の関係が CMDB で構成され、メインノード構成とノード関係の構成が設定され、 オペレーショナルレジリエンス でエンティティが生成されていることを確認します。

次のタスク
依存関係をフェッチするには、スケジュール済みジョブを実行します。詳細については、「スケジュール済みジョブを実行」を参照してください。

スケジュール済みジョブを実行

メインノードの関係に必要なスケジュール済みジョブを実行します。スケジュール済みジョブが実行された後、 CSDM オブジェクトが、設定された関係とともにレポート用に オペレーショナルレジリエンス にインポートされます。

始める前に
必要なロール：sn_oper_res.manager

スケジュール済みジョブを実行する前に、次の前提条件が満たされていることを確認します。

1. エンティティタイプとピラーが定義され、エンティティが生成されました。
2. 構成アイテム (CI) 関係は、メインノードの構成関係の必要に応じて作成されています。

これらの前提条件がすべて満たされたら、スケジュール済みジョブを実行できます。

> **注:**
> ソースが **OpRes CMDB** であるすべての構成は並行して実行されます。

このタスクについて

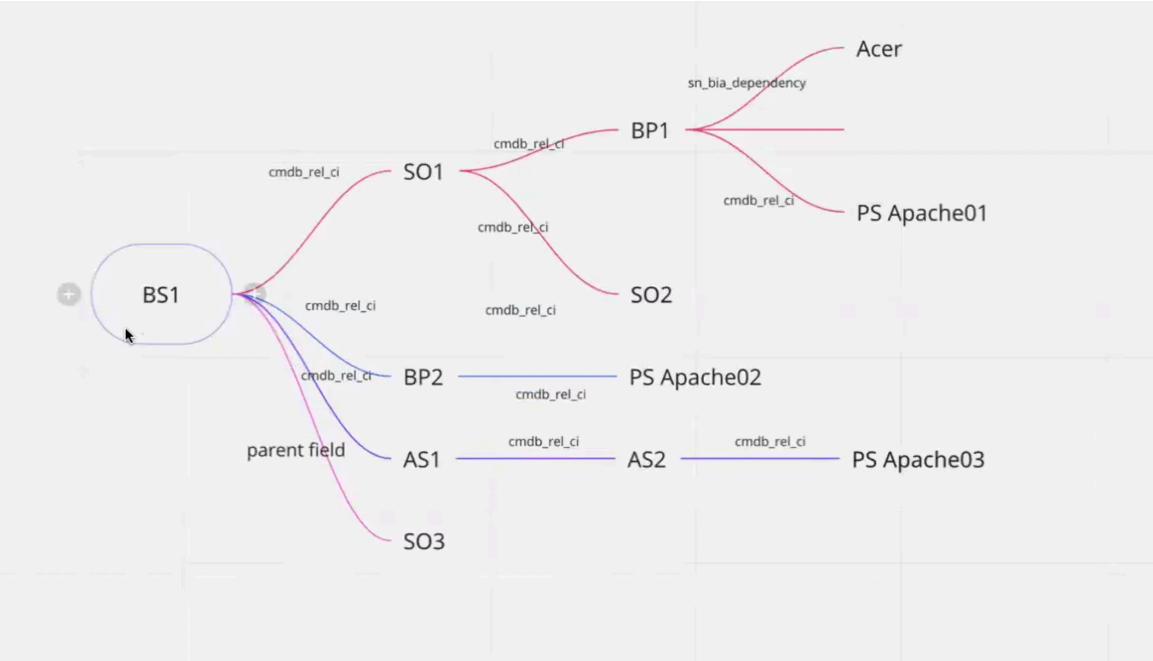
> **注:**
>
> *Update CSDM and other dependencies*および*Calculate red flags for CSDM and dependencies*スケジュール済みジョブでは、エンティティ階層とすべてのタイプの危険フラグが作成されます。すべての CSDM フラグと危険フラグは、エンティティ階層に基づいてロールアップされます。
>
> スケジュール済みジョブは、次のスケジュールに従って実行されるように構成されます。
>
> 1. *Update CSDM and other dependencies*スケジュール済みジョブは、CSDMおよびその他の依存関係を更新します。毎週現地時間の深夜に実行するように構成されています。
> 2. *Calculate red flags for CSDM and dependencies*スケジュール済みジョブは、CSDMとその依存関係の危険フラグを計算します。毎日現地時間の午前 3:00 に実行するように構成されています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オペレーショナルレジリエンス アドミニストレーターは、 オペレーショナルレジリエンス マネージャーとしてすべての機能を実行できます。オペレーショナルレジリエンスユーザーはスケジュール済みジョブを実行できませんが、エンティティテーブルとエンティティ階層テーブルのレコードを確認することはできます。

スケジュール済みジョブを実行する前に、次の例に示すように、オブジェクトの関係が設定されていることを確認します。



手順

1. 移動先 すべて > システム定義 > スケジュール済みジョブ.
2. `Update CSDM and other dependencies`スケジュール済みジョブを選択します。

   この図は、スケジュール済みジョブのスクリプトで実行されるステップを示しています。

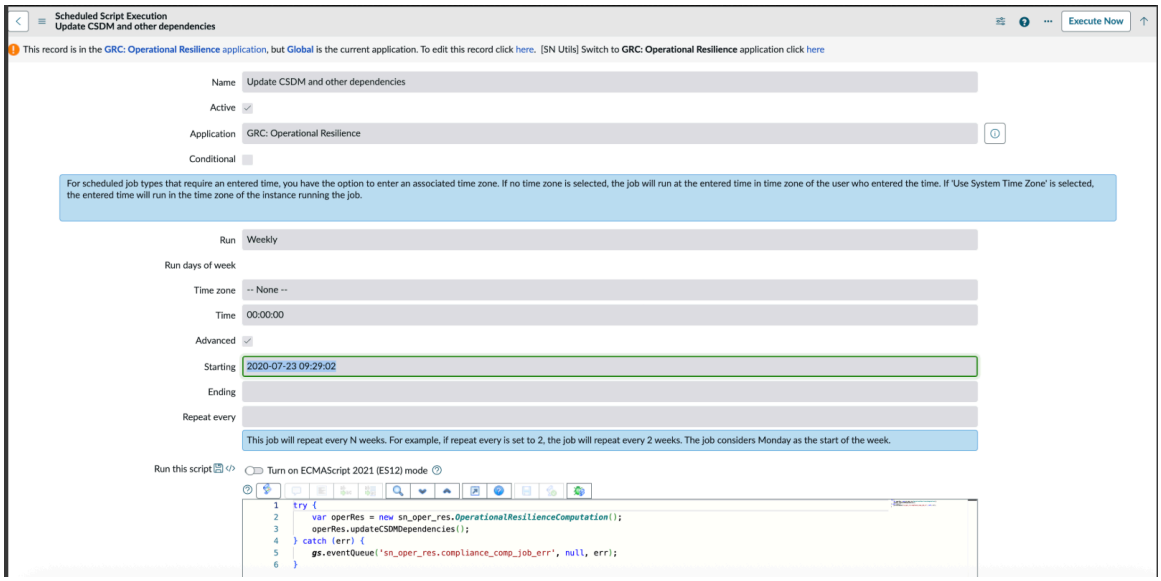
   a. スクリプトが実行されると、ステージングテーブルのすべてのレコードが消去されます。ステージングテーブルは、ダッシュボードに表示される危険フラグを保存するために オペレーショナルレジリエンス で使用されます。

   b. 次に、関係 API を呼び出して、 CSDM 依存関係を更新します。

   c. 最後のステップとして、構成を並列実行して、スケジュール済みジョブが迅速に完了し、データが効率的にロードされるようにします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



3. **[Execute Now** (今すぐ実行)] を選択します。

   スケジュール済みジョブが実行されると、すべての CMDB オブジェクトが オペレーショナルレジリエンスにフェッチされます。

4. メインノード構成、ノード関係構成、およびノード構成の結果が正しく表示されていることを確認します。
5. スケジュール済みジョブを実行した後、エンティティ階層に従ってステージングレコードが作成されていることを確認します。
   インストールされているアプリケーションに応じて、ステージングテーブルは オペレーショナルレジリエンス に作成されます。たとえば、スケジュール済みジョブが実行されると、次のステージングテーブルが作成されます。
   - sn_oper_res_failed_control
   - sn_oper_res_risk
   - sn_oper_res_bcm_plan
   - sn_oper_res_vul_profile
   - sn_oper_res_third_party_risk
   - sn_oper_res_task
   - sn_oper_res_change_request
   - sn_oper_res_critical_service_outage
   - sn_oper_res_incident
   - sn_oper_res_issue

   ビジネスビューはエンティティ階層にマッピングされます。失敗したコントロール、高リスク、問題、脆弱性対応などのエンティティの危険フラグが、ランディングページのレポートに表示されます。詳細については、「ビジネスサービスの概要タブ」を参照してください。

オペレーショナル脆弱性 の管理

運用上の脆弱性とは、システム、プロセス、または手順の脆弱性のことで、攻撃者が悪用して組織の運用のセキュリティと整合性を侵害する可能性があります。これらの脆弱性は、IT 運用や IT 以外の運用など、さまざまな要因から発生する可能性があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

運用プロセスの脆弱性

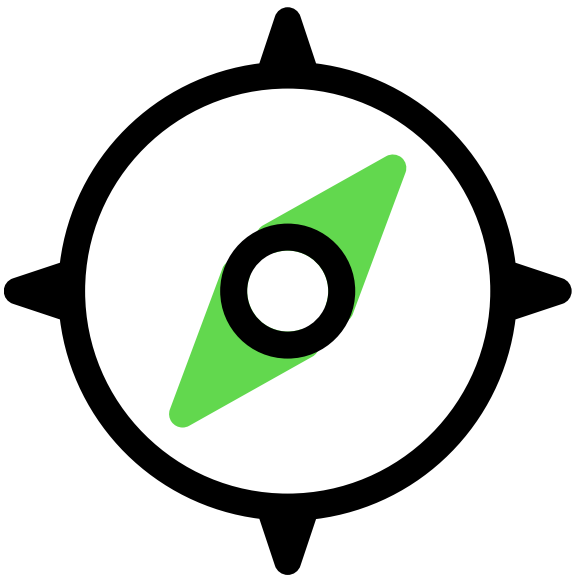
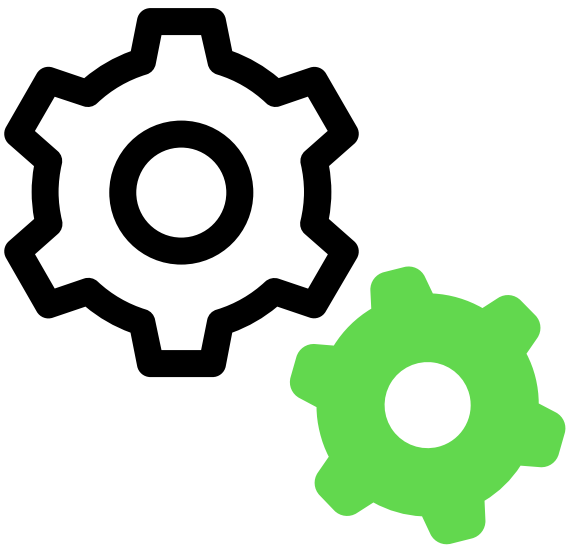
今日の絶え間なく変化するビジネス環境では、組織は予期しないときにさまざまな運用上の脆弱性に直面する可能性があります。これらの脆弱性は、IT 関連の問題や、組織の機能に影響を与える可能性のあるサードパーティの問題や施設の問題などの IT 以外の領域に起因している可能性があります。オペレーショナル脆弱性を通じて、組織内の IT システムやその他の運用プロセスにおけるこれらの弱点や脆弱性を特定できます。

脆弱性を特定すると、アナリストとオーナーはアクションタスクを実行し、最適な対応戦略を決定します。脆弱性に対処するために、ステークホルダーはリスクアセスメントを実施し、影響を受ける領域を特定し、対応するアセスメントおよび処理タスクを作成します。次に、脆弱性を受け入れる、回避する、緩和する、または移転するための治療計画が作成されます。関連するタスクが完了すると、脆弱性の承認が要求されます。承認後、脆弱性はクローズされます。

これらの脆弱性に対処し、効果的なコントロールを実装することで、組織は運用に対するリスクを大幅に軽減し、ビジネスサービスをタイムリーに提供できます。

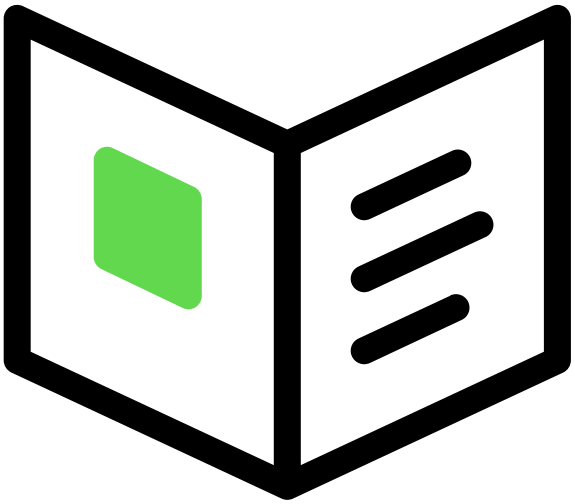
リリース 19.0.x 以降、 オペレーショナル脆弱性 機能はデフォルトで オペレーショナルレジリエンス アプリケーションに統合されています。

開始

探索	構成
	
運用上の脆弱性の詳細	運用上の脆弱性を構成

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

管理	参照
	
運用上の脆弱性の管理	運用上の脆弱性とともにインストールされるコンポーネント

運用プロセスの脆弱性を特定して対処するには、次の手順に従います。

1. 従業員センター または オペレーショナルレジリエンスワークスペース から運用上の脆弱性を報告します。
2. 影響を受ける領域と関連領域を特定し、運用上の脆弱性にリンクします。
3. アクションタスクを生成し、その承認を要求します。
4. 運用上の脆弱性に対処するための処理計画を決定し、根本原因分析を実施します。
5. 運用上の脆弱性に関連する問題を追加または作成します。
6. 運用上の脆弱性の承認を要求してクローズします。

その他のリソース

- GRC コミュニティで質問や回答をする
- Known Error Portal で既知のエラー記事を検索
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート
- 開発者トレーニング
- 開発者ドキュメント

オペレーショナル脆弱性

オペレーショナルレジリエンス のオペレーショナル脆弱性機能により、ユーザーは運用上の脆弱性や重大な機能上のギャップにフラグを立て、主要なステークホルダーと連携し、根本的な原因を分析し、解決策を特定することができます。

オペレーショナル脆弱性を使用すると、チームは違反、ソフトウェアのギャップ、または侵害に起因する問題に対処できます。ユーザーは、 従業員センター を介して運用上の脆弱性に関するレポートを送信するか、 オペレーショナルレジリエンスワークスペースで直接レポートを作成できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

一般的な運用上の脆弱性には、次のような状況があります。

- 顧客データの公開
- サードパーティの問題
- ソフトウェアの欠陥
- 政治または環境状況

オペレーショナル脆弱性 のメリット

オペレーショナル脆弱性機能には、組織に次のような利点があります。

- ビジネスユーザーが、チームの注意が必要な不一致、違反、または苦情を報告できるようにします。
- 重要性および影響許容度アセスメント、シナリオ分析、自己証明書、サービスなど、複数のソースから作成できます。
- エンティティ、場所、ユーザー、会社など、影響を受ける、および関連する注意が必要な組織領域を記録。
- チーム間のコラボレーションを促進して、調査、評価、証拠の収集、観察の記録、さらなるレビューのための応答の決定を行います。
- 修復と予防措置の開始を可能にし、根本原因分析を実施して脆弱性の原因を特定します。

技術的および運用上の脆弱性の定義

組織では、運用上の脆弱性を次のメイングループに分類できます。

1. 技術的な脆弱性:組織の IT インフラストラクチャ内の重大なギャップ、欠陥、または弱点です。このカテゴリには、セキュリティプロトコル、システム設計、内部コントロール、または日常の運用慣行における欠陥が含まれます。
2. 運用上の脆弱性:組織の運用に影響を与える可能性のある、IT 以外の要因、プロセス関連要因、または外部要因に関係します。通常、これらには、スキャンツールによる検出を回避するサードパーティ、施設、または外部の状況に関する問題が含まれます。

のワークフロー オペレーショナル脆弱性

オペレーショナル脆弱性を解決するには、いくつかの重要な手順を実行します。

1. 識別:運用上のギャップを認識します。
2. アセスメント:脆弱性に対処する必要があるかどうかを評価します。この評価は、1 回または繰り返し行うことができ、修理コストと、問題の解決による潜在的な節約額を比較検討します。
3. 意思決定:アセスメントに基づいて、対処措置を決定します。脆弱性に対処する場合は、次のタスクを完了してください。
   - タスク割り当て:特定のタスクを関連する個人に割り当てます。
   - 完了と検証:タスクが完了したら、脆弱性が解決されたことを確認します。
4. 受け入れとしての代替パス:アセスメント後、脆弱性はそのまま受け入れられる場合があります。この場合、それ以上のアクションは実行されず、脆弱性が確認されてクローズされます。

のユースケース オペレーショナル脆弱性

次の例で概説されている状況は、運用上の脆弱性を示しています。これらの問題は、IT スキャナーでは検出できませんが、該当分野の専門家によって特定できます。これらは、特定のサードパーティとの作業や単一の施設への依存など、日常業務における弱点やギャップを表します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

シナリオ	説明
サードパーティと連携するか、単一の施設に依存する	ある企業が、重要なプロセスを特定の地域のサードパーティにアウトソーシングしているとします。時事問題により、サードパーティはサービスを提供できず、会社はこの地域からサービスを受けることができません。 顧客にサービスを提供することを約束している同社は、事業を継続するために代替のサードパーティを迅速に特定する必要があります。 同社にとって重要なことは、第三者集中のリスクに対処することです。
手動での介入が必要な IT に関連しない脆弱性	遠隔地にある重要な金融機関を考えてみましょう。近くの状況でその地域が危険にさらされた場合、管理チームはこれを脆弱性として識別する可能性があります。 これは、手動操作を必要とする IT 以外の関連の脆弱性の別の例となります。

これらの運用上の脆弱性に対処するために、組織は、複数の地域にわたるサードパーティの多様化や金融施設の移転など、さまざまなアプローチを調査できます。これらのソリューションを実装するために、組織は通常、費用便益分析を実行し、運用上の脆弱性を軽減するためのコストや、ソリューションが 1 回限りの解決策、一時的な対策、または永続的な解決策であるかどうかなどの要素を比較検討します。

報告 オペレーショナル脆弱性

オペレーショナルレジリエンスアプリケーションユーザーは誰でも、オペレーショナルレジリエンスチームの注意が必要な運用上の脆弱性を報告できます。

オペレーショナルレジリエンス機能のユーザーは、次のいずれかのオプションを使用して運用上の脆弱性を報告できます。

- 従業員センターから運用上の脆弱性を作成するには、「から運用上の脆弱性を報告 従業員センター」を参照してください。ユーザーには、 オペレーショナルレジリエンス ビジネスユーザー [sn_oper_res.operational_resilience_business_user] ロールが必要です。
- オペレーショナルレジリエンスワークスペースのオペレーショナル脆弱性メニューから運用上の脆弱性を作成するには、「モジュールから運用上の脆弱性を報告する」を参照してください。ユーザーには、 オペレーショナルレジリエンス マネージャー [sn_oper_res.operational_resilience_manager] ロールが必要です。
- オペレーショナルレジリエンスワークスペースのレコードから運用上の脆弱性を作成するには、次のトピックを参照してください。
  - 重要性アセスメントから運用上の脆弱性を報告する
  - シナリオ分析からの運用上の脆弱性の報告
  - 自己証明書モジュールから運用上の脆弱性を報告する
  - サービスレコードから運用上の脆弱性を報告

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

脆弱性の状況

運用上の脆弱性レコードは、次のワークフロー状況に移行します。

脆弱性レコードの状況

状況	説明
新規	脆弱性がオープンされ、レビューの初期段階にあります。
アセスメント	脆弱性は、適切な対処措置を決定するために評価されています。
処理	この脆弱性は、情報と証拠を収集するために積極的に調査されています。行動方針と治療は決定されています。
承認待ち	この脆弱性は解決策を見つけるために作業中です。
承認済み	脆弱性が解決された後、脆弱性のレビューが行われています。
クローズ済み	この脆弱性はクローズされ、アクティブではなくなりました。
キャンセル	この脆弱性はキャンセルされ、追跡されなくなります。

脆弱性に関するメール通知

脆弱性がユーザーにアサインされると、脆弱性の詳細、今後のアクション、および期日について通知するメール通知がユーザーに送信されます。メール通知は、次のユーザーに送信されます。

1. 脆弱性がアナリストまたはユーザーにアサインされると、メール通知が送信されます。
2. 脆弱性が承認または却下されると、アナリストはメール通知を受信します。
3. 脆弱性がキャンセルされると、承認者、要求者、アナリスト、およびウォッチリストのユーザーがメール通知を受信します。

から運用上の脆弱性を報告 従業員センター

従業員センター から運用上の脆弱性を報告します。従業員またはユーザーは、運用上の脆弱性や苦情をサポートチームに直接報告して、迅速に対応することができます。アサイン先グループのユーザーは、運用上の脆弱性についてアナリストをアサインできます。問題を報告することで、タイムリーに損失を削減し、回避することができます。

始める前に

必要なロール:sn_oper_res.operational_resilience_business_user

このタスクについて

運用上の脆弱性が報告されると、[新規] ステータスでオープンされ、初期レビューの開始をマークします。

手順

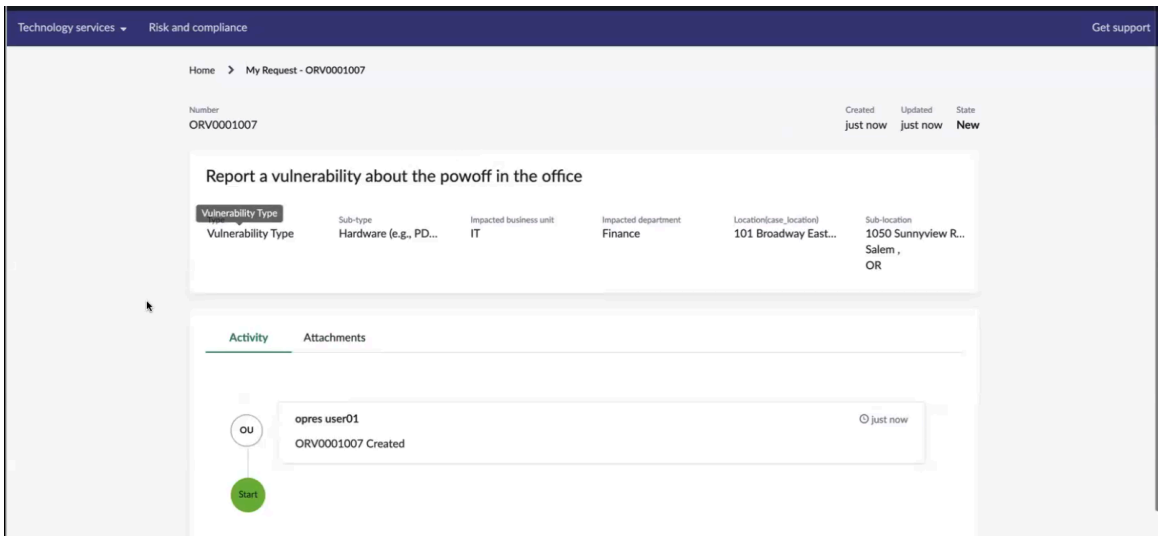
1. 移動先 すべて > セルフサービス > 従業員センター.
2. [リスクとコンプライアンス] タブを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [リスクとコンプライアンスのトピック] で、[オペレーショナルレジリエンス] を選択します。
4. [運用上の脆弱性を報告] を選択します。
5. フォームで、フィールドに入力します。
   各フィールドの説明については、「運用上の脆弱性の報告フォーム」を参照してください。
6. サポート資料または証拠を提供するには、[添付ファイルを追加] を選択します。
7. 脆弱性の詳細をドラフトとして保存するには、[ドラフトとして保存] を選択します。
8. **[Submit** (送信)] を選択します。

脆弱性を次の例に示します。



運用上の脆弱性の報告フォーム

[運用上の脆弱性を報告] フォームで、フィールドに入力します。

運用上の脆弱性の報告フォーム

フィールド	説明
タイトル	脆弱性の名前。例: マルウェアにより顧客データが侵害されました。
説明	脆弱性の簡単な説明。
脆弱性タイプ	脆弱性の性質またはタイプ。このフィールドは自動的に [脆弱性タイプ] に設定されます。
サブタイプ	脆弱性のサブタイプ。たとえば、ドキュメントの損失。
発生日	脆弱性が発生した日付。たとえば、脆弱性は 2024 年 3 月 21 日に発生した可能性があります。
検出日	脆弱性が検出された日付。たとえば、脆弱性は 2024 年 3 月 21 日に発生しても、2024 年 5 月 21 日にのみ検出される場合があります。
プライマリ作成元	
影響を受ける事業部門	脆弱性の影響を受ける事業部門。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

運用上の脆弱性の報告フォーム (続く)

フィールド	説明
影響を受ける部門	脆弱性の影響を受ける部門。
発生場所 (Location of occurrence)	脆弱性が発生した場所。たとえば、場所は日本です。
サブ場所	脆弱性が発生したサブ場所。たとえば、脆弱性のサブ場所は 東京です。
関連領域	
ソース	脆弱性のソース。たとえば、手動、重要性および影響分析、サービスなどです。
ソーステーブル	脆弱性のソースを示すテーブル。
ソースレコード	脆弱性のソースレコードの名前。例:Blackberry サービス このフィールドは、ソースが 手動の場合にのみ表示されるわけではありません。
添付ファイルを追加	脆弱性の添付ファイル。ファイルを選択するか、フォームに添付されるようにドラッグすることができます。

報告された脆弱性をアナリストにアサインする

報告された脆弱性を オペレーショナルレジリエンスワークスペースのアナリストにアサインします。

始める前に
必要なロール:sn_oper_res.admin

このタスクについて
オペレーショナルレジリエンスワークスペースのアドミニストレーターは、報告された脆弱性をアプリケーション内のアナリストにアサインすることができます。

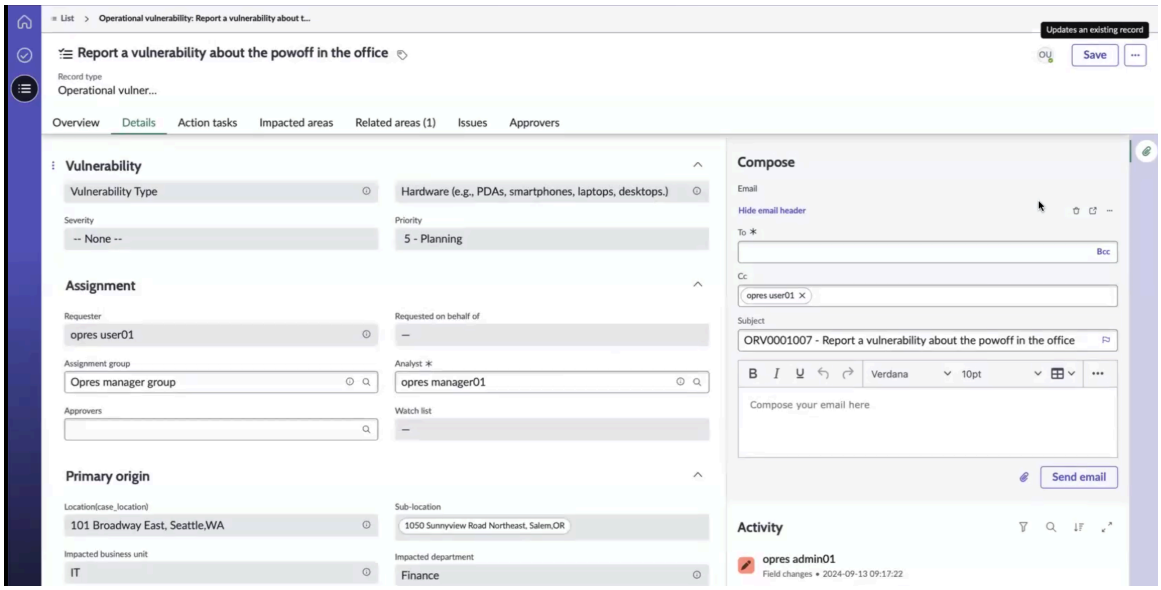
手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > 未アサインの運用上の脆弱性.
2. リストから報告された脆弱性を選択します。
3. アナリストにアサインします。

   フォームの詳細を例に示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. **[Save** (保存)] を選択します。

モジュールから運用上の脆弱性を報告する

オペレーショナルレジリエンスワークスペースのオペレーショナル脆弱性モジュールから運用上の脆弱性を報告します。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.manager

このタスクについて

運用上の脆弱性が報告されると、[新規] ステータスでオープンされ、初期レビューの開始をマークします。

運用上の脆弱性のユーザーは、フォームの [アサイン] セクションに一覧表示され、名前が次のいずれかのフィールドにリストされている場合はタスクを見つけることができます。

- オペレーショナル脆弱性レコードは、脆弱性を報告したユーザーに割り当てられます。ユーザーの名前が [要求者] フィールドと [アナリスト] フィールドに表示されます。アナリストは、脆弱性がアナリストにアサインされると通知を受け取ります。
- 通常、 オペレーショナルレジリエンス アドミニストレーターと オペレーショナルレジリエンス マネージャーはアサイン先グループに属します。グループの名前が [アサイン先グループ] フィールドに表示されます。
- 要求者は、[代理で要求済み (**Requested on behalf** of)] フィールドでユーザーを選択することで、他のユーザーの代わりに脆弱性を報告できます。
- 要求者は、[承認者] フィールドに脆弱性の承認者を 1 人以上追加できます。脆弱性が [承認待ち] ステータスに移行すると、承認者は通知を受信します。
- 要求者は、[ウォッチリスト] フィールドで脆弱性のウォッチリストに 1 人以上のユーザーを追加できます。
- 脆弱性の要求者、および [ウォッチリスト] および [代理で要求済み] フィールドのユーザーは、脆弱性がアサインされても通知を受け取りません。

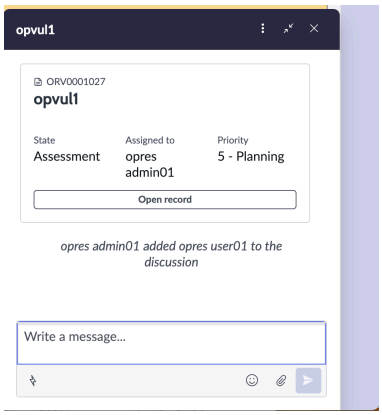
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > すべての運用上の脆弱性.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. オペレーショナル脆弱性レコードの名前と説明を入力します。
4. 脆弱性の新規レコードフォームで、フィールドに入力します。
   フィールドの詳細については、 新しい運用上の脆弱性フォームの作成を参照してください。
5. 脆弱性の処理決定を選択します。
   治療の決定を下すには、次のいずれかの選択肢を使用できます。
   - **Accept** (承認)
   - 回避
   - 緩和
   - 転送
   - なし
6. **[Submit** (送信)] を選択します。
   オペレーショナル脆弱性レコードは、デフォルトで要求者とアナリストにアサインされます。要求者は、脆弱性を報告するユーザーです。アナリストは、脆弱性を分析して対処する人です。
7. 脆弱性のステータスを更新するには、[ステータスの更新] を選択します。
8. 脆弱性を保存するには、[保存] を選択します。
9. 脆弱性の関係性データを表示するには、[**360** 度ビュー] を選択します。
10. サイドバーディスカッションを開始するには、[ディスカッション] を選択します。

    例に示すようにサイドバーディスカッションが表示されます。



    作成された新しいディスカッションは、レコードの [アクティビティ] パネルにも表示されます。

11. 脆弱性の詳細を PDF 形式でエクスポートするには、[**PDF** をエクスポート] を選択し、[運用上の脆弱性テンプレート] など、エクスポートするテンプレートを選択して [エクスポート] を選択します。
    PDF レポートが生成され、レコードの [アクティビティ] パネルの [添付ファイル] セクションに表示されます。
12. 脆弱性レコードのメールドラフトを作成するには、[メールの作成] を選択し、詳細を入力して [保存] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レコードにメールドラフトの詳細を入力できます。メールの詳細、メールドラフトの受信者、メールドラフトの添付ファイルをそれぞれの関連リストに保存して表示できます。

13. 脆弱性レコードを削除するには、[削除] を選択します。

新しい運用上の脆弱性フォームの作成

[新規運用上の脆弱性を作成 (Create New Operational Vulnerability)] フォームで、フィールドに入力します。

新しい運用上の脆弱性フォームの作成

フィールド	説明
番号	脆弱性の番号。このフィールドは自動的に設定されます。
名前	脆弱性の名前。たとえば、「 環境の脆弱性」などです。
説明	脆弱性の説明。
状況	脆弱性のワークフローステータス。このフィールドは自動的に [新規] に設定されます。
タイプ	脆弱性の性質またはタイプ。このフィールドは自動的に [脆弱性タイプ] に設定されます。
重大度	脆弱性の重大度。選択肢は次のとおりです。 • 低 • 中 • 高 • 重大
サブタイプ	脆弱性のサブタイプ。たとえば、ドキュメントの損失。
優先度	脆弱性の優先度。選択肢は次のとおりです。 • **1** - 重大 • **2** - 高 • **3** - 中 • **4** - 低 • **5** - 計画中 • なし **注:** このフィールドはデフォルト値の [計画中] に設定されています。
プライマリエンティティ	ケースの影響を受けるエンティティ。影響を受ける領域で識別されたエンティティのみをプライマリエンティティとして選択できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい運用上の脆弱性フォームの作成 (続く)

フィールド	説明
エンティティオーナー	エンティティのオーナーになっているユーザー。このフィールドは、[影響領域] 関連リストで選択されたエンティティに基づいて自動的に設定されます。
個人情報	
個人情報を含む (Contains personal information)	違反に個人情報が含まれているかどうかを判断するフィールド。選択肢は次のとおりです。 • 未決定 **(To be decided)**：違反に個人情報が含まれているかどうかわからない場合は、このオプションを選択します。 • はい：違反に個人情報が含まれている場合は、このオプションを選択します。 • いいえ：違反に個人情報が含まれていない場合は、このオプションを選択します。
影響を受けた個人の数	ケースの影響を受けるユーザーの数。
影響を受けるデータ主体/個人のカテゴリ	ケースによって影響を受けるユーザーを定義します。選択肢は次のとおりです。 • 顧客 • 従業員
アサイン	
要求者	脆弱性を報告したユーザー。
アサイン先グループ	ケースがアサインされるグループ。 **注:** アサイン先グループは、構成セットアップ中にケースタイプに事前に構成されます。
承認者	脆弱性の承認者。
代理の依頼主	代理で脆弱性を作成したユーザーの名前。
アナリスト	脆弱性を分析して対処するアナリスト。アナリストはアサイン先グループに属しています。
ウォッチリスト	脆弱性を認識する必要があるユーザー。
プライマリ作成元	
場所	脆弱性が発生した場所。たとえば、場所は日本です。
影響を受ける事業部門	違反の影響を受ける事業部門。
サブ場所	脆弱性が発生したサブ場所。たとえば、サブ場所は東京です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい運用上の脆弱性フォームの作成 (続く)

フィールド	説明
ソース	脆弱性の作成元。運用上の脆弱性が手動で作成されると、このフィールドは自動的に [手動] に設定されます。運用上の脆弱性が 従業員センターから報告された場合、フィールドにはソースが 従業員センターとして表示されます。オペレーショナルレジリエンスマネージャーは、ソースを更新したり、関連する領域に新しいソースを追加したりすることができます。
影響を受ける部門	脆弱性の影響を受ける部門。選択肢は次のとおりです。 • 財務 • **HR** • **IT** 部門 • マーケティング • セールス
ソーステーブル	脆弱性の作成元のソーステーブル。
ソースレコード	脆弱性が作成されるソースオブジェクトのソースレコード。たとえば、脆弱性がリスクイベントから報告された場合、このフィールドには脆弱性の報告元のリスクイベントの名前が表示されます。
スケジュール	
発生日	脆弱性が発生した日付。たとえば、この脆弱性は 2024 年 2 月 18 日に発生した可能性があります。
検出日	脆弱性が検出された日付。たとえば、脆弱性は 2024 年 2 月 18 日に発生しても、2024 年 3 月 12 日に検出される場合があります。
期日	脆弱性が期限切れになる日付。
クローズ日	脆弱性がクローズされた日付。
報告日	脆弱性が報告された日付。
アセスメントの開始日	アセスメントの開始日または脆弱性が分析された日付。
処理待ち承認の開始日	脆弱性が解決された日付。
承認日	脆弱性のケースの事後レビュー日。
結果	
処理	治療のための決定。選択肢は次のとおりです。 • **Accept** (承認) • 回避

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい運用上の脆弱性フォームの作成 (続く)

フィールド	説明
	• 緩和 • 転送 • なし
根本原因の分析	
根本原因	脆弱性が発生する主な原因。
アクティビティ	
作業メモ (プライベート)	脆弱性に関するメモまたは情報。
コメント (顧客に表示)	顧客の脆弱性に関する追加情報。
メール	ステークホルダーに対して脆弱性に関するメールを作成するオプション。
添付ファイル	脆弱性の PDF を添付するオプション。
アクションタスク	脆弱性に関連付けられたアクションタスク。
プライマリ作成元	脆弱性の主な発生元。
影響領域	脆弱性に関連する影響領域。
問題	脆弱性に関連する問題。
承認者	脆弱性の承認者。

重要性アセスメントから運用上の脆弱性を報告する

オペレーショナルレジリエンスワークスペースの重要性および影響度アセスメントから運用上の脆弱性を報告します。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.manager

このタスクについて

アセスメントレコードから オペレーショナル脆弱性 を作成するには、これらのレコードの [オペレーショナル脆弱性] 関連リストを使用できます。この例では、重要性および影響許容度アセスメントレコードから脆弱性を作成する方法を示しています。アセスメントレコードを オペレーショナル脆弱性 レコードに関連付けると、脆弱性の関連領域が [関連領域] 関連リストに表示されます。

脆弱性が報告されると、[新規] ステータスでオープンされ、初期レビューの開始を示します。

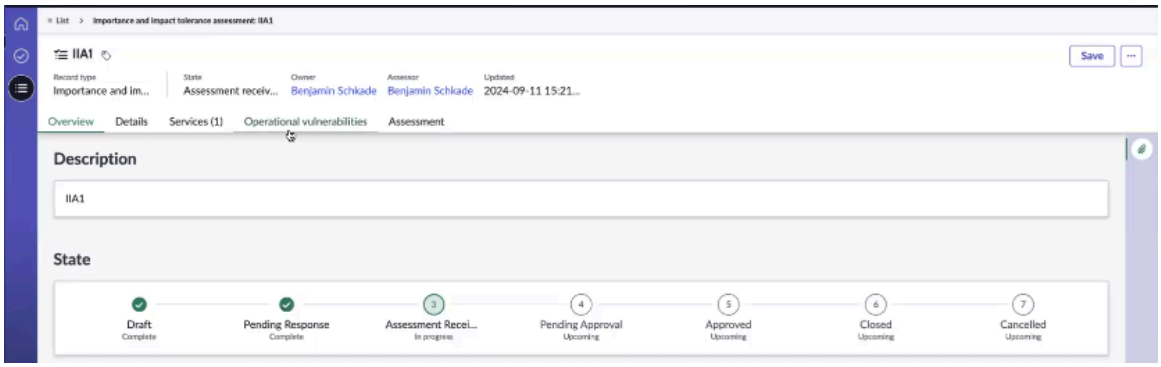
手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > 重要性および影響許容度アセスメント.
   利用可能なアセスメントのリストが表示されます。
2. リストからアセスメントを選択します。
   [運用上の脆弱性を含む重要性および影響許容度アセスメントレコード] 関連リストが表示されます。
3. 重要性および影響許容度アセスメントのステータスを確認します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

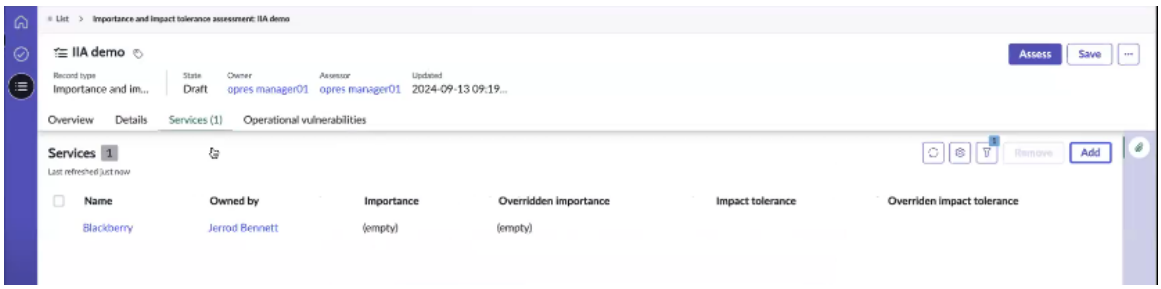
ステータスが [アセスメントを受信 済み] ステータスの場合、例に示すように、この段階で脆弱性を追加することはできません。脆弱性が [アセスメントを受信 済み] ステータスになる前に、脆弱性を追加または削除できます。



重要性および影響許容度アセスメントレコードを作成して、脆弱性を追加できます。

4. 重要性および影響許容度アセスメントレコードを作成して保存します。
5. 重要性および影響許容度アセスメントレコードにサービスを追加します。

例にサービスレコードを示します。



サービスが重要性および影響許容度アセスメントレコードに追加されると、運用上の脆弱性を追加でき、[新規] ボタンが運用上の脆弱性関連リストに表示されます。

6. [運用上の脆弱性] 関連リストで [新規] を選択し、運用上の脆弱性を追加します。
7. 脆弱性の新規レコードフォームで、フィールドに入力します。

脆弱性のソースは、重要性および影響許容度アセスメントです。したがって、フォームの [ソース] フィールドにはソースが [重要性および影響度アセスメント] として表示され、フォームの [ソーステーブル] フィールドにはテーブルが [重要性および影響許容度アセスメント] として表示されます。

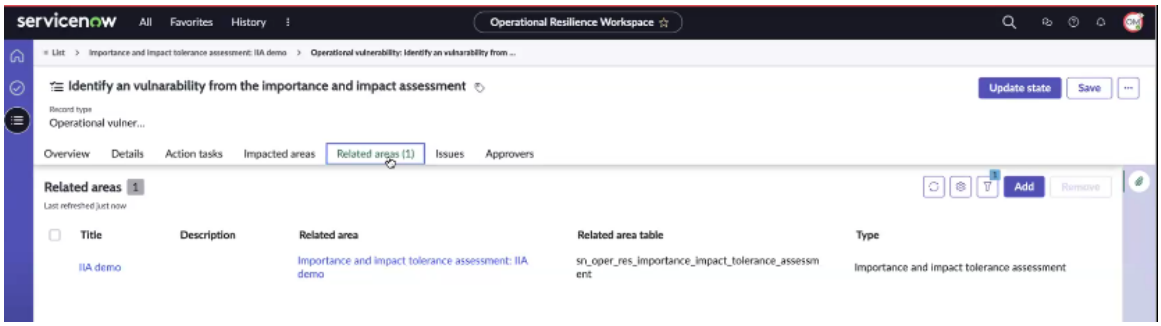
フィールドの詳細については、 新しい運用上の脆弱性フォームの作成を参照してください。

8. **[Save** (保存)] を選択します。

脆弱性レコードが保存されます。重要性および影響許容度アセスメントを脆弱性に関連付けると、例に示すように関連する領域が作成されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



脆弱性に別の関連領域を追加できます。

シナリオ分析からの運用上の脆弱性の報告

オペレーショナルレジリエンスワークスペースのシナリオ分析から運用上の脆弱性を報告します。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.manager

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > シナリオ分析.
   利用可能なシナリオ分析のリストが表示されます。
2. リストからシナリオ分析レコードを選択します。
   シナリオ分析レコードを作成して保存すると、[運用上の脆弱性] 関連リストが表示されます。
   [運用上の脆弱性] 関連リストを含むシナリオ分析レコードが表示されます。
3. シナリオ分析レコードのステータスを確認します。

   シナリオ分析が [分析承認待ち] ステータスの場合、このステージでは脆弱性を追加または削除できません。

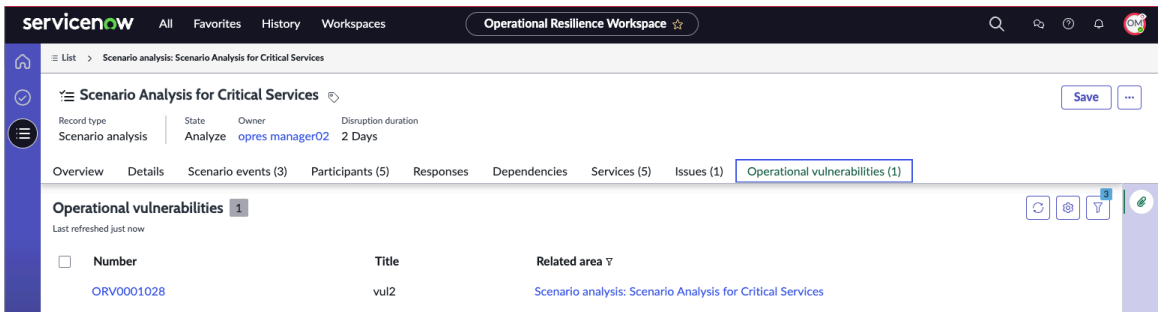
4. [運用上の脆弱性] 関連リストで [新規] を選択し、運用上の脆弱性を追加します。
5. 脆弱性の新規レコードフォームで、フィールドに入力します。

   脆弱性のソースはシナリオ分析です。したがって、フォームの [ソース] フィールドにはソースが [シナリオ分析] として表示され、フォームの [ソーステーブル] フィールドにはテーブルが [シナリオ分析] として表示されます。[ソーステーブル] フィールドは自動入力されます。

   フィールドの詳細については、 新しい運用上の脆弱性フォームの作成を参照してください。

6. **[Save** (保存)] を選択します。

   次の例は、シナリオ分析レコードが運用上の脆弱性関連リストにどのように表示され、 オペレーショナル脆弱性 が重要なサービスのシナリオ分析に関連付けられているかを示しています。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

7. **[Save** (保存)] を選択します。

   シナリオ分析レコードが保存されます。

自己証明書モジュールから運用上の脆弱性を報告する

オペレーショナルレジリエンスワークスペースの自己証明書モジュールからオペレーショナル脆弱性を報告します。

始める前に
必要なロール：sn_oper_res.manager

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > 自己証明.
   利用可能な自己証明書のリストが表示されます。
2. リストから自己証明書レコードを選択します。
   自己証明書レコードを作成して保存すると、[運用上の脆弱性] 関連リストが表示されます。
   [運用上の脆弱性] 関連リストを含む自己証明書レコードが表示されます。
3. 自己証明書レコードのステータスを確認します。

   自己証明書が [証明書を受信済み] ステータスの場合、このステージでは脆弱性を追加または削除できません。

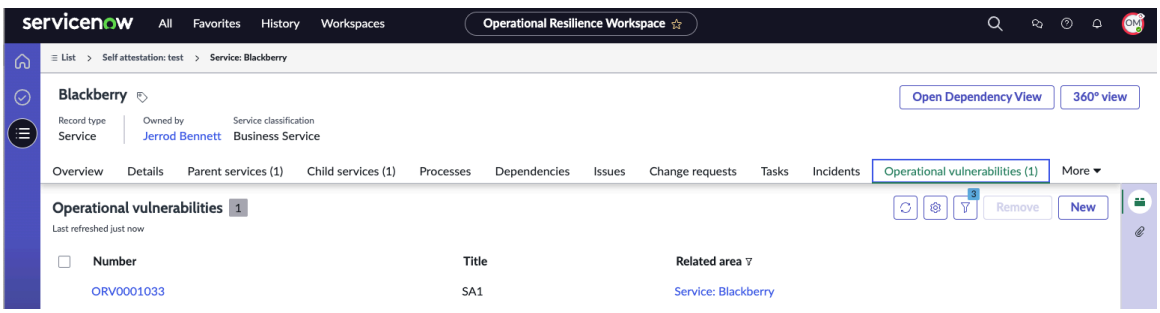
4. 自己証明書レコードにサービスを追加します。
5. サービスレコードを開き、[その他] を選択して、[運用上の脆弱性] 関連リストを追加します。
6. [運用上の脆弱性] 関連リストで [新規] を選択し、運用上の脆弱性を追加します。
7. 脆弱性の新規レコードフォームで、フィールドに入力します。

   脆弱性のソースは自己証明書です。したがって、フォームの [ソース] フィールドにはソースが [自己証明書] と表示され、フォームの [ソーステーブル] フィールドにはテーブルが [自己証明書] と表示されます。[ソーステーブル] フィールドは自動入力されます。

   フィールドの詳細については、 新しい運用上の脆弱性フォームの作成を参照してください。

8. **[Save** (保存)] を選択します。

   次の例は、自己証明書レコードが [運用上の脆弱性] 関連リストにどのように表示され、 オペレーショナル脆弱性 が重要なサービスの自己証明書に関連付けられるかを示しています。



9. **[Save** (保存)] を選択します。

   自己証明書レコードが保存されます。

サービスレコードから運用上の脆弱性を報告

自己証明書リストで利用可能なサービスレコードから運用上の脆弱性を報告します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

始める前に
必要なロール：sn_oper_res.manager

手順

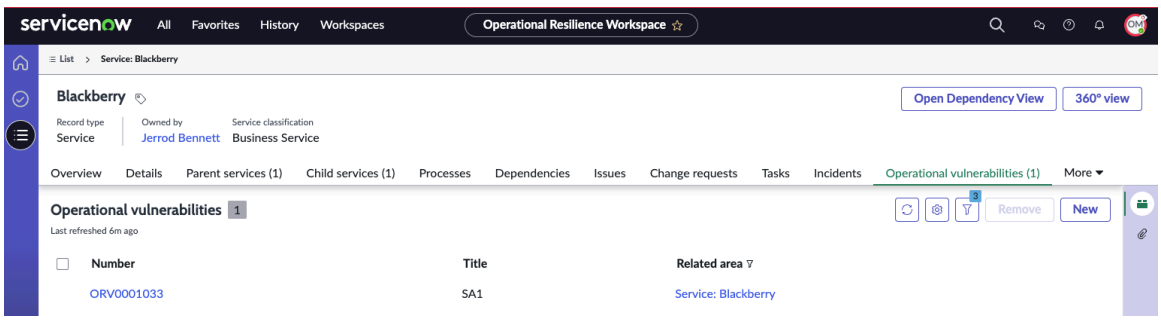
1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > 自己証明.
   利用可能な自己証明書のリストが表示されます。
2. リストからサービスレコードを選択して開きます。
3. [その他] を選択し、[運用上の脆弱性] 関連リストを追加します。
4. [運用上の脆弱性] 関連リストで [新規] を選択し、運用上の脆弱性を追加します。
5. 脆弱性の新規レコードフォームで、フィールドに入力します。

   脆弱性のソースは選択したサービスです。したがって、フォームの [ソース] フィールドにはソースが [サービス] と表示され、フォームの [ソーステーブル] フィールドにはテーブルが [サービス] と表示されます。[ソーステーブル] フィールドは自動入力されます。

   フィールドの詳細については、 新しい運用上の脆弱性フォームの作成を参照してください。

6. **[Save** (保存)] を選択します。

   次の例は、サービスレコードが [運用上の脆弱性] 関連リストにどのように表示されるか、およびオペレーショナル脆弱性 の関連領域が Blackberry サービスであることを示しています。



7. **[Save** (保存)] を選択します。

   サービスレコードが保存されます。

プライマリ作成元の追加

運用上の脆弱性のプライマリ作成元をそのレコードに追加します。運用上の脆弱性のプライマリ原因が指定されると、その上流の依存関係が影響を受ける領域に自動的に含まれます。これにより、影響を受けるすべての観点から運用上の脆弱性を表示できます。ソースは、[プライマリ作成元] タブにプライマリ作成元として自動的に追加されます。

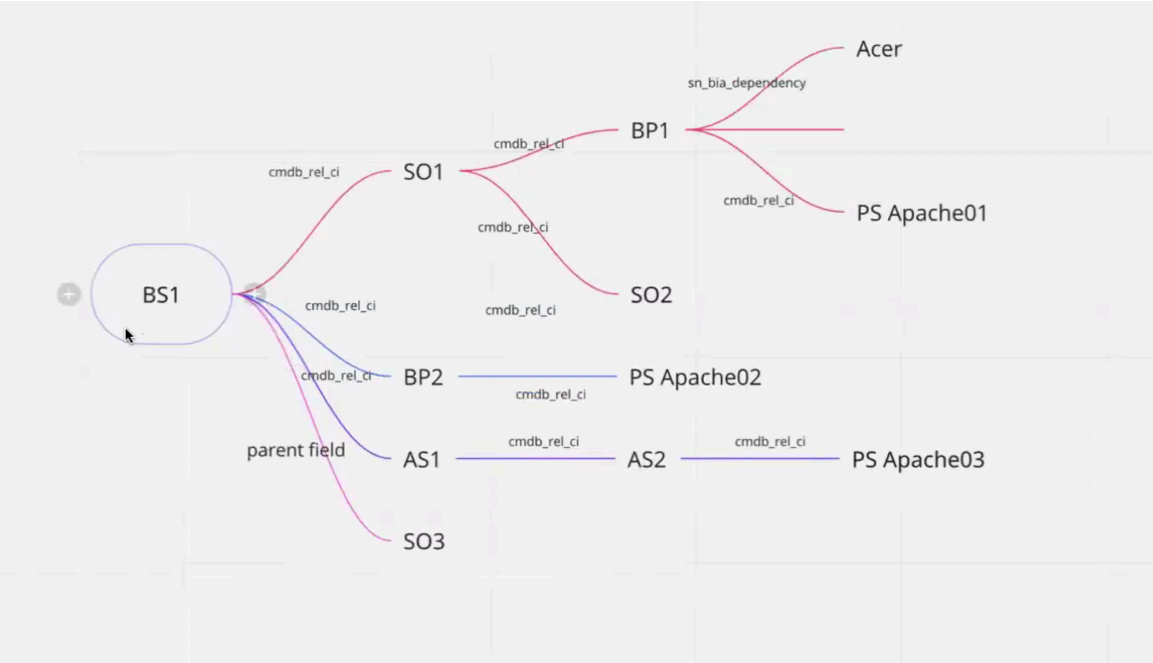
始める前に
必要なロール:運用上の脆弱性にアサインされたアナリスト

このタスクについて
リリース 20.1.x 以降、 オペレーショナルレジリエンス アプリケーションは最新の 共通サービスデータモデル (CSDM) (CSDM) をサポートしています。拡張機能は、依存関係のロールアップをサポートしています。

オブジェクト間で関係が構成されている次の例を考えてみましょう。

自動翻訳

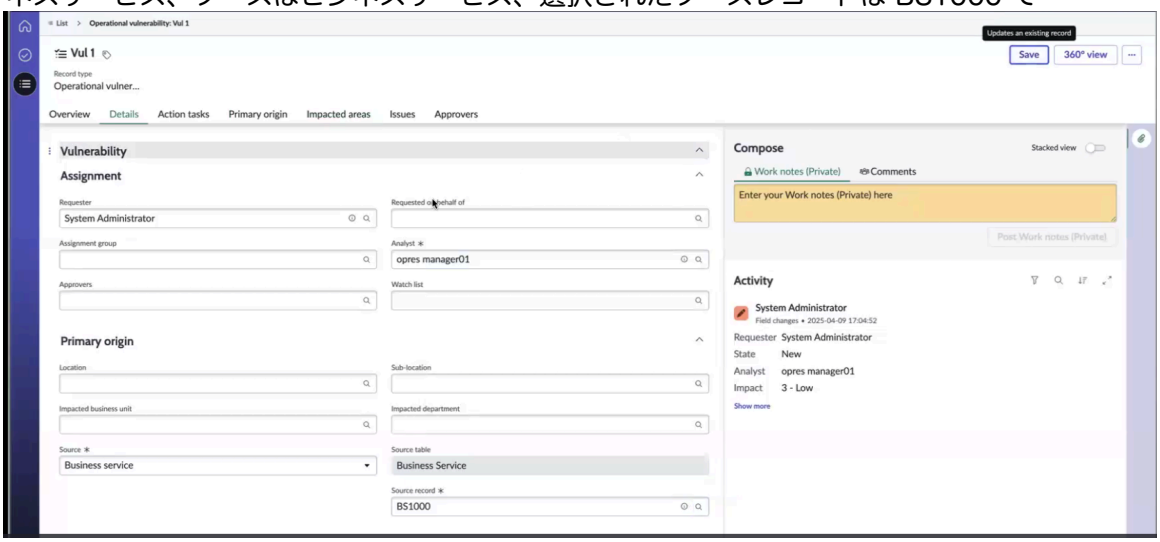
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



関係図に示されているようなビジネスプロセス BP1 がある場合、サービスオファリング SO1 とビジネスサービス BS1 がアップストリームの関係として存在します。この拡張機能により、BP1 を運用上の脆弱性として追加すると、影響を受ける領域に SO1 と BS1 が自動的に含まれ、運用上の脆弱性レコードの [影響領域] タブに表示されます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > すべての運用上の脆弱性.
2. 関連領域を追加する脆弱性を開きます。
3. [ソース] フィールドでソースを更新します。
4. [詳細] タブの [プライマリ作成元] セクションの [ソース レコード] フィールドでソース レコードを更新し、 [保存] を選択します。
   [詳細] タブの [プライマリ作成元] セクションの [ソース] フィールドにソースレコードを追加し、[ソースレコード] フィールドにソースレコードを追加すると、プライマリ作成元が自動的に編集され、[プライマリ作成元] タブに表示されます。次の例では、ソーステーブルはビジネスサービス、ソースはビジネスサービス、選択されたソースレコードは BS1000 です。



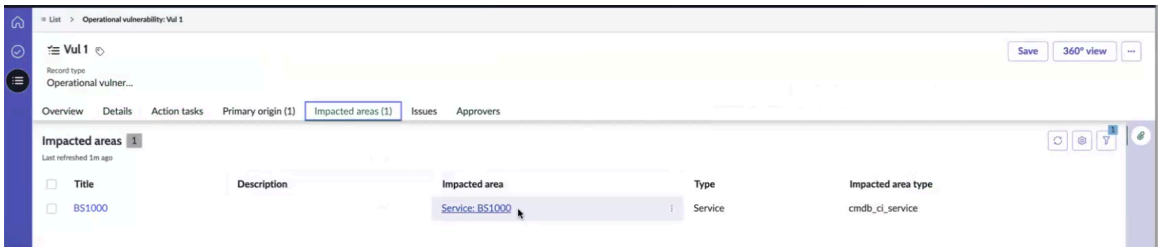
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

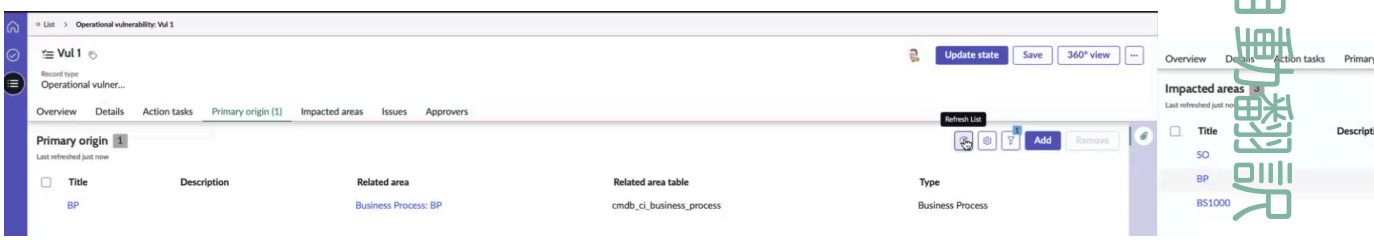
例に示すように、ソースレコード BS1000 は、[プライマリ作成元 **(Primary origin**)] タブのプライマリ作成元として自動的に更新されます。



例に示すように、プライマリオリジンを追加すると、その上流の依存関係が影響を受ける領域に自動的に追加されます。運用上の脆弱性は、影響を受けるすべての領域から確認できます。



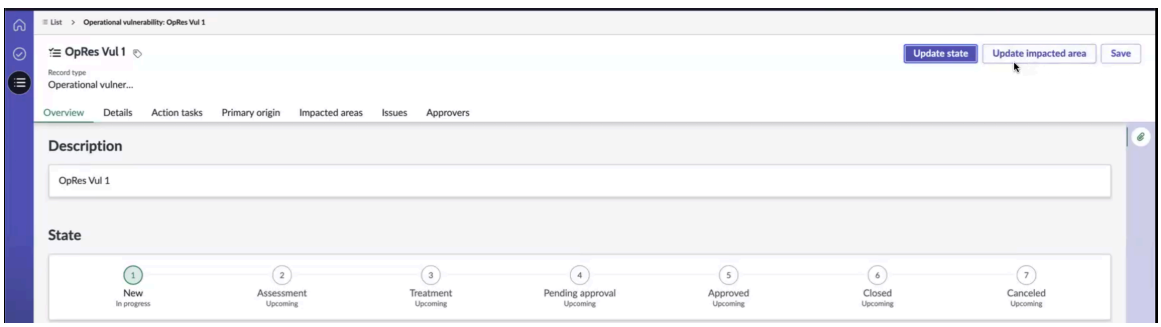
たとえば、ビジネスサービスからサービスオファリングへ、およびサービスオファリングからビジネスプロセス (BS - SO - BP) への関係を確立します。ここで、SO は BS のダウンストリームエンティティであり、BP は SO のダウンストリームエンティティです。運用上の脆弱性の [プライマリ作成元 **(Primary origin**)] タブで、ビジネスプロセス (BP) をフェッチすると、例に示すように、アップストリームの依存関係が自動的に追加されます。



注:
スケジュール済みジョブが実行されると、運用上の脆弱性が収集され、ホームページの危険フラグセクションに表示されます。

5. [プライマリ作成元] タブで、 [追加] を選択します。

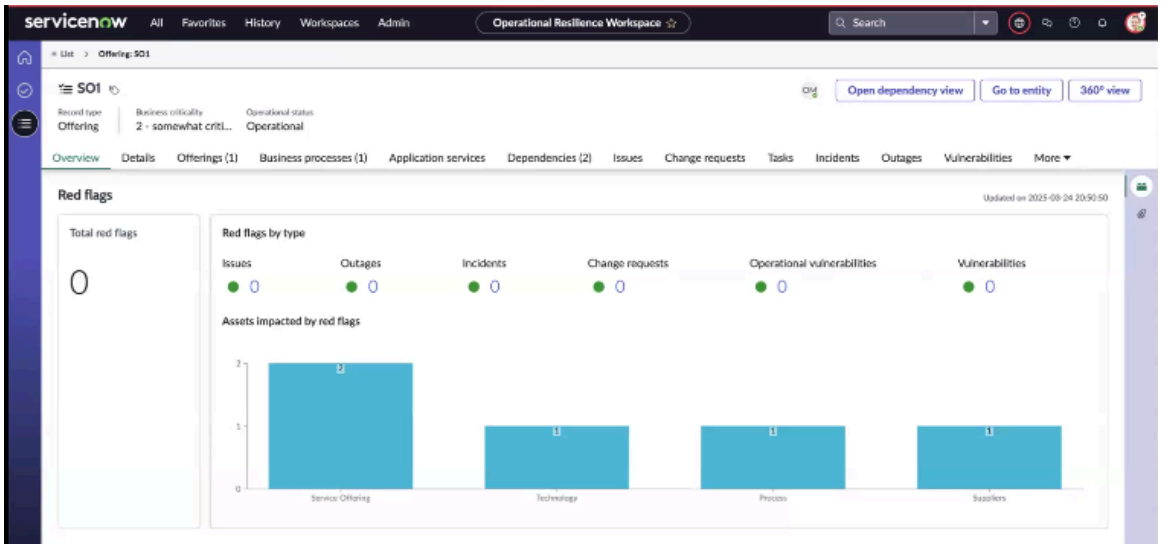
運用上の脆弱性のプライマリ作成元を追加できます。



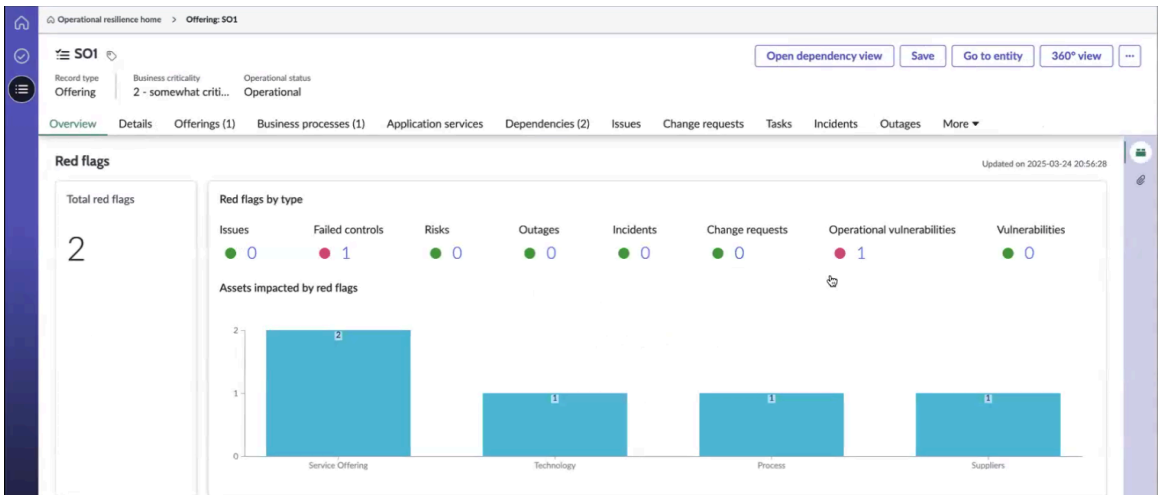
運用上の脆弱性のプライマリ作成元を追加すると、その影響領域とアップストリームエンティティが [影響領域] タブで更新されます。

*Calculate red flags for CSDM and dependencies*スケジュール済みジョブが実行されると、更新された影響領域と運用上の脆弱性の数がダッシュボードで更新されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

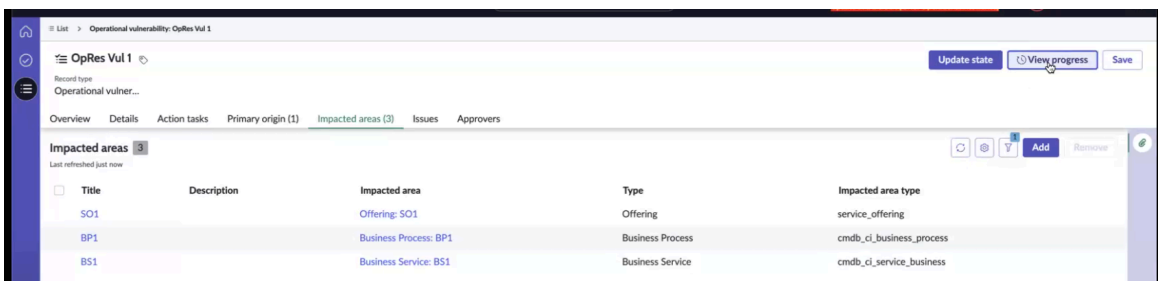


たとえば、運用上の脆弱性の影響を受ける領域が更新されると、スケジュール済みジョブが実行される前に、SO1 の概要ページの運用上の脆弱性の数が 0 になります。スケジュール済みジョブを実行すると、SO1 の概要ページの運用上の脆弱性の数が 1 に更新されます。これにより、更新されたデータが オペレーショナルレジリエンス ダッシュボードに迅速に反映されます。



6. 運用上の脆弱性のプライマリオリジンの影響領域を更新するには、 [更新された影響領域] を選択します。
   アプリケーションは、プライマリ作成元の影響領域をフェッチします。
7. プライマリ作成元のアップロードされたアップストリームアセットのステータスを表示するには、[進行状況の表示] UI アクションを選択します。

   オペレーショナルレジリエンスアドミニストレーターまたはマネージャーは、影響を受ける資産を運用上の脆弱性に追加するときに、進捗状況を表示できます。例に示すように、資産は [影響領域] タブに一覧表示されます。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プライマリ作成元フォーム

[プライマリ作成元] フォームで、フィールドに入力します。

プライマリ作成元フォーム

フィールド	説明
タイトル	関連領域のタイトル。
説明	関連領域の簡単な説明。
関連領域	報告された脆弱性またはイベントに関連する領域。このフィールドは、[関連領域タイプ **(Related area type)]** から値が選択されている場合にのみ使用できます。
関連領域テーブル	関連領域に関連付けられたテーブル。例:sn_oper_res_importance_impact_tolerance_assessment。
タイプ	関連領域のタイプ。例：関連するリスクイベント選択肢は次のとおりです。 • 引用文献 • ポリシー • コントロール目標 • リスクイベント

影響領域を追加

影響を受ける領域またはオブジェクトを、 オペレーショナルレジリエンスワークスペースの運用上の脆弱性レコードに追加します。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.manager

このタスクについて

脆弱性の影響を受ける領域が追加されると、脆弱性レコードの [概要] タブに表示されるように、そのステータスが [新規 (処理中)] に更新されます。

リリース 20.1.x 以降、 オペレーショナルレジリエンス アプリケーションは最新の 共通サービスデータモデル (CSDM) (CSDM) をサポートしています。拡張機能は、依存関係のロールアップをサポートしています。

手順

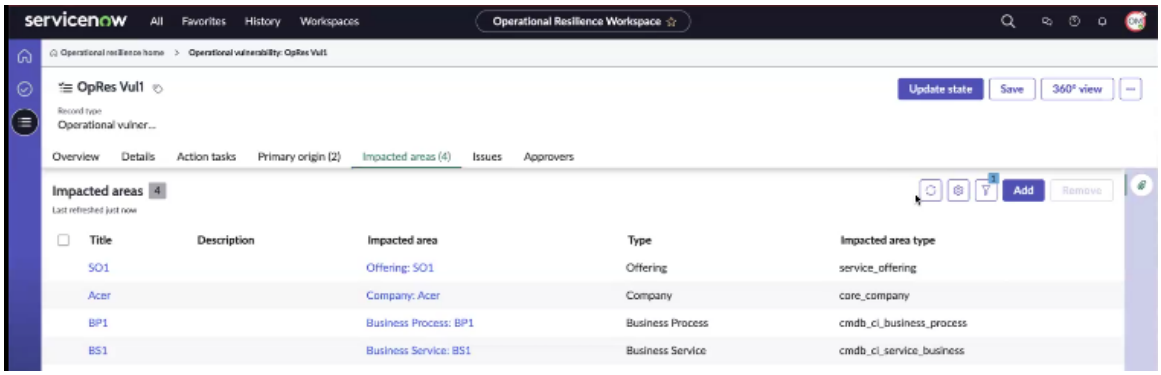
1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > すべての運用上の脆弱性.
2. 影響領域を追加する脆弱性を開きます。
3. **[New** (新規)] を選択します。
4. [影響領域] フォームのフィールドに入力します。
   フィールドの詳細については、 [影響領域] フォームを参照してください。
5. **[Save** (保存)] を選択します。

自動翻訳

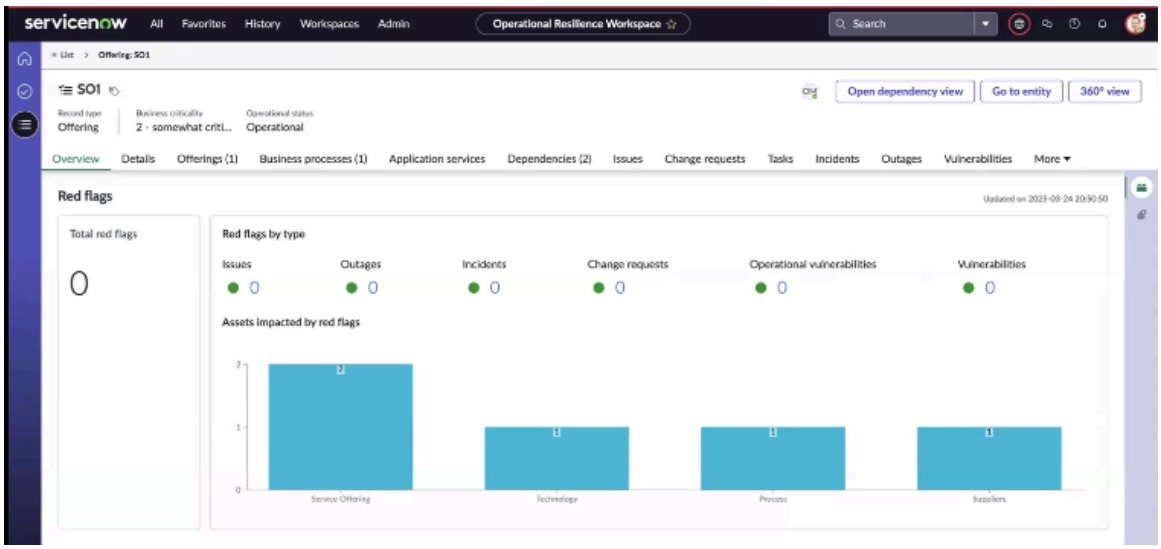
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
運用アドミニストレーターは、影響を受ける資産を運用上の脆弱性に追加する進捗状況を確認でき、依存関係の順序を変更することもできます。

運用上の脆弱性のプライマリ作成元を追加すると、その影響領域とアップストリームエンティティが [影響領域] タブで更新されます。



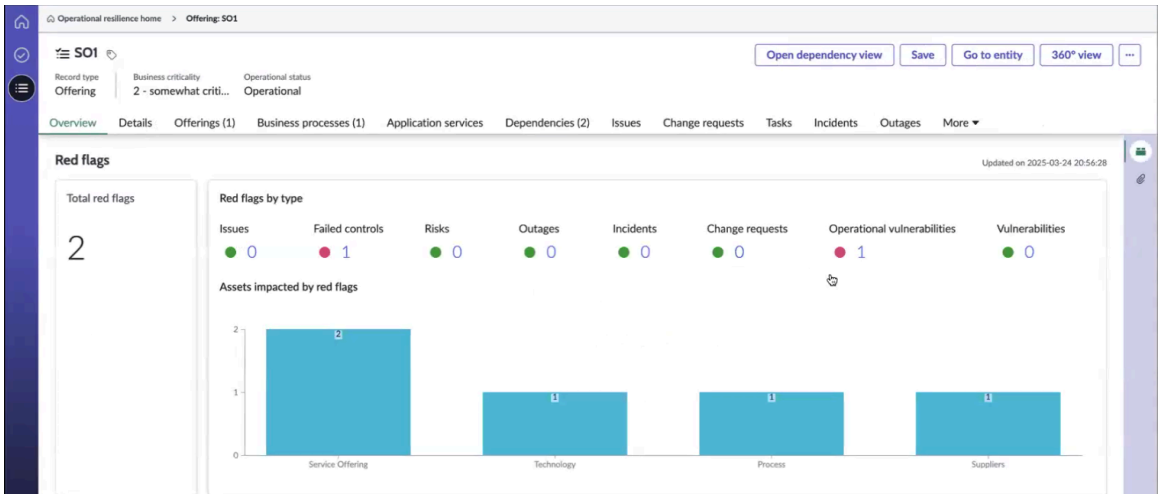
スケジュール済みジョブが実行されると、更新された影響領域と全体的な運用上の脆弱性の数がダッシュボードに反映されます。



たとえば、運用上の脆弱性の影響を受ける領域が更新されても、スケジュール済みジョブが実行される前は、SO1 の概要ページの運用上の脆弱性の数が 0 のままになります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



スケジュール済みジョブを実行すると、SO1 の概要ページの運用上の脆弱性の数が 1 に更新されます。これにより、更新されたデータが オペレーショナルレジリエンス ダッシュボードに迅速に反映されます。

[影響領域] フォーム

[影響領域] フォームのフィールドに入力します。

[影響領域] フォーム

フィールド	説明
タイトル	影響領域のタイトル。
説明	影響を受ける領域またはオブジェクトの簡単な説明。
影響領域	脆弱性またはイベントの影響を受ける領域またはオブジェクト。このフィールドは、[影響領域タイプ]から値が選択されている場合にのみ使用できます。たとえば、 **Company: 3Com** です。
タイプ	影響領域のタイプ。たとえば、ユーザーや会社などです。
影響領域タイプ	影響領域のタイプ。たとえば、イベントまたは脆弱性の場所などです。選択肢は次のとおりです。 • エンティティ • ロケーション • ユーザー • 会社 **注:** 独自の影響領域タイプを設定することもできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

運用上の脆弱性のステータスを更新します

オペレーショナル脆弱性レコードのステータスを [アセスメント] または [処理] ステータスに更新します。この段階では、脆弱性を評価して最善の対処措置を決定し、それに応じてアクションタスクを作成します。

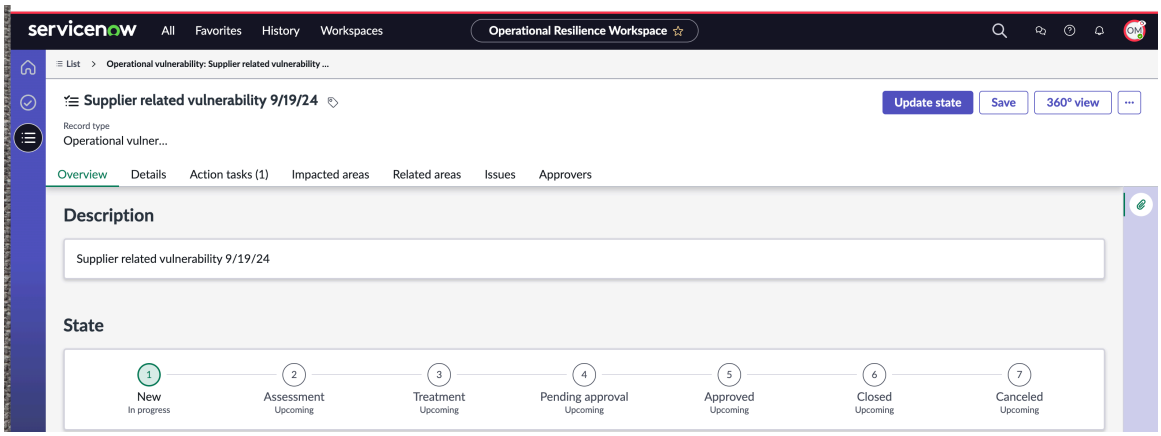
始める前に

必要なロール：sn_oper_res.manager

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > すべての運用上の脆弱性.
2. リストから脆弱性レコードを開きます。

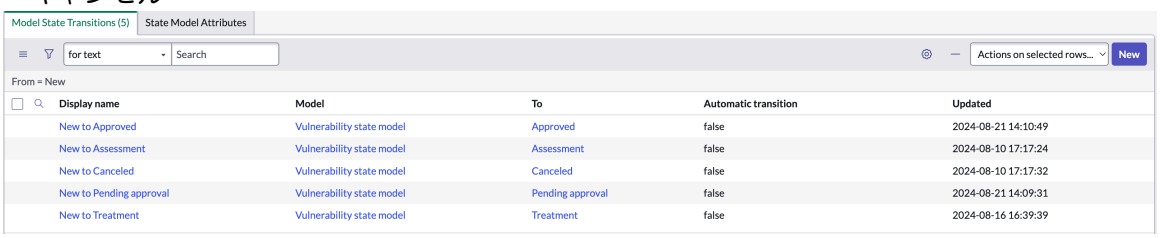
   オペレーショナル脆弱性レコードのステータスは [新規] です。



3. [ステータス UI アクションの更新] を選択します。

   例に示すように、[新規] ステータスは次のステータスに移行できます。

   - アセスメント
   - 処理
   - 承認待ち
   - 承認済み
   - クローズ済み
   - キャンセル



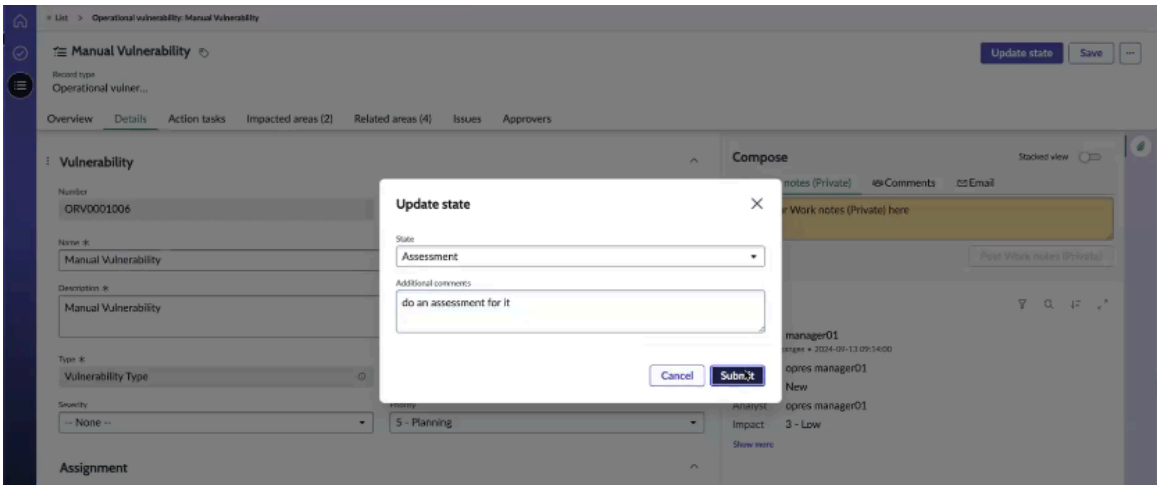
   状況移行モデルの詳細については、「状況モデルとアクションタスクモデルの設定」を参照してください。

4. 脆弱性レコードのステータスを更新します。

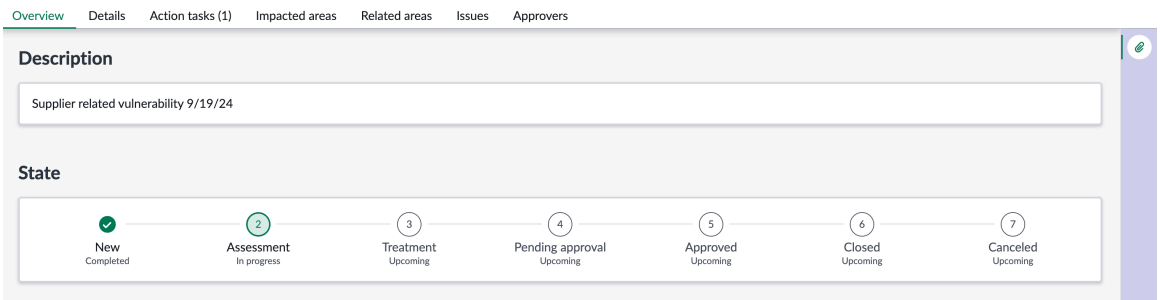
   例に [更新ステータス] ウィンドウを示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



例に示すように、ステータスが [アセスメント] に更新されると、 オペレーショナル脆弱性 レコードのステータスが [アセスメント進行中] ステータスに更新されます。



次のタスク
脆弱性レコードが [アセスメント] ステータスの場合、タスクオーナーはアセスメントタイプのアクションタスクを作成します。詳細については、「アセスメントタイプのアクションタスクの管理」を参照してください。

脆弱性レコードが [処理] ステータスの場合、タスクオーナーは調査タイプのアクションタスクを作成します。詳細については、「調査タイプのアクションタスクの管理」を参照してください。

運用上の脆弱性に対するアクションタスクの作成

オペレーショナル脆弱性アナリストは、1 つ以上のアクションタスクを作成して、脆弱性に関する追加情報または証拠を収集します。アクションタスクのタイプには、アセスメントタイプまたは調査タイプがあります。

オペレーショナル脆弱性アナリストは、適切なタスクオーナーにアセスメントまたは調査アクションタスクをアサインします。タスクオーナーは、タスクをレビューし、観察事項を記録し、アサインされた作業を終了して、作業をレビューするようタスクオーナーに通知します。

タスクオーナーは通常、次のアクションを実行します。

- アセスメントタイプのアクションタスクの管理
- 調査タイプのアクションタスクの管理

アクションタスクのワークフロー状況

アクションタスクは、次のワークフロー状況に移行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクションタスクのワークフロー状況

状況	説明
Draft (ドラフト)	アクションタスクはドラフト段階です。
アサイン済み	アクションタスクが適切なユーザーにアサインされました。
対応中	アクションタスクの作業が進行中です。
確認	アクションタスクはレビューステージにあります。
完了してクローズ	アクションタスクは [完了してクローズ] ステージにあります。
未完了でクローズ	アクションタスクは [未完了でクローズ] ステージです。
キャンセル	アクションタスクがキャンセルされました。

脆弱性に関連付けられたアクションタスクの通知

脆弱性に関連付けられたアクションタスク [sn_grc_case_mgmt_case_task] がユーザーにアサインされると、タスクの詳細、今後のアクション、および期日について知らせるメール通知がユーザーに送信されます。メール通知は、次のユーザーに送信されます。

1. アクションタスクがタスクオーナーにアサインされると、オーナーはメール通知を受信します。
2. アクションタスクがアサイン先グループにアサインされると、アサイン先グループのユーザーにメール通知が送信されます。
3. アクションタスクがレビューのために送信されると、運用上の脆弱性レコードにアサインされたアナリストは、タスクをレビューするためのメール通知を受信します。

アセスメントタイプのアクションタスクの管理

タスクのタイプがアセスメントである オペレーショナル脆弱性のアクションタスクを作成および管理します。その後、適切なタスクオーナーにアサインできます。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.manager

このタスクについて

このセクションで説明する手順を完了すると、 オペレーショナル脆弱性 レコードのステータスが [アセスメント] ステータスに更新されます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > すべての運用上の脆弱性 をクリックし、[アセスメント] ステータスの オペレーショナル脆弱性 レコードを開きます。
2. オペレーショナル脆弱性レコードで、[アクションタスク] 関連リストを選択し、[新規] を選択します。
3. [新規アクションタスクを作成] フォームで、フィールドに入力します。
   詳細については、「新しいアクションタスクの作成フォーム」を参照してください。
4. [タイプ] フィールドで、[アセスメント] を選択します。
   [アセスメントテンプレート] フィールドが表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

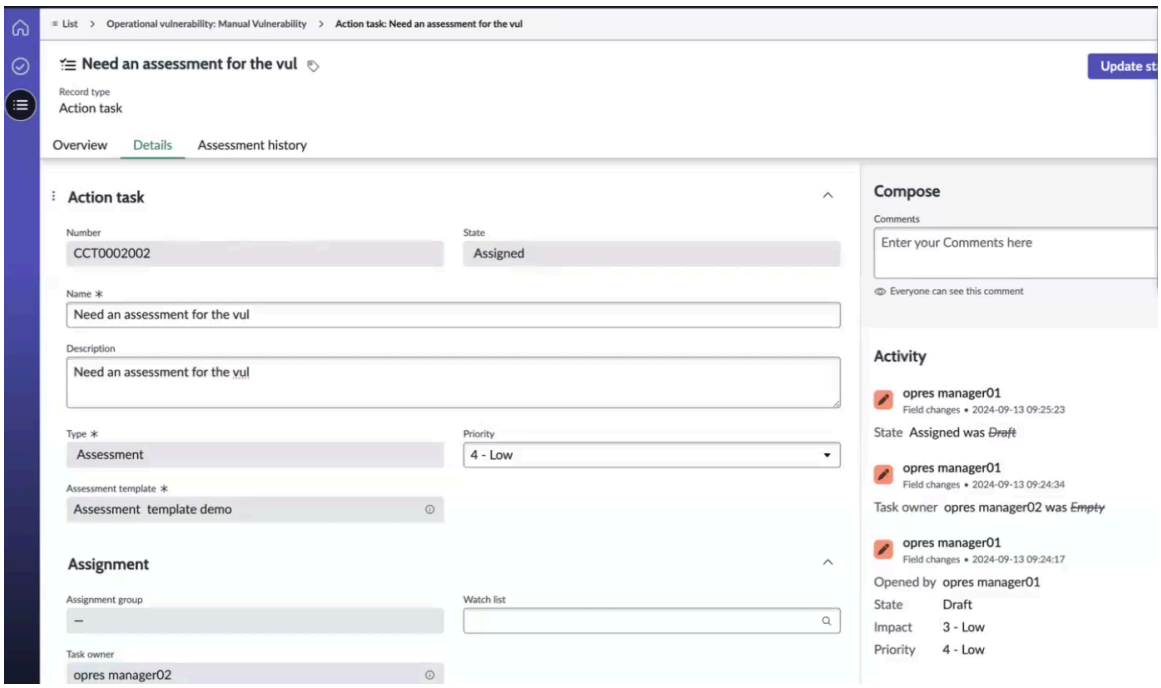
5. [アセスメントテンプレート] ウィンドウで、アセスメントの実行に使用するアセスメントテンプレートを選択します。
6. **[Save** (保存)] を選択します。

   選択したアセスメントテンプレートが、[アクションタスク] フォームの [アセスメントテンプレート] フィールドに表示されます。

   アクションタスクは [ドラフト] ステータスです。
7. アクションタスクフォームの [アサイン] セクションに移動し、[タスクオーナー] フィールドでタスクオーナーをアサインします。
8. [スケジュール] セクションで、アクションタスクの期日を [期日] フィールドに追加し、[保存] を選択します。
   アセスメントタイプのアクションタスクが保存されます。
9. アクションタスクをアクションタスク所有者にアサインするには、アクションタスクの [ステータスの更新] を選択し、[ステータスの更新] ウィンドウでステータスを [アサイン 済み] に更新して、[送信] を選択します。

   アクションタスクは [アサイン済み] ステータスです。

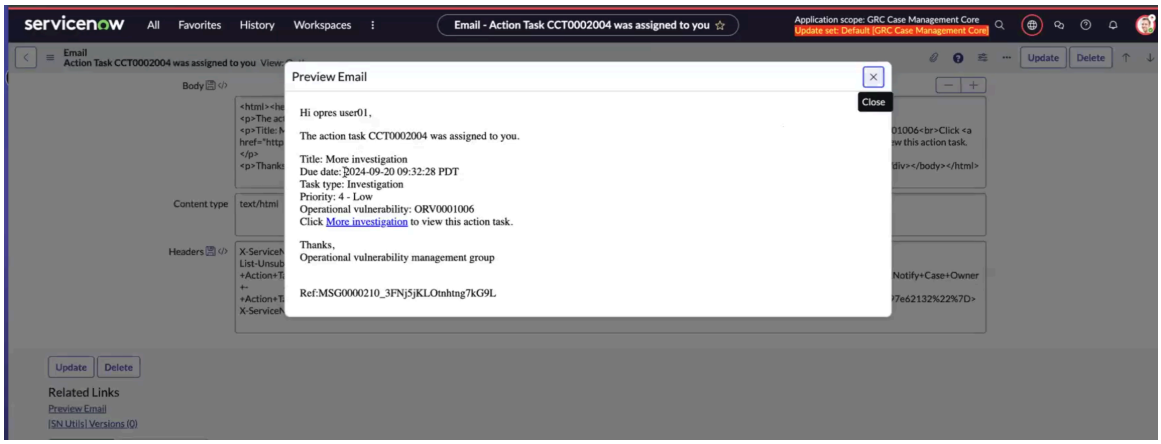
   これで、アクションタスクがタスク所有者にアサインされました。この例は、タスクがユーザー Opres manager02 に割り当てられていることを示しています。



例に示すように、自動メール通知がタスクオーナーに送信され、アクションタスクについて通知され、タスクの詳細がレビューされます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



タスクオーナーはログインし、アサインされたアクションタスクをレビューして、次の手順を完了します。

次のタスク
タスクオーナーはログインし、アサインされたアクションタスクをレビューし、必要に応じて調査タイプのアクションタスクを作成するか、アセスメントタイプのアクションタスクの承認を直接要求します。

詳細については、「調査タイプのアクションタスクの管理」と「アクションタスクの承認を要求する」を参照してください。

新しいアクションタスクの作成フォーム

[新規アクションタスクを作成] フォームで、フィールドに入力します。

新しいアクションタスクの作成フォーム

フィールド	説明
名前	アクションタスクの名前。
説明	アクションタスクの簡単な説明。
タイプ	アクションタスクのタイプ。利用可能なオプションは次のとおりです： • アセスメント • 調査 • その他 [アセスメント] を選択します。
アセスメントテンプレート	アクションタスクに対して選択するアセスメントテンプレート。
優先度	アクションタスクの優先度。利用可能なオプションは次のとおりです： • 重大 • 高 • 中

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しいアクションタスクの作成フォーム (続く)

フィールド	説明
	• 低 • 計画立案
アサイン	
アサイン先グループ	アクションタスクがアサインされているアサイン先グループ。
タスクオーナー	アクションタスクの所有者。
ウォッチリスト	アクションタスクのウォッチリストに含まれているチームメンバー。
スケジュール	
期日	yyyy-MM-dd HH:mm:ss 形式のアクションタスクの期日。
サマリー	
観察事項	アナリストがアクションタスクに入力した観察事項。
アクティビティ	
追加コメント	アクションタスクの追加コメント。

アサインされたアクションタスクを再アサインまたは承認

タスクオーナーである場合は、[タスク] モジュールの [自分のアイテム] リストにリストされているアサインされたアクションタスクを再アサインするか、承認します。[詳細] タブにリストされているタスクの詳細を確認するか、アクションタスクを別のタスク所有者に再アサインするか、作業を承認する必要があります。

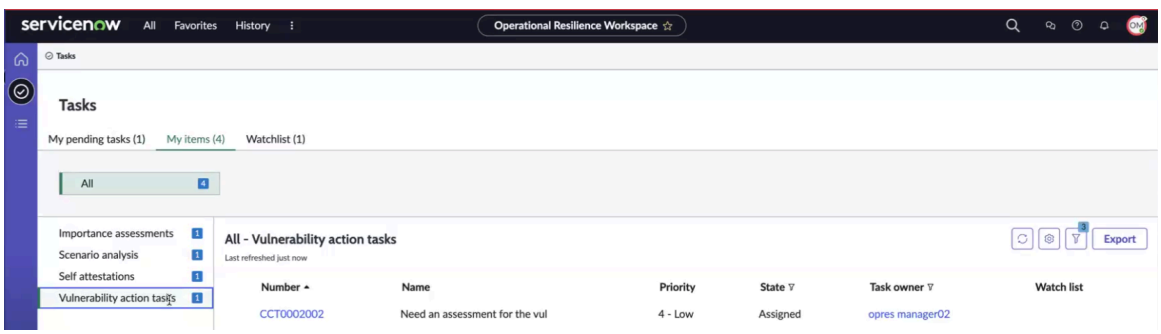
始める前に

必要なロール:sn_oper_res.manager、アクションタスクオーナー

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > すべての運用上の脆弱性.
2. [タスク] ページで、[自分のアイテム] を選択し、[脆弱性アクションタスク] にリストされているアクションタスクを開きます。

   例に、脆弱性アクションタスクを含む [タスク] ページを示します。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

3. タスクの詳細を確認します。
4. タスクを別のタスク所有者に再アサインするには、[再アサイン] を選択します。

   アクションタスクの所有者がアクションタスクを再アサインすると、[ドラフト] ステータスに移行します。

5. アクションタスクの作業を承認するには、[作業を 承認] UI アクションを選択します。
   [確認] ウィンドウが表示されます。アクションタスクが [対応中] ステータスに更新されます。
6. タスクの作業メモを追加し、[確認] ウィンドウで [作業を承認] を選択します。

   アクションタスクフォームの [作業を承認] UI アクションが [アセスメントを実施] UI アクションに変わります。

   後続のステップでは、タスクオーナーがアセスメントの詳細を確認して、アクションタスクのアセスメントを実行する必要があります。脆弱性レコードのステータスが [アセスメント] である。

アクションタスクのアセスメントを実行

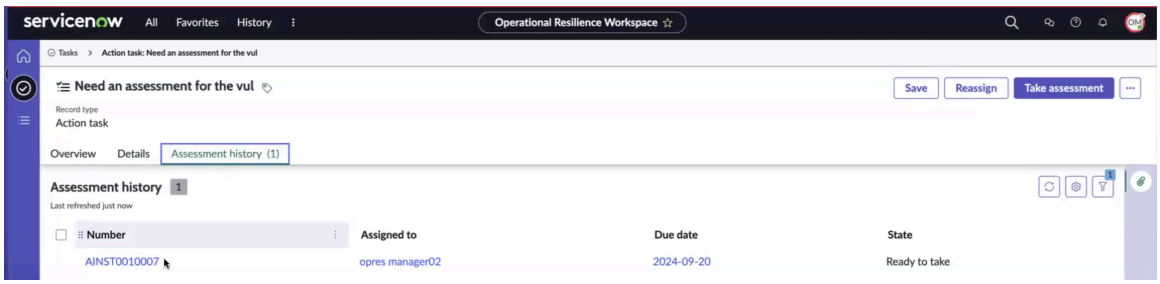
アセスメントの詳細を確認して、アクションタスクのアセスメントを実行します。アクションタスクオーナーは、アクションタスクレコードでアクションタスクの詳細とアセスメント履歴を表示し、アセスメントを完了できます。

始める前に

必要なロール:sn_oper_res.manager、アクションタスクオーナー

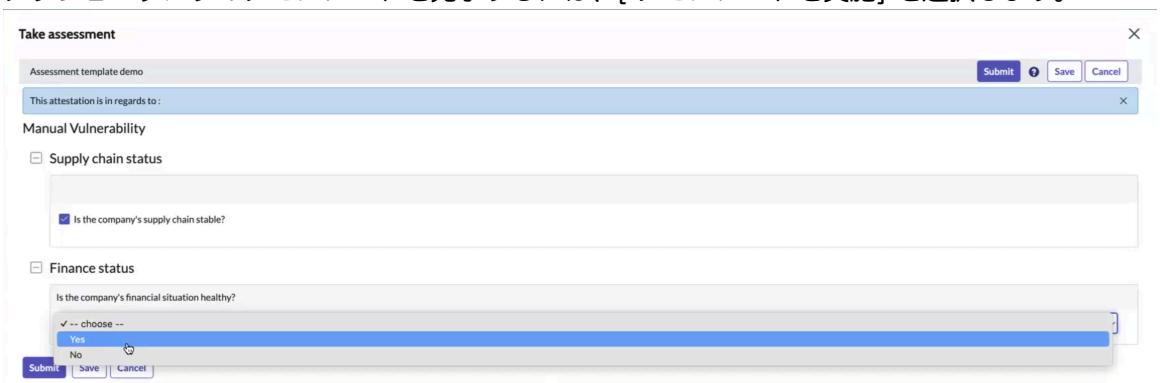
このタスクについて

例に示すように、アクションタスクの詳細とアセスメント履歴がレコードに表示されます。



手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > 自分のアイテム をクリックし、[脆弱性アクションタスク] にリストされているアクションタスクを開きます。
2. アクションタスクのアセスメントを完了するには、[アセスメントを実施] を選択します。



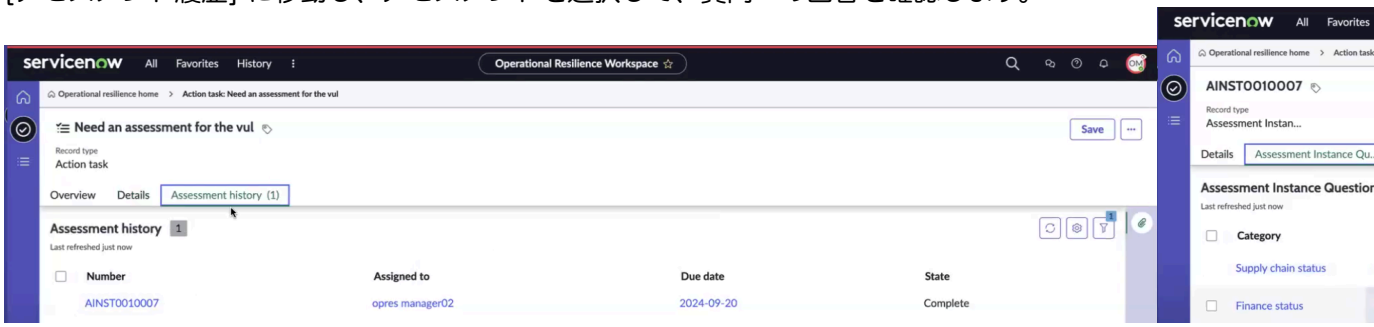
3. 質問に回答し、[送信] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

アクションタスクのステータスが [レビュー] ステータスに更新されます。

4. [アセスメント履歴] に移動し、アセスメントを選択して、質問への回答を確認します。



5. 新しいアセスメントインスタンスの質問を追加するには、 新規 を選択します。
6. 質問に対するユーザーの回答を表示するには、[ユーザーの回答を表示] を選択します。
7. **[Save** (保存)] を選択します。

アクションタスクが保存されます。アクションタスクのステータスが [レビュー] ステータスに更新されます。

次のタスク

アクションタスクの承認を要求し、そのワークフローを完了します。詳細については、「アクションタスクの承認を要求する」を参照してください。

調査タイプのアクションタスクの管理

オペレーショナル脆弱性の調査タイプのアクションタスクを管理します。脆弱性を解決するために追加の調査が必要な場合は、調査タイプのアクションタスクが開始されます。承認者が オペレーショナル脆弱性 を却下し、さらに調査を要求した場合、タスクオーナーは調査タイプのアクションタスクを作成して適切なユーザーにアサインし、完了した作業を確認してから、再度承認を要求できます。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.manager

このタスクについて

承認者が脆弱性を却下すると、そのステータスが [処理] に更新されます。この脆弱性については、さらに調査が必要な場合があります。タスクオーナーは、次の手順を完了して、脆弱性レコードの作業を完了します。

1. 脆弱性の調査タイプのアクションタスクを作成します。
2. アクションタスクを適切なユーザーにアサインします。
3. アクションタスクに関連する調査作業をレビューします。
4. 脆弱性状況を承認待ちに更新し、その承認を要求します。

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > すべての運用上の脆弱性.
2. 脆弱性レコードに移動し、[アクションタスク] 関連リストで [新規] を選択します。

リストから運用上の脆弱性レコードを開き、[詳細] タブで情報を確認できます。調査タイプのアクションタスクが作成されると、レコードのステータスが [新規] ステータスに更新されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [新規アクションタスクを作成] フォームで、フィールドに入力します。
   詳細については、「新しいアクションタスクの作成フォーム」を参照してください。
4. アクションタスクのタイプとして [調査] を選択します。
5. タスクをタスク所有者にアサインし、アクションタスクのウォッチリストにユーザーを追加します。
6. アクションタスクの期日を追加します。
7. **[Save** (保存)] を選択します。
   アクションタスクは、運用上の脆弱性レコードに保存されます。アクションタスクに関するメール通知がアクションタスクの所有者に送信されます。
8. 却下された脆弱性レコードのアクションタスクの作業を完了するには、適切なユーザーにアサインします。

   アクションタスクに関するメール通知がユーザーに送信されます。ユーザーは脆弱性アクションタスクに移動し、詳細を確認し、アクションタスクフォームの [サマリー] セクションで観察事項を入力して、アクションタスクを保存します。

   タスクオーナーは、作業の完了に関するメール通知を受信し、次のステップで説明するようにアクションタスクをユーザーにアサインします。

9. 脆弱性レコードのアクションタスクに移動し、[ステータスを更新] UI アクションを選択し、[アサイン 済み] ステータスを選択して [送信] を選択します。
   アクションタスクがユーザーにアサインされます。ユーザーはアクションタスクの次のステップを完了します。
10. ユーザーとしてログインし、アクションタスクレコードで [作業を承認] を選択します。
    ユーザーは作業を承認し、脆弱性レコードのアクションタスクに対して次の手順を実行します。

    a. アクションタスクの作業を終了し、[レビュー準備完了] UI アクションを選択して、[確認] ウィンドウで作業メモを追加し、[レビュー準備完了] を選択します。
       アクションタスクのステータスが [レビュー準備完了] になります。作業の完了に関する通知がアクションタスクのオーナーに送信されます。

次のタスク

タスクオーナーは、アクションタスクの作業をレビューし、脆弱性レコードの承認を要求します。ステップの詳細については、「 承認を要求」を参照してください。

アクションタスクの承認を要求する

アセスメントタイプまたは調査タイプのアクションタスクの作業を完了し、 オペレーショナル脆弱性 レコードの承認者からの承認を要求します。

始める前に

必要なロール:sn_oper_res.manager、アクションタスクオーナー

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > すべての運用上の脆弱性.
2. メール通知を確認し、メールからアクションタスクレコードを開きます。
3. アクションタスクの詳細を確認し、アクションタスクフォームの [サマリー] セクションで所見を提供します。
4. **[Save** (保存)] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

アクションタスクレコードが保存されます。脆弱性レコードアナリストがメモをレビューし、アクションタスクをタスクオーナーに再度アサインします。メール通知がユーザーに送信されます。

5. メールからアクションタスクレコードを開き、アクションタスクレコードで 作業を承認 を選択します。
   ユーザーは作業を承認し、脆弱性レコードのアクションタスクに対して次の手順を実行します。
6. アクションタスクの作業を終了し、[レビュー準備完了] UI アクションを選択します。
   アクションタスクのステータスが [レビュー準備完了] になります。
7. [確認] ウィンドウで作業メモを追加し、[レビュー準備完了] を選択します。
   アクションタスクの完了に関する通知が、 オペレーショナル脆弱性 レコードの所有者またはアナリストに送信されます。

次のタスク

治療計画のコースを考案し、根本原因分析を実行します。詳細については、「治療法を決定し、根本原因分析を実行します」を参照してください。

治療法を決定し、根本原因分析を実行します

オペレーショナル脆弱性の治療法を決定し、根本原因分析を実行します。アクションタスクを完了すると、脆弱性アナリストは次の対処方法を考案し、オペレーショナル脆弱性レコードの [詳細] タブで観察事項と分析を更新します。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.manager

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > すべての運用上の脆弱性.
2. 脆弱性レコードに移動し、アクションタスクがクローズされていることを確認します。
3. 脆弱性の詳細を確認し、[ディスカッション] アクションを選択して参加者とコラボレーションし、処理を計画します。
4. [治療の決定] フィールドで、いずれかのオプションを選択し、治療計画を選択します。
   選択肢は次のとおりです。
   - 承認:脆弱性を受け入れます。
   - 回避:脆弱性を回避します。
   - 軽減:脆弱性の影響を緩和します。
   - 転送:脆弱性を組織内の別の部門または機能に転送します。
5. [根本原因分析] フィールドで、根本原因に関する観察事項とメモを追加します。
   今後の参考のために、根本原因と関連する詳細を記録する必要があります。
6. **[Save** (保存)] を選択します。
   オペレーショナル脆弱性の治療と根本原因分析の詳細は、レコードに保存されます。

運用上の脆弱性の問題を追加または作成します

利用可能な問題から既存の問題を追加するか、 オペレーショナル脆弱性の問題を作成します。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
オペレーショナル脆弱性への対処中は、問題がオープンステータスになる可能性があります。関連する問題が [オープン] または [対応中] ステータスの場合でも、オペレーショナル脆弱性をクローズできます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > すべての運用上の脆弱性.
2. 問題を追加する脆弱性を開きます。
3. [問題] 関連リストを選択し、問題を追加または作成します。
4. **[Save** (保存)] を選択します。

   脆弱性に関連する問題が [問題] 関連リストに表示されます。

   脆弱性レコードがまだ [アセスメント] ステータスである。

承認を要求

オペレーショナル脆弱性レコードの承認を要求します。承認を要求すると、脆弱性のステータスが [承認待ち] ステータスに更新され、次に [要求 済み] ステータスにそれぞれ更新されます。

始める前に
必要なロール：sn_oper_res.manager

手順

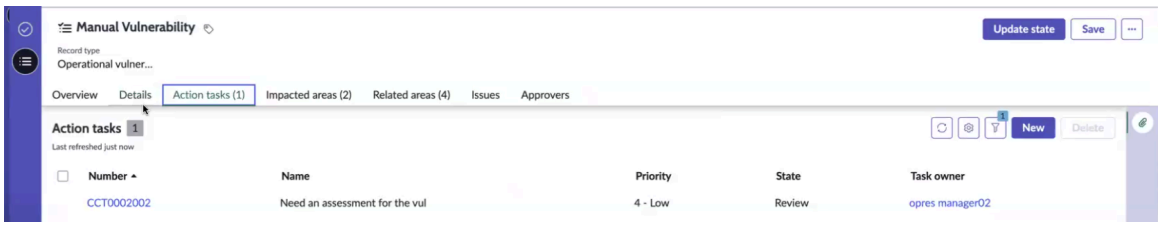
1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > すべての運用上の脆弱性.
2. 承認のために送信する脆弱性を開きます。

   注:
   アナリストまたはアサイン先グループのメンバーが脆弱性状況を更新する前に、すべてのアクションタスクをクローズする必要があります。

3. 脆弱性レコードで、[更新ステータス] を選択します。

   脆弱性のアクションタスクのいずれかがまだクローズされていない場合は、「アナリストまたはアサイン先グループのメンバーが脆弱性状況を更新する前に、すべてのアクションタスクをクローズする必要があります」というメッセージが表示されます。

   次の例は、脆弱性のアクションタスクが [レビュー] ステータスであることを示しています。



4. オープンアクションタスクを選択し、その詳細を確認して、[ステータスを更新] UI アクションを選択します。
5. オープンアクションタスクをクローズするには、[ステータスの更新] ウィンドウでステータスを [完了してクローズ] に更新し、[送信] を選択します。

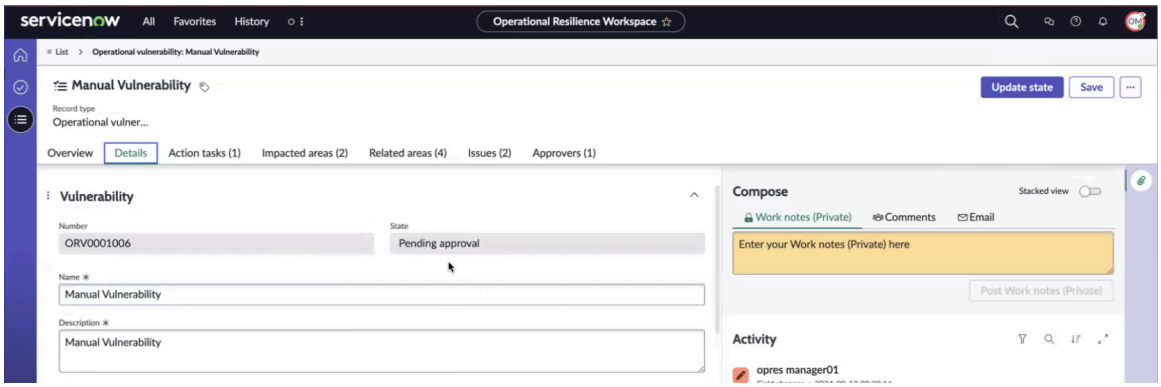
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

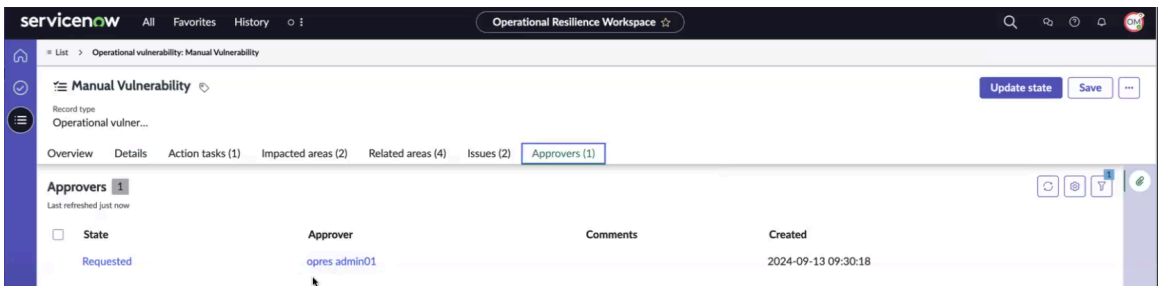
アクションタスクのステータスが [完了してクローズ] に更新されました。

6. 脆弱性レコードで [ステータスの更新] UI アクションを選択し、[ステータスの更新] ウィンドウでステータスを [承認待ち] に更新して、[送信] を選択します。

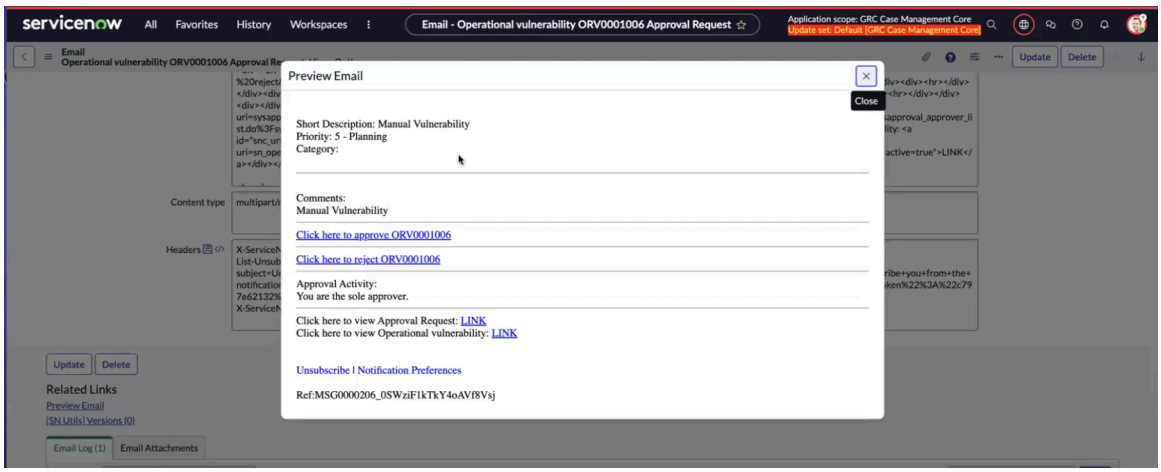
脆弱性レコードのステータスが [承認待ち] に更新されます。



承認者のリストが [承認者] 関連リストに表示されます。オペレーショナル脆弱性レコードオーナーは、例に示すようにステータスを [要求済み] に更新して承認を要求します。



オペレーショナル脆弱性の詳細とオペレーショナル脆弱性を承認するためのリンクが記載されたメール通知が 1 人以上のレビュー担当者に送信されます。例にメール通知のサンプルを示します。



オペレーショナル脆弱性レコードのステータスが [承認待ち] になりました。

次のタスク
後続のステップでは、承認者がメール通知を確認し、メールから承認リンクを選択して、 オペレーショナル脆弱性を承認する必要があります。詳細については、「運用上の脆弱性を承認」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

運用上の脆弱性を承認

根本原因分析、治療計画、タイムラインなどの詳細を検証した後、 オペレーショナル脆弱性 レコードを承認します。

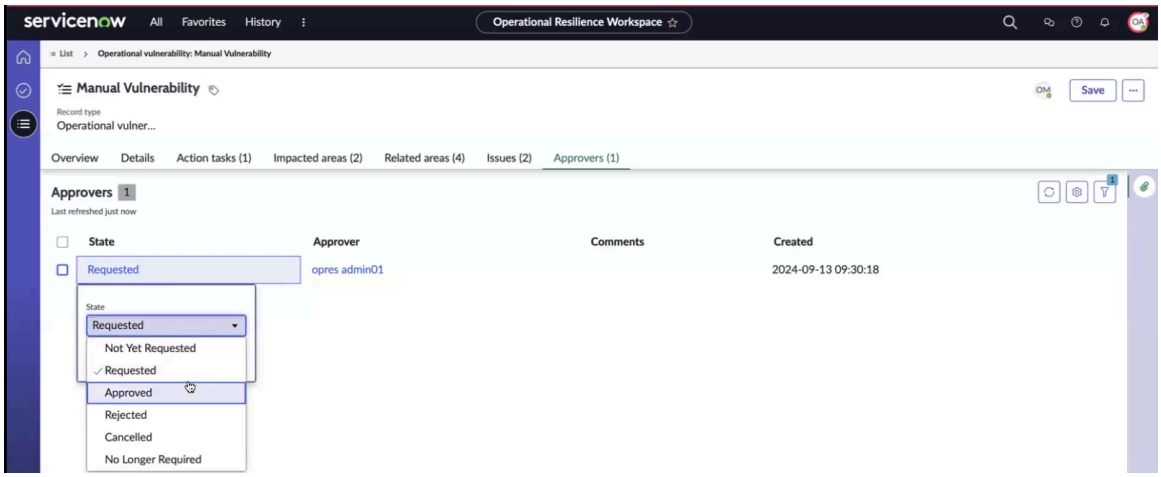
始める前に

必要なロール:sn_oper_res.manager、sn_oper_res.admin、脆弱性の承認者

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > すべての運用上の脆弱性.
2. リストから運用上の脆弱性レコードに移動するか、[自分の処理待ちのタスク] で [脆弱性の承認] を選択します。
3. 承認者としてアサインされているレコードを選択します。
4. 運用上の脆弱性レコードの詳細を確認します。
5. 運用上の脆弱性レコードを承認するには、[ステータスの更新] UI アクションを選択します。

   運用上の脆弱性のステータスが [要求済み] から [承認済み] に更新されます。例では、[承認者] 関連リストの状況移行を示しています。



   運用上の脆弱性レコードのステータスが [承認済み] に更新されます。脆弱性レコードのフィールドがロックされました。

   オペレーショナル脆弱性レコードが [承認済み] ステータスの場合でも、ユーザーは次のいずれかのステータスを選択することで、承認された脆弱性のアセスメントまたは詳細な調査を実行できます。

   - アセスメント
   - 処理

6. 脆弱性をクローズするには、[ステータスの更新] UI アクションを選択し、[クローズ済み] を選択します。
   脆弱性レコードのステータスが [クローズ済み] である。脆弱性レコードのフィールドはロックされています。

次のタスク

オペレーショナル脆弱性アナリストが詳細をレビューし、オペレーショナル脆弱性レコードをクローズします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

運用上の脆弱性をクローズする

詳細を確認し、オペレーショナル脆弱性アナリストとしてオペレーショナル脆弱性レコードを閉じます。

始める前に

必要なロール:sn_oper_res.manager、sn_oper_res.admin、脆弱性のアナリスト

手順

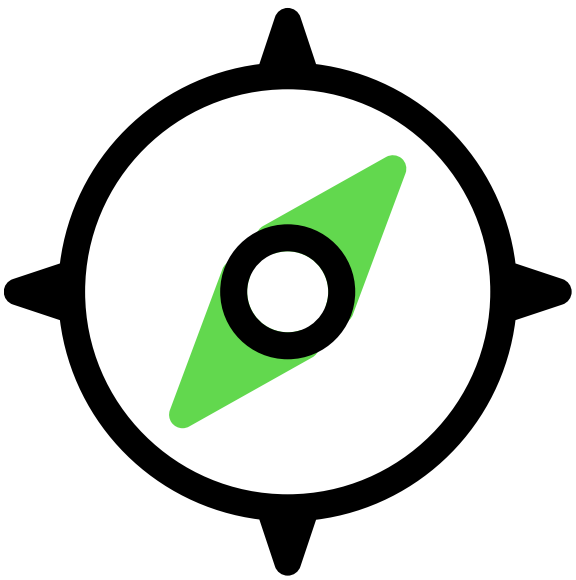
1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > すべての運用上の脆弱性.
2. アナリストとしてログインし、リストからオペレーショナル脆弱性レコードに移動するか、[自分の処理待ちのタスク] で [脆弱性の承認] を選択します。
3. アナリストとしてアサインされている オペレーショナル脆弱性 レコードを選択します。
4. オペレーショナル脆弱性レコードを閉じます。
   これで、 オペレーショナル脆弱性 は [クローズ済み] ステータスになります。これで、 オペレーショナル脆弱性 レコードのワークフローは完了です。

維持 デジタルレジリエンスサードパーティ登録

デジタルレジリエンスサードパーティ登録 アプリケーションを使用すると、顧客は、ICT サードパーティサービスプロバイダーが提供する重大または重要な機能をサポートする 情報および通信技術 (ICT) サービスの使用に関する契約上の取り決めを維持できます。顧客は、グラフィカルユーザーインターフェイス (GUI) を使用するか、 Microsoft Excel ファイルをインポートまたはエクスポートすることで、契約上の取り決めの詳細を管理できます。

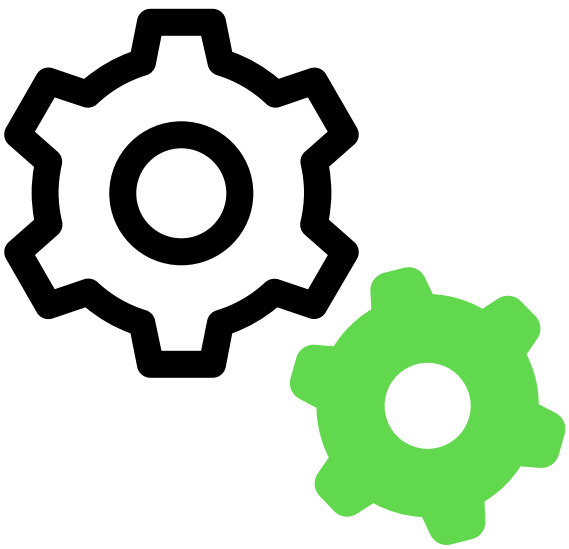
開始するには

探索



デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿について学ぶ

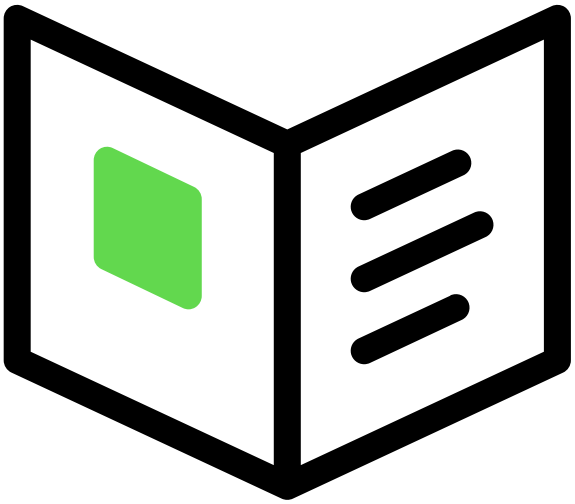
構成



デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿の構成

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

使用方法	参照
	
分岐、契約の追加、レコードのアップロード	デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿とともにインストールされるコンポーネント

デジタルレジリエンスサードパーティ登録 の探索

デジタルレジリエンスサードパーティ登録アプリケーションにより、金融機関は情報および通信技術 (ICT) サードパーティサービスプロバイダーとの契約上の取り決めの登録を維持し、デジタルオペレーショナルレジリエンスアクション (DORA) 規制に準拠することができます。

DORAコンプライアンスのアプリケーション

リリース 19.1.x 以降、DORA コンプライアンスの一環として、次のアプリケーションが ICT サードパーティリスク管理 でサポートされています。

- デジタルオペレーショナルレジリエンス管理:このアプリケーションは、すべての個々の DORA テーブルのアップロードとダウンロードに使用されます。
- デジタルレジリエンスサードパーティ情報登録:このアプリケーションは、 デジタルレジリエンスサードパーティ登録のダウンロードに使用されます。アプリケーションには、レポート用のすべてのタブを含む Microsoft Excel テンプレートが含まれています。これは、金融機関が個々の取引主体、準連結、および連結レベルで ICT サードパーティサービスプロバイダー との契約上の取り決めの包括的な登録を維持するのに役立ちます。

  顧客は デジタルレジリエンスサードパーティ登録 を使用して、 Microsoft Excel アップロードおよびダウンロード機能を使用して、アセスメント、支店、契約、機能、法人、サプライチェーン、サードパーティ、またはサードパーティエンゲージメントのレコードを一括または個別に作成または編集します。

  注:
  IRM Professional ライセンスのユーザーは、オペレーショナルレジリエンスワークスペース内のデジタルレジリエンスサードパーティ登録にアクセスできます。ライセンスユーザーがアクセスできるTPRMライセンスデジタルレジリエンスサードパーティ登録TPRM ワークスペース。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デジタルレジリエンスサードパーティ登録アプリケーションは、エンティティに対して次の複数の機能を果たします。

- エンティティがサードパーティリスク ICT 追跡するのを支援します。
- 欧州連合の管轄当局に、金融機関内のICTおよびサードパーティリスク管理を監督する権限を与えます。
- 欧州監督当局 (ESA) がEUレベルの監督のための重要な ICT サードパーティサービスプロバイダー (CTPP) を特定するのを支援します。

デジタル オペレーショナルレジリエンス

デジタル オペレーショナルレジリエンス とは、金融機関が運用の完全性と信頼性を構築、保証、およびレビューする能力を指します。これにより、エンティティは、ネットワークと情報システムを保護するために必要なすべての ICT 関連機能を確実に備えることができます。これらのシステムは、金融サービスの継続的な提供をサポートし、混乱時でもその品質を維持します。継続性は、 ICT サードパーティサービスプロバイダーが提供するサービスで直接的または間接的に実現できます。

デジタルオペレーショナルレジリエンスアクション **(DORA)**

デジタル オペレーショナルレジリエンス はデジタルオペレーショナルレジリエンスアクション (DORA)と一致しています。これは、2023 年 1 月 16 日に発効した 欧州連合 (EU) 規制であり、2025 年 1 月 17 日から適用されます。欧州監督当局(ESA)が監督する金融機関のICTセキュリティを強化し、欧州の金融セクターを大規模なデジタルディスラプションから保護します。

規制技術基準

DORA規制により、金融機関は、ICTリスク管理フレームワーク内でサードパーティリスクを管理するための戦略を組み込みICT定期的にレビューすることが義務付けられています。この戦略には、サードパーティのICTサービスプロバイダーが提供する、重大または重要な機能をサポートするICTサービスの使用を管理するポリシーを含める必要があります。

サードパーティの ICT サービスプロバイダーの使用に関する金融機関のポリシーは、これらのサービスのガバナンス、リスク管理、および内部統制フレームワークの重要な側面を定義する上で重要な役割を果たします。 金融機関は、サードパーティ ICT サービスプロバイダーとの契約に署名する前に、リスクアセスメントとデューデリジェンスを実行する必要があります。また、必要に応じてこれらの取り決めを終了し、重要または重要な機能の事業継続性を維持できるようにする必要があります。たとえば、サービスが最適でない場合、外部 ICT システムが誤動作している場合、または制裁によりサービスが中断された場合に、アクションが必要になる場合があります。

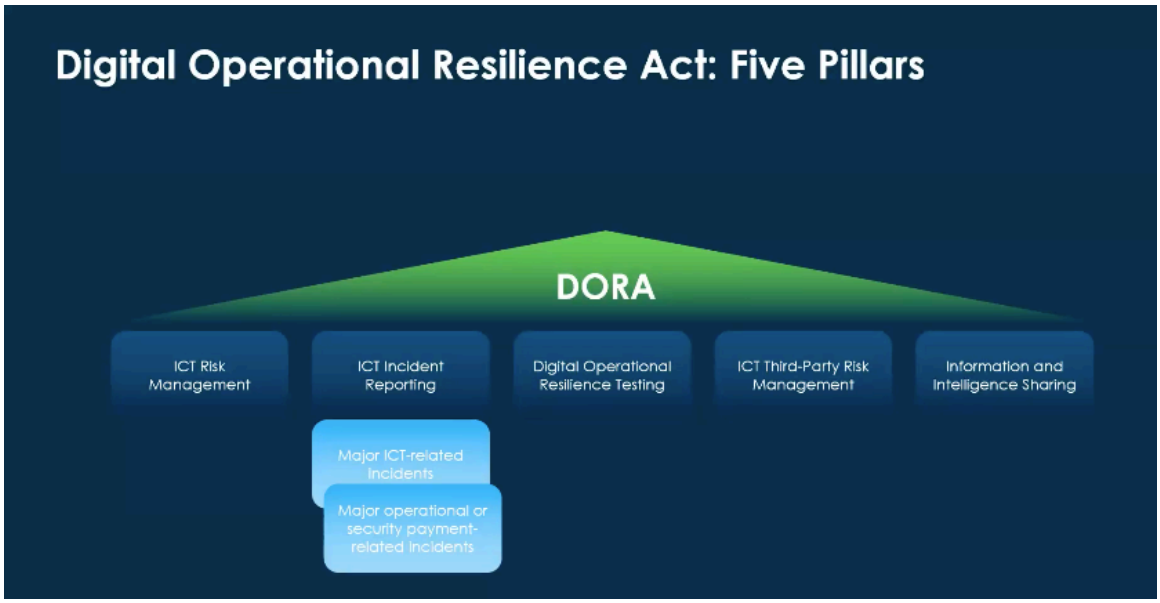
のピラー **DORA**

デジタルオペレーショナルレジリエンスアクション (DORA)は、重要な柱で構成されています。

1. ICT リスク管理
2. ICT インシデントレポート
3. デジタル オペレーショナルレジリエンス テスト
4. ICT サードパーティリスク管理
5. 情報とインテリジェンスの共有

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



注:
オペレーショナルレジリエンス、リリース 19.1.x は、 ICT サードパーティリスク管理 のピラーのみに焦点を当てています。

GUI または Microsoft Excel

顧客は、グラフィカルユーザーインターフェイス (GUI) を使用してレコードを処理するか、デジタルレジリエンスサードパーティ登録 アプリケーションでMicrosoft Excelファイルをインポートまたはエクスポートすることで、契約上の取り決めを管理できます。

グラフィカルユーザーインターフェイス (GUI) または Microsoft Excel ファイルのインポートまたはエクスポートによるレコードの処理については、「 デジタルレジリエンスサードパーティ登録 の使用」を参照してください。

ライセンスの要件

ユーザーは、次の方法で デジタルレジリエンスサードパーティ登録 アプリケーションにアクセスできます。

- リリース 19.1.x 以降、 オペレーショナルレジリエンス アプリケーションまたは TPRM アプリケーションを既に所有しているお客様は、この デジタルレジリエンスサードパーティ登録にアクセスできます。
- これらの顧客は、 デジタルレジリエンスサードパーティ登録 アプリケーションをダウンロード、インストールし、使用を開始できます。

ライセンス情報と関連するワークスペースを次の表に示します。

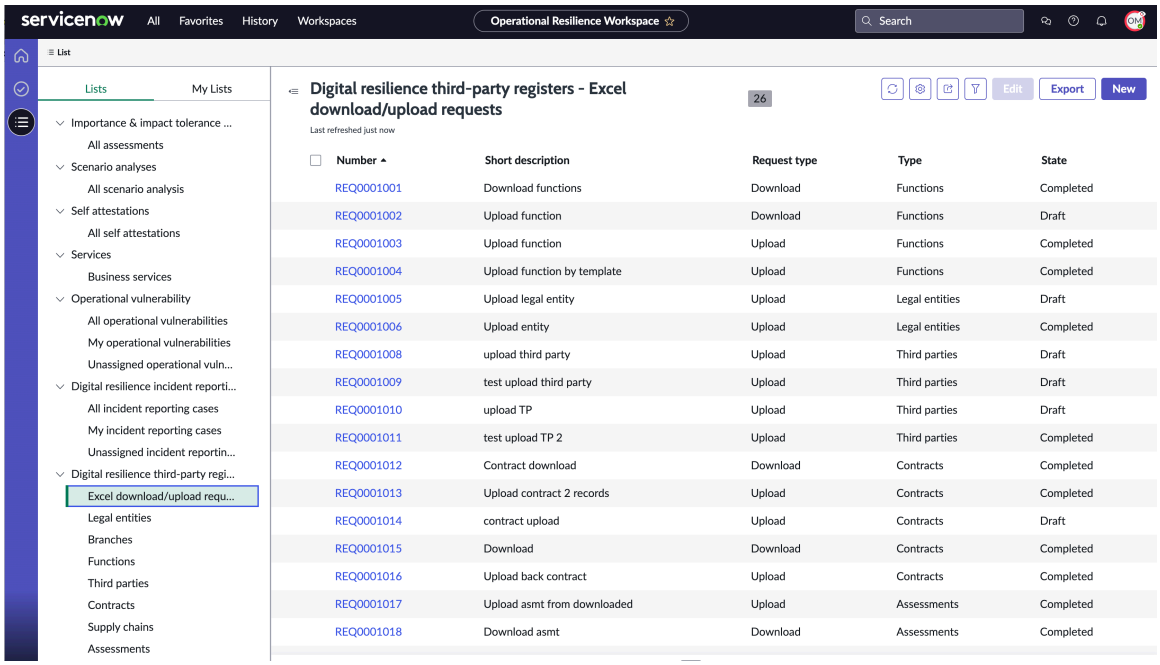
ライセンスと関連ワークスペース

ライセンス	UI に表示されるアプリケーション	関連ワークスペース
IRM プロ	デジタルレジリエンスサードパーティ登録	オペレーショナルレジリエンス ワークスペース
TPRM	デジタルレジリエンスサードパーティ登録	TPRM ワークスペース

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デジタルレジリエンスサードパーティ登録 は オペレーショナルレジリエンスワークスペース の値のいずれか

オペレーショナルレジリエンスワークスペースを開くと、デジタルレジリエンスサードパーティ登録メニューが表示されます。



デジタルレジリエンスサードパーティ登録 の **TPRM** ワークスペース

TPRM ワークスペース内のデジタルレジリエンスサードパーティ登録については、「サードパーティリスク管理」を参照してください。

[store-future: BEGIN review]

デジタルレジリエンスサードパーティ登録で使用されるアプリケーションプログラミングインターフェイス (API) の詳細については、「Server API reference」および「Client API reference」を参照してください。

[End]

情報登録簿を更新するユースケース

サードパーティ登録簿と契約の詳細がさまざまなシステムに分散しているユーザーは、情報登録簿に入力するプロセスを自動化できます。このセクションでは、サードパーティデータを デジタルレジリエンスサードパーティ登録に記録する一般的なシナリオについて説明します。

デジタルレジリエンスサードパーティ登録内のデータを更新する一般的なユースケースについては、次のセクションで説明します。

情報登録簿のデータ更新のユースケース

ユーザーは通常、次のいずれかの方法でサードパーティのデータを デジタルレジリエンスサードパーティ登録 に入力します。

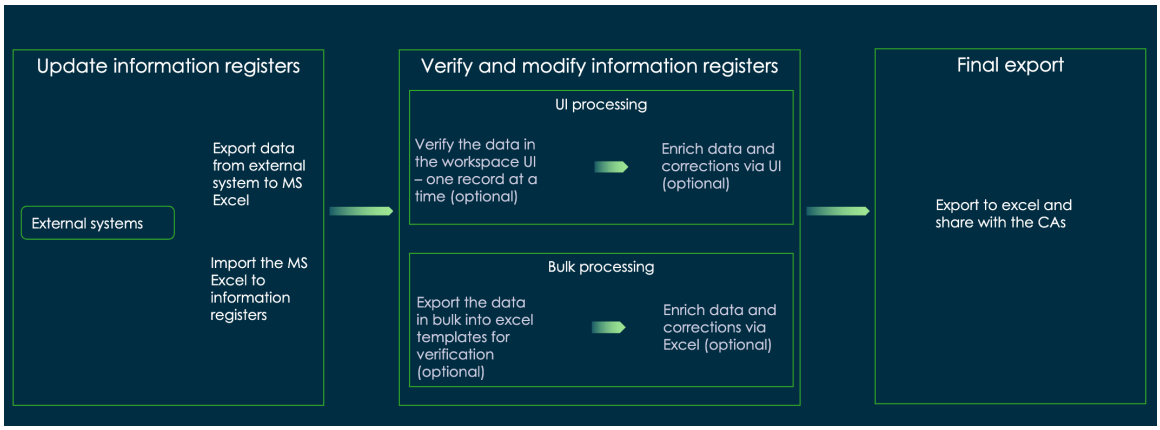
1. を使用した外部アプリケーションからのデータのエクスポート Microsoft Excel
2. 手動でのレジスタの作成と変更

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

を使用した外部アプリケーションからのデータのエクスポート **Microsoft Excel**

ユーザーは、外部システムから Microsoft Excel にデータをエクスポートし、その Microsoft Excel ファイルを デジタルレジリエンスサードパーティ登録 アプリケーションにインポートできます。



Microsoft Excelを使用して外部システムからデータを取得するプロセスには、次のタスクが含まれます。

1. Microsoft Excelを介して外部アプリケーションからデータを収集し、Microsoft Excelファイルをデジタルレジリエンスサードパーティ登録にインポートします。

2. UI処理による情報登録簿の更新と検証:データをインポートした後、ユーザーはグラフィカルユーザーインターフェイス(GUI)を介して各エントリを個別に処理できます。オペレーショナルレジリエンスワークスペース内に専用のページが作成され、ユーザーはそこで詳細を表示し、ワークフローを通じてエントリーを昇格させ、必要に応じてエクスポートすることができます。ユーザーは、情報登録ワークスペース UI で各レコードを個別に検査し、不完全なデータを拡張したり、不正確な部分を修正したりできます。

   一括処理による情報登録簿の更新と検証:ユーザーは、 Microsoft Excel を使用して一括エクスポートおよびインポート機能を使用して、一度に複数のレコードを処理できます。データ統合に時間がかかる場合、ユーザーは外部システムからファイルをエクスポートして デジタルレジリエンスサードパーティ登録 テーブルにアップロードし、データを編集して再アップロードするだけです。これにより、効率的な一括処理が可能になります。

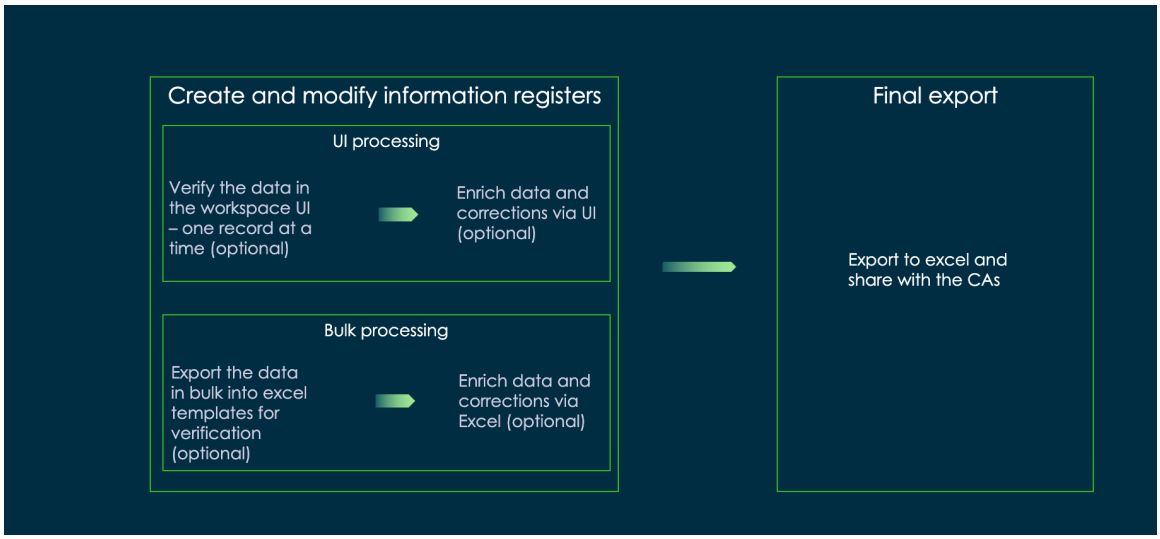
3. データをエクスポートする最後のステップ: 最後に、テンプレート、特に Microsoft Excel ベースの出力を使用してデータをエクスポートできます。ユーザーは、後で参照したり Microsoft Excel 規制当局と共有したりするために、データをシートにエクスポートできます。デジタルレジリエンスサードパーティ登録 のMicrosoft Excelテンプレートは、(DORA) 規制要件に準拠しています。

手動でのレジスタの作成と変更

ユーザーは、 デジタルレジリエンスサードパーティ登録 アプリケーションで手動でデータを作成および変更できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



登録を手動で変更するプロセスには、次のタスクが含まれます。

1. ユーザーは、 デジタルレジリエンスサードパーティ登録 アプリケーションで手動でデータを入力および変更できます。

2. UI処理による情報登録簿の更新と検証:データをインポートした後、ユーザーはグラフィカルユーザーインターフェイス(GUI)を介して各エントリを個別に処理できます。オペレーショナルレジリエンスワークスペース内に専用のページが作成され、ユーザーはそこで詳細を表示し、ワークフローを通じてエントリーを昇格させ、必要に応じてエクスポートすることができます。ユーザーは、情報登録ワークスペース UI で各レコードを個別に検査し、不完全なデータを拡張したり、不正確な部分を修正したりできます。

   一括処理による情報登録簿の更新と検証:ユーザーは、 Microsoft Excel を使用して一括エクスポートおよびインポート機能を使用して、一度に複数のレコードを処理できます。データ統合に時間がかかる場合、ユーザーは外部システムからファイルをエクスポートして デジタルレジリエンスサードパーティ登録 テーブルにアップロードし、データを編集して再アップロードするだけです。これにより、効率的な一括処理が可能になります。

3. データをエクスポートする最後のステップ: 最後に、テンプレート、特に Microsoft Excel ベースの出力を使用してデータをエクスポートできます。ユーザーは、後で参照したり Microsoft Excel 規制当局と共有したりするために、データをシートにエクスポートできます。デジタルレジリエンスサードパーティ登録 のMicrosoft Excelテンプレートは、(DORA) 規制要件に準拠しています。

デジタルレジリエンスサードパーティ登録の構成

ICTサードパーティサービスプロバイダーのレコードを管理するオペレーショナルレジリエンスワークスペースにデジタルレジリエンスサードパーティ登録を設定します。

DORAアプリケーションのリスト

リリース 19.1.x 以降、 デジタルレジリエンスサードパーティ登録 アプリケーションは ServiceNow Store から入手できます。

次のアプリケーションは、 デジタルレジリエンスサードパーティ登録 アプリケーションのバックグラウンドで使用されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- デジタルレジリエンスサードパーティ情報登録:このアプリケーションは、 デジタルレジリエンス サードパーティ登録 アプリケーションをダウンロードするために使用されます。レポート用のすべてのタブを含む Microsoft Excel テンプレートが含まれています。
- デジタルオペレーショナルレジリエンス管理:このアプリケーションは、すべての個々の DORA テーブルのアップロードとダウンロードに使用されます。デジタルレジリエンスサードパーティ情報登録がアクティブ化されると自動的にインストールされます。

レコードの作成とレビュー

オペレーショナルレジリエンスアドミニストレーターとマネージャーは、インスタンス内のデジタルレジリエンスの選択肢レコードにアクセスできます。最良の結果を得るには、法人、支店、機能、契約などのレコードを デジタルレジリエンスサードパーティ登録 アプリケーションで特定の順序で作成または更新することが重要です。これらの詳細については、このセクションで概説します。

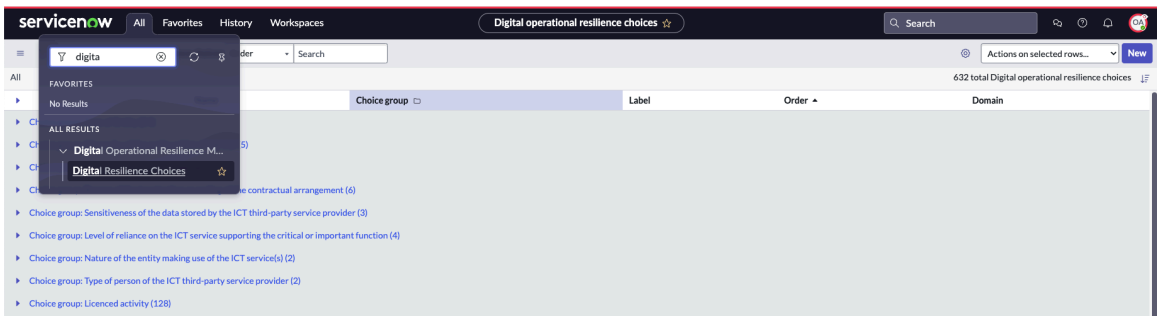
レコードを作成または更新する順序

最良の結果を得るには、次の順序でレコードを作成または更新することが重要です。

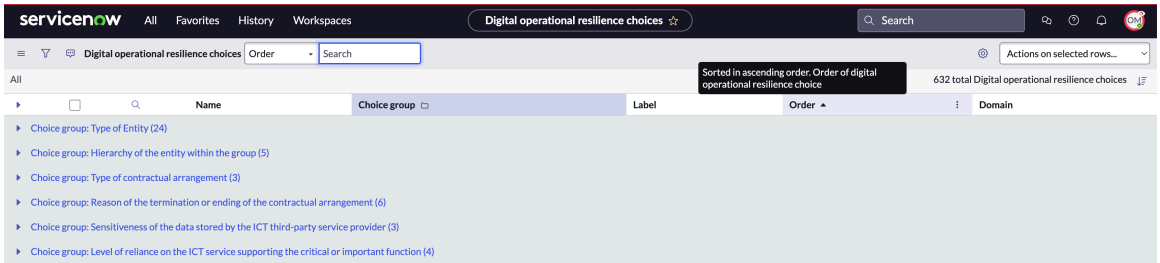
1. 法人
2. 分岐
3. 機能
4. サードパーティ
5. 契約
6. サプライチェーン
7. アセスメント

選択肢レコードの確認

オペレーショナルレジリエンス アドミニストレーターは、例に示すように、インスタンス内の [すべての>デジタルオペレーショナルレジリエンス管理] > [デジタルレジリエンスの選択肢] メニューに移動して、デジタルレジリエンスの選択肢レコードを検索してアクセスできます。



同様に、例に示すように、 オペレーショナルレジリエンス マネージャーはデジタルレジリエンスの選択肢レコードを見つけてアクセスできます。



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レコードの一括作成

単一または複数のエンティティに対して一度に 1 つのレコードを作成するのではなく、 デジタルレジリエンスサードパーティ登録 からレコードを一括で作成します。一度に複数のレコードを処理することで、時間と労力を節約できます。

始める前に
必要なロール：sn_oper_res.admin

このタスクについて
オペレーショナルレジリエンスアドミンのみがフォームに [アップロード] オプションを表示し、レコードを一括で作成できます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿 > **Excel** のダウンロード/アップロード要求.
2. 要求タイプとして [アップロード] を選択します。

   注:
   オペレーショナルレジリエンスアドミンのみが [アップロード] オプションを表示してこのタスクを実行できます。

3. 作業する適切なレコードを選択します。
4. デフォルトのテンプレートをダウンロードします。
5. 各テンプレートの指示に従って、テンプレートの列に入力します。
6. レコードタイプのアップロード要求を作成し、ローカルハードドライブから完成したテンプレートを添付します。
7. 要求を送信します。
8. 結果を表示して、正常にアップロードされたレコードとエラーのあるレコードの概要を確認します。
9. スプレッドシートに移動してエラーを表示します。
   a. Microsoft Excelスプレッドシートのエラーを修正します。
   b. レコードを再度アップロードします。
10. 他のレコードについても、この手順を繰り返します。
    レコードは デジタルレジリエンスサードパーティ登録 から一括でダウンロードされます。

既存のレコードの一括更新

デジタルレジリエンスサードパーティ登録 から既存のレコードを一括更新します。

始める前に
必要なロール：sn_oper_res.admin

このタスクについて
オペレーショナルレジリエンスアドミンのみが [アップロード] オプションを表示し、既存のレコードを一括で更新できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿 > **Excel** のダウンロード/アップロード要求.
2. 要求タイプとして [ダウンロード] を選択します。
3. 更新するレコードを選択し、要求を送信します。
4. Microsoft Excelスプレッドシートをダウンロードして、ローカルハードドライブを更新します。
5. 各テンプレートの指示に従って、テンプレートの列に入力します。
6. レコードタイプのアップロード要求を作成し、ローカルハードドライブから完成したテンプレートを添付します。

   注:
   オペレーショナルレジリエンスアドミンのみが [アップロード] オプションを表示してこのタスクを実行できます。

7. 要求を送信します。
8. 結果を確認して、正常にアップロードされたレコードとエラーのあるレコードの概要を確認します。
9. スプレッドシートに移動してエラーを表示します。
   a. Microsoft Excelスプレッドシートのエラーを修正します。
   b. レコードを再度アップロードします。
10. 他のレコードについても、この手順を繰り返します。

フォームにヘルプヒントを表示する

設定を更新して、フォームにヘルプヒントを表示します。ヘルプヒントには、フィールドとそれに関連するアクションに関する詳細が記載されています。

始める前に
必要なロール：sn_oper_res.manager

手順

1. 移動先 > 設定 ユーザープロファイル内にあります。

   ユーザープロファイルを例に示します。

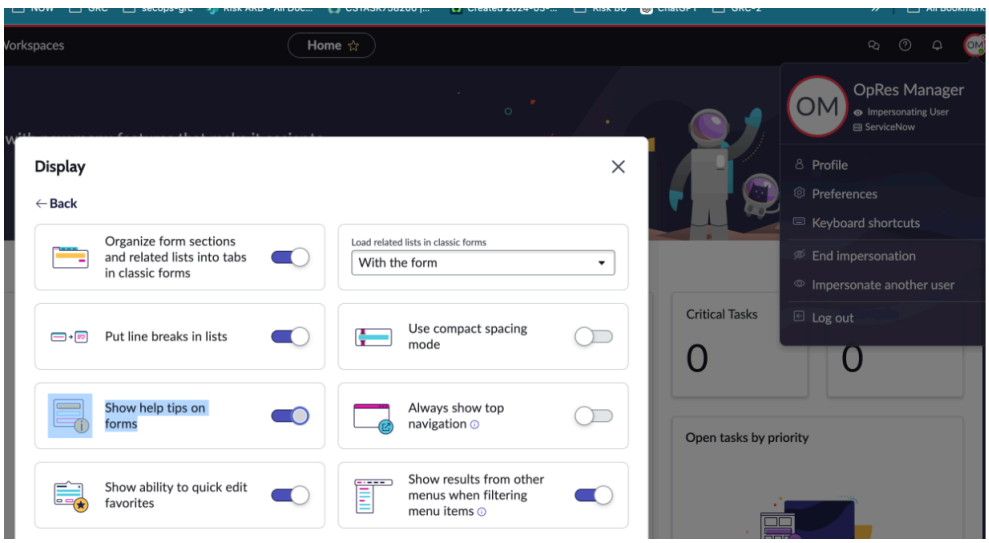
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



2. [表示] を選択します。
3. [ヘルプのヒントをフォームに表示] オプションを有効にします。

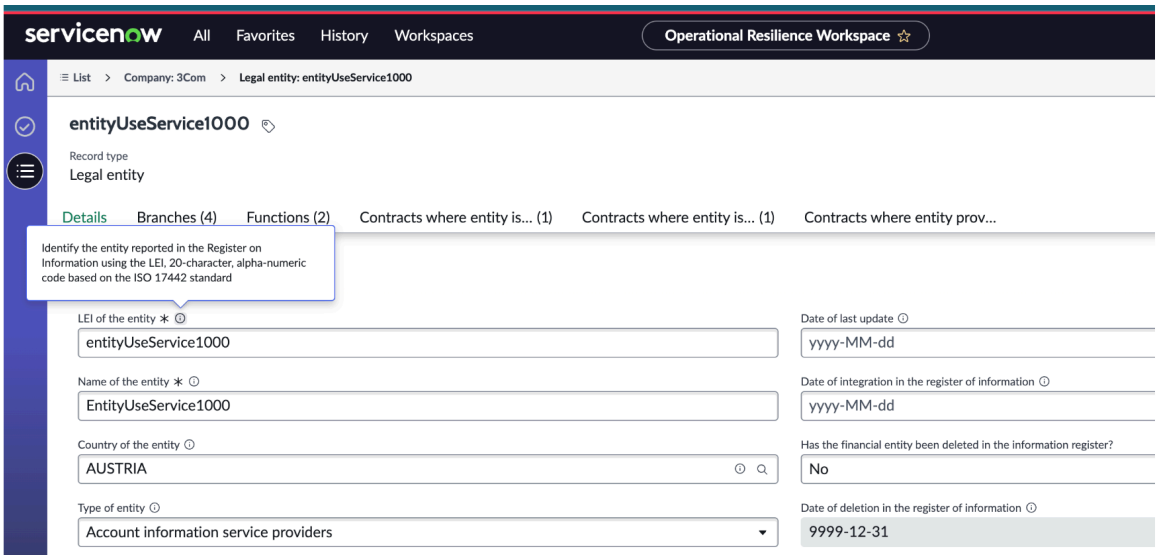
例にオプションが表示されます。



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

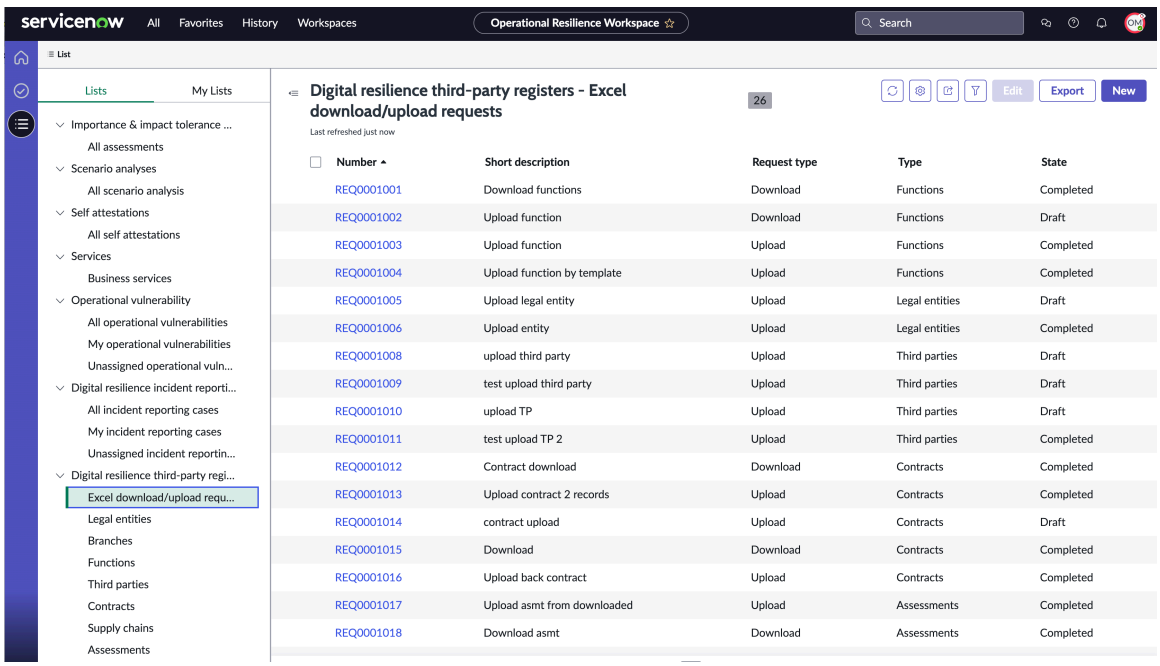
例に示すように、ヘルプヒントがフォームに表示されます。



デジタルレジリエンスサードパーティ登録 の使用

オペレーショナルレジリエンスワークスペース内のデジタルレジリエンスサードパーティ登録アプリケーションを使用して、ICTサードパーティサービスプロバイダーのレコードを作成、更新、および追跡します。

オペレーショナルレジリエンスワークスペースでデジタルレジリエンスサードパーティ登録アプリケーションを起動すると、アプリケーションメニューからアクセスできるさまざまな機能が表示されます。



法人の作成とデジタルレジリエンスデータの強化

デジタルレジリエンスサードパーティ登録 で法人レコードを作成します。その後、 DORA 規制に準拠するためにデジタルレジリエンス情報を強化できます。

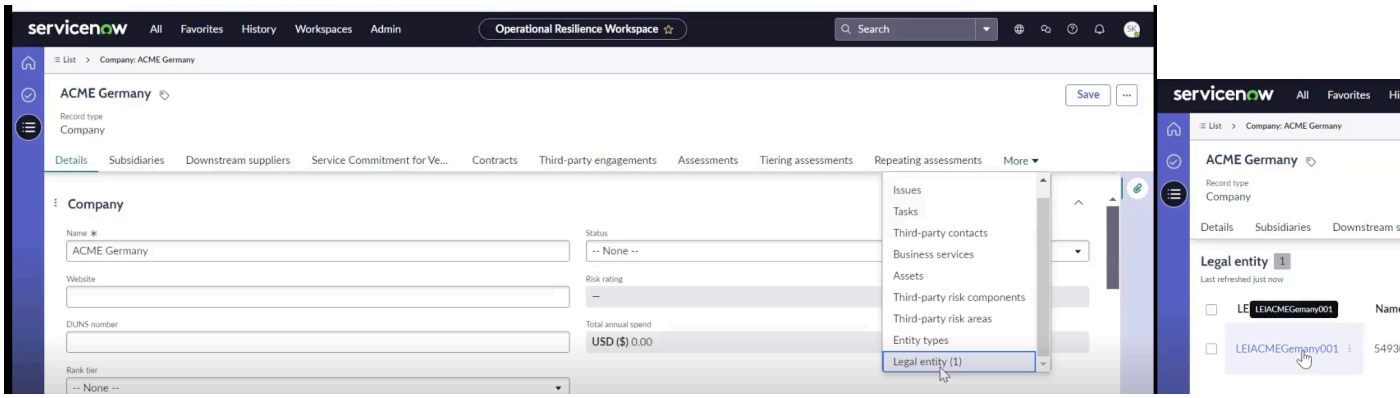
始める前に

必要なロール：sn_oper_res.manager

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
オペレーショナルレジリエンスワークスペースのデジタルレジリエンスサードパーティ登録メニュー項目で法人レコードを選択すると、システム内の既存の法人 (コア会社) を表示できます。

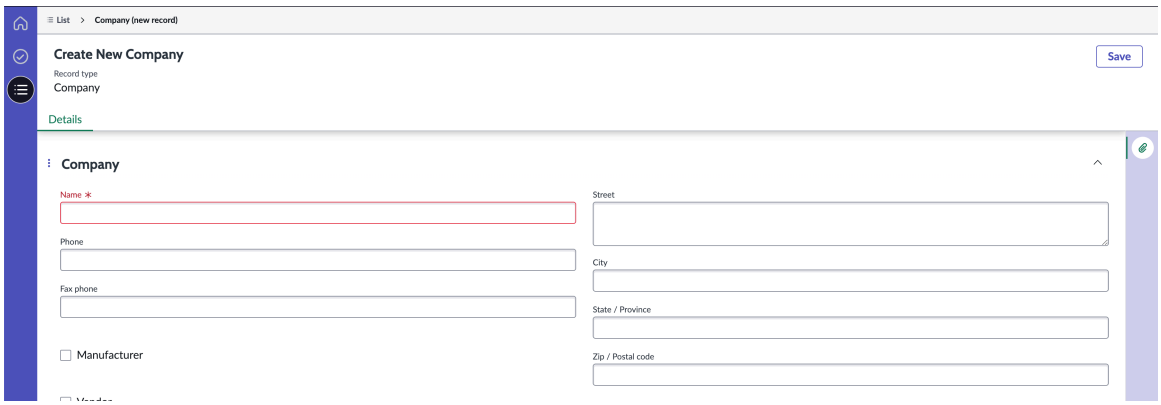
デジタルレジリエンスサードパーティ登録をインストールすると、既存の会社に 法人 タブが追加されます。法人 タブを起動して、詳細を設定できます。



手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿 > 法人.
2. **[New** (新規)] を選択します。

   [新しい会社を作成] フォームが表示されます。

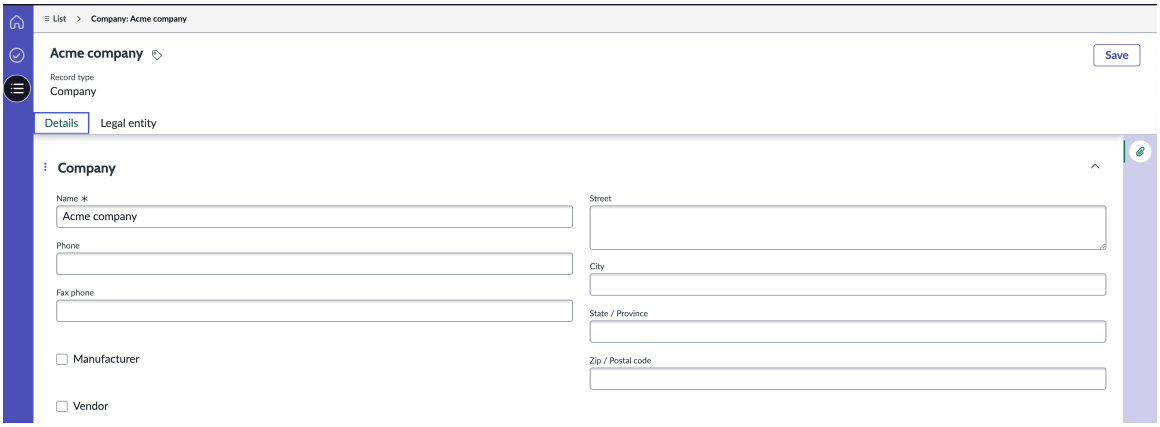


3. フォームで、フィールドに入力します。
   詳細については、「新規会社の作成フォーム」を参照してください。
4. **[Save** (保存)] を選択します。

   会社レコードが設定されます。ユーザーは、会社の法人とデジタルレジリエンス情報を [法人] タブで設定できます。

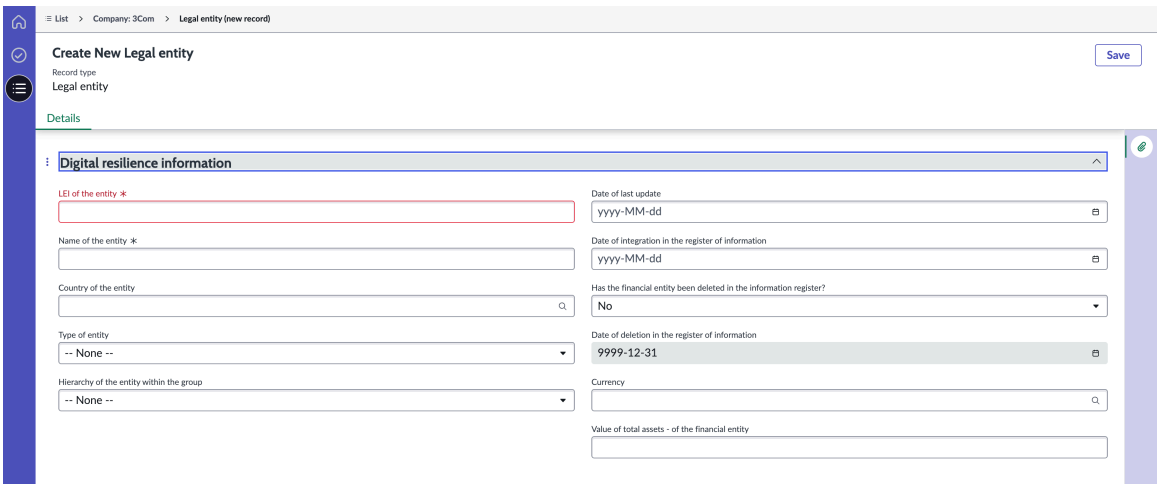
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



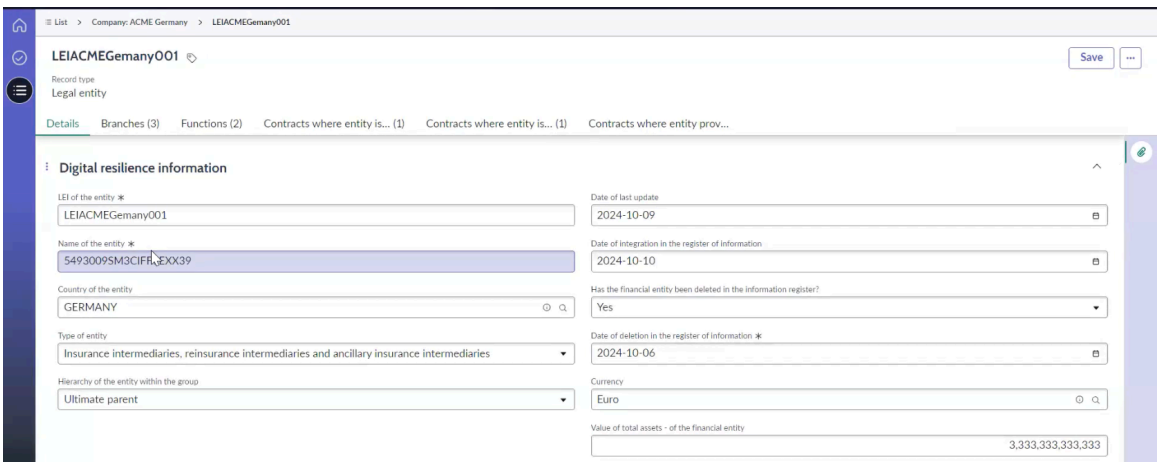
5. 法人レコードを作成し、 DORA 規制のデジタルレジリエンス情報を設定するには、 法人 タブに移動し、 新規 を選択します。
   法人のデジタルレジリエンス情報の設定については、「 新しい法人の作成フォーム」を参照してください。

   [新しい法人の作成 (Create New Legal Entity)] フォームが表示されます。



6. **[Save** (保存)] を選択します。

   法人レコードには、法人の規制報告に必要な情報を提供するフィールドが含まれています。これには、取引主体識別子 (LEI)、名前、登録国、取引主体タイプ (規制当局が定義) などの詳細が含まれます。これらのフィールドは、ユーザーが選択できるシステム内の選択リストとして提供されます。



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

システムはエンティティ階層を認識し、最終的な親に追加の詳細は必要ありませんが、子会社は親エンティティを指定する必要があります。各法人の登録日も表示されます。

エンティティごとに、次の詳細が記録されます。

- レコードの最終更新
- 情報登録の統合日
- 金融機関の登記簿からの削除履歴 (存在する場合) (存在する場合は、削除日、使用された通貨、およびその時点での総資産価値)

規制当局は、テクニカルサービスのアウトソーシングのために外部サードパーティと連携する法人に対して、これらの特定の詳細を義務付けています。

7. 法人レコードを編集するには、リストから選択し、 編集 を選択します。
8. 法人レコードをエクスポートするには、 エクスポート を選択します。
9. 法人レコードを削除するには、リストから選択し、 削除 を選択します。

次のタスク
法人の支店を設定します。詳細については、「分岐を作成してデジタルレジリエンスデータを強化」を参照してください。

新規会社の作成フォーム

[新しい会社を作成] フォームで、法人のフィールドに入力します。

新規会社の作成フォーム

フィールド	説明
名前	会社の一意の名前。
Web サイト	会社の Web サイトの詳細。
DUNS 番号	アプリケーションによって生成された会社の一意の識別番号。データユニバーサルナンバーシステム番号は、ビジネスを識別する一意の9桁の番号です。
ランク	会社のランク。利用可能なオプションは次のとおりです： • 戦略的パートナー • 価値あるパートナー • 戦術的サプライヤー • 対象外サプライヤー • その他
サードパーティ階層	会社にアサインされた階層。利用可能なオプションは次のとおりです： • **1:**非常に高い • **2 -** 高 • **3 -** 中

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規会社の作成フォーム (続く)

フィールド	説明
	• **4 -** 低 • 5：非常に低い
ベンダーマネージャー	会社のベンダーマネージャー。
事業主	会社の事業主のリスト。
親	企業階層を決定する親組織。
ステータス	会社の現在の地位。利用可能なオプションは次のとおりです： • 未選択 • 選択済み • オンボーディング • 見込み客 • **Active** (アクティブ) • 未承認のアクティブ • 終了 • オンボーディングが却下されました
リスク評価	リスク評価に基づいて会社に割り当てられた評価。このフィールドは自動入力されます。
合計年間消費量	会社が年間に費やす合計金額。このフィールドは自動入力されます。
メモ	会社に関するその他の発言またはコメント。
全般	
業種	会社のセクターまたは業種分類。利用可能なオプションは次のとおりです： • 農業 • アパレル • 銀行 • バイオテクノロジー • 化学物質 • コミュニケーション • 作成 • コンサルティング • 教育 • 電子機器 • エネルギー

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規会社の作成フォーム (続く)

フィールド	説明
	• 開発/構築 • エンターテイメント • 環境 • 財務 • 料理と飲料 • 政府機関 • 医療 • ホスピタリティ • 保険 • 機械 • 製造業 • メディア • 非営利目的 • レクリエーション
ベンダー	会社をベンダーとして識別するための選択肢。デフォルトでは、会社および法人の場合、このオプションは **False** に設定されています (チェックボックスは選択されていません)。
メーカー	ユーザーが調達するアイテムを生産するメーカー。
従業員数	会社の従業員数。
バナーイメージ	高さが 60～70 ピクセルの会社のバナー画像。
イメージを添付	バナー画像を添付するオプション。
バナーテキスト	バナー画像とともに表示されるバナーテキスト。
場所	
番地、市区町村、都道府県、郵便番号、国、電話番号、FAX	会社の標準的な連絡先情報。
緯度と経度	リスク集中マップ上で会社の場所をマークするために使用される値。
財務	
株式公開	会社が株式公開であるかどうかをマークするオプション。
銘柄コード	会社の銘柄記号。
株価	会社の株価。
1 年あたりの収益	会社の 1 年間の収益。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規会社の作成フォーム (続く)

フィールド	説明
時価総額	同社の時価総額。
利益	会社の利益。
会計年度	会社の会計年度 (YYYY-MM-DD 形式)。
リスク評価	
計算済みリスク評価	計算されたリスク評価。このフィールドは自動入力されます。 値は会社の全体的なリスク評価であり、アセスメント後にすべての TPR 査定人のリスク評価をロールアップして計算されます。
リスク評価を上書き	計算されたリスク評価を上書きするオプション。 チェックボックスをオンにする場合は、次の値を指定します。 • 上書きされたリスク評価:新しいリスク評価を選択します。 • 上書き日:上書きされたリスクの評価または理由が更新される日付。 • 理由:値を上書きする理由を入力します。
上書きされたリスク評価	ユーザーによって手動で変更された評価で、システムによって計算された評価を上書きします。利用可能なオプションは次のとおりです： • **1:**非常に高い • **2 -** 高 • **3 -** 中 • **4 -** 低 • 5：非常に低い
上書き日	上書きされたリスク評価またはその理由が最後に更新された日付。
理由	リスク評価を上書きする理由。
アセスメントリスク評価	アセスメントのリスクレベル。このフィールドは自動入力されます。
エンゲージメントリスク評価	エンゲージメントのリスクレベル。このフィールドは自動入力されます。
子会社のリスク評価	子会社のリスクレベル。このフィールドは自動入力されます。
リスクインテリジェンス評価	リスクイベントの可能性と影響度を反映するスコア。このフィールドは自動入力されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい法人の作成フォーム

[新しい法人の作成 (Create New Legal entity)] フォームで、フィールドに入力してデジタルレジリエンス情報を設定します。

新しい法人の作成フォーム

新しい法人の作成フォーム

フィールド	説明
デジタルレジリエンスの情報	
取引主体の LEI	法人識別子。情報登録簿に報告されたエンティティの一意のグローバル識別子。ISO 17442 標準に基づく 20 文字の英数字コードを使用します。
取引主体の名前	情報登録簿を維持および更新するエンティティの正式名。
取引主体の国	情報登録簿に記載されているエンティティのライセンスまたは登録が発行された 2 文字の国コード。
取引主体のタイプ	エンティティのタイプ。次のいずれかのオプションを使用して、エンティティのタイプを識別します。 • 信用機関 • 投資会社 • 中央カウンターパーティ **(CCP)** • 資産管理会社 • アカウント情報サービスプロバイダー • 電子マネー機関 • 暗号資産サービスプロバイダー • 中央セキュリティ保管庫 • 取引場所 • 取引情報蓄積機関 • 支払機関 • その他の金融機関 • 証券化リポジトリ • クラウドファンディングサービスプロバイダー • 重要なベンチマークのアドミニストレーター • 信用格付機関 • 企業年金制度 • 保険仲介業者、再保険仲介業者、付帯保険仲介業者 • 保険および再保険事業

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい法人の作成フォーム (続く)

フィールド	説明
	• データレポートサービスプロバイダー • オルタナティブ投資ファンドの運用会社 • 非金融機関：**ICT** グループ内サービスプロバイダー以外 • 非金融機関：**ICT** グループ内サービスプロバイダー • 資産参照トークンの発行者
グループ内の取引主体の階層	次のいずれかのオプションを使用して識別されるグループ内のエンティティの階層。 • 最終的な親 • 最終的な親以外の親 • 子会社 • グループの取引主体以外の取引主体 • アウトソーシング
取引主体の直接の親会社の LEI	情報登録簿に報告されている取引主体の直接の親会社の取引主体識別子 (LEI)。このフィールドは、 グループフィールド内のエンティティの階層 が次のいずれかの値を持つ場合に表示されます。 • 最終的な親以外の親 • 子会社 • グループの取引主体以外の取引主体 • アウトソーシング
最終更新日	エンティティに関連する情報登録簿で最後に行われた YYYY-MM-DD 形式の更新日。
情報登録簿の統合日	エンティティが情報登録簿に追加された YYYY-MM-DD 形式の日付。
金融機関は情報登録で削除されていますか？	金融機関が情報登録で削除されたかどうかなど、法人の情報。利用可能なオプションは次のとおりです： • はい: 情報登録簿フィールドの削除日 を表示します。 • いいえ:金融機関が情報登録簿から削除されている場合、日付は次のフィールドに自動的に入力されます。 情報 登録簿の削除日。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい法人の作成フォーム (続く)

フィールド	説明
通貨	金融機関の財務諸表の作成に使用される通貨コード。
金融機関の総資産価値	前年度の財務諸表に基づく、ICT サービスを使用する取引主体の総資産の金銭的価値。

分岐を作成してデジタルレジリエンスデータを強化

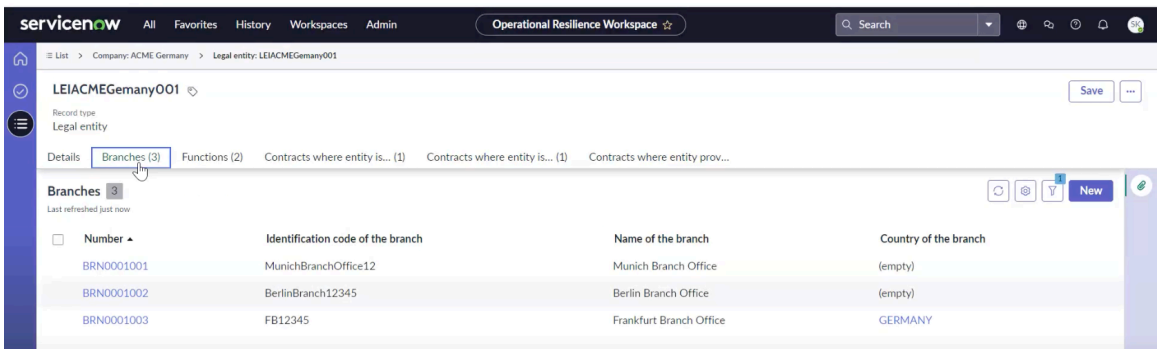
デジタルレジリエンスサードパーティ登録で分岐レコードを作成します。その後、 DORA 規制に準拠するためにデジタルレジリエンス情報を強化できます。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.manager

このタスクについて

法人は、さまざまな都市や国で複数の支店を運営している場合があり、そのすべてをフォームに文書化できます。



新しい支店が開設された場合、その情報は規制報告にも必要です。

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿 > 分岐.
2. **[New** (新規)] を選択します。

   [新しい分岐を作成] フォームが表示されます。
3. フォームで、フィールドに入力します。

   ユーザーは通常、分岐の次の詳細を入力します。

   - 分岐名とその説明
   - オーナーの詳細
   - レポート目的での事業部門と部門のタグ付け
   - 支店を本社または本社以外の別の支店として指定する
   - 支店の ID と発信国

   分岐の番号が自動生成されます。分岐の詳細が完了すると、情報を情報登録にキャプチャする準備が整います。

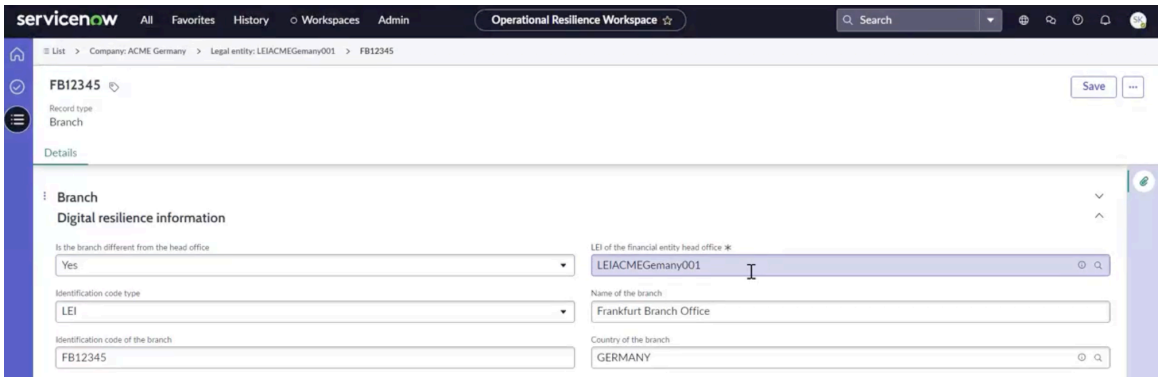
   詳細については、「[新しい分岐を作成] フォーム」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. **[Save** (保存)] を選択します。

   分岐のデジタルレジリエンス情報を例に示します。



5. 分岐レコードを編集するには、リストからブランチレコードを選択して [編集] を選択します。
6. 分岐レコードをエクスポートするには、 エクスポート を選択します。
7. 分岐レコードを削除するには、リストから選択して [削除] を選択します。

次のタスク
分岐に関連付けられている関数を指定します。詳細については、「機能の作成とデジタルレジリエンスデータの強化」を参照してください。

[新しい分岐を作成] フォーム

[新しい分岐を作成] フォームで、フィールドに入力します。

[新しい分岐を作成] フォーム

フィールド	説明
SysID	インスタンス内の各分岐レコードを識別する一意の 32 文字の GUID (グローバル一意識別子)。既存のレコードを更新する場合は、この値を指定します。システムに新しいレコードを作成する場合は、値 -1 を指定します。
名前	分岐の名前。
説明	分岐の説明。
番号	アプリケーションによって生成される分岐の一意の識別番号 (BRN0001005 など)。このフィールドは自動入力されます。
部門	支店が属する部門 (カスタマーサポート、製品管理など)。
所有者	分岐の所有者の名前。
業務部門	支店に関連付けられている事業部門の名前 (HR、IT、法務など)。
デジタルレジリエンスの情報	
支店が金融機関の本店と異なるかどうか	支店が本社と異なるかどうかを確認するオプション。利用可能なオプションは次のとおりです：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新しい分岐を作成] フォーム (続く)

フィールド	説明
	• はい: [はい] オプションを選択すると、[識別コードタイプ] フィールドと [分岐の識別コード] フィールドが表示されます。 • **No** (なし)
識別コードタイプ	分岐に使用される識別コードのタイプ。利用可能なオプションは次のとおりです： • **LEI** • その他
支店の識別コード	金融機関の海外支店で、FB97521 などの特定のコードで一意に識別されます。金融機関は、支店の取引主体識別子 (LEI) またはその他の識別コードを使用して支店を区別します。
支店の金融機関本店の LEI	支店が属する金融機関の本店の取引主体識別子 (LEI) (例:LEIACMEGermany001 または LEIACMEAmericas001)
支店の名前	識別に使用される分岐の名前。支店の金融機関本店の LEI を入力すると、このフィールドは自動入力されます (例:フランクフルト支店)。
支店の国	支店がある 2 文字の国コード。支店の金融機関本店の LEI を入力すると、このフィールドは自動入力されます (例:ドイツ)。

自動翻訳

機能の作成とデジタルレジリエンスデータの強化

機能識別子、ライセンスアクティビティ、機能名、重要度または重要性アセスメントの詳細など、機能の詳細を構成できる機能レコードを デジタルレジリエンスサードパーティ登録 で作成します。その後、 DORA 規制に準拠するためにデジタルレジリエンス情報を強化できます。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.manager

このタスクについて

法人は複数の支店を持つことができ、これらの支店全体でさまざまな機能が動作します。したがって、法人、支店、および機能は、アウトソーシングされる ICT サービスのユーザーです。

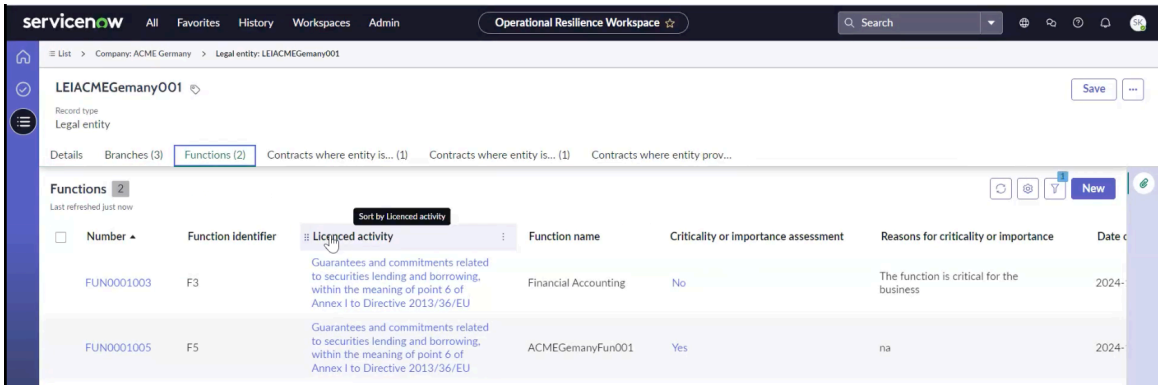
機能は、サービス、サービスオファリング、またはプロセスにすることができます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿 > 機能.
2. **[New** (新規)] を選択します。

   [新しい関数を作成] フォームが表示されます。組織内の複数の機能を選択して表示できます。

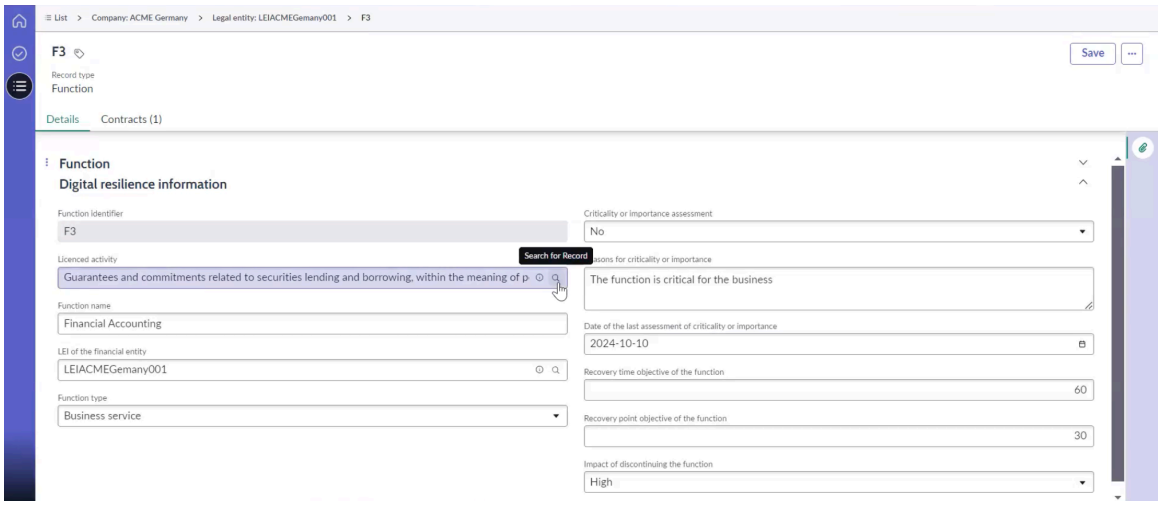
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



3. フォームで、フィールドに入力します。
4. **[Save** (保存)] を選択します。

   機能レコードがリストビューに表示されます。

   関数のデジタルレジリエンスの情報を例に示します。



5. DORA規制のデジタルレジリエンス情報を設定するには、デジタルレジリエンス情報 タブに移動し、新規 を選択します。

   組織にはさまざまな機能があり、それぞれが デジタルオペレーショナルレジリエンスアクション (DORA) で定義されている特定のサービス、サービスオファリング、またはサービスのグループ、またはそのサービスオファリングを表します。これらの機能を選択して表示できます。関数フォームは、各関数に関する詳細情報をキャプチャするように設計されています。

   フォームでは、次の詳細を表示して入力できます。

   - 機能識別子
   - ライセンスされたアクティビティ (選択リスト)
   - 関数名
   - 関連法人と機能タイプ (ビジネスプロセスまたはサービス)
   - 表された特定のビジネスプロセスまたはサービス
   - 関数の重要度

   さらに、 事業継続性管理 アプリケーションがインストールされている場合は、目標復旧時間 (RTO)、目標復旧時点 (RPO)、およびビジネスの重要度を確認できます。フォームに説明的なメモを含めることもできます。完了すると、サードパーティの ICT サービスの使用状況の詳細が文書化されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

法人のデジタルレジリエンス情報の設定については、「 新しい関数の作成フォーム」を参照してください。

6. **[Save** (保存)] を選択します。
7. 機能レコードを編集するには、リストから選択して [編集] を選択します。
8. 関数レコードをエクスポートするには、 エクスポート を選択します。
9. 機能レコードを削除するには、リストから選択して [削除] を選択します。

新しい関数の作成フォーム

[新しい関数を作成] フォームで、フィールドに入力します。

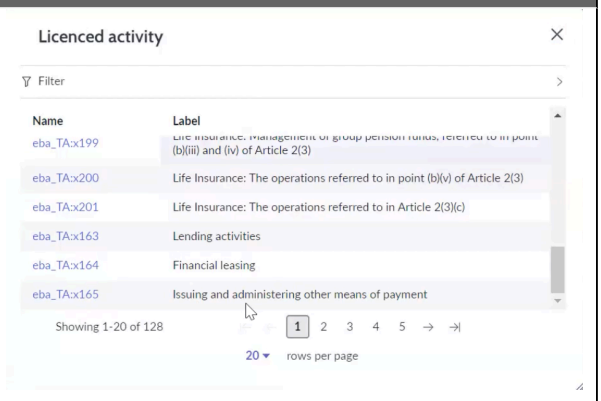
新しい関数の作成フォーム

フィールド	説明
名前	機能の名前 (例:財務会計)。
説明	関数の説明。
番号	アプリケーションによって生成される機能の一意の識別番号 (FUN0001003 など)。このフィールドは自動入力されます。
部門	経理などの機能が属する部門。
所有者	関数の所有者の名前。
業務部門	HR、IT、法務など、職務に関連付けられている事業部門の名前。
デジタルレジリエンスの情報	
機能識別子	文字 F (大文字) とそれに続く自然数で構成される機能識別子 (たとえば、1 番目の関数識別子は「F1」、n 番目の関数識別子は「Fn」で、「n」は自然数です)。たとえば、新しい関数を作成すると、F1、F2、F3 のようになります。このフィールドは自動入力されます。
ライセンスを受けたアクティビティ	附属書 II で異なる種類の金融機関について言及されているライセンスされた活動。関数が関連するアクティビティのリスト。ライセンスアクティビティは、ユーザーによって提供された特定のドロップダウンリストと、規制当局が要求する値のセットです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい関数の作成フォーム (続く)

フィールド	説明
	
関数名	金融機関の内部組織に応じた機能名 (財務会計など)。
金融機関の LEI	LEI、20 文字の英数字コードを使用する金融機関 (例:LEIACMEGermany001)。
機能タイプ	関数のタイプ。 利用可能なオプションは次のとおりです： • ビジネス機能 • ビジネスサービス • **Business process** (ビジネスプロセス) • サービスオファリング • 独立したオブジェクトであるか [ビジネスケイパビリティ] オプションを選択すると、[ビジネスケイパビリティを選択] フィールドが表示されます。 [ビジネスサービス]、[ビジネスプロセス]、または [サービスオファリング] のオプションを選択すると、次のフィールドが表示されます。 • ビジネスサービスを選択する • ビジネスプロセスを選択する • サービスオファリングを選択
非常に重要または重要アセスメント	金融機関のアセスメントに基づく機能の重要度または重要性。利用可能なオプションは次のとおりです： • **Yes** (あり) • **No** (なし) • アセスメントが実行されませんでした
非常に重要または重要な理由	機能を重要または重要に分類する理由の簡単な説明。最大 300 文字が許可されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい関数の作成フォーム (続く)

フィールド	説明
非常に重要または重要な最後のアセスメントの日付	ICT サードパーティサービスプロバイダーが提供する ICT サービスによって機能がサポートされている場合の、非常に重要または重要な最後のアセスメントの日付。 オペレーショナルレジリエンスがある場合、この情報は自動入力されます。オペレーショナルレジリエンスがなく、TPRM でアプリケーションを使用している場合は、この情報を手動で入力する必要があります。 関数がサービス関連で、 オペレーショナルレジリエンスがあり、重要性と影響度のアセスメントを完了すると、デフォルト値がそのアセスメントからコピーされます。
機能の目標復旧時間	機能の目標復旧時間 (時間数)。目標復旧時間が 1 時間未満の場合、「1」と報告されます。機能の目標復旧時間が定義されていない場合は、「0」が報告されます。 ビジネスプロセス、サービス、またはサービスオファリングに対してビジネスインパクトアナリシス (BIA) が実施され、事業継続性管理 (BCM) も同じインスタンスに設定されている場合、値はこの機能の関連する BIA からコピーされます。
機能の目標復旧時点	機能の目標復旧時点 (時間数)。目標復旧時点が 1 時間未満の場合、「1」と報告されます。機能の目標復旧時点が定義されていない場合は、「0」が報告されます。 ビジネスプロセス、サービス、またはサービスオファリングに対してビジネスインパクトアナリシス (BIA) が実施され、事業継続性管理 (BCM) も同じインスタンスに設定されている場合、値はこの機能の関連する BIA からコピーされます。
機能利用停止の影響	金融機関の評価に従って機能利用を停止した場合の影響。対応するドロップダウンリストにあるオプションのうちの 1 つが使用されます。利用可能なオプションは次のとおりです： • やや複雑 • 中 • 高 • アセスメントが実行されませんでした

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティを作成し、デジタルレジリエンスデータを強化

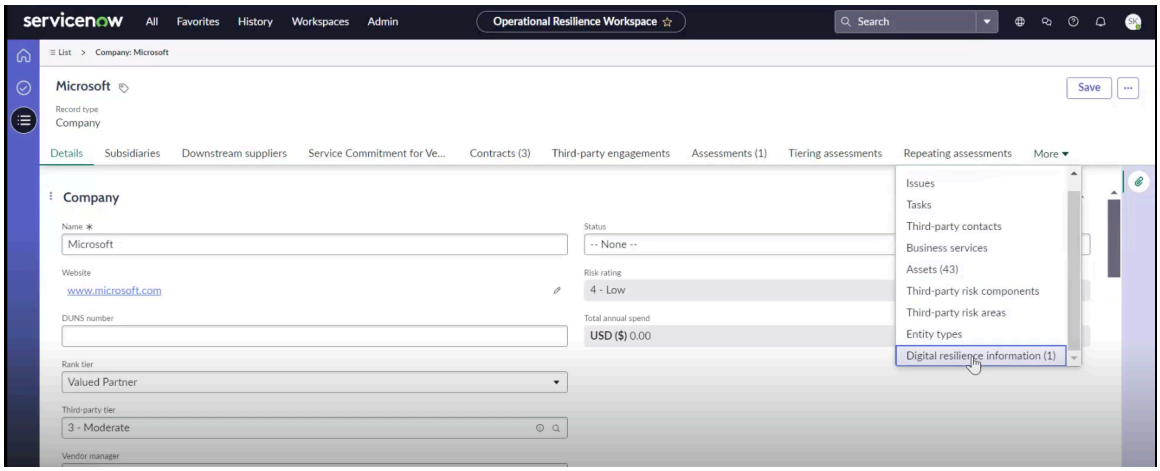
デジタルレジリエンスサードパーティ登録 でサードパーティレコードを作成します。名前、住所、電話番号、ベンダーマネージャーなど、サードパーティ会社の詳細を追加します。その後、 DORA 規制に準拠するためにデジタルレジリエンス情報を強化できます。

始める前に

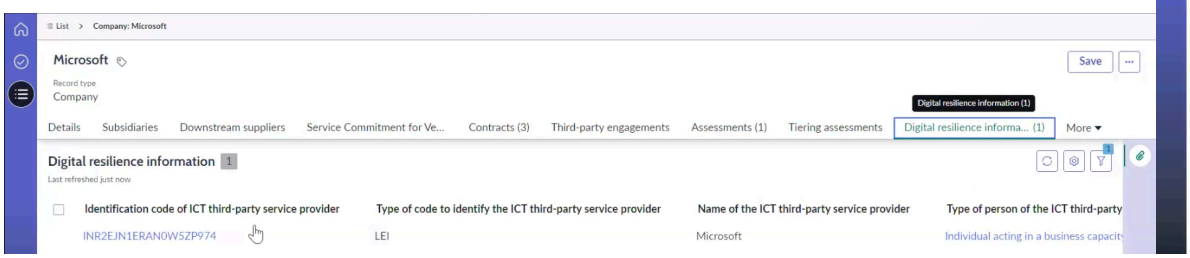
必要なロール：sn_oper_res.manager

このタスクについて

システム内の既存のサードパーティにアクセスして表示するには、 オペレーショナルレジリエンスワークスペース内の [サードパーティ] メニューアイテムに移動します。デジタルレジリエンスサードパーティ登録をインストールすると、サードパーティの [デジタルレジリエンス情報] タブが追加されます。



このタブを開いて、デジタルレジリエンスの情報の詳細を設定できます。



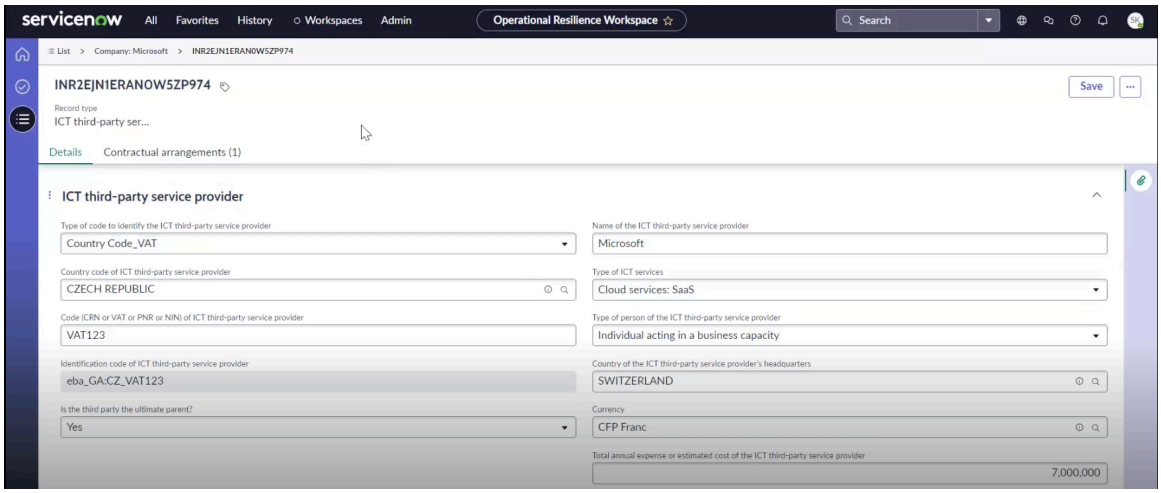
手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿 > サードパーティ.
2. **[New** (新規)] を選択します。
   [新しい会社を作成] フォームが表示されます。
3. フォームで、フィールドに入力します。
   詳細については、「新規会社の作成フォーム」を参照してください。
4. **[Save** (保存)] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. DORA規制のデジタルレジリエンス情報を設定するには、デジタルレジリエンス情報 タブに移動し、新規 を選択します。
6. フォームで、フィールドに入力します。

   詳細については、「[新しい ICT サードパーティサービスプロバイダーの作成] フォーム」を参照してください。例では、フィールドの詳細が表示されます。



   サードパーティの法人 ID を表示できます。これは、付加価値税 (VAT) 番号または会社登録番号 (CRN) 番号で取得できます。登録国とそのコードを指定できます。登録国は、ID の生成に使用されます。

   サードパーティが Ultimate か子会社かを指定することもできます。ICTサードパーティの名前と、提供するサービスのタイプ (サービスとしてのソフトウェア (SaaS) など) を含めます。必要に応じて、個人が組織を代表して行動するかどうかをメモできます。さらに、レポート通貨を選択し、このエンゲージメントの年間経費合計を入力します。

   詳細については、「新規会社の作成フォーム」を参照してください。

7. **[Save** (保存)] を選択します。
8. サードパーティの会社レコードを編集するには、リストから選択して 編集 を選択します。
9. サードパーティの会社レコードをエクスポートするには、 エクスポート を選択します。
10. サードパーティの会社レコードを削除するには、リストから選択して [削除] を選択します。

新規会社の作成フォーム

[新しい会社を作成] フォームで、サードパーティのフィールドに入力します。

新規会社の作成フォーム

フィールド	説明
名前	会社の一意の名前。
Web サイト	会社の Web サイトの詳細。
DUNS 番号	アプリケーションによって生成された会社の一意の識別番号。データユニバーサルナンバーシステム番号は、ビジネスを識別する一意の9桁の番号です。
ランク	会社のランク。利用可能なオプションは次のとおりです：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規会社の作成フォーム (続く)

フィールド	説明
	• 戦略的パートナー • 価値あるパートナー • 戦術的サプライヤー • 対象外サプライヤー • その他
サードパーティ階層	会社にアサインされた階層。利用可能なオプションは次のとおりです： • **1:**非常に高い • **2 -** 高 • **3 -** 中 • **4 -** 低 • 5：非常に低い
ベンダーマネージャー	会社のベンダーマネージャー。
事業主	会社の事業主のリスト。
親	企業階層を決定する親組織。
ステータス	会社の現在の地位。利用可能なオプションは次のとおりです： • 未選択 • 選択済み • オンボーディング • 見込み客 • **Active** (アクティブ) • 未承認のアクティブ • 終了 • オンボーディングが却下されました
リスク評価	リスク評価に基づいて会社に割り当てられた評価。このフィールドは自動入力されます。
合計年間消費量	会社が年間に費やす合計金額。このフィールドは自動入力されます。
メモ	会社に関するその他の発言またはコメント。
全般	
業種	会社のセクターまたは業種分類。利用可能なオプションは次のとおりです：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規会社の作成フォーム (続く)

フィールド	説明
	• 農業 • アパレル • 銀行 • バイオテクノロジー • 化学物質 • コミュニケーション • 作成 • コンサルティング • 教育 • 電子機器 • エネルギー • 開発/構築 • エンターテイメント • 環境 • 財務 • 料理と飲料 • 政府機関 • 医療 • ホスピタリティ • 保険 • 機械 • 製造業 • メディア • 非営利目的 • レクリエーション
ベンダー	会社をベンダーとして識別するための選択肢。デフォルトでは、会社および法人の場合、このオプションは **False** に設定されています (チェックボックスは選択されていません)。
メーカー	ユーザーが調達するアイテムを生産するメーカー。
従業員数	会社の従業員数。
バナーイメージ	高さが 60～70 ピクセルの会社のバナー画像。
イメージを添付	バナー画像を添付するオプション。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規会社の作成フォーム (続く)

フィールド	説明
バナーテキスト	バナー画像とともに表示されるバナーテキスト。
場所	
番地、市区町村、都道府県、郵便番号、国、電話番号、FAX	会社の標準的な連絡先情報。
緯度と経度	リスク集中マップ上で会社の場所をマークするために使用される値。
財務	
株式公開	会社が株式公開であるかどうかをマークするオプション。
銘柄コード	会社の銘柄記号。
株価	会社の株価。
1 年あたりの収益	会社の 1 年間の収益。
時価総額	同社の時価総額。
利益	会社の利益。
会計年度	会社の会計年度 (YYYY-MM-DD 形式)。
リスク評価	
計算済みリスク評価	計算されたリスク評価。このフィールドは自動入力されます。 値は会社の全体的なリスク評価であり、アセスメント後にすべての TPR 査定人のリスク評価をロールアップして計算されます。
リスク評価を上書き	計算されたリスク評価を上書きするオプション。 チェックボックスをオンにする場合は、次の値を指定します。 • 上書きされたリスク評価:新しいリスク評価を選択します。 • 上書き日:上書きされたリスクの評価または理由が更新される日付。 • 理由:値を上書きする理由を入力します。
上書きされたリスク評価	ユーザーによって手動で変更された評価で、システムによって計算された評価を上書きします。利用可能なオプションは次のとおりです： • **1:**非常に高い • **2 -** 高 • **3 -** 中

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規会社の作成フォーム (続く)

フィールド	説明
	• **4 -** 低 • 5：非常に低い
上書き日	上書きされたリスク評価またはその理由が最後に更新された日付。
理由	リスク評価を上書きする理由。
アセスメントリスク評価	アセスメントのリスクレベル。このフィールドは自動入力されます。
エンゲージメントリスク評価	エンゲージメントのリスクレベル。このフィールドは自動入力されます。
子会社のリスク評価	子会社のリスクレベル。このフィールドは自動入力されます。
リスクインテリジェンス評価	リスクイベントの可能性と影響度を反映するスコア。このフィールドは自動入力されます。

[新しい **ICT** サードパーティサービスプロバイダーの作成] フォーム

[新しい ICT サードパーティサービスプロバイダーを作成 (Create New ICT third-party service provider)] フォームで、フィールドに入力します。

[新しい **ICT** サービスプロバイダーの作成] フォーム

フィールド	説明
ICT サービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ	ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するために使用されるコードのタイプ。 利用可能なオプションは次のとおりです。 • **LEI** • **EUID** • 国**Code_CRN**:会社登録番号 • 国**Code_VAT**:付加価値税識別番号 • 国**Code_PNR**:搭乗者名レコード • 国**Code_NIN**:国民識別番号
ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード	ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード。
ICT サービスプロバイダーを識別するための追加識別コードのタイプ	ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するための追加の識別コードのタイプ。 利用可能なオプションは次のとおりです。 • **LEI** • **EUID** • 国**Code_CRN**:会社登録番号

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新しい **ICT** サービスプロバイダーの作成] フォーム (続く)

フィールド	説明
	• 国**Code_VAT**:付加価値税識別番号 • 国**Code_PNR**:搭乗者名レコード • 国**Code_NIN**:国民識別番号
ICT サービスプロバイダーの追加識別コード	ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するための追加の識別コード。
ICT サービスプロバイダーの人間のタイプ	ICT サードパーティサービスプロバイダーの個人のタイプ。利用可能なオプションは次のとおりです。 • 法人 (ビジネス上の立場で行動する個人を除く) • ビジネス上の立場で行動する個人
ICT サードパーティサービスプロバイダーの本部の国	ICT サードパーティサービスプロバイダーの本社がある国。
ICT サービスプロバイダーの正式名	ICT サードパーティサービスプロバイダーの正式名。
ICT サービスプロバイダーの名前	ICT サードパーティサービスプロバイダーの名前。 このフィールドには、ICT サードパーティサービスプロバイダーが運営する一般的に使用されるブランド名または商号をリストできますが、正式名と正確には一致しない場合があります。
通貨	ICT サードパーティサービスプロバイダーの本社がある国の通貨。
ICT サードパーティサービスプロバイダーの年次経費または概算コストの合計	ICT サードパーティサービスプロバイダーの年次経費または概算コストの合計。
サードパーティは最終的な親ですか？	サードパーティが最終的なサードパーティであるかどうかを確認するオプション。 利用可能なオプションは次のとおりです。 • はい:サードパーティ自体が親です。 • いいえ:デフォルトのオプション。
ICT サードパーティサービスプロバイダーの最終的な親会社の識別コード	ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コードと ICT サードパーティサービスプロバイダーの名前の参照フィールド。 [サードパーティは最終的な親ですか?] フィールドの選択が [いいえ] の場合は、最終的な親以外の ICT サードパーティサービスプロバイダーのシステム入力識別コードを選択します。ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コードを最終的な親の識別コードとして選択す

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新しい **ICT** サービスプロバイダーの作成] フォーム (続く)

フィールド	説明
	ると、「ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コードと ICT サードパーティサービスプロバイダーの最終的な親の識別コードは異なる必要があります」というエラーメッセージが表示されます。 [サードパーティは最終的な親ですか?] フィールドの選択が [はい] の場合、ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コードが自動入力されます。
ICT サードパーティサービスプロバイダーの最終的な親を識別するためのコードのタイプ	ICT サードパーティサービスプロバイダーの最終的な親を識別するために使用されるコードのタイプ。 利用可能なオプションは次のとおりです。 • **LEI** • **EUID** • 国**Code_CRN**:会社登録番号 • 国**Code_VAT**:付加価値税識別番号 • 国**Code_PNR**:搭乗者名レコード • 国**Code_NIN**:国民識別番号
ICT サービスのタイプ	ICT サービスのタイプ。利用可能なオプションは次のとおりです。 • **ICT** プロジェクト管理 **(PM)** • **ICT** 開発 • **ICT** ヘルプデスクと第 **1** レベルのサポート • **ICT** セキュリティ管理サービス • データの提供 • データ分析 • ICT、施設、ホスティングサービス (クラウドサービスを除く) • 計算 • 非クラウドデータストレージ • 通信事業者 • ネットワークインフラストラクチャ • ハードウェアと物理デバイス • ソフトウェアライセンス **(SaaS** を除く) • **ICT** 運用管理 (保守を含む) • **ICT** コンサルティング • **ICT** リスク管理

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新しい **ICT** サービスプロバイダーの作成] フォーム (続く)

フィールド	説明
	• クラウドサービス：**IaaS** • クラウドサービス：**PaaS** • クラウドサービス：**SaaS**

[store-future: BEGIN review]

サードパーティエンゲージメントを作成し、デジタルレジリエンスデータを強化します

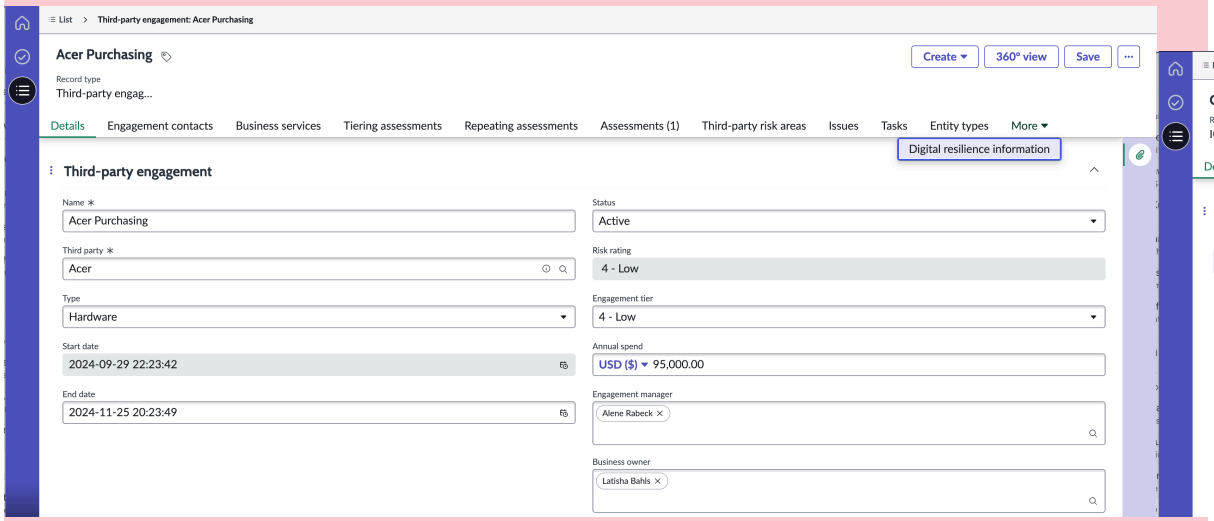
デジタルレジリエンスサードパーティ登録 でサードパーティエンゲージメントレコードを作成します。サードパーティの名前、そのタイプ、年間消費量、エンゲージメント階層など、サードパーティエンゲージメントの詳細を追加します。その後、 DORA 規制に準拠するためにデジタルレジリエンス情報を強化できます。

始める前に
必要なロール：sn_oper_res.manager

このタスクについて
オペレーショナルレジリエンスワークスペースからデジタルレジリエンスサードパーティ登録内の [サードパーティエンゲージメント] メニューアイテムを選択すると、システム内の既存のサードパーティエンゲージメントにアクセスして表示できます。

[デジタルレジリエンス情報] タブはサードパーティエンゲージメントモジュールでも使用でき、サードパーティエンゲージメントについてより詳細なレベルで報告できます。このモジュールは、 サードパーティリスク管理 アプリケーションがインストールされている場合にのみ表示されます。このアプリケーションをお持ちでない場合でも、サードパーティのサードパーティテーブルとデジタルレジリエンス情報を使用できます。

デジタルレジリエンスサードパーティ登録をインストールすると、サードパーティエンゲージメントの [デジタルレジリエンス情報] タブが追加されます。このタブを開いて、デジタルレジリエンスの情報の詳細を設定できます。



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿 > サードパーティエンゲージメント.
2. **[New** (新規)] を選択します。
   [新しいサードパーティエンゲージメントを作成 (Create New Third-party engagement)] フォームが表示されます。
3. フォームで、フィールドに入力します。
   詳細については、「新しいサードパーティエンゲージメントの作成フォーム」を参照してください。
4. [**Save**] をクリックします。
5. デジタルレジリエンスの情報を追加します。
   詳細については、「サードパーティエンゲージメントへのデジタルレジリエンス情報の追加」を参照してください。
6. サードパーティエンゲージメントレコードを編集するには、リストから選択して [編集] を選択します。
7. サードパーティエンゲージメントレコードをエクスポートするには、[エクスポート] を選択します。
8. サードパーティエンゲージメントレコードを削除するには、リストから選択して [削除] を選択します。

[End]
[store-future: BEGIN review]

サードパーティエンゲージメントへのデジタルレジリエンス情報の追加

サードパーティエンゲージメントにデジタルレジリエンス情報を追加します。

始める前に
必要なロール：sn_oper_res.manager

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿 > サードパーティエンゲージメント をクリックし、エンゲージメントレコードを開きます。
2. [デジタルレジリエンス情報] タブを起動します。
3. **[New** (新規)] を選択します。
   [新しい ICT サードパーティサービスプロバイダーを作成 (Create New ICT third-party service provider)] フォームが表示されます。
4. デジタルレジリエンス情報の詳細を設定します。
   詳細については、「[新しい ICT サードパーティサービスプロバイダーの作成] フォーム」を参照してください。
5. **[Save** (保存)] を選択します。
   ICT サードパーティサービスプロバイダーレコードが作成され、その詳細が [詳細] タブに表示されます。
6. [契約上の取り決め] タブに移動し、詳細を表示します。

[End]

[store-future: BEGIN review]

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しいサードパーティエンゲージメントの作成フォーム

[新しいサードパーティエンゲージメントを作成 (Create New Third-party engagement)] フォームのフィールドに入力します。

新しいサードパーティエンゲージメントの作成フォーム

フィールド	説明
名前	エンゲージメントの一意の名前。理想的には、エンゲージメントの対象である製品またはサービスについて言及します。
サードパーティ	このエンゲージメントレコードを作成するサードパーティ。
タイプ	エンゲージメント組織によって提供される製品またはサービスのタイプ。
開始日	開始日と終了日を入力して、エンゲージメントの有効期間を定義します。
終了日	サードパーティとのやり取りの開始と終了の希望日。
ステータス	エンゲージメントの現在のステータスを選択します。利用可能なオプションは次のとおりです： • **Active** (アクティブ) • オンボーディング • 見込み客 • 無許可のアクティブ • 終了 • オンボーディングが却下されました
リスク評価	アセスメントが実行された後にエンゲージメントに割り当てられたリスク評価を表示します。
エンゲージメント階層	このエンゲージメントに使用される階層。階層の決定方法の詳細については、「VRM サードパーティのリスク階層アセスメント」を参照してください。
年間消費量	このエンゲージメントのサービスに関連付けられた年間支出額。
エンゲージメントマネージャー	外部のアンケート、問題、およびタスクに対する回答を監視し、優先順位を付け、対応するユーザーを指定します。ロックアイコンをクリックして、フィールドをロックまたはロック解除します。
事業主	エンゲージメント組織と、エンゲージメントする製品またはサービスに精通している人物を指定します。ロックアイコンをクリックして、フィールドをロックまたはロック解除します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しいサードパーティエンゲージメントの作成フォーム (続く)

フィールド	説明
メモ	他のユーザーにエンゲージメントを説明するテキストを入力します。
サードパーティエンゲージメント:連絡先	
番地、市区町村、都道府県、郵便番号、国、電話番号、ファックス	エンゲージメント組織の標準的な連絡先情報。
緯度と経度	[緯度] と [経度] の値は、リスク集中マップ上の場所をマークするために使用されます。「TPRM リスク集中マップ」を参照してください。
リスク評価	
計算済みリスク評価	計算済み 計算済みリスク評価。このフィールドは自動入力されます。 値は、第三者の全体的なリスク評価であり、アセスメント後にすべての TPR 査定人のリスク評価をロールアップして計算されます。
リスク評価を上書き	計算された評価を上書きするオプション。 チェックボックスをオンにする場合は、次の値を指定します。 • 上書きされたリスク評価:新しいリスク評価を選択します。 • 上書き日:上書きされたリスクの評価または理由が更新される日付。 • 理由:値を上書きする理由を入力します。
上書きされたリスク評価	ユーザーによって手動で変更された評価で、システムによって計算された評価を上書きします。利用可能なオプションは次のとおりです： • **1:**非常に高い • **2 -** 高 • **3 -** 中 • **4 -** 低 • 5：非常に低い
上書き日	上書きされるリスク評価または理由が更新される日付。
理由	値を上書きする理由。
アセスメントリスク評価	アセスメントのリスク評価。このフィールドは自動入力されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しいサードパーティエンゲージメントの作成フォーム (続く)

フィールド	説明
エンゲージメントリスク評価	エンゲージメントのリスク評価。このフィールドは自動入力されます。
子会社のリスク評価	子会社のリスク評価。このフィールドは自動入力されます。
リスクインテリジェンス評価	リスクイベントの可能性と結果に対応するスコア。このフィールドは自動入力されます。
フォーム上の関連リスト	
エンゲージメント連絡先	サードパーティエンゲージメントのエンゲージメント連絡先。
ビジネスサービス	サードパーティエンゲージメントに関連するビジネスサービス。
階層アセスメント	サードパーティエンゲージメントの階層アセスメント。
繰り返しアセスメント	サードパーティエンゲージメントの繰り返しアセスメント。
アセスメント	サードパーティエンゲージメントのアセスメント。
サードパーティリスク領域	サードパーティエンゲージメントに関連するリスク領域。
問題	サードパーティエンゲージメントに関連する問題。
タスク	サードパーティエンゲージメントに関連するタスク。
エンティティタイプ	サードパーティエンゲージメントに関連するエンティティタイプ。
デジタルレジリエンスの情報	サードパーティエンゲージメントのデジタルレジリエンス情報。次のパラメーターを追加できます。 • 名前 • サードパーティ • ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード • ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ • ICT サードパーティサービスプロバイダーの名前

[End]

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

契約を作成し、デジタルレジリエンスデータを強化

ベンダー名、開始日と終了日、ステータス、サブステートなどの契約の詳細を追加する契約レコードを デジタルレジリエンスサードパーティ登録 で作成します。その後、 DORA 規制に準拠するためにデジタルレジリエンス情報を強化できます。

始める前に

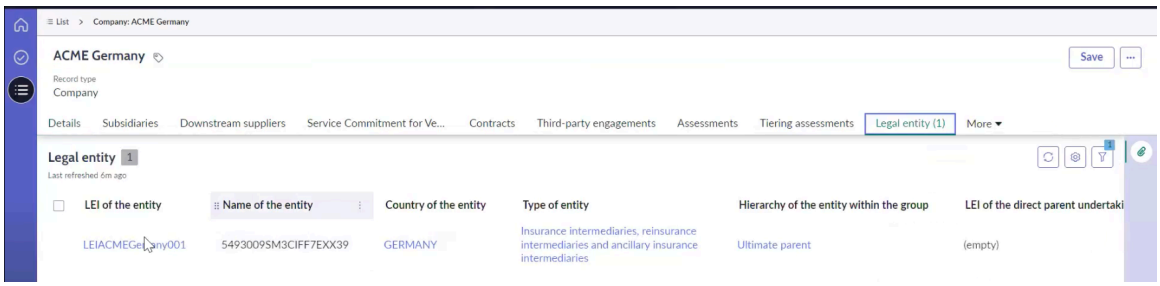
必要なロール：sn_oper_res.manager

このタスクについて

デジタルレジリエンスサードパーティ登録には、組織内の誰が外部アウトソーシングされた ICT サービスを使用しているか、どの機能と支店がそれらを使用しているか、サードパーティのプロバイダーとそのエンゲージメントが誰であるかについての詳細が含まれます。契約はこれら2つの側面を結びつけます。

契約は、情報を使用する当事者と提供する当事者の両方を結び付けます。基本的に、それらは法人、支店、および機能をサードパーティおよびサードパーティエンゲージメントにバインドします。

デジタルレジリエンスサードパーティ登録 の [契約] メニューアイテムから契約に移動できます。または、法人レコードに移動し、法人 タブを開いて、契約に移動することもできます。



手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿 > 契約.
2. **[New** (新規)] を選択します。
   [新規契約を作成] フォームが表示されます。
3. フォームで、フィールドに入力します。
   詳細については、「[新規契約を作成] フォーム」を参照してください。
4. レビューのために契約を送信するには、[レビューのため送信] を選択します。
5. **[Save** (保存)] を選択します。
6. 契約に関連付けられた ICT サービスを使用する契約に署名するエンティティを追加するには、契約レコードの [サービスを使用する契約に署名するエンティティ **(Entities signing contract to use service**)] 関連リストに移動し、[追加] を選択します。
7. **[Save** (保存)] を選択します。
8. 契約に関連付けられた ICT サービスを使用してエンティティを追加するには、契約レコードの [サービスを利用するエンティティ] 関連リストに移動し、[追加] を選択します。
9. **[Save** (保存)] を選択します。

> **注:**
> ICT サービスを使用して複数の取引主体を作成する場合、LEI と取引主体の性質の組み合わせは一意である必要があります。取引主体の性質が支店である場合、取引主体のLEI、取引主体の性質、および支店の識別コードの組み合わせは一意である必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

10. 契約に関連する ICT サービスを提供する契約に署名するエンティティを追加するには、契約レコードの [サービスを提供するエンティティ] 関連リストに移動し、[追加] を選択します。
11. **[Save** (保存)] を選択します。
12. 契約に署名して契約に関連付けられた ICT サービスを提供するサードパーティを追加するには、契約レコードの [サービスを提供するサードパーティと契約 に署名する] 関連リストに移動し、[追加] を選択します。
13. **[Save** (保存)] を選択します。
14. 契約に署名して契約に関連付けられた ICT サービスを提供するサードパーティエンゲージメントを追加するには、契約レコードの [契約 に署名するサードパーティエンゲージメント] 関連リストに移動し、[追加] を選択します。
15. **[Save** (保存)] を選択します。
16. DORA規制のデジタルレジリエンス情報を設定するには、[特定の情報] 関連リストに移動し、[新規] を選択して契約上の取り決めを作成します。
17. フォームで、フィールドに入力します。
18. **[Save** (保存)] を選択します。
19. グループ内契約上の取り決めを追加するには、契約の グループ内契約上の取り決め タブに移動し、 追加 を選択します。
20. **[Save** (保存)] を選択します。
21. 契約に関連付けられた ICT サービスのサプライチェーンを追加するには、契約の **ICT** サービスのサプライチェーン タブに移動し、 新規 を選択してフィールドに入力します。
22. **[Save** (保存)] を選択します。
23. 契約に関連付けられた ICT サービスのアセスメントを追加するには、契約の **[ICT** サービスのアセスメント] タブに移動し、[新規] を選択してフィールドに入力します。
24. **[Save** (保存)] を選択します。
    各フィールドの説明については、「[新しい契約上の取り決めを作成 (Create New Contractual Arrangement)] フォーム」を参照してください。
25. 契約レコードを編集するには、リストから選択し、編集後に [保存] を選択します。
26. 契約レコードをエクスポートするには、[エクスポート] を選択します。
27. 契約レコードを削除するには、リストから選択して [削除] を選択します。

[新規契約を作成] フォーム

[新規契約を作成] フォームのフィールドに入力します。

[新規契約を作成] フォーム

フィールド	説明
契約	
契約番号	契約上の取り決めの一意の識別子番号 (CNTR0009002 など)。このフィールドは自動入力されます。
契約上の取り決め参照番号	金融機関によって割り当てられた契約上の取り決めの内部参照番号。これは、金融機関と直接 ICT サードパーティサービスプロバイダーとの

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新規契約を作成] フォーム (続く)

フィールド	説明
	間の契約上の取り決めを特定するために使用されます。
名前	契約の名前と簡単な説明。
契約上の取り決めのタイプ	対応するドロップダウンリストに含まれるオプションのうちの 1 つを使用して識別される契約上の取り決めのタイプ: • スタンドアロン取り決め • 包括的な取り決め • 後続または関連する取り決め
状況	契約のステータスたとえば、[ドラフト] ステータスなどです。
契約モデル	サービス契約や購入契約など、作成される契約のタイプ。
通貨	金額のレポートに使用される通貨のコード。
過去 1 年間の年次経費または概算コスト	過去 1 年間の ICT サービスの取り決めの年次経費または概算コスト (またはグループ内転送)。
説明	契約の詳細な説明。

[新しい契約上の取り決めを作成 **(Create New Contractual Arrangement)]** フォーム

[新しい契約上の取り決めを作成 (Create New Contractual Arrangement)] フォームのフィールドに入力します。契約ごとに、個別のフォームが必要になります。

[新しい契約上の取り決めを作成 **(Create New Contractual Arrangement)]** フォーム

[新しい契約上の取り決めを作成 **(Create New Contractual Arrangement)]** フォーム

フィールド	説明
契約上の取り決め	
契約番号	契約上の取り決めの一意の識別子番号 (CNTR0009002 など)。このフィールドは自動入力されます。
契約上の取り決め参照番号	金融機関によって割り当てられた契約上の取り決めの内部参照番号。これは、金融機関と直接 ICT サードパーティサービスプロバイダーとの間の契約上の取り決めを特定するために使用されます。
名前	契約の名前と簡単な説明。
契約上の取り決めのタイプ	対応するドロップダウンリストに含まれるオプションのうちの 1 つを使用して識別される契約上の取り決めのタイプ:

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新しい契約上の取り決めを作成 **(Create New Contractual Arrangement)]** フォーム (続く)

フィールド	説明
	• スタンドアロン取り決め • 包括的な取り決め • 後続または関連する取り決め
状況	契約のステータスたとえば、[ドラフト] ステータスなどです。
契約モデル	サービス契約や購入契約など、作成される契約のタイプ。
通貨	金額のレポートに使用される通貨のコード。
過去 1 年間の年次経費または概算コスト	過去 1 年間の ICT サービスの取り決めの年次経費または概算コスト (またはグループ内転送)。
説明	契約の詳細な説明。
サービスを使用する契約に署名するエンティティ	
契約上の取り決めを締結している取引主体の LEI	契約上の取り決めを締結する取引主体を識別するための取引主体識別子 (LEI) コード (LEI0000000000000000B など)。
取引主体の名前	契約上の取り決めを締結するエンティティの名前 (ACME NA など)。
サービスを利用する取引主体	
ICT サービスを利用する取引主体の LEI	サービスを利用する取引主体の LEI (LEI0000000000000000C など)。
取引主体の名前	サービスを利用するエンティティの名前 (ACME SA など)。
ICT サービスを利用する取引主体の性質	金融機関の支店など、サービスを利用する取引主体の性質。
支店の識別コード	サービスを利用する支店の識別コード (例:ACMESAbranch2LEI)。
サービスを提供する取引主体	
ICT サービスを利用する取引主体の LEI	サービスを利用する取引主体の LEI (LEI0000000000000000C など)。
取引主体の名前	サービスを提供するエンティティの名前 (ACME AMERICAS など)。
情報を提供するために契約に署名するサードパーティ	
ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード	ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード (LEI0000000000EXTTPP2 など)。
ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ	ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ (例:LEI)。
ICT サードパーティサービスプロバイダーの名前	Adobe などの ICT サードパーティサービスプロバイダーの名前。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新しい契約上の取り決めを作成 **(Create New Contractual Arrangement)]** フォーム (続く)

フィールド	説明
契約に署名するサードパーティエンゲージメント	
ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード	ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード (LEI0000000000EXTTPE1 など)。
ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ	ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ (例:LEI)。
ICT サードパーティサービスプロバイダーの名前	ICT サードパーティエンゲージメントサービスプロバイダーの名前 (例:Acer エンゲージメント 1)。
特定の情報	
契約上の取り決め参照番号	契約の契約上の取り決め参照番号 (CNTR0009002 など)。
ICT サービスを利用する取引主体の LEI	ICT サービスを利用する取引主体の LEI (例:LEI0000000000000000C)。
機能識別子	金融機関によって定義された機能 (F3、F1 など)。
ICT サービスのタイプ	エンティティによって使用される ICT サービスのタイプ (計算、データ分析など)。
サービスプロバイダータイプ	• サードパーティ:このオプションを選択すると、次のフィールドが表示されます。 ◦ ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード ◦ ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ • サードパーティエンゲージメント:このオプションを選択すると、次のフィールドが表示されます。 ◦ ICT サードパーティエンゲージメントサービスプロバイダーの識別コード ◦ ICT サードパーティエンゲージメントサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ • 取引主体:このオプションを選択すると、ICT サービスを提供する取引主体の LEI が表示されます。
ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード	ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコード (LEI0000000000000000D など)。
ICT サードパーティエンゲージメントサービスプロバイダーの識別コード	ICT サードパーティエンゲージメントサービスプロバイダーの識別コード。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新しい契約上の取り決めを作成 **(Create New Contractual Arrangement)**] フォーム (続く)

フィールド	説明
ICT サービスを提供する取引主体の LEI	LEI と、ISO 17442 標準に基づく 20 文字の英数字コード (LEI00000000000000000D など) を使用して ICT サービスを提供する取引主体。
ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ	ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ (例:LEI)。
契約上の取り決めの開始日	契約上の取り決めが発効した日付 (2025-07-01 など)。
契約上の取り決めの終了日	契約上の取り決めに規定されている終了日 (2028-07-01 など)。
契約上の取り決めの終結または終了の理由	契約上の取り決めを終了または終了する理由。利用可能なオプションは次のとおりです： • 正当な理由ではない終了:期限切れで更新されていない • 正当な理由による終了：適用法、規制、または契約条項に違反したプロバイダー • 正当な理由による終結：サポートされている機能を変更できるプロバイダーで障害が認められた • 正当な理由による終了:機密データまたは情報の管理とセキュリティに関するプロバイダーの弱点 • 終了:管轄当局の要求による場合 • その他の終結理由
ICT サービスを利用する金融機関への通知期間	通常業務の場合に ICT サービスを利用する金融機関による契約上の取り決めを終了するための通知期間。
ICT サードパーティサービスプロバイダーへの通知期間	通常業務の場合に、直接 ICT サードパーティサービスプロバイダーによる契約上の取り決めを終了するための通知期間。
契約上の取り決めの準拠法の国	契約を監督する法制度がある国。
ICT サービスを提供する国	ICT サービスが提供されている国。
データのストレージ	ICT サービスがデータのストレージに関連しているかどうかを指定するオプション。利用可能なオプションは次のとおりです： • **Yes** (あり) • **No** (なし)
ICT サービスプロバイダーによって保存されるデータの機密性	ICT サービスプロバイダーによって保存または処理されるデータの機密性のレベルを識別するオプション。利用可能なオプションは次のとおりです：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新しい契約上の取り決めを作成 **(Create New Contractual Arrangement)]** フォーム (続く)

フィールド	説明
	• やや複雑 • 中 • 高
ICT サービスへの依存度	ICT サービスへの依存度を指定するオプション。利用可能なオプションは次のとおりです： • 重要ではない • 低信頼性 • 材料への依存度 • 完全な信頼性
グループ内契約上の取り決め	
この契約上の取り決めにリンクされた契約上の取り決め	この契約上の取り決めにリンクされた契約番号 (CNTR0009004 など)。
名前	グループ内の契約上の取り決めの名前 (人材派遣会社など)。
ICT サービスのサプライチェーン	
番号	契約に関連付けられた ICT サービスのサプライチェーン番号 (SCHAIN0001002 など)。
再委託 ICT サービスの受領者	サプライチェーンの下請け ICT サービスの受領者。これは親サプライヤーです。
再委託 ICT サービスの受領者の識別コード	サプライチェーンの下請け ICT サービスの受領者の識別コード。このフィールドは自動入力されます。
再委託 ICT サービスの受領者を識別するためのコードのタイプ	サプライチェーンの下請け ICT サービスの受領者を識別するためのコードのタイプ。このフィールドは自動入力されます。
ICT サービスのタイプ	サプライチェーンに関連付けられた ICT サービスのタイプ (データストレージなど)。
契約上の取り決め参照番号	サプライチェーンに関連付けられた契約番号 (CNTR0009002 など)。

サービスプロバイダータイプ	• サードパーティ:このオプションを選択すると、次のフィールドが表示されます。
	  ○ ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード
	  ○ ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ
	• サードパーティエンゲージメント:このオプションを選択すると、次のフィールドが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新しい契約上の取り決めを作成 **(Create New Contractual Arrangement)]** フォーム (続く)

フィールド	説明
	○ ICT サードパーティエンゲージメントサービスプロバイダーの識別コード ○ ICT サードパーティエンゲージメントサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ • 取引主体:このオプションを選択すると、ICT サービスを提供する取引主体の LEI が表示されます。
ICT サービスを提供する取引主体の LEI	LEI と、ISO 17442 標準に基づく 20 文字の英数字コード (LEI00000000000000000D など) を使用して ICT サービスを提供する取引主体。
ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード	ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード (LEI0000000000EXTTPP1 など)。
ICT サードパーティエンゲージメントサービスプロバイダーの識別コード	ICT サードパーティエンゲージメントサービスプロバイダーの識別コード。
ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ	ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ (例:LEI)。
ランク	サプライチェーンのランク (1 や 2 など)。
ICT サービスのアセスメント	
名前	<first-name.last-name> 形式のアセスメントの名前。
説明	アセスメントの説明。
番号	アプリケーションによって生成されるアセスメントの一意の識別番号。例:TPA0001001。このフィールドは自動入力されます。
部門	アセスメントが属する部門。
所有者	アセスメントのオーナーの名前。
業務部門	アセスメントに関連付けられている事業部門の名前。
契約番号	契約上の取り決めの一意の識別子番号 (CNTR0009002 など)。このフィールドは自動入力されます。
契約上の取り決め参照番号	アセスメントに関連付けられた契約番号 (CNTR0009002 など)。
サービスプロバイダータイプ	• サードパーティ:このオプションを選択すると、次のフィールドが表示されます。 ○ ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード ○ ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新しい契約上の取り決めを作成 **(Create New Contractual Arrangement)]** フォーム (続く)

フィールド	説明

	• サードパーティエンゲージメント:このオプションを選択すると、次のフィールドが表示されます。
	  ○ ICT サードパーティエンゲージメントサービスプロバイダーの識別コード
	  ○ ICT サードパーティエンゲージメントサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ
	• 取引主体:このオプションを選択すると、ICT サービスを提供する取引主体の LEI が表示されます。

ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード	ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード (LEI0000000000EXTTPP1 など)。
ICT サードパーティエンゲージメントサービスプロバイダーの識別コード	ICT サードパーティエンゲージメントサービスプロバイダーの識別コード。
ICT サービスを提供する取引主体の LEI	LEI と、ISO 17442 標準に基づく 20 文字の英数字コード (LEI00000000000000000D など) を使用して ICT サービスを提供する取引主体。
ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ	ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ (例:LEI)。
ICT サービスのタイプ	ICT サービスのタイプ (データ分析など)。
ICT サードパーティサービスプロバイダーの代替可能性	ICT サードパーティサービスプロバイダーの代替可能性。次のオプションが使用可能です。 • 代替不可 • 代替が容易 • 代替可能性の点で中程度の複雑さ • 非常に複雑な代替可能性
代替可能性分類の理由	分類の理由。
ICT サードパーティは監査を受けていますか？	ICT サードパーティが監査を受けたかどうかを指定するオプション。利用可能なオプションは次のとおりです： • **Yes** (あり) • **No** (なし)
ICT サードパーティサービスプロバイダーの前回の監査の日付	前回の監査が実行された日付。
出口計画の存在	出口計画の可用性。次のオプションが使用可能です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新しい契約上の取り決めを作成 **(Create New Contractual Arrangement)]** フォーム (続く)

フィールド	説明
	• はい • いいえ
契約した ICT サービスの再統合の可能性	契約した ICT サービスの再組み込みの実現可能性を検証するための選択肢。利用可能なオプションは次のとおりです： • **Easy** (簡単) • 難しい • 非常に複雑
ICT サービス利用中止による影響	ICT サービスの利用中止による影響を指定する選択肢。利用可能なオプションは次のとおりです： • やや複雑 • 中 • 高 • アセスメントが実行されませんでした
代替の ICT サードパーティサービスプロバイダーが識別されていますか？	他の ICT サードパーティサービスプロバイダーが識別されているかどうかを示す選択肢。利用可能なオプションは次のとおりです： • **Yes** (あり) • **No** (なし) • アセスメントが実行されませんでした チェックボックスをオンにした場合、[代替 **ICT TPP** の識別] フィールド値を指定します。
代替 ICT TPP の特定	代替 ICT サードパーティプロバイダー (TPP) の特定に関する補足の詳細。

サプライチェーンの構築とデジタルレジリエンスデータの強化

デジタルレジリエンスサードパーティ登録 で 情報および通信技術 (ICT) サービスサプライチェーンレコードを作成します。ICTサービスのタイプ、ICTサービスを提供する取引主体の取引主体識別子 (LEI) など、サプライチェーンの詳細を追加します。その後、 DORA 規制に準拠するためにデジタルレジリエンス情報を強化できます。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿.
2. 契約 を選択し、サプライチェーンレコードを関連付ける契約レコードを選択します。
3. [ICT サービスのサプライチェーン] 関連リストに移動し、[新規] を選択します。
4. フォームで、フィールドに入力します。
   各フィールドの説明については、「[新しい契約上の取り決めを作成 (Create New Contractual Arrangement)] フォーム」を参照してください。
5. **[Save** (保存)] を選択します。
6. サプライチェーンレコードを編集するには、次の手順を実行します。
   a. [サプライチェーン] に移動し、リストから必要なレコードのチェックボックスをオンにします。
   b. [編集] を選択し、必要に応じてフィールドを更新します。
   c. **[Update** (更新)] を選択します。
7. サプライチェーンレコードをエクスポートするには、次の手順を実行します。
   a. [サプライチェーン] に移動し、リストから必要なレコードのチェックボックスをオンにします。
   b. **[Export** (エクスポート)] を選択します。
   c. ファイルタイプを選択します。
      利用可能な選択肢は次のとおりです。
      - **Excel**
      - **CSV**
      - **JSON**
      - [**PDF**] を選択します。
   d. [配送タイプ] を選択します。
      利用可能な選択肢は次のとおりです。
      - ダウンロード
      - メール
8. サプライチェーンレコードを削除するには、リストから選択し、 削除 を選択します。

アセスメントを作成し、デジタルレジリエンスデータを強化

デジタルレジリエンスサードパーティ登録 で 情報および通信技術 (ICT) サービスのアセスメントを作成します。ICTサードパーティサービスプロバイダーの契約上の取り決め参照番号、識別コード、コードタイプなどの詳細を追加します。その後、 DORA 規制に準拠するためにデジタルレジリエンス情報を強化できます。

始める前に

必要なロール：sn_oper_res.manager

このタスクについて

TPRMアプリケーションをお持ちの場合は、サードパーティリスク管理アセスメントを受けることができます。TPRMアプリケーションがない場合でも、アセスメントテーブルを使用して規制要件に準拠できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

契約とサードパーティを毎年レビューする必要があります。アセスメントフォームには、次のアセスメントの詳細を入力できます。

- 次の詳細を識別するのに役立つ契約参照番号:
  - 契約のユーザー
  - 契約のプロバイダー
  - 自動的に取り込まれるその他の関連詳細
- 監査情報:
  - サードパーティプロバイダーは監査を受けていますか?
  - 監査が最後に実施されたのはいつですか?
- 出口戦略の詳細:
  - 出口計画の存在
  - 終了した場合、ICT サービスプロバイダーと統合する可能性
  - ICT サービス利用中止の影響度評価
  - 代替案の特定

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿.
2. [契約] を選択し、アセスメントレコードを関連付ける契約レコードを選択します。
3. [ICT サービスのアセスメント] 関連リストに移動し、[新規] を選択します。
4. フォームで、フィールドに入力します。
   各フィールドの説明については、「[新しい契約上の取り決めを作成 (Create New Contractual Arrangement)] フォーム」を参照してください。
5. **[Save** (保存)] を選択します。
6. アセスメントレコードを編集するには、リストから選択して [編集] を選択します。
7. レコードをエクスポートするには、[エクスポート] を選択します。
8. アセスメントレコードを削除するには、リストから選択して [削除] を選択します。

次のタスク
すべての詳細がキャプチャされたら、次のタスクを実行できます。

- Microsoft Excelダウンロード機能を使用して情報をダウンロードする
- 必要に応じて要求をアップロード

アップロードおよびダウンロード要求の作成**Microsoft Excel**

監査目的でデジタルレジリエンスサードパーティ登録との間でレコードをアップロードおよびダウンロードするためのMicrosoft Excelアップロードおよびダウンロード要求を作成します。

始める前に
必要なロール：sn_oper_res.admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
デジタルレジリエンスサードパーティ登録 の Excel のダウンロード/アップロード要求モジュールを使用して、Microsoft Excel形式でレコードをエクスポートおよびインポートします。欧州連合監査人および規制当局は、監査およびレビューの目的でこれらのレコードをダウンロードし、適切な措置を講じることができます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿 > **Excel** のダウンロード/アップロード要求.
2. **[New** (新規)] を選択します。
   [Excel ダウンロード/アップロード要求の新規作成 (Create New Excel download/upload request)] フォームが表示されます。
3. フォームで、フィールドに入力します。
   詳細については、「Excel のダウンロード/アップロード要求フォームの新規作成」を参照してください。
4. アップロード要求の場合は、[ファイルを選択] フィールドで [ファイルを添付] オプションを選択します。
5. アセスメントなど、選択したタイプのレコードをアップロードするためのテンプレートをダウンロードするには、 テンプレートのダウンロードを選択し、モーダルの 名前を付けて保存 フィールドでファイルを選択し、 保存 を選択します。
6. 選択したファイルをアップロードするには、[アップロード] を選択します。
7. **[Save** (保存)] を選択します。
   ダウンロード要求を保存した後、対応するタブに移動して、ダウンロードするレコードを選択できます。たとえば、サードパーティ情報登録のダウンロード要求の場合は [契約] タブに移動し、アセスメントのダウンロード要求の場合は [アセスメント] タブに移動します。
8. リストから必要なレコードを選択し、次のいずれかの手順を実行します。

9. Microsoft Excel ファイルの名前を追加し、[保存] を選択します。

   デジタルレジリエンスサードパーティ登録 の 21.x.x より前のリリースでは、契約をダウンロードすると、すべての契約データを含む単一のシートが作成されます。デジタルレジリエンスサードパーティ登録 のバージョン 21.x.x 以降では、契約に関するレポートを生成すると、UI がミラーリングされ、エンティティ、サードパーティ、サードパーティエンゲージメントに関する情報、Microsoft Excelシートの特定の契約情報などの詳細が提供されます。

   規制当局に直接提出できる Microsoft Excel シートが生成されます。このファイルは、規制当局が発行したテンプレートの形式に厳密に準拠しており、サードパーティエンゲージメントを報告するために必要なすべての詳細が含まれています。

   デジタルレジリエンスサードパーティ登録 のバージョン 20.x.x 以降では、ダウンロードした Microsoft Excel ファイルで選択値または参照値を確認できます。たとえば、部門を「研究開発」としてシステムに作成することができます。関数がダウンロードされると、部門の値が選択用の Microsoft Excel テンプレートのオプションとして表示されます。テンプレートには、部門、事業部門、およびその他の「はい/いいえ」の質問のドロップダウンリストが含まれています (分岐テンプレートを参照)。国、通貨などのドロップダウンが追加されます。

   アプリケーションは、ヘッダーやドロップダウンオプションなどのメタデータの翻訳も処理します。

   法人、機能などのデータをダウンロードした後、重複レコードが存在しないことを確認します。テンプレートをダウンロードするときは、サードパーティの行が重複していないことを確認してください。たとえば、1 つの DORA サードパーティと 2 つの DORA エンティティを作成し、同じエ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ンティティを使用して同じベンダーの DORA 契約を作成すると、ダウンロードしたテンプレートにはサードパーティ行が 1 つだけ存在し、重複する行は 2 つになりません。新しい取引主体を追加し、契約レコードを再度ダウンロードすることなく、ダウンロードした契約ファイルに LEI を入力できます (ドロップダウンリストにない場合でも)。変更した契約レコードをアプリケーションにアップロードすることができます。

10. Excel のダウンロード/アップロード要求をエクスポートするには、必要な要求を選択してから [エクスポート] を選択します。

Excel のダウンロード/アップロード要求フォームの新規作成

[Excel ダウンロード/アップロード要求の新規作成 (Create New Excel download/upload request)] フォームで、フィールドに入力します。

Excel のダウンロード/アップロード要求フォームの新規作成

フィールド	説明
簡単な説明	要求の簡潔な説明例:legal_entity_template。
タイプ	ダウンロード要求のタイプ。選択肢は次のとおりです。 • アセスメント • 支店 • 契約 • 関数 • 法人 • サプライチェーン • サードパーティ • サードパーティエンゲージメント • サードパーティ情報登録簿
番号	要求の番号 (REQ0001001 など)。このフィールドは自動入力されます。
要求タイプ	要求のタイプ。選択肢は次のとおりです。 • アップロード • ダウンロード
状況	レコードのステータス。このフィールドは [ドラフト] ステータスに自動入力されます。

既存のレコードの一括更新

サードパーティリスク管理を使用して、デジタルレジリエンスサードパーティ登録から既存のレコードを一括更新します。

始める前に
必要なロール：sn_oper_res.admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
最良の結果を得るには、相互に依存する参照フィールドがあるため、次の順序でレコードをアップロードします。

1. 法人
2. 分岐
3. 関数
4. 第三者
5. サードパーティエンゲージメント
6. 契約
7. サプライチェーン
8. アセスメント

レコードのデータタイプごとに次の手順を実行します。

- UI で少なくとも 1 つのレコードを作成します。
- ダウンロード要求を作成し、このレコードを選択してダウンロードします。
- ダウンロードしたファイルの 1 つ以上の列に変更を加えます。
- アップロード要求を作成し、変更したファイルを添付して、[アップロード] をクリックします。
- このレコードの UI で変更を確認します。

すべてのカテゴリで一貫性を確保するには、データタイプごとにこれらの手順を繰り返します。この順序に従うことで、関連レコード全体でデータの一貫性と正確性を確保できます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿 > **Excel** のダウンロード/アップロード要求.
2. [新規] を選択して、Excel のダウンロード要求を作成します。
3. フォームで、要求タイプとして [ダウンロード] を選択し、残りのフィールドに入力します。
   各フィールドの説明については、「Excel のダウンロード/アップロード要求フォームの新規作成」を参照してください。
4. **[Save** (保存)] を選択します。
   ダウンロード要求を保存した後、対応するタブに移動して、ダウンロードするレコードを選択できます。たとえば、サードパーティ情報登録のダウンロード要求の場合は [契約] タブに移動し、アセスメントのダウンロード要求の場合は [アセスメント] タブに移動します。
5. リストから更新するレコードを選択し、[**Excel** にエクスポート] を選択します。
6. Microsoft Excel ファイルの名前を追加し、[保存] を選択します。

   選択したレコードを一括更新するために使用できる Microsoft Excel シートが作成されます。

   テンプレートをダウンロードして参照フィールドにオプションを追加すると、アップロードテンプレートは、値をハードコーディングするのではなく、選択フィールドと参照フィールドのドロップダウンを含む動的な形式に更新されます。

   動的テンプレートは、ヘッダーと参照フィールドオプションの翻訳を自動的に処理します。これらの要素をリアルタイムでフェッチし、手動で更新しなくても最新の状態に保たれます。オプションは動的に生成されるため、デフォルトのテンプレートは最新の状態に保たれます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テンプレートファイルの [説明] タブに移動すると、テンプレートの入力手順を表示できます。[デジタルレジリエンス情報] タブに移動してテンプレートに入力することで、更新されたレコード作成情報を追加できます。

> **注:**
> 要求ごとに 1 つのタイプのレコードのみをアップロードまたはダウンロードできます。たとえば、アセスメントレコードのアップロード要求を行った場合、テンプレートに含めることができるのはアセスメントレコード情報のみです。

7. テンプレートファイルの指示に従って、更新された情報を追加します。
8. **Excel** のダウンロード/アップロード要求に移動し、[新規] を選択して、アップロード要求を作成します。
9. フォームで、要求タイプとして [アップロード] を選択し、残りのフィールドに入力します。
   各フィールドの説明については、「Excel のダウンロード/アップロード要求フォームの新規作成」を参照してください。

   > **注:**
   > DORAアドミンのみが [アップロード] オプションを表示してこのタスクを実行できます。

10. **[Save** (保存)] を選択します。
11. [ファイルの添付] を選択し、ローカルハードドライブからファイルを選択して、更新されたテンプレートファイルを添付します。
12. **[Upload** (アップロード)] を選択します。
13. アップロード要求 の [結果] セクションに移動して、正常にアップロードされたレコードとエラーを表示します。
    a. Microsoft Excelスプレッドシートのエラーを修正します。
    b. レコードを再度アップロードします。
14. すべてのエラーが解決され、すべてのレコードが正常にアップロードされるまで、手順を繰り返します。
    更新されたレコードは、 デジタルレジリエンスサードパーティ登録 から一括アップロードされます。

レコードの一括作成

単一または複数のエンティティに対して一度に 1 つのレコードを作成するのではなく、サードパーティリスク管理を使用してデジタルレジリエンスサードパーティ登録からレコードを一括で作成します。一度に複数のレコードを処理することで、時間と労力を節約できます。

始める前に
必要なロール：sn_oper_res.admin

このタスクについて
DORAアドミンのみが [アップロード] オプションを表示してこのタスクを実行できます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿 > **Excel** のダウンロード/アップロード要求.
2. [新規] を選択して、Excel アップロード要求を作成します。
3. フォームで、要求タイプとして [アップロード] を選択し、残りのフィールドに入力します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

> **注:**
> DORAアドミンのみが、アップロードオプションタイプを表示してこのタスクを実行できます。

各フィールドの説明については、「Excel のダウンロード/アップロード要求フォームの新規作成」を参照してください。

> **注:**
> アップロード要求ごとにアップロードできるレコードのタイプは 1 つだけです。たとえば、アセスメントレコードのアップロード要求を行った場合、テンプレートに含めることができるのはアセスメントレコード情報のみです。

4. レコードのタイプ ([アセスメント] や [分岐] など) を選択します。
5. 要求の簡単な説明を入力します。
   このフィールドは必須です。
6. **[Save** (保存)] を選択します。
   テンプレートファイルが生成され、ダウンロードできるようになります。[テンプレートをダウンロード] UI アクションが表示されます。
7. [テンプレートのダウンロード] を選択してデフォルトのテンプレートをダウンロードし、入力します。
   a. ダウンロードしたテンプレートを保存し、[名前を付けて保存] フィールドで名前を割り当てます。
   b. **[Save** (保存)] を選択します。
      ファイルのダウンロードが進行中です。完了したら、モーダルウィンドウを閉じることができます。
8. 保存したテンプレートを開き、必要に応じて入力し、変更を保存します。
   テンプレートファイルの [説明] タブに移動すると、テンプレートの入力手順を表示できます。[デジタルレジリエンスの情報] タブに移動してテンプレートに入力することで、レコード作成情報を追加できます。
9. 完成したテンプレートファイルを選択して要求に添付するには、[ファイルの添付] を選択し、ローカルハードドライブからファイルを選択します。
10. **[Upload** (アップロード)] を選択します。
    Microsoft Excelがフォームに添付されます。
11. アップロード要求 の [結果] セクションに移動して、正常にアップロードされたレコードとエラーを表示します。
    a. Microsoft Excelスプレッドシートのエラーを修正します。
12. すべてのエラーが解決され、すべてのレコードが正常にアップロードされるまで、手順を繰り返します。
    レコードは、 デジタルレジリエンスサードパーティ登録から一括でアップロードされます。

デジタルレジリエンスインシデントレポート

Yokohama リリース以降、オペレーショナルレジリエンスワークスペース のユーザーは、デジタルレジリエンスインシデントレポート モジュールを使用して、情報および通信技術 (ICT) 関連インシデントを規制当局に報告できます。このモジュールは、 インシデント管理 および セキュリティインシデントレスポンスと統合されており、これらのアプリケーションで重大なインシデントが作成また

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

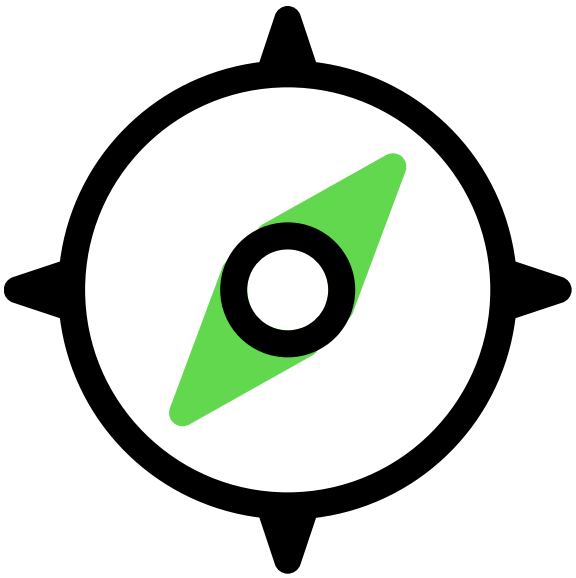
は更新されるたびに、インシデントケースタスクレコードを作成または更新します。レポートは指定された形式で生成され、規制当局と共有されます。

規制機関は、規制当局が指定した準拠形式で ICT 関連インシデントを報告するための簡素化されたフレームワークを確立しました。デジタルレジリエンスインシデントレポート (DRIR) アプリケーションは、規制要件に従って重大なデジタルレジリエンスインシデント (DRI) を報告するために使用されます。インシデント管理 および セキュリティインシデントレスポンス アプリケーションを使用して最重要のインシデントがレポートされると、対応するレポートケースが デジタルレジリエンスインシデントレポート で生成されます。

デジタルレジリエンスインシデント報告 (DRIR) は、規制報告のアセスメントを作成し、アクションタスクを割り当て、報告可能性を判断し、規制機関が指定した形式で初期、中間、および最終報告を生成することで、ケース報告プロセスを簡素化します。DRIRを使用することで、規制コンプライアンスに必要なタイムライン内で、重大なインシデントが適切に文書化、追跡され、当局に報告されます。

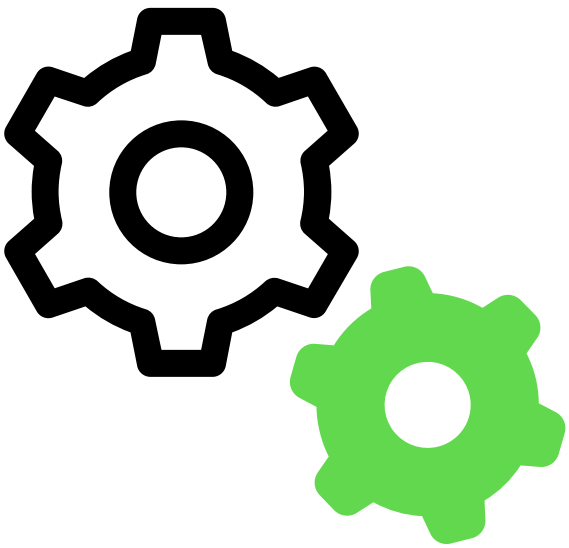
開始

探索



デジタルレジリエンスインシデントレポート (DRIR) の詳細

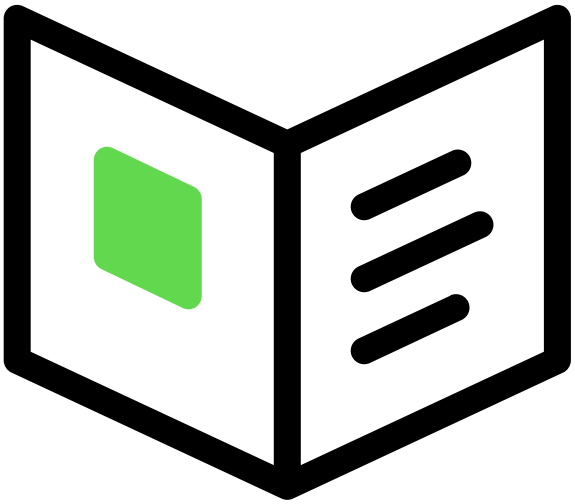
構成



インシデント報告の条件の構成

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

使用方法	参照
	
他のアプリケーションまたは手動でインシデントを報告する	DRIRとともにインストールされるコンポーネント

その他のリソース

- GRC コミュニティで質問や回答をする
- Known Error Portal で既知のエラー記事を検索
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート
- 開発者トレーニング
- 開発者ドキュメント

デジタルレジリエンスインシデントレポート の探索

オペレーショナルレジリエンスワークスペースのデジタルレジリエンスインシデントレポートモジュールは、インシデントデータを記録し、規制機関に報告するために使用されます。

デジタルレジリエンスインシデントレポート の主な機能

オペレーショナルレジリエンスワークスペース の デジタルレジリエンスインシデントレポート アプリケーションモジュールは、次の主要な機能を提供します。

- インシデント管理 および セキュリティインシデントレスポンス アプリケーションで報告された重大なインシデントからレポートケースを自動的に作成します。
- インシデントが報告可能かどうかを判断するための規制報告アセスメントを含む、構造化されたアセスメントプロセスを開始します。
- レポートとアセスメントのステータスを追跡し、タイムリーな送信と規制のタイムラインへの準拠を保証します。
- 自動レポートワークフローを使用して、規制レポートのタイムライン内でレポートを生成します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 初回報告(24時間以内)
- 中間報告 (解決されるまで 3 日ごと)
- 最終報告書(1ヶ月以内)

- ユーザーは、規制当局によって指定された形式で、詳細な分析のためにインシデントレポートをエクスポートできます。

インシデント管理 またはセキュリティインシデントレスポンス

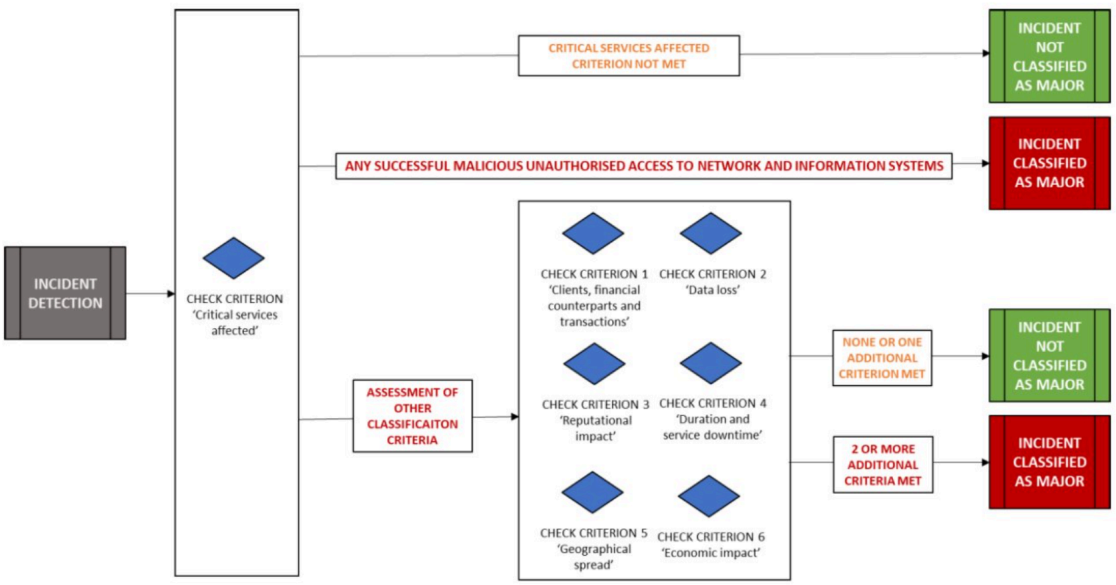
デジタルレジリエンスインシデントレポートモジュールは、デフォルトでオペレーショナルレジリエンスワークスペースで使用できます。インシデント管理 または セキュリティインシデントレスポンス アプリケーションを使用している場合は、これらのワークスペースからデジタルレジリエンスインシデントレポートモジュールに最重要のインシデントをレポートできます。

での応答の自動入力 アセスメントワークスペース

報告された DIR ケースタスクの場合、アセスメントアクションタスクが作成され、DIR ユーザーにアサインされます。アセスメントワークスペースのスマートアセスメントは、アセスメントへの応答を自動入力するために使用されます。デフォルトでは、デジタルレジリエンスインシデントレポートユーザーはアセスメントワークスペースを使用できます。

インシデントの分類

インシデントが検出されると、重要なビジネスサービスが影響を受けるかどうかが判断されます。インシデントを分類するには、次のアプローチに従います。



デジタルレジリエンスインシデントレポート のワークフロー

重大なインシデントを分類するために、 デジタルレジリエンスインシデントレポート (sn_dri_inc_rptg) によってレポートケースが自動的に開始されます。

レポートケースは、次のいずれかの条件を使用してトリガーされ、 デジタルレジリエンスインシデントレポート でレポートされます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

1. インシデント管理
   - インシデントは サービスオペレーションワークスペースで重大として分類されます。
   - インシデントの期間:インシデントが 24 時間以上オープンになっていて、まだ [対応中] または [分析 中] ステージである。
   - インシデントには、ビジネス上の重要度の値が 1 である重要なビジネスサービスが含まれます。
2. セキュリティインシデントレスポンス:
   - インシデントは SIR ワークスペースで重大として分類されます。
   - インシデントの期間:インシデントが 24 時間以上オープンになっていて、まだ [対応中] または [分析中] ステージである。
3. 手動:インシデントは デジタルレジリエンスインシデントレポート モジュールで手動で報告されています。

ケースタスクの状況

1. ドラフト:すべての DIR ユーザーが DIR ケースタスクを作成し、それを DIR マネージャーグループにアサインできます。マネージャーの 1 人にアサインするための通知がマネージャーグループに送信されます。DIR ケースタスクは、作成フローで定義された基準を満たしている場合、IM インシデントまたは SIR インシデントから自動的に作成することもできます (IM または SIR との統合)
2. **In progress** :
   a. DIR ケースタスクのアクションタスクが作成され、DIR ユーザーにアサインされます。DIR ケースタスクの違反ステータスは、応答に基づいて更新されます。
   b. DIR ケースタスクは、アセスメント応答に基づいて、[監視のためにパーク済み]、[レポート不可]、または [レポート可能] に分類されます。最初に [監視のために保留] とマークされていた場合、ソースインシデントをさらに更新すると追加のアセスメントが行われる可能性があり、影響または侵害ステータスによって正当な場合は、ステータスが [報告可能] に変わる可能性があります。
   c. DIR ケースタスクがレポート可能として識別された場合、期日が 24 時間の初期レポートアセスメント用に新しいアクションタスクが作成され、ケースを処理する DIR マネージャーによって任意の DIR ユーザーにアサインされます。
   d. 最初のレポートアクションタスクが完了して送信されると、期日が 3 日間の中間レポートの新しいアクションタスクが作成されます。
   e. 中間レポートアセスメントは、ソースインシデントがクローズ (インシデント管理 または セキュリティインシデントレスポンス するまで 3 日ごとに生成されます。
   f. 最終レポートアクションタスクは、ソースインシデントのクローズ日から 30 日の期日で作成されます。
3. 承認待ち および 承認済み:レポートが完了すると、DIR ケースタスクが承認されてクローズされます。

に表示されるデータ デジタルレジリエンスインシデントレポート

デジタルレジリエンスインシデントレポートモジュールには、レポートケースに関する次のデータが表示されます。

- すべてのインシデントレポートケース
- 自分のインシデントレポートケース
- 未アサインのインシデントレポートケース

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自分のタスク

オペレーショナルレジリエンスワークスペースの [自分のタスク] ページには、サインインしているユーザーにアサインされているすべてのレポートケースとアクションタスクが表示されます。このセクションには、サインインしているユーザーに関する次の情報が含まれています。

- 自分の処理待ちのタスク
- 自分のアイテム
- ウォッチリスト

レポートに使用されるロール、スクリプト、およびテーブル

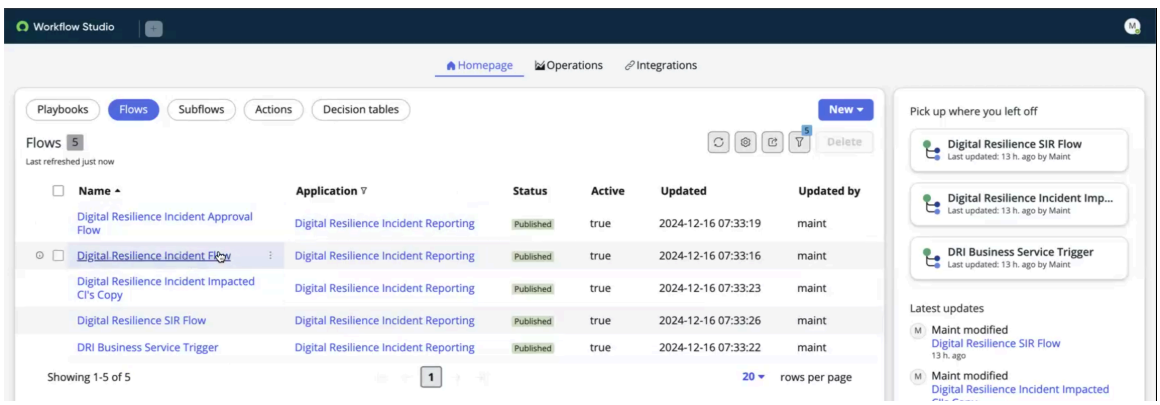
デジタルレジリエンスインシデントレポートとともにインストールされるロールで使用されるロール、スクリプト、およびテーブルの詳細については、「デジタルレジリエンスインシデントレポートの参照」を参照してください。

インシデント報告を自動トリガーする条件の設定

デジタルレジリエンスインシデントアドミニストレーターは、デジタルレジリエンスインシデントレポート でインシデントレポートを自動トリガーするように ワークフロースタジオ で条件を設定できます。

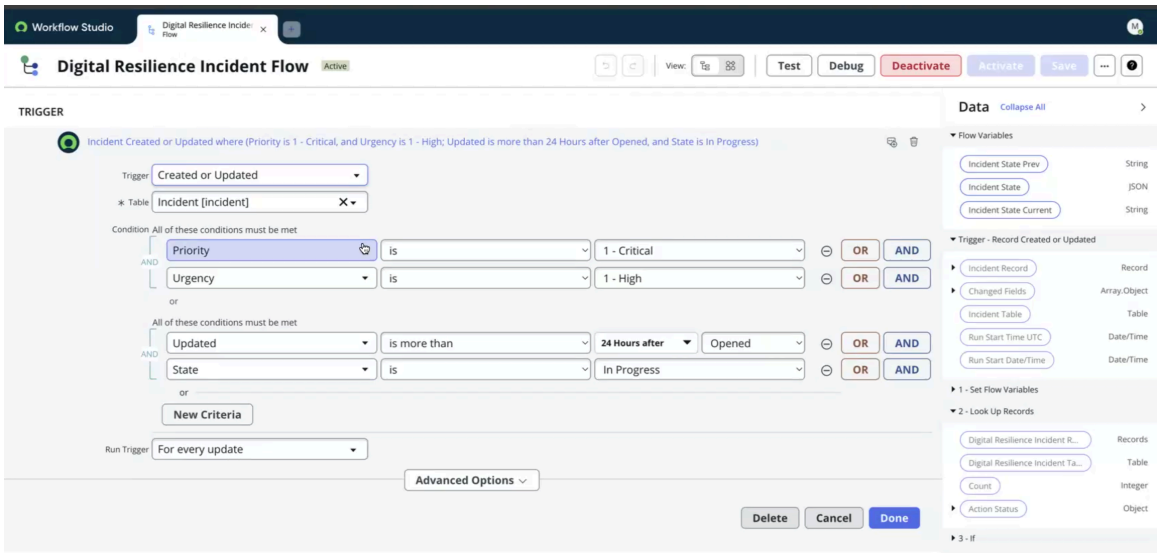
ワークフローの設定条件

インシデント管理 アプリケーションまたは セキュリティインシデントレスポンス アプリケーションでインシデントからデジタルレジリエンスインシデントケースタスクを作成するために、特定のフローと条件がワークフロースタジオに事前設定されています。に移動すると、 デジタルレジリエンスインシデントレポート のフローを表示できます ワークフロースタジオ > フロー 例に示すように。



デジタルレジリエンスインシデントアドミニストレーター [sn_dri_inc_rptg.digital_resilience_incident_admin] は、デジタルレジリエンスインシデントフローやデジタルレジリエンス SIR フローなどのフローを構成します。これらのフローは、 デジタルレジリエンスインシデントレポート用に事前設定されており、アプリケーションに付属しています。フロー構成は、インスタンス内のすべてのインシデントレコードに影響します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



条件を挿入

インシデントの優先度が「重大」、「緊急度が高」、「インシデントが 24 時間以上オープンになっている」などの条件は、フローに事前にビルドされています。これらの条件がすべて満たされると、 デジタルレジリエンスインシデントレポート アプリケーションで自動的にレポートされます。

条件を更新

インシデントが再オープンまたは更新されると、その分類条件もフローで定義されます。構成された条件が満たされると、インシデントが デジタルレジリエンスインシデントレポート アプリケーションでレポートされます。

必須のプラグイン

デジタルレジリエンスインシデントレポート アプリケーションは ServiceNow Store から入手可能です。

デジタルレジリエンスインシデントレポートには次のプラグインが必要です。

1. スマートアセスメントコア:app-smart-assessment-core
2. スマートアセスメントデザイナー:sn-smart-assessment-designer
3. スマートアセスメント接続済み:sn-smart-assessment-connected
4. GRC アプリケーション:app-grc
5. GRC ベースワークスペース:app-grc-base-workspace
6. GRC ケース管理:app-grc-case-mgmt
7. GRC オペレーショナルレジリエンス: app-grc-operational-resilience
8. GRC インシデントレポート:app-grc-incident-reporting
9. GRC DORA アクセラレーター: app-grc-dora-accelerator

次のプラグインは、 デジタルレジリエンスインシデントレポートオプションです。

1. SIR アプリケーション:app-sir
2. 再利用可能な影響フレームワーク:sn-reusable-impact-framework
3. スマートアセスメントインパクトオートメーション:app-smart-assessment-impact-automation

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. スマートアセスメント応答の自動化:app-smart-assessment-response-automation
5. GRC 情報登録:app-grc-info-register

デジタルレジリエンスインシデントレポート の使用

このセクションでは、 デジタルレジリエンスインシデントレポート アプリケーションで重大なインシデントを報告する手順について詳しく説明します。重要なサービスが影響を受けているかどうかを評価し、必要に応じて報告されたインシデントを重大なインシデントとして分類します。重大度とセキュリティ評価で分類された重大なインシデントを規制当局に通知します。

オペレーショナルレジリエンスワークスペースからアクセスできるデジタルレジリエンスインシデントレポートモジュールは、インシデント管理およびセキュリティインシデントレスポンスと統合され、規制当局によって指定された形式でレポートを生成および共有します。

初期レポートは 24 時間以内、中間レポートは 72 時間以内、最終レポートは 1 か月以内に生成できます。これらのレポートはすべて、インシデントが重大なインシデントとして分類された時点からアプリケーションによって自動的にトリガーされます。

インシデント管理およびセキュリティインシデントレスポンスからインシデントを報告するか、オペレーショナルレジリエンスワークスペースでインシデントを手動で報告することもできます。

初期レポート、中間レポート、最終レポートを Microsoft Excel 形式でエクスポートできます。エクスポートされたファイルには、アンケートの各セクションのタブが含まれており、1 行目に質問、2 行目にユーザー回答が表示されます。アセスメントワークスペースにセクションと質問をさらに追加でき、エクスポートされたファイルにはこれらの変更が反映されます。

での **SOW** および **SIR** ワークスペース からのインシデントのレポート **DRIR**

影響度が高く緊急度の高いインシデントが作成された場合、または既存のインシデントがインシデント管理またはセキュリティインシデントレスポンス ワークスペース (SIR ワークスペース) のサービスオペレーションワークスペース (SOW) で高優先度としてマークされた場合、そのインシデントは重大なインシデントとして分類されます。これらの重大なインシデントは、 デジタルレジリエンスインシデントレポート アプリケーションでログに記録され、レポートされます。

インシデントレポートワークフロー

次の例は、 インシデント管理 でインシデントを報告するためのワークフローの例を示しています。



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. 報告されたデジタルレジリエンスインシデントのケースが、重大な ICT 関連のインシデントなのか、セキュリティ侵害なのか、それとも運用上の支払いの問題なのかを判断します。重要なサービスが影響を受けているかどうかを評価します。
2. 影響を受ける重要サービスの基準が満たされていない場合、デジタルレジリエンスインシデントのケースは重大として分類されません。ネットワークおよび情報システムに対する悪意のある不正アクセスの報告がある場合、インシデントは自動的に重大として分類されます。
3. デジタルレジリエンスインシデントケースレコードを作成します。[詳細] タブには、ケース番号、ソース、ステータス、サブタイプ、優先度、要求者、その他の関連する詳細などの情報が含まれています。[詳細] タブの [アクティビティ] パネルに文書化されている、ケースに関連するアクションをレビューします。
4. 通知: DORA アナリストにメール通知を送信して、ケースの進捗状況を更新します。
5. 初期レポート:初期レポートデータを自動的に収集します。インシデントが重大として分類されてから 24 時間以内に最初のレポートを生成します。
6. 応答のアクティブ化:インシデントの応答ステップをアクティブ化します。
7. 中間レポート:インシデントが 3 日以上オープンになっている場合は、インシデントレポートを確認します。インシデントが重大として分類されてから 72 時間以内に生成される中間レポートで、インシデントデータを更新します。
8. 応答レビュー:インシデントがまだオープンの場合は、応答手順をレビューします。
9. 最終レポート:インシデントがクローズされたかどうかを確認し、レコード内のメモを拡張します。インシデントが重大として分類されてから 1 か月後に生成された修正メモで最終レポートを更新します。

インシデント報告のタイムライン

インシデントを報告する際には、次のタイムラインが考慮されます。

レポートタイムライン

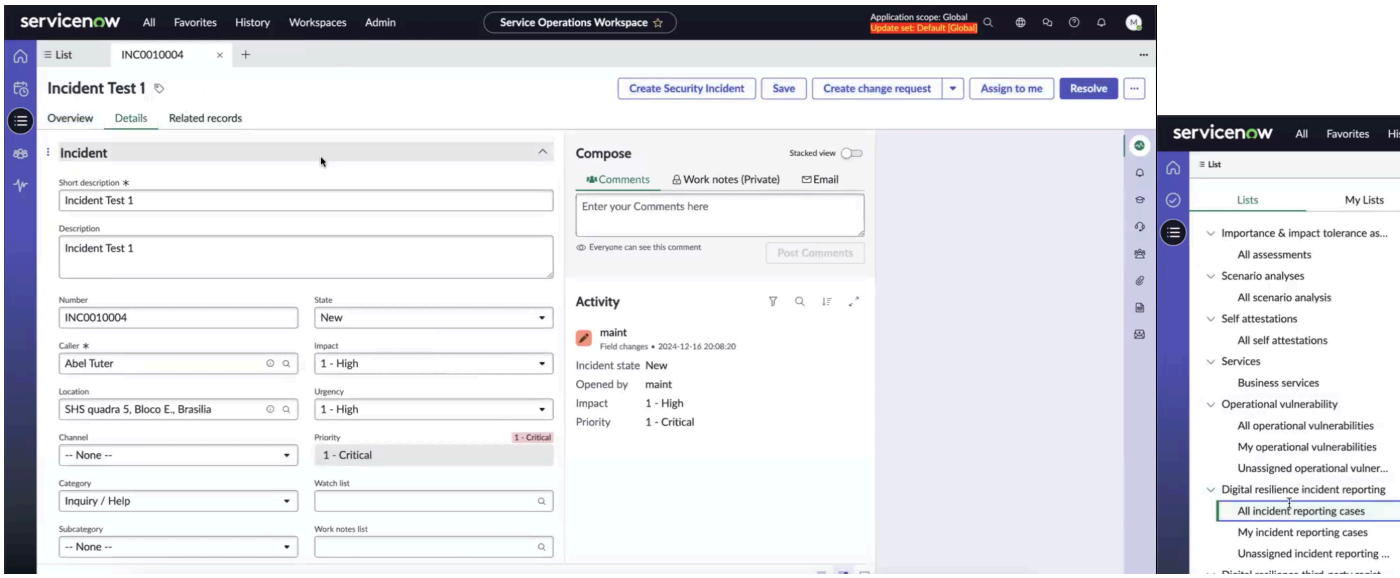
レポートタイプ	タイムライン (インシデントが重大に分類された時点から)
初期報告	24時間
中間報告	72 時間
最終報告	1 か月

でのケース生成 デジタルレジリエンスインシデントレポート

例に示すように、インシデント管理 アプリケーションのサービスオペレーションワークスペースでインシデントが重大としてマークされると、デジタルレジリエンスインシデントレポートでケースが生成されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳



SIR ワークスペース は、影響度の高いインシデントを報告するための同様のワークフローを展開し、デジタルレジリエンスインシデントレポートログに記録されます。

からの重大なインシデントの報告 インシデント管理

インシデント管理 アプリケーションのサービスオペレーションワークスペースから デジタルレジリエンスインシデントレポート アプリケーションに重大なインシデントを報告します。

始める前に

必要なロール:sn_dri_inc_rptg.digital_resilience_incident_manager

このタスクについて

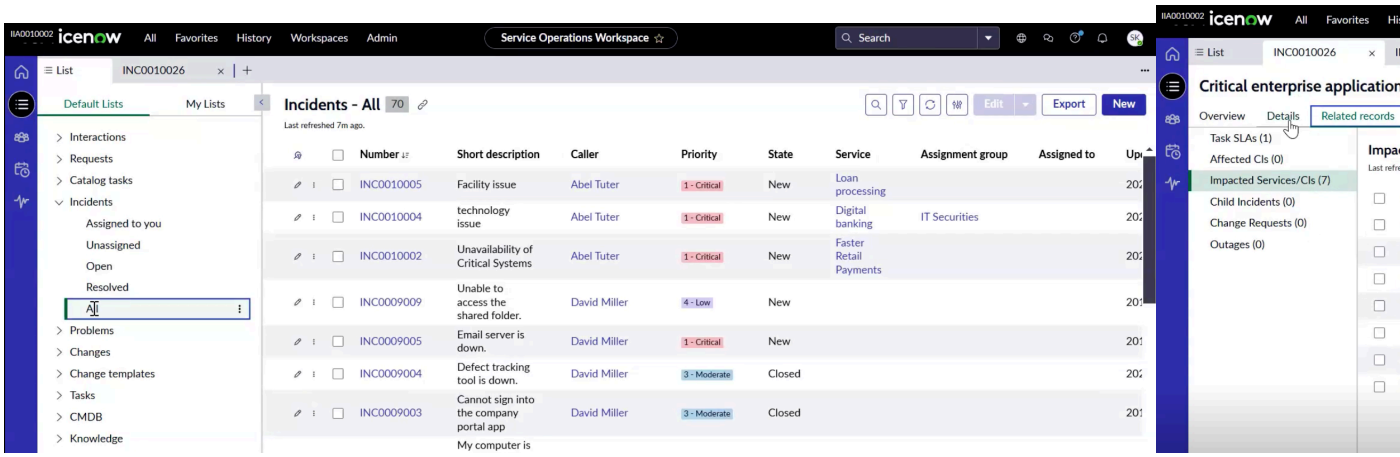
インシデント管理 レポートワークフローは、次のステップで構成されています。

1. インシデントレポートケースの規制ステータスを自動的に更新するようにルールエンジンを設定します。
2. インシデント管理 のSOWからインシデントレポートを作成します。
3. 初期報告、中間報告、最終報告のアクションタスクと規制アセスメントを作成します。
4. ソーステーブルから影響領域をコピーします。
5. アセスメントに回答し、回答を入力します。
6. 規制機関向けのレポートを Microsoft Excel 形式で抽出します。

例に示すように、重大なインシデントが サービスオペレーションワークスペース で報告され、関連サービスに影響を与えます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

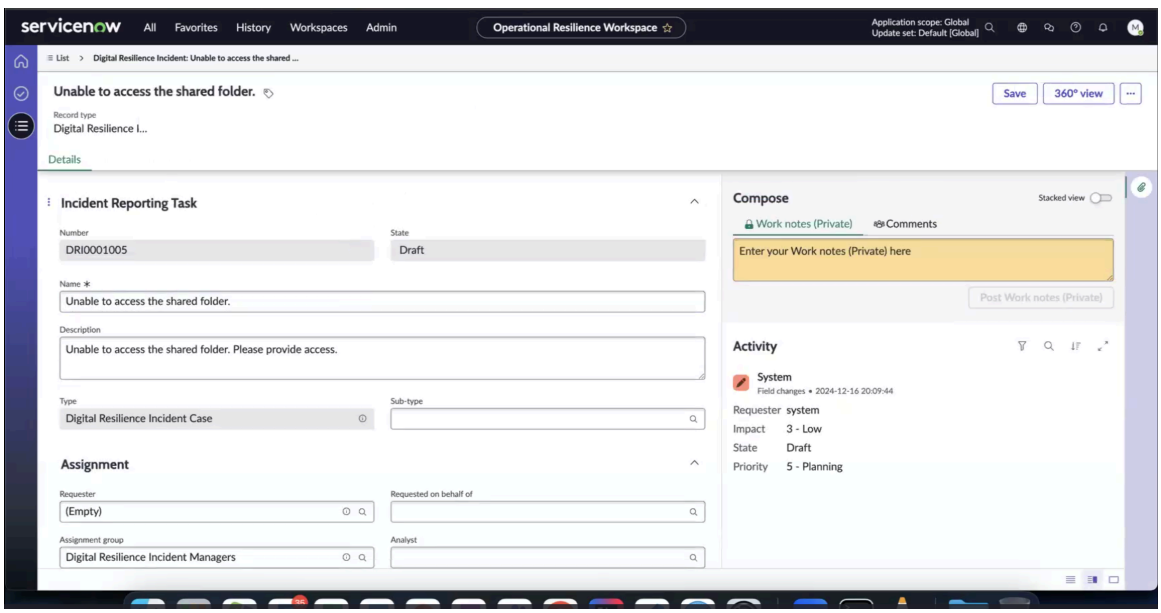


インシデントにより、オペレーショナルレジリエンスワークスペースでデジタルレジリエンスインシデントレポートケースがトリガーされます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > デジタルレジリエンスインシデント報告 > すべてのインシデントレポートケース.
   DIR ケースが サービスオペレーションワークスペースからレポートされると、[未アサインのインシデントレポートケース] モジュールの下のキューに追加されます。ケースが特定のユーザーまたはユーザーのグループにアサインされると、[自分のインシデントレポートケース] モジュールに一覧表示されます。アサインされたユーザーは オペレーショナルレジリエンスワークスペース にログインし、レポートケースを処理します。
2. 割り当てられたユーザーとして オペレーショナルレジリエンスワークスペース にログインし、[自分のインシデントレポートケース] モジュールからケースを開きます。

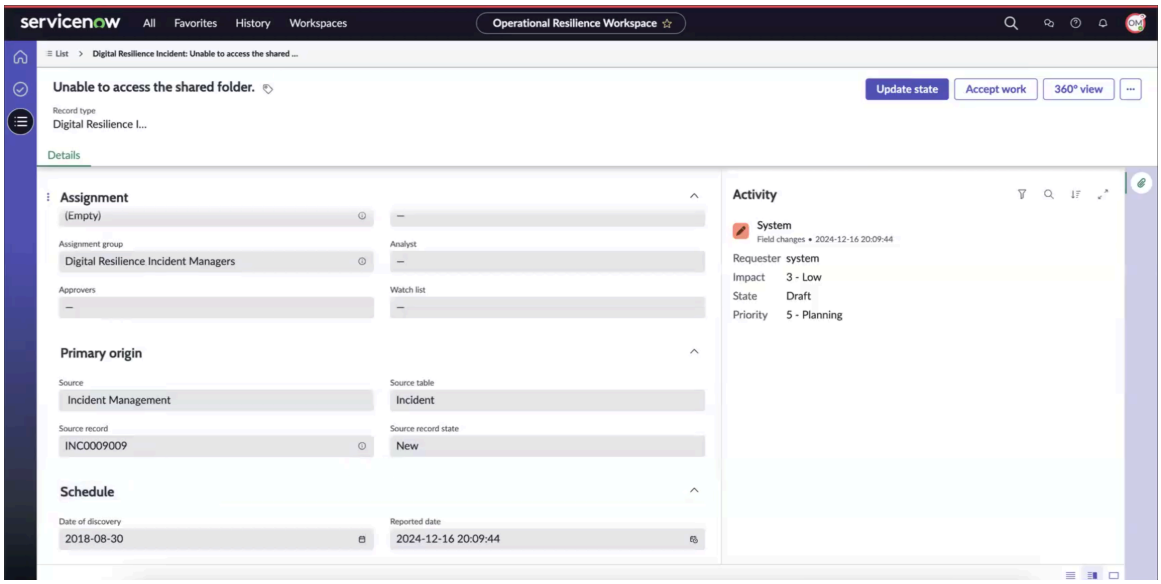
   アサインされたユーザーは、例に示すように、ケース名、説明、アサインされたユーザー、アナリスト、ステータス、元のソースレコード、インシデントが規制当局に報告可能かどうかなどの詳細を表示できます。



ケースのソースは インシデント管理 です。

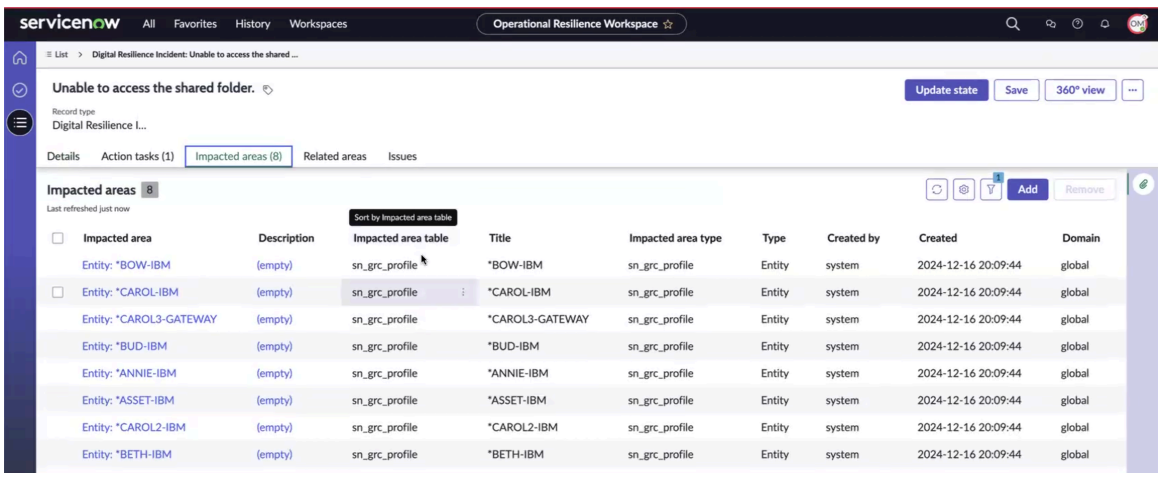
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



ケースは、デジタルレジリエンスインシデントマネージャーグループにアサインされます。

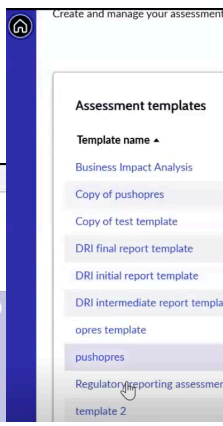
インシデントに関連するアクションタスクと影響領域がケースレコードにコピーされます。



自動翻訳

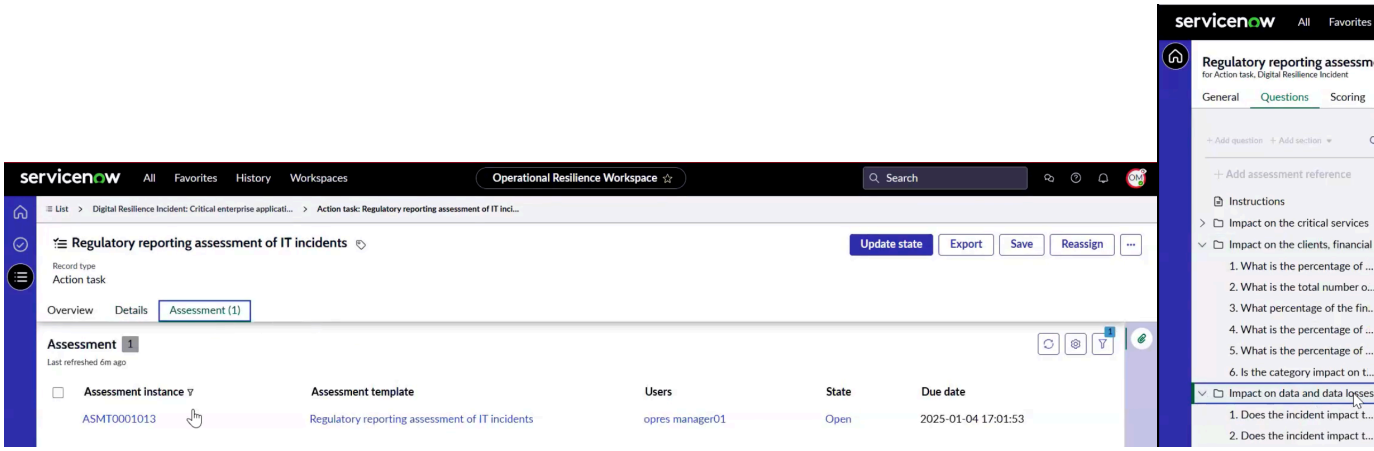
規制機関に報告する必要があるかどうかを判断するのに役立つ、インシデントのアクションタスクが自動的に生成されます。アクションタスクを開くと、その名前、説明、タイプ、および関連するアセスメントテンプレートを表示できます。アドミニストレーターが作成したこのテンプレートは、 アセスメントワークスペース で既に利用可能であり、セクションと質問を表示できます。





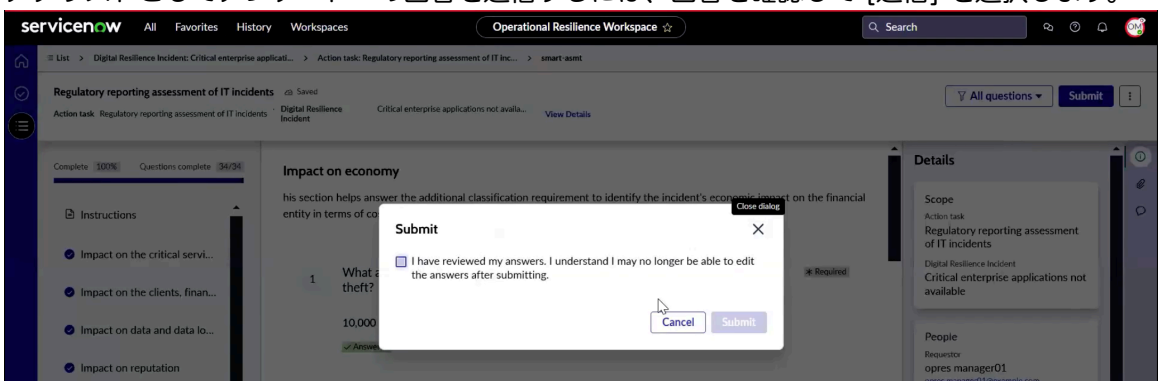
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントテンプレートは、重大な 情報および通信技術 (ICT) インシデントのデジタルオペレーショナルレジリエンス分類に合わせて調整されています。例に示すように、報告されたインシデントに同じアセスメントテンプレートがタグ付けされます。



ケースにアサインされたアナリストは、重要なサービス、クライアント (金融取引先やサードパーティを含む)、データとデータの損失、評判、サービスのダウンタイム、地理的な広がり、経済などの要素に対するインシデントの影響を評価します。テンプレートのこれらのセクションは、インシデントの影響度を判断し、規制機関に報告してアンケートの質問に回答する必要があるかどうかを決定するのに役立ちます。アセスメントテンプレートの詳細については、「アセスメントテンプレートを作成する」を参照してください。

3. [作業を承認] を選択します。
4. アンケートに回答が入力された後、インシデントのステータスがどのように変化したかを監視します。
すべての回答が入力されると、アセスメントテンプレートのインパクトオートメーションを使用して、経済への影響が自動的に計算されます。
5. アナリストとしてアンケートへの回答を送信するには、回答を確認して [送信] を選択します。



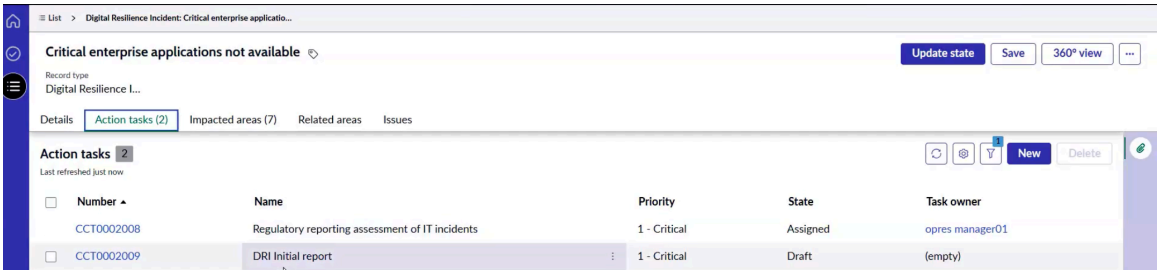
回答が正常に送信されたことを示す確認メッセージが表示されます。

6. インシデントの [詳細] タブに移動し、レポートステータスを確認します。
インシデントの自動計算された規制報告ステータスが [レポート可能] として表示されているかどうかを確認できます。
7. [アクションタスク] タブに移動し、レポート可能なインシデントのアクションタスクが追加されているかどうかを確認します。

例に示すように、規制機関に提出する必要がある初期レポートを収集するためのアクションタスクが生成されます。

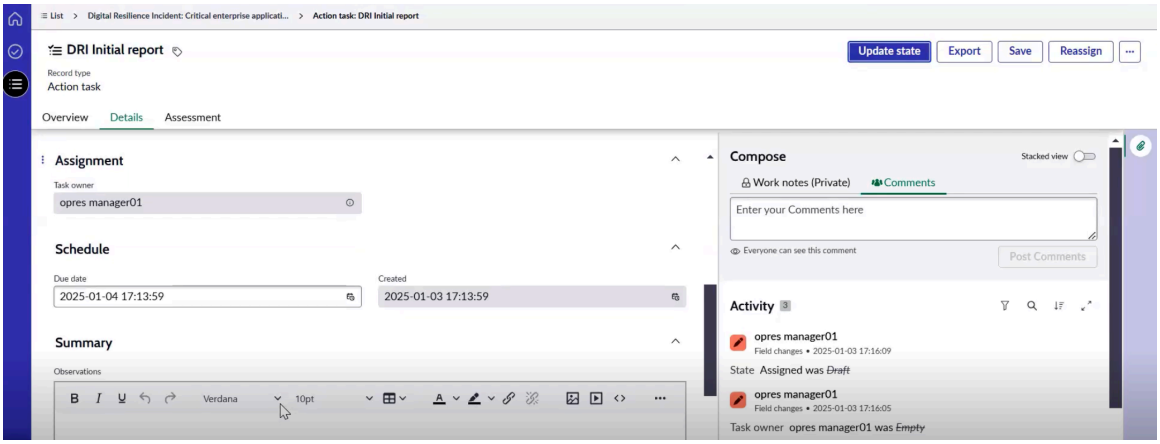
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



8. インシデントのアクションタスクに移動し、[詳細] タブの [アサイン] セクションで自分自身または別のユーザーにアサインします。
9. アクションタスクを保存し、[ステータスの更新] を選択して、[送信] を選択します。

   アクションタスクがユーザーにアサインされ、[タスクオーナー] フィールドがフォーム上でロックされます。ユーザーは、タスクを再アサインすることも、完了することもできます。アクションタスクには、インシデントが重大として分類されてから 24 時間後の 1 日間の期日が指定されます。今後24時間以内に、この報告書を当局に提出する必要があります。



10. [アセスメント] タブに移動し、最初のレポートのアセスメントに回答します。

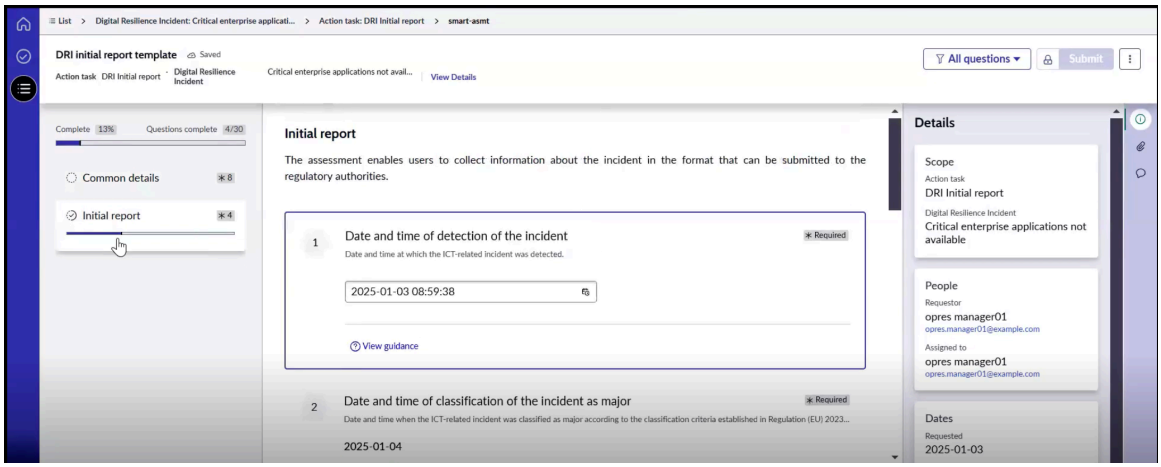
    規制報告アセスメントである最初のアセスメントは、インシデントを規制当局に報告する必要があるかどうかを判断するために使用されます。レポート可能なインシデントの場合、 アセスメントワークスペースの初回、中間、最終レポートに対して 3 つのアセスメントテンプレートが作成されます。

    この場合、アクションタスクの [アセスメント] タブにアセスメントが既に作成されており、ここでインシデントの詳細を入力できます。アセスメントテンプレートで使用される自動化は、情報を収集し、応答を迅速に計算するのに役立ちます。

    検出日と分類日が事前に入力され、一部のフィールドが自動入力されます。残りの応答は、自動化することも手動で設定することもできます。すべての回答が入力されたら、Excel シートを生成して規制当局に送信します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



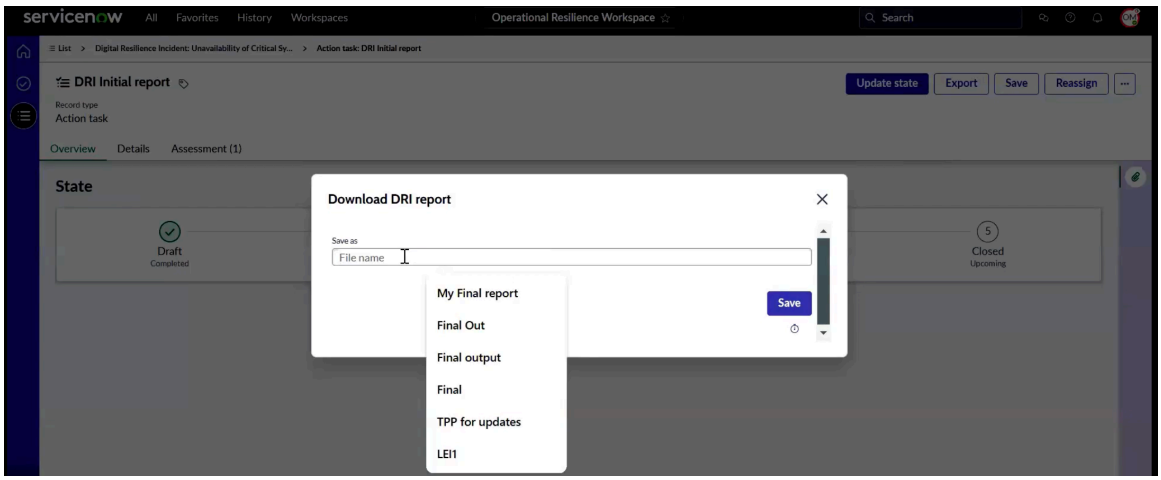
11. アセスメントを送信するには、[**Excel** シートを送信 して生成する] を選択します。Microsoft Excelシートを規制当局に提出することができます。

    最初のレポートは自動的に生成され、インシデントが未解決のままになっている 3 日ごとに中間レポートが作成されます。インシデントが インシデント管理 でクローズまたは解決されると、[クローズ済み] ステータスに移行し、期日が 30 日の最終レポートが生成されます。

    アクションタスクは自動的にインシデントに追加され、手動でタスクを追加してオーナーにアサインすることができます。

12. アクションタスクを手動で追加するには、[アクションタスク] で [新規] を選択し、そのワークフローを完了します。
13. デジタルレジリエンスインシデントレポートをエクスポートおよびダウンロードするには、[エクスポート] を選択し、ファイル名を追加して [保存] を選択します。

    エクスポート機能では、レポートケースに基づいて Microsoft Excel シートが生成されます。これをローカルハードドライブに保存して、規制当局と共有できます。例に示すように、デジタルレジリエンスインシデントレポートをダウンロードできます。



    Microsoft Excelレポートには、[一般的な詳細] タブと [初期レポート] タブが含まれています。最初のレポートのすべてのフィールドが、その名前を列ヘッダーとしてエクスポートされます。

からの重大なインシデントの報告 セキュリティインシデントレスポンス

デジタルレジリエンスインシデントレポート アプリケーションでセキュリティインシデントレスポンスから重大なインシデントを報告します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール:sn_dri_inc_rptg.digital_resilience_incident_manager

このタスクについて
セキュリティインシデントレスポンス レポートワークフローは、次のステップで構成されています。

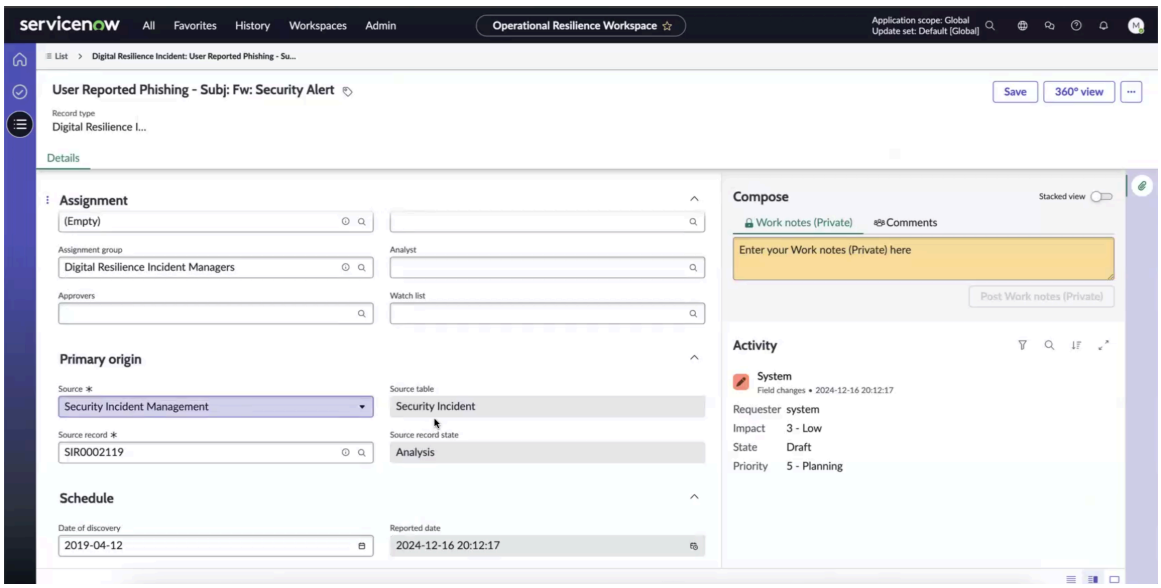
1. インシデントレポートケースの規制ステータスを自動的に更新するようにルールエンジンを設定します。
2. インシデント管理 のSOWからインシデントレポートを作成します。
3. 初期報告、中間報告、最終報告のアクションタスクと規制アセスメントを作成します。
4. ソーステーブルから影響領域をコピーします。
5. アセスメントに回答し、回答を入力します。
6. 規制機関向けのレポートを Microsoft Excel 形式で抽出します。

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > デジタルレジリエンスインシデント報告 > すべてのインシデントレポートケース.
2. リストビューからデジタルレジリエンスインシデントケースを開きます。

   次の例は、 セキュリティインシデントレスポンス アプリケーションによって生成されたデジタルレジリエンスインシデントケースを示しています。

   ケースのソースは SIR です。



   ケースは、デジタルレジリエンスインシデントマネージャーグループにアサインされます。

   インシデントに関連するアクションタスクがケースレコードにコピーされます。

   規制機関に報告する必要があるかどうかを判断するのに役立つ、インシデントのアクションタスクが自動的に生成されます。アクションタスクを開くと、その名前、説明、タイプ、および関連するアセスメントテンプレートを表示できます。デジタルレジリエンスインシデントアドミニストレーター (sn_dri_inc_rptg.digital_resilience_incident_admin) によって作成されたこのテンプレートは、 アセスメントワークスペース で既に利用可能であり、そのセクションと質問を表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントテンプレートは、重大な 情報および通信技術 (ICT) インシデントのデジタルオペレーショナルレジリエンス分類に合わせて調整されています。報告されたインシデントに同じアセスメントテンプレートがタグ付けされます。

ケースにアサインされたアナリストは、重要なサービス、クライアント (金融取引先やサードパーティを含む)、データとデータの損失、評判、サービスのダウンタイム、地理的な広がり、経済などの要素に対するインシデントの影響を評価します。テンプレートのこれらのセクションは、インシデントの影響度を判断し、規制機関に報告してアンケートの質問に回答する必要があるかどうかを決定するのに役立ちます。アセスメントテンプレートの詳細については、「 アセスメントテンプレートを作成する」を参照してください。

3. [作業を承認] を選択します。
4. アンケートに回答が入力された後、インシデントのステータスがどのように変化したかを監視します。
すべての回答が入力されると、アセスメントテンプレートのインパクトオートメーションを使用して、経済への影響が自動的に計算されます。
5. アナリストとしてアンケートへの回答を送信するには、回答を確認して [送信] を選択します。

   回答が正常に送信されたことを示す確認メッセージが表示されます。

6. インシデントの [詳細] タブに移動し、レポートステータスを確認します。
インシデントの自動計算された規制報告ステータスが [レポート可能] として表示されているかどうかを確認できます。
7. [アクションタスク] タブに移動し、レポート可能なインシデントのアクションタスクが追加されているかどうかを確認します。

   規制当局に提出する必要があるデジタルレジリエンスインシデントの初期報告書を収集するためのアクションタスクが生成されます。

8. インシデントのデジタルレジリエンスインシデント初期レポートアクションタスクに移動し、[詳細] タブの [アサイン] セクションでアクションタスクを自分自身または別のユーザーにアサインします。
9. アクションタスクを保存し、[ステータスの更新] を選択して、[送信] を選択します。

   アクションタスクがユーザーにアサインされ、[タスクオーナー] フィールドがフォーム上でロックされます。ユーザーは、タスクを再アサインすることも、完了することもできます。アクションタスクには、インシデントが重大として分類されてから 24 時間後の 1 日間の期日が指定されます。今後24時間以内に、この報告書を当局に提出する必要があります。

10. [アセスメント] タブに移動し、デジタルレジリエンスインシデントの初期レポートのアセスメントに回答します。

    規制報告アセスメントである最初のアセスメントは、インシデントを規制当局に報告する必要があるかどうかを判断するために使用されます。レポート可能なインシデントの場合、 アセスメントワークスペースの初回、中間、最終レポートに対して 3 つのアセスメントテンプレートが作成されます。

    この場合、アクションタスクの [アセスメント] タブにアセスメントが既に作成されており、ここでインシデントの詳細を入力できます。アセスメントテンプレートで使用される自動化は、情報を収集し、応答を迅速に計算するのに役立ちます。

    検出日と分類日が事前に入力され、一部のフィールドが自動入力されます。残りの応答は、自動化することも手動で設定することもできます。すべての回答が入力されたら、Excel シートを生成して規制当局に送信します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

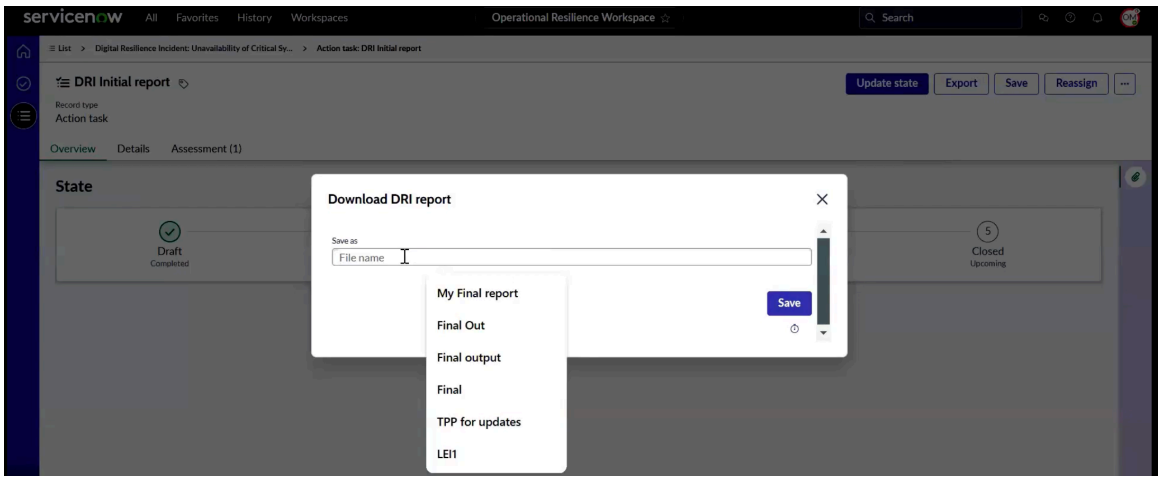
11. アセスメントを送信するには、[**Excel** シートを送信 して生成する] を選択します。
Excel シートを規制当局に提出することができます。

    最初のレポートは自動的に生成され、インシデントが未解決のままになっている 3 日ごとに中間レポートが作成されます。インシデントが インシデント管理 でクローズまたは解決されると、[クローズ済み] ステータスに移行し、期日が 30 日の最終レポートが生成されます。

    アクションタスクは自動的にインシデントに追加され、手動でタスクを追加してオーナーにアサインすることができます。

12. アクションタスクを手動で追加するには、[アクションタスク] で [新規] を選択し、そのワークフローを完了します。
13. デジタルレジリエンスインシデントレポートをエクスポートおよびダウンロードするには、[エクスポート] を選択し、ファイル名を追加して [保存] を選択します。

    エクスポート機能では、レポートケースに基づいて Microsoft Excel シートが生成されます。これをローカルハードドライブに保存して、規制当局と共有できます。例に示すように、デジタルレジリエンスインシデントレポートをダウンロードできます。



    Microsoft Excelレポートには、[一般的な詳細] タブと [初期レポート] タブが含まれています。最初のレポートのすべてのフィールドが、その名前を列ヘッダーとしてエクスポートされます。

14. ケースレコードを保存するには、[保存] を選択します。

重大なインシデントを手動で報告

オペレーショナルレジリエンスワークスペース から デジタルレジリエンスインシデントレポート アプリケーションで重大なインシデントを手動で報告します。

始める前に

必要なロール:sn_dri_inc_rptg.digital_resilience_incident_manager

手順

1. 移動先 ワークスペース > オペレーショナルレジリエンスワークスペース > デジタルレジリエンスインシデント報告 > すべてのインシデントレポートケース.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. インシデントケースレコードの名前と説明を入力します。
4. [新規レコード] フォームで、フィールドに入力します。
フィールドの詳細については、 [新規デジタルレジリエンスインシデントの作成 (Create New Digital Resilience Incident)] フォームを参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

5. [作業を承認] を選択します。
6. アンケートに回答が入力された後、インシデントのステータスがどのように変化したかを監視します。
   すべての回答が入力されると、アセスメントテンプレートのインパクトオートメーションを使用して、経済への影響が自動的に計算されます。
7. アナリストとしてアンケートへの回答を送信するには、回答を確認して [送信] を選択します。

   回答が正常に送信されたことを示す確認メッセージが表示されます。

8. インシデントの [詳細] タブに移動し、レポートステータスを確認します。
   インシデントの自動計算された規制報告ステータスが [レポート可能] として表示されているかどうかを確認できます。
9. [アクションタスク] タブに移動し、レポート可能なインシデントのアクションタスクが追加されているかどうかを確認します。

   規制当局に提出する必要があるデジタルレジリエンスインシデントの初期報告書を収集するためのアクションタスクが生成されます。

10. インシデントのデジタルレジリエンスインシデント初期レポートアクションタスクに移動し、[詳細] タブの [アサイン] セクションでアクションタスクを自分自身または別のユーザーにアサインします。
11. アクションタスクを保存し、[ステータスの更新] を選択して、[送信] を選択します。

    アクションタスクがユーザーにアサインされ、[タスクオーナー] フィールドがフォーム上でロックされます。ユーザーは、タスクを再アサインすることも、完了することもできます。アクションタスクには、インシデントが重大として分類されてから 24 時間後の 1 日間の期日が指定されます。今後24時間以内に、この報告書を当局に提出する必要があります。

12. [アセスメント] タブに移動し、デジタルレジリエンスインシデントの初期レポートのアセスメントに回答します。

    規制報告アセスメントである最初のアセスメントは、インシデントを規制当局に報告する必要があるかどうかを判断するために使用されます。レポート可能なインシデントの場合、 アセスメントワークスペースの初回、中間、最終レポートに対して 3 つのアセスメントテンプレートが作成されます。

    この場合、アクションタスクの [アセスメント] タブにアセスメントが既に作成されており、ここでインシデントの詳細を入力できます。アセスメントテンプレートで使用される自動化は、情報を収集し、応答を迅速に計算するのに役立ちます。

    検出日と分類日が事前に入力され、一部のフィールドが自動入力されます。残りの応答は、自動化することも手動で設定することもできます。すべての回答が入力されたら、Excel シートを生成して規制当局に送信します。

13. アセスメントを送信するには、[**Excel** シートを送信 して生成する] を選択します。
    Excel シートを規制当局に提出することができます。

    最初のレポートは自動的に生成され、インシデントが未解決のままになっている 3 日ごとに中間レポートが作成されます。インシデントが インシデント管理 でクローズまたは解決されると、[クローズ済み] ステータスに移行します。

    アクションタスクは自動的にインシデントに追加され、手動でタスクを追加してオーナーにアサインすることができます。

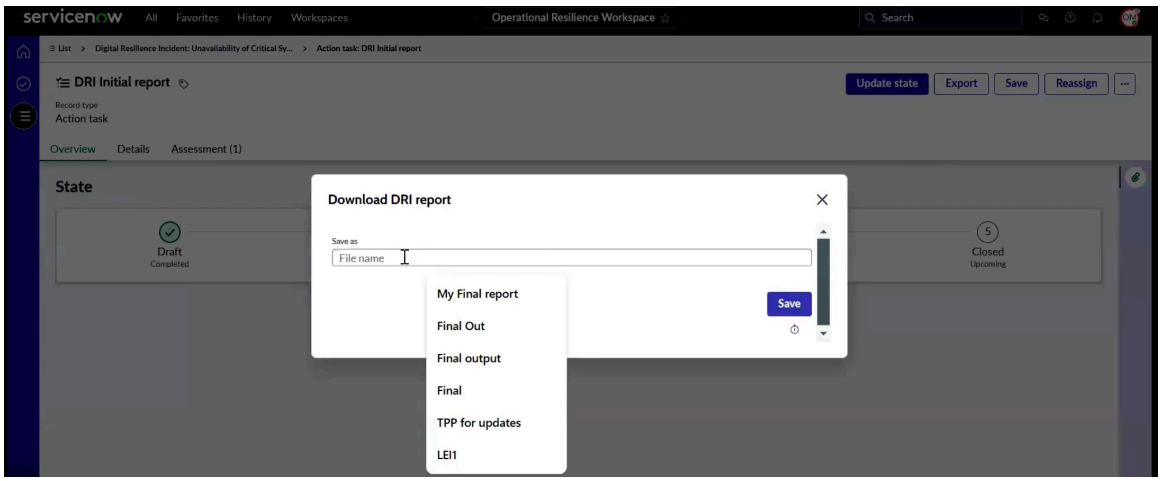
14. アクションタスクを手動で追加するには、[アクションタスク] で [新規] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

15. デジタルレジリエンスインシデントレポートをエクスポートおよびダウンロードするには、[エクスポート] を選択し、ファイル名を追加して [保存] を選択します。

    エクスポート機能では、レポートケースに基づいて Microsoft Excel シートが生成されます。これをローカルハードドライブに保存して、規制当局と共有できます。例に示すように、デジタルレジリエンスインシデントレポートをダウンロードできます。



    Microsoft Excelレポートには、[一般的な詳細] タブと [初期レポート] タブが含まれています。最初のレポートのすべてのフィールドが、その名前を列ヘッダーとしてエクスポートされます。

16. ケースレコードを保存するには、[保存] を選択します。

[新規デジタルレジリエンスインシデントの作成 **(Create New Digital Resilience Incident)]** フォーム

[デジタルレジリエンスインシデントの新規作成 (Create New Digital Resilience Incident)] フォームで、フィールドに入力します。

[新規デジタルレジリエンスインシデントの作成 **(Create New Digital Resilience Incident)]** フォーム

フィールド	説明
番号	ケースの番号。このフィールドは自動的に設定されます。例:DRI000108。
名前	インシデントの名前。例:デジタルレジリエンスインシデントケース 1。
説明	インシデントの説明。
状況	インシデントのワークフロー状況。このフィールドは自動的に [ドラフト] に設定されます。
タイプ	インシデントの性質またはタイプ。このフィールドは自動的に [デジタルレジリエンスインシデントケース] に設定されます。
サブタイプ	インシデントのサブタイプ。たとえば、ドキュメントの損失。
アサイン	
要求者	インシデントを報告したユーザー。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新規デジタルレジリエンスインシデントの作成 **(Create New Digital Resilience Incident)]** フォーム (続く)

フィールド	説明
アサイン先グループ	ケースがアサインされるグループ。 **注:** アサイン先グループは、構成セットアップ中にケースタイプに事前に構成されます。
承認者	インシデントの承認者。
代理の依頼主	代理でインシデントを作成したユーザーの名前。
アナリスト	インシデントを分析して処理するアナリスト。アナリストはアサイン先グループに属しています。
ウォッチリスト	インシデントを認識する必要があるユーザー。
プライマリ作成元	
ソース	ケースのソース。レポートケースが手動で作成されると、このフィールドは自動的に [手動] に設定されます。
スケジュール	
検出日	ケースが検出された日付。たとえば、ケースは 2024 年 2 月 18 日に発生しても、2024 年 3 月 12 日にユーザーに検出される場合があります。
発生日	ケースが発生した日付。たとえば、ケースは 2024 年 2 月 18 日に発生した可能性があります。
クローズ日	ケースがクローズされた日付。
報告日	ケースがレポートされる日付。
処理待ち承認の開始日	ケースが解決された日付。
承認日	ケースのケースの事後レビュー日。
レポートステータス	
規制報告ステータス	ケース発生の主な原因です。利用可能なオプションは次のとおりです： • 報告対象の可能性あり • 報告
規制領域	デジタルオペレーショナルレジリエンス法
アクティビティ	
作業メモ (プライベート)	ケースに関するメモまたは情報。
コメント (顧客に表示)	顧客のケースに関する追加情報。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新規デジタルレジリエンスインシデントの作成 **(Create New Digital Resilience Incident)]** フォーム (続く)

フィールド	説明
メール	ケースについてステークホルダーに宛てたメールを作成するオプション。
添付ファイル	ケースの PDF を添付するオプション。

問題の作成または追加

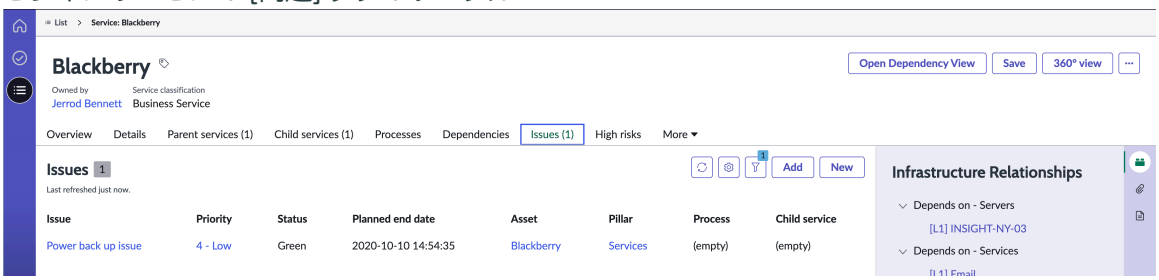
オペレーショナルレジリエンスワークスペースで、コントロール、コントロール目標、リスクなどの複数のオブジェクトに問題を関連付けることができます。オペレーショナルレジリエンス アプリケーションで、ビジネスサービスまたはシナリオ分析に対して、既存の問題を追加したり、問題を作成したりすることができます。

問題は、アプリケーション環境で観察された現在の問題またはギャップをキャプチャするために使用されます。ギャップを修正するためのアクション計画を追跡することもできます。

新しい問題アーキテクチャでは、既存の問題をコントロールまたはリスクに関連付けることができます。問題を作成し、そこで問題の影響を受ける 1 つまたは複数のコントロール、コントロール目標、リスク、リスクステートメント、引用などを指定することもできます。

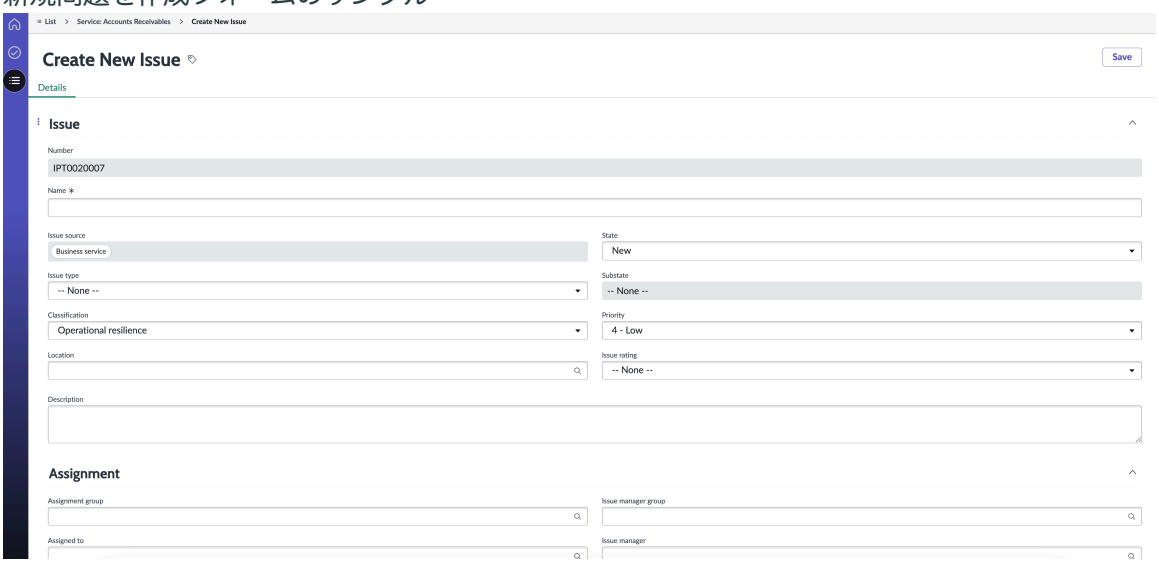
オペレーショナルレジリエンス で、既存の問題を追加するか、特定のビジネスサービスまたはシナリオ分析の問題を作成できます。ビジネスサービスの [問題] タブのサンプルを次の例に示します。

ビジネスサービスの [問題] タブのサンプル



[問題] タブで [新規] を選択してビジネスサービスまたはシナリオ分析の問題を作成すると、次の例に示すように新規問題を作成フォームが表示されます。

新規問題を作成フォームのサンプル



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

フォームのフィールド値の説明については、「新規問題を作成フォーム」を参照してください。

新規問題を作成フォーム

オペレーショナルレジリエンスワークスペース の新規問題を作成フォームを使用して、ビジネスサービスまたはシナリオ分析に問題を追加します。

新規問題を作成フォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

新規問題を作成フォーム

フィールド	説明
問題	
数値	問題の番号。このフィールドは自動入力されます。
名前	問題の名前。
問題ソース	問題のソース (ビジネスサービスやシナリオ分析など)。このフィールドは自動入力されます。
問題タイプ	問題が作成されたソース。このフィールドには、問題の作成方法に基づいて次のいずれかのオプションが自動的に入力されます。 • コントロール設計有効性の問題 • コントロール運用有効性の問題 • コントロールは要件を満たしていません • コントロールが存在しません • 規制への非準拠 • ポリシーへの非準拠 • 既存のポリシーに対する改善または提案 • 新しいポリシーの推奨事項 • プロセス最適化または改善 • 観測事象 • データ漏洩 • 詐欺 • 虚偽 • トレーニング • ドキュメント
分類	問題の分類。このフィールドには、次のいずれかのオプションが自動的に入力されます。 • 監査 • Compliance • Operational Resilience

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規問題を作成フォーム (続く)

フィールド	説明
	• リスク • ベンダー
場所	問題の場所。
状況	問題のステータス。使用可能なオプションは次のとおりです。 • 新規 • 分析 • 応答 • 評価 • 完了してクローズ • 未完了でクローズ
サブステート	問題のサブステート。このフィールドは自動入力されます。
優先度	問題の優先度。使用可能なオプションは次のとおりです。 • 重大 • 高 • 中 • 低 • 計画
問題評価	問題の評価。使用可能なオプションは次のとおりです。 • 非常に高 • 高 • 中 • 低 • 超低
説明	シナリオ分析計画の承認者。
アサイン	
アサイン先グループ	問題のアサイン先グループ。例：アプリケーション開発グループ
アサイン先	問題がアサインされるユーザー。
問題マネージャーグループ	問題がアサインされるマネージャーグループ。使用可能なオプションは次のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規問題を作成フォーム (続く)

フィールド	説明
	• コンプライアンスマネージャー • IT リスクマネージャー • リスクマネージャー
問題マネージャー	問題がアサインされるマネージャー。
ウォッチリスト	問題のウォッチリストに含まれているユーザー。
スケジュール	
期日	問題の期日。
確認日	問題の確認日。このフィールドは自動入力されます。
開始予定日	問題の開始予定日。
終了予定日	問題の終了予定日。
期間	日、時、分、秒単位での問題の期間。
作成済み	問題が作成された日付。このフィールドは自動入力されます。
クローズ済み	問題がクローズされた日付。
実開始日	問題の実際の開始日。
実終了日	問題の実際の終了日。
実際の期間	日、時、分、秒単位での問題の実際の期間。
問題のグループ化	
ペアレントレコード	問題に関連付けられている親問題。
問題グループルール	問題のグループルール。このフィールドは自動入力されます。
アクションプラン	
推奨事項	問題の推奨事項。
アクションプラン	問題のアクションプラン。
アクティビティ	
作業メモ	問題の作業メモ。
追加コメント	問題の追加コメント。
設定	
機能ドメイン	問題が属している機能ドメイン。たとえば、問題は IT リスクおよびコンプライアンスのドメインに属している場合があります。

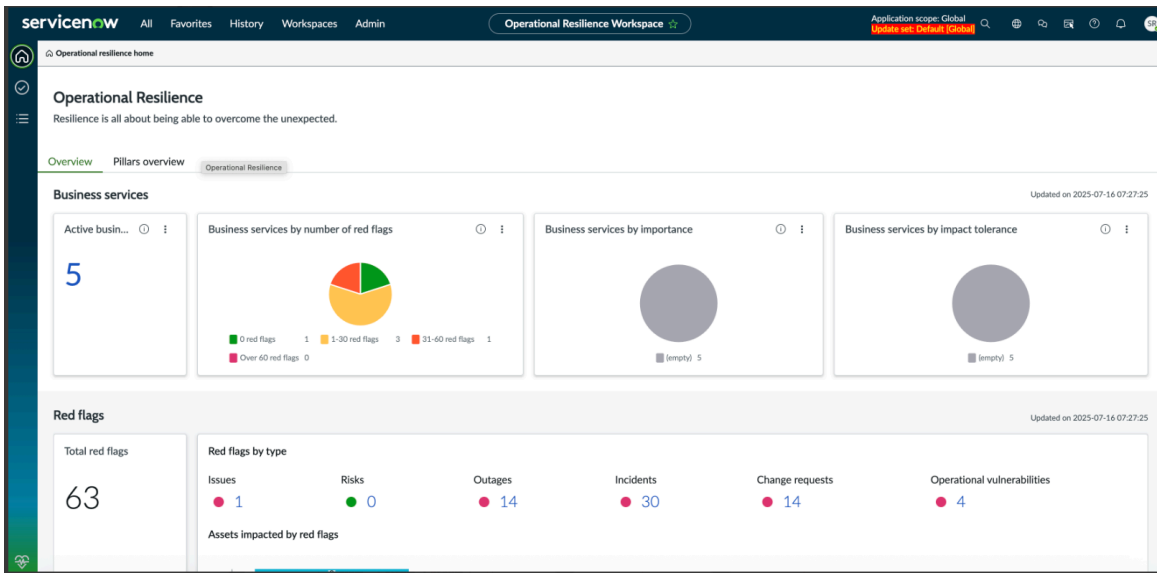
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ランディングページとダッシュボードのビュー

オペレーショナルレジリエンスワークスペースのランディングページには、組織内のサービス、ビジネスサービス、およびピラーの概要が 1 つのペインに表示されます。ダッシュボードには、運用ステータス、完了したアクティビティ、危険フラグ、改善のための提案など、レジリエンスメトリクスが表示されます。

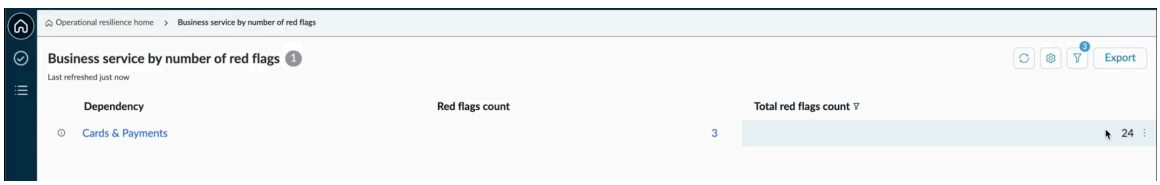
オペレーショナルレジリエンス リリース 21.0.x で導入された柔軟なデータモデルは、ダッシュボードの基盤を提供し、依存サービスのフローを追跡します。失敗したコントロール、インシデント、機能停止などのタイプ別の危険フラグや、フラグの数、重要度、影響許容度などのビジネスサービスメトリクスを含むデータは、柔軟なデータモデルの変更によってダッシュボードで更新されます。



例に示されているデータは、危険フラグの数別のビジネスサービス、重要度別のビジネスサービス、影響許容度別のビジネスサービスなどのビジネスサービス用です。*sn_oper_res.top_class_name*プロパティを設定することで、サービスオファリング、ビジネスプロセス、またはアプリケーションサービスを変更できます。その後、最上位クラスを別のオブジェクトに変更すると、その特定の最上位クラスに関するデータが表示されます。

危険フラグの計算とロールアップ

前の例に示したダッシュボードには、1～30 の範囲の危険フラグが表示されます。選択すると、詳細な内訳が表示され、合計20の危険フラグが表示され、3つは特に「カードと支払い」レベルに起因します。これはロールアップ機能を示しています。ロールアップ機能では、選択した [カードと支払い] ビジネスサービスの下に赤いフラグが集約され、データの階層ビューが提供されます。



[危険フラグの総数] 列に表示される値「24」は、「カードと支払い」ビジネスサービスの下にあるすべてのエンティティの危険フラグのロールアップ値です。

*Calculate red flags for CSDM and dependencies*スケジュール済みジョブは、[sn_oper_res_profile] テーブルに新しいレコードを作成しません。代わりに、[sn_grc_m2m_profile_profile] テーブルのデータを使用して、既存の sn_oper_res_profile レコードの影響を受けるオブジェクトを再計算します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

*Calculate red flags for CSDM and dependencies*スケジュール済みジョブは、次の条件が満たされた場合にのみ、[sn_oper_res_profile] テーブルのプロファイルの危険フラグをフェッチします。

- *sn_oper_res_profile.pillar*が空でない。
- [*sn_oper_res_profile.applies_to*] フィールドが空ではない。

危険フラグフェッチメカニズムでは、 *sn_oper_res_profile.profile* 条件、*sn_oper_res_profile.applies_to* 条件、またはその両方の組み合わせを使用できます。

また、危険フラグは、[sn_oper_res_profile] レコードから影響を受けるオブジェクトおよび影響を受けるオブジェクトクラスを継承します。たとえば、アプリケーションサービスの Operational Resilience プロファイルで、影響を受けるオブジェクトとしてビジネスサービス、オファリング、およびビジネスプロセスがリストされている場合 ([影響を受けるオブジェクト] 列に表示されます)、これらのオブジェクトは、アプリケーションサービスとその関連エンティティに関連付けられているすべての危険フラグにコピーされます。

危険フラグを計算するための条件

このセクションでは、 *sn_oper_res_profile.profile* 条件と *sn_oper_res_profile.applies_to* 条件を参照用します。危険フラグを計算するための基準と関連表の詳細については、危険フラグ計算表を参照してください。

危険フラグの計算

危険フラグ	テーブル	条件	メモ
高リスク:高度なリスク	[sn_risk_advanced_risk_assessment_instance]	条件: • entity_1=プロファイル • ステータス = 30 • summary_residual_risk_score は、risk_assessment_methodology で定義された最大基準より大きい値にする必要があります • sn_risk_advanced_risk_assessment_instance にリンクされたオープンアセスメントを含めることはできません	これらすべてのリスクについて、[sn_oper_res_risk] テーブルにステージングレコードが作成されます。
失敗したコントロール:ステップ 1 (オプション)	[sn_compliance_m2m_control_entity] (sn_compliance_control ← → sn_grc_profile)	条件: • entity=profile • control.status=non_compliant • control.exempt=false • control.state=monitor • control.active=true	コントロールのリストが抽出されます。これは有効な危険フラグです。
失敗したコントロール:ステップ 2	[sn_compliance_control]	条件:	これらすべてのコントロールについて、ス

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

危険フラグの計算 (続く)

危険フラグ	テーブル	条件	メモ
		• entity=profile または sys_id コントロールのリストで • control.status=non_compliant • control.exempt=false • control.state=monitor • control.active=true	テージングレコードは [sn_oper_res_failed_control] テーブルに作成されます。
問題:ステップ 1 (オプション)	[sn_grc_m2m_issue_to_entity] (sn_grc_issue ←→ sn_grc_profile)	条件: • entity=profile • sn_grc_issue.active=true	問題のリストが抽出されます。有効な危険フラグです。
問題:ステップ 2 (オプション) 次のいずれかのピラーが使用されている場合は、このステップが考慮されます。 • サービス • ビジネスサービス • オファリング	• [sn_oper_res_m2m_scenario_event] (scenario_event ←→ sn_grc_issue) • [sn_oper_res_m2m_scenario_event_service] (scenario_event ←→サービス)	2 つのテーブルを使用して共同クエリが実行され、サービス、ビジネスサービス、またはオファリングの [sn_grc_issue] がフェッチされます。	これらは、ステップ 1 の問題のリストに追加されます。
問題:ステップ 3	[sn_grc_issue]	条件: • entity=profile または sys_id コントロールのリストで • active=true • さらに、問題に例外ポリシーを含めることはできません。 • 例外ポリシーは、次の 2 つの条件を使用して [sn_compliance_policy_exception] テーブルで確認できます。 ○ validity>now ○ ステータス = 8	これらすべての問題について、[sn_oper_res_issue] テーブルにステージングレコードが作成されます。
インシデント:ステップ 1	インシデント	条件:	これらすべてのインシデントについて、

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

危険フラグの計算 (続く)

危険フラグ	テーブル	条件	メモ
		• cmdb_ci=profile.applies_to • 状態 IN [1,2]	[sn_oper_res_incident] テーブルにステージングレコードが作成されます。
インシデント:ステップ 2 (オプション)	[task_ci]	条件: • ci_item=profile.applies_to • task.sys_class_name=incident • task.state IN [1,2]	
インシデント:ステップ 3	[task_cmdb_ci_service]	条件: • cmdb_ci_service=profile.applies_to • task.sys_class_name=incident • task.state IN [1,2]	
変更要求:ステップ 1	[change_request]	条件: • cmdb_ci=profile.applies_to • active=true	これらすべての変更要求について、[sn_oper_res_change_request] テーブルにステージングレコードが作成されます。
変更要求:ステップ 2 (オプション)	[task_ci]	条件: • ci_item=profile.applies_to • task.sys_class_name=change_request • task.active=true	
変更要求:ステップ 3	[task_cmdb_ci_service]	条件: • cmdb_ci_service=profile.applies_to • task.sys_class_name=change_request • task.state IN [1,2]	
機能停止	• [cmdb_outage_ci_mtom] (cmdb_ci ←→ cmdb_ci_outage) • [cmdb_ci_outage] (cmdb_ci) [cmdb_ci_outage] のレコードごとに、[cmdb_ci_outage_ci_mtom] テーブルに 1 つのレコードが作成されます。[cmdb_ci_outage] では、影響を受ける	条件: • ci_item=profile.applies_to • outage.type IN [デグレード、機能停止] • outage.end が空であるか、outage.end >	これらすべての機能停止について、[sn_oper_res_outage] テーブルにステージングレコードが作成されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

危険フラグの計算 (続く)

危険フラグ	テーブル	条件	メモ
	CI ごとにレコードが [cmdb_ci_outage_ci_mtom] テーブルに挿入されます。		
タスク	[task]	条件: • cmdb_ci=profile.applies_to • active=true • sys_class_name IN <プロパティ sn_oper_res.allowed_task_tables からフェッチされたクラスのリスト • ベースシステムの一部として、問題レコードのみが考慮されます。	これらすべてのタスクについて、[sn_oper_res_task] テーブルにステージングレコードが作成されます。
運用上の脆弱性:ステップ 1 (オプション)	[sn_grc_case_mgmt_related_area]	条件: • related_area=profile または related_area=profile.applies_to • core_case.sys_class_name=sn_oper_res_vulnerability • core_case.active=true	これらすべての脆弱性について、[sn_oper_res_vulnerability_profile] テーブルにステージングレコードが作成されます。
運用上の脆弱性:ステップ 2 (オプション)	[sn_grc_case_mgmt_impacted_area]	条件: • impacted_area=profile または impacted_area=profile.applies_to • core_case.sys_class_name=sn_oper_res_vulnerability • core_case.active=true	
サードパーティのリスクアセスメント	[sn_vdr_risk_asmt_assessment]	条件: • applies_to [core_company, sn_vdr_risk_asmt_vendor_engagement] • 状態 IN [5, 8, 9] • 今すぐ risk_rating_valid_to >>> • risk_rating = highestRiskRating • ベンダー = profile.applies_to	これらすべてのアセスメントについて、[sn_oper_res_tprm] テーブルにステージングレコードが作成されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

危険フラグの計算 (続く)

危険フラグ	テーブル	条件	メモ
		(注意:この条件は、[sn_vdr_risk_asmt_assessment] テーブルの **applies_to** フィールドとは異なります。) • エンゲージメント = profile.applies_to (注:この条件は、[sn_vdr_risk_asmt_assessment] テーブルの **applies_to** フィールドとは異なります。)	

ピラーを持つエンティティの危険フラグを計算できます。脆弱性一致アイテムの場合、ピラーはテクノロジーである必要があります。その他の危険フラグの場合、エンティティにはタイプに制限のないピラーが必要です。

オペレーショナルレジリエンス 統合のサンプルクエリ条件

オペレーショナルレジリエンス アプリケーションは、エンティティを使用して リスク管理、高度なリスク、およびポリシーとコンプライアンス管理と統合します。オペレーショナルレジリエンス はエンティティの*`applies_to`*値を使用して他のテーブルと統合します。これらの統合がどのように機能するかを説明するために、次の表に、さまざまな統合タイプのクエリ条件の例を示し、これらの接続を容易にするエンティティと *`applies_to`* の役割を示します。

サンプル条件

テーブル	条件	関数	統合アプリケーション
task_ci	• task.sys_class_name=incident • task.state IN 新規、進行中 • ci_item = Applies_to	createIncidentAndChangeRequestsWithImpactedAndAffect	インシデント
task_ci	• task.sys_class_name=change_request • task.active=true • ci_item = Applies_to	createIncidentAndChangeRequestsWithImpactedAndAffect	変更要求
task_cmdb_ci_service	• task.sys_class_name=incident • cmdb_ci_service= Applies_to	createIncidentWithCriticalService	インシデント

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サンプル条件 (続く)

テーブル	条件	関数	統合アプリケーション
task_cmdb_ci_service	• task.sys_class_name=change_request • cmdb_ci_service=Applies_to	_createIncidentWithCri	変更要求
cmdb_outage_ci_mtom	• ci_item = Applies_to • outage.type = デグレードまたは機能停止 • outage.end が空か、次の値より後	_createOpresOutageW	機能停止
sn_grc_case_mgmt_impacted_area	• Impacted_area=エンティティまたは Applies_to • Core_case.sys_class_name = sn_oper_res_vulnerability • Core_case.active=true	_createOpresVulProfile	運用上の脆弱性
sn_grc_case_mgmt_related_area	• Related_area=エンティティまたは Applies_to • Core_case.sys_class_name = sn_oper_res_vulnerability • Core_case.active=true	_createOpresVulProfile	運用上の脆弱性
sn_grc_m2m_issue_to_entity	• 問題のアクティブ = true • エンティティ = エンティティ	_createServiceWithOpe	問題
sn_grc_issue	• 問題のアクティブ = true • エンティティ = エンティティ	_createServiceWithOpe	問題

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サンプル条件 (続く)

テーブル	条件	関数	統合アプリケーション
	• Cmdb_ci = Applies_to • アクティブ = true • Sys_class_name IN プロパティ「sn_oper_res.allowed_task_tables」		
タスク			タスク
Sn_risk_risk	• プロファイル = エンティティ • ステータス = モニター • Residual_score=highest_residual_score • コンテンツが空でない • アクティブ = true	__serviceWithHighRisk	リスク
sn_risk_advanced_risk_assessment_instance	• entity_1= エンティティ • ステータス = 完了 • summary_residual_risk_score= 最高評価	_advancedServiceWithHighRisk	高度なリスク
sn_compliance_m2m_control_entity	• Control.Status=non_compliant • Control.Exempt=false • Control.State=monitor • Control.active=true • プロファイル = エンティティ	createServiceWithFailedControl	ポリシーとコンプライアンス
sn_compliance_control	• ステータス = non_compliant • 免除 = false • ステータス = モニター • プロファイル = エンティティ	createServiceWithFailedControl	ポリシーとコンプライアンス

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サンプル条件 (続く)

テーブル	条件	関数	統合アプリケーション
sn_bcp_plan_asset	#1 • アイテム = Applies_to • タイプは「次の値を含む」で、「primary_scope」です • Plan.expires after • Plan.state=approved	_createServiceWithBCMPlan それ以外の場合は、Applies_toを「計画なし」としてマークします	事業継続性管理
sn_recovery_activated_plan	#2 • アクティブ = false • Plan=#1 から 1 つ	それ以外の場合は、Applies_toを「演習なし」としてマークします	
sn_recovery_event_asset	#3 • asset_name= Applies_to • event=one from #2	イベント資産のステータスが「未復旧」の場合は、Applies_toを「未復旧」としてマークします。それ以外の場合は、Applies_toを「復旧済み」としてマークします	
sn_vul_vulnerable_item	• risk_rating=重大または高 • ステータスが「クローズ済み、解決済み、保留」ではない • プロファイルとの結合クエリ • Profile.pillar にテクノロジーを含む • Profile.active=true	_computeVulnerabilityEvulnerability	Vulnerability Response (脆弱性対応)
sn_oper_res_tprm	• applies_toIN「ベンダー、エンゲージメント」 • stateIN'submitted,response • 受信、フォローアップ」 • 後に risk_rating_valid_to	_createServiceWithThirdPartyRiskAsmt	サードパーティ・ベンダーのリスクアセスメント

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サンプル条件 (続く)

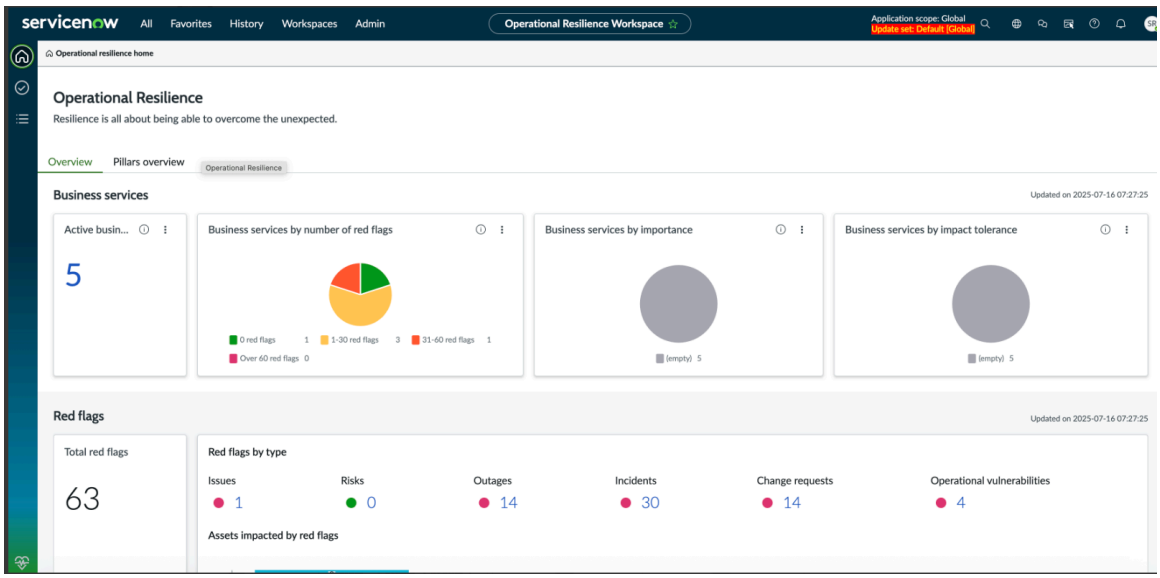
テーブル	条件	関数	統合アプリケーション
	• risk_rating = 最高評価 • ベンダー = Applies_to または エンゲージメント = Applies_to		

レジリエンスメトリクス

オペレーショナルレジリエンスワークスペースのランディングページで、サービスまたはビジネスサービスのレジリエンスメトリクスとピラーを表示できます。

サービス、ビジネスサービス、およびピラーの概要

ランディングページには、サービスまたはビジネスサービスとピラーのレジリエンスメトリクスの概要が表示されます。



オペレーショナルレジリエンスワークスペースのランディングページには、次のタブが表示されます。

- [サービスの概要] タブ - 組織内のサービスのステータスの概要を表示します。サービス (CMDB) メインノード構成は、サービス関連データをフェッチします。運用ステータス、完了したアクティビティ、危険フラグ、改善のための提案など、サービスのレジリエンスメトリクスがこのタブに表示されます。[サービスの概要] タブに表示されるレジリエンスメトリクスの詳細については、「[サービスの概要] タブ」を参照してください。
- [ビジネス サービスの概要] タブ - 組織内のビジネス サービスのステータスを表示します。CSDM ヘッダーを使用した OpRes メインノード構成では、ビジネスサービス関連データが設定されます。このタブには、運用ステータス、完了したアクティビティ、危険フラグ、改善のための提案など、ビジネスサービスのレジリエンスメトリクスが表示されます。[ビジネスサービスの概要] タブ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

に表示されるレジリエンスメトリクスの詳細については、「ビジネスサービスの概要タブ」を参照してください。

- [ピラーの概要] タブ - 組織内のピラーのステータスとメトリクスを表示します。[ピラーの概要] タブに表示されるレジリエンスメトリクスの詳細については、「 [ピラーの概要] タブ」を参照してください。

通常、既存の顧客はサービス (CMDB) メインノード構成を使用しますが、新規顧客は CSDM ヘッダー付き OpRes メインノード構成を使用します。アドミニストレーターが行ったセットアップに応じて、[サービスの概要] または [ビジネスサービスの概要] タブのいずれかがランディングページに表示されます。

アドミニストレーターまたは UI ビルダー アドミニストレーターは、組織のニーズに基づいて、これらのタブを ワークスペース ビューで表示または非表示にすることができます。[サービスの概要] タブまたは [ビジネスサービスの概要] タブを表示または非表示にする方法については、「ワークスペースビューにビジネスサービスの概要タブを表示する」を参照してください。

サードパーティリスク管理 (TPRM) 統合

オペレーショナルレジリエンス リリース 21.0.x 以降、ビジネスサービス、サービスオファリング、およびビジネスプロセスのオペレーショナルレジリエンスレポートと概要ページで、サードパーティのリスクアセスメントを危険フラグとして追跡できます。

TPRM リスクアセスメントは、次の条件を満たす場合に オペレーショナルレジリエンス に統合されます。

- リスク評価は [非常に高い] です (該当する場合は上書きされたリスク評価を使用)。
- リスク評価が現在の日付を超えて有効です。
- ステータスは、[所見を生成中]、[応答を受信済み]、または [サードパーティとの最終処理中] のいずれかです。
- リスクアセスメントは、会社またはエンゲージメントのいずれかに適用されます。

オペレーショナルレジリエンス からサードパーティリスクアセスメントを開くと、ベンダー管理 ワークスペースから直接アクセスした場合と同じビューが表示されます。

オペレーショナルレジリエンスワークスペースで関連リストと危険フラグデータを表示するには、このセクションで説明する適切なユーザーロールが必要です。

TPRM がインストールされていません

TPRMがインストールされていない場合、オペレーショナルレジリエンスユーザーはIRMロールなしではリスクに関する危険フラグにアクセスできません。

TPRM がインストール済みです

ただし、TPRM がインストールされている場合、オペレーショナルレジリエンスユーザーはTPRMビューアーロールを割り当てられているため、危険フラグとサードパーティリスク管理危険フラグの両方にアクセスできます。TPRMビューアーロールにはリスクビューアー機能が含まれているため、IRMロールは必要ありません。

関連リストと危険フラグデータを表示するために必要なロールについては、 新規サービスを作成フォーム ページの「高評価リストと危険フラグデータを表示するロール」表を参照してください。

さまざまなユーザーロールのレポートの表示

BCM Professional ユーザーと IRM Professional ユーザーの オペレーショナルレジリエンスワークスペース ランディングページには、個別のレポートが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レポートにアクセスするための拡張ロール

オペレーショナルレジリエンスでインストールされるロールには、BCM プロフェッショナルユーザーと IRM プロフェッショナルユーザーの関係が含まれるようになりました。

すべての オペレーショナルレジリエンス ユーザーは、ランディングページの一般的なレポートにアクセスできます。

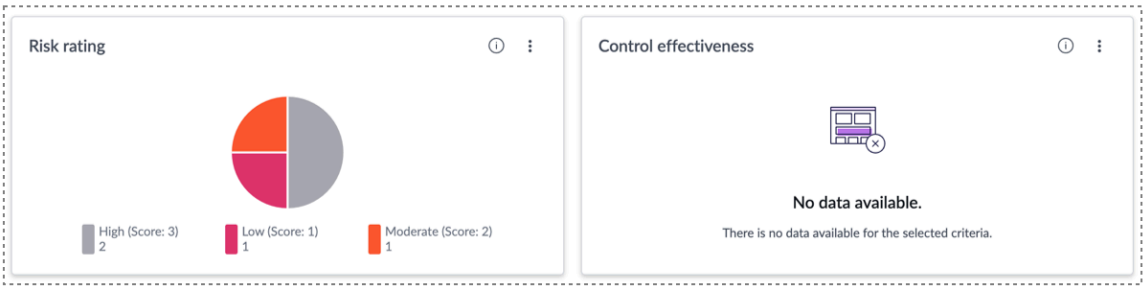
オペレーショナルレジリエンスワークスペースのBCMレポートとIRMレポートにアクセスするために必要なロールについて、次の表で説明します。

レポートにアクセスするためのロール

レポートのタイプ	必要なロール	情報	包含
BCM レポート	sn_oper_res.bcm_opres_admin	このロールを持つユーザーは、オペレーショナルレジリエンスアクティビティと BCM アクティビティの両方を作成および削除できます。	• sn_oper_res.admin • sn_bcm.bcm_opres_manager
	sn_oper_res.bcm_opres_manager	このロールを持つユーザーは、オペレーショナルレジリエンスアクティビティと BCM アクティビティの両方を作成できます。	• sn_oper_res.manager • sn_bcm.bcm_opres_user
	sn_oper_res.bcm_opres_user	このロールを持つユーザーは、オペレーショナルレジリエンスアクティビティと BCM アクティビティの両方に参加できます。	• sn_oper_res.user • sn_bcm.viewer
IRM レポート	sn_oper_res.irm_opres_admin	このロールを持つユーザーは、オペレーショナルレジリエンスアクティビティと IRM アクティビティの両方を作成および削除できます。	• sn_oper_res.admin • sn_bcm.irm_opres_manager
	sn_oper_res.irm_opres_manager	このロールを持つユーザーは、オペレーショナルレジリエンスアクティビティと IRM アクティビティの両方を作成できます。	• sn_oper_res.manager • sn_bcm.irm_opres_user
	sn_oper_res.irm_opres_user	このロールを持つユーザーは、オペレーショナルレジリエンスアクティビティと IRM アクティビティの両方に参加できます。	• sn_oper_res.user • sn_compliance.reader • sn_risk.reader

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

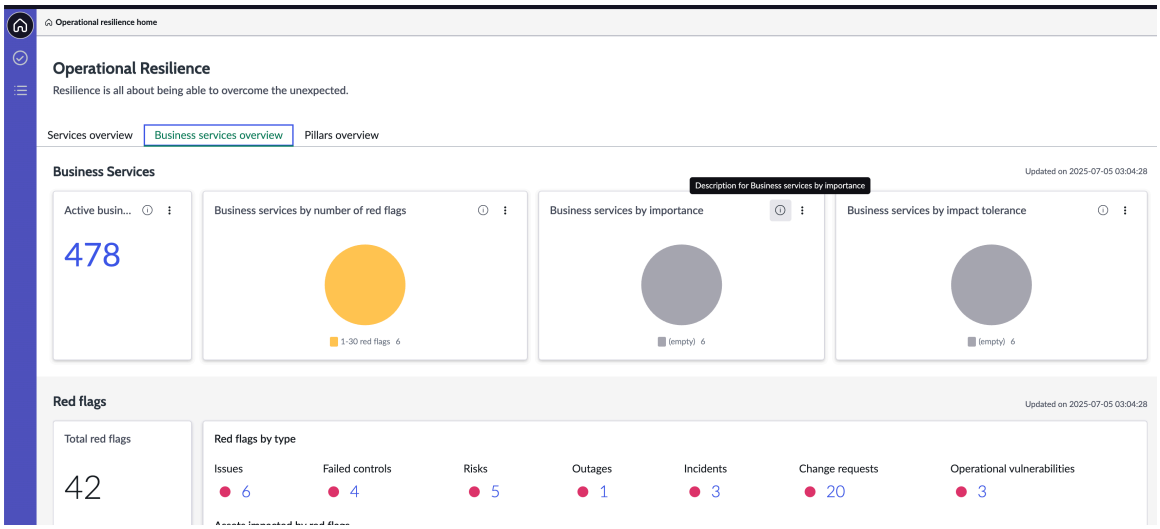


ビジネスサービスの概要タブ

オペレーショナルレジリエンスワークスペースの [ビジネスサービスの概要] タブには、アクティブなビジネスサービスの包括的な概要が表示され、危険フラグや緊急の問題、アセスメント、シナリオ分析、自己証明書などのレジリエンスアクティビティのステータスが強調表示されます。また、上位のリスクまたは脆弱性を軽減し、上位のコントロールを強化するための提案も提供します。

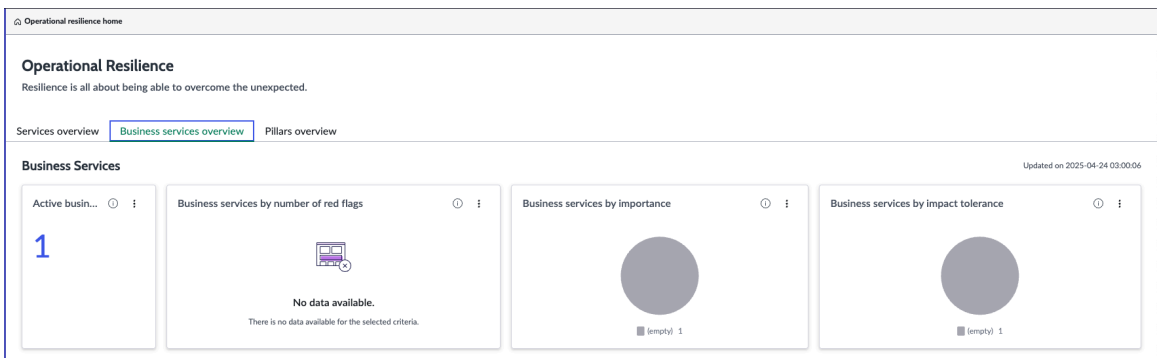
ランディングページの [ビジネスサービスの概要] セクション

既存の顧客は通常、サービス (CMDB) メインノード構成を使用しますが、新規顧客は OSDM ヘッダー付き OpRes メインノード構成を使用します。アドミニストレーターは、組織のニーズに基づいて、[ビジネスサービスの概要] タブを表示し、[サービスの概要] タブを オペレーショナルレジリエンスワークスペース ビューで非表示にします。



ビジネスサービスに関する要約レポート

[ビジネスサービスの概要] タブのビジネスサービスレポートには、ビジネスサービスのタイプとその現在のステータスに関する正確なメトリクスを含む簡単なサマリーが表示されます。



自動翻訳

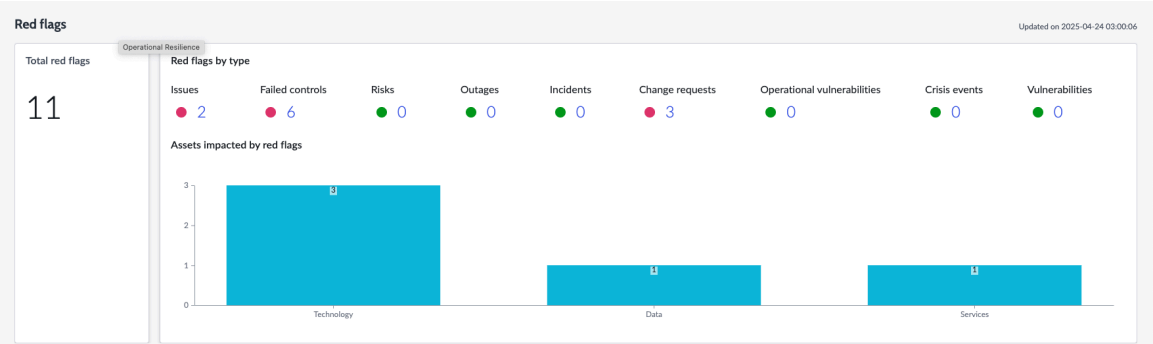
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- アクティブなビジネスサービス
- 危険フラグ数別のビジネスサービス
- 重要性別ビジネスサービス
- 影響許容度別のビジネスサービス

危険フラグに関するレポート

[ビジネスサービスの概要] タブの危険フラグレポートには、選択したビジネスサービスに関連する関連資産、コントロール、問題、およびリスクについて、即時の対応が必要な危険フラグの合計数が表示されます。危険フラグの詳細は、 オペレーショナルレジリエンス アプリケーションとの統合に基づいて分類されます。たとえば、 ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションをインストールした場合、失敗したコントロールのビジネスサービスデータがそのアプリケーションからプルされ、このレポートに表示されます。

例に、ビジネスサービスの危険フラグレポートのサンプルを示します。



レポートのビジネスサービスについて、次のデータが表示されます。

- 危険フラグの合計:ビジネスサービスの合計危険フラグの数が、このレポートに表示されます。レポートでカウントを選択し、ビジネスサービスの実際のステータスを表示できます。
- タイプ別の危険フラグ:インシデント、機能停止、変更要求、運用上の脆弱性、リスク、失敗したコントロール、および問題のカウントは、サービスの概要ページで更新されます。カウントを選択すると、詳細な危険フラグテーブルが表示されます。オペレーショナルレジリエンス と統合されたアプリケーションに応じて、次の例に示すように、それらからビジネスサービスデータがプルされ、レポートに表示されます。
  - 問題
  - 失敗したコントロール
  - リスク
  - 機能停止
  - インシデント
  - 変更要求
  - 運用上の脆弱性
  - 危機イベント
  - 脆弱性

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:

アドミニストレーターは、次の場所に移動できます システムプロパティ > すべてのプロパティ インスタンスで、[危険フラグ] セクションの *sn_oper_res.red_flags_exclusion* プロパティを構成します。

デフォルトでは、サービスタスク、 事業継続性管理 計画、および依存関係は、[危険フラグ] セクションの表示リストから除外されます。

- 危険フラグの影響を受ける資産:ピラー別に分類された危険フラグのある資産が表示されます。

[ビジネスサービスの概要] タブに関連付けられたテーブル

次の表に、[ビジネスサービスの概要] タブレポートの各セクションに関連付けられているすべてのテーブルを示します。

ビジネスサービスの概要タブとレポートに関連付けられたテーブル

タイトル	説明
ビジネスサービス	
アクティブなビジネスサービス	顧客に提供された重要なビジネスサービスの数。 このレポートのソーステーブル:エンティティからエンティティタイプ [sn_grc_m2m_profile_profile_type]
危険フラグ数別のビジネスサービス	危険フラグの数別のビジネスサービスの説明。 このレポートのソーステーブル:サービスサマリー [sn_oper_res_service_summary]
重要性別ビジネスサービス	重要性別のビジネスサービスの説明。 このレポートのソーステーブル:サービス関連の OpRes 情報 [sn_oper_res_service_related_info]
影響許容度別のビジネスサービス	影響許容度別のビジネスサービスの説明。 このレポートのソーステーブル:サービス関連の OpRes 情報 [sn_oper_res_service_related_info]
危険フラグ	
危険フラグの合計	影響を受けるビジネスサービスの危険フラグの合計数。
タイプ別の危険フラグ	タイプ別の危険フラグ。 問題のソーステーブル:問題 [sn_oper_res_issue] 失敗したコントロールのソーステーブル:失敗したコントロール [sn_oper_res_failed_control]

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスサービスの概要タブとレポートに関連付けられたテーブル (続く)

タイトル	説明
	リスクのソーステーブル:リスク [sn_oper_res_risk] 機能停止のソーステーブル:機能停止 [sn_oper_res_critical_service_outage] インシデントのソーステーブル:インシデント [sn_oper_res_incident] 変更要求のソーステーブル:変更要求 [sn_oper_res_change_request] 運用上の脆弱性のソーステーブル:運用上の脆弱性 [sn_oper_res_vulnerability_profile] 危機イベントのソーステーブル:危機イベント [sn_oper_res_bcm_plan] 脆弱性のソーステーブル:脆弱性 [sn_oper_res_vul_profile]
危険フラグの影響を受ける資産	ピラーに表示される危険フラグの影響を受ける資産。プロセスに関連付けられた資産について、ピラーが影響を受け、危険フラグレポートに表示されます。ソーステーブルは、危険フラグ [sn_oper_res_service_process_pillar の影響を受ける資産] です
アクティビティ	
タスク	サービスに関連付けられたタスク。
重要性および影響度アセスメント	サービスに関連付けられた重要性および影響度アセスメント。ソーステーブルは重要性および影響許容度アセスメント [sn_oper_res_importance_impact_tolerance_assessment]
シナリオ分析	サービスに関連付けられたシナリオ分析。ソーステーブルはシナリオ分析 [sn_oper_res_scenario_analysis] です
自己証明書	サービスに関連付けられた自己証明書。ソーステーブルは自己証明書 [sn_oper_res_self_attestation] です
提案	
強化される上位のコントロール	最も重要なサービスに影響を与える失敗したコントロール。 このレポートのソーステーブル:失敗したコントロールのあるサービス [sn_oper_res_failed_control]
軽減すべき上位のリスク	影響を受けるサービスと比較して組織を脅かす上位のリスク。このレポートは、軽減の取り組みを開始する場所、およびコントロールの実装

自動翻訳

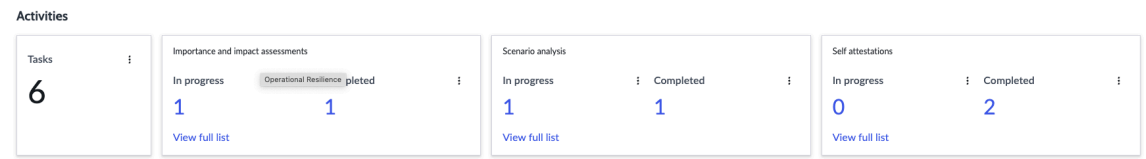
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスサービスの概要タブとレポートに関連付けられたテーブル (続く)

タイトル	説明
	に関して最も多くのリソースを投入すべき領域を判断するのに役立ちます。 このレポートのソーステーブル:高リスクのサービス [sn_oper_res_risk]
修正が必要な上位の脆弱性	サービスの修正が必要な上位の脆弱性。このレポートのソーステーブル:運用上の脆弱性があるサービス [sn_oper_res_vulnerability_profile]

オペレーショナルレジリエンス活動に関する報告

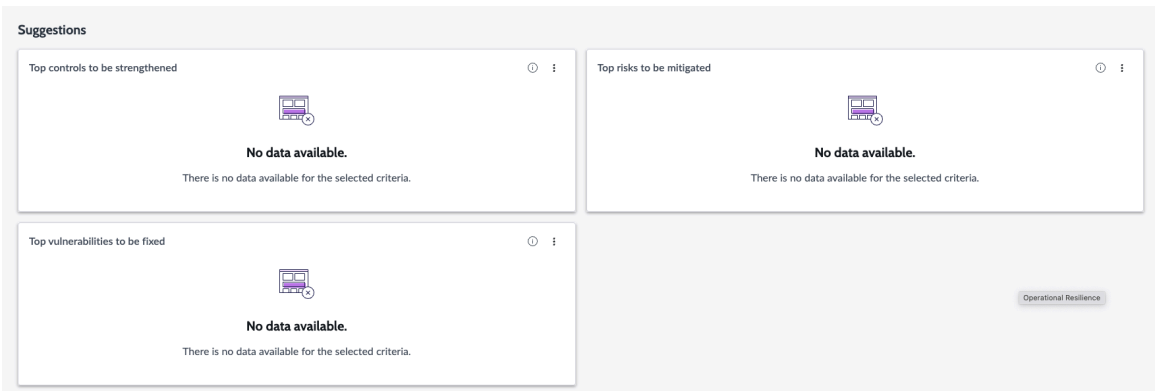
[ビジネスサービスの概要] タブのアクティビティレポートには、ビジネスサービスの次のオペレーショナルレジリエンスアクティビティのタスクとステータスが表示されます。



- タスク
- 重要性および影響度アセスメント
- シナリオ分析
- 自己証明書

問題を軽減するための提案

[ビジネスサービスの概要] タブの提案レポートには、ビジネスサービスのさまざまなレジリエンスメトリクスの問題とリスクを軽減するための推奨事項とワークアラウンドが表示されます。



オペレーショナルレジリエンス と統合されたアプリケーションに応じて、提案がレポートに表示されます。たとえば、 ポリシーとコンプライアンス管理、 リスク管理、および 脆弱性対応 アプリケーションをインストールした場合、次の提案がレポートに表示されます。

- 強化すべき上位のコントロール
- 軽減すべきトップリスク
- 修正が必要な上位の脆弱性

自動翻訳

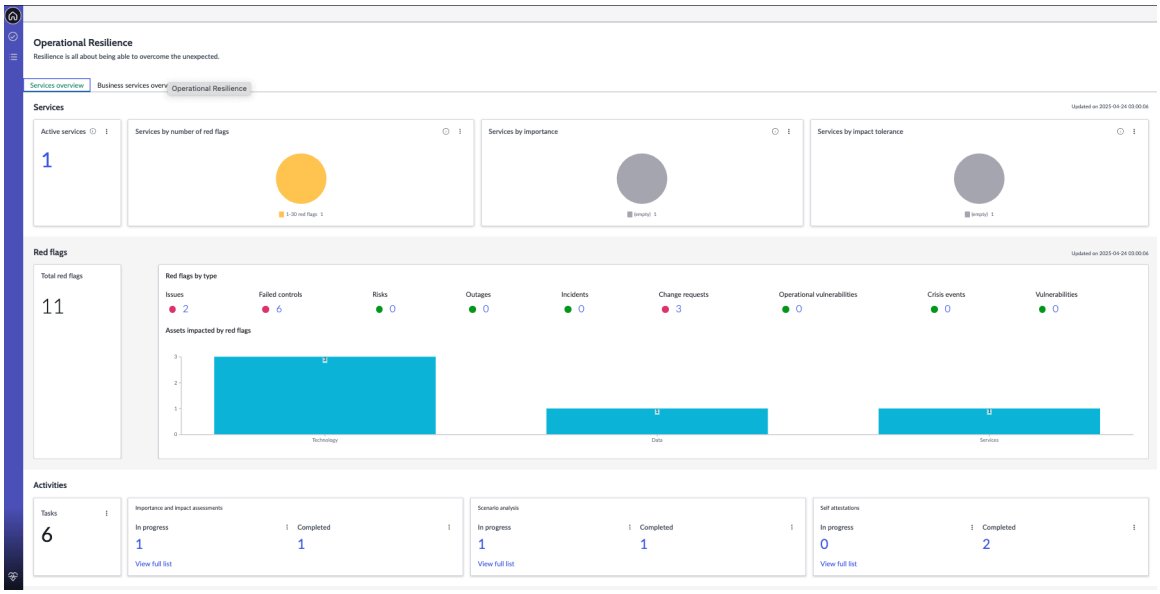
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[サービスの概要] タブ

オペレーショナルレジリエンスワークスペースの [サービスの概要] タブには、アクティブなサービスの包括的な概要が表示され、危険フラグや緊急の問題、アセスメント、シナリオ分析、自己証明書などのレジリエンスアクティビティのステータスが強調表示されます。また、上位のリスクまたは脆弱性を軽減し、上位のコントロールを強化するための提案も提供します。

ランディングページの [サービスの概要] セクション

既存の顧客は通常、サービス (CMDB) メインノード構成を使用しますが、新規顧客は OSDM ヘッダー付き OpRes メインノード構成を使用します。アドミニストレーターは、組織のニーズに基づいて、[サービスの概要] タブを表示し、[ビジネスサービスの概要] タブを オペレーショナルレジリエンスワークスペース ビューで非表示にすることができます。



[サービスの概要] タブに関連付けられたテーブル

次の表に、[サービスの概要] タブレポートの各セクションに関連付けられているすべてのテーブルを示します。

[サービスの概要] タブとレポートに関連付けられたテーブル

タイトル	説明
サービス	
アクティブなサービス	顧客に提供された重要なサービスの数。 このレポートのソーステーブル:アクティブなサービス [sn_grc_m2m_profile_profile_type]
危険フラグ数別のサービス	危険フラグの数別のサービスの説明 このレポートのソーステーブル:危険フラグ数別のサービス [sn_oper_res_service_summary]
重要性別サービス	重要性別サービスの説明。 このレポートのソーステーブル:重要性別サービス [sn_oper_res_service_related_info]

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[サービスの概要] タブとレポートに関連付けられたテーブル (続く)

タイトル	説明
影響許容度別のサービス	影響許容度別のサービスの説明。 このレポートのソーステーブル:影響許容度別のサービス [sn_oper_res_service_related_info]
危険フラグ	
危険フラグの合計	影響を受けるサービスの危険フラグの合計数。
タイプ別の危険フラグ	タイプ別の危険フラグ。 問題のソーステーブル:問題 [sn_oper_res_issue] 失敗したコントロールのソーステーブル:失敗したコントロール [sn_oper_res_failed_control] リスクのソーステーブル:リスク [sn_oper_res_risk] 機能停止のソーステーブル:機能停止 [sn_oper_res_critical_service_outage] インシデントのソーステーブル:インシデント [sn_oper_res_incident] 変更要求のソーステーブル:変更要求 [sn_oper_res_change_request] 運用上の脆弱性のソーステーブル:運用上の脆弱性 [sn_oper_res_vulnerability_profile] 危機イベントのソーステーブル:危機イベント [sn_oper_res_bcm_plan] 脆弱性のソーステーブル:脆弱性 [sn_oper_res_vul_profile]
危険フラグの影響を受ける資産	ピラーに表示される危険フラグの影響を受ける資産。プロセスに関連付けられた資産について、ピラーが影響を受け、危険フラグレポートに表示されます。ソーステーブルは、危険フラグ [sn_oper_res_service_process_pillar の影響を受ける資産] です
アクティビティ	
タスク	サービスに関連付けられたタスク。
重要性および影響度アセスメント	サービスに関連付けられた重要性および影響度アセスメント。ソーステーブルは重要性および影響許容度アセスメント [sn_oper_res_importance_impact_tolerance_assessment]
シナリオ分析	サービスに関連付けられたシナリオ分析。ソーステーブルはシナリオ分析 [sn_oper_res_scenario_analysis] です

自動翻訳

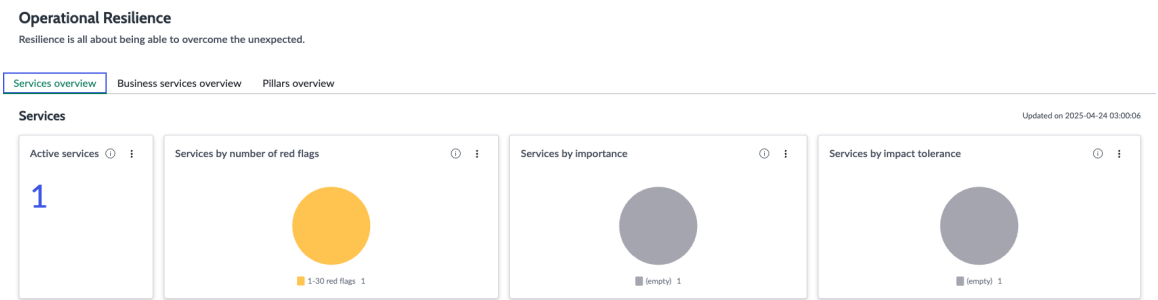
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[サービスの概要] タブとレポートに関連付けられたテーブル (続く)

タイトル	説明
自己証明書	サービスに関連付けられた自己証明書。ソーステーブルは自己証明書 [sn_oper_res_self_attestation] です
提案	
強化される上位のコントロール	最も重要なサービスに影響を与える失敗したコントロール。 このレポートのソーステーブルは次のとおりです。 失敗したコントロールのあるサービス [sn_oper_res_failed_control]
軽減すべき上位のリスク	影響を受けるサービスと比較して組織を脅かす上位のリスク。このレポートは、軽減の取り組みを開始する場所、およびコントロールの実装に関して最も多くのリソースを投入すべき領域を判断するのに役立ちます。 このレポートのソーステーブル:高リスクのサービス [sn_oper_res_risk]
修正が必要な上位の脆弱性	サービスの修正が必要な上位の脆弱性。このレポートのソーステーブル:運用上の脆弱性があるサービス [sn_oper_res_vulnerability_profile]

サービスに関する要約レポート

[サービスの概要] タブのサービスレポートには、サービスのタイプとその現在のステータスに関する正確なメトリクスを含む簡単な概要が表示されます。



- アクティブなサービス
- 危険フラグ数別のサービス
- 重要性別サービス
- 影響許容度別のサービス

危険フラグに関するレポート

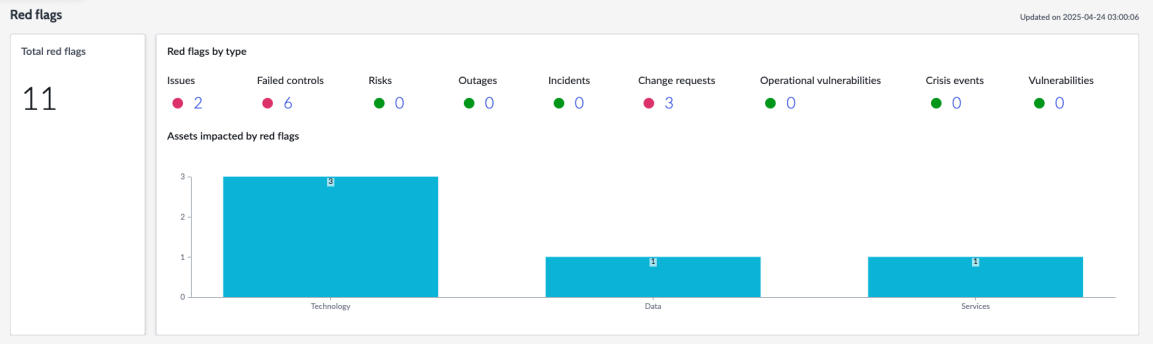
[サービスの概要] タブの危険フラグレポートには、選択したサービスに関連する関連資産、コントロール、問題、およびリスクについて、即時の対応が必要な危険フラグの合計数が表示されます。危険フラグの詳細は、 オペレーショナルレジリエンス アプリケーションとの統合に基づいて分類されます。たとえば、 ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションをインストールした場合、失

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

敗したコントロールのサービスデータがそのアプリケーションからプルされ、このレポートに表示されます。

例に、サービスの危険フラグレポートのサンプルを示します。

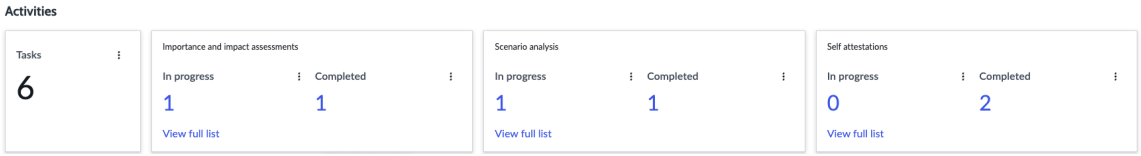


レポート内のサービスについて、次のデータが表示されます。

- 危険フラグの合計:サービスの危険フラグの合計数が、このレポートに表示されます。レポートでカウントを選択し、サービスの実際のステータスを表示できます。
- タイプ別の危険フラグ:インシデント、機能停止、変更要求、運用上の脆弱性、リスク、失敗したコントロール、および問題のカウントは、サービスの概要ページで更新されます。カウントを選択すると、詳細な危険フラグテーブルが表示されます。子サービスは、すべてのサービスと依存関係の親サービスの下に統合されます。オペレーショナルレジリエンス と統合されたアプリケーションに応じて、例に示すように、サービスデータがそこからプルされ、レポートに表示されます。危険フラグレポートには、次のデータが表示されます。
  - 問題
  - 失敗したコントロール
  - リスク
  - 機能停止
  - インシデント
  - 変更要求
  - 運用上の脆弱性
  - 危機イベント
  - 脆弱性
- 危険フラグの影響を受ける資産:サービス、子サービス、ビジネスプロセス、またはそれらの依存関係には、さまざまなピラーの下で危険フラグが付けられます。

オペレーショナルレジリエンス活動に関する報告

[サービスの概要] タブのアクティビティレポートには、サービスの次のオペレーショナルレジリエンスアクティビティのタスクとステータスが表示されます。



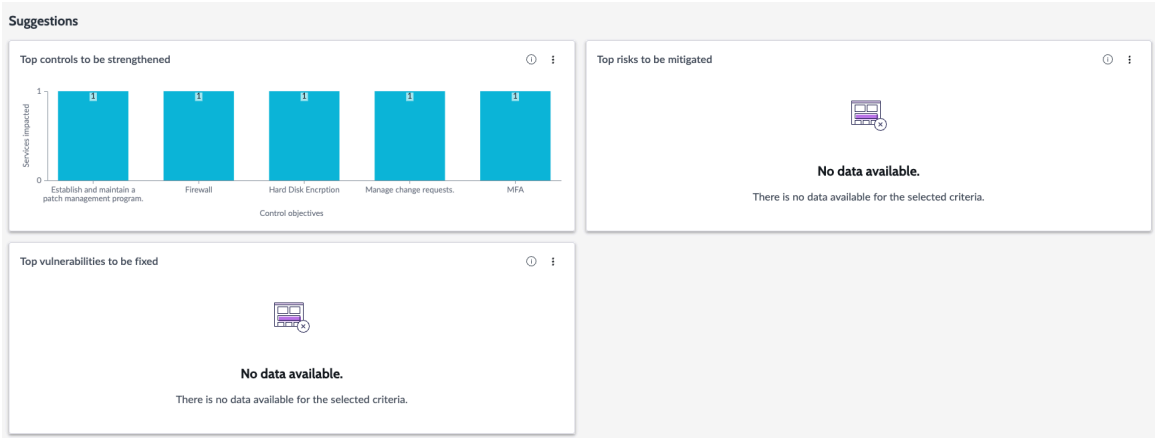
- タスク
- 重要性および影響度アセスメント

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- シナリオ分析
- 自己証明書

問題を軽減するための提案

[サービスの概要] タブの [提案] レポートには、サービスのさまざまなレジリエンスメトリクスの問題とリスクを軽減するための推奨事項とワークアラウンドが表示されます。



オペレーショナルレジリエンス と統合されたアプリケーションに応じて、提案がレポートに表示されます。たとえば、 ポリシーとコンプライアンス管理、 リスク管理、および 脆弱性対応 アプリケーションをインストールした場合、次の提案がレポートに表示されます。

- 強化すべき上位のコントロール
- 軽減すべきトップリスク
- 修正が必要な上位の脆弱性

[ピラーの概要] タブ

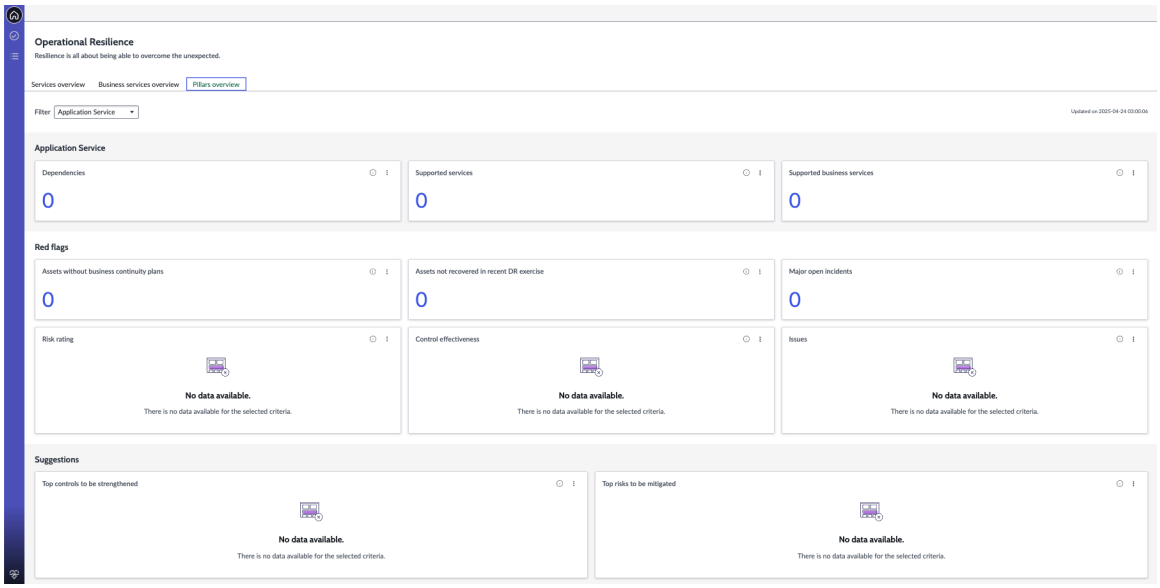
ピラーは、組織のオペレーショナルレジリエンスをサポートする基本的な要素です。ビジネスサービスとプロセスを オペレーショナルレジリエンス アプリケーションでこれらのピラーにマッピングして関係を確立し、 オペレーショナルレジリエンスワークスペースのダッシュボードでそれらのステータスを監視できます。

ランディングページの [ピラーの概要] タブ

オペレーショナルレジリエンスワークスペースのランディングページにある [ピラーの概要] タブには、オペレーショナルレジリエンスのベースシステムの一部であるピラーに関する情報が表示されます。ダッシュボードから、各ピラーのサービスのステータスを監視できます。例に示すように、[ピラーの概要] セクションには、選択したピラーについてフィルタリングされたデータが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



[ピラーの概要] タブに関連付けられたテーブル

次の表に、[ピラーの概要] タブレポートの各セクションに関連付けられているすべてのテーブルを示します。

ピラーの概要タブとレポートに関連付けられたテーブル

タイトル	説明
ピラー	
依存関係	ピラーの依存関係。 このレポートのソーステーブル:依存関係 [sn_oper_res_profile]
サポートされているサービス	ピラーでサポートされているサービス。 このレポートのソーステーブル: [sn_oper_res_profile]
サポート対象のビジネスサービス	ピラーでサポートされているビジネスサービス。 このレポートのソーステーブル: [sn_oper_res_profile]
危険フラグ	
オープン中の重大なインシデント	ピラーの重大なオープンインシデント。 インシデントのソーステーブル:インシデント [sn_oper_res_incident]
リスク評価	 リスクのソーステーブル:リスク [sn_oper_res_risk]

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ピラーの概要タブとレポートに関連付けられたテーブル (続く)

タイトル	説明
コントロール有効性	失敗したコントロールのソーステーブル:失敗したコントロール [sn_oper_res_failed_control]
問題	問題のソーステーブル:問題 [sn_oper_res_issue]
提案	
強化される上位のコントロール	最も重要なサービスに影響を与える失敗したコントロール。 このレポートのソーステーブル：失敗したコントロールのあるサービス [sn_oper_res_failed_control]
軽減すべき上位のリスク	影響を受けるサービスと比較して組織を脅かす上位のリスク。このレポートは、軽減の取り組みを開始する場所、およびコントロールの実装に関して最も多くのリソースを投入すべき領域を判断するのに役立ちます。 このレポートのソーステーブル：高リスクのサービス [sn_oper_res_risk]
修正が必要な上位の脆弱性	サービスの修正が必要な上位の脆弱性。

ダッシュボードから次のピラーのデータを表示できます。

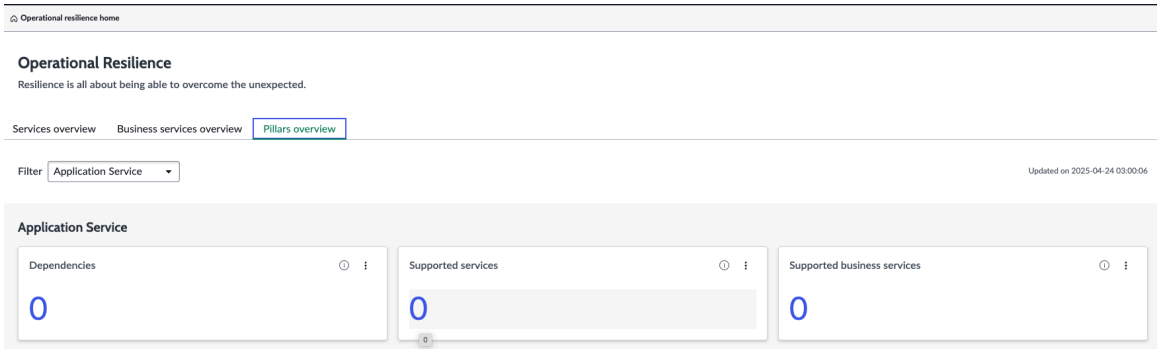
- アプリケーションサービス
- ビジネスサービス
- データ
- 施設
- 人々
- プロセス
- サービス
- サービスオファリング
- サプライヤー
- テクノロジー

次のサンプルレポートは、アプリケーションサービスのピラーのデータとその正確なメトリクスを示しています。

- 依存関係
- サポートされているサービス
- サポート対象のビジネスサービス

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

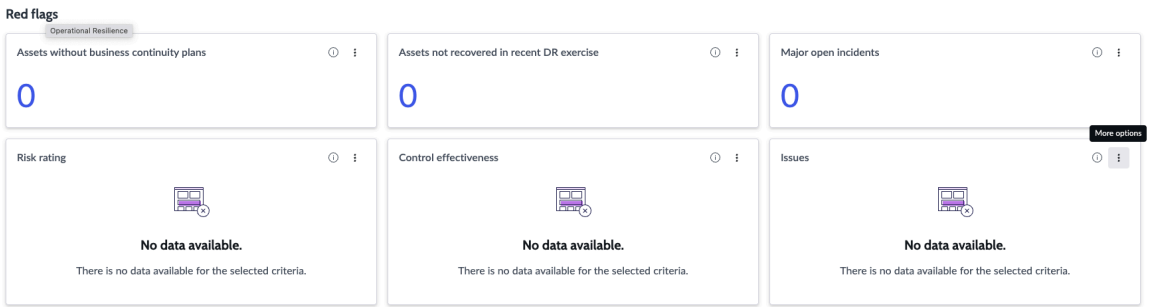


危険フラグに関するレポート

[ピラーの概要] タブの危険フラグレポートには、選択したピラーに関連する関連資産、コントロール、問題、およびリスクに対して即時の対応が必要な危険フラグの合計数が表示されます。危険フラグの詳細は、 オペレーショナルレジリエンス アプリケーションとの統合に基づいて分類されます。たとえば、 リスク管理 アプリケーションをインストールした場合、リスク評価のデータがそのアプリケーションからプルされ、このレポートに表示されます。

GRC 製品スイートから 事業継続性管理 や 脆弱性対応 などのオプションのアプリケーションをインスタンスにインストールした場合、事業継続性計画および 脆弱性対応 レポートをダッシュボードで表示することもできます。

ピラーの危険フラグレポートのサンプルを例に示します。



危険フラグレポートのピラーについて、次のデータが表示されます。

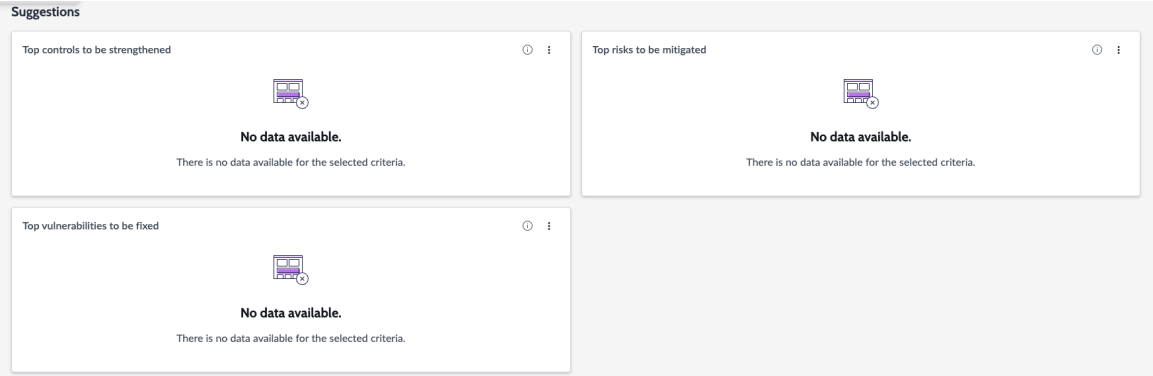
- 事業継続性計画のない資産と最近の DR 演習で復旧されなかった資産: オペレーショナルレジリエンス アプリケーションが BCM アプリケーションと統合されているため、これらの危険フラグは、例で選択したピラーに表示されます。
- オープン中の重大なインシデント
- リスク評価、コントロール有効性、および問題のスコア

問題を軽減するための提案

[ピラーの概要] タブの提案レポートには、ピラーに関連付けられたさまざまなレジリエンスメトリクスの問題とリスクを軽減するための推奨事項とワークアラウンドが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



オペレーショナルレジリエンス と統合されたアプリケーションに応じて、提案がレポートに表示されます。たとえば、 ポリシーとコンプライアンス管理、 リスク管理、および 脆弱性対応 アプリケーションをインストールした場合、次の提案がレポートに表示されます。

- 強化すべき上位のコントロール
- 軽減すべきトップリスク
- 修正が必要な上位の脆弱性

オペレーショナルレジリエンス のピラーの詳細については、「オペレーショナルレジリエンス の探索」を参照してください。

タスクページとリストビュー

オペレーショナルレジリエンスワークスペース の [タスク] ページには、処理待ちのタスク、グループのタスク、およびウォッチリストにあるタスクが 1 つのペインに表示されます。ダッシュボードから直接タスクを更新することもできます。[リスト] ページでは、運用レジリエンスタスクを設定できます。

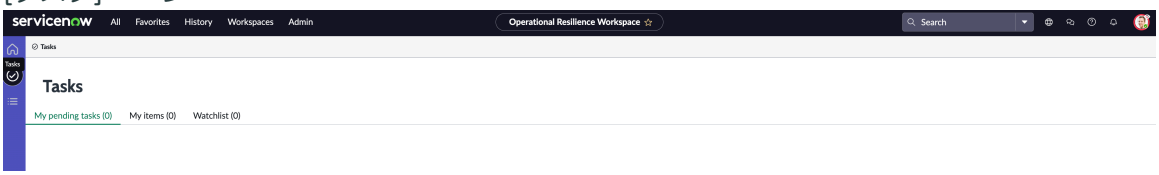
[タスク] ページのタブ

オペレーショナルレジリエンスワークスペース の [タスク] ページには、次のタブが表示されます。

- 自分の処理待ちのタスク
- 自分のアイテム
- ウォッチリスト

次の例に、ログインしているユーザーの [タスク] ページのサンプルを示します。

[タスク] ページ



自分の処理待ちのタスク

[自分の処理待ちのタスク] タブには、自分にアサインされている処理待ちのタスクと、自分のアクションが必要なタスクの概要が表示されます。

注:
[タスク] ページに表示されるデータは、ユーザーのロールに基づいています。

自動翻訳

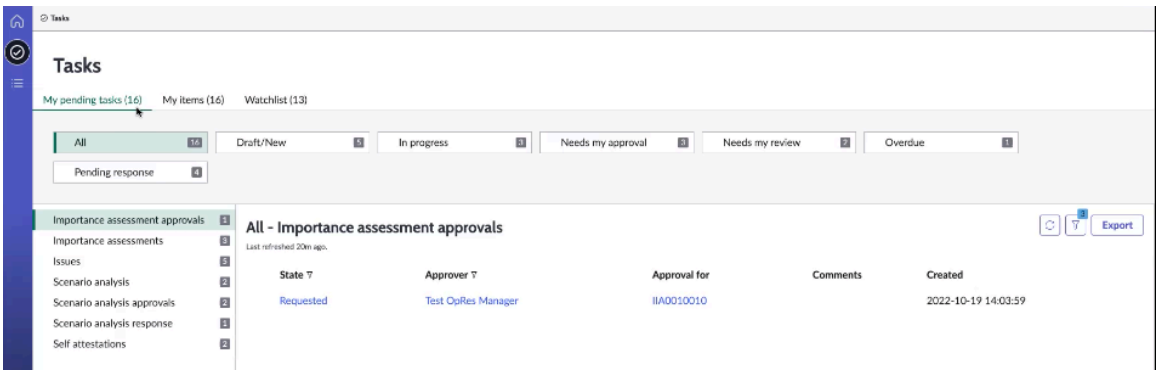
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[自分の処理待ちのタスク] タブには、さまざまな状況の処理待ちのタスクが表示されます。次のタイプの状況を使用して、処理待ちのタスクをフィルタリングできます。

- すべて
- ドラフト/新規
- 処理中
- 自分の承認が必要
- 自分のレビューが必要
- 期限切れ
- 応答処理待ち

次の例は、サインインしているユーザーの処理待ちのタスクを示しています。

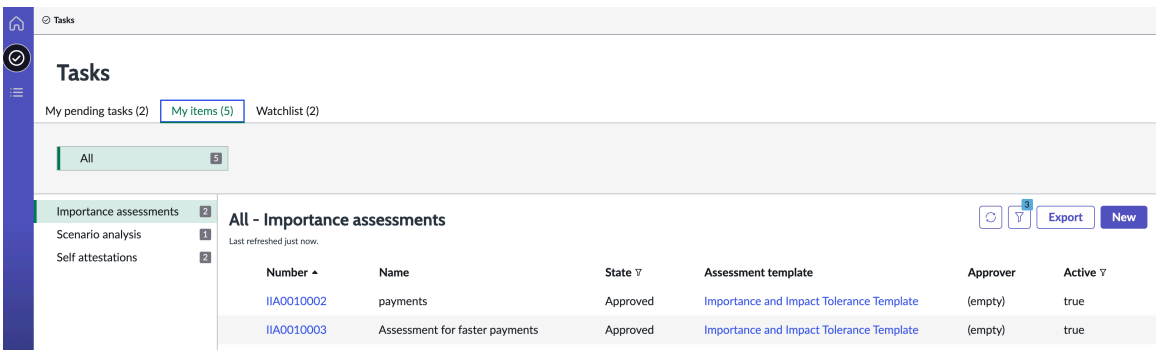
自分の処理待ちのタスク



自分のアイテム

[自分のアイテム] タブには、次の例に示すような オペレーショナルレジリエンス マネージャーなど、サインインしているユーザーに割り当てられたタスクのリストが表示されます。

自分のアイテム

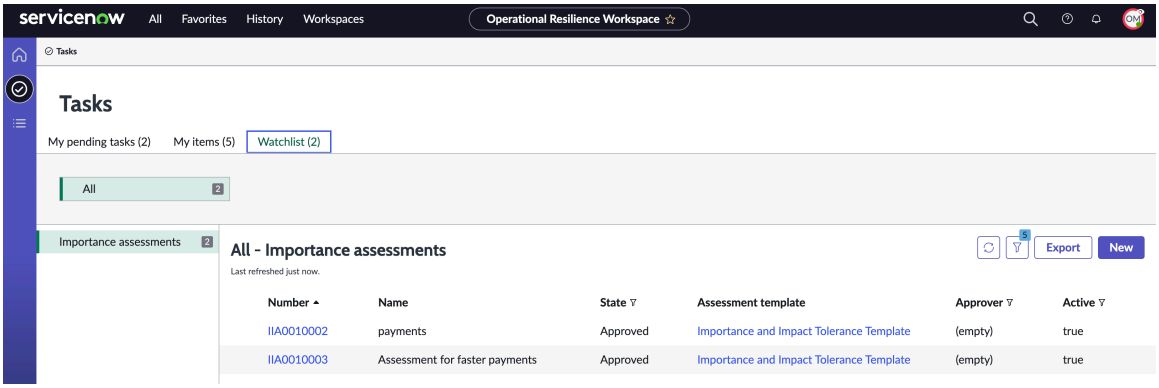


ウォッチリスト

[ウォッチリスト] タブには、ウォッチリストに含まれているタスクのリストが表示されます。タスクが承認または完了すると、タブに通知が表示されます。次の例は、サインインしているユーザーのウォッチリストに含まれているアセスメントタスクの更新を示しています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自分のウォッチリスト



注:
[自分の処理待ちのタスク]、 [自分のアイテム]、および [ウォッチリスト] タブでは、進行中のレコードのみを表示できます。[自分の処理待ちのタスク]、 [自分のアイテム]、および [ウォッチリスト] タブには、クローズ済みおよびキャンセル済みのレコードは表示されません。オペレーショナルレジリエンスワークスペース では、それぞれのフォームでクローズ済みレコードとキャンセル済みレコードを表示できます。

オペレーショナルレジリエンス アドミンロールを持っている場合は、[タスク] ページの構成を更新して オペレーショナルレジリエンスワークスペース をカスタマイズできます。[タスク] ページの構成を更新するには、次の場所に移動します すべての **> GRC** ランディングページ構成 **>**タスクページ構成 インスタンス内にあります

オペレーショナルレジリエンスマネージャーまたはオペレーショナルレジリエンスユーザーロールを持っている場合は、ランディングページでレジリエンスタスクに関連する推奨事項を取得することもできます。

[タスク] ページの詳細情報を表示するには、「タスクページ設定レコードを更新する」を参照してください。

オペレーショナルレジリエンスワークスペース でのリストビュー

リストビューから、ビジネスサービスの設定、その重要性と影響許容度の分析、シナリオ分析の実行、自己証明書レポートの生成を行うことができます。

オペレーショナルレジリエンスワークスペース でのビジネスサービスの設定の詳細については、「ビジネスサービスのデータセットアップ」を参照してください。

オペレーショナルレジリエンスワークスペース でのビジネスサービスの重要性および影響許容度の分析の詳細については、「重要性および影響許容度アセスメントの実行」を参照してください。

オペレーショナルレジリエンスワークスペース でのシナリオ分析の実行の詳細については、「シナリオ分析の実施」を参照してください。

オペレーショナルレジリエンスワークスペース でのビジネスサービスの自己照明の詳細については、「自己証明書を使用したサービスの認定」を参照してください。

オペレーショナルレジリエンスの参照

参照トピックには、オペレーショナルレジリエンス アプリケーションとともにインストールされるテーブル、ロール、およびプロパティなどの追加の情報が記載されています。いくつかのタイプのコンポーネント (プロパティ、ロール、テーブルなど) が、オペレーショナルレジリエンス アプリケーションのアクティブ化とともにインストールされます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オペレーショナルレジリエンス とともにインストールされるプロパティ

オペレーショナルレジリエンスアプリケーションをインストールすると、いくつかのシステムプロパティがインスタンスに追加されます。これらのプロパティは、変更する必要がない場合があります。sn_oper_res.admin ロールを持つユーザーは、これらのプロパティを管理できます。

インストールされるプロパティ

プロパティ	説明
sn_oper_res.allowed_task_tables	オペレーショナルレジリエンス される場合、レコードが生成さ タイプ：文字列 値:問題
sn_oper_res.business_process_pillar	プロセスピラーの sys_id。 タイプ：文字列 値:6408bde453731010872
sn_oper_res.critical_business_processes	ビジネスプロセスエンティティ タイプ：文字列 値:221c1c9a53d3[illegible]08722
sn_oper_res. critical_services	サービスエンティティタイプの タイプ：文字列 値:2d7bd49a53d3101087
sn_oper_res.dependency_pillars	依存関係のピラーのsys_id。依 す。e4f77de453731010872 次の柱とそれに対応するsys_id • アプリケーションサービス:e • 人々:ab5c78b0533112105 • データ:9c38fde4537310 • サプライヤー: a5187de453 • テクノロジー:c4c775e453 • 施設:2fad303453311210 タイプ：文字列 値:e4f77de4537310108722

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ	説明
sn_oper_res.logging.verbosity	最小情報から非常に詳細な情報 タイプ：選択リスト デバッグ = 0、情報 = 1、警告 =
sn_oper_res.max_levels	処理するレベルの最大数 (デフ タイプ：文字列 値:1
sn_oper_res.max_node	オペレーショナルレジリエンス • **Type** (タイプ)：整数 • デフォルト値：10,000 たとえば、API が呼び出される
sn_oper_res.max_top	オペレーショナルレジリエンス • タイプ：整数 • デフォルト値：5
sn_oper_res.opres_csdm_main_node_config	データを取得して sn_grc_m2 タイプ：文字列 値:c483a911ff2a311051b15
sn_oper_res.red_flags_exclusion	危険フラグから除外されるクラ タイプ：文字列 値:sn_oper_res_profile、sn_
sn_oper_res.top_class_name	任意のクラスをダッシュボード タイプ：文字列 値:cmdb_ci_service_business
sn_oper_res.useAdvancedRisk	オペレーショナルレジリエンス タイプ:true |偽 値:true
glide.ui.sn_oper_res_importance_impact_tolerance_assessment_activity.fields	影響度および重要性アセスメン

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ	説明
	タイプ：文字列 値:assigned_to、ステータス、
glide.ui.sn_oper_res_scenario_analysis_activity.fields	シナリオ分析アクティビティフ タイプ：文字列 値:ステータス、assigned_to、

オペレーショナルレジリエンスとともにインストールされるロール

いくつかのタイプのロールが、オペレーショナルレジリエンス アプリケーションと一緒にインストールされます。

オペレーショナルレジリエンス と一緒にインストールされるロール

注:
ロールと FAQ の詳細については、「 KB0555605 」を参照してください。

Operational Resilience とともにインストールされるロール

ロール名	説明
オペレーショナルレジリエンス アドミニストレーター [sn_oper_res.admin]	オペレーショナルレジリエンス アドミニストレーターの責任は次のとおりです。 • シナリオの構成 • ビジネスチームからのダッシュボード要求に基づいて、エンティティタイプ、エンティティフィルター、およびレポートのピラーを設定します。 • オペレーショナルレジリエンス ダッシュボードでのレポートのカスタマイズ オペレーショナルレジリエンス アドミニストレーターは、サービスとプロセス間の CMDB 関係を追加するために ITIL ロールを持っている必要があります。 オペレーショナルレジリエンス アドミニストレーターのロールには次のロールが含まれます。 • sn_grc.admin • sn_oper_res.manager • 脆弱性タイプ、状況モデル、脆弱性アセスメントテンプレート、およびドキュメントテンプレートを設定する機能を継承する sn_grc_case_mgmt.grc_case_admin が含まれます。
オペレーショナルレジリエンス マネージャー	オペレーショナルレジリエンス マネージャーは次の責任を負います。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Operational Resilience とともにインストールされるロール (続く)

ロール名	説明
[sn_oper_res.manager]	• ダッシュボードとレポートを使用して、組織の運用レジリエンスを確保します。 • オペレーショナルレジリエンス ダッシュボードのレポートとサポートデータを確認します。 オペレーショナルレジリエンス マネージャーのロールには次のロールが含まれます。 • sn_grc.manager • sn_compliance.reader • sn_oper_res.user • sn_risk.reader • 運用上の脆弱性を送信する機能を継承する sn_grc_case_mgmt.grc_case_manager が含まれます (ケースのタイプ)。
オペレーショナルレジリエンス ユーザー [sn_oper_res.user]	オペレーショナルレジリエンス ユーザーは次の責任を負います。 • オペレーショナルレジリエンス ダッシュボードのレポートとサポートデータを確認します。 • サービスの影響度分析をアサインされた個人の影響許容度とテストの計画を完了します。 オペレーショナルレジリエンス ユーザーは 脆弱性対応 データにアクセスできます。 オペレーショナルレジリエンス ユーザーロールには次のロールが含まれます。 • sn_incident.read • sn_grc.reader • task_editor • 運用上の脆弱性のタスクまたは問題をアサインできる sn_grc_case_mgmt.grc_case_business_user が含まれます。
sn_oper_res.operational_resilience_business_user	instancename/esc?id=emp_taxonomy_topic&topic_id=14aedd93a314121051b1 から従業員センターから「運用上の脆弱性を報告」を送信します
BCM および オペレーショナルレジリエンス アドミニストレーター [sn_oper_res.bcm_opres_admin]	BCM および オペレーショナルレジリエンス アドミニストレーターのロールには次のロールが含まれます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Operational Resilience とともにインストールされるロール (続く)

ロール名	説明
	• sn_oper_res.bcm_opres_manager • sn_oper_res.admin
BCM および オペレーショナルレジリエンス マネージャー [sn_oper_res.bcm_opres_manager]	BCM および オペレーショナルレジリエンス マネージャーロールには次のロールが含まれます。 • sn_oper_res.bcm_opres_user • sn_oper_res.manager
BCM および オペレーショナルレジリエンス ユーザー [sn_oper_res.bcm_opres_user]	BCM および オペレーショナルレジリエンス ユーザーロールには、次の権限があります。 • BCM UIB ワークスペース を読むことができます。 • IRMレポートまたはデータにアクセスできません。 BCM および オペレーショナルレジリエンス ユーザーロールには次のロールが含まれます。 • sn_bcm.viewer • sn_oper_res.user
IRM オペレーショナルレジリエンス ユーザー [sn_oper_res.irm_opres_user]	統合リスク管理 (IRM) オペレーショナルレジリエンスユーザーロールは、BCMレポートおよびデータにアクセスできません。これには、以下の内容が含まれています。 • sn_grc.reader • sn_oper_res.user 次のユーザーロールは、ポリシーとコンプライアンス管理とリスク管理がインストールされている場合にのみ含まれます。 • sn_compliance.reader • sn_risk.reader
IRM オペレーショナルレジリエンス アドミニストレーター [sn_oper_res.irm_opres_admin]	IRM オペレーショナルレジリエンス アドミニストレーターロールには次のロールが含まれます。 • sn_oper_res.irm_opres_manager • sn_oper_res.admin
IRM オペレーショナルレジリエンス マネージャー [sn_oper_res.irm_opres_manager]	IRM オペレーショナルレジリエンス マネージャーロールには次のロールが含まれます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Operational Resilience とともにインストールされるロール (続く)

ロール名	説明
	• sn_oper_res.irm_opres_user • sn_oper_res.manager

Lite アプリがインストールされている場合のモデルのタイプ

ロール	ファミリ	コメント
sn_oper_res.admin	IRM	なし
sn_oper_res.manager	IRM	なし
sn_oper_res.user	IRM	脆弱性プロファイルレコードにアクセスするには、sn_oper_res.user ロールが必要です。
導入された新しいロール		
sn_oper_res.bcm_opres_admin	BCM	BCM 構成可能ワークスペースにアクセスするには、sn_bcm.viewer ロールが必要です。 sn_oper_res.bcm_opres_user + ロールを持つユーザーは、 オペレーショナルレジリエンスワークスペース と BCM 構成可能ワークスペース の両方にアクセスできます。
sn_oper_res.bcm_opres_manager	BCM	
sn_oper_res.bcm_opres_user	BCM	
sn_oper_res.irm_opres_admin	IRM	sn_oper_res.irm_opres_user + ロールを持つユーザーは、オペレーショナルレジリエンスワークスペースにアクセスできますが、 コンプライアンスワークスペース および リスクワークスペース にはアクセスできません。 コンプライアンスワークスペース および リスクワークスペース にアクセスするには追加のロールが必要です。
sn_oper_res.irm_opres_manager	IRM	
sn_oper_res.irm_opres_user	IRM	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロフェッショナルおよびIRMプロフェッショナル用にBCM作成されたロール

- BCM プロフェッショナルユーザーに対して、次のロールが作成されます。

  注:
  app-grc-bcm-lite アプリケーションがインストールされていない場合、これらのロールを持つユーザーはオペレーターとしてカウントされます。

  - sn_oper_res.bcm_opres_admin
  - sn_oper_res.bcm_opres_manager
  - sn_oper_res.bcm_opres_user
- IRM プロフェッショナルユーザーに対して、次のロールが作成されます。

  注:
  app-grc-bcm-lite アプリケーションがインストールされていない場合、これらのロールを持つユーザーはオペレーターとしてカウントされます。

  - sn_oper_res.irm_opres_admin
  - sn_oper_res.irm_opres_manager
  - sn_oper_res.irm_opres_user
- 次の Lite アプリケーションがインストールされている場合、sn_oper_res.bcm_opres_user、sn_oper_res.irm_opres_user、または sn_oper_res.user ロールを持つユーザーは、Lite オペレーターとしてカウントされます。
  - BCM Lite アプリケーション：app-grc-bcm-lite (プラグインID：com.snc.app_grc_bcm_lite)
  - IRM Lite アプリケーション：app-grc-business-user-lite (プラグイン ID：com.sn_grc_lite)
- IRM には、sn_oper_res.admin、sn_oper_res.manager、および sn_oper_res.user ロールが含まれています。

ワークスペースへのアクセスに必要なロール

次のいずれかのロールを持つユーザーは、オペレーショナルレジリエンスワークスペース と BCM 構成可能ワークスペース にアクセスできます。

- sn_oper_res.bcm_opres_user
- sn_oper_res.bcm_opres_manager
- sn_oper_res.bcm_opres_admin

次のロールを持つユーザーは、 オペレーショナルレジリエンスワークスペースにアクセスできます。

- sn_oper_res.irm_opres_user
- sn_oper_res.irm_opres_manager
- sn_oper_res.irm_opres_admin

次のいずれかのロールを持つユーザーは、リスクワークスペース にアクセスできます。

- sn_risk_workspace.business_op_risk_manager
- sn_risk_workspace.IT_risk_manager
- sn_risk_workspace.operatonal_risk_manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のいずれかのロールを持つユーザーは、コンプライアンスワークスペース にアクセスできます。

- sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst
- sn_compliance_ws.corporate_compliance_manager
- sn_compliance_ws.it_compliance_manager

インシデントの報告に使用されるロール

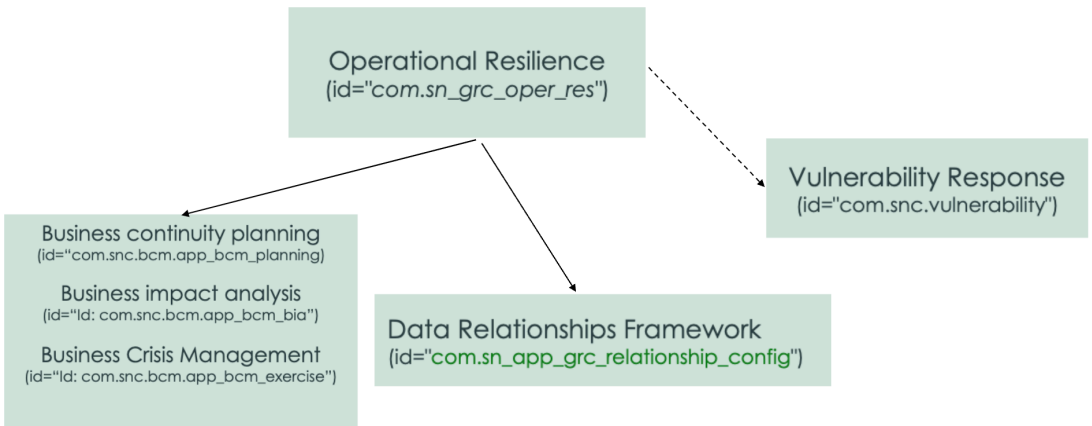
デジタルレジリエンスインシデントレポートモジュールでインシデントを報告するには、次のロールが使用されます。

インシデントの報告に使用されるロール

ロール	説明
sn_dri_inc_rptg.digital_resilience_incident_admin	管理およびデジタルレジリエンスインシデントアクティビティを設定するためのロール。
sn_dri_inc_rptg.digital_resilience_incident_manager	オペレーショナルレジリエンスおよびデジタルレジリエンスインシデントアクティビティを作成するためのロール。
sn_dri_inc_rptg.digital_resilience_incident_user	オペレーショナルレジリエンスおよびデジタルレジリエンスインシデントアクティビティに参加するためのロール。

BCM Professional のプラグインの依存関係

BCM Professional の場合、次の必須アプリケーションが オペレーショナルレジリエンス とともにインストールされま



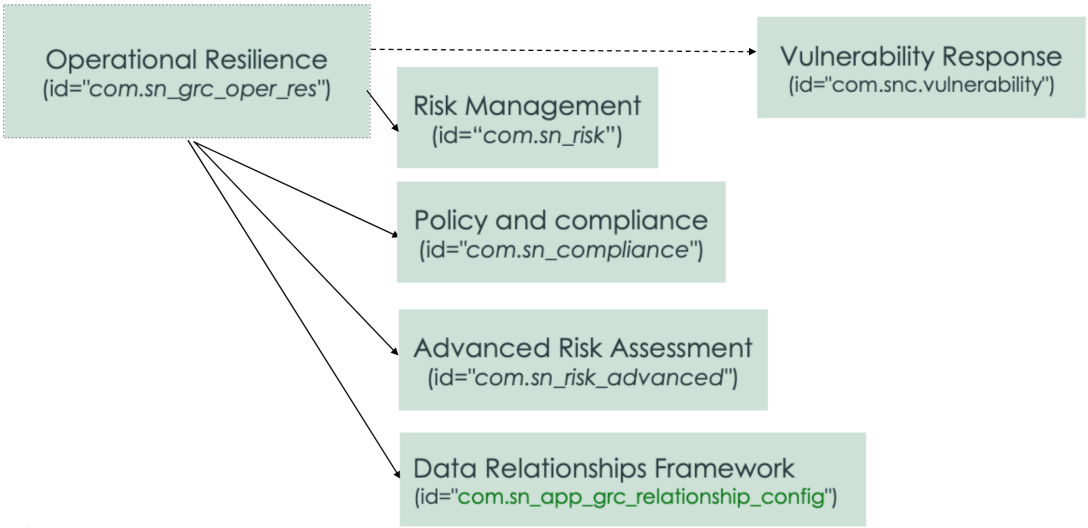
す。

- 事業継続性計画 (com.snc.bcm.app_bcm_planning)
- ビジネスインパクトアナリシス (com.snc.bcm.app_bcm_bia)
- 危機管理 (com.snc.bcm.app_bcm_exercise)
- データリレーションシップフレームワーク (com.sn_app_grc_relationship_config)
- 任意: 脆弱性対応 (com.snc.vulnerability)

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

IRM Professional のプラグインの依存関係

IRM Professional の場合、次の必須アプリケーションが オペレーショナルレジリエンス とともにインストールされま



す。

- 高度なリスク アセスメント (com.sn_risk_advanced)
- データリレーションシップフレームワーク (com.sn_app_grc_relationship_config)
- ポリシーとコンプライアンス管理 (com.sn_compliance)
- リスク管理 (com.sn_risk)
- 任意: 脆弱性対応 (com.snc.vulnerability)

オペレーショナルレジリエンス とともにインストールされるスケジュール済みジョブ

オペレーショナルレジリエンスアプリケーションをインストールすると、*Update CSDM and other dependencies*、*Calculate red flags for CSDM and dependencies*、*Update other dependencies*スケジュール済みジョブがインスタンスに追加されます。sn_oper_res.admin ロールを持つユーザーにこの情報が役立つ場合があります。

スケジュール済みジョブが オペレーショナルレジリエンス アプリケーションとともにインストールされます。

次のスケジュール済みジョブは オペレーショナルレジリエンス アプリケーションとともにインストールされます。

インストールされているスケジュール済みジョブ オペレーショナルレジリエンス

スケジュール済みジョブ	説明
Update CSDM and other dependencies	スケジュール済みジョブは、GRC:高度なリスク、GRC:リスク管理、GRC：ポリシーとコンプライアンス管理、BCM、CMDB、脆弱性対応 などのさまざまなアプリケーションからデータを収集して、さまざまなレポートのサポートデータを計算します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インストールされているスケジュール済みジョブ オペレーショナルレジリエンス (続く)

スケジュール済みジョブ	説明
	スケジュール済みジョブは、1 日に 1 回実行され、レポート用の新しいサポートデータを作成する前に、前日のデータをすべて削除します。ジョブは、さまざまな条件を使用してさまざまなソースからデータを取得し、オペレーショナルレジリエンス ステージングテーブルに保存します。 CSDMおよびその他の依存関係を更新します。毎週現地時間の深夜に実行するように構成されています。
Calculate red flags for CSDM and dependencies	CSDMとその依存関係の危険フラグを計算します。毎日現地時間の午前 3:00 に実行して、危険フラグを更新するように構成されています。

インストールされたスクリプトインクルード オペレーショナルレジリエンス

オペレーショナルレジリエンスアプリケーションをダウンロードすると、いくつかのスクリプトインクルードがインスタンスに追加されます。

インストールされたスクリプトインクルードおよびその他の参照

スクリプトインクルード、クライアントスクリプト、カタログクライアントスクリプト、イベント、イベントスクリプトアクション

スクリプト名	説明	使用されるプロセスステップ
挿入後に関連領域に追加	スクリプトインクルード	
スクラッチパッドの値を作成	スクリプトインクルード	
脆弱性通知をキャンセル	スクリプトインクルード	
削除後に関連レコードを削除	スクリプトインクルード	
更新後に関連レコードを更新	スクリプトインクルード	
ロード時にのみ OpRes テーブルを表示	クライアントスクリプト	運用上の脆弱性のソースフィールドのオプションをロード
ワークスペースのアクティビティジャーナルを非表示	クライアントスクリプト	運用上の脆弱性に関するアクティビティジャーナルを非表示
期日の検証	クライアントスクリプト	運用上の脆弱性を送信するときに期日を検証する
非アクティブな場合は添付ファイルを無効にする	クライアントスクリプト	運用上の脆弱性のロード時に非アクティブな場合は添付ファイルを無効にする
ソースをソーステーブルに同期	クライアントスクリプト	運用上の脆弱性でソースが変更されたときに、ソーステーブルを変更します

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプトインクルード、クライアントスクリプト、カタログクライアントスクリプト、イベント、イベントスクリプトアクション (続く)

スクリプト名	説明	使用されるプロセスステップ
関連リストを表示または非表示にする	クライアントスクリプト	統合アプリのインストールに関して関連リストを表示または非表示にします。
運用上の脆弱性のタイプを読み取り専用にする	カタログ UI ポリシー	
発生日を検証	カタログクライアントスクリプト	
ソース変更時にフィールドを表示/非表示	カタログクライアントスクリプト	
検出日の検証	カタログクライアントスクリプト	
ロード時にのみ OpRes テーブルを表示	カタログクライアントスクリプト	
ソースをソーステーブルに同期	カタログクライアントスクリプト	
VulnerabilityUtil 脆弱性ユーティリティベース	スクリプトインクルード	運用上の脆弱性に使用されます。
OperationalResilienceEntitiesList OperationalResilienceEntitiesListsBase	スクリプトインクルード	危険フラグ、CSDM、および依存関係のロールアップに使用されます。
OpResLogger	スクリプトインクルード	ログ記録に使用されます。
OperationalResilienceComputation OperationalResilienceComputationBase	スクリプトインクルード	オペレーショナルレジリエンス内のさまざまな場所からデータをフェッチし、ビジネスサービスのエンティティまたは構成アイテム (CI) に関連するすべての問題をフェッチするために使用されるユーティリティ機能が含まれています。CSDM、依存関係、およびそれらの危険フラグを更新するために使用されます。
OperResBusinessServiceUtil OperResBusinessServiceUtilBase	スクリプトインクルード	ビジネスサービスフォームの関連リストのユーティリティ機能が含まれています。サービスおよびビジネスサービスに使用されるユーティリティクラス。
OpResAssessmentUtils	スクリプトインクルード	重要性および影響期間のアセスメントに使用されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプトインクルード、クライアントスクリプト、カタログクライアントスクリプト、イベント、イベントスクリプトアクション (続く)

スクリプト名	説明	使用されるプロセスステップ
OpResAssessmentUtilsBase		
OpResRedFlags OpResRedFlagsBase	スクリプトインクルード	危険フラグの計算に使用されます。
OperResUtil OperResUtilsBase	スクリプトインクルード	オペレーショナルレジリエンスに使用されるユーティリティクラス。
OperationalResilienceConstants	スクリプトインクルード	アプリケーション内のさまざまな場所で必要な定数が含まれています。定数を定義するために使用します。
OperationalResilienceAjax	スクリプトインクルード	クライアント側とサービス側の間のインタラクションを処理するクライアント呼び出し可能スクリプトインクルード。オペレーショナルレジリエンス 用の AJAX ユーティリティ。
sn_oper_res.businessservice_dependencies	イベント	ビジネスサービス依存関係の更新をトリガーするイベント
sn_oper_res.businessprocess_dependencies	イベント	ビジネスプロセスの依存関係の更新をトリガーするイベント
sn_oper_res.serviceoffering_dependencies	イベント	サービスオファリングの依存関係の更新をトリガーするイベント
sn_oper_res.compliance_comp_job_err	ジョブ	ログ記録をトリガーするイベント。
sn_oper_res.set_entity_type_pillar	イベント	エンティティへのピラーの追加をトリガーするイベント。
sn_oper_res.set_child_service_pillar	イベント	子サービスにピラーを追加するイベント
sn_oper_res.remove_child_service_pillar	イベント	子サービスからピラーを削除するイベント
sn_oper_res.set_entity_pillar	イベント	単一のエンティティにピラーを追加するイベント
ビジネスサービスの依存関係をフェッチ	イベントスクリプトアクション	ビジネスサービスの依存関係の更新
サービスオファリングの依存関係をフェッチ	イベントスクリプトアクション	サービスオファリング依存関係の更新
ビジネスプロセスの依存関係をフェッチ	イベントスクリプトアクション	ビジネスプロセスの依存関係の更新

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプトインクルード、クライアントスクリプト、カタログクライアントスクリプト、イベント、イベントスクリプトアクション (続く)

スクリプト名	説明	使用されるプロセスステップ
コンプライアンスジョブエラーハンドラー	イベントスクリプトアクション	スケジュール済みジョブが例外をスローした場合にエラーをログに記録します。
エンティティタイプのエンティティのピラーを設定する	イベントスクリプトアクション	エンティティタイプのピラーをそのエンティティに追加します。
子サービスのサービスピラーを設定する	イベントスクリプトアクション	子サービスからのサービスピラーの追加 (サービス専用)
子サービスのサービスピラーを削除	イベントスクリプトアクション	子サービスからサービスピラーを削除します。 (サービス専用)
エンティティのピラーを設定する	イベントスクリプトアクション	単一エンティティのピラーの追加

オペレーショナルレジリエンスとともにインストールされるテーブル

いくつかのタイプのテーブルが、オペレーショナルレジリエンス アプリケーションと一緒にインストールされます。

Operational Resilience とともにインストールされるテーブル

Operational Resilience とともにインストールされるテーブル

テーブル名	説明
アクティビティログ [sn_oper_res_activity_log]	アプリケーションのアクティビティログ。
ASMT 評価スケール [sn_oper_res_asmt_rating_scale]	ASMT 評価スケール。
BCM 計画 [sn_oper_res_bcm_plan]	BCM 計画。
選択肢 [sn_grc_choice]	すべての GRC 選択肢のリスト。
変更要求 [sn_oper_res_change_request]	アプリケーションに対して作成された変更要求。
重大なサービス停止 [sn_oper_res_critical_service_outage]	重要なサービスの機能停止。
イベント [sn_oper_res_event]	アプリケーションに対して記録されたイベント。
失敗したコントロール [sn_oper_res_failed_control]	失敗したコントロール。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Operational Resilience とともにインストールされるテーブル (続く)

テーブル名	説明
GRC プロファイル [sn_grc_profile]	すべての GRC エンティティのリスト。
重要性、影響許容度アセスメント [sn_oper_res_importance_impact_tolerance_assessment]	影響許容度アセスメントの重要性。
インシデント [sn_oper_res_incident]	イベントのために登録されたインシデント。
問題 [sn_oper_res_issue]	イベントのためにログに記録された問題。
M2M分析参加者 [sn_oper_res_m2m_analysis_participant]	分析と参加者の間の関連性。
M2M 分析シナリオイベント [sn_oper_res_m2m_analysis_scenario_event]	分析とシナリオイベントの間の関連性。
M2Mシナリオ分析サービス [sn_oper_res_scenario_analysis_service]	シナリオと分析サービスの間の関連性。
M2M シナリオイベント [sn_oper_res_m2m_scenario_event]	シナリオとイベントの間の関連性。
M2M サービスの重要性、影響許容度アセスメント [sn_oper_res_m2m_service_importance_impact_tolerance_assessment]	サービスと影響許容度アセスメントの重要性の間の関連性。
オペレーショナルレジリエンス プロファイル [sn_oper_res_profile]	オペレーショナルレジリエンス エンティティ。テーブルには、最新の依存関係がすべて含まれています。
プロファイルタイプ [sn_grc_profile_type]	すべての GRC エンティティタイプのリスト。
リスク [sn_oper_res_risk]	アプリケーションで定義されたリスク。Xanadu リリース (リリース 19.0.4) 以降、高度なリスク アセスメント (ARA) と オペレーショナル レジリエンス の統合では [ステータス] フィールドが使用されます。エンティティが オペレーショナルレジリエンス と 高度なリスク アセスメント (ARA) の間で共有され、ARA の リスク評価が最高のステータスが [完了] の場合、ARA 統合用のレコードが作成され、[sn_oper_res_risk] テーブルに保存されます。
シナリオ [sn_oper_res_scenario]	アプリケーションで定義されたシナリオ。
シナリオ分析 [sn_oper_res_scenario分析]	アプリケーションで定義されたシナリオ分析。
サービス影響分析 [sn_oper_res_service_impact_analysis]	アプリケーションで定義されたサービス影響度分析。
サービスプロセスのピラー [sn_oper_res_service_process_pillar]	アプリケーションで定義されたサービスプロセスのピラー。
タスク [sn_oper_res_task]	アプリケーションで定義されたタスク。
脆弱性プロファイル [sn_oper_res_vul_profile]	アプリケーションで定義された脆弱性プロファイル。
運用上の脆弱性があるサービス [sn_oper_res_vulnerability_profile]	運用上の脆弱性があるサービス。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Operational Resilience とともにインストールされるテーブル (続く)

テーブル名	説明
M2M シナリオイベント参加者 [sn_opres_res_m2m_scenario_event_participant]	各参加者は、1 つ以上のシナリオイベントに関連付けることができます。このテーブルには、参加者とシナリオイベント間の多対多の関係が格納されます。
M2M シナリオイベントの問題 [sn_oper_res_m2m_scenario_event_issue]	問題とシナリオイベント間の多対多の関係が格納されます。
サービス関連情報 [sn_oper_res_service_related_info]	アプリケーションで定義されたサービス関連情報。
サービスサマリー [sn_oper_res_service_summary]	アプリケーションで定義されたサービスサマリー。
サービスタスク [sn_oper_res_resp_task]	アプリケーションで定義されたサービスタスク。
応答タスク [sn_oper_res_response_task]	アプリケーションで定義された応答タスク。

デジタルレジリエンスインシデントレポートとともにインストールされるテーブル

デジタルレジリエンスインシデントレポートとともにインストールされるテーブル

テーブル名	説明
アクションタスク [sn_grc_case_mgmt_case_task]	ケースに関連付けられたアクションタスク。
デジタルレジリエンスインシデント [sn_grc_inc_rptg_case_task]	インシデント報告ケースタスク。
影響領域 [sn_grc_case_mgmt_impacted_area]	ケースの影響を受ける領域。
関連領域 [sn_grc_case_mgmt_related_area]	ケースの関連領域。

データベースビュー

データベースビュー

テーブルビュー名	データベースビューラベル	複数形
sn_oper_res_risk_dependency	リスクの高いサービス	リスクの高いサービス
リスクの高いサービス	脆弱なエンティティ	脆弱なエンティティ
sn_oper_res_failed_control_dependency	失敗したコントロールのあるサービス	失敗したコントロールのあるサービス
sn_oper_res_service_outage	サービス停止	サービス停止

関連するテーブル **CSDM**

参照トピックには、関連するロール、スケジュール済みジョブ、テーブルなど、 CSDMに関する追加情報が記載されています。このセクションでは、 CSDMに関連するテーブルを示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CSDM 用のテーブル

CSDM 用のテーブル

テーブルのラベルと名前	説明
アプリケーションサービス [cmdb_ci_service_auto]	サービステーブルを拡張するアプリケーションサービス。
ビジネスプロセス [cmdb_ci_business_process]	テーブルに格納されているビジネスプロセスとその詳細。
ビジネスサービス [cmdb_ci_service_business]	テーブルに格納されているビジネスサービスとその詳細。
CI 関係 [cmdb_rel_ci]	構成アイテム (CI) 関係テーブル。
契約 [ast_contract]	契約テーブルの詳細。
契約 CI [contract_rel_ci]	契約構成アイテム (CI) テーブルの詳細。
コア会社 [core_company]	コア会社テーブルの詳細。
エンティティタイプ [sn_grc_profile_type]	エンティティタイプテーブルの詳細。
Location (場所) [cmn_location]	場所テーブルの詳細。オブジェクトの場所の詳細が含まれます。
ピラー [sn_grc_choice]	ピラーテーブルの詳細。
プロファイル [sn_grc_profile]	プロファイルテーブルの詳細。
プロファイルプロファイル [sn_grc_m2m_profile_profile]	多対多のプロファイルテーブルで構成された関係のタイプの詳細。テーブルには、すべての履歴依存関係が含まれています。
プロファイルプロファイルタイプ [sn_grc_m2m_profile_profile_type]	[多対多のプロファイルタイプ] テーブルで構成された関係のタイプの詳細。
サービス [cmdb_ci_service]	サービステーブルの詳細。
サービスオファリング [task_service_offering]	サービスオファリングテーブルの詳細。
システム関係 [sys_relationship]	システム関係テーブルの詳細。
ベンダー [sn_risk_asmt_vendor_engagement]	ベンダーテーブルの対象となるベンダーエンゲージメントの詳細。

関連するテーブル オペレーショナル脆弱性

参照トピックには、関連するテーブルやロールなど、 オペレーショナル脆弱性に関する追加情報が記載されています。

インストールされるテーブル

オペレーショナル脆弱性 テーブル

テーブル	説明	アプリケーション
GRC ケース [sn_oper_res_vulnerability]	すべての脆弱性の詳細を保存します。	GRC: オペレーショナルレジリエンス
ケース分類 [sn_grc_case_mgmt_case_classification]	ケースの分類を保存します。	GRC: コアケース管理

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オペレーショナル脆弱性 テーブル (続く)

テーブル	説明	アプリケーション
ケースタスク [sn_grc_case_mgmt_case_task]	運用上の脆弱性に対して作成されたすべてのケースタスクを保存します。	GRC: コアケース管理
ケースタイプ [sn_grc_case_mgmt_case_type]	ケースタイプとケースサブタイプの詳細を保存します。	GRC: コアケース管理
原因 [sn_grc_case_mgmt_cause]	ライブラリに追加され、ケースレベルでマッピングされた原因を保存します。	GRC: コアケース管理
原因と結果 [sn_grc_case_mgmt_cause_consequence]	ケースレベルでマッピングされた原因と結果を保存します。	GRC: コアケース管理
結果 [sn_grc_case_mgmt_consequence]	ライブラリに追加され、ケースレベルでマッピングされた結果を保存します。	GRC: コアケース管理
GRC コアケース [sn_grc_case_mgmt_core_case]	ケースのコア機能の詳細を保存します。	GRC: コアケース管理
影響領域 [sn_grc_case_mgmt_impacted_area]	ケースレベルでマッピングされた影響領域を保存します。	GRC: コアケース管理
ケースタスクからアセスメントインスタンス [sn_grc_case_mgmt_m2m_case_task_asmt_instance]	アセスメントタイプのケースタスクのアセスメントの詳細を保存します。	GRC: コアケース管理
ケースへの問題 [sn_grc_case_mgmt_m2m_issue_case]	ケースレコードにマッピングされた問題を保存します。	GRC: コアケース管理
規制 [sn_grc_case_mgmt_regulation]	ケースレベルでマッピングされた規制を保存します。	GRC: コアケース管理
関連領域 [sn_grc_case_mgmt_related_area]	ケースに関連付けられた関連領域を保存します。	GRC: コアケース管理

デジタルレジリエンスサードパーティ登録の参照

参照トピックには、ロールやテーブルなど、 デジタルレジリエンスサードパーティ登録 に関する追加情報が記載されています。

デジタルレジリエンスサードパーティ登録とともにインストールされるロール

特定のロールは デジタルレジリエンスサードパーティ登録とともにインストールされます。

デジタルレジリエンスサードパーティ登録とともにインストールされるロール

デジタルレジリエンスサードパーティ登録 **(DORA)** ロールとともにインストールされるロール

ロール	説明	含まれるロール
DORA アクセラレーターアドミン [sn_dora_accel.admin]	アクセラレーター選択肢テーブルのデータを含む、すべての DORA アクセラレーターデー	sn_dora_accel.manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デジタルレジリエンスサードパーティ登録 **(DORA)** ロールとともにインストールされるロール (続く)

ロール	説明	含まれるロール
	タを完全に制御 DORA ロール。	
DORA アクセラレーターマネージャー [sn_dora_accel.manager]	アクセラレーター選択肢テーブルのデータを除く、ほとんどの DORA アクセラレーターデータを作成、更新 DORA および削除するロール。[ast_contract] および [core_company] データを作成および更新できます。	• sn_dora_accel.user • contract_manager • vendor_editor
DORA アクセラレーターユーザー [sn_dora_accel.user]	アクセラレーター選択肢テーブルのデータを除く、ほとんどの DORA アクセラレーターデータを表示する DORA ロール。[ast_contract] および [core_company] データを表示できます。	vendor_reader
TPRM ロール		
TPR 査定人 (サードパーティリスク査定人) [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor]	サードパーティ、サードパーティの連絡先、外部リスクアセスメント、および問題の管理を含む、サードパーティアセスメントレビュー担当者ロールのすべての権限を含むロール。	• sn_grc.user • sn_grc.reader • sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessment_revie • sn_dora_accel.manager • vendor_editor • vendor_reader
TPR アセスメント承認者 [sn_vdr_risk_asmt.approver]	サードパーティリスク管理を承認するロール。	• sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessment_revie • sn_dora_accel.manager
TPR 契約交渉担当者 [sn_vdr_risk_asmt.contract_negotiator]	オンボーディングプロセスの契約ステージで作業するロール。	sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor
TPR アセスメント レビュー担当者 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessment_reviewer]	アセスメントをレビューおよび編集するロール。	• vendor_reader • task_editor • template_editor_global • survey_reader • sn_dora_accel.user

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デジタルレジリエンスサードパーティ登録 **(DORA)** ロールとともにインストールされるロール (続く)

ロール	説明	含まれるロール
		• sn_grc.reader • sn_grc.business_user
TPR アドミニストレーター [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin]	すべてのベンダーリスク管理データを完全に制御できるロール。このロールは、アセスメントメトリクスタイプを完全に制御することもできます。	• assessment_admin • sn_grc_appr.admin • sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager • sn_dora_accel.admin
TPR マネージャー [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager]	サードパーティ、サードパーティ連絡先、サードパーティアセスメント、テンプレート、アンケートテンプレート、文書要求テンプレート、およびスケジュール設定済みアセスメントを管理するためのロール。	• sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessment_revie • sn_dora_accel.manager • sn_data_registry.admin • sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor

デジタルレジリエンスサードパーティ登録とともにインストールされるテーブル

特定のテーブルが デジタルレジリエンスサードパーティ登録とともにインストールされます。

デジタルレジリエンスサードパーティ登録 とともにインストールされるテーブル

テーブル	説明
契約 [ast_contract]	契約レコードの情報を保存します。
会社 [core_company]	コア会社レコードの情報を保存します。
ICTサービスのアセスメント [sn_dora_accel_assessment]	DORA規制要件に対する ICT サービスのアセスメントを保存します。
分岐 [sn_dora_accel_branch]	規制要件の分岐レコードを保存しますDORA
デジタルオペレーショナルレジリエンスの選択肢 [sn_dora_accel_choice]	DORA規制要件のデジタルオペレーショナルレジリエンスの選択肢テーブルを保存します。
契約上の取り決め [sn_dora_accel_contract]	DORA規制要件に関する契約上の取り決めレコードを保存します。
デジタルオペレーショナルレジリエンスのコア情報 [sn_dora_accel_core_info]	DORA規制要件のデジタルオペレーショナルレジリエンスのコア情報を保存します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デジタルレジリエンスサードパーティ登録 とともにインストールされるテーブル (続く)

テーブル	説明
法人 [sn_dora_accel_entity]	規制要件の法人レコードを保存します DORA 。
関数 [sn_dora_accel_function]	規制要件の機能レコードを保存します DORA 。
ICT サービスのサプライチェーン [sn_dora_accel_ict_service_supply_chain]	DORA規制要件の ICT サービスサプライチェーンレコードを保存します。
Excel のダウンロード/アップロード要求 [sn_dora_accel_report]	DORA規制要件の Excel のダウンロード/アップロード要求レコードを保存します。
ICT サードパーティサービスプロバイダー [sn_dora_accel_third_party]	DORA規制要件について ICT サードパーティサービスプロバイダーレコードを保存します。

デジタルレジリエンスインシデントレポートの参照

参照トピックには、関連するテーブルやロールなど、 デジタルレジリエンスインシデントレポートアプリケーションに関する追加情報が記載されています。

デジタルレジリエンスインシデントレポートとともにインストールされるロール

特定のロールは、 デジタルレジリエンスインシデントレポート 機能とともにインストールされます。

で使用されるロール デジタルレジリエンスインシデントレポート

次のロールは、 デジタルレジリエンスインシデントレポートを伴うインシデントのレポートに使用されます。

で使用されるロール デジタルレジリエンスインシデントレポート

ロール	説明
sn_dri_inc_rptg.digital_resilience_incident_admin	管理およびデジタルレジリエンスインシデントアクティビティを設定するためのロール。 このロールを持つユーザーは、いくつかの オペレーショナルレジリエンス アクティビティとデジタルレジリエンスインシデントアクティビティを作成および削除できます。このロールを持つユーザーには、次の権限があります。 • すべてのケースへのアクセスを作成 • すべてのケースへの読み取りアクセス • すべてのケースへの書き込みアクセス
sn_dri_inc_rptg.digital_resilience_incident_manager	オペレーショナルレジリエンスおよびデジタルレジリエンスインシデントアクティビティを作成するためのロール。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

で使用されるロール デジタルレジリエンスインシデントレポート (続く)

ロール	説明
	このロールを持つユーザーは、いくつかの オペレーショナルレジリエンス アクティビティとデジタルレジリエンスインシデントアクティビティを作成および削除できます。このロールを持つユーザーには、次の権限があります。 • すべてのケースへのアクセスを作成 • すべてのケースへの読み取りアクセス • マネージャーがアナリストとしてアサインされているデジタルレジリエンスインシデントケースへの書き込みアクセス権
sn_dri_inc_rptg.digital_resilience_incident_user	オペレーショナルレジリエンスおよびデジタルレジリエンスインシデントアクティビティに参加するためのロール。 このロールを持つユーザーは、いくつかの オペレーショナルレジリエンス アクティビティとデジタルレジリエンスインシデントアクティビティを作成および削除できます。このロールを持つユーザーには、次の権限があります。 • すべてのケースへのアクセスを作成 • すべてのケースへの読み取りアクセス • スマートアセスメントアクターアクセス

インストールされたスクリプトインクルード デジタルレジリエンスインシデントレポート

いくつかのスクリプトインクルードが デジタルレジリエンスインシデントレポートとともにインスタンスに追加されます。

に使用されるスクリプトインクルード デジタルレジリエンスインシデントレポート

名前	説明
DriIncRptgUtil	ビジネスルール (BR)、スクリプトアクション、UI アクションなど、デジタルレジリエンスアプリケーションのさまざまなコンポーネントで使用される一般的な機能が含まれています。このモジュール内の重要な機能の 1 つは、中間レポートスケジュールの作成を変更するために使用される getIntermediateDUE です。
DriIncRptgAjax	クライアント側で使用される関数が含まれています。これは、クライアント側に重要なデータを提供するように設計された、クライアント呼び出し可能なスクリプトインクルードです。
DRIGenerateReport	レポート用の Microsoft Excel ファイルを生成またはエクスポートするために使用されるクライアント呼び出し可能スクリプトインクルードが含まれています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

に使用されるスクリプトインクルード デジタルレジリエンスインシデントレポート (続く)

名前	説明
DriIncRptgConstants	デジタルレジリエンスインシデントアプリケーションのすべての定数を保存します。
DRIIncRptgResponseAutomation	応答の自動化に使用され、以前のテンプレート、インシデント、またはソースレコードのデータに基づいて特定の質問が自動的に入力されます。

デジタルレジリエンスインシデントレポートとともにインストールされるテーブル

デジタルレジリエンスインシデントレポートとともにインストールされるテーブルは、このセクションに一覧表示されます。

デジタルレジリエンスインシデントレポート 用のテーブル

に対してインストールされるテーブル デジタルレジリエンスインシデントレポート

テーブル名	説明
アクションタスク [sn_grc_case_mgmt_case_task]	ケースに関連付けられたアクションタスク。
デジタルレジリエンスインシデント [sn_grc_inc_rptg_case_task]	インシデント報告ケースタスク。
影響領域 [sn_grc_case_mgmt_impacted_area]	ケースの影響を受ける領域。
関連領域 [sn_grc_case_mgmt_related_area]	ケースの関連領域。

自動翻訳

IRM Pro および **BCM Pro SKU** で提供されるアプリケーション

このセクションでは、 IRM Pro SKU (ストックキーピングユニット) と BCM Pro SKU (ストックキーピングユニット) に必要なアプリケーションの概要を説明します。

IRM Pro SKU および **BCM Pro SKU** で提供されるアプリケーション

IRM Pro SKU

IRM Pro SKU には、次のアプリケーションが含まれています。

1. GRC: 高度なリスク
2. GRC：ポリシーとコンプライアンス管理
3. GRC: リスク管理

BCM Pro SKU

BCM Pro SKU には、事業継続性管理 アプリケーションというGRCが含まれています。

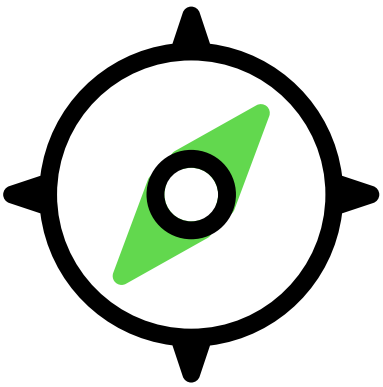
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

servicenow

Policy and Compliance Management (ポリシーとコンプライアンス管理)

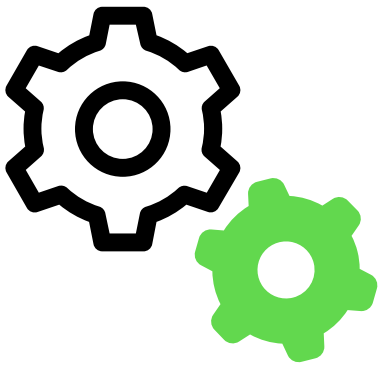
ServiceNow® ポリシーとコンプライアンス管理 製品は、外部規制やベンチマークにクロスマッピングされたポリシー、標準、および内部制御手順を作成および管理するための一元化されたプロセスを提供します。加えて、このアプリケーションは、制御アクティビティの識別、アセスメント、および継続的な監視のための構造化ワークフローを提供します。

探索



の主な機能とメリットを詳しく確認する ポリシーとコンプライアンス管理

実装



GRC: ポリシーとコンプライアンス管理アプリケーションのセットアップ手順の実装

インストール



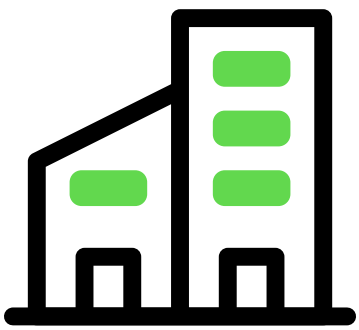
ポリシーとコンプライアンス管理のコンポーネントのインストール

使用方法



コンプライアンスタスクの Compliance ワークスペースを使用する

ビルド



ポリシードキュメントを作成および修正するコンプライアンスワークスペース

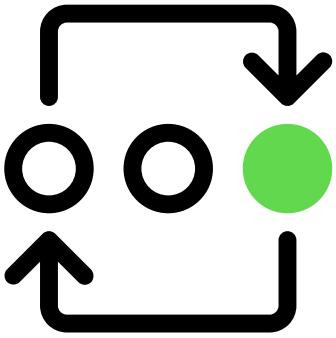
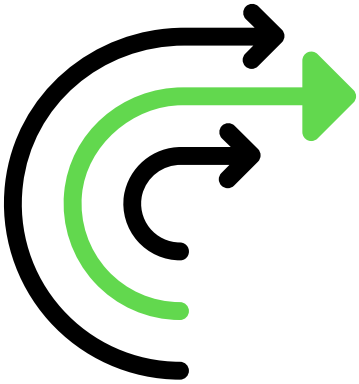
を使用して重要なビジネスタスクのコンプライアンスを管理します



GRC Policy and Compliance のモバイルエクスペリエンス

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合	アナリティクスとレポート	
		
Unified Compliance Framework (UCF) Common Controls Hub と統合してコンプライアンスフレームワークを管理する	コンプライアンスレコードの分析およびレポート作成ソリューション	

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

ポリシーとコンプライアンス管理 をアクティブ化

ポリシーとコンプライアンス管理 (com.sn_compliance) プラグインは別のサブスクリプションとして利用可能であり、アクティベーションが必要です。

トラブルシューティングとサポート

- で質問や回答をする GRC コミュニティ
- 既知のエラーポータルで既知のエラー記事を検索する
- 開発者サイトでアプリをビルドする方法を学習します。
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート

ポリシーとコンプライアンス管理 の探索

ServiceNow ポリシーとコンプライアンス管理 製品は、外部規制やベンチマークにクロスマッピングされたポリシー、標準、および内部制御手順を作成および管理するための一元化されたプロセスを提供します。さらに、アプリケーションでは、コントロールアクティビティの識別、アセスメント、継続的な監視のための構造化されたワークフローが提供されます。

ポリシーとコンプライアンス管理 の概要

包括的な統合リスク管理 (IRM) プログラムは、組織のポリシーによって確立された要件によって定義されます。たとえば、コントロールはリスクを軽減する可能性がありますが、主にポリシーを適用するために実装されます。したがって、規制が増え続ける状況でリスクを管理し、コンプライアンス要件を満たすためには、ポリシーを正規化して統合することが組織の戦略上の不可欠なステップと

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

なります。詳細については、「ポリシーとコンプライアンス管理 の構造の概要」を参照してください。

ポリシーとコンプライアンス管理 のスコープには次が含まれます。

- ポリシーとコントロールを作成するプロセス。
- リスクとコントロールまたは構成の変更を継続的に監視することで、リスクエクスポージャーを制御します。
- 自動化により、手作業の負担とコストを削減します。

ポリシーとコンプライアンス管理 のプロセス目標は次のとおりです。

- ポリシー、コントロール目標、およびコントロールを作成するための一元化されたプラットフォームを作成し、それらを規制および業界ガイドラインにマッピングします。
- 一貫したプロセスでポリシーのライフサイクルを管理します。ポリシーのライフサイクルのグラフィカル表現については、「ポリシーとコンプライアンス管理 のポリシーライフサイクルの概要」を参照してください。
- ツールを使用して組織全体にポリシーを伝達します。
- コンプライアンスのステータスを評価します。
- コントロールのライフサイクルを管理するための体系的で一貫したアプローチを提供します。

ポリシーとコンプライアンス管理 は、次のアクティビティを一元管理します。

- コントロールとコントロールオーナーの確立
- コントロールテストと予期される結果の定義
- テストおよびコントロール頻度を確立
- リスクを識別：影響度と可能性
- 証明書を作成
- 信頼できるソースをポリシー、手順、コントロール、リスクにマップ

ポリシーとコンプライアンス管理 ユーザー

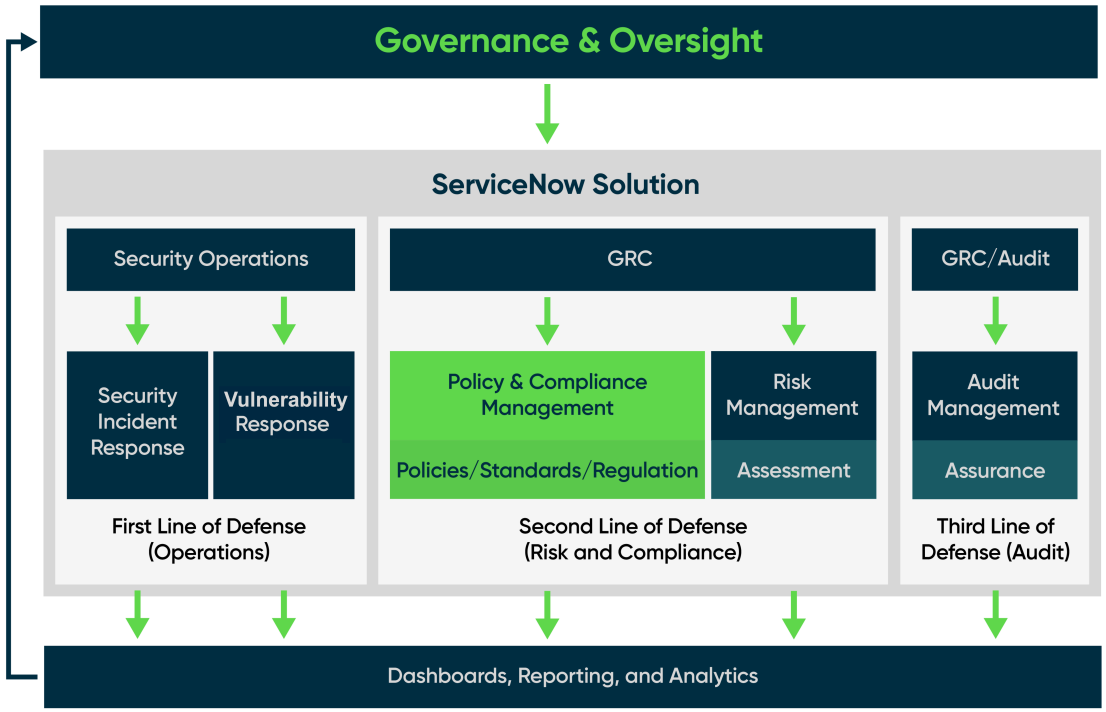
ポリシーとコンプライアンスのアクティビティには、すべての管理レベルが含まれます。優れたガバナンスの主要な機能は、強力な組織構造の確立です。

- 取締役会
- IT 運営委員会
- 監査委員会
- すべての管理レベル

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

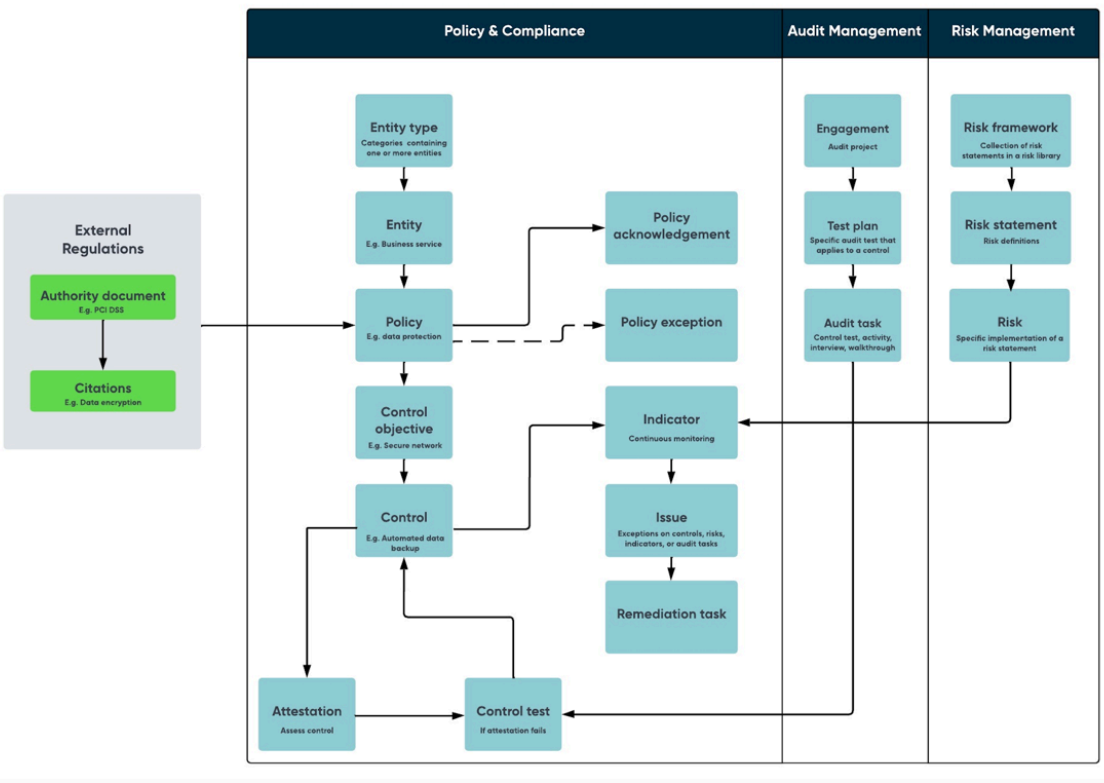
ポリシーとコンプライアンス管理 および **ServiceNow AI Platform**



ポリシーとコンプライアンス管理 の構造の概要

ポリシーとコンプライアンス管理 の構造の概要により、ServiceNow の ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションを構成するさまざまなモジュールがどのように統合および相互にやり取りするかを理解できます。

Policy and Compliance のモジュールの構造の概要



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

各種法令・基準等

ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションは、各種法令・基準等を特定することから始めます。これらの文書は、組織が準拠する必要がある法律、規制、および標準を含む外部規制であり、組織が行うビジネスのタイプとその場所によって異なります。規制要件は通常、法律または特定の業界によって概説された要件を提供する規制機関によって公開されます。これらの要件は、医療保険の相互運用性と説明責任に関する法律 (HIPAA) などの連邦または州の規制、一般データ保護規則 (GDPR) などの国際規制、ペイメントカード業界 (PCI) などの業界規制から取得される場合があります。HIPAA、GDPR、PCI などの各ドキュメントは、各種法令・基準等です。

たとえば、ペイメントカード業界データセキュリティスタンダード (PCI DSS) は、情報セキュリティ標準であり、ペイメントカード詐欺を減らすことを目的とした各種法令・基準等です。クレジットカード支払いを受け入れるすべての組織に一連のセキュリティ標準を提供します。フィナンシャルサービスプロバイダーは、不正行為を防止し、カード所有者データを保護し、ビジネスサービスの安全性と合法性を確保するために、PCI 標準に準拠する必要があります。

引用

引用は、ビジネスが明確に準拠する必要がある各種法令・基準等 (Unified Compliance Framework (UCF) など) からの一節または文言です。これは、各種法令・基準等内の個別の要件です。たとえば、パブリックネットワーク全体でのカード所有者データの送信の暗号化は、ペイメントカードトランザクションによる消費者の個人財務情報の盗難を防ぐための PCI DSS の要件の 1 つです。

引用は、手動で作成することも、UCF を介してインポートすることもできます。

エンティティタイプ

エンティティタイプは、一連のフィルター条件に一致するエンティティをグループ化します。インスタンス内の任意のテーブルに対する条件付きクエリに基づいて、エンティティを自動的に生成できます。たとえば、銀行に口座を持っている顧客をエンティティタイプとして考えてみましょう。顧客には、名前、顧客 ID、口座のタイプ、収入ソースなどの属性があり、顧客情報テーブルに格納され、任意の属性に基づいてクエリできます。

エンティティ

エンティティは、人、部門、アプリケーション、オブジェクト、サーバー、外部ネットワーク機器、さまざまな場所、データサーバー、データウェアハウスなど、基本的にコントロールテストを実行する対象となるすべてのものであり、本質的にポリシーとコンプライアンスです。たとえば、名前と関連する財務情報を持つ銀行の口座を持っている人などです。

エンティティは、エンティティタイプが作成されると自動的に生成されます。

ポリシー

各種法令・基準等が特定された後、企業は、事業部門が各種法令・基準等に準拠する方法を指定するポリシーを作成します。ポリシーステートメントは、ビジネスで何をすべきか、また何をすべきでないかを高レベルで定義します。たとえば、組織は、顧客の機密情報を保護するための要件を定義するデータ保護ポリシーを設定できます。ポリシーは組織の内部ドキュメントであり、ファイアウォールポリシー、ネットワークポリシー、受け入れ可能な使用ポリシー、情報セキュリティ、ネットワークセキュリティ、環境保護などがあります。これらは、ビジネスの特定の側面を扱うさまざまなコントロールとコントロール目標の集計です。

ポリシーの確認応答

ポリシー確認応答モジュールを使用すると、ポリシー所有者またはコンプライアンスチームは、コンプライアンス要件を満たすために、従業員によるレビューと確認のためにポリシーを送信できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポリシー例外

これにより、ポリシーに例外を設定できます。何らかの理由でポリシーまたはコントロールに準拠できない場合は、例外をログに記録できます。

ポリシー例外モジュールは、組織が文書化されたコントロールに従うことができない状況を文書化します。ポリシー例外には独自のライフサイクルと承認があります。

コントロール目標

コントロール目標は、コントロールが達成することを意図した特定の目標です。たとえば、データ保護ポリシーを確保するために、会社は安全なネットワークをビルドして維持できます。受け入れ可能な使用ポリシーの場合、ユーザーがアクセスしている Web サイトを常に制御するプロキシを設定するというコントロール目標があります。ネットワークポリシーには、強力なパスワードを設定するというコントロール目標がある可能性があります。

コントロール目標を通じて、各種法令・基準等とポリシーを結び付けてコンプライアンスの負担を軽減できます。1 つのコントロール目標で、複数の内部要件と外部要件を強制できます。引用は、1 つ以上のコントロール目標に関連付けることもできます。また、コントロールとポリシーはコントロール目標レベルで互いに関連付けられています。あるいは、コントロール目標を参照し、目標で示されているアクションを行う理由を示す権限ドキュメントとポリシーへのマッピングを確認することもできます。

コントロール目標モジュールは、ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションのメインハブです。各種法令・基準等は規制目標を記載し、ポリシーは組織がすべきこと、すべきでないことを文書化しますが、コントロール目標は、これらのポリシーや各種法令・基準等に準拠する方法を正確に定義します。

コントロール

コントロールは、コントロール目標の特定の実装です。たとえば、データ保護ポリシーの場合、会社はデータが確実に定期的にバックアップされるようにしたり、自動バックアップシステムを設定したりすることができます。

ポリシーをエンティティタイプに関連付けるか、エンティティタイプをコントロール目標に関連付けると、コントロールが自動的に生成され、コントロールはコントロール目標のエンティティタイプにリストされている各エンティティに対して作成されます。ただし、コントロールは手動で作成することもできます。コントロールをテストして、意図したコントロール目標を達成できるかどうかを確認します。

コントロールテスト

コントロールは、コントロール目標の達成に有効であることを確認するためにテストされます。たとえば、ペネトレーションテストにより、データ暗号化が適切に実装されていることを確認します。

インジケーター

インジケーターを使用すると、コントロールに対してテストを実行でき、テストは、日次、週次、月次、または四半期ごとにスケジュールできます。インジケータータスクが作成され、コントロールが準拠しているかどうかを確認するためにユーザーに送信され、インジケーターを合格または不合格としてマークできます。タスクが失敗した場合、コントロールは準拠しておらず、問題が作成されます。インジケーターがテストに合格した場合、コントロールは次にスケジュールされているテストまで準拠しています。

インジケーターテンプレートを使用すると、類似するコントロールに複数のインジケーターを作成できます。インジケーターテンプレートはインジケーターのパラメーターを定義し、監視するインジケーターのタイプに応じてリスクステートメントまたはコントロール目標にマッピングされます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インジケーターが実行されるたびにタスクが作成され、インジケーターの結果が収集されます。スケジュールに従ってインジケータータスクが作成され、インジケーターフォームで事前設定された頻度に従って確実に監視されます。

証明書

証明書は、コントロールを評価してコンプライアンスを継続的に監視します。インジケーターとは異なり、証明書はほとんどがアドホックであり、スケジュールされない場合があります。

問題

コントロールのテスト中にギャップが特定された場合、そのギャップは問題と呼ばれます。問題には、監査からの運用上の観察事項、規制コンプライアンス違反、セキュリティ違反、またはその他の否定的な結果が含まれます。または、コントロールテストが失敗し、非準拠である場合、問題が作成されます。問題は、ポリシーとコンプライアンス管理、リスク管理、監査管理 GRC アプリケーション間で共有できます。会社のリスク管理プログラムの有効性は、リスクとコンプライアンスの問題をどのぐらい迅速かつ完全に特定して対処するかによって測定できます。

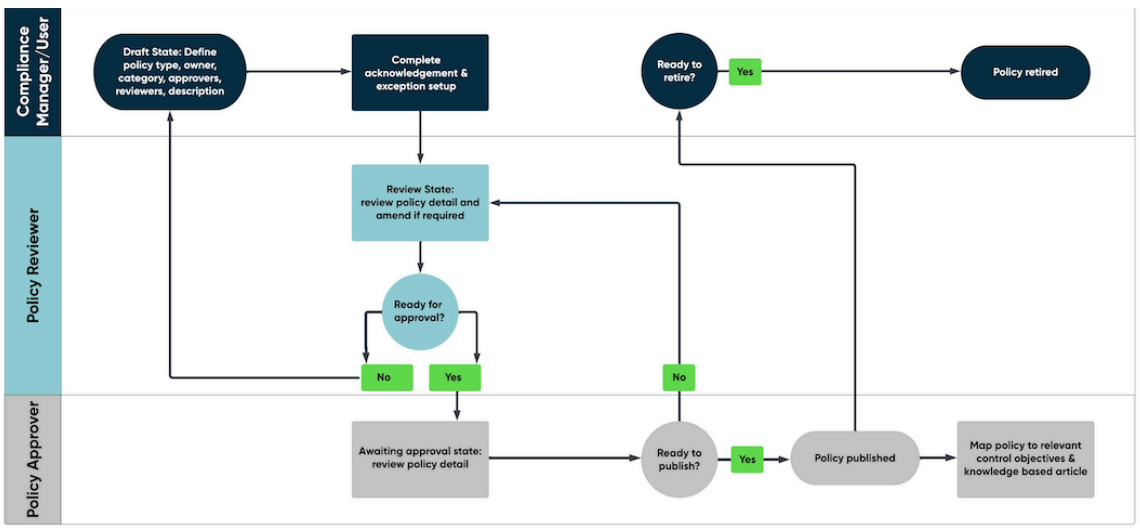
修復タスク

問題が確認された後、組織は問題を修正するために必要な手順を特定します。リスクを軽減するために、修復タスクを作成して修正作業を追跡できます。トリアージが実行された場合、トリアージ問題は実際の問題またはリスクイベントに変換されます。問題を推奨事項として追跡するか、問題ではないとしてクローズすることもできます。

ポリシーとコンプライアンス管理 のポリシーライフサイクルの概要

ポリシーはコンプライアンスを確保し、リスクへのエクスポージャーを削減します。ポリシーには、ポリシー、手順、標準、計画、チェックリスト、フレームワーク、テンプレートなど、さまざまなタイプがあります。ポリシーの公開は、ポリシーの承認プロセスの中で行います。

ポリシーを作成すると、ポリシーは [ドラフト] ステータスになり、ポリシーに関するすべての必要な情報が定義され、レコードにキャプチャされます。キャプチャする必要な情報は、ポリシーのプロセスフローを促進する属性です。



ポリシーレコードのライフサイクルの過程には、さまざまな状況があります。このライフサイクルは、レコードの現在地を把握し、その進捗状況を表示するように設計されています。各ステータスには一連の具体的な関連アクティビティがあり、それを完了すると次のステータスに移行します。必要に応じて、ポリシーが前のステータスに移行することもあります。この前のステータスは、現在のステータスに従って構成および識別されます。

ドラフト

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンプライアンスアドミニストレーター、コンプライアンスマネージャー、またはコンプライアンスユーザーが、ポリシーを作成して、その関連情報を定義およびキャプチャできます。この [ドラフト] ステータスでは、[レビュー] ステータスでポリシーを編集できるレビュー担当者と、ポリシーを承認できる承認者が識別されます。既存のコントロール目標をポリシーに追加することも、新しいコントロール目標を作成することもできます。各ポリシーには有効期限があり、その期間内でポリシーが更新、レビュー、再公開、または廃止されます。このステータスでは、ポリシーに対して実行できるアクションは、更新、レビュー準備完了、および削除です。

レビュー

ポリシーレビュー担当者だけが、このステータスのポリシーを更新して、すべての規制要件を満たしていることを確認できます。コントロール目標、それに関連するエンティティ、コントロール、および引用をレビューし、情報を追加したり、不要なマッピングを削除したり、新しいコントロール目標を作成したりします。レビュー担当者は、ポリシーが要件を満たしていない場合、またはさらに詳しい情報が必要な場合に、ポリシーを [ドラフト] ステータスに戻すことができます。さらにレビュー担当者は、ポリシーの承認を要求したり、不要になった場合に削除したりすることもできます。

承認待ち

ポリシー承認者がポリシーにアサインされている場合、ポリシーは [承認待ち] ステータスに移行します。そうでない場合は、[公開済み] ステータスに移行します。このステータスでは、承認者がポリシーを削除することもできます。[承認待ち] ステータスでは、ポリシー承認タスクが作成されて承認者にアサインされます。タスクは [要求済み] 状況ですが、承認者はそれを次のいずれかの状況に変更できます。

- 要求済み
- 承認済み
- 却下
- キャンセル
- 不要

公開

ポリシーが [公開] ステータスに移行すると、ナレッジベース記事が自動的に生成されます。ポリシーは、ポリシーにマッピングされたコントロールを通じて、すべてのユーザーに対してそのポリシーのガイドラインと要件に従うことを義務付けます。このステータスでは、ポリシーを [レビュー]、[廃止]、または [削除] に戻すこともできます。

廃止

ポリシーは、不要になった場合、またはビジネス上の目的を果たさなくなった場合に廃止できます。作成されたナレッジベース記事は削除されますが、ポリシーは監査目的で廃止ステータスのままになります。ポリシーが再度必要になった場合は、[ドラフト] ステータスに戻し、ポリシーのライフサイクルを再開することができます。

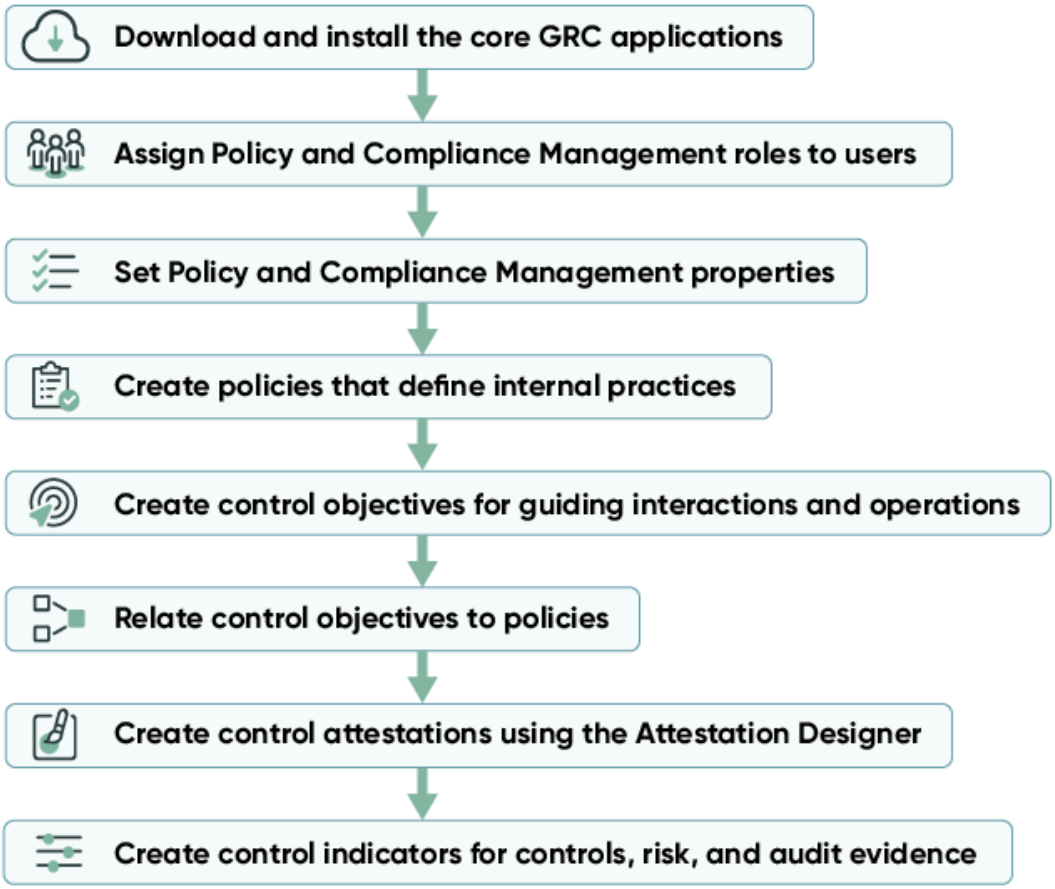
ポリシーとコンプライアンス管理 の実装

GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションチェックリストの手順に従って ServiceNow Store から ポリシーとコンプライアンス管理 をダウンロードし、操作の準備をします。必須およびオプションのセットアップ手順のほか、実装チェックリストが、セットアップを簡略化するために用意されています。

チェックリストの必須ステップのフローを次に示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



上記の必須手順を完了すると、その他のオプションのセットアップ手順を使用できるようになります。

GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションの実装セットアップチェックリストの実装

このチェックリストには、ServiceNow AI Platform® インスタンスで完了する必要があるセットアップタスクが含まれています。これらのタスクを完了すると、ベースシステムの運用準備が整います。GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 の機能を拡張するためのオプションのセットアップ手順も含まれています。

始める前に
必要なロール：sn_compliance.admin、sn_compliance.manager
このチェックリストトピックの PDF を作成し印刷することをお勧めします。そうすれば、完了したタスクにチェックを付けることができます。

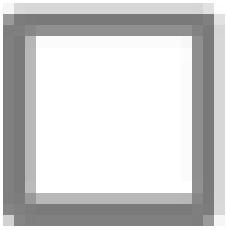
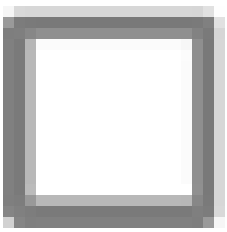
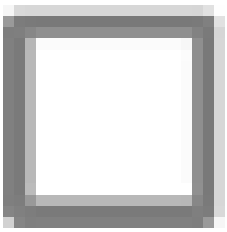
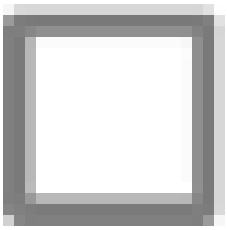
手順

PDF を生成するには、トピックの上部にある **[PDF** として保存] アイコン ( ) をクリックし、[選択したトピック **(Selected topic)]** をクリックします。

自動翻訳

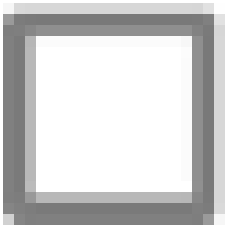
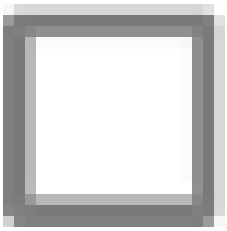
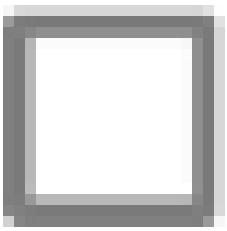
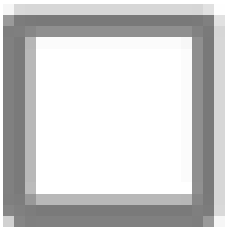
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションのチェックリスト

アイテム	説明
	コンプライアンスアドミニストレーターまたはコンプライアンスマネージャーロールを持つユーザーは、GRC コアアプリケーションが ServiceNow AI Platform インスタンスにインストールされていることを確認します。 **注:** GRC コアアプリケーションと ServiceNow AI Platform インスタンスは、ファミリーリリースが同じである必要があります。 **a.** GRC: GRC Profile 依存関係コアアプリケーションがインスタンスにインストールされていることを検証するには、[プラグイン] に移動して、GRC Profile を検索します。 **b.** GRC Profile コアアプリケーションがまだインストールされていない場合は、[インストール] をクリックして、インストールします。 **c.** GRC Profile アプリケーションをインストールした後、ポリシーとコンプライアンス管理 コアアプリケーションをインストールします。 ポリシーとコンプライアンス管理 がインスタンスに表示されていない場合は、すべての GRC コアアプリケーションを ServiceNow Store から入手できます。GRC コアアプリケーションのエンタイトルメントの取得、ダウンロード、およびインストールの詳細については、「GRC と ServiceNow Store」を参照してください。
	コンプライアンスアドミニストレーターロールを持つユーザーは、ServiceNow AI Platform インスタンスで、ユーザーに必要な ServiceNow AI Platform ロールをアサインしたことを確認します。 詳細な手順と ポリシーとコンプライアンス管理 ロールのリストについては、「ユーザーに ポリシーとコンプライアンス管理 ロールをアサイン」を参照してください。
	コンプライアンスアドミニストレーターロールを持つユーザーとして、ポリシーとコンプライアンス管理 プロパティを設定してシステム内のさまざまな動作を制御します。たとえば、コントロールがアクティブまたは非アクティブである状況を定義できます。 詳細な手順については、「ポリシーとコンプライアンス管理 プロパティを設定する」を参照してください。
	コンプライアンスアドミニストレーターまたはコンプライアンスマネージャーロールを持つユーザーとして、ポリシーを作成します。ポリシーは、プロセスが従う必要がある組織内のプラクティスを定義するドキュメントです。ポリシーは、ポリシー、手順、標準、計画、チェックリスト、フレームワーク、およびテンプレートとして定義されます。 詳細な手順については、「ポリシーの作成」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アイテム	説明
	コンプライアンスアドミニストレーターまたはコンプライアンスマネージャーロールを持つユーザーとして、コントロール目標を作成します。コントロール目標は、会社のインタラクションと運用のガイダンスとして機能する目標、指示、または標準です。カテゴリ化、分類、およびポリシーへの関連付けが可能です。 詳細な手順については、「コントロール目標を作成」を参照してください。
	コンプライアンスアドミニストレーターまたはコンプライアンスマネージャーロールを持つユーザーとして、コントロール目標をポリシーに関連付けます。ポリシーが [レビュー] または [ドラフト] ステータスの場合は、コントロール目標をポリシーに個別に関連付けることができます。 詳細な手順については、「コントロール目標をポリシーに関連付け」を参照してください。
	コンプライアンスアドミニストレーター、コンプライアンスマネージャー、または証明書作成者ロールを持つユーザーとして、証明書を作成します。証明書デザイナーを使用すると、メトリクスタイプを作成および編集したり、さまざまなコントロールに対して異なるメトリクスタイプを定義したりすることができます。 詳細な手順については、「証明書デザイナーを使用してコントロール証明書を作成」を参照してください。
	コンプライアンスアドミニストレーターまたはコンプライアンスマネージャーロールを持つユーザーとして、コントロールインジケーターを作成します。制御、リスク、監査の証拠のインジケーターデータは、GRC アプリケーションによって測定方法が異なります。 詳細な手順については、「コントロールインジケーターを作成」を参照してください。

おめでとうございます!GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 ベースシステムが正常に設定されました。組織のニーズに応じて、オプションのセットアップ手順を利用できます。たとえば、Network Frontiers Unified Compliance Framework (UCF) と統合する場合は、統合を管理するための手順がここに記載されています。または、GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 のモバイルエクスペリエンスを設定する場合は、その手順もここに記載されています。

オプションの機能の詳細な手順については、「ポリシーとコンプライアンス管理 拡張手順」を参照してください。

GRC：ポリシーとコンプライアンス管理をダウンロード

インスタンスで GRC: ポリシーとコンプライアンス管理 (com.sn_compliance) を実行する前に、ServiceNow Store からダウンロードする必要があります。

始める前に

必要なロール：admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする の指示に従います。

注:
バージョン 10.1 以降、脆弱性対応 アプリケーションのバージョン 10.3 内から ポリシーとコンプライアンス管理 の新しいポリシー例外機能を利用できます。この機能を使用するには、脆弱性対応 をアップグレードする前に ポリシーとコンプライアンス管理 をアップグレードする必要があります。詳細については、次を参照してください。

関連情報

プラグインのリスト

ポリシーとコンプライアンス管理のクイックスタートテスト

アプリケーションの開発やアップグレードの適用などの構成変更を行った後も、GRC: ポリシーとコンプライアンス管理 が引き続き正常に動作するかを検証します。自分のインスタンスに固有のデータを使用するときは、それが成功するように、これらのクイックスタートテストをコピーしてカスタマイズします。

GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 クイックスタートテストでは ポリシーとコンプライアンス管理 プラグイン (com.sn_compliance) をアクティブ化して、デモデータをロードする必要があります。

GRC: ポリシーとコンプライアンス管理 クイックスタートテストテストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
GRC：コントロールの作成	コントロールの作成を検証します。	Madrid
GRC: ポリシー例外とフローを作成	ポリシー例外を作成して、その状況内を移動します。	Paris
GRC: ポリシーライフサイクル	ポリシーを作成して、その状況内を移動します。	Paris

関連情報

クイックスタートテスト

ポリシーとコンプライアンス管理 管理を実行

アプリケーション固有のセットアップを実行する前に、システムを準備する必要があります。これには、ユーザーロールの割り当てとプロパティの設定が含まれます。

ユーザーに ポリシーとコンプライアンス管理 ロールをアサイン

ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションを正常に実装または使用するには、ユーザーにロールをアサインする必要があります。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. 移動先 すべて > ユーザー管理 > ユーザー.
2. ユーザーの名前をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [ロール] タブをクリックします。
4. [編集] をクリックします。
5. ユーザーに割り当てるロールをコレクション側からロールリストに移動し、[保存] をクリックします。
6. 各ユーザーに対して、これらの手順を繰り返します。

コンプライアンスユーザーの包括的なリストについては、「GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 とともにインストールされるロール」を参照してください。

ロールタイトル [名前]	説明
コンプライアンスリーダー [sn_compliance.reader]	コンプライアンスリーダーには、ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションのすべてのモジュールに対する読み取り専用アクセス権があります。このロールは通常、組織内にどのポリシーとコントロールがあるかを確認する必要があるユーザーに割り当てられます。リーダーロールを持つユーザーは、多くの場合、アクティビティのレポートと監視も担当します。 コンプライアンスリーダーロールには、sn_grc.reader が含まれます。
コンプライアンスユーザー [sn_compliance.user]	コンプライアンスユーザーは、多くの場合、コンプライアンスアナリストと呼ばれ、ポリシーまたはコントロールに関連するほぼすべてのタスクを実行できる権限があります。 このロールを割り当てられたユーザーは、多くの場合、以下を担当します。 ○ 新しいポリシーの作成 ○ ポリシー例外の要求 ○ 確認応答要求への応答 ○ コントロール目標の作成とポリシーへの関連付け ○ コントロール有効性のテストと監視 ○ コントロールの証明 ○ 問題の修正 ○ リスクアセスメントと監査タスクの支援 コンプライアンスユーザーロールには、以下が含まれます。 ○ sn_grc.reader ○ sn_grc.user ○ sn_compliance.reader

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールタイトル [名前]	説明
	注: コンプライアンスユーザーロールを持つユーザーにはコントロールをアサインすることができ、リスク管理 アプリケーションとモジュールへの読み取り専用アクセス権があります。
コンプライアンスマネージャー [sn_compliance.manager]	コンプライアンスマネージャーは、日々のコンプライアンスプロセスの管理を担います。 このロールを割り当てられたユーザーは、多くの場合、以下を担当します。 ○ 特定の規制要件と傾向の確認 ○ ポリシーが必要な規制の判断 ○ ポリシーとポリシー例外の承認 ○ ポリシー確認応答キャンペーンの設定 ○ エンティティタイプとエンティティを使用するコントロールのスコーピング ○ 証明書の作成とアサイン ○ 継続的にコントロール有効性を監視 ○ 非準拠コントロールなどのデータを強調表示するレポートのコンパイルと共有 コンプライアンスマネージャーロールには、以下が含まれます。 ○ sn_grc.reader ○ sn_grc.user ○ sn_grc.manager ○ sn_compliance.reader ○ sn_compliance.user
コンプライアンスアドミニストレーター [sn_compliance.admin]	コンプライアンスアドミニストレーターは ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションを管理します。 このロールを割り当てられたユーザーは、多くの場合、以下を担当します。 ○ 他のアプリケーションおよびモジュールとのプラットフォーム依存関係の監視 ○ すべてのコンプライアンスデータの管理 コンプライアンスアドミニストレーターロールには、以下が含まれます。 ○ sn_grc.reader ○ sn_grc.user

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールタイトル [名前]	説明
	○ sn_grc.manager ○ sn_grc.admin ○ sn_compliance.reader ○ sn_compliance.user ○ sn_compliance.manager
コンプライアンス開発者 [sn_compliance.developer]	コンプライアンス開発者は、ワークフロー、レポート、ダッシュボード、追加モジュール、アプリケーションを拡張できるその他のプラットフォーム固有のコンテンツなど、プラットフォームのさまざまな側面の維持を担います。 コンプライアンス開発者ロールには、以下が含まれます。 ○ sn_grc.reader ○ sn_grc.user ○ sn_grc.manager ○ sn_grc.admin ○ sn_grc.developer ○ sn_compliance.reader ○ sn_compliance.user ○ sn_compliance.manager ○ sn_compliance.admin
証明書作成者 sn_compliance.attestation_creator	証明書作成者は、証明書の作成と管理を担います。証明書は、コントロールを証明するために使用されるプラットフォームコンポーネントの 1 つであり、それらを無駄なく、正確かつ最新の状態に保つうえで不可欠です。

次のタスク
に戻る ポリシーとコンプライアンス管理 セットアップチェックリスト.

ポリシーとコンプライアンス管理 プロパティを設定する

ソフトウェアのさまざまな側面や動作を制御するプロパティを設定します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > プロパティ.

名前	説明
コントロールがアクティブである状況 (最初の状況はデフォルトのアクティブ状況)	コンプライアンスアドミニストレーターはこの設定を変更できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前	説明
sn_compliance.active_states **注:** このプロパティに記載されているように、アクティブ状況のコントロールのみが、コンプライアンススコアの計算時に考慮されます。	• タイプ：文字列 • デフォルト値： draft、assess、review、monitor • [**Location** (場所)]： ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > プロパティ
コントロールが非アクティブであるステータス (最初のステータスはデフォルトの非アクティブステータス) sn_compliance.closed_states **注:** このプロパティに記載されているように、非アクティブ状況のコントロールが、コンプライアンススコアの計算時に考慮されません。	コンプライアンスアドミニストレーターはこの設定を変更できます。 • タイプ：文字列 • デフォルト値：retired • [**Location** (場所)]： ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > プロパティ
証明書に使用されるアセスメントメトリクスタイプの名前 sn_compliance.default_attestation	システムアドミニストレーターはこの設定を変更できます。 • タイプ：文字列 • デフォルト値：GRC 証明書 • [**Location** (場所)]： ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > プロパティ
これは、直接 DOM を無効にした厳格モードでクライアントスクリプトを実行するために使用される、プラットフォームレベルのシステムプロパティです。このプロパティが true に設定されている場合、jquery を使用するか、DOM を直接変更することはできません。 sn_compliance.glide.script.block.client.globals	• タイプ：true または false • デフォルト値：false • [**Location** (場所)]： ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > プロパティ
ポリシー記事を公開するために使用されるナレッジベースの名前 sn_compliance.knowledge_base	コンプライアンスアドミニストレーターはこの設定を変更できます。 • タイプ：文字列 • デフォルト値：ガバナンス、リスク、コンプライアンス • [**Location** (場所)]： ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > プロパティ

次のタスク
に戻る ポリシーとコンプライアンス管理 セットアップチェックリスト.

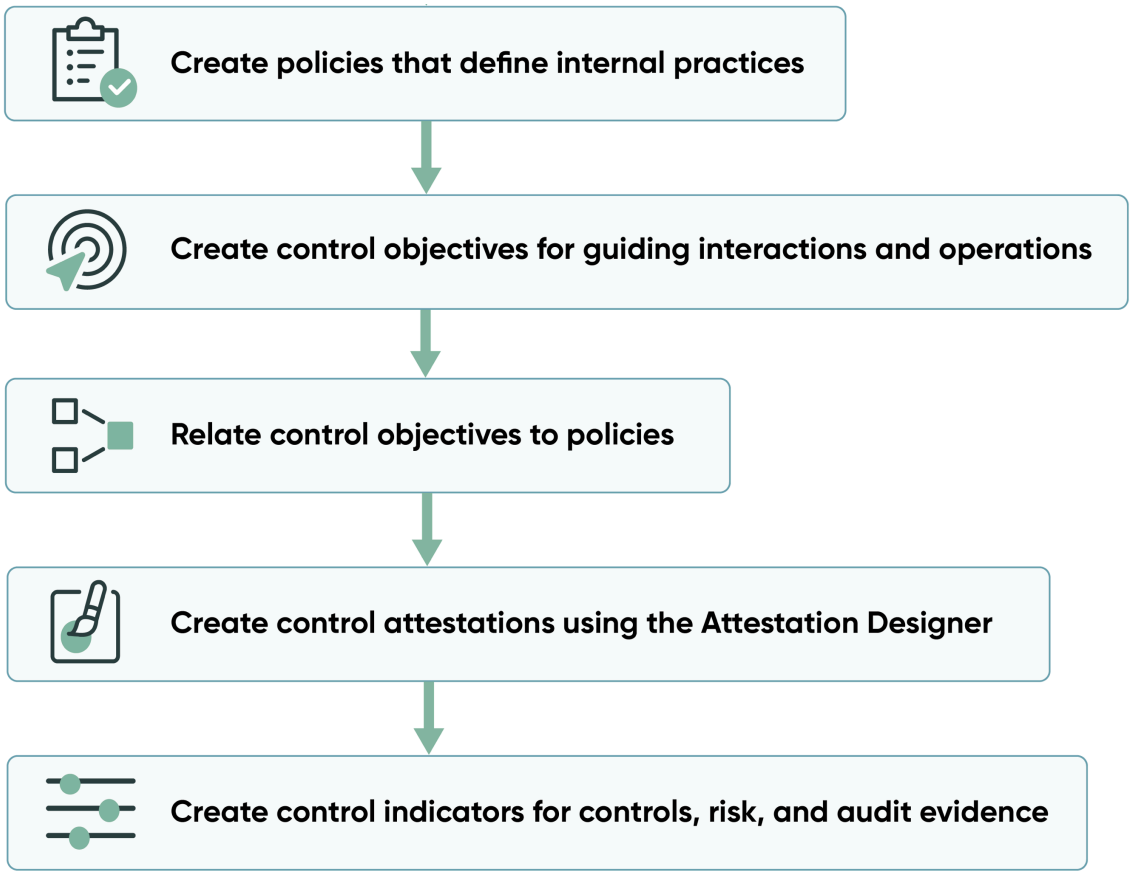
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポリシーとコンプライアンス管理 の必須のセットアップ

ユーザーにロールをアサインして、ポリシーとコンプライアンス管理 プロパティを設定した後、必須のセットアップ手順に進みます。

チェックリストの必須ステップのフローを次に示します。



上記の必須手順を完了すると、その他のオプションのセットアップ手順を使用できるようになります。

ポリシーの作成

ポリシーは、プロセスが従う必要のある組織内のプラクティスを定義します。ポリシーは、ポリシー、手順、標準、計画、チェックリスト、フレームワーク、およびテンプレートとして定義されます。

始める前に

必要なロール：sn_compliance.admin または sn_compliance.manager

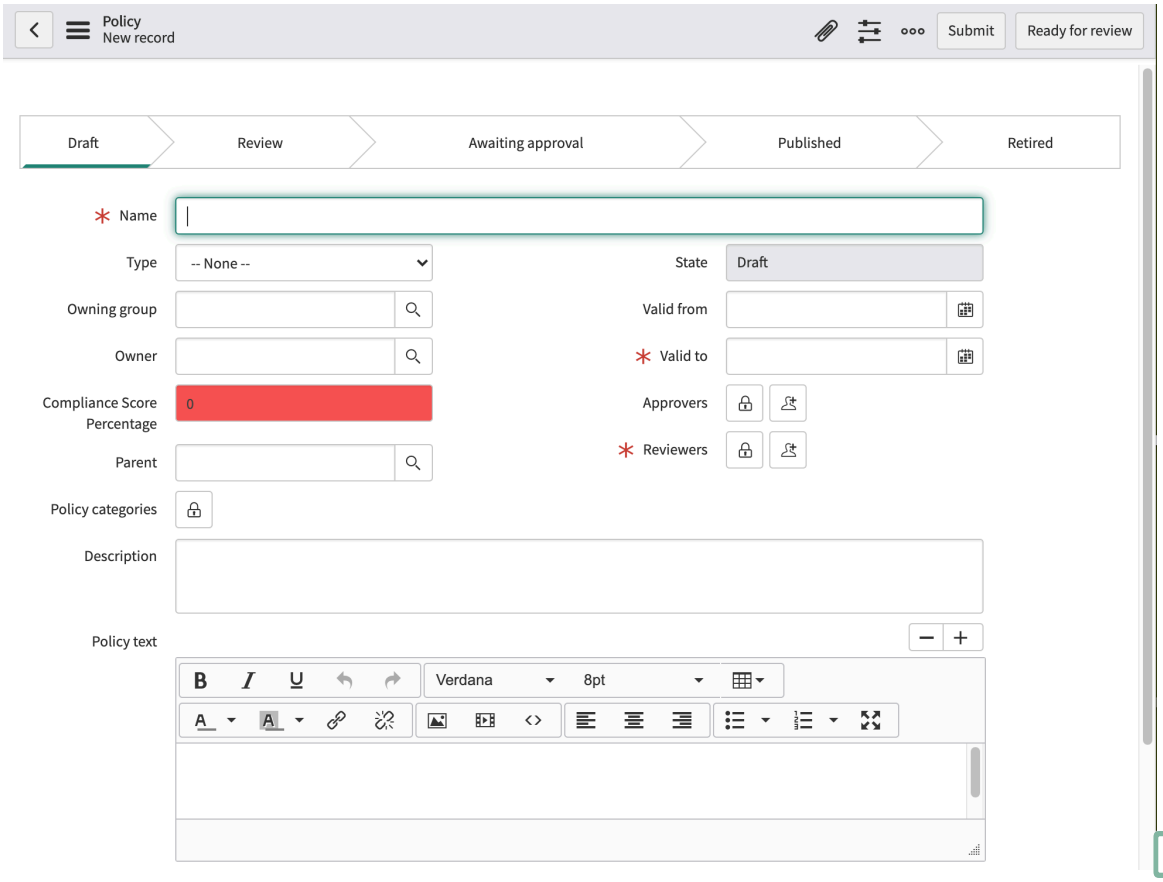
コンプライアンスユーザー (sn_compliance.user) ロールを持つユーザーもポリシーを作成できます。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > ポリシーおよび手順 > 方針.
2. [**New**] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



3. フォームのフィールドに入力します。

ポリシー

フィールド	説明
名前	ポリシーの名前。
タイプ	オプションのリスト： ○ ポリシー ○ 手順 ○ 標準 ○ プラン ○ チェックリスト ○ フレームワーク ○ テンプレート
所有グループ	ポリシーを所有するグループ。
所有者	ポリシーを所有するユーザー。
コンプライア	このポリシーにアサインされたコンプライアンススコア (%)。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ンススコア (%)	
親	このポリシーを含むポリシー。ポリシー内からコントロール目標を作成すると、このフィールドは自動的に入力されます。
ポリシーのカテゴリ	ロックアイコンをクリックし、フィルタリングポリシーのカテゴリを 1 つ以上選択します。たとえば、[脆弱性対応] を選択して、そのアプリケーションに関連付けられたポリシーを表示します。
ステータス	ステータスは読み取り専用フィールドです。利用可能な選択肢は次のとおりです。 ◦ ドラフト このステータスでは、すべてのコンプライアンスユーザーがポリシーとコントロール目標を変更できます。すべてのコンプライアンスユーザーは、 、[レビューを要求] ボタンをクリックできます。[レビューを要求] ポップアップにメッセージを入力し、[要求] をクリックすると、ステータスが [レビュー] に設定されます。 ◦ [レビュー] このステータスでは、オーナー、所有グループ、およびレビュー担当者がポリシーとコントロール目標を変更できます。所有者、所有グループ、およびレビュー担当者は、[承認を要求] をクリックし、承認者リストのユーザーに承認を送信してワークフローを開始します。オーナー、所有グループ、およびレビュー担当者は、[ドラフトに戻る] をクリックして、ポリシーも [ドラフト] に戻します。 ◦ [承認待ち] このステータスでは、ポリシーとコントロール目標はすべて読み取り専用です。承認者は、ポリシーフォームの [承認] 関連リストで承認ステータスを更新するか、[自分の承認] を表示してポリシーを承認できます。ポリシーが承認されると、ポリシーは [公開] ステータスになります。それ以外の場合は、[レビュー] ステータスに戻ります。 ◦ [公開] このステータスでは、ポリシーとコントロール目標はすべて読み取り専用です。アドミニストレーターは [廃止] をクリックすると、ポリシーのステータスが [廃止済み] に設定されます。 ◦ [廃止済み] このステータスでは、ポリシーはすべてに対して読み取り専用です。
有効期間開始日	ポリシーが有効になる日時を指定します。
有効期間終了日	ポリシーの有効期限となる日時を指定します。 **注:** デフォルトでは、ポリシーの有効期限が切れても、新しい承認プロセスは自動的にトリガーされません。代わりに、指定された日数 (ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > プロパティ ページ) が過ぎました。 この期間が過ぎると、ポリシーは [レビュー] ステータス (レビュー担当者がアサインされている場合) または [ドラフト] ステータス (レビュー担当者がアサインされていない場合) に移行します。 日数を指定するフィールドには、 ポリシーの「有効期限」に達した後、期限切れのポリシーが自動的に公開済みステータスからドラフト/レビューステータスに戻る日数というラベルが付けられます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
承認者	承認プロセスに含めるユーザー。
レビュー担当者	レビュープロセスに含めるユーザーを選択します。
説明	ポリシーの一般的な説明。
ポリシーテキスト	ポリシーの詳細な説明。
ナレッジベース	
ナレッジベース	このポリシーに関連するナレッジベース記事。
KB 記事	ポリシーが公開されている KB 記事番号とリンク。
記事テンプレート	このポリシーの公開に使用する記事テンプレート。
確認応答のセットアップ	
対象者	このポリシーの確認を担当するデフォルトの対象者を選択します。
参照資料 URL	ロックアイコンをクリックして、認定やトレーニング資料などの必要な参照資料の URL を追加します。
ポリシーの拒否をユーザーに許可	ポリシーの確認を拒否するオプションをユーザーに提供するには、このチェックボックスをオンにします。
ユーザーに例外を要求することを許可	ポリシーの確認応答の例外を要求するオプションをユーザーに提供するには、このチェックボックスをオンにします。
例外セットアップ	
最大例外期間 (日数)	指定されたポリシーに対してポリシー例外を要求できる最大期間を入力します。

4. 次のオプションのいずれかで続行します。
   - ポリシーを保存して送信するには、[送信] をクリックします。
   - ポリシーをレビュー準備完了としてマークするには、、[レビューを要求] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
実装している場合 ポリシーとコンプライアンス管理 ソフトウェアを ポリシーとコンプライアンス管理 セットアップチェックリスト をクリックし、次のステップに進みます。

コントロール目標を作成

コントロール目標は、会社のインタラクションと運用のガイダンスとして機能する目標、指示、または標準です。コントロール目標は、カテゴリ化、分類、およびポリシーへの関連付けが可能です。

始める前に
必要なロール：sn_compliance_admin、sn_compliance_manager、sn_compliance.user

このタスクについて
コントロール目標とコントロールの違いを理解するには、「ポリシーとコンプライアンス管理 の構造の概要」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コントロール目標.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

コントロール目標フォーム

フィールド	説明
名前	コントロール目標の名前。
ソース	コントロール目標のソース。たとえば、コントロール目標がサードパーティプロバイダーからのものである場合は、どのプロバイダーかを示します。
ソース ID	このコントロール目標をカタログ化するためにソースによって使用される一意の識別番号。
参照	一意の数値識別子。
親	現在のコントロール目標の子ではないコントロール目標。これは、循環する親子関係を避けるためです。
コンプライアンススコア (%)	このコントロール目標に対して計算されたコンプライアンススコアの割合とそのカラーコード： ○ 80 以上：緑 ○ 50 ～ 80：黄 ○ 50 未満：赤
有効	コントロール目標がアクティブかどうかを示すオプション。
コントロールを自動的に作成	コントロールがコントロール目標から自動的に作成されることを示すオプション。 **注:** コントロール目標がコントロールとしても機能する場合は、このオプションを選択します。
カテゴリ	オプションのリスト： ○ 施設、技術、サービスの取得または販売 ○ 監査およびリスク管理

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ コンプライアンスおよびガバナンスのスタイルマニュアル ○ ヒューマンリソース (HR) 管理 ○ リーダーシップおよび高いレベルの達成目標 ○ モニタリングおよび測定 ○ 運用管理 ○ 物理的保護および環境保護 ○ 情報およびデータのプライバシー保護 ○ レコード管理 ○ 構成管理によるシステムのハードニング ○ システム継続性 ○ システム設計、ビルド、および実装 ○ テクニカルセキュリティ ○ サードパーティおよびサプライチェーンの監督 ○ ルート ○ 不使用
分類	オプションのリスト： ○ 予防 ○ 是正 ○ 探知
タイプ	オプションのリスト： ○ 資産またはサービスの取得/販売 ○ アクション可能なレポートまたは測定 ○ 監査およびリスク管理 ○ 動作 ○ ビジネスプロセス ○ 連絡 ○ 設定 (Configuration) ○ データおよび情報管理 ○ 複製 ○ ロールの設定 ○ ドキュメントの作成/維持管理 ○ ヒューマンリソース (HR) 管理 ○ 調査 ○ IT インパクトゾーン ○ ログ管理

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ メンテナンス ○ 発生の監視および評価 ○ 物理的保護および環境保護 ○ プロセスまたはアクティビティ ○ レコード管理 ○ システム継続性 ○ システム設計、ビルド、および実装 ○ テクニカルセキュリティ ○ テスト ○ トレーニング
証明書	オプションリスト。 ○ デフォルトで **GRC** 証明書 が選択されている ○ **注:** ユーザーがコントロール証明書を変更すると、関連するコントロール目標証明書タイプも変更されます。
問題グループルール	このコントロール目標にアサインされたグループルール。
説明	コントロール目標の説明。

4. [送信] をクリックします。
コントロール目標が作成され、すべての関連リストが表示されます。
   - ポリシーがエンティティに関連付けられている場合、コントロールはすべてのコントロール目標に対して作成されます。
   - コントロール属性は、関連するコントロール目標と同じ属性にデフォルト設定されます。

次のタスク
実装している場合 ポリシーとコンプライアンス管理 ソフトウェアを ポリシーとコンプライアンス管理 セットアップチェックリスト をクリックし、次のステップに進みます。

コントロール目標をポリシーに関連付け

ポリシーがレビューまたはドラフト状況の場合は、[コントロール目標] 関連リストの [編集] ボタンをクリックして、コントロール目標を個別に関連付けます。

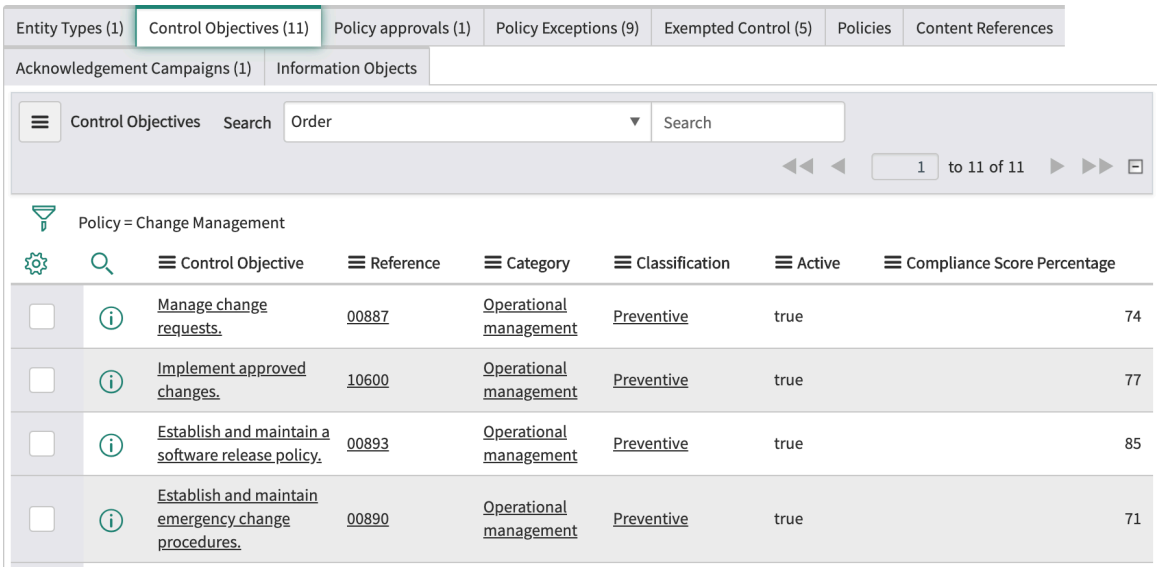
始める前に
必要なロール：sn_compliance_admin、sn_compliance_manager、sn_compliance.user

手順
1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > ポリシーおよび手順 > 方針.
2. ポリシーレコードを開きます。
3. [コントロール目標] 関連リストで [編集] をクリックします。
スラッシュバケットには、関連付けられているポリシーが選択されていないアクティブなコントロール目標が含まれています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

4. コントロール目標を選択します。
5. [保存] をクリックします。
   これらのコントロール目標は、[コントロール目標] 関連リストに一覧表示されます。



次のタスク
実装している場合 ポリシーとコンプライアンス管理 ソフトウェアを ポリシーとコンプライアンス管理 セットアップチェックリスト をクリックし、次のステップに進みます。

証明書デザイナーを使用してコントロール証明書を作成

証明書デザイナーを使用して、メトリクスタイプを作成および編集します。コントロールごとに異なるメトリクスタイプを使用します。証明書に対して複数の回答者を選択し、スコアリングパラメーターを変更します。

始める前に

必要なロール:sn_compliance.attestation_creator、sn_compliance.manager、sn_compliance.administrator

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > 証明書タイプ.
2. [証明書デザイナー] をクリックします。
   デザイナーには次の要素が含まれています。

要素	説明
コントロール	サポートされている質問データのタイプは [Controls] パレットで利用可能です。コントロールをデザイナーキャンバスにドラッグして、そのタイプの質問を作成します。
質問	さまざまなカテゴリの質問のライブラリで、各アンケートを最初からビルドする必要はありません。
カテゴリ	[デザイン] ビューで新しいアセスメントが開きます。アンケートの [名前] フィールドが、キャンバスの最初のカテゴリの上に表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

要素	説明
	空白の質問フィールドがカテゴリコンテナに表示されます。

3. [名前] フィールドに名前を入力します。
4. コントロールをデザイナーキャンバスにドラッグして、そのタイプの質問を作成します。

質問コントロール

データタイプ	説明	採点済み
添付ファイル	ユーザーが 1 つまたは複数のファイルを添付できる、[添付ファイルを管理] アイコンがある質問。	N
ブーリアン	ユーザー応答のためにチェック ボックスまたは [はい/いいえ] リストがある質問。	Y
選択肢	事前定義済みオプションのリスト。詳細については、[選択肢] の定義を参照してください。	Y
日付	[日付] フィールド。	N
日付/時刻	[日付/時刻] フィールド。	N
番号	事前定義された最小値と最大値を持つ数値フィールド。デフォルトは 1 ～ 10 です。	N
パーセンテージ	範囲が指定されている [パーセンテージ] フィールド。	N
スケール	事前定義されたリッカート尺度。回答オプションはラジオボタンとして表示されます。	Y
数値スケール	選択可能な数値スケール。デフォルトは 1 ～ 5 です。回答オプションはラジオボタンとして表示されます。	Y
文字列	1 行または複数行のテキスト フィールド。	N
テンプレート	オプションの事前定義済みスケールを示すテンプレートの選択リスト。 **注:** すべての証明書にテンプレートをアサインすることが重要です。これにより、コントロール目標とエンティティタイプに基づいてコントロールを自動的に作成できます。	Y
参照	指定された参照テーブルからのフィールドの選択リスト。このデータタイプは参照修飾子をサポートしていません。	N

注:
採点するメトリクスの正しい答えを設定します。採点済みメトリクスは、コントロールのコンプライアンスステータスを決定します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. 証明書デザイナーの右上にあるメニューアイコンをポイントして、次のいずれかのオプションを選択します。

   注:
   各オプションの可用性は、デザイナーで開いている証明書のステータスに依存します。

オプション	説明
新しい証明書	新しい証明書の新規キャンバスを開きます。
証明書をロード	選択して編集できる既存の証明書のリストを開きます。

他のタイプのアセスメントとは異なり、コントロール証明書は セルフサービス > 自分のアセスメントとサーベイ 多くのコントロール証明書が一度に生成される可能性があるためです。代わりに、コントロール証明書はリストとして ポリシーとコンプライアンス > コントロール > 自分の証明書 モジュールと [すべての証明書] モジュール。

次のタスク
実装している場合 ポリシーとコンプライアンス管理 ソフトウェアを ポリシーとコンプライアンス管理 セットアップチェックリスト をクリックし、次のステップに進みます。

コントロールインジケーターを作成

制御、リスク、監査の証拠のインジケーターデータは、GRC アプリケーションによって測定方法が異なります。

始める前に
必要なロール：sn_compliance_admin、sn_compliance_manager

手順
1. 次のいずれかに移動します。
   - ポリシーとコンプライアンス > インジケーター > インジケーター.
   - リスク > インジケーター > インジケーター.
   - 監査 > インジケーター > インジケーター.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

インジケーターフォーム

フィールド	説明
カテゴリ	コントロールインジケーターの場合は [コンプライアンスインジケーター] を、リスクインジケーターの場合は [リスクインジケーター] を選択します。
名前	インジケーターの名前。
適用先	[アイテム] に関連するエンティティ。
所有グループ	インジケーターを所有するグループ。
所有者	インジケーターオーナー。
番号	一意の識別番号。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
有効	インジケーターがアクティブかどうかを示すオプション。
アイテム	関連するコントロールまたはリスク。
テンプレート	関連するインジケーターテンプレート。
テンプレートを上書き	このインジケーターに関連付けられたインジケーターテンプレートを上書きするかどうかを示すオプション。
最終結果 - 成功	前回の結果が成功したかどうかを示すオプション。
スケジュール	
収集頻度	インジケーターの結果の収集頻度。インジケータータスクと結果は、インジケータースケジュールに基づいて自動的に生成されます。
次回実行時間	インジケーターの結果の次回の収集時刻。
方法 (Method)	
タイプ	結果は、タスクのアサインにより手動で、または基本フィルター条件、パフォーマンスアナリティクス、またはスクリプトを使用して自動的に収集できます。 ○ マニュアル ○ 基本
簡単な説明	このフィールドは、[タイプ] が [手動] の場合に存在します。問題の簡潔な説明。
説明	このフィールドは、[タイプ] が [手動] の場合に存在します。インジケーターの結果の収集のための指示。
必須の値	このフィールドは、[タイプ] が [手動] の場合に存在します。
成功/失敗	このフィールドは、[タイプ] が [基本] の場合に存在します。インジケーターが成功または失敗します。
PA しきい値	このフィールドは、[タイプ] が **[PA** インジケーター] の場合に存在します。関連する PA しきい値。
スクリプト	このフィールドは、[タイプ] が [スクリプト] の場合に存在します。必要なシステム情報を取得するスクリプト。
提出データ	

注:
バージョン 10.1 以降、インジケーターの結果またはインジケータータスクから得られるサポートデータレコードの実際の履歴データが表示されます。以前は、収集されたレコードのリアルタイムステータスのみを表示できました。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
テーブル	サポートデータを使用して、他のアプリケーションから裏付け証拠を収集します。
サポートデータフィールド	選択したテーブルに基づくサポートデータフィールド。

4. [送信] を選択します。

> **注:**
> コンプライアンスマネージャーまたはコンプライアンスアドミニストレーターは、ビジネスユーザー Lite ロールを持つユーザーにインジケータータスクをアサインできます。ビジネスユーザー Lite ロールを持つユーザーを [オーナー] フィールドでオーナーとしてアサインし、インジケーターを実行すると、[オープンタスク] 関連リストにインジケータータスクが作成されます。このインジケータータスクは、ビジネスユーザー Lite ロールを持つ所有者にアサインされます。
>
> ビジネスユーザー Lite ロールを持つユーザーは、次の場所に移動できます ポリシーとコンプライアンス > インジケーター > 自分のインジケータータスク をクリックして、自分に割り当てられているインジケータータスクを表示します。インジケーターを表示するには、[インジケーター] フィールドの横にある情報アイコンを選択します。[インジケータータスク] フォームの [結果] フィールド、[ステータス] フィールド、[値] フィールド、[追加コメント]、および [作業メモ] を更新することもできます。
>
> 従業員センターから同様のタスクを実行するには、以下を参照してください。 GRC Employee Center ポータルのタスク.

次のタスク

実装する場合 ポリシーとコンプライアンス管理 必要なセットアップ手順を完了するには、これで完了です。に戻る ポリシーとコンプライアンス管理 セットアップチェックリスト をクリックし、必要に応じてオプションの手順に進みます。

ポリシーとコンプライアンス管理 拡張手順

ポリシーとコンプライアンス管理 ベースシステムを設定した後、アプリケーションの機能を強化するために、以下のセクションの手順を実行できます。

関連情報

- GRC Policy and Compliance のモバイルエクスペリエンスの管理
- GRC 記事テンプレートを作成
- 引用を作成または無効化
- 通知プロパティを設定
- GRC 仮想エージェントの設定
- 他のアプリケーションからのポリシー例外要求を許可

GRC 記事テンプレートを作成

ポリシーとコンプライアンスマネージャーは、ポリシー記事を公開するためのテンプレートを作成できます。

始める前に

必要なロール：sn_compliance.developer

自動翻訳

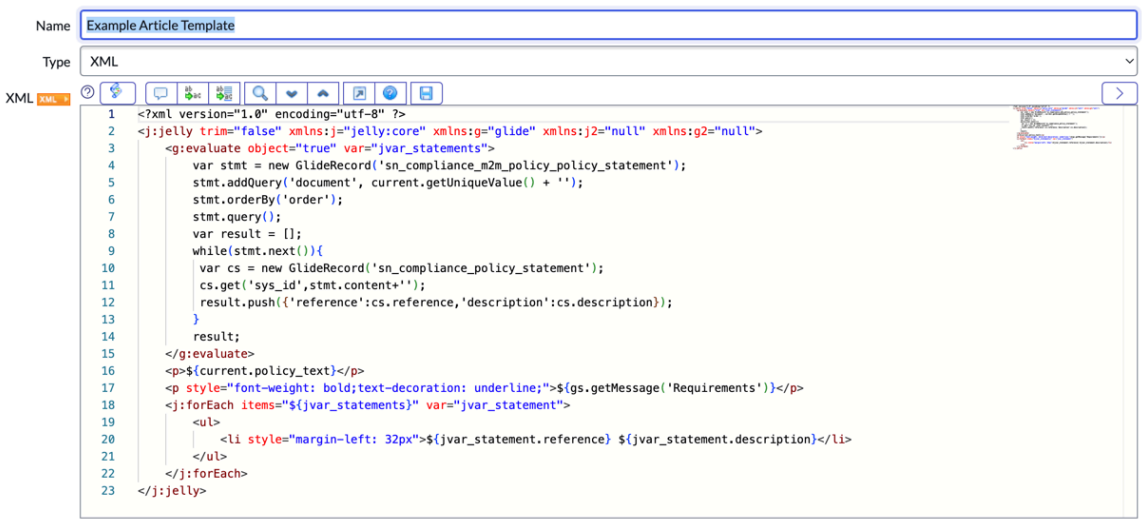
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > 記事テンプレート.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

各種法令・基準等

フィールド	説明
名前	記事テンプレートの名前。
タイプ	○ スクリプト ○ HTML ○ XML
スクリプト	スクリプトコード。このフィールドは [タイプ] フィールドに依存します。
HTML	HTML コード。このフィールドは [タイプ] フィールドに依存します。
XML	XML コード。このフィールドは [タイプ] フィールドに依存します。
デフォルトである	このテンプレートがすべての KB 記事のデフォルトテンプレートとして使用されることを示すオプション。



4. [送信] をクリックします。

引用を作成または無効化

通常、各種法令・基準等、引用、およびコントロール目標は、サードパーティのプロバイダーからダウンロードされます。ただし、引用は各種法令・基準等から手動で作成できます。引用の [アクティブ] オプションは、引用がアクティブか非アクティブかを示します。

始める前に

必要なロール：sn_compliance_admin または sn_compliance_manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > 各種法令・基準等.
2. 各種法令・基準等を開きます。
3. [引用] 関連リストで、[新規] をクリックします。
4. フォームのフィールドに入力します。

引用フォーム

フィールド	説明
名前	この引用を識別するユーザー定義の名前。
ソース	ポリシーのソース。たとえば、ステートメントがサードパーティプロバイダーからのものである場合は、どのプロバイダーかを示します。
ソース ID	この各種法令・基準等をカタログ化するためにソースによって使用される一意の識別番号。
参照	コンテンツ参照。
タイプ	作成された引用のタイプ。処理に使用されないオプションのフィールド。レポートでこのフィールドの値を使用するか、特定のタイプのレコードをクエリします。 ○ コアトピック ○ プロセス ○ コントロール目標 ○ コントロール ○ サポート情報
各種法令・基準等	この引用の親である各種法令・基準等の名前。各種法令・基準等フォームから引用を作成すると、このフィールドは自動的に入力されます。
有効	ポリシーがアクティブかどうかを示すオプション。[ドラフト] または [廃止] ステータスでない場合、ポリシーはアクティブとマークされます。引用を無効にするには、[有効]とマークされたチェックボックスをオフにします。
親	親コンテンツを参照します。
説明	引用の説明。

通知プロパティを設定

確認応答要求が対象者に送信されると、応答の適時性とステータスに基づいてさまざまなリマインダー通知が送信されます。プロパティで、通知を設定できます。

これらのプロパティはポリシーとコンプライアンス管理で利用可能です。

注:
移動先 ポリシーとコンプライアンス>管理>プロパティ.

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポリシーとコンプライアンス管理 のプロパティ

プロパティ	説明
ポリシーの確認のサマリー通知を送信する期限日からの経過日数を指定します。	確認の期限日が過ぎてからポリシーの確認応答サマリー通知が送信されるまでの日数。
コントロールがアクティブである状況 (最初の状況はデフォルトのアクティブ状況)	アクティブと見なされるコントロールの状況。リストの最初のステータスはデフォルトのアクティブ状況です。
期限切れ通知を送信するポリシーの確認応答の期限日からの経過日数。	確認応答の期限日が過ぎてから期限切れ通知が送信されるまでの日数。
期日後にポリシーの確認のサマリーを送信します。sn_compliance.policy_ack_after_due_summary_timer プロパティを使用して、期限日後に通知を送信する経過日数を指定します。	[ポリシーの確認のサマリー通知を送信する期限日からの経過日数を指定します] プロパティで指定された日数が経過した後にポリシーの確認サマリー通知を送信する場合は [はい] を選択します。 たとえば、プロパティが 1 日に設定されている場合、確認応答が 1 日遅れると通知が送信されます。
期日前にポリシーの確認応答のサマリーを送信します。sn_compliance.policy_ack_before_due_summary_timer プロパティを使用して、期限日の何日前に通知を送信するかを指定します。	[ポリシーの確認のサマリー通知を送信する期限日からの経過日数を指定します] プロパティで指定した日数に達する前にポリシーの確認応答サマリー通知を送信する場合は [はい] を選択します。 たとえば、プロパティが 1 日に設定されている場合、期日の 1 日前に通知が送信されます。
ポリシーの確認応答の期限切れ通知を毎日繰り返します	[はい] を選択すると、完了するまで期限切れの通知が毎日送信されます。
リマインダー通知を送信するポリシーの確認応答の期限日までの日数。	リマインダー通知の送信を開始する確認応答期日までの日数。
ポリシーの確認応答が期限になるまで、ポリシーの確認応答の期限日リマインダーを毎日繰り返します	[はい] を選択すると、[リマインダー通知を送信するポリシーの確認応答の期限日までの日数] プロパティの設定で指定した日から毎日リマインダー通知が送信されます。 たとえば、このプロパティで [はい] を選択し、期日が 7 日以内に発生し、前のプロパティで 3 日間を指定した場合、リマインダー通

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポリシーとコンプライアンス管理 のプロパティ (続く)

プロパティ	説明
	知は 3 日後に開始され、毎日繰り返されます。
ポリシーの確認のサマリー通知を送信する期限日までの日数を指定します。	ポリシーの確認応答サマリー通知を送信する期限日までの日数。

GRC 仮想エージェントの設定

ポリシーまたはコントロール目標に対する例外を要求するためのガバナンス、リスク、コンプライアンス 仮想エージェントを設定して、サービスポータル からポリシーまたはコントロール目標に例外を要求します。

始める前に
必要なロール：sn_risk.admin

GRC 仮想エージェントを設定するには、次のプラグインをアクティブ化する必要があります。

- 有効なライセンスでアクティブ化された Glide 仮想エージェント (com.glide.cs.chatbot)。
- GRC
- ポリシーとコンプライアンス管理。

このタスクについて
仮想エージェントチャットボットを使用すると、顧客は例外を要求できます。チャットボットは時間を節約することで顧客を支援します。会話の流れ (ユーザー入力とチャットボット応答) の中で情報を交換することにより、チャットボットはユーザー要求を実行したり、ユーザーによるタスクの完了を支援したりできます。

手順

1. 移動先 すべて > サービスポータル > **Service Portal** の構成.
2. [ページ編集者] をクリックします。
3. 検索フィールドに「Index」と入力します。
4. [サービスポータルインデックス] をクリックします。
5. ページの上部で、[デザイナーのサービスポータル (インデックス) ページを編集 **(Edit Service Portal (index) page in Designer)]** をクリックします。
6. [フィルターウィジェット] 検索フィールドに「仮想エージェントサービスポータルウィジェット」と入力し、ウィジェットを画面上の任意の場所にドラッグアンドドロップします。

   画面の右下にチャットアイコンが表示されます。

ポリシーでの動的承認構成のセットアップ

ポリシーとは、業務を管理するためにビジネス組織によって確立されたガイドラインとルールのセットです。ポリシーの承認構成レコードを作成すると、さまざまな動的条件に基づいて 1 つまたは複数の承認レベルと承認ルールを定義できるようになります。

Yokohama リリース以降は、ポリシーレコードで動的承認構成をセットアップできます。ポリシーテーブルは、ポリシーのステータスを規制するポリシーレコードで構成されます。ポリシーを実装する前に、レビューと承認のプロセスを経由します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポリシーレコードで動的承認構成をセットアップすると、ポリシーフィールドに関連するポリシータイプ、ステータス、所有者などのさまざまな動的条件に基づいて、複数のレベルの承認を定義できるようになります。ポリシーレコードで動的承認構成をセットアップすると、ポリシーの承認者がポリシーレコードに動的に追加されます。

承認者を手動で追加する場合の制限事項

既存の承認構成プロセスで使用する手動アプローチには、次のような制限があります。

- 承認構成プロセスでは、単一レベルの承認が使用されます。複数のレベルの承認を使用しない場合、承認プロセスでエラーや見落としが発生する可能性が高くなります。
- ポリシーの承認者は、承認プロセスの動的な条件または変化する条件に基づいて変更することはできません。
- 承認者は手動でレコードに追加されます。このプロセスは、特に大規模な組織や複雑な意思決定構造では、時間がかかる場合があります。
- 承認者を手動で追加すると、大幅な遅延が発生する可能性があります。すべての承認を受け取るまで待つと、意思決定プロセスの速度が低下し、生産性が低下する可能性があります。

動的承認構成のメリット

ポリシーでの動的承認構成のセットアップには、次のようなメリットがあります。

- 組織の環境が動的になり変化し続けるということはよくあります。承認者を柔軟に変更できるため、状況の変化に承認プロセスで適応できます。これにより、常に最適な人員が承認プロセスに関与できるようになります。
- 複雑な意思決定や重要な意思決定の場合は、複数レベルの承認を構成することで、レビュー担当者は関連する要素を包括的にレビューできます。これにより、性急な決定ではなく、さまざまなシナリオに対する潜在的な影響を慎重に評価することが確実にできるようになります。
- 承認者を動的に変更すると、承認プロセスが合理化され、管理オーバーヘッドが削減されるため、時間とリソースを節約できます。

複数レベルの承認を要求するユースケース

承認構成は、各ポリシーの承認者を手動で追加することなく、複雑な承認レベルを作成するのに役立ちます。場合によっては、ポリシーオーナーがポリシーに対して複数レベルの承認を実施したいことがあるでしょう。たとえば、ポリシーが HR ドメインに関連しているとします。コンプライアンスチーム、法務チーム、HR チームがレビューして承認したいと考えています。ポリシーオーナーは、HR チームをポリシーのレベル 1 承認者としてアサインできます。

HR チームがポリシーを承認すると、レベル 2 の承認のためにコンプライアンスチームにアサインされます。その後、ポリシーのレベル 3 承認のために法務部門にアサインされます。また、ポリシーオーナーは、ポリシーに一致する特定のルールに基づいて承認者を動的に選択することもできます。

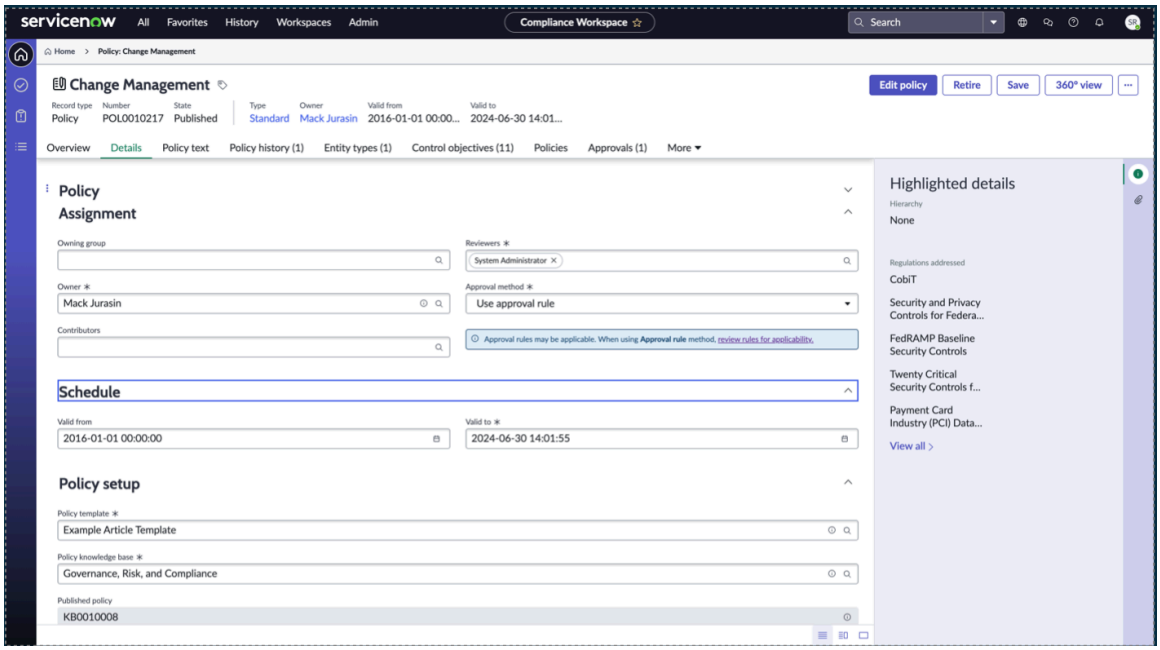
このユースケースでは、動的承認構成をポリシーと統合し、Approval Configurator を使用してポリシー承認ルールを構成することの重要性を強調しています。

Approval Configurator

承認構成を使用するには、次の例に示すように、ポリシーの承認方法として承認ルールを使用することを選択する必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



ポリシーの承認構成を作成し、ユーザーに対して有効な承認ルールを構成する必要があります。

ポリシー承認ルールモジュールを使用して、承認ルールを構成します。

Approval Configurator を使用したポリシー承認ルールの構成

Approval Configurator を使用して、さまざまな承認ルールを設定できます。

- 動的条件に基づいてマルチレベルの承認ルールを設定します。
- ソースレコードのフィールドから選択されたユーザーまたはユーザーのグループに承認を送信するか、ユーザーまたはグループを手動で選択します。
- 1 つの承認のみ、またはすべての承認を必須の承認として設定します。

レコードの承認構成を設定するには、次のセクションを参照してください。

1. 承認構成レコードの設定については「承認構成レコードを設定する」を参照してください。
2. 承認設定レコードの承認レベルを割り当てるには、「承認設定レコードの承認レベルをアサインする」を参照してください。
3. 承認設定レコードの承認レベルに対して承認ルールを設定するには、「承認レベルの承認ルールの設定」を参照してください。

注:

GRC：承認コンフィギュレーター アプリケーションのロールの詳細については、「GRC：承認コンフィギュレーターとともにインストールされるロール」を参照してください。

ポリシー承認ルールの作成に必要なロール

ポリシー承認ルールを作成するには、次のロールが必要です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- sn_compliance.manager ロールを持つユーザーは、sn_grc_appr.admin ロールでポリシー承認ルールを作成できます。
- sn_grc.business_user および sn_grc.business_user_lite 以上のロールを持つユーザーは、ポリシーを表示できます。
- レッドラインが有効になっている場合にドキュメントにアクセスする場合、ユーザーには sn_grc.business_user または sn_grc.business_user_lite ロールのいずれかを備えた mp_document_user が必要です。

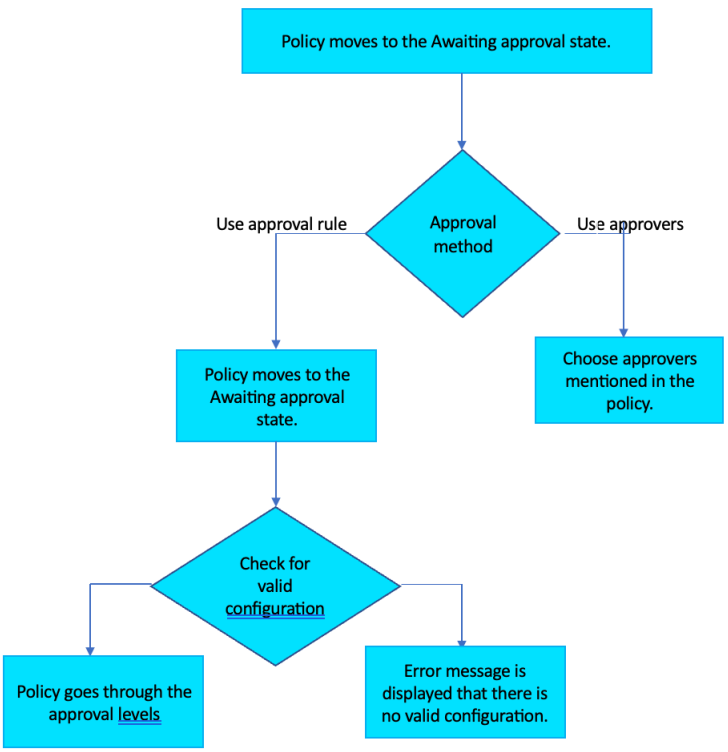
承認構成を設定するためのワークフロー

ポリシーレコードの承認構成を設定する場合、ワークフローには次の手順が含まれます。

1. ポリシーレコードの承認が要求されると、ポリシーのステータスが [承認待ち] に変更されます。
2. 承認方法に [承認者を使用 **(Use approvers)**] が選択されている場合、ポリシーレコードに記載されている承認者が使用されます。
3. 承認方法に [承認ルールを使用 **(Use approval rule)**] が選択されている場合、ポリシーレコードに適した有効な構成がチェックされます。動的承認構成では、ポリシーに関連する承認構成レコードが検索されます。
4. 動的承認構成では、次に各承認レベルレコードから承認者が取得され、各レベルの承認要求が送信されます。
5. 有効な構成が見つからない場合は、ポリシーに有効な構成がないことを示すエラーメッセージが表示されます。

ワークフローのステップを次の例に示します。

Workflow for setting up approval configuration



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

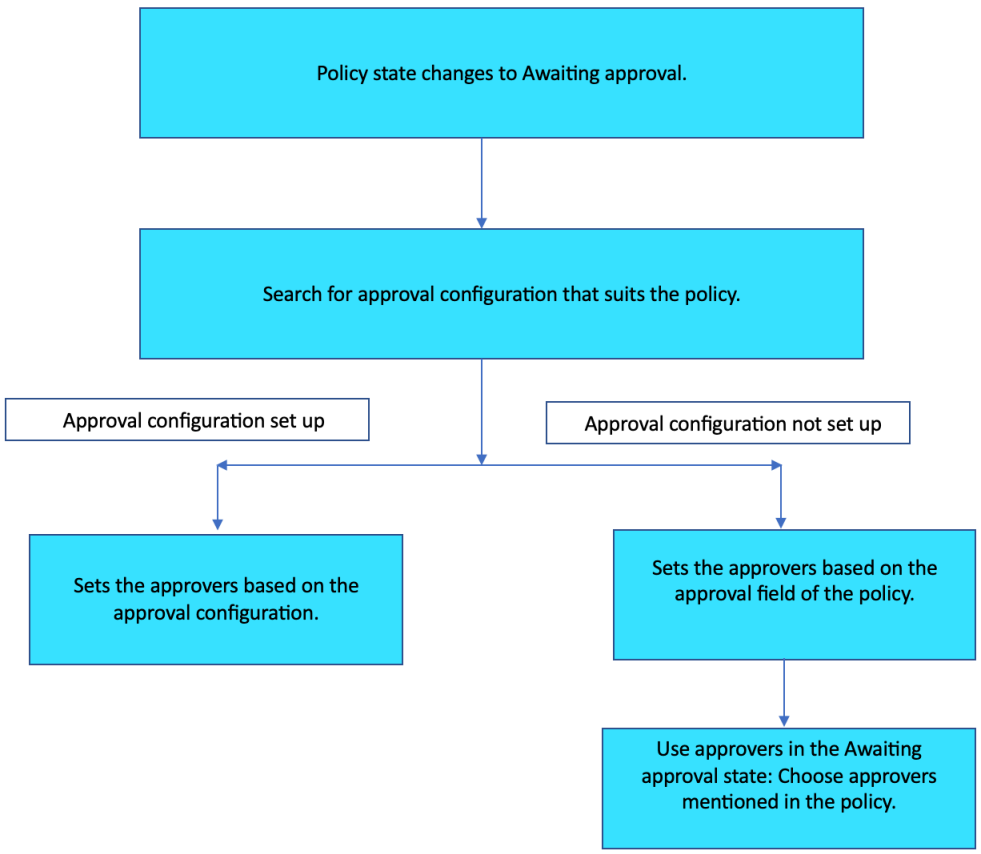
ポリシーオーナーは、ポリシーフォームの [承認者] フィールドでポリシーの承認者を選択できます。承認者は通常、コンプライアンスユーザーのロールを持つユーザーです。適切なアクセス権がない場合は、ポリシーレコードにアクセスできません。ポリシーレコードへのアクセスを要求するには、コンプライアンスアドミニストレーターに連絡する必要があります。

動的承認構成とポリシーの統合

動的承認構成をポリシーレコードと統合するために、複数の承認レベルを設定し、レベルごとに承認ルールを設定できます。承認レベルとルールの設定に基づいて、承認が自動的にトリガーされます。1 つのレベルが承認されると、次のレベルの承認のためにポリシーレコードが送信されます。

動的承認構成をポリシーと統合するためのワークフローを次の例と手順に示します。

Integrating dynamic approval configuration with a policy

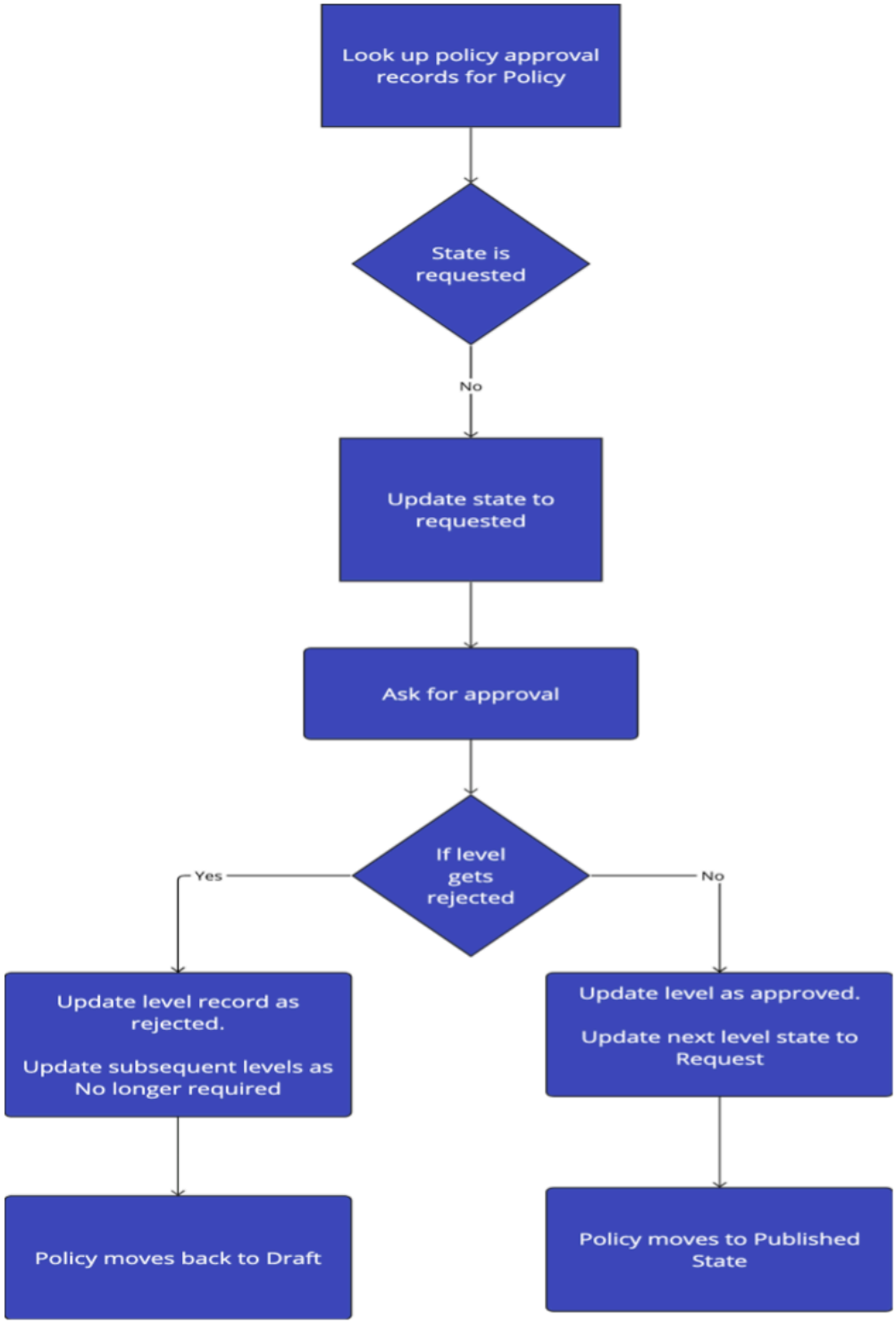


- ポリシーの承認が要求されると、ポリシーのステータスが [承認待ち] に変更されます。
- 動的承認構成では、現在のポリシーに適した承認構成レコードが検索されます。
- 動的承認構成がポリシーレコードに設定されていない場合、または動的承認構成が設定されていてもその特定のポリシーレコードに適用できない場合は、ポリシーレコードに有効な構成が見つからないというエラーメッセージが表示され、レコードは中止されます。ユーザーは、ポリシーレコードに戻って承認者を選択するか、ポリシーレコードの有効な構成を作成する必要があります。
- 動的承認構成が設定されている場合、承認者、承認レベル、およびルールは、承認構成レコードの構成に基づいて追加されます。

ワークフローの全体を次の例に示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



動的承認構成に使用されるコンポーネント

次のコンポーネントは、ポリシーの動的承認構成を設定するために使用されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ポリシー承認ルールモジュールは、ソーステーブルをポリシーとする承認構成を作成または確認します。
- ポリシー承認テーブルには、承認構成の各レベルの承認者が格納されます。承認レベルのステータスを追跡するために使用できます。
- 現在のレベルの決定に基づいて、ポリシーは次の承認レベルに転送されるか、却下された場合は [ドラフト] ステータスにリセットされます。すべてのレベルが承認されると、ポリシーは [公開] ステータスに移行します。

ポリシー動的承認セットアップ

ポリシーでの動的承認構成をセットアップします。設定された承認レベルに基づいて、 ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションはポリシーレコードに 1 つ以上の承認ルールを設定します。

始める前に

必要なロール：sn_compliance.manager、sn_compliance.user

このタスクについて

sn_compliance_ws.corporate_compliance_manager ロールを持つユーザーは動的承認構成を作成でき、sn_compliance_ws.corporate_compliance_user ロールを持つユーザーにはポリシーレコードの読み取り権限があります。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. コンプライアンスワークスペース で、リストアイコンを選択します。
3. 移動先 コンプライアンスライブラリ > 自分のポリシー [新規] を選択します。
4. ポリシーの名前を入力します。
5. [ポリシーのアサイン] パネルで、[オーナー **(Owner)]** フィールドと [レビュー担当者] フィールドを更新します。
6. [承認方法 **(Approval method)]** フィールドで承認方法を選択します。

   コンプライアンスワークスペース でのポリシーセットの作成についての詳細は、「新しいポリシーの作成」を参照してください。

   > **注:**
   > ポリシーレコードで動的承認構成が設定されていない場合、承認者はポリシーの [承認] フィールドに追加されます。

7. [スケジュール] パネルの [有効期限] フィールドで、レコードの日付を更新します。
8. [保存] を選択します。
9. [承認を要求] を選択します。

   ポリシーオーナーは、ポリシーレコードの承認を要求してワークフローを完了できます。ポリシーレコードの特定の承認構成に対して、構成された承認ルールが各承認レベルで動的に適用されます。[承認待ち] ステータスのトリガーがかかり、承認方法として [承認ルールを使用] オプションが選択されると、承認者に設定されている構成などの詳細がフィールドに入力されます。

   ポリシーがいずれかのレベルで却下されると、[ドラフト] ステータスにリセットされます。すべてのレベルが承認されると、ポリシーは [公開] ステータスに移行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レッドラインを使用したポリシー動的承認セットアップ

レッドラインを有効にしたポリシーで動的承認構成を設定します。

始める前に

必要なロール：
sn_compliance_ws.corporate_compliance_manager、sn_compliance_ws.corporate_compliance_user

このタスクについて

sn_compliance_ws.corporate_compliance_manager ロールを持つユーザーは動的承認構成を作成でき、sn_compliance_ws.corporate_compliance_user ロールを持つユーザーにはポリシーレコードの読み取り権限があります。

ポリシーのレッドラインに動的承認を使用するには、レッドラインのセットアップが完了し、承認者ルールのユーザーがドキュメントアクセスに必要なロールを持っていることを確認してください。レッドラインが有効になっている場合、ユーザーがドキュメントにアクセスするには、sn_grc.business_user または sn_grc.business_user_lite ロールが必要です。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. コンプライアンスワークスペース で、リストアイコンを選択します。
3. 移動先 コンプライアンスライブラリ > 自分のポリシー をクリックし、ポリシーレコードを開きます。
   新しいポリシーを作成するか、ポリシーレコードを開いてレッドライン機能を有効にすることができます。
4. [ポリシーテキスト] 関連リストを選択して、ポリシーテキストの内容を表示します。
   a. **[Word** の編集を有効にする] ボタンを選択します。
   b. ポリシーオーナーとしてドキュメントを作成するには、**[Word** の編集を有効にする] リストで [新規ドキュメント作成] を選択します。
   c. [ドキュメントの作成] ポップアップの [フォルダーリンク] フィールドに、フォルダー名を含めたフォルダーへのパスを入力します。
   d. [ドキュメント名] フィールドにドキュメントの名前を入力します。
   e. [作成] を選択します。
5. [レビューを要求] ボタンを選択します。
6. [要求] を選択します。
7. [公開チェックリストを完了する] ボタンを選択します。
   公開チェックリストのタスクを完了できます。レッドラインの詳細については「コンプライアンスワークスペースでのポリシーの作成とレッドライン」を参照してください。
8. [保存] を選択します。
9. [承認を要求] を選択します。

   アクティブな動的承認構成にユーザーが関連付けられていない場合、有効な構成とは見なされません。このような場合、[承認を要求 **(Request approval)]** を選択すると、「Could not request approvals because matching approval rule could not be found. Make sure to configure appropriate approval rule for this policy here.」というメッセージが返されます。エラーを修正するには、構成を編集して承認を再度要求します。

   次の例に示すように、[ドキュメントアクセス **(Document access)]** タブには、ポリシーにアクセスできるユーザーの改訂リストが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. ポリシーが [承認待ち] ステータスに初めて移行した時点で、承認構成がポリシーレコードに適用されます。ポリシーに 2 つの承認レベルがある場合、デフォルトではレベル 1 のユーザーにのみドキュメントアクセス権が付与されます。レベル 1 のグループユーザーは、[ドキュメントアクセスを要求 **(Request document access)]** UI アクションを使用してアクセスできます。

b. レベル 1 のユーザーがポリシーを承認すると、レベル 2 のユーザーにドキュメントアクセス権が追加されます。ユーザーがレベル 1 でポリシーを拒否すると、そのポリシーは [ドラフト] ステータスに移行します。

c. ポリシーが [承認待ち] ステータスに再度移行すると、承認構成の次のレベル (承認構成 2 など) がポリシーレコードに適用されます。この場合、2 つのレベル間で共通でドキュメントにアクセスできるユーザーは全員ポリシーにアクセスでき、残りのユーザーのドキュメントアクセス権は削除されます。

[ドキュメントアクセス権の要求 **(Request document access)]** UI アクションは、ビジネスユーザーロールとビジネスユーザー Lite ロールを持つユーザーに表示されます。これらのユーザーロールを持たないユーザーグループは、ドキュメントにアクセスできません。承認者には、承認ステータスの表示アクセス権またはコメントアクセス権があります。

> **注:**
> 承認ルールでは、アクセス権は個々のユーザーにのみ付与され、グループユーザーには付与されません。グループ内の多数のユーザーにアクセス権を付与すると、パフォーマンスの問題が発生する可能性があります。

グループユーザーの場合は、[ドキュメントアクセス権の要求 **(Request document access)]** を選択する必要があります。グループユーザーは、グループ内のユーザーの一員としてログインし、[ドキュメントアクセス権の要求 **(Request document access)]** を選択できます。グループユーザーにドキュメントアクセス権が付与され、「Doc access request has been raised, please refresh or try to access document in a few minutes.」というメッセージが表示されます。

承認構成ワークフローでは、承認者がいずれかのレベルでポリシーを却下すると、[ドラフト] ステータスに移行します。フォームの [ドキュメントアクセス権 **(Document access)]** タブには、ポリシーにアクセスできるユーザーのリストが、ロールおよびステータスとともに表示されます。レベル 1 ユーザーのみがレコードにアクセスしてレビューできます。レベル 1 のユーザーがレコードを承認すると、レベル 2 のユーザーにドキュメントアクセス権が付与され、以下同様に続きます。

すべてのレベルが承認されると、ポリシーは [公開] ステータスに移行します。

10. [ポリシーテキスト **(Policy text)]** タブで、**[Word** で開く] を選択します。

Word ドキュメントがタブに表示されます。ドキュメントの [アクセスを管理] タブには、ドキュメントを表示する権限を持つユーザーを表示することもできます。構成されたポリシー承認ルールが [承認ルール] フィールドに表示されます。[承認レベル (Approval levels)] 関連リストには、ポリシーレコードの承認レベル、ユーザー、および承認ステータスに関する情報が表示されます。

ポリシーがいずれかのステータスで却下されると、[ドラフト] ステータスにリセットされます。承認者がポリシーを承認すると、[公開] ステータスに移行します。

他のアプリケーションからのポリシー例外要求を許可

バージョン 10.1 以降、その他のアプリケーション内から ポリシーとコンプライアンス管理 で新しいポリシー例外機能を利用できます。

要求は、例外に関連付けられたリスク評価、ポリシー、およびコントロール目標に基づいて複数の承認を経由してルーティングされます。コンプライアンスおよびリスクチームは、脆弱性に対して生成された例外に対する可視化が向上します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

> **注:**
> バージョン 10.1 以降、脆弱性対応 アプリケーションのバージョン 10.3 がインストールされている場合は、ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションに固有の GRC ポリシー例外管理機能を使用してポリシー例外を要求できます。詳細については、「脆弱性対応 とのポリシー例外統合」を参照してください。

他のアプリケーションが ポリシーとコンプライアンス管理 のポリシー例外機能を利用できるようにするには、まずアプリケーションを統合レジストリに追加してから、予備セットアップを実行する必要があります。

他のアプリケーションからポリシー例外を設定

ポリシーとコンプライアンス管理 以外のアプリケーションからポリシー例外を要求する前に、要求を行うための UI アクションを追加し、必要に応じて、ポリシー例外フォームでポリシー例外ターゲットレコードを表示する新しいリストビューを作成する必要があります。

始める前に

必要なロール：sn_compliance.manager、 ui_action_admin または admin

GRC ビジネスユーザー (sn_grc.business_user) またはビジネスユーザー – Lite (sn_grc.business_user_lite) は、アップストリームアプリケーションからポリシー例外を生成するために最低限必要なロールです。

このタスクについて

ポリシーとコンプライアンス管理 のバージョン 10.1 以降、脆弱性対応 アプリケーションのバージョン 10.3 がインストールされている場合は、ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションに固有の GRC ポリシー例外管理機能を使用してポリシー例外を要求できます。UI アクションが自動的にインストールされるため、以下の手順で 脆弱性対応 からポリシー例外を要求する必要はありません。

手順

1. 移動先 すべて > システム定義 > **UI** アクション.
2. UI アクションを作成するテーブルを選択します。
3. **[New]** をクリックします。
4. 次のパラメーターを使用して、新しい UI アクションを作成します。
   - [名前]：ポリシー例外の要求
   - [レコード更新時に表示] チェックボックス：選択済み。
   - [フォームボタン] チェックボックス：選択済み。
   - **Onclick**：popupDispList() 関数呼び出しを入力します。

     > **注:**
     > このフィールドは、[クライアント] オプションが選択されている場合のみ使用できます。

   - 条件：必要な条件を適用します。
   - [スクリプト]：このスクリプトを入力します。

```
function popupDispList(){

        ScriptLoader.getScripts(['sn_compliance.PolicyExceptionUtils.jsdbx'], function() {

                sn_compliance.PolicyExceptionUtils.createPolicyException('incident');

        });
```

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
}
```

注:
createPolicyException 関数の引数は統合に応じて異なります。

5. UI アクションを保存します。
6. ポリシー例外フォームでポリシー例外ターゲットレコードを表示する新しいリストビューを作成するには、KB0783018 を参照してください。

ポリシーの例外を要求するための他のアプリケーションを登録

他のアプリケーションが、問題やインシデントなどのテーブルからポリシー例外を要求できるようにします。統合レジストリでアプリケーションを追加して設定する必要があります。

始める前に
必要なロール：sn_compliance.manager
GRC Business User (sn_grc.business_user) または Business User – Lite (sn_grc.business_user_lite) は、アップストリームアプリケーションからポリシー例外を生成するために最低限必要なロールです。

このタスクについて
New York リリース以降、任意の ServiceNow アプリケーションのユーザーは (GRC) のポリシー例外管理機能を使用してポリシー例外を要求できます。たとえば、ユーザーは、特定の期間解決できないインシデントのグループに関連する問題について、ポリシーの例外を要求できます。ServiceNow アプリケーションで提供されている場合を除き、ポリシー例外を要求できるようにするには、アプリケーションをポリシー例外に登録し、ポリシー例外を要求するための UI アクションを作成する必要があります。

手順
1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > ポリシー例外 > 統合レジストリ.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

ポリシー例外統合レジストリフォーム

フィールド	説明
名前	レジストリエントリの名前を入力します。
ポリシー例外ターゲットテーブル	ポリシー例外が適用されるテーブルを選択します。
適用される例外	例外が適用されるターゲットレコード。オプションは次のとおりです。 ○ 1 つのターゲットレコード：例外が適用されるターゲットレコードを指定します。コンプライアンスデータソースレジストリで評価済みオブジェクトを選択します。 ○ すべてのターゲットレコード：例外が適用されるすべてのターゲットレコード。ポリシー例外が適用されるポリシー例外ターゲットテーブルを指定します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ソースタイプ	[適用される例外] が **[1** つのターゲットレコード] の場合、[コントロール] が自動入力されます。[適用される例外] が [すべてのターゲットレコード] の場合、[コントロール目標] が自動入力されます。
ポリシーのカテゴリ	フィルタリングポリシーのカテゴリを 1 つ以上選択します。たとえば、[脆弱性対応] カテゴリを選択し、そのアプリケーションを使用して例外を要求している場合、すべてのポリシーのリストがそのカテゴリでフィルタリングされるため、時間を節約できます。詳細については、「ポリシーのカテゴリを定義」を参照してください。
エンティティマッピング	
関係	エンティティがポリシー例外 [sn_compliance_policy_exception] テーブルのフィールドである場合は、[参照フィールド] を選択します。 エンティティがポリシー例外テーブルの関連リストにある場合は、[関連リスト] を選択します。
エンティティフィールド	エンティティ [sn_grc_profile] テーブルを指すフィールドの名前を入力します。 このフィールドは、[参照フィールド] を [関係] として選択した場合にのみ表示されます。
マッピングテーブル	ポリシー例外テーブルとエンティティテーブルの間の関係を確立するテーブルを選択します。 このフィールドは、[関連リスト] を [関係] として選択した場合にのみ表示されます。
ポリシー例外ターゲットフィールド	ポリシー例外テーブルを指すマッピングテーブル内のフィールドを選択します。 このフィールドは、[関連リスト] を [関係] として選択した場合にのみ表示されます。
エンティティフィールド	エンティティテーブルを指すマッピングテーブルでフィールドの名前を入力します。
要求ソース **注:** このセクションのフィールドは、ポリシー例外ターゲットテーブル以外のテーブルからポリシー例外を要求する場合にのみ必要です。	
テーブル	ポリシー例外が要求されるレコードを含むテーブルを選択します。
関係	エンティティがポリシー例外 [sn_compliance_policy_exception] テーブルのフィールドである場合は、[参照フィールド] を選択します。エンティティがポリシー例外テーブルの関連リストにある場合は、[関連リスト] を選択します
要求ソース	要求ソーステーブルを指すフィールドを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
フィールド	このフィールドは、[要求ソース] セクションにある [関係] フィールドで [参照フィールド] を選択した場合にのみ表示されます。
マッピングテーブル	ポリシー例外テーブルとエンティティテーブルの間の関係を確立するテーブルを選択します。 このフィールドは、[要求ソース] セクションにある [関係] フィールドで [関連リスト] を選択した場合にのみ表示されます。
ポリシー例外ターゲットフィールド	ポリシー例外テーブルを指すマッピングテーブル内のフィールドを選択します。 このフィールドは、[要求ソース] セクションにある [関係] フィールドで [関連リスト] を選択した場合にのみ表示されます。
要求ソースフィールド	要求ソーステーブルを指すマッピングテーブルでフィールドを選択します。 このフィールドは、[要求ソース] セクションにある [関係] フィールドで [関連リスト] を選択した場合にのみ表示されます。
アンケート詳細	
例外のアンケート	アンケートテンプレートを選択して、要求されたポリシー例外のアンケートを生成します。詳細については、「例外のアンケートを作成」を参照してください。

4. レコードを保存します。

   [理由の選択肢] 関連リストが表示されます。

   注:
   ポリシー例外を要求するユーザーは、理由の選択肢を使用して要求の目的を説明できます。そのため、特定の状況に当てはまる理由を定義してください。詳細については、「ポリシー例外理由の選択肢を定義」を参照してください。

ポリシー例外理由の選択肢を定義

例外を要求するすべてのユーザーが使用可能な理由の選択肢を定義できます。

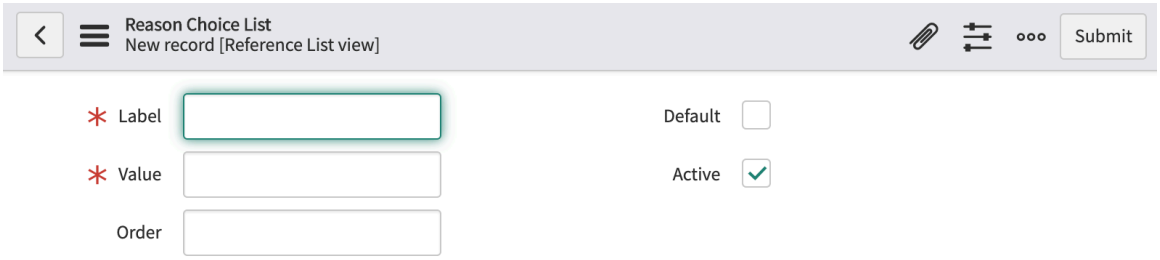
始める前に
必要なロール：sn_compliance.manager

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > ポリシー例外 > 例外理由の選択肢.
2. [**New**] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



3. フォームのフィールドに入力します。

[理由の選択リスト] フォーム

フィールド	説明
ラベル	この選択肢の一意のラベルを入力します。
値	この選択肢の一意の値を入力します。
順序	この選択肢の順序を入力します。理由はこの番号に基づいて順序付けされます。
デフォルト	アドホックポリシー例外が要求されるときには必ずこの理由の選択肢を使用できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。統合レジストリにアプリケーション固有の選択肢が入っていない場合は、[デフォルト] が選択されているすべての理由の選択肢が使用可能になります。
有効	これを選択すると、この選択肢が理由の選択肢のリストに表示されます。

4. [送信] をクリックします。
理由の選択肢が追加され、選択したアプリケーションのポリシー例外要求フォームの [理由] フィールドで使用可能になります。
5. ユーザーが必要とする理由の選択肢の数だけ、このプロセスを繰り返します。

> **注:**
> このプロセスの詳細については、KB0783018 を参照してください。

ポリシーのカテゴリを定義

特定の基準でポリシーをフィルタリングして、ポリシーの例外を作成するときに表示されるポリシーの数を制限できます。

始める前に

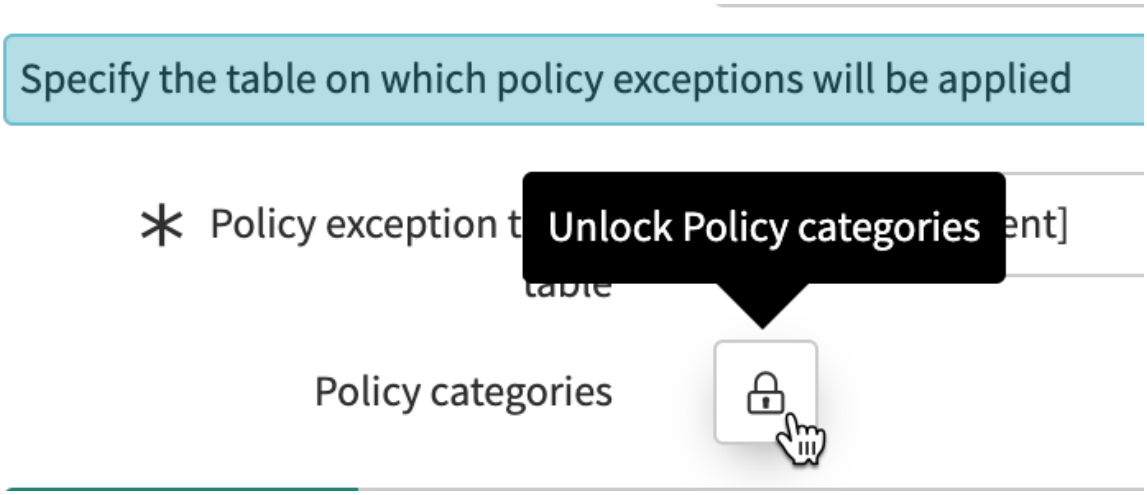
必要なロール：sn_compliance.manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. ポリシー例外統合レジストリを定義するときに、[ポリシーカテゴリ] フィールドのロックアイコンをクリックします。



2. [ポリシーカテゴリ] フォームで、[新規] をクリックします。
3. 定義するカテゴリの名前と説明を入力します。
4. 定義する他のカテゴリについてこの手順を繰り返します。
5. カテゴリの定義が終了したら、ロックアイコンを再度クリックします。
   レジストリを保存すると、定義したポリシーカテゴリがポリシーをフィルタリングするためのポリシーフォームで使用できるようになります。

Example:
Incident および Problem アプリケーションのレジストリエントリを定義し、インシデント [incident] および問題 [problem] をポリシー例外ターゲットテーブルとして選択したとします。また、[インシデント] と [問題] のポリシーカテゴリを作成したとします。

5 つのポリシーを定義し、次のようにタグ付けします。

- ポリシー 1 には [インシデント] のタグが付けられています。
- ポリシー 2 には [インシデント] と **[VR]** のタグが付けられています。
- ポリシー 3 には **[VR]** のタグが付けられています。
- ポリシー 4 には [問題] のタグが付けられています。
- ポリシー 5 はタグ付けされていません。

問題フォームを開き、[ポリシー例外の要求] ボタンをクリックします。例外に関する特定の詳細 (ポリシー、コントロール目標など) を入力するように求められます。

[ポリシー] フィールドで検索アイコンをクリックすると、ポリシー 1、ポリシー 2、およびポリシー 4 のみが表示されます。3 つのポリシーのいずれかを選択して [コントロール目標] フィールドで検索アイコンをクリックすると、そのポリシーに関連するコントロール目標のみが表示されます。

どのポリシーもタグ付けされていない場合は、5 つすべてが表示されます。タグ付けされているポリシーが 1 つだけの場合、そのポリシーはデフォルトで [ポリシー] フィールドに表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例外のアンケートを作成

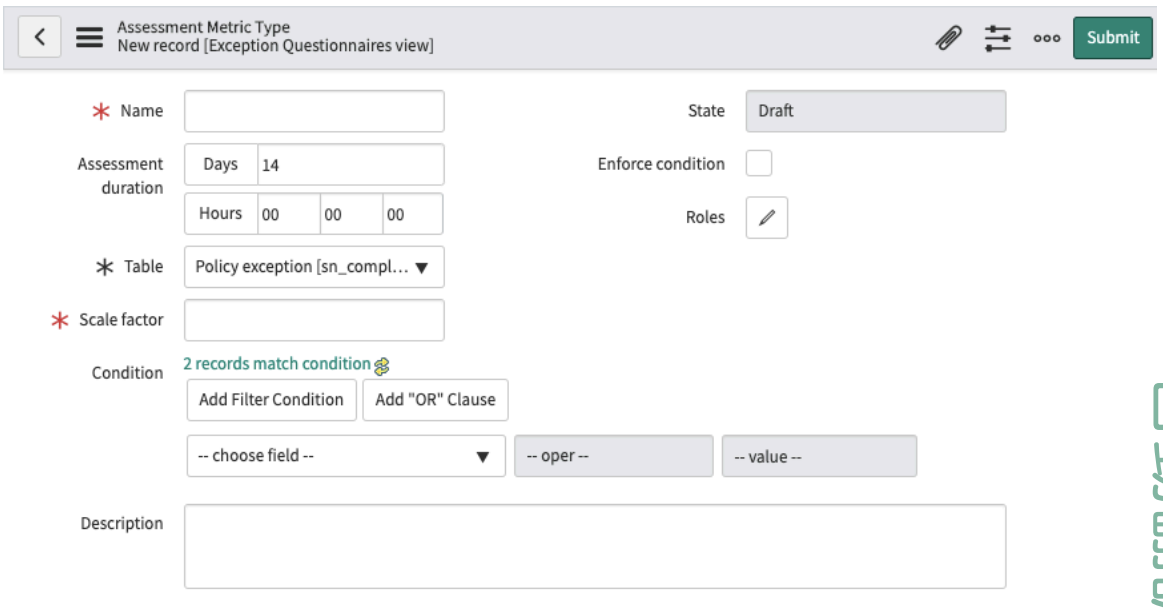
ポリシー例外統合レジストリを設定するときに、テンプレートから作成されたリスクアセスメントに含めることができる構成可能な質問を定義できます。ポリシー例外統合レジストリは、一度に 1 つのテンプレートに関連付けることができます。

始める前に
必要なロール：sn_compliance.attestation_creator

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > ポリシー例外 > 例外のアンケート.

2. [**New**] をクリックします。



> **注:**
> [アセスメントメトリクスタイプ] 画面が開きます。GRC アプリケーションの用語では、アンケートの質問はメトリクスとみなされます。質問のグループはカテゴリです。カテゴリのグループはメトリクスタイプです。

3. フォームのフィールドに入力します。

アセスメントメトリクスタイプフォーム

フィールド	説明
名前	アンケートの名前。
アセスメント期間	アセスメントの作成から完了までの許容時間。
テーブル	アセスメント対象のレコードを含むテーブル。
尺度値	すべてのアンケート結果に使用される尺度値。
状況	アセスメントの公開ステータス：[ドラフト] または [公開]。
条件を強制	選択すると、定義された条件を満たさないすべてのレコードが削除されます。
ロール	アセスメント内の情報への読み取りアクセス権を持つロール。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
条件	選択したテーブルからアセスメント対象のレコードを選択するための条件。詳細については、「条件ビルダー」を参照してください。
説明	この例外アンケートの説明。

4. アンケートレコードを保存します。
5. [証明書デザイナー] をクリックしてアンケートを作成します。
   詳細については、「証明書デザイナー」を参照してください。

ポリシー例外検証ルールを定義

検証ルールは、承認のために送信する前にポリシー例外要求の正確性と完全性を検証するために使用されます。アプリケーションに対して複数のレベルの承認者を定義できます。

始める前に

必要なロール：

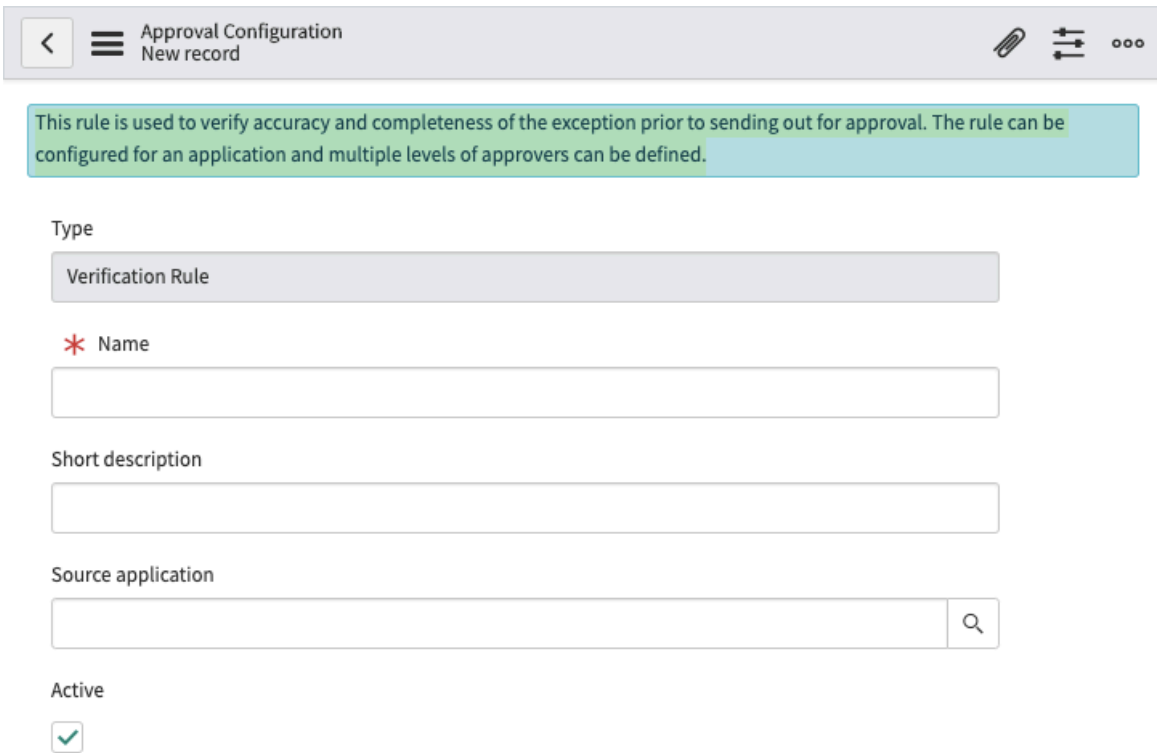
- ポリシー例外検証ルールを作成するには sn_compliance.manager
- アンケートをレビューおよび検証するには survey_reader

このタスクについて

検証ルールの定義はオプションの手順です。検証ルールを定義していないか、定義して有効にしていない場合、要求者のチームからの承認は必要ありません。
GRC Approval Configurator を使用してポリシー例外ルールを構成することもできます。詳細については、「ポリシー例外と拡張ルールの定義」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > ポリシー例外 > 検証ルール.
2. **[New]** をクリックします。



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

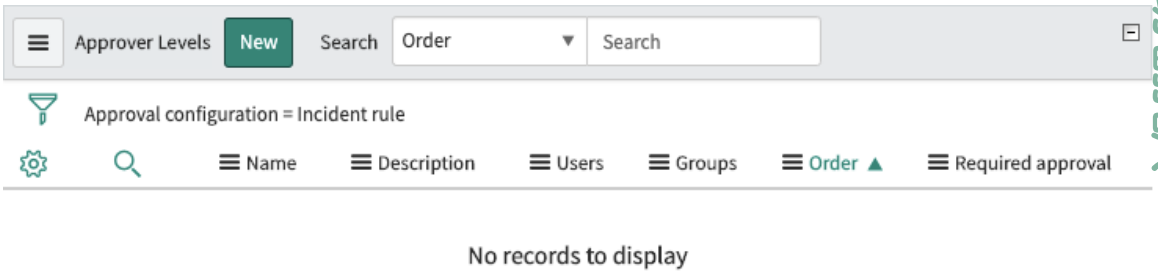
3. フォームのフィールドに入力します。

[承認構成] フォーム

フィールド	説明
タイプ	デフォルトは検証ルールです。
名前	この承認構成の名前を入力します。
簡単な説明	構成の目的の簡単な説明を入力します。
ソースアプリケーション	この検証ルールに適用されるアプリケーションを選択します。以前に統合レジストリに追加されたアプリケーションのみがリストされます。
有効	これが選択されている場合、この検証ルールはアクティブであり、要求者には、承認のためにコンプライアンスマネージャーに送信する前に初期承認を要求するオプションがあります。

4. [更新] をクリックします。

[承認者レベル] 関連リストが表示されます。この関連リストを使用すると、ルールに対して複数の承認者レベルを定義できます。レベルごとに 1 人以上のユーザーまたはユーザーグループを承認者として選択できます。承認者には survey_reader ロールがアサインされている必要があります。選択したすべてのユーザーに対して例外の承認を必須にすることもできれば、オプションとして単一のユーザーがすべての承認者の代理として承認できるようにすることもできます。



5. [送信] をクリックします。
ポリシー例外レコードが [検証処理待ち] ステータスに移行すると、指定された承認者に承認が必要であることが通知されます。ポリシー例外要求のいずれかのフィールドが要求者によって入力されなかった場合 (ポリシーやコントロール目標など)、それらのフィールドは承認者にとって必須になります。承認者が要求をレビュー、完了、および承認すると、[分析] 状況に移行し、さらに分析および承認するためにコンプライアンスマネージャーにアサインされます。

ポリシー例外承認ルールを定義

承認ルールは、例外の承認要求を送信するために使用される基準 (リスク評価、ポリシー、またはコントロール目標) を定義します。ルールはアプリケーションに対して設定でき、必要に応じて複数のレベルの承認者を指定できます。

始める前に
必要なロール：sn_compliance.manager

このタスクについて
レビュー後に承認を自動または手動で送信するように構成することができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

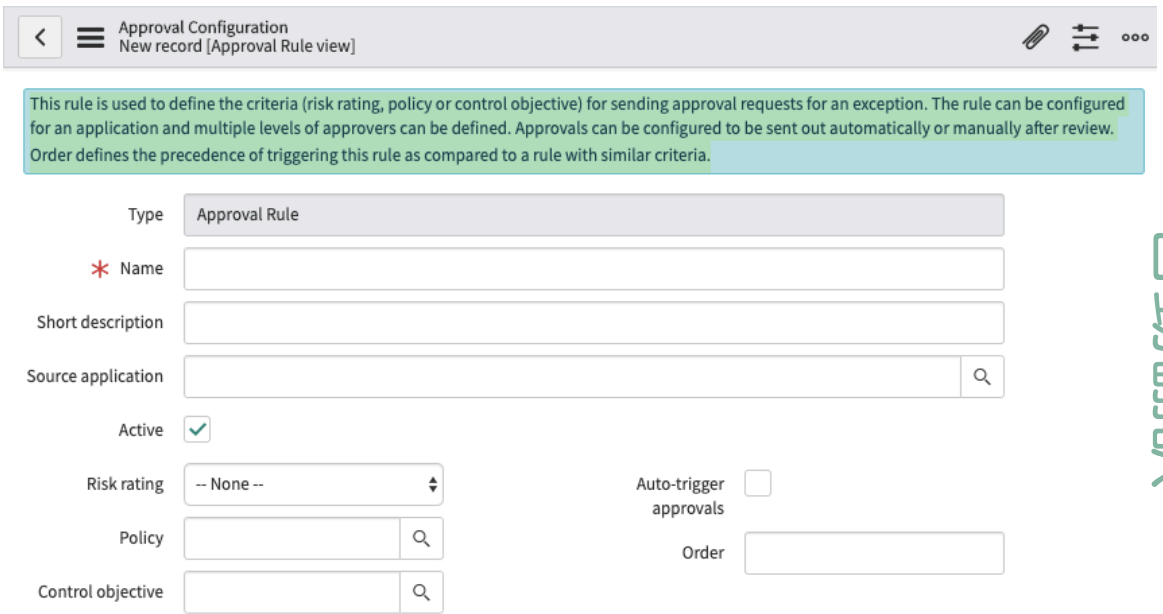
注:
ポリシー例外がアップストリームアプリケーション (例：脆弱性対応) から作成された場合、承認を要求する前に、影響を受けるコントロールがポリシー例外に存在する必要があります。

ポリシーとコンプライアンス管理 を使用して作成されたポリシー例外の場合、ポリシーとコントロール目標の両方が例外フォームに追加されている場合でも、影響を受けるコントロールが存在しないポリシーに対して例外を要求できます。ただし、コントロール目標のみに対して作成されたポリシーの例外の場合、承認を要求する前に、影響を受けるコントロールが存在する必要があります。

GRC Approval Configurator を使用してポリシー例外ルールを構成することもできます。詳細については、「ポリシー例外と拡張ルールの定義」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > ポリシー例外 > 承認ルール.
2. [**New**] をクリックします。



3. フォームのフィールドに入力します。

[承認構成] フォーム

フィールド	説明
タイプ	デフォルトは承認ルールです。
名前	この承認構成の名前を入力します。
簡単な説明	構成の目的の簡単な説明を入力します。
ソースアプリケーション	この承認ルールに適用されるアプリケーションを選択します。以前に統合レジストリに追加されたアプリケーションのみがリストされます。
有効	これを選択すると、この承認ルールが有効になります。

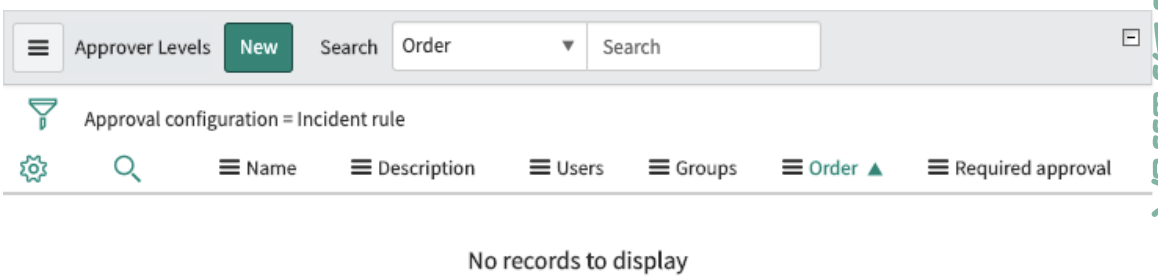
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
リスク評価	リスク評価は、ポリシー例外でリスクアセスメントを実行することによって決定されます。
ポリシー	このポリシー例外が適用されるポリシーを選択します。
コントロール目標	選択したポリシーを参照するコントロール目標を選択します。
承認を自動トリガー	レビューの完了後にすべての承認を自動的にトリガーするには、このチェックボックスをオンにします。選択しない場合、コンプライアンスマネージャーはこのルールによって定義された承認を手動でトリガーできます。
順序	順序では、例外に適用可能であり、同様の基準で定義される別のルールと比較してこのルールをトリガーする優先順位を定義します。

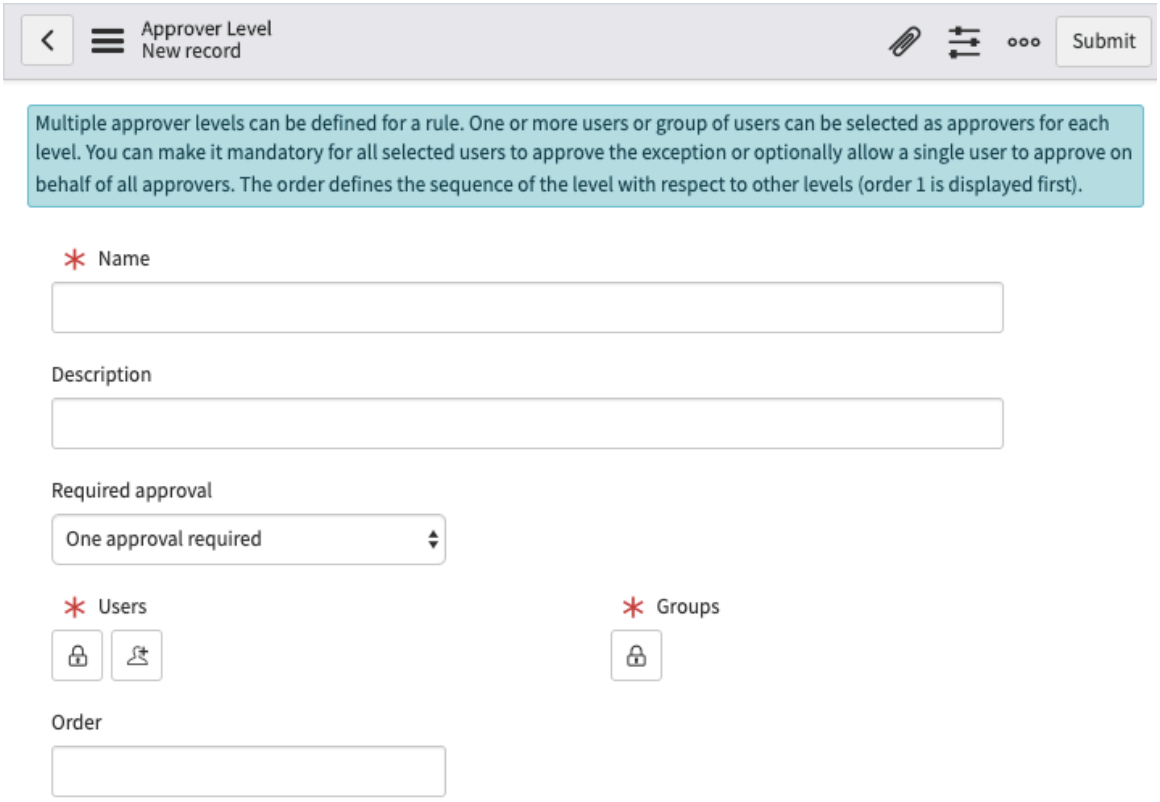
4. [更新] をクリックします。

[承認者レベル] 関連リストが表示されます。この関連リストを使用すると、ルールに対して複数の承認者レベルを定義できます。レベルごとに 1 人以上のユーザーまたはユーザーグループを承認者として選択できます。承認者には survey_reader ロールがアサインされている必要があります。選択したすべてのユーザーに対して例外の承認を必須にすることもできれば、オプションとして単一のユーザーがすべての承認者の代理として承認できるようにすることもできます。



5. [新規] をクリックします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. フォームのフィールドに入力します。

[承認者レベル] フォーム

フィールド	説明
名前	この承認レベルの名前を入力します。
説明	承認レベルの簡単な説明を入力します。
承認が必要	単一のユーザーがすべての承認者の代わりに承認できるようにするには、[承認が **1** 回必要] を選択します。 指定されたすべてのユーザーが選択を承認することを必須にするには、[すべてのユーザーの承認が必要] を選択します。
ユーザー	ポリシー例外承認者として機能する 1 人以上のユーザーを選択します。
グループ	ポリシー例外承認者として機能する 1 つ以上のグループを選択します。 **注:** グループに属するユーザーには、GRC ビジネスユーザー (sn_grc.business_user) ロールが必要です。
順序	他のレベルとの関連で使用されるレベルのシーケンスを決定する順序を選択します (順序 1 が最初に表示されます)。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. [送信] をクリックします。
   [承認を自動トリガー] チェックボックスをオンにすると、指定された承認者に承認が必要であることが通知されます。または、コンプライアンスマネージャーが [承認用に送信] ボタンをクリックすると、承認者に通知されます。

GRC Approval Configurator でポリシーの例外と延長を定義する

コンプライアンスマネージャーは、GRC 承認コンフィギュレーターを使用して、詳細なマルチレベル承認 作業フロー) のポリシー例外と拡張を定義できます。GRC Approval Configurator は、 ガバナンス、リスク、コンプライアンス アプリケーション内のツールです。

GRC Approval Configurator の概要

ポリシー例外は、通常、定義されたビジネス上の理由または問題への対応のために、標準のポリシーまたは手順から逸脱するための正式な一時的な承認です。ポリシー延長は、既存のポリシー例外の期間を延長する要求であり、状況の再アセスメントと場合によっては別の承認が必要です。どちらのプロセスも GRC Approval Configurator を使用して処理できます。

GRC Approval Configurator を使用すると、例外と拡張の承認ルールを定義し、指定されたユーザーまたはグループに承認をアサインし、マルチレベルの承認フローを実装できます。例外と延長の要求は、レコード内の設定されたルールとデータに基づいて自動的にルーティングされ、承認者はワークスペース内で直接延長を承認または却下できます。

ポリシーの例外と延長に GRC Approval Configurator を使用するメリット

GRC Approval Configurator には、ポリシーの例外と延長を管理する次の利点があります。

- カスタマイズされた承認プロセス:例外タイプ、要求者ロール、ポリシードメインなどの特定の条件に基づいてカスタマイズされた承認ルールを作成します。このプロセスは、承認ワークフローを制御し、各要求が適切に評価されていることを検証するのに役立ちます。
- マルチレベル承認:徹底的なレビューと説明責任を可能にするために、連続する承認レベルを含むワークフローを構成します。ワークフローには、コンプライアンスマネージャー、該当分野のエキスパート (SME)、指定された承認者などのさまざまなステークホルダーを含めることができます。
- 動的なルールベースの承認:動的な条件に基づくマルチレベルの承認ルールを設定します。たとえば、承認ワークフローは、ソースレコードのフィールドから選択されたユーザーまたはグループに送信したり、手動で選択したユーザーまたはグループに割り当てたりすることができます。各レベルで 1 つの承認のみを要求するか、すべての承認を要求するかを構成することもできます。
- 自動ルーティング:構成されたルールに基づいて関連する承認者に例外要求と延長要求を自動的に送信します。自動ルーティングにより、手作業が削減され、遅延が最小限に抑えられます。
- ワークスペースの統合:承認者がワークスペース内で直接要求を確認して対処できるため 明確な監査記録を維持し運用効率を向上させることができます 。

ポリシー例外承認のワークフロー

ポリシー例外承認プロセスは、次の状況で構成されます。

- 新規:ポリシー例外が作成されると、[新規] ステータスになります。

  この段階で、例外要求が正当であるかどうかを検証するために検証承認がトリガーされます。これらの承認は、検証構成テンプレートを使用して作成されます。

- 分析:検証が完了し、(検証ルールに基づいて) 承認された後、要求は [分析] ステータスに移行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このステータスでは、コンプライアンスマネージャーが要求を評価します。追加のドメイン固有のインサイトが必要な場合は、さらに分析するために [レビュー] ステータスに移行するか、SME からの入力を要求することができます。

- レビュー:このステータスでは、要求は技術的な検証のために SME によって詳細にレビューされます。
- 承認待ち:SME 入力が収集された後、要求は [承認待ち] ステータスになり、(最終承認構成ルールに基づいて) 指定された承認者から最終承認を収集します。
- 承認済み:最終承認後、ポリシー例外は [承認済み] としてマークされ、アクティブになります。
- クローズ済み:例外が不要になると、[クローズ済み] ステータスに移行します。

ポリシー延長承認のワークフロー

同様の承認プロセスを使用して、承認された延長を延長できます。拡張要求は、同じ GRC Approval Configurator を使用してルーティングされます。延長要求を承認または却下するには、複数の承認者またはグループ を構成できます。

ポリシーの例外と延長を構成するために必要なロール

ポリシーの例外と延長を設定するには、次のロールが必要です。

- 承認ルールを作成するsn_compliance.manager。
- sn_grc.business_user または sn_grc.business_user_lite を使用して、例外レコードと拡張レコードを表示します。

ポリシーの例外と延長の構成

必要なロールを取得したら、Approval Configurator を使用してポリシーの例外と延長を構成できます。

- [ポリシーとコンプライアンスのプロパティ] ページで、GRC 承認コンフィギュレーターを有効にします。詳細については、「GRC Approval Configurator を有効にする」を参照してください。
- ポリシー例外と延長の承認ルールを構成します。詳細については、「ポリシー例外と拡張ルールの定義」を参照してください。

GRC Approval Configurator を有効にする

GRC 承認コンフィギュレーターを有効にして、詳細なマルチレベルの承認フローでポリシーの例外と延長を管理できるようにします。

始める前に
必要なロール：sn_compliance.manager

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > プロパティ.
2. [ポリシー例外の従来のルールと検証ルールの代わりに **GRC** 承認コンフィギュレーターを有効にする **(Enable GRC Approval Configurator instead of legacy and verification rules for policy exception**)] プロパティを見つけて、[はい] を選択します。
3. **[Save** (保存)] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポリシー例外と拡張ルールの定義

GRC Approval Configurator を使用して、ポリシーの例外と延長の詳細な承認ルールを構成します。

始める前に

必要なロール:ポリシー例外と拡張ルールを作成するための sn_compliance.manager。

手順

1. 移動先 すべて > アサイン構成および承認構成 > 承認構成.
   GRC Approval Configurator には、検証、最終承認、および拡張用のデフォルトのテンプレートが付属しています。それぞれに優先度が設定されています。デフォルトでは、検証構成は優先度 1、承認構成は優先度 2、拡張承認構成は優先度 3 に設定されます。
2. 必要な構成テンプレートを選択します。
3. フォームで、フィールドに入力します。

[承認構成] フォーム

フィールド	説明
名前	この構成の名前。
アクティブ	構成を有効にするオプション。
適用先	[ポリシー例外 **(sn_compliance_policy_exception)]** オプションが選択されていることを確認します。
ドメイン	承認フローに関連付ける必要がある機能グループまたはロール。
フィルター条件	構成をアクティブ化するタイミングを定義するフィルター条件。使用可能な値は、ポリシー例外テーブルから取得されます。[ステータス] 条件と [サブステータス] 条件の両方を設定する必要があります。複雑な条件セットを作成するには、AND や OR などの論理演算子を使用します。

4. [承認レベル] テーブルで [新規] を選択して、承認レベルを構成に追加します。
   a. 名前を入力します。
   b. レベルを割り当てます。
   c. **[Submit** (送信)] を選択します。
   構成に複数のレベルを追加できます。各レベルには、独自のルール、アサインされたユーザーまたはグループ、およびトリガー条件を設定できます。
5. 作成した承認レベルを選択し、[新規] を選択してルールを承認レベルに追加します。
   a. フォームで、フィールドに入力します。

ルール構成フォーム

フィールド	説明
名前	このルールの名前。
説明	ルールの説明。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ソース	ルール評価用のテーブルソース。
他の条件	追加のフィルターを適用してソーステーブルを絞り込むオプション。
フィールドを使用するクエリー	一致する承認条件をクエリするソースレコードのフィールド。
承認タイプ	承認タイプオプション: ▪ 特定の承認者:個々のユーザー、グループ、またはその両方を承認者として直接選択します。このオプションを使用すると、動的またはソースベースのロジックに依存せずに承認者を手動でアサインできます。 ▪ ソースからの承認:ソーステーブルの値に基づいて承認者を選択します。ユーザーフィールド、グループフィールド、またはその両方を選択して、ソースレコードから承認者を動的に決定できます。 ▪ 動的承認者:ソースを使用して承認者を動的に定義します。静的または高度な動的条件を適用して承認者をフィルタリングします。ユーザーフィールド、グループフィールド、またはその両方を選択して、承認するユーザーを決定できます。 ▪ スクリプト化済み承認者:スクリプトを使用して、プログラムで承認者を決定します。スクリプトは、users と groups の変数を入力する必要があります。
[Approval required from (必要な承認者)]	承認オプション:選択したすべてのユーザーが例外を承認することを必須にする場合は 、[すべて] を選択します。[任意のユーザー] を選択すると、1 人のユーザーがすべての承認者の代わりに承認できます。

b. **[Submit** (送信)] を選択します。

ポリシー延長承認ルールの定義

[ポリシーとコンプライアンスのプロパティ] ページから GRC Approval Configurator を有効にして、ポリシー延長承認に対して複数の承認者を許可し、単一のデフォルト承認者 (コンプライアンスマネージャー) を置き換えます。

ポリシー延長承認の柔軟性を高めるには、[ポリシーとコンプライアンスのプロパティ] ページから **GRC** 承認コンフィギュレーターを有効にします。この構成では、複数の承認者を指定できるため、単一の既定の承認者 (コンプライアンスマネージャー) に依存するという以前の制約が克服されます。

詳細については、「GRC Approval Configurator でポリシーの例外と延長を定義する」を参照してください。

GRC Approval Configurator を有効にするには、「 GRC Approval Configurator を有効にする」を参照してください。

ポリシー拡張承認ルールを構成するには、「 ポリシー例外と拡張ルールの定義」を参照してください。

ポリシーとコンプライアンス管理 の使用

ポリシーとコンプライアンス管理アプリケーションの機能を使用して、ポリシー、コントロール目標、およびコントロールを作成し、それらを規制や業界のガイドラインにマッピングすることができます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

のクラシック UI ポリシーとコンプライアンス管理

引き続きクラシック環境を使用して、ポリシーとコンプライアンス管理 のすべてのアクティビティを実行できます。

特定のロールを持つコンプライアンスマネージャーまたはコンプライアンスユーザーは、コントロール目標、ポリシー、ポリシーの例外と延長、問題などの管理のような ポリシーとコンプライアンス管理 関連タスクを実行できます。

コントロール目標とポリシーを管理

ポリシーおよび手順モジュールには、ポリシー承認、ポリシー、およびコントロール目標に関連する概要と詳細情報が含まれています。

ポリシーおよび手順の概要

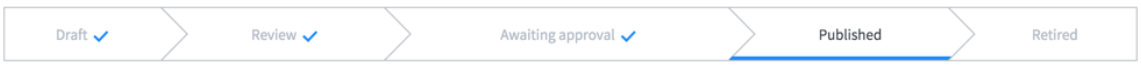
ポリシーと手順の概要は、ポリシーと手順モジュールに含まれており、コンプライアンス要件、全体的なコンプライアンス、およびコンプライアンスのブレークダウンに関するエグゼクティブビューを提供するため、問題のある領域をすばやく特定できます。コンプライアンスアドミニストレーターおよびコンプライアンスマネージャーのロールを持つユーザーは、[ポリシーと手順の概要] を表示します。

ベースシステムのポリシーおよび手順の概要レポート

名前	ビジュアル	説明
コンプライアンスのコントロール	ドーナツグラフ	システム内のすべてのコントロールの全体的なコンプライアンスを表示します。
コントロールの詳細	ドーナツグラフ	オーナー、カテゴリ、またはタイプ別にグループ化されたコントロールのブレークダウンを表示します。
コントロールの概要	縦棒グラフ	各ポリシーに関連するコントロールの総数を表示します。グラフは積み重ねられて、各ポリシーの全体的なコントロールコンプライアンスステータスを表示します。
ポリシー別のコントロール問題 (オープン日)	線グラフ	毎週オープンされたコントロールの問題の数をポリシー別にグループ化して表示します。
ポリシー例外	リスト	受け入れの応答値でクローズされた (問題が修正されなかったことを意味する) コントロールの問題のリストを表示します。
ポリシー別の合計コントロール目標	棒グラフ	各ポリシーのコントロール目標の総数を表示します。グラフは、タイプ別にコントロール目標を表示するために積み重ねられます。

ポリシー承認プロセス

ポリシーは、コンプライアンスを確保し、リスクへのエクスポージャーを減らす厳格な承認プロセスの一部です。ポリシーは、公開されると、承認プロセスに自動的に組み込まれます。コンプライアンスマネージャーは、ポリシーの有効期間を設定し、チームがポリシーを頻繁にレビューしてその有効性を確認できるようにします。ポリシーには、ポリシー、手順、標準、計画、チェックリスト、フレームワーク、テンプレートなどのタイプがあります。



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポリシー承認状況

状況	説明
ドラフト	すべてのポリシーは [ドラフト] ステータスで開始されます。このステージでは、すべてのコンプライアンスユーザーがポリシーとコントロール目標を変更できます。
レビュー	オーナー、所有グループ、およびレビュー担当者がポリシーとコントロール目標を変更し、次のステータスに送信できます。
承認待ち	このステータスでは、ポリシーは読み取り専用です。承認済みポリシーは [公開] ステータスに移行します。未承認のポリシーは [レビュー] に戻ります。ポリシーフォームで承認者が特定されていない場合、ステータスはスキップされ、ポリシーは承認なしで公開されます。
公開	承認されたポリシーは、テンプレートで定義された KB 記事に自動的に公開され、ポリシーは読み取り専用ステータスのままになります。ポリシーフォームの [有効期限] フィールドで、ポリシーの有効期間を定義します。 **注:** ポリシーが公開された後、ポリシーの有効期限終了日に達すると、*Number of days after reaching a policy "Valid to" date in which the expired policy will automatically move from its Published state back to a Draft/Review state* プロパティの値に基づいて、ポリシーはドラフト/レビュー状況に戻ります。たとえば、プロパティの値が 10 の場合、ポリシーは有効期限の 10 日後にレビュー状況に戻ります。 ポリシーが [レビュー] ステータスの最後に達し、公開 が承認され ると、そのポリシーは GRC ナレッジベースに自動的に公開されます (ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > プロパティ . ポリシーフォームの [記事テンプレート] フィールドで、公開されるポリシーのスタイルを定義します。
廃止	ポリシーが [廃止] ステータスになると、関連する KB 記事が削除されます。

ポリシー

コンプライアンスマネージャーは、一連のビジネスプロセス、手順、または標準を定義する内部ポリシーをカタログ化して公開します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コントロール目標

コンプライアンスマネージャーは、コントロール目標をカタログ化し、それらのコントロール目標からコントロールを生成します。

注:
UCF では、コントロール目標をコントロールとして参照します。UCF データをインポートすると、コントロールがコントロール目標テーブルにインポートされます。

ポリシーの作成

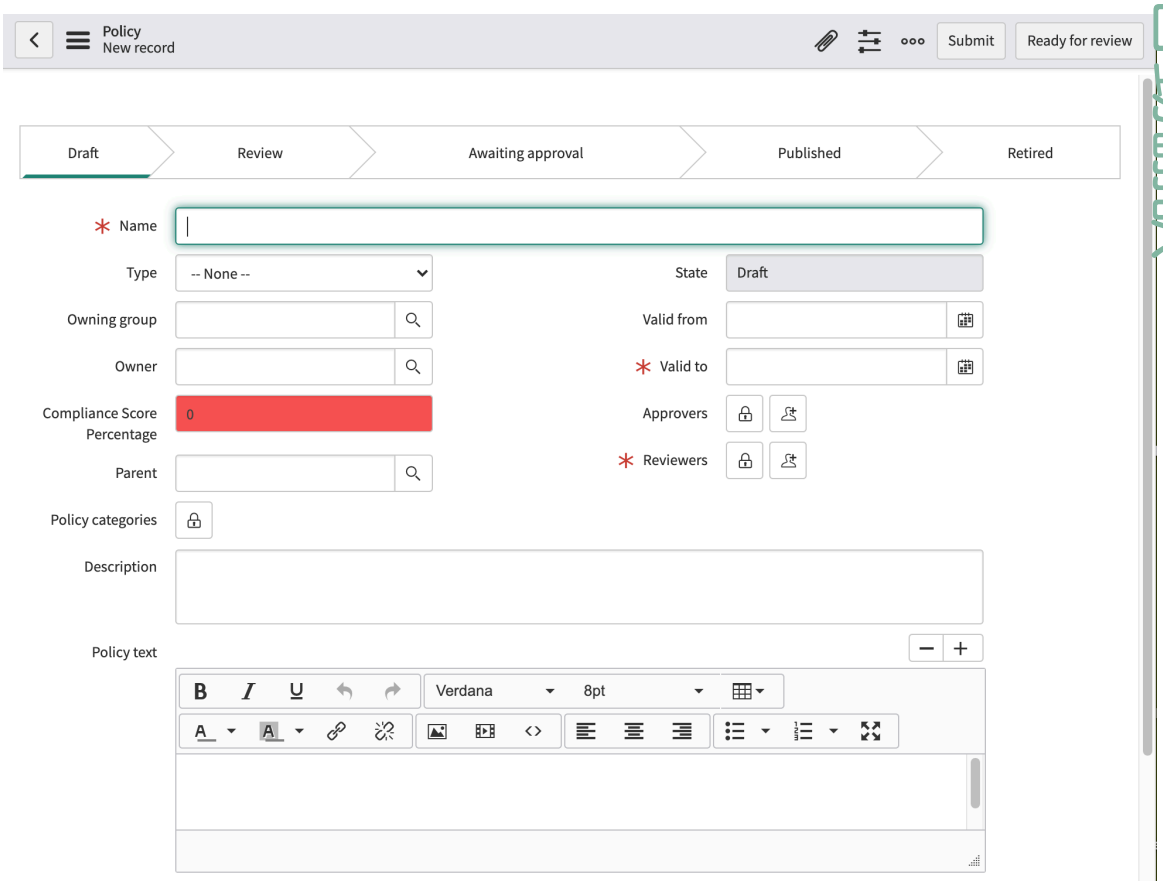
ポリシーは、プロセスが従う必要のある組織内のプラクティスを定義します。ポリシーは、ポリシー、手順、標準、計画、チェックリスト、フレームワーク、およびテンプレートとして定義されます。

始める前に
必要なロール：sn_compliance.admin または sn_compliance.manager

コンプライアンスユーザー (sn_compliance.user) ロールを持つユーザーもポリシーを作成できます。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > ポリシーおよび手順 > 方針.
2. [**New**] をクリックします。



3. フォームのフィールドに入力します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポリシー

フィールド	説明
名前	ポリシーの名前。
タイプ	オプションのリスト： ○ ポリシー ○ 手順 ○ 標準 ○ プラン ○ チェックリスト ○ フレームワーク ○ テンプレート
所有グループ	ポリシーを所有するグループ。
所有者	ポリシーを所有するユーザー。
コンプライアンススコア (%)	このポリシーにアサインされたコンプライアンススコア (%)。
親	このポリシーを含むポリシー。ポリシー内からコントロール目標を作成すると、このフィールドは自動的に入力されます。
ポリシーのカテゴリ	ロックアイコンをクリックし、フィルタリングポリシーのカテゴリを 1 つ以上選択します。たとえば、[脆弱性対応] を選択して、そのアプリケーションに関連付けられたポリシーを表示します。
ステータス	ステータスは読み取り専用フィールドです。利用可能な選択肢は次のとおりです。 ○ ドラフト このステータスでは、すべてのコンプライアンスユーザーがポリシーとコントロール目標を変更できます。すべてのコンプライアンスユーザーは、 、[レビューを要求] ボタンをクリックできます。[レビューを要求] ポップアップにメッセージを入力し、[要求] をクリックすると、ステータスが [レビュー] に設定されます。 ○ [レビュー] このステータスでは、オーナー、所有グループ、およびレビュー担当者がポリシーとコントロール目標を変更できます。所有者、所有グループ、およびレビュー担当者は、[承認を要求] をクリックし、承認者リストのユーザーに承認を送信してワークフローを開始します。オーナー、所有グループ、およびレビュー担当者は、[ドラフトに戻る] をクリックして、ポリシーも [ドラフト] に戻します。 ○ [承認待ち] このステータスでは、ポリシーとコントロール目標はすべて読み取り専用です。承認者は、ポリシーフォームの [承認] 関連リストで承認ステータスを更新するか、[自分の承認] を表示してポリシーを承認できます。ポリシーが承認されると、ポリシーは [公開] ステータスになります。それ以外の場合は、[レビュー] ステータスに戻ります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ [公開] このステータスでは、ポリシーとコントロール目標はすべて読み取り専用です。アドミニストレーターは [廃止] をクリックすると、ポリシーのステータスが [廃止済み] に設定されます。 ○ [廃止済み] このステータスでは、ポリシーはすべてに対して読み取り専用です。
有効期間開始日	ポリシーが有効になる日時を指定します。
有効期間終了日	ポリシーの有効期限となる日時を指定します。 **注:** デフォルトでは、ポリシーの有効期限が切れても、新しい承認プロセスは自動的にトリガーされません。代わりに、指定された日数 (ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > プロパティ ページ) が過ぎました。 この期間が過ぎると、ポリシーは [レビュー] ステータス (レビュー担当者がアサインされている場合) または [ドラフト] ステータス (レビュー担当者がアサインされていない場合) に移行します。 日数を指定するフィールドには、 ポリシーの「有効期限」に達した後、期限切れのポリシーが自動的に公開済みステータスからドラフト/レビューステータスに戻る日数というラベルが付けられます。
承認者	承認プロセスに含めるユーザー。
レビュー担当者	レビュープロセスに含めるユーザーを選択します。
説明	ポリシーの一般的な説明。
ポリシーテキスト	ポリシーの詳細な説明。
ナレッジベース	
ナレッジベース	このポリシーに関連するナレッジベース記事。
KB 記事	ポリシーが公開されている KB 記事番号とリンク。
記事テンプレート	このポリシーの公開に使用する記事テンプレート。
確認応答のセットアップ	
対象者	このポリシーの確認を担当するデフォルトの対象者を選択します。
参照資料 URL	ロックアイコンをクリックして、認定やトレーニング資料などの必要な参照資料の URL を追加します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ポリシーの拒否をユーザーに許可	ポリシーの確認を拒否するオプションをユーザーに提供するには、このチェックボックスをオンにします。
ユーザーに例外を要求することを許可	ポリシーの確認応答の例外を要求するオプションをユーザーに提供するには、このチェックボックスをオンにします。
例外セットアップ	
最大例外期間(日数)	指定されたポリシーに対してポリシー例外を要求できる最大期間を入力します。

4. 次のオプションのいずれかで続行します。
   - ポリシーを保存して送信するには、[送信] をクリックします。
   - ポリシーをレビュー準備完了としてマークするには、、[レビューを要求] をクリックします。

次のタスク
実装している場合 ポリシーとコンプライアンス管理 ソフトウェアを ポリシーとコンプライアンス管理 セットアップチェックリスト をクリックし、次のステップに進みます。

ポリシーを承認および公開

ポリシーが承認されると、自動的に公開されます。

始める前に
必要なロール：sn_compliance.user or sn_compliance.manager

注:
詳細については、次をご覧ください。

- ポリシーについては、「ポリシーとコンプライアンス管理 のポリシーライフサイクルの概要」を参照してください。
- GRC アプリケーションについては、「ガバナンス、リスク、コンプライアンス」を参照してください。

このタスクについて
GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションのバージョン 11.0.2 より前では、ポリシーを変更するたびに、新しいナレッジベース記事が以前のバージョンを上書きしていました。バージョン 11.0.2 以降では、ポリシーを再度承認すると、新しいバージョンの KB 記事が作成され、以前のバージョンの履歴とともに [ポリシーバージョン] タブに一覧表示されます。

この機能では、高度なナレッジ管理インストーラー [com.snc.knowledge_advanced.installer] プラグインを手動でインストールしてアクティブ化する必要があります。詳細については、「プラグインをアクティブ化する」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > ポリシーおよび手順 > 方針.
2. ポリシーレコードを開きます。
3. ポリシーの詳細をレビューします。
4. [承認を要求] ボタンをクリックします。

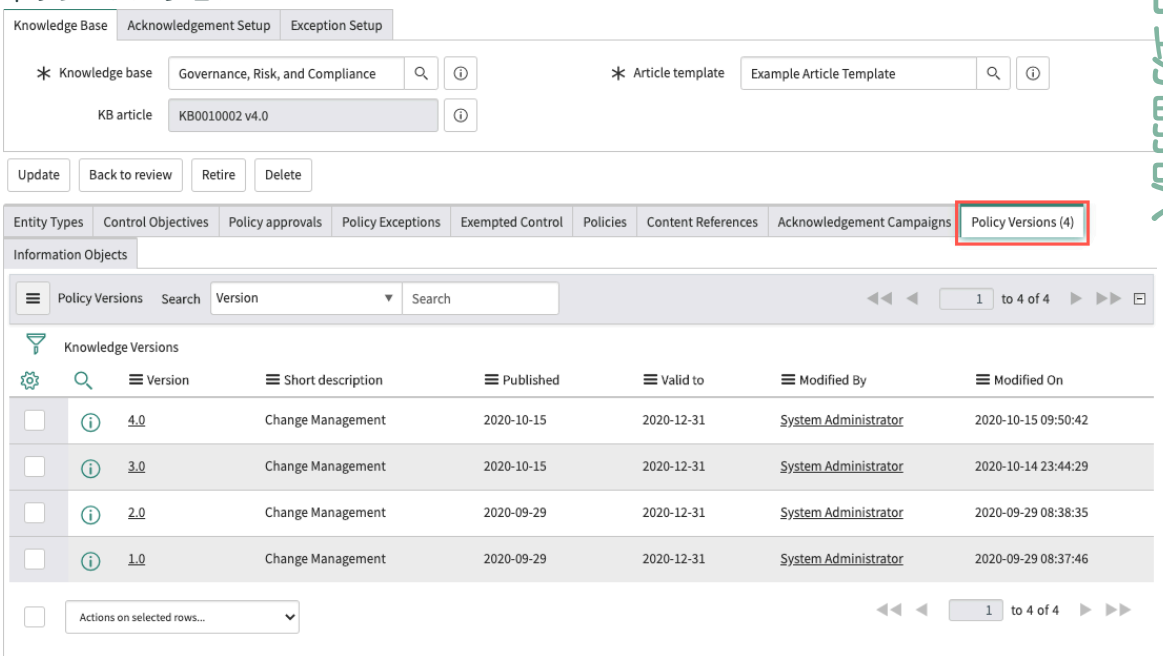
   レビュー担当者はポリシーの承認を要求できません。承認を要求するには、ポリシーオーナーは少なくとも必要な最小限のロールである sn_compliance.user ロールを持っている必要があります。sn_compliance.manager ロールを持つユーザーも承認を要求することができます。

   承認が付与されると、ポリシーが公開され、ポリシーの詳細を含むナレッジベース (KB) 記事が自動的に作成されます。

5. ポリシーを変更する必要がある場合は、[ポリシーを編集] をクリックして、ポップアップにメッセージを入力して、[承認を要求] をクリックします。ポップアップにコメントを追加します。承認が付与されると、ナレッジベース記事の新しいバージョンが作成されます。

   注:
   上記のように、高度なナレッジ管理インストーラー [com.snc.knowledge_advanced.installer] プラグインをアクティブ化すると、KB 記事の新しいバージョンが作成され、以前のバージョンの履歴とともに [ポリシーバージョン] タブに表示されます。

   ポリシーバージョン



   そのため、サービスポータルまたは他の場所からこのポリシーへのリンクを作成すると、KB 記事の最新バージョンが常に表示されます。

ポリシーを確認

ポリシーが公開された後、確認応答キャンペーンを作成して、特定のポリシーが準拠している確認応答を提供する必要がある従業員のグループを定義できます。キャンペーンが定義されたら、対象者に要求を送信できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポリシー確認応答キャンペーンを設定

ポリシーキャンペーンは、ポリシー確認要求の準備に使用されるレコードです。特定のポリシーが準拠していることを確認する必要がある対象者を定義します。ポリシーキャンペーンは、コンプライアンスユーザーが必要と判断した場合にのみ要求されます。

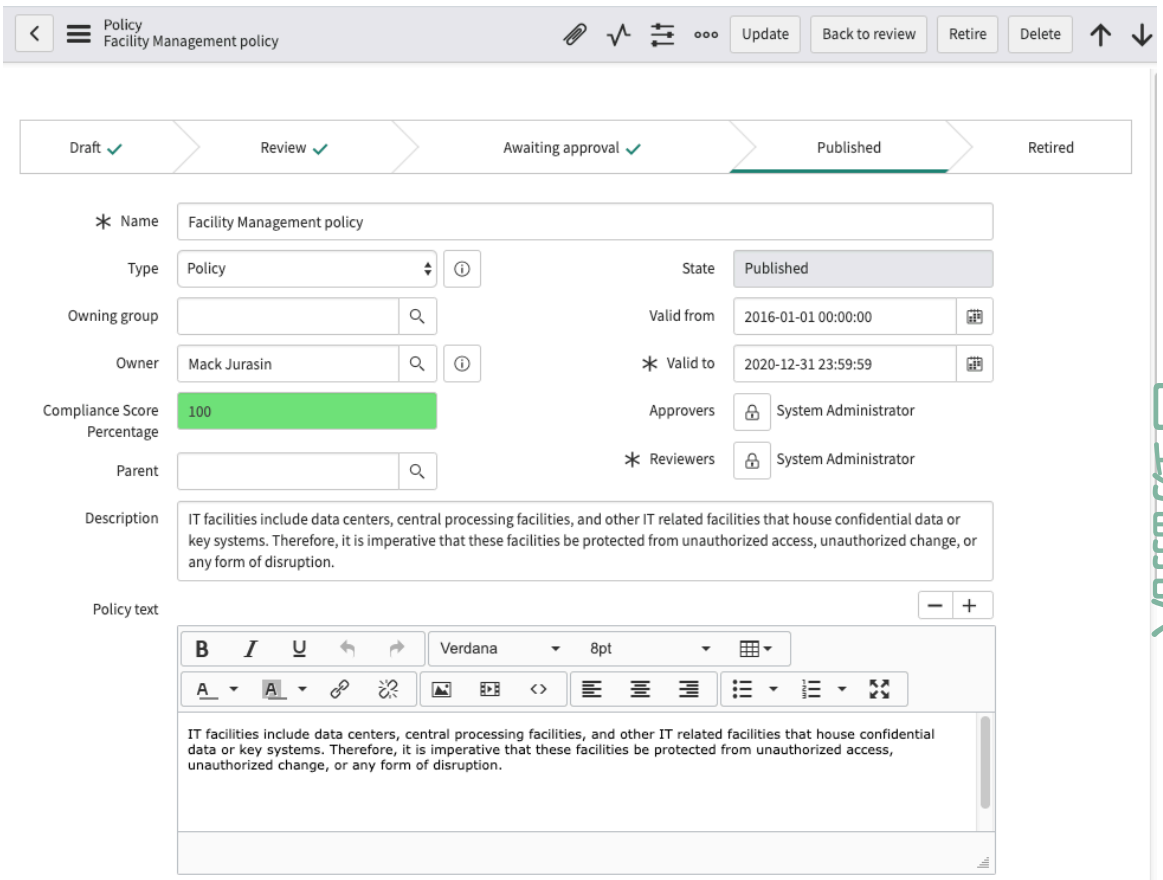
始める前に

必要なロール：コンプライアンスユーザー

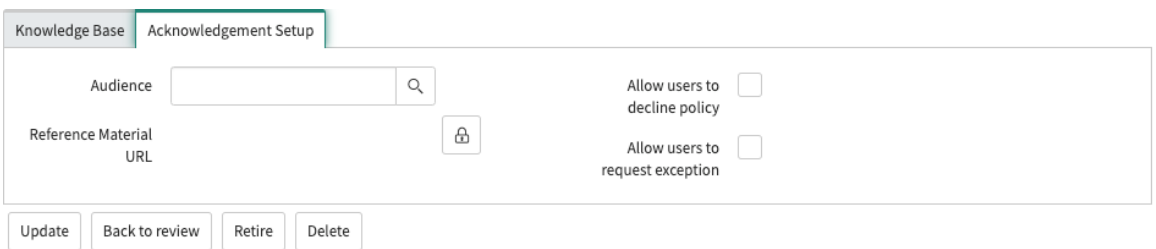
手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > ポリシーおよび手順 > 方針.

2. 確認する [公開] ステータスのポリシーレコードを開きます。



3. 下にスクロールして、[確認応答のセットアップ] 関連リストをクリックします。

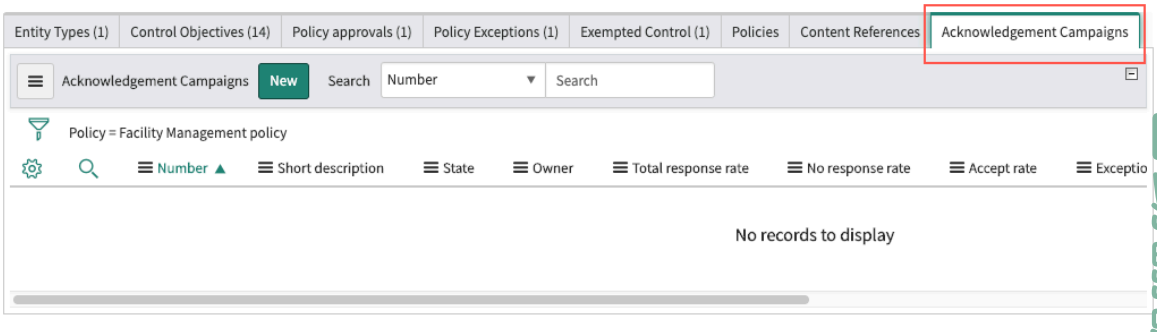


4. フォームのフィールドに入力します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

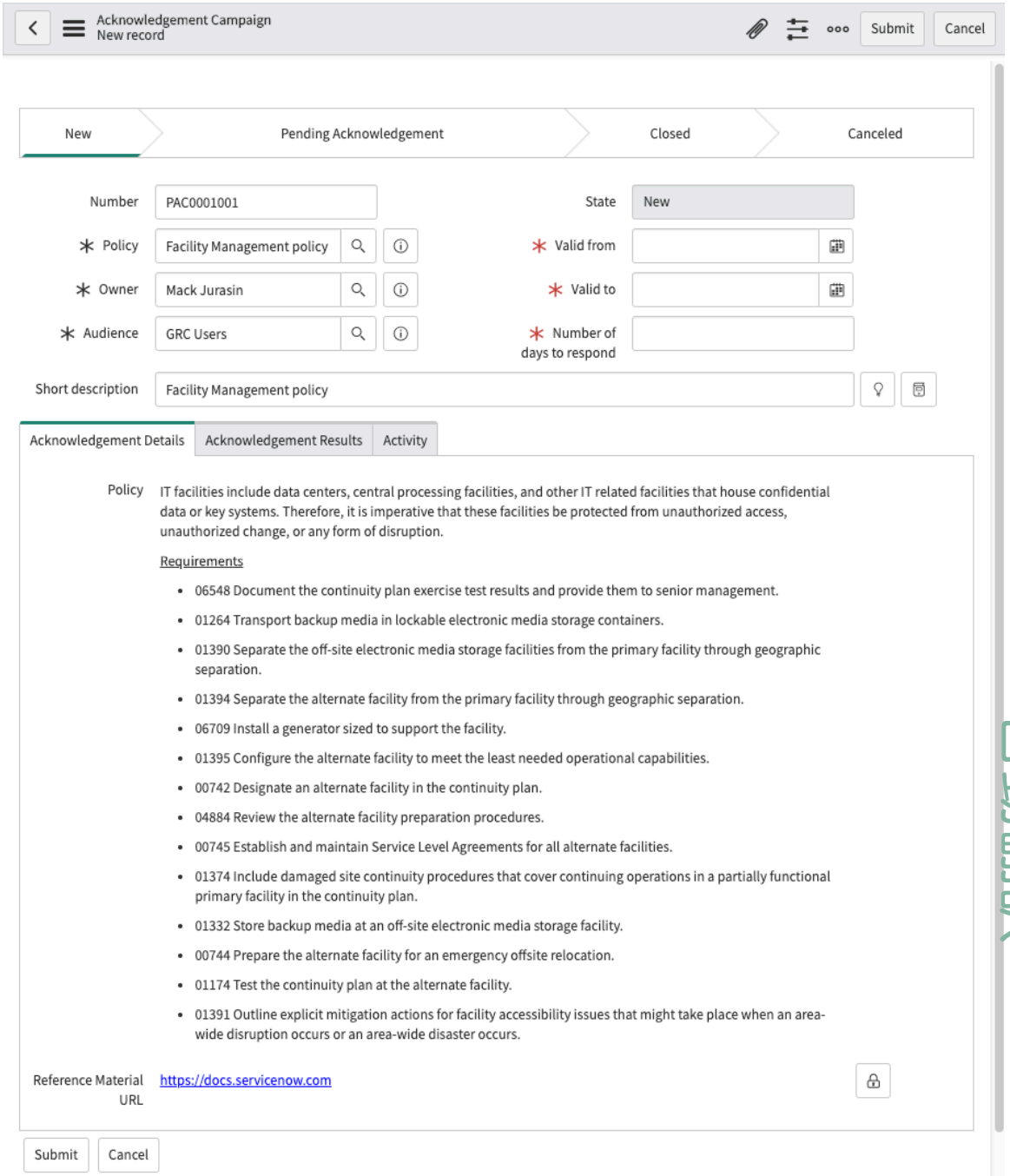
フィールド	説明
対象者	ポリシーの確認を担当する従業員を選択します。対象者は、対象者モジュールを使用して定義します。
参照資料 URL	ロックアイコンをクリックし、対象者がレビューできるポリシーの参照資料への URL を追加します。入力が完了したら、[ロック] アイコンをもう一度クリックします。
ポリシーの拒否をユーザーに許可	対象者のメンバーがポリシーを拒否できるようにする場合に選択します。
ユーザーに例外を要求することを許可	対象者のメンバーがポリシー例外を要求できるようにする場合に選択します。

5. レコードを保存します。
6. 下にスクロールして、[確認応答キャンペーン] 関連リストをクリックします。



7. [新規] をクリックします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



注:
ほとんどのフィールドには、ポリシーレコードのデータが事前に入力されています。

8. フォームのフィールドに入力します。

注:
以前に説明されていなかったフィールドの説明のみがここに表示されます。

フィールド	説明
数値	確認応答に対して自動生成された確認応答レコード番号です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
状況	確認応答キャンペーンの現在のステータス。デフォルトのステータスは [新規] です。
有効期限開始/有効期限	確認応答が有効な期間を選択します。確認応答は、[有効期限開始] の日付の開始から [有効期限] の日付の終了まで有効です。 **注:** [有効期限開始] を現在の日付より前にすることはできません。[有効期限] の日付は、ポリシーで定義された [有効期限] の日付を超えることはできません。
応答する日数	対象者のメンバーが応答しなければならない日数。
簡単な説明	ポリシーの簡潔な説明。
[確認応答の詳細] タブ	このタブには、ポリシーの詳細と要件、および確認応答のセットアップ中に定義された [参照資料 **URL]** が表示されます。

9. [送信] をクリックします。
これで、確認応答要求を定義された対象者に送信する準備ができました。

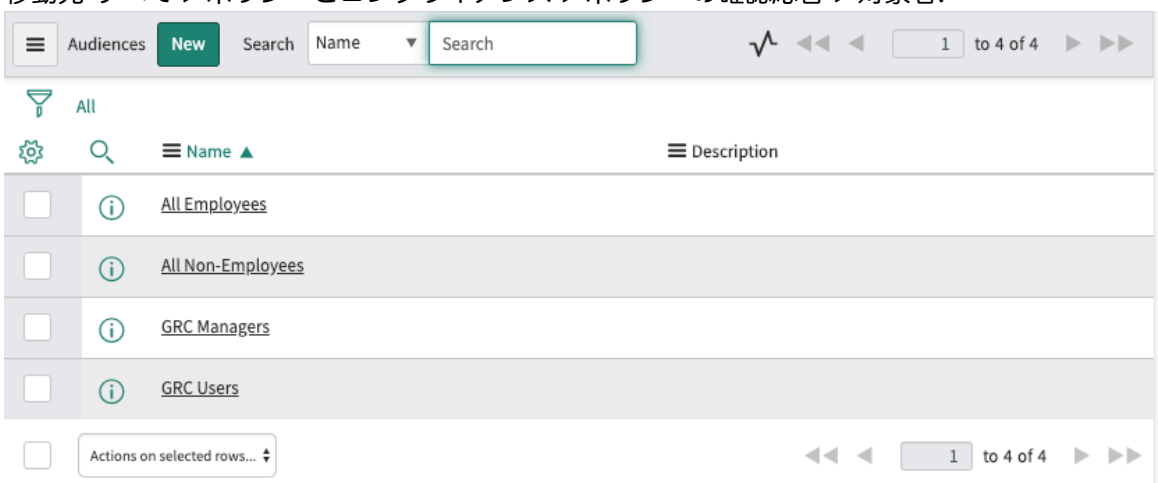
対象者を作成

ポリシーの確認応答要求を設定するときは、確認応答の提供を担当する対象者を特定する必要があります。

始める前に
必要なロール：sn_compliance_admin または sn_compliance_manager

手順

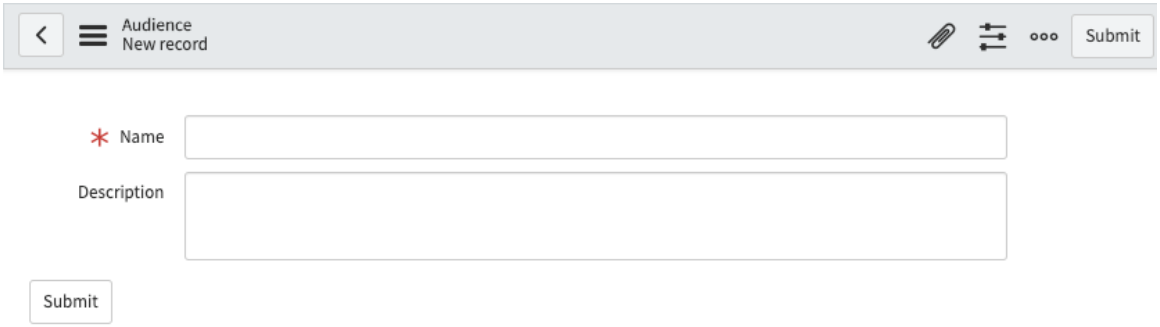
1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > ポリシーの確認応答 > 対象者.



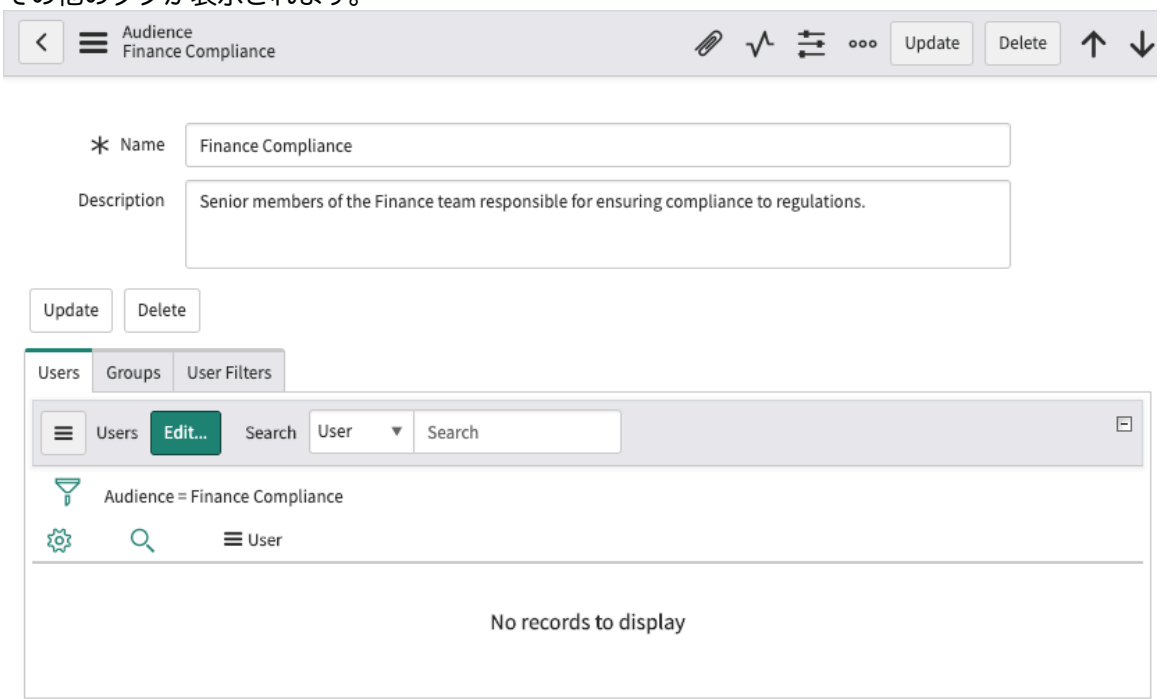
2. [新規] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



3. 新しい対象者の名前と説明を入力し、レコードを保存します。
4. その他のタブが表示されます。



5. 3 つのタブを使用して、この対象者のメンバーを識別します。

オプション	説明
ユーザー	[編集] をクリックし、1 人以上の個々のユーザーを対象者に追加します。
グループ	[編集] をクリックし、ユーザーの 1 つ以上の事前定義されたグループを対象者に追加します。
フィルターを使用	[新規] をクリックして、対象者メンバーを含めるための新しいフィルターを定義します。[編集] をクリックして、既存のユーザーフィルターを変更します。後で使用するためにフィルターを保存できます。

6. 対象者が定義されたら、ユーザー、グループ、またはユーザーフィルターを 確認応答要求に追加できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

確認応答要求を送信

確認応答キャンペーンを作成したら、定義された対象者に確認応答要求を送信できます。

始める前に

必要なロール： sn_compliance.user

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > ポリシーおよび手順 > 自分の確認応答キャンペーン.
2. 定義された対象者に送信するポリシー確認応答キャンペーン (PAC) レコードを開きます。
3. [確認応答のセットアップ] 関連リストで確認応答を設定して保存したことを確認します。
4. [確認応答キャンペーン] 関連リストをクリックします。
5. [新規] をクリックします。

   注:
   ほとんどのフィールドには、ポリシーレコードのデータが事前に入力されています。

6. フォームのフィールドに入力します。

   注:
   以前に説明されていなかったフィールドの説明のみがここに表示されます。

   確認応答キャンペーンフォーム

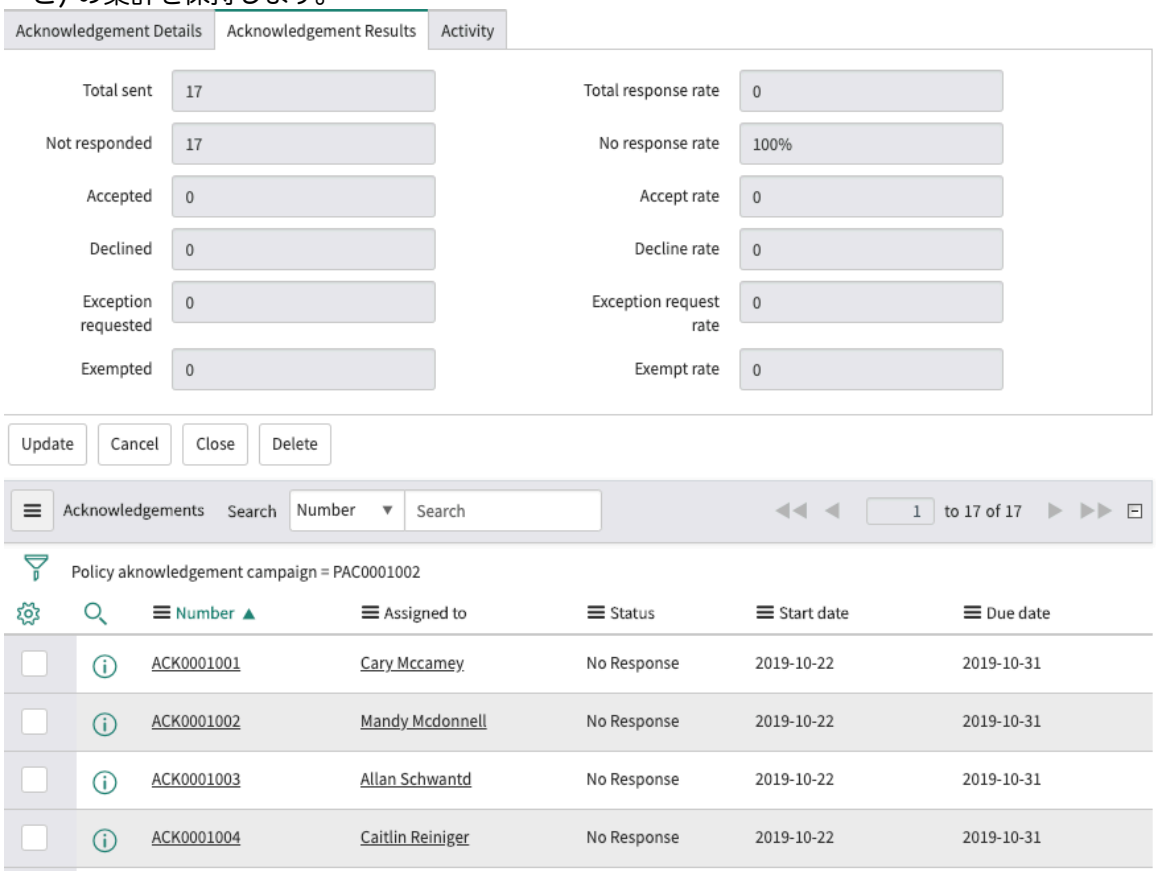
フィールド	説明
数値	確認応答に対して自動生成された確認応答レコード番号です。
状況	
有効期限開始/有効期限	確認応答が有効な期間を選択します。確認応答は、[有効期限開始] の日付の開始から [有効期限] の日付の終了まで有効です。 **注:** [有効期限] の日付は、ポリシーで定義された [有効期限] の日付を超えることはできません。
応答する日数	対象者のメンバーが応答しなければならない日数。
簡単な説明	ポリシーの簡潔な説明。
[確認応答の詳細] タブ	このタブには、ポリシーの詳細と要件、および確認応答のセットアップ中に定義された [参照資料 **URL]** が表示されます。

7. [送信] をクリックします。
   [確認応答を要求] ボタンが表示されます。
8. [確認応答を要求] をクリックします。
9. 次の変更が発生することに注意してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 確認応答キャンペーンのステータスが [確認応答処理待ち] に変更されます。
- 対象者の各メンバーの確認応答 (ACK) レコードが画面の下部に表示されます。
- [確認応答結果] タブには、確認応答プロセスの進捗状況が表示されます。つまり、送信された確認応答の合計数を報告し、受信した応答の数とタイプ (たとえば、承認済み、拒否済み、除外など) の集計を保持します。

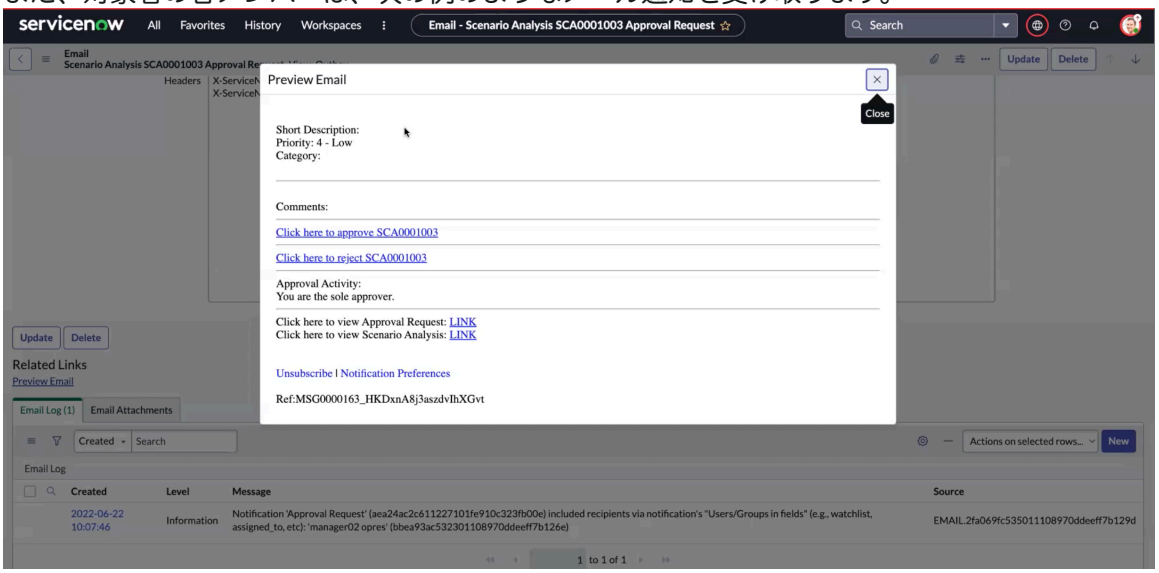


自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
[アクティビティ] タブには、発生した確認応答アクティビティが表示されます。コンプライアンスユーザーは [作業メモ] チェックボックスをクリックし、作業メモを投稿して変更を追跡できます。[追加コメント] ボックスを使用して、対象者とコミュニケーションを取ることができます。

また、対象者の各メンバーは、次の例のようなメール通知を受け取ります。



10. 確認応答期間が経過すると、次の場所に移動して応答の進行状況を監視できます ポリシーとコンプライアンス > ポリシーの確認応答 > 確認応答待ち.
11. 確認応答のタイムラインを超過した対象者メンバーを特定するには、次の場所に移動します。 ポリシーとコンプライアンス > ポリシーの確認応答 > 期限切れの確認応答.

確認応答要求への応答

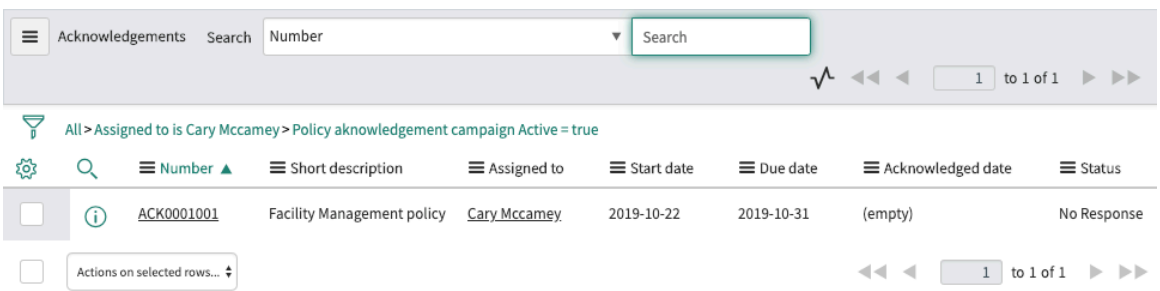
ポリシー確認応答を提供する対象者のメンバーとして識別された後、レコードを開いて確認し、それを確認する必要があります。

始める前に

必要なロール： sn_grc.business_user、sn_grc.business_user_lite

手順

1. ポリシーの確認応答が必要であるという通知を受信したら、次に移動します: ポリシーとコンプライアンス > ポリシーの確認応答 > 自分の確認応答.



2. 確認応答を提供するには、レコードを開き、次のいずれかのアクションを実行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

使用可能なオプションは、確認応答要求の構成方法によって異なります。

使用可能なオプションは、確認応答要求の構成方法によって異なります。

- ポリシーの確認応答のデフォルトステータスは [新規] です。
- 次の場合、ポリシーの確認応答は [確認応答待ち] に設定されます。
  - ポリシーの確認応答が [頻度] として設定された時間に達した場合
  - アドホック確認応答で、ポリシーの確認応答が有効開始日に達した場合
  - [確認応答待ち] ボタンをクリックしてステータスを手動で移動した場合
- 次の場合、ポリシーの確認応答は [クローズ済み] ステータスになります。
  - 手動で [クローズ済み] ステータスに移行した場合
  - [有効期限] の日付になった時点
- 次の場合、ステータスは [キャンセル] に移行します。
  - 手動で [キャンセル] ボタンをクリックした場合
  - ポリシー例外が却下され、確認応答が [キャンセル] にリセットされた場合

次のオプションは、ポリシー確認応答のインスタンスが異なる状況に設定された場合に使用できます。

承認

ポリシーが準拠している場合は、[承認] をクリックします。

拒否

ポリシーがコンプライアンスを遵守しておらず、要求を拒否できるように要求が構成されている場合は、[拒否] をクリックします。

例外を要求

何らかの理由で応答を希望せず、オプトアウトできるように要求が設定されている場合は、[例外を要求] をクリックします。

サービスポータルを使用した確認応答の操作

ポリシーに対する確認応答を提供する要求を受信した後、ServiceNow AI Platform で要求を処理するか、ServiceNow サービスポータル でアクションを実行するかを選択できます。

始める前に

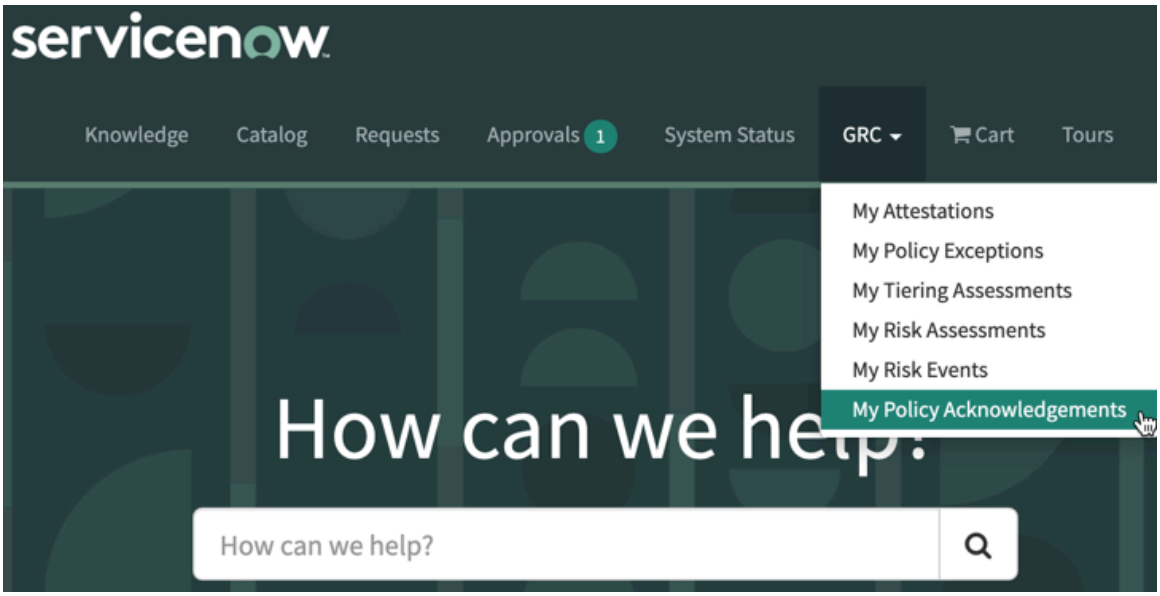
必要なロール：
sn_grc.business_user、sn_grc.business_user_lite、sn_grc_emp_user.grc_employee

手順

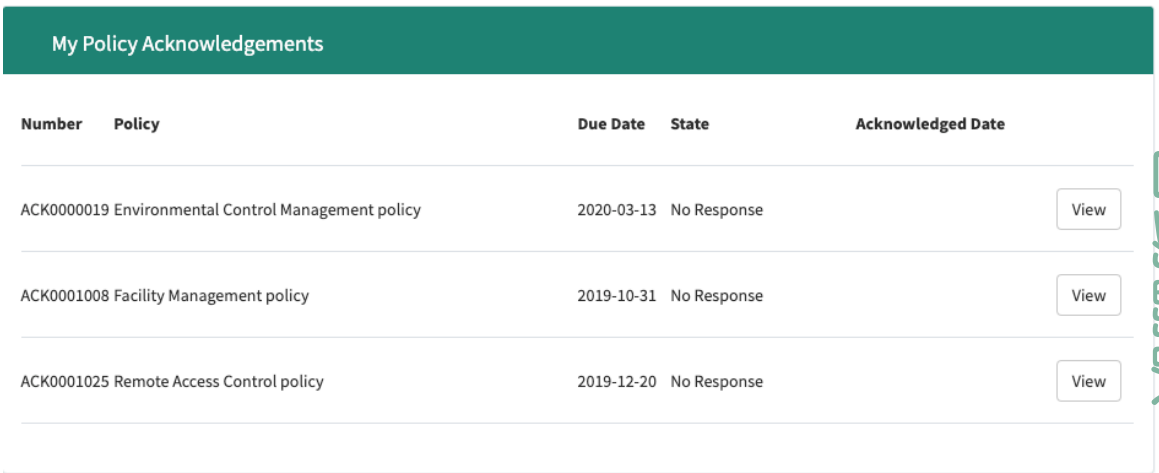
1. ServiceNow サービスポータル に移動します。
2. ヘッダーバーで、次に移動します: **GRC** > 自分のポリシーの確認応答.

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



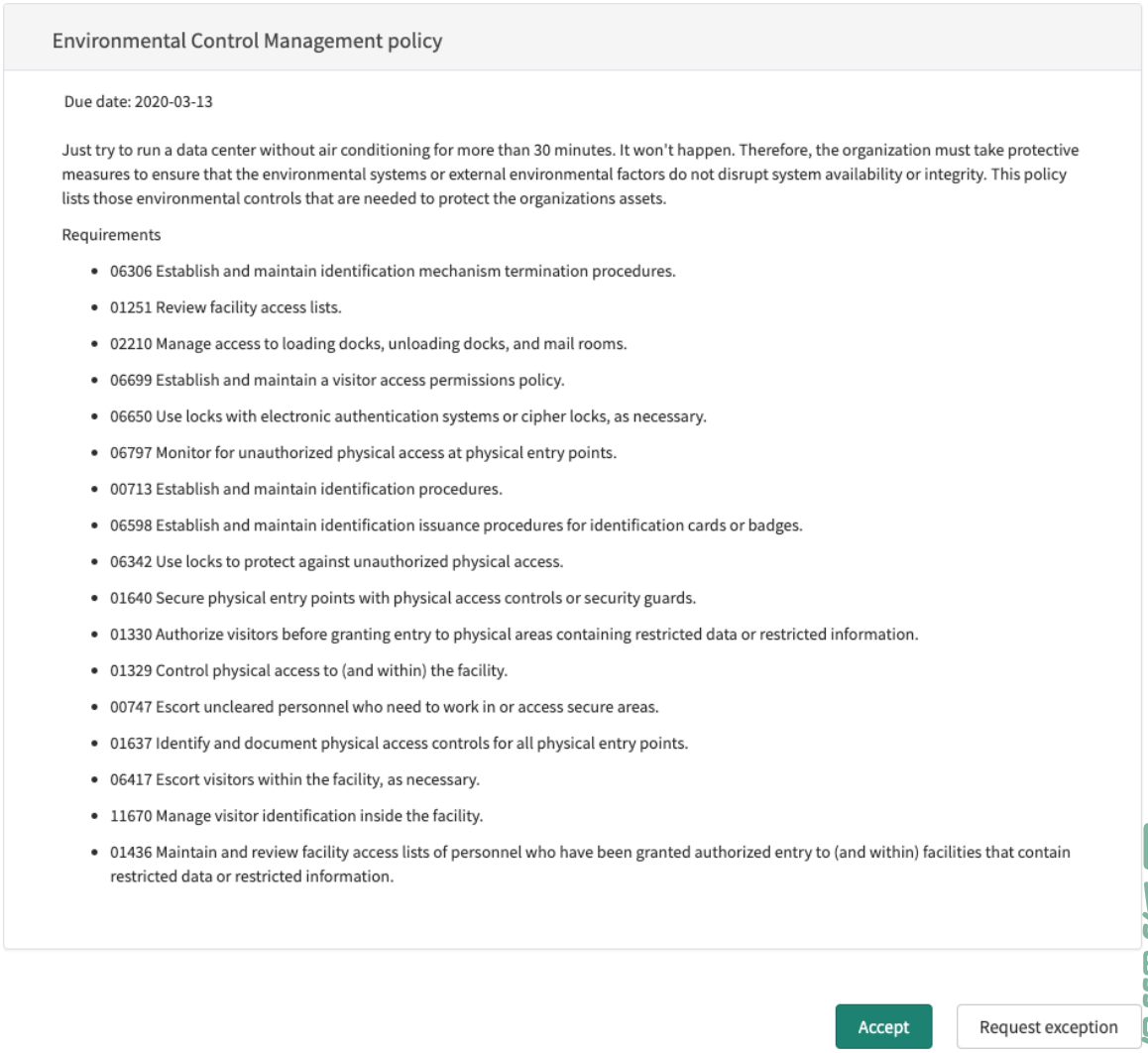
自分にアサインされているすべての処理待ちのポリシーの確認応答要求が表示されます。



自動翻訳

3. 要求の詳細を表示するには、[表示] をクリックします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

注:
ポリシーの確認応答に対して実行できるアクションは、次のように確認応答キャンペーンの構成方法によって異なります。

オプション	説明
ポリシーがコンプライアンスを遵守している場合	[承認] をクリックします。
ポリシーがコンプライアンスを遵守しておらず、要求を拒否できる場合	[拒否] をクリックします。
応答を希望せず、オプトアウトする場合	[例外の要求] をクリックします。

ポリシーを廃止

ポリシーの廃止は、ポリシー管理プロセスの一部です。

始める前に
必要なロール：sn_compliance_admin または sn_compliance_manager

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

承認されて KB に公開された後、ポリシーはいつでも廃止できます。ポリシーのレビュー担当者がいる場合は、ポリシーが廃止される 1 か月前に [レビュー] ステータスに移行されます。ポリシーのレビュー担当者がいない場合は、[ドラフト] ステータスに移行されます。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > 方針.
2. ポリシーレコードを開きます。
3. 右上隅の [廃止] をクリックします。
   このオプションは、公開済みステータスのポリシーでのみ使用できます。

GRC 記事テンプレートを作成

ポリシーとコンプライアンスマネージャーは、ポリシー記事を公開するためのテンプレートを作成できます。

始める前に

必要なロール：sn_compliance.developer

手順

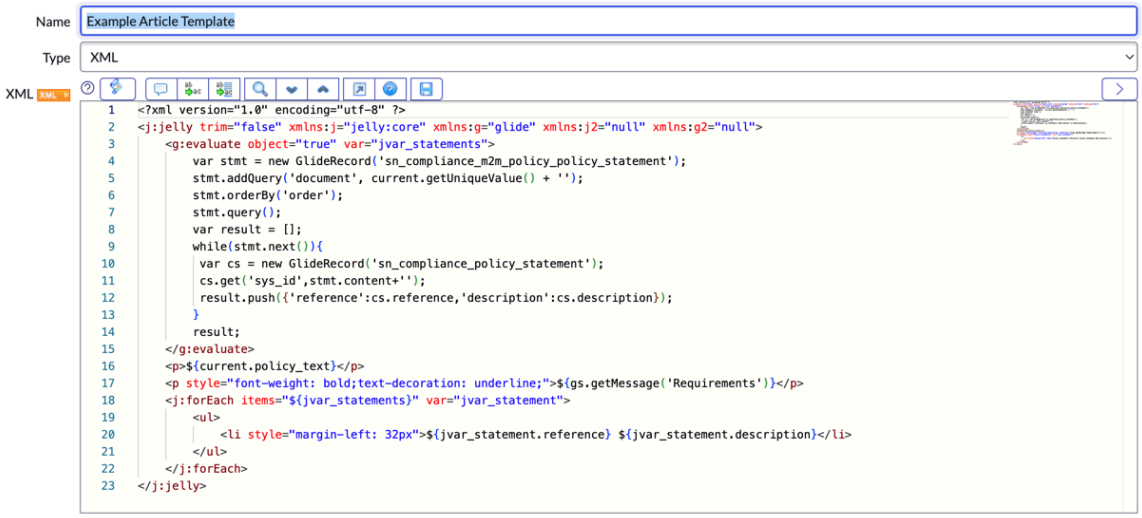
1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > 記事テンプレート.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

各種法令・基準等

フィールド	説明
名前	記事テンプレートの名前。
タイプ	○ スクリプト ○ HTML ○ XML
スクリプト	スクリプトコード。このフィールドは [タイプ] フィールドに依存します。
HTML	HTML コード。このフィールドは [タイプ] フィールドに依存します。
XML	XML コード。このフィールドは [タイプ] フィールドに依存します。
デフォルトである	このテンプレートがすべての KB 記事のデフォルトテンプレートとして使用されることを示すオプション。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. [送信] をクリックします。

コントロール目標を作成

コントロール目標は、会社のインタラクションと運用のガイダンスとして機能する目標、指示、または標準です。コントロール目標は、カテゴリ化、分類、およびポリシーへの関連付けが可能です。

始める前に

必要なロール：sn_compliance_admin、sn_compliance_manager、sn_compliance.user

このタスクについて

コントロール目標とコントロールの違いを理解するには、「ポリシーとコンプライアンス管理 の構造の概要」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コントロール目標.

2. [**New**] をクリックします。

3. フォームのフィールドに入力します。

コントロール目標フォーム

フィールド	説明
名前	コントロール目標の名前。
ソース	コントロール目標のソース。たとえば、コントロール目標がサードパーティプロバイダーからのものである場合は、どのプロバイダーかを示します。
ソース ID	このコントロール目標をカタログ化するためにソースによって使用される一意の識別番号。
参照	一意の数値識別子。
親	現在のコントロール目標の子ではないコントロール目標。これは、循環する親子関係を避けるためです。
コンプライアンススコア (%)	このコントロール目標に対して計算されたコンプライアンススコアの割合とそのカラーコード：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ 80 以上：緑 ○ 50 ～ 80：黄 ○ 50 未満：赤
有効	コントロール目標がアクティブかどうかを示すオプション。
コントロールを自動的に作成	コントロールがコントロール目標から自動的に作成されることを示すオプション。 **注:** コントロール目標がコントロールとしても機能する場合は、このオプションを選択します。
カテゴリ	オプションのリスト： ○ 施設、技術、サービスの取得または販売 ○ 監査およびリスク管理 ○ コンプライアンスおよびガバナンスのスタイルマニュアル ○ ヒューマンリソース (HR) 管理 ○ リーダーシップおよび高いレベルの達成目標 ○ モニタリングおよび測定 ○ 運用管理 ○ 物理的保護および環境保護 ○ 情報およびデータのプライバシー保護 ○ レコード管理 ○ 構成管理によるシステムのハードニング ○ システム継続性 ○ システム設計、ビルド、および実装 ○ テクニカルセキュリティ ○ サードパーティおよびサプライチェーンの監督 ○ ルート ○ 不使用
分類	オプションのリスト： ○ 予防 ○ 是正 ○ 探知
タイプ	オプションのリスト： ○ 資産またはサービスの取得/販売 ○ アクション可能なレポートまたは測定

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ 監査およびリスク管理 ○ 動作 ○ ビジネスプロセス ○ 連絡 ○ 設定 (Configuration) ○ データおよび情報管理 ○ 複製 ○ ロールの設定 ○ ドキュメントの作成/維持管理 ○ ヒューマンリソース (HR) 管理 ○ 調査 ○ IT インパクトゾーン ○ ログ管理 ○ メンテナンス ○ 発生の監視および評価 ○ 物理的保護および環境保護 ○ プロセスまたはアクティビティ ○ レコード管理 ○ システム継続性 ○ システム設計、ビルド、および実装 ○ テクニカルセキュリティ ○ テスト ○ トレーニング
証明書	オプションリスト。 ○ デフォルトで **GRC** 証明書 が選択されている ○ **注:** ユーザーがコントロール証明書を変更すると、関連するコントロール目標証明書タイプも変更されます。
問題グループルール	このコントロール目標にアサインされたグループルール。
説明	コントロール目標の説明。

4. [送信] をクリックします。
コントロール目標が作成され、すべての関連リストが表示されます。

- ポリシーがエンティティに関連付けられている場合、コントロールはすべてのコントロール目標に対して作成されます。
- コントロール属性は、関連するコントロール目標と同じ属性にデフォルト設定されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
実装している場合 ポリシーとコンプライアンス管理 ソフトウェアを ポリシーとコンプライアンス管理 セットアップチェックリスト をクリックし、次のステップに進みます。

コントロール目標を非アクティブ化

引用または親コントロール目標との関連がなくなったコントロール目標を非アクティブ化します。

始める前に
必要なロール：sn_compliance_admin または sn_compliance_manager

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > ポリシーおよび手順 > コントロール目標.
2. コントロール目標を開きます。
3. コントロール目標で、[有効]とマークされたチェックボックスをオフにします。
4. [更新] をクリックします。

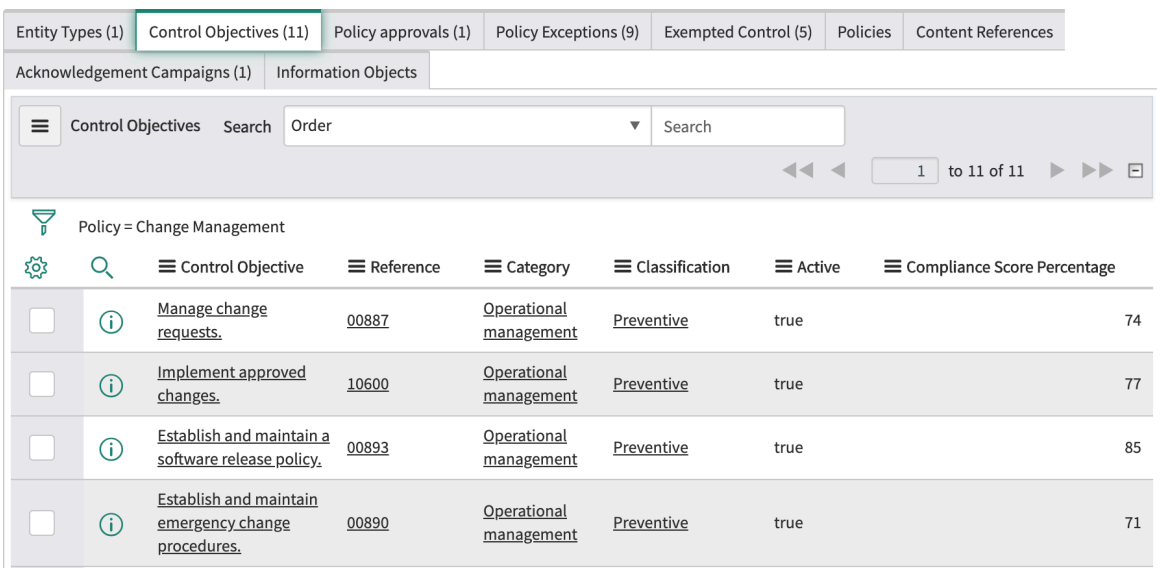
コントロール目標をポリシーに関連付け

ポリシーがレビューまたはドラフト状況の場合は、[コントロール目標] 関連リストの [編集] ボタンをクリックして、コントロール目標を個別に関連付けます。

始める前に
必要なロール：sn_compliance_admin、sn_compliance_manager、sn_compliance.user

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > ポリシーおよび手順 > 方針.
2. ポリシーレコードを開きます。
3. [コントロール目標] 関連リストで [編集] をクリックします。
   スラッシュバケットには、関連付けられているポリシーが選択されていないアクティブなコントロール目標が含まれています。
4. コントロール目標を選択します。
5. [保存] をクリックします。
   これらのコントロール目標は、[コントロール目標] 関連リストに一覧表示されます。



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
実装している場合 ポリシーとコンプライアンス管理 ソフトウェアを ポリシーとコンプライアンス管理 セットアップチェックリスト をクリックし、次のステップに進みます。

コントロール目標を引用に関連付け

単一のコントロール目標は、さまざまな各種法令・基準等の多くの引用にマッピングすることができます。この機能を使用すると、さまざまな引用に準拠しながらコントロール目標を 1 回テストできます。

始める前に
必要なロール：sn_compliance_admin または sn_compliance_manager

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンス > 引用.
2. 引用を開きます。
3. [コントロール目標] 関連リストで [新規] をクリックします。
4. フォームのフィールドに入力します。

コントロール目標フォーム

フィールド	説明
名前	コントロール目標の名前。
ソース	ポリシーのソース。たとえば、ステートメントがサードパーティプロバイダーからのものである場合は、どのプロバイダーかを示します。
ソース ID	この各種法令・基準等をカタログ化するためにソースによって使用される一意の識別番号。
参照	一意の数値識別子。
ポリシー	このコントロール目標によってサポートされる親コントロール目標。
親	親コンテンツを参照します。
有効	ポリシーがアクティブかどうかを示すオプション。コントロール目標が [ドラフト] または [廃止] 状況でない場合、ポリシーはアクティブとマークされます。
カテゴリ	オプションのリストから選択します。 ○ 施設、技術、サービスの取得または販売 ○ 監査およびリスク管理 ○ コンプライアンスおよびガバナンスのスタイルマニュアル ○ ヒューマンリソース (HR) 管理 ○ リーダーシップおよび高いレベルの達成目標 ○ モニタリングおよび測定 ○ 運用管理 ○ 物理的保護および環境保護 ○ 情報およびデータのプライバシー保護

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ レコード管理 ○ 構成管理によるシステムのハードニング ○ システム継続性 ○ システム設計、ビルド、および実装 ○ テクニカルセキュリティ ○ サードパーティおよびサプライチェーンの監督 ○ ルート ○ 不使用
分類	オプションのリストから選択します。 ○ 予防 ○ 是正 ○ 探知 ○ IT インパクトゾーン
タイプ	オプションのリストから選択します。 ○ 資産またはサービスの取得/販売 ○ アクション可能なレポートまたは測定 ○ 監査およびリスク管理 ○ 動作 ○ ビジネスプロセス ○ 連絡 ○ 設定 (Configuration) ○ データおよび情報管理 ○ 複製 ○ ロールの設定 ○ ドキュメントの作成/維持管理 ○ ヒューマンリソース (HR) 管理 ○ 調査 ○ IT インパクトゾーン ○ ログ管理 ○ メンテナンス ○ 発生の監視および評価 ○ 物理的保護および環境保護 ○ プロセスまたはアクティビティ ○ レコード管理

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ システム継続性 ○ システム設計、ビルド、および実装 ○ テクニカルセキュリティ ○ テスト ○ トレーニング
説明	コントロール目標と、それが組織の目標をどのようにサポートするかの説明。

5. [送信] をクリックします。
   作成されたコントロール目標は、各種法令・基準内項目に関連付けられます。

引用を作成または無効化

通常、各種法令・基準等、引用、およびコントロール目標は、サードパーティのプロバイダーからダウンロードされます。ただし、引用は各種法令・基準等から手動で作成できます。引用の [アクティブ] オプションは、引用がアクティブか非アクティブかを示します。

始める前に

必要なロール：sn_compliance_admin または sn_compliance_manager

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > 各種法令・基準等.
2. 各種法令・基準等を開きます。
3. [引用] 関連リストで、[新規] をクリックします。
4. フォームのフィールドに入力します。

引用フォーム

フィールド	説明
名前	この引用を識別するユーザー定義の名前。
ソース	ポリシーのソース。たとえば、ステートメントがサードパーティプロバイダーからのものである場合は、どのプロバイダーかを示します。
ソース ID	この各種法令・基準等をカタログ化するためにソースによって使用される一意の識別番号。
参照	コンテンツ参照。
タイプ	作成された引用のタイプ。処理に使用されないオプションのフィールド。レポートでこのフィールドの値を使用するか、特定のタイプのレコードをクエリします。 ○ コアトピック ○ プロセス ○ コントロール目標 ○ コントロール ○ サポート情報

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
各種法令・基準等	この引用の親である各種法令・基準等の名前。各種法令・基準等フォームから引用を作成すると、このフィールドは自動的に入力されます。
有効	ポリシーがアクティブかどうかを示すオプション。[ドラフト] または [廃止] ステータスでない場合、ポリシーはアクティブとマークされます。引用を無効にするには、[有効]とマークされたチェックボックスをオフにします。
親	親コンテンツを参照します。
説明	引用の説明。

各種法令・基準等を作成

各種法令・基準等はプロセスを管理し、その中でプロセスの要点を管理する引用が作成されます。たとえば、建物のセキュリティと呼ばれるプロセスには、エントリコントロールの引用が含まれています。

始める前に

必要なロール：sn_compliance_admin または sn_compliance_manager

手順

1. 移動先 ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンス > 各種法令・基準等.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

各種法令・基準等

フィールド	値
名前	ドキュメントの名前。
数値	一意の識別番号が自動的に入力される読み取り専用フィールド。
ソース	ポリシーのソースを含む編集不可能なフィールド。たとえば、ステートメントが UCF インポートからのものである場合、ソースは UCF です。
ソース ID	この各種法令・基準等をカタログ化するためにソースによって使用される一意の識別番号。
バージョン	この各種法令・基準等を識別するためにソースによって使用される一意のバージョン番号。
共通名	[名前] フィールドの省略形。
カテゴリ	この各種法令・基準等のカテゴリ。
タイプ	ドキュメントタイプ： ○ 監査の指針 ○ ベストプラクティスの指針 ○ 法案または法令

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	値
	○ 契約上の義務 ○ 国際標準または国内標準 ○ 未設定 ○ 組織指針 ○ 法令の規制 ○ セーフハーバー ○ 自主規制機関の要件 ○ ベンダードキュメント
有効期限開始	ポリシーが有効になる日時。
有効期限	ポリシーが無効になる日時。
Url	保存されている各種法令・基準等の URL。
説明	各種法令・基準等に関する詳細情報。

4. ヘッダーバーで右クリックし、コンテキストメニューから [保存] を選択します。
各種法令・基準等が作成され、すべての関連リストが表示されます。

> **注:**
> ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションのバージョン 13.0.3 以降、[分類] 関連リストが表示されます。この関連リストを使用すると、既存の分類を更新、または新しい分類を各種法令・基準等にマッピングすることができます。

次のタスク
[各種法令・基準等] 関連リストから引用を作成します。

関連情報
引用を作成または無効化

各種法令・基準等を非アクティブ化

各種法令・基準等の [有効] オプションは、各種法令・基準等が廃止されたかどうかを示します。

始める前に
必要なロール：sn_compliance.admin または sn_compliance.manager

手順
1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンス > 各種法令・基準等.
2. 各種法令・基準等を開きます。
3. 各種法令・基準等で、[有効] とマークされたチェックボックスをオフにします。

UCF からインポートされた各種法令・基準等は読み取り専用のフォームであるため、[アクティブ] チェックボックスをオフにすることはできません。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポリシーの例外と延長を管理

ポリシーの例外と延長により、非準拠コントロールが一時的に緩和されます。

ポリシー例外は、ポリシー例外要求の受け入れまたは却下をサポートする根拠、コメント、および証拠をキャプチャします。また、ポリシー例外有効期間の前に承認されたポリシー例外の延長を要求できます。コントロールオーナー、コンプライアンスマネージャー、およびリスクマネージャーが、ポリシー例外と延長ワークフローに関与する場合があります。

ポリシー例外を要求

ユーザーは、例外が適用されるシステム、アプリケーション、ネットワーク、またはエンティティの特定のリストで例外の理由を指定することで、ポリシー、コントロール目標、または問題の例外を要求できます。ユーザーは、例外が必要な期間も指定する必要があります。

始める前に

必要なロール： sn_grc.business_user、sn_grc.business_user_lite

このタスクについて

例外は、特別な状況のためにコンプライアンス要件を満たすことができないユーザーを一時的に保護します。たとえば、ユーザーが、OS ベンダーがパッチをリリースしてから 48 時間以内にすべての重要な OS サーバーにパッチを適用する必要があるという規定を満たすことができない場合などです。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > 自分のポリシー例外.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

ポリシー例外フォーム

フィールド	説明
番号	一意の識別番号。
要求者	ポリシー例外を要求するユーザー (通常はコントロールオーナー)。
承認グループ	コンプライアンスマネージャーロールを持つグループ。ポリシー例外がレビュー状況に達すると、承認グループを編集できません。 承認グループを指定しない場合、フィールドはデフォルトでコンプライアンスマネージャーに設定されます。コンプライアンスマネージャーは、ポリシー例外が GRC と統合されたアップストリームアプリケーションから発生した場合のデフォルトのロールです。たとえば、インシデントに関連する問題に対してポリシー例外を生成し、その問題が GRC に関連しているとします。
承認者	承認グループのユーザー。例外ポリシーが [分析] ステータスに移行した場合は、承認者を選択する必要があります。
状況	承認ワークフロー内のポリシー例外のステータス。
サブステート	承認ワークフロー内のポリシー例外の承認サブステート。
優先度	このポリシー例外の承認優先度
ウォッチリスト	要求が更新されたときに通知されるユーザー。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
名前	ポリシー例外の一意の名前。
理由	ポリシー例外を要求する理由。要求者は、ポリシーの例外が承認されるまで理由を変更できます。
正当性	ポリシー例外の説明。理由は [コメント] タブの [追加コメント] フィールドにも表示されます。
ソース	
ソースタイプ	作成するポリシー例外のタイプ。オプションは次のとおりです。 ○ ポリシー：ポリシーに基づいてポリシー例外を作成します。 ○ コントロール目標：デフォルトは、ポリシー例外が作成される単一のコントロール目標です。 コントロール目標を選択すると、[影響を受けるコントロール] タブが表示され、コントロール目標に関連付けられたコントロールを選択できます。 ○ コントロール：複数のコントロールでポリシー例外を作成するオプション。 異なるコントロール目標から複数のコントロールを関連付けるには、[コントロール] を選択します。このオプションは、複数のコントロールに適用される複数のポリシー例外を作成するのではなく、ポリシー例外の複数のコントロール目標をサポートします。 ○ 問題：このポリシー例外に関連する問題。
コントロール目標	このポリシー例外に関連付けられたコントロール目標。
問題	このポリシー例外に関連する問題。
ターゲットレコード	ポリシー例外が適用されるターゲットレコードテーブル。このテーブルは、[ポリシー例外統合レジストリ] フォームの [ポリシー例外ターゲットテーブル] フィールドでも参照されます。
リスクアセスメント	
リスク評価	ポリシー例外で実行されるリスクアセスメントで定義されるリスク評価を選択します。
リスク詳細	リスクアセスメント中にリスクマネージャーによって実行されたリスクの説明。
リスクと影響度の分析	このリスクが発生する可能性と、このリスクがポリシーの例外に及ぼす残存影響度の詳細。
リスク軽減計画	このポリシー例外のリスク軽減計画。
スケジュール	
有効期限開始	ポリシー例外が開始される日。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
有効期限	ポリシー例外が終了する日。 [有効期限] の日付は [有効期限開始] よりも後である必要があり、過去の日付にすることはできません。
期間	[有効期限開始] と [有効期限] の間の日数。
承認された延長	これまでに要求され、承認された延長の回数。
残りの延長	将来的に延長を要求できる回数。 残りの延長 = `Number of extensions allowed for a policy exception` プロパティの値 – 承認された延長の数。
作成済み	ポリシー例外が要求された日付。
承認日	要求が承認された日付。
延長日	要求された延長日。[有効期限] より後の日付です。
延長理由	延長の理由。
元の有効期限	ポリシー例外が最初に要求され、承認された日付。元の [有効期限] の日付は、延長が承認された場合にのみ入力されます。
コメント	
作業メモ	例外のレビュー担当者と承認者は、作業メモを使用して例外に関する情報を共有できます。
追加コメント	これらのコメントは、レビュー担当者が例外要求者に追加情報を伝えるために使用します。
機密性	
機密	レコードの機密性を有効にするオプション。アサインされた機密ユーザーまたはユーザーの機密グループのみがレコードにアクセスできます。 機密オプションの詳細については、「監査およびコンプライアンスレコードの機密性フラグ」を参照してください。

注:
バージョン 10.1 より前のバージョンでは、[リスクアセスメント] タブは [ビジネスインパクトアナリシス] と呼ばれており、GRC: リスク管理 アプリケーションがアクティブ化されている必要がありました。バージョン 10.1 以降、リスク管理 への依存関係が削除され、関連するフィールド名が変更されました。

[承認済みの延長]、[残りの延長]、[承認日]、[延長日]、[延長の理由]、[元の有効期限] フィールドは、ポリシー例外の延長を要求し、承認者によって承認された場合にのみ表示されます。

4. ポリシー例外を保存します。
5. いずれかのタブをクリックして、ポリシー例外のさまざまなタイプの情報を表示します。
6. [更新] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポリシー例外の延長を要求

作成したポリシー例外の延長を要求します。

始める前に

必要なロール： sn_grc.business_user、sn_grc.business_user_lite

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > 自分のポリシー例外.
2. 延長を要求するポリシー例外を開きます。

   要求者は、承認済みステータスのポリシー例外の延長を複数回要求できます。ポリシーの延長を複数回要求するには、*Number of extensions allowed for a policy exception* プロパティを設定します。

   a. プロパティを設定するには、次に移動します: すべて > ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > プロパティ

   b. *Number of extensions allowed for a policy exception* プロパティに数値を入力します。
   20 を入力すると、ポリシー例外ごとに 20 の延長を要求できます。

   > **注:**
   > 延長要求が承認者によって却下された場合は、[有効期限] の日付に達するまで別の延長を要求できます。

3. [延長を要求] ボタンをクリックします。
4. ポップアップで、[延長日]、[延長理由]、および [正当性] フィールドに入力します。

   延長を要求フォーム

フィールド	説明
延長日	要求された延長日。[有効期限] より後です。
延長理由	延長の理由。
正当性	延長を要求の説明。理由は [コメント] タブの [追加コメント] フィールドにも表示されます。

5. [要求] をクリックします。
   要求者が延長を要求し、承認者によって延長が承認された後、ポリシー例外フォームの [スケジュール] タブでポリシー延長の詳細を確認できます。

ポリシー例外と延長要求を確認

ポリシー例外要求を確認した後、コンプライアンスマネージャーはその要求を承認または却下できます。ただし、コンプライアンスマネージャーが決定する十分な情報がない場合は、リスクマネージャーによるリスクアセスメントを要求できます。

始める前に

必要なロール：コンプライアンスマネージャー

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > 自分のポリシー例外.
2. ポリシー例外を選択します。
3. 次のいずれかのアクションを実行します。

4. 次のいずれかのアクションを実行します。

5. [更新] をクリックします。

サービスポータル を介してポリシー例外を要求

会社内の従業員とビジネスユーザーは、ServiceNow® サービスポータル を介してポリシー例外を要求できます。

始める前に
必要なロール：sn_compliance.user, sn_grc.business_user、sn_grc.business_user_lite、sn_grc_emp_user.grc_employee

手順

1. 移動先 すべて > サービスポータル > サービスポータルホーム.
2. 画面ヘッダーで、 **GRC** > 自分のポリシー例外 して、要求したすべてのポリシー例外を表示します。
3. [新規ポリシー例外] をクリックします。
4. フォームのフィールドに入力します。
   ポリシー例外フォームに入力します。ポリシー例外の対象を指定し、適切なポリシー、コントロール目標、または問題を選択します。この質問は、適切なソースタイプを特定するためのものです。

   コントロール目標を選択すると、[影響を受けるコントロール] タブが表示され、コントロール目標に関連付けられたコントロールを選択できます。エンティティを検索して選択することもできます。

   異なるコントロール目標から複数のコントロールを関連付けるには、[コントロール] を選択します。このオプションは、複数のコントロールに適用できる複数のポリシー例外を作成するのではなく、複数のコントロール目標のポリシー例外をサポートします。

   からポリシー例外を作成する場合 **GRC** > 自分のポリシーの確認応答では、 例外は何ですか? フィールドには値が「ポリシー」として自動入力されます。ポリシーの名前は [ポリシー] フィールドにも表示されます。

   [問題] フィールドでは、説明で検索し、適切な問題を選択できます。

5. [送信] をクリックします。

   サービスポータルからポリシー例外を生成した場合や検証ルールが設定されていない場合は、ポリシー例外は [分析] ステータスに移行します。ただし、ポリシー例外に対して検証ルールが設定されている場合は、ポリシー例外が [新規] 状況に移行し、検証承認プロセスがトリガーされます。検証ルールが設定されると、承認者はポリシー例外を検証して承認する必要があります。その後、ポリシー例外は [分析] ステータスに移行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスポータル を介してポリシーの延長を要求

ServiceNow® ポータルから、ポリシーの例外を要求した人は誰でもポリシーの期限前に延長を要求できます。

始める前に
必要なロール： sn_grc.business_user、sn_grc.business_user_lite

サービスポータル インデックスページに [自分のポリシーの例外] ウィジェットを追加します。このウィジェットは、リストに少なくとも 1 つのポリシー例外がある場合にのみ表示されます。

手順

1. サービスポータルで [自分のポリシー例外] をクリックします。
2. 延長を要求するポリシー例外を開きます。
   要求できる残りの延長数が表示されます。

   [ポリシーとコンプライアンスのプロパティ] ページの [ポリシー例外に許可される延長の数] フィールドで、ポリシー例外に許可される延長の数を設定します。
3. [延長を要求] セクションで、延長したい期間の終了日を入力します。
   メモに要求できる残りの延長数が表示されます。
4. [要求] をクリックします。

タスクの結果
延長要求は、承認を得るために承認機関に送信されます。

脆弱性対応 とのポリシー例外統合

バージョン 10.1 以降、脆弱性対応 アプリケーションのバージョン 10.3 内から ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションに固有の GRC ポリシー例外管理機能を使用してポリシー例外を要求できます。

ポリシー例外統合を使用するメリット

ポリシーとコンプライアンス管理 とのポリシー例外統合を使用して例外を要求すると、次のようなメリットが得られます。

- アセスメントを実行して、要求に関する追加情報を収集する。
- 特定のポリシーまたはコントロール目標に基づいて例外を要求する。このアクションは、例外が承認されたときのコンプライアンスへの影響を示します。
- ポリシー例外に関連付けられたリスク評価、ポリシー、またはコントロール目標に基づいて自動的にトリガーされるように承認を構成する。

ポリシー例外統合の仕組み

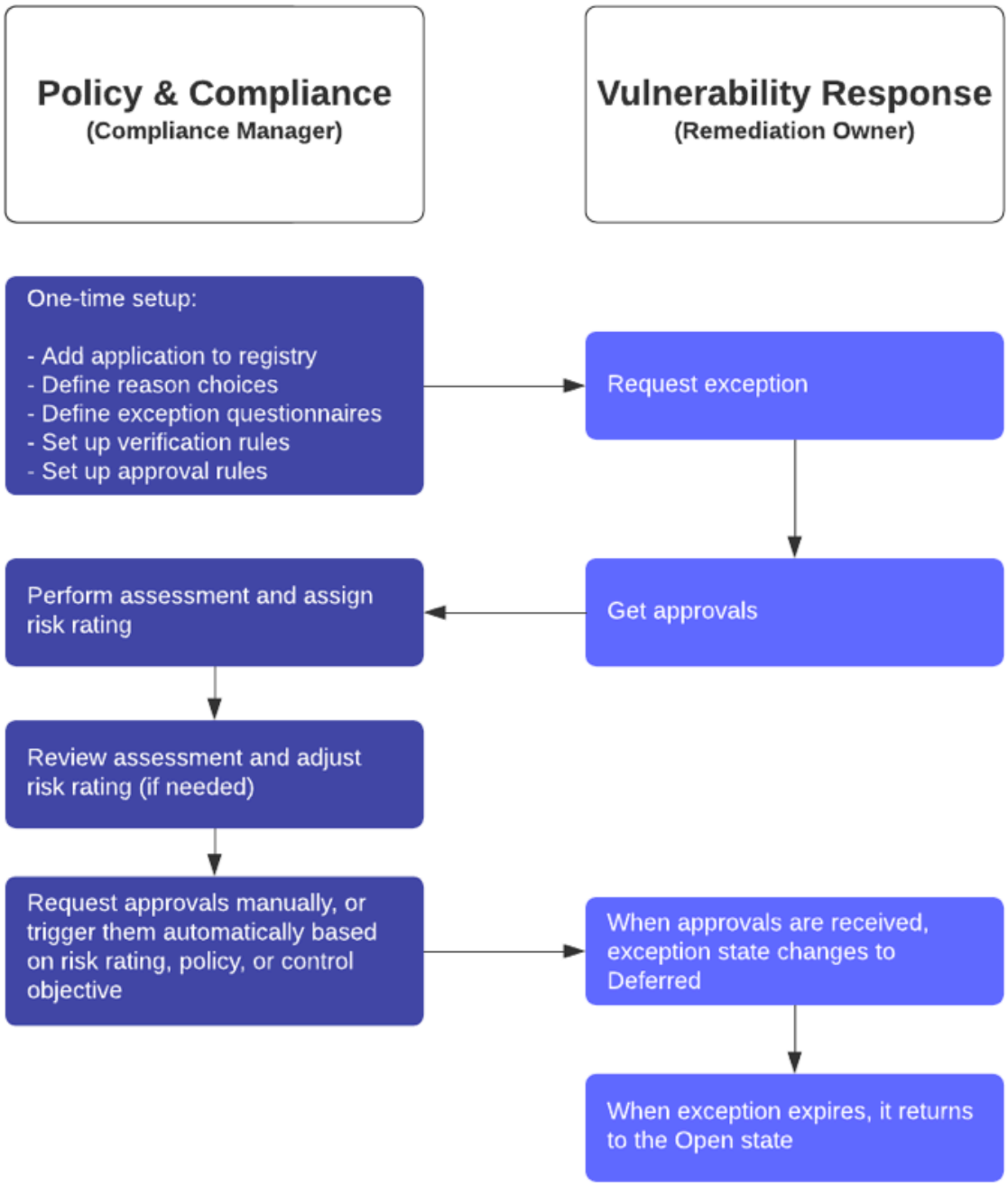
ここで説明するシナリオでは、システムで脆弱性が特定され、修正オーナーがソフトウェアパッチが必要であると判断したことを前提としています。パッチが完全にテストされておらず、オーナーがテストが完了するまでパッチの展開を遅らせるためポリシー例外を要求しています。

次の図は、各アプリケーションでコンプライアンスマネージャーと修正オーナーが実行する手順を示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポリシー例外統合



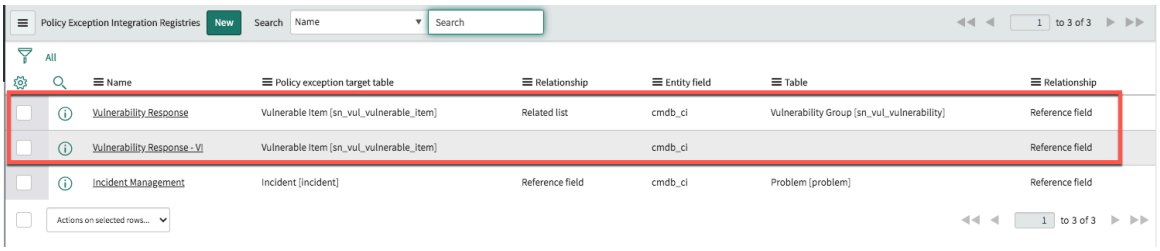
自動翻訳

注:
GRC ビジネスユーザー (sn_grc.business_user) またはビジネスユーザー – Lite (sn_grc.business_user_lite) は、アップストリームアプリケーションからポリシー例外を生成するために最低限必要なロールです。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. 脆弱性対応 アプリケーションがインストールされると、脆弱性グループ用と脆弱性一致アイテム用の 2 つのポリシー例外統合レコードが自動的に作成され、統合レジストリに追加されます。

ポリシー例外統合レジストリ



脆弱性一致アイテムレコードを設定するために、コンプライアンスマネージャーは次の手順を実行します。

a. 2 つのアプリケーションを統合するために使用するテーブルのマッピングを指定します。

b. 例外を要求する理由を定義します。

c. (オプション) ポリシーをフィルタリングするためのポリシーカテゴリを定義します。

d. (オプション) ポリシー例外要求に関する追加情報を収集するために、要求者に送信する 1 つ以上のアンケートを作成します。

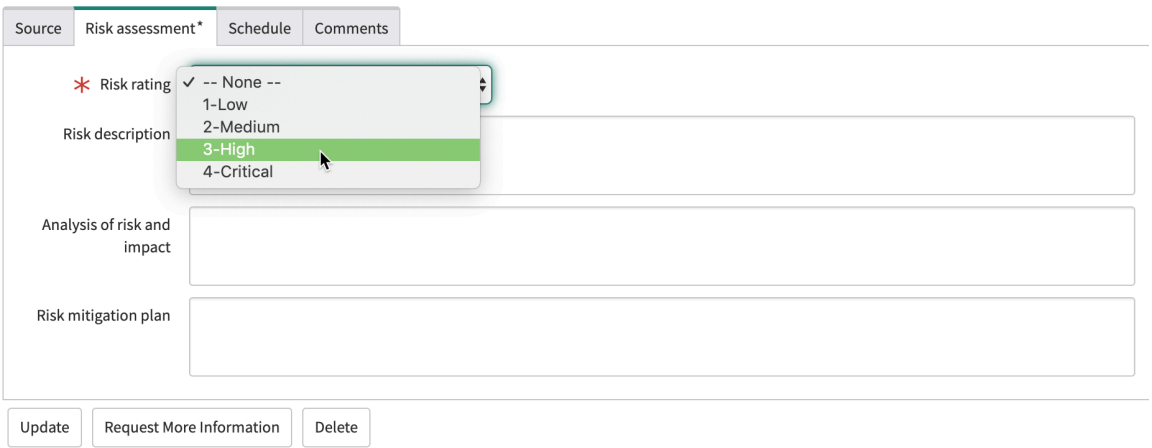
2. また、コンプライアンスマネージャーは、オプションの検証ルールと承認ルールを定義して、ポリシー例外の承認を取得するプロセスを自動化します。

3. 脆弱性対応 では、修復オーナー を使用した例外の要求 GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 。

4. アプリケーションに対して検証ルールが定義されている場合、指定された承認者に承認が必要であることが通知されます。ポリシー例外要求のいずれかのフィールドが要求者によって入力されなかった場合 (ポリシーやコントロール目標など)、それらのフィールドは承認者にとって必須になります。承認者が要求をレビュー、完了、および承認すると、[分析] ステータスに移行し、さらに分析および承認するためにコンプライアンスマネージャーにアサインされます。

5. ポリシーとコンプライアンス管理 で、コンプライアンスマネージャーは承認された要求を受け取り、[リスクアセスメント] タブでリスク評価をポリシー例外要求に割り当てます。

[リスクアセスメント] タブでのポリシー例外要求



ポリシー例外レコードが保存されると、ソースアプリケーションとソースレコードを含む [ソース] タブの情報と、[脆弱性一致アイテム] 関連リストの情報が自動的に入力されます。これで、コンプライアンスマネージャーは、ポリシーの例外をレビューして承認するために必要なすべてのデータにアクセスできますできるようになりました。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. ポリシーとコンプライアンス管理 では、アセスメントが設定されている場合、コンプライアンスマネージャーが例外アセスメントを実行します。　アセスメントが完了すると、コンプライアンスマネージャーは [リスクアセスメント] タブに戻り、必要に応じてアセスメントの結果に基づいて [リスク評価] を更新します。また、コンプライアンスマネージャーは、アセスメント中に収集された情報を次のフィールドに入力します。

[リスクアセスメント] タブ

フィールド	説明
リスク詳細	このポリシー例外に関連付けられたリスクについての詳細を提供します。
リスクと影響度の分析	ポリシー例外に対するリスクと影響度の分析についての詳細を提供します。
リスク軽減計画	このポリシー例外に関連付けられた緩和計画についての詳細を提供します。

7. ポリシー例外に情報が欠落している場合、コンプライアンスマネージャーは [追加情報をリクエスト] をクリックし、必要なデータのタイプを特定するコメントを追加できます。要求者は通知を受け取り、要求された情報を提供します。
8. 必要に応じて、コンプライアンスマネージャーは、[レビューを要求] をクリックして、承認前に追加の社内レビューのためにポリシー例外を送信できます。

   注:
   レビューを要求する前に、[影響を受けるコントロール] 関連リストにポリシー例外の影響を受けるコントロールが含まれていることを確認してください。関連リストを開き、[追加] をクリックしてコントロールを選択します。

9. ポリシー例外のリスクが特に高く、コンプライアンスマネージャーが組織内の上位のユーザー (CIO など) からの承認が必要であると考える場合、コンプライアンスマネージャーは [承認を要求] をクリックできます。

   それ以外の場合は、次のシナリオで承認が実行されます。

承認ルールの定義	承認への影響
脆弱性対応 の承認ルールが定義されていない場合	[承認済み] を選択すると、ポリシー例外が承認されます。
承認ルールが定義されていても、[自動トリガー] チェックボックスが選択されていなかった場合	[承認を要求] をクリックすると、ルールで定義されているユーザーまたはグループにポリシーの例外を送信できます。たとえば、承認ルールは、ポリシー例外が特定のポリシーに基づいている場合、特定のユーザーまたはグループに対して、そのポリシー例外の承認を提供する必要があることを示すことができます。または、リスク評価が「重大」のポリシー例外が特定の承認者に送信されるように、承認ルールを定義することもできます。 ポリシーの例外を承認するために必要な承認者の数は、ルールの [承認が必要] フィールドの設定によって異なります。 [承認] をクリックして、自分でポリシーの例外を承認することもできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認ルールの定義	承認への影響
承認ルールが定義されていて、[自動トリガー] チェックボックスが選択されていなかった場合	[承認] ボタンをクリックすると、承認ルールが実行され、そのルールによって定義されたユーザーまたはグループにポリシー例外が自動的に送信されます。自動トリガーにより、このステップが必須になります。承認を受け取ると、ポリシー例外が有効になります。

10. 脆弱性対応 では、承認が受領された後、ポリシー例外がアクティブになり、脆弱性一致アイテムのパッチ適用アクティビティはポリシー例外が期限切れになるまで保留されます。[有効期限] の日付に達すると、ポリシーの例外が期限切れになり、脆弱性一致アイテムの状況が [保留] から [オープン] に変わります。

ポリシーとコンプライアンス管理 で問題を管理

会社のリスク管理プログラムの有効性は、コンプライアンスの問題をどれほど迅速に識別し完全に反応するかにより測定できます。

すべての GRC アプリケーションで問題がどのように機能するかについては、「GRC の問題」を参照してください。

GRC の問題を手動で作成する

GRC ユーザーは、手動で問題を作成して、ポリシー、リスク、または監査観察事項を文書化するか、GRC の問題を受け入れることができます。問題のソースを特定して、問題の分析と分類を行うこともできます。

始める前に

必要なロール：(製品ごと)

- ポリシーとコンプライアンス管理で：sn_grc.business_user、sn_grc.business_user_lite
- リスク管理:sn_grc.business_user
- 監査管理 で：sn_grc.business_usersn_grc.business_user_lite

> **注:**
> 上記の製品のバージョン 12.0.1 以降では、問題フォームの [アサイン先] ユーザーの最低限のロールは GRC ビジネスユーザー [sn_grc.business_user] です。[問題マネージャー] の最低限のロールは GRC ユーザー [sn_grc._user] です。

問題に対するアクセス制御の制限の詳細については、「GRC business user role to control access and track usage of compliance tables (コンプライアンステーブルのアクセスを制御し、使用状況を追跡するための GRC ビジネスユーザーロール)」を参照してください。

手順

1. 次のいずれかに移動します。
   - すべて > ポリシーとコンプライアンス > 問題 > 新規作成.
   - リスク > 問題 > 新規作成.
   - 監査 > 問題 > 新規作成.

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> 上記の製品のバージョン 12.0.1 以降では、問題フォームの [アサイン先] ユーザーの最低限のロールは GRC ビジネスユーザー [sn_grc.business_user] です。[問題マネージャー] の最低限のロールは GRC ユーザー [sn_grc._user] です。

2. 問題フォーム のフィールドに入力します。

   [日付] タブの期日は、問題の評価に基づいて自動的に計算されます。計算された期日は手動で上書きできます。[タスク SLA] 関連リストは、 期日に基づいて SLA を作成して表示します。

3. 問題レコードを保存します。
   画面の下部にあるタブを使用すると、問題を修正するためのさまざまなタスクを実行できます。ポリシー例外を追加し、修復タスクを作成できます。さらに、他の問題、インジケーターの結果、および問題に関連するタスク SLA を表示できます。

   > **注:**
   > バージョン 12.0.1 以降、[タスク **SLA]** タブは [期日] に基づいて SLA を作成して表示します。問題の [期日] までの 50% に達したとき、次に 75% に達したとき、その後、期日に達したときに、問題オーナーと問題マネージャーに通知が送信されます。[アサイン先] および [期日] フィールドが空でなく、問題が [新規] ステータスでない場合、その問題に対して SLA が作成されます。
   >
   > SLA の期日が変更されると、新しい SLA が作成されます。問題が [完了してクローズ] または [未完了でクローズ] に移行すると、SLA は完了です。また、[期日] または [アサイン先] フィールドが空であるか、ステータスが [新規] の場合、SLA はキャンセルされます。
   >
   > さらに、バージョン 12.0.1 以降では、アサイン先ユーザーおよび問題マネージャーのユーザーロール、および GRC ビジネスユーザーロールを持つユーザーを使用して修復タスクを作成できます。

類似の問題を新しい親問題でグループ化

問題を作成するときは、問題を他の同様の問題とグループ化することができます。

始める前に

必要なロール：(製品ごと)

- ポリシーとコンプライアンス管理 の場合：compliance_admin、compliance_manager、または sn_compliance.user
- リスク管理 の場合：risk_admin、risk_manager、または sn_risk.user
- 監査管理 の場合：audit_admin、audit_manager、audit_admin、または sn_audit.user

このタスクについて

問題を親の下にグループ化することで、貴重な時間を節約できます。たとえば、Windows サーバーのパッチ適用に関連する問題があるとします。各サーバーは個別のエンティティであるため、「毎週火曜日にパッチを適用する必要がある Windows サーバー」に関連付けられているすべてのコントロールに同じ問題が発生します。したがって、関連するパッチを 1 回適用することで、すべての Windows サーバーに対して 1 回で問題を解決できます。したがって、この機能を使用すると、類似の問題をグループ化し、それらをすべて親レベルで解決できます。

自動翻訳

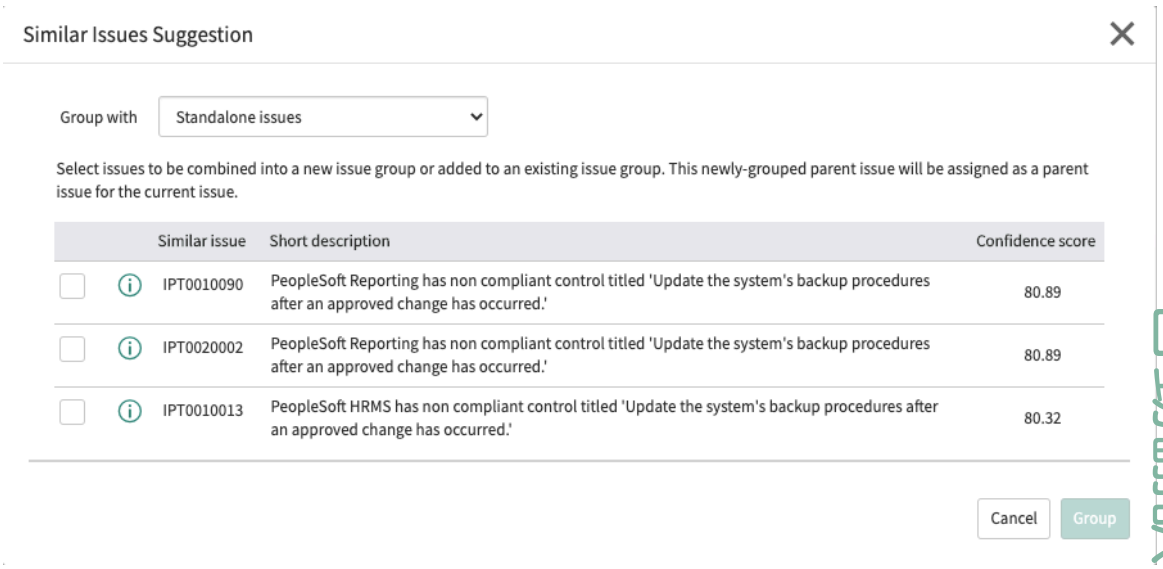
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 次のいずれかに移動します。
   - ポリシーとコンプライアンス > 問題 > 新規作成.
   - リスク > 問題 > 新規作成.
   - 監査 > 問題 > 新規作成.
2. フォームで、[ペアレントレコード] フィールドを見つけます。



3. 電球アイコン ( ) をクリックすると、この親問題にアサインできる類似の問題が表示されます。

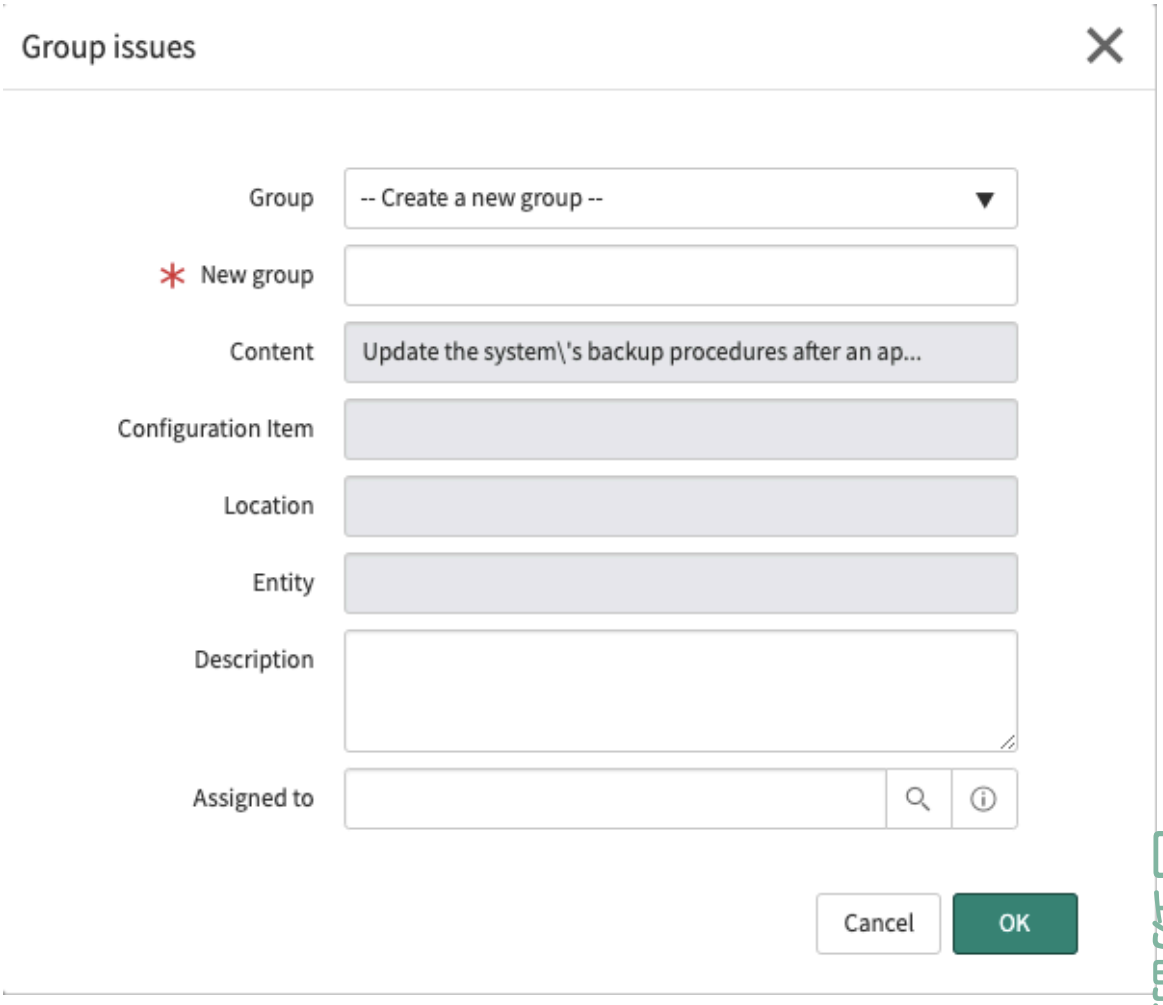


> **注:**
> スタンドアロンの問題は、現在の問題に似ていますが、親の問題グループにアサインされていません。信頼スコアは、GRC: 予測インテリジェンスアプリケーションベースシステムに含まれる類似性定義を使用して計算されます。

4. 情報アイコンをクリックすると、類似の問題の詳細が表示され、現在の問題とグループ化する必要があるかどうかを判断できます。
5. 現在の問題とグループ化する類似の問題を選択し、[グループ] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

6. フォームのフィールドに入力します。

問題フォーム

フィールド	説明
グループ	選択した問題をグループ化して新しいグループにアサインするには、[新しいグループを作成] を選択します。 選択した問題を既存のグループに追加するには、グループを選択します。
新規グループ	このフィールドは、[新規グループを作成] を選択した場合にのみ表示されます。新しいグループの名前を入力します。
説明	このフィールドは、[新規グループを作成] を選択した場合にのみ表示されます。グループの説明を入力します。
アサイン先	このフィールドは、[新規グループを作成] を選択した場合にのみ表示されます。グループがアサインされているユーザーを選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. [**OK**] をクリックします。
   選択した問題が新規または既存のグループに追加されます。
8. [問題] タブをクリックすると、グループ内の問題を表示できます。

既存の親問題で類似の問題をグループ化

問題を作成するときは、問題を他の同様の問題と既存の親問題グループの一部としてグループ化することができます。

始める前に

必要なロール：(製品ごと)

- ポリシーとコンプライアンス管理 の場合：compliance_admin、compliance_manager、または sn_compliance.user
- リスク管理 の場合：risk_admin、risk_manager、または sn_risk.user
- 監査管理 の場合：audit_admin、audit_manager、audit_admin、または sn_audit.user

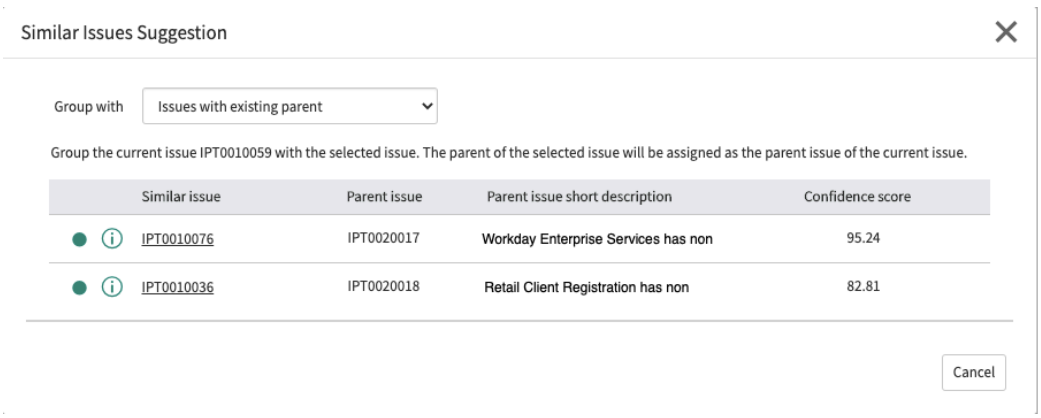
手順

1. 次のいずれかに移動します。
   - ポリシーとコンプライアンス > 問題 > 新規作成.
   - リスク > 問題 > 新規作成.
   - 監査 > 問題 > 新規作成.
2. フォームで、[親] フィールドを見つけます。



3. 電球アイコン ( ) をクリックし、[グループ化] ドロップダウンリストから [既存の親の問題] を選択します。

   類似の問題のリストが表示されます。



4. 現在の問題でグループ化する [類似の問題] をクリックします。
   選択した問題の親問題が現在の問題の親問題になります。
5. [問題] タブをクリックすると、グループ内の問題を表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーザー階層のアクセス制御

ユーザーが問題または修復タスクにアサインされている場合、そのユーザーのマネージャーと階層内の上位のマネージャーも問題または修復タスクレコードにアクセスできます。

[アサイン先] フィールド、[作成者] フィールド、または [オーナー] フィールドのユーザー参照は、ユーザー階層の設定 [sn_grc_user_hierarchy_configuration] テーブルで構成できます。したがって、テーブルのフィールドを設定し、ユーザー参照を (例：[アサイン先] または [問題マネージャー] を [ユーザー参照フィールド 1] または [ユーザー参照フィールド 2] として) 入力できます。ただし、テーブルに設定できるフィールドは 2 つだけです。

ユーザー参照フィールド内のユーザーのマネージャーと階層内の上位のマネージャーは、それぞれ [ユーザー階層フィールド 1] および [ユーザー階層フィールド 2] として設定できます。いずれかのユーザーがユーザー参照フィールドでユーザーのマネージャーでなくなった場合、階層内のそのユーザーはレコードにアクセスできなくなります。ユーザー階層 [sn_grc_user_hierarchy] テーブルでユーザーの階層を表示できます。

ユーザー階層のアクセス制御を有効にするための前提条件は次のとおりです。

- 階層内のユーザーには、少なくとも GRC ビジネスユーザー (sn_grc.business_user) ロールが必要です。
- *`sn_grc.enable_user_hierarchy_access_control`* システムプロパティは **[true]** に設定されている必要があります。

ユーザー階層の概念は、階層内のユーザーの可視化が向上するため、チーム内のユーザーにアサインされたときにその完了を追跡するのに役立ちます。ユーザー階層フィールドは [問題] または [修復タスク] フォームには表示されませんが、この機能を使用すると、レコードにアクセスできる階層内のユーザーに基づいてレコードへのアクセスを制限できます。

サービスポータルを介して自己識別した問題を報告

従業員および社内のビジネスユーザーは問題を自己識別して、ServiceNow® サービスポータル 経由で送信できます。送信に続いて、トリアージ問題が自動的に作成されます。

始める前に

ポリシーとコンプライアンス管理 内で問題トリアージ機能を使用するには、GRC: Advanced Core アプリケーションをダウンロードする必要があります。詳細については、「初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする」を参照してください。

必要なロール:sn_compliance.user、sn_grc.business_user

このタスクについて

サービスポータルを使用して問題を報告する方法は複数あります。たとえば、サービスポータルのホームページで [要求] ボタンをクリックし、[ガバナンス、リスク、コンプライアンス] カテゴリを選択して、[問題を報告] をクリックします。ここでは、代替の、おそらくより簡単な方法について説明します。

手順

1. サービスポータルを開きます。

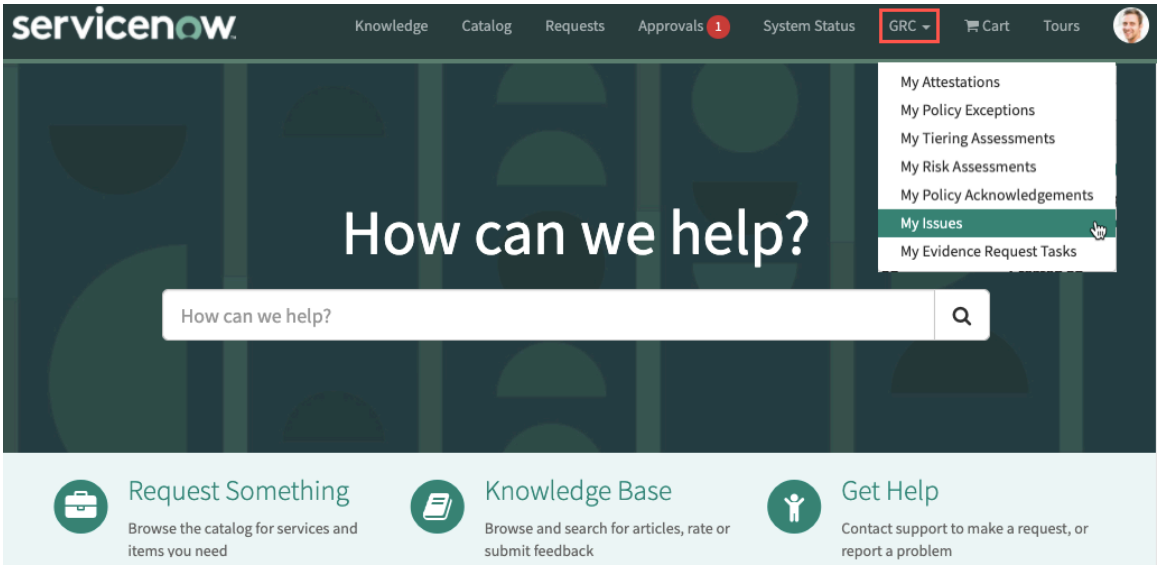
a. インスタンス URL で、インスタンス名の後に *sp* と入力します。

b. Return キーを押します。

自動翻訳

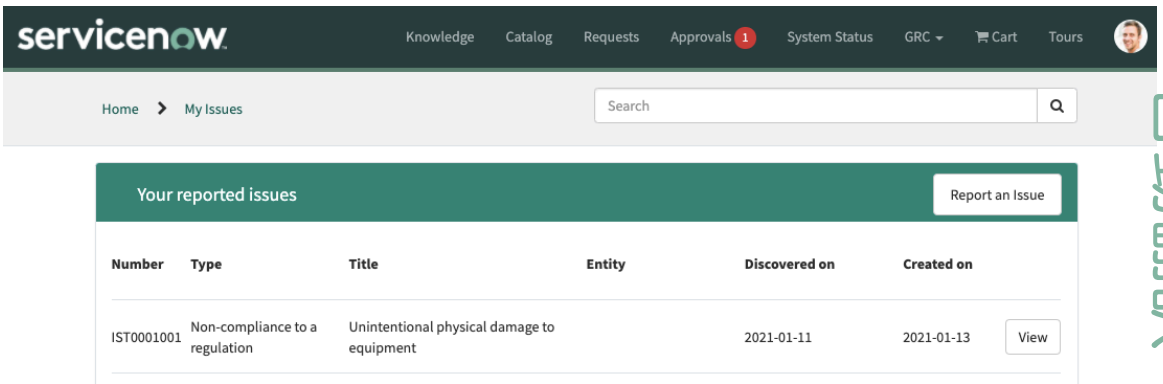
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスポータルホームページ



2. 画面ヘッダーで、 **GRC** > 自分の問題 して、すでに自分にアサインされている問題を表示します。

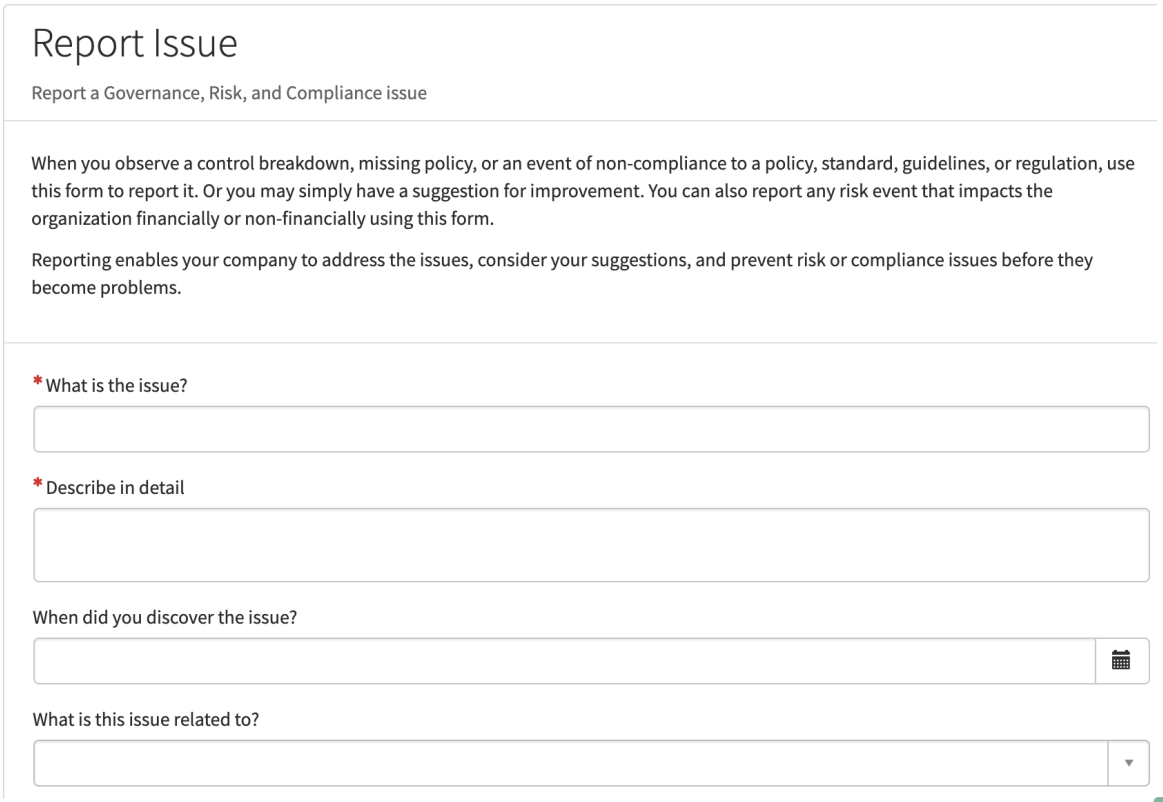
自分の問題



3. [問題の報告] をクリックします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

問題の報告



4. 提示された質問に回答します。

   Example
   入力した回答に応じて、追加の質問が表示される場合があります。たとえば、 [これはどのタイプの問題ですか？] フィールドが [インシデントまたは損失イベント] の場合、インシデントまたは損失イベントに関連する追加の質問が表示されます。または、そのフィールドで [ポリシーへの非準拠] を選択すると、影響を受けるポリシーと、問題の根本原因と思われるものを尋ねられます。

5. すべての質問を完了したら、[送信] をクリックします。

   要求が送信され、問題トリアージレコードが作成されます。これにより、問題のトリアージプロセスが開始されます。

   注:
   サービスポータルの **GRC** オプションメニューに表示されるオプションを制御するには、インスタンスに戻り、 ポリシーとコンプライアンス > 問題のトリアージ > アドミニストレーション > プロパティをクリックし、**sn_grc_advanced.enable_my_issues_hide_my_reported_issues** プロパティを設定します。

   [はい] に設定されている場合は、 **GRC** > 自分の問題 メニューオプションが利用可能で、[報告された自分の問題] オプションは非表示になっています。[自分の問題] メニューオプションを使用して、実際の問題としてリリースされる前にトリアージする必要があるリスクまたはコンプライアンスの問題を作成できます。

   プロパティが [いいえ] に設定されている場合、 **GRC** > 報告された自分の問題 メニューオプションが利用可能で、[自分の問題] オプションは非表示になります。[報告された自分の問題] メニューオプションを使用して、実際のリスクまたはコンプライアンスの問題をサービスポータルから直接作成できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自己識別された問題のトリアージ

問題が特定され、サービスポータル を介して従業員またはビジネスユーザーによって送信されると、問題のトリアージプロセスが開始されます。実際の問題が特定され、優先順位付けと解決のために適切なオーナーにアサインされます。

始める前に

必要なロール：

- sn_compliance.manager
- sn_compliance.user
- sn_grc_advanced.issue_triage_manager
- sn_grc_advanced.issue_triage_user

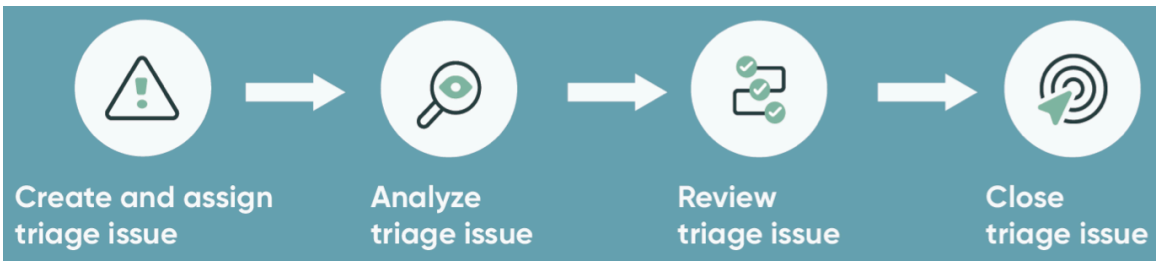
このタスクについて

アサインされたトリアージチームは、自己識別された問題が実際に報告された問題、リスクイベント、または追跡対象の観測事象であるかどうかを識別します。

注:
初期リリースでは、自己識別された問題のみがトリアージプロセスによって処理されます。以降のリリースでは、インジケーターや証明書の失敗などによって生成された問題もトリアージされます。

ここでは、問題のトリアージライフサイクルのエンドツーエンドフローを図で説明します。

問題のトリアージライフサイクル



ステージ	説明
トリアージ問題を作成してアサイン	従業員は、エンティティ、コントロール、ポリシー、各種法令・基準等、プロセス、またはリスクに関連する問題を特定し、ServiceNow サービスポータルでトリアージ要求を送信します。 送信された問題のタイプと問題アサインルールに基づいて、問題はトリアージチームとトリアージオーナーにアサインされます。
トリアージ問題を分析	トリアージチームは、問題を実際の問題またはリスクイベントとして分析するか、ポリシーまたはプロセス最適化のために追跡するかを決定します。 分析中、トリアージチームは、問題作成者から詳細情報を要求できます。チームは、必要に応じて、コンプライアンスマネージャー、リスクマネージャー、またはトリアージの結果がある

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ステージ	説明
	トリアージマネージャーに問題を送信することもできます。 考えられる結果は次のとおりです。 • 新しい問題として確認済み • 既存の問題として確認済み • リスクイベントとして確認済み • 推奨事項として追跡 • 問題以外としてクローズ/アクションは不要
トリアージ問題を確認	レビュー状況はオプションです。チームは、オプションとして、コンプライアンスマネージャー、リスクマネージャー、またはトリアージの結果があるトリアージマネージャーに問題を送信することもできます。トリアージオーナー詳細情報を要求することもできます。 コンプライアンスマネージャー、リスクマネージャー、またはトリアージマネージャーは、問題を問題またはリスクイベントとして確認するか、推奨事項として追跡するか、問題ではないとしてクローズするかを決定します。
トリアージ問題をクローズ	問題が実際の問題またはリスクイベントであると判断された場合は、それらのレコードが作成されるか、既存の問題にトリアージが追加されます。 トリアージプロセスが完了すると、トリアージの問題は自動的にクローズされます。問題は、マネージャーとトリアージチームが手動でクローズすることもできます。

問題のトリアージプロセスには、次のユーザーロールが含まれます。

問題のトリアージペルソナ

ペルソナ/ロール	説明
ビジネスユーザー/従業員	問題を報告する機能。
• コンプライアンスユーザー/マネージャー • リスクユーザー/マネージャー • トリアージユーザー/マネージャー	問題をトリアージおよびレビューする機能
問題マネージャー	レポート可能な問題を管理およびレビューする機能
問題オーナー	担当者に割り当てられたレポート可能な問題を解決する機能

自動翻訳

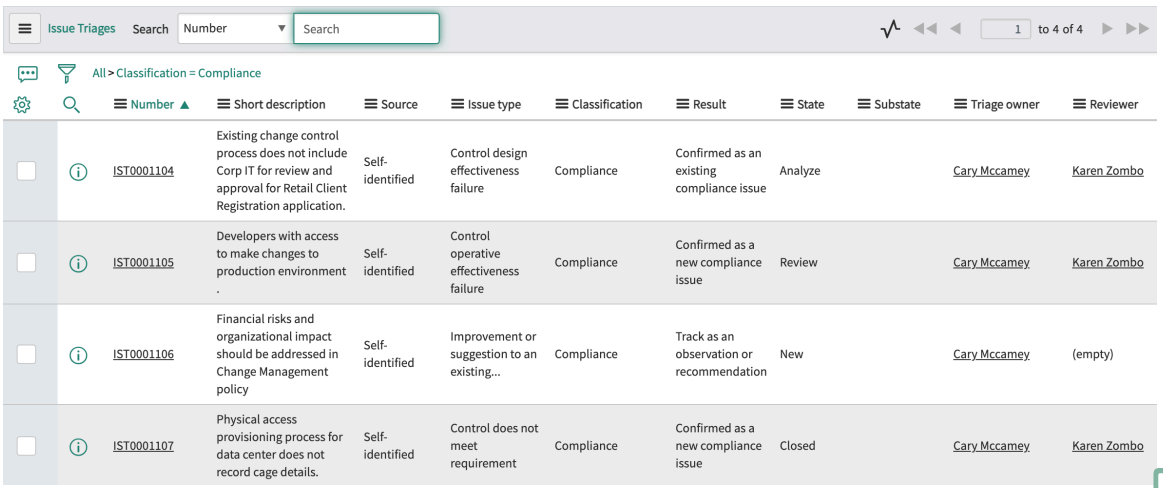
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
トリアージユーザー/マネージャーおよび問題マネージャーのロールは、GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 バージョン 11.1.0 で導入されました。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > 問題のトリアージ > 自分のトリアージ問題 または リスク > 問題のトリアージ > 自分のトリアージ問題.
   リストには、以前に作成されアサインされた問題のトリアージが表示されます。

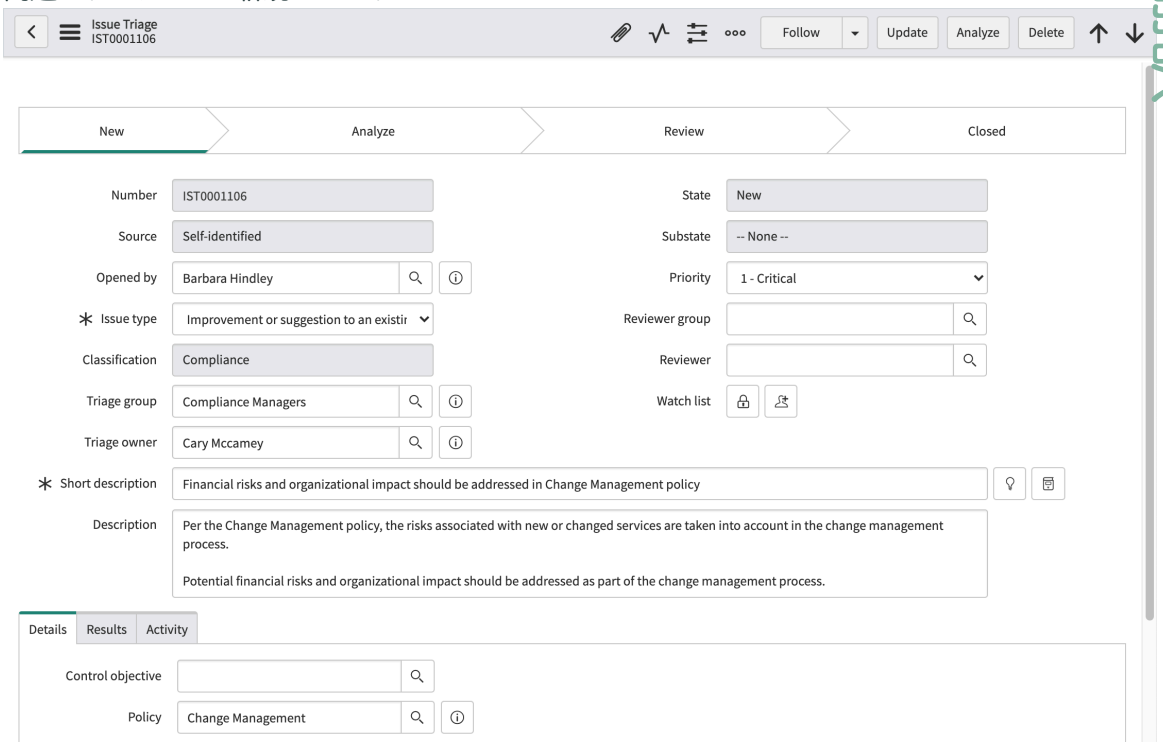
問題のトリアージ



Number	Short description	Source	Issue type	Classification	Result	State	Substate	Triage owner	Reviewer
IST0001104	Existing change control process does not include Corp IT for review and approval for Retail Client Registration application.	Self-identified	Control design effectiveness failure	Compliance	Confirmed as an existing compliance issue	Analyze		Cary Mccamey	Karen Zombo
IST0001105	Developers with access to make changes to production environment .	Self-identified	Control operative effectiveness failure	Compliance	Confirmed as a new compliance issue	Review		Cary Mccamey	Karen Zombo
IST0001106	Financial risks and organizational impact should be addressed in Change Management policy	Self-identified	Improvement or suggestion to an existing...	Compliance	Track as an observation or recommendation	New		Cary Mccamey	(empty)
IST0001107	Physical access provisioning process for data center does not record cage details.	Self-identified	Control does not meet requirement	Compliance	Confirmed as a new compliance issue	Closed		Cary Mccamey	Karen Zombo

2. トリアージする問題の番号をクリックします。

問題のトリアージ - 新規レコード



自動翻訳

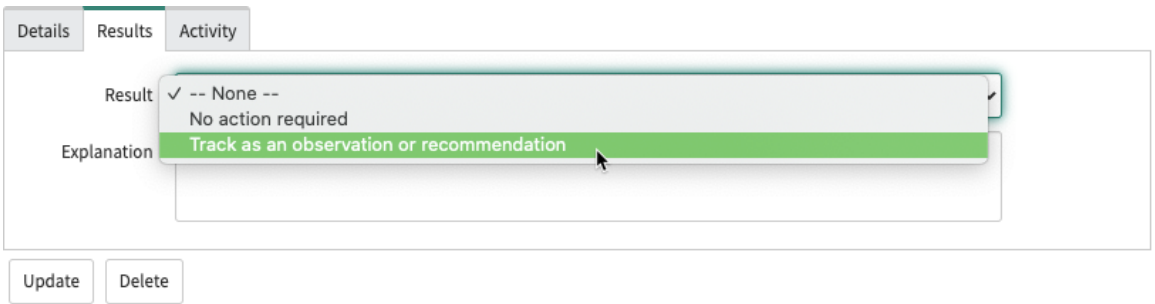
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
[分類] フィールドは、選択した [問題タイプ] に基づいて自動的に事前入力されます。同様に、sn_grc_advanced_issue_triage と呼ばれるアサインルールが実行され、[トリアージグループ] に事前入力されます。このルールは、[ソース] と [分類] を使用して、トリアージが割り当てられるグループを決定します。アサインルールは、リスク管理の問題のトリアージ、および [分類] が [その他] に設定されている (つまり、分類が当初は不明である) トリアージも処理します。2 番目のユースケースでは、[トリアージグループ] を [リスク] または [コンプライアンス] に手動で設定する必要があります。

3. この問題のトリアージを開始する準備ができたら、[トリアージオーナー] を選択し、[分析] をクリックします。
   これでアサインされたトリアージオーナーは、問題をオープンして分析を開始できます。
4. 分析中、トリアージオーナーはいくつかのタスクを実行できます。

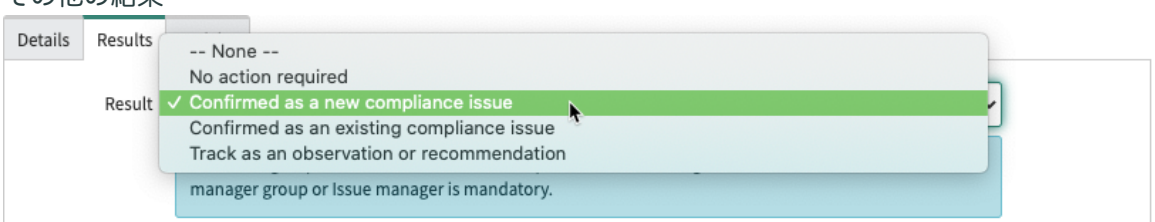
   Example
   オーナーは、たとえば、問題が誤って分類されていると判断し、[問題タイプ] を変更できます。このアクションにより、トリアージグループとトリアージオーナーが変更される可能性があります。この例では、アサインルールがバックグラウンドで実行され、現在のオーナーのキューから問題が削除されます。
5. トリアージオーナーは、次のアクションも実行できます。
   - [情報を要求] をクリックして、問題の送信者に追加情報を要求します。
   - [レビューを要求] をクリックして、[レビュー担当者] フィールドで指定されたユーザーからのレビューを要求します。そのユーザーは、に移動して問題を開いてレビューできます ポリシーとコンプライアンス > 問題のトリアージ > 自分の処理待ちのレビュー.
   - [詳細] 関連リストを選択して、問題をさらに拡張します。
6. 問題に対して実行するアクション (該当する場合) が決定された後、トリアージオーナーは [結果] 関連リストから分析の結果を選択できます。

結果



注:
[結果] フィールドで使用可能なオプションは、この問題に対して識別された [問題タイプ] によって異なります。たとえば、[問題タイプ] として [コントロール設計有効性の問題] を選択した場合、次の結果が選択される可能性があります。

その他の結果

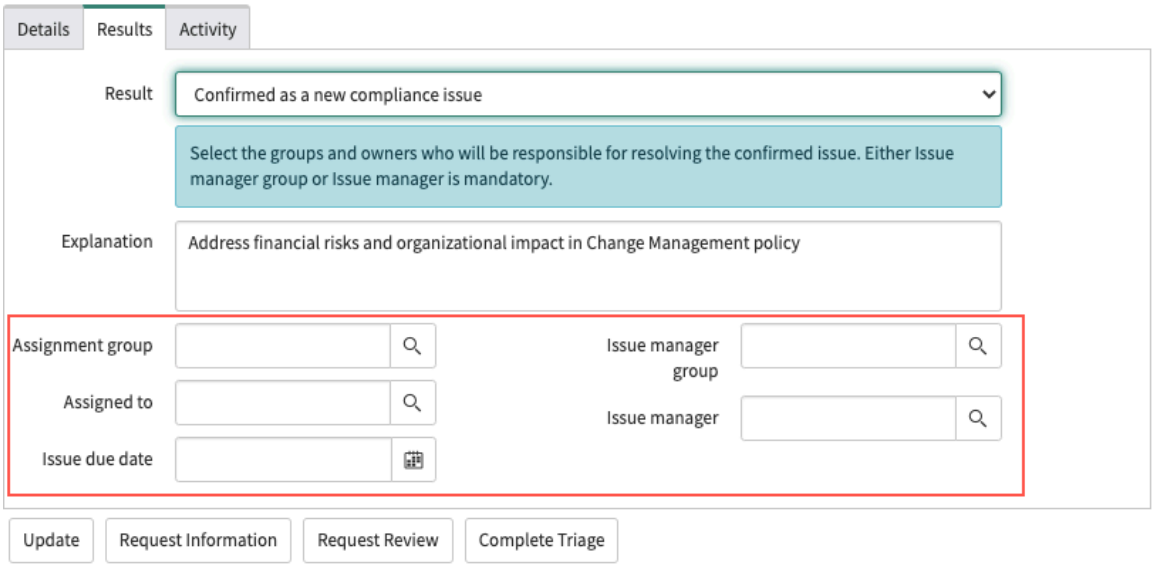


自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. [新しいコンプライアンスの問題として確認済み] など、単純な観察よりも多くのアクションが必要な結果を選択した場合は、次の画面に示すように、追加の分析フィールドが表示されます。

[結果] を選択した後に表示される追加フィールド



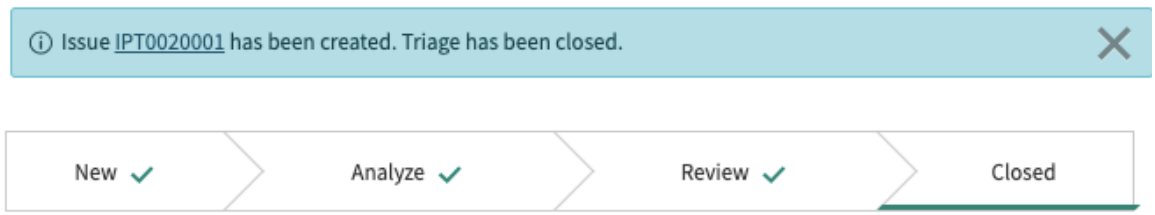
結果が [既存のコンプライアンスの問題として確認済み] の場合、参照している既存の問題を特定する必要がある [既存の問題] フィールドが表示されます。

8. 問題のトリアージが完了すると、トリアージオーナーは [トリアージを完了] をクリックできます。

> **注:**
> 問題がレビュー対象外の場合、レビュー担当者は [トリアージを完了] をクリックしてトリアージを完了し、実際の問題を作成することもできます。

問題のトリアージが [クローズ済み] ステータスに移行し、問題へのリンクが画面の上部に表示されます。

トリアージがクローズされ、新しい問題が作成される



9. 問題は、通常のイシュー管理手順を使用して分析できます。
[問題] フォームの重要な変更の 1 つは、[問題トリアージ] 関連リストの追加です。トリアージレコードを開くと、この問題の作成の原因となったトリアージの詳細がアナリストに提供されます。

ポリシーとコンプライアンス管理 での問題の修正

問題が特定され、トリアージされ、調査された後、修正できます。

始める前に

必要なロール：
compliance_admin、compliance_manager、sn_compliance.user、sn_grc.business_user、sn_grc.business_us

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> バージョン 12.0.1 以降では、[修復タスク] フォームの [アサイン先] ユーザーの最小ロールは GRC ビジネスユーザー [sn_grc.business_user] です。**[sn_compliance.user]** の最小ロールは GRC ユーザー [sn_grc._user] です。
>
> 修復タスクに対するアクセス制御の制限の詳細については、「GRC business user role to control access and track usage of compliance tables (コンプライアンステーブルのアクセスを制御し、使用状況を追跡するための GRC ビジネスユーザーロール)」を参照してください。

このタスクについて

問題を修正することで、コントロールエラーやリスクエクスポージャーを引き起こしている根本的な問題を修正する意図があることをマークします。問題を受け入れて、既知のコントロールエラーやリスクの例外を作成する意図があることをマークします。[受入れ済み] のコントロールは、コントロールが再評価されるまでは、非準拠ステータスのままになります。これにより、監査中に所見を文書化するために問題を使用することができます。

手順

1. 修正する問題を開きます。
2. [修復タスク] タブをクリックします。

> **注:**
> 修復タスクを作成するには、次の 2 つのオプションがあります。
>
> - このタスクを作成するための基礎として既存のタスクを使用するには、[提案された修復タスク] をクリックし、[コピー] をクリックします。選択した修復タスクのコピーが作成され、そのタスクの特定の情報が新しいタスクにコピーされます。他のフィールドは手動で入力できます。
> - [新規] をクリックして手動でタスクを作成します。

3. フォームのフィールドに入力します。

修復タスクフォーム

フィールド	説明
番号	一意の識別番号。
アサイン先	このタスクの作業を担当するユーザーを選択します。 修復タスクにアクセスするユーザーの階層を構成できます。詳細については、「User hierarchy access control for issue and remediation task records (問題および修復タスクレコードのユーザー階層のアクセス制御)」を参照してください。
問題	このタスクが作成された問題。
ステータス	タスクの現在のステータス。
優先度	影響度と緊急度に基づいて、このタスクを解決する必要がある優先度または順序を選択します。
ウォッチリスト	変更が発生したときに通知を受け取るユーザーを選択します。
作成/更新	タスクが作成および更新された日時を表示します。
名前	タスクの短い説明。これはタスクのリストに表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
説明	タスクの詳細な説明を入力します。
メモとコメント	
追加コメント	必要に応じて、このタスクに関連する顧客向けのコメントを入力します。
作業メモ	問題の修正に関連する、顧客向け以外のメモを入力します。
タスク スケジュール	
計画された期間	作業時間の見積もり。[開始予定日] と [終了予定日] を使用して計算されます。
開始予定日	タスクの作業の開始予定日時。
終了予定日	タスクの作業の終了予定日時。
実際の期間	実際の作業時間。[実開始日] と [実終了日] を使用して計算されます。
実開始日	このタスクの作業が開始された時間。
実終了日	このタスクの作業が完了した時間。
機密性	
機密	レコードの機密性を有効にするオプション。アサインされた機密ユーザーまたはユーザーの機密グループのみがレコードにアクセスできます。 機密オプションの詳細については、「監査およびコンプライアンスレコードの機密性フラグ」を参照してください。

4. [送信] をクリックします。

自動翻訳

UCF 統合を管理

Network Frontiers Unified Compliance Framework (UCF) は、サブスクリプションを検証する認証プロセスを通じて ServiceNow インスタンスと統合します。[UCF 構成] フォームで、認証のタイプを選択し、UCF 提供の API キーまたは ServiceNow 提供の OAuth2 クライアントとシークレットを入力します。

重要:
Kingston で導入された、ServiceNow が提供する OAuth クライアントと UCF Common Controls Hub を使用した UCF 統合は引き続きサポートされていますが、これはインスタンスを UCF と統合する方法として推奨されなくなりました。推奨されるのは、UCF 提供の API キーを使用して UCF 統合を設定する方法です (以下のリンクを参照)。

コンプライアンス UCF をアクティブ化

GRC: Compliance UCF (com.sn_comp_ucf) プラグインは、個別のサブスクリプションとして使用できます。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
このプラグインにはデモデータが含まれ、関連プラグインがまだ有効になっていない場合はアクティブ化します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. フィルター基準と検索バーを使用してプラグインを検索します。

   名前または ID でプラグインを検索できます。プラグインが見つからない場合は、ServiceNow 担当者から要求する必要があります。
3. [インストール] を選択して、インストールプロセスを開始します。

   > **注:**
   > ドメインセパレーションと代理アドミンがインスタンスで有効になっている場合、管理ユーザーはグローバルドメインに含まれている必要があります。それ以外の場合、次のエラーが表示されます： 「別の操作が実行されているため、アプリケーションのインストールは利用できません： <プラグイン名> のプラグインの有効化 (Application installation is unavailable because another operation is running: Plugin Activation for <plugin name>)」

   インストールが完了するとメッセージが表示されます。プラグインとともにインストールされるコンポーネントの詳細については、「 アプリケーションとともにインストールされているコンポーネントの検索 」を参照してください。

次のタスク
UCF から提供された API キーを使用するか (推奨方法)、または ServiceNow Store からサブスクリプションとして購入できる UCF Common Controls Hub を使用して、コントロールライブラリのソースを設定します。詳細については、「Common Controls Hub 」または「Unified Compliance Framework 」を参照してください。

UCF が提供する API キーを使用して UCF 統合を構成

UCF は、サブスクリプションを検証する認証プロセスを通じて ServiceNow インスタンスと統合します。

始める前に
必要なロール：admin

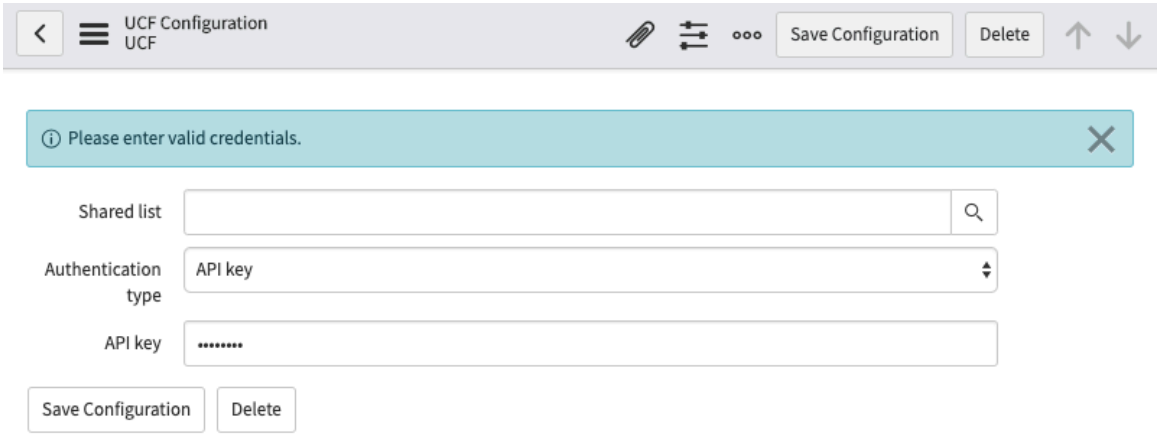
このタスクについて
UCF 統合を設定する前に、UCF 基本サブスクリプションが必要であり、アカウントで API キーマネージャーを使用して UCF から API キーを取得する必要があります。また、アカウントで UCF 各種法令・基準等の共有リストを定義する必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > **Unified Compliance Integration**.
2. UCF 構成をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



3. フォームのフィールドに入力します。

UCF 構成

フィールド	説明
共有リスト	UCF アカウントから共有リストを選択します。
認証タイプ	**[API** キー] を選択します。
API キー	UCF アカウントから取得した API キーを入力します。

4. [構成を保存] をクリックします。

UCF Common Controls Hub を使用して **UCF** 統合を構成する

コンプライアンスアドミニストレーターは、Network Frontiers Unified Compliance Framework (UCF) からコンテンツをダウンロードして、GRC 各種法令・基準等、引用、コントロール、およびコントロール目標として使用できます。

始める前に
必要なロール：sn_comp_ucf.admin および oauth_admin
ドキュメントは事前に定義された間隔で更新できます。共有リストを作成して ServiceNow® インスタンスにインポートするには、UCF Common Controls Hub アカウントが必要です。UCF-CCH から UCF コンテンツをダウンロードするには、API アクセスが必要です。

注:
UCF Common Controls Hub を使用して UCF 統合を構成する前に、次の指針に注意してください。

- UCF OAuth アドミンのみがシステム OAuth テーブルにアクセスできます。UCF アドミニストレーターは UCF 設定ページを設定できるように、GRC UCF アドミニストレーターに UCF OAuth アドミンロールを付与する必要があります。
- UCF 統合では、GRC が設定されている必要があり、ユーザーは Common Controls Hub アドミンである必要があります。
- グローバルドメインの設定ページがデフォルトでロードされます。ドメインセパレーションを使用している場合は、デフォルトの設定ページを削除して、ドメインに固有の設定ページを作成します。

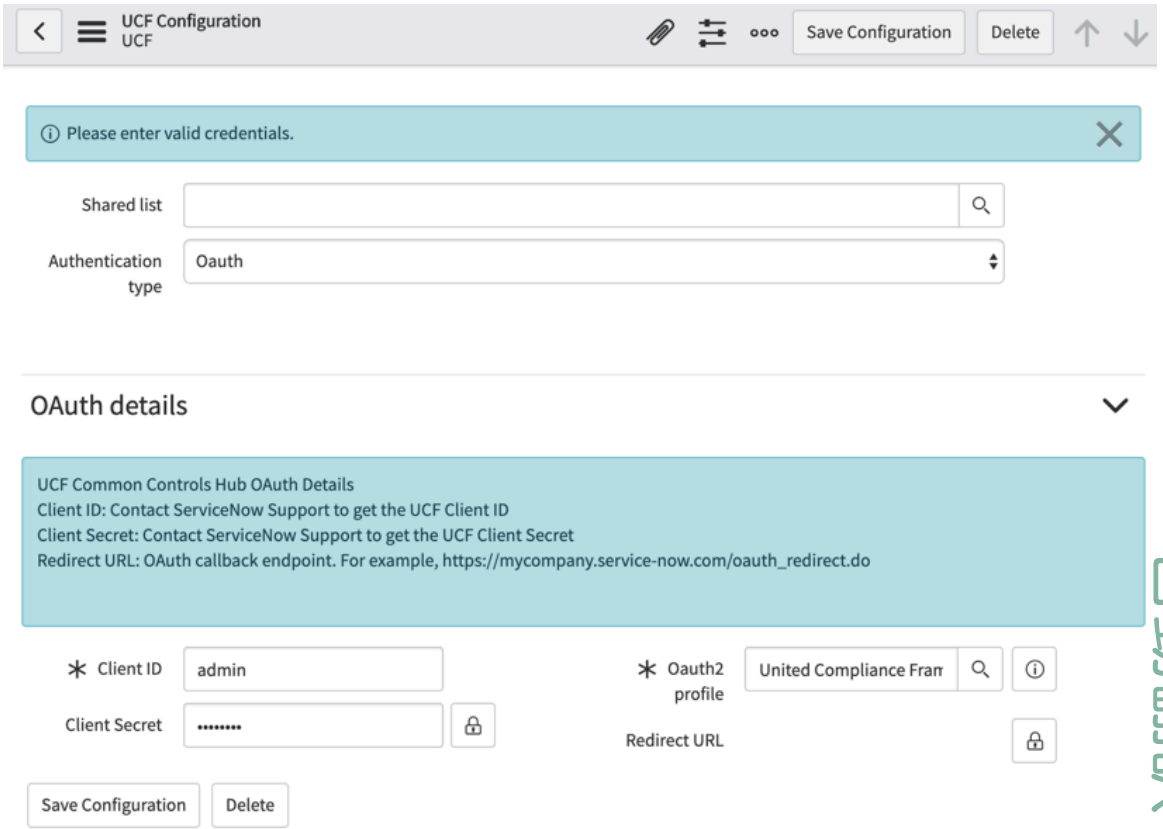
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > **Unified Compliance Integration**.
2. UCF 構成をクリックします。



3. フォームのフィールドに入力します。

UCF 構成

フィールド	説明
共有リスト	インポートする共有リスト。 注: サブスクリプション認証用の共有リストが表示されます。
認証タイプ	**[OAuth]** を選択します。
OAuth の詳細	
クライアント ID	カスタマーサービス & サポート から提供されたクライアント ID または UCF OAuth クライアント ID を入力します。詳細については、「UCF-CCH アカウント統合情報に Now Support ケースを作成」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: 構成情報は ServiceNow® インスタンスに固有です。使用しているテスト、開発、または本番インスタンスについては、必ず、正確な情報を入力してください。入力にはスペースを含めないでください。
クライアントシークレット	OAuth クライアントが認証サーバーに対する認証に使用するクライアントシークレットを入力します。クライアントシークレットは、推測できないように十分にランダムである必要があります。
OAuth2 プロファイル	ダウンロードに使用する OAuth2 プロファイルを入力します。デフォルトは、UCF プラグインとともにインストールされる United Compliance Framework のデフォルトプロファイルです。通常、このフィールドを変更する必要はありません。
リダイレクト URL	カスタマーサービス & サポート で指定されたリダイレクト URL を入力します。 例：https://mycompany.service-now.com/oauth_redirect.do

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
5. 表示される [UCF 統合] ダイアログで、[新しいトークンを要求] をクリックします。

   注:
   初期設定では、UCF アドミンアカウントを持つユーザーがこの設定と次の手順を実行します。

6. Common Controls Hub の認証情報を入力してログインします。
7. 表示されるアプリケーション認証メッセージで、[認可] をクリックします。
8. 共有リストを選択し、[構成を保存] をクリックします。

次のタスク
UCF に新しいフィールドとコンテンツが導入された場合、アドミニストレーターはステージングテーブルと変換マップを使用して、UCF データ形式の変更に対応できます。これは詳細構成であり、必須ではありません。次のインポートセットとテーブルを構成して、UCF ダウンロードロジックをカスタマイズできます。

UCF 統合に使用されるステージングテーブル [インポートセット行テーブル: **import_set_row** から拡張]

ステージングテーブル	説明
UCF 各種法令・基準等 [sn_comp_ucf_authority_document]	UCF 各種法令・基準等ステージングテーブルは、UCF Common Controls Hub からダウンロードされる各種法令・基準等の保存に使用されます。
UCF 引用 [sn_comp_ucf_citation]	UCF 引用ステージングテーブルは、UCF Common Controls Hub からダウンロードされる引用の保存に使用されます。
UCF コントロール [sn_comp_ucf_control]	UCF コントロールステージングテーブルは、UCF Common Controls Hub からダウン

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UCF 統合に使用されるステージングテーブル [インポートセット行テーブル: **import_set_row** から拡張] (続く)

ステージングテーブル	説明
	ロードされるコントロールの保存に使用されます。
UCF 引用からコントロール [sn_comp_ucf_m2m_control_citation]	UCF 引用からコントロールステージングテーブルは、UCF Common Controls Hub からダウンロードされる引用からコントロールの保存に使用されます。

UCF 統合に使用される変換マップ

変換マップ	説明
デフォルトの各種法令・基準等の変換	UCF 各種法令・基準等ステージングテーブルから各種法令・基準等テーブルにデータを変換します。
デフォルトの引用変換	UCF 引用ステージングテーブルから引用テーブルにデータを変換します。
デフォルトのコントロール変換	UCF コントロールステージングテーブルからコントロール目標テーブルにデータを変換します。
コントロールから引用変換マップ	UCF 引用からコントロールステージングテーブルから、コントロール目標から引用テーブルにデータを変換します。

Unified Compliance Framework (UCF) Common Controls Hub と統合してコンプライアンスフレームワークを管理する

コンプライアンスアドミニストレーターは、Network Frontiers Unified Compliance Framework (UCF) からコンテンツをダウンロードして、GRC 各種法令・基準等、引用、コントロール、およびコントロール目標として使用できます。ドキュメントは事前に定義された間隔で更新できます。共有リストを作成して ServiceNow インスタンスにインポートするには、UCF Common Controls Hub アカウントが必要です。

組織がコントロールライブラリのソースとして UCF Common Controls Hub を使用する場合は、ServiceNow Store からサブスクリプションを購入するか、Common Controls Hub を参照してください。詳細については、「Unified Compliance Framework」を参照してください。

注:
GRC ライセンスを含む UCF コンテンツへの無料アクセスに関する従来の取り決めは、2018年11月30日に終了しました。すべての顧客は、Unified Compliance から直接サブスクリプションを購入する必要があります。

警告:
UCF 各種法令・基準等からインポートされたすべてのデータは読み取り専用であり、保護する必要があります。GRC テーブルに変換された UCF フィールドで、各種法令・基準等、引用、コントロール目標をカスタマイズしないでください。

1. UCF CCH アカウントにサインアップし、基本サブスクリプションをカスタマイズして API アクセスを含めます。
2. コンプライアンス UCF をアクティブ化。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

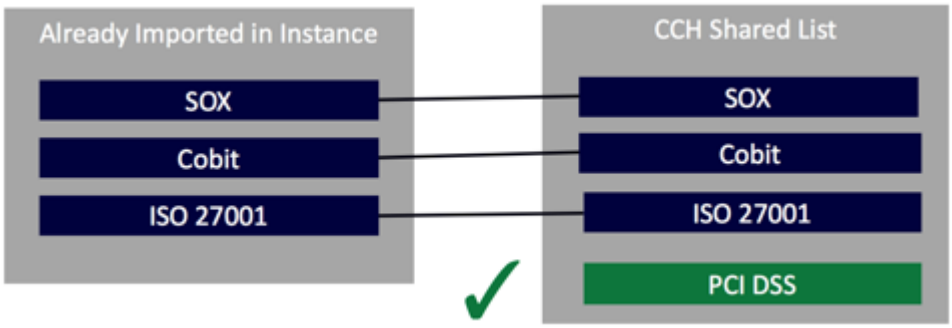
自動翻訳

3. UCF-CCH アカウント統合情報に Now Support ケースを作成。
4. UCF Common Controls Hub を使用して UCF 統合を構成する。
5. UCF 共有リストをダウンロード。

単一の共有リストを使用した各種法令・基準等のインポート

ServiceNow® インスタンスにインポート済みのすべての各種法令・基準等は、UCF CCH からインポートする共有リストに含まれている必要があります。これにより、UCF CCH の内容 (変更されている可能性がある) とインポート済みの内容との間の不整合を防止します。

共有リストのインポートに成功



共有リストのインポートに失敗



この共有リスト内で SOX が再インポートされていないため、エラーが表示されます。

複数の共有リストを使用した各種法令・基準等のインポート

100 を超える各種法令・基準等をインポートする必要がある場合は、複数の共有リストにインポートする必要があります。これは、共有リストに含めることができるのは 100 件の各種法令・基準等のみであるという制限があるためです。共有リスト (SL) は複数作成できます。たとえば、SL1 は 100 件の各種法令・基準等をインポートし、SL2 は残りをインポートします。各種法令・基準等を複数の共有リストにインポートする場合は、複数の共有リスト間でドキュメントの依存関係がないように、類似した各種法令・基準等をグループ化します。

複数の共有リストをサポートするには、デフォルトで **true** になっているシステムプロパティ *sn_comp_ucf.deactivate_deprecated_docs* を **false** に設定する必要があります。

- システムプロパティが true に設定されている場合は、インポートされた各種法令・基準等が既に ServiceNow インスタンスにインポートされているかどうかを確認するために、既存の検証が実行されます。
- システムプロパティが false に設定されている場合は、インポートされた各種法令・基準等は一切検証されません。

プロパティを false に設定し、複数の共有リストに UCF コンテンツをインポートします。共有リストにインポートされた各種法令・基準等、引用、およびコントロール目標が廃止された場合、そ

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

ういったドキュメントは ServiceNow インスタンスで無効化されません。代わりに、ユーザーはドキュメントおよび引用とコントロール目標の間のリンクを手動で検証する必要があります。引用とコントロール目標間のマッピングへのリンクを含むメールが送信されます。

UCF と GRC の用語の違い

UCF コンテンツ内の各種法令・基準等は整理されて適切な引用にマッピングされ、共通のコントロールセットにマッピングされます。UCF と GRC アプリケーションの用語は、次の表で説明されているようにわずかに異なります。

用語の違い

UCF	GRC アプリケーション
各種法令・基準等	各種法令・基準等
信頼できるソースコンテンツ	信頼できるソースコンテンツ
コントロール	コントロール目標

UCF-CCH アカウント統合情報に Now Support ケースを作成

UCF CCH アカウントを確立した後、Now Support サービスポータルを使用してアカウント統合プロセスを開始します。

始める前に
UCF CCH アカウントにサインアップし、基本サブスクリプションをカスタマイズして API アクセスを含めます。UCF アドミンロールを持つユーザーは、CCH アカウントにログインして API キーを生成する必要があります。

> **注:**
> GRC ライセンスを含む UCF コンテンツへの無料アクセスに関する従来の取り決めは、2018年11月30日に終了しました。すべての顧客は、Unified Compliance から直接サブスクリプションを購入する必要があります。

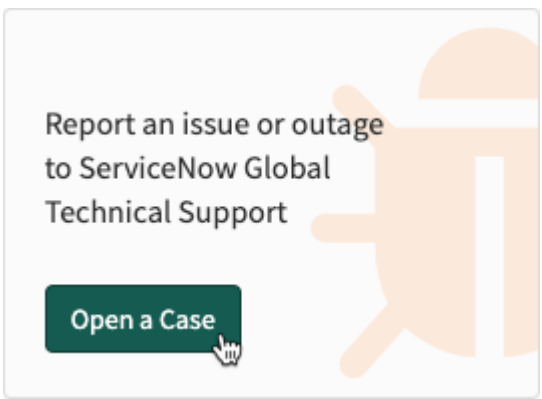
必要なロール：admin

手順

1. Compliance UCF プラグインをアクティブ化した後、[HI サービスポータル] にサインインします。
2. [ヘルプ] をクリックします。

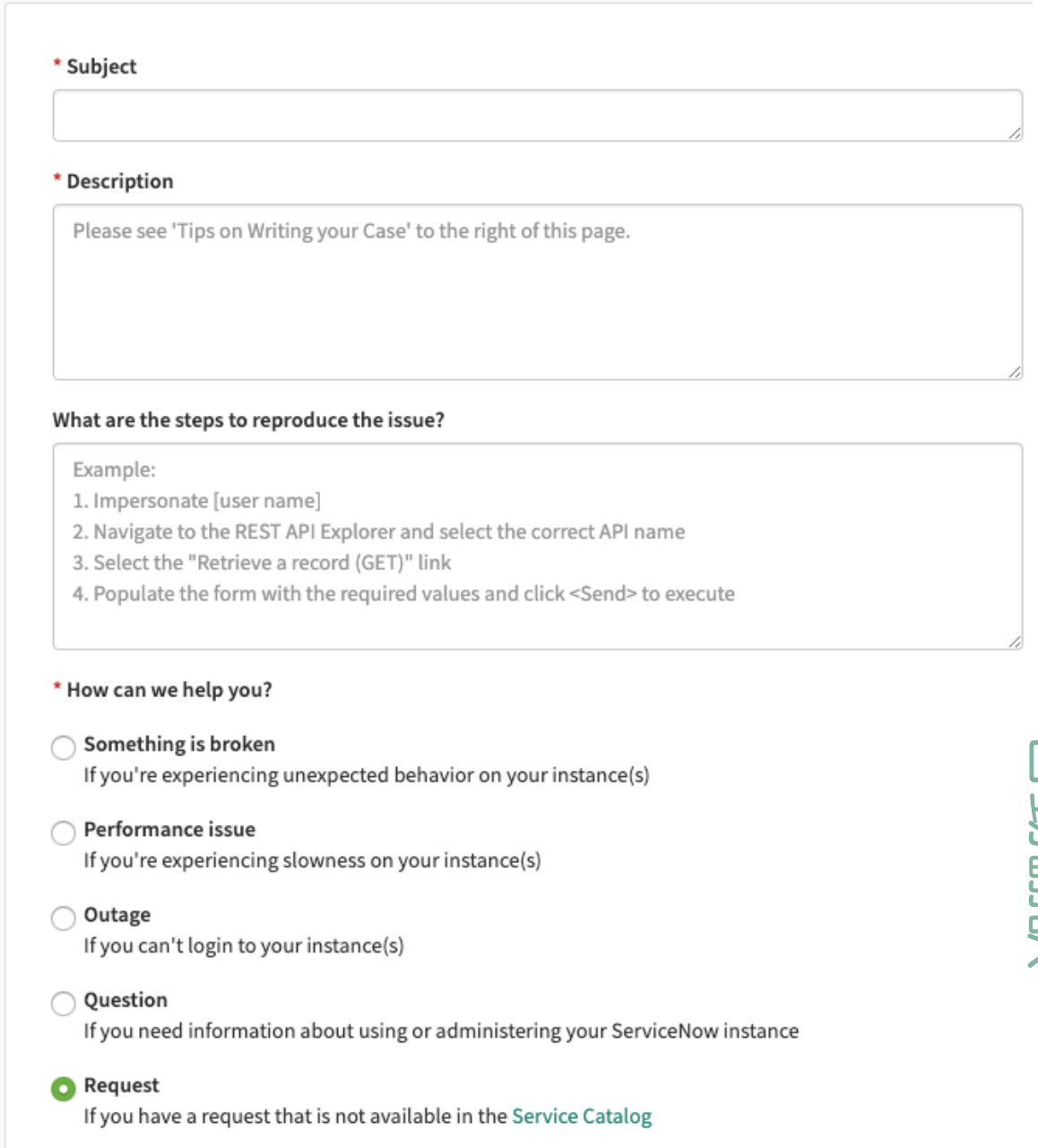


3. [ケースをオープン] をクリックします。



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

4. [ケースを作成] フォームに入力します。

フィールド	説明
件名	ケースの簡単な説明です。
説明	問題を説明し、次の情報を提供します。 ○ 次のように入力します。新しい GRC: Compliance UCF (com.sn_comp_ucf) プラグインをアクティブ化しました。UCF CCH には登録済みです。統合を完了するために必要な OAuth 情報を提供してください。 ○ 会社名と会社アカウント番号を含めます。 ○ 要求者の名前、勤務先メールアドレス、および電話番号を記載します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: 会社と要求者の連絡先情報を提供することで、ServiceNow® カスタマーサービスが第三者である Network Frontiers に連絡してその情報を共有し、UCF CCH アカウントの登録を完了することを承認します。
何かお困りですか？	[要求] をクリックします。
添付ファイル (スクリーンショット、ログなど)	必要に応じてスクリーンショットを添付します。
どのインスタンスが影響を受けますか？(Which of your instances are affected?)	会社の GRC インスタンスを入力します。
どのような影響がありますか？	回答を選択します。

5. [送信] をクリックします。
   カスタマーサービス & サポート が OAuth 統合プロセスを開始し、統合情報を要求者に提供します。

UCF 共有リストをダウンロード

コンプライアンスマネージャーが UCF CCH から UCF 各種法令・基準等をダウンロードするには、リストを [共有] としてマークする必要があります。各種法令・基準等を更新する場合、または新しいドキュメントを追加する場合は、すべての各種法令・基準等を更新して、共通コントロールフレームワークが使用中の各種法令・基準等と同期していることを確認する必要があります。

始める前に

必要なロール：sn_compliance.admin または sn_compliance.manager

注:
UCF の現在の設計では、必須コントロールと暗黙コントロールのダウンロードがサポートされています。実装コントロールのダウンロードはサポートされていません。Unified Compliance ドキュメント「How do I distribute an authority document list to other accounts? (各種法令・基準等のリストを他のアカウントに配布する方法)」を参照してください。

UCF 各種法令・基準等からインポートされたすべてのデータは読み取り専用であり、保護する必要があります。GRC テーブルの UCF フィールドで、各種法令・基準等、引用、コントロール目標をカスタマイズしないでください。

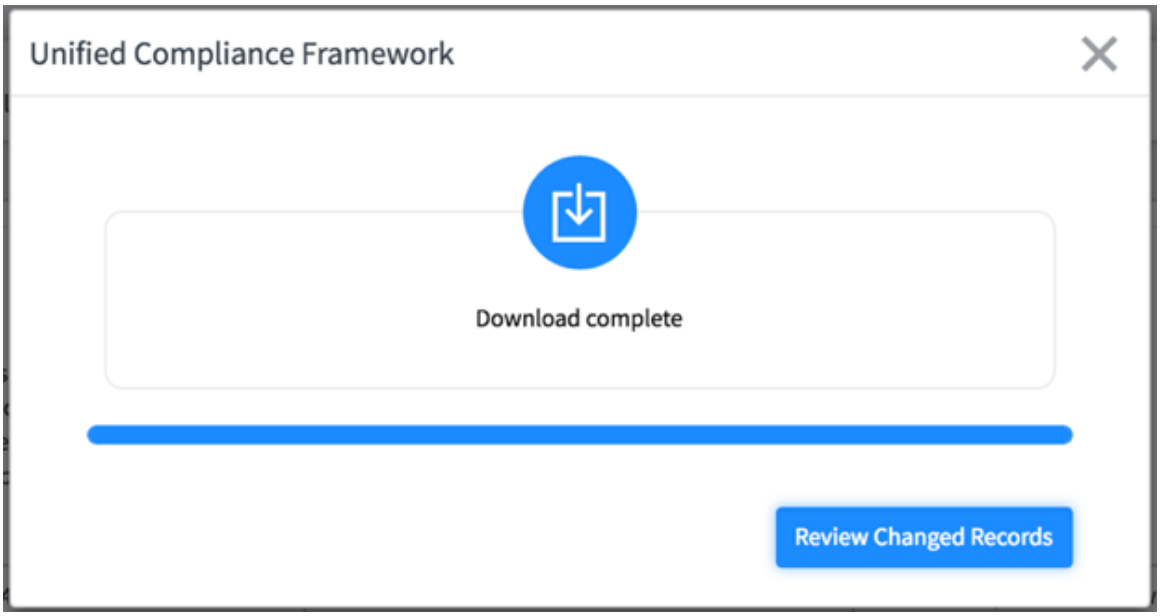
手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > **Unified Compliance Integration**.
2. **UCF** 構成をクリックします。
3. 必要に応じて、UCF Common Controls Hub を使用して UCF 統合を構成する。
4. [共有リストをインポート] をクリックします。

   進捗状況バーに、ドキュメントのダウンロードとインポートの進捗状況が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



次のいずれかのエラーが発生する可能性があります。

UCF 共有リストエラー

エラー	説明	解決
UCF コンテンツのダウンロード中にエラーが発生しました。再試行するか、詳細についてシステムアドミニストレーターにお問い合わせください。	何らかの理由でインターネット接続が失われた場合、このメッセージが表示されます。	[共有リストをインポート] をクリックして再度ダウンロードします。
UCF コンテンツのダウンロード中にエラーが発生しました。再試行するか、詳細についてシステムアドミニストレーターにお問い合	このメッセージは、各種法令・基準等が既存の共有リストの一部であること、または UCF インポートエラーの可能性を示している場合もあります。各種法令・基準等、引用、コントロール目標、および引用とコントロール目標のマッピングへのリンクの有効性を	ポリシーとコンプライアンス管理 バージョン 12.0.4 以降、UCF アドミニストレーターは無効なレコードへのリンクを含むメールを受信します。 **a.** メール内のリンクをクリックし、リストされているレコードを修正します。 **b.** 他の無効なレコードがメールに表示されている場合は、この手順を繰り返します。 **c.** [共有リストをインポート] をクリックして再度ダウンロードします。

自動翻訳

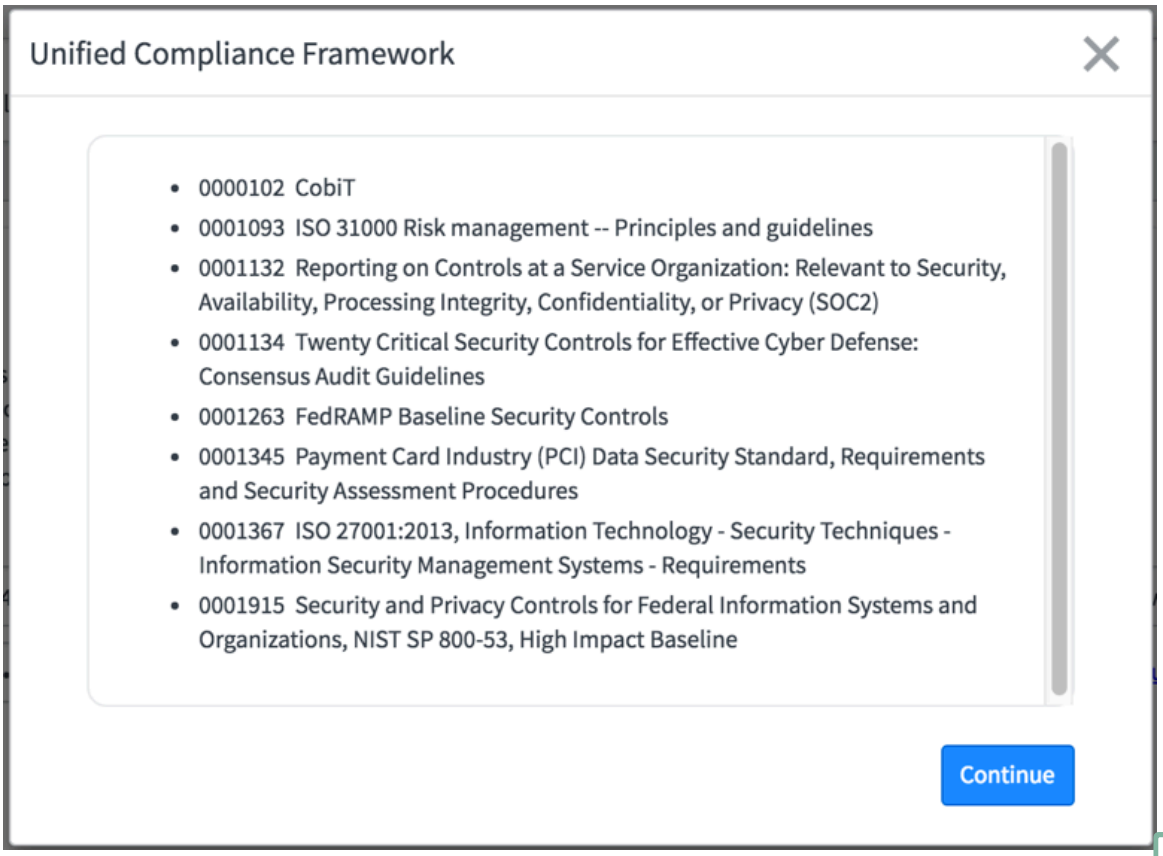
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エラー	説明	解決
わせください。	確認することを提案します。	**注:** システムプロパティ *sn_comp_ucf.deactivate_deprecated_docs* は、共有リストのインポート中に無効なレコードまたは廃止されたレコードが検出されたときにメール通知を送信するかどうかを制御します。このプロパティのデフォルトは true です。複数の共有リストに UCF コンテンツをダウンロードしている場合は、プロパティを false に設定します。プロパティが false に設定されている場合、ドキュメントは廃止されませんが、メールが送信されます。
選択した共有リストが既存の各種法令・基準等のリストと一致しません。別の共有リストを選択するか、既存の共有リストを更新します。	ダウンロードしている選択した UCF 共有リストに、ダウンロード済みのすべての各種法令・基準等が含まれていない場合は、このメッセージが表示されます。	**a.** CCH に戻り、ダウンロードしようとしている共有リストに元のインポートからインスタンスへのすべての各種法令・基準等が含まれていることを確認します。 **b.** [共有リストをインポート] をクリックして再度ダウンロードします。

5. [変更されたレコードのレビュー **(Review Changed Records)]** をクリックして、変更されたレコードのリストをレビューします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



UCF コンテンツ内の各種法令・基準等は整理されて適切な引用にマッピングされ、共通のコントロールセットにマッピングされます。UCF と GRC アプリケーションの用語は、次の表で説明されているようにわずかに異なります。

用語の違い

UCF	ServiceNow GRC アプリケーション
各種法令・基準等	各種法令・基準等
信頼できるソースコンテンツ	信頼できるソースコンテンツ
コントロール	コントロール目標

UCF 共有リストのダウンロードによる重複引用の排除

同じ共有リストの一部として UCF コンテンツから引用を受け取った場合は、各種法令・基準等に関連付けられた重複する引用を削除できます。

1 つの引用をアクティブとして保持し、重複する引用を非アクティブとしてマークすることができます。重複する引用のコントロール目標をアクティブな引用に移動します。重複する引用が親子階層の一部である場合、そのソース ID はアクティブな引用のソース ID で更新されます。

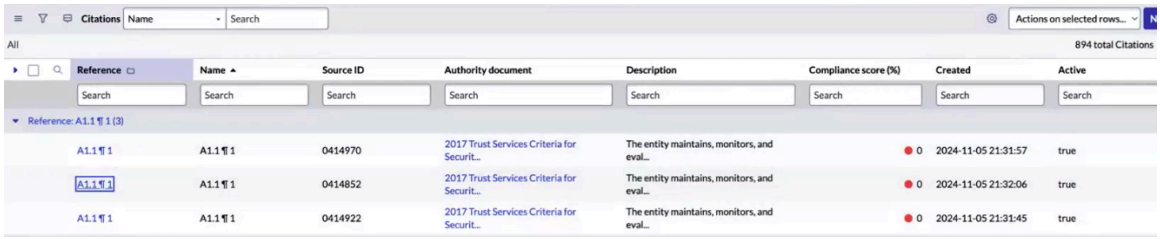
UCF 引用の重複

重複は、同じ各種法令・基準等 (AD) に関連付けられた複数の引用を持つ UCF コンテンツをダウンロードするときに発生します。ただし、これらの各引用はコントロール目標にリンクされているか、複数のコントロール目標にリンクすることができます。このような場合、UCF をダウンロードすると、コントロール目標にリンクされている引用の数と同じになります。引用には、異なるソース ID と異なるコントロール目標がリンクされています。それにもかかわらず、そのような引用は同じADにリンクされています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

重複 は、各種法令・基準等に関連付けられたダウンロード済み引用の参照、各種法令・ 基準等、および 説明 の詳細が類似しているが、 ソース **ID** が異なる場合に識別されます。同じ各種法令・基準等に属しているが、複数回ダウンロードされる引用は、重複引用と呼ばれます。



UCF 引用の重複排除

1 つの引用をアクティブとして保持し、残りの重複引用を非アクティブとしてマークすることができます。この非アクティブな引用とコントロール目標の関係が m2m テーブルから削除されます。代わりに、アクティブな引用のレコードが m2m テーブルのコントロール目標に追加されます。

同様に、重複する引用の子引用 (存在する場合) は、アクティブな引用の [引用] 関連リストで、アクティブな親引用の子引用とグループ化できます。たとえば、ソース ID 0123 の引用が保持される場合、重複する引用の子引用の親を 0123 として更新する必要があります。または、引用の親子関係を保持するために、0123 としての子引用の親ソース ID を更新する必要があります。

重複する引用を排除するために提供された修正

この機能拡張により、UCF コンテンツをダウンロードするとき、または UCF コンテンツのダウンロード後にオンデマンドジョブを実行して、各種法令・基準等に関連付けられた重複引用を排除できます。修正は、次の場合に利用可能です。

- UCF 共有リストからデータをインポートします。UCF 共有リストをダウンロードするには、「UCF 共有リストをダウンロード」を参照してください。
- UCF を再度インポートしない場合は、 *`UCF citation deduplication issue fix`* オンデマンドジョブを実行します。このジョブは、非アクティブな親引用の子引用をアクティブな親に追加することで、重複する引用を排除し、親子関係を修正します。

1. オンデマンドジョブを実行するには、次の場所に移動します すべて > システム定義 > スケジュール済みジョブ.
2. [*`UCF citation deduplication issue fix`*] を選択し、[今すぐ実行] をクリックします。

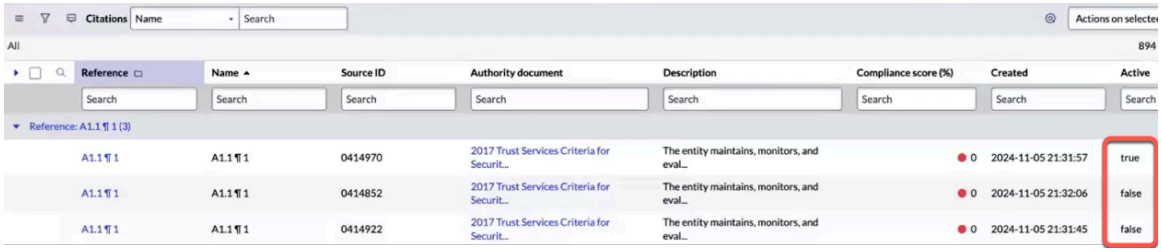
修正後:

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > 引用
2. [**Group By** (グループ化)] を選択し、リストコントロールアイコンを右クリックします。
3. リストで [参照] を選択します。

   引用は一意の参照 ID、一意の説明で表示できます。各引用は異なる AO に属します。[アクティブ] 列では、アクティブな引用は **true** であり、重複する引用は **false** としてマークされます。引用レコードの 1 つを選択して開くと、すべてのコントロール目標が [コントロール目標] 関連リストにグループ化され、その子引用が [引用] 関連リストにグループ化されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



注:
引用は、 参照 **ID**、 各種法令・基準等、 説明 が同じ場合にのみ重複と見なされます。これらの条件の1つが満たされていない場合でも、それらは2つの異なる引用と見なされ、重複とは見なされません。

コントロールを管理

コントロールは、コントロール目標の特定の実装です。廃止されたコントロールはリストに表示されません。コントロールを定義する前に、時間をかけて組織内の重要なコントロールを合理化し、統合し、定義します。

コントロールを合理化

すべてのコントロールを一括でアップロードすると、コントロールセットを改善して合理化する機会が失われます。ビジネスが変化し IT データ、プロセス、およびテクノロジーが改善されると、 GRC アプリケーションを実装するときに古いコントロールと手順が置き換えられます。次の点を考慮してください。

- このコントロールは事業達成目標にどのように影響するか。
- このコントロールは実際にリスクを防止または検出しているか。
- ビジネスをより適切に保護するために配置できる別のコントロールはありますか?
- リスクを軽減しながら、プロセスのオーバーヘッドを削減し、IT パフォーマンスを向上させるコントロールはあるか。
- 複雑なコントロールをよりシンプルで効果的なコントロールに置き換えることはできるか。

注:
コントロールを手動で定義するか、Unified Compliance Framework (UCF) からインポートすると、エンティティがコントロールに関連付けられます。これはコントロールフォームの必須フィールドです。ただし、UCF 以外のソースからコントロールをインポートする場合は、エンティティが関連付けられていない可能性があります。コントロールフォームに戻り、コントロールにエンティティを追加することが重要です。エンティティが欠落していると、信頼性の低い結果が生じる可能性があります。また、無効になっているエンティティを含むコントロールを検出した場合は、そのコントロールを廃止する必要があります。

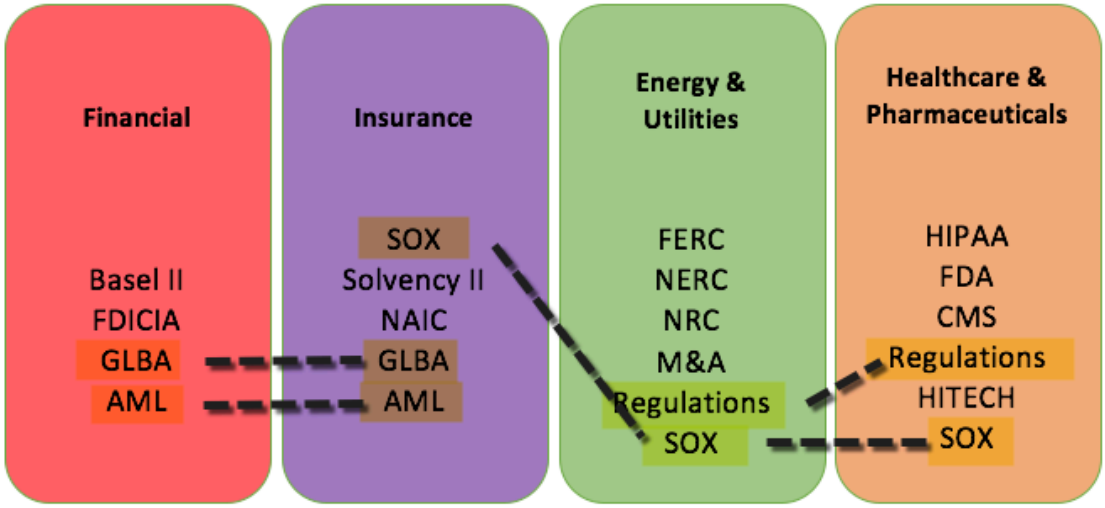
コントロールを統合

コントロールを統合する機会を探します。たとえば、フレームワークの複数の規制当局間で繰り返される共通のコントロール (SOX、GLBA、、AML など) に対してook できます。コントロールを相互にマッピングし 冗長なコントロールを排除することで規制ごとに 1 つのコントロールを複数回操作することを避けます。このプロセスにより、単一の統合されたコントロール = コントロールフレームワークが確立されます。コントロールのクロスマッピング形成と保存は、監査にとって重要です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

業界の規制と要件の重複



コントロールとビジネスルールの定義

ビジネスルール 事前定義により、後でGRC構成設定が確立されます。次のタスクを実行する準備をしてください

- コントロールとコントロールオーナーを特定する
- コントロールテストと期待される結果定義します
- テストと制御の頻度確立
- リスク:limpactと可能性を特定する
- 証明書、アセスメント、アンケート、および必要な証拠を準備します
- 作成 使用 可能性がある ケース (誰がどのような目的で GRC システムのコンテンツを操作または表示する必要があるか)
- 信頼できるソースをポリシー、手順、コントロール、またはリスク にマッピングします

エンティティベースのアクセス (EBA)

EBA は、エンティティに関連付けられている) オブジェクトへのデータアクセスを管理するためのより詳細なアプローチ のフレームワークを提供します。アドミニストレーターは、ユーザーまたはユーザーグループを追加するか エンティティベースのアクセス構成にエンティティユーザーフィールドを使用して、エンティティの関連レコードへのアクセスを許可できます。詳細については、「エンティティベースのアクセス」を参照してください。

ユーザーがこれらの構成に基づいて認定され、最低限必要なロールを持っている場合、次のテーブルにアクセスできます。

- コントロール
- 証明書
- コントロールに対するポリシー例外

EBA ルール

[エンティティベースのアクセス構成プロパティ] ページでエンティティベースのレコードアクセスルールが有効になっている場合、構成されたエンティティに関連付けられた新しい コントロール、コントロール証明書、インジケーター、およびインジケータータスク そのエンティティからエンティ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ティベースのアクセス (EBA) 値を自動的に継承します。以前は、新しいオブジェクトが作成されるたびに、ユーザーは一括アクセス更新を実行して EBA 制限を適用する必要がありました。

詳細については、「 新しいレコードを保護するためのエンティティベースのレコードアクセスルール」を参照してください。

コントロールを作成

ポリシーをエンティティタイプに関連付ける場合、またはエンティティタイプをコントロール目標に関連付ける場合、コントロールは自動的に生成されます。コントロールは、コントロール目標のエンティティタイプにリストされている各エンティティに対して作成されます。コントロールは手動で作成することもできます。

始める前に

必要なロール：sn_compliance.admin または sn_compliance.manager

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コントロール > すべてのコントロール.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

コントロールフォーム

フィールド	説明
名前	コントロールの名前。
番号	一意の識別番号。
エンティティ	関連エンティティ。 **注:** エンティティのステータスを [廃止] ステータスから [アクティブ] に変更すると、エンティティに対して手動で作成されたコントロールも [ドラフト] ステータスに移行します。
コントロール目標から継承	アイテム生成プロセスを通じてコントロールを作成するかどうかを示すオプション。詳細については、「一意のエンティティとコントロール目標の組み合わせに対する複数のコントロール」を参照してください。
コントロール目標	関連コントロール目標。
所有グループ	ポリシーを所有するグループ。
所有者	ポリシーを所有するユーザー。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: オーナーは常に回答者として追加されます。選択したコントロールオーナーは、所有グループに属しています。
キーコントロール	コントロールがキーコントロールであることを示すインジケーター。
重み	コントロールスコアの有効性の計算に使用される値。コントロールの重み付けに基づいて、コントロールスコアで有効性の値が計算されます。
ステータス	コントロールステータス。利用可能な選択肢は次のとおりです。 ○ 準拠 ○ 非準拠 ○ 適用外
状況	コントロールステータス。利用可能な選択肢は次のとおりです。 ○ [ドラフト] このステータスでは、すべてのコンプライアンスユーザーがコントロールを変更できます。ワンオフコントロールを作成する場合のみ利用できます。ワンオフコントロールは可能ですが、推奨されません。 ○ [証明] コントロールがコントロール目標から作成された場合、コントロールはこのステータスになります。 **注:** コントロールをドラフトに戻すと、証明書はキャンセルされます。 ○ [レビュー] コントロールは、証明書フェーズからレビューに自動的に移行されます。 ○ [監視] このステータスでは、すべてのコンプライアンスマネージャーがコントロールをレビューから監視に移動できます。 ○ [廃止] コンプライアンスマネージャーまたはアドミニストレーターは、コントロールを [監視] から [廃止] に移動できます。 **注:** コントロールが廃止された場合： ▪ 関連付けられているインジケーターが実行されない ▪ 関連付けられている証明書がキャンセルされる ▪ 関連付けられているコントロール目標を変更してもコントロールが更新されない
適用対象外	コントロールを免除としてマークします。
サブスクリプ	オプションのリスト：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ションの適用	○ 必須 ○ 任意
カテゴリ	オプションのリスト： ○ 施設、技術、サービスの取得または販売 ○ 監査およびリスク管理 ○ コンプライアンスおよびガバナンスのスタイルマニュアル ○ ヒューマンリソース (HR) 管理 ○ リーダーシップおよび高いレベルの達成目標 ○ モニタリングおよび測定 ○ 運用管理 ○ 物理的保護および環境保護 ○ 情報およびデータのプライバシー保護 ○ レコード管理 ○ 構成管理によるシステムのハードニング ○ システム継続性 ○ システム設計、ビルド、および実装 ○ テクニカルセキュリティ ○ サードパーティおよびサプライチェーンの監督 ○ ルート ○ 不使用
タイプ	オプションのリスト： ○ 資産またはサービスの取得/販売 ○ アクション可能なレポートまたは測定 ○ 監査およびリスク管理 ○ 動作 ○ ビジネスプロセス ○ 連絡 ○ 設定 (Configuration) ○ データおよび情報管理 ○ 複製 ○ ロールの設定 ○ ドキュメントの作成/維持管理 ○ ヒューマンリソース (HR) 管理 ○ 調査

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ IT インパクトゾーン ○ ログ管理 ○ メンテナンス ○ 発生の監視および評価 ○ 物理的保護および環境保護 ○ プロセスまたはアクティビティ ○ レコード管理 ○ システム継続性 ○ システム設計、ビルド、および実装 ○ テクニカルセキュリティ ○ テスト ○ トレーニング
分類	オプションのリスト： ○ 予防 ○ 是正 ○ 探知 ○ IT インパクトゾーン
周期	コントロールがテストされる頻度。このフィールドは、コントロールのテストとレポートを目的としています。 オプションのリスト： ○ イベント駆動型 ○ 日次 ○ 週次 ○ 月次 ○ 四半期ごと ○ 半年ごと ○ 年次 **注:** [頻度] フィールドはレポートのみを目的としており、コントロールをテストまたは実行すると予想される頻度を定義します。証明書スケジュールには影響しません。ただし、[証明頻度] フィールドは、コントロールに対して証明書がトリガーされる頻度を制御します。証明書は、コントロールが [レビュー] または [監視] ステータスのときに、コントロール夜間証明書のスケジュール済みジョブによって開始されます。この分離により、顧客は証明書サイクルとは独立してコントロールテストを追跡できます。
説明	コントロールの説明。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
追加情報	コントロールに関する追加情報。
アサイン	
所有グループ	コントロールを所有するグループ。
所有者	コントロールを所有するユーザー。
証明書	
証明書	オプションのリストから選択します。 ○ 他の証明書タイプを構成できます。 ○ このフィールドに値が入力されると、[証明書の回答者] フィールドが自動的に必須になり、オーナーが回答者になります。 **注:** ユーザーがコントロール目標で証明書タイプを変更すると、関連するすべてのコントロールも変更されます。
証明書の回答者	○ このコントロールの証明書にアサインされたユーザー。 ○ sn_grc.user ロールを持つユーザーのみを応答者として追加できます。 **注:** [証明書] と [証明書回答者] の両方のフィールドが設定されている場合、[証明書] をクリックすると証明書が作成されます。
証明頻度	コントロールの証明書がトリガーされる頻度。フィールドで値が選択されていない場合、関連付けられたエンティティの [証明頻度] の値はデフォルトでこのフィールドに設定されます。 証明頻度のオプション。 ○ 日次 ○ 週次 ○ 月次 ○ 四半期ごと ○ 半年ごと ○ 年次

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: 証明書が完了すると、コントロールは [レビュー] および [監視] 状況に移行します。その後、コントロールは証明書の次の期日について監視されます。証明書の 作成日 または最後に完了した証明書 の更新日に基づいて、コントロールの証明書の頻度をトリガーするオプションがあります。このオプションは *Trigger control attestations based on the created or updated date of the last completed attestation* システムプロパティの値に基づいています。
アクティビティジャーナル	
追加コメント	コントロールに関する公開情報。
アクセス設定	
エンティティベースのアクセス制限	エンティティベースのアクセス制限が有効になっている場合、このコントロールに関連付けられたエンティティのアクセス構成に含まれるユーザーまたはユーザーグループのみがアクセスできます。

4. エンティティ 頻度 関連リンクのコピー を選択して、エンティティの 証明 頻度 フィールドの値をコントロールの証明 頻度 フィールドにコピーします。
[エンティティ頻度をコピー] 関連リンクを選択すると、各エンティティの証明頻度がコントロールテーブルの [証明書] セクションの [証明 頻度] フィールドにコピーされ、コントロールテーブルの [頻度] フィールドは更新されません。
5. [**Submit** (送信)] を選択します。

次のタスク

コントロールを作成した後、コントロールを共通コントロールに変換し、依存エンティティと依存エンティティタイプを追加できます。詳細については、「共通コントロールのテスト、および複数の依存エンティティでの結果の実装」を参照してください。

コントロールをフォロー

コネクトは ポリシーとコンプライアンス管理 と統合され、標準インターフェイスへのオーバーレイを提供します。これにより、ユーザーは作業中に会話に参加し、コントロールレコードで共同で作業できます。

始める前に

必要なロール：sn_compliance.user または sn_compliance.reader
コネクトの詳細については、「コネクト」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コントロール > すべてのコントロール.
2. コントロールレコードを開きます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. クリック フォロー > フォロー中 をクリックし、ドロップダウンからいずれかのオプションを選択します。

コントロールを証明

証明書は、コントロールが実装されていることを証明する証拠を収集するサーベイです。コントロール証明書と回答者フィールドが選択されている場合、コントロールが [ドラフト] ステータスから [証明] ステータスに移行すると、証明書の回答者に通知が送信されます。

始める前に

必要なロール：sn_grc.business_user、sn_grc.business_user_lite
ユーザーは複数の証明書タイプを作成し、コントロール目標を異なる証明書に設定できます。**[GRC 証明書]** と呼ばれるサンプル証明書もデフォルトの証明書として提供されます。

このタスクについて

コントロールが証明されると、新しいアンケートが作成されます。その結果、証明書は セルフサービス > 自分のアセスメントとサーベイ 移動します数百の GRC アセスメントレコードが一度に生成される可能性があり、個別のリストビューで他のアセスメントと分離する必要があります。

手順

1. 移動先 ポリシーとコンプライアンス > コントロール > 自分の証明書.
2. 証明書を開いて、詳細を確認します。

オプション	説明
質問に回答できない場合	**a.** [アサイン先] フィールドで別のユーザーに証明書を再アサインします。 **b.** [更新] をクリックして、プロジェクトレコードを保存して閉じます。 **注:** sn_grc.user ロールを持つユーザーにのみ証明書を再アサインできます。 証明書を別のユーザーに再アサインすると、証明書のリストが更新されます。
質問に回答できる場合	**a.** [証明書を取得] をクリックします。 **b.** 質問に回答し、必要に応じて情報を添付します。 **c.** [送信] をクリックします。 [アセスメントを実施] ポップアップウィンドウを閉じると、証明書のリストが更新されます。

コンプライアンス管理のための複数のコントロール

エンティティとコントロール目標の一意の組み合わせに対して複数のコントロールを作成して、詳細なコントロール情報を取得できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

複数の製品、運用ライン、および実務を扱う組織の場合、エンティティとコントロール目標の組み合わせに対する単一のコントロールは非効果的です。複数のレベルのコントロール目標を一元的に管理することで、詳細なコントロール情報を取得できます。

同じエンティティとコントロール目標の組み合わせに対して複数のコントロールを作成するメリットは次のとおりです。

- 高レベルのコントロール目標とより詳細なコントロールを作成できます。
- コントロールオーナー、コンプライアンスマネージャー、およびコンプライアンスユーザーは、コンプライアンスライブラリをより効率的に管理できます。

コントロールフォームの [コントロール目標から継承] オプションを有効にすることで、エンティティとコントロール目標の同じ組み合わせに対して複数のコントロールを作成できます。コントロールは、アイテム生成プロセスを通じて作成するか、デフォルトではコントロール目標から継承することができます。このようなコントロールは、エンティティとコントロール目標の組み合わせに対して一意であるため、一意の名前が付けられます。デフォルトでは、コントロール目標から継承できるコントロールは 1 つだけです。ただし、エンティティとコントロール目標の同じ組み合わせに対して複数のコントロールを作成する場合は、手動で作成する必要があり、コントロールの名前は一意である必要があります。

コントロールフォームで [コントロール目標から継承] オプションを選択すると、コントロールはコントロール目標の名前と説明を自動的に継承します。ただし、オプションが選択されていない場合は、コントロールの名前を手動で入力する必要があります。

コントロール証明書を管理

証明書は、コントロールが実装されていることを証明する証拠を収集するサーベイです。証明書には、コントロールの測定方法が記録されます。このメソッドは、[ドラフト] および [監視] ステータスでよく使用されます。

証明書デザイナーは、ユーザーが証明書を作成および編集したり、スコアリングパラメーターを変更したりするために使用できる単一のインターフェイスを提供します。質問集にはさまざまなカテゴリの質問のライブラリが用意されているため、各アンケートを最初からビルドする必要はありません。

> **注:**
> コントロール証明書の詳細については、「ポリシーとコンプライアンス管理 のポリシーライフサイクルの概要」を参照してください。

ユーザーは複数の証明書タイプを作成し、コントロール目標を異なる証明書に設定できます。**[GRC 証明書]** と呼ばれるサンプル証明書もデフォルトの証明書として提供されます。これは、以下の簡単な質問で構成されています。

デフォルトでは、**[GRC 証明書]** はコントロールに使用され、次のアセスメントの質問を提供します。

- このコントロールは実装されているか？
- 証拠を添付
- 説明

[自分の証明書] はポリシーとコンプライアンスアプリケーションの [コントロール] セクションにあり、自分が回答者であるアクティブな証明書が含まれています。証明書は、コントロールごとに 1 つの証明書レコードでリストに表示されます。

[自分のグループ化された証明書] には、類似のアセスメントに対して繰り返し回答するタスクを排除するためにグループ化した証明書が含まれています。

[すべての証明書] はポリシーとコンプライアンスアプリケーションの [コントロール] セクションにあり、すべてのアクティブな証明書が含まれています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンプライアンスマネージャーは、ニーズに合わせてさまざまなタイプの質問を含む証明書タイプを作成できます。「証明書デザイナーを使用してコントロール証明書を作成」を参照してください。

コンプライアンスマネージャーは、コントロール目標ごとに新しい質問セットを作成できます。質問集にはさまざまなカテゴリの質問のライブラリが用意されているため、各アンケートを最初からビルドする必要はありません。「証明書タイプを作成」を参照してください。

証明書デザイナー

証明書デザイナーは、ユーザーが証明書を作成および編集したり、スコアリングパラメーターを変更したりするために使用できる単一のインターフェイスを提供します。

すべての証明書レコードはアセスメントテーブルに保存され、それらのテーブルの証明書ビューに表示されます。

証明書デザイナーを使用してコントロール証明書を作成

証明書デザイナーを使用して、メトリクスタイプを作成および編集します。コントロールごとに異なるメトリクスタイプを使用します。証明書に対して複数の回答者を選択し、スコアリングパラメーターを変更します。

始める前に
必要なロール:sn_compliance.attestation_creator、sn_compliance.manager、sn_compliance.administrator

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > 証明書タイプ.
2. [証明書デザイナー] をクリックします。
   デザイナーには次の要素が含まれています。

要素	説明
コントロール	サポートされている質問データのタイプは [Controls] パレットで利用可能です。コントロールをデザイナーキャンバスにドラッグして、そのタイプの質問を作成します。
質問	さまざまなカテゴリの質問のライブラリで、各アンケートを最初からビルドする必要はありません。
カテゴリ	[デザイン] ビューで新しいアセスメントが開きます。アンケートの [名前] フィールドが、キャンバスの最初のカテゴリの上に表示されます。空白の質問フィールドがカテゴリコンテナに表示されます。

3. [名前] フィールドに名前を入力します。
4. コントロールをデザイナーキャンバスにドラッグして、そのタイプの質問を作成します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

質問コントロール

データタイプ	説明	採点済み
添付ファイル	ユーザーが 1 つまたは複数のファイルを添付できる、[添付ファイルを管理] アイコンがある質問。	N
ブーリアン	ユーザー応答のためにチェック ボックスまたは [はい/いいえ] リストがある質問。	Y
選択肢	事前定義済みオプションのリスト。詳細については、[選択肢] の定義を参照してください。	Y
日付	[日付] フィールド。	N
日付/時刻	[日付/時刻] フィールド。	N
番号	事前定義された最小値と最大値を持つ数値フィールド。デフォルトは 1 ～ 10 です。	N
パーセンテージ	範囲が指定されている [パーセンテージ] フィールド。	N
スケール	事前定義されたリッカート尺度。回答オプションはラジオボタンとして表示されます。	Y
数値スケール	選択可能な数値スケール。デフォルトは 1 ～ 5 です。回答オプションはラジオボタンとして表示されます。	Y
文字列	1 行または複数行のテキスト フィールド。	N
テンプレート	オプションの事前定義済みスケールを示すテンプレートの選択リスト。 **注:** すべての証明書にテンプレートをアサインすることが重要です。これにより、コントロール目標とエンティティタイプに基づいてコントロールを自動的に作成できます。	Y
参照	指定された参照テーブルからのフィールドの選択リスト。このデータタイプは参照修飾子をサポートしていません。	N

注:
採点するメトリクスの正しい答えを設定します。採点済みメトリクスは、コントロールのコンプライアンスステータスを決定します。

5. 証明書デザイナーの右上にあるメニューアイコンをポイントして、次のいずれかのオプションを選択します。

注:
各オプションの可用性は、デザイナーで開いている証明書のステータスに依存します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
新しい証明書	新しい証明書の新規キャンバスを開きます。
証明書をロード	選択して編集できる既存の証明書のリストを開きます。

他のタイプのアセスメントとは異なり、コントロール証明書は セルフサービス > 自分のアセスメントとサーベイ 多くのコントロール証明書が一度に生成される可能性があるためです。代わりに、コントロール証明書はリストとして ポリシーとコンプライアンス > コントロール > 自分の証明書 モジュールと [すべての証明書] モジュール。

次のタスク

実装している場合 ポリシーとコンプライアンス管理 ソフトウェアを ポリシーとコンプライアンス管理 セットアップチェックリスト をクリックし、次のステップに進みます。

証明書タイプを作成

デフォルトの **[GRC** 証明書] タイプを使用するのではなく、コンプライアンスマネージャーはコントロール目標ごとに新しい質問セットを作成できます。

始める前に

必要なロール：sn_compliance.attestation_creator、sn_compliance.manager、または sn_compliance-admin

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > 証明書タイプ.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

アセスメントメトリクスタイプフォーム

フィールド	説明
名前	アセスメントタイプの名前。
アセスメント期間	アセスメントの生成からアセスメントの完了までの許容時間。
テーブル	このアセスメントを適用するテーブル。
尺度値	すべてのアセスメント結果に使用するスケール値。
条件	テーブルから特定のレコードを定義します。
説明	アセスメントに関する詳細。
状況	アセスメントのステータス：[ドラフト] または [公開]。
条件を強制	指定された条件を満たさないこのタイプのアクセス可能なレコードを削除するかどうかを示すオプション。
ロール	このメトリクスタイプについての情報へのアクセス権限を持つロール。

4. [送信] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

同じ応答を使用する証明書をグループ化

ポリシーとコンプライアンス管理 と リスク管理 は、証明書とリスクアセスメントをグループに統合するための 2 つの方法を提供し、これにより、類似のアセスメントに対して繰り返し応答するタスクを排除できます。グループ化されたアセスメントに同じ証拠を提供することも、同じユーザーインターフェイスで個々のアセスメントに応答することもできます。

始める前に

必要なロール： sn_grc.business_user、sn_grc.business_user_lite

このタスクについて

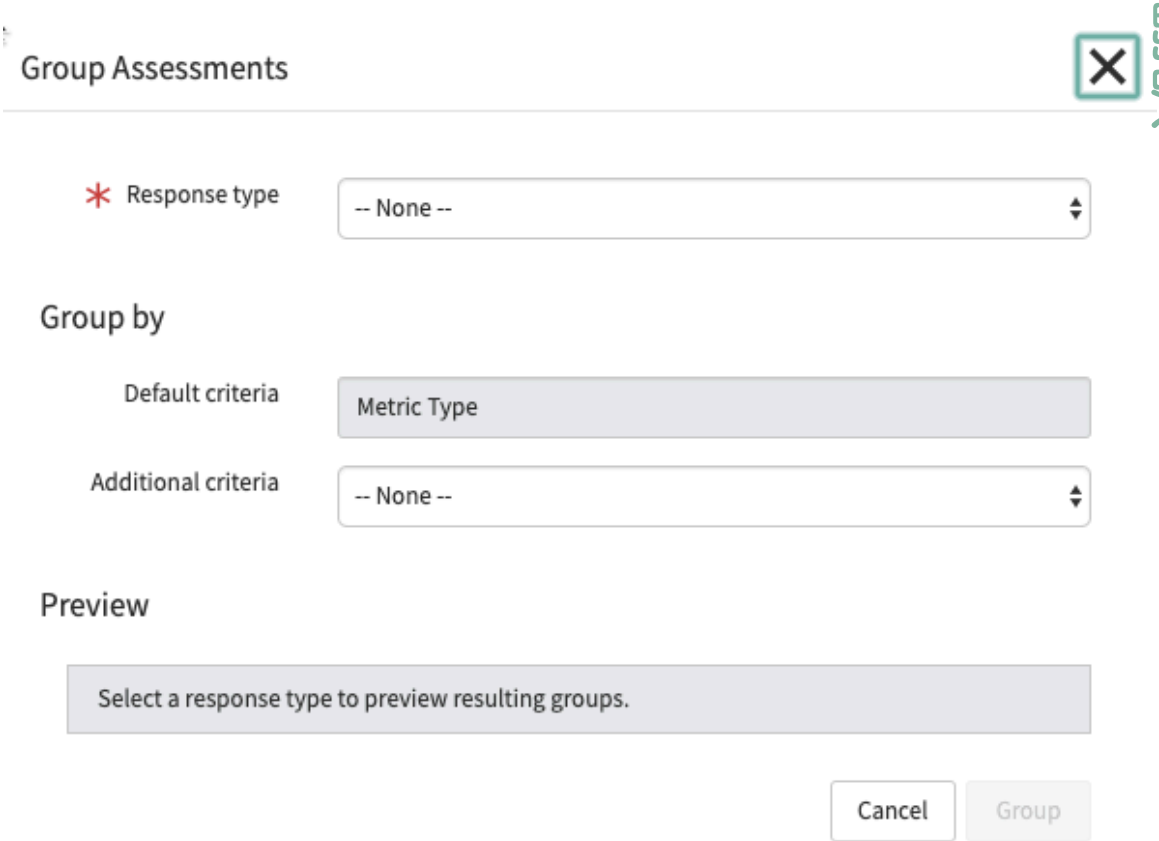
同じ応答機能を使用してコントロール証明書を統合する場合は、最大 1000 件の質問を含む証明書をグループ化できます。グループの証明書またはリスクアセスメントが取得されると、グループ内のすべてのレコードが回答を継承します。

注:
1,000 件の質問制限を変更するには、次に移動します: すべて > ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > **GRC** プロパティ をクリックし、**sn_grc.consolidated_questions_limit** プロパティを変更します。

ユーザーがこの機能にアクセスできないようにするには、次に移動します: すべて > ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > **GRC** プロパティをクリックし、**sn_grc.enable_consolidate_asmt** プロパティを無効にします。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コントロール > 自分の証明書.
2. グループ化する証明書を選択します。
3. [選択した行のアクション] 選択リストから [グループアセスメント] を選択します。



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [応答タイプ] で、[すべてのアセスメントに同じ回答を提供] を選択します。
5. 必要に応じて、フィールドに入力します。

フィールド	説明
デフォルト基準	このフィールドのデフォルトは [メトリクスタイプ] です。
追加の基準	オプションで、追加のグループ化基準を定義できます。 ○ カテゴリ ○ コントロール目標/リスクステートメント ○ エンティティ デフォルトがニーズに合わない場合は、追加のアセスメント基準を定義することもできます。 **注:** グループ化された証明書に選択した基準の複数のインスタンスが含まれている場合は、これらのグループ化スキームを使用することをお勧めします。たとえば、1 つのエンティティに関連付けられている 10 の証明書と、別のエンティティに関連付けられている他の 10 の証明書の計 20 の証明書のグループを選択した場合、このフィールドで [エンティティ] を選択すると、2 つの別々の証明書のグループが作成されます。ただし、グループが 1 つのエンティティに関連付けられた 5 つの証明書と、異なるエンティティに関連付けられた他の 15 の証明書で構成されている場合は、それらの 5 つの証明書のみがグループ化され、残りは無視されます。
プレビュー	[プレビュー] には、グループ化される証明書の数が表示されます。選択した [追加の基準] によっては、[プレビュー] に複数のグループが表示される場合があります。グループ化する証明書を表示するには、グループ化する証明書またはリスクアセスメントの数を示すリンクをクリックします。

6. 統合する証明書またはリスクアセスメントに問題がない場合は、[グループ] をクリックします。

   確認メッセージと証明書グループへのリンクが表示されます。

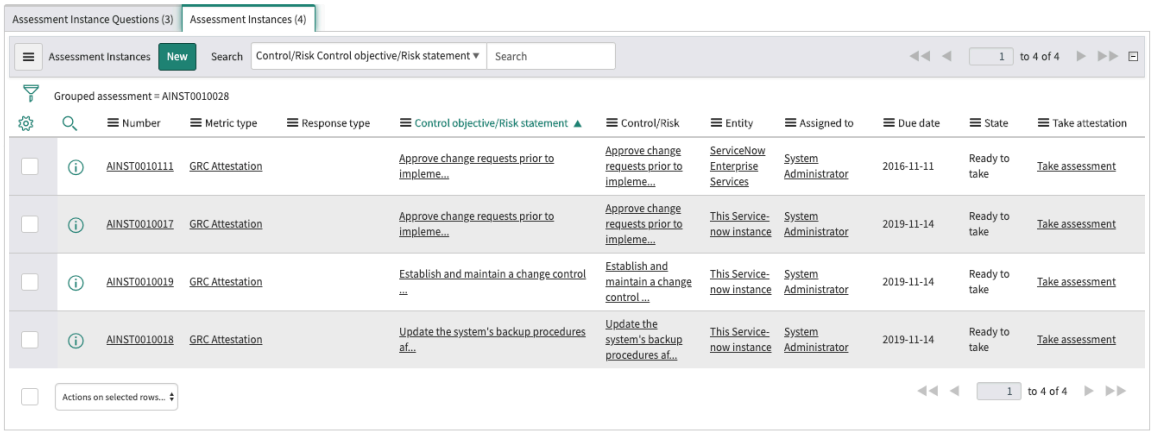


注:
証明書グループが作成されたら、次に移動して表示できます: ポリシーとコンプライアンス > コントロール > 自分のグループ化された証明書. グループ化された証明書を開いている場合、グループから 1 つ以上の証明書を削除することができます。これを行うには、削除する証明書を選択し、[選択した行のアクション] 選択リストから [アセスメントのグループ解除] を選択します。証明書が 1 つしかない状態でグループから証明書を削除すると、そのグループが削除されます。

7. アセスメントを受ける準備ができたら、確認メッセージのリンクをクリックするか、[自分のグループ化された証明書] の証明書番号をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



8. [アセスメントを実施] をクリックします。
9. 他の場合と同様にアセスメントを完了し、[送信] をクリックします。
   グループ内のすべての証明書が入力された回答を継承し、グループ内の各証明書のステータスが [完了] に変更されます。

異なる応答を使用して証明書をグループ化

ポリシーとコンプライアンス管理 と リスク管理 は、証明書とリスクアセスメントをグループに統合するための 2 つの方法を提供し、これにより、類似のアセスメントに対して繰り返し応答するタスクを排除できます。グループ化されたアセスメントに同じ証拠を提供することも、同じユーザーインターフェイスで個々のアセスメントに応答することもできます。

始める前に

必要なロール： sn_grc.business_user、sn_grc.business_user_lite

このタスクについて

異なる応答機能を使用してコントロール証明書またはリスクアセスメントを統合する場合は、最大 150 件の質問を含む証明書またはリスクアセスメントをグループ化できます。すべての質問が 1 つの UI に表示されます。

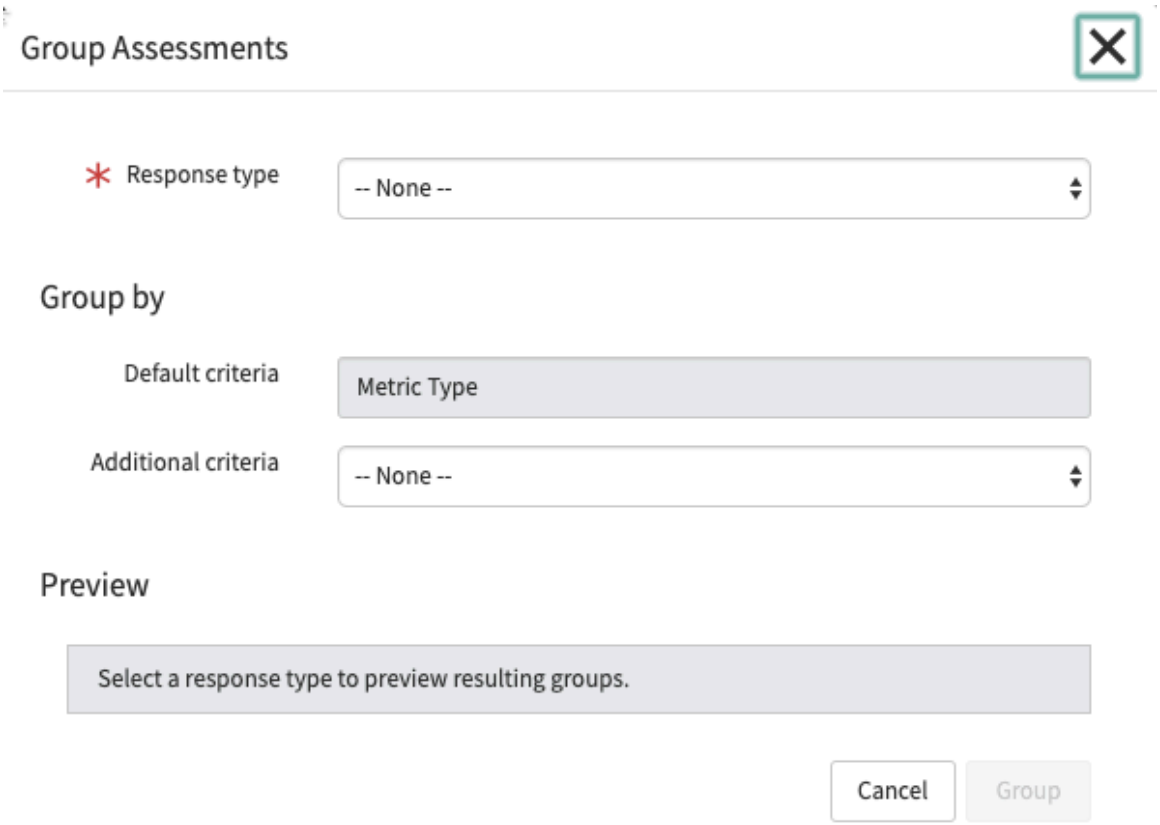
注:
1,000 件の質問制限を変更するには、次に移動します: ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > **GRC** プロパティ をクリックし、 **sn_grc.grouped_questions_limit** プロパティを変更します。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コントロール > 自分の証明書.
2. グループ化する証明書を選択します。
3. [選択した行のアクション] 選択リストから [グループアセスメント] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. [応答タイプ] で、[アセスメントごとに異なる応答を提供] を選択します。

5. 必要に応じて、フィールドに入力します。

フィールド	説明
デフォルト基準	このフィールドのデフォルトは [メトリクスタイプ] です。
追加の基準	オプションで、追加のグループ化基準を定義できます。 ○ カテゴリ ○ コントロール目標/リスクステートメント ○ エンティティ デフォルトがニーズに合わない場合は、追加のアセスメント基準を定義することもできます。

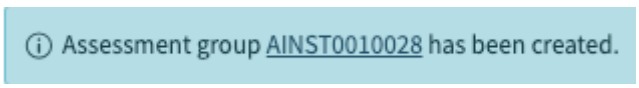
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: グループ化された証明書に選択した基準の複数のインスタンスが含まれている場合は、これらのグループ化スキームを使用することをお勧めします。たとえば、1 つのエンティティに関連付けられている 10 の証明書と、別のエンティティに関連付けられている他の 10 の証明書の計 20 の証明書のグループを選択した場合、このフィールドで [エンティティ] を選択すると、2 つの別々の証明書のグループが作成されます。ただし、グループが 1 つのエンティティに関連付けられた 5 つの証明書と、異なるエンティティに関連付けられた他の 15 の証明書で構成されている場合は、それらの 5 つの証明書のみがグループ化され、残りは無視されます。
プレビュー	[プレビュー] には、グループ化される証明書の数が表示されます。選択した [追加の基準] によっては、[プレビュー] に複数のグループが表示される場合があります。グループ化する証明書を表示するには、グループ化する証明書またはリスクアセスメントの数を示すリンクをクリックします。

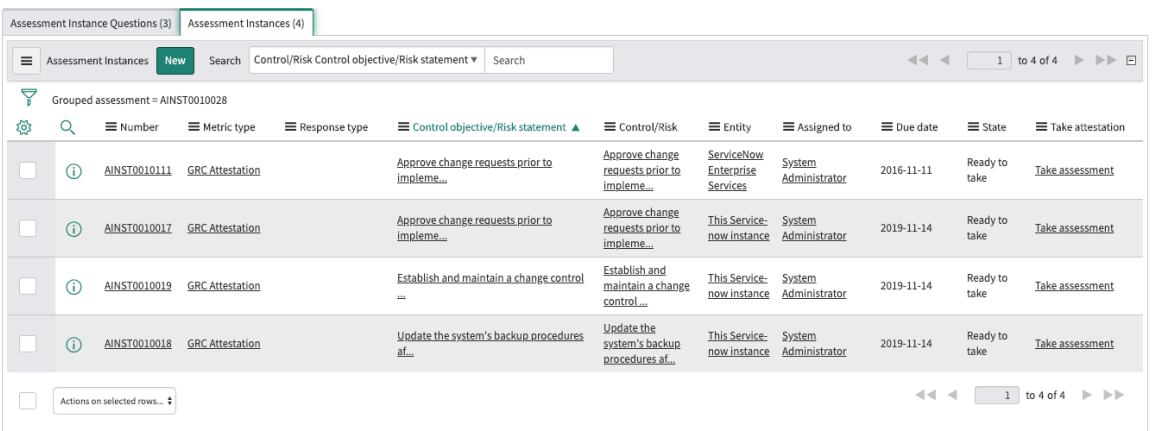
6. 統合する証明書またはリスクアセスメントに問題がない場合は、[グループ] をクリックします。

   確認メッセージと証明書グループへのリンクが表示されます。

   注:
   証明書グループが作成されたら、次に移動して表示できます: ポリシーとコンプライアンス > コントロール > 自分のグループ化された証明書. グループ化された証明書を開いている場合、グループから 1 つ以上の証明書を削除することができます。これを行うには、削除する証明書を選択し、[選択した行のアクション] 選択リストから [アセスメントのグループ解除] を選択します。証明書が 1 つしかない状態でグループから証明書を削除すると、そのグループが削除されます。

7. アセスメントを受ける準備ができたら、確認メッセージのリンクをクリックするか、[自分のグループ化された証明書] の証明書番号をクリックします。

8. [アセスメントを実施] をクリックします。
   グループで選択したすべての証明書のアンケートが表示されます。
9. 各証明書のアセスメントを完了し、[送信] をクリックします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントのグループ化基準を定義する

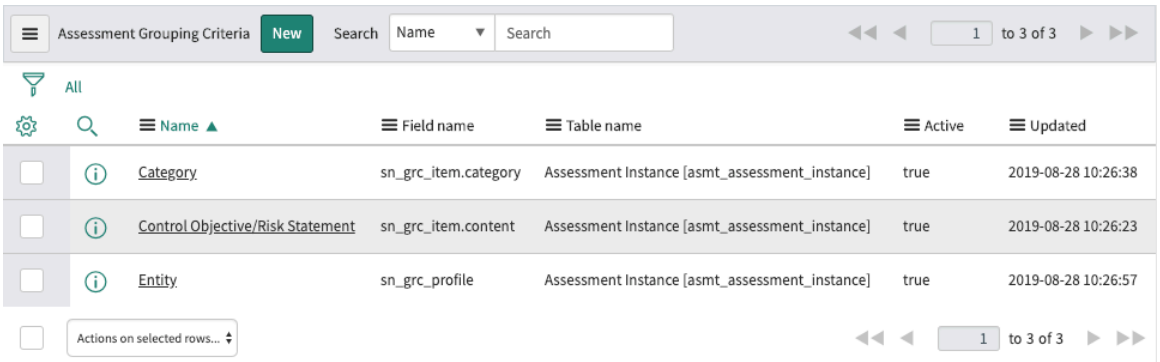
デフォルトの基準がニーズに合わない場合は、必要に応じて、追加のグループ化基準を定義できます。

始める前に

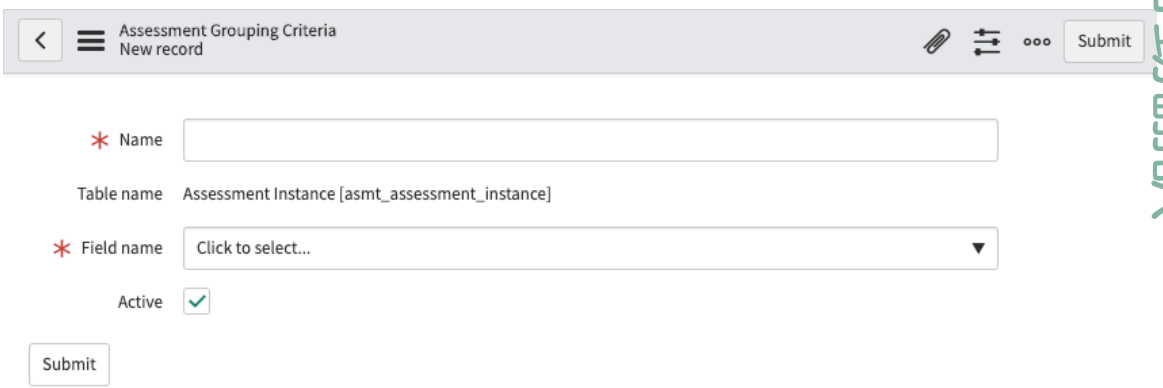
必要なロール：sn_compliance.admin、sn_compliance.manager

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > アセスメントのグループ化基準.



2. [新規] をクリックします。



3. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	アセスメントのグループ化基準の名前。
フィールド名	アセスメントのインスタンス [asmt_assessment_instance] テーブルからフィールド名を選択します。
アクティブ	グループ化基準を有効にする場合に選択します。

4. [**Submit** (送信)] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コントロールインジケーターを管理

継続的な監視には、主要なリスクおよびコントロールインジケーターの特定と作成に関連するアクティビティが含まれます。コンプライアンスの概要は、コンプライアンスアドミニストレーターとコンプライアンスマネージャーが利用でき、コンプライアンス要件、全体的なコンプライアンス、およびコンプライアンスのブレークダウンを提供します。

インジケーターのサポート情報は、自動データ収集または手動タスクによって収集できます。インジケーターの結果は、コントロールの問題を作成し、リスクスコアを更新し、監査アクティビティとコントロールテストのサポート情報を提供するために使用されます。

インジケーター

インジケーターは、コントロールとリスクを監視するためにデータを収集し、監査証拠を収集します。インジケーターは単一のコントロールまたはリスクを監視します。

インジケーターテンプレート

インジケーターテンプレートを使用すると、類似するコントロールまたはリスクに複数のインジケーターを作成できます。

注:
エンティティベースのアクセスは、エンティティに関連付けられたオブジェクトへのデータアクセスを管理するためのフレームワークを提供します。アドミニストレーターは、ユーザーまたはユーザーグループを追加するか、エンティティベースのアクセス構成にエンティティユーザーフィールドを使用して、エンティティの関連レコードへのアクセス権を付与できます。詳細については、「エンティティベースのアクセス」を参照してください。ユーザーがこれらの構成に基づいて認定され、最低限必要なロールを持っている場合、次のテーブルにアクセスできます。

- インジケーター
- インジケータータスク
- インジケーターの結果

コンプライアンスの概要

ベースシステムのコンプライアンスの概要レポート

名前	ビジュアル	説明
コンプライアンス要件	ドーナツグラフ	特定のコンプライアンス領域にフォーカスするウェッジを選択します。
全体的なコンプライアンス	ドーナツグラフ	システム内のすべてのコントロール要件の全体的なコンプライアンスを表示します。前のウィジェットで特定のウェッジを選択すると、その領域にフォーカスが移動します。
エンティティ	ドロップダウンリスト	1 つ以上のエンティティを選択して、複数のアイテムのコンプライアンスを表示します。
コントロールステータス	チェックリスト	チェックボックスをオンまたはオフにして、コントロールのステータス別にフィルターレポートを表示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ベースシステムのコンプライアンスの概要レポート (続く)

名前	ビジュアル	説明
各種法令・基準等別のコンプライアンス	棒グラフ	選択したエンティティや各種法令・基準等に応じて、コンプライアンスのレベルを比較します。
コンプライアンスのブレークダウン	マルチレベルピボット	関連する各種法令・基準等別のコントロールコンプライアンスのブレークダウンを表示します。
非準拠のエンティティ	縦棒グラフ	エンティティ別にグループ化された非準拠コントロール要件の数。

各種法令・基準等

各種法令・基準等は、法令・基準に確実に準拠するためのポリシー、リスク、コントロール、監査、およびその他のプロセスを定義します。各種法令・基準等はそれぞれレコードで定義され、そのレコードの関連リストには各種法令・基準等の個々の条件が含まれています。

これらの各種法令・基準等関連リストアイテムの関係は、ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションの GRC ワークベンチに表示されます。

注:
各種法令・基準等にコンテンツ参照タグを追加できます。コンテンツ参照タグを使用すると、レコードをフィルタリングして、各種法令・基準等に関連付けられたコンテンツパック、統合、およびユースケースアクセラレータをより簡単に識別できます。

引用

各種法令・基準内項目には、相互に関連する可能性のある各種法令・基準等の規定が含まれています。各種法令・基準内項目は、各種法令・基準等を管理可能なテーマに分類します。

引用を作成するか、UCF 各種法令・基準等からインポートして、引用間に必要な関係を作成できます。

注:
引用にコンテンツ参照タグを追加できます。コンテンツ参照タグを使用すると、レコードをフィルタリングして、引用に関連付けられたコンテンツパック、統合、およびユースケースアクセラレータをより簡単に識別できます。

コントロールインジケーターを作成

制御、リスク、監査の証拠のインジケーターデータは、GRC アプリケーションによって測定方法が異なります。

始める前に
必要なロール：sn_compliance_admin、sn_compliance_manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 次のいずれかに移動します。
   - ポリシーとコンプライアンス > インジケーター > インジケーター.
   - リスク > インジケーター > インジケーター.
   - 監査 > インジケーター > インジケーター.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

インジケーターフォーム

フィールド	説明
カテゴリ	コントロールインジケーターの場合は [コンプライアンスインジケーター] を、リスクインジケーターの場合は [リスクインジケーター] を選択します。
名前	インジケーターの名前。
適用先	[アイテム] に関連するエンティティ。
所有グループ	インジケーターを所有するグループ。
所有者	インジケーターオーナー。
番号	一意の識別番号。
有効	インジケーターがアクティブかどうかを示すオプション。
アイテム	関連するコントロールまたはリスク。
テンプレート	関連するインジケーターテンプレート。
テンプレートを上書き	このインジケーターに関連付けられたインジケーターテンプレートを上書きするかどうかを示すオプション。
最終結果 - 成功	前回の結果が成功したかどうかを示すオプション。
スケジュール	
収集頻度	インジケーターの結果の収集頻度。インジケータータスクと結果は、インジケータースケジュールに基づいて自動的に生成されます。
次回実行時間	インジケーターの結果の次回の収集時刻。
方法 (Method)	
タイプ	結果は、タスクのアサインにより手動で、または基本フィルター条件、パフォーマンスアナリティクス、またはスクリプトを使用して自動的に収集できます。 ○ マニュアル ○ 基本

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
簡単な説明	このフィールドは、[タイプ] が [手動] の場合に存在します。問題の簡潔な説明。
説明	このフィールドは、[タイプ] が [手動] の場合に存在します。インジケーターの結果の収集のための指示。
必須の値	このフィールドは、[タイプ] が [手動] の場合に存在します。
成功/失敗	このフィールドは、[タイプ] が [基本] の場合に存在します。インジケーターが成功または失敗します。
PA しきい値	このフィールドは、[タイプ] が **[PA** インジケーター] の場合に存在します。関連する PA しきい値。
スクリプト	このフィールドは、[タイプ] が [スクリプト] の場合に存在します。必要なシステム情報を取得するスクリプト。
提出データ	
注: バージョン 10.1 以降、インジケーターの結果またはインジケータータスクから得られるサポートデータレコードの実際の履歴データが表示されます。以前は、収集されたレコードのリアルタイムステータスのみを表示できました。	
テーブル	サポートデータを使用して、他のアプリケーションから裏付け証拠を収集します。
サポートデータフィールド	選択したテーブルに基づくサポートデータフィールド。

4. [送信] を選択します。

注:
コンプライアンスマネージャーまたはコンプライアンスアドミニストレーターは、ビジネスユーザー Lite ロールを持つユーザーにインジケータータスクをアサインできます。ビジネスユーザー Lite ロールを持つユーザーを [オーナー] フィールドでオーナーとしてアサインし、インジケーターを実行すると、[オープンタスク] 関連リストにインジケータータスクが作成されます。このインジケータータスクは、ビジネスユーザー Lite ロールを持つ所有者にアサインされます。

ビジネスユーザー Lite ロールを持つユーザーは、次の場所に移動できます ポリシーとコンプライアンス > インジケーター > 自分のインジケータータスク をクリックして、自分に割り当てられているインジケータータスクを表示します。インジケーターを表示するには、[インジケーター] フィールドの横にある情報アイコンを選択します。[インジケータータスク] フォームの [結果] フィールド、[ステータス **]** フィールド、[値] フィールド、[追加コメント]、および [作業メモ] を更新することもできます。

従業員センターから同様のタスクを実行するには、以下を参照してください。 GRC Employee Center ポータルのタスク.

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

次のタスク
実装する場合 ポリシーとコンプライアンス管理 必要なセットアップ手順を完了するには、これで完了です。に戻る ポリシーとコンプライアンス管理 セットアップチェックリスト をクリックし、必要に応じてオプションの手順に進みます。

GRC インジケーターテンプレートを作成する

コンプライアンスマネージャーまたはリスクマネージャーは、多数のインジケーターを作成できるインジケーターテンプレートを作成します。

始める前に
必要なロール：

- sn_compliance.admin または sn_compliance.manager
- sn_risk.admin または sn_risk.manager
- sn_audit.admin または sn_audit.manager
- sn_grc.user

手順

1. 次のいずれかに移動します。
   - すべて > ポリシーとコンプライアンス > インジケーター > インジケーターテンプレート.
   - すべて > リスク > インジケーター > インジケーターテンプレート.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

インジケーターテンプレートフォーム

フィールド	説明
名前	インジケーターの名前。
説明	インジケーターの説明。
カテゴリ	インジケーターテンプレートを作成しているカテゴリ。たとえば、[リスク指標テンプレート] を選択して、リスク指標テンプレートを作成します。
有効	インジケーターテンプレートがアクティブかどうかを判断するオプション。
方法 (Method)	
タイプ	インジケーターテンプレートのタイプを決定するために使用される方法。選択肢は次のとおりです。 ○ [手動]：手動インジケーター は、ServiceNow インスタンスから取得できないデータに使用されます。これは、データがサードパーティの営業システムからの顧客データなど外部システムからのものであるためです。 ○ [基本]：基本インジケーターは、インジケーターソースに基づく自動化されたインジケーターです。インジケータソースは、このテー

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	ブルのスコアが保存されるテーブルと頻度を指定します。 ○ [スクリプト]：スクリプト化したインジケーターはカスタムスクリプトを使用してデータを収集します。
値がターゲット値以上の場合の結果	結果構成フィールド。選択肢は次のとおりです。 ○ 合格 ○ 失敗 たとえば、このフィールドに 100 を入力するとします。インジケーターの結果の出力が 100 を超えると、このフィールドに設定された値に基づいて、インジケーターのステータスは合格または失敗になります。
ターゲットタイプ	ターゲット値のタイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ [なし]：インジケーターのターゲットまたはしきい値を設定しない場合は、このオプションを使用します。 ○ [パーセンテージ]：このオプションを使用して、パーセンテージ値でインジケーターの結果を決定します。 ○ [カウント]：このオプションを使用して、カウント値または合計数でインジケーターの結果を決定します。
ターゲット	インジケーターが成功か失敗かを決定する値。
説明	テンプレートの追加説明。
必須の値	手動インジケーターのインジケータータスクで値を必須にするかどうかを決定するオプション。 **注:** このオプションは、[タイプ] フィールドで [手動] が選択されている場合にのみ表示されます。このオプションは、[ターゲットタイプ] フィールドから [カウント] または [パーセンテージ] が選択されている場合に自動的に選択されます。
提出データ	

注: バージョン 10.1 以降、インジケーターの結果またはインジケータータスクから得られるサポートデータレコードの実際の履歴データが表示されます。以前は、収集されたレコードのリアルタイムステータスのみを表示できました。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

フィールド	説明
提出データを含む	インジケーターを実行するたびにサポートデータまたは証拠の収集を有効にするオプション。
テーブル	サポートデータの収集に使用されるテーブル。
サポートデータフィールド	サポートデータの収集に使用されるソーステーブルのフィールド。
サンプルのコレクションタイプ	カウントやパーセンテージなど、サポートデータ収集のタイプ。
サンプルサイズ	サポートデータの収集に使用する必要があるレコードの最小数。 たとえば、基本インジケーターが大きなテーブルをクエリし、インジケーターの実行ごとに数千のレコードを返すことができます。すべてを保存する必要はありません。それらのレコードのサンプルのみで十分です。サンプルサイズに 100 を入力すると、クエリが数千を返しても 100 レコードのみが保存されます。
基本基準	
基準	ソーステーブルからデータをフィルターする基準。
参照フィールドを使用	[参照フィールド] の使用を有効にするオプション。
参照フィールド	サポートデータテーブルとエンティティの [適用するレコード] フィールド間の接続。
追加の基準	
ターゲットを持つインジケーターを作成するには、詳細フィルター基準を使用します。このセクションは、[タイプ] フィールドで [基本] を選択している場合にのみ表示されます。このセクションは、さらにフィルター基準を提供するために使用されます。	
追加の基準	ターゲット値を計算するためのデータをフィルタリングするための追加の基準。このセクションは、[ターゲットタイプ] フィールドで [パーセンテージ] が選択されている場合にのみ表示されます。
スケジュール	
収集頻度	インジケーターの結果の収集頻度。インジケータータスクと結果は、インジケータースケジュールに基づいて自動的に生成されます。
最初の開始日	インジケーターの結果の初回収集時刻。このフィールドは、インジケーターまたはインジケーターテンプレートが初めて実行されるときに基づいて自動的に設定されます。このフィールドの値は変更できません。
次回実行日	このインジケーターテンプレートのすべてのダウンストリームインジケーターのインジケーター結果を収集する次回の実行時期。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
期日の期間 (日数)	インジケータータスクの作成から期日までの結果の生成までの期日期間。 作成日に追加された期日期間は、インジケータータスクの期日として反映されます。 このフィールドは、[タイプ] フィールドで [手動] が選択された場合にのみ表示されます。 詳細については、「インジケーターの夜間ジョブのパフォーマンス強化」を参照してください。

4. これらのエントリを完了すると、次の関連リストの情報も表示することができます。
   - コントロール目標/リスクステートメント
   - コンテンツ参照

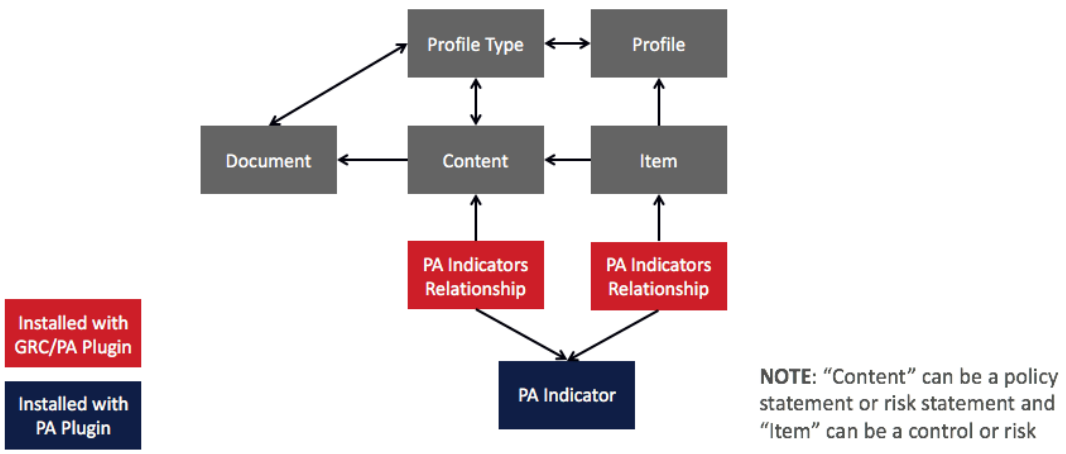
   注:
   [コントロール目標/リスクステートメント] タブを使用すると、同じテンプレートを複数のコントロール目標、リスクステートメント、またはその両方に再利用できます。

5. [送信] を選択します。

GRC パフォーマンスアナリティクスインジケーターを使用してコントロールを監視

ポリシーとコンプライアンス管理 コンテンツとアイテムをパフォーマンスアナリティクスインジケーター、ブレークダウン、およびしきい値にリンクできます。パフォーマンスアナリティクスインジケーターをコントロール目標およびコントロールに関連付けて、スコアカードと傾向を表示し、現在の条件と傾向を分析できます。

PA インジケーターまたは PA ブレークダウン/要素に関連付けられたリスクとコントロールは、同じ PA インジケーターまたは PA インジケーター、ブレークダウン、または要素の関係を持つ PA しきい値を自動的に監視します。PA しきい値違反は、違反カウンタ内のリスクまたはコントロールとパフォーマンスアナリティクスインジケーターの関係レベルで報告されます。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PA しきい値違反の影響

リスクまたはコントロールとパフォーマンスアナリティクスインジケーターの関係違反カウンタがゼロでない場合 (たとえば、同じ PA インジケーターまたは PA インジケーター、ブレークダウン、または要素の関係を持つ PA しきい値が違反している)、かつオープンされた問題が存在しない場合は、リスクまたはコントロールに関連付けられている問題が作成されます。また、リスクの場合、[インジケーター失敗ファクタ] は、リスクの数とゼロ以外の違反カウンタとのパフォーマンスアナリティクスインジケーターの関係を表します。

すべての PA インジケーター違反カウンタをリセット

[すべての **PA** インジケーター違反カウンタをリセット] をクリックするか、特定の関係を開いて [違反カウンタをリセット] をクリックして、リスクまたはコントロールに関連付けられた違反カウンタをリセットします。

GRC PA インジケーター違反レポート

違反の報告には、次の 2 つのレポートがあります。

- リスク PA インジケーター違反
- コントロール PA インジケーター違反

GRC: パフォーマンスアナリティクス統合をアクティブ化

GRC: パフォーマンスアナリティクス統合プラグインは、パフォーマンスアナリティクスと リスク管理 アプリケーションおよび ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションを統合します。このプラグインは、組織のリスクとコンプライアンスのパフォーマンスに関する詳細情報を提供します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
このプラグインにはデモデータが含まれ、関連プラグインがまだ有効になっていない場合はアクティブ化します。

手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. フィルター基準と検索バーを使用してプラグインを検索します。

   名前または ID でプラグインを検索できます。プラグインが見つからない場合は、ServiceNow 担当者から要求する必要があります。

3. [インストール] を選択して、インストールプロセスを開始します。

   注:
   ドメインセパレーションと代理アドミンがインスタンスで有効になっている場合、管理ユーザーはグローバルドメインに含まれている必要があります。それ以外の場合、次のエラーが表示されます： 「別の操作が実行されているため、アプリケーションのインストールは利用できません： <プラグイン名> のプラグインの有効化 (Application installation is unavailable because another operation is running: Plugin Activation for <plugin name>)」

   インストールが完了するとメッセージが表示されます。プラグインとともにインストールされるコンポーネントの詳細については、「 アプリケーションとともにインストールされているコンポーネントの検索 」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
コンテンツ (リスクまたはコントロール目標) またはアイテム (リスクまたはコントロール) のカスタマイズされた関連リストを持つインスタンスで GRC: パフォーマンスアナリティクス統合プラグインをアクティブ化した後、PA インジケーターをコンテンツ関係におよび/または PA インジケーターをアイテム関係に手動で追加する必要がある場合があります。

関連情報

プラグインのリスト

PA インジケーターをリスクステートメントまたはコントロール目標に関連付ける

パフォーマンスアナリティクスインジケーターをリスクステートメントおよびポリシーステートメントに関連付けて、リスクまたはポリシーに関連する傾向を分析できます。

始める前に
必要なロール：sn_risk.manager または sn_compliance.manager

手順

1. 次のいずれかに移動します。
   - すべて > ポリシーとコンプライアンス > ポリシーおよび手順 > コントロール目標.
   - すべて > リスク > リスクライブラリー > リスクステートメント.
2. リスクステートメントまたはコントロール目標を開きます。
3. **[PA** インジケーター] 関連リストで、[新規] をクリックします。
4. フォームのフィールドに入力します。

PA インジケーターフォーム

フィールド	説明
PA インジケーター	リスクステートメントまたはコントロール目標を関連付けるパフォーマンスアナリティクスインジケーター。

5. [送信] をクリックします。
   リスクステートメントまたはコントロール目標フォームの **[PA** インジケーター] 関連リストに、関連するインジケーターが表示されます。必要に応じて、目的のインジケーターの [インジケーターを表示] をクリックして、インジケーターのパフォーマンスアナリティクススコアカードを表示できます。PA インジケーターの関連付けは、元のリスクステートメントまたはコントロール目標に関連付けられたすべてのリスクまたはコントロールに引き継がれます。また、インジケーターにコントロールのリスクまたはエンティティと一致するブレークダウンがある場合 (ビジネスサービスブレークダウンなど)、関係の [ブレークダウン] フィールドと [要素] フィールドが自動的に入力されます。

PA インジケーターをリスクおよびコントロールに関連付ける

パフォーマンスアナリティクスインジケーターをリスクおよびコントロールに関連付けて、リスクまたはコントロールが属するエンティティに関連する傾向を分析できます。

始める前に
必要なロール：sn_risk.manager または sn_compliance.manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 次のいずれかに移動します。
   - ポリシーとコンプライアンス > コントロール > すべてのコントロール.
   - リスク > リスク登録 > すべてのリスク.
2. リスクまたはコントロールを開きます。
3. **[PA** インジケーター] 関連リストで、[新規] をクリックします。
4. フォームのフィールドに入力します。

PA インジケーターフォーム

フィールド	説明
PA インジケーター	リスクまたはコントロールを関連付けるパフォーマンスアナリティクスインジケーター。
ブレークダウン	ブレークダウンして、ブレークダウン要素に基づいて特定の傾向を表示します。
要素	特定の傾向とスコアカードを表示するブレークダウン要素。 **注:** このフィールドは、入力される [ブレークダウン] フィールドによって異なります。表示されている場合は必須です。

5. [送信] をクリックします。
   リスクまたはコントロールフォームの **[PA** インジケーター] 関連リストに、関連付けられているインジケーターが表示されます。必要に応じて、目的のインジケーターの [インジケーターを表示] をクリックして、インジケーターのパフォーマンスアナリティクススコアカードを表示できます。

一連のアイテムの関連付けられている **GRC** インジケーターを更新する

GRC コンテンツレコードに属するすべてのアイテムを更新して、各アイテムを個別に PA インジケーターに関連付けることができます。

始める前に
必要なロール：sn_risk.manager または sn_compliance.manager

手順

1. 次のいずれかに移動します。
   - すべて > ポリシーとコンプライアンス > ポリシーおよび手順 > コントロール目標.
   - すべて > リスク > リスクライブラリー > リスクステートメント.
2. 関連付けられたパフォーマンスアナリティクスインジケーターがある、リスクステートメントまたはコントロール目標を開きます。
3. **[PA** リレーションシップを更新] 関連リンクをクリックします。
   リスクステートメントまたはポリシーステートメントに関連するすべてのリスクまたはコントロールは、ステートメントのすべてのリスクステートメントまたはポリシーインジケーターに自動的

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

に関連付けられます。また、インジケーターにコントロールのリスクまたはエンティティと一致するブレークダウンがある場合 (ビジネスサービスブレークダウンなど)、関係の [ブレークダウン] フィールドと [要素] フィールドが自動的に入力されます。

証拠要求を管理

証拠要求は、監査中にサポートドキュメントを要求するために監査およびコンプライアンスチームによって使用されます。監査人およびコンプライアンスチームは、防御の第一線にこれらのドキュメントを要求します。

証拠要求：証拠とは、監査人が監査意見を決定する際に使用するすべての情報です。証拠には、財務ステートメントの基礎となる会計レコードに含まれる情報やその他の情報が含まれます。証拠は本質的に累積的です。これには、監査中に実行された監査手順から取得された証拠が含まれます。証拠には、以前の監査などの他のソースから取得された監査証拠も含まれる場合があります。

証拠要求は、監査の準備中または監査の告知後の計画フェーズ中に頻繁に導入されます。要求されたドキュメントは、監査チームが、スコープ内のコントロールとプロセスを理解し、フィールドワークテストを開始するために使用されます。監査はさまざまなステージを経て進行するため、監査チームは頻繁に新しい要求をリストに追加します。コンプライアンスチームは、収集された証拠をコントロールテストに使用します。

バージョン 11.0.2 リリース以降、予定されていない証拠要求は 監査管理 および ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションによって次のようにサポートされています。

- 証拠は、エンゲージメントおよびすべての監査テーブルから要求できます。証拠を要求する方法を理解するには、「監査の証拠を要求する」を参照してください。
- コンプライアンスチームは、コントロールオーナー、ビジネスステークホルダー、およびプロセスオーナーに証拠を要求できます。
- 監査チームは、コントロールオーナー、ビジネスステークホルダー、プロセスオーナー、およびコンプライアンスチームに証拠を要求できます。
- アサインされたユーザーは、サービスポータル から直接証拠を提供できます。
- マネージャーは、機密性や重要度などのさまざまな基準に基づいて、証拠要求を承認できます。
- 要求者とアサイニー間のコミュニケーションチャネルが改善され、承認プロセスが簡素化されています。
- 改善された機密性の制約は、権限のないユーザーが要求情報を表示することを防止します。

証拠要求ワークフローとユーザー

証拠要求は、顧客が防衛の第一線および第二線で必要な情報を電子的に要求するために役立ちます。監査対象の個人は、ドキュメントをすぐにシステムにアップロードできるため、手動での処理時間が大幅に短縮されます。

証拠要求ワークフローは次のとおりです。

1. sn_audit.user ロールを持つ監査ユーザーが証拠を要求し、その要求を別のユーザーにアサインします。この要求者は、自分自身のために証拠を要求するか、別の監査ユーザーまたは GRC ユーザーの代わりに要求を出すことができます。要求者は、証拠タスクが誤って作成されたと判断した場合、その特定の証拠タスクをキャンセルできます。証拠要求をキャンセルする機能は、要求が [ドラフト] ステータス の場合に利用できます。要求者は、タスクが [レビュー] ステータスに達するまで、いつでも証拠要求タスクをキャンセルできます。
2. 証拠要求を作成した後、証拠収集レコードを作成し、要求者が証拠を要求する必要があります。証拠収集レコードには、証拠収集の指示、アサイン先、およびアサイン先グループが含まれています。[証拠を要求] をクリックすると、証拠要求タスクが生成され、グループまたはユーザーにアサインされます。
3. アサイニーは、要求された証拠を提供するためのリンクを含むメールを受信します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

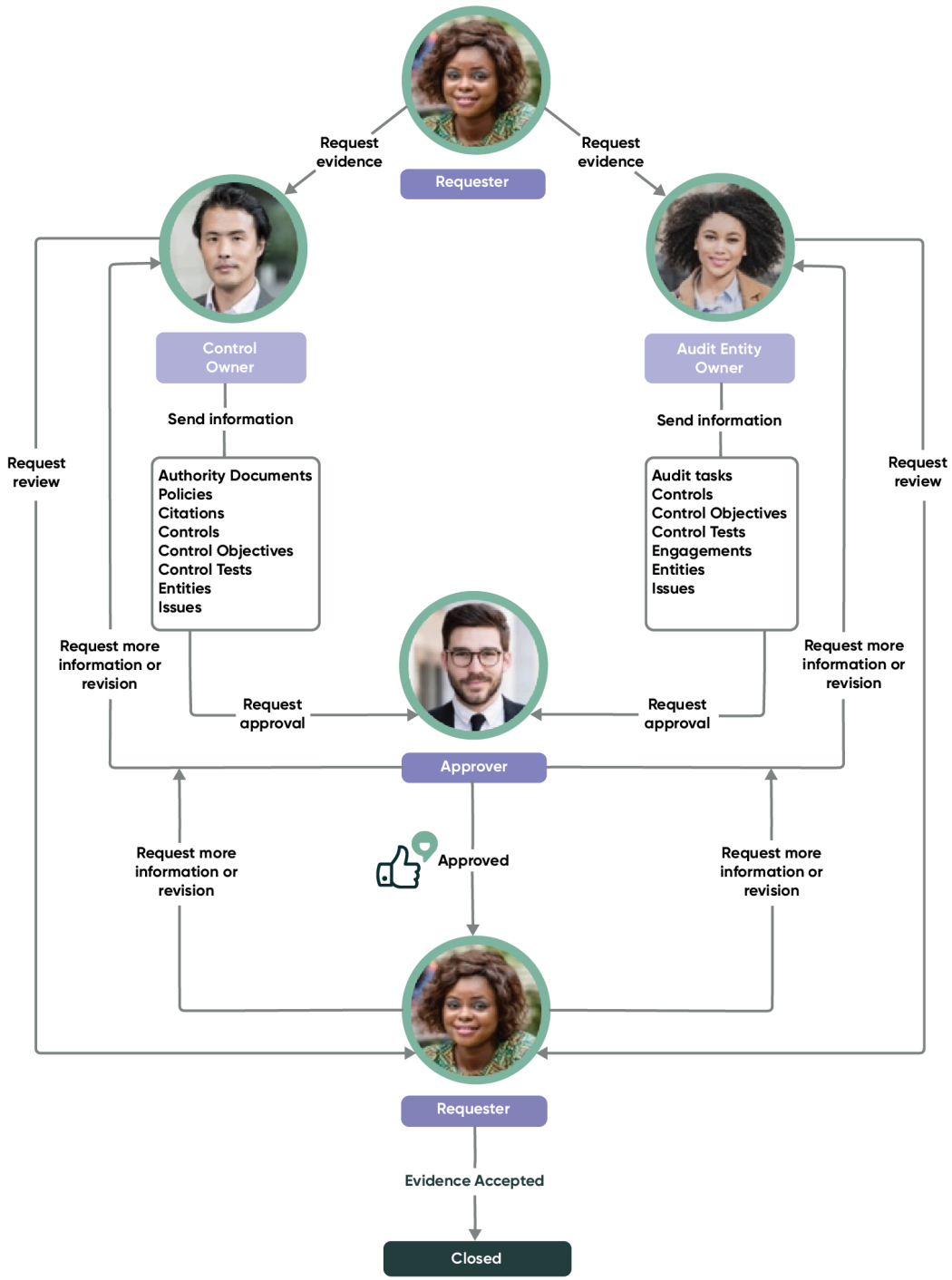
> **注:**
> 要求者が証拠を要求した後にアサイニーを変更した場合、元のアサイニーは要求を表示できなくなります。要求をアサインされたユーザーのみが要求を表示できます。この機能により、機密性が確保されます。

4. アサイニーは、要求された証拠を添付するか、必要な証拠を含む URL または場所を指定できます。
5. アサイニーは、証拠を検証および承認するための承認者を追加することもできます。証拠が事実上機密である場合は、承認者の追加が必要です。
6. 承認者は証拠をレビューし、それを承認するか、リビジョンを要求するか、証拠に関するさらなる詳細を要求することができます。
7. 承認者が証拠を承認した場合、要求者は証拠を受け取り、それをさらに処理できます。
8. 要求者は証拠をレビューし、次のいずれかを実行できます。
   - 証拠を承認する。
   - レビューを要求する。
   - 証拠に関するさらなる詳細を要求する。
   - 証拠要求が不要になった場合はキャンセルする。
   - 要求を削除する。
9. 要求者がすべての証拠タスクを受け入れると、要求はクローズされます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

証拠要求ワークフローを次の図に示しま



す。

次の表は、証拠要求ワークフロー中のロールとその責任を示しています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

証拠要求ユーザー、責任、および要件

ユーザー	役割	要件
内部監査人	• 監査テストを実行する。 • 監査テストを要求する。 • すべての監査結果と収集された証拠をレビューする。	• コンプライアンスとリスクアクティビティへの可視化。 • チームの作業を計画するためのジョブキュー (処理待ち、現在、予定)。 • 監査結果を追跡および監視する。 • 監査アクティビティを追跡および監視する。
コンプライアンスマネージャー、監査マネージャー	• 証拠を要求できる。 • コンプライアンステストの証拠を要求する。 • すべての結果と収集された証拠をレビューする。	• コンプライアンスアクティビティへの可視化。 • チームの作業を計画するためのジョブキュー (処理待ち、現在、予定)。 • コンプライアンスの結果を追跡および監視する。
コンプライアンスユーザー、コントロールオーナー	• コントロールが実装されていることを確認する。 • コントロールを証明する。 • コントロールをテストする。 • 監査人によって要求された監査証拠を提供する。	• 日々のアクティビティを指定するジョブキュー。 • 所有するアクティビティとタスクの所要時間とパフォーマンスを追跡する。 • 所有するタスクと監査人からの追加要求が履行されるように確保する。

監査中に証拠を要求する

監査中の任意のステージで証拠を要求します。証拠が要求されたアイテムの詳細は、証拠の提供責任者にも提供されます。

始める前に

必要なロール：sn_audit.user

このタスクについて

証拠は、次の 3 つの方法で要求できます。

自分の証拠

[自分の証拠 **(My Evidence)]** モジュールから証拠レコードを作成します。

証拠を要求

エンゲージメントレコード内のエンティティ、コントロール、監査タスク、コントロールテストの問題、およびその他の問題から作成する。これらのソースから証拠を要求するには、 監査 > エンゲージメント > 自分のエンゲージメント. エンゲージメントレコードを開き、証拠を要求する関連リストを選択します。[選択した行のアクション] リ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ストから、[証拠を要求] を選択します。ここでは、新しい証拠要求を作成するか、既存の証拠要求に要求を追加できます。証拠要求は作成されますが、証拠要求タスクは作成されません。既存の証拠の追加の詳細については、「エンゲージメントの関連アイテムからの既存の証拠を再利用」を参照してください。

エンティティ、コントロール、コントロール目標、コントロールテスト、エンゲージメント、問題テーブル

エンティティ、コントロール、コントロール目標、コントロールテスト、エンゲージメント、問題などのテーブルから作成します。ただし、ユーザーがこれらのテーブルから証拠を要求すると、実際の証拠要求タスクではなく証拠要求が作成されます。ユーザーは、生成された証拠要求レコードに移動し、証拠要求タスクを追加する必要があります。

この手順では、[自分の証拠 **(My Evidence)]** モジュールから証拠を要求する方法について説明します。

手順

1. 移動先 監査 > 自分の証拠要求.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

証拠要求フォーム

フィールド	説明
番号	証拠要求の一意の番号。
要求者	証拠を要求するユーザー。このフィールドは、自動的に入力されます。
代理で要求済み	証拠を要求されているユーザー。
アサイン先グループ	証拠を提供するためにアサインされたグループ。
アサイン先	証拠の提供を担当するユーザー。
状況	要求のステータス。デフォルトのステータスは [ドラフト] です。
タイプ	作成される証拠のタイプ。[監査] または [コンプライアンス] のいずれかです。
要求理由	証拠を要求する理由。
ウォッチリスト	収集された証拠の表示に関心があるユーザー。ウォッチリストに追加されたユーザーは、 監査 > 証拠要求 > 証拠要求ウォッチリスト をクリックして要求を表示します。
名前	証拠要求の名前。
説明	証拠要求の詳細な説明。
スケジュール	
期日	証拠の送信予定日。
オープン	要求がオープンされた日付。この日付は自動的に更新されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
クローズ済み	要求がクローズされた日付。この日付は自動的に更新されます。
アクティビティ	
作業メモ	必要な可能性があるメモを入力します。
アクティビティ	要求のアクティビティログ。

4. フォームを保存します。
[証拠収集の詳細] 関連リストが表示されます。この関連リストは、証拠が要求されているアイテムを一覧表示するために使用されます。
5. [新規] をクリックします。
6. フォームのフィールドに入力します。

証拠収集の詳細フォーム

フィールド	説明
証拠要求	証拠要求タスクの一意の番号。
証拠対象	証拠が要求されているレコード。 証拠が適用されるすべてのテーブルを一覧表示します。
名前	証拠収集の詳細の名前。
アサイン先グループ	証拠を提供するためにアサインされたグループ。このグループのユーザーには、sn_grc.business_user ロールが必要です。
アサイン先	証拠の提供を担当するユーザー。
証拠収集手順	証拠を提供するための指示。たとえば、サポートドキュメント、ファイルなどのリストです。

7. **[OK]** をクリックします。
8. [送信] をクリックします。
9. [証拠を要求] をクリックします。
証拠要求が既に [対応中] ステータスであり、新しい証拠収集の詳細が追加された場合、証拠要求タスクはすぐにアサイニーに送信されます。
[証拠] 関連リストに証拠のリストが表示され、要求をアサインされたユーザーは、要求された証拠を提供するためのメール通知を受信します。また、要求のステータスが [対応中] に変更されます。
10. 移動先 監査 > 証拠要求 > 自分の証拠要求タスク.
11. 証拠を提供するレコードを開きます。
12. [作業を承認] をクリックします。
13. フォームのフィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

証拠フォーム

フィールド	説明
番号	証拠要求の番号。この値はデフォルトで生成されます。
要求者	証拠を要求するユーザー。この値はデフォルトで生成されます。 [アサイン先] フィールドの承認者、要求者、ウォッチリストのメンバー、またはユーザーである場合、証拠が [新規] または [対応中] 状況であれば、[ウォッチリスト]、[名前]、および [説明] フィールドの詳細を編集できます。
代理で要求済み	証拠を要求されているユーザー。この値はデフォルトで生成されます。
アサイン先グループ	証拠を提供するためにアサインされたグループ。このグループのユーザーには、sn_grc.business_user ロールが必要です。
アサイン先	証拠の提供を担当するユーザー。この値はデフォルトで生成されます。
状況	要求のステータス。
サブステート	なし。この値はデフォルトで生成されます。
要求理由	証拠を要求する理由。
承認者	レビューのために要求者に返される前に証拠を承認するユーザー。通常、承認者は証拠を提供するユーザーのマネージャーです。
ウォッチリスト	収集された証拠の表示に関心があるユーザー。
名前	証拠要求の名前。名前はデフォルトで [証拠収集の詳細] の名前になります。
説明	証拠要求の詳細な説明。説明は、デフォルトで証拠要求フォームに指定された説明になります。
要求の詳細	
証拠要求	タスクに関連付けられた証拠要求の一意の ID。この値はデフォルトで生成され、証拠を要求するために作成されたレコードからフェッチされます。
証拠対象	証拠が要求されているレコード。
証拠対象の説明	証拠が要求されているレコードの説明。この値はデフォルトで生成され、証拠を要求するために作成されたレコードからフェッチされます。
証拠収集手順	証拠を収集するための指示。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	マネージャーまたは要求者は、証拠要求タスクが対応中ステータスのときにこのフィールドを編集できます。

14. 添付された証拠の承認を要求するには、[承認要求] をクリックします。
15. 承認者が必要ない場合は、[レビューを要求] をクリックします。
16. 移動先 監査 > 証拠要求 > 自分の承認.
17. 証拠を承認するレコードを開きます。
18. フォームで添付された証拠をレビューし、次のいずれかのオプションをクリックします。

オプション	説明
承認	添付された証拠を承認します。要求者は、提供された証拠を取得します。
リビジョンを要求	添付された証拠のレビューを要求します。リビジョンを要求するときにコメントを入力します。アサイニーは、添付された証拠をレビューするための通知を受け取ります。
情報を要求	添付された証拠に関する詳細情報を求めます。アサイニーは、添付された証拠に関する詳細を提供するための通知を受け取ります。

19. 移動先 監査 > 証拠要求 > 自分の処理待ちのレビュー.
20. 証拠フォームで、添付された証拠をレビューし、次のいずれかのオプションをクリックします。

オプション	説明
証拠を承認	提供された証拠を承認します。
リビジョンを要求	証拠のレビューを要求します。適切でない場合は、変更を要求します。
キャンセル	証拠要求タスクをキャンセルします。
削除	証拠要求タスクを削除します。

21. [証拠要求] 関連リストを表示するフォームに移動します。
22. フォームヘッダーを右クリックし、 構成 > 関連リスト.
23. [利用可能] ボックスで [関連する証拠] アイテムを検索し、それを [選択済み] ボックスに移動します。
24. [保存] をクリックします。

関連エンゲージメントアイテムの証拠を再利用

エンゲージメントの関連アイテムに既に存在する証拠について、監査およびコンプライアンスユーザーに通知します。証拠を要求しているエンゲージメントの関連アイテムテーブルに既に存在する場合は、その証拠を追加できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：sn_audit.user

このタスクについて
エンゲージメントの場合、証拠はエンティティ、コントロール、監査タスク、コントロールテストの問題、その他の問題、または任意の関連アイテムテーブルで作成できます。既存の証拠がある場合は、[証拠を要求] ポップアップに、追加できる可能性がある既存の証拠があるというメッセージが表示されます。

注:
追加できるのは、関連アイテムで直接作成された証拠、および [クローズ済み] ステータスの既存の証拠、および証拠応答の期限日から 6 か月以内の証拠のみです。

ログインユーザーは、証拠レコードが存在するエンゲージメントへのアクセス権を持っているか、それらを表示して追加するエンゲージメントレコードへのアクセス権を持っている必要があります。ログインしているユーザーがこれらのレコードにアクセスできない場合、これらの関連アイテムに証拠が存在しても、ユーザーが追加できるようには表示されません。

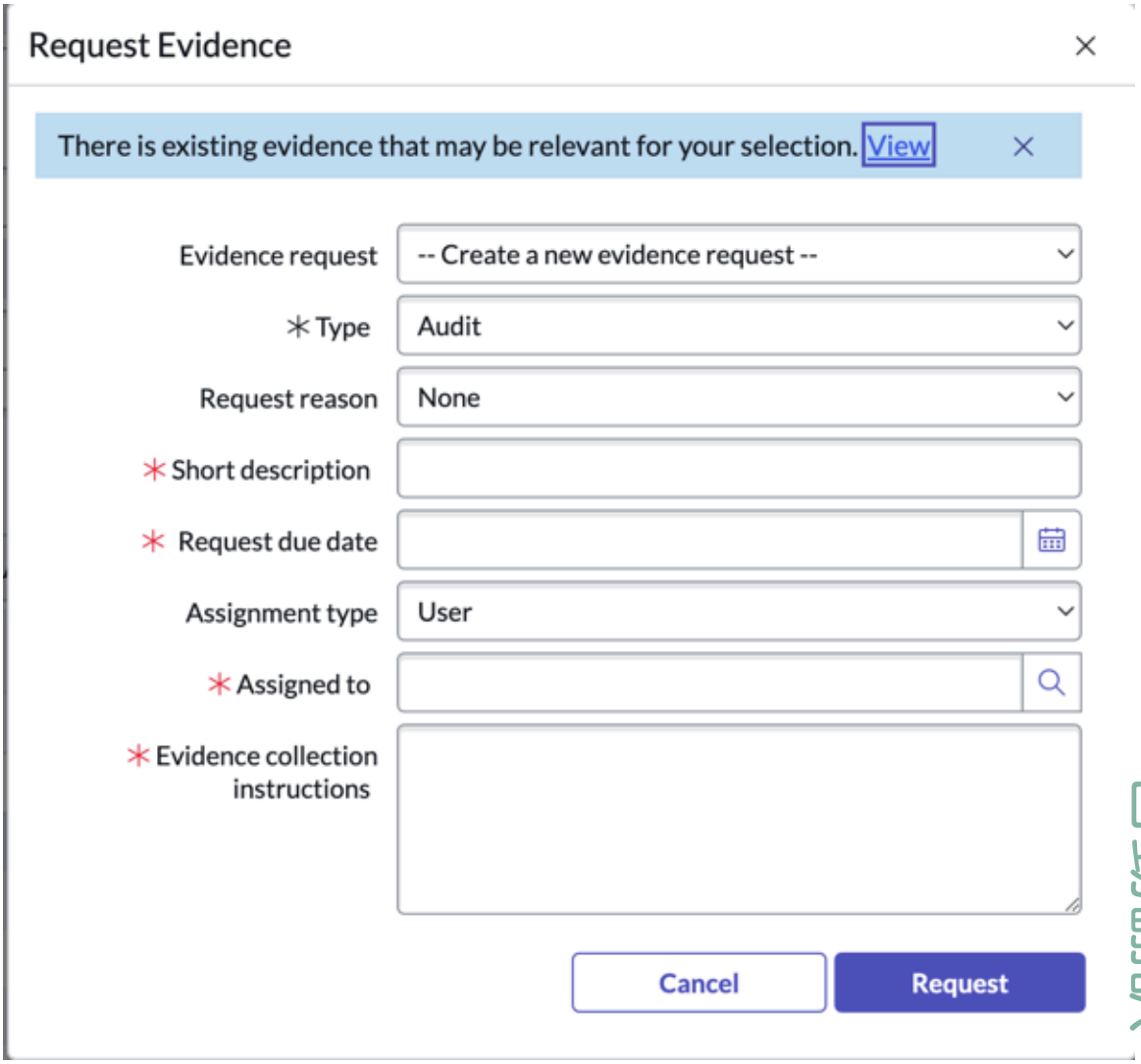
手順

1. 移動先 すべて > 監査 > エンゲージメント > すべてのエンゲージメント.
2. クリックしてエンゲージメントを開きます。
3. 証拠を要求する関連リストを選択します。
4. [選択した行のアクション] リストから、[証拠を要求] を選択します。
   新しい証拠要求を作成するか、既存の証拠要求を追加できます。証拠要求は作成されますが、証拠要求タスクは作成されません。
5. 新しい証拠要求を作成するには、[証拠を要求] ポップアップに詳細を入力し、[要求] ボタンをクリックします。
6. 既存の要求を表示するには、メッセージ内の [表示] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

既存の証拠を追加



自動翻訳

注:
既存の証拠がない場合、メッセージは [証拠を要求] ポップアップに表示されません。

7. 関連アイテムで作成された既存のすべての証拠を表示するには、[証拠] 関連リストをクリックします。
   証拠が [完了してクローズ] ステータスの場合、[新規]、[既存の証拠を追加]、[削除]、[削除] などの UI アクションボタンは無効になります。これらの UI アクションは、エンゲージメントまたはその他の監査およびコンプライアンスオブジェクトがアクティブ状況である場合にのみ実行できます。
8. 証拠を関連付けるには、[既存の証拠を追加] ボタンをクリックして証拠を選択します。

注:
[既存の証拠を追加] ボタンは、エンゲージメントフォームの証拠関連アイテムでのみ使用でき、クラシック環境の他のコンプライアンスまたは監査オブジェクトでは使用できません。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

9. エンゲージメントにリンクされた証拠の関連付けを削除するには、[証拠] 関連リストで証拠を選択し、[選択した行のアクション] リストで [削除] をクリックします。

   注:
   削除アクションは、既存の証拠の関連付けをエンゲージメントから削除するだけで、データベースからは証拠レコードを削除しません。

要求された証拠を提供する

要求された場合は証拠を提供します。証拠が要求されると、証拠を提供する必要があるユーザーはメールを受信します。証拠を提供するプロセスが開始されます。

始める前に
必要なロール：sn_grc.business_user、sn_grc.business_user_lite

このタスクについて
アサイニーは、要求された証拠を提供するためのメールを受信すると、要求された証拠を提供するか、別のユーザーに要求を再アサインすることができます。アサイニーは、要求された証拠を送信する前に承認者を追加して、証拠のセキュリティを強化することもできます。アサイニーが要求を他のユーザーに再アサインした場合、元のアサイニーは要求を表示できなくなります。提供された証拠が承認者を必要としない場合、アサイニーは証拠のレビューを直接要求でき、要求者は証拠をレビューするための通知を受け取ります。

手順

1. 移動先 監査 > 証拠要求 > 自分の証拠要求タスク.
2. 証拠を提供するレコードを開きます。
3. [作業を承認] をクリックします。
4. フォームのフィールドに入力します。

証拠フォーム

フィールド	説明
番号	証拠要求の番号。この値はデフォルトで生成されます。
要求者	証拠を要求するユーザー。この値はデフォルトで生成されます。 [アサイン先] フィールドの承認者、要求者、ウォッチリストのメンバー、またはユーザーである場合、証拠が [新規] または [対応中] 状況であれば、[ウォッチリスト]、[名前]、および [説明] フィールドの詳細を編集できます。
代理で要求済み	証拠を要求されているユーザー。この値はデフォルトで生成されます。
アサイン先グループ	証拠を提供するためにアサインされたグループ。このグループのユーザーには、sn_grc.business_user ロールが必要です。
アサイン先	証拠の提供を担当するユーザー。この値はデフォルトで生成されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
状況	要求のステータス。
サブステート	なし。この値はデフォルトで生成されます。
要求理由	証拠を要求する理由。
承認者	レビューのために要求者に返される前に証拠を承認するユーザー。通常、承認者は証拠を提供するユーザーのマネージャーです。
ウォッチリスト	収集された証拠の表示に関心があるユーザー。
名前	証拠要求の名前。名前はデフォルトで [証拠収集の詳細] の名前になります。
説明	証拠要求の詳細な説明。説明は、デフォルトで証拠要求フォームに指定された説明になります。
要求の詳細	
証拠要求	タスクに関連付けられた証拠要求の一意の ID。この値はデフォルトで生成され、証拠を要求するために作成されたレコードからフェッチされます。
証拠対象	証拠が要求されているレコード。
証拠対象の説明	証拠が要求されているレコードの説明。この値はデフォルトで生成され、証拠を要求するために作成されたレコードからフェッチされます。
証拠収集手順	証拠を収集するための指示。 マネージャーまたは要求者は、証拠要求タスクが対応中ステータスのときにこのフィールドを編集できます。

自動翻訳

5. 添付された証拠の承認を要求するには、[承認要求] をクリックします。
6. 承認者が必要ない場合は、[レビューを要求] をクリックします。

証拠レビュー前に証拠を承認する

要求者が証拠を表示する前に、提供されている証拠を承認します。証拠要求に応じて証拠が提供される場合、証拠を要求者に送り返す前に、その証拠を承認する必要があります。この機能により、証拠のセキュリティと機密性が保証されます。

始める前に

必要なロール：sn_grc.business_user、sn_grc.business_user_lite

このタスクについて

承認者は、証拠を承認する要求を受信した後、次のいずれかを実行できます。

- 問題や懸念がない場合は、要求を承認する。
- 添付された証拠が正しくないか、修正が必要な場合は、その証拠のリビジョンを要求する。
- 承認者が添付された証拠に関する詳細を必要とする場合は、情報を要求する。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 監査 > 証拠要求 > 自分の承認.
2. 証拠を承認するレコードを開きます。
3. フォームで添付された証拠をレビューし、次のいずれかのオプションをクリックします。

オプション	説明
承認	添付された証拠を承認します。要求者は、提供された証拠を取得します。
リビジョンを要求	添付された証拠のレビューを要求します。リビジョンを要求するときにコメントを入力します。アサイニーは、添付された証拠をレビューするための通知を受け取ります。
情報を要求	添付された証拠に関する詳細情報を求めます。アサイニーは、添付された証拠に関する詳細を提供するための通知を受け取ります。

証拠要求のレビューと管理

要求した証拠を受信したら、証拠要求を承認、却下、またはキャンセルする。証拠要求を要求した後、要求者が証拠を受け取ると、その証拠要求を承認、却下、またはキャンセルできます。

始める前に
必要なロール：sn_compliance.user

手順

1. 移動先 監査 > 証拠要求 > 自分の処理待ちのレビュー.
2. 証拠フォームで、添付された証拠をレビューし、次のいずれかのオプションをクリックします。

オプション	説明
証拠を承認	提供された証拠を承認します。
リビジョンを要求	証拠のレビューを要求します。適切でない場合は、変更を要求します。
キャンセル	証拠要求タスクをキャンセルします。
削除	証拠要求タスクを削除します。

関連証拠関連リストの有効化

証拠要求機能には、関連する証拠と呼ばれる関連リストが含まれていますが、これはデフォルトでは表示されません。この関連リストは、現在のレコードに対して直接要求されていないが、関連レコードに関連付けられている証拠のリストを提供します。たとえば、コントロール目標フォームの関連証拠リストには、関連するコントロールに対して要求された証拠が表示されます。

始める前に
必要なロール：admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
関連証拠関連リストは、証拠要求機能全体でさまざまなフォームで使用できます。ただし、ベースシステムには表示されません。利用可能な任意のフォームをカスタマイズできますが、この関連リストを有効にするとシステムのパフォーマンスに影響を与える可能性があることに注意してください。

関連証拠関連リストを表示できるテーブル

テーブル名	表示される関連証拠のタイプ
各種法令・基準等	この各種法令・基準等にマッピングされた証拠要求タスク。
信頼できるソースコンテンツ	引用に関連付けられたコントロール目標に対して作成された証拠要求タスク。
コントロール	コントロールテストで作成された証拠要求タスクとコントロールに対して作成された問題。
コントロール目標	コントロール目標に関連付けられたコントロールに対して作成された証拠要求タスク。
コントロールテスト	コントロールテストに関連付けられたコントロールに対して作成された証拠要求タスク。
エンゲージメント	エンティティで作成された証拠要求タスク、コントロール、監査タスク、コントロールテストの問題、およびエンゲージメントにマッピングされた問題が表示されます。
エンティティ	エンティティ、そのエンティティで作成された問題に関連付けられたコントロールで作成された証拠要求タスク。
ポリシー	ポリシーに関連付けられたコントロール目標に対して作成された証拠要求タスク。

自動翻訳

手順

1. [証拠要求] 関連リストを表示するフォームに移動します。
2. フォームヘッダーを右クリックし、 構成 > 関連リスト.
3. [利用可能] ボックスで [関連する証拠] アイテムを検索し、それを [選択済み] ボックスに移動します。
4. [保存] をクリックします。

コンプライアンスワークスペース でコンプライアンスタスクを実行

バージョン 13.0.0 以降、GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションに新しいワークスペースが導入されています。新しいワークスペースは、改善されたユーザーエクスペリエンス (UX) と簡素化されたユーザージャーニーを提供します。

注:
コンプライアンスワークスペース は GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションに依存しており、このアプリケーションはワークスペースプラグインがインストールされると自動的にインストールされます。

コンプライアンスワークスペース の詳細については、「GRC コンプライアンスワークスペース 概要」を参照してください。ペルソナベースの コンプライアンスワークスペース のページについては、以下を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- コンプライアンスマネージャーのコンプライアンスホームページ
- コンプライアンスアナリストのコンプライアンスホームページ
- IT コンプライアンスマネージャーのコンプライアンスホームページ

GRC コンプライアンスワークスペース 概要

コンプライアンスワークスペース は、ポリシー、コントロール目標、コントロール、およびポリシー例外に関連するすべてのタスクを管理できる統一されたインターフェイスです。

コンプライアンスワークスペースの概要

コンプライアンスワークスペース のハイライトは次のとおりです。

再ビルドされたユーザーエクスペリエンス

コンプライアンスワークスペース ホームページに移動するとすぐ、ワークスペースで実行できるすべてのタスクは、ビジネスゴールを達成するために簡素化されます。

さまざまなコンプライアンスユーザーロール向けに設計されたワークスペース

企業コンプライアンスマネージャー、企業コンプライアンスアナリスト、および IT コンプライアンスマネージャーの個別のページビュー。

さまざまなセクションがあるホームページ

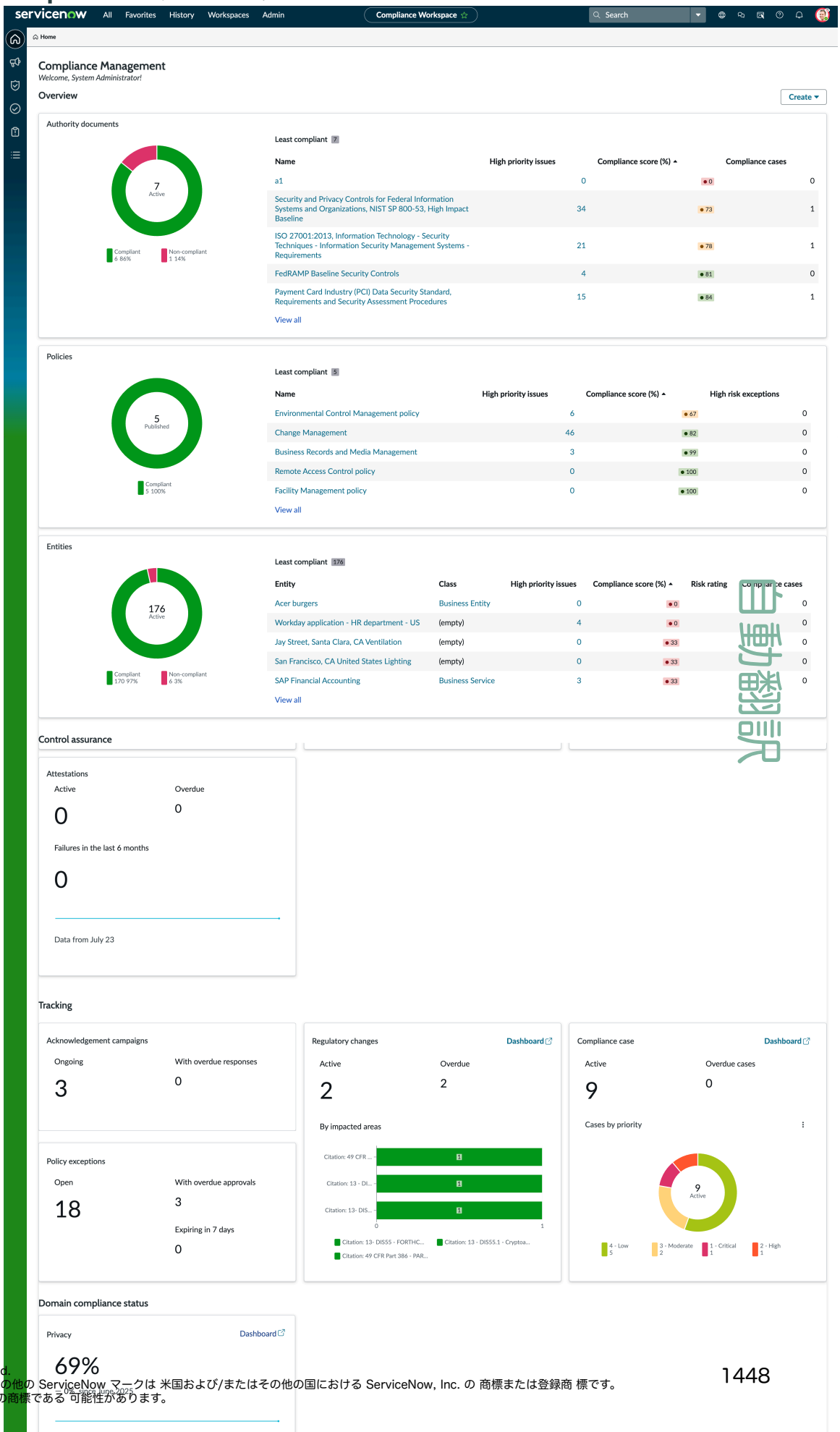
概要

ドーナツグラフには、準拠および非準拠の各種法令・基準等、ポリシー、エンティティが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Compliance ワークスペースホームページ



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コントロール保証

ドーナツグラフ、ステータス別グループインジケーター、およびステータス別の証明書を表示します。コントロールによってグループ化されたコントロールテストの水平バーとコントロールの有効性により積み重ねられた分類です。

追跡中

ステータス別にグループ化され、分類別に積み重ねられたコントロールウィジェットを表示します。

タスク

処理待ちのタスクとグループのタスクを表示します。[すべてのタスクを表示] リンクをクリックすると、統一されたタスクページに移動できます。

注:
コントロールテストウィジェット、規制変更、コンプライアンスケース、およびプライバシーウィジェットは、それぞれのプラグインのインストールステータスに基づいて条件付きで表示されます。

統一されたタスクページ

単一のインターフェイスから自分のタスクとチームのタスクを追跡します。タスクをカテゴリ別に表示し、さまざまなパラメーターでフィルターして、開始したタスクを監視し、ウォッチリストで追跡します。

リスト

すべてのコンプライアンス関連レコードのリストビュー。レコードの概要が単一のビューに表示され、分析と情報に基づいた意思決定に役立ちます。

注:
Audit プラグイン、規制変更管理プラグイン、およびプライバシー管理プラグインがインストールされると、それぞれ [コントロールテスト] ウィジェット、[規制の変更] ウィジェット、および [ドメインコンプライアンスステータス] セクションが表示されます。詳細については、「全体を表示するためのその他の GRC プラグイン」を参照してください。

コンプライアンスワークスペース のロール

コンプライアンスワークスペースのターゲットユーザーは、企業コンプライアンスマネージャー、企業 IT コンプライアンスマネージャー、および企業コンプライアンスアナリストです。

Compliance ワークスペースにアクセスしたり、表示したりするには、次のロールが必要です。

- IT コンプライアンスマネージャーロール:sn_compliance_ws.it_compliance_manager
- 企業コンプライアンスマネージャーロール:sn_compliance_ws.corporate_compliance_manager
- 企業コンプライアンスアナリストロール:sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst

コンプライアンスワークスペースでユーザーが実行できるロール、責任、およびタスクの詳細については、以下を参照してください。

- コンプライアンスマネージャーのコンプライアンスホームページ
- コンプライアンスアナリストのコンプライアンスホームページ
- IT コンプライアンスマネージャーのコンプライアンスホームページ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンプライアンスマネージャーのコンプライアンスホームページ

コンプライアンスワークスペースのコンプライアンスマネージャーのホームページには、組織のコンプライアンス体制の完全な概要が表示されます。ワークスペースは、コンプライアンスマネージャーが外部の規制基準に一致する社内の標準、ポリシー、および制御プロセスを一元管理するのに役立ちます。

コンプライアンスマネージャーは、ほとんどの場合、コンプライアンスディレクターの直属であり、会社が組織および業界の規制および標準に準拠していることを確認します。

ユーザーペルソナは組織によって異なる場合がありますが、組織構造に応じて、企業コンプライアンスマネージャー、IT コンプライアンスマネージャー、コンプライアンスマネージャー、またはコンプライアンスアナリストが、組織がポリシーと規制に準拠していることを確認するタスクを担当します。

コンプライアンスマネージャーの責任

コンプライアンスマネージャーには以下を行う必要があります。

- すべてのポリシーと規制が遵守されていることを確認します。
- コントロールの定義および適用レベルまでのポリシーの作成と維持
- ポリシー例外を承認して追跡します。
- チームの適切な管理

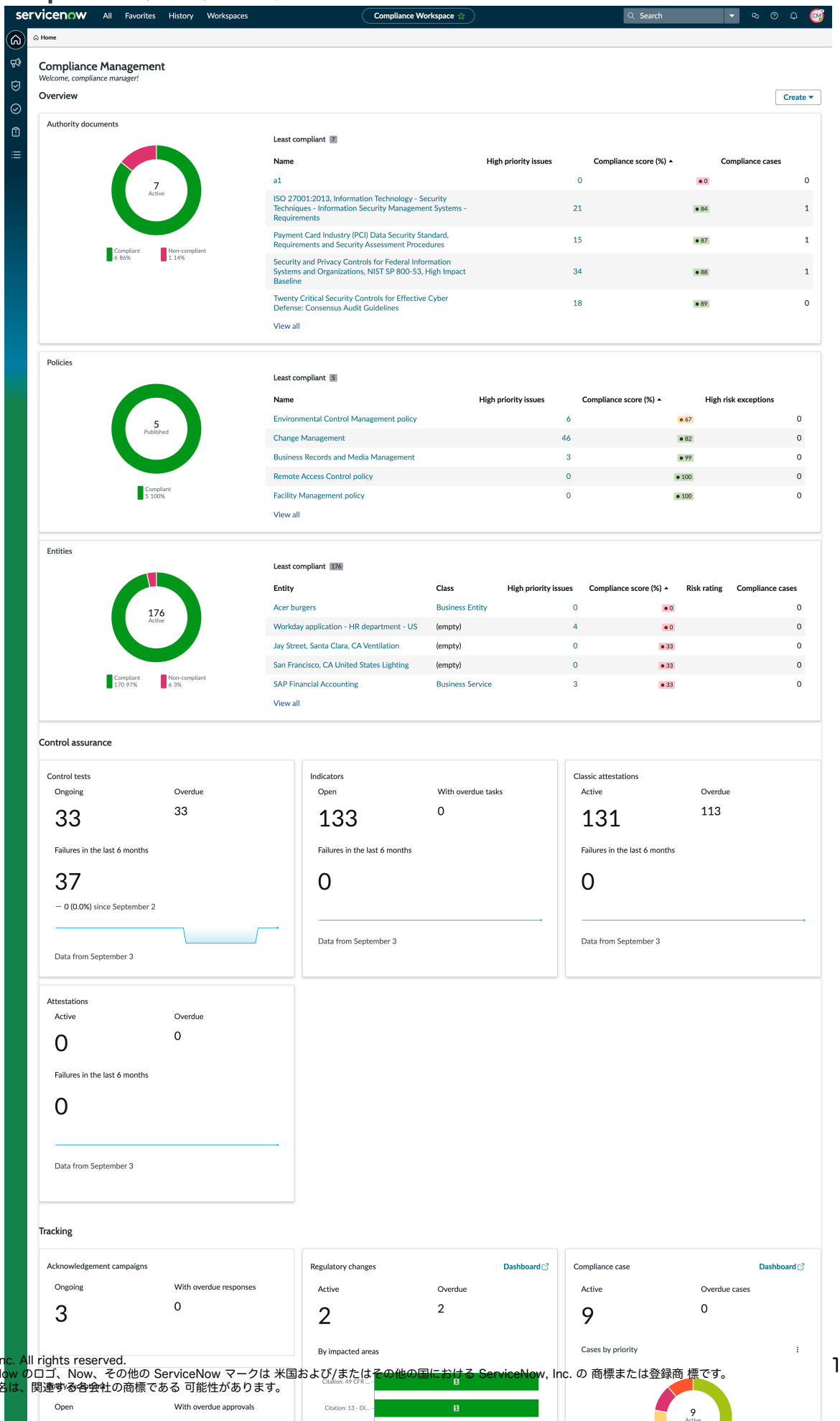
コンプライアンスマネージャーのタスクの コンプライアンスワークスペース

上記の責任を果たすために、コンプライアンスマネージャーには、コンプライアンスワークスペースで実行できる特定の日次および週次の機能タスクがあります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Compliance マネージャーワークスペース



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- [概要] セクションを使用して、各種法令・基準等、ポリシー、およびエンティティを確認し、それらの準拠ステータスを確認します。準拠度が最も低い各種法令・基準等、ポリシー、エンティティのリスト、およびそれらのコンプライアンススコアを取得します。
- [コントロール保証] セクションで、コントロール、コントロール証明書、インジケータータスク、進行中のコントロールテスト数および期限切れのコントロールテスト数を確認します。
- 新しい主要なコントロールを監視および分析し、既存のコントロールのパフォーマンスを追跡します。
- 各種法令・基準等、規制、ポリシーに加えられた変更を追跡します。

コンプライアンスマネージャーは、各種法令・基準等、引用、ポリシー、コントロール目標、コントロール、インジケータータスク、確認応答キャンペーン、ポリシー例外、およびエンゲージメントを作成できます。

コンプライアンスマネージャーがすぐに対応する必要のあるタスクに対応できるように、[概要] セクションのコンプライアンスレコードは、準拠度が最も低いものから順に一覧表示されます。[コントロール保証] セクションのコントロールテスト、インジケーター、および証明書について表示されるデータは、コンプライアンスマネージャーがタスクに優先順位を付けるうえでも役立ちます。確認応答キャンペーンとポリシー例外の追跡を効果的に管理できます。

注:
問題を追跡するために、コンプライアンスマネージャーは [問題の概要] セクションから問題の詳細にアクセスできます。

全体を表示するためのその他の **GRC** プラグイン

コンプライアンスマネージャーは、すべてのコンプライアンスタスクの全体像を把握する必要があるため、コンプライアンスマネージャーのホームページでプライバシー管理および規制変更管理のアプリケーションドメインも表示できます。ただし、特定のウィジェットをホームページに表示するには、次のプラグインをインストールする必要があります。

- コントロール保証セクションのコントロールテストウィジェットの GRC: Audit Management。
- [追跡] セクションの規制変更ウィジェットの GRC: 規制変更管理。ログインユーザーに、RCM マネージャーロール (sn_grc_reg_change.manager) も必要です。
- ドメインコンプライアンスステータスセクションの GRC: Privacy Management。ログインユーザーに、プライバシーマネージャーロール (sn_privacy.manager) も必要です。

コンプライアンスアナリストのコンプライアンスホームページ

コンプライアンスワークスペースのコンプライアンスアナリストホームページを使用すると、コンプライアンスアナリストはコンプライアンスアクティビティを追跡でき、コンプライアンスマネージャーは組織がさまざまな規制やポリシーに準拠していることを確認できます。

コンプライアンスアナリストの責任

コンプライアンスアナリストは、特定のポリシー、規制、関連するコンプライアンスアクティビティなど、特定のコンプライアンス領域を監督します。そのため、フィルターオプションが、必要な基準に基づいてコンプライアンスレコードをフィルターするのに役立ちます。

- 既存のポリシーと関連ドキュメントの分析と更新
- アサインされたときのポリシーとコントロールの実装
- コントロールのパフォーマンスの監視
- スケジュールして証明書をフォローアップする。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

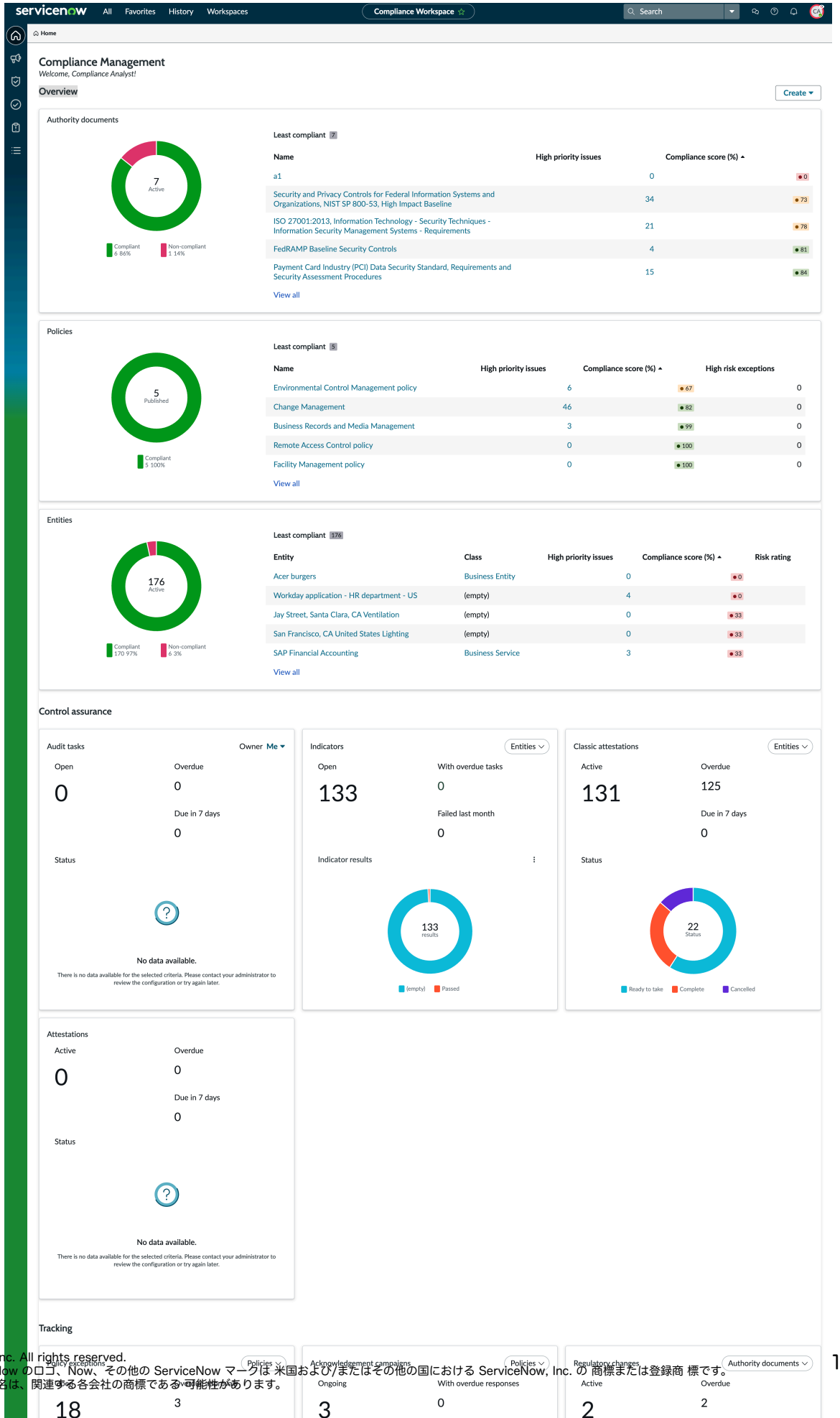
コンプライアンスアナリストのタスクの コンプライアンスワークスペース

コンプライアンスアナリストのホームページは、アナリストの上記のタスクを実行するように設計されています。このホームページはコンプライアンスマネージャーのホームページに似ていますが、アナリストのタスク実行に役立つ独自の機能があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンプライアンスアナリストのホームページ



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である可能性があります。

コンプライアンスアナリストのホームページは、企業のコンプライアンスアナリストが作業を管理するためのカスタマイズされたエクスペリエンスを提供します。

概要

組織の全体的なコンプライアンスのスタンスの概要を示します。

各種法令・基準等

ウィジェットは、準拠および非準拠の各種法令・基準等の数を合計して、各種法令・基準等の総数を表示します。このセクションには、コンプライアンススコア (%) の詳細も表示されます。各種法令・基準等の名前をクリックすると、そのドキュメントのコンプライアンスステータスと追跡の詳細が表示されます。

方針

このセクションには、準拠しているポリシーと準拠していないポリシーの数、準拠していないポリシーのリスト、およびコンプライアンススコアに加えて、リストされた各ポリシーの高リスク例外の数も表示されます。

エンティティ

アクティブなエンティティの総数と、それらのエンティティクラスとともに準拠度が最も低いエンティティのリストを提供します。エンティティの名前をクリックすると、そのコンプライアンスステータスと追跡の詳細が表示されます。

コントロール保証

コントロールのテストと監視の概要を示します。デフォルトでは、監査タスクは、ログインユーザーの [自分にアサイン済み] 条件に基づいてフィルターされた状態で表示されます。一方、アナリストは、管理するエンティティに基づいてインジケーターと証明書をフィルターできます。

トラッキング

重要な未解決のタスクと例外のサマリーを提供し、アナリストがポリシー例外を管理するのに役立ちます。アナリストは、割り当てられたポリシーで作成されたポリシー例外を理解する必要があるため、必要なポリシーにフィルターを適用し、これらのポリシーに作成された例外を表示できます。同様に、アナリストは特定のポリシーを選択してキャンペーンの詳細を表示できます。

> **注:**
> 問題を追跡するために、コンプライアンスアナリストは [問題の概要] セクションから問題の詳細にアクセスできます。

クイックリンク

アナリストがコントロール目標、コントロール、確認応答キャンペーン、ポリシー例外などの新しいレコードを作成できるようにします。

IT コンプライアンスマネージャーのコンプライアンスホームページ

コンプライアンスワークスペースは、IT コンプライアンスマネージャーが IT 関連のリスクおよびコンプライアンスデータを表示するための専用のホームページを提供します。ワークスペースは、IT コンプライアンスマネージャーが外部の規制基準に準拠するために IT 関連専用の社内の標準、ポリシー、および制御プロセスを一元管理するうえで役立ちます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

IT コンプライアンスワークスペースの構成

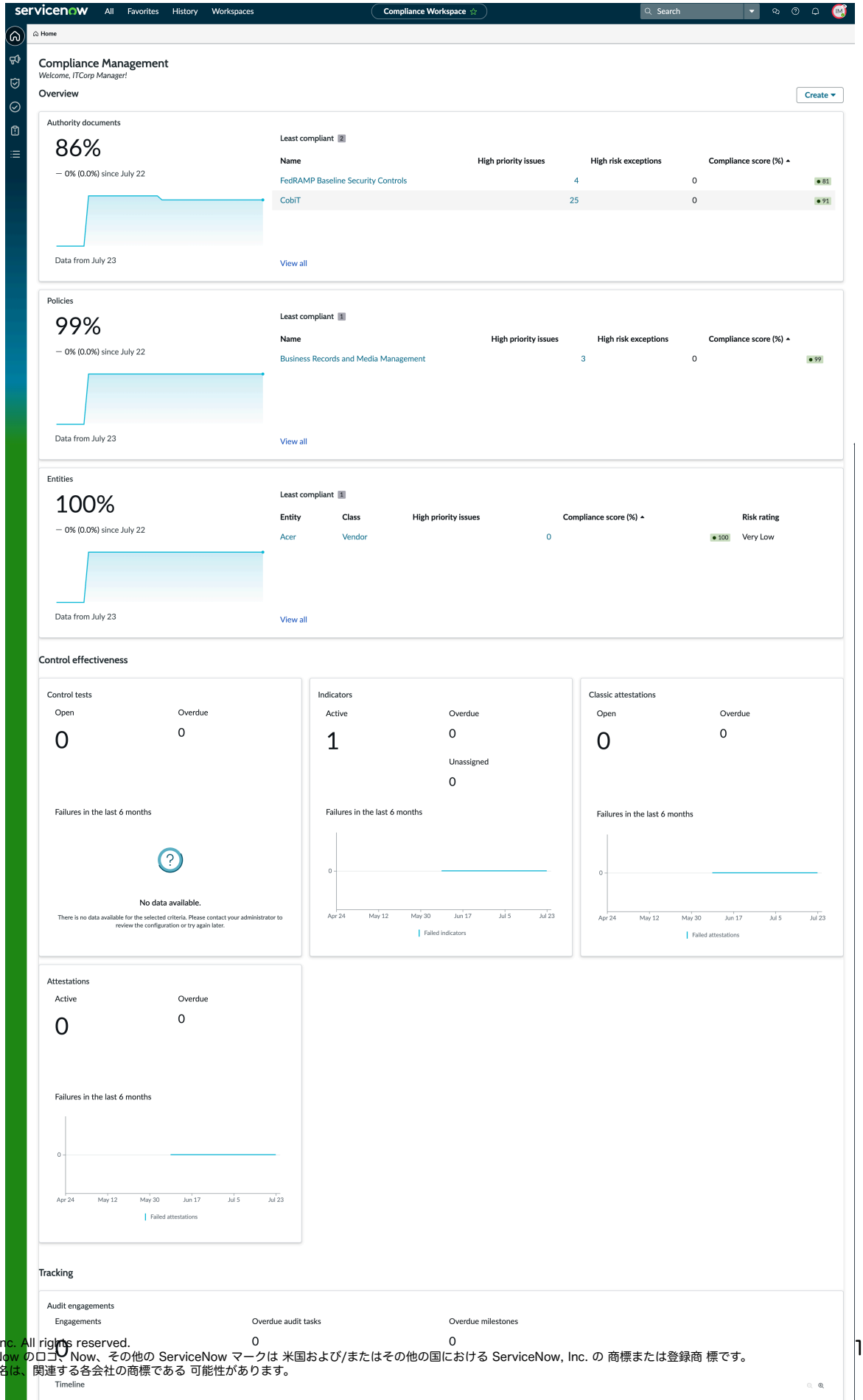
- IT コンプライアンスのホームページを設定するには、「IT コンプライアンスワークスペースの構成」を参照してください。
- IT コンプライアンスワークスペースとユーザーロールをサポートするテーブルの詳細については、次を参照してください。 次とともにインストールされるコンポーネント： ポリシーとコンプライアンス管理.

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

IT コンプライアンスホームページ

IT コンプライアンスマネージャーのホームページ



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

概要

IT 関連の各種法令・基準等、IT 関連のポリシー、および IT 関連エンティティの準拠率は、PA インジケーターウィジェットによって示されます。

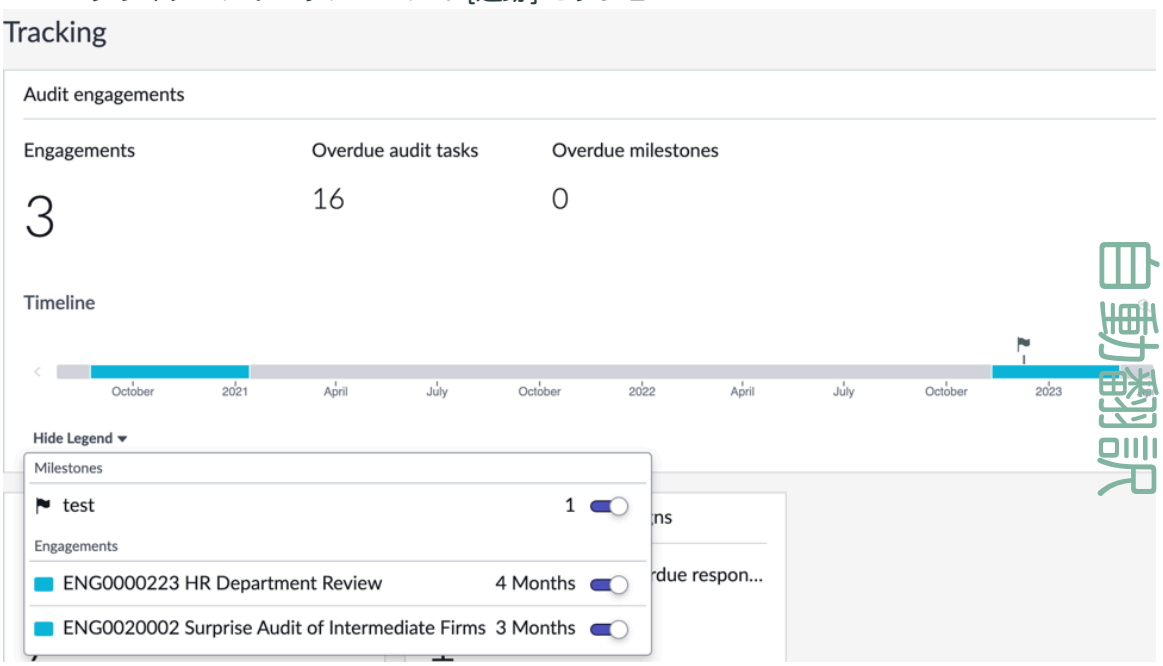
コントロール有効性

このセクションでは、IT 関連のコントロール、IT 関連のコントロールで実行されるインジケーター、およびそれらのコントロールに関連付けられている証明書に関するリアルタイム情報を収集します。

トラッキング

IT コンプライアンスマネージャーのアクションのためにキューにあるすべての IT 関連ポリシーを追跡します。タイムラインには、今後のエンゲージメントと各エンゲージメントに関連付けられたマイルストーンが表示されます。また、アクティブで、7 日以内に期限切れになる、高リスクの例外に関する同様のレポートも表示されます。アクティブな確認応答キャンペーンと期限切れの応答の数に関する同様のレポートも表示されます。

IT コンプライアンスワークスペースの [追跡] セクション



自動翻訳

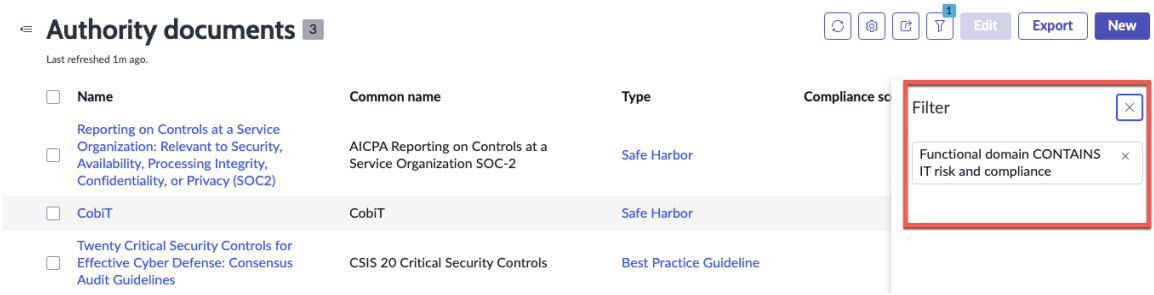
注:
問題を追跡するために、IT コンプライアンスマネージャーは [問題の概要] セクションから問題の詳細にアクセスできます。

IT コンプライアンスリスト概要

IT コンプライアンスマネージャーとしてログインすると、コンプライアンスワークスペース のリストビュー内のすべてのデータがフィルターされ、IT リスクおよびコンプライアンス機能ドメイン内に該当するレコードが表示されます。そのため、ユーザーロールに関連するレコードを表示し、それらを手動でフィルタリングすることなく IT 関連のタスクを完了することができます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リストビューの **IT** 関連レコード



注:
アドミン、または企業コンプライアンスマネージャーと IT コンプライアンスマネージャーの両方のロールを持つユーザーは、同じ名前の 2 つのリストモジュールを表示できます。

GRC コンプライアンスワークスペース の構成

コンプライアンスワークスペース を構成するには、特定の前提条件の手順を設定する必要があります。

ワークスペースを使用するさまざまなユーザーのコンプライアンスワークスペースを設定するには、次の構成が必要です。

- IT コンプライアンスのホームページを設定するには、「IT コンプライアンスワークスペースの構成」を参照してください。
- GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 とともにインストールされるさまざまなコンポーネントについては、「ポリシーとコンプライアンス管理とともにインストールされるコンポーネント」を参照してください。
- ユーザーロールとアクセス制御の制限については、「GRC ビジネスユーザーロール」および「ユーザーへのポリシーおよびコンプライアンス管理ロールの割り当て」を参照してください。
- ポリシーとコンプライアンスで必要なシステムプロパティを設定するには、「ポリシーとコンプライアンス管理プロパティの設定」を参照してください。
- 必須のセットアップ手順については、「Pポリシーとコンプライアンスの必須手順」を参照してください。
- その他のプロパティ、ルール、テンプレート、およびその他の統合を定義するには、「ポリシーとコンプライアンスの拡張手順」を参照してください。

IT コンプライアンスマネージャーデータフィルターの構成

IT コンプライアンスマネージャーが IT コンプライアンスのホームページで表示するために IT 関連データを分離、関連付け、表示するには、3 つの異なる手順に従う必要があります。

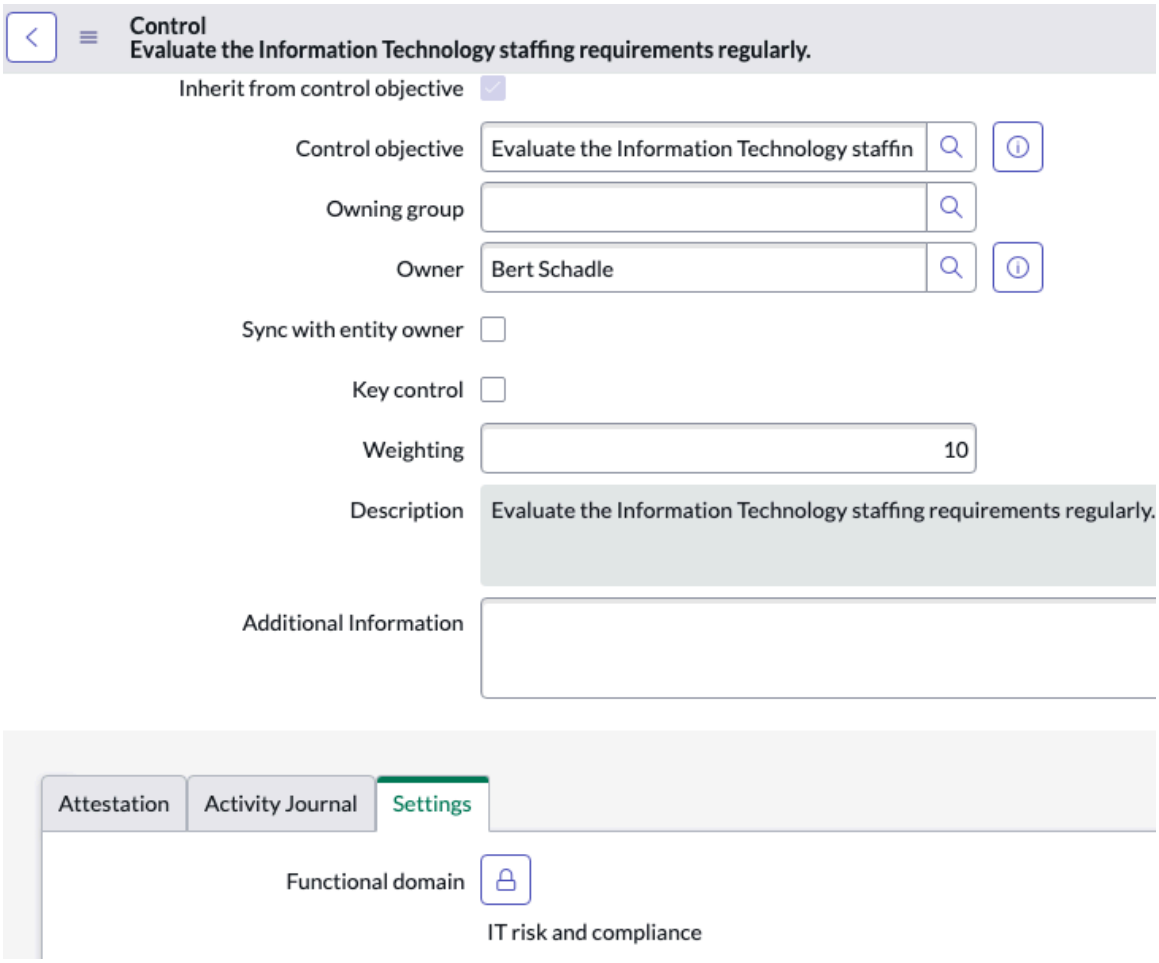
GRC データ分離

すべての コンプライアンスワークスペース関連フォームでは、特定のデータを分離して IT 関連データとして分類するために、[設定] タブに [機能ドメイン] フィールドが追加されています。ユーザーは、**[IT** リスクとコンプライアンス] を機能ドメインとして追加する必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

機能ドメインフィールド



[機能ドメイン] フィールドは、エンティティ、コントロール、コントロール目標、ポリシー、各種法令・基準等、引用、エンティティタイプ、エンティティクラス、問題、インジケーター、インジケーターテンプレート、確認応答キャンペーン、ポリシー例外、エンゲージメント、テストテンプレート、テスト計画、問題のトリアージ、観察事項、計画、監査タスク、マイルストーン、証拠の要求、証拠など、すべての GRC コンプライアンスおよび監査ワークスペースに関連のフォームで使用できます。

分離されたデータの自動関連付け

監査またはコンプライアンスオブジェクトが IT 関連として識別された場合、このオブジェクトに関連付けられたすべての関連アイテムも IT 関連として識別されます。機能ドメイン構成 [sn_grc_function_domain_configuration] テーブルには、IT リスクおよびコンプライアンス機能ドメイン内の親オブジェクトと関連する子オブジェクト間のデータレジストリ関係が格納されます。

たとえば、エンティティが IT 関連エンティティとして分類されている場合、このエンティティに関連付けられているすべてのコントロールは IT 関連コントロールとして自動的に関連付けられます。関連する子オブジェクトには、親テーブル、子テーブル、およびその二者間の関係など、定義されたすべての構成があります。

システムアドミニストレーターは、次の場所に移動してこの構成を定義できます **GRC Administration** > 機能ドメイン > ドメイン継承. ユーザーは、子レコードに自動タグ付けするために、ポリシー、各種法令・基準等、エンティティタイプ、エンティティクラス、エンティティ、計画、エンゲージメントなどの基本フォームで、タグ、機能ドメインを手動で追加する必要があります。親テーブルが特定の機能ドメインでタグ付けされている場合、ユーザーがその子レコードの 1 つからタグを削除すると、削除されたタグは自動関連付け中に追加されません。同様に、ユーザーが手動でタグを追加した場合、追加されたタグは自動関連付け中に削除されません。GRC 機能ドメイ

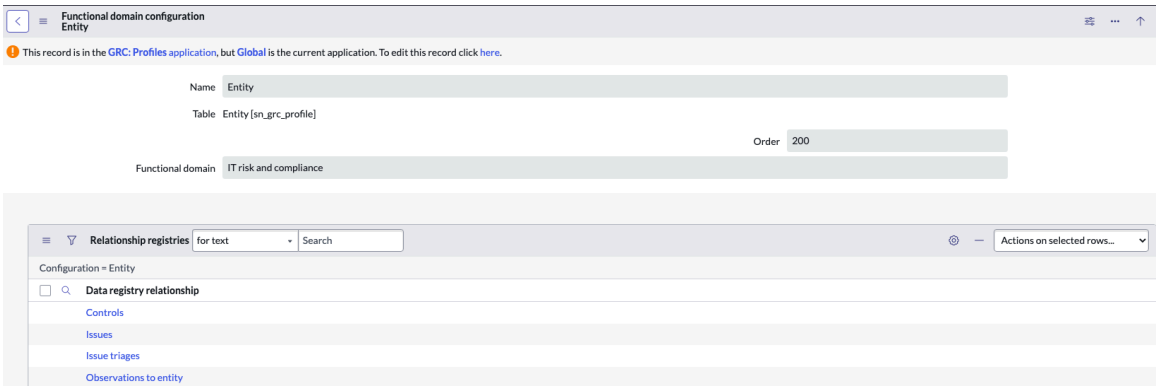
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ンユーザーアクション [sn_grc_function_domain_user_action] テーブルは、それぞれの機能ドメイン内の特定のテーブルに属するレコードの [機能ドメイン] フィールドのユーザーのすべての手動アクションをキャプチャして保存します。

自動タグ付けの設定の詳細については、Now Support ナレッジベースの「IT コンプライアンスワークスペース - 自動タグ付けのセットアップと構成 [KB1124058]」を参照してください。

機能ドメイン構成



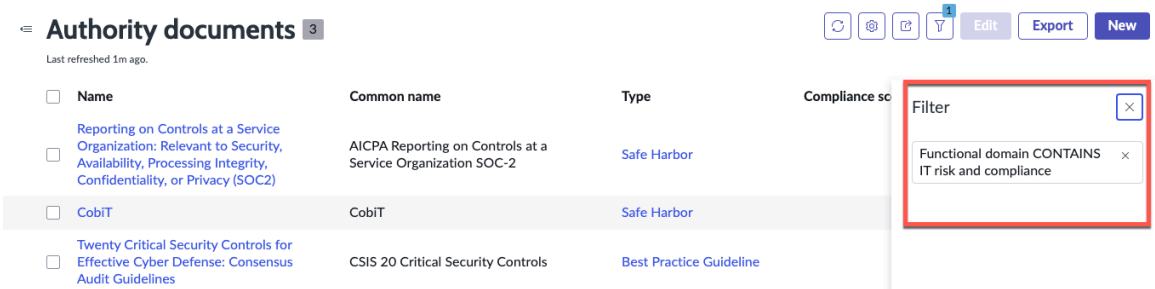
スケジュールされた日次ジョブ (GRCObjectsFunctionalDomainChanges) が実行され、テーブルに記録されたユーザーの手動アクションが収集されて、これらの関係が読み取られ、子オブジェクトが IT リスクおよびコンプライアンス機能ドメインに自動的に関連付けられ、親テーブルの関連アイテムにレコードが自動入力されます。

IT コンプライアンスワークスペースに使用されるテーブルの詳細については、「ポリシーとコンプライアンス管理とともにインストールされるコンポーネント」を参照してください。

IT コンプライアンスホームページで分離されたデータを IT コンプライアンスマネージャーに表示する

IT コンプライアンスマネージャーは、コンプライアンスワークスペース の IT リスクおよびコンプライアンスデータにアクセスできるユーザーです。コンプライアンスワークスペースのリストビューには、すべての監査およびコンプライアンスデータの表示を制限するが、IT リスクとコンプライアンスデータのみを表示するように絞り込むフィルターがあります。フィルターは、すべての監査およびコンプライアンス関連のベースフォームの [機能ドメイン] フィールドを使用して、コンプライアンスワークスペースリストモジュール内の IT 関連データをフィルターして表示します。

IT リスクとコンプライアンスデータフィルター



注:
管理者、または企業コンプライアンスマネージャーと IT コンプライアンスマネージャーの両方のロールを持つユーザーは、同じ名前の 2 つのリストモジュールを表示できます。

コンプライアンスワークスペースを使用する

コンプライアンスワークスペース には統一されたタスクページがあります。ユーザーロールに基づいて、ページ内のすべてのタスクとチームのタスクを実行できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンプライアンスワークスペース に表示されるタスクは、ログインユーザーに固有であるため、割り当てられたすべてのタスクを完了できます。

- タスクページを使用してタスクをカテゴリ別に表示し、さまざまなパラメーターでフィルターして、開始したタスクを追跡します。
- [問題] ページを使用して、問題に関するすべての情報を把握します。
- レコードの概要ページには、各レコードの概要が 1 つのビューに表示されます。
- 概要ページのコンテキストペインには、レコードのコンテキスト情報が表示されます。利用可能な場合は、添付ファイルを含む階層内のレコードの重要な情報を提供します。
- 360 度ビューを使用して、企業内のレコードのデータ関係、そのスコア、および評価を視覚化し、より詳細な情報を表示します。

コンプライアンスワークスペース を使用してコントロール目標とポリシーを管理

コンプライアンスワークスペースを使用して、ポリシー承認、ポリシー、およびコントロール目標に関連する情報を管理できます。

コンプライアンスワークスペースを使用してポリシーを作成

ポリシーは、プロセスが従う必要のある組織内のプラクティスを定義します。コンプライアンスワークスペースをポリシー、手順、標準、計画、チェックリスト、フレームワーク、およびテンプレートとして使用してポリシーを定義できます。

始める前に
必要なロール：sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst または sn_compliance_ws.corporate_compliance_manager

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. [作成] リストを選択して、[ホーム] ページから [ポリシー] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

新しいポリシーを作成

フィールド	説明
名前	ポリシーの名前。
タイプ	オプションのリスト： ○ ポリシー ○ 手順 ○ 標準 ○ プラン ○ チェックリスト ○ フレームワーク ○ テンプレート
親	このポリシーを含むポリシー。ポリシー内からコントロール目標を作成すると、このフィールドは自動的に入力されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ポリシーのカテゴリ	ロックアイコンを選択し、フィルタリングポリシーのカテゴリを 1 つ以上選択します。たとえば、[脆弱性対応] を選択して、そのアプリケーションに関連付けられたポリシーを表示します。
説明	ポリシーの一般的な説明。
ポリシーテキスト	ポリシーの詳細な説明。
状況	ステータスは読み取り専用フィールドです。利用可能な選択肢は次のとおりです。 ○ ドラフト このステータスでは、すべてのコンプライアンスユーザーがポリシーとコントロール目標を変更できます。すべてのコンプライアンスユーザーは、 、[レビューを要求] ボタンを選択できます。[レビューを要求] ポップアップにメッセージを入力し、[要求] を選択すると、ステータスが [レビュー] に設定されます。 ○ [レビュー] このステータスでは、オーナー、所有グループ、およびレビュー担当者がポリシーとコントロール目標を変更できます。オーナー、所有グループ、およびレビュー担当者は、[承認を要求] を選択し、承認者リストのユーザーに承認を送信してワークフローを開始します。オーナー、所有グループ、およびレビュー担当者は、[ドラフトに戻る] を選択して、ポリシーも [ドラフト] に戻します。 ○ [承認待ち] このステータスでは、ポリシーとコントロール目標はすべて読み取り専用です。承認者は、ポリシーフォームの [承認] 関連リストで承認ステータスを更新するか、[自分の承認] を表示してポリシーを承認できます。ポリシーが承認されると、ポリシーは [公開] ステータスになります。ポリシーが却下されると、[ドラフト] ステータスに戻ります。 ○ [公開] このステータスでは、ポリシーとコントロール目標はすべて読み取り専用です。アドミニストレーターが [廃止] を選択すると、ポリシーのステータスが [廃止済み] に設定されます。 ○ [廃止済み] このステータスでは、ポリシーはすべてに対して読み取り専用です。
コンプライアンススコア (%)	このポリシーにアサインされたコンプライアンススコア (%)。
アサイン	
所有グループ	ポリシーを所有するグループ。
承認者	承認プロセスに含めるユーザー。
承認方法	動的承認構成の承認方法。使用可能なオプションは次のとおりです。 ○ 手動で承認者を選択 ○ 承認ルールを使用
承認者	ポリシーに対して選択される承認者。
レビュー担当者	レビュープロセスに含めるユーザーを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
貢献者	ポリシーに対して選択された貢献者。
スケジュール	
有効期限開始	ポリシーが有効になる日時。
有効期限	ポリシーが無効になる日時。
ナレッジベース	
ポリシーテンプレート	このポリシーの公開に使用する記事テンプレート。
ポリシーナレッジベース	このポリシーに関連するナレッジベース記事。
公開済みポリシー	ポリシーが公開されている KB 記事番号とリンク。
確認応答のセットアップ	
対象者	このポリシーの確認を担当するデフォルトの対象者を選択します。
参照資料 URL	ロックアイコンを選択して、認定やトレーニング資料などの必要な参照資料の URL を追加します。
ポリシーの拒否をユーザーに許可	ポリシーの確認を拒否するオプションをユーザーに提供するには、このチェックボックスをオンにします。
ユーザーに例外を要求することを許可	ポリシーの確認応答の例外を要求するオプションをユーザーに提供するには、このチェックボックスをオンにします。
例外セットアップ	
最大例外期間 (日数)	指定されたポリシーに対してポリシー例外を要求できる最大期間を入力します。

4. [保存] を選択します。
ポリシーのレポートの概要ページでは、ポリシーの説明、そのステータス、および全体的なコンプライアンス、エンティティ、コントロール目標、およびコントロールのステータスを確認できます。また、ポリシーの確認、ポリシーの例外、および問題の追跡情報も提供します。非準拠エンティティウィジェットには、すべての非準拠の依存エンティティも、それぞれのコンプライアンス

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スコアとともにリストされます。詳細については、「概要ページからポリシーのコンプライアンスを管理する」を参照してください。

5. 関連リストのいずれかを選択すると、ポリシーの詳細が表示されます。
6. [概要] ページで、[問題] タブを選択します。
   作成したポリシーに 1 つ以上の関連する既存の問題を追加できます。既存の問題をポリシーにマッピングすることで、未解決の問題の数を減らすことができます。

   a. [追加] ボタンを選択します。

   b. [問題] ポップアップから関連する問題を選択します。

   c. [追加] を選択します。
      選択した問題は、関連する問題としてポリシーに追加され、問題からドキュメント [sn_grc_m2m_issue_document] テーブル内のポリシーと問題の間に m2m 関係が作成されます。[新規] ボタンを選択して、新しい問題の作成フォームに移動し、ポリシーの問題を作成することもできます。

   d. ポリシーにマッピングされている問題を削除するには、問題を選択して [削除] を選択します。
      削除アクションでは、m2m テーブル内のポリシーと問題の間のマッピングまたは関連付けのみが削除され、問題レコードは削除されません。

      注:
      ポリシーが [ドラフト] または [廃止] ステータスの場合、[新規]、[追加]、[削除]などの UI アクションボタンは使用できません。ドラフト状況のポリシーは非アクティブと見なされ、[レビュー] ステータスに移行するとアクティブになります。

7. ポリシーをレビュー準備完了としてマークするには、、[レビューを要求] を選択します。

概要ページからポリシーのコンプライアンスを管理する

ポリシーモジュールは、すべてのポリシーを作成して文書化するのに役立ちます。ポリシーとは、ビジネスで何をすべきか、また何をすべきでないかを高レベルで定義するステートメントです。

ポリシーの概要

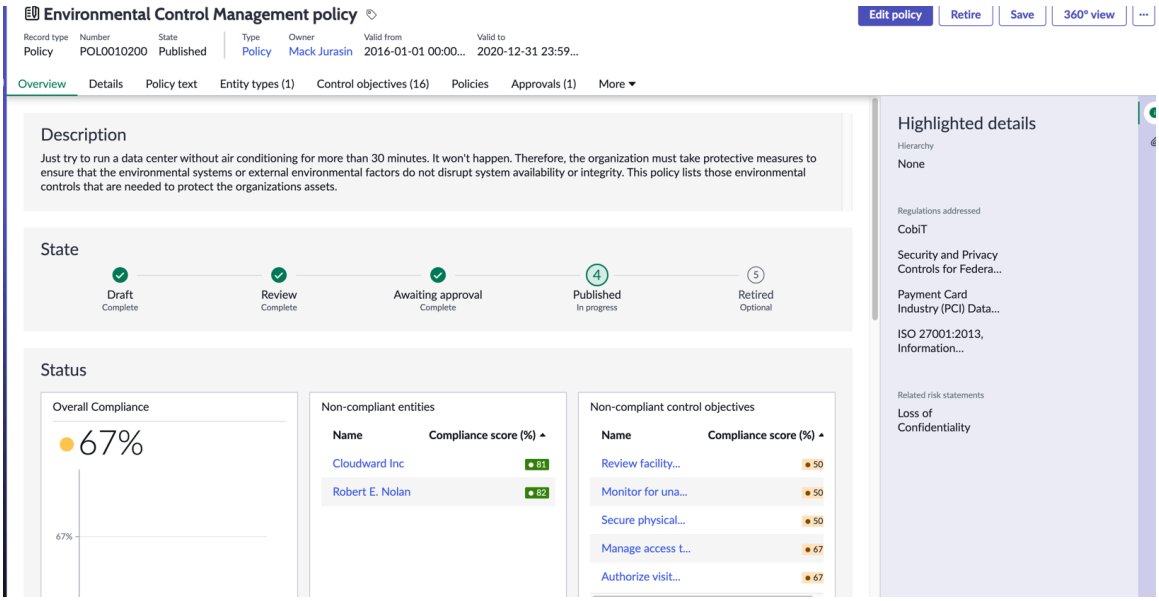
ポリシーレコードの概要ページには、組織の資産に関するポリシーの必要性が記載されています。また、ポリシーのステータス、全体的なコンプライアンスの割合、非準拠エンティティ、およびコントロール目標も表示されます。また、未解決で期限切れのポリシー確認応答、ポリシー例外、および問題も追跡します。

アイコンを選択して、ポリシーが対処した規制と関連するリスクステートメントを確認します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポリシーレコードの概要ページ



コンプライアンスワークスペースを使用してポリシーを承認および公開

ポリシーが承認されると、自動的に公開されます。

始める前に

必要なロール：sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst または sn_compliance_ws.corporate_compliance_manager

このタスクについて

GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションのバージョン 11.0.2 より前では、ポリシーを変更するたびに、新しいナレッジベース記事が以前のバージョンを上書きしていました。バージョン 11.0.2 以降では、ポリシーを再度承認すると、新しいバージョンの KB 記事が作成され、以前のバージョンの履歴とともに [ポリシーバージョン] タブに一覧表示されます。

この機能では、高度なナレッジ管理インストーラー [com.snc.knowledge_advanced.installer] プラグインを手動でインストールしてアクティブ化する必要があります。詳細については、「プラグインをアクティブ化する」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > ポリシーおよび手順 > 方針.
2. ポリシーレコードを開きます。
3. ポリシーの詳細をレビューします。
4. [承認を要求] ボタンをクリックします。
   レビュー担当者はポリシーの承認を要求できません。ただし、ポリシーの所有者と企業コンプライアンスマネージャーロールを持つユーザーは、ポリシーの承認を要求できます。承認が付与されると、ポリシーが公開され、ポリシーの詳細を含むナレッジベース (KB) 記事が自動的に作成されます。
5. ポリシーを変更する必要がある場合は、[ポリシーを編集] をクリックして、ポップアップにメッセージを入力して、[承認を要求] をクリックします。ポップアップにコメントを追加します。承認が付与されると、ナレッジベース記事の新しいバージョンが作成されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> 上記のように、高度なナレッジ管理インストーラー [com.snc.knowledge_advanced.installer] プラグインをアクティブ化すると、KB 記事の新しいバージョンが作成され、[ポリシーバージョン] タブに表示されます。

そのため、サービスポータルまたは他の場所からこのポリシーへのリンクを作成すると、KB 記事の最新バージョンが常に表示されます。

コンプライアンスワークスペースを使用してポリシーを確認

ポリシーが公開された後、コンプライアンスワークスペースで確認応答キャンペーンを作成して、特定のポリシーが準拠している確認応答を提供する必要がある従業員のグループを定義できます。キャンペーンが定義されたら、対象者に要求を送信できます。

コンプライアンスワークスペースを使用してポリシー確認応答キャンペーンを設定

ポリシーキャンペーンは、ポリシー確認要求の準備に使用されるレコードです。特定のポリシーが準拠していることを確認する必要がある対象者を定義します。ポリシーキャンペーンは、コンプライアンスユーザーが必要と判断した場合にのみ コンプライアンスワークスペースで要求されます。

始める前に

必要なロール：コンプライアンスユーザー

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > ポリシーおよび手順 > 方針.
2. 確認する [公開] ステータスのポリシーレコードを開きます。
3. 下にスクロールして、[確認応答のセットアップ] 関連リストをクリックします。
4. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
対象者	ポリシーの確認を担当する従業員を選択します。対象者は、対象者モジュールを使用して定義します。
参照資料 URL	ロックアイコンをクリックし、対象者がレビューできるポリシーの参照資料への URL を追加します。入力が完了したら、[ロック] アイコンをもう一度クリックします。
ポリシーの拒否をユーザーに許可	対象者のメンバーがポリシーを拒否できるようにする場合に選択します。
ユーザーに例外を要求することを許可	対象者のメンバーがポリシー例外を要求できるようにする場合に選択します。

5. レコードを保存します。
6. 下にスクロールして、[確認応答キャンペーン] 関連リストをクリックします。
7. [新規] をクリックします。

> **注:**
> ほとんどのフィールドには、ポリシーレコードのデータが事前に入力されています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. フォームのフィールドに入力します。

   注:
   以前に説明されていなかったフィールドの説明のみがここに表示されます。

フィールド	説明
数値	確認応答に対して自動生成された確認応答レコード番号です。
状況	確認応答キャンペーンの現在のステータス。デフォルトのステータスは [新規] です。
有効期限開始/有効期限	確認応答が有効な期間を選択します。確認応答は、[有効期限開始] の日付の開始から [有効期限] の日付の終了まで有効です。 注: [有効期限開始] を現在の日付より前にすることはできません。[有効期限] の日付は、ポリシーで定義された [有効期限] の日付を超えることはできません。
応答する日数	対象者のメンバーが応答しなければならない日数。
簡単な説明	ポリシーの簡潔な説明。
[確認応答の詳細] タブ	このタブには、ポリシーの詳細と要件、および確認応答のセットアップ中に定義された [参照資料 **URL]** が表示されます。

9. [送信] をクリックします。
   これで、確認応答要求を定義された対象者に送信する準備ができました。

コンプライアンスワークスペース を使用して対象者を作成

コンプライアンスワークスペースでポリシーの確認応答要求を設定するときは、確認応答の提供を担当する対象者を特定する必要があります。

始める前に
必要なロール：sn_compliance_admin または sn_compliance_manager

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > ポリシーの確認応答 > 対象者.
2. [**New**] をクリックします。
3. 新しい対象者の名前と説明を入力し、レコードを保存します。
4. 3 つのタブを使用して、この対象者のメンバーを特定します。

オプション	説明
ユーザー	[編集] をクリックし、1 人以上の個々のユーザーを対象者に追加します。
グループ	[編集] をクリックし、ユーザーの 1 つ以上の事前定義されたグループを対象者に追加します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
フィルターを使用	[新規] をクリックして、対象者メンバーを含めるための新しいフィルターを定義します。[編集] をクリックして、既存のユーザーフィルターを変更します。後で使用するためにフィルターを保存できます。

5. 対象者が定義されたら、ユーザー、グループ、またはユーザーフィルターを 確認応答要求に追加できます。

コンプライアンスワークスペースを使用して確認応答要求を送信

コンプライアンスワークスペースを使用して確認応答キャンペーンを作成したら、定義された対象者に確認応答要求を送信できます。

始める前に
必要なロール： sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. コンプライアンスワークスペース で、[リスト] アイコン ( ) をクリックします。
3. 移動先 ポリシーの確認応答 > すべてのキャンペーン.
4. 定義された対象者に送信するポリシー確認応答キャンペーン (PAC) レコードを開きます。
5. 下にスクロールして、[確認応答のセットアップ] 関連リストをクリックします。
6. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
対象者	ポリシーの確認を担当する従業員を選択します。対象者は、対象者モジュールを使用して定義します。
参照資料 URL	ロックアイコンをクリックし、対象者がレビューできるポリシーの参照資料への URL を追加します。入力が完了したら、[ロック] アイコンをもう一度クリックします。
ポリシーの拒否をユーザーに許可	対象者のメンバーがポリシーを拒否できるようにする場合に選択します。
ユーザーに例外を要求することを許可	対象者のメンバーがポリシー例外を要求できるようにする場合に選択します。

7. レコードを保存します。
8. 下にスクロールして、[確認応答キャンペーン] 関連リストをクリックします。
9. [新規] をクリックします。

注:
ほとんどのフィールドには、ポリシーレコードのデータが事前に入力されています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

10. フォームのフィールドに入力します。

    注:
    以前に説明されていなかったフィールドの説明のみがここに表示されます。

フィールド	説明
数値	確認応答に対して自動生成された確認応答レコード番号です。
状況	
有効期限開始/有効期限	確認応答が有効な期間を選択します。確認応答は、[有効期限開始] の日付の開始から [有効期限] の日付の終了まで有効です。 注: [有効期限] の日付は、ポリシーで定義された [有効期限] の日付を超えることはできません。
応答する日数	対象者のメンバーが応答しなければならない日数。
簡単な説明	ポリシーの簡潔な説明。
[確認応答の詳細] タブ	このタブには、ポリシーの詳細と要件、および確認応答のセットアップ中に定義された [参照資料 **URL]** が表示されます。

11. [送信] をクリックします。
12. [確認応答を要求] をクリックします。

    次の変更が発生することに注意してください。

    - 確認応答キャンペーンのステータスが [確認応答処理待ち] に変更されます。
    - 対象者の各メンバーの確認応答 (ACK) レコードが画面の下部に表示されます。
    - [確認応答結果] タブには、確認応答プロセスの進捗状況が表示されます。つまり、送信された確認応答の合計数を報告し、受信した応答の数とタイプ (たとえば、承認済み、拒否済み、除外など) の集計を保持します。

    注:
    [アクティビティ] タブには、発生した確認応答アクティビティが表示されます。コンプライアンスユーザーは [作業メモ] チェックボックスをクリックし、作業メモを投稿して変更を追跡できます。[追加コメント] ボックスを使用して、対象者とコミュニケーションを取ることができます。

    また、対象者の各メンバーは、次の例のようなメール通知を受け取ります。

13. 確認応答期間が経過すると、次の場所に移動して応答の進行状況を監視できます ポリシーとコンプライアンス > ポリシーの確認応答 > 確認応答待ち.
14. 確認応答のタイムラインを超過した対象者メンバーを特定するには、次の場所に移動します。 ポリシーとコンプライアンス > ポリシーの確認応答 > 期限切れの確認応答.

コンプライアンスワークスペースを使用して確認応答要求に応答

ポリシー確認応答を提供する対象者のメンバーとして識別された後、コンプライアンスワークスペースでレコードを開いて確認し、それを確認応答する必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール： sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst

手順

1. ポリシーの確認応答が必要であるという通知を受信したら、次に移動します: すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. 確認応答を提供するには、タスクページの [自分の処理待ちのタスク] セクションでレコードを開き、次のいずれかのアクションを実行します。
   使用可能なオプションは、確認応答要求の構成方法によって異なります。
   - ポリシーの確認応答のデフォルトステータスは [新規] です。
   - 次の場合、ポリシーの確認応答は [確認応答待ち] に設定されます。
     - ポリシーの確認応答が [頻度] として設定された時間に達した場合
     - アドホック確認応答で、ポリシーの確認応答が有効開始日に達した場合
     - [確認応答待ち] ボタンをクリックしてステータスを手動で移動した場合
   - 次の場合、ポリシーの確認応答は [クローズ済み] ステータスになります。
     - 手動で [クローズ済み] ステータスに移行した場合
     - [有効期限] の日付になった時点
   - 次の場合、ステータスは [キャンセル] に移行します。
     - 手動で [キャンセル] ボタンをクリックした場合
     - ポリシー例外が却下され、確認応答が [キャンセル] にリセットされた場合

   次のオプションは、ポリシー確認応答のインスタンスが異なる状況に設定された場合に使用できます。

   承認
   : ポリシーが準拠している場合は、[承認] をクリックします。

   拒否
   : ポリシーがコンプライアンスを遵守しておらず、要求を拒否できるように要求が構成されている場合は、[拒否] をクリックします。

   例外を要求
   : 何らかの理由で応答を希望せず、オプトアウトできるように要求が設定されている場合は、[例外を要求] をクリックします。

   免除
   : ポリシーが承認された場合

コンプライアンスワークスペースを使用してポリシーを廃止

ポリシーの廃止は、ポリシー管理プロセスの一部です。承認されて KB に公開された後は、コンプライアンスワークスペースを使用していつでも廃止できます。

始める前に
必要なロール：sn_compliance_admin または sn_compliance_manager

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > 方針.
2. ポリシーレコードを開きます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. 右上隅の [廃止] をクリックします。
   このオプションは、公開済みステータスのポリシーでのみ使用できます。

GRC 記事テンプレートを作成

Policy and Compliance マネージャーは、コンプライアンスワークスペースを使用してポリシー記事を公開するためのテンプレートを作成できます。

始める前に
必要なロール：sn_audit.manager

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > 記事テンプレート.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

各種法令・基準等

フィールド	説明
名前	記事テンプレートの名前。
タイプ	○ スクリプト ○ HTML ○ XML
スクリプト	スクリプトコード。このフィールドは [タイプ] フィールドに依存します。
HTML	HTML コード。このフィールドは [タイプ] フィールドに依存します。
XML	XML コード。このフィールドは [タイプ] フィールドに依存します。
デフォルトである	このテンプレートがすべての KB 記事のデフォルトテンプレートとして使用されることを示すオプション。

4. [送信] をクリックします。

コンプライアンスワークスペースを使用してコントロール目標を作成

コントロール目標は、会社のインタラクションと運用のガイダンスとして機能する目標、指示、または標準です。コントロール目標は、コンプライアンスワークスペースを使用してカテゴリ化、分類、およびポリシーへの関連付けが可能です。

始める前に
必要なロール：sn_compliance_admin、sn_compliance_manager、sn_compliance.user

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. [作成] リストをクリックし、[コントロール目標] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しいコントロール目標を作成フォーム

フィールド	説明
名前	コントロール目標の名前。
ソース	ポリシーのソース。たとえば、ステートメントがサードパーティプロバイダーからのものである場合は、どのプロバイダーかを示します。
ソース ID	この各種法令・基準等をカタログ化するためにソースによって使用される一意の識別番号。
参照	一意の数値識別子。
親	現在のコントロール目標の子ではないコントロール目標。これは、循環する親子関係を避けるためです。
コンプライアンススコア (%)	このコントロール目標に対して計算されたコンプライアンススコアの割合とそのカラーコード： ○ 緑：80 以上 ○ 黄：80 ～ 50 ○ 赤：50 未満
有効	ポリシーがアクティブかどうかを示すオプション。
コントロールを自動的に作成	コントロールがコントロール目標から自動的に作成されることを示すオプション。 **注:** コントロール目標がコントロールとしても機能する場合は、このオプションを選択します。
カテゴリ	オプションのリスト： ○ 施設、技術、サービスの取得または販売 ○ 監査およびリスク管理 ○ コンプライアンスおよびガバナンスのスタイルマニュアル ○ ヒューマンリソース (HR) 管理 ○ リーダーシップおよび高いレベルの達成目標 ○ モニタリングおよび測定 ○ 運用管理 ○ 物理的保護および環境保護 ○ 情報およびデータのプライバシー保護 ○ レコード管理 ○ 構成管理によるシステムのハードニング ○ システム継続性 ○ システム設計、ビルド、および実装 ○ テクニカルセキュリティ ○ サードパーティおよびサプライチェーンの監督

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ ルート ○ 不使用
分類	オプションのリスト： ○ 予防 ○ 是正 ○ 探知
タイプ	オプションのリスト： ○ 資産またはサービスの取得/販売 ○ アクション可能なレポートまたは測定 ○ 監査およびリスク管理 ○ 動作 ○ ビジネスプロセス ○ 連絡 ○ 設定 (Configuration) ○ データおよび情報管理 ○ 複製 ○ ロールの設定 ○ ドキュメントの作成/維持管理 ○ ヒューマンリソース (HR) 管理 ○ 調査 ○ IT インパクトゾーン ○ ログ管理 ○ メンテナンス ○ 発生の監視および評価 ○ 物理的保護および環境保護 ○ プロセスまたはアクティビティ ○ レコード管理 ○ システム継続性 ○ システム設計、ビルド、および実装 ○ テクニカルセキュリティ ○ テスト ○ トレーニング
認証方法	オプションのリスト：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ 従来の証明書：コントロールアセスメントの従来の方法である ServiceNow AI Platform ○ 証明書：コントロールアセスメントを行う方法 注: [証明書] を選択すると、[証明書] フィールドに **[GRC 証明書 (GRC Attestation)]** が入力されます。
証明書	デフォルトで **[GRC 証明書 (GRC Attestation)]** が選択されています。 注: ユーザーがコントロール証明書を変更すると、関連するコントロール目標証明書タイプも変更されます。
問題グループルール	このコントロール目標にアサインされたグループルール。
説明	コントロール目標の説明。

4. [保存] をクリックします。
   作成したコントロール目標の詳細を表示および管理するには、「概要ページからのコントロール目標の管理」を参照してください。
   コントロール目標が作成され、すべての関連リストが表示されます。
   - ポリシーがエンティティに関連付けられている場合、コントロールはすべてのコントロール目標に対して作成されます。
   - コントロール属性は、関連するコントロール目標と同じ属性にデフォルト設定されます。
5. [概要] ページで、[その他] タブをクリックし、[問題] タブを選択します。
   作成したコントロール目標に 1 つ以上の関連する既存の問題を追加できます。既存の問題をコントロール目標にマッピングすることで、コントロール目標のオープンな問題の数を減らすことができます。

   a. [追加] ボタンをクリックします。

   b. [問題] ポップアップから関連する問題を選択します。

   c. [追加] をクリックします。
   選択した問題は、関連する問題としてコントロール目標に追加され、コントロール目標に対する問題 [sn_grc_m2m_issue_engagement] テーブル内のコントロール目標と問題の間に m2m 関係が作成されます。[新規] ボタンをクリックして、コントロール目標の問題を作成することもできます。

   d. コントロール目標にマッピングされている問題を削除するには、問題を選択して [削除] をクリックします。
   削除アクションは、コントロール目標と問題の間のマッピングのみを削除します。アクションは問題レコードを削除しません。

   注:
   コントロール目標が [廃止] ステータスの場合、[新規]、[追加]、[削除] などの UI アクションボタンは使用できません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
実装する場合 ポリシーとコンプライアンス管理 ソフトウェアを ポリシーとコンプライアンス管理 セットアップチェックリスト をクリックし、次のステップに進みます。

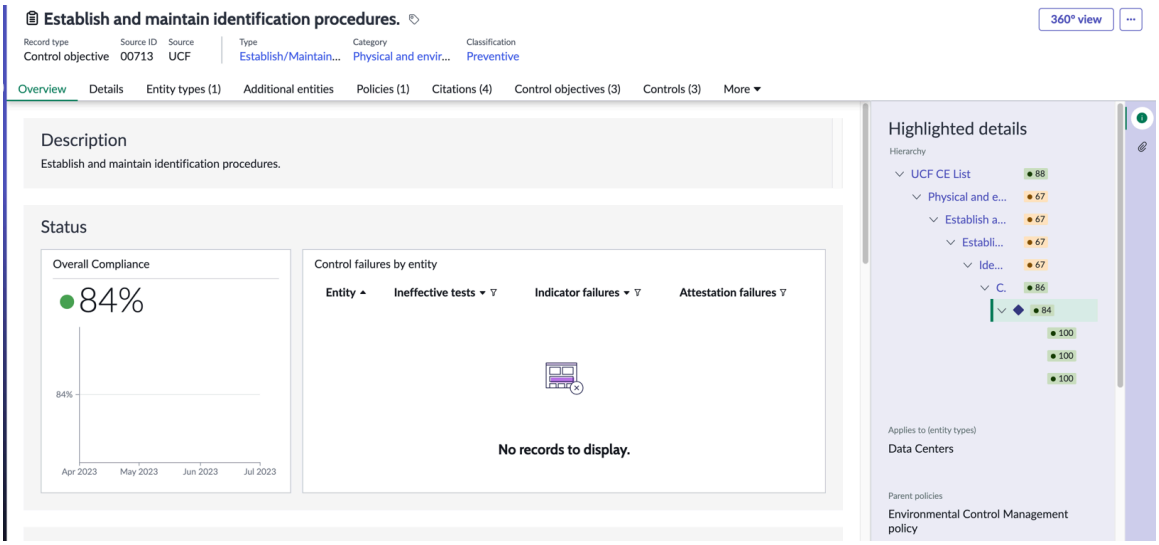
概要ページからのコントロール目標の管理

コントロール目標レコードの [概要] ページには、コンプライアンスステータス全体の詳細が表示されます。

コントロール目標レコードの概要ページ

コントロール保証セクションは、さまざまな証明書が適切に配置されている、すなわちコントロールが正しく実装されているかどうかを知るために役立ちます。コントロール証明書に加えて、インジケーターは、コントロールを評価したりコンプライアンスを継続的に監視したりするために役立ちます。コントロールに対して実施されたテストの進行中と期限切れのステータスは、ポリシーと権限ドキュメントが遵守されているかどうかを組織が判断するための重要な決定要因です。

コントロール目標レコードの概要ページ



コントロール目標に関する詳細なコンテキスト情報を見るには、サイドバーアイコン ( )を選択します。特定のコントロール目標レコードについて、コントロール目標に示されているアクションを実行する理由を示す権限ドキュメントとポリシーへのマッピングの階層を表示できます。

コントロール目標レコードには、高度なリスク、GRC Metric、PaCE といったさまざまなアプリケーションから取得された関連リストが多数あり、[概要] の横に一覧表示されます。利用可能なこれらの関連リストアイテムはコントロール目標にマッピングしたり関連付けたりすることができます。たとえば、コントロール目標にエンティティタイプを追加する場合は、[エンティティタイプ] 関連リストに移動し、[追加] ボタンを選択して、必要なエンティティタイプをマッピングします。

GRC 証明書テンプレートに基づくコントロールアセスメント

アセスメント手法を使用してコントロールを証明するオプションを選択できます。このアセスメントは、ServiceNow AI Platform 手法に基づく従来のアセスメントに代わる手法です。

でスマートアセスメントを有効にするための前提条件 ポリシーとコンプライアンス管理

スマートアセスメントスコープ対象のアプリケーション

ベースシステム は、GRC: Policy and Compliance Management (sn_compliance) プラグインがインストールされている場合に、GRC スマートアセスメントテンプレートをユーザーに提供します。ただし、以下のスコープ対象のアプリケーションが必要です。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. Smart Assessment core (sn_smart_asmt)
2. スマートアセスメント移行ツール (sn_smart_asmt_mig)。詳細については、「従来のメトリクスタイプをアセスメントテンプレートに移行する」を参照してください。
3. スマートアセスメント接続済み (sn_smart_asmt_conn)
4. スマートアセスメントデザイナー (sn_smart_asmt_desg) 詳細については、「テンプレートデザイナーの使用」を参照してください。

スマートアセスメントシステムプロパティを有効にする

GRC 証明書テンプレートに基づくアセスメント手法を使用してコントロールを評価する場合は、*Enable smart assessments on control* システムプロパティを true に設定する必要があります。システムプロパティの詳細については、「スマートアセスメントをコントロールで有効にする」を参照してください。

テンプレートを移行する

スマートアセスメントエンジンで新しいテンプレートを作成します。詳細については、「従来のアセスメントメトリクスタイプからアセスメントテンプレートを作成する」を参照してください。

スマートアセスメントのユーザーロールに対するアクセスコントロール制限

sn_grc.business_user および sn_grc.business_user_lite

ログインしているユーザーは、コンプライアンスワークスペース、リスクポータル、従業員センター のタスクページにある [自分の証明書 **(My Attestations)**] にある証明書に回答できます。

sn_compliance_ws.corporate_compliance_manager および sn_compliance_ws.it_compliance_manager

テンプレートを表示および編集できます。

sn_compliance.attestation_creator

テンプレートカテゴリとテンプレートの移行を作成できます。

sn_compliance.user

コントロールカテゴリに関連するすべてのアセスメントを読み取ることができます。

アセスメントのテンプレートカテゴリと移行のテーブル

アセスメントのテンプレートカテゴリ [sn_smart_asmt_template_category]

[カテゴリロール **(Category role)**] フィールドには、このカテゴリのテンプレートを読み取るために必要な最小限のリーダーロールの構成が含まれます。ロールには sn_smart_asmt.template_reader ロールが含まれている必要があります。

アセスメントのテンプレートの移行 [sn_smart_asmt_mig_template_migration]

既存のソースのメトリクスタイプとテンプレートカテゴリを新しいアセスメントのテンプレートフォーマットに移行するために使用されます。

認証方法がコントロール目標とコントロール生成に及ぼす影響

*Enable smart assessments on control*システムプロパティが true に設定され、コントロール目標レコードの [証明方法] フィールドに [証明書] がある場合、証明書後にこのコントロール目標レコードに対して生成されるすべてのコントロールには、コントロール目標からデフォルト設定された値が含まれます。[認証方法 **(Attestation method)**] フィールドのデフォルト値は [証明書 **(Attestation)**] です。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

注:
古いコントロール目標には、デフォルトのアセスメント方法がクラシック版アセスメントとして設定されます。スマートアセスメント方法を検討する場合は、コントロール目標またはコントロールのいずれかに必要な変更を加える必要があります。コントロールは、コントロール目標がない場合にのみ更新できます。新しいレコードを作成した後、証明書方法として従来の証明書または証明書を選択できます。

- コントロール目標がコントロールに関連付けられている場合、生成されたコントロールは [認証方法 **(Attestation method)**] と [証明書 **(Attestation)**] フィールドの値を継承します。
- コントロールがコントロール目標から作成される場合、コントロール目標にこれらのフィールドの値があれば、[認証方法 **(Attestation method)**] と [証明書 **(Attestation)**] フィールドが事前に入力されます。

  注:
  コントロール目標に対して [コントロールを自動的に作成 **(Create controls automatically)**] オプションが有効になっている場合、コントロールは自動的に作成されます。

  [認証方法 **(Attestation method)**] フィールドは読み取り専用です。ただし、[証明書 **(Attestation)**] フィールドを編集して、証明書に別のテンプレートを選択することができます。コントロール目標に加えられたいかなる変更も、関連付けられたコントロールで自動的に更新されます。

- コントロールが保存され、認証されると、コントロールレコードに [証明書 **(Attestation)**] 関連リストが表示されます。この関連リストには、[オープン (Open)] と [完了 (Completed)] ステータスにあるすべてのアセスメントインスタンスが表示されます。

  コントロール目標レコードでアセスメント手法が [従来の認証 (Classic attestation)] から [証明書 (Attestation)] に変更された場合、その変更は、コントロール目標に対して生成されたすべてのコントロールレコードに反映されます。コントロールが [証明 (Attest)] ステータスに移行するまでは、[認証方法 **(Attestation method)**] と [証明書 **(Attestation)**] フィールドの値を更新できます。

- コントロールが以前に従来の認証方法を選択して生成されていた場合、 [従来の認証 **(Classic attestation)**] 関連リストには、完了したすべての認証の詳細が含まれます。
- [ドラフトに戻る **(Return to Draft)**] ボタンを選択してコントロールを [ドラフト] ステータスに移行すると、アクティブだったすべてのアセスメントがキャンセルされます。同様に、コントロールが廃止されると、関連するすべてのアセスメントもキャンセルされます。
- ポリシーの例外によりコントロールが [免除 **(Exempt)**] とマークされている場合、関連付けられたすべてのアセスメントがキャンセルされます。ただし、コントロールの [免除 **(Exempt)**] オプションがクリアされて、コントロールが [証明 (Attest)] ステータスにある場合は、アセスメントは再トリガーされます。また、コントロールの [証明書 (Attestation)] セクションのすべてのフィールドが読み取り専用になります。
- ポリシーがコントロール目標に関連付けられており、そのポリシーが公開された場合、コントロール目標フォームのすべてのフィールドが読み取り専用になります。
- コントロールが [証明 (Attest)] ステータスに移行すると、アセスメントがトリガーされます。メール通知は、コントロールオーナーとコントロールの証明書の回答者に送信されます。その件名には、当該コントロール番号の新しい証明書名および証明書の提出期限が示されています。
- コントロール目標から生成されたコントロールのいずれかについて証明書が失敗した場合、そのコントロールは非準拠となり、問題が作成されます。または、コントロールに既存の問題がある場合は、 [問題ソース **(Issue source)**] フィールドが更新されます。コントロールが [証明 (Attest)] ステータスに移行し、証明書が合格した場合、既存の問題はクローズされ、コントロールは準拠した状態になります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 次のいずれかのポータルから証明書に回答できます。
  - 従業員センター からの証明書に回答する。
  - リスクポータルで証明書に回答する。
  - コンプライアンスワークスペース の [タスク] ページからの証明書に回答する。
- コントロール目標とコントロールフォームの変更を表示するには、以下を参照してください。
  - コンプライアンスワークスペースを使用してコントロール目標を作成。
  - コンプライアンスワークスペースを使用してコントロールを作成。
- コントロールページとコントロール目標の概要ページで証明書ウィジェットを表示するには、「GRC 証明書に基づくアセスメントのためのユーザーインターフェイスの変更」を参照してください。
- コントロール証明書を 360 度ビューで表示するには、「 ポリシーとコンプライアンス管理 の 360° Relationship Visualization」を参照してください。

従業員センター からの証明書に回答する

従業員センター にログインして、証明書に回答します。

始める前に
必要なロール：sn_grc.business_user、sn_grc.business_user_lite

このタスクについて
コントロールの証明書の回答者は、従業員センター ポータルにログインして証明書に回答できます。

手順
1. 移動先 すべて > セルフサービス > 従業員センター.
2. ホームページの [自分のアクティブなアイテム] ペインで **[GRC タスク]** を選択します。
3. [自分の To Do (My to-dos)] セクションで新しいタスクを選択します。
4. [自分の処理待ちのタスク (My pending tasks)] 関連リストでアセスメントインスタンスのリンクを選択します。
5. 一連の質問に対する回答を入力し、証拠書類を添付します。
6. [次へ] ボタンをクリックします。
7. [確認応答 **(Provide acknowledgement)]** オプションを選択します。
8. [アセスメントを送信 **(Submit assessment)]** ボタンを選択します。
9. [正常に送信されました (Submission Successful)] ポップアップで [閉じる **(Close)]** を選択します。
   すべての質問は、回答を送信した時点でのみ読み取られます。

リスクポータルで証明書に回答する

リスクポータルにログインして、証明書に回答します。

始める前に
必要なロール：sn_grc.business_user、sn_grc.business_user_lite

このタスクについて
コントロールの証明書の回答者は、リスクポータルにログインして証明書に回答できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > リスクポータル.
2. リスクポータルの [自分の処理待ちのタスク (My pending tasks)] セクションで新しいタスクを選択します。
   左側のパネルに [証明書 (Attestation)] を表示できます。
3. [自分の処理待ちのタスク (My pending tasks)] 関連リストの右側のパネルで、インスタンスのアセスメントのリンクを選択します。
4. カテゴリ内の質問に対する回答を入力します。
5. 証拠を添付するには、[ファイルを追加] リンクを選択してフォルダー内の文書を選択し、[開く] をクリックします。
6. [アップロード] ボタンを選択します。
7. [次へ] ボタンをクリックします。
8. [送信] ページの [確認応答 **(Provide acknowledgement)]** オプションを選択します。
9. [アセスメントを送信 **(Submit assessment)]** ボタンを選択します。
10. [正常に送信されました (Submission Successful)] ポップアップで [閉じる **(Close)]** を選択します。
    すべての質問は、回答を送信した時点でのみ読み取られます。

コンプライアンスワークスペース の [タスク] ページからの証明書に回答する

コンプライアンスワークスペース の [タスク] ページにログインして、証明書に回答します。

始める前に
必要なロール：sn_grc.business_user、sn_grc.business_user_lite

このタスクについて
コントロールの証明書の回答者は、コンプライアンスワークスペース にログインし、[タスク] ページに移動して証明書に回答できます。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. タスクアイコン ( ) を選択します。
   左側のパネルに [コントロール証明書 (Control attestations)] を表示できます。
3. [自分の処理待ちのタスク (My pending tasks)] 関連リストの右側のパネルで、インスタンスのアセスメントのリンクを選択します。
4. 一連の質問に対する回答を入力し、証拠書類を添付します。
5. [次へ] ボタンをクリックします。
6. [確認応答 **(Provide acknowledgement)]** オプションを選択します。
7. [アセスメントを送信 **(Submit assessment)]** ボタンを選択します。
8. [正常に送信されました (Submission Successful)] ポップアップで [閉じる **(Close)]** を選択します。
   すべての質問は、回答を送信した時点でのみ読み取られます。

GRC 証明書に基づくアセスメントのためのユーザーインターフェイスの変更

コンプライアンスワークスペース の [リスト] ペインが更新され、アセスメントに移動するためのアセスメントリンクが表示されます。証明書ウィジェットおよび従来の証明書ウィジェットは、コンプ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ライアンスマネージャー、コンプライアンスアナリスト、および IT コンプライアンスマネージャーのホームページに表示されます。

コンプライアンスワークスペース のリストページ

コンプライアンスワークスペース リストビューのコントロール証明書リストでアセスメントリストオプションを選択すると、[完了 (Complete)] ステータスではないアセスメントのリストを表示できます。

コンプライアンスワークスペース ホームページの証明書ウィジェット

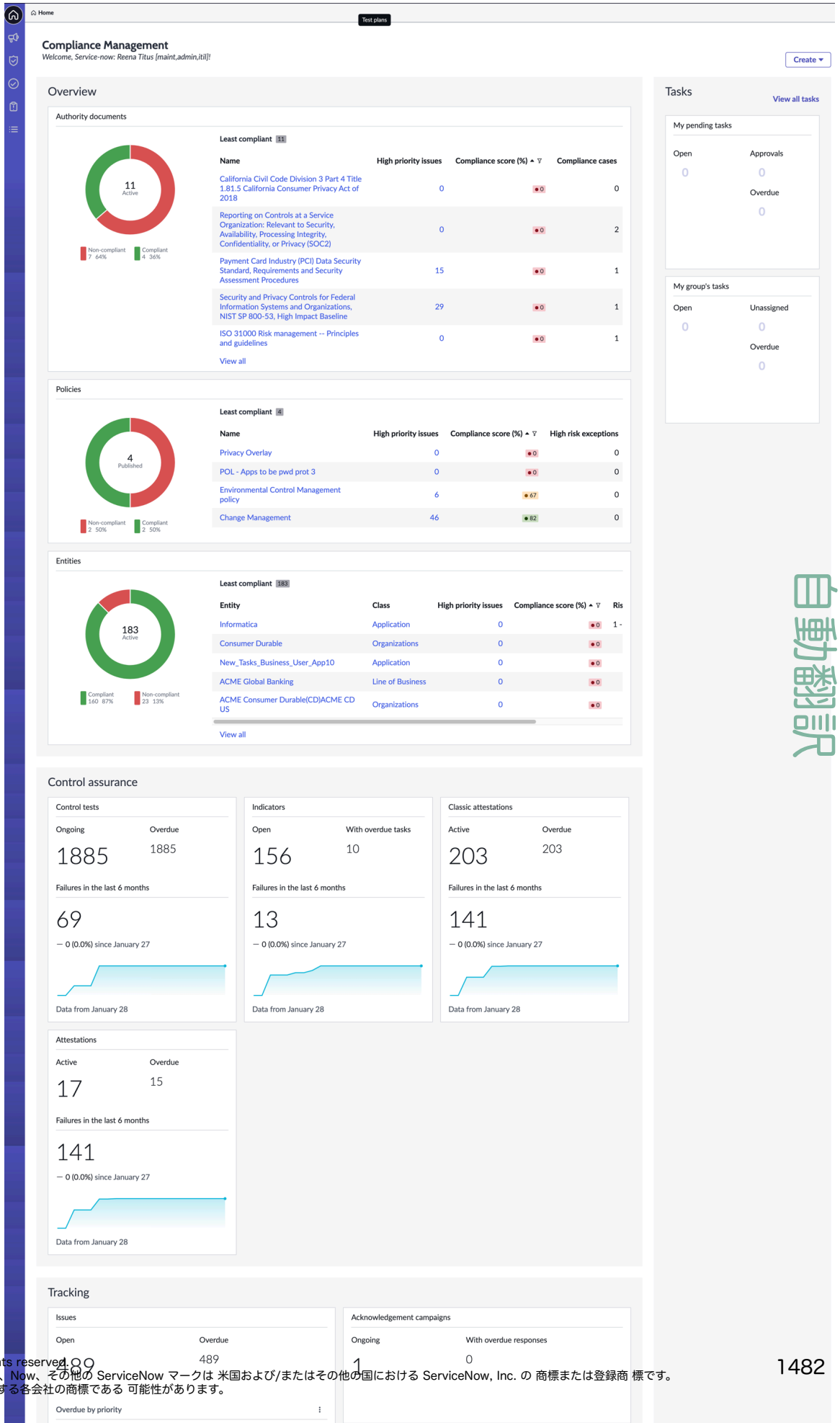
コンプライアンスマネージャーのコンプライアンスホームページ

コンプライアンスマネージャーのホームページは証明書ウィジェットで更新されます。既存の証明書ウィジェットは、従来の認証という名前に変更され、[認証方法 (Attestation method)] が [従来の認証 (Classic attestation)] であったコントロールの完了した証明書のデータを持ちます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンプライアンスマネージャーのホームページの証明書ウィジェット



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンプライアンスアナリストのコンプライアンスホームページ

同様に、コンプライアンスアナリストのホームページも証明書ウィジェットで更新されます。既存の証明書ウィジェットは、従来の認証という名前に変更され、[認証方法 (Attestation method)] が [従来の認証 (Classic attestation)] であったコントロールの完了した証明書のデータを持ちます。

IT コンプライアンスマネージャーのコンプライアンスホームページ

したがって、IT コンプライアンスマネージャーのホームページにも、証明書データが表示され、コントロールが以前に従来の認証方法で評価されていた場合は、従来の認証も表示されます。

コントロール目標とコントロールの概要ページの証明書ウィジェット

コントロール目標レコードの概要ページ

概要ページには、[認証方法 (Attestation method)] が [証明書 (Attestation)] の場合、過去 6 か月間の未解決で期限切れの証明書を含む証明書ウィジェットが表示されます。

コントロールレコードの概要ページ

未解決で期限切れの証明書の詳細を含む証明書ウィジェットを表示します。コントロールが以前に従来の認証方法で評価されていた場合は、完了した証明書のすべてのデータが表示されます。[完了した証明書 **(Completed attestation)]** ウィジェットとその詳細を表示することもできます。

コントロール証明書のアセスメントのグループ化

コントロール証明書機能が強化され、アセスメントページにすべてのコントロール関連情報が表示されるようになりました。また、ユーザーのアセスメントをグループ化して、組み合わせることもできるようになりました。したがって、ユーザーが評価する必要があるすべてのアセスメントは、順番に評価することなくまとめて実行することができます。

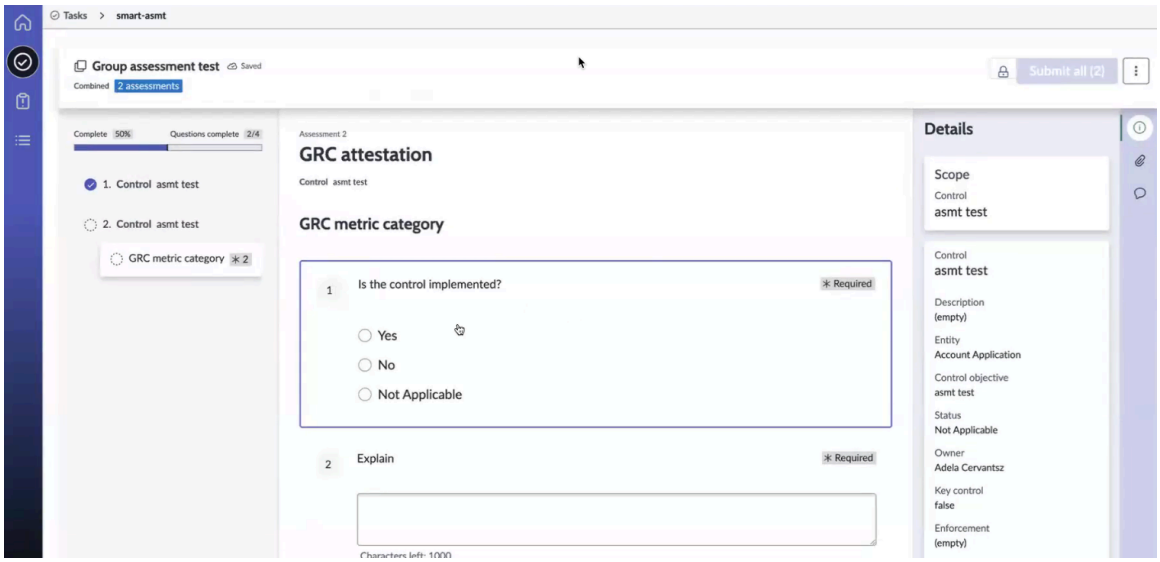
アセスメント参照としてのコントロール情報

アセスメントのコントロールカテゴリの **GRC** 証明書テンプレートには、コントロールとエンティティの関連情報をアセスメントテンプレートに表示するための、コントロールとエンティティの 2 つのターゲットがありました。アセスメントエンジンの参照情報では、エンティティ情報は表示されなくなりました。代わりに、コントロールに関するすべての関連情報がアセスメント参照として GRC 証明書テンプレートに追加されています。

右側の [詳細] ペインでアセスメントを開くと、名前、説明、エンティティ、コントロール目標、ステータス、所有者、現在のコンプライアンススコア、階層値、階層査定人、強制、分類などのコンテキスト情報が入力され、表示されます。

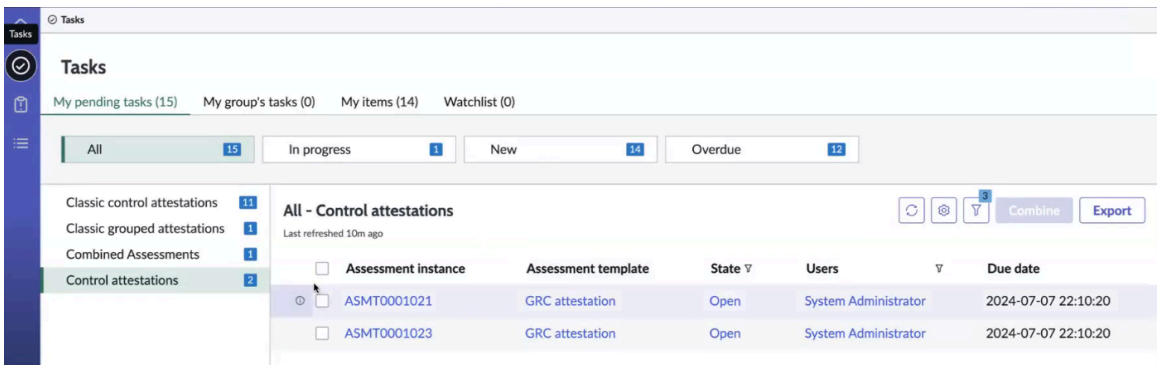
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



コントロール証明書のグループ化

特定のユーザーにアサインされたアセスメントのリストを統合アセスメントとしてグループ化し、グループ化されたアセスメントに新しい名前を割り当てることができます。



自動翻訳

アセスメントをグループ化するには、「コントロール証明書のアセスメントの結合」を参照してください。

コントロール証明書のアセスメントの結合

コンプライアンスワークスペースの [タスク] ページでユーザーのアセスメントをグループ化することで、類似のアセスメントに回答します。

始める前に

必要なロール：sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst

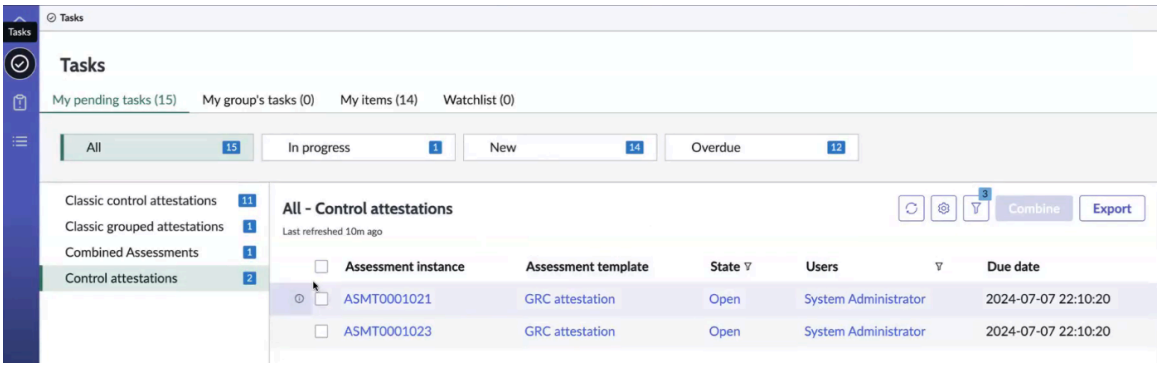
手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. タスクアイコン ( ) を選択します。
3. 左側のパネルの [コントロール証明書] を選択します。
4. [自分の処理待ちのタスク] 関連リストの右側のパネルで、グループ化するアセスメントインスタンスを選択します。
   複数のアセスメントインスタンスレコードを選択すると、[結合 **(Combine)]** ボタンが有効になります。
5. [結合 **(Combine)]** ボタンを選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

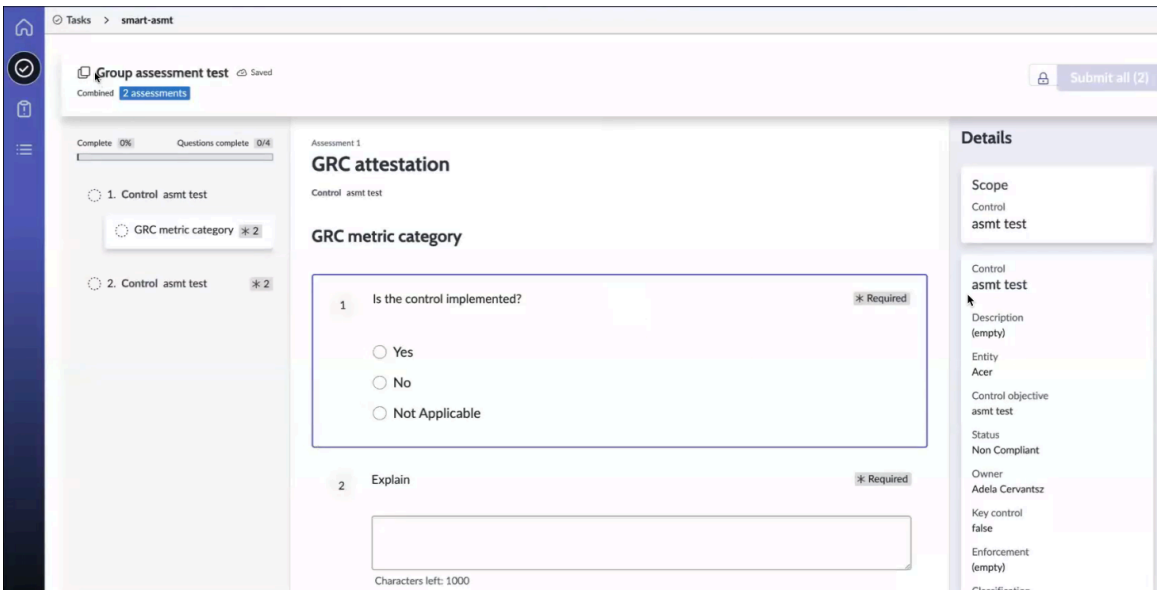
6. [結合 (Combine)] ポップアップで、グループ化するアセスメントの名前を入力します。
名前を入力しない場合、名前はデフォルトでアセスメント名「GRC attestation」になります。
7. [続行] をクリックします。

個々のアセスメントは [コントロール証明書] リストに表示され、グループ化されたアセスメントは [自分の処理待ちのタスク] 関連リストの [結合アセスメント] リストに表示されます。



選択したアセスメントは、1 つの証明書名の下にグループ化されます。アセスメントには、個別に回答するか、グループ化された結合アセスメントにまとめて回答することができます。アセスメントをグループ化した場合でも、個々のアセスメントに回答できます。[結合アセスメント] には、未実施のアセスメントのみがリスト化されます。

8. アセスメントを選択し、質問に回答します。



9. [結合アセスメントを送信 (Submit combined assessment)] ポップアップでチェックボックスを選択し、[すべて送信] ボタンをクリックしてアセスメントを送信します。
10. [自分の処理待ちのタスク] に移動し、ページを更新します。
アセスメントを完了すると、[結合アセスメント (Combined Assessments)] リストと [コントロール証明書] リストは削除されます。
11. コンプライアンスワークスペース のコントロール目標レコードページの [コントロール] 関連リストに移動します。
完了したアセスメントは、さまざまなエンティティのステータスから表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CRI 階層アンケートを実行して、エンティティの階層値を決定します

エンティティに対して CRI 階層アンケートを実行してその階層を決定すると、その階層に関連付けられた評価コントロールが作成または更新されます。CRI アンケートへの査定人の回答に基づいて、質問にマップされた各コントロールのコンプライアンスステータスが決定され、エンティティの全体的なコンプライアンススコアが計算されます。

始める前に

必要なロール:sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst、sn_compliance_ws.corporate_compliance_manager、s

このタスクについて

Cyber Risk Institute (CRI) は、金融セクターの顧客や規制当局との協力に重点を置き、金融機関におけるコンプライアンス管理の基準を合理化します。リスクを軽減するために、CRI は NIST CSF v2.0 コンテンツに基づくプロファイルを CRI プロファイルとして作成しました。

コンテンツは、診断ステートメントとして呼び出される識別、保護、検出、応答、復旧、統制などの NIST CSF v2.0 の機能に基づいています。これらのステートメントは、業界標準からのさまざまな引用にマッピングされ、共通のコントロール目標として一般化されています。金融機関は、これらの診断ステートメントに準拠することで、金融セクターで施行されているすべての規制と基準に自動的に準拠できます。

ServiceNow ベースシステム は、この CRI プロファイルコンテンツをお客様に提供し、以下が含まれます。

- CRI プロファイルの各種法令・基準等。
- FFIEC CAT は CRI Accelerator の一部です。詳細については、「Cyber Risk Institute アクセラレーター」を参照してください。
- NIST CSF コンテンツは CSF Accelerator の一部です。詳細については、「NIST CSF プロセスの概要」を参照してください。

CRI アセスメントは、次の 2 つのステップで行われます。

CRI 階層アンケート

CRI では、会社を評価するための規範的な一連の質問を使用して組織を階層化できます。アセスメントへの回答に基づいて、会社に階層値が割り当てられます。

CRI プロファイルアセスメント

CRI 階層アンケートが完了したら、会社の階層ステータスに基づいて、2 番目のステップである CRI プロファイルアセスメントを完了する必要があります。CRI プロファイルアセスメントでは、コントロールのコンプライアンスステータスと会社の全体的なコンプライアンススコアを決定します。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. リスト () アイコンを選択します。
3. 左ペインの [各種法令・基準等のコンプライアンスライブラリ (Compliance library of Authority documents)] リストから、CRI プロファイル v2.0 に基づいて各種法令・基準等を選択します。
4. [引用] 関連リストを選択して、各種法令・基準等に関連付けられた引用を表示し、引用を選択します。
   これらの各引用には、コントロール目標が関連付けられています。
5. 引用レコードの概要ページから、[コントロール目標] 関連リストを選択します。
6. コントロール目標レコードを選択し、[引用] 関連リストをクリックして、CSF プロファイル v2.0 および FFIEC からの関連する引用を表示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レコードが CSF プロファイル v2.0 コンテンツにどのようにマッピングされるかがわかります。また、コンプライアンスライブラリ - 各種法令・基準等に FFIEC CAT および NIST CSF v2.0 のコンテンツがあります。これらのコンテンツが利用可能になると、会社または子会社の階層アンケートを実行できます。

7. [リスト] ページで [すべてのエンティティ] を選択し、エンティティレコードをクリックします。
8. エンティティレコードの [詳細] 関連リストを選択し、[クラス] フィールドをクリックします。サイバーセキュリティリスクプロファイル **(CRI)** の [**CRI** である] オプションが有効になっているエンティティクラスを選択します。このフラグは、このクラスが CRI プロファイルアセスメントに適用可能かどうかを決定します。このクラスに関連するすべてのエンティティは、CRI 階層アンケートで評価を受ける権利があります。
9. レコードを閉じ、エンティティの [詳細] 関連リストを選択します。
10. [サイバーセキュリティリスクプロファイル (CRI)] 関連リストに階層の詳細を入力します。詳細については、次を参照してください。
    - エンティティの作成 のエンティティフォーム。
    - [エンティティ] セクション の関連リスト。
11. ••• を選択し、[**CRI** 階層アンケートを開始 **(Initiate CRI tiering questionnaire)**] オプションをクリックします。
12. [メッセージ] フィールドにメッセージを入力し、[CRI 階層アンケート] ポップアップの [階層アンケートを開始] ボタンを選択します。
    階層アンケートを開始すると、 **CRI** 階層アンケート 関連リストがエンティティレコードに表示されます。
13. **[CRI** 階層アンケート] 関連リストを選択し、アセスメントインスタンスのリンクをクリックします。
    [タスク] ページの [自分の処理待ちのタスク] 関連リストの [階層アセスメント] リスト、および従業員ポータルからアセスメントに回答することもできます。階層アセスメント手順を確認し、質問に回答します。各質問への回答に基づいて、エンティティの階層レベルが決定されます。

    証明書に回答するには、「コンプライアンスワークスペース の [タスク] ページからの証明書に回答する」と「アセスメントに回答する」を参照してください。
14. アセスメントを送信した後、エンティティレコードを開いて、[サイバーセキュリティリスクプロファイル **(CRI)]** セクションの [階層] フィールドの階層値を表示します。
    さらに、階層値に基づいて、階層プロファイルからのコントロール目標に基づいて生成されるコントロールの数を知ることもできます。
15. 階層値にマッピングされたコントロールを表示するには、[ダウンストリームコントロール] 関連リストを選択します。
    階層アンケートに基づいて階層が決定されたら、 CRI プロファイルアセスメントを実行できます。

コントロールアセを実行する **CRI** ガイドラインに基づく **CRI** プロファイルアセスメント

の実行 エンティティの階層アンケートに基づいた CRI プロファイルアセスメントで、コントロールのコンプライアンスステータスを判断し、エンティティにロールアップするコンプライアンススコアを把握します。

始める前に
必要なロール:sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst、sn_compliance_ws.corporate_compliance_manager、s

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. リスト ( ) アイコンを選択します。
3. 左ペインの [スコーピング] リストから [すべてのエンティティ] を選択し、CRI 階層アンケートに入力したエンティティレコードをクリックします。
4. エンティティのオーナーとして、[••• アイコンをクリックし、[**)] [CRI** プロファイルアセスメントを開始 **(Initiate CRI profile assessment)]** オプションをクリックします。
   CRI プロファイルアセスメントは階層値に基づいて作成され、[**CRI** プロファイルアセスメント] 関連リストで表示できます。このリストの生成には数秒かかります。コントロールも同時に作成されます。

   注:
   階層アセスメントが進行中の場合、階層アセスメントまたは CRI プロファイルアセスメントをトリガーすることはできません。1 つの CRI プロファイルアセスメントが作成中の場合、別の CRI 階層アセスメントをトリガーすることはできません。1 つの CRI アセスメントがオープンの場合、階層アセスメントオプションも表示されません。

5. [CRI プロファイルアセスメント] 関連リストを選択し、ページを更新してアセスメントを表示します。
6. アセスメントリンクを選択します。
   アセスメントは、CSF v2.0 コンテンツの機能に基づいて多くのセクションに分かれています。指示を読んで質問に回答できます。各質問はコントロール目標にマッピングされており、コントロール目標は CRI プロファイルの診断ステートメントにマッピングされています。これらの各質問には複数の回答選択肢があり、その中から回答を選択できます。

   a. [ガイダンスを表示 **(View guidance)]** リンクを選択します。
      リンク内のテキストは、応答ガイダンスを提供することで、より多くのコンテキストを提供し、尋ねられている質問に対する回答を導きます。どのような証拠を添付できるかについて、有効な証拠を例として挙げています。

   b. [この回答の根拠を入力してください **(Provide justification for this response)]** フィールドに理由を記入します。

   c. [この回答にファイルを添付 **(Provide attachments for this response)]** フィールドの [添付ファイルを追加] ボタンを選択します。
      根拠の入力と添付ファイルの追加はオプションですが、CRI ではこれらを推奨しています。アンケートの右ペインの関連情報は、アセスメントのスコープ、エンティティ、ユーザー、要求日、および期日に関する詳細なコンテキストを提供します。

7. すべての質問に回答して、[送信] を選択します。
   アセスメントを完了すると、回答に基づいて、対応するコントロールにコンプライアンスステータスが反映されます。コンプライアンススコアはエンティティレベルにロールアップされます。
8. [ダウンストリームのコントロール] 関連リストを選択して、各コントロールのステータスが準拠なのか非準拠なのかを確認します。
   非準拠の場合、問題が生成され、[ダウンストリームの問題] 関連リストで表示できます。コンプライアンススコアはエンティティレベルで計算され、エンティティの [概要] ページで確認できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンプライアンスワークスペース を使用してコントロール目標を非アクティブ化

コンプライアンスワークスペース を使用して、引用または親コントロール目標との関連がなくなったコントロール目標を非アクティブ化できます。

始める前に
必要なロール：sn_compliance_admin または sn_compliance_manager

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > ポリシーおよび手順 > コントロール目標.
2. コントロール目標を開きます。
3. コントロール目標で、[有効]とマークされたチェックボックスをオフにします。
4. [更新] をクリックします。

コンプライアンスワークスペース を使用してコントロール目標をポリシーに関連付け

ポリシーが [レビュー] または [ドラフト] ステータスの場合は、コントロール目標をポリシーに個別に関連付けることができます。コンプライアンスワークスペースを使用すると、コントロール目標のドキュメントフィールドでポリシーを選択するか、コントロール目標関連リストを編集できます。

始める前に
必要なロール：sn_compliance_admin、sn_compliance_manager、sn_compliance.user

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > ポリシーおよび手順 > 方針.
2. ポリシーレコードを開きます。
3. [コントロール目標] 関連リストで [編集] をクリックします。
   スラッシュバケットには、関連付けられているポリシーが選択されていないアクティブなコントロール目標が含まれています。
4. コントロール目標を選択します。
5. [保存] をクリックします。
   これらのコントロール目標は、[コントロール目標] 関連リストに一覧表示されます。

次のタスク
実装している場合 ポリシーとコンプライアンス管理 ソフトウェアを ポリシーとコンプライアンス管理 セットアップチェックリスト をクリックし、次のステップに進みます。

コンプライアンスワークスペースを使用してコントロール目標を引用に関連付け

コンプライアンスワークスペースを使用して、単一のコントロール目標を、さまざまな各種法令・基準等の多くの引用にマッピングすることができます。この機能を使用すると、さまざまな引用に準拠しながらコントロール目標を 1 回テストできます。

始める前に
必要なロール：sn_compliance_admin、sn_compliance_manager

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. コンプライアンスワークスペース で、[リスト] アイコン ( ) をクリックします。
3. 移動先 コンプライアンスライブラリ > 引用.
4. 引用レコードを開きます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. [コントロール目標] 関連リストで [新規] をクリックします。
6. [コントロール目標] ポップアップからコントロール目標を選択します。
7. [追加] をクリックします。
   追加されたコントロール目標は引用に関連付けられます。

コンプライアンスワークスペースを使用した引用の作成

各種法令・基準等、引用、およびコントロール目標は、通常、サードパーティのプロバイダーからダウンロードされます。ただし、引用は コンプライアンスワークスペースを使用して各種法令・基準等から手動で作成できます。引用の [アクティブ] オプションは、引用がアクティブか非アクティブかを示します。

始める前に
必要なロール：sn_compliance_admin または sn_compliance_manager

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. リストアイコン ( ) を選択します。
3. [コンプライアンスライブラリ] リストで [各種法令・基準等] を選択します。
4. 各種法令・基準等を選択して開きます。
5. [引用] 関連リストで、[新規] を選択します。
6. フォームのフィールドに入力します。

引用フォーム

フィールド	説明
名前	この引用を識別するユーザー定義の名前。
ソース	ポリシーのソース。たとえば、ステートメントがサードパーティプロバイダーからのものである場合は、どのプロバイダーかを示します。
ソース ID	この各種法令・基準等をカタログ化するためにソースによって使用される一意の識別番号。
参照	コンテンツ参照。
タイプ	作成された引用のタイプ。処理に使用されないオプションのフィールド。レポートでこのフィールドの値を使用するか、特定のタイプのレコードをクエリします。 ○ コアトピック ○ プロセス ○ コントロール目標 ○ コントロール ○ サポート情報
各種法令・基準等	この引用の親である各種法令・基準等の名前。各種法令・基準等フォームから引用を作成すると、このフィールドは自動的に入力されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
有効	ポリシーがアクティブかどうかを示すオプション。[ドラフト] または [廃止] ステータスでない場合、ポリシーはアクティブとマークされます。引用を無効にするには、[有効]とマークされたチェックボックスをオフにします。
親	親コンテンツを参照します。
説明	引用の説明。

7. [保存] を選択します。
   デフォルトの [概要] ページの [ステータス] ペインのさまざまなウィジェットで、引用の説明を表示し、全体的なコンプライアンスやそのブレークダウン、および非準拠のエンティティを監視できます。すべての引用レコードの詳細をハイライト表示するサイドバーもあります。

コンプライアンスワークスペースを使用して各種法令・基準等を作成

各種法令・基準等はプロセスを管理し、その中でプロセスの要点を管理する引用が作成されます。たとえば、建物のセキュリティと呼ばれるプロセスには、エントリコントロールの引用が含まれています。

始める前に

必要なロール：
sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst、sn_compliance_ws.corporate_compliance_manager、sn_

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. [作成] リストを選択し、[各種法令・基準等] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

[新しい各種法令・基準等を作成] フォーム

フィールド	値
名前	ドキュメントの名前。
数値	一意の識別番号が自動的に入力される読み取り専用フィールド。
ソース	ポリシーのソースを含む編集不可能なフィールド。たとえば、ステートメントが UCF インポートからのものである場合、ソースは UCF です。
ソース ID	この各種法令・基準等をカタログ化するためにソースによって使用される一意の識別番号。
バージョン	この各種法令・基準等を識別するためにソースによって使用される一意のバージョン番号。
共通名	[名前] フィールドの省略形。
カテゴリ	この各種法令・基準等のカテゴリ。
タイプ	ドキュメントタイプ： ○ 監査の指針 ○ ベストプラクティスの指針 ○ 法案または法令

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	値
	○ 契約上の義務 ○ 国際標準または国内標準 ○ 未設定 ○ 組織指針 ○ 法令の規制 ○ セーフハーバー ○ 自主規制機関の要件 ○ ベンダードキュメント
有効期限開始	ポリシーが有効になる日時。
有効期限	ポリシーが無効になる日時。
Url	保存されている各種法令・基準等の URL。
説明	各種法令・基準等に関する詳細情報。

4. [保存] を選択します。
   各種法令・基準等が作成され、それに関連するすべての関連リストが表示されます。デフォルトでは、[概要] ページが開いて各種法令・基準等レコードの [説明] が表示され、ページのサイドバーでレコードの詳細がハイライト表示されます。
5. [概要] ページで、[問題] を選択します。
   作成した各種法令・基準等に 1 つ以上の関連する既存の問題を追加できます。既存の問題を各種法令・基準等にマッピングすることで、ドキュメントのオープンな問題の数を減らすことができます。

   a. [追加] ボタンを選択します。

   b. [問題] ポップアップから関連する問題を選択します。

   c. [追加] を選択します。
      選択した問題が関連する問題として各種法令・基準等に追加されます。[新規] ボタンを選択して、各種法令・基準等の問題を作成することもできます。

   d. 各種法令・基準等にマッピングされている問題を削除するには、問題を選択して [削除] をクリックします。
      削除アクションでは、各種法令・基準等と問題の間のマッピングのみが削除され、問題レコードは削除されません。

      注:
      各種法令・基準等が [廃止] ステータスの場合、[新規]、[追加]、[削除] などの UI アクションボタンは使用できません。

コンプライアンスワークスペースを使用して各種法令・基準等を非アクティブ化

各種法令・基準等の [有効] オプションは、各種法令・基準等が廃止されたかどうかを示します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

始める前に
必要なロール：sn_compliance.admin または sn_compliance.manager

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンス > 各種法令・基準等.
2. 各種法令・基準等を開きます。
3. 各種法令・基準等で、[有効] とマークされたチェックボックスをオフにします。

   UCF からインポートされた各種法令・基準等は読み取り専用のフォームであるため、[アクティブ] チェックボックスをオフにすることはできません。

コンプライアンスワークスペースを使用してポリシー例外と延長を管理

ポリシーの例外と延長により、非準拠コントロールが一時的に緩和されます。ポリシー例外は、ポリシー例外要求の受け入れまたは却下をサポートする根拠、コメント、および証拠をキャプチャします。

また、ポリシー例外有効期間の前に承認されたポリシー例外の延長を要求できます。コントロールオーナー、コンプライアンスマネージャー、およびリスクマネージャーが、ポリシー例外と延長ワークフローに関与する場合があります。

コンプライアンスワークスペースを使用してポリシー例外を要求

コンプライアンスワークスペースを使用して、例外が適用されるシステム、アプリケーション、ネットワーク、またはエンティティの特定のリストで例外の理由を指定することで、ポリシー、コントロール目標、または問題の例外を要求します。例外が必要な期間も指定する必要があります。

始める前に
必要なロール： sn_grc.business_user、sn_grc.business_user_lite

このタスクについて
例外は、特別な状況のためにコンプライアンス要件を満たすことができない場合に一時的に保護します。たとえば、OS ベンダーがパッチをリリースしてから 48 時間以内にすべての重要な OS サーバーにパッチを適用する必要があるという規定を満たすことができない場合です。

> **注:**
> ポリシー例外の詳細については、「ポリシーの例外と延長を管理」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. [作成] リストで [ポリシー例外] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

新しいポリシー例外を作成フォーム

フィールド	説明
番号	一意の識別番号。
名前	ポリシー例外の名前。
要求者	ポリシー例外を要求するユーザー (通常はコントロールオーナー)。
理由	ポリシー例外を要求する理由。要求者は、ポリシーの例外が承認されるまで理由を変更できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
簡単な説明	ポリシー例外要求の説明。
状況	承認ワークフロー内のポリシー例外のステータス。
サブステート	承認ワークフロー内のポリシー例外の承認サブステート。
優先度	このポリシー例外の承認優先度
正当性	ポリシー例外の証拠または根拠。
ソース	
ソースタイプ	作成するポリシー例外のタイプ。オプションは次のとおりです。 ○ ポリシー：ポリシーに基づいてポリシー例外を作成します。 ○ コントロール目標：デフォルトは、ポリシー例外が作成される単一のコントロール目標です。 コントロール目標を選択すると、[影響を受けるコントロール] タブが表示され、コントロール目標に関連付けられたコントロールを選択できます。 ○ コントロール：複数のコントロールでポリシー例外を作成するオプション。 異なるコントロール目標から複数のコントロールを関連付けるには、[コントロール] を選択します。このオプションは、複数のコントロールに適用される複数のポリシー例外を作成するのではなく、ポリシー例外の複数のコントロール目標をサポートします。 ○ 問題：このポリシー例外に関連する問題。
ポリシー	例外が作成されるポリシー。
コントロール目標	このポリシー例外に関連付けられたコントロール目標。
問題	このポリシー例外に関連する問題。
ターゲットレコード	ポリシー例外が適用されるターゲットレコードテーブル。このテーブルは、[ポリシー例外統合レジストリ] フォームの [ポリシー例外ターゲットテーブル] フィールドでも参照されます。
スケジュール	
有効期限開始	ポリシー例外が開始される日。
有効期限	ポリシー例外が終了する日。[有効期限] の日付は [有効期限開始] よりも後である必要があり、過去の日付にすることはできません。
期間	[有効期限開始] と [有効期限] の間の日数。
承認された延長	これまでに要求され、承認された延長の回数。
残りの延長	将来的に延長を要求できる回数。残りの延長 = *`Number of extensions allowed for a policy exception`* プロパティの値 – 承認された延長の数。
作成済み	ポリシー例外が要求された日付。
承認日	例外が承認された日付。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
延長日	要求された延長日。[有効期限] より後の日付です。
延長理由	延長の理由。
元の有効期限	ポリシー例外が最初に要求され、承認された日付。元の [有効期限] の日付は、延長が承認された場合にのみ入力されます。
アサイン	
ウォッチリスト	要求が更新されたときに通知されるユーザー。
承認グループ	コンプライアンスマネージャーロールを持つグループ。ポリシー例外がレビュー状況に達した場合、承認グループを編集できません。 承認グループを指定しない場合、フィールドはデフォルトでコンプライアンスマネージャーに設定されます。コンプライアンスマネージャーは、ポリシー例外が GRC と統合されたアップストリームアプリケーションから発生した場合のデフォルトのロールです。たとえば、インシデントに関連する問題に対してポリシー例外を生成し、その問題が GRC に関連しているとします。
承認者	承認グループのユーザー。例外ポリシーが [分析] ステータスに移行した場合は、承認者を選択する必要があります。
リスクアセスメント	
方法 (Method)	リスクを評価する方法： ○ リスク評価を選択：このポリシー例外に関連付けられたリスク評価を選択します。 ○ タスクリスクアセスメント：リスクアセスメントを実施してリスク評価を計算します。 **注:** このオプションは、GRC：高度なリスクプラグインがインストールされている場合にのみ使用できます。 リスクアセスメントは、フォームの [リスクを評価] ボタンをクリックしてトリガーできます。このボタンは、[タスクリスクアセスメント] が選択されている場合にのみ使用できます。
リスク評価	ポリシー例外で実行されるリスクアセスメントで定義されるリスク評価。 [方法 **(Method)]** フィールドで [リスク評価を選択] オプションを選択した場合は、リストから値を選択できます。[方法 **(Method)]** フィールドで [タスクリスクアセスメント] オプションを選択すると、このフィールドにはリスクアセスメントで指定された応答が自動的に入力されます。
上書き	リスクアセスメントに提供された応答に基づいて自動入力された [リスク評価] を上書きするオプション。このフィールドは、[方法 **(Method)]** が [タスクリスクアセスメント] オプションの場合に表示されます。
リスク詳細	リスクアセスメント中にリスクマネージャーによって実行されたリスクの説明。
リスクと影響度の分析	このリスクが発生する可能性と、このリスクがポリシーの例外に及ぼす残存影響度の詳細。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
リスク軽減計画	このポリシー例外のリスク軽減計画。
コメント	
作業メモ	例外のレビュー担当者と承認者は、作業メモを使用して例外に関する情報を共有できます。
追加コメント	これらのコメントは、レビュー担当者が例外要求者に追加情報を伝えるために使用します。
機密性	
機密	レコードの機密性を有効にするオプション。アサインされた機密ユーザーまたはユーザーの機密グループのみがレコードにアクセスできます。 機密オプションの詳細については、「監査およびコンプライアンスレコードの機密性フラグ」を参照してください。

注:
バージョン 10.1 より前のバージョンでは、[リスクアセスメント] 関連リストは [ビジネスインパクトアナリシス] と呼ばれ、GRC: リスク管理 アプリケーションをアクティブ化する必要がありました。バージョン 10.1 以降、リスク管理 への依存関係が削除され、関連するフィールド名が変更されました。

[承認済みの延長]、[残りの延長]、[承認日]、[延長日]、[延長の理由]、[元の有効期限] フィールドは、ポリシー例外の延長を要求し、承認者によって承認された場合にのみ表示されます。

問題とポリシー例外の m2m 関連付けに関しては、[問題] フィールド、[コントロール目標] フィールド、および [影響を受けるコントロール] タブに入力する値について把握しておく必要のある特定の考慮事項があります。

a. [ソースタイプ] フィールドで問題を選択すると、1 つ以上のアクティブなコントロールが関連付けられている問題が [問題] 参照フィールドに一覧表示されます。アクティブコントロールは、[証明]、[レビュー]、または [監視] 状況のコントロールであり、[ドラフト] または [廃止] 状況ではありません。[影響を受けるコントロール] タブに移動して、問題に関連するコントロールを表示できます。

b. 問題が 1 つのコントロール目標にのみリンクされている場合、リンクされているコントロール目標が [コントロール目標] 参照フィールドに入力されます。問題が複数のコントロール目標にリンクされている場合、[コントロール目標] フィールドに入力される値はありません。[コントロール目標] 参照フィールドをクリックして、コントロール目標を選択します。

c. [問題] フィールドで問題を選択していなくても、[コントロール目標] 参照フィールドにコントロール目標が入力されている場合、[問題参照] フィールドには、このコントロール目標にリンクされている問題のみが一覧表示されます。

d. [問題] フィールドに問題を追加すると、その問題にリンクされているすべてのコントロールが [影響を受けるコントロール] タブに追加されます。ただし、[コントロール目標] 参照フィールドでコントロール目標を選択すると、[影響を受けるコントロール] タブにリストされているすべてのコントロールは、選択したコントロール目標と問題にリンクされているコントロールのみに置き換えられます。コントロールは任意のステータスにすることができますが、[ドラフト] または [廃止] ステータスにすることはできません。

e. ポリシー例外の 1 つの問題にリンクされている影響を受けるコントロールは、最初のポリシー例外の [影響を受けるコントロール] タブに既にリストされているため、別のポリシー例外で追加するためにリストされることはありません。後で問題にコントロールを追加し、問題を 2 番

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

目のポリシー例外にリンクすると、新しく追加されたすべてのコントロールが影響を受けるコントロールとして追加されますが、最初のポリシー例外の影響を受けるコントロールとして追加されたコントロールは含まれません。

4. ポリシー例外を保存します。
   ポリシー例外のステータスは [新規] です。
5. [承認を要求] ボタンをクリックします。
   検証ルールが設定されている場合は、検証承認がトリガーされます。検証の承認が承認されると、ポリシー例外は [分析] ステータスに移行します。

   ポリシー例外が承認され、[有効期限] の日付に達すると、ステータスは [クローズ済み] に移行し、サブステートは [期限切れ] に移行します。

   ポリシー例外が承認される前であれば、不要になった場合は [新規] ステータスからいつでもポリシー例外を取り消すことができます。
6. ポリシーの例外を取り消すには、[要求のキャンセル] ボタンをクリックします。
   ステータスは [クローズ済み] に、サブステートは [キャンセル] に移行します。

次のタスク

要求者は、承認済みステータスのポリシー例外の延長を複数回要求できます。ポリシーの延長を複数回要求するには、*Number of extensions allowed for a policy exception* プロパティを設定します。

プロパティを設定するには、「Configure the number of extensions allowed for a policy exception (ポリシー例外に対して許可されている延長の数を設定する)」を参照してください。

延長を要求するには、[延長を要求] ボタンをクリックし、[延長を要求] ポップアップに詳細を入力します。

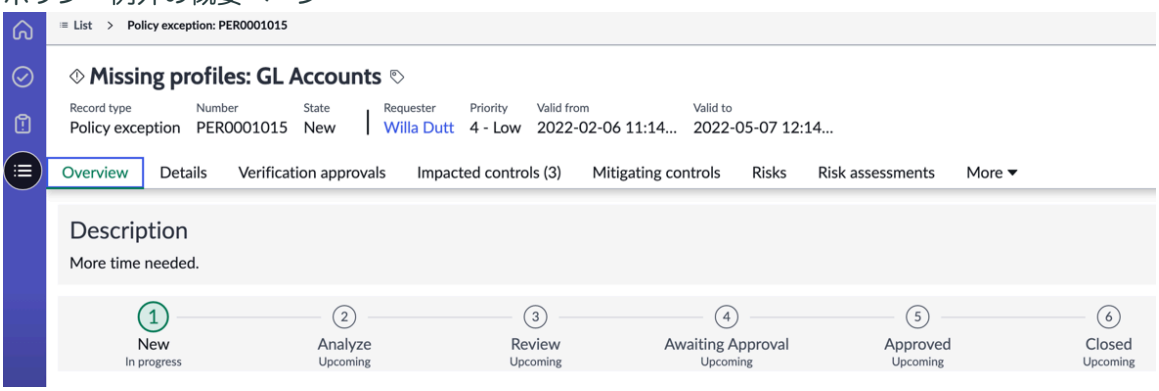
[要求] をクリックします。要求者が延長を要求し、承認者によってポリシーの延長が承認された後、ポリシー例外フォームの [スケジュール] タブでポリシー延長の詳細を確認できます。

[概要] ページからポリシー例外を管理する

ポリシー例外の概要ページには、ポリシー例外の基本的な詳細が全体的に表示されます。

ポリシー例外を保存して送信するとすぐに、デフォルトで [概要] ページが開き、ポリシー例外の基本的な詳細がすべて表示されます。ヘッダーにはポリシー例外の名前が表示され、説明にはポリシー例外の理由が示されます。また、ステッパーには、ポリシー例外が最終的に承認されるまでに通過するさまざまな状況が表示され、デフォルトは [新規] 状況です。

ポリシー例外の概要ページ



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンプライアンスワークスペースを使用してポリシー例外と延長要求を確認

コンプライアンスワークスペースを使用してポリシー例外要求をレビューした後、コンプライアンスマネージャーはその要求を承認または却下できます。ただし、コンプライアンスマネージャーが決定する十分な情報がない場合は、リスクマネージャーによるリスクアセスメントを要求できます。

始める前に
必要なロール：sn_compliance.manager

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. コンプライアンスワークスペース で、[リスト] アイコン ( ) をクリックします。
3. [ポリシー例外] リストで [すべてのポリシー例外] をクリックします。
4. [名前] 列のポリシー例外レコードへのリンクをクリックします。
5. 次のいずれかのアクションを実行します。

6. 次のいずれかのアクションを実行します。

7. [更新] をクリックします。

高度なリスクアセスメントを使用したポリシー例外のリスクを評価

高度なリスクアセスメントを行って、ポリシーの例外に関連するリスクを評価します。

始める前に
必要なロール：sn_compliance.manager

GRC：高度なリスクは、高度なリスクアセスメント機能を使用してリスクを評価するための高度なリスクアセスメントとの統合に必要なプラグインです。

このタスクについて
ポリシー例外が送信された後、コンプライアンスマネージャーはポリシー例外に対してリスク分析を行い、そのリスクステータスを評価し、ポリシーに対するリスクの影響度に基づいてその承認を決定できます。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. コンプライアンスワークスペース で、[リスト] アイコン ( ) をクリックします。
3. [ポリシー例外] リストで [すべてのポリシー例外] をクリックします。
4. [名前] 列で、リスクを評価する、ポリシー例外レコードへのリンクをクリックします。
5. [リスクアセスメント] セクションの [方法 **(Method)]** フィールドで [タスクリスクアセスメント] オプションを選択します。
   リスクアセスメントオプションの詳細については、「リスクアセスメント」セクションを参照してください。
6. [保存] をクリックします。
7. [リスクを評価] ボタンをクリックします。
   ポリシー例外のリスクは、そのステータスが [分析] の場合にのみ評価できます。
8. [リスク査定人と承認者を指定] ポップアップでリスク評価担当者と承認者を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンプライアンスユーザーロールまたはリスクユーザーロールを持つユーザーは、リスク査定人または承認者になることができます。

9. [アセスメント送信] ボタンをクリックします。
ポップアップで選択したユーザーにアセスメントが送信されます。詳細については、「Assess risks and objects on an assessment instance (アセスメントインスタンスのリスクとオブジェクトの評価)」を参照してください。

   アセスメントが完了すると、ポリシー例外フォームの [リスク評価] フィールドに、ポリシー例外リスク評価マッピングテーブルで構成された値が自動的に入力されます。

10. [詳細] タブをクリックします。
指定したリスクアセスメント応答に基づいて計算されたスコアが、[リスク評価] フィールドの値にマッピングされます。

ポリシー例外に高度なリスクアセスメントを設定

リスクアセスメントの各質問の値を作成して、リスクアセスメント方法をカスタマイズし、リスク評価スコアを計算します。

始める前に

必要なロール：sn_compliance.admin

このタスクについて

ベースシステムによって提供されるリスクアセスメント方法を変更する場合、またはポリシー例外の新しい方法を作成する場合は、ポリシー例外のリスクアセスメント方法を作成または更新した後に次の手順に従う必要があります。

リスクアセスメント方法の定性的評価基準を、最終的なリスク評価スコアのポリシー例外リスク評価マッピング (sn_compliance_policy_exception_risk_rating_mapping) テーブルにマッピングします。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > ポリシー例外リスク評価マッピング.
2. リスクアセスメント評価ごとに対応するポリシー例外リスク評価値を入力します。

   注:
   ポリシー例外テーブルの公開済みリスクアセスメント方法からの残存アセスメントの定性的評価基準は、このフィールドで利用可能なオプションです。

3. [保存] をクリックします。
リスクアセスメントのスコアは、ポリシー例外リスク評価列の対応する値に変換されます。

   注:
   新しく構成されたすべての定性的評価基準には、ポリシー例外リスク評価と同等のマッピングが必要です。ポリシー例外リスク評価マッピングテーブルのリスクアセスメント評価とポリシー例外リスク評価のマッピングが正しくない場合、[リスク評価] フィールドには結果 [なし] がメッセージとともに表示されます。この場合、[タスクリスクアセスメント] 方法のリスク評価結果を上書きし、[上書き] チェックボックスをオンにして [リスク評価] フィールドの値を選択するオプションがあります。

   ベースシステムによって提供されるアセスメント方法とは異なるアセスメント方法を作成する場合は、`sn_risk_advanced.rams_with_extension_points` システムプロパティの値フィールドに新しい方法の sys_ID を追加する必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンプライアンスワークスペース を使用して問題を管理

コンプライアンスワークスペース を使用して、会社のリスク管理プログラムの有効性は、リスクとコンプライアンスの問題をどれほど迅速に識別し完全に反応するかにより測定できます。

コンプライアンスワークスペースを使用して GRC の問題を手動で作成

コンプライアンスワークスペース、GRC を使用して、手動で問題を作成し、ポリシー、リスク、または監査の観察事項を文書化したり、GRC の問題を受け入れることができます。問題のソースを特定して、問題の分析と分類を行うこともできます。

始める前に

必要なロール：compliance_admin、compliance_manager、または sn_compliance.user

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. コンプライアンスワークスペース で、[リスト] アイコン ( ) をクリックします。
3. 移動先 問題 > すべての問題.
   リストにすべての問題が表示されています。ただし、問題をフィルタリングするための基本条件は、[分類] が [コンプライアンス] または [空] である必要があり、また、問題にエンゲージメントとの m2m 関連付けがある場合は、ログインしているユーザーは、監査人、エンゲージメントリードまたは承認者などの 3 種類のユーザーのいずれかである必要があります。
4. [新規] をクリックします。

   [新規問題の作成] フォームのフィールドの説明については、「Compliance workspace issue form (Compliance ワークスペースの問題フォーム)」を参照してください。

   注:
   ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションのバージョン 12.0.1 以降では、[問題] フォームの [アサイン先] ユーザーの最小ロールは GRC ビジネスユーザー [sn_grc.business_user] です。[問題マネージャー] の最低限のロールは GRC ユーザー [sn_grc._user] です。

5. 問題レコードを保存します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タブを使用すると、問題を修正するための各種タスクを実行できます。ポリシー例外を追加し、修復タスクを作成できます。また、他の問題、インジケーターの結果、および問題に関連するタスク SLA を表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
バージョン 12.0.1 以降、[タスク **SLA]** タブは [期日] に基づいて SLA を作成して表示します。問題の [期日] が 50% に達し、次に 75% に達して、違反した場合、問題オーナーと問題マネージャーに通知が送信されます。[アサイン先] および [期日] フィールドが空でなく、問題が [新規] 状況でない場合、その問題に対して SLA が作成されます。

SLA の期日が変更されると、新しい SLA が作成されます。問題が [完了してクローズ] または [未完了でクローズ] に移行すると、SLA は完了です。また、[期日] または [アサイン先] フィールドが空であるか、ステータスが [新規] の場合、SLA はキャンセルされます。

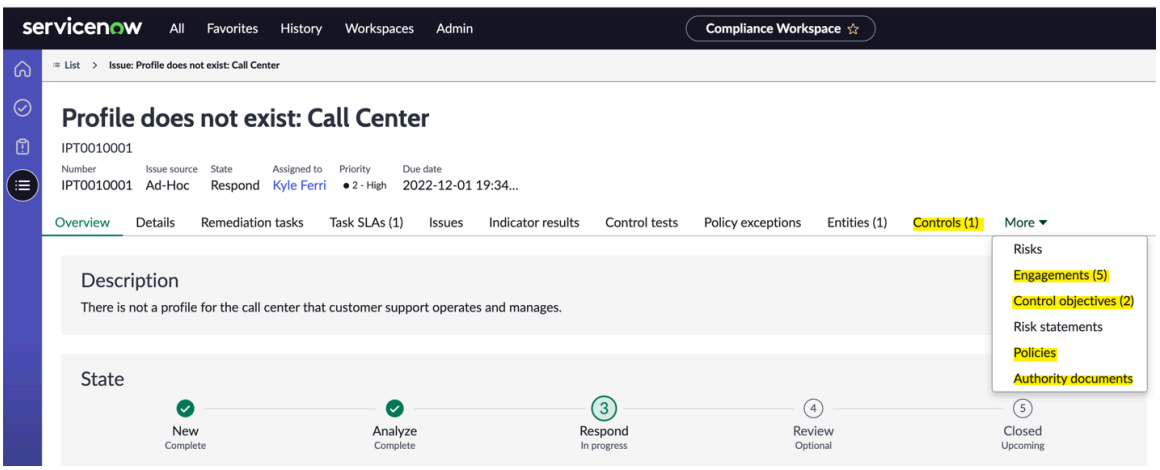
また、バージョン 12.0.1 以降では、[アサイン先] ユーザーおよび問題マネージャー、および GRC ビジネスユーザーロールを持つユーザーを使用して修復タスクを作成できます。

作成した問題レコードに移動し、関連リストを使用できます。

- 問題をコントロールなどの同じオブジェクトタイプの複数のレコードにリンクします。たとえば、Google Cloud、Microsoft Azure クラウド、および AWS クラウドを監視する 3 つのコントロールがあり、それらが停止していることから 3 つの異なる問題が発生した場合、3 つのコントロールすべてをクラウドサービスの停止という 1 つの問題にリンクすることができます。
- 問題をコントロール、コントロール目標、ポリシー、エンゲージメントなどのさまざまなオブジェクトにリンクします。
- 問題をさまざまなタイプのオブジェクトに関連付けます。

注:
問題がクローズされている場合、問題フォームからオブジェクトを作成、追加、または削除することはできません。[問題の概要] ページでは、コントロール、コントロール目標、各種法令・基準等、ポリシー、エンゲージメントの関連リストを表示できます。ただし、これらの各関連リスト内の [新規]、[追加]、[削除] などの UI アクションボタンは非アクティブです。

問題フォームの関連リスト



問題をリンクさせることができる各タイプのオブジェクトの問題フォームの関連リストは、次のことに役立ちます。

- 組織内にある未解決の関連問題の数を減らします。
- 問題の根本原因を特定し、同様の問題をグループ化します。
- 1 つの問題を解決すると、関連する問題が解決します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンプライアンスワークスペース 問題フォームの詳細

コンプライアンスワークスペース の新しい問題フォームに入力するフィールドの説明。

新規問題を作成フォーム

フィールド	説明
番号	一意の識別番号。
名前 **注:** バージョン 12.0.1 までは、このラベルは [簡単な説明] でした。	問題の名前。
問題ソース	問題が作成されたソース。このフィールドには、問題の作成方法に基づいて次のいずれかのオプションが自動的に入力されます。 • インジケーター失敗：問題はインジケーターの失敗によって作成されます • リスクアセスメント：問題はリスクで作成されます • リスクイベント：問題はリスクイベントで作成されます • コントロール証明書失敗：問題は非準拠コントロールが原因で作成されます • コントロールテスト失敗：問題は、コントロールが無効で、コントロールテストが完了してクローズとしてマークされたときに作成されます • アドホック：問題は手動で作成されます
問題タイプ	問題の種類。選択肢は次のとおりです。 • コントロール設計有効性の問題 • コントロール運用有効性の問題 • コントロールは要件を満たしていません • コントロールが存在しません • 規制への非準拠 • ポリシーへの非準拠 • 既存のポリシーに対する改善または提案 • 新しいポリシーの推奨事項 • プロセス最適化または改善 • 観察事項 • データ漏洩 • 詐欺 • 虚偽

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規問題を作成フォーム (続く)

フィールド	説明
	• トレーニング • ドキュメント • リスク問題 • その他
分類	問題タイプに基づく、リスク、コンプライアンス、または監査としての問題の分類。
場所	問題が発生した場所。
状況	• 新規 • 分析 • 応答 • 評価 • 完了してクローズ • 未完了でクローズ
サブステート	サブステートとサブステートに適用される詳細。
優先度	影響度と緊急度に基づいた、問題を解決すべき順序： • **1** - 重大 • **2** - 高 • **3** - 中 • **4** - 低 • **5** - 計画中
問題評価	バージョン 12.0.1 以降、問題マネージャーは問題に問題評価をアサインすることができます。問題評価に基づいて、[日付] タブの下にある [期日] が次のように計算されて表示されます。 • 非常に高い (2 日) • 高 (4 日) • 中 (8 日) • 低 (10 日) • 非常に低い (15 日) [期日] は手動で上書きできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規問題を作成フォーム (続く)

フィールド	説明
	注: sn_grc.manager および sn_grc_advanced.issue_triage_manager ロールを持つユーザーは、 ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > 問題評価 追加の問題評価を定義します。 問題が [対応] ステータスに移行すると、[問題評価] フィールドは読み取り専用になります。
説明	問題の包括的説明。
アサイン	
アサイン先グループ	この問題がアサインされているグループ。この問題でアクティビティが発生すると、各メンバーは通知を受信します。
アサイン先	問題を解決するためにアサインされたグループのメンバー。 バージョン 12.0.1 以降、ユーザーには少なくとも sn_grc.business_user ロールが必要です。 注: 問題のアサイン先にする必要があるユーザーについての提案を得るには、電球アイコンを使用します。電球アイコンは、GRC: Predictive Intelligence アプリケーションが有効になっており、フォームが保存され、[アサイン先] フィールドが有効で、GRC プロパティが類似性分析として選択されている場合にのみ表示されます。詳細については、「ガバナンス、リスク、コンプライアンス のプロパティ」を参照してください。 バージョン 12.0.1 以降では、問題マネージャーがより詳細な情報を要求すると、アサイン先ユーザーにメール通知が送信されます。 バージョン 12.0.1 以降、問題が [対応] ステータスに移行する場合、[アサイン先] フィールドへの入力は必須です。
問題マネージャーグループ	問題の管理とレビューを担当するグループ。 バージョン 12.0.1 以降、次の機能拡張と要件が導入されました。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規問題を作成フォーム (続く)

フィールド	説明

	• 問題マネージャーグループのメンバーは、次のいずれかのロールが必要です。
	  ○ sn_audit.manager
	  ○ sn_audit.user
	  ○ sn_compliance.manager
	  ○ sn_compliance.user
	  ○ sn_grc.manager
	  ○ sn_grc.user
	  ○ sn_risk.manager
	  ○ sn_risk.user
	• 問題が [分析] ステータスに移行するときは、[問題マネージャーグループ] または [問題マネージャー] フィールドのいずれかへの入力が必須です。
	• 問題がグループにアサインされると、メンバーはメール通知を受信します。さらに、問題が [レビュー] ステータスに移行すると、問題マネージャーはメール通知を受信します。

問題マネージャー	問題の管理とレビューを担当するユーザー。 バージョン 12.0.1 以降、次の機能拡張と要件が導入されました。 • 問題マネージャーには、少なくとも sn_grc.user ロールが必要です。 • アサイン先ユーザーがより詳細な情報を要求すると、問題マネージャーはメール通知を受信します。 • 問題が [分析] ステータスに移行する場合、このフィールドまたは [問題マネージャー] のいずれかへの入力が必須です。 • 問題が [応答] ステータスに移行する場合、このフィールドへの入力は必須です。
ウォッチリスト	問題のウォッチリストに含まれるユーザー。
スケジュール	
期日	(バージョン 12.0.1 以降) この日付は、GRC プロパティに基づいて自動入力されます。移動先 ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > **GRC** プロパティ.[問題の評価に基づいて期日を自動入力] プロパティが [はい] に設定されている場合、問題のリスク評価に対して事前定義された修復期間に基づいてこの

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規問題を作成フォーム (続く)

フィールド	説明
	フィールドが自動入力されます。それ以外の場合は、期日を手動で入力できます。 問題が [応答] ステータスに移行する場合、このフィールドへの入力は必須です。
確認日	(バージョン 12.0.1 以降) 問題が確認された日付。このフィールドは読み取り専用で、問題が [新規] から次のいずれかの状況に移行すると、当日の日付が表示されます。 • 分析 • レビュー • 対応 注: トリアージ問題が実際の問題に変換された場合、このフィールドには変換された日付が表示されます。
開始予定日	問題の作業の開始予定日時。
終了予定日	問題の作業の終了予定日時。
期間	作業時間の見積もり。[開始予定日] と [終了予定日] を使用して計算されます。
作成済み	問題が作成された日時。
クローズ済み	問題がクローズされた日時。
実開始日	この問題の作業が開始された時間。
実終了日	この問題の作業が完了した時間。
実際の期間	作業時間。[実開始日] と [実終了日] を使用して計算されます。
問題のグループ化	
親問題	この問題が属する親問題。
問題グループルール	この問題にアサインされたグループルール。問題グループルールは、ルールで定義された条件に基づいて類似した問題を親問題にまとめてグループ化するために使用されます。これにより、同様の問題を同時に処理し、すべての問題が解決された後に親問題をクローズすることができます。それにより、すべての子問題がクローズされます。
アクションプラン	
推奨事項	リスク、コンプライアンス、または監査チームによって推奨される解決アクション。
アクションプラン	問題を修正するための計画。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規問題を作成フォーム (続く)

フィールド	説明
機密性	
機密	レコードの機密性を有効にするオプション。アサインされた機密ユーザーまたはユーザーの機密グループのみがレコードにアクセスできます。 機密オプションの詳細については、「監査およびコンプライアンスレコードの機密性フラグ」を参照してください。
アクティビティ	
作業メモ (プライベート)	[作業メモ] チェックボックスをクリックして、[作業メモ] フィールドを表示します。問題の解決方法に関する情報、または既に採った解決手順 (該当する場合)。作業メモは、問題にアサインされているユーザーに表示されます。[投稿] をクリックして、問題に作業メモを追加します。
追加コメント (顧客に表示)	問題に関する公開情報。[投稿] をクリックして、問題にコメントを追加します。
設定	
機能ドメイン	問題の機能ドメイン。
詳細	
コントロール/リスク	この問題に関連付けられたコントロールまたはリスク。 コントロールが関連付けられると、コントロールの対応するエンティティが [エンティティ] フィールドに追加され、対応するコントロール目標が [コントロール目標/リスクステートメント] フィールドに追加されます。これらのコントロール目標とエンティティは、このコントロールにリンクされているものです。 コントロールが問題フォームに関連付けられると、m2m レコードがソース [sn_grc_m2m_issue_item] テーブルに作成されます。レコードがソーステーブルに追加されるたびに、対応するレコード [問題からエンティティ] が宛先 [sn_grc_m2m_issue_to_entity] テーブルに追加され、コントロールの関連付けられたエンティティとコントロール目標の別のレコード [問題からコンテンツ] が宛先 [sn_grc_m2m_issue_content] テーブルに追加されます。
エンティティ	関連エンティティ。
ポリシー	問題に関連付けられたポリシー。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規問題を作成フォーム (続く)

フィールド	説明
各種法令・基準等	問題に関連付けられた各種法令・基準等。
コントロール目標/リスクステートメント	この問題に関連するコントロール目標またはリスクステートメント。
処理アクティビティ	
エンゲージメント	
エンゲージメント	関連するエンゲージメント。
リスクイベント	
リスクイベント	関連リスクイベント。

コンプライアンスワークスペースを使用して類似の問題を新しい親問題にグループ化

コンプライアンスワークスペースを使用して問題を作成するときは、問題を他の同様の問題とグループ化することができます。

始める前に

必要なロール：(製品ごと)

- ポリシーとコンプライアンス管理 の場合：compliance_admin、compliance_manager、または sn_compliance.user
- リスク管理 の場合：risk_admin、risk_manager、または sn_risk.user
- 監査管理 の場合：audit_admin、audit_manager、audit_admin、または sn_audit.user

このタスクについて

問題を親の下にグループ化することで、貴重な時間を節約できます。たとえば、Windows サーバーのパッチ適用に関連する問題があるとします。各サーバーは個別のエンティティであるため、「毎週火曜日にパッチを適用する必要がある Windows サーバー」に関連付けられているすべてのコントロールに同じ問題が発生します。したがって、関連するパッチを 1 回適用することで、すべての Windows サーバーに対して 1 回で問題を解決できます。したがって、この機能を使用すると、類似の問題をグループ化し、それらをすべて親レベルで解決できます。

手順

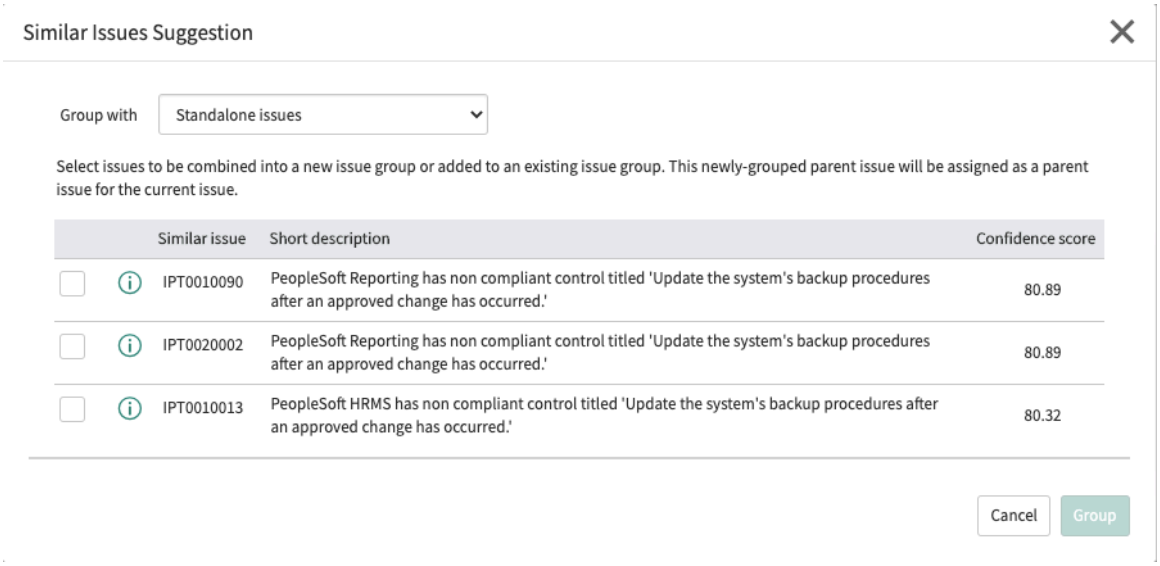
1. 次のいずれかに移動します。
   - ポリシーとコンプライアンス > 問題 > 新規作成.
   - リスク > 問題 > 新規作成.
   - 監査 > 問題 > 新規作成.
2. フォームで、[ペアレントレコード] フィールドを見つけます。



3. 電球アイコン ( ) をクリックすると、この親問題にアサインできる類似の問題が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

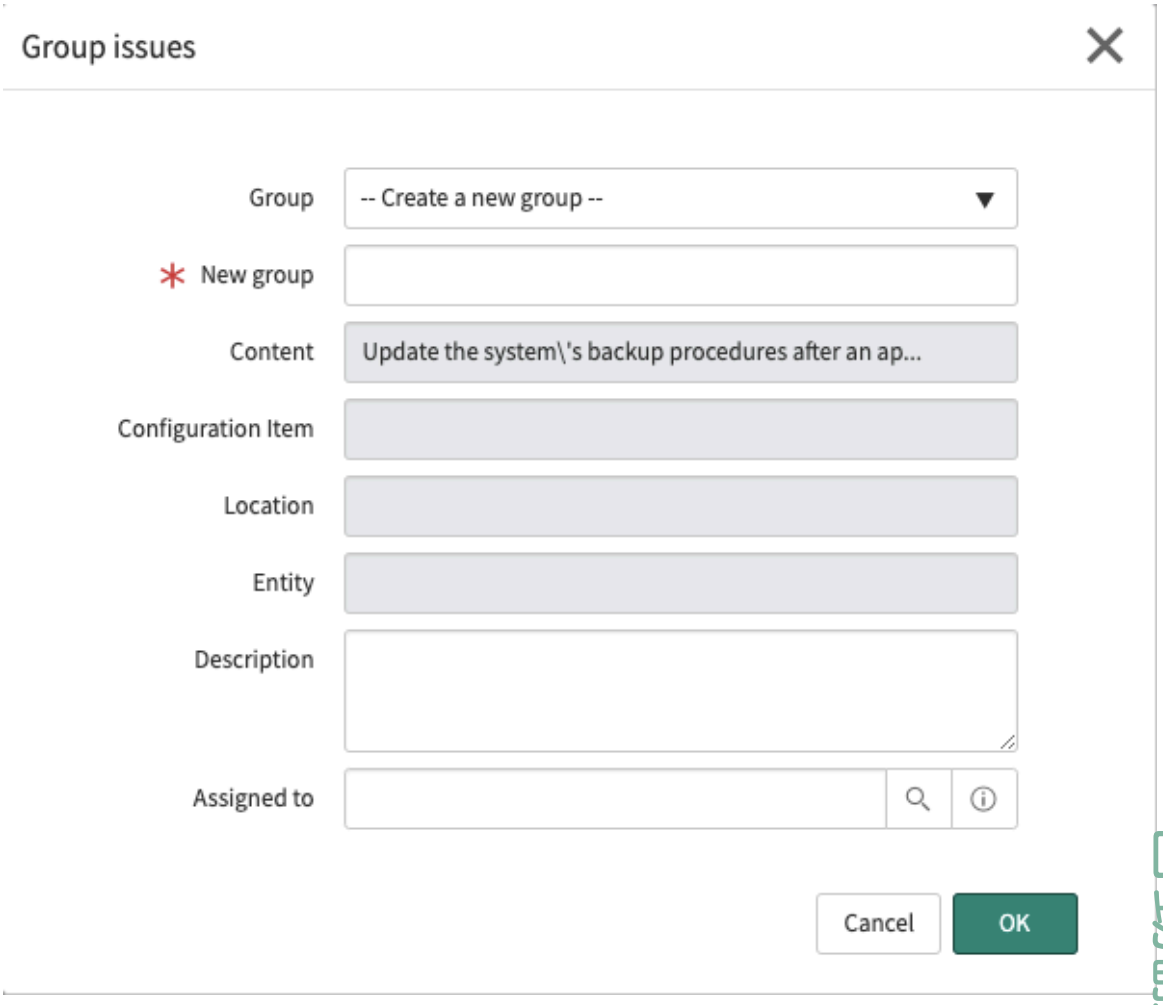


注:
スタンドアロンの問題は、現在の問題に似ていますが、親の問題グループにアサインされていません。信頼スコアは、GRC: 予測インテリジェンスアプリケーションベースシステムに含まれる類似性定義を使用して計算されます。

4. 情報アイコンをクリックすると、類似の問題の詳細が表示され、現在の問題とグループ化する必要があるかどうかを判断できます。
5. 現在の問題とグループ化する類似の問題を選択し、[グループ] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

6. フォームのフィールドに入力します。

問題フォーム

フィールド	説明
グループ	選択した問題をグループ化して新しいグループにアサインするには、[新しいグループを作成] を選択します。 選択した問題を既存のグループに追加するには、グループを選択します。
新規グループ	このフィールドは、[新規グループを作成] を選択した場合にのみ表示されます。新しいグループの名前を入力します。
説明	このフィールドは、[新規グループを作成] を選択した場合にのみ表示されます。グループの説明を入力します。
アサイン先	このフィールドは、[新規グループを作成] を選択した場合にのみ表示されます。グループがアサインされているユーザーを選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. [**OK**] をクリックします。
   選択した問題が新規または既存のグループに追加されます。
8. [問題] タブをクリックすると、グループ内の問題を表示できます。

コンプライアンスワークスペースを使用して類似の問題を既存の親問題にグループ化

コンプライアンスワークスペースを使用して問題を作成するときは、問題を他の同様の問題と既存の親問題グループの一部としてグループ化することができます。

始める前に

必要なロール：(製品ごと)

- ポリシーとコンプライアンス管理 の場合：compliance_admin、compliance_manager、または sn_compliance.user
- リスク管理 の場合：risk_admin、risk_manager、または sn_risk.user
- 監査管理 の場合：audit_admin、audit_manager、audit_admin、または sn_audit.user

手順

1. 次のいずれかに移動します。
   - ポリシーとコンプライアンス > 問題 > 新規作成.
   - リスク > 問題 > 新規作成.
   - 監査 > 問題 > 新規作成.
2. フォームで、[親] フィールドを見つけます。
3. 電球アイコン ( ) をクリックし、[グループ化] ドロップダウンリストから [既存の親の問題] を選択します。
4. 現在の問題でグループ化する [類似の問題] をクリックします。
   選択した問題の親問題が現在の問題の親問題になります。
5. [問題] タブをクリックすると、グループ内の問題を表示できます。

多対多テーブル関係を使用した複数のオブジェクトへの問題のリンク

リスク、エンティティ、コントロール、コントロール目標、エンゲージメント、ポリシー、各種法令・基準等などのさまざまなタイプのオブジェクトに問題をリンクさせることで、問題の影響度を特定できます。各オブジェクトに多対多の関係テーブルを使用して、類似の問題をオブジェクトにリンクさせます。

> **注:**
> 問題レコードには、コントロール、コントロール目標、各種法令・基準等、ポリシーがあり、関連レコードに関連アイテムとして関連付けることができます。ただし、対応する m2m テーブルに格納される対応する m2m レコードとして、問題と各オブジェクトを関連付ける必要があります。

たとえば、問題は [コントロール] フォームの関連リストとして構成され、問題をコントロールの親オブジェクトにリンクさせることができます。コントロールに問題を追加すると、コントロールであるアイテムを問題に関連付けるレコードが、コントロールに対する問題 [sn_grc_m2m_issue_item] テーブルに作成されます。

コントロールに関連する問題の表示は主に参照のみを目的としていました。ただし、コントロールフォーム内のコントロールに関連する多くの問題をリンクさせることもできます。この機能拡張により、次のことが可能になります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 表示の可視化、コントロールで発生したすべての関連問題の統合
- 関連するすべての問題の影響分析の決定
- 重複する問題の処理および問題の影響分析の管理に費やす労力の削減

sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst、sn_compliance_ws.corporate_compliance_manager、sn_
または sn_compliance.admin ロールを持つユーザーは、多対多テーブルのレコードを作成および削除できます。ただし、これらのロールを持つユーザーは、m2m テーブルの既存のレコードを更新できません。レコードを更新するには、GRC アドミン (sn_grc.admin) ロールが必要です。

問題とオブジェクトの関係を作成および削除するために コンプライアンスワークスペースで使用される多対多テーブルは次のとおりです。

- sn_grc_m2m_issue_item – コントロールの問題
- sn_grc_m2m_issue_content – コントロール目標の問題
- sn_grc_m2m_issue_engagement – エンゲージメントの問題
- sn_grc_m2m_issue_document – ポリシーの問題および各種法令・基準等の問題

詳細については、以下を参照してください。

- m2m テーブルの説明については、「インストールされるテーブル」。
- 問題にリンクされている各種コンプライアンスオブジェクトについては、「GRC：問題の作成」。
- 問題をコントロールにリンクさせる方法については、「コンプライアンスワークスペースを使用してコントロールを作成」。
- 単一のコントールにリンクされている複数の問題を自動生成または手動作成として分類する方法については、「自動的に生成された問題を多対多の関係でコントロールにリンクする」。
- 問題を各種法令・基準等にリンクさせる方法については、「コンプライアンスワークスペースを使用して各種法令・基準等を作成」。
- 問題をコントロール目標にリンクさせる方法については、「コンプライアンスワークスペースを使用してコントロール目標を作成」。
- 問題をエンゲージメントにリンクさせる方法については、「監査ワークスペースを使用して監査エンゲージメントを作成」。
- 問題をポリシーにリンクさせる方法については、「コンプライアンスワークスペースを使用してポリシーを作成」。
- 問題が多対多の関係でリンクされているすべてのオブジェクトデータの包括的かつ詳細な概要については、「360° view of compliance objects and issues (コンプライアンスオブジェクトと問題の 360 度ビュー)」。

を使用して自己識別された問題のトリアージ コンプライアンスワークスペース

問題が特定され、サービスポータル を介して従業員またはビジネスユーザーによって送信されると、問題のトリアージプロセスが開始されます。実際の問題が特定され、コンプライアンスワークスペースでの優先順位付けと解決のために適切なオーナーにアサインされます。

始める前に

必要なロール：

- sn_compliance.manager
- sn_compliance.user

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

- sn_grc_advanced.issue_triage_manager
- sn_grc_advanced.issue_triage_user

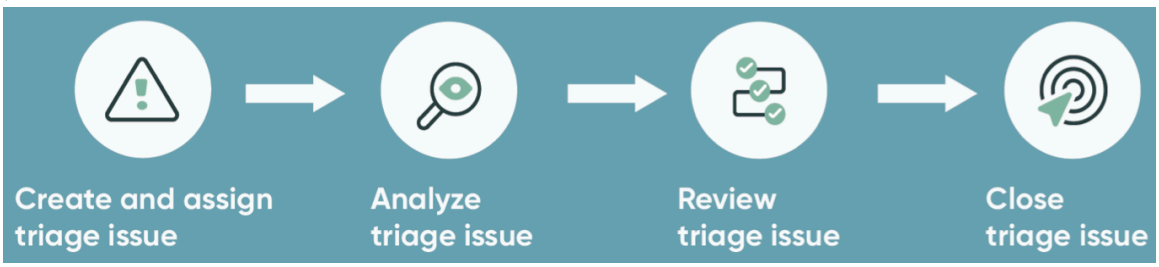
このタスクについて
従業員および社内のビジネスユーザーは問題を自己識別して、ServiceNow® サービスポータル 経由で送信できます。送信に続いて、トリアージ問題が自動的に作成されます。詳細については、「サービスポータルを介して自己識別した問題を報告」を参照してください。

アサインされたトリアージチームは、自己識別された問題が実際に報告された問題、リスクイベント、または追跡対象の観測事象であるかどうかを識別します。

注:
初期リリースでは、自己識別された問題のみがトリアージプロセスによって処理されます。以降のリリースでは、インジケーターや証明書の失敗などによって生成された問題もトリアージされます。

ここでは、問題のトリアージライフサイクルのエンドツーエンドフローを図で説明します。

問題のトリアージライフサイクル



ステージ	説明
トリアージ問題を作成してアサイン	従業員は、エンティティ、コントロール、ポリシー、各種法令・基準等、プロセス、またはリスクに関連する問題を特定し、ServiceNow サービスポータルでトリアージ要求を送信します。 送信された問題のタイプと問題アサインルールに基づいて、問題はトリアージチームとトリアージオーナーにアサインされます。
トリアージ問題を分析	トリアージチームは、問題を実際の問題またはリスクイベントとして分析するか、ポリシーまたはプロセス最適化のために追跡するかを決定します。 分析中、トリアージチームは、問題作成者から詳細情報を要求できます。チームは、必要に応じて、コンプライアンスマネージャー、リスクマネージャー、またはトリアージの結果があるトリアージマネージャーに問題を送信することもできます。 考えられる結果は次のとおりです。 • 新しい問題として確認済み • 既存の問題として確認済み

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ステージ	説明
	• リスクイベントとして確認済み • 推奨事項として追跡 • 問題以外としてクローズ/アクションは不要
トリアージ問題を確認	レビュー状況はオプションです。チームは、オプションとして、コンプライアンスマネージャー、リスクマネージャー、またはトリアージの結果があるトリアージマネージャーに問題を送信することもできます。トリアージオーナー詳細情報を要求することもできます。 コンプライアンスマネージャー、リスクマネージャー、またはトリアージマネージャーは、問題を問題またはリスクイベントとして確認するか、推奨事項として追跡するか、問題ではないとしてクローズするかを決定します。
トリアージ問題をクローズ	問題が実際の問題またはリスクイベントであると判断された場合は、それらのレコードが作成されるか、既存の問題にトリアージが追加されます。 トリアージプロセスが完了すると、トリアージの問題は自動的にクローズされます。問題は、マネージャーとトリアージチームが手動でクローズすることもできます。

問題のトリアージプロセスには、次のユーザーロールが含まれます。

問題のトリアージペルソナ

ペルソナ/ロール	説明
ビジネスユーザー/従業員	問題を報告する機能。
• コンプライアンスユーザー/マネージャー • リスクユーザー/マネージャー • トリアージユーザー/マネージャー	問題をトリアージおよびレビューする機能
問題マネージャー	レポート可能な問題を管理およびレビューする機能
問題オーナー	担当者に割り当てられたレポート可能な問題を解決する機能

注:
トリアージユーザー/マネージャーおよび問題マネージャーのロールは、GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 バージョン 11.1.0 で導入されました。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > 問題のトリアージ > 自分のトリアージ問題 または リスク > 問題のトリアージ > 自分のトリアージ問題.
   リストには、以前に作成されアサインされた問題のトリアージが表示されます。
2. トリアージする問題の番号をクリックします。

   注:
   [分類] フィールドは、選択した [問題タイプ] に基づいて自動的に事前入力されます。同様に、sn_grc_advanced_issue_triage と呼ばれるアサインルールが実行され、[トリアージグループ] に事前入力されます。このルールは、[ソース] と [分類] を使用して、トリアージが割り当てられるグループを決定します。アサインルールは、リスク管理の問題のトリアージ、および [分類] が [その他] に設定されている (つまり、分類が当初は不明である) トリアージも処理します。2 番目のユースケースでは、[トリアージグループ] を [リスク] または [コンプライアンス] に手動で設定する必要があります。

3. この問題のトリアージを開始する準備ができたら、[トリアージオーナー] を選択し、[分析] をクリックします。
   アサインされたトリアージオーナーは、問題をオープンして分析を開始できます。
4. 分析中、トリアージオーナーはいくつかのタスクを実行できます。

   Example
   オーナーは、たとえば、問題が誤って分類されていると判断し、[問題タイプ] を変更できます。このアクションにより、トリアージグループとトリアージオーナーが変更される可能性があります。この例では、アサインルールがバックグラウンドで実行され、現在のオーナーのキューから問題が削除されます。
5. トリアージオーナーは、次のアクションも実行できます。
   - [情報を要求] をクリックして、問題の送信者に追加情報を要求します。
   - [レビューを要求] をクリックして、[レビュー担当者] フィールドで指定されたユーザーからのレビューを要求します。そのユーザーは、に移動して問題を開いてレビューできます ポリシーとコンプライアンス > 問題のトリアージ > 自分の処理待ちのレビュー.
   - [詳細] 関連リストを選択して、問題をさらに拡張します。
6. 問題に対して実行するアクション (該当する場合) が決定された後、トリアージオーナーは [結果] 関連リストから分析の結果を選択できます。

   注:
   [結果] フィールドで使用可能なオプションは、この問題に対して識別された [問題タイプ] によって異なります。たとえば、[問題タイプ] として [コントロール設計有効性の問題] を選択した場合、次の結果が選択される可能性があります。

   [新しいコンプライアンスの問題として確認済み] など、単純な観察よりも多くのアクションが必要な結果を選択した場合は、追加の分析フィールドが表示されます。

   結果が [既存のコンプライアンスの問題として確認済み] の場合、参照している既存の問題を特定する必要がある [既存の問題] フィールドが表示されます。

7. 問題のトリアージが完了すると、トリアージオーナーは [トリアージを完了] をクリックできます。

   注:
   問題がレビュー対象外の場合、レビュー担当者は [トリアージを完了] をクリックしてトリアージを完了し、実際の問題を作成することもできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

問題のトリアージが [クローズ済み] ステータスに移行し、問題へのリンクが画面の上部に表示されます。

8. 問題は、通常のイシュー管理手順を使用して分析できます。
[問題] フォームの重要な変更の 1 つは、[問題トリアージ] 関連リストの追加です。トリアージレコードを開くと、この問題の作成の原因となったトリアージの詳細がアナリストに提供されます。

を使用した問題の修正 コンプライアンスワークスペース

問題が特定されて、トリアージされ、コンプライアンスワークスペースを使用して調査された後、その問題を修正することができます。

始める前に

必要なロール：(製品ごと)

- ポリシーとコンプライアンス管理 の場合：compliance_admin、compliance_manager、または sn_compliance.user
- リスク管理 の場合：risk_admin、risk_manager、または sn_risk.user
- 監査管理 の場合：audit_admin、audit_manager、audit_admin、または sn_audit.user

このタスクについて

問題を修正することで、コントロールエラーやリスクエクスポージャーを引き起こしている根本的な問題を修正する意図があることをマークします。問題を受け入れて、既知のコントロールエラーやリスクの例外を作成する意図があることをマークします。[受入れ済み] のコントロールは、コントロールが再評価されるまでは、非準拠ステータスのままになります。これにより、監査中に所見を文書化するために問題を使用することができます。

手順

1. 修正する問題を開きます。
2. [修復タスク] タブをクリックします。

   注:
   修復タスクを作成するには、次の 2 つのオプションがあります。
   - このタスクを作成するための基礎として既存のタスクを使用するには、[提案された修復タスク] をクリックし、[コピー] をクリックします。選択した修復タスクのコピーが作成され、そのタスクの特定の情報が新しいタスクにコピーされます。他のフィールドは手動で入力できます。
   - [新規] をクリックして手動でタスクを作成します。

3. フォームのフィールドで、値を入力したり変更したりします。

問題フォーム

フィールド	説明
番号	一意の識別番号。
アサイン先	このタスクの作業を担当するユーザーを選択します。
問題	このタスクが作成された問題。
ステータス	タスクの現在のステータス。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
優先度	影響度と緊急度に基づいて、このタスクを解決する必要がある優先度または順序を選択します。
ウォッチリスト	変更が発生したときに通知を受け取るユーザーを選択します。
作成/更新	タスクが作成および更新された日時を表示します。
簡単な説明	タスクの簡潔な説明を入力します。これはタスクのリストに表示されます。
説明	タスクの詳細な説明を入力します。
メモとコメント	
追加コメント	必要に応じて、このタスクに関連する顧客向けのコメントを入力します。
作業メモ	問題の修正に関連する、顧客向け以外のメモを入力します。
タスク スケジュール	
計画された期間	作業時間の見積もり。[開始予定日] と [終了予定日] を使用して計算されます。
開始予定日	タスクの作業の開始予定日時。
終了予定日	タスクの作業の終了予定日時。
実際の期間	実際の作業時間。[実開始日] と [実終了日] を使用して計算されます。
実開始日	このタスクの作業が開始された時間。
実終了日	このタスクの作業が完了した時間。

4. [送信] をクリックします。

コンプライアンスワークスペースを使用してコントロールを管理

コントロールは、コントロール目標の特定の実装です。廃止されたコントロールはリストに表示されません。 コントロールを定義する前に、時間をかけて組織内の重要なコントロールを合理化し、統合し、定義します。

コントロールを合理化

すべてのコントロールを一括でアップロードすると、コントロールセットを改善して、簡素化する機会が失われます。

- このコントロールは事業達成目標にどのように影響するか。
- このコントロールは実際にリスクを防止または検出しているか。
- ビジネスをより適切に保護する別のコントロールはあるか。
- リスクを軽減しながら、プロセスのオーバーヘッドを削減し、IT パフォーマンスを向上させることができるコントロールはあるか。
- 複雑なコントロールをよりシンプルで効果的なコントロールに置き換えることはできるか。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

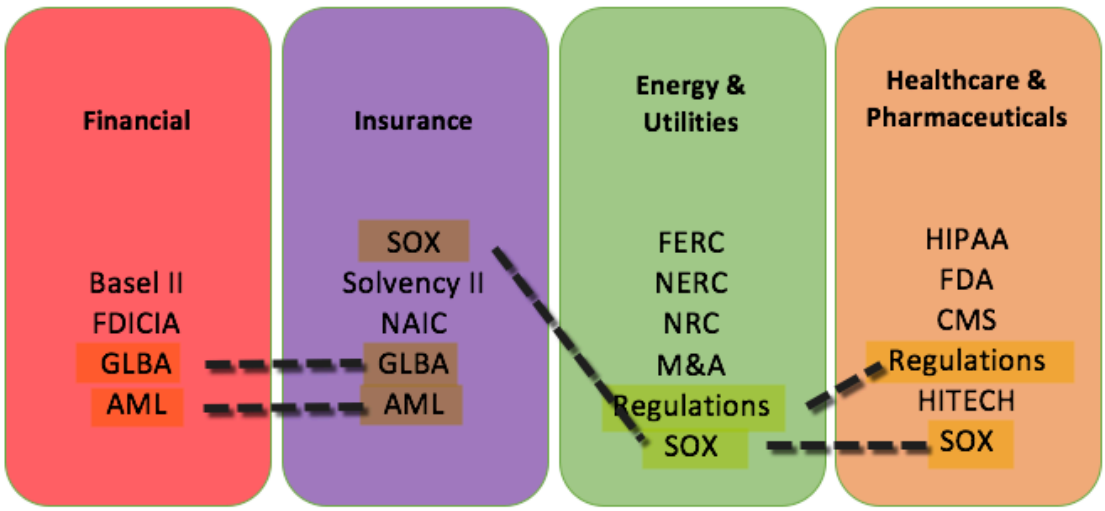
ビジネスの変化や、IT データ、プロセス、およびテクノロジーの向上に伴い、古いコントロールや手順は置き換えます。

注:
コントロールを手動で定義するか、Unified Compliance Framework (UCF) からインポートすると、エンティティがコントロールに関連付けられます。これはコントロールフォームの必須フィールドです。ただし、UCF 以外のソースからコントロールをインポートする場合は、エンティティが関連付けられていない可能性があります。コントロールフォームに戻り、コントロールにエンティティを追加することが重要です。エンティティが欠落していると、信頼性の低い結果が生じる可能性があります。また、無効になっているエンティティを含むコントロールを検出した場合は、そのコントロールを廃止する必要があります。

コントロールを統合

コントロールを統合する機会を探します。フレームワークの複数の規制当局間で繰り返される共通のコントロール (SOX、GLBA、AML など) を探します。コントロールを相互にマッピングし、冗長なコントロールを排除することで、規制ごとに 1 つのコントロールを複数回操作することを避けます。このプロセスは、コントロールの単一の統合セット = コントロールフレームワークを確立します。コントロールのクロスマッピングの実行と保存は監査にとって重要です。

業界の規制と要件の重複



コントロールとビジネスルールの定義

事前に定義したビジネスルールは、後で GRC 構成設定を確立します。次の準備をしてください。

- コントロールとコントロールオーナーを識別する
- コントロールテストと予期される結果の定義
- テストおよびコントロール頻度を確立
- リスクを識別：影響度と可能性
- 証明書、アセスメント、アンケート、および必要な証拠を準備する
- 想定されるユースケースを作成する (GRC システムのコンテンツを操作または表示する必要があるユーザーおよび目的)
- 信頼できるソースをポリシー、手順、コントロール、リスクにマップする

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンティティベースのアクセス (EBA)

エンティティベースのアクセス機能は、エンティティに関連付けられたオブジェクトへのデータアクセスを管理するための、より詳細なアプローチのためのフレームワークを提供します。アドミニストレーターは、ユーザーまたはユーザーグループを追加するか、エンティティベースのアクセス構成にエンティティユーザーフィールドを使用して、エンティティの関連レコードへのアクセス権を付与できます。詳細については、「エンティティベースのアクセス」を参照してください。

ユーザーがこれらの構成に基づいて認定され、最低限必要なロールを持っている場合、次のテーブルにアクセスできます。

- コントロール
- 証明書
- コントロールに対するポリシー例外

エンティティベースのアクセス (EBA) ルール

[エンティティベースのアクセス構成プロパティ] ページでエンティティベースのレコードアクセスルールが有効になっている場合、構成されたエンティティに関連付けられた新しく作成されたコントロール、コントロール証明書、インジケーター、およびインジケータータスクは、そのエンティティからエンティティベースのアクセス (EBA) 値を自動的に継承します。以前は、新しいオブジェクトが作成されるたびに、ユーザーは一括アクセス更新を実行して EBA 制限を適用する必要がありました。

詳細については、「 新しいレコードを保護するためのエンティティベースのレコードアクセスルール」を参照してください。

コンプライアンスワークスペースを使用してコントロールを作成

ポリシーをエンティティタイプに関連付けるか、エンティティタイプをコントロール目標に関連付けるか、またはエンティティをコントロール目標に追加すると、コントロールが自動的に生成されます。コントロールは、コントロール目標のエンティティタイプにリストされている各エンティティに対して作成されます。コントロールは コンプライアンスワークスペースを使用して手動で作成することもできます。

始める前に
必要なロール：
sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst、sn_compliance_ws.corporate_compliance_manager、sn_

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. [作成] リストを選択し、[コントロール] をクリックします。
3. フォームで、フィールドに入力します。

新しいコントロールを作成フォーム

フィールド	説明
番号	一意の識別番号。
名前	コントロールの名前。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
エンティティ	関連エンティティ。 **注:** エンティティのステータスを [廃止] ステータスから [アクティブ] に変更すると、エンティティに対して手動で作成されたコントロールも [ドラフト] ステータスに移行します。
ステータス	コントロールステータス。利用可能な選択肢は次のとおりです。 ○ 準拠 ○ 非準拠 ○ 適用外
コントロール目標から継承	アイテム生成プロセスを通じてコントロールを作成するかどうかを示すオプション。詳細については、「一意のエンティティとコントロール目標の組み合わせに対する複数のコントロール」を参照してください。
状況	コントロールステータス。利用可能な選択肢は次のとおりです。 ○ [ドラフト] このステータスでは、すべてのコンプライアンスユーザーがコントロールを変更できます。ワンオフコントロールを作成する場合のみ利用できます。ワンオフコントロールは可能ですが、推奨されません。 ○ [証明] コントロールがコントロール目標から作成された場合、コントロールはこのステータスになります。 **注:** コントロールをドラフトに戻すと、証明書はキャンセルされます。 ○ [レビュー] コントロールは、証明書フェーズからレビューに自動的に移行されます。 ○ [監視] このステータスでは、すべてのコンプライアンスマネージャーがコントロールをレビューから監視に移動できます。 ○ [廃止] コンプライアンスマネージャーまたはアドミニストレーターは、コントロールを [監視] から [廃止] に移動できます。 **注:** コントロールが廃止された場合： ▪ 関連するインジケーターが実行されない ▪ 関連付けられている証明書がキャンセルされる ▪ 関連付けられているコントロール目標を変更してもコントロールが更新されない
キーコントロール	コントロールがキーコントロールであることを示すインジケーター。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
免除	コントロールを免除としてマークします。
コントロール目標	関連コントロール目標。 共通コントロールを作成する場合は、コントロール目標を選択する必要があります。
サブスクリプションの適用	オプションのリスト： ○ 必須 ○ 任意
関数	読み取り専用関数フィールド。作成されたすべてのコントロールは、デフォルトでは [標準コントロール] です。コントロールを共通コントロールに変換すると、値が [共通コントロール] に変わります。
重み	リスクのコントロール失敗要因を計算するために使用される重み付け。重み付けは 1 ～ 10 で設定します。
周期	コントロールがテストされる頻度。このフィールドは、コントロールのテストとレポートを目的としていますオプションのリスト: ○ イベント駆動型 ○ 日次 ○ 週次 ○ 月次 ○ 四半期ごと ○ 半年ごと ○ 年次 **注:** コントロールの [頻度] フィールドとエンティティの [証明書頻度] フィールドの違いについては、KB0694607 を参照してください。
カテゴリ	オプションのリスト： ○ 施設、技術、サービスの取得または販売 ○ 監査およびリスク管理 ○ コンプライアンスおよびガバナンスのスタイルマニュアル ○ ヒューマンリソース (HR) 管理 ○ リーダーシップおよび高いレベルの達成目標 ○ モニタリングおよび測定 ○ 運用管理 ○ 物理的保護および環境保護 ○ 情報およびデータのプライバシー保護

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ レコード管理 ○ 構成管理によるシステムのハードニング ○ システム継続性 ○ システム設計、ビルド、および実装 ○ テクニカルセキュリティ ○ サードパーティおよびサプライチェーンの監督 ○ ルート ○ 不使用
タイプ	オプションのリスト： ○ 資産またはサービスの取得/販売 ○ アクション可能なレポートまたは測定 ○ 監査およびリスク管理 ○ 動作 ○ ビジネスプロセス ○ 連絡 ○ 設定 (Configuration) ○ データおよび情報管理 ○ 複製 ○ ロールの設定 ○ ドキュメントの作成/維持管理 ○ ヒューマンリソース (HR) 管理 ○ 調査 ○ IT インパクトゾーン ○ ログ管理 ○ メンテナンス ○ 発生の監視および評価 ○ 物理的保護および環境保護 ○ プロセスまたはアクティビティ ○ レコード管理 ○ システム継続性 ○ システム設計、ビルド、および実装 ○ テクニカルセキュリティ ○ テスト ○ トレーニング
分類	オプションのリスト：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ 予防 ○ 是正 ○ 探知 ○ IT インパクトゾーン
説明	コントロールの説明。
追加情報	コントロールに関する追加情報。
アサイン	
所有グループ	ポリシーを所有するグループ。
所有者	ポリシーを所有するユーザー。 **注:** オーナーは常に回答者として追加されます。選択したコントロールオーナーは、所有グループに属しています。
証明書	
認証方法	デフォルトは [従来の証明書 (Classic attestation)] です。 ○ 従来の証明書：コントロールアセスメントの従来の方法である ServiceNow AI Platform ○ 証明書：コントロールアセスメントを行う方法
証明書	オプションのリストから選択します。 ○ 他の証明書タイプを構成できます。 ○ このフィールドに値が入力されると、[証明書の回答者] フィールドが自動的に必須になり、オーナーが回答者になります。 **注:** ユーザーがコントロール目標で証明書タイプを変更すると、関連するすべてのコントロールも変更されます。
証明書の回答者	○ このコントロールの証明書にアサインされたユーザー。 ○ sn_grc.user ロールを持つユーザーのみを応答者として追加できます。 **注:** [証明書] と [証明書回答者] の両方のフィールドが設定されている場合、[証明書] をクリックすると証明書が作成されます。
証明頻度	コントロールの証明書がトリガーされる頻度。フィールドで値が選択されていない場合、関連付けられたエンティティの [証明頻度] の値はデフォルトでこのフィールドに設定されます。

自動翻訳

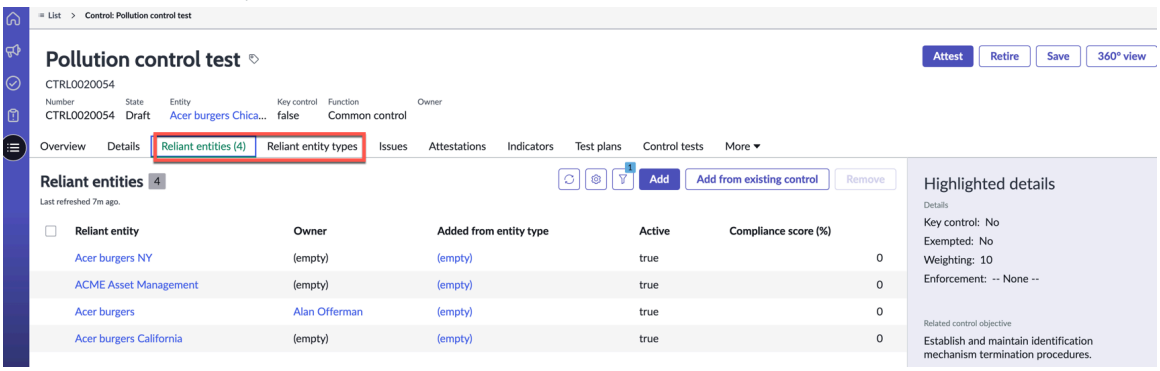
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	証明頻度のオプション: ○ 日次 ○ 週次 ○ 月次 ○ 四半期ごと ○ 半年ごと ○ 年次 **注:** 証明書が完了すると、コントロールは [レビュー] および [監視] 状況に移行します。その後、コントロールは証明書の次の期日について監視されます。証明書の 作成日 または最後に完了した証明書 の更新日に基づいて、コントロールの証明書の頻度をトリガーするオプションがあります。このオプションは *Trigger control attestations based on the created or updated date of the last completed attestation* システムプロパティの値に基づいています。
アクティビティジャーナル	
追加コメント	コントロールに関する公開情報。

4. エンティティ 頻度 関連リンクのコピー を選択して、エンティティの 証明 頻度 フィールドの値をコントロールの証明 頻度 フィールドにコピーします。
[エンティティ頻度をコピー] 関連リンクを選択すると、各エンティティの証明頻度がコントロールテーブルの [証明書] セクションの [証明 頻度] フィールドにコピーされ、コントロールテーブルの [頻度] フィールドは更新されません。
5. **[Save** (保存)] をクリックします。
コントロールが作成され、すべての関連リストが表示されます。

共通コントロールを作成した場合は、コントロールの他の関連リストとともに、[依存エンティティ] および [依存エンティティタイプ] 関連リストがあります。[依存エンティティ] 関連リストを使用して、エンティティを共通コントロールに関連付けます。または、[依存エンティティタイプ] 関連リストを使用して、エンティティタイプのエンティティを 1 つずつ関連付ける代わりにエンティティのグループを追加することもできます。

共通コントロールの関連リスト



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> 共通コントロールと依存エンティティの関連付けの詳細については、「標準コントロールを共通コントロールに変換 して、依存エンティティを追加」を参照してください。

6. [概要] ページで、[問題] をクリックします。
   作成したコントロールに 1 つ以上の関連する既存の問題を追加できます。既存の問題をコントロールにマッピングすることで、ドキュメントの未解決の問題の数を減らすことができます。

   コントロールに問題を追加すると、コントロールであるアイテムを問題に関連付けるレコードが、コントロールに対する問題 [sn_grc_m2m_issue_item] テーブルに作成されます。

   a. コントロールに問題を追加するには、[追加] ボタンをクリックします。

   b. [問題] ポップアップからコントロールに関連する問題を選択します。

   c. [追加] ボタンをクリックします。
      選択した問題が、関連する問題としてコントロールに追加されます。[新規] ボタンをクリックして、コントロールの問題を作成することもできます。

   d. コントロールに既に追加されている問題を削除するには、問題を選択して [削除] をクリックします。
      問題とコントロール間の関連レコードマッピングが、問題からアイテムテーブルから削除されます。

      > **注:**
      > コントロールが [廃止] ステータスの場合、[新規]、[追加]、[削除] などの UI アクションボタンは使用できません。

自動的に生成された問題を多対多の関係でコントロールにリンクする

別のコントロールに属する自動的に生成された問題を関連する問題としてコントロールに関連付けることができます。[オリジネータ] フラグは、手動で作成されたコントロールと自動的に生成されたコントロールの問題を区別するのに役立ちます。

手動で作成された問題と自動的に生成された問題

> **注:**
> 問題の発生元は、コントロールフォームでのみ、あるコントロールから別のコントロールにリンクさせた後に自動的に生成されたか手動で作成されたかを特定できます。

コントロールフォームの [問題] 関連リストで [新規] ボタンをクリックすると、コントロールに対して手動で問題を作成できます。手動で作成した問題については、「Manually create GRC issues (GRC の問題を手動で作成)」を参照してください。

ただし、問題は次の場合にも自動的に生成されます。

コントロールテスト失敗

コントロールにリンクされているコントロールテストがあり、そのテストの 1 つが「無効」とマークされてクローズされた場合、そのコントロールは非準拠になります。その結果、自動的に問題が生成されます。コントロールテストは、無効とマークすることができる設計テストまたは運用テストにすることができ、テストはすべてのコントロールで共通にすることができます。

コントロール証明書失敗

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

コントロールの証明書応答者であるユーザーがコントロールを却下すると、コントロールのステータスが非準拠になり、問題が自動的に生成されます。

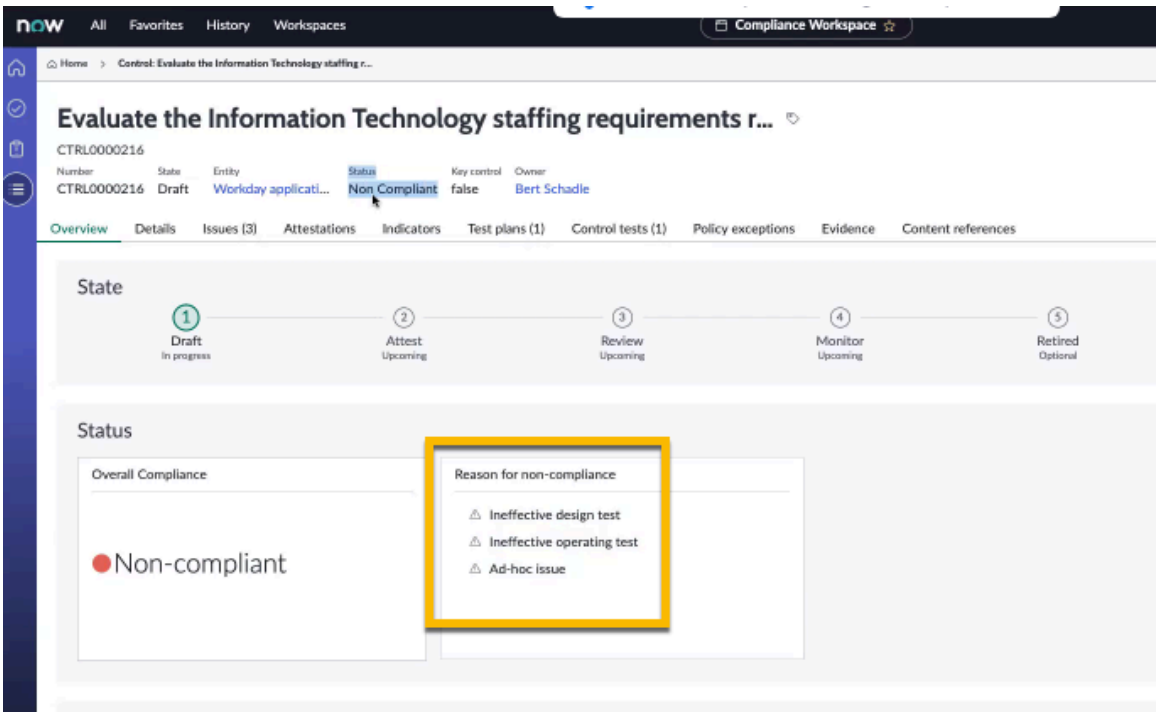
コントロールインジケーター障害

同様に、コントロールインジケーターが失敗すると、コントロールは非準拠になり、自動的に問題が生成されます。

3 つの障害のうち 1 つ以上の問題生成のソースは、問題の詳細の [問題ソース] フィールドのタグを使用して追跡できます。コントロールテストに失敗した場合、[問題ソース] フィールドは [コントロールテスト失敗] のタグで更新されます。問題が手動で作成された場合、問題のソースタグは [アドホック]です。

コントロールのステータスが非準拠に移行すると、非準拠のすべての理由が [問題ソース] フィールドからプルされ、コントロールの [概要] ページのステータスウィジェットに [非準拠の理由] として表示されます。

非準拠の理由



コントロールへのリンク中に自動的に生成された複数の問題の処理

[追加] ボタンを使用して、別のコントロールに属する自動的に生成された問題を m2m 関係のコントロールに追加できます。ただし、別のコントロールから自動的に生成された問題を既存の自動生成された問題のコントロールに追加すると、問題の生成元と競合します。問題の生成元を追跡するには、バックエンドフラグである [オリジネータ] を使用します。これは、true または false のフラグで、デフォルトは false です。次の場合、オリジネータに true または false のフラグが付けられます。

- 別のコントロールの自動化された問題が現在のコントロールに関連付けられている場合、[オリジネータ] は false です。
- これは、現在のコントロールの手動の問題であり、[オリジネータ] は false です。
- これは、現在のコントロールの自動化された問題であり、[オリジネータ] は true です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. オリジネータが true である問題がある場合、コントロールエラーが発生すると、[問題のソース] フィールドが問題のソースで更新されます。たとえば、オリジネータが true である問題が既に存在し、問題のソースがコントロールテスト失敗である場合です。コントロール証明書の失敗など、別のコントロールの失敗が発生した場合、[問題ソース] は 2 つのタグ、すなわち [コントロールテスト失敗] と [コントロール証明書失敗] で更新されます。
2. オリジネータが true である問題がなく、3 つのコントロール失敗の 1 つが発生すると、オリジネータが true である新しい自動化された問題が作成されます。たとえば、オリジネータが true であるコントロールにリンクされている問題がない特定のコントロールにコントロール証明書の失敗がある場合、問題ソースがコントロール証明書の失敗である新しい自動化された問題が作成され、オリジネータが true になります。

データ移行

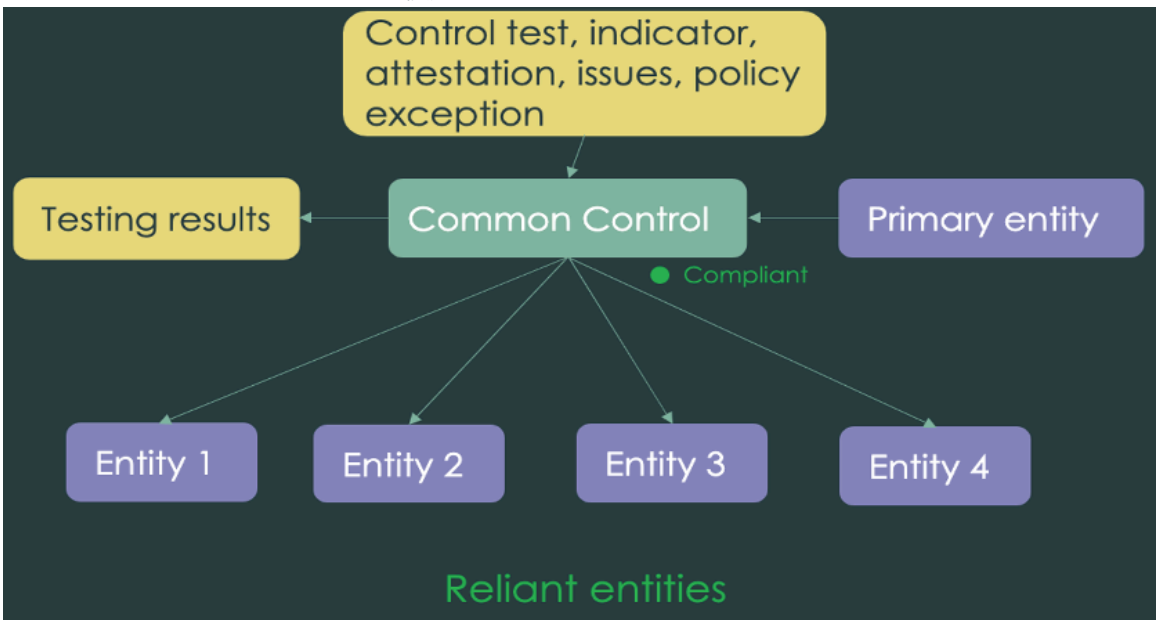
[オリジネータ] フラグで問題を自動生成または手動生成とフラグ付けするロジックは、最新のプラグインをインストールすると、自動的に処理されます。既存のコントロールにリンクされているすべての自動化された問題について、コントロールと問題の間の m2m レコードでオリジネータフラグが true になります。

共通コントロールのテスト、および複数の依存エンティティでの結果の実装

個々のエンティティのコントロールを生成し、個々のコントロールで各エンティティを個別にテストする代わりに、共通コントロールを使用してそれにプライマリエンティティを関連付けることができます。

コントロールテスト、インジケーター、証明書、問題、およびポリシー例外の共通コントロールをテストします。継承可能なテスト結果を使用し、共通コントロールに関連付けられているすべての依存エンティティにテスト結果を実装します。

共通コントロールにリンクされた複数のエンティティ



共通コントロールを使用すると、次のことができます。

- コントロールを共通としてマークし、依存エンティティをそれに関連付けます。
- 既存のコントロールのエンティティを依存エンティティとして共通コントロールに関連付けます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- テストの時間と労力を節約します。共通コントロールテストの結果は、特に新しいシステムが展開され、組織または環境内で検証前の監査が実施される場合に、他の依存エンティティによって継承可能です。
- テスト結果を文書化する人員の冗長性を削減します。

要件とユースケース：

- コントロールを作成するか、コントロールを共通に変換します。
- 依存エンティティを共通コントロールに関連付けて、テスト結果を継承します。
- エンティティタイプを共通コントロールに関連付けます。
- 共通コントロールを 1 回テストし、結果を複数のエンティティに適用します。
- 共通コントロールを標準に戻すことができます。
- コントロールの量が大幅に増加することを避けます。

詳細については、以下を参照してください。

- m2m テーブルの共通アイテムの説明については、「インストールされるテーブル」。
- 共通コントロールについては、「Control form changes (コントロールフォームを変更)」。
- 依存エンティティを追加する方法については、「標準コントロールを共通コントロールに変換して、依存エンティティを追加」。
- 共通コントロールについては、「アクションハンドラーコンポーネント」。
- 共通コントロールのアイテム生成における操作の変更。
- 「コンプライアンススコア計算に対する共通コントロールの影響」。

標準コントロールを共通コントロールに変換して、依存エンティティを追加

コントロールを共通としてマークし、依存エンティティをそれに関連付けます。プライマリエンティティに関連付けられた共通コントロールをテストします。依存エンティティは、共通コントロールの結果を継承します。

始める前に

必要なロール：
sn_compliance_ws.corporate_compliance_manager、sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst

このタスクについて

既存のコントロールはすべて標準コントロールと呼ばれます。必要に応じて、標準コントロールを共通に変換し、その機能を標準に戻すことができます。ただし、デフォルトでは、既存でも作成されたものでも、すべてのコントロールが標準です。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. コンプライアンスワークスペース で、[リスト] アイコン ( ) をクリックします。
3. 移動先 コンプライアンスライブラリ > すべてのコントロール.
   [新規] ボタンをクリックしてコントロールを作成するか、[すべてのコントロール] リストから既存の標準コントロールの 1 つを選択して共通コントロールに変換することができます。いずれの場合も、デフォルトではコントロールは標準です。そのため、依存エンティティを追加するにはコントロールを共通に変換する必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
コントロールを標準から共通に変換する前に、必ず [コントロール目標] フィールドで値を選択し、フォームの詳細を保存してください。共通コントロールにはコントロール目標が必要です。これは、共通コントロールが他のコントロールと同じ名前、エンティティ (プライマリまたは依存)、およびコントロール目標の組み合わせを持たないことを確認するための検証があるためです。

4. 右上にある [その他のアクション] ( ) をクリックします。
5. [共通に変換] リスト UI アクションを選択します。
   [共通に変換] UI アクションは、コントロールが [ドラフト] や [証明] などの初期状況にある場合にのみ表示されます。コントロールがこれらの状況を超えて進行すると、共通コントロールに変換することも、標準コントロールとして戻すこともできません。[標準に変換] UI アクションは、コントロールが共通で [レビュー] ステータスの場合は表示されません。

   コントロールが共通の場合、その [ソース] フィールドは [エンティティ] です。コントロールが変換で標準に戻されると、コントロールが共通に変換されたときにエンティティソースが追加された場合、エンティティソースは削除されます。共通コントロールが標準コントロールに変換されると、エンティティタイプと依存エンティティタイプの関連付けが削除されます。
6. [**Okay**] をクリックします。

注:
- [機能] フィールドが標準コントロールから共通コントロールに変わります。また、依存エンティティと依存エンティティタイプの関連リストがコントロールフォームに表示され、依存エンティティを追加できます。
- 標準コントロールが共通コントロールに変更されると、 エンティティベースのアクセス制限 オプションが追加されます。このオプションはデフォルトで無効になっています。エンティティベースのアクセス制限が有効になっている場合、このコントロールに関連付けられたエンティティのアクセス構成に含まれるユーザーまたはユーザーグループのみがアクセスできます。

7. 依存エンティティを追加するには、[依存エンティティ] 関連リストを選択します。

   a. [追加] ボタンをクリックします。

   b. [エンティティ] ポップアップでエンティティを選択し、[追加] をクリックします。
   このメッセージは、依存エンティティが共通コントロールに正常に追加されたことを確認します。共通コントロールに依存するエンティティの関連付けにより、アイテムからエンティティ [sn_grc_m2m_item_entity] テーブルにレコードが作成されます。

   複数のエンティティを含むエンティティタイプがある場合は、エンティティを 1 つずつ選択するのではなく、エンティティタイプを選択してエンティティを一括で追加できます。

   c. プライマリエンティティを選択して依存エンティティとして関連付けるには、[既存のコントロールから追加] ボタンをクリックします。
   このアクションでは、次のことができます。
   - 既存のコントロールを廃止する
   - そのコントロールのエンティティを依存エンティティとして関連付ける

   このオプションでは、一度に最大 15 個のエンティティを追加できます。エンティティを選択して [追加] をクリックしても、既存のすべてのエンティティが追加されるとは限りません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

すべてのエンティティが追加されることもあれば、一部が追加されることも、まったく追加されないこともあります。エンティティの追加がスキップされ、そのコントロールが廃止されない理由については、Now Support ナレッジベースの記事「GRC Common control incident [KB1221601]」(GRC 共通コントロールインシデント [KB1221601])」を参照してください。

> **注:**
> 記事を表示するには、Now Support にログインする必要があります。

ポップアップで [続行して追加] ボタンを選択すると、既存のコントロールは廃止され、その関連付けられたエンティティが依存エンティティとして追加されます。コントロールは手動で廃止されたコントロールとして処理されます。

d. 依存エンティティを削除するには、依存エンティティを選択して [削除] をクリックします。

8. エンティティタイプを追加するには、[依存エンティティタイプ] 関連リストを選択します。

a. [追加] ボタンをクリックします。

b. [依存エンティティタイプ] ポップアップでエンティティタイプを選択し、[追加] をクリックします。

エンティティタイプを共通コントロールに関連付けるダウンストリームアクションは、エンティティを共通コントロールに関連付けるアップストリームアクションを作成します。エンティティタイプの一部として追加されたすべてのエンティティは、[関連エンティティ] 関連リストにもリストされます。[エンティティタイプから追加済み] 列には、エンティティタイプのソースがリストされます。

共通コントロールに依存するエンティティの関連付けにより、アイテムからエンティティタイプ [sn_grc_m2m_item_entity_type] テーブルにレコードが作成されます。

> **注:**
> エンティティと共通コントロールの関連付けのレコードを格納する m2m テーブルの詳細については、「ポリシーとコンプライアンス管理とともにインストールされるテーブル」を参照してください。

依存エンティティタイプを使用する利点は、共通コントロールに関連付けられた後、エンティティタイプを後で追加して更新した場合でも、追加されたエンティティが依存エンティティとして自動的に関連付けられることです。

c. 依存エンティティタイプを削除するには、レコードを選択して [削除] をクリックします。

9. コントロールにリスクを追加するには、[リスク] 関連リストを選択し、[依存エンティティから追加 **(Add from reliant entities)]** ボタンをクリックします。
依存エンティティとリスクの関連付けに基づいて、共通コントロールをリスクに関連付けることができます。詳細については、「Common controls in Risk Management (リスク管理の共通コントロール)」を参照してください。

10. コントロールに関連付けられた依存エンティティを表示するには、コントロールレコードから **[360** 度ビュー **(360° view)]** ボタンをクリックします。
プライマリエンティティとすべての依存エンティティのリストが特徴的なビジュアル化で表示されます。

タスクの結果

依存エンティティを共通コントロールに関連付けると、コンプライアンスの採点に影響します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンプライアンススコア計算に対する共通コントロールの影響

エンティティが共通コントロールに関連付けられ、依存エンティティと呼ばれる場合は、常に共通コントロールのテスト結果がエンティティのコンプライアンススコアに影響します。

すべてのアクティブな関連付けられている共通コントロールは、存在する他のコントロールと同様にコンプライアンススコアに寄与します。

コントロールのコンプライアンスステータスまたは重み付けが変更されるたびに、エンティティのコンプライアンススコアが再計算されます。同様に、共通コントロールの場合は、依存エンティティのコンプライアンススコアも再計算されます。

すべてのプライマリアクションがコンプライアンススコアの再計算をトリガーします。[依存エンティティ] 関連リストの [追加] または [削除] UI アクションをアップストリームのアクションとして使用して、依存エンティティが追加または削除されると、その特定の依存エンティティのコンプライアンススコアが再計算されます。また、共通コントロールを廃止するか、共通コントロールを標準コントロールに変換する場合にも再計算されます。準拠または非準拠のコントロールは、エンティティのコンプライアンススコアの計算に寄与します。

詳細については、Now Support ナレッジベースの記事「Compliance score calculations in GRC (GRC でのコンプライアンススコア計算) [KB1222566]」を参照してください。

注:
記事を表示するには、Now Support にログインする必要があります。

共通コントロールをサポートするエンティティの拡張

GRC アプリケーションのダウンストリームの継承されたコントロールのエンティティ拡張について説明します。たとえば、エンティティレコードページを確認することで、ダウンストリームの継承されたコントロールに関する情報を確認できます。エンティティの概要ページで利用可能なウィジェットを使用して、ダウンストリームの継承されたコントロールの概要を表示することもできます。

共通コントロール

エンティティフォームでは、現在のエンティティまたはそのダウンストリームのエンティティが依存している共通コントロールを表示できます。[ダウンストリームの継承コントロール] 関連リストで、[追加] および [削除] ボタンを使用して共通コントロールの関連付けを更新します。

[直接関連する継承コントロールを表示] ボタンと [すべての継承コントロールを表示] ボタンを使用して、現在のエンティティが依存している共通コントロールを確認することもできます。これらのボタンには、ダウンストリームのエンティティが依存している共通コントロールが表示されます。

共通コントロールの詳細については、「Common controls in Risk Management (Risk Management の共通コントロール)」を参照してください。

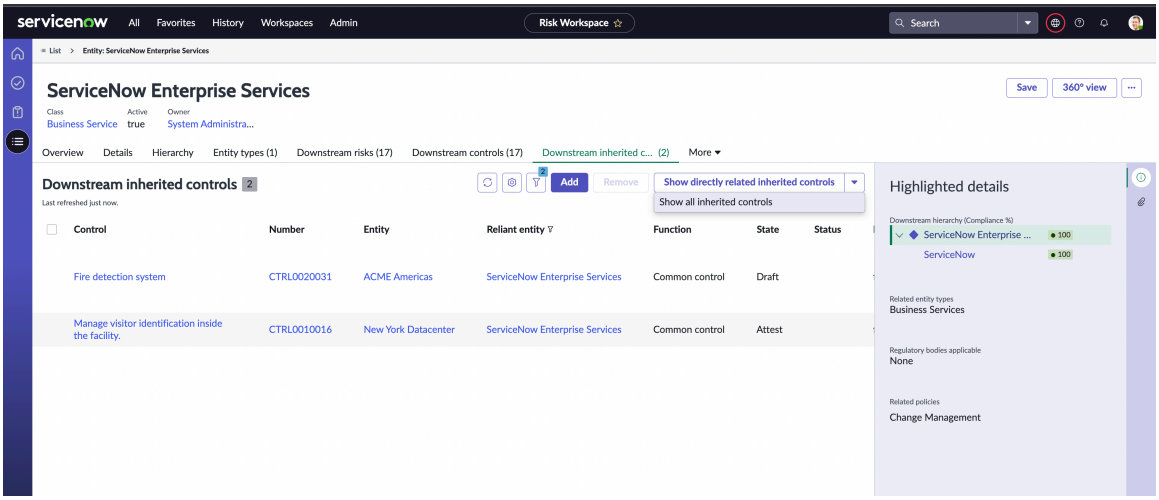
[下流のコントロール] 関連リストには、現在のエンティティまたはその下流エンティティが共通コントロールを実装するために使用する共通コントロールも表示されます。フォームの [関数] 列を使用して、標準コントロールと共通コントロールを区別できます。次の例は、下流の継承されたコントロールを示しています。

注:
ワークスペースでのみ共通コントロールとの依存エンティティの関連付けを追加または削除できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ダウンストリームの継承コントロール



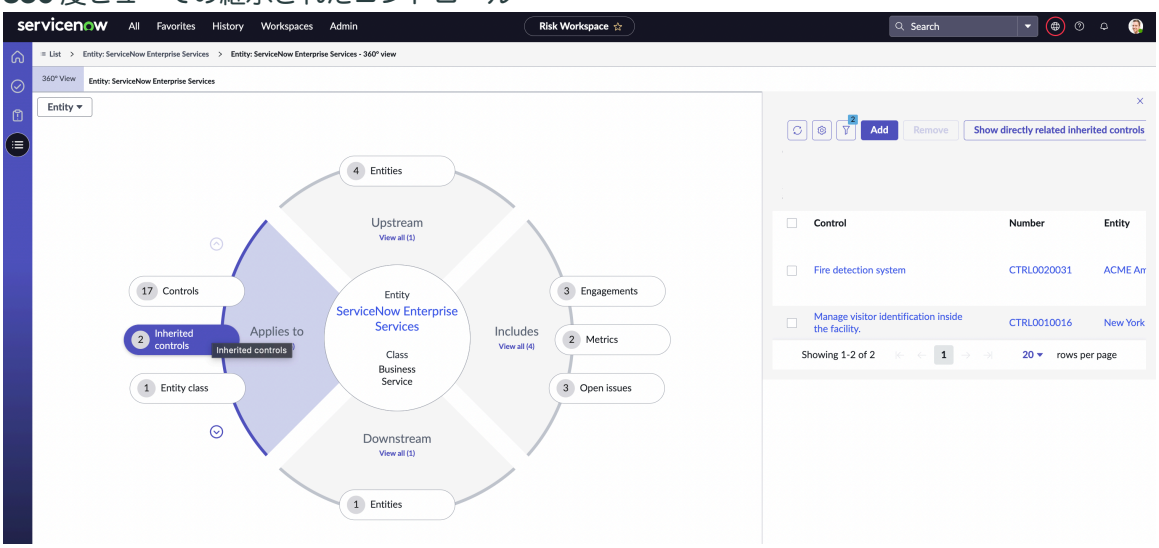
[ダウンストリームの継承されたコントロール] 関連リストでは、コントロール、エンティティ、およびその依存エンティティに関する情報を表示できます。コントロールは、リストされているエンティティによって実装されます。依存エンティティによって同じコントロールが継承されます。

360 度ビュー

エンティティの 360 度ビューには、コントロールと継承されたコントロールが表示されます。

次の例は、Enterprise Services エンティティの 360 度ビューに 2 つの継承されたコントロールがあることを示しています。

360 度ビューでの継承されたコントロール



[タスク] ページでの類似のアセスメントに関するグループアセスメント

コンプライアンスワークスペースの [タスク] ページで、メトリクスタイプに基づいてアセスメントをグループ化し、さらに同じエンティティ、コントロール目標、またはカテゴリをグループ化することで、類似のアセスメントへの応答を提供します。

始める前に

必要なロール：sn_compliance_ws.corporate_compliance_manager または sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
構成可能ワークスペースでは、コントロール証明書のみをグループ化できます。リスクアセスメント、ベンダーアセスメント、またはプライバシーアセスメントはグループ化できません。このようなアセスメントと、選択した [グループ分け基準] 基準でグループ化できないアセスメントは無効としてマークされ、[グループアセスメント] ポップアップの [グループプレビュー] に、そのようなアセスメントを表示するためのリンクとともに表示されます。

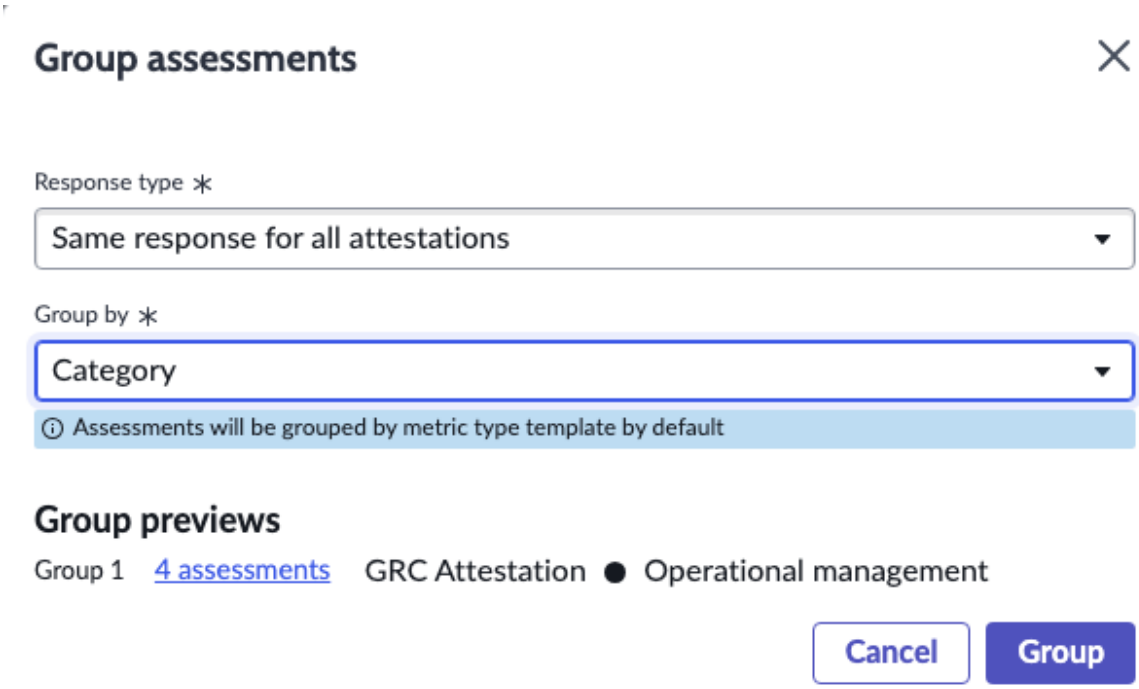
手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. 左ペインでタスクアイコンを選択します。
3. [自分の保留中タスク] タブで、グループ化する証明書レコードを選択します。

   注:
   レコードは少なくとも 2 つ選択する必要があります。グループ化には最大 13 のアセスメントレコードを選択できます。

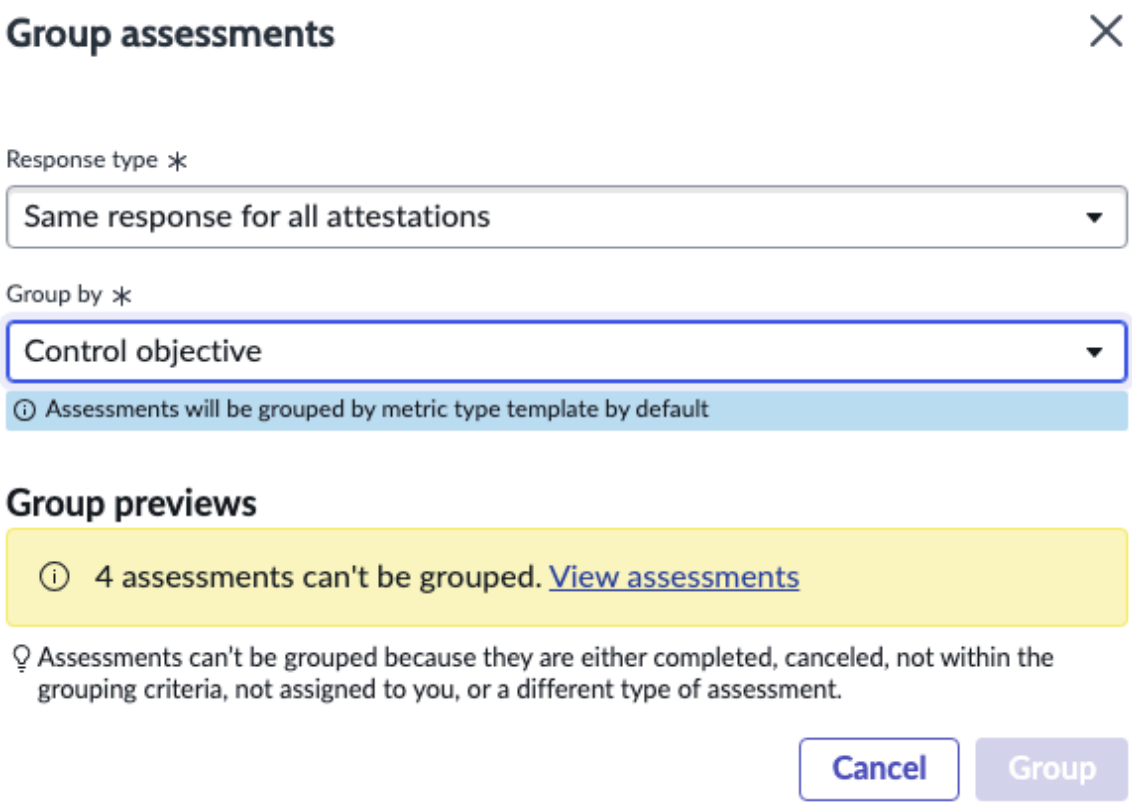
4. [グループアセスメント] ボタンを選択します。
5. [グループアセスメント] ポップアップで [応答タイプ] を選択します。
   応答タイプの詳細については、「同じ応答を使用する証明書をグループ化」を参照してください。
6. [グループ分け基準] リストで、アセスメントをグループ化する基準を選択します。
   デフォルトでは、アセスメントはメトリクスタイプテンプレート別にグループ化されます。アセスメントは、カテゴリ、エンティティ、またはコントロール目標別にグループ化できます。選択したアセスメントに共通のカテゴリ、エンティティ、またはコントロール目標がある場合、これらは自身の選択に基づいてグループ化されます。ただし、選択したアセスメントにグループ化に使用できる共通の基準がない場合、アセスメントはグループ化されません。

   [グループプレビュー] セクションには、グループ化の詳細、リンク付きのアセスメント、および適切なメッセージ情報 (グループ化されているか、または [グループ分け基準] 条件や、ステータス、アサイニー、メトリクスタイプの評価方法に基づいてグループ化できないか) が表示されます。



自動翻訳

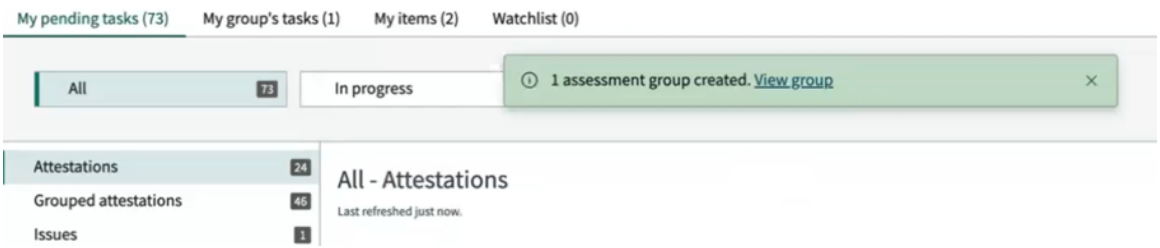
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



7. [グループ] ボタンを選択します。
アセスメントのグループ化に成功すると、アセスメントグループが作成されたことを示すメッセージと、グループ化されたアセスメントへのリンクが表示されます。

選択したアセスメントのうち、いくつかのアセスメントが選択した条件でグループ化できなかった場合、[グループプレビュー] にはグループ化できなかったアセスメントの数が表示されます。ただし、選択した [グループ分け基準] 条件でグループ化できた他のアセスメントが選択にあるため、グループ化が成功した残りの部分を選択してグループ化するための [グループ] ボタンがアクティブになります。

一方、リスクアセスメントやプライバシーアセスメントなど、選択したすべてのアセスメントが無効である場合、そのようなアセスメントはグループ化できないため、[グループ] ボタンは無効になります。

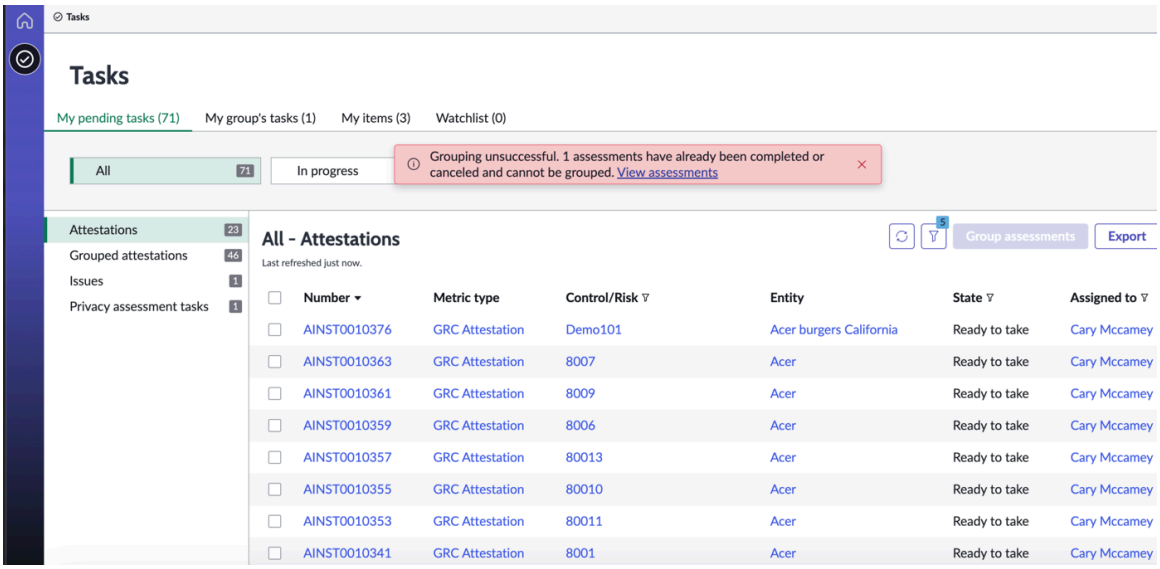


注:
[取得可能] または [進行中] ステータスのアセスメントはグループ化できますが、[完了] または [キャンセル済み] ステータスのアセスメントはグループ化できません。

グループ化するために選択したレコードのステータスが変更され、[グループ] ボタンを選択してアセスメントをグループ化する前にアセスメントが行われている場合、そのようなレコードはグループ化できません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



8. グループ化されたアセスメントへのリンクを UI メッセージ内で選択します。
   リンクをクリックすると、グループ化されたアセスメントのリストビューに移動します。または、左ペインで [グループ化された証明書] を選択する方法もあります。[アセスメントのインスタンス] ページが開き、アセスメントを取得できます。

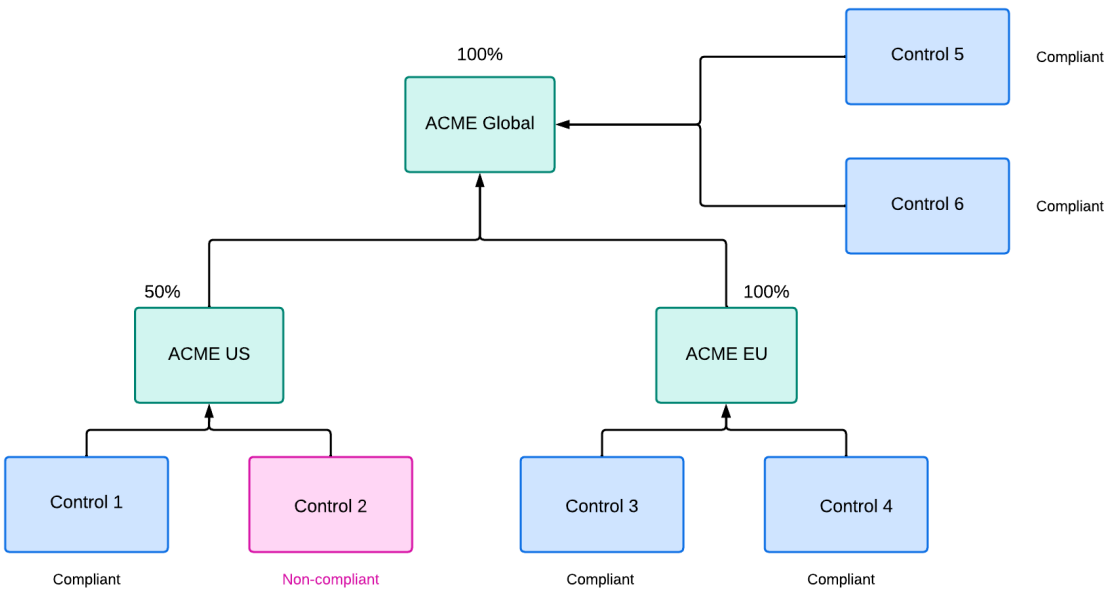
エンティティのコンプライアンススコア計算

エンティティのコンプライアンススコアを計算するには、2 つの方法があります。既存の方法にはエンティティの直接コントロールのみが含まれますが、新しいロジックでは、エンティティの直接コントロールの平均とともに、直接下流エンティティの平均が考慮されます。

直接コントロールに基づくコンプライアンススコアの計算

エンティティのコンプライアンススコアの計算は、エンティティに直接関連付けられているコントロールに基づいて行われます。これは、簡単な式を使用することです。

Average of all direct controls of an entity



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example: コンプライアンススコア計算ロールアップ:既存のロジック

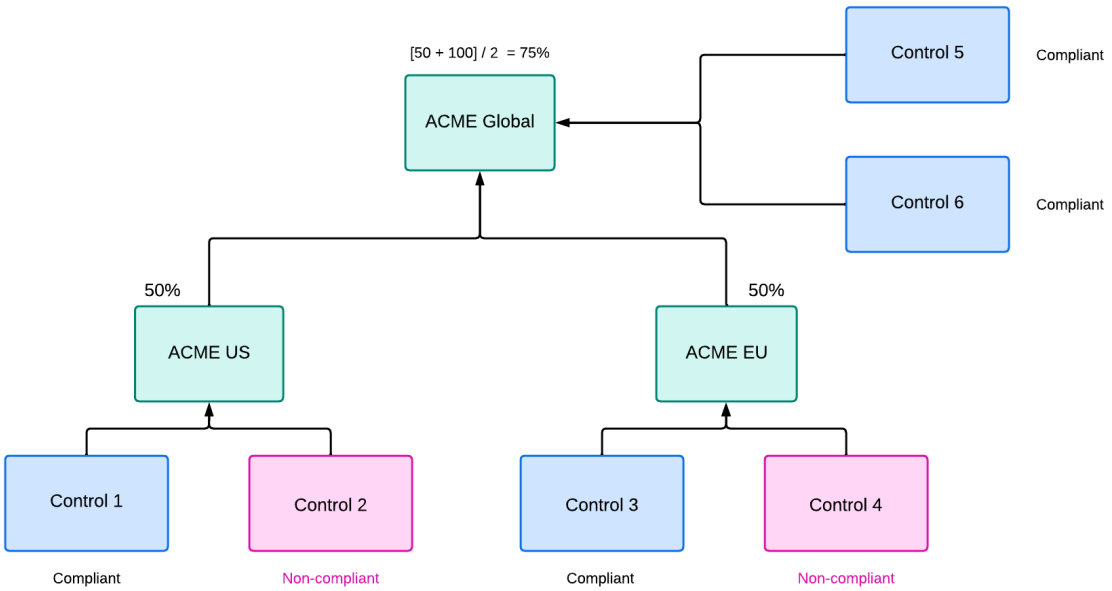
ACME US のコンプライアンススコアは、すべての直接コントロールの平均であり、(100 + 0) # 2 = 50 です。一方、ACME Global のコンプライアンススコアの計算では、直接コントロールの平均のみが考慮され、ダウンストリームエンティティに関連付けられたコントロールの平均 ((100 + 100) # 2 = 100) は考慮されません。

非準拠のダウンストリームエンティティ (ACME US) に関連付けられたコントロールがありますが、その非準拠ステータスの反映は親エンティティ (ACME Global) には反映されず、親エンティティ (ACME Global) の全体的なコンプライアンススコアは変更されません。

下流エンティティと直接コントロールに基づくコンプライアンススコアの計算

エンティティのコンプライアンススコアは、次の式を使用して、その下流エンティティのコンプライアンススコア (直接のダウンストリームエンティティのコンプライアンススコアとその直接コントロールの平均) に基づいて計算することもできます。

```
Average [Average (downstream entities) + Average (direct controls)]
```



Example: コンプライアンススコア計算ロールアップ:新規ロジック

この階層では、ACME US のコンプライアンススコアは 50、ACME EU のコンプライアンススコアは 50 です。このロジックでは、ACME Global のコンプライアンススコア ((50 + 50) 2 = 50%) を計算する際に、ダウンストリームエンティティの平均 (ACME US および ACME EU) # が考慮されます。ダウンストリームエンティティと親エンティティの直接コントロールを考慮すると、コンプライアンススコアは (50 + 100) # 2 = 75% になります。これは、 ACME US と ACME EU の平均 + コントロール 5 とコントロール 6 の平均です。

エンティティコンプライアンススコアの計算に必要な手順の設定

システムプロパティを有効にし、オンデマンドジョブを実行して、ダウンストリームエンティティのコンプライアンススコアとその直接コントロールに基づいてエンティティのコンプライアンススコアを計算します。

始める前に
必要なロール：sn_compliance.admin、sn_compliance.manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > プロパティ.
2. [エンティティ階層ベースのスコアリング] プロパティを選択して **true** に設定します。
   デフォルトでは、このプロパティは false に設定されています。false の場合、コンプライアンススコアは、エンティティに直接関連付けられているコントロールの平均である直接コントロールに基づいて計算されます。「エンティティのコンプライアンススコア計算」を参照してください。

   ただし、ダウンストリームエンティティと直接コントロールに基づいてエンティティのコンプライアンススコアを計算する場合は、プロパティを true に設定する必要があります。この新しいロジックによって既存のエンティティのコンプライアンススコアを更新する必要がある場合があります。この目的のために、コンプライアンススコアを計算するたびに手動で実行する必要があるスケジュール済みジョブがあります。
3. スケジュール済みジョブを実行するには、次に移動します: すべて > スケジュール済み定義 > スケジュール済みジョブ.
4. リストから [階層エンティティのコンプライアンススコアを更新] オンデマンドジョブを選択します。
   前のプロパティの値を切り替えるたびに *Update compliance scores for hierarchy entities* ジョブをオンデマンドで実行し、プロパティの値に従ってすべてのエンティティのコンプライアンススコアを再計算できるようにします。

   プロパティの値を変更した後にオンデマンドジョブを実行しないと、エンティティのコンプライアンススコアの計算に不整合が生じます。

   > **注:**
   > *Update compliance scores for hierarchy entities*ジョブを実行するときは常に、*Update compliance scores for hierarchy entities*ジョブの実行が完了するまで、*Compliance Score V2*スケジュール済みジョブを非アクティブ化する必要があります。このステップは、エンティティのコンプライアンススコア計算プロセスを簡素化するために行う必要がある手動による介入です。
5. [スケジュール済みスクリプト実行] で [今すぐ実行] を選択します。 階層エンティティのコンプライアンススコアを更新します。

コンプライアンススコアを計算する際のロジックの決定

エンティティのコンプライアンススコアの計算は、直接コントロールによって決定されるか、ダウンストリームエンティティと直接コントロールに基づいて、 エンティティ階層ベースのスコアリングプロパティに基づきます。

プロパティに基づいてエンティティスコアを計算

*Compliance Score V2*スケジュール済みジョブは、2 分間隔で定期的に実行されます。コントロールのコンプライアンスステータスが変更されると、ジョブは次回のスケジュールされた実行でレコードを取得し、順番にコンプライアンスを処理します。その後、コンプライアンススコアテーブル [sn_compliance_compliance_score] にエントリが作成されます。

コントロールのコンプライアンスステータスが変更され、エンティティレベルでのスコアの計算が影響を受けるポイントがトリガーポイントです。

直接コントロールの平均と下流エンティティの平均に基づくエンティティのコンプライアンススコア更新シナリオ

エンティティのコンプライアンススコアが影響を受け、エンティティレコードがコンプライアンススコアテーブルに追加されるトリガーポイント:

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

1. ダウンストリームエンティティの 1 つが削除されると、エンティティのコンプライアンススコアが再計算されます。エンティティ階層ベースのスコアリングプロパティが true の場合、親エンティティのコンプライアンススコアは、そのダウンストリームエンティティの平均と直接コントロールの平均に基づいて計算されます。一方、プロパティが false の場合、コンプライアンススコアはその直接コントロールの平均のみに基づいて計算されます。
2. 階層内のアップストリームエンティティが削除されたとき。
3. ダウンストリームエンティティまたはアップストリームエンティティが階層に追加されたとき。
4. 階層内でダウンストリームエンティティまたはアップストリームエンティティが更新されたとき。
5. エンティティがアクティブになったとき。
6. エンティティが非アクティブ化されたとき。
7. コントロールがエンティティに追加されたとき、またはエンティティから削除されたとき。
8. コントロールのステータスが変更されたとき。

*Compliance Score V2*スケジュール済みジョブは、コンプライアンススコアテーブルからレコードを取得してスコアを計算します。エンティティ階層ベースのスコアリングプロパティ値に基づいて、エンティティのコンプライアンススコアを計算するロジックが決定されます。詳細については、「GRC：ポリシーとコンプライアンス管理でインストールされるプロパティ」を参照してください。

コンプライアンスワークスペースを使用してコントロールインジケーターを管理

継続的な監視には、主要なリスクおよびコントロールインジケーターの特定と作成に関連するアクティビティが含まれます。コンプライアンスの概要は、コンプライアンスアドミニストレーターとコンプライアンスマネージャーが利用でき、コンプライアンス要件、全体的なコンプライアンス、およびコンプライアンスのブレークダウンを提供します。

インジケーターのサポート情報は、自動データ収集または手動タスクによって収集できます。インジケーターの結果は、コントロールの問題を作成し、リスクスコアを更新し、監査アクティビティとコントロールテストのサポート情報を提供するために使用されます。

インジケーター

インジケーターは、コントロールとリスクを監視するためにデータを収集し、監査証拠を収集します。インジケーターは単一のコントロールまたはリスクを監視します。

インジケーターテンプレート

インジケーターテンプレートを使用すると、類似するコントロールまたはリスクに複数のインジケーターを作成できます。

注:
エンティティベースのアクセスは、エンティティに関連付けられたオブジェクトへのデータアクセスを管理するためのフレームワークを提供します。アドミニストレーターは、ユーザーまたはユーザーグループを追加するか、エンティティベースのアクセス構成にエンティティユーザーフィールドを使用して、エンティティの関連レコードへのアクセス権を付与できます。詳細については、「エンティティベースのアクセス」を参照してください。ユーザーがこれらの構成に基づいて認定され、最低限必要なロールを持っている場合、次のテーブルにアクセスできます。

- インジケーター
- インジケータータスク
- インジケーターの結果

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンプライアンスの概要

ベースシステムのコンプライアンスの概要レポート

名前	ビジュアル	説明
コンプライアンス要件	ドーナツグラフ	特定のコンプライアンス領域にフォーカスするウェッジを選択します。
全体的なコンプライアンス	ドーナツグラフ	システム内のすべてのコントロール要件の全体的なコンプライアンスを表示します。前のウィジェットで特定のウェッジを選択すると、その領域にフォーカスが移動します。
エンティティ	ドロップダウンリスト	1 つ以上のエンティティを選択して、複数のアイテムのコンプライアンスを表示します。
コントロールステータス	チェックリスト	チェックボックスをオンまたはオフにして、コントロールのステータス別にフィルターレポートを表示します。
各種法令・基準等別のコンプライアンス	棒グラフ	選択したエンティティや各種法令・基準等に応じて、コンプライアンスのレベルを比較します。
コンプライアンスのブレークダウン	マルチレベルピボット	関連する各種法令・基準等別のコントロールコンプライアンスのブレークダウンを表示します。
非準拠のエンティティ	縦棒グラフ	エンティティ別にグループ化された非準拠コントロール要件の数。

自動翻訳

各種法令・基準等

各種法令・基準等は、法令・基準に確実に準拠するためのポリシー、リスク、コントロール、監査、およびその他のプロセスを定義します。

各種法令・基準等はそれぞれレコードで定義され、そのレコードの関連リストには各種法令・基準等の個々の条件が含まれています。

これらの各種法令・基準等関連リストアイテムの関係は、ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションの GRC ワークベンチに表示されます。

注:
各種法令・基準等にコンテンツ参照タグを追加できます。コンテンツ参照タグを使用すると、レコードをフィルタリングして、各種法令・基準等に関連付けられたコンテンツパック、統合、およびユースケースアクセラレータをより簡単に識別できます。

信頼できるソースコンテンツ

各種法令・基準内項目には、相互に関連する可能性のある各種法令・基準等の規定が含まれています。各種法令・基準内項目は、各種法令・基準等を管理可能なテーマに分類します。

引用を作成するか、UCF 各種法令・基準等からインポートして、引用間に必要な関係を作成できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
引用にコンテンツ参照タグを追加できます。コンテンツ参照タグを使用すると、レコードをフィルタリングして、引用に関連付けられたコンテンツパック、統合、およびユースケースアクセラレータをより簡単に識別できます。

コンプライアンスワークスペースを使用してコントロールインジケーターを作成

制御、リスク、監査の証拠のインジケーターデータは、GRC アプリケーションによって測定方法が異なります。

始める前に
必要なロール：sn_compliance_admin、sn_compliance_manager

手順

1. 次のいずれかに移動します。
   - すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース > コントロールモニタリング > すべてのインジケーター.
   - リスク > コントロールモニタリング > すべてのインジケーター.
   - 監査 > コントロールモニタリング > すべてのインジケーター.
2. **[New]** をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

インジケーターフォーム

フィールド	説明
カテゴリ	作成されているインジケーターのタイプ。コントロールインジケーターの場合は [コンプライアンスインジケーター] を、リスクインジケーターの場合は [リスクインジケーター] を選択します。
テンプレートから継承	選択したテンプレートを使用してフォームに入力します。
テンプレート	[テンプレートから継承] チェックボックスをオンにした場合は、フォームの入力に使用するテンプレートを選択します。テンプレートを選択すると、[新規インジケーターを作成 (Create New Indicator)] 画面の残りのフィールドが事前に入力され、読み取り専用に設定されます。詳細については、「コンプライアンスワークスペースを使用して GRC インジケーターテンプレートを作成」を参照してください。
テンプレートを上書き	[テンプレートから継承] チェックボックスをオンにして、フォームのエントリをカスタマイズする場合は、このチェックボックスをオンにします。その後、フォームの一部またはすべてのフィールドを編集できます。
名前	インジケーターの名前。
説明	このインジケーターの説明。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
エンティティ	このインジケーターに関連付けられたエンティティ。
コントロール	このインジケーターに関連付けられたコントロール。
所有グループ	インジケーターを所有するグループ。
所有者	インジケーターオーナー。
方法 (Method)	
タイプ	結果は、タスクのアサインにより手動で、または基本フィルター条件、パフォーマンスアナリティクス、またはスクリプトを使用して自動的に収集できます。 ○ マニュアル ○ 基本 ○ スクリプト
適用先	[アイテム] に関連するエンティティ。
最終結果 - 成功	前回の結果が成功したかどうかを示すオプション。
簡単な説明	このフィールドは、[タイプ] が [手動] の場合に存在します。問題の簡潔な説明。
説明	このフィールドは、[タイプ] が [手動] の場合に存在します。インジケーターの結果の収集のための指示。
必須の値	このフィールドは、[タイプ] が [手動] の場合に存在します。
成功/失敗	このフィールドは、[タイプ] が [基本] の場合に存在します。インジケーターが成功または失敗します。
PA しきい値	このフィールドは、[タイプ] が **[PA** インジケーター] の場合に存在します。関連する PA しきい値。
スクリプト	このフィールドは、[タイプ] が [スクリプト] の場合に存在します。必要なシステム情報を取得するスクリプト。
スケジュール	
収集頻度	インジケーターの結果の収集頻度。インジケータータスクと結果は、インジケータースケジュールに基づいて自動的に生成されます。
次回実行日	インジケーターの結果の次回の収集時刻。
提出データ	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
注: バージョン 10.1 以降、インジケーターの結果またはインジケータータスクから得られるサポートデータレコードの実際の履歴データが表示されます。以前は、収集されたレコードのリアルタイムステータスのみを表示できました。	
テーブル	サポートデータを使用して、他のアプリケーションから裏付け証拠を収集します。
サポートデータフィールド	選択したテーブルに基づくサポートデータフィールド。

4. [**Submit** (送信)] を選択します。

次のタスク

実装している場合 ポリシーとコンプライアンス管理 必要なセットアップ手順が完了しました。に戻る ポリシーとコンプライアンス管理 セットアップチェックリスト をクリックし、必要に応じてオプションの手順に進みます。

コンプライアンスワークスペースを使用して **GRC** インジケーターテンプレートを作成

コンプライアンスマネージャーまたはリスクマネージャーは、コンプライアンスワークスペースで多くのインジケーターを作成できるインジケーターテンプレートを作成します。

始める前に

必要なロール：

- sn_compliance.admin または sn_compliance.manager
- sn_risk.admin または sn_risk.manager
- sn_audit.admin または sn_audit.manager
- sn_grc.user

手順

1. 次のいずれかに移動します。
   - すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース > インジケーター > インジケーターテンプレート.
   - リスク > インジケーター > インジケーターテンプレート.
   - 監査 > インジケーター > インジケーターテンプレート.
2. [作成] リストを選択し、[インジケーター] をクリックします。
3. **[New** (新規)] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

インジケーターテンプレートフォーム

フィールド	説明
名前	インジケーターの名前。
説明	インジケーターの説明。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

フィールド	説明
カテゴリ	インジケーターテンプレートを作成しているカテゴリ。たとえば、[リスク指標テンプレート]を選択して、リスク指標テンプレートを作成します。
有効	インジケーターテンプレートがアクティブかどうかを判断するオプション。
方法 (Method)	
タイプ	インジケーターテンプレートのタイプを判断するために使用する方法。選択肢は次のとおりです。 ○ [手動]：手動インジケーターは、ServiceNow インスタンスから取得できないデータに使用されます。これは、データがサードパーティの営業システムからの顧客データなど外部システムからのものであるためです。 ○ [基本]：基本インジケーターは、インジケーターソースに基づく自動化されたインジケーターです。インジケータソースは、このテーブルのスコアが保存されるテーブルと頻度を指定します。 ○ [スクリプト]：スクリプト化したインジケーターはカスタムスクリプトを使用してデータを収集します。
ターゲットタイプ	ターゲット値のタイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ [なし]：インジケーターのターゲットまたはしきい値を設定しない場合は、このオプションを使用します。 ○ [パーセンテージ]：このオプションを使用して、パーセンテージ値でインジケーターの結果を決定します。 ○ [カウント]：このオプションを使用して、カウント値または合計数でインジケーターの結果を決定します。
値がターゲット値以上の場合の結果	結果構成フィールド。選択肢は次のとおりです。 ○ 合格 ○ 失敗 たとえば、このフィールドに 100 を入力するとします。インジケーターの結果の出力が 100 を超えると、このフィールドに設定された値に基づいて、インジケーターのステータスは合格または失敗になります。
ターゲット	インジケーターが合格か失敗かを決定する値。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
必須の値	手動インジケーターのインジケータータスクで値を必須にするかどうかを決定するオプション。 **注:** このオプションは、[タイプ] フィールドで [手動] が選択されている場合にのみ表示されます。このオプションは、[ターゲットタイプ] フィールドから [カウント] または [パーセンテージ] が選択されている場合に自動的に選択されます。
説明	テンプレートの追加説明。
提出データ	
注: バージョン 10.1 以降、インジケーターの結果またはインジケータータスクから得られるサポートデータレコードの実際の履歴データが表示されます。以前は、収集されたレコードのリアルタイムステータスのみを表示できました。	
提出データを含む	インジケーターを実行するたびにサポートデータまたは証拠の収集を有効にするオプション。
テーブル	サポートデータの収集に使用されるテーブル。
サポートデータフィールド	サポートデータの収集に使用されるソーステーブルのフィールド。
サンプル サイズ	サポートデータの収集に使用する必要があるレコードの最小数。 たとえば、基本インジケーターが大きなテーブルをクエリし、インジケーターの実行ごとに数千のレコードを返すことができます。すべてを保存する必要はありません。それらのレコードのサンプルのみで十分です。サンプルサイズに 100 を入力すると、クエリが数千を返しても 100 レコードのみが保存されます。
基本基準	
基準	ソーステーブルからデータをフィルターする基準。
参照フィールドを使用	[参照フィールド] の使用を有効にするオプション。
参照フィールド	サポートデータテーブルとエンティティの [適用するレコード] フィールド間の接続。
追加の基準	
ターゲットを持つインジケーターを作成するには、詳細フィルター基準を使用します。このセクションは、[タイプ] フィールドで [基本] を選択している場合にのみ表示されます。このセクションは、さらにフィルター基準を提供するために使用されます。	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
追加の基準	ターゲット値を計算するためのデータをフィルタリングするための追加の基準。このセクションは、[ターゲットタイプ] フィールドで [パーセンテージ] が選択されている場合にのみ表示されます。
スケジュール	
収集頻度	インジケーターの結果の収集頻度。インジケータータスクと結果は、インジケータースケジュールに基づいて自動的に生成されます。
期日の期間 (日数)	インジケータータスクの作成から期日までの結果の生成までの期日期間。 作成日に追加された期日期間は、インジケータータスクの期日として反映されます。 このフィールドは、[タイプ] フィールドで [手動] が選択された場合にのみ表示されます。 詳細については、「インジケーターの夜間ジョブのパフォーマンス強化」を参照してください。
最初の開始日	インジケーターの結果の初回収集時刻。このフィールドは、インジケーターまたはインジケーターテンプレートが初めて実行されるときに基づいて自動的に設定されます。このフィールドの値は変更できません。
次回実行日	このインジケーターテンプレートのすべてのダウンストリームインジケーターのインジケーター結果を収集する次回の実行時期。

5. これらのエントリを完了すると、次の関連リストの情報も表示することができます。
   - コントロール目標/リスクステートメント
   - コンテンツ参照

   注:
   [コントロール目標/リスクステートメント] タブを使用すると、同じテンプレートを複数のコントロール目標、リスクステートメント、またはその両方に再利用できます。

6. [送信] を選択します。

インジケーターの夜間ジョブのパフォーマンス強化

並列処理機能をサポートするために、インジケーターを処理するためのインジケーターデータキューと、コントロール、リスク、および問題の更新に関連するイベントを処理し、サポートデータを収集するためのサポートデータキューという 2 つの追加のカスタムキューが導入されました。

インジケーターを効果的に処理するための新しいアーキテクチャ

インジケーターの実行は、効率的な処理のために 2 つのカスタムキューを利用する 3 段階のプロセスを実装することによって最適化されています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

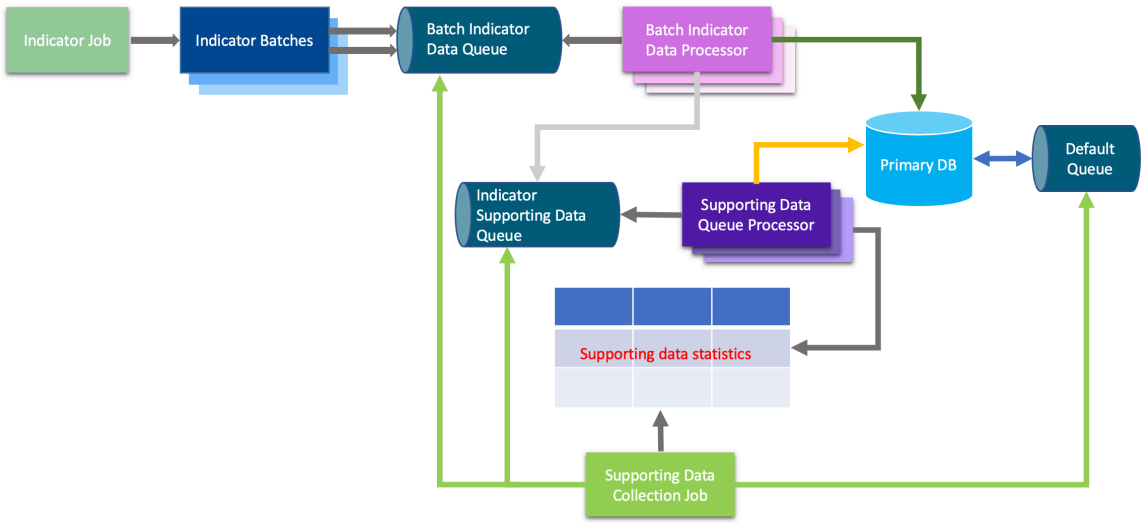
最初のステップでは、処理が必要なインジケーターのセットがバッチインジケーターデータキューのキューに入ります。次に、バッチインジケーターデータプロセッサーがインジケーターを実行し、ステータスを設定し、インジケーターの結果またはタスクを作成します。次に、データ収集をサポートし、コントロール、リスク、問題などの依存オブジェクトを更新するために、インジケーターが別のカスタムキューに移動されます。

2 番目のステップでは、インジケーターサポートデータプロセッサーがインジケーターサポートデータキューからインジケーターレコードを取得し、コントロールまたはリスクステータスを更新します。また、構成に基づいて問題の作成または更新も行われます。その後、サポートデータ収集のために、インジケーター統計テーブルにインジケーターがプッシュされます。

最後に、サポートデータコレクションジョブは、サポートデータ統計テーブルからインジケーターレコードを取得し、インジケーターのサポートデータ収集を開始し、デフォルトキューと追加カスタムキューの両方を利用して効率的な処理を行います。

注:
インジケーター結果のビジネスルールは、インジケータージョブの実行中は実行されません。ただし、インジケータータスクの完了時には、同じビジネスルールが使用されます。インジケータービジネスルールは、実行中のパフォーマンスを向上させるためにインジケータージョブに移動されます。

追加キューを使用したインジケータージョブの処理



このアーキテクチャは、長時間かけて多数のインジケーターの実行をサポートします。サポートデータを収集するために導入されたサポートデータ収集ジョブにより、データ処理プロセスは大幅に改善されます。さらに、データの実行にかかる時間が大幅に短縮されます。

注:
サポートデータ収集ジョブは、サポートデータ収集のため、最初にインジケーターレコードのバッチをデフォルトキューにアサインします。バッチ処理キューおよびサポートデータキューの可用性に応じて、スケジュール済みジョブは、インジケーターレコードの後に続くバッチをラウンドロビン方式で、これらのキューに割り当てます (キューが空いており処理が可能な場合のみ)。

データモデルの変更

インジケーターテンプレートフォームに追加された [サンプルのコレクションタイプ] フィールドには、[カウント] または [パーセンテージ] のオプションがあります。デフォルト値は [カウント] です。[パーセンテージ] を選択した場合は、サポートデータを収集するためのパーセンテージ値を指定できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インジケータータスクの期日を把握するために、インジケーターテンプレートおよびインジケーターフォームの手動インジケーターに [期日の期間 (日数)] フィールドが追加されました。この期日に基づいて、インジケータータスクのオーナーにリマインダーメールが送信されます。

インジケーターサポートデータテーブルに導入された新しいフィールド (JSON タイプ) は、効率的なデータ管理に役立ちます。

- 関連テーブル変更の詳細については、「ガバナンス、リスク、コンプライアンスとともにインストールされるテーブル」を参照してください。
- 追加のシステムのプロパティの詳細については、「ガバナンス、リスク、コンプライアンス のプロパティ」を参照してください。
- インジケーターフォームの変更については、「GRC インジケーターを作成する」を参照してください。
- コンプライアンスワークスペースのインジケーターテンプレートフォームの変更については、「コンプライアンスワークスペースを使用して GRC インジケーターテンプレートを作成」を参照してください。
- クラシック UI のインジケーターテンプレートフォームの変更については、「GRC インジケーターテンプレートを作成する」を参照してください。

コンプライアンスワークスペースを使用して証拠要求を管理

証拠要求は、監査中にサポートドキュメントを要求するために監査およびコンプライアンスチームによって使用されます。監査人およびコンプライアンスチームは、防御の第一線にこれらのドキュメントを要求します。

証拠要求：証拠とは、監査人が監査意見を決定する際に使用するすべての情報です。証拠には、財務ステートメントの基礎となる会計レコードに含まれる情報やその他の情報が含まれます。証拠は本質的に累積的です。これには、監査中に実行された監査手順から取得された証拠が含まれます。証拠には、以前の監査などの他のソースから取得された監査証拠も含まれる場合があります。

証拠要求は、監査の準備中または監査の告知後の計画フェーズ中に頻繁に導入されます。要求されたドキュメントは、監査チームが、スコープ内のコントロールとプロセスを理解し、フィールドワークテストを開始するために使用されます。監査はさまざまなステージを経て進行するため、監査チームは頻繁に新しい要求をリストに追加します。コンプライアンスチームは、収集された証拠をコントロールテストに使用します。

バージョン 11.0.2 リリース以降、予定されていない証拠要求は 監査管理 および ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションによって次のようにサポートされています。

- 証拠は、エンゲージメントおよびすべての監査テーブルから要求できます。証拠を要求する方法を理解するには、「監査の証拠を要求する」を参照してください。
- コンプライアンスチームは、コントロールオーナー、ビジネスステークホルダー、およびプロセスオーナーに証拠を要求できます。
- 監査チームは、コントロールオーナー、ビジネスステークホルダー、プロセスオーナー、およびコンプライアンスチームに証拠を要求できます。
- アサインされたユーザーは、サービスポータル から直接証拠を提供できます。
- マネージャーは、機密性や重要度などのさまざまな基準に基づいて、証拠要求を承認できます。
- 要求者とアサイニー間のコミュニケーションチャネルが改善され、承認プロセスが簡素化されています。
- 改善された機密性の制約は、権限のないユーザーが要求情報を表示することを防止します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンプライアンスワークスペースを使用して監査中に証拠を要求

コンプライアンスワークスペースを使用して監査中の任意のステージで証拠を要求します。証拠が要求されたアイテムの詳細は、証拠の提供責任者にも提供されます。

始める前に

必要なロール：sn_audit.user

このタスクについて

証拠は、次の 3 通りの方法で要求できます。

自分の証拠

[自分の証拠 **(My Evidence)]** モジュールから証拠レコードを作成します。

証拠を要求

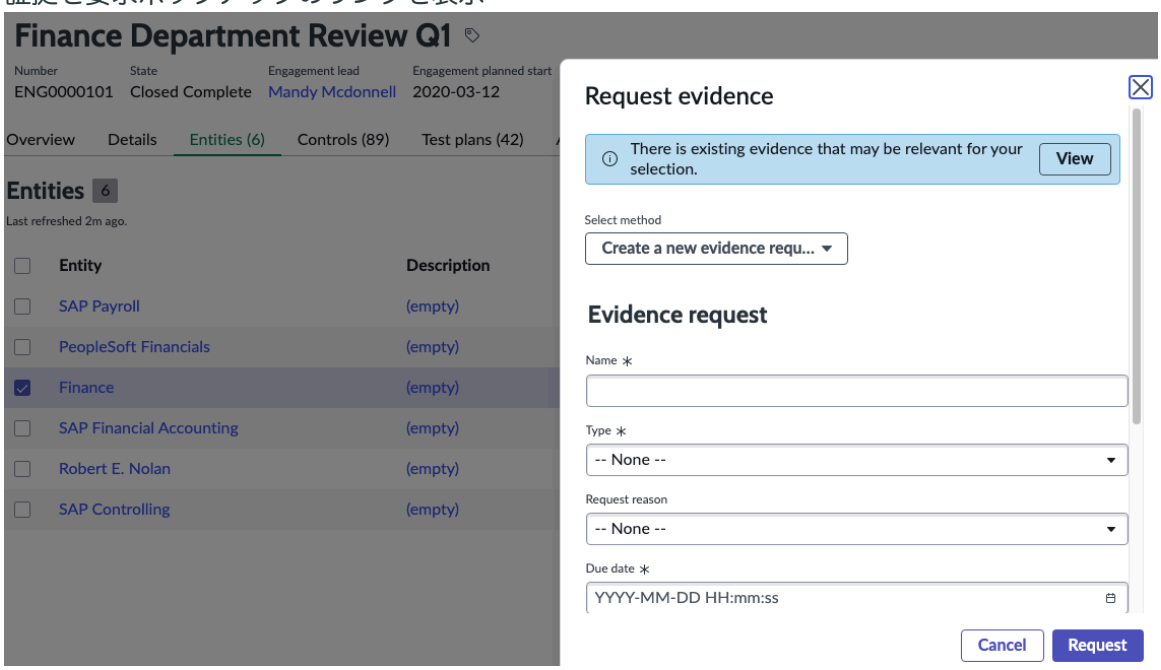
エンゲージメントレコード内のエンティティ、コントロール、監査タスク、コントロールテストの問題、およびその他の問題から作成する。これらのソースから証拠を要求するには、 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース. ワークスペースのリストビューで、[コントロールテスト] リストの [エンゲージメント] を選択します。エンゲージメントレコードを開き、証拠を要求する関連リストを選択します。[証拠を要求] ボタンを選択します。ここでは、証拠要求を作成するか、既存の証拠要求に要求を追加できます。証拠要求は作成されますが、証拠要求タスクは作成されません。

再利用可能な、エンゲージメントの関連アイテムテーブルのいずれかに既に存在する証拠レコードをユーザーに通知できます。

1. 新しい証拠要求を作成するには、[証拠を要求] ポップアップの [方法を選択] リストで [新しい証拠要求を作成] を選択します。詳細を入力し、[要求] ボタンを選択します。
2. 既存の関連証拠に関する情報を表示するには、[証拠を要求] ポップアップの [表示] リンクを選択します。

> **注:**
> 既存の証拠がない場合、メッセージは [証拠を要求] ポップアップに表示されません。

証拠を要求ポップアップのリンクを表示



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. 関連アイテムで作成された既存のすべての証拠を表示するには、[証拠] 関連リストを選択します。

   証拠が [完了してクローズ] ステータスの場合、[新規]、[既存の証拠を追加]、[削除]、[削除] などの UI アクションボタンは無効になります。これらの UI アクションは、エンゲージメントまたはその他の監査およびコンプライアンスオブジェクトがアクティブ状況である場合にのみ実行できます。

4. 既存の証拠を追加するには、[既存の証拠を追加] ボタンを選択し、証拠を選択します。

   注:
   [既存の証拠を追加] ボタンは、コンプライアンスワークスペース内のすべてのコンプライアンスおよび監査オブジェクトの証拠関連アイテム (エンゲージメント、監査タスク、問題、ポリシー、エンティティ、コントロール、コントロール目標、各種法令・基準等、引用、証拠要求など) で使用できます。

5. エンゲージメントにリンクされた証拠の関連付けを削除するには、[証拠] 関連リストで証拠を選択し、[削除] ボタンを選択します。

   注:
   このアクションは、既存の証拠レコードの関連付けをエンゲージメントから削除するだけで、データベースからは証拠レコードを削除しません。

注:
ログインユーザーは、証拠レコードが存在するエンゲージメントへのアクセス権を持っているか、それらを表示して追加するレコードへのアクセス権を持っている必要があります。ログインしているユーザーがこれらのレコードにアクセスできない場合、これらの関連アイテムに証拠が存在しても、ユーザーが追加できるようには表示されません。

エンティティ、コントロール、コントロール目標、コントロールテスト、エンゲージメント、問題テーブル

エンティティ、コントロール、コントロール目標、コントロールテスト、エンゲージメント、問題などのテーブルから作成します。ただし、ユーザーがこれらのテーブルから証拠を要求すると、実際の証拠要求タスクではなく証拠要求が作成されます。ユーザーは、生成された証拠要求レコードに移動し、証拠要求タスクを追加する必要があります。

この手順では、[自分の証拠 **(My Evidence)]** モジュールから証拠を要求する方法について説明します。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. コンプライアンスワークスペース で、リストアイコン ( ) を選択します。
3. 移動先 証拠要求 > 自分の要求.
4. **[New** (新規)] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

証拠要求フォーム

フィールド	説明
番号	証拠要求の一意の番号。
名前	この要求の名前。
要求者	証拠を要求するユーザー。このフィールドは、自動的に入力されます。
代理で要求済み	証拠を要求されているユーザー。
タイプ	作成される証拠のタイプ。[監査] または [コンプライアンス] のいずれかです。
要求理由	証拠を要求する理由。
状況	要求のステータス。デフォルトのステータスは [ドラフト] です。
サブステート	要求の追加ステータス。
説明	証拠要求の詳細な説明。
アサイン	
アサイン先グループ	証拠を提供するためにアサインされたグループ。
アサイン先	証拠の提供を担当するユーザー。
ウォッチリスト	収集された証拠の表示に関心があるユーザー。ウォッチリストに追加されたユーザーは、 監査 > 証拠要求 > 証拠要求ウォッチリスト をクリックして要求を表示します。
スケジュール	
期日	証拠の送信予定日。
オープン	要求がオープンされた日付。この日付は自動的に更新されます。
クローズ済み	要求がクローズされた日付。この日付は自動的に更新されます。
アクティビティ	
作業メモ	必要な可能性があるメモを入力します。
アクティビティ	要求のアクティビティログ。
機密性	
機密	レコードの機密性を有効にするオプション。アサインされた機密ユーザーまたはユーザーの機密グループのみがレコードにアクセスできます。 機密オプションの詳細については、「監査およびコンプライアンスレコードの機密性フラグ」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. フォームを保存します。
[概要] ページのステッパーで証拠のステータスを監視します。証拠を受け入れ、証拠のリビジョンを要求し、情報を要求すると、レコードは一連の論理ステップを進行します。

   [証拠収集の詳細] 関連リストが表示されます。この関連リストは、証拠が要求されているアイテムを一覧表示するために使用されます。

7. [新規] を選択します。
8. フォームのフィールドに入力します。

証拠収集の詳細フォーム

フィールド	説明
数値	証拠収集の詳細の一意の番号。
名前	この要求の名前。
証拠収集タイプ	証拠が要求されているレコード。 要求がコンプライアンスユーザーロールを持つユーザーによって入力された場合、使用可能なオプションは次のとおりです。 ○ 各種法令・基準等 ○ 引用 ○ コントロール ○ コントロール目標 ○ コントロールテスト ○ エンティティ ○ 問題 ○ ポリシー 要求が監査ユーザーロールを持つユーザーによって入力された場合、使用可能なオプションは次のとおりです。 ○ 監査タスク ○ コントロール ○ コントロール目標 ○ コントロールテスト ○ エンゲージメント ○ エンティティ ○ 問題
証拠対象	証拠が適用されるすべてのテーブルを一覧表示します。
証拠要求	証拠要求タスクの一意の番号。
アサイン	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
アサイン先グループ	証拠を提供するためにアサインされたグループ。このグループのユーザーには、sn_grc.business_user ロールが必要です。
アサイン先	証拠の提供を担当するユーザー。
説明	
証拠収集手順	証拠を提供するための指示。たとえば、サポートドキュメント、ファイルなどのリストです。

9. [保存] を選択します。
10. [証拠要求を選択] を選択します。
    証拠要求が既に [対応中] ステータスであり、新しい証拠収集の詳細が追加された場合、証拠要求タスクはすぐにアサイニーに送信されます。
    [証拠] 関連リストに証拠のリストが表示され、要求をアサインされたユーザーは、要求された証拠を提供するためのメール通知を受信します。また、要求のステータスが [対応中] に変更されます。証拠要求プロセスフローを通じて進行するため、説明を表示し、また概要ページのステッパーで証拠要求のステータスを監視できます。

コンプライアンスワークスペースを使用して要求された証拠を提供

コンプライアンスワークスペースを使用して、要求されたときに証拠を提供できます。証拠が要求されると、証拠を提供する必要があるユーザーはメールを受信します。証拠を提供するプロセスが開始されます。

始める前に
必要なロール：sn_grc.business_user、sn_grc.business_user_lite

このタスクについて
アサイニーは、要求された証拠を提供するためのメールを受信すると、要求された証拠を提供するか、別のユーザーに要求を再アサインすることができます。アサイニーは、要求された証拠を送信する前に承認者を追加して、証拠のセキュリティを強化することもできます。アサイニーが要求を他のユーザーに再アサインした場合、元のアサイニーは要求を表示できなくなります。提供された証拠が承認者を必要としない場合、アサイニーは証拠のレビューを直接要求でき、要求者は証拠をレビューするための通知を受け取ります。

手順
1. 移動先 監査 > 証拠要求 > 自分の証拠要求タスク.
2. 証拠を提供するレコードを開きます。
3. [作業を承認] をクリックします。
4. フォームのフィールドに入力します。

証拠フォーム

フィールド	説明
番号	証拠要求の番号。この値はデフォルトで生成されます。
要求者	証拠を要求するユーザー。この値はデフォルトで生成されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	[アサイン先] フィールドの承認者、要求者、ウォッチリストのメンバー、またはユーザーである場合、証拠が [新規] または [対応中] 状況であれば、[ウォッチリスト]、[名前]、および [説明] フィールドの詳細を編集できます。
代理で要求済み	証拠を要求されているユーザー。この値はデフォルトで生成されます。
アサイン先グループ	証拠を提供するためにアサインされたグループ。このグループのユーザーには、sn_grc.business_user ロールが必要です。
アサイン先	証拠の提供を担当するユーザー。この値はデフォルトで生成されます。
状況	要求のステータス。
サブステート	なし。この値はデフォルトで生成されます。
要求理由	証拠を要求する理由。
承認者	レビューのために要求者に返される前に証拠を承認するユーザー。通常、承認者は証拠を提供するユーザーのマネージャーです。
ウォッチリスト	収集された証拠の表示に関心があるユーザー。
名前	証拠要求の名前。名前はデフォルトで [証拠収集の詳細] の名前になります。
説明	証拠要求の詳細な説明。説明は、デフォルトで証拠要求フォームに指定された説明になります。
要求の詳細	
証拠要求	タスクに関連付けられた証拠要求の一意の ID。この値はデフォルトで生成され、証拠を要求するために作成されたレコードからフェッチされます。
証拠対象	証拠が要求されているレコード。
証拠対象の説明	証拠が要求されているレコードの説明。この値はデフォルトで生成され、証拠を要求するために作成されたレコードからフェッチされます。
証拠収集手順	証拠を収集するための指示。 マネージャーまたは要求者は、証拠要求タスクが対応中ステータスのときにこのフィールドを編集できます。

5. 添付された証拠の承認を要求するには、[承認要求] をクリックします。
6. 承認者が必要ない場合は、[レビューを要求] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンプライアンスワークスペースを使用して証拠レビュー前に証拠を承認

コンプライアンスワークスペースを使用して、要求者が証拠を表示する前に、提供されている証拠を承認します。証拠要求に応じて証拠が提供される場合、証拠を要求者に送り返す前に、その証拠を承認する必要があります。この機能により、証拠のセキュリティと機密性が保証されます。

始める前に
必要なロール：sn_grc.business_user、sn_grc.business_user_lite

このタスクについて
承認者は、証拠を承認する要求を受信した後、次のいずれかを実行できます。

- 問題や懸念がない場合は、要求を承認する。
- 添付された証拠が正しくないか、修正が必要な場合は、その証拠のリビジョンを要求する。
- 承認者が添付された証拠に関する詳細を必要とする場合は、情報を要求する。

手順

1. 移動先 監査 > 証拠要求 > 自分の承認.
2. 証拠を承認するレコードを開きます。
3. フォームで添付された証拠をレビューし、次のいずれかのオプションをクリックします。

オプション	説明
承認	添付された証拠を承認します。要求者は、提供された証拠を取得します。
リビジョンを要求	添付された証拠のレビューを要求します。リビジョンを要求するときにコメントを入力します。アサイニーは、添付された証拠をレビューするための通知を受け取ります。
情報を要求	添付された証拠に関する詳細情報を求めます。アサイニーは、添付された証拠に関する詳細を提供するための通知を受け取ります。

自動翻訳

コンプライアンスワークスペースを使用して証拠要求を承認、却下、またはキャンセル

要求した証拠を受信したら、証拠要求を承認、却下、またはキャンセルする。コンプライアンスワークスペースを使用して証拠要求を要求した後、要求者が証拠を受け取ると、その証拠要求を承認、却下、またはキャンセルできます。

始める前に
必要なロール：sn_compliance.user

手順

1. 移動先 監査 > 証拠要求 > 自分の処理待ちのレビュー.
2. 証拠フォームで、添付された証拠をレビューし、次のいずれかのオプションをクリックします。

オプション	説明
証拠を承認	提供された証拠を承認します。
リビジョンを要求	証拠のレビューを要求します。適切でない場合は、変更を要求します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
キャンセル	証拠要求タスクをキャンセルします。
削除	証拠要求タスクを削除します。

コンプライアンスワークスペースを使用して関連する証拠を確認

証拠要求機能には、関連する証拠と呼ばれる関連リストが含まれていますが、これはデフォルトでは表示されません。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
この関連リストは、現在のレコードに対して直接要求されていないが、関連レコードに関連付けられている証拠のリストを提供します。たとえば、コントロール目標フォームの関連証拠リストには、関連するコントロールに対して要求された証拠が表示されます。
関連証拠関連リストは、証拠要求機能全体でさまざまなフォームで使用できます。ただし、ベースシステムには表示されません。利用可能な任意のフォームをカスタマイズできますが、この関連リストを有効にするとシステムのパフォーマンスに影響を与える可能性があることに注意してください。

関連証拠関連リストを表示できるテーブル

テーブル名	表示される関連証拠のタイプ
各種法令・基準等	この各種法令・基準等にマッピングされた証拠要求タスク。
信頼できるソースコンテンツ	引用に関連付けられたコントロール目標に対して作成された証拠要求タスク。
コントロール	コントロールテストで作成された証拠要求タスクとコントロールに対して作成された問題。
コントロール目標	コントロール目標に関連付けられたコントロールに対して作成された証拠要求タスク。
コントロールテスト	コントロールテストに関連付けられたコントロールに対して作成された証拠要求タスク。
エンゲージメント	エンティティで作成された証拠要求タスク、コントロール、監査タスク、コントロールテストの問題、およびエンゲージメントにマッピングされた問題が表示されます。
エンティティ	エンティティ、そのエンティティで作成された問題に関連付けられたコントロールで作成された証拠要求タスク。
ポリシー	ポリシーに関連付けられたコントロール目標に対して作成された証拠要求タスク。

手順
1. [証拠要求] 関連リストを表示するフォームに移動します。
2. フォームヘッダーを右クリックし、 構成 > 関連リスト.

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [利用可能] ボックスで [関連する証拠] アイテムを検索し、それを [選択済み] ボックスに移動します。
4. [保存] をクリックします。

コンプライアンスワークスペースでのポリシーの作成とレッドライン

ポリシーは、注意深く監視し、定期的に改訂することで有効性を保ちます。定期的にレビューおよび更新することで、組織は更新されたポリシーを維持し、監査およびコンプライアンスのリスクを回避できます。

組織のポリシーは、組織の成長や組織構造の変化によって、時間の経過とともに古くなる傾向があります。これらの理由から、ポリシーを注意深く監視し、常に改訂する必要があります。

ポリシーオーナー、協力者、レビュー担当者、および承認者がポリシーの作成とレッドラインを行うことができます。監査目的で維持する必要のある複数のバージョンのポリシー結果をレビューして再作成します。

ポリシーレッドラインの主なメリット

以下を有効にすることで、全体的なポリシーの作成とレッドラインのエクスペリエンスが向上します。

- ポリシーオーナー、協力者、レビュー担当者で O365 または Google ドライブ を使用して共同作業を行う。
- レッドラインおよびレビュー機能。

主な機能

1. ポリシーオーナーと協力者は、O365 または Google ドライブ を使用して、共同でポリシーのドラフトを作成できます。
2. ポリシーレビュー担当者は、共同でポリシーのレビューおよびレッドラインを行うことができます。
3. 承認者はポリシーをレビューおよび承認できます。
4. さまざまなバージョンのポリシーを維持し、その履歴を保持する機能。
5. ドキュメントのポリシーテキストを、HTML のポリシーテキストフィールドに形式を保持したままコピーする機能。
6. ポリシーを PDF 形式に変換する機能。
7. ポリシーの作成、レッドライン、および公開を通じてユーザーをガイドすることで、ユーザーエクスペリエンスを簡素化します。

レッドライン用のポリシーテキストのインポート

文言の編集を実行できない場合は、ポリシーテキストを添付ファイルとしてインポートします。

始める前に

必要なロール:sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst

このタスクについて

コンテンツをインポートするには、自分がポリシーオーナーであり、ポリシーが [ドラフト] ステータスである必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. コンプライアンスワークスペース で、リストアイコン ( ) を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. 移動先 コンプライアンスライブラリ > 自分のポリシー.
   新しいポリシーを作成する か、レコードを開いてレッドライン機能を有効にすることができます。
4. 開くポリシーを選択します。
5. [ポリシーテキスト] 関連リストを選択して、ポリシーテキストの内容を表示します。
   Microsoft または Google ドライブ 統合がない場合は、ポリシーテキストを添付ファイルとしてインポートできます。コンテンツをインポートするには、自分がポリシーオーナーであり、ポリシーが [ドラフト] ステータスである必要があります。
6. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > **GRC** のプロパティ.
7. *Select a file sharing service to host documents and attachments* システムプロパティリストで [なし] オプションを選択します。

   a. [ポリシーテキストをインポート] ボタンを選択します。

   b. [インポートポリシー] テキストポップアップで [ファイルを追加] を選択します。

   c. [インポート **(Import)**] を選択します。
      ファイルのコンテンツは [ポリシーテキスト] フィールドでプレビューできます。

ポリシーのレッドライン機能を有効にするための前提条件

ポリシー協力者が コンプライアンスワークスペース でポリシーのレッドライン機能を使用するには、特定の構成が必要です。

重要:

現在、ポリシーの作成とレッドライン機能は、ServiceNow クラウドベースの顧客のみが利用できます。

クラウドホスティングサービスのスポークサポート

ポリシー作成に必要なスポーク - との統合 Microsoft Office 365

- Microsoft OneDrive スポーク – 2.1.1
- ドキュメントサービスフレームワーク用 Microsoft OneDrive スポーク - 1.0.5

ポリシー作成に必要なスポーク - との統合 Microsoft SharePoint

- Microsoft OneDrive スポーク 2.3.1
- OneDrive 用のドキュメントサービスフレームワーク– 2.0.0

ポリシー作成に必要なスポーク - との統合 Google ドライブ

- Google ドライブ 用ドキュメントサービスフレームワークスポーク - 1.0.1
- Google ドライブ スポーク – 1.4.1

注:
コンプライアンスワークスペース に含まれる統合ハブのエンタイトルメントは、ポリシー作成 - O365 との統合用および Google ドライブ との統合用です。Microsoft との統合または Google ドライブ との統合を使用するには、コンプライアンスワークスペース 製品に含まれていないハブ統合トランザクションと、オートメーションエンジンまたは統合ハブのエンタイトルメントが必要です。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

クラウドホスティングサービスへの接続

ポリシー協力者が コンプライアンスワークスペース でポリシーのレッドライン機能を使用するには、以下の構成が必要です。

注:
クラウドホスティングサービスの Microsoft または Google ドライブ のいずれかとのみ接続を確立できます。

Microsoft は、Microsoft OneDrive と Microsoft SharePoint の両方を意味します。

クラウドホスティングサービスとの接続の確立

Microsoft OneDrive との接続

Microsoft OneDrive で ServiceNow からのアクションを実行するには、まず Microsoft OneDrive を設定する必要があります。詳細については、「Setup Microsoft OneDrive for Document Services」を参照してください。

注:
接続を設定するには、email、openid、profile、Files.ReadWrite、offline_access、User.Read、User.ReadBasic. などの Microsoft Azure アプリのアクセス許可が必要です。

Microsoft SharePoint との接続

Microsoft SharePoint で ServiceNow からのアクションを実行するには、まず Microsoft SharePoint を設定する必要があります。詳細については、「Setup Microsoft OneDrive for Document Services」を参照してください。

ServiceNow で構成された Microsoft OneDrive セットアップは、Microsoft SharePoint で行われるものと同じです。ただし、Microsoft SharePointにはMicrosoft Azureアプリの権限が必要です。

注:
接続を設定するには、email、openid、profile、Files.ReadWrite、offline_access、User.Read、User.ReadBasic. などの Microsoft Azure アプリのアクセス許可が必要です。

Google ドライブ との接続

クラウドホスティングサービスとして Google ドライブ をセットアップし、Google ドライブ にあるポリシーテキストドキュメントを作成または更新するための要件は次のとおりです。

1. Set up Google Drive spoke アカウント
2. ドキュメントサービスを Google ドライブと統合します。詳細については、「Document Services Framework for Google Drive」を参照してください。
3. ServiceNowインスタンスから Google ドキュメントのドキュメントを管理するには、ServiceNowインスタンスを Google ドキュメントと統合する必要があります。詳細については、「Set up the Google Docs」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クラウドホスティングサービスに接続するためのシステムプロパティの設定

コンプライアンスワークスペースでポリシーのレッドラインを使用するためにシステムプロパティを有効化する

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > **GRC** のプロパティ.
   a. Microsoft OneDrive をクラウドホスティングサービスとしてオプトインするには、*`Select a file sharing service to host documents and attachments`* システムプロパティリストで **[One drive]** を選択します。

      `Select a file sharing service to host documents and attachments` システムプロパティリストで [なし] を選択すると、ポリシーテキストをインポートできます。詳細については、「レッドライン用のポリシーテキストのインポート」を参照してください。

   b. Google ドライブ をクラウドホスティングサービスとしてオプトインするには、*`Select a file sharing service to host documents and attachments`* システムプロパティリストで **[Google drive]** を選択します。

   c. Microsoft SharePoint をオプトインするには、*`Select a file sharing service to host documents and attachments`* システムプロパティリストで **[SharePoint]** を選択します。

2. *`Default folder path where documents and attachments will be located. You can organize files in sub-folders within this path`* システムのプロパティリストで Microsoft OneDrive に作成するフォルダーパスを設定します。

mp_document_user ロールを指定する

ポリシーレッドラインドキュメント関連テーブルにアクセスするには、mp_document_user ロールが必要です。このロールは、ポリシーのレッドライン機能を使用して関連ドキュメントを作成、更新、および削除するために必要です。

システムアドミニストレーターはクラウドホスティング接続を確立し、システムプロパティを有効にして、ポリシーのレッドラインユーザーに mp_document_user ロールおよびコンプライアンスユーザー (sn_compliance.user) ロールを提供できます。

クラウドドキュメントからのポリシーテキストの作成と関連付け

ポリシーレコードのポリシーテキストを作成して、Microsoft OneDrive、Google ドライブ、またはMicrosoft SharePointに存在する任意のドキュメントに関連付けることができます。ポリシーテキストとドキュメントをクラウドで同期し、公開用に最新バージョンをポリシーに添付できます。

注:
ポリシーのレッドラインは、ServiceNow AI Platform ではなく コンプライアンスワークスペース のポリシー作成に対してのみ有効です。

ポリシーのレッドライン機能は ServiceNow AI Platform では利用できませんが、ServiceNow AI Platform でポリシーにアクセスすると、コンプライアンスワークスペースでポリシーのレッドラインを有効にするために行われた次の変更もポリシーフォームに表示されます。

- [オーナー] フィールドは必須です。
- 承認を要求する前に、承認者を特定する必要があります。以前は、承認者がいなくてもポリシーを自動公開できました。
- [貢献者] フィールドが追加されました。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ポリシー履歴関連リストが利用可能です。
- [アクティビティ] フィールドが追加されました。

ただし、これらの変更は コンプライアンスワークスペースのポリシーのレッドライン機能をサポートしており、ServiceNow AI Platform のポリシー関連のアクティビティはサポートしていません。

文脈上、クラウドは Microsoft OneDrive、Microsoft SharePoint、Google ドライブに存在するドキュメントを指します。

でポリシーテキストドキュメントを作成して関連付ける **Microsoft OneDrive**

Microsoft OneDrive でポリシーテキストドキュメントを作成し、承認者、レビュー担当者、および貢献者によるドキュメント編集を有効にします。ドキュメントをステークホルダーと共有し、リアルタイムで共同作業して編集できます。

始める前に
必要なロール：sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst、mp_document_user

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. コンプライアンスワークスペース で、リストアイコン ( ) を選択します。
3. 移動先 コンプライアンスライブラリ > 自分のポリシー.
   新しいポリシーを作成する か、レコードを開いてレッドライン機能を有効にすることができます。
4. 開くポリシーを選択します。
5. Microsoft OneDrive の場合、[ポリシーテキスト] 関連リストを選択して、ポリシーテキストの内容を表示します。

   a. [ドキュメントの編集を有効にする **(Enable document editing)**] ボタンを選択します。
   ポリシーが [ドラフト] ステータスの場合、ポリシーオーナーは単独でドキュメントを作成するか、Microsoft OneDrive から ドキュメントを関連付けて、承認者、レビュー担当者、および貢献者がポリシーテキストを編集できるようにすることができます。

   b. ポリシーオーナーとしてドキュメントを作成するには、[ドキュメントの編集を有効にする **(Enable document editing)**] リストで [新規ドキュメント作成] を選択します。

   c. [フォルダーの場所] フィールドに、ドキュメントが存在するフォルダーのパスを入力します。
   たとえば、GRC/Folder です。

   d. [ドキュメント名] フィールドにドキュメントの名前を入力します。

   e. [作成] を選択します。

   f. 作成されたドキュメントを表示するには、**[Word** で開く] ボタンを選択します。

6. ドキュメントへの読み取りまたは書き込みアクセス権を持つユーザーを表示するには、[ドキュメントアクセス] 関連リストに移動します。
7. 別の ドキュメント を作成するか、レッドラインが有効なポリシーの別の ドキュメント に接続するには、[ドキュメントの編集を有効にする] ボタンを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

別のドキュメントを作成するには、[新規ドキュメントを作成] を選択すると、[ドキュメントを作成] ポップアップが開きます。

8. [ポリシーテキスト] フィールドのドキュメントのコンテンツを更新するには、ドキュメントリンクの下にある [更新] リンクを選択します。
9. ポリシーのドラフトが作成され、完了すると、ポリシーオーナーは [レビューを要求] ボタンを選択してレビューを要求できます。
10. [レビューを要求] ポップアップでレビュー担当者へのメッセージを入力します。
11. [要求] を選択します。
レビュー担当者は、[タスク] ビューの [自分の保留中タスク] にログインすると、レビューの準備ができていればポリシーを表示できます。
12. [レビューを送信] ボタンを選択します。
ポリシーテキストを確認し、[レビューを送信] ポップアップでコメントを追加して送信することができます。
13. ドキュメントをプレビューし、協力者が編集した後に最新の更新を取得するには、[ポリシーテキスト] タブの [更新] リンクを選択します。
ポリシーオーナーは、 Microsoft OneDrive でドキュメントのコンテンツを編集して、クラウド上のドキュメントとポリシーのポリシーテキスト間の同期を維持できます。

    ポリシーオーナーとレビュー担当者間のすべてのアクティビティは、[詳細] 関連リストの [アクティビティ] タブに取り込まれます。すべてのレビュー担当者がレビューを完了している場合、ポリシーオーナーは公開チェックリストを完了することができます。

14. [公開チェックリストを完了する] ボタンを選択します。
すべてのレビューが完了したら、ポリシーオーナーは公開プロセスを完了できます。このアクションにより、プレイブックが作成されます。ポリシーオーナーは、承認を要求する前に公開チェックリストを確認する必要があります。「Complete publishing checklist for the policy and request approval (ポリシーの公開チェックリストを完了し、承認を要求する)」を参照してください。
15. ポリシーの履歴を表示するには、[ポリシー履歴] 関連リストを選択します。
詳細については、「レッドラインが有効なポリシーの履歴を表示」を参照してください。

Microsoft OneDrive にある既存のドキュメントをポリシーに接続する

Microsoft OneDrive 内にドキュメントを作成する代わりに、Microsoft OneDrive 内の既存のポリシードキュメントのレッドラインを有効にします。

始める前に

必要なロール：sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst、mp_document_user

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. コンプライアンスワークスペース で、リストアイコン ( ) を選択します。
3. 移動先 コンプライアンスライブラリ > 自分のポリシー.
4. ポリシーを選択します。
5. [ポリシーテキスト] 関連リストを選択して、ポリシーの内容を表示します。
ポリシーに関連付けるコンテンツを含むドキュメントが Microsoft OneDrive に既にある場合は、そのドキュメントを関連付けることができます。
6. [ドキュメントの編集を有効にする **(Enable document editing)**] リストを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポリシーが [ドラフト] ステータスの場合、ポリシーオーナーのみに限り、Microsoft OneDrive からドキュメントを関連付けて、承認者、レビュー担当者、および貢献者がポリシーテキストを編集できるようにすることができます。

7. 既存のドキュメントをレッドラインが有効になっているポリシーにリンクするには、[ドキュメントの編集を有効にする] リストで [既存ドキュメントを接続] を選択します。
   a. [フォルダーの場所] フィールドにフォルダーの場所を入力します。
   b. [ドキュメント名] フィールドにドキュメントの名前を入力します。
   c. [接続] を選択します。
   d. ドキュメントを開くには、リンクを選択します。
   e. [ポリシーテキスト] フィールドのドキュメントのコンテンツを更新するには、ドキュメントリンクの下にある [更新] リンクを選択します。

   別のドキュメントを作成したり、既にレッドラインが有効になっているポリシーの別のドキュメントに接続したりすることが可能です。
8. 別のドキュメントを作成するか、レッドラインが有効なポリシーの別のドキュメントに接続するには、[ドキュメントを変更] ボタンを選択します。
   - 別のドキュメントを作成するには、[新規ドキュメントを作成] を選択すると、[ドキュメントを作成] ポップアップが開きます。
   - 別のドキュメントに接続するには、[既存のドキュメントを接続] を選択すると、[既存のドキュメントを接続] ポップアップが開きます。

   a. [フォルダーの場所] フィールドに、ドキュメントが存在するフォルダーのパスを入力します。
   b. [ドキュメント名] フィールドにドキュメントの名前を入力します。
   c. [作成] を選択します。
   d. [ポリシーテキスト] フィールドのドキュメントのコンテンツを更新するには、ドキュメントリンクの下にある [更新] リンクを選択します。

への **Microsoft Word** ドキュメントのアップロード **Microsoft OneDrive**

ローカルマシンに存在する Microsoft Word ドキュメントをアップロードして Microsoft OneDrive し、ドキュメントをポリシーにリンクします。ユーザーは、任意のデバイスからドキュメントにアクセスし、複数のユーザーがポリシードキュメントで共同作業を行うことができます。

始める前に

必要なロール：sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst、mp_document_user

> **注:**
> Microsoft Wordドキュメントをクラウドにアップロードするための前提条件手順が適切に設定されていることを確認します。詳細については、「ポリシーのレッドライン機能を有効にするための前提条件」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. コンプライアンスワークスペース で、リストアイコン ( ) を選択します。
3. 移動先 コンプライアンスライブラリ > 自分のポリシー.
4. ポリシーを選択し、[ポリシーテキスト] 関連リストをクリックして、ポリシーの内容を表示します。

   マシンにローカルに存在する Microsoft Word ドキュメントをアップロードできます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

5. ローカルマシンに存在する Microsoft Word ドキュメントを Microsoft OneDriveにアップロードするには、[ドキュメントの編集を有効にする]ボタンを選択します。
6. [ドキュメントのアップロード] オプションを選択します。
7. [フォルダーパス] フィールドに、ドキュメントをアップロードする必要があるフォルダーのパスまたは場所を入力します。
8. [ファイルの追加] リンクを選択して、ローカル マシンに存在する Microsoft Word ドキュメントを参照して開きます。
   Microsoft Wordドキュメントの名前は、デフォルトで [ファイルをアップロード] ポップアップのファイルのタイトルになっています。必要に応じて、[タイトル] フィールドでファイルの名前を変更できます。

   注:
   フォルダーには一度に 1 つのファイルのみをアップロードできます。

9. **[Upload** (アップロード)] を選択します。
   ローカルマシンから選択したファイルが、 Microsoft OneDriveで指定したフォルダーパスにアップロードされます。

でポリシーテキストドキュメントを作成して関連付ける **Google** ドライブ

Google ドライブ でポリシーテキストドキュメントを作成し、承認者、レビュー担当者、および貢献者によるドキュメント編集を有効にします。ドキュメントをステークホルダーと共有し、リアルタイムで共同作業して編集できます。

始める前に

必要なロール：sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst、mp_document_user

重要:
Google ドキュメント作成のサポートは、 ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションの 19.1.1 バージョンから有効になっています

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. コンプライアンスワークスペース で、リストアイコン ( ) を選択します。
3. 移動先 コンプライアンスライブラリ > 自分のポリシー.
   新しいポリシーを作成する か、レコードを開いてレッドライン機能を有効にすることができます。
4. 開くポリシーを選択します。
5. Google ドライブ の場合、[ポリシーテキスト] 関連リストを選択して、ポリシーテキストの内容を表示します。

   a. [ドキュメントの編集を有効にする **(Enable document editing)]** ボタンを選択します。
   ポリシーが [ドラフト] ステータスの場合、ポリシーオーナーは単独でドキュメントを作成するか、Google ドライブ からドキュメントを関連付けて、承認者、レビュー担当者、および貢献者がポリシーテキストを編集できるようにすることができます。

   b. ポリシーオーナーとしてドキュメントを作成するには、[ドキュメントの編集を有効にする **(Enable document editing)]** リストで [新規ドキュメント作成] を選択します。

   c. Google ドライブ から共有可能なフォルダーのリンクをコピーし、[ドキュメントの作成 (Create a document)] ポップアップの [フォルダーリンク] フィールドに貼り付けます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

フォルダーリンクを取得するには、 Google ドライブ内のフォルダーを右クリックし、[⋮] アイコンを選択します。[共有] と [リンクのコピー] を選択します。

d. [ドキュメント名] フィールドにドキュメントの名前を入力します。

e. 作成するドキュメントのタイプを [タイプ] フィールドで選択します。
オプションは次のとおりです。
- Google ドキュメント:このオプションを選択すると、Google ドライブ でGoogleドキュメントを作成できます。
- Word: Google ドライブ でMicrosoft Wordドキュメントを作成し、ブラウザからアクセスして Google ドライブに保存できます。

f. **[Create** (作成)] を選択します。
[作成] を選択すると、指定した Google ドライブ アカウントのフォルダーにドキュメントが作成されます。共有フォルダーへのリンクを指定する場合、そのフォルダー内にファイルを作成するための編集アクセス権が必要です。

g. 作成されたドキュメントを表示するには、**[Google** ドキュメントで開く **(Open in Google docs)]** ボタンを選択します。

6. ドキュメントへの読み取りまたは書き込みアクセス権を持つユーザーを表示するには、[ドキュメントアクセス] 関連リストに移動します。
7. 別の ドキュメント を作成するか、レッドラインが有効なポリシーの別の ドキュメント に接続するには、[ドキュメントの編集を有効にする] ボタンを選択します。
   - 別のドキュメントを作成するには、[新規ドキュメントを作成] を選択すると、[ドキュメントを作成] ポップアップが開きます。
   - 別のドキュメントに接続するには、[既存のドキュメントを接続] を選択すると、[既存のドキュメントを接続] ポップアップが開きます。
8. [ポリシーテキスト] フィールドのドキュメントのコンテンツを更新するには、ドキュメントリンクの下にある [更新] リンクを選択します。
9. ポリシーのドラフトが作成され、完了すると、ポリシーオーナーは [レビューを要求] ボタンを選択してレビューを要求できます。
10. [レビューを要求] ポップアップでレビュー担当者へのメッセージを入力します。
11. [要求] を選択します。
レビュー担当者は、[タスク] ビューの [自分の保留中タスク] にログインすると、レビューの準備ができていればポリシーを表示できます。
12. [レビューを送信] ボタンを選択します。
ポリシーテキストを確認し、[レビューを送信] ポップアップでコメントを追加して送信することができます。
13. ドキュメントをプレビューし、協力者が編集した後に最新の更新を取得するには、[ポリシーテキスト] タブの [更新] リンクを選択します。
ポリシーオーナーは、 Google ドライブ でドキュメントのコンテンツを編集して、クラウド上のドキュメントとポリシーのポリシーテキスト間の同期を維持できます。

    ポリシーオーナーとレビュー担当者間のすべてのアクティビティは、[詳細] 関連リストの [アクティビティ] タブに取り込まれます。すべてのレビュー担当者がレビューを完了している場合、ポリシーオーナーは公開チェックリストを完了することができます。
14. [公開チェックリストを完了する] ボタンを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

すべてのレビューが完了したら、ポリシーオーナーは公開プロセスを完了できます。このアクションにより、プレイブックが作成されます。ポリシーオーナーは、承認を要求する前に公開チェックリストを確認する必要があります。「Complete publishing checklist for the policy and request approval (ポリシーの公開チェックリストを完了し、承認を要求する)」を参照してください。

15. ポリシーの履歴を表示するには、[ポリシー履歴] 関連リストを選択します。
詳細については、「レッドラインが有効なポリシーの履歴を表示」を参照してください。

既存のドキュメントを **Google** ドライブ からポリシーに接続する

Google ドライブ フォルダー内にあるドキュメントを、作成したポリシーに接続します。ドキュメントを作成する代わりに、この既存のドキュメントを使用して、ポリシーテキストでレッドラインを有効にします。

始める前に

必要なロール：sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst、mp_document_user

> **重要:**
> バージョン 19.1.1 以降、Google ドキュメントはドキュメント接続ポリシーでサポートされています。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. コンプライアンスワークスペース で、リストアイコン ( ) を選択します。
3. 移動先 コンプライアンスライブラリ > 自分のポリシー.
4. ポリシーを選択します。
5. [ポリシーテキスト] 関連リストを選択して、ポリシーの内容を表示します。
ポリシーに関連付けるコンテンツを含むドキュメントが Google ドライブ に既にある場合は、そのドキュメントを関連付けることができます。
6. Google ドライブ フォルダー内のドキュメントを接続するには
   a. https://drive.google.com/ の [マイドライブ] に移動します。
   b. ポリシーに接続するドキュメントを選択します。
   c. 接続するドキュメントで、[その他のアクション] アイコン ( )を選択します。
   d. [共有] リストから [リンクをコピー] オプションを選択します。
7. ポリシーレコードの [ポリシーテキスト] タブに戻ります。
8. [ドキュメントの編集を有効にする **(Enable document editing)**] リストを選択します。
ポリシーは [ドラフト] ステータスになっている必要があります。その場合に限り、ポリシーオーナーは Google ドライブ からドキュメントを関連付けて、承認者、レビュー担当者、および貢献者がポリシーテキストを編集できるようにすることができます。
9. コピーした Google ドライブ を [既存ドキュメントを接続] ポップアップの [ファイルリンク] フィールドに貼り付けます。
10. [接続] を選択します。
Google ドライブ からポリシーレコードにドキュメントを接続できる必要があります。

    > **注:**
    > ただし、 Google ドキュメントが 10 MB を超えると接続できません。

11. **[Update** (更新)] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

[ポリシーテキスト] フィールドには、ServiceNow ポリシーレコード内の Google ドライブ ドキュメントのテキストが表示されます。

ポリシーの作成とレッドラインのための Google ドライブ 統合の詳細については、 Google ドライブ ポリシーの作成とレッドラインのための統合 – 一般的なガイドラインと既知の制限事項 [KB1587198] ナレッジ ベース Now Support の記事を参照してください。

への **Microsoft Word** ドキュメントのアップロード **Google** ドライブ

ローカルマシンに存在する Microsoft Word ドキュメントをアップロードして Google ドライブし、ドキュメントをポリシーにリンクします。ユーザーは、任意のデバイスからドキュメントにアクセスし、複数のユーザーがポリシードキュメントで共同作業を行うことができます。

始める前に

必要なロール：sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst、mp_document_user

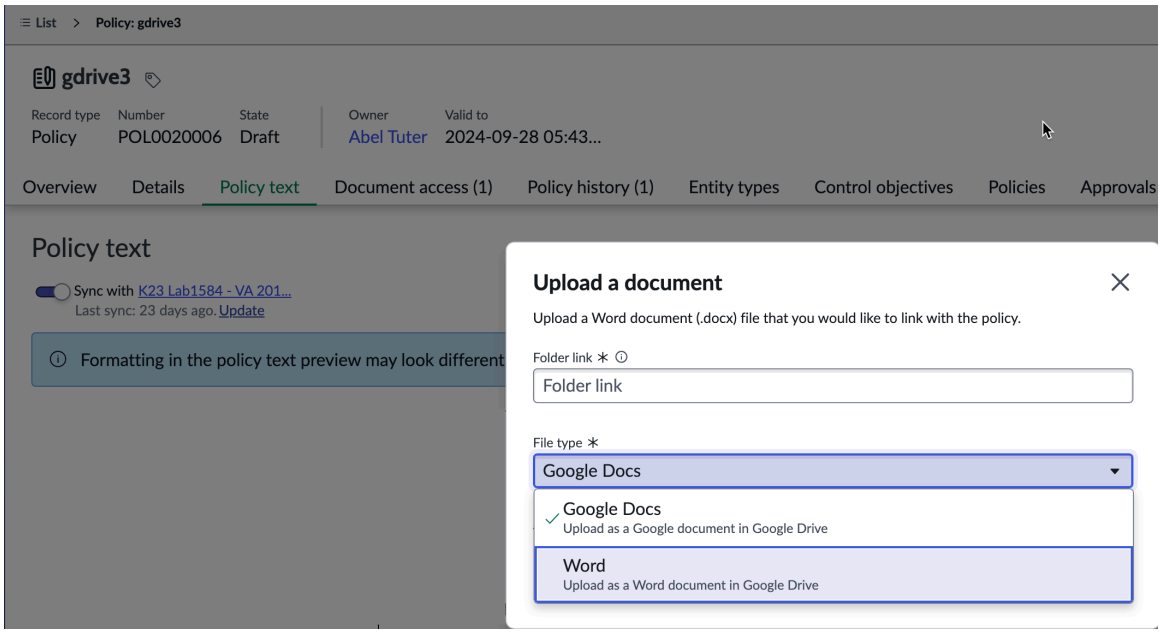
注:
Microsoft Wordドキュメントをクラウドにアップロードするための前提条件手順が適切に設定されていることを確認します。詳細については、「ポリシーのレッドライン機能を有効にするための前提条件」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. コンプライアンスワークスペース で、リストアイコン ( ) を選択します。
3. 移動先 コンプライアンスライブラリ > 自分のポリシー.
4. ポリシーを選択し、[ポリシーテキスト] 関連リストをクリックします。
   マシンにローカルに存在する Microsoft Word ドキュメントをアップロードできます。
5. ローカルマシンに存在する Microsoft Word ドキュメントを Google ドライブにアップロードし、ポリシーに添付するには、[ドキュメント編集を有効にする]ボタンを選択します。
6. [ドキュメントのアップロード] オプションを選択します。
7. [フォルダーリンク] フィールドに、ドキュメントをアップロードする必要があるGoogle ドライブからのフォルダーの共有可能なリンクを入力します。
8. [ファイルタイプ] フィールドを選択し、Google ドライブにアップロードするGoogleドキュメントまたはMicrosoft Wordドキュメントをクリックして選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



- Google ドキュメント:Google ドライブ でGoogleドキュメントとしてアップロードします。
- Word:Google ドライブ でMicrosoft Wordドキュメントとしてアップロードします。

9. [ファイルの追加] リンクを選択して、ローカル マシンに存在するドキュメントを参照して開きます。
   Microsoft Wordドキュメントの名前は、デフォルトで [ファイルをアップロード] ポップアップのファイルのタイトルになっています。必要に応じて、[タイトル] フィールドでファイルの名前を変更できます。

   注:
   フォルダーには一度に 1 つのファイルのみをアップロードできます。

10. ファイルを添付ファイルとして選択したら、[アップロード] を選択します。
11. ファイルが添付されたら、[アップロード] を選択します。
    選択したファイルは、指定した Google ドライブ フォルダーリンクにアップロードされます。

Microsoft SharePointでポリシードキュメントを作成して関連付ける

Microsoft SharePointでドキュメントを作成してそのドキュメントをポリシー レコードに関連付ける代わりに、Microsoft SharePointの場所に存在するポリシードキュメントでレッドラインを有効にします。

始める前に
必要なロール：必要なロール：
sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst、mp_document_user

重要:
ポリシーレッドラインとMicrosoft SharePointの統合は、Washington DC ServiceNow AI Platformバージョンから利用できます。この機能は、Vancouverの 19.x バージョンを使用している場合でも使用できません。

このタスクについて
Microsoft OneDriveとGoogle ドライブに存在するドキュメントを関連付ける以外に、Microsoft SharePointサイトにあるドキュメントをポリシーレコードに関連付けることができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. コンプライアンスワークスペース で、リストアイコン ( ) を選択します。
3. 移動先 コンプライアンスライブラリ > 自分のポリシー.
   新しいポリシーを作成するか、ポリシーレコードを開いてドキュメントを関連付けることができます。
4. Microsoft SharePointサイトからポリシードキュメントを関連付けるポリシーを選択します。
   ポリシーが [ドラフト] ステータスの場合には、Microsoft SharePointサイトでドキュメントを作成し、ポリシーレコードに関連付けることができます。
5. ポリシーレコードの [ポリシーテキスト] 関連リストから、[ドキュメント編集を有効にする **(Enable document editing)]** UI アクションリストを選択し、[新規ドキュメント作成] オプションをクリックします。
6. [Word ドキュメントを作成] ポップアップの [サイト **URL]** フィールドにサイトへの URL を入力します。
   アイコンにカーソルを合わせると、サイト URL の場所情報を取得できます。
   a. サイトの URL を取得するには、Microsoft SharePointサイトにログインします。
   b. [共有] リストを選択し、[ページへのリンクをコピー **(Copy link to page)]** オプションをクリックします。
7. [フォルダーの場所] フィールドに、コピーを実行したフォルダーのパスを入力します。
   このパスは、ドキュメントが存在する場所です。
8. [ドキュメント名] フィールドにドキュメントの名前を入力します。
9. [作成] を選択します。
   [作成] を選択すると、指定した Microsoft SharePoint アカウントのフォルダーにドキュメントが作成されます。共有フォルダーへのリンクを指定する場合、そのフォルダー内にファイルを作成するための編集アクセス権が必要です。

   ドキュメントが作成されると、ドラフトステータスのポリシーにアクセスできる貢献者とポリシーオーナーは、Microsoft SharePointでドキュメントを編集してコンテンツを追加できます。
10. ポリシーレコードの [ポリシーテキスト] フィールドのコンテンツを更新するには、ドキュメントリンクの下にある [更新] リンクを選択します。
    または、**[Word** で開く] ボタンを選択することもできます。

    Microsoft SharePoint の場所の指定されたドキュメントに存在するコンテンツが [ポリシーテキスト]フィールドにコピーされます。　ポリシーテキストがクラウド内のポリシードキュメントの最新のコンテンツで更新されたことを示すメッセージは、ポリシーテキストとドキュメントのコンテンツが同期していることを確定するものです。
11. ドキュメントへの読み取りまたは書き込みアクセス権を持つユーザーを表示するには、[ドキュメントアクセス] 関連リストに移動します。
    ドキュメントがポリシーレコードに関連付けられると、ドキュメントへのポリシーユーザーのアクセスも確立されます。ポリシードキュメントへのアクセスは、ユーザーのロールとポリシーのステータスによって異なります。

    ドラフト

    ポリシーが [ドラフト] ステータスの場合、オーナーと貢献者には編集アクセス権があります。

    レビュー

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポリシーが [レビュー] ステータスの場合、レビュー担当者とオーナーには編集アクセス権があります。ただし、貢献者と承認者には読み取りアクセス権しかありません。

承認済み

ポリシーが [承認済み] ステータスに移行すると、ポリシーのすべてのステークホルダーは読み取りアクセス権のみを持ちます。

また、Microsoft SharePointドキュメントに移動し、Microsoft SharePoint ドキュメントの [共有] リストを選択し、[アクセスを管理] をクリックして、ユーザーのアクセス権を確認することもできます。ユーザーが ServiceNowポリシードキュメントに対して持つアクセス権は、ユーザーがMicrosoft SharePointサイト内のドキュメントで共同作業するときに持つ権限と同じではない場合があります。これは、Microsoft SharePointサイトで設定されているルート権限がサイト内のフォルダーに継承されるためです。このサイト内のフォルダーのユーザーは、これらの権限を継承します。権限は上書きできます。

a. Microsoft SharePointサイト権限を上書きするには、設定アイコン ( )を選択します。

b. [設定] リストの [サイト権限] オプションを選択します。

c. ドキュメントが存在するフォルダーを右クリックし、[アクセスを管理] を選択します。

d. [詳細設定] を選択し、[権限の継承を停止 **(Stop Inheriting Permissions)]** をクリックします。
このフォルダーは、親またはMicrosoft SharePointサイトレベルから権限を継承しなくなります。これで、ServiceNowのドキュメントへのアクセス権を付与すると、[ドキュメントアクセス] 関連リストに表示されている同レベルのアクセス権が、Microsoft SharePointドキュメントで共同作業しているユーザーにも利用できるようになります。

12. ポリシーのドラフトが作成され、完了すると、ポリシーオーナーは [レビューを要求] ボタンを選択してレビューを要求できます。

a. [レビューを要求] ポップアップでレビュー担当者へのメッセージを入力します。

b. [要求] を選択します。
レビュー担当者は、[タスク] ビューの [自分の保留中タスク] にログインすると、レビューの準備ができていればポリシーを表示できます。

c. [レビューを送信] ボタンを選択します。
ポリシーテキストを確認し、[レビューを送信] ポップアップでコメントを追加して送信することができます。

13. ドキュメントをプレビューし、レビュー担当者がレビューした後に最新の更新を取得するには、[ポリシーテキスト] タブの [更新] リンクを選択します。
レビュー担当者は、次を選択してドキュメントに提案とコメントを追加できます レビュー > 変更の追跡 > 全員用 Microsoft SharePoint。

ポリシーオーナーは、[更新] リンクをクリックして、Microsoft SharePointからドキュメントの更新されたコンテンツを取得できます。このアクションにより、クラウドドキュメントにあるコンテンツとポリシーの [ポリシーテキスト] フィールドにあるコンテンツ間の同期が維持されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
頻繁に更新が行われると、Microsoft SharePointのバージョン履歴レコードに記録されず、コンテンツがリアルタイムで利用できない場合があります。そのため、Microsoft SharePointから [ポリシーテキスト] フィールドへの最新の更新コンテンツの取得に遅延が発生する可能性があります。

ポリシーオーナーとレビュー担当者間のすべてのアクティビティは、[詳細] 関連リストの [アクティビティ] タブに取り込まれます。すべてのレビュー担当者がレビューを完了している場合、ポリシーオーナーは公開チェックリストを完了することができます。

14. [公開チェックリストを完了する] ボタンを選択します。
すべてのレビューが完了したら、ポリシーオーナーは公開プロセスを完了できます。このアクションにより、プレイブックが作成されます。ポリシーオーナーは、承認を要求する前に公開チェックリストを確認する必要があります。「Complete publishing checklist for the policy and request approval (ポリシーの公開チェックリストを完了し、承認を要求する)」を参照してください。

    公開プロセスが完了したら、ポリシーを PDF としてポリシーレコードに添付するか、ポリシーが [公開済み] ステータスに移行したときにナレッジベース記事を生成できます。

15. ポリシーの [概要] 関連リストのサイドバーにある添付ファイルアイコン( )を選択して、ナレッジベース記事の PDF バージョンを表示します。
16. ポリシーの履歴を表示するには、[ポリシー履歴] 関連リストを選択します。
詳細については、「レッドラインが有効なポリシーの履歴を表示」を参照してください。

Microsoft SharePoint にある既存のドキュメントを接続する

Microsoft SharePoint フォルダー内にあるドキュメントを、作成したポリシーに接続します。ドキュメントを作成する代わりに、この既存のドキュメントを使用して、ポリシーテキストでレッドラインを有効にします。

始める前に
必要なロール：sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst、mp_document_user

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. コンプライアンスワークスペース で、リストアイコン ( ) を選択します。
3. 移動先 コンプライアンスライブラリ > 自分のポリシー.
4. ポリシーを選択します。
ポリシーは [ドラフト] ステータスになっている必要があります。その場合に限り、ポリシーオーナーはMicrosoft SharePointからドキュメントを関連付けて、承認者、レビュー担当者、および貢献者がポリシーテキストを編集できるようにすることができます。
5. [ポリシーテキスト] 関連リストを選択して、ポリシーの内容を表示します。
ポリシーに関連付ける、関連するポリシーコンテンツを含むドキュメントがMicrosoft SharePointに既にある場合は、そのドキュメントをポリシーに関連付けることができます。
6. Microsoft SharePointフォルダー内のドキュメントを接続するには。
    a. Microsoft SharePointサイトにログインします。
    b. ポリシーに接続するドキュメントに移動します。
    c. ホームページで [共有] リストを選択し、[リンクをページにコピー **(Copy link to page)**] オプションをクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. ポリシーレコードの [ポリシーテキスト (Policy text)] 関連リストに移動します。
8. [ドキュメント編集を有効にする **(Enable document editing)**] リストを選択し、[既存ドキュメントを接続 **(Connect existing document)**] オプションをクリックします。
9. コピーしたMicrosoft SharePointサイト URL を [既存の Word ドキュメントを接続 (Connect existing Word document)] ポップアップの [サイト **URL**] フィールドに貼り付けます。
10. [フォルダーパス **(Folder path)**] フィールドと [ドキュメント名] フィールドに詳細を入力します。
11. [接続] を選択します。
    Microsoft Word の編集が有効になったことを示すメッセージが表示されます。ポリシーレコードがドキュメントに接続されます。
12. [更新] を選択します。
    [ポリシーテキスト] フィールドには、ServiceNowポリシーレコード内のMicrosoft SharePointキュメントのテキストが表示されます。

への **Microsoft Word** ドキュメントのアップロード **Microsoft SharePoint**

ローカルマシンに存在する Microsoft Word ドキュメントをアップロードして Microsoft SharePoint し、ドキュメントをポリシーにリンクします。ユーザーは、任意のデバイスからドキュメントにアクセスし、複数のユーザーがポリシードキュメントで共同作業を行うことができます。

始める前に
必要なロール：sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst、mp_document_user

> **注:**
> Microsoft Wordドキュメントをクラウドにアップロードするための前提条件手順が適切に設定されていることを確認します。詳細については、「ポリシーのレッドライン機能を有効にするための前提条件」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. コンプライアンスワークスペース で、リストアイコン ( ) を選択します。
3. 移動先 コンプライアンスライブラリ > 自分のポリシー.
4. ポリシーを選択し、[ポリシーテキスト] 関連リストをクリックしてドキュメントをアップロードします。
   マシンにローカルに存在する Microsoft Word ドキュメントをアップロードできます。
5. ローカル コンピューターに存在する Microsoft Word ドキュメントを Microsoft SharePoint サイトにアップロードするには、[ドキュメント編集を有効にする] ボタンを選択します。
6. [ドキュメントのアップロード] オプションを選択します。
7. Microsoft SharePoint サイトの URL をコピーするには、Microsoft SharePoint サイトのホーム ページに移動し、[共有] を選択して [ページへのリンクをコピー] をクリックします。
8. Microsoft SharePointサイトのコピーした URL を [サイト **URL**] フィールドに入力します。
9. ドキュメントをアップロードする必要があるフォルダーのパスを [フォルダーパス] フィールドに入力します。
10. [ファイルの追加] リンクを選択して、ローカル マシンに存在する Microsoft Word ドキュメントを参照して開きます。
    Microsoft Wordドキュメントの名前は、デフォルトで [ファイルをアップロード] ポップアップのファイルのタイトルになっています。必要に応じて、[タイトル] フィールドでファイルの名前を変更できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> フォルダーには一度に 1 つのファイルのみをアップロードできます。

11. ファイルを添付ファイルとして選択したら、[アップロード] を選択します。
12. ファイルが添付されたら、[アップロード] を選択します。
    ローカルマシンから選択したファイルが、 Microsoft SharePoint サイトで指定したフォルダーパスにアップロードされます。

クラウドドキュメントの同期とポリシーテキストの表示

ドキュメントを更新し、[ポリシー] テキストフィールドの内容を表示します。

始める前に

必要なロール：sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst、mp_document_user

このタスクについて

文脈上、クラウドは Microsoft OneDrive、Microsoft SharePoint、Google ドライブに存在するドキュメントを指します。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. コンプライアンスワークスペース で、リストアイコン ( ) を選択します。
3. 移動先 コンプライアンスライブラリ > 自分のポリシー.
4. 開くポリシーを選択します。
5. [ポリシーテキスト] タブを選択して、ポリシーの内容を表示します。
6. [更新] を選択します。
   [ポリシーテキスト] フィールドが、 ドキュメントの最新のコンテンツで更新されます。

   ポリシーには多くの協力者が含まれているため、コンテンツを更新して最新の更新を取得する必要があります。前回の同期情報は、ドキュメントが最後に同期された日時を把握するのに役立ちます。

   > **注:**
   > ドキュメントサイズが 10 MB を超えると、最新のドキュメントをフェッチして最新のコンテンツを [ポリシーテキスト] タブに表示することはできません。

7. コンテンツを開くには、[ポリシーテキスト] フィールドの [同期] の横にあるドキュメントリンクを選択するか、Microsoft OneDrive の場合は **[Word** で開く **(Open in Word)]** ボタン、Google ドライブ の場合は **[Google** ドキュメントで開く **(Open in Google docs)]** ボタンを選択します。
   - [Word と同期] アクションは、ベースシステムによって **true** に設定されている [デフォルトでレッドラインドキュメントテキスト同期を有効にする] プロパティの値に基づいて、レッドラインが有効になっているすべてのポリシーレコードに対してデフォルトで有効または無効になります。

     個々のポリシーレベルで同期を有効または無効にするには、ポリシーレコードの [ポリシーテキスト] タブで同期トグルを選択します。
   - [次と同期] を有効にすると、クラウドと [ポリシーテキスト] フィールドの両方でドキュメントを同時に編集することはできません。コンテンツはクラウドで更新でき、[ポリシーテキスト] フィールドにプルできます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

- [次と同期] を無効にすると、ポリシーテキストドキュメントのコンテンツはクラウドドキュメントから切り離され、コンテンツを個別に編集できます。[保存] ボタンを選択すると、このコンテンツを保存できます。

  [切断] ステータスで、レビュー担当者の 1 人がポリシーテキストを更新して、ポリシーオーナーとしてログインし、[公開チェックリストを完了する] を選択した場合、[ポリシーを **PDF** として添付します] が PDF を添付するための必須ステップになります。

  以前のポリシー添付ファイルがある場合は手動で削除し、現在のポリシーを PDF として添付する前にプレイブックで確認する必要があります。

[詳細] 関連リストのポリシーテキストを表示することもできます。[詳細] 関連リストでポリシーテキストを更新すると、[ポリシーテキスト] 関連リストの **[** ポリシーテキスト] フィールドでポリシー テキストが自動的に更新されます。

レッドラインが有効または無効なポリシーの場合

- コンプライアンスユーザーであり、ポリシーが [ドラフト] ステータスである場合は、ポリシーテキストを編集できます。
- オーナーまたはレビュー担当者であり、ポリシーが [レビュー] ステータスである場合は、ポリシーテキストを編集できます。

レッドラインが有効なポリシーの場合

前記の条件に加えて、チェックリストの公開を完了した後、承認と公開を要求する前に、最終レビューと修正のためにポリシーテキストを編集することもできます。

その後、公開チェックリストを完了し、承認を要求して、ポリシーを公開できます。

ポリシーユーザーにドキュメントアクセス権を提供

レッドラインが有効になっているポリシーで共同作業を行うためのロールを割り当てられたユーザーにアクセス権を付与します。

始める前に
必要なロール：sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst、mp_document_user

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. コンプライアンスワークスペース で、リストアイコン ( ) を選択します。
3. 移動先 コンプライアンスライブラリ > 自分のポリシー.
4. 開くポリシーを選択します。
5. このポリシーのすべてのユーザーとドキュメントにアクセス可能な各ユーザーのロールを表示するには、[ドキュメントアクセス権] 関連リストを選択します。
   [ドキュメントアクセス権] 関連リストは、ポリシーのレッドラインが有効になっている場合にのみ表示されます。ドキュメントのアクセス権 [sn_irm_shared_cmn_document_access] テーブルには、レッドラインが有効になっているポリシーにアクセスできる承認者、貢献者、レビュー担当者、所有者などのユーザーロールに対応する変更があるたびに、ポリシーレコードの作成および更新された情報が格納されます。

   [詳細] 関連リストの [ポリシーのアサイン] セクションで [所有者]、[承認者]、[レビュー担当者]、および [貢献者] として識別されるユーザーは、レッドラインが有効になっているポリシーの [ドキュメントのアクセス権] 関連リストにリストされているユーザーです。1 人のユーザーが複数のロールを持つこともできます。

   [ステータス] 列には、各ユーザーがポリシーに対して持つアクセスステータスが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ドキュメントアクセス] 関連リストからクラウドでホストされているドキュメントにアクセスするには、sys_user テーブルに設定されたユーザーの有効なメールアドレスが必要です。

注:
Microsoft OneDrive のユーザーには編集アクセス権が付与されますが、すべてのユーザーがドキュメントを編集できるわけではありません。編集アクセス権は、ポリシーのステータスによって異なります。

- ポリシーが [ドラフト] ステータスの場合、オーナーと貢献者には編集アクセス権があります。承認者とレビュー担当者には読み取りアクセス権のみを取得します。
- ポリシーが [レビュー] ステータスの場合、オーナーとレビュー担当者にはドキュメントへの編集アクセス権があります。このステータスの寄稿者はポリシーに寄稿せず、ドキュメントの読み取りのみを行うことができます。承認者も読み取りアクセス権のみを持ちます。
- ポリシーが [承認待ち]、[公開]、または [廃止] 状況の場合、すべてのユーザーは読み取りアクセス権のみを持ちます。

ポリシーの公開チェックリストを完了し、承認を要求する

コンプライアンスワークスペースで利用可能なプレイブックを使用して、承認を要求する前に公開チェックリストを完了します。承認が完了すると、ポリシーが自動的に公開されます。

始める前に
必要なロール：sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst、mp_document_user

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. コンプライアンスワークスペース で、リストアイコン ( ) を選択します。
3. 移動先 コンプライアンスライブラリ > 自分のポリシー.
4. 右側のパネルで公開されているチェックリストアイコン ( ) を選択します。
   プレイブックチェックリストが作成されます。
5. プレイブックでポリシーオーナーとしてアクティビティを完了します。

ポリシープレイブックアクティビティの公開

アクティビティ	説明
ドキュメントの確定	追跡の変更を承認または却下し、未対処のコメントを削除するタスクを完了します。公開されたポリシーおよびその後にナレッジベース記事に内部コメントが含まれないようにするには、ドキュメントをクリーンアップする必要があります。 **a.** [ドキュメントを開く] を選択してドキュメントを開き、コメントを削除します。 **b.** ドキュメントが自動保存された後、[完了としてマーク] を選択してステップを完了としてマークし、更新されたコンテンツをMicrosoft OneDrive、Microsoft SharePoint、またはGoogle ドライブアカウントからこのセクションにプルします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティビティ	説明
書式設定をレビューしてください	ナレッジベース記事として公開される前に [ポリシーテキスト] フィールドのテキストの書式を確認し、[完了としてマーク] を選択します。
添付ファイルのレビュー	既存のポリシーの添付ファイルを確認し、期限切れのドキュメントを削除します。この段階で、新しい添付ファイルをポリシーに追加することもできます。
ポリシーを PDF として添付します	ポリシードキュメントを PDF としてナレッジベース記事に添付します。Microsoft OneDrive、Microsoft SharePoint、またはGoogle ドライブドキュメントと [ポリシーテキスト] フィールドが同期していない場合は、PDF を添付することをお勧めします。 **a.** [添付] を選択して、PDF をポリシーに追加します。 **b.** [完了としてマーク] を選択します。 **注:** Xanaduリリース以降、アクセシブルな PDF を生成することもできます。アクセス可能な PDF を生成するには、プロパティ*com.snc.document.conversion.accessibility_*true に設定する必要があります。プロパティを有効にするには、「Enable accessibility features for DOCX to PDF conversion」を参照してください。
公開されている設定をレビューします	このステップを完了したらブラウザーを更新します。必要に応じて、ポリシーの [ナレッジベース] および [ポリシーテンプレート] フィールドを更新し、ステップを完了としてマークします。

[公開チェックリストを完了する] ボタンは使用できなくなりました。

6. 添付ファイルを表示するには、右側のパネルで を選択します。
7. [承認を要求] ボタンを選択して、ポリシーの承認を要求します。
8. [承認を要求] ポップアップで [承認者] を選択します。
9. [要求] を選択します。
   ポリシーが [承認待ち] ステータスに移行します。

   ポリシー承認者は、ポリシーの [承認] 関連リストに移動してポリシーを表示できます。承認者のアクションに基づいて、ポリシーは承認または却下されます。却下された場合、ポリシーは [ドラフト] ステータスに戻ります。
10. 公開済みポリシーを編集するには、[ポリシーを編集] ボタンを選択します。

レッドラインが有効なポリシーの履歴を表示

[ポリシー履歴] 関連リストを使用して、ポリシードキュメントに加えられた変更を追跡します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst、mp_document_user

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. コンプライアンスワークスペース で、リストアイコン ( ) を選択します。
3. 移動先 コンプライアンスライブラリ > 自分のポリシー.
   新しいポリシーを作成する か、レコードを開いてレッドライン機能を有効にすることができます。
4. 開くポリシーを選択します。
   ポリシーが既に公開されており、レビューが必要な場合は、レビューおよび承認プロセスのためにポリシーを再度開いてください。
5. 公開済みポリシーを更新するには、[ポリシーを編集] ボタンを選択します。

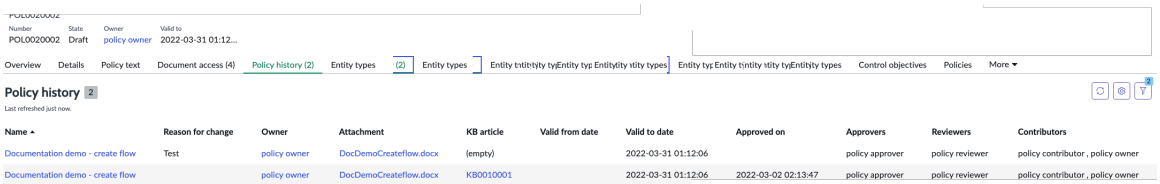
   a. [ポリシーを編集] ポップアップの [編集の理由] フィールドにポリシーを更新する理由を入力します。

   b. [編集] ボタンを選択します。
      ポリシーを編集アクションにより、ポリシーは [ドラフト] ステータスに戻り、別のレビューおよび承認プロセスで開きます。このサイクルが完了してポリシーが公開されると、ポリシー履歴に別のレコードが作成されます。

6. [ポリシー履歴] 関連リストを選択します。
   ポリシーの名前、変更の理由、ポリシーオーナー、添付ファイルとしてのポリシーテキストの最新バージョン、ドキュメントの有効期間、ドキュメントの承認者、レビュー担当者、貢献者などの基本情報を含むポリシードキュメントの履歴が、ポリシーの作成時に追加されます。ただし、ナレッジベース記事はポリシーが公開された後にのみ作成されます。承認者が承認し、ポリシーが公開されると、[承認日] フィールドも更新されます。

   レコードは、ポリシーが変更され、レビュー、承認、および再公開されるたびに、ポリシー履歴リストに追加され、維持されます。

   [ポリシー履歴] 関連リスト



   ポリシードキュメントの作成以降に行われた修正および変更の履歴全体を表示できます。ポリシードキュメントを定期的に更新して、変化するビジネスプロセスに合わせてポリシーを最新の状態に保ちます。ポリシードキュメントの履歴を維持することで、組織は変化するビジネスニーズに応じて次のレビューサイクルを追跡できます。

従業員センター から GRC タスクを管理

従業員センター は、従業員のニーズに基づくエンタープライズサービス向けに設計されています。従業員センターは、ビジネスユーザーサービスポータルとも呼ばれます。これは、このポータルが、問題のトリアージを要求したり、ポリシーの例外を生成したりするための GRC ビジネスユーザー専用のポータルであるためです。

従業員センター の [リスクとコンプライアンス] セクションを使用して、問題のトリアージ、ポリシー例外の発生、GRC アセスメントなどの一般的なコンプライアンスタスクを管理できます。

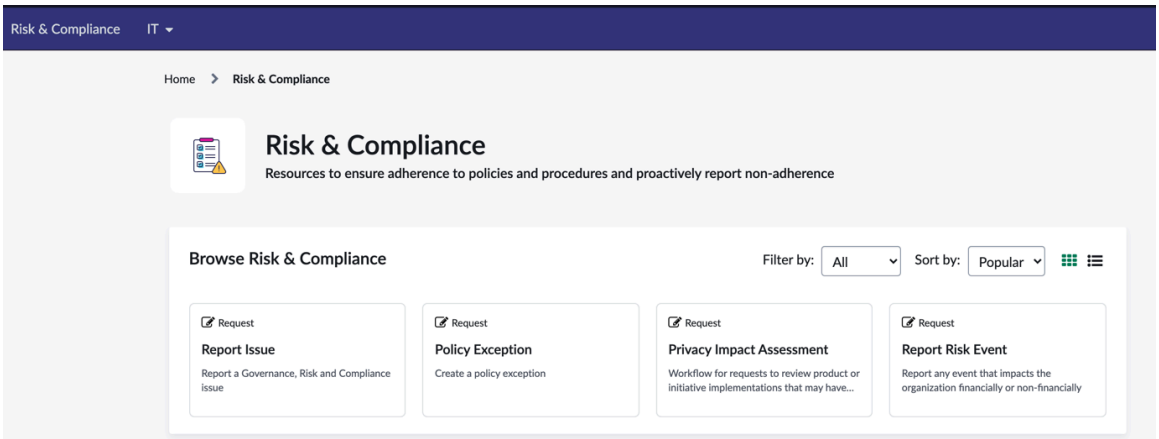
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

GRC ビジネスユーザーロールを持つユーザーとしてログインすると、自分に割り当てられているすべてのタスクを表示できます。

注:
従業員オペレーターロール (sn_grc_emp_user.grc_employee) を使用して、ポリシーの確認応答に応答し、従業員センターポータルからポリシー例外を要求できます。

従業員センター からの **GRC** コンプライアンスタスク



関連情報

- 従業員センター から GRC の問題を報告
- 従業員センター からポリシー例外を作成
- 従業員センター ポータルからコントロールアセスメントを完了する
- 従業員センター ポータルのポリシーナレッジベースとクイックリンク
- での類似のアセスメントのグループ化 従業員センター

従業員センター から **GRC** の問題を報告

従業員ポータルを使用して、監査対象者または問題オーナーとして修正が必要な問題として確認された観察事項に関連するアクションプランをレビューし、作業します。

始める前に

必要なロール：sn_grc.business_user

注:
GRC: Advanced Core をインストールしている場合、*sn_grc_advanced.enable_my_issues_hide_my_reported_issues* システムプロパティの値も **[true]** に設定されます。従業員センター で問題のトリアージフォームを表示するには、これら 2 つの条件を満たしている必要があります。満たしていない場合は、[問題] フォームのみを表示できます。

このタスクについて

[問題を報告] フォームを使用して、コントロールのブレークダウン、欠落しているポリシー、またはポリシー、標準、指針、規制に準拠していないイベントを報告します。このフォームを使用して、改善を提案したり、リスクイベントを報告したりすることもできます。

手順

1. 移動先 セルフサービス > 従業員センター.
2. [すべてのリスクとコンプライアンスを参照 **(Browse all Risk & Compliance)]** セクションを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [問題を報告] カタログアイテムを選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

問題を報告フォーム

フィールド	説明
問題は何ですか？	問題の簡潔な説明。
詳細に説明してください	問題の詳細な説明。
問題を発見したのはいつですか？	問題が特定された日付。
この問題は何に関連していますか？	問題と関連のあるエンティティ。
何が影響を受けましたか？	選択したエンティティのレコード詳細。 このフィールドのオプションは、前のフィールドで選択したエンティティによって異なります。
これはどのタイプの問題ですか？	問題の種類。
その他	問題に関連するエンティティの正しいカテゴリが見つからない場合に選択するオプション。 [その他] オプションを選択すると、次の 4 つのフィールドが表示されます。
インシデントは既に発生していますか？	インシデントが以前に発生したかどうかを示します。
金銭的損失はありましたか？	問題に関連する金銭的損失。
通貨	損失が推定される通貨。 金銭的な損失があった場合、このフィールドが表示されます。
予想される金銭的損失はどのくらいですか？	問題の結果としての損失の推定金額。
影響度評価を選択	問題の金銭以外の影響。選択肢は次のとおりです。 ○ 低 ○ 中 ○ 高
イベントはどのようにして検出されましたか？	問題が特定されたソース。
問題を抑制または修正するために、これまでにどのようなアクションをとっていますか？	問題を修正するために実行されたアクションの簡潔な説明。
この問題の根本原因は何だと思いますか？	問題の根本原因の分析。

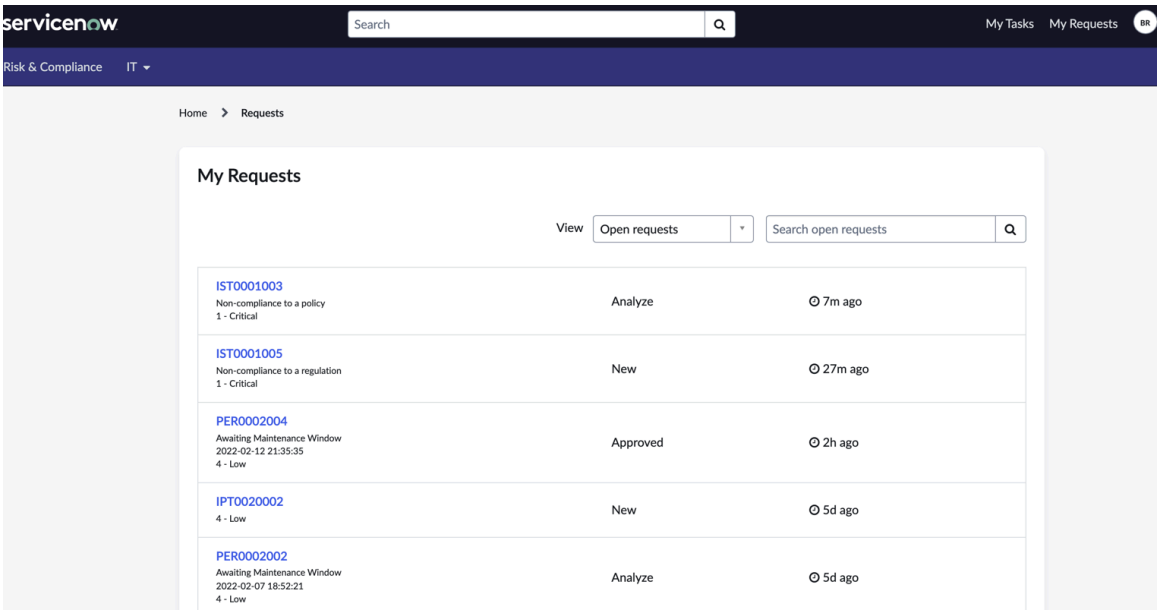
5. [送信] を選択します。
問題トリアージ要求番号を表示できる [自分の要求] サマリーページが表示されます。このページは読み取り専用であり、ビジネスユーザーとして作成したすべての要求を表示できます。
6. [アクティビティ] フィールドにメッセージを投稿して、トリアージの際に問題に優先順位を付けます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. [添付ファイル] タブを選択して、問題に関連するドキュメントを添付します。
8. 右上隅の [自分の要求] リンクをクリックすると、問題と問題のトリアージを含むすべての要求が表示されます。

自分の要求ページ



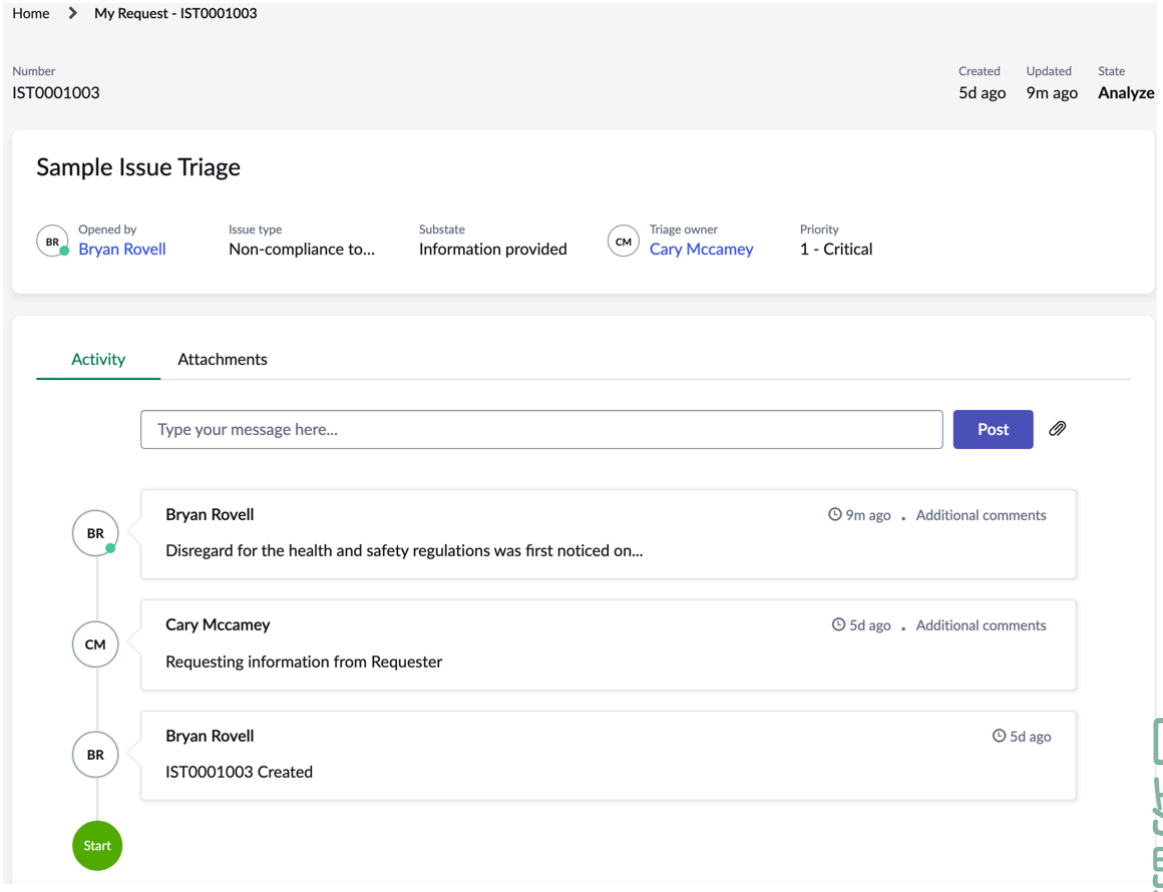
9. IST のプリフィックスが付いた問題トリアージ要求番号をクリックすると、承認者からのメッセージがあれば表示されます。
問題トリアージリストビューのヘッダーには、問題トリアージを開いたユーザーの名前、問題タイプ、サブステート、トリアージオーナー、およびその優先度が表示されます。
10. 問題トリアージに関する追加情報をトリアージオーナーに送信するには、[アクション] リストをクリックします。
11. [追加情報を送信] ポップアップの [コメント] フィールドに情報を入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

12. [送信] ボタンをクリックします。

問題トリアージページのリストビュー



従業員センター からポリシー例外を作成

従業員センター を使用して、例外が適用されるシステム、アプリケーション、ネットワーク、またはエンティティの特定のリストで例外の理由を指定することで、ポリシー、コントロール目標、コントロール、または問題の例外を要求します。

始める前に

必要なロール：
sn_grc.business_user、sn_grc.business_user_lite、sn_grc_emp_user.grc_employee

手順

1. 移動先 セルフサービス > 従業員センター.
2. [すべてのリスクとコンプライアンスを参照 **(Browse all Risk & Compliance)]** セクションを選択します。
3. [ポリシー例外] カタログアイテムを選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

ポリシー例外フォーム

フィールド	説明
例外は何ですか？	作成するポリシー例外のタイプ。オプションは次のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ ポリシー：ポリシーに基づいてポリシー例外を作成します。 ○ コントロール目標：デフォルトは、ポリシー例外が作成される単一のコントロール目標です。 ○ コントロール：複数のコントロールでポリシー例外を作成するオプション。 ○ 問題：問題に関するポリシー例外を作成するオプション。
ポリシー	このポリシー例外に関連付けられているポリシー。
コントロール目標	このポリシー例外に関連付けられたコントロール目標。 コントロール目標を選択すると、[影響を受けるコントロール] フィールドが表示されます。
コントロール	異なるコントロール目標から複数のコントロールを関連付けるには、[コントロール] を選択します。このオプションは、複数のコントロールに適用される複数のポリシー例外を作成するのではなく、ポリシー例外の複数のコントロール目標をサポートします。
問題	このポリシー例外に関連する問題。
影響を受けるコントロール	コントロール目標に関連付けられたコントロール。
簡単な説明	ポリシー例外要求の簡潔な説明。
説明	ポリシー例外要求の詳細な説明。
理由	例外の理由
正当性	ポリシー例外の証拠または根拠。
リスク詳細	リスクアセスメント中にリスクマネージャーによって実行されたリスクの説明。
有効期限開始	ポリシー例外が開始される日。
有効期限	ポリシー例外が終了する日。
優先度	このポリシー例外の承認優先度。
ウォッチリスト	要求が更新されたときに通知されるユーザー。

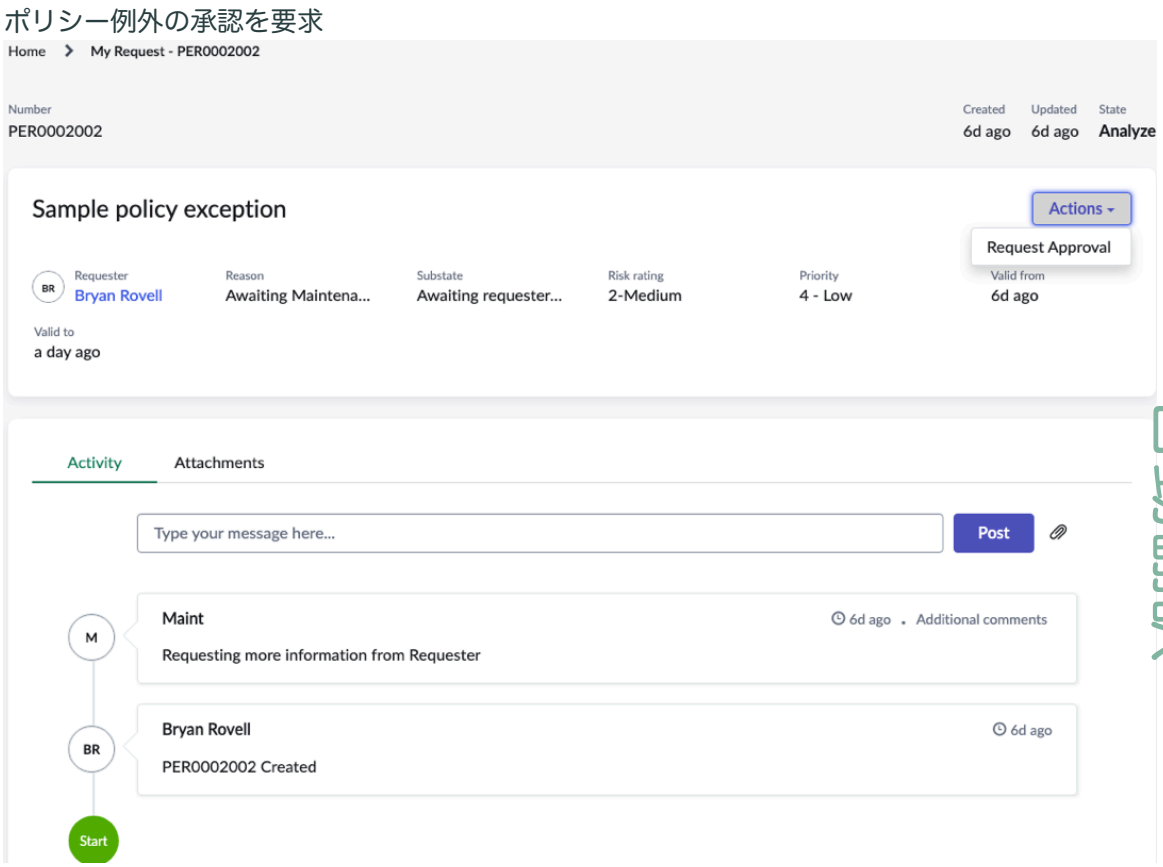
5. [送信] をクリックします。
   [自分の要求] ページに移動し、送信されたポリシー例外要求のポリシー例外番号を確認できます。このページは読み取り専用であり、ビジネスユーザーとして作成したすべての要求を表示できます。
6. [アクティビティ] フィールドでポリシー例外をサポートするメッセージを投稿します。
7. ポリシー例外に関連するドキュメントを添付するには、[添付ファイル] タブを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. 右上隅の [自分の要求] リンクをクリックすると、問題とポリシー例外を含むすべての要求のリストが表示されます。
   リストには一度に 15 件の要求が表示されます。要求をさらに表示するには、[その他の要求を表示] をクリックします。
9. 要求が [分析] ステータスの場合は、[アクション] リストから [承認を要求] を選択します。

   従業員センター からポリシー例外が発生し、検証ルールが設定されていない場合、ポリシー例外は [分析] ステータスに移行します。ただし、ポリシー例外に対して検証ルールが設定されている場合は、ポリシー例外が [新規] 状況に移行し、検証承認プロセスがトリガーされます。検証ルールが設定されると、承認者はポリシー例外を検証して承認する必要があります。その後、ポリシー例外は [分析] ステータスに移行します。



10. ポリシーの例外が承認された後、ポリシーの例外の延長を要求できます。[アクション] リストから [延長を要求] を選択します。

    a. 現在の [有効期限] より後の新しい延長日を入力します。
       デフォルトでは、[有効期限開始] から 30 日を超えてポリシーを延長することはできません。ただし、ポリシーの最大例外期間に基づいて、延長を緩和できます。

    b. [延長理由] フィールドのリストから延長の理由を選択します。

    c. 延長の理由を入力します。

    d. [要求] をクリックします。
       要求に利用できる残りの延長数が [残りの延長] として表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

従業員センター ポータルからコントロールアセスメントを完了する

従業員センター ホームページを使用して、すべての要求を表示し、問題の要求とポリシーの例外を生成し、すべての GRC アセスメントを完了します。

始める前に

必要なロール：sn_grc.business_user、sn_grc.business_user_lite

このタスクについて

GRC タスクリンクを選択すると、オープンになっているすべての処理待ちのタスクを管理できます。デフォルトでは、自分にアサインされている、ステータスがオープンのすべてのインジケータータスクが表示されます。他の状況のインジケータータスクを表示するには、[状況] 列の横にあるフィルターアイコンを選択します。

このページから移動して、コントロール証明書、リスクアセスメント、リスク識別アンケート、プライバシーアセスメントなどのすべての GRC アセスメントを含むすべてのアクティブなアイテムを管理できます。

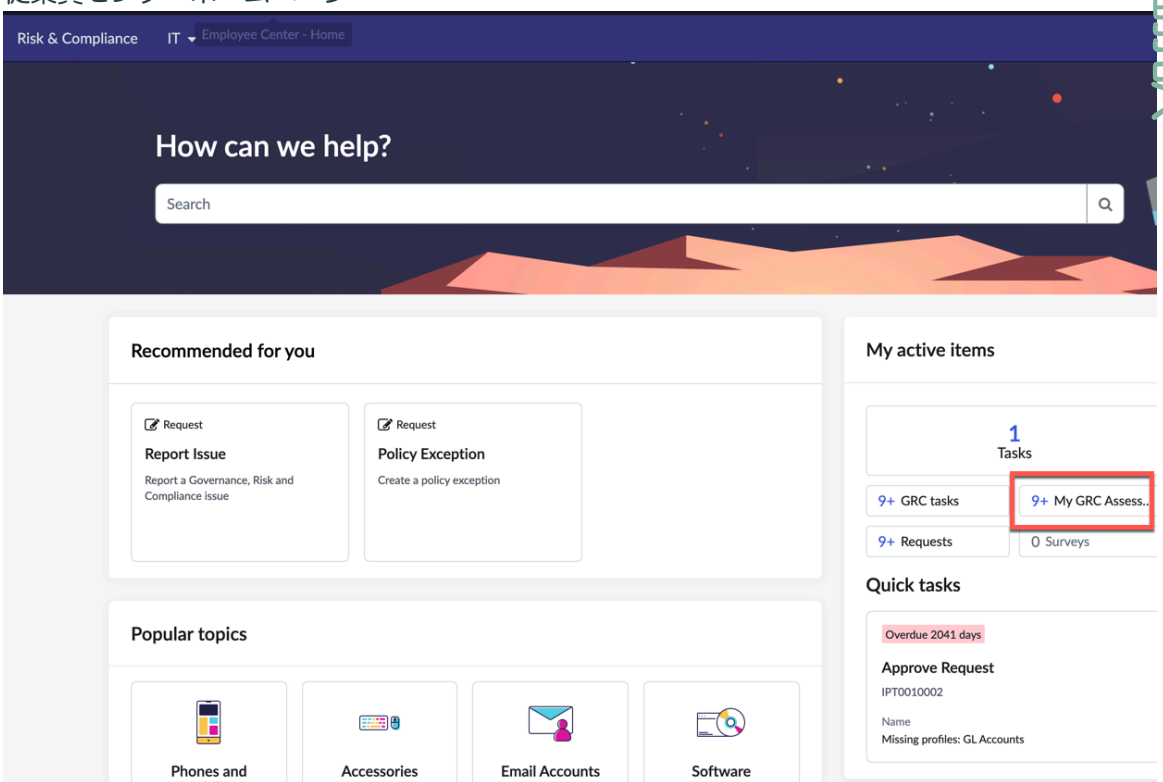
注:

[リスク識別アンケート] タイルは、GRC: Advanced Core プラグインがインストールされている場合にのみ使用できます。

手順

1. 移動先 すべて > セルフサービス > 従業員センター.
2. ホームページの [自分のアクティブなアイテム] ペインで [自分の **GRC** アセスメント] を選択します。

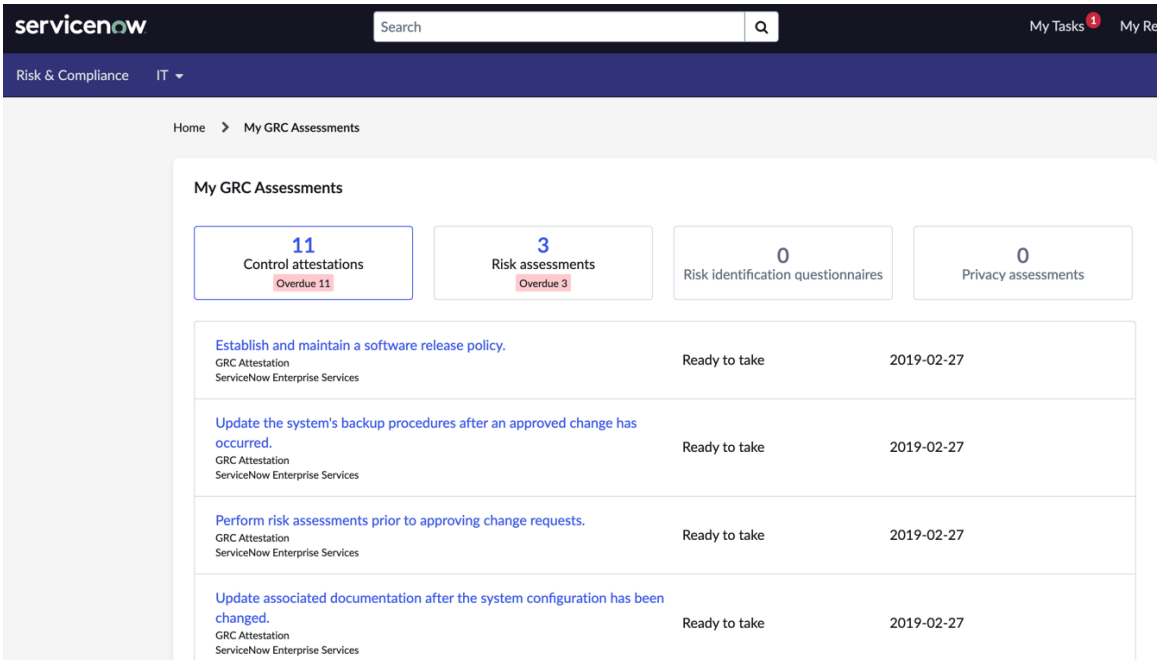
従業員センターホームページ



[コントロール証明書] タイルがハイライト表示され、有効で期限切れのすべての証明書が一覧表示されます。また、期限切れでリストの最初に登録されているコントロール証明書の数も表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

従業員センター での自分の **GRC** アセスメント



一度に 15 個のアイテムのみを表示するというページネーションの制限があります。

3. 要求をさらに表示するには、[その他の要求を表示] を選択します。
4. 証明するリスト内のコントロール証明書アイテムを選択します。
   ヘッダーには、コントロール目標、コントロール証明書が属するエンティティ、およびその説明が表示されます。
5. [開始 **(Get Started)]** ボタンを選択します。
6. 添付ファイルと説明を入力して証明書を完成させ、[送信] を選択します。

従業員センター ポータルのポリシーナレッジベースとクイックリンク

従業員センター で公開されたポリシーに関連するすべてのナレッジベース (KB) 記事を表示できます。

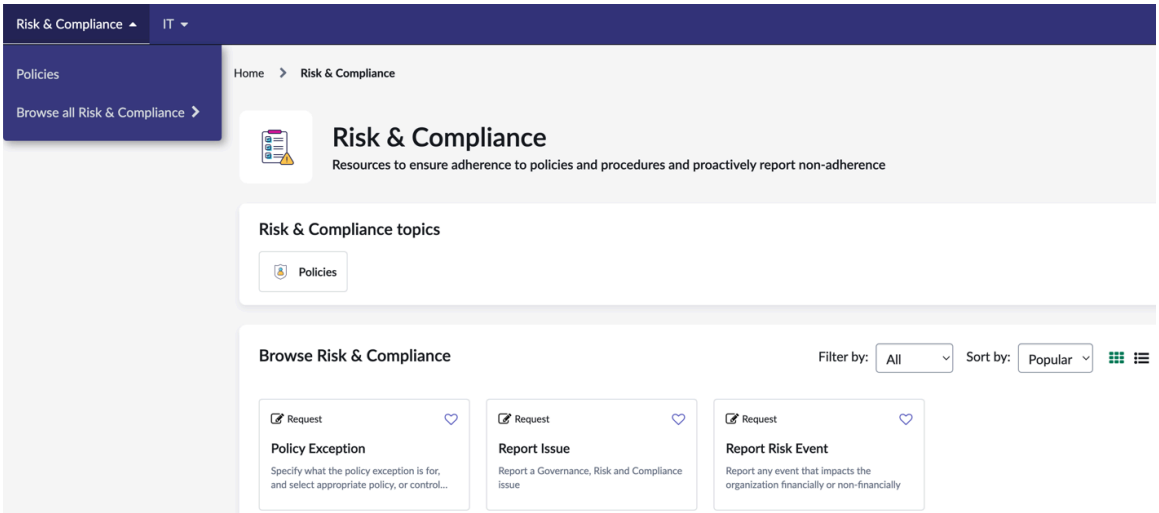
[リスクとコンプライアンス] セクションで [ポリシー] オプションを選択すると、[ポリシー] ページが表示され、まだ有効期限が切れていないすべてのナレッジベース (KB) 記事を表示できます。

注:
[有効期限] の日付が過ぎている場合でも、すべての KB を表示できます。ただし、ポリシーが廃止されると、対応する KB も廃止され、廃止された KB は表示されません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

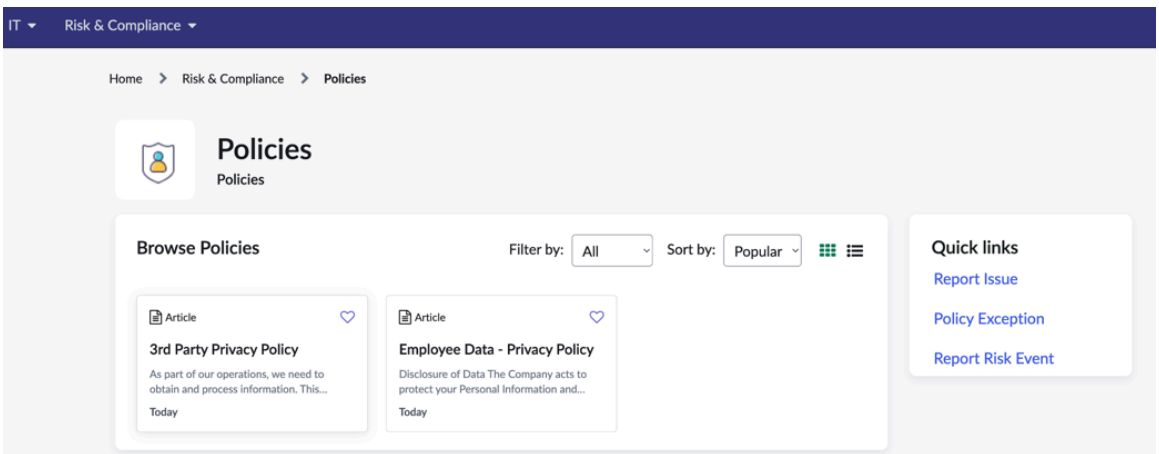
従業員センター のポリシートピック



アドミニストレーターは、スケジュール済みジョブ、*Pull the knowledge base articles related to policies*、をオンデマンドで実行し、公開されたポリシーのすべての KB 記事をプルし、それらを [ポリシー] トピックにリストします。公開されたポリシーの KB は、スケジュール済みジョブが実行された場合にのみポリシーページに一覧表示されます。ビジネスユーザーまたはビジネスユーザーの Lite ロールを持つユーザーには、公開された KB の読み取りアクセス権があります。

それぞれのフォームへの [クイックリンク] にアクセスして、それぞれのタスクを作成して実行します。たとえば、問題を作成するには、[問題を報告] リンクを選択し、問題の詳細を入力して送信します。レポートイベントにすばやくアクセスし、[リスク] および [ポリシーとコンプライアンス] に関するポリシーの例外を発生させるために、同様のリンクがそれぞれリストされています。

従業員センター で **KB** を表示



での類似のアセスメントのグループ化 従業員センター

同じエンティティまたはコントロール目標があるアセスメントをメトリクスタイプに基づいてグループ化し、さらに同じエンティティ、コントロール目標、またはカテゴリをグループ化することで、類似のアセスメントへの応答を提供します。

始める前に
必要なロール：sn_grc.business_user、sn_grc.business_user_lite

このタスクについて
構成可能ワークスペース では、コントロール証明書のみをグループ化できます。リスクアセスメント、ベンダーアセスメント、またはプライバシーアセスメントはグループ化できません。このようなアセスメントと、選択した[グループ分け基準] 基準でグループ化できないアセスメントは無効として

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

マークされ、[グループアセスメント] ポップアップの [グループプレビュー] に、そのようなアセスメントを表示するためのリンクとともに表示されます。

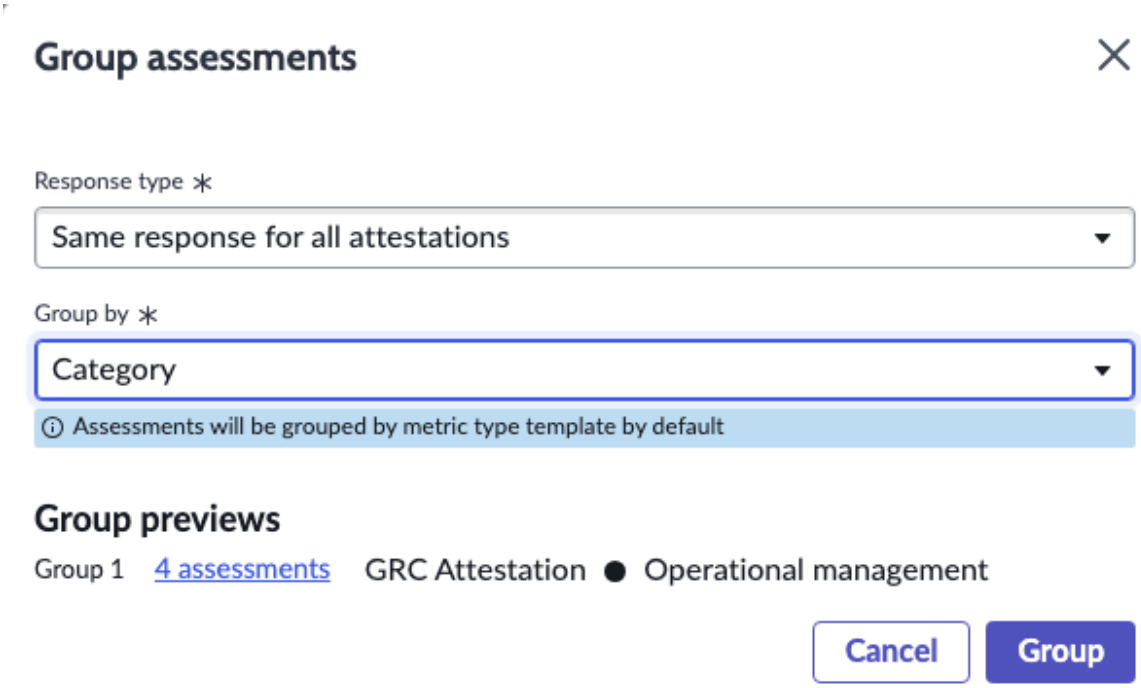
手順

1. 移動先 すべて > セルフサービス > 従業員センター.
2. ホームページの [自分のアクティブなアイテム] ペインで **[GRC** タスク] を選択します。
3. 左ペインでタスク アイコンを選択します。
4. [タスク] ページのリストビューで、グループ化する証明書レコードを選択します。

   注:
   レコードは少なくとも 2 つ選択する必要があります。グループ化には最大 13 のアセスメントレコードを選択できます。

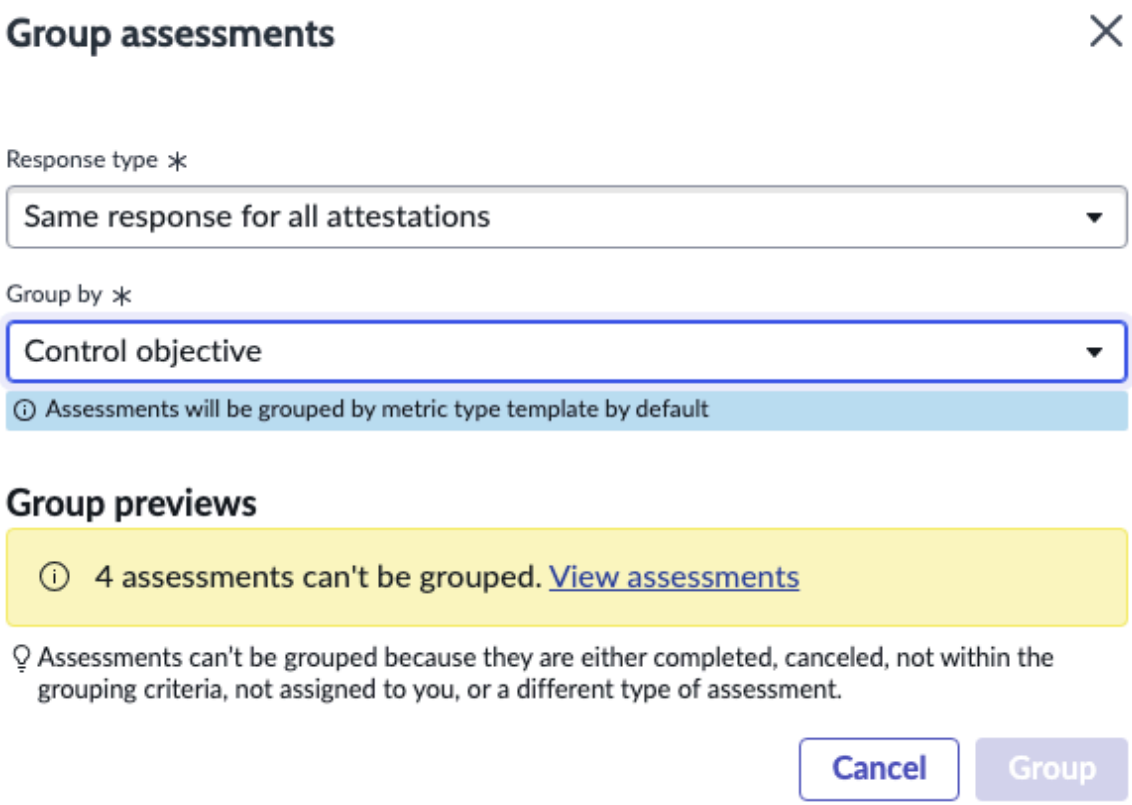
5. [グループアセスメント] ボタンを選択します。
6. [グループアセスメント] ポップアップで [応答タイプ] を選択します。
   応答タイプの詳細については、「同じ応答を使用する証明書をグループ化」を参照してください。
7. [グループ分け基準] リストで、アセスメントをグループ化する基準を選択します。
   デフォルトでは、アセスメントはメトリクスタイプテンプレート別にグループ化されます。アセスメントは、カテゴリ、エンティティ、またはコントロール目標別にグループ化できます。選択したアセスメントに共通のカテゴリ、エンティティ、またはコントロール目標がある場合、これらは自身の選択に基づいてグループ化されます。ただし、選択したアセスメントにグループ化に使用できる共通の基準がない場合、アセスメントは一切グループ化されません。

   [グループプレビュー] セクションには、グループ化の詳細、リンク付きのアセスメント、および適切なメッセージ情報 (グループ化されているか、または [グループ分け基準] 条件や、ステータス、アサイニー、メトリクスタイプの評価方法に基づいてグループ化できないか) が表示されます。



自動翻訳

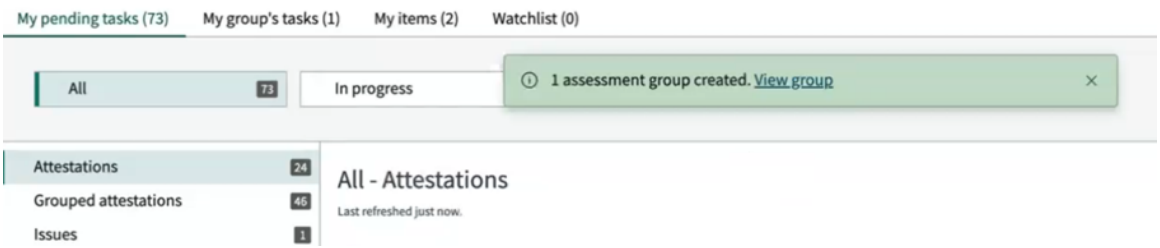
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



8. [グループ] ボタンを選択します。
   アセスメントのグループ化に成功すると、アセスメントグループが作成されたことを示すメッセージと、グループ化されたアセスメントへのリンクが表示されます。

   選択したアセスメントのうち、いくつかのアセスメントが選択した条件でグループ化できなかった場合、[グループプレビュー] ペインにはグループ化できなかったアセスメントの数が表示されます。ただし、選択した [グループ分け基準] 条件でグループ化できた他のアセスメントが選択にあるため、グループ化が成功した残りの部分を選択してグループ化するための [グループ] ボタンがアクティブになります。

   一方、リスクアセスメントやプライバシーアセスメントなど、選択したすべてのアセスメントが無効である場合、そのようなアセスメントはグループ化できないため、[グループ] ボタンは無効になります。

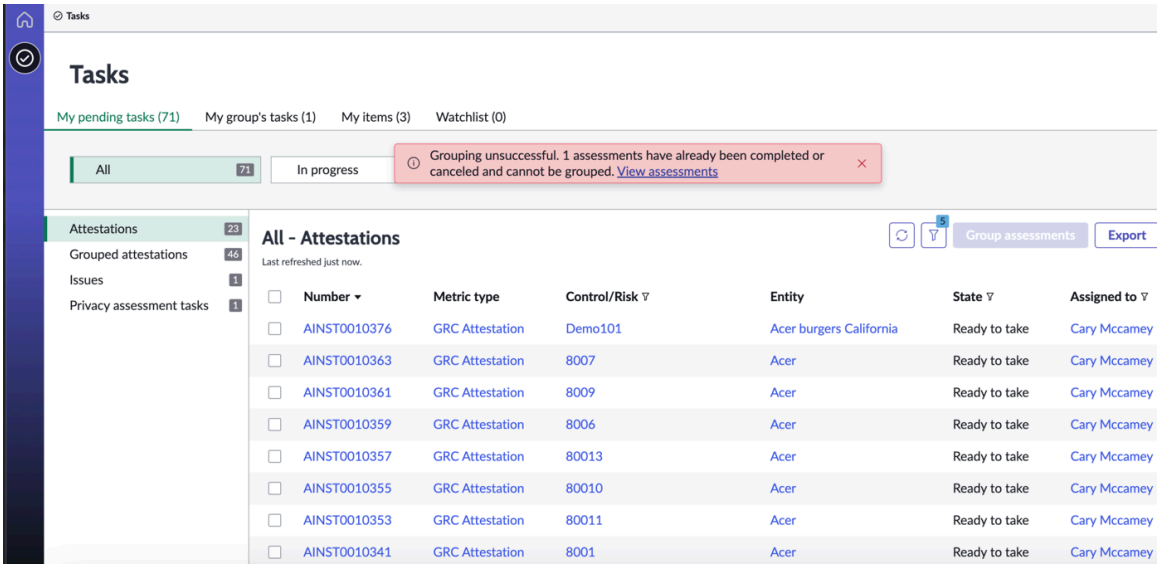


   注:
   [取得可能] または [進行中] ステータスのアセスメントはグループ化できますが、[完了] または [キャンセル済み] ステータスのアセスメントはグループ化できません。

   グループ化するために選択したレコードのステータスが変更され、[グループ] ボタンを選択してアセスメントをグループ化する前にアセスメントが行われている場合、そのようなレコードはグループ化できません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



9. グループ化されたアセスメントへのリンクを UI メッセージ内で選択します。
   リンクをクリックすると、グループ化されたアセスメントのリストビューに移動します。または、左ペインで [グループ化された証明書] を選択する方法もあります。[アセスメントのインスタンス] ページが開き、アセスメントを取得できます。

コンフィグレーションコンプライアンス と ポリシーとコンプライアンス管理 の間のコントロールの継続的な監視を管理

コントロールの継続的な監視は、GRC: ポリシーとコンプライアンス管理 製品と セキュリティオペレーション コンフィグレーションコンプライアンス 製品間の機能統合です。この機能は、Qualys などのサードパーティアプリケーションからのスキャン結果を統合して、関連する各コントロールのコンプライアンスステータスを判断します。

継続的な監視は、積極的なセキュリティ管理アプローチです。顧客はコンプライアンスを監視して検証し、各種法令・基準等に照らしてリスクを管理します。

継続的な監視ワークフロー

1. システムアドミニストレーターは、コンフィグレーションコンプライアンス および ポリシーとコンプライアンス管理 プラグインを有効にします。
2. コンプライアンスマネージャーは、コントロール目標またはコントロールを構成テストにマッピングして、それらの構成テストに関連するコントロール、エンティティ、およびインジケーターを生成します。
3. 統合は、定義された間隔でサードパーティの構成テストスキャンの結果を取り込みます。
4. 構成テストの構成テストスキャンの結果が失敗を示した場合、コントロールは非準拠であり、問題が自動的に生成されます。
5. 構成テストの次のスキャン結果がエラーが修正されたことを示している場合、コントロールは準拠しており、問題は自動的にクローズされます。

コントロール目標またはコントロールを構成テストにマッピング

コンプライアンスマネージャーは、コントロール目標またはコントロールを構成テストにマッピングして、コンフィグレーションコンプライアンスに関連付けられているコントロール、エンティティ、およびインジケーターを生成します。

始める前に
必要なロール：コンプライアンスマネージャー

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

この機能にアクセスするには コンフィグレーションコンプライアンス プラグインを有効にする必要があり、**sn_compliance.auto_create_profile_and_control** プロパティを true に設定する必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > ポリシーおよび手順 > 方針.
2. ポリシーレコードを開き、[コントロール目標] 関連リストをクリックして、[編集] をクリックします。

   注:
   この例では、[パスワード] ポリシーを使用します。

3. ポリシーに関連付ける各コントロール目標を選択します。
4. コントロール目標を開き、[引用] 関連リストをクリックして、このコントロール目標に関連付けられている各種法令・基準等の引用を表示します。

   注:
   この例では、[パスワードの有効期間を設定 **(Configure the maximum password age)]** コントロール目標を使用します。

5. [構成テスト] 関連リストをクリックし、次のいずれかの追加オプションを選択します。
   - [追加] をクリックします。
   - [ポリシーから追加] をクリック
   - [信頼できるソースから追加] をクリック

   注:
   各構成テストの [ソース] フィールドは、情報のサードパーティプロバイダーを識別します。

6. 選択後、[追加] をクリックします。
   すべての構成アイテム (コントロール、エンティティ、およびインジケーター) がマッピングされ、[構成テスト] 関連リストに表示されます。結果の生成には数分かかる場合があります。

コンフィギュレーションコンプライアンススキャン結果を解釈する

コントロールの構成テストスキャンの結果がエラーを示す場合、コントロールは非準拠とマークされます。スキャンの結果が合格を示す場合、すべての構成テスト、コントロールの順に準拠とマークされます。

始める前に

必要なロール：コンプライアンスマネージャー

この機能にアクセスするには コンフィグレーションコンプライアンス プラグインをアクティブ化する必要があり、*sn_compliance.auto_create_profile_and_control* プロパティを true に設定する必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > ポリシーおよび手順 > コントロール目標.

   注:
   この例では、[パスワードの有効期間を設定 **(Configure the maximum password age)]** ポリシーステートメントを使用します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. コントロール目標レコードを開き、[コントロール] 関連リストをクリックします。
   コンフィギュレーションコンプライアンステストスキャンから 11 個のコントロールが生成されました。各コントロールには関連付けられた [プロファイル] があり、すべてのコントロールで [非準拠] の [ステータス] が表示されるため、同じ数の問題が自動的に生成されます。
3. コントロールレコードを開き、[インジケーター] 関連リストをクリックします。
4. インジケーターレコードを開いてインジケーターの結果を確認します。
   構成テストスキャンの結果は定期的に更新されます。スキャン結果がエラーが修正されたことを示している場合、コントロールは準拠とマークされ、問題は自動的にクローズされます。

GRC Policy and Compliance のモバイルエクスペリエンスの管理

ポリシーとコンプライアンスマネージャーは、Android または iOS モバイルデバイスを使用して作業を管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

コンプライアンスマネージャーのユーザーロールアクション

ServiceNow AI Platform® コンプライアンスマネージャー (sn_compliance.manager) ロールを持つユーザーは、デスクトップに依存することなく作業を管理します。現在のアラートだけではなく、重要な資産、ベンダー、影響を受ける中核のビジネスサービスのリスクとコンプライアンスステータスの通知をすべてモバイルデバイスで適時に受信します。

GRC モバイルアプリケーションを使用すると、デスクトップに関連付けられずに次の ポリシーとコンプライアンス管理 アクティビティを実行できます。

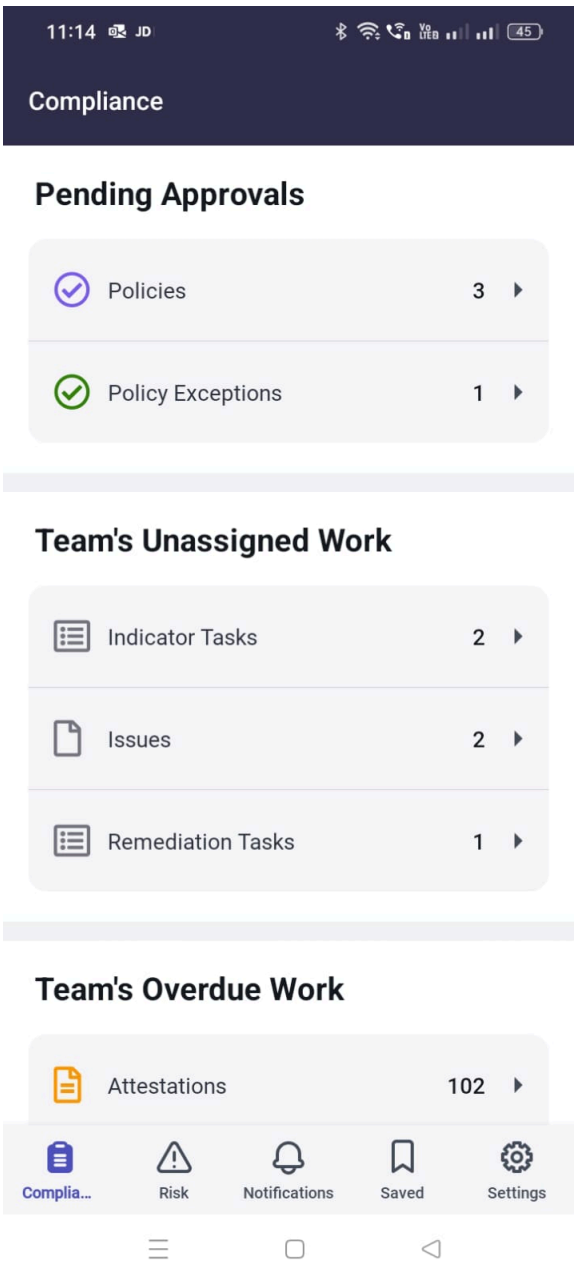
- 割り当てられた処理待ちのポリシーおよびポリシー例外要求を承認または却下します。
- インジケータータスク、問題、および修復タスクアプレットを使用して、未アサインのタスクと問題をチームにアサインします。
- 証明書および期限切れの問題アプレットを使用して、チームの期限切れタスクを管理および再アサインします。

次の図は、モバイルデバイスから ServiceNow AI Platform インスタンスにログインする方法と、ログイン後に表示されるランディング画面を示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC モバイルアプリケーション



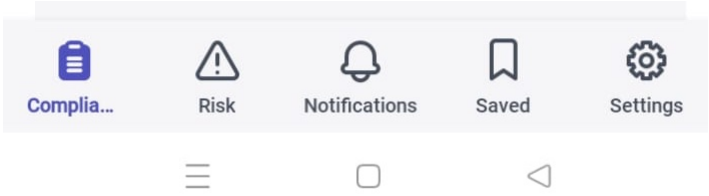
ServiceNow AI Platform インスタンスを設定し、GRC モバイルアプリケーションをインストールする方法の詳細な手順については、「GRC モバイルアプリケーションのセットアップチェックリスト」を参照してください。ログイン方法については、「GRC モバイルアプリケーション へのログイン」を参照してください。

アプリケーション

アプリケーションとは、ServiceNow AI Platform インスタンス内で特定の機能を提供する、ポリシーとコンプライアンス管理、リスク管理、監査管理 などの ServiceNow ソフトウェアコンポーネントです。これらのコアアプリケーションと GRC モバイルアプリを ServiceNow AI Platform インスタンスにインストールすると、ログイン後に Android または iOS モバイルデバイスの下部にこれらのアプリケーションがアイコンとして表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



フォルダー

各 ServiceNow® モバイル アプリケーションには、カテゴリ別にアプレットを分離するフォルダーが含まれています。前の画像では、[承認待ち]、[チームのアサインされていない作業]、および [チームの期限切れ作業] が アプリポリシーとコンプライアンス モバイルアプリのフォルダーです。

アプレット

アプレットは、アプリケーション内のさまざまなオプションです。前の画像では、[承認待ち]、[チームのアサインされていない作業]、および [チームの期限切れ作業] の下にあるアイコンが アプリポリシーとコンプライアンスモバイルアプリの利用可能なアプレットです。

GRC モバイルアプリケーションのセットアップチェックリスト

次のチェックリストには、ServiceNow® AI Platform インスタンスおよびモバイルデバイスで GRC モバイルアプリケーションを使用する前に完了する必要があるセットアップタスクが含まれています。GRC モバイルアプリケーション を使用してモバイルデバイスで ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションを表示する前に、これらの設定タスクを完了してください。

始める前に

オプションとして、このチェックリストを印刷し、GRC モバイルアプリケーションに必要な設定タスクのガイドとして使用します。

このタスクの完了までの推定時間は 15 ～ 20 分です。

必要なロール：admin、sn_compliance.manager

手順

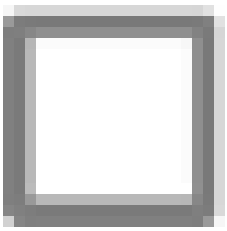
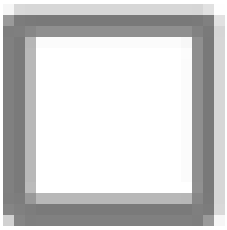
GRC モバイルアプリケーション にログインして ServiceNow AI Platform インスタンスを追加できるように、リストの各アイテムが完了していることを確認します。

GRC モバイルアプリケーション チェックリスト

アイテム	説明
☐	admin ロールを持つユーザーは、GRC コアアプリケーションが ServiceNow AI Platform インスタンスにインストールされていることを確認します。これは、モバイルデバイスで表示する ServiceNow AI Platform インスタンスです。 **注:** GRC コアアプリケーションと ServiceNow AI Platform インスタンスは、ファミリーリリースが同じである必要があります。

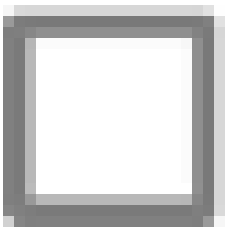
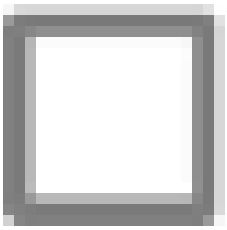
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アイテム	説明
	a. GRC: GRC Profile 依存関係コアアプリケーションがインスタンスにインストールされていることを検証するには、[プラグイン] に移動して、GRC Profile を検索します。 **b.** GRC Profile コアアプリケーションがまだインストールされていない場合は、[インストール] をクリックして、インストールします。 **c.** GRC Profile アプリケーションをインストールした後、ポリシーとコンプライアンス管理 コアアプリケーション、または リスク管理 コアアプリケーション、または ポリシーとコンプライアンス管理 と リスク管理 の両方のアプリケーションをインストールします。これらは、GRC モバイルアプリケーション で表示できる 2 つの GRC アプリケーションです。 インスタンスに表示されていない場合は、すべての GRC コアアプリケーションを ServiceNow Store から入手できます。 GRC コアアプリケーションのエンタイトルメントの取得、ダウンロード、およびインストールの詳細については、「GRC と ServiceNow Store」を参照してください。 GRC コアアプリケーションをインストールすると、GRC モバイルアプリケーション の依存関係プラグイン (com.glide.sg および com.glide.sg.agent_native_client) も自動的にインストールされます。 これらの依存関係プラグインがインストールされ、有効化されていることを確認するには： **a.** [プラグイン] に移動します。 **b.** プラグイン ID (com.glide.sg および com.glide.sg.agent_native_client) を検索します。 **c.** 有効化されていない場合は、これらのプラグインを有効化します。
	アドミンロールを持つユーザーとして、モバイルデバイスで表示する ServiceNow AI Platform インスタンスに GRC モバイルアプリがインストールされていることを確認します。 **注:** GRCモバイルアプリと ServiceNow AI Platform インスタンスは、ファミリーリリースが同じである必要があります。 GRC モバイルアプリケーション でのエンタイトルメントの取得、ダウンロード、およびインストールの詳細については、「GRC と ServiceNow Store」を参照してください。
	アドミンロールを持つユーザーは、ServiceNow AI Platform インスタンスで、モバイルユーザーに必要な ServiceNow AI Platform ロールをアサインしたことを確認します。 **a.** ユーザーにアサインされているロールを表示するには、次に移動します: ユーザーとグループ > ユーザー. **b.** ユーザー名、続いてロール関連リストを選択します。このユーザーにアサインされているすべてのロールが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アイテム	説明
	c. ユーザーがアサインされていることを確認するか、IT インフラストラクチャライブラリーロール (itil) を持つユーザーをアサインします。itil ロールを持つユーザーは、レコードを作成し、開き、更新できます。itil ロールを持つユーザーのみにタスクをアサインすることができます。 **d.** ユーザーがアサインされていることを確認するか、コンプライアンスマネージャーロール (sn_compliance.manager) を持つユーザーをアサインします。このロールは、itil ロールをアサインすると自動的に追加されます。 **e.** 必要なアサイン先グループを作成し、これらのグループにモバイルユーザーをアサインしたことを確認します。 **注:** モバイルアプリケーションに複数のユーザーがいる場合は、sn_compliance.manager ロールをグループに割り当てることもできます。グループに追加する各ユーザーは、このロールを継承します。 ユーザーおよびユーザーとグループへのロールのアサインの詳細については、「ユーザーの作成」、「ロールをユーザーにアサイン」、「グループへのロールのアサイン」を参照してください。
	sn_compliance.manager ロールを持つモバイルユーザーは、モバイルデバイスで最新の ServiceNow エージェントアプリケーションをダウンロードしてインストールします。 最新の Agent アプリは、Apple iOS App Store と Google Play ストアで入手できます。
	sn_compliance.manager ロールを持つユーザーとして、モバイルデバイスと ServiceNow AI Platform インスタンスで通知が有効になっていることを確認します。 重要な処理待ちの承認要求が自分または自分のアサイン先グループにアサインされたときに通知されます。タイムリーな修正を支援するには、通知を有効にした後、GRC モバイルアプリケーション 内の通知をクリックしてレコードに直接移動します。 ServiceNow AI Platform インスタンスで通知を有効にしてモバイルデバイスに表示されるようにするには、次の手順を実行します。 **a.** GRC モバイルアプリケーション を ServiceNow AI Platform インスタンスにダウンロードしてインストールしたことを確認します。 **b.** ServiceNow AI Platform インスタンスの [システムの設定] の [通知] で、**ServiceNow Mobile** アプリケーションが有効になっていることを確認します。 ServiceNow AI Platform の通知は、モバイルデバイスのメッセージ画面にも表示されます。モバイルデバイスの設定でも通知が有効になっていることを確認します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モバイルデバイスと、GRC モバイルアプリケーション 用の ServiceNow AI Platform が正常に設定されました。次のステップでは、モバイルデバイスで ServiceNow エージェントアプリを使用して ServiceNow AI Platform インスタンスにログインします。

GRC モバイルアプリケーション へのログイン

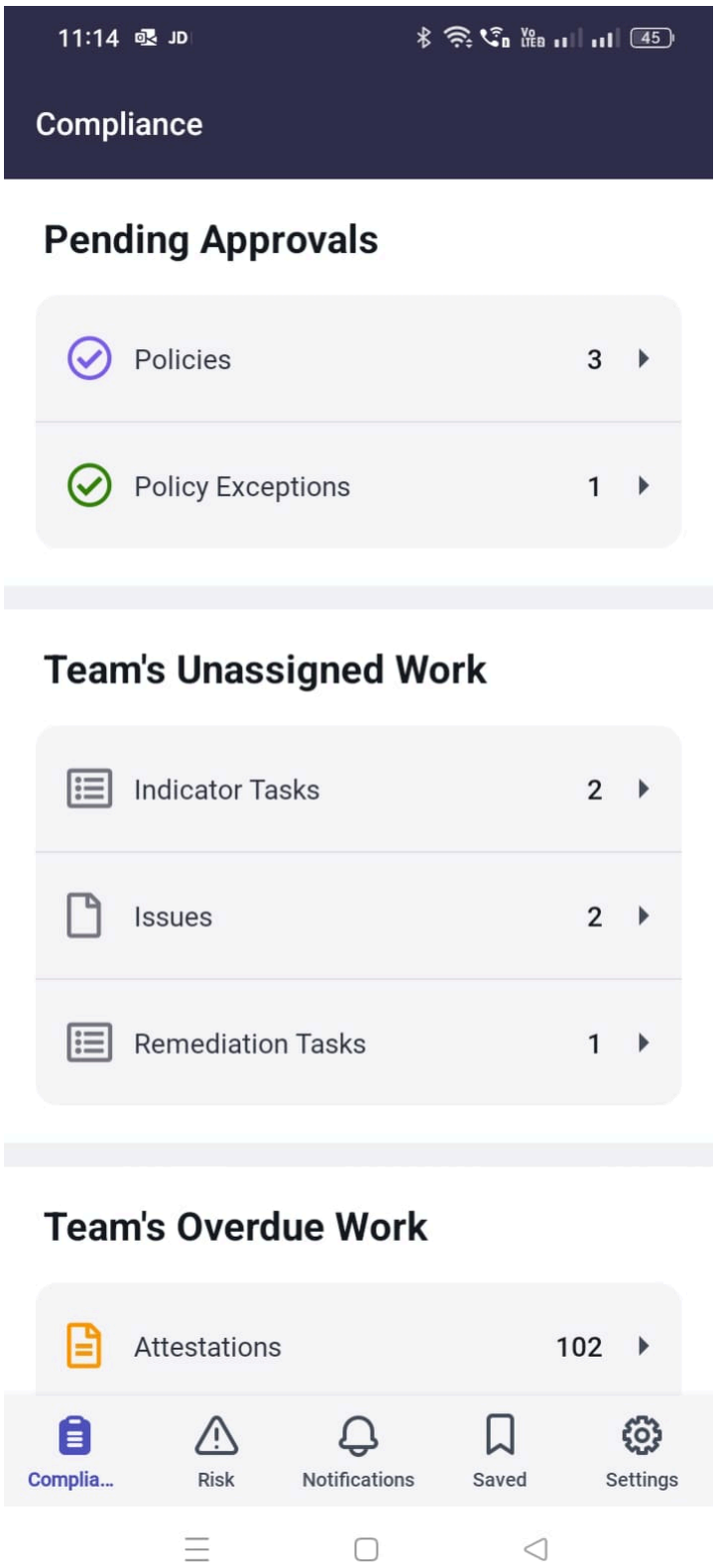
GRC モバイルアプリケーション を開き、ServiceNow AI Platform® インスタンスを ポリシーとコンプライアンス管理 でモバイルデバイスに追加します。

始める前に
「GRC モバイルアプリケーションのセットアップチェックリスト」で説明されているセットアップ手順を完了していることを確認します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC モバイルアプリケーション



必要なロール：GRC コンプライアンスマネージャー (sn_compliance.manager)

このタスクについて
このタスクの完了にかかる時間：5 ～ 7 分。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. モバイルデバイスで、**ServiceNow** エージェントアプリをタップします。

   ServiceNow AI Platform インスタンスにまだログインしていない場合は、[インスタンス] 画面が表示されます。

2. ポリシーとコンプライアンス管理 コアアプリケーションを含む ServiceNow AI Platform インスタンスがまだモバイルデバイスに追加されていない場合は、次の手順に従って追加します。

   a. 表示される [インスタンス] 画面で、プラスアイコン ( ) をタップします。
   ServiceNow AI Platform インスタンスのアドレスを入力して保存するように求める画面が表示されます。

   b. フィールドに入力します。

フィールド名	説明
インスタンスアドレスを入力するか、QR コードをスキャンしてください。	1 つ選択して続行します。 ▪ フィールドの .service-now.com の前に、ServiceNow AI Platform インスタンスの名前 (例：grcmobile) を入力します。 ▪ アドレスを入力します。これは、モバイルデバイスで表示する ServiceNow AI Platform インスタンスの URL のアドレスです。 ▪ QR コードをスキャンします。 モバイルアプリの詳細については、ServiceNow 製品ドキュメント Web サイト の「モバイルアプリを使用してインスタンスにログインする」を参照してください。
(オプション) ニックネームを入力	このインスタンスのニックネームを入力します。デバイスに複数のインスタンスが存在する場合、ニックネームを使用することで、ServiceNow AI Platform インスタンスをすばやく見つけることができます。

   c. [保存してログイン **(Save and Login)**] をタップします。

3. 表示される ServiceNow ログイン画面で、追加する ServiceNow AI Platform インスタンスの [ユーザー名] と [パスワード] を入力し、[ログイン] をタップします。
   [Policy and Compliance] ランディング画面が表示されます。GRC モバイルアプリケーション に正常にログインしました。
4. ログイン後、GRC モバイルアプリケーション で通知が有効になっていることを確認します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. 下部のランディング画面で、[その他] をタップし ます。

b. [その他] 画面で、[通知] をタップします。

c. [通知] 画面で、[通知を有効にします] をタップします。
ServiceNow AI Platform からの通知は、GRC モバイルアプリケーション の [通知] 画面に表示されます。

5. モバイルデバイスでインスタンスにログインすると、そのインスタンスがデバイスのデフォルトの ServiceNow AI Platform インスタンスになります。
デバイス上の別の ServiceNow AI Platform インスタンスを表示するには、デフォルトのインスタンスからログアウトする必要があります。ログアウトするには：

a. 画面の下部にある [その他] をタップします。
[その他] 画面が表示されます。

b. [設定] をタップします。

c. 表示される画面で、[ログアウト] をタップします。
[インスタンス] 画面に、モバイルデバイスに追加した ServiceNow AI Platform インスタンスが表示されます。

d. オプション: 別のインスタンスをタップしてログインするか、前の手順に従って別のインスタンスを追加します。

Trouble?

デバイスで **[ServiceNow** エージェント] アプリをタップした後に GRC モバイルアプリケーションのインスタンス画面が表示されない場合は、デバイスで **[ServiceNow** エージェント] アプリが信頼できるアプリとして許可されていることを確認してください。信頼できるアプリとしてのアクセスを許可するには、デバイスの [設定] および [一般的なデバイス管理] に移動し、オプション ([アプリを信頼 **(Trust app)]** など) をタップしてアクセスを許可します。

ログイン画面に認証情報を入力した後にエラーメッセージが表示された場合は、ServiceNow AI Platform インスタンスのユーザー名とパスワードが正しいことを確認してください。

ランディング画面の表示に問題がある場合は、ネットワーク接続を確認してください。

ServiceNow エージェントアプリをタップしても [インスタンス] 画面を表示できない場合は、デバイスからアンインストールしてください。Apple iOS App Store または Google Play ストアから最新バージョンのアプリを入手して、再インストールしてみてください。

次のタスク
各アプレットの詳細については、次のいずれかのトピックを選択してください。

処理待ちの ポリシーとコンプライアンス管理 承認要求を **GRC** モバイルアプリケーションで処理

自分に送信された処理待ちのポリシー承認要求を承認または却下します。

始める前に
必要なロール：コンプライアンスマネージャー (sn_compliance.manager)

自動翻訳

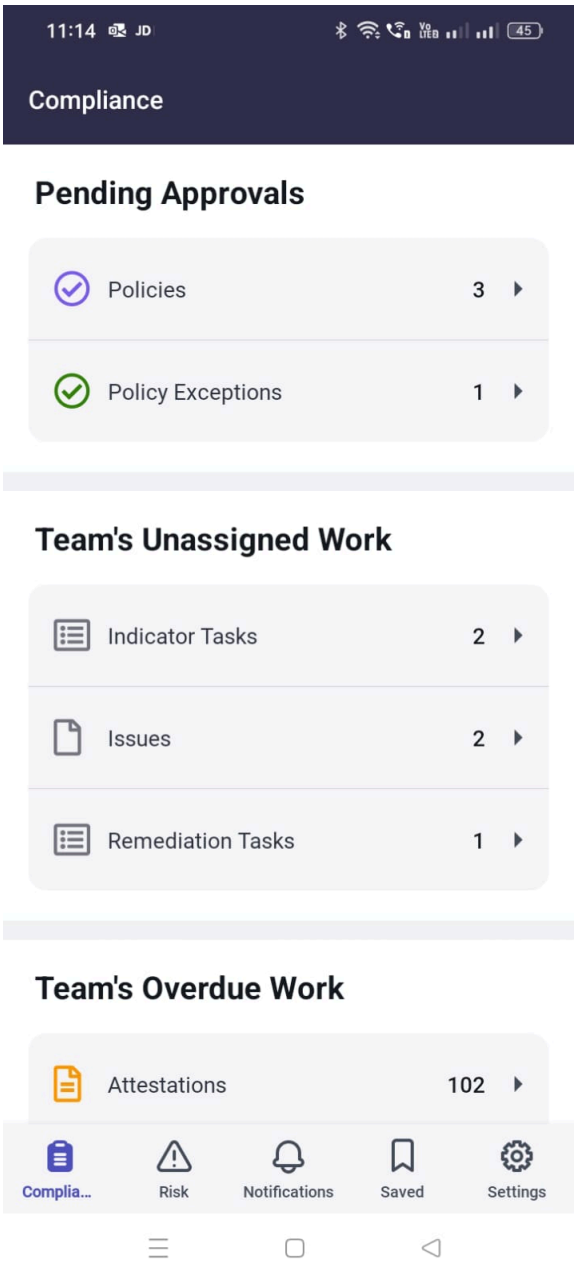
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
レコードのリストから処理待ちの ポリシーとコンプライアンス管理 要求を承認または却下します。または、要求を処理する前にレコードの詳細を表示するか、作業メモを追加します。このタスクの完了にかかる時間は 5 ～ 10 分です。

手順

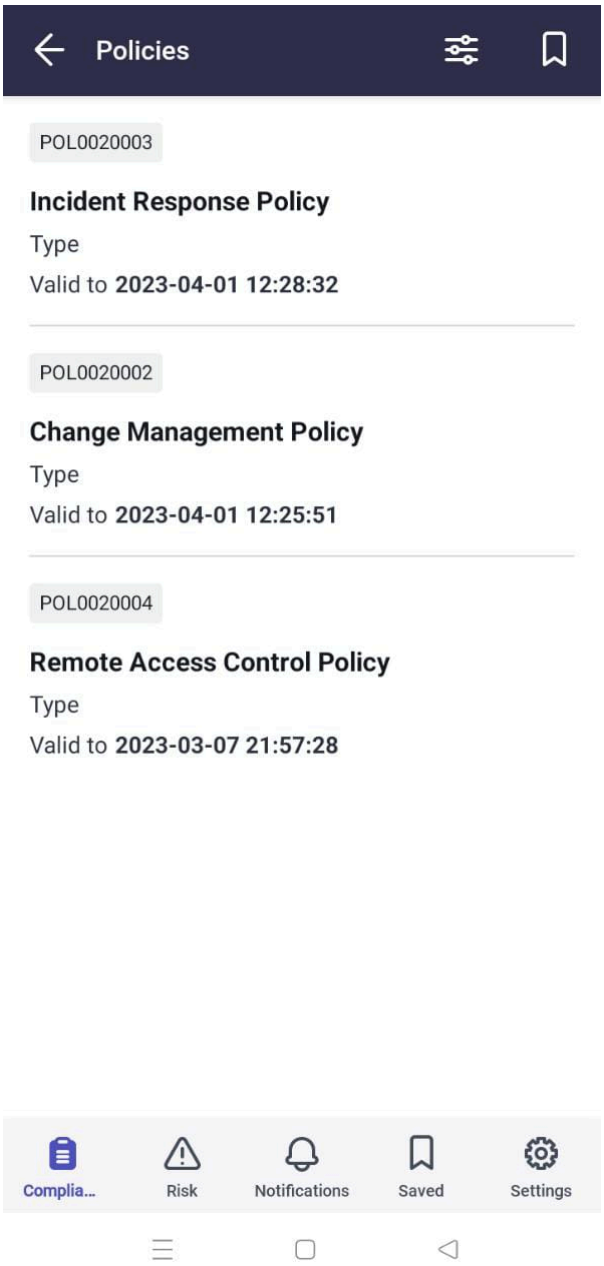
1. モバイルデバイスで ServiceNow AI Platform インスタンスにログインしていない場合、詳細については、GRC モバイルアプリケーション へのログイン を参照してください。
2. [Policy and Compliance] ランディング画面が表示されたら、[ポリシー] をタップします。

   ログイン後に GRC モバイルアプリケーション から移動した場合は、Now Agent アプリをタップすると、いつでも最後に表示していた画面に戻ります。



[ポリシー] 画面にレコードのリストが表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



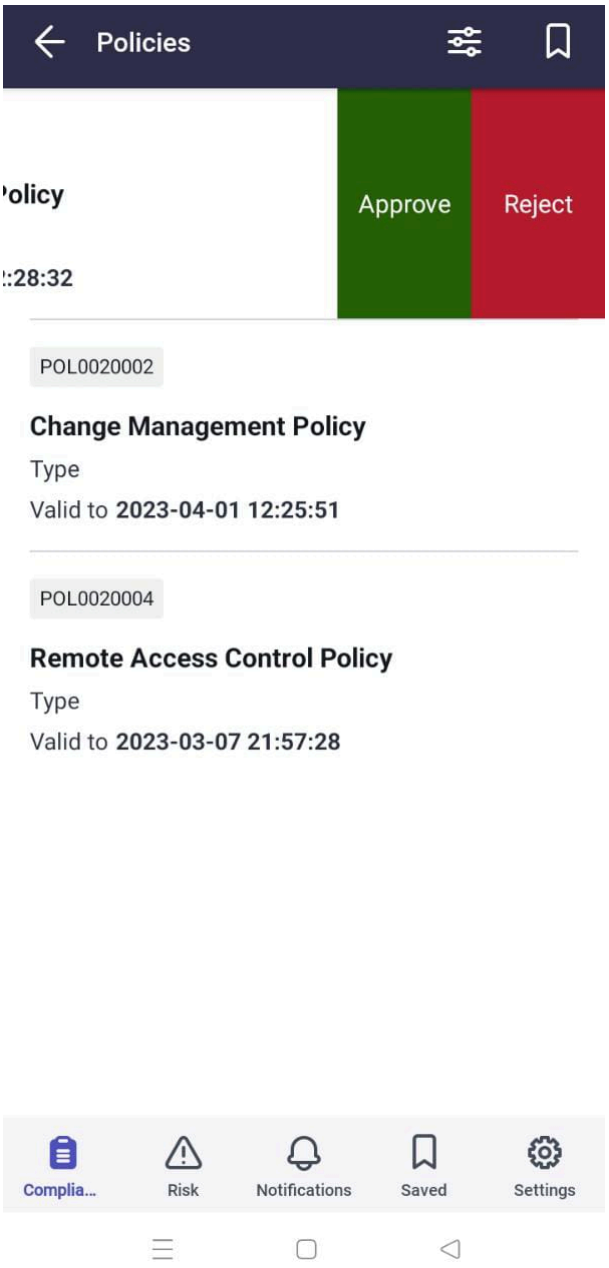
自動翻訳

3. オプション: 画面に表示されるレコード数を減らすには、GRC モバイルアプリケーション でのレコードのフィルタリング を参照して、特定の検索条件に一致するレコードを検索します。

   (Optional) モバイルアプリの画面でのレコードのフィルタリングは、ServiceNow AI Platform で条件ビルダーを使用したフィルタリングと同様に機能します。フィルターを設定すると、画面に表示されるレコードの数を減らすことができます。

4. レコードのリストが表示された [ポリシー] 画面で、レコードを左にスワイプしてメニューを開きます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



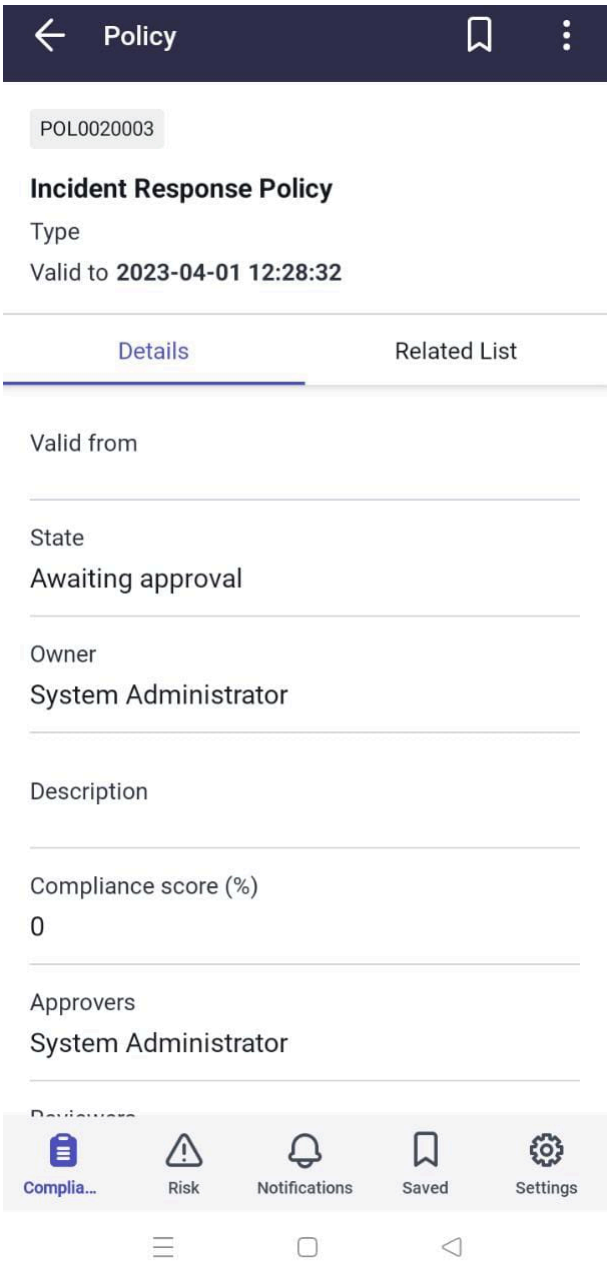
5. 表示されるメニューで、いずれかを選択して要求を処理します。

6. または、[ポリシー] 画面が表示されたら、リストでレコードをタップして開き、詳細を表示します。

次の図に示すようにポリシーレコードのフィールドが表示されたら、テーブルでフィールドを 1 つ選択して続行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

GRC モバイルアプリケーションでポリシー例外の承認待ちを処理

自分にアサインされた処理待ちのポリシー例外およびポリシー例外延長要求を承認または却下します。

始める前に

必要なロール：コンプライアンスマネージャー (sn_compliance.manager)

このタスクについて

このアプレットを使用すると、ポリシー例外レコードのリストに対して次のタスクを実行できます。

- 編集
- 追加情報の要求
- 処理待ちのポリシー例外または延長要求を承認または却下
- 要求を処理する前にレコードの詳細を表示するか、作業メモを追加

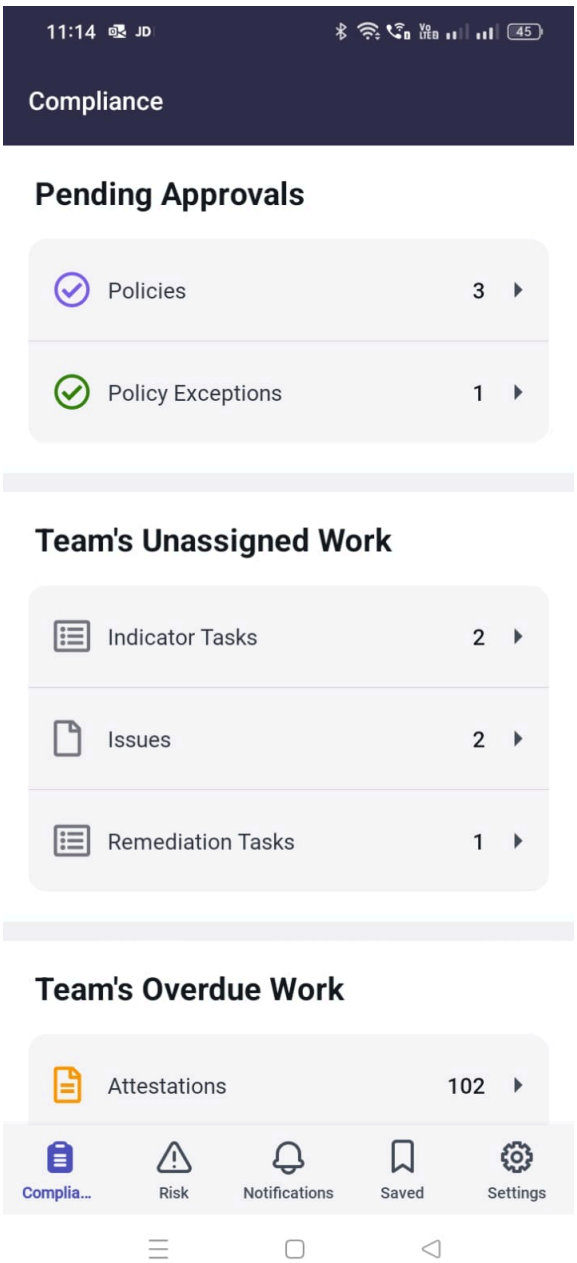
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクの完了にかかる時間は 5 ～ 10 分です。

手順

1. モバイルデバイスで ServiceNow AI Platform インスタンスにログインしていない場合、詳細については、GRC モバイルアプリケーション へのログイン を参照してください。
2. [ポリシーとコンプライアンス] ランディング画面が表示されたら、[ポリシー例外] をタップします。

   ログイン後に GRC モバイルアプリケーション から移動した場合は、Now Agent アプリをタップすると、いつでも最後に表示していた画面に戻ります。



[ポリシー例外] 画面にレコードのリストが表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

3. オプション: 画面に表示されるレコード数を減らすには、GRC モバイルアプリケーション でのレコードのフィルタリング を参照して、特定の検索条件に一致するレコードを検索します。

   (Optional) モバイルアプリの画面でのレコードのフィルタリングは、ServiceNow AI Platform で条件ビルダーを使用したフィルタリングと同様に機能します。フィルターを設定すると、画面に表示されるレコードの数を減らすことができます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. 画面に表示されているレコードのリストから直接、ポリシー例外を編集、承認、却下、または詳細を要求するには、レコードを左にスワイプしてメニューを開きます。

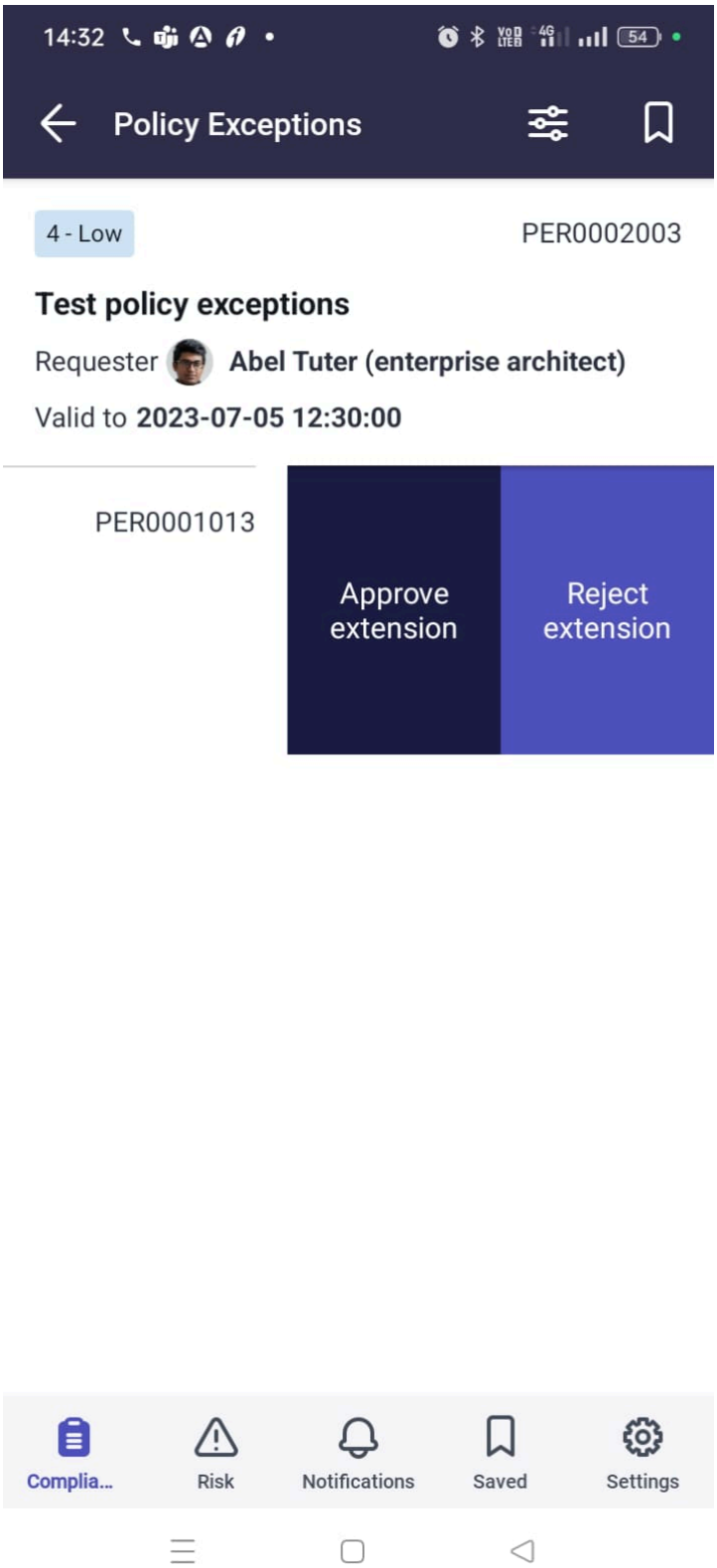


5. 表示されるメニューで、次の表からいずれかを選択して続行します。

6. 詳細情報を要求した後に [ポリシー例外] 画面に表示されるレコードのリストから直接、ポリシー例外延長要求を承認または却下するには、レコードを左にスワイプしてメニューを開きます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



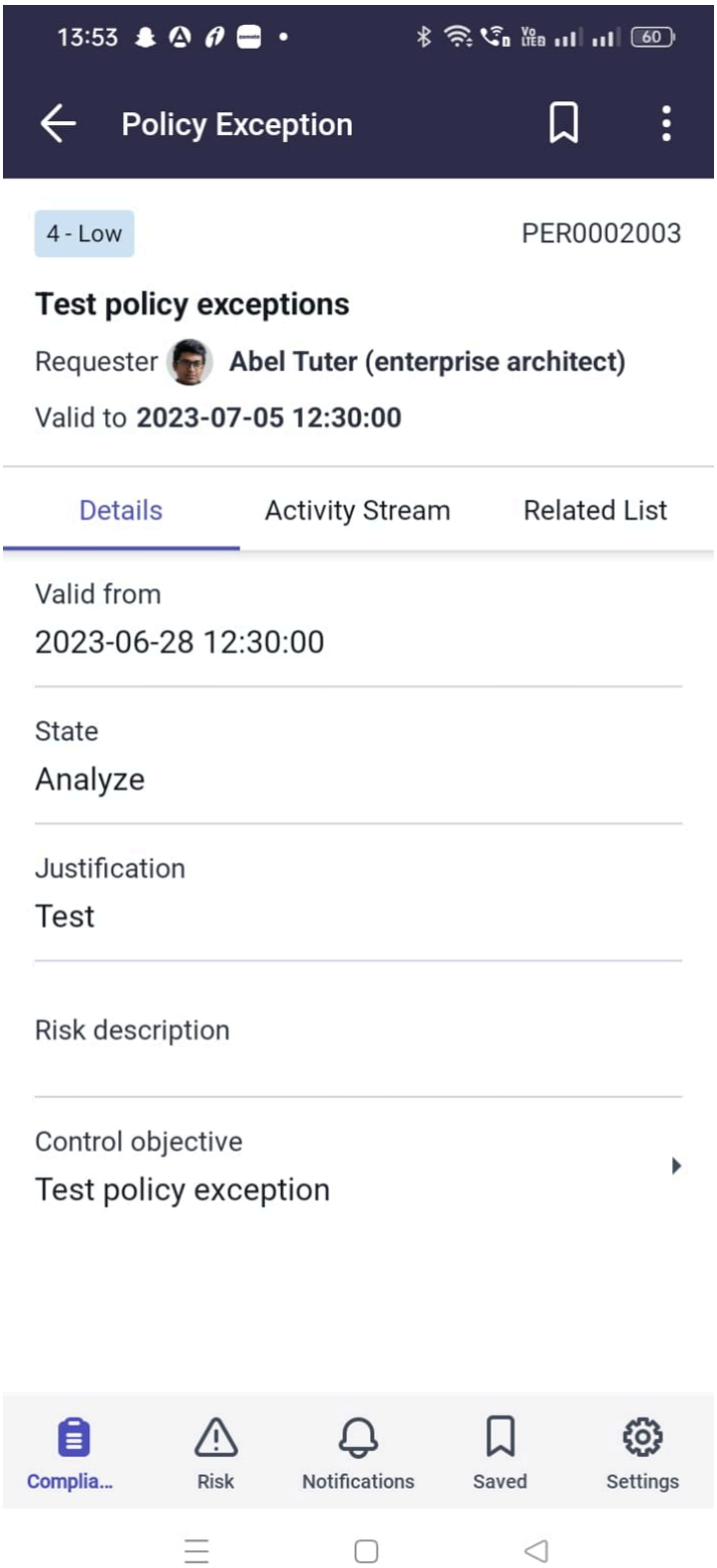
自動翻訳

7. 表示されるポリシー延長のメニューで、いずれかを選択して続行します。

8. または、[ポリシー例外] 画面が表示されたら、リストでレコードをタップして開き、詳細を確認します。

   レコードのフィールドが表示されたら、テーブルでいずれかを選択して続行します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



ポリシーとコンプライアンス管理 インジケータータスクを **GRC** モバイルアプリケーション でアサイン

アサインされていない ポリシーとコンプライアンス管理 インジケータータスクをアサイン先グループのメンバーにアサインします。インジケータータスクは、コンプライアンスグループにアサインされたコントロールレコードに関連しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：GRC コンプライアンスマネージャー (sn_compliance.manager)

このタスクについて
レコードのリストからタスクをアサインします。または、アサインの前にレコードの詳細を表示するか、作業メモを追加します。このタスクの完了にかかる時間は 5 ～ 10 分です。

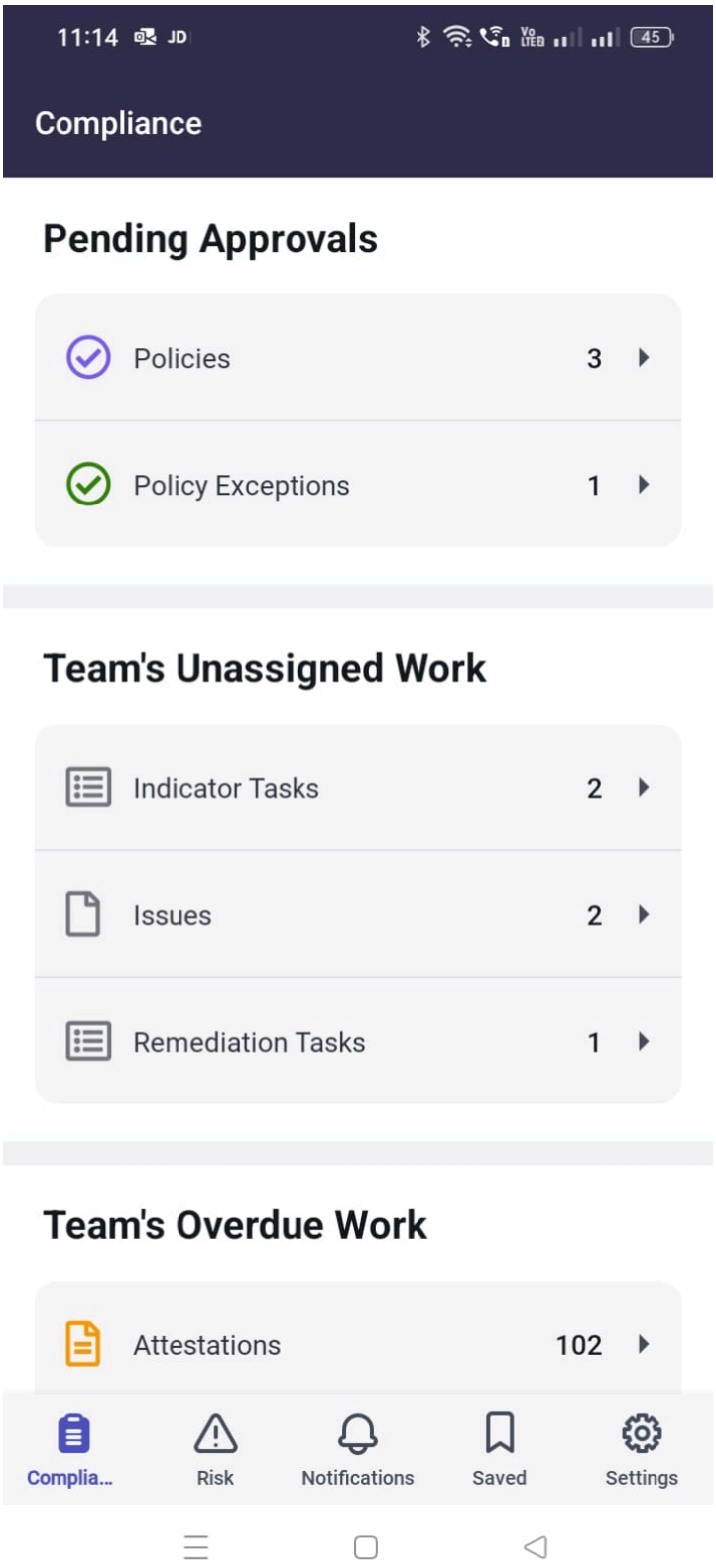
手順

1. モバイルデバイスで ServiceNow AI Platform インスタンスにログインしていない場合、詳細については、GRC モバイルアプリケーション へのログイン を参照してください。
2. [ポリシーとコンプライアンス] 画面が表示された状態で、[チームのアサインされていない作業] セクションにある [インジケータータスク] をタップします。

   ログイン後に GRC モバイルアプリケーション から移動した場合は、Now Agent アプリをタップすると、いつでも最後に表示していた画面に戻ります。

自動翻訳

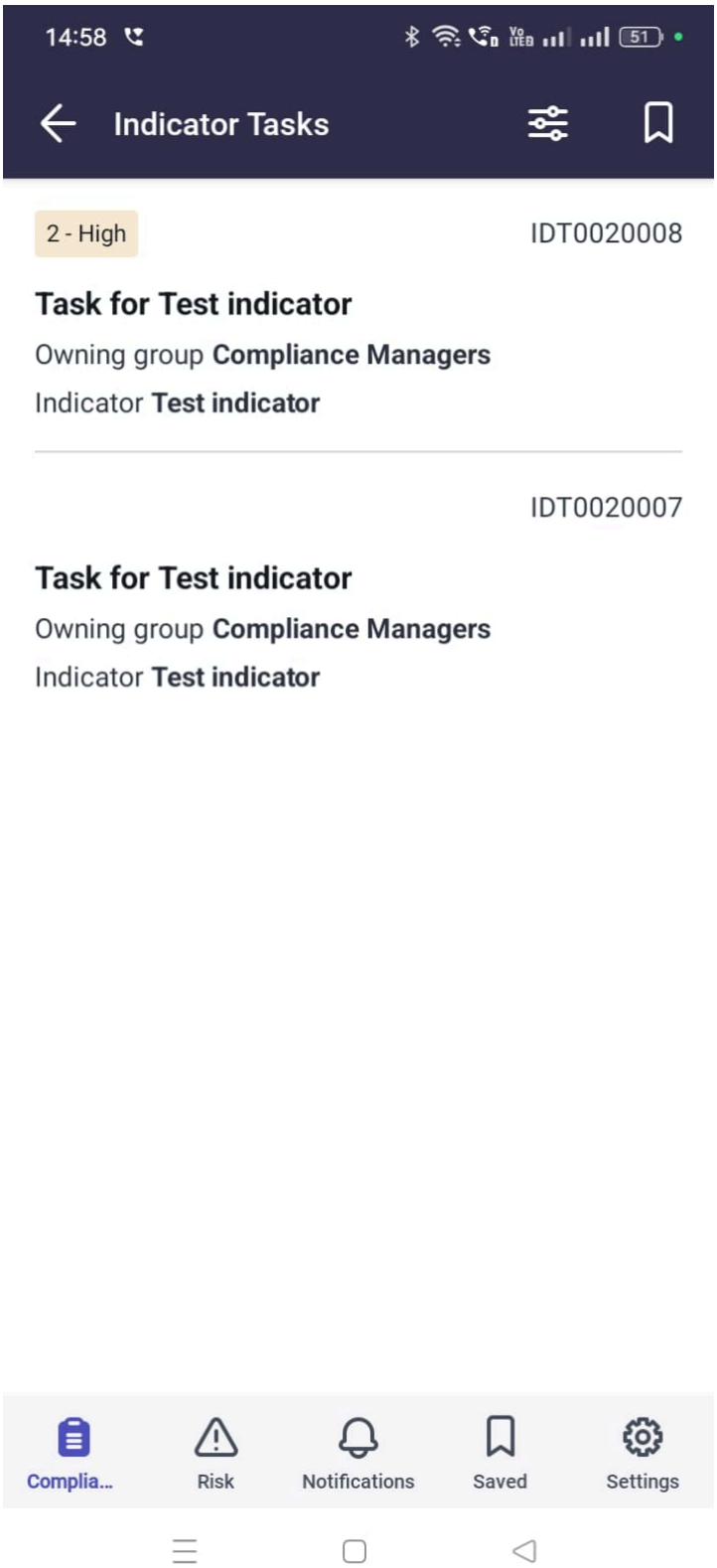
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



[インジケータータスク] 画面にレコードのリストが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



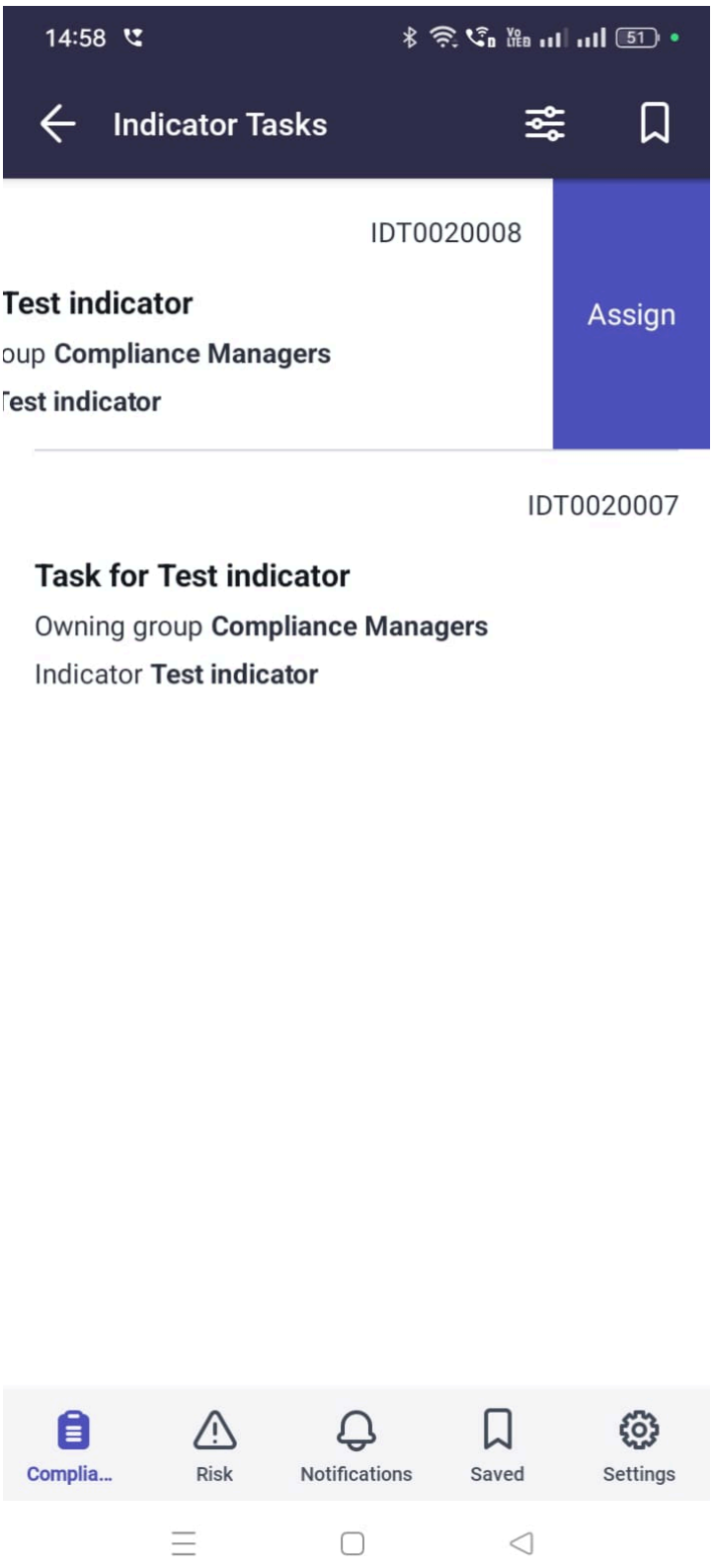
3. オプション: 画面に表示されるレコード数を減らすには、GRC モバイルアプリケーション でのレコードのフィルタリング を参照して、特定の検索条件に一致するレコードを検索します。

   (Optional) モバイルアプリの画面でのレコードのフィルタリングは、ServiceNow AI Platform で条件ビルダーを使用したフィルタリングと同様に機能します。フィルターを設定すると、画面に表示されるレコードの数を減らすことができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [インジケータータスク] 画面に表示されているレコードのリストから直接タスクをアサインするには、レコードを左にスワイプしてメニューを開きます。



5. [アサイン] をタップします。
6. [アサイン先] をタップし、表示される画面でユーザーをタップします。
または、検索フィールドにテキストを入力します。

自動翻訳

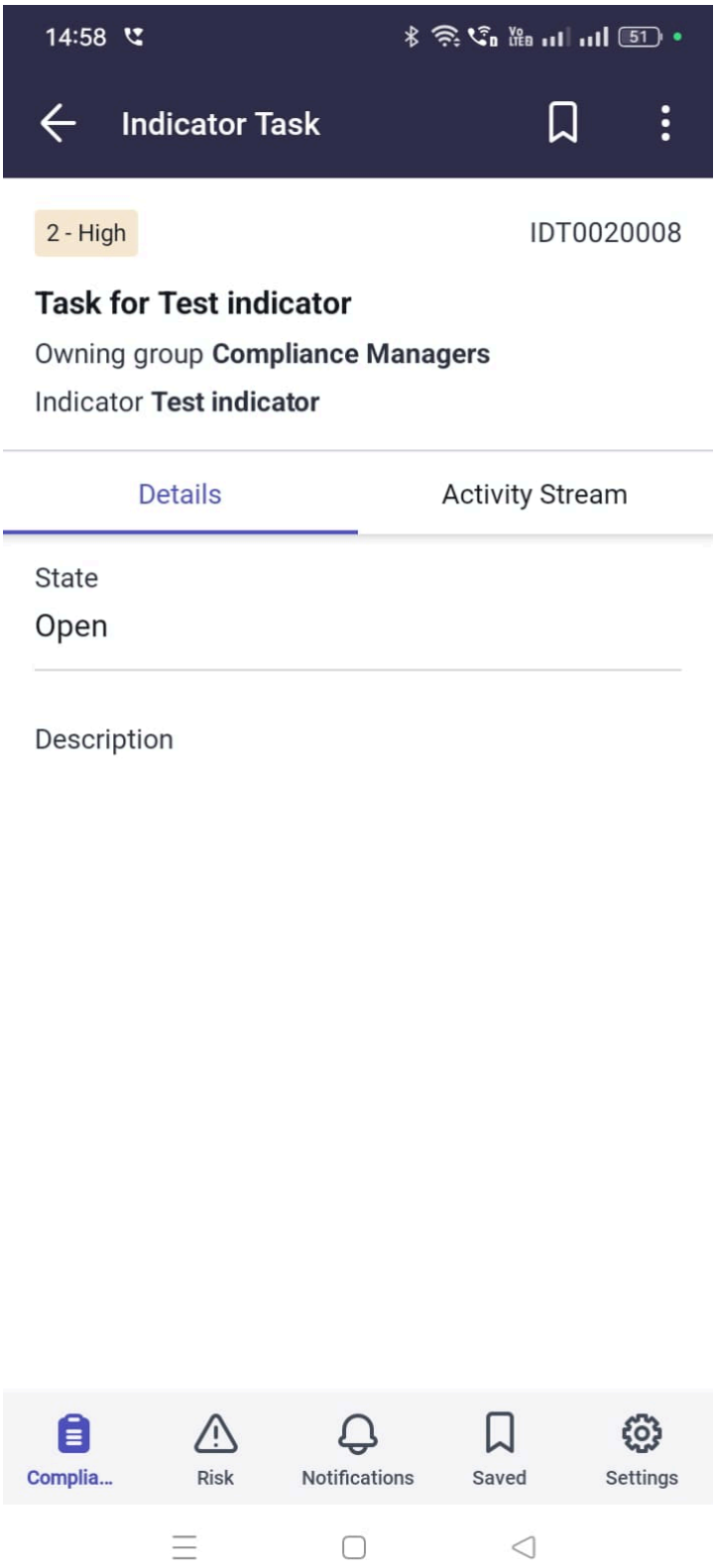
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーザーの名前が [インジケータータスクをアサイン] 画面に表示されます。インジケータータスクを任意のユーザーにアサインすることができます。

7. 送信アイコン ( ) または [送信] をタップして、変更を保存し、送信します。
タスクをユーザーにアサインすると、そのレコードは [インジケータータスク] リストに表示されなくなります。
8. または、詳細を確認するには、[インジケータータスクをアサイン] 画面を表示して、リスト内のレコードをタップして開きます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



9. レコードのフィールドが表示されたら、テーブルでいずれかを選択して続行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポリシーとコンプライアンス管理 問題を **GRC** モバイルアプリケーションでアサイン

アサインされていない ポリシーとコンプライアンス管理 問題をアサイン先グループのメンバーにアサインします。レコード内を移動して、問題に関連付けられているコントロール目標、コントロールレコード、および修復タスクの詳細を表示します。

始める前に

必要なロール：GRC コンプライアンスマネージャー (sn_compliance.manager)

このタスクについて

このタスクの完了にかかる時間は 5 ～ 10 分です。

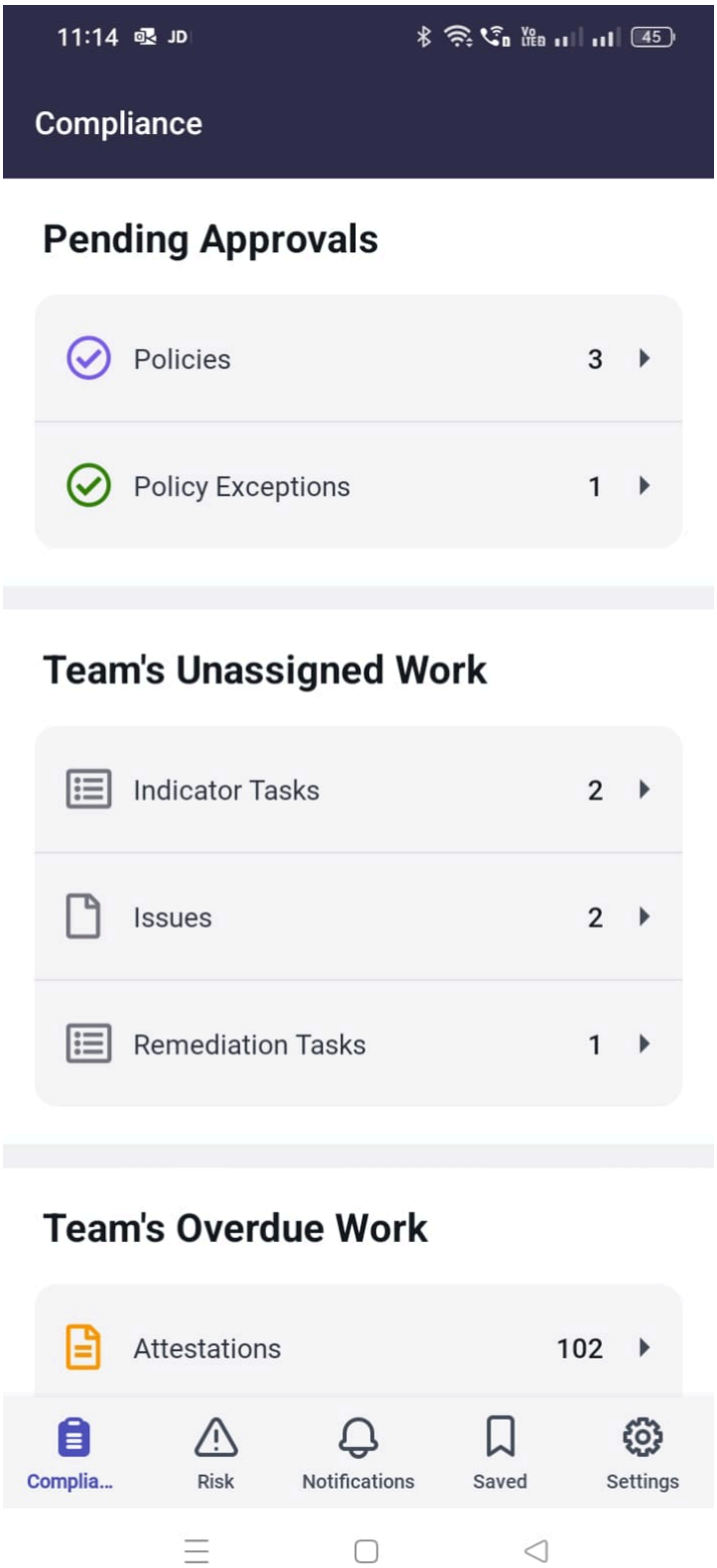
手順

1. モバイルデバイスで ServiceNow AI Platform インスタンスにログインしていない場合、詳細については、GRC モバイルアプリケーション へのログイン を参照してください。
2. [Policy and Compliance] ランディング画面が表示された状態で、[チームのアサインされていない作業] セクションにある [問題] をタップします。

   ログイン後に GRC モバイルアプリケーション から移動した場合は、Now Agent アプリをタップすると、いつでも最後に表示していた画面に戻ります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



[問題] 画面にレコードのリストが表示されます。

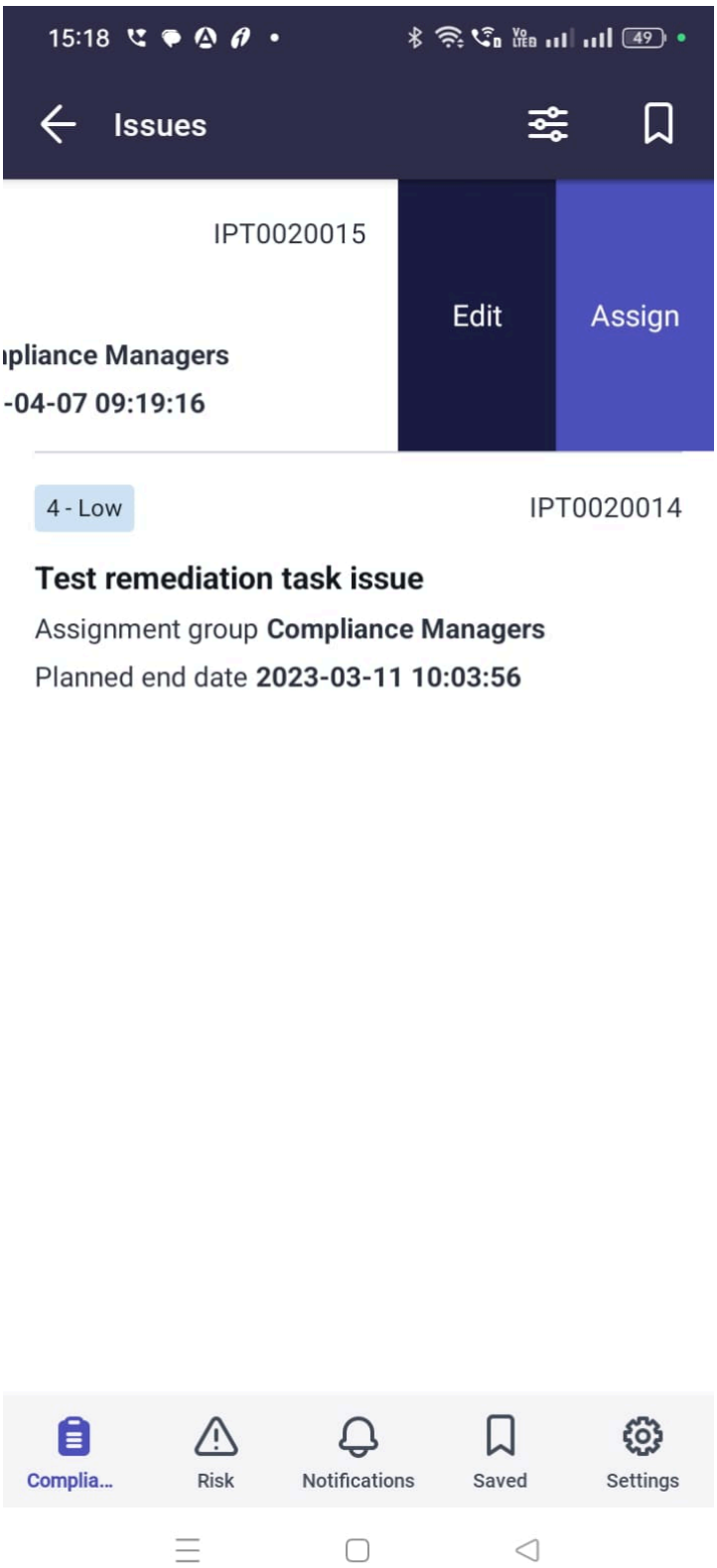
3. オプション: 画面に表示されるレコード数を減らすには、GRC モバイルアプリケーション でのレコードのフィルタリング を参照して、特定の検索条件に一致するレコードを検索します。

   (Optional) モバイルアプリの画面でのレコードのフィルタリングは、ServiceNow AI Platform で条件ビルダーを使用したフィルタリングと同様に機能します。フィルターを設定すると、画面に表示されるレコードの数を減らすことができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [問題] 画面に表示されるレコードのリストから直接、問題を編集またはアサインするには、レコードを左にスワイプしてメニューを開きます。



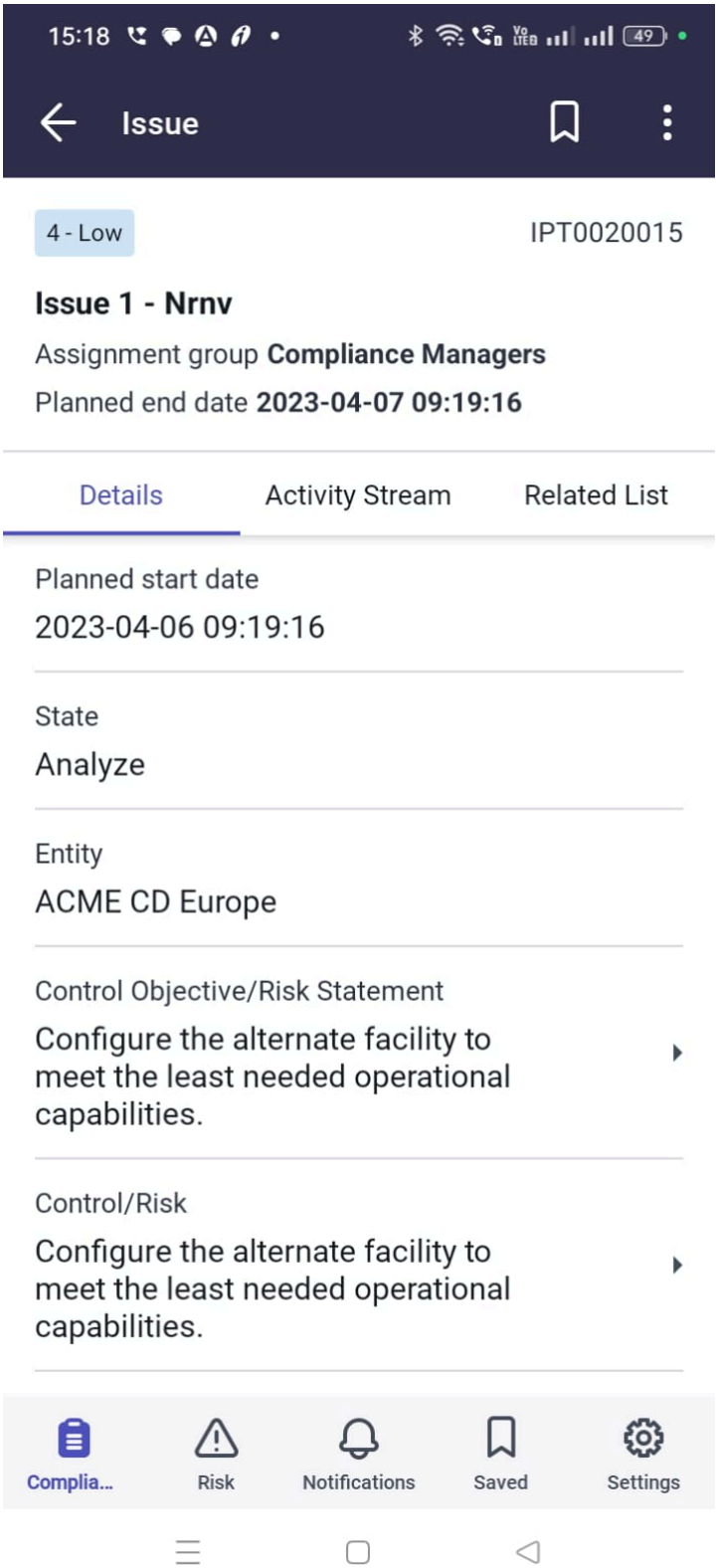
5. 表示されるメニューで、いずれかを選択して続行します。

6. または、[問題] 画面が表示されたら、リストでレコードをタップして開き、詳細を表示します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

問題レコードのフィールドが表示されたら、テーブルでいずれかを選択して続行します。



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポリシーとコンプライアンス管理 修復タスクを **GRC** モバイルアプリケーションでアサイン

未アサインの修復タスクをグループのメンバーにアサインします。[日単位で延長] フィールドを含むフィールドを編集します。レコード内を移動して、修復タスクに関連付けられているコントロール目標、コントロールレコード、および問題の詳細を表示します。

始める前に

必要なロール：GRC コンプライアンスマネージャー (sn_compliance.manager)

このタスクについて

レコードのリストから直接、未アサインの修復タスクを編集またはアサインします。または、アサインの前にレコードの詳細を表示するか、作業メモを追加します。このタスクの完了にかかる時間は 5 ～ 10 分です。

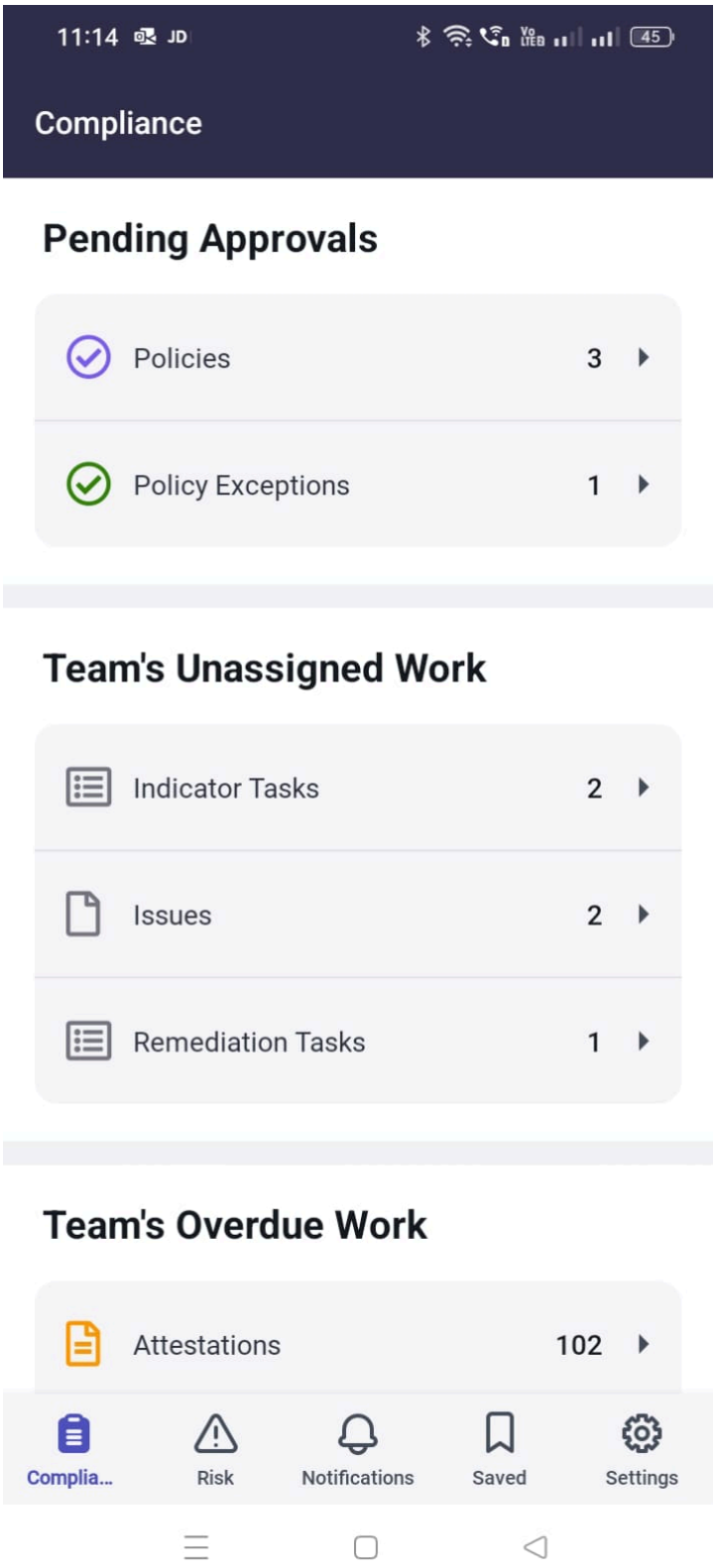
手順

1. モバイルデバイスで ServiceNow AI Platform インスタンスにログインしていない場合、詳細については、GRC モバイルアプリケーション へのログイン を参照してください。
2. [Policy and Compliance] ランディング画面が表示された状態で、[チームのアサインされていない作業] セクションにある [修復タスク] をタップします。

   ログイン後に GRC モバイルアプリケーション から移動した場合は、Now Agent アプリをタップすると、いつでも最後に表示していた画面に戻ります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



[修復タスク] 画面にレコードのリストが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



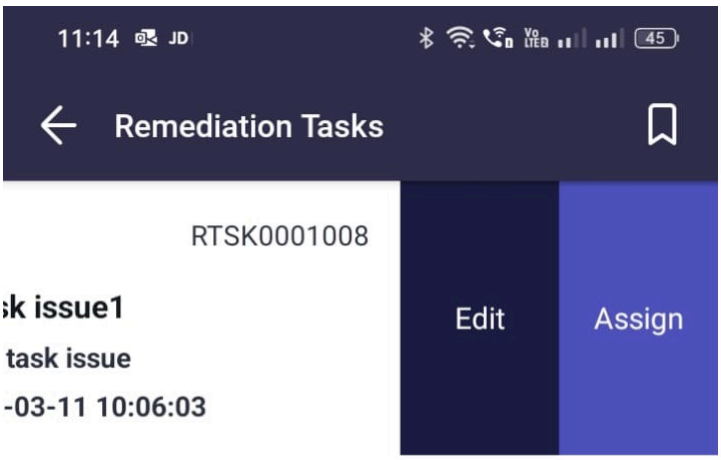
3. オプション: 特定の検索条件に一致するレコードを検索するには、GRC モバイルアプリケーション でのレコードのフィルタリング を参照してください。

   (Optional) モバイルアプリの画面でのレコードのフィルタリングは、ServiceNow AI Platform で条件ビルダーを使用したフィルタリングと同様に機能します。フィルターを設定すると、画面に表示されるレコードの数を減らすことができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [修復タスク] 画面に表示されているレコードのリストから直接タスクを編集またはアサインするには、レコードを左にスワイプしてメニューを開きます。

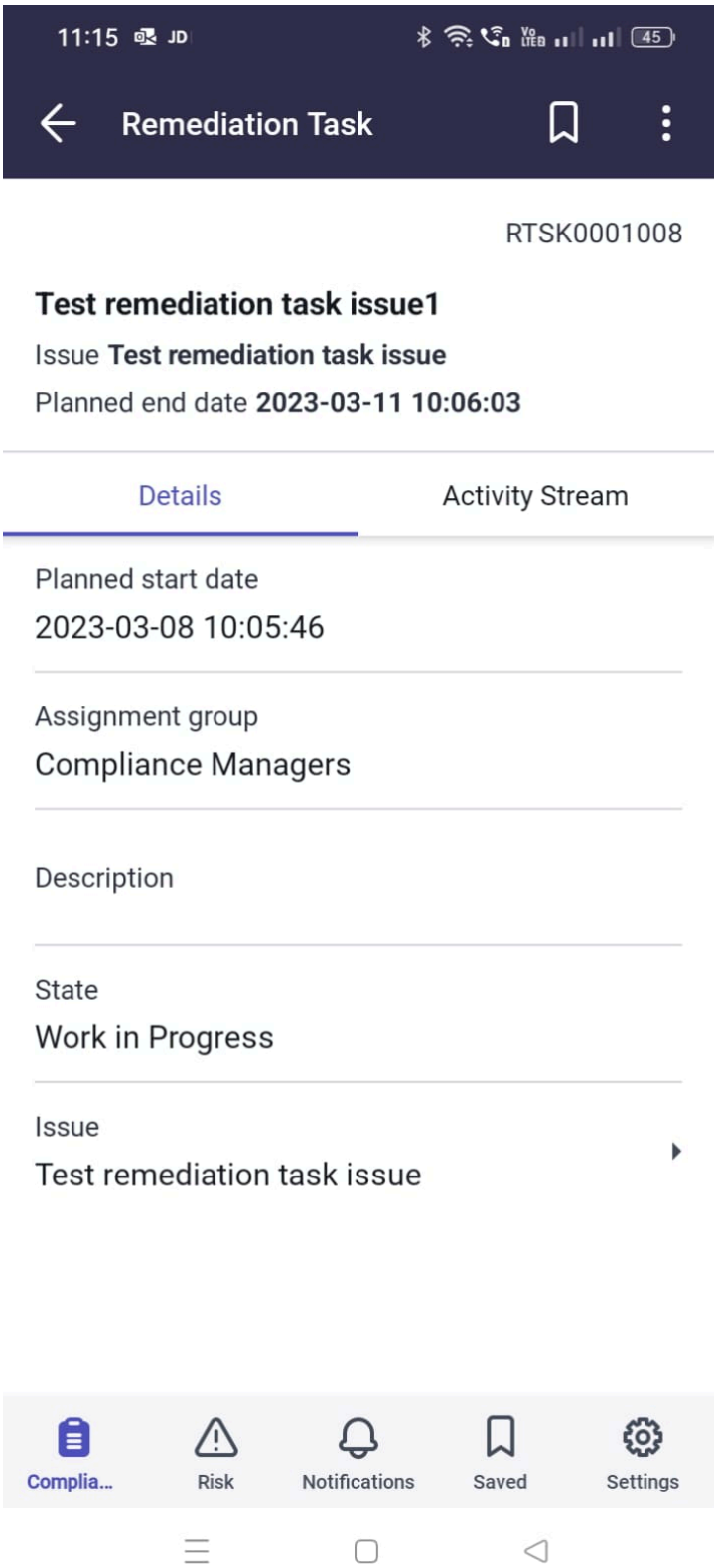


5. 表示されるメニューで、いずれかを選択して続行します。

6. または、[修復タスク] 画面が表示されたら、リストでレコードをタップして開き、詳細を確認します。
7. 問題レコードのフィールドが表示されたら、テーブルでいずれかを選択して続行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

期限切れの ポリシーとコンプライアンス管理 証明書を **GRC** モバイルアプリケーションで再アサイン

期限切れの証明書をアサイン先グループのメンバーに再アサインします。

始める前に
必要なロール：GRC コンプライアンスマネージャー (sn_compliance.manager)

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
リストからレコードを再アサインします。または、再アサインの前にレコードの詳細を表示します。このタスクの完了にかかる時間は 5 ～ 10 分です。

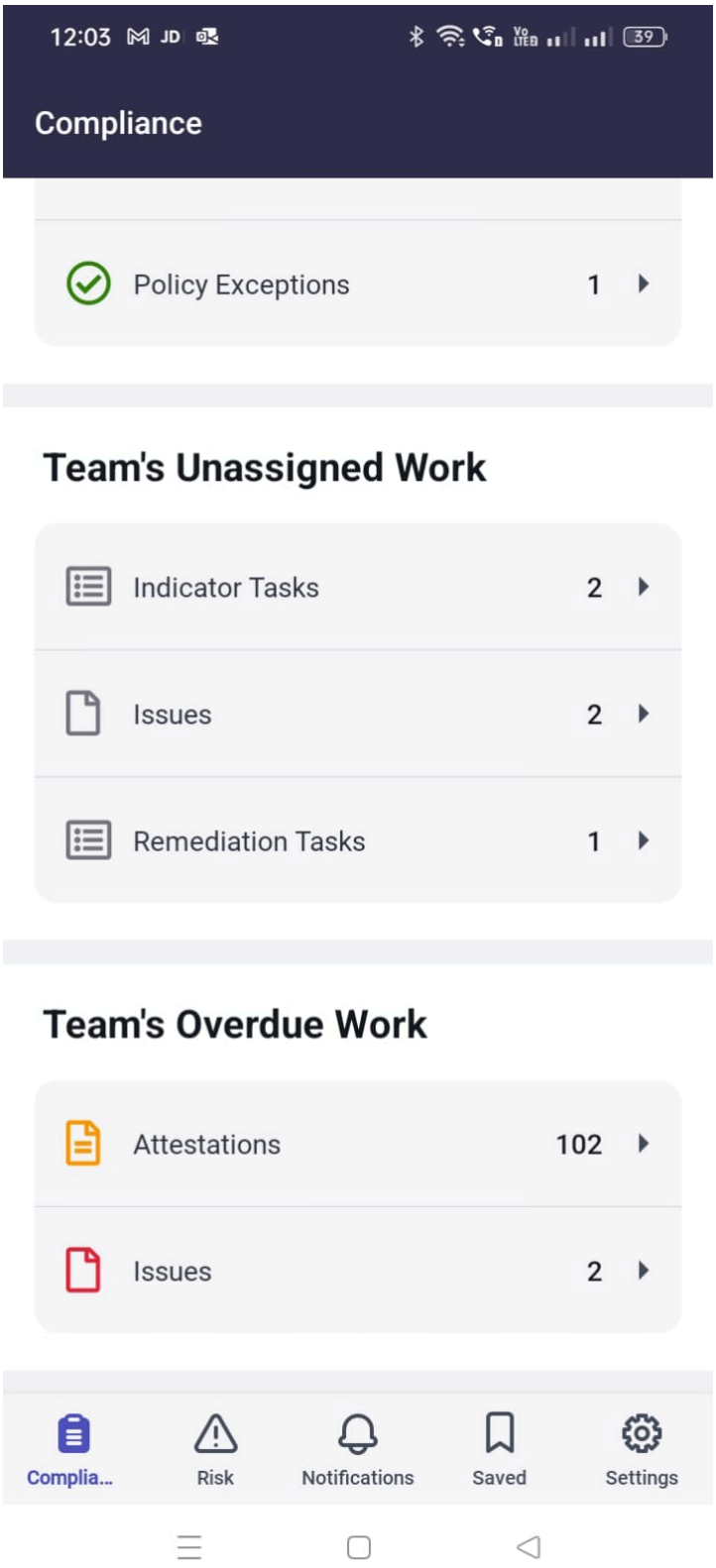
手順

1. モバイルデバイスで ServiceNow AI Platform インスタンスにログインしていない場合、詳細については、GRC モバイルアプリケーション へのログイン を参照してください。
2. [Policy and Compliance] ランディング画面が表示された状態で、[チームの期限切れ作業] セクションにある [証明書] をタップします。

   ログイン後に GRC モバイルアプリケーション から移動した場合は、Now Agent アプリをタップすると、いつでも最後に表示していた画面に戻ります。

自動翻訳

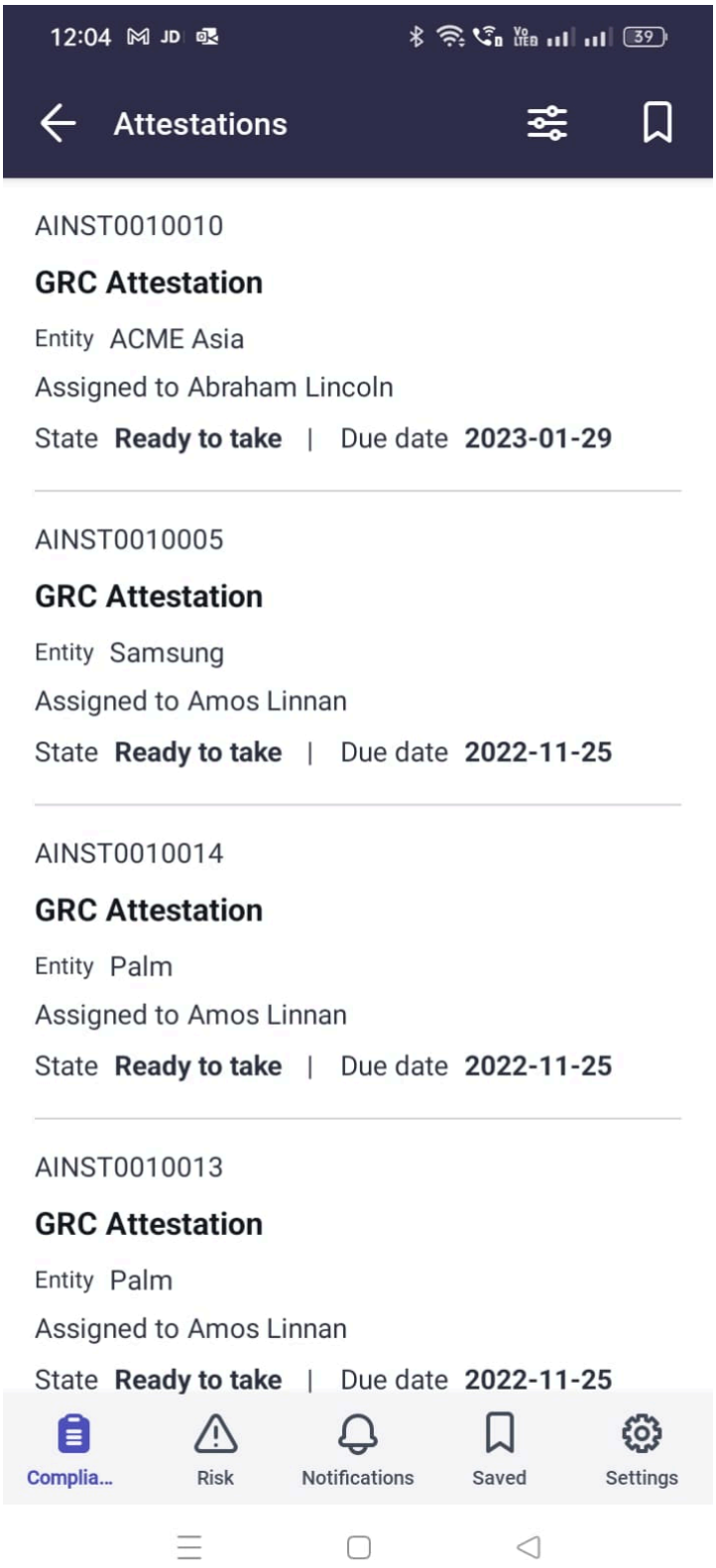
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



[証明書] 画面にレコードのリストが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



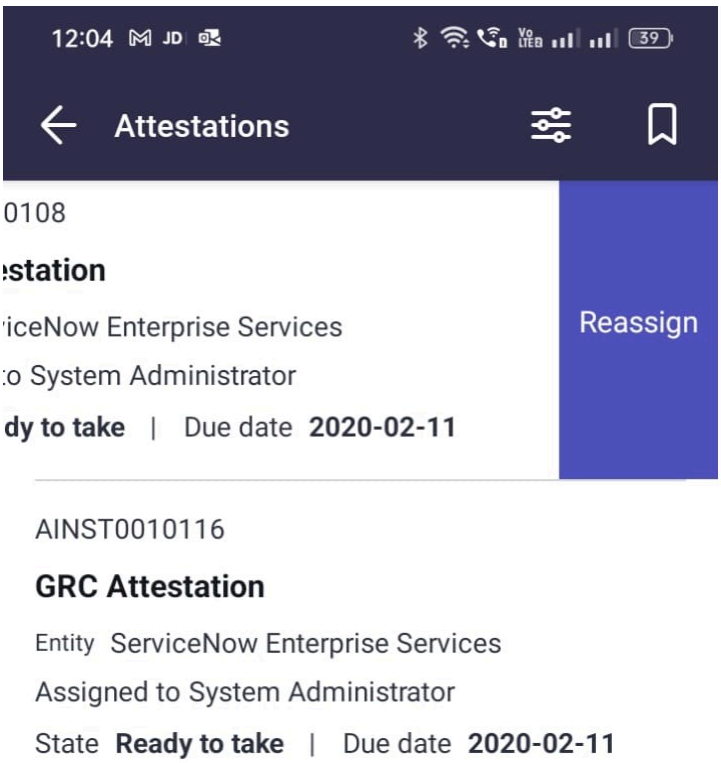
3. オプション: 特定の検索条件に一致するレコードを検索するには、GRC モバイルアプリケーション でのレコードのフィルタリング を参照してください。

   (Optional) モバイルアプリの画面でのレコードのフィルタリングは、ServiceNow AI Platform で条件ビルダーを使用したフィルタリングと同様に機能します。フィルターを設定すると、画面に表示されるレコードの数を減らすことができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

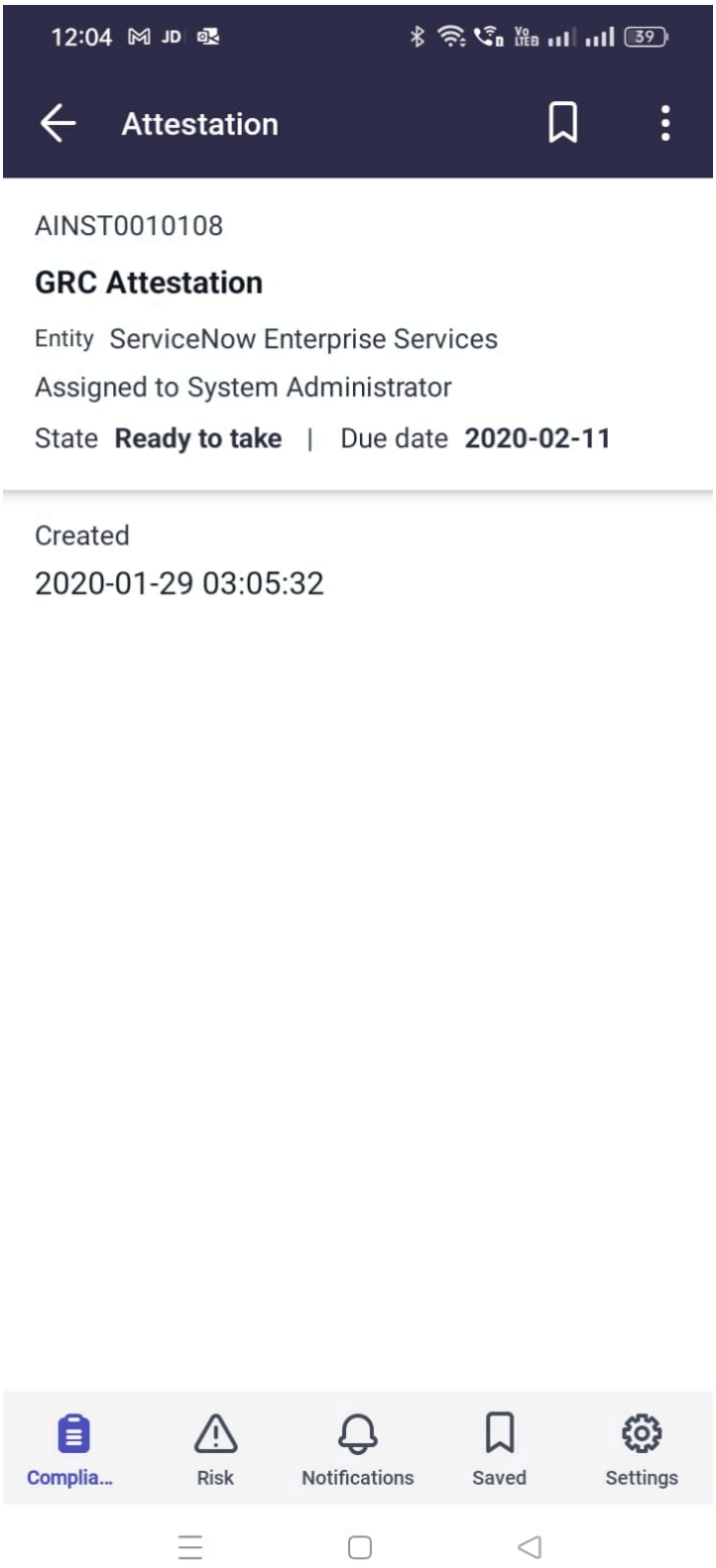
4. [証明書] 画面に表示されるレコードのリストから直接証明書を再アサインするには、レコードを左にスワイプしてメニューを開きます。



5. [再アサイン] をタップし、次に [アサイン先] フィールドをタップします。
6. ユーザー名をタップするか、検索フィールドに名前を入力します。
7. 送信アイコン ( ) または [送信] をタップして、変更を保存して送信します。
8. または、[証明書] 画面が表示されたら、リストでレコードをタップして開き、詳細を表示します。
9. 次のテーブルからいずれかを選択して続行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

期限切れの ポリシーとコンプライアンス管理 問題を **GRC** モバイルアプリケーションで再アサイン

アサイン先グループにアサインされた、期限切れの問題を再アサインします。レコード内を移動して、期限切れの問題に関連付けられているコントロール目標、コントロールレコード、および修復タスクの詳細を表示します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：GRC コンプライアンスマネージャー (sn_compliance.manager)

このタスクについて
レコードのリストから直接、問題を編集または再アサインします。または、再アサインの前に作業メモを追加するか、レコード内を移動してレコードの詳細を表示します。問題がアサイン先グループにアサインされていない場合、このリストには表示されません。このタスクの完了にかかる時間は 5 ～ 10 分です。

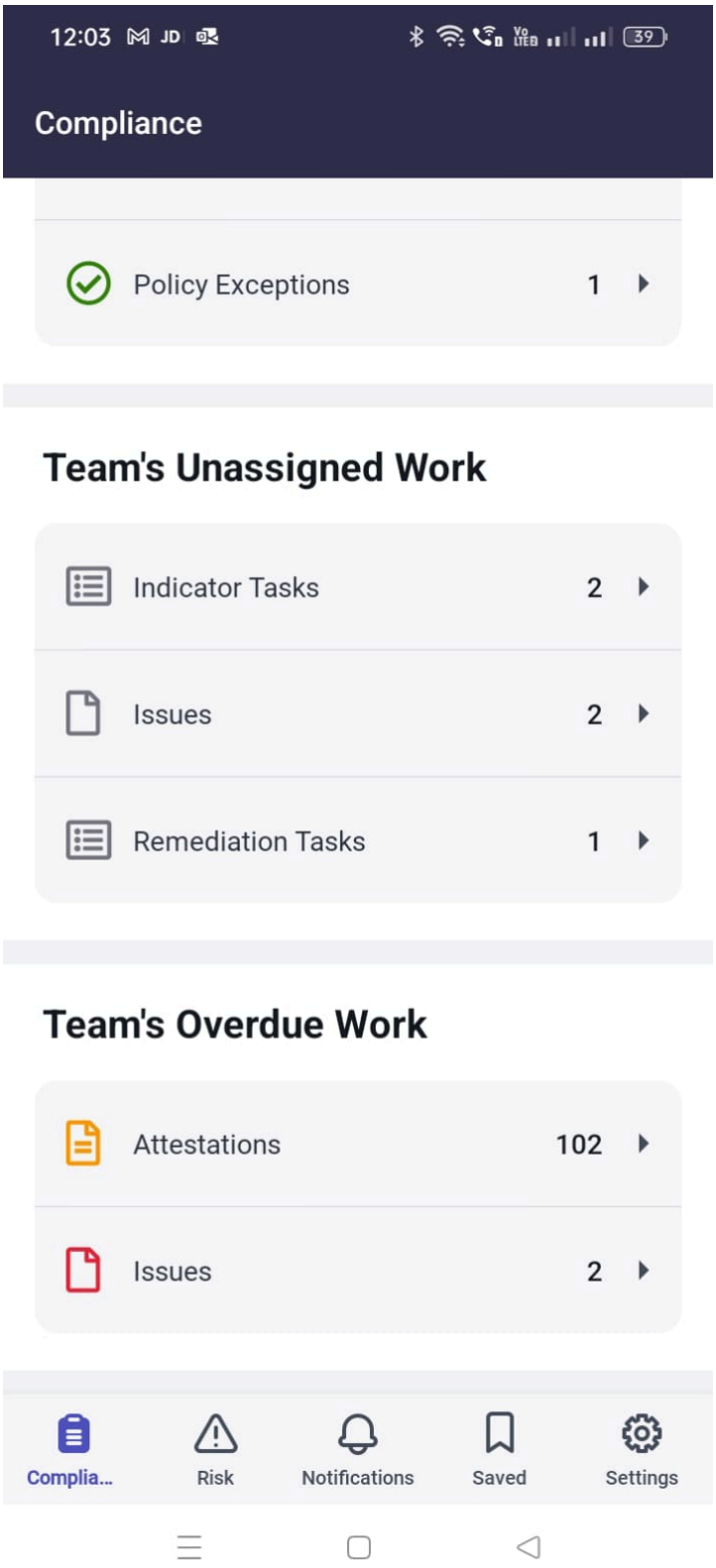
手順

1. モバイルデバイスで ServiceNow AI Platform インスタンスにログインしていない場合、詳細については、GRC モバイルアプリケーション へのログイン を参照してください。
2. [Policy and Compliance] ランディング画面が表示された状態で、[チームの期限切れ作業] セクションにある [問題] をタップします。

   ログイン後に GRC モバイルアプリケーション から移動した場合は、Now Agent アプリをタップすると、いつでも最後に表示していた画面に戻ります。

自動翻訳

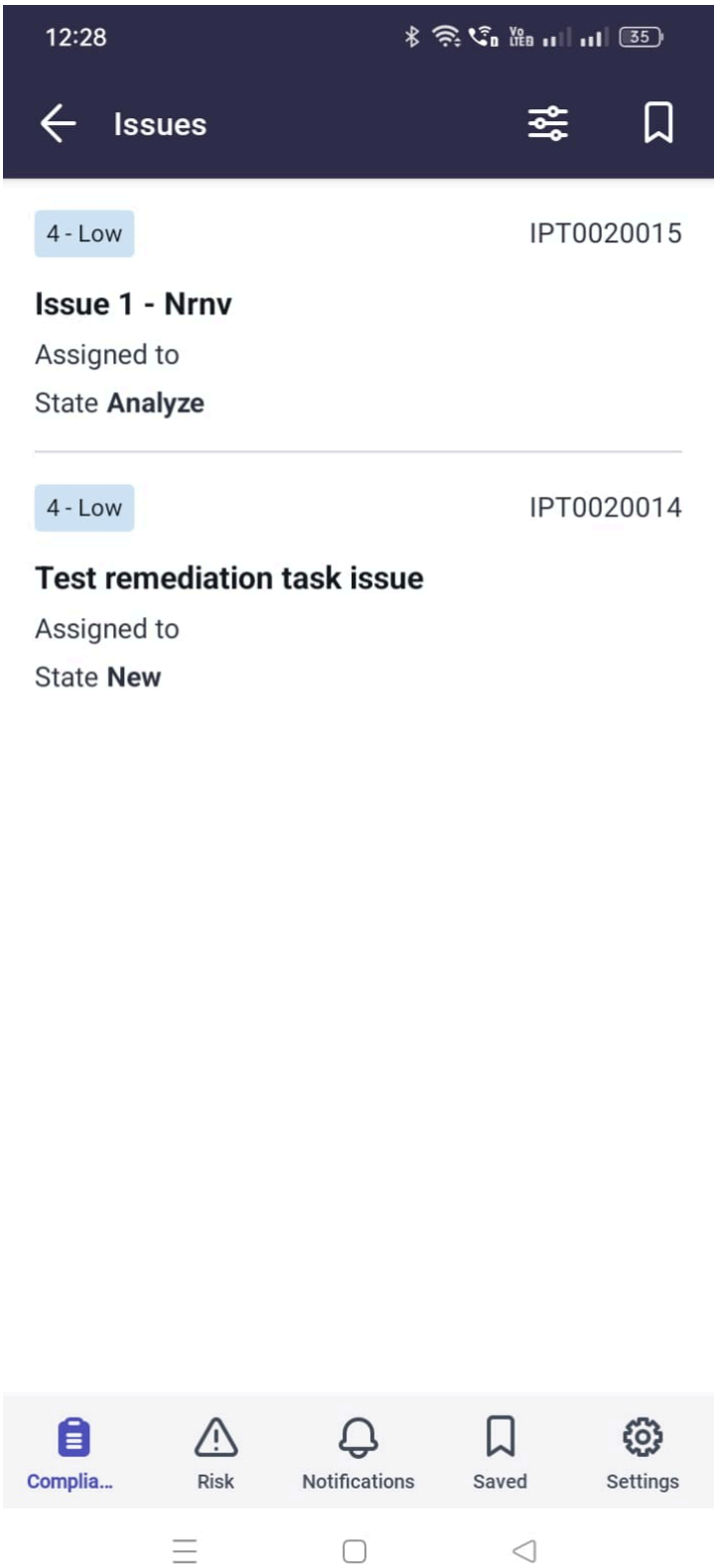
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



[問題] 画面にレコードのリストが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



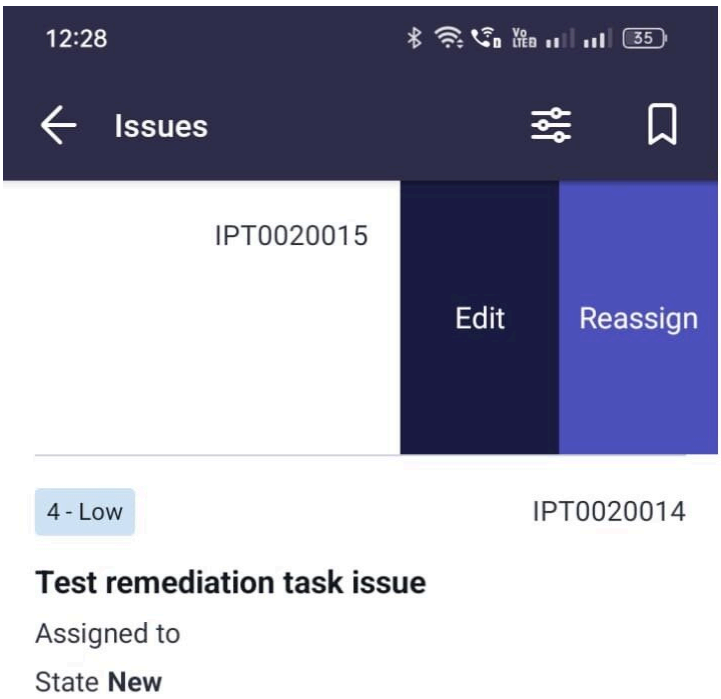
自動翻訳

3. オプション: 特定の検索条件に一致するレコードを検索するには、GRC モバイルアプリケーション でのレコードのフィルタリング を参照してください。

   (Optional) モバイルアプリの画面でのレコードのフィルタリングは、ServiceNow AI Platform で条件ビルダーを使用したフィルタリングと同様に機能します。フィルターを設定すると、画面に表示されるレコードの数を減らすことができます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [問題] 画面に表示されるレコードのリストから直接、問題を編集または再アサインするには、レコードを左にスワイプしてメニューを開きます。

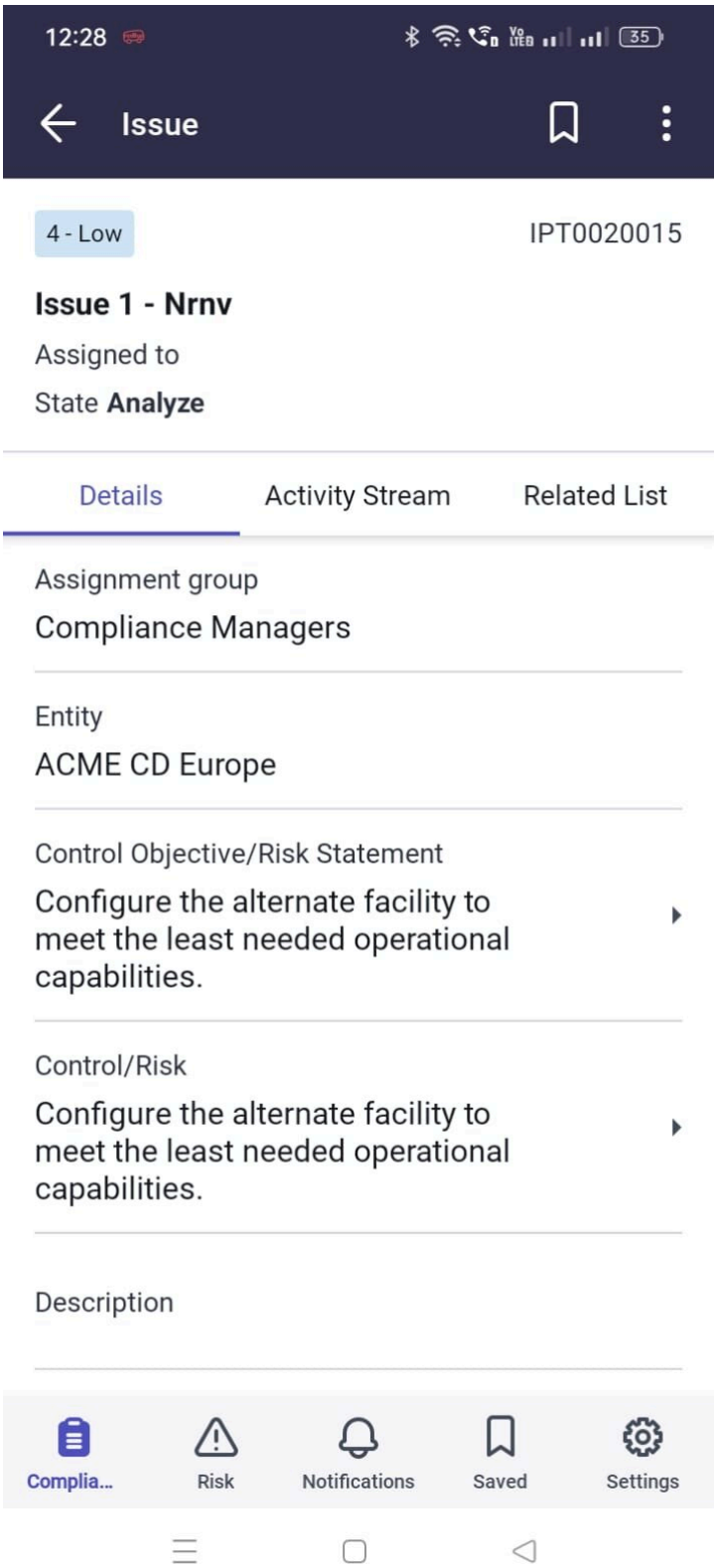


5. 表示されるメニューで、いずれかを選択して続行します。

6. または、[問題] 画面が表示されたら、リストでレコードをタップして開き、詳細を表示します。
7. 問題レコードのフィールドが表示されたら、テーブルでいずれかを選択して続行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

GRC モバイルアプリケーション でのレコードのフィルタリング

追加のフィルターを設定して、画面に表示されるレコードの数を制限します。モバイルアプリでのレコードのフィルタリングは、ServiceNow AI Platform で条件ビルダーを使用したフィルタリングと同様に機能します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：コンプライアンスマネージャー (sn_compliance.manager)

このタスクについて
このタスクの完了にかかる時間は 5 分です。

手順

1. 検索結果をさらに絞り込む場合、または表示されるレコードリストに追加のフィルター基準を入力する場合は、フィルターアイコン () をタップします。
2. [フィルター] 画面を表示して、フィールドをタップして展開します。
3. 表示されるオプションから、チェックボックスをタップするか、フィルターのオプションをタップします。
   フィルターの多くでは、複数のオプションを選択できます。
4. 戻るアイコン () をタップするか、[完了] をタップして、フィールドに加えた変更を保存します。
   選択した条件が [フィルター] 画面に表示されます。基準と一致するレコードの数も画面の上部に表示されます。[クリア] または [リセット] をタップして、すべてのフィルターを削除し、デフォルト設定に戻します。
5. オプション: フィルター条件の設定を続行するには、[フィルター] 画面で手順 1 ～ 4 を繰り返します。
6. すべての条件を設定した後、共通部分アイコンをタップして AND 条件を作成します。 )。
   または、和集合アイコン () をタップして、OR 条件を作成します。
7. 必要なすべての条件を追加したら、表示された [フィルター] 画面で [完了] をタップします。
   フィルター基準に一致するレコードのみが画面に表示されます。

次のタスク
詳細については、検索後に表示されるレコードを参照してください。

ポリシーとコンプライアンス管理 の 360° Relationship Visualization

特定のコンプライアンスレコードから 360 度ビューを起動すると、選択したレコードとそのすべての関連付けられているオブジェクトとの関係を特徴的なビジュアル化で即座に探索できます。

360 度ビュー

ポリシーとコンプライアンス管理 では、次のワークスペースフォームで [360 度のリレーションシップビュー] ボタンが有効になっています。

- 各種法令・基準等 [sn_compliance_authority_document]
- ポリシー [sn_compliance_policy]
- 引用文献 [sn_compliance_citation]
- コントロール [sn_compliance_control]
- コントロール目標 [sn_compliance_policy_statement]

360 度ビューを探索し、ビューを起動する手順については、「Exploring the 360° view (360 度ビューの探索)」を参照してください。

360° Relationship Visualizationを使用できるユーザー、そのロール、および責任の詳細については、「360° relationship visualization (360 度の関係のビジュアル化)」を参照してください。

自動翻訳

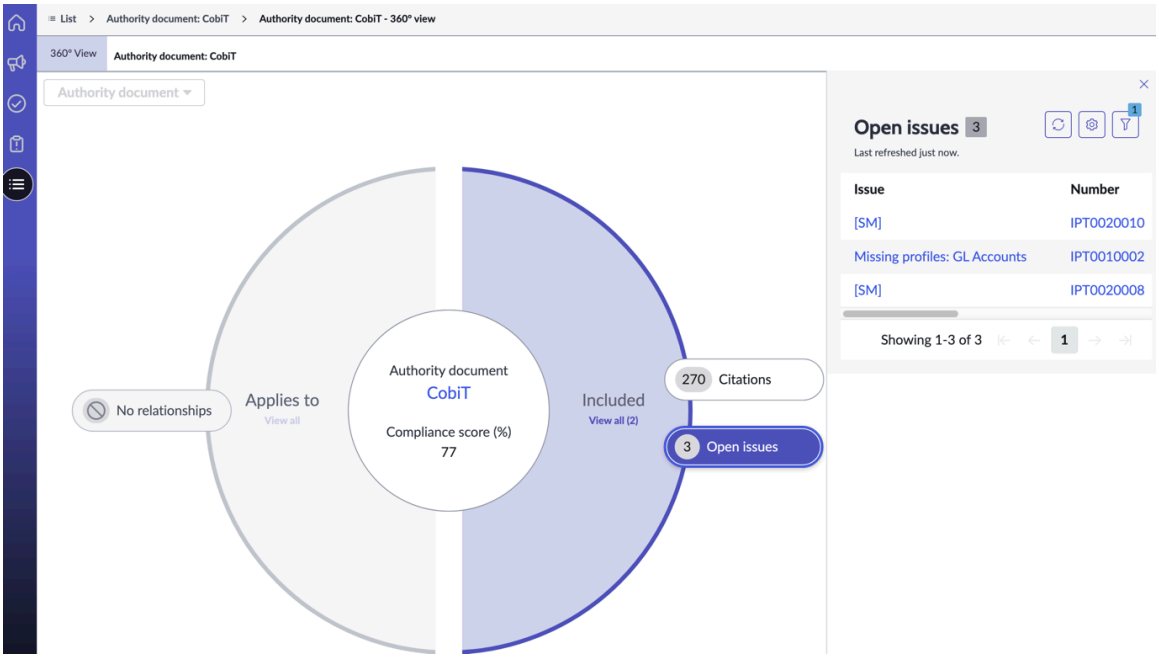
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

m2m 関係の問題と統合するコンプライアンスオブジェクトの 360 度ビュー

コンプライアンスワークスペース内の各種法令・基準等、コントロール、コントロール目標、エンゲージメントなどのコンプライアンスオブジェクトからの 360 度ビューにより、これらのオブジェクトに多対多 (m2m) の関係でリンクされている問題の包括的かつ詳細な概要が得られます。

たとえば、問題にリンクされている各種法令・基準等から **360** 度ビュー を選択すると、360 度ビューが起動し、各種法令・基準等の未解決の問題を表示できます。[未解決の問題] リンクをクリックすると、問題の詳細を取得できます。

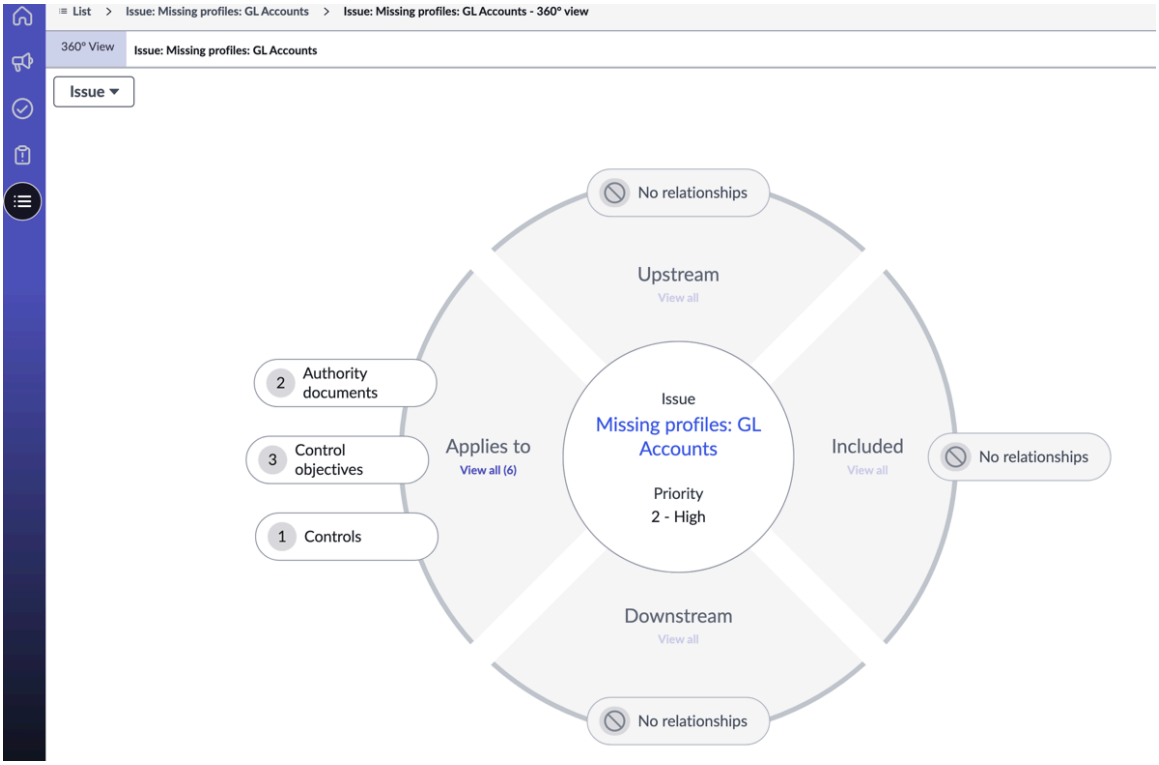
各種法令・基準等の **360** 度ビュー



同様に、[問題の概要] ページに移動し、**[360** 度ビュー] ボタンをクリックします。問題がいずれかのオブジェクトに適用される場合、または m2m 関係のオブジェクトにリンクされている場合、ビューに包括的な統合の詳細が表示されます。

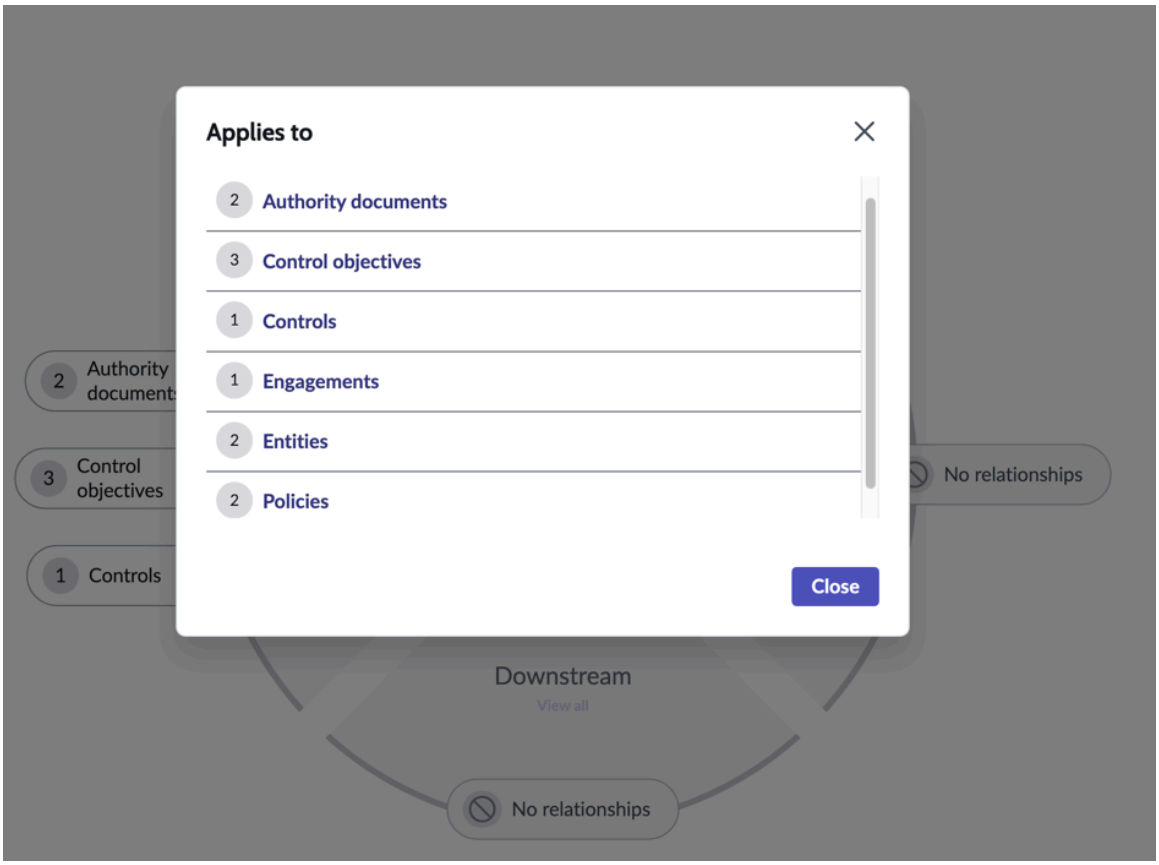
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンプライアンスオブジェクトにリンクされた問題



[すべてを表示] リンクをクリックすると、問題が適用されるすべてのコンプライアンスオブジェクトを表示できます。

問題が適用されるオブジェクト

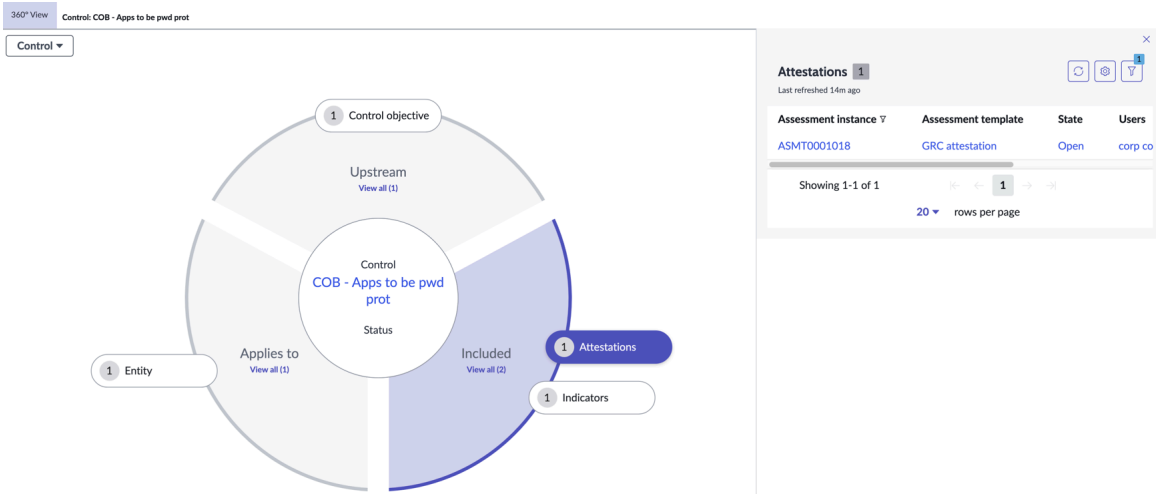


自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コントロールの [認証方法 **(Attestation method)**] で [証明書 **(Attestation)**] を選択した場合は、コントロールの 360° ビューでコンポーネントとして追加された証明書を表示できます。ドーナツ内の [証明書 (Attestation)] リンクを選択してクリックすると、右側に [証明書 (Attestation)] パネルが表示され、アセスメントインスタンスとテンプレートの詳細が示されます。

コントロールの **360°** ビューでの証明書



予防コンプライアンス管理のための ポリシーアズコードエンジン

コンプライアンスマネージャーは、コントロール目標を ポリシーアズコードエンジン (PaCE) でマッピングできます。PaCE は、ドキュメント参照と、例外を決定する必要がある PaCE ポリシーを渡す GRC を呼び出します。コントロールオーナーは PaCE ログを表示して、準拠または非準拠のインスタンスを把握できます。

組織が遵守しなければならない規制の数が増加し、同様に技術的リスクが増加しているため、組織はデジタルワークフローに予防コントロールを統合する必要があります。たとえば、DevOps プロセスで新しいソフトウェアアプリケーションを開発する場合、技術リスクを軽減するために実装および検証する必要のある IT ポリシーとコントロールがいくつかあります。

Policy as Code Engine を使用すると、独自のカスタムコードロジックを記述して、ポリシーを検証し、展開可能なインスタンスに統合できます。PaCE ポリシーは、展開可能なインスタンスにコミットされる前にコードを検証し、そのコンプライアンスをチェックします。非準拠がある場合、展開は停止します。GRC と統合するには、コンプライアンスデータソースレジストリ機能を使用して、ポリシーとして PaCE をコントロール目標に追加します。

PaCE との統合による予防コンプライアンス管理により、コンプライアンスチーム、運用チーム、DevOps エンジニアが日準拠のアクティビティを実行できなくなります。一方、この統合は、事前に例外を発生させるうえで役立ちます。

この統合の主な機能は次のとおりです。

- コンプライアンスが、従業員の全体的なエクスペリエンスを向上させるために従業員ワークフローに組み込まれます。
- 顧客はコントロールをコード化でき、実行状況に基づいて、ワークフロー内のアクションによって非準拠が判断されるかどうかを従業員に通知できます。
- 非準拠の場合、従業員はビジネス要件に基づいて例外を要求し、デジタルワークフローを続行できます。

この統合による主なメリットは次のとおりです。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 従業員トレーニングへの依存度の削減：コントロールがワークフローに組み込まれているため、従業員が受ける必要があるトレーニングの数が大幅に削減されます。
- 自動化されたレビューとコンプライアンスモニタリング：自動化されたチェックにより、コントロールに違反していないことが確認されるため、手動でのレビューのタスクが削減されます。
- 自動監査ログ：監査チームとコンプライアンスチームは自動監査ログにアクセスできるため、手動での監査と証拠収集のタスクを削減できます。
- リスクの低下と違反の減少：コントロールを継続的に監視することで、違反の可能性を最小限に抑えます。
- 可視化：ビジネス、リスク、コンプライアンスチームなどのステークホルダーに、コンプライアンスをリアルタイムで可視化します。
- 速度：ワークフローの完了を妨げることなくビジネスニーズがある場合に従業員が例外を要求できるため、ワークフローの速度が向上します。

コンプライアンスデータソースレジストリを構成

他の ServiceNow 製品のポリシーを Policy and Compliance のコントロール目標に関連付けて、組織の全体的なコンプライアンスステータスを通知し、必要に応じてポリシー例外を実行する機能を提供するコンプライアンスデータソースレジストリ (CDSR) を設定します。

始める前に

必要なロール：sn_compliance.admin

このタスクについて

関連付けに基づいて、関連する評価済みオブジェクトのエンティティがターゲットアプリケーションテーブルから生成され、コントロールが自動的に生成されます。CDSR は、GRC と、DevOps、HR、SecOps などの他の ServiceNow 製品との統合を容易にし、企業全体の顧客のコンプライアンスの検証と管理のニーズに対応します。

評価済みオブジェクトテーブルにリンクされているアプリケーションテーブルを選択します。アプリケーションテーブルのアイテムとターゲットテーブルのコントロール目標の間に関係を確立します。これを行うには、まずアイテムを構成し、コントロール目標にマッピングする必要があります。第 2 に、ターゲットテーブルとエンティティテーブルのエンティティ間の関係を確立します。

ちなみに、エンティティとは、コントロール目標に対するコンプライアンスを測定する必要がある人、プロセス、部門、アプリケーション、またはオブジェクトです。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > コンプライアンスデータソースレジストリ.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

コンプライアンスデータソースレジストリフォーム

フィールド	説明
名前	アイテムレジストリの名前。
アプリケーション テーブル	コントロール目標に関連付けられたレコードのテーブル。
関連エンティティの識別	
評価済みオブジェクトテーブル	コントロールが作成されるテーブル。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
アプリケーションテーブルの関係	アイテムテーブルとターゲットテーブルの間の関係。以下から選択可能です。 ○ 1 対多：アプリケーションテーブルの 1 つのレコードが評価済みオブジェクトテーブルの複数のレコードにリンクされており、評価済みオブジェクトテーブルの 1 つのレコードがアプリケーションテーブルの 1 つのレコードにのみリンクされている場合。 ○ 多対多：アプリケーションテーブルの 1 つのレコードが評価済みオブジェクトテーブルの複数のレコードにリンクされており、評価済みオブジェクトテーブルの 1 つのレコードがアプリケーションテーブルの複数のレコードにリンクされている場合。
評価済みオブジェクトテーブルのアプリケーションフィールド	ターゲットテーブルを指すフィールド名。
m2m テーブルのアプリケーションフィールド	アイテムテーブルを指すマッピングテーブル内のフィールド名。
m2m テーブルの評価済みオブジェクトフィールド	ターゲットテーブルを指すマッピングテーブル内のフィールドの名前。
評価済みオブジェクトテーブルはエンティティに相当しますか？	ターゲットテーブルにエンティティを作成するためのフラグ。
評価済みオブジェクトテーブルへのエンティティ関係	エンティティテーブルとターゲットテーブルの間の関係。以下から選択可能です。 ○ 1 対 1：評価済みオブジェクトテーブルの 1 つのレコードがエンティティテーブルの 1 つのレコードにのみリンクされている場合。 ○ 多対多：エンティティテーブルの 1 つのレコードが評価済みオブジェクトテーブルの複数のレコードにリンクされており、評価済みオブジェクトテーブルの 1 つのレコードがエンティティテーブルの複数のレコードにリンクされている場合。
多対多テーブル	アイテムテーブルとターゲットテーブルの間の関係を確立するテーブル。
評価済みオブジェクトテーブルのエンティティフィールド	エンティティテーブルを指すフィールドの名前。
m2m テーブルのエンティティフィールド	エンティティテーブルを指すマッピングテーブル内のフィールドの名前。
エンティティオーナーフィールド	エンティティテーブル内のエンティティの所有者。

汎用フレームワークコンプライアンスデータソースレジストリのセットアップの詳細については、Now Support ナレッジベースの記事「Set up of generic framework compliance data source registry (汎用フレームワークコンプライアンスデータソースレジストリのセットアップ)」[KB1112478] を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
記事を表示するには、Now Support にログインする必要があります。

4. [送信] をクリックします。

PaCE ポリシーをコントロール目標にマッピング

コンプライアンスワークスペースで ポリシーアズコードエンジン (PaCE) のポリシー関連リストを使用して、コントロール目標を PaCE ポリシーにマッピングします。コンプライアンスマネージャーは、PaCE ポリシーを使用してコントロール目標をマッピングできます。

始める前に
必要なロール：sn_compliance.manager

このタスクについて
PaCE ポリシーが展開可能インスタンスにマッピングされており、PaCE ポリシーが既にコントロール目標に関連付けられている場合、展開可能インスタンスへのポリシーの関連付けが発生すると、エンティティとコントロールを作成するために構成データ管理 (CDM) からトリガーが開始されます。

PaCE ポリシーが展開可能インスタンスにマッピングされており、ポリシーがコントロール目標に関連付けられていない場合、PaCE ポリシーがコントロール目標にマッピングされていると、展開可能インスタンスが既にポリシーにマッピングされているため、エンティティとコントロールが自動生成されます。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. コンプライアンスワークスペース で、[リスト] アイコン ( ) をクリックします。
3. 移動先 コンプライアンスライブラリ > コントロール目標.
4. コントロール目標をクリックするか、コントロール目標を作成します。
5. [詳細] 関連リストをクリックします。
6. コントロール目標のコントロールを自動的に生成するには、[コントロールを自動的に作成] オプションを選択します。
   [コントロールを自動的に作成] オプションが選択されている場合、エンティティタイプがコントロール目標に追加されたときには常に、コントロールが自動的に生成されます。
7. [保存] ボタンをクリックします。
8. コントロール目標に対して生成されたコントロールを表示するには、[コントロール] 関連リストをクリックします。
9. [詳細] 関連リストで [アクティブ] オプションを選択します。

   注:
   コントロール目標に PaCE ポリシーを追加するには、コントロール目標をアクティブにする必要があります。また、PaCE ポリシー関連リストの [追加] および [削除] ボタンは、コントロール目標がアクティブな場合にのみ使用できます。

10. コントロール目標に PaCE ポリシーを追加するには、[PaCE ポリシー] 関連リストをクリックします。
11. [追加] ボタンをクリックします。
12. [PaCE ポリシー] ポップアップの展開可能インスタンスにマッピングされているポリシーのリストから、PaCE ポリシーを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
非アクティブな PaCE ポリシーがポップアップに表示されます。

この関連付けの時点で PaCE ポリシーに展開可能なインスタンスがマップされていない場合、展開可能なインスタンスが PaCE ポリシーに関連付けられるたびに、エンティティとコントロールが生成されます。

13. [追加] をクリックします。
[コントロールを自動的に作成] オプションが選択されている場合、PaCE ポリシーに関連付けられた構成アイテムの対応するエンティティとコントロールが作成されます。既存の廃止されたコントロールは、手動で廃止されていない場合はアクティブ化されます。

エンティティが追加のエンティティとしてコントロール目標に既に追加されている場合、コントロールは作成されませんが、別のステータスで更新されます。これは、エンティティごとに 1 つのコントロールのみが存在できるという条件を満たすためです。アイテム生成プロセスによってコントロールが生成された場合、コントロールのソースが更新されます。コントロールに複数のソースがある場合、そのコントロールは廃止されません。

14. 展開可能インスタンスから PaCE ポリシーを削除するには、[PaCE ポリシー] 関連リストをクリックします。
15. [削除] ボタンをクリックします。
PaCE ポリシーが展開可能インスタンスから関連付けを解除されるか、コントロール目標に関連する PaCE ポリシーが削除されると、この関連付けからそれ以前に生成されたすべてのエンティティとコントロールが [廃止] ステータスに移行します。これらは削除されませんが、廃止ステータスで引き続き存在します。
16. コントロールとエンゲージメントに関する PaCE ポリシーの実行結果を表示するには、コントロールレコードに移動して [DevOps コンフィグの結果] 関連アイテムをクリックします。

統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assist

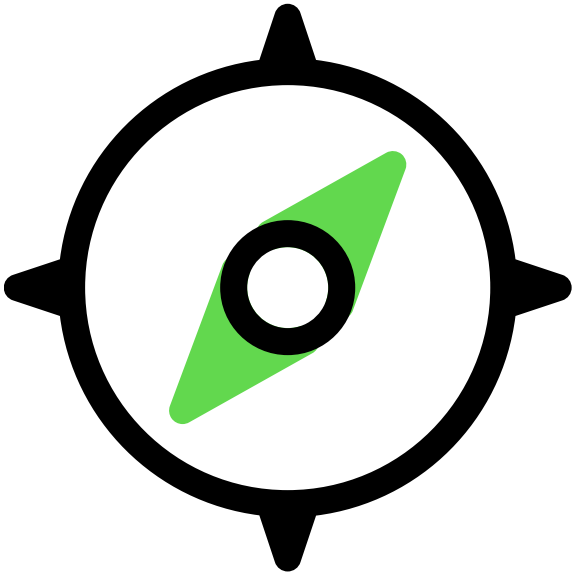
統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assistアプリケーションを使用して、類似するコントロール目標を推奨します。

開始

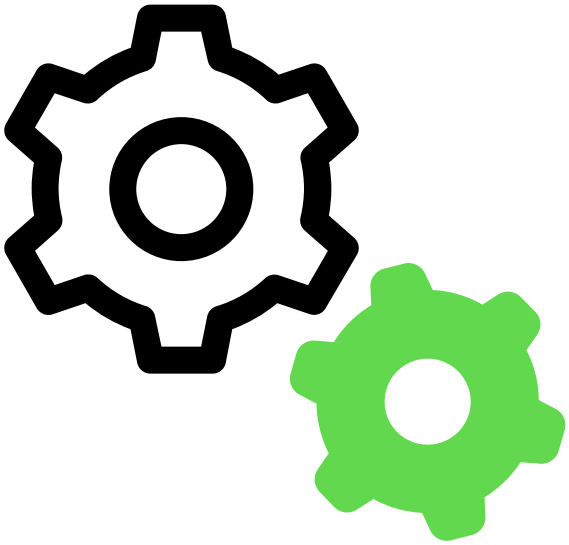
統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assistスキルの探索 探索	統合リスク管理 (IRM) の Now Assist を構成する 構成

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



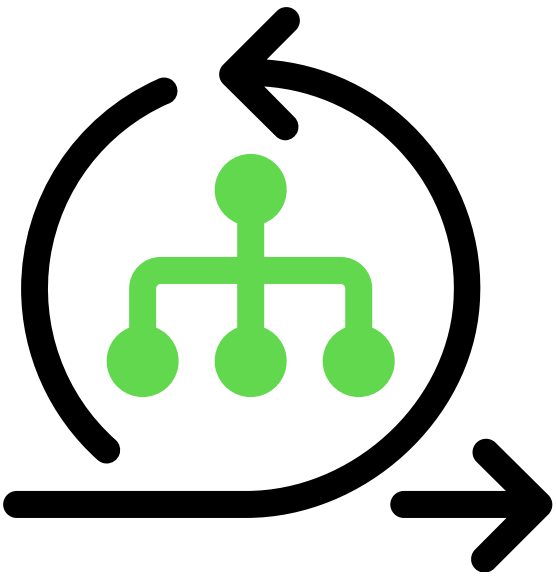
IRM 向け Now Assistスキルの詳細



IRM 向け Now Assistスキルを構成して開始する

統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assistスキルの使用

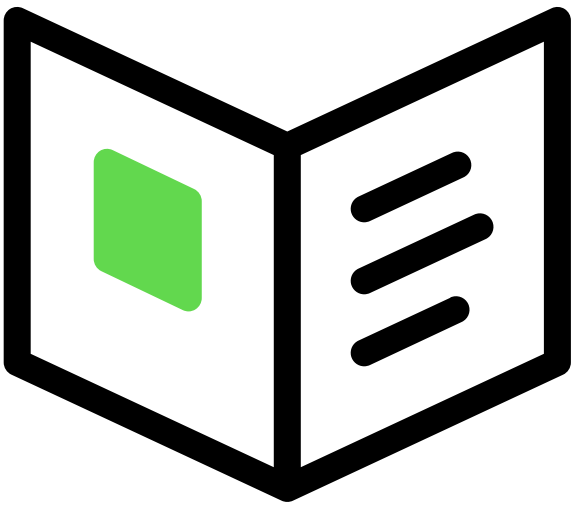
スキルを使用



IRM 向け Now Assist

統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assist に関するサポート情報

参照



IRM 向け Now Assistスキルのサポートされているバージョンとライセンス要件の詳細を確認してください

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

重要:

- 国内の SKU をお持ちのお客様は、すべてのモデルプロバイダーを利用できるわけではなく、一部の Now Assist 製品/機能は現在、国内のお客様はご利用いただけません。詳細については、Now Support ナレッジベースの KB1584492 記事を参照してください。将来のリリースでモデルプロバイダーの可用性の更新を必ず確認してください。
- 現在、 Now Assist 製品/機能の一部は、FedRAMP、NSC DOD IL5、オーストラリアの IRAP で保護されたデータセンターのお客様、セルフホスト型のお客様、またはその他の制限された環境ではご利用いただけません。詳細については、Now Support ナレッジベース記事「KB0743854」を参照してください。将来のリリースで可用性の更新を必ず確認してください。
- 現在、一部の Now Assist 製品/機能は一部の地域の顧客のみが利用できます。将来のリリースで可用性の更新を必ず確認してください。

トラブルシューティングとサポート

- AI とインテリジェンスの ServiceNow コミュニティ
- 既知のエラーポータルで既知のエラー記事を検索する
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート

AI の制限事項

このアプリケーションは、データ内のパターンに基づいて予測を生成する急速に進化している研究分野である人工知能 (AI) と機械学習を使用しています。その結果、このアプリケーションは必ずしも正確、完全、または適切な情報を生成するとは限りません。さらに、このアプリケーションがユースケースに合わせて完全にトレーニングまたはテストされているという保証はありません。これらの問題を軽減するために、ユースケースに対する正確性、害、および適切性について、このアプリケーションの使用をテストおよび評価し、出力を人間が監視し、意思決定の目的で AI で生成された出力のみに依存しないようにするのは、ユーザーの責任です。これは、医療、ファイナンス、法務、雇用、セキュリティ、インフラストラクチャなど、結果が影響を与える分野にこのアプリケーションを展開することを選択した場合に特に重要です。ServiceNow の AI 利用規定 に従うことに同意するものとします。このポリシーは ServiceNow によって更新される場合があります。

データ処理

このアプリケーションでは、ServiceNow 顧客の個々のインスタンスから一元化された ServiceNow 環境にデータを転送する必要があります。この環境は、インスタンスが存在するデータセンターとは異なるデータセンターリージョンに配置されている可能性があり、場合によっては Microsoft Azure などのサードパーティクラウドプロバイダーにも転送されます。このデータは、コアコンプライアンスポータル から利用可能なポリシーを含む、ServiceNow の内部ポリシーと手順に従って処理されます。

データコレクション

ServiceNow は、このアプリケーションの入力、出力を収集して使用し、出力を編集して、ServiceNow モデルや AI 製品などの ServiceNow テクノロジーを開発および改善します。さらに、このアプリケーションは インシデントデータ (インシデント支援およびナレッジ支援の場合) およびチャットのトランスクリプト (チャット支援の場合)。 お客様は、「Now Assistオプトアウトに関するページ」の説明に従って、いつでも将来のデータコレクションをオプトアウトできます。

詳細については、 Now Assist ドキュメント .

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合リスク管理 **(IRM)** 向け **Now Assist**スキルの探索

統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assistアプリケーションでは、スキルを使用して、システムで利用可能な類似のコントロール目標に対する推奨事項を生成できます。

IRM 向け **Now Assist** スキルの概要

IRM 向け Now Assistスキルは、類似するコントロール目標を検索して推奨します。この機能は、冗長または重複するコントロール目標を特定して統合し、プロセスを合理化するのに役立ちます。同様のコントロール目標をより高い精度と精度で特定します。 IRM 向け Now Assist プラグインはエンタイトルメントに基づいて利用できます。

IRM 向け **Now Assist** スキルのメリット

IRM 向け **Now Assist** のメリット

メリット	機能	ユーザー
IRM 向け Now Assistスキルを使用して効率を向上させることができます	冗長なコントロール目標を特定して排除することでプロセスを簡素化し、コンプライアンスチームの効率を高めます。	sn_grc_shared_genai.compliance_gen
IRM 向け Now Assistスキルを使用して迅速な意思決定を支援	コンプライアンスチームが迅速なアクションを実行できるように、引用およびポリシーとともに主要なコントロール目標を特定します。	sn_grc_shared_genai.compliance_gen
IRM 向け Now Assistスキルを使用した作業の自動化	迅速な提案を提供し、手作業を減らし、コンプライアンスライブラリの維持に役立つ、AI で生成された推奨事項。	sn_grc_shared_genai.compliance_gen

自動翻訳

次に探索する内容

IRM 向け Now Assistスキルの構成と使用の詳細については、以下を参照してください。

- 統合リスク管理 (IRM) の Now Assist を構成する
- 統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assistスキルの使用

類似するコントロール目標に対して **AI** が生成した推奨事項

推奨事項フレームワークは、類似するコントロール目標に対する実用的な AI 主導の推奨事項をユーザーインターフェイス内で直接提供するように設計されています。類似のコントロール目標に関する豊富なコンテキスト情報を提供し、ユーザーが十分な情報に基づいた意思決定を行い、シームレスにフォローアップアクションを実行できるようにします。

コントロール目標の重複排除および合理化機能は、コンプライアンスマネージャーとアナリストがコンプライアンスライブラリ内の類似するコントロール目標を特定、重複排除、および合理化することで、コンプライアンスプロセスを合理化できるように設計されています。この機能は、AI を活用し

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

て冗長なコントロール目標の特定を自動化し、クリーンで効率的なコンプライアンスライブラリの維持を容易にします。

推奨フレームワークのハイライト

構成可能な推奨事項とアクション

- さまざまなレコードタイプの推奨事項を定義して構成できます。
- フォローアップアクションの設定を有効にして、ワークフロー内で推奨事項に直接対処できるようにします。

インテリジェントな推奨事項

- 生成 AI や予測インテリジェンスなどの高度な AI 機能を活用して、関連する推奨事項を表示します。
- 機械学習モデルと予測スコアリングを組み込むことで、インサイトと推奨事項を継続的に改善します。

スケーラブルな設計

- 1 つのレコードタイプに対する複数の推奨事項の表示をサポートします。
- アドミニストレーターがビジネスニーズに応じて推奨事項パネルのレイアウトと構造を柔軟にカスタマイズできるようにします。
- さまざまなレコードタイプと推奨手法に適応し、ユースケース全体で一貫性と拡張性を確保します。

アダプションイネーブルメント

- アップストリーム製品間での迅速な統合とアダプションを実現するように設計されています。
- 意思決定者が明確で実用的なインサイトを得られるよう、ユーザーフレンドリーで直感的なインターフェイスを提供します。

主な特長

- より良い意思決定のための推奨事項のコンテキストの可視化。
- さまざまなユースケースやレコードタイプに適応できる、スケーラブルで構成可能なフレームワーク。
- AI/ML ベースの推奨事項の活用を検討している製品の迅速なアダプション。
- 特定の組織プロセスに合わせたカスタマイズ可能なワークフローとロジック。
- 実用的な推奨事項と明確な次のステップがインターフェイスに直接組み込まれることで、ユーザーの生産性が向上します。

注:
sn_reco_template.rationalization_process_writer と sn_grc_shared_genai.compliance_gen_ai_user を持つユーザーのみが、類似するコントロール目標の推奨事項を生成するオプションを表示できます。このロールは、コンプライアンスユーザーに手動でアサインする必要があります。

コントロール目標の推奨事項を生成するには、統合リスク管理の Now Assist を構成し、合理化スキルを有効にする必要があります。詳細については、「 統合リスク管理 (IRM) の Now Assist を構成する と コントロール目標の合理化スキルをアクティブ化する 」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

推奨事項の表示

類似するコントロール目標の推奨事項を生成すると、[推奨事項] ページに次のセクションが表示されます。

- 推奨事項
- コントロール目標
- 説明
- 応答アクション
- 影響を受ける関連付けを評価

次の表に、推奨事項に関連付けられているセクションと関連リストの詳細を示します。

推奨事項

フィールド	説明
コントロール目標	コントロール目標の詳細。 たとえば、コントロール目標と親の名前などです。
最終更新：	推奨事項が最後に生成または更新された日時。 更新アイコン を選択して、最新の推奨事項を表示できます。

注:
コントロール目標の詳細については、「 ポリシーとコンプライアンス管理 の構造の概要」を参照してください。

コントロール目標の詳細

フィールド	説明
説明	コントロール目標の説明とサマリー。
補足ガイダンス	コントロール目標に対処する方法に関する追加のガイダンス。

影響を受ける関連付けを評価

フィールド	説明
影響を受けるアイテム (コントロール、ポリシー例外、問題など)	新しいコントロール目標の統合によって直接影響を受けるアイテムを含む関連リスト。
関連アイテム (エンティティ、エンティティタイプ、ポリシー、引用、コントロール目標など)	承認されたコントロール目標からのすべての関連付けが統合ビューに表示される関連リスト。

フィードバック追跡サイドパネル:フィードバックサイドパネルには、推奨アイテムに対するユーザーインタラクションの履歴が表示されます。これには、ユーザーが承認した内容、ユーザーがスキップまたは無視した内容、却下した内容が含まれます。

推奨事項の生成の詳細については、「 類似するコントロール目標の推奨事項を生成」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

コントロール目標の合理化スキルをアクティブ化する

統合リスク管理 (IRM) の Now Assist を構成する

admin ロールを持っている場合は、ユーザーが コンプライアンスワークスペース で生成 AI スキルを使用できるように、統合リスク管理 (IRM) アプリケーション用の Now Assist を構成できます。

始める前に

必要なロール：sn_nowassist_admin.nsa_admin

このタスクについて

Now Assist アドミンコンソールを使用して、IRM 向け Now Assist を構成します。このコンソールには、プラグインのインストールと生成 AI スキルの構成に必要なものがすべて含まれています。詳細については、 Now Assist アドミンコンソール を参照してください。

次の表に、Now Assist アドミンコンソールからアクセスできる機能とスキルを示します

Now Assist アドミン コンソールの **IRM** 機能とスキル

IRM 機能	スキル
コントロール目標の重複排除と合理化	• 類似のコントロール目標の推奨 • 共通コントロール目標の作成

注:
Now LLM サービス は、この Now Assist アプリケーションのスキルの唯一のプロバイダーです。

以前のバージョンの場合は、 アプリケーションマネージャー に移動して新しいバージョンにアップグレードしてください。

手順

IRM 向け Now Assist プラグイン (sn_irm_gen_ai) をインストールします。

- プラグインの依存関係とプラグインのアクティブ化順序の詳細については、「アプリケーション情報 」を参照してください。
- インストールプロセスの詳細については、「 Now Assist プラグインのインストール 」を参照してください。

注:
Retrieval Augmented Generation (RAG) ポリシーと保持ポリシーの詳細については、「 Indexed sources in AI Search 」および「 User data usage policy for Now Assist 」を参照してください。

での **Now Assist** スキルのアクティブ化 統合リスク管理 **(IRM)** 向け **Now Assist**

統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assistの生成 AI 機能を使用するには、スキルをアクティブ化する必要があります。

始める前に

IRM 向け Now Assist プラグイン (sn_irm_gen_ai) をインストールします。

必要なロール：sn_nowassist_admin.nsa_admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > アドミンセンター > **Now Assist** アドミン.
2. **[Now Assist** スキル] タブの [テクノロジーワークフロー] グループで、[**IRM**] を選択します。
3. [IRM のスキルを Now Assist] ページで、[スキルのアクティブ化] を選択してスキルをアクティブ化します。
4. 各タブでスキルの詳細を確認し、スキルを構成して、[保存して続行] を選択します。

   [戻る] ボタンを使用して、前の手順に戻ることができます。
5. 選択内容を確認し、[アクティブ化] を選択します。
   スキルが構成されました。

次のタスク
sn_generative_ai.nsa_admin ロールを持っている場合は、 Now Assist スキルに対して次のアクションを実行できます。

- Now Assist スキルを編集します。
- Now Assist スキルのコピーを作成します。
- Now Assist スキルのトラブルシューティングを行います。

で共通コントロール目標作成スキルをアクティブ化する **Now Assist**

共通コントロール目標作成スキルをアクティブ化すると、生成 AI を使用して受け入れられた重複コントロール目標を分析し、共通コントロール目標を生成します。

始める前に
IRM 向け Now Assist プラグイン (sn_irm_gen_ai) をインストールします。

必要なロール：sn_nowassist_admin.nsa_admin

手順

1. 移動先 すべて > アドミンセンター > **Now Assist** アドミン > 機能.
2. **[Now Assist** 機能] タブの [テクノロジーワークフロー] グループで、[**IRM**] を選択します。
   [IRM の Now Assist スキル] ページには、ポリシーとコンプライアンスで利用可能な生成 AI 機能が一覧表示されます。
3. 共通コントロール目標の作成スキルで、[スキルのアクティブ化] を選択します。
4. [一般的な詳細] ページで、スキルに関する情報を確認し、[保存して続行] を選択します。

   注:
   この情報は読み取り専用です。
5. 集計フィールド ページで、集計されている列を確認して新しい共通コントロール目標を提案し、保存して続行 を選択します。
6. [レビューしてアクティブ化] ページで、概要を確認し、[アクティブ化] を選択します。
   アクティブ化後、[正常にアクティブ化されました] ダイアログボックスが表示されます。
7. [正常に有効化されました] ダイアログボックスで、[**IRM** に戻る] を選択して [IRM の Now Assist スキル] ページに戻ります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コントロール目標の合理化スキルをアクティブ化する

Now Assistからの合理化で類似するコントロール目標スキルの推奨事項をアクティブ化して構成し、選択したコントロール目標に類似した推奨事項を生成します。

始める前に
必要なロール：sn_nowassist_admin.nsa_admin

このタスクについて
類似のコントロール目標を推奨するために、事前定義された類似性パラメーターが使用されます。AIは類似の名前と説明を検索して、正確な推奨事項を提供します。スキルがアクティブ化されると、適切なアクセス権を持つユーザーがコントロール目標の詳細ページで [合理化] ボタンを使用できるようになります。

手順

1. 移動先 すべて > アドミンセンター > **Now Assist** アドミン.
2. 選択 **Now Assist** 機能 > テクノロジー > **IRM** [Now Assist 機能] タブ内。
3. 合理化スキルを選択します。
   a. [詳細を表示] を選択します。
   b. 類似するコントロール目標の推奨事項を選択します。
   c. [スキルのアクティブ化 **(Activate skill)**] を選択します。
4. 読み取り専用モードに表示される [類似性パラメーター] タブで [保存して続行] を選択します。
   デフォルトの入力では、推奨事項を提供するために生成 AI が検索する詳細を指定します。必要に応じて、読み取り専用モードの [一般的な詳細] タブを確認することもできます。
5. **[Save and continue** (保存して続行)] を選択します。
6. [レビューしてアクティブ化] タブで、[レビューしてアクティブ化] を選択します。
   スキルアクティブ化の成功メッセージが表示されます。

統合リスク管理 **(IRM)** 向け **Now Assist**スキルの使用

統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assistスキルを使用して、類似するコントロール目標の推奨事項を生成できます。

コンプライアンスマネージャーとアナリストは、類似のコントロール目標を生成することで、コンプライアンスライブラリ内の類似のコントロール目標を特定、重複排除、および合理化することで、コンプライアンスプロセスを簡素化できます。

IRM 向け **Now Assist**スキルのプロンプトの変更

Yokohama リリース以降、IRM 向け Now Assistがインストールされているユーザーは、類似するコントロール目標スキルの推奨事項を使用できます。

類似のコントロール目標スキルの推奨事項のプロンプトを変更するには、「 KB1806035 」で説明されている手順に従います。

類似するコントロール目標の推奨事項を生成

コンプライアンスライブラリ内の類似するコントロール目標を特定、重複排除、および合理化することで、推奨事項を生成します。これにより、冗長なコントロール目標を特定できるため、クリーンで効率的なコンプライアンスライブラリの維持が容易になります。

始める前に
必要なロール:sn_reco_template.rationalization_process_writer および
sn_grc_shared_genai.compliance_gen_ai_user

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

関連するロールの詳細については、「 GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 とともにインストールされるロール」を参照してください。

このタスクについて

推奨事項は、構成された類似性パラメーター (名前と説明) に基づいて提案されます。生成 AI は、推奨事項を提供するための入力として機能する類似の名前と説明を検索します。

> **重要:**
> AI で生成された推奨事項の正確性を必ず確認してください。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コントロール目標 > すべてのコントロール目標.
2. 合理化するコントロール目標を開きます。
3. [概要] タブで、[合理化] を選択します。
   新しい [新しい合理化プロセスを作成] ページが表示されます。

   > **注:**
   > - コンプライアンスワークスペースリストを開き、合理化プロセスを選択して、新しい合理化プロセスを作成することもできます。
   > - コントロール目標で合理化プロセスが既に利用可能な場合、ユーザーはその特定のコントロール目標の [合理化] タブに移動します。

4. フォームで、フィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	合理化プロセスの名前。
所有者	ポリシーを所有するユーザー。
合理化テーブル	合理化が行われているレコードタイプ。 **注:** 現在、合理化はコントロール目標でのみ使用できます。
合理化レコード	合理化が行われているレコード。
追加コメント	合理化プロセスに関する追加情報。

5. **[Save** (保存)] を選択します。
   新しいボタン [分析] が画面に表示されます。
6. [分析] を選択します。
   - 推奨事項が生成されていることを示す確認メッセージが表示されます。
   - 推奨事項の準備が整ったら、新しい [合理化] タブが表示されるので、しばらくしてからページをリロードしてみてください。
   - プロセスの合理化のステータスが [開始] から [分析] に移行します。

次のタスク

生成された推奨事項を承認または却下します。詳細については、「類似するコントロール目標の推奨事項に基づいてアクションを実行」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

注:

推奨事項の宣言アクションとして、「重複として承認」、「却下」、「プライマリとして保持」に加えて、UI フォームアクションを構成できます。宣言アクションは、リストアクションと関連リストアクションを変更するのに役立ちます。宣言アクションの作成とその使用方法の詳細については、次を参照してください。

類似するコントロール目標の推奨事項に基づいてアクションを実行

重複として承認、プライマリとして保持、却下などの推奨事項に基づいて行動し、コンプライアンスマネージャーとアナリストが、コンプライアンスライブラリ内の類似するコントロール目標を特定、重複排除、合理化することでプロセスを簡素化できるようにします。

始める前に

必要なロール:sn_reco_template.rationalization_process_writer および sn_grc_shared_genai.compliance_gen_ai_user

関連するロールの詳細については、「 GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 とともにインストールされるロール」を参照してください。

このタスクについて

統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assist では、コンプライアンスマネージャーとアナリストが類似するコントロール目標の推奨事項に基づいて行動できるようにする、AI を利用した合理化ワークフローが導入されています。このプロセスは、重複を特定し、関連付けを統合し、管理と監査が容易な統合コントロール目標を作成します。

重要:
AI で生成された推奨事項の正確性を必ず確認してください。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンスワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. 移動先 合理化プロセス > コントロール目標.
4. 推奨事項を確認するコントロール目標を選択し、[合理化] タブに移動します。
5. コントロール目標の推奨事項カードを選択し、次のセクションを確認します。

フィールド	説明
名前	コントロール目標の名前。
作成日時	コントロール目標が作成された日時。
説明	コントロール目標の説明とサマリー。
補足ガイダンス	コントロール目標に関する追加のガイダンス。
影響を受ける関連性を評価	
影響するアイテム	コントロール目標の統合によって直接影響を受けるアイテムを含む関連リスト。
関連アイテム	承認されたコントロール目標からのすべての関連付けが統合ビューに表示される関連リスト。

6. オプション: 詳細アイコン ( )を選択して、コントロール目標の完全なレコードを表示します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

7. すべての推奨事項について、次のいずれかのアクションを実行します。
   - [重複として承認] を選択し、[確認] を選択して推奨事項を重複として承認します。
   - [閉じる]、[確認] の順に選択し、重複していないため、推奨事項が再度表示されないようにします。
   - [プライマリとして保持] を選択し、[確認] を選択してコントロール目標をプライマリとしてマークし、メイン目標として保持します。

   注:
   - プライマリとして保持できるコントロール目標は 1 つだけです。すべての重複するコントロール目標からの情報は、プライマリ目標にまとめられます。
   - 合理化プロセスを次のステータスに移行するには、保持されているコントロール目標が少なくとも 1 つアクティブである必要があります。
   - 保持されているプライマリコントロール目標が削除されても、合理化プロセスは次のステータスに移行しません。
   - コントロール目標が削除されても、その関連付けは表示されたままになりますが、ユーザーが次のステータスへの移行を開始した後に削除されます。
   - 削除されたコントロール目標にリンクされている推奨事項も削除されます。
   - 承認されたコントロール目標が非アクティブ化されると、影響を受けるすべてのアイテムが自動的に非アクティブステータスに移行します。
8. [理由] フィールドに、推奨事項に対して実行されたアクションの理由を入力します。
9. コントロール目標を重複として受け入れた後、ページの一番下までスクロールし、 作成 を選択して生成 AI を使用して共通のコントロール目標を作成します。

   この AI 主導のアプローチにより、プライマリコントロール目標を手動で保持する必要がなくなります。

   生成 AI は、名前、説明、およびガイダンスフィールドを自動的に入力し、フォームに統合された目標を表示します。承認されたすべてのコントロール目標の詳細を単一の新しい共通コントロール目標に結合します。
10. フォーム で 生成 を選択し、 更新 を選択して、共通コントロール目標フィールドを再生成します。
11. [レビューを要求] を選択します。
    - すべての推奨事項に対応すると、[レビューを要求] ボタンが有効になります。詳細については、「合理化プロセスで実行されたアクションをレビューします」を参照してください。
    - 推奨事項に対して実行するアクションは、構成されたレビュー担当者にレビュー用に送信されます。レビュー担当者は、アクションを承認または却下し、その理由を提供することができます。
12. [概要] を選択します。
    レビュー担当者のフィードバックを分析し、必要に応じて対処します。
13. 分析 状態が承認されたら、統合 を選択します。
    このアクションにより、受け入れられたすべてのコントロール目標の詳細がプライマリコントロール目標に統合されます。
14. 影響を受けるすべてのアイテムと関連付けを確認し、関連付けに対して次のいずれかのアクションを実行します。
    - [同意する] を選択し、[確認] を選択して、関連付けを受け入れます。
    - 関連付けを削除するには、 [閉じる] を選択し、 [確認] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:

- デフォルトでは、関連付けはすべて [承認済み] ステータスです。関連付けを選択し、関連付けをそのまま却下するかそのまま受け入れるかを選択できます。
- 影響を受けるアイテムは、承認されたコントロール目標をプライマリコントロール目標に統合することで影響を受けるアイテムです。これらのアイテムは廃止されており、関連付けることはできません。[影響を受けるアイテムを同期 **(Sync Impacted Items**)] を選択して、さまざまな状況で影響を受けるアイテムのリストを更新します。

15. [レビューを要求] を選択して、レビュープロセスを開始します。
レビュー担当者は、影響を受けるすべてのアイテムと関連付けに対して実行したアクションをレビューできます。レビュー担当者は、アクションを承認または却下し、その理由を提供することができます。また、サマリーにキャプチャされた関連性に基づいて行動することもできます。詳細については、「合理化プロセスで実行されたアクションをレビューします」を参照してください。
16. 右側の電球アイコンを選択して、[レビュー担当者フィードバック] セクションにアクセスします。

    [レビュー担当者フィードバック] セクションには、推奨事項に対して実行されたすべてのユーザーアクションの概要が時系列で示されます。また、推奨事項に対して実行されたすべてのユーザーアクションの概要も時系列で表示されます。アクションごとに次の詳細がキャプチャされます。

    - ユーザー ID:アクションを実行したユーザー
    - アクションタイプ:コントロール目標が [受諾]、[保持]、または [却下] のいずれであったか
    - 理由:アクションが実行された理由
    - コントロール目標:アクションに関連付けられた特定のコントロール目標
    - 最新の更新:アクションに関連する最新のステータスまたは変更

    この構造化された形式により、ユーザーが実行したアクションを明確に追跡して理解できます。
17. オプション: [分析の再起動] を選択して、合理化プロセスを [分析] ステータスにリセットします。
[分析を再開] オプションを使用すると、推奨事項を承認、却下、または保持することで、推奨事項を再評価できます。
18. 統合ステータスが承認されたら、確認 を選択し、確認 を選択して合理化プロセスを完了します。
[統合状態] ページに、保持および承認済みのコントロール目標とそれに関連するアイテムが表示されるようになりました。この変更により、合理化プロセスのコンテキストが改善されます。
確認後、次の変更が行われます。
    - 合理化プロセスのステータスが [クローズ済み] に移行します。
    - 承認されたコントロール目標は廃止され、その詳細と関連付けはすべて保持されたコントロール目標に結合されます。
    - 影響を受けるアイテムが廃止されます。

合理化プロセスで実行されたアクションをレビューします

合理化プロセス中に、重複として受け入れる、プライマリとして保持する、却下するなどの推奨事項を実行した後、オーナーはレビューのために構成されたレビュー担当者に推奨事項を送信します。次に、レビュー担当者は実行されたアクションを分析し、承認または却下して、決定の適切な正当性を提供します。

始める前に

必要なロール:sn_reco_template.rationalization_process_writer および sn_grc_shared_genai.compliance_gen_ai_user

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連するロールの詳細については、「 GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 とともにインストールされるロール」を参照してください。

このタスクについて

レビュープロセス中、レビュー担当者には、推奨されるコントロール目標に対してオーナーが実行するアクションを管理するためのいくつかのオプションがあります。

- レビュー担当者は、オーナーが実行したアクションのアセスメントに基づいて、合理化プロセスを承認または却下できます。
- レビュー担当者は、所有者が実行するアクションを変更できます。たとえば、オーナーがコントロール目標を却下した場合、レビュー担当者は代わりにそれを重複としてマークし、その理由を入力できます。
- レビュー担当者は、コントロール目標に関連するすべての影響度と関連アイテムを表示し、必要な調整を行うことができます。
- レビュー担当者は、合理化プロセスに関するフィードバックを提供できます。フィードバックは、オーナーに表示され、さらにアクションが起こされます。

注:
レビュー担当者が行った変更は、推奨事項にすぐに反映されるのではなく、サマリーにキャプチャされ、オーナーはこれらの変更を承認または却下できます。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コントロール目標 > すべてのコントロール目標.
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. リストの [プロセスの合理化] でコントロール目標を選択します。
4. 推奨事項を確認し、次のアクションを実行します。
   - **a.** [承認] を選択します。
     b. [承認の理由] ダイアログボックスで、[理由] フィールドに承認理由を入力します。
     c. [承認] を選択します。
   - **a.** [却下] を選択します。
     b. [却下の理由] ダイアログボックスで、[理由] フィールドに却下の理由を入力します。
     c. [却下] を選択します。

次のタスク

所有者は、概要を参照して、レビュー担当者の更新とフィードバックを表示できます。

- レビューが承認されると、オーナーは統合ステータスに移行できます。
- レビューが却下された場合、所有者は必要なアクションを実行し、レビューのために再度送信できます。

統合リスク管理 **(IRM)** 向け **Now Assist** に関するサポート情報

統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assist アプリケーションに関連する重要な情報の簡単な概要を把握できます。

サポート対象のバージョン

IRM 向け Now Assist は、 Yokohama リリース以降でサポートされています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

サポート対象のユーザーインターフェイス

IRM 向け Now Assist アプリケーションには、次の表に記載されているスキルが含まれています。

インターフェイス	スキル
コンプライアンスワークスペース	合理化

アプリケーション情報

問題の要約スキルを使用し、問題のサマリーと解決メモを生成するには、 IRM 向け Now Assist ストアアプリ (sn_irm_gen_ai) をアクティブ化します。

このストアアプリには、次の依存関係があります。

- Now Assist プラットフォーム
- GRC: 規制変更管理
- GRC Administration

詳細については、「統合リスク管理 (IRM) の Now Assist を構成する」を参照してください。

GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター

GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター アプリケーションは、コンテンツプロバイダーが GRC アプリケーションにコンテンツをプッシュできるように、共通のフレームワークを提供します。また、アプリケーションを使用すると、データをレビュー、承認して、ポリシーとコンプライアンス管理 テーブルにインポートできます。

Yokohama 以降、GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター アプリケーションをGRC：サードパーティコンテンツとの統合アプリケーションとともに使用できます。

データインポートプロセスを完了する方法の詳細については、「GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター のワークフロー」および「GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター を使用してバッチレコードを表示し、タスクをインポート」を参照してください。

GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター のワークフロー

ServiceNow Store から GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター アプリケーションをインストールし、ワークフローを実行してデータインポートプロセスを完了することができます。

GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター アプリケーションワークフローは、次のステップで構成されています。

1. GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター アプリケーションを ServiceNow Store からダウンロードします。GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター アプリケーションをダウンロードすると、GRC：サードパーティコンテンツとの統合 および ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションはインスタンスに自動的にダウンロードされます。
2. sn_compliance.admin ロールでインスタンスにログインし、sn_grc_cim.admin ロールをユーザーに割り当てます。
3. アプリケーションでサポートされている API とステージングテーブルを使用し、ステージングテーブルから GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションにデータを移動します。

   GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションを使用してバッチレコードを統合し、ライブラリインポートタスクを割り当てる方法の詳細については、「GRC：ポリシーとコンプラ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

イアンスのインテグレーター を使用してバッチレコードを表示し、タスクをインポート」、「コンテンツ統合バッチテーブル」、および「コンプライアンス承認のためのライブラリインポートタスクの割り当て」を参照してください。

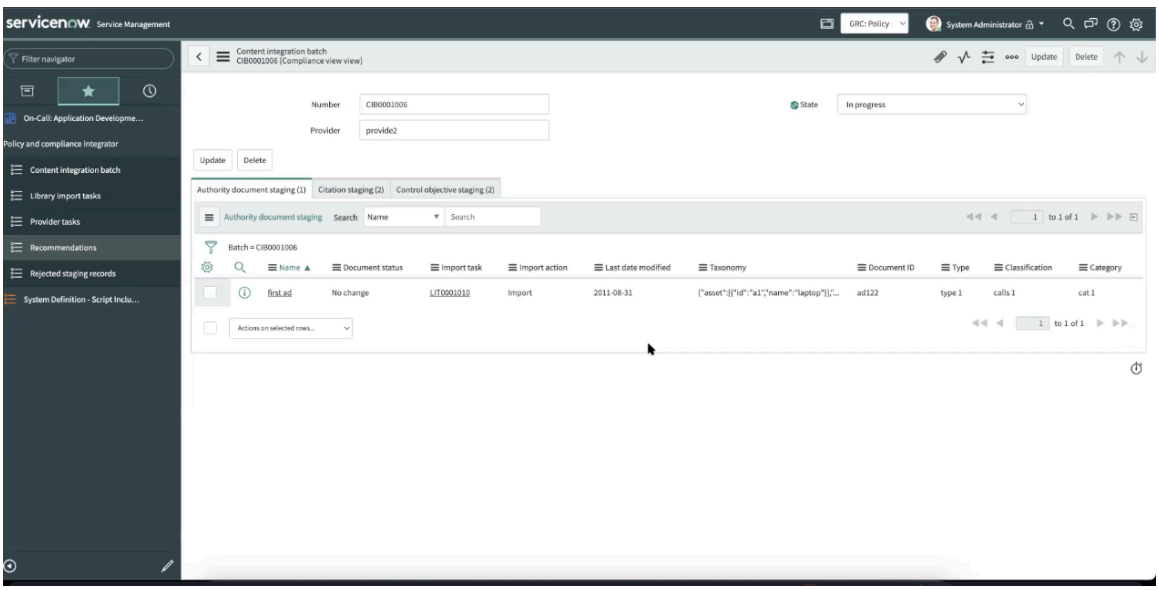
GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター を使用してバッチレコードを表示し、タスクをインポート

GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター アプリケーションモジュールを使用して、バッチレコードの詳細を表示したり、タスクをインポートしたりできます。たとえば、コンテンツ統合バッチレコード、ライブラリインポートタスク、ステージングレコード、レコードの推奨事項を表示できます。

アクセスできます すべて > ポリシーとコンプライアンスインテグレーター > コンテンツインテグレーター アプリケーション UI で。モジュールには、次の図に示す詳細が表示されます。

- コンテンツ統合バッチ
- ライブラリインポートタスク
- プロバイダータスク
- 推奨事項
- 却下されたコンテンツ

ポリシーとコンプライアンスインテグレーターモジュール



サードパーティのコンテンツプロバイダーから ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションテーブルにコンテンツをインポートする方法については、「コンテンツ統合バッチテーブル」および「コンプライアンス承認のためのライブラリインポートタスクの割り当て」を参照してください。

コンテンツ統合バッチテーブル

GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター アプリケーション UI に表示されるコンテンツ統合バッチテーブルのバッチレコードにアクセスできます。これらのレコードにアクセスすることで、ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションにデータをインポートできます。

コンテンツ統合バッチテーブルの概要

sn_compliance.admin ロールを持つユーザーは、コンテンツ統合バッチテーブルのバッチレコードにアクセスし、各レコードのライブラリインポートタスクを作成できます。コンプライアンスマネー

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

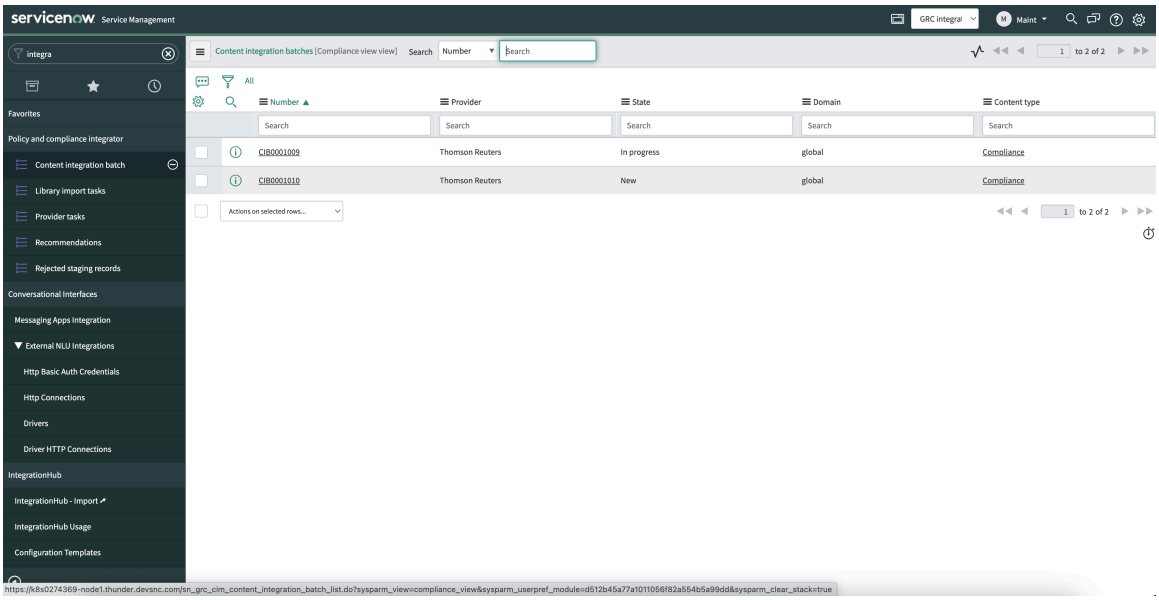
ジャーのアサイン先グループは、ライブラリインポートタスクをレビューし、ステージングレコードを ポリシーとコンプライアンス管理 テーブルにインポートします。

コンテンツ統合バッチテーブルの詳細

コンテンツ統合バッチテーブルには、次の例に示す詳細が表示されます。

- コンテンツ統合バッチレコードの番号。この例では、CIB0001006 がレコード番号です。
- コンテンツ統合バッチのプロバイダー。この例では、Thomson Reuters がプロバイダーです。
- コンテンツ統合バッチのステータス。この例では、ステータスは [新規] です。
- コンテンツ統合バッチのドメイン。この例では、ドメインはグローバルです。
- コンテンツ統合バッチのコンテンツタイプ。この例では、タイプは [コンプライアンス] です。

コンテンツ統合バッチレコードテーブル



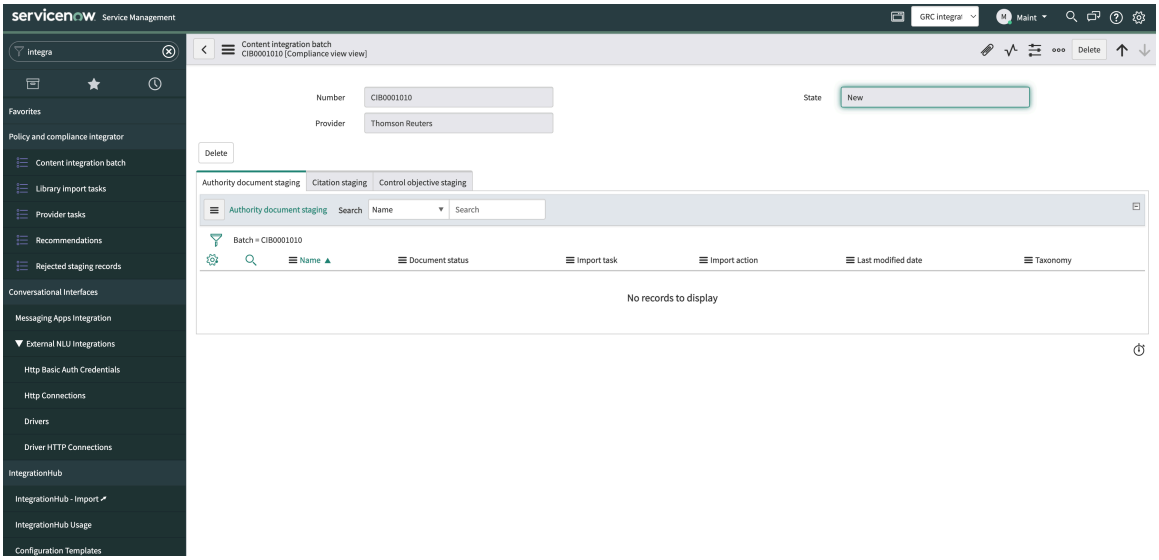
ユーザーロールを使用して API とバッチレコードにアクセスする方法については、「統合プロセスのユーザーロール」を参照してください。

テーブル内のレコードを選択して、コンテンツ統合バッチレコードフォームとその関連リストを表示します。以下の例を参照してください。

注:
フォームのフィールドと関連リストは自動的に入力されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

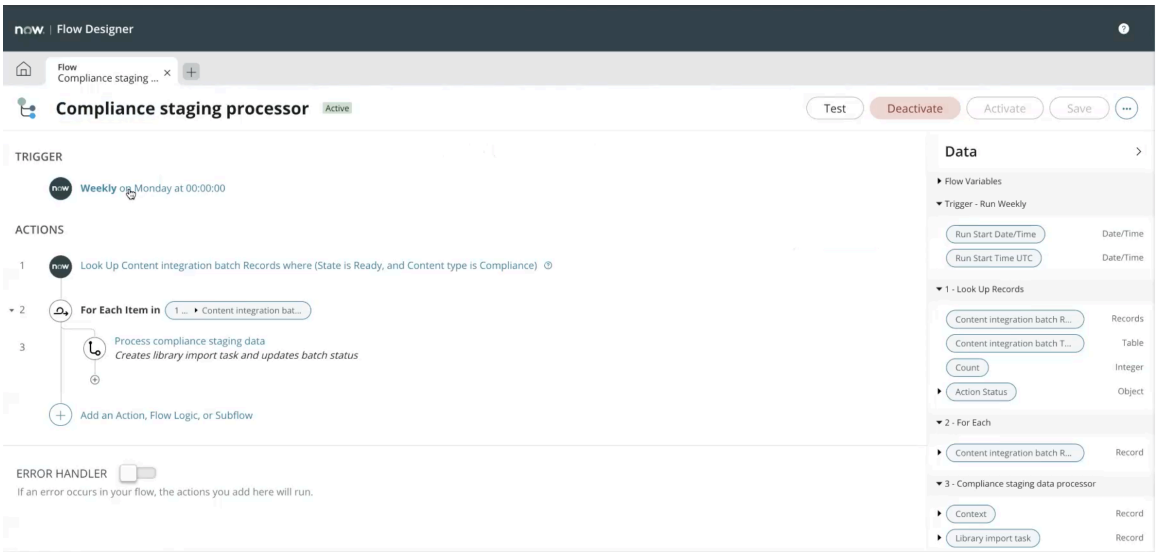
コンテンツ統合バッチレコードフォーム



コンプライアンスステージングプロセッサーフローの使用

GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター アプリケーションで提供される新しいコンプライアンスステージングプロセッサーフローを使用できます。以下の例を参照してください。このフローはコンプライアンスのステージングデータを処理するために使用され、バックグラウンドで毎週実行されます。ステータスが [準備完了] で、コンテンツタイプが [コンプライアンス] であるコンテンツ統合バッチレコードを検索します。コンテンツ統合バッチ内のレコードごとに、ライブラリインポートタスクを作成し、コンテンツ統合バッチステータスを自動的に更新します。

コンプライアンスステージングプロセッサーフロー



注:
フローを更新して設定を変更できます。たとえば、フローの開始時間を更新できます。

REST API の使用

REST API を使用して GRC：サードパーティコンテンツとの統合 にレコードを挿入し、GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター アプリケーションを使用して後で ポリシーとコンプライアンス管理 テーブルにレコードを移動できます。GRC：サードパーティコンテンツとの統合 アプリケーションと GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター アプリケーションには、次の内部 API が用意されています。

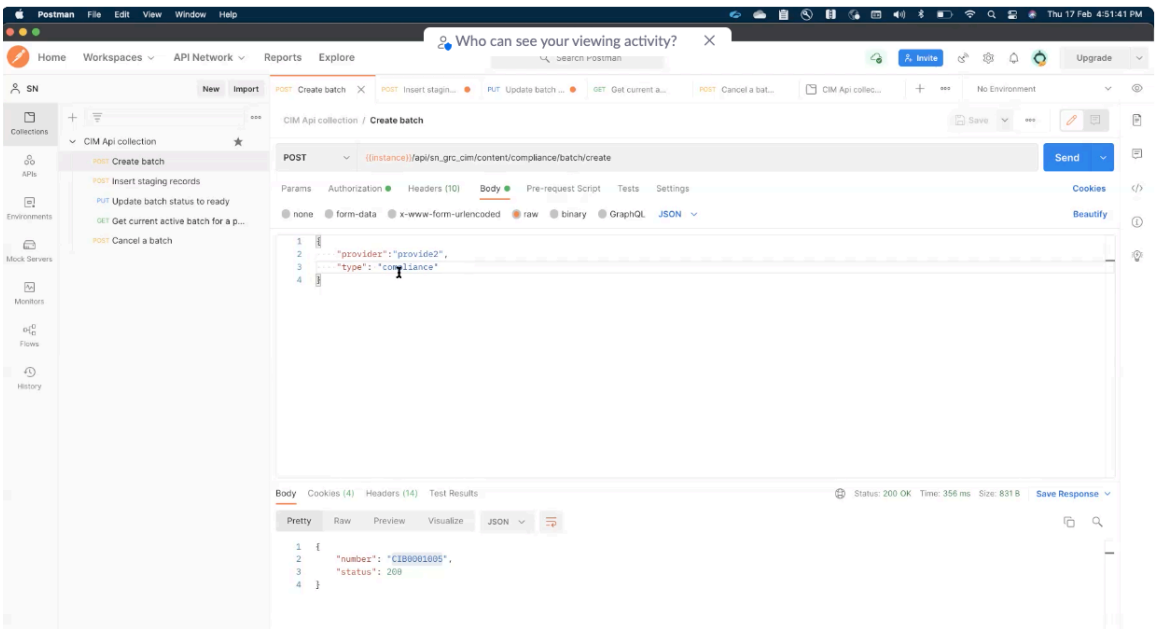
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- バッチを作成する
- ポリシーステージングレコードを挿入する
- バッチステータスを準備完了に更新する
- バッチを取得する
- バッチをキャンセルする

注:
Postman API プラットフォームなどのサードパーティツールを使用して API を実行できます。

次の例に示すように Postman API プラットフォームで API を実行すると、ステージングレコードが ポリシーとコンプライアンス管理 テーブルにインポートされます。

Postman API プラットフォームを使用してバッチを作成



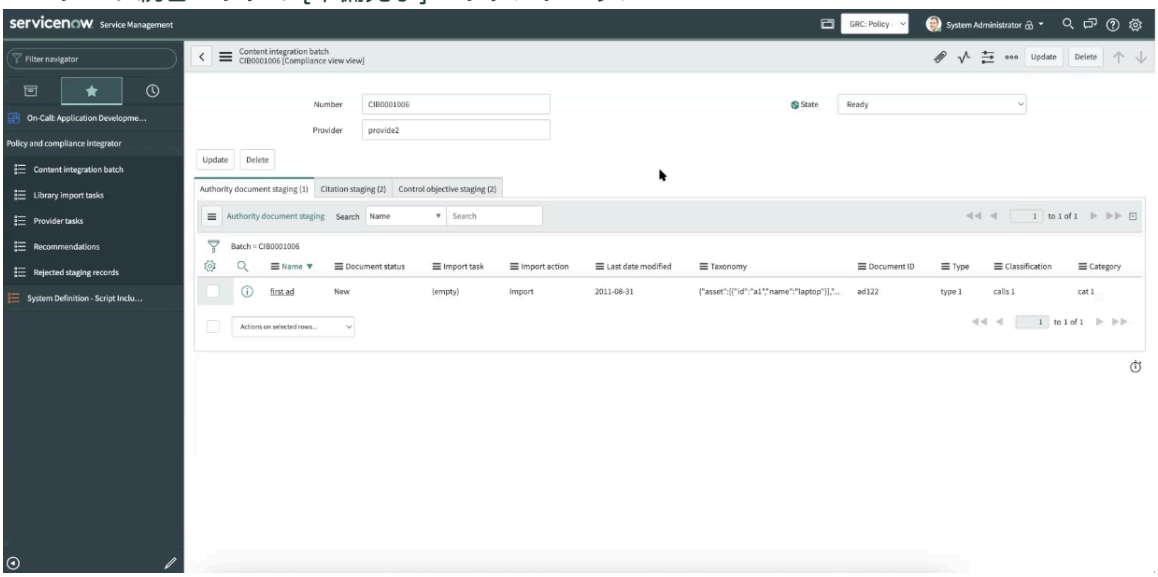
バッチレコードの処理

[バッチステータスを準備完了に更新 (Update batch status to ready)] API および [コンプライアンス] ステージングプロセッサーフローは、バッチレコードを次のように処理します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. [バッチステータスを準備完了に更新 (Update batch status to ready)] API は、図に示すように、コンテンツ統合バッチステータスを [準備完了] に更新します。

   コンテンツ統合バッチの [準備完了] バッチステータス



2. [コンプライアンス] ステージングプロセッサーフローは、コンテンツ統合バッチとそのレコードを取得します。[バッチステータスを準備完了に更新 (Update batch status to ready)] API でコンテンツ統合バッチステータスが [準備完了] に設定されると、コンプライアンスのステージングプロセッサーフローがコンテンツ統合バッチを確認します。

3. コンテンツ統合バッチのステータスが [準備完了] に更新されると、コンプライアンスのステージングプロセッサーフローがステージングから GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター アプリケーションへのレコードのインポートを開始します。

   インポートプロセスを追跡するライブラリインポートタスクが自動的に作成されます。

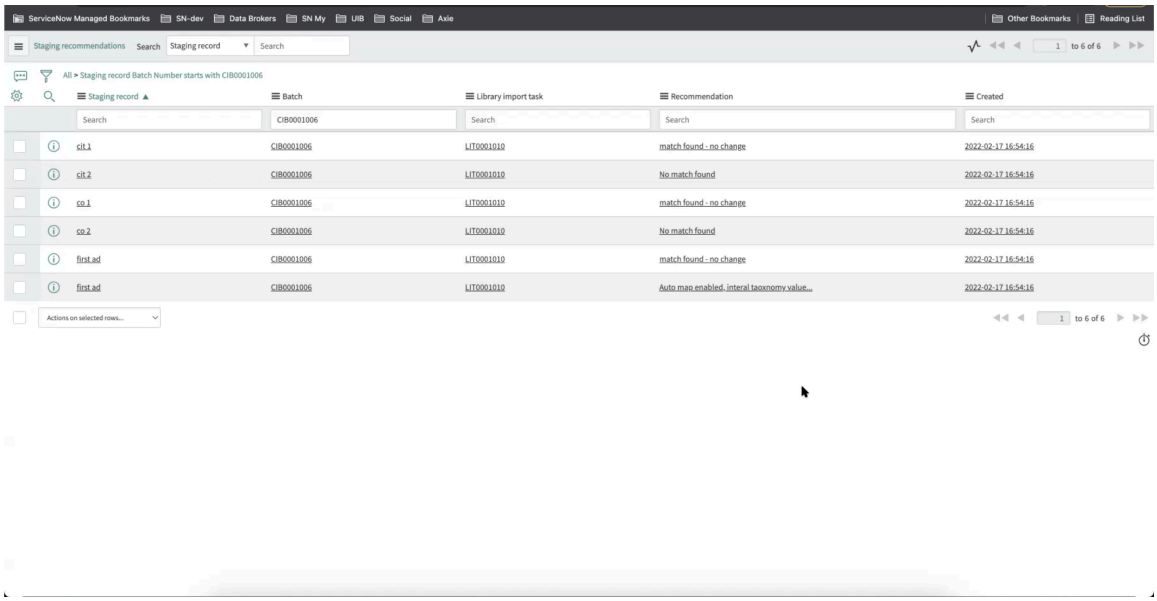
4. ライブラリインポートタスクが作成されると、コンプライアンスステージングプロセッサーフローによってバッチステータスが自動的に [進行中] に更新されます。
5. ライブラリインポートタスクが作成され、コンテンツ統合バッチで指定されているプロバイダーが見つからない場合、タスクの状況は [プロバイダーのオンボーディング] に更新されます。プロバイダーインポートタスクは、ライブラリインポートタスクのコンテンツオンボーディングタスク関連リストに作成されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. ライブラリインポートタスクが作成されると、次の例に示すように、各レコードのステージングに関する推奨事項がコンテンツ統合バッチに対して生成されます。

ステージングに関する推奨事項



ライブラリインポートタスクは、ポリシーとコンプライアンス管理 テーブルのステージングレコードをインポートするために使用されます。各レコードのライブラリインポートタスクとステージングに関する推奨事項が、GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター モジュールのコンテンツ統合バッチに表示されます。sn_compliance.admin ロールを持つユーザーは、ライブラリインポートタスクをコンプライアンスマネージャーのアサイン先グループにアサインできます。ライブラリインポートタスクを割り当てる方法については、「コンプライアンス承認のためのライブラリインポートタスクの割り当て」を参照してください。

コンプライアンス承認のためのライブラリインポートタスクの割り当て

GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター アプリケーションのライブラリインポートタスクフォームを使用して、ライブラリインポートタスクをコンプライアンスマネージャーアサイン先グループにアサインします。

始める前に

この手順では、まず sn_compliance.admin ロールでログインし、ライブラリインポートタスクを送信して承認する必要があります。

必要なロール：sn_compliance.admin

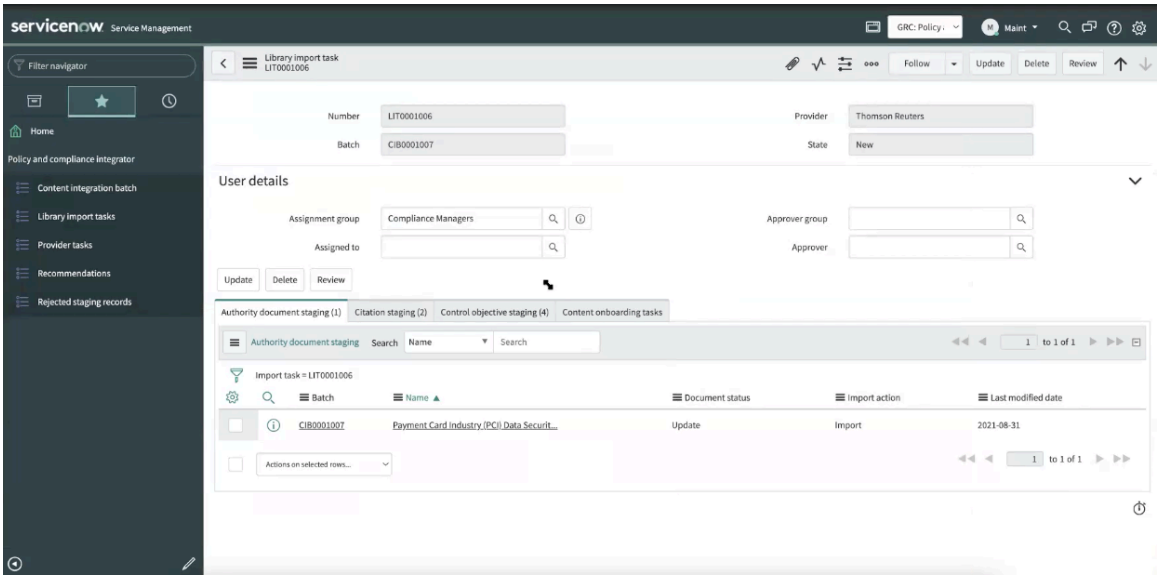
手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンスインテグレーター > コンテンツインテグレーター > ライブラリインポートタスク.
   次の例に示すように、ライブラリインポートタスクが [新規] 状況で表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新規] 状況のライブラリインポートタスク



2. フォームのフィールドに入力します。

ライブラリインポートタスクフォーム

フィールド	説明
数値	ライブラリインポートタスクの番号。この例では、番号は LIT0001001 です。このフィールドは自動入力されます。
プロバイダー	プロバイダーの名前。このフィールドは自動入力されます。
バッチ	コンテンツ統合バッチ番号。この例では、番号は CIB0001001 です。このフィールドは自動入力されます。
状況	ライブラリインポートタスクの状況。このフィールドは自動入力されます。
アサイン先グループ	ライブラリインポートタスクがアサインされているアサイン先グループ。[コンプライアンスマネージャー] グループを選択します。
承認者	ライブラリインポートタスクの承認者。
アサイン先	タスクがアサインされているアサイン先グループ。
承認者グループ	ライブラリインポートタスクの承認者グループ。
関連リスト	
各種法令・基準等のステージング	ライブラリインポートタスクに関連する各種法令・基準等のステージングレコード。
引用のステージング	ライブラリインポートタスクに関連する引用のステージングレコード。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
コントロール目標のステージング	ライブラリインポートタスクに関連するコントロール目標のステージングレコード。
コンテンツオンボーディングタスク	ライブラリインポートタスクに関連するプロバイダーインポートタスク。このタスクは、コンテンツ統合バッチで指定されているプロバイダーがプロバイダー (sn_grc_provider) テーブルに見つからない場合に作成されます。 プロバイダーインポートタスクが作成されると、ライブラリインポートタスクの状況が [プロバイダーのオンボーディング]に更新されます。プロバイダーインポートタスクが完了すると、ライブラリインポートタスクの状況が [新規]に更新されます。

3. [更新] をクリックします。

次のタスク
コンプライアンスマネージャーのアサイン先グループに割り当てられたライブラリインポートタスクを承認する方法については、「ライブラリインポートタスクを承認」を参照してください。

ライブラリインポートタスクを承認

GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター アプリケーションのライブラリインポートタスクフォームを使用して、ライブラリインポートタスクを承認します。

始める前に
必要なロール：sn_compliance.manager

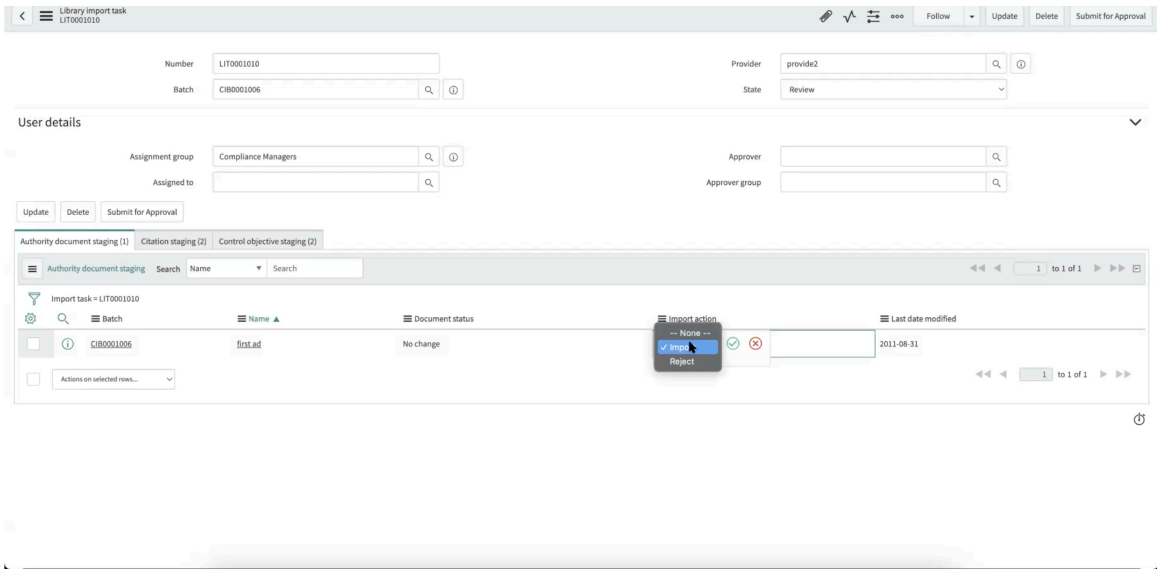
手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンスインテグレーター > コンテンツインテグレーター > ライブラリインポートタスク.
2. ライブラリインポートタスクと、各種法令・基準等のステージングレコード、引用ステージングレコード、コントロール目標ステージングレコード、およびコンテンツのオンボーディングタスクの関連リストを確認します。
3. アプリケーションナビゲーターで、[推奨事項] に移動し、アプリケーションによってタスクに提供される推奨事項を確認します。
4. フォームで、[インポート] または [却下] をクリックします。
   次の例に示すように、ライブラリインポートタスクの詳細を確認し、レコードをインポートまたは却下します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ライブラリインポートタスクをインポートまたは却下

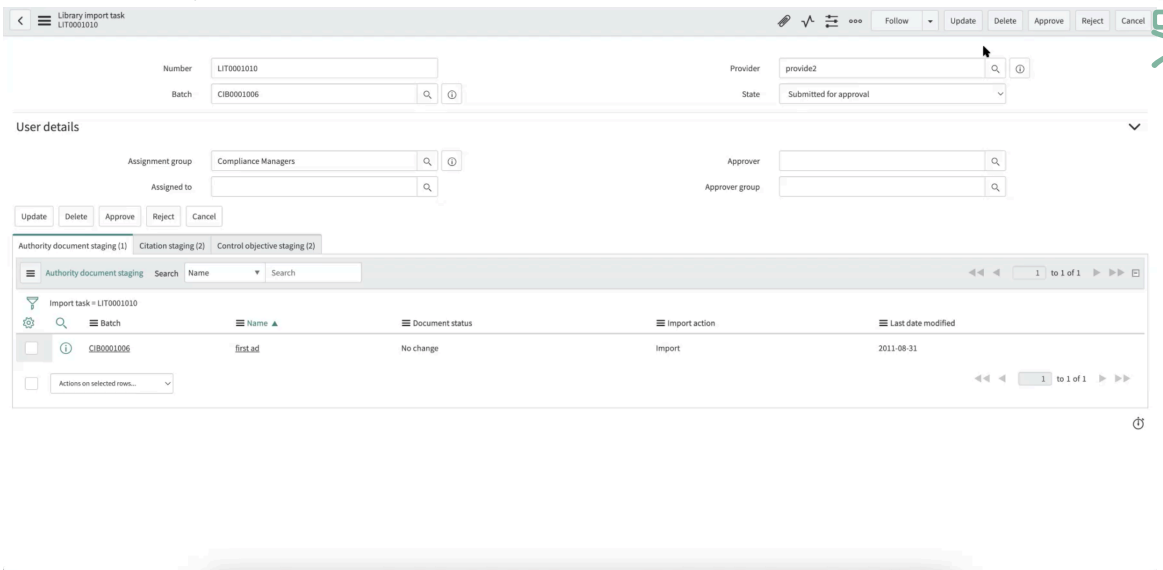


[インポート] をクリックすると、ライブラリインポートタスクに関連付けられているレコードが GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 ステージングテーブルにインポートされます。

[却下] をクリックすると、ライブラリインポートタスクに関連付けられているレコードが却下されます。その結果、データは GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 ステージングテーブルにインポートされません。

5. [承認のために送信済み] をクリックします。
タスクが承認のためにコンプライアンスマネージャーグループに送信されます。次の例に示すように、ライブラリインポートタスクのステータスが [承認のために送信済み] に更新されます。

承認のために送信されたタスク



6. ライブラリインポートタスクを確認し、[承認] をクリックします。

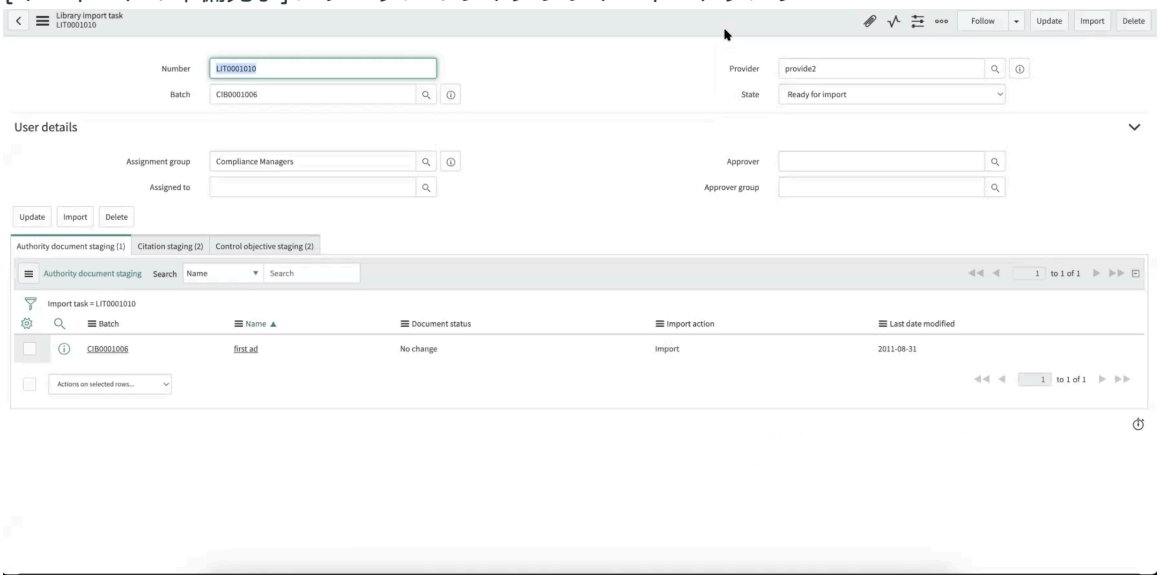
このアクションにより、ライブラリインポートタスクが [インポートの準備完了] ステータスに移行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

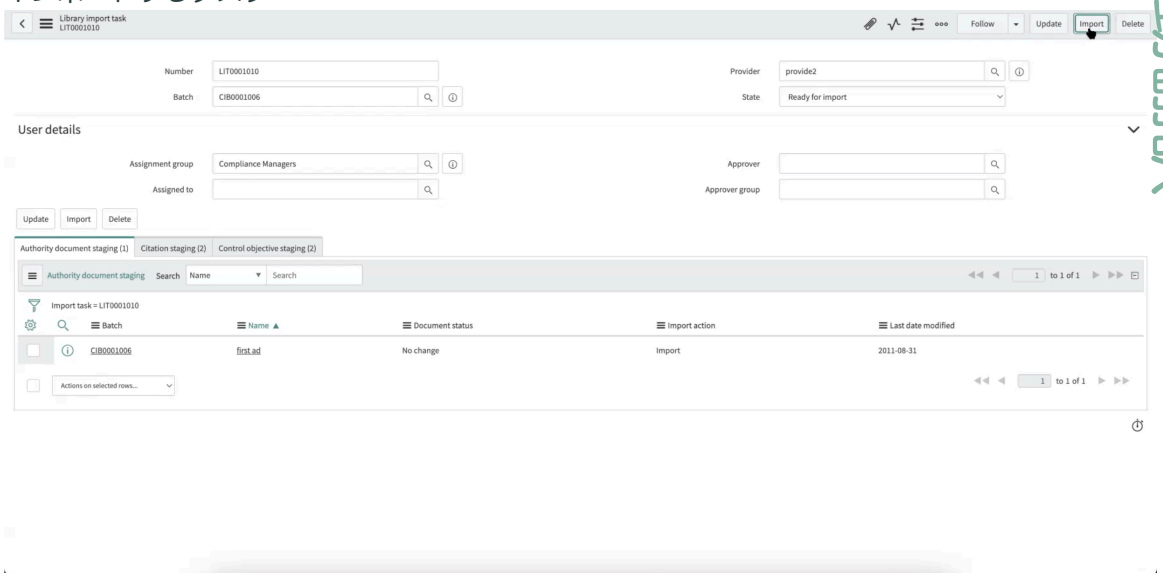
注:
[却下] をクリックすると、次の例に示すように、ライブラリインポートタスクが却下され、再度 [新規] 状況に移行します。

[インポートの準備完了] ステータスのライブラリインポートタスク



タスクが [インポートの準備完了] ステータスの場合、次の例に示すように [インポート] アクションが表示されます。

インポートするタスク

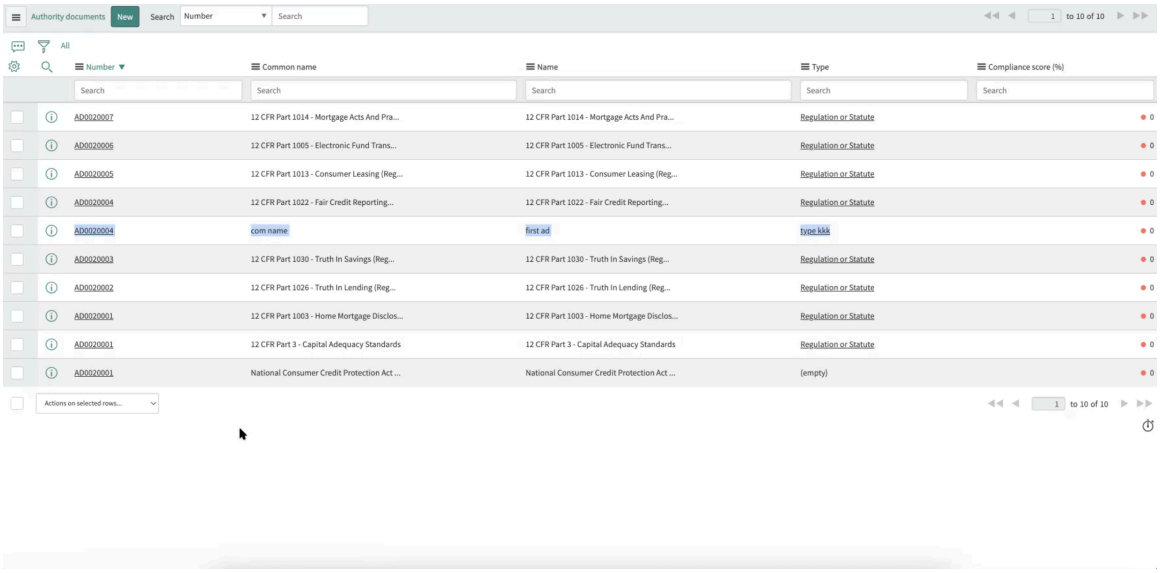


自動翻訳

7. [インポート] をクリックします。
このアクションにより、[ライブラリインポートタスク] のステージングレコードが GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 テーブルにインポートされます。テーブルを表示するには、GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションの各種法令・基準等テーブル、引用テーブル、またはコントロール目標テーブルに移動します。次の例に示す、サンプルの各種法令・基準等テーブルを参照してください。

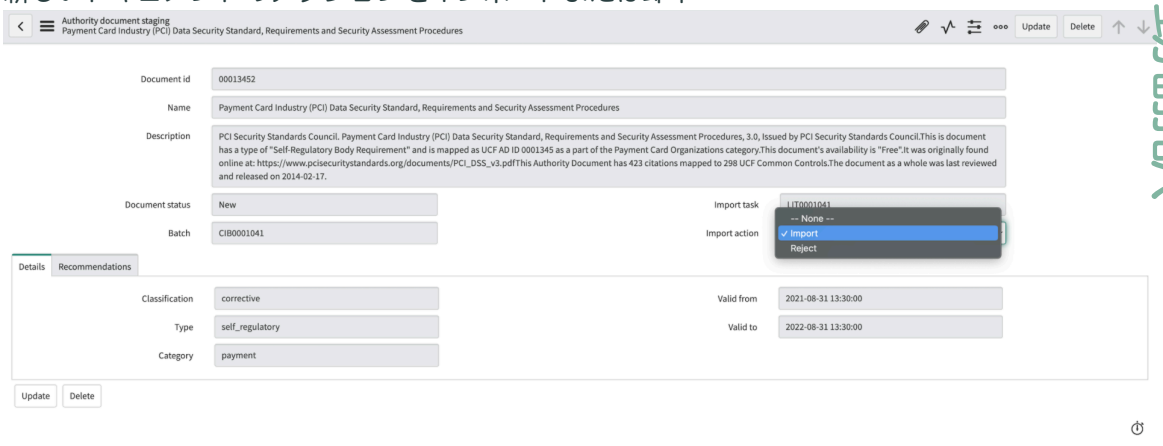
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

各種法令・基準等テーブル



テーブルに表示されている AD0020004 などの各種法令・基準等をクリックすると、各種法令・基準等のステージングレコードの詳細が表示されます。ステージングレコードでは、フォームの [ドキュメントステータス] フィールドに現在のドキュメントステータスに関する情報が表示されます。[ドキュメントステータス] フィールドの値が [新規] または [更新] の場合、レコードに対して [インポート] または [却下] アクションを使用でき、次の例に示すように、インポートタスクをインポートまたは却下できます。

新しいドキュメントのアクションをインポートまたは却下

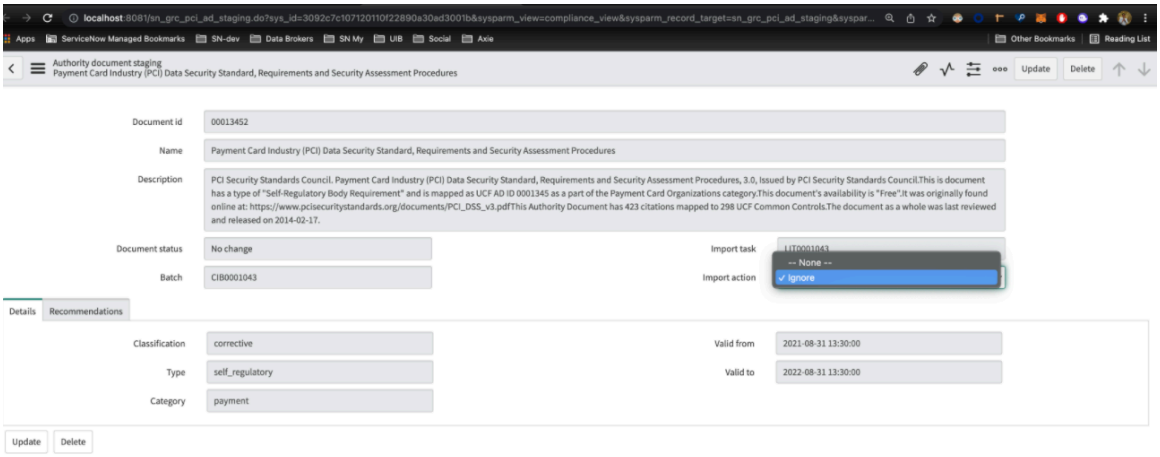


[ドキュメントステータス] フィールドの値が [変更なし] の場合は、レコードのインポートアクションで [無視] オプションのみを使用できます。次の例に示すように、インポートタスクは無視できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ドキュメントステータス] が [変更なし] の場合にアクションを無視



[ドキュメントステータス] フィールドの値の基準については、次のテーブルを参照してください。

[ドキュメントステータス] フィールド値とその基準

フィールド	説明
ドキュメントステータス = 新規	GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 テーブルに存在しないレコード。
ドキュメントステータス = 変更なし	GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 テーブル内の既存レコードで、ソースの最終変更日が受信するステージングレコードの日付より後であるレコード。ドキュメントのステータスは変更されません。
ドキュメントステータス = 更新	GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 テーブル内の既存レコードで、ソース最終変更日が受信するステージングレコードの日付より前であるレコード。ドキュメントステータスが更新されます。

ワークフローが完了した後、コンプライアンスステージングプロセッサーフローによってライブラリインポートタスクのステータスが自動的に [完了] に更新されます。

注:

フローの処理でエラーが発生した場合、コンプライアンスステージングプロセッサーフローは、ライブラリインポートタスクのステータスを [完了 (エラーあり)] に更新します。このエラーは、次のいずれかの理由で発生する可能性があります。

- レコードの分類値マッピングが見つからず、プロバイダー分類構成の自動マップ値が false である。
- レコードの親が無視される。

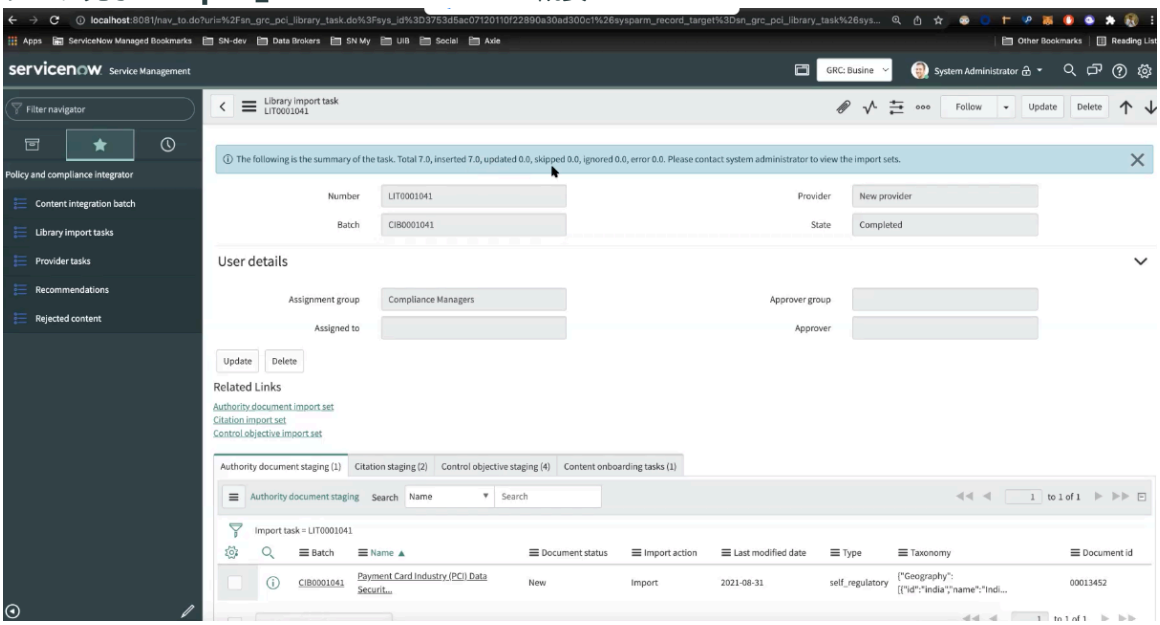
エラーのあるレコードは、コンプライアンスのステージングプロセッサーフローによって却下されます。

ライブラリインポートタスクのステータスが [完了] の場合、次の例に示すように、インポートタスクサマリーとインポートセットの関連リンクが、import_transformer ロールを持つユーザーにのみ表示されます。import_transformer ロールはグローバルロールです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスク完了と **import_transformer** ロールの概要



import_transformer ロールビューサマリーは、GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター アプリケーションの他のユーザーは使用できません。

タスクの結果
ライブラリインポートタスクが [完了] ステータスになり、コンテンツが ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションにインポートされます。

DevOps アクセラレータープラグイン

GRC：DevOps アクセラレーターは、顧客が DevOps ポリシーおよび GRC コントロール目標と Policy as a Code Engine (PaCE) とのコンプライアンスを評価できるようにするアプリケーションです。

> **重要:**
> GRC DevOps アクセラレーターは現在は廃止されており、新しいアクティベーションのサポートや利用は終了しています。詳細については、Now Support ナレッジベース の廃止プロセス [KB0867184] の記事を参照してください。

GRC：DevOps アクセラレーター (com.sn_grc_devops) プラグインは、CIS コントロール、NIST 800-53、ISO 27002、PCI DSS などの規制、標準、フレームワークから導出されたコントロール目標を、DevOps Policy as a Code Engine (PaCE) にマッピングします。DevOps ポリシーは、DevOps コンフィグポリシーコンテンツパックによって提供されます。

この統合を使用すると、コンプライアンスステータスを評価できます。また、統合により、DevOps マネージャーはコントロールのコンプライアンスを監視し、PaCE 実行の証拠を可視化し、例外を管理できます。

DevOps アクセラレーターの前提条件

1. PaCE 関連プラグインおよび CDM 関連プラグインの階層。
2. PaCE が提供するDevOps コンフィグポリシーコンテンツパック。
3. GRC プラグイン：GRC: Cybersecurity Controls Accelerator、GRC: Compliance UCF、GRC：継続的な認可とモニタリング

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
GRC：DevOps アクセラレーター (com.sn_grc_devops) は、DevOps コンフィグポリシーコンテンツパックおよび GRC：ポリシーとコンプライアンス管理に依存しています。ただし、GRC: Cybersecurity Controls Accelerator (CIS)、GRC: Unified Compliance Framework (UCF)、および GRC：継続的な認可とモニタリング (CAM) プラグインがインスタンスにインストールされていない場合、GRC：DevOps アクセラレーターのインストール時には、これらのプラグインからコントロール目標に関連するステージングデータは利用できません。

GRC：DevOps アクセラレータープラグインは、PaCE ポリシーとコントロール目標の関係をマッピングします。

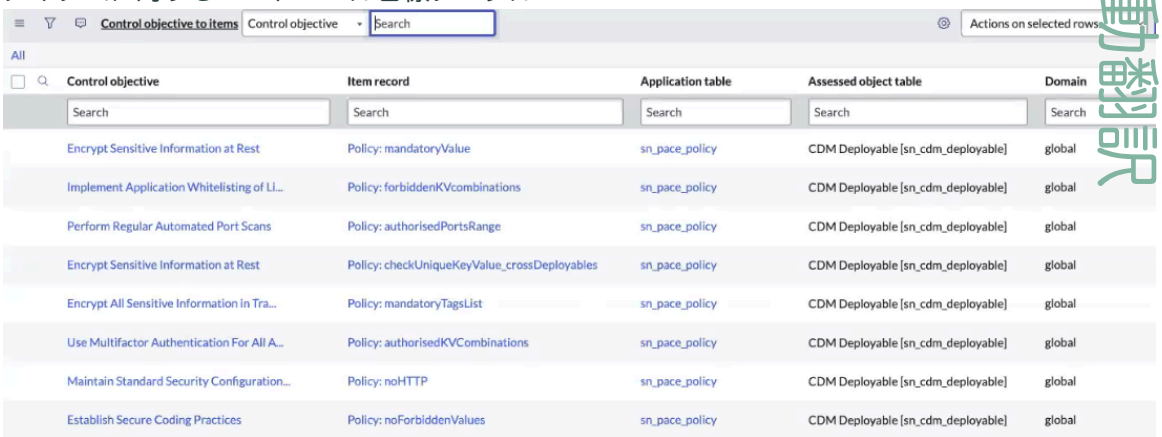
注:
すべての GRC コントロール目標がすべての PaCE ポリシーと関係があるわけではありません。

インスタンスからステージングテーブルへのコントロール目標と **PaCE** マッピングデータの入力

アイテムに対するコントロール目標マッピングテーブル

DevOps Accelerator の一部として、コントロール目標と PaCE ポリシーのマッピングが顧客に提供されます。関係は、アイテムに対するコントロール目標 [sn_compliance_control_objective_item] テーブルで取得されます。ここでは、[コントロール目標] 列と、PaCE ポリシーである、[アイテムレコード] 列にデータが一覧表示されます。

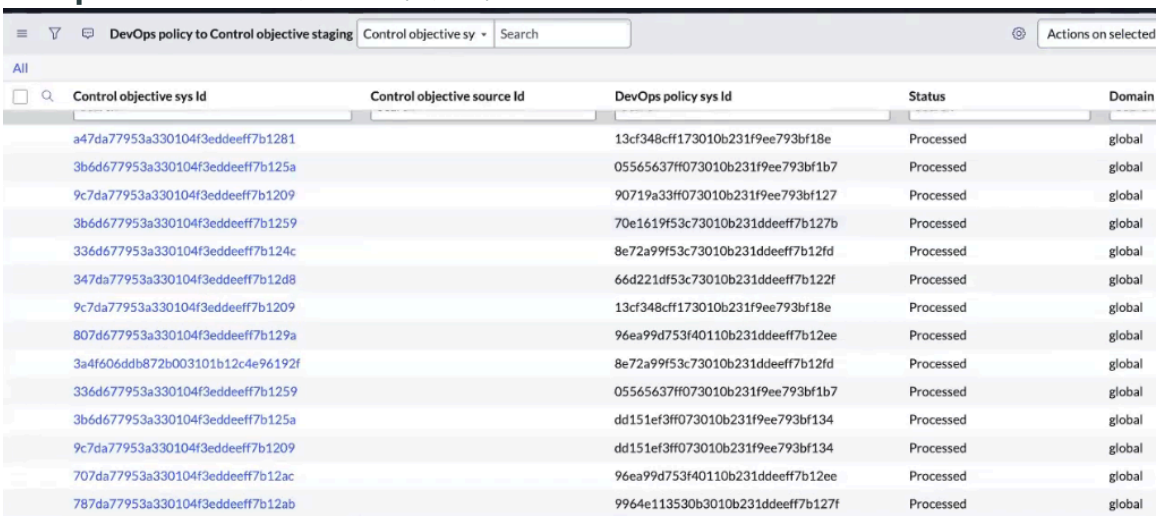
アイテムに対するコントロール目標テーブル



コントロール目標のステージングに対する DevOps ポリシーテーブル

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

DevOps Accelerator ステージングテーブル



DevOps Accelerator の一部としてステージングテーブルがあります。これは、コントロール目標のステージングに対する DevOps ポリシー [sn_grc_devops_policy_control_objective_staging] テーブルです。コンプライアンスアドミニストレーターロールを持つユーザーがテーブルを表示できます。

CAM および CIS の場合、コントロール目標のシステム ID は DevOps ポリシーのシステム ID にマッピングされます。ただし、UCF の場合、共有リストからインポートされたコントロール目標のソース ID は、DevOps ポリシーのシステム ID にマッピングされます。

コントロール目標のステージングに対する DevOps ポリシー [sn_grc_devops_policy_control_objective_staging] テーブルのデータは [処理待ち] ステータスで出荷されます。データは、インスタンスにインストールされているアプリケーションに基づいてステージングテーブルに入力されます。コントロール目標と PaCE ポリシーがインスタンスに存在しない場合、データは処理されません。

ステージングからメインテーブルにデータを移動するスケジュール済みジョブ

日次ジョブ (ステージングからのコントロール目標に対する DevOps ポリシーのマッピングのインポート) は、アプリケーションと DevOps Accelerator がインストールされた後で実行され、アイテムに対するコントロール目標 (sn_compliance_control_objective_item) テーブルにレコードが追加されます。レコードがマッピングテーブルに正常に追加されると、ステージングテーブルのレコードのステータスが [処理済み (Processed)] に移行します。アプリケーションでコントロール目標が設定されていないか、存在しない場合、レコードは処理されず、[処理待ち] ステータスになります。

[store-future: BEGIN review]

クラウドセキュリティコンプライアンスアクセラレーター

Cloud Security Compliance Accelerator により、組織がクラウドの標準とベンチマークに準拠することが可能になります。このアクセラレーターは、クラウドでホストされている組織のアプリケーションとデータを監視し、業界のガイドラインで設定された規制基準、および国内法および国際法に準拠するために役立ちます。

Cloud Security Compliance Accelerator は、クラウドセキュリティポスチャ管理 (CSPM) と統合することで、クラウドセキュリティのコンプライアンスを簡素化します。Cloud Security Compliance Accelerator は Critical Security Controls (CIS) バージョン 8 をサポートしています。CIS は、システムやネットワークに対する最も一般的なサイバー攻撃を軽減するための優先的な一連の安全策です。CIS は、NIST 800-53、NIST 800-171、PCI DSS 4.0、ISO 27002 などの他のセキュリティ標準にマッピングされます。Cloud Security Compliance Accelerator は、CIS バージョン 8 のクラウドコントロール、NIST 800-53、NIST 800-171、PCI DSS 4.0、および ISO 27002 の関連コントロール、および Azure と AWS の CIS ベンチマークに基づく CSPM ポ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リシーとの間のマッピングを提供することで、クラウドコントロールの継続的な監視を可能にします。

このアプリケーションを管理できるユーザーは、コンプライアンスマネージャー (sn_compliance.manager) とコンプライアンスアドミニストレーター (sn_compliance.admin) です。

Cloud Security Compliance Accelerator の前提条件

異なるソースと構成テストから得られたコントロール目標間でマッピングされたデータをインポートするために必要なプラグインアプリケーションは次のとおりです。

GRC: Cloud Security Compliance Accelerator プラグイン

このプラグインは、コントロール目標と構成テストの間のマッピングを有効にすることで、クラウドコントロールの監視を可能にします。GRC: Cloud Security Accelerator Config テストレコードも、メタデータ情報とステージングロジック用のアプリケーションに付属しています。

GRC：ポリシーとコンプライアンスインテグレータープラグイン

GRC：Cloud Security Compliance Accelerator プラグインは、GRC：ポリシーとコンプライアンスインテグレータープラグインに依存して、マッピングされたテーブルの基礎となる基本構造情報と、マッピングされたデータをインポートするスケジュール済みジョブを取得します。

注:
GRC: Cloud Security Compliance Accelerator プラグインはインストールされていますが、マッピングされたデータを送信するには、次の依存アプリケーションのうち少なくとも 1 つをインストールする必要があります。

- 継続的な承認と監視 (CAM) から得られるコントロール目標については、CAM をインストールする必要があります。
- CIS から得られるコントロール目標については、CyberSecurity Controls Monitoring アプリケーションをインストールする必要があります。
- UCF から得られるコントロール目標の場合、CIS V8、NIST 800-53、NIST 800-171、ISO 27002、または PCI DSS 4.0 の各種法令・基準等および関連の信頼できるソースコンテンツ、およびコントロール目標を、UCF からダウンロードする必要があります。

Cloud Security Compliance Accelerator アプリケーションで顧客に送付されるテーブル

顧客に送付されるテーブルは次のとおりです。

コントロール目標からオブジェクトステージングテーブル [sn_grc_pci_control_objective_object_staging]

コントロール目標と構成テストのマッピング用のステージング済みテーブル。

コントロール目標マッピングのインポート構成 [sn_grc_pci_control_objective_mapping_import_configuration]

ステージングテーブルからターゲットテーブルにレコードを配送するために必要な構成情報を格納するメタデータテーブル。

コントロール目標マッピングのインポート追加フィールド構成 [sn_grc_pci_control_objective_mapping_import_additional_fields_configuration]

ターゲット m2m テーブルの追加列に関連するキーと値のペアを格納するメタデータテーブル。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

これらのテーブルの詳細については、「コントロール目標と構成テストのマッピングのテーブル」を参照してください。Cloud Security Compliance Accelerator で使用されるテーブルについては、「ガバナンス、リスク、コンプライアンスとともにインストールされるテーブル」を参照してください。

ステージングからターゲットテーブルにデータを移動するスケジュール済みジョブ

スケジュール済みジョブ (コントロール目標マッピングをメインテーブルにインポート) は、オンデマンドで実行するために利用でき、コントロール目標からオブジェクトステージングテーブルへ [保留中] ステータスのマッピング済みレコードを取得できます。ユーザーはいつでも共有リストをインポートできるため、ジョブはオンデマンドで実行されるようにスケジュールされます。あるいは、マッピングで生成されたコントロール目標があるか、新しい構成テストがある場合も同様です。

このジョブは、レコードの詳細情報をコントロール目標マッピングのインポート構成ターゲットテーブルの適切な列に移動し、コントロール目標からオブジェクトへのステージングテーブルでレコードを [処理済み] としてマークします。

コンプライアンスアドミニストレーターは、コントロール目標と構成テストの間でレコードをマッピングしない場合、それを [非アクティブ] としてマークできます。

レコードが処理されたら、ターゲットテーブルの [コントロール目標] から構成コントロール [sn_compliance_m2m_policy_statement_configuration_control] に移動してレコードを表示できます。

UCF 関連のマッピングされたデータのインポート

Unified Compliance Framework (UCF) の共有リストデータをポリシーとコンプライアンス管理テーブルにインポートするには、GRC：コンプライアンス UCF を使用します。

UCF 関連の共有リストからコントロール目標をインポートできます。UCF をインストールして、UCF 共有リストから作成されたコントロール目標がある場合、または新しい共有リストをインポートした場合は、[コントロール目標マッピングをメインテーブルにインポート] スケジュール済みジョブを実行して、新しいコントロール目標を取得します。

新しい共有リストをインポートするたびに、オンデマンドでスケジュール済みジョブを実行できます。ジョブが実行された後、コントロール目標と、[コントロール目標からオブジェクトステージング] テーブルで [処理待ち] ステータスであった構成テスト間のすべての UCF 関連マッピングが処理されます。マッピングされたデータは、マッピングテーブル、つまり [構成コントロールに対するコントロール目標] テーブルに移動されます。

注:
コントロール目標を構成テストに関連付けた後にコントロールが生成されるのは次の場合のみです。

- *sn_compliance.auto_create_profile_and_control* プロパティが有効になっている。
- [コントロールを自動的に作成] オプションを [コントロール目標] フォームで有効にする必要があります。

NIST 800-53、NIST 800-171、ISO 27002、PCI DSS 4.0、CIS Controls V8 の各権限ドキュメントで構成される UCF 共有リストをインポートすると、対応するコントロール目標がインポートされます。

同様の方法で、Azure および AWS CIS ベンチマークに関連するコントロール目標と構成テストの間でマッピングされたデータも、スケジュール済みジョブの実行時にステージング済みテーブルからターゲットテーブルにインポートされます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC: Cybersecurity Controls Accelerator への新しい CIS v8 コンテンツ

CIS Controls バージョン 8 は、Cybersecurity Controls Accelerator アプリケーションに追加された新しい各種法令・基準等です。この信頼できるソースには、171 件の引用、171 件のコントロール目標、および新しいコンテンツ参照が含まれています。コンテンツ参照は、各種法令・基準等、引用、コントロール目標にマッピングされます。

[テクノロジーコントロール監視] に移動し、ソースを [CIS コントロール] としてレコードをフィルタリングすると、コンテンツ参照にマッピングされた各種法令・基準等、引用、およびコントロール目標が表示されます。[各種法令・基準等へのコンテンツ参照] テーブルには、コンテンツ参照と各種法令・基準等の間でマッピングされたデータが入っています。[引用へのコンテンツ参照] テーブルには、新しい引用とコンテンツ参照の間でマッピングされたデータが格納されます。同様に、[コントロール目標へのコンテンツ参照] テーブルには、コンテンツ参照とコントロール目標の間でマッピングされたデータが入っています。詳細については、「Cybersecurity Controls Accelerator」を参照してください。

[End]

コントロール目標と構成テストのマッピングのテーブル

コントロール目標と構成テストの間のマッピングデータの顧客への送付を支援するテーブルが 3 つあります。

コントロール目標と構成テストのマッピング用のステージングテーブル。

コントロール目標からオブジェクトステージングテーブル [sn_grc_pci_control_objective_object_staging] には、コントロール目標と任意のオブジェクトレコードのマッピングデータが保持されます。ただし、この場合、オブジェクトレコードは構成テストオブジェクトテーブルからの構成テストです。

コントロール目標は、さまざまなソースから取得できます。これらは、コントロール目標からオブジェクトステージングテーブルの列でキャプチャされます。

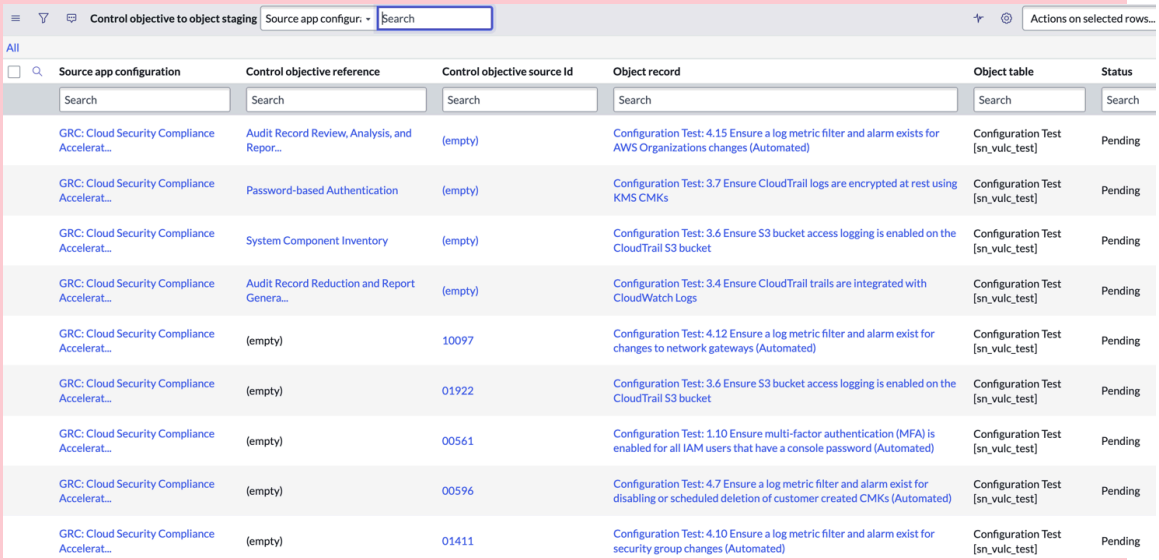
1. コントロール目標参照：この列は、CAM または CIS に由来し、その目標の sys ID を参照として利用可能なコントロール目標を示すものです。コントロール目標からオブジェクトステージングテーブルに移動し、検索フィールドの [コントロール目標参照] でレコードをフィルタリングします。検索を実行すると、GRC: Cloud Security Compliance Accelerator に送られる CAM および CIS コントロール目標と構成テストに関連するすべてのレコードマッピングが表示されます。
2. コントロール目標ソース **ID**：この列は、コントロール目標が Unified Compliance Framework (UCF) に由来し、その目標の sys ID をすぐに利用できないコントロール目標を示します。ソース ID は、ユーザーが [共有リスト] からコントロール目標をインポートしたときに生成され、ソース ID に基づいて sys ID が生成されます。[コントロール目標ソース ID] でレコードをフィルタリングすれば、UCF のコントロール目標とソース ID を参照する構成テストの間のすべてのマッピングレコードが一覧で取得できます。

[状況] フィールドには、レコードの状況として、[保留中]、[処理済み]、または [非アクティブ] 状況が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コントロール目標と構成テストのステージングテーブル



Control objective to object staging | Source app configur. | Search | Actions on selected rows...

All

Source app configuration	Control objective reference	Control objective source Id	Object record	Object table	Status
GRC: Cloud Security Compliance Accelerat...	Audit Record Review, Analysis, and Repor...	(empty)	Configuration Test: 4.15 Ensure a log metric filter and alarm exists for AWS Organizations changes (Automated)	Configuration Test [sn_vulc_test]	Pending
GRC: Cloud Security Compliance Accelerat...	Password-based Authentication	(empty)	Configuration Test: 3.7 Ensure CloudTrail logs are encrypted at rest using KMS CMKs	Configuration Test [sn_vulc_test]	Pending
GRC: Cloud Security Compliance Accelerat...	System Component Inventory	(empty)	Configuration Test: 3.6 Ensure S3 bucket access logging is enabled on the CloudTrail S3 bucket	Configuration Test [sn_vulc_test]	Pending
GRC: Cloud Security Compliance Accelerat...	Audit Record Reduction and Report Genera...	(empty)	Configuration Test: 3.4 Ensure CloudTrail trails are integrated with CloudWatch Logs	Configuration Test [sn_vulc_test]	Pending
GRC: Cloud Security Compliance Accelerat...	(empty)	10097	Configuration Test: 4.12 Ensure a log metric filter and alarm exist for changes to network gateways (Automated)	Configuration Test [sn_vulc_test]	Pending
GRC: Cloud Security Compliance Accelerat...	(empty)	01922	Configuration Test: 3.6 Ensure S3 bucket access logging is enabled on the CloudTrail S3 bucket	Configuration Test [sn_vulc_test]	Pending
GRC: Cloud Security Compliance Accelerat...	(empty)	00561	Configuration Test: 1.10 Ensure multi-factor authentication (MFA) is enabled for all IAM users that have a console password (Automated)	Configuration Test [sn_vulc_test]	Pending
GRC: Cloud Security Compliance Accelerat...	(empty)	00596	Configuration Test: 4.7 Ensure a log metric filter and alarm exist for disabling or scheduled deletion of customer created CMKs (Automated)	Configuration Test [sn_vulc_test]	Pending
GRC: Cloud Security Compliance Accelerat...	(empty)	01411	Configuration Test: 4.10 Ensure a log metric filter and alarm exist for security group changes (Automated)	Configuration Test [sn_vulc_test]	Pending

ステージング構成情報のターゲットテーブル

コントロール目標マッピングインポート構成 [sn_grc_pci_control_objective_mapping_import_configuration] は、ターゲット m2m メタデータテーブルで、レコードは更新できません。このテーブルのフィールド (ソースアプリ構成名、コントロール目標フィールド、オブジェクトフィールド、オブジェクトフィールドタイプ、オブジェクトテーブルフィールド値) は静的で、表示専用です。静的構成はステージングテーブルの構成と一致するため、ステージングレコードの処理中にデータはターゲットテーブルの対応する列に移動します。ただし、コンプライアンスアドミニストレーターはレコードを表示して、フィールド値がメインターゲットテーブルの列のどこに入っているかを把握できます。たとえば、ターゲットテーブルのソースアプリ構成名の参照は、ステージングテーブルのソースアプリ構成から取得されます。オブジェクトフィールドタイプは、[ドキュメント **ID]** または [参照]です。スケジュール済みジョブが実行されると、ステージングレコード情報がターゲットテーブルの適切な列に保存されます。

ステージング構成情報のターゲットテーブル



Control objective mapping import configuration | Source app configur. | Search | Actions on selected rows...

Source app configuration name	Target table	Control objective field	Object field type	Object field	Object table field
GRC: Cloud Security Accelerator Config test	Control Objective to Configuration Control [sn_compliance_m2m_policy_statement_configuration_control]	policy_statement	Reference	configuration_control	

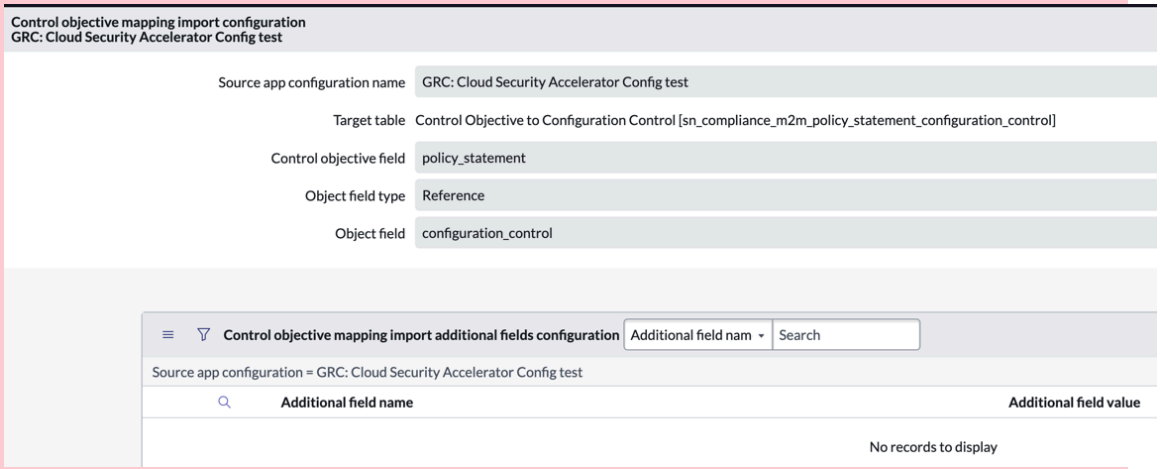
追加の **m2m** テーブル情報の関連リスト

コントロール目標マッピングのインポート追加フィールド構成 [sn_grc_pci_control_objective_mapping_import_additional_fields_configuration] テーブルは、追加参照列を含む関連リストです。コントロールが生成されるかエンティティが作成されると、構成に固有な追加の列値が追加され、これを m2m テーブルに収容しなければならない場合があります。このようなダウンストリームプロセスでは、追加フィールド名に、ソースアプリ構成のターゲットテーブルからの追加の列名情報が保持されます。同様に、追加フィールド値は、追加フィールド名の列値をキャプチャします。したがって、このテーブルには、ターゲット m2m テーブルの追加列に関するキーと値のペアが格納されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

追加情報の関連リスト



GRC: Policy and Compliance Management の Analytics and Reporting のソリューション

プラットフォームアナリティクスソリューション には事前構成済みのダッシュボードが含まれます。これらのダッシュボードには、アクション可能なデータ表示方法が豊富に用意されており、ビジネスプロセスとビジネスプラクティスの改善に役立ちます。

GRC: Policy and Compliance Management の Analytics and Reporting ソリューションは ServiceNow Store で入手可能です。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

プラットフォームアナリティクス データの可視化では、 パフォーマンスアナリティクス インジケーター データを使用してデータを経時的に表示し、ビジネスプロセスを分析して改善が必要な領域を特定するのに役立ちます。プラットフォームアナリティクスソリューション を使用すると、最小限のセットアップで パフォーマンスアナリティクス からアプリケーションに関する値を取得できます。いつでも独自のオブジェクトを作成することもできます。

GRC：ポリシーとコンプライアンス管理のアナリティクスとレポート生成ソリューションを有効にするには、次の手順を実行します。

1. ServiceNow Store にアクセスし、パフォーマンスアナリティクス - GRC: Policy and Compliance Management アプリケーションおよび関連アプリケーションのエンタイトルメントを取得します。「」を参照してください。 をインストールする ServiceNow 製品 ServiceNow Store。
2. インスタンスで、次に移動します: システムアプリケーション > すべてのアプリケーション > すべて.
3. パフォーマンスアナリティクス - GRC: Policy and Compliance Management アプリケーションを見つけてインストールします。

重要:

ポリシーとコンプライアンス管理アプリケーションのバージョン 18.1.0 以降では、ポリシーとコンプライアンスのアナリティクスとレポート作成ソリューションを ネクストエクスペリエンス UI フレームワークで使用できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンプライアンス概要パフォーマンスアナリティクスダッシュボード

コンプライアンス概要ダッシュボードは、コンプライアンス要件、全体的なコンプライアンス、およびコンプライアンスのブレークダウンを表示するので、問題のある領域をすばやく特定できます。

コンプライアンス概要ダッシュボード

重要:
ポリシーとコンプライアンス管理アプリケーションのバージョン 18.1.1 以降では、コンプライアンス概要ダッシュボードを ネクストエクスペリエンス UI フレームワークで使用できます。

Vancouver または Washington DC を使用している場合は、ネクストエクスペリエンス UI フレームワークでダッシュボードを表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ネクストエクスペリエンス UI フレームワークのコンプライアンス概要ダッシュボード



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このソリューションには、次のロールとタスクが関連付けられています。

- 監査マネージャー (sn_compliance.manager)：組織内の脆弱性の全体的なステータスと量を明確に可視化します。
- 監査アドミニストレーター (sn_compliance.admin)：懸案分野をすばやく特定します。
- 監査アナリスト (sn_compliance.user)：組織にとっての重要度に基づいて、どのリスク/タスクに焦点を当てるかを優先順位付けします。

ダッシュボードを開くには、次の場所に移動します。 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コンプライアンス > アナリティクス概要.

コンプライアンス概要ダッシュボードでは以下の情報が可視化されています。

名前	タイプ	説明
コンプライアンス要件	ドーナツグラフ	各種法令・基準等別のオープン要件の数
全体的なコンプライアンス	ドーナツグラフ	引用各種法令・基準等の全体的コンプライアンスの割合
非準拠のエンティティ	棒グラフ	非準拠コントロールを持つ全体的なエンティティ。
各種法令・基準等別のコンプライアンス	棒グラフ	規制、認定、フレームワーク、標準および規制に対するコンプライアンスのために組織が選択する、または要求されるベストプラクティス。
コンプライアンススコア傾向	水平棒グラフ ( )	各種法令・基準等別の全体的なコンプライアンス
コンプライアンスのブレークダウン	マルチレベルピボット	引用は、各種法令・基準等により引用される特定の要件が記載されているレコードです。

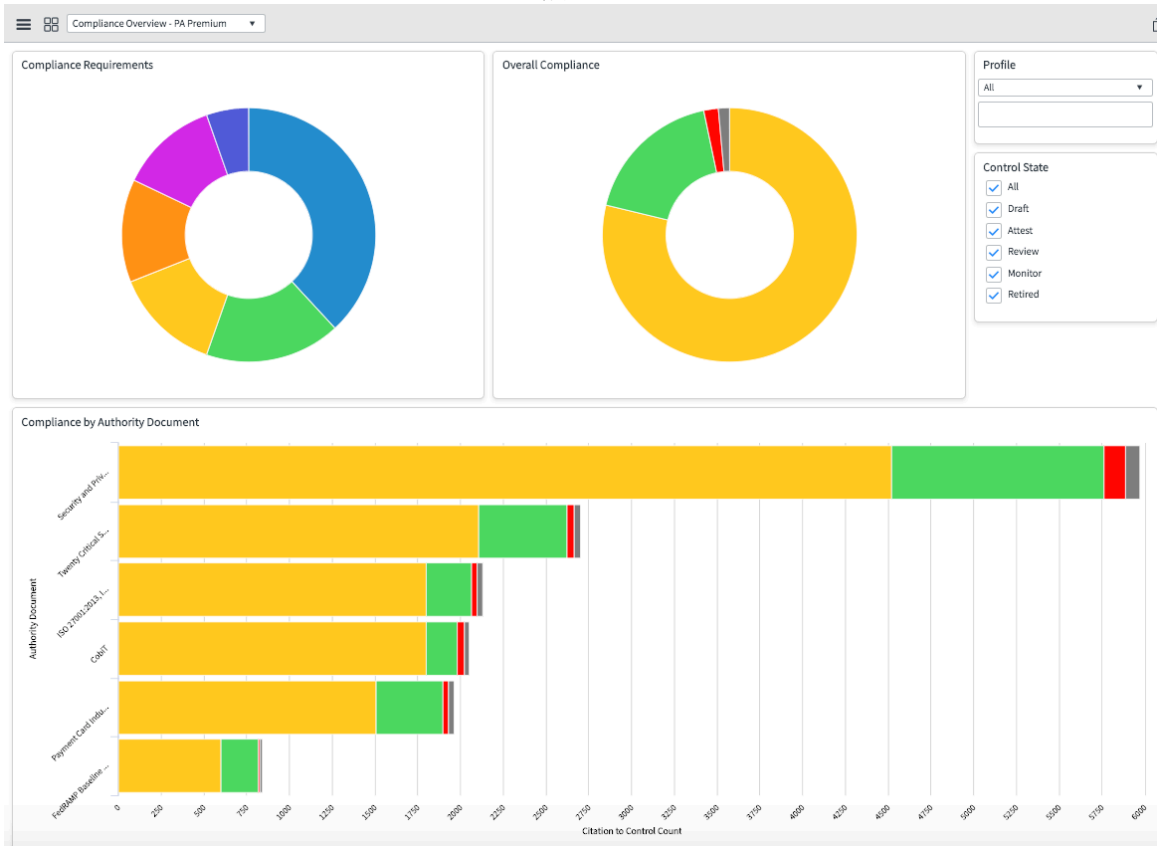
コンプライアンス概要 – PA プレミアムダッシュボード

重要:
PA フィルターを備えたコンプライアンス概要ダッシュボードが、ポリシーとコンプライアンス管理プラグインの一部として利用できるようになりました。

バージョン 18.1.0 以降、コンプライアンス概要 – PA プレミアム版ダッシュボードは、将来的に廃止される扱いになっています。新しいインスタンスでは使用できなくなります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンプライアンスの概要ダッシュボードは、コンプライアンス要件のソース、コンプライアンスのレベル、および傾向を表示します。



ポリシー概要 パフォーマンスアナリティクス ダッシュボード

ポリシー概要ダッシュボードは、コンプライアンス要件、全体的なコンプライアンス、およびコンプライアンスのブレークダウンを表示するので、問題のある領域をすばやく特定できます。コンプライアンスアドミニストレーターおよびコンプライアンスマネージャーのロールを持つユーザーは、ポリシー概要ダッシュボードを表示します。

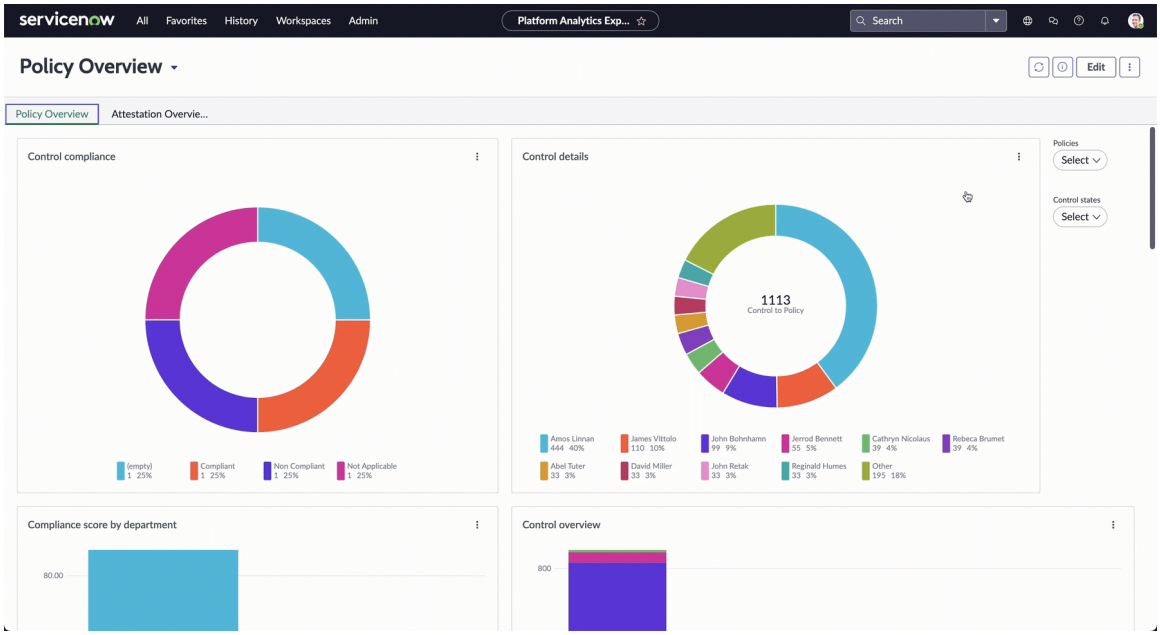
重要:
ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションのバージョン 18.1.1 以降では、ポリシー概要ダッシュボードを ネクストエクスペリエンス UI フレームワーク で使用できます。

Vancouver または Washington DC を使用している場合は、ネクストエクスペリエンス UI フレームワークでダッシュボードを表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポリシー概要ダッシュボード



必要な ServiceNow AI Platform のロール

- コンプライアンスアドミニストレーター (sn_compliance.admin)：ポリシー概要ダッシュボードで詳細を表示および編集します。
- コンプライアンスリーダー (sn_compliance.reader)：コンプライアンス要件、全体的なコンプライアンス、およびコンプライアンスのブレークダウンを表示します。

ポリシー概要ダッシュボードへのアクセス

ダッシュボードを開くには、次の場所に移動します。 すべて > ポリシーとコンプライアンス > ポリシーおよび手順 > アナリティクス概要.

レポート

重要:
ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションのバージョン 18.1.1 以降では、次のポリシー概要ダッシュボードレポートを ネクストエクスペリエンス UI フレームワーク で表示できます。

ベースシステムのポリシーおよび手順の概要レポート

タイトル	タイプ	説明
コンプライアンスのコントロール	ドーナツグラフ	システム内のすべてのコントロールの全体的なコンプライアンスを表示します。
コントロールの詳細	ドーナツグラフ	オーナー、カテゴリ、またはタイプ別にグループ化されたコントロールのブレークダウンを表示します。
部門別のコンプライアンススコア	棒グラフ	アサイン先グループ/部門別の全体的な (平均) コンプライアンススコア

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ベースシステムのポリシーおよび手順の概要レポート (続く)

タイトル	タイプ	説明
コントロールの概要	棒グラフ 	エンティティ別の免除されたコントロールの数を表示します。
ポリシー別の免除されたコントロール	棒グラフ 	ポリシー別の免除されたコントロールの数を表示します。
エンティティ別の免除されたコントロール	棒グラフ 	受け入れの応答値でクローズされた (問題が修正されなかったことを意味する) コントロールの問題のリストを表示します。
ポリシー別のコントロール問題 (オープン日)	線グラフ	毎週オープンされたコントロールの問題の数をポリシー別にグループ化して表示します。
ポリシー別の合計コントロール目標	棒グラフ 	各ポリシーのコントロール目標の総数を表示します。グラフは、タイプ別にコントロール目標を表示するために積み重ねられます。

ポリシー例外の概要パフォーマンスアナリティクスダッシュボード

ポリシー例外の概要パフォーマンスアナリティクスダッシュボード は、ポリシー例外の数、重大度、およびソースに対するビューを提供します。また、免除されたコントロールも表示されます。

ポリシー例外の概要ダッシュボード

重要:
ポリシーとコンプライアンス管理アプリケーションのバージョン 18.1.1 以降では、ポリシー例外の概要ダッシュボードを ネクストエクスペリエンス UI フレームワークで使用できます。

VancouverまたはWashington DCを使用している場合は、ネクストエクスペリエンス UI フレームワークでダッシュボードを表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ネクストエクスペリエンス UI フレームワークのポリシー例外の概要ダッシュボード



Approved policy exceptions 19

Last refreshed just now

Number	Requester	Policy	Control objective	Issue	Priority	Valid from
PER0001003	Abraham Lincoln	Business Records and Media Management	management policies used to manage organizational records.	(empty)	4 - Low	2017-08-05 11:55:3
PER0001004	Abraham Lincoln	Business Records and Media Management	Capture the records required by organizational compliance requirements.	(empty)	4 - Low	2017-08-05 10:32:1
PER0001005	Bart Hachey	Business Records and Media Management	Capture the records required by organizational compliance requirements.	(empty)	3 - Moderate	2017-08-05 10:32:2
			Establish and maintain a remote access	Cloudward Inc has non compliant control titled		
PER0001010	Waldo Sisk	Facility Management policy	Document the continuity plan exercise test results and provide them to senior management.	(empty)	3 - Moderate	2017-08-04 12:03:4
PER0001012	Waldo Sisk	Environmental Control Management policy	Establish and maintain identification mechanism termination procedures.	(empty)	4 - Low	2017-08-04 12:06:3
PER0001013	Callie Leboeuf	Change Management	Manage changes.	(empty)	5 - Planning	2017-08-04 12:08:5
PER0001014	Willa Dutt	Change Management	Perform risk assessments prior to approving change requests.	Bond Trading - DR has non compliant control titled 'Perform risk assessments prior to approving change requests.'	4 - Low	2017-08-04 12:10:2
PER0002003	System Administrator	(empty)	SAP source outage	(empty)	4 - Low	2019-09-27 11:18:0
PER0002010	System Administrator	Environmental Control Management policy	Manage visitor identification inside the facility.	(empty)	4 - Low	2024-04-09 01:41:2
PER0002013	System Administrator	Environmental Control Management policy	Manage visitor identification inside the facility.	(empty)	4 - Low	2024-04-16 01:43:2
PER0002039	System Administrator	(empty)	Records management	Big Splash has non compliant control titled 'Records Management.'	4 - Low	2024-04-15 05:09:1
PER0002045	System Administrator	Remote Access Control policy	Protect remote access accounts with encryption.	Protect remote acess with encryption for Buyit	4 - Low	2024-04-17 03:47:3

Exempted controls 21

Last refreshed just now

Number	Name	Description	Status	State	Entity	Control objective	Owner
CTRL0010001	Establish and maintain identification mechanism termination procedures.	Establish and maintain identification mechanism termination procedures.	Compliant	Monitor	New York Datacenter	Establish and maintain identification mechanism termination procedures.	Patty B
CTRL0010018	Document the continuity plan exercise test results and provide them to senior management.	Document the continuity plan exercise test results and provide them to senior management.	Compliant	Monitor	New York Datacenter	Document the continuity plan exercise test results and provide them to senior management.	Patty B
CTRL0010073	Manage changes.	Manage changes.	Compliant	Monitor	Retail Adding Points	Manage changes.	Celia Sl
CTRL0010074	Manage changes.	Manage changes.	Compliant	Monitor	Retail	Manage changes.	Reginal
CTRL0010075	Manage changes.	Manage changes.	Compliant	Monitor	Electronic Messaging	Manage changes.	Jerrod I
CTRL0010076	Establish and maintain a change control program.		Compliant	Monitor	Retail Client Registration	Establish and maintain a change control program.	Reginal
CTRL0010077	Perform risk assessments prior to approving change requests.	Perform risk assessments prior to approving change requests.	Compliant	Monitor	Bond Trading - DR	Perform risk assessments prior to approving change requests.	John Re
CTRL0010472	Establish and maintain records	Establish and maintain records	Compliant	Attest	Customer Support	Establish and maintain records	Bob We

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

このソリューションには、次のロールとタスクが関連付けられています。

- 監査マネージャー (sn_policy.manager)：組織内の脆弱性の全体的なステータスと量を明確に可視化します。
- 監査アドミニストレーター (sn_policy.admin)：懸案分野をすばやく特定します。
- 監査アナリスト (sn_pollicy.user)：組織にとっての重要度に基づいて、どのリスク/タスクに焦点を当てるかを優先順位付けします。

ダッシュボードを開くには、次の場所に移動します。 すべて > ポリシーとコンプライアンス > ポリシー例外 > アナリティクス概要.

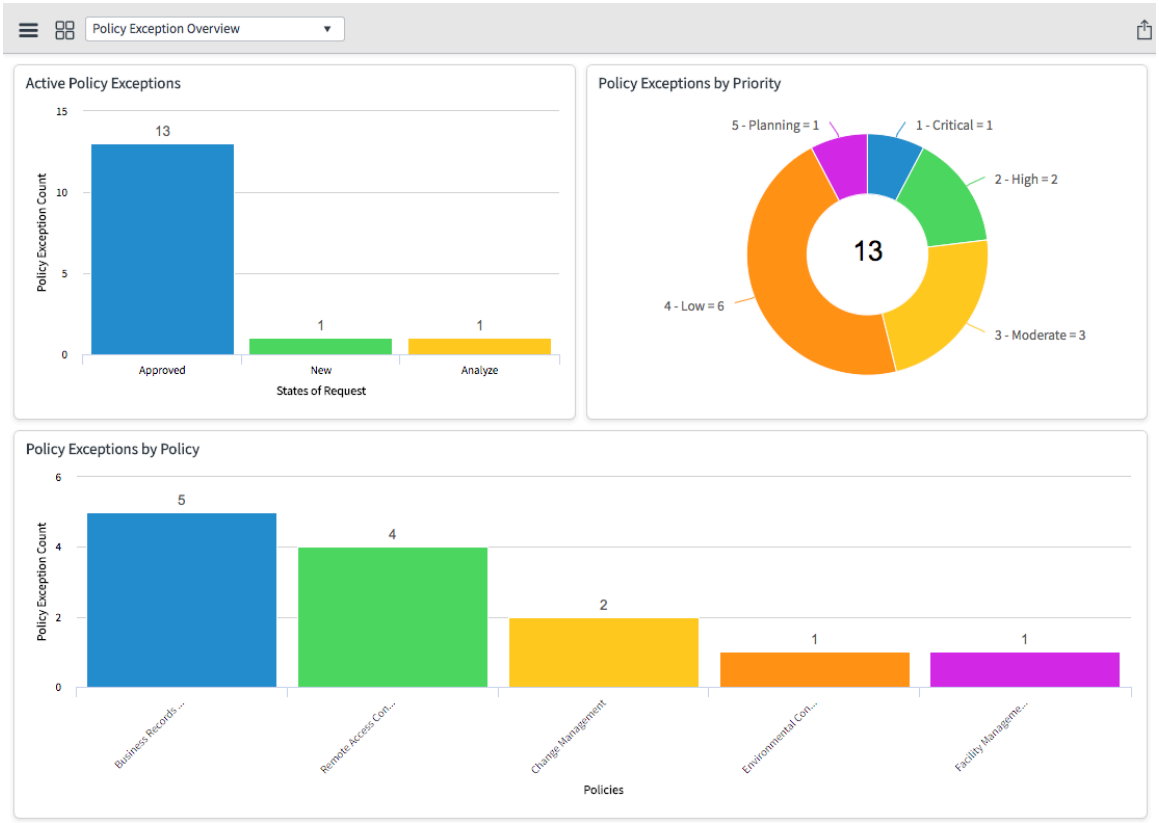
レポート

役職	タイプ	説明
有効なポリシー例外	棒グラフ	オープンポリシーに対するアクティブな例外の数。
優先度別のポリシー例外	ドーナツグラフ	優先度別のポリシー例外の合計数。
ポリシー別のポリシー例外	棒グラフ	ポリシー別のポリシー例外の合計数。
コントロール目標別のポリシー例外	棒グラフ	コントロール目標別のポリシー例外の合計数
エンティティ別のポリシー例外	棒グラフ	エンティティ別のポリシー例外の合計数
部門別のポリシー例外	棒グラフ	部門別のポリシー例外の合計数
承認済みのポリシー例外	リスト	承認済みのポリシー例外の合計数
免除されたコントロール	リスト	免除ステータスを持つコントロールのリスト
免除されたコントロールリスク	リスト	免除ステータスを持つコントロールリスクのリスト

クラシック UI のポリシー例外の概要ダッシュボード

重要:
ポリシーとコンプライアンス管理アプリケーションのバージョン 18.1.1 以降では、ポリシー例外の概要ダッシュボードを ネクストエクスペリエンス UI フレームワークで表示できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



ポリシーの確認応答ダッシュボード

ポリシーの確認応答ダッシュボードには、承認済み、拒否済み、処理待ち、確認応答の期日を過ぎているポリシーの確認応答、免除の要求、免除されたポリシーの確認応答の数など、ポリシーの確認応答のステータスが表示されます。

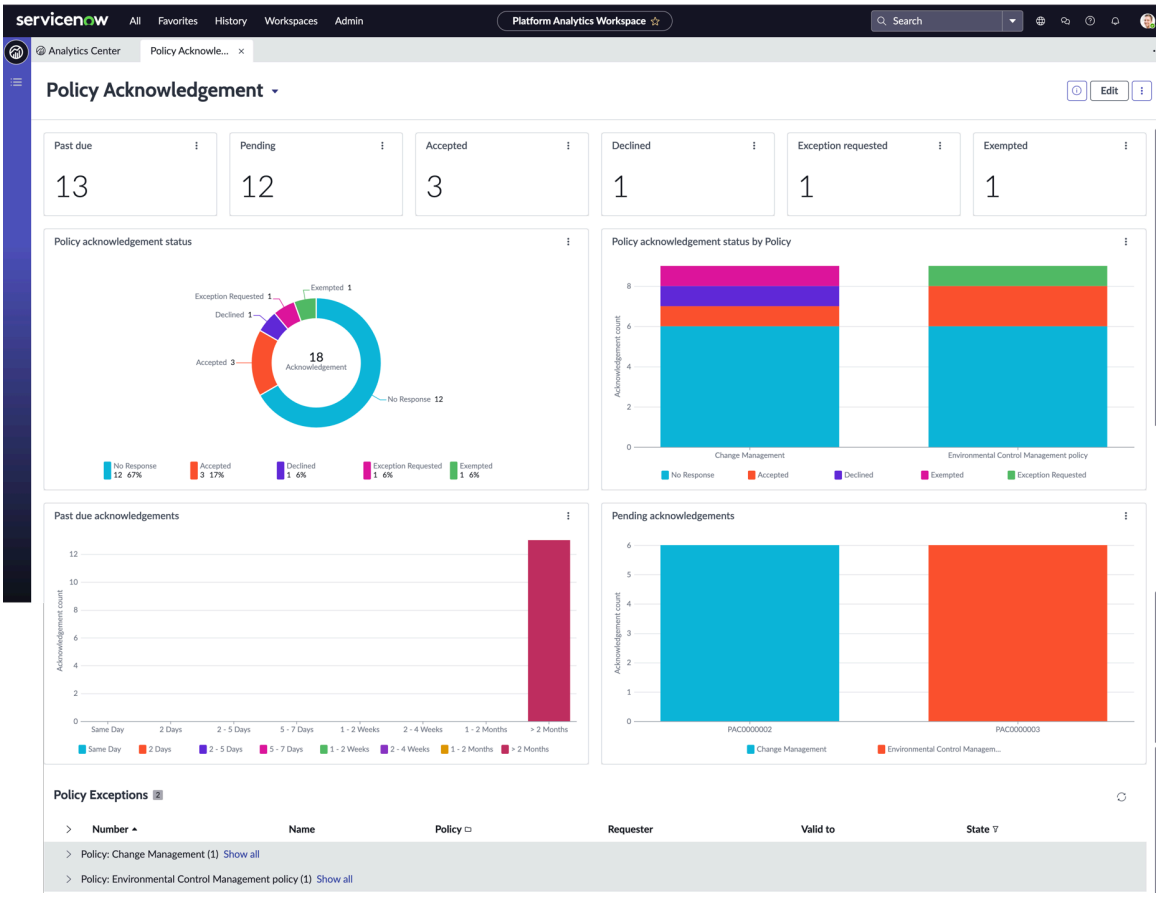
重要:
ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションのバージョン 18.1.1 以降では、ネクストエクスペリエンス UI フレームワーク でポリシーの確認応答ダッシュボードを使用できます。

Vancouver または Washington DC を使用している場合は、ネクストエクスペリエンス UI フレームワークでダッシュボードを表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ネクストエクスペリエンス UI フレームワーク のポリシーの確認応答ダッシュボード



必要な ServiceNow AI Platform のロール

- コンプライアンスリーダー (sn_compliance.reader) は、ポリシーの確認応答ウィジェットを表示するために必要です。
- コンプライアンスアドミニストレーター (sn_compliance.admin) は、ダッシュボードを編集するために必要です。

ポリシーの確認応答ダッシュボードへのアクセス

ダッシュボードを開くには、次の場所に移動します。 すべて > ポリシーとコンプライアンス > ポリシーの確認応答 > アナリティクス概要.

レポート

役職	タイプ	説明
ポリシーの確認応答のステータス	ドーナツグラフ	ポリシーの確認応答の全体的なステータスを表示します。
ポリシー別のポリシー確認応答のステータス	棒グラフ	各ポリシーに関連する確認応答の総数を表示します。グラフは積み重ねられて、各ポリシーの全体的な確認応答ステータスを表示します。
期限切れの確認応答	棒グラフ	一定期間の期限切れの確認応答の合計数を表示します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

役職	タイプ	説明
確認応答処理待ち	棒グラフ	各ポリシーに関連する確認応答処理待ちの総数を表示します。
ポリシー例外	リスト リスト	ポリシーに対してオープンされたポリシー例外のリストを詳細とともに表示します。

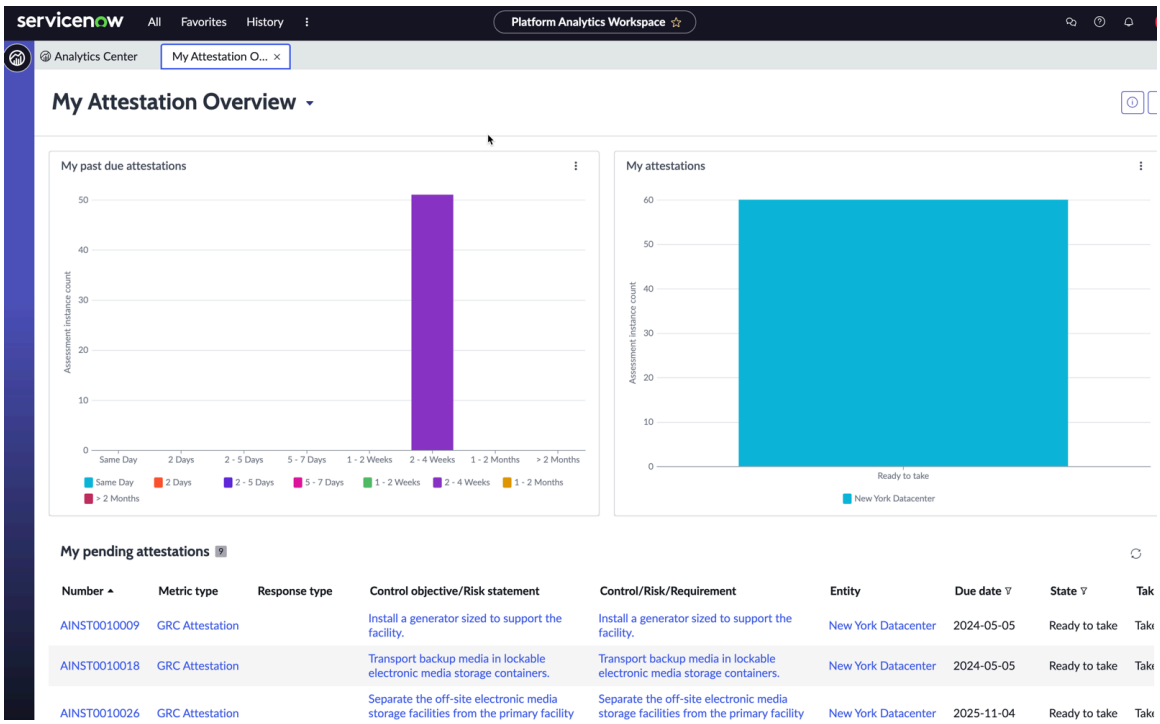
自分の証明書の概要ダッシュボード

アセスメント概要ダッシュボードには、タイプ別の評価可能レコード、メトリクスタイプ別の合計メトリクス、ステータス別のアセスメントなど、さまざまなアセスメントレポートが表示されます。これで、ネクストエクスペリエンス UI フレームワークでダッシュボードを表示できるようになりました。

重要:
ポリシーとコンプライアンス管理アプリケーションのバージョン 18.1.1 以降では、自分の証明書の概要ダッシュボードを ネクストエクスペリエンス UI フレームワークで使用できます。

Vancouver または Washington DC を使用している場合は、ネクストエクスペリエンス UI フレームワークでダッシュボードを表示できます。

ネクストエクスペリエンス **UI** フレームワークの自分の証明書の概要ダッシュボード



必要なServiceNow AI Platformロール

ビジネスユーザー (sn_grc.business_user)：期限切れ、現在、および処理待ちの証明書を表示します。

自分の証明書の概要ダッシュボードへのアクセス

ダッシュボードを開くには、次の場所に移動します。 すべて > ポリシーとコンプライアンス > コントロール > アナリティクス概要.

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自分の証明書の概要ダッシュボードのレポート

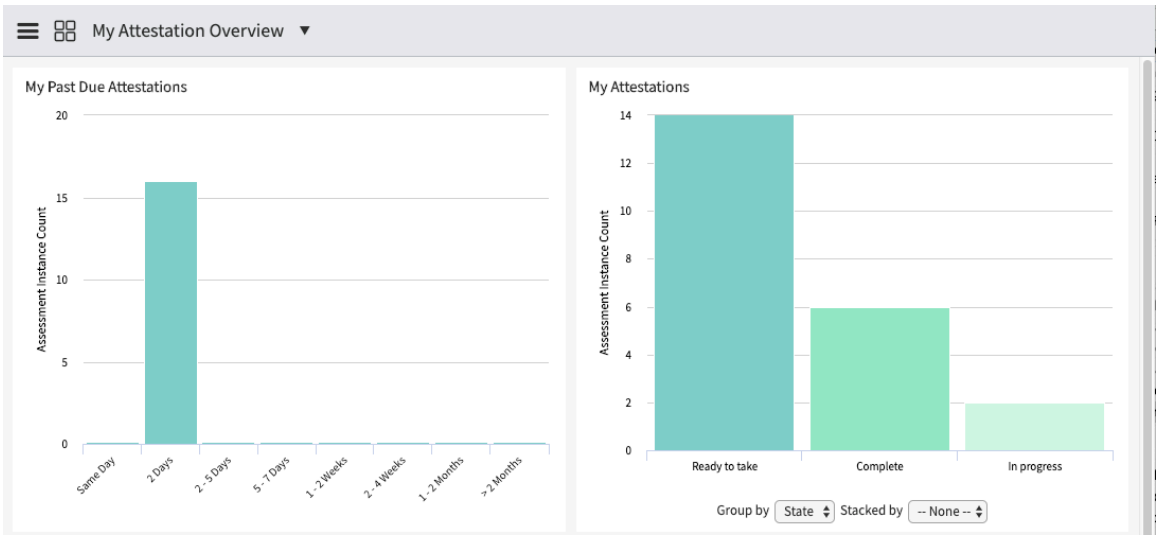
タイトル	タイプ	説明
自分の期限切れの証明書	棒グラフ	アサインされた期限切れの証明書の総数。
自分の証明書	棒グラフ	自分にアサインされた証明書の総数 (ステータス別)。
自分の処理待ちの証明書	リスト	自分にアサインされている処理待ちの証明書のリスト。

GRC 証明書の概要ダッシュボード

GRC 証明書の概要ダッシュボードには、自分に割り当てられた証明書や、処理待ちの証明書や期限切れの証明書が表示されます。

重要:
ポリシーとコンプライアンス管理アプリケーションのバージョン 18.1.1 以降では、GRC証明書の概要ダッシュボードレポートをネクストエクスペリエンス UI フレームワークで表示できます。

ネクストエクスペリエンス UI フレームワークでレポートを表示するには、「自分の証明書の概要ダッシュボード」を参照してください。



データの可視化

GRC 証明書概要ダッシュボードでは以下の情報が可視化されています。

名前	タイプ	説明
自分の期限切れの証明書	縦棒グラフ ( )	アサインされた期限切れの証明書の総数。
自分の証明書	縦棒グラフ ( )	自分にアサインされた証明書の総数 (ステータス別)。
自分の処理待ちの証明書	リスト	自分にアサインされている処理待ちの証明書のリスト。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

NIST Cybersecurity Framework概要ダッシュボード

NIST Cybersecurity Framework概要ダッシュボードには、各種ダッシュボードに表示されるさまざまなレポートが含まれており、NIST CSF プロセスの各セクションで利用できます。

重要:
ポリシーとコンプライアンス管理アプリケーションのバージョン 18.1.0 以降では、NIST Cybersecurity Framework概要ダッシュボードを ネクストエクスペリエンス UI フレームワークで使用できます。

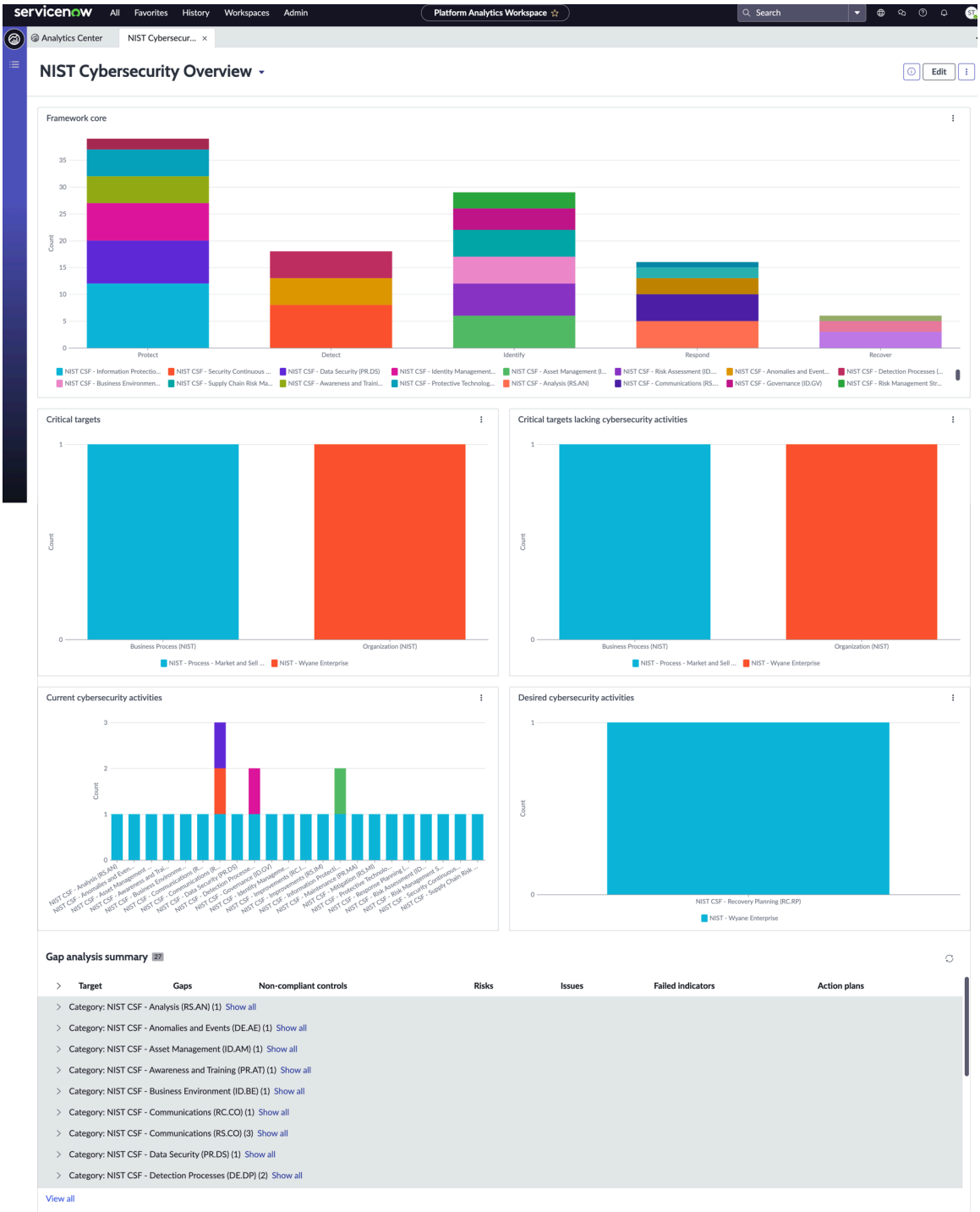
VancouverまたはWashington DCを使用している場合は、ネクストエクスペリエンス UI フレームワークでダッシュボードを表示できます。

クラシック UI でダッシュボードを表示するには、「NIST CSF ユースケースアクセラレーター ダッシュボードおよびレポート」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ネクストエクスペリエンス **UI** フレームワークの **NIST** サイバーセキュリティ概要ダッシュボード



必要な **ServiceNow AI Platform** のロール

- NIST CSF リスク担当役員 (sn_irm_nist_csf.risk_executive)：ダッシュボード内のすべてのレポートを表示します。
- システムアドミン：ダッシュボードのデータを編集します。

NIST Cybersecurity Framework ダッシュボードへのアクセス

ダッシュボードを開くには、次の場所に移動します。 すべて > **NIST CSF** > アナリティクス概要.

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

レポート

役職	タイプ	説明
フレームワークコア	棒グラフ	NIST CSF の機能別に整理されたサイバーセキュリティポリシーの概要を示します。
重要なターゲット	棒グラフ	エンティティクラスまたは階層別の重要なターゲットの概要を示します。
サイバーセキュリティアクティビティのない重要なターゲット	棒グラフ	サイバーセキュリティアクティビティのない、エンティティクラスまたは階層別の重要なターゲットの概要を示します。
現在のサイバーセキュリティアクティビティ	棒グラフ	現在実行されているサイバーセキュリティアクティビティの概要をエンティティクラス、エンティティ、またはサイバーセキュリティ機能別に表示します。
望ましいサイバーセキュリティアクティビティ	棒グラフ	望ましいサイバーセキュリティアクティビティの概要をエンティティクラス、エンティティ、またはサイバーセキュリティ機能別に表示します。
ギャップ分析サマリー	リスト	サイバーセキュリティ、サイバーセキュリティ機能、またはターゲット自体によってグループ化されたターゲットのギャップ、非準拠コントロール、リスク、問題、失敗したインジケーター、およびアクションプランのサマリーを提供します。

NIST フレームワークプロファイリングの概要ダッシュボード

NIST フレームワークプロファイリングの概要ダッシュボードにはレポートが含まれており、分類、選択、実装、評価、認可、監視といった、NIST RMF プロセスの各セクションで使用できます。これらのレポートは ネクストエクスペリエンス UI フレームワークで表示できます。

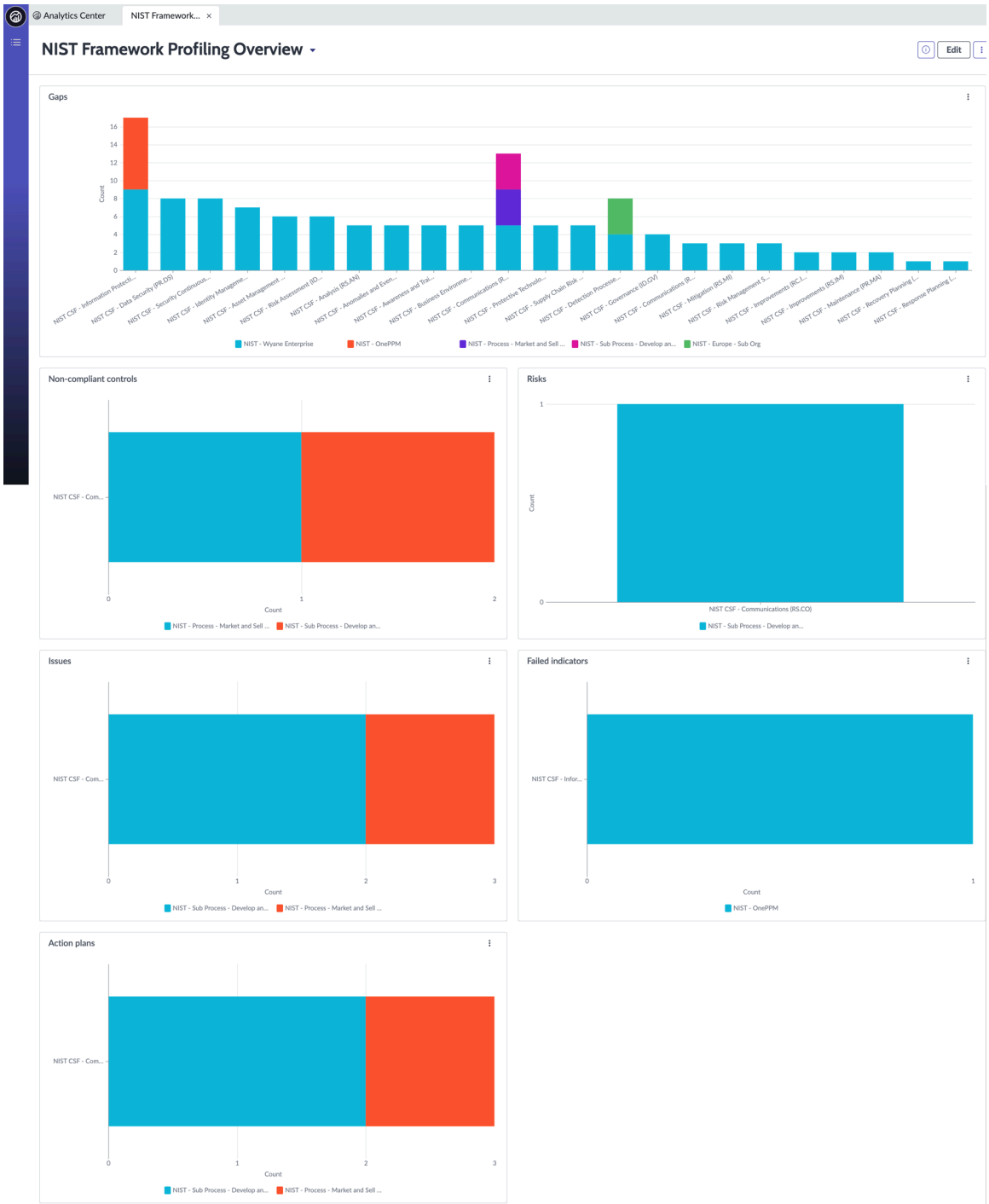
重要:
ポリシーとコンプライアンス管理アプリケーションのバージョン 18.1.0 以降では、NIST フレームワークプロファイリングの概要ダッシュボードを ネクストエクスペリエンス UI フレームワークで使用できます。

Vancouver または Washington DC を使用している場合は、ネクストエクスペリエンス UI フレームワークでダッシュボードを表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ネクストエクスペリエンス **UI** フレームワークの **NIST** フレームワークプロファイリングの概要ダッシュボード



必要な **ServiceNow AI Platform** のロール

- NIST CSF セキュリティ責任者 (sn_irm_nist_csf.security_officer)：ダッシュボード内のすべてのレポートを表示します。
- NIST CSF リスク担当役員 (sn_irm_nist_csf.risk_executive)：ダッシュボード内のすべてのレポートを表示します。

NIST フレームワークプロファイリングの概要ダッシュボードへのアクセス

ダッシュボードを開くには、次の場所に移動します。 すべて > **NIST CSF** > フレームワークプロファイリング > アナリティクス概要.

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レポート

タイトル	説明
ギャップ	サイバーセキュリティアクティビティに存在するギャップの概要を表示します。ギャップは、ポリシー、エンティティクラス、プロファイル、または機能別にグループ化されます。
非準拠コントロール	サイバーセキュリティアクティビティに存在する非準拠コントロールの概要を表示します。非準拠コントロールは、ポリシー、エンティティクラス、プロファイル、または機能別にグループ化されます。
リスク	サイバーセキュリティアクティビティに存在するリスクの概要を表示します。リスクは、ポリシー、プロファイルクラス、エンティティ、または機能別にグループ化されます。
問題	サイバーセキュリティアクティビティの問題の概要を表示します。問題は、ポリシー、エンティティクラス、エンティティ、または機能別にグループ化されます。
失敗したインジケーター	サイバーセキュリティアクティビティの失敗したインジケーターの概要を表示します。インジケーターは、ポリシー、エンティティクラス、エンティティ、または機能別にグループ化されます。
アクションプラン	サイバーセキュリティアクティビティに存在するアクションプランの概要を表示します。アクションプランは、ポリシー、エンティティクラス、エンティティ、または機能別にグループ化されます。

アプリケーションリスクとコンプライアンスの概要ダッシュボード

アプリケーションリスクとコンプライアンスの概要ダッシュボードは、企業で使用されているビジネスアプリケーションのリスクとコンプライアンスの体制の現在のビューを提供します。このダッシュボードは ネクストエクスペリエンス UI フレームワークで表示できるようになりました。

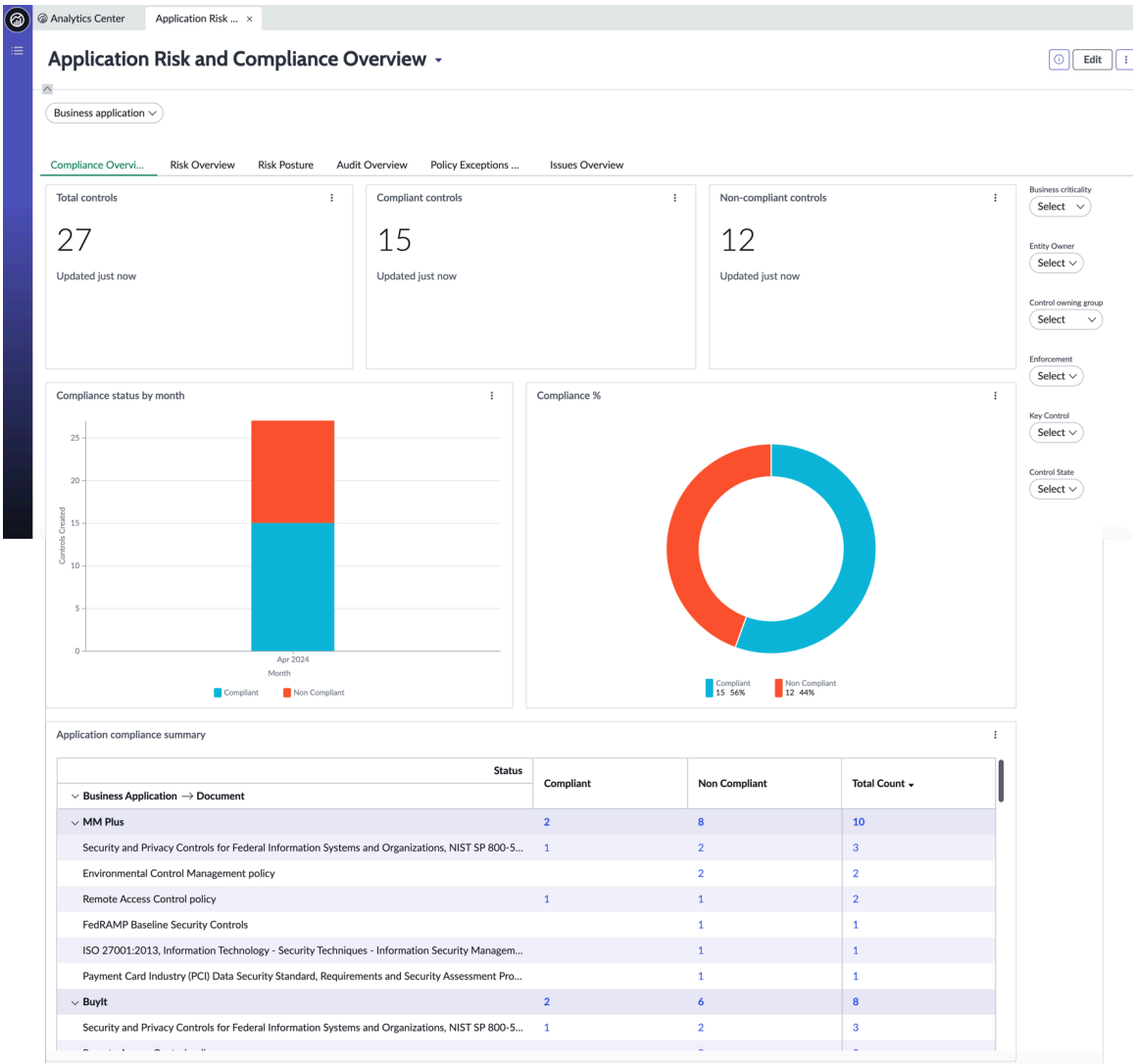
重要:
ポリシーとコンプライアンス管理アプリケーションのバージョン 18.1.0 以降では、アプリケーションリスクとコンプライアンスの概要ダッシュボードを ネクストエクスペリエンス UI フレームワークで使用できます。

VancouverまたはWashington DCを使用している場合は、ネクストエクスペリエンス UI フレームワークでダッシュボードを表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ネクストエクスペリエンス **UI** フレームワークのアプリケーションリスクとコンプライアンスの概要ダッシュボード



必要な **ServiceNow AI Platform** のロール

- アドミン (sn_grc.admin)：アドミン権限を提供し、ダッシュボードのレポートを編集できます。
- リーダー (sn_grc.reader)：ダッシュボードにレポートを表示できます。

アプリケーションリスクとコンプライアンスの概要ダッシュボードへのアクセス

ダッシュボードを開くには、次の場所に移動します。 すべて > 詳細 **GRC** ダッシュボード > アナリティクスアプリケーションリスクダッシュボード.

レポート

- ポリシーとコンプライアンスプラグインをアクティブ化すると、[コンプライアンスの概要] タブが表示されます。このタブには、ビジネスアプリケーションのコンプライアンス体制の概要が表示されます。
- 高度なリスクプラグインをアクティブ化すると、[リスク概要] タブが表示されます。このタブには、ビジネスアプリケーションに関連付けられているリスクの概要が表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

- リスクプラグインをアクティブ化すると、[リスク体制] タブが表示されます。このタブには、ビジネスアプリケーションのリスクエクスポージャーに関する情報が表示されます。このタブのレポートは、ビジネスアプリケーションフィルターを使用してフィルタリングすることもできます。
- Audit プラグインをアクティブ化すると、[監査の概要] タブが表示されます。このタブには、ビジネスアプリケーションに関連する監査と監査アクティビティの概要が表示されます。
- ポリシーとコンプライアンスプラグインをアクティブ化すると、[ポリシー例外の概要] タブが表示されます。このタブには、ビジネスアプリケーションに対して要求されたポリシー例外に関する情報が表示されます。[ポリシー例外の概要] タブに表示されるデータは、ビジネスアプリケーションフィルターを使用してフィルタリングできます。
- リスク管理プラグインまたはポリシーとコンプライアンス管理プラグインをアクティブ化すると、[問題の概要] タブが表示されます。このタブには、ビジネスアプリケーションに関連付けられているさまざまなコンプライアンスとリスクの問題に関する情報が表示されます。[問題の概要] タブに表示されるデータは、ビジネスアプリケーションフィルターを使用してフィルタリングできます。

タイトル	説明
[コンプライアンスの概要] タブ	
コントロール合計	アクティブなコントロールの合計数が表示されます。
準拠コントロール	ドラフトまたは廃止ステータスではない準拠コントロールの合計数が表示されます。
非準拠コントロール	ドラフトまたは廃止ステータスではない非準拠コントロールの合計数が表示されます。
月別のコンプライアンスステータス	月別のアクティブなコントロールの数が表示されます。この棒グラフは、当月のコンプライアンスステータスを示し、コントロールステータスまたはビジネスアプリケーションのいずれかでグループ化できます。
準拠率	準拠、非準拠、適用外などのアクティブなコントロールのさまざまな状況の割合を示します。
アプリケーションコンプライアンスのサマリー	ビジネスアプリケーションに関連付けられているポリシー、各種法令・基準等、およびコントロールのサマリーが表示されます。
[リスク概要 (Risk Overview)] タブ	
アプリケーション重要度別のリスクヒートマップ	アプリケーションの重要度とアプリケーションのリスク評価を比較したアプリケーションリスクのヒートマップが表示されます。
リスク対応タスクの概要	リスクに対して作成された応答タスクと、それらのタスクのさまざまな状況が表示されます。この棒グラフは、リスク応答、リスク応答ステータス、リスク計算済みスコア、リスク応答のアサイン先、またはビジネスアプリケーション別にグループ化およびスタックできます。
アプリケーションリスクサマリー	アプリケーションの全体的なリスク評価に寄与する、アプリケーションに直接関連付けられたリスクのサマリーが表示されます。アプリケーションリスク評価に寄与する他のダウンストリームリスクは、このレポートには表示されま

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タイトル	説明
	せん。このレポートで考慮されるリスクは、非常に高い、高、中です。
アプリケーションリスク軽減コントロールのステータス	アプリケーションのリスクとそれに関連付けられているコントロールに関する情報が表示されます。このレポートで考慮されるリスクは、非常に高い、高、中です。コントロールのステータスがドラフトまたは廃止である必要があります。1 年間のリスクのみが表示されます。
[リスク体制] タブ	
非常に高いリスク	アプリケーションの非常に高いリスクが表示されます。
高リスク	アプリケーションの高リスクが表示されます。
中リスク (Moderate Risks)	アプリケーションの中リスクが表示されます。
受け入れタスクの有効期限	現在の日、現在の週、現在の月、現在の四半期、および現在の年に有効期限があるリスク応答受け入れタスクが表示されます。
貢献リスクの傾向	ビジネスアプリケーションに直接関連付けられているリスクの傾向と、一定期間のリスクのパフォーマンスが表示されます。アプリケーションリスク評価に寄与する他のダウンストリームリスクは、このレポートには表示されません。
[監査の概要] タブ	
オープン監査エンゲージメント	オープンステータスの監査エンゲージメントの数が表示されます。
無効なコントロール	監査エンゲージメントに対して無効なコントロールの数が表示されます。
オープン中の問題	監査エンゲージメントのオープン中の問題の数が表示されます。
期限切れの問題	アプリケーションの期限切れの監査の問題の数が表示されます。
今後の監査エンゲージメント	今後の監査エンゲージメントの月次カウントが表示されます。
監査エンゲージメント別のオープンな問題	オープンな監査問題の月次カウントが表示されます。
監査エンゲージメント別の期限切れの問題	一定期間の期限切れの監査の問題が表示されます。
監査エンゲージメント別の無効なコントロール	監査エンゲージメントと関連付けられている無効なコントロールに関する情報が表示されます。
[ポリシー例外の概要] タブ	
新しい例外	要求された新しい例外に関する情報が表示されます。
承認済み例外	承認済み例外の数に関する情報が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タイトル	説明
却下された例外	却下された例外の数に関する情報が表示されます。
期限切れの例外	期限切れの例外の数に関する情報が表示されます。
承認待ちの例外	現在の日付、現在の週、現在の月、および現在の四半期に期限が来る、承認待ちの例外に関する情報が表示されます。
承認待ちの延長	現在の日付、現在の週、現在の月、および現在の四半期に期限が来る、承認待ちの延長に関する情報が表示されます。
予定されている例外有効期限	現在の日付、現在の日付の翌日、現在の週、現在の週の次の週、および現在の月に期限切れになる予定の例外に関する情報が表示されます。
要求された例外 対。承認済み例外	月ごとの要求された例外と承認された例外の数に関する情報が表示されます。
[問題の概要 (Issues Overvew)] タブ	
オープン中の問題	オープンステータスの問題の数が表示されます。
重要な優先度の問題	重要な優先度の問題の数が表示されます。
高優先度の問題	高優先度の問題の数が表示されます。
承認された問題	承認された問題の数が表示されます。
期限切れの問題	期限切れの問題の数が表示されます。
解決する問題	現在の日付、現在の週、現在の月、現在の四半期、および現在の年に解決する必要がある問題の数が表示されます。
完了する修復タスク	現在の日付、現在の週、現在の月、現在の四半期、および現在の年に完了する必要がある修復タスクの数が表示されます。
期限切れの問題	一定期間の期限切れの問題の数が表示されます。
期限切れの修復タスク	一定期間の期限切れの修復タスクの数が表示されます。
問題作成の傾向	一定期間の問題の作成方法の傾向が表示されます。
問題クローズの傾向	一定期間の問題のクローズ方法の傾向が表示されます。
修復タスクの作成の傾向	一定期間の修復タスクの作成方法の傾向が表示されます。
修復タスクのクローズの傾向	一定期間の修復タスクのクローズ方法の傾向が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィルター

名前	説明
[コンプライアンスの概要] タブ	[コンプライアンスの概要] タブで利用可能なレポートのデータをフィルターするために使用されるフィルターは次のとおりです。 • ビジネスアプリケーション • 事業上の重要度 • エンティティオーナー • 強制または任意のコントロールなどの適用 • キーコントロール • コントロールステータス • コントロール所有グループ
[リスク概要 (Risk Overview)] タブ	[リスク概要] タブで利用可能なレポートのデータをフィルターするために使用されるフィルターは次のとおりです。 • ビジネスアプリケーション • 重要度 • リスク評価 • アプリケーションオーナー • 事業主
[監査の概要] タブ	[監査の概要] タブで利用可能なレポートのデータをフィルターするために使用されるフィルターは次のとおりです。 • ビジネスアプリケーション • 監査エンゲージメント • 重要度

ポリシーとコンプライアンス管理の参照

参照トピックには、GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションとともにインストールされるテーブル、ロール、およびプロパティに関する情報が記載されています。

ポリシーとコンプライアンス管理 とともにインストールされるコンポーネント

参照トピックには、ポリシーとコンプライアンス管理 プラグインのアクティブ化とともにインストールされるコンポーネントに関する追加情報が記載されています。これらのコンポーネントには、テーブル、ユーザーロール、およびプロパティが含まれます。

注:
アプリケーションファイルテーブルには、このアプリケーションとともにインストールされたコンポーネントがリストされています。このテーブルへのアクセス手順については、「アプリケーションとともにインストールされているコンポーネントの検索」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

この機能ではデモデータを利用できます。

GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 とともにインストールされるロール

ロールは、GRC: ポリシーとコンプライアンス管理 のアクティブ化とともに追加されます。

インストールされているロール

ロール タイトル [名前]	説明	含んでいるロール
コンプライアンスアドミニストレーター [sn_compliance.admin]	リーダー、ユーザー、マネージャー、admin ロールが sn_grc スコープに含まれ、リーダー、ユーザー、マネージャーロールが ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションに含まれます。コンプライアンスアドミニストレーターは、継承された権限に加えて、各種法令・基準等、引用、ポリシー、コントロール目標、およびコントロールを削除できます。	• sn_compliance.manager • sn_grc.admin
証明書作成者 sn_compliance.attestation_creator	GRC 証明書メトリクスタイプと例外アンケートの作成に使用されるロール。	assessment_admin
コンプライアンス開発者 [sn_compliance.developer]	sn_grc スコープのリーダー、ユーザー、マネージャー、admin、開発者ロール、および ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションのリーダー、ユーザー、マネージャー、admin ロールを含みます。コンプライアンス開発者は、継承された権限に加えて、記事テンプレートを作成し、スクリプトを編集できます。	• sn_compliance.admin • sn_grc.developer
コンプライアンスマネージャー [sn_compliance.manager]	sn_grc スコープのリーダー、ユーザー、マネージャーロール、および ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションのリーダーおよびユーザーロールを含みます。コンプライアンスマネージャーは、継承された権限に加えて、各種法令・基準等、引用、コントロール目標、およびコントロールを作成できます。	• sn_compliance.user • sn_grc.manager • sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessment_revie
コンプライアンスリーダー [sn_compliance.reader]	sn_grc スコープのリーダーロールが含まれています。コンプライアンスリーダーは、継承された権限に加えて、インジケーターテンプレート、インジ	• sn_grc.reader • survey_reader

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インストールされているロール (続く)

ロール タイトル [名前]	説明	含んでいるロール
	ケーター、および問題に割り当てることができます。	
コンプライアンスユーザー [sn_compliance.user]	sn_grc スコープのリーダーとユーザーロール、および ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションのリーダーロールを含みます。コンプライアンスユーザーは、継承された権限に加えて、コントロールをアサインされ、ポリシーを作成することができ、リスク管理 アプリケーションとモジュールへの読み取り専用アクセス権を持ちます。コンプライアンスユーザーは、コントロール目標を作成することもできます。	• sn_compliance.reader • sn_grc.user • sn_risk.reader • survey_reader • vendor_reader
企業コンプライアンスアナリスト [sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst]	リーダーとユーザーロールが sn_grc スコープに含まれ、リーダー、ユーザーロールが コンプライアンスワークスペース に含まれます。	• sn_compliance.user • sn_audit.user
企業コンプライアンスマネージャー [sn_compliance_ws.corporate_compliance_manager]	リーダー、ユーザー、マネージャーロールが sn_grc スコープに、リーダー、ユーザーロールが コンプライアンスワークスペース に含まれます。	• sn_compliance.manager • sn_compliance_ws.corporate_compliance_a • sn_audit.manager
IT コンプライアンスマネージャー [sn_compliance_ws.it_compliance_manager]	リーダー、ユーザー、マネージャーロールが sn_grc スコープに、リーダーとユーザーロールが コンプライアンスワークスペース に含まれます。	• sn_compliance.manager • sn_audit.manager

ポリシーとコンプライアンス管理 とともにインストールされるテーブル

テーブルは、GRC: ポリシーとコンプライアンス管理 のアクティブ化とともに追加されます。

インストールされるテーブル

テーブル	説明
各種法令・基準等 [sn_compliance_authority_document]	ドキュメント [sn_grc_document] テーブルを拡張し、すべての各種法令・基準等を保存します。
コントロール [sn_compliance_control]	アイテム [sn_grc_item] テーブルを拡張し、すべてのコントロールを保存します。
ポリシー	ドキュメント [sn_grc_document] テーブルを拡張し、すべてのポリシーを保存します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インストールされるテーブル (続く)

テーブル	説明
[sn_compliance_policy]	
記事テンプレート [sn_compliance_article_template]	ポリシーをナレッジベース (KB) に公開するときに、ポリシーレコードに含まれるポリシーテキストをフォーマットするために使用されます。
信頼できるソースコンテンツ [sn_compliance_citation]	コンテンツ [sn_grc_content] テーブルを拡張し、すべての信頼できるソースコンテンツを保存します。
ポリシー例外リスク評価マッピング [sn_compliance_policy_exception_risk_rating_mapping]	リスクアセスメント評価のマッピングの詳細をポリシー例外リスク評価とともに保存します。
ポリシーからエンティティタイプ [sn_compliance_m2m_policy_profile_type]	ドキュメントをエンティティタイプ [sn_grc_m2m_document_profile_type] に拡張し、ポリシーとエンティティタイプ間の関係を管理するために使用される多対多の関係テーブルです。
引用するコントロール目標 [sn_compliance_m2m_statement_citation]	コントロール目標と関連する引用の間の関係を管理するために使用される多対多の関係テーブル。
エンティティタイプに対するコントロール目標 [sn_compliance_m2m_statement_profile_type]	コンテンツからエンティティタイプ [sn_grc_m2m_content_profile_type] を拡張します。これは、コントロール目標とエンティティタイプ間の関係を管理するために使用される多対多の関係テーブルです。
コントロール目標 [sn_compliance_policy_statement]	コンテンツ [sn_grc_content] テーブルを拡張し、すべてのコントロール目標を保存します。
コントロール目標の要件 [sn_compliance_policy_stmt_requirement]	コントロール目標要件の要件番号と要件の説明を保存します。
コントロール目標要件に対するコントロール目標 [sn_compliance_m2m_policy_stmt_policy_stmt_rqmt]	コントロール目標とコントロール目標要件の間の関係を管理するために使用される多対多の関係テーブル。
コントロール要件 [sn_compliance_control_requirement]	コントロールの要件番号を保存します
コントロール間要件 [sn_compliance_m2m_control_control_requirement]	コントロールとコントロール要件の詳細を格納する多対多の関係テーブル。[実装ステータス] フィールドには、要件が継承されたものか自己実装されたものかについての情報が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インストールされるテーブル (続く)

テーブル	説明
要件の選択 [sn_compliance_hybrid_selection]	選択したコントロール要件を保存します。これには、コントロール要件、コントロール目標、エンティティ、および認証パッケージの詳細が含まれています。
ポリシー例外 [sn_compliance_policy_exception]	すべてのポリシー例外を保存します。
ポリシーからポリシーステートメント [sn_compliance_m2m_policy_policy_statement]	ポリシーとコントロール目標の間の関係を管理するために使用される多対多の関係テーブル。
エンティティへのコントロール [sn_compliance_m2m_control_entity]	アイテムからエンティティ [sn_grc_m2m_entity_item] テーブルを拡張します。

注:
依存プラグインによってインストールされるすべての追加のテーブルは ポリシーとコンプライアンス管理 にも必要です。

GRC ビジネスユーザーロールのアクセス制限

snc_internal ロールでのアクセス制御制限 (ACL) またはロール条件なし (またはロールなし) は、コンプライアンステーブルに対するさまざまなユーザーのアクセスレベルを制御し、ユーザーの使用状況を追跡する sn_grc.business_user ロールに置き換えられます。

GRC ビジネスユーザー (sn_grc.business_user) ロール

GRC ビジネスユーザーロールは、GRC 操作を実行できるユーザーに付与されます。また、ポリシーの例外や問題の作成、証明書への応答、確認応答などのすべての操作を実行した snc_internal ロールを持つユーザーにも付与されます。このロールは、GRC プロファイルプラグインのインストールで付与されます。

GRC ビジネスユーザー – Lite (sn_grc.business_user_lite) ロール

snc_internal ロールで制限された操作を実行できるユーザーは、Lite オペレーターと見なされます。このようなユーザーには、GRC ビジネスユーザー – Lite (sn_grc.business_user_lite) ロールが付与され、このロールを使用してコンプライアンステーブルの Lite 使用状況を追跡します。このロールは、明示的なロールプラグイン GRC: Business User – Lite によって付与されます。このプラグインは、メンテナンスアクセス権を持つユーザーまたは ServiceNow サポートチームがインストールできます。

インストール、アップグレード、およびロールのアサインの詳細については、Now Support ナレッジベースの「GRC ビジネスユーザーロール」[KB0864247] の記事を参照してください。

注:
記事を表示するには、Now Support にログインする必要があります。

さまざまなコンプライアンステーブルおよびその他の関連テーブルに対する GRC ビジネスユーザーロールおよびその他のロールを持つユーザーのアクセス制限がここにリストされています。詳細については、Now Support ナレッジベースの記事「GRC：ポリシーとコンプライアンス管理のセキュリティの強化 [KB1112315]」を参照してください。

コントロール目標

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- GRC ビジネスユーザーまたはビジネスユーザー Lite ロールを持つユーザーは、すべてのコントロール目標を読み取ることができます。
- GRC: Audit Management アプリケーションがインストールされており、コントロール目標に公開されたポリシーが関連付けられている場合、外部監査人ロールを持つユーザーはそのようなコントロール目標を読み取ることができます。
- ビジネスユーザー Lite を持つユーザーには、問題またはポリシー例外を報告するための読み取りアクセス権があります。

ポリシー

- GRC Business User または Business User Lite ロールを持つユーザーは、すべてのポリシーを読み取ることができます。
- GRC: Audit Management アプリケーションがインストールされている場合、外部監査人ロールを持つユーザーはすべての公開済みポリシーを読み取ることができます。
- ビジネスユーザー Lite を持つユーザーには、ポリシー例外を作成するための読み取りアクセス権があります。

コントロール目標 M2M に対するポリシー

- GRC ビジネスユーザーまたはビジネスユーザー Lite ロールを持つユーザーは、コントロール目標 M2M レコードに対するポリシーを読み取ることができます。
- GRC: Audit Management アプリケーションがインストールされている場合、外部監査人ロールを持つユーザーは、ポリシーがの公開済みであれば、コントロール目標 M2M レコードに対するポリシーを読み取ることができます。

コントロール [sn_compliance_control]

- GRC ビジネスユーザーまたはビジネスユーザー Lite ロールを持つユーザーはコントロールを表示できます。
- GRC: Audit Management アプリケーションがインストールされている場合、外部監査人ロールを持つユーザーはコントロールを読み取ることができます。

アセスメントのインスタンス [asmt_assessment_instance]

- GRC ビジネスユーザー およびビジネスユーザー Lite ロールを持つユーザーは、自分に割り当てられている証明書を表示できます。
- GRC ビジネスユーザーまたはビジネスユーザー Lite ロールを持つ ServiceNow ユーザーはアセスメントを実施できます。
- GRC ビジネスユーザーまたはビジネスユーザー Lite ロールを持つユーザーは、[自分のグループ化された証明書] モジュールを表示できます。
- GRC ビジネスユーザーおよびビジネスユーザー Lite ロールを持つユーザーは、グループアセスメント UI およびグループ解除 UI アクションを表示できます。
- GRC ビジネスユーザーおよびビジネスユーザー Lite ロールを持つユーザーは、GRC アプリケーションメニューで [自分の証明書] を表示できます。

アセスメントメトリクスタイプ [asmt_metric_type]

評価が証明書で、テーブルがポリシー例外で、ロールが空の場合、ユーザーロールは GRC ビジネスユーザーまたはビジネスユーザー Lite に設定されます。

コントロールの概要レポート

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

GRC リーダーロールを持つユーザーは、コントロールの概要レポートを表示できます。

問題 [sn_grc_issue]

サービスポータルで問題を報告および表示

GRC ビジネスユーザーロールを持つユーザーは、問題を報告し、 サービスポータル で報告された問題を表示できます。GRC ビジネスユーザーは、サービスポータルで [自分の問題] を表示するために必要な最小限のロールです。

読み込み

次のロールを持つユーザーが問題を表示できます。

- GRC ユーザー (sn_grc.user) ロール
- GRC ビジネスユーザーロールまたは GRC ビジネスユーザー Lite ロールさらに、ユーザーは次のいずれかの条件を満たす必要があります。
  - 問題の [アサイン先] フィールドがユーザーである。
  - 親問題の [アサイン先] がユーザーであるか、親問題の [アサイン先グループ] がユーザーのグループの 1 つである。
  - [アサイン先グループ] が、ユーザーのグループの 1 つである。さらに、ユーザーは GRC ビジネスユーザーロールも持っている必要があります。
  - [問題マネージャー] がユーザーです。
  - [問題マネージャーグループ] は、ログインユーザーに属するグループの 1 つです。
  - 問題の [コントロール/リスク] には所有者があり、所有者はユーザーです。
  - 問題はログインユーザーによって作成されます。
  - 問題は、ユーザーがオープンした問題のトリアージから作成されます。
  - ログインユーザーは、問題の修復タスクのアサイニーまたはウォッチリストユーザーです。
  - GRC: Audit Management がインストールされている場合は、外部監査人のみとなり、コントロールテストの問題またはその他の問題があるクローズ済みエンゲージメントの監査人は、それらの問題のみを表示できます。

書き込み/更新

ビジネスユーザーロールを持つユーザーが [担当者] フィールドで指定されたユーザーでもある場合、ユーザーは以下を編集できます。

- 名前
- 説明
- 問題マネージャー
- 問題マネージャーグループ
- アクションプラン
- 状況

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ペアレントレコード
- 追加コメント
- 作業メモ
- 応答
- 説明

ビジネスユーザー Lite ロールを持つユーザーが [担当者] フィールドで指定されたユーザーでもある場合、ユーザーは以下を編集できます。

- 問題マネージャー
- 問題マネージャーグループ
- 状況
- ペアレントレコード
- 追加コメント
- 作業メモ
- 応答
- 説明

注:
ビジネスユーザーロールやビジネスユーザー Lite ロールを持つユーザーが問題を報告した場合は、その問題にコメントを追加できます。ただし、GRC ユーザーはすべての問題を編集できます。

自分の未解決の問題を表示

少なくとも GRC ビジネスユーザーまたはビジネスユーザー Lite ロールを持つユーザーは未解決の問題を表示できます。

問題のグループ化

問題のグループ化は、GRC ユーザーロールを持つユーザーのみが利用できます。

情報を送信

問題の情報を送信するには、少なくとも GRC ビジネスユーザー または ビジネスユーザー Lite ロールが必要です。

問題ソース [sn_grc_issue_source]

問題ソーステーブルを表示および編集するには、少なくとも GRC ビジネスユーザーロールが必要です。

修復タスク [sn_grc_task]

- 修復タスクテーブルの [アサイン先] フィールドのユーザーには、少なくとも GRC ビジネスユーザー またはビジネスユーザー Lite ロールが必要です。
- 読み取りアクセスの場合、修復タスクがアサインされているユーザーまたは修復タスクのウォッチリストユーザーは、GRC ビジネスユーザーまたはビジネスユーザー Lite ロールを持っている必要があります。問題の [アサイン先] ユーザー、問題の問題マネージャー、または GRC マネージャー (sn_grc.manager) ロールを持つユーザーが修復タスクを表示できます。
- [自分のオープンな修復タスク] は、GRC ビジネスユーザーまたはビジネスユーザー Lite の最小ロールを持つユーザーに表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自分のインジケータータスク [sn_grc_indicator_task]

GRC ビジネスユーザーまたはビジネスユーザー Lite ロールを持つユーザーは自分のインジケータータスクにアクセスできます。

ポリシーの確認応答

GRC ビジネスユーザー またはビジネスユーザー Lite ロールを持つユーザーは次のことができます。

- ServiceNow AI Platform UI と サービスポータル からポリシーを確認します。
- サービスポータル の [自分の確認応答] メニューオプションを表示します。
- 割り当てられている確認応答インスタンス [sn_compliance_policy_acknowledgement_instance] を表示します。

ポリシー例外 [sn_compliance_policy_exception]

GRC ビジネスユーザー またはビジネスユーザー Lite ロールを持つユーザーは次のことができます。

- ServiceNow AI Platform および サービスポータル からポリシー例外を発生させます。
- ポリシー例外を表示します。読み取りアクセス権を持つユーザーには、ポリシー例外を要求したユーザー、ウォッチリストに存在するユーザー、検証承認者、最終承認者、影響を受けるコントロールオーナー、およびコンプライアンスマネージャーであるユーザーが含まれます。

詳細については、以下を参照してください。

- Now Support ナレッジベースの「GRC ビジネスユーザーロール [KB0864247]」記事
- Now Support ナレッジベースの「ガバナンス、リスク、コンプライアンスのライセンスコンプライアンスの更新 [KB1096178]」記事

GRC：ポリシーとコンプライアンス管理でインストールされるプロパティ

プロパティは、GRC: ポリシーとコンプライアンス管理 のアクティブ化とともに追加されます。

名前	説明
エンティティ階層ベースのスコアリング sn_compliance.entity_hierarchy_based_scoring	• タイプ：true または false • デフォルト値：false • [**Location** (場所)]： すべて > ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > プロパティ
最後に完了した証明書の作成日または更新日に基づいてコントロール証明書をトリガーします sn_compliance.attestation_run_reference_date_field	• タイプ：文字列 • デフォルト値:作成日、更新日 • [**Location** (場所)]： すべて > ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > プロパティ
コントロールがアクティブであるステータス (最初のステータスはデフォルトのアクティブステータス)	コンプライアンスアドミニストレーターはこの設定を変更できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前	説明
sn_compliance.active_states	• タイプ：文字列 • デフォルト値： draft、assess、review、monitor • [**Location** (場所)]： ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > プロパティ
コントロールが非アクティブであるステータス (最初のステータスはデフォルトの非アクティブステータス) sn_compliance.closed_states	コンプライアンスアドミニストレーターはこの設定を変更できます。 • タイプ：文字列 • デフォルト値：retired • [**Location** (場所)]： ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > プロパティ
証明書に使用されるアセスメントメトリクスタイプの名前 sn_compliance.default_attestation	システムアドミニストレーターはこの設定を変更できます。 • タイプ：文字列 • デフォルト値：GRC 証明書 • [**Location** (場所)]： ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > プロパティ
sn_compliance.glide.script.block.client.globals	• タイプ：true または false • デフォルト値：false • [**Location** (場所)]： ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > プロパティ
ポリシー記事を公開するために使用されるナレッジベースの名前 sn_compliance.knowledge_base	コンプライアンスアドミニストレーターはこの設定を変更できます。 • タイプ：文字列 • デフォルト値：ガバナンス、リスク、コンプライアンス • [**Location** (場所)]： ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > プロパティ
スマートアセスメントをコントロールで有効にする sn_compliance.enable_smart_assessments	非クラシック版アセスメントエンジンを使用したコントロールアセスメントを可能にするプロパティ。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前	説明
	• タイプ：true または false • デフォルト値：false

GRC：ポリシーとコンプライアンス管理のドメインセパレーション

ドメインセパレーションでは、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

サポートレベル：ベーシック

- アプリケーションサービスプロバイダーのユースケースに合わせてデータが適切なドメインに送られるようにするビジネスロジックが存在します。
- このアプリケーションは、ドメインセパレーションを完全にサポートしています。ドメインセパレーションには、ユーザーインターフェイス、キャッシュキー、レポート、ロールアップ、および集計からのドメインの分離が含まれます。
- インスタンスのオーナーは、複数のテナント間で正常に機能するようにアプリケーションをセットアップする必要があります。

サンプルユースケース：サービスプロバイダーがチャットを使用してテナント顧客のメッセージに応答する場合、お客様がサービスプロバイダーの応答を確認できるようにする必要があります。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメインセパレーションのサポート」を参照してください。

ポリシーとコンプライアンス管理でドメインセパレーションテーブルを使用するメリット

ドメインセパレーションは、以下の顧客にとって最適です。

- ビジネスエンティティ間で絶対的なデータ分離を適用する必要がある (データ分離)。
- 各ドメインのビジネスプロセス定義とユーザーインターフェイスをカスタマイズする (委任管理)。
- 単一のインスタンスでグローバルなプロセスとグローバルなレポートを維持します。

これらのユーザーは、ドメインスコープを展開するか折りたたんで、他のドメインからのデータを表示または非表示にすることができます。

注:
ユーザーは、ドメインの可視化によって明示的に付与されたドメインのデータに常にアクセスできます。

GRC でのドメインセパレーションの処理方法

GRC はデータの分離をサポートしていますが、ロジックおよびプロセスの分離を完全にはサポートしていません。

- GRC アプリケーション内のタイプのレコードの多くは、ユーザープロセスによって自動的に生成されます。エンティティ、コントロール、リスク、インジケーター、およびコントロールテストはすべて、自動的に生成できるレコードです。自動で生成されたレコード (および手動で生成された

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC レコード) の場合、レコードのドメインは、レコードの作成または生成を担当するユーザーのドメインと同じです。

- ドメインセパレーションされた GRC 実装で作業する場合は、自動生成を念頭に置いておく必要があります。ユーザーは、適切なドメインレベルでレコードを作成および生成して、それらが適切なユーザーセットに表示されるようにする必要があります。

  たとえば、次のようなドメインがあるとします。

  ドメインセパレーション

- ドメイン A および B のユーザーによって評価されるリスクまたはコントロールがある場合は、リスクまたはコントロールをグローバルレベルで生成するか、手動で作成する必要があります。リスクまたはコントロールがドメイン B で作成された場合、インデックス作成が原因で、ドメイン A でリスクまたはコントロールを再作成することはできません。
- トップおよびドメイン A のユーザーによって評価されるリスクまたはコントロールがある場合は、ドメイン A でリスクまたはコントロールを作成できます。

リスクとコントロールがグローバルドメイン内にない限り、ユーザーは上位のドメイン内にあるリスクまたはコントロールケースを、下位のドメインのユーザーにアサインできません。上記の例では、トップドメインにコントロールがある場合、証明書のために、そのコントロールをドメイン A または B のユーザーにアサインしないでください。これらのユーザーはコントロールにアクセスできないため、証明書またはアセスメントのアンケートは生成されません。

同様に、ユーザーは、上位ドメインのコントロール目標とリスクステートメントを下位ドメインの証明書とアセスメントにアサインしないでください。アサインすると、証明書またはアセスメントアンケートが生成されません。

ユースケース

IT 用の GRC データを他の部門の GRC データから分離できます。GRC アプリケーションを使用している各ビジネスエリアは、他の部門と共有できない分離データを保有できます。そのため、各部門には独自のエンティティ、ポリシー、コントロール、リスクなどがあります。

IT ドメインからのコントロールを調べる場合、ユーザーはドメインスコープを展開してファイナンスドメインの値を表示するか、ドメインスコープを折りたたんで IT ドメインに一致するコントロールのみを表示するかを選択できます。

デフォルトでは、ドメインセパレーションは、タスク [task] および構成アイテム [cmdb_ci] テーブルとその拡張に、ドメインフィールドを追加します。

sys_domain フィールドをテーブルの辞書定義に追加することで、作成する任意の新しいテーブルにドメインセパレーションを拡張することができます。デフォルトでは、システム専用ドメインは、適切な場合に、プラットフォームとベースラインアプリケーションテーブルを分離します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> ⚠ 警告:
> ServiceNow では、予期しない結果が生じる可能性があるため、ドメインセパレーション プラットフォームテーブル (辞書エントリ [sys_dictionary] や辞書エントリオーバーライド [sys_dictionary_override] テーブルなどの sys_prefix を持つテーブル) は推奨されません。

このユースケースでは、クライアントスクリプト、ビジネスルール、ワークフロー、プロセスなどをドメインセパレーションできます。

ドメインセパレーションでの動作がマルチテナントのサポートを提供している間は、マルチテナントはまだ単一のインスタンス内に含まれています。つまり、一部のグローバルプロパティ、グローバルデータ、およびグローバルプロセスは、すべてのドメインで共有されます。たとえば、ログインページのシステムの [記憶する] オプションはグローバルであり、ドメインごとに指定できません。

すべてのシステムのプロパティを完全に分離する必要があり、グローバルレポートまたはグローバルプロセスを必要としない場合、インスタンスの分離が最適なオプションです。

ポリシーとコンプライアンス管理オブジェクトへのドメイン値の割り当て

スケジュール済みジョブまたはバックグラウンドスクリプトのいずれかによって自動的に生成されたレコードは、すべてのポリシーとコンプライアンスオブジェクトの親オブジェクトまたはユーザードメインに基づいてドメイン分離されます。同様に、エンティティに基づいて自動生成されるコントロール、リスク、またはリスクアセスメントもドメイン分離する必要があります。

ポリシーとコンプライアンス管理 テーブルに関連するマネージドサービスプロバイダーによるデータ分離を管理するために、ドメインアサインプロセスに次の変更が加えられました。

ポリシーとコンプライアンス管理 のオブジェクト	ドメインソース
ポリシー	ユーザードメイン
確認応答キャンペーン	ポリシードメイン
コントロール目標に対するポリシー	ポリシードメイン
各種法令・基準等	ユーザードメイン
信頼できるソースコンテンツ	ドキュメントドメイン
コントロール目標	ユーザードメイン
引用するコントロール目標	引用ドメイン
ポリシー例外	ユーザードメイン
ポリシー例外の承認	ポリシー例外ドメイン
ポリシー例外関連レコード	ポリシー例外ドメイン
確認応答	KB 記事ドメイン
ポリシーのカテゴリ	ユーザードメイン
ポリシー例外統合レジストリー	ユーザードメイン
ポリシー例外リスク評価マッピング	ユーザードメイン
ポリシー/規制コンプライアンスステータス	ドキュメントドメイン
理由の選択リスト	ユーザードメイン
理由の選択肢	ポリシー例外統合レジストリドメイン
分類に対する各種法令・基準等	各種法令・基準等ドメイン

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポリシーとコンプライアンス管理 のオブジェクト	ドメインソース
分類に対する引用	引用ドメイン
コントロール	エンティティドメイン
エンティティコンプライアンスステータス	エンティティドメイン
エンティティへのコントロール	Control.Entity ドメイン
アイテムに対するコントロール目標	コントロール目標ドメイン
エンティティタイプに対するコントロール目標	エンティティタイプドメイン
ポリシーからエンティティタイプ	エンティティタイプドメイン
記事テンプレート	ユーザードメイン
コンプライアンスデータソースレジストリ	ユーザードメイン

関連情報

サービスプロバイダーのドメインセパレーション

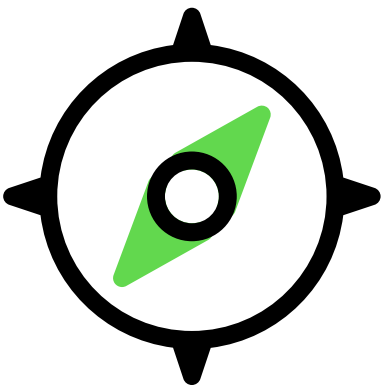
プライバシー管理

ガバナンス、リスク、コンプライアンス: プライバシー管理 アプリケーションを使用すると、統合されたデータプライバシーリスクとコンプライアンス管理ソリューション、およびプライバシーバイデザインの概念により、顧客、従業員、サプライヤーを保護できます。

プライバシー管理 アプリケーションは、一般データ保護規則 (GDPR)、カリフォルニア州消費者プライバシー法 (CCPA)、オーストラリアプライバシー法などの複数のプライバシー規制を管理するのに役立ちます。また、米国国立標準技術研究所 (NIST) や ISO 27001 などのフレームワークの管理にも役立ちます。プライバシー管理 ソリューションを使用すると、顧客と従業員の個人データを処理するためのプライバシーポリシーと確認応答を実装できます。

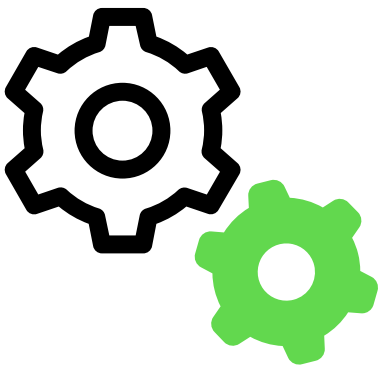
自動翻訳

探索



プライバシーマネージャー、プライバシーユーザー、およびプライバシーアドミニストレーターがプライバシー管理 アプリケーションを使用する方法について説明します。

構成



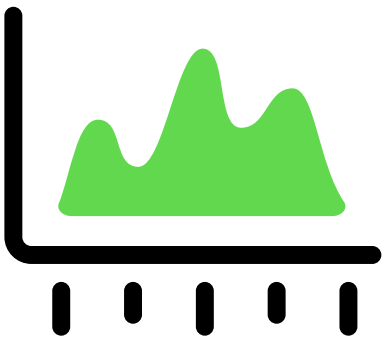
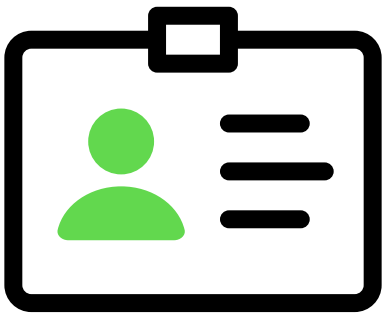
プライバシー管理 アプリケーションを構成します。

使用方法



プライバシーアセスメント、処理アクティビティなどを作成します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アナリティクスとレポート	参照	
		
ダッシュボードとレポートでプライバシーレコードを強調表示します。	テーブルやロールなどのコンポーネントに関する詳細を取得します。	

プライバシー管理 の探索

ServiceNow® プライバシー管理 アプリケーションを使用すると、会社のプライバシープログラムを管理できます。プライバシープログラムの例としては、プライバシー規制コンプライアンスプログラム、プライバシー影響度評価、プライバシーポリシー管理などがあります。

すべての組織は、何らかの形で顧客、従業員、第三者の個人データを収集します。個人データの例は次のとおりです。

- 自宅住所
- 場所データ
- ID カード番号
- 生体認証データ

組織が個人データを収集すると、所有者の同意を得ずに組織の目的のために個人データを使用したり、不注意でデータが漏洩したりするなど、複数のリスクにさらされます。これらのイベントはコンプライアンス違反につながります。データプライバシー法を遵守しない場合、多額の罰金が科され、顧客と従業員の信頼が失われる可能性があります。このデータ保護の失敗は、ブランドの評判にも影響を与えます。

プライバシー管理 アプリケーションは、一般データ保護規則 (GDPR)、カリフォルニア州消費者プライバシー法 (CCPA)、オーストラリアプライバシー法などの複数のプライバシー規制を管理するのに役立ちます。また、米国国立標準技術研究所 (NIST) や ISO 27001 などのフレームワークの管理にも役立ちます。プライバシー管理 ソリューションを使用すると、顧客と従業員の個人データを処理するためのプライバシーポリシーと確認応答を実装できます。

次に、組織のプライバシープログラムを効果的に管理するのに役立つ主要な機能を示します。

- プライバシーアセスメントのための重要なビジネスプロセス、アプリケーション、およびベンダーのインベントリを作成します。
- 各種法令・基準等、引用、コントロール目標、リスクステートメント、ポリシーなどのプライバシーライブラリのコンテンツを設定します。
- プライバシー影響度評価を管理します。
- プライバシーリスク評価を管理します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 個人情報を処理する処理アクティビティを検出します。
- 継続的な監視と問題管理機能を使用して、リスクとコンプライアンス体制を追跡する処理アクティビティを管理します。
- さまざまなダッシュボードとレポートを使用して、組織の全体的なプライバシー体制を理解して分析します。

プライバシー管理 アプリケーションは プライバシーワークスペース から入手可能です。このワークスペースには、ホームページ、タスクページ、問題の概要ページ、およびリストビューが表示されます。これらのページとリストに含まれるアイテムはすべて、プライバシー管理 アプリケーションにのみ固有です。つまり、たとえば引用文献や各種法令・基準等を表示する場合、プライバシー管理に固有のものが表示されることになります。

プライバシー管理 ソリューションは、Integrated Risk Management (IRM) スイートのアドオンとして利用できます。

処理アクティビティ

処理アクティビティは、個人データを処理するレコードです。このようなレコードの例としては、個人情報を含む組織のビジネスプロセスやビジネスアプリケーションがあります。処理アクティビティにより、プライバシー管理チームは個人情報がどのように処理または使用されているかを把握できます。

プライバシープログラムを管理するには、構成管理データベース (CMDB) のインベントリまたはレコードとして利用可能なビジネスプロセスまたはビジネスアプリケーションを使用して、処理アクティビティレコードを作成します。各ビジネスプロセスまたはアプリケーションは個別の処理アクティビティです。プライバシーチームは、個人データがどのように使用されているかを理解した後、処理アクティビティを所有するビジネスオーナーと協力して、必要なプライバシー規制に準拠することができます。

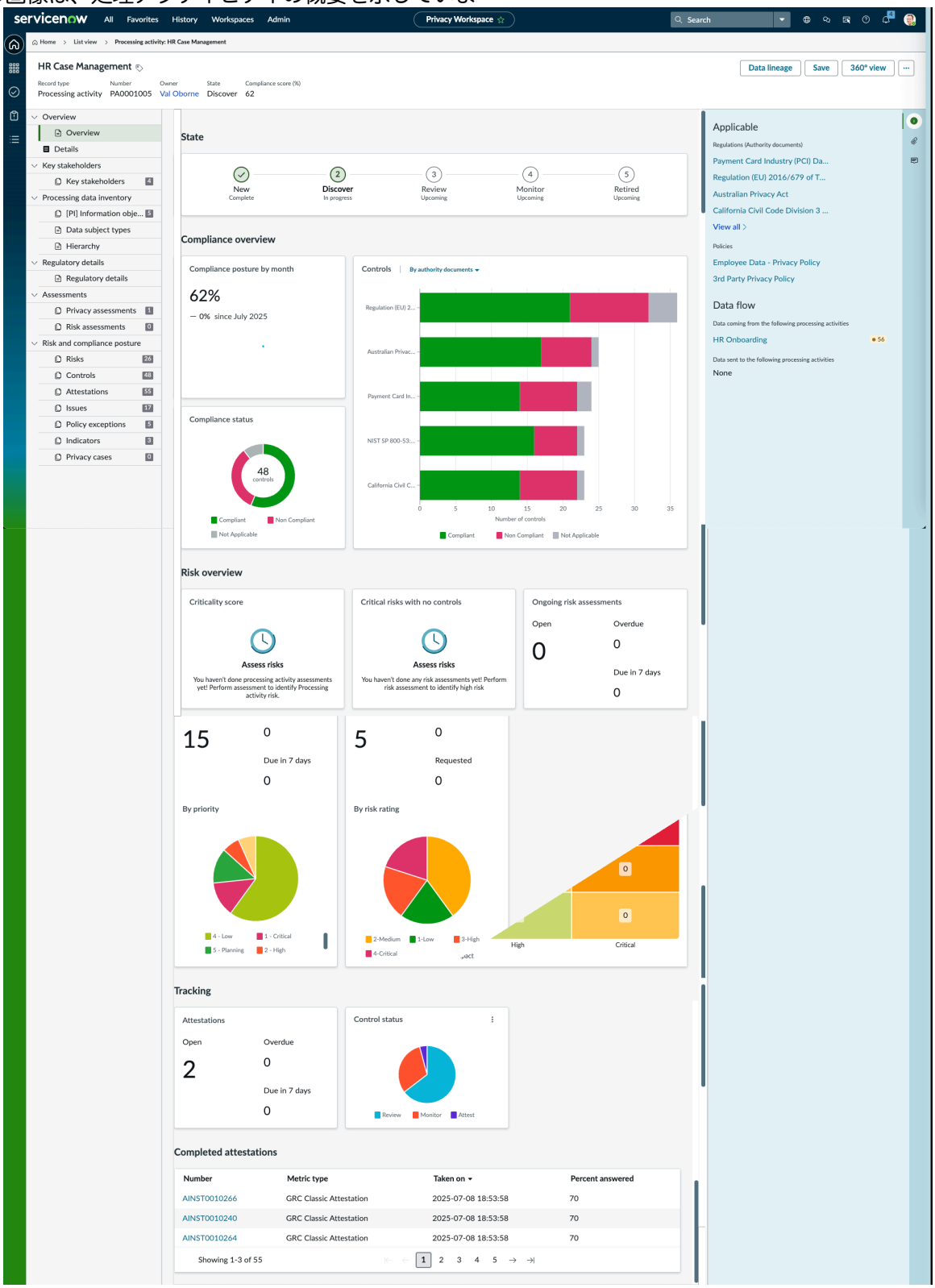
処理アクティビティには、次のタイプの情報が格納されます。

- データコントローラーとデータプロセッサーの名前と連絡先情報。
- データの機密性、データ処理の規模などの規制の詳細。
- 処理アクティビティが個人データを処理する目的。たとえば、法的根拠、法的義務などです。
- 処理中のデータ主体のカテゴリと個人データのカテゴリ。データ主体の例として、顧客や従業員があります。
- 個人データを共有する受信者。たとえば、ベンダー、サードパーティ、内部システムなどです。
- 個人データを受け取る他国の第三者および国際組織。
- 各処理アクティビティに関連するプライバシー規制、ポリシー、リスク、コントロール、および問題。
- エンティティオーナーや処理アクティビティに関与する他のユーザーなど、処理アクティビティの主要なステークホルダー。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次の画像は、処理アクティビティの概要を示していま



す。

注:
処理アクティビティの [概要] ページに表示されるポリシーとコントロールは プライバシー管理 に固有です。

処理アクティビティ階層

各処理アクティビティには、個人情報として分類された複数の情報オブジェクトが含まれます。これらのオブジェクトは他のさまざまなエンティティとデータを交換するため、個人データが共有される

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

場所を追跡するデータリネージや階層の構築が不可欠です。これを把握すると、プライバシー関連のリスクの軽減に役立ちます。

データリネージを作成するメソッド

データリネージは、次の方法で作成できます。

- 処理アクティビティの [階層] タブから。
- 処理アクティビティの [データリネージ (Data lineage)] ボタンから。詳細については、「処理アクティビティのデータリネージの作成」を参照してください。

データリネージの重要性

データリネージがなぜ重要であるかを理解するために、ヒューマンリソース (HR) 組織におけるデータ管理の次の例を検討してください。すべての HR 組織は、次のような情報を保有しています。

- 従業員レコード：氏名、住所、電話番号、メールアドレスなどの個人情報が含まれます。
- 面接候補者のレコード：候補者の氏名、面接日時などの情報が含まれます。

この例に関連するエンティティは次のとおりです。

- 人材獲得、採用担当者、人材管理チームなどの社内部門。
- 休暇、福利厚生などを追跡するための外部ツールとアプリケーション。

新規候補者が登録すると、その人の個人情報が HR 組織のデータベースに入力されます。この情報は、面接の予約のために事務スタッフと共有されます。データリネージは、さまざまなプロセスを通じたデータの流れと変換を追跡するのに役立ちます。この例では、次のようなワークフローが考えられます。

1. 候補者の登録：
   - ある個人はキャリアポータルに登録し、履歴書を提出します。
   - 候補者の氏名、メールアドレス、電話番号などの詳細が、応募者追跡システム (ATS) に入力されます。
2. 面接の予約：
   - 人材獲得チームは面接の候補者を選択し、カレンダーアプリケーションに面接日時を入力します。
   - カレンダーアプリケーションから、面接の詳細が記載されたメールが候補者に送信されます。
3. 面接の実施：
   - 採用担当者は、ATS で候補者のプロファイルにアクセスし、履歴書を確認して面接を実施します。
   - 面接の後、候補者の ATS プロファイルにフィードバックを追加します。
4. 採用プロセス：
   - 候補者の採用が決定されます。
   - 候補者の詳細が ATS から HR データベースに転送され、追加情報が収集されて更新されます。
   - HR データベースは、他の外部アプリケーションを使用して、休暇レコードや福利厚生情報を含む候補者の従業員プロファイルを作成します。

データリネージを確立することで、HR 組織は各個人データの発生元、処理方法、共有場所を追跡できます。データフローを理解することは、データが共有される任意の時点での不正アクセスやデータ侵害などの潜在的なプライバシーリスクを特定するのに役立ちます。このようにデータリネージを

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

確立することで、HR 組織は個人データが交換されるすべての場所を確実に認識できます。この理解は、プライバシー関連のリスクを軽減するための適切な保護手段を実装するのに役立ちます。

[データリネージ **(data lineage)**] ページに表示される情報

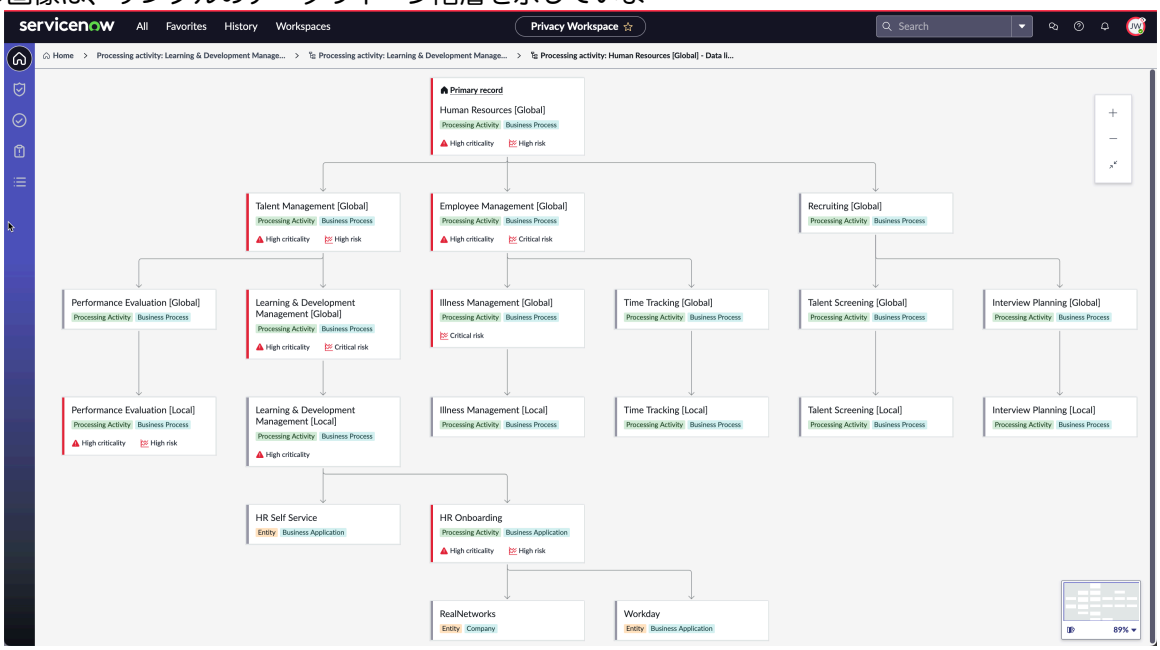
データフローの関係を確立すると、[データリネージ (data lineage)] ページの右側のペインに次の重要な情報が表示されます。

- 処理アクティビティとその所有者およびタイプの説明。
- スコアが [高] の場合の処理アクティビティの重要度スコア。
- スコアが [高] および [重大] の場合の処理アクティビティのリスク評価。
- 処理アクティビティのコンプライアンススコア。
- オープン中の問題の数。
- オープン中の重大な問題の数。
- 進行中のアセスメント。

選択した CMDB レコードに既に処理アクティビティがリンクされている場合、その情報は階層の作成中にも表示されます。個人情報のオブジェクトのロールアップを表示するためのトグルスイッチ [ロールアップを表示 **(View roll-up)**] が提供されています。このスイッチをオンにすると、選択した資産とそれに関連付けられた宛先に関連付けられた個人情報オブジェクトが表示されます。

データリネージの例

次の画像は、サンプルのデータリネージ階層を示していま



す。

関連情報

処理アクティビティのデータリネージの作成

従来のプライバシーアセスメント

プライバシーアセスメントは、ビジネスオーナーから情報を収集するために使用されます。この情報は、プライバシーチームが処理アクティビティで個人情報 (PI) がどのように使用または保存されているかを理解するのに役立ちます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

プライバシーアセスメント機能を使用すると、さまざまなタイプのアセスメントを構成し、それらのアセスメントをビジネスプロセスまたはビジネスアプリケーションオーナーに送信して応答を収集できます。構成できるアセスメントの例は次のとおりです。

- プライバシースクリーニング初期アセスメント
- プライバシー影響度評価 (PIA)
- プライバシー準備状況アセスメント

プライバシーアセスメントが開始されると、ビジネスオーナーはアセスメントの質問に回答します。この回答により、システム内に処理アクティビティが自動的に作成されます。必要なコントロールと情報オブジェクトが処理アクティビティに自動的にマッピングされます。

プライバシーアセスメント機能には、次のような複数の構成オプションがあります。

- シンプルなユーザーインターフェイスを使用してさまざまなタイプの質問を設定します。
- アセスメントの回答を使用して処理アクティビティの作成を設定します。
- 質問の回答にコントロールをマッピングして、コントロールを処理アクティビティに自動的にマップする回答を決定します。
- 応答の [PI] 情報オブジェクトを構成して、情報オブジェクトを処理アクティビティに自動的にマッピングします。詳細については、「プライバシー管理 の情報オブジェクト」を参照してください。
- 質問の回答を処理アクティビティフィールドにマッピングして、処理アクティビティに必要なデータを自動的に入力します。

でのスマートアセスメント プライバシー管理

プライバシー管理 の新しい改善されたアセスメントエクスペリエンスでは、スマートアセスメントエンジン (SAE) アプリケーションを使用します。アセスメントエンジンを使用すると、プライバシースクリーニングとプライバシー影響度評価を実行して、プライバシーチームに必要な情報を収集できます。

プライバシー管理では、アセスメントが重要な役割を果たします。アセスメントには 2 つのタイプがあります。

- プライバシースクリーニングアセスメント:プライバシースクリーニングアセスメントは、処理アクティビティに個人データが含まれているかどうか、およびそれがプライバシーリスクをもたらす可能性があるかどうかを判断するために使用される予備評価です。これは、プライバシー影響度評価 (PIA) などのより詳細なプライバシーレビューが必要かどうかを判断するために実施される高レベルのレビューです。たとえば、新しいビジネスアプリケーションまたはプロセスを作成する場合、プライバシーチームは、アプリケーションまたはビジネスプロセスが個人データを処理するかどうかを理解する必要があります。これを決定するために、スクリーニングアセスメントがビジネスアプリケーションまたはビジネスプロセスのオーナーに送信されます。アセスメントがプライバシーマネージャーによって承認されると、処理アクティビティが作成されます。
- プライバシー影響度評価:スクリーニングアセスメントが実行された後、応答に基づいてプライバシー影響度評価が生成される場合があります。プライバシー影響度評価は、ビジネスアプリケーション、システム、またはプロセスが個人データのプライバシーにどのように影響するかを包括的に評価します。処理アクティビティに関連するプライバシーリスクを評価し、これらのリスクを軽減するための対策を特定します。プライバシー影響度評価が実行されるたびに、リスクが再検討され、リスクスコアが変更されたかどうかが判断されます。これにより、プライバシーチームは警戒を怠らず、必要に応じてリスクに対処できます。

これらのアセスメントを実行するには、 スマートアセスメントエンジン アプリケーションを使用できます。このアプリケーションには、テンプレート、ワークフロー、質問のガイダンスの構成、実用的なインサイトを含むアセスメント結果のレビューなど、いくつかのメリットがあります。スマート

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントエンジンアプリケーションの詳細については、「スマートアセスメントエンジン の探索」を参照してください。

> **注:**
> スマートアセスメントエンジンを使用するには、システムのプロパティの下にある *sn_privacy.enable_smart_assessment*プロパティを有効にする必要があります。

新しいアセスメントエクスペリエンスを使用するメリット

新しいアセスメントエクスペリエンスには次のメリットがあります。

- アセスメント中に必要なすべての情報を取得することで、処理アクティビティに詳細を手動で追加する必要がなくなります。
- データの階層またはフローをキャプチャし、データの取得元と送信先を指定します。
- データの収集と処理の法的根拠を収集します。
- 質問を論理的にグループ化するための複数のセクションを作成します
- 古いシステムからアセスメントを移行します。
- 質問に対するインラインガイダンスを提供します。
- アセスメントを適切なレスポンダーに再アサインします。
- 高度に構成可能なテンプレートを作成します。

アセスメントテンプレートのタイプ

スクリーニングと影響度評価を実行するには、アセスメントテンプレートが必要です。アセスメントテンプレートは スマートアセスメントエンジンに基づいていますが、 プライバシー管理のユーザー向けにいくつかの追加の構成が提供されています。Zurich リリース以降、スマートアセスメントを実行するためのプライバシースクリーニングアセスメント **[V4]** とプライバシー影響度評価 **[V4]** の 2 つのアセスメントテンプレートが提供されています。プライバシースクリーニングアセスメント **[V3]** および プライバシー影響度評価 **[V3]** テンプレートも利用できます。これらのテンプレートと追加の構成の重要な違いについて、以下で説明します。

プライバシースクリーニングアセスメント

Zurich リリース以降、プライバシースクリーニングアセスメント用の新しいテンプレート (プライバシースクリーニングアセスメント [V4]) を利用できます。

スクリーニングアセスメントテンプレートには、次の 3 つのセクションがあります。

- 全般:このセクションでは、アセスメントテンプレートカテゴリを プライバシーカテゴリ として指定し、アセスメントターゲットも指定します。スクリーニングアセスメントの場合、アセスメントターゲットはエンティティとプライバシータスクです。
- 質問:このセクションには、アセスメント回答者向けの質問が含まれています。このセクションには、データ主体またはエンティティに関する特定の属性または特性を表す単一の情報単位であるデータ要素も含まれています。データ要素の例としては、名前、メールアドレス、生年月日などがあります。このセクションには、「 重要度係数 」というタイトルのセクションもあり、これらの質問は重要度スコアの計算に使用されます。
- 自動化:このセクションでは、質問への回答に基づいて処理アクティビティを自動作成できるようにするルールを定義できます。このセクションでは ワークフロースタジオを使用します。これらの自動化は、関連する質問にマッピングされます。自動化により、ユーザーの応答に基づくリスクステートメントやコントロール目標の適用など、さまざまなプロセスが簡素化されます。ユーザーがアセスメント中に特定の回答を選択すると、適切なリスクとコントロールが関連レコードに自動的に適用されま

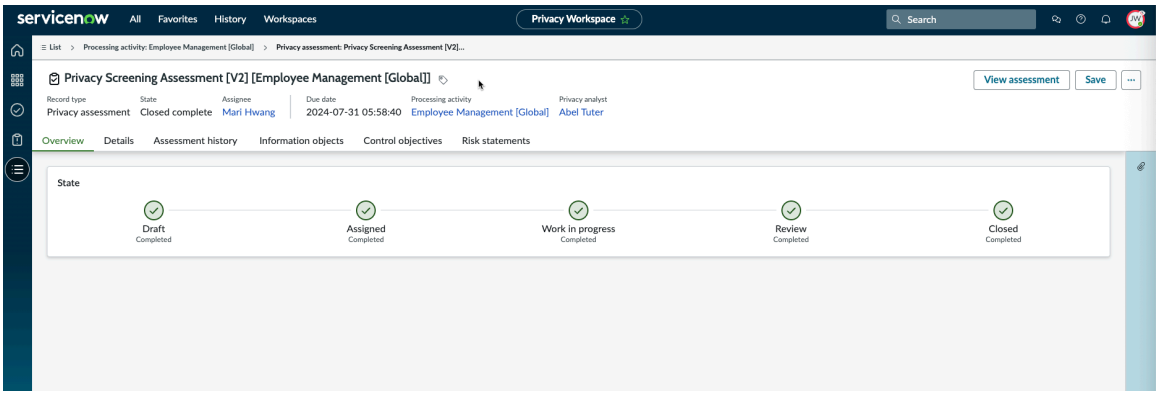
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

す。たとえば、明示的な同意がある場合にのみ個人データを EU 外に転送できるという組織のポリシーを考えてみましょう。アセスメント中に、データが EU 外に転送されていることをユーザーが示すと、システムはデータ転送リスクを処理アクティビティに自動的に適用します:特定されたリスクを軽減するためのコントロールとして明示的な同意をアサインします。この自動化により、一貫性が確保され、時間が節約され、リスクとコントロールの管理における人為的ミスの可能性が減少します。

スクリーニングアセスメントテンプレートの構成方法の詳細については、「スクリーニングアセスメント用のスマートアセスメントテンプレートの構成」を参照してください。

プライバシースクリーニングアセスメント

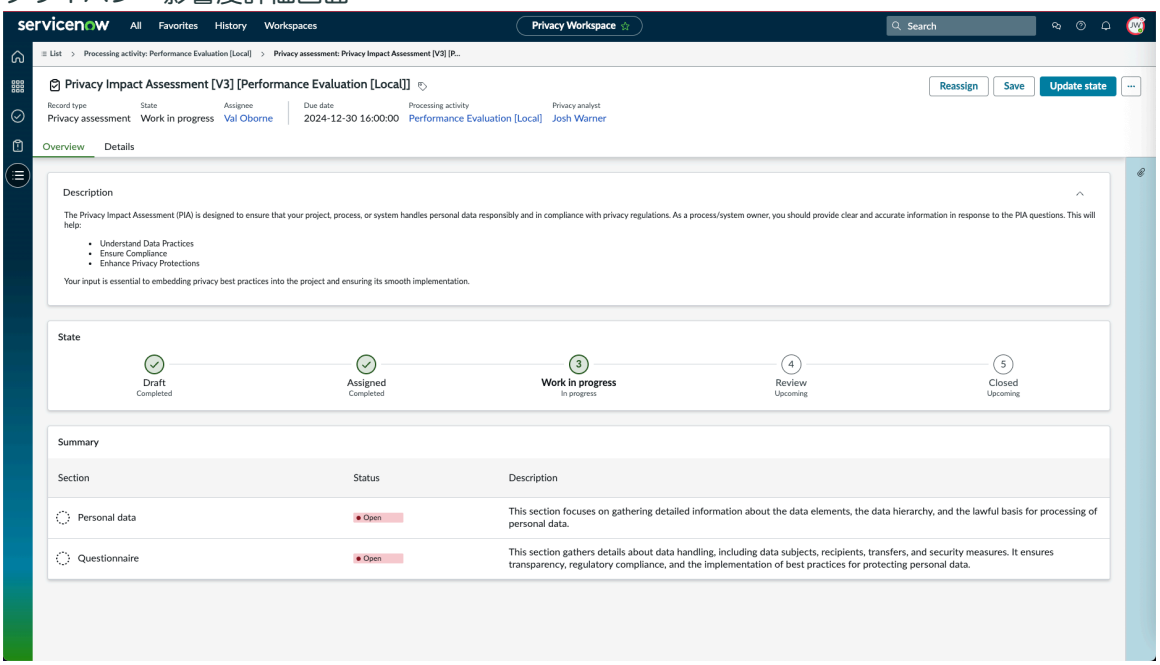


プライバシー影響度評価

Yokohama リリース以降、プライバシー影響度評価用の新しいテンプレート (プライバシー影響度評価 [V4]) を利用できます。

スクリーニングアセスメントテンプレートのようなプライバシー影響度評価テンプレートには [概要] セクションと [詳細] セクションがあり、デフォルトでは [自動化] セクションは存在しますが、事前定義された自動化は含まれていません。必要に応じて自動化を追加できます。影響度評価テンプレートの場合は、アンケートとは別に個人データ要素を追加できます。影響度評価テンプレートの構成方法の詳細については、「影響度評価のためのスマートアセスメントテンプレートの構成」を参照してください。

プライバシー影響度評価画面



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
アセスメントには公開されたテンプレートのみを使用できます。

アセスメントのレビュー

プライバシーアナリストは、アセスメントを受け取ると、そのアセスメントをレビューします。レビュー中に、アセスメントのリビジョンを要求するか、直接承認することができます。[レビュー] ステータスの間、プライバシーマネージャーは次のアイテムを表示できます。

- 情報オブジェクト:[情報オブジェクト] タブには、スクリーニングアセスメントの一部として識別された情報オブジェクトが表示されます。
- 階層:データの取得元と移動先の階層。
- 結果:[結果] タブには、アセスメントに関連付けられたリスクステートメントとコントロール目標が表示されます。

関連情報

アセスメントテンプレートに手順と質問を追加する

プライバシー管理 でのリスクアセスメント

処理アクティビティに対してリスクアセスメントを実行して、リスクスコアを確認し、組織のプライバシーリスク体制を調べることができます。

リスク体制を理解するために、次のアセスメントが実行されます。

重要度アセスメント

重要度アセスメントでは、リスクアセスメントを使用して処理アクティビティの初期リスクレベルを判断します。結果の重要度スコアを使用して、プライバシーチームはそれに応じてアクティビティに優先順位を付けたり、優先順位を下げたりすることができます。重要度要因の例としては、アセスメントの質問が、重要な意思決定に影響を与える方法や影響力のある自律的な意思決定を可能にする方法で個人データが処理されているかどうかを特定するのに役立つ場合があります。

重要度アセスメントは、次の 2 つの方法のいずれかを使用して実行できます。

手動による重要度アセスメント

手動での方法を使用すると、プライバシーマネージャーは処理アクティビティから重要度アセスメントを開始できます。既に処理アクティビティで作業していて、その重要度を評価する場合は、ユーザーインターフェイスの [重要度を評価] アクションを使用して、このアセスメントを手動でトリガーできます。重要度アセスメントをトリガーすると、処理アクティビティフォームのフィールドで既に利用可能な情報に基づいて重要度スコアが自動的に計算されます。処理アクティビティの [規制の詳細] タブで、リスク関連の詳細を入力できます。これらの情報を入力した後、重要度アセスメントをトリガーすると、これらの値を使用してリスクスコアが計算されます。手動でトリガーされた場合、重要度スコアは複数回計算できます。毎回、処理アクティビティフィールドと規制の詳細に入力された最新のデータが使用されます。

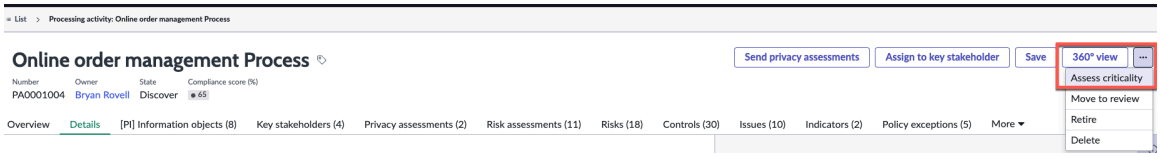
重要度アセスメントの自動化

プライバシーマネージャーは、自動化されたメソッドを使用して、デフォルトで提供されている 自動重要度要素 リスクアセスメント方法論 (RAM) を使用して、処理アクティビティの重要度スコアを計算します。プライバシーマネージャーは、この RAM を使用する前に公開する必要があります。デフォルトでは、RAM は [ドラフト] ステータスで提供されます。ユーザーがスクリーニングアセスメントを実行すると、重要度やリスクアセスメントに関連する質問など、いくつかの質問に回答するように求められます。スクリーニングアセスメント中にユーザーがこれらの重要度関連の質問に回答すると、重要度リスクスコアが自動的に計算されます。ユーザーが処理アクティビティに進

自動翻訳

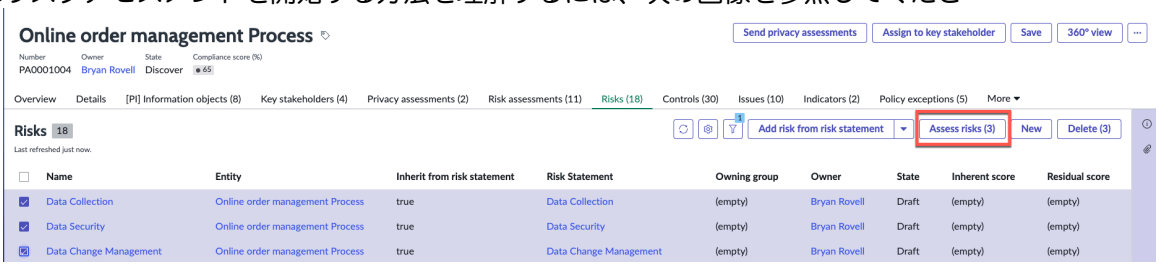
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

むと、計算されたスコアが [概要] ページに表示されます。一度にサポートされる RAM は 2 つしかないため、他の既存の重要度要因 RAM を非アクティブ化する必要があります。既存の重要度要素 RAM が非アクティブになると、その RAM に関連付けられている進行中のすべてのリスクアセスメントがキャンセルされることに注意してください。



プライバシーリスクアセスメント

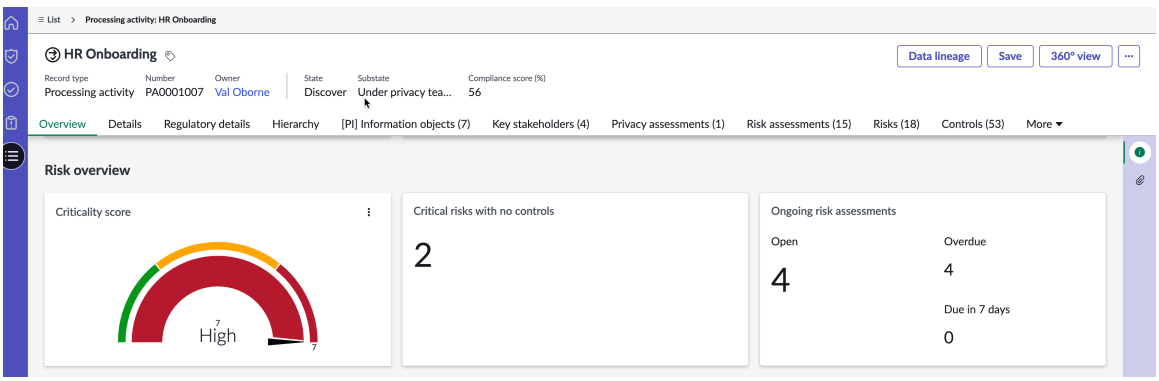
プライバシーリスクアセスメントは、重要度スコアが高い場合に実施される詳細なアセスメントです。処理アクティビティに関連付けられている各リスクを評価し、処理アクティビティの集計リスクスコアを把握します。プライバシーリスクを評価した後、[概要] セクションのリスクヒートマップでプライバシーリスク体制を表示できます。ヒートマップは、固有のリスクと残存リスクに関する詳細な情報を提供します。詳細なリスクアセスメントを開始する方法を理解するには、次の画像を参照してください。



リスクヒートマップスコア

リスクアセスメントの結果とリスクヒートマップは、次の画像に示すように、処理アクティビティのホームページに表示されます。

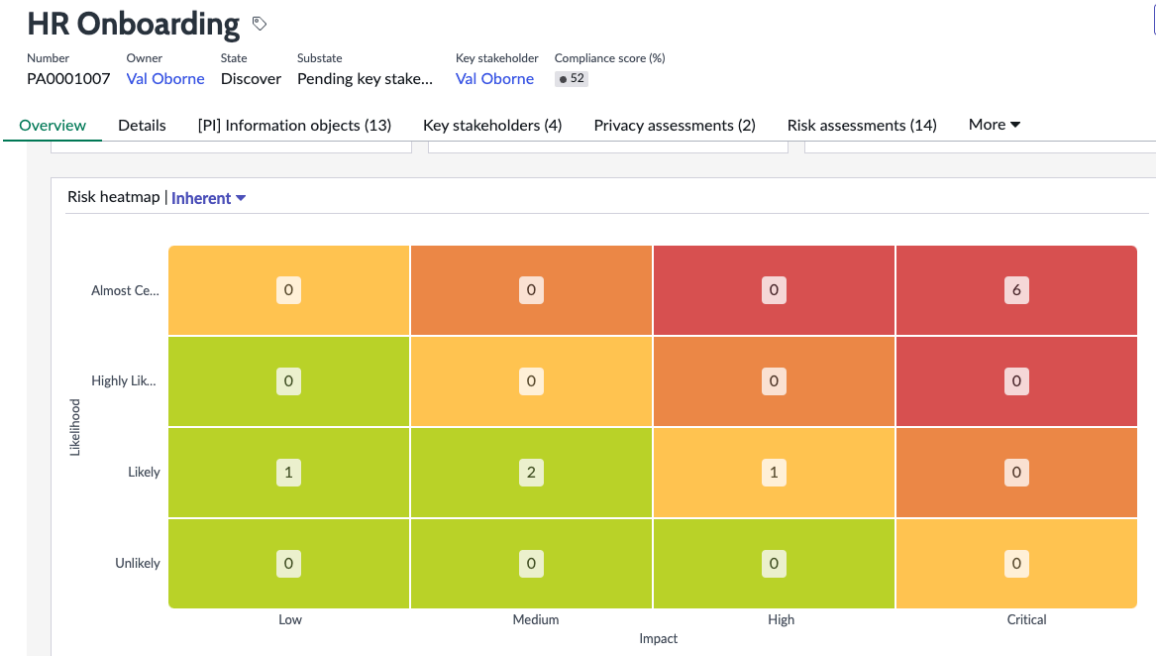
処理アクティビティのリスクスコア



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

処理アクティビティのリスクヒートマップ



リスクアセスメントの実行方法の詳細については、「プライバシーアセスメントの構成」を参照してください。

リスクアセスメント方法論 **(RAM)**

リスクアセスメント方法論 (RAM) は、データ処理アクティビティに関連するプライバシーリスクを特定、評価、軽減するための体系的で反復可能なアプローチを提供します。

RAM は、データ処理プラクティスにおける説明責任を確立するための中心であり、リスク管理を日常業務に組み込むことで規制コンプライアンスをサポートします。プライバシーおよびコンプライアンスチームがデータ処理リスクを評価し、システム全体のエクスポージャーを特定し、それらのリスクを軽減するためのタイムリーな戦略を実装するのに役立ちます。組織がますます複雑化する規制環境で運用されるにつれて、この方法論は、リスクが一貫して評価され、透明性を持って文書化されていることが確認されています。

独自の RAM の設定については、「 リスクアセスメント方法の作成」を参照してください。

ベースリスクアセスメント方法

プライバシー管理 アプリケーションは、次の RAM をドラフトステータスで提供します。

- 自動重要度要素
- 重要度アセスメント
- プライバシーリスクアセスメント

注:
Yokohama リリース以降、最大 3 つのリスクアセスメント方法を公開できます。

プライバシーアセスメントの構成

処理アクティビティの重要度とプライバシーリスクアセスメントを実行するために、デフォルトで 2 つのリスクアセスメント方法論 (RAM) が提供されます。

RAM は、リスクアセスメントエンジンの構成またはレコードです。これは 高度なリスク アプリケーションの一部です。RAM は、組織内のリスクまたはオブジェクトを評価するために使用されます。構成された RAM は、要素が関連付けられたアセスメントタイプを関連付けられたオブジェクト

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

です。これにより、組織はリスクを評価するためのさまざまな方法を使用できます。アセスメントで使用される要素または質問の詳細については、「高度なリスクアセスメントの要素」を参照してください。

プライバシー固有の RAM レコードでは、[ドメイン] フィールドが [プライバシー] に設定されています。プライバシーアドミニストレーターは、デフォルトの RAM のコピーを作成して変更できます。RAM 構成の詳細については、「リスクアセスメント方法論を構成」を参照してください。RAM のコピーを作成する方法を理解するには、「リスクアセスメント方法論をコピー」を参照してください。

注:
一度に使用できる RAM は 2 つしかないため、重要度の自動化を利用するには、古い重要度 RAM を廃止し、新しい RAM を公開する必要があります。

リスクアセスメントを実行するときは、次の点を考慮することが重要です。

- [プライバシー] ドメインでは、RAM のみを変更できます。RAM の作成は許可されていません。
- アクティブな RAM は 2 つだけ許可されます。2 つを超える RAM をコピーまたは変更する必要がある場合は、1 つを廃止する必要があります。
- RAM は構成可能であり、その順序は要件に応じて変更できます。
- 次のロールを持つユーザーは、プライバシー関連の重要度アセスメントと詳細なプライバシーリスクアセスメントを実行できます。
  - プライバシービジネスユーザー (sn_privacy.business_user)
  - 処理アクティビティを所有するプライバシーアナリスト
  - プライバシーアセスメントレスポンダー (sn_privacy.assessment_responder)
  - プライバシーマネージャー (sn_privacy.manager)

プライバシー管理 の情報オブジェクト

情報オブジェクトの目的は、アプリケーションとデータベースの間で交換されるデータのタイプを論理的に記述することです。

個人データを処理する情報オブジェクトを決定するために、情報オブジェクトを 個人情報として分類することができます。情報オブジェクトを分類する方法の詳細については、 情報オブジェクトを個人情報として分類を参照してください。

情報オブジェクトが作成されると、ビジネスアプリケーションまたはビジネスプロセスにマッピングされます。このアクティビティは、プライバシー管理チームが個人データを処理する情報オブジェクトを検出するのに役立ちます。プライバシー管理 の [PI] 情報オブジェクトの例をいくつか示します。

- メールアドレス
- 銀行口座番号
- 教育の詳細
- 個人用メールアドレス

情報オブジェクトカテゴリの作成

情報オブジェクトカテゴリは、情報オブジェクトを体系的に分類する方法を提供し、規制要件への整合を容易にします。たとえば、規制当局は、虹彩スキャンや指紋などの属性を生体認証データのカテゴリにグループ化することがよくあります。同様に、メールアドレスと電話番号は通常、連絡先情報として分類されます。規制当局はこれらの広範な分類に重点を置いていますが、ビジネスユーザーは通常、包括的なカテゴリではなく、個々のデータ要素を参照します。このようなシナリオでは、情報

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オブジェクトカテゴリは、これらのデータ要素をそれぞれのより広範なカテゴリに整理して分類するためのフレームワークとして機能します。

また、規制当局が特定のカテゴリの新しいデータ要素を特定した場合、プライバシー管理者はそのデータ要素をデータカテゴリに追加するだけで、すべての評価が更新されます。この機能により時間を節約でき、新しい情報オブジェクトをアセスメントに手動で追加する必要がありません。情報オブジェクトカテゴリの構成方法については、「 情報オブジェクトカテゴリの構成」を参照してください。

情報オブジェクトは手動で作成できます。「情報オブジェクトを作成」を参照してください。

プライバシーマネージャー向けのプライバシーワークスペース

プライバシー管理ダッシュボードは、組織内のプライバシー関連のデータ処理アクティビティを監視および管理するための一元化されたインターフェイスを提供します。

ビジュアルダッシュボードは、進行中の処理アクティビティに関するインサイトを提供します。プライバシーマネージャーとコンプライアンス責任者は、潜在的なコンプライアンスリスクを特定できます。データプライバシーイニシアチブをより効果的に管理できます。

プライバシーマネージャーは、会社のポリシーと規制を作成し、維持します。プライバシーマネージャーには、sn_privacy.manager ロールがあります。プライバシーマネージャーは次のことを行います。

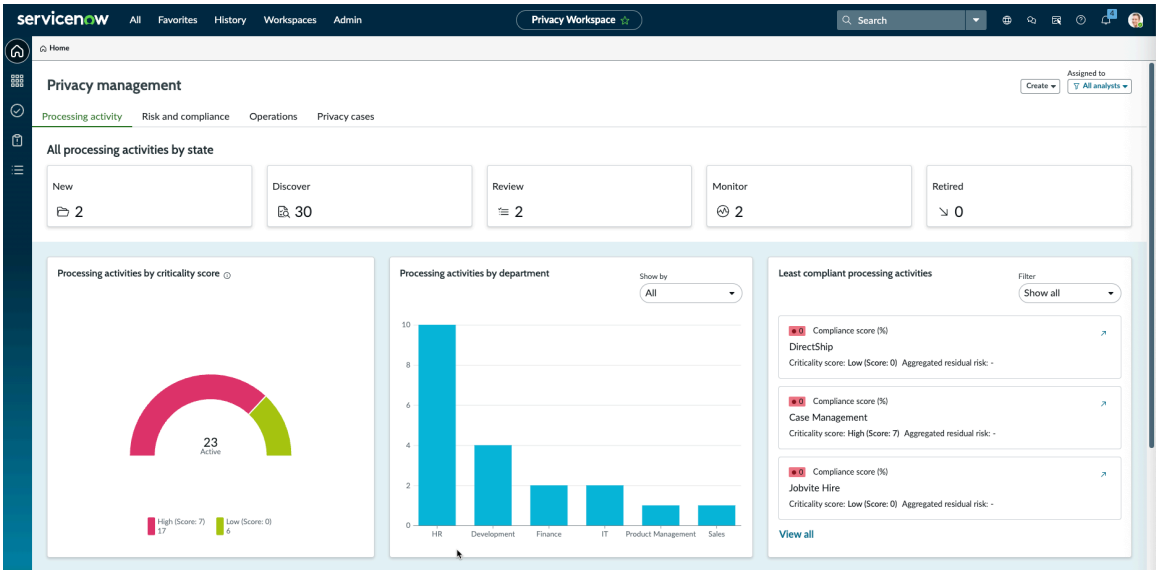
- 組織レベルの全体的なプライバシーリスクとコンプライアンス体制を管理および監視します。リスクとコンプライアンスの体制は、組織のリスクとコンプライアンスの全体的なステータスを表します。ビジネスプロセス、ビジネスアプリケーション、および関連領域にまたがっています。アセスメントは、リスクスコアとコントロールのコンプライアンスステータスに基づいています。評価には、さまざまな規制の準拠コントロールと非準拠コントロールの両方が含まれます。
- プライバシー規制、各種法令・基準等、ポリシー、プライバシーリスクステートメントを作成して実装します。
- プライバシーの規制要件とポリシーを確認します。
- プライバシー規制および内部ポリシーの違反に対処するためのリスクとコントロールを設計および監視します。
- プライバシープログラムとスコープエンティティを計画します。
- プライバシー影響度評価テンプレートを作成します。
- プライバシーリスクアセスメントを実行して、処理アクティビティの重要度を理解します。
- コントロールの有効性を継続的に監視し、効果的な改善を提案します。
- プライバシーコンプライアンスチームを監督します。
- コンプライアンス体制をアドミニストレーターと取締役会に報告します。

次の画像は、プライバシーマネージャーのホームページを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プライバシー管理ホームページ



[処理アクティビティ] タブ

プライバシー管理ダッシュボードの [処理アクティビティ] タブには、組織全体のすべてのデータ処理アクティビティの包括的なリアルタイムの概要が表示されます。

プライバシー管理ダッシュボードの [処理アクティビティ] タブは、プライバシーチーム、コンプライアンス責任者、およびデータ保護の専門家をサポートしています。このダッシュボードは、主要なメトリクスと可視化を統合して、処理アクティビティのステータス、重要度、コンプライアンスレベル、および分類を追跡します。

ダッシュボードは、チャート、グラフ、フィルターを通じて直感的なインサイトを提供することで、データプライバシー義務のプロアクティブな管理を可能にし、規制要件に沿った情報に基づいた意思決定を促進します。ウィジェットのフィルターとドロップダウンリストを使用して、設定に基づいてビューをカスタマイズできます。

このダッシュボードには、次のウィジェットが表示されます。

ステータス別処理アクティビティ

このセクションには、現在のワークフロー状況 (新規、検出、レビュー、監視、および廃止) 別に分類された処理アクティビティの概要が表示されます。各ステータスブロックには、ボリュームの概要がすばやく表示され、フィルタリングされたアクティビティリストに直接移動できます。

重要度スコア別の処理アクティビティ

ゲージグラフには、アクティブな処理アクティビティの合計数が重要度スコア (高および低) 別にセグメント別に表示されます。このチャートにより、ステークホルダーは規制リスク分類レベルに基づいて作業に優先順位を付けることができます。

[規制の詳細] の重要度要素が [はい] とマークされ、重要度が評価されると、処理アクティビティの重要度スコアは [高] に設定されます。すべての要素が「いいえ」と答えた場合、スコアは「低」です。スコアは、自動重要度係数 RAM を使用して決定され、要件に従って構成できます。

部門別の処理アクティビティ

棒グラフには、さまざまな部門の処理アクティビティのブレークダウンが表示されます。これにより、プライバシー管理の配布に対する部門の説明責任と可視化が可能になります。重要度スコアでフィルタリングして、さまざまな部門にまたがる処理アクティビティの重要度スコアを表示することもできます。

準拠度が最も低い処理アクティビティ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このウィジェットは、リストビューでコンプライアンススコアが最も低いアクティビティをハイライト表示します。各エントリには、重要度スコアと集計された残存リスクが表示されます。フィルターを使用すると、アナリストは、コンプライアンススコアが低く重要度スコアが高い、またはコンプライアンスが低く集計された残存リスクが高い処理アクティビティに集中できます。

データ主体タイプ別処理アクティビティ

棒グラフは、従業員、候補者、顧客、内部スタッフ、応募者などのデータ主体タイプ別にグループ化されたアクティビティを示しています。これは、処理アクティビティに最も関与しているデータ主体のカテゴリを評価し、これらのデータ主体のデータを保護するための適切な措置を講じるのに役立ちます。フィルターを適用して、特に脆弱なデータ主体に焦点を当てることができます。

情報オブジェクトカテゴリ別の処理アクティビティ

棒グラフは、処理されたデータのタイプに基づく分類を示します。分類は、処理に最も関与するデータタイプの識別をサポートします。また、機密情報オブジェクト (IO カテゴリ) によるフィルタリングも可能になり、プライバシーチームがデータタイプを特定し、データを保護するための適切な対策を実装するのに役立ちます。

処理アクティビティタイプ

円グラフは、処理アクティビティの作成元となる基礎となるレコード (エンティティタイプ) を示します。この分類は、ビジネス機能とテクノロジープラットフォーム全体のプライバシーイニシアチブの範囲を決定するのに役立ちます。

データ処理ロール別の処理アクティビティ

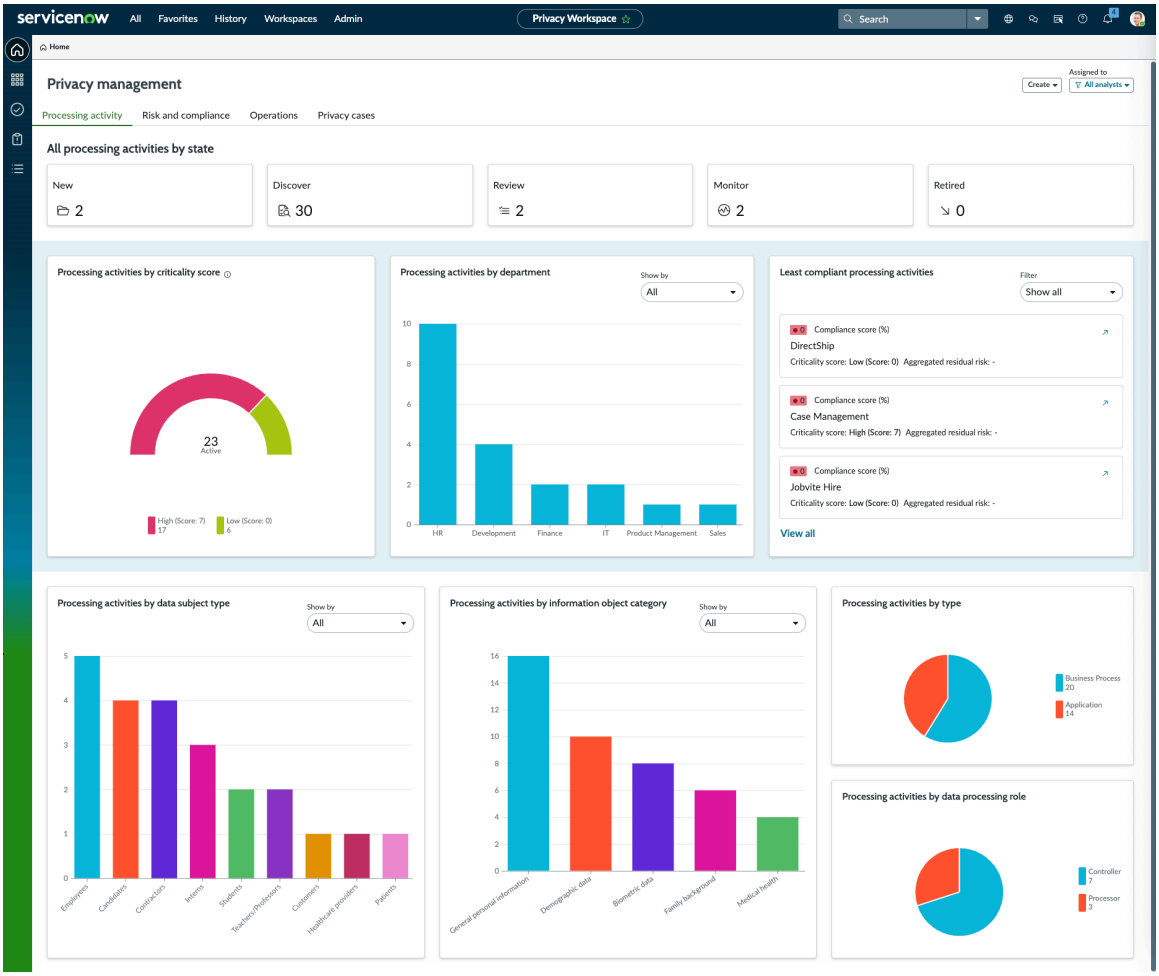
円グラフには、コントローラーやプロセッサーなど、データ処理で行われるロールが表示されます。処理アクティビティで果たす役割を明確にすることは、責任を割り当て、法的要件を満たすために不可欠です。

次の画像は、処理アクティビティダッシュボードを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[処理アクティビティ] タブ



[リスクとコンプライアンス] タブ

プライバシー管理ダッシュボードの [リスクとコンプライアンス (Risk and compliance)] タブでは、プライバシー関連のリスクエクスポージャーと規制コンプライアンスのパフォーマンスを一元的に表示できます。

プライバシー管理ダッシュボードの [リスクとコンプライアンス] タブを使用すると、組織は組織内のプライバシープログラムのリスクとコンプライアンス体制を監視できます。これは、現在のプライバシーコントロールが、特定されたリスクを軽減し、コンプライアンスをサポートする上でどの程度効果的であるかを評価するのに役立ちます。

このダッシュボードを使用すると、チームは NIST SP 800-53 や EU GDPR などの主要な規制フレームワークへの準拠を追跡できます。ダッシュボードには、ヒートマップ、コンプライアンススコア、注意が必要なコントロール目標のサマリーなど、データを直感的に可視化して表示されます。これらのビジュアルにより、組織全体のリスクエクスポージャーとコンプライアンスギャップに関するインサイトが即座に得られます。プライバシーチームは、リアルタイムデータに基づいてリスクの高い領域を特定し、修復タスクに優先度を割り当てることができます。

ダッシュボードは、要件の進化や新しいリスクの発生に応じて、継続的な規制の調整を確認するのにも役立ちます。リスクとコンプライアンスのインサイトを 1 つのビューに統合することで、プライバシー機能全体でより迅速な意思決定と説明責任の向上をサポートします。

視覚化とデータ主導のレイアウトは、プライバシーチームの情報に基づいた意思決定をサポートし、業界標準と法的義務の遵守を確認します。このダッシュボードには、次のウィジェットが表示されます。

- リスク概要

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このドーナツグラフには、さまざまな集計されたリスクレベルにわたる処理アクティビティの分布が表示されます。デフォルトでは、分布は集計された残存リスクスコアに基づいています。ただし、代わりにフィルターを適用して、集計された固有リスク分類に基づいて分布を表示することができます。各アクティビティは、関連するリスクレベルによって色分けされています。

リスクヒートマップウィジェットには、各処理アクティビティ内で特定されたすべてのリスクが可視化されて表示されます。デフォルトでは、残存リスクフィルターが適用されますが、固有リスクレベルに基づいてフィルタリングできます。ヒートマップがセグメント化され、フィルターに基づいてセグメンテーションが変更されます。アクティビティは、リスクとコントロールの有効性、または影響度と可能性のそれぞれの組み合わせに該当します。この組み合わせは、選択したリスク分類フィルターに基づきます。

コンプライアンスの概要

このセクションでは、NIST SP 800-53 や GDPR などのさまざまな規制フレームワークにわたるコンプライアンス体制をまとめています。また、統合ビューも提供します。特定の各種法令・基準等でコンプライアンス情報をフィルタリングできます。ポリシーでデータをフィルタリングすると、プライバシーポリシー全体のコンプライアンス体制が表示されます。たとえば、従業員データのプライバシーポリシー、顧客データのプライバシーポリシー、サードパーティのプライバシーポリシーなどです。ドロップダウンフィルターで適切な各種法令・基準等またはポリシーを選択して、コンプライアンススコアを表示します。

`sn_privacy.highlighted_policy` および `sn_privacy.highlighted_authority_document` プロパティを使用して、このウィジェットに表示される上位 2 つのポリシーと各種法令・基準等を構成します。

注意が必要なコントロール目標

このセクションでは、影響を受ける処理アクティビティの数とともに、即時の修復が必要な特定のコントロール目標を強調します。各コントロール目標は、詳細なレビューのためにハイパーリンクされています。

規制変更管理

アクティビティの概要ウィジェットには、規制の更新によってトリガーされた変更関連アクティビティのステータスが表示されます。各セグメントは、ステータスベースの色分けされたドーナツグラフを使用して表されます。

影響度評価ウィジェットには、規制アセスメントに関連する進行中の影響度評価が表示されます。ドロップダウンメニューでは、アセスメントカテゴリを変更できます。

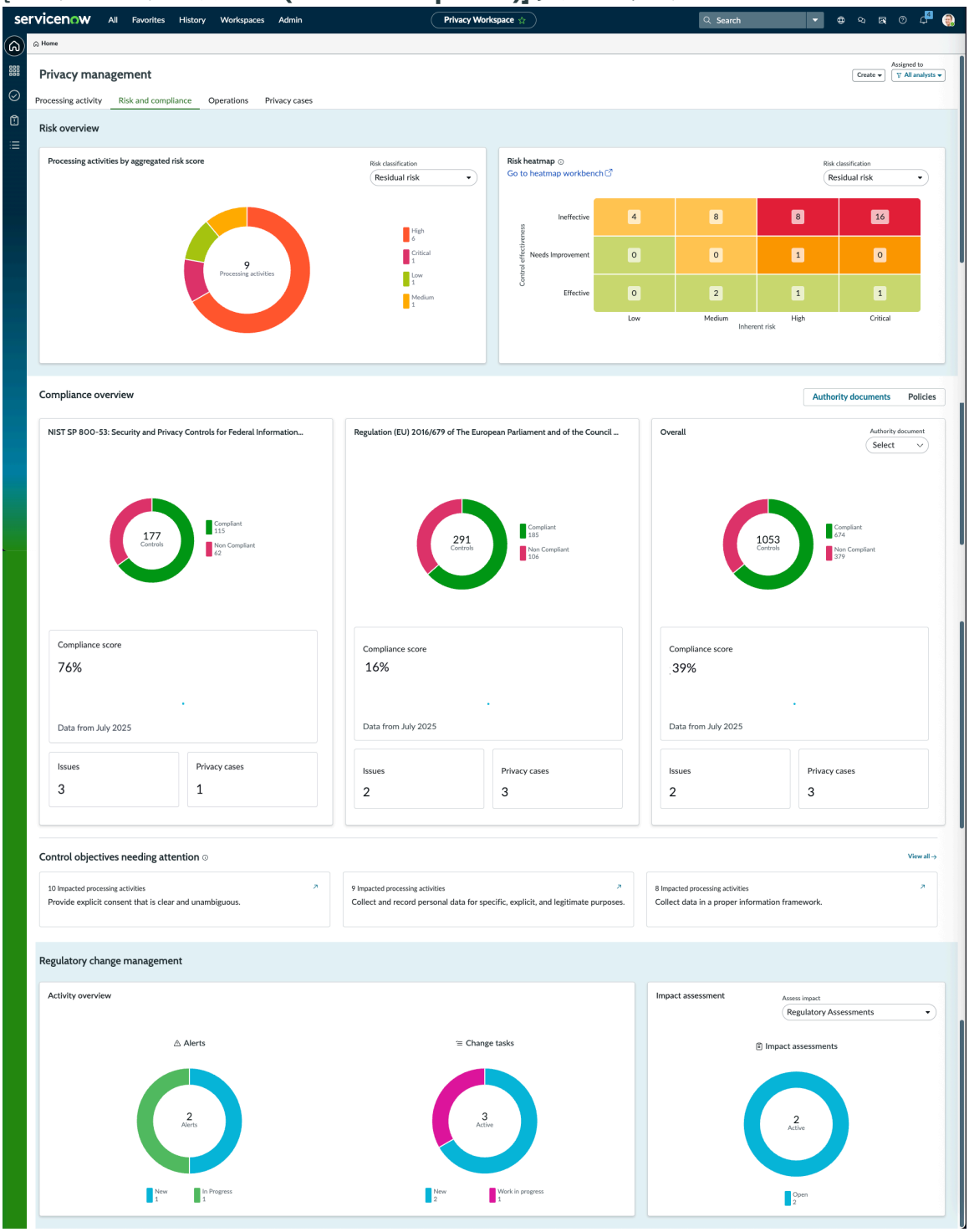
注:
これらのウィジェットは、 規制変更管理 アプリケーションがインストールされている場合にのみ使用できます。

次の画像は、[リスクとコンプライアンス (Risk and compliance)] ダッシュボードを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[リスクとコンプライアンス **(Risk and compliance)**] ダッシュボード



[操作] タブ

プライバシー管理ダッシュボードの [操作] タブでは、主要なプライバシーコンプライアンスプロセス全体の運用パフォーマンスを可視化し、積極的な管理をサポートし、規制および内部リスク標準への準拠を確認します。

プライバシー管理ダッシュボードの [操作] タブには、プライバシー関連の主要な運用メトリクスの概要が一元的にリアルタイムで表示されます。このダッシュボードは、アナリスト、プライバシー責任者、およびコンプライアンス担当者に役立つように設計されています。さまざまなプライバシー保証アクティビティの進捗状況とステータスの監視をサポートします。これらのアクティビティには、リスクアセスメント、プライバシーアセスメント、問題、ポリシー例外、およびコントロール保証が含まれます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

運用ダッシュボードは、運用アクティビティの進捗状況とステータスを監視するのに役立ちます。これらのアクティビティには、リスクアセスメント、プライバシー影響度評価、問題、ポリシー例外、およびコントロール保証が含まれます。データは直感的な円グラフとドーナツグラフを使用して表示されます。明確にするために、グラフはステータス、優先度、およびリスク評価別に分類されています。この分類により、注意が必要な領域を簡単に特定できます。各カテゴリの未解決、期限切れ、または予定されているタスクをすばやく確認できます。

このダッシュボードには、次のウィジェットが表示されます。

リスクアセスメント

ドーナツグラフには、進行中のリスクアセスメントの合計数のブレークダウンが、[新規] や [処理中] などのステータス別に表示されます。オープン、解決済み、クローズ済み、期限切れ、7 日以内に期限などの詳細情報もハイライト表示されます。チャートからリスクアセスメントにドリルダウンできます。

プライバシーアセスメント

ドーナツグラフでは、[アサイン済み] や [対応中] などの現在のワークフロー状況に基づいてアセスメントが分類されます。ドラフト、オープン、期限切れ、7 日以内に期限などの詳細情報もハイライト表示されます。アセスメントテンプレートでプライバシーアセスメントをフィルタリングできます。

問題

問題は、高、中、低、重大などの優先度レベル別に円グラフで分類されます。[オープン]、[期限切れ]、[7 日以内に期限] などの詳細もハイライト表示されます。チャートからレコードの詳細にドリルダウンできます。

ポリシー例外

ポリシー例外はリスク評価別に分類され、低、中、高、重大、オープン、期限切れ、7 日以内の期限などのラベルとともに円グラフで表示されます。チャートからポリシー例外にドリルダウンできます。

コントロール保証

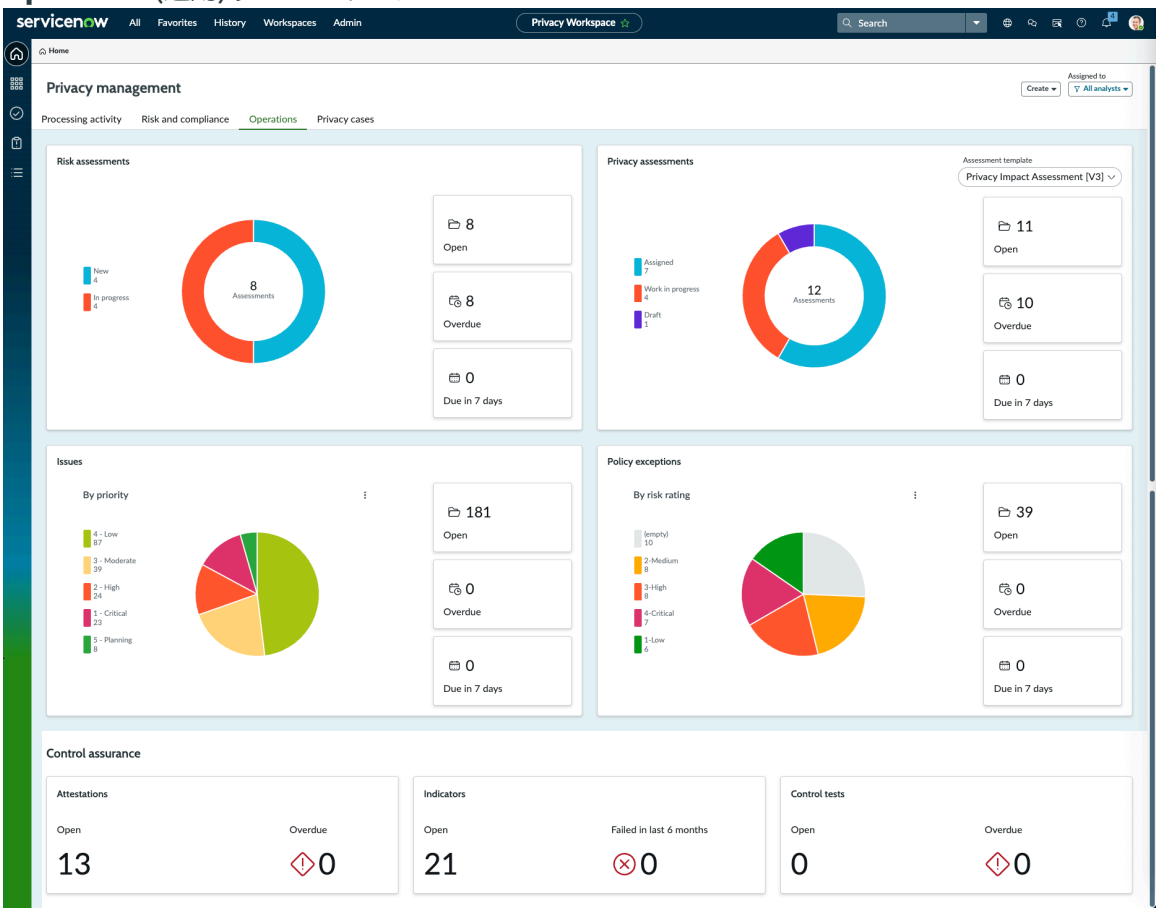
このセクションでは、組織のコントロール保証アクティビティの概要を、証明書、インジケーター、およびコントロールテストに分割して提供します。

次の画像は、運用ダッシュボードを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Operations (運用) ダッシュボード



[プライバシーケース] タブ

プライバシー管理ダッシュボードの [プライバシーケース] タブは、組織内のプライバシー関連のインシデントと要求を監視、分析、および管理するための一元化されたインターフェイスとして機能します。

プライバシー管理ダッシュボードの [プライバシーケース] タブは、組織がデータ保護規制へのコンプライアンスを達成および維持するのに役立ちます。一般データ保護規則 (GDPR) などの法律の遵守をサポートします。また、カリフォルニア州消費者プライバシー法(CCPA)やその他のグローバルなプライバシーフレームワークも含まれます。

ダッシュボードを使用すると、プライバシーマネージャー、アナリスト、およびコンプライアンスチームは、ケースを効率的に管理できます。これは、即時の対応が必要な重大なケースをすばやく特定するのに役立ちます。このダッシュボードでは、新たな傾向と時間の経過に伴う繰り返し発生する問題も明らかになります。履歴データ分析とグラフィカルな視覚化を使用して、より深い洞察を得ます。重大度や優先度などの複数の基準を使用してケースを評価できます。また、各ケースの違反ステータスと根本原因を確認することもできます。このビューは、効果的なリソース割り当てとタイムリーなリスク軽減に役立ちます。

プライバシーケースダッシュボードは、ケースデータを直感的でインタラクティブなインターフェイスに統合することで、運用効率を向上させます。データ主導の意思決定をサポートします。これにより、プライバシーインシデント管理に対する事後対応型ではなく、プロアクティブなアプローチが促進されます。これは、すべてのプライバシー関連の照会、苦情、または違反が、内部ポリシーと外部の規制要件に従って対処されるようにするために役立ちます。

このダッシュボードには、次のウィジェットが表示されます。

要注意

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

この最上位のサマリーセクションでは、即時または近い将来の対応が必要なケースを強調します。これは、[期限切れのケース]、[期限が 7 日以内のケース]、および [未アサインのケース] の 3 つのタイルで構成されています。各カードからプライバシーケースにドリルダウンできます。

ケース概要

このセクションには、ステータス別、違反ステータス別、優先度別のさまざまなパラメーターに基づいて、既存のケースのブレークダウンの概要がグラフィカルに表示されます。チャートからケースにドリルダウンできます。

ケース

このセクションには、デフォルトでサブタイプ別にケースが表示されます。影響を受ける事業部門または場所別にケースをフィルタリングできます。

主な原因別のケース

このセクションには、根本原因または主な原因に基づいてケースのブレークダウンが表示されます。

過去 12 か月間のオープンケースとクローズケース

このウィジェットは、過去 1 年間のオープンおよびクローズされたプライバシーケースの傾向を表示することで、履歴コンテキストを提供します。このグラフは、経時的なパターンと作業負荷を特定するのに役立ちます。

問題

このウィジェットには、プライバシーケースに関連する未解決の問題をまとめた円グラフが表示されます。円グラフは、緑 (低)、黄 (中)、オレンジ (高)、赤 (重大) などの重大度レベル別に分類されています。このセクションにより、チームは問題の量と重大度を監視し、タイムリーなフォローアップと解決を確認できます。チャートからケースにドリルダウンできます。

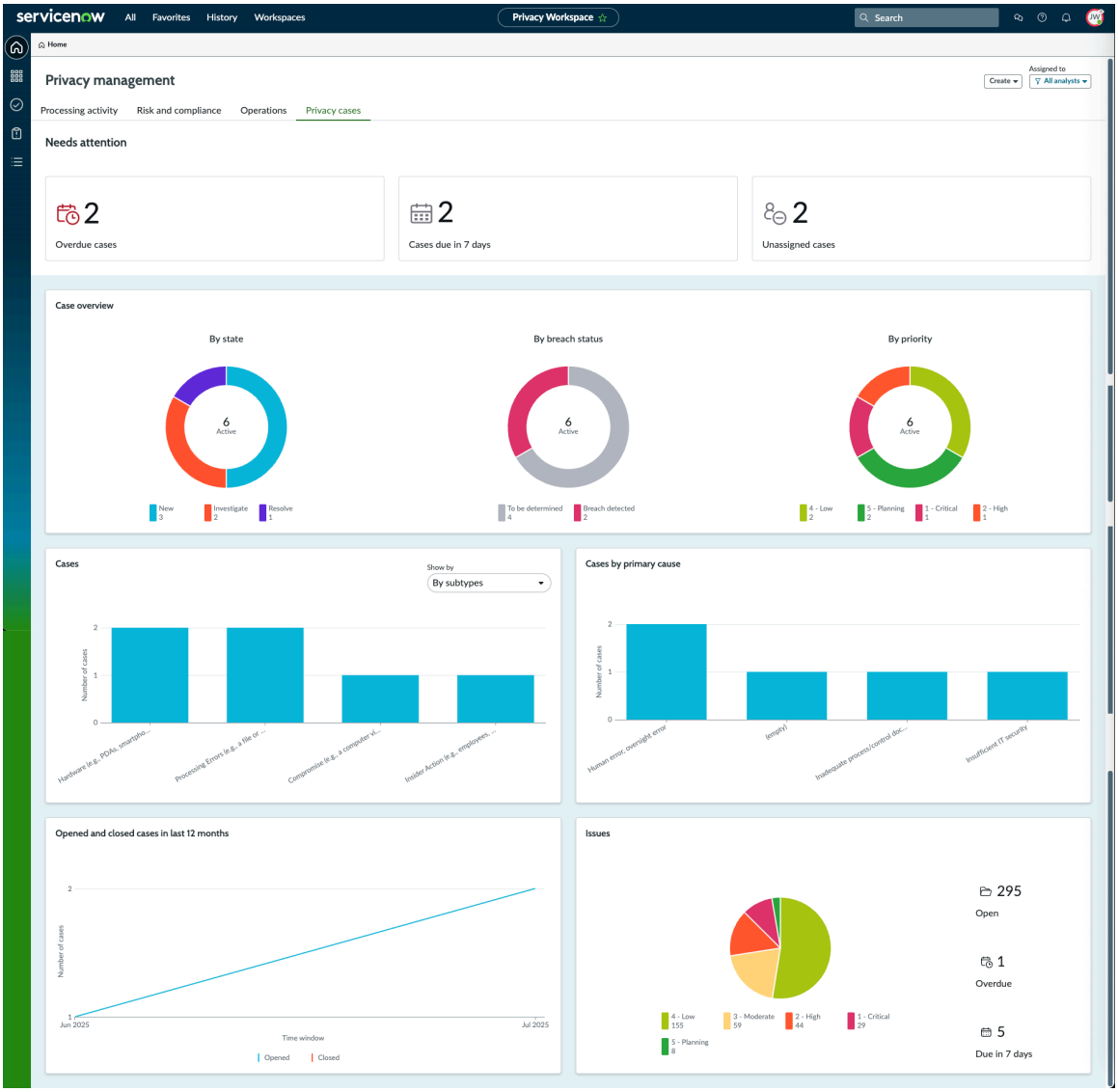
[作成] ボタンを使用して、処理アクティビティ、プライバシーケース、または問題を作成できます。さらに、すべてのアナリストまたは自分にアサインされたプライバシーケースをフィルタリングできます。

次の画像は、プライバシーケースダッシュボードを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プライバシーケースダッシュボード



プライバシーアナリスト向けのプライバシーワークスペース

プライバシーアナリストは、自分が所有する処理アクティビティのプライバシーコンプライアンス体制を管理します。コンプライアンス体制とは、さまざまな規制に関するコントロールの準拠および非準拠の状況に基づいた組織、ビジネスプロセス、ビジネスアプリケーションの全体的なコンプライアンスのステータスを指します。

プライバシーアナリストには sn_privacy.analyst ロールがあります。プライバシーアナリストの主なタスクは次のとおりです。

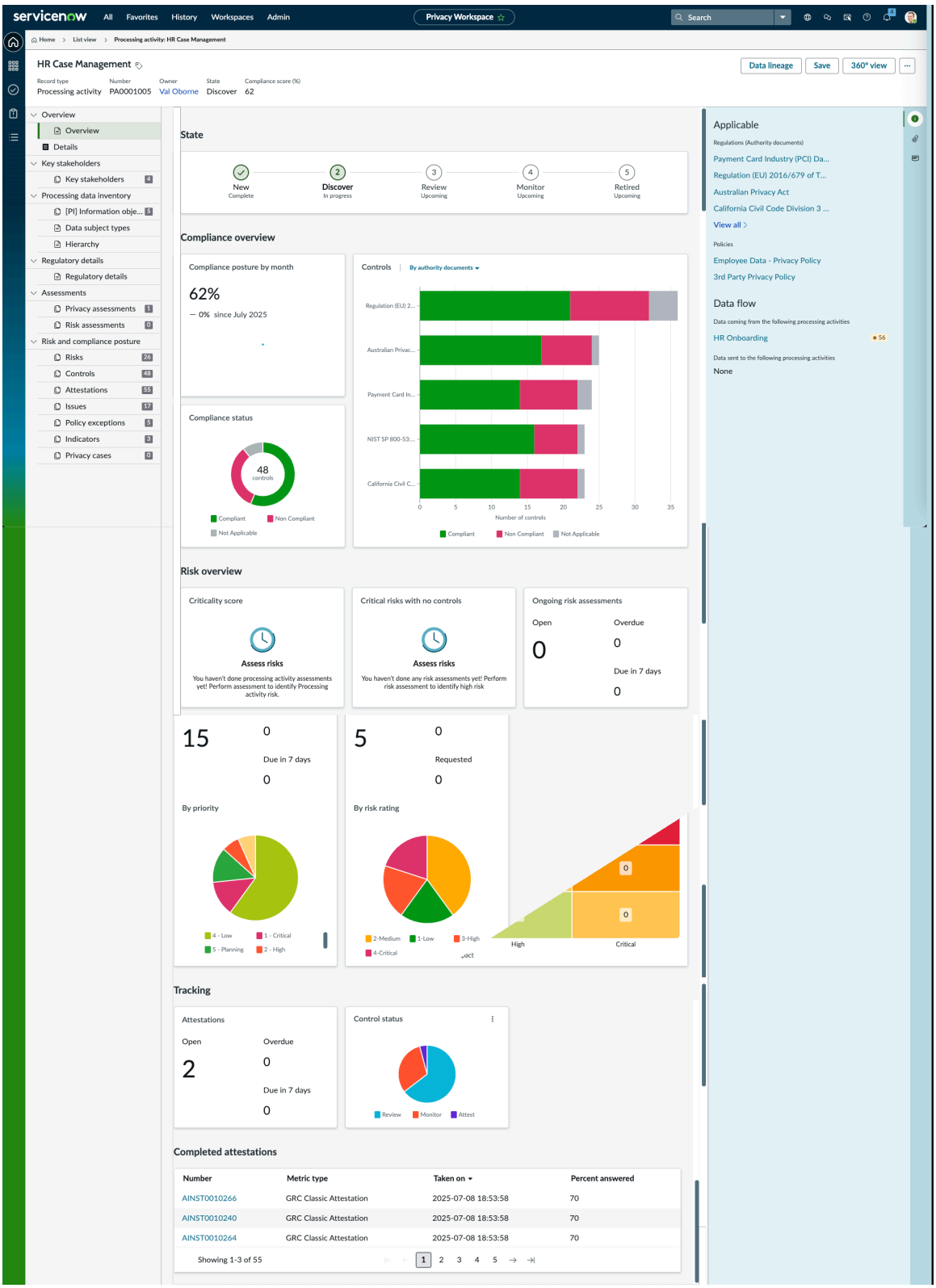
- プライバシー影響度評価を送信してレビューすることで、処理アクティビティを定期的に評価します。
- アドミンおよびビジネスユーザーと協力して、処理アクティビティに関連するコントロールを識別および管理します。
- コンプライアンス関連の問題やポリシーの例外に関するビジネスユーザーの懸念を管理および解決します。
- コントロール有効性をテストおよび監視します。

次の画像は、プライバシーアナリストの処理アクティビティの概要ページを示しています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

処理アクティビティの概要ページ



プライバシー管理 ソリューションの概要

プライバシー管理ソリューションは、引用、ポリシー、コントロール目標、リスクステートメント、プライバシー影響度評価、プライバシーリスクアセスメントなど、プライバシー固有のライブラリを管理するためのフレームワークを提供します。また、プライバシーリスクとコンプライアンス体制を追跡するための処理アクティビティレコードも提供します。

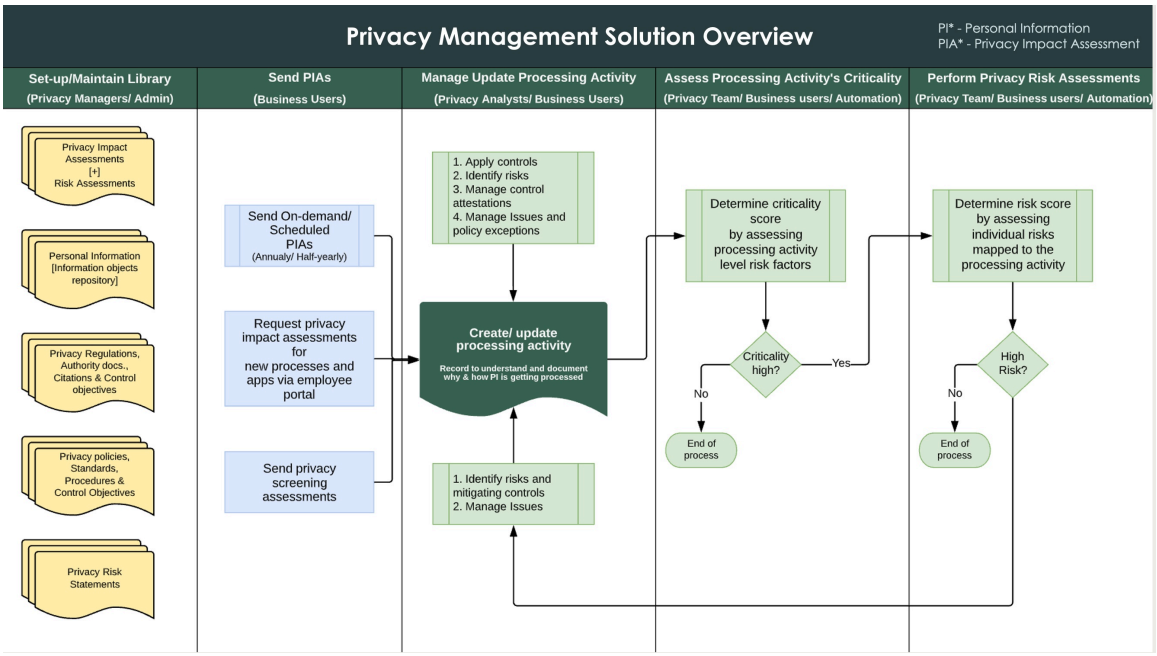
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プライバシープログラムを計画する前に、実装する予定のプライバシー規制に従ってプライバシーライブラリを設定していることを確認してください。ライブラリセットアップの詳細については、「プライバシー管理 ライブラリの管理」を参照してください。

次の図は、プライバシー管理 ソリューションを示しています。

プライバシー管理ソリューションの概要



プライバシー管理 ソリューションは次のように説明されています。

ライブラリを作成

sn_privacy.manager ロールを持つプライバシーマネージャー、または sn_privacy.admin ロールを持つプライバシーアドミニストレーターは、以下を使用してライブラリを設定する必要があります。

- プライバシー影響度評価
- 個人情報オブジェクト
- プライバシー規制、各種法令・基準等、引用、コントロール目標。
- プライバシーポリシーおよび手順
- プライバシーリスクステートメント

プライバシー影響度評価

堅牢なプライバシープログラムの確立の一環として、プライバシーマネージャーはまず、個人データを処理する組織資産のインベントリを特定して文書化する必要があります。この基本的なステップでは、個人識別可能情報 (PII) を処理するビジネスプロセス、アプリケーション、ベンダー、およびサービスの検出と分類を行います。次のアプローチでは、エンティティタイプ、スクリーニングアセスメント、およびシステム主導のインサイトを使用して、これらのインベントリを体系的に検出、検証、および文書化する方法の概要を示します。

1. インベントリの検出: sn_privacy.manager ロールを持つプライバシーマネージャーは、個人データを処理するビジネスプロセス、ビジネスアプリケーション、ベンダー、ビジネスサービスなどのインベントリを特定または検出します。このようなインベントリはすべて、それぞれの 構成管理データベース (CMDB) テーブルに格納されます。それぞれのビジネスオーナーがインベントリを管理します。プライバシーマネージャーは、エンティティタイプ機能を使用して、各インベントリレコードのエンティティを作成します。エンティティタイプの詳細については、「エンティティを

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

探索する」を参照してください。この段階では、ディスカバリー方法に基づいて、次のいずれかのアプローチを使用して処理アクティビティを作成できます。

a. 個人データを処理するビジネスプロセスまたはアプリケーションの検索：ビジネスプロセス、アプリケーション、サービス、またはベンダーが情報オブジェクトに関連付けられている場合は、このアプローチを使用します。エンティティタイプ機能を使用して、[PI] 情報オブジェクトを処理するエンティティを検索します。検索結果に基づいて、処理アクティビティレコードを直接作成します。このアプローチは、ビジネスオーナーがインベントリを情報オブジェクトに関連付ける場合にのみ使用されます。詳細については、「プライバシープログラムを計画するためのエンティティスコーピング」を参照してください。

b. プライバシースクリーニングアセスメントの送信:情報オブジェクトがビジネスアプリケーションやプロセスなどのインベントリに関連付けられていない場合は、このアプローチを使用します。このアプローチでは、プライバシースクリーニングアセスメントをそれぞれのビジネスオーナーに送信します。これらのスクリーニングアセスメントには基本的な質問が含まれています。質問の例は次のとおりです。

- 所有しているビジネスプロセスまたはアプリケーションの一部として個人情報を処理していますか？
- 処理している個人情報の種類たとえば、メール、電話番号、住所などです。

アセスメント応答で個人データがあると判断された場合、処理アクティビティが自動的に作成されます。

2. ビジネスユーザーは、従業員センター から新しいアプリケーションとプロセスのプライバシー影響度評価をプロアクティブに送信できます。

処理アクティビティの管理と更新

1. 処理アクティビティの作成または更新：sn_privacy.analyst ロールを持つプライバシーアナリストは、処理アクティビティが作成された後に、プライバシー影響度評価 (PIA) を処理アクティビティまたはビジネスオーナーに送信します。プライバシー影響度評価は、処理アクティビティが個人情報を処理する理由と方法を理解するのに役立ちます。アセスメントでは、PI データの保存の理由、他のシステムとの PI データの交換、PI データのセキュリティなどの情報を収集します。

2. PIA を送信または自動的に開始：プライバシーアナリストは、より多くの情報を収集する必要がある場合は常に、処理アクティビティからプライバシー影響度評価 (PIA) を送信します。または、プライバシーマネージャーとプライバシーアドミニストレーターによって定義されたプライバシープログラムの頻度に基づいて、アセスメントを自動的に開始することもできます。自動開始スケジュールは、ServiceNow AI Platform 機能を使用して作成できます。

3. 処理アクティビティに関連するリスクとコントロールの適用：プライバシーアナリストとして、処理アクティビティで個人情報がどのように使用されるかを把握した後、必要なリスクステートメント、コントロール、ポリシー、および各種法令・基準等がアセスメントの応答に基づいて処理アクティビティに自動的に適用されます。アセスメントの設定方法の詳細については、「アセスメントテンプレートの作成」を参照してください。コントロールが追加された後、プライバシーアナリストはコントロールを確認し、必要に応じてコントロールを追加または削除できます。

4. コントロール証明書の送信：コントロールの最終セットが処理アクティビティに関連付けられた後、コントロール証明書がビジネスプロセスオーナーまたはアプリケーションオーナーに送信され、適用されるすべてのコントロールの証拠が収集されます。ビジネスオーナーが各コントロールの証拠を使用してコントロール証明書に応答すると、準拠しているコントロールと非準拠のコントロールが特定されます。この識別により、処理アクティビティのコンプライアンス体制が判断されます。

5. 問題の報告および監視：非準拠のコントロールについて問題が自動的に作成され、それぞれのビジネスオーナーにアサインされます。プライバシーアナリストが問題を監視します。

6. 問題の管理：問題を管理するために、ビジネスオーナーは次のいずれかを実行できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 問題の解決：問題を解決すると、コントロールは準拠した状態になります。
- ポリシー例外を発生させる:すぐに解決できない問題に対して例外が発生します。プライバシーアナリストは、ポリシーの例外を確認し、問題の重要度に基づいて例外を承認または却下できます。

7. 継続的なコントロール監視：プライバシーアナリストは、インジケーター機能を使用して処理アクティビティのコントロールを継続的に監視します。インジケーターの詳細については、「リスクインジケーター、コントロールインジケーター、およびインジケーターテンプレート」を参照してください。

処理アクティビティの重要度の評価

重要度スコアは、処理アクティビティレベルで要素を評価することによって、処理アクティビティレベルでリスク体制を提供します。処理アクティビティが作成または更新されると、高レベルのリスクスコアまたは重要度スコアを理解するために、処理アクティビティに対して重要度アセスメントが実行されます。

プライバシーリスクアセスメントの実行

プライバシーリスクアセスメントは、重要度スコアが高い場合に実施される詳細なアセスメントです。処理アクティビティに関連付けられている各リスクを評価し、処理アクティビティの集計リスクスコアを把握します。プライバシーリスクを評価した後、[概要] セクションのリスクヒートマップでプライバシーリスク体制を表示できます。ヒートマップは、固有のリスクと残存リスクに関する詳細な情報を提供します。

データ主体タイプ

データ主体は、組織によって個人データが収集、使用、処理される個人です。データ主体の分類により、組織は個別のグループを定義して管理し、データ処理アクティビティを詳細にコンテキスト固有に表現できます。

データ主体は、複数のデータ主体グループの構造化された定義と分類をサポートするように設計された、新しく導入された動的テーブルです。関連する組織、運用、または規制の基準に基づいて個別のデータ主体グループを作成および管理できます。各グループを特定の地理的位置に関連付けることで、地域のデータ処理要件と義務を反映させることができます。

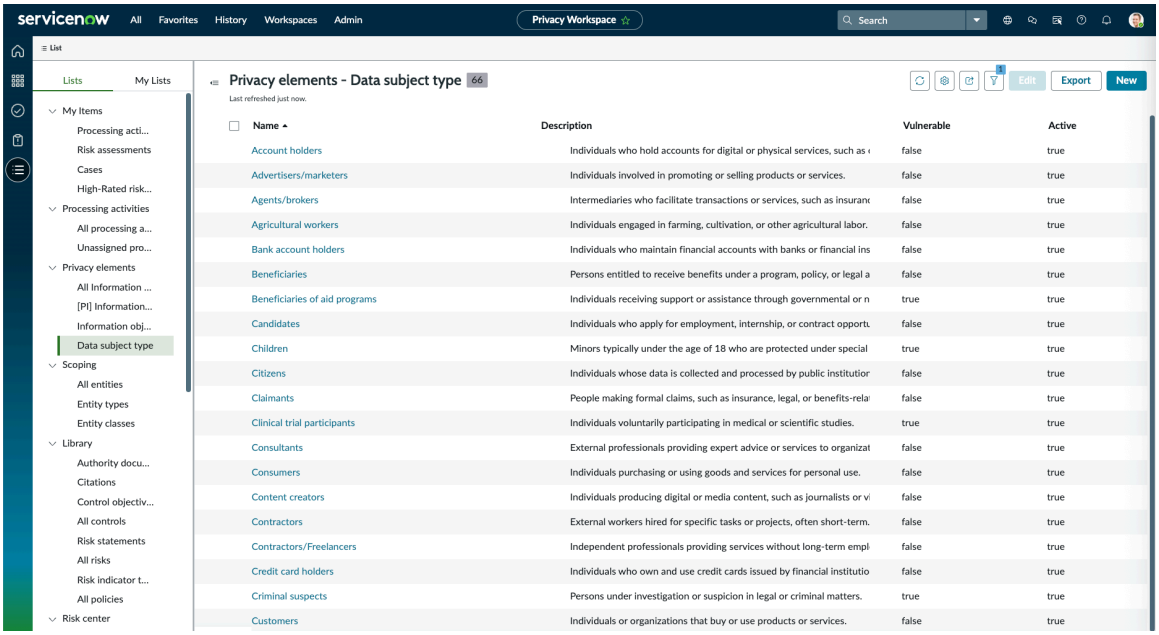
データ主体タイプごとに、その場所、関連するデータ主体の量、および収集される関連情報オブジェクトを記録できるようになりました。各グループについて収集されたデータ要素を指定して、処理中のデータのタイプを明確に可視化することもできます。このアプローチにより、組織内のデータ処理アクティビティをより現実的かつ詳細に表現することが容易になります。また、データ処理操作が時間の経過とともに進化または拡大するにつれて、スケーラビリティと適応性もサポートされます。

プライバシー管理 アプリケーションには、デフォルトで 64 のデータ主体タイプが用意されています。少なくともプライバシーマネージャーロールを持つすべてのユーザーは、データ主体タイプを表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データ主体タイプ



データ主体タイプを使用するメリット

- 透明性の向上:データが収集または処理される処理アクティビティ内で処理されたデータの理解を深めやすくなります。
- リスク管理の強化:脆弱なグループの構成を有効にすることで、子供や患者などの高リスク (脆弱な) データ主体タイプの特定をサポートします。
- 運用効率:複数のプライバシーワークフロー全体でデータ主体グループの標準化された分類と再利用を可能にします。

自動翻訳

プライバシー管理の構成

ここに示すタスクの順序に従って プライバシー管理 を構成します。これらのタスクは、プライバシープログラムを効果的に管理するのに役立ちます。

プライバシー管理をダウンロード

インスタンスで GRC: プライバシー管理 (sn_privacy) を実行する前に、ServiceNow Store からダウンロードする必要があります。

始める前に
必要なロール：admin

手順

初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする の指示に従います。

プライバシー管理 ライブラリの管理

プライバシー管理 ライブラリは、プライバシーコンテンツの管理に役立つ各種法令・基準等、引用、コントロール目標、ポリシー、および [PI] 情報オブジェクトで構成されています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

各種法令・基準等

各種法令・基準等は、組織が準拠する必要がある原則、ガイドライン、規制、標準、およびフレームワークです。各種法令・基準等の例は次のとおりです。

- 法令 (法案または法律)
- 規制
- 監査ガイドライン

組織は、各種法令・基準等、引用、およびコントロール目標を作成するか、Network Frontiers Unified Compliance Framework (UCF) などのサードパーティプロバイダーからダウンロードしてインポートすることができます。

信頼できるソースコンテンツ

引用は、各種法令・基準等により引用される特定の要件が記載されているレコードです。引用は、各種法令・基準等を該当するコントロールに関連付けます。各引用にはコントロール目標があります。

ポリシー

ポリシーにはコントロール目標が含まれています。ポリシーは、各種法令・基準等に関連付けることもできます。ポリシーは公開され、バージョンアップで定期的に更新されます。ポリシーの詳細については、「Policy and Compliance Management」を参照してください。

リスクステートメント

リスクステートメントを使用して一元的なリスク登録を作成すると、組織内のいずれかの場所と時間で発生する可能性のある潜在的なプライバシーリスクを管理できます。

プライバシーアセスメント

プライバシーアセスメントは、ビジネスオーナーから情報を収集するために使用されます。この情報は、プライバシーチームが処理アクティビティで個人情報 (PI) がどのように使用または保存されているかを理解するのに役立ちます。

リスクアセスメント

リスクアセスメント機能により、重要度とプライバシーリスクアセスメントを使用して組織のプライバシーリスク体制を判断できます。

PI 情報オブジェクト

[PI] 情報オブジェクトは、個人情報タイプの情報オブジェクトを参照します。プライバシー管理 ソリューションで情報オブジェクトを使用するメリットを理解するには、「プライバシー管理 の情報オブジェクト」を参照してください。[PI] 情報オブジェクトのライブラリを管理し、それらを処理アクティビティに関連付けることで、プライバシーチームが処理アクティビティによって処理されている個人情報 (PI) を理解するのに役立ちます。

個人情報タグが付けられた情報オブジェクトのみを処理アクティビティに追加できます。情報オブジェクトにタグを付ける方法の詳細については、「情報オブジェクトを個人情報として分類」を参照してください。

情報オブジェクトを作成

情報オブジェクトを手動で作成して、適切なデータ主体タイプをビジネスプロセスまたはアプリケーションに関連付けます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：sn_privacy.admin

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > プライバシーワークスペース.
2. プライバシーワークスペースで、[リスト] アイコン ()
3. 移動先 プライバシー要素 > **AllInformation** オブジェクト.
4. **[New** (新規)] を選択します。
5. フォームで、フィールドに入力します。

新しい情報オブジェクトの作成フォーム

フィールド	説明
名前	情報オブジェクトカテゴリの名前。たとえば、財務データなどです。
所有者	情報オブジェクトを所有するユーザー。
データ分類	情報オブジェクトのデータ分類。
事業部門	この情報オブジェクトを使用する事業部門。
部門	この情報オブジェクトを使用する部門。
説明	カテゴリに含まれる情報オブジェクトのタイプの説明。

6. **[Save** (保存)] を選択します。
   情報オブジェクトが作成されます。

タスクの結果
情報オブジェクトが作成されると、[処理アクティビティ] 関連リストと [情報オブジェクトカテゴリ] 関連リストが表示されます。

情報オブジェクトカテゴリの構成

情報オブジェクトカテゴリを設定して、情報オブジェクトを効果的に分類します。たとえば、虹彩スキャンや指紋などの属性は生体認証データと呼ばれることが多く、メールアドレスや電話番号は連絡先情報としてグループ化できます。情報オブジェクトカテゴリを使用すると、これらのより広範な分類に基づいてこれらの情報オブジェクトを分類できます。

始める前に
必要なロール：sn_privacy.admin

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > プライバシーワークスペース > リスト > リスト > プライバシー要素 > 情報オブジェクトカテゴリ.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームで、フィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

情報オブジェクトカテゴリ

フィールド	説明
名前	情報オブジェクトカテゴリの名前。たとえば、財務データなどです。
説明	カテゴリに含まれる情報オブジェクトのタイプの説明。
アクティブ	カテゴリがアクティブかどうかを示すオプション。
機密カテゴリ	データが本質的に機密であるかどうかを示すオプション。
機能ドメイン	カテゴリのドメイン。このフィールドは自動的に [プライバシー] に設定されます。

4. **[Save** (保存)] を選択します。
   新しいタブ [情報オブジェクト] が表示されます。
5. [情報オブジェクト] 関連リストを選択します。
6. カテゴリに属する情報オブジェクトを追加します。
7. **[Save** (保存)] を選択します。

情報オブジェクトを個人情報として分類

情報オブジェクトを個人情報として分類します。個人情報として分類された情報オブジェクトのみを処理アクティビティに関連付けることができます。

始める前に
必要なロール：sn_privacy.manager

このタスクについて
個人情報として分類された情報オブジェクトは、プライバシーアセスメントおよび処理アクティビティで使用できます。
[PI] 情報オブジェクトリストビューから新しい情報オブジェクトを作成する場合でも、データを個人情報として分類する必要があります。[PI] 情報オブジェクトリストで情報オブジェクトを作成しているからといって、その情報オブジェクトが自動的に分類されると想定しないでください。

手順
1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > プライバシーワークスペース.
2. プライバシーワークスペース で、リストアイコン ( ) をクリックします。
3. 移動先 プライバシー要素 > すべての情報オブジェクト.
4. タグ付けする情報オブジェクトを選択して開きます。
5. [データ分類] フィールドで、[個人情報] を選択します。
6. **[Save** (保存)] を選択します。

タスクの結果
個人情報として分類した情報オブジェクトが [PI] 情報オブジェクトリストに表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリーニングアセスメント用のスマートアセスメントテンプレートの構成

スクリーニングアセスメントを送信するためのベースとして スマートアセスメントエンジン を使用してプライバシーアセスメントテンプレートを作成し、それを使用してプライバシーリスクを検出してそれらのリスクを軽減します。

始める前に

必要なロール：sn_privacy.admin

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > プライバシーワークスペース > リスト > プライバシー管理を構成 > アセスメントテンプレート構成.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームで、フィールドに入力します。

[新規アセスメントテンプレート構成を作成] フォーム

フィールド	説明
名前	構成の名前例: プライバシースクリーニングアセスメント構成。
スマートアセスメントテンプレート	構成を追加するスマートアセスメントテンプレート。 **注:** テンプレートは 1 つの分類にのみマッピングできます。
分類	テンプレートの論理グループ化。選択肢は以下のとおりです。 ○ 最初のアセスメント ○ プライバシー影響度評価 [初期アセスメント] を選択します。
説明	アセスメントの説明。この説明は、アセスメント中に回答者に表示されます。
すべての情報オブジェクトカテゴリ	アセスメント中にすべての情報オブジェクトカテゴリまたは情報オブジェクトカテゴリのサブセットを表示するオプション。 **注:** このオプションは、スクリーニングアセスメントに含まれていない データ要素 サブセクションを追加する場合に適用されます。
ステータスモデル	アセスメントの状況モデル。このフィールドは自動的に [プライバシーアセスメントタスクモデル] に設定されます。
情報オブジェクトカテゴリ	アセスメント中に表示する情報オブジェクトカテゴリ。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: このフィールドは、[すべての情報オブジェクトカテゴリ] オプションが選択されていない場合にのみ表示されます。このフィールドは、スクリーニングアセスメントに含まれていない データ要素 サブセクションを追加する場合に適用されます。
アクティブ	構成がアクティブであることを示すオプション。
機能ドメイン	構成のドメイン。プライバシーワークスペースからアクセスすると、このフィールドは自動的に設定されます。

4. **[Save** (保存)] を選択します。
[セクション] というタイトルの新しいタブが表示され、 スマートアセスメントエンジンからフェッチされたアンケートが表示されます。

影響度評価のためのスマートアセスメントテンプレートの構成

プライバシー影響度評価を送信するためのベースとして スマートアセスメントエンジン を使用してプライバシーアセスメントテンプレートを作成し、それらを使用してプライバシーリスクを検出してそれらのリスクを軽減します。

始める前に

必要なロール：sn_privacy.admin

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > プライバシーワークスペース > リスト > プライバシー管理を構成 > アセスメントテンプレート構成.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームで、フィールドに入力します。

[新規アセスメントテンプレート構成を作成] フォーム

フィールド	説明
名前	構成の名前例: `プライバシースクリーニングアセスメント構成`。
スマートアセスメントテンプレート	構成を追加するスマートアセスメントテンプレート。 注: テンプレートは 1 つの分類にのみマッピングできます。
分類	テンプレートの論理グループ化。選択肢は以下のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ 最初のアセスメント ○ プライバシー影響度評価 [プライバシー影響度評価] を選択します。
説明	アセスメントの説明。この説明は、アセスメント中に回答者に表示されます。
すべての情報オブジェクトカテゴリ	すべての情報オブジェクトカテゴリまたは情報オブジェクトカテゴリのサブセットを表示するオプション。 **注:** このオプションは、[個人データ] セクションの[データ要素] サブセクションを設定した場合にのみ役立ちます。
ステータスモデル	アセスメントの状況モデル。このフィールドは自動的に [プライバシーアセスメントタスクモデル] に設定されます。
情報オブジェクトカテゴリ	アセスメント中に表示する情報オブジェクトカテゴリ。 **注:** このフィールドは、[すべての情報オブジェクトカテゴリ] オプションが選択されていない場合にのみ表示されます。
アクティブ	構成がアクティブであることを示すオプション。
機能ドメイン	構成のドメイン。プライバシーワークスペースからアクセスすると、このフィールドは自動的に設定されます。

4. **[Save** (保存)] を選択します。
[セクション] というタイトルの新しいタブが表示され、 スマートアセスメントエンジンからフェッチされたアンケートが表示されます。
5. **[Add** (追加)] を選択します。
   a. [個人データ] を選択します。
   b. **[Add** (追加)] を選択します。
   [セクション] タブに、[個人データ] と [アンケート] の 2 つのセクションが表示されるようになりました。個人データセクションのラベルと説明を変更すると、アセスメントページで回答者に表示されます。
6. **[Save** (保存)] を選択します。
7. セクションにサブセクションを追加するには、サブセクションを追加するセクションを開きます。
   a. [サブセクション] を選択します。
   b. **[Add** (追加)] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. 追加するサブセクションを選択します。

d. [Add (追加)] を選択します。
たとえば、[個人データ] セクションでは、データ要素、データ主体タイプ、階層、および法的根拠を追加できます。サブセクションの [ガイダンス] フィールドの詳細はアセスメント中に表示され、回答者がアセスメントの質問を理解するのに役立ちます。

プライバシーアセスメントの作成

さまざまなタイプのアセスメントを作成し、それらのアセスメントをビジネスプロセスまたはビジネスアプリケーションオーナーに送信して応答を収集します。応答は、処理アクティビティで個人情報 (PI) がどのように使用または保存されているかを理解するのに役立ちます。

始める前に
必要なロール：sn_privacy.admin および sn_privacy.manager

このタスクについて
プライバシーアセスメント機能を使用すると、プライバシースクリーニングの初期アセスメント、プライバシー影響度評価 (PIA)、プライバシー準備状況アセスメントなどのさまざまなタイプのアセスメントを作成できます。
アセスメントを構成するために、次の機能が提供されています。

- コントロール目標を質問の回答にマッピングします。
- 情報オブジェクトを質問の回答にマッピングします。
- 処理アクティビティフィールドを質問の回答にマッピングします。

アセスメントを設定するときは、次の用語を考慮してください。

- メトリクスタイプはアセスメントテンプレートを参照します。
- メトリクスカテゴリは、アセスメントのセクションラベルを参照します。
- メトリクスは質問を参照します。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > 新規アセスメントテンプレート.

2. フォームで、フィールドに入力します。

アセスメントメトリクスタイプフォーム

フィールド	説明
名前	アセスメントテンプレートの名前。
アセスメント期間	アセスメントが生成されてから、アセスメントを完了するまでに許容される時間。
テーブル	レコードを含むテーブル。
プライバシーアセスメントタスクの自動承認	プライバシーアセスメントタスクをレビューなしで自動的に承認する必要があることを示すオプション。このオプションを選択すると、アセスメントタスクが送信された後、自動的にアセスメントタスクが承認され、コントロール、リスク、および情報のオブジェクトが処理アクティビティで作成され、タスクがクローズされます。
状況	アセスメントの状態。このフィールドは自動的に [ドラフト] に設定されます。
ロール	このテンプレートへの読み取りアクセス権を持つロール。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
分類	アセスメントメトリクスタイプの分類選択肢は次のとおりです。 ○ なし ○ 最初のアセスメント ○ **PIA** アセスメント
説明	アセスメントテンプレートの目的と作成理由。
前書き	アセスメントに回答するビジネスユーザー向けのガイダンステキスト。

3. [デザイナーを保存して開く] をクリックします。
デザイナーには次の要素が含まれています。

要素	説明
コントロール	サポートされている質問データのタイプは [コントロール] パレットで利用可能です。
質問	さまざまなカテゴリの質問のライブラリ
カテゴリ	[デザイン] ビューで新しいアセスメントが開きます。アンケートの [名前] フィールドが、キャンバスの最初のカテゴリの上に表示されます。空白の質問フィールドが、カテゴリコンテナーに表示されます。

4. コントロールをデザイナーキャンバスにドラッグして、そのタイプの質問を作成します。

キャンバスには、次のタイプの質問コントロールが含まれています。

質問コントロール

データタイプ	説明
添付ファイル	ユーザーが回答として 1 つ以上のファイルを添付できるようにする質問。
ブーリアン	次の値タイプを持つ質問： ○ オンまたはオフにするチェックボックス。 ○ [はい] または [いいえ] の回答
選択肢	事前定義済みオプションのリストを含む質問。
日付	[日付] フィールド。回答者が入力した日付情報を収集できます。
日付/時刻	[日付/時刻] フィールド。回答者が入力した日付と時刻の情報を収集できます。
数値	事前定義された最小値と最大値を持つ数値フィールド。デフォルトの範囲は 1 ～ 10 です。
パーセンテージ	範囲が指定されている [パーセンテージ] フィールド。
スケール	事前定義されたリッカート尺度。回答オプションはラジオ ボタンとして表示されます。
数値スケール	数値または数値スケール。回答者は数値で回答する必要があります。
文字列	1 行または複数行のテキスト フィールド。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データタイプ	説明
テンプレート	オプションの事前定義済みスケールを示すテンプレートのリスト。
参照	指定された参照テーブルからのフィールドのリスト。
画像スケール	画像の質問質問に対する回答として画像をクリックできます。
複数選択	複数のオプション。回答として複数のオプションを選択できます。
ランキング	回答としてのオプションがある質問タイプ。オプションはランク付けする必要があります。

5. [保存] をポイントし、[保存して公開] をクリックします。
   テンプレートのステータスが [公開済み] に変更されます。

タスクの結果
質問を含むアセスメントテンプレートをエンティティオーナーに送信する準備ができました。

次のタスク
アセスメント応答を処理アクティビティにマッピングします。詳細については、「処理アクティビティフィールドの質問の回答へのマッピング」を参照してください。

処理アクティビティスクリプトの記述

アセスメントテンプレートにカスタムスクリプトを記述し、スクリプトを使用して処理アクティビティフィールドを更新します。アセスメントの応答が完了すると、スクリプトが実行されます。スクリーニングアセスメントと影響度評価の両方に対して複数のスクリプトを記述することができます。

始める前に
必要なロール：sn_privacy.developer

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > アセスメント > すべてのアセスメントテンプレート.
2. スクリプトを作成するアセスメントテンプレートを開きます。
3. [処理アクティビティスクリプトの構成] 関連リストを選択します。
4. [新規] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

処理アクティビティスクリプトの構成フォーム

フィールド	説明
名前	スクリプトの名前
アセスメントテンプレート	使用するアセスメントテンプレートこのフィールドは自動的に設定されます。
有効	スクリプトがアクティブかどうかを示すオプション。アセスメントの応答が送信され、処理アクティビティが作成されると、アクティブなスクリプトが実行されます。 **注:** 一度に 1 つのスクリプトのみをアクティブとしてマークできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
説明	スクリプトの説明。
スクリプト	処理アクティビティを更新するために使用されるスクリプト。

6. [送信] を選択します。

コントロール目標を質問の回答にマッピングする

コントロール目標をアセスメント質問の回答にマッピングし、処理アクティビティでそれぞれのコントロールを自動的に作成して適用します。

始める前に

アクティブなコントロールと非アクティブなコントロールをアセスメントの応答に適用できます。ただし、ビジネスユーザーによってアセスメントが送信されるときは、[アクティブ] ステータスのマッピングされたコントロール目標のみが、処理アクティビティでコントロールを作成して適用すると見なされます。

必要なロール：sn_privacy.admin および sn_privacy.manager

このタスクについて

質問が次のタイプの場合にのみ、コントロール目標をアセスメント質問に関連付けることができます。

- 選択肢
- 画像スケール
- 数値スケール
- ランキング
- ブーリアン
- テンプレート

注:
ブーリアン型の質問では、「はい」または「いいえ」で回答するか、オン/オフ操作が必要なチェックボックスを使用できます。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > アセスメントテンプレート.
2. 必要なアセスメントテンプレートをクリックして開きます。
3. [更新] をクリックします。

タスクの結果

コントロール目標は処理アクティビティに関連付けられます。

情報オブジェクトの質問の応答へのマッピング

[PI] 情報オブジェクトを、処理アクティビティに関連付ける必要があるアセスメント質問の回答にマッピングします。この関連付けは、プライバシーチームが処理アクティビティによってどの個人情報が処理されているかを理解するのに役立ちます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：sn_privacy.admin および sn_privacy.manager

このタスクについて
質問が次のタイプの場合にのみ、情報オブジェクトをアセスメント質問に関連付けることができます。

- 選択肢
- 画像スケール
- 数値スケール
- ランキング

情報オブジェクトとその使用方法の詳細については、「情報オブジェクト」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > アセスメントテンプレート.
2. 必要なアセスメントテンプレートをクリックして開きます。
3. [メトリクスカテゴリ] 関連リストで、必要なメトリクスをクリックします。
   メトリクスカテゴリが展開されます。
4. [アセスメントメトリクス] 関連リストで、必須の質問をクリックします。
5. [アセスメントメトリクスの定義] 関連リストで、情報オブジェクトをマッピングする値を選択します。
6. [情報オブジェクト] 関連リストで、[編集] をクリックします。
7. [コレクション] リストで必要な情報オブジェクトをダブルクリックします。
   ダブルクリックすると、オブジェクトが [情報オブジェクト] リストに自動的に移動します。
8. [保存] をクリックします。
9. [更新] をクリックします。

タスクの結果
情報オブジェクトは処理アクティビティに関連付けられます。

リスクステートメントの質問の回答へのマッピング

リスクステートメントをアセスメント質問の回答にマッピングし、処理アクティビティでそれぞれのリスクを自動的に作成して適用します。

始める前に
必要なロール：sn_privacy.admin および sn_privacy.manager

このタスクについて
ユーザーが回答に基づいて質問に回答すると、対応するリスクステートメントが処理アクティビティにマッピングされます。
質問が次のタイプの場合にのみ、リスクステートメントをアセスメント質問に関連付けることができます。

- 選択肢
- 画像スケール
- 数値スケール
- ランキング

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ブーリアン
- テンプレート

注:
ブーリアン型の質問では、「はい」または「いいえ」で回答するか、オン/オフ操作が必要なチェックボックスを使用できます。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > アセスメントテンプレート.
2. 必要なアセスメントテンプレートをクリックして開きます。
3. リスクステートメントを追加する質問を開きます。
4. [更新] をクリックします。

処理アクティビティフィールドの質問の回答へのマッピング

処理アクティビティフィールドの一部をアセスメント質問の回答とマッピングし、アセスメント応答に基づいて処理アクティビティの詳細を更新します。

始める前に
必要なロール：sn_privacy.admin

このタスクについて
処理アクティビティフォームには複数のフィールドがあります。処理アクティビティレコードのさまざまなフィールドにコピーする必要があるアセスメント質問の回答を選択できます。たとえば、特定の質問の回答が [はい] の場合に、その質問の簡単な説明を処理アクティビティフォームの [名前] フィールドで使用する必要があるように設定できます。

次のテーブルは、処理アクティビティフォームのフィールドとアセスメントテンプレートの構成の間のマッピングを示しています。

アセスメントの構成のフィールドタイプ	アセスメントテンプレート構成のフィールドラベル	処理アクティビティフォームのフィールドラベル
文字列	名前	名前
文字列	説明	処理アクティビティの目的
文字列	データの保持期間 (日数)	データの保持期間 (日数)

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > アセスメント > すべてのアセスメントテンプレート.
2. 必要なアセスメントテンプレートをクリックして開きます。
3. [メトリクスカテゴリ] 関連リストで、必要なメトリクスをクリックします。
   メトリクスカテゴリが展開されます。
4. フィールドを処理アクティビティにコピーする元の質問をクリックします。
5. [処理アクティビティの構成] セクションをクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. [処理アクティビティフィールド] フィールドから、処理アクティビティフォームへの入力が必要なフィールドを選択します。
7. [更新] をクリックします。

アセスメント構成の作成と検証

アセスメント構成を作成して、処理アクティビティを自動的に作成する必要があるタイミングを決定します。

始める前に

必要なロール：sn_privacy.admin または sn_privacy.manager

このタスクについて

プライバシースクリーニングアセスメントがエンティティオーナーに送信されると、その応答によって処理アクティビティの作成が決定されます。プライバシースクリーニングアセスメントのデフォルト構成を変更して、処理アクティビティを自動的に作成することもできます。
独自のプライバシースクリーニングアセスメントの新しい処理アクティビティ作成条件を作成することもできます。

構成を作成したら、定義された条件に従って応答が処理アクティビティを作成するかどうかを検証できます。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > アセスメント > 処理アクティビティ作成ルール.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

[処理アクティビティ作成ルール] フォーム

フィールド	説明
名前	アセスメント構成の名前。
説明	構成の簡単な説明。
アセスメントテンプレート	構成の作成対象のテンプレート。
有効	構成を有効にするオプション。
詳細	3 件を超える条件を追加するオプション。

4. [条件] 関連リストで、[メトリクス] を選択し、条件ビルダーを使用してフィルターを作成します。
5. [詳細] 関連リストで、3 件を超える条件を追加するためのスクリプトを指定します。
   [詳細] 関連リストは、[詳細] オプションを選択した場合にのみ表示されます。
6. [検証] をクリックします。
   a. [アセスメントインスタンス] フィールドで、この構成を使用する必要があるインスタンスを選択します。
   b. [検証] をクリックします。

処理アクティビティのテーブルへのマッピング

エンティティフィールドを処理アクティビティとマッピングすることで、処理アクティビティを最新の状態に保ち、ServiceNow　のテーブルと同期します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：sn_privacy.analyst

このタスクについて
処理アクティビティは、ビジネスプロセスレコードやビジネスアプリケーションレコードなどの CMDB テーブルレコードに関連付けられています。CMDB レコードが更新されるたびに、プライバシーチームが処理アクティビティの更新に基づいてコントロールを適用できるように、それぞれの処理アクティビティも更新する必要があります。処理アクティビティフォームの [フィールドを同期 **(Sync fields)]** ボタンを使用すると、プライバシーマネージャーやアナリストが処理アクティビティを更新できます。処理アクティビティは、処理アクティビティマッピングで利用可能な構成に基づいて更新されます。

[同期フィールド] ボタンを選択したときには、処理アクティビティにマッピングされているフィールドのみが更新されます。

[処理アクティビティ] フィールドを [マッピング] フィールドにマッピングする場合は、次のマッピングの組み合わせがサポートされていることに注意してください。

- 文字列から文字列
- 参照タイプから同じ参照タイプ
- True または False
- 整数から整数および文字列

また、両方のフィールドに有効なデータがあることを確認してください。たとえば、[処理アクティビティ] フィールドにフィルター条件が適用されている場合は、 [マッピング] フィールドのフィルター条件と一致する必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシーワークスペース > プライバシー管理を構成 > 処理アクティビティマッピング.
2. [**New**] をクリックします。
3. [マッピングテーブル] フィールドで、[ビジネスアプリケーション] を選択します。
4. [説明] フィールドに、テーブルの簡単な説明を入力します。
5. [保存] をクリックします。
   [処理アクティビティフィールドのマッピング] 関連リストが表示されます。
6. [処理アクティビティフィールドのマッピング] 関連リストをクリックします。
   a. [新規] をクリックします。
   b. [処理アクティビティ] フィールドで、ビジネスアプリケーションテーブルフィールドにマッピングする処理アクティビティフォームのフィールドを選択します。
   c. [マッピング] フィールドで、処理アクティビティフィールドにマッピングするビジネスアプリケーションテーブルのフィールドを選択します。
   d. [保存] をクリックします。

タスクの結果
マッピングが正常に作成されました。マッピングされるフィールドは、処理アクティビティフォームで入力されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プライバシー管理 の使用

プライバシーアナリストまたはプライバシーマネージャーは、どのビジネスアプリケーションまたはプロセスが個人情報を保存して使用しているかを特定できます。

プライバシープログラムを計画するためのエンティティスコーピング

プライバシーマネージャーが組織のプライバシープログラムを計画する場合、最初のステップは、個人データを含むビジネスアプリケーションまたはプロセスのスコープを設定することです。ガバナンス、リスク、コンプライアンス では、これらのビジネスアプリケーションまたはビジネスプロセスはエンティティと呼ばれます。個人データを処理するエンティティを特定すると、処理アクティビティが自動的に作成されます。

sn_privacy_manager ロールを持つプライバシーマネージャーは、さまざまなプライバシープログラムを計画します。プライバシープログラムの例を次に示します。

- 顧客の個人データを処理するすべてのビジネスプロセスとベンダーを特定します。
- 従業員の個人データを処理するビジネスアプリケーションを特定します。

ビジネスプロセス、アプリケーション、ベンダー、またはビジネスサービスに関連するすべてのインベントリは、それぞれの 構成管理データベース (CMDB) テーブルに格納されます。それぞれのビジネスオーナーがこのインベントリを管理します。

次のいずれかの方法を使用して、個人データを処理するエンティティを識別または検出できます。

- 個人情報の使用によって処理アクティビティを検出することで、エンティティをフィルタリングします。
- 初期プライバシーアセスメントの送信

これらの両方の方法については、次のセクションで説明します。

個人情報の使用によって処理アクティビティを検出する

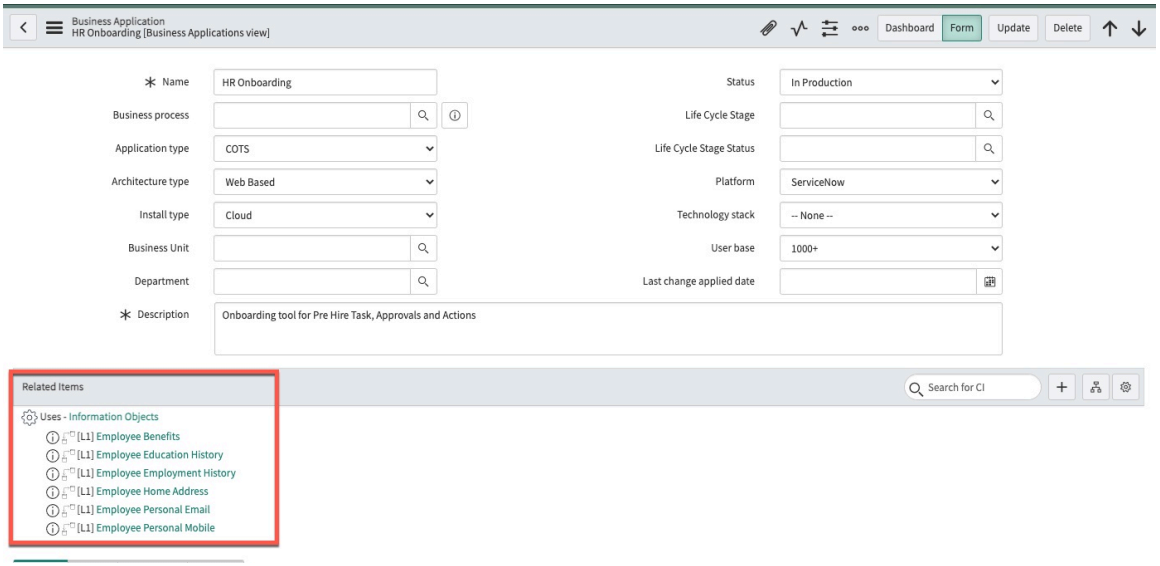
インベントリレベルでは、ビジネスプロセス、ビジネスアプリケーション、およびその他のインベントリレコードが個人情報 (PI) タイプの情報オブジェクトにマッピングされている場合、プライバシーマネージャーは特定の PI 情報を処理するそれらのレコードを検出できます。プライバシー管理 の情報オブジェクトとそのロールの詳細については、「プライバシー管理 の情報オブジェクト」を参照してください。

次の画像は、情報オブジェクトが関連付けられたビジネスプロセスを示しています。情報オブジェクトに関連付けられたビジネスアプリケーションまたはプロセスを識別するには、エンティティスコーピング機能の拡張エンティティフィルター機能を使用します。詳細については、「個人情報を含む処理アクティビティを検出するスコープエンティティ」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

情報オブジェクトが関連付けられたビジネスプロセス



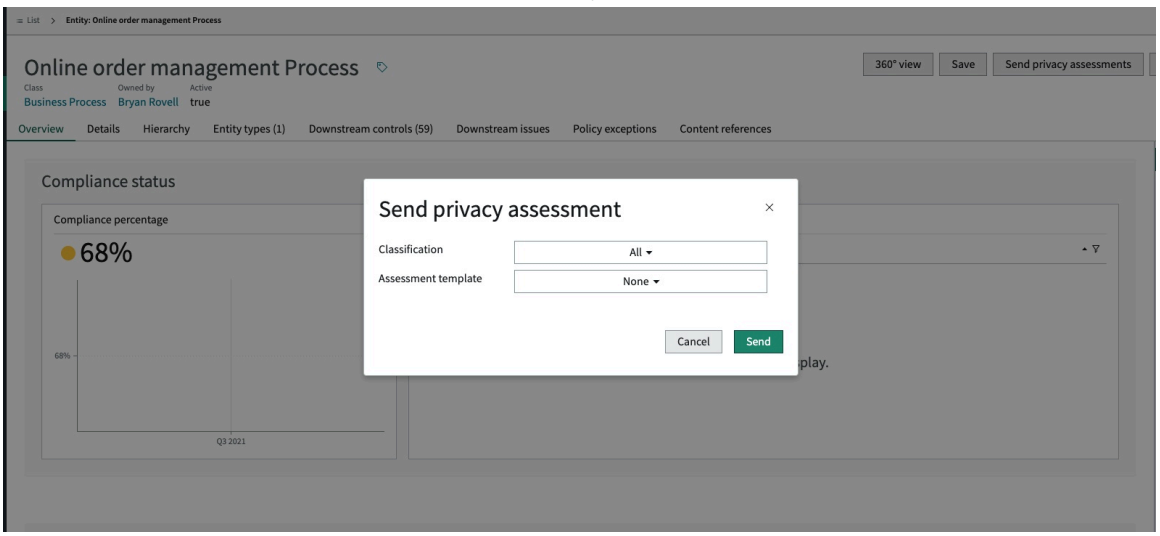
潜在的なエンティティを特定し、初期プライバシーアセスメントを送信する

情報オブジェクトがビジネスアプリケーションまたはプロセスにマッピングされていない場合は、初期プライバシーアセスメントをすべてのエンティティに送信し、その応答を使用して個人データが処理されているかどうかを判断できます。アセスメントを送信する手順は次のとおりです。

1. エンティティタイプの作成たとえば、顧客の個人情報を処理するビジネスプロセスや従業員情報を保存するビジネスアプリケーションなどです。
2. 作成したエンティティタイプを使用してエンティティを識別します。
3. 関連するエンティティを選択し、それぞれのエンティティオーナーにプライバシースクリーニングアセスメントを送信します。
4. 関連する質問が回答されたときに、回答に基づいて処理アクティビティが自動的に作成されます。

自動翻訳

エンティティへのプライバシーアセスメントの送信



エンティティのスコープが指定されると、アプリケーションでは個人情報を含むエンティティのみが表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

個人情報を含む処理アクティビティを検出するスコープエンティティ

ServiceNow® 構成管理データベース (CMDB) アプリケーションを使用して、どのエンティティが個人情報を保持および処理しているかを判断します。

始める前に

CMDB クエリーを作成したことを確認します。CMDB クエリーの詳細については、「CMDB のクエリー」を参照してください。

必要なロール：sn_privacy.manager

このタスクについて

構成管理データベース (CMDB) では、次のいずれかの方法を使用して、個人データを処理するエンティティをデータベースで検索できます。

- 事前定義されたクエリーを使用し、情報オブジェクトが関連付けられているアプリケーションとプロセスのみを選択します。プライバシー管理 の情報オブジェクトとそのロールの詳細については、「プライバシー管理 の情報オブジェクト」を参照してください。個人情報を含むエンティティのスコープを設定する方法については、「個人情報を含む処理アクティビティを検出するスコープエンティティ」を参照してください。
- 独自のクエリーを作成します。CMDB クエリーの作成方法の詳細については、「CMDB のクエリー」を参照してください。

個人データを含むエンティティをフィルタリングするには、適切なクエリーを使用してエンティティをフィルタリングする必要があります。ServiceNow には、個人データを含むエンティティをフィルタリングするために使用する 2 つのデフォルトのクエリーが用意されています。デフォルトのクエリーは次のテーブルに対して提供されます。

- ビジネスプロセス
- ビジネスアプリケーション

独自のクエリーを作成することもできます。この手順では、デフォルトのクエリーを使用する方法を示します。

手順

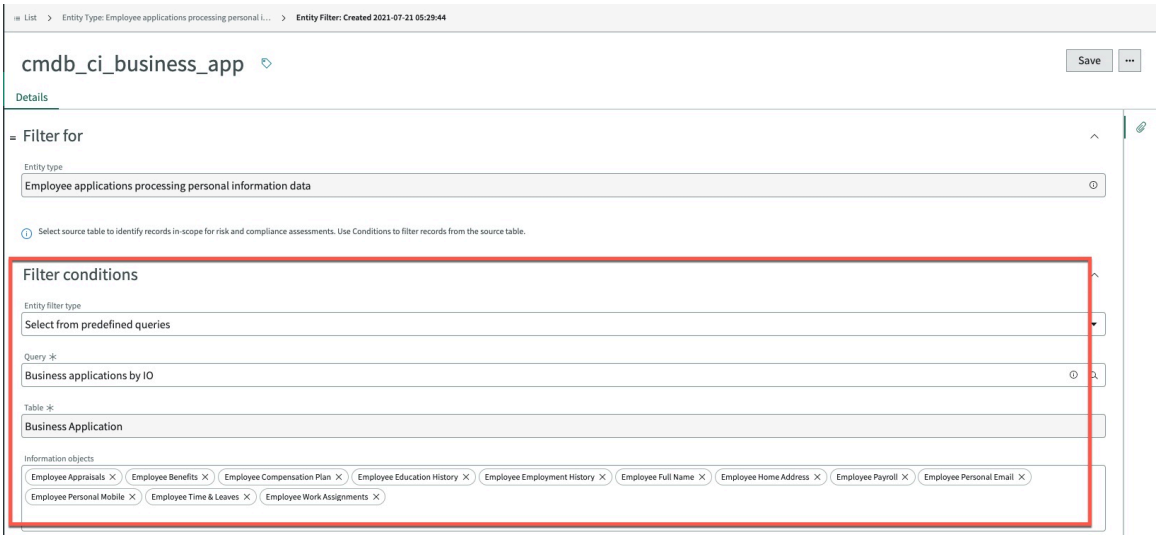
1. 移動先 すべて > プライバシーワークスペース > スコーピング > エンティティタイプ.
2. 個人情報をフィルタリングするエンティティを開きます。
3. [エンティティフィルター] 関連リストをクリックします
4. [新規] をクリックします。
   [エンティティフィルター] フォームが表示されます。
5. [フィルター条件] セクションの [エンティティフィルタータイプ] フィールドで、[事前定義されたクエリから選択] を選択します。
6. [クエリー] フィールドで、**[IO** 別のビジネスアプリケーション **(Business applications by IO)]** を選択します。
   [テーブル] フィールドが自動的に設定されます。
7. オプション: メールアドレスなどの個人情報を含む情報オブジェクトを追加するには、[情報オブジェクト] をクリックし、「メール」と入力します。
8. [送信] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example:

事前定義されたクエリーの使用



プライバシーアセスメントのタイプ

プライバシーアセスメントは、エンティティ、エンティティタイプ、処理アクティビティなどのさまざまな方法を使用して送信できます。

プライバシースクリーニングアセスメント、プライバシー影響度評価、転送影響度評価など、複数のタイプのプライバシーアセスメントを要件に応じて構成できます。

エンティティまたは処理アクティビティのプライバシーアセスメントの開始

ビジネスプロセスまたはアプリケーションが個人データを処理しているかどうかを検出するために、プライバシースクリーニングアセスメントを使用できます。処理アクティビティが個人データをどのように処理しているかを定期的に評価するには、プライバシー影響度評価 (PIA) などのプライバシーアセスメントを使用できます。

プライバシースクリーニングアセスメント

プライバシースクリーニングアセスメントを実施すると、エンティティが個人情報を処理しているかどうかがわかります。

プライバシースクリーニングアセスメントは、次の方法で送信できます。

- 処理アクティビティが利用できない場合にのみ、エンティティレコードから。
- エンティティタイプのエンティティ関連リストから

エンティティのプライバシー審査アセスメントを開始すると、エンティティオーナーによって送信された応答に基づいて処理アクティビティが作成されます。

> **注:**
> 処理アクティビティ作成ルールは、スクリーニングアセスメント応答に基づいて構成できます。

処理アクティビティが作成された後、アセスメント構成に基づいて、次のイベントが発生します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. 必要な情報オブジェクトが処理アクティビティレコードにマッピングされます。情報オブジェクトとその使用方法の詳細については、「情報オブジェクト」を参照してください。
2. 必要なコントロールが処理アクティビティレコードにマッピングされます。
3. 処理アクティビティの目的、データ主体タイプなどの重要なアセスメント応答は、処理アクティビティレコードにコピーされます。

> **注:**
> 誤ってアセスメントを送信し、アセスメントが完了していない場合は、アセスメントをキャンセルできます。

プライバシーアセスメント

処理アクティビティレコードが識別されると、処理アクティビティがどのように個人情報を処理しているかを理解するために、プライバシー影響度評価 (PIA) や 転送の影響度評価 (TIA) などのさまざまなプライバシーアセスメントが送信されます。単一の処理アクティビティレコードから PIA をトリガーできます。詳細については、「処理アクティビティからのプライバシーアセスメントの送信」を参照してください。または、エンティティタイプ機能を使用して、または処理アクティビティリストビューから、プライバシー影響度評価を複数の処理アクティビティに送信することもできます。複数のエンティティにアセスメントを送信する方法の詳細については、「複数のエンティティへのプライバシーアセスメントの送信」を参照してください。

関連情報

複数のエンティティへのプライバシーアセスメントの送信

エンティティからのプライバシーアセスメントの送信

プライバシーアセスメントをエンティティオーナーに送信して、処理アクティビティに個人データが含まれているかどうかを判断します。

始める前に
必要なロール：sn_privacy.manager または sn_privacy.analyst

このタスクについて
エンティティに対して作成された処理アクティビティがない場合は、そのエンティティからプライバシースクリーニングアセスメントを送信できます。エンティティの処理アクティビティが作成された後は、処理アクティビティを介してのみ追加のアセスメントを送信できます。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > プライバシーワークスペース > スコーピング > 自分のエンティティ.
2. エンティティオーナーへのアセスメントの送信元になるエンティティを選択して開きます。
3. [プライバシーアセスメントを開始] を選択します。
   [プライバシーアセスメントの送信] ダイアログボックスが開きます。
4. 使用するテンプレート、期日などの必要な情報をダイアログボックスに入力します。
   アセスメントの説明は、アセスメントテンプレートの構成時に指定された説明から自動的に取得されます。必要に応じて説明を変更できます。
5. **[Send]** を選択します。

[新しいプライバシーアセスメントの作成**(New privacy assessment creation)**] フォーム

[新しいプライバシーアセスメントの作成(New privacy assessment creation)] フォームの各フィールドを使用して、新しいプライバシーアセスメントを作成します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新しいプライバシーアセスメントの作成**(New privacy assessment creation)**] フォームのフィールド

[新しいプライバシーアセスメントの作成**(New privacy assessment creation)**] フォーム

フィールド	説明
プライバシーアセスメント	
番号	プライバシーアセスメントの番号。このフィールドは自動的に設定されます。
タイトル	プライバシーアセスメントの名前。
要求者	アセスメントを要求しているユーザーの名前。
アセスメントテンプレート	アセスメントに使用するテンプレート。
状況	アセスメントの状態。このフィールドは自動的に [ドラフト] に設定されます。
優先度	アセスメントの優先度。
説明	アセスメントの説明。
アサイン	
アサイニー	アサインを受けるユーザーの名前。
レビュー担当者	アセスメントをレビューするユーザーの名前。このフィールドでは複数のレビュー担当者を選択できます。
スケジュール	
期日	アセスメントが完了する予定の日付。
受諾日 (Accepted date)	アセスメントが受諾された日付。このフィールドは読み取り専用で、タスクが受諾された日付のみが表示されます。
作成済み	アセスメントが作成された日付。このフィールドは読み取り専用です。
タスクのクローズ日 (Task closure date)	アセスメントタスクがクローズされた日付。このフィールドは読み取り専用で、タスクがクローズされた日付のみが表示されます。
サマリ	
観察事項	アセスメントに関する所見。
アクティビティ	
作業メモ (プライベート)	アセスメントに関する作業メモ。
追加コメント (顧客に表示)	このアセスメントを更新する際のコメント。

複数のエンティティへのプライバシーアセスメントの送信

プライバシースクリーニングアセスメントまたはプライバシー影響度評価 (PIA) アセスメントを複数のエンティティに送信して、個人データが処理される理由と方法を理解します。

始める前に
必要なロール：sn_privacy.manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > プライバシーワークスペース > リスト > スコーピング > エンティティタイプ.
2. アセスメントを送信する対象のエンティティを含むエンティティタイプを選択します。
3. [エンティティ] 関連リストを選択します。
4. 必要なエンティティを選択するには、選択アイコン (☐) を選択します。
5. [プライバシーアセスメントの送信] をクリックします。
6. [分類] フィールドから、アセスメントのタイプを選択します。
7. [アセスメントテンプレート] フィールドで、使用するテンプレートを選択します。
8. [期日] フィールドで、アセスメントを完了する期日を選択します。
9. [送信] をクリックします。

タスクの結果
アセスメントはエンティティオーナーに送信されます。

処理アクティビティからのプライバシーアセスメントの送信

処理アクティビティレコードから処理アクティビティのオーナーにプライバシーアセスメントを送信して、処理アクティビティが個人情報を使用する理由と方法に関する詳細情報を収集します。

始める前に
必要なロール：sn_privacy.manager または sn_privacy.analyst

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > プライバシーワークスペース > 処理アクティビティ > すべての処理アクティビティ.
2. プライバシーアセスメントの送信元になる処理アクティビティを選択して開きます。
3. [プライバシーアセスメントを開始] をクリックします。
   [新しいプライバシーアセスメントを作成 **(Create new privacy assessment)]** フォームにリダイレクトされます。
4. フォームのフィールドに入力します。
   フィールドの説明については、「[新しいプライバシーアセスメントの作成(New privacy assessment creation)] フォーム」を参照してください。
5. [ステータスの更新] を選択します。
   a. [ステータス] フィールドで、[アサイン済み] を選択します。
   b. [追加コメント] フィールドに、アセスメントを受けるユーザーへのコメントを入力します。
   c. [送信] を選択します。

タスクの結果
アセスメントはエンティティオーナーに送信されます。

複数の処理アクティビティからプライバシーアセスメントを送信

複数の処理アクティビティから複数のプライバシーアセスメントを送信します。この機能を使用すると、事業部門、場所、データ主体、およびデータタイプ別に処理アクティビティをフィルタリングできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：sn_privacy.manager または sn_privacy.analyst

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > プライバシーワークスペース > 処理アクティビティ > すべての処理アクティビティ.
2. アセスメントの送信元になる処理アクティビティを選択します。
3. [プライバシーアセスメントの送信] を選択します。
4. [分類] フィールドから、アセスメントのタイプを選択します。
5. [アセスメントテンプレート] フィールドで、使用するテンプレートを選択します。
6. [期日] フィールドで、アセスメントを完了する期日を選択します。
7. [送信] をクリックします。

リスクアセスメント方法の作成

組織内のリスクを評価できるように、 プライバシー管理 アプリケーションでリスクアセスメント方法論 (RAM) を構成します。

始める前に
必要なロール:sn_privacy.manager または sn_privacy.admin

このタスクについて
部門、プロジェクト、およびシステム全体でリスクベースの意思決定をサポートする標準化された方法を作成します。RAM を使用することで、組織はさまざまな方法でリスクを評価できます。

RAM を [廃止] ステータスに移動した後、後で変更を加えたい場合は [ドラフト] ステータスに戻すこともできます。[監視] ステータスまたは [クローズ済み] ステータスのアセスメントがない場合にのみ、RAM を [ドラフト] ステータスに移動できます。RAM を [ドラフト]に戻すと、進行中のアセスメントおよび関連付けられているスコープが削除されます。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > リスクアセスメント > リスクアセスメント方法.
2. リスクアセスメント方法論 ページで、 新規 を選択します。
3. フォームで、詳細を入力します。
   リスクアセスメント方法論フォームのフィールド値の説明については、「 リスクアセスメント方法論フォーム」を参照してください。
4. フォームを右クリックして保存します。
5. さまざまなアセスメントを設定するには、次のいずれかのオプションを選択します。

6. [公開] を選択します。

> **注:**
> 同じリスクに対して新しいアセスメントが作成され、そのアセスメントが [監視] ステータスになると、他のアセスメントは自動的に [完了] ステータスに移行します。アセスメントインスタンスが [監視] ステータスの場合、RAM を [ドラフト] ステータスに戻すことはできません。アセスメントのインスタンスがない場合にのみ、RAM を [ドラフト] ステータスに戻すことができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
新しいリスクアセスメント方法論が作成され、使用できるようになります。

リスクアセスメント方法論フォーム

コア UIのリスクアセスメント方法論フォームを使用して、リスクアセスメント方法論 (RAM) を作成します。

リスクアセスメント方法論フォーム

フィールド	説明
名前	リスクアセスメント方法の名前。たとえば、データリスク評価などです。
評価	アセスメントコンテキストを選択します。 • リスク • オブジェクト
適用可能なエンティティクラス	このフィールドをロック解除し、リスクアセスメント方法を作成するエンティティクラスを追加します。
ワークフロー	リスクアセスメント方法で実行するアセスメントとワークフローを指定します。選択したオプションに応じて、対応するアセスメントタイプとワークフローが有効になります。
ロールアップ構成	
ALE 計算の基準	ALE の計算基準を選択します。 • 合計 • 平均 • 最大 • 最小
スコア計算の基準	スコアの計算基準を選択します。 • 平均 • 最大 • 最小
リスク対応構成	必要な選択を行います。
ビジネスルールと検証	
最終コメントは必須です	最終コメントの根拠を選択: • なし • 常時 • 選好度違反時 • 許容度違反時

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクアセスメント方法論フォーム (続く)

フィールド	説明
問題を自動的に作成	問題を自動的に作成する根拠を選択します。 • なし • 選好度違反時 • 許容度違反時
参照情報	必要な選択を行います。
その他の構成	
事前通知 (日数)	詳細リマインダーを設定する日数を入力します。
期限切れのリマインダー (日数)	期限切れのリマインダーを設定する日数を入力します。
リスク識別	リスクを特定するための基準を選択します。 • なし • ライブラリーから • アドホック • ライブラリーおよびアドホックから
その他のオプション	残りのオプションに必要な選択を行います。

プライバシースマートアセスメントに応答

アセスメントワークスペースからのスクリーニングアセスメントまたは影響度評価のいずれかに回答します。アセスメント結果は、潜在的なプライバシーリスクとその軽減策を理解するのに役立ちます。

始める前に

必要なロール：sn_privacy.business_user

このタスクについて

スクリーニングアセスメントは、プライバシーチームが個人データを処理するアプリケーションを認識する必要があるかどうかを判断するために、レスポンダーに送信される最初のアセスメントです。個人データが含まれている場合は、影響度評価が主要なステークホルダーに送信されます。スクリーニングアセスメントには質問の [全般] セクションのみがありますが、影響度評価には [個人データ] と [アンケート] の 2 つのセクションがあります。[個人データ] セクションには、次のセクションがあります。

- データ要素:このセクションには、情報オブジェクトカテゴリとそのカテゴリに属する各情報オブジェクトが表示されます。テンプレート構成時の選択に基づいて、すべての情報オブジェクトカテゴリまたは選択したカテゴリのみを表示できます。
- 階層:このセクションでは、レスポンダーがデータのソースと宛先を指定します。
- 法的根拠:このセクションでは、レスポンダーは、データが処理される法的根拠を指定します。たとえば、情報は法的義務のために処理されます。ここでは、データに対して実行できる作成、読み取り、更新、削除操作の詳細なレベルと、データの取得元と送信先を指定できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントでは スマートアセスメントエンジンが使用されるため、回答者は各質問の詳細な説明と、回答者が質問に答える際に役立つガイダンスを確認できます。

手順

1. 移動先 すべて > セルフサービス > 従業員センター > 自分のアクティブなアイテム > **GRC** タスク > 自分の **To Do** > 自分の保留中タスク > プライバシーアセスメント.
2. 実施するアセスメントを選択して開きます。
   アセスメントが アセスメントワークスペースで開きます。
3. アセスメントを受けるには、[開始] を選択します。
4. オプション: アセスメントを再アサインするには、[再アサイン] を選択します。
   アセスメントを再アサインできるのは、アセスメントに回答する特権を持ち、主要なステークホルダーであるユーザーのみです。
5. スクリーニングアセスメントに回答する場合は、アンケートの質問に回答します。
6. 質問のガイダンスを表示するには、質問の下部にある ガイダンスの表示 を選択します。
7. **[Submit** (送信)] を選択します。
8. オプション: 影響度評価に応答する場合は、[個人データ] セクションで、[データ要素]、[階層]、および [法的根拠] の応答を入力します。
   a. [アンケートに移動] を選択します
   b. **[Submit** (送信)] を選択します。
   c. 確認ボックスで、[送信] を選択します。
9. 送信後に応答を表示するには、アセスメント ページで [表示] を選択します。

タスクの結果

アセスメントが送信された後、プライバシーチームはアセスメントの送信に関する通知を受け取ります。チームは、分析に基づいてそれを実行するか却下するかを選択できます。プライバシーチームがアセスメントをクローズすると、処理アクティビティが作成されます。

プライバシースクリーニングアセスメントへの応答

エンティティオーナーまたは処理アクティビティの主要なステークホルダーは、プライバシーリードによって開始されたプライバシーアセスメントに応答します。

始める前に

必要なロール：sn_privacy.assessment_responder、sn_privacy.business_user

このタスクについて

アセスメントに応答している間、自分がアセスメントを開始していても、アセスメントを別のユーザーに再アサインできます。部分的に完了したプライバシーアセスメントを別のユーザーに再アサインすると、提供済みのデータもコピーされ、新しいアサイニーがアセスメントを受けるときに使用できます。このデータは、新しいアサイニーにより変更できます。

手順

1. 移動先 すべて > セルフサービス > 従業員センター > 自分のアクティブなアイテム > **GRC** タスク > 自分の **To Do**.
2. アサインされたアセスメントを開きます。
3. 次のアクションのいずれかを実行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
回答は、それぞれのエンティティと処理アクティビティでキャプチャされます。回答はプライバシーチームによってレビューされます。

プライバシーアセスメントをレビュー

プライバシーアナリストは、レスポンダーがアセスメントを送信した後にプライバシーアセスメントをレビューします。レビュー後にアセスメントをクローズすることも、アセスメントにさらに情報が必要であると判断した場合は、リビジョンを要求することもできます。

始める前に
必要なロール：sn_privacy.analyst

このタスクについて
レビュー担当者は、該当するリスクステートメント、情報オブジェクト、およびコントロール目標を含むアセスメントをプレビューすることもできます。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシーワークスペース > タスク.
2. レビューするプライバシーアセスメントを選択して開きます。
3. [応答を表示] を選択します。
4. アセスメント応答をレビュー
5. レスポンダーに詳細情報を要求するには、[リビジョンの要求 **(Request for revision)]** を選択します。
6. アセスメントを完了としてマークするには、[ステータスの更新] を選択します。
   a. [ステータス] フィールドで、[完了してクローズ] を選択します。
   b. 追加情報がある場合は、[追加コメント] フィールドに入力します。
   c. [送信] を選択します。

処理アクティビティの作成または更新

処理アクティビティを手動で作成するか、プライバシースクリーニングアセスメントから自動的に作成された処理アクティビティを更新します。エンティティレコードから作成された処理アクティビティを更新することもできます。処理アクティビティを更新するときに、処理中の個人データに関する詳細を入力できます。

始める前に
必要なロール：sn_privacy.analyst (処理アクティビティを所有しているユーザー) または sn_privacy.manager

手順

1. 次のいずれかに移動します。

2. フォームのフィールドに入力します。

[新しい処理アクティビティ **(New processing activity)]** フォーム

フィールド	説明
名前	処理アクティビティの名前。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
処理アクティビティの目的	個人データを保存するアプリケーションまたはプロセスを使用するビジネス上の根拠または理由。
番号	処理アクティビティの番号。このフィールドは自動的に設定されます。
プライバシーアナリスト	処理アクティビティを担当するアナリスト。
事業部門	処理アクティビティの事業部門。
部門	処理アクティビティの部門。
処理アクティビティタイプ	ビジネスアプリケーションやビジネスプロセスなどの処理アクティビティのコンテキスト。
エンティティ	処理アクティビティのエンティティ。
適用するレコード	処理アクティビティレコードの作成に使用される参照レコード。
オーナー	処理アクティビティのオーナー。
データ処理ロール	処理アクティビティがデータコントローラーかデータプロセッサーかを定義します。
処理アクティビティステータス	処理アクティビティのステータス。選択肢は次のとおりです。 ○ 実装中 ○ 稼働中 ○ パイロット ○ 廃止 **(Retired)** ○ 評価中
処理アクティビティカテゴリ	処理アクティビティが属するカテゴリ (カスタマーケア、財務など)。
コンプライアンススコア	この処理アクティビティにマッピングされたすべてのコントロールに基づいて計算されたプライバシーコンプライアンススコア。
プロセスオーナー	処理アクティビティの編集権限を持ち、主要なステークホルダーのリストに登録されている sn_privacy.business_user ロールを持つユーザー。 **注:** このフィールドで選択されたユーザーは、このフィールドを更新して新しいプロセスオーナーを選択できます。このフィールドを更新できるのは、処理アクティビティが [ディスカバリー] または [レビュー] ステータスの場合のみです。
データ主体	
データストレージタイプ	個人情報が保存される形式。選択肢は次のとおりです。 ○ デジタル ○ 用紙 ○ 両方

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
データストレージの場所	個人情報が保存されている物理的な場所。
データの保持期間 (日数)	個人情報を保持する必要がある日数。
データ主体タイプ	使用および処理されている個人情報に関連付けられたユーザータイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ 顧客 ○ 従業員 ○ その他
データ主体の範囲	個人情報が処理されるユーザーの範囲。
特殊なカテゴリデータが含まれていますか？	このフィールドは自動的に [はい] または [いいえ] に設定されます。処理アクティビティに関連付けられた情報オブジェクトが特別なカテゴリデータとして分類された場合、このフィールドは自動的に [はい]に設定されます。
特殊なカテゴリデータを取得しますか？	この処理アクティビティは、人種、民族、政治情報などの特別なカテゴリデータを処理しますか？選択肢は次のとおりです。 ○ はい ○ いいえ
アクティビティ	
追加コメント	処理アクティビティに関する追加情報。
作業メモ	内部メモは外部ユーザーには表示されません。

3. [保存] をクリックします。

処理アクティビティ内で情報オブジェクトを作成または管理する

処理アクティビティが作成された後に、処理アクティビティに情報オブジェクトを追加します。情報オブジェクトを追加すると、処理されている個人情報のタイプとその処理方法を理解するのに役立ちます。このタスクは、処理アクティビティに適切なコントロールを適用するのに役立ちます。

始める前に

必要なロール：sn_privacy.analyst (処理アクティビティを所有しているユーザー) または sn_privacy.manager

このタスクについて

個人情報タグが付けられた情報オブジェクトのみを処理アクティビティに追加できることに注意してください。情報オブジェクトにタグを付ける方法の詳細については、「情報オブジェクトを個人情報として分類」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシーワークスペース > 処理アクティビティ > すべての処理アクティビティ.
2. コントロールを追加する処理アクティビティを選択して開きます。
3. [[PI]情報オブジェクト] 関連リストをクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [追加] をクリックします。
5. 追加する情報オブジェクトを選択します。
6. [追加] をクリックします。

関連情報

処理アクティビティ内の情報オブジェクトの変更

処理アクティビティ内の情報オブジェクトの変更

処理アクティビティに情報オブジェクトを追加した後、情報オブジェクトにデータを格納する理由などの詳細を追加します。詳細を追加すると、個人データの処理方法を定義できます。

始める前に

必要なロール：sn_privacy.analyst (処理アクティビティを所有しているユーザー) または sn_privacy.manager

このタスクについて

プライバシーアナリストは、特定の処理アクティビティで個人データがどのように使用されているかの詳細を提供する必要があります。情報オブジェクトに関連する詳細を追加すると、この目標を達成するために役立ちます。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > プライバシーワークスペース > リスト > リスト > 処理アクティビティ > すべての処理アクティビティ.
2. 変更する情報オブジェクトを含む処理アクティビティを選択して開きます。
3. 選択 データインベントリの処理 > **[PI]** 情報オブジェクト.
4. 変更する情報オブジェクトを開きます。
5. 処理アクティビティに対する情報オブジェクトのフォームでフィールドに入力します。

フィールド	説明
情報オブジェクト	情報オブジェクトの名前。このフィールドは自動的に設定されます。
処理アクティビティ	情報オブジェクトが含まれている処理アクティビティの名前。このフィールドは自動的に設定されます。
データのタイプ	個人データのタイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ 一般的な個人情報：たとえば、名前、電話番号、住所などです。 ○ 特別なカテゴリ：たとえば、政治的意見、宗教的信条などです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: 処理アクティビティに関連付けられた情報オブジェクトが特別なカテゴリとして分類された場合、処理アクティビティフォームの [機密] フィールドは自動的に [はい] に設定されます。 ○ 刑事上の有罪判決：たとえば、裁判所の判断、法的手続きに関する情報などです。
処理の法的根拠	個人データを処理する理由。 ○ なし ○ 法的義務 ○ 正当な利益
CRUD 操作	処理アクティビティで実行できる操作。選択肢は次のとおりです。 ○ 作成 ○ 読み取り ○ 更新 ○ 削除
データの取得元	データの取得元である資産。たとえば、この処理アクティビティのデータの提供元のアプリケーションを選択できます。
データの送信先	データの送信先を指定します。
情報オブジェクトカテゴリ	情報オブジェクトのカテゴリ。
このデータを保存する理由	個人データを保存および使用する理由。

6. [保存] をクリックします。

処理アクティビティへのデータ主体タイプの追加

プライバシーワークスペースの処理アクティビティにデータ主体タイプを追加します。

始める前に
必要なロール：sn_privacy.manager または sn_privacy.analyst

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > プライバシーワークスペース.

2. プライバシーワークスペースで、[リスト] アイコン ( )

3. 移動先 処理アクティビティ > すべての処理アクティビティ.

4. データ主体タイプを追加する処理アクティビティを選択して開きます。

5. 移動先 データインベントリの処理 > データ主体タイプ.

6. **[Add** (追加)] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. [新しいデータ主体タイプを追加 (Add a new data subject type)] ウィンドウで、 データ主体タイプを選択します。
8. [データ主体のボリューム] の値を選択します。
9. [データ主体の場所] を選択します。
10. データ主体タイプに追加する 情報オブジェクト を選択します。
11. **[Add** (追加)] を選択します。

タスクの結果
追加したデータ主体タイプが [データ主体タイプ] テーブルに表示されます。

プライバシー影響度評価にデータ主体タイプを追加

従業員センターからプライバシー影響度評価にデータ主体タイプを追加します。

始める前に
必要なロール:sn_privacy.business_user または sn_privacy.admin

このタスクについて
追加したデータ主体タイプは、プライバシー影響度評価 (PIA) が承認された後、処理アクティビティに自動的に追加されます。

手順
1. 移動先 すべて > セルフサービス > 従業員センター.
2. 従業員センター ホームページで、[**GRC** タスク] を選択します。
3. GRC タスクのホームページで、[タスク] を選択します。
4. 検索項目 自分の保留中タスク > プライバシーアセスメント.
5. データ主体タイプを追加する転送 (PIA) を開きます。
6. [データ主体タイプ] 関連リストで、[追加] を選択します。
7. [新しいデータ主体タイプを追加 (Add a new data subject type)] ダイアログボックスで、フィールドに入力します。

[新しいデータ主体タイプを追加 **(Add a new data subject type)]** フォーム

フィールド	説明
データ主体タイプ	データ主体のタイプ。
データ主体のボリューム	データ主体のボリューム。 ○ 0-49 ○ 50-99 ○ 100-499 ○ 500-999 ○ 1000+
データ主体の場所	データ主体タイプに適用可能な場所。
情報オブジェクト	情報オブジェクトのタイプ。

自動翻訳

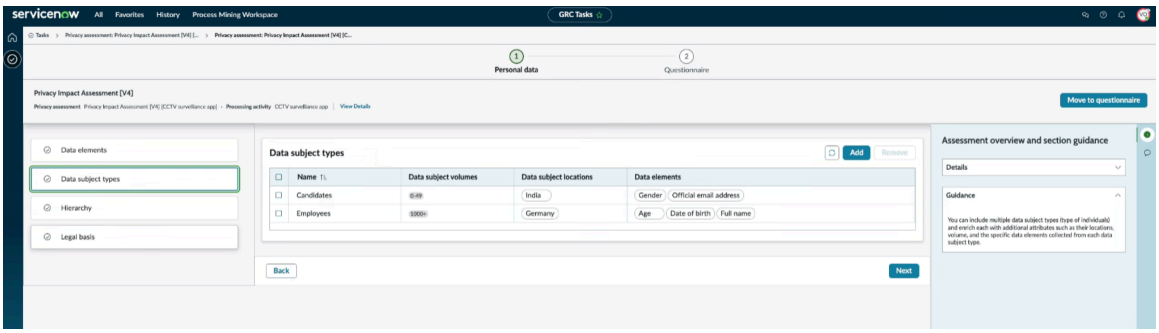
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ フルネーム ○ 自宅住所 ○ 経過時間 ○ 生年月日 ○ 教育履歴 ○ 性別 ○ メールアドレス ○ 前科

8. **[Add** (追加)] を選択します。
   新しいレコードが作成されたことを示す確認メッセージが表示されます。

タスクの結果
データ主体タイプは表形式で表示されます。

データ主体タイプ



データ主体タイプを脆弱性対象として分類

データ主体タイプを脆弱性対象として分類します。データ主体タイプを脆弱性としてマークすると、重要度スコアは [高] と計算されます。

始める前に
必要なロール：sn_privacy.manager

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > プライバシーワークスペース.
2. プライバシーワークスペースで、[リスト] アイコン ( )
3. 移動先 プライバシー要素 > データ主体タイプ.
4. 脆弱性として分類するデータ主体タイプを選択して開きます。
5. [脆弱性] を選択して、データ主体タイプを脆弱性としてマークします。
6. **[Save** (保存)] を選択します。

タスクの結果
脆弱として分類したデータ主体タイプが、重要度スコアが「高」になる一因となっています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

主要なステークホルダーの追加とプライバシーアセスメントの送信

主要なステークホルダーを処理アクティビティに追加して、処理アクティビティ内の個人データの処理を担当する主要なメンバーを特定します。その後、責任に基づいてそれぞれのプライバシーアセスメントをステークホルダーに送信できます。たとえば、エンティティオーナーは処理アクティビティの主要なステークホルダーです。

始める前に
必要なロール：sn_privacy.analyst

このタスクについて
処理アクティビティには複数の主要なステークホルダーを指定できます。必要な数の主要なステークホルダーを追加または削除できますが、デフォルトでは、エンティティオーナーは主要なステークホルダーの 1 人です。ステークホルダーは全員プライバシーアセスメントに回答でき、一部のステークホルダーは自分の権限に基づいて処理アクティビティを編集することもできます。sn_privacy.assessment_responder と sn_privacy.business_user を持つユーザーのみをステークホルダーとして追加できます。処理アクティビティが [ディスカバリー] または [レビュー] 状況の場合にのみ、主要なステークホルダーを追加できます。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > プライバシーワークスペース > 処理アクティビティ > すべての処理アクティビティ.
2. 主要なステークホルダーを追加する処理アクティビティを開きます。
3. [主要なステークホルダー] 関連リストをクリックします。
4. [追加] をクリックします。
   a. 追加するステークホルダーを選択します。
   b. [追加] をクリックします。
      主要なステークホルダーが追加されます。
5. ステークホルダーの権限と責任を変更するには、ステークホルダーの名前を選択します。
6. [責任] フィールドに、ステークホルダーの責任を入力します。
7. [処理アクティビティ権限] フィールドで、次のいずれかのオプションを選択します。
8. [保存] をクリックします。
9. ブレッドクラムナビゲーションを使用して、処理アクティビティに戻ります。
10. プライバシーアセスメントをステークホルダーに送信するには、[プライバシーアセスメントを送信] をクリックします
    a. [分類] フィールドから、アセスメントのタイプを選択します。
    b. [アセスメントテンプレート] フィールドで、使用するテンプレートを選択します。
    c. [ユーザー] フィールドから、アセスメントを送信するユーザーを選択します。
    d. [送信] をクリックします。

規制機関の追加

プライバシーワークスペース に規制機関を追加して、各管轄内の業界またはセクターの監督を担当する関連する規制当局を特定します。管轄は、メールを介したすべての規制コミュニケーションを統

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

合し、報告されたプライバシーケースのデータプライバシーやセキュリティ侵害の通知ルールを実装します。

始める前に
必要なロール：sn_privacy.analyst

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > プライバシーワークスペース > リスト > 規制情報 > 機関.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。
   フィールドの説明については、「規制機関フォーム」を参照してください。

規制機関フォーム

プライバシーワークスペース の「規制機関の作成」フォームを使用して、規制機関を作成します。規制機関は、規制の変更を処理する新しいレコードタイプです。

「規制機関の作成」フォーム

フィールド	説明
名前	規制機関の名前。たとえば、Australian Prudential Regulation Authority (オーストラリア健全性規制庁) などです。
サマリー	規制機関の簡単な概要。たとえば、オーストラリア健全性規制庁 (APRA) は、オーストラリア政府の法定機関であり、オーストラリアの金融サービス業界の健全性規制当局です。
説明	規制機関の詳細な説明。
頭字語	規制機関の頭字語 (存在する場合)。例：APRA
ロゴ	規制機関のロゴ。
エグゼクティブオーナー	機関の責任者。
Web サイトリンク	機関の公式 Web サイトへのリンク
分類	
カテゴリ	規制機関を分類するためのカテゴリ。選択肢は以下のとおりです。 • 規制 • 法令 • 政府 • その他
スコープ	機関が運営する分野および機関の具体的な製品またはサービス。例：[法案 **(Bill)]**、[決議 **(Decisions)]**、[通達 **(Circulars)]**。このフィールドには複数の範囲を選択できます。
セクター	さまざまな機関や企業が同様の活動に従事したり、または同様の製品やサービスを提供し

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

「規制機関の作成」フォーム (続く)

フィールド	説明
	たりする経済のセグメント。たとえば、[銀行 **(Banking)]** です。
テーマ	機関の活動の中心となる主題。例えば、[マネーロンダリング防止対策 **(Anti-money launering)]**。
キー日付	
設立日	機関が設立された日付。このフィールドには将来の日付は使用できません。
作成日時	機関が創立された日付。
設定	
機能ドメイン	規制機関の機能ドメイン。規制機関が プライバシーワークスペース から作成された場合、このフィールドは自動的に [プライバシー] に設定されます。

処理アクティビティのデータリネージの作成

データリネージを構築して、処理アクティビティのデータ消費、共有、および関連するリスクを可視化します。各処理アクティビティには、個人情報として分類された複数の情報オブジェクトが含まれます。これらのオブジェクトは他のさまざまなエンティティとデータを交換するため、個人データが共有される場所を追跡するデータリネージや階層の構築が不可欠です。これを把握すると、プライバシー関連のリスクの軽減に役立ちます。

始める前に

必要なロール：sn_privacy.business_user

このタスクについて

データリネージは処理アクティビティの [階層] タブから作成できますが、この手順では、階層を視覚的に表現できる [データリネージ (Data Lineage)] ページから作成する方法を説明します。階層を作成するときは、ソースと宛先の両方に同じ資産を使用しないようにしてください。

関係の階層を作成するときは、最大 5 レベルの関係を表示できます。ただし、*`sn_privacy.nodemap.maxLevel`* プロパティの設定に応じてレベルの数を設定できます。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > プライバシーワークスペース > 処理アクティビティ > すべての処理アクティビティ.
2. データリネージを作成する処理アクティビティを開きます。
3. フォームで、[データリネージ **(Data lineage)]** を選択します。
4. 関係を作成するレコードを選択します。
5. [新しい関係の作成 **(Create new relationship)]** を選択します。
6. [新しい関係の作成 (Create new relationship)] ボックスのフィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
プライマリノード	関係を作成しているレコード。このフィールドは選択したレコードに自動的に設定されますが、ノードの変更はできます。
階層	関係を作成するレベル。選択肢は以下のとおりです。 ○ データ取得元 **(Data coming from)**：このオプションを選択すると、データはプライマリノードより上のレベルにフローします。 ○ データ送信先 **(Data sent to)**：このオプションを選択すると、データはプライマリノードより下のレベルにフローします。
関連先	個人データが関連付けられている CMDB レコード。たとえば、プライマリノードがビジネスアプリケーション、ビジネスプロセス、ビジネスサービスなどに関連しているかどうかです。このフィールドで選択を行った後、必要なレコードを選択します。このフィールドには次の選択肢があります。 ○ ビジネスアプリケーション ○ ビジネスプロセス ○ ビジネスサービス ○ 会社 ○ ベンダー ○ エンティティ ○ 処理アクティビティ
関係性タイプ	個人データと選択したアイテム間の関係の性質。選択肢は以下のとおりです。 ○ 依存 **(Depends)**：個人データが指定されたアイテムに依存していることを示します。 ○ 包含 **(Contains)**：アイテムに個人データが含まれているか保持していることを指定します。 ○ データ送信先：アイテムが個人データを別のアプリケーションまたはパーティに送信することを示します。 ○ 用途：アイテムがその操作またはプロセスに個人データを利用することを示します。 **注:** sn_grc_choice テーブルのこのフィールドに表示する選択肢をさらに追加できます。
説明	関係の簡単な説明。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. [作成] を選択します。
   関係ノードが作成されます。
8. 特定のレコードのデータの流入と流出を表示するには、 アイコンを選択します。
9. 処理アクティビティが選択したレコードに関連付けられている場合に、処理アクティビティとエンティティの詳細を表示するには、 アイコンを選択します。

処理アクティビティに関するコントロールの作成または管理

新しいコントロールを追加するか、アセスメント応答から処理アクティビティに自動的に追加されるコントロールを管理します。コントロールを追加すると、処理アクティビティに適切な規制が適用されます。

始める前に

必要なロール：処理アクティビティを所有している sn_privacy.analyst または sn_privacy.manager

このタスクについて

次の方法で処理アクティビティにコントロールを追加または管理できます。

- コントロール目標の選択：既存のコントロール目標を処理アクティビティに追加できます。処理アクティビティにコントロール目標を追加すると、その特定のコントロール目標に関連付けられたコントロールが処理アクティビティに追加されます。
- コントロールの作成：コントロールを作成して処理アクティビティに追加できます。
- 推奨コントロールから選択：このオプションを使用すると、処理アクティビティにマッピングされている情報オブジェクトに基づいて、推奨されるコントロールのリストから選択できます。情報オブジェクトが 1 つ以上のコントロール目標にマッピングされ、同じ情報オブジェクトが処理アクティビティにマッピングされている場合、対応するコントロール目標が推奨されます。
- 自動的に追加されたコントロールの管理：アセスメント応答に基づいて自動的に作成されたコントロールを管理できます。
- エンティティからのコントロールの適用：処理アクティビティに関連エンティティからプライバシー関連のコントロールを適用できます。
- 共通コントロールの追加：共通コントロールを処理アクティビティに追加して、プライバシーチームにコントロールの失敗を通知し、共通コントロールの証明書プロセスの重複を避けることができます。共通コントロールの詳細については、「共通コントロールのテスト、および複数の依存エンティティでの結果の実装」を参照してください。

注:

手順

1. 移動先 すべて > プライバシーワークスペース > 処理アクティビティ > すべての処理アクティビティ.
2. コントロールを追加する処理アクティビティを選択して開きます。
3. [コントロール] 関連リストをクリックします。
4. 処理アクティビティにコントロールを追加するには、次のいずれかの操作を行います。

タスクの結果

軽減コントロールが処理アクティビティに追加されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

処理アクティビティからのコントロールの削除

処理アクティビティで不要になったコントロールを削除します。

始める前に
必要なロール：sn_privacy.admin

このタスクについて
これらのコントロールに関連付けられたコントロール目標が誤って追加された場合は、コントロールを削除できます。新しいコントロールを追加する場合は、既存のコントロールを削除することができます。

注:
コントロールが他のエンティティまたはエンティティタイプに関連付けられている場合、そのコントロールは削除できません。コントロールを削除することによって、そのコントロールと処理アクティビティの関連付けのみを削除できます。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシーワークスペース > 処理アクティビティ > すべての処理アクティビティ.
2. コントロールを削除する処理アクティビティを選択して開きます。
3. [コントロール] 関連リストをクリックします。
4. 削除するコントロールを選択します。
5. [削除] をクリックします。

タスクの結果
選択したコントロールが処理アクティビティから削除されます。

処理アクティビティに関するリスクの作成または管理

新しいリスクを追加するか、アセスメント応答から処理アクティビティに自動的に追加されるリスクを管理します。リスクを追加すると、リスクベースのアプローチを使用して処理アクティビティを管理するのに役立ちます。

始める前に
必要なロール：処理アクティビティを所有している sn_privacy.analyst または sn_privacy.manager

このタスクについて
次の方法で処理アクティビティにリスクを追加または管理できます。

- リスクステートメントの選択：既存のリスクステートメントを処理アクティビティに追加できます。処理アクティビティにリスクステートメントを追加すると、その特定のリスクステートメントに関連付けられたリスクが処理アクティビティに追加されます。
- 推奨リスクから選択：このオプションを使用すると、処理アクティビティにマッピングされている情報オブジェクトに基づいて、推奨されるリスクのリストから選択できます。情報オブジェクトが 1 つ以上のリスクステートメントにマッピングされ、同じ情報オブジェクトが処理アクティビティにマッピングされている場合、対応するリスクステートメントが推奨されます。
- リスクの作成：リスクを作成して処理アクティビティに追加できます。
- エンティティからのリスクの適用：処理アクティビティに関連エンティティからプライバシー関連のリスクを適用できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシーワークスペース > 処理アクティビティ > すべての処理アクティビティ.
2. コントロールを追加する処理アクティビティを選択して開きます。
3. [リスク] 関連リストをクリックします。
4. 処理アクティビティにリスクを追加するには、次のいずれかの操作を行います。

タスクの結果
軽減コントロールが処理アクティビティに追加されます。

処理アクティビティのチャットコラボレーションの管理

処理アクティビティ、プライバシーケース、または Personal Data Rights 要求の処理中に、主要なステークホルダーとのディスカッションを迅速に開始します。チャット機能はMicrosoft Teamsと統合されており、ディスカッションが開始されるとMicrosoft Teamsにグループが自動的に作成されます。

始める前に
必要なロール：sn_privacy.analyst

このタスクについて
プライバシーケースは時間的な制約があるため、迅速なコラボレーションが必要になる場合があります。[ディスカッション (Discuss)] ボタンを使用すると、これらのコラボレーションが促進されます。チャットは保存されるため、プライバシーチームがタスクを処理するときに簡単に参照できます。処理アクティビティは別として、ディスカッション機能はプライバシーケースと Personal Data Rights 要求に使用できます。詳細については、「Sidebar and Microsoft Teams」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > プライバシーワークスペース > リスト > 自分のアイテム > 処理アクティビティ.
2. 話し合いの対象とする処理アクティビティを開きます。
3. [その他のアクション] アイコンを選択します。
4. [ディスカッション] を選択します。
   [サイドバーディスカッションを開始 (Start a Sidebar discussion)] ウィンドウが開き、主要なステークホルダーが参加者として追加されます。
5. メッセージを入力し、[ディスカッションを開始] を選択します。

タスクの結果
チャットは保存され、サイドパネルの [アクティビティ] で表示できます。

処理アクティビティに関する問題の作成または追加

処理アクティビティの問題を作成するか、既存の問題を追加します。問題を処理アクティビティに関連付けると、修正アクションを特定して優先順位を付けることができます。問題を関連付けると、顧客が管理する必要がある問題の数が減るため、これらの問題の管理に関する組織全体の効率が向上します。

始める前に
必要なロール：sn_privacy.analyst (処理アクティビティを所有しているユーザー) または sn_privacy.manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
コントロール証明書の失敗が発生すると、問題が作成されます。処理アクティビティの複数の問題を手動で追加または作成することもできます。1 つの問題を複数の処理アクティビティにマップすることもできます。プライバシーワークスペース から処理アクティビティの問題を作成した場合、[問題ソース] フィールドは [アドホック] に設定されます。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシーワークスペース > 処理アクティビティ > すべての処理アクティビティ.
2. 問題を追加する処理アクティビティを選択して開きます。
3. [その他] 関連リストをクリックします。
4. [問題] をクリックします。
5. [追加] をクリックします。
   a. 追加する問題を選択します。
   b. [追加] をクリックします。
6. オプション: 問題を作成するには、問題作成フォームを参照してください。
7. [保存] をクリックします。

処理アクティビティの主要なステークホルダーへのアサイン

ステークホルダーが処理アクティビティの作業を開始できるように、定義された主要なステークホルダーに処理アクティビティをアサインします。

始める前に
必要なロール：sn_privacy.analyst

このタスクについて
処理アクティビティが [ディスカバリー] ステータスにあるときに、処理アクティビティを主要なステークホルダーにアサインすることができます。主要なステークホルダーが処理アクティビティを更新した後、その処理アクティビティをプライバシーチームにアサインすることができます。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > プライバシーワークスペース > リスト > 処理アクティビティ > 未アサインの処理アクティビティ.
2. 主要なステークホルダーをアサインする処理アクティビティを選択します。
3. [主要なステークホルダーにアサイン] を選択します。
4. [主要なステークホルダーにアサイン] ウィンドウで、ステークホルダーを選択します。
5. [アサイン] を選択します。

タスクの結果
処理アクティビティが主要なステークホルダーにアサインされます。処理アクティビティは、**[GRC タスク]** の 従業員センター でレビューおよび更新できます。

関連情報

従業員センター とリスクポータルを プライバシー管理 と統合

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

従業員センター とリスクポータルを プライバシー管理 と統合

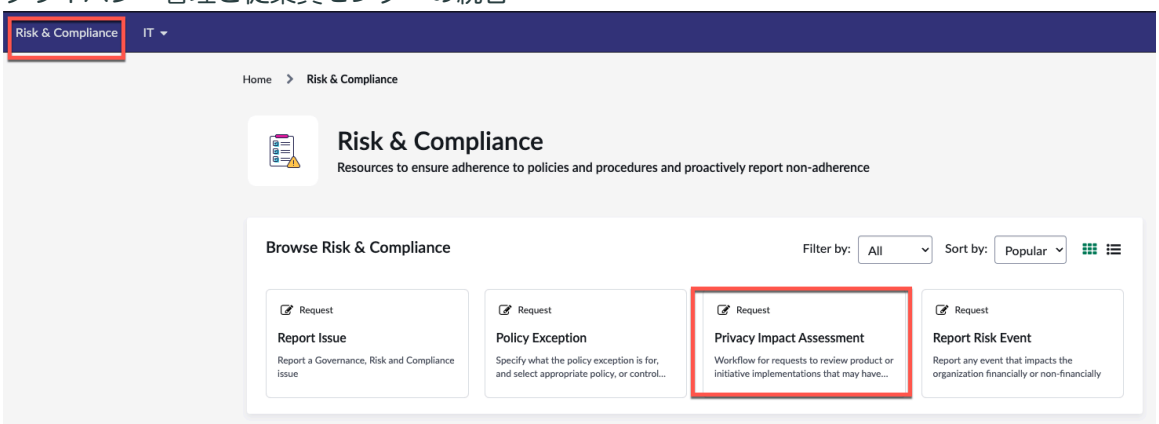
従業員センター と プライバシー管理 の統合により、新しい実装のプライバシー影響度評価の送信、コントロール証明書への応答、処理アクティビティとプライバシー影響度評価へのアクセスなどのタスクを実行するための簡素化されたユーザーインターフェイスをすべての従業員とユーザーに提供します。

従業員センター

従業員センター ポータルは、企業全体のシステムを 1 つの宛先サイトに接続するために役立つ統合ポータルであり、簡単に構成できるオプションによるシンプルで一元化されたエクスペリエンスを従業員に提供します。従業員センター の詳細については、「従業員センターの探索」を参照してください。

プライバシー管理 を 従業員センター と統合すると、処理アクティビティの作成につながるプライバシー影響度評価を作成するためのインターフェイスをすべての従業員に提供できます。sn_privacy.assessment_responder および sn_privacy.business_user ロールを持つユーザーのみが、プライバシー影響度評価を作成するオプションを表示できます。次の画像は、新しい実装要求を送信できるページを示しています。たとえば、ビジネスで新しい実装を計画している場合、チームは 従業員センター を使用できます。ビジネスアプリケーションレコードを作成する前に、チームは新しい実装要求のプライバシー影響度評価に応答することで、プライバシーチームに連絡できます。これは、新しい実装の初期フェーズまたは開始フェーズでプライバシーチームのガイダンスを取得するのに役立ちます。

プライバシー管理と従業員センターの統合



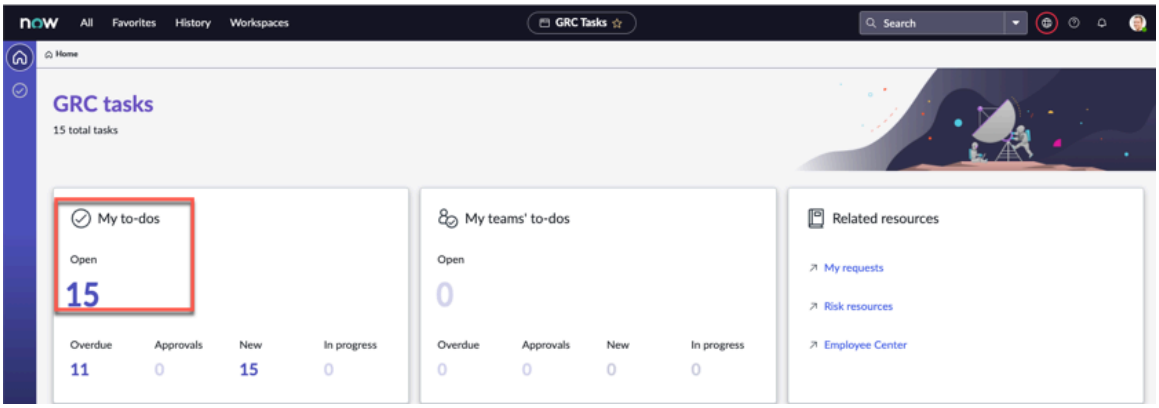
リスクポータル

プライバシーアナリストが処理アクティビティの詳細を取得するためにビジネスユーザーに処理アクティビティをアサインした場合、ビジネスユーザーはリスクポータルからアサインされた処理アクティビティにアクセスできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクポータルでの **GRC** タスクへのアクセス



プライバシーケース管理

ガバナンス、リスク、コンプライアンス: プライバシーケース管理 アプリケーションを使用すると、プライバシー違反や苦情をレポートおよび管理できます。このソリューションは、サポートされた違反の根本原因と主な詳細の調査を支援するさまざまなチームとのコラボレーションを通じて、プライバシー侵害や苦情の迅速かつ効率的な管理を可能にします。

他のシステムと統合し、影響を受ける領域を記録する機能により、このアプリケーションは、ケースに関連付けられた主要なステークホルダーと情報オブジェクトを特定するために役立ちます。これは、プライバシーチームが違反とその影響を管理するための適切な予防措置と修正手順を実行するために役立ちます。

探索	構成	使用方法
		
プライバシーマネージャー、プライバシーユーザー、およびプライバシーアドミニストレーターが プライバシーケース管理 アプリケーションを使用する方法について説明します。	プライバシーケース管理 アプリケーションを構成します。	プライバシーアセスメント、処理アクティビティなどを作成します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

参照



プライバシーケース管理 アプリケーションとともにインストールされるテーブルとロールについて説明します。

プライバシーケース管理 の探索

ガバナンス、リスク、コンプライアンス: プライバシーケース管理 アプリケーションを使用すると、プライバシー侵害と苦情をレポートし、主要なステークホルダーと協力して、侵害調査を実行し、侵害の原因と結果を分析できます。

次にプライバシーケースが発生するタイミングの例をいくつか示します。

- IT 資産の損失
- 顧客データの公開
- メールの配信先グループの誤り
- 書類とドキュメントの紛失

プライバシーケース管理 アプリケーションは、プライバシーチームがプライバシー違反または侵害を含むケースを管理するために役立ちます。プライバシーケースは、ユーザーが 従業員センター を使用してレポートすることもできれば、プライバシーチームが プライバシーワークスペース を使用して作成することもできます。アプリケーションは、API を介した、さまざまなソースからの (他の ServiceNow ソリューション、たとえば、セキュリティインシデントレスポンス、IT インシデント、HR ケース、サードパーティ統合など) プライバシーケースの作成を促進します。

プライバシーケース管理 アプリケーションは、組織に次のメリットをもたらします。

- プライバシーチームの注意が必要なプライバシー侵害や苦情をビジネスユーザーが報告できるようにします。
- 複数のチームとのコラボレーションにより、調査、評価、証拠の収集、将来のレビューのための応答を確実に行います。
- ポリシーや規制、IT 資産、影響を受ける事業部門など、影響を受ける領域と対処する必要がある関連領域を記録します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ケースに関連付けられた主要なステークホルダーと情報オブジェクトを特定するために役立ちます。
- 修正、予防措置を開始し、根本原因を分析してケースの原因を取り除くための機能を提供します。
- プライバシーケースから発生する問題を特定および管理するために役立ちます。

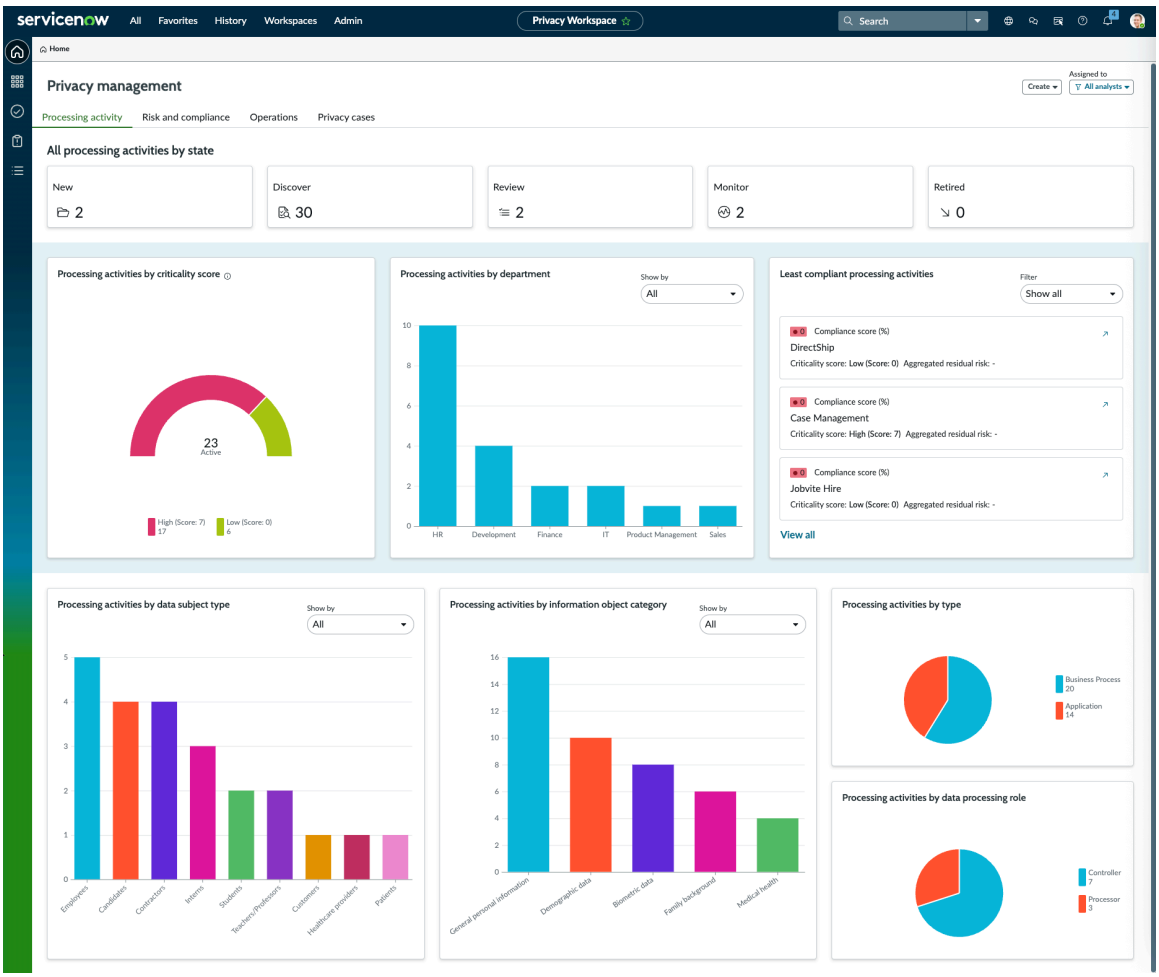
プライバシーケース管理ホームページ

プライバシーケース管理 アプリケーションのホームページでは、処理アクティビティの概要、リスクとコンプライアンス情報、操作の詳細、およびプライバシーケースに関連するすべての情報がプライバシーケースマネージャーに表示されます。

ホームページには、次のタブが含まれています。

- 処理アクティビティダッシュボード
- [リスクとコンプライアンス (Risk and compliance)] ダッシュボード
- Operations (運用) ダッシュボード
- プライバシーケースダッシュボード

プライバシー管理のランディングページ



[プライバシーケース概要] ページ

[プライバシーケース概要] ページには、プライバシーケース管理 アプリケーションのケースに関連する説明、ステータス、スケジュールとマイルストーン、ケースタスク、問題などの詳細が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[プライバシーケース管理 概要] 関連リストには、次のセクションが含まれています。

- 説明
- 状況
- ケーススケジュールとマイルストーン
- ケースタスク概要
- 追跡中
- 添付ファイル

[説明] セクション

[説明] セクションには、コプライバシーケースの作成時に入力できる詳細情報が含まれています。たとえば、目的、実行するアクション、タイムライン、適用可能なルールと規制、および関連する証拠またはドキュメントを追加できます。このセクションを使用すると、ケースのコンテキストを理解し、解決に必要な手順を実行できます。

[ステータス] セクション

[状況] セクションには、プライバシーケースのワークフロー状況が含まれています。たとえば、このセクションには、新規、トリアージ、調査、解決、ケースの事後レビュー、クローズなど、プライバシーケースのさまざまなステージが表示されます。これらの状況によって、ケースのステータスが決まります。プライバシーケースアドミニストレーターは、プライバシーケース管理 アプリケーションでこれらの状況を設定できます。詳細については、「プライバシーケースのワークフロー状況の定義」を参照してください。

[ケーススケジュールとマイルストーン] セクション

[ケーススケジュールとマイルストーン] セクションには、タイムライン範囲のケースライフサイクル中のすべてのマイルストーンまたはイベントの詳細が含まれています。このセクションには、ケースがレポート、発生、検出、クローズされた日付など、主要なイベントの概要が表示されます。[イベントを表示] オプションを選択した後、イベントをフィルターして、タイムライン範囲に次のオプションを表示することもできます。

ケース作成日
: ケースが作成された日付。

検出日
: ケースが検出された日付。

発生日
: ケースが発生した日付。

マイルストーン
: 調査と修正のマイルストーンに関連する日付。

違反
: 違反分析に関連する日付。

今日
: タイムライン上の現在の日付。

ケースクローズ
: ケースがクローズされた日付、またはケースクローズのサービスレベルアグリーメント (SLA) が満たされた日付。

ケース期間

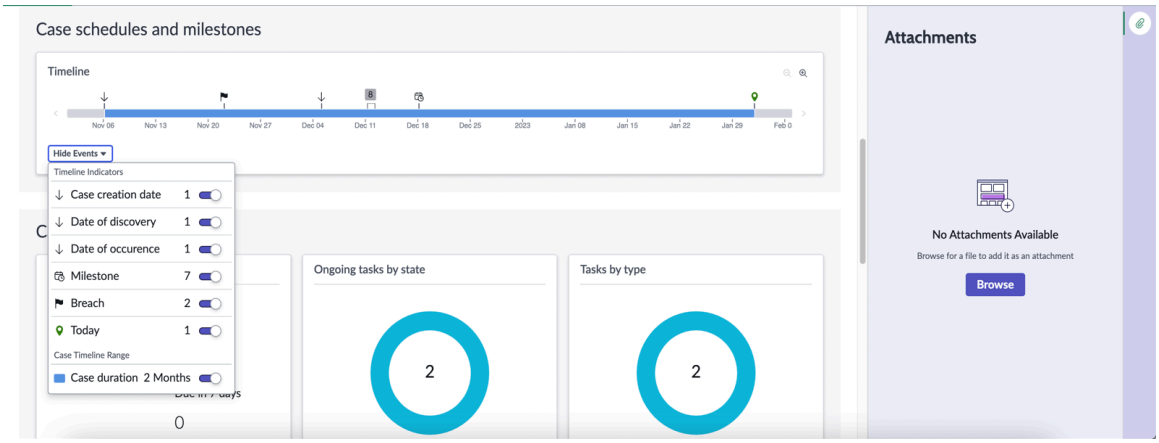
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ケースが作成された日付から最後のマイルストーンの日付まで。

次の例は、[イベントを表示] オプションを選択した後に使用できるオプションを示しています。

ケーススケジュールとマイルストーン



注:
[イベントを表示] オプションを選択した後に表示されるオプションは、ケースで利用可能なイベントとマイルストーンに限定されます。

[ケースタスク概要] セクション

[ケースタスク概要] セクションには、次のサブセクションが含まれています。

タスク

ケースタスクの合計数、期限切れのケースタスク、および 7 日以内に期限切れになるケースタスクを表示します。

ステータス別の進行中のタスク

状況別のアクティブなケースタスクの数。

タイプ別のタスク

ケースタイプ別のアクティブなケースタスクの数。

[追跡中] セクション

[追跡中] セクションには、次の情報が表示されます。

- プライバシーケースのオープンな問題の数
- 期限切れの問題の数
- 今後 7 日間で期限切れになる問題の数

[添付ファイル] セクション

[添付ファイル] セクションでは、ファイルを添付ファイルとしてケースにアップロードできます。このセクションでは、追加されたすべての添付ファイルを検索できます。

プライバシーケース管理 のワークフロー

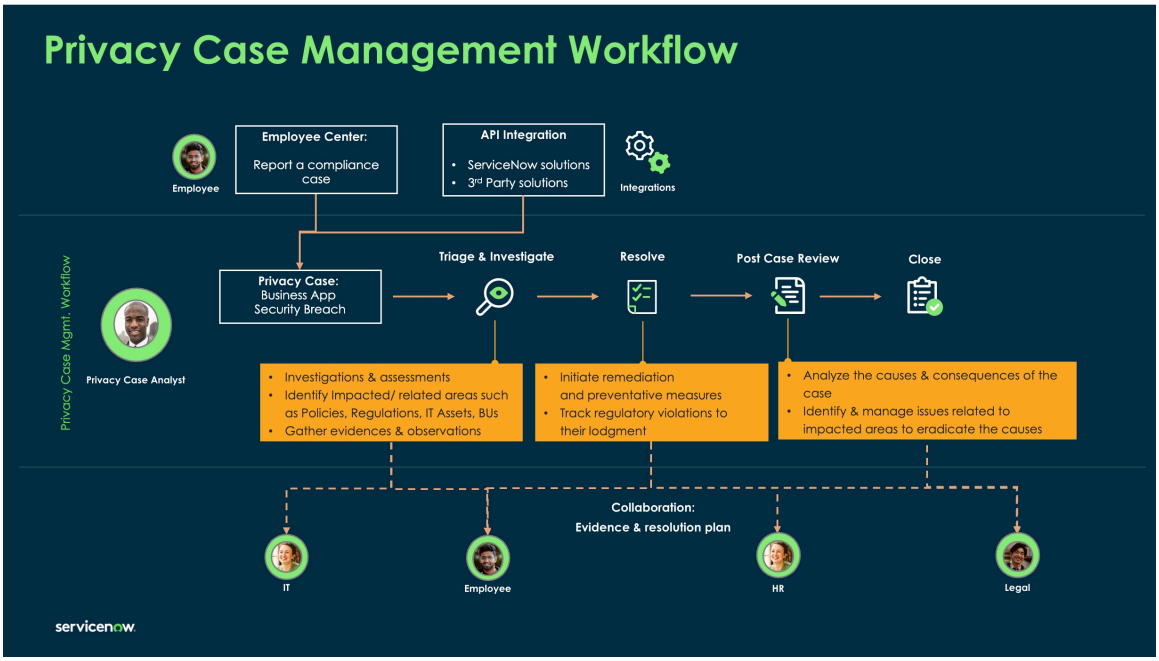
プライバシーケース管理 ソリューションは、ユーザーによってレポートされたプライバシー侵害を管理するためのフレームワークを提供します。このソリューションは、プライバシーチームが報告された違反をトリアージし、必要な調査と分析を実行して、証拠を収集し、主要なステークホルダー、影響を受ける領域、および規制違反を記録するためのエンドツーエンドのワークフローを提供します。

次の画像は、プライバシーケース管理 アプリケーションのワークフローを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プライバシーケース管理 のワークフロー



次にプライバシーケースのライフサイクルについて説明します。

1. ビジネスユーザーは 従業員センター からケースを報告できます。また、ユーザーは電話やメールなどの他のモードを使用してプライバシーチームに連絡することもできます。その後、プライバシーチームは プライバシーワークスペース からユーザーの代わりにケースを作成し、関連する詳細を添付できます。
2. プライバシーケースチームは、ケースにケースアナリストをアサインします。
3. ケースアナリストはケースをトリアージして調査し、ケースタスクワークフロー タスクを作成します。各タスクは、ケースタスク所有者にアサインされます。
4. ケースタスク所有者は、関連する詳細をタスクに追加し、レビューのためにケースアナリストに送信します。
5. ケースアナリストは、次のタスクを実行します。
   a. タスク所有者によって送信された応答をレビューします。
   b. レコード [PI] 情報オブジェクト、主要なステークホルダー、影響を受ける領域、および関連する領域。
   c. 規制違反とその適切な提出を追跡します。
   d. 予防措置を開始し、原因とその結果を追跡します。
   e. 影響を受ける領域から発生する問題を管理します。
6. ケースアナリストがすべての詳細をレビューし、ケースをクローズします。

でのスマートアセスメント プライバシーケース管理

スマートアセスメントエンジンを利用して、プライバシーケースアクションタスクでスマートアセスメントを実行します。

スマートアセスメントエンジン機能を使用すると、プライバシーチームがプライバシーケースアセスメントを開始できるようになります。これらのアセスメントは、プライバシーケースアナリストがプライバシーケースの調査中に影響を受ける領域と関連領域を特定するのに役立ちます。また、組織内の従業員が必要な規制を遵守しているかどうかを判断するのにも役立ちます。アナリストは、ステークホルダーから観察事象と証拠を収集し、解決策に到達できます。この スマートアセスメントエンジン には多くのメリットがあり、その一部を以下に示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- アセスメントテンプレートの構成
- アセスメント回答者の識別
- アセスメントに回答する期日の定義

アセスメントワークスペースでは、プライバシーケース管理で利用可能なテンプレートを表示できます。アセスメントテンプレートカテゴリが [プライバシーケースアセスメント] に設定され、アセスメントターゲットが [アクションタスク] および [プライバシーケース] に設定されていることを確認する必要があります。公開されているアセスメントテンプレートのみが、アセスメントの実行に使用できます。

スマートアセスメントエンジンの詳細については、次を参照してくださいスマートアセスメントエンジン の探索

でスマートアセスメントを有効にするための前提条件 プライバシーケース管理

スマートアセスメントスコープ対象のアプリケーション

ベースシステム は、プライバシーケース管理 プラグインがインストールされると、GRC スマートアセスメントテンプレートをユーザーに出荷します。ただし、以下のスコープ対象のアプリケーションが必要です。

1. Smart Assessment core (sn_smart_asmt)
2. スマートアセスメント移行ツール (sn_smart_asmt_mig)。詳細については、「従来のメトリクスタイプをアセスメントテンプレートに移行する」を参照してください。
3. スマートアセスメント接続済み (sn_smart_asmt_conn)
4. スマートアセスメントデザイナー (sn_smart_asmt_desg) 詳細については、「テンプレートデザイナーの使用」を参照してください。

スマートアセスメントシステムプロパティを有効にする

アドミニストレーターは、プライバシーケースマネージャーがスマートアセスメント手法を使用してアクションタスクを評価するために、*sn_grc_case_mgmt.enable_smart_assessments* システムプロパティを **true** に設定します。

テンプレートを移行する

スマートアセスメントエンジンで新しいテンプレートを作成します。詳細については、「従来のアセスメントメトリクスタイプからアセスメントテンプレートを作成する」を参照してください。

スマートアセスメントを開始するには、プライバシーケースアドミニストレーター (sn_comp_case.compliance_case_admin) がアセスメントアンケートを構成します。アクションタスクが [ドラフト] ステータスから [アサイン 済み] ステータスに移行すると、アセスメントが送信されます。アセスメント結果に基づいて、適切な是正措置が特定され、実施されます。スマートアセスメントエンジン の探索でアンケートを構成する方法の詳細については、「スマートアセスメントエンジンの構成」を参照してください。アクションタスクでスマートアセスメントを実行する方法については、「 アクションタスクでスマートアセスメントを実行する」を参照してください。

プライバシー侵害アセスメント

プライバシー侵害アセスメントは、個人のプライバシーを脅かすインシデントが発生するたびに重要な役割を果たします。これらのアセスメントは、違反があるかどうかを判断し、違反の範囲と影響を測定するための尺度として機能します。

違反アセスメントをトリガーする方法には、プライバシーケースから直接開始する方法と、スタンドアロンのアセスメントとして違反アセスメントを開始する方法の 2 つがあります。アセスメントがスタンドアロンアセスメントとして開始されると、結果が分析され、必要に応じてプライバシーケー

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スが作成されます。この柔軟性により、組織は潜在的な侵害に迅速に対応できます。プライバシーケースに対して実行できる違反アセスメントは、それぞれ 1 つだけです。

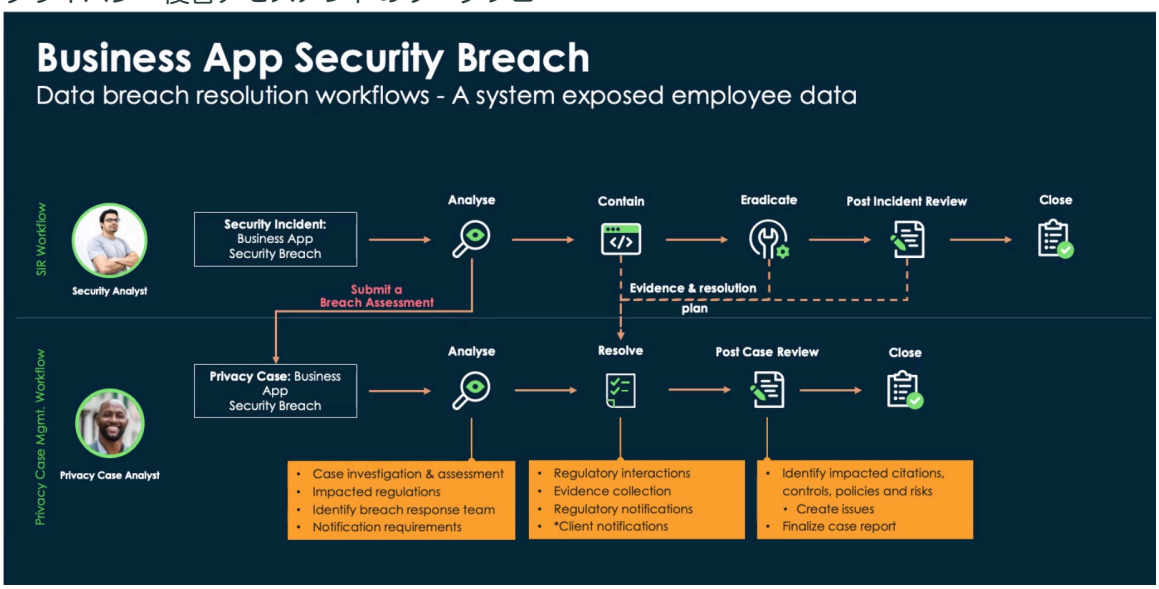
侵害が発生した場合、特定の基準 (サーバーが個人データで侵害されているなど) により、プライバシーケースを作成する前に違反アセスメントを開始するプロンプトが表示される場合があります。この評価の主な目的は、侵害されたデータの性質を迅速に判断することです。たとえば、インシデントがセキュリティインシデントに関連している場合、セキュリティアナリストは、違反アセスメントの入力、インシデントタイプ、影響を受ける場所、および暗号化などの既存の緩和策に関する詳細を提供する役割を担います。続いて、プライバシーアナリストがアセスメントをレビューし、インシデントの詳細を掘り下げます。この分析に基づいてプライバシーケースを作成し、今後の発生を防止し、違反に関連する法的義務を管理することができます。

プライバシー侵害アセスメントのワークフロー

侵害アセスメントは従業員センターから開始できますが、アプリケーションから開始することもできます。次の画像は、セキュリティインシデントの例を使用した違反アセスメントワークフローを示しています。

注:
この図では、ワークフローの理解を深めるために、例としてセキュリティインシデントを使用しています。

プライバシー侵害アセスメントのワークフロー



侵害アセスメントの概要ページ

侵害アセスメントが完了すると、アセスメントの概要ページには、プライバシーアナリストがレビューできるように、関連する重要な情報のサマリーが表示されます。

侵害アセスメントの概要ページには、次のセクションが表示されます。

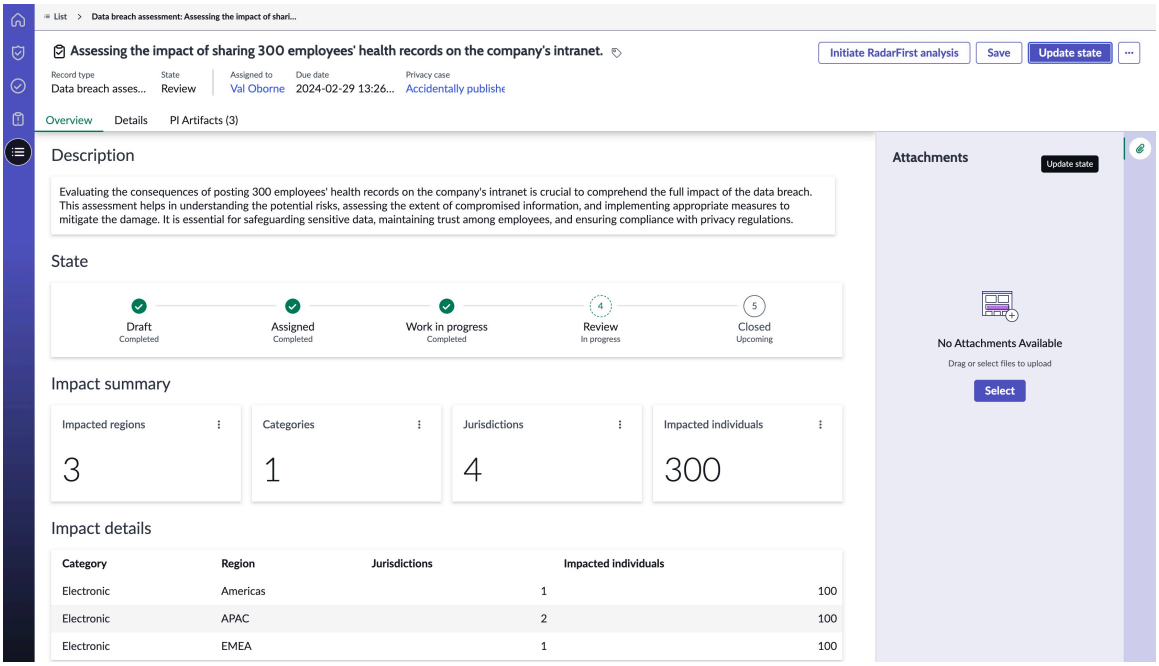
- 説明：侵害の簡単な説明またはサマリーが表示されます。
- ステータス： プライバシーアナリストがアセスメントをレビューする必要がある場合は、[レビュー **(Review)]** ステータスが表示されます。
- 影響のサマリー：侵害の影響を受けた個人の数、視覚的、口頭、電子的、紙などの侵害のカテゴリ、影響を受けた管轄および地域などの重要な情報が表示されます。
- 影響の詳細： 影響のサマリーのウィジェットでキャプチャされた項目の詳細が表示されます。

表示される概要ページの画像は以下のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

侵害アセスメントの概要ページ



プライバシー侵害アセスメントのステータス

プライバシーアナリストがプライバシー侵害アセスメントを開始した後、アサインされたレビュー担当者が見解を示し、個人識別情報 (PI) のアーティファクトと関連する管轄を含めると、アセスメントが完了し終了します。

侵害アセスメントの状況には、次のようなものがあります。

1. [ドラフト **(Draft)**]：侵害アセスメントが開始されたときのデフォルトのステータスです。
2. [アサイン済み **(Assigned)**]：プライバシーアナリストがユーザーにアセスメントをアサインしたときのステータスです。
3. [対応中 **(Work in progress)**]: レビュー担当者がアサインを承認し、侵害に対して PI アーティファクトと管轄を追加したときのステータスです。この後、レビュー担当者はレビューのためにアセスメントをプライバシーアナリストに送信します。
4. [レビュー **(Review)**]：プライバシーアナリストがアセスメントをレビューしているときのステータスです。
5. [クローズ済み **(Closed)**]: レビュー担当者がレビューを完了した後、アセスメントを完了しクローズしたステータスです。

プライバシー侵害アセスメントの要素

プライバシー侵害アセスメントでは、侵害が発生した管轄を明確に示す必要があります。各管轄はプライバシーとデータ保護に関する個別の法律や規制に基づいて運営されているため、これは非常に重要です。また、個人識別情報 (PI) アーティファクトを指定する必要があります。

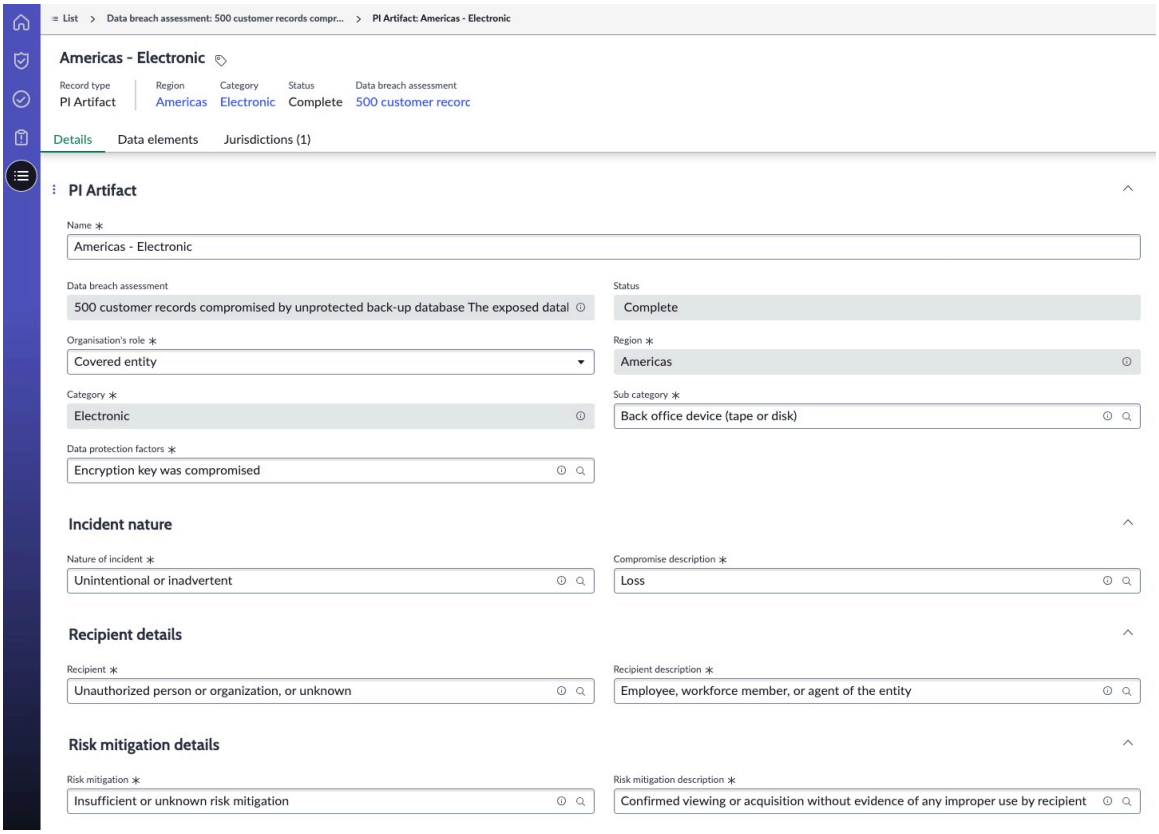
PI アーティファクト

PI アーティファクトは通常、紛失または盗難の可能性がある、個人を特定できる情報の物理的形式またはデジタル形式を指します。これらのアーティファクトには、個人情報を含む、口頭形式 (会話または録音)、視覚形式 (印刷または表示)、電子形式 (デバイスまたはシステムに保存)、紙ベース (文書または記録) のデータが含まれます。PI アーティファクトには、インシデントの性質、侵害の説明、受信者の詳細、リスク軽減計画などの詳細が含まれます。各 PI アーティファクトは、特定の地域とカテゴリのデータを収集します。次の図は、PI アーティファクトフォームを使用して収集される情報を示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PI アーティファクトフォーム



PI アーティファクトは以下で構成されています。

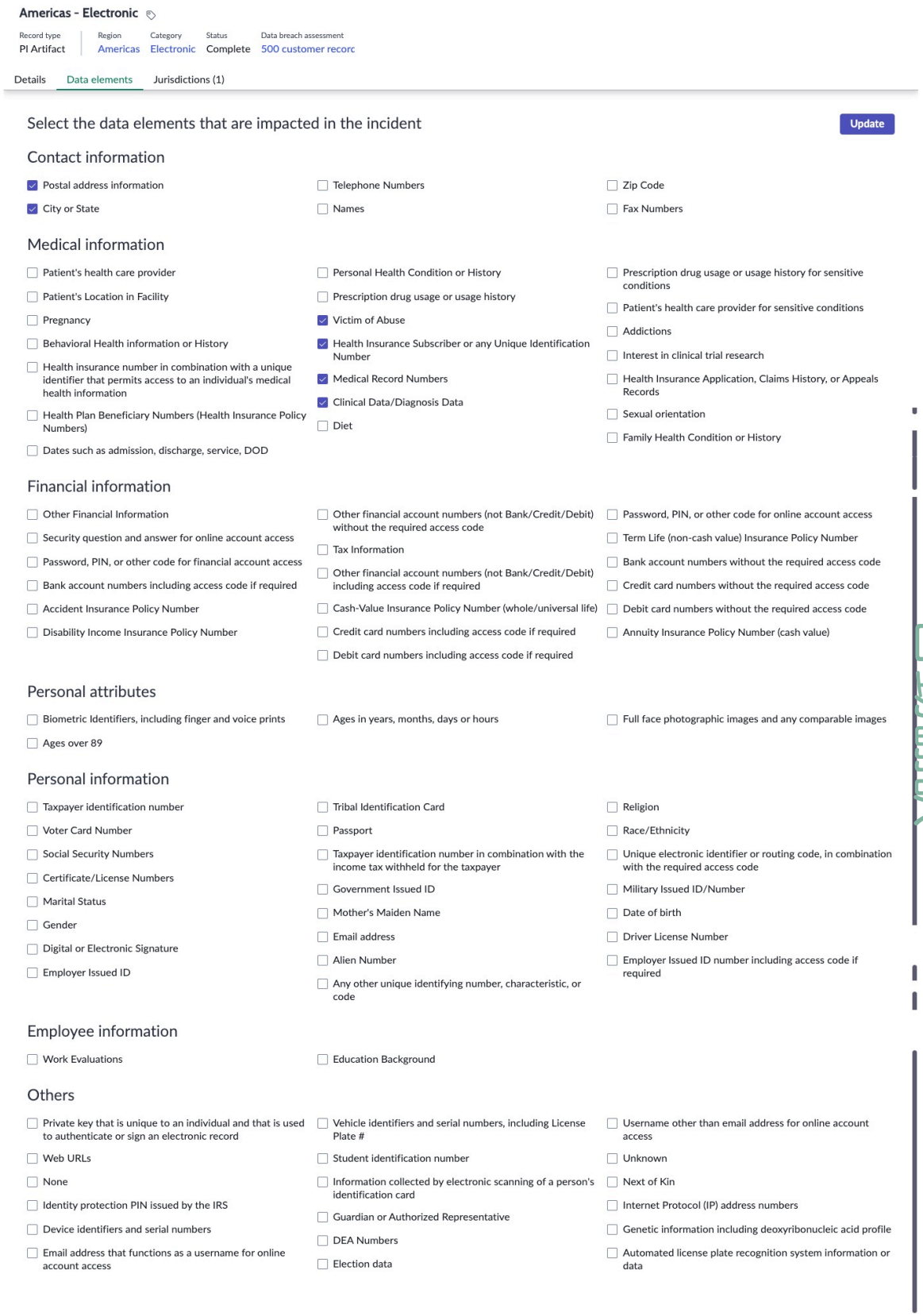
- [データ要素]：データ要素とは、より大きなデータセットに含まれる特定の情報です。侵害インシデントの文脈では、データ要素とは、影響を受けたり侵害されたりしたデータの特定のタイプやカテゴリを指します。データ要素の例としては、連絡先情報 (名前、住所、電話番号、メールアドレスなど)、医療情報 (病歴、診断、治療記録など)、財務情報 (クレジットカード番号、銀行口座の詳細、取引記録など) があります。

  侵害インシデントが発生した場合、どのデータ要素が影響を受けたか、または漏洩したかを特定し、アセスメントを行うことが重要です。これは、侵害の潜在的なリスクと影響を理解し、影響を受けた個人とそのデータを保護するための適切な対応策と軽減策を決定するのに役立ちます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データ要素フォーム



自動翻訳

- [管轄]：さまざまな法律や規制を遵守するには、侵害アセスメント時に影響を受ける具体的な管轄を特定する必要があります。通常、国は複数の州 (都道府県) または地域に分かれており、それぞれ独自の法律によって統治されています。たとえば、米国では、カリフォルニア州は独自の準拠法

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

を持つ管轄とみなされます。したがって、カリフォルニア州で侵害が発生した場合は、カリフォルニア州独自の法律や規制が適用されます。また管轄では、その特定の地域内で影響を受けた個人の数などの重要な詳細情報も提供されます。

プライバシーケース管理の構成

ここに示すタスクの順序に従って プライバシーケース管理 アプリケーションを構成します。これらのタスクは、コンプライアンスケースを効果的に管理するのに役立ちます。

プライバシーケース管理 をインストール

admin ロールを持っている場合は、プライバシーケース管理 アプリケーション (sn_privacy_case) をインストールできます。このアプリケーションには、デモデータが含まれています。まだインストールされていない場合は、関連する ServiceNow Store アプリケーションとプラグインをインストールします。

始める前に

- アプリケーションとその関連するすべての ServiceNow Store アプリケーションに有効な ServiceNow エンタイトルメントがあることを確認してください。詳細については、次を参照してください。 のエンタイトルメントを取得する ServiceNow 製品またはアプリケーション.

必要なロール：admin

このタスクについて

プライバシーケース管理 とともに次のアイテムがインストールされます。

- プラグイン
- ストアアプリケーション
- ロール
- スケジュール済みジョブ
- テーブル

手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. フィルター基準と検索バーを使用して、プライバシーケース管理 アプリケーション (sn_privacy_case) を検索します。

   名前または ID でアプリケーションを検索できます。アプリケーションが見つからない場合は、ServiceNow Store へのリクエストが必要になることがあります。

   [インストール] ボタンの横のリストに、使用可能なバージョンが表示されます。
3. リストからバージョンを選択し、[インストール] を選択します。

   表示される [インストールの詳細を確認] ダイアログボックスに、アプリケーションとともにインストールされている依存関係が一覧表示されます。
4. プロンプトが表示された場合は、ServiceNow Store へのリンクに従って、依存関係のエンタイトルメントを取得します。
5. オプション: 利用できるデモデータをインストールするには、[デモデータのロード] チェックボックスをオンにします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デモデータは、一般的なユースケース向けのアプリケーション機能を説明するサンプルレコードです。開発またはテストインスタンスで初めてアプリケーションをインストールする場合は、デモデータを読み込みます。

6. **[Install** (インストール)] を選択します。

表示ルールを作成する

プライバシーワークスペース のプライバシーケースのフォームビューを定義する表示ルールを作成します。ルールを指定すると、プライバシーケースフォームの表示方法を制御するのに役立ちます。

始める前に
必要なロール：sn_privacy_case.privacy_case_admin

手順

1. 移動先 すべて > プライバシーケース管理 > ケースタイプ.
2. ケースタイプフォームで [表示ルール] 関連リストを選択します。
3. [新規] を選択します。
4. [表示ルール] フォームのフィールドに入力します。
   [表示ルール] フォームのフィールドの説明については、「[表示ルール] フォーム」を参照してください。
5. [送信] を選択します。

[表示ルール] フォーム

[表示ルール] フォームのフィールドについて説明します。このフォームを使用して、プライバシーケース管理 アプリケーションのワークスペースとデフォルトの表示ルールを定義します。

[表示ルール] フォームのフィールドに入力します。

[表示ルール] フォーム

フィールド	説明
名前	ルールを識別する一意の名前。
テーブル	この表示ルールが適用されるテーブル。このフィールドは、 プライバシーケース **[sn_privacy_case_privacy_case]** に自動的に設定されます。
表示	ルールを作成するビュー。選択肢は次のとおりです。 • デフォルトビュー：コア UI でフォームビューを定義するには、このオプションを選択します。 • ワークスペース：プライバシーワークスペースでフォームビューを定義するには、このオプションを選択します。
制限されたエクスペリエンス	ルールを 1 つのワークスペースに制限するか、複数のワークスペースに制限するかを決定するオプション。
アプリケーション	この表示ルールが適用されるアプリケーションの名前。このフィールドは自動的に [GRC：高度なリスク] に設定されます。
実行順序	複数のルールがある場合に、この表示ルールが実行される順序。
アクティブ	表示ルールをアクティブ化するためのオプション。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アサインルールの作成

アサインルールを作成して、プライバシーケースを特定のユーザーまたはグループにアサインするための条件を指定します。

始める前に
必要なロール：sn_privacy_case.privacy_case_admin

このタスクについて
プライバシーケースを処理する適切なユーザーまたはグループを決定するには、必要な基準の概要を示すアサインルールを確立します。たとえば、ケースがデータ保護と情報セキュリティに関連する場合は、適切な個人またはチームにアサインする必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシーケース管理 > ケースタイプ.
2. アサインルールフォームで [アサインルール] 関連リストを選択します。
3. [新規] を選択します。
4. [アサインルール] フォームのフィールドに入力します。
   [アサインルール] フォームのフィールド値の説明については、「[アサインルール] フォーム」を参照してください。
5. [送信] を選択します。

[アサインルール] フォーム

[アサインルール] フォームのフィールドについて説明します。このフォームを使用して、プライバシーケース管理 アプリケーションでケースアサインルールを定義します。

[アサインルール] フォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

[アサインルール] フォーム

フィールド	説明
名前	アサインルールの名前。
アプリケーション	このアサインルールが適用されるアプリケーションの名前。このフィールドは自動的に **[GRC:** プライバシーケース管理] に設定されます。
アクティブ	アサインルールを有効にするオプション。
適用先	
テーブル	このアサインルールが適用されるテーブル。このフィールドは、 プライバシーケース **[sn_privacy_case_privacy_case]** に自動的に設定されます。
条件	ケースタイプのアサインルールに定義する条件。
アサイン先	
ユーザー	ケースがアサインされるユーザー。
グループ	ケースがアサインされるグループ。
スクリプト	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[アサインルール] フォーム (続く)

フィールド	説明
スクリプト	高度なアサインルールを定義するスクリプト。

状況モデル移行の作成

状況と移行条件を定義して、プライバシーケースのワークフローをコントロールする状況モデルを作成します。

始める前に
GRC: プライバシーケース管理 アプリケーションを使用していることを確認します。

必要なロール：sn_privacy_case.privacy_case_admin

手順

1. 移動先 すべて > プライバシーケース管理 > ステータスモデル.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

[状況モデル] フォーム

フィールド	説明
名前	状況モデルの名前。例：違反ケース。
アプリケーション	アプリケーションのスコープ。このフィールドは自動的に **[GRC:** プライバシーケース管理] に設定されます。
アクティブ	状況モデルがアクティブか非アクティブかを示すオプション。
テーブル名	この状況モデルが適用されるテーブル。
状況モデルのフィールド	この状況モデルが適用されるテーブル内の状況モデル値を保持するフィールド。
ステータスフィールド	この状況モデルが適用されるテーブル内の状況値を保持するフィールド。このフィールドは自動的に [ステータス **[state]]** に設定されます。

4. [送信] を選択します。

プライバシーケースのワークフロー状況の定義

ケースのライブサイクルを制御するプライバシーケースのワークフロー状況の定義

始める前に
必要なロール：sn_privacy_case.privacy_case_admin

このタスクについて
プライバシーケースは、通常、プライバシーケース管理 アプリケーションで設定できる次のワークフロー状況を遷移します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 新規：ケースがオープンされ、レビューの初期段階にあります。
- トリアージ：ケースは適切な対処措置を決定するために評価されています。
- 調査：ケースは情報と証拠を収集するために積極的に調査されています。
- 解決：ケースの解決策を見つけるために作業されています。
- ケースの事後レビュー：解決後にケースのレビューが行われています。
- クローズ：ケースはクローズされ、アクティブではなくなりました。
- キャンセル：ケースがキャンセルされ、追跡されなくなりました。

これらの状況は、組織のプライバシーケース管理プロセスによって異なる場合があります。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシーケース管理 > ステータスモデル.
2. ワークフローを追加する作成した状況モデルを開きます。
3. GRC ワークフロー状況のコンテキストメニューで、[新規] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

ワークフロー状況フォーム

フィールド	説明
状況	ワークフロー状況の名前。選択肢は次のとおりです。 ○ 新規 ○ トリアージ ○ 調査 ○ 解決 ○ ケースの事後レビュー ○ クローズ ○ キャンセル
モデル	このワークフロー状況を使用する状況モデル。このフィールドは自動的に状況モデル名に設定されます。
アプリケーション	この状況モデルが適用されるアプリケーションの名前。このフィールドは自動的に **[GRC:** プライバシーケース管理] に設定されます。
表示タイプ	ワークフロー状況の表示タイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ ノードとして **(As node)**：親ステータスとして表示されます。 ○ サブレベルとして **(As sub-level)**：親ステータスのサブステータスとして表示されます。
ステッパーラベル	ステータスのステッパーコンポーネントに表示されるラベル。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
親モデルのステータス	サブレベルステータスの親ステータス。このフィールドは、[表示タイプ] で [サブレベルとして **(As sub-level)]** を選択した場合のみ表示されます。
オプション	ステータスをオプションとして選択するオプション。このフィールドは、[表示タイプ] で [ノードとして **(As node)]** を選択した場合のみ表示されます。

5. 他の状況も同様に作成します。
6. [送信] を選択します。

プライバシーケースのモデル状況移行を定義する

プライバシーケース管理 アプリケーションを使用して、移行条件を定義し、コンプライアンスケースがさまざまなワークフロー状況を遷移する方法を制御します。

始める前に
必要なロール：sn_privacy_case.privacy_case_admin

このタスクについて
状況移行は、テーブルに定義された各ステータスを開始または終了するための条件のリストです。状況移行テーブルで、条件ビルダーを使用して、各ステータスの開始または終了に必要な条件のリストを作成します。

手順
1. 移動先 すべて > プライバシーケース管理 > ステータスモデル.
2. モデル状況移行を定義する状況モデルを開きます。
3. モデル状況移行を定義するには、必要なワークフロー状況を選択します。
4. [モデル状況移行] コンテキストメニューで、[新規] を選択します。
5. 選択したステータスから移行するステータスを選択します。
6. オプション: ワークフロー状況の自動移行を有効にするには、[自動移行] オプションを選択します。
7. フォームのコンテキストメニューを開いて [保存] を選択します。
   [GRC モデル状況移行条件] 関連リストが表示されます。
8. [GRC モデル状況移行条件] コンテキストメニューで、[新規] を選択します。
9. フォームのフィールドに入力します。

   GRC モデル状況移行フォームのフィールド値の説明については、「GRC モデル状況移行条件フォーム」を参照してください。
10. [送信] を選択します。

GRC モデル状況移行条件フォーム

プライバシーケース管理 アプリケーションで GRC モデル状況移行条件フォームを使用して、移行条件を定義し、コンプライアンスケースがさまざまなワークフロー状況を遷移する方法を制御します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

GRC モデル状況移行条件

フィールド	説明
名前	条件の名前。
状況移行	状況の移行。このフィールドは自動的にモデル状況移行の値に設定されます。
アクティブ	モデル状況移行条件を有効にするオプション。
説明	この状況移行の説明。たとえば、新規状況の [説明] フィールドに、「新しい状況は分析状況にのみ移行可能」などと入力できます。
エラーメッセージ	条件が満たされない場合に表示されるエラーメッセージ。
必要	移行条件： • タスクは承認を実施済み：関連するタスクに受入済みまたは却下済みの承認がある場合、条件を満たします。 • タスクは承認されました：タスクが承認されたときに、条件を満たします。 • タスクが却下される：タスクが却下されたときに、条件を満たします。 • 移行条件：この状況移行の条件。 • 移行スクリプト：この状況移行の高度な条件。
条件	この状況移行に定義する条件。このフィールドは、[必須] から [移行条件] が選択されている場合にのみ表示されます。
スクリプト	この状況移行に定義するスクリプト。このフィールドは、[必要] から [移行スクリプト] が選択されている場合にのみ表示されます。

プライバシーケースアセスメントテンプレートを作成する

アセスメントを作成し、それらのアセスメントをプライバシーケースタスク所有者に送信して、応答を収集します。応答は、プライバシーケースアナリストがプライバシーケースが原因で発生した違反を判別するために役立ちます。

始める前に

必要なロール：sn_privacy_case.privacy_case_admin

このタスクについて

デフォルトのテンプレートを使用する代わりに、プライバシーケースを評価するためのアンケートテンプレートを作成できます。アセスメントテンプレートを設定すると、[アセスメント] ケースタイプのケースタスクセクションで使用できるようになります。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシーケース管理 > アセスメントテンプレート.
2. **[New** (新規)] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

3. アセスメントメトリクスタイプフォームのフィールドに入力します。
   アセスメントメトリクスタイプフォームのフィールド値の説明については、「アセスメントメトリクスタイプフォーム」を参照してください。
4. [送信] を選択します。

アセスメントメトリクスタイプフォーム

デフォルトのテンプレートを使用する代わりに、アセスメントメトリクスタイプフォームを使用してアセスメントアンケートテンプレートを作成します。

アセスメントメトリクスタイプフォーム

フィールドの説明については、次の表を参照してください。

アセスメントメトリクスタイプフォーム

フィールド	説明
名前	アセスメントテンプレートの名前。
アセスメント期間	アセスメントが生成されてから、アセスメントを完了するまでに許容される時間。
テーブル	このアセスメントテンプレートを適用するテーブル。
状況	アセスメントのステータスこのフィールドは自動的に [ドラフト] に設定されます。
ロール	このテンプレートへの読み取りアクセス権を持つロール。
説明	アセスメントテンプレートの目的と作成理由。
前書き	アセスメントに回答するビジネスユーザー向けのガイダンステキスト。

プライバシー侵害アセスメントの構成

違反要因タイプ、違反要因、PI データ要素タイプ、PI データ要素の作成などの手順に従って、プライバシー違反アセスメントを構成します。

侵害要因タイプの作成

レスポンダーが特定カテゴリ内の違反要因を識別するために役立つカテゴリを作成します。たとえば、インシデントの性質は侵害要因タイプであり、その下に [意図的、悪意あり]、[意図的、悪意なし]、[無作為または不注意] などの要素があります。

始める前に

必要なロール：sn_privacy_case.privacy_case_admin

手順

1. 移動先 すべて > プライバシーケース管理 > 侵害アセスメント構成 > 侵害要因タイプ.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

侵害要因タイプフォーム

フィールド	説明
ラベル	要素タイプが属するカテゴリ。たとえば、インシデントの性質、受信者などです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
名前	侵害要因の要素。
アクティブ	要素をアクティブ化するオプション。
アプリケーション	この要素が適用されるアプリケーションの名前。このフィールドは自動的に **[GRC: プライバシーケース管理]** に設定されます。
説明	侵害要因タイプの簡単な説明。

4. [送信] を選択します。

侵害要因を作成

プライバシーチームが侵害の特性を理解し、関連するリスクを評価するのに役立つ侵害要因を作成します。デフォルトの侵害要因を使用するか、新しい侵害要因を生成するかは柔軟に決定できます。また、特定地域に違反要因をリンクすることも、複数のリージョンまたは選択したリージョンの全体に実装することもできます。

始める前に
必要なロール：sn_privacy_case.privacy_case_admin

手順

1. 移動先 すべて > プライバシーケース管理 > 侵害アセスメント構成 > 侵害要因.
2. フォームで、フィールドに入力します。

侵害要因フォーム

フィールド	説明
ラベル	要因が属するカテゴリ。たとえば、電子、紙などです。
名前	要因を識別する一意の名前。
タイプ	事前設定された違反要因のタイプ。ここに要素を関連付ける必要があります。
アプリケーション	この要素が適用されるアプリケーションの名前。このフィールドは自動的に **[GRC: プライバシーケース管理]** に設定されます。
アクティブ	要素をアクティブ化するオプション。
適用先	要因が適用される場所。オプションは次のとおりです。 ○ 全地域 ○ ある地域に固有
説明	要因の簡単な説明。

3. [送信] を選択します。

PI データ要素タイプの作成

レスポンダーが特定カテゴリ内の個人データ要素を識別するために役立つカテゴリを作成します。たとえば、個人情報などの PI データ要素タイプの場合、PI データ要素は、名前、年齢、雇用主 ID、婚姻区分、メールなどになります。

始める前に
必要なロール：sn_privacy_case.privacy_case_admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシーケース管理 > 侵害アセスメント構成 > **PI** データ要素タイプ.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

PI データ要素タイプフォーム

フィールド	説明
ラベル	PI データ要素タイプが属するカテゴリ。たとえば、財務情報タイプの場合、データ要素は銀行口座番号、クレジットカード番号などになります。
名前	PI データ要素タイプの名前。通常、この名前はラベルと同じです。
順序	アセスメントフォームに表示される要素タイプの順序。
アプリケーション	この要素タイプが適用されるアプリケーションの名前。このフィールドは自動的に **[GRC:** プライバシーケース管理] に設定されます。
アクティブ	データ要素タイプをアクティブにするオプション。
説明	データ要素タイプの簡単な説明。

4. [送信] を選択します。

PI データ要素を作成

電話番号やメール ID など、ビジネスプロセス中に収集された居住者の個人情報に基づいて、PI データ要素を作成します。事前設定された要素を使用するか、新しい要素を作成します。特定の地域のデータ要素に合わせてカスタマイズするか、単一の PI データ要素を複数の地域にマッピングします。

始める前に
必要なロール：sn_privacy_case.privacy_case_admin

手順

1. 移動先 すべて > プライバシーケース管理 > 侵害アセスメント構成 > **PI** データ要素.
2. フォームで、フィールドに入力します。

PI データ要素フォーム

フィールド	説明
ラベル	データ要素が属するカテゴリ。たとえば、電話番号、メールアドレス、住所などです。
名前	データ要素を識別する一意の名前。
タイプ	事前に設定された PI データ要素のタイプ。ここにデータ要素を関連付ける必要があります。
アプリケーション	このデータ要素が適用されるアプリケーションの名前。このフィールドは自動的に **[GRC:** プライバシーケース管理] に設定されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
アクティブ	PI データ要素をアクティブにするオプション。
適用先	データ要素が適用される場所。オプションは次のとおりです。 ○ 全地域 ○ ある地域に固有
説明	データ要素の簡単な説明。

3. [送信] を選択します。

リージョンの作成

ビジネスオペレーションの一環として収集された居住者データを使用して、地理的な領域を作成します。地域の例としては、アメリカ、ヨーロッパ、アジア太平洋などがあります。

始める前に
必要なロール：sn_privacy_case.privacy_case_admin このロールには、user_admin ロールが含まれている必要があります。

このタスクについて
リージョンを作成するときは、[親] フィールドを空に設定する必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシーケース管理 > 侵害アセスメント構成 > リージョン.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。
4. [送信] を選択します。

地域管轄の作成

データ侵害通知義務の地域管轄を作成します。これは、各義務が管轄区域ごとに分類されているためです。管轄は、地域の 2 段階下のレベルに作成できます。

始める前に
必要なロール：sn_privacy_case.privacy_case_admin このロールには、user_admin ロールが含まれている必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシーケース管理 > 侵害アセスメント構成 > リージョン.
2. 管轄を追加したい地域を開きます。
3. [場所] 関連リストを選択します。
4. [新規] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。
6. [送信] を選択します。

プライバシーケース管理 の使用

プライバシーケース管理 アプリケーションを使用して、プライバシーケースを報告し、プライバシーケースのライフサイクルを管理できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プライバシーケースのレポート

どのユーザーも、プライバシーチームの注意が必要なプライバシーケースまたはイベントを報告できます。

ビジネスユーザーは、次のいずれかのオプションを使用してケースを報告できます。

- 従業員センター
- プライバシーワークスペース

従業員センター からのプライバシーケースの報告

従業員センター を使用して、プライバシー侵害や苦情をプライバシーチームに直接報告します。これらのケースのレポートは、損失の削減と回避に役立ちます。

始める前に
必要なロール：sn_privacy.business_user

手順

1. 移動先 すべて > セルフサービス > 従業員センター.
2. [リスクとコンプライアンス] タブを選択します。
3. [プライバシーケースの報告] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。
   各フィールドの説明については、「従業員センター プライバシーケース作成フォーム」を参照してください。
5. サポート資料または証拠を提供するには、[添付ファイルを追加] を選択します。
6. [送信] を選択します。

従業員センター プライバシーケース作成フォーム

従業員センター の新規プライバシーケースフォームで、必要に応じてフィールドに入力します。

[プライバシーケースの報告] フォーム

フィールド	説明
タイトル	ケースの名前。たとえば、顧客レコードが保護されていないバックアップデータベースによって侵害されている。
説明	ケースの簡単な説明。
ケースタイプ	ケースの性質またはタイプ。このフィールドは自動的にプライバシーケースに設定されます。
ケースサブタイプ。	ケースのサブタイプ。たとえば、ドキュメントの損失。
発生日	ケースが発生した日付。たとえば、ケースは 2022 年 2 月 18 日に発生した可能性があります。
検出日	ケースが検出された日付。たとえば、ケースは 2022 年 2 月 18 日に発生しても、2022 年 3 月 12 日に検出される場合があります。
個人情報	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[プライバシーケースの報告] フォーム (続く)

フィールド	説明
影響を受けるデータ主体/個人のカテゴリ	ケースの影響を受けるユーザー。以下から選択可能です。 • 顧客 • 従業員
影響を受けた個人の数	ケースの影響を受けるユーザーの数。
関連する個人情報の属性を選択	ケース内の侵害された個人情報の属性。
追加の個人情報を入力	違反によって影響を受けるその他の個人情報の詳細。
このアプリケーションを所有する主要なステークホルダーの選択 (Select the key stakeholders who own this application)	アプリケーションの主要なステークホルダー。
ケース発生元	
影響を受ける事業部門	違反の影響を受ける事業部門。
影響を受ける部門	違反によって影響を受ける部門。
ケースが発生した場所 (場所)	ケースの発生場所。たとえば、場所は日本です。
ケースが発生した場所 (サブ場所)	ケースが発生したサブ場所。たとえば、サブ場所は東京です。

自動翻訳

プライバシーワークスペースでのプライバシーケースの作成

プライバシー侵害や苦情を報告し、損失を削減して回避します。

始める前に

必要なロール：sn_privacy.analyst

このタスクについて

場合によっては、ユーザーが電話やメールなどのオフラインモードを使用して、プライバシーチームにケースを報告することもできます。プライバシーチームはプライバシーワークスペースでこれらのケースを作成し、関連する詳細をケースに添付します。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシーワークスペース.
2. プライバシーケース管理 アイコン ( ) を選択します。
3. [作成] を選択します。
4. [ケース] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。
   各フィールドの説明については、「[新規プライバシーケース] フォーム」を参照してください。
6. [保存] を選択します。

新規プライバシーケースフォーム

新規プライバシーケースフォームで、必要に応じてフィールドに入力します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新規プライバシーケース] フォーム

フィールド	説明
番号	ケースの番号。このフィールドは自動的に設定されます。
タイトル	ケースの名前。たとえば、顧客レコードが保護されていないバックアップデータベースによって侵害されている。
タイプ	ケースの性質またはタイプ。このフィールドは自動的にプライバシーケースに設定されます。
状況	ケースのワークフロー状況。このフィールドは自動的に [新規] に設定されます。
要求者	ケースを報告したユーザー。
主エンティティ	ケースの影響を受けるエンティティ。影響を受ける領域で識別されたエンティティのみをプライマリエンティティとして選択できます。
サブタイプ	ケースのサブタイプ。たとえば、ドキュメントの損失。
優先度	ケースの優先度。選択肢は次のとおりです。 • **1** - 重大 • **2** - 高 • **3** - 中 • **4** - 低 • **5** - 計画中 注: このフィールドはデフォルト値の [計画中] に設定されています。
代理で要求済み	代理でケースを作成したユーザーの名前。
エンティティオーナー	エンティティのオーナーになっているユーザー。このフィールドは、[影響領域] 関連リストで選択されたエンティティに基づいて自動的に設定されます。
説明	ケースの簡単な説明。
個人情報	
個人情報を含む (Contains personal information)	違反に個人情報が含まれているかどうかを判断するフィールド。選択肢は次のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新規プライバシーケース] フォーム (続く)

フィールド	説明
	• 未決定 **(To be decided)**：違反に個人情報が含まれているかどうかわからない場合は、このオプションを選択します。 • はい：違反に個人情報が含まれている場合は、このオプションを選択します。 • いいえ：違反に個人情報が含まれていない場合は、このオプションを選択します。
影響を受けた個人の数	ケースの影響を受けるユーザーの数。
影響を受けるデータ主体/個人のカテゴリ	ケースによって影響を受けるユーザーを定義します。選択肢は次のとおりです。 • 顧客 • 従業員
アサイン	
アサイン先グループ	ケースがアサインされるグループ。 **注:** アサイン先グループは、構成セットアップ中にケースタイプに事前に構成されます。
ケースアナリスト	ケースを分析して処理するアナリスト。ケースアナリストはアサイン先グループに含まれています。
ウォッチリスト	ケースを認識する必要があるユーザー。
アカウントエグゼクティブ	ケースの責任者。
プライマリ作成元 (Primary origin)	
場所	ケースが発生した場所。たとえば、場所は日本です。
影響を受ける事業部門	違反の影響を受ける事業部門。
ソース	ケース作成のソース。ケースが手動で作成された場合、このフィールドは自動的に [手動] に設定されます。ケースが 従業員センター から報告された場合、フィールドにはソースが [従業員センター] として表示されます。
追加のソース (Additional source)	ケースが手動で作成された場合のケースの報告方法。このフィールドは、[ソース] フィールドで [手動] が選択され、レコードが保存されている場合にのみ使用できます。選択肢は次のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新規プライバシーケース] フォーム (続く)

フィールド	説明
	• メール • 電話
サブ場所	ケースが発生したサブ場所。たとえば、サブ場所は東京です。
影響を受ける部門	ケースによって影響を受ける部門。選択肢は次のとおりです。 • 財務 • **HR** • **IT** 部門 • マーケティング • セールス
ソースレコード	ケースの作成元のソースオブジェクトのソースレコード。たとえば、ケースがリスクイベントから報告された場合、このフィールドにはケースの報告元のリスクイベントの名前が表示されます。
スケジュール	
発生日	ケースが発生した日付。たとえば、ケースは 2022 年 2 月 18 日に発生した可能性があります。
検出日	ケースが検出された日付。たとえば、ケースは 2022 年 2 月 18 日に発生しても、2022 年 3 月 12 日に検出される場合があります。
報告日	ケースが報告された日付。
ケースクローズ SLA (Case closure SLA)	ケースのクローズ予定日。
調査開始予定 (Investigation planned start)	ケース調査の開始予定日。
調査の実際の開始 (Investigation actual start)	ケース調査の実際の開始日。
修正開始予定 (Remediation planned start)	ケースの修正の開始予定日。
修正の実際の開始 (Remediation actual start)	ケースの修正の実際の開始日。
調査終了予定 (Investigation planned end)	ケース調査の終了予定日。
調査の実際の終了 (Investigation actual end)	ケース調査の実際の終了日。
修正終了予定 (Remediation planned end)	ケース修正の終了予定日。
修正の実際の終了 (Remediation actual end)	ケースの修正の実際の終了日。
違反分析	
違反ステータス	違反が発生したかどうかを示すステータス。選択肢は次のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新規プライバシーケース] フォーム (続く)

フィールド	説明
	• 未定 **(To be determined)**：これがデフォルト値です。 • 違反検出 **(Breach detected)**：違反が確認された場合。 • 将来の可能性 **(Future potential)**：違反が発生していないが、将来発生する可能性がある場合。 • 違反ではない **(Not a breach)**：違反が検出されない場合。
違反開始 (Breach start)	違反が開始された日付。このフィールドは、[違反ステータス] フィールドで [違反検出 **(Breach detected)]** または [将来の可能性 **(Future potential)]** が選択されている場合にのみ表示されます。
レポートステータス	規制機関に報告されているケースのステータス。このフィールドは、ケースに関連付けられた規制のレポートステータスに基づいて自動的に設定されます。ケースに多くの規制があり、1つの規制が報告可能と識別された場合でも、ケースの報告ステータスは [レポート可能] に設定されます。このフィールドのデフォルト値は [未定 **(To be determined)]**です。
違反終了 (Breach end)	違反が終了した日付。このフィールドは、[違反ステータス] フィールドで [違反検出 **(Breach detected)]** または [将来の可能性 **(Future potential)]** が選択されている場合にのみ表示されます。
特定された違反の重大性 (Breach significance identified)	ユーザーが重大な違反を特定した日付。このフィールドは、[違反ステータス] フィールドで [違反検出 **(Breach detected)]** または [将来の可能性 **(Future potential)]** が選択されている場合にのみ表示されます。
根本原因分析	
主な原因 (Primary cause)	ケース発生の主な原因です。このフィールドは、[原因と結果 (Cause and consequences)] 関連リストで選択されている主な原因に自動的に設定されます。
関連する結果 (Related consequences)	ケースの主な原因の結果。
すべての観測事象	ケースに関する観察事項。
実施された修正 (Remediation taken)	ケースに対処するために修正処置が行われたかどうかを示すフィールド。選択肢は次のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新規プライバシーケース] フォーム (続く)

フィールド	説明
	• はい • いいえ
全体的な予防措置 (Overall preventive measures)	ケースのために行われる予防措置。
アクティビティ	
作業メモ (プライベート)	ケースに関するメモまたは情報。
追加コメント (顧客に表示)	顧客のケースに関する追加情報。

ケースから侵害アセスメントを開始

プライバシーケースから侵害アセスメントを開始して、侵害の詳細、影響を受けるデータのタイプなどをキャプチャします。これらの詳細は、プライバシーアナリストが違反を規制機関に通知する必要があるかどうかを識別する場合に役立ちます。

始める前に

必要なロール：sn_privacy_case.privacy_case_analyst

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > プライバシーワークスペース.
2. リスト  アイコンを選択します。
3. [すべてのケース] を選択します。
4. 侵害アセスメントを開始するケースを開きます。
5. [侵害アセスメントを開始 **(Initiate breach assessment)]** を選択します。
6. 新しい侵害アセスメントフォームのフィールドに入力します。

新しいデータ漏洩アセスメントフォーム

フィールド	説明
優先度	侵害の緊急性
レビュー担当者	侵害の詳細をレビューするレビュー担当者
名前	違反の名称。例：保護されていないバックアップデータベースにより 500 件の顧客レコードが漏洩。漏洩したデータベースは 50 ギガバイト。
説明	侵害に関する簡単な説明。例：保護されていないバックアップデータベースにより 500 件の顧客レコードが漏洩。漏洩したデータベースは 50 ギガバイト。このアセスメントは、潜在的なリスクを理解し、漏洩した情報範囲を調査し、被害を軽減するための適切な対策を講じるのに役立ちます。機密データを保護し、従業員間の信頼を維持し、プライバシー規制を遵守するうえで不可欠です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
観察事項	アセスメントの作成者によって行われた観察事項
期日	アセスメントの期日
検出日	アセスメントが検出された日付
アサイン先グループ	アセスメントをレビューする必要があるグループ
アサイン先	アセスメントをレビューする必要があるユーザー
追加コメント	レビュー担当者への追加情報またはコメント

7. [保存] を選択します。

プライバシー侵害アセスメントに取り組む

プライバシー侵害アセスメントの作業を承認して、アセスメントに取り組みます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. 移動先 すべて > セルフサービス > 従業員センター > **GRC** タスク > 自分の **To Do** > データ侵害アセスメント.
2. 対象のアセスメントを選択して開きます。
3. [作業を承認] を選択します。
4. [確認] ダイアログボックスで、必要に応じてメモを入力します。
5. [作業を承認] を選択します。
6. 個人情報アーティファクトを追加するには、 **[PI** アーティファクト **(PI Artifacts)]** を選択します。
7. [PI アーティファクトを作成 (Create PI Artifact)] ダイアログボックスで、地域とカテゴリを選択します。
   a. [作成] を選択します。
   b. [保存] を選択します。
8. [PI アーティファクト (PI Artifacts)] を選択し、必要に応じて詳細を入力します。
   a. [データ要素] 関連リストを選択し、追加するデータ要素を追加します。
   b. [更新] を選択します。
   c. [管轄] 関連リストを選択し、管轄を追加します。
9. レビューのためにアセスメントを送信するには、[レビューを要求 **(Request review)]** を選択します。
10. 確認するには、 [要求 **(Request)]**を選択します。

ケースタスクワークフロー

ケースタスクを使用し、複数のチームと協力して調査を行い、影響アセスメントを実行してケースの重大度を確立し、証拠を収集して詳細と応答を取得してさらにレビューすることができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

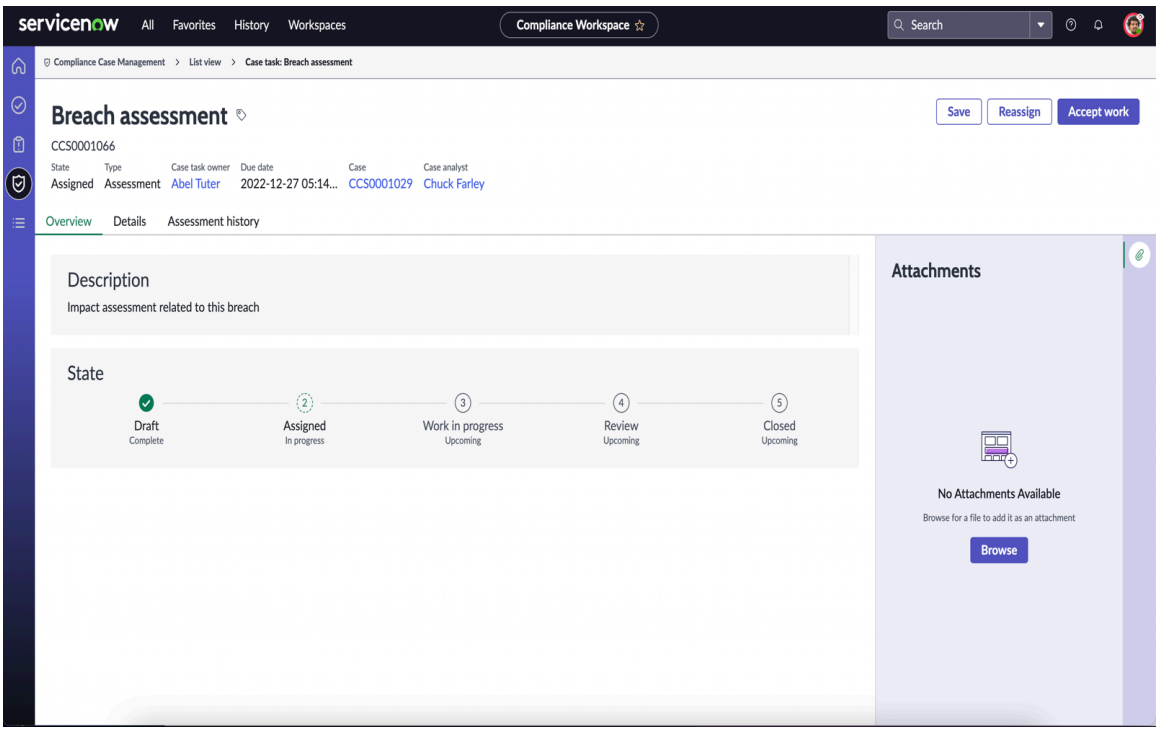
プライバシーケースが報告された後に、プライバシーアナリストはケースタスクを作成し、それらの各タスクをさまざまなケースタスクオーナーにアサインできます。ケースタスクオーナーは、その後でタスクを処理し、レビューのためにケースアナリストに送信します。ケースタスクには次の 3 つのタイプがあります。

- アセスメント：このタイプのケースタスクでは、ケースタスクオーナーがアセスメントを受け、応答を提供する必要があります。このタイプに属するケースタスクは、再アサインのみできます。
- 調査：このタイプのケースタスクでは、ケースタスクオーナーが観測事象を提供する必要があります。
- その他：調査と同様に、このタイプのケースタスクでも、ケースタスクオーナーが観測事象を提供する必要があります。

ケースタスクオーナーは、タスクを処理し、レビューのためにケースアナリストにタスクを送信します。

次の画像は、ケースタスクのライフサイクルを示しています。

ケースタスクワークフロー



ケースタスクを作成する

調査、アセスメント、照会、証拠の収集など、報告されたケースを分析して処理するために必要なさまざまなタスクを実行するためのケースタスクを作成します。各ケースには、さまざまなチームの異なるオーナーにアサインできる複数のケースタスクを含めることができます。

始める前に

必要なロール：sn_privacy_case.privacy_case_analyst

このタスクについて

ケースがプライバシーチームに報告された後、プライバシーケースアナリストはケースタスクを作成し、それらのタスクを関連するオーナーにアサインして作業し、必要な入力と応答を提供できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > プライバシーワークスペース > リスト > ケース > すべてのケース.
2. ケースタスクを作成するケースを開きます。
3. [ケースタスク] 関連リストを選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。
   各フィールドの説明については、新規プライバシーケースタスクフォームを参照してください。
5. [保存] を選択します。
6. ケースタスク所有者にタスクをアサインするには、[タスクをアサイン]を選択します。
7. オプション: 確認ダイアログボックスで、メモを入力します。
8. [アサイン済みに移動 **(Move to assigned)**] 選択します。
   レコードのステータスが [アサイン済み] に変更され、ケースタスクオーナーにアサインされます。
9. オプション: 指定したケースタスクオーナーがケースタスクを承認する前にケースタスクを別のユーザーに再アサインするには、[再アサイン]を選択します。
   タイプが [アセスメント]であるケースタスクのみを再アサインできます。
   a. [アサイン先グループ] フィールドで、関連するグループを選択します。
   b. [ケースタスクオーナー **(Case task owner)**] フィールドで、新しいオーナーを選択します。
   c. [再アサイン] を選択します。

ケースタスクフォーム

ケースタスクフォームのフィールドに入力します。

ケースタスクフォーム

フィールド	説明
番号	ケースタスクの番号。このフィールドは自動的に設定されます。
タイトル	ケースに対して作成されるタスクの名前。たとえば、「データの損失の調査」です。
タイプ	タスクのタイプです。選択肢は次のとおりです。 • アセスメント：ケースに関してユーザーからの応答を収集するアセスメントを実行する場合は、このオプションを使用します。 **注:** 必要に応じて、タイプが [アセスメント] のケースタスクのみを別のタスクオーナーに再アサインできます。 • 調査：報告されたケースの調査を実行するケースタスクを作成する場合は、このオプションを使用します。たとえば、失われた

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ケースタスクフォーム (続く)

フィールド	説明
	データのタイプを特定したい場合があります。 • その他：その他のタイプのタスクを設定するには、このオプションを使用します。
アセスメントテンプレート	ケースを評価するためのアセスメントテンプレート。このフィールドは、[タイプ] フィールドで [アセスメント] が選択された場合にのみ表示されます。 **注:** 各ケースタイプは、構成時に特定のアセスメントテンプレートにマッピングできます。ケースにマッピングされたテンプレートのみを選択できます。たとえば、ケースタイプが財務の場合、財務タイプに固有のアセスメントテンプレートを選択できます。選択したアセスメントテンプレートを使用して作業されているオープンアセスメントが既に存在する場合、同じアセスメントテンプレートを選択することはできません。
状況	ケースタスクのワークフロー状況。このフィールドは自動的に [ドラフト] に設定されます。
説明	タスクの短い説明。この説明は、タスクを処理するユーザーに役立ちます。
アサイン	
アサイン先グループ	ケースタスクを処理するグループ。ケースタスクオーナーが指定されていない場合、選択したグループに属するすべてのユーザーがケースタスクを処理できます。
ケースタスク所有者	ケースタスクを所有するユーザー。このフィールドで選択するユーザーは、アサイン先グループのメンバーである必要があります。
ウォッチリスト	ケースタスクを表示するためのアクセス権が必要なユーザー。
スケジュール	
期日	ケースタスクを完了する必要がある日付期日は、ケースフォームの [ケースクローズ **SLA]** フィールドで指定された日付より前である必要があります。
受諾日 (Accepted date)	ケースが受諾された日付。
作成済み	ケースが作成され、ケースタスクオーナーにアサインされた日付。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ケースタスクフォーム (続く)

フィールド	説明
タスクのクローズ日 (Task closure date)	タスクのクローズ日。
サマリー	
観察事項	ケースタスクの処理中にケースについて行った観測事象。
アクティビティ	
作業メモ (プライベート)	ケースタスクの作業メモ。
追加コメント (顧客に表示)	ケースタスクに関連するコメント (存在する場合)。

ケースタスクを処理する

ケースタスクオーナーは、タスクを承認し、ケースアナリストから要求された詳細を入力して、レビューのために送信します。ケースタスクが、特定のユーザーではなくアサイン先グループにアサインされると、アサイン先グループのすべてのユーザーがケースタスクを承認して作業を開始できます。

始める前に

必要なロール：sn_privacy_case.privacy_case_business_user

このタスクについて

ケースタスクのタイプが [アセスメント] の場合、ケースから発生した損失を判断するためにケースタスクオーナーがアセスメントを受ける必要があります。この場合、タスクオーナーは作業を承認してからアセスメントを受けることができます。ケースタスクのタイプが [調査] または [その他] の場合、ケースタスクオーナーはタスクを承認し、観測事象を提供し、レビューのためにケースアナリストにケースを送信できます。

手順

1. 移動先 セルフサービス > 従業員センター.
2. [自分のタスク] モジュールからタスクにアクセスします。
3. 自分にアサインされたタスクを開きます。
4. [作業を承認] を選択します。
5. 確認ダイアログボックスで [作業を承認] を選択します。
6. ケースタスクタイプに応じて、次の手順を実行します。

次のタスク

1. 処理アクティビティ内で情報オブジェクトを作成または管理する。
2. 主要なステークホルダーの追加とプライバシーアセスメントの送信。
3. 影響を受ける領域をケースに追加します。
4. 関連する領域をケースに追加します。
5. 原因と結果をケースに追加します。
6. 規制をケースに追加します。
7. 問題をケースに追加します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントタイプのケースタスクの再アサイン

アセスメントタイプのケースタスクを別のユーザーに再アサインします。ケースアナリストまたはケースタスクオーナーは、必要に応じてタスクを別のケースタスクオーナーに再アサインできます。

始める前に

必要なロール：
sn_privacy_case.privacy_case_analyst、sn_privacy_case.privacy_case_business_user

このタスクについて

ケースタスクには次の 3 つのタイプがあり、以下にそれらについて説明します。

- アセスメント：このタイプのケースタスクでは、ケースタスクオーナーがアセスメントを受け、応答を提供する必要があります。
- 調査：このタイプのケースタスクでは、ケースタスクオーナーが観測事象を提供する必要があります。
- その他：調査と同様に、このタイプのケースタスクでも、ケースタスクオーナーが観測事象を提供する必要があります。

ケースアナリストは、タスクがケースタスクオーナーにアサインされた後、そのタスクを別のプライバシービジネスユーザーに再アサインできます。再アサインの理由として考えられるのは、ケースタスクが誤ってアサインされている場合や、ケースタスクオーナーによって承認されていない場合などです。プライバシービジネスユーザーにタスクを再アサインできます。

ケースタスクオーナーは、タスクを承認して作業を開始し、部分的に完了したタスクを別のユーザーに再アサインすることもできます。部分的に完了したケースタスクを別のユーザーに再アサインすると、提供したデータもコピーされ、新しいケースタスクオーナーがアセスメントを受けるときに使用できます。このデータは、新しいタスクオーナーが変更できます。

> **注:**
> 再アサインできるのは、タイプが [アセスメント]であるケースタスクのみです。

手順

1. 移動先 セルフサービス > 従業員センター.
2. [自分のタスク] モジュールからタスクにアクセスします。
3. 作業するタスクを開きます。
4. [再アサイン] を選択します。
   [ケースタスクを再アサイン] ダイアログボックスが表示されます。
5. [アサイン先グループ] フィールドでアサイン先グループを選択します。
6. [ケースタスクオーナー **(Case task owner)]** フィールドで、オーナーを選択します。
7. [再アサイン] を選択します。

ケースタスクのレビューとクローズ

ケースタスクオーナーがケースの応答と観測事象を提供した後、ケースタスクをレビューします。

始める前に

必要なロール：sn_privacy_case.privacy_case_analyst

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > プライバシーワークスペース.
2. [タスク] モジュールから、レビューするタスクを開きます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. ケースタスクを確認し、次のいずれかを実行します。

プライバシーケースへの影響領域の追加

プライバシーケース管理 アプリケーションでプライバシーケースまたはイベントの影響を受ける影響領域またはオブジェクトを追加します。

始める前に
必要なロール：sn_privacy_case.privacy_case_analyst

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > プライバシーワークスペース.

2. リスト  アイコンを選択します。

3. [すべてのケース] を選択します。

4. 影響領域を追加するケースを開きます。

5. [新規] を選択します。

6. [影響領域] フォームのフィールドに入力します。

[影響領域] フォーム

フィールド	説明
ケース	影響領域を追加するケース。このフィールドは自動的にケース名に設定されます。
影響領域タイプ	影響領域のタイプ。たとえば、イベントまたはケースの場所などです。選択肢は次のとおりです。 ○ コントロール ○ エンティティ ○ ロケーション ○ ユーザー ○ 会社 ○ 処理アクティビティ **注:** 独自の影響領域タイプを設定することもできます。
影響領域	ケースまたはイベントの影響を受ける領域またはオブジェクト。このフィールドは、[影響領域タイプ]から値が選択されている場合にのみ使用できます。例： **10065 East Harvard Aveve, Denver,CO**
タイトル	影響領域のタイトル。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
説明	影響を受ける領域またはオブジェクトの簡単な説明。

7. [保存] を選択します。

プライバシーケースに **PI** 情報オブジェクトを追加する

プライバシーケースの作成後に、プライバシーケースに情報オブジェクトを追加します。情報オブジェクトを追加すると、侵害中に漏洩した個人情報のタイプを理解するのに役立ちます。

始める前に
必要なロール：sn_privacy_case.privacy_case_analyst

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > プライバシーワークスペース.

2. リスト アイコンを選択します。

3. [すべてのケース] を選択します。

4. [PI] 情報オブジェクトを追加するケースを開きます。

5. [[PI]情報オブジェクト] 関連リストをクリックします。

6. [追加] をクリックします。

7. 追加する情報オブジェクトを選択します。

8. [追加] をクリックします。

主要なステークホルダーをプライバシーケースに追加する

主要なステークホルダーをプライバシーケースに追加して、侵害中に失われたデータに対して責任を負う主要メンバーを特定します。これにより、それぞれの責任に基づいて、ステークホルダーに個別の侵害アセスメントを送信することができます。

始める前に
必要なロール：sn_privacy_case.privacy_case_analyst

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > プライバシーワークスペース.

2. リスト アイコンを選択します。

3. [すべてのケース] を選択します。

4. 主要なステークホルダーを追加するケースを開きます。

5. [主要なステークホルダー] 関連リストをクリックします。

6. [追加] をクリックします。

a. 追加するステークホルダーを選択します。

b. [追加] をクリックします。
主要なステークホルダーが追加されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プライバシーケースへの関連領域の追加

プライバシーケース管理 アプリケーションで報告されたプライバシーケースまたはイベントに関連する関連領域を追加します。

始める前に
必要なロール：sn_privacy_case.privacy_case_analyst

このタスクについて
報告されたプライバシーケースまたはイベントに関連するポリシー、引用、コントロール目標、リスクイベントなどの関連領域を指定できます。プライバシーアドミニストレーターは、アプリケーションセットアップに関連する領域のオプションを設定することもできます。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > プライバシーワークスペース.
2. リスト アイコンを選択します。
3. [すべてのケース] を選択します。
4. 関連領域を追加するケースを開きます。
5. [新規] を選択します。
6. [関連領域 **(Related area)]** フォームのフィールドに記入します。

[関連領域 **(Related area)]** フォーム

フィールド	説明
ケース	関連領域を追加するケース。このフィールドは自動的にケース名に設定されます。
関連領域タイプ (Related area type)	影響領域のタイプ。例：関連するリスクイベント選択肢は次のとおりです。 ○ 引用文献 ○ ポリシー ○ コントロール目標 ○ リスクイベント
関連領域 (Related area)	報告されたプライバシーケースまたはイベントに関連する領域。このフィールドは、[関連領域タイプ **(Related area type)]** から値が選択されている場合にのみ使用できます。例：従業員教育データ損失。
タイトル	関連領域のタイトル。
説明	関連領域の簡単な説明。

7. [保存] を選択します。

プライバシーケースへの原因と結果の追加

プライバシーケース管理 アプリケーションを使用して、報告されたプライバシーケースまたはイベントの根本原因と、組織への影響を定義します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

始める前に
必要なロール：sn_privacy_case.privacy_case_analyst

このタスクについて
プライバシーケースに複数の原因を追加し、主な原因を定義することができます。プライバシーケースの主な原因は 1 つのみです。疑わしくても確認されていない原因を追加することもできます。主な原因を指定することとは別に、ケースに対処するために実行する結果と修正措置を指定できます。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > プライバシーワークスペース.
2. リスト アイコンを選択します。
3. [すべてのケース] を選択します。
4. 原因と結果を追加するケースを開きます。
5. [新規] を選択します。
6. [原因と結果 **(Cause and consequence)]** フォームのフィールドに入力します。
   [原因と結果 **(Cause and consequence)]** フォームのフィールド値の説明については、「[原因と結果 (Cause and consequence)] フォーム」を参照してください。
7. [保存] を選択します。

[原因と結果 **(Cause and consequence)]** フォーム

[原因と結果 (Cause and consequence)] フォームのフィールドについて説明します。このフォームを使用して、プライバシーケース管理 アプリケーションで原因と結果を定義します。

[表示ルール] フォームのフィールドに入力します。

[原因と結果 **(Cause and consequence)]** フォーム

フィールド	説明
原因	ケースまたはイベントの原因。
原因ステータス (Cause status)	原因のステータス。選択肢は次のとおりです。 • 疑わしい **(Suspected)**：原因がまだ確認されていない場合は、このオプションを選択します。 • 確認済み：原因が確認されている場合は、このオプションを選択します。
主な原因 (Primary cause)	原因を主な原因として選択するオプション。
原因の説明	原因の簡単な説明。
結果とアクション	
結果	ケースまたはイベントの結果。報告されたケースに対して複数の結果を選択できます。
実行されたアクション	ケースに対処するために実行されたアクションまたは対策。
サマリー	
観察事項	全体的な観察事項 (ある場合)

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ケースに関連するプライバシー規制の追加

報告されたケースによって影響を受ける、または影響を受ける可能性のある必要な規制を追加します。ServiceNow プラットフォームでは、規制は各種法令・基準等として取り込まれます。ケースに規制を追加すると、違反している規制を特定し、ペナルティや罰金を防ぐことができます。

始める前に

必要なロール：sn_privacy_case.privacy_case_analyst

このタスクについて

規制を追加した後、ケースを分析して、違反している規制を特定できます。その後、規制の報告ステータスを [レポート可能]、[レポート不可能 (Non-reportable)]、または [レポートの可能性あり (Potentially reportable)] としてマークできます。デフォルトでは、システムに存在するすべての規制が表示され、規制のステータスは [未定 **(To be determined)]** に設定されます。

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > プライバシーワークスペース.

2. タスクアイコン ( ) を選択します。

3. [ケース] を選択します。

4. 規制を追加するケースを開きます。

5. [規制] 関連リストを選択します。

a. [追加] を選択します。

b. 追加する規制を選択します。

c. [追加] を選択します。

6. 規制のレポートステータスを設定するには、規制を選択して開きます。

7. フォームのフィールドに入力します。

規制フォーム

フィールド	説明
ケース	規制を追加するケース。このフィールドは自動的にケース名に設定されます。
レポートステータス	規制をすぐに報告する必要があるか、将来報告する必要があるか、まったく報告する必要がないかを判断するステータス。選択肢は次のとおりです。 ○ 指定予定：違反を報告する必要があるかどうかわからない場合は、このオプションを選択します。 ○ レポート可能：違反を報告する必要がある場合は、このオプションを選択します。 ○ レポート不可能 **(Non-reportable)**：違反を報告する必要がない場合は、このオプションを選択します。 ○ レポートの可能性あり **(Potentially reportable)**：今後、ケースの調査に基づいて違反が報告される可能性があると思われる場合は、このオプションを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
各種法令・基準等	規制を形成する各種法令・基準等。
報告日 (Lodgement date)	規制が規制機関に報告された日付。
説明	分析に基づく規制違反の簡単な説明。

8. [保存] を選択します。

プライバシーケースの問題の追加または作成

報告されたプライバシーケースの影響領域に関連する問題を特定して管理します。プライバシーケース管理 ランディングページから問題を作成することもできます。

始める前に

必要なロール：sn_privacy_case.privacy_case_analyst

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > プライバシーワークスペース.
2. リスト アイコンを選択します。
3. [すべてのケース] を選択します。
4. 問題を追加するケースを開きます。
5. [問題] 関連リストを選択し、次のいずれかを実行します。

6. [保存] を選択します。

プライバシーケースを **PDF** としてエクスポート

プライバシーケースを PDF としてエクスポートすると、さまざまなステークホルダーと簡単に共有できます。

始める前に

必要なロール：sn_privacy_case.privacy_case_analyst

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > プライバシーワークスペース.
2. リスト アイコンを選択します。
3. [すべてのケース] を選択します。
4. PDF としてエクスポートするケースを開きます。
5. 右上隅にある [その他のアクション] アイコンを選択します。
6. **[PDF** のエクスポート] を選択します。
7. 適切な PDF テンプレートを選択します。
8. [エクスポート] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プライバシーケースからメールを送信する

プライバシーケースからメールを送信して、さまざまなステークホルダーや規制機関とシームレスにコミュニケーションを取り、ケースに関する詳細情報を収集します。送受信されたすべてのメールはプライバシーケース管理 アプリケーション に保存されます。

始める前に
必要なロール：sn_privacy_case.privacy_case_analyst

手順

1. 移動先 すべて > プライバシー管理 > プライバシーワークスペース.
2. リスト  アイコンを選択します。
3. [すべてのケース] を選択します。
4. メールの送信元のケースを開きます。
5. 右上隅にある [その他のアクション] アイコンを選択します。
6. [メールの作成] を選択します。
7. メールの下書きを作成します。
8. [メール送信] を選択します。

プライバシーアクションタスクでスマートアセスメントを実行

従業員センターの [タスク] ページを使用して、すべてのアセスメントを含むすべてのプライバシータスクを統合して表示し、効率的にアクセスして完了できるようにします。

始める前に
次のことを確認します。

- *sn_grc_case_mgmt.enable_smart_assessments* システムプロパティが有効になります。
- アセスメントテンプレートが構成され、公開されます。

必要なロール:sn_comp_case.privacy_case_business_user

このタスクについて

このタスクについて
プライバシーケースアクションタスクが [ドラフト] から [アサイン済み] ステータスに移行すると、アセスメントが開始されます。アセスメントタイプのアクションタスクでスマートアセスメントを実行し、スマートアセスメントプロパティが有効になっている場合、スマートアセスメントはプライバシーケース管理にある統合タスクページに表示されます。コンプライアンスワークスペース に表示されるタスクは、ログインユーザーに固有であるため、割り当てられたすべてのタスクを完了できます。アセスメントの正当な回答者でない場合は、適切な回答者にアセスメントを再アサインできます。

手順

1. 移動先 すべて > 従業員センター > **GRC** タスク > 自分の **To Do** > オープン > 自分の保留中タスク > アクションタスク.
2. 評価するアクションタスクを選択します。
3. [開始] を選択します。
4. アンケートに回答します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

画面の右側に、各質問の詳細なガイダンスを表示できます。ガイダンスは、質問に答えるのに役立ちます。

5. **[Submit** (送信)] を選択します。
6. 成功ダイアログ ボックスで、 **[OK]** を選択します。
7. アセスメントを送信した後、アセスメントを表示するには、[表示] を選択します。

タスクの結果

アセスメントが送信されると、アセスメントのステータスが [レビュー] に更新され、アセスメントのステータスが [完了] に設定されます。コンプライアンスケースアナリストがアセスメントをレビューし、アセスメントのステータスを [完了してクローズ] に更新します。

RadarFirst での プライバシーケース管理 の統合

RadarFirst の専門は、プライバシーおよびインシデント応答ソリューション (特にデータ侵害インシデントのコンテキスト) です。RadarFirst は、組織がデータ侵害とプライバシーインシデントを効果的に管理して対応するために役立ちます。

RadarFirst には、インシデント応答計画、リスクアセスメント、およびデータ侵害通知法への準拠のためのツールがあります。

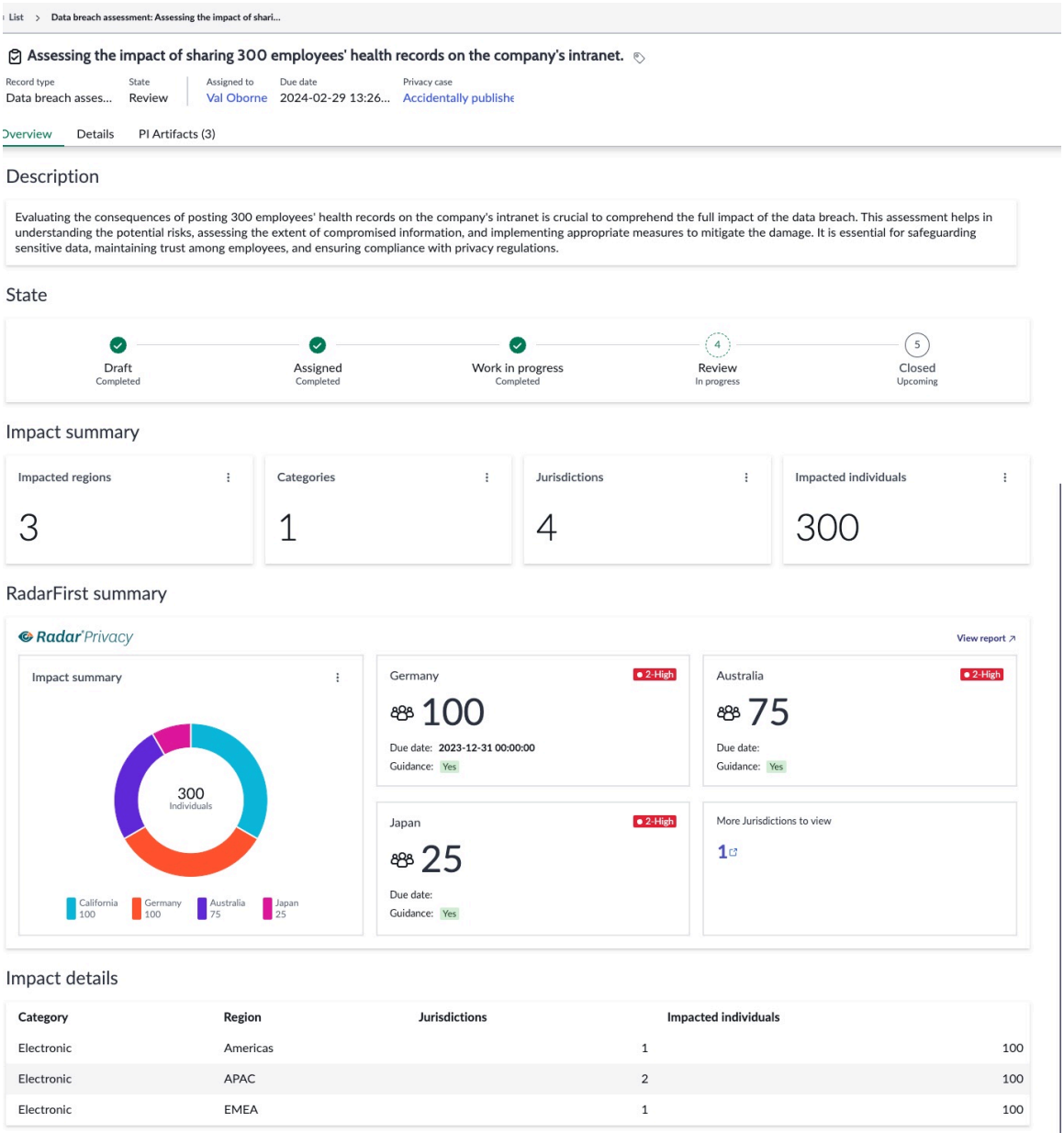
プライバシー侵害が発生した場合、sn_privacy_rf プラグインを有効にして RadarFirst を統合している場合、アカウントを持っていれば違反の詳細を送信できます。RadarFirst は次に、すべての関連場所に対して関連するすべてのプライバシー規制に従って違反を分析し、違反について規制当局に通知する必要があるかどうかを判断します。 この通知は、プライバシーチームが対応可能なアイテムを取得し、必要に応じて行動するために役立ちます。

RadarFirst の プライバシーケース管理 統合を構成するには、ガイド付きセットアップ手順に従って、次の場所に移動します プライバシーケース管理 > **RadarFirst** 統合 > **RadarFirst** 統合ガイド付きセットアップ.

RadarFirst と統合すると、[概要] ページに [RadarFirst サマリー (RadarFirst summary)] ウィジェットが表示されます。このウィジェットは、侵害が発生した管轄への影響と影響を受けた個人の数を円グラフで表示します。侵害の詳細レポートを表示するには、[レポートの表示] を選択します。下図は、侵害アセスメントの [概要] ページの [RadarFirst] ウィジェットを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

プライバシーケース管理 の参照情報

参照トピックには、テーブルを含め、プライバシーケース管理 アプリケーションに関する追加情報が記載されています。

プライバシーケース管理 とともにインストールされるコンポーネント

プライバシーケース管理 アプリケーションのインストール時点で、いくつかのタイプのコンポーネント (テーブル、ユーザーロールなど) がインストールされます。

インストールされるロール

プライバシーケース管理 ロール。

ロール	説明	含んでいるロール
プライバシーケースビジネスユーザー	従業員センターからプライバシーケースを作成します。	sn_grc_case_mgmt.grc_case_business_user

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロール	説明	含んでいるロール
[sn_privacy_case.privacy_case_business_user]		
プライバシーケースアナリスト [sn_privacy_case.privacy_case_analyst]	自分にアサインされたプライバシーケースで作業します。プライバシーケースの調査の一環としてケースをレビューし、アサインされた情報オブジェクト、主要なステークホルダー、影響領域、関連する領域、原因と結果、規制および問題を関連付けます。	sn_privacy_case.privacy_case_analyst、sn_gr
プライバシーケースマネージャー [sn_privacy_case.privacy_case_manager]	プライバシーケースは複数のグループに分類でき、すべてのグループにマネージャーを指定できます。プライバシーケースマネージャーは、同じグループに属するプライバシーアナリストにプライバシーケースをアサインまたは再アサインできます。プライバシーケースマネージャーには、プライバシーアナリストと同じアクセス権があります。	sn_privacy_case.privacy_case_analyst、sn_gr
プライバシーケースアドミン [sn_privacy_case.privacy_case_admin]	プライバシーワークフロー構成、アサインルール、サブタイプ、アセスメントテンプレートなどの構成を持つプライバシーケースタイプを構成します。また、違反アセスメントの構成を構成することもできます。	sn_grc_case_mgmt.grc_case_admin、sn_priva

自動翻訳

インストールされるテーブル

プライバシーケース管理 アプリケーションテーブル

テーブル	説明	アプリケーション
GRC ケース (sn_grc_case_mgmt_case)	すべてのケースの詳細を保存します。	GRC: コアケース管理
ケース分類 (sn_grc_case_mgmt_case_classification)	ケースの分類を保存します。	GRC: コアケース管理
ケースタスク (sn_grc_case_mgmt_case_task)	プライバシーケースに対して作成されたすべてのケースタスクを保存します。	GRC: コアケース管理
ケースタイプ (sn_grc_case_mgmt_case_type)	ケースタイプとケースサブタイプの詳細を保存します。	GRC: コアケース管理
原因 sn_grc_case_mgmt_cause	ライブラリに追加され、ケースレベルでマッピングされた原因を保存します。	GRC: コアケース管理

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プライバシーケース管理 アプリケーションテーブル (続く)

テーブル	説明	アプリケーション
原因と結果 sn_grc_case_mgmt_cause_consequence	ケースレベルでマッピングされた原因と結果を保存します。	GRC: コアケース管理
結果 sn_grc_case_mgmt_consequence	ライブラリに追加され、ケースレベルでマッピングされた結果を保存します。	GRC: コアケース管理
GRC コアケース sn_grc_case_mgmt_core_case	ケースのコア機能の詳細を保存します。	GRC: コアケース管理
影響領域 sn_grc_case_mgmt_impacted_area	ケースレベルでマッピングされた影響領域を保存します。	GRC: コアケース管理
アセスメントインスタンスへのケースタスク sn_grc_case_mgmt_m2m_case_task_assessment_instance	タイプがアセスメントタイプのケースタスクのアセスメントの詳細を保存します。	GRC: コアケース管理
ケースへの問題 sn_grc_case_mgmt_m2m_issue_to_case	ケースレコードにマッピングされた問題を保存します。	GRC: コアケース管理
規制 sn_grc_case_mgmt_regulation	ケースレベルでマッピングされた規制を保存します。	GRC: コアケース管理
関連する領域 sn_grc_case_mgmt_related_area	ケースに関連付けられた関連する領域を保存します。	GRC: コアケース管理
プライバシーケース sn_privacy_case_privacy_case	プライバシーケースレコードを保存します。	プライバシーケース管理
プライバシーケースへの情報オブジェクト sn_privacy_case_m2m_information_object_to_case	ケースレベルでマッピングされた情報オブジェクトレコードを保存します。	プライバシーケース管理
ケースの主要なステークホルダー sn_privacy_case_m2m_key_stakeholder_to_case	ケースレベルでマッピングされた主要なステークホルダーレコードを保存します。	プライバシーケース管理

パーソナルデータ権 (PDR)

GRC: パーソナルデータ権 アプリケーションを使用すると、個人データをコントロールできるようになります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

探索	構成	使用方法
 プライバシーマネージャー、プライバシーユーザー、およびプライバシーアドミニストレーターが Personal data rights アプリケーションを使用する方法について説明します。	 Personal Data Rights アプリケーションを構成します。	 新しいデータ要求と対応するアクションタスクの作成に取り組みます。
参照		
 Personal Data Rights のロール、テーブル、およびプロパティに関する情報を取得します。		

自動翻訳

パーソナルデータ権 の探索

個人データの権利 (PDR) は、個人データの収集、使用、保管、保護に関して個人が持つ法的権利を指します。

パーソナルデータ権 アプリケーションを使用すると、データ主体のアクセス要求 (DSAR) やコンシューマー権利要求などを効率的に管理および履行し、プライバシー規制に確実に準拠できます。こ

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

のアプリケーションは、従業員がデータ保護標準をグローバルに維持できるようにしながら、組織がコンシューマーの個人データの権利に関連する要求を処理するのに役立ちます。

一般的な個人データの権利には次のようなものがあります。

アクセスする権利

個人は、組織が保有する自分の個人データにアクセスし、そのデータのコピーを要求する権利を有します。

消去する権利

個人は、処理を継続するやむを得ない理由がない場合、自分の個人データの削除または除去を要求する権利を有します。

データポータビリティの権利：

個人は、自分の個人データを一般的に使用され、機械で読み取り可能な形式で提供したり、別の組織に転送したりすることを要求できます。

処理を制限する権利

個人は、データの正確性に異議がある場合や処理が違法である場合など、特定の条件下で自分の個人データの処理を制限するよう要求できます。

情報を得る権利

個人は、処理の目的、処理されるデータのカテゴリ、データの受信者など、自分の個人データがどのように処理されるかについて知らされる権利を有します。

これらの権利は、個人が自分の個人データをより詳細にコントロールできるようにすること、および組織が責任を持って透明性をもって個人データを取り扱うことを保証することを目的としています。個人データを収集し処理する組織は、通常、これらの権利を維持し、適用されるデータ保護法を遵守する必要があります。

パーソナルデータ権 のワークフロー

Personal Data Rights 要求は、要求者が開始し、Personal Data Rights (PDR) エージェントに送られます。エージェントは要求を処理し、要求を適切なタスクオーナーにアサインします。タスクオーナーはタスクを処理し、要求をクローズします。

詳細なワークフローは以下のとおりです：

1. 要求者は、以下のいずれかの方法で個人データに関する情報開示を請求します。
   - メール
   - 電話
   - API 統合を使用するその他のアプリケーション
2. 指定されたユーザーはユーザーが実在するユーザーかどうかを検証し、要求を PDR エージェントに送信します。
3. 次に、エージェントはデータ要求を処理するアクションのタスクオーナーを特定します。
4. アクションのタスクオーナーは要求を処理し、エージェントに通知します。
5. エージェントはタスクをレビューした後で要求をクローズして、要求者に通知します。

関連情報

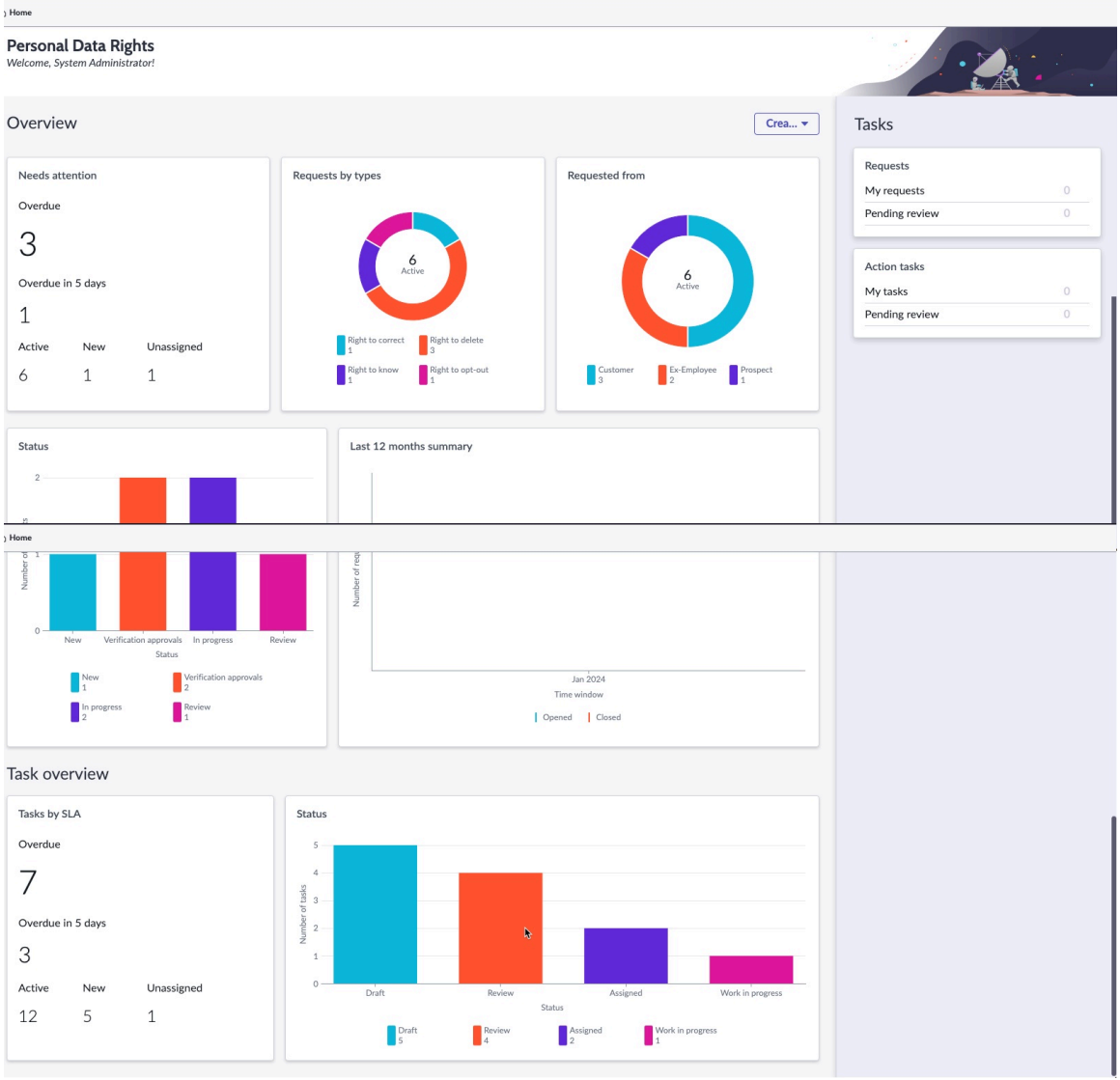
パーソナルデータ権 の使用

パーソナルデータ権 ワークスペース

パーソナルデータ権 ワークスペースでは、新しい Personal Data Rights 要求を作成し、タイプ、期日、ステータス別に要求を表示することができます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次の画像は、Personal Data Rights ワークスペースのホームページを示していま



す。

ホームページから新しい PDR 要求を作成できます。ホームページの各セクションは以下のとおりです。

[概要] セクション

[概要] セクションには、注意が必要で、期限を過ぎているまたは期限を過ぎようとしているタスクが表示されます。また、タイプ別および要求者別の要求も表示されます。タスクをステータス別に表示したり、過去 12 か月のサマリーを表示したりすることもできます。

タスクの概要

[タスクの概要] セクションでは、SLA 別およびステータス別にタスクを表示できます。グラフ上の各アイテムをクリックすると、詳細が表示されます。

パーソナルデータ権の構成

さまざまなタイプのデータ権利要求に対応するようにパーソナルデータ権を設定します。

パーソナルデータ権 アプリケーションを使用する前に実行する必要がある構成タスクは次のとおりです。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パーソナルデータ権 要求タイプの構成

パーソナルデータ権 アプリケーションで要求タイプを作成し、Personal Data Rights 要求を分類および管理します。要求タイプを作成した後、Personal Data Rights エージェントとタスクオーナーは Personal Data Rights 要求で作業しながら、要求フォームで必要な要求タイプを選択できます。

始める前に

必要なロール：sn_grc_pdr.pdr_admin

手順

1. 移動先 すべて > パーソナルデータ権 > 要求構成 > 要求タイプ.
   デフォルトの Personal Data Rights 要求レコードタイプが開きます。
2. フォームのフィールドに入力します。

   要求タイプフォームのフィールド値の説明については、「パーソナルデータ権 要求タイプフォーム」を参照してください。
3. フォームのコンテキストメニューを開いて [保存] を選択します。
   [サブタイプ] 関連リストが表示されます。
4. [サブタイプ] 関連リストで [新規] を選択し、要求サブタイプを定義します。
5. フォームのフィールドに入力します。

   サブタイプフォーム

フィールド	説明
ラベル	サブタイプについて表示されるラベル。たとえば、「削除する権利」です。
名前	サブタイプの名前。たとえば、「right_to_delete」です。
親	親要求のタイプ。このフィールドは、自動的に **[Personal Data Rights 要求 (Personal data rights request)]** に設定されます。
アクティブ	サブタイプをアクティブまたは非アクティブとして選択するオプション。
カテゴリ	サブタイプのカテゴリ。このフィールドは、自動的に **[Personal Data Rights 要求 [sn_grc_pdr_request] (Personal data rights request [sn_grc_pdr_request])]** に設定されます。
説明	サブタイプの目的の説明。この説明は、アドミニストレーターが要求サブタイプを理解するためのものです。

6. [送信] を選択します。
7. レコードタイプの影響を受ける管轄を追加するには、[新規] を選択し、必要に応じてフォームに入力します。

パーソナルデータ権 要求タイプフォーム

パーソナルデータ権 アプリケーションで要求タイプフォームを使用して、タイプ別に Personal Data Rights 要求を分類します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次の表で、フィールド値を一覧形式で説明します。

要求タイプフォーム

フィールド	説明
ラベル	要求タイプに表示されるラベル。このフィールドは、自動的に **[Personal Data Rights 要求 (Personal data rights request)]** に設定されます。
名前	要求タイプの名前。このフィールドは自動的に設定されます。
カテゴリ	要求タイプのカテゴリ。このフィールドは、自動的に **[Personal Data Rights 要求 [sn_grc_pdr_request] (Personal data rights request [sn_grc_pdr_request])]** に設定されます。
アクティブ	要求タイプをアクティブまたは非アクティブとして選択するオプション。
説明	この要求タイプの説明。この説明は、アドミニストレーターが要求タイプを理解するためのものです。
状況モデル	
状況モデル	要求タイプのワークフロー状況。
アクションタスク状況モデル	アクションタスク状況モデルで定義された状況モデル移行。アクションタスクワークフローのステータスは、状況モデルに従って変更されます。
受信メール設定	
グループメール	メールを受信すると自動的に要求を生成するメールアドレス。

アクションタスクテンプレートの作成

Personal Data Rights アドミニストレーターがアクセス可能なアクションタスクテンプレートを作成し、修正、削除、把握、オプトアウトする権利などのさまざまな要求タイプに合わせます。自動生成されたアクションタスクにこれらのテンプレートを使用すると、各タスクが要求タイプの特定の要件を満たすようになります。この調整により、Personal Data Rights 要求の処理における一貫性、コンプライアンス、および効率性が保証されます。

始める前に

必要なロール： システムアドミニストレーター

手順

1. 移動先 すべて > パーソナルデータ権 > 要求構成 > アクションタスクテンプレート.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テンプレートフォーム

フィールド	説明
名前	テンプレートの名前。たとえば、個人データを修正する権利などです。
テーブル	テンプレートに使用するテーブル。このフィールドは自動的に [アクションタスク **[sn_grc_case_mgmt_case_task]]** に設定されます。
アクティブ	テンプレートがアクティブかどうかを示すオプション。アクティブなテンプレートのみを使用できます。
アプリケーション	テンプレートが作成されるアプリケーションの名前。このフィールドは、自動的に **[GRC Personal Data Rights]** に設定されます。
ドメイン	テンプレートのドメイン。このフィールドは、自動的に [グローバル] に設定されます。
ユーザー	このフィールドは自動的に [システムアドミニストレーター] に設定されます。
グループ	テンプレートを表示および使用できるグループ。
グローバル	テンプレートが組織のすべてのユーザーに利用可能であることを示すオプション。
テンプレート	テンプレートを構築するために使用するフィールド

4. 必要に応じて条件を作成します。
5. [送信] を選択します。

データレジストリの作成

ユーザーのリポジトリを作成し、さまざまなアプリケーションの所有者を指定します。このリポジトリは、Personal Data Rights (PDR) 要求タスクをアサインする必要があるユーザーの識別に役立ちます。

始める前に

必要なロール：sn_grc_pdr.pdr_admin、sn_grc_pdr.pdr_manager

このタスクについて

データレジストリは、ビジネスアプリケーションまたはビジネスプロセス、その所有者、および保存するデータのタイプ (顧客データ、従業員データ、見込み客データ、元従業員データなど) に関する情報を提供します。このレジストリまたはリポジトリに基づいてプライバシーデータ権利要求が作成されると、権利所有者に対してアクションタスクが作成されます。

手順

1. 移動先 すべて > パーソナルデータ権 > パーソナルデータ権ワークスペース > リスト > データレジストリ.
2. **[New** (新規)] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

3. フォームのフィールドに入力します。

新しいデータ所有者レジストリを作成フォーム

フィールド	説明
データ所有者レジストリ	
要求者タイプ	格納する個人データのタイプ。以下から選択可能です。 ○ 顧客 ○ 従業員 ○ 元従業員 ○ 見込み客
資産タイプ	データを含む資産のタイプ。
資産を選択	資産タイプに属する特定の資産。
説明	レジストリの説明。
アサイン	
ユーザーのアサイン方法 (User assignment method)	アサインルール。選択肢は次のとおりです。 ○ ユーザーとグループを手動でアサイン **(Manually assign the user and group)**：ユーザーとグループを手動でアサインする必要がある場合は、このオプションを選択します。 ○ 選択した資産レコードからユーザーを選択 **(Choose user from selected asset record)**：選択した資産レコードで指定されたユーザーを使用する必要がある場合は、このオプションを選択します。
グループ	資産が属するグループ。
ユーザー	PDR 要求を担当するユーザー。

4. [保存] を選択します。

タスクの結果
PDR エージェントがレジストリに基づいてタスクを生成すると、さまざまなタスク所有者に対してアクションタスクが作成されます。

Personal Data Rights 要求にアクションタスクを追加する

Personal Data Rights 要求のアクションタスクを自動的に作成します。これらのアクションタスクは、Personal Data Rights アドミンによって作成され、適切なデータ所有者にアサインされるデータレジストリに基づいて生成されます。

始める前に
必要なロール：sn_grc_pdr.pdr_agent

このタスクについて
データレジストリを作成すると、Personal Data Rights (PDR) 要求タスクをアサインする必要があるユーザーの識別に役立ちます。データレジストリの詳細に基づいてアクションタスクを生成する

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

と、アクションタスクが作成され、適切なデータ所有者にアサインされます。これらのタスクを作成したら、データ所有者がタスクの処理を開始するために、タスクを [アサイン済み (Assigned)] ステータスに移行する必要があります。アクションタスクは、自動生成されたタスクに適用される、提供されたタスクテンプレートを使用して、要求タイプの特定の要件を確実に満たすようにします。

手順

1. 移動先 すべて > パーソナルデータ権ワークスペース > リスト > パーソナルデータ権 > すべての要求.
2. タスクを生成する要求を開きます。
3. [詳細] タブを選択します。
4. [タスクを生成] を選択します。
5. 生成されたタスクを選択し、[アサインステータスに移行 **(Move to the Assign state)]** を選択します。
6. オプション: 右上の [その他のアクション] アイコンを選択し、[メールの作成] を選択して、要求が処理されていることを適切なユーザーに通知します。

パーソナルデータ権 の使用

パーソナルデータ権 アプリケーションを使用して、個人データを管理するための新しい要求を作成します。

パーソナルデータ権 要求の作成

組織またはエンティティが保有する個人情報へのアクセス、修正、または削除を要求するために、Personal Data Rights 要求を作成します。

始める前に
必要なロール：sn_grc_pdr.pdr_requester

手順

1. 移動先 すべて > パーソナルデータ権ワークスペース.
2. **[Create** (作成)] を選択します。
3. [要求] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

   Personal Data Rights 要求フォームのフィールド値の説明については、「Personal Data Rights 要求フォーム」を参照してください。
5. [保存] を選択します。
6. [詳細] タブで [ステータスの更新 **(Update state)]** を選択します。
7. 追加コメントを入力します。
8. [送信] を選択します。
   タスクのステータスは、[ドラフト **(Draft)]** から [アサイン済み **(Assigned)]** に移行します。

Personal Data Rights 要求フォーム

パーソナルデータ権 アプリケーションの Personal Data Rights 要求フォームを使用して、個人データへのアクセス、修正、または削除のプロセスを開始します。

次の表で、フィールド値を一覧形式で説明します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい個人フォーム

フィールド	説明
番号	要求番号。このフィールドは自動的に設定されます。
ソース	要求が開始されたソース。選択肢は以下のとおりです。 • メール • 電話 • 従業員センター • チャットボット • **Public API**
優先度	要求の優先度。 • **1** - 重大 • **2** - 高 • **3** - 中 • **4** - 低 • **5** - 計画中
状況	要求のワークフローのステータス。このフィールドは自動的に [新規] に設定されます。
名前	要求の名前。たとえば、「データの修正」です。
説明	要求の簡潔な説明例：ある従業員が、弊社のアカウントに自分の住所が誤って記録されていることを発見しました。この従業員は、自分の個人データへのアクセスを求める電話をかけ、具体的に住所の修正を依頼しました。プロセスに従って、個別のデータアドミニストレーターが従業員に電話し、HR システムで修正するための新しい住所の詳細を入手する必要があります。
規制	要求に適用される規制。
要求者の詳細	
要求者名 (Requester name)	データを要求した人物の名前。
場所	要求者の地理的位置。
メール	要求者のメール ID
ユーザー検証	ユーザーの検証および確認に使用する方法。選択肢は以下のとおりです。 • **IVR** (音声自動応答) • 検証対象

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい個人フォーム (続く)

フィールド	説明
	• セキュリティの質問 (手動検証) • **SSO** (シングルサインオン)
要求者タイプ	要求者のカテゴリ。選択肢は以下のとおりです。 • 見込み客 • 顧客 • 従業員 • 元従業員
要求タイプ	要求者によって行われた要求のタイプ。選択肢は次のとおりです。 • 訂正する権利 • 削除する権利 • 知る権利 • オプトアウトする権利
電話番号	要求者の電話番号
事業部門	要求者の事業部門
検証コメント	ユーザーを検証するための追加コメント。
スケジュール	
作成日	要求が作成された日付
期日	要求を完了する期日
実際の開始日	要求の処理開始日
割り当て	
アサイン先グループ	要求にアサインされたグループ
アサイン先	変更要求にアサインされたユーザー
検証承認者	検証を承認するユーザー
ウォッチリスト	要求を認識し、追跡する必要があるユーザー。
まとめ	
すべての観測事象	追加の観測事象。
アクティビティ	
作業メモ (プライベート)	ケースに関するメモまたは情報。
追加コメント (顧客に表示)	顧客と共有するケースに関する追加情報。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パーソナルデータ権 要求にアクションタスクを追加する

パーソナルデータ権 要求のアクションタスクを作成し、適切なタスクオーナーにアサインします。アクションタスクは、有効な Personal Data Rights 要求を円滑に完了するために作成されるタスクです。

始める前に

必要なロール：sn_grc_pdr.pdr_admin

手順

1. 移動先 すべて > パーソナルデータ権ワークスペース.
2. アクションタスクを追加する要求を開きます。
3. [アクションタスク] 関連リストを選択します。
4. [新規] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。
   フォームフィールドの詳細については、「新規アクションタスクフォーム」を参照してください。
6. [保存] を選択します。

新規アクションタスクフォーム

新規アクションタスクフォームを使用して、適切なオーナーのアクションタスクを作成します。

次の表で、フィールド値を一覧形式で説明します。

新規アクションタスクフォーム

フィールド	説明
名前	アクションタスクの名前。例えば、Verification of Requester's Data and Disclosure of Usage などです。
説明	アクションタスクの簡単な説明。例えば、Verification of Requester's Data and Disclosure of Usage: Specify Locations and Purposes of Personal Information Utilization などです。
優先度	タスクの優先度。
IT 資産	要求で使用される IT 資産。
アサイン先グループ	
アサイン	
アサイン先グループ	タスクの作業を担当するグループ。
タスクオーナー	タスクを所有するユーザー。
ウォッチリスト	タスクとその進行状況を通知する必要があるユーザー。
スケジュール	
期日	タスクの完了日。
サマリー	
観察事項	タスクオーナーにとって重要な観察事項。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規アクションタスクフォーム (続く)

フィールド	説明
アクティビティ	
追加コメント	タスクオーナーへの追加コメントまたは情報。

パーソナルデータ権 タスクを承認して取り組む

自分にアサインされたパーソナルデータ権(PDR) タスクを承認します。作業を承認しない限り、タスクのクローズに向けて作業することはできません。

始める前に
必要なロール：sn_grc_pdr.pdr_agent

手順

1. 移動先 すべて > パーソナルデータ権ワークスペース > リスト > パーソナルデータ権 > すべての要求.
2. 必要な要求を開きます。
3. [アクションタスク] 関連リストで、承認するアクションタスクを選択します。
4. [作業を承認] を選択します。
5. メモを入力し、 [作業を承認 **(Accept work)]**を選択します。
6. [詳細] タブで、タスクの詳細を入力します。
7. タスクが完了したら、次のいずれかを選択します。

プライバシー管理 のレポート

プライバシー管理 レポートは、さまざまなレコードの概要ページとして使用できます。

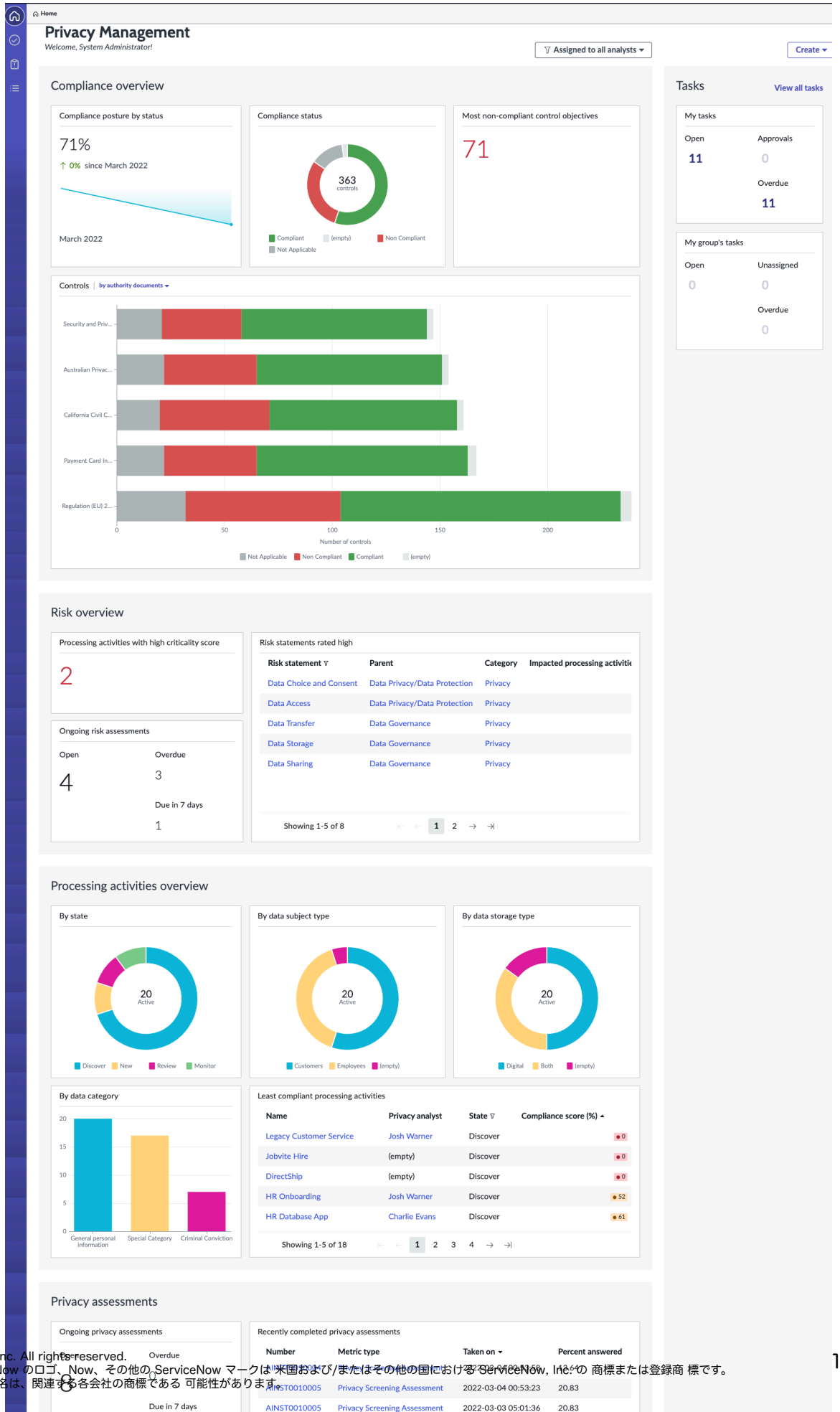
プライバシー管理ホームページ

プライバシー管理 ホームページには、全体的なコンプライアンススコアと傾向、プライバシーリスクアセスメントステータス、プライバシー影響度評価ステータス、コントロール証明書、問題固有のステータス、プライバシー固有の規制変更タスクなどの詳細を含む、完全なプライバシーリスクとコンプライアンス体制の概要が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プライバシー管理ホームページ



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc.の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なロール

ホームページを表示するには、sn_privacy.manager と sn_privacy.analyst のロールが必要です。

ユースケース

組織内のさまざまなユーザーがこのホームページをどのように使用するかの例については、次のユースケースを参照してください。

ユーザー	ダッシュボードの使用法
プライバシーマネージャー	プライバシーマネージャーは、すべての処理アクティビティとプライバシーアセスメントを考慮して、プライバシーコンプライアンスの体制を表示して把握できます。プライバシーチームのタスクを表示することもできます。
プライバシーアナリスト	プライバシーアナリストは、プライバシーアナリストにアサインされた処理アクティビティのみを考慮して、プライバシーコンプライアンスの体制を表示して把握できます。また、注意が必要なタスクにアクセスすることもできます。

インジケーター

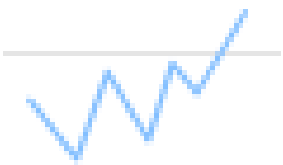
処理アクティビティのコンプライアンススコア (%) インジケーターは、処理アクティビティのコンプライアンススコア (%) を示します。

ブレークダウン

- 処理アクティビティ
- プライバシーアナリスト

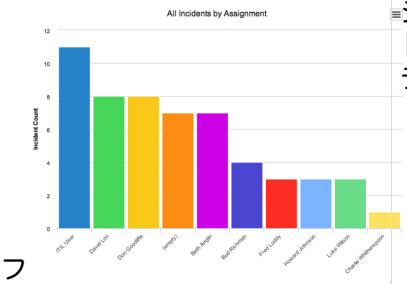
レポート

このダッシュボードには、次のレポートが表示されます。

タイトル	タイプ	説明
月別のコンプライアンス体制	傾向図 	月別のコンプライアンス体制は、すべての処理アクティビティの全体的なコンプライアンススコアを参照してプロットされます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タイトル	タイプ	説明
コンプライアンスのステータス	ドーナツ 	すべての処理アクティビティにわたるすべてのコントロールのコンプライアンスステータスを提供します。
コントロール (各種法令・基準等別またはポリシー別)	棒グラフ 	各種法令・基準等またはポリシーに関連付けられているコントロールのコンプライアンスステータスを提供します。
ステータス別処理アクティビティ	ドーナツ 	アクティブな処理アクティビティの分割を次の状況別に表示します。 • 新規 • 検出 • レビュー • 監視
準拠度が最も低い処理アクティビティ	リストレポート 	準拠度が最も低い処理アクティビティのリストを表示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タイトル	タイプ	説明
プライバシーアセスメントステータス	単一スコア  	未解決、期限切れ、期限間近のアセスメントの数を表示します。
最近完了したプライバシーアセスメント	リストレポート 	最近完了したプライバシーアセスメントのリストを表示します。
問題	単一スコア  	未解決、期限切れ、期限間近の問題の数を表示します。
優先度別の問題	ドーナツ 	優先度別に問題を表示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タイトル	タイプ	説明
ポリシー例外	単一スコ  ア	アクティブ、期限切れ、および要求済みのポリシー例外の数を表示します。
リスク評価別	ドーナ  ツ	リスク評価別にポリシーの例外を表示します。
インジケーター	単一スコ  ア	未解決で失敗したインジケーターの数を表示します。
証明書	単一スコ  ア	未解決、期限切れ、期限間近の証明書の数を表示します。

処理アクティビティの概要ページ

処理アクティビティの概要ページには、処理アクティビティのプライバシーリスクとコンプライアンス体制が表示されます。このページには、全体的なコンプライアンススコア、傾向、プライバシー重要度アセスメントスコア、プライバシーリスクアセスメントに基づくリスクヒートマップ、プライバ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

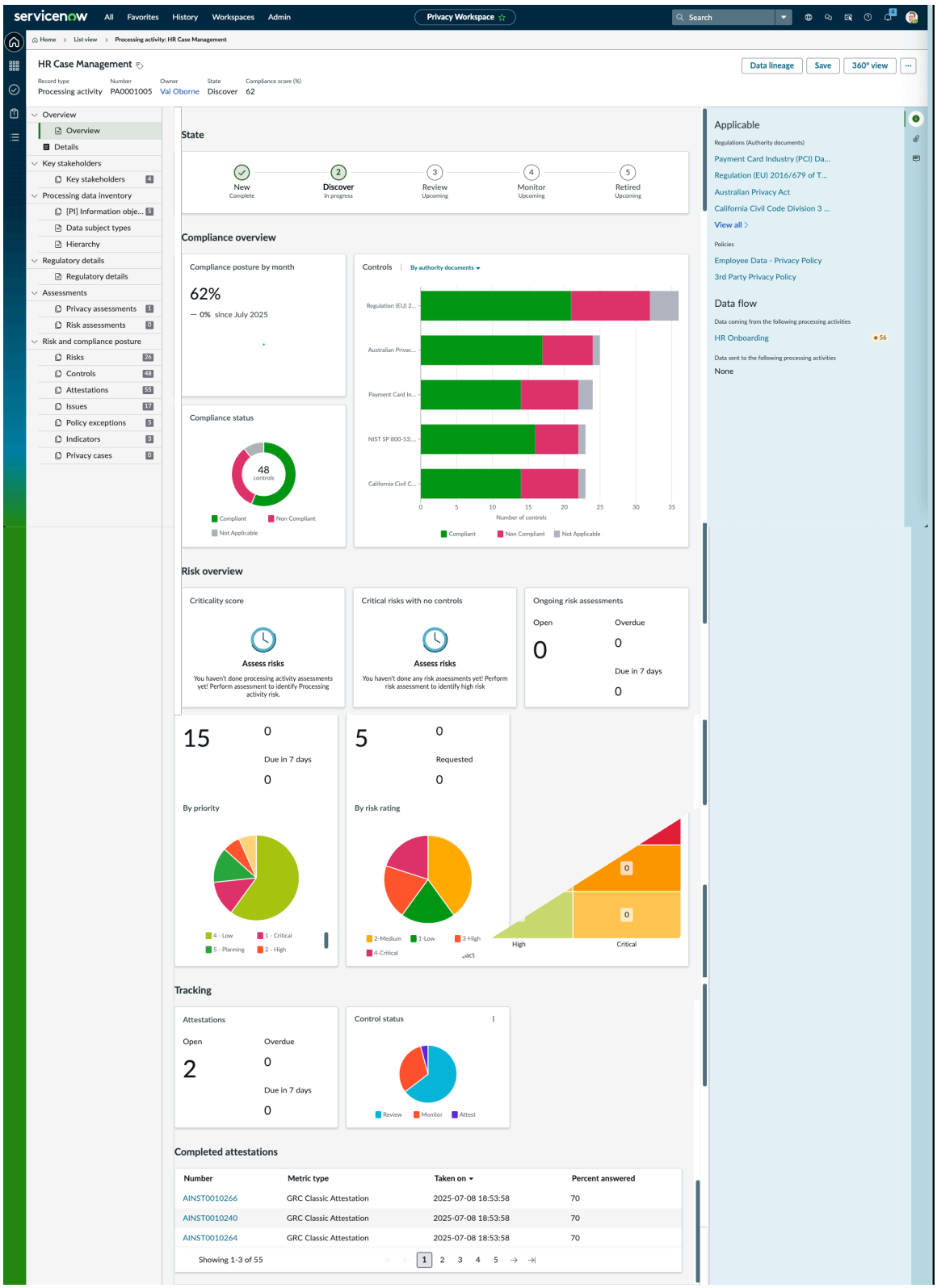
シーアセスメントステータス、コントロール証明書、および問題固有のステータスなどの詳細が含まれています。

処理アクティビティの垂直レイアウトは、情報を明確かつ順番に表示する構造化されたトップダウンビューを提供します。この設計では、ワークフローの各ステップを直線的な進行で視覚的に表現することで、データ処理ライフサイクルを直感的に理解しやすくなります。情報の開始から完了までのフローを簡単に追跡できるため、個人データがどのように収集、使用、共有、保持されているかをより的確に把握できます。このレイアウトは、簡素化されたナビゲーションをサポートし、処理アクティビティ内の主要な要素と依存関係を識別する機能を向上させ、使いやすさとコンプライアンスの監視の両方を強化します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

処理アクティビティの概要ページ



必要なロール

ホームページを表示するには、sn_privacy.manager と sn_privacy.analyst のロールが必要です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユースケース

組織内のさまざまなユーザーがこのホームページをどのように使用するかの例については、次のユースケースを参照してください。

ユーザー	ダッシュボードの使用法
プライバシーマネージャーおよびプライバシーアナリスト	プライバシーマネージャーとプライバシーアナリストは、特定の処理アクティビティのプライバシーコンプライアンス体制を表示して把握できます。

インジケーター

処理アクティビティのコンプライアンススコア **(%)**：処理アクティビティのコンプライアンススコア (%)。

ブレークダウン

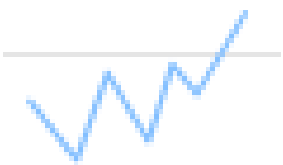
- 処理アクティビティ
- プライバシーアナリスト

リスクの概要

[リスクの概要] セクションには、処理アクティビティの重要度スコア、コントロールのない高リスクの数、進行中のリスクアセスメントの詳細、およびリスクヒートマップが表示されます。

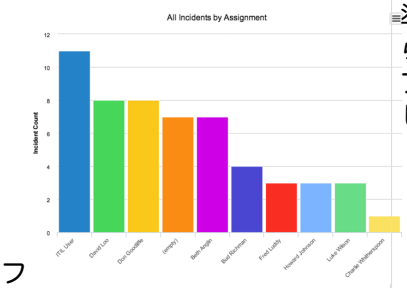
レポート

このダッシュボードには、次のレポートが表示されます。

タイトル	タイプ	説明
月別のコンプライアンス体制	傾向図 	月別のコンプライアンス体制は、処理アクティビティのコンプライアンススコアを参照してプロットされます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タイトル	タイプ	説明
コンプライアンスのステータス	ドーナツ 	このレポートは、処理アクティビティのすべてのコントロールのコンプライアンスステータスを提供します。
コントロール (各種法令・基準等別またはポリシー別)	棒グラフ 	このレポートは、各種法令・基準等またはポリシーに関連付けられているコントロールのコンプライアンスステータスを提供します。
プライバシーアセスメントステータス	単一スコア 	未解決、期限切れ、期限間近のアセスメントの数を表示します。
最近完了したプライバシーアセスメント	リストレポート 	最近完了したプライバシーアセスメントのリストを表示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タイトル	タイプ	説明
問題	単一スコ  ア	未解決、期限切れ、期限間近の問題の数を表示します。
優先度別の問題	ドーナ  ッ	優先度別に問題を表示します。
ポリシー例外	単一スコ  ア	アクティブ、期限切れ、および要求済みのポリシー例外の数を表示します。
リスク評価別	ドーナ  ッ	リスク評価別にポリシーの例外を表示します。

自動翻訳

プライバシー管理の参照

参照トピックには、プライバシー管理 アプリケーションとともにインストールされるテーブル、ロールなどの追加の情報が記載されています。これらのトピックでは、サポート情報も提供しています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プライバシー管理とともにインストールされるテーブル

テーブルは、GRC: プライバシー管理 のアクティブ化とともに追加されます。

インストールされるテーブル

テーブル	説明
アセスメントの構成 [sn_privacy_assessment_configuration]	プライバシーマネージャーまたはアドミニストレーターは、アセスメント応答で処理アクティビティを自動作成するためのルールを構成できます。このテーブルには、アセスメントテンプレートのアセスメント構成ルールが格納されます。
処理アクティビティに対するコントロール目標 [sn_privacy_m2m_policy_statement_processing_activity]	各処理アクティビティは、適用可能なコントロール目標に関連付けることができます。このテーブルにより、処理アクティビティと CO の関係を追跡できます。
処理アクティビティに対するコントロール [sn_privacy_m2m_control_processing_activity]	コントロールと処理アクティビティの間の多対多の関係を保存します。
インスタンスのアセスメントに対するエンティティタイプ [sn_privacy_m2m_profile_type_assessment_instance]	プライバシーユーザーは、エンティティタイプについて複数のプライバシーアセスメントを送信できます。このテーブルにより、プライバシーアセスメントと処理アクティビティの関係が有効になります。
処理アクティビティに対する情報オブジェクト [sn_privacy_m2m_information_object_processing_activity]	各処理アクティビティは、適用可能な情報オブジェクトに関連付けることができます。このテーブルにより、処理アクティビティと IO の関係を追跡できます。
プライバシーに関する一意のユーザー使用率 [sn_privacy_unique_user_usage]	GRC プライバシー管理 テーブルを使用しているユニークユーザー数を収集します。
処理アクティビティ [sn_privacy_processing_activity]	タスクテーブル [sn_grc_item] を拡張し、処理アクティビティを格納します。
処理アクティビティ階層 [sn_privacy_m2m_pa_pa]	個人データは、1 つの処理アクティビティから別の処理アクティビティに移動できます。このテーブルには、各処理アクティビティのアップストリームおよびダウンストリームの処理アクティビティ情報が格納されます。

プライバシー管理とともにインストールされるロール

GRC: プライバシー管理 アプリケーションは、プライバシーアナリスト、プライバシーマネージャー、およびプライバシーアドミニストレーターがそれぞれのタスクを実行するためのロールをインストールします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールと説明

ロールタイトル [名前]	説明	含んでいるロール
プライバシーアナリスト [sn_privacy.analyst]	プライバシーアナリストは、自分が所有する処理アクティビティのプライバシーコンプライアンス体制を管理する責任があります。次のタスクを実行します。 • プライバシー影響度評価を送信してレビューすることで、処理アクティビティを定期的に評価します。 • アドミンおよびビジネスユーザーと協力して、処理アクティビティに関連するコントロールを識別および管理します。 • コンプライアンス関連の問題やポリシーの例外に関するビジネスユーザーの懸念を管理および解決します。 • コントロール有効性をテストおよび監視します。	• sn_grc_workspace.task_reader • sn_risk_advanced.ara_approver • sn_risk_advanced.ara_assessor • sn_risk.user • sn_compliance.user • sn_privacy_case.privacy_case_analyst
プライバシーマネージャー [sn_privacy.manager]	プライバシーマネージャーは、組織レベルのプライバシーコンプライアンス体制を管理する責任があります。次のタスクを実行します。 • プライバシー規制、各種法令・基準等、ポリシーを作成して実装します。 • プライバシーの規制要件とポリシーを確認します。 • プライバシー規制および内部ポリシーの違反に対処するためのコントロールを設計および監視します。 • プライバシープログラムとスコープエンティティを計画します。 • プライバシー影響度評価テンプレートを作成します。 • コントロールの有効性を継続的に監視し、効果的な改善を推奨します。 • プライバシーコンプライアンスチームを監督します。	• sn_compliance.manager • sn_privacy.analyst • sn_risk.manager • sn_grc_workspace.task_admin • sn_compliance.attestation_creator • sn_grc_reg_change.manager • sn_privacy_case.privacy_case_manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールと説明 (続く)

ロールタイトル [名前]	説明	含んでいるロール
	• コンプライアンス体制をアドミニストレーターと取締役会に報告します。 • 組織に初めてプライバシー規制を実装するユーザーを特定します。	
プライバシーアドミン [sn_privacy.admin]	プライバシーアドミニストレーターは、プライバシーポリシーとコンプライアンス管理を管理します。このロールを割り当てられたユーザーは、プライバシーチームの要件に従ってプライバシー管理ソリューションを構成する責任を負います。次のタスクを実行します。 • プライバシー影響度評価と自動フローを構成してアセスメントをトリガーします。 • プライバシースクリーニングアセスメントから処理アクティビティを自動作成するルールを設定します。 • 他のアプリケーションおよびモジュールとの ServiceNow AI Platform プラットフォームの依存関係を監視します。 • [処理アクティビティスクリプトの構成] 関連リストでスクリプトを読み込むことができます。	• sn_privacy.manager • sn_risk_advanced.ara_admin • sn_compliance.admin • sn_privacy_case.privacy_case_admin
プライバシーアセスメントレスポンダー [sn_privacy.assessment_responder]	プライバシーアセスメントレスポンダーは、主要なステークホルダーとしてプライバシーアセスメントに応答することができます。ポータルからプライバシー要求を出すこともできます。	• sn_grc_workspace.task_reader • canvas_user
プライバシービジネスユーザー [sn_privacy.business_user]	プライバシービジネスユーザーは、割り当てられた処理アクティビティを [ディスカバリー] ステータスで編集でき、またアセスメントに応答することもできます。	• sn_grc_workspace.task_reader • canvas_user • sn_privacy_case.privacy_case_business_us • sn_grc.business_user

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールと説明 (続く)

ロールタイトル [名前]	説明	含んでいるロール
プライバシー開発者 [sn_privacy.developer]	プライバシー開発者はカスタムスクリプトを記述できます。	sn_privacy.admin
プライバシー従業員ユーザー アプリケーションがインストールされている場合は、次のロールを使用できます。		
プライバシー従業員ユーザー [sn_privacy_emp.privacy_employee]	従業員が 従業員センター で次の操作を実行できるようにします。 • 新しい実装、アプリケーション、およびプロセスのプライバシー影響度評価 (PIA) を従業員センターに積極的に要求します。 • データプライバシーポリシーおよび規制違反に関連するプライバシーケースを報告します。 • 組織のプライバシーポリシーを読んで確認します • ポリシーの例外を作成します。 • プライバシーの問題を作成します。	• sn_grc.issue_employee_user • sn_compliance.policy_ack_employee_user • sn_compliance.policy_exception_employee_
GRC：Privacy Lite User アプリケーションがインストールされている場合、次のロールは Lite オペレーターと見なされます。		
• sn_privacy.assessment_responder • sn_privacy_case.privacy_case_business_user • sn_privacy.business_user • sn_grc_pdr.data_owner_admin	Lite オペレーターロールを持つユーザーは、次の操作を実行できます。 • ビジネスユーザーとしてプライバシーアセスメントタスクに回答します。 • 処理アクティビティがアサインされたら、その処理アクティビティをビジネスユーザーとして処理し、必要な詳細を収集します。 • 処理アクティビティの重要度リスクアセスメントとオブジェクトベースのアセスメントに回答します。 • 処理アクティビティで特定された各リスクの詳細なプライバシーリスクアセスメントに回答します。	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールと説明 (続く)

ロールタイトル [名前]	説明	含んでいるロール
	• 侵害アセスメントおよびその他のプライバシーケースタスクを処理します。 • プライバシーチームによってアサインされたアセスメントおよび調査タスクに対応します。 • 要求者の要求に従ってデータを処理するための Personal Data Rights アクションタスクを処理します。 • アサインされたコントロール証明書に回答します。 • アサインされた問題を確認、更新、およびクローズします。 • アサインされた修復タスクを作成、更新、およびクローズします。 • 手動インジケータータスクに対応します。	

機能ロールの詳細については、「 GRC 機能ロール」を参照してください。

パーソナルデータ権の参照

参照トピックには、パーソナルデータ権 アプリケーションとともにインストールされるテーブル、ロールなどの追加の情報が記載されています。これらのトピックでは、サポート情報も提供しています。

パーソナルデータ権 とともにインストールされるロール

Personal Data Rights アプリケーションのロール

ロールタイトル	説明	含まれるロール
Personal Data Rights 要求アドミン [sn_grc_pdr.pdr_admin]	このロールを持つユーザーは Personal Data Rights 要求タイプを構成できます。	• sn_grc_case_mgmt.grc_case_admin • sn_grc_pdr.pdr_manager
Personal Data Rights 要求エージェント [sn_grc_pdr.pdr_agent]	このロールを持つユーザーは、自分にアサインされた Personal Data Rights 要求を処理します。	• sn_grc_pdr.data_owner_admin • sn_grc_case_mgmt.grc_case_analyst

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Personal Data Rights アプリケーションのロール (続く)

ロールタイトル	説明	含まれるロール
個人データ所有者アドミン [sn_grc_pdr.data_owner_admin]	このロールを持つユーザーは、その資産が要求に関連している場合にアクションタスクに応答する資産所有者です。	• sn_grc_workspace.task_reader • sn_grc_workspace.user
個人データ要求マネージャー [sn_grc_pdr.pdr_manager]	このロールを持つユーザーは、クローズされるまですべての Personal Data Rights 要求を監督します。	• sn_grc_case_mgmt.grc_case_manager • sn_grc_pdr.pdr_agent
PDR 要求者 [sn_grc_pdr.pdr_requester]	このロールを持つユーザーは、新しい PDR を送信し、要求のステータスを追跡して、要求に関連する通信または通知を受け取ることができます。	

パーソナルデータ権とともにインストールされるテーブル

Personal Data Rights アプリケーションのテーブル

テーブル名	説明
データ所有者レジストリ sn_grc_pdr_data_owner_registry	データ資産とその所有者の間のマッピングを維持します。
Personal Data Rights 要求 sn_grc_pdr_request	Personal Data Rights に関する情報を収集します。

機能ロールの詳細については、「 GRC 機能ロール」を参照してください。

プライバシー管理 のメール通知

リマインダーを使用すると、関連するユーザーはアセスメントを実行し、それらに関連するタスクを完了できます。

デフォルトでは、プライバシー管理 アプリケーションには次のタイプのメール通知が含まれています。

- プライバシースクリーニングアセスメントのためのエンティティオーナーへのメール通知。
- プライバシー影響度評価のためのエンティティオーナーへのメール通知。
- アセスメントが [オープン] ステータスのときに、プライバシーアセスメントがキャンセルされた場合にエンティティオーナーが受信するメール通知。
- アセスメントが [対応中] ステータスのときに、プライバシーアセスメントがキャンセルされた場合にエンティティオーナーが受信するメール通知。

次のテーブルに、通知の受信者リストと、通知が送信されるときの関連条件を示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プライバシー管理 アプリケーションで送信される通知

通知	条件	受信者
プライバシーアセスメントの通知：プライバシースクリーニングアセスメントの新しいアセスメント	新しいプライバシースクリーニングアセスメントが開始されたとき。	エンティティオーナー
プライバシー影響度評価のためにエンティティオーナーに送信されるメール通知。	エンティティオーナーがプライバシー影響度評価を受け取ったとき。	プライバシーマネージャー
アセスメントが [オープン] ステータスのときに、プライバシーアセスメントがキャンセルされた場合にエンティティオーナーに送信されるメール通知。	プライバシーアセスメントがキャンセルされ、アセスメントが [取得可能] ステータスだったとき	エンティティオーナー
アセスメントが [対応中] ステータスのときに、プライバシーアセスメントがキャンセルされた場合にエンティティオーナーに送信されるメール通知。	プライバシーアセスメントがキャンセルされ、アセスメントが [対応中] ステータスだったとき	エンティティオーナー
プライバシーアセスメントが期日になった時点でエンティティオーナーに送信されるリマインダーメール通知。	アセスメントの期日に関するリマインダーメール。	エンティティオーナー
プライバシーアセスメントが期限切れになった時点でエンティティオーナーに送信される、期限切れに関するメール通知。	期限切れに関するメール	エンティティオーナー

自動翻訳

プライバシー管理 での処理アクティビティの使用

処理アクティビティは、個人データを処理するレコードです。このようなレコードの例としては、組織のビジネスプロセスやビジネスアプリケーションがあります。処理アクティビティにより、プライバシー管理チームは個人情報がどのように処理または使用されているかを把握できます。

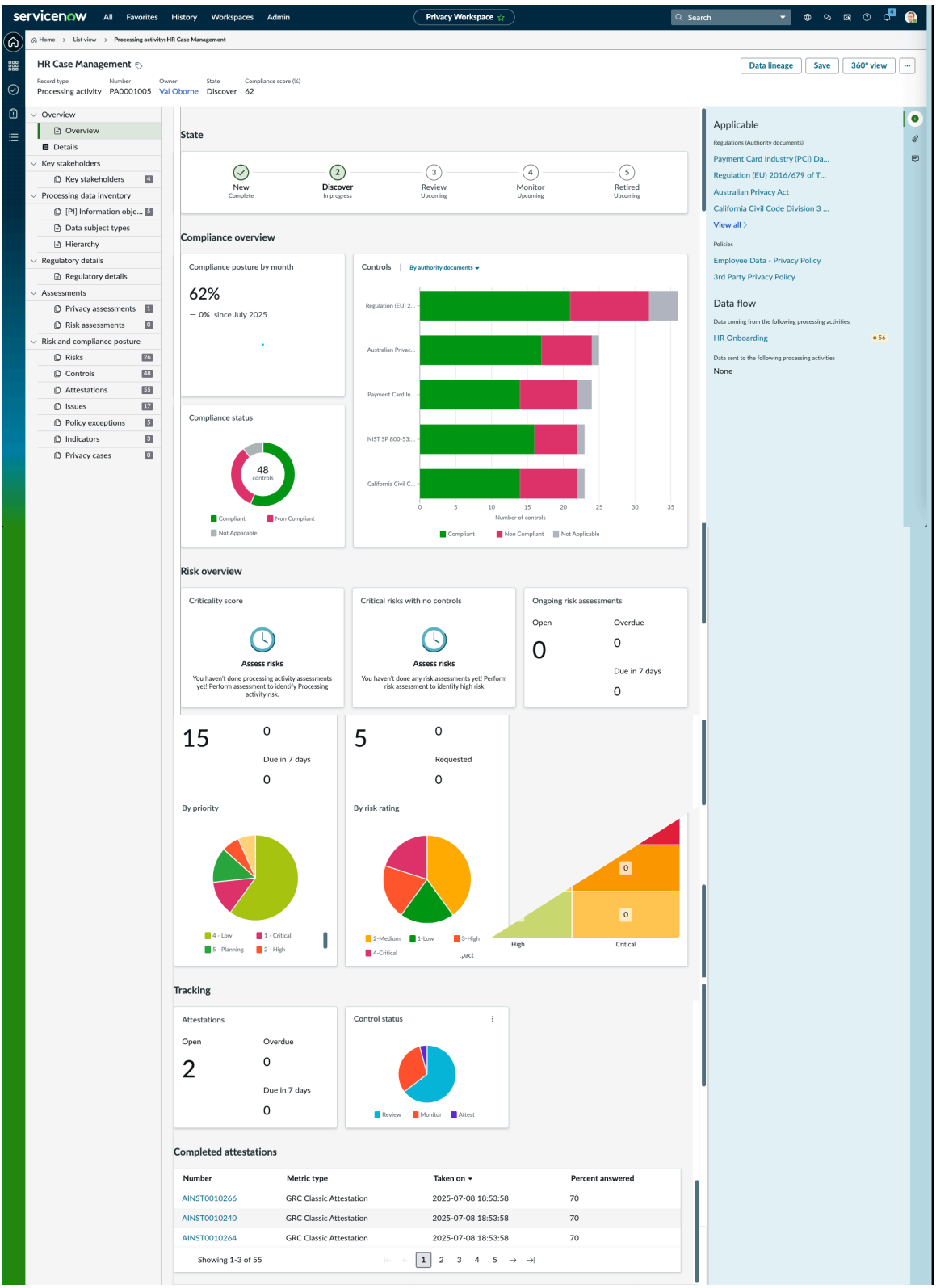
処理アクティビティの詳細については、「処理アクティビティ」を参照してください。処理アクティビティは、プライバシーチームが次の詳細を記録するのに役立ちます。

- 処理アクティビティの詳細 (所属する事業部門、データ主体タイプ、データストレージの場所など)。
- この処理アクティビティの一部として処理されている [PI] 情報オブジェクト。
- 過去のプライバシーアセスメントおよび進行中のプライバシーアセスメント
- 処理アクティビティとそれぞれのコントロール証明書応答に適用されるコントロール。
- この処理アクティビティに関連付けられている問題とポリシー例外。

次の画像は、処理アクティビティの [概要] タブを示しています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

処理アクティビティレコード



処理アクティビティのワークフロー

処理アクティビティワークフローは、プライバシーアナリストが処理アクティビティのライフサイクルを管理するのに役立ちます。

次のセクションでは、処理アクティビティワークフローのさまざまなステージについて説明します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

注:
処理アクティビティを所有していないプライバシーアナリストは、処理アクティビティの表示のみ実行できます。編集することはできません。

新規

これは、プライバシーコンプライアンスを判断するために、ビジネスアプリケーション、ビジネスプロセス、ベンダー、またはビジネスサービスを考慮する必要があるかどうかを確認するためのステータスです。処理アクティビティは、手動で作成された場合にのみこのステータスになります。プライバシーマネージャーまたはプライバシーアナリストは、処理アクティビティを手動で作成し、その分析に基づいて処理アクティビティとして確認できます。このステージでは、処理アクティビティの次のフィールドを変更できます。

- 名前
- 正当な理由
- プライバシーアナリスト
- エンティティ：このフィールドが入力され、処理アクティビティフォームが保存されている場合のみ。フォームを保存した後、プライバシーマネージャーまたはプライバシーアナリストは、処理アクティビティを [ディスカバリー] ステータスに移行できます。

検出

このステータスでは、処理アクティビティを所有するプライバシーマネージャーまたはプライバシーアナリストは、処理アクティビティが個人情報を処理する理由と方法などの詳細を把握できます。これらの詳細は、プライバシーアセスメントを送信することによって収集されます。応答に基づいて、適切なコントロールセットが適用されます。このステータスの処理アクティビティフォームで実行できるアクティビティのリストを、次に示します。

- プライバシーアセスメントを送信します。
- アセスメントへの応答に基づいて、処理アクティビティの [詳細] セクションを更新します。
- 主要なステークホルダーの 1 人に処理アクティビティをアサインして、主要なステークホルダーが、詳細、PI タグ付き情報オブジェクト、および主要なステークホルダーを更新します。

  注:
  sn_privacy.business_user ロールを持つユーザーに処理アクティビティを割り当てることができます。

- プライバシーアセスメントの応答に基づいて適用されたコントロールを確認します。
- 必要に応じて他のコントロールを追加または削除します。

その後、処理アクティビティは [レビュー] ステータスに移行します。

評価

このステータスでは、処理アクティビティを所有するプライバシーマネージャーまたはプライバシーアナリストがコントロール証明書を送信し、証明書の応答と非準拠コントロールが原因で作成された問題に基づいてコンプライアンス体制をレビューします。処理アクティビティを所有するプライバシーマネージャーまたはプライバシーアナリストによって処理アクティビティフォームで実行されるアクティビティのリストは次のとおりです。

- アセスメントへの応答に基づいて、処理アクティビティの [詳細] セクションを更新します。
- 情報オブジェクトを関連付け、アセスメントの応答に基づいて情報オブジェクトに関連する追加の詳細をキャプチャします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- プライバシーアセスメントの応答に基づいて自動的に適用されるコントロールを確認し、必要に応じて他のコントロールを追加または削除します。
- コントロール証明書を送信し、問題とポリシーの例外を追跡します。

監視

これは、継続的な監視のために処理アクティビティを追跡するためのステータスです。インジケーター機能は、継続的な監視に使用されます。処理アクティビティがこのステータスにある場合、プライバシーアナリストは、プライバシーアナリストまたはプライバシーマネージャーが評価する必要がある処理アクティビティの更新に基づいて、処理アクティビティを [ディスカバリー] または [レビュー] ステータスに戻すことができます。処理アクティビティを所有するプライバシーマネージャーまたはプライバシーアナリストが処理アクティビティフォームで実行できるアクティビティのリストは次のとおりです。

- 処理アクティビティに関連するコントロールを継続的に監視するインジケーター機能の自動実行。
- 問題を作成、管理、および追跡します。

注:
[監視] ステータスになっている処理アクティビティに対して新しいプライバシーアセスメントが送信されると、その処理アクティビティは自動的に [ディスカバリー] ステータスに移行します。

廃止

これは、それぞれのビジネスアプリケーションまたはビジネスプロセスが組織で使用されなくなったときに、処理アクティビティを廃止するステータスです。このステータスに移行すると、処理アクティビティに関連付けられたすべてのコントロールが廃止されます。プライバシーチームは、廃止ステータスの処理アクティビティを更新できません。エンティティが非アクティブ化されると、関連する処理アクティビティも自動的に [廃止] ステータスに移行します。

プライバシー管理のドメインセパレーション

このページはドメインセパレーションと ガバナンス、リスク、コンプライアンス アプリケーション プライバシー管理 の概要です。 ドメインセパレーションでは、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

サポートレベル：ベーシック

- アプリケーションサービスプロバイダーのユースケースに合わせてデータが適切なドメインに送られるようにするビジネスロジックが存在します。
- このアプリケーションは、ドメインセパレーションを完全にサポートしています。ドメインセパレーションには、ユーザーインターフェイス、キャッシュキー、レポート、ロールアップ、および集計からのドメインの分離が含まれます。
- インスタンスのオーナーは、複数のテナント間で正常に機能するようにアプリケーションをセットアップする必要があります。

サンプルユースケース：サービスプロバイダーがチャットを使用してテナント顧客のメッセージに応答する場合、お客様がサービスプロバイダーの応答を確認できるようにする必要があります。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメインセパレーションのサポート)」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

ドメインセパレーションの概要

ドメインセパレーションは、以下の顧客にとって最適です。

- ビジネスエンティティ間で絶対的なデータ分離を適用する必要がある (データ分離)。
- 各ドメインのビジネスプロセス定義とユーザーインターフェイスをカスタマイズする (委任管理)。
- 単一のインスタンスでグローバルなプロセスとグローバルなレポートを維持します。

これらのユーザーは、ドメインスコープを展開するか折りたたんで、他のドメインからのデータを表示または非表示にすることができます。

注:
ユーザーは、ドメインの可視化によって明示的に付与されたドメインのデータに常にアクセスできます。

GRC におけるドメインセパレーションの仕組み

- GRC はデータの分離をサポートしていますが、ロジックおよびプロセスの分離を完全にはサポートしていません。

- GRC アプリケーション内のタイプのレコードの多くは、ユーザープロセスによって自動的に生成されます。エンティティ、コントロール、リスク、インジケーター、コントロールテスト、処理アクティビティはすべて、自動的に生成できるフィールドです。自動で生成されたレコード (および手動で生成された GRC レコード) の場合、レコードのドメインは、レコードの作成または生成を担当するユーザーのドメインと同じです。

  ドメインセパレーションされた GRC 実装で作業する場合は、自動生成を念頭に置いておく必要があります。ユーザーは、適切なドメインレベルでレコードを作成および生成して、それらが適切なユーザーセットに表示されるようにする必要があります。

  たとえば、トップレベルがグローバルで、その後にトップドメインが続くドメイン階層があるとします。トップドメインには、ドメイン A とドメイン B の 2 つのサブドメインがあります。

- ドメイン A および B のユーザーによって評価される必要があるプライバシーアセスメントを送信するエンティティがある場合は、エンティティをグローバルレベルで生成するか、手動で作成する必要があります。エンティティがドメイン B で作成された場合、インデックス作成のためにドメイン A でエンティティを再作成することはできません。
- トップおよびドメイン A のユーザーによって評価されるエンティティがある場合は、ドメイン A でエンティティを作成できます。

エンティティがグローバルドメイン内にない場合に限り、ユーザーは上位のドメイン内にあるエンティティを、下位のドメインのユーザーにアサインできません。上記の例では、TOP ドメインにエンティティがある場合、そのエンティティをプライバシーアセスメントのためにドメイン A または B のユーザーにアサインしないでください。これらのユーザーはアセスメントにアクセスできません。したがって、アセスメントのアンケートは生成されません。

同様に、ユーザーは、上位ドメインのコントロール目標とリスクステートメントを下位ドメインの証明書とアセスメントにアサインしないでください。アサインすると、証明書またはアセスメントアンケートが生成されません。

ユースケース

IT 用の GRC データを他の部門の GRC データから分離できます。GRC アプリケーションを使用している各ビジネスエリアは、他の部門と共有できない分離データを保有できます。そのため、各部門には独自のエンティティ、ポリシー、コントロール、リスクなどがあります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

IT ドメインからのコントロールを調べる場合、ユーザーはドメインスコープを展開してファイナンスドメインの値を表示するか、ドメインスコープを折りたたんで IT ドメインに一致するコントロールのみを表示するかを選択できます。

デフォルトでは、ドメインセパレーションは、タスク [task] および構成アイテム [cmdb_ci] テーブルとその拡張に、ドメインフィールドを追加します。

sys_domain フィールドをテーブルの辞書定義に追加することで、作成する任意の新しいテーブルにドメインセパレーションを拡張することができます。デフォルトでは、システム専用ドメインは、適切な場合に、プラットフォームとベースラインアプリケーションテーブルを分離します。

⚠ 警告:
ServiceNow では、予期しない結果が生じる可能性があるため、ドメインセパレーションプラットフォームテーブル (辞書エントリ [sys_dictionary] や辞書エントリの上書き [sys_dictionary_override] テーブルなど、sys_prefix を持つテーブル) は推奨されません。

このユースケースでは、クライアントスクリプト、ビジネスルール、ワークフロー、プロセスなどをドメインセパレーションできます。

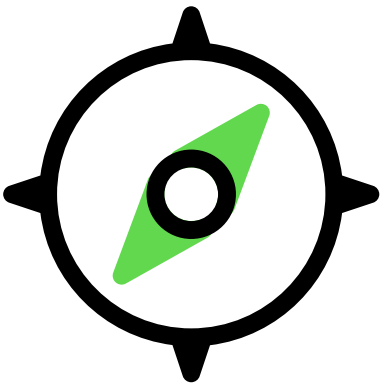
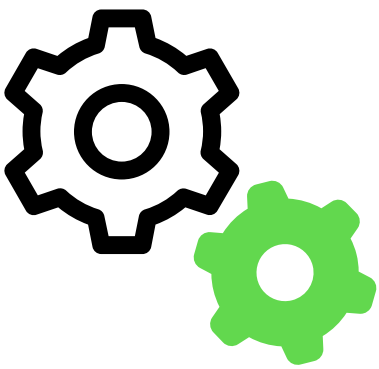
ドメインセパレーションでの動作がマルチテナントのサポートを提供している間は、マルチテナントはまだ単一のインスタンス内に含まれています。つまり、一部のグローバルプロパティ、グローバルデータ、およびグローバルプロセスは、すべてのドメインで共有されます。たとえば、ログインページのシステムの [記憶する] オプションはグローバルであり、ドメインごとに指定できません。

すべてのシステムのプロパティを完全に分離する必要があり、グローバルレポートまたはグローバルプロセスを必要としない場合、インスタンスの分離が最適なオプションです。

規制変更管理

ServiceNow® 規制変更管理 アプリケーションを使用することで、今後の規制変更を確認し、その影響を評価し、リスクおよびコンプライアンス関連の変更を実装することができます。アプリケーションは、組織の全体的な規制コンプライアンスを検証します。

開始

探索	構成	使用方法
		
の主な機能とメリットを確認する 規制変更管理	規制変更管理タスクを構成	クラシックユーザーインターフェイスで規制変更管理 アプリケーションを使用する

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

管理	Now Assist	参照
		
コンプライアンス ワークスペースでの規制変更タスクの管理	パーソナライズされた生成 AI アシスタントとスキルを使用して、 規制変更管理 での作業を強化します。	とともにインストールされるコンポーネント (テーブルやロールなど) 規制変更管理

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

トラブルシューティングとサポート

- コミュニティで質問や回答をする
- Known Error Portal で既知のエラー記事を検索
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート
- 開発者トレーニング
- 開発者ドキュメント

規制変更管理 の探索

規制変更管理 アプリケーションは、組織がサードパーティの規制インテリジェンスプロバイダーと統合して規制の変更や外部規制に対応するために使用できるフレームワークを提供します。

規制変更管理の概要

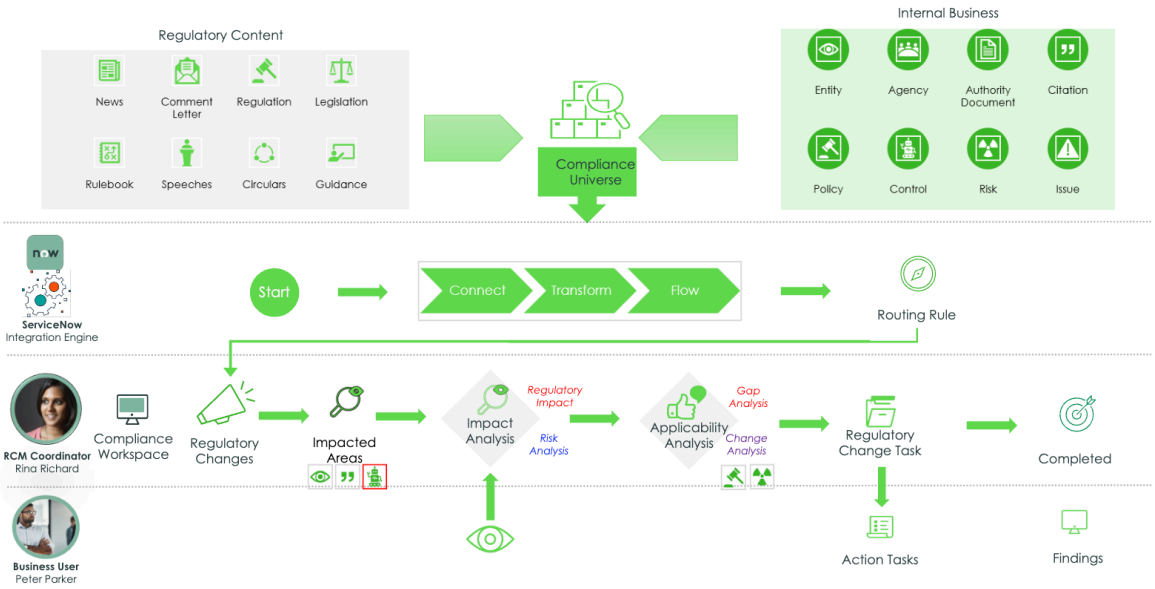
規制変更管理 アプリケーションを使用すると、今後の規制の変更を効率的に管理できます。アプリケーションは、組織が規制変更の適用性とその影響を評価し、リスクとコンプライアンス関連の変更を実装するのに役立つ構造化されたワークフローを提供します。

次のインフォグラフィックは、 規制変更管理 アプリケーションのプロセスフローを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

規制変更管理アプリケーションのプロセスフロー



規制変更管理 アプリケーションは、次のタイプのコンポーネントとともに動作します。

- 統合コンポーネント：通常、規制インテリジェンスパートナーが統合コンポーネントを提供します。この統合により、規制アラートをインスタンスに取り込むことができます。
- アプリケーションフレームワークコンポーネント：規制変更管理 アプリケーションにはアプリケーションフレームワークコンポーネントがあります。このコンポーネントは、規制アラートテーブルで受信した規制アラートを分析および処理に使用できるように、構造化されたワークフローを提供します。

規制変更管理アプリケーションは、次のワークフローで構成されています。

1. 規制分類の管理：ServiceNow AI Platform に固有の内部規制分類を作成します。標準化のために、サードパーティの規制インテリジェンスプロバイダーによって提供される外部分類に分類をマッピングできます。内部分類には次の設計要素が含まれています。
   - コンテンツタイプ
   - 管轄
   - 規制機関
   - セクター
   - テーマ

   セットアッププロセス中にこれらの要素を作成して、外部分類にマッピングできます。
2. 規制インテリジェンスのための統合：サードパーティの規制インテリジェンスプロバイダーと統合し、定期的にインスタンスにアラートを取り込みます。急速に変化する環境で規制データを監視できます。
3. 規制イベントのトリアージ：規制アラートを分析し、組織に関連する規制イベントを特定します。
4. 影響度の評価：構成可能な影響度アセスメント方法を使用して、規制イベントの影響を評価します。
5. 変更の管理：実行する必要がある変更を特定します。これらの変更は、次のアクションタスクによって実装されます。

自動翻訳

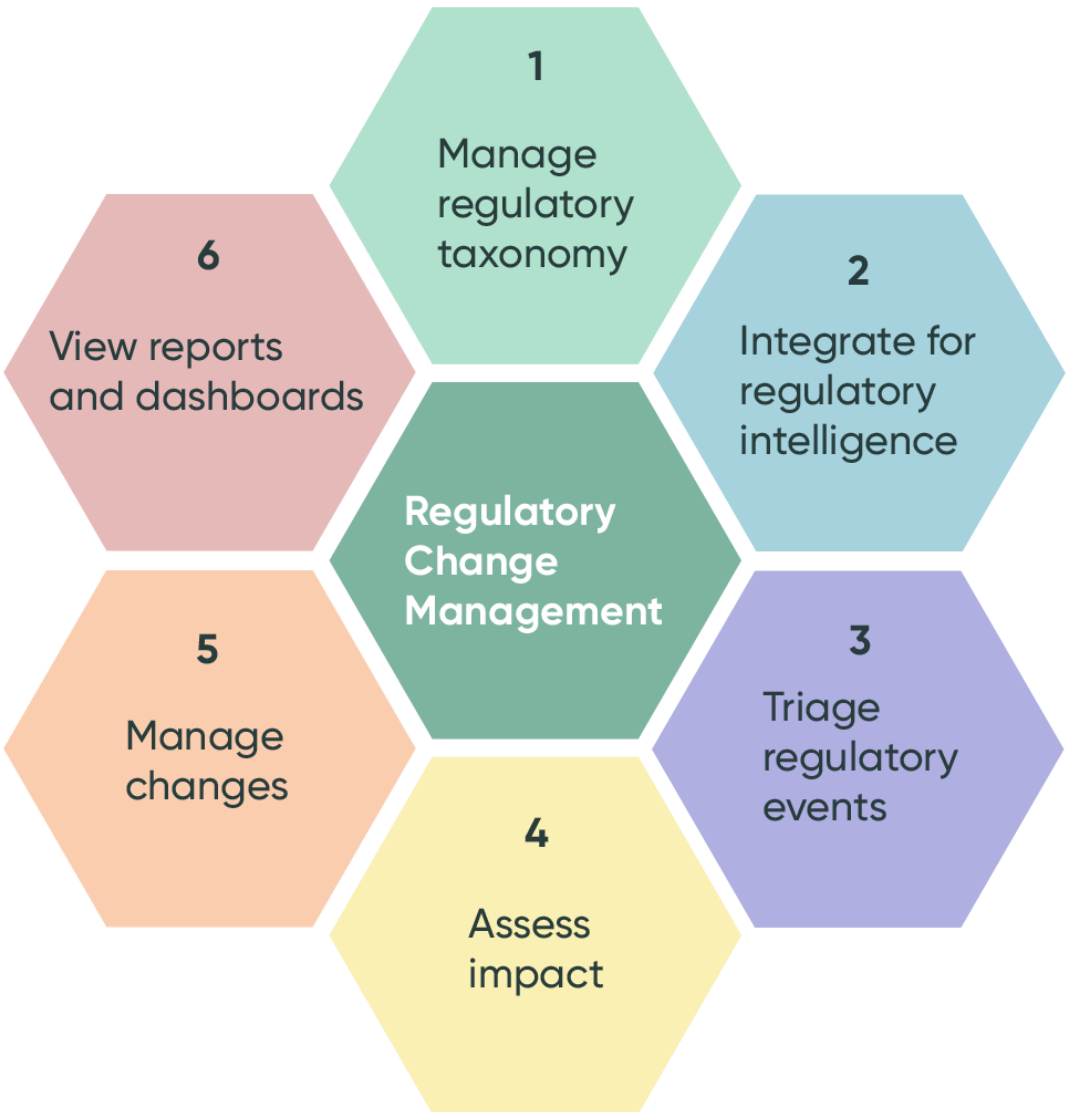
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 規制ライブラリ内のポリシー、プロセス、リスク、コントロールなど、基礎となる GRC オブジェクトを更新します。
- 既存の引用を更新するか、プロバイダーから新しい引用を規制ライブラリにインポートします。

6. レポートとダッシュボードの表示：レポートとダッシュボードを使用して、規制コンプライアンスのステータスを評価します。コンプライアンスアクティビティの監査記録を維持できます。

次の図に、規制変更管理 アプリケーションのワークフローを示します。

規制変更管理アプリケーションのワークフロー



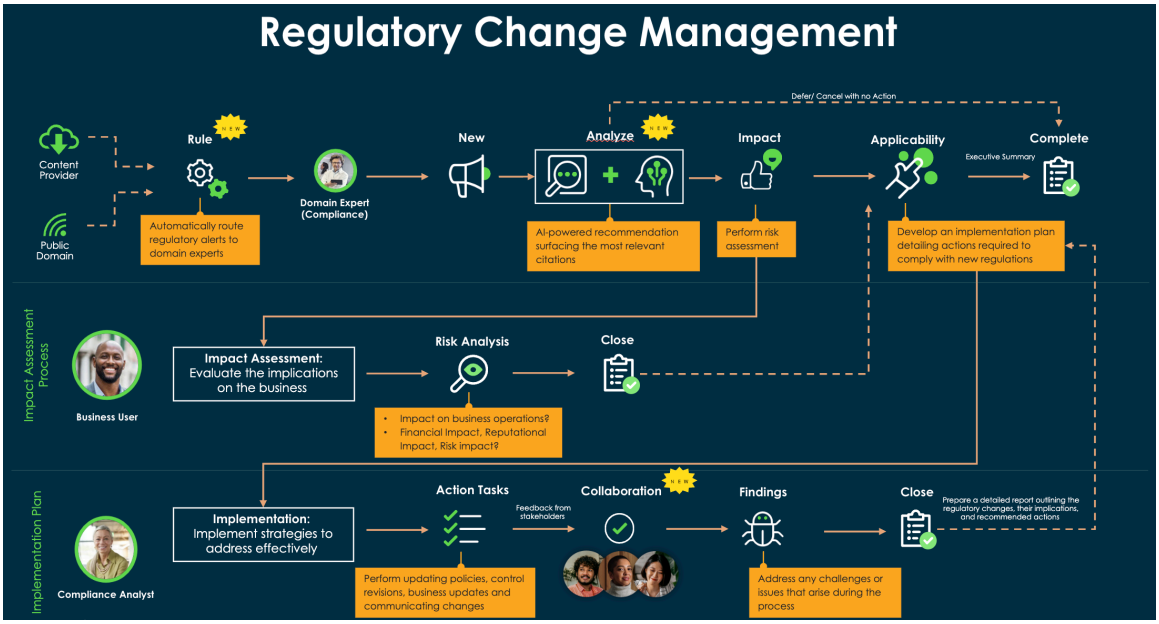
自動翻訳

主要な製品イノベーション

次のインフォグラフィックは、 規制変更管理 アプリケーションの主要製品にイノベーションを起こすプロセスを示しています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

主要製品を革新するプロセス



主要製品を革新するための 規制変更管理 プロセスフローを完了する手順は次のとおりです。

1. 統合を設定します。顧客は、規制機関またはキュレーションされたインテリジェンスプロバイダーである Thomson Reuters Regulatory Intelligence (TRRI) などのサブスクリプションプロバイダーの公開 RSS フィードをサブスクライブできます。サブスクリプションプロバイダーは、さまざまなソースからの規制変更を集計し、フィードとして収集した変更を提供します。
2. 内部分類を設定します。分類要素は、組織が規制コンテンツに適用して分類できるさまざまな分類子です。分類要素を使用して、組織の規制コンテンツを設定するためのさまざまな分類の階層構造を作成できます。
3. 規制アラートをレビューします。sn_grc_reg_change.manager ロールを持つユーザー (RCM マネージャー) が規制アラートをレビューし、それをコーディネーターまたは sn_grc_reg_change.user ロールを持つユーザー (RCM ユーザー) にアサインします。sn_grc_reg_change.user ロールを持つユーザーがアラートをレビューします。規制変更に影響度評価が必要な場合、RCM ユーザーはビジネスユーザーロールを持つ該当分野のエキスパート (SME) にそれを送信します。

   sn_grc_reg_change.user および sn_grc_comp_genai.reg_change_ai_user ロールを持つユーザーは、影響を受ける引用、コントロール目標、およびコントロールの規制アラートに対して、AI を利用した推奨事項を生成できます。
4. 影響を評価します。ビジネスユーザーロールを持つ該当分野のエキスパート (SME) は、規制変更の影響を評価し、影響度評価のスコアを規制変更管理アプリケーションに送信します。アラートが組織に適用されない場合、RCM ユーザーがアラートをクローズします。アラートが組織に適用される場合、RCM ユーザーは新しい規制変更タスクを作成し、それを同じコーディネーターまたは新しいコーディネーターにアサインします。
5. アクションプランを考案します。コーディネーターは、規制の変更に準拠するための手順を特定し、アクションプランを立案して、特定されたアクションアイテムを完了する必要があるさまざまなチームのアクションタスクを作成します。コーディネーターは、規制変更タスクに関連付けられたアクションタスクを作成します。アクションプランが作成されると、承認のために RCM マネージャーに送信されます。マネージャーはアクションプランをレビューし、さらにアクションタスクを作成する必要があるかどうか、または一部のアクションタスクが不要かどうかを確認します。
6. アクションタスクを完了し、レビューのために sn_grc_reg_change.manager ロールを持つユーザー (RCM マネージャー) に送信します。アクションプランが却下された場合、コーディネーターがアクションプランを確認し、実際のタスクを更新してから、アクションプランを承認のために送り返します。コンプライアンスマネージャーはすべてのコンプライアンスベースのアクションタス

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

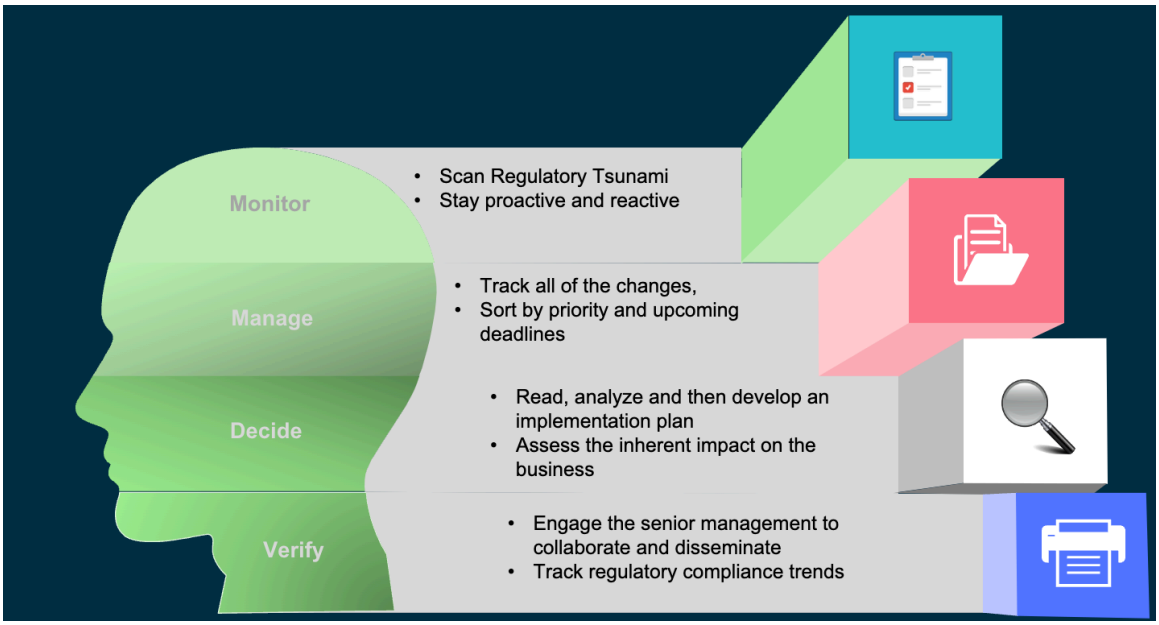
クを表示でき、リスクマネージャーはすべてのリスクベースのアクションタスクを表示できます。タスクがリスクユーザーとコンプライアンスユーザーにアサインされると、アクションタスクは完了するまで追跡されます。アクションタスクの期日がマークされ、追跡されます。タスクが完了すると、規制アラートと親規制変更タスクがクローズされ、変更プロセスフローが完了します。

規制変更マネージャーの一日

sn_grc_reg_change.manager ロールを持つユーザー (RCM マネージャー) は、規制の変更を毎日監視、管理、決定、および検証します。

次のインフォグラフィックは、規制変更管理の一般的な 1 日を示しています。

規制変更マネージャーの典型的な日



規制変更管理 アプリケーションランディングページ

規制変更管理 アプリケーションランディングページビューには、組織内の規制アクティビティの概要が表示されます。sn_grc_reg_change.manager ロールを持つユーザーは、コンプライアンスワークスペース のプライマリナビゲーションで 規制変更管理 ランディングページのみを表示できます。

コンプライアンスワークスペース に 規制変更管理 ランディングページを表示するための前提条件は次のとおりです。

- ServiceNow Store から GRC：規制変更管理 アプリケーションをインスタンスにダウンロードします。
- sn_grc_reg_change.manager ロールを持つユーザーとして 規制変更管理 アプリケーションにログインします。

アイコンを使用して、ランディングページにアクセスします。

sn_grc_reg_change.manager ユーザーロールを持つ 規制変更管理 アプリケーションマネージャーは、規制アラートをアサインし、関連する規制変更タスク、インポートドキュメントタスク、およびアクションタスクを監視します。

コンプライアンスワークスペース の 規制変更管理 アプリケーションは、次のロールを持つユーザー向けに設計されています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- sn_grc_reg_change.manager ロールを持つ 規制変更管理 アプリケーションマネージャー：sn_grc_reg_change.manager ロールを持つユーザーのみが、コンプライアンスワークスペースで 規制変更管理 アプリケーションのホームページを表示できます。
- sn_grc_reg_change.user ロールを持つ 規制変更管理 アプリケーションユーザー：sn_grc_reg_change.user ロールを持つユーザーは、規制変更管理 アプリケーションで自分にアサインされたタスクを表示できますが、コンプライアンスワークスペース で 規制変更管理 アプリケーションランディングページを表示することはできません。

ランディングページビュー

ランディングページビューは、組織全体の規制アクティビティを表示するデータ視覚化ウィジェットで構成されています。データ視覚化ウィジェットは、アラートとタスクの状況を区別できるように色分けされたクリック可能なウィジェットです。各ウィジェットをクリックすると、関連するすべての規制アラートまたはタスクを表示できます。各サブセクションには、各ドーナツグラフまたは棒グラフのカラースキームが表示されます。

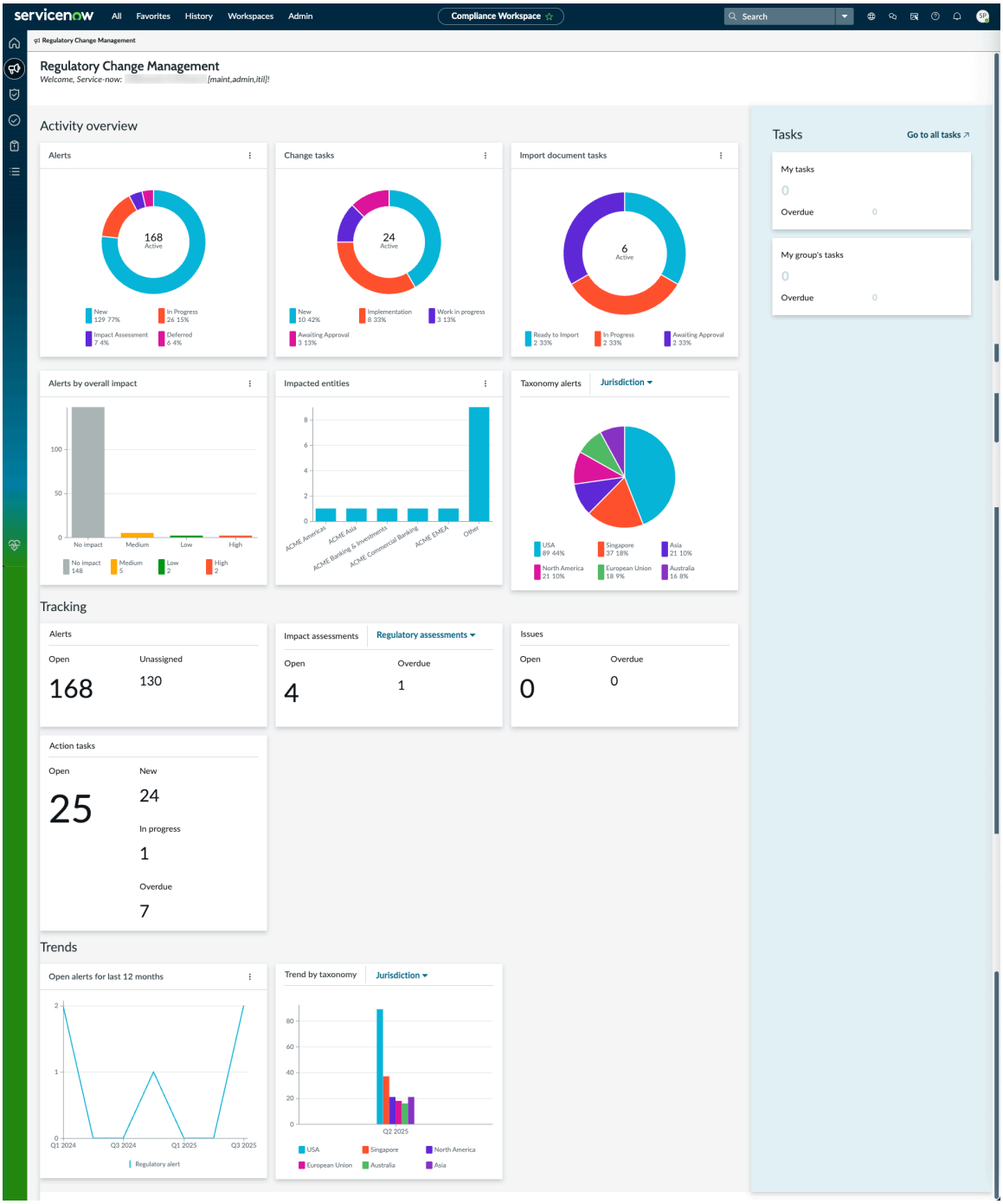
GRC：規制変更管理 ランディングページには、次のセクションが表示されます。

- アクティビティの概要
- 傾向
- トラッキング

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC：規制変更管理 アプリケーションのランディングページビュー



- アクティビティの概要：このセクションには、規制アラートおよび組織全体の規制アラートに関連するタスクの概要が含まれています。

アクティビティの概要

セクション	説明
アラート	新規、進行中、保留中のアクティブな規制アラートの数と割合がドーナツグラフに表示されます。アラートに関連付けられた影響度評価タスクも表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

セクション	説明
変更タスク	新規、実装、応答、および承認待ちステータスのアクティブな変更タスクがドーナツグラフで表示されます。タスクは数とパーセンテージで表示されます。
インポートドキュメントタスク	インポート準備完了、処理中、応答、および承認待ちステータスのアクティブなインポートドキュメントタスクがドーナツグラフで表示されます。タスクは数とパーセンテージで表示されます。
全体的な影響度別のアラート	影響なし、低、中、高の影響度アラートなど、規制アラートの全体的な影響度が棒グラフで表示されます。
影響を受けるエンティティ/影響を受ける事業部門	影響を受けるエンティティに基づく影響度評価レポートのグループの棒グラフ。棒グラフには、見やすくするために最大 5 つのエンティティが表示されます。
分類アラート	コンテンツタイプ、管轄、規制機関、セクター、テーマなどの分類要素ごとの分類アラート。

- 追跡：このセクションには、規制アラートおよび関連付けられた規制タスクの追跡ステータスが表示されます。

追跡中

セクション	説明
アラート	オープンアラートや未アサインアラートなどの規制アラートの追跡ステータス。
影響度評価	オープンで未アサインの影響度評価などの影響度評価のステータス。
問題	オープンな問題や期限切れの問題など、問題のステータス。
アクションタスク	新規、処理中、および期限切れの状況のアクションタスクを含む、オープンなアクティブアクションタスク。

- 傾向：このセクションには、オープンアラートの傾向または傾向が分類要素別に表示されます。

傾向

セクション	説明
過去 12 か月間のオープンアラート	アクティブで 12 か月以上クローズされていない受信規制アラートのタイムライン。たとえば、毎月 10 件のレコードを受信した場合、それらは四半期ごとにグループ化され、四半期ごとに合計 30 件のレコードが線グラフに表示されます。X 軸に 4 つのプロットが表示され、各プロットに 30 のレコードが表示されます。
分類別の傾向	コンテンツタイプ、管轄、規制機関、セクター、テーマなどの分類要素ごとに記載された傾向。

- タスク：このセクションには、ユーザーのタスクとユーザーグループのタスクの概要が含まれています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスク

セクション	説明
自分のタスク	オープンなタスクや期限切れのタスクなどの、ユーザーに割り当てられたタスク。
自分のグループの作業	オープンなタスクや期限切れのタスクなどの、ユーザーグループに割り当てられたタスク。
すべてのタスクを表示	ホームページの [タスク] ビューへのリンク。

の [タスク] ページ コンプライアンスワークスペース

コンプライアンスワークスペース内の [タスク] ページは、規制イベント、ソースドキュメント、およびコンプライアンスワークフローに関連するすべてのアクティビティを管理するための、一元化されたタスク中心のインターフェイスを提供します。これにより、整理された状態を維持し、タイムリーで説明責任のあるアクションを確保し、全体的な規制への対応を促すことができます。

各タスクは、影響度評価、ポリシーレビュー、コントロールの更新、証拠の収集など、規制対応プロセスのステップに関連しています。タスクは手動と自動の両方で作成できます。自動タスクの作成は、規制アラートまたは変更要求にリンクされたワークフロー設定に依存します。

このインターフェイスは、個人およびチームレベルの説明責任をサポートし、タスクのタイムリーな完了を促進し、内部および外部の規制義務へのコンプライアンスを可能にします。このインターフェイス内でタスクのフィルタリング、ソート、および処理を直接行うことができるため、コンプライアンス責任者、アナリスト、およびビジネスステークホルダーにとって不可欠なツールとなっています。

[タスク] ページの主な機能は次のとおりです。

- 個人およびグループレベル全体でタスクの責任をセグメント化します。
- タスクをフィルタリングし、個人の寄稿または監視対象アイテムを表示します。
- タスク中心のインターフェイスでコンプライアンスを管理します。
- アラート、変更要求、およびコンプライアンスアクティビティとシームレスに統合します。

このページには 4 つの異なるタブがあり、それぞれがタスクの可視化と管理を強化するという特定の目的を果たします。

自分の保留中タスク

ログインしているユーザーに直接アサインされたすべてのアクティブまたは未処理のタスクを表示します。この見解は、必要な行動を明確に特定することにより、個人の説明責任を強化します。

保留中のタスクビュー:

- 規制アラート、変更要求、またはコンプライアンスワークフローから生成されます。
- タスクの詳細、期日、および関連アイテムにアクセスできます。
- ステータスを更新したり、コメントを追加したり、タスクを直接完了したりすることができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自分のグループのタスク

ユーザーが直接のアサイニーでない場合でも、ユーザーが属するグループまたはチームにアサインされたタスクを表示します。このデータは、責任を共有しているチームや共同作業ワークフローを持つチームに役立ちます。

グループのタスクビュー:

- 共有責任または集団責任全体の可視化を促進します。
- チームメンバー間のコラボレーションと効果的なタスク委任をサポートします。
- マネージャーとリードがグループタスクを監視および調整するのを支援します。

自分のアイテム

自分が作成、要求、または所有しているすべてのタスクまたはアイテムを、直接アサインされていない場合でも一覧表示します。これにより、コンプライアンスのライフサイクル全体を通じて所有権の継続性が確保されます。

アイテムビュー:

- 自分が開始した規制変更要求、影響度評価、およびポリシーレビューが含まれます。
- ユーザーの規制上の貢献を完全に可視化します。
- ユーザーが開始したアイテムの進捗状況と結果を監視します。

ウォッチリスト

ユーザーが手動で監視することを選択したタスクを表示します。これは、主要なコンプライアンスアクティビティの受動的な監視に関与するユーザーに最適です。

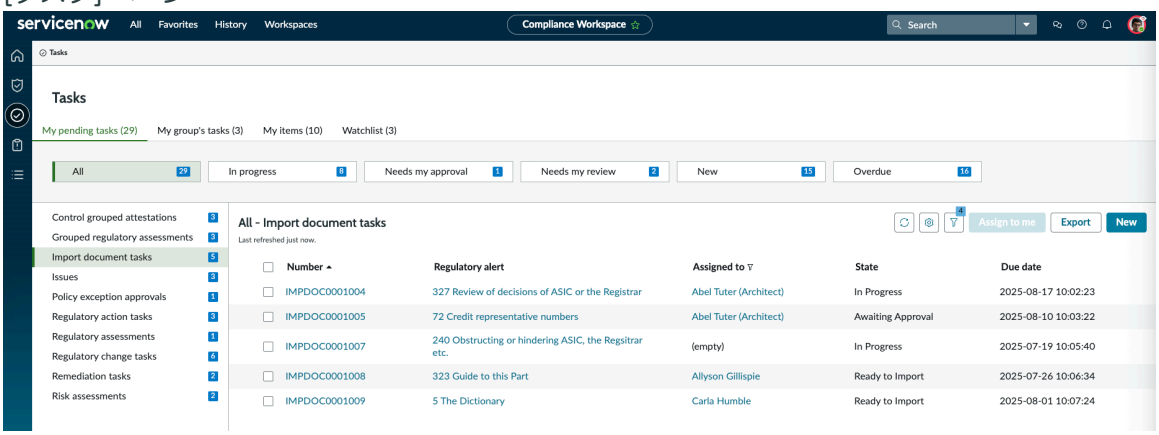
ウォッチリストビュー:

- 直接所有権なしで優先度の高いタスクや部門横断型のタスクを追跡できます。
- 複数のワークストリームにわたる関連タスクの監視をサポートします。
- スーパーバイザー、コーディネーター、およびコンプライアンス責任者に関連する最新情報を常に通知します。

[タスク] ページは、職務を効率的に管理し、設定されたタイムライン内で規制に積極的に準拠するのに役立ちます。

次の画像は、 コンプライアンスワークスペースの [タスク] ページを示しています。

[タスク] ページ



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソースドキュメントのインポートタスク

規制変更管理 アプリケーションは、引用タイトル、引用番号、コンプライアンスに関連する立法または規制資料への参照を含む可能性がある外部アラートを処理します。

各アラートレコードには、規制ライブラリへのドキュメントのインポートをサポートするメタデータが含まれています。メタデータには、引用名と、適切な分類とトレーサビリティのためのその他の関連する参照情報が含まれています。

ソースドキュメントタイプの規制アラートは、受信したときに引用のタイトルと引用番号を提供します。ソースドキュメントは、コンプライアンスとガバナンスに関連する立法または規制資料を参照している場合があります。

未アサインのソースドキュメントアラートレコードが評価され、適用性が判断されます。適用可能としてマークすると、ソースドキュメントのインポートタスクが自動的に作成されます。インポートタスクは規制アラートレコードから発生し、定義されたワークフローまたはライフサイクルに従います。ソースドキュメントのインポートライフサイクルは、 sn_grc_reg_change.manager ロールを持つユーザーによってアラートが適用可能とマークされたときに開始されます。その後、インポートドキュメントタスクが [インポート準備完了] ステータスになり、ステークホルダーがレビューできるようになります。

コンプライアンスチームのメンバーは、アラートに関連付けられた引用を評価し、適切なアクションを決定します。各インポートタスクは、規制ライブラリへの特定のソースドキュメントの取り込みを容易にします。コンプライアンスチームのメンバーは、ドキュメントをインポートし、規制ライブラリ内で一貫性を維持する責任があります。

複数のソースドキュメントのインポートタスクを単一の規制アラートに関連付けることができます。この構成により、管理が簡素化され、規制コンテンツの取り込みプロセスの追跡が改善されます。各タスクは、包括的なキャプチャと整理のために、関連ドキュメントを規制ライブラリに追加します。タスクを 1 つのアラートにグループ化すると、規制変更管理プロセス全体のトレーサビリティが向上します。

ソースドキュメントのインポートタスクの新しいワークフロー

新しいワークフローを取得するには、次のアプリケーションをアップグレードします。

- GRC：共通ワークスペース要素 (sn_grc_workspace)
- GRC：規制変更管理 (sn_grc_reg_change)

Yokohama リリース以降、ソースドキュメントタスクは次の状況で進行します。

- インポート準備完了:タスクが特定され、システムにインポートする準備が整いました。作業はまだ開始されていません。
- 処理中:タスクはアクティブに処理されています。これには、ソースドキュメントの分析と必要な規制変更の定義が含まれます。
- 実装:特定された変更が実行されています。これには、ポリシーの更新、コントロールの変更、プロセスの変更などの関連タスクの作成が含まれる場合があります。
- 承認待ち:すべての実装アクティビティが完了し、タスクは適切なステークホルダーまたはコンプライアンスチームによるレビューおよび承認を待機中です。
- クローズ済み:タスクがレビューおよび承認され、必要なすべてのアクションが完了しました。これ以上の作業は必要ありません。

規制プロセスフローとタスク

規制変更管理プロセスフローには、組織が規制の変更を管理して準拠するためにさまざまなユーザーが実行できるタスクが含まれています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

規制アラートは、規制アラートとしてデータを提供する外部プロバイダーから提供されます。アラートは、Really Simple Syndication (RSS) フィードとして受信することも、 Thomson Reuters Regulatory Intelligence (TRRI) などの外部プロバイダーから受信することもできます。規制変更管理 アプリケーションは、組織に適用される新しい規制変更を受け取ります。

規制変更管理 アプリケーションには、次のユーザーロールがあります。

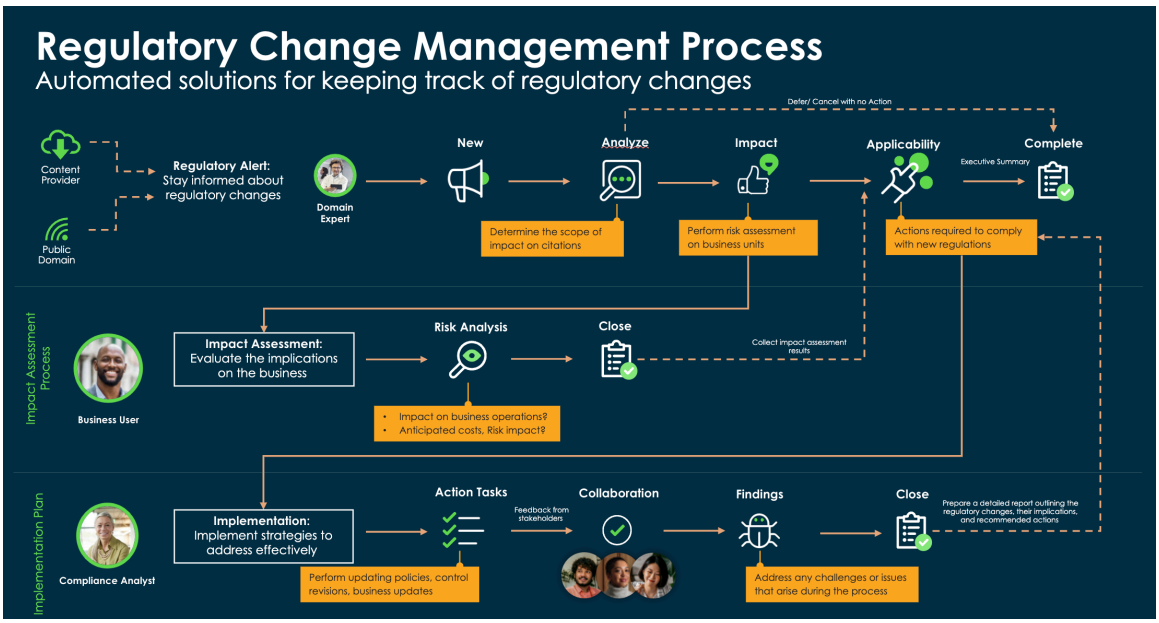
- RCM アドミニストレーター： sn_grc_reg_change.admin ロールを持つユーザー。
- RCM マネージャー：sn_grc_reg_change.manager ロールを持つユーザー。
- RCM ユーザーまたはコーディネーター：sn_grc_reg_change.use ロールを持つユーザー。このユーザーは、規制変更が適切なチームにアサインされ、時間内に完了することを確認します。
- ビジネスユーザーロール：sn_grc.business_user ロールを持つユーザー。
- リスクまたはコンプライアンスマネージャー：sn_risk.manager または sn_compliance.manager ロールを持つユーザー。このユーザーは、規制変更管理アプリケーションの一部として変更を実行します。

ロールの詳細については、「規制変更管理 のユーザーロール」を参照してください。

規制変更管理のプロセスフロー

次のインフォグラフィックは、規制変更管理プロセスフローを示しています。

さまざまなユーザーによって実行される 規制変更管理 プロセスフローとタスク



規制変更管理プロセスフローを完了する手順は次のとおりです。

1. 統合を設定します。顧客は、規制機関の公開 RSS フィードに登録することも、キュレーションされたインテリジェンスプロバイダーである TRRI などのサブスクリプションプロバイダーに登録することもできます。サブスクリプションプロバイダーは、さまざまなソースからの規制変更を集計し、フィードとして収集した変更を提供します。
2. 内部分類を設定します。分類要素は、組織が規制コンテンツに適用して分類できるさまざまな分類子です。分類要素を使用して、組織の規制コンテンツを設定するためのさまざまな分類の階層構造を作成できます。
3. 規制アラートをレビューします。sn_grc_reg_change.manager ロールを持つユーザー (RCM マネージャー) が規制アラートをレビューし、それをコーディネーターまたは sn_grc_reg_change.user ロールを持つユーザー (RCM ユーザー) にアサインしま

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

す。sn_grc_reg_change.user ロールを持つユーザーがアラートをレビューします。規制変更に影響度評価が必要な場合、RCM ユーザーはビジネスユーザーロールを持つ該当分野のエキスパート (SME) にそれを送信します。

4. 影響を評価します。ビジネスユーザーロールを持つ該当分野のエキスパート (SME) は、規制変更の影響を評価し、影響度評価のスコアを規制変更管理アプリケーションに送信します。アラートが組織に適用されない場合、RCM ユーザーがアラートをクローズします。アラートが組織に適用される場合、RCM ユーザーは新しい規制変更タスクを作成し、それを同じコーディネーターまたは新しいコーディネーターにアサインします。
5. アクションプランを考案します。コーディネーターは、規制の変更に準拠するための手順を特定し、アクションプランを立案して、特定されたアクションアイテムを完了するために必要なアクションタスクをさまざまなチームに作成します。コーディネーターは、規制変更タスクに関連付けられたアクションタスクを作成します。アクションプランが作成されると、承認のために RCM マネージャーに送信されます。マネージャーはアクションプランをレビューし、もっと多くのアクションタスクを作成する必要があるか、または一部のアクションタスクが不要かどうかを確認します。
6. アクションタスクを完了します。コンプライアンスアナリストは、承認のためにアクションを sn_grc_reg_change.manager ロールを持つユーザー (RCM マネージャー) に送信します。アクションプランが却下された場合、コーディネーターがアクションプランを確認し、実際のタスクを更新してから、アクションプランを承認のために送り返します。コンプライアンスマネージャーはすべてのコンプライアンスベースのアクションタスクを表示でき、リスクマネージャーはすべてのリスクベースのアクションタスクを表示できます。タスクがリスクユーザーとコンプライアンスユーザーにアサインされると、アクションタスクは完了するまで追跡されます。アクションタスクの期日がマークされ、追跡されます。タスクが完了すると、規制アラートと親規制変更タスクがクローズされ、変更プロセスフローが完了します。

RSS フィードの概要

規制変更管理 の RSS (Really Simple Syndication) フィードは、新しいルールや変更されたルールや規制に関する更新のサブスクリプション サービスのようなものです。複数の Web サイトにアクセスして更新を確認する代わりに、規制機関や業界ニュースのフィードを購読できます。

新しい規制が公開されると、ニュースアプリからの通知の受信など、フィードに自動的に表示されます。この機能により、企業は重要な変更を迅速かつ簡単に把握し、最新のルールへの準拠を維持できます。

RSS フィードの主なメリット

自動更新

RSS フィードは、コンプライアンスの専門家が複数の Web サイトやソースを手動でチェックすることなく、規制の変更を監視するのに役立ちます。

一元化された情報

さまざまな規制機関からのフィードを集約することで、企業はすべての更新を 1 か所に一元化できるため、変更を簡単に追跡できます。

タイムリーなアラート

関連するフィードを購読することで、ステークホルダーは新しい規制や修正の通知をほぼリアルタイムで受け取ることができます。これはコンプライアンスを維持するために重要です。

カスタマイズ

ユーザーはフィードをカスタマイズして、業務に関連する特定の地域、業界、または規制変更の種類に焦点を当てることができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example: RSS フィード

金融機関は、SEC、FINRA、欧州中央銀行などの規制機関からの RSS フィードをサブスクライブする場合があります。これらのフィードから更新されると、業務に影響を与える新しいルールやガイドラインがコンプライアンスチームに通知されます。RSS フィードを活用することで、組織は重要な更新を見逃すリスクを軽減し、規制コンプライアンスプロセスを合理化できます。

RSS フィードを取得するためのワークフロー

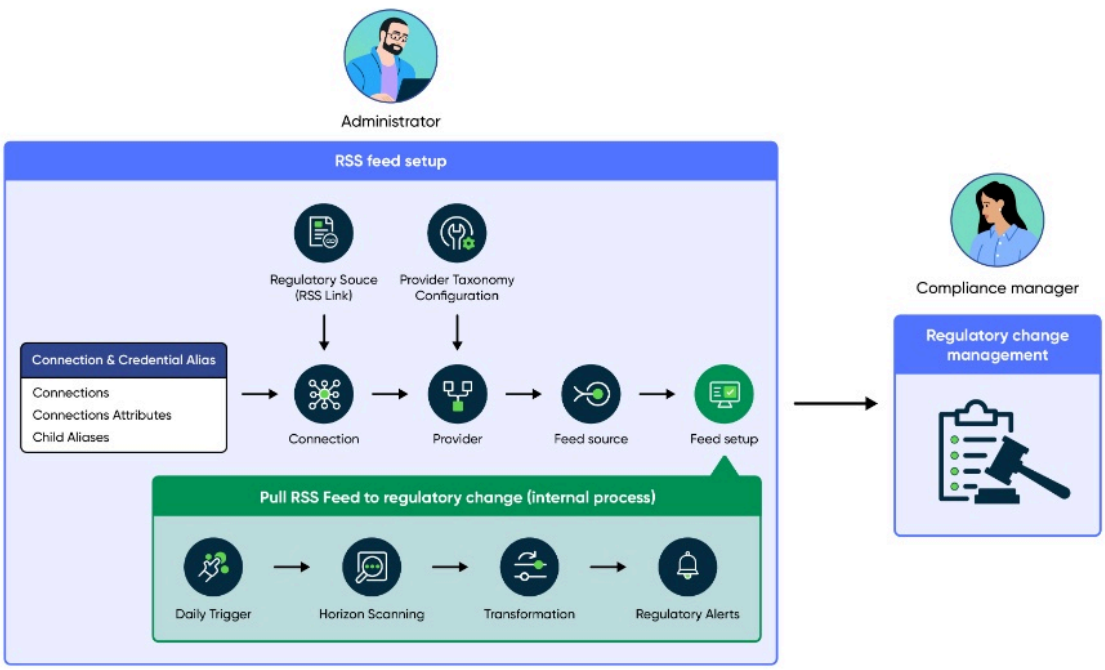
強力な接続を確立してフィードを取得するには、次のアクションを実行する必要があります。

1. RSS フィードソースとの接続および資格情報エイリアスの確立 。
2. RSS フィードワークフローのアクティブ化
3. フィードソースの設定。
4. プロバイダー分類の構成
5. フィード要求応答の管理

> **注:**
> RSS フィードの取得中に問題が発生した場合は、「 RSS フィードの一般的なガイドライン」を参照してください。

次の画像は、RSS フィードのワークフローがフィード応答を確実にプルするように設定されていることを示しています。

RSS フィードの設定とプルのワークフロー



RSS フィードの一般的なガイドライン

RSS フィードが機能しない場合、よくあるエラーや問題は、不適切な形式、サーバーの問題、または構成の誤りが原因で発生することがよくあります。RCM アドミニストレーターは、ユーザーが遭遇する可能性のある一般的なエラーの一部を修正できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RSS フィードの一般的な問題の概要

RSS の問題は、多くの場合、無効な XML 構文、不正な URL、サーバーまたは認証の問題、キャッシュ、互換性のないメディア、古い標準、サイズ制限、エンコード エラー、またはセキュリティとアクセスの制限によって発生します。ここでは、ユーザーが遭遇する可能性のある一般的な問題と、使用開始に役立つ一般的なガイドラインを示します。

フィード構文エラー

RSS フィード XML が適切にフォーマットされていないため、解析エラーが発生します。RSS 標準に従って、すべての RSS フィードファイルは XML 仕様に準拠する必要があるため、この問題を解決するには、次のチェックを実行します。

- W3C フィード検証サービスなどのツールを使用して RSS フィードを検証します。
- 欠落または不一致のタグ、エスケープされていない文字、または不適切にネストされた要素がないか確認します

フィード URL が正しくないか、期限切れです

この問題は、RSS フィードの URL が正しくないか、変更された場合に発生します。この問題を解決するには、フィードの URL を確認し、必要に応じて更新します。

サーバーの問題

この問題は、RSS フィードをホストしているサーバーがダウンしているか、応答が遅い場合に発生します。この問題を解決するには、サーバーログを確認し、アップタイムを確保し、パフォーマンスを最適化します

HttpException:セッションに証明書が含まれていません - 信頼できません

これは、フィード ソースが証明書の有効期限が切れているサイトを指している場合に発生します。これはお客様が処理する必要があります。顧客は、オンライン検証ポータルでソース URL を検証できます。例: https://validator.w3.org/feed/ & https://www.sslshopper.com/ssl-checker.html

応答サイズが制限を超えています

これは、REST ステップからの応答が許可されている数を超えている場合に発生します。プロパティ「glide.pf.rest.response_payload_max_size」の値を更新して、制限を増やしてみてください。詳細については、「 https://www.servicenow.com/docs/bundle/xanadu-build-workflows/page/administer/flow-designer/reference/rest-request-action-designer.html 」を参照してください。

応答ステータスは 404

このエラーは、Web サイトが機能しない場合に発生します。

その他の問題

インスタンスをアップグレードし、「 **RSS** フィードを規制変更にプルする」というタイトルのフローの実行ログを確認してデバッグします。

規制分類の概要

規制分類は、分類用語を使用して受信した規制インテリジェンスを既存のコンテンツと照合するアルゴリズムを有効にすることで、顧客の規制ライブラリで必要な変更を簡単に特定できるようにします。

規制変更管理製品は、多くの場合、Thomson Reuters、Compliance.ai、Wolters Kluwerなどの複数のベンダーからのインテリジェンスデータを統合します。ただし、これらのベンダーは次の点で異なります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. 配信モード:ファイルベースのフィードとストリームベースのフィード。
2. データ形式:XML、JSON、CSVなど
3. 分類情報:地域、セクター、規制機関などの規制インテリジェンスに追加されるコンテキストメタデータ。

分類の例を次に示します。

- 地域:該当する地域 (北米、パリ、ニューデリーなど) を識別します。
- セクター:銀行、IT、ロジスティクスなどの関連業界を定義します。
- 規制機関:規制機関 (NIST、欧州中央銀行など) をリストします。

一部のベンダーには、規制のテーマやトピックなどの追加カテゴリが含まれています。

注:
外部コンテンツにアクセスするには、テクノロジーパートナーから付与された認証情報を認証するためのエンドユーザーライセンスが必要です。

分類をマッピングするメリット

規制変更管理 のユーザーは、ビジネス上の理由で独自の用語を使用することが多く、外部分類と内部分類の間に不一致が生じます。たとえば、ベンダー用語を「北米」とし、ユーザーが「米国とカナダ」としたり、ベンダー用語を「シンガポール」、ユーザー用語を「東南アジア」としたりします。正確なマッピングを確実に行うには、アドミニストレーターは外部分類用語を内部分類に手動で合わせる必要があります。このプロセスは分類マッピングと呼ばれます。分類のマッピングは、多くのユーザーにとって困難な場合があります。 規制変更管理 では、分類マッピング機能を統合することができます。詳細については、「分類のマッピング」を参照してください。

規制アラートの影響度評価

規制イベントアラートにより、組織の規制が変更される場合があります。影響度評価を実行することで、規制変更が組織に与える影響を評価できます。

規制の更新は頻繁に行われ、さまざまなソースから提供されます。これらの更新には、多くの場合、規制分野のエキスパートが対処しなければならない大量の複雑な情報が含まれます。規制変更マネージャーの最初のタスクは、更新を解釈し、ビジネスへの影響を判断することです。これには、影響を受けるポリシー、コントロール、または引用、および特定の規制参照または要件の特定が含まれます。

影響度評価のタイプ

影響度評価プロセスは、提案された規制変更の影響を評価するためのレポートツールとして使用されます。指定された規制イベントアラートについて、アサインされたユーザーは、特定の規制領域の専門家である該当分野のエキスパートに対して影響度評価をトリガーします。次に、エキスパートは規制イベントアラートの影響度評価を実行します。影響度評価には次のタイプがあります。

- リスクアセスメント:このプロセスでは、従来、リスクベースのアプローチを使用して、規制の更新の影響に優先順位を付けて管理します。このアプローチは、専門家が影響を受ける可能性が最も高いエンティティに焦点を当てるのに役立ちます。このリスクアセスメントプロセスから生成された結果と応答は、体系的に収集され、文書化されます。これにより、組織はコンプライアンスアクションを追跡し、リスクを軽減できます。リスクアセスメントに対応する方法については、 規制アラートのリスクアセスメントに応答 を参照してください。
- 規制アセスメント:このアセスメントでは、 スマートアセスメントエンジン を利用して規制アラートに対してスマートアセスメントを実行します。このアセスメントでは、独自のアセスメントアンケートテンプレートを作成することで、影響度評価プロセスをカスタマイズできます。たとえば、組織がデジタルオペレーショナルレジリエンス法 (DORA) や欧州連合 AI 法などの規制に対

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

処している場合は、これらの規制の側面と義務のみに焦点を当てた評価テンプレートを設計できます。規制アセスメントの詳細については、「 規制アラートの規制アセスメント」を参照してください。スマートアセスメントエンジン の詳細については、「スマートアセスメントエンジン」を参照してください。

注:
これらのアセスメントのいずれかを開始する方法の詳細については、「 規制アラートの影響度の評価」を参照してください。

規制アラートの規制アセスメント

スマートアセスメントエンジンを利用して、規制アラートに対してスマートアセスメントを実行します。この機能により、規制アラートレベルでの影響度評価を直接可能にし、統一されたコアアセスメントフレームワークを通じてプロセスを合理化し、複数のステークホルダーに分析をアサインしてコラボレーションと効率を向上させることで、規制上の意思決定が強化されます。

規制アラートの影響を評価するためにアセスメントを開始すると、規制アセスメントとクラシック版リスクアセスメントのどちらを開始するかを選択するオプションが表示されます。規制アセスメントは スマートアセスメントエンジン アプリケーションを利用し、開始されると、一意に生成された規制アセスメントのリストを表示する規制アラートで 、[規制アセスメント] と呼ばれる新しい関連リストを使用できるようになります。査定人は、従業員センターの統合タスクページからアセスメントにアクセスできます。統一された [タスク] ページには、すべてのアセスメントを含むすべてのタスクの統合ビューが表示され、効率的にタスクにアクセスして完了できます。規制アセスメントを実行する方法の詳細については、「 規制アセスメントへの応答」を参照してください。

スマートアセスメントエンジンを使用するメリットについては、「スマートアセスメントエンジンの探索」を参照してください。

アセスメントテンプレートとアンケートを作成するプロセスを理解するには、「 スマートアセスメントエンジンの構成」を参照してください。

アセスメントを開始する方法を理解するには、「 規制アラートの影響度の評価」を参照してください。

ネクストエクスペリエンスディスカッションとチャットコラボレーション

規制変更管理ケースでは、オプションの中から [ディスカッション] を選択します。ネクストエクスペリエンスチャットコラボレーションとディスカッションを使用して、仮想エージェントとコラボレーションします。

- ネクストエクスペリエンスチャットとディスカッションを使用して、コミュニケーションを簡素化し、コンプライアンスケース/要求に取り組んでいる分散されたリスクチームとコンプライアンスチーム間のコラボレーションを強化します。
- ディスカッションの予備情報とコンテキストを入力します。ディスカッションで支援および協力できる該当分野のエキスパートを特定します。マネージャーは、ドッキングされたウィンドウ機能を使用して、同時に複数のディスカッションにアクセスできます。
- ディスカッションで支援および協力できる該当分野のエキスパートを特定します。
- マネージャーは、ドッキングされたウィンドウ機能を使用して、同時に複数のディスカッションにアクセスできます。

コンプライアンスワークスペース の 規制変更管理 アプリケーション

GRC: 規制変更管理バージョン 13.0.1 以降、 規制変更管理 アプリケーションは コンプライアンスワークスペース で利用できます。 コンプライアンスワークスペース では、ユーザーが今後の規制変更を確認し、その影響を評価し、組織のリスクとコンプライアンス関連の変更を実装できるように、単一ペインのビューが提供されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

 を使用して、コンプライアンスワークスペース内の規制変更管理にアクセスできます。 アイコン。

の 規制変更管理 アプリケーションの特長 コンプライアンスワークスペース

を使用する コンプライアンスワークスペース は、パーソナライズされたエクスペリエンスと簡素化されたユーザージャーニーを備えた単一ペインビューを提供します。

- 規制変更管理マネージャーのデフォルトのホームページには、アクション可能なインサイトとクイックリンクが表示されます。
- コンテキストサイドパネルには、各規制アラートレコードの規制分類が表示されます。
- 期限切れまたはオープンなリスクおよび規制アセスメントの数を表示します。
- レコードページには、表示されている内容に固有の簡単な概要とインサイトが表示されます。
- フォームレイアウト、フィールドラベル、メッセージ、およびブレッドクラムナビゲーションは、ServiceNow AI Platform全体でユーザーに一貫したエクスペリエンスを提供します。
- 360 度ビューには、企業全体のレコードのデータ関係の概要が表示されます。

規制変更管理 のアプリケーションビュー コンプライアンスワークスペース

コンプライアンスワークスペース の規制変更管理アプリケーションには、ユーザー向けの次のビューが含まれています。

ホームページビュー
: 組織のコンプライアンス体制の概要を示します。

規制変更管理 アプリケーションランディングページビュー
: 組織全体の規制アクティビティの概要、傾向、および追跡ステータスを提供します。

タスクビュー
: ユーザー、ユーザーグループ、報告されたアイテム、およびウォッチリストにアサインされているタスクの概要を示します。

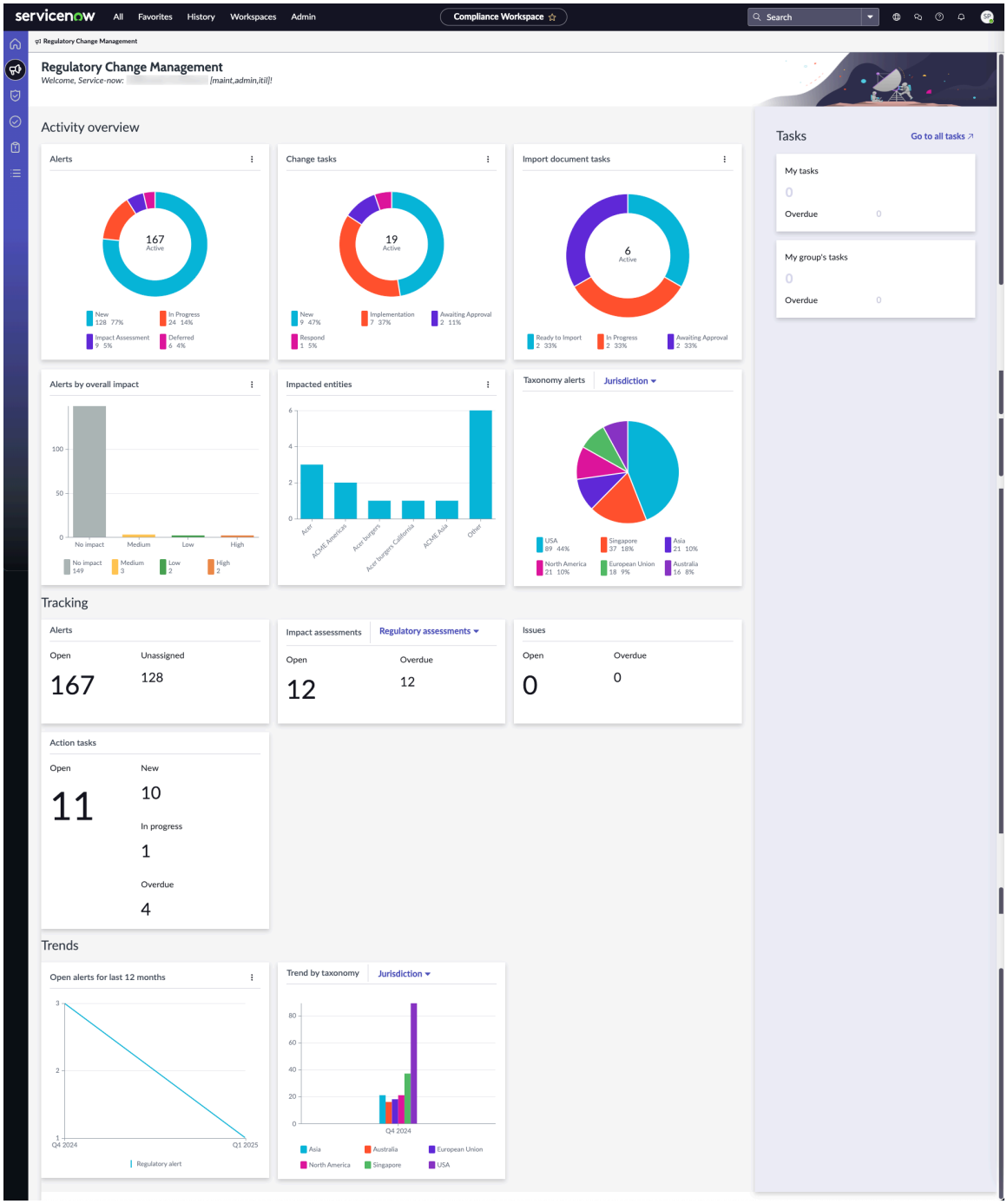
問題の概要ランディングページビュー
: 問題の概要、追跡ステータス、およびパフォーマンスの傾向を提供します。

リストビュー
: コンプライアンスワークスペース 内の GRC オブジェクトのリストを提供します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンプライアンスワークスペース のホームページビュー



注:
GRC アドミニストレーターは、 クラシック ユーザーインターフェイスのランディングページ構成モジュールでタスクと問題を構成します。これらのタスクと問題は、さまざまなワークスペースのランディングページでエンドユーザーに表示されます。詳細については、「ランディングページ構成モジュール」を参照してください。

コンプライアンスのニーズと規制コンテンツプロバイダーとの統合の構成

規制変更管理アプリケーションを構成して、コンプライアンスのニーズと規制インテリジェンスコンテンツプロバイダーとの統合を管理します。

規制変更管理 アプリケーションの構成は、一般に次の手順で行います。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

1. 規制変更管理アプリケーションを ServiceNow Store からダウンロードします。詳細については、「規制変更管理アプリケーションのダウンロード」に関するページを参照してください。
2. 管理モジュールのセットアップタスクを実行します。詳細については、「管理ポータルの管理」に関するページを参照してください。

GRC：規制変更管理 のダウンロードとインストール

ServiceNow Store から GRC：規制変更管理 アプリケーションをダウンロードして ServiceNow インスタンスで実行します。

始める前に

必要なロール：sn_grc_reg_change.manager、sn_grc_reg_change.it_admin、または sn_grc_reg_change.admin

手順

1. GRC：規制変更管理 アプリケーションを ServiceNow Store からダウンロードします。
   初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする の指示に従います。規制変更管理 アプリケーションをダウンロードすると、次の必要なアプリケーションが自動的にインストールされます。
   - GRC：ポリシーとコンプライアンス管理
   - GRC: 高度なリスク
2. インスタンスで、 すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
3. GRC：規制変更管理 を見つけます。
4. [詳細] セクションで適切なリリースを選択します。
   最新のリリース、または以前の 2 つのリリースのいずれかを選択できます。
5. [インストール] を選択します。
   新しい [アプリケーションのインストール] ウィンドウが表示されます。
6. アプリケーションの詳細を確認し、[インストール] を選択します。

タスクの結果

GRC：規制変更管理 アプリケーションが使用している ServiceNow インスタンスにインストールされます。

規制変更管理 のセットアップチェックリスト

規制変更管理 アプリケーションの設定に必要なタスクを完了します。これらのタスクを完了すると、ベースシステムの運用準備が整います。規制変更管理 アプリケーションの機能を拡張するためのオプションのセットアップ手順も含まれています。

始める前に

必要なロール：sn_grc_reg_change.admin

次のアプリケーションがインストールされていることを確認します。

- ServiceNow® GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーション
- ServiceNow® 高度なリスク アプリケーション

このチェックリストトピックの PDF を作成し印刷することをお勧めします。そうすれば、完了したタスクにチェックを付けることができます。PDF を生成するには、トピックの上部にある **PDF** として保存アイコン ( ) をクリックし、[選択したトピック] をクリックします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

手順

1. ストアから 規制変更管理 (RCM) アプリケーションをインストールします。
   詳細については、「GRC：規制変更管理 のダウンロードとインストール」を参照してください。
2. ユーザーに RCM ロールを割り当てます。
   詳細については、「規制変更管理 のユーザーロール」を参照してください。
3. フィードを設定するには、次のいずれかのオプションを選択します。

4. 接続と資格情報を作成して検証します。
   詳細については、「SFTP または REST API 接続を確立する」を参照してください。
5. 統合フローを有効にします。
   詳細については、「Thomson Reuters Regulatory Intelligence との GRC 統合」および「RSS フィードインフラストラクチャの設定」を参照してください。
6. 内部規制分類を作成して分類をマッピングします。
   詳細については、「分類のマッピング」を参照してください。
7. 規制フィードをアサインします。
   詳細については、「規制イベントアラートの管理とアサイン」を参照してください。
8. 影響度を評価し、関連する規制タスクをアサインします。
   詳細については、「規制変更タスクの管理」を参照してください。
9. 実行する必要がある変更を特定するアクションプランを準備します。
   詳細については、「規制変更管理 のアクションタスク」を参照してください。
10. 特定された変更を実装するアクションタスクを作成し、完了します。
    詳細については、「アクションタスクの作成」を参照してください。
11. ダッシュボードとレポートを介して規制変更の概要を提供します。
    詳細については、「規制変更管理 ダッシュボード」を参照してください。

RSS フィードインフラストラクチャの設定

ServiceNow インスタンスで必要なすべての Really Simple Syndication (RSS) フィードを確実に取得できるようにするには、フィードをシームレスに取得するために必要なインフラストラクチャをセットアップする必要があります。

適切に構成されたインフラストラクチャにより、RSS フィードをシームレスに統合できるため、中断することなく最新の状態を維持できます。RCM アドミニストレーターまたは IT アドミニストレーターは、最適なパフォーマンスを得るためにすべての前提条件が満たされていることを確認します。RSS フィードの取得中に問題が発生した場合は、「 RSS フィードの一般的なガイドライン」を参照してください。

RSS フィードをアクティブ化してプルする

ワークフローを有効にした後、 ワークフロースタジオ を使用して、定義された RSS ソースから RSS フィードをプルします。RSS フィードを定期的にプルすることで、規制コンプライアンスのすべてのニーズを常に把握できます。デフォルトでは、フィードをプルするスケジュールが毎日実行されます。

始める前に
RSS フィードを取得するワークフローは ServiceNow® ワークフロースタジオ でビルドされているため、 フローデザイナー の基本をよく理解しておいてください。

必要なロール：admin

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

このタスクについて
RCM IT アドミニストレーターは、[RSS フィードを規制変更にプルする] フローを日次、週次、または月次で実行するようにスケジュールし、フローの時間を設定します。

手順

1. 移動先 すべて > 規制変更管理 > **RSS** フィード.
2. RSS フィードを設定するには、[フィードのセットアップ] を選択します。
3. フィードセットアップモジュールから、次の手順を実行します。
   a. フローデザイナー UI ページで、**[RSS** フィードを規制変更にプルする **(Pull RSS Feed to Regulatory Change)]** を選択します。
   b. [テスト]、次いで [アクティブ化 **(Activate)]** を選択してフローをアクティブ化します。

タスクの結果
フローが正常にアクティブ化されると、システムは規制期間のスキャンを開始し、規制機関の Web サイトから最新の規制更新をフェッチします。

RSS フィードソースの設定

RSS フィードソースを設定して、複数の Web サイトまたはコンテンツプロバイダーからの更新情報を 1 か所で効率的に集約して監視します。これにより、時間が節約され、常に最新の情報を入手できるようになり、自動データ取得が可能になります。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. 移動先 すべて > 規制変更管理 > **RSS** フィード > フィードソース.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームで、フィールドに入力します。

フィードソーステーブル

フィールド	説明
名前	RSS フィードを生成および提供する Web サイトの名前。たとえば、Consumer Financial Protection Bureau Alerts などです。
接続	フィードの取得元となる詳細を含む接続。詳細については、「Create an HTTP(s) connection」を参照してください。
アクティブ	ソースがアクティブかどうかを示すオプション。フィードをフェッチできるのは、アクティブなソースのみです。
プロバイダー	Web サイトまたはコンテンツ作成者向けの RSS フィードを生成および配布するサービスまたはプラットフォーム。詳細については、「 Create a connection Alias for third-party provider」を参照してください。

4. **[Submit** (送信)] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
フィードソースが設定され、インスタンスにフィードを提供する準備ができました。

分類のマッピング

規制変更管理 アプリケーションを設定するときに内部分類を作成します。外部分類を内部分類にマッピングし、規制変更管理 アプリケーションが 1 つの分類のみを参照するようにします。

始める前に
必要なロール：sn_grc_reg_change.admin

このタスクについて
規制変更管理 アプリケーションは、分類を保存し、UI コンポーネントを使用して分類をマッピングする方法を提供します。

手順

1. 移動先 アプリケーション > 規制変更管理 > 分類 > 分類クラス.
   事前定義された分類クラスが表示されます。
   - コンテンツタイプ：コンテンツ タイプは、テンプレートによって定義されたシステム データをどのようにレンダリングするかをサイトごとに制御できるようにします。
   - 管轄：地域管轄はデータ侵害通知義務に使用されます。これは、各義務が管轄区域ごとに分類されているためです。
   - 規制機関：規制を管理する規制機関。例えば、RBI、SEBI、SEC、TRRI などです。
   - セクター： 政府の規則によって管理されるセクター ビジネス。例えば、FRM、FDIC、SEC などです。
   - テーマ： テーマは、組織が規制変更管理で考慮すべき要素を示します。
2. 分類クラス名を表示または更新する場合は、次の分類テーブルに移動します。
   - コンテンツタイプ
   - 管轄
   - 規制機関
   - セクター
   - テーマ

   たとえば、[管轄] をクリックすると、[クラス名] フィールドに分類クラスとして [管轄] が表示されます。

   注:
   sn_grc_reg_change.admin ロールを持つユーザーのみが分類テーブルを更新できます。
3. [更新] をクリックしてクラス名を更新します。
4. [分類クラス] 関連リストで [新規] をクリックします。
   新しい分類クラスレコードが別のページに表示されます。

   分類クラスレコード

フィールド	説明
名前	分類クラスの名前。

   新しい分類クラスが [分類クラス] ページに表示されます。
5. [分類クラス] ページを開いて、新しい分類クラスマッピングレコードを作成します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

6. フォームのフィールドに入力します。
   どの規制テーブルを選択したかに応じて、フォームのタイトルは異なります。

   分類クラスマッピングレコード

フィールド	説明
プロバイダー	アラートのプロバイダー。
外部分類クラス	内部分類クラスとマッピングされた外部分類クラス。
分類クラス	管轄やコンテンツタイプなどのデフォルトで提供される分類クラス。

7. [送信] をクリックして、外部分類クラスを内部分類クラスにマッピングします。
   外部分類クラスは、内部分類クラスにマッピングされます。

プロバイダー分類設定レコードの設定

プロバイダーを適切な分類プロファイルに合わせて調整し、情報報告の目的で規制インテリジェンスデータとフィードを分類します。このアプローチは、システムまたはアプリケーション間で一貫した命名規則を保証するため、複数のフィードソースを統合する場合に特に役立ちます。

始める前に

必要なロール：sn_grc_reg_change.admin

注:
このフォームの特定のフィールドは、 *`Default Taxonomy Configuration`* プロパティが **true** に設定されている場合にのみ表示されます。

手順

1. 移動先 アプリケーション > 規制変更管理 > **RSS** フィード > プロバイダー分類構成.
2. ページで 新規 を選択します。
3. フォームで、フィールドに入力します。

   プロバイダー分類設定レコードフォーム

フィールド	説明
プロバイダー	分類設定レコードのプロバイダー。
デフォルトの分類構成	デフォルトの分類構成を使用するオプション。デフォルトの分類設定オプションをクリアして、分類ローダー構成を表示します。
分類	外部分類をマッピングする内部分類。リストのロックを解除して分類を追加します。
分類ローダー	デフォルトの分類設定オプションをクリアしたときの、分類ローダー構成フィールド。分類データをインポートするためのインポートモードを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ データソース：ServiceNow プラットフォームデータソースを介して分類をインポートできる場合は、データソースを使用します。 ○ カスタムスクリプト：分類のインポートにカスタム ロジックが必要な場合は、カスタムスクリプトを使用します。 データソースの場合：次のフィールドを更新します。 ○ データソース：Azure AD、Auth0 など、定義するデータソース。詳細については、「Create a data source」を参照してください。 ○ 予定されているデータインポート：データソースを頻繁に実行するインポートジョブ。詳細については、「Schedule a data import」を参照してください。 カスタムスクリプトの場合：次のフィールドを更新します。 ○ 分類ファイルが必要：選択したモードでインポートするデータにファイルを添付する必要がある場合は、このチェックボックスをオンにします。 ○ 変数：スクリプトで定義された変数を使用します。 ○ スクリプト：入力するスクリプト。これは必須の手順です。

4. **[Submit** (送信)] を選択します。

タスクの結果
新しいプロバイダー分類設定レコードが [プロバイダー分類構成] ページに一覧表示されます。

フィード要求応答の管理

RSS フィードをプルするジョブがスケジュールされた時刻に実行されると、構成されたフィードソースから応答が自動的にフェッチされます。

RSS フィードから応答を取得するために手動の作業は必要ありません。

管理モジュール

管理モジュールを使用して、サードパーティのプロバイダーとエンティティクラスの構成を管理します。

規制インテリジェンスプロバイダーは、さまざまな規制の変更を含む規制アラートを提供します。各規制アラートレコードには、アラートに関連付けられた規制分類の分類セクションが含まれています。この分類は、アラートの分類に役立ちます。内部分類設計には次の 5 つの要素が含まれています。

- 規制機関
- セクター

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- テーマ
- コンテンツタイプ
- 管轄

規制変更管理 アプリケーションを設定するときは、標準化のために外部分類を独自の内部分類にマッピングする必要があります。これらの設計要素は、セットアッププロセス中に作成され、プロバイダーの外部分類からマッピングされます。

内部分類を設定したら、次のステップでは、プロバイダーの名前と説明でプロバイダー設定レコードを更新します。汎用プロバイダー設定を維持するために、プロバイダーレコードが使用されます。プロバイダーは、単一のファイルや API など、複数の組み合わせを介してデータを送信できます。詳細については、「分類のマッピング」を参照してください。

管理モジュールを使用して、さまざまなレコードを設定できます。次の操作を実行できます。

- プロバイダー設定レコードを更新して、プロバイダーからデータを定義して受信する。
- 規制の変更によって影響を受ける可能性があるエンティティクラスを設定する。

規制変更管理 の使用

クラシック 環境を使用して、すべての規制変更管理アプリケーションアクティビティを実行できます。

sn_grc_reg_change.manager ロールを持つ RCM マネージャーは、規制アラートをアサインするか、規制変更タスクとソースドキュメントタスクに関連するアクションタスクまたは問題を作成することで、ワークフロー中に発生した問題や例外をキャプチャできます。規制変更タスクとアクションタスクを監視することもできます。

また、ベースシステムの運用準備に役立つ セットアップチェックリスト を使用することもできます。

Yokohama リリース以降、すべての新しい機能と機能拡張は、ワークスペースビューでのみ使用できます。

規制変更管理 **Playbook**

次のプロセスに従って、組織またはビジネスの 規制変更管理 RCM プレイブックを構成します。

1. ユーザーのエンタイトルメントを管理し、規制コンテンツを閲覧してアクセスする顧客とプロバイダーを含め、規制チームを結成します。
   - 規制の変更を追跡できる該当分野の専門家、法律顧問、またはコンプライアンスの専門家のチームを指定します。
   - 法務、監査、コンプライアンス、リスク管理、運用の各部門の代表者を含めます。
   - 顧客とプロバイダーを含めます。規制機関またはサブスクリプションプロバイダー (Thomson Reuters Regulatory Intelligence (TRRI) など) の公開 RSS フィードに登録している顧客を含めます。また、さまざまなソースからの規制変更を集計し、その変更をまとめてフィードとして提供する Thomson Reuters Regulatory Intelligence (TRRI) などのプロバイダーも含めます。
   - 内部分類を設定します。分類要素は、組織が規制コンテンツに適用して分類できるさまざまな分類子です。分類要素を使用して、組織の規制コンテンツを設定するためのさまざまな分類の階層構造を作成できます。
2. 規制の変更を監視します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 組織やビジネスに影響を与える可能性のある新しい規制や更新された規制について常に最新情報を入手してください。
- 業界のニュースレター、規制機関の最新情報、RSS経由で公開されている関連する法律データベースを購読してください。
- Thomson Reuters や LexisNexis などの規制インテリジェンスプロバイダーと統合して、変更をリアルタイムで監視します。

3. 影響を評価します。
   - 規制変更が組織またはビジネスに与える影響を評価します。
   - 規制変更の分析:
     a. sn_grc.business_user ロール (ビジネスユーザー) を持っている場合は、規制アラートをレビューし、レビューのために sn_grc_reg_change.user ロールを持つユーザーにアサインします。規制変更に影響度評価が必要な場合、RCM ユーザーはビジネスユーザーロールを持つ該当分野のエキスパート (SME) にそれを送信します。
     b. 新しい規制を確認し、新しい要件、ポリシー、またはコントロール対策のドラフトを作成します。
     c. 機能、部門、プロセスなど、さまざまな事業部門への影響範囲を決定します。
4. 影響度評価の実施:
   a. リスクアセスメントまたはギャップ分析を実行して、組織またはビジネスの運用、財務、およびコンプライアンスに対する潜在的な影響を評価します。
   b. 規制変更の影響を評価し、影響度評価スコアを 規制変更管理 アプリケーションに送信します。アラートが適用されていない場合は、アラートをクローズします。アラートが適用される場合は、新しい規制変更タスクを作成し、それを同じコーディネーターまたは新しいコーディネーターにアサインします。
   c. 影響を受ける部門のステークホルダーと連携してインサイトを収集します。
5. ギャップ分析を実行します。
   a. 自分の現在のステータスを確認します。新しい規制に関連して、ポリシー、引用、およびコントロールの既存のインベントリを評価します。
   b. ギャップを特定します。現在のステータスを新しい規制要件 (ドラフト、最終ルール、または強制アクション) と比較して、不一致を特定します。
   c. ギャップに優先順位を付けます。組織またはビジネスに対する潜在的なリスクと影響度別に、各ギャップの重要性 (高、中、低) を評価します。
   d. ギャップ修正計画を策定します。特定されたギャップに対処するための計画を作成し、組織またはビジネスのアクション、タイムライン、および責任を指定します。
6. 調査結果を文書化します。
   a. 規制の変更、その影響、推奨されるアクションを概説した詳細なレポートを準備します。
   b. 規制の変更に起因する規制上の結果、コンプライアンスの逸脱、または重要でない結果を報告します。
7. 規制の変更と戦略を管理します。
   - 規制の変更に対処するための戦略を実装します。
   - 実装計画の策定:
     a. 規制の変更に準拠するために実行する手順を特定し、アクションプランを立案し、さまざまなチームのアクションタスクを作成します。アクションプランを作成したら、それを RCM マネージャーに送信して承認してもらい、すべてのアクションタスクが十分であるか、必要ない場合は確認します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

b. 新しい規制に準拠するために必要なアクションを詳述した明確なアクションプランを作成します。アクションプランには、法務レビュー、ビジネスの変更、ポリシーの更新、コントロールの改訂、トレーニングなどがあります。

c. タイムライン、リソースまたはウォッチリストチーム、および責任を定義します。

8. 変更の連絡:

a. 規制の変更と計画されているアクションについて、関連するすべてのステークホルダーに通知します。

b. 従業員が新しい要件を理解して適応するのに役立つトレーニングとリソースを提供します。

9. ポリシーと手順を更新します。

a. 新しい規制に合わせて、既存のポリシー、手順、またはコントロールを修正します。

b. ドキュメントに変更が反映され、簡単にアクセスできることを確認します。

10. 実装計画を監視します。

a. 実装計画に対する進捗状況を追跡します。

b. プロセス中に発生した課題や問題に対処します。

11. 計画をレビューし、継続的に改善する方法を特定します。

- 規制変更管理プロセスの有効性を評価し、必要に応じて改善します。
- 実装後のレビューの実施:

a. アクションプランが却下された場合は、同じコーディネーターをアサインしてアクションプランを確認し、実際のタスクを更新し、承認のためにアクションプランを送信します。すべてのコンプライアンスベースのアクションタスクはコンプライアンスマネージャーに表示され、リスクマネージャーはリスクベースのアクションタスクを表示できます。タスクがリスクユーザーとコンプライアンスユーザーにアサインされたら、アクションタスクを完了まで追跡します。期日を選択し、アクションタスクを追跡します。実際のタスクが完了したら、規制アラートと親規制変更タスクをクローズします。

b. 実装された変更の有効性とコンプライアンスステータスを評価します。

c. ステークホルダーからフィードバックを収集して、改善が必要な領域を特定します。

12. プレイブックを更新します。

a. 学んだ教訓と進化する使用ガイドラインに基づいてプレイブックを改訂します。

b. フィードバックを組み込んで、監視と管理のプロセスを強化します。

アクションタスクの作成

規制変更タスクとソースドキュメントのインポートタスクに関連するアクションタスクを作成し、規制タスクを完了できるようにします。

始める前に

必要なロール：
sn_grc_reg_change.manager、sn_grc_reg_change.user、sn_grc_reg_change.admin

このタスクについて

Yokohama リリース以降、タスクが次のいずれかの状況にあるときに、規制タスクのアクションタスクを作成できます。

- 新規
- 対応中
- 実装

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

規制タスクを小規模で管理しやすいコンポーネントに分割して、必要なアクティビティをより効率的に追跡および実行できるようになりました。コンプライアンスの目標と規制要件をサポートする構造化された方法で、タスクを計画、アサイン、および監視できるようになりました。

規制アクションタスクは、規制変更タスクの影響度評価の一部として識別された変更を完了するためのフォローアップとして作成されます。これらの特定の変更が識別されたら、マネージャーまたはユーザーとしてこれらのアクションタスクを作成および管理できます。

入力、選択、選択、添付、表示、追加、関連付け、リンクを解除などの一般的なユーザーアクションを実行できます。

手順

1. 移動先 アプリケーション > 規制変更管理 > アクションタスク > すべてのアクションタスク.
2. タスクを選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

規制アクションタスクフォーム

フィールド	説明
規制タスク	規制タスクの番号。
カテゴリ	コンプライアンスやリスクなどのアクションタスクのカテゴリタイプ。
アサイン先グループ	アクションタスクにアサインされたグループ。
優先度	アクションタスクの優先度。
期日	アクションタスクの期日。過去の日付は許可されていません。
コンプライアンスアクションターゲット	選択する特定の GRC レコード。たとえば、リストメニューの [各種法令・基準等]、 [引用] や、関連ドキュメントなどです。
アサイン先	タスクにアサインされたユーザー。
簡単な説明	アクションタスクの簡単な説明。
説明	アクションタスクの説明。
アクティビティジャーナル	
ウォッチリスト	更新に関する通知を受け取るユーザーのリスト。
作業メモ	作業メモのログ。
作業メモリスト	作業メモに関する通知を受け取るユーザー。

以下のフィールドを更新できます。

- カテゴリ
- アクションターゲット
- 簡単な説明
- 説明
- 作業メモ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 作業メモリスト
- ウォッチリスト

4. [保存] をクリックします。
   アクションタスクが保存され、[規制変更タスク] ページの [アクションタスク] タブに表示されます。

規制タスクに関連付けられる問題の作成

規制変更タスクおよびソースドキュメントタスクのワークフローの一部として問題を作成し、ワークフロー中に発生した問題や例外をキャプチャします。[問題] 関連リストを使用して、規制タスクに関連する問題を作成および表示できます。

始める前に
必要なロール：sn_grc_reg_change.manager、sn_grc_reg_change.user

このタスクについて
問題というタイトルの新しいモジュールが 規制変更管理 アプリケーションに導入されます。

手順

1. 移動先 アプリケーション > 規制変更管理 > 問題 問題関連リストを使用して、規制タスクに関連する問題を作成および表示します。
2. 問題のフィルター済みリストを取得するには、次のモジュールを使用します。

規制タスクに関連付けられる問題の作成および表示

フィールド	説明
自分のオープンな問題	ユーザーにアサインされた未解決の問題を表示します。
すべてのオープンな問題	ユーザーにアサインされたすべての未解決の問題を表示します。
すべての未アサインの問題	ユーザーにアサインされたすべての未アサインの問題を表示します。
すべてのグループ化された問題	ユーザーにアサインされたすべてのグループ化された問題を表示します。
すべての問題	規制タスクに関連付けられたすべての問題を表示します。

タスクの結果
それぞれのモジュールで規制タスクに関連する問題を表示できます。

次のタスク
メニュー項目を有効または無効にする方法については、「 アプリケーションメニューの有効化/無効化 」を参照してください。

問題の削除

規制変更タスクの一部である場合は問題を削除し、不要になった場合はソースドキュメントタスクを削除します。

始める前に
必要なロール：sn_grc_reg_change.manager、sn_grc_reg_change.user

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

このタスクについて
不要になった問題を削除します。

手順
1. 移動先 アプリケーション > リスト > 問題 > すべての問題.
2. 削除する問題を選択します。
3. [その他のアクション] メニューから [削除] を選択します。
4. 確認ダイアログの警告メッセージを読み、[削除] を選択します。
   選択した問題が削除されます。

タスクの結果
削除された問題を問題リストに表示することはできなくなります。

規制変更管理 コア UI

ServiceNow® 規制変更管理 アプリケーションを使用することで、今後の規制変更を確認し、その影響を評価し、リスクおよびコンプライアンス関連の変更を実装することができます。アプリケーションは、全体的な規制コンプライアンスを保証します。

規制アラートの設定、影響度評価の実行、規制変更タスクの作成、アクションプランの作成、アクションタスクの管理、規制変更タスクのクローズなど、規制変更管理 アプリケーションユーザーインターフェイスの機能を使用して、組織全体の規制変更を管理します。

規制アラート

規制アラートは、複数の規制インテリジェンスプロバイダーから提供されるさまざまな規制イベントとドキュメントを集約したものです。Web フィードと同様に、規制アラートはこれらの規制変更の記録です。このような変更は頻繁に更新され、アラートは規制の状況に関する情報を常に得るために役立ちます。

規制変更管理 アプリケーションは、アラートを変換してマッピングします。このアプリケーションは、規制アラートテーブルの情報を提供します。

規制変更管理 ライフサイクルは、規制アラートレコードから始まります。各規制アラートレコードには、ステークホルダーが変更を変換し、アクションプランを作成し、規制の変更に準拠するためのアクションを実装するのに役立つメタデータが含まれています。

規制変更管理 アプリケーションでは、規制アラートを使用して規制の更新についてユーザーに通知できます。

アラートのタイプと関連付けられる規制タスク

規制変更管理 アプリケーションの [規制アラート] モジュールに、さまざまなタイプのアラートが表示されます。

次のタイプの規制アラートを使用できます。

- 規制イベントアラート：アラートを示し、ニュースに更新を提供し、規制の変更に関するインサイトを提供します。アラートは、デフォルトでは規制イベントアラートです。すべての RSS フィードは、規制アラートレコードになります。
- ソースドキュメントアラート：引用の変更を示します。引用は、各種法令・基準等のさまざまなセクションのようなものです。ServiceNow® GRC は、Network Frontiers Unified Compliance Framework (UCF) 統合を提供します。この統合により、インポート後に各種法令・基準等が作成され、それぞれの各種法令・基準等の下に対応する引用が作成されます。既存の引用が更新される

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

か、新しい引用が挿入されたときに、ソースドキュメントの変更を示します。ソースドキュメントアラートは、サードパーティの規制インテリジェンスプロバイダーと統合する場合にのみ使用できます。例:Thomson Reuters

規制イベントアラートとソースドキュメントアラートの違いはスコープです。規制イベントアラートは、一般的な変更および今後の規制変更に関する一般的なアラートを示します。これに対し、ソースドキュメントアラートは、引用に固有の変更を示します。既存の引用が更新されるか、新しい引用が挿入されたときに、ソースドキュメントの変更を示します。

さまざまなタイプのアラートには、個別の規制タスクのセットが含まれます。これらのタスクは、sn_grc_reg_change.user ロールまたは sn_grc_reg_change.admin ロールを持つユーザーがアラートを受け取り、それを適用可能としてマークするたびに作成されます。これらのタスクは次のとおりです。

- 規制変更タスク：このタスクは、規制イベントアラート用に作成されます。このタスクは、変更を評価し、ライブラリ内のポリシー、コントロール、リスクステートメントなどの GRC オブジェクトを更新するために使用されます。
- ソースドキュメントのインポートタスク：このタスクはソースドキュメントアラート用に作成されます。このタスクは、既存の引用を更新するか、プロバイダーから受信した新しい引用を規制ライブラリに挿入するために使用されます。

アラートとユーザーロール

アラートにはさまざまな状況があります。アラートの主なプロパティは、アサイン済みか未アサインかです。アサイン済みのアラートの場合、[コーディネーター] フィールドに値が入力されます。アラートは、sn_grc_reg_change.manager ロール、sn_grc_reg_change.user または sn_grc_reg_change.admin ロールを持つユーザーにアサインできます。これに対し、未アサインのアラートは誰にもアサインされません。

未アサインのアラートに対してさまざまなアクションを実行できます。これらのアクションは次のとおりです。

- 更新
- 適用可能
- 保留
- 影響度評価を開始
- 適用外
- 規制アラートをキャンセル
- 削除

未アサインの規制イベントアラートが適用可能としてマークされると、規制変更タスクが作成されます。未アサインのソースドキュメントアラートが適用可能としてマークされると、ソースドキュメントのインポートタスクが作成されます。

未アサインのアラートが、期限のコメントとともに適用外としてマークされると、規制アラートフォームでそのステータスは [クローズ済み] に更新されます。

アサイン済みのアラートにはさまざまな状況があります。これらの状況は次のとおりです。

- 新規
- 保留
- 影響度評価

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 処理中
- クローズ済み

ユーザーロールに関しては、sn_grc_reg_change.admin ロールまたは sn_grc_reg_change.manager ロールを持つユーザーがすべてのアラートにアクセスできます。sn_grc_reg_change.user ロールを持つユーザーは、自分にアサインされているアサイン済みアラートを表示できますが、未アサインのアラートや他のユーザーにアサインされているアラートは表示できません。

規制アラートのテーブルクリーナー

適用外とマークされたアラートレコードは、定期的にクリーニングする必要があります。規制変更管理 アプリケーションは、アラートレコードを自動的にクリーニングするためのテーブルクリーナーを提供します。ユーザーがクリーニングアクティビティの時間と頻度を指定します。sn_grc_reg_change.admin ロールを持つユーザーのみがクリーンアップアクティビティを実行できます。

同様に、処理されたレジストリファイルレコードは指定された間隔でクリーニングできます。

規制アラートに対するアクションの実行

未アサインおよびその他のタイプの規制アラートに対してさまざまなアクションを実行します。たとえば、未アサインのアラートのアサイン、アラートの影響度評価の開始、アラートの適用可能としてのマークなどのアクションを実行できます。

始める前に

必要なロール：sn_grc_reg_change.manager または sn_grc_reg_change.user

このタスクについて

規制アラートは、規制イベントアラートまたはソースドキュメントアラートのどちらかです。一部のアクションはどちらのタイプのアラートでも実行できますが、規制イベントアラートでのみ実行できるアクションもあります。ユーザーとマネージャーは多くの同じアクションを実行できますが、マネージャーのみが実行できるアクションもあります。

マネージャーは、フィールドを適切なユーザーにアサインすることができます。その後で適切なユーザーが、アラートの適用性を評価し、影響度評価を開始して、アサインされた規制タスクを完了することができます。

次の手順の手順 3 以降では、マネージャーまたはユーザーとして実行できるさまざまなアクションについて説明しています。

手順

1. 移動先 すべて > アプリケーション > 規制変更管理 > 規制アラート.
2. 未アサインのアラートをアサインするには、 [アサインされていないアラート] モジュールでアラートをクリックします。
   sn_grc_reg_change.manager ロールを使用すると、[コーディネーター] フィールドを、sn_grc_reg_change.user ロールを持つ適切なユーザーに設定できます。
   このアクションにより、アラートが [すべてのアサインされているアラート] モジュールに移動します。
3. アラートレコードへの変更を保存して更新するには、[更新] をクリックします。
4. アラートを後の日付まで保留するには、次の操作を行います。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [保留] をクリックします。

b. 将来のリマインダー日を選択し、保留の理由を追加します。

c. [送信] をクリックします。
アプリケーションでアラートが [保留] ステータスに移行します。アサインされたユーザーは、選択した保留日に、アラートに対する作業のリマインダーとしてメールを受信します。ユーザーはアラートをキャンセルすることもできます。

5. アラート影響度評価を開始するには、[影響度評価を開始] をクリックします。
このアクションは、規制イベントアラートのマネージャーとユーザーのみが使用できます。このアクションは、ソースドキュメントアラートでは使用できません。
6. アラートの影響度が組織に適用されない場合は、[適用外] をクリックします。
フィールドを適用外としてマークする理由を指定します。
アラートが [クローズ済み] ステータスに移行します。
7. アラートをキャンセルするには、[規制アラートをキャンセル] をクリックします。
このアクションは、規制イベントアラートのマネージャーとユーザー、およびソースドキュメントアラートのマネージャーが使用できますが、ソースドキュメントアラートのユーザーは使用できません。
このアクションにより、アラートが [キャンセル] ステータスに移行します。アラートは [クローズ済みアラート] モジュールに移動します。
8. アサイン済みのアラートを sn_grc_reg_change.user ロールを持つ別のユーザーにを再アサインするには、[再アサイン] をクリックします。
9. アラートを削除するには、[削除] をクリックします。

AI が推奨する引用を規制アラートに追加する

GRC: 予測インテリジェンス アプリケーションを使用して、AI が推奨する引用を規制アラートに追加します。

始める前に

必要なロール：sn_compliance_admin または sn_compliance_manager

このタスクについて

従来、引用はサードパーティプロバイダーからダウンロードされていましたが、サブスクリプションライセンスを持つユーザーのみがサードパーティプロバイダーから引用をダウンロードでき、また、コンプライアンスワークスペースを使用して各種法令・基準等から引用を作成することができました。

手順

1. 移動先 すべて > 規制変更管理 > コンプライアンスワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [規制アラート] を選択します。
4. 規制アラートを選択して開きます。
規制アラートは、規制イベントまたはソースドキュメントのいずれかになります。
5. [推奨アクション] を選択します。

> **注:**
> [推奨アクション] オプションは、規制イベントタイプに分類された規制イベントアラートでのみ使用できます。

6. AI が推奨する各引用内で [関連付け] を選択して、引用を規制アラートに関連付けます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

推奨される引用カードには、次の詳細が表示されます。

- 生成された引用の信頼性レベルを示すスコア。
- 引用の名前。
- 引用の説明。
- 引用が属する各種法令・基準等。

7. オープンされた規制アラートに関連付けるすべての引用について、前の手順を繰り返します。
選択した引用が規制アラートに関連付けられます。

規制イベントアラートの管理とアサイン

規制インテリジェンスプロバイダーから受信した規制イベントアラートを適切なユーザーにアサインします。規制イベントアラートの他のプロパティを確認できます。

始める前に

必要なロール：sn_grc_reg_change.manager

このタスクについて

規制変更管理 アプリケーションの [規制アラート] モジュールに、規制アラートが表示されます。

マネージャーは、規制イベントアラートを表示し、sn_grc_reg_change.user ロールを持つユーザーにアサインすることができます。その後、ユーザーは規制イベントアラートに対してアクションを実行できます。

手順

1. 移動先 すべて > アプリケーション > 規制変更管理 > 規制アラート > アサインされていないアラート.
インスタンス内のすべての規制アラートが表示されます。未アサインのアラートを表示して、特定のユーザーに割り当てることができます。受信アラートは自動的に [新規] 状況にアサインされます。
2. 規制アラートリストで、 [タイプ] 列を使用して規制イベントアラートを選択します。
規制イベントアラートのアラートレコードが表示されます。
3. アラートをアサインするには、[コーディネーター] フィールドを適切なユーザーに設定します。
アラートの他のプロパティを確認すると、アサイン先の適切なユーザーを決定するのに役立ちます。

規制アラートフォーム

フィールド	説明
タイトル	プロバイダーから受信したアラートのタイトル。
ソース	規制アラートのソース。
説明	イベントの説明と要約。
プロバイダー	規制アラートプロバイダーの名前。
プロバイダー URL	プロバイダーから受信したアラートの URL。
規制機関 URL	アラートに関連付けられている規制機関の URL。
コーディネーター	アラートをアサインできる規制マネージャーのリスト。
全体的な影響度	フィールドの全体的な影響度。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ 影響なし ○ 低い ○ 中程度 ○ 高い ○ クリティカル
Type (タイプ)	規制アラートのタイプ。 ○ 規制イベント ○ ソースドキュメント
日付	
ソース公開日	特定の規制イベントが規制機関によって実際に公開された日付。
コメントの日付	規制イベントのコメントを指定できる期限。
有効日	特定の規制イベントが適用可能になる日付。
コンプライアンス日付	規制イベントが準拠する日付。
有効期限	特定の規制イベントが期限切れになる日付。
系列データ	
シリーズ名	規制アラートに関連するシリーズの名前。
順序番号	規制アラートに関連するシーケンス番号。
アクティビティジャーナル	
追加コメント	アラートに関連する追加コメント。
関連リスト	
規制タスク	アラートの関連タスク。このフィールドは、アラートがコーディネーターにアサインされていて、かつ [処理中] ステータスである場合にのみ使用できます。
関連ドキュメント	引用、タイトル、タイプなど、アラートに関連するドキュメントの詳細。
影響度評価	規制イベントアラートに関連付けられている影響度評価の詳細。

4. [更新] をクリックします。

タスクの結果

規制イベントアラートが選択したユーザーにアサインされ、アプリケーションの [すべてのアサインされているアラート] モジュールに一覧表示されます。

類似性ソリューションをトレーニングして使用し、規制アラートに関する引用を推奨します

ガバナンス、リスク、コンプライアンス予測インテリジェンスプラグインを有効にして、機械学習ソリューションをトレーニングして使用します。このソリューションにより、関連付ける規制アラートの正しい引用が自動的に推奨されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
次のプラグインがアクティブ化されていることを確認してください。

- GRC Profiles (GRC プロファイル)
- 予測インテリジェンス

必要なロール：ml_admin

手順

1. 移動先 類似性 > ソリューション定義.
2. [規制アラートの引用を推奨 **(Recommend citations on regulatory alerts)]** ソリューションを選択します。
3. [類似性定義] フォームで、フィールドに入力します。
   フィールドの説明については、「類似性定義フォーム」を参照してください。
4. ソリューション定義に該当するボタンをクリックします。

規制アラートを自動アサインする構成

規制イベントタイプの規制アラートの自動アサインを有効にするように、アサイン構成レコードを設定します。

始める前に
承認およびアサインの構成のための GRC: Assignment and Approval Configurations (sn_grc_appr) アプリケーションは、GRC：コンプライアンスケース管理アプリケーションとともにインストールされます。

必要なロール：sn_grc_appr.admin, sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst、sn_compliance_ws.corporate_compliance_manager

このタスクについて
規制アラートを、専門分野内のコンプライアンスの問題に迅速に対処できるドメインエキスパートにルーティングできるようになりました。これにより、規制上のリスクと義務をプロアクティブに管理できます。

手順

1. 移動先 すべて > アサイン構成および承認構成 > アサイン構成.
2. **[New** (新規)] を選択します。

   アサイン構成の新しいレコードが表示されます。
3. フォームのフィールドに入力します。
   フォーム内のフィールドの詳細については、「アサイン構成の新規レコード」を参照してください。

   注:
   同じ優先度で複数の承認構成をテーブルに適用することはできません。
4. [送信] を選択します。

類似性定義フォーム

コンプライアンスワークスペース の類似性定義フォームフォームを使用して、規制コンプライアンスマッピングの類似性定義を作成します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

類似性定義フォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

類似性定義フォーム

フィールド	説明
ラベル	類似性ソリューションの一意の名前。
名前	類似性ソリューションの名前。このフィールドは、[ラベル] フィールドの値に最も類似したシステムアサインの名前に自動的に設定されます。
ワードコーパス	ソリューションに関連する既存のワードコーパス。このユースケースでは、[問題アサインのワードコーパス **(Word Corpus for Issue Assignment)]** を選択します。 **注:** 類似性ソリューションのワードコーパスの場合、テーブルに従ったレコード数は 30 万件に制限されています。
テーブル	トレーニング対象および予測対象のレコードを含むテーブル。テーブル値をアサインすると、フォームにリンクが表示されます。リンクには、現在の条件に一致するレコードの数が表示されます。 このユースケースでは、フィールドは自動的に [sn_compliance_citation] テーブルに設定されます。このソリューション定義のこのフィールドは変更しないでください。
フィールド	引用の推奨に役立つ可能性があるフィールドタイプ。[テーブル] フィールドのテーブルから列を選択すると、列のデータにより引用をさらに正確に予測できます。このユースケースでは、[名前]、[ドキュメント名]、[ドキュメントの説明]、および [説明] フィールドが選択されています。これらのフィールドは、推奨する引用レコードを含むフィールドタイプです。 **注:** データベースの問題レコードに他の空でない重要なフィールドがある場合は、ここで選択したフィールドを変更でき、これらのフィールドにより、規制アラートにマッピングする類似の引用を見つけることができます。
テストテーブル	予測対象の引用を含むテーブル。このユースケースでは、フィールドは自動的に問題 [sn_grc_reg_change_regulatory_feed] テーブルに設定されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

類似性定義フォーム (続く)

フィールド	説明
	注: [類似] ウィンドウで取得できるレコードの数は 10 までに制限されています。このソリューション定義では、このフィールドは変更しないでください。
テストフィールド	予測中に入力として使用されるフィールド。このユースケースでは、[タイトル] フィールドと [説明] フィールドを選択します。 注: データベースの問題レコードに他の空でない重要なフィールドがある場合は、ここで選択したフィールドを変更でき、これらのフィールド は、問題オーナーを予測するための類似の問題を見つけることができます。
フィルター	このフィールドは空のままにします。
処理言語	ソリューション定義でトレーニングしているデータセットの主要言語。データセット言語が英語である場合は、[英語] を選択してください。 デフォルトでは、すべてのデータセットに英語の処理が適用されます。たとえば、[イタリア語] を選択した場合、システムは英語とイタリア語の両方でデータを処理します。 注: 処理という用語は、ソリューションのトレーニングの一環として使用される言語固有の手順を示します。これらの手順には、単語のトークン化、ストップワードの削除、語幹の解釈などが含まれます。
ストップワード	ストップワードのリスト。処理言語を選択した場合、システムは同じ言語を使用しているストップワードリストを自動的に追加します。たとえば、処理言語が英語の場合、[デフォルトの英語のストップワード **(Default English Stopwords)]** リストが表示されます。選択すると、[デフォルトの英語のストップワード (Default English Stopwords)] リストも表示されます。ストップワードの独自のカスタムリストを追加できます。
トレーニング頻度	トレーニングの頻度。再トレーニング オプションの範囲は 180 日間です。
更新頻度	類似性結果の取得に使用するデータをリフレッシュする頻度。 たとえば、新しい引用は通常、1 日を通じて頻繁に発生します。新しい引用がある場合は、**[15** 分ごと] の更新頻度を選択することもできます。この頻度により、新しい引用が更新に含まれる可能性を高めることができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソースドキュメントアラートの管理とアサイン

規制インテリジェンスプロバイダーから受信したソースドキュメントアラートを適切なユーザーにアサインします。ソースドキュメントアラートの他のプロパティを確認できます。

始める前に
必要なロール：sn_grc_reg_change.manager

このタスクについて
マネージャーは、ソースドキュメントアラートを表示し、sn_grc_reg_change.user ロールを持つユーザーにアサインすることができます。その後、ユーザーはソースドキュメントアラートに対してアクションを実行できます。

手順

1. 移動先 すべて > アプリケーション > 規制変更管理 > 規制アラート > アサインされていないアラート.
   インスタンス内のすべての規制アラートが表示されます。未アサインのアラートを表示して、特定のユーザーに割り当てることができます。受信アラートは自動的に [新規] ステータスにアサインされます。
2. 規制アラートリストで、 [タイプ] 列を使用してソースドキュメントアラートを選択します。
   ソースドキュメントアラートのアラートレコードが表示されます。
3. アラートをアサインするには、[コーディネーター] フィールドを適切なユーザーに設定します。
   アラートの他のプロパティを確認すると、アサイン先の適切なユーザーを決定するのに役立ちます。

規制アラートフォーム

フィールド	説明
タイトル	プロバイダーから受信したソースドキュメントタイプのアラートのタイトル。
引用	アラートプロバイダーから受信したソースドキュメントの引用番号。
プロバイダー URL	アラートのプロバイダー URL。
規制機関 URL	アラートに関連付けられている規制機関の URL。
プロバイダー	アラートプロバイダーの名前。
コーディネーター	アラートがアサインされたユーザー。
状況	アラートのステータス。
タイプ	規制アラートのタイプ。ソースドキュメントなど。
分類	
規制機関	政府機関などの規制機能を行使する組織。
セクター	銀行や保険など、組織のさまざまなビジネスセグメント。
テーマ	規制コンテンツを分類するために使用できる広範なトピック。プライバシー、Operational Resilience、および規制申請などのテーマが該当します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
管轄	規制機関または法的機関が法的権限を拡張できる場所。
コンテンツタイプ	法的資料、規制、ルールなど、規制機関が発行できるコンテンツのさまざまなカテゴリ。
日付	
ソース公開日	特定の規制イベントが規制機関によって実際に公開された日付。
有効日	特定の規制イベントが適用可能になる日付。
有効期限	特定の規制イベントが期限切れになる日付。
コメントの日付	規制イベントのコメントを指定できる期限。
コンプライアンス日付	規制イベントが準拠する日付。
アクティビティジャーナル	
追加コメント	アラートに関連する追加コメント。
アクティビティ	アラートに関連するアクティビティのログ。

4. [更新] をクリックします。

タスクの結果

ソースドキュメントアラートが選択したユーザーにアサインされ、アプリケーションの [すべてのアサインされているアラート] モジュールに一覧表示されます。

規制変更タスク

マネージャーまたはユーザーが未アサインのアラートを適用可能としてマークすると、規制変更タスクが作成されます。規制変更タスクは、ステークホルダーが、アラートに対して実行する必要がある変更を分析および特定するために使用されます。その後、ステークホルダーはアクションタスクを作成できます。

規制変更タスクは、識別された変更を完了するために作成されたすべてのアクションタスクの親として機能します。たとえば、アクションタスクには、規制ライブラリ内のポリシー、コントロール、およびリスクステートメントの更新が含まれる可能性があります。

sn_grc_reg_change.manager ロールを持つマネージャーは、システム内の sn_grc_reg_change.user ロールを持つ識別されたユーザーに規制変更タスクをアサインします。規制変更タスクには、アサイン先グループ、承認者、アサイニー、その他の関連情報などのタスクの詳細が表示されます。

規制変更タスクが完了したら、関連する規制アラートをクローズできます。

規制変更タスクのユーザーと関連アクション

sn_grc_reg_change.manager ロールを持つマネージャーと sn_grc_reg_change.user ロールを持つユーザーは、規制変更タスクモジュールで特定のタスクを表示および実行できます。

マネージャーが利用できるビューとアクション

sn_grc_reg_change.manager ロールを持つマネージャーは、規制変更タスクモジュールで次のタスクを表示できます。

- すべてのアサイン済みタスク
- 未アサインタスク

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

- 新規タスク
- 対応タスク
- 承認待ちタスク
- 実装タスク
- クローズ済みタスク
- 自分の承認

マネージャーは、規制変更タスクで次のアクションを実行できます。

- 規制変更タスクを sn_grc_reg_change.user ロールを持つユーザーにアサインする。
- タスクのアサイニー向けの説明を追加する。
- ウォッチリストに追加する。
- 作業メモを追加する。
- 将来の期日を追加して、規制変更タスクの作業を完了する。
- 承認者 (通常は別のマネージャー) を追加して、規制変更タスクを承認する。
- 作業メモを更新する。

他のユーザーが利用できるビューとアクション

sn_grc_reg_change.user ロールを持つユーザーは、規制変更タスクモジュールで次のタスクを表示できます。

- 新規タスク
- 対応タスク
- 承認待ちタスク
- 実装タスク
- クローズ済みタスク

ユーザーに規制変更タスクがアサインされている場合、ユーザーはログインして規制変更タスクで次のアクションを実行できます。

- [新規タスク] にある規制変更タスクを表示する。
- 作業メモを更新する。
- [応答] をクリックして、タスクを [応答] ステータスに移行する。
- 規制変更タスクに対してアクションタスクを作成する必要があるかどうかを確認する。
- 受信アラートが現在のシステムの GRC ライブラリに影響を与えるかどうかを評価する。
- エンティティオーナーによって実行された影響度評価の詳細を表示する。
- GRC ライブラリのコンプライアンスおよびリスク領域に関連する必要なアクションタスクを作成し、適切なグループにアサインする。

規制変更タスクの管理

規制変更タスクモジュールで規制アクションタスクを管理し、これらのタスクを使用して規制の変更を特定して準拠できるようにします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：
sn_grc_reg_change.manager、sn_grc_reg_change.user、sn_grc_reg_change.admin

このタスクについて
規制イベントアラートが適用性アセスメント後に適用可能としてマークされるたびに、規制変更タスクが自動的に作成されます。規制コンプライアンスチームのメンバーは、組織が規制の変更に準拠するために実装する必要がある変更を特定するアクションプランを作成します。

手順

1. 移動先 すべて > アプリケーション > 規制変更管理 > 規制変更タスク.
2. 規制変更タスクを選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

規制変更タスクフォーム

フィールド	説明
アサイン先グループ	タスクのアサイン先グループ。グループは [グループ階層] テーブルから選択されます。
アサイン先	タスクにアサインされたユーザーの名前。
承認者タイプ	タスクを承認するユーザーまたはグループ。
承認者	規制変更タスクの承認者。承認者タイプが [グループ] の場合、要求はグループメンバーに送信されます。
期日	規制変更タスクの期日。
承認日	規制変更タスクが承認された日付。
規制アラート	規制アラートの名前。
説明	タスクの説明。
ウォッチリスト	関心のあるユーザーを追加するウォッチリスト。
作業メモリスト	作業メモを確認したいユーザー。
作業メモ	作業メモのログ。
アクティビティ	アクティビティのログ。
関連リスト	
アクションタスク	規制アクションタスク。[新規] を選択して、規制変更タスクに対応する規制アクションタスクを作成します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: 親規制タスクが手動でクローズされたときに処理中の規制アクションタスクがある場合、関連するすべての規制アクションタスクが [キャンセル] ステータスに移行し、次の警告メッセージが表示されます。この規制変更タスク/ドキュメントインポートタスクのアクションタスクが進行中です。(Action tasks for this Regulatory Change Task/Document Import Task are in-progress.) [OK] をクリックするとキャンセルされます。(Clicking OK will cancel them.) 続行しますか？(Do you want to proceed?) 規制アクションタスクが関連付けられていない場合、または規制アクションタスクがクローズされている場合は、次のメッセージが表示されます。このタスクをクローズしてもよろしいですか？(Are you sure you want to close this task?) タスクをクローズするには、[OK] をクリックしてください。(Click OK to close the task.)
問題	規制変更ワークフローまたはソースドキュメントワークフロー中に確認された問題。
承認者	承認が要求されたときに作成される承認レコード。

4. [更新] をクリックします。
5. 規制変更タスクに関連する新しいアクションタスクを追加する場合は、 [アクションタスク] 関連リストで [新規] をクリックします。
6. 規制変更タスクの承認を要求するには、承認者としてログインし、[承認を要求] をクリックして承認を要求します。
   規制変更タスクのステータスが [承認待ち] ステータスに更新されます。規制変更タスクの [承認者] 関連リストで、承認のステータスが [要求済み] に更新されます。sn_grc_reg_change.manager ロールを持つマネージャー、sn_grc_reg_change.user ロールを持つユーザー、または sn_grc_reg_change.admin ロールを持つ admin ユーザーは、規制変更タスクの [自分の承認] で要求を表示できます。
7. [承認] を選択して要求を承認します。

タスクの結果

要求は承認されています。規制変更タスクが [実装] ステータスに移行します。規制変更タスクに関連付けられたアクションタスクが完了すると、規制変更タスクはクローズされます。

ソースドキュメントのインポートタスク

規制変更管理 アプリケーションは、外部から調達されたアラートを処理します。ソースドキュメントアラートレコードが適用可能としてマークされるたびに、ソースドキュメントのインポートタスクが自動的に作成されます。ソースドキュメントは、法的資料および規制資料を参照できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

規制アラートのソース ドキュメントタイプ を受信すると、引用のタイトルと引用の番号が提供されます。引用は、GRC ライブラリですでに利用可能である場合もあれば、新しく作成された引用である場合もあります。各アラートレコードには、主要なステークホルダーがレコードを規制ライブラリにインポートするのに役立つソースドキュメントに関するメタデータが含まれています。メタデータには、引用名およびその他の情報が含まれます。

ソースドキュメントアラートは、ソースドキュメントのインポートタスクを作成するために使用されます。ソースドキュメントのインポートタスクは、プロバイダーから受信した特定のソースドキュメントを規制ライブラリに取り込むために使用されます。このタスクは、コンプライアンスチームのメンバーによって実行されます。ServiceNow の規制ライブラリにソースドキュメントを引用オブジェクトとしてインポートします。

ソースドキュメントのインポートタスクは、規制アラートレコードから作成されます。タスクは、ソースドキュメントのインポートワークフローまたはライフサイクルを経過します。

1. ソースドキュメントタイプのすべての未アサインアラートレコードの適用性が評価されます。
2. ソースドキュメントアラートが適用可能としてマークされた場合、ソースドキュメントのインポートタスクが自動的に作成されます。

ソースドキュメントのインポートライフサイクルは、規制アラートレコードから始まります。sn_grc_reg_change.manager ロールを持つマネージャーが、未アサインのソースドキュメントアラートを適用可能としてマークすると、ソースドキュメントのインポートタスクが作成されます。

ユーザーは、[インポート準備完了] ステータスのドキュメントのインポートタスクを表示し、アラートに関連付けられた引用を評価して、ドキュメントのインポートタスクの今後の対処措置を決定できます。

ソースドキュメントのインポートタスクのユーザー、関連するアクション、および状況

sn_grc_reg_change.manager ロールを持つマネージャーと sn_grc_reg_change.user または sn_grc_reg_change.admin ロールを持つユーザーは、ソースドキュメントのインポートタスクで特定のアクションを表示および実行できます。

マネージャーが利用できるビューとアクション

sn_grc_reg_change.manager ロールを持つマネージャーは、次のタイプのソースドキュメントのインポートタスクを表示およびソートできます。

- すべてのタスク
- 未アサインタスク
- すべてのアサイン済みタスク
- インポート準備完了タスク
- 対応中のタスク
- 実装タスク
- 承認待ちタスク
- クローズ済みタスク
- 自分の承認

マネージャーは、[自分の承認] モジュールでドキュメントのインポートタスクを表示できます。

マネージャーは、ソースドキュメントアラートについて次のアクションを実行できます。

- ユーザーにアラートをアサインします。
- 追加の詳細でアラートを更新します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

- アセスメントを別のユーザーに再割り当てます。
- 理由とコメントを追加して、アラートを後日まで保留します。
- 初期アセスメントを実行した後、アラートを適用可能または適用外としてマークします。このアクションにより、アラートのステータスが [処理中] に変わります。

他のユーザーが利用できるビューとアクション

sn_grc_reg_change.user または sn_grc_reg_change.admin ロールを持つユーザーは、[実装タスク] にドキュメントのインポートタスクを表示できます。

ユーザーは、[新規アラート] モジュールに新しいソースドキュメントアラートを表示できます。

注:
アラートのソースドキュメントタイプの場合、影響度評価は必要ありません。

ユーザーは、新しいアラートに対して次のアクションを実行できます。

- アラートの詳細を更新します。
- アラートを適用可能としてマークします。
- アラートを適用外としてマークします。

ソースドキュメントのインポートタスクの状況

ソースドキュメントのインポートタスクの状況は次のとおりです。

- インポート準備完了
- 進行中
- 承認待ち
- 実装
- 保留
- クローズ済み

アラートが適用可能としてマークされている場合、プロセスの一部として作成されたソースドキュメントタスクが [クローズ済み] ステータスに移行すると、規制アラートレコードが自動的に [クローズ済み] ステータスに移行します。

ソースドキュメントのインポートタスクの管理

ソースドキュメントタスク、関連するソースドキュメントアラート、およびその他の関連する詳細を規制変更タスクモジュールで管理します。これらのタスクを使用して、ソースドキュメントの変更を特定して準拠します。

始める前に

必要なロール：
sn_grc_reg_change.manager、sn_grc_reg_change.user、sn_grc_reg_change.admin

このタスクについて

ソースドキュメントのインポートタスクは、プロバイダーから受信した特定のソースドキュメントを規制ライブラリに取り込むために使用されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > アプリケーション > 規制変更管理 > ソースドキュメントのインポートタスク.
2. [ソースドキュメントのインポートタスク] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

ソースドキュメントのインポートタスクフォーム

フィールド	説明
アサイン先グループ	レコードのアサイン先グループ。グループは [グループ階層] テーブルから選択されます。
アサイン先	タスクにアサインされたユーザーの名前。
承認者タイプ	タスクの承認者タイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ ユーザー ○ グループ
承認者	ソースドキュメントのインポートタスクの承認者。[承認者タイプ] フィールドが [グループ] に設定されている場合、要求はグループメンバーに送信されます。
期日	ソースドキュメントのインポートタスクの期日。
承認日	ソースドキュメントのインポートタスクが承認された日付。
規制アラート	規制アラートの名前。
説明	タスクの説明。
インポートタスク	
アクション	インポートタスクのアクション。 ○ 更新 - 既存の引用を更新します。 ○ 挿入 - 新しい引用を挿入します。
ターゲット引用	更新する引用を検索して探します。引用を挿入するには、[新規] を選択します。
アクティビティジャーナル	
ウォッチリスト	ウォッチャーとして追加したユーザー。
作業メモリスト	ユーザーが作成した作業メモのリスト。
作業メモ	提供された作業メモまたはコメント。
関連リスト	
類似のソースドキュメント	類似のソースドキュメントのレコード。
アクションタスク	インポートドキュメントタスクに関連するアクションタスク。[新規] を選択して新しいアクションタスクを追加します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
問題	規制変更ワークフローまたはソースドキュメントワークフロー中に確認された問題。
承認者	ドキュメントのインポートタスクの承認者。このリストには、承認が要求されたときに作成された承認レコードが表示されます。

4. 変更を適用するには、次のいずれかを実行します。
   - 選択したソースドキュメントのインポートタスクを更新するには、[更新] をクリックします。
   - 変更を保存するには、 [対応中] をクリックします。
5. ソースドキュメントのインポートタスクの承認を要求するには、[承認を要求] をクリックします。

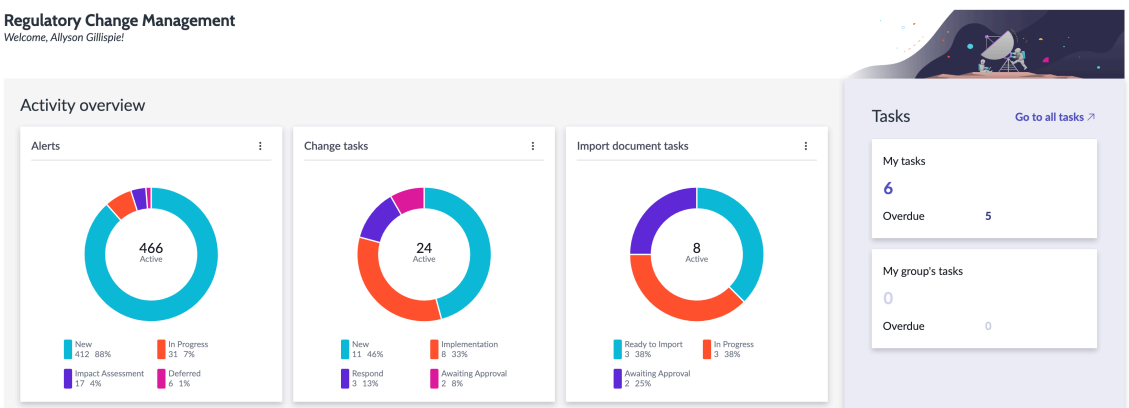
タスクの結果
新しい引用が挿入されるか、既存の引用が更新されます。

規制変更管理 ダッシュボード

規制変更管理 ダッシュボードは、規制状況の現在のビューを提供します。

> **注:**
> クラシック UI の概要ダッシュボードは、Yokohama リリースから使用できなくなりました。

規制変更管理ダッシュボード



規制変更の概要

組織内のさまざまなユーザーがこのダッシュボードをどのように使用するかの例については、次のユースケースを参照してください。

ダッシュボードユースケース

ユーザー	ダッシュボードの使用法
sn_grc_reg_change.manager	RCM マネージャーは、新しい規制アラートを表示し、アラートのステータスとさまざまな規制タスクを理解できます。また、規制タスクとその期日のカレンダービューも提供します。

[概要] ページには、次のような規制イベントとタスクの概要が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 新規規制アラート
- 新規規制変更タスク
- 期限切れの規制変更タスク
- 最重要アクションタスク
- ステータス別の規制アラート：ステータス、数、および割合別にグループ化されたアラートを表示します
- ステータス別の規制変更タスク：ステータス、数、および割合別にグループ化されたタスクを表示します
- ステータス別のインポートドキュメントタスク：ステータス、数、および割合別にグループ化されたタスクを表示します
- アクションタスク：アクションタスクを [ステータス] および [優先度] フィールド別にグループ化して積み重ねます
- 期日別の規制変更タスク：規制変更タスクのレポートを表示します

コンプライアンスワークスペース での規制タスクの管理

コンプライアンスワークスペース の 規制変更管理 アプリケーションでさまざまな規制タスクを実行し、データビジュアル化ウィジェットを使用してタスクとアラートに関する詳細な情報を受け取ることができます。

規制変更管理 ワークフローと 規制変更管理 プロセスフローは、規制変更管理 アプリケーションユーザーが規制の変更に準拠するために実行する規制タスクに関する情報を提供します。詳細については、 規制変更管理のワークフロー と 規制プロセスフローとタスク を参照してください。

コンプライアンスワークスペース では次の GRC：規制変更管理 構成タスクを実行できます。

- 規制イベントアラートをコーディネーターにアサインします。詳細については、「規制イベントアラートのコーディネーターへのアサイン」を参照してください。
- 規制イベントアラートの影響度を評価し、アセスメントを完了して、アラートに関連付けられている規制変更タスクを管理します。詳細については、「規制フィードの影響度の評価」と「規制変更タスクの管理」を参照してください。
- ソースドキュメントアラートをコーディネーターにアサインします。詳細については、「ソースドキュメントアラートをコーディネーターにアサインする」を参照してください。
- ソースドキュメントアラートに関連付けられているソースドキュメントのインポートタスクを管理します。詳細については、「ソースドキュメントのインポートタスクの管理」を参照してください。
- 規制イベントアラートとソースドキュメントアラートに関連付けられているアクションタスクを管理します。詳細については、「アラートの新しいアクションタスクの作成」と「アラートに関連付けられたアクションタスクの完了」を参照してください。
- 規制タスクに関連付けられる問題を作成します。詳細については、「規制タスクに関連付けられる問題の作成または追加」を参照してください。
- 分類をマッピングします。詳細については、「分類の管理」を参照してください。

規制アラート

コンプライアンスワークスペース の 規制変更管理 アプリケーションのリストビューには、 メニューの [規制アラート] オプションで受信したすべての規制アラートが表示されます。[アサインされていないアラート] リストには、すべての新規およびアサインされていない規制アラートが表示されます。[アサインされていないアラート] リストの [タイプ] 列に、規制アラートのタイプが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

規制アラートには次の 2 つのタイプがあります。

規制イベントアラート

規制イベントアラートは、組織の運用に影響する法律や規制の変更についてステークホルダーに通知するシステム通知です。これらのアラートは、企業の規制コンプライアンスフレームワークの重要なコンポーネントであり、進化する法的および規制上の義務をタイムリーに認識して対応するように設計されています。

規制イベントアラートは、内部ポリシー、手順、コントロール、またはリスク管理戦略の更新が必要になる可能性がある開発を早期に可視化します。これらは、組織がコンプライアンスを維持し、潜在的な規制リスクを軽減し、社内慣行を現在の法的要件に合わせるのに役立ちます。

規制イベントアラートは、リアルタイムまたはほぼリアルタイムの通知を提供して、プロアクティブなコンプライアンス管理をサポートします。これらのアラートは、コンプライアンス責任者、法務チーム、ビジネスリーダーなどの指定されたユーザーがタイムリーにアクションを実行するのに役立ちます。規制変更の影響を評価し、組織に適した次のステップを決定できます。

ソースドキュメントアラート

ソース文書とは、法律、規制、または規制ガイドラインに関連する重要な情報を提供する公式の出版物または信頼できる記録を指します。規制変更管理では、ソースドキュメントは、法的および規制上の義務に関する組織の理解を知らせる、オリジナルの信頼できる参考資料として機能します。

これらの文書は、規制機関または当局によって発行され、法令、ガイダンスノート、ポリシーステートメント、諮問書、規制の更新、および施行通知が含まれる場合があります。

規制変更管理 内では、Thomson Reuters Regulatory Intelligence (TRRI) によってキュレーションされたソースドキュメントが統合され、ユーザーは信頼性が高く、最新の、管轄区域固有の規制コンテンツにアクセスできます。

規制アラートとコンプライアンスアクティビティを関連するソースドキュメントにリンクすることで、組織はトレーサビリティを確保し、監査の準備を強化し、最新の規制の期待との整合性を維持できます。

リストビューで規制ドキュメントアラートまたはソースドキュメントアラートのタイトルを選択して、アラートの詳細を表示する新しいページを開きます。

規制イベントアラートページ

規制イベントアラートページには、デフォルトで次のタブと関連リストが表示されます。

- [概要] タブ
- [詳細] タブ
- 影響領域
- リスクアセスメント
- 規制アセスメント
- 規制タスク

ソースドキュメントアラートページ

ソースドキュメントアラートページには、デフォルトで次のタブが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- [概要] タブ
- [詳細] タブ
- 規制タスク

規制アラートの概要ページ

概要ページには以下が表示されます。

- 影響領域の推奨事項を生成するオプション

  推奨事項は、[概要] ページまたは [推奨事項] タブから生成できます。詳細については、「規制アラートの影響を受ける引用、コントロール目標、およびコントロールの推奨事項を生成」を参照してください。

- 規制アラートを要約するオプション

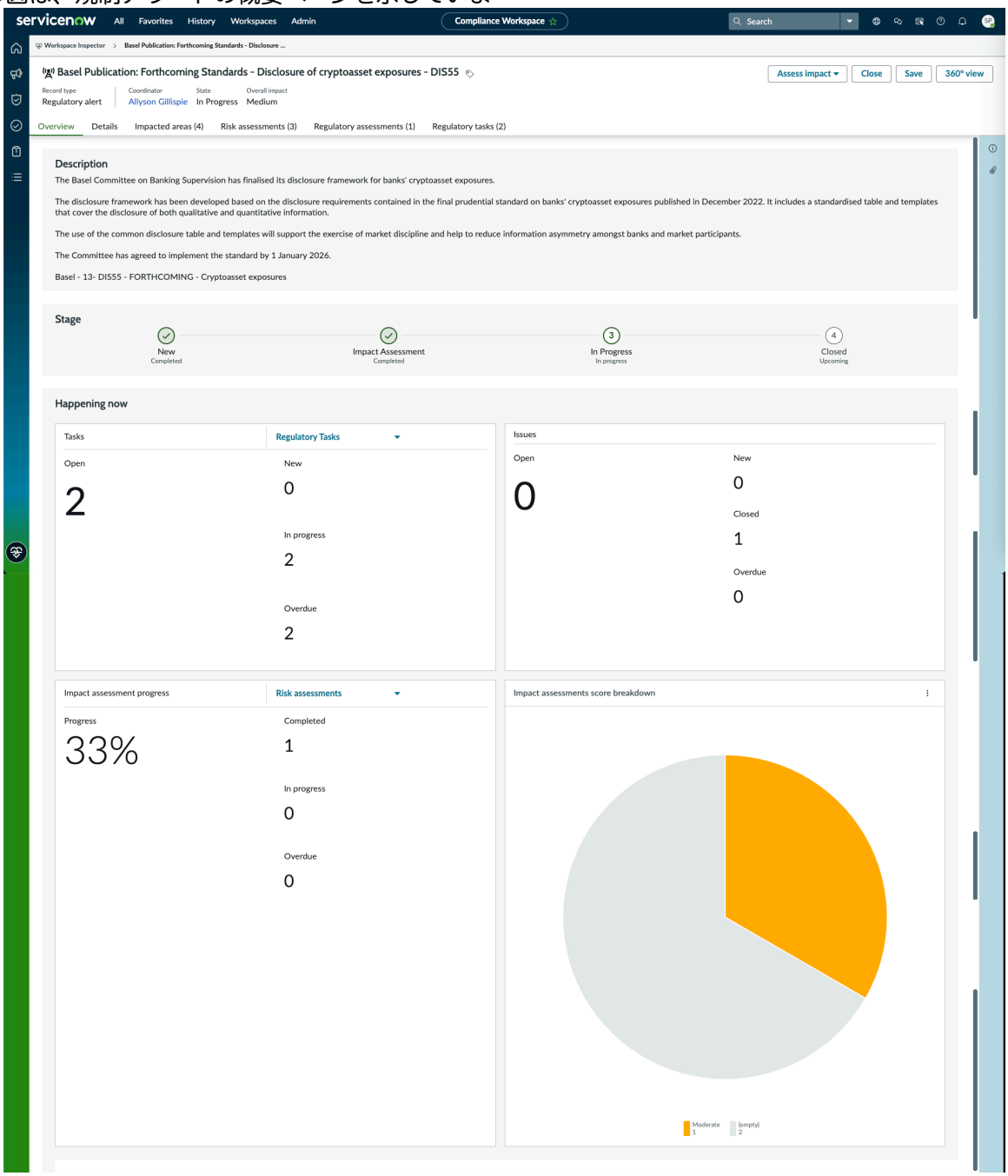
  要約オプションは、[新規] ステータスの規制アラートで使用できます。詳細については、「規制アラートのサマリーの生成」を参照してください。

- 規制アラートの説明
- ステージ:規制イベントアラートの一連のステージをガイドするビジュアルコンポーネント
- 未解決、新規、進行中、および期限切れのアクションタスク
- 未解決、新規、対応中、クローズ済み、期限切れの問題
- 影響度評価の進捗率
- 完了済み、未解決、期限切れの規制アセスメントとリスクアセスメントをフィルタリングするドロップダウンリスト
- 影響度評価スコアの明細

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次の図は、規制アラートの概要ページを示していま



す。

規制イベントアラートとソースドキュメントアラートの違い

規制イベントアラートは規制の変更を通知し、ソースドキュメントアラートは関連する公式ドキュメントのリリースまたは更新を通知します。

次の表は、規制イベントアラートとソースドキュメントアラートの主な違いを概説し、コンプライアンスプロセス内での目的、コンテンツ、および使用法を示しています。

規制イベントアラートとソースドキュメントアラート

側面	規制イベントアラート	ソースドキュメントアラート
定義	法律、規制、またはポリシーの変更または発展に関する通知。	公式の規制ソースドキュメントの公開または更新に関する通知。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

規制イベントアラートとソースドキュメントアラート (続く)

側面	規制イベントアラート	ソースドキュメントアラート
目的	コンプライアンスに影響を与える可能性のある新規または修正された規制要件をステークホルダーに通知する。	規制の変更をサポートまたは詳述する信頼できるドキュメントへのアクセスを提供します。
コンテンツのソース	規制動向の分析に基づいてキュレーションされた更新(TRRIなど)。	規制当局または権威ある機関によって発行された公式文書から直接導出されます。
情報の性質	規制イベントに関する要約されたコンテキストインサイト。	法律、ガイダンス、通知などの公式ソースからの、変更されていないオリジナルのコンテンツ。
ユースケース	影響度を評価し、コンプライアンスアクションまたは次のステップを決定するのに役立ちます。	法務解釈、ポリシーの更新、および監査のトレーサビリティの参照として機能します。
例	EU のデータプライバシー規制の変更に関するアラート。	当局が発行した公式の EU 規制修正ドキュメントにリンクするアラート。

リンク 変更タスク

規制アラートの [影響領域] タブから直接変更タスクをリンクします。

始める前に

必要なロール：sn_grc_reg_change.user

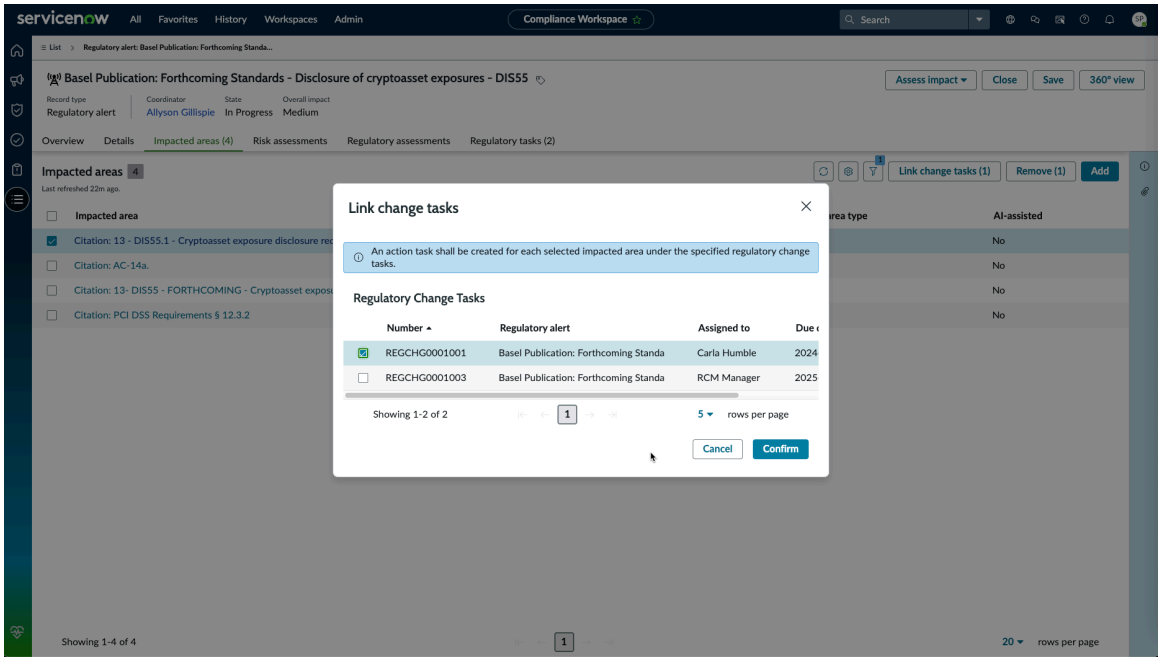
手順

1. 移動先 すべて > 規制変更管理 > コンプライアンスワークスペース.
2. 検索項目 リスト > 規制アラート > すべてのアサインされているアラート.
3. 必要な規制アラートを選択して開きます。
4. 規制アラートの [影響領域] タブに移動します。
5. 変更タスクをリンクする影響領域を選択します。
6. [変更タスクのリンク **(Link change tasks)**] を選択します。
7. リンクする規制変更タスクを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. [**Confirm** (確認)] を選択します。



タスクの結果
選択した影響領域ごとにアクションタスクと特定の規制変更タスクが作成されます。たとえば、3 つの影響領域と 2 つの規制変更タスクを選択すると、6 つのアクションタスクが作成されます。

変更タスクをリンクすると、影響を受ける領域と規制変更タスクの組み合わせごとにアクションタスクを生成し、完全な範囲を確認して手作業を減らすことで、スケーラブルなタスクの自動化が可能になります。

規制変更タスク

規制アラートがアラートコーディネーター、マネージャー、またはアドミニストレーターによって適用可能としてマークされると、システムは規制変更タスクの作成を開始します。このタスクは、ステークホルダーが組織のコンプライアンスプラクティスに必要な変更を判断するための中心点として機能します。

規制変更タスクは、規制の更新を評価し、是正処置を開始するための構造化されたプロセスを提供します。ステークホルダーはこのタスクを使用して、必要な変更を特定し、1 つ以上のアクションタスクを作成します。これらのアクションタスクは、規制ライブラリ内の関連するポリシー、コントロール、リスクステートメントの更新など、変更を実装するために必要な特定のアクティビティを表します。

各規制変更タスクには、関連する アクションタスク が含まれています。特定された要件を満たすためにアクションタスクが作成されます。この階層的な関係により、変更実装プロセス全体でトレーサビリティと説明責任が確保されます。

sn_grc_reg_change.manager ロールを持っている場合は、sn_grc_reg_change.user ロールを持つユーザーに規制変更タスクをアサインできます。タスクには、アサイン先グループ、指定されたアサイニー、承認者、その他の重要なタスクの詳細などの重要な情報が含まれています。

1 つの規制アラートに対して複数の規制変更タスクを作成できます。各タスクは、規制に影響を与える個別の領域または必要なアクションの特定のカテゴリを表すことができます。このアプローチにより、組織は複雑な規制の更新を管理可能なワークストリームに分割できます。

作業を個別の規制変更タスクに整理することで、チームは特定の専門分野の専門知識に基づいてより正確に責任をアサインできます。この構造により、個々のタスクコンポーネントの進捗状況を明確に

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

監視できます。個別の規制変更タスクは、関連するアクティビティ間の依存関係をより効果的に特定して管理するのに役立ちます。

構造化されたタスク配分により、チーム間のコラボレーションが向上し、プロセス全体で説明責任が確保されます。このアプローチは、必要なすべてのコンプライアンスアクションをタイムリーに完了することもサポートしています。複数の規制変更タスクを単一の規制アラートにリンクすると、関連するすべてのアクティビティのトレーサビリティが向上します。このリンクにより、ステークホルダーは規制アラートのさまざまな側面がどのように対処されているかを表示できます。

規制タスクは承認時に自動的にクローズされ、必要なすべての手順が正常に完了したことが示されます。または、規制タスクが [実装] ステータスのときに、関連するすべてのアクションタスクが完了してクローズされたときに、規制タスクを手動でクローズすることもできます。

すべての規制変更タスクとそれに関連するアクションタスクを完了したら、関連する規制アラートをクローズできます。アラートをクローズすると、必要なすべてのコンプライアンス義務が正常に履行されたことが確認されます。

規制タスクのタイプ

規制変更管理 では、次のタイプの規制タスクを使用できます。

- ビジネスの変更-たとえば、更新されたマネーロンダリング防止規制に準拠するための新しいプロセスの実装。
- 引用の修正 - たとえば、GDPR などのデータ保護法の変更により、内部ドキュメントの法的参照を更新します。
- コントロールの更新 - たとえば、新しいサイバーセキュリティコンプライアンス要件を満たすためにアクセス制御手順を変更します。
- ポリシーの改訂 - たとえば、新しい規制ガイダンスに基づく同意要件の変更を反映するために、組織のプライバシーポリシーを更新します。
- 規制報告 - たとえば、新しい報告基準に対応して、改訂された財務開示を準備し、規制当局に提出します。
- トレーニングの改訂 - たとえば、職場でのハラスメントに関する法律の最近の変更を含めるように従業員トレーニングモジュールを更新します。
- その他 - たとえば、新たな規制の期待に応えて国境を越えたデータ転送を管理するための新しいガバナンスフレームワークの確立。
- なし:予備調査や管理セットアップタスクなど、事前定義された特定のカテゴリに該当しないタスク。

規制タスクの新しいワークフロー

新しいワークフローを取得するには、次のアプリケーションをアップグレードします。

- GRC：共通ワークスペース要素 (sn_grc_workspace)
- GRC：規制変更管理 (sn_grc_reg_change)

Zurich リリース以降、規制タスクは次の状況で進行します。

- 新規:アクションタスクは作成されましたが、まだレビューもアクションもされていません。これはタスクの初期プレースホルダーです。通常、コンプライアンスアナリストまたは規制コーディネーターがタスクのレビューと検証を担当します。
- 対応中:タスクはアクティブなアセスメント中です。タスクオーナーは、規制要件を分析し、影響を受ける領域、ビジネスプロセス、または必要な変更を特定します。タスクアサイニーは、分析を実行し、ステークホルダーと調整して、実装に向けてタスクを準備します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 実装:特定された必要な変更 (ポリシーの更新、コントロールの変更、トレーニングの改訂など) が実装されています。アクションタスクを作成して、特定の影響領域にアサインすることができます。通常、ビジネスプロセスオーナーが必要な変更を実行します。
- 承認待ち (オプション):実装が完了し、指定されたステークホルダーによるレビューまたは正式な承認を待機しています。承認が必要ない場合は、このステージをスキップできます。コンプライアンスマネージャーなどの承認者は、タスクが正しく完了し、規制要件を満たしていることを検証します。
- クローズ済み:タスクがレビューされ (該当する場合)、必要なすべてのアクションが完了しました。タスクが正式にクローズされます。コンプライアンスアナリストは、クローズ基準が満たされていることを確認し、タスクステータスを更新します。

[実装] ステータスでは、承認の要求はオプションです。関連するすべてのアクションタスクが完了したら、追加の承認を必要とせずに、規制タスクを [実装] ステータスから直接クローズできます。

注:
アップグレード後:

- [承認待ち] ステータスの規制タスクが最初に承認されると、タスクは [実装] ステータスに移行します。
- [承認待ち] ステータスの規制タスクを最初に却下すると、タスクは [対応中] ステータスに移行します。

アクションタスクの作成

Zurich リリース以降、タスクが次のいずれかの状況にあるときに、規制タスクのアクションタスクを作成できます。

- 新規:規制アクションタスクが新しく作成され、初期レビューまたは計画処理待ちです。このステージで、たとえば、予想される影響領域のタスクを事前に定義するなどのアクションタスクを作成できます。
- 処理中:アクションタスクに積極的に取り組んでおり、分析、影響領域の定義、責任のアサインが含まれます。検出結果と必要なアクションが特定されると、このステージでアクションタスクを作成してリンクできます。
- クローズ済み:規制タスクが完了し、正式にクローズされました。ただし、ドキュメントの更新やフォローアップ監査などの遡及アクションタスクは引き続き追加できます。このステージでもアクションタスクを作成できます。これは、遅延アクションやフォローアップアクションを追跡する場合に役立ちます。

規制タスクを小規模で管理しやすいコンポーネントに分割して、必要なアクティビティをより効率的に追跡および実行できます。コンプライアンスの目標と規制要件をサポートする構造化された方法で、タスクを計画、アサイン、および監視できるようになりました。

たとえば、新しいデータプライバシー法では、複数の部門にまたがる更新が必要です。規制タスクを、プライバシーポリシーの更新、従業員トレーニングの改訂、新しいデータアクセス制御の実装など、より小さなコンポーネントに分割します。このタスクのブレークダウンにより、各チームはアサインされたタスクを効率的に追跡して完了できます。

リンクアクションタスク

リンク 規制変更タスク内から、または規制アラートを介して直接、既存の影響領域に対するアクションタスク。

始める前に

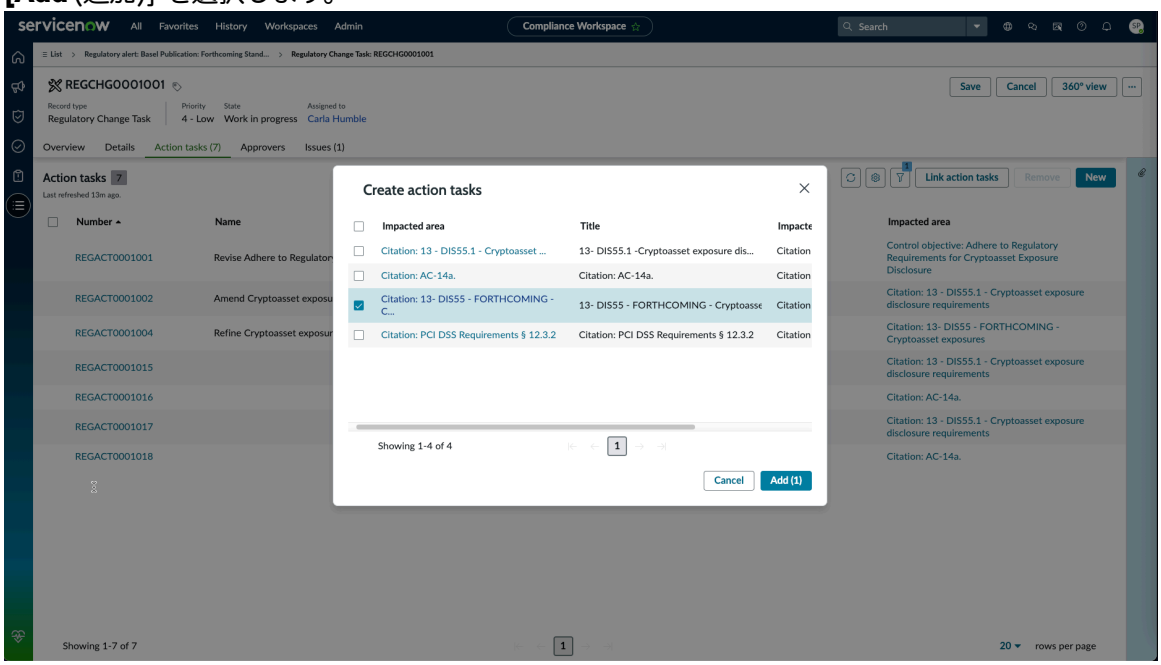
必要なロール：sn_grc_reg_change.user

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > 規制変更管理 > コンプライアンスワークスペース.
2. 検索項目 リスト > 規制アラート > すべてのアサインされているアラート.
3. 必要な規制アラートを選択して開きます。
4. [規制タスク] タブで、必要な規制変更タスクを選択して開きます。
5. 規制変更タスクの [アクションタスク] タブに移動します。
6. [アクションタスクをリンク] を選択します。
7. アクションタスクを作成する影響領域を選択します。
8. **[Add** (追加)] を選択します。



タスクの結果
アクションタスクは、特定の規制タスク内の選択した影響領域ごとに作成されます。

アクションタスクをリンクすることで、影響を受ける領域ごとにタスクのアサインが自動化され、組織全体で説明責任が確保され、規制要件の実行が簡素化されます。

次のタスク
アクションタスクが作成されると、所有者のリストにタスクが表示されます。オーナーはアクションタスクを処理し、クローズします。

規制イベントアラートビュー

コンプライアンスワークスペース のリストビューで規制イベントアラートをクリックすると、新しいページにアラートの詳細が表示されます。詳細には、アラートのタイトル、アラートのプロバイダー、そのステータス、および [概要] タブと [詳細] タブのその他の重要な情報が含まれます。

規制イベントアラートページには、アラートに関連する次のタブと関連リストも表示されます。

- [概要] タブ
- [詳細] タブ
- 関連ドキュメントリスト
- 影響度評価リスト

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

次のセクションでは、アラートに関連するタブと関連リストについて詳しく説明します。

[概要] タブ

フィールド	説明
説明	規制イベントアラートの詳細な説明。
ステージ:規制イベントアラートの一連のステージをガイドするビジュアルコンポーネント	次のステージを表示する規制イベントアラートのビジュアルコンポーネント。 • 新規：規制イベントアラートが適用可能としてマークされると、ステッパーコンポーネントでアラートのステータスが自動的に [処理中] に更新され、規制変更タスクが自動的に作成されます。 • 影響度評価：規制イベントアラートで影響度評価が開始されると、ステッパーコンポーネントのステージが自動的に [影響度評価] に更新されます。 • 処理中：規制イベントアラートのステータスが [処理中] に更新されると、ステッパーコンポーネントのハイライト表示されたステージが [処理中] として表示されます。 • クローズ済み：規制イベントアラートのステータスが [クローズ済み] の場合、ステッパーコンポーネントのハイライト表示されたステージが [クローズ済み] として表示されます。

[詳細] タブ

フィールド	説明
規制アラート	アラートのタイトル、アラートに関連付けられた引用、プロバイダーの URL、規制機関の URL、プロバイダーの名前、アラートのタイプ、アラートのコーディネーターなどのアラートの詳細。
日付	ソース公開日、コメントの日付、有効日、コンプライアンス日付、有効期限など、アラートに関連付けられた重要な日付の詳細。
追加コメントの作成 (Compose additional comments)	アクティビティに関連する追加のコメントを入力するためのテキストボックス。

関連ドキュメントリスト

フィールド	説明
関連ドキュメント	引用、引用参照、タイトル、タイプなど、アラートに関連付けられた関連ドキュメントの詳細。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

影響度評価関連リスト

フィールド	説明
影響度評価	エンティティ、リスクアセスメント、査定人、固有リスク、ステータスなどのアラートの影響度評価に関する詳細。

分類サイドパネル：分類サイドパネルには、規制イベントアラートの次の分類クラスが表示されます。

- 規制機関
- コンテンツタイプ
- 管轄
- テーマ
- セクター

注:
分類クラスは、レコードに値が関連付けられている場合にのみ表示されます。たとえば、規制アラートに [管轄] 分類クラスの値がない場合、分類カテゴリ [管轄] は分類サイドパネルに表示されません。

規制イベントタイプの規制アラートの影響半径

規制イベントタイプの規制アラートに影響領域を追加すると、規制アラートの影響半径を計算するのに役立ちます。影響半径は、通常、規制の変更が組織にどの程度影響するかを示します。

影響領域

組織のコンプライアンスまたはリスク体制に影響を与える可能性のある規制イベントを評価する必要があります。影響半径の計算は、GRC オブジェクトに対する規制イベントの影響を評価し、影響度のアセスメントに基づいてアクションタスクを提案するための方法です。規制変更管理 アプリケーションは、規制アラートの影響半径の計算プロセスをサポートしています。影響半径の計算は、ユーザーのアクションタスクを自動的に作成する方法です。

規制アラートには次の 2 つのタイプがあります。

- 規制イベント
- ソースドキュメント

Yokohama リリースより前は、規制変更管理ユーザーは、規制変更によって影響を受ける引用を 1 つ以上追加するオプションがありました。これにより、引用のみに依存することになり、ポリシー、コントロール目標、コントロール、リスク、サードパーティなどの他のビジネスオペレーションが考慮されなくなりました。この問題に対処するために、影響領域 (sn_grc_reg_change_impacted_area) という新しいテーブルが作成され、以前にキャプチャされた引用を含む次のアイテムがキャプチャされます。

- 引用
- コントロール目標
- ポリシー
- 各種法令・基準等
- コントロール
- 確認応答キャンペーン

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ポリシーのカテゴリ
- ポリシー例外
- リスクステートメント
- リスクフレームワーク
- リスク

注:
影響領域は、規制イベントタイプの規制アラートに追加できます。詳細については、「規制アラートに手動で影響領域を追加する」を参照してください。

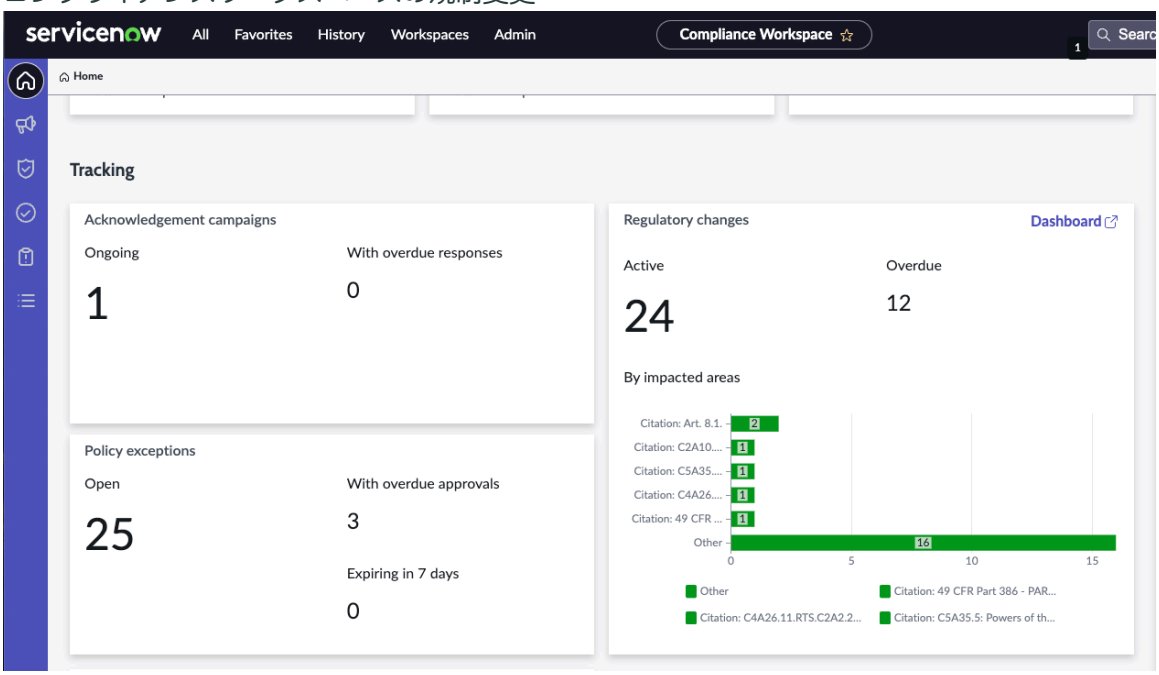
影響半径の計算

規制イベントタイプの規制アラートに影響領域を追加してユーザーにアサインし、ユーザーがアラートを適用可能としてマークすると、規制タスクが自動的に生成されます。その後、規制タスクがユーザーにアサインされます。タスクのアサインされたユーザーがタスクへの応答を選択すると、影響を受ける領域ごとにアクションタスクが生成されます。ただし、影響領域に基づいて自動的に作成されるアクションタスク以外に、アクションタスクを手動で追加することもできます。

での規制変更の表現 コンプライアンスワークスペース

コンプライアンスワークスペースが更新され、影響を受ける領域別の規制変更が表示されます。次の図は、[追跡] ウィジェットの下の [規制の変更] セクションを示しています。

コンプライアンスワークスペースの規制変更



ソースドキュメントアラートビュー

コンプライアンスワークスペース のリストビューでソースドキュメントアラートをクリックすると、新しいページにアラートの詳細が表示されます。詳細には、アラートのタイトル、アラートのプロバイダー、そのステータス、および [概要] タブと [詳細] タブのその他の重要な情報が含まれます。

ソースドキュメントアラートページには、次のタブも表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- [概要] タブ
- [詳細] タブ

タブの詳細を参照してください。

[概要] タブ

フィールド	説明
引用	ソースドキュメントアラートに関連付けられた引用。
ステッパーコンポーネント	次のステージを表示するソースドキュメントアラートのプロセスフローステッパーコンポーネント： • 新規：ソースドキュメントタイプアラートが [新規] ステータスの場合、ステッパーコンポーネントのハイライト表示されたステージは [新規] として表示されます。 • 処理中：ソースドキュメントタイプアラートのステータスが [処理中] に更新されると、ステッパーコンポーネントのハイライト表示されたステージが [処理中] として表示されます。 • クローズ済み：ソースドキュメントタイプアラートのステータスが [クローズ済み] の場合、ステッパーコンポーネントのハイライト表示されたステージが [クローズ済み] として表示されます。

[詳細] タブ

フィールド	説明
規制アラート	アラートのタイトル、アラートに関連付けられた引用、プロバイダーの URL、規制機関の URL、プロバイダーの名前、アラートのタイプ、アラートのコーディネーターなどのアラートの詳細。
日付	ソース公開日、コメントの日付、有効日、コンプライアンス日付、有効期限など、アラートに関連付けられた重要な日付の詳細。
アクティビティジャーナル	アラートに関連する追加のコメントを入力するためのテキストボックス。
追加コメントの作成 (Compose additional comments)	アクティビティに関連する追加のコメントを入力するためのテキストボックス。

分類サイドパネル：分類サイドパネルには、ソースドキュメントタイプアラートの次の分類の詳細が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 規制機関
- コンテンツタイプ
- 管轄
- テーマ
- セクター

注:
分類クラスは、レコードに値がある場合にのみ表示されます。たとえば、規制アラートに [管轄] 分類クラスの値がない場合、分類カテゴリ [管轄] は分類サイドパネルに表示されません。

規制アセスメントへの応答

スマートアセスメントエンジンを利用して、従業員センターからの規制アセスメントに対応します。

始める前に
必要なロール：sn_grc.business_user

このタスクについて
[タスク] ページに表示されるタスクは、ログインしているユーザーに固有であるため、ユーザーは自分にアサインされたすべてのタスクを完了するのに役立ちます。アセスメントの正当な回答者でない場合は、適切な回答者にアセスメントを再アサインできます。[タスク] ページで規制アセスメントを実行している間、次の情報を表示できます。

- [詳細] セクションのアセスメントの各セクションのガイダンス
- アセスメントの完了の進捗状況

手順

1. 移動先 すべて > 従業員センター > **GRC** タスク > 自分の **To Do** > オープン > 規制アセスメント.
2. アサインされたアセスメントを選択して開きます。
3. アンケートに回答します。
4. オプション: アセスメントを別の査定人に再アサインするには、次の手順を実行します。
   a. 右上の [その他のオプション] を選択します。
   b. [再アサイン] を選択します。
5. オプション: 応答中にアセスメントをキャンセルするには、[キャンセル] を選択します。
6. **[Submit** (送信)] を選択します。
7. 確認ダイアログボックスで、[送信] を選択します。
8. 成功ダイアログ ボックスで、 **[OK]** を選択します。

タスクの結果
アセスメントの開始を担当する要求者は、規制アラートの [規制アセスメント] 関連リストにアクセスして、アクティビティの進捗状況を監視できます。

規制アラートのリスクアセスメントに応答

規制アラートのクラシック版リスクアセスメントに応答して、影響を受けるエンティティと、リスクを軽減するために実行する必要があるアクションを判断します。

始める前に
必要なロール:sn_grc.business_user、sn_risk_advanced.ara_assessor

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
アセスメントを受信したときに、アセスメントの正当な回答者でない場合は、アセスメントを適切な回答者に再アサインできます。アセスメントを終了した後、アセスメントを再評価することもできます。

手順
1. 移動先 すべて > セルフサービス > 従業員センター > **GRC** タスク > 自分の **To Do** > リスクアセスメント.
2. アサインされたアセスメントを選択して開きます。
3. [アセスメントの開始] を選択します。
4. [固有のアセスメント] タブで、コンプライアンス、法務、財務などのリスクアセスメント要素をランク付けします。
   回答に基づいて、計算された固有リスクの結果が計算され、表示されます。
5. [コメントを入力してください] フィールドに、必要に応じてコメントを入力します。
6. 回答を送信するには、[送信] を選択します。
   [アセスメントのサマリー] タブには、固有リスク評価の結果が表示されます。
7. 承認のためにアセスメントを送信するには (承認者が定義されている場合)、またはアセスメントを直接公開するには、[送信] を選択します。
8. 必要に応じてコメントを入力します。
9. **[OK]** を選択します。

タスクの結果
承認者が指定されていない場合、アセスメントは [監視] ステータスに移行します。アセスメントの開始を担当する要求者は、規制アラートのリスクアセスメント関連リストにアクセスして、アクティビティの進捗状況を監視できます。承認者が定義されている場合、アセスメントはレビューに進みます。

規制アラートの影響度の評価

リスクアセスメントまたは規制アセスメントを開始して、規制アラートのリスクを評価します。

始める前に
必要なロール：sn_grc_reg_change.user

このタスクについて
次のいずれかのアセスメントを開始できます。

- 規制アセスメント: スマートアセスメントエンジンを使用します。規制アセスメントは、規制が最終決定または実装される前に、新規または更新された規制の潜在的な影響を評価するために使用されます。
- リスクアセスメント:クラシック版リスクアセスメントを使用します。リスクベースのアプローチは、直接的および間接的な影響の両方を特定して対処するために使用されます。

手順
1. 移動先 すべて > 規制変更管理 > コンプライアンスワークスペース > リスト > 規制アラート.
2. 評価する規制アラートを選択します。
3. [影響度の評価] を選択します。
4. 要件に基づいて 、[規制アセスメント] または [リスクアセスメント] のいずれかを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. [規制アセスメント] を選択した場合は、[規制の影響度を評価] ダイアログボックスで次の操作を行います。

   a. [アセスメントテンプレート] フィールドで、アセスメントに使用するテンプレートを指定します。

   b. [グループを選択] フィールドで、アセスメントの実施を担当するグループを選択します。

   c. [査定人] フィールドで、グループの個々の査定人を指定します。
   査定人に sn_grc_reg_change.user または sn_grc.business_user ロールが付与されていることを確認します。

   d. [期日] フィールドで、アセスメント完了の期日を指定します。

   e. [**Send**] を選択します。

   規制アラートレコードの [規制アセスメント] 関連リストに、新しい規制アセスメントが一覧表示されます。

6. [エンティティ] リストから [リスクアセスメント] を選択した場合は、影響度評価が必要なエンティティを選択します。

   a. [**Send**] を選択します。
   リスク査定人であるエンティティオーナーに sn_risk_advanced.ara_assessor ロールがあることを確認します。
   規制アラートレコードの [リスクアセスメント] 関連リストに、新しい影響度評価が一覧表示されます。

規制イベントアラートの手動作成

規制の変更または更新の手動エントリを作成して、適切な対象分野の専門家にルーティングしてさらに分析できるようにします。

始める前に

必要なロール：sn_grc_reg_change.manager

このタスクについて

sn_grc_reg_change.manager ロールを持つユーザーは、規制アラートを手動で作成できます。規制アラートを手動で作成すると、次のメリットがあります。

- 人間の本能的なエラーを正確に認識して修正します。
- アドホックまたは送信された規制イベントアラートを該当分野の専門家にアサインして、さらにレビューおよび分析することで、説明責任を確保します。
- システムに手動で入力されたデータが高品質で整合性が高いことを確認してください。

手順

1. 移動先 すべて > 規制変更管理 > コンプライアンスワークスペース > 規制アラート > アサインされていないアラート.

   規制変更管理 アプリケーションに コンプライアンスワークスペースが表示されます。

2. [新規] を選択します。
   [新しい規制アラートの作成] フォームが表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

3. [詳細] タブで、フォームに入力します。

新しい規制アラートフォームの作成

フィールド	説明
タイトル	規制アラートの簡単なサマリータイトル。
ソース	規制イベントレコードを作成するために識別されたデータソースタイプを表示します。入力ソースタイプのデフォルトのオプションは [手動] です。 注: このフィールドは、内部レポートおよびビジネス構成管理の目的で編集できるようにロックされています。
タイプ	規制アラートのタイプ。
説明	イベントの説明とサマリー。
プロバイダー	アラートプロバイダーの名前。 注: このフィールドは、内部レポートおよびビジネス構成管理の目的で編集できるようにロックされています。
プロバイダー URL	プロバイダーから受信したアラートの URL。
規制機関 URL	アラートに関連付けられている規制機関の URL。
コーディネーター	アラートがアサインされているユーザー。
全体的な影響度	アラートの全体的な影響度。
日付	
ソース公開日	規制イベントが規制機関によって公開された日付。
コメントの日付	規制イベントのコメントを指定できる期限。
有効日	規制イベントが適用可能になる日付。
コンプライアンス日付	規制イベントが準拠する日付。
有効期限	規制イベントの有効期限。
アクティビティジャーナル	
追加コメント	アラートに関連する追加コメント。

注:
Yokohama リリース以降、フォームの分類セクションは新規インストールでは使用できません。

4. [コーディネーター] フィールドで、sn_grc_reg_change.user ユーザーロールを持つコーディネーターに規制イベントアラートをアサインし、[保存] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

タスクの結果
規制イベントアラートが選択したコーディネーターにアサインされます。

次のタスク
「規制イベントアラートの一括インポート」および「規制フィードの影響度の評価」。

規制イベントアラートのコーディネーターへのアサイン

GRC：規制変更管理 アプリケーションにログインし、規制イベントアラートを確認して詳細を更新し、それをコーディネーターにアサインします。

始める前に
必要なロール：sn_grc_reg_change.manager、sn_grc_reg_change.user

このタスクについて
次の手順の手順 4 以降では、sn_grc_reg_change.manager ロールまたは sn_grc_reg_change.user ロールを持つユーザーが実行できるさまざまなアクションについて説明しています。

手順

1. sn_grc_reg_change.manager ユーザーロールを使用してログインします。
2. 移動先 すべて > 規制変更管理 > コンプライアンスワークスペース.
   規制変更管理 アプリケーションに コンプライアンスワークスペースが表示されます。
3. 移動先 リスト > アサインされた規制アラート なります。
4. [アサイン済みアラート (Assigned Alerts)] リストで、規制イベントアラートを選択します。
   選択した規制イベントアラートの詳細ビューが表示されます。
5. [詳細] タブで、フィールドに入力します。

[詳細] タブ

フィールド	説明
タイトル	プロバイダーから受信したアラートのタイトル。このフィールドは、タイトルを表示するように自動的に設定されます。
説明	イベントの説明とサマリー。このフィールドは、説明を表示するように自動的に設定されます。
プロバイダー URL	プロバイダーから受信したアラートの URL。このフィールドは、プロバイダーの URL を表示するように自動的に設定されます。
規制機関 URL	アラートに関連付けられている規制機関の URL。このフィールドは、規制機関の URL を表示するように自動的に設定されます。
プロバイダー	アラートプロバイダーの名前。このフィールドは、アラートプロバイダーの名前を表示するように自動的に設定されます。
タイプ	規制アラートのタイプ。このフィールドは、アラートのタイプを表示するように自動的に設定されます。
コーディネーター	アラートがアサインされているユーザー。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
全体的な影響度	アラートの全体的な影響度。
日付	
ソース公開日	規制イベントが規制機関によって公開された日付。このフィールドは、ソース公開日を表示するように自動的に設定されます。
コメントの日付	規制イベントのコメントを指定できる期限。このフィールドは、コメントの日付を表示するように自動的に設定されます。
有効日	規制イベントが適用可能になる日付。このフィールドは、有効日を表示するように自動的に設定されます。
コンプライアンス日付	規制イベントが準拠する日付。このフィールドは、コンプライアンス日付を表示するように自動的に設定されます。
有効期限	規制イベントの有効期限。このフィールドは、有効期限を表示するように自動的に設定されます。
系列データ	
シリーズ名	アラートのシリーズ名。このフィールドは、プロバイダーからのシリーズ名を表示するように自動的に設定されます。
順序番号	アラートの順序番号。このフィールドは、プロバイダーからの順序番号を表示するように自動的に設定されます。
アクティビティジャーナル	
追加コメント	アラートに関連する追加コメント。
作成	
[作成] セクション	アラートに関連する追加コメント。
アクティビティ	アラートに関連するアクティビティのログ。
ハイライト表示された詳細	
分類	アラートに関連付けられた分類の詳細。このフィールドは、アラートの分類の詳細を表示するように自動的に設定されます。

注:
ServiceNow® Yokohama リリース以降、フォームの分類セクションは新規インストールでは使用できません。

6. [コーディネーター] フィールドで、sn_grc_reg_change.user ユーザーロールを持つコーディネーターに規制イベントアラートをアサインし、[保存] をクリックします。

タスクの結果
規制イベントアラートが選択したコーディネーターにアサインされます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
規制フィードの影響度の評価

規制フィードの影響度の評価

規制イベントアラートのアセスメントを作成して、規制イベントアラートの影響を評価します。アラートの影響を受けるビジネスエンティティのオーナーに影響度評価をアサインします。

始める前に
必要なロール：sn_grc_reg_change.user

このタスクについて
sn_grc_reg_change.user ロールを持つユーザーは、規制イベントアラートを確認し、アラートの影響度評価を開始できます。

手順

1. sn_grc_reg_change.user ロールを使用してログインします。
2. 移動先 すべて > 規制変更管理 > コンプライアンスワークスペース.
   規制変更管理 アプリケーションに コンプライアンスワークスペースが表示されます。
3. 移動先 リスト > アサインされた規制アラート なります。
4. アラートのコーディネーターとしてアサインされている規制イベントタイプのアラートを選択します。
5. [影響度評価を開始] をクリックします。
6. 影響度評価の [エンティティ] リストから任意のエンティティを選択し、[アセスメントを作成] をクリックします。

   注:
   フォームはまだワークスペースに移行されていないため、クラシックユーザーインターフェイスで規制イベントアラートの影響度評価を実行します。詳細については、「規制アラートの影響度の評価」を参照してください。

   エンティティが設定されていない場合は、新しいエンティティを設定できます。

タスクの結果
[影響度評価] 関連リストに、新しい影響度評価が一覧表示され、エンティティオーナーに自動的にアサインされます。エンティティオーナーがそれをレビューし、アセスメントに関するフィードバックを送信します。アセスメントが完了すると、計算された固有リスクが [アセスメントのサマリー] タブに表示されます。エンティティオーナーが影響度評価で [完了としてマーク] をクリックすると、アセスメントの詳細が保存され、完了としてマークされます。

次のタスク
アラートを適用可能としてマークし、規制変更タスクを管理する方法については、「規制変更タスクの管理」を参照してください。

規制変更タスクの管理

規制イベントアラートに関連付けられている規制変更タスクを管理します。ビジネスエンティティオーナーが規制イベントアラートの影響度評価を完了すると、sn_grc_reg_change.user ロールを持つユーザーが、アセスメントサマリーをレビューし、アラートを適用可能としてマークします。

始める前に
必要なロール：sn_grc_reg_change.manager、sn_grc_reg_change.user

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
規制イベントアラートのコーディネーターは、規制変更に準拠するための手順を特定し、規制変更タスクを管理します。

手順

1. 移動先 すべて > 規制変更管理アプリケーション > コンプライアンスワークスペース.
   規制変更管理 アプリケーションに コンプライアンスワークスペースが表示されます。
2. 移動先 リスト > 規制アラート なります。
3. ビジネスエンティティオーナーがアセスメントを完了した規制イベントアラートを選択します。
4. 影響度評価を確認し、次のいずれかのオプションを使用してアラートをマークします。

5. 該当するアラートの [規制タスク] 関連リストをクリックし、そのアラートに対して自動的に作成された規制変更タスクをクリックします。
6. [詳細] タブで、フィールドに入力します。

規制変更タスクフォーム

フィールド	説明
規制変更タスク	
規制アラート	ソースドキュメントのインポートタスクに関連付けられた規制アラートのタイトル。このフィールドは、アラートのタイトルを表示するように自動的に設定されます。
説明	ソースドキュメントのインポートタスクに関連する説明。
アサイン	
アサイン先グループ	レコードのアサイン先グループ。グループは [グループ階層] テーブルから選択されます。
承認者タイプ	タスクの承認者タイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ ユーザー ○ グループ
アサイン先	規制変更がアサインされているユーザー。
承認者	承認者タイプがグループの場合、[承認者グループ] フィールドが表示されます。
承認者グループ	承認者タイプがユーザーの場合、[承認者] フィールドが表示されます。
スケジュール	
期日	ソースドキュメントまたは規制イベントアラートインポートタスクの期日。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
承認日	ソースドキュメントのインポートタスクが承認された日付。このフィールドは、承認の日付を表示するように自動的に設定されます。
アクティビティジャーナル	
ウォッチリスト	このタスクのウォッチャーとして追加するユーザー。
作業メモリスト	このタスクの作業メモを追加したユーザー。
作業メモ (プライベート)	タスクに関連する作業メモ。
作成	
作業メモ	ユーザーが入力した作業メモ。これらの作業メモは参照用に投稿できます。
アクティビティ	
アクティビティ	タスクのアクティビティとステータス。
添付ファイル	
添付ファイル	タスクに関連する添付ファイル。

7. [承認者]、[アサイン先]、[期日] などの必須フィールドが更新されていることを確認します。
8. [応答] をクリックします。
   [応答] アクションは、バックグラウンドで影響半径の計算をトリガーします。影響半径の計算の詳細については、「規制イベントタイプの規制アラートの影響半径」を参照してください。規制変更タスクが [応答済み] ステータスに更新されます。
9. 必要に応じてアクションタスクを追加します。
   アクションタスクの作成については、「アラートの新しいアクションタスクの作成」を参照してください。
10. 必要に応じて問題を追加します。
    詳細については、「規制タスクに関連付けられる問題の作成または追加」を参照してください。
11. 必要なアクションタスクと問題を作成したら、[承認を要求] をクリックします。
    承認のステータスに応じて、アクションタスクが有効になります。アクションタスクがクローズされると、関連付けられているソースドキュメントのインポートタスクが自動的にクローズされます。

タスクの結果

規制変更タスクが [応答済み] ステータスに更新され、規制イベントアラートの [アクションタスク] 関連リストが表示されていることを確認します。

次のタスク

アラートの新しいアクションタスクの作成

規制変更タスクフォーム

コンプライアンスワークスペースの規制変更タスクフォームを使用して、規制変更タスクを作成します。

規制変更タスクフォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

規制変更タスクフォーム

フィールド	説明
全般	
名前	規制変更タスクの名前。
説明	規制変更タスクに関連する説明。
規制アラート	
規制アラート	規制変更タスクに関連付けられた規制アラートのタイトル。このフィールドは、アラートのタイトルを表示するように自動的に設定されます。
説明	関連付けられた規制アラートの説明。このフィールドは、アラートの説明を表示するように自動的に設定されます。
分類	
タイプ	規制変更タスクのタイプ: • なし • ビジネス変更 • 引用の修正 • コントロールの更新 • ポリシーリビジョン • 規制レポート • トレーニングのリビジョン • その他
優先度	規制変更タスクの優先度: • なし • 1：重大 • 2：高 • 3：中 • 4：低 • 5：計画中
アサイン	
アサイン先グループ	レコードのアサイン先グループ。グループは [グループ階層] テーブルから選択されます。
承認基準	選択肢は次のとおりです。 • ユーザー • グループ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

規制変更タスクフォーム (続く)

フィールド	説明
アサイン先	規制変更がアサインされているユーザー。
承認者	承認者タイプがグループの場合、[承認者グループ] フィールドが表示されます。
承認者グループ	承認者タイプがユーザーの場合、[承認者] フィールドが表示されます。
スケジュール	
期日	ソースドキュメントまたは規制イベントアラートインポートタスクの期日。
承認日	ソースドキュメントのインポートタスクが承認された日付。このフィールドは、承認の日付を表示するように自動的に設定されます。
締め切り	規制変更タスクがクローズされた日付。
アクティビティジャーナル	
ウォッチリスト	このタスクのウォッチャーとして追加するユーザー。
作業メモを次に制限	作業メモを制限するユーザー。
作業メモ (プライベート)	タスクに関連する作業メモ。
応答メモ	応答メモを表示します。
添付ファイル	
添付ファイル	タスクに関連する添付ファイル。

自動翻訳

ソースドキュメントのインポートタスクの管理

ソースドキュメントアラートに関連付けられているソースドキュメントのインポートタスクを管理します。ソースドキュメントアラートが適用可能としてマークされると、ソースドキュメントのインポートタスクが自動的に作成されます。

始める前に

必要なロール：sn_grc_reg_change.manager、sn_grc_reg_change.user

このタスクについて

ソースドキュメントのインポートタスクは、プロバイダーから受信した特定のソースドキュメントを規制ライブラリに取り込むために使用されます。

手順

1. 移動先 すべて > 規制変更管理アプリケーション > コンプライアンスワークスペース.
   規制変更管理 アプリケーションに コンプライアンスワークスペースが表示されます。
2. 移動先 リスト > 規制アラート なります。
3. 以前に評価したソースドキュメントアラートを選択し、[インポートドキュメントタスク] をクリックします。
4. [詳細] タブで、フィールドに入力します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソースドキュメントのインポートタスクフォーム

フィールド	説明
インポートドキュメントタスク	
規制アラート	インポートドキュメントタスクに関連付けられた規制アラートのタイトル。このフィールドは、アラートタイトルを表示するように自動的に設定されます。
説明	インポートドキュメントタスクに関連する説明。
アサイン	
アサイン先グループ	レコードのアサイン先グループ。グループは [グループ階層] テーブルから選択されます。
承認者タイプ	タスクの承認者タイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ ユーザー ○ グループ
アサイン先	タスクがアサインされているユーザー。
[承認者] または [承認者グループ]	承認者タイプがグループの場合、[承認者グループ] フィールドが表示されます。 承認者タイプがユーザーの場合、[承認者] フィールドが表示されます。
スケジュール	
期日	ソースドキュメントのインポートタスクの期日。
承認日	ソースドキュメントのインポートタスクが承認された日付。このフィールドは、承認の日付を表示するように自動的に設定されます。
アクティビティジャーナル	
ウォッチリスト	このタスクのウォッチリストに含まれているユーザー。
作業メモリスト	このタスクの作業メモに含まれているユーザー。
作業メモ (プライベート)	タスクに関連する作業メモ。
作成	
作業メモ	ユーザーが入力した作業メモ。これらの作業メモは参照用に投稿できます。
アクティビティ	
アクティビティ	タスクのアクティビティとステータスを表示します。自動入力フィールド。
添付ファイル	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
添付ファイル	タスクに関連する添付ファイル。

5. [アサイン先]、[承認者]、[期日] のフィールドが更新されていることを確認します。
6. 変更を保存するには、[保存] をクリックします。
7. 選択したソースドキュメントのインポートタスクを更新するには、[対応中] をクリックします。
8. [アクションタスク] 関連リストに移動し、必要に応じてアクションタスクを追加します。
   新規アクションタスクの作成については、「アラートの新しいアクションタスクの作成」を参照してください。
9. [問題] 関連リストに移動し、必要に応じて問題を追加します。
   問題の追加については、「規制タスクに関連付けられる問題の作成または追加」を参照してください。
10. [インポートタスク] セクションで、新しい引用を挿入するか、表の説明に従って既存の引用を更新します。
11. [承認を要求] をクリックします。

タスクの結果

ソースドキュメントのインポートタスクの状況が [承認待ち] に更新されます。承認のステータスに応じて、アクションタスクが有効になります。

次のタスク

新しいアクションタスクの作成と、アラートに関連付けられたアクションタスクの完了については、「アラートの新しいアクションタスクの作成」および「アラートに関連付けられたアクションタスクの完了」を参照してください。

ソースドキュメントアラートをコーディネーターにアサインする

GRC：規制変更管理 アプリケーションにログインし、ソースドキュメントアラートを確認して、それをコーディネーターにアサインします。コーディネーターは、アラートの適用性を評価し、関連する規制タスクを完了します。

始める前に

必要なロール：sn_grc_reg_change.manager、sn_grc_reg_change.user

このタスクについて

マネージャーは、ソースドキュメントアラートを表示し、sn_grc_reg_change.user ロールを持つユーザーにアサインすることができます。その後、ユーザーはソースドキュメントアラートに対してアクションを実行できます。

手順

1. sn_grc_reg_change.manager ユーザーロールを使用してログインします。
2. 移動先 すべて > 規制変更管理 > コンプライアンスワークスペース.
   規制変更管理 アプリケーションに コンプライアンスワークスペースが表示されます。
3. 移動先 リスト > アサインされた規制アラート なります。
4. リストでソースドキュメントタイプアラートを選択します。
5. [詳細] タブで、フィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソースドキュメントアラートフォームの [詳細] タブ

フィールド	説明
タイトル	プロバイダーから受信したソースドキュメントタイプのアラートのタイトル。このフィールドは、タイトルを表示するように自動的に設定されます。
引用	プロバイダーから受信したソースドキュメントの引用番号。このフィールドは、引用を表示するように自動的に設定されます。
プロバイダー URL	アラートプロバイダーの URL。このフィールドは、プロバイダーの URL を表示するように自動的に設定されます。
規制機関 URL	アラートに関連付けられている規制機関の URL。このフィールドは、規制機関の URL を表示するように自動的に設定されます。
プロバイダー	アラートプロバイダーの名前。このフィールドは、プロバイダーの名前を表示するように自動的に設定されます。
タイプ	規制アラートのタイプ。ソースドキュメントアラートなどです。このフィールドは、アラートのタイプを表示するように自動的に設定されます。
コーディネーター	アラートがアサインされているユーザー。
日付	
ソース公開日	アラートが規制機関によって公開された日付。自動入力フィールド。このフィールドは、ソース公開日を表示するように自動的に設定されます。
コメントの日付	アラートのコメントを指定できる期限。自動入力フィールド。このフィールドは、コメントの日付を表示するように自動的に設定されます。
有効日	アラートが適用可能になる日付。このフィールドは、有効日を表示するように自動的に設定されます。
コンプライアンス日付	アラートが準拠する日付。このフィールドは、コンプライアンス日付を表示するように自動的に設定されます。
有効期限	アラートの有効期限。このフィールドは、有効期限を表示するように自動的に設定されます。
アクティビティジャーナル	
追加コメント	アラートに関連する追加コメント。
作成	
追加コメント	[作成] セクションで追加されたアラートに関連する追加コメント。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
アクティビティのログ	アラートに関連するアクティビティのログ。システムによって生成された変更と追加のコメントを表示します。
ハイライト表示された詳細	
分類	アラートに関連付けられた分類の詳細。このフィールドは、アラートの分類の詳細を表示するように自動的に設定されます。

6. [コーディネーター] フィールドで、 sn_grc_reg_change.user ユーザーロールを持つユーザーにアサインします。
7. sn_grc_reg_change.manager ロールでログインし、選択したソースドキュメントアラートを開き、次のいずれかのオプションを使用してアラートをマークします。

タスクの結果
ソースドキュメントアラートを [適用可能] としてマークすると、[インポートドキュメントタスク] 関連リストに新しいソースドキュメントのインポートタスクが作成されます。

アラートの新しいアクションタスクの作成

アラートの新しいアクションタスクを作成して、アクションタスクをコンプライアンスユーザーとリスクユーザーにアサインし、アクションタスクの期日をマークできるようにします。

始める前に
必要なロール：sn_grc_reg_change.user

このタスクについて
sn_grc_reg_change.user ロールを持つユーザーは、コンプライアンスやリスクなどのアラートのアクション領域に応じて、選択したアクションタスクを sn_compliance.manager および sn_risk.manager ロールを持つユーザーにアサインします。コンプライアンスユーザーとリスクユーザーがアラートに関連付けられたアクションタスクを完了すると、アラートと親の規制変更タスクが自動的にクローズされます。

手順

1. 移動先 すべて > 規制変更管理 > コンプライアンスワークスペース.
   規制変更管理 アプリケーションに コンプライアンスワークスペースが表示されます。
2. リストビューで、次の場所に移動します: リスト > 規制アラート > アサイン済みアラート なります。
3. アラートのタイプに応じて、次のいずれかのタスクを完了します。

4. [アクションタスク] 関連リストに移動し、[新規] をクリックします。

> **注:**
> 規制タスクが [新規]、[対応中]、または [実装] ステータスの場合にのみ、新しいアクションタスクを作成できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクションタスクフォーム

フィールド	説明
全般	
名前	アクションタスクの名前。
説明	アクションタスクに関連する説明。
分類	
タイプ	アクションタスクのタイプ: ○ なし ○ ビジネスへの影響度 ○ ポリシーの変更 ○ エグゼクティブブリーフィング ○ 法務レビュー ○ 通知 ○ その他
優先度	アクションタスクの優先度: ○ なし ○ 1：重大 ○ 2：高 ○ 3：中 ○ 4：低 ○ 5：計画中
影響の領域	
影響を受ける規制アイテム	影響を受ける規制アイテムを取得するテーブル。例:コントロール目標。
影響領域	選択したテーブルの特定の影響領域。たとえば、影響を受ける規制アイテムでコントロール目標を選択した場合、 **SURF** から **SAP** 目標コントロール目標への **SOX-GLC-66** 場所コード/内部注文要求インターフェイス を選択できます。
アサイン	
アサイン先グループ	アクションタスクにアサインされたグループ。このフィールドは、アサイン先グループを表示するように自動的に設定されます。
アサイン先	タスクにアサインされたユーザー。このフィールドは、タスクのアサイン先を表示するように自動的に設定されます。
スケジュール	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
期日	アクションタスクを完了する必要がある日付。
締め切り	アクションタスクがクローズされた日付。
その他詳細	
タイトル	規制アラートのタイトル
説明	規制アラートの説明
規制タスク	規制タスクの一意の識別番号。このフィールドは、規制タスクの識別番号を表示するように自動的に設定されます。
アクティビティジャーナル	
ウォッチリスト	更新に関する通知を受け取るユーザーのリスト。
作業メモを次に制限	作業メモを制限するユーザー。
作業メモ (プライベート)	作業メモのログ。
応答メモ	応答メモを表示します。
添付ファイル	
添付ファイル	タスクに関連する添付ファイル。

5. アクションタスクフォームで、必須フィールドが更新されていることを確認します。
   アクションタスクは、sn_compliance.manager または sn_risk.manager のユーザーに対してマークされます。
6. 変更を保存するには、[保存] を選択します。

タスクの結果
アクションタスクは、sn_compliance.manager または sn_risk.manager ロールを持つユーザーに対してマークされます。

次のタスク
アラートに関連付けられたアクションタスクの完了

アラートに関連付けられたアクションタスクの完了

規制イベントアラートとソースドキュメントアラートに関連付けられているアクションタスクを完了します。コンプライアンスユーザーとリスクユーザーは、自分にアサインされたアクションタスクを完了します。コンプライアンスマネージャーとリスクマネージャーは、アクションタスクの進捗状況を追跡します。

始める前に
必要なロール：
sn_compliance.manager、sn_risk.manager、sn_compliance.user、sn_risk.user、sn_grc_reg_change.manage

このタスクについて
アクションタスクは、規制変更タスクおよびソースドキュメントのインポートタスクの一部として識別された変更を完了するためのフォローアップとして作成されます。
次の手順で説明するアクション
は、sn_compliance.manager、sn_risk.manager、sn_compliance.user、sn_risk.user、および sn_grc_reg_change.manager ロールを持つユーザーによって実行されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. sn_compliance.manager または sn_risk.manager ユーザーロールでログインします。
2. 移動先 すべて > 規制変更管理 > コンプライアンスワークスペース.
   規制変更管理 アプリケーションに コンプライアンスワークスペースが表示されます。
3. リストビューで、次の場所に移動します: リスト > 規制アラート > アサイン済みアラート なります。
4. マークされたアクションタスクに移動します。
5. テーブルの説明に従って、アクションタスクをアサインします。
6. テーブルの説明に従って、アクションタスクを完了します。
7. テーブルの説明に従って、アクションタスクのステータスを確認します。

タスクの結果
sn_compliance.user ロールまたは sn_risk.user ロールを持つユーザーがアクションタスクを完了すると、規制イベントアラートと親の規制変更タスクが自動的にクローズされます。同様に、関連するアクションタスクが完了すると、ソースドキュメントアラートと親ソースドキュメントのインポートタスクがクローズされます。これは、規制タスクワークフローの最後のステップです。

規制タスクに関連付けられる問題の作成または追加

規制タスクに関連する問題を作成または追加して、観察事象、引用の変更、不一致を文書化したり、問題を通知したりします。問題のソースを特定して、問題の分析と分類を行うこともできます。

始める前に
必要なロール：sn_grc_reg_change.manager、sn_grc_reg_change.user

手順

1. 移動先 すべて > 規制変更管理アプリケーション > コンプライアンスワークスペース > 規制アラート.
   コンプライアンスワークスペース の 規制変更管理 アプリケーションが表示されます。
2. 規制変更タスクフォームで、[問題] タブに移動します。

   既存の問題を規制タスクに追加するか、規制タスクに関連付ける問題を作成できます。
3. [保存] をクリックします。

[新規問題を作成] フォーム

コンプライアンスワークスペース の [新規問題の作成] フォームを使用して、問題を作成するか、既存の問題を規制タスクに追加します。

新規問題を作成フォーム

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規問題を作成フォーム

フィールド	説明
問題	
数値	問題の番号。このフィールドは自動入力されます。
名前	問題の名前。
問題ソース	問題のソース (ビジネスサービスやシナリオ分析など)。このフィールドは自動入力されます。
問題タイプ	問題が作成されたソース。このフィールドには、問題の作成方法に基づいて次のいずれかのオプションが自動的に入力されます。 • コントロール設計有効性の問題 • コントロール運用有効性の問題 • コントロールは要件を満たしていません • コントロールが存在しません • 規制への非準拠 • ポリシーへの非準拠 • 既存のポリシーに対する改善または提案 • 新しいポリシーの推奨事項 • プロセス最適化または改善 • 観測事象 • データ漏洩 • 詐欺 • 虚偽 • トレーニング • ドキュメント
分類	問題の分類。このフィールドには、次のいずれかのオプションが自動的に入力されます。 • 監査 • Compliance • Operational Resilience • リスク • ベンダー
場所	問題の場所。
状況	問題のステータス。使用可能なオプションは次のとおりです。 • 新規 • 分析 • 応答

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規問題を作成フォーム (続く)

フィールド	説明
	• 評価 • 完了してクローズ • 未完了でクローズ
サブステート	問題のサブステート。このフィールドは自動入力されます。
優先度	問題の優先度。使用可能なオプションは次のとおりです。 • 重大 • 高 • 中 • 低 • 計画
問題評価	問題の評価。使用可能なオプションは次のとおりです。 • 非常に高 • 高 • 中 • 低 • 超低
説明	シナリオ分析計画の承認者。
アサイン	
アサイン先グループ	問題のアサイン先グループ。例：アプリケーション開発グループ
アサイン先	問題がアサインされるユーザー。
問題マネージャーグループ	問題がアサインされるマネージャーグループ。使用可能なオプションは次のとおりです。 • コンプライアンスマネージャー • IT リスクマネージャー • リスクマネージャー
問題マネージャー	問題がアサインされるマネージャー。
ウォッチリスト	問題のウォッチリストに含まれているユーザー。
スケジュール	
期日	問題の期日。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規問題を作成フォーム (続く)

フィールド	説明
確認日	問題の確認日。このフィールドは自動入力されます。
開始予定日	問題の開始予定日。
終了予定日	問題の終了予定日。
期間	日、時、分、秒単位での問題の期間。
作成済み	問題が作成された日付。このフィールドは自動入力されます。
クローズ済み	問題がクローズされた日付。
実開始日	問題の実際の開始日。
実終了日	問題の実際の終了日。
実際の期間	日、時、分、秒単位での問題の実際の期間。
問題のグループ化	
ペアレントレコード	問題に関連付けられている親問題。
問題グループルール	問題のグループルール。このフィールドは自動入力されます。
アクションプラン	
推奨事項	問題の推奨事項。
アクションプラン	問題のアクションプラン。
アクティビティ	
作業メモ	問題の作業メモ。
追加コメント	問題の追加コメント。
設定	
機能ドメイン	問題の機能ドメイン。

AI が推奨する引用をオープン規制アラートに関連付ける

GRC: 予測インテリジェンス アプリケーションと、AI が推奨する引用を使用する類似性ソリューションモデルを使用して、引用をオープン規制アラートに関連付けます。コンプライアンスチームは、受信した規制アラートをチェックして、引用または要件が組織に適用されているかどうかを判断できます。

引用を規制アラートに関連付けることの概要

従来、サブスクリプションライセンスを持っている場合、サードパーティプロバイダーから引用をダウンロードするか、コンプライアンスワークスペース を使用して各種法令・基準等から引用を作成できました。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

注:
各種法令・基準等は、組織が準拠する必要がある法律、規制、標準などの外部規制を含むドキュメントです。

引用は、ビジネスが準拠する必要がある各種法令・基準等からの一節または表現です。これは、各種法令・基準等内の個別の要件です。

AI と機械学習 (ML) を使用して、規制アラートに追加する引用を自動的に提案する類似性ソリューション モデルをトレーニングできるようになりました。引用は、予測が正しいという信頼度レベルを示す信頼スコアに基づきます。スコアが高いほど、一致が正しい確率が高いことを意味します。

ガバナンス、リスク、コンプライアンス:予測インテリジェンスアプリケーションは AI と ML を使用して、引用を追加するGRCアプリケーションをよりスマートにします。これらの提案は、推奨される引用を元にした信頼スコアに基づいています。

sn_compliance_admin ロールを持つユーザーは、GRC: 予測インテリジェンス アプリケーションをその依存関係とともにインストールした後、ソリューション定義をトレーニングする必要があります。 ml_admin ロールを持つユーザーは、ソリューション定義をカスタマイズすることもできます。この変更は、[sn_complaince_citation] および [sn_grc_reg_change_reg_feed] テーブルのデータに基づいています。sn_compliance_adminロールを持っている場合は、類似結果を取得するために使用するデータをリフレッシュする頻度を選択できます。ソリューション定義の詳細については、「 https://servicenow.com/docs/bundle/xanadu-customer-service-management/page/product/customer-service-management/reference/similar-cases-solution-definitions.html 」を参照してください。

引用を規制アラートに関連付ける主なメリット

AI が推奨する引用 をオープン規制アラートに関連付けることで、組織には次の主なメリットがあります。

- 効果的なレポート作成のために規制コンプライアンスマッピングが強化されます。
- 受信規制アラートにマッピングされている引用を特定して検出するために、自社コンプライアンス チームが 手作業する労力が削減されます。

AI が推奨する引用カードを規制アラートに関連付けると表示される内容

AI を使用して推奨される引用カードを規制アラートに関連付けると、次の詳細が表示されます。

- 推奨される引用の信頼スコア。
- 引用と各種法令・基準等にリンクする引用名と各種法令・基準等名。リンクは別のウィンドウで開くことができます。
- 推奨事項を無視するオプション。
- 推奨事項を関連付けるオプション。
- ユーザーが推奨事項を追加または無視した日付など、規制アラートに対して実行されたアクションの履歴を表示できる履歴アイコン。

規制変更管理 のアクションタスク

変更管理プロセスを容易にするアクションタスクは、規制変更に関連付けられています。これらのアクションタスクの所有権は、規制変更によって影響を受けるそれぞれの事業主により管理されます。

アクションタスクは、規制変更タスクとソースドキュメントのインポートタスクに関連付けられます。sn_grc_reg_change.manager、sn_grc_reg_change.user、または sn_grc_reg_change.admin ロールを持つユーザーは、規制アクションタスクとソースドキュメントのインポートタスクを作成します。これらのタスクは、GRC ライブラリのコンプライアンスおよびリスク領域に関連していま

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

す。コンプライアンスマネージャーとリスクマネージャーは、適切なリスクグループまたはコンプライアンスグループにタスクをアサインします。

規制変更管理 アプリケーションのアクションタスクには 2 つのカテゴリがあります。

- コンプライアンス：すべてのコンプライアンス関連のアクションタスクが含まれます。コンプライアンスユーザーは、GRC ライブラリ内の特定のコンプライアンスレコード (ポリシーやコントロールなど) を選択できます。
- リスク：すべてのリスク関連アクションタスクが含まれます。リスクユーザーは、GRC ライブラリ内の特定のリスクレコード (リスクステートメントなど) を選択できます。

影響を受ける可能性があるリスクステートメントやポリシーに対して、アクションタスクが自動的に作成されます。

sn_grc_reg_change.manager ロールを持つマネージャーは、次のタブを使用してアクションタスクを表示およびソートできます。

- すべてのアサイン済みタスク
- 未アサインのコンプライアンスタスク
- 未アサインのリスクタスク
- 準備完了タスク
- 処理中のタスク
- クローズ済みタスク

Yokohama リリース以降は、sn_grc_reg_change.manager ロールがアサインされたユーザーからの事前承認を必要とせずに、アクションタスクを個別に開始および完了できます。アサインされた責任をタイムリーに実行し、不要な承認のボトルネックを減らすことができます。アクションタスクへのアクセスは、適切な説明責任と監視を確保するために、引き続きユーザー権限とロールベースのアクセス制御によって管理されます。

Yokohamaリリース以降、規制タスクが却下されて [実装] ステータスに戻ったときに、規制タスクのアクションタスクを再オープンできます。フィードバックに対処するため、または更新された要件を組み込むために、タスクをレビューおよび修正することができます。変更タスクを再送信する前に、再オープンされたアクションタスクを変更して再送信し、実装が規制上の期待に沿うようにすることもできます。

アクションタスクのタイプ

規制変更管理 では、次のタイプのアクションタスクを使用できます。

- ビジネスへの影響度
- ポリシーの変更
- エグゼクティブブリーフィング
- 法務レビュー
- 通知
- その他
- なし

規制イベントアラートの一括インポート

自分の規制イベントアラートを ワークスペース に入力します。これで複数のアラートを 規制変更管理 アプリケーションにインポートできるようになります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

このタスクについて
規制アラートの一括インポートには、次のようなメリットがあります。

- 時間と労力の節約。
- データを手動で入力する必要がなくなるため、エラーが削減されます。
- サイズに関係なくデータをすぐに利用できるようにすることで、スケーラビリティとデータの可視化が向上します。
- インサイトを得るためのデータアナリシスとレポート機能を強化します。

始める前に
必要なロール：sn_grc_reg_change.admin、sn_grc_reg_change.it_admin

このタスクについて
データをインポートする前に、次のチェックリストを確認する必要があります。

- アラートをインポートするためのアクセス権と権限があることを確認してください。適切なアクセス許可がない場合、UI では [データのインポート (Import data)] リンクが非表示になります。
- サポートされているファイル形式は .xls と .xlsx です。添付ファイルはすべて、データから分離する必要があります。.xlsファイルと.xlsxファイルに、組み合わせフィルターや埋め込み画像などの特別なコントロールが含まれている場合、予期しないエラーが発生することがあります。
- インポートするファイルのデータを <script> </script> タグで囲まないでください。
- 必須 (必要な) フィールドには、それぞれ値が含まれている必要があります。インポートファイルの必須フィールドを空白のままにしないようにしてください。たとえば、情報をインポートする場合は、各レコードに名前を含める必要があります。必須フィールドをマッピングせずに次のステップに進むことはできません。
- ドロップダウンリストに表示されるデータ値はすべて、対応するフィールドに入っていなければなりません。
- ソースファイル内のデータ (レコード) の最初の行に、実際のデータ値ではなく列見出しまたはフィールド名が含まれていることを確認してください。これらの列見出しまたはフィールド名は、アプリケーションの既存のフィールドに新しいデータをマッピングするときに、データを識別するのに役立ちます。

手順

1. admin ロールでログインし、 すべて > 規制変更管理 > 規制アラート リストビュー。
2. [テンプレートをダウンロード] を選択します。
   フォーマットを整え、整理されて、データ値が入力されているビルド済みのスプレッドシートまたはワークブックをダウンロードします。ファイルのデータ入力シートには、[タイトル] や [タイプ] など、入力が必須とされる列が表示されます。テンプレートの [フィールドの説明] シートには、これらの各フィールド属性に関する詳細情報が表示されます。詳細については、「規制イベントアラートの手動作成」を参照してください。

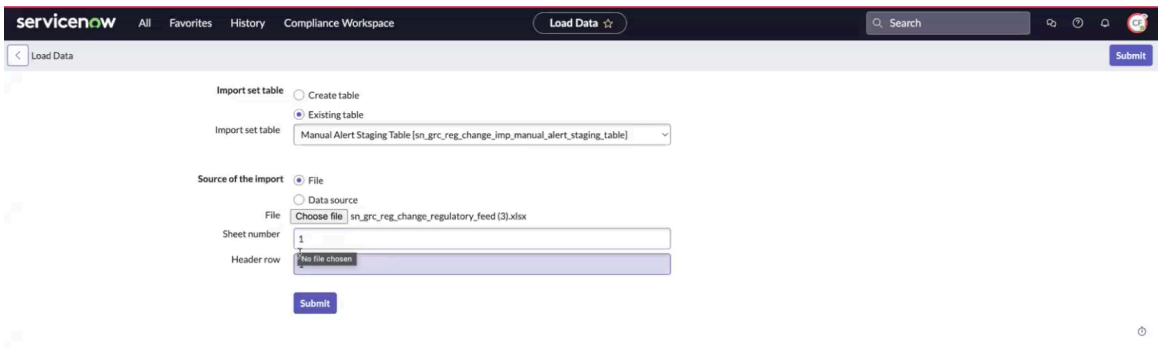
   注:
   規制アラートをインポートする前に、ダウンロードしたファイルに必須情報を入力して準備する必要があります。

3. ダウンロードしたテンプレートを開き、[タイトル] 列と [タイプ] 列にタイトルとタイプを入力します。
   すべてのデータを入力すると、ファイルをアプリケーションにインポートする準備が整います。データをインポートする外部データファイルを準備したら、インポートプロセスを開始できます。
4. [規制アラート] リストビューに移動し、[アラートをインポート **(Import alerts)]** を選択してデータのインポートを処理します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

例に示すように、アラートをインポートする方法をガイドする [データをロード] フォームが表示されます。



5. [インポートセットテーブル] フィールドで、[既存のテーブル] を選択します。
   データファイルを選択し、インポートオプションを設定し、インポートデータをアプリケーションのフィールドにマッピングできます。データの処理と検証には、既存のテーブル (手動アラートステージングテーブル) を使用する必要があります。
6. [インポートのソース] フィールドで、[ファイル] を選択します。
   データをインポートするための保存済みテンプレートを選択できます。
7. [送信] を選択します。

   データインポート要求が処理されます。次の例に示すように、インポートステータスを表示できます。



タスクの結果
インポートされた規制イベントアラートが、選択されたコーディネーターにアサインされます。

次のタスク
規制フィードの影響度の評価

分類の管理

コンプライアンスワークスペース で 規制変更管理 アプリケーションを設定するときに分類を管理します。内部分類を作成して、その内部分類を外部分類にマッピングし、規制変更管理 アプリケーションが 1 つの分類のみを参照するようにします。

始める前に
必要なロール：sn_grc_reg_change.admin

手順

1. 移動先 すべて > 規制変更管理アプリケーション > コンプライアンスワークスペース.
   新しい [Compliance Management] タブが表示されます。
2. リストビューで、次の場所に移動します: リスト > 分類 ページ

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. 次のいずれかのモジュールに移動します。
   - 規制機関
   - コンテンツタイプ
   - 管轄
   - テーマ
   - セクター

   選択した分類カテゴリの名前と親本文が表示されます。
4. [名前] リストで、分類要素をクリックします。
   選択した分類要素の詳細が、[詳細] タブおよび [内部分類] 関連リストとともに別のページに表示されます。
5. 選択した分類クラスの新しい内部分類を作成するには、[新規] をクリックします。

新規内部分類の作成フォーム

フィールド	説明
名前	内部分類の名前。
分類クラス	選択したカテゴリに対してデフォルトで入力される分類クラス。
親	新しい内部分類が作成される親レコード。

6. 分類を保存するには、[保存] をクリックします。

コンプライアンスワークスペース でのメールの作成

コンプライアンスワークスペースアプリケーションを使用して、コンプライアンスケースと要求のメールを作成して送信します。この機能は、組織内外のさまざまなステークホルダーとコミュニケーションを取るうえで役立ちます。

始める前に

必要なロール：sn_grc_case_mgmt.grc_case_analyst

このタスクについて

ケースと要求に関するメールを作成し、複数のステークホルダーに送信できます。たとえば、記録されたコンプライアンスケースに関する義務的な意見や提案については、法務部門に相談できます。ケースまたは要求レコードページからメールを管理できます。

手順

1. 移動先 すべて > 規制変更管理 > コンプライアンスワークスペース.
2. リスト アイコンを選択します。
3. 検索項目 ケース > すべてのケース をクリックし、メールを作成するコンプライアンスケースを開きます。
4. [メール] 関連リストに移動します。
5. **[New** (新規)] を選択します。
6. フォームで、フィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メールのドラフトフォーム

フィールド	説明
宛先 (To)	受信者のメール ID。このフィールドに複数のメール ID をカンマで区切って追加して、複数の受信者にメールを送信できます。
件名	メールの簡単な概要またはタイトル。
メールメッセージ	メッセージの本文には、受信者に伝える情報、要求、または詳細を記載します。このセクションには、テキストの書式設定、添付ファイルの追加、およびリンクを含めることができます。 **注:** ServiceNow インスタンスへのアクセス権を持たない ServiceNow ユーザーと外部のステークホルダーの両方にメールを送信できます。参照しているレコードがユーザーにわかるように、メールの件名または本文に基本的なレコードの詳細を入力する必要があります。

7. オプション: 添付ファイルを追加するには、[ファイルの添付 **(Attach File)]** を選択します。
8. [メール送信] を選択します。

レポートを **PDF** にエクスポートする

コンプライアンスワークスペースで事前定義またはカスタマイズされたテンプレートを使用して、コンプライアンスケースまたは要求のレポートを、ポータブルドキュメント形式 (PDF) で作成します。この機能により、ステークホルダーは、アプリケーションにアクセスできない場合でもデータにアクセスできるようになります。

始める前に

必要なロール:sn_grc_case_mgmt.grc_case_analyst。sn_comp_case.compliance_case_analyst ロールを持つユーザーには、sn_grc_case_mgmt.grc_case_analyst ロールが含まれています。

このタスクについて

コンプライアンスデータを PDF レポートにエクスポートして、監査チーム、パートナー、または社内委員会と簡単に共有できるようにすると、アプリケーションにアクセスする必要がなくなります。コンプライアンスアドミニストレーターは、事前定義されたテンプレートを選択するか、カスタマイズされたドキュメントテンプレートを作成してレポートを生成できます。詳細については、「Configure a PDF document template」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > 規制変更管理 > コンプライアンスワークスペース.
2. リスト アイコンを選択します。
3. コンプライアンスケースレポートを生成するには、[すべてのケース] を選択します。
4. コンプライアンス要求レポートを生成するには、[すべての要求 **(All requests)]** を選択します。
5. PDF レポートとしてエクスポートするコンプライアンスケースまたはコンプライアンス要求を開きます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

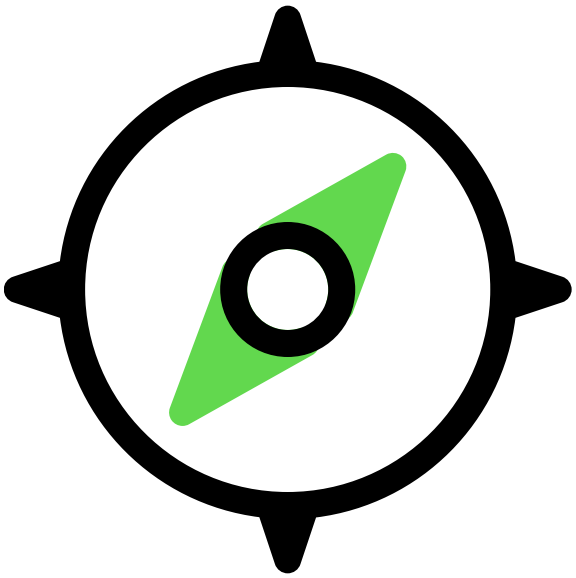
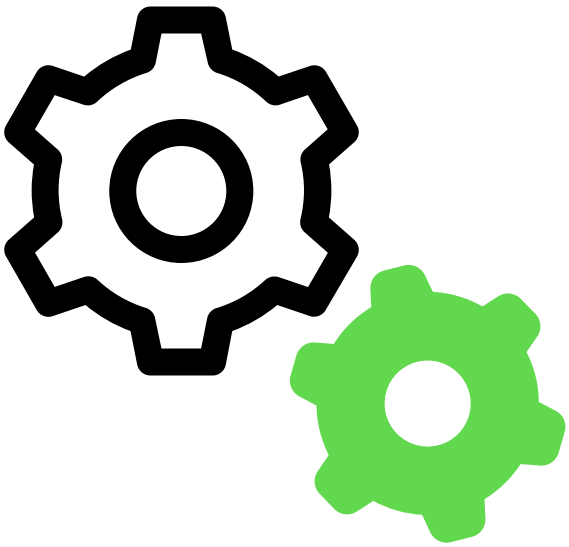
自動翻訳

6. [その他のアクション] アイコン (•••) を選択します。
7. **[PDF** のエクスポート] を選択します。
   [PDF のエクスポート **(Export PDF)]** ボタンは、レコードタイプでドキュメントテンプレートが指定されている場合にのみ表示されます。
8. PDF レポートを生成するテンプレートを選択します。
9. [エクスポート] を選択します。
   PDF レポートが生成され、レコードの [添付ファイル] セクションで利用できるようになります。
10. PDF レポートのローカルコピーをダウンロードするには、PDF レポートの [その他のアクション] ⋮ アイコンを選択し、[ダウンロード] を選択します。

統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assist

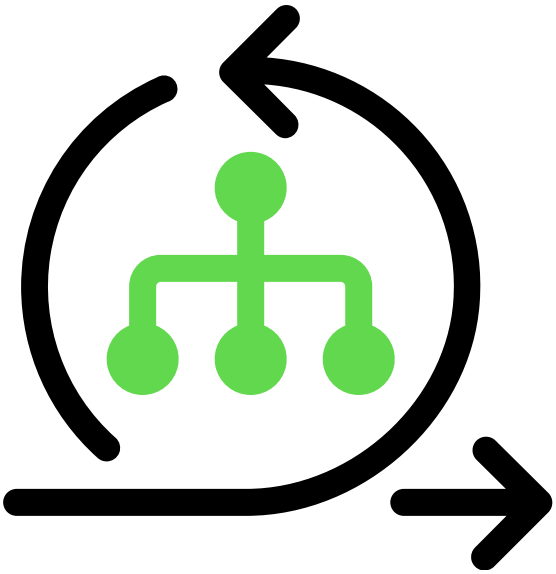
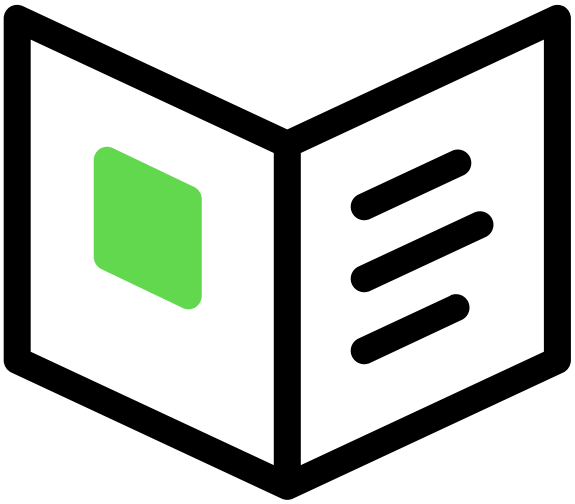
統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assistアプリケーションを使用して問題を要約し、解決メモを生成します。

開始

探索	構成
	
IRM 向け Now Assist に関する詳細	IRM 向け Now Assist アプリケーションを構成して開始する

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

使用方法	参照
	
が提供する生成 AI 機能を使用する IRM 向け Now Assist	でサポートされているバージョンとライセンス要件の詳細 IRM 向け Now Assist

重要:

- 国内の SKU をお持ちのお客様は、すべてのモデルプロバイダーを利用できるわけではなく、一部の Now Assist 製品/機能は現在、国内のお客様はご利用いただけません。詳細については、Now Support ナレッジベースの KB1584492 記事を参照してください。将来のリリースでモデルプロバイダーの可用性の更新を必ず確認してください。
- 現在、 Now Assist 製品/機能の一部は、FedRAMP、NSC DOD IL5、オーストラリアの IRAP で保護されたデータセンターのお客様、セルフホスト型のお客様、またはその他の制限された環境ではご利用いただけません。詳細については、Now Support ナレッジベース記事「KB0743854」を参照してください。将来のリリースで可用性の更新を必ず確認してください。
- 現在、一部の Now Assist 製品/機能は一部の地域の顧客のみが利用できます。将来のリリースで可用性の更新を必ず確認してください。

トラブルシューティングとサポート

- AI とインテリジェンスの ServiceNow コミュニティ
- 既知のエラーポータルで既知のエラー記事を検索する
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート

AI の制限事項

このアプリケーションは、データ内のパターンに基づいて予測を生成する急速に進化している研究分野である人工知能 (AI) と機械学習を使用しています。その結果、このアプリケーションは必ずしも正確、完全、または適切な情報を生成するとは限りません。さらに、このアプリケーションがユースケースに合わせて完全にトレーニングまたはテストされているという保証はありません。これらの問題を軽減するために、ユースケースに対する正確性、害、および適切性について、このアプリケーションの使用をテストおよび評価し、出力を人間が監視し、意思決定の目的で AI で生成された出力のみに依存しないようにするのは、ユーザーの責任です。これは、医療、ファイナンス、法務、雇

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

用、セキュリティ、インフラストラクチャなど、結果が影響を与える分野にこのアプリケーションを展開することを選択した場合に特に重要です。ServiceNow の AI 利用規定 に従うことに同意するものとします。このポリシーは ServiceNow によって更新される場合があります。

データ処理

このアプリケーションでは、ServiceNow 顧客の個々のインスタンスから一元化された ServiceNow 環境にデータを転送する必要があります。この環境は、インスタンスが存在するデータセンターとは異なるデータセンターリージョンに配置されている可能性があり、場合によっては Microsoft Azure などのサードパーティクラウドプロバイダーにも転送されます。このデータは、コアコンプライアンスポータル から利用可能なポリシーを含む、ServiceNow の内部ポリシーと手順に従って処理されます。

データコレクション

ServiceNow は、このアプリケーションの入力、出力を収集して使用し、出力を編集して、ServiceNow モデルや AI 製品などの ServiceNow テクノロジーを開発および改善します。さらに、このアプリケーションは インシデントデータ (インシデント支援およびナレッジ支援の場合) およびチャットのトランスクリプト (チャット支援の場合)。 お客様は、「Now Assistオプトアウトに関するページ 」の説明に従って、いつでも将来のデータコレクションをオプトアウトできます。

詳細については、 Now Assist ドキュメント .

統合リスク管理 **(IRM)** 向け **Now Assist**スキルの探索

統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assistアプリケーションでは、スキルを使用して規制アラートのサマリーを生成し、影響を受ける領域の推奨事項を提案できます。

IRM 向け **Now Assist** スキルの概要

IRM 向け Now Assistスキルを使用すると、規制アラートをすばやく要約し、[クローズ済み] または [キャンセル] を除く任意のステータスの規制アラートの影響領域を推奨できます。推奨事項は、受信した規制アラートをスキル化し、引用またはコントロール目標の既存のライブラリをより高い精度と精度で参照します。次に、引用やコントロール目標などの提案された影響領域のリストを生成します。生成 AI を使用すると、組織の効率、チーム間の調整、および生産性を向上させることができます。 IRM 向け Now Assist プラグインはエンタイトルメントに基づいて利用できます。

IRM 向け **Now Assist** スキルのメリット

IRM 向け **Now Assist** のメリット

メリット	機能	ユーザー
IRM 向け Now Assistスキルを使用して規制アラートをすぐに要約	次の情報を含む規制アラートのサマリーを生成します。 • 重要な日付 • 規制当局 • 主な変更の概要 • ペナルティ/罰金	sn_grc_comp_genai.reg_change_ai_us
IRM 向け Now Assistスキルを使用して、影響を与える可能性があるビジネスオペレーションの影響を受ける領域を見つけます	次のような影響領域を推奨します。	sn_grc_comp_genai.reg_change_ai_us

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

IRM 向け **Now Assist** のメリット (続く)

メリット	機能	ユーザー
	• 引用 • コントロール目標	

サポート対象のバージョン

IRM 向け Now Assist は、Yokohama パッチ 3 リリース以降でサポートされています。

サポート対象のユーザーインターフェイス

IRM 向け Now Assistアプリケーションには、次の表に示すスキルとエージェントワークフローが含まれています。

IRM 向け **Now Assist** のサポート対象のインターフェイス

インターフェイス	スキル
リスクワークスペース	• 規制アラートの要約 • 規制アラートの影響を受ける引用 • 規制アラートがコントロール目標に影響する
コア UI	

アプリケーション情報

スキルとエージェントワークフローを使用するには、 IRM 向け Now Assist ストアアプリ (sn_irm_gen_ai) をアクティブ化します。

このストアアプリには、次の依存関係があります。

- Now Assist プラットフォーム。
- GRC Common 生成 AI。
- GRC 共有生成 AI。
- GRC コンプライアンス生成 AI。
- 推奨事項テンプレート。

詳細については、「 統合リスク管理 (IRM) の Now Assist の構成」を参照してください。

次に探索する内容

IRM 向け Now Assistスキルの構成と使用の詳細については、以下を参照してください。

- 統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assist の構成
- 統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assistスキルの使用
- 統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assist に関するサポート情報

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AI 主導の規制アラートの要約

AI 主導の要約機能は、 コンプライアンスワークスペース の規制アラートレコード内で規制アラートの簡潔な AI 主導の概要を直接提供するように設計されています。重要な日付、規制当局の詳細、重要な変更などのコンテキスト情報を提供し、ユーザーが新しいアラートに適切に対応できるようにします。

サマリーの概要

要約スキルによって生成されたレコードの要約から、規制アラートの詳細をすばやく知ることができます Now Assist 。規制アラートの概要を読むことで、大量のアラートが多いことが多いアラートの概要を把握できます。デフォルトでは、[新規] ステータスの規制アラートが要約の対象となります。ただし、要約を実行するカスタム状況または条件を定義することで、この動作を変更できます。また、データを収集するさまざまなプロンプトとフィールドを指定してサマリーを作成することもできます。

> **注:**
> sn_grc_comp_genai.reg_change_ai_user ロールを持つユーザーのみが、規制アラートのサマリーを作成するオプションを表示できます。このロールは、RCM ユーザーに手動でアサインする必要があります。

規制アラートを要約する方法については、「 規制アラートの要約スキルのアクティブ化 と 規制アラートのサマリーの生成」を参照してください。

規制アラートを要約するメリット

- 規制情報を抽出して、最も重要な変更と期限を強調するビジネス関連のサマリーを作成します。
- 複雑な更新の解釈に費やす時間を短縮し、重要な情報が見落とされないようにします。
- コンプライアンスの効率を向上させ、リスクを軽減し、運用の俊敏性を高めます。

規制アラートサマリーのコンポーネント

[新規] ステータスの規制アラートのサマリーを生成すると、サマリーに次のセクションが表示されます。

- 重要な日付
- 規制当局
- 主な変更の概要
- ペナルティまたは罰金

次の表に、サマリーに関連付けられているセクションの詳細を示します。

セクション	説明
重要な日付	公開日、コンプライアンス日付、有効日など、規制変更の実装またはコンプライアンス要件に関連する、明示的に言及されたすべての日付と期限。
規制当局	新しいルールまたはアラートを担当する政府機関、規制機関、または業界団体 (機関:SEC、管轄:米国、タイプ:ドラフトルールなど)。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

セクション	説明
主な変更の概要	規制の重要な更新または変更 (特に、ビジネスやステークホルダーに重大な影響を与える可能性のあるもの)。
ペナルティまたは罰金	規制アラートに関連して発生したペナルティまたは罰金 (該当する場合)。 **注:** 利用可能な情報がない場合、生成されたサマリーには「ペナルティや罰金などについて入手可能な特定の情報はありません **(No specific information available for penalty or fines and so** on)」と表示されます。

注: 要約は、要約スキルの構成中に設定されたプロンプトに基づいて生成されます。サマリーの生成の詳細については、「 規制アラートのサマリーの生成」を参照してください。

関連情報

- 規制アラートの要約スキルのアクティブ化
- 統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assistスキルの使用
- 統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assist に関するサポート情報

規制アラートに対して **AI** が生成した推奨事項

推奨フレームワークは、実用的な AI 主導のインサイトをユーザーインターフェイス内で直接提供するように設計されています。推奨事項に関する豊富なコンテキスト情報を提供し、ユーザーが十分な情報に基づいた意思決定を行い、シームレスにフォローアップアクションを実行できるようにします。スケーラブルで柔軟な設計により、複数の推奨事項タイプと複雑なビジネスシナリオをサポートします。

推奨事項フレームワークを強化することで、規制変更マネージャーは AI 主導の推奨事項を使用して、規制の変更に基づいて影響力のあるビジネスオペレーションをより適切に特定できるようになります。

「IRM 向け Now Assistを利用した規制アラートの影響を受けるビジネスオペレーションを提案」という名前のデフォルトの推奨コンテキストは、規制変更管理製品に付属しています。この推奨コンテキストは、規制アラートの推奨引用とコントロール目標を生成するために使用されます。

推奨フレームワークのハイライト

構成可能な推奨事項とアクション

- さまざまなレコードタイプの推奨事項を定義して構成できます。
- フォローアップアクションの設定を有効にして、ユーザーがワークフロー内で推奨事項に直接対応できるようにします。

インテリジェントな推奨事項

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

- 生成 AI や予測インテリジェンスなどの高度な AI 機能を活用して、関連する推奨事項を表示します。
- 機械学習モデルと予測スコアリングを組み込むことで、インサイトと推奨事項を継続的に改善します。

スケーラブルな設計

- 1 つのレコードタイプに対する複数の推奨事項の表示をサポートします。
- アドミニストレーターがビジネスニーズに応じて推奨事項パネルのレイアウトと構造を柔軟にカスタマイズできるようにします。
- さまざまなレコードタイプと推奨手法に適応し、ユースケース全体で一貫性と拡張性を確保します。

アダプションイネーブルメント

- アップストリーム製品間での迅速な統合とアダプションを実現するように設計されています。
- 意思決定者が明確で実用的なインサイトを得られるよう、ユーザーフレンドリーで直感的なインターフェイスを提供します。

合理化サポート

重複排除ロジックのカスタマイズを有効にして、企業が重複レコードを識別するための独自のルールと基準を定義できるようにします。

自動翻訳

主な特長

- より良い意思決定のための推奨事項のコンテキストの可視化。
- さまざまなユースケースやレコードタイプに適応できる、スケーラブルで構成可能なフレームワーク。
- AI/ML ベースの推奨事項の活用を検討している製品の迅速なアダプション。
- 特定の組織プロセスに合わせたカスタマイズ可能なワークフローとロジック。
- 実用的な推奨事項と明確な次のステップがインターフェイスに直接組み込まれることで、ユーザーの生産性が向上します。

注:
sn_grc_comp_genai.reg_change_ai_user ロールを持つユーザーのみが、規制アラートの推奨事項を生成するオプションを表示できます。このロールは、RCM ユーザーに手動でアサインする必要があります。

規制アラートの推奨事項を作成し、[規制アラートの影響を受ける引用] スキルと [規制アラートの影響を受けるコントロール目標] スキルをアクティブ化する方法については、「 規制アラートの推奨スキルのアクティブ化」および「 規制アラートの影響を受ける引用、コントロール目標、およびコントロールの推奨事項を生成」を参照してください。

推奨事項の表示

規制アラートの推奨事項を生成すると、[推奨事項] ページに次のセクションが表示されます。

- 影響のある推奨領域
- 引用
- コントロール目標

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 説明
- 影響を受ける関連付けを評価

次の表に、推奨事項に関連付けられているセクションと関連リストの詳細を示します。

影響のある推奨領域

フィールド	説明
最終更新：	推奨事項が最後に生成または更新された日時。 更新アイコン を選択して、最新の推奨事項を表示できます。
引用	引用の詳細。 たとえば、引用の名前、引用の親、各種法令・基準等などです。
コントロール目標	コントロール目標の詳細。 たとえば、コントロール目標と親の名前などです。

注:
引用とコントロール目標の詳細については、「 ポリシーとコンプライアンス管理 の構造の概要」を参照してください。

引用またはコントロール目標の詳細

フィールド	説明
説明	引用またはコントロール目標の説明とサマリー。
補足ガイダンス	引用またはコントロール目標に対処する方法に関する追加のガイダンス。

影響を受ける関連付けを評価

フィールド	説明
子引用、コントロール目標	推奨事項の一部として追加できる引用の潜在的な影響を受ける領域を含む関連リスト。
子コントロール目標、ポリシー、コントロール、リスクステートメント	推奨事項の一部として追加できるコントロール目標の潜在的な影響を受ける領域を含む関連リスト。

フィードバック追跡サイドパネル:フィードバックサイドパネルには、推奨アイテムに対するユーザーインタラクションの履歴が表示されます。これには、ユーザーが承認した内容、ユーザーがスキップまたは無視した内容、却下した内容が含まれます。

推奨事項の生成の詳細については、「 規制アラートのサマリーの生成」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

規制アラートの推奨スキルのアクティブ化

規制アラートの影響を受ける引用、コントロール目標、およびコントロールの推奨事項を生成

統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assist の構成

admin ロールを持っている場合は、ユーザーが コンプライアンスワークスペース および コア UI で生成 AI スキルを使用できるように 統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assist アプリケーションを構成できます。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
Now Assist アドミン コンソールを使用して、IRM 向け Now Assist を構成します。このコンソールには、プラグインのインストールと生成 AI スキルの構成に必要なものがすべて含まれています。詳細については、 Now Assist アドミンコンソール を参照してください。

次の表に、Now Assist アドミンコンソールからアクセスできる機能とスキルを示します

Now Assist アドミン コンソールの **IRM** 機能とスキル

IRM 機能	スキル
規制アラート	• 規制アラートの要約 • 規制アラートの影響を受ける引用 • 規制アラートがコントロール目標に影響する • 規制アラートの影響を受けるコントロール

注:
Now LLM サービス は、この Now Assist アプリケーションのスキルの唯一のプロバイダーです。

以前のバージョンの場合は、 アプリケーションマネージャー に移動して新しいバージョンにアップグレードしてください。

生成 AI のスキルとプロンプトの構成の詳細については、「 General guidelines for writing instructions for generative AI large language models (LLMs) 」を参照してください。

手順

IRM 向け Now Assist プラグイン (sn_irm_gen_ai) をインストールします。

- プラグインの依存関係とプラグインのアクティブ化順序の詳細については、「アプリケーション情報 」を参照してください。
- インストールプロセスの詳細については、「 Now Assist プラグインのインストール 」を参照してください。

注:
Retrieval Augmented Generation (RAG) ポリシーと保持ポリシーの詳細については、「 Indexed sources in AI Search 」および「 User data usage policy for Now Assist 」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

での **Now Assist** スキルのアクティブ化 統合リスク管理 **(IRM)** 向け **Now Assist**

統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assistの生成 AI 機能を使用する前に、スキルをアクティブ化します。

始める前に

IRM 向け Now Assist プラグイン (sn_irm_gen_ai) をインストールします。

必要なロール：sn_nowassist_admin.nsa_admin

手順

1. 移動先 すべて > アドミンセンター > **Now Assist** アドミン.
2. **[Now Assist** スキル] タブの [テクノロジーワークフロー] グループで、[**IRM**] を選択します。
3. [IRM のスキルを Now Assist] ページで、[スキルのアクティブ化] を選択してスキルをアクティブ化します。
4. 各タブでスキルの詳細を確認し、スキルを構成して、[保存して続行] を選択します。

   [戻る] ボタンを使用して、前の手順に戻ることができます。

5. 選択内容を確認し、[アクティブ化] を選択します。
   スキルが構成されました。

次のタスク

sn_generative_ai.nsa_admin ロールを持っている場合は、 Now Assist スキルに対して次のアクションを実行できます。

- Now Assist スキルを編集します。
- Now Assist スキルのコピーを作成します。
- Now Assist スキルのトラブルシューティングを行います。

規制アラートの要約スキルのアクティブ化

Now Assistから要約スキルをアクティブ化してから構成し、サマリーに含める特定のフィールドを選択して規制アラートの簡単なサマリーを生成します。

始める前に

必要なロール：sn_nowassist_admin.nsa_admin

このタスクについて

規制アラートを要約するには、要約で情報を取得する必要があるフィールドを指定する必要があります。たとえば、サマリーの入力データを選択するときに、データを取得する必要がある次のフィールドを指定できます。

- 説明
- 規制当局
- 有効日
- コンプライアンス日付

また、スキルをいつ利用可能にする必要があるか (常に利用可能にするか、特定の条件が満たされた場合にのみ利用可能にするか) も定義します。デフォルトでは、 規制変更管理 アプリケーションの規制アラートに、アラートが [新規] ステータスのときにサマリーを作成するオプションが表示されます。ただし、要約を実行できる任意のステータスまたは条件を指定できます。これは、[可用性を定義] セクションを変更することで実現できます。サマリーを生成した後、サマリーを共有し、規制

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アラートの [追加コメント] フィールドに入力することを選択できます。これを行うと、規制アナリストが概要をすばやく確認できます。手順のすべての段階で、必ずフォームを保存してください。

手順

1. 移動先 すべて > アドミンセンター > **Now Assist** アドミン.
2. 選択 **Now Assist** 機能 > テクノロジー > **IRM** [Now Assist 機能] タブ内。
3. 規制アラートの要約スキルで [スキルのアクティブ化 **(Activate skill)**] を選択します。
4. 要約の作成時に大規模言語モデルで考慮するデータを指定するには、[入力の選択] を選択し、データを収集するフィールドを指定します。
5. スキルが利用可能になる条件を指定するには、「 可用性を定義」を選択します。
   a. スキルがどの条件にも依存せず、常に利用可能になるようにするには、[スキルは常に利用可能] を選択します。
   b. 規制アラートが「新規」ステータスであるなど、特定の条件が満たされた場合にのみスキルを使用可能にするには、[スキルの利用可否をカスタマイズ] を選択し、条件ビルダーを使用して条件を作成します。
6. スキルにアクセスできるユーザーロールを定義するには、[アクセスの定義] を選択し、必要なユーザーロールを追加します。
7. アプリケーションでスキルを表示するには、「 表示を選択 」を選択し、「 表示 」ボタンを切り替えます。
8. **[Save and continue** (保存して続行)] を選択します。
9. スキルの詳細を表示するには、[レビューしてアクティブ化 **(Review and activate**)] を選択します。
10. [アクティブ化] を選択し、[**IRM** に戻る] を選択します。

規制アラートの推奨スキルのアクティブ化

Now Assistから推奨スキルを構成して、規制アラートの影響領域の推奨事項を生成します。

始める前に

必要なロール:sn_grc_comp_genai.reg_change_ai_user

このタスクについて

規制アラートの影響領域の推奨事項を生成するには、推奨事項のデータの取得元を指定する必要があります。詳細については、「推奨のコンテキストとテンプレート」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > アドミンセンター > **Now Assist** アドミン.
2. 選択 テクノロジー > **IRM** [Now Assist スキル] タブ内。
3. アクティブ化する推奨スキルを選択し、[スキルのアクティブ化 **(Activate skill)]** を選択します。

   注:
   必要なスキルをすべてアクティブ化していることを確認してください。

4. 大規模言語モデル (LLM) が推奨事項を作成するときに考慮するデータを指定するには、[入力を選択] を選択し、データを収集するフィールドを指定します。
5. [可用性を定義] を選択して、スキルが利用可能になる条件を指定します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

6. スキルにアクセスできるユーザーロールを定義するには、[アクセスを定義] を選択し、必要なユーザーロールを追加します。
   推奨スキルの場合、デフォルトのユーザーロールは sn_grc_reg_change.user または sn_grc_comp_genai.reg_change_ai_user です。
7. アプリケーションでスキルを表示するには、[表示を選択] を選択し、[表示] ボタンを切り替えます。
8. **[Save and continue** (保存して続行)] を選択します。
9. [レビューしてアクティブ化] を選択して、スキルの詳細を表示します。
   入力の詳細、スキルの可用性、スキルのアクセシビリティ、およびスキルの表示オプションを確認します。
10. 手順のすべてのステージで、必ずフォームを保存してください。
11. [アクティブ化] を選択し、[**IRM** に戻る] を選択します。

タスクの結果
規制アラートの Now Assist 推奨スキルがアクティブ化されます。

次のタスク
規制アラートの推奨スキルを使用できます。詳細については、「 規制アラートの推奨事項の生成」を参照してください。

統合リスク管理 **(IRM)** 向け **Now Assist**スキルの使用

sn_grc_reg_change.user ロールと sn_grc_comp_genai.reg_change_ai_user ロールのいずれかを持っている場合は、 統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assist スキルを使用して、規制アラートのサマリーを生成し、影響を受ける領域の推奨事項を生成することもできます。

規制アラートのサマリーを生成し、影響を受ける領域を提案することで、ユーザーは規制アラートを迅速に管理できます。

IRM 向け **Now Assist**スキルの指示の変更

Yokohama リリース以降、IRM 向け Now Assist アプリケーションがインストールされているユーザーは、規制アラートの要約、推奨アラートの影響を受ける引用、および規制アラートの影響を受けるコントロール目標のスキルを使用できます。

問題の要約スキルの手順を変更するには、「 KB1806035 」に記載されている手順に従います。

規制アラートのサマリーの生成

アラートを迅速に分析するために、新しい規制アラートのサマリーを生成します。要約されたアラートは、コンプライアンス責任者、規制マネージャー、および法務部門が新しい規制の影響を迅速に把握するのに役立ちます。

始める前に
必要なロール:sn_grc_reg_change.user および sn_grc_comp_genai.reg_change_ai_user

関連するロールと規制アラートの詳細については、「 アラートのタイプ、ユーザーロール、および規制アラートのステータス」を参照してください。

このタスクについて
規制アラートのサマリーは、要約スキルの構成中に設定されたプロンプトに基づいて生成されます。たとえば、重要な日付、規制当局、変更の概要、罰則、罰金をキャプチャする重要な詳細として選択した場合、サマリーにはその情報が含まれます。サマリーが生成されたら、サマリーを直接使用して、規制アラートのアクティビティストリームに保存できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

重要:
正確性を見極めるため、AI で生成された要約は必ず確認するようにしてください。利用可能な情報がない場合、生成されたサマリーには「ペナルティや罰金などについて入手可能な特定の情報はありません **(No specific information available for penalty or fines and so** on)」と表示されます。

手順

1. 移動先 すべて > 規制変更管理 > コンプライアンスワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [規制アラート] を選択します。
4. [新規] ステータスの規制アラートを選択して開きます。
5. [概要] タブで、[要約] を選択します。
   サマリーが表示されます。
6. オプション: 概要を確認し、次のいずれかのオプションを完了します。

規制アラートの影響を受ける引用、コントロール目標、およびコントロールの推奨事項を生成

推奨事項を生成して、規制アラートの引用、コントロール目標、コントロールなど、潜在的な影響領域を特定してマークします。推奨事項は、影響度を関連付けてアクションタスクを作成するプロセスを簡素化します。

始める前に
必要なロール:アサインされた規制アラートを表示するには、sn_grc_reg_change.user ロールと sn_grc_comp_genai.reg_change_ai_user ロールが必要です。

関連するロールと規制アラートの詳細については、「 アラートのタイプ、ユーザーロール、および規制アラートのステータス」を参照してください。

規制アラートの影響を受ける引用、規制アラートの影響を受けるコントロール目標、および規制アラートの影響を受けるコントロールスキルのアクティブ化の詳細については、「 規制アラートの推奨スキルのアクティブ化」を参照してください。

注:
推奨事項テンプレートを作成するには、推奨コンテキストフレームワークを使用して構成を定義する必要があります。これにより、ユーザーインターフェイス内で AI 主導のインサイトが直接提供され、意思決定と生産性が向上します。ベースシステムの一部として、「 IRM 向け Now Assist を利用した「規制アラートの影響を受けるビジネスオペレーションを提案」という名前のデフォルトコンテキストが含まれており、GRC 管理メニューからアクセスできます。詳細については、「推奨のコンテキストとテンプレート」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > 規制変更管理 > コンプライアンスワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [規制アラート] を選択し、[クローズ済み]/[キャンセル] ステータスでない規制アラートを開きます。
4. 推奨事項を生成する規制アラートを選択します。
5. 推奨事項を生成するには、次のいずれかを実行します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

- [概要] タブで、[推奨] を選択します。
- [推奨事項] タブで、[推奨事項の表示] を選択します。

6. 推奨要求のステータスを表示するには、[ステータスを表示] を選択するか、ページを再読み込みします。
   推奨事項要求は非同期であるため、要求の処理中に他のタスクを完了できます。更新アイコン ( ) を選択すると、最新を表示できます。
   推奨事項ページで、推奨事項要求のステータスを示すメッセージが表示されます。
   - データなし:利用可能な関連データがない場合、推奨事項ページには要求が完了し、現在利用可能な推奨事項がないことが示されます。
   - 処理中:要求が進行中の場合は、しばらくしてからページを再読み込みしてみてください。
   - 完了:要求が正常に完了すると、推奨事項が表示され、レビューの準備が整います。

次のタスク

生成された推奨事項を承認または却下します。詳細については、「規制アラートの影響を受ける引用の推奨事項を承認または却下します」を参照してください。

注:

推奨事項の宣言アクションとして、「承認」と「却下」に加えて、UI フォームアクションを構成できます。宣言アクションは、リストアクションと関連リストアクションを変更するのに役立ちます。宣言アクションの作成、およびその使用方法の詳細については、「Declarative actions」を参照してください。

推奨事項の宣言アクションを構成するときは、次のことを確認してください。

- UI アクションには、ロールなどの UI アクションが表示される条件を指定します。
- アクションタイプ UXF クライアントアクションの場合は、ペイロードマップで `ルート` と `サイズ` の値を指定します。
- 推奨事項ページのページイベントマッピングでは、以下を含む `入力` パラメーターが渡されます。
  - `ベーステーブル`
  - `ベースレコード`
  - `関係性データ`
  - `selectedCardInfo`

規制アラートの影響を受ける引用の推奨事項を承認または却下します

推奨事項を受け入れて特定のビジネス領域を影響を受けるとしてマークし、コンプライアンス実務者が引用に関連する規制アラートをキャプチャして対処できるようにします。推奨事項を却下して、無関係な情報や不要な情報を除外します。

始める前に

必要なロール:アサインされた規制アラートを表示するには、sn_grc_reg_change.user ロールと sn_grc_comp_genai.reg_change_ai_user ロールが必要です。

関連するロールと規制アラートの詳細については、「 アラートのタイプ、ユーザーロール、および規制アラートのステータス」を参照してください。

重要:
AI で生成された推奨事項の正確性を必ず確認してください。利用可能な情報がない場合、生成された推奨事項には「利用可能な推奨事項はありません」、「なし」、「表示するレコードはありません」などが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > 規制変更管理 > コンプライアンスワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [規制アラート] を選択します。
4. 推奨事項を確認する規制アラートを選択し、[推奨事項] タブに移動します。
5. [推奨される影響領域] セクションの [引用] タブを選択して、潜在的な影響領域を確認します。

   推奨事項が利用可能な場合は、生成された引用推奨カードのリストをスクロールし、名前や各種法令・基準等など、各引用に関する情報を確認できます。
6. 必要な引用の推奨事項カードを選択し、次のセクションを確認します。

フィールド	説明
説明	引用の説明と要約。
補足ガイダンス	引用への対処方法に関する追加のガイダンス。
影響を受ける関連性を評価	
子引用	この推奨される親引用に関連付けられた各種法令・基準等内の個々の要件。
コントロール目標	引用に関連付けることができる関連目標または要件。

7. オプション: 引用の完全なレコードを表示するには、詳細アイコン ( )
8. オプション: 推奨事項を更新して最新のデータを反映するには、更新アイコン ( )
9. オプション: [影響を受ける関連性を評価] セクションに移動し、次の手順を実行して、引用の推奨事項に対して影響を受ける関連性を選択します。

   a. [子引用] または [コントロール目標] タブを選択します。

   b. 推奨事項の一部として含める各レコードのチェックボックスをオンにします。

   > **注:**
   > 選択した各影響領域は、推奨事項を受け入れると影響領域として含められます。

10. 推奨事項とその関連性を承認または却下するには、次のいずれかを入力します。
    - [承認] を選択し、次に [確認] を選択して、推奨事項を影響領域として受け入れます。
    - [閉じる] を選択し、 次に [確認] を選択して、推奨事項が再度表示されないようにします。

    確認を選択する前に、承認または却下する影響領域と関連付けの概要が表示されます。

    推奨事項を受け入れると、影響領域としてマークされ、影響のリストに追加されます。推奨事項が却下された場合、却下としてマークされ、その特定の規制アラートに対して再度表示されることはありません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィードバック記録サイドパネルを表示するには、サマリーアイコン (フィードバック追跡サイドパネルには、各推奨事項に関連するすべてのアクティビティが表示されます。

注:
推奨事項の受け入れまたは却下は、今後の推奨事項を絞り込むためにマッピングテーブルに記録されます。

次のタスク
[影響領域] タブに移動すると、影響領域の追加を確認できます。必要に応じて、影響領域を手動で追加できます。影響領域が推奨事項の一部として、または手動で追加された場合は、[影響領域] リストの [AI 支援] 列に示されます。「はい」は推奨事項を示し、「いいえ」は手動での追加を示します。詳細については、「規制アラートに手動で影響領域を追加する」を参照してください。

規制アラートの影響を受けるコントロール目標の推奨事項を承認または却下します

推奨事項を受け入れて特定のビジネス領域を影響を受けるとマークし、コンプライアンス実務者がコントロール目標に関連する規制アラートをキャプチャして対処できるようにします。推奨事項を却下して、無関係な情報や不要な情報を除外します。

始める前に
必要なロール:アサインされた規制アラートを表示するには、sn_grc_reg_change.user ロールと sn_grc_comp_genai.reg_change_ai_user ロールが必要です。

関連するロールと規制アラートの詳細については、「 アラートのタイプ、ユーザーロール、および規制アラートのステータス」を参照してください。

重要:
AI で生成された推奨事項の正確性を必ず確認してください。利用可能な情報がない場合、生成された推奨事項には「利用可能な推奨事項はありません」、「なし」、「表示するレコードはありません」などが表示されます。

手順
1. 移動先 すべて > 規制変更管理 > コンプライアンスワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [規制アラート] を選択します。
4. 推奨事項を確認する規制アラートを選択し、[推奨事項] タブに移動します。
5. 影響度の [推奨領域] セクションの [コントロール目標] タブを選択して、潜在的な影響領域を確認します。

   推奨事項が利用可能な場合は、コントロール目標推奨事項カードの生成されたリストをスクロールし、名前や親などの各コントロール目標に関する情報を確認できます。
6. 必要なコントロール目標推奨事項カードを選択し、次のセクションを確認します。

フィールド	説明
説明	コントロール目標の説明とサマリー。
補足ガイダンス	コントロール目標に対処する方法に関する追加のガイダンス。
影響を受ける関連性を評価	
子コントロール目標	この推奨される親コントロール目標に関連付けられた特定の目標または要件。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
方針	コントロール目標に関連付けることができる関連ポリシー。
コントロール	コントロール目標に関連付けることができる関連コントロール。
リスクステートメント	コントロール目標に関連付けることができる関連リスクステートメント。

7. オプション: コントロール目標の完全なレコードを表示するには、[詳細] アイコン (
8. オプション: 推奨事項を更新して最新のデータを反映するには、更新アイコン (
9. オプション: 影響を受ける関連性をコントロール目標の推奨事項に対して選択すると、[影響を受ける関連性を評価] セクションに移動し、次の手順を実行します。

   a. [子コントロール目標]、[ポリシー]、[コントロール]、または [リスクステートメント] タブを選択します。

   b. 推奨事項の一部として含める各レコードのチェックボックスをオンにします。

   > **注:**
   > 選択した各影響領域は、推奨事項を受け入れると影響領域として含められます。

10. 推奨事項とその関連性を承認または却下するには、次のいずれかを入力します。
    - [承認] を選択し、次に [確認] を選択して、推奨事項を影響領域として受け入れます。
    - [閉じる] を選択し、 次に [確認] を選択して、推奨事項が再度表示されないようにします。

    確認を選択する前に、承認または却下する影響領域と関連付けの概要が表示されます。

    推奨事項を受け入れると、影響領域としてマークされ、影響のリストに追加されます。推奨事項が却下された場合、却下としてマークされ、その特定の規制アラートに対して再度表示されることはありません。

    フィードバック記録サイドパネルを表示するには、サマリーアイコン (フィードバックトレイル サイドパネルには、各推奨事項に関連するすべてのアクティビティが表示されます。

    > **注:**
    > 推奨事項の受け入れまたは却下は、今後の推奨事項を絞り込むためにマッピングテーブルに記録されます。

次のタスク

[影響領域] タブに移動すると、影響領域の追加を確認できます。必要に応じて、影響領域を手動で追加できます。影響領域が推奨事項の一部として、または手動で追加された場合は、[影響領域] リストの [AI 支援] 列に示されます。「はい」は推奨事項を示し、「いいえ」は手動での追加を示します。詳細については、「規制アラートに手動で影響領域を追加する」を参照してください。

規制アラートコントロールの推奨事項を承認または却下します

規制変更管理 で AI が生成した推奨事項を受け入れて、特定のビジネス領域を影響を受けるとしてマークすることで、コンプライアンス担当者が関連する規制アラートコントロールをキャプチャして対処できるようにします。推奨事項を却下して、無関係な情報や不要な情報を除外することもできます。

始める前に

必要なロール:アサインされた規制アラートを表示するための sn_grc_reg_change.user または sn_grc_comp_genai.reg_change_ai_user ロール。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

このタスクについて

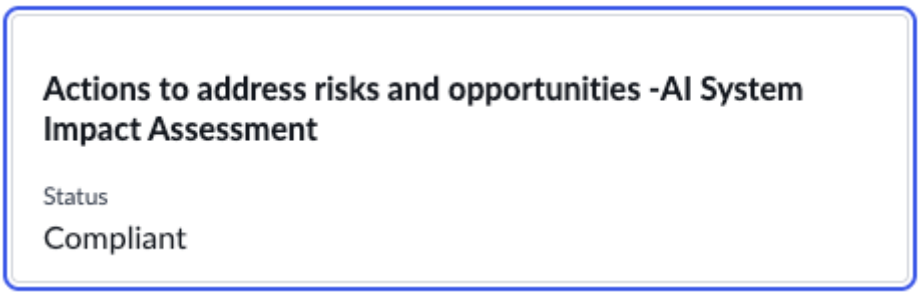
> **重要:**
> AI で生成された推奨事項の正確性を必ず確認してください。利用可能な情報がない場合、生成された推奨事項には「利用可能な推奨事項はありません」、「なし」、「表示するレコードはありません」などが表示されます。

推奨事項に関連するロールと規制アラートの詳細については、「 アラートのタイプ、ユーザーロール、および規制アラートのステータス」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > 規制変更管理 > コンプライアンスワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [規制アラート] を選択します。
4. 規制変更管理 ( ) ダッシュボードに移動し、[アラート] ウィジェットから規制アラートを選択し、ドリルダウンしてアラートページを開きます。
5. 推奨事項を確認する規制アラートを選択し、[推奨事項] タブに移動します。
6. 規制アラートの [影響領域] 関連リストで、潜在的な影響領域を確認します。

   > **注:**
   > 推奨コントロールは、コントロールの既存のインベントリの一部です。

   > **注:**
   > 規制アラートの推奨事項の影響を受けるビジネスオペレーションを提案コンテキストは、ここに表示される推奨事項を提供します。詳細については、「推奨のコンテキストとテンプレート」を参照してください。

   推奨事項が利用可能な場合は、コントロール推奨カードの生成されたリストをスクロールし、名前や親などの各コントロールに関する情報を確認できます。

7. 必要なコントロール推奨事項カードを選択し、次のセクションを確認します。

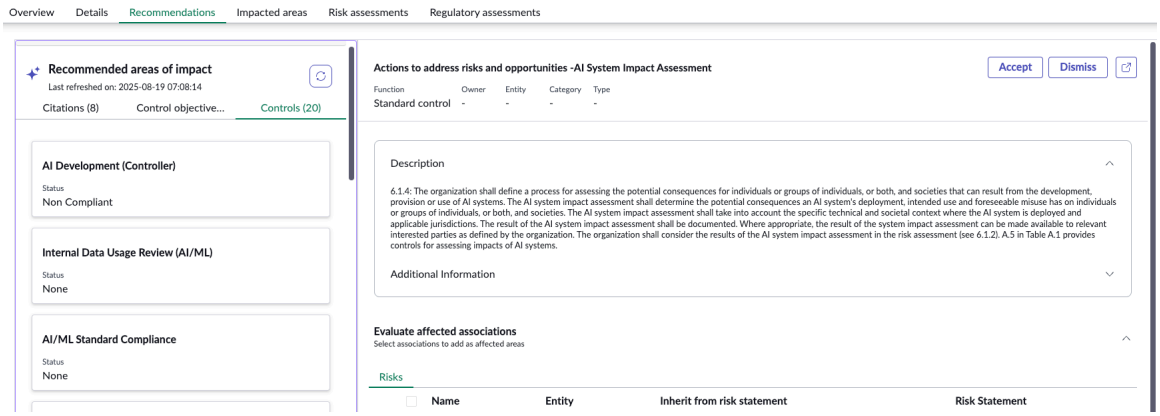
フィールド	説明
名前	コントロールの名前。
ステータス	コントロールのステータス:[準拠]、[非準拠]、または [適用外] のいずれか。
関数	コントロールが属する関数。たとえば、標準コントロールや共通コントロールなどです。
所有者	コントロールの所有者。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
エンティティ	コントロールのエンティティ。
カテゴリ	コントロールが属するカテゴリ。
タイプ	コントロールのタイプ。
説明	コントロールの説明と概要。
追加情報	コントロールに関連する追加情報。
影響を受ける関連付けを評価	
関連リスク	
名前	リスクの名前。
エンティティ	リスクが属するエンティティ。
リスクステートメントから継承	リスクの継承元のリスクステートメント。
リスクステートメント	リスクのリスクステートメント。

8. オプション: コントロールのレコードを表示したり、推奨事項を更新したり、影響を受ける関連付けを推奨 に追加 したりします。



9. 推奨事項とその関連性を承認または却下します。

   推奨事項に基づいて行動する前に、承認または却下する影響領域と関連付けの概要が表示されます。

   推奨事項を受け入れると、影響領域としてマークされ、影響度のリストに追加されます。推奨事項を却下すると、却下としてマークされ、その特定の規制アラートに対して再度表示されることはありません。

   フィードバック記録サイドパネルを表示するには、サマリーアイコン ( ) [サマリー] セクション (フィードバック記録) サイドパネルには、各推奨事項の関連アクティビティが表示されます。

次のタスク
[影響領域] タブに、追加された影響を受けるコントロールを表示します。必要に応じて、影響領域を手動で追加できます。詳細については、「規制アラートに手動で影響領域を追加する」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

規制アラートに手動で影響領域を追加する

引用、コントロール目標、ポリシーなどの影響を受ける領域を規制アラートに追加します。規制アラートに影響を受ける領域を追加すると、特定した追加の影響と、最初は推奨されていなかった影響がキャプチャされます。

始める前に
必要なロール：sn_grc_reg_change.user

関連するロールと規制アラートの詳細については、「 アラートのタイプ、ユーザーロール、および規制アラートのステータス」を参照してください。

このタスクについて
影響領域は、受け入れられた推奨事項の一部として追加することも、手動で追加することもできます。推奨事項の一部として影響を受ける領域を追加する方法の詳細については、「 規制アラートの影響を受ける引用の推奨事項を承認または却下します」を参照してください。

注:
影響領域は、規制イベントタイプの規制アラートにのみ追加できます。ソースドキュメントタイプのアラートに影響領域を追加することはできません。

手順

1. 移動先 すべて > 規制変更管理 > コンプライアンスワークスペース.
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [規制アラート] を選択します。
4. 推奨事項を確認する規制アラートを選択し、[影響領域] タブに移動します。
5. **[Add** (追加)] を選択します。
6. 影響領域のタイプと必要なレコードを選択し、[追加] を選択します。
   影響領域として選択したレコードが [影響領域] リストに表示されます。

   注:
   影響領域が推奨事項の一部として追加されたか、手動で追加されたかを確認するには、[影響領域] リストの [AI 支援] 列を確認します。「はい」は推奨事項を示し、「いいえ」は手動での追加を示します。

次のタスク
規制アラートの適用性を [はい] または [いいえ] に設定することで、影響を受ける運用ビジネス領域の実装アクティビティを開始できます。規制アラートが適用可能な場合、新しい規制変更タスクが自動的に作成されます。規制アラートが適用されない場合、アラートのステータスは [完了] に更新されます。詳細については、「規制変更タスクの管理」を参照してください。

統合リスク管理 **(IRM)** 向け **Now Assist** に関するサポート情報

統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assist アプリケーションに関連する重要な情報の簡単な概要を把握できます。

サポート対象のバージョン

IRM 向け Now Assist は、 Yokohama リリース以降でサポートされています。

サポート対象のユーザーインターフェイス

IRM 向け Now Assist アプリケーションには、次の表に記載されているスキルが含まれています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

IRM 向け **Now Assist** のサポート対象のインターフェイス

インターフェイス	スキル
コンプライアンスワークスペース	• 推奨事項 • 要約
コア UI	• 推奨事項 • 要約

アプリケーション情報

問題の要約スキルを使用し、問題のサマリーと解決メモを生成するには、 IRM 向け Now Assist ストアアプリ (sn_irm_gen_ai) をアクティブ化します。

このストアアプリには、次の依存関係があります。

- Now Assist プラットフォーム
- GRC: 規制変更管理
- GRC Administration

詳細については、「 統合リスク管理 (IRM) のための Now Assist の構成」を参照してください。

規制変更管理の参照

参照トピックには、規制変更管理 アプリケーションとともにインストールされるテーブル、ロール、およびプロパティなどの追加の情報が記載されています。

規制変更管理 のユーザーロール

規制変更管理 (RCM) アプリケーションのステークホルダーには、さまざまなロールと責任があります。

規制変更管理 アプリケーションのロールは、GRC：規制変更管理 アプリケーションの有効化と同時にインストールされます。構成のカスタマイズまたは拡張は許可されていません。GRC アドミンロールを持つユーザーのみが構成のセットアップを行うことができます。アプリケーションには、次のタイプのロールが含まれます。

ロールのタイトルと名前	分類	説明	利用可能なロール
RCM Admin [sn_grc_reg_change.admin]	オペレーター	RCM アドミニストレーターは、規制変更管理 アプリケーションのすべての側面にアクセスできます。	• sn_grc_reg_change.it_admin • sn_grc_reg_change.manager
RCM IT (情報技術) アドミン [sn_grc_reg_change.it_admin]	演算子	RCM IT アドミニストレーターは、サードパーティの規制インテリジェンスプロバイダーとの統合を設定します。RCM IT アドミ	• connection_admin • action_designer • import_admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールのタイトルと名前	分類	説明	利用可能なロール
		ニストレーターが問題のトラブルシューティングを行います (存在する場合)。	• credential_admin • flow_designer • oauth_admin • sn_grc.developer **注:** GRC ユーザーロール (sn_grc.user) には、GRC ビジネスユーザーロール (sn_grc.business_user) が含まれています。詳細については、「ガバナンス、リスク、コンプライアンスの共通のロール」を参照してください。
RCM マネージャー [sn_grc_reg_change.manager]	オペレーター	RCM マネージャーは、規制アラートをアサインし、規制変更タスクとアクションタスクを監視します。 **注:** 規制変更管理 アプリケーションの [ユーザー管理] パネルの [グループ] の下に、[**RCM** マネージャー] というタイトルのグループが追加されます。RCM マネージャーグループは、規制タスクのワークフローをレビューし、規制コンプライアンスを確保します。このグループに属するユーザーには、sn_grc_reg_change.manager ロールが必要です。	sn_grc_reg_change.user

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールのタイトルと名前	分類	説明	利用可能なロール
RCM ユーザー [sn_grc_reg_change.user]	演算子	RCM ユーザーは、アラートの適用性を評価し、影響度評価を開始し、影響度アセスメントアンケートに回答し、アサインされた規制変更タスクとアクションタスクを完了します。	• sn_compliance.reader • sn_risk.reader
コンプライアンスアナリスト	sn_comp_case.compliance_case_analyst	コンプライアンスケースアナリストは、ケースを分析して処理します。	sn_grc_case_mgmt.grc_case_analyst
規制変更 AI ユーザー [sn_grc_comp_genai.reg_change_ai_user]	演算子	ユーザーに RCM 生成 AI 権限を付与します	なし

機能ロールの詳細については、「 GRC 機能ロール」を参照してください。

アラートのタイプ、ユーザーロール、および規制アラートのステータス

アラートのタイプに基づいて、さまざまなユーザーがアラートレコードに対してさまざまなアクションを実行します。

[規制アラート] モジュールで、次のタイプのアラートを表示できます。

- すべてのアサインされているアラート：[コーディネーター] フィールドで適切なユーザーにアサインされているインスタンス内のすべてのアサイン済みアラートを表示します。
- アサインされていないアラート：[コーディネーター] フィールドが空白になっているインスタンス内の未アサインのアラートを表示します。全体的な影響度を [影響なし]、[低]、[中]、[高]、または [重大] としてマークします。
- 新規アラート：[コーディネーター] フィールドが空白になっているインスタンス内の新しいアラートを表示します。
- 保留アラート：[コーディネーター] フィールドで適切なユーザーにアサインされ、ステータスが [保留] で、保留後のアクションを実行するためのリマインダー日が表示されている、保留アラートを表示します。
- 影響度評価アラート：影響度評価ステータスの規制イベントのアラートを表示します。
- 処理中のアラート：処理中ステータスのアラートを表示します。
- クローズ済みアラート：クローズ済みステータスのアラートを表示します。

次の表に、ユーザーロール、これらのユーザーが実行できるアクション、およびこれらのアクションの説明を示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーザーロール、アクション、および説明

ユーザーロール	アクション	説明
• sn_grc_reg_change.manager • sn_grc_reg_change.user • sn_grc_reg_change.admin	更新	アラートの詳細を更新します。
	再アサイン	アラートの詳細を再アサインします。
	保留	規制アラートを将来の日付まで保留します。
	適用可能	アラートを適用可能としてマークします。
	影響度評価を開始	アラートの影響度評価を開始します。
	適用外	アラートを適用外としてマークします。
	キャンセル	アラートをキャンセルします。

マネージャーはすべてのアラートを表示できます。sn_grc_reg_change.user ロールを持つユーザーは、自分にアサインされているアサイン済みアラートを表示できますが、未アサインのアラートや他のユーザーにアサインされているアラートは表示できません。

規制アラートの状況については、次の表を参照してください。

アラートの状況とその説明

状況	説明
新規	受信した各規制アラートは、デフォルトで新しいステータスに割り当てられます。sn_grc_reg_change.admin または sn_grc_reg_change.manager のみがアラートレコードをアサインできます。
保留	一部のアラートは即時アクションを必要としないため、 [保留] ステータスになり、後日にアサインされます。
影響度評価	規制イベントタイプのアラートレコードの適用性が評価され、影響度評価の対象としてマークされます。影響度評価後、アラートは適用可能または適用外としてマークされます。
処理中	[処理中] ステータスのアラートが処理されています。sn_grc_reg_change.user が各アラートにアサインされます。
クローズ済み	組織に関係のないアラートは [クローズ済み] ステータスになります。完了した関連タスクを含むアラートも [クローズ済み] ステータスになります。
キャンセル	[キャンセル] ステータスのアラート。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
アラートレコードの属性は、サードパーティの規制インテリジェンスプロバイダーによって提供されるメタデータの一部です。これらの属性は、組織へのアラートの適用性を判断するのに役立ちます。これらのレコードは 規制変更管理 アプリケーションでは編集できません。

ガバナンス、リスク、コンプライアンスとともにインストールされるテーブル

ガバナンス、リスク、コンプライアンス プラグインを有効にすると、いくつかのテーブルがデフォルトで追加されます。

インストールされるテーブル

テーブル	説明
コントロール目標からオブジェクトステージングテーブル [sn_grc_pci_control_objective_object_staging]	コントロール目標と構成テストのマッピングのステージング済みデータを格納します。
コントロール目標マッピングのインポート構成 [sn_grc_pci_control_objective_mapping_import_configuration]	ステージングテーブルからターゲットテーブルにレコードを配送するために必要な構成情報を格納します。
コントロール目標マッピングのインポート追加フィールド構成 [sn_grc_pci_control_objective_mapping_import_additional_fields_configuration]	ターゲット m2m テーブルの追加列に関連するキーと値のペアを格納します。
各種法令・基準等へのコンテンツ参照 sn_grc_m2m_cont_ref_auth_doc	コンテンツ参照と各種法令・基準等の間でマッピングされたデータを格納する多対多の関係テーブル。
引用へのコンテンツ参照 [sn_grc_m2m_cont_ref_citation]	コンテンツ参照と引用の間でマッピングされたデータを格納する多対多の関係テーブル。
コントロール目標へのコンテンツ参照 [sn_grc_m2m_cont_ref_ps]	コンテンツ参照とコントロール目標の間でマッピングされたデータを格納する多対多の関係テーブル。
機能ドメイン [sn_grc_functional_domain]	機能ドメインのリストのメタデータを格納します。
機能ドメイン構成 [sn_grc_functional_domain_configuration]	IT 関連として分類されているすべての監査およびコンプライアンスオブジェクトの構成情報を保存します。
機能ドメイン構成の m2m 関係レジストリ [sn_grc_functional_domain_config_m2m_relationship_registry]	親テーブル、子テーブル、および両者間の関係を決定する関係レジストリの m2m マッピングを格納します。
GRC 機能ドメインユーザーアクション [sn_grc_functional_domain_user_action]	オブジェクトを IT 関連として追加および削除する、手動でトリガーされたユーザーアクションを保存します。
問題からコンテンツ [sn_grc_m2m_issue_content]	問題とコントロール目標の間の関係を管理するために使用される多対多の関係テーブル。
問題からドキュメント [sn_grc_m2m_issue_document]	問題とポリシーテーブルの間、および問題と各種法令・基準等の間の関係を管理するために使用される多対多の関係テーブル。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インストールされるテーブル (続く)

テーブル	説明
エンゲージメントの問題 [sn_grc_m2m_issue_engagement]	問題とエンゲージメントの間の関係を管理するために使用される多対多の関係テーブル。
アイテムへの問題 [sn_grc_m2m_issue_item]	問題とコントロールの間の関係を管理するために使用される多対多の関係テーブル。
アイテムからエンティティ [sn_grc_m2m_item_entity]	共通コントロールを持つ関連付けられている依存エンティティを格納する多対多の関係テーブル。
アイテムからエンティティタイプ [sn_grc_m2m_item_entity_type]	エンティティタイプの関連付けのエンティティタイプ ID レコードを保存します。
インジケーター [sn_grc_indicator]	インジケーターの詳細を保存します。
Supporting Data [sn_grc_indicator_supporting_data]	インジケータージョブの実行 (GRC インジケーターの夜間実行) の後に収集されたサポートデータを保存します。
データ統計をサポートするインジケーター [sn_grc_indicator_supporting_data_statistics]	サポートデータ収集ジョブによって利用される、サポートデータを収集するためのインジケーターの統計情報を保存します。

規制機関ライブラリ とともにインストールされるロールとテーブル

規制機関ライブラリ アプリケーションをアクティブ化すると、テーブルやユーザーロールなど、いくつかのタイプのコンポーネントがインストールされます。

規制機関ライブラリ とともにインストールされるロール

インストールされるロール

ロール タイトル [名前]	説明	含まれるロール
Regulatory Agency Library リーダー [sn_reg_body_mgmt.reader]	sn_reg_body_mgmt スコープのリーダーロールと、コンプライアンスワークスペース のリーダーロールが含まれます。規制機関ライブラリ管理リーダーは、継承された権限に加えて、規制機関、規制担当連絡先、および管轄にアクセスし、読み取ることができます。	• sn_compliance.reader • sn_grc.reader
Regulatory Agency Library ライター [sn_reg_body_mgmt.writer]	sn_reg_body_mgmt のリーダー、ユーザー、マネージャーロールと、コンプライアンスワークス	• sn_reg_body_mgmt.reader • sn_compliance.user • sn_grc_case_mgmt.grc_case_manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インストールされるロール (続く)

ロール タイトル [名前]	説明	含まれるロール
	ペース のリーダーとユーザーロールが含まれます。規制機関ライブラリ管理ライターは、継承された権限に加えて、規制機関、規制担当連絡先、および管轄を更新および削除できます。	• sn_compliance.manager • sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst • sn_grc.manager

規制機関ライブラリ とともにインストールされるテーブル

インストールされるテーブル

テーブル	説明
規制機関 [sn_reg_body_mgmt_regulatory_agency]	さまざまなタイプの規制を施行する規制機関を保存します。
規制担当連絡先 [sn_reg_body_mgmt_regulatory_contact]	コンプライアンスケースの変更または Regulatory Agency Library の規制変更時に通知される規制担当連絡先を保存します。
管轄の規制機関 [sn_reg_body_mgmt_m2m_reg_agency_jurisdiction]	規制機関関連の管轄レコードを Regulatory Agency Library に保存します。
管轄 [sn_reg_body_mgmt_jurisdiction]	管轄レコードを Regulatory Agency Library に保存します。
自動日付計算 [sn_reg_body_mgmt_auto_date_calculation]	将来の日付の自動日付計算を Regulatory Agency Library に保存します。
エージェンシープロファイル [sn_reg_body_mgmt_agency_profile]	規制機関のプロファイルを Regulatory Agency Library に保存します。

のメール通知 規制変更管理

規制変更管理 アプリケーションによって、多数のメール通知が送信されます。

メール通知

次のテーブルに、通知の受信者リストと、通知が送信されるときの関連条件を示します。

通知	受信者
規制フィードがクローズされたとき	コーディネーター

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

通知	受信者
規制フィードが保留される場合	コーディネーター
規制フィードがアサインされたとき	コーディネーター
規制アクションタスク最終日	assigned_to (コンポーネントユーザー/リスクユーザー)
規制アクションタスクがアサインされました	assigned_to (コンポーネントユーザー/リスクユーザー)
規制変更タスクがアサインされました	assigned_to (ユーザーを変更)
規制変更タスクが承認されました	assigned_to (ユーザーを変更)
規制変更タスクが却下されました	assigned_to (ユーザーを変更)
規制変更タスクがキャンセルされました	assigned_to (ユーザーを変更)
今日が期限の規制変更タスクリマインダー	assigned_to (ユーザーを変更)
ソースドキュメントのインポートタスクがアサインされました	assigned_to (ユーザーを変更)
ソースドキュメントのインポートタスクが承認されました	assigned_to (ユーザーを変更)
ソースドキュメントのインポートタスクが却下されました	assigned_to (ユーザーを変更)
ソースドキュメントのインポートタスクがキャンセルされました	assigned_to (ユーザーを変更)
今日が期限のインポートドキュメントタスクリマインダー	assigned_to (ユーザーを変更)
規制変更タスクのレビュー	承認者
リスクアセスメント:再アセスメントが完了しました	承認者
査定人に通知	査定人
通知承認者/承認者が変更されました	承認者
査定人が変更されました	査定人
リスクアセスメント方法が廃止されたときにアセスメントのキャンセルを査定人に通知します	査定人
オーナー別にアセスメントのキャンセルを通知	査定人
期日が近づいていることを通知	査定人
期日が過ぎたことを通知	査定人
期日の最終通知が渡されました	査定人
スマートアセスメントの期限切れ	査定人
スマートアセスメントが完了しました	アセスメントの要求者
スマートアセスメントが作成されました	査定人
アラートがクローズ/キャンセルされたときにスマートアセスメントがキャンセルされました	査定人

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

通知	受信者
スマートアセスメントが RCM アドミンによってキャンセルされました	査定人
再アサインされたスマートアセスメント	査定人

リスク管理

ガバナンス、リスク、コンプライアンス: リスク管理 アプリケーションを使用して、影響度の高いリスクを継続的に監視して特定し、リスクベースの意思決定を改善し、応答時間を効果的に短縮します。アプリケーションは、リスクアセスメント、リスクインジケーター、およびリスク問題を管理するための構造化されたワークフローも提供します。

リスクワークスペース

バージョン 13.0.5 以降、リスク管理 ユーザーに リスクワークスペースが追加されました。リスクワークスペースは、毎日のタスクとアクティビティを実行するためのシンプルなユーザーエクスペリエンスを提供します。新しいワークスペースの詳細については、「GRC リスクワークスペース」を参照してください。

リスク管理 のメリット

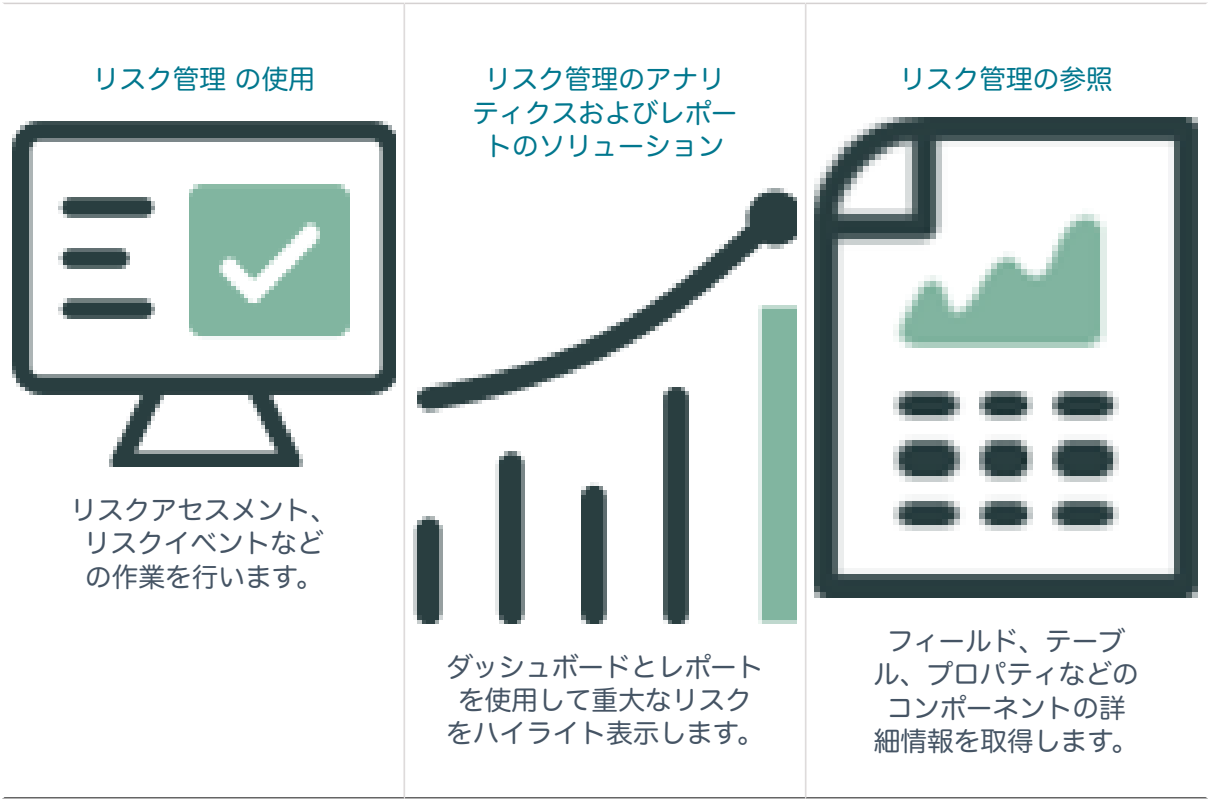
リスク管理 のメリットは次のとおりです。

- リスクベースの意思決定の迅速化：自動化されたリスクスコアに基づいてアクティビティに優先順位を付け、最も重大なリスクを最初に処理します。
- パフォーマンスの向上：自動化された部門横断型アクティビティに組み込まれたリスク管理により、作業の中断が解消されます。
- リスクを効果的に伝達：リアルタイムインサイトとロールベースのダッシュボードにより、すべてのレベルで簡単かつ迅速にレポートを作成できます。
- リスクを常に把握：モバイルインターフェイスで、いつでもどこでも作業に必要な情報を入手できます。

自動翻訳

探索	リスク管理の構成	リスク管理を統合
		
リスクマネージャー、リスクユーザー、およびリスクアドミンの リスク管理 アプリケーションの使用方法について説明します。	リスク管理 アプリケーションを設定します。	他のアプリケーションとの統合により リスク管理 機能を拡張します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



リスク管理を実装

リスク管理 の実装を使用して、GRC リスク管理 および 高度なリスク アプリケーションをすばやく実装します。

その他のリソース

- GRC コミュニティで質問や回答をする
- Known Error Portal で既知のエラー記事を検索
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート
- 開発者トレーニング
- 開発者ドキュメント

リスク管理 の探索

リスク管理製品では、一元的なプロセスにより、ビジネスオペレーションに悪影響を与える可能性のあるエンタープライズと IT のリスクを特定、評価、対応、および継続的に監視することができます。アプリケーションは、リスクアセスメント、リスクインジケーター、およびリスク問題を管理するための構造化されたワークフローも提供します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスク管理 のユーザー

完全なリスクプロセスには、組織のすべての領域の連携が含まれます。

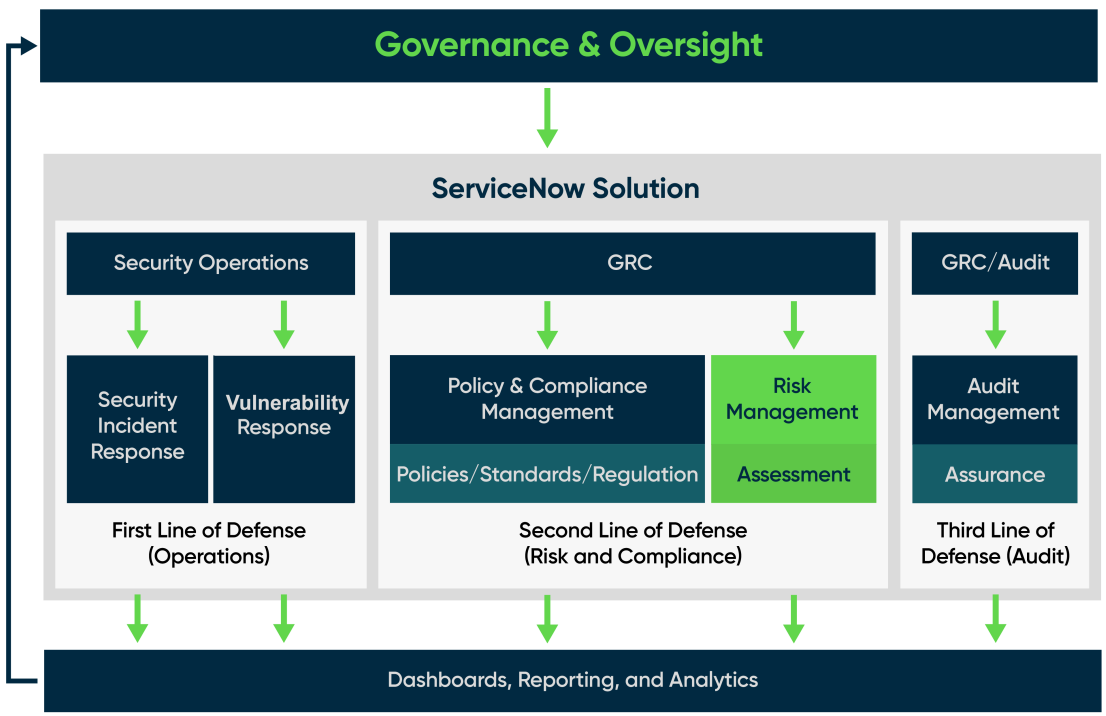
- 監査委員会
- IT 運営委員会
- リスク責任者 (リスクアセスメントを実施し、ビジネスで失敗する可能性のあるものをすべて特定する)
- すべてのレベルのアドミン (リスク責任者がプロセスで発生する可能性のある問題を特定するのを支援する)

リスク管理 の主要なアクティビティ

主要なロールを特定したら、次のアイテムを特定します。

- 組織が受け入れられるリスクのレベルを決定します。所定の場所にリスクデータを取得し、許容できる内容を判断します。
- リスクフレームワークとリスクステートメントを使用して、リスク管理ポリシーを作成します。
- リスクアセスメントと対応の手順を策定します。
- 組織のリスクへのエクスポージャーを減らすためのコントロールを実装します。定期的に繰り返します。
- リスクのエクスポージャーと改善を測定します。

リスク管理 および **ServiceNow AI Platform**



リスク管理 と 高度なリスク アプリケーションでは、次のことができます。

- リスク、リスクステートメント、リスクフレームワークを管理する：リスクライブラリには、すべてのリスクフレームワークとリスクステートメントが含まれています。リスクフレームワークは、リスクステートメントを管理可能なカテゴリにグループ化するために使用され、リスクステートメ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ントは個々のリスクをグループ化します。リスク登録は、いつでも組織内のあらゆる場所で発生する可能性のあるすべての潜在的なリスクの中央リポジトリです。

- リスクイベントを管理：リスクイベントは、組織内で発生する潜在的または実際の財務的および財務以外の損失、ニアミス、および利益です。
- リスク階層と採点：New York 以降、リスクマネージャーはさまざまなタイプのリスク (オペレーショナルリスク、IT リスク、または戦略的リスク) を含む階層を作成できます。根底にあるリスクが評価されると、リスクスコアがリスクステートメント階層全体で自動的にロールアップされるため、戦術的および戦略的な意思決定が向上します。
- クラシック版リスクアセスメントを管理：リスクアセスメントは、リスクを判断するための証拠を収集するサーベイです。リスクアセスメントデザイナーは、ユーザーが証明書を作成および編集したり、採点パラメーターを変更したりするために使用できる単一のインターフェイスを提供します。質問集にはさまざまなカテゴリの質問のライブラリが用意されているため、各アンケートを最初からビルドする必要はありません。リスクは [ドラフト] 状況から始まり、[評価] に移行し、アセスメント回答者に通知が送信されます。
- 高度なリスクアセスメントを管理：高度なリスクアセスメントを使用して、統合されたリスクプラットフォームを作成します。この統合プラットフォームは、さまざまな種類のリスクアセスメント方法論をサポートし、リスクアセスメントを意思決定プロセス全体の一部として統合することができます。
- ポリシーの例外と延長を管理：ポリシーの例外と拡張により、非準拠コントロールが一時的に緩和されます。ポリシー例外は、ポリシー例外要求の受け入れまたは却下をサポートする根拠、コメント、および証拠をキャプチャします。また、承認されたポリシー例外の延長は、ポリシー例外の有効期間の前に要求できます。コントロールオーナー、コンプライアンスマネージャー、およびリスクマネージャーが、ポリシー例外と延長ワークフローに関与する場合があります。
- GRC：ワークベンチを使用してエンティティとリスクの依存関係を使用：GRC：ワークベンチは、CMDB 情報を利用して、すべてのアプリケーションのアップストリームとダウンストリームの関係を表示します。これらの関係により、企業全体で一貫したリスクのマッピングとモデリングが可能になります。
- リスクインジケーター、コントロールインジケーター、およびインジケーターテンプレート：継続的な監視には、主要なリスクおよびコントロールインジケーターの特定と作成に関連するアクティビティが含まれます。これらのインジケーターのサポート情報は、自動データ収集または手動タスクによって収集できます。インジケーターの結果は、コントロールの問題を作成し、リスクスコアを更新し、監査アクティビティとコントロールテストのサポート情報を提供するために使用されます。
- リスクの問題と修正を管理：問題を手動で作成して、監査の所見や修正を文書化したり、問題を受け入れたりすることができます。インジケーターの結果、証明書の結果、またはコントロールテストの有効性から自動的に生成されます。
- リスク管理 と 脆弱性対応 の間のリスクの継続的な監視を管理：リスクの継続的な監視は、GRC：リスク管理と Security Operations Vulnerability Response 製品間の機能統合であり、インジケーターを使用して、ビジネスインパクトに基づいて影響度の高い脆弱性を特定します。
- リスク管理 のアナリティクスおよびレポート作成ソリューション：パフォーマンスアナリティクスソリューションには、事前設定されたダッシュボードが含まれます。これらのダッシュボードには、アクション可能なデータ可視化が豊富に用意されており、ビジネスプロセスとビジネスプラクティスの改善に役立ちます。

GRC リスクワークスペース

バージョン 13.0.5 以降、GRC リスクワークスペースは単一ペインのビューで新しく簡素化されたユーザーエクスペリエンスを提供します。ワークスペースでは、クラシック環境と同じ機能を実行できますが、より直感的な機能を使用できます。これらの機能には、リスクアセスメント、リスクイベント処理などが含まれます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクワークスペース は詳細な構成が可能で、ロール主導型です。ロール主導型であるとは、リスクワークスペース が組織内のユーザーまたはロールごとにカスタマイズされているか、一意であることを意味します。ワークスペースでは、特定のロールを持つさまざまなユーザーがさまざまな機能を実行でき、互いに異なるビューを使用できます。ワークスペースでは、ユーザーが リスク管理 アプリケーションを使用するためにインストールする必要があるアプリの数も削減されます。たとえば、IT リスクを管理する場合は、1 つのアプリケーションのみをインストールする必要があります。ワークスペースを使用すると、アプリの管理とインストールが簡単になります。リスクワークスペースを使用するには、GRC：リスク管理ワークスペース (com.sn_risk_workspace) プラグインをインストールして有効にする必要があります。

リスクワークスペース 内の開始点はホームページ  です。

ホームページには、組織全体のリスクステータスが表示されます。表示できる主要なアイテムには、主なリスクインジケーター (KRI) 違反、リスクヒートマップ、リスク分類とブレークダウン、リスクが最も高いエンティティなどがあります。

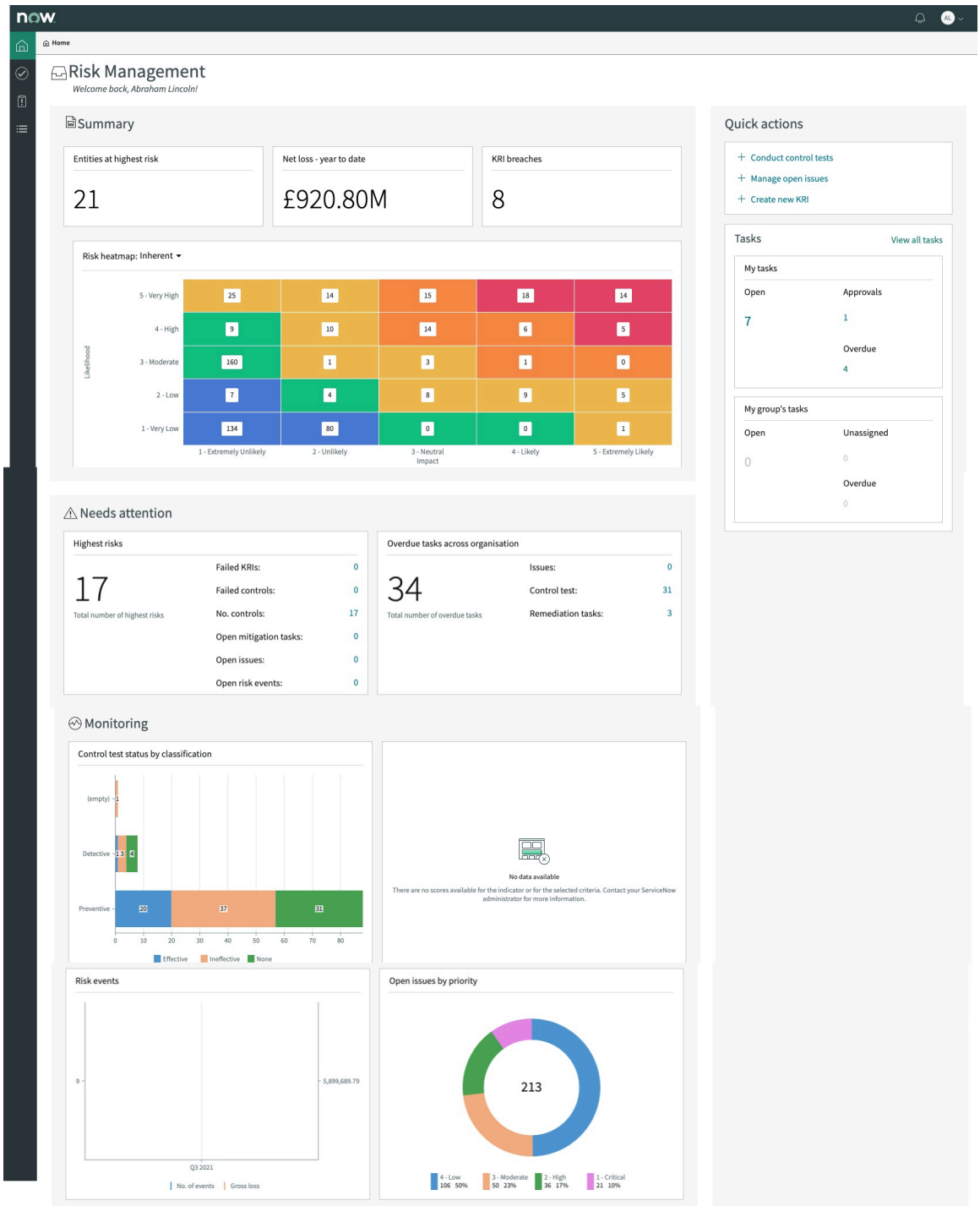
ホームページには次のメリットがあります。

- ロールごとに異なるビューを提供します。
- 各ロールの特定の責任のために設計されています。
- ユーザーに応じて、各ロールの日常のタスクを表示します。たとえば、オペレーショナルリスクマネージャーのホームページは、IT リスクマネージャーのホームページとは異なります。
- 自分と自分のグループにアサインされた重要なタスクを表示します。これにより、実行可能なタスクを簡単に把握できます。高度なリスクアセスメントの新しいユーザーエクスペリエンスの詳細については、「リスクワークスペース の高度なリスクアセスメント」を参照してください。
- 最上位エンティティのリスクプロファイルを表示します。この統合ビューにより、レポートが容易になります。
- ニーズに合わせてカスタマイズできます。たとえば、ヒートマップとレポートに独自の色分けを設定できます。詳細については、「リスクワークスペースの高度なリスクアセスメントのオペレーショナルリスクヒートマップ」を参照してください。
- リスクアセスメントのスケジュール設定、新しい主要なリスク指標の作成などの主要なタスクを実行するためのクイックリンクを利用できます。
- クリックして詳細を表示できる方法でデータを提供します。
- 高度なリスク アプリケーションが有効になっていない場合は、クラシック版リスクアセスメントスコアを表示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

高度なリスクが有効になっていないリスクワークスペースのホームページ



リスクワークスペースのロールとユーザーの拡張

リスクワークスペースのロールは、オペレーショナルリスクマネージャーと IT リスクマネージャーです。各ロール、その責任、およびタスクについては、次のセクションを参照してください。

注:
組織内のロールはここに示されているものとは異なる可能性があるため、これらのロールを参照またはモデルとして使用してください。

リスクワークスペースのユーザーエクスペリエンスにも複数の拡張が行われています。各拡張については、後続のセクションで詳しく説明します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

オペレーショナルリスクマネージャーの リスクワークスペース

オペレーショナルリスクマネージャーは、人、内部プロセス、システム、または外部イベントによって発生するエラー、違反、または損害などのオペレーショナルリスクを管理します。オペレーショナルリスクは、軽微な人的ミスによる損失リスクなどの小さなものから、重大な不正行為による倒産リスクなどの大きなものまでさまざまです。

オペレーショナルリスクマネージャー

オペレーショナルリスクマネージャーは、組織のリスク体制を管理するオペレーショナルリスクチームの一員です。リスク体制は、会社の現在のリスクプロファイルです。オペレーショナルリスクマネージャーは、次のタスクを実行する必要があります。

オペレーショナルリスクフレームワークを定義

堅牢なリスク管理フレームワークを定義することで、組織のオペレーショナルリスクを効果的に管理します。このフレームワークは、リスクを特定し、それらのリスクを軽減するためのコントロールフレームワークを定義するのに役立ちます。リスク管理フレームワークは、次のコンポーネントで構成されています。

- リスク識別
- リスク測定または採点
- リスク軽減
- リスクのレポートおよび監視

ライブラリを設定

次を実行して、包括的なライブラリを設定します。

- リスクステートメントの作成：リスクステートメントは、重大度または相対的な優先度について全員が合意に達することができる方法でリスクを記録するために使用されます。
- コントロール目標の作成：コントロール目標は、リスク軽減コントロールの目標または目的を定義します。これらのコントロールには継続的な監視が必要です。
- エンティティクラス、エンティティタイプ、およびエンティティの定義：エンティティの詳細については、「Understanding entities (エンティティについて)」を参照してください。
- アップストリームおよびダウンストリームエンティティの定義。

最初のステップは、チームがリスクについて具体的に理解できるようにリスクステートメントを設定することです。たとえば、リスクを単にサイバーセキュリティリスクと呼ぶのは具体的ではありません。サイバーセキュリティリスクは、人によって意味が異なります。そのため、サイバーセキュリティを定義する一般的なステートメントがリスクステートメントとして作成されます。リスクステートメントとその階層を作成するには、リスクの影響度、リスクのある資産、およびリスクのソースを明確に定義します。リスクステートメントを定義し、その階層を作成することで、リスクスコアが集計され、完全なリスクステータスを得ることができます。

定期的にリスクアセスメントを実施

組織のポリシーに従って年次リスクアセスメントを実行します。また、リスク登録が更新され、正確であることを確認します。リスクアセスメントスコープを作成し、アセスメントをスケジュールします。リスク登録の詳細については、「リスクワークスペースでのリスク登録」を参照してください。

リスクイベントを記録および監視

リスクイベントは、組織内で発生する潜在的または実際の財務的および財務以外の損失、ニアミス、および利益です。リスクを効果的に管理するには、リスクイベントを監

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

視し、根本原因を分析し、修復タスクを追跡することが不可欠です。組織は、リスクイベントを使用して損失を把握し、改善領域を分析してそれ以上の損失を削減します。完全なイベント情報をキャプチャし、将来のリスクを軽減するための追加のコントロールを提案するために、損失イベント登録を維持する必要があります。

主なリスクインジケーターを定義

企業のリスク体制を継続的に監視します。リスクとコントロールの継続的な監視には、主要なリスクおよびコントロールインジケーターの特定と作成が含まれます。これらのインジケーターのサポート情報は、自動データ収集または手動タスクによって収集できます。インジケーターの結果は、コントロールの問題を作成し、リスク体制の変化を知らせ、監査アクティビティとコントロールテストのサポート情報を提供するために使用されます。インジケーターのしきい値に違反している場合は、それぞれのステークホルダーにエスカレートする必要があります。

問題とインシデントを管理

脅威となる環境、プロセス、またはシステムに変更があると、問題が作成されます。問題には、インシデントまたは損失を防ぐためのアクションが必要です。インシデントは、成功した結果であるか、負の影響を及ぼすイベントです。オペレーショナルリスクマネージャーは、問題とインシデントを表示、作成、および管理できます。問題とインシデントの追跡、適切なクローズ、修正、および監視を確実に行います。

オペレーショナルリスク体制を通知

データを効果的かつ正確にレポートするためのダッシュボードを定義します。エグゼクティブおよびオペレーショナルリスクチームの責任者と共有できる必要なレポートを作成する必要があります。レポートとダッシュボードは、組織全体の集計されたアセスメント結果が企業の上位のオペレーショナルリスクの特定に確実に役立つようにします。

次の表に、オペレーショナルリスクマネージャーのロールで実行する主要なタスクを示します。

オペレーショナルリスクマネージャーのタスク

アクティビティ	タスク
オペレーショナルリスクフレームワークを定義	• リスクステートメントを作成 • リスクワークスペースでリスクフレームワークを作成 • リスクワークスペースでリスクステートメントをコントロール目標に関連付ける
オペレーショナルリスク体制を通知	• リスクワークスペースの高度なリスクアセスメントのオペレーショナルリスクヒートマップ • クラシック版リスクアセスメントのリスクヒートマップ
重大なインシデントと問題を監視	問題を表示、作成、管理
主なリスクインジケーターを定義	リスクインジケーター、コントロールインジケーター、およびインジケーターテンプレート
年次リスクアセスメントプロセスを実施	• リスクアセスメント方法論を構成 • 要素を作成 • リスクアセスメントスコープを作成

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オペレーショナルリスクマネージャーのタスク (続く)

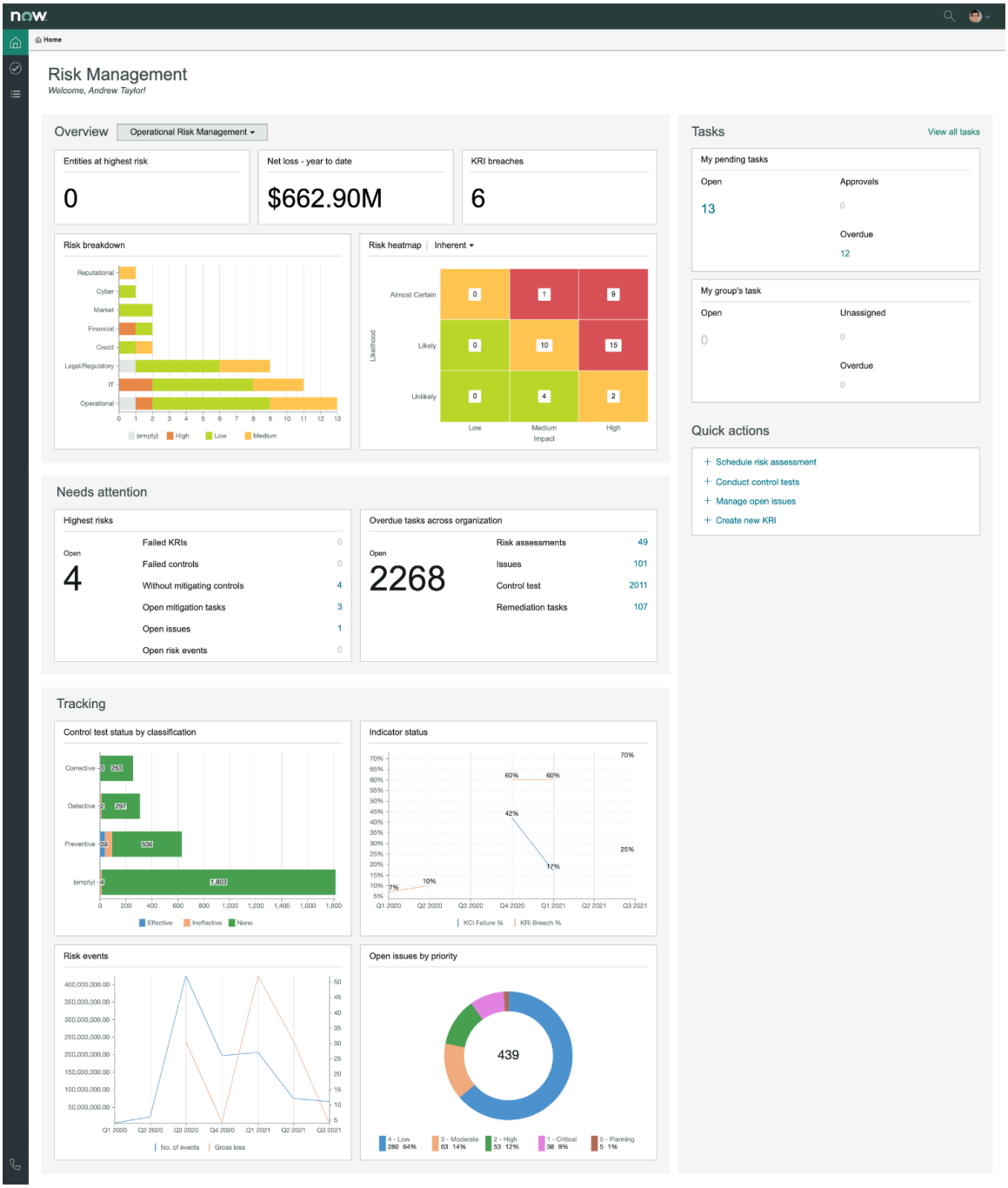
アクティビティ	タスク
	• リスクワークスペースでリスクアセスメントをスケジュール • リスクワークスペースで高度なリスクアセスメントを実行
損失イベントの記録とそこからの学習を促進	• リスクイベントを管理 • リスクワークスペースでリスクイベントを作成 • リスクワークスペースでリスクイベントを分析 • リスクワークスペースでリスクイベントエントリを作成
集計されたリスクレポートを作成	リスク管理アプリケーションにおけるレポート

次の画像は、オペレーショナルリスクマネージャーのビューを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オペレーショナルリスクマネージャーのホームページ



関連情報

GRC リスクワークスペース と一緒にインストールされるロール

ビジネスオペレーショナルリスクマネージャーの リスクワークスペース

ビジネスオペレーショナルリスクマネージャーは、個々の LOB (基幹業務) の防御の第一線を担います。特定の事業部門のリスク体制を管理する責任があります。

ビジネスオペレーショナルリスクマネージャーには、sn_risk_workspace.business_op_risk_manager ロールがあります。ビジネスオペレーショナルリスクマネージャーは、ワークスペースで次のことを実行できます。

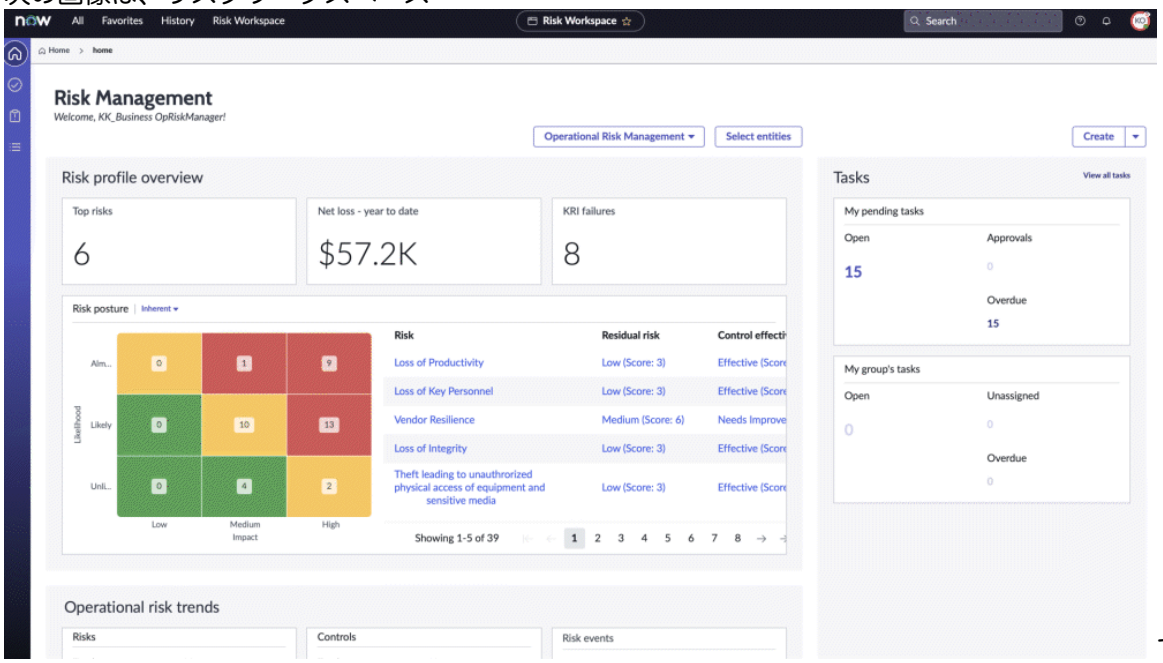
- 適切なリスクアセスメント方法論をフィルターして、関連するデータを表示します。
- 上位リスクの数を表示して、エンティティのパフォーマンスを表示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 失敗した重要なリスクインジケーターの数を表示します。
- 現在の暦年または会計年度の初日から現在の日付までの正味損失。
- リスク、リスクイベント、およびインジケーターを作成します。
- 過去 30 日間に特定された未評価のリスクや新しいリスクなどのオペレーショナルリスクの傾向を表示します。
- カテゴリ別にリスクを表示します。
- コントロールのステータス、新しいコントロールの数、および証明されていないコントロールの数を表示します。
- 期限切れの問題の数と新規の問題の数を表示します。

次の画像は、リスクワークスペース



での、オペレーショナルリスクマネージャーのビューを示しています。

エンティティの上位リスクのリスクアセスメントを表示するには、[上位のリスク] カードをクリックします。

ワークスペースのヒートマップは、ヒートマップの各タイルを選択すると、リスクに関する重要なインサイトを提供します。ヒートマップ上のフィルターを使用して、固有のリスク体制または残存リスク体制のいずれかを表示できます。詳細については、「リスクヒートマップワークベンチ」を参照してください。

IT リスクマネージャーの リスクワークスペース

情報テクノロジー、すなわち IT リスクは、ビジネスデータと重要なシステムに対する脅威です。これは、組織内での IT の使用および運用に関連するリスクです。IT リスクマネージャーは、組織全体の IT リスク管理プログラムの確立と維持を担当する主要な人物です。

IT リスクの性質はさまざまです。ビジネスに影響を与える可能性のあるさまざまなタイプの IT リスクを認識することが重要です。IT リスクマネージャーは、さまざまなステークホルダーと協力して、IT リスクが組織のリスク選好度の範囲内で管理されるようにします。IT リスクマネージャーのリスクアセスメントを容易にするために、事前設定されたリスクアセスメント方法論 (RAM) もデフォルトで提供されます。IT リスクマネージャーは、この RAM を使用することも、要件に応じて変更することもできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

IT リスクマネージャーのタスク

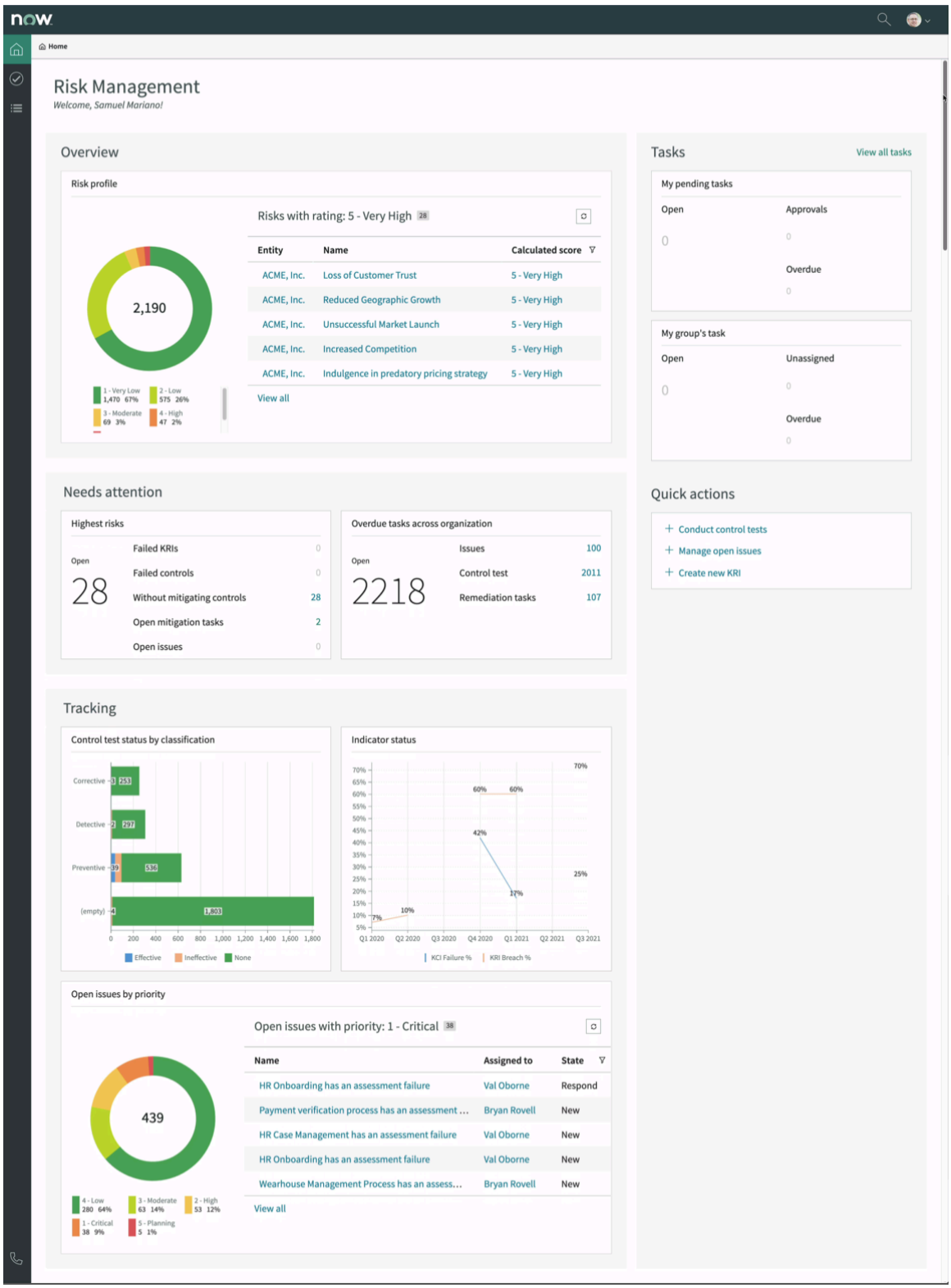
アクティビティ	タスク
ワークフローを使用してリスクを特定します。	リスクワークスペースでのリスク識別のワークフロー。
すべての IT リスクを特定、評価、緩和、および監視します。	• リスクワークスペースでリスクアセスメントスコープを作成。 • リスクワークスペースでリスクアセスメントをスケジュール。
IT リスクの修復アクションを管理し、アクションプランを定義します。	リスク応答の管理。
IT リスク体制を通知します。	クラシック版リスクアセスメントのリスクヒートマップ。
主なリスクおよびコントロールインジケーターを定義します。	リスクインジケーター、コントロールインジケーター、およびインジケーターテンプレート
コントロールテスト計画を作成します。	リスクワークスペース でテスト計画を作成する

次の画像は、IT リスクマネージャーのビューを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

IT リスクマネージャーのホームページ



自動翻訳

リスクワークスペースのユーザーエクスペリエンスの拡張

新しいワークスペースでは、日常のタスクを簡単に実行できるようにいくつかの機能拡張が行われています。ユーザーエクスペリエンスの拡張は、新しい GRC ユーザーまたは GRC の完全なエクスペリエンスを持たないユーザーに役立ちます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクワークスペースのビュー

新しいワークスペースでは、ユーザーに次のビューが提供されます。

リストビュー

リストビューには、すべてのモジュールの簡易リストが表示されます。リストビューにアクセスするには、リストアイコン ( ) をクリックします。

レコードビュー

レコードビューには、レコードに関する詳細情報が表示されます。たとえば、リスクステートメントフォームでは、リスクステートメントの親と子を含む完全な階層を表示できます。このビューには、未解決のインジケーター違反、未解決の問題、未解決のリスクイベントなどの詳細が表示されます。

その他のユーザーエクスペリエンスの改善

レコードの概要ページ

各レコードの [概要] タブには、必要なすべての情報の概要が単一のビューで表示されます。たとえば、リスクレコードについては、KRI 違反、コントロールの失敗、未解決の問題の数、オープンインジケータータスク、評価されたリスクの数などを確認できます。

レコードのコンテキストサイドパネル

レコードのコンテキストサイドパネルには、レコードの詳細な関連情報が表示されます。たとえば、リスクの場合、親と子の階層を表示できます。参照アイコン ( ) をクリックすると、コンテキストサイドパネルを表示したり閉じたりできます。

タスク

タスクは、自分のタスクとグループのタスクを表示する一元化されたタスク受信ボックスです。タスクにアクセスするには、タスクのアイコン ( ) をクリックします。

360 度のリレーションシップビュー

360 度ビュー機能を使用すると、選択したレコードと、コントロール、リスク、エンティティタイプなどの関連オブジェクトの間の関係を表示できます。360 度ビューでは、表示されているすべてのレコードを操作することもできます。詳細については、「360° Relationship Visualization」を参照してください。

ブレッドクラムナビゲーション

ブレッドクラムスタイルナビゲーションでは、関連するコンテンツを含むリンクされたページの階層を移動するための、ブラウザーパスを利用できます。ブレッドクラムスタイルナビゲーションでは、ユーザーの開始点から現在のコンテンツまで、各リンクに移動する機能により、デジタル記録を提供します。詳細については、「ブレッドクラムナビゲーション」を参照してください

統合された問題ページ

包括的なイシュー管理ページには、問題の詳細なステータスが表示されます。たとえば、期限切れの問題、期限切れ間近の問題、優先度別の問題などを表示できます。自分と自分のグループにアサインされた問題を表示することもできます。この機能により、問題の追跡が簡単になります。[問題のランディングページ] アイコン ( ) をクリックすると、問題にアクセスできます。詳細については、「リスクワークスペースでのイシュー管理」を参照してください。

GRC リスクポータル

GRC リスクポータルは、GRC ビジネスユーザーが自分のタスクとそのグループのタスクを表示できるようにする簡素化されたインターフェイスです。リスクポータルでは、ユーザーがリスクイベントを報告することもできます。

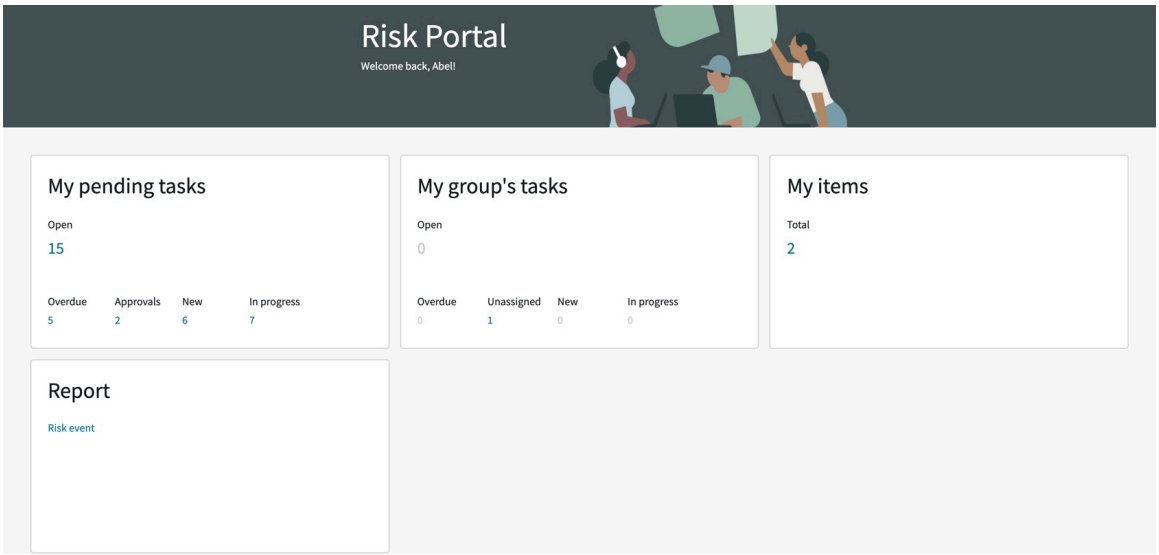
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

リスクポータルにアクセスするには、 リスク > リスクポータル. このポータルを使用するには、sn_grc.business_user ロールが必要です。リスクポータルでは、次のことができます。

- [自分の処理待ちのタスク]：自分にアサインされた処理待ちのタスクを表示します。たとえば、リスクアセスメントが自分にアサインされている場合は、リスクポータルから起動できます。
- [自分のグループのタスク]：グループにアサインされたタスクを表示します。
- [自分のアイテム **(My items)**]：提出した要求を表示します。たとえば、問題、ポリシー例外、修復タスクなどです。
- [レポート]：リスクイベントを報告します。リスクポータルからリスクイベントを報告する方法については、「リスクポータルからリスクイベントを報告」を参照してください。

リスクポータル



リスクワークスペース の高度なリスクアセスメント

リスクワークスペース は、ユーザーが高度なリスクアセスメントを実行するための拡張および簡素化されたユーザーエクスペリエンスを提供します。自分または自分のグループに割り当てられたリスクアセスメントには、GRC リスクポータルまたは リスクワークスペースから簡単にアクセスできます。

新しい リスクワークスペースを使用すると、リスクアセスメントインスタンスで実行するすべてのアセスメントについて、より多くのデータをすぐに参照できるため、リスクアセスメントをより直感的に行うことができます。オペレーショナルリスクマネージャーは、高度なリスクアセスメントを使用するとき、ホームページの [リスクサマリー] フィールドで、リスクアセスメント方法を選択するためのフィルターを使用できます。たとえば、評価されたオペレーショナルリスクを示すリスクアセスメント方法を選択できます。リスクアセスメント方法の詳細については、「高度なリスクアセスメント」を参照してください。

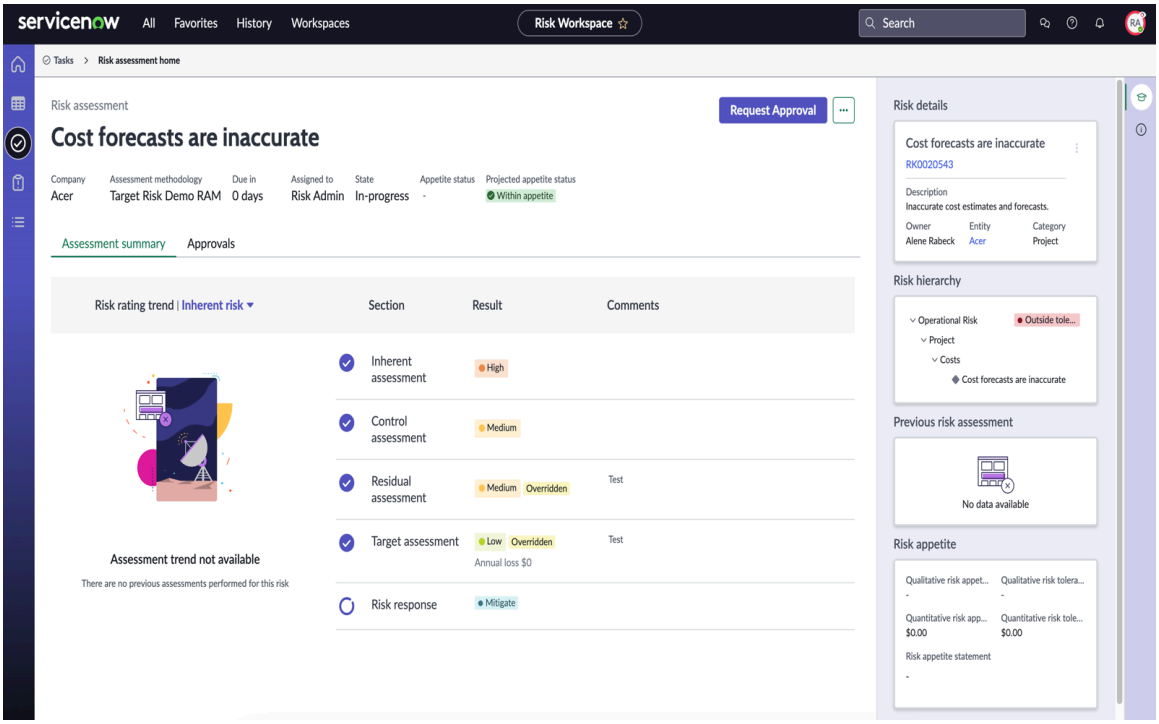
新しいユーザーがリスクアセスメントを理解できるように、アセスメントセクションに関する説明を含むコンテキストサイドパネルが提供されます。デフォルトの説明と簡単なトレーニングが提供されていますが、リスクアセスメントに関連するトレーニングコンテンツを表示するようにシステムを構成することもできます。サイドパネルのトレーニング情報を開いたままにしたくない場合は、情報アイコンを使用して閉じることもできます。

リスクアセスメントのホームページでは、アセスメント対象のエンティティ、アセスメントの期日、アセスメントのアサイン先、承認者、およびリスクの説明を一目で確認できます。ホームページには、リスクアセスメントの結果と選択されたリスク応答戦略も表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクアセスメントホームページ



リスクワークスペースの高度なリスクアセスメントの主な機能拡張は次のとおりです。

関連するリスクとコントロールの参照情報を表示

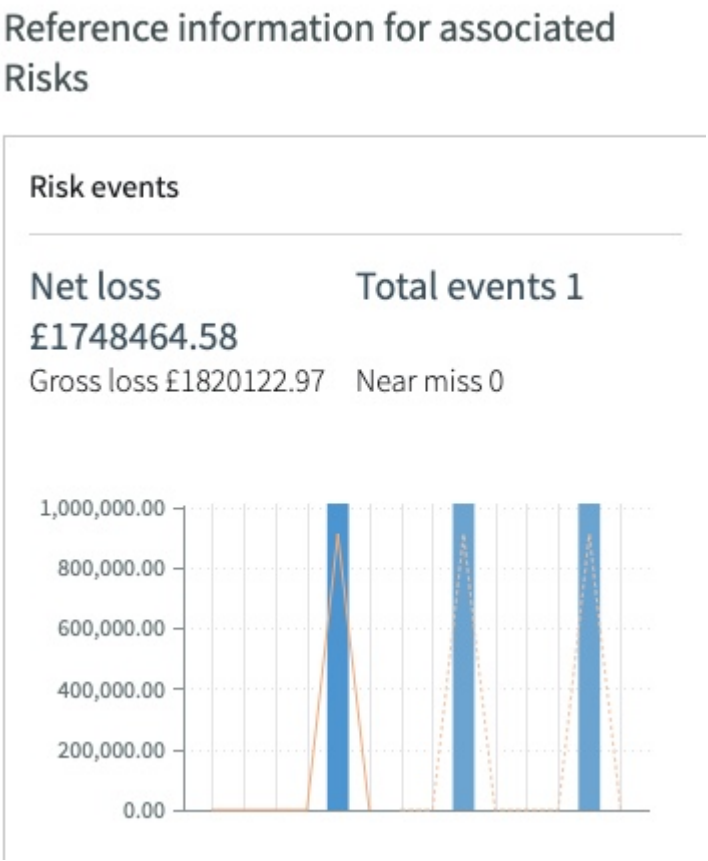
コンテキストサイドパネルには、関連するリスクとコントロールの参照情報が表示されます。グラフ表示をクリックすると、リスクイベント、問題、インジケーター違反などに関する詳細情報を取得できます。参照情報には以下が表示されます。

- 特定のリスクについて集計されたリスクイベントの総損失と正味損失を表示するリスクイベントグラフ。このグラフには、損失の予測も表示されます。
- 四半期ごとの主要なインジケーター違反の割合。
- 失敗したコントロールインジケーターの割合のグラフ。コントロールアセスメントを実行するときに、コントロールテストの結果、インジケーターの失敗などを参照できます
- 未解決の問題の数とその重大度。プラスアイコンをクリックして問題を作成することもできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

高度なリスクアセスメントの参照情報

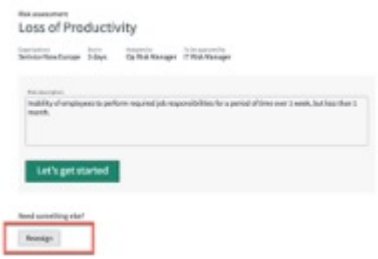


要素ガイダンスを表示

ワークスペースで要素に応答しているときに、[ガイダンスを表示] アイコン ( ) をクリックすると、ガイダンスをすばやく表示できます。この機能により、応答中にガイダンスを表示して要素を理解できるため、時間を節約できます。

アセスメントを再アサイン

他のユーザーが評価する必要があるリスクアセスメントがアサインされている場合は、リスクアセスメントのホームページからアセスメントを再アサインできます。同じ名前のユーザーが 2 人いる場合は、アセスメントを再アサインするときにユーザーのメールアドレスを表示できます。この機能により、ユーザーが間違ったユーザーにアセスメントをアサインすることを防止できま



す。

要素の重み付け情報を表示

第一線のリスク査定人は、要素の定性的重み付け、定性的スコア、および定量的スコアを表示する必要がある場合があります。[総合評価] をクリックすると、この情報に簡単にアクセスできます。

関連情報

リスクワークスペースで高度なリスクアセスメントを実行

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

高度なリスクアセスメント

ServiceNow® ガバナンス、リスク、コンプライアンス (GRC) 高度なリスクアセスメント機能を使用して統合リスクプラットフォームを作成します。この統合プラットフォームは、さまざまな種類のリスクアセスメント方法をサポートしています。これにより、リスクアセスメントを総合的な意思決定プロセスの一部として統合できます。

高度なリスクアセスメントには次のメリットがあります。

- リスク識別、リスク分析、リスク評価、リスク処理、および監視を含む完全なリスク管理ライフサイクルをデジタル化します。
- 組織固有のニーズに基づいてリスクアセスメントプロセスをカスタマイズします。このカスタマイズには、アセスメント基準、コンテキスト、および全体的なリスク採点ロジックの構成が含まれます。
- 定性的および定量的両方のリスクアセスメント方法をサポートします。
- リスク全体のボトムアップリスクアセスメントスコアを自動的に集計します。
- 第一線のユーザーのワークスペースにリスクアセスメントプロセスを埋め込みます。この埋め込みは、ユーザーがアクションに関連するリスクに基づいて情報に基づいた意思決定を行うのに役立ちます。

注:
現在のライセンスが高度なリスクアセスメントを受ける資格があるかどうかを確認するには、ServiceNow にお問い合わせください。

リスクアセスメントのステップ

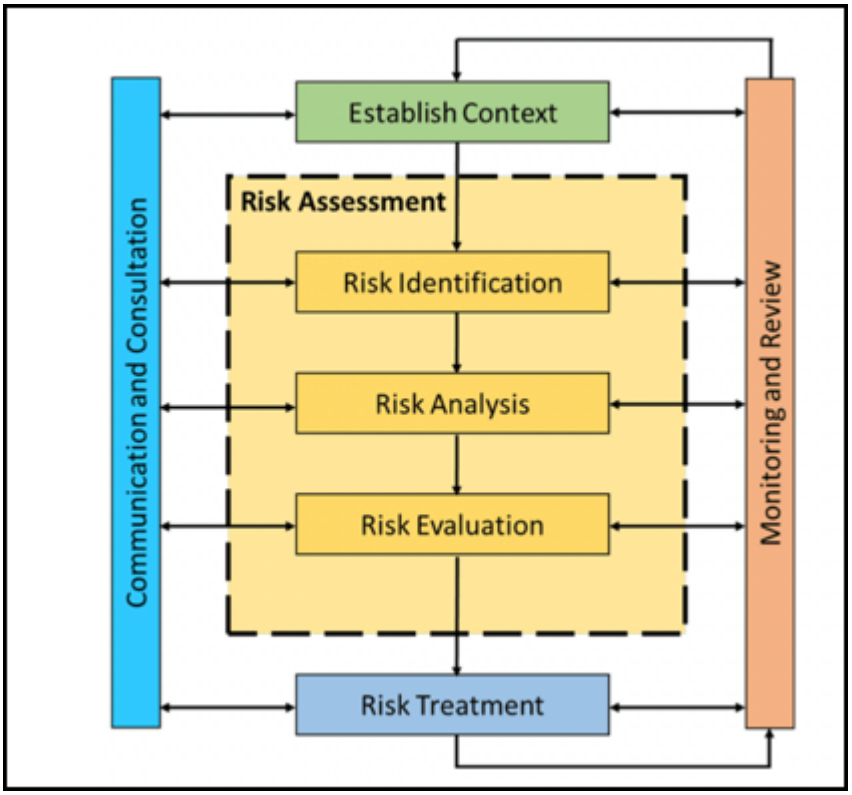
高度なリスクアセスメントを理解する前に、リスク管理の主要なステップを理解することが重要です。

1. リスクの特定：組織の目標達成を妨げる可能性のある不確実性やリスクを見つけます。
2. リスク分析：リスクの原因と結果を理解します。
3. リスク評価：追加のアクションが必要かどうかを判断するために、リスク分析の結果を確立されたリスク基準と比較します。
4. リスクの処理：リスクに対処するためのアクションプランを定義します。
5. リスク監視：組織のリスク体制を追跡し、関連するステークホルダーに伝達します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスク管理のステップ



リスクアセスメントは、リスクの特定、リスク分析、およびリスク評価で構成されます。高度なリスクアセスメントは、要素または質問とその回答に基づいて実行されます。組織などのエンティティに対して実行できます。高度なリスクアセスメントを使用するには、[管理] モジュールの下にある [高度なリスクアセスメントに移行] プロパティを有効にする必要があります。リスクアセスメントの査定人と承認者には、sn_grc.business_user ロールが必要です。高度なリスクアセスメントを使用すると、固有のリスク、軽減コントロール、および残存リスクを評価するリスクの詳細なアセスメントを行うことができます。エンティティ、リスクステートメント、コントロールなどの完全な GRC セットアップがない場合でも、任意の ServiceNow レコードまたはオブジェクトのリスクを評価できます。オブジェクトアセスメントの例は、変更管理の評価です。リスクアセスメントでは、以下のリスクが評価されます。

- 固有リスク：固有リスクは、コントロールを持たないリスクです。たとえば、ハイウェイでの高速走行は、中程度の速度での走行よりも本質的にリスクが高くなります。この固有リスクのスコアは、リスクの影響度とリスクの可能性を乗算することによって導出されます。
- コントロールの有効性：コントロールにより、リスクの影響または可能性を軽減できます。たとえば、ハイウェイには制限速度モニターがあります。リスクが具体化した場合、コントロールによって影響が緩和されます。コントロールには、予防コントロール、発見的コントロール、または是正コントロールがあります。
  - 予防コントロールは、これらの問題が発生する前にエラー、不正確、または詐欺を防ぐように設計されています。
  - 発見的コントロールは、エラー、不正確、または詐欺の存在を発見することを目的としています。
  - 是正コントロールは、検出されたエラーや不規則性を修正するように設計されています。
- 残存リスク：残存リスクは、コントロールの実装後に残るリスクです。たとえば、安全対策が講じられていても、事故が発生している場合、事故による損害が残存リスクです。残存リスクスコアは、次のいずれかの方法を使用して計算できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 固有有効性と残存有効性の間のマトリクス。
- 固有スコアからコントロールスコアを引く、などの数式。
- 要素に対する回答。

- ターゲットリスク：ターゲットリスクは、組織が今後の達成を望んでいるリスクです。特定されたリスクの可能性のレベルと影響を評価することで、各リスクに対するターゲットリスクのレベルを確立できます。たとえば、リスクをアセスメントするときは、固有リスク、コントロールの有効性、残存リスクなどのさまざまな側面を考慮します。ただし、リスク対応が実装された後に達成される望ましいリスクレベルをキャプチャすることも同様に重要です。ターゲットリスクは、アクションプランが正常に実行された後に達成を目指す最適なリスクレベルを表します。これらのアクションを実装するコストとの関連で、組織が得る利益を測定できます。

高度なリスクアセスメントのワークフロー

高度なリスクアセスメントを使用するには、リスクアセスメント方法論 (RAM) を設定し、アセスメントスコープを定義して、アセスメントを実行する必要があります。

高度なリスクアセスメントを使用する前に、ユーザーごとに異なるセットアップタスクを実行する必要があります。これらのステップは、アセスメントのワークフローを定義します。

1. リスクアセスメント方法論 (RAM) を設定：sn_risk.admin ロールを持つリスクアドミニストレーターがシステムを設定します。アドミニストレーターは次のことを行います。
   - 識別：リスクまたはオブジェクトが評価されているかどうかを識別します。
   - アセスメント：アセスメント基準、リスクの採点、レポート設定などを使用して問題を評価する方法を決定します。

   詳細については、「リスクアセスメント方法論を構成」を参照してください。
2. リスクアセスメントスコープを定義：RAM が定義された後、エンティティオーナーは以下を定義して識別します。
   - エンティティの関連リスク。
   - これらのアセスメントの査定人と承認者。
   - リスクアセスメントの周期性。

   詳細については、リスクアセスメントスコープを作成し、アセスメントを開始します。およびリスクワークスペースでリスクアセスメントスコープを作成を参照してください。
3. リスクアセスメントを実行：sn_grc.business_user ロールを持つリスク査定人は、次のアセスメントタスクを実行します。
   - 固有リスクと軽減コントロールの有効性を評価します。
   - 残存リスクをレビューし、リスク処理計画を定義します。
   - ターゲットリスクアセスメントを実行して、望ましい今後のリスクレベルを定義します。
   - レビューおよび承認ワークフローをトリガーします。

   詳細については、「リスクワークスペースで高度なリスクアセスメントを実行」を参照してください。
4. アセスメントを監視：リスクアセスメントが承認されると、アセスメントは [監視] ステータスに移行します。リスクアセスメントで評価されたリスクは、特に自動要素が含まれている場合は監視する必要があります。任意のデータソースから自動的にデータを取得する自動要素または質問のリスク評価は常に変化します。したがって、現在評価が低いリスクの評価が後で高くなる可能性があります。このため、完了したアセスメントを監視して組織への脅威を減らすことが不可欠です。

高度なリスクアセスメントの要素

要素は、リスクの分析に使用できる質問です。リスクアセスメントインスタンスに要素が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

要素は、リスクアセスメント中に表示される質問です。高度なリスクアセスメントを使用するには、最初にこれらの要素を定義し、リスクアセスメント方法論 (RAM) を設定する必要があります。RAM の詳細については、「リスクアセスメント方法論を構成」を参照してください。各要素または質問には応答があります。要素には次のようなタイプがあります。

- 手動要素：人間の入力が必要な要素。応答は手動応答です。たとえば、自分の名前です。
- 自動要素：応答が自動的に計算される要素。例：今日の都市の気温。情報は外部ソースから取得されます。
- スクリプト化された自動要素：スクリプトを記述するために使用される要素。
- グループ要素：論理的にグループ化された一連の要素。

これらの機能については、次のセクションで説明します。要素を定義して公開した後、RAM を設定し、RAM 内のアセスメントタイプに要素を関連付けることができます。RAM はリスクアセスメントの基礎を形成します。選択した各アセスメントタイプを公開してから、RAM を公開します。sn_risk.user ロールを持つユーザーは、アセスメントを実行する必要があるアセスメントタイプを選択できます。

リスクアセスメントインスタンスが作成されます。そのプロパティは、RAM に対して選択したアセスメントのタイプとオプションによって異なります。リスクアセスメントインスタンスでは、リスク査定人がリスクの評価を行います。質問として、要素は複数のアセスメントタイプで使用できます。たとえば、「建物が浸水する可能性はどのくらいですか？」などの質問を、固有のアセスメントまたはコントロール有効性アセスメント後の残存アセスメントに含めることができます。

注:
要素は複数のアセスメントタイプで使用できますが、使用できるのは 1 つの RAM のみです。1 つの RAM で作成され、使用された要素を他の RAM で再利用することはできません。

要素の貢献度のタイプ

査定人が要素に応答します。リスク査定人は、次の方法で要素に貢献できます。

- 定性的：損失は、高、中、低などの主観的な用語の形式です。損失は、評価に変換される数値スコアの形式にすることもできます。
- 定量的：損失は数値形式です。これらは、金銭的なリスクから発生する可能性があります。固有年次損失予測 (ALE) に寄与します。
- 両方：損失には、定性的なリスク評価と定量的な金額 (ドル) の両方があります。これらの評価は、半定量的とも呼ばれます。

定性的、定量的、および半定量的評価の詳細については、「リスク評価方法のタイプ」を参照してください

手動要素

リスクアセスメントでは、回答者からの人間による回答が必要な質問は手動要素と呼ばれます。手動要素では、応答は主観的で分類が困難です。一部の質問では、人間のインテリジェンスとアセスメントが必要です。したがって、手動要素は個人の見解によるアセスメントです。手動要素の例としては、評判への影響度、予想される発現速度などがあります。手動要素では、ユーザーは次のタイプの応答を提供できます。

- テキスト：説明的な回答。たとえば、フィードバックです。この選択肢は、リスクスコアの計算に寄与しません。
- 選択肢：アセスメントの質問に対するユーザー定義の選択肢。たとえば、ユーザーは低、中、高からリスク評価を選択できます。
- 数字：数値。たとえば、未解決の問題の数です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 通貨：ユーザーの現地通貨での金額。たとえば、特定のリスクの財務の影響です。
- パーセンテージ：アセスメントの質問のパーセンテージ値。たとえば、組織の戦略に満足している従業員の割合。

グループ要素

要素が論理的にグループ化されると、グループ要素と呼ばれます。グループ要素のスコアは、対応する手動要素の応答に依存します。たとえば、組織は財務リスクと非財務リスクの影響を受けます。財務リスクのいくつかの要素と、非財務リスクの他の要素を作成できます。これらの 2 つの要素セットを組み合わせて、全体的な影響度と呼ばれる 1 つのグループ要素を作成できます。手動要素と同様に、グループ要素は、定性的貢献に変換される数値リスクスコア、または定量的貢献として ALE 値に貢献できます。

自動要素

自動要素は、アセスメント中にテーブルやデータベースビューなどのデータソースから最新のデータを自動的にフェッチします。自動要素は、リスクアセスメントプロセスを自動化するのに役立ちます。手動入力に依存しないため、主観性が減少します。たとえば、リスク査定人がさまざまな場所に対してアセスメントを実行する必要があるとします。自動要素の 1 つは国の政治状況であり、この情報は Web サイトで公開されます。このデータは ServiceNow 内に存在しないため、査定人は自動要素を使用してデータをフェッチできます。自動要素の他の例を次に示します。

- プロジェクトに参加している従業員数。
- 事業部門の収益。
- プロセスの事業上の重要度。

スクリプト化済み自動要素

自動スクリプト化済み要素は、スクリプトを記述するために使用されます。スクリプトは、ServiceNow レコードまたは外部ソースからデータをフェッチします。スクリプト化された自動要素は、リスクアセスメント中に要素に対する応答を自動的に提供します。

次のユースケースは、スクリプト化された要素をモデル化する方法の例を示しています。たとえば、コンプライアンス機能の結果を使用してコントロールの緩和の有効性を評価する場合、コントロールを評価する方法には次の 2 つがあります。

- コントロールの個々のアセスメント
- コントロール環境のアセスメント。

コントロールの個々のアセスメントでは、各コントロールが個別に評価されます。スクリプト化された要素のコンテキストでコントロールアセスメントを理解するために、リスクとしてのマネーロンダリングの例を検討してください。この例では、コントロールの有効性は失敗したコントロールの割合に基づいて評価されます。失敗したコントロールの値は、そのコントロールのコントロール有効性を計算するための評価に変換されます。たとえば、マネーロンダリングのリスクには次の 3 つの軽減コントロールがあります。

- 従業員トレーニング
- 従業員に関する内部監査
- 顧客デューデリジェンス

次の方法でコントロール有効性基準を定義しているものとします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コントロール設計有効性の問題	コントロール有効性
0% ～ 30%	有効
30% ～ 60%	改善が必要
60% 超	無効

ここで、3 つのコントロールのうち、1 つのコントロールが合格し、2 つのコントロールが不合格であると仮定します。2 つのコントロールが失敗した場合、失敗率は 66.67% になります。変換に基づき、また前のテーブルに基づくと、コントロール有効性評価は無効です。この定義済みスクリプトを使用して、マネーロンダリングのリスクを評価する要素への応答を自動化できます。

コントロール環境アセスメントの場合は、各コントロールを個別に評価する代わりに、完全なコントロール環境を評価できます。コントロール環境アセスメントを理解するために、次の例を考えてみましょう。設計有効性と運用有効性の 2 つの側面に基づいてコントロール環境を評価すると仮定します。設計有効性を計算するために、マネーロンダリングのリスクに関連する関連コントロールをフェッチできます。その後、テスト結果を確認して、不合格になったコントロールの数を把握できます。次の方法でコントロール有効性基準を定義しているものとします。

コントロール設計有効性の問題	コントロール有効性
0% ～ 30%	有効
30% ～ 60%	改善が必要
60% 超	無効

ここで、2 つのコントロールが不合格で、1 つのコントロールが合格したと仮定します。このように、コントロール設計有効性の失敗率は 33.33% です。前のテーブルに基づくと、この値が 33.33% と低い場合は、コントロール設計に改善が必要であることを意味します。この応答は、人間の計算や介入を必要としないため、自動スクリプト化された要素で自動的にスクリプト化できます。

リスク評価方法のタイプ

アセスメント中にリスクが採点され、評価が導出されます。評価には、定性的、半定量的、定量的の 3 種類があります。

定性的評価

定性的リスクアセスメントは、リスクの可能性と影響に関する査定人の認識に依存します。方法が純粋に定性的である場合、評価は高、中、低などのリスト値に基づいています。この場合、リスクスコアはロールアップされません。この方法には数学的依存関係が最小限であるため、定性的リスクアセスメントは簡単かつ迅速に実行できます。この方法では、評価対象のプロセスまたは資産に関する査定人の経験豊富な知識を活用することもできます。リスクアセスメントを初めて使用するユーザーは、通常、このタイプの評価を使用します。

次の図は、定性的評価の例を示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

定性的リスクアセスメント

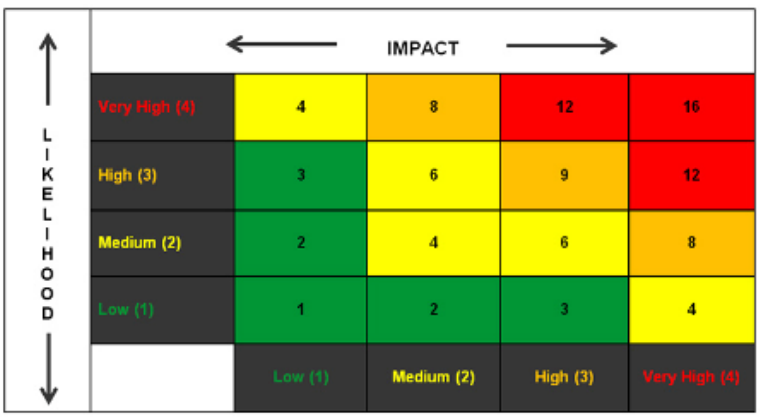
		Impact		
		Low	Medium	High
Probability	Low	Low Risk	Low Risk	Medium Risk
	Medium	Low Risk	Medium Risk	High Risk
	High	Medium Risk	High Risk	High Risk

半定量的評価

半定量的評価では、定性的評価にも対応する数値スケールがあります。たとえば、定量的リスクスコアが 0 ～ 10 の場合、定性的評価は低です。このタイプの評価を使用するユーザーは、リスクアセスメントを初めて使用するユーザーではありません。ほとんどのユーザーがこのカテゴリに属します。このカテゴリでは、リスクスコアがロールアップされ、リスク選好度の性質は定性的です。

次の図は、半定量的評価の例を示しています。

半定量的リスク評価



Risk Score	Rating
0 – 3	Low
4 – 6	Medium
6 – 9	High
10 – 16	Very High

定量的評価

定量的リスクアセスメントは、ファクトベースで測定可能な高度に数学的なデータに焦点を当てています。高度なシミュレーション技術を使用する定量的リスクアセスメントでは、リスクは純粋に数値で定量化されます。このカテゴリでは、リスク選好度の性質は定性的です。

変換基準

リスクスコアが計算された後、スコアを評価に変換し、その評価を上級アドミンや他のステークホルダーに簡単に報告できます。

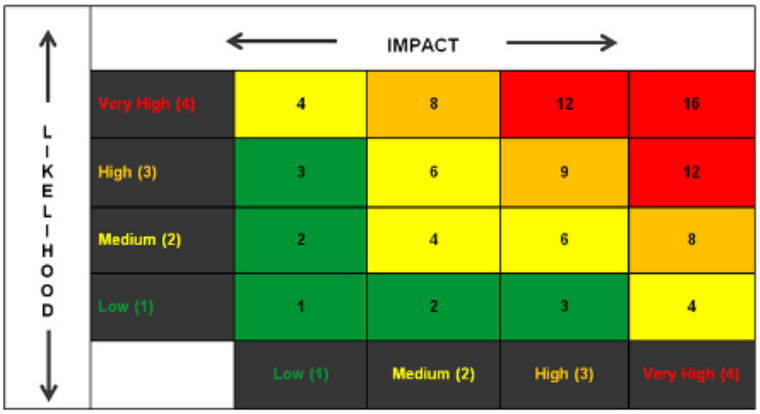
スコアは評価に変換されます。これは評価がスコアの明確な意味と解釈を提供するためです。リスクスコアの変換は、変換基準を使用して行われます。要件に基づいて変換基準を定義できます。たとえば、80 ～ 100 のリスクスコアを高リスクと定義できます。

次の図は、評価変換基準の例を示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

評価変換基準



Risk Score	Rating
0 – 3	Low
4 – 6	Medium
6 – 9	High
10 – 16	Very High

高度なリスクアセスメントを使用した任意のオブジェクトアセスメント

エンティティ、リスクステートメント、コントロールなどの完全な GRC セットアップがない場合、任意の ServiceNow レコードまたはオブジェクトのリスクを評価できます。オブジェクトアセスメントの例は、変更管理の評価または引用の評価です。

任意のオブジェクトアセスメントを使用して、任意の ServiceNow レコードのリスクアセスメントを実行します。リスクアセスメントを実行するために、リスクの予備知識は必要ありません。リスクマネージャーは、アセスメント結果を使用して、プロジェクトまたはアプリケーションに関連するリスクを迅速に分析できます。

オブジェクトアセスメントは次の方法で実行できます。

- アドホック：アドホックベースのリスクアセスメントでは、ユーザーは UI アクションを介してアセスメントを実行できます。
- イベント駆動型：イベント駆動型のリスクアセスメントでは、ユーザーは何らかのイベントに基づいてリスクアセスメントを実行できます。

オブジェクトアセスメントを実行するには、[オブジェクト] を使用してリスクアセスメント方法を作成し、関連するテーブルを選択する必要があります。

注:
オブジェクトのリスクアセスメントを実行する場合、コントロールを評価することはできません。この制限の理由は、コントロールがエンティティまたはリスクのいずれかに関連付けられているためです。また、リスク応答ワークフローはオブジェクトのアセスメントには使用できません。

アセスメントを生成した後、アセスメントのリストを表示できるオブジェクトに関連リストを追加できます。オブジェクトのオブジェクトアセスメントを構成し、[リスク評価] ボタンを作成する方法の詳細については、Now Support ナレッジベースの「Perform any object assessment (オブジェクトアセスメントの実行) [KB0826429]」の記事を参照してください。

リスクワークスペースでオブジェクトアセスメントを設定する方法については、Now Support ナレッジベースの「Any object integration in workspace (ワークスペースでの任意のオブジェクトの統合) [KB0961251]」の記事を参照してください。

注:
記事を表示するには、Now Support にログインする必要があります。

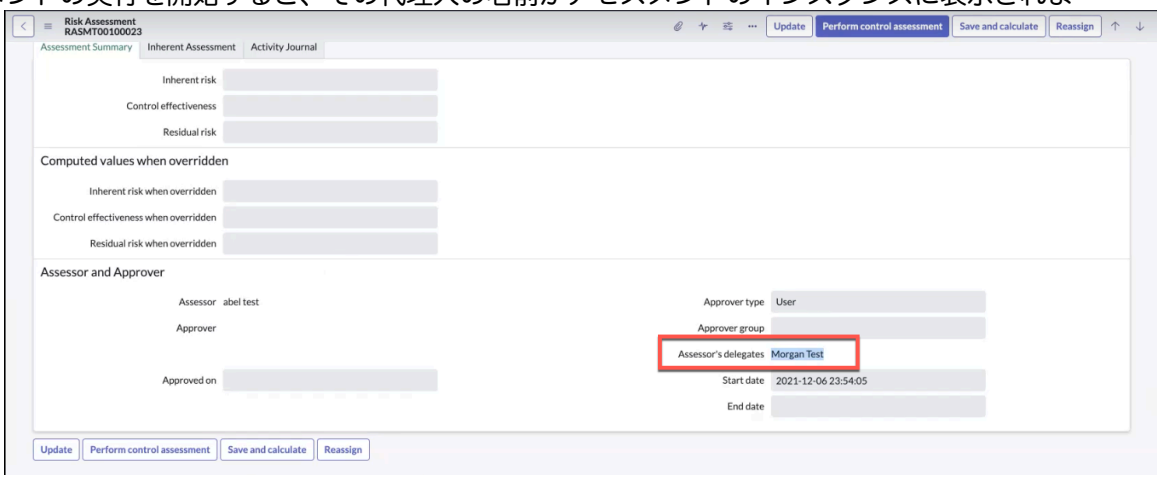
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクアセスメントの委任

リスク査定人がリスクアセスメントを実行できない場合、査定人は指定された期間リスクアセスメントを実行する代理人を指名することができます。ServiceNow AI Platform を使用すると、代理人を指名できます。

委任とは、特定のアクティビティを実行する権限を他のユーザーにアサインすることです。これは他の人に作業を委任するプロセスです。リスクアセスメントのコンテキストでは、アサインされたリスクアセスメントの査定人がリスクアセスメントを実行できない場合があります。このようなシナリオでは、査定人は別のユーザーを代理人としてアサインすることができ、代理人は指定された期間、元の査定人に代わってリスクアセスメントを実行できます。代理人は、リスクワークスペースおよびリスクポータルからリスクアセスメントを実行できます。代理人は、元の査定人に送信されるすべてのシステム通知のコピーも受け取ります。代理人がアセスメントの実行を開始すると、その代理人の名前がアセスメントのインスタンスに表示されます。



リスク査定人が代理人をアサインする方法については、「Configure a delegate for your tasks (タスクの委任を構成する)」を参照してください。

タスクを他のユーザーに委任するには、[代理人] 関連リストを表示するように自分のユーザープロファイルフォームを設定します。詳細については、「[代理人を追加] 関連リスト」を参照してください。

代理人をアサインするときは、次の点に注意してください。

- 代理人をアサインする機能は、アセスメントを実行する場合にのみ使用できます。リスクアセスメントを承認するための代理人をアサインすることはできません。
- 代理人にアセスメントがアサインされると、アセスメントには元の査定人の名前と代理人が表示されます。
- 個々のユーザーは代理人としてのみアサインでき、グループとしてアサインすることはできません。
- リスクベースのアセスメントを実行するには、sn_risk_advanced.ara_assessor ロールが必要です。
- オブジェクトアセスメントを実行するには、代理人に sn_risk_advanced.ara_assessor が必要です。
- すべての代理人はライセンスされたユーザーと見なされ、GRC の使用状況が追跡されます。
- 代理人が査定人に代わってリスクアセスメントを実行する際は、元の査定人の名前が [査定人] フィールドに保持されます。新しいフィールド [査定人の代理人] に代理人の名前が表示されます。
- 代理人は、タスクを別のユーザーに再アサインできます。
- 代理人は、ワークスペースの [タスク] で元の査定人の進行中のアセスメントを表示できます。
- 代理人は問題を作成できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 代理人は、リスク応答タスクを作成し、承認を要求できます。
- 代理人によって実行されるすべてのアクティビティは、アクティビティストリームにキャプチャされます。

リスクアセスメントインスタンスについて

リスクアセスメントインスタンスでは、リスク査定人が質問や要素に回答することでリスクとオブジェクトを評価することができます。

リスクアセスメント方法論 (RAM) が作成され、リスクアセスメントスコープが定義された後、リスクアドミニストレーターによってアセスメントが開始されます。査定人は、リスクを評価するための通知を受け取ります。リスクアセスメントを実行するには、査定人に sn_grc.business_user ロールが必要です。アセスメントは、エンティティのリスクスコアに到達するために使用されます。

注:
高度なリスクアセスメントロールを sn_grc.business_user ロールに手動でアサインする必要があります。ロールおよびグループの付与を調整する方法については、Now Support ナレッジベースの「How to adjust granting of roles and groups to use background jobs (バックグラウンドジョブを使用するためのロールとグループの付与を調整する方法) [KB0963693]」を参照してください。

リスク査定人が回答する質問は、RAM 内で構成されます。アセスメントには、手動要素と自動要素を含めることができます。手動要素には、応答として人間の入力が必要です。自動要素では、応答が自動的に計算されます。自動要素は、構成で定義されたスケジュールに基づいて自動的に実行されます。

アセスメントが完了すると、定義された再アセスメント頻度に基づいて再アセスメントが自動的にトリガーされます。再アセスメントは、既存のリスクアセスメントインスタンスが監視状況である場合にのみトリガーされます。アセスメントが監視状況にある場合、自動要素がスケジュールに従って実行されるたびに、アセスメントスコアが変更され、要素がロールアップに新しいスコアを提供します。

リスク査定人がアセスメントを別の関連する査定人に再アサインする必要があると判断した場合、査定人はアセスメントを再アサインできます。査定人は、要素に応答した後に応答を変更することもできます。

アセスメントが複数回行われ、以前のアセスメントの応答をコピーするオプションが RAM で有効になっている場合、以前のアセスメントからの応答が現在のアセスメントに自動的にコピーされます。

注:
自動要素応答と上書きされたスコアは、以前のアセスメントからコピーされません。

リスクアセスメントインスタンスのコンポーネント

RAM の構成に基づいて、リスクアセスメントインスタンスフォームには次の関連リストも表示されます。

- 以前のアセスメント：現在評価中のリスクの過去 5 回のアセスメント。
- リスクイベント：リスクに関連付けられているリスクイベントの数。
- リスクインジケーター：このリスクについて合格および不合格になったリスクインジケーターの数。
- オープンな問題：リスクとそのステータスおよび所有者のオープンな問題の数。
- リスク応答タスク：アセスメントに対して作成されたリスク応答タスクの数。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 関連コントロール：リスクに関連するコントロール。この関連リストは、コントロール環境が評価されている場合にのみ表示されます。

  注:
  以前のリリースを使用している場合、合格および不合格のインジケーターの更新数を表示できないことがあります。この問題を解決するには、*`Update indicator and Controls Count`* 修正スクリプトを実行してください。

査定人には、軽減コントロールを評価しないというオプションがあります。コントロールをオプトアウトするオプションには、リスクがありますが、それを軽減するコントロールがない場合に役立ちます。たとえば、パンデミックがリスクであるが、それを制御するワクチンがないシナリオについて考えてみましょう。このような場合、リスクは評価されますが、コントロールはアセスメントから除外できます。査定人がコントロールと残存リスクの評価をオプトアウトすることを決定した場合、スコアは [適用外] に設定されます。

コントロールアセスメントが個々のコントロールを評価するように設定されており、コントロールが評価対象のリスクに関連付けられている場合、コントロールをオプトアウトするオプションは表示されません。これは、コントロールがデフォルトに設定されているために発生します。

残存アセスメントが固有のリスクおよびコントロールに対するものであり、リスク査定人がコントロールアセスメントをオプトアウトする場合、残存リスクは適用されません。この条件が作成されるのは、コントロールがない場合、自動的に固有リスクのみが存在し、残存リスクがないことになるためです。

リスクアセスメントのステージ

リスクアセスメントのライフサイクルは、次の状況を辿ります。

1. 評価の準備完了：新しいアセスメントのインスタンスが作成されます。
2. 固有のアセスメント：固有のリスクアセスメントが実行されます。
3. コントロールアセスメント：コントロールアセスメントが実行されます。
4. 残存アセスメント：残存リスクアセスメントが実行されます。
5. ターゲットアセスメント：ターゲットリスクアセスメントが実行されます。
6. 対応：リスクに対応します。
7. 承認待ち：特定されている場合、リスクアセスメントは承認者からの承認を待機します。
8. 監視：リスクアセスメントが完了し、監視されています。

リスク応答の管理

リスク応答は、リスクが評価された後にリスクに対処するために使用される戦略です。

リスクが評価された後、査定人はそれらのリスクへのアプローチを決定します。リスクに対処するために、査定人は次のタイプのリスク応答または戦略から選択できます。

- 承認：リスクをそのまま受け入れます。
- 軽減：リスクを軽減するための追加のコントロールを特定して実装します。
- 回避：リスクを完全に回避するために計画を変更します。
- 転送：リスクを第三者に転送または共有します。

査定人が最適な戦略を特定すると、査定人はリスク応答タスクを作成し、sn_risk.user ロールを持つリスクユーザーにアサインします。各戦略の説明は次のとおりです。

リスク受容

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

リスクユーザーはリスクを受け入れる際に、リスクを受け入れる方法についての計画を提供し、リスクを受け入れる理由を提供し、リスクオーナーから追加の承認を求めます。受け入れタスクのクローズは、その期間のリスクを受け入れていることを意味します。その後、リスクは [監視] ステータスに移行します。指定された期間が終了すると、ワークフローを再開してリスクを評価し、リスクに再度対応することができます。リスクオーナーは、次のいずれかのオプションで対応できます。

- 承認
- 却下
- キャンセル
- 追加情報の要求
- 不要になったと判断する

リスク軽減

リスクユーザーがリスクを軽減することを選択すると、リスク軽減タスクが作成されます。リスクユーザーは、リスクを軽減する方法についての計画を提供し、リスクマネージャーからのレビューを要求する必要があります。リスク軽減タスクが [ドラフト] または [対応中] ステータスの場合は、リスクのリスク軽減コントロールを作成するか、ライブラリから既存のコントロールを追加できます。sn_risk.manager ロールを持つレビュー担当者がその後で計画をレビューし、次のいずれかのオプションを選択します。

- クローズ
- ドラフト状況に戻り、追加のコメントを入力
- キャンセル
- 削除

リスク回避

リスクユーザーがリスクを回避することを選択すると、リスクを回避する方法についての計画を提供し、リスクマネージャーからのレビューを要求します。その後でレビュー担当者が計画をレビューし、次のいずれかのオプションを選択できます。

- クローズ
- ドラフト状況に戻り、追加のコメントを入力
- キャンセル
- 削除

リスク移転

リスクユーザーがリスクの転送を選択すると、リスクを転送する方法についての計画を提供し、リスクマネージャーからのレビューを要求します。その後でレビュー担当者が計画をレビューし、次のいずれかのオプションを選択できます。

- クローズ
- ドラフト状況に戻り、追加のコメントを入力
- キャンセル
- 削除

注:
リスク応答ワークフローはオブジェクトアセスメントには使用できません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

高度なリスクアセスメントのリスクスコアロールアップ

高度なリスクアセスメントでは、リスクステートメント階層、エンティティ階層、またはその両方の組み合わせでリスクスコアが計算されます。これらの方法により、ステークホルダーはリスク体制を監視し、全体的な集計リスクスコアを表示できます。

ロールアップ機能を理解する前に、次の点を考慮してください。

- 各エンティティは、さまざまなリスクアセスメント方法に基づいて複数のスコアを持つ場合があります。
- [監視] ステータスのリスクアセスメントのみがリスクスコアに寄与します。
- 各リスクアセスメント方法には、ロールアップ定性的スコアとロールアップ定量的スコアを計算するための異なる計算式がある場合があります。式は、リスクアセスメント方法論フォームの [ロールアップ構成]セクションで指定されます。
- 高度なリスク プラグインが有効になるたびに、リスクスコアがロールアップされます。

リスクステートメント階層

アセスメントに基づいて、選択された方法のリスクステートメント階層全体で、固有リスクスコア、年次損失予測 (ALE)、コントロール有効性スコア、残存リスクスコア、および ALE が自動的にロールアップされます。このロールアップにより、リスクマネージャーはエンタープライズリスク体制を監視できます。

エンティティ階層

リスクステートメント階層と同様に、リスクアセスメント方法論のエンティティ階層全体でリスクスコアと ALE 値が自動的にロールアップされます。このロールアップにより、エンティティオーナーはエンティティのリスク体制を監視できます。ロールアップは、次の式を使用して行われます。

- 合計
- 平均
- 最大
- 最小

エンティティ階層とリスクステートメント

顧客は、[集計されたリスクレポートの管理] を使用して、エンティティのリスク体制を監視する追加のレポートディメンションを定義できます。たとえば、小売銀行の内部不正関連リスクを理解する必要がある場合は、そのレポートディメンションを定義してリスクを監視できます。

高度なリスクアセスメントに移行した後のレポートとリスクロールアップ方法の変更

新しいロールアップスコア計算を利用するには、sn_risk.admin ロールを持つリスクアドミニストレーターが、まず *`Migrate to Advanced Risk Assessments`* プロパティを有効にして、 高度なリスクアセスメント > アドミニストレーション > プロパティ. このプロパティはデフォルトで有効になってはいません。

注:
上記のプロパティを有効にすると、リスク概要ダッシュボードのカスタマイズがすべて非表示になることに注意してください。ServiceNowにサポートを依頼してください。また、リスクの次のプロパティは、高度なリスクロールアップに移行するときに非表示になりません。

- 次に基づいてリスク許容範囲を比較
- 計算されたリスクスコアを次と比較

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

顧客が 高度なリスク に移行すると、次のレポートがユーザーのビューで非表示になります。

- 集計されたリスクレポート
- エンティティ別のエクスポージャー
- リスクステートメント別のエクスポージャー

リスク概要ダッシュボードでは、次のタブが非表示になります。

- エンティティ許容範囲ステータス
- リスク許容範囲ステータス
- 集計されたエンティティ情報
- 集計されたリスク情報

集計されたリスクレポートには、ロールアップされたリスクスコアを示す次のモジュールが表示されます。

- リスクステートメント別集計
- エンティティ別の集計
- リスクステートメントごとのエンティティ

高度なリスクアセスメントに移行すると、個々のリスクスコア値は、リスクスコアを取得するためにがロールアップされません。代わりに、高度なリスクアセスメントの値が考慮されます。たとえば、エンティティの場合、エンティティフォームの [リスクロールアップおよび許容範囲] セクションは表示されません。同じことがすべてのリスクステートメントに該当します。代わりに、[集計されたリスク] と呼ばれる関連リストが表示されます。[集計されたリスク] 関連リストには、さまざまなリスクアセスメントから導出された次の値が含まれています。

- リスクアセスメント方法
- 残存評価
- 固有の評価
- コントロール有効性
- 残存 ALE
- 固有 ALE
- 貢献リスクアセスメント
- リスクロールアップステータス

プライバシーリスク管理

プライバシー管理 のユーザーは、統合リスク管理 の完全なライセンスを持っていなくても、限定された機能セットを使用して高度なリスクアセスメントを実行できます。

注意が必要な領域を優先するために、リスクアセスメントはさまざまなステークホルダーによって実行され、組織内のさまざまなワークフローの一部として組み込まれています。たとえば、プライバシー管理 内で、ユーザーは最も高いリスクをもたらす資産を特定し、それらのリスクを軽減するために適切なレベルのコントロールを確実に実装できる必要があります。他の事業部門におけるこのリスクアセスメントのニーズに対処するために、プライバシー管理 のユーザーがリスク管理のニーズに合わせて 統合リスク管理 ライセンスを購入することなく、高度なリスクアセスメント機能を使用できるようにするソリューションが実装されています。

ユーザーがリスクアセスメントに制限付きの高度なリスクアセスメントを使用する場合は、次の点を考慮する必要があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

- 他の事業部門の Lite ユーザーは、2 つの公開されたリスクアセスメント方法論のみを使用できます。
- 自動要素を使用できます。
- リスクイベントの管理とリスク識別ワークフローの使用は、制限付きリスクアセスメントでは使用できません。

プライバシー管理 でのリスクスコアロールアップ

プライバシー管理 のユーザーが高度なリスクアセスメントを実行すると、リスクスコアが自動的にロールアップされます。

バージョン 14.0 以降、プライバシー管理 のユーザーは高度なリスクアセスメントを実行できます。リスクスコアは、高度なリスクアセスメントを実行するとロールアップされます。ロールアップされたスコアは、集計されたリスク結果を示します。ロールアップされたアグリゲートスコアは、次の図に示すようにテーブルに表示されます。

リスクスコアのロールアップ表示

Detailed Aggregated Risk | Inherent ALE | Search | Actions on selected rows... | New

All

Risk assessment methodology	Assessed entity	Risk statement	Residual rating	Inherent rating	Control effectiveness	Residual ALE	Inherent ALE	Contributing risk assessments	Risk rollup
Application Risk Assessment	Microsoft Outlook	(empty)	(empty)	Medium (Score: 2.75)		₹0.00	₹99,000.00	view	Updated
Application Risk Assessment	ACME Retail Banking	(empty)	(empty)	Medium (Score: 2.75)		₹0.00	₹99,000.00	view	Updated
Application Risk Assessment	ACME, Inc.	(empty)	(empty)	Medium (Score: 2.75)		₹0.00	₹99,000.00	view	Updated
Application Risk Assessment	ACME, Inc.	Information Technology Risk	(empty)	Medium (Score: 2.75)		₹0.00	₹99,000.00	view	Updated
Application Risk Assessment	(empty)	Information Technology Risk	(empty)	Medium (Score: 2.75)		₹0.00	₹99,000.00	view	Updated
Application Risk Assessment	(empty)	IT Performance	(empty)	Low (Score: 1.5)		₹0.00	₹5,500.00	view	Updated
Application Risk Assessment	(empty)	Inadequate or irregular backup	(empty)	Medium (Score: 2)		₹0.00	₹5,500.00	view	Updated
Application Risk Assessment	(empty)	Equipment sensitivity to moisture and co...	(empty)	Medium (Score: 2)		₹0.00	₹900.00	view	Updated
Application Risk Assessment	(empty)	IT Infrastructure	(empty)	Medium (Score: 2)		₹0.00	₹900.00	view	Updated
Application Risk Assessment	(empty)	Inadequate network management	(empty)	Low (Score: 1)		₹0.00	₹165.00	view	Updated
Operational Risk Management	(empty)	Theft, Fraud and Unauthorized Activity	Medium (Score: 2)	Medium (Score: 4)	Needs Improvement (Score: 2)	₹0.00	₹0.00	view	Updated
Operational Risk Management	(empty)	Indulgence in predatory pricing strategy	Medium (Score: 2)	Medium (Score: 4)	Needs Improvement (Score: 2)	₹0.00	₹0.00	view	Updated
Operational Risk Management	ACME, Inc.	Financial	High (Score: 3)	High (Score: 9)	Effective (Score: 5)	₹0.00	₹0.00	view	Updated
Operational Risk Management	(empty)	Viability of competition	Medium (Score: 2)	Medium (Score: 6)	Ineffective (Score: 1)	₹0.00	₹0.00	view	Updated
Operational Risk Management	(empty)	Reduced Geographic Growth	Low (Score: 1)	Medium (Score: 6)	Effective (Score: 5)	₹0.00	₹0.00	view	Updated
Operational Risk Management	Consumer Durable	(empty)	Medium (Score: 2)	Medium (Score: 6)	Effective (Score: 3)	₹0.00	₹0.00	view	Updated

スコアのロールアップを理解するための詳細については、「高度なリスクアセスメントのリスクスコアロールアップ」を参照してください。

リスクアセスメントスケジューラーを管理

リスクアセスメントスケジューラーを作成し、リスクマネージャーにアサインします。リスクマネージャーは、リスクアセスメントの一括開始のためにエンティティとエンティティ内のリスクを特定できます。

ほとんどの組織では、第二線のリスクマネージャーがリスクアセスメントを調整します。この第二線のリスクマネージャーは、リスクアセスメントのためにエンティティとそれらのエンティティ内のリスクを識別します。また、特定されたリスクを評価する必要のあるユーザーを特定します。このプロセスは、第一線のリスクマネージャーにこれが不要になり、第一線のリスクマネージャーがこれらのリスクを自己評価して報告できるようになる成熟度のレベルに達するまで管理する必要があるリスクアセスメントキャンペーンに似ています。このリスクアセスメントのサイクルのため、リスクマネージャーは個々のリスクアセスメントスコープを作成し、リスクアセスメントを開始することが期待されています。この反復的なアクティビティは、リスクマネージャーの時間のロスにつながります。この問題に対処するために、リスクアセスメントスケジューラーという新しいフォームが Quebec リリースで導入されました。リスクアセスメントスケジューラーを使用すると、リスクマネージャーは以下を選択できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

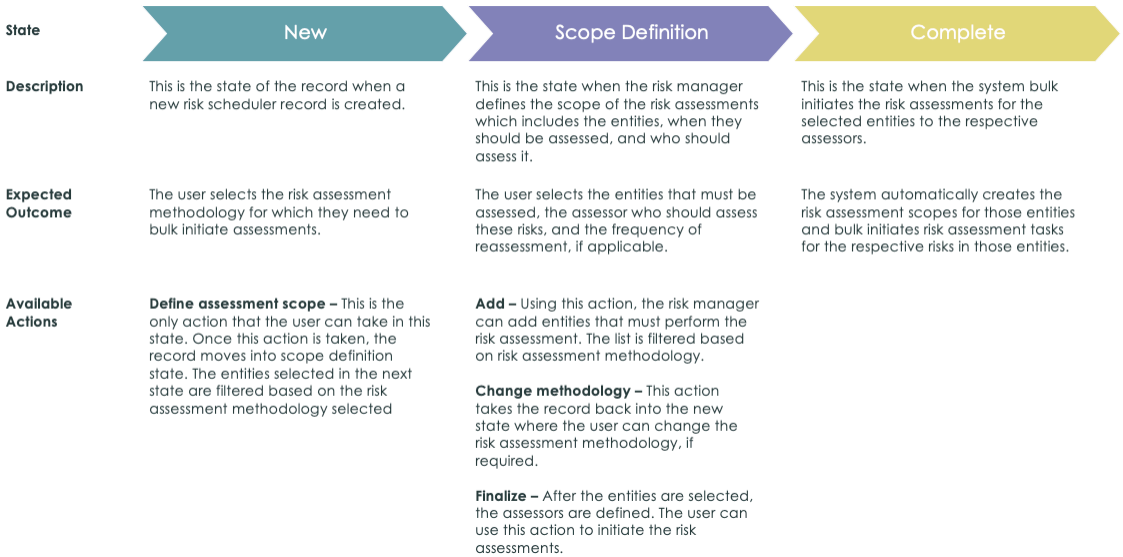
自動翻訳

- リスクアセスメント方法
- 評価が必要なエンティティ
- アセスメントの査定人
- リスクの再評価を行う必要がある頻度。

この情報に基づいて、リスクアセスメントスコープが自動的に作成され、定義された頻度でこれらのエンティティのリスクアセスメントが開始されます。エンティティにマッピングされているすべてのリスクがアセスメントのスコープ内にあると見なされます。

次の図は、リスクスケジューラーフォームの各アクションの状況、説明、および予想される結果を示しています。

リスクアセスメントスケジューラーのワークフローとアクション



自動翻訳

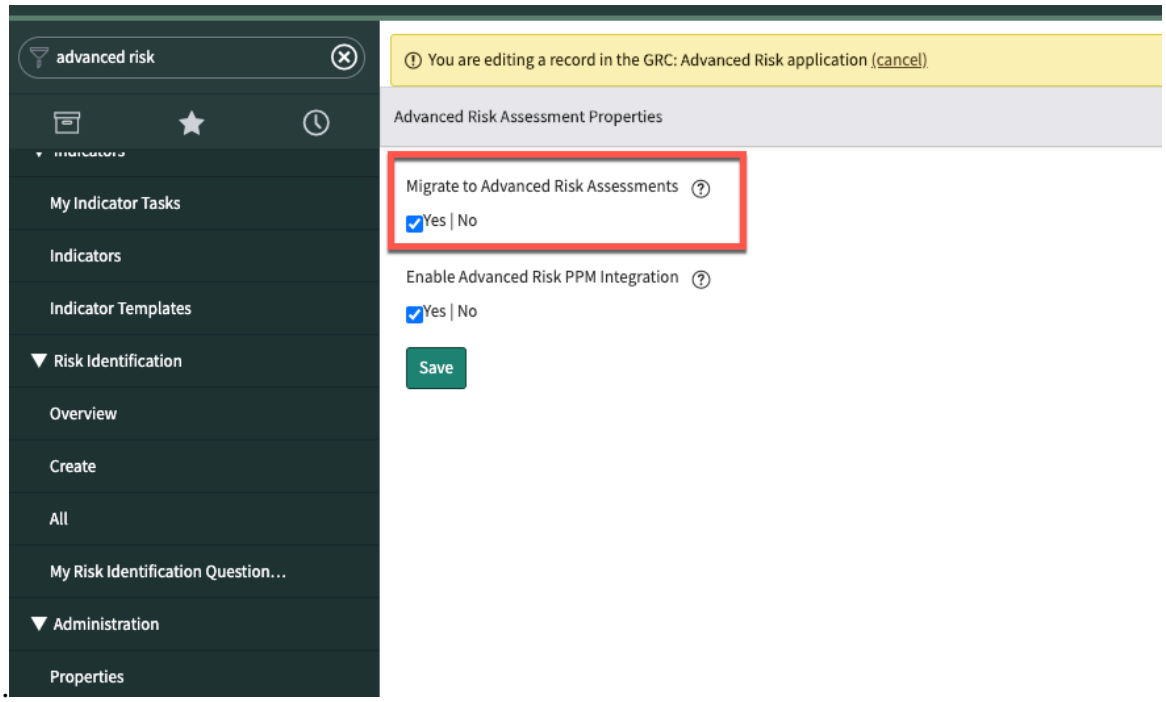
高度なリスクアセスメントのリスクおよびコントロールとの統合

高度なリスクアセスメントに移行すると、従来のリスクライフサイクルが置き換えられ、リスクフォームに [アセスメントサマリー] と呼ばれる新しいセクションが表示されます。このセクションは、アセスメント結果の全体的な可視化を提供するため、リスクマネージャーに役立ちます。

高度なリスクアセスメントへの移行は、すぐに対応する必要があるリスクを表示できるため、リスクマネージャーに役立ちます。高度なリスクアセスメントに移行するため、`Migrate to Advanced Risk Assessments` という新しいプロパティが Quebec リリースで導入されました。ユーザーはこのプロパティを次の場所で

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

有効にできます: 高度なリスクアセスメント > アドミニストレーション > プロパティ.

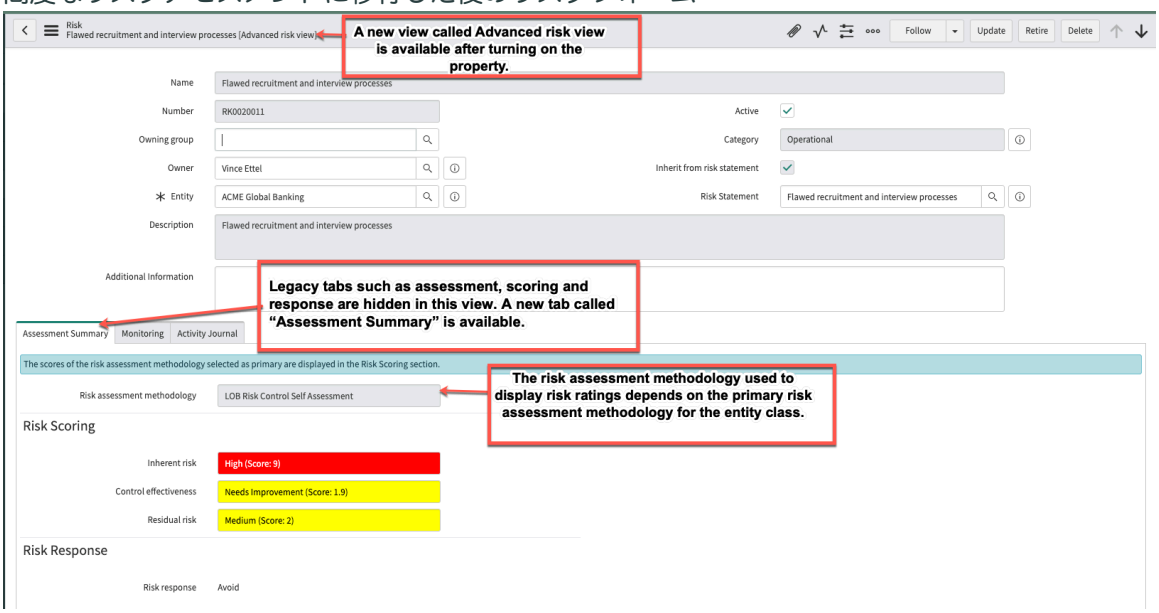


ユーザーがこのプロパティを有効にすると、高度なリスクアセスメントに完全に移行され、古いリスク管理は使用されません。この移行は次のフォームに影響します。

- リスク
- エンティティ
- リスクステートメント

ユーザーが移行すると、リスクフォームの従来のリスクライフサイクル、採点、アセスメント、および応答のセクションが削除されます。代わりに、リスクアセスメントスコアがリスク応答とともに表示される [アセスメントのサマリー] という新しいセクションが使用可能になります。リスクアセスメントに複数の方法が使用されている場合、システムは選択されたエンティティクラスのデフォルトの方法を検出し、それらのスコアをこのフィールドに表示します。プライマリリスクアセスメント方法論は、リスクアセスメント方法論フォームで定義できます。

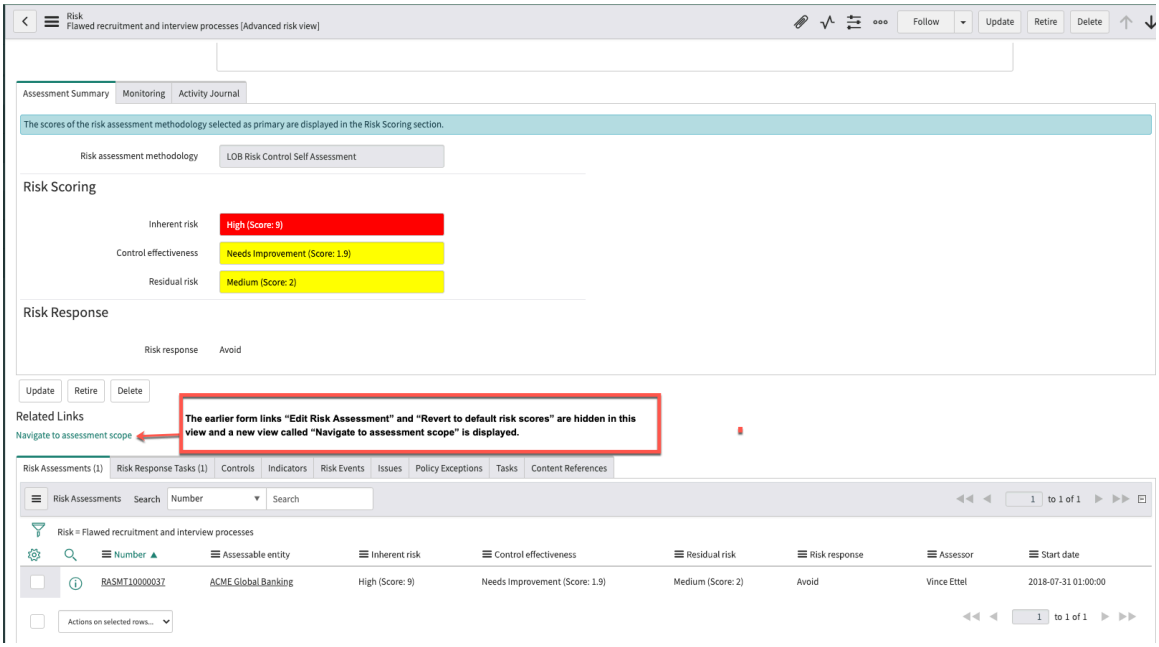
高度なリスクアセスメントに移行した後のリスクフォーム



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクアセスメントスコープへの移動



同様に、コントロールの場合、コントロールの個別のアセスメントが実行されると、コントロール有効性の値が更新されます。

エンティティフォームでは、プライマリリスクアセスメント方法論から集計されたリスクスコアが表示されます。従来のリスクスコアを表示する古いタブは、ユーザーのビューから非表示になります。

リスクステートメントフォームでは、アセスメント、フレームワーク、採点などのフィールドは非表示になっています。リスクスコアなどをプッシュするための対応する古いリンクも、ユーザーのビューで表示されなくなります。

高度なリスク のリスク選好度と許容度

高度なリスク アプリケーションを使用して、組織内のリスク選好度と許容範囲を定義できます。リスク選好度と許容度を使用すると、組織は許容可能なリスクと許容できないリスクの境界を定義できます。

リスク選好度の概要

リスク選好度とは、組織が戦略的目標を達成するために積極的に許容するリスクの量です。

リスク選好度は、定性的 (数値スケールと評価) および定量的 (ドルの絶対額) 条件で定義できます。たとえば、貸出機関が小規模な業界にローンを提供しているとします。貸出機関は、現在の会計年度のターゲット不良資産 (NPA) として 5% を定義しています。

> **注:**
> 不良資産 (NPA) は、元本または利息の支払いが期限切れになっているローンまたは前払いです。

したがって、機関のリスク選好度は 5% です。

リスク選好度を使用するメリット

組織にリスク選好度を使用するメリットは次のとおりです。

- ビジネスの特定領域でリスク管理を実装するために、第一線の従業員により良いガイダンスを提供します。
- 組織の想定内でリスクを負い、違反が発生した場合のアクションを定義して管理します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 定義されたリスク選好度に基づいてリスクステータスを評価し、注意が必要なリスクに優先順位を付けます。
- 考えられるすべてのリスクを評価し、許容可能なリスクと許容できないリスクの境界を定義します。
- リスクエクスポージャーを監視し、リスク選好度と一致していることを確認します。許容できないリスクを追跡することもできます。
- リスク選好度ステータスに基づいてリスク軽減計画を開始します。

リスク許容度の概要

リスク許容度は、組織の目的および目標をリスクにさらすことなく組織が許容できる、定義されたリスク選好度からの標準偏差です。

リスク選好度と許容度の設定

リスクアドミニストレーターは、高度なリスク アプリケーションで組織のリスク選好度を構成および設定できます。詳細については、「リスク選好度のセットアップ」を参照してください。

高度なリスク のターゲットリスクアセスメント

高度なリスク アプリケーションを使用して、ターゲットリスクアセスメントを実行し、望ましい今後のリスクレベルを定義できます。ターゲットリスクアセスメントを使用すると、ターゲットリスク体制を評価し、その達成に向けた進捗状況を監視できます。

ターゲットリスクアセスメントの概要

ターゲットリスクアセスメントは、組織が将来達成したい望ましいリスクレベルを定義するアセスメントタイプです。特定されたリスクの可能性のレベルと影響を評価することで、各リスクに対するターゲットリスクのレベルを確立できます。

たとえば、リスクを評価するとき、組織は、固有リスク、コントロールの有効性、残存リスクなどのさまざまな側面を考慮します。ただし、リスク対応が実装された後に達成される望ましいリスクレベルをキャプチャすることも同様に重要です。ターゲットリスクは、アクションプランが正常に実行された後に達成を目指す最適なリスクレベルを表します。これらのアクションを実装するコストとの関連で、組織が得る利益を測定できます。

ターゲットアセスメントの設定

リスクアドミニストレーターは、高度なリスク アプリケーションで組織のターゲットリスクアセスメントを構成および設定できます。リスクアドミニストレーターは、リスクアセスメント方法論 (RAM) フォームでターゲットリスクを評価するためのオプションを有効にできます。詳細については、「ターゲットアセスメントの構成」を参照してください。

重要:
既存の公開済み RAM のターゲットリスクアセスメントを有効にすることができます。ただし、有効にした後でオフにすることはできません。さらに、ターゲットリスクアセスメントは新しいアセスメントに対してのみ実行でき、既に進行中のアセスメントに対しては実行できません。

ターゲットリスクの評価

査定人は、RAM フォームで定義された要素、採点ロジック、および評価基準に基づいて、リスクの将来の状態を分析できます。リスクの将来の状態の評価は、固有、コントロール、および残存アセスメントタイプとの類似点を共有する構造化されたプロセスです。ターゲットリスクプロファイルに基づいて、将来のリスク選好度ステータスも計算されます。これにより、査定人は、ターゲットリ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクプロファイルがリスク選好度に沿っているかどうかを分析できます。リスク承認者は、ターゲットリスク評価と将来の選好度ステータスをレビューして承認できます。ターゲットリスクアセスメントは、リスクベースのアセスメントとオブジェクトベースのアセスメントの両方に対して実行できます。ただし、オブジェクトベースの場合、将来の選好度ステータスは計算されず、表示されません。詳細については、「リスクワークスペースで高度なリスクアセスメントを実行」を参照してください。

重要:
方法論に対してターゲットリスクアセスメントが有効になっている場合、リスクまたはオブジェクトは次のエクスペリエンスでのみ評価できます。

ターゲットリスクのレポート

ヒートマップでは、ターゲットリスクプロファイルを表示でき、リスクの固有、残存、およびターゲットの状況を包括的に把握できます。リスクアセスメント基準が共有されている場合は、固有の状態から残存状態、さらにそのターゲット状態へのリスクの動きを分析できます。リスク傾向機能を使用すると、過去 5 期間のリスクの変化を評価して、望ましい方向に進んでいるかどうかを判断できます。詳細については、「リスクヒートマップワークベンチ」を参照してください。

リスクイベントを管理

リスクイベントは、組織内で発生する潜在的または実際の財務的および財務以外の損失、ニアミス、および利益です。リスクイベントは、損失イベントまたは損失エントリとも呼ばれます。

リスクを効果的に管理するには、リスクイベントを監視することが不可欠です。それらを既存のリスクに関連付け、根本原因分析を実行し、修復タスクを追跡する必要があります。組織は、リスクイベントを使用して損失を理解し、リスクをより効率的に管理します。リスクイベントは損失につながるだけではありません。リスクイベントは、組織に利益をもたらす場合もあります。たとえば、銀行業界では、取引アルゴリズムにエラーがあると、組織に利益がもたらされる可能性があります。

どの従業員もリスクイベントを報告できます。リスクイベントが報告されると、リスクマネージャーがリスクイベントを分析します。

リスクイベントには、次の 2 つのタイプがあります。

内部リスクイベント
: 組織内で発生するイベント。

外部リスクイベント
: 他の組織で発生するが、他の組織が回避できるように業界で共有されるイベント。

サービスポータル または ServiceNow のいずれかのインスタンスを使用してリスクイベントを作成できます。リスクイベントは以下を提供します。

- 既存のリスクをより適切に定量化して検証できるようにする具体的なデータ。
- リスクイベントが頻繁に発生するため、新しいリスクに関する可視化。

リスクイベントダッシュボードを表示するには、 リスクイベント > 概要.

リスクワークスペースでリスクイベント統合を構成する方法については、Now Support ナレッジベースの「Risk event integration in workspace (ワークスペースでのリスクイベント統合) [KB0966898]」の記事を参照してください。

関連情報

リスクイベントのライフサイクル

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクイベントのライフサイクル

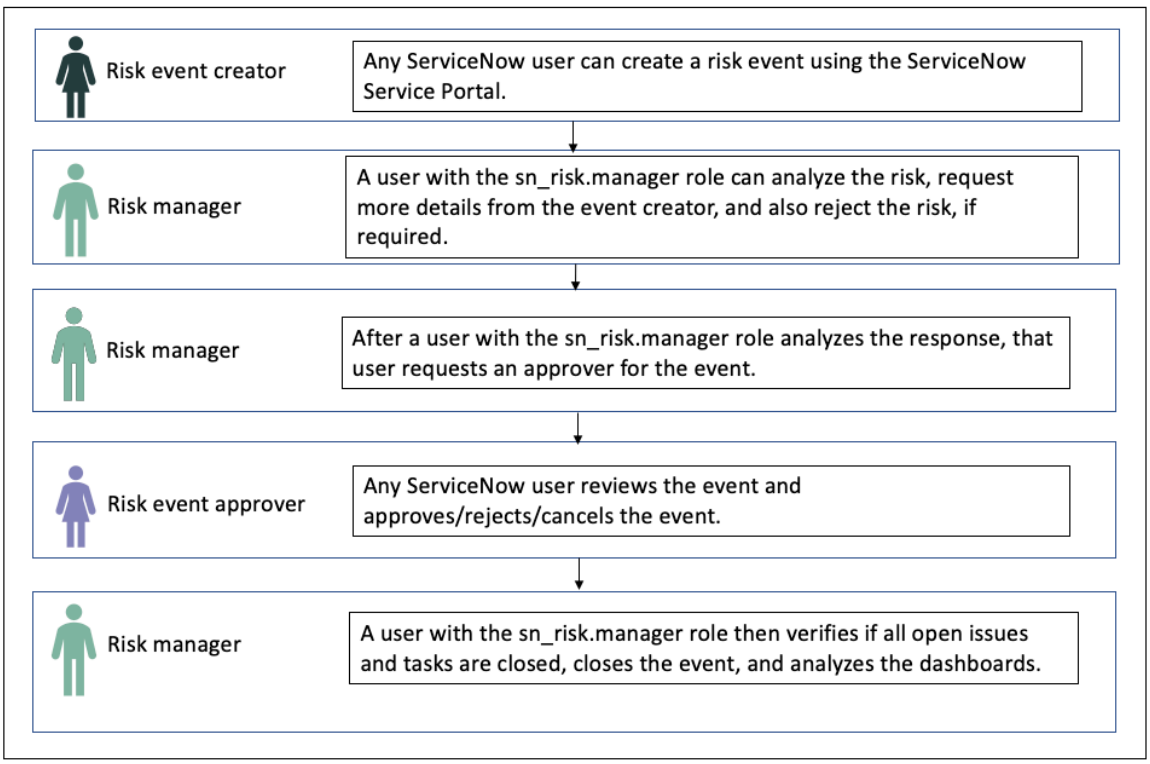
リスクイベントが作成されると、リスクマネージャーがそれを分析して承認のために送信するライフサイクルが実行されます。

リスクイベントのライフサイクルは、次のステージを辿ります。

1. リスクイベントの作成：新しいイベントがビジネスユーザーによって報告されます。イベントでは、sn_risk.manager ロールを持つイベントオーナーまたはリスクマネージャーによる検証処理待ちです。
2. リスクイベントの分析：リスクマネージャーは、イベントが正当であるかどうかを分析し、イベントの損失エントリ、承認者、イベントの根本原因、イベントの予防および修復アクションなどのすべての重要な情報を追加します。このステータスでは、イベント作成者に追加情報を要求できます。その後、同様のイベントが今後発生しないように問題を作成できます。問題はそれぞれの問題オーナーにアサインされ、オーナーは問題をそのまま受け入れるか、修復タスクを作成できます。
3. リスクイベントの承認待ち：すべてのデータが入力されて検証された後、リスクマネージャーはイベントの承認を要求できます。承認の必要性は、組織によって定義された損失しきい値によって決定されます。たとえば、リスクイベントが $100000 の損失につながる場合は、上級リスク管理チームによる承認が必要と組織が判断する場合があります。各イベントは複数回の承認を経る場合があります。
4. リスクイベントの承認、却下、またはキャンセル：リスクマネージャーは、イベントがクローズされる前に、リスクイベントに対して作成された問題がクローズされ、根本原因分析 (RCA) が完了していることを確認します。この段階で、承認者は適切な理由でイベントを却下するかキャンセルするかを選択できます。
5. リスクイベントのクローズ：sn_risk.manager ロールを持つユーザーが、イベントがキャプチャされ、RCA が完了したことを確認すると、イベントコーディネーターがリスクイベントをクローズできます。リスクイベントに未解決の問題とタスクがある場合、関連する問題とタスクがクローズされるまでリスクイベントをクローズすることはできません。

次の図に、リスクイベントワークフローの要約を示します。

リスクイベントワークフロー



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

リスクワークスペースでリスクイベントを作成

リスク、リスクイベント、およびリスクステートメント間の関係

リスクイベントをリスクに関連付け、リスクステートメントをリスクに関連付けることは、リスク管理 アプリケーションを使用するすべての組織にとって重要です。これらの関係を有効にするプロパティは、*Risk Event Properties* および リスク管理 プロパティで提供されます。

リスクに対するリスクイベントの関係

リスク管理 アプリケーションを使用する場合は、リスクイベントをリスクに関連付けることを検討してください。この関係は、将来のリスクアセスメントのためのデータを提供し、正確なレポートにも役立ちます。たとえば、組織のアドミニストレーターが内部不正行為によって発生した損失の合計を把握したい場合は、すべてのリスクが内部不正行為リスクイベントに関連している場合にのみ報告できます。リスクイベントをリスクに関連付けるには、*Make risk event to risk relationship mandatory* プロパティを [はい] に設定します。デフォルトでは、このプロパティはオンになっています。

リスクに対するリスクステートメントの関係

各リスクステートメントをリスクに関連付けることを検討してください。この関係を確立することで、孤立リスクの作成を回避します。孤立リスクは、対応するリスクステートメントが関連付けられていないリスクです。たとえば、組織内のすべての事業部門がさまざまな用語で従業員の離職リスクを理解している場合、組織が離職のリスクに関する包括的なデータを維持することは困難です。従業員離職のリスクステートメントが、このリスクに関連するすべてのイベントに起因する場合は、このような包括的なデータの維持が簡単になります。リスクステートメントとリスクの関係を確立することは、正しいレポートと防止のために不可欠です。リスクをリスクステートメントに関連付けるには、*sn_risk.risk_statement_mandatory* を True に設定します。

リスクステートメントに **Basel** カテゴリを追加

Basel カテゴリ化は銀行業界に固有のものです。このカテゴリ化により、損失イベントのレポートを自動化することで、顧客が Basel 規制に準拠することができます。この特定の設定により、ユーザーは Basel ダッシュボードを表示できます。Basel ダッシュボードには、Basel の事業部門とカテゴリに基づいて、損失イベントの数と正味損失が表示されます。この設定を有効にすると、ユーザーは [Basel カテゴリ化] タブを表示できます。ユーザーはここで、適用する次のいずれかの Basel カテゴリを選択できます。

- 内部詐欺
- 外部詐欺
- 雇用慣行と職場の安全
- クライアント、製品、ビジネス慣行
- 物理資産への損害
- 業務の中断とシステム障害
- 実行、配信、およびプロセス管理

詳細については、「高度なリスクでインストールされるプロパティ」と「リスク管理でインストールされるプロパティ」を参照してください。

Basel カテゴリ化を有効にするには、*Show Basel attributes and reports* を [はい] に設定します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクイベント応答テンプレート

リスクイベント応答テンプレートは、承認者、問題、および所有者をリスクイベントに追加するプロセスを自動化します。この自動化は、テンプレートで定義された条件に基づいています。

リスクイベント応答テンプレートには、次の主なメリットがあります。

- リスクイベントの作成時に人間がリスクイベントを処理する必要性を軽減します。
- リスクイベントのライフサイクルと、ユーザーがそのリスクイベントに対応する方法を自動的に定義します。
- 事前定義されたテンプレートで時間を節約します。

たとえば、衛生安全のリスクイベントが発生したとします。テンプレートが定義されている場合は、そのテンプレートを使用して、衛生安全の担当者にイベントをアサインできます。テンプレートを使用すると、イベントタイプ、エンティティ、カテゴリなどを選択できるため、リスクイベントの自動アサインが容易になります。

ユーザーは、リスクイベント承認者のしきい値を定義できます。しきい値は、顧客のリスク選好度に基づいて定義されます。たとえば、組織が $1000 の損失をもたらすリスクイベントには承認者が必要ないと判断したとします。この $1000 のしきい値はテンプレートで定義できます。$1000 を超える金額の承認が必要であると組織が判断した場合、テンプレートで自動的に承認者をアサインできます。

任意のエンティティのテンプレートを定義できます。親エンティティのすべての子エンティティは、リスクイベント応答テンプレートで定義されたルールを継承します。テンプレートを定義すると、各エンティティのルールを個別に定義するのに必要な時間と労力を節約できます。

リスクイベントの取り込みを設定する方法の詳細については、Now Support ナレッジベースの記事 KB0780985 を参照してください。

類似のリスクイベントを関連付け

ガバナンス、リスク、コンプライアンス: 予測インテリジェンス プラグインをアクティブ化して、機械学習を使用する類似性ソリューション定義をトレーニングします。このソリューションにより、類似のリスクイベントを自動的に表示できます。

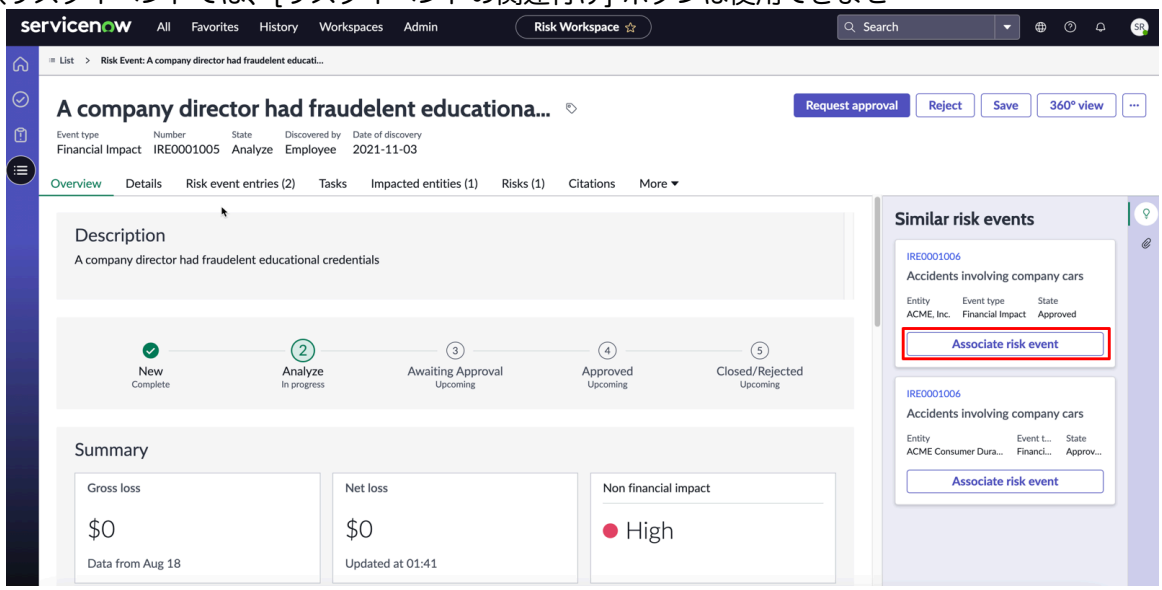
ガバナンス、リスク、コンプライアンス: 予測インテリジェンス プラグインは、人工知能 (AI) と機械学習 (ML) を使用してリスクイベントをより効率的に管理します。類似のリスクイベントを特定し、それらをグループ化して、リスクイベントの実際の影響をキャプチャして分析できます。

たとえば、複数の場所で事業展開している組織では、さまざまな場所にまたがるリスクイベントチームが類似のタイプのリスクイベントに取り組んでいる可能性があります。この課題により、組織内でリスクイベントを管理する作業が重複します。この機能により、類似のリスクイベントを管理する際の手動による労力が削減され、組織全体の効率が向上します。

類似のリスクイベントは、メインのリスクイベントが [分析] ステータスの場合にのみ関連付けることができます。また、[新規] または [却下] ステータスの

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

類似リスクイベントでは、[リスクイベントの関連付け] ボタンは使用できませ


ん。

プラットフォーム機械学習アドミン (ml_admin) は、ソリューション定義を作成し、既存の定義を変更できます。次に移動できます リスクイベント > アドミニストレーション > プロパティ をクリックして、リスクイベントプロパティを新しいソリューション定義名で更新します。

ビジネスプロセス管理

ビジネスプロセスは、特定の組織目標を達成できる 1 つまたは複数のアクティビティです。

ビジネスプロセスとは、組織内で発生し、開始と終了が明確に定義されているプロセスのことです。銀行業界でのビジネスプロセスの例として、顧客のオンボーディングプロセスや信用調査プロセスがあります。各ビジネスプロセスは一意であるため、重要度や影響度はさまざまです。ビジネスプロセスは、包括的なライフサイクルで管理する必要があります。また、特定する必要のあるさまざまなリスクやコントロールがある場合もあります。Quebec リリースでは、ビジネスプロセスの作成が拡張されています。エンタープライズアーキテクトまたはサービスオーナーは、次のことを実行できます。

- 新しいビジネスプロセスを定義します。
- プロセスのライフサイクルを管理します。
- プロセスのオーナーを定義します。
- 新しいプロセスが親プロセスであるか子プロセスであるかなど、新しいプロセスと特定のプロセスの関係を定義します。
- プロセスのビジネスインパクトと重要度を定義します。
- 効率を改善するために、プロセスを定期的にレビューします。

ビジネスプロセスのライフサイクル

ビジネスプロセスのライフサイクル状況は次のとおりです。

1. [ドラフト]：このステータスは、ビジネスプロセスが作成され、さまざまなリスクおよびコントロールとの関係が定義されている場合のデフォルトのステータスです。プロセスをレビューするレビュー担当者が選択されていない場合、プロセスは直接公開されます。
2. [レビュー]：レビュー担当者が選択されている場合、プロセスは公開される前にレビュー担当者に送信されます。
3. [公開]：レビューが完了すると、プロセスが公開されます。

自動翻訳

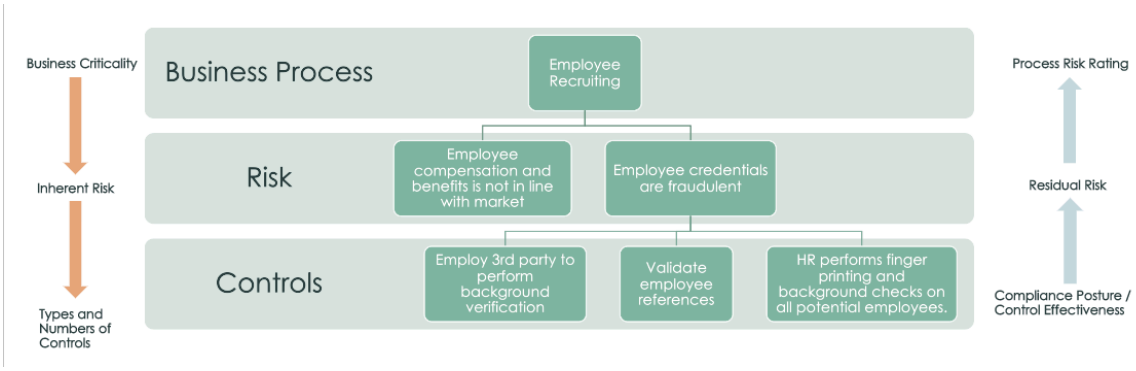
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [廃止]：プロセスは不要です。

> **注:**
> プロセスが廃止された場合でも、監査目的でシステムで保持されます。

次の画像は、従業員の採用などのビジネスプロセスを定義する方法の例を示しています。プロセスと関連するリスクおよびコントロールの関係を定義できます。リスクとコントロールを関連付けることで、プロセスのリスク評価を導出する方法を決定することもできます。

従業員採用ビジネスプロセス



関連情報

ビジネスプロセスを作成

エンティティを探索する

エンティティは、ガバナンス、リスク、コンプライアンスを使用するための最も基本的で重要な要素の 1 つです。エンティティは、リスクに関して調査する人、プロセス、部門、アプリケーションまたはオブジェクトである可能性があります。

組織のリスク領域を効果的に維持するために、エンティティタイプ、エンティティクラス、エンティティ層を定義することをお勧めします。リスク領域は、組織が直面する、または将来直面する可能性のあるリスクのリストです。リストには、各リスクの重要度と頻度の説明が含まれています。エンティティは、GRC のすべてのオファリング (GRC：ポリシーとコンプライアンス管理、監査管理、GRC：規制変更管理 など) 内で使用されます。

GRC のエンティティ

ガバナンス、リスク、コンプライアンス では、エンティティは、エクスポージャーを管理する必要がある、人、プロセス、部門、アプリケーションまたはオブジェクトである可能性があります。これらのエンティティには、ステータスを表示するためのコントロールが定義されています。

エンティティを理解するために、次の例を考えてみましょう。新規 GRC ユーザーで、すべての重要な財務システムに変更管理プロセスを実装するとします。すべてのシステムは個別のエンティティと見なすことができます。すべてのシステムを Financial というエンティティクラスにマッピングします。重要と識別されたシステムを決定するために、重要な財務システムのエンティティタイプフィルターを設定します。

エンティティを作成する主なメリットは、各エンティティに所有者が存在するため、説明責任を維持できることです。このメリットを理解するために、すべてのサーバーを新しい方法で構成するとします。構成が完了した後、監査を実行したところ、1 つのサーバーのみが新しい構成に準拠していないことがわかりました。すべてのエンティティを定義していない場合、監査結果全体が不合格と見なされます。ただし、エンティティが定義されているため、すべてのサーバーではなく、非準拠のサーバーエンティティとその識別された所有者のみが説明責任を負います。

エンティティを定義すると、エンティティオーナーを特定し、それらのエンティティに適切なコントロールを適用できます。また、非準拠エンティティの追跡にも役立ちます。子エンティティを持つエ

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

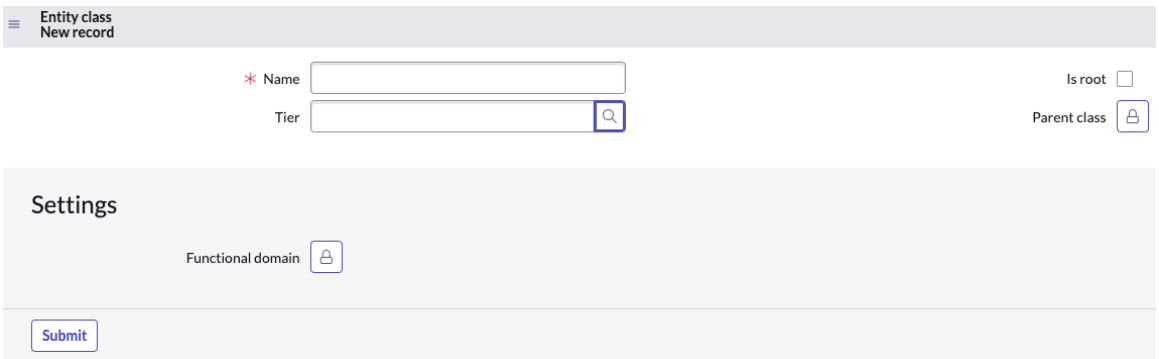
ンティティは、ダウンストリームエンティティを持つと言うことができます。親エンティティを持つエンティティは、アップストリームエンティティを持つと言うことができます。

エンティティを作成した後、個別にエンティティクラスを定義するか、既存のエンティティクラスにリンクさせることによって、類似のエンティティにタグを付けることができます。

エンティティクラス

エンティティクラスは、エンティティに関する概念情報を追加したりエンティティにタグを付けたりするために使用されます。エンティティクラスの概念を理解するために、例を考えてみましょう。ある会社が 3 つの都市に支店を持っているとします。オフィススペースはエンティティと見なされ、これらのエンティティのエンティティクラスはロケーションになります。エンティティクラスを作成するには、次の例に示すようにエンティティ層に関連付けます。

エンティティクラスのサンプル構成



エンティティクラスルール

エンティティクラスルールは、テーブルレベルでエンティティにクラスをアサインするために役立ちます。テーブルに作成された新しいエンティティは、そのエンティティクラスを自動的に取得します。エンティティクラスは、エンティティにタグ付けするために使用されます。

特定のテーブルでエンティティを作成する場合は、そのテーブルに関連付けられているクラスは自動的にそのエンティティにアサインされます。テーブルの新しいエンティティクラスルールを設定できます。

エンティティタイプ

エンティティタイプは、フィルタリングに基づいてエンティティをグループ化したものです。エンティティタイプを使用すると、一連のフィルター条件に一致するエンティティを検索および作成できます。エンティティクラス内に階層を作成できます。

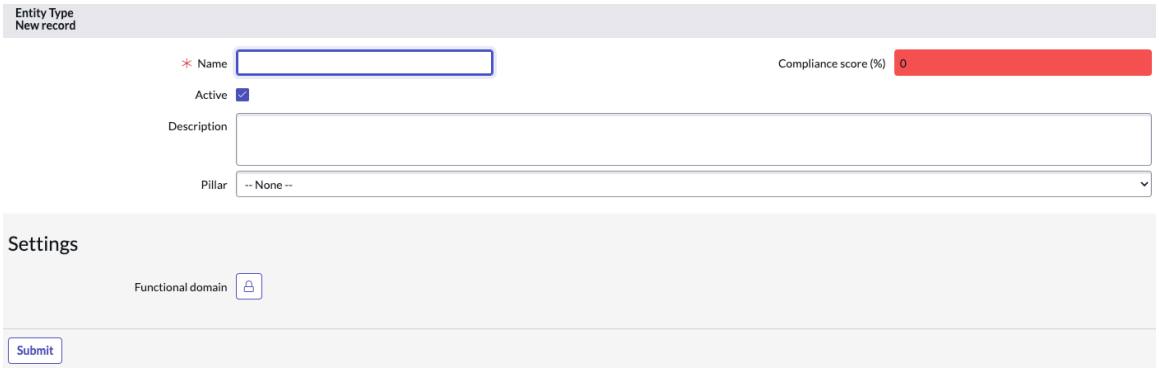
エンティティタイプを使用すると、あまり時間をかけずに各エンティティのリスクとコントロールを作成できます。たとえば、組織は、経理、HR、IT などの複数の部門を持つことができます。これらの部門はすべてエンティティと見なすことができ、部門と呼ばれるエンティティタイプの下にグループ化できます。

エンティティタイプを作成するには、次の例に示すように、テクノロジーや施設などのコアビジネスのピラーに関連付けます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンティティタイプのサンプル構成



エンティティ層

エンティティ層を作成する場合、エンティティクラスにレベルまたは階層を適用します。このレベルは、そのエンティティクラスにあるすべてのエンティティに適用されます。次の例に示すように、エンティティ層では、ビジネスでの最重要項目のステータスを選択して、表示できます。

エンティティ層のリストビュー

Name	Label	Domain	Tier level
application	Application	global	20
business	Business	global	10
it_asset	IT Asset	global	30

GRCのエンティティタイプ

エンティティタイプを使用すると、一連のフィルター条件に一致するエンティティを検索および作成できます。エンティティタイプを使用すると、あまり時間をかけずに各エンティティのリスクとコントロールを作成できます。

組織は複数のエンティティを持つことができます。これらの各エンティティには、複数のリスクとコントロールが関連付けられていることがあります。各リスクを各エンティティにマッピングする従来の方法は、複数のスプレッドシートを使用していました。リスクとコントロールがサイロ化されており、標準的なリスク分類が作成されていないため、この方法は正確性や信頼性が最も高い方法ではありません。リスク分類は、組織内で使用される包括的で共通の安定した一連のリスクカテゴリです。エンティティタイプを作成して、リスクステートメントをそれに関連付ける場合、すべてのエンティティにリスクが自動的に作成されます。関連付けはリスク分類を介して行われます。エンティティタイプを作成するメリットは、各エンティティに関連付けられたリスクとコントロールを含む複数のスプレッドシートを維持する必要がなくなることです。エンティティタイプを適用すると、エンティティタイプ内に存在するエンティティフィルターを使用してエンティティをすばやく作成できます。エンティティタイプには、さまざまなクラスに関連付けられたエンティティを含めることができます。

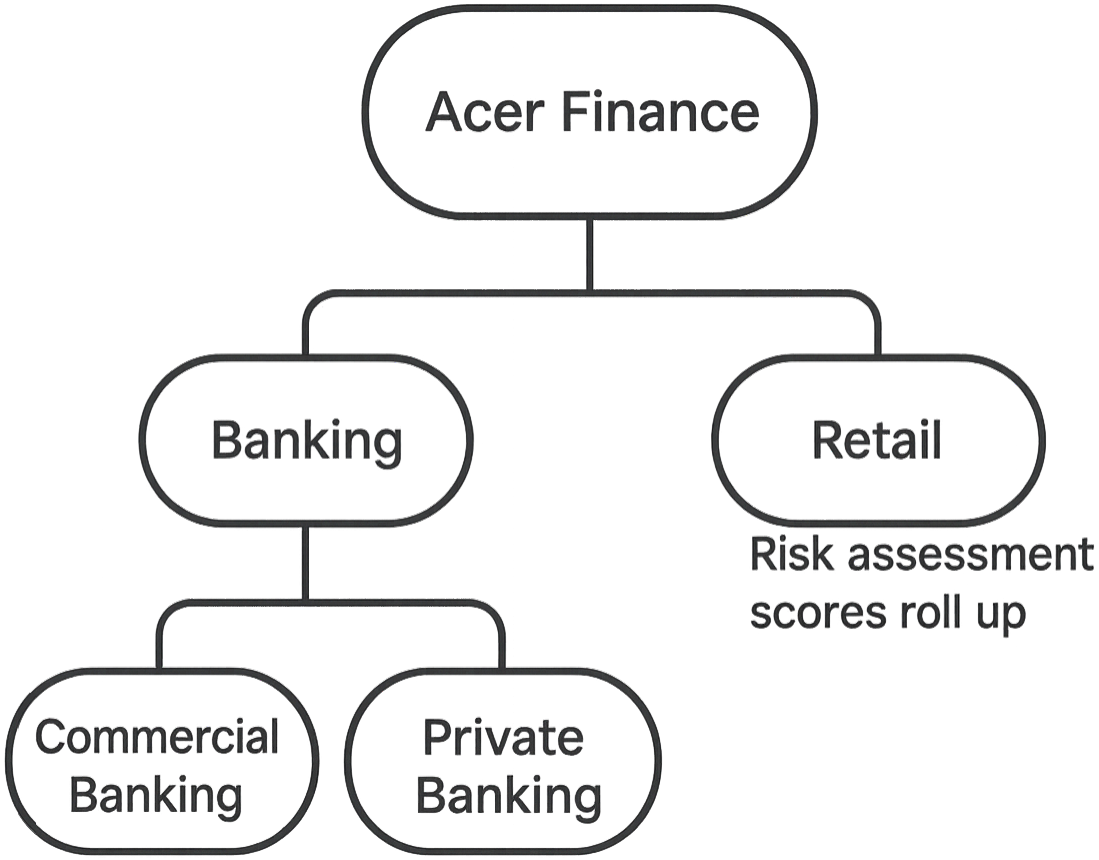
たとえば、組織は、経理、HR、IT などの複数の部門を持つことができます。これらの部門はすべてエンティティと見なすことができ、部門と呼ばれるエンティティタイプの下にグループ化できます。

エンティティのグループ化は、リスクアセスメントが実行された後にリスクスコアをロールアップおよび集計するためにも役立ちます。グループ化エンティティがリスクスコアのロールアップにどのように寄与するかを理解するために、次の例を考えてみましょう。Acer ファイナンス という銀行組織があるとします。Acer Finance には、銀行と小売業の 2 つの事業部門があります。銀行部門には、商業銀行やプライベートバンキングなどのサブ部門があります。リスクアセスメントは通常、最下位のレベルで実行されます。この例では、アセスメントは商業銀行およびプライベートバンキングのレベルで実行されます。ただし、レポートは最上位レベルで行われます。これは、商業銀行とプライベートバンキングのリスクアセスメントスコアがロールアップし、バンキングレベルで集計されるということです。同様に、バンキングと投資のスコアは、Acer Finance の組織レベルまでロールアップされます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例のグラフィカル表現



関連情報

GRC のエンティティクラス

GRC のエンティティクラス

エンティティクラスは、エンティティにタグを付け、組織内のリスクステータスの完全なビューを提供するために使用されます。

エンティティクラスはタグです。エンティティにタグ付けした後、エンティティのタグに基づいてデータを収集できます。エンティティクラスのコンセプトを理解するために、次の例について考えてみましょう。組織の最高リスク責任者 (CRO) が、ビジネスのすべての部門のすべてのビジネスアプリケーションのリスクステータスを確認する必要があるとします。リスクアナリストは、CRO に [ビジネスアプリケーション] エンティティクラスのダッシュボードを表示できます。

エンティティクラスの作成方法の詳細については、「GRC：ワークベンチを使用してエンティティクラスを作成」を参照してください。

関連情報

GRC のエンティティ層

GRC のエンティティ層

エンティティ層を作成することで、エンティティクラスに優先順位を付けることができます。

エンティティ層を作成する場合、エンティティクラスにレベルまたは階層を適用します。このレベルは、そのエンティティクラスにあるすべてのエンティティに適用されます。エンティティ層では、ビジネスでの最重要項目のリスクステータスを選択して、表示できます。次の例を考えてみましょう。組織の最高リスク責任者 (CRO) が、最重要の財務ビジネスアプリケーションのみのリスクステータスを確認する必要があるとします。エンティティの階層または一連の層を作成した場合は、層 1 の

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

エンティティをフィルターして、必要なデータを表示できます。各エンティティクラスは 1 つの層にのみ属することができます。

エンティティ層を作成することで、下位層のエンティティが上位層のエンティティにどのように影響するかをより適確に把握できます。たとえば、ビジネスが層 1、アプリケーションが層 2、IT 資産が層 3 であるエンティティ階層を作成したとします。そのため、層 3 のエンティティのリスクは層 2 のエンティティに影響し、さらに層 1 に影響します。このロールアップまたは集計により、正確なリスクスコアが得られます。

リスク、リスクステートメント、リスクフレームワークを管理する

リスクライブラリには、すべてのリスクフレームワークとリスクステートメントが含まれています。リスクフレームワークは、リスクステートメントを管理可能なカテゴリにグループ化するために使用され、リスクステートメントは個々のリスクをグループ化します。リスク登録は、いつでも組織内のあらゆる場所で発生する可能性のあるすべての潜在的なリスクの中央リポジトリです。

リスクを評価し、リスクステートメントを作成する

リスクを評価することは、組織の事業達成目標に悪影響を与える可能性のある脅威と脆弱性を特定して分析することを意味します。リスクは、特定の脅威が特定の潜在的な脆弱性を行使する可能性と、その有害事象が組織に及ぼす影響の関数です。リスクと、それらのリスクが発生する可能性を特定することで、組織はコントロールのテストと修復アクティビティを優先順位付けできます。また、コントロールが失敗した場合のビジネスへの真のインパクトを理解するうえでも役立ちます。

適切なリスクステートメントは次の質問に答える必要があります。

- どのようなことが起こる可能性があるか？
- それはどのように起こる可能性があるか？
- 気にかかるのはなぜか？

高度なリスク を使用するリスクのワークフロー

高度なリスクアセスメントに移行すると、必要なアクションを実行するリスクのさまざまな状況を表示できます。この機能により、リスクフォームの表示が簡素化されます。

リスクアドミニストレーターが *`Migrate to Advanced Risk Assessments`* プロパティを有効にすると、 高度なリスクアセスメント > アドミニストレーション > プロパティでは、クラシックまたは従来のリスクのライフサイクルが変更されます。リスクフォームから直接リスクアセスメントを開始することもできます。

注:
このプロパティは、一度有効にすると無効にできません。

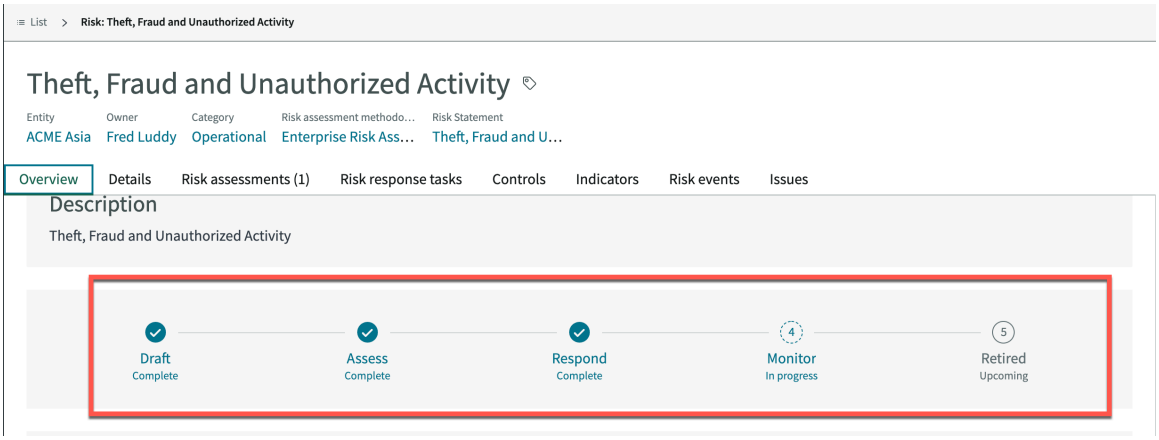
バージョン 14.0 以前では、*`Migrate to Advanced Risk Assessments`* プロパティが有効になっている場合、リスクはアクティブまたは非アクティブとしてのみ分類されます。バージョン 14.0 以降では、リスクオーナーは、高度なリスク を有効にすると、リスクの次の状況を表示できます。

1. ドラフト
2. 評価
3. 応答
4. 監視
5. 廃止

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

高度なリスクアセスメントによるリスクの状況



次の表で、すべての状況と各状況で使用可能なアクションについて説明します。

状況	説明	利用可能なアクション
ドラフト	これは、リスクが第二線の防御によって作成された場合、または 第一線の防御によって特定された場合のリスクの状態です。 このステータスの目的は、組織に関連するリスクをマッピングして特定することです。リスクのエンティティまたはプライマリリスクアセスメント方法論 (RAM) を変更すると、リスクのステータスはプライマリ RAM の最新のアセスメントに基づいて更新されます。	• 保存 • [評価]：ワークフローをプッシュし、リスクアセスメントを開始します。 • [監視]：リスクを評価するのではなく、リスクを監視する場合。 • [廃止]：リスクが、基盤となるすべてのリスクアセスメントとリスク応答とともに廃止されます。 • [アセスメントスコープに移動]：リスクアセスメントスコープへのショートカット。プライマリリスクアセスメント方法論は渡されます。 • **[360** 度]：リスクの 360 度の関係を完全に表示します。
評価	これは、高度なリスクアセスメントが開始および実行されているときのリスクのステータスです。対応戦略がある場合、リスクは [対応] ステータスに移行し、それ以外の場合はアセスメントが完了すると [監視] ステータスに移行します。	• 保存 • [アセスメントを表示]：実際のリスクアセスメントフォームに移動します。 • [アセスメントをキャンセル]：現在のアセスメントをキャンセルします。キャンセルされたアセスメントについて、それぞれのリスク査定人に通知されます。 • [ドラフトに戻る]：現在のアセスメントをキャンセルし、

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

状況	説明	利用可能なアクション
		リスクを前のステータスに戻します。 • 廃止 • アセスメントスコープに移動 • **360** 度
応答	これは、リスク応答タスクが進行中のリスクのステータスです。 リスク応答タスクがクローズされると、リスクは自動的に監視状況に移行します。	• 保存 • [評価]：ワークフローを戻します。進行中のリスク応答タスクがキャンセルされます。 • 廃止 • アセスメントスコープに移動 • **360** 度 • ドラフトに戻る
監視	これは、リスクが評価され応答タスクがクローズされたリスクのステータスです。 KRI が (メトリクスによって) 定義されている場合は、リスクを監視するために実行されます。	• 保存 • [評価]：リスクを [評価] ステータスに戻し、リスクアセスメントを開始します。 • 廃止 • アセスメントスコープに移動 • **360** 度 • ドラフトに戻る
廃止	これは、リスクが無効になっているものの、監査のために記録システムを保持する場合のリスクのステータスです。	• **360** 度 • [アクティブ化]：リスクを再アクティブ化し、[ドラフト] ステータスに戻します。 • アセスメントスコープに移動

自動翻訳

同じリスクステートメントにリンクされたリスクを管理する

複数のリスクを作成して、同じリスクステートメントとエンティティの組み合わせに関連付けることができます。この関連付けは、リスクマネージャーとエンティティオーナーにメリットがあります。

最新リリースより前のリリースでは、ユーザーは単一のエンティティとリスクステートメントの組み合わせに対して 1 つのリスクしか関連付けることができませんでした。この機能は、明確に定義され標準化されたリスク分類を備えた成熟したリスクプログラムを使用している顧客に有用でした。ただし、標準化されたリスク分類がない顧客の要件には適合しませんでした。通常、このような顧客のリスクステートメント階層は 2 つまたは 3 つしかなく、実際のリスクは各事業部門または LOB (基幹業務) に対してローカルです。また、第一線で新しいリスクが識別されると、それらのリスクがエンタープライズリスク階層に関連付けられます。これにより、新しいリスクスコアを集計して、リスク階層全体に影響を与えることができます。現在のリリースでは、[リスクステートメントから継承]

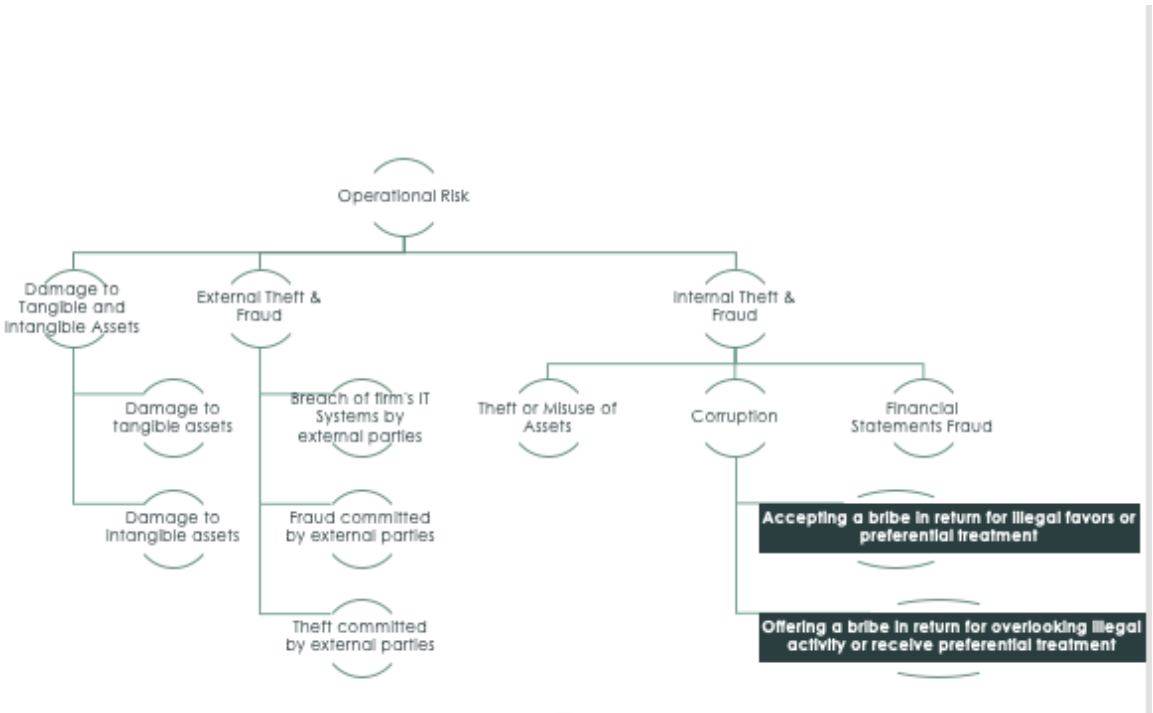
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

と呼ばれる新しいオプションがリスクフォームに導入されています。このオプションが選択されている場合、リスクの作成は以前の方法で行われます。これは、リスクステートメントとエンティティの組み合わせのインスタンスが 1 つしかないことを意味します。ただし、このオプションが選択されていない場合、リスクステートメント階層をカテゴリ化およびサブカテゴリ化階層として使用し、複数のリスクを同じリスクステートメントとエンティティの組み合わせに関連付けることができます。このオプションを使用すると、第一線で新しく特定されたリスクを必要なレベルのリスク階層に関連付けることもできます。この新しいオプションが選択されていない場合、システムはリスクの名前と説明が上書きされると想定するため、リスクステートメントの名前と説明と同じにすることはできません。

この機能により、リスクマネージャーは組織のニーズに応じてリスク分類を定義できます。また、エンティティオーナーがエンティティのリスクを特定し、それらをエンタープライズリスク分類にリンクすることもできます。

この機能を理解するには、次の画像を参照して例を検討してください。ほとんどの顧客には、腐敗まで定義されたリスクステートメントがあります。賄賂の受領など、腐敗よりも低いものは、組織全体でこれらのリスクを調和させることが難しいため、リスクと定義されます。複数のリスクを同じリスクステートメントとエンティティにリンクするこの機能により、顧客は、誰も対処しない孤立したリスクが作成されるのを防ぐことができます。

新しいリスクリスクステートメント階層



リスク階層と採点

New York 以降、リスクマネージャーはさまざまなタイプのリスク (オペレーショナルリスク、IT リスク、または戦略的リスク) を含む階層を作成できます。根底にあるリスクが評価されると、リスクスコアがリスクステートメント階層全体で自動的にロールアップされるため、戦術的および戦略的な意思決定が向上します。

リスク階層

リスクマネージャーとアドミニストレーターは、リスクステートメントフォームで次のように階層を作成および表示します。

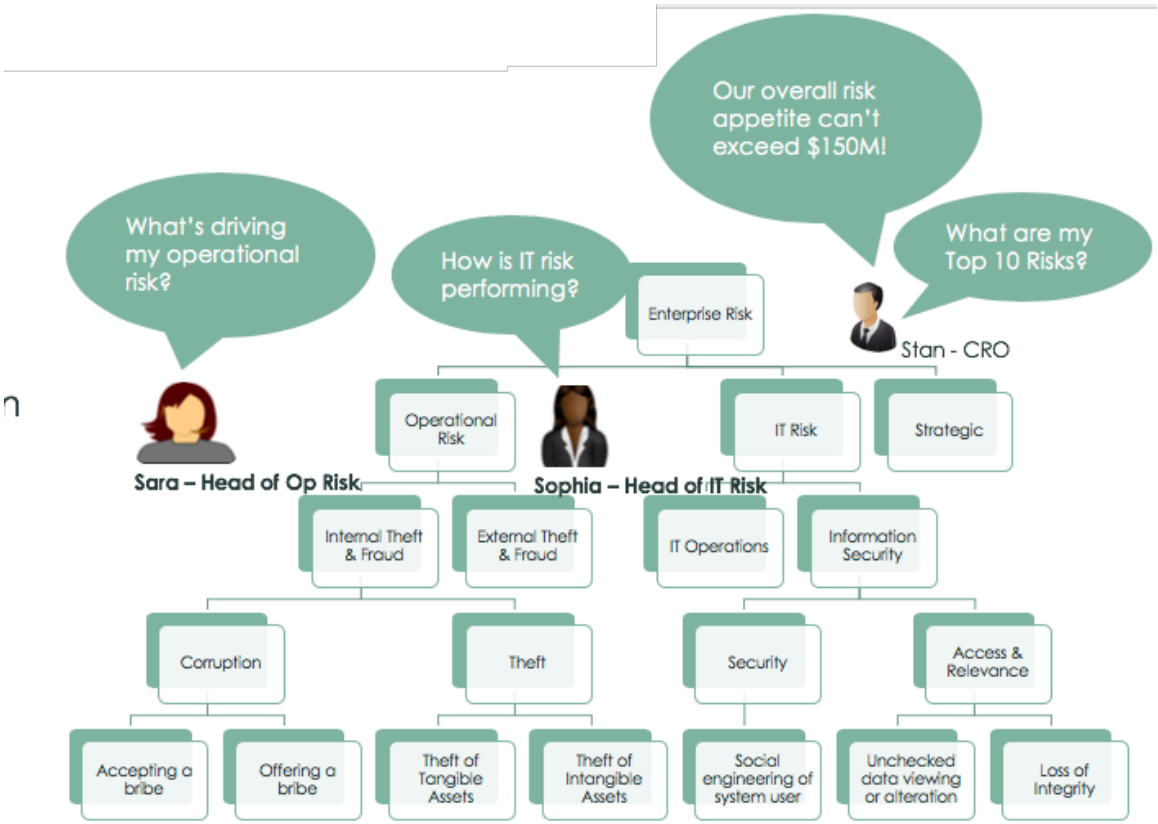
- [親] フィールドを使用して親リスクステートメントを定義する
- [リスクステートメント] 関連リストを使用して子のリスクステートメントを追加する

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
リスクユーザーは、マネージャーとアドミニストレーターによって確立された階層を表示できます。

リスク領域に応じて、組織内のさまざまなユーザーがリスクを所有し、管理します。ただし、最上位のリスクスコアでは、その下のすべてのリスクのスコアが考慮されます。そのため、すべてのさまざまなリスク領域を中央の一箇所で管理することで、組織全体のリスク体制を総合的に把握できます。

リスクの統合ビューを示す階層的なリスク分類



定量的リスクスコアを定性的値に変換

[許容範囲ステータス] と [計算済みスコア] は、根底にあるリスクの計算済み年次損失予測 (ALE) に基づいています。

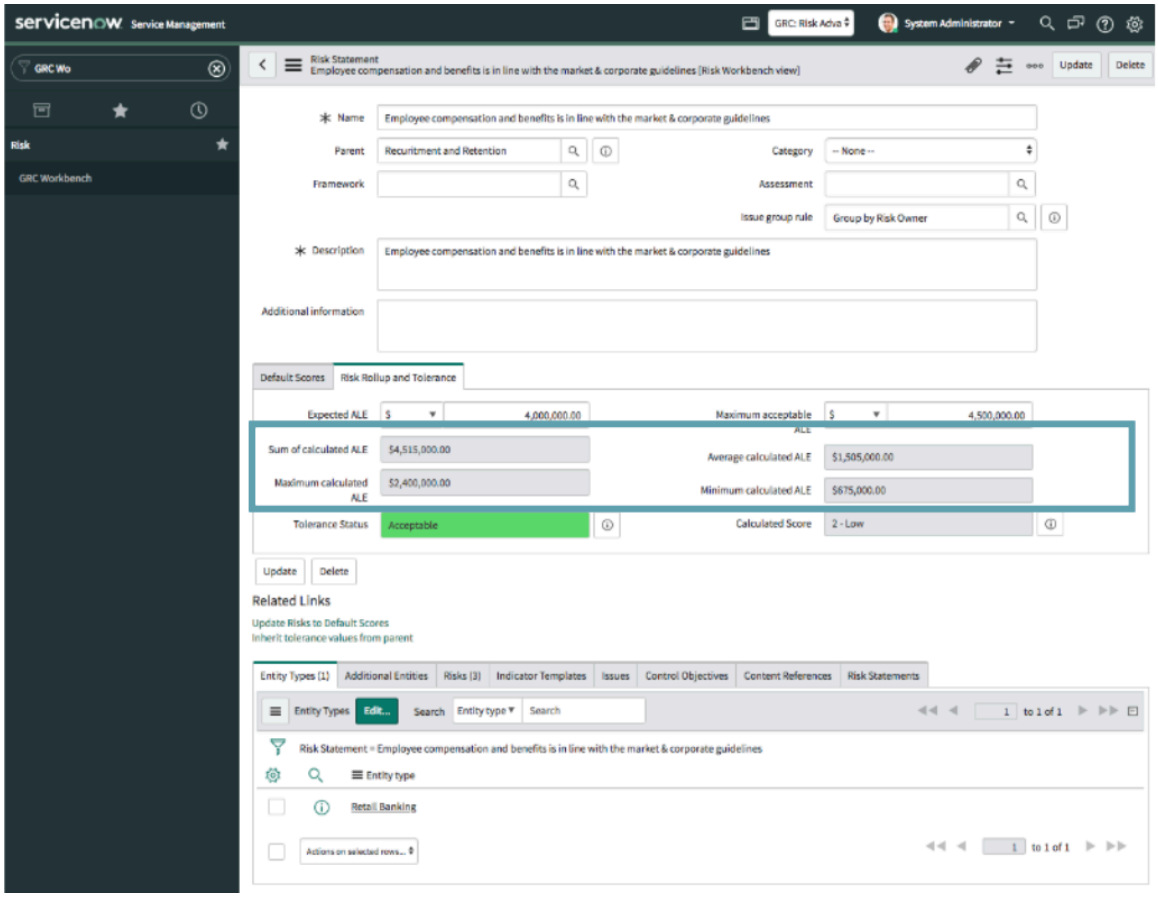
- 計算済み ALE の合計
- 計算済み平均 ALE
- 計算済み最大 ALE
- 計算済み最小 ALE

注:
[監視] ステータスのリスクのみがリスクステートメントスコアに寄与します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[リスクロールアップおよび許容範囲] タブ



リスクステートメントの任意のレベルでのエンティティの関連付け

エンティティ、エンティティタイプ、およびインジケーターテンプレートを、リスクステートメント階層の任意のレベルで関連付けることができます。この関連付けを作成すると、リスクを評価する際のリスクマネージャーに役立ちます。

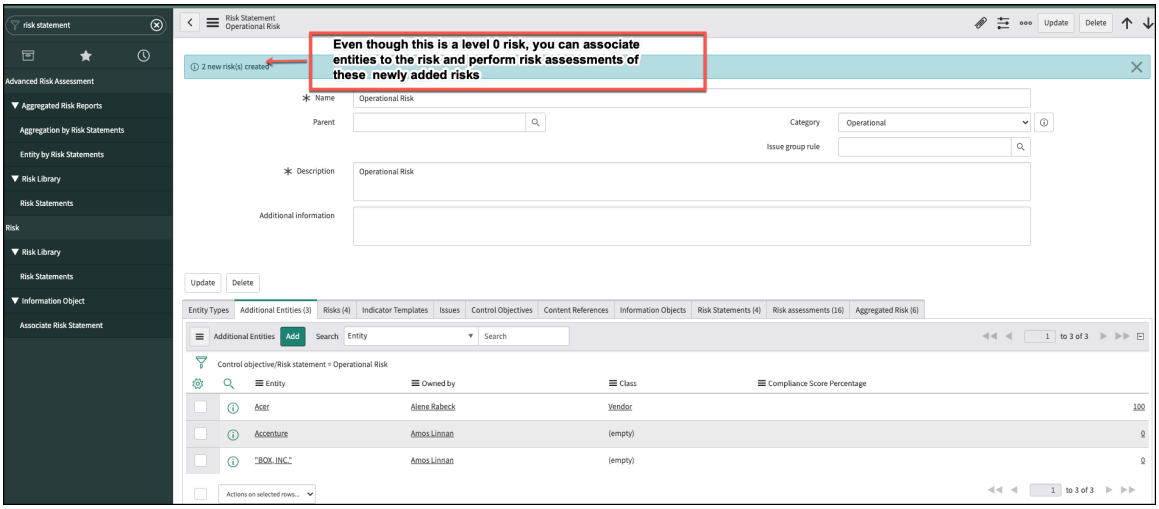
すべての組織は、標準化されたリスク分類を維持します。この分類は、適切なステークホルダーへの適切なレベルのリスクレポートを可能にする階層とサブ階層に編成されています。また、リスクを評価するユーザーによって、リスクが評価されるレベルが異なります。たとえば、エンタープライズリスクは最上位レベルで評価され、詳細なリスクとコントロールのアセスメントはリスク階層の最下位レベルで行われます。最新リリースでは、エンティティタイプまたはエンティティを、リスクステートメント階層の任意のレベルでインジケーターテンプレートに関連付けることができるようになりました。そのため、顧客がトップダウンのリスクアセスメントを実行する場合は、会社をトップレベルのリスクステートメント階層にマッピングすることで実行できます。また、事業部門または LOB (基幹業務) に最低のリスクステートメントを適用することで、従来のボトムアップのリスクアセスメントを実行することもできます。最下位または最低レベルは、リーフレベルとも呼ばれます。エンティティを任意のレベルのリスクに関連付けるこの柔軟性は、トップダウンのリスクアセスメントを実行するうえで役立つため、エンタープライズリスクマネージャーにとって便利です。

次の図は、ユーザーがエンティティを関連付けてリスクを作成できるリスクステートメントフォームを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

任意のレベルでエンティティをリスクステートメントに関連付け



クラシック版リスクアセスメントを管理

リスクアセスメントは、リスクを判断するためのサーベイです。リスクアセスメントデザイナーは、ユーザーが証明書を作成および編集したり、採点パラメーターを変更したりするために使用できる単一のインターフェイスを提供します。

質問集にはさまざまなカテゴリの質問のライブラリが用意されているため、各アンケートを最初からビルドする必要はありません。リスクは [ドラフト] 状況から始まり、[評価] に移行し、アセスメント回答者に通知が送信されます。

[自分のアセスメント] は [リスク登録] モジュールに含まれており、自分が回答者であるアクティブなアセスメントが含まれています。アセスメントは、リスクごとに 1 つのアセスメントレコードを含むリストに表示されます。

[すべてのアセスメント] は [リスク登録] モジュールに含まれており、すべてのアクティブなアセスメントが含まれています。アセスメントは、リスクごとに 1 つのアセスメントレコードを含むリストに表示されます。

リスクマネージャーは、リスクステートメントごとに新しい質問セットを作成できます。

クラシック版リスクアセスメントでは、スコアは自動的にロールアップされません。リスクステートメントが作成されるたびに、リスクアドミニストレーターはデフォルトのスコアを手動で入力します。リスクステートメントから作成されたすべてのリスクは、リスクステートメントで定義されたスコアを継承します。

リスクインジケーター、コントロールインジケーター、およびインジケーターテンプレート

インジケーターは、組織のリスクを管理するために使用される重要なツールです。インジケーターは、コントロールとリスクを監視するためにデータを収集し、監査証拠を収集します。インジケーターは単一のコントロールまたはリスクを監視します。これらは、リスクの監視、緩和、およびレポートを強化および促進するために使用されます。

インジケーター

インジケーターは、監査を行う前に組織が準拠しているかどうかを把握したい場合に便利です。特定のコントロールが準拠していない場合、インジケーターはそれらを識別して修正するのに役立ちます。継続的な監視には、主要なリスクおよびコントロールインジケーターの特定と作成に関連するアクティビティが含まれます。インジケーターのタイプは次のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- [手動]：手動インジケーターは、ServiceNow インスタンスから取得できないデータに使用されます。これは、データがサードパーティの営業システムからの顧客データなど外部システムからのものであるためです。
- 基本：基本インジケーターは、インジケーターソースに基づく自動化されたインジケーターです。インジケータソースは、このテーブルのスコアが保存されるテーブルと頻度を指定します。
- スクリプト化：スクリプト化されたインジケーターは、カスタムスクリプトを使用してデータを収集します。

GRC indicator nightly run ジョブはインジケーターを実行します。インジケーターが実行されると、サポートデータを収集することができます。サポートデータは、インジケーターの実行時に収集される証拠を参照します。これらのインジケーターのサポートデータまたは情報は、自動データ収集または手動タスクによって収集できます。

インジケーターは、インジケータータスクがクローズされたときに結果を生成します。その結果は、コントロールの問題を作成し、リスクスコアを更新し、監査アクティビティとコントロールテストのサポート情報を提供するために使用されます。バージョン 10.1 以降、システムにインジケーターの結果またはインジケータータスクから得られるサポートデータレコードの実際の履歴データが表示されます。さまざまなタイプのインジケーターを作成する方法の詳細については、以下を参照してください。

- リスクワークスペースで手動リスクインジケーターを作成して実行
- リスクワークスペースで基本リスクインジケーターを作成して実行
- リスクワークスペースでスクリプト化済みリスクインジケーターを作成して実行

インジケーターテンプレート

インジケーターテンプレートを使用すると、類似のコントロールまたはリスクに対して複数のインジケーターを作成できます。インジケーターテンプレートを使用してインジケーターを作成するか、独立したインジケーターを作成することができます。インジケーターテンプレートを使用してインジケーターを作成する場合でも、インジケーターの詳細を変更または上書きすることができます。

リスクの問題と修正を管理

問題を手動で作成して、監査の観察事項または修正を文書化したり、問題を受け入れたりすることができます。インジケーターの結果、証明書の結果、またはコントロールテストの有効性から自動的に生成されます。

さまざまなタイプの問題は、次の条件で作成されます。

問題
: インジケーターが失敗したときに作成されます。

コントロールの問題
: コントロールが実装されていないことを示すコントロール証明書が完了されたときに作成されます。

コントロールテストの問題
: コントロール有効性が無効に設定された状態でコントロールテストが完了してクローズしたときに作成されます。

その他の問題
: ユーザーが手動で作成します。

コントロールエラーやリスクエクスポージャーの原因となっている根本的な問題を解決する意思を示す印をつける問題を修正します。問題を受け入れて、既知のコントロールエラーやリスクの例外を作成する意図があることをマークします。[受入れ済み] のコントロールは、コントロールが再評価され

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

るまでは、非準拠ステータスのままになります。これにより、監査中に所見を文書化するために問題を使用することができます。

リスク管理の構成

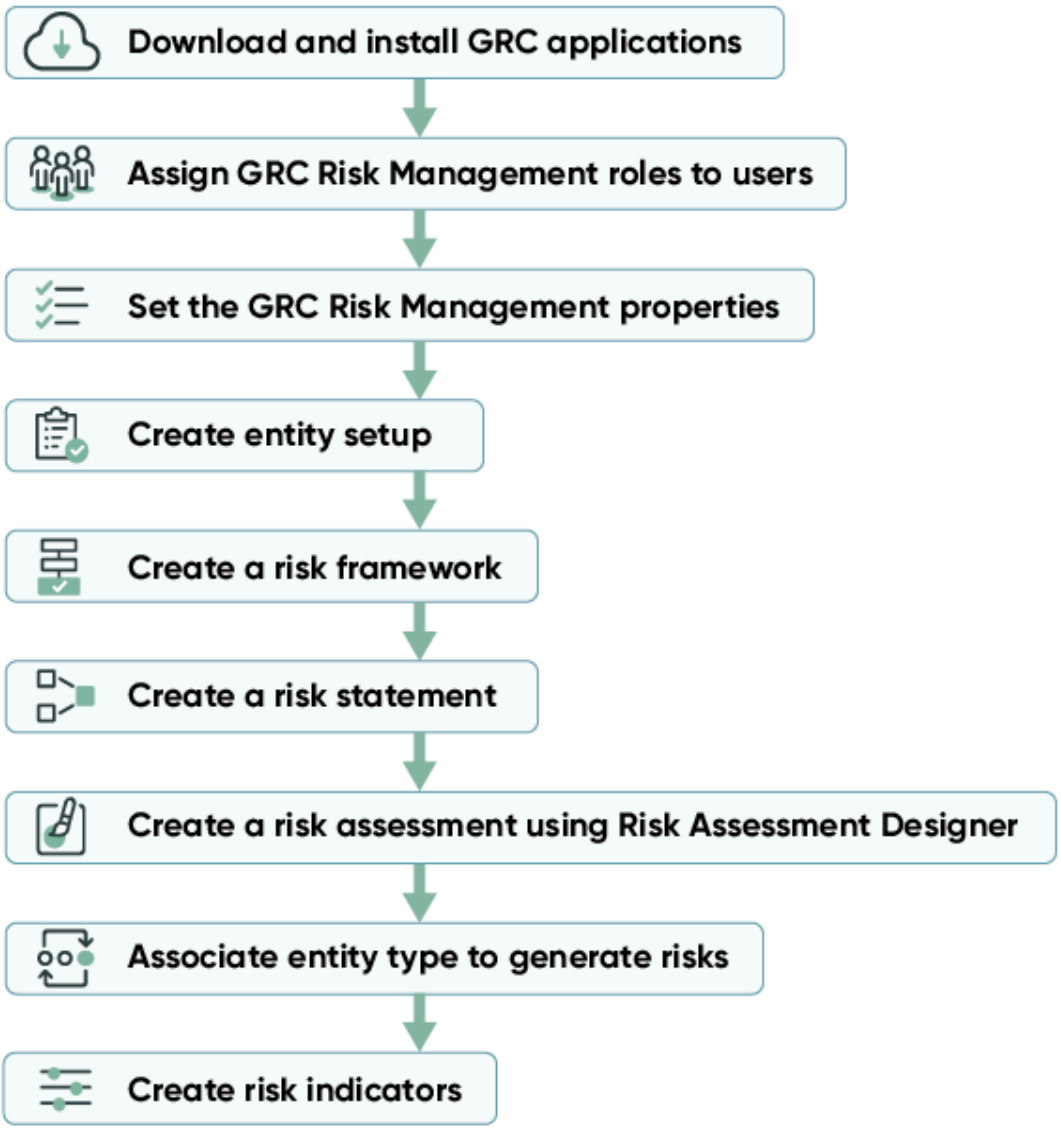
組織の完全なリスク管理のために提供される機能を使用するように リスク管理 アプリケーションを構成します。

リスク管理 の実装

リスク管理 アプリケーションチェックリストの手順に従って ServiceNow Store から リスク管理をダウンロードし、操作の準備をします。必須およびオプションのセットアップ手順のほか、実装チェックリストが、セットアップを簡略化するために用意されています。

チェックリストの必須ステップのフローを次に示します。

リスク管理実装チェックリスト



リスク管理 をダウンロード

インスタンスで GRC: リスク管理 (sn_risk) を実行する前に、ServiceNow Store からダウンロードする必要があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

始める前に
必要なロール：admin

手順

初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする の指示に従います。

リスク管理 のインストール

admin ロールがある場合は、 リスク管理 アプリケーション (com.sn_risk) をインストールできます。 このアプリケーションには、デモデータが含まれています。まだインストールされていない場合は、関連する ServiceNow Store アプリケーションとプラグインをインストールします。

始める前に

- アプリケーションとその関連するすべての ServiceNow Store アプリケーションに有効な ServiceNow エンタイトルメントがあることを確認してください。詳細については、次を参照してください。 のエンタイトルメントを取得する ServiceNow 製品またはアプリケーション.
- リスク管理 には次のプラグインが必要です。 リスク管理 をインストールする前に、これらのプラグインがアクティブ化されていることを確認します。

  必須の ServiceNow プラグイン

  GRC リスク管理 の依存関係

  GRC：リスク管理アプリケーションをサポートするために必要なすべての依存プラグインをインストールします。

- リスク管理 には次の ServiceNow Store アプリケーションが必要です。 リスク管理 をインストールする前に、このアプリケーションがインストールされていることを確認します。

  必要な ServiceNow Store アプリケーション

  GRC プロファイル

  GRC: Profiles アプリケーションは、GRC アプリケーションスイートで共有される共通コンポーネントのセットです。このアプリケーションには、一般的なアーキテクチャ、イシュー管理、およびインジケーターが含まれています。

必要なロール：admin

このタスクについて
リスク管理 とともに次のアイテムがインストールされます。

- プラグイン
- ストアアプリケーション
- ロール
- スケジュール済みジョブ
- テーブル

詳細については、「リスク管理 とともにインストールされるコンポーネント」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. フィルター基準と検索バーを使用して、 リスク管理 アプリケーション (com.sn_risk) を検索します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前または ID でアプリケーションを検索できます。アプリケーションが見つからない場合は、ServiceNow Store へのリクエストが必要になることがあります。

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

3. アプリケーションのインストールダイアログボックスで、アプリケーションの依存関係を確認します。

   依存するプラグインとアプリケーションがインストールされている場合、現在インストールされている場合、またはインストールする必要がある場合は、リストに表示されます。インストールする必要があるプラグインまたはアプリケーションがある場合は、 をインストールする前にインストールする必要があります。

4. オプション: 利用できるデモデータをインストールするには、[デモデータのロード] チェックボックスをオンにします。
   デモデータは、一般的なユースケース向けのアプリケーション機能を説明するサンプルレコードです。開発またはテストインスタンスで初めてアプリケーションをインストールする場合は、デモデータを読み込みます。

5. **[Install** (インストール)] を選択します。

リスク管理 アプリケーションのセットアップチェックリスト

このチェックリストには、ServiceNow AI Platform® インスタンスで完了する必要があるセットアップタスクが含まれています。これらのタスクを完了すると、ベースシステムの運用準備が整います。

始める前に

必要なロール：sn_risk.admin

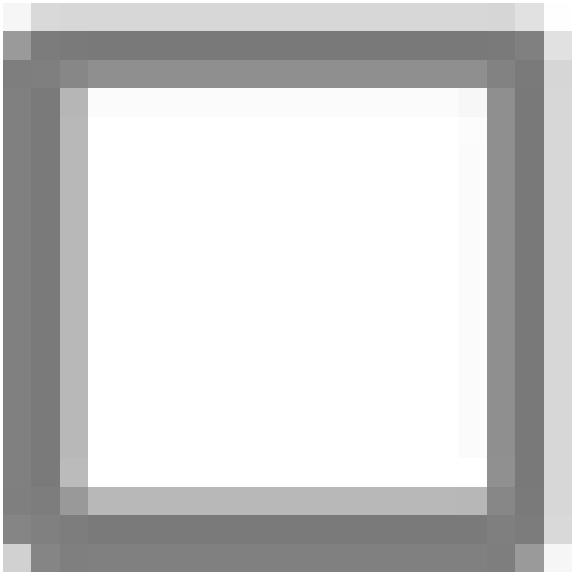
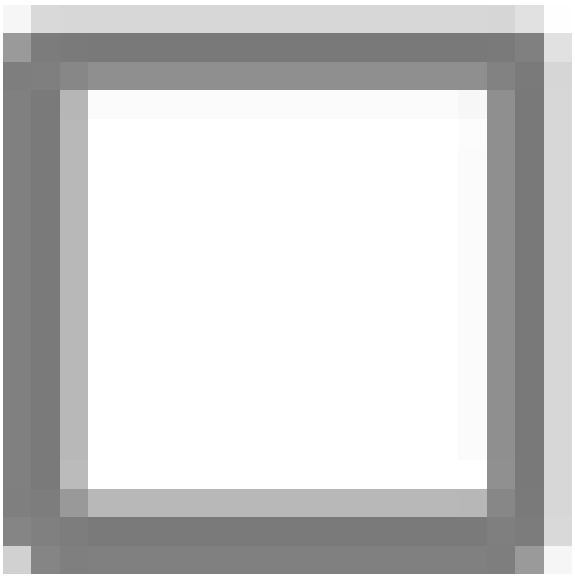
手順

1. チェックリストトピックの PDF を作成して印刷し、完了したらチェックオフします。
2. PDF を生成するには、[**PDF** として保存] を選択し、トピックの上部にある [選択したトピック] を選択します。

自動翻訳

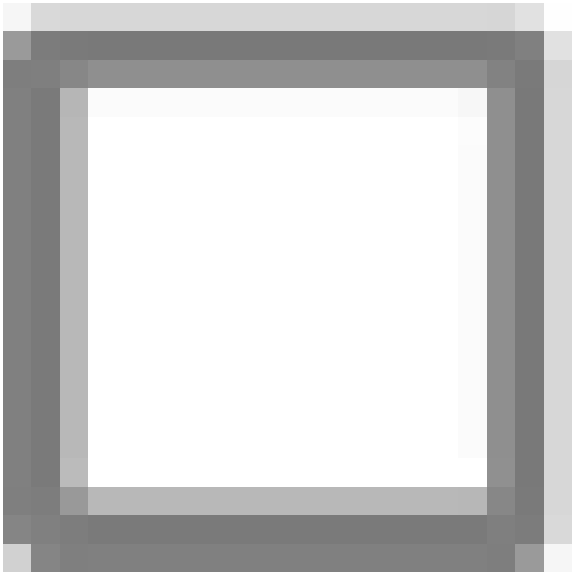
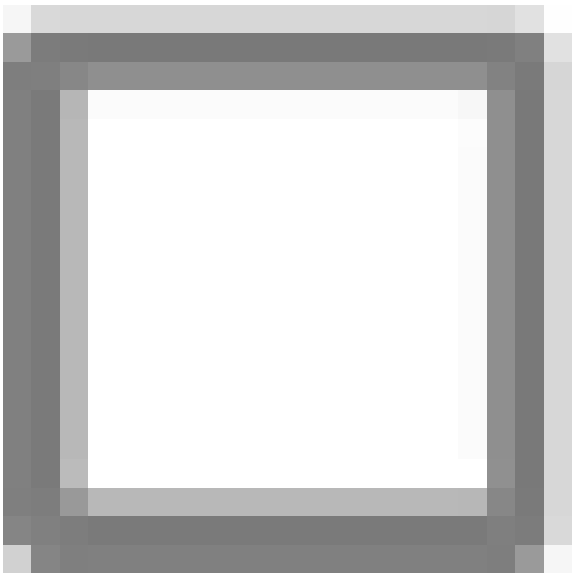
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスク管理 アプリケーションのチェックリスト

アイテム	チェックリスト
	sn_risk.admin ロールを持つユーザーは、以下を実行できます。 ○ リスク基準を定義および変更する ○ リスクプロパティを設定する ○ アセスメントを作成する ○ 既存のアセスメントを変更する ○ ロールをアサインする 詳細については、「リスク管理 管理」を参照してください。
	sn_risk.admin ロールを持つユーザーは、ロールのアサインもできます。詳細については、「リスク管理 とともにインストールされるロール」を参照してください。

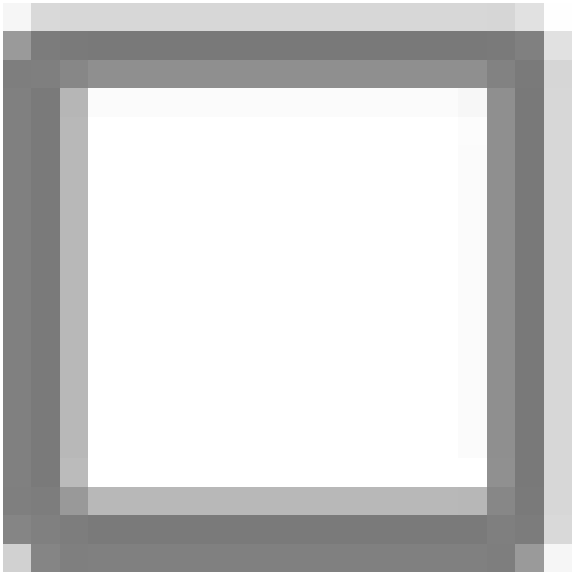
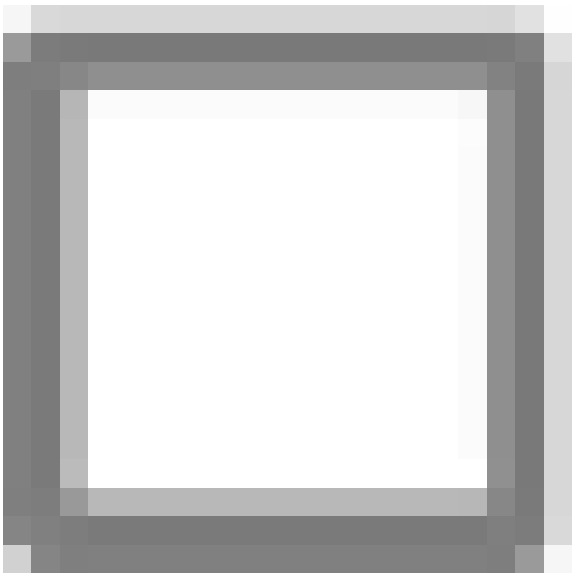
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アイテム	チェックリスト
	sn_risk.manager ロールを持つリスクマネージャーは、多数のリスクステートメントを管理する必要があります。この目標を達成するには、リスクフレームワークを定義する必要があります。詳細については、「リスクフレームワークを作成してリスクステートメントを関連付ける」を参照してください。
	sn_risk.manager ロールを持つリスクマネージャーは、リスクを論理的にグループ化するためのリスクステートメントを作成する必要があります。詳細については、「リスクステートメントを作成」を参照してください。

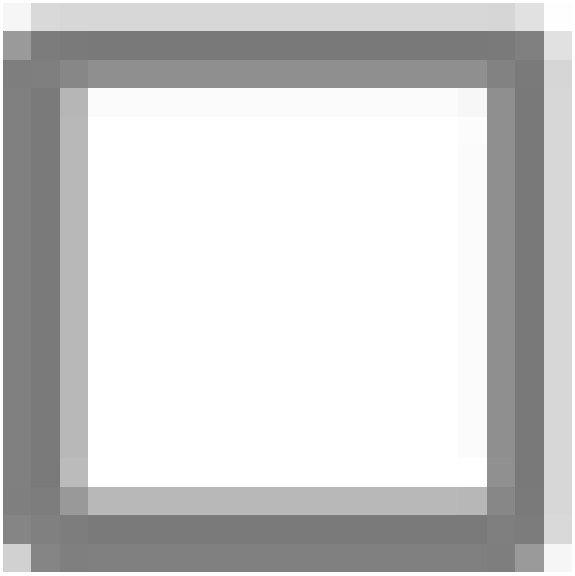
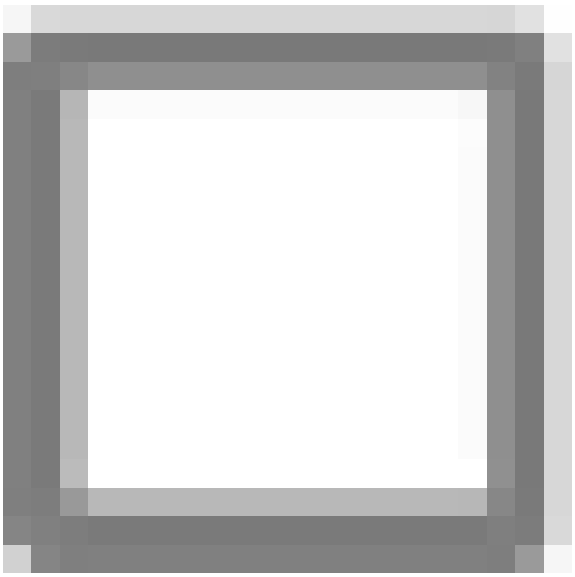
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アイテム	チェックリスト
	リスクアドミニストレーターまたはリスクマネージャーは、リスクアセスメントデザイナーを使用してリスクアセスメントを作成できます。詳細については、「リスクアセスメントデザイナーを使用してリスクアセスメントを作成」を参照してください。
	リスクアドミニストレーターとリスクマネージャーはリスクインジケーターを作成できます。リスクインジケーターは、リスクエクスポージャーのレベルの変化を監視し、組織がリスクを報告し、危機を回避し、それらを時間内に緩和できるようにします。詳細については、「リスクインジケーターを作成」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アイテム	チェックリスト
	リスクアドミニストレーターとリスクマネージャーは、エンティティタイプから生成するのではなく、エンティティを手動で作成できます。詳細については、「独立したエンティティを作成する」を参照してください。
	リスクアドミニストレーターとリスクマネージャーは、エンティティタイプを作成および編集し、コンプライアンスを追跡する必要がある既存の ServiceNow テーブルにマッピングする必要があります。エンティティは、すべてのエンティティタイプのコントロールとリスクを生成するコントロール目標とリスクステートメントにアサインされます。詳細については、「エンティティタイプからリスクとコントロールを生成する」を参照してください。

自動翻訳

GRC 高度なリスク のセットアップチェックリスト

高度なリスク アプリケーションで利用可能な基本構成の概要を把握するには、次のチェックリストを使用します。

始める前に

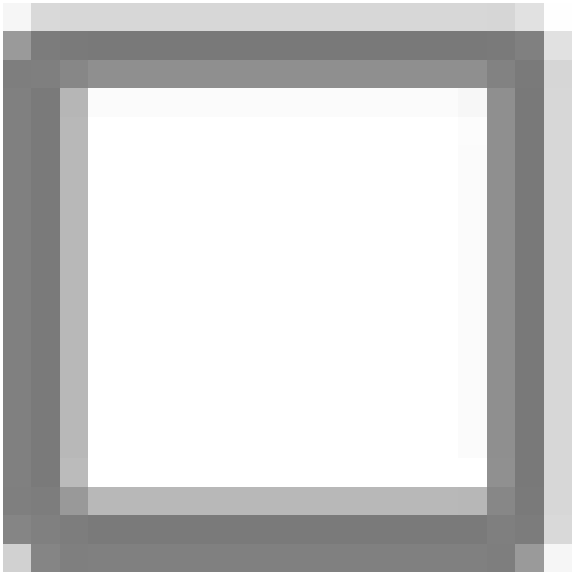
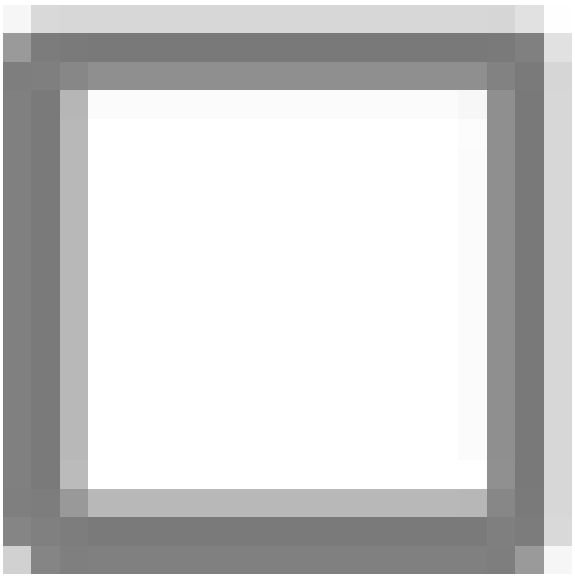
必要なロール：sn_risk.admin

手順

1. チェックリストトピックの PDF を作成して印刷し、完了したらチェックオフします。
2. PDF を生成するには、[**PDF** として保存] を選択し、トピックの上部にある [選択したトピック] を選択します。

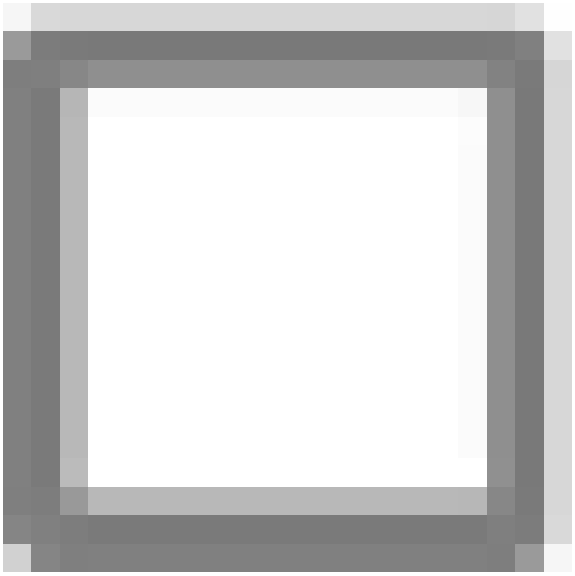
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

高度なリスク アプリケーションのチェックリスト

アイテム	チェックリスト
	リスクマネージャーはさまざまなタイプのリスク (オペレーショナルリスク、IT リスク、または戦略的リスク) を含む階層を作成できます。根底にあるリスクが評価されると、リスクスコアがリスクステートメント階層全体で自動的にロールアップされるため、戦術的および戦略的な意思決定が向上します。詳細については、「リスク階層と採点」を参照してください。
	リスクマネージャーは、リスクステートメント階層を定義し、子リスクステートメントを親に関連付けてリスク階層を作成する必要があります。詳細については、「リスクステートメント階層を定義」を参照してください。

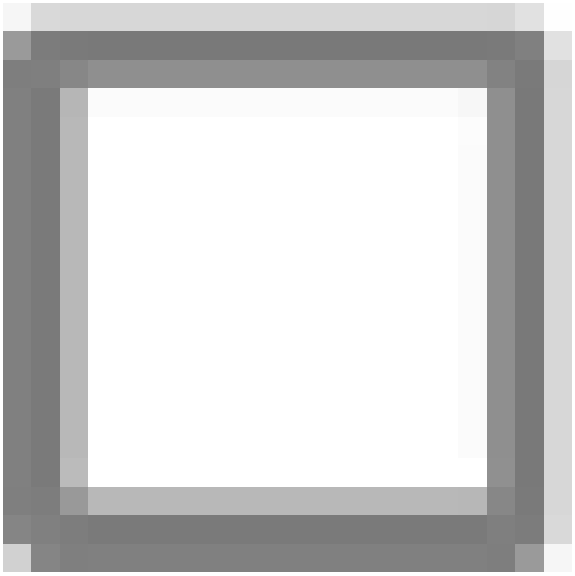
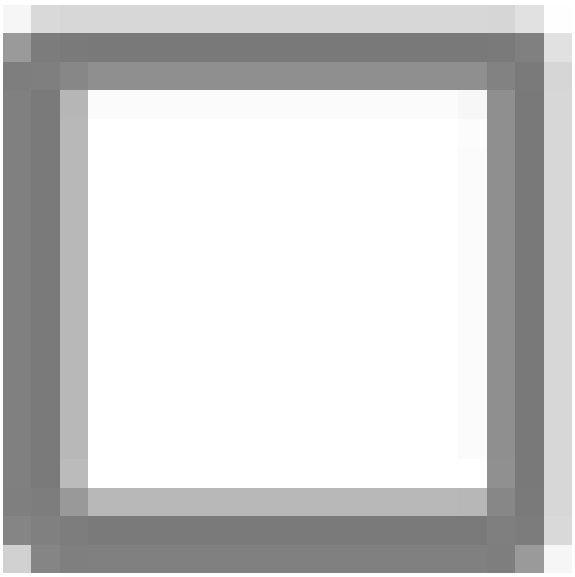
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アイテム	チェックリスト
	リスクロールアップは、正確なリスク評価を表示するために重要です。リスクアドミニストレーターはロールアップと階層を定義できます。詳細については、「高度なリスクアセスメントのリスクスコアロールアップ」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アイテム	チェックリスト
	リスクイベントは、組織内で発生する潜在的または実際の財務的および財務以外の損失、ニアミス、および利益です。リスクアドミニストレーターは、リスクイベントを他のアプリケーションと統合して、リスクイベントのレポートを容易にすることができます。詳細については、「リスクイベントを管理」を参照してください。
	GRC：高度なリスクアセスメントを使用して統合リスクプラットフォームを作成します。リスクアドミニストレーターは、詳細なリスクアセスメントオプションを設定できます。詳細については、「高度なリスクアセスメント」を参照してください。

自動翻訳

高度なリスク をダウンロード

インスタンスで 高度なリスク を実行する前に、ServiceNow Store からダウンロードする必要があります。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
GRC Risk Advanced は、次の機能へのアクセスを提供します。

- リスクイベントを管理
- リスク階層と採点

手順

初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする の指示に従います。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスク管理 の詳細セットアップ

リスク管理 を設定して、GRC リスク管理 アプリケーションのリスクアセスメント、リスクイベント、その他の機能を使用できるようにします。

リスク管理 をセットアップするには：

1. リスク管理 をダウンロード：インスタンスで GRC：リスク管理 (com.sn_risk) を実行する前に、ServiceNow Store からダウンロードする必要があります。
2. 高度なリスク をダウンロード：インスタンスで高度なリスクを実行する前に、ServiceNow Store からダウンロードする必要があります。
3. GRC リスク管理 のモバイルエクスペリエンス：リスクマネージャーは、Android または iOS モバイルデバイスを使用して作業を管理します。
4. リスク管理のクイックスタートテスト：アプリケーションの開発やアップグレードの適用などの構成変更を行った後も、リスク管理が引き続き正常に動作するかを検証します。自分のインスタンスに固有のデータを使用するときは、それが成功するように、これらのクイックスタートテストをコピーしてカスタマイズします。

GRC 高度なリスク のクイックスタートテスト

アプリケーションの開発やアップグレードの適用などの構成変更を行った後も、高度なリスク が引き続き正常に動作するかを検証します。自分のインスタンスに固有のデータを使用するときは、それが成功するように、これらのクイックスタートテストをコピーしてカスタマイズします。

GRC 高度なリスク

GRC：高度なリスク クイックスタートテストでは 高度なリスク プラグイン (com.sn_risk_advanced) をアクティブ化して、デモデータをロードする必要があります。

GRC: 高度なリスク テストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
GRC：リスクイベントの作成	リスクイベントの作成を検証します。	New York
GRC：リスクステートメント階層の作成	リスクステートメントに親フィールドが含まれ、リスクステートメント間で階層を維持できるようになっているかどうかを検証します	New York
GRC：リスクイベントの却下	リスクイベントの却下機能を検証します	New York
GRC：詳細情報の要求 - リスクイベント	リスクイベントを承認する前に詳細情報を要求する機能を検証します	New York
GRC：リスクアセスメントスコープを作成	手動ファクタ、クエリファクター、自動スクリプトファクタなど、さまざまなタイプの要素を作成します。リスクアセスメント方法論を作成し、リスクアセスメント方法論のさまざまなアセスメントタイプに因子を関連付けます。これにより、リスクアセスメント方法論のリスク	Orlando

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC: 高度なリスク テストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
	アセスメントスコープが作成されます。設定されています。 **注:** ATF テストを実行しているときは、テストランナーのプロパティでテストランナーのタイムアウトを 120 秒から約 240 秒に増やすことをお勧めします。	

高度なリスク の詳細については、「高度なリスクのダウンロード」を参照してください。

リスク管理 の構成

グローバルドメインのアドミニストレーターは、プロパティを設定して、システムが リスク管理 アプリケーションを定義する方法を決定できます。

始める前に

必要なロール：sn_risk.admin

注:
グローバルドメインよりも低いドメイン内のアドミンの場合、プロパティ画面の表示はできますが、設定を変更することはできません。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > アドミニストレーション > プロパティ.
2. リスク管理 プロパティフォームのフィールドに入力します。
   「」を参照してください。 とともにインストールされるプロパティ リスク管理 プロパティの説明。
3. **[Save** (保存)] をクリックします。

関連情報

リスク管理でインストールされるプロパティ

リスク管理 管理

リスク管理 アプリケーションを使用すると、アドミニストレーターはリスクカテゴリ、リスク基準、リスク管理プロパティ、およびリスクアセスメントタイプをカスタマイズできます。

リスク基準

リスク基準は、リスクが発生する可能性と、リスクが発生した場合の組織への影響度に起因するスコア値です。

リスク基準のしきい値は、次のように可能性が高いまたは可能性が低いスコアを定義します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスク基準しきい値

可能性	影響	スコア
1 = 可能性は非常に低い	1 = 非常に低い	0 ～ 5 = 非常に低い
2 = 可能性は低い	2 = 低	6 ～ 10 = 低
3 = どちらでもない	3 = 普通	11 ～ 15 = 中
4 = 可能性がある	4 = 高	16 ～ 20 = 高
5 = 可能性が非常に高い	5 = 非常に高い	21 ～ 25 = 非常に高い

リスクプロパティ

名前	説明
フォームの [適用先] フィールドで利用可能なテーブルのリスト	このフィールドが空白の場合、エンティティタイプ、エンティティ、およびリスクのさまざまなフォームですべてのテーブルを使用できます。エンティティタイプ、エンティティ、およびリスクフォームの [適用先] フィールドで利用可能なテーブルのカンマ区切りリストを定義します。すべての拡張テーブルを含めるには、テーブル名の後に *.extended* を追加します。

アセスメントタイプ

リスクマネージャーは、リスクアセスメントごとに新しい質問セットを作成できます。「アセスメントタイプを作成」を参照してください。

リスク管理のクイックスタートテスト

アプリケーションの開発やアップグレードの適用などの構成変更を行った後も、リスク管理 が引き続き正常に動作するかを検証します。自分のインスタンスに固有のデータを使用するときは、それが成功するように、これらのクイックスタートテストをコピーしてカスタマイズします。

GRC：リスク管理 クイックスタートテストでは リスク管理 プラグイン (com.sn_risk) をアクティブ化して、デモデータをロードする必要があります。

GRC: リスク管理 クイックスタートテストテストスイート

テスト	説明	リリースバージョン
GRC：プロファイルの作成	プロファイルの作成を検証します。	Madrid
GRC：リスクの作成	リスクの作成を検証します。	Madrid
GRC：コントロールの作成	コントロールの作成を検証します。	New York
GRC：コントロール目標の作成とコントロールの生成	コントロール目標の作成を検証し、プロファイルを関連付けてコントロールを生成します。	New York
GRC：問題の作成	問題の作成を検証	New York
GRC：問題を承認	問題の受け入れによってクローズされるまで、問題のすべての状況を検証します。	New York

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC: リスク管理 クイックスタートテストテストスイート (続く)

テスト	説明	リリースバージョン
GRC：問題を修復	未解決の修復タスクを使用して、検証の問題をクローズすることはできません。	New York
GRC：インジケーター向け ATF フロー (マニュアル)：	Type manual を使用してインジケーターテンプレートを作成し、コントロール目標をそれに関連付けます。インジケーターの 1 つを実行して、形成します。クローズ済みとして作成されたインジケータータスクのステータスをマークし、失敗として結果を示します。関連コントロールは非適合となり、問題が発生します。	New York
GRC：インジケーター向け ATF フロー (ベーシック)	タイプが「基本」で、結果が「失敗」であるインジケーターテンプレートを作成します。コントロール目標をそれに関連付け、サポートデータを提供します。インジケーターの 1 つを実行して、形成します。関連コントロールは非適合となり、問題が発生します。	New York
GRC：インジケーター向け ATF フロー (スクリプト)	タイプスクリプトを使用してインジケーターテンプレートを作成し、スクリプトを入力し、結果の値を設定します。渡します。結果の値。コントロール目標を関連付けます。インジケーターの 1 つを実行します。関連コントロールは非適合となり、問題が生成されます。	New York

関連情報

クイックスタートテスト

GRC モバイルアプリケーション のセットアップチェックリスト

次のチェックリストには、ServiceNow AI Platform® インスタンスおよびモバイルデバイスで完了する必要があるセットアップタスクが含まれています。GRC モバイルアプリケーション を使用してモバイルデバイスで リスク管理 アプリケーションを表示する前に、これらの設定タスクを完了してください。

始める前に

オプションとして、このチェックリストを印刷し、GRC モバイルアプリケーションに必要な設定タスクのガイドとして使用します。GRC モバイルアプリケーション にログインして ServiceNow AI Platform インスタンスを追加できるように、リストの各アイテムが完了していることを確認します。

このタスクの完了にかかる時間は 15 ～ 20 分です。

必要なロール：admin、sn_risk.manager

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

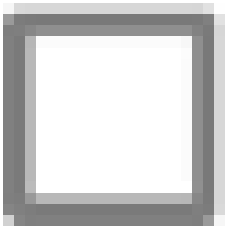
GRC モバイルアプリケーション チェックリスト

アイテム	説明
☐	admin ロールを持つユーザーは、GRC コアアプリケーションが ServiceNow AI Platform インスタンスにインストールされていることを確認します。これは、モバイルデバイスで表示する ServiceNow AI Platform インスタンスです。 **注:** GRC コアアプリケーションと ServiceNow AI Platform インスタンスは、ファミリーリリースが同じである必要があります。 1. GRC: GRC Profile 依存関係コアアプリケーションがインスタンスにインストールされていることを検証するには、[プラグイン] に移動して、GRC Profile を検索します。 2. GRC Profile コアアプリケーションがまだインストールされていない場合は、[インストール] をクリックして、インストールします。 3. GRC Profile アプリケーションをインストールした後、ポリシーとコンプライアンス管理 コアアプリケーション、または リスク管理 コアアプリケーション、または ポリシーとコンプライアンス管理 と リスク管理 の両方のアプリケーションをインストールします。これらは、GRC モバイルアプリケーション で表示できる 2 つの GRC アプリケーションです。 インスタンスに表示されていない場合は、すべての GRC コアアプリケーションを ServiceNow Store から入手できます。 GRC コアアプリケーションのエンタイトルメントの取得、ダウンロード、およびインストールの詳細については、「GRC と ServiceNow Store」を参照してください。 GRC コアアプリケーションをインストールすると、GRC モバイルアプリケーション の依存関係プラグイン (com.glide.sg および com.glide.sg.agent_native_client) も自動的にインストールされます。 これらの依存関係プラグインがインストールされ、有効化されていることを確認するには： 1. [プラグイン] に移動します。 2. プラグイン ID (com.glide.sg および com.glide.sg.agent_native_client) を検索します。 3. 有効になっていない場合は、これらのプラグインを有効にします。
☐	アドミンロールを持つユーザーとして、モバイルデバイスで表示する ServiceNow AI Platform インスタンスに GRC モバイルアプリがインストールされていることを確認します。 **注:** GRCモバイルアプリと ServiceNow AI Platform インスタンスは、ファミリーリリースが同じである必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC モバイルアプリケーション チェックリスト (続く)

アイテム	説明
	GRC モバイルアプリケーション でのエンタイトルメントの取得、ダウンロード、およびインストールの詳細については、「GRC と ServiceNow Store」を参照してください。
	アドミンロールを持つユーザーは、ServiceNow AI Platform インスタンスで、モバイルユーザーに必要な ServiceNow AI Platform ロールをアサインしたことを確認します。 **1.** ユーザーにアサインされているロールを表示するには、次に移動します: ユーザーとグループ > ユーザー. **2.** ユーザー名、続いてロール関連リストを選択します。このユーザーにアサインされているすべてのロールが表示されます。 **3.** ユーザーがアサインされていることを確認するか、IT インフラストラクチャライブラリーロール (itil) を持つユーザーをアサインします。itil ロールを持つユーザーは、レコードを作成し、開き、更新できます。itil ロールを持つユーザーのみにタスクをアサインすることができます。 **4.** ユーザーがアサインされていることを確認するか、リスクマネージャーロール (sn_risk.manager) を持つユーザーをアサインします。このロールは、itil ロールをアサインすると自動的に追加されます。 **5.** 必要なアサイン先グループを作成し、これらのグループにモバイルユーザーをアサインしたことを確認します。 **注:** モバイルアプリケーションに複数のユーザーがいる場合は、sn_risk.manager ロールをグループに割り当てることもできます。グループに追加する各ユーザーは、このロールを継承します。 ユーザーおよびユーザーとグループへのロールのアサインの詳細については、「Create a user (ユーザーを作成)」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC モバイルアプリケーション チェックリスト (続く)

アイテム	説明
☐	sn_risk.manager ロールを持つモバイルユーザーは、モバイルデバイスに最新の ServiceNow エージェントアプリケーションがインストールされていることを確認します。 エージェントモバイルアプリ  最新の Agent アプリは、Apple iOS App Store と Google Play ストアで入手できます。
☐	sn_risk.manager ロールを持つユーザーは、モバイルデバイスと ServiceNow AI Platform インスタンスで通知が有効になっていることを確認します。 重要な処理待ちの承認要求が自分または自分のアサイン先グループにアサインされたときに通知されます。タイムリーな修正を支援するには、通知を有効にした後、GRC モバイルアプリケーション 内の通知をクリックしてレコードに直接移動します。 ServiceNow AI Platform インスタンスで通知を有効にしてモバイルデバイスに表示されるようにするには、次の手順を実行します。 **1.** GRC モバイルアプリケーション を ServiceNow AI Platform インスタンスにダウンロードしてインストールしたことを確認します。 **2.** ServiceNow AI Platform インスタンスの [システムの設定] の [通知] で、**ServiceNow Mobile** アプリケーションが有効になっていることを確認します。 通知の設定の詳細については、「Core UI での通知設定の設定」の「User notification preferences in コア UI (ユーザー通知設定)」を参照してください。 ServiceNow AI Platform の通知は、モバイルデバイスのメッセージ画面にも表示されます。モバイルデバイスの設定でも通知が有効になっていることを確認します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モバイルデバイスと、GRC モバイルアプリケーション 用の ServiceNow AI Platform が正常に設定されました。次のステップでは、モバイルデバイスで ServiceNow エージェントアプリを使用して ServiceNow AI Platform インスタンスにログインします。

リスク選好度のセットアップ

高度なリスク アプリケーションでリスク選好度機能を設定できます。

タスクの順序に従って 高度なリスク アプリケーションでリスク選好度機能を構成します。

高度なリスク のリスク選好度と許容度を構成

高度なリスク アプリケーションでリスク選好度と許容度を構成およびカスタマイズできるように、高度なリスクアセスメントプロパティを設定します。

始める前に

必要なロール：sn_risk.admin

手順

1. 移動先 すべて > 高度なリスクアセスメント > アドミニストレーション > プロパティ.
2. 次の表に記載されているプロパティ値を設定します。

高度なリスクアセスメントのプロパティ

プロパティ	説明
高度なリスクアセスメントに移行 sn_risk_advanced.hide_risk_legacy_lifecycle	高度なリスクアセスメントに移動するためのオプション。リスク選好度機能を使用する場合は、[はい] を選択します。
リスク選好度の定義 (Define risk appetite as) sn_risk_advanced.risk_appetite_scale	リスク選好度タイプを選択するオプション： ○ [リスク選好度のみ **(1** ポイントスケール) **(Risk appetite only (1-point scale))]**：リスク選好度のみを使用します。[リスク選好度] フィールドは、リスクステートメント、リスク、およびエンティティフォームで使用できます。リスク選好度ステータスは、このプロパティの選択に基づいて計算されます。 ○ [リスク選好度とリスク許容度 **(2** ポイントスケール) **(Risk appetite and risk tolerance (2-point scale))]**：リスク選好度とリスク許容度の両方を使用します。[リスク選好度] と [リスク許容度] フィールドは、リスクステートメント、リスク、およびエンティティフォームで使用できます。リスク選好度ステータスは、このプロパティの選択に基づいて計算されます。 ○ [なし]：リスク選好度を使用しません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ	説明
	注: 一度に設定できるのは、[リスク選好度の定義 **(Define risk appetite as)**] と [リスク選好度を表す**(Express risk appetite in)**] の間の 1 つのプロパティのみです。最初に 1 つのプロパティを設定し、保存してから、他のプロパティを設定します。
リスク選好度を表す(Express risk appetite in) sn_risk_advanced.risk_appetite_analysis	リスク選好度スケールを選択するオプション： ○ [定性的条件のみ **(Qualitative terms only)**]：定性的条件のみでリスク選好度を定義します。リスク選好度は、低、中、高などの選好度スケールに基づいています。リスク評価は、定性的選好度および許容範囲と比較され、定性的選好度ステータスが計算されます。 ○ [定量的条件のみ **(Quantitative terms only)**]：定量的条件のみでリスク選好度を定義します。定量的リスク選好度は、数値を使用して測定および表すことができます。たとえば、組織が今年のターゲット不良資産 (NPA) を 1,000 ドル (USD) にすると決定します。組織は、定量的リスク選好度として 1,000 米ドルを定義できます。年間損失予測値は、定量的選好度および許容範囲と比較され、定量的選好度ステータスが計算されます。 ○ [両方]：定性的および定量的の両方でリスク選好度を定義します。 注: 一度に設定できるのは、[リスク選好度の定義 **(Define risk appetite as)**] と [リスク選好度を表す **(Express risk appetite in)**] の間の 1 つのプロパティのみです。最初に 1 つのプロパティを設定し、保存してから、他のプロパティを設定します。
リスク選好度を確認するためにメールを送信するまでの日数 (Number of days before which an email should be sent to review risk appetite) sn_risk_advanced.risk_appetite_review_notifcation	次のレビュー日の前にリスクステートメント所有者に自動メール通知を送信する通知メールスケジューラー。

3. [保存] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスク選好度スケールの設定

高度なリスク アプリケーションでリスク選好度スケールを設定して、組織内の定性的なリスク選好度を定義します。

始める前に

必要なロール：sn_risk.admin

このタスクについて

リスク選好度スケールを使用して、リスクステートメント、エンティティ、およびリスクレコードの定性的なリスク選好度を定義します。デフォルトで出荷されるリスク選好度スケールは次のとおりです。

- **1-** 反対
- **2 -** ミニマリスト
- **3 -** 慎重
- **4-** オープン
- **5-** 意欲的

手順

1. 移動先 すべて > 高度なリスクアセスメント > アドミニストレーション > リスク選好度スケール.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

リスク選好度スケールフォーム

フィールド	説明
名前	リスク選好度スケールの名前。例：意欲的。
有効	選好度スケールを有効にするオプション。リスク選好度スケールは削除できません。代わりに、非アクティブにします。このオプションは自動的に選択されます。 **注:** リスク選好度スケールをアクティブまたは非アクティブにすると、関連するリスクアセスメント、エンティティ、リスクステートメント、リスクなどの複数のレコードに影響します。
説明	選好度スケールに関する簡潔な説明。
値	リスク選好度スケールの値。このフィールドは、リスク選好度スケールの数値を定義します。 **注:** リスク選好度値に変更を加えると、関連するリスクアセスメント、エンティティ、リスクステートメント、リスクなどの複数のレコードに影響します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
表示順序	リスク選好度スケールの順序。このフィールドでは、リスク選好度スケールが表示される順序を設定できます。

4. [送信] を選択します。

リスク選好度ステータスを変更

高度なリスク アプリケーションのリスク選好度ステータスに表示されるデフォルトの名前、色、およびアイコンを変更します。

始める前に
必要なロール：sn_risk.admin

このタスクについて
リスク選好度ステータスを使用して、定義されたリスク選好度に基づくエンティティ、リスク、およびリスクステートメントの最終的なリスクステータスを定義します。選好度ステータスは、リスクを監視し、リスクを選好度の範囲内に収めるためのアクションを定義するうえで役立ちます。

デフォルトで出荷されるリスク選好度ステータスは次のとおりです。

- [選好度の範囲外]
- [選好度が許容範囲外]
- [選好度の範囲内]

注:
リスク選好度ステータスは削除できませんが、廃止または作成することはできます。リスク選好度ステータスを作成する場合は、ステータスを計算できるようにアプリケーションをカスタマイズする必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > 高度なリスクアセスメント > アドミニストレーション > リスク選好度ステータス.
2. 変更するリスク選好度ステータスを開きます。
3. フォームのフィールドに入力します。

リスク選好度ステータスフォーム

フィールド	説明
名前	リスク選好度ステータスの名前。たとえば、[選好度の範囲外] です。
リスク選好度ステータスの色。	リスク選好度ステータスに表示される色。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: リスク、エンティティ、およびリスクステートメントのワークスペースビューでこの変更を行うには、いくつかの追加の手順を実行する必要があります。これらの追加手順の詳細については、KB0867184 を参照してください。ナレッジベース の記事を表示するには、Now Support にログインする必要があります。
アイコン	リスク選好度ステータスに表示されるアイコン。 注: リスク、エンティティ、およびリスクステートメントのワークスペースビューでこの変更を行うには、いくつかの追加の手順を実行する必要があります。これらの追加手順の詳細については、KB0867184 を参照してください。ナレッジベース の記事を表示するには、Now Support にログインする必要があります。

4. [送信] を選択します。

高度なリスク メッセージの変更

高度なリスク アプリケーションを使用して、リスクアセスメントフォームに表示されるメッセージを変更します。システムメッセージを変更すると、ユーザーの好みや特定の要件に合わせて、カスタマイズされた一貫性のあるメッセージングをユーザーに送信することが可能になります。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. 移動先 すべて > システム **UI** > メッセージ.
2. すべての高度なリスクアセスメントメッセージをフィルタリングするには、[キー] 列を選択し、advanced_risk_assessment_component を検索します。
   高度なリスクアセスメントに関連するメッセージが表示されます。
3. 変更するメッセージを選択します。
4. 注:
   [キー] フィールドを変更していないことを確認します。

   [メッセージ] フィールドでメッセージのテキストを変更します。
5. [更新] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

高度なリスク での関連リストのグループ化の作成

レコードページ上の関連リストのグループ化を簡素化し、特定のニーズに合わせてカスタマイズして、プロセス内で意味のある名前を割り当てます。この構成により、フォームを操作する際の読みやすさとユーザーエクスペリエンスが向上します。

始める前に

必要なロール：admin または sn_grc_workspace.record_view_admin

このタスクについて

フォームには多数の関連リストがあり、表示が混雑することがあります。表示を簡素化するために、フォームに表示する関連リストを選択して設定するオプションがあります。デフォルトでは、次のテーブルに関連リストを設定する機能が提供されます。

- 計算済みメトリクスの定義テーブル
- メトリクス定義テーブル

どのテーブルでも選択してそのテーブルの関連リストを設定できますが、この手順では一例として、メトリクスの定義テーブルのグループ化を作成する方法について説明します。関連リストとは別に、グループの下に表示する UX ページを指定することもできます。

手順

1. 移動先 すべて > 高度なリスクアセスメント > アドミニストレーション > レコードビュー構成.
2. [リスクワークスペース構成] を選択します。
3. [テーブル構成] 関連リストで、[メトリクスの定義] を選択します。
4. [グループ構成 (Group configurations)] 関連リストで、[新規] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

グループ構成フォーム

フィールド	説明
テーブル構成	関連リストを構成するテーブルの名前。このフィールドは自動的に設定されます。
名前	フォームの関連リストに表示されるグループの名前。たとえば、リスクやリスクステートメントなどのリスク関連オブジェクトをグループ化するために、「リスク」などの名前を指定できます。
アクティブ	構成がアクティブであることを示すオプション。
順序	フォーム上のグループの順序番号。 **注:** [詳細] タブの前に注文を表示する場合は、注文番号を 100 以下にする必要があります。
条件	フォームに表示するために必要な条件。たとえば、レコードがアクティブである場合にのみフォームに表示するように指定できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. [送信] を選択します。
7. [グループ構成 (Group configurations)] 関連リストで、作成したエントリーを選択します。
   a. [グループエントリー (Group entries)] 関連リストで、[新規] を選択します。
   b. フォームのフィールドに入力します。

グループエントリーフォーム

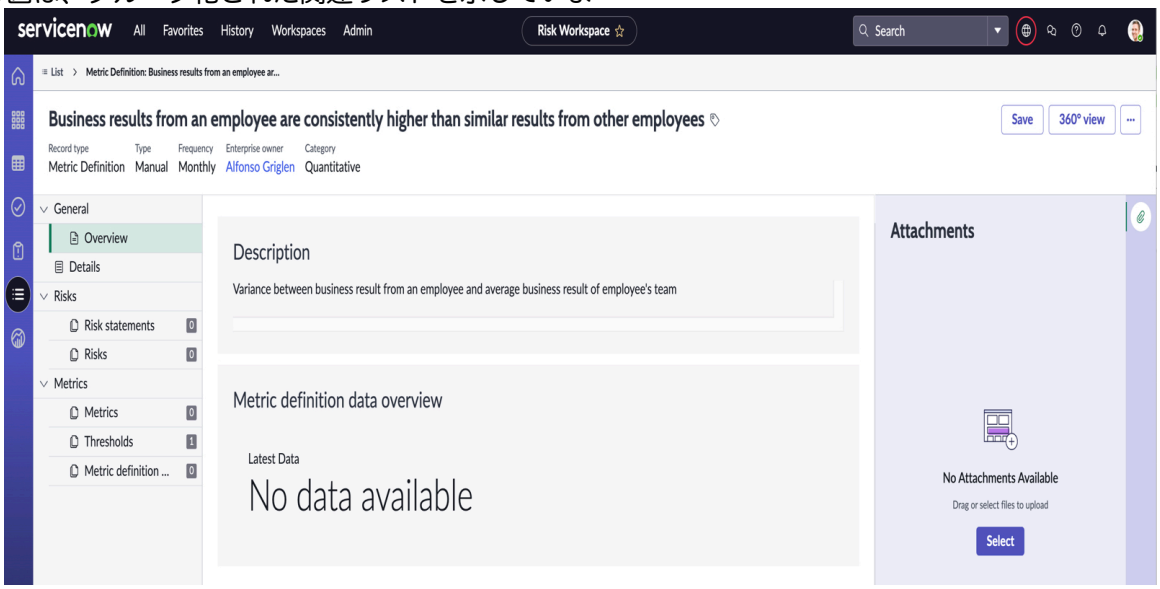
フィールド	説明
グループ構成	関連リストを作成するグループ。たとえばこの手順では、エントリーを構成するグループを「リスク」とします。
順序	UI ページでのエントリーの順序。
アプリケーション	関連リストを作成するアプリケーション。このフィールドは自動的に [GRC：リスク管理ワークスペース] に設定されます。
アクティブ	エントリーがアクティブかどうかを示すオプション。
タイプ	グループに含まれるアイテムのタイプを示す選択肢。選択肢は次のとおりです。 ▪ ユーザーエクスペリエンスページ ▪ 関連リスト
関連リスト	必要な関連リストがグループの下に表示されている必要があります。このオプションは、[タイプ] フィールドに [関連リスト] が含まれている場合にのみ表示されます。
スクリーニング	ページの特定のバリエーションまたはバージョン。このオプションは、[タイプ] フィールドに [ユーザーエクスペリエンスページ] が含まれている場合にのみ表示されます。
ルーティング	UX 画面のパス。このオプションは、[タイプ] フィールドに [ユーザーエクスペリエンスページ] が含まれている場合にのみ表示されます。

   c. [送信] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
次の図は、グループ化された関連リストを示していま



す。

他のアプリケーションとの リスク管理 の統合

高度なリスクアセスメントなどの リスク管理 の機能を拡張し、他のアプリケーションでリスクの特定とリスクアセスメントを支援します。

高度なリスクアセスメントは、ガバナンス、リスク、コンプライアンス 外で APM や プロジェクトポートフォリオ管理 などの他のアプリケーションがリスクを特定して評価し、ライフサイクルを管理するために役立ちます。

プロジェクトリスクアセスメント機能を使用してプロジェクトのリスクを管理します。この機能により、リスクアドミン、プロジェクトマネージャー、およびリスクオーナーは、プロジェクトリスクの特定、プロジェクトリスクアセスメント、プロジェクトリスクの軽減、プロジェクトリスクの監視など、プロジェクトリスクのライフサイクル全体を管理できます。この機能により、集計されたプロジェクトリスク評価とヒートマップなどの手段を使用して、プロジェクトのリスク体制の効果的な可視化とレポートが提供されます。この統合により、プロジェクトリスクが企業に影響を与える可能性がある場合に、必要な軽減措置を定義できるように、企業のリスクチームにそのリスクを簡単に報告できます。この機能を使用するには、プロジェクトポートフォリオ管理 アプリケーションがインストールされていることを確認します。また、[高度なリスクアセスメント] [管理] [プロパティ] で [高度なリスク PPM 統合を有効にする] プロパティを有効にする必要があります。このプロパティのデフォルト設定は [いいえ] です。it_pps_admin または risk_admin ロールを持つユーザーのみがこのプロパティを有効にできます。

アプリケーションリスク管理機能を使用して、ビジネスアプリケーションでデジタルリスクを管理します。この機能により、アプリケーションに関する一般的なデータ収集、アプリケーション固有のリスクアセスメント、適切なポリシー、規制、およびコントロールの適用可能性、コントロールの実装および監視など、ビジネスアプリケーションの完全なリスクライフサイクルを管理できます。GRC ワークフローをビジネスアプリケーションと統合することで、コミュニケーションの障壁を減らし、2 つの組織内の情報サイロ化を解消します。この障壁の削減により、ビジネスアプリケーションの管理における全体的な労力が軽減されます。この機能を使用するには、アプリケーションポートフォリオ管理 (APM) アプリケーション、ポリシーとコンプライアンス管理 との アプリケーションポートフォリオ管理 統合および リスク管理 との アプリケーションポートフォリオ管理 統合がインストールされていることを確認します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

高度なリスクアセスメントを使用したプロジェクトリスクアセスメント

プロジェクトリスクアセスメント機能を使用してプロジェクトのリスクを管理します。リスクアドミン、プロジェクトマネージャー、およびリスクオーナーは、プロジェクトリスクアセスメント機能を使用して、プロジェクトリスクのライフサイクル全体を管理できます。

組織が成長するにつれて、プロジェクトのリスクアセスメントを実行することが重要になります。プロジェクトはそれぞれ異なるため、プロジェクト固有の要件に従ってプロジェクトリスク管理プロセスをカスタマイズすることが重要です。適切なレベルのプロジェクトリスク管理プロセスを決定することが、リスク管理計画を構成します。プロジェクトリスクのライフサイクルは、プロジェクトリスクの特定、プロジェクトリスクアセスメント、プロジェクトリスクの軽減、プロジェクトリスクの監視などのフェーズで構成されています。

バージョン 11.0.1 では、ガバナンス、リスク、コンプライアンス (GRC) 高度なリスクアセスメントを使用してプロジェクトリスクを評価できます。この機能は、プロジェクトポートフォリオ管理のリスク管理機能を拡張します。この機能は、強力なプロジェクトリスク管理要件で使用できる強力なリスクアセスメントエンジンと統合されています。また、この機能により、集計されたプロジェクトリスク評価とヒートマップなどのツールを使用して、プロジェクトのリスク体制の効果的な可視化とレポートが提供されます。この統合により、プロジェクトリスクが企業に影響を及ぼす恐れがある場合に、企業のリスクチームにそのリスクを簡単に報告できます。エンタープライズリスクチームは、必要な軽減措置を定義できます。

マネージャーにとっての **GRC** と プロジェクトポートフォリオ管理 の統合のメリット

この統合を使用すると、プロジェクトマネージャーは次のアクティビティを実行できます。

- 標準的なリスク分類からリスクを特定します。
- プロジェクトフォーム内でプロジェクトのリスクを表示します。
- プロジェクトフォーム自体からリスクを特定して評価します。
- 固有リスクと残存リスクを評価します。
- リスクが企業に影響を与える場合は、プロジェクトリスクをエンタープライズリスクに昇格させます。
- ステークホルダーがこの情報を表示できるように、プロジェクト、プログラム、およびポートフォリオ全体のロールアップリスクスコアを計算します。
- リスク集計を通じてプロジェクトのリスク体制を監視します。

  注:
  評価されたプロジェクトリスクのみが最終リスクスコアに寄与します。

- リスクのヒートマップを表示し、軽減措置を理解します。
- プロジェクトリスクの概要ダッシュボードを表示して、全体的なリスク体制を把握します。

エンタープライズリスクマネージャーにも統合のメリットがあります。次のアクティビティを実行できます。

- 企業に影響を与えるプロジェクトリスクを表示し、必要なアクションを実行します。
- エンタープライズレベルのリスクとその性質をすべてのレベルで全体的に把握します。

GRC と プロジェクトポートフォリオ管理 の統合のユースケース

この統合のユースケースを理解するために、次のシナリオについて検討してください。組織は複数のプロジェクトを持つことができます。複雑なプロジェクトもあれば、それほど複雑でないプロジェクトもあります。複雑なプロジェクトのリスク管理は、ISO 31000 リスクアセスメント標準に沿っている場合があります。複雑なプロジェクトには、リスクの特定、アセスメント、対応、監視などのさ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

まざまなアクティビティが必要です。それほど複雑でないプロジェクトやシンプルなプロジェクトでは、簡単なアセスメントのみが必要な場合があります。プロジェクトポートフォリオ管理 と高度なリスクアセスメントの統合により、プロジェクトリスクのリスクアセスメントがサポートされます。

関連情報

プロジェクトポートフォリオ管理について

プロジェクトリスクアセスメントのワークフロー

プロジェクトポートフォリオ管理 および ガバナンス、リスク、コンプライアンス のリスク管理機能の統合を理解するには、プロジェクトリスクアセスメントのワークフローを理解することが重要です。

プロジェクトリスクアセスメントは一連のステップに従います。リスクが評価された後、リスクがエンタープライズリスクに昇格する場合があります。エンタープライズリスクとは、金銭的または評判の損失を引き起こす恐れのあるリスクです。ビジネスを継続する能力が危険にさらされる可能性があります。

プロジェクトリスクアセスメントのワークフローは次のとおりです。

1. プロジェクトマネージャーは、リスクを特定し、それらのリスクをプロジェクトに追加します。マネージャーは、リスクを作成することも、ライブラリからリスクを追加することもできます。プロジェクトマネージャーには、it_project_manager ロールと sn_grc.business_user ロールがあります。詳細については、「プロジェクトのリスクの追加」を参照してください。
2. プロジェクトマネージャーは、新しく追加されたリスクのリスクアセスメントを開始します。プロジェクト統合構成フォームで、アセスメントの査定人と承認者を定義します。査定人と承認者はリスクを評価するためのメール通知を受け取ります。

   注:
   [処理待ち]、[オープン]、または [対応中] ステータスのリスクのみを評価できます。

3. プロジェクト統合構成フォームで査定人として選択されたステークホルダーがいる場合、プロジェクトマネージャーは関連するステークホルダーに手動でリスクをアサインする必要があります。
4. リスクスペシャリストとして、リスク査定人は、アセスメント対象の新しいリスクについて通知を受けます。

   リスク査定人は、メール通知のリンクを使用してアセスメントを開始できます。または、リスク査定人は 高度なリスクアセスメント > リスクアセスメントタスク > 自分のタスク 高度なリスクアセスメントを実行します。「高度なリスクアセスメント」を参照してください。

5. プロジェクトリスクフォームで、プロジェクトマネージャーは [リスクアセスメントのサマリー] セクションをレビューしてリスクアセスメントスコアを表示します。
6. プロジェクトリスクが企業に影響を与えるとプロジェクトマネージャーが判断した場合、プロジェクトマネージャーはそのリスクをエンタープライズリスクに昇格させることができます。

   注:
   プロジェクトリスクがエンタープライズリスクに昇格すると、プロジェクトリスクがプロジェクトリスク登録からエンタープライズリスク登録にコピーされます。

7. リスクがエンタープライズリスクに昇格した場合、エンタープライズリスクマネージャーはリスクを評価するように要求されます。
8. プロジェクトマネージャーは、[リスクアセスメントのサマリー] でエンタープライズ固有リスクスコアとエンタープライズ残存リスクスコアを表示します。
9. プロジェクトポートフォリオ管理 ワークフローの一部として、リスクが発生し、このリスクに対してアクションを実行する必要がある場合、プロジェクトマネージャーはリスクを問題に変換でき

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ます。詳細については、「プロジェクトの RIDAC (リスク、問題、意思決定、アクション、および変更要求) レコードエントリー」を参照してください。

10. プロジェクトマネージャーは、プロジェクトフォームの [リスクの概要] セクションでヒートマップを使用してプロジェクトのリスク体制を表示することもできます。ヒートマップには、影響度が高いリスクと可能性の高いリスクが表示されます。ヒートマップを使用すると、すぐに対応する必要のあるリスクを優先することができます。評価されたリスクが集計されたリスクスコアに寄与します。集計されたリスクスコアは、すべてのステークホルダーにレポートできる単一のスコアです。詳細については、「プロジェクトを作成する」を参照してください。
11. プロジェクトリスクの概要ダッシュボードを表示して、プロジェクトリスクとエンタープライズリスクの全体的なリスク体制を把握します。詳細については、「プロジェクトリスク概要ダッシュボード」を参照してください。

注:
査定人と承認者は、必要なタスクを実行するためのリスクビジネスユーザーロール (sn_grc.business_user) を持っている必要があります。何らかの理由でプロジェクトリスクが再評価され、スコアが変更された場合、エンタープライズリスク査定人は、エンタープライズリスクを再評価するオプションを含むメール通知を受け取ります。

キーユーザーとユーザージャーニーを次の図に示します。

プロジェクトポートフォリオ管理 とリスク統合の主要なユーザー



Project Managers
- Own the overall project risk and need visibility into project risks
- Use the aggregated risk to understand the overall project risk posture as well as visualize their distribution on the heatmap
- Can elevate risks to enterprise risk register if they have materialistic impact to the enterprise



Project Risk Owners
- Own the specific risk and assess and mitigate it to contain it from materializing
- Use the ARA to assess the inherent risk, define actions to mitigate those risks and assess the leftover (risidual) risk to decide if further mitigating actions are required

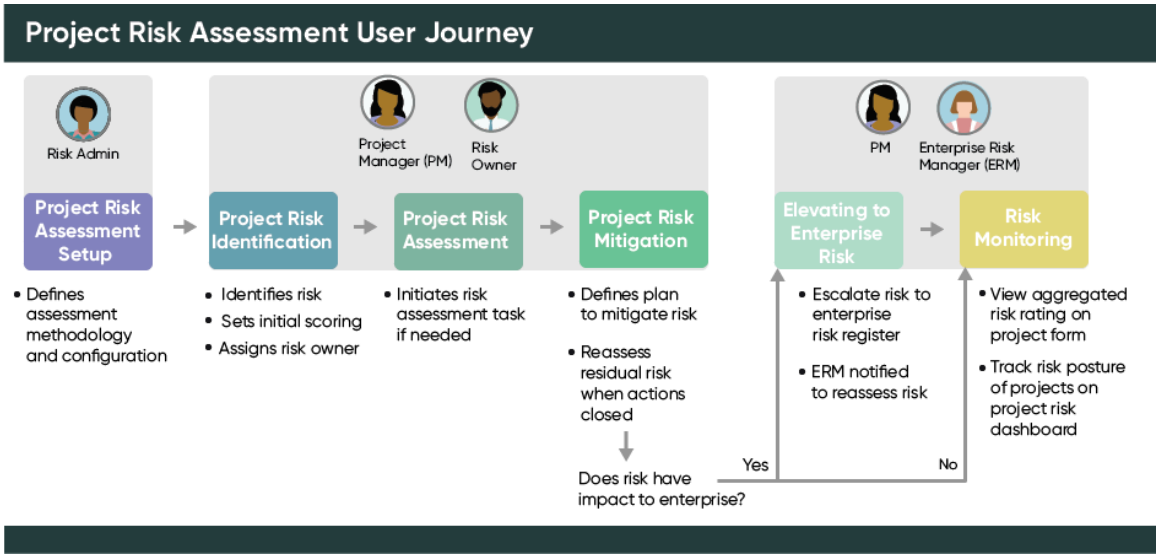


Enterprise Risk Managers
- Need visibility into risks from the projects and understanding of which risks may impact the overall organization risk posture
- Can reassess project risk which may have an enterprise impact to analyze such risks and take appropriate action on them

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロジェクトポートフォリオ管理 とリスク統合のユーザージャーニー



プロジェクトポートフォリオ管理 および 高度なリスク 統合を設定

プロジェクト統合構成フォームを使用して、リスクアセスメントを設定します。リスクアセスメント方法、適切な査定人と承認者、およびリスクスコアをロールアップしてプロジェクトレベルでスコアを表示する式を選択する必要があります。

始める前に

プロジェクト管理 (PM) の高度なリスクアセスメントを使用するには、次の操作を行います。

- プロジェクトポートフォリオ管理 プラグインをアクティブ化します。
- 高度なリスク プラグインをアクティブ化します。
- で *Enable Advanced Risk PPM Integration* プロパティを有効にする 高度なリスクアセスメント > アドミニストレーション > プロパティ. このプロパティはデフォルトで自動的に [いいえ] に設定されます。it_pps_admin または sn_ risk.admin ロールを持つユーザーのみが、このプロパティを有効にできます。

注:
現在、プロジェクトポートフォリオ管理 スイートでは、プロジェクト管理 (PM) アプリケーションでのみ高度なリスクアセスメントがサポートされています。

必要なロール：sn_risk.admin

このタスクについて

リスクアドミニストレーターは、プロジェクト統合構成フォームで次を選択できます。

- リスクアセスメント方法論 (RAM)。
- エンタープライズリスクアセスメントとプロジェクトリスクアセスメントの両方の承認者と査定人。

エンタープライズリスクアセスメントとプロジェクトリスクアセスメント用に、2 つの事前定義された RAM が提供されます。デフォルトの方法論を変更するか、方法論を作成できます。独自のリスクアセスメント方法を選択する場合、その方法のエンティティクラスは Project である必要があります。プロジェクトリスクとエンタープライズリスクを評価する場合は、選択した承認者と査定人を追加できます。プロジェクトリスクのリスクアセスメント方法論は、プロジェクトポートフォリオ管理 リスクテーブルに関連付けられた方法として自動的に選択されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > 高度なリスクアセスメント > アドミニストレーション > プロジェクト統合構成.
2. 情報 アイコンをクリックし、プロジェクトリスク統合構成レコードを表示します。
3. [レコードを開く] をクリックします。
4. フォームのフィールドに入力します。

プロジェクトリスク統合構成フォーム

フィールド	説明
プロジェクトリスクアセスメント	
アセスメント方法論	プロジェクトリスクアセスメントのアセスメント方法論。このフィールドは自動的に [プロジェクトのエンタープライズアセスメント] に設定されます。
査定人タイプ	プロジェクトリスクアセスメントの査定人。選択肢は次のとおりです。 ○ プロジェクトマネージャー：プロジェクトのプロジェクトマネージャーにアサインされたユーザー。 ○ リスクオーナー：リスクの [アサイン先] フィールドで識別されるユーザー。 ○ ステークホルダー：プロジェクトのステークホルダー。 注: [ステークホルダー] が選択されている場合、プロジェクトマネージャーが査定人をアサインすると、プロジェクトの [ステークホルダー] 関連リストに追加されたすべてのユーザーが表示されます。プロジェクトマネージャーは、必要なステークホルダーを選択できます。
リスクロールアップ式	プロジェクトリスクスコアをロールアップするために使用される式。選択肢は次のとおりです。 ○ 平均 ○ 最大 ○ 最小

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: 高度なリスクアセスメントを使用して評価されたリスクのみが集計され、スコアがロールアップされます。リスクが廃止された場合、廃止されたリスクのスコアは集計されません。詳細については、「高度なリスクアセスメントのリスクスコアロールアップ」を参照してください。
承認者タイプ	プロジェクトリスクの承認者。承認者はリスクアセスメントを承認する必要があります。選択肢は次のとおりです。 ○ なし：承認者は必要ありません。 ○ プロジェクトマネージャー：プロジェクトマネージャーが承認者です。 ○ ステークホルダー：プロジェクトのステークホルダー。
エンタープライズリスクアセスメント	
査定人タイプ	エンタープライズリスクの査定人。選択肢は次のとおりです。 ○ プロジェクトマネージャー：プロジェクトのプロジェクトマネージャーにアサインされたユーザー。 ○ リスクオーナー：リスクの [アサイン先] フィールドで識別されるユーザー。 ○ グループ：リスクがアサインされているグループ。 注: このユーザーには sn_risk.manager ロールが必要です。
承認者タイプ	エンタープライズリスクの承認者。選択肢は次のとおりです。 ○ なし：承認者は必要ありません。 ○ プロジェクトマネージャー：プロジェクトのプロジェクトマネージャーにアサインされたユーザー。 ○ グループ：リスクがアサインされているグループ。
期限切れまでの日数	開始日からアセスメントが期限切れと見なされるまでの日数。このフィールドは自動的に **5** に設定されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: 査定人は、期日が近づくと、リマインダー通知を受け取ります。査定人および査定人のマネージャーは、期日が過ぎた後に通知を受け取ります。
査定人グループ	[査定人タイプ] フィールドに [グループ] がある場合にエンタープライズリスクを評価するグループ。

5. [更新] をクリックします。

タスクの結果
査定人と承認者の詳細が設定されます。

アセスメントのためにプロジェクトリスクをステークホルダーにアサインする

アセスメントのためにプロジェクトリスクを関連するステークホルダーにアサインします。リスクをステークホルダーに手動でアサインする必要があります。

始める前に
必要なロール：it_project_manager

このタスクについて
プロジェクトリスク統合構成フォームに査定人として選択されたステークホルダーがいる場合、プロジェクトマネージャーはプロジェクトのいずれかのステークホルダーに手動でアセスメントをアサインする必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > プロジェクト管理 > プロジェクト > すべて.
2. リスクアセスメントのプロジェクトを選択します。
   このプロジェクトのリスクが存在することを確認します。「プロジェクトのリスクの追加」を参照してください。
3. [リスク] 関連リストをクリックします。
4. 評価するリスクを選択します。
5. [リスクを評価] をクリックします。
   値は統合構成に基づいて表示されます。
6. [承認者] フィールドで、プロジェクトリスクの査定人を選択します。
7. [送信] をクリックします。

タスクの結果
リスクはリスク査定人のワークフローに移動します。

関連情報

プロジェクトポートフォリオ管理 および 高度なリスク 統合を設定

高度なリスクアセスメントを使用してプロジェクトリスクを評価

事前定義された要素または質問に回答して、プロジェクトのリスクを評価します。プロジェクトのリスクスコアに到達します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：it_project_manager および sn_grc.business_user

このタスクについて
リスクは、固有リスクと残存リスクについて評価されます。固有リスクは、軽減コントロールがないリスクです。残存リスクは、コントロールが考慮された後に残るリスクです。リスクアセスメントのワークフローは、リスクアセスメント方法論の構成についてリスクアドミニストレーターが決定します。プロジェクトマネージャーがアセスメントの承認を有効にする場合、プロジェクトマネージャーはプロジェクト統合構成フォームで承認フローを構成できます。リスクのアセスメントが以前に実施された場合、以前のアセスメントの結果が [以前のアセスメント] 関連リストに表示されます。
リスク査定人は次のことを実行できます。

- プロジェクトに追加されたリスクを評価します。
- リスクをエンタープライズリスクに昇格させる必要があるかどうかを決定します。

リスクアセスメントインスタンスのリスクを評価する方法と質問への回答方法については、「リスクアセスメントインスタンスについて」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > 自分のタスク > モジュール.
2. 評価するアセスメントを選択します。
3. [**Assess**] をクリックします。
4. [固有のアセスメント] セクションで、必要に応じて要素に回答し、[保存して計算] をクリックします。
5. [結果] セクションでは、計算されたスコアを上書きできます。
   a. 計算されたリスクスコアが正しくないと思われる場合は、[計算済みスコアを上書き] チェックボックスをオンにして、計算されたリスクスコアを上書きします。
   b. [固有リスクを上書き] フィールドで、計算済みリスク評価を上書きする値を選択します。
   このフィールドは、[計算済みスコアを上書き] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。
   c. [コメント] フィールドに、計算されたリスク評価を上書きする理由を入力します。
6. [残りのアセスメントの実行] をクリックします。
   a. [残存アセスメント] セクションで、必要に応じて要素に応答します。
   b. [保存して計算] をクリックします。
7. [完了としてマーク] をクリックします。
8. [承認を要求] をクリックします。
   承認を要求するオプションは、[プロジェクト統合構成] フォームで承認者が特定されている場合にのみ表示されます。その場合、ワークフローは [承認待ち] ステータスに移行します。ただし、承認を要求するオプションが選択されていない場合、ワークフローは監視状況に移行します。

次のタスク
プロジェクトリスクをエンタープライズリスクに昇格。

プロジェクトリスクをエンタープライズリスクに昇格

プロジェクトリスクがエンタープライズに影響する場合は、プロジェクトリスクをエンタープライズリスクに昇格させます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

始める前に
必要なロール：it_project_manager または sn_grc.business_user

このタスクについて
プロジェクトリスクがエンタープライズに影響することがわかった場合は、プロジェクトリスクをエンタープライズリスクに昇格させることができます。リスクが昇格すると、プロジェクトリスクが自動的にエンタープライズリスク登録にコピーされます。昇格したリスクには、企業への影響度のアセスメントが必要です。エンタープライズリスクは常にプロジェクトリスクに接続されます。プロジェクトリスクが廃止されると、エンタープライズリスクも廃止されます。

手順

1. 移動先 すべて > プロジェクト管理 > プロジェクト > すべて.
2. リスクアセスメントのプロジェクトを選択します。
3. 昇格する評価済みリスクを選択します。
4. 関連リンクで、[エンタープライズリスクに昇格] をクリックします。

   注:
   査定人は [査定人] フィールドで事前定義されています。このフィールドの値は、[プロジェクト統合構成] フォームから取得されます。

5. [承認者] フィールドで、承認者を選択します。
6. [送信] をクリックします。

タスクの結果
エンタープライズリスクアセスメントの新しいリスクアセスメントが生成されます。アセスメントがエンタープライズリスク査定人に送信されます。

次のタスク
プロジェクト統合構成フォームでエンタープライズ査定人として識別された査定人に基づいて、エンタープライズリスクマネージャーは、エンタープライズリスクの観点からリスクを評価するための通知を受け取ります。リスクアセスメントを実行する手順は、高度なリスクアセスメントを使用してプロジェクトリスクを評価 で説明されている手順と同じです。

高度なリスクアセスメントを使用したアプリケーションリスクアセスメント

GRC をビジネスアプリケーションと統合することで、ビジネスアプリケーションのデジタルリスクを簡単に管理します。統合によって、ビジネスアプリケーションのデジタルリスク体制に関するリアルタイムインサイトを取得することで、アプリケーションオーナーと IT リスクマネージャー間のコミュニケーションを改善し、作業負荷を軽減できます。

企業は アプリケーションポートフォリオ管理 (APM) を使用してビジネスアプリケーションのインベントリを管理します。ビジネスアプリケーションの例としては、Zoom、Workday、Jobvite などがあります。それぞれのビジネスアプリケーションには次の 2 人のオーナーがいます。

- IT アプリケーションオーナー：IT チームのアプリケーションを所有し、主要な連絡先です。IT アプリケーションオーナーは、アプリケーション製品オーナーまたはアプリケーションオーナーとも呼ばれます。
- ビジネスオーナー：ビジネス使用のアプリケーションを所有します。ビジネスオーナーは、ビジネスアプリケーションのエグゼクティブスポンサーです。オーナーは通常、アプリケーションをスポンサー支援する企業に属しています。たとえば、財務アプリケーションは通常、財務責任者がスポンサーになっています。

自動翻訳

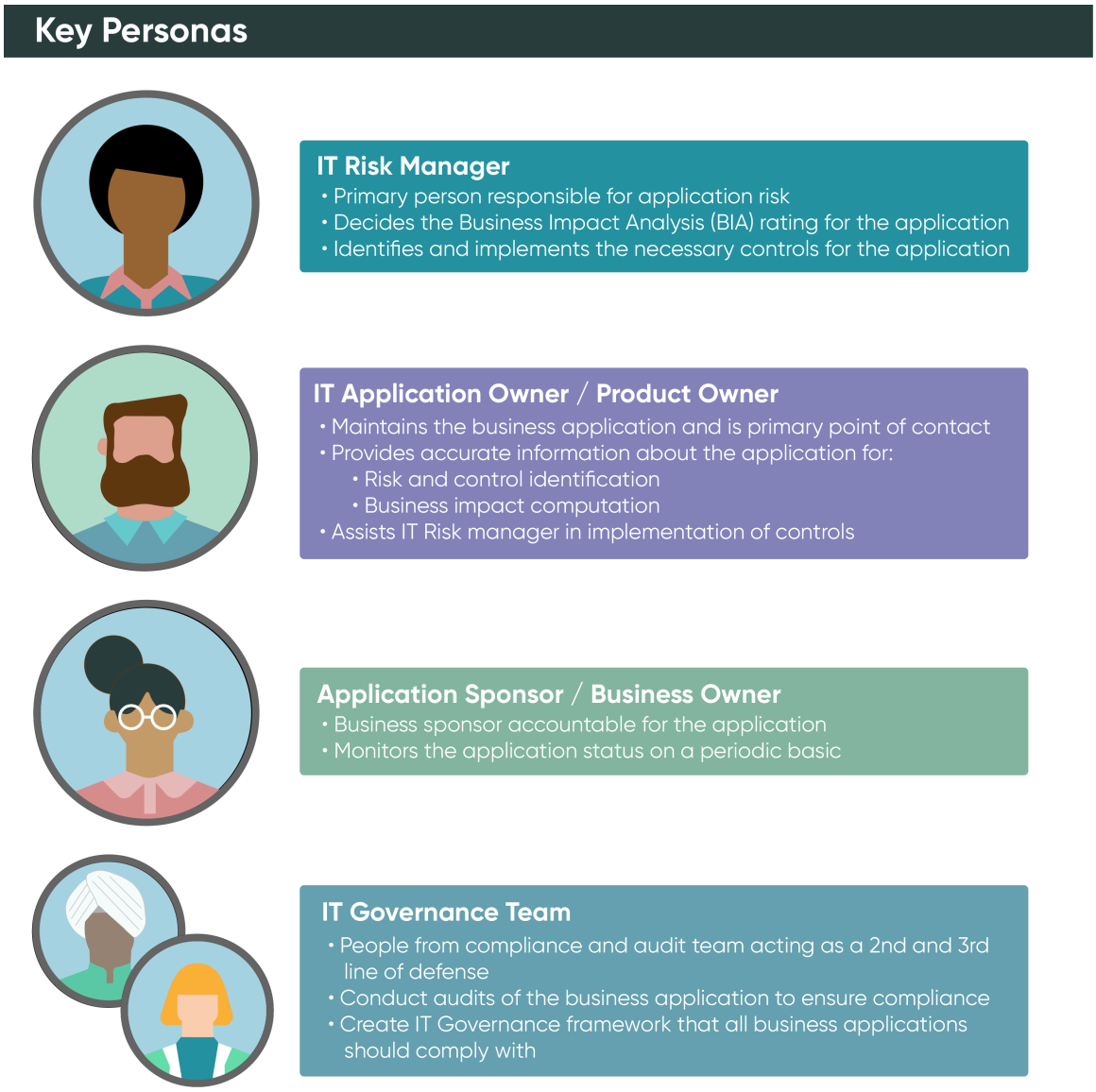
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC を APM と統合すると、リスクと必要なコントロールを特定して、IT リスクマネージャーの作業を簡素化できます。ビジネスアプリケーションのデジタルリスクを軽減できます。コントロールが有効であることを確認することもできます。この統合のメリットは次のとおりです。

- リスクマネージャーとデジタルリスクのアプリケーションオーナーが費やす時間を削減します。
- アプリケーションオーナーとリスクマネージャーとの間に、より迅速で効率的なコミュニケーションを提供します。
- ビジネスアプリケーションのデジタルリスク体制の概要を示します。
- アプリケーションの継続的な監視を実現します。

この統合のメリットを享受するユーザーを次の図に示します。

APM とリスク統合のメリットを得るユーザー



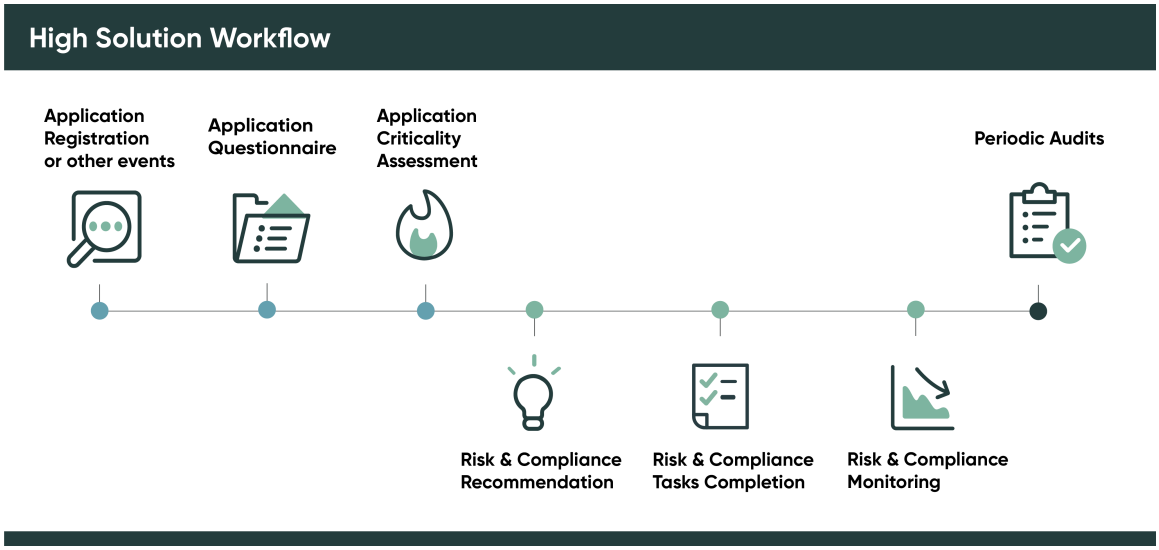
アプリケーションリスクアセスメント機能は、高度なリスクプラグインを有効にすると利用可能になります。ただし、APM リスク識別レコードのデフォルト構成は、リスク管理 プラグイン (com.snc.apm_risk_assessment) との APM 統合を有効にしている場合にのみ使用できます。

次の画像は、統合のワークフローの概要を示しています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

APM と高度なリスクアセスメントの統合の概要



関連情報

ビジネスアプリケーションのリスク特定のワークフロー

ビジネスアプリケーションのリスク特定のワークフロー

アプリケーションのリスクを評価する際、アプリケーションはさまざまな段階のリスク識別およびアセスメントを経ます。要件に基づいて識別およびアセスメントのワークフローを定義できます。

アプリケーションのリスクを評価する前に、アプリケーションをビジネスアプリケーションテーブルで作成し、GRC に取り込む必要があります。アプリケーションが GRC に取り込まれると、リスク識別レコードが作成されます。アプリケーションオーナーは、アプリケーションに関する情報を IT リスクマネージャーに提供します。IT リスクマネージャーは、推奨されるリスク、引用、およびポリシーをマッピングします。

ビジネスアプリケーションのリスクの特定とアセスメントのワークフローを理解するために、次の例について検討してください。新しいビジネスアプリケーションが組織に導入されました。この新しいアプリケーションはビジネスアプリケーションテーブルの一部です。新しいアプリケーションには次の 2 人のオーナーがいます。

- IT アプリケーションオーナー
- ビジネスオーナー：このユーザーには sn_grc.business_user ロールが必要です。

注:
組織はさまざまなロールを使用できます。

この時点では、アプリケーションは GRC の一部ではありません。リスクを評価する前に、アプリケーションをエンティティとして GRC に取り込む必要があります。新しいアプリケーションには、情報オブジェクトも関連付けられている必要があります。

アプリケーションリスクアセスメントのワークフローと承認者は、リスク識別構成フォームの設定によって決定されます。ワークフローを定義するプロセスについては、「リスク識別統合の設定」を参照してください。リスクの特定を再開するために、フローデザイナーアクションが提供されています。

新しいビジネスアプリケーションを評価する際のリスク識別のワークフローは次のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. ビジネスアプリケーションは、自動的に、またはアプリケーションオーナーによってビジネスアプリケーションテーブルに作成されます。
2. GRC が新しいビジネスアプリケーションを検出します。新しいアプリケーションの GRC エンティティが作成されます。検出は、バックグラウンドで実行される GRC プロファイル生成スケジュール済みジョブによって処理されます。
3. アプリケーションの新しいリスク識別レコードが作成されます。

   注:
   リスクマネージャーは、設定レコードを変更し、アセスメントのワークフローを決定できます。リスク識別構成が公開された後、リスクマネージャーは設定レコードの一部のフィールドのみを変更できます。

4. アプリケーションの詳細を収集するために、アンケートが開始され、アプリケーションオーナーに送信されます。
5. アプリケーションオーナーがアンケートに回答します。
6. IT リスクマネージャーが応答をレビューします。応答が不十分な場合、マネージャーはアンケートをアプリケーションオーナーに返送します。

   注:
   アンケートが返送されると、新しい応答が元のフォームに戻ります。

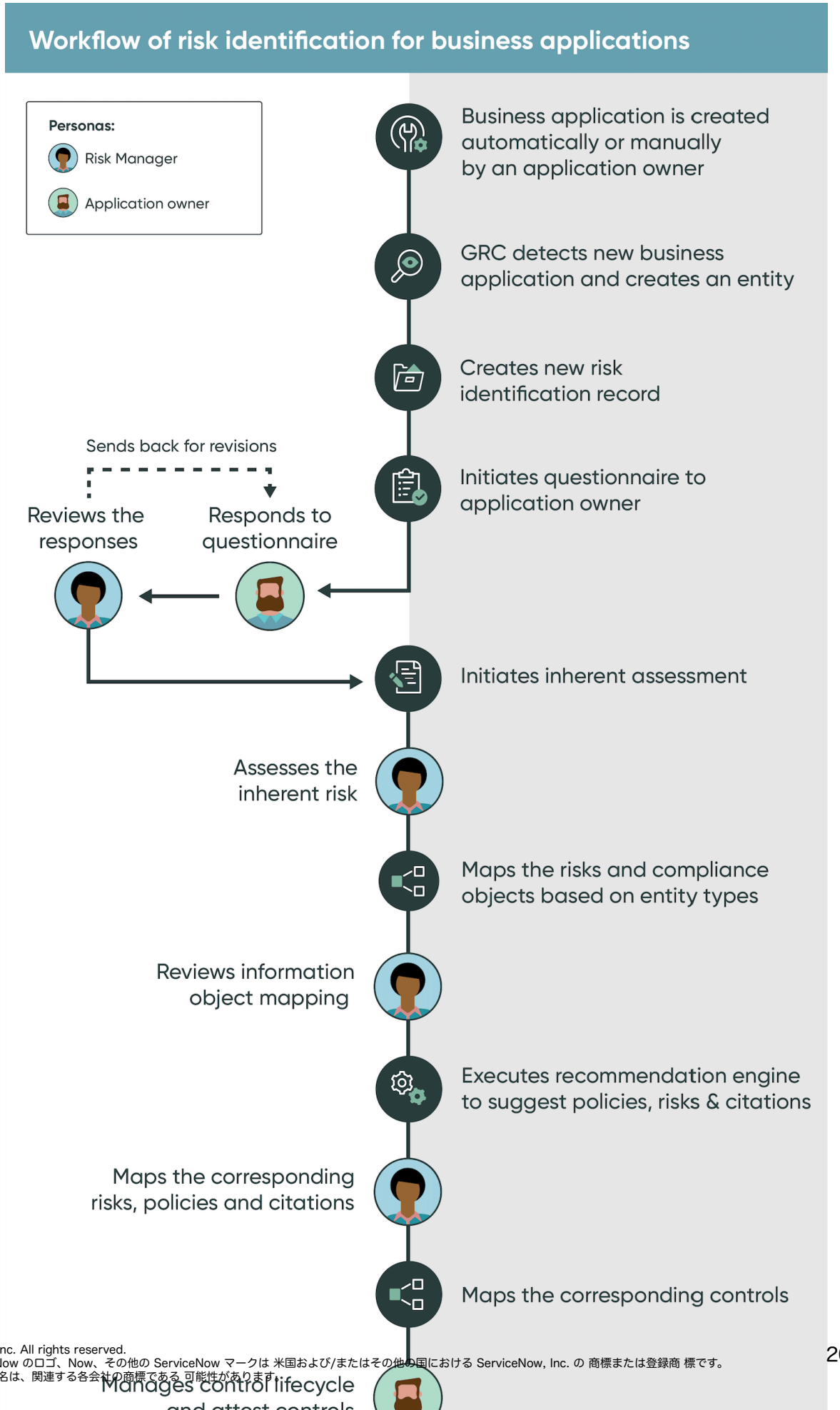
7. 構成に基づいて、IT リスクマネージャーが応答に満足すると、システムは固有のアセスメントを開始します。
8. GRC は、エンティティタイプに基づいてリスクとコンプライアンスオブジェクトをマッピングします。
9. IT リスクマネージャーは、情報オブジェクトマッピングをレビューします。
10. システムは、構成で選択されているアルゴリズムに基づいて、推奨エンジンを実行します。
11. IT リスクマネージャーは、関連付けられた情報オブジェクトに基づいて、推奨されるリスク、ポリシー、および引用をレビューしてマッピングします。
12. IT リスクマネージャーは、関連付けられた引用、ポリシー、およびリスクに基づいて、推奨コントロールをマッピングします。
13. アプリケーションオーナーは、コントロールのライフサイクルを管理し、コントロールを証明します。

次の図は、ソリューションのワークフローを表しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC と **APM** 統合のソリューションワークフロー



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスク識別レコードの状況

リスク識別構成が [公開] ステータスに移行すると、関連エンティティのリスク識別レコードが作成されます。

リスク識別レコードは、次の状況に移行します。

- 新規：新しいレコードが作成されます。
- 情報収集：アプリケーションに関する情報が収集されます。
- レビュー：リスクマネージャーが、情報をレビューします。
- 固有のアセスメント：リスクマネージャーが固有のリスクアセスメントを実行します。
- リスクマッピング：リスクマネージャーは、必要なリスク、引用、およびポリシーをマッピングします。
- 監視：リスクが監視されます。
- 廃止：リスクは必要に応じて廃止されます。

リスク識別構成が [廃止] ステータスに移行すると、構成が無効になり、関連エンティティのリスク識別レコードが作成されません。

ライフサイクルの観点では、リスク識別レコードは、次の状況を辿ります。

1. 新規
2. 情報収集
3. レビュー
4. 固有のアセスメント
5. リスクマッピング
6. 監視
7. 廃止

リスク識別統合の設定

アプリケーションを評価する前に、リスクの特定を開始する必要のあるターゲットアプリケーションを指定します。

始める前に

次のアプリケーションがあることを確認します。

- 推奨エンジンを有効にし、統合を使用する場合は、アプリケーションポートフォリオ管理をインストールする必要があります。
- リスク管理 (com.snc.apm_risk_assessment) との アプリケーションポートフォリオ管理統合をインストールする必要があります。このアプリケーションは、統合を使用する場合にのみ必要です。
- リスク識別中にスマートアセスメントアンケートを使用するには、スマートアセスメントエンジンおよびGRC 共通ワークスペース要素をインストールする必要があります。詳細については、「スマートアセスメントエンジンの構成」を参照してください。

必要なロール：sn_risk.admin

このタスクについて

リスク識別構成フォームには、ビジネスアプリケーションテーブルのエンティティタイプとデフォルトの識別レコードが含まれています。リスクアドミニストレーターは、デフォルトのレコードを変更

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

することも、独自の構成を作成することもできます。この手順のステップは、レコードを作成するためのものです。リスク識別構成フォームは、次の操作に使用します。

- アンケートを使用してアプリケーションに関する情報を収集します。
- アプリケーションの重要度を特定します。
- アプリケーション固有のアセスメントが必要かどうかを判断します。
- リスクを特定し、関連するコントロールをマッピングします。
- リスクとコントロールに関する推奨事項を受け取ることを選択します。

手順

1. 移動先 すべて > 高度なリスクアセスメント > アドミニストレーション > リスク識別構成.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

リスク識別構成フォーム

フィールド	説明
名前	構成の名前。例として、ビジネスアプリケーションのリスク識別があります。
構成レベル	構成が行われるレベル。選択肢は次のとおりです。 ○ エンティティクラス ○ テーブル
ターゲットエンティティクラス	リスク識別アンケートが開始されるエンティティクラス。このエンティティクラスのエンティティごとに、リスク識別レコードが自動的に作成されます。このフィールドは、[構成レベル] から [エンティティクラス] を選択した場合にのみ表示されます。
ターゲットテーブル	アプリケーションレコードを含むテーブル。このテーブルのエンティティごとに、リスク識別レコードが自動的に作成されます。このフィールドは、[構成レベル] から [テーブル] を選択した場合にのみ表示されます。
状況	構成のステータス。このフィールドは自動的に [ドラフト] に設定されます。
リスクマネージャーグループ	リスク識別ワークフローをレビューするグループ。このグループに属するユーザーには、sn_risk.manager ロールと sn_compliance.manager ロールが必要です。
識別アンケート	アプリケーションに関する情報を収集するためのアンケートを開始するオプション。
固有のアセスメント	固有のアセスメントまたはビジネスインパクトアナリシス (BIA) アセスメントを実行するオプション。
推奨エンジン	リスクとコントロールを推奨するオプション。このオプションは、[ターゲットテーブル]

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	フィールドに [ビジネスアプリケーション] がある場合にのみ使用できます。
識別アンケート	
スマートアセスメントの使用	スマートアセスメントテンプレートの使用を有効にするオプション。[アンケート **(Questionnaire)]** フィールドでスマートアセスメントテンプレートを選択できます。 スマートアセスメントテンプレートの作成方法の詳細については、「リスク識別のためのスマートアセスメントテンプレートの作成」を参照してください。
アンケート	情報収集に使用するアンケート。 **注:** スマートアセスメントテンプレートのリストは、[スマートアセスメントの使用 **(Use smart assessment)]** オプションを選択した場合にのみ表示できます。リスク識別カテゴリがあり、[アセスメントターゲット **(Assessment targert)]** フィールドが [エンティティ] として選択されている公開済みのアセスメントテンプレートのみを選択できます。
回答者タイプ	アンケートの回答者。選択肢は次のとおりです。 ○ エンティティオーナー ○ ターゲットレコードのユーザー
アンケートレビューが必要	レビュー担当者によるアンケートのレビューを要求するオプション。
回答者フィールド	アンケートの回答者を含むターゲットテーブルのフィールド。このフィールドは、[回答者タイプ] フィールドに [ターゲットレコードのユーザー] がある場合に表示されます。
固有のアセスメント	
固有のアセスメントが必要かどうかのレビュー	固有のアセスメントをレビューする必要があるかどうかを選択するオプション。
リスクアセスメント方法	固有のアセスメントを実行するリスクアセスメント方法論 (RAM) を選択するオプション。選択したターゲットテーブルに関連付けられている RAM のリストが表示されます。 **注:** 固有のアセスメントオプションが有効になっている公開済みオブジェクトベースの RAM のみが選択可能です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
承認者タイプ	固有アセスメントの承認者のタイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ ターゲットレコードのユーザー ○ グループ **注:** このフィールドは、[固有のアセスメントが必要かどうかのレビュー **(Review for inherent assessment required)]** オプションが選択されている場合にのみ表示されます。
承認者	固有アセスメントの承認者。ビジネスアプリケーションの場合、承認者はアプリケーションのビジネスオーナーです。 **注:** このフィールドは、[承認者タイプ] から [ターゲットレコードのユーザー **(User on target record)]** が選択されている場合にのみ表示されます。
承認者グループ	固有アセスメントの承認者グループ。このフィールドは、[承認者タイプ] フィールドに [グループ] がある場合にのみ表示されます。 **注:** このフィールドは、[承認者タイプ] から [グループ] が選択された場合のみ表示されます。
推奨エンジン	
[推奨エンジン] セクションは、[ターゲットテーブル] フィールドに [ビジネスアプリケーション] がある場合にのみ表示されます。	
推奨エンジンアルゴリズム	推奨エンジンを指定します。選択肢は次のとおりです。 ○ なし ○ 情報オブジェクトマッピングに基づく 情報オブジェクトの詳細については、「情報オブジェクト」を参照してください。
周期	
周期	ワークフロー再開の頻度。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: ワークフローの再開の次回実行日は、リスク統合設定レコードで定義された頻度に基づいて計算されます。この頻度により、アプリケーションの継続的な評価が保証されます。
月次	ジョブを実行する必要がある月。
月の特定日	ジョブを実行する必要がある日。

4. [送信] を選択します。
5. リスク識別構成の RAM マッピングを定義するには、次のアクションを実行します。

   a. [リスク識別構成から RAM へのマッピング] セクションで [新規] を選択します。
   [リスク識別構成から RAM へのマッピング] セクションは、[構成レベル] から [エンティティクラス] が選択されている場合にのみ表示されます。

   b. フォームのフィールドに入力します。

   [リスク識別構成から **RAM** へのマッピング] フォーム

フィールド	説明
リスク識別構成	RAM マッピングのためのリスク識別構成。このフィールドは、リスク識別構成の番号を表示するように自動的に設定されます。
テーブル	RAM マッピングを定義するテーブル。
リスクアセスメント方法	固有のアセスメントを実行する RAM を選択するオプション。選択したテーブルに関連付けられている RAM のリストが表示されます。 注: 固有のアセスメントオプションが有効になっている公開済みオブジェクトベースの RAM のみが選択可能です。

   c. [送信] を選択します。

6. レコードを公開するには、[公開] を選択します。

関連情報

ビジネスアプリケーションのリスク特定のワークフロー

アプリケーションアンケートへの応答

リスクアセスメントのアプリケーションに関するアンケートに回答します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：sn_grc.business_user、または sn_grc.businesss_user_lite

このタスクについて
リスク識別フォームには、ワークフローの複数のステージが含まれています。GRC でアプリケーションがエンティティとして作成されると、IT アプリケーションオーナーにアンケートが送信されます。アンケートは、リスクマネージャーが脅威を特定し、コントロールを軽減するのに役立ちます。

手順

1. 移動先 すべて > セルフサービス > 自分のアセスメントとサーベイ.
   または、[自分のタスク] ページから [クラシック版リスク識別アンケート **(Risk identification classic questionnaires)]** または [リスク識別アンケート] に移動してアンケートにアクセスすることもできます。スマートアセスメントアンケートの **[** リスク識別アンケート] を選択します。
2. 応答する必要があるアセスメントのレコードを開きます。
3. 回答を入力します。
4. [送信] を選択します。

タスクの結果
リスク識別レコードのステータスが [情報収集] ステータスから [レビュー] ステータスに移行します。

次のタスク
IT リスクマネージャーは回答をレビューし、アンケートを返送するか、回答を受け入れることができます。

リスク識別のためのスマートアセスメントテンプレートの作成

スマートアセスメントエンジン アプリケーションを使用してリスク識別用のスマートアセスメントテンプレートを作成します。

始める前に
必要なロール：sn_risk.admin

手順

1. 移動先 すべて > アセスメントワークスペース.
2. アセスメントワークスペースのランディングページで、[新規テンプレート] を選択し、[テンプレートの詳細] フォームに入力します。

アセスメントテンプレートの作成フォーム

フィールド	説明
テンプレート名	テンプレートの一意でわかりやすい名前。
アセスメント名	生成されたアセスメントの代替名を含めるオプション。回答者には、テンプレート名ではなくこの名前が表示されます。 **注:** [アセスメント名] フィールドは、テキスト追加 アイコンを選択すると使用できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
説明	他のユーザーがテンプレートの使用目的を理解するのに役立つテキスト。
アセスメントテンプレートカテゴリ	新しいアセスメントテンプレートが属するカテゴリ。[Risk identification category] を選択する必要があります。 テンプレートの目的 テンプレートのデータ分離を強制します。目的は、テンプレートを表示できるユーザーを制御します。各アセスメントテンプレートは目的に関連付けられています。特定の目的のテンプレートを表示するには、その目的に関連付けられたカテゴリロールが必要です。 「アセスメントテンプレートカテゴリを作成する」を参照してください。 **注:** 公開されたアセスメントテンプレートからのみアセスメントを作成できます。公開済みテンプレートを更新できるのは、テンプレートに関連付けられているアクティブなアセスメントがない場合のみです。
アセスメントターゲット	アセスメントの対象として選択されたテーブルレコード (アセスメントスコープとも呼ばれます)。複数のテーブルをアセスメントターゲットとして追加して、各テーブルのレコードの組み合わせをスコープにすることができます。Entity を選択する必要があります。

自動翻訳

3. [作成] を選択します。

関連情報

テンプレートデザイナーの使用

応答の確認と固有リスクアセスメントの実行

高度なリスクアセスメントを実行して、アプリケーションの全体的なリスクスコアを計算します。IT アプリケーションオーナーがアンケートに回答した後、リスクマネージャーがその回答をレビューし、固有のアセスメントを実行します。

始める前に
必要なロール：sn_risk.manager

このタスクについて
リスク査定人がアセスメントアンケートを返した後、リスクマネージャーとしてアンケートをレビューできます。レビューに基づいて、アプリケーションのリスクアセスメントを開始できます。リスクアセスメントタスクは、アセスメントの実行を担当するグループに対して開始されます。タスクは [自分のグループタスク] で利用できます。グループに属するすべてのリスクマネージャーがアセスメントを実行できます。通常、査定人は変わりません。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手動要素または自動要素のいずれかを使用することを選択できます。デフォルトでは、リスクアセスメント方法に関連付けられている 3 つの手動要素があります。どのリスクアセスメント方法にも関連付けられていない自動要素も 3 つあります。要素の名前は次のとおりです。

- 機密性に及ぼす影響度
- 完全性に及ぼす影響度
- 可用性に及ぼす影響度

リスクアセスメントインスタンスの一部の要素または質問には、既に回答または応答がある場合があります。これらの値は、アプリケーションオーナーの応答から導出されます。値の計算方法を表示できます。

手順

1. 移動先 すべて > 高度なリスクアセスメント > リスク識別 > すべて.
2. レビューする必要があるアセスメントのレコードを開きます。
3. [アンケート] 関連リストで、必要なアセスメントの [応答を表示] をクリックします。

   a. アンケートの回答に満足できない場合は、[アンケートを却下] をクリックします。
   回答者はメールを受信し、アンケートを再送信するように求められます。

   b. アプリケーションオーナーから提供された応答に満足している場合は、[固有のアセスメントを実行] をクリックして固有のアセスメントを実行します。
   リスクアセスメントインスタンスのリンクが作成されます。

   リスクアセスメントプロセスと質問への回答方法については、「リスクアセスメントインスタンスについて」を参照してください。
4. 生成されるリスクアセスメントのインスタンスリンクをクリックします。
5. 質問または手動要素に回答します。
6. フォームを右クリックして保存します。
7. [承認を要求] をクリックします。

タスクの結果

リスク識別構成フォームで選択された承認者は、固有のアセスメントをレビューできます。リスク識別フォームのステータスが [リスクマッピング] ステータスに移行します。

次のタスク

リスク、引用、ポリシー、およびコントロールをリスク識別レコードに関連付ける。

リスク、引用、ポリシー、およびコントロールをリスク識別レコードに関連付ける

固有のアセスメントが完了した後、リスク、引用、ポリシー、およびコントロールをリスク識別レコードに関連付けることができます。リスクを軽減するために使用する方法を特定できます。

始める前に

必要なロール：sn_risk.manager および sn_compliance.manager

このタスクについて

リスク、引用、およびポリシーは、手動で、または推奨エンジンを使用して関連付けることができます。推奨エンジンは、リスク、引用、およびポリシーの自動提案を提供します。推奨エンジンを有効にする選択は、リスク識別設定レコードで行われます。この選択肢は、ビジネスアプリケーションテーブルでのみ使用できます。推奨事項を有効にするには、リスクステートメント、引用、およびポリシーに情報オブジェクトが含まれている必要があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

手順

1. 移動先 すべて > 高度なリスクアセスメント > リスク識別 > すべて.
2. リスク、引用、およびポリシーを関連付けるレコードを開きます。
   これは、固有のアセスメントを実行したレコードです。
3. [リスクの関連付け] をクリックします。
   [情報オブジェクトマッピング] 関連リストと [リスク] 関連リストが表示されます。このステージでは、手動でリスクを追加するか、推奨エンジンがリスクを推奨できるようにすることができます。
4. 手動でリスクを追加するには、[ライブラリーから追加] をクリックします。
5. 推奨エンジンを使用するには、次の操作を実行します。
   a. [リスクを推奨] をクリックして、推奨エンジンを使用します。
   b. 適切なリスクステートメントを選択し、[リスクを追加] をクリックします。
6. 引用とポリシーを追加するために、[引用とポリシーを関連付ける] をクリックします。
   [引用] 関連リストと [ポリシー] 関連リストが表示されます。
7. ライブラリから手動で、または推奨されるポリシーと引用を使用して、必要な引用とポリシーを追加します。
8. コントロールを関連付けるために、[コントロールの関連付け] をクリックします。
9. ライブラリから手動で、または [推奨コントロール] をクリックして、必要なコントロールを追加します。
   コントロールは、コントロール目標に基づいて作成されます。
10. コントロールを [証明] ステータスに移行するには、コントロールを選択し、[証明書を開始] をクリックします。
11. [監視] をクリックして、レコードを監視状況に移動します。

関連情報

リスクとコンプライアンスのマッピングの推奨エンジン

リスクとコンプライアンスのマッピングの推奨エンジン

推奨エンジンは、データ分析に基づいて製品、サービス、および情報を提案するシステムです。推奨エンジンは、収益やその他の重要なメトリクスを強化します。

推奨事項は、ユーザーの履歴や類似のユーザーの行動など、さまざまな要素から導出されます。推奨エンジンの例は、ビデオ共有 Web サイトです。閲覧履歴と設定に基づいて、Web サイトがビデオを推奨します。一部の推奨エンジンはルールベースです。GRC のリスクとコンプライアンスマッピングは、ルールベースの推奨エンジンを使用します。

推奨エンジンを使用する場合、リスクマネージャーは情報オブジェクトをリスクステートメント、引用、およびポリシーにマッピングする必要があります。推奨エンジンの主な機能は次のとおりです。

- 情報オブジェクトの概念を使用して、リスクとコンプライアンスを推奨します。
- ライブラリの情報オブジェクトを比較して、ビジネスアプリケーションをリスクおよびコンプライアンスライブラリと照合します。
- IT リスクマネージャーは、アプリケーション内に含まれている情報に基づいて、リスクとコンプライアンスのライブラリを定義してマッピングできます。
- リスクとコンプライアンスのライブラリのマッピングにかかる時間が短縮されます。
- 特定のタイプの監査で監査する必要がある適切なアプリケーションと資産を特定するのにかかる全体的な時間を改善します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

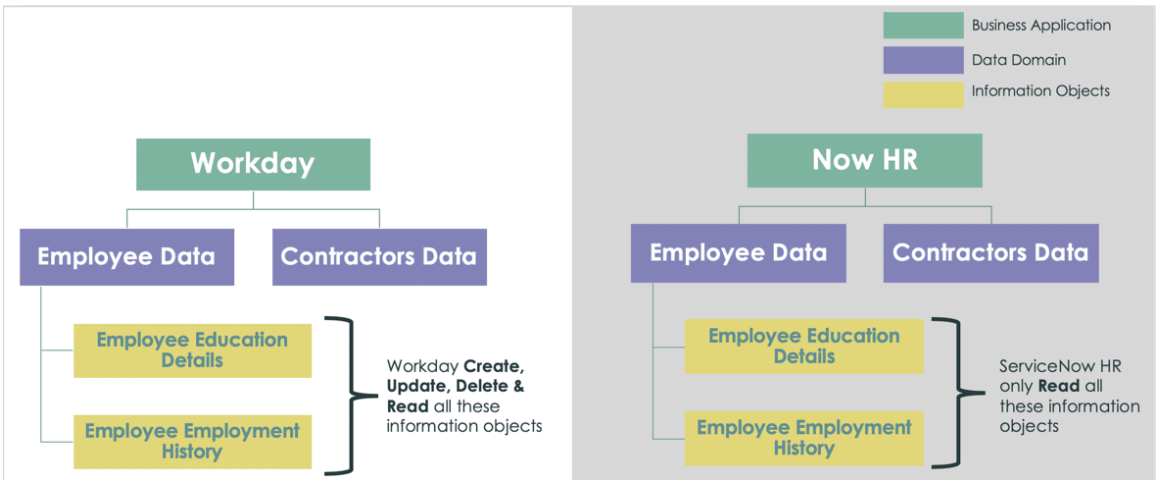
情報オブジェクト

情報オブジェクトは、アプリケーションポートフォリオ管理 アプリケーションの情報ポートフォリオ管理機能の一部です。

情報オブジェクトは、情報を整理された形式で表示する構成アイテムです。情報オブジェクトの目的は、アプリケーションとデータベースの間で交換されるデータのタイプを論理的に記述することです。情報オブジェクトが作成されると、ビジネスアプリケーションにマッピングされます。特定のビジネスアプリケーションについて、そのビジネスアプリケーションで情報を作成、更新、削除、または読み取ることができるかどうかは、情報オブジェクトによって決まります。この機能により、アプリケーションオーナーは情報を効率的に管理できます。情報セキュリティ管理の観点から、この機能により、リスクおよびコンプライアンス機能は、適用する必要があるコントロールの適切なレベルを定義できます。

次の図は、情報オブジェクトの例を示しています。Workday と Now HR の 2 つのアプリケーションがあります。どちらのアプリケーションも従業員情報を保存します。従業員情報は情報オブジェクトです。Now HR アプリケーションは従業員情報のみを読み取ることができますが、Workday アプリケーションにはそれ以上の権限があります。アプリケーションに適用されるリスクとコントロールは類似しています。ただし、Workday は従業員情報の読み取りだけでなく、作成、更新、削除も行います。これは、Workday に関連付けられたリスクが高いため、Workday に適用されるコントロールがより厳格であることを意味します。

情報オブジェクトの例



自動翻訳

高度なリスクアセスメントとその他のアプリケーションの統合

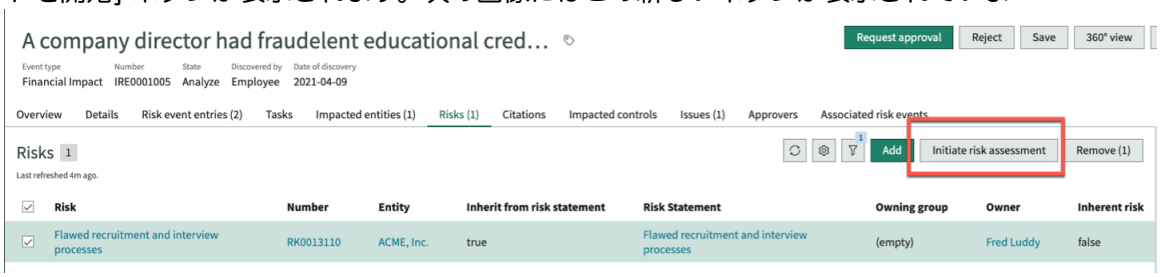
アドミニストレーターは、他のワークフロー内にリスクアセスメントを埋め込み、リスクアセスメントをいつ開始する必要があるかについてのルールを定義できます。リスクアセスメントを埋め込む主なメリットは、ワークフローのデジタル化により、アセスメントが手動の作業なしで自動的に開始されることです。

San Diego リリース以前は、周期的にリスクアセスメントを実行できました。これは、以前のリスクアセスメントが年に数回しか実行されなかったため、リスク体制のレポートが正確でない可能性があることを意味します。この問題に対処するために、イベント駆動型のリスクアセスメントを実行できるようになりました。イベント駆動型のリスクアセスメントは、イベントが発生したときにリスクアセスメントを実行できることを意味します。イベント駆動型のリスクアセスメントを実行すると、実際のリスク体制をすばやく把握し、必要な是正処置を行うことができます。高度なリスクアセスメントを任意のアプリケーションと統合し、ワークスペースでリスクベースのアセスメントを実行できます。デフォルトでは、ServiceNow　は リスクワークスペース のリスクイベントと高度なリスクアセスメントを統合します。

ワークスペースのアプリケーションにリスクアセスメントを統合するには、Now Support ナレッジベースの記事「Risk assessment integration in workspace (ワークスペースでのリスクアセスメントの統合) [KB0999135]」に記載されている構成手順を実行す

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

る必要があります。構成手順を実行すると、ユーザーインターフェイスに [リスクアセスメントを開始] ボタンが表示されます。次の画像にはこの新しいボタンが表示されていま



す。

リスクアセスメントの開始機能はワークスペース内の任意のアプリケーションに統合できますが、この記事では例としてリスクイベントを使用します。リスクイベントを分析し、関連するリスクを特定すると、高度なリスクアセスメントワークフローをリスクイベントに統合することで、それらのリスクのリスクアセスメントを簡単に開始できます。この統合により、リスクアセスメントスコープを作成するプロセス全体を経ることなく、リスクアセスメントを実行できます。San Diego リリース以前は、リスク査定人がリスクアセスメントを実行するために、リスクユーザーがエンティティ、査定人、および承認者を定義する必要がありました。

リスクイベントに対して作成されたリスクのアセスメントを開始すると、リスクアセスメント方法論 (RAM) がエンティティクラスのプライマリ RAM に設定されますが、関連する別のリスクアセスメント方法論を選択できます。選択したリスクのエンティティクラスに関連付けられているリスクアセスメント方法のみを選択できます。その後、リスクアセスメントの査定人と承認者を指定できます。sn_risk_advanced.ara_assessor ロールを持つユーザーのみが査定人になり、sn_risk_advanced.ara_approver ロールを持つユーザーが承認者になることができます。これらのロールに関する詳細については、「高度なリスクアセスメントを実行するためのロール」を参照してください。以前は、リスクアドミニストレーターがリスクアセスメントスコープを作成したときに承認者が定義されていました。ただし、アプリケーションからリスクアセスメントを開始する場合は、アセスメントの作成時に承認者を指定できます。一度指定した承認者は変更できません。承認者が [査定人のマネージャーと同じ] に設定されている場合、承認者は査定人に応じて自動的に設定されます。アセスメントが期限切れと見なされるまでの日数を定義することもできます。

API を使用してアプリケーションからリスクアセスメントを開始する場合でも、これらのリスクをいつでもリスクアセスメントスコープに追加できます。リスクがリスクアセスメントスコープに追加された後、アセスメントの頻度はリスクアセスメントスコープで定義された頻度に基づきます。

アプリケーションからリスクアセスメントを開始できない場合があります。このような場合のシナリオは次のとおりです。

- 複数のリスクを選択し、一度にアセスメントを開始しようとした場合。この理由は、異なるリスクには異なるエンティティがあり、異なるリスクアセスメント方法論が存在する可能性があるためです。
- 進行中のリスクアセスメントが存在する場合。
- リスクが存在するエンティティに対してリスクアセスメント方法が定義されていない場合。

従業員センター と GRC の統合

GRC タスクを 従業員センター と統合することで、従業員は GRC タスクを簡単かつ効果的に完了できるようになります。この統合により、リスクイベントの報告や、ポリシー例外の要求が可能になり、GRC の組織内での有用性が向上します。

従業員センター ポータルは、企業全体のシステムを 1 つの宛先サイトに接続するための統合ポータルであり、簡単に構成できるオプションによるシンプルで一元化されたエクスペリエンスを従業員に提供します。従業員センター の詳細については、「従業員センターの探索」を参照してください。

自動翻訳

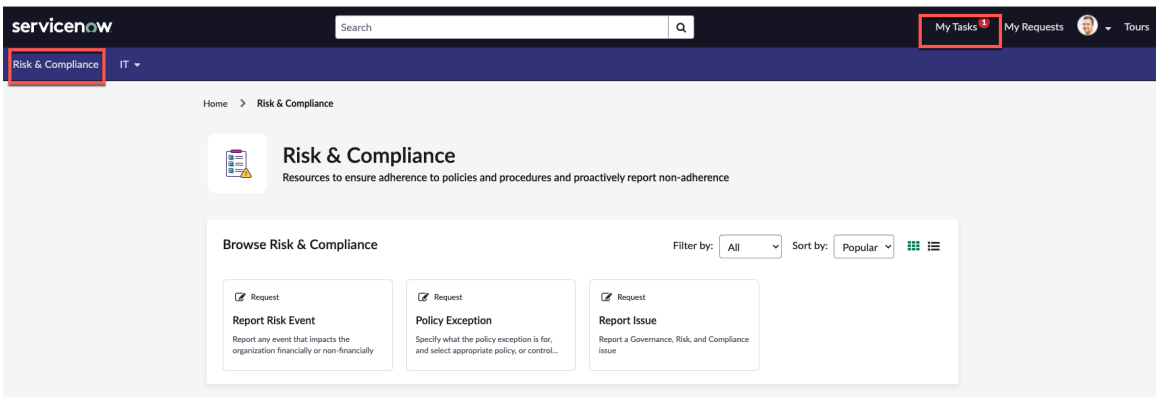
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC を 従業員センター と統合すると、次のタスクを実行するためのインターフェイスをすべての従業員に提供できます。

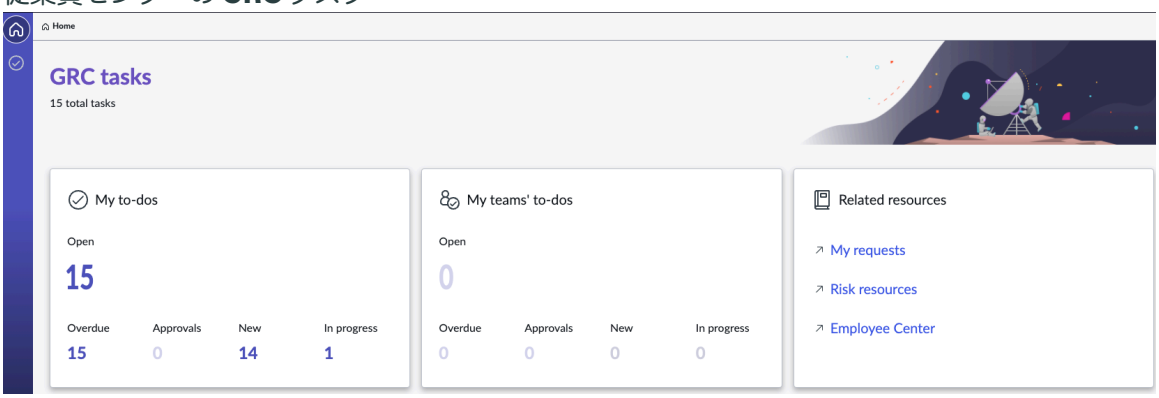
- 迅速にリスクイベントを報告します。
- 問題を報告します。
- ポリシー例外を要求します。
- [自分のタスク] を使用して、すべてのタスクの統合ビューを取得し、それらのタスクをすぐに実行します。
- リスク識別アンケートに応答します。
- コントロール証明書アンケート、クラシック版リスクアセスメントなどの他の GRC タスクを完了します。

次の画像は、従業員センター のユーザーインターフェイスを示しています。

従業員センターと **GRC**



従業員センターの **GRC** タスク



リスク管理 と 脆弱性対応 の間のリスクの継続的な監視を管理

リスクの継続的な監視は、GRC: リスク管理 と セキュリティオペレーション 脆弱性対応 製品間の機能統合であり、インジケーターを使用して、ビジネスインパクトに基づいて影響度の高い脆弱性を特定します。

リスクアドミン、マネージャー、またはユーザーは、リスク体制への直接的な影響を表示することにより重大な脆弱性を監視できます。新しいビジネスサービスエンティティタイプとインジケーターテンプレートは、重要で、可用性の損失を表し、2 週間以上経過した影響を受けるサービスを自動的に識別します。これらの高リスクの脆弱性は、侵害や知的財産の損失につながる恐れがあります。

注:
[重要なビジネスサービス (Critical Business Services)] というエンティティタイプは、デフォルトで非アクティブに設定されており、オンにする必要があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

リスクワークフローの継続的な監視

1. システムアドミニストレーターは、リスク管理 および 脆弱性対応 プラグインを有効にします。
2. リスクアドミニストレーターは、リスクステートメントとインジケーターテンプレートを作成します。
3. リスクマネージャーは、[重要なビジネスサービス **(Critical Business Services)]** エンティティタイプをリスクステートメントとインジケーターテンプレートに関連付けます。
4. 脆弱性対応 アプリケーションは、影響を受けるサービスに関連するスキャナーから脆弱性データを取り込みます。
5. リスクが特定されると、問題が生成され、適切なビジネスサービスオーナーにアサインされます。
6. ダッシュボードは、リスクが特定されて修正されると、ビジネスのステークホルダーに最新のビューを提供します。

Microsoft 365 と 管理リスクレポート の統合

管理リスクレポート (sn_grc_mgmt_report) を統合することで、リスクレポートマネージャーに対して、Microsoft Word を使用した、ServiceNow リスク管理 のシステムデータ、リストレポート、グラフ、ピボット、およびマルチピボットレポートのレポート機能が提供されます。

リスクマネージャーは取締役会メンバーまたは経営幹部向けのレポートを定期的に作成し、ServiceNow で入手可能な情報に基づいてリスクプロファイルの更新を提供します。

この統合により、リスクレポートマネージャーは、レポート上のServiceNow リスク管理データリンクのインベントリを表示し、挿入されたデータを最新のServiceNow リスク管理データと同期するように更新できます。インポートされたデータと ServiceNow インスタンスの間にも監査記録が作成されます。監査記録により、監査人はドキュメント内のリンクを選択し、ServiceNow インスタンス内のデータのソースにアクセスできます。

注:
この統合は、Microsoft Word のデスクトップバージョン 16.71 (23031200) および Web バージョン 16.0.16412.41005 と互換性があります。ただし、Web バージョンではグラフがインタラクティブではありません。つまり、グラフの色や書式などを変更することはできません。サポートされている Windows Office のバージョンは 2303 (ビルド 16130.20394) です。

インポートされたデータの形式、スタイル、色を変更することもできます。次のグラフスタイルがサポートされています。

サポートされているグラフのスタイル

グラフのタイプ	サポートされているスタイル
円グラフ	• チャートの色 • データラベルの表示 • チャートタイトル • 凡例を表示
棒グラフ	• チャートの色 • データラベルの表示 • チャートタイトル • X 軸と Y 軸

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされているグラフのスタイル (続く)

グラフのタイプ	サポートされているスタイル
	○ タイトル ○ タイトル太字 ○ グリッドを表示 ○ ラベル太字
水平棒グラフ	• チャートの色 • データラベルの表示 • チャートタイトル • X 軸 ○ タイトル ○ タイトル太字 ○ グリッドを表示 ○ ラベル太字 • Y 軸 ○ グリッドを表示 ○ ラベル太字

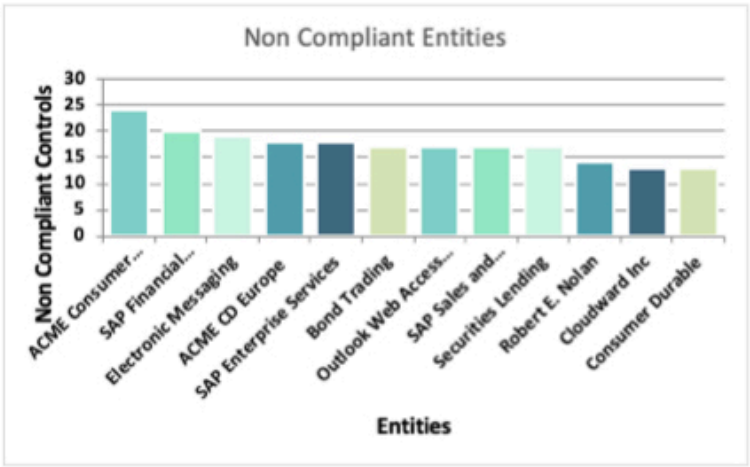
次の画像は、インポートされたデータがドキュメントでどのように表示されるかを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インポートされた各種データをドキュメントに表示する方法

The data that is imported from an instance into a Word document.





Control	Classification	Control effectiveness	Design effectiveness	Operating effectiveness	Actual start	Status
Establish and maintain electronic storage media management procedures.	Preventive	Ineffective	Effective	Ineffective	2027-07-02 22:17:48	Green
Manage changes.	Preventive	Ineffective	Ineffective	None	2023-10-23 08:15:01	Green

管理リスクレポート のワークフロー

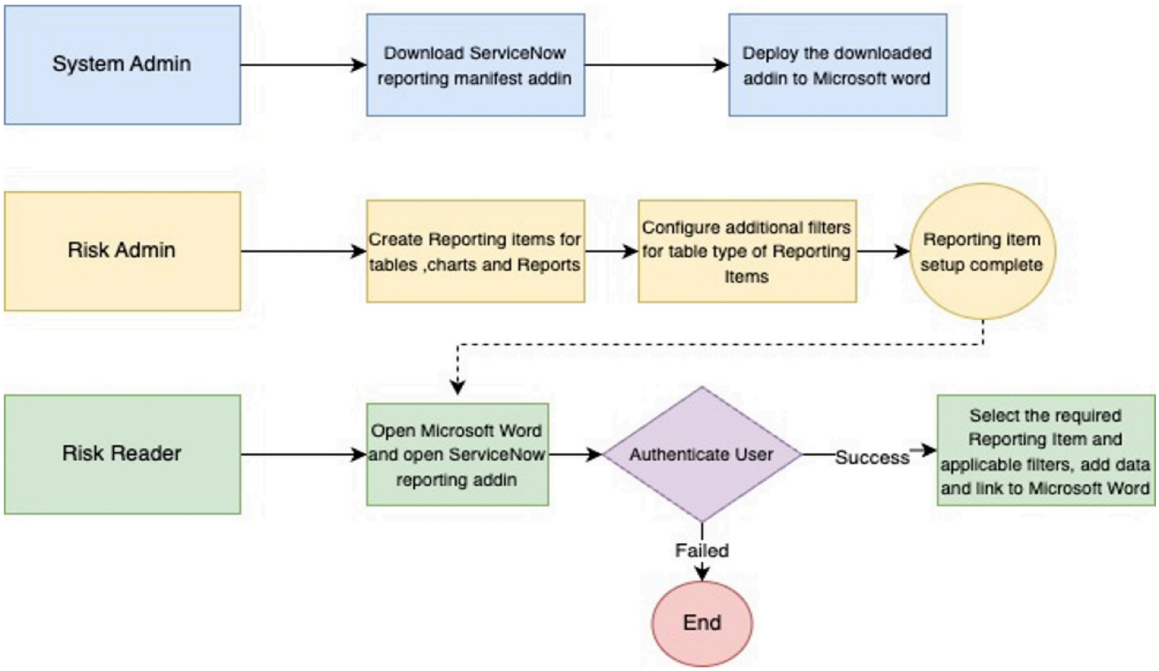
管理リスクレポート 統合では、システムアドミニストレーター、リスクアドミン、リスクマネージャーなどの複数のユーザーロールの参加が必要なワークフローを利用します。明確なワークフローを定義することで、個人とチームは自分の役割と責任をよりよく理解し、必要なレポートを生成できます。

次の図は、管理リスクレポート 統合を使用して Microsoft Word ドキュメントでレポートを生成する完全なワークフローを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

管理リスクレポート 統合のプロセスフロー



Microsoft Word レポートを生成するには：

1. ServiceNow Reporting アドインをダウンロードする：システムアドミニストレーターとして、リスクマニフェストファイルをダウンロードしてインストールします。マニフェストファイルには、ソフトウェアアプリケーションまたはパッケージに含まれるファイルに関する情報が含まれています。これは、必要なすべてのファイルが正しい場所にインストールされるようにするために、ソフトウェアインストーラーによって使用されます。この段階では、Microsoft 365 アドミニストレーターと協力してマニフェストファイルを Microsoft Word アプリケーションにアップロードする必要もあります。Microsoft 365 アドミニストレーターには必要なアクセス権があります。
2. リスクアドミニストレーターは、Microsoft 365 レポート構成レコードを設定して、ServiceNow® インスタンスのどのテーブル、レポート、およびチャートを使用してデータを Microsoft Word にインポートする必要があるかを指定します。データのインポート元のテーブルの列を指定することもできます。
3. リスクアドミニストレーターは、追加のレポートフィルターを設定できます。これらのフィルターは、テーブルから開示レポートにインポートする必要があるデータを詳細なレベルで指定します。
4. リスクマネージャーは、Microsoft Word ドキュメントに移動し、ServiceNow® 認証情報を使用して 自分自身を認証し、インスタンスからドキュメントにデータをインポートします。必要に応じて、データのフォーマット設定を変更できます。

リスクレポート用 **ServiceNow Reporting** アドインのインストール

ServiceNow Reporting®アドインを Microsoft Word ドキュメントにインストールします。このアドインは、ServiceNow® インスタンスから Microsoft Word ドキュメントにレポートとデータをインポートしてリスクレポートを作成するために必要です。

始める前に

次のプラグインがアクティブであることを確認してください。

- sn_esg_msoff_intg
- sn_outlook_addin
- sn_grc_mgmt_report

必要なロール： sys_admin

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

手順

1. 移動先 すべて > **Office** 用 **ServiceNow** アドイン > **Office** アドインマニフェスト.
2. [Office マニフェスト] リストから、**[ServiceNow** レポート **(ServiceNow Reporting)]** を選択します。
3. [マニフェストをダウンロード] を選択します。
4. アドインを有効にするには、ステップ 3 でダウンロードしたマニフェストファイルを使用できる Microsoft 365 アカウントマネージャーにお問い合わせください。

次のタスク
マニフェストファイルをデプロイする方法の詳細については、Now Support ナレッジベースで「Microsoft 365 アドミンセンターでアドインを展開する [KB1307378]」の記事を参照してください。

ブラウザーで Microsoft Word のアドインに対して HTTP 応答ヘッダーを構成するには、Now Support ナレッジベースで「応答ヘッダー解決 [KB1434453]」の記事を参照してください。

リスクの **Microsoft 365** レポート構成を設定する

Microsoft 365 レポート構成レコードを設定して、リスクレポートの目的で Microsoft Word ドキュメントにインポートするデータ ポイントとレポートを指定します。

始める前に
必要なロール：sn_risk_advanced.ara_admin

このタスクについて
データはリスクレポート作成のために Microsoft Word ドキュメントにインポートされます。データを Microsoft Word にインポートするために ServiceNow インスタンスのどのテーブルとレポートを使用する必要があるかを指定する必要があります。データのインポート元のテーブルの列を指定することもできます。リスクアドミニストレーターによって作成されたレポートまたはリスクアドミニストレーターと共有されているレポートのみが選択可能です。

手順

1. 移動先 すべて > リスクのマネジメントレポート > **Microsoft 365** レポート統合 > レポート構成.
2. Microsoft 365 レポート構成の一覧から、[新規] を選択します。
3. Microsoft 365 レポート構成フォームで、フィールドに入力します。

Microsoft 365 レポート構成フォーム

フィールド	説明
ビジネスドメイン	構成の作成元のドメイン。このフィールドは自動的に [リスク] に設定されます。
レポートアイテム	構成の名前。たとえば、Word ドキュメント内のリスクステートメントに関するデータを取得する場合は、［リスクステートメント］などの名前を指定できます。
ソースタイプ	データを取得するソース。選択肢は次のとおりです。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

フィールド	説明
	○ テーブル：[テーブル] からデータをインポートする場合は、このオプションを選択します。 ○ レポート：事前定義されたレポートまたはグラフからデータをインポートする場合は、このオプションを選択します。レポートの作成方法の詳細については、「Create a report with Analytics Q&A」を参照してください。 **注:** リストレポート、ピボットレポート、マルチレベルピボットレポート、水平および垂直棒グラフ、および円グラフのみを選択できます。積み上げ棒グラフとグループ化された棒グラフはサポートされていません。
ソーステーブル	データをフェッチするソーステーブル。このフィールドは、[ソースタイプ] フィールドで [テーブル] が選択されている場合にのみ表示されます。
フィルター	レコードをフィルタリングするためのフィルター条件。このフィールドは、[ソースタイプ] フィールドで [テーブル] が選択されている場合にのみ表示されます。
列	値を挿入するテーブルの列。このフィールドは、[ソースタイプ] フィールドで [テーブル] が選択されている場合にのみ表示されます。
ソースレポート	開示レポートに挿入する利用可能なレポート。このフィールドは、[ソースタイプ] フィールドで [レポート] が選択されている場合にのみ表示されます。
アクティブ	レコードがアクティブかどうかを示すオプション。ドキュメントではアクティブなレコードのみを選択できます。

4. [送信] を選択します。

次のタスク

追加のレポート構成フィルターをレポート構成に追加します。これらのフィルターは、データを Microsoft Word 開示レポートにフェッチするのに役立ちます。詳細については、「リスクに関する Microsoft 365 構成レコードにレポート構成フィルターを追加する」を参照してください。

管理リスクレポート でビジネスドメインロールを設定する

特定のドメインのユーザーがデータをインポートするドメインを選択できるように、ビジネスドメインロールを構成します。設定中に追加されたユーザーのみが、Microsoft Word ドキュメントのドメインを表示できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：sn_risk_advanced.ara_admin

手順

1. 移動先 すべて > リスクのマネジメントレポート > **Microsoft 365** レポート統合 > ビジネスドメイン.
2. デフォルトのリスクドメイン名レコードを選択します。
3. [ロール] フィールドを選択します。
4. 必要に応じてロールを追加または削除します。
5. [更新] を選択します。

リスクに関する **Microsoft 365** 構成レコードにレポート構成フィルターを追加する

管理リスクレポート アプリケーションを使用して、テーブルからレポートにインポートする必要があるデータを詳細なレベルで指定するために、レポートフィルターを追加します。

始める前に
必要なロール：sn_risk_advanced.ara_admin

このタスクについて
特定のテーブルからデータをインポートするように指定する場合は、データが必要なテーブルの正確なレコードも指定する必要があります。たとえば、sn_risk_risk テーブルからデータをフェッチするように指定したとします。このテーブルには複数のレコードが含まれる場合があります。したがって、データをフェッチする正確なレコードを指定する必要があります。必要な数のフィルターを指定できます。

手順

1. 移動先 すべて > リスクのマネジメントレポート > **Microsoft 365** レポート統合 > レポート構成.
2. 追加のレポート構成フィルターを追加するレコードを開きます。
3. [Microsoft 365 レポート構成フィルター (Microsoft 365 reporting configuration filters)] 関連リストで、[新規] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

Microsoft 365 レポート構成フィルターフォーム

フィールド	説明
レポート構成	フィルターを追加する構成の名前。このフィールドは自動的に設定されます。
フィールド名	データをフェッチする必要があるフィールドの名前。たとえば、リスクテーブルでは、[名前] フィールドを指定できます。名前を選択すると、データのインポート中にリスクのすべての名前を選択できます。
順番	ドキュメントのアドインペインに表示されるフィールドの順序。
時間ディメンションに基づく集計	選択した時間ディメンションに基づいてレポート構成ソーステーブルデータをアグリゲートするオプション。このオプションの詳細については、手順の例を参照してください。このフィー

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	ルドは、フィールド名 に [時間ディメンション] がある場合にのみ表示されます。
時間次元	データを集計する必要がある時間ディメンション。時間ディメンションのリストは次のとおりです。 ○ 年 ○ 半年ごと ○ 四半期 ○ 月 ○ 週 ○ 日付 要件に応じてディメンションを選択し、それらを [利用可能] リストから [選択済み] リストに移動します。 **注:** このフィールドは、[時間ディメンションに基づく集計 **(Aggregate on time dimension)]** オプションが選択されている場合にのみ表示されます。

5. [送信] を選択します。

タスクの結果
構成データをアドインにインポートする準備ができました。

ServiceNow Reporting アドインを **Microsoft Word** に追加する

Microsoft Word 文書にデータをインポートして開示レポートを作成する前に、ServiceNow Reporting アドインを Microsoft Word に追加する必要があります。

始める前に
必要なロール：Microsoft Word ドキュメントのすべてのユーザー。

手順

1. Microsoft Word アプリケーションを開きます。

2. メニューバーで [ホーム] を選択します。

3. [アドイン] を選択します。

4. [アドミン管理 **(ADMIN MANAGED)]** を選択します。

5. ServiceNow Reporting アドインを選択します。

6. [追加] を選択します。

タスクの結果
Microsoft 365 for ServiceNow Reporting の統合がアクティブになり、**ServiceNow Reporting** アドインの Microsoft Word ドキュメントで次のボタンを使用できるようになります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

- リンクを挿入
- リンクを管理
- 請求を作成

Microsoft Word へのリスクデータのインポート

リスクデータポイントやレポートなどのデータを ServiceNow インスタンスからインポートして Microsoft Word レポートドキュメントに挿入します。インポートおよび挿入できるのは、レポート構成で設定されているデータのみです。

始める前に
必要なロール：sn_risk_advanced.ara_reader

手順

1. データを挿入する Microsoft Word ドキュメントに移動します。
2. リボンで [リンクの挿入] を選択します。
   右側のペインに ServiceNow のログイン画面が表示されます。
3. ServiceNow インスタンスにログインするには、[ログイン] を選択します。
   a. ServiceNow レポートが新しいウィンドウに表示されることを示すメッセージが表示されたら、[許可] を選択します。
   b. ServiceNow のログイン画面で認証情報を入力します。
   c. [許可] を選択します。
4. テーブルからドキュメントにリスクデータポイントを挿入するには、データを挿入するポイントにカーソルを移動します。
   a. ペインの右側にある [データ] タブを選択します。
   b. [ビジネスドメイン] フィールドは [リスク] に設定されています。
   c. [レポートアイテム **(Reporting Item)**] フィールドで、挿入するレポート構成を選択します。
   追加のフィルターは、選択した設定レコードに基づいて動的に表示されます。
   d. [名前] フィールドで、設定レコードの名前を選択します。
   e. [挿入する値] フィールドで、データを挿入する列を選択します。
   f. [追加] を選択します。
5. レポートにテーブルを挿入するには、データを挿入する位置にカーソルを移動します。
   a. 右側のペインで [テーブル] タブを選択します。
   b. [ビジネスドメイン] フィールドは [リスク] に設定されています。
   c. [レポートアイテム **(Reporting Item)**] フィールドで、挿入するレポート構成を選択します。
   d. [追加] を選択します。
   レポート文書にデータが挿入されます。挿入されるテキストには、ドキュメントの書式が使用されます。必要に応じて書式設定を変更できます。
6. グラフを挿入するには、グラフを挿入する位置にカーソルを移動します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. 右側のペインで [チャート] タブを選択します。

b. [ビジネスドメイン] フィールドは [リスク] に設定されています。

c. [レポートアイテム **(Reporting Item)]** フィールドで、挿入するレポート構成を選択します。

d. [追加] を選択します。
グラフがレポートドキュメントに挿入されます。挿入したグラフを好みに応じて変更できます。たとえば、色やグラフの種類などを変更できます。

7. ドキュメントに挿入されているレコードの詳細を表示するには、コンテンツコントロールを選択し、[リンクを開く] を選択します。
ServiceNow インスタンスに移動し、そこでデータにアクセスできます。

8. レポートに挿入したすべての ServiceNow リンクの一覧を表示し、ドキュメントの最新のデータを取得するには、[リンクの管理 **(Manage Links)]** を選択します。

a. 更新するリンクのチェックボックスをオンにします。

b. リフレッシュ ( ) アイコンを選択します。
データは更新され、更新した時刻が表示されますが、ドキュメントの書式は保持されます。

9. レポートで選択されているコンテンツコントロールを識別して強調表示するには、縦に並んだ 3 つのドットまたは [その他のアクション] アイコンを選択します。
コンテンツ コントロールが右側のペインで強調表示されます。

リスク管理 の使用

リスク管理 アプリケーションの機能を使用して、問題の作成、リスクイベントのレポート、リスクアセスメントの実行などのさまざまなアクティビティを実行できます。

GRC リスク管理 のモバイルエクスペリエンス

リスクマネージャーは、Android または iOS モバイルデバイスを使用して作業を管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

モバイルデバイスを使用したリスク管理の概要

ServiceNow AI Platform® リスクマネージャー (sn_risk.manager) ロールを持つユーザーは、タスク、アサイン、要求、承認、およびその他のフォローアップアクションをすべてモバイルデバイスから管理します。現在のアラートだけではなく、すべての重要な資産、ベンダー、影響を受ける必要不可欠なビジネスサービスのリスクとコンプライアンスステータスの通知を適時に受信します。

GRC モバイルアプリケーションを使用すると、デスクトップに関連付けられずに次の リスク管理 アクティビティを実行できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

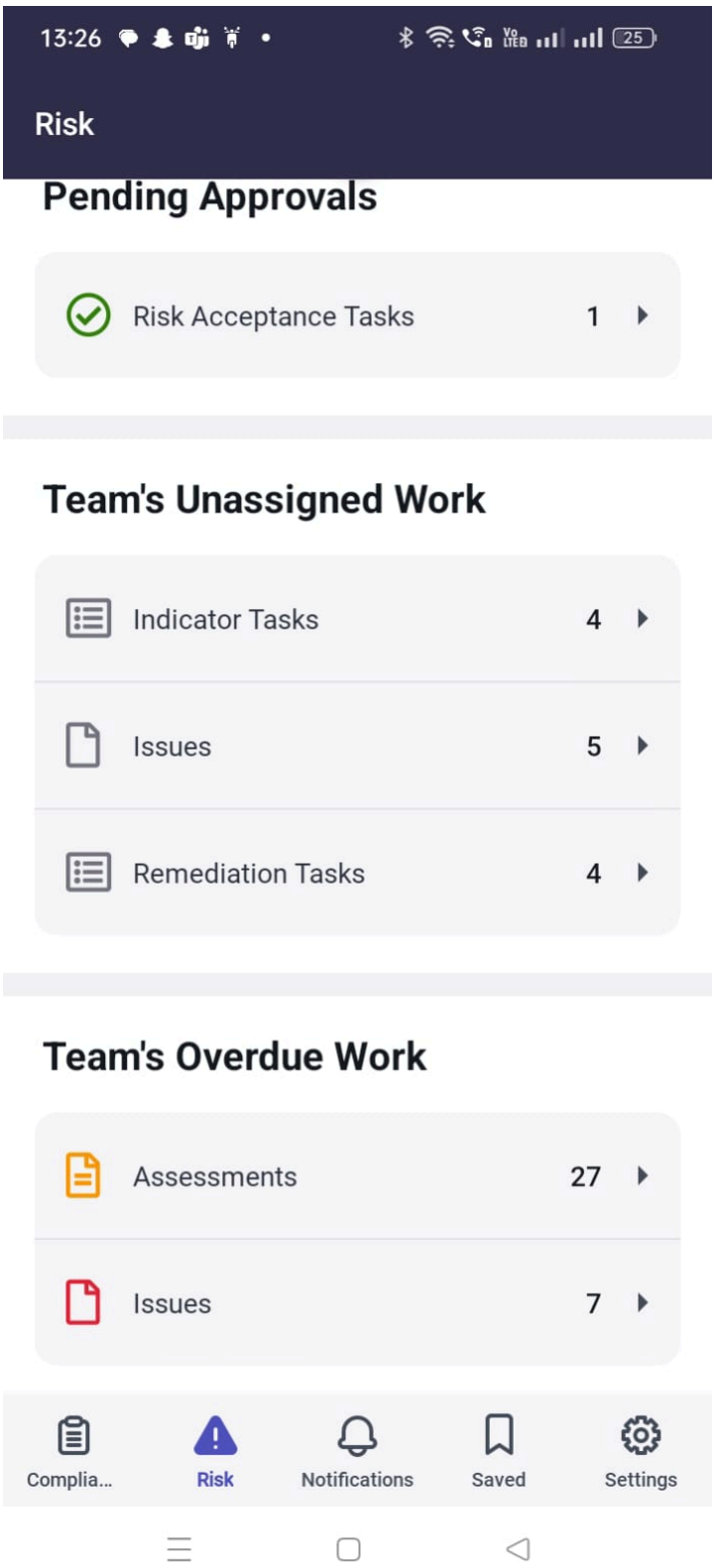
- リスク受容タスクアプレットを使用して、自分にアサインされた処理待ちのタスクを承認または却下します。
- インジケータータスク、問題、および修復タスクアプレットを使用して、未アサインのタスクをチームにアサインします。
- アセスメントおよび期限切れの問題アプレットを使用して、チームの期限切れタスクを管理および再アサインします。

次の図は、モバイルデバイスから ServiceNow AI Platform インスタンスにログインする方法と、ログイン後に表示されるランディング画面を示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクモバイルアプリのランディングページ



ServiceNow AI Platform インスタンスを設定し、GRC モバイルアプリケーションをインストールする方法の詳細な手順については、「GRC モバイルアプリケーション のセットアップチェックリスト」を参照してください。ログイン方法については、「GRC モバイルアプリケーション へのログイン」を参照してください。

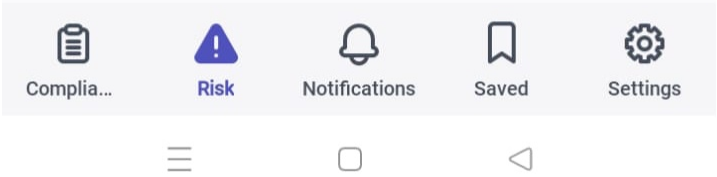
アプリケーション

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションとは、ServiceNow AI Platform インスタンス内で特定の機能を提供する、ポリシーとコンプライアンス管理、リスク管理、監査管理 などの ServiceNow ソフトウェアコンポーネントです。これらのコアアプリケーションと GRC モバイルアプリを ServiceNow AI Platform インスタンスにインストールすると、ログイン後に Android または iOS モバイルデバイスの下部にこれらのアプリケーションがアイコンとして表示されます。

デバイス画面の下部にあるアイコン



フォルダー

各 ServiceNow® モバイル アプリケーションには、カテゴリ別にアプレットを分離するフォルダーが含まれています。前の画像では、[承認待ち]、[チームのアサインされていない作業]、および [チームの期限切れ作業] が Risk Mobile アプリのフォルダーです。

アプレット

アプレットは、アプリケーション内のさまざまなオプションです。前の画像では、[承認待ち]、[チームのアサインされていない作業]、および [チームの期限切れ作業] の各セクションの下にあるアイコンが Risk Mobile アプリの利用可能なアプレットです。

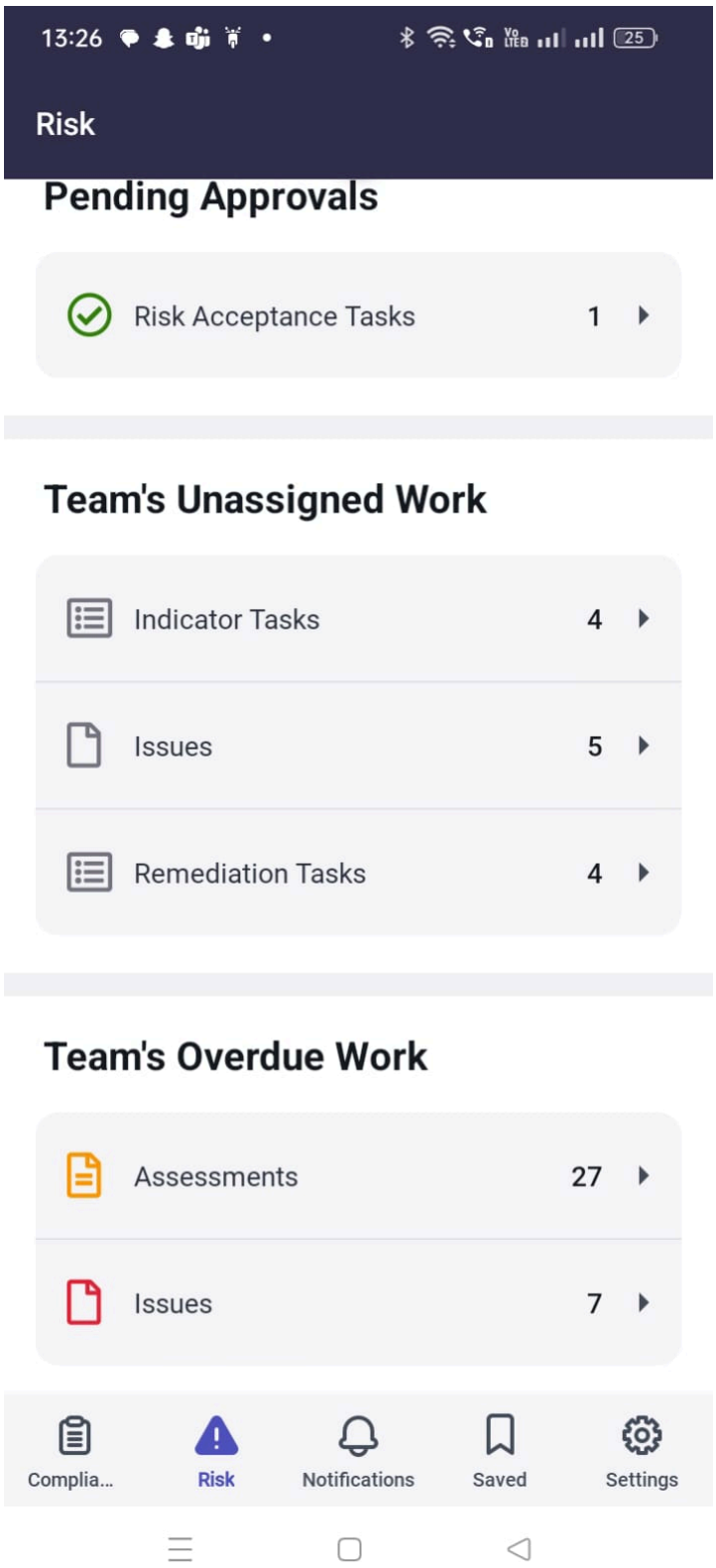
GRC モバイルアプリケーション へのログイン

GRC モバイルアプリケーション を開き、ServiceNow AI Platform® インスタンスを リスク管理 でモバイルデバイスに追加します。

始める前に
「GRC モバイルアプリケーション のセットアップチェックリスト」で説明されているセットアップ手順を完了していることを確認します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC モバイルアプリケーション



必要なロール：GRC リスクマネージャー (sn_risk.manager)

このタスクについて
このタスクの完了にかかる時間：5 ～ 7 分。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. モバイルデバイスで、**ServiceNow** エージェントアプリをタップします。

   ServiceNow AI Platform インスタンスにまだログインしていない場合は、[インスタンス] 画面が表示されます。

2. リスク管理 コアアプリケーションを含む ServiceNow AI Platform インスタンスがまだモバイルデバイスに追加されていない場合は、次の手順に従って追加します。

   a. 表示される [インスタンス] 画面で、プラスアイコン ( ) をタップします。
   ServiceNow AI Platform インスタンスのアドレスを入力して保存するように求める画面が表示されます。

   b. フィールドに入力します。

フィールド	説明
インスタンスアドレスを入力するか、QR コードをスキャンしてください。	1 つ選択して続行します。 ▪ .service-now.com の前に、ServiceNow AI Platform インスタンスの名前 (例：grcmobile) を入力します。 ▪ このフィールドにアドレスを入力します。このアドレスは、モバイルデバイスで表示する ServiceNow AI Platform インスタンスの URL です (例：https://grcprkny.service-now.com)。 ▪ QR コードをスキャンします。 モバイルアプリの詳細については、「モバイルアプリ を使用したインスタンスへのログイン」を参照してください。
(オプション) ニックネームを入力	このインスタンスのニックネームを入力します。デバイスに複数のインスタンスが存在する場合、ニックネームを使用することで、ServiceNow AI Platform インスタンスをすばやく見つけることができます。

   c. [保存してログイン **(Save and Login)**] をタップします。

3. 表示される ServiceNow ログイン画面で、追加する ServiceNow AI Platform インスタンスの [ユーザー名] と [パスワード] を入力し、[ログイン] をタップします。
   [リスク] ランディング画面が表示されます。GRC モバイルアプリケーション に正常にログインしました。

4. ログイン後、GRC モバイルアプリケーション で通知が有効になっていることを確認します。

   a. 下部のランディング画面で、[その他] をタップし ます。

   b. [その他] 画面で、[通知] をタップします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. [通知] 画面で、[通知を有効にします] をタップします。
ServiceNow AI Platform からの通知は、GRC モバイルアプリケーション の [通知] 画面に表示されます。

5. モバイルデバイスでインスタンスにログインすると、そのインスタンスがデバイスのデフォルトの ServiceNow AI Platform インスタンスになります。
デバイス上の別の ServiceNow AI Platform インスタンスを表示するには、デフォルトのインスタンスからログアウトする必要があります。ログアウトするには：

a. [その他] をタップします。
[その他] 画面が表示されます。

b. [設定] をタップします。

c. 表示される画面で、[ログアウト] をタップします。
[インスタンス] 画面に、モバイルデバイスに追加した ServiceNow AI Platform インスタンスが表示されます。

d. オプション: 別のインスタンスをタップしてログインするか、前の手順に従って別のインスタンスを追加します。

Trouble?

デバイスで **[ServiceNow** エージェント] アプリをタップした後に GRC モバイルアプリケーションのインスタンス画面が表示されない場合は、デバイスで **[ServiceNow** エージェント] が信頼できるアプリとして許可されていることを確認してください。信頼できるアプリとしてのアクセスを許可するには、モバイルデバイスの設定領域または一般的なデバイス管理領域に移動し、オプション ([アプリを信頼 **(Trust app)]** など) をタップしてアクセスを許可します。

ログイン画面に認証情報を入力した後にエラーメッセージが表示された場合は、ServiceNow AI Platform インスタンスのユーザー名とパスワードが正しいことを確認してください。

ランディング画面の表示に問題がある場合は、ネットワーク接続を確認してください。

ServiceNow エージェントアプリをタップしても [インスタンス] 画面を表示できない場合は、デバイスからアンインストールしてください。Apple iOS App Store または Google Play ストアから最新バージョンのアプリを入手して、再インストールしてみてください。

次のタスク
各アプレットの詳細については、次のいずれかのトピックを選択してください。

GRC モバイルアプリケーションで処理待ちのリスク受容タスクを処理する

自分に送信された リスク管理 の受け入れタスクの処理待ちの承認要求を処理します。

始める前に
必要なロール：GRC リスクマネージャー (sn_risk.manager)

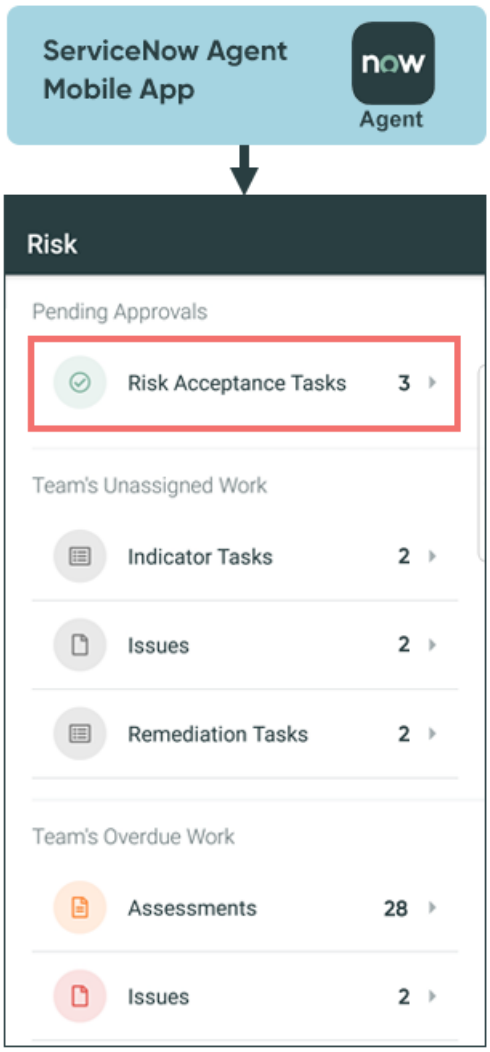
このタスクについて
レコードのリストから処理待ちの要求を承認または却下します。または、要求を処理する前にレコードの詳細を表示するか、作業メモを追加します。このタスクの完了にかかる時間は 5 ～ 10 分です。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. モバイルデバイスで ServiceNow AI Platform インスタンスにログインしていない場合、詳細については、GRC モバイルアプリケーション へのログイン を参照してください。
2. [リスク] ランディング画面を表示して、[リスク受容タスク]をタップします。

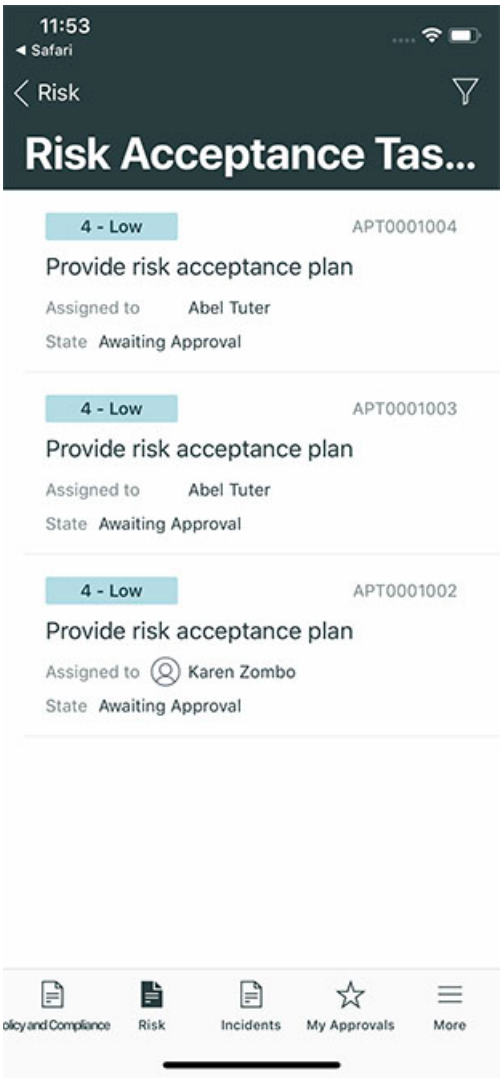
   ログイン後に GRC モバイルアプリケーション から移動した場合は、Now Agent アプリをタップすると、いつでも最後に表示していた画面に戻ります。



[リスク受容タスク] 画面が表示され、レコードのリストが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



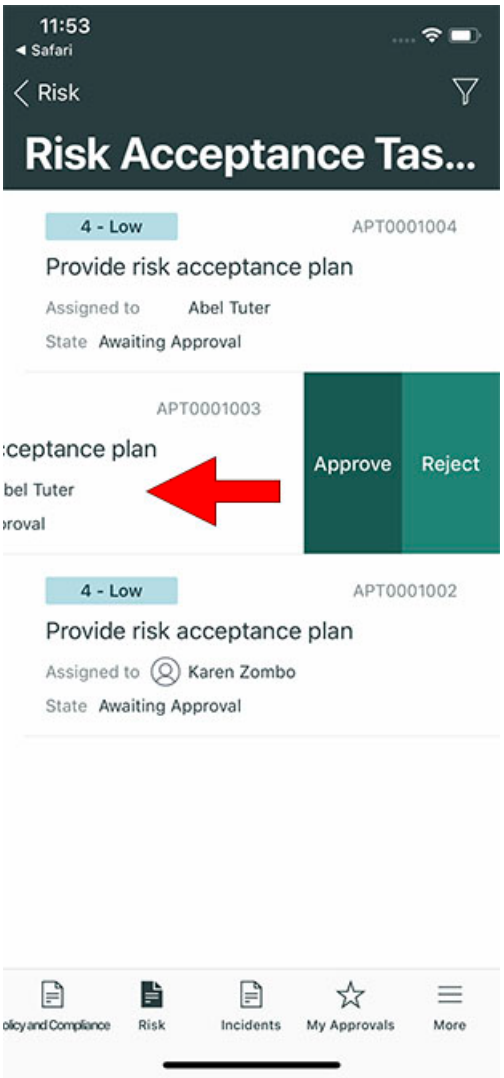
自動翻訳

3. オプション: 画面に表示されるレコード数を減らすには、GRC モバイルアプリケーション でのレコードのフィルタリング を参照して、特定の検索条件に一致するレコードを検索します。

   (Optional) モバイルアプリの画面でのレコードのフィルタリングは、ServiceNow AI Platform で条件ビルダーを使用したフィルタリングと同様に機能します。フィルターを設定すると、画面に表示されるレコードの数を減らすことができます。

4. リストから要求を直接承認または却下するには、[リスク受容タスク] 画面を表示して、レコードを左にスワイプしてメニューを開きます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



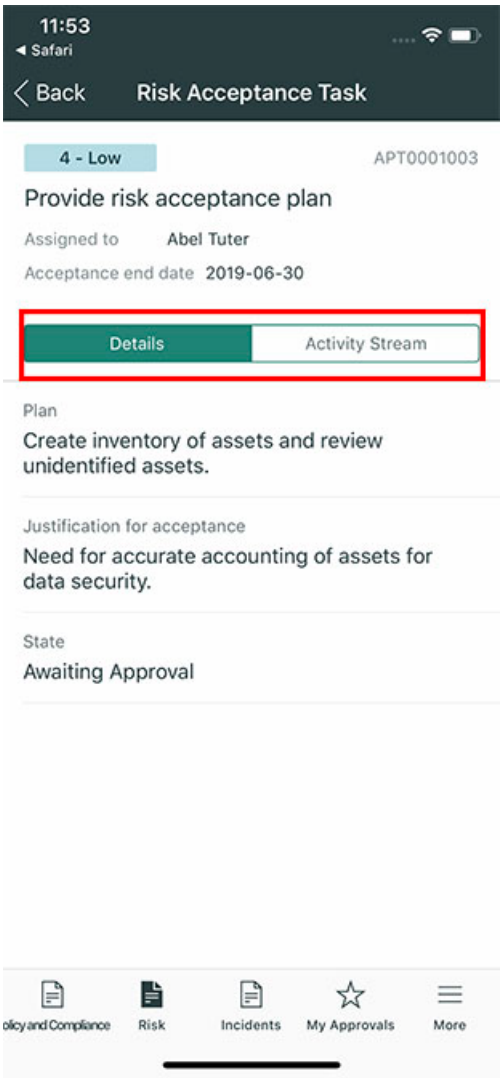
自動翻訳

5. 表示されるメニューで、いずれかを選択して続行します。

6. または、[リスク受容タスク] 画面を表示して、次の手順に従って詳細を表示するか、リストのレコードに作業メモを追加します。
7. [リスク受容タスク] 画面を表示して、レコードをタップして開きます。
8. 詳細を表示するには、表示されるレコードで [承認対象] をタップし、リスク受容タスクを表示します。
9. 表示されているタスクレコードをタップして開きます。

   表示されるレコードで、次のテーブルからいずれかを選択して続行します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

リスク管理 インジケータータスクを **GRC** モバイルアプリケーション でアサイン

アサインされていないインジケータータスクをアサイン先グループのメンバーにアサインします。インジケータータスクは、コンプライアンスグループにアサインされたリスクレコードに関連しています。

始める前に

必要なロール：GRC リスクマネージャー (sn_risk.manager)

このタスクについて

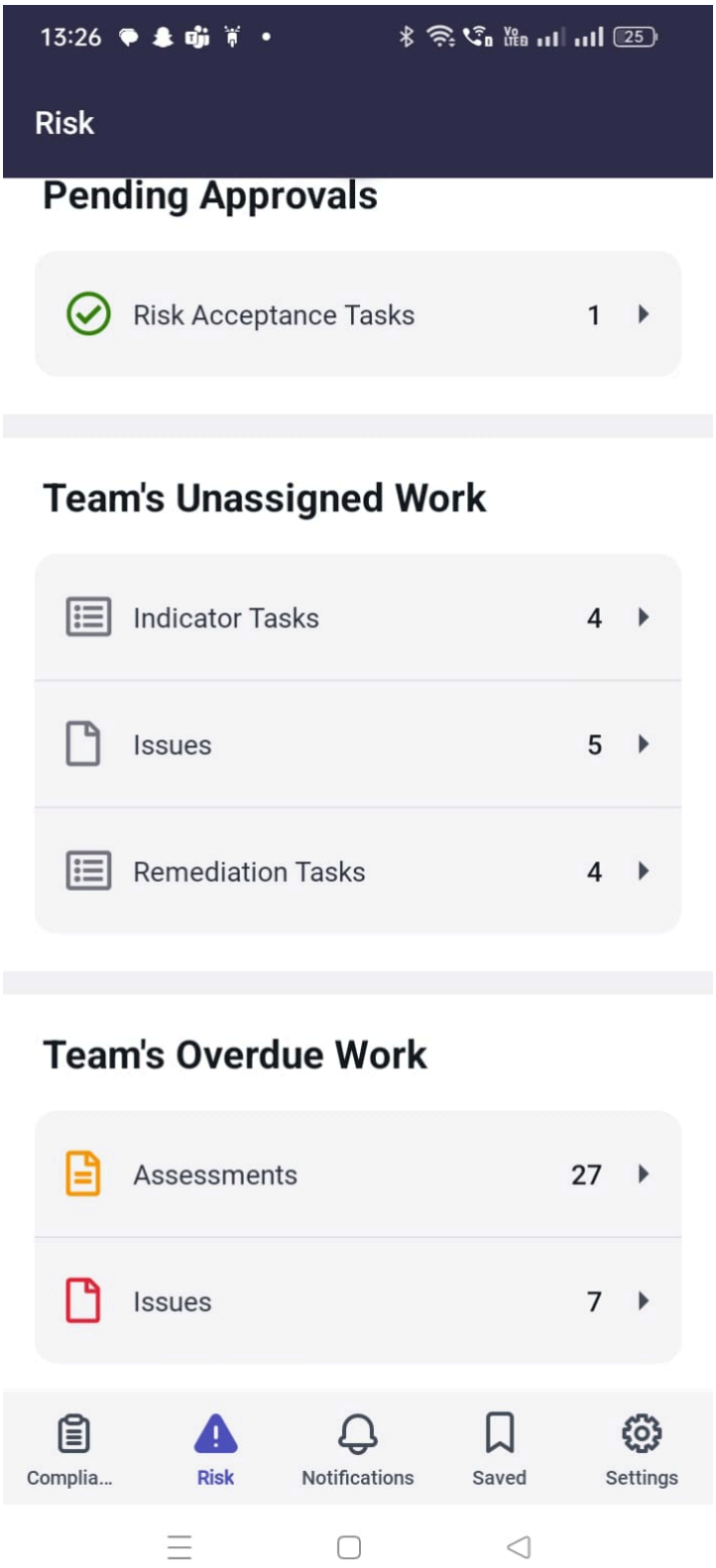
レコードのリストからインジケータータスクをアサインします。または、アサインの前にレコードの詳細を表示するか、作業メモを追加します。このタスクの完了にかかる時間は 5 ～ 10 分です。

手順

1. モバイルデバイスで ServiceNow AI Platform インスタンスにログインしていない場合、詳細については、GRC モバイルアプリケーション へのログイン を参照してください。
2. [リスク] ランディング画面を表示して、[チームのアサインされていない作業] セクションで [インジケータータスク] をタップします。

   ログイン後に GRC モバイルアプリケーション から移動した場合は、Now Agent アプリをタップすると、いつでも最後に表示していた画面に戻ります。

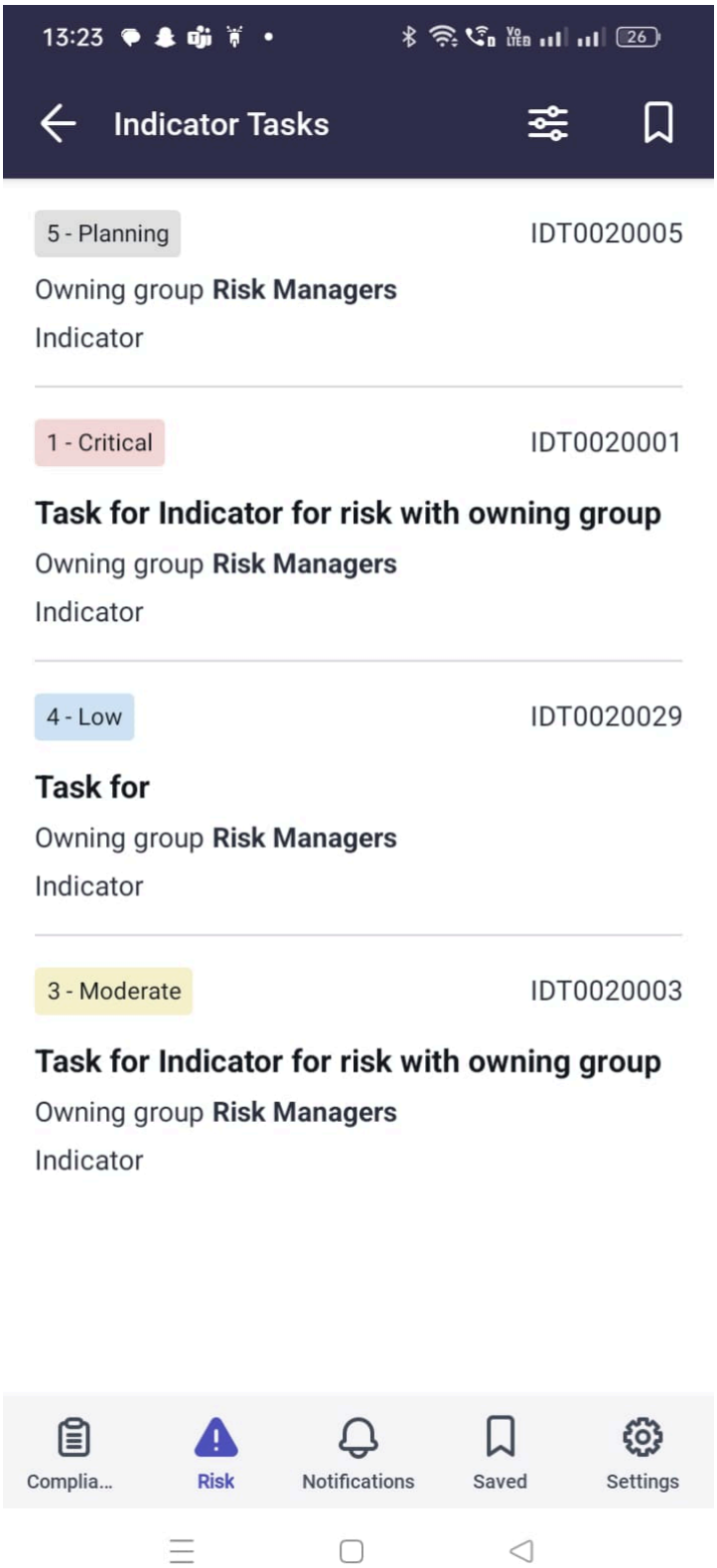
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



[インジケータータスク] 画面にレコードのリストが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



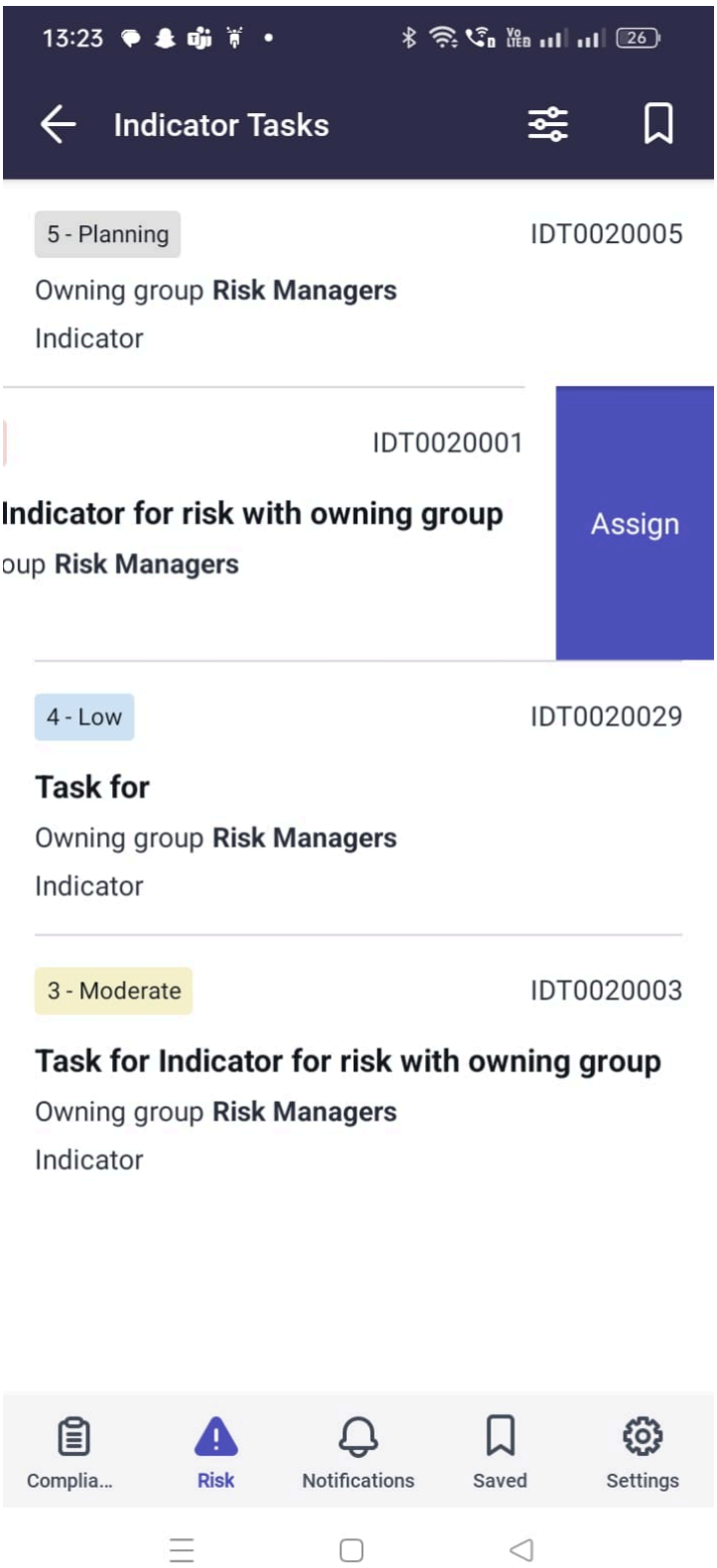
3. オプション: 画面に表示されるレコード数を減らすには、GRC モバイルアプリケーション でのレコードのフィルタリング を参照して、特定の検索条件に一致するレコードを検索します。

   (Optional) モバイルアプリの画面でのレコードのフィルタリングは、ServiceNow AI Platform で条件ビルダーを使用したフィルタリングと同様に機能します。フィルターを設定すると、画面に表示されるレコードの数を減らすことができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [インジケータータスク] 画面に表示されているレコードのリストから直接タスクをアサインするには、レコードを左にスワイプしてメニューを開きます。



5. [アサイン] をタップします。
6. [アサイン先] をタップし、表示される画面でユーザーをタップします。
または、検索フィールドにテキストを入力します。

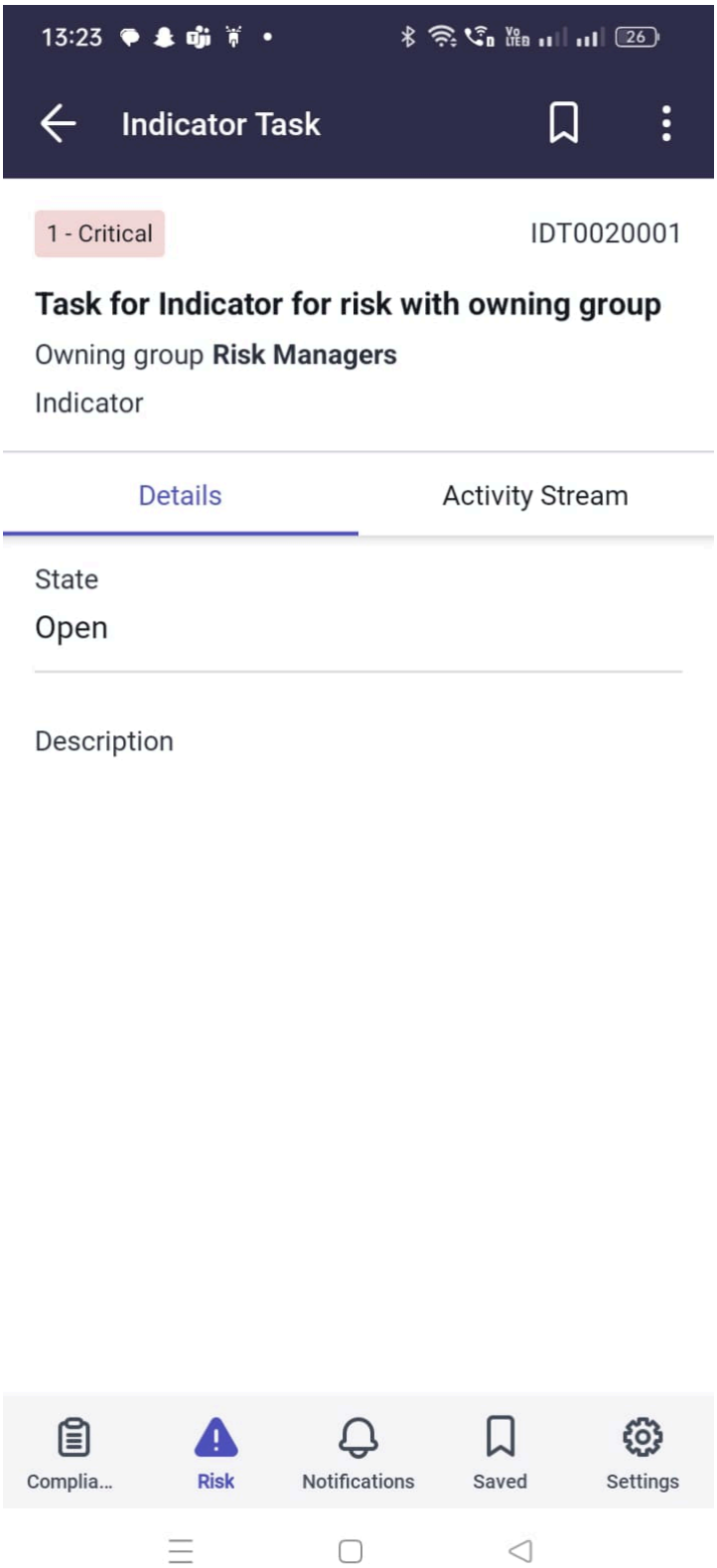
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーザーの名前が [インジケータータスクをアサイン] 画面に表示されます。インジケータータスクを任意のユーザーにアサインすることができます。

7. 送信アイコン ( ) または [送信] をタップして、変更を保存し、送信します。
タスクをユーザーにアサインすると、そのレコードは [インジケータータスク] リストに表示されなくなります。
8. または、詳細を確認したり、作業メモを追加したりするには、[インジケータータスクをアサイン] 画面を表示して、リスト内のレコードをタップして開きます。
9. レコードのフィールドが表示されたら、テーブルでいずれかを選択して続行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

リスク管理 問題を **GRC** モバイルアプリケーションでアサイン

アサインされていない問題をアサイン先グループのメンバーにアサインします。レコード内を移動して、問題に関連するリスクステートメント、リスクレコード、および修復タスクの詳細を表示します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：GRC リスクマネージャー (sn_risk.manager)

このタスクについて
レコードのリストから問題を編集またはアサインします。または、アサインの前に作業メモを追加するか、レコードの詳細と関連リストを表示します。このタスクの完了にかかる時間は 5 ～ 10 分です。

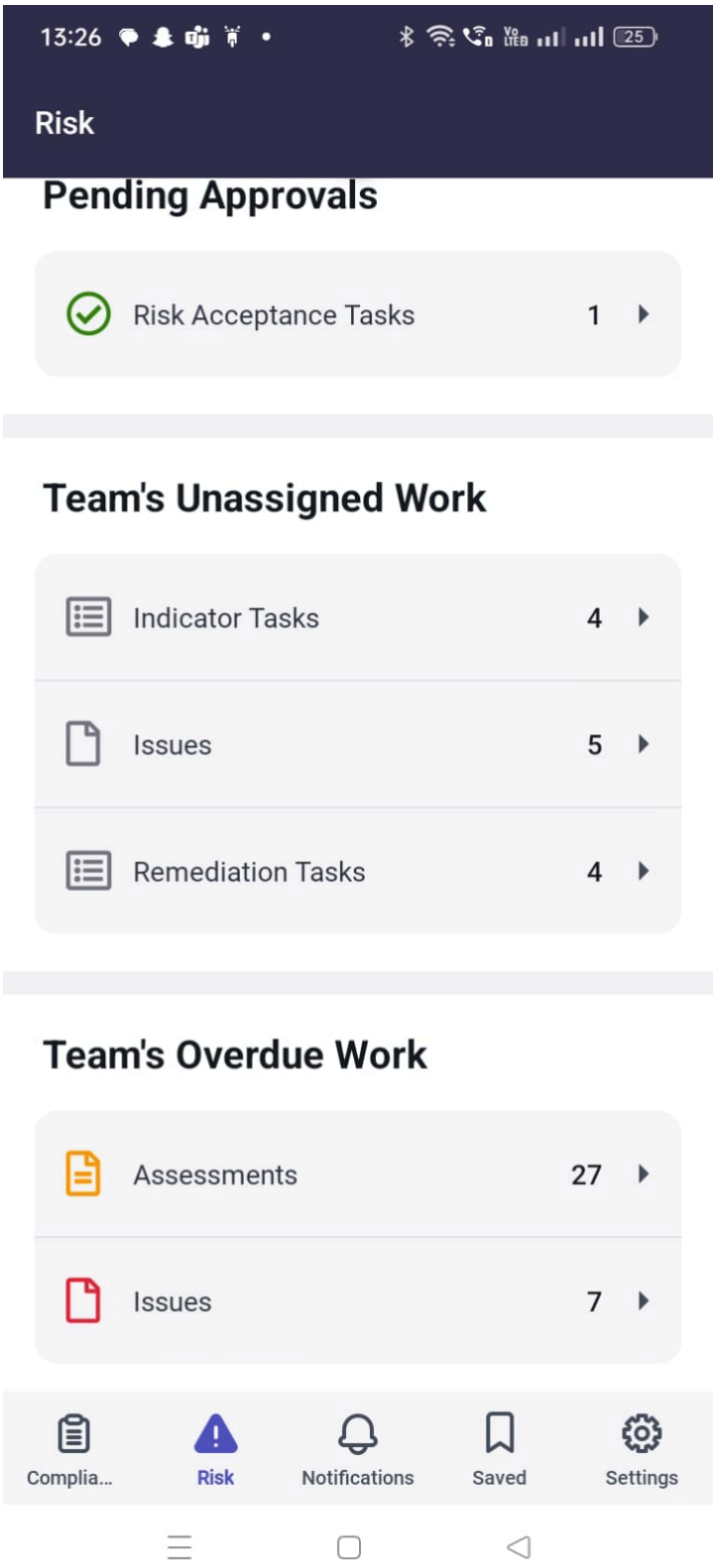
手順

1. モバイルデバイスで ServiceNow AI Platform インスタンスにログインしていない場合、詳細については、GRC モバイルアプリケーション へのログイン を参照してください。
2. [リスク] ランディング画面を表示して、[チームのアサインされていない作業] セクションで [問題] をタップします。

   ログイン後に GRC モバイルアプリケーション から移動した場合は、Now Agent アプリをタップすると、いつでも最後に表示していた画面に戻ります。

自動翻訳

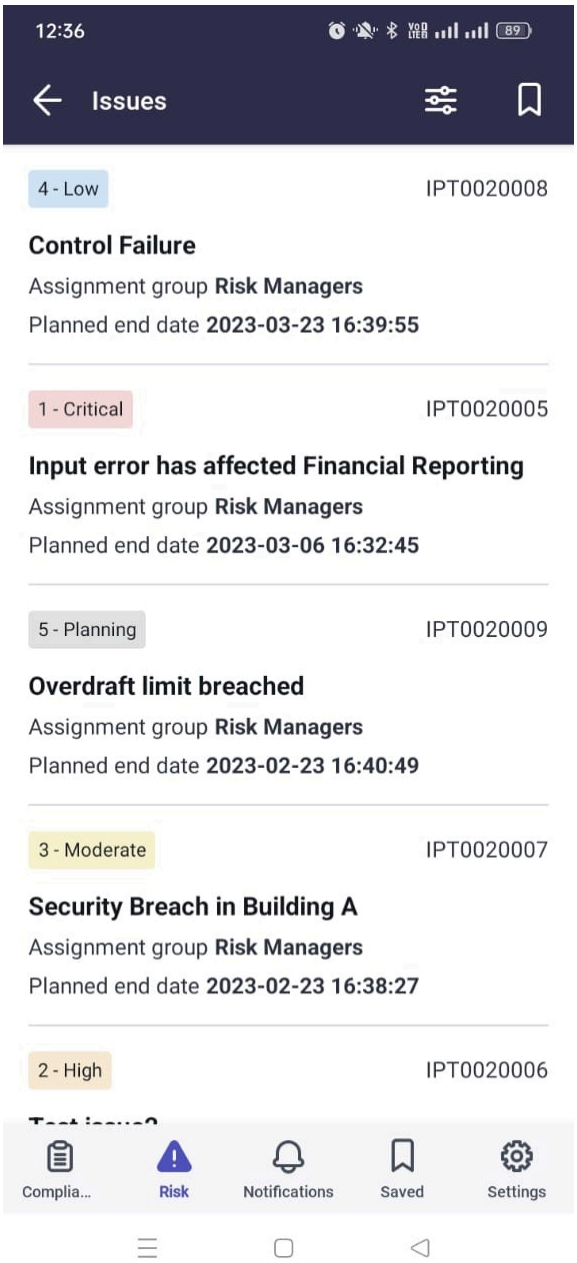
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



[問題] 画面にレコードのリストが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



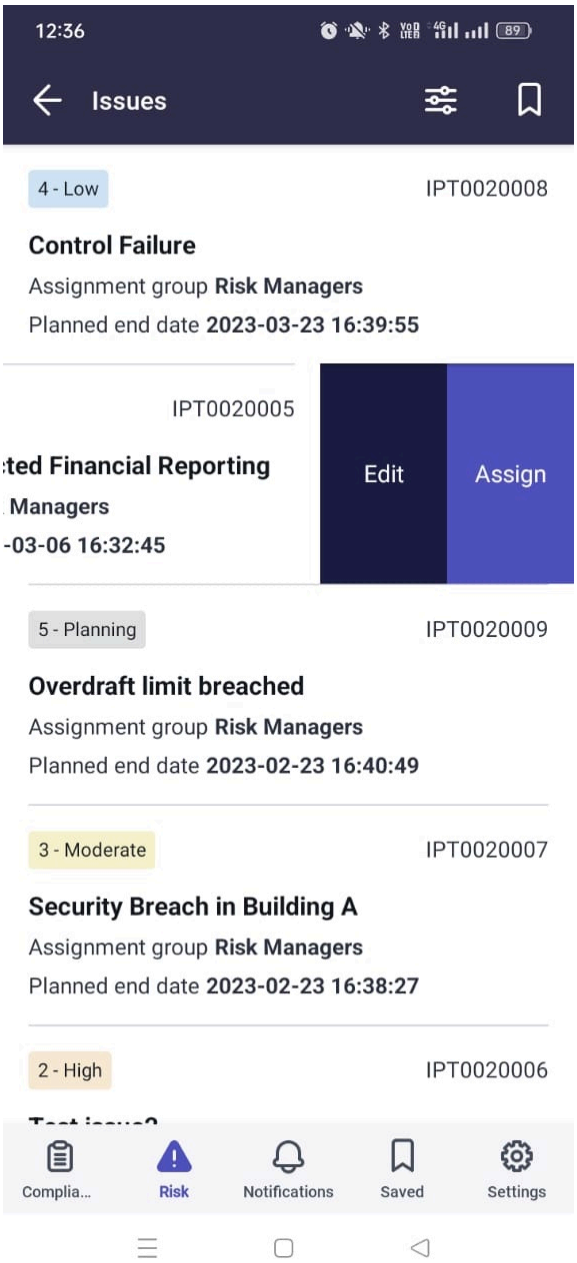
自動翻訳

3. オプション: 画面に表示されるレコード数を減らすには、GRC モバイルアプリケーション でのレコードのフィルタリング を参照して、特定の検索条件に一致するレコードを検索します。

   (Optional) モバイルアプリの画面でのレコードのフィルタリングは、ServiceNow AI Platform で条件ビルダーを使用したフィルタリングと同様に機能します。フィルターを設定すると、画面に表示されるレコードの数を減らすことができます。

4. [問題] 画面に表示されるレコードのリストから直接、問題を編集またはアサインするには、レコードを左にスワイプしてメニューを開きます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



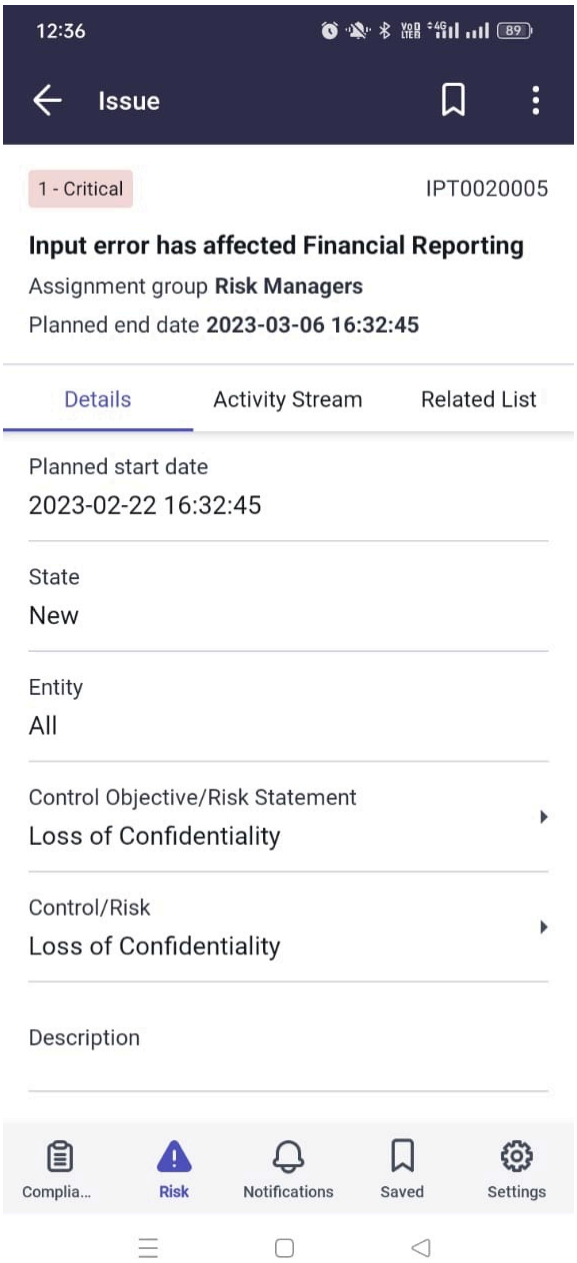
5. 表示されるメニューで、次の表からいずれかを選択して続行します。

6. または、[問題] 画面が表示されたら、リストでレコードをタップして開き、詳細を表示します。

7. 問題レコードのフィールドが表示されたら、テーブルでいずれかを選択して続行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

リスク管理 修復タスクを **GRC** モバイルアプリケーションでアサイン

アサインされていない修復タスクをグループのユーザーにアサインします。[日単位で延長] フィールドを含むフィールドを編集します。レコード内を移動して、リスクステートメント、リスクレコード、修復タスクに関連付けられている問題を表示します。

始める前に

必要なロール：GRC リスクマネージャー (sn_risk.manager)

このタスクについて

レコードのリストから直接、未アサインの修復タスクを編集またはアサインします。または、アサインの前にレコードの詳細を表示するか、作業メモを追加します。このタスクの完了にかかる時間は 5 ～ 10 分です。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

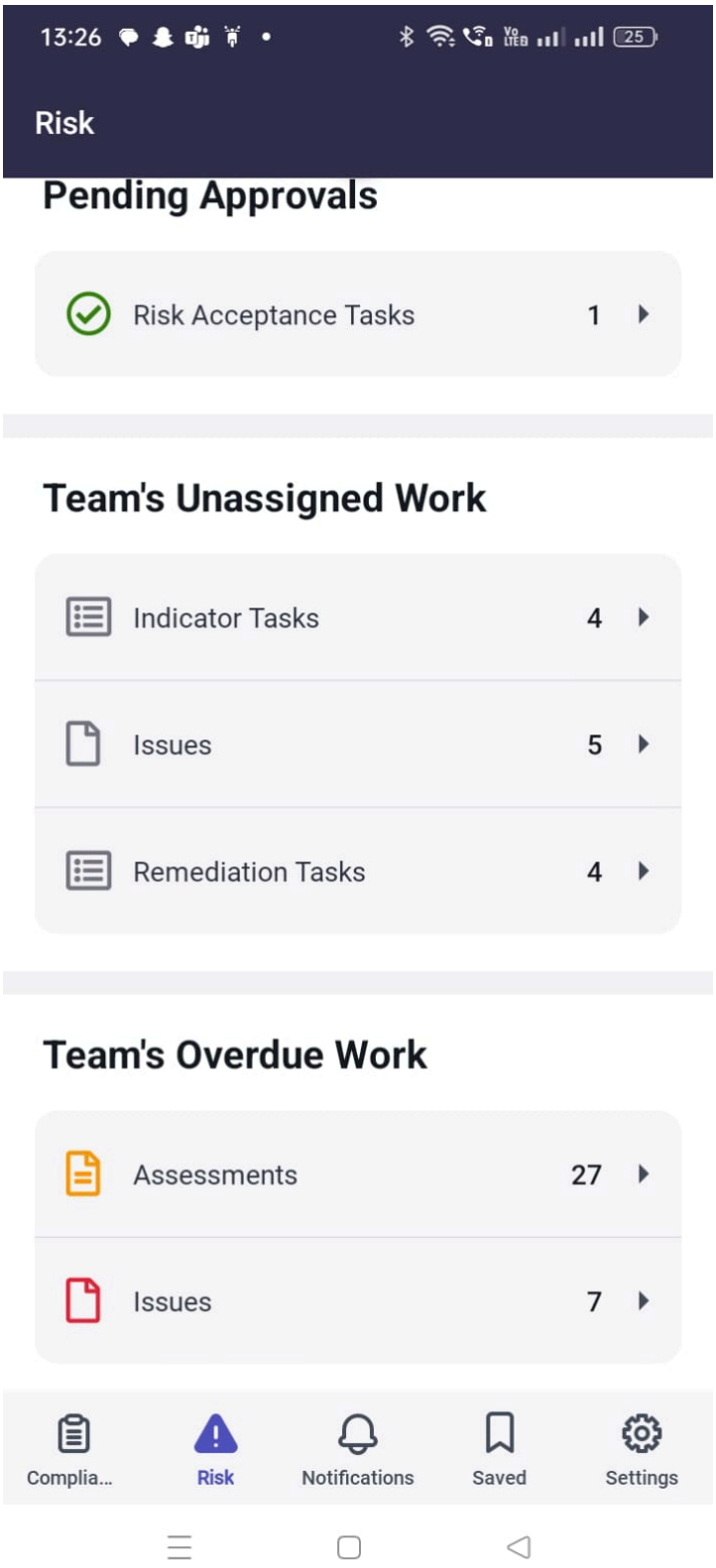
手順

1. モバイルデバイスで ServiceNow AI Platform インスタンスにログインしていない場合、詳細については、GRC モバイルアプリケーション へのログイン を参照してください。
2. [リスク] ランディング画面を表示して、[チームのアサインされていない作業] セクションで [修復タスク] をタップします。

   ログイン後に GRC モバイルアプリケーション から移動した場合は、Now Agent アプリをタップすると、いつでも最後に表示していた画面に戻ります。

自動翻訳

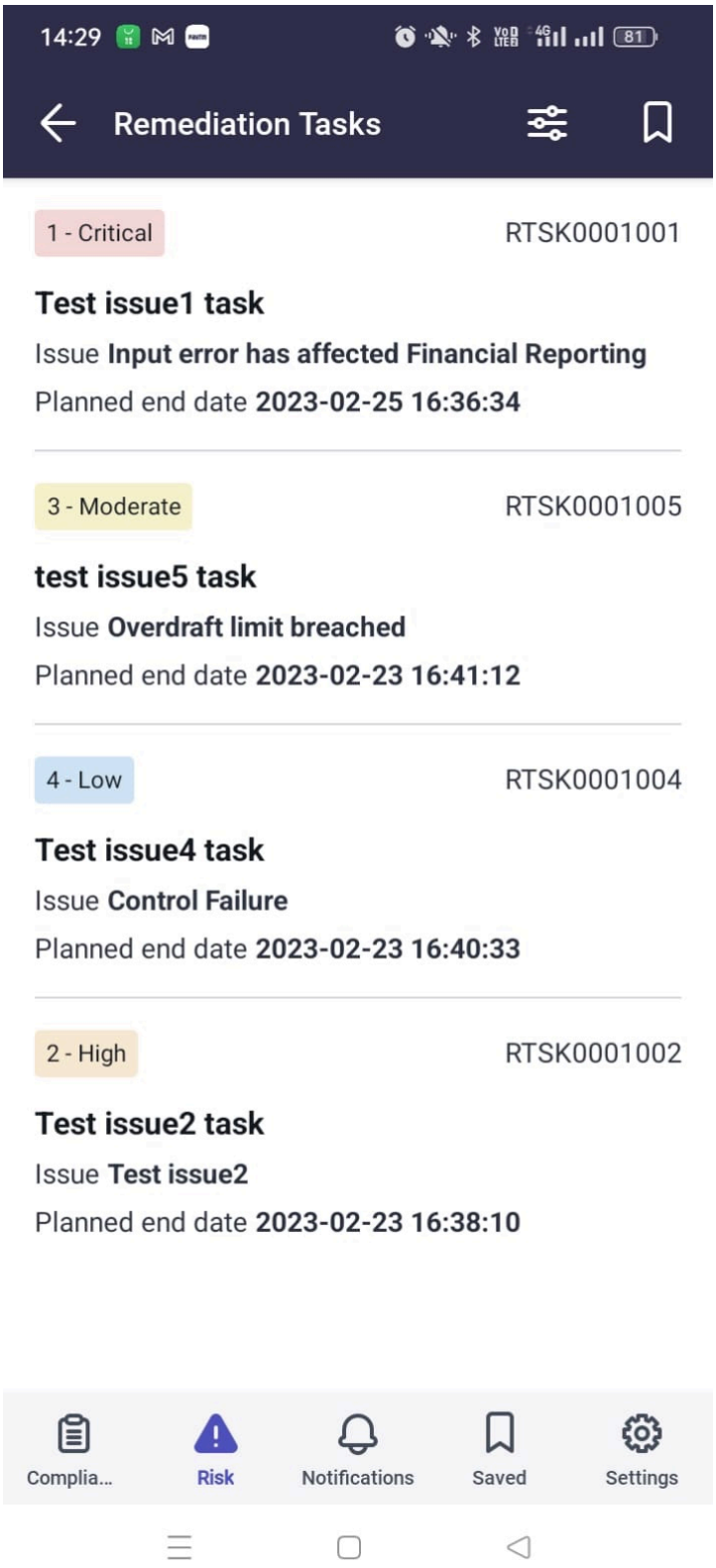
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



[修復タスク] 画面にレコードのリストが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



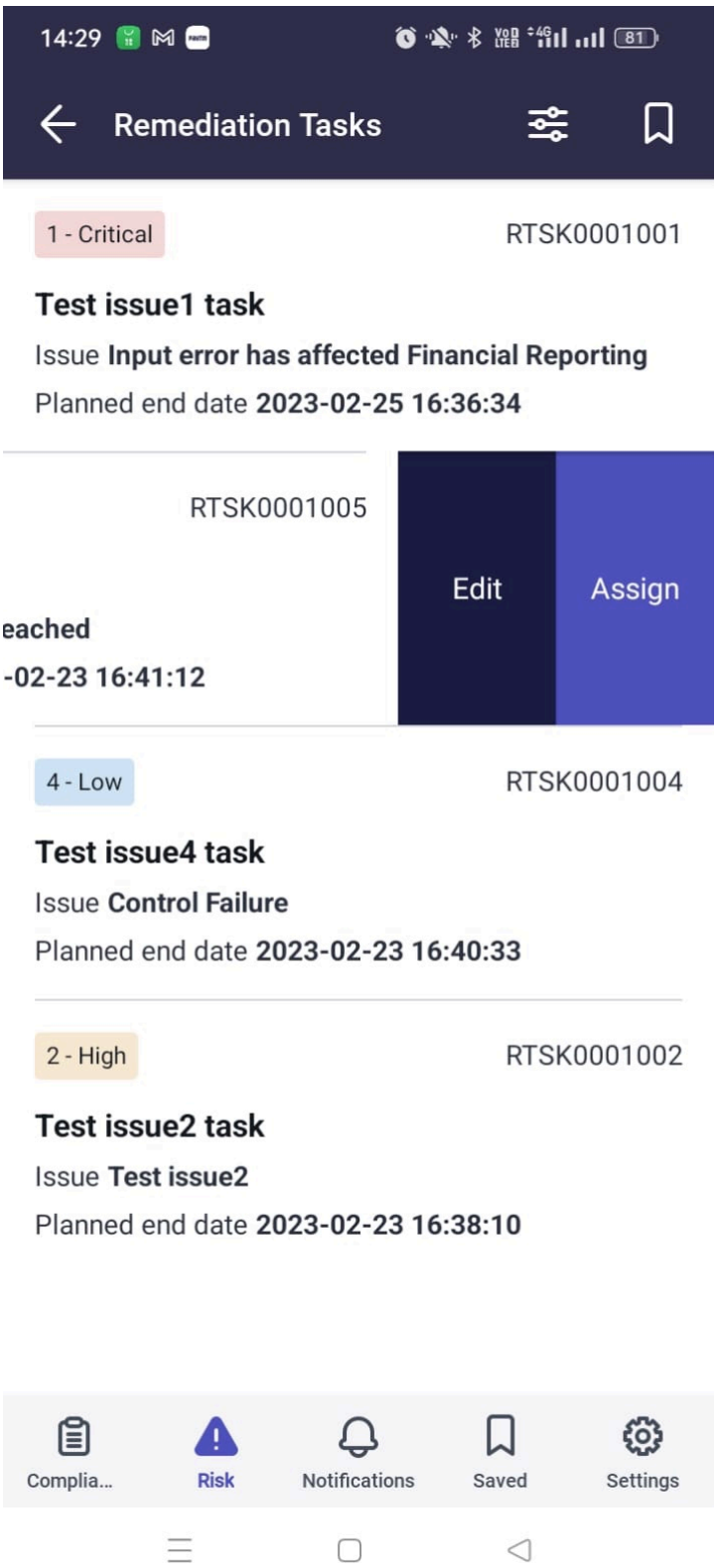
3. オプション: 画面に表示されるレコード数を減らすには、GRC モバイルアプリケーション でのレコードのフィルタリング を参照して、特定の検索条件に一致するレコードを検索します。

   (Optional) モバイルアプリの画面でのレコードのフィルタリングは、ServiceNow AI Platform で条件ビルダーを使用したフィルタリングと同様に機能します。フィルターを設定すると、画面に表示されるレコードの数を減らすことができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [修復タスク] 画面に表示されているレコードのリストから直接タスクを編集またはアサインするには、レコードを左にスワイプしてメニューを開きます。

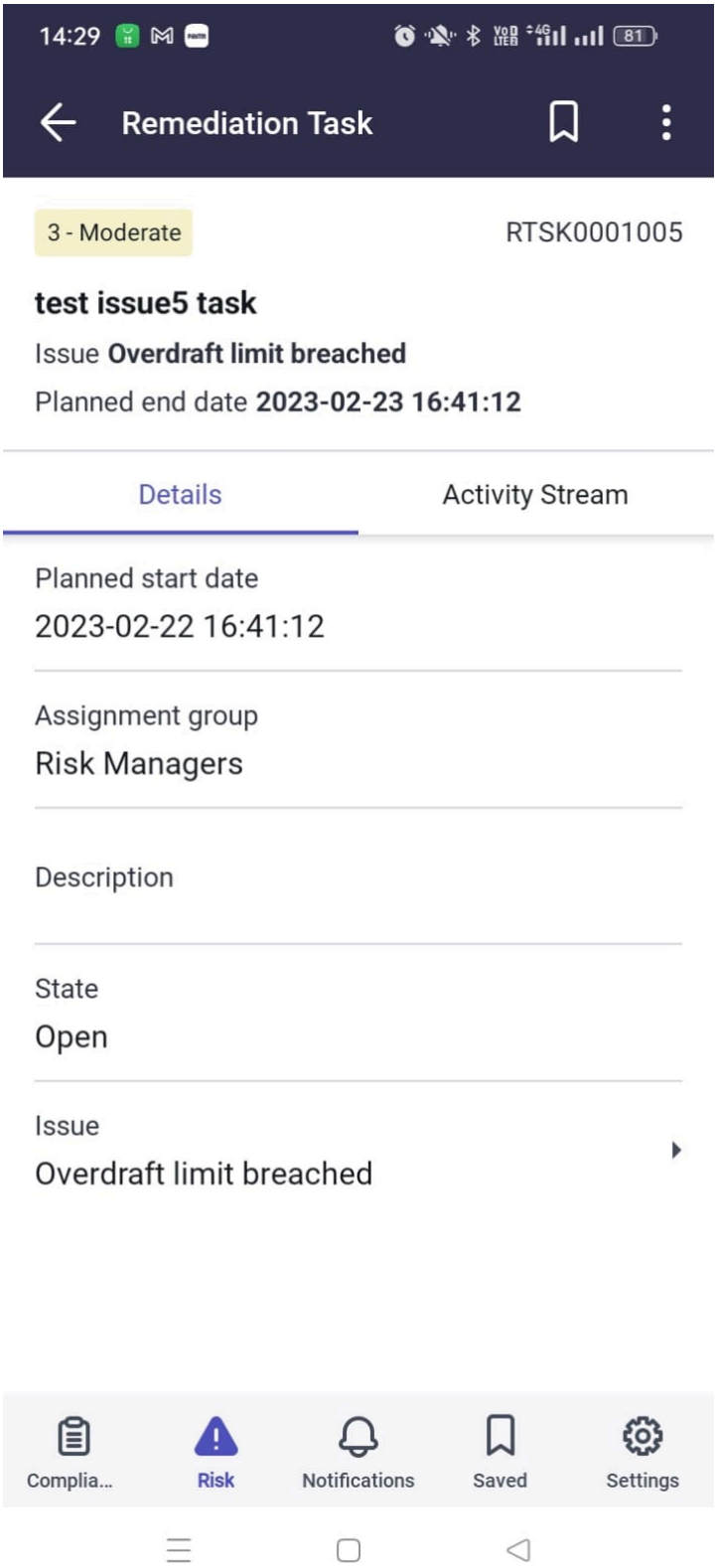


5. 表示されるメニューで、いずれかを選択して続行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. または、[修復タスク] 画面が表示されたら、リストでレコードをタップして開き、詳細を確認します。
7. 問題レコードのフィールドが表示されたら、テーブルでいずれかを選択して続行します。



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

期限切れ リスク管理 アセスメントを GRC モバイルアプリケーションで再アサイン

期限切れのリスクアセスメントをアサイン先グループの別のメンバーに再アサインします。

始める前に

必要なロール：GRC リスクマネージャー (sn_risk.manager)

このタスクについて

期日を過ぎたリスクアセスメントをレコードのリストから直接再アサインします。または、再アサインの前にレコードの詳細を表示します。このタスクの完了にかかる時間は 5 ～ 10 分です。

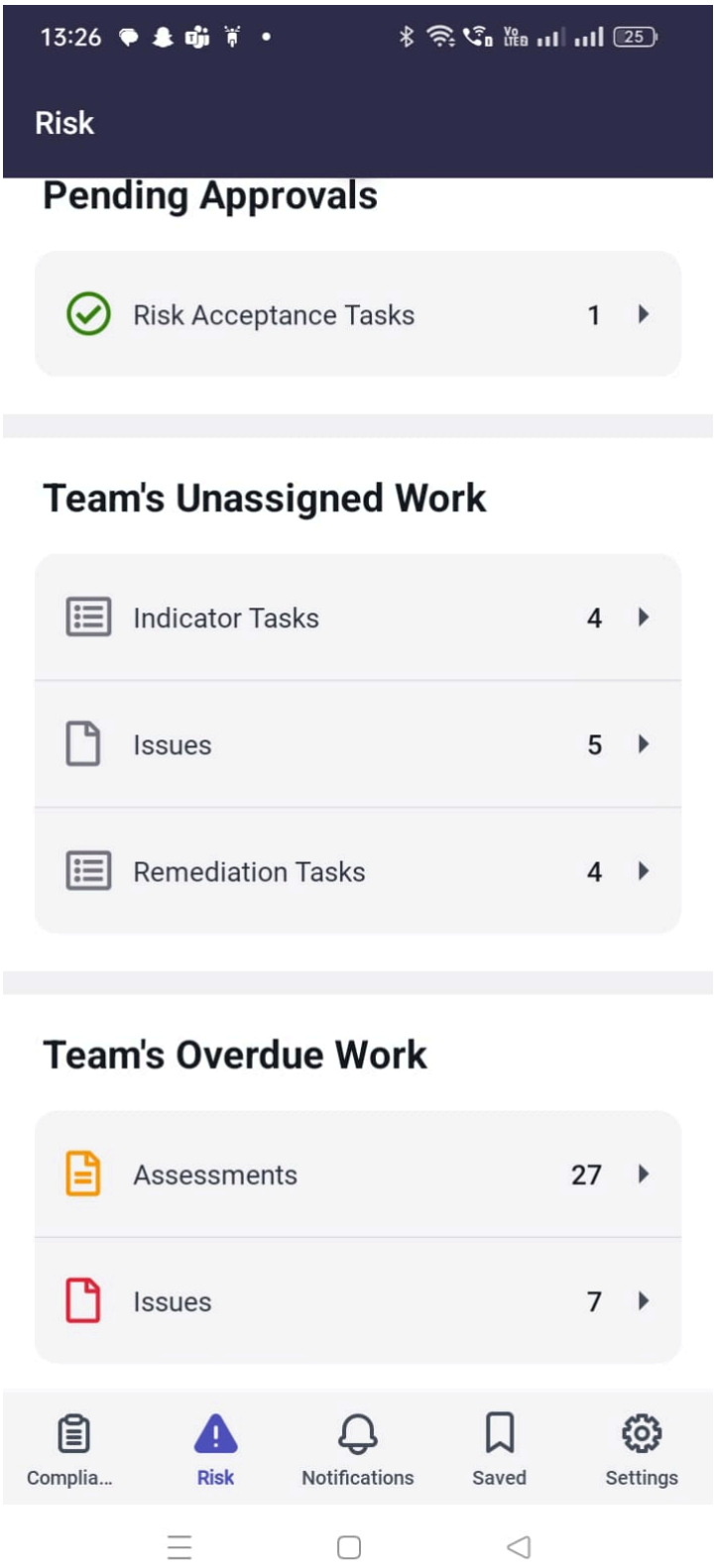
手順

1. モバイルデバイスで ServiceNow AI Platform インスタンスにログインしていない場合、詳細については、GRC モバイルアプリケーション へのログイン を参照してください。
2. [リスク] ランディング画面を表示して、[チームの期限切れ作業] セクションで [アセスメント] をタップします。

   ログイン後に GRC モバイルアプリケーション から移動した場合は、Now Agent アプリをタップすると、いつでも最後に表示していた画面に戻ります。

自動翻訳

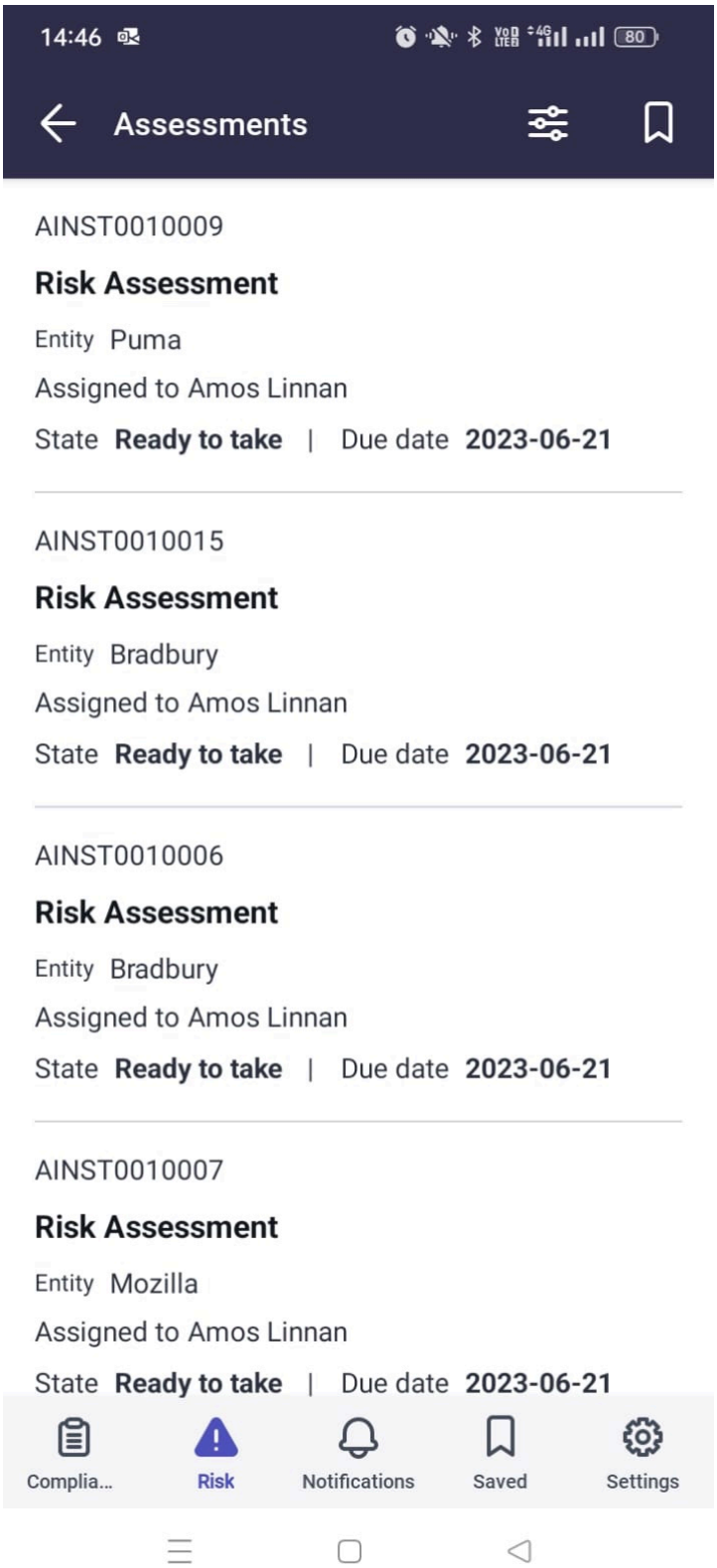
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



[アセスメント] 画面にレコードのリストが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



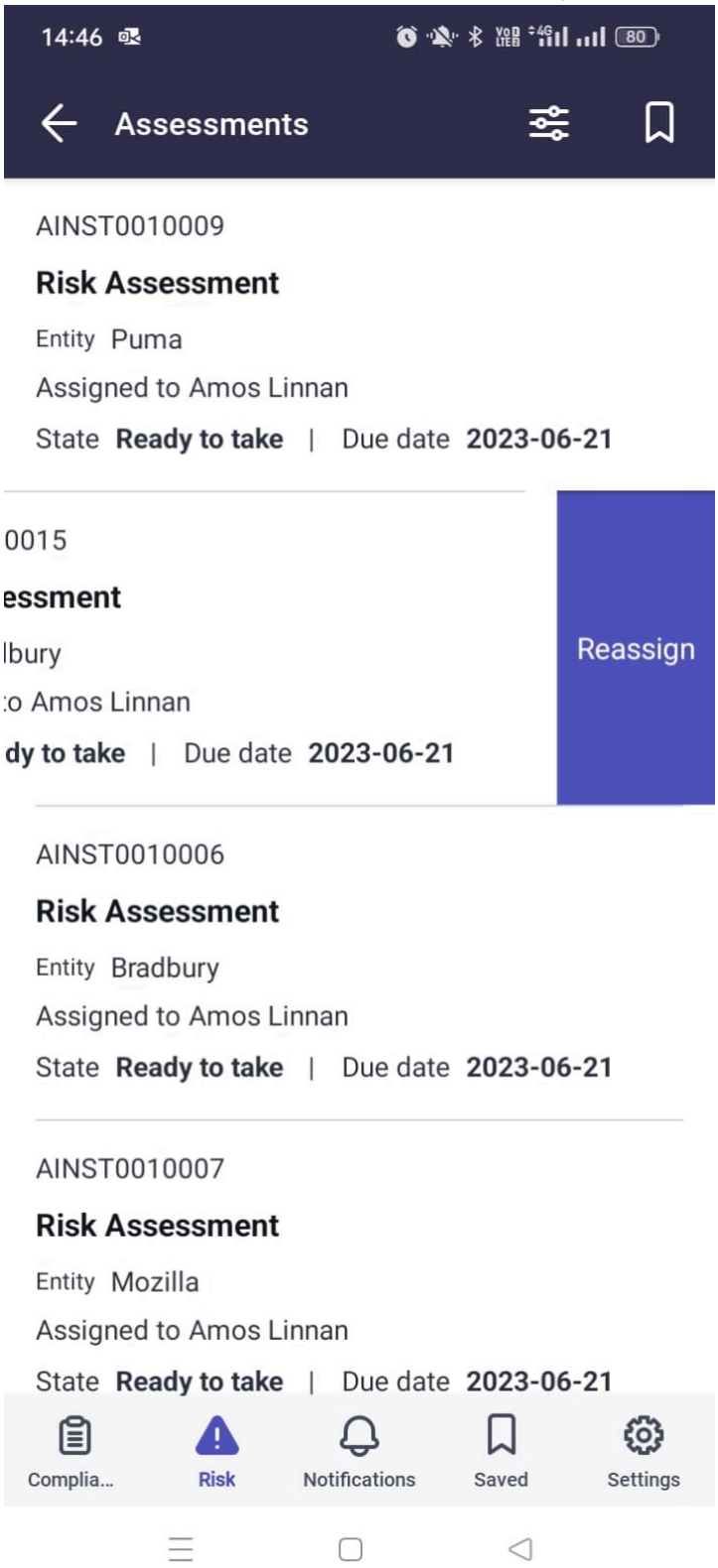
自動翻訳

3. オプション: 特定の検索条件に一致するレコードを検索するには、GRC モバイルアプリケーション でのレコードのフィルタリング を参照してください。

   (Optional) モバイルアプリの画面でのレコードのフィルタリングは、ServiceNow AI Platform で条件ビルダーを使用したフィルタリングと同様に機能します。フィルターを設定すると、画面に表示されるレコードの数を減らすことができます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. レコードのリストからリスクアセスメントを直接再アサインするには、[アセスメント] 画面を表示して、レコードを左にスワイプしてメニューを開きます。

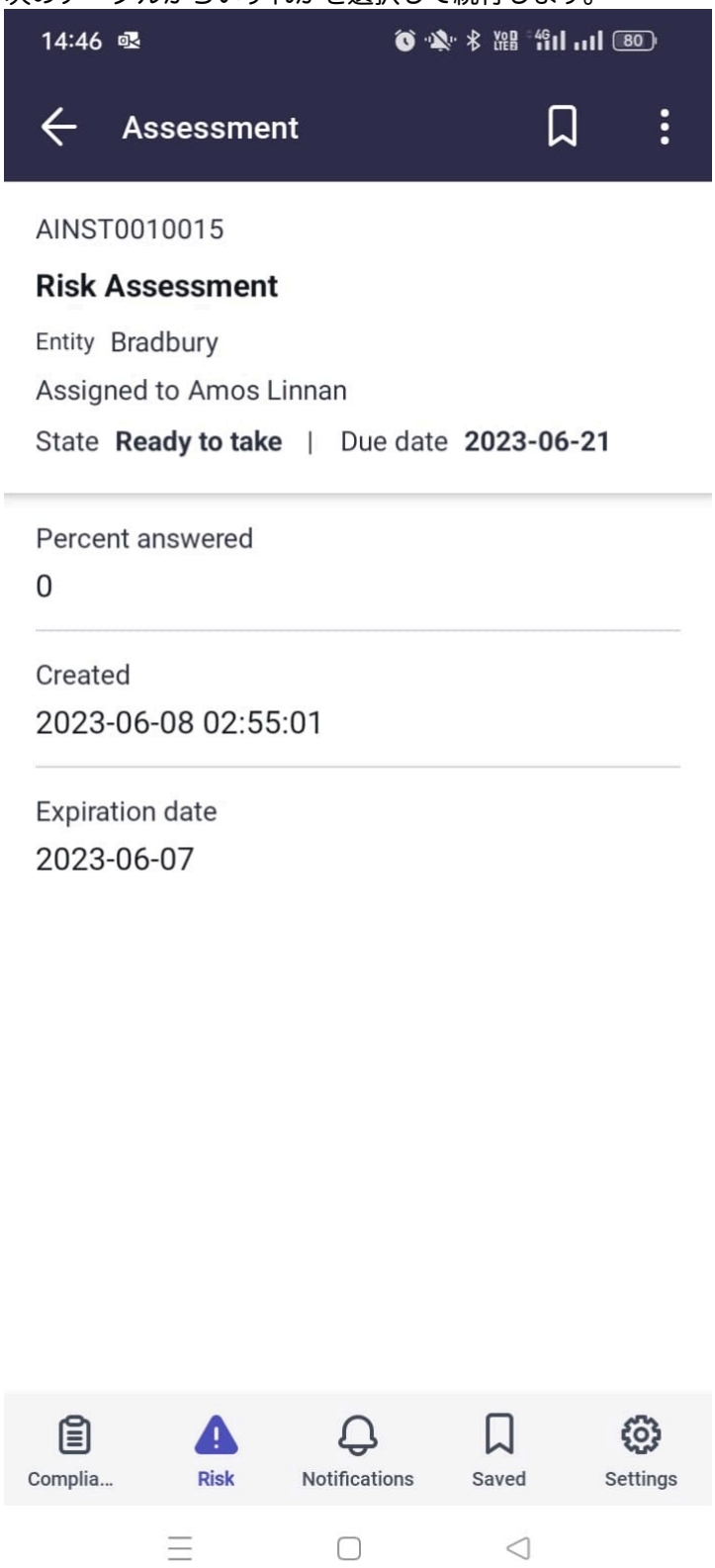


5. [再アサイン] をタップし、[アサイン先] フィールドをタップします。
6. ユーザー名をタップするか、検索フィールドに名前を入力します。
7. 送信アイコン ( ) または [送信] をタップして、変更を保存し、送信します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. または、[アセスメント] 画面を表示して、リストでレコードをタップして開き、詳細を表示します。
9. 次のテーブルからいずれかを選択して続行します。



期限切れの リスク管理 問題を **GRC** モバイルアプリケーションで再アサイン

アサイン先グループにアサインされた期限切れ リスク管理 の問題を再アサインします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：GRC リスクマネージャー (sn_risk.manager)

このタスクについて
レコードのリストから直接、タスクを編集または再アサインします。または、作業メモを追加するかレコード内を移動して、再アサインの前に、リスクステートメント、リスクレコード、および関連付けられている修復タスクの詳細を表示します。問題がアサイン先グループにアサインされていない場合、このリストには表示されません。このタスクの完了にかかる時間は 5 ～ 10 分です。

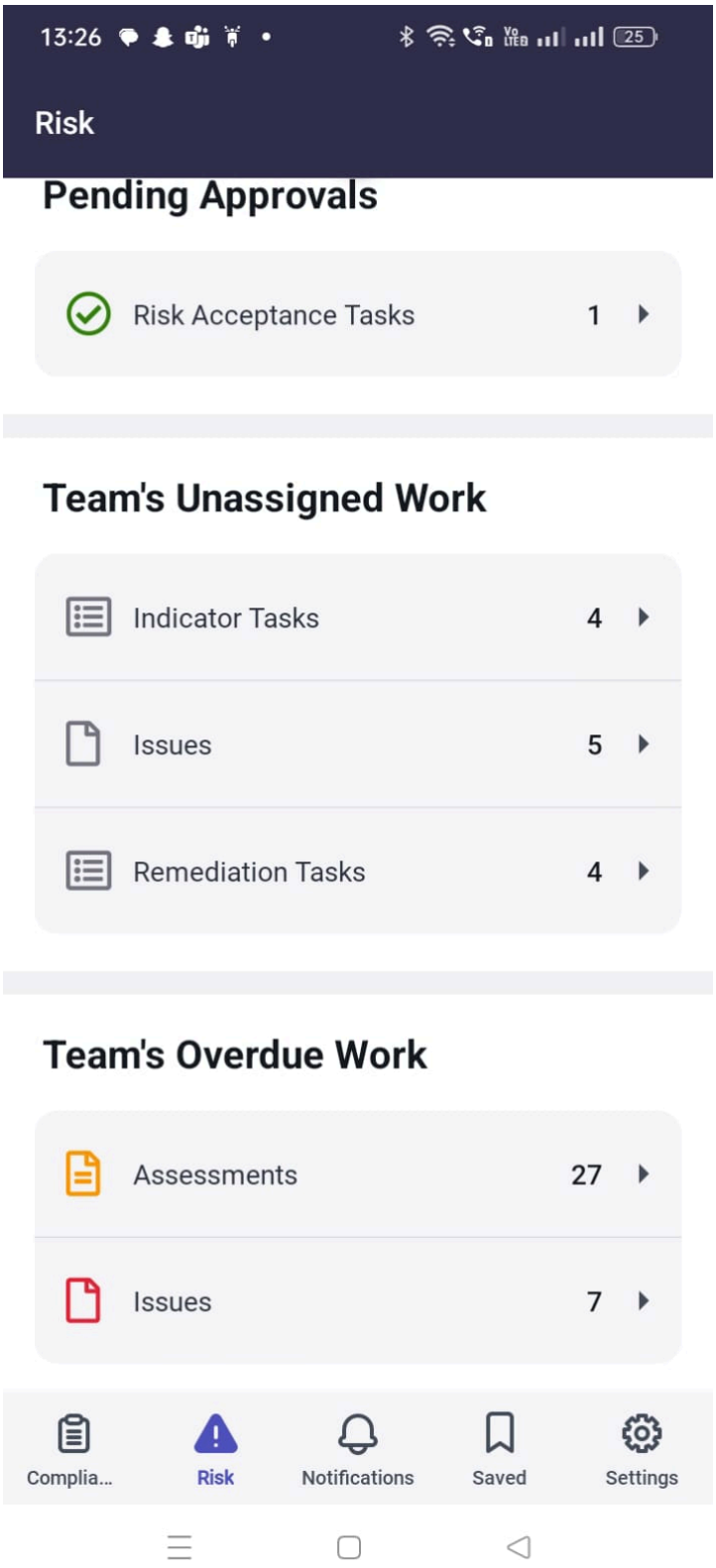
手順

1. モバイルデバイスで ServiceNow AI Platform インスタンスにログインしていない場合、詳細については、GRC モバイルアプリケーション へのログイン を参照してください。
2. [リスク] ランディング画面を表示して、[チームの期限切れ作業] セクションで [問題] をタップします。

   ログイン後に GRC モバイルアプリケーション から移動した場合は、Now Agent アプリをタップすると、いつでも最後に表示していた画面に戻ります。

自動翻訳

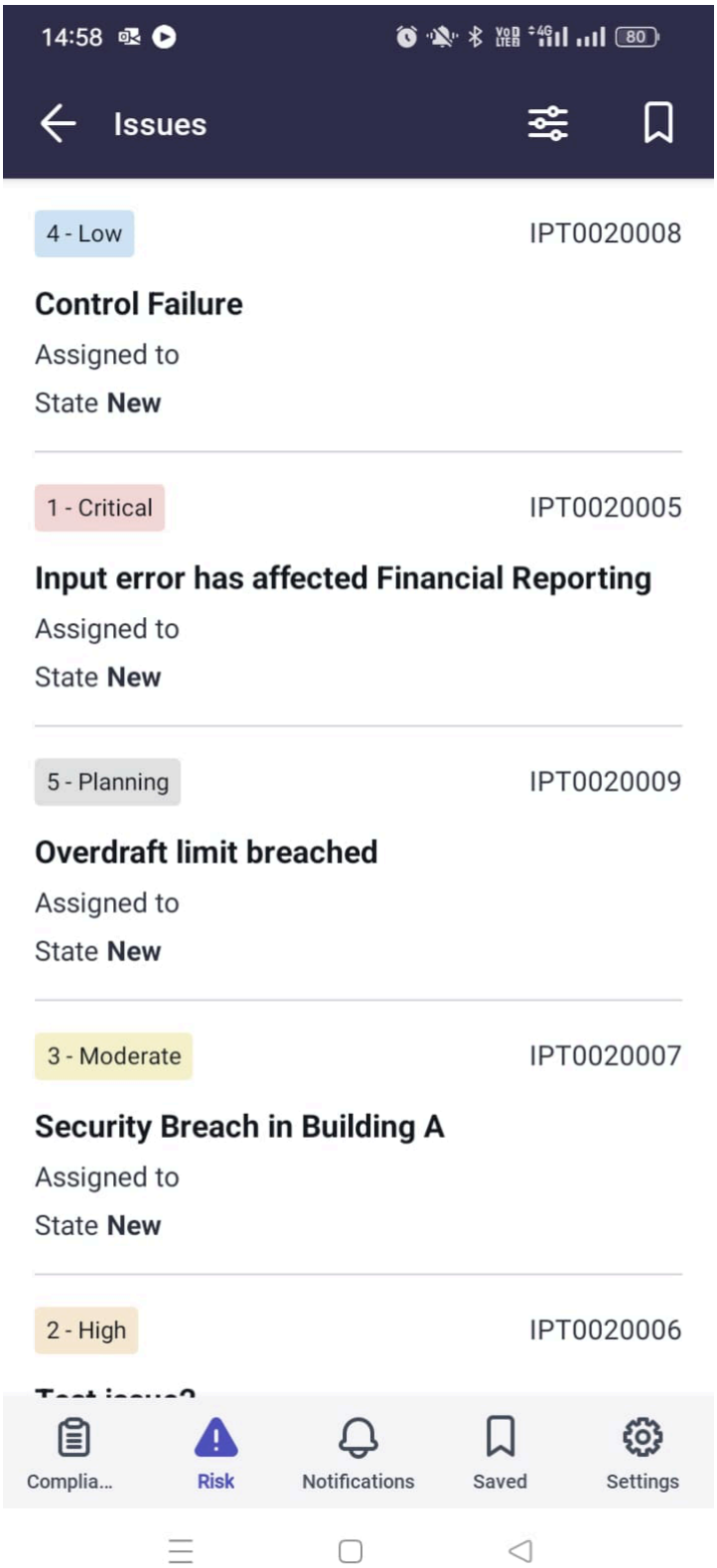
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



[問題] 画面にレコードのリストが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



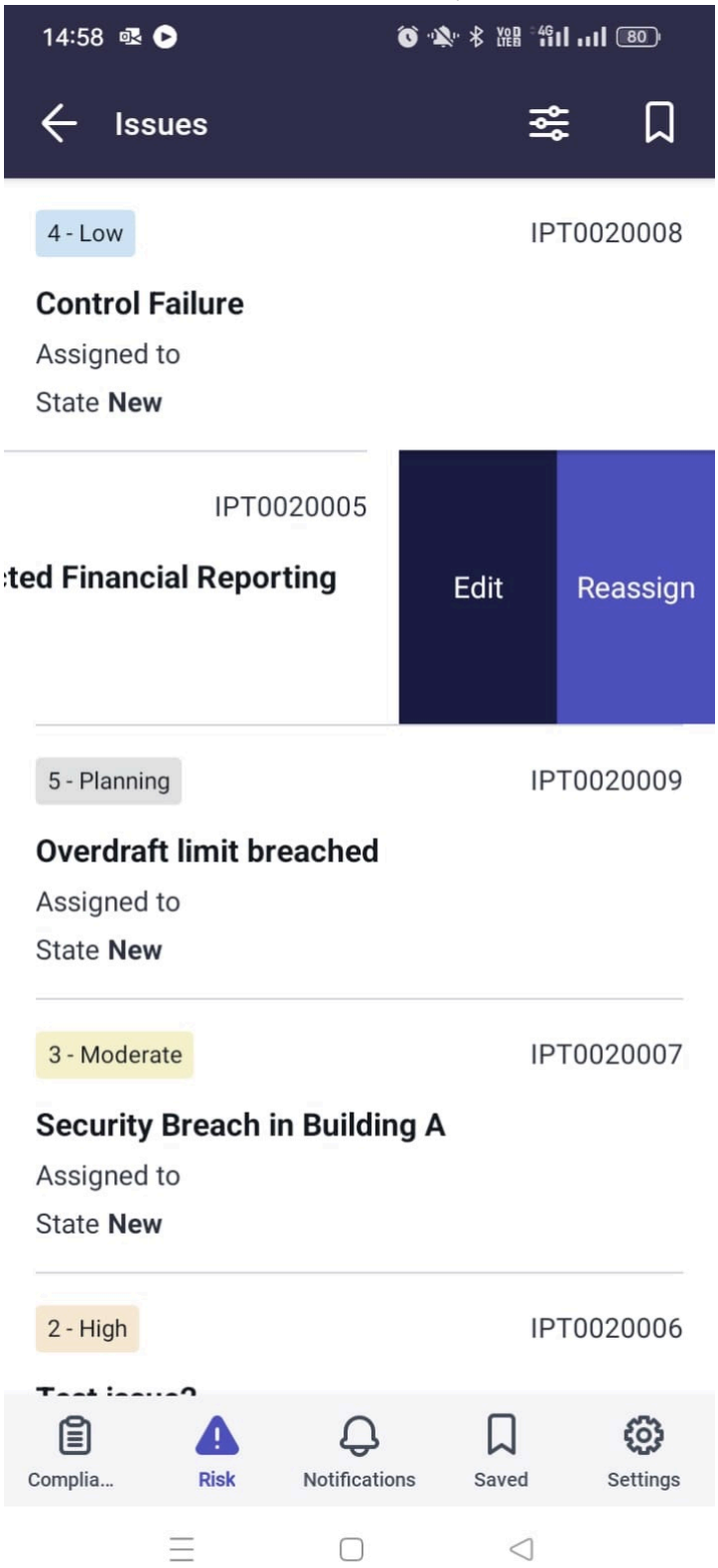
3. オプション: 特定の検索条件に一致するレコードを検索するには、GRC モバイルアプリケーション でのレコードのフィルタリング を参照してください。

   (Optional) モバイルアプリの画面でのレコードのフィルタリングは、ServiceNow AI Platform で条件ビルダーを使用したフィルタリングと同様に機能します。フィルターを設定すると、画面に表示されるレコードの数を減らすことができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [問題] 画面に表示されるレコードのリストから直接、タスクを編集または再アサインするには、レコードを左にスワイプしてメニューを開きます。

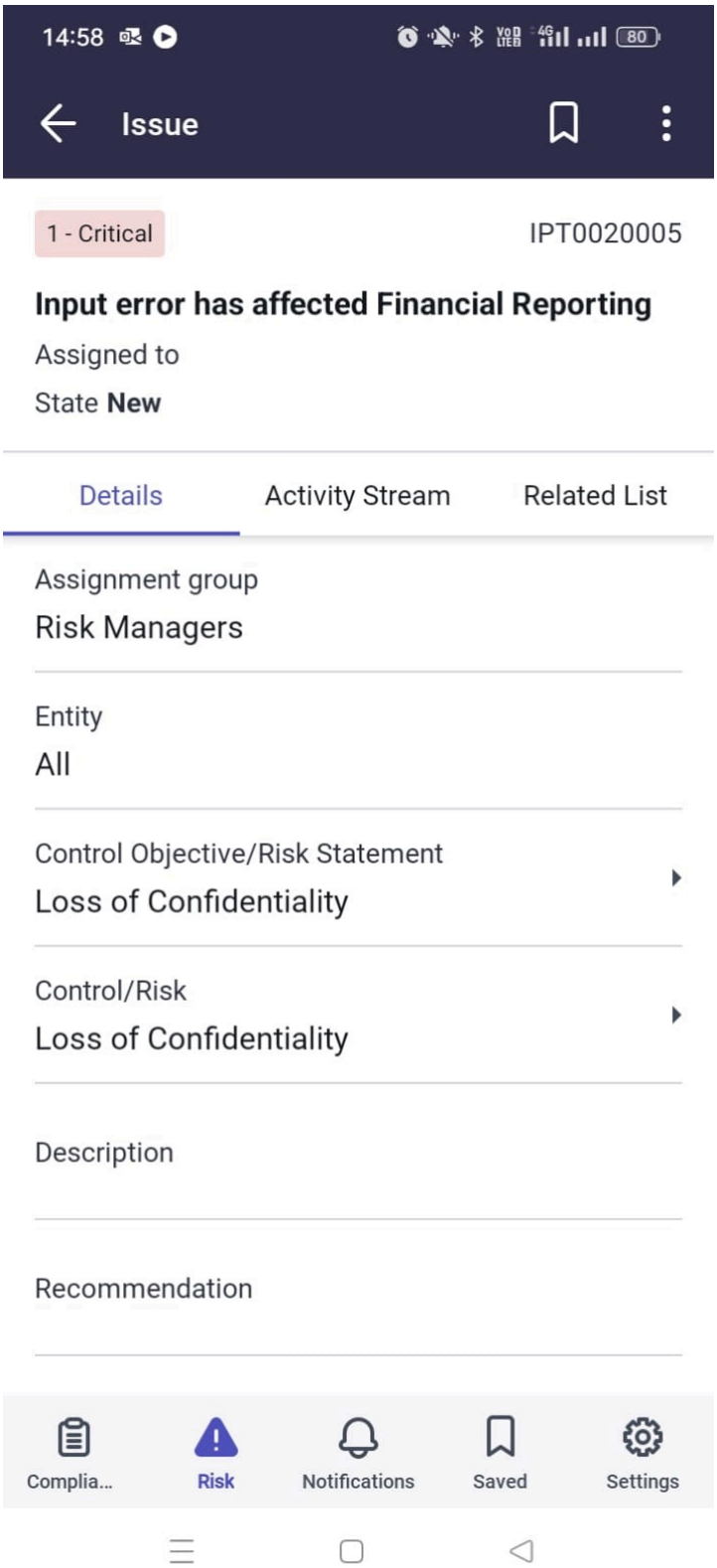


5. 表示されるメニューで、いずれかを選択して続行します。

6. または、[問題] 画面が表示されたら、リストでレコードをタップして開き、詳細を表示します。
7. 問題レコードのフィールドが表示されたら、テーブルでいずれかを選択して続行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



GRC モバイルアプリケーション でのレコードのフィルタリング

追加のフィルターを設定して、画面に表示されるレコードの数を制限します。モバイルアプリでのレコードのフィルタリングは、ServiceNow AI Platform で条件ビルダーを使用したフィルタリングと同様に機能します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
このタスクの所要時間：5 分

手順

1. 検索結果をさらに絞り込む場合、または表示されるレコードリストに追加のフィルター基準を入力する場合は、フィルターアイコン () をタップします。
2. [フィルター] 画面を表示した状態で、フィールドをタップして展開します。
3. 表示されるオプションから、チェックボックスをタップするか、フィルターのアイテムをタップします。
   フィルターの多くでは、複数のオプションを選択できます。
4. 戻るアイコン () をタップするか、[完了] をタップして、フィールドに加えた変更を保存します。
   選択した条件が [フィルター] 画面に表示されます。基準と一致するレコードの数も画面の上部に表示されます。[クリア] または [リセット] をタップして、すべてのフィルターを削除し、デフォルト設定に戻します。
5. オプション: フィルター条件の設定を続行するには、[フィルター] 画面で手順 1 ～ 4 を繰り返します。
6. すべての条件を設定した後、共通集合アイコンをタップして AND 条件を作成します )。
   または、和集合アイコン () をタップして、OR 条件を作成します。
7. 必要なすべての条件を追加したら、表示された [フィルター] 画面で [完了] をタップします。
   フィルター基準に一致するレコードのみが画面に表示されます。

次のタスク
詳細については、検索後に表示されるレコードを参照してください。

リスクイベントを使用

リスクイベントを報告し、ワークフローを監視して組織内の損失を防止します。

リスクイベント統合を設定

他のアップストリーム ServiceNow アプリケーションとのリスクイベント統合を構成します。この統合により、組織内のすべてのユーザーがリスクイベントを報告および追跡できるようになります。

始める前に
必要なロール：sn_risk.admin および user_admin

このタスクについて
別のアップストリームアプリケーションとのリスクイベント統合を構成すると、そのアプリケーションのユーザーはアプリケーションからリスクイベントを直接報告できます。たとえば、ServiceNow IT Service Management (ITSM) アプリケーションでリスクイベント統合を構成すると、 ITSM のすべてのユーザーが ITSM アプリケーションからリスクイベントを報告できます。デフォルトでは、この構成は IT Incidents アプリケーションと Security incidents アプリケーションに提供されます。

リスクイベントの作成を可能にする 2 つのモードは、[簡易] と [詳細]です。[簡易] モードでは、アプリケーションテーブルのフィルター条件を定義して、Incidents アプリケーションのユーザーがリスクイベントを報告できるようにすることができます。たとえば、影響度の高い財務イベントをリスクイベントとして報告する必要があると定義できます。対照的に、[詳細] モードでは、GRC 開発者ロールを持つユーザーがスクリプトを記述できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

incident_manager ロールを持つインシデントマネージャーは、インシデントの [リスクイベントを報告] オプションを表示できますが、sn_si.manager ロールを持つセキュリティマネージャーは、セキュリティインシデントの [リスクイベントを報告] オプションを表示できます。

手順

1. 移動先 リスクイベント > アドミニストレーション > 統合設定.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

リスクイベント統合構成フォーム

フィールド	説明
数値	構成番号。このフィールドは自動的に設定されます。
有効	アプリケーションテーブルからのリスクイベントの作成を有効にするオプション。
統合名	統合の簡潔な一意のタイトル。たとえば、インシデントテーブルからリスクイベントを報告するには、Incident-risk-event-integration と入力します。
アプリケーションテーブル	リスクイベントのレポートに使用されるアプリケーションテーブル。テーブルは、リスクイベントのレポートに使用されるアップストリームアプリケーションを決定します。
名前のソース	リスクイベントの名前の設定方法。選択肢は次のとおりです。 ○ [フォームフィールド]：選択した特定のフィールドの値をリスクイベント名として使用する場合は、このオプションを選択します。 ○ [デフォルト値]：カスタム値を入力します。リスクイベントは、ここに入力した名前で作成されます。
説明のソース	リスクイベントの説明の設定方法。
エンティティのソース	リスクイベントのエンティティの設定方法。
検出日のソース	リスクイベントの検出日の設定方法。
名前	リスクイベントの名前を設定するために使用されるアプリケーションテーブルのフィールド。このフィールドは、[名前のソース] フィールドから [フォームフィールド] が選択されている場合にのみ表示されます。
デフォルト名	リスクイベントのデフォルト名。このフィールドは、[名前のソース] フィールドから [デフォルト値] が選択されている場合にのみ表示されます。
説明	リスクイベントの説明を設定するために使用されるアプリケーションテーブルのフィールド。このフィールドは、[説明のソース] フィールドから [フォームフィールド]が選択されている場合にのみ表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
デフォルトの説明	リスクイベントのデフォルトの説明。このフィールドは、[説明のソース] フィールドから [デフォルト値]が選択されている場合にのみ表示されます。
エンティティ	GRC エンティティまたは GRC エンティティのレコードを参照するアプリケーションテーブルのフィールド。このフィールドは、[エンティティのソース] フィールドから [フォームフィールド]が選択されている場合にのみ表示されます。
デフォルトエンティティ	リスクイベントのデフォルトエンティティ。デフォルトエンティティは、[アプリケーションテーブル] フィールドのテーブルから作成されます。このフィールドは、[エンティティのソース] フィールドから [デフォルト値]が選択されている場合にのみ表示されます。
検出日	リスクイベントの検出日を設定するために使用されるアプリケーションテーブルのフィールド。このフィールドは、[検出日のソース] フィールドから [フォームフィールド]が選択されている場合にのみ表示されます。
デフォルトの検出日	リスクイベントのデフォルトの検出日。
デフォルトイベントタイプ	リスクイベントのデフォルトのイベントタイプ。たとえば、イベントが財務または財務以外である場合などです。
イベントサブタイプ	リスクイベントのサブタイプ。たとえば、イベントが実際のものであるか、潜在的なものであるかなどです。
非財務的影響度のソース	リスクイベントの財務以外の影響を設定する方法。
財務以外の影響	リスクイベントの財務以外の影響を設定するために使用されるアプリケーションテーブルのフィールド。このフィールドは、[非財務的影響度のソース] フィールドから [フォームフィールド]が選択されている場合にのみ表示されます。
デフォルトの非財務的影響度	リスクイベントのデフォルトの重大度。選択肢は、[低]、[中]、または [高]です。
予想損失のソース	リスクイベントの予想損失の設定方法。
予想損失	リスクイベントの予想損失を設定するために使用されるアプリケーションテーブルのフィールド。このフィールドは、[デフォルトのイベントタイプ] フィールドで [財務の影響] が選択され、[予想損失のソース] フィールドから [フォームフィールド] が選択されている場合にのみ表示されます。
デフォルトの予想損失	損失のデフォルト金額。このフィールドは、[デフォルトのイベントタイプ] フィールドで [財務の影響] が選択され、[予想損失のソース] フィールドから [デフォルト値] が選択されている場合にのみ表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
UI アクションの表示基準	
モード	UI アクションの作成に使用されるモード。選択肢は次のとおりです。 ○ [簡易]：簡易フィルター条件を設定するモード。たとえば、インシデントの影響度が [高] の場合、[リスクイベントを報告] UI アクションを作成する必要があります。 ○ [詳細]：[アプリケーションテーブル] フィールドのテーブルを含む、テーブルをクエリーするスクリプトを記述するモード。
ロールの条件	アップストリームアプリケーションからリスクイベントを報告できるロール。
フィルター条件	要件に従ってフィルターを作成します。
スクリプト	任意のテーブルをクエリーするためのカスタムスクリプトを記述するフィールド。 **注:** スクリプトを記述するオプションは、sn_grc.developer ロールも持つユーザーのみが使用できます。このフィールドは、[モード] フィールドで [詳細] を選択すると表示されます。

4. [送信] をクリックします。
タスクテーブルを拡張する他のアプリケーションテーブルで、この統合を設定できます。詳細については、Now Support ナレッジベースの記事「Risk Event Ingestion (リスクイベントの取り込み) [KB0780985]」を参照してください。記事を表示するにはログインする必要があります。

タスクの結果
リスクイベントを報告するように設定されたアプリケーションに [リスクイベントを作成] ボタンが表示されます。

リスクイベント応答テンプレートを作成

リスクイベント応答テンプレートで定義された条件に基づいて、承認者、問題、および所有者をリスクイベントに自動的に追加します。

始める前に
必要なロール：sn_risk.manager および sn_risk.admin

手順
1. 移動先 すべて > リスクイベント > アドミニストレーション > 応答テンプレート.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

リスクイベント応答テンプレートフォーム

フィールド	説明
番号	テンプレート番号。この番号は自動的に設定されます。
エンティティ	テンプレートが作成されるエンティティ。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
カテゴリ	発生した場合にリスクイベントが適用されるカテゴリ。カテゴリを編集して、次のいずれかのオプションを適用できます。 ○ [個人]：従業員に発生した物理的な損害など。 ○ [法務]：従業員が利益相反のビジネスを行っているなど。 ○ [情報セキュリティ]：盗難、強盗、システムクラッシュなど。 ○ [ヒューマンリソース **(HR)]**：従業員による他の従業員に対する機密性の高い訴訟など。 ○ [すべて]：報告されたすべてのリスクイベント。
承認ルール基準：	イベントの割り当て時に使用されるルール。 ○ 総損失 ○ 正味損失 ○ 予想損失 このフィールドは、[イベントタイプ] フィールドと [サブタイプ] フィールドの値に依存します。たとえば、イベントタイプが [財務] で、サブタイプが [実績] の場合、承認ルールは総損失、正味損失、または予想損失に基づきます。[サブタイプ] が [潜在] の場合、承認ルールはデフォルトで予想損失です。[イベントタイプ] が [財務以外の影響] の場合、承認ルールはデフォルトで [財務以外] です。
イベントタイプ	イベントタイプ。 ○ [財務の影響]：イベントに関連付けられている財務的損失があることを示します。金額を入力します。通貨を選択できます。 ○ [財務以外の影響]：イベントによる財務上の損失はありませんが、組織に財務以外の影響があることを示します。たとえば、財務以外の影響は、否定的な市場のニュースや従業員の士気低下である可能性があります。
サブタイプ	イベントサブタイプ。次のいずれかを選択します。 ○ 実績 ○ 潜在
イベント承認時に自動クローズ	承認後にイベントをクローズする必要があるかどうかを選択するオプション。このオプションを選択すると、問題と根本原因がクローズされた後にイベントがクローズされます。リスクイベントに未解決の問題またはタスクがある場合、リスクイベントは承認後もクローズされません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
通貨換算日	リスクイベントエントリの通貨換算日。影響日のみに依存して純損失を計算するのではなく、通貨換算の特定の日付を選択できます。オプションは次のとおりです。 ○ リスクイベントエントリ日 **(Risk event entry date)** ○ 最初の損失エントリ日 **(First loss entry date)** ○ 前回の損失エントリ日 **(Last loss entry date)** ○ 最初の復旧エントリ日 **(First recovery entry date)** ○ 前回の復旧エントリ日 **(Last recovery entry date)** ○ カスタム日付 **(Custom date)**

4. [リスクイベントオーナーのアサイン] セクションで、アサインタイプとオーナーまたは所有グループを選択します。
5. 問題を自動的に作成するには、[問題の作成とアサイン] セクションで [問題を自動的に作成] チェックボックスをオンにします。
6. [根本原因分析タスク] セクションで、フィールドに入力します。

リスクイベント応答テンプレートフォーム

フィールド	説明
RCA タスクを自動的に作成	根本原因分析 (RCA) のためのタスクの作成。[タスク作成のしきい値] フィールドに入力された数値に基づいて、根本原因分析 (RCA) タスクを自動的に作成します。
アサイン先	RCA タスクをアサインされた担当者。
タスク作成のしきい値	RCA タスクが作成されるしきい値を指定するオプション。たとえば、イベントが $1000 の損失を超えた後に RCA タスクを作成する必要があると指定できます。
優先度	イベントの優先度。次から選択します。 ○ 重大 ○ 高 ○ 中 ○ 低 ○ マイナー

7. [送信] を選択します。
新しいリスクイベント応答テンプレートが作成されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクイベント応答テンプレートのしきい値を定義

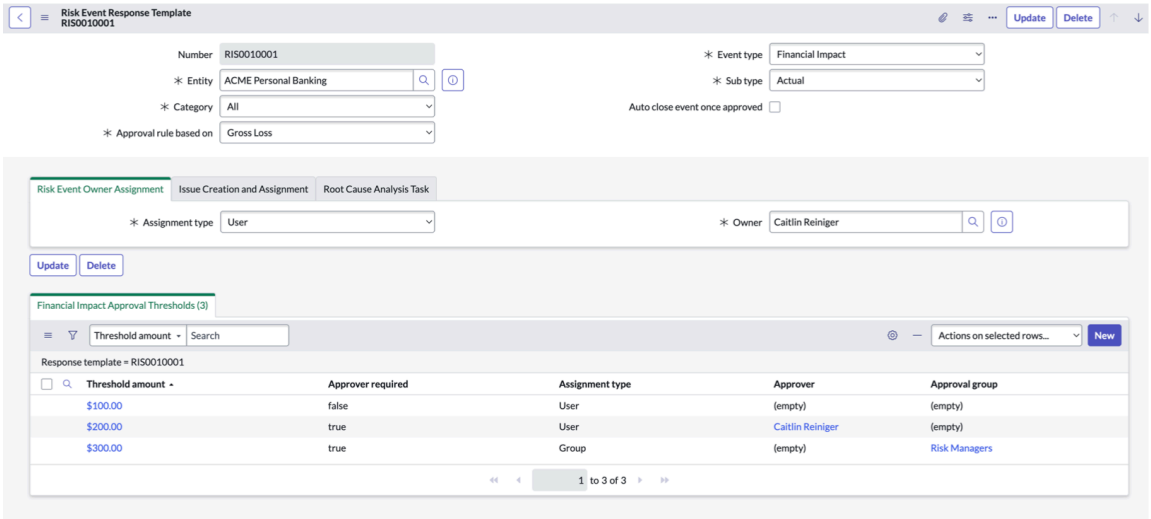
リスクイベント承認者をアサインするためのしきい値制限を定義します。しきい値制限は、リスクイベントに承認者が必要かどうかを決定するために定義されます。

始める前に

必要なロール：sn_risk.manager および sn_risk.admin

このタスクについて

リスク損失額に基づいて、リスクイベント損失に承認者が必要かどうかを決定できます。たとえば、損失が $1000 以下のリスクイベントの場合、承認者は必要ありません。ただし、$1000 を超える金額については、リスクイベントを評価する必要があり、承認者が自動的にアサインされます。定義されたしきい値に応じて、複数のレベルの承認があります。詳細については、次の画像を参照してください。



この例では、次のルールが適用されます。

- 損失が $0 ～ $100 の場合、承認は必要ありません。
- 損失が $101 ～ $200 の場合は承認が必要であり、承認は Caitlin に送信されます。
- 損失が $201 を超える場合は、Caitlin とリスクマネージャーの両方からの承認が必要です。

手順

1. 移動先 すべて > リスクイベント > アドミニストレーション > 応答テンプレート.
2. 財務しきい値制限を追加するリスクイベント応答テンプレートを選択して開きます。
3. [財務的影響度の承認しきい値] 関連リストで、[新規] をクリックします。
4. [しきい値] リストから通貨タイプを選択し、承認が必要な金額を入力します。
5. [承認者が必要] チェックボックスをオンにします。
6. [アサインタイプ] リストから、[ユーザー] または [グループ] を選択します。
7. [承認者] フィールドで、しきい値の金額を超えた場合にリスクイベントを承認する承認者を選択します。
8. [送信] をクリックします。

タスクの結果

応答テンプレートがしきい値制限と承認者の詳細で更新されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サービスポータル からリスクイベントを報告

組織に財務的または非財務的な影響を与える可能性のあるイベントを特定した場合は、ServiceNow, Inc. サービスポータル から報告します。既に発生した、財務的または非財務的影響のあるイベントを報告することもできます。

始める前に
必要なロール：ServiceNow ユーザー

このタスクについて
次のいずれかのイベントタイプでリスクイベントを記録できます。

- 財務の影響があるリスクイベント
- 財務以外の影響があるリスクイベント

手順

1. サービスポータルで、 カタログ > カテゴリ別参照.
2. [ガバナンス、リスク、コンプライアンス] をクリックし、[リスクイベントを報告] をクリックします。
3. フォームで、次のフィールドを入力します。

リスクイベントを報告

フィールド	説明
タイトル	報告されたリスクイベントのタイトルを入力します。
説明	報告されたリスクイベントの説明を入力します。
自分のエンティティのみを表示	選択すると、自分が所有するエンティティのみが表示されます。この値は、[エンティティ] フォームの [オーナー] フィールドから取得されます。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
イベントが発生したエンティティ	損失を負担または報告するエンティティを選択します。リストからエンティティを 1 つのみ選択します。
影響を受けるその他のエンティティ	イベントの影響を受ける他の関連エンティティを選択します。 **注:** 複数のエンティティを選択できます。
イベントタイプ	次のいずれかを選択します。 ○ 財務の影響 - イベントに関連する財務的損失があることを示します。現地通貨で金額を入力します。 ○ 財務以外の影響 - イベントによる財務上の損失はありませんが、組織に財務以外の影響があることを示します。たとえば、財務以外の影響は、否定的な市場のニュースや従業員の士気低下である可能性があります。
通貨	損失の通貨を選択します。このフィールドは、イベントタイプが [財務] の場合にのみ表示されます。
検出日	リスクイベントが検出された日付を選択します。
イベントはどのようにして	イベントが検出された方法を選択します。たとえば、リスクイベントが顧客によって報告された場合は、[顧客フィードバック/苦情] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
検出されましたか	
根本原因	イベントの原因の分析を入力します。たとえば、サーバールームで火災が発生した場合、根本原因は温度の上昇または電気的ショートである可能性があります。
実行されたアクション	このリスクイベントの影響を軽減するために行った内容を入力します。たとえば、サーバールームの火災が電気的ショートによって発生した場合、実行されるアクションは欠陥のある機器の交換です。

4. [**Submit** (送信)] を選択します。
5. 報告したすべてのリスクイベントを表示するには、次に移動します: **GRC >** 自分のリスクイベント.

タスクの結果

システムでリスクイベントが作成され、リスクマネージャーが分析する準備ができました。イベントに対してアクションが実行されると、ステータスに関する通知が送信されます。クエリに応答したり、ライフサイクル中にイベントの状況を追跡したりすることができます。

従業員センター からリスクイベントを報告

組織に財務的または非財務的な影響を与える可能性のあるイベントを特定した場合は、ServiceNow, Inc. 従業員センター から報告します。既に発生した、財務的または非財務的影響のあるイベントを報告することもできます。

始める前に

必要なロール：sn_grc.business_user、または sn_grc.business_user_lite

手順

1. 移動先 すべて > セルフサービス > 従業員センター.
2. **[Risk & Compliance** (リスクとコンプライアンス)] を選択します。
3. [リスクイベントを報告] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

リスクイベント報告フォーム

フィールド	説明
イベントは何ですか？	イベントの簡潔な説明。
何が起こったのか詳細に説明してください	イベントの詳細な説明。
自分のエンティティのみを表示	選択すると、自分が所有するエンティティのみが表示されます。この値は、[エンティティ] フォームの [オーナー] フィールドから取得されます。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
このイベントの影響を受けるエンティティ	損失を負担または報告するエンティティ。
影響を受けるその他のエンティティ	イベントの影響を受ける他の関連エンティティを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: 複数のエンティティを選択できます。
このイベントはどのような影響がありますか？	影響のタイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ 財務の影響 - イベントに関連する財務的損失があることを示します。 ○ 財務以外の影響 - イベントによる財務上の損失はありませんが、組織に財務以外の影響があることを示します。たとえば、財務以外の影響は、否定的な市場のニュースや従業員の士気低下である可能性があります。
通貨	損失の通貨。このフィールドは、イベントタイプが [財務の影響] に設定されている場合にのみ表示されます。
このイベントはどの程度の財務的損失をもたらす可能性がありますか？	イベントによる損失額。このフィールドは、イベントタイプが [財務の影響] に設定されている場合にのみ表示されます。
このイベントの非財務的影響度をどのように評価しますか？	イベントの非金銭的影響。選択肢は次のとおりです。 ○ 低 ○ 中 ○ 高
いつこのイベントを検出しましたか？	イベントが検出された日付。
イベントはどのようにして検出されましたか？	イベントが検出された方法。たとえば、リスクイベントが顧客によって報告された場合は、[顧客フィードバック/苦情] を選択します。
このイベントの原因は何だと思いますか？	イベントの原因の分析を入力します。たとえば、サーバールームで火災が発生した場合、根本原因は温度の上昇または電気的ショートである可能性があります。
このイベントを封じ込めるために、これまでにどのようなアクションが取られましたか？	このリスクイベントの影響を軽減するために実行するアクションを入力します。たとえば、サーバールームの火災が電気的ショートによって発生した場合、実行されるアクションは欠陥のある機器の交換です。

5. [送信] を選択します。

タスクの結果
リスクイベントがレビューのために送信されます。

インシデントからリスクイベントを報告

リスクイベント統合が構成されている場合、ユーザーは IT インシデントなどのアップストリームアプリケーションからリスクイベントを報告できます。リスクイベントを報告するこの機能により、ユーザーの時間を節約し、組織の損失を防ぐことができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：sn_risk.user

手順

1. 移動先 すべて > インシデント > すべて.
2. リスクイベントを報告するインシデントを開きます。
3. [リスクイベントを報告] を選択します。

   インシデントレコードの [リスクイベントを報告 **(Report Risk Event)]** ボタンが使用できるかどうかは、リスクイベント統合構成レコードで指定されたフィルター条件によって決まります。詳細については、「リスクイベント統合を設定」を参照してください。

4. フォームのフィールドに入力します。

   リスクイベント報告フォーム

フィールド	説明
名前	インシデントの名前。
検出日	インシデントが作成された日付。
エンティティ	インシデントが属するエンティティ。
イベントタイプ	イベントのタイプ。以下から選択可能です。 ○ 財務の影響 ○ 非財務的影響
通貨	損失額の報告通貨。このフィールドは、[イベントタイプ] で [財務の影響] が選択されている場合に表示されます。
予想損失	予想される金銭的損失額。このフィールドは、[イベントタイプ] で [財務の影響] が選択されている場合に表示されます。
非財務的影響	インシデントの影響度。以下から選択可能です。 ○ 低 ○ 中程度 ○ 高
説明	インシデントの簡単な説明。

5. [送信] を選択します。

タスクの結果
リスクイベントが作成されます。

リスクイベントタスクを作成

リスクイベントには関連付けられているタスクが必要な場合があります。これらのタスクを作成して最終的にクローズしない限り、リスクイベントはクローズできません。

始める前に
必要なロール：sn_risk.manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > リスクイベント > すべてのイベント.
2. タスクを作成する必要があるレコードを選択します。
3. [タスク] 関連リストを選択し、[新規] を選択します。
4. フォームの各フィールドに入力します。

リスクイベントタスクフォーム

フィールド	説明
アサイン先	タスクをアサインされた担当者。
優先度	タスクに付与された重要度。タスクまたはアサインをどの程度遅延させることができるかを示します。
簡単な説明	タスクの短い説明。
説明	タスクの詳細な説明。
作業メモ	参照用の関連情報。
追加コメント	必要になる可能性がある追加情報。

5. [送信] を選択します。

次のタスク
リスクイベントの関連付けられている問題をレビューするか、承認中に新しい問題を作成します。詳細については、「GRC の問題を手動で作成する」を参照してください。

リスクイベントを分析

ユーザーが送信したリスクイベントを分析して、リスクイベントが有効であり、さらに処理する必要があるかどうかを判断します。

始める前に
必要なロール：sn_risk.manager

このタスクについて
リスクイベントを分析するときは、送信されるリスクイベントにより関連性の高い詳細を追加します。分析中に、リスクイベントが実際のリスクイベントでないように思える場合はイベントを却下するか、情報が不十分な場合はより多くの情報を要求できます。

手順

1. 移動先 すべて > リスクイベント > すべてのイベント をクリックし、分析するリスクイベントを開きます。
   または、 リスクイベント > 新しいイベント.
2. フォームで、フィールドを確認し、必要に応じて編集します。

リスクイベントフォーム

フィールド	説明
名前	リスクイベントの名前。必要に応じてリスクの名前を編集して、よりわかりやすい名前を指定します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
番号	リスクイベントの番号。このフィールドは自動的に設定されます。
検出者	リスクイベントを検出したユーザー。必要に応じて [検出者] フィールドを編集します。
開始者	イベントを作成したユーザー。
主エンティティ	損失を負担するエンティティ。このエンティティは、レポートのためにアドミニストレーターに表示されます。
所有グループ	クローズするイベントの監視を担当するグループ。
所有者	リスクイベントを所有するユーザー。リスクマネージャーはイベントオーナーになることができます。所有グループが指定されている場合、所有者は所有グループからフィルタリングされます。
状況	リスクイベントの状況。このフィールドは自動的に設定されます。
サブステート	イベントのサブステート。このフィールドは自動的に設定されます。
イベントタイプ	イベントのタイプ。必要に応じて、イベントタイプを編集できます。たとえば、分析中にイベントタイプが財務の影響でないことが判明した場合は、そのエントリを編集できます。
サブタイプ	イベントサブタイプ。必要に応じて、サブタイプを編集できます。たとえば、分析中にイベントタイプが実際のイベントでなく、潜在的なイベントであることが判明した場合は、そのエントリを編集できます。
カテゴリ	イベントカテゴリ。カテゴリを編集して、次のいずれかのオプションを適用できます。 ○ [個人]：従業員に発生した物理的な損害など。 ○ [法務]：従業員が利益相反のビジネスを行っていることがわかった場合など。 ○ [情報セキュリティ]：盗難、強盗、システムクラッシュなど。 ○ [人事]：従業員による他の従業員に対する機密性の高い訴訟など。
承認者	リスクイベントを承認するユーザー。sn_risk.user ロールを持つすべてのユーザーがリスクイベントを承認できます。
コストセンター	エンティティに対応するアカウント番号。
説明	このフィールドのイベントの詳細な説明。
日付	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
発生日	イベントが発生した正確な日、月、年。たとえば、2019 年 8 月 12 日に建築規制に準拠していない不動産物件に対して住宅ローンが貸与されました。
検出日	イベントが最初に検出または通知された日付。たとえば、住宅ローンが 2019 年 8 月 24 日に検出されました。
最初の認識日	イベントが最初に認識され、帳簿に入力された日付。たとえば、2019 年 8 月 26 日に損失エントリが会社の帳簿に入力されました。
損失/利益の推定	
予想損失	予想される損失額。予想損失は、考えられるすべての損失の確率加重平均です。この金額は、組織が失う可能性のある予想金額のユーザーの判断に基づきます。
潜在的な損失	リスクイベントによる潜在的な損失であると予想される金額。この金額は、リスクイベントの損失によってエンティティが被る可能性のある最大損失です。
イベント分析	
原因	リスクイベントが発生した主な理由。
原因の説明	リスクイベントが発生した理由に関する簡潔な説明。
結果	リスクイベントの結果。例：リスクイベントの結果として規制上の罰金が課せられる可能性があります。
実行されたアクション	問題に対処するために実行された修復アクション。これはイベントの最初のレコードです。
クレジット/市場リスク	
境界イベント	境界イベントのオプション。境界イベントは、別のリスクカテゴリの財務的損失などの結果につながるオペレーショナルリスクイベントです。
外部リスクタイプ	○ [クレジット]：クレジットリスクとは、借り手がローンの返済や契約上の義務を履行しないことによって生じる損失の可能性です。たとえば、貸し手がクレジットカードやローンを提供している場合、借り手がローンを返済しない可能性があります。 ○ [市場]：市場リスクは、投資家が関与する金融市場のパフォーマンスに影響を与える要素によって投資家が損失を被る可能性です。たとえば、景気後退は市場全体に影響を与える可能性があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
外部リスク参照	帳簿内の調整用の ID。調整用の ID を指定します。クレジットと市場のリスクシステムは異なります。
追加の分類	
モデリングで使用	これらのリスクイベントレコードを、モンテカルロシミュレーションなどのシミュレーション技術を使用して高度な分析を実行する外部システムと共有するオプション。
完全な高速復旧	回復した合計損失。全体的な損失が短期間で回復し、組織に影響を与えない場合に選択します。 **注:** 一般に、短い期間は 5 営業日を指しますが、この値は要件に応じて設定できます。
財務利益	このオプションは、リスクイベントが次のいずれかの条件を満たす場合に自動的に選択されます。 ○ リスクイベントが潜在的なイベントであり、利益のために [予想損失] フィールドまたは [潜在的な損失] フィールドが負の値になっている。 ○ リスクイベントが実際のイベントであり、[正味損失] フィールドが負の値である。
ニアミス	このオプションは、変更することも、イベントタイプに基づいて自動的に設定することもできます。イベントサブタイプが [実績] で、[完全な高速復旧] オプションが選択されている場合、[ニアミス] オプションが自動的に選択されます。
ニアミスの理由	リスクイベントで損失が発生するのを防止した理由。イベントタイプが [潜在] の場合は、[ニアミス] オプションを選択し、[ニアミスの理由] フィールドに、イベントがニアミスであった理由を入力します
機密性	
注: このセクションは、次の場合にのみ表示されます。 ○ GRC プロパティの下で *sn_grc.enable_record_confidentiality* プロパティが有効になっている。 ○ リスクイベントが [新規] または [分析] ステータスである。	
機密	リスクイベントレコードを機密としてマークするオプション。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
許可されたユーザー	リスクイベントを表示できるユーザー。 注: デフォルトで、リスクイベントオーナーとログインしているユーザーは機密ユーザーのリストに追加されます。
許可されたグループ	リスクイベントを表示できるグループ。
サマリー	
このセクションの値がどのように表示されるかについては、このステップの後にある例を参照してください。	
直接金額	すべての直接的な損失の集計された合計。このフィールドは自動的に設定されます。
追加コスト	すべての追加コストの集計された合計。このフィールドは自動的に設定されます。
総損失	すべての直接的損失、間接的金額、および追加コストの合計。このフィールドは自動的に設定されます。
正味損失	損失の正味金額。このフィールドは自動的に設定されます。
間接金額	すべての間接的な損失の集計された合計。このフィールドは自動的に設定されます。
迅速な回収金額	迅速に回収された金額の集計。このフィールドは自動的に設定されます。
回収金額	リスクイベントの回収金額。このフィールドは自動的に設定されます。
非財務的影響	金銭的損失がない場合のイベントの影響度。選択肢は次のとおりです。 ○ なし ○ 低 ○ 中 ○ 高
アクティビティ	
追加コメント	リスクイベントに関する追加コメントを入力します。
作業メモ	参照用の作業メモを提供するオプション。作業メモはリスクイベント作成者には表示されません。

Example

[サマリー] セクションの値は、[イベントの影響度 (Event Impacts)] 関連リストで計算されます。たとえば、会社で火災が発生したとします。このイベントは、情報やビジネスの損失など、複数の直接的および間接的な影響を与える可能性があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

直接影響度の値を **$2000** と入力すると、[直接金額] フィールドに同じ値が反映されます。2 つの間接金額を入力し、それぞれの値が **$300** と **$500** の場合、[間接金額] フィールドには **$800** が反映されます。

火災発生の根本原因に対処するために外部機関に仕事を依頼した場合、発生するコストには追加コストが反映されます。

会社が 5 営業日でイベントの費用の一部を回収できた場合、[迅速な回収金額] フィールドには同じ金額が反映されます。

[総損失] フィールドには、イベントによって発生した合計損失が反映されます。

通貨換算レートは、[サマリー] 関連リストに表示される値に影響します。たとえば、回収金額として日本円の **300** 円を入力すると、[サマリー] 関連リストにはこの金額の米ドルの同時実行額である **2756** が表示されます。この変換は、通貨換算レートが為替レートテーブルから適用されるために発生します。為替レートテーブルの値の計算方法の詳細については、「独自の通貨換算レートを使用する」を参照してください。

3. 承認のためにリスクイベントを送信するには、[承認を要求] をクリックします。

リスクイベントを作成

リスクイベントエントリを作成して、リスクイベントの金銭的または金銭以外の影響を判断します。リスクイベントには複数のリスクイベントエントリを含めることができます。

始める前に
必要なロール：sn_risk.manager

このタスクについて
リスクイベントエントリは、リスクイベントのために報告された直接的および間接的な損失をキャプチャします。

手順

1. 移動先 すべて > リスクイベント > すべてのイベント.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームで、フィールドに入力します。

リスクイベントフォーム

フィールド	説明
名前	リスクイベントの一意の名前。例:顧客データへの無許可のアクセス
番号	イベントエントリーのレコード番号。このフィールド値は自動的に設定されます。
検出者	個人またはグループがリスクイベントを特定しました。
作成者	
プライマリエンティティ	
所有グループ	
所有者	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
状況	
サブステート	
リスクイベント	リスクイベントのタイトル。このフィールド値は自動的に設定されます。
影響の日付	影響が記録された日付。 **注:** 検出日と最初の認識日は異なる場合があります。この日付を将来の日付にすることはできません。
総計	影響により発生する金額。入力した金額は [サマリー] 関連リストに反映されます。
迅速な復旧	短時間 (通常は 5 営業日) で復旧した場合のこのエントリの損失額。
影響タイプ	イベントの財務の影響のタイプ。次のタイプから選択します。 ○ [直接的/間接的な影響]：エンティティに対するイベントの直接的または間接的な財務の影響。 ○ [復旧]：合計財務的影響から回収される金額。 ○ [追加コスト]：影響のために発生した追加コスト。 ○ [財務以外の影響]：イベントによる財務への影響はありません。
カテゴリ	[直接] または [間接]。たとえば、影響が直接的である場合、その影響は外部のものであるかなどです。
サブカテゴリ	イベントの影響度のサブカテゴリ。次のいずれかのカテゴリを選択できます。 ○ [外部コスト]：外部機関に発生するコスト。たとえば、誤った会計が原因で損失が発生し、イベントを評価するために外部監査人が雇用された場合、監査人の採用で発生するコストは外部コストです。 ○ [総勘定元帳]：このイベントが入力されるアカウントの帳簿。 ○ [予約済みプロビジョン]：将来のイベントをカバーするためにアカウントで確保している金額を表します。たとえば、会社が将来発生する可能性のあるリスクイベントをカバーする金額を確保している場合などです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ [収益の反転/タイミングの損失]：収益を取り消すと、元のエントリを取り消すエントリが作成されます。システムに新しい会計情報を入力しないでください。
GL アカウント参照	ERP システムでこのエントリがキャプチャされるアカウント番号。
簡単な説明	影響の簡潔な説明。

4. **[Submit** (送信)] を選択します。

次のタスク

新しいリスクを作成または編集する

イベントの新しいリスクを作成または編集すると、将来的なリスクの予測に役立ちます。リスクから取得された情報は、採点とレポートに役立ちます。詳細については、「リスクを手動で作成」を参照してください。

新しいコントロールをリスクにリンク

コントロールは、リスクの発生を防ぐために使用されます。コントロールをリスクにリンクすることで、ユーザーはどのコントロールが失敗したか、およびリスクイベントが発生した理由を把握することができます。この情報は、将来の予測とレポートに使用できます。

注:
影響を受けるエンティティにタグ付けされたリスクとコントロールのみをこのリスクイベントに関連付けることができます。

詳細については、「コントロールを作成」を参照してください。

リスクイベントを承認

sn_risk.manager ロールを持つユーザーは、有効なリスクイベントを承認する必要があります。リスク承認者がイベントを却下すると、リスクイベントの状況が [却下] に変更されます。

始める前に
必要なロール：sn_risk.manager

手順

1. 移動先 すべて > 自分の承認.
2. リスト内で、自分の名前が承認者になっているレコードをクリックします。
3. [承認] をクリックします。

リスクイベントをクローズ

リスクイベントをクローズして、リスクイベントのライフサイクルを完了します。sn_risk.manager ロールを持つユーザーは、関連付けられているすべての未解決の問題と修復タスクがクローズされたことを確認した後、リスクイベントをクローズする必要があります。

始める前に
必要なロール：sn_risk.manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > リスクイベント > 自分にアサイン済み.
2. クローズするレコードを開き、関連付けられているすべてのタスクと問題がクローズされているかどうかを確認します。
3. [クローズ] をクリックします。

クローズ済みリスクイベントの再オープン

クローズ済みリスクイベントを再オープンして、別のリスクイベントを作成する代わりに既存のリスクイベントを更新して、見落とされているリスクまたは過小評価されているリスクを特定して対処します。

始める前に
必要なロール：sn_risk_advanced.risk_event_admin

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース.
2. リストアイコン を選択してクローズ済みリスクイベントに移動します。
3. 再オープンするリスクイベントを開きます。
4. [再オープン **(Reopen)]** を選択します。
5. 理由を選択し、**[** 追加コメント] フィールドに理由を入力します。
6. [確認] を選択します。
   リスクイベントが [分析] ステータスに移行します。

クラシック **UI** でのリスクイベントサマリーの生成

IRM 向け Now Assist アプリケーションを使用してリスクイベントサマリーを生成します。承認者は、コンテキストをすばやく理解するための重要なインサイトを得て、手動でのサマリーの作成にかかる時間を削減します。

始める前に
IRM 向け Now Assistアプリケーションをインストールして、リスクイベントのサマリーを生成します。詳細については、「統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assist」を参照してください。

Now Assist アドミンコンソールからリスクイベントの要約スキルをアクティブ化して、リスクイベントのサマリーを生成します。詳細については、「での Now Assist スキルのアクティブ化 統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assist」を参照してください。

必要なロール:sn_grc_risk_genai.risk_event_user

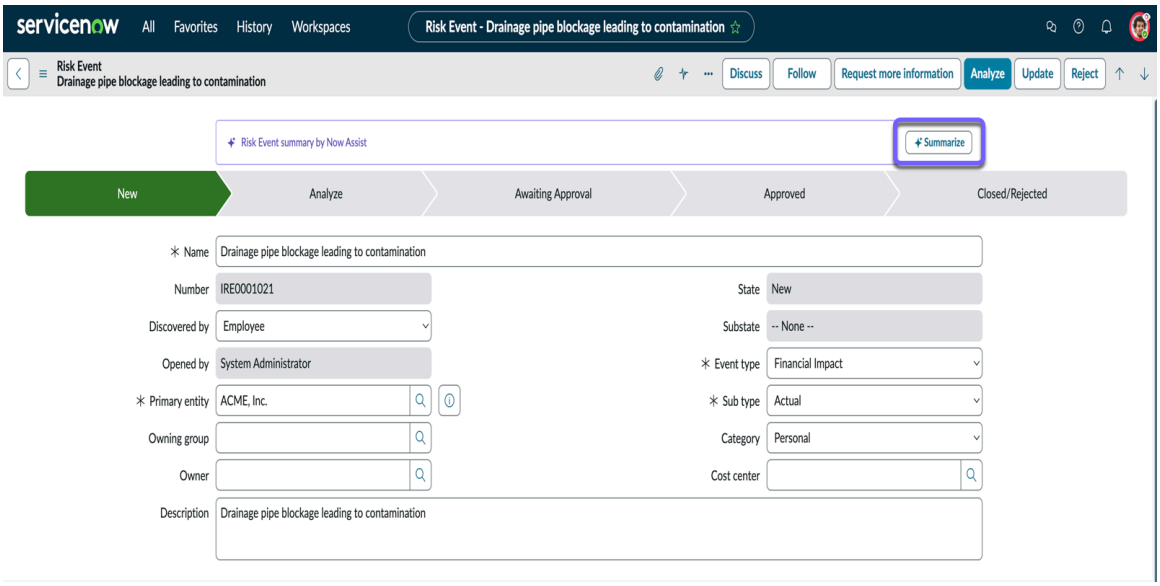
このタスクについて
リスクイベントの要約機能を使用すると、複数のコーディネーターが長期間にわたって関与している場合でも、リスクマネージャーはリスクイベントのコンテキストと重要な詳細をすばやく理解できます。新しいアサイニーのオンボーディングを簡素化し、AI で生成された各イベントの簡潔な要約を提供することで、特にマルチレベルの承認ワークフローにおいて、承認者の効率的な意思決定をサポートします。

手順

1. 移動先 すべて > リスクイベント > すべてのイベント.
2. リスクイベントサマリーを作成するリスクイベントを開きます。
3. [要約] を選択して、リスクイベントレコードページからリスクイベントサマリーを生成します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



要約が生成されます。参照やレポートの目的で編集して保存できます。

4. 生成されたサマリーを編集して保存するには、次の手順を実行します。

   a. リスクイベントが [新規] または [分析] ステータスの場合は、[サマリーに共有] を選択します。

   b. 必要な編集を行い、[サマリーに保存] を選択します。

   c. 他のすべてのリスクイベント状況については、[作業メモに共有] を選択します。

   d. 必要な編集を行い、[作業メモに保存] を選択します。
   サマリーは、リスクイベントが [新規] または [分析] ステータスの場合は [サマリー] フィールドに保存され、他のすべてのステータスの場合は [作業メモ] に保存されます。

リスクイベント原因を原因ライブラリに追加

原因ライブラリは、リスクイベントにつながる可能性のある原因の一元化されたライブラリです。原因を追加すると、リスクイベントの理由を特定し、将来のイベントを防ぐことができます。

始める前に
必要なロール：sn_risk.manager および sn_risk.admin

このタスクについて
リスクイベント原因を原因ライブラリに追加して、リスク分析、リスク予測、およびリスク防止に役立てます。

手順

1. 移動先 すべて > リスクイベント > アドミニストレーション > 原因.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

原因フォーム

フィールド	説明
名前	原因の名前。たとえば、不適切な IT セキュリティなどです。
親	原因の親。親は、原因が分類されるグループを参照します。たとえば、不適切な IT セキュリティの場合、親原因はプロセスになります。
説明	原因の簡単な説明。

4. [送信] をクリックします。

タスクの結果
リスクイベントの原因がライブラリに追加されます。

関連情報

リスクイベントの結果を結果ライブラリに追加する

リスクイベントの結果を結果ライブラリに追加する

結果ライブラリは、リスクイベントの考えられる結果の一元化されたライブラリです。

始める前に
必要なロール：sn_risk.manager および sn_risk.admin

このタスクについて
リスクイベントの結果を結果ライブラリに追加すると、リスク分析、リスク予測、およびリスク防止に役立ちます。

手順

1. 移動先 すべて > リスクイベント > アドミニストレーション > 結果.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

結果フォーム

フィールド	説明
名前	結果名。たとえば、資産の損失 です。
親	結果の親。親は、結果が分類されるグループを参照します。たとえば、資産の損失の場合、親結果は物理資産に対する損害になります。
説明	結果の簡単な説明。

4. [送信] をクリックします。

タスクの結果
リスクイベントの結果がライブラリに追加されます。

関連情報

リスクイベント原因を原因ライブラリに追加

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクイベントを報告する GRC 仮想エージェントを設定

仮想エージェントチャットボットを使用して、サービスポータル からリスクイベントを報告します。仮想エージェントチャットボットは、顧客がリスクイベントを迅速に報告するのに役立ちます。チャットボットは時間を節約することで顧客を支援します。会話の流れ (ユーザー入力とチャットボット応答) の中で情報を交換することにより、チャットボットはユーザー要求を実行したり、ユーザーによるタスクの完了を支援したりできます。

始める前に

GRC 仮想エージェント を設定するには、次のプラグインをアクティブ化する必要があります。

- 有効なライセンスでアクティブ化された Glide 仮想エージェント (com.glide.cs.chatbot)。
- GRC 高度なリスク。

必要なロール：sn_risk.admin

手順

1. 移動先 すべて > サービスポータル > **Service Portal** の構成.
2. [ページ編集者] をクリックします。
3. 検索フィールドに `Index` と入力します。
4. [サービスポータルインデックス] をクリックします。
5. ページの上部で、[デザイナーのサービスポータル (インデックス) ページを編集 **(Edit Service Portal (index) page in Designer)]** をクリックします。
6. [フィルターウィジェット] 検索フィールドに「`仮想エージェントサービスポータルウィジェット`」と入力し、ウィジェットをドラッグして画面上の任意の場所にドロップします。

   画面の右下にチャットアイコンが表示されます。

高度なリスクアセスメントを実行

ServiceNow® ガバナンス、リスク、コンプライアンス (GRC) 高度なリスクアセスメント機能を使用して統合リスクプラットフォームを作成します。

アセスメントの実行と承認に必要なロールを確認するには、「高度なリスクアセスメントを実行するためのロール」を参照してください。

手動要素を作成

リスクアセスメントインスタンスでリスクを評価するための手動要素を作成します。

始める前に

必要なロール：sn_risk.admin

このタスクについて

手動要素には、人間の応答が必要です。手動要素を作成し、固有のアセスメント、コントロールアセスメント、または残存アセスメントなどのさまざまなアセスメントタイプに関連付けることができます。

> **注:**
> リスクアセスメント方法論 (RAM) が要素に関連付けられていない場合にのみ、要素を削除できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > 高度なリスクアセスメント > アドミニストレーション > 手動要素.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

手動要素フォーム

フィールド	説明
名前	風評の影響などの要素の名前。
状況	要素のステータス。このフィールドは自動的に [ドラフト] に設定されます。
要素の貢献度	要素の貢献度のタイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ [定性的]：数値スコアを入力し、スコアを評価に変換します。 ○ [定量的]：発生する可能性のある損失を金額で示します。この損失は、年間損失予測 (ALE) に寄与します。 ○ [両方]：アセスメントタイプは定性的および定量的の両方です。
表示順序	アセスメントフォームにおける質問の順番。このフィールドでは、質問が表示される特定の順序を設定できます。
ユーザー応答	ユーザーが要素に応答するためのオプション。選択肢は次のとおりです。 ○ [選択肢]：ユーザーは、それぞれのスコアとともに低、中、高などの選択肢を作成できます。 **注:** このオプションを選択すると、[選択肢] 関連リストが表示されます。フォームを保存して [選択肢] 関連リストを表示します。 ○ [番号]：ユーザーは要素に応じて番号を入力できます。 ○ [テキスト]：ユーザーは要素に応じてテキストを入力できます。このオプションはスコアに寄与せず、ガイダンスまたはデータ収集方法として使用されます。 ○ [通貨]：ユーザーは要素に応じて通貨を入力できます。 ○ [パーセンテージ]：ユーザーは要素に応じてパーセンテージを入力できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
コントロールタイプ	リスクアセスメントフォームの要素選択肢のレイアウトを変更するオプション。選択肢は次のとおりです。 ○ ラジオ：ラジオボタンに係数の選択肢を表示します。 ○ ドロップダウン：ドロップダウンリストに要素の選択肢を表示します。 このフィールドは、[ユーザー応答] フィールドで [選択] が選択されている場合にのみ表示されます。
コントロールレイアウト	要素の選択肢を垂直レイアウトまたは水平レイアウトで表示するオプション。 このフィールドは、[コントロールタイプ] フィールドで [ラジオ] が選択されている場合にのみ表示されます。
定性的スコアを変換	間隔スケールに基づいてグループ全体の定性的スコアを変換するオプション。 たとえば、[ユーザー応答] フィールドが [パーセンテージ] に設定されているとします。アドミニストレーターは、0% ～ 30% が低、30% ～ 60% が中、60% 以上が高のように、パーセンテージ値を定性的スコアに変換できます。この場合、評価 1、2、3 を低、中、高に割り当てることができます。 このフィールドは、[要素の貢献度] フィールドで [定性的] を選択した場合にのみ表示されます。
定性的重み付け (%)	要素に与えられる貢献度または定性的な重み付けを採点します。この値は、この要素の最終スコアに対する実際の貢献度を決定します。この値はパーセンテージです。このフィールドは、[要素の貢献度] フィールドで [定性的] を選択した場合にのみ表示されます。
必須の応答	応答を必須にするためのオプション。
説明	要素の目的と使用場所に関する簡潔な説明。この説明は、アドミニストレーターが要素を理解するためのものです。
ガイダンステキスト	要素への応答方法に関するガイダンス。リスク査定人が要素の質問を理解していない場合、このフィールドが質問の説明に役立ちます。たとえば、高い価値の資産を失うことの財務への影響に関する質問を査定人が理解したい場合、査定人はこのフィールドからガイダンスを得ることができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [保存] をクリックします。
5. [定性的変換基準] 関連リストをクリックします。

   注:
   この関連リストは、[定性的スコアを変換] オプションを選択した場合にのみ表示されます。

6. フォームのフィールドに入力します。

定性的変換基準フォーム

フィールド	説明
範囲の下限	値の範囲の下限である値。たとえば、0 ～ 30 % の最初の範囲の下限は 0 です。31 ～ 60 % の 2 番目の範囲の下限は 31 です。
スコア	値が [範囲の下限] フィールドで定義された範囲内にある場合にスコアとして使用する必要がある値。たとえば、下限が 0 の場合、スコアは 1 になります。下限が 31 の場合、スコアは 2 になります。

7. [送信] をクリックします。
8. 作成した要素を開きます。
9. [公開] をクリックします。

タスクの結果
要素が公開され、リスクアセスメント方法で使用できるようになります。

グループ要素を作成

リスクアセスメントインスタンスでリスクを評価するためのグループ要素を作成します。

始める前に
必要なロール：sn_risk.admin

このタスクについて
グループ要素は、数値リスクスコアまたは年次損失予測 (ALE) のいずれかに寄与します。複数の要素応答をレポートに使用できる 1 つのグループ要素にグループ化できます。グループ要素のスコアは、関連付けられている要素のスコアに基づいて計算されます。

手順

1. 移動先 すべて > 高度なリスクアセスメント > アドミニストレーション > グループ要素.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

グループ要素フォーム

フィールド	説明
名前	組織的影響などの要素の名前。
要素の貢献度	要素の貢献度のタイプ。選択肢は次のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ [定性的]：数値スコアを入力し、スコアを評価に変換します。 ○ [定量的]：金銭的なリスクから発生する損失を指定します。この損失は、ALE に寄与します。 ○ [両方]：アセスメントタイプは定性的および定量的の両方です。
表示順序	アセスメントフォームにおける質問の順番。このフィールドでは、質問が表示される特定の順序を設定できます。
状況	要素のステータス。このフィールドは自動的に [デフォルト] に設定されます。
定性的重み付け (%)	要素に与えられる貢献度または定性的な重み付けを採点します。この値は、この要素の最終スコアに対する実際の貢献度を決定します。この値はパーセンテージです。このフィールドは、[要素の貢献度] フィールドで [定性的] を選択した場合にのみ表示されます。
説明	要素の目的と使用場所に関する簡潔な説明。この説明は、アドミニストレーターが要素を理解するためのものです。
定性的スコア	
このセクションは、[要素の貢献度] フィールドで [定性的] を選択した場合にのみ表示されます。	
定性的スコアの計算式	全体的な定性的リスクスコアを計算するための式。選択肢は次のとおりです。 ○ [合計]：要素応答の合計。 ○ [最小]：要素応答の最小値。 ○ [最大]：要素応答の最大値。 ○ [平均]：要素応答の平均値。 ○ [積]：要素応答を乗算して導出された値。 ○ [加重平均]：要素の重み付けの平均値。 ○ [スクリプト]：スコアを計算するためのユーザー定義の計算式。このオプションは、sn_grc.developer ロールを持つユーザーのみが使用できます。
定性的スコアを変換	間隔スケールに基づいてグループ全体の定性的スコアを変換するオプション。 たとえば、[ユーザー応答] フィールドが [パーセンテージ] に設定されているとします。アドミニストレーターは、0% ～ 30% が低、30% ～ 60% が中、60% 以上が高のように、パーセンテージ値を定性的スコアに変換できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	この場合、評価 1、2、3 を低、中、高に割り当てることができます。 このフィールドは、[要素の貢献度] フィールドで [定性的] を選択した場合にのみ表示されます。
定量的スコア	
このセクションは、[要素の貢献度] フィールドで [定量的] を選択した場合にのみ表示されます。	
定量的スコアの計算式	全体的な定性的リスクスコアを計算するための式。選択肢は次のとおりです。 ○ [合計]：要素応答の合計。 ○ [最小]：要素応答の最小値。 ○ [最大]：要素応答の最大値。 ○ [平均]：要素応答の平均値。 ○ [積]：要素応答を乗算して導出された値。 ○ [スクリプト]：スコアを計算するためのユーザー定義の計算式。このオプションは、sn_grc.developer ロールを持つユーザーのみが使用できます。

4. [保存] を選択します。
5. [要素] 関連リストで、[編集] をクリックし、必要な要素を追加します。
6. [保存] を選択します。
7. [定性的変換基準] 関連リストを選択します。
8. フォームのフィールドに入力します。

定性的変換基準フォーム

フィールド	説明
範囲の下限	値の範囲の下限である値。たとえば、0 ～ 30 % の最初の範囲の下限は 0 です。31 ～ 60 % の 2 番目の範囲の下限は 31 です。
スコア	値が [範囲の下限] フィールドで定義された範囲内にある場合にスコアとして使用する必要がある値。たとえば、下限が 0 の場合、スコアは 1 になります。下限が 31 の場合、スコアは 2 になります。

9. [送信] を選択します。
10. 作成した要素を開きます。
11. [公開] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
要素が公開され、リスクアセスメント方法で使用できるようになります。

グループ要素に事前定義された式の採点ロジック

グループ要素には複数の事前定義された式があり、それぞれが採点ロジックに特定の貢献度を持っています。

事前定義された式の採点ロジック

ユーザーは、次の事前定義された式のいずれかを選択して、グループ要素のスコアを計算できます。スコアには、グループ要素を構成し、定性的または定量的、またはその両方としての要素貢献度を持つ手動要素のスコアが寄与します。

グループ要素で [定性的スコアを変換] オプションが選択されている場合、事前定義された式を使用して計算された定性的スコアが変換されます。

変換後に計算される定性的スコアは、グループ要素の定性的重み付けを使用して導出されます。たとえば、計算されたスコアが 10 で、定性的重み付けが 50% の場合、グループ要素の最終スコアは 10 x 0.5 = 5 として計算されます。

合計

定性的な場合、この式はアセスメントインスタンスの定性的スコアを合計します。スコアには、グループ要素を構成し、定量的または両方としての要素貢献度を持つ手動要素のスコアが寄与します。

定量的な場合、この式はアセスメントインスタンスの定量的スコアを合計します。スコアには、グループ要素を構成し、定量的または両方としての要素貢献度を持つ手動要素のスコアが寄与します。

最小

定性的な場合、この式はアセスメントインスタンスの定性的スコアの最小値を取ります。スコアには、グループ要素を構成し、定量的または両方としての要素貢献度を持つ手動要素のスコアが寄与します。

定量的な場合、この式はアセスメントインスタンスの定量的スコアの最小値を取ります。スコアには、グループ要素を構成し、定量的または両方としての要素貢献度を持つ要素に対応するスコアが寄与します。

最大

定性的な場合、この式はアセスメントインスタンスの定性的スコアの最大値を取ります。スコアには、グループ要素を構成し、定性的または両方としての要素貢献度を持つ要素に対応するスコアが寄与します。

定量的な場合、この式はアセスメントインスタンスの定量的スコアの最大値を取ります。スコアには、グループ要素を構成し、定量的または両方としての要素貢献度を持つ要素に対応するスコアが寄与します。

平均

定性的な場合、この式はアセスメントインスタンスの定性的スコアの平均値を取ります。スコアには、グループ要素を構成し、定性的または両方としての要素貢献度を持つ要素に対応するスコアが寄与します。

定量的な場合、この式はアセスメントインスタンスの定量的スコアの平均値を取ります。スコアには、グループ要素を構成し、定量的または両方としての要素貢献度を持つ要素に対応するスコアが寄与します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

積

定性的な場合、この式はアセスメントインスタンスの定性的スコアを乗算します。スコアには、グループ要素を構成し、定性的または両方としての要素貢献度を持つ要素に対応するスコアが寄与します。

定量的な場合、この式はアセスメントインスタンスの定量的スコアを乗算します。スコアには、グループ要素を構成し、定量的または両方としての要素貢献度を持つ要素に対応するスコアが寄与します。

加重平均

定性的な場合、この式はアセスメントインスタンスの定性的スコアの合計を重み付けの合計で除算します。スコアには、グループ要素を構成し、定性的または両方としての要素貢献度を持つ要素に対応するスコアが寄与します。

自動要素を作成

自動要素を作成して、テーブルやデータベースビューなどのその他のデータソースからデータを自動的にフェッチします。

始める前に

ガバナンス、リスク、コンプライアンス エンタープライズライセンスが必要です。

必要なロール：sn_risk.admin

このタスクについて

自動要素は、リスクアセスメントプロセスを自動化するのに役立ちます。手動入力に依存しないため、主観性が減少します。自動要素に対するすべての応答は、アセスメント中に自動的に計算されます。

手順

1. 移動先 すべて > 高度なリスクアセスメント > アドミニストレーション > 自動要素.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

自動クエリーファクターフォーム

フィールド	説明
名前	規制上の影響などの要素の名前。
要素の貢献度	要素の貢献度のタイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ [定性的]：数値スコアを入力し、スコアを評価に変換します。 ○ [定量的]：発生する可能性のある損失を金額で示します。この損失は、年間損失予測 (ALE) に寄与します。 ○ [両方]：アセスメントタイプは定性的および定量的の両方です。
表示順序	アセスメントフォームにおける質問の順番。このフィールドでは、質問が表示される特定の順序を設定できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
応答タイプ	ユーザーが要素に応答するためのオプション。選択肢は次のとおりです。 ○ [数値]：自動計算後の要素応答は数値になります。 ○ [通貨]：自動計算後の要素応答は通貨になります。 ○ [パーセンテージ]：自動計算後の要素応答はパーセンテージになります。
アセスメントコンテキスト	アセスメントを実行する必要のあるコンテキスト。選択肢は次のとおりです。 ○ [リスク]：エンティティおよび関連付けられているリスクのアセスメントを実行するには、このオプションを選択します。 ○ [オブジェクト]：任意の ServiceNow レコードでアセスメントを実行するには、このオプションを選択します。たとえば、ユーザーはオブジェクトに対して直接例外リスクアセスメントまたは変更リスクアセスメントを実行できます。
状況	要素のステータス。このフィールドは自動的に [ドラフト] に設定されます。
定性的重み付け (%)	要素に与えられる貢献度または定性的な重み付けを採点します。この値は、この要素の最終スコアに対する実際の貢献度を決定します。このフィールドは、[要素の貢献度] フィールドで [定性的] を選択した場合にのみ表示されます。
定性的スコアを変換	間隔スケールに基づいてグループ全体の定性的スコアを変換するオプション。 たとえば、[ユーザー応答] フィールドが [パーセンテージ] に設定されているとします。アドミニストレーターは、0% ～ 30% が低、30% ～ 60% が中、60% 以上が高のように、パーセンテージ値を定性的スコアに変換できます。この場合、評価 1、2、3 を低、中、高に割り当てることができます。 このフィールドは、[要素の貢献度] フィールドで [定性的] を選択した場合にのみ表示されます。
提出データを含む	サポートデータを収集するためのオプション。このオプションを選択すると、[サポートデータ] セクションが表示されます。
説明	要素の目的と使用場所に関する簡潔な説明。この説明は、アドミニストレーターが要素を理解するためのものです。
データソース	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ソース	要素のソースとして使用されるテーブルまたはビュー。
フィルター基準	
エンティティでフィルター	リスクアセスメントインスタンスエンティティでソースをフィルターするためのオプション。
エンティティマッピングフィールド	エンティティテーブルを参照するフィールド。このフィールドは、[エンティティでフィルター] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。
リスクでフィルター	リスクアセスメントインスタンスのリスクでソースをフィルターするためのオプション。
リスクマッピングフィールド	リスクテーブルを参照するフィールド。このフィールドは、[リスクでフィルター] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。
コントロールでフィルター	リスクアセスメントインスタンスコントロールでソースをフィルターするためのオプション。このオプションは、コントロールアセスメントにあるコントロールの個々のアセスメントにのみ適用されます。
コントロールマッピングフィールド	コントロールテーブルを参照するフィールド。このフィールドは、[コントロールでフィルター] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。
オブジェクトでフィルター	リスクアセスメントインスタンスのオブジェクトでソースをフィルターするためのオプション。このフィールドは、オブジェクトでリスクアセスメントを実行している場合にのみ表示されます。
オブジェクトマッピングフィールド	アセスメントインスタンス内のオブジェクトを参照するフィールド。このフィールドは、[アセスメントコンテキスト] フィールドで [オブジェクト] が選択され、[オブジェクトでフィルター] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。
集計。	
集計タイプ	[ソース] フィールドのテーブルから選択されたレコードを集計するための式。選択肢は次のとおりです。 ○ [合計]：集計列の合計。 ○ [平均]：集計列の平均値。 ○ [最大]：集計列の最大値。 ○ [最小]：集計列の最小値。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ [カウント]：集計列のレコード数のカウント。 ○ [個別のカウント]：集計列の一意のレコード数。
集計列	[ソース] フィールドで選択されたテーブルに基づく集計に使用される列。
スケジュール	
周期	要素が実行される頻度。
曜日	要素が実行される曜日。このフィールドは、[頻度] で [週次] が選択されている場合のみ表示されます。
月の特定日	要素が実行される日付。このフィールドは、[頻度] で [月次] が選択されている場合のみ表示されます。
月次	要素が実行される月。このフィールドは、[頻度] フィールドの値が [四半期ごと **(Quarterly)]**、[半年ごと **(Semi-annually)]**、または [年次 **(Annually)]** の場合にのみ表示されます。
次回実行日	要素が再度実行される日。このフィールドは、フォームで行なった選択に基づいて自動的に設定されます。

4. [サポートデータ] セクションをクリックします。
5. 収集するデータで、対応するフィールドを [使用可能] リストから [選択済み] リストに移動します。
6. [送信] をクリックします。
7. 作成した要素を開きます。
8. [公開] をクリックします。

タスクの結果
要素が公開され、リスクアセスメント方法で使用できるようになります。

関連情報
スクリプト化された自動要素を作成

スクリプト化された自動要素を作成
スクリプトを使用して ServiceNow® レコードまたは外部ソースからデータをフェッチするスクリプト化された自動要素を作成します。スクリプト化された自動要素は、リスクアセスメント中に要素に対する応答を自動的に計算して提供します。

始める前に
必要なロール：sn_grc.developer および sn_risk.admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > 高度なリスクアセスメント > アドミニストレーション > 自動スクリプト化済み要素.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

自動スクリプト化済み要素フォーム

フィールド	説明
名前	規制上の影響などの要素の名前。
要素の貢献度	要素の貢献度のタイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ [定性的]：数値スコアを入力し、スコアを評価に変換します。 ○ [定量的]：金銭的なリスクから発生する可能性のある損失を示します。この損失は、年間損失予測 (ALE) に寄与します。 ○ [両方]：アセスメントタイプは定性的および定量的の両方です。
表示順序	アセスメントフォームにおける質問の順番。このフィールドでは、質問が表示される特定の順序を設定できます。
応答タイプ	ユーザーが要素に応答するためのオプション。選択肢は次のとおりです。 ○ [数値]：自動計算後の要素応答は数値になります。 ○ [通貨]：自動計算後の要素応答は通貨になります。 ○ [パーセンテージ]：自動計算後の要素応答はパーセンテージ単位になります。
定性的スコアを変換	間隔スケールに基づいてグループ全体の定性的スコアを変換するオプション。 たとえば、[ユーザー応答] フィールドが [パーセンテージ] に設定されているとします。アドミニストレーターは、0% ～ 30% が低、30% ～ 60% が中、60% 以上が高のように、パーセンテージ値を定性的スコアに変換できます。この場合、評価 1、2、3 を低、中、高に割り当てることができます。 このフィールドは、[要素の貢献度] フィールドで [定性的] を選択した場合にのみ表示されます。
状況	要素のステータス。このフィールドは自動的に [ドラフト] に設定されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
定性的重み付け (%)	要素に与えられる貢献度または定性的な重み付けをスコアします。この値は、この要素の最終スコアに対する実際の貢献度を決定します。このフィールドは、[要素の貢献度] フィールドで [定性的] を選択した場合にのみ表示されます。
アセスメントコンテキスト	アセスメントを実行する必要のあるコンテキスト。選択肢は次のとおりです。 ○ [リスク]：エンティティおよびその関連付けられているリスクのアセスメントを実行するには、このオプションを選択します。 ○ [オブジェクト]：任意の ServiceNow レコードでアセスメントを実行するには、このオプションを選択します。たとえば、ユーザーはオブジェクトに対して直接例外リスクアセスメントまたは変更リスクアセスメントを実行できます。
説明	要素の目的と使用場所に関する簡潔な説明。この説明は、アドミニストレーターが要素を理解するためのものです。
スクリプト	
変数	[スクリプト] フィールドで使用する事前定義された変数。
スクリプト	カスタムスクリプト。
スケジュール	
周期	要素が実行される頻度。
曜日	要素が実行される曜日。このフィールドは、[頻度] フィールドで [週次] が選択されている場合のみ表示されます。
月の特定日	要素が実行される日付。このフィールドは、[頻度] フィールドで [月次] が選択されている場合のみ表示されます。
月次	要素が実行される月。このフィールドは、[頻度] フィールドが [四半期ごと **(Quarterly)**]、または [半年ごと **(Semi-annually)**]、[年次 **(Annually)**] の場合にのみ表示されます。
次回実行日	要素が再度実行される日。このフィールドは、フォームで行なった選択に基づいて自動的に設定されます。

4. [送信] をクリックします。
5. 作成した要素を開きます。
6. [公開] をクリックします。

タスクの結果
要素が公開され、リスクアセスメント方法で使用できるようになります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

自動要素を作成

要素をコピー

公開された要素のコピーを作成して軽微な変更を行い、要素を再利用します。

始める前に
必要なロール：sn_risk.admin

手順

1. 移動先 すべて > 高度なリスクアセスメント > アドミニストレーション
2. コピーする要素を開きます。
3. [コピー] をクリックします。

タスクの結果
要素のコピーが作成されます。

リスクアセスメント方法論を構成

高度なリスク アプリケーションでリスクアセスメント方法論 (RAM) を構成して、組織内のリスクまたはオブジェクトを評価できるようにします。

始める前に
必要なロール：sn_risk_advanced.ara_admin

このタスクについて
RAM は、高度なリスク アプリケーションの新しいリスクアセスメントエンジンの構成またはレコードです。

RAM を使用して、組織内のリスクまたはオブジェクトを評価できます。たとえば、RAM を構成して、リスクアセスメントのタイプとリスクアセスメントが実行されるエンティティを指定できます。RAM を使用することで、組織はさまざまな方法でリスクを評価できます。

RAM を [廃止] ステータスに移動した後、後で変更を加えたい場合は [ドラフト] ステータスに戻すこともできます。[監視] ステータスまたは [クローズ済み] ステータスのアセスメントがない場合にのみ、RAM を [ドラフト] ステータスに移動できます。RAM を [ドラフト]に戻すと、進行中のアセスメントおよび関連付けられているスコープが削除されます。

手順

1. 移動先 すべて > 高度なリスクアセスメント > アドミニストレーション > リスクアセスメント方法.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

   リスクアセスメント方法論フォームのフィールド値については、「リスクアセスメント方法論フォーム」を参照してください。
4. フォームを右クリックして保存します。
5. さまざまなアセスメントを設定するには、次のいずれかのオプションを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. [公開] を選択します。

> **注:**
> 同じリスクに対して新しいアセスメントが作成され、そのアセスメントが [監視] ステータスになると、他のアセスメントは自動的に [完了] ステータスに移行します。アセスメントインスタンスが [監視] ステータスの場合、RAM を [ドラフト] ステータスに戻すことはできません。アセスメントのインスタンスがない場合にのみ、RAM を [ドラフト] ステータスに戻すことができます。

リスクアセスメント方法論フォーム

高度なリスク アプリケーションの [リスクアセスメント方法論] フォームを使用して、リスクアセスメントのタイプとリスクアセスメントを実行するエンティティを指定します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

リスクアセスメント方法論フォーム

フィールド	説明
名前	リスクアセスメント方法 (RAM) の名前。組織のリスクアセスメントなどです。
ドメイン領域	RAM のドメイン領域。このフィールドは自動的に **[IRM]** に設定されます。
状況	RAM のステータス。このフィールドは自動的に [ドラフト] に設定されます。
アセスメントコンテキスト	
評価	次のアセスメントコンテキストを選択できます。 • [リスク]：エンティティとそれに関連するリスクステートメントのアセスメントを実行します。 • [オブジェクト]：任意の ServiceNow レコードでアセスメントを実行します。たとえば、ユーザーは各テーブルに対して直接例外リスクアセスメントまたは変更リスクアセスメントを実行できます。
適用可能なエンティティクラス	ビジネスサービス、資産、ビジネスアプリケーションなど、RAM が適用されるすべてのエンティティクラス。このフィールドは、[評価] から [リスク] が選択された場合にのみ表示されます。
適用可能なレコードタイプ	アセスメントを実行するテーブル。複数のテーブルを選択して RAM に関連付けることができます。このフィールドは、[評価] から [オブジェクト] が選択された場合にのみ表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクアセスメント方法論フォーム (続く)

フィールド	説明
	注: 公開された RAM に複数のオブジェクトまたはテーブルを追加できますが、RAM の公開後に削除することはできません。
ワークフロー	
固有リスク	固有リスクを評価するためのオプション。
コントロール有効性	コントロール有効性を評価するためのオプション。
リスク応答を有効にする	リスクアセスメントの [リスク応答] タブを有効にするオプション。このオプションは、[評価] から [リスク] が選択された場合にのみ表示されます。
残存リスク	残存リスクを評価するためのオプション。
ターゲットリスク	ターゲットリスクを評価するためのオプション。
ロールアップ構成	
このセクションは、[評価] から [リスク] が選択された場合にのみ表示されます。	
ALE 計算の基準	年次損失予測 (ALE) を計算するために選択できる式： • 合計 • 平均 • 最大 • 最小
スコア計算の基準	スコアを計算するために選択できる式： • 平均 • 最大 • 最小
リスク応答構成	
このセクションは、[評価] から [リスク] が選択された場合にのみ表示されます。	
リスク対応タスクワークフローを有効にする	ユーザーがアセスメント内でリスク対応タスクを作成、削除、削除、編集、およびリンクできるようにするオプション。
単一リスク応答を許可	リスクアセスメントフォームでリスク応答の選択を単一の選択にするオプション。たとえば、[受容 (Accept)]、[回避 (Avoid)]、[緩和]、[移転 (Transfer)] などのオプションがあります。単一の選択では、査定人はこれらのオプション

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクアセスメント方法論フォーム (続く)

フィールド	説明
	のうち 1 つのみを選択してリスク対応戦略を示すことができます。 **注:** このオプションは、進行中のアセスメントがない場合にのみ有効にできます。
リスクアセスメントとの問題のリンクを許可	問題を作成するか、既存のオープンな問題をリスクアセスメントにリンクするオプション。
リスク応答は必須です	必要に応じてリスク応答を行うオプション： • [なし]：リスク応答は不要です。 • [常時]：常にリスク応答を義務化します。 • [特定の条件]：条件ビルダーを使用して、特定の条件に基づいてリスク応答を強制します。 • [スクリプトを使用して定義された特定の条件 **(On specific conditions defined using script)]**：事前定義されたスクリプトまたは一連の指示を使用して、特定の条件下でリスク応答を強制します。
ビジネスルールと検証	
最終コメントは必須です	必要に応じて最終コメントを作成するオプション。最終コメントにより、透明性が向上し、リスクオーナーは、選好度または許容度の違反がある場合にアクションプランを伝えることができます。オプションは次のとおりです。 • [なし]：最終コメントは不要です。 • [常時]：常に最終コメントを義務化します。 • [選好度違反時 **(On breach of appetite)]**：選好度の違反に関する最終コメントを義務化します。 • [許容度違反時 **(On breach of tolerance)]**：許容度の違反に関する最終コメントを義務化します。 このフィールドは、[評価] から [リスク] が選択された場合にのみ表示されます。
問題を自動的に作成	問題を自動的に作成するオプション。このフィールドは、[評価] から [リスク] が選択された場合にのみ表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクアセスメント方法論フォーム (続く)

フィールド	説明
	• [なし]：問題を自動的に作成しません。 • [選好度違反時 **(On breach of appetite)**]：選好度違反があった場合に自動的に問題を作成します。 • [許容度違反時 **(On breach of tolerance)**]：許容度違反があった場合に自動的に問題を作成します。 **注:** 問題は、リスクアセスメントが承認されて公開ステータスに移行した後にのみ作成されます。
残存スコアは固有スコアより低い	定性的な残存スコアが固有のスコアよりも低いことを検証するオプション。 **注:** このオプションは、残存リスクアセスメントが有効になっている場合にのみ表示されます。
参照情報	
このセクションは、[評価] から [リスク] が選択された場合にのみ表示されます。これらのオプションを有効にすると、リスクアセスメントインスタンスに参照情報が表示されます。	
関連リスクイベントを表示	リスクアセスメントに関連するリスクイベントを表示するためのオプション。
関連リスク指標を表示	リスクアセスメントに関連するリスクインジケーターを表示するためのオプション。
オープンな問題を表示	リスクアセスメントに未解決の問題を表示するためのオプション。
以前のアセスメントを表示	リスクアセスメントに以前のアセスメントを表示するためのオプション。このオプションは、リスク査定人が前回のアセスメントを参照し、別のアセスメントを受ける前にそのアセスメントの詳細を分析するのに役立ちます。
その他の構成	
詳細リマインダー (日数)	リスクアセスメントの期限日に基づいて、このフィールドは査定人に通知が送信されるまでの日数が表示されます。たとえば、このフィールドに 3 を入力すると、査定人は期日の 3 日前にリマインダー通知を受け取ります。
期限切れのリマインダー (日数)	このフィールドは、リスクアセスメントの期日に基づいて、この日付から何日後にリマインダーメールが送信されるかを指定します。たとえば、このフィールドに 5 を入力したとします。期日が過ぎてから 5 日間、査定人は期日が

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクアセスメント方法論フォーム (続く)

フィールド	説明
	過ぎたことを知らせるリマインダーメールを受け取り続けます。6 日目に、査定人と査定人のマネージャーにメール通知が送信されます。
リスク識別	リスクアセスメントスコープでリスクを特定する方法： • なし • [ライブラリーから]：リスクアセスメントでライブラリからのリスクを特定します。 • [アドホック]：ライブラリにないリスクを特定します。 • [ライブラリーおよびアドホックから]：ライブラリからリスクを作成し、リスクを追加します。
グループ要素コメント	リスクアセスメントフォームでグループ要素コメントを有効にするオプション。
以前の応答をコピー	再アセスメントが実行されるたびに要素の応答とコメントをコピーするオプション。
結果の上書きを許可	リスクアセスメント中に計算されたスコアと ALE を上書きするオプション。
セクション用語を構成	固有、コントロール、残存、およびターゲットアセスメントのセクションラベルを構成するオプション。このオプションを選択すると、各アセスメントタイプのタイトル、スコアラベル、および年次損失予測ラベルを構成できます。 **注:** セクションラベルの名前変更は、高度なリスクアセスメントインターフェイスにのみ適用されますが、レポート、ダッシュボード、ヒートマップ、およびその他の領域で使用される用語は変更されません。
ソースレコードに対してアセスメント結果を更新	アセスメントが実行されたソースレコードにアセスメント結果をコピーするためのオプション。個々のアセスメントタイプで該当するレコードタイプのアセスメント結果マッピングを定義できます。このフィールドは、[評価] から [オブジェクト] が選択された場合にのみ表示されます。
スケジュール	
このセクションは、[評価] から [オブジェクト] が選択された場合にのみ表示されます。	
アセスメント頻度	再アセスメントの実行頻度のオプション：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクアセスメント方法論フォーム (続く)

フィールド	説明
	• なし • 週次 • 毎月 • 四半期ごと • 半年ごと • 年次
期限切れまでの日数	リスクアセスメントの期日に基づき、このフィールドには、アセスメントが期限切れと見なされるまでの日数が表示されます。

リスクアセスメント方法論をコピー

レコードのコピーを作成して、リスクアセスメント方法論 (RAM) と要素を変更します。コピーするオプションを使用すると、すべての関連リストを含む基礎となるレコードのコピーを作成できます。このアクションにより、毎回最初からレコードを作成する必要がないため、リスクアドミンの時間を節約できます。

始める前に
必要なロール：sn_risk.admin

手順

1. 移動先 すべて > 高度なリスクアセスメント > アドミニストレーション > リスクアセスメント方法
2. コピーする RAM を開きます。
3. コピー を選択します。

リスクアセスメント方法論を廃止

使用されなくなったリスクアセスメント方法論 (RAM) を廃止します。未使用の RAM を廃止することで、リスクアドミニストレーターはアクティブな RAM の管理が容易になります。

始める前に
必要なロール：sn_risk.admin

このタスクについて
リスクアセスメント方法論を廃止する場合、廃止した RAM を再度アクティブにすることはできないことに注意してください。次の点にも注意してください。

- この方法論に関連するすべての要素が廃止されます。
- リスクアセスメントスコープが廃止されます。
- 関連付けられているすべてのオープンアセスメントが廃止されます。

手順

1. 移動先 すべて > 高度なリスクアセスメント > アドミニストレーション > リスクアセスメント方法.
2. 廃止するリスクアセスメント方法論を選択して開きます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [廃止] をクリックします。
   ステータスが [廃止] に変更されます。

固有のアセスメントを構成

高度なリスク アプリケーションで固有のアセスメントを構成して公開し、組織内の固有リスクを評価します。

始める前に
必要なロール：sn_risk.admin

このタスクについて
固有のアセスメントフォームに要素、採点ロジック、および評価基準を追加して、固有のリスクアセスメントの基準を設定します。各リスクアセスメント方法論 (RAM) には、固有のアセスメント基準があります。たとえば、財務の影響、規制の影響、クライアントへの影響などの要素に対する固有のリスクを評価できます。固有のアセスメントスコアを取得するには、これらの要素の影響度をリスクが発生する可能性で乗算します。

手順

1. アセスメントタイプとして固有リスクを持つ RAM フォームに移動します。
2. [アセスメントタイプ] 関連リストで、[固有のアセスメント] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

   固有のアセスメントフォームのフィールド値については、「固有のアセスメントフォーム」を参照してください。

4. 要素を追加するには、[要素] 関連リストを選択します。
   この関連リストは、[計算基準] フィールドで [要素応答] が選択されている場合にのみ使用できます。
5. [編集] を選択し、要素を追加します。
6. [保存] を選択します。
7. [定性的評価基準] 関連リストを選択し、[新規] を選択します。
8. フォームのフィールドに入力します。

定性的評価基準フォーム

フィールド	説明
低評価間隔	定性的リスク評価の範囲。たとえば、0 ～ 10 の範囲の場合、下限として 0 を入力できます。11 ～ 20 の範囲の場合、下限の値は 11 にすることができます。
評価	リスクの重大度。高、中、低などの評価を入力できます。たとえば、低評価の低評価間隔が 0 で、中評価の低評価間隔が 11 であるとします。リスクスコアが 15 の場合、15 は 11 ～ 20 の範囲であるため、評価基準は [中] です。
優先スコア	査定人がリスク評価を上書きするときに使用されるスコア。
リスクの色のスタイル	リスク評価値の背景色とリスクアセスメントインスタンスのテキストの色のカラーコードスタ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	イル。たとえば、高リスクの場合は、赤色のスタイルを選択し、背景色を赤にします。
リスク選好度スケール	リスク評価基準のリスク選好度スケール。選好度スケールは、リスクアセスメント方法論の定性的リスク評価基準にマッピングする必要があります。最新のアセスメントまたは集計された評価に基づいて定性的選好度ステータスを計算し、定性的選好度ステータスを提供できます。たとえば、[非常に高い] のリスク評価に対して [意欲的] のリスク選好度スケールを選択できます。このフィールドは、高度なリスクアセスメントのプロパティでリスク選好度機能が設定されている場合にのみ表示されます。 **重要:** 定性的リスクアセスメントでは、リスク選好度スケールを最終アセスメントタイプのリスク評価基準にマッピングします。たとえば、残存アセスメントと固有アセスメントの両方がある場合は、リスク選好度スケールを残存アセスメントのリスク評価基準にマッピングします。

注:
[定性的評価基準] フォームに負の値を入力しないでください。

9. オプション: [ヒートマップを有効化] オプションを選択した場合は、次のアクションを実行します。
   a. [ヒートマップカラー] 関連リストを選択します。
   b. [リスクの色のスタイル] 列で、リスクの色のスタイルを指定します。
10. 該当するレコードタイプのアセスメント結果のマッピングを定義するには、次のアクションを実行します。

    これらの手順は、オブジェクトの固有アセスメントを実施するときに適用されます。

    a. [アセスメント結果のマッピング (Assessment Result Mapping)] 関連リストを選択します。[アセスメント結果のマッピング (Assessment Result Mapping)] 関連リストは、RAM で [ソースレコードに対してアセスメント結果を更新] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。

    b. レコードタイプを選択します。

    c. フォームのフィールドに入力します。

    [適用可能なレコードタイプ] フォーム

フィールド	説明
リスクアセスメント方法	RAM の名前。このフィールドは選択した RAM に基づいて自動的に設定されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
レコードタイプ	適用可能なレコードタイプの名前このフィールドは選択したレコードタイプに基づいて自動的に設定されます。
固有リスク評価	ソースレコード内で固有リスク評価値が格納される列。アセスメントの後、固有リスク評価結果がこのフィールドで選択された列にコピーされます。このフィールドは、[アセスメントの貢献度] フィールドが [定性的] または [両方] である場合にのみ表示されます。
固有 ALE	ソースレコード内で固有年次損失予測 (ALE) の値が格納される列。アセスメントの後、固有 ALE 結果がこのフィールドで選択された列にコピーされます。このフィールドは、[アセスメントの貢献度] フィールドが [定量的] または [両方] に設定されている場合にのみ表示されます。

注:
別のリスクアセスメント方法で同じレコードタイプが使用されている場合、ソースレコードは最新の高度なリスクアセスメントの RAM で定義されたフィールドに基づいて更新されます。

d. [更新] を選択します。

11. [送信] を選択します。

12. [公開] を選択します。

タスクの結果
アセスメントタイプが公開されます。

固有のアセスメントフォーム

高度なリスク アプリケーションで固有のアセスメントフォームを使用して、組織内の固有リスクを評価します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

固有のアセスメントフォーム

フィールド	説明
リスクアセスメント方法	選択された RAM。このフィールドは RAM に基づいて自動的に設定されます。
状況	RAM のステータス。このフィールドは自動的に [ドラフト] に設定されます。
計算基準	要素応答に基づくアセスメントスコアを計算するためのオプション。
アセスメントの貢献度	要素の貢献度のタイプ：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

固有のアセスメントフォーム (続く)

フィールド	説明
	• [定性的]：数値スコアを入力し、スコアを評価に変換します。このオプションを選択すると、追加できるのは定性的要素のみです。 • [定量的]：発生する可能性のある損失を金額で示します。この損失は、年間損失予測 (ALE) に寄与します。このオプションを選択すると、追加できるのは定量的要素のみです。 • [両方]：定性的および定量的の両方のアセスメントタイプを提供します。
ヒートマップを有効化	高度なリスクダッシュボードのヒートマップレポートを有効にするオプション。 **注:** このオプションは、最低 2 つの要素がアセスメントタイプに追加されている場合にのみ選択できます。このオプションを選択すると、[ヒートマップ構成] セクションと [ヒートマップカラー] 関連リストがフォームに表示されます。
定性的スコア	
このセクションは、[アセスメントの貢献度] フィールドで [定性的] を選択した場合にのみ表示されます。	
定性的採点ロジック	採点ロジックを計算するために使用できる式： • [合計]：要素応答の合計。 • [最小]：要素応答の最小値。 • [最大]：要素応答の最大値。 • [平均]：要素応答の平均値。 • [積]：要素応答を乗算して導出された値。 • [加重平均]：要素の重み付けの平均値。この値は、低、中、または高として分類されます。 • [スクリプト]：スコアを計算するためのユーザー定義の計算式。このオプションは、sn_grc.developer ロールを持つユーザーのみが使用できます。
定量的スコア	
このセクションは、[アセスメントの貢献度] フィールドで [定量的] を選択した場合にのみ表示されます。	
定量的採点ロジック	採点ロジックを計算するために使用できる式：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

固有のアセスメントフォーム (続く)

フィールド	説明
	• [合計]：要素応答の合計。 • [最小]：要素応答の最小値。 • [最大]：要素応答の最大値。 • [平均]：要素応答の平均値。 • [積]：要素応答を乗算して導出された値。 • [スクリプト]：スコアを計算するための ユーザー定義の計算式。このオプション は、sn_grc.developer ロールを持つユーザー のみが使用できます。
セクションラベル	
このセクションは、RAM フォームで [セクション用語を構成] が選択されている場合のみ表示されます。 **注:** セクションラベルの名前変更は、高度なリスクアセスメントインターフェイスにのみ適用されますが、レポート、ダッシュボード、ヒートマップ、およびその他の領域で使用される用語は変更されません。	
タイトル	アセスメントタイプのセクションタイトルの名前を変更するオプション。たとえば、固有のアセスメントの名前を「グロスアセスメント (Gross assessment)」に変更すると、以前に固有のアセスメントが参照されていたすべてのセクションに新しいタイトルが表示されます。
スコアラベル	アセスメントフォームの [スコアリング] セクションで定性的スコアラベルの名前を変更するオプション。たとえば、固有のリスクの名前を「グロスリスク (Gross risk)」に変更すると、以前に固有のリスクが参照されていたスコアリングセクションに新しいタイトルが表示されます。
年間損失予測ラベル	アセスメントフォームの [スコアリング] セクションで定量的スコアラベルの名前を変更するオプション。たとえば、固有の ALE の名前を「グロス ALE (Gross ALE)」に変更すると、以前に固有のリスクが参照されていたスコアリングセクションに新しいタイトルが表示されます。
ヒートマップ構成	
このセクションは、[ヒートマップを有効化] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。	
X 軸の係数	ヒートマップの X 軸に表示される要素。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

固有のアセスメントフォーム (続く)

フィールド	説明
	注: [選択肢] タイプの定性的要素または変換基準のある要素のみを選択できます。詳細については、「変換基準」を参照してください。
Y 軸の係数	ヒートマップの Y 軸に表示される要素。 注: [選択肢] タイプの定性的要素または変換基準のあるもののみを選択できます。詳細については、「変換基準」を参照してください。

コントロール有効性アセスメントを構成

コントロール有効性アセスメントを設定して公開し、リスクを軽減するコントロールの有効性を評価します。

始める前に

必要なロール：sn_risk.admin

このタスクについて

要素、採点ロジック、評価基準などの詳細を使用してコントロールアセスメント基準を構成します。コントロール環境全体を評価するか、コントロールを個別に評価するかを指定することもできます。これらの詳細は、リスクアセスメントが実行される側面です。アセスメント中に既存のコントロールまたは新しいコントロールを追加するオプションを有効にすることもできます。各リスクアセスメント方法論 (RAM) には、独自のアセスメント基準があります。

手順

1. アセスメントタイプとして固有リスクを持つ RAM フォームに移動します。
2. [アセスメントタイプ] 関連リストで、[コントロールアセスメント] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

   コントロールアセスメントフォームのフィールド値の説明については、「コントロールアセスメントフォーム」を参照してください。

4. [要素] セクションを選択し、[編集] を選択します。
   [要素] 関連リストは、[計算基準] フィールドから [コントロール環境アセスメント] が選択されている場合にのみ表示されます。
5. [コレクション] リストから必要な要素を [要素] リストに追加し、[保存] を選択します。
6. [定性的評価基準] 関連リストを選択し、[新規] を選択します。
7. フォームのフィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

定性的評価基準フォーム

フィールド	説明
低評価間隔	定性的リスク評価の範囲。たとえば、0 ～ 10 の範囲の場合、下限として 0 を入力できます。11 ～ 20 の範囲の場合、下限の値は 11 にすることができます。
リスク評価	リスクの重大度。高、中、低などの評価を入力できます。たとえば、低評価の低評価間隔が 0 で、中評価の低評価間隔が 11 であるとします。リスクスコアが 15 の場合、15 は 11 ～ 20 の範囲であるため、評価基準は [中] です。
優先スコア	計算済みスコアを上書きするためにリスク査定人が使用できるスコア。
リスクの色のスタイル	リスク評価値の背景色とリスクアセスメントインスタンスのテキストの色のカラーコードスタイル。たとえば、高リスクの場合は、赤色のスタイルを選択し、背景色を赤にします。

注:
[定性的評価基準] フォームに負の値を入力しないでください。

8. 該当するレコードタイプのアセスメント結果のマッピングを定義するには、次のアクションを実行します。

   これらの手順は、オブジェクトのコントロールアセスメントを実施するときに適用されます。

   a. [アセスメント結果のマッピング (Assessment Result Mapping)] 関連リストを選択します。
   [アセスメント結果のマッピング (Assessment Result Mapping)] 関連リストは、RAM で [ソースレコードに対してアセスメント結果を更新] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。

   b. レコードタイプを選択します。

   c. フォームのフィールドに入力します。

   [適用可能なレコードタイプ] フォーム

フィールド	説明
リスクアセスメント方法	RAM の名前。このフィールドは選択した RAM に基づいて自動的に設定されます。
レコードタイプ	適用可能なレコードタイプの名前このフィールドは選択したレコードタイプに基づいて自動的に設定されます。
コントロール有効性	ソースレコード内にコントロール有効性の評価値が格納される列。アセスメントの後、コントロール有効性結果がこのフィールドで選択された列にコピーされます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> 別のリスクアセスメント方法で同じレコードタイプが使用されている場合、ソースレコードは最新の高度なリスクアセスメントの RAM で定義されたフィールドに基づいて更新されます。

d. [更新] を選択します。

9. [送信] を選択します。

10. [公開] を選択します。

タスクの結果
コントロールアセスメントタイプが公開されます。

コントロールアセスメントフォーム

高度なリスク アプリケーションの [コントロールアセスメント] フォームを使用して、リスクを軽減する上でのコントロールの有効性を評価します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

コントロールアセスメントフォーム

フィールド	説明
リスクアセスメント方法	コントロールアセスメントに使用されるリスクアセスメント方法論の名前。このフィールドは RAM に基づいて自動的に設定されます。
状況	RAM のステータス。このフィールドは自動的に [ドラフト] に設定されます。
アセスメントの貢献度	要素の貢献度のタイプ。このフィールドは自動的に [定性的貢献 **(Qualitative contribution)]** に設定されます。
計算基準	コントロールのタイプを評価するオプション。選択肢は次のとおりです。 • [コントロール環境アセスメント]：個々のコントロールを評価するのではなく、コントロール環境の全体的な有効性を評価する場合は、このオプションを選択します。 • [コントロールの個々のアセスメント]：個々のコントロールのアセスメントを実行する場合は、このオプションを選択します。たとえば、従業員が賄賂を受け取るリスクを選択し、既存の各コントロールを評価して贈賄のリスクを軽減できます。このオプションは、ポリシーとコンプライアンス管理 (com.sn_compliance) プラグインがアクティブ化されている場合にのみ使用できます。
コントロール ID	リスクアセスメントインスタンスでコントロールを識別する方法を決定するオプション。選択肢は次のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コントロールアセスメントフォーム (続く)

フィールド	説明
	• なし • [ライブラリーから]：リスクアセスメントインスタンスのライブラリからコントロールを識別する場合は、このオプションを使用します。 • [アドホック]：リスクアセスメントインスタンスで新しいコントロールを識別する場合は、このオプションを使用します。 • [ライブラリーおよびアドホックから]：このオプションは、ライブラリからコントロールを識別し、新しいコントロールを識別する場合に使用します。 このフィールドは、[計算基準] フィールドの値が [コントロールの個々のアセスメント] である場合にのみ表示されます。
全体的な有効性の要素	コントロールを評価するための手動、自動、またはグループ要素。このフィールドは、[計算基準] フィールドから [コントロールの個々のアセスメント] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。このフィールドには、定性的要素または定性的スコアを変換するオプションがある要素のみが表示されます。
定性的採点ロジック	採点ロジックを計算するための式。選択肢は次のとおりです。 • [合計]：要素応答の合計。 • [最小]：要素応答の最小値。 • [最大]：要素応答の最大値。 • [平均]：要素応答の平均値。 • [積]：要素応答を乗算して導出された値。 • [加重平均]：要素の重み付けの平均値。この値は、低、中、または高として分類されます。このオプションを選択すると、コントロールの重み付けがコントロールフォームから取得されます。 • [スクリプト]：スコアを計算するためのユーザー定義の計算式。このオプションは、sn_grc.developer ロールを持つユーザーのみが使用できます。
定性的スクリプト変数	スクリプトで使用されるスクリプトと変数の形式。このフィールドは、[定性的採点ロジック] フィールドで [スクリプト] が選択されている場合にのみ使用できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コントロールアセスメントフォーム (続く)

フィールド	説明
定性的スクリプト	採点ロジックを計算するユーザー定義のスクリプト。このフィールドを使用すると、スコア計算をより詳細に制御できます。
セクションラベル	
このセクションは、RAM フォームで [セクション用語を構成] が選択されている場合のみ表示されます。 **注:** セクションラベルの名前変更は、高度なリスクアセスメントインターフェイスにのみ適用されますが、レポート、ダッシュボード、ヒートマップ、およびその他の領域で使用される用語は変更されません。	
タイトル	アセスメントタイプのセクションタイトルの名前を変更するオプション。たとえば、コントロールアセスメントの名前を「予防的アセスメント」に変更すると、以前にコントロールアセスメントが参照されていたすべてのセクションに新しいタイトルが表示されます。
スコアラベル	アセスメントフォームの [スコアリング] セクションで定性的スコアラベルの名前を変更するオプション。たとえば、コントロールリスクの名前を「予防的リスク」に変更すると、以前にコントロールリスクが参照されていたスコアリングセクションに新しいタイトルが表示されます。

自動翻訳

残存アセスメントを構成

高度なリスク アプリケーションで残存アセスメントを構成して公開し、組織内の残存リスクを評価します。

始める前に

必要なロール：sn_risk.admin

このタスクについて

残存アセスメントを使用して、コントロールの実装後に存在するリスクを特定し、評価します。コントロールが特定されない場合、残存リスクは固有リスクと同じです。固有アセスメントの要素が残存アセスメントとして使用されている場合は、固有アセスメントからアセスメントの貢献度、定性的採点ロジック、要素、および定性的評価基準をコピーできます。残存アセスメントのスコアを導出する方法を選択することもできます。

手順

1. アセスメントタイプとして残存リスクを持つリスクアセスメント方法論 (RAM) フォームに移動します。
2. [アセスメントタイプ] 関連リストで、[残存アセスメント] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

   残存アセスメントフォームのフィールド値については、「残存アセスメントフォーム」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. オプション: [計算基準] フィールドで [要素応答] を選択した場合は、残存アセスメントに要素を追加できるように [要素] 関連リストを選択します。
5. [編集]を選択し、必要な要素を追加して、[保存]を選択します。
6. オプション: [計算基準] フィールドに [固有リスクとコントロール有効性] があり、[定性的採点ロジック] フィールドに [固有のアセスメントとコントロール有効性の間のルックアップマトリクス] がある場合は、次のアクションを実行します。
   a. [マトリクス] 関連リストを選択します。
   b. それぞれの列に、スコア、リスク評価、リスクの色のスタイル、および上書きされたスコアを入力します。
7. [定性的評価基準] 関連リストを選択し、[新規] を選択します。
8. フォームのフィールドに入力します。

定性的評価基準フォーム

フィールド	説明
低評価間隔	定性的リスク評価の範囲。たとえば、0 ～ 10 の範囲の場合、下限として 0 を入力できます。11 ～ 20 の範囲の場合、下限の値は 11 にすることができます。
リスク評価	リスクの重大度。高、中、低などの評価を入力できます。たとえば、低評価の低評価間隔が 0 で、中評価の低評価間隔が 11 であるとします。リスクスコアが 15 の場合、15 は 11 ～ 20 の範囲であるため、評価基準は [中] です。
優先スコア	計算済みスコアを上書きするためにリスク査定人が使用できるスコア。
リスクの色のスタイル	リスク評価値の背景色とリスクアセスメントインスタンスのテキストの色のカラーコードスタイル。たとえば、高リスクの場合は、赤色のスタイルを選択し、背景色を赤にします。
リスク選好度スケール	リスク評価基準のリスク選好度スケール。選好度スケールは、リスクアセスメント方法論の定性的リスク評価基準にマッピングする必要があります。最新のアセスメントまたは集計された評価に基づいて定性的選好度ステータスを計算し、定性的選好度ステータスを提供します。たとえば、[非常に高い] のリスク評価に対して [意欲的] のリスク選好度スケールを選択できます。このフィールドは、高度なリスクアセスメントのプロパティでリスク選好度機能が設定されている場合にのみ表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	重要: 定性的リスクアセスメントでは、リスク選好度スケールを最終アセスメントタイプのリスク評価基準にマッピングします。たとえば、残存アセスメントと固有アセスメントの両方がある場合は、リスク選好度スケールを残存アセスメントのリスク評価基準にマッピングします。

注:
[定性的評価基準] フォームに負の値を入力しないでください。

9. [ヒートマップカラー] 関連リストを選択します。
この関連リストは、次のすべての条件が true である場合にのみ表示されます。
   - [ヒートマップを有効化] オプションが選択されている。
   - [計算基準] フィールドに、[要素応答]がある。
   - 残存アセスメントが、固有のアセスメントとコントロール有効性の間のマトリクスに基づいている。
10. [リスクの色のスタイル] 列で、背景色とテキストの色の組み合わせを選択します。
11. 該当するレコードタイプのアセスメント結果のマッピングを定義するには、次のアクションを実行します。

    これらの手順は、オブジェクトの残存アセスメントを実施するときに適用されます。

    a. [アセスメント結果のマッピング (Assessment Result Mapping)] 関連リストを選択します。
    [アセスメント結果のマッピング (Assessment Result Mapping)] 関連リストは、RAM で [ソースレコードに対してアセスメント結果を更新] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。

    b. レコードタイプを選択します。

    c. フォームのフィールドに入力します。

    [適用可能なレコードタイプ] フォーム

フィールド	説明
リスクアセスメント方法	RAM の名前。このフィールドは選択した RAM に基づいて自動的に設定されます。
レコードタイプ	適用可能なレコードタイプの名前このフィールドは選択したレコードタイプに基づいて自動的に設定されます。
残存リスク評価	ソースレコード内で残存リスク評価値が格納される列。アセスメントの後、残存リスク評価結果がこのフィールドで選択された列にコピーされます。このフィールドは、[アセスメントの貢献度] フィールドが [定性的] または [両方] である場合にのみ表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
残存 ALE	ソースレコード内で残存年次損失予測 (ALE) の値が格納される列。アセスメントの後、残存 ALE 結果がこのフィールドで選択された列にコピーされます。このフィールドは、[アセスメントの貢献度] フィールドが [定量的] または [両方] に設定されている場合にのみ表示されます。

注:
別のリスクアセスメント方法で同じレコードタイプが使用されている場合、ソースレコードは最新の高度なリスクアセスメントの RAM で定義されたフィールドに基づいて更新されます。

d. [更新] を選択します。

12. [送信] を選択し、[公開] を選択します。

タスクの結果
アセスメントタイプが公開されます。

残存アセスメントフォーム

高度なリスク アプリケーションで残存アセスメントフォームを使用して、組織内の残存リスクを評価します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

残存アセスメントフォーム

フィールド	説明
リスクアセスメント方法	RAM の名前。このフィールドは選択した RAM に基づいて自動的に設定されます。
計算基準	アセスメントスコアを計算するためのオプション： • [固有リスクとコントロール有効性]：アセスメントを定性的にします。固有の有効性とコントロールの有効性の比較は常に定性的です。 • [要素応答]：残存要素の計算は手動要素への応答に基づいています。
アセスメントの貢献度	要素の貢献度のタイプ： • 定量的 • 定性的 • 両方 [計算基準] フィールドで [固有リスクとコントロール有効性] が選択されている場合、このフィールドは自動的に [定性的] に設定されます。このフィールドは変更できません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

残存アセスメントフォーム (続く)

フィールド	説明
固有と同じ要素	固有のアセスメントからアセスメントの貢献度、定性的採点ロジック、要素、および定性的評価基準を自動的にコピーするオプション。 **注:** このオプションは、[計算基準] フィールドに [要素応答] の値がある場合にのみ表示されます。
ヒートマップを有効化	高度なリスクダッシュボードのヒートマップレポートの表示を有効にするオプション。 **注:** このオプションは、2 つ以上の要素がアセスメントタイプに追加されている場合にのみ選択できます。
定性的スコア	
定性的採点ロジック	使用する採点ロジック。このフィールドのオプションは、[計算基準] フィールドで選択されているオプションに基づいて変更されます。 [計算基準] フィールドに [固有リスクとコントロール有効性] がある場合、オプションは次のようになります。 • [固有のアセスメントとコントロール有効性の間のルックアップマトリクス]：固有のアセスメントとコントロール有効性アセスメント間のマトリクスを生成します。デカルト積を実行してスコアを生成します。[マトリクス] 関連リストでマトリクスを表示できます。たとえば、固有リスクが高く、コントロール有効性が低い場合は、残存リスクも高くなります。 • [固有スコア：コントロール有効性スコア]：固有スコアとコントロール有効性スコアの差が得られます。 • [固有スコア/コントロール有効性スコア]：固有スコアをコントロール有効性スコアで除算して求められる値が得られます。 • [スクリプト]：カスタムスクリプトを使用して定性的スコアを計算します。[スクリプト] オプションを使用すると、組織固有の要件とリスクアセスメントアプローチに合わせてカスタマイズされた計算方法を作成できます。 **注:** 公開されていないアセスメントタイプに対してのみ、スクリプトを記述または変更できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

残存アセスメントフォーム (続く)

フィールド	説明
	[計算基準] フィールドには、[要素応答]がある場合、オプションは次のとおりです。 • [合計]：要素応答の合計。 • [最小]：要素応答の最小値。 • [最大]：要素応答の最大値。 • [平均]：要素応答の平均値。 • [積]：要素応答を乗算して導出された値。 • [加重平均]：要素の重み付けの平均値。この値は、低、中、または高として分類されます。 • [スクリプト]：スコアを計算するためのユーザー定義の計算式。このオプションは、sn_grc.developer ロールを持つユーザーのみが使用できます。
定量的スコア	
このセクションは、[要素の貢献度] フィールドで [定量的] 値を選択した場合にのみ表示されます。	
定量的採点ロジック	使用する採点ロジック： • [合計]：要素応答の合計。 • [最小]：要素応答の最小値。 • [最大]：要素応答の最大値。 • [平均]：要素応答の平均値。 • [積]：要素応答を乗算して導出された値。 • [スクリプト]：スコアを計算するためのユーザー定義の計算式。このオプションは、sn_grc.developer ロールを持つユーザーのみが使用できます。
セクションラベル	
このセクションは、RAM フォームで [セクション用語を構成] が選択されている場合のみ表示されます。 **注:** セクションラベルの名前変更は、高度なリスクアセスメントインターフェイスにのみ適用されますが、レポート、ダッシュボード、ヒートマップ、およびその他の領域で使用される用語は変更されません。	
タイトル	アセスメントタイプのセクションタイトルの名前を変更するオプション。たとえば、残存アセスメントの名前を「正味アセスメント (Net assessment)」に変更すると、以前に残存アセ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

残存アセスメントフォーム (続く)

フィールド	説明
	スメントが参照されていたすべてのセクションに新しいタイトルが表示されます。
スコアラベル	アセスメントフォームの [スコアリング] セクションで定性的スコアラベルの名前を変更するオプション。たとえば、残存リスクの名前を「正味リスク (Net risk)」に変更すると、以前に残存リスクが参照されていたスコアリングセクションに新しいタイトルが表示されます。
年間損失予測ラベル	アセスメントフォームの [スコアリング] セクションで定量的スコアラベルの名前を変更するオプション。たとえば、残存 ALE の名前を「正味 ALE (Net ALE)」に変更すると、以前に残存 ALE が参照されていたスコアリングセクションに新しいタイトルが表示されます。
ヒートマップ構成	
このセクションは、[ヒートマップを有効化] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。	
X 軸の係数	ヒートマップの X 軸に表示される要素。 **注:** [選択肢] タイプの定性的要素または変換基準のある要素のみを選択できます。詳細については、「変換基準」を参照してください。
Y 軸の係数	ヒートマップの Y 軸に表示される要素。 **注:** [選択肢] タイプの定性的要素または変換基準のあるもののみを選択できます。詳細については、「変換基準」を参照してください。

ターゲットアセスメントの構成

高度なリスク アプリケーションでターゲットアセスメントを構成して公開し、今後の望ましいリスクレベルを評価します。ターゲットアセスメントを構成することで、査定人と承認者が ネクストエクスペリエンス でターゲットリスクアセスメントを実行できるようになります。

始める前に

必要なロール：sn_risk.admin

このタスクについて

今後のリスクレベルを評価するためのターゲットアセスメントを構成します。固有のアセスメントや残存アセスメントと同様に、ターゲットアセスメントを実施するための基準を定義できます。構成作業では、要素、採点ロジック、評価基準、およびヒートマップ構成の指定を行います。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. アセスメントタイプとしてターゲットリスクを持つリスクアセスメント方法論 (RAM) フォームに移動します。
2. [アセスメントタイプ] 関連リストで、[ターゲットアセスメント] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

   ターゲットアセスメントフォームのフィールド値については、「ターゲットアセスメントフォーム」を参照してください。

4. 注:
   [計算基準] フィールドで [係数応答] を選択した場合は、手作業でアセスメントに要素を追加する必要があります。

   要素を追加するには、[要素] 関連リストを選択し、次の手順を実行します。

   a. [編集] を選択します。
   b. 要素を選択し、要素リストに追加します。
   c. [保存] を選択します。
5. オプション: 定性的評価基準を追加するには、[定性的評価基準] 関連リストを選択し、[新規] を選択します。
6. フォームのフィールドに入力します。

定性的評価基準フォーム

フィールド	説明
低評価間隔	定性的リスク評価の範囲。たとえば、0 ～ 10 の範囲の場合、下限として 0 を入力できます。11 ～ 20 の範囲の場合、下限の値は 11 にすることができます。
リスク評価	リスクの重大度。高、中、低などの評価を入力できます。たとえば、低評価の低評価間隔が 0 で、中評価の低評価間隔が 11 であるとします。リスクスコアが 15 の場合、15 は 11 ～ 20 の範囲であるため、評価基準は [中] です。
優先スコア	計算済みスコアを上書きするためにリスク査定人が使用できるスコア。評価が上書きされると、このスコアがリスクに関連付けられます。
リスクの色のスタイル	リスク評価値の背景色とリスクアセスメントインスタンスのテキストの色のカラーコードスタイル。たとえば、高リスクの場合は、赤色のスタイルを選択し、背景色を赤にします。
リスク選好度スケール	リスク評価基準のリスク選好度スケール。選好度スケールは、RAM フォーム内の [ターゲットアセスメント] に対する定性的リスク評価基準に個別にマッピングする必要があります。たとえば、[非常に高い] のリスク評価に対して [意欲的] のリスク選好度スケールを選択できます。このフィールドは、高度なリスクアセスメントのプロパティでリスク選好度機能が設定されている場合にのみ表示されます。将来の選

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	好度ステータスは、定義されたリスク選好度とターゲットリスクプロファイルに基づいて計算されます。 **注:** 将来の選好度ステータスを集計したり、特定のエンティティ、リスクステートメント、または個々のリスクにロールアップしたりすることはできません。

注:
[定性的評価基準] フォームに負の値を入力しないでください。

7. [送信] を選択します。
8. オプション: [ヒートマップを有効化] オプションを選択した場合は、次のアクションを実行できます。
   a. リスクの色スタイルを指定するには、[ヒートマップの色] 関連リストを選択します。
   b. [リスクの色のスタイル] 列で、リスクの色のスタイルを指定します。
   c. [送信] を選択します。
9. 該当するレコードタイプのアセスメント結果のマッピングを定義するには、次のアクションを実行します。

   これらの手順は、オブジェクトのターゲットアセスメントを実施するときに適用されます。

   a. [アセスメント結果のマッピング (Assessment Result Mapping)] 関連リストを選択します。
   [アセスメント結果のマッピング (Assessment Result Mapping)] 関連リストは、RAM で [ソースレコードに対してアセスメント結果を更新] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。

   b. レコードタイプを選択します。

   c. フォームのフィールドに入力します。

   [適用可能なレコードタイプ] フォーム

フィールド	説明
リスクアセスメント方法	RAM の名前。このフィールドは選択した RAM に基づいて自動的に設定されます。
レコードタイプ	適用可能なレコードタイプの名前このフィールドは選択したレコードタイプに基づいて自動的に設定されます。
ターゲットリスク評価	ソースレコード内でターゲットリスク評価値が格納される列。アセスメントの後、ターゲットリスク評価結果がこのフィールドで選択された列にコピーされます。このフィールドは、[アセスメントの貢献度] フィールドが [定性的] または [両方] である場合にのみ表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ターゲット ALE	ソースレコード内でターゲットの年次損失予測 (ALE) の値が格納される列。アセスメントの後、ターゲットの ALE 結果がこのフィールドで選択された列にコピーされます。このフィールドは、[アセスメントの貢献度] フィールドが [定量的] または [両方] に設定されている場合にのみ表示されます。

注:
別のリスクアセスメント方法で同じレコードタイプが使用されている場合、ソースレコードは最新の高度なリスクアセスメントの RAM で定義されたフィールドに基づいて更新されます。

d. [更新] を選択します。

10. [**Publish**] を選択します。

ターゲットアセスメントフォーム

高度なリスク アプリケーションでターゲットアセスメントフォームを使用して、組織内の望ましい今後のリスクレベルを評価します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

ターゲットアセスメントフォーム

フィールド	説明
リスクアセスメント方法	このターゲットアセスメントが属する RAM の名前。このフィールドは選択した RAM に基づいて自動的に設定されます。
状況	アセスメントタイプの現在のステータス。このフィールドは自動的に [ドラフト] に設定されます。
計算基準	アセスメントスコアを計算するためのオプション： • 係数応答：ターゲットアセスメントの個々の要素を選択するオプション。 • 固有と同じ要素：固有アセスメントからアセスメントの貢献度、採点ロジック、および要素をコピーするオプション。 • 残存と同じ要素：残存アセスメントからアセスメントの貢献度、採点ロジック、および要素をコピーするオプション。 • 全体的なアセスメント：要素を選択せずに続行するオプション。査定人は、アセスメントの評価または年次損失予測 (ALE) を直接提供できます。
アセスメントの貢献度	要素の貢献度のタイプ：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ターゲットアセスメントフォーム (続く)

フィールド	説明
	• 定量的 • 定性的 • 両方 **注:** [計算基準] フィールドで [固有と同じ要素] または [残存と同じ要素] が選択されている場合、[アセスメントの貢献度] フィールドは、固有および残存アセスメントタイプで定義された値に自動的に設定されます。このフィールドは変更できません。
ヒートマップを有効化	高度なリスクダッシュボードのヒートマップレポートの表示を有効にするオプション。 **注:** このオプションは、2 つ以上の要素がアセスメントタイプに追加されている場合にのみ選択できます。
固有の評価基準をコピー	固有のアセスメントから定性的評価基準をコピーするオプション。このオプションは、[計算基準] フィールドから [固有と同じ要素] が選択されている場合にのみ表示されます。
残存の評価基準をコピー	残存アセスメントから定性的評価基準をコピーするオプション。このオプションは、[計算基準] フィールドから [残存と同じ要素] が選択されている場合にのみ表示されます。
定性的スコア	
このセクションは、[アセスメントの貢献度] フィールドで [定性的] または [両方] を選択した場合にのみ表示されます。	
定性的採点ロジック	定性的スコアを計算するための計算式。 [定性的採点ロジック] フィールドを変更できるのは、[計算基準] フィールドで値 [要素応答] が選択されている場合のみです。オプションは次のとおりです。 • [合計]：要素応答の合計。 • [最小]：要素応答の最小値。 • [最大]：要素応答の最大値。 • [平均]：要素応答の平均値。 • [積]：要素応答を乗算して導出された値。 • [加重平均]：要素の重み付けの平均値。この値は、低、中、または高として分類されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ターゲットアセスメントフォーム (続く)

フィールド	説明
	• [スクリプト]：カスタムスクリプトを使用して定性的スコアを計算します。[スクリプト] オプションを使用すると、組織固有の要件とリスクアセスメントアプローチに合わせてカスタマイズされた計算方法を作成できます。このオプションは、sn_grc.developer ロールを持つユーザーのみが使用できます。 **注:** sn_grc.developer ロールを持つユーザーのみが、公開されていないアセスメントタイプに対してスクリプトを記述または変更できます。
定量的スコア	
このセクションは、[アセスメントの貢献度] フィールドで [定量的] または [両方] を選択した場合にのみ表示されます。	
定量的採点ロジック	定量的スコアを計算するための計算式。 [定量的採点ロジック] フィールドを変更できるのは、[計算基準] フィールドで値 [要素応答] が選択されている場合のみです。オプションは次のとおりです。 • [合計]：要素応答の合計。 • [最小]：要素応答の最小値。 • [最大]：要素応答の最大値。 • [平均]：要素応答の平均値。 • [積]：要素応答を乗算して導出された値。 • [スクリプト]：カスタムスクリプトを使用して定量的スコアを計算します。[スクリプト] オプションを使用すると、組織固有の要件とリスクアセスメントアプローチに合わせてカスタマイズされた計算方法を作成できます。 **注:** sn_grc.developer ロールを持つユーザーのみが、公開されていないアセスメントタイプに対してスクリプトを記述または変更できます。
セクションラベル	
このセクションは、RAM フォームで [セクション用語を構成] オプションが選択されている場合のみ表示されます。	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ターゲットアセスメントフォーム (続く)

フィールド	説明
注: セクションラベルの名前変更は、高度なリスクアセスメントインターフェイスにのみ適用されますが、レポート、ダッシュボード、ヒートマップ、およびその他の領域で使用される用語は変更されません。	
タイトル	アセスメントタイプのセクションタイトルの名前を変更するオプション。たとえば、ターゲットアセスメントの名前を「将来のアセスメント (Future assessment)」に変更すると、以前にターゲットアセスメントが参照されていたすべてのセクションに新しいタイトルが表示されます。
スコアラベル	アセスメントフォームの [スコアリング] セクションで定性的スコアラベルの名前を変更するオプション。たとえば、ターゲットリスクの名前を「将来のリスク (Future risk)」に変更すると、以前にターゲットリスクが参照されていたスコアリングセクションに新しいタイトルが表示されます。
年間損失予測ラベル	アセスメントフォームの [スコアリング] セクションで定量的スコアラベルの名前を変更するオプション。たとえば、ターゲット ALE の名前を「将来の ALE (Future ALE)」に変更すると、以前に ALE リスクが参照されていたスコアリングセクションに新しいタイトルが表示されます。
その他の構成	
アセスメントが必要	ターゲットアセスメントを常に必須にするか、特定の条件に基づいて条件付きで必須にするかのオプション。オプションは次のとおりです。 • [常時]：特定の条件に関係なく、ターゲットアセスメントを必須にするオプション。 • [特定の条件]：条件ビルダーを使用して、特定の条件に基づいてターゲットアセスメントを必須にするオプション。 • [スクリプトによって指定された特定の条件]：事前定義されたスクリプトまたは一連の指示を使用して、ターゲットアセスメントを必須にするオプション。[スクリプト] オプションを使用すると、組織固有の要件とリスクアセスメントアプローチに合わせてカスタマイズされた条件を作成できます。 **注:** sn_grc.developer ロールを持つユーザーのみがスクリプトを記述または変更できます。
ヒートマップ構成	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ターゲットアセスメントフォーム (続く)

フィールド	説明
このセクションは、[ヒートマップを有効化] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。	
X 軸の係数	ヒートマップの X 軸に表示される要素。 注: [選択肢] タイプの定性的要素または変換基準のある要素のみを選択できます。詳細については、「変換基準」を参照してください。
Y 軸の係数	ヒートマップの Y 軸に表示される要素。 注: [選択肢] タイプの定性的要素または変換基準のあるもののみを選択できます。詳細については、「変換基準」を参照してください。

リスクの色のスタイルを作成

さまざまなアセスメントタイプとマトリクスに使用するリスクの色のスタイルのライブラリを作成します。リスクの色のスタイルは、背景色とテキストの色の組み合わせです。色のスタイルは、リスクアセスメントを構成するときに一貫性を維持するのに役立ちます。

始める前に

必要なロール：sn_risk.admin

このタスクについて

ServiceNow　には、事前設定された色のスタイルが用意されています。事前設定された色を変更することも、独自の色スタイルを作成することもできます。

手順

1. 移動先 すべて > 高度なリスクアセスメント > アドミニストレーション > リスクの色のスタイル.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームで、フィールドに入力します。

リスクの色のスタイルフォーム

フィールド	説明
色のスタイル	テキストと色コードの組み合わせの名前。たとえば、高リスクなどです。
ネクストエクスペリエンスの色のスタイル	
注: カスタマイズされたリスクの色のスタイルのデフォルトの色は [重大] に設定され、バリアントは [プライマリ] に設定されます。要件に基づいて、色とバリアントを手動で変更できます。	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
色	背景色として表示される色。これは、さまざまな色合いのバリエーションが派生する基本的な色相です。
Variant (バリアント)	バリアントとは、ベースカラーのさまざまな色合いまたは色合いを指します。オプションは次のとおりです。 ○ プライマリ:色の標準またはベースの色合い。これは通常、色の最も純粋またはニュートラルなバージョンです。 ○ セカンダリ:プライマリカラーの明るい色合い。 ○ ターシャリ:プライマリカラーの最も明るい色合い。
プレビュー	選択した色とそのバリアントがインターフェイスでどのように表示されるかを視覚的に表現したものです。
従来の色のスタイル	
評価の色	背景色として表示される色。
テキストの色	テキストの色として表示される色。

4. **[Submit** (送信)] を選択します。

タスクの結果
リスクの色のスタイルを使用する準備ができました。

リスクヒートマップを構成

リスクアセスメント方法論 (RAM) 内で、固有および残存アセスメントのヒートマップのビジュアル化を構成します。異なるリスクアセスメント方法論に対して異なるヒートマップを使用します。

始める前に
必要なロール：sn_risk.admin

このタスクについて
事前パッケージ済みのヒートマップウィジェットを使用してヒートマップを構成します。構成されたヒートマップをダッシュボードにマッピングして、RAM のリスク体制を監視します。

手順

1. ヒートマップを追加するダッシュボードに移動します。
2. 右上隅で、選択したアプリケーションを [グローバル] から GRC：高度なリスク に変更します。
3. ウィジェットを追加するには、右上のプラス ＋ をクリックします。
4. [ウィジェットを追加] リストから、次のいずれかを選択します。
   - 高度な固有のヒートマップ。
   - 固有ヒートマップまたは残存ヒートマップをそれぞれ設定する場合は、[高度な残存ヒートマップ]。
5. RAM の既存のフィルターを再利用する場合は、次の手順を実行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [ウィジェットを追加] リストから [インタラクティブフィルター] を選択します。

b. [参照] を選択します。

c. [リスクアセスメント方法論] を選択します。
または、RAM テーブルに独自のフィルターを作成し、ダッシュボードタブに追加することもできます。

タスクの結果
選択したヒートマップがダッシュボードに表示されます。

リスクアセスメントスコープを作成し、アセスメントを開始します。

エンティティのリスクを定義および特定するためのリスクアセスメントスコープを作成します。アセスメントの査定人と承認者を特定し、アセスメントの頻度を定義します。

始める前に
必要なロール：sn_risk.admin

このタスクについて
スコープを作成すると、アセスメントを開始できます。このプロセスは、管理チームに可視化と正確なレポートを提供します。

手順

1. 移動先 すべて > 高度なリスクアセスメント > リスクアセスメントスコープ > 作成.
2. フォームのフィールドに入力します。

リスクアセスメントスコープフォーム

フィールド	説明
リスクアセスメント方法	リスクを評価するために使用するリスクアセスメント方法論 (RAM)。
アセスメント可能なエンティティ	RAM の [適用可能なエンティティクラス] フィールドで選択されたエンティティクラスに関連するエンティティ。このフィールドの値は、選択した RAM で指定されたエンティティクラスに基づいて変更されます。選択したクラスに属するエンティティのみがこのフィールドに表示されます。
所有者	エンティティのオーナー。このフィールドはエンティティオーナーに基づいて自動的に設定されます。

3. フォームを右クリックして保存します。
4. オプション: アセスメントのサマリーを表示するには、[サマリー] セクションをクリックします。
[サマリー] セクションには次のフィールドがあります。次のフィールドは、アセスメントスコープにリスクを追加するとき、およびアセスメントを開始するときにのみ入力されます。
   - クローズされたリスクアセスメントの数
   - 未評価リスクの数
   - 継続的なリスクアセスメントの数

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. フォームを右クリックして保存します。
6. 既存のリスクを追加する場合は、次の手順を実行します。

   a. [リスク] 関連リストで、[追加] をクリックして既存のリスクを追加します。

   b. [リスクを選択 (Choose Risks)] ウィンドウで、追加するリスクを選択します。

   c. [リスクを追加 **(Add Risks)]** をクリックします。

   d. エンティティのコントロールを持たないコントロール目標を選択するには、[ライブラリーから作成] をクリックします。

   e. [リスクステートメントを選択 (Choose Risk Statements)] ウィンドウで、適用するリスクステートメントを選択し、[ライブラリーから作成] をクリックします。

   f. すべてのリスクレコードまたは選択したリスクレコードの [アセスメントを開始] をクリックします。
   選択したレコードが [ドラフト] または [クローズ済み] ステータスであることを確認します。

   g. 新しいリスクを追加するには、[新規] をクリックし、詳細を入力して [送信] をクリックします。
   新しく追加されたリスクが [リスク] 関連リストに表示されます。

7. 新しい設定を適用するには、[設定]をクリックします。
8. フォームのフィールドに入力します。

査定人、承認者、および頻度フォーム

フィールド	説明
査定人タイプ	リスクの評価を担当するグループまたはユーザー。選択肢は次のとおりです。 ○ リスクオーナーと同じ ○ ユーザーの指定 ○ グループの指定 ○ エンティティオーナーと同じ
査定人	リスクの評価を担当するユーザー。このフィールドは、[査定人タイプ] フィールドから [ユーザーを指定] が選択された場合のみ表示されます。
査定人グループ	リスクの評価を担当するグループ。このフィールドは、[査定人タイプ] フィールドから [グループの指定] が選択された場合のみ表示されます。
アセスメント頻度	アセスメントの頻度。選択肢は次のとおりです。 ○ なし ○ 週次

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ 毎月 ○ 四半期ごと ○ 半年ごと ○ 年次 **注:** 次の再評価日までに予定されていないリスクアセスメントを実行する必要がある場合、次のアセスメント日は前回のアセスメントで設定された頻度に基づきます。たとえば、頻度が月次に設定されていて、1 月 1 日に最初のアセスメントを実行し、1 月 15 日に予定されていないアセスメントを実行した場合、次のアセスメントは引き続き前のアセスメント日に基づきます。
期限切れまでの日数	アセスメントが開始された日からのアセスメントの期日を計算するために使用される数字。たとえば、このフィールドの値が 10 の場合、アセスメントの期日はアセスメントが開始された日から 10 日後になります。デフォルト値は 5 です。
承認者タイプ	リスクの承認を担当するユーザーまたはグループ。選択肢は次のとおりです。 ○ エンティティオーナーと同じ ○ 査定人のマネージャーと同じ ○ ユーザーの指定 ○ グループの指定 ○ なし
承認者	アセスメントの承認を担当するユーザー。このフィールドは、[承認者タイプ] フィールドから [ユーザーを指定] が選択された場合のみ表示されます。
承認者グループ	アセスメントの承認を担当するグループ。このフィールドは、[承認者タイプ] フィールドから [グループの指定] が選択された場合のみ表示されます。

このステップで選択した設定は、このスコープに追加されるすべての新しいリスクに適用されます。

9. フォームを保存するには、[送信] をクリックします。
10. アセスメントを生成するには、[すべてのアセスメントの開始] をクリックします。
アセスメントを生成すると、査定人は、アセスメントが査定人または査定人のグループにアサインされたことを示すメール通知を受け取ります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
評価する必要がなくなったリスクのアセスメントをキャンセルする場合は、アセスメントを選択し、[アセスメントをキャンセル] をクリックします。

> **注:**
> リスクアセスメントがキャンセルされると、リスク査定人にキャンセルが通知され、タスクがキューから削除されます。

リスクアセスメントをシミュレート

リスクアセスメントをシミュレートし、ドラフト状況にある、関連付けられているリスクアセスメント方法論 (RAM) の構成を検証します。

始める前に
必要なロール：sn_risk.admin

このタスクについて
公開された RAM の構成を変更するには、そのすべてのアセスメントを手動で削除し、RAM ステータスを [ドラフト] に変更する必要があります。リスクアセスメントのシミュレーションでは、RAM がドラフト状況のときに RAM 構成を検証できます。この機能は、RAM を公開する前に要素、採点ロジック、およびワークフローを検証し、RAM に必要な変更を加えるのに役立ちます。シミュレートされたリスクアセスメントはリスク集計には使用されず、RAM が変更または公開された後に削除されます。

手順

1. 移動先 すべて > 高度なリスクアセスメント > アドミニストレーション > リスクアセスメント方法.
2. 構成を検証する RAM を選択して開きます。

   > **重要:**
   > ドラフト状況の RAM を選択する必要があります。

3. [シミュレート] をクリックします。

   > **重要:**
   > このボタンは、選択した RAM のすべてのアセスメントタイプが公開されている場合にのみ表示されます。

   リスクまたはオブジェクトを選択するためのダイアログボックスが表示されます。
4. シミュレートするリスクまたはオブジェクトを選択します。

   > **重要:**
   > RAM で指定されたエンティティクラスとテーブルに属するリスクとオブジェクトを選択できます。

5. [送信] をクリックします。
   シミュレートされたリスクアセスメントが作成され、リスクアセスメント番号とともに成功メッセージが表示されます。リスクアセスメント番号をクリックして開くと、アセスメントを実行できます。
6. オプション: 選択した RAM のすべてのシミュレートされたアセスメントを表示するには、[シミュレートされたアセスメントを表示] をクリックします。

アセスメントのインスタンスでリスクとオブジェクトを評価

設定したリスクを評価し、関連する承認者にリスクを再アサインします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：sn_grc.business_user

注:
高度なリスクアセスメントロールを sn_grc.business_user ロールに手動でアサインする必要があります。ロールとグループの付与を調整する方法については、Now Support ナレッジベースの「How to adjust granting of roles and groups to use background jobs (バックグラウンドジョブを使用するためのロールとグループの付与を調整する方法) [KB0963693]」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > 高度なリスクアセスメント > リスクアセスメントタスク > 自分のタスク.
   アセスメントは [評価の準備完了] ステータスにあります。
2. アセスメントを開始するには、[評価] をクリックします。
   ワークフローは最初のリスクアセスメントタイプに移行します。特定のアセスメントタイプが設定されていない場合、そのセクションはフォームに表示されません。
3. オプション: アセスメントを再割り当てするには、[再割り当て] をクリックし、アセスメントを再割り当てするユーザーの名前を入力します。
4. [固有のアセスメント] セクションをクリックし、フォームの質問に回答します。

   a. フォームを右クリックして保存します。

   b. 次のアセスメントに移動するには、[固有のアセスメント] をクリックし、フィールドに入力します。

[固有のアセスメント] セクション

フィールド	説明
結果	
計算済み固有リスク	固有のリスクスコア。
計算済みスコアを上書き	計算された固有スコアを上書きするオプション。
計算済み固有 ALE	リスクの計算済み固有 ALE。ALE は、固有のアセスメント要素に基づいて計算されます。
固有リスクを上書き	計算済み固有リスクスコアを上書きするために RAM フォームで構成された値。このフィールドは、[計算済みスコアを上書き] オプションが選択されている場合にのみ利用できます。
固有の ALE を上書き	計算済み固有リスクスコアを上書きする値。値はロールアップに使用されます。
コメント	リスクアセスメント承認者の詳細を提供する追加情報。ユーザーは、計算されたスコアを上書きする理由を入力する必要があります。このフィールドは、[計算済みスコアを上書き] オプションが選択されている場合にのみ必要です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. 必要に応じて、[コメント] 列にコメントを追加します。

d. [保存して計算] をクリックします。

5. コントロールアセスメントを実行するには、[コントロールアセスメントの実行] をクリックし、次の操作を行います。

a. フォームのフィールドに入力します。

[コントロールアセスメント] セクション

フィールド	説明
結果	
計算済みのコントロール有効性	コントロール有効性スコア。
計算済みスコアを上書き	計算されたコントロール有効性スコアを上書きするためのオプション。
コメント	リスクアセスメント承認者の詳細を提供する追加情報。このフィールドは、[計算済みスコアを上書き] オプションが選択されている場合にのみ必要です。

注:
[コントロールアセスメント] フォームの [計算基準] フィールドで [コントロールの個々のアセスメント] を選択した場合は、ライブラリからのコントロールの作成、既存のコントロールの追加、新しいコントロールの追加、または既存のコントロールの削除を行うことができます。要素に回答するためのガイダンステキストを使用します。コントロールが準拠しているかどうかを判断するには、[ステータス] 列を参照してください。

b. コントロールを作成、追加、または削除するには、次のいずれかのアクションを実行します。

選択肢	アクション
ライブラリからコントロールを作成する	**i.** [コントロールを選択 (Choose Controls)] ウィンドウで [ライブラリーから作成] をクリックします。 **ii.** 必要なコントロール目標を選択します。 **iii.** [コントロールを追加] をクリックします。
既存のコントロールを追加する	**i.** [追加] をクリックします。 **ii.** コントロールを選択します。 **iii.** [コントロールを追加] をクリックします。
新しいコントロールを作成する	**i.** [新しいコントロール] ウィンドウのフィールドに入力します。 **ii.** [送信] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

選択肢	アクション
コントロールを削除する	**i.** [コントロールを選択 (Choose Controls)] ウィンドウで [削除] をクリックします。 **ii.** 削除するコントロールを選択します。 **iii.** [コントロールを削除] をクリックします。

リスクにデフォルトのコントロールがある場合、それらのコントロールは自動的にコントロールアセスメントに追加されます。

c. 評価する必要があるリスクまたはオブジェクトに関連付けられているコントロールがない場合は、[評価するコントロールの緩和はありません] オプションを選択します。
軽減コントロールを評価しない場合、残存リスクはデフォルトで残存アセスメントステージで適用外とマークされます。ただし、リスクに関連する軽減コントロールがある場合、[評価するコントロールの緩和はありません] オプションは表示されません。

d. コントロールの評価をオプトアウトする場合は、[コメント] フィールドに理由を入力します。

e. [保存して計算] をクリックします。

6. 次のアセスメントに移動するには、[残りのアセスメントを実行] をクリックし、次の操作を行います。

a. フォームのフィールドに入力します。

[残存アセスメント] セクション

フィールド	説明
結果	
計算済み残存リスク	残存リスクスコア。
コメント	リスクアセスメント承認者の詳細を提供する追加情報。このフィールドは、[計算済みスコアを上書き] オプションが選択されている場合にのみ必要です。

注:
このステージでは、既存のコントロールと新しいコントロールを追加できます。誤って追加したコントロールを削除することもできます。残存アセスメントに表示される要素は、要素フォームで構成した要素です。これらの要素に対する回答によって、コントロールアセスメントスコアが決まります。スコアは、定性的重み付け、定性的スコア、および定量的スコアに基づいています。

b. 残存リスクを評価するが、軽減コントロールを評価しない場合は、[残存リスクは適用されません] フィールドをクリアします。
残存リスクを評価しない場合は、フィールドは変更しません。

c. フォームを右クリックして保存します。

7. 次のステータスに移動して、評価したリスクに対応するには、[応答] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [リスク応答] タブで [リスク応答] をクリックし、次のオプションから 1 つ以上のリスク応答を選択します。
   - [なし]：リスクに対する応答を選択しません。
   - [承認]：リスクを受け入れて確認します。
   - [回避]：リスクまたはその影響を排除します。
   - [軽減]：リスクの影響または可能性を減らします。
   - [転送]：責任をサードパーティに転送します。

b. フォームを右クリックして保存します。

複数のリスク応答が選択されている場合は、リスク応答タスクが作成されます。

8. [リスク対応タスク] 関連リストをクリックし、タスクを適切なユーザーにアサインし、右クリックしてフォームを保存します。
この関連リストは、RAM 構成中にリスクアドミニストレーターが [リスク対応を有効にする] オプションを選択した場合にのみ表示されます。
9. [コメント] フィールドにコメントを入力します。
10. このアセスメントのアクティビティを表示するには、[アクティビティジャーナル] をクリックします。
11. アセスメントを終了して承認のために送信するには、[保存] をクリックし、[承認を要求] をクリックします。
リスクアセスメントスコープで選択した承認者は、リスクアセスメントインスタンスを承認または却下するためのメール通知を受け取ります。承認者がいない場合、リスクアセスメントインスタンスは [監視] ステータスに移行します。

次のタスク
アセスメントのサマリーを表示するには、[アセスメントのサマリー] をクリックします。

リスク評価

クラシック版リスクアセスメントを使用して、組織内のリスクを評価します。

リスクアセスメントデザイナーを使用してリスクアセスメントを作成

リスクアセスメントデザイナーを使用して、メトリクスタイプの作成と編集、リスクごとに異なるメトリクスタイプの使用、リスクアセスメントに対する複数の回答者の選択、採点パラメーターの変更を行います。質問集にはさまざまなカテゴリの質問のライブラリが用意されているため、各アンケートを最初からビルドする必要はありません。

始める前に
必要なロール：sn_risk.asmt_creator、sn_risk.manager

手順

1. 移動先 すべて > リスク > アドミニストレーション > アセスメントタイプ.
2. [リスクアセスメントデザイナー] をクリックします。
デザイナーには次の要素が含まれています。

要素	説明
コントロール	サポートされている質問データのタイプは [Controls] パレットで利用可能です。コント

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

要素	説明
	ロールをデザイナーキャンバスにドラッグして、そのタイプの質問を作成します。
質問	さまざまなカテゴリの質問のライブラリで、各アンケートを最初からビルドする必要はありません。
カテゴリ	[デザイン] ビューで開いた新しいアセスメント。アンケートの [名前] フィールドが、キャンバスの最初のカテゴリの上に表示されます。空白の質問フィールドがカテゴリコンテナに表示されます。

3. [名前] フィールドに名前を入力します。
4. コントロールをデザイナーキャンバスにドラッグして、そのタイプの質問を作成します。

質問コントロール

データタイプ	説明	採点済み
添付ファイル	ユーザーが 1 つまたは複数のファイルを添付できる、[添付ファイルを管理] アイコンがある質問。	Y
ブーリアン	ユーザー応答のためにチェック ボックスまたは [はい/いいえ] リストがある質問。	
選択肢	事前定義済みオプションのリスト。詳細については、[選択肢] の定義を参照してください。	Y
日付	[日付] フィールド。	N
日付/時刻	[日付/時刻] フィールド。	N
番号	事前定義された最小値と最大値を持つ数値フィールド。デフォルトは 1 ～ 10 です。	N
パーセンテージ	範囲が指定されている [パーセンテージ] フィールド。	N
スケール	事前定義されたリッカート尺度。回答オプションはラジオボタンとして表示されます。	Y
数値スケール	選択可能な数値スケール。デフォルトは 1 ～ 5 です。回答オプションはラジオ ボタンとして表示されます。	Y
文字列	1 行または複数行のテキスト フィールド。	N
テンプレート	オプションの事前定義済みスケールを示すテンプレートの選択リスト。	Y
参照	指定された参照テーブルからのフィールドの選択リスト。このデータタイプは参照修飾子をサポートしていません。	

注:
採点するメトリクスの正しい答えを設定します。採点済みメトリクスは、リスクのコンプライアンスステータスを決定します。

5. キャンバス内のビューを変更するには、次のいずれかのタブをクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
デザイン	カテゴリーと質問を追加し、それぞれのプロパティを設定します。これは、デザイナーを開いたときのキャンバスのデフォルトのビューです。
設定 (Configuration)	証明書の前書き & 後書きを作成して、署名を選択します。
Availability	証明書の各カテゴリの受信者を選択します。

6. デザイナーの右上にあるメニューアイコンをポイントして、次のいずれかのオプションを選択します。

   注:
   各オプションの可用性は、デザイナーで開いているアセスメントのステータスに依存します。

オプション	説明
保存	現在のアセスメントを保存します。
プレビュー	選択した受信者にプレビューを表示します。
公開	選択した受信者にアセスメントを配布します。
保存して公開	ワンステップでアセスメントを保存して配布します。
新しい証明書	新しいアセスメントの新しいキャンバスを開きます。
証明書をロード	選択して編集できる既存のアセスメントのリストを開きます。

   他のタイプのアセスメントとは異なり、リスクアセスメントは セルフサービス > 自分のアセスメントとサーベイ 何百ものコントロール証明書が一度に生成される可能性があるためです。代わりに、リスクアセスメントはリストとして リスク > リスク登録 > 自分のアセスメント および リスク > リスク登録 > すべてのアセスメント 移動します

アセスメントタイプを作成

リスクマネージャーは、リスクアセスメントごとに質問セットを作成できます。

始める前に
必要なロール：sn_risk.asmt_creator、sn_risk.manager、または sn_risk.administrator

手順

1. 移動先 すべて > リスク > アドミニストレーション > アセスメントタイプ.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントメトリクスタイプフォーム

フィールド	説明
名前	アセスメントタイプの名前。
アセスメント期間	アセスメントが生成された時点から、査定人が割り当てられたアンケートを完了するのに必要な時間の数です。
テーブル	評価するレコードを含むテーブル。指定した条件があれば、このテーブルで条件を満たすレコードに対するアセスメント可能なレコードが作成されます。一致するレコードの数は、[条件] フィールドにリンクとして表示されます。テーブルの選択を変更すると、リンクが動的に更新されます。リンクを選択すると、一致するレコードリストが新しいタブまたはウィンドウで開きます。 **注:** 特定のテーブルのレコードを表示するには、さらにロールが必要です。アクセス権のないテーブルを選択すると、一致するレコードの数があるはずの [条件] フィールドによって警告メッセージが表示されます。適切なロールがないテーブルに対しては、アセスメント可能なレコードを生成することはできません。
尺度値	アセスメント結果の最高スコアを表す数。このタイプのアセスメントのすべての結果は、この数値にスケールされます。10 は一般的には良い尺度値です。 **注:** このフィールドは値を含むと読み込み専用になり、メトリクスタイプを保存します。メトリクスタイプを保存する前に、満足している尺度値を選択します。
条件	選択されたテーブルから評価する特定のレコードを定義する条件ビルダー。条件をまったく指定しないと、選択したテーブルのすべてのレコードに対してアセスメント可能なレコードが作成されます。リフレッシュアイコンを選択すると、隣接するレコード数が更新されます。 **注:** テーブルまたは条件を変更する場合は、[アセスメント可能なレコードを生成] を選択して、新しいアセスメント可能なレコードを作成する必要があります。
説明	このタイプに関する有用な情報。タイプとその目的の明確な説明を入力します。
状況	アセスメントのステータス：[ドラフト] または [公開]
条件を強制	選択したテーブルまたは条件を変更したときにアセスメント可能なレコードに何が起こるかを決定するオプション。
ロール	このタイプに関連付けられた結果とアクセス レコードを表示できる追加のユーザー ロール。指定されたロールを持つユーザーは、タイプレコード、ならびに関連するカテゴリ、メトリクス、アセスメント可能なレコードとスコアカード、カテゴリユーザー、ステークホルダー、およびディシジョンマトリクスへの読み込みアクセス権を持ちます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: これらのロールを持つユーザーは、同時にアセスメントアドミニストレーターでなければ、アセスメントモジュールにアクセスできません。これらのロールを持つユーザーは、アセスメントのインスタンスの参照フィールドからなど、他の手段でレコードに移動できます。このフィールドには、特別な場合にユーザーに特定のアセスメントデータへのアクセス権を付与するオプションがあります。たとえば、ベンダーメトリクスタイプでは、vendor_manager ロールを持つユーザーが、ベンダーパフォーマンスアプリケーションでスコアカードやディシジョンマトリクスを開いたときに、結果を表示したり、アセスメント可能なレコードを比較したりするためのアクセス権が提供されます。

4. [送信] を選択します。

ポリシー例外のリスクを評価

ポリシー例外要求のレビュー後、要求の承認または却下を決定する前に、コンプライアンスマネージャーはリスクマネージャーによるリスクアセスメントの要求を選択できます。

始める前に
必要なロール：コンプライアンスマネージャー

このタスクについて
詳細については、「ポリシーの例外と延長を管理」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > 自分のポリシー例外.

2. ポリシー例外を選択します。

3. 必要に応じてフォームの詳細を確認します。

4. [ビジネスインパクトアナリシス] タブをクリックし、次のフィールドを更新します。

[ポリシー例外要求ビジネスインパクトアナリシス] タブ

フィールド	値
リスク詳細	リスクの説明。
残りの可能性	リスクが発生する可能性。[なし] 以外の場合は、このリスクが発生する可能性を選択します。 ○ **5 –** 可能性が非常に高い ○ **4 –** 可能性がある ○ **3 –** どちらでもない ○ **2 –** 可能性は低い ○ **1 –** 可能性は非常に低い
残存影響度	リスクの残存影響度。[なし] 以外の場合は、このリスクの残存影響度を選択します。 ○ **5 –** 非常に高い ○ **4 –** 高

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	値
	○ **3 -** 中 ○ **2 –** 低 ○ **1 –** 非常に低い
残存スコア	残存の可能性と残存の影響度評価を選択した後に計算される値： ○ **5 –** 非常に高い ○ **4 –** 高 ○ **3 -** 中 ○ **2 –** 低 ○ **1 –** 非常に低い

5. 次のいずれかのアクションを実行します。

6. [更新] をクリックします。

リスクを評価

リスクは [ドラフト] ステータスから開始し、[評価] ステータスに移行します。

始める前に
必要なロール：sn_grc.user

このタスクについて
リスクアセスメントが表示されません セルフサービス > 自分のアセスメントとサーベイ 数百の GRC アセスメントレコードが一度に生成される可能性があるためです。代わりに、リスクアセスメントは個別のリストビューに表示されます。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスク登録 > 自分のアセスメント.

2. アセスメントを開き、詳細を確認します。

オプション	説明
質問に回答できない場合	**a.** [アサイン先] フィールドで別のユーザーにアセスメントを再アサインします。 **b.** [更新] をクリックして、プロジェクトレコードを保存して閉じます。 **注:** sn_grc.user ロールを持つユーザーにのみアセスメントを再アサインできます。 アセスメントを別のユーザーに再アサインすると、アセスメントのリストが更新されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
質問に回答できる場合	**a.** [アセスメントを実施] をクリックします。 **b.** 質問に回答し、必要に応じて情報を添付します。 **c.** [送信] をクリックします。 [アセスメントを実施] ポップアップウィンドウを閉じると、アセスメントのリストが更新されます。

ビジネスプロセスを管理

組織内でビジネスプロセスを作成および管理します。

ビジネスプロセスを作成

ビジネスプロセスを作成し、オーナー、承認者、事業上の重要度、およびプロセスのレビュー頻度を定義します。

始める前に

必要なロール：business_process_admin

手順

1. 移動先 すべて > **CSDM** > デザイン > ビジネスプロセス.

2. [**New**] をクリックします。

3. フォームのフィールドに入力します。

ビジネスプロセスフォーム

フィールド	説明
名前	ビジネスプロセスの名前。
親	親ビジネスプロセス。 **注:** 親プロセスが存在する場合は、ビジネスプロセスの階層が作成されます。
ライフサイクルステージ	ビジネスライフサイクルにおけるビジネスプロセスのステージ。ステージによってステータスが決定され、アクションが表示されます。 **注:** [ドラフト] ステータスのプロセスのフォームを保存すると、このフィールドは自動的に [観念化] に設定されます。
レビュー頻度	ビジネスプロセスをレビューする頻度。
ライフサイクルステージステータス	ライフサイクルステージでのビジネスプロセスのステータス。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: [ドラフト] ステータスのプロセスのフォームを保存すると、このフィールドは自動的に [評価中] に設定されます。
次のレビュー日時	ビジネスプロセスを確認する必要がある予定日。このフィールドの値は、ビジネスプロセスが承認された後にのみ自動的に設定されます。
説明	ビジネスプロセスの簡単な説明。説明には、背景、実際のステップ、ビジネスプロセスのインタラクションを含めることができます。
所有権	
管理担当者グループ	このビジネスプロセスを維持するグループ。
承認グループ	ビジネスプロセスをレビューおよび承認する必要があるグループ。
所有者	ビジネスプロセスを担当するユーザー。このユーザーは、[管理担当者] グループのメンバーです。
ビジネスインパクト	
宣言された事業上の重要度	主観的アセスメントに基づくビジネスプロセスの重要性。以下から選択可能です。 ○ **1-** 最重要 ○ **2-** ある程度重要 ○ **3-** やや重要 ○ **4-** 重要ではない
機密性への影響度	機密性の損失のリスクのリスク評価。機密性の損失は機密情報の漏洩につながります。選択肢は次のとおりです。 ○ 高 ○ 中 ○ 低
可用性への影響度	可用性の損失のリスクのリスク評価。システムが使用できない場合、意思決定の遅延、ビジネスの中断、収益の損失、および顧客の不満の原因になる可能性があります。選択肢は次のとおりです。 ○ 高 ○ 中 ○ 低
決定された事業上の重要度	サブプロセスのアセスメントに基づいた、このビジネスプロセスの計算された重要度。選択肢は次のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ **1-** 最重要 ○ **2-** ある程度重要 ○ **3-** やや重要 ○ **4-** 重要ではない
完全性への影響度	完全性への影響度のリスクのリスク評価。完全性への影響度は、ブランド、評判、および人に対する罰金や損害など、ビジネスと従業員に影響を与えます。選択肢は次のとおりです。 ○ 高 ○ 中 ○ 低

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
   レコードが [ドラフト] ステータスに移行します。
5. レビューおよび承認のためにレコードを送信するには、[レビュー] をクリックします。
   [ライフサイクルステージ] フィールドおよび [ライフサイクルステージステータス] フィールドの値が変更されます。[承認] 関連リストが表示され、承認リストのメンバーが承認リストを表示できます。

ビジネスプロセスを承認、却下、または削除

新しいビジネスプロセスが承認者を特定した場合、公開する前に承認者はプロセスをレビューして承認する必要があります。承認者は、必要に応じてプロセスを却下または削除することもできます。

始める前に

必要なロール：business_process_manager

手順

1. 移動先 サービスデスク > 自分の承認.
2. 承認するレコードを開きます。
3. [ステータス] フィールドで、次のいずれかのオプションを選択します。
   - 未要求
   - 要求済み
   - 承認済み
   - 却下
   - キャンセル
   - 不要
4. [コメント] フィールドに必要に応じてコメントを入力します。
   レビュー担当者がレコードを却下する場合、レビュー担当者はコメントを入力する必要があります。
5. 次のオプションのいずれかを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクフレームワークを作成してリスクステートメントを関連付ける

リスクマネージャーは、リスクステートメントを管理可能なカテゴリにグループ化するリスクフレームワークを作成します。

始める前に
必要なロール：sn_risk.manager

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクライブラリー > フレームワーク.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

リスクフレームワークフォーム

フィールド	説明
番号	一意の識別番号が自動的に入力される読み取り専用フィールド。
有効	リスクフレームワークがアクティブかどうかを示すオプション。
名前	リスクフレームワークの名前。
説明	リスクフレームワークの説明。
追加情報	このリスクフレームワークの追加情報。

4. [送信] をクリックします。
5. リストからリスクフレームワークを選択して再度開きます。
6. [リスクステートメント] 関連リストで、[編集] を選択してリスクステートメントをリスクフレームワークに追加します。
7. [保存] をクリックします。

リスクステートメント階層を定義

リスクマネージャーは、リスクステートメントフォームで親と子の関係を確立します。

始める前に
必要なロール：sn_risk.manager

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクライブラリー > リスクステートメント.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

> **注:**
> ステートメントフィールド ([名前]、[説明]、[参照]、[カテゴリ]、[タイプ]、[分類]、および [証明書]) のいずれかが変更されると、関連付けられているすべてのコントロールとリスクが更新され、そのステータスが [ドラフト] に戻されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクステートメントフォーム

フィールド	説明
名前	リスクステートメントの名前。
親* このフィールドは、高度なリスク がダウンロードされている場合にのみ表示されます。	このリスクステートメントの親リスクステートメント。 ○ ユーザーは分類構造から適切な親を選択します。 ○ 親が指定されていない場合、リスクステートメントはツリーのルートになります。 ○ 組織内にこれらのルートタイプのリスクステートメントが複数存在する可能性があります。 ○ リスクステートメントを別のリスクステートメントの親と子の両方にすることはできません。
フレームワーク	このリスクステートメントが関連付けられているフレームワーク。
カテゴリ	カテゴリを選択します。 ○ 法務 ○ 財務 ○ 稼働 ○ 評判 ○ 法務/規制 ○ クレジット ○ 市場 ○ IT
アセスメント	リスクステートメントに関連付けられたアセスメント。
問題グループルール	レポートおよびダッシュボードのためにこのリスクステートメントに割り当てられた問題グループルール。
説明	リスクステートメントの説明。
追加情報	このリスクステートメントの追加情報。
デフォルトスコア	
固有 SLE	緩和戦略が実施される前に発生したリスクの金銭的価値。
残存 SLE	すべての緩和戦略が実施された後に発生するリスクの金銭的価値。
固有 ARO	緩和戦略が実施される前の特定の年にリスクが発生する可能性。
残存 ARO	すべての緩和戦略が実施された後、特定の年にリスクが発生する可能性。

自動翻訳

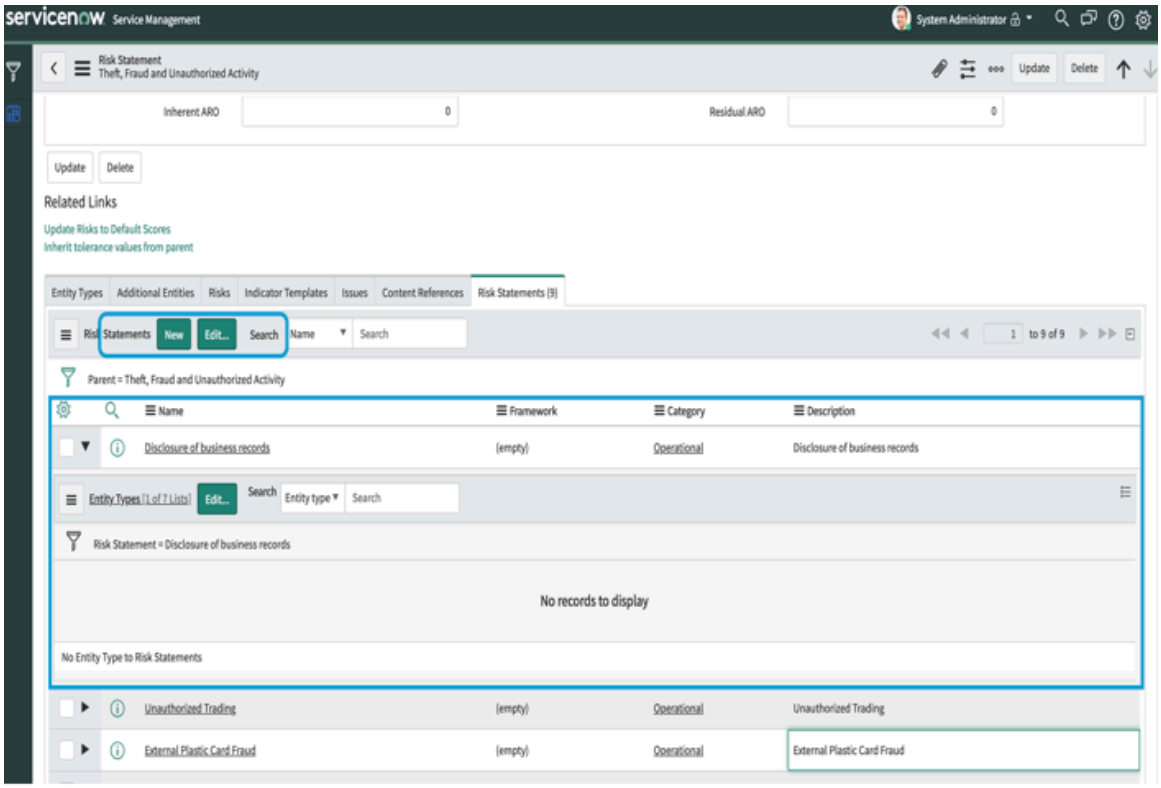
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
リスクロールアップと許容範囲* このタブは、高度なリスク がダウンロードされている場合にのみ表示されます。	
予想 ALE	予想 ALE の通貨と金額を入力します。 注: この値は、[許容可能な最大 **ALE]** 以下である必要があります。
許容可能な最大 ALE	許容可能な最大 ALE の通貨と金額を入力します。 注: この値は、[予想 **ALE]** 以上である必要があります。
計算済み ALE の合計	これは、根底にあるすべてのリスクまたはリスクステートメントに基づく計算です。
計算済み平均 ALE	これは、根底にあるすべてのリスクまたはリスクステートメントに基づく計算です。
計算済み最大 ALE	これは、根底にあるすべてのリスクまたはリスクステートメントに基づく計算です。
計算済み最小 ALE	これは、根底にあるすべてのリスクまたはリスクステートメントに基づく計算です。
許容範囲ステータス	許容値に基づいて自動的に計算されます。 ○ [計算済み **ALE]** が [予想 **ALE]** 以下の場合 = 緑色の [許容範囲内] ○ [計算済み **ALE]** が [予想 **ALE]** より大きいものの、[許容可能な最大 **ALE]** 以下の場合 = オレンジの [要注意] ○ [計算済み **ALE]** が [許容可能な最大 **ALE]** より大きい場合 = 赤の [許容できない]
計算済みスコア	計算済み ALE に対応するスコア： ○ 低 ○ 中 ○ 高

4. [送信] をクリックします。
5. 子リスクステートメントを追加するには、[リスクステートメント] 関連リストをクリックして、[新規] をクリックします。
6. フォームで適宜フィールドに入力し、[送信] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



7. このリスクステートメントに関連するすべての子リスクステートメントを追加するまで繰り返します。

リスクステートメントを作成

リスクマネージャーは、リスクを管理可能なカテゴリにグループ化するリスクステートメントを作成します。

始める前に
必要なロール：sn_risk.manager

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクライブラリー > リスクステートメント.

2. **[New]** をクリックします。

3. フォームのフィールドに入力します。

> **注:**
> ステートメントフィールド ([名前]、[説明]、[参照]、[カテゴリ]、[タイプ]、[分類]、および [証明書]) のいずれかが変更されると、関連付けられているすべてのコントロールとリスクが更新され、そのステータスが [ドラフト] に戻されます。

リスクステートメントフォーム

フィールド	説明
名前	リスクステートメントの名前。
親	親リスクステートメント。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
フレームワーク	このリスクステートメントが関連付けられているフレームワーク。
カテゴリ	カテゴリを選択します。 ○ 法務 ○ 財務 ○ 稼働 ○ 評判 ○ 法務/規制 ○ クレジット ○ 市場 ○ IT
アセスメント	このリスクステートメントにアサインされるリスクアセスメントテンプレート。アセスメントテンプレートは、リスクを評価するために使用されるアンケートです。
説明	リスクステートメントの説明。
追加情報	このリスクステートメントの追加情報。

注:
正確なデフォルトスコアリングの選択は、組織全体でリスクを正規化するために重要です。

4. [リスク選好度] セクションのフィールドに入力するには、「リスクステートメントのリスク選好度を定義」を参照してください。
5. [デフォルトスコア] 関連リストをクリックし、必要に応じてフォームのフィールドに入力します。

デフォルトスコアフォーム

フィールド	説明
固有 SLE	イベントをチェックするコントロールがない場合に、イベントが組織に与える影響。
残存 SLE	イベントをチェックするコントロールがある場合に、イベントが組織に与える影響。
固有 ARO	イベントをチェックするコントロールがない場合にイベントが発生する可能性。
残存 ARO	イベントをチェックするコントロールがある場合にイベントが発生する可能性。

6. [リスクロールアップおよび許容範囲] 関連リストをクリックして、フォームのフィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクロールアップおよび許容範囲フォーム

フィールド	説明
予想 ALE	年次損失予測 (ALE) は、年次発生率 (ARO) と単一損失予測 (SLE) の積を指します。予想 ALE は、リスクステートメントの ALE の予想値です。予想 ALE の通貨と金額を入力します。 注: この値は、[許容可能な最大 **ALE]** 以下である必要があります。
計算済み ALE の合計	この計算は、リスクステートメントとその子リスクステートメントのすべての基礎となるリスクの計算済み ALE の合計に基づいています。
計算済み最大 ALE	この計算は、リスクステートメントとその子リスクステートメントのすべての基礎となるリスクの計算済み ALE の最大値に基づいています。
許容可能な最大 ALE	リスクステートメントの ALE のしきい値。 注: この値は、[予想 **ALE]** 以上である必要があります。この値は、[許容範囲ステータス] フィールドに影響します。
計算済み平均 ALE	この計算は、リスクステートメントとその子リスクステートメントのすべての基礎となるリスクの計算済み ALE の平均に基づいています。
計算済み最小 ALE	この計算は、リスクステートメントとその子リスクステートメントのすべての基礎となるリスクの計算済み ALE の最小値に基づいています。
計算済みスコア	計算済み ALE に対応するスコア： ○ 低 ○ 中 ○ 高

7. **[Basel** カテゴリ化] 関連リストをクリックし、[Basel カテゴリ化階層] を選択します。
   Basel のカテゴリは次のとおりです。
   - 内部詐欺：資産の不正流用、脱税、意図的な誤ったポジション、贈賄。
   - 外部詐欺：情報の盗難、ハッキングによる損害、第三者による盗難および偽造。
   - 雇用慣行と職場の安全：差別、労働者の報酬、従業員の衛生安全。
   - クライアント、製品、およびビジネスプラクティス：市場操作、反トラスト、不適切な取引、製品の欠陥、違反、アカウントの解約。
   - 物理資産への損害：自然災害、テロ、破壊行為。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ビジネス中断とシステム障害：ユーティリティの中断、ソフトウェア障害、ハードウェア障害。
- 実行、配送、およびプロセス管理：データ入力エラー、会計エラー、失敗した必須レポート、クライアント資産の不注意による損失。

8. [送信] をクリックします。

GRC：ワークベンチ を使用してリスク階層を可視化

リスクユーザーは、GRC：ワークベンチを使用してリスクステートメントの階層を表示できます。

始める前に

GRC: Workbench (app-grc-workbench) プラグインをアクティブ化します。

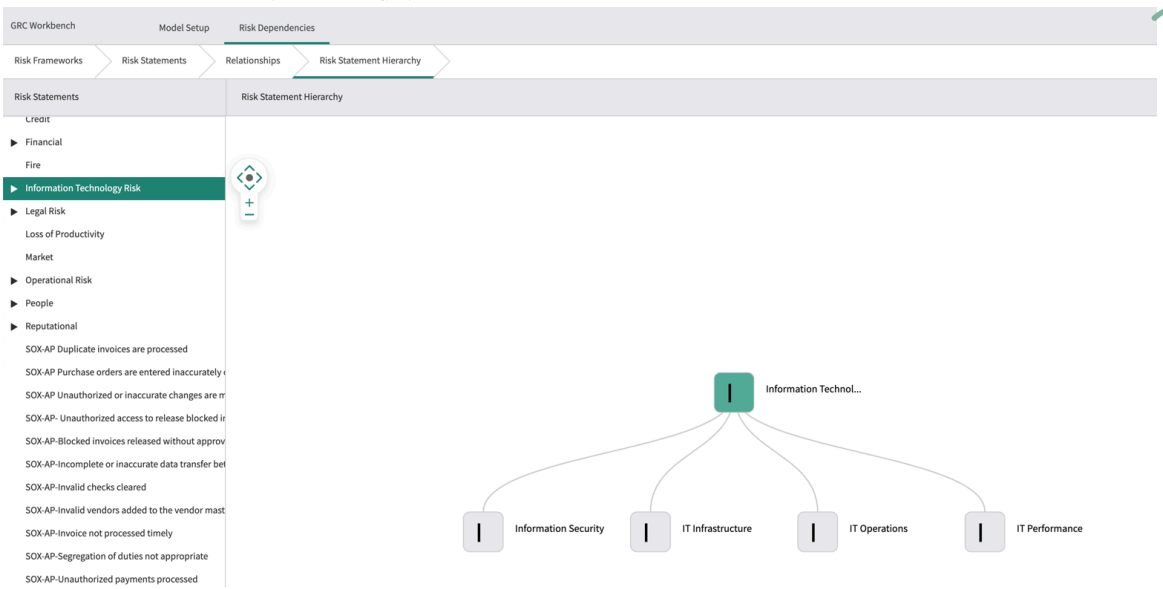
必要なロール：sn_risk.reader

手順

1. 移動先 すべて > リスク > **GRC** ワークベンチ.
2. [リスクの依存関係] をクリックします。
3. [リスクステートメント階層] をクリックします。
4. 左側のペインで、リスクステートメント階層を可視化するリスクステートメントをクリックします。

Example
たとえば、情報技術リスクステートメントの階層を確認する場合は、[情報技術リスク (Information Technology Risk)] をクリックすると、情報セキュリティ、IT インフラストラクチャ、IT 運用、IT パフォーマンスなどの親リスクステートメントと子リスクステートメントを表示できます。
リスクステートメント階層が表示されます。

リスクステートメント階層を可視化する



リスクフレームワークからリスクを生成

リスクフレームワークと関連付けると、自動的にリスクが作成されます。

始める前に

必要なロール：sn_risk.admin および sn_risk.manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクライブラリー > リスクフレームワーク.
2. リスクフレームワークレコードを開きます。
3. [エンティティタイプ] 関連リストで、[編集] をクリックします。
4. リスクフレームワークに関連付けるエンティティタイプを選択し、[保存] をクリックします。
   すべてのリスクステートメントがエンティティタイプに関連付けられ、エンティティタイプ内のすべてのエンティティに対してすべてのリスクステートメントにリスクが作成されます。

リスクステートメントからリスクを生成

リスクステートメントと関連付けると、自動的にリスクが作成されます。

始める前に
必要なロール：sn_risk.admin および sn_risk.manager

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクライブラリー > リスクステートメント.
2. リスクステートメントレコードを開きます。
3. [エンティティタイプ] 関連リストで、[編集] をクリックします。
4. リスクステートメントに関連付けるエンティティタイプを選択し、[保存] をクリックします。
   リスクステートメントに基づいて、エンティティタイプ内のエンティティごとに 1 つのリスクが生成されます。

リスクを相互に関連付ける

リスク間の関係性を作成して、リスクがどのように相互に影響するか、またどのように企業に影響を与えるかについて理解を深めます。

始める前に
必要なロール：sn_risk.manager または sn_risk.admin

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスク登録 > すべてのリスク.
2. リスクを開きます。
3. 次のいずれかのアクションを実行します。

オプション	説明
現在のリスクが別のリスクのダウンストリームであることを指定する	[アップストリームリスク **(Upstream Risks)**] 関連リストの [追加] ボタンをクリックします。
現在のリスクが別のリスクのアップストリームであることを指定する	[ダウンストリームリスク] 関連リストの [追加] ボタンをクリックします。

4. 現在のリスクに関連付ける目標のリスクを選択して、[関係性を作成] をクリックします。
5. ポップアップウィンドウで、現在のリスクに関連付けるすべての目標のリスクを選択して、[関係性を作成] をクリックします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

リスクを手動で作成

リスクアドミニストレーターは、価値の利益または損失の可能性を確認したときにリスクレコードを作成できます。

始める前に

必要なロール：sn_risk.user

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスク登録 > 新規作成.
2. フォームで、フィールドに入力します。

リスクフォーム

フィールド	説明
番号	一意の識別番号。このフィールドは、自動的に入力されます。
リスクステートメントから継承	リスクステートメントに依存しないリスクを作成するオプション。
有効	リスクがアクティブかどうかを示すオプション。
名前	リスクの名前。リスクがリスクステートメントから生成された場合、フィールドは自動的に入力されますが、リスクとリスクステートメントの関係に影響を与えることなく変更できます。
説明	リスクとそれが組織にとってどのように脅威であるかの説明。
リスクステートメント	このリスクが関連付けられているリスクステートメント。
カテゴリ	プロファイルに適用されるリスクのカテゴリ。 ○ 法務 ○ 財務 ○ 稼働 ○ 評判 ○ 法務/規制 ○ クレジット ○ 市場 ○ IT リスクがリスクステートメントから生成される場合、フィールドは自動的に入力されます。
エンティティ	リスクに関連するエンティティ。 注: アクティブなエンティティのみが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
エンティティオーナーと同期	エンティティオーナーをこのリスクレコードのオーナーとしてアサインするオプション。選択すると、エンティティオーナーが変更された場合に、リスクオーナーが自動的に更新されます。このオプションはデフォルトで **True** に設定されています。
所有グループ	リスクの所有グループ。
リスクの関連性	このリスクがどのように適用されるかの説明。 **注:** このフィールドは、[リスクステートメントから継承] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。
所有者	リスクのオーナー。 **注:** オーナーは常に回答者として追加されます。

3. [アセスメントのサマリー] タブを選択します。
このタブは、高度なリスク プラグインがアクティブ化されいる場合にのみ表示されます。プライマリとして選択されたリスクアセスメント方法論のスコアが、リスク採点セクションに表示されます。高度なリスク プラグインがアクティブ化されていない場合は、クラシック版リスクの次のセクションが表示されます。
4. [リスク選好度] セクションのフィールドに入力するには、「リスクのリスク選好度を定義」を参照してください。
5. フォームのフィールドに入力します。

リスクスコアリングフォーム

フィールド	説明
注: これらのフィールドは、従来のリスクに対して表示されます。	
アセスメント	このリスクに添付するアセスメント。
アセスメント回答者	このリスクのアセスメントにアサインされたユーザー。 **注:** sn_grc.user ロールを持つユーザーのみを応答者として追加できます。

[アセスメント] フィールドと [アセスメント回答者] フィールドの両方が設定されている場合、[評価] を選択するとアセ スメントが作成されます。

6. [採点] タブを選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. フォームで、フィールドに入力します。

リスクスコアリングフォーム

フィールド	説明
注: これらのフィールドは、従来のリスクに対して表示されます。	
固有 SLE	緩和戦略が実施される前に発生したリスクの金銭的価値。
残存 SLE	すべての緩和戦略が実施された後に発生するリスクの金銭的価値。
固有 ARO	緩和戦略が実施される前の特定の年にリスクが発生する可能性。
残存 ARO	すべての緩和戦略が実施された後、特定の年にリスクが発生する可能性。
固有 ALE	軽減戦略を実施する前の年間損失予測 ALE = SLE x ARO。
残存 ALE	すべての軽減戦略を実施した後の年間損失予測 ALE = SLE x ARO。
固有スコア	いずれかの緩和戦略が実施される前のリスクのスコア。
残存スコア	すべての緩和戦略が実施された後のリスクのスコア。
計算済み ALE	すべての計算に基づく年次損失予測。
計算済みスコア	計算済み ALE の対応するスコア。

8. [応答] タブを選択します。

9. フォームで、フィールドに入力します。

リスク応答フォーム

フィールド	説明
応答	○ 受け入れ ○ 回避 ○ 緩和 ○ 譲渡
正当性	選択した応答の合理的な理由を入力します。

10. [監視] タブを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスク監視フォーム

フィールド	説明
コントロール準拠の割合	コントロール準拠率
コントロール非準拠の割合	コントロール非準拠率
コントロール失敗ファクタ	コントロールの重み付けの合計で除算した失敗したコントロールの重み付けの合計
インジケータ失敗ファクタ	関連付けられている各インジケーターの前回の結果を使用します。関連付けられているインジケーターの合計数で除算した前回の失敗した結果の数。
計算済みリスク要因	この値は、(インジケーター失敗要因 + コントロール失敗要因) / 2 で計算されます。

11. [アクティビティジャーナル] タブを選択します。
12. 必要に応じて、追加のコメントを入力します。
13. **[Submit** (送信)] を選択します。

リスクをフォロー

コネクトは リスク管理 と統合され、標準インターフェイスへのオーバーレイを提供します。これにより、ユーザーはリスクレコードで作業、共同作業を行うことができます。

始める前に
必要なロール：sn_risk.user
コネクトの詳細については、「コネクト」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスク登録 > すべてのリスク.
2. リストからリスクレコードを開きます。
3. [フォロー] タブをクリックして、次のいずれかのアクションを実行します。

コントロールをリスクに追加

コントロールは、プロセスの継続的なレビューのためにリスクに追加されます。

始める前に
必要なロール：sn_risk.manager および sn_compliance.manager

このタスクについて

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスク登録 > すべてのリスク
2. リストからリスクレコードを開きます。
3. 次のオプションのいずれかで続行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- コントロール目標とリスクステートメントが関連付けられており、コントロールエンティティがリスクエンティティに一致する場合、リスクコントロールの関連付けが作成されます。
- コントロール目標をリスクステートメントに関連付けた後に作成されたリスクとコントロールは、すぐにはリスクステートメントに関連付けられません。これらは、*GRC Profile Generation* スケジュール済みジョブが実行されると、関連付けられます。
- コントロールを手動でリスクから削除した場合、そのコントロールはスケジュール済みジョブによって再作成されません。必要に応じて手動で再度作成する必要があります。

関連情報

リスクワークスペースでリスクステートメントをコントロール目標に関連付ける

GRC の問題を手動で作成する

GRC ユーザーは、手動で問題を作成して、ポリシー、リスク、または監査観察事項を文書化するか、GRC の問題を受け入れることができます。問題のソースを特定して、問題の分析と分類を行うこともできます。

始める前に
必要なロール：(製品ごと)

- ポリシーとコンプライアンス管理で：sn_grc.business_user、sn_grc.business_user_lite
- リスク管理:sn_grc.business_user
- 監査管理 で：sn_grc.business_usersn_grc.business_user_lite

注:
上記の製品のバージョン 12.0.1 以降では、問題フォームの [アサイン先] ユーザーの最低限のロールは GRC ビジネスユーザー [sn_grc.business_user] です。[問題マネージャー] の最低限のロールは GRC ユーザー [sn_grc._user] です。

問題に対するアクセス制御の制限の詳細については、「GRC business user role to control access and track usage of compliance tables (コンプライアンステーブルのアクセスを制御し、使用状況を追跡するための GRC ビジネスユーザーロール)」を参照してください。

手順

1. 次のいずれかに移動します。
   - すべて > ポリシーとコンプライアンス > 問題 > 新規作成.
   - リスク > 問題 > 新規作成.
   - 監査 > 問題 > 新規作成.

   注:
   上記の製品のバージョン 12.0.1 以降では、問題フォームの [アサイン先] ユーザーの最低限のロールは GRC ビジネスユーザー [sn_grc.business_user] です。[問題マネージャー] の最低限のロールは GRC ユーザー [sn_grc._user] です。

2. 問題フォーム のフィールドに入力します。

   [日付] タブの期日は、問題の評価に基づいて自動的に計算されます。計算された期日は手動で上書きできます。[タスク SLA] 関連リストは、 期日に基づいて SLA を作成して表示します。

3. 問題レコードを保存します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

画面の下部にあるタブを使用すると、問題を修正するためのさまざまなタスクを実行できます。ポリシー例外を追加し、修復タスクを作成できます。さらに、他の問題、インジケーターの結果、および問題に関連するタスク SLA を表示できます。

注:
バージョン 12.0.1 以降、[タスク **SLA]** タブは [期日] に基づいて SLA を作成して表示します。問題の [期日] までの 50% に達したとき、次に 75% に達したとき、その後、期日に達したときに、問題オーナーと問題マネージャーに通知が送信されます。[アサイン先] および [期日] フィールドが空でなく、問題が [新規] ステータスでない場合、その問題に対して SLA が作成されます。

SLA の期日が変更されると、新しい SLA が作成されます。問題が [完了してクローズ] または [未完了でクローズ] に移行すると、SLA は完了です。また、[期日] または [アサイン先] フィールドが空であるか、ステータスが [新規] の場合、SLA はキャンセルされます。

さらに、バージョン 12.0.1 以降では、アサイン先ユーザーおよび問題マネージャーのユーザーロール、および GRC ビジネスユーザーロールを持つユーザーを使用して修復タスクを作成できます。

サービスポータル から問題を報告

組織のポリシーで実施できるコントロールまたは改善の欠陥を特定した場合は、ServiceNow, Inc. サービスポータル から問題を報告します。

始める前に
必要なロール：ServiceNow ユーザー

手順

1. サービスポータルで、 カタログ > カテゴリ別参照.
2. [ガバナンス、リスク、コンプライアンス] をクリックし、[問題を報告] をクリックします。
3. フォームで、次のフィールドを入力します。

問題を報告フォーム

フィールド	説明
問題の要約説明を入力します。	問題の簡潔な説明。
問題の詳細な説明を入力します。	問題の詳細な説明。
問題に対処するための考えられる提案を入力します。	問題に対処するための見込みのある提案。
問題はどのエンティティに関連しますか？	問題に関連するエンティティ。
問題はどのコントロール目標に関連しますか？	問題に関連するコントロール目標。 **注:** このフィールドは、ポリシーとコンプライアンス管理 がインストールされている場合にのみ表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
問題はどのコントロールに関連しますか？	アイテム生成プロセスから継承されたコントロール。コントロール目標は読み取り専用フィールドです。コントロールを選択すると、コントロール目標が自動的に入力されます。

4. [**Submit** (送信)] を選択します。
5. 報告したすべての問題を表示するには、次に移動します: **GRC >** 自分の報告された問題.

ガバナンス、リスク、コンプライアンス 予測インテリジェンス プラグインを使用して問題をアサイン

機械学習を使用する類似性ソリューションモデルをトレーニングして、問題を適切なアサイニーにルーティングする方法をシステムが自動的に提案できるようにします。自動ルーティング提案により、問題の担当者の決定にかかる時間が短縮されます。

ガバナンス、リスク、コンプライアンス: 予測インテリジェンス プラグインは、人工知能 (AI) と機械学習 (ML) を利用して、GRC のイシュー管理をよりスマートにします。GRC 問題フォームでは、適切な候補に問題をアサインするための提案が表示されます。これらの提案は、プラットフォーム類似性ソリューションモデルに基づいています。

ユーザーは、GRC: 予測インテリジェンス プラグインとその依存関係をインストールした後、ソリューション定義をトレーニングする必要があります。プラットフォーム機械学習アドミン (ml_admin) は、ソリューション定義をカスタマイズすることもできます。この変更は、テーブルのデータに基づいています。変更すると、UI での予測結果の表示方法に影響を与える可能性があるため、フィルター条件 [アサイン先 [次の条件に一致] [空ではない]]などの一部の重要なフィールドは変更しないでください。

問題アサインの予測のため類似ソリューション定義をトレーニングおよび使用

ガバナンス、リスク、コンプライアンス 予測インテリジェンス プラグインを有効にして、機械学習ソリューションをトレーニングして使用します。このソリューションにより、システムは問題をルーティングする正しいアサイニーを自動的に提案できます。これらの提案により、問題の担当者の決定にかかる時間が短縮されます。

始める前に

次のプラグインがアクティブ化されていることを確認してください。

- ポリシーとコンプライアンス管理 プラグイン
- リスク管理 プラグイン
- GRC Profiles プラグインをアクティブ化する必要があります。
- 予測インテリジェンス プラグイン

sn_grc.admin ロールで以下ガバナンス、リスク、コンプライアンス のプロパティを変更します。

- [問題アサイニーの提案の基準] プロパティ (*`Similarity Analysis`*)。
- [問題アサイニーの予測の機械学習ソリューション] プロパティ (*`ml_x_snc_sn_grc_pred_intel_global_similarity_solution_definition_for_assigned_to_for_`*

必要なロール：ml_admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 予測インテリジェンス > 類似性 > ソリューション定義.
2. [問題のアサイン先の類似性ソリューション定義 **(Similarity Solution Definition for Assigned To for Issue)]** ソリューションをクリックします。

類似性定義フォーム

フィールド	値
ラベル	類似性ソリューションの一意の名前。
名前	類似性ソリューションの名前。このフィールドは、[ラベル] フィールドの値に最も類似したシステムアサインの名前に自動的に設定されます。
ワードコーパス	ソリューションに関連する既存のワードコーパス。このユースケースでは、[問題アサインのワードコーパス **(Word Corpus for Issue Assignment)]** を選択します。 **注:** 類似性ソリューションのワードコーパスでは、テーブルごとのレコード数は 30 万件に制限されています。
テーブル	トレーニング対象および予測対象のレコードを含むテーブル。テーブル値をアサインすると、フォームにリンクが表示されます。リンクには、現在の条件に一致するレコードの数が表示されます。 このユースケースでは、フィールドは自動的に問題 [sn_grc_issue] テーブルに設定されます。このソリューション定義のこのフィールドは変更しないでください。
フィールド	オーナーの特定に役立つ可能性があるフィールドタイプ。[テーブル] フィールドのテーブルから列を選択すると、列のデータにより問題をさらに正確に予測できます。このユースケースでは、[簡単な説明] フィールドと [説明] フィールドが選択されています。これらのフィールドは、所有者を特定しようとしている問題レコードのテキストを含むフィールドタイプです。 **注:** データベースの問題レコードに他の空でない重要なフィールドがある場合は、ここで選択したフィールドを変更でき、これらのフィールドは、問題オーナーを予測するための類似の問題を見つけることができます。
テストテーブル	予測対象のレコードを含むテーブル。このユースケースでは、フィールドは自動的に問題 [sn_grc_issue] テーブルに設定されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	値
	注: [類似] ウィンドウで取得できるレコードの数は 10 までに制限されています。このソリューション定義では、このフィールドは変更しないでください。
テストフィールド	予測中に入力として使用されるフィールド。このユースケースでは、[簡単な説明] フィールドと [説明] フィールドを選択します。 注: データベースの問題レコードに他の空でない重要なフィールドがある場合は、ここで選択したフィールドを変更でき、これらのフィールド は、問題オーナーを予測するための類似の問題を見つけることができます。
フィルター	類似結果を取得するためのベースとして使用しているフィールドレコードに条件を適用するフィルター。たとえば、このユースケースでは、フィールドを空のままにすると提案が表示されないため、[アサイン先 [次の条件に一致] [空ではない]] 条件を設定できます。
処理言語	ソリューション定義でトレーニングしているデータセットの主要言語。データセット言語が英語である場合は、[英語] を選択してください。 デフォルトでは、すべてのデータセットに英語の処理が適用されます。たとえば、[イタリア語] を選択した場合、システムは英語とイタリア語の両方でデータを処理します。 注: 処理という用語は、ソリューションのトレーニングの一環として使用される言語固有の手順を示します。これらの手順には、単語のトークン化、ストップワードの削除、語幹の解釈などが含まれます。
ストップワード	ストップワードのリスト。処理言語を選択した場合、システムは同じ言語を使用しているストップワードリストを自動的に追加します。たとえば、処理言語が英語の場合、[デフォルトの英語のストップワード **(Default English Stopwords)]** リストが表示されます。選択すると、[デフォルトの英語のストップワード (Default English Stopwords)] リストも表示されます。ストップワードの独自のカスタムリストを追加できます。
トレーニング頻度	トレーニングの頻度。再トレーニングオプションの範囲は、1 日 1 回から 30 日に 1 回まで、3 か月単位で増分でき、最大 180 日です。
更新頻度	類似性結果の取得に使用するデータをリフレッシュする頻度。 たとえば、新しい問題は通常、1 日を通じて頻繁に発生します。未解決の問題レコードがある場合は、**[15** 分ご

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	値
	と] の更新頻度を選択することもできます。この頻度により、新しく開かれたレコードがリフレッシュに含まれる可能性を高めることができます。

3. ソリューション定義に該当するボタンをクリックします。

GRC：ワークベンチを使用してエンティティとリスクの依存関係を使用

GRC：ワークベンチはCMDB情報を利用して、すべてのアプリケーションのアップストリームとダウンストリームの関係を表示します。CMDB情報はソースの 1 つです。これらの関係により、企業全体で一貫したリスクのマッピングとモデリングが可能になります。

GRC マネージャー [sn_grc.manager] は、GRC ワークベンチを使用して次のことを行います。

- エンティティクラスを作成します。
- エンティティクラス間のアップストリーム/ダウンストリームの関係を定義します。これらの関係によって依存関係モデルが構成され、企業全体でリスクが一貫して定義され、評価されます。
- エンティティタイプを作成して、エンティティを作成し、エンティティを分類します。

注:
GRCマネージャーがGRC：ワークベンチを表示できません リスク > **GRC** ワークベンチ.GRC マネージャー [sn_grc.manager] は、GRC：ワークベンチにアクセスするために、URL のインスタンス名の後に /$grc_workbench.do を入力します。

リスクマネージャー [sn_risk.manager] は GRC：ワークベンチを使用して次のことを行います。

- GRC マネージャーと同じタスクをすべて実行する
- リスクフレームワーク、リスクステートメント、リスクを作成する
- リスク関係性を定義する

[モデルのセットアップ] タブ

[モデルのセットアップ] タブには、次のタスクを実行するためのリンクが含まれています。

Link	アクション
依存関係モデル	エンティティクラスを作成し、組織の関係モデルを開発します。
エンティティタイプ	エンティティタイプを作成して編集します。
依存関係マップ	エンティティ関係を作成して可視化します。

[リスクの依存関係] タブ

[リスクの依存関係] タブには、次のタスクを実行するためのリンクが含まれています。

Link	アクション
リスクフレームワーク	リスクフレームワークを作成して編集します。
リスクステートメント	リスクステートメントを作成して編集します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Link	アクション
リレーションシップ	リスク関係を作成して可視化します。

GRC：ワークベンチ をアクティブ化

GRC：ワークベンチ プラグインはデフォルトではアクティブ化されていません。GRC Suite 内で個別のサブスクリプションとして使用できます。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
エンティティクラス、エンティティ依存関係、およびリスク依存関係を作成するには、GRC：ワークベンチ、および GRC: リスク管理 プラグイン [com.sn_risk] をアクティブ化します。

手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. フィルター基準と検索バーを使用してプラグインを検索します。

   名前または ID でプラグインを検索できます。プラグインが見つからない場合は、ServiceNow 担当者から要求する必要があります。
3. [インストール] を選択して、インストールプロセスを開始します。

   注:
   ドメインセパレーションと代理アドミンがインスタンスで有効になっている場合、管理ユーザーはグローバルドメインに含まれている必要があります。それ以外の場合、次のエラーが表示されます： 「別の操作が実行されているため、アプリケーションのインストールは利用できません： <プラグイン名> のプラグインの有効化 (Application installation is unavailable because another operation is running: Plugin Activation for <plugin name>)」

   インストールが完了するとメッセージが表示されます。プラグインとともにインストールされるコンポーネントの詳細については、「 アプリケーションとともにインストールされているコンポーネントの検索 」を参照してください。

関連情報
プラグインのリスト

GRC：ワークベンチを使用してエンティティクラスを作成

GRC マネージャーは、依存関係モデルの一部であるもののタイプを表すエンティティクラスを作成します。レポートをフィルタリングして、さまざまなエンティティクラス間の関係を定義できます。エンティティクラスは、エンティティが実際には何であるかを定義します。

始める前に
必要なロール：sn_grc_manager

手順

1. https://myCompany.service-now.com/$grc_workbench.do に移動します。
2. 左側の [エンティティクラス] セクションで、[クラスを追加] をクリックします。
3. エンティティクラス名を入力し、プラス (+) アイコンをクリックします。

   新しく作成されたエンティティクラスが左側のリストに追加されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
GRC：ワークベンチ を使用してエンティティクラス間の関係を作成。

GRC：ワークベンチ を使用してエンティティクラス間の関係を作成

マネージャーは、GRC：ワークベンチ を使用してエンティティクラス間の関係を作成し、依存関係マップをビルドして、エンティティが互いにどのように関連しているかをよりよく理解できます。

始める前に
必要なロール：sn_grc.manager

を使用してプロファイルクラスを作成 GRC：ワークベンチエンティティクラス間の関係を作成する前。

エンティティクラスは相互にロールアップでき、依存関係モデルの開発につながります。

手順

1. https://myCompany.service-now.com/$grc_workbench.do に移動します。
2. 上部の [モデルのセットアップ] タブを選択し、[依存関係モデル] タブを選択します。
3. 必要に応じて、エンティティクラスを作成します。
4. 次のいずれかのアクションを実行します。

オプション	説明
エンティティクラス間に関係がない場合	エンティティクラスを左から中央にドラッグアンドドロップします。
エンティティクラス間に関係がある場合	追加のエンティティクラスを左側のリストからドラッグし、ツリー内の任意のエンティティクラスの上部または下部にドロップします。 **注:** エンティティクラスの上部にドラッグすると、ドロップされたクラスにターゲットエンティティクラスがロールアップされます。エンティティクラスの下部にドラッグすると、ドロップされているクラスがターゲットクラスにロールアップします。

注:
GRC：ワークベンチに留まっている限り、エンティティクラス間の関係を作成した後に [元に戻す] をクリックして変更をロールバックします。GRC：ワークベンチを離れると、元に戻す履歴が失われます。

次のタスク
エンティティをモデル化したら、組織内のリスクを定義します。

- リスクフレームワークからリスクを生成
- リスクステートメントからリスクを生成
- リスクフレームワークまたはリスクステートメントをエンティティタイプに関連付けてリスクを生成

リスクを生成したら、リスクを相互に関連付ける。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクフレームワークまたはリスクステートメントをエンティティタイプに関連付けてリスクを生成

リスクフレームワークまたはリスクステートメントをエンティティタイプに関連付けると、リスクが自動的に生成されます。

始める前に
必要なロール：sn_risk.admin および sn_risk.manager

手順

1. 移動先 リスク > スコーピング > エンティティタイプ.
2. エンティティタイプレコードを開きます。
3. [リスクフレームワーク] または [リスクステートメント] 関連リストで、[編集] をクリックします。
4. エンティティに関連付けるリスクフレームワークまたはリスクステートメントからを選択し、[保存] をクリックします。
   すべてのリスクフレームワークまたはステートメントがエンティティタイプに関連付けられ、エンティティタイプ内のすべてのエンティティに対してすべてのリスクステートメントにリスクが作成されます。

GRC：ワークベンチを使用してエンティティの依存関係を可視化して編集

GRC：ワークベンチは、GRC アドミニストレーターにエンティティの依存関係を作成するためのグラフィカルインターフェイスを提供します。これらの関係により、企業全体で一貫したエンティティとリスクのマッピングとモデリングが可能になります。

始める前に
必要なロール：sn_grc.manager

手順

1. https://myCompany.service-now.com/$grc_workbench.do に移動します。
2. 上部の [モデルのセットアップ] タブを選択し、その下にある [依存関係] タブを選択します。
3. 左側のリストからエンティティを検索して選択します。
   エンティティは、エンティティクラス、次にエンティティタイプ別に階層的に編成されます。
4. 左からエンティティを選択すると、エンティティがその直接のアップストリームおよびダウンストリームの依存関係とともに中央に表示されます。
   右側には、アップストリームまたはダウンストリームの依存関係として追加できる対象エンティティが一覧表示されます。
5. 次のいずれかのアクションを実行します。

オプション	説明
アップストリームエンティティ依存関係を追加する	右側の適格なエンティティのリストから適格なアップストリームエンティティをドラッグし、ページの中央にあるエンティティの上半分にドロップします。
ダウンストリームエンティティ依存関係を追加する	右側の適格なエンティティのリストから適格なダウンストリームエンティティをドラッグし、ページの中央にあるエンティティの下半分にドロップします。

エンティティは、ページの中央に移動されると右側のメニューから削除されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC：ワークベンチを使用してエンティティの依存関係を削除

エンティティの依存関係を削除すると、エンティティ間の関係のみが削除されます。エンティティ自体は変更されません。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. https://myCompany.service-now.com/$grc_workbench.do に移動します。
2. 上部の [モデルのセットアップ] タブを選択し、その下にある [依存関係マップ] タブを選択します。
3. 左側のリストから目的のエンティティを検索して選択します。
   左からエンティティを選択すると、エンティティがその直接のアップストリームおよびダウンストリームの依存関係とともに中央に表示されます。
4. センターツリーで、選択したセンターリスクからの関連付けを解除する必要があるアップストリームまたはダウンストリームのリスクをポイントします。
   リスクをポイントして、削除アイコンが表示されたら、削除アイコンをクリックします。
5. 確認ダイアログで [削除] をクリックして、関係の削除を確認します。

> **注:**
> エンティティ間の関係のみが削除されます。エンティティ自体は変更されません。

GRC：ワークベンチを使用してエンティティクラスを削除

エンティティクラスを削除すると、その下のすべての関係が削除されます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. https://myCompany.service-now.com/$grc_workbench.do に移動します。
2. 上部の [モデルのセットアップ] タブを選択し、[依存関係モデル] タブを選択します。
3. 左側のリストから目的のエンティティクラスを選択します。
   左からエンティティを選択すると、エンティティがその直接のアップストリームおよびダウンストリームの依存関係とともに中央に表示されます。
4. エンティティクラス名の右側にある削除アイコンをクリックします。
5. [削除を確定] ポップアップで、[削除] をクリックします。
   エンティティクラスを削除すると、その下のすべての関係が削除されます。

GRC：ワークベンチを使用してリスクを作成

リスクマネージャーは、GRC：ワークベンチから直接リスクを作成できます。

始める前に
必要なロール：sn._risk.admin または sn.risk.manager

手順

1. https://myCompany.service-now.com/$grc_workbench.do に移動します。
2. 上部の [リスクの依存関係] タブを選択し、その下にある [関係性] タブを選択します。
3. 左側の [リスク] セクションで、[リスクを作成] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. フォームのフィールドに入力します。

リスクフォーム

フィールド	説明
名前	リスクの名前。リスクがリスクステートメントから生成された場合、フィールドは自動的に入力されますが、リスクとリスクステートメントの関係に影響を与えることなく変更できます。
番号	一意の識別番号。このフィールドは、自動的に入力されます。
状況	リスクステータス。利用可能な選択肢は次のとおりです。 ○ [ドラフト] このステータスでは、すべてのリスクユーザーがリスクを変更できます。ワンオフコントロールを作成する場合のみ利用できます。ワンオフコントロールは可能ですが、推奨されません。 ○ [証明] リスクがリスクステートメントから作成されると、コントロールはこのステータスになります。 **注:** リスクが [ドラフト] に戻ると、アセスメントはキャンセルされます。 ○ [レビュー] リスクは、アセスメントフェーズからレビューに自動的に移行します。 ○ [監視] このステータスでは、すべてのリスクマネージャーがリスクを [レビュー] から [監視] に移行できます。 ○ [廃止] リスクマネージャーまたはアドミニストレーターは、リスクを [監視] から [廃止] に移行できます。リスクがこのステータスの場合、インジケーターは実行されません。 **注:** リスクが廃止されると、それに関連付けられているすべてのアセスメントがキャンセルされます。
所有グループ	リスクの所有グループ。
カテゴリ	プロファイルに適用されるリスクのカテゴリ。 ○ 法務 ○ 財務 ○ 稼働 ○ 評判 ○ 法務/規制 ○ クレジット

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ 市場 ○ IT リスクがリスクステートメントから生成される場合、フィールドは自動的に入力されます。
所有者	リスクのオーナー。 **注:** オーナーは常に回答者として追加されます。
ステートメント	このリスクが関連付けられているステートメント。
エンティティ	リスクに関連するエンティティ。 **注:** アクティブなエンティティのみが表示されます。
説明	リスクとそれが組織にとってどのように脅威であるかの説明。
追加情報	他のユーザーがリスクレコードを理解するのに役立つ詳細。

5. [アセスメント] タブをクリックします。
6. フォームのフィールドに入力します。

リスクスコアリングフォーム

フィールド	説明
アセスメント	このリスクに添付するアセスメント。
アセスメント回答者	このリスクのアセスメントにアサインされたユーザー。 **注:** sn_grc.user ロールを持つユーザーのみを応答者として追加できます。

[アセスメント] と [アセスメント回答者] フィールドの両方が設定されている場合、[評価] をクリックするとアセスメントが作成されます。

7. [採点] タブをクリックします。
8. フォームのフィールドに入力します。

リスクスコアリングフォーム

フィールド	説明
固有 SLE	緩和戦略が実施される前に発生したリスクの金銭的価値。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
残存 SLE	すべての緩和戦略が実施された後に発生するリスクの金銭的価値。
固有 ARO	緩和戦略が実施される前の特定の年にリスクが発生する可能性。
残存 ARO	すべての緩和戦略が実施された後、特定の年にリスクが発生する可能性。
固有 ALE	軽減戦略を実施する前の年間損失予測 ALE = SLE x ARO。
残存 ALE	すべての軽減戦略を実施した後の年間損失予測 ALE = SLE x ARO。
固有スコア	いずれかの緩和戦略が実施される前のリスクのスコア。
残存スコア	すべての緩和戦略が実施された後のリスクのスコア。
計算済み ALE	すべての計算に基づく年次損失予測。
計算済みスコア	計算済み ALE の対応するスコア。

9. [応答] タブをクリックします。
10. フォームのフィールドに入力します。

リスク応答フォーム

フィールド	説明
応答	○ 受け入れ ○ 回避 ○ 緩和 ○ 譲渡
正当性	選択した応答の合理的な理由を入力します。

11. [監視] タブをクリックします。

リスク監視フォーム

フィールド	説明
コンプライアンスのコントロール	コントロール準拠率
コントロール非準拠	コントロール非準拠率
コントロール失敗ファクタ	コントロールの重み付けの合計で除算した失敗したコントロールの重み付けの合計
インジケータ失敗ファクタ	関連付けられている各インジケーターの前回の結果を使用します。関連付けられているインジケーターの合計数で除算した前回の失敗した結果の数。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
計算済みリスク要因	この値は、(インジケーター失敗要因 + コントロール失敗要因) / 2 で計算されます。

12. [アクティビティジャーナル] タブをクリックします。
13. 必要に応じて、追加のコメントを入力します。
14. [送信] をクリックします。
    リスクが作成され、ページの中央に配置されます。また、右側でリスクが選択されます。

GRC：ワークベンチを使用してリスクの依存関係を可視化して編集

GRC：ワークベンチは、GRC アドミニストレーターにリスクの依存関係を作成するためのグラフィカルインターフェイスを提供します。これらの関係により、企業全体で一貫したエンティティとリスクのマッピングとモデリングが可能になります。

始める前に
必要なロール：sn_risk.manager

手順

1. https://myCompany.service-now.com/$grc_workbench.do に移動します。
2. 上部の [リスクの依存関係] タブを選択し、その下にある [関係性] タブを選択します。
3. 左側のリストからリスクを検索して選択します。
   リスクは、エンティティクラス、次にエンティティ別に階層的に編成されます。
4. 左からリスクを選択すると、リスクがその直接のアップストリームおよびダウンストリームの依存関係とともに中央に表示されます。
   右側には、アップストリームまたはダウンストリームの依存関係として追加できる対象リスクが一覧表示されます。
5. 次のいずれかのアクションを実行します。

オプション	説明
アップストリームリスクの依存関係を追加する	右側の適格なリスクのリストから適格なアップストリームリスクをドラッグし、ページの中央にあるリスクの上半分にドロップします。
ダウンストリームリスクの依存関係を追加する	右側の適格なリスクのリストから適格なダウンストリームリスクをドラッグし、ページの中央にあるリスクの下半分にドロップします。

GRC：ワークベンチを使用してリスクの依存関係を削除

リスクの依存関係を削除すると、リスク間の関係のみが削除されます。リスク自体は変更されません。

始める前に
必要なロール：sn_risk.manager

手順

1. https://myCompany.service-now.com/$grc_workbench.do に移動します。
2. 上部の [リスクの依存関係] タブを選択し、その下にある [関係性] タブを選択します。
3. 左側のリストからリスクを検索して選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクは、エンティティクラス、次にエンティティ別に階層的に編成されます。

4. センターツリーで、選択したセンターリスクからの関連付けを解除する必要があるアップストリームまたはダウンストリームのリスクをポイントします。
   リスクをポイントして、削除アイコンが表示されたら、削除アイコンをクリックします。
5. 確認ダイアログで [削除] をクリックして、関係の削除を確認します。

> **注:**
> リスク間の関係のみが削除されます。リスク自体は変更されません。

GRC パフォーマンスアナリティクスインジケーターを使用してリスクを監視

リスク管理 リスクステートメントとリスクをパフォーマンスアナリティクスのインジケーター、ブレークダウン、およびしきい値にリンクできます。パフォーマンスアナリティクスインジケーターをリスクステートメントおよびリスクに関連付けて、スコアカードと傾向を表示し、現在の条件と傾向を分析できます。

PA インジケーターまたは PA ブレークダウン/要素に関連付けられたリスクとコントロールは、同じ PA インジケーターまたは PA インジケーター、ブレークダウン、または要素の関係を持つ PA しきい値を自動的に監視します。PA しきい値違反は、違反カウンタ内のリスクまたはコントロールとパフォーマンスアナリティクスインジケーターの関係レベルで報告されます。

PA しきい値違反の影響

リスクまたはコントロールとパフォーマンスアナリティクスインジケーターの関係違反カウンタがゼロでない場合 (たとえば、同じ PA インジケーターまたは PA インジケーター、ブレークダウン、または要素の関係を持つ PA しきい値が違反している)、かつオープンされた問題が存在しない場合は、リスクまたはコントロールに関連付けられている問題が作成されます。また、リスクの場合、[インジケーター失敗ファクタ] は、リスクの数とゼロ以外の違反カウンタとのパフォーマンスアナリティクスインジケーターの関係を表します。

すべての PA インジケーター違反カウンタをリセット

[すべての **PA** インジケーター違反カウンタをリセット] をクリックするか、特定の関係を開いて [違反カウンタをリセット] をクリックして、リスクまたはコントロールに関連付けられた違反カウンタをリセットします。

GRC PA インジケーター違反レポート

違反の報告には、次の 2 つのレポートがあります。

- リスク PA インジケーター違反
- コントロール PA インジケーター違反

GRC: パフォーマンスアナリティクス統合をアクティブ化

GRC: パフォーマンスアナリティクス統合プラグインは、パフォーマンスアナリティクスと リスク管理 アプリケーションおよび ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションを統合します。このプラグインは、組織のリスクとコンプライアンスのパフォーマンスに関する詳細情報を提供します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
このプラグインにはデモデータが含まれ、関連プラグインがまだ有効になっていない場合はアクティブ化します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. フィルター基準と検索バーを使用してプラグインを検索します。

   名前または ID でプラグインを検索できます。プラグインが見つからない場合は、ServiceNow 担当者から要求する必要があります。
3. [インストール] を選択して、インストールプロセスを開始します。

   注:
   ドメインセパレーションと代理アドミンがインスタンスで有効になっている場合、管理ユーザーはグローバルドメインに含まれている必要があります。それ以外の場合、次のエラーが表示されます： 「別の操作が実行されているため、アプリケーションのインストールは利用できません： <プラグイン名> のプラグインの有効化 (Application installation is unavailable because another operation is running: Plugin Activation for <plugin name>)」

インストールが完了するとメッセージが表示されます。プラグインとともにインストールされるコンポーネントの詳細については、「 アプリケーションとともにインストールされているコンポーネントの検索 」を参照してください。

次のタスク
コンテンツ (リスクまたはコントロール目標) またはアイテム (リスクまたはコントロール) のカスタマイズされた関連リストを持つインスタンスで GRC: パフォーマンスアナリティクス統合プラグインをアクティブ化した後、PA インジケーターをコンテンツ関係におよび/または PA インジケーターをアイテム関係に手動で追加する必要がある場合があります。

関連情報

プラグインのリスト

PA インジケーターをリスクステートメントまたはコントロール目標に関連付ける

パフォーマンスアナリティクスインジケーターをリスクステートメントおよびポリシーステートメントに関連付けて、リスクまたはポリシーに関連する傾向を分析できます。

始める前に
必要なロール：sn_risk.manager または sn_compliance.manager

手順

1. 次のいずれかに移動します。
   - すべて > ポリシーとコンプライアンス > ポリシーおよび手順 > コントロール目標.
   - すべて > リスク > リスクライブラリー > リスクステートメント.
2. リスクステートメントまたはコントロール目標を開きます。
3. **[PA** インジケーター] 関連リストで、[新規] をクリックします。
4. フォームのフィールドに入力します。

PA インジケーターフォーム

フィールド	説明
PA インジケーター	リスクステートメントまたはコントロール目標を関連付けるパフォーマンスアナリティクスインジケーター。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. [送信] をクリックします。
   リスクステートメントまたはコントロール目標フォームの **[PA** インジケーター] 関連リストに、関連するインジケーターが表示されます。必要に応じて、目的のインジケーターの [インジケーターを表示] をクリックして、インジケーターのパフォーマンスアナリティクススコアカードを表示できます。PA インジケーターの関連付けは、元のリスクステートメントまたはコントロール目標に関連付けられたすべてのリスクまたはコントロールに引き継がれます。また、インジケーターにコントロールのリスクまたはエンティティと一致するブレークダウンがある場合 (ビジネスサービスブレークダウンなど)、関係の [ブレークダウン] フィールドと [要素] フィールドが自動的に入力されます。

PA インジケーターをリスクおよびコントロールに関連付ける

パフォーマンスアナリティクスインジケーターをリスクおよびコントロールに関連付けて、リスクまたはコントロールが属するエンティティに関連する傾向を分析できます。

始める前に
必要なロール：sn_risk.manager または sn_compliance.manager

手順

1. 次のいずれかに移動します。
   - ポリシーとコンプライアンス > コントロール > すべてのコントロール.
   - リスク > リスク登録 > すべてのリスク.
2. リスクまたはコントロールを開きます。
3. **[PA** インジケーター] 関連リストで、[新規] をクリックします。
4. フォームのフィールドに入力します。

PA インジケーターフォーム

フィールド	説明
PA インジケーター	リスクまたはコントロールを関連付けるパフォーマンスアナリティクスインジケーター。
ブレークダウン	ブレークダウンして、ブレークダウン要素に基づいて特定の傾向を表示します。
要素	特定の傾向とスコアカードを表示するブレークダウン要素。 **注:** このフィールドは、入力される [ブレークダウン] フィールドによって異なります。表示されている場合は必須です。

5. [送信] をクリックします。
   リスクまたはコントロールフォームの **[PA** インジケーター] 関連リストに、関連付けられているインジケーターが表示されます。必要に応じて、目的のインジケーターの [インジケーターを表示] をクリックして、インジケーターのパフォーマンスアナリティクススコアカードを表示できます。

一連のアイテムの関連付けられている **GRC** インジケーターを更新する

GRC コンテンツレコードに属するすべてのアイテムを更新して、各アイテムを個別に PA インジケーターに関連付けることができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：sn_risk.manager または sn_compliance.manager

手順

1. 次のいずれかに移動します。
   - すべて > ポリシーとコンプライアンス > ポリシーおよび手順 > コントロール目標.
   - すべて > リスク > リスクライブラリー > リスクステートメント.
2. 関連付けられたパフォーマンスアナリティクスインジケーターがある、リスクステートメントまたはコントロール目標を開きます。
3. **[PA** リレーションシップを更新] 関連リンクをクリックします。
   リスクステートメントまたはポリシーステートメントに関連するすべてのリスクまたはコントロールは、ステートメントのすべてのリスクステートメントまたはポリシーインジケーターに自動的に関連付けられます。また、インジケーターにコントロールのリスクまたはエンティティと一致するブレークダウンがある場合 (ビジネスサービスブレークダウンなど)、関係の [ブレークダウン] フィールドと [要素] フィールドが自動的に入力されます。

GRC インジケーターテンプレートを作成する

コンプライアンスマネージャーまたはリスクマネージャーは、多数のインジケーターを作成できるインジケーターテンプレートを作成します。

始める前に
必要なロール：

- sn_compliance.admin または sn_compliance.manager
- sn_risk.admin または sn_risk.manager
- sn_audit.admin または sn_audit.manager
- sn_grc.user

手順

1. 次のいずれかに移動します。
   - すべて > ポリシーとコンプライアンス > インジケーター > インジケーターテンプレート.
   - すべて > リスク > インジケーター > インジケーターテンプレート.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

インジケーターテンプレートフォーム

フィールド	説明
名前	インジケーターの名前。
説明	インジケーターの説明。
カテゴリ	インジケーターテンプレートを作成しているカテゴリ。たとえば、[リスク指標テンプレート] を選択して、リスク指標テンプレートを作成します。
有効	インジケーターテンプレートがアクティブかどうかを判断するオプション。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
方法 (Method)	
タイプ	インジケーターテンプレートのタイプを決定するために使用される方法。選択肢は次のとおりです。 ○ [手動]：手動インジケーターは、ServiceNow インスタンスから取得できないデータに使用されます。これは、データがサードパーティの営業システムからの顧客データなど外部システムからのものであるためです。 ○ [基本]：基本インジケーターは、インジケーターソースに基づく自動化されたインジケーターです。インジケータソースは、このテーブルのスコアが保存されるテーブルと頻度を指定します。 ○ [スクリプト]：スクリプト化したインジケーターはカスタムスクリプトを使用してデータを収集します。
値がターゲット値以上の場合の結果	結果構成フィールド。選択肢は次のとおりです。 ○ 合格 ○ 失敗 たとえば、このフィールドに 100 を入力するとします。インジケーターの結果の出力が 100 を超えると、このフィールドに設定された値に基づいて、インジケーターのステータスは合格または失敗になります。
ターゲットタイプ	ターゲット値のタイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ [なし]：インジケーターのターゲットまたはしきい値を設定しない場合は、このオプションを使用します。 ○ [パーセンテージ]：このオプションを使用して、パーセンテージ値でインジケーターの結果を決定します。 ○ [カウント]：このオプションを使用して、カウント値または合計数でインジケーターの結果を決定します。
ターゲット	インジケーターが成功か失敗かを決定する値。
説明	テンプレートの追加説明。
必須の値	手動インジケーターのインジケータータスクで値を必須にするかどうかを決定するオプション。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: このオプションは、[タイプ] フィールドで [手動] が選択されている場合にのみ表示されます。このオプションは、[ターゲットタイプ] フィールドから [カウント] または [パーセンテージ] が選択されている場合に自動的に選択されます。
提出データ	
注: バージョン 10.1 以降、インジケーターの結果またはインジケータータスクから得られるサポートデータレコードの実際の履歴データが表示されます。以前は、収集されたレコードのリアルタイムステータスのみを表示できました。	
提出データを含む	インジケーターを実行するたびにサポートデータまたは証拠の収集を有効にするオプション。
テーブル	サポートデータの収集に使用されるテーブル。
サポートデータフィールド	サポートデータの収集に使用されるソーステーブルのフィールド。
サンプルのコレクションタイプ	カウントやパーセンテージなど、サポートデータ収集のタイプ。
サンプルサイズ	サポートデータの収集に使用する必要があるレコードの最小数。 たとえば、基本インジケーターが大きなテーブルをクエリし、インジケーターの実行ごとに数千のレコードを返すことができます。すべてを保存する必要はありません。それらのレコードのサンプルのみで十分です。サンプルサイズに 100 を入力すると、クエリが数千を返しても 100 レコードのみが保存されます。
基本基準	
基準	ソーステーブルからデータをフィルターする基準。
参照フィールドを使用	[参照フィールド] の使用を有効にするオプション。
参照フィールド	サポートデータテーブルとエンティティの [適用するレコード] フィールド間の接続。
追加の基準	
ターゲットを持つインジケーターを作成するには、詳細フィルター基準を使用します。このセクションは、[タイプ] フィールドで [基本] を選択している場合にのみ表示されます。このセクションは、さらにフィルター基準を提供するために使用されます。	
追加の基準	ターゲット値を計算するためのデータをフィルタリングするための追加の基準。このセクションは、[ターゲットタイプ] フィールドで [パー

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	センテージ] が選択されている場合にのみ表示されます。
スケジュール	
収集頻度	インジケーターの結果の収集頻度。インジケータータスクと結果は、インジケータースケジュールに基づいて自動的に生成されます。
最初の開始日	インジケーターの結果の初回収集時刻。このフィールドは、インジケーターまたはインジケーターテンプレートが初めて実行されるときに基づいて自動的に設定されます。このフィールドの値は変更できません。
次回実行日	このインジケーターテンプレートのすべてのダウンストリームインジケーターのインジケーター結果を収集する次回の実行時期。
期日の期間 (日数)	インジケータータスクの作成から期日までの結果の生成までの期日期間。 作成日に追加された期日期間は、インジケータータスクの期日として反映されます。 このフィールドは、[タイプ] フィールドで [手動] が選択された場合にのみ表示されます。 詳細については、「インジケーターの夜間ジョブのパフォーマンス強化」を参照してください。

4. これらのエントリを完了すると、次の関連リストの情報も表示することができます。
   - コントロール目標/リスクステートメント
   - コンテンツ参照

   注:
   [コントロール目標/リスクステートメント] タブを使用すると、同じテンプレートを複数のコントロール目標、リスクステートメント、またはその両方に再利用できます。

5. [送信] を選択します。

リスクインジケーターを作成

リスクインジケーターを作成して、組織に対する将来の悪影響の可能性を特定します。インジケーターは早期警告システムであり、リスクに対して予防措置を講じることができます。

始める前に
必要なロール：sn_risk.manager または sn_risk.admin

このタスクについて
一般に、インジケーターはインジケーターテンプレートの通常のプロセスを使用して自動的に作成されます。新しいインジケーターを手動で作成することもできます。インジケーターテンプレートを使用してインジケーターを作成することもできます。インジケーターテンプレートをリスクステートメントに関連付けると、リスクインジケーターが自動的に生成されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > インジケーター > インジケーター.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

インジケーターフォーム

フィールド	説明
カテゴリ	インジケーターのカテゴリ。たとえば、リスクインジケーターを作成するには、[リスクインジケーター] を選択します。
テンプレートから継承	既存のテンプレートからインジケーターを作成するオプション。
テンプレート	インジケーターの作成に使用されるテンプレート。このフィールドは、[テンプレートから継承] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。
テンプレートを上書き	インジケーターの名前などのテンプレートのプロパティを上書きするオプション。
名前	インジケーターの名前。[テンプレート] フィールドでテンプレートを選択すると、このフィールドは自動的にテンプレート名に設定されます。
説明	インジケーターの簡潔な説明。[テンプレート] フィールドでテンプレートを選択すると、このフィールドは自動的に設定されます。
エンティティ	リスクをフィルタリングするために使用されるエンティティ。
適用するレコード	エンティティが適用されるレコード。
リスク	インジケーターに関連するフィルター済みリスク。 **注:** インジケーターテンプレートを選択した場合、リスクもテンプレートに基づいてフィルタリングされます。
所有グループ	インジケーターを所有するグループ。
所有者	インジケーターのオーナー。このフィールドはリスクに基づいて自動的にオーナーの名前に設定されます。
方法 (Method)	
タイプ	インジケーターのタイプを決定するために使用される方法。選択肢は次のとおりです。 ○ [手動]：手動インジケーター は、ServiceNow インスタンスから取得できないデータに使用されます。これは、データ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	がサードパーティの営業システムからの顧客データなど外部システムからのものであるためです。 ○ [基本]：基本インジケーターは、インジケーターソースに基づく自動化されたインジケーターです。インジケータソースは、このテーブルのスコアが保存されるテーブルと頻度を指定します。 ○ [スクリプト]：スクリプト化したインジケーターはカスタムスクリプトを使用してデータを収集します。
ターゲットタイプ	ターゲット値のタイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ [なし]：インジケーターのターゲットまたはしきい値を設定しない場合は、このオプションを使用します。 ○ [パーセンテージ]：このオプションを使用して、パーセンテージ値でインジケーターの結果を決定します。 ○ [カウント]：このオプションを使用して、カウント値または合計数でインジケーターの結果を決定します。
必須の値	手動インジケーターのインジケータータスクで値を必須にするかどうかを決定するオプション。 **注:** このオプションは、[タイプ] フィールドで [手動] が選択されている場合にのみ表示されます。[ターゲットタイプ] フィールドで [カウント] または [パーセンテージ] を選択すると、このオプションが自動的に選択されます。
ターゲット	インジケーターが合格か失敗かを決定する値。
ターゲット値に基づく結果	結果構成フィールド。選択肢は次のとおりです。 ○ 合格 ○ 失敗 たとえば、このフィールドに 100 を入力するとします。インジケーターの結果の出力が 100 を超えると、このフィールドに設定された値に基づいて、インジケーターのステータスは合格または失敗になります。
データ収集の手順	データの収集方法の詳細。
提出データ	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
注: バージョン 10.1 以降、システムにインジケーターの結果またはインジケータータスクから得られるサポートデータレコードの実際の履歴データが表示されます。	
提出データを含む	インジケーターを実行するたびにサポートデータまたは証拠の収集を有効にするオプション。
ソーステーブル	サポートデータの収集に使用されるテーブル。
サポートデータフィールド	サポートデータの収集に使用されるソーステーブルのフィールド。
サンプル サイズ	サポートデータの収集に使用する必要があるレコードの最小数。
基本基準	
ソーステーブルのデータをフィルタリングするには、基本基準を使用します。このセクションは、[タイプ] フィールドから [手動] または [基本] を選択している場合にのみ表示されます。	
基準	ソーステーブルからデータをフィルターする基準。
参照フィールドを使用	[参照フィールド] の使用を有効にするオプション。
参照フィールド	サポートデータテーブルとエンティティの [適用するレコード] フィールド間の接続。
追加の基準	
ターゲットを持つインジケーターを作成するには、詳細フィルター基準を使用します。このセクションは、[タイプ] フィールドで [基本] を選択している場合にのみ表示されます。このセクションは、さらにフィルター基準を提供するために使用されます。	
追加の基準	ターゲット値を計算するためのデータをフィルタリングするための追加の基準。このセクションは、[ターゲットタイプ] フィールドで [パーセンテージ] が選択されている場合にのみ表示されます。
スケジュール	
収集頻度	インジケーターの結果の収集頻度。インジケータータスクと結果は、インジケータースケジュールに基づいて自動的に生成されます。
次回実行時間	インジケーターの結果の次回の収集時刻。このフィールドは [収集頻度] フィールドの値に基づいて自動的に設定されます。
結果	
ステータス	インジケーターが合格か不合格かを示すインジケーターのステータス。
前のステータス	インジケーターが合格か不合格かを示すインジケーターの以前のステータス。

4. [送信] をクリックします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

タスクの結果
リスクインジケーターが作成され、実行する準備が整いました。

リスクの概要を表示

リスクの概要は リスク管理 アプリケーションに含まれており、エグゼクティブビューを提供します。これにより、リスクマネージャーは、既知の高リスクのあるエンティティを特定することで、懸念のある領域をすばやく特定できます。

リスクの概要には、ベースシステムの次のレポートが含まれています。

リスク概要

名前	ビジュアル	説明
固有リスク		
残存リスク		
固有年次損失エクスポージャー		
残存年次損失エクスポージャー		
フレームワーク別のリスク問題 (オープン日)		
対応ごとのリスク		
リスク予測		
プロフィール	ドロップダウンリスト	リスクを表示して比較する 1 つまたは複数のプロファイルを選択します。
GRC - リスク状況	チェック ボックス	表示して比較する 1 つまたは複数のリスク状況を選択します。
カテゴリ別のリスク (Risks by Category)		
非常に高いリスク	単一スコア	非常に高いリスクの数を表示します。
高リスク	単一スコア	高リスクの数を表示します。
中リスク	単一スコア	中リスクの数を表示します。
低リスク	単一スコア	低リスクの数を表示します。
非常に低いリスク	単一スコア	非常に低いリスクの数を表示します。
固有リスクヒートマップ		
残存リスクヒートマップ		

リスクワークスペースを使用する

バージョン 13.0.5 以降、リスク管理 アプリケーションに新しいワークスペースが導入されています。新しいワークスペースは、改善されたユーザーエクスペリエンス (UX) と簡素化されたユーザージャーニーを提供します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクワークスペースでリスクフレームワークを作成

リスクフレームワークを作成して、リスクステートメントを管理可能なカテゴリにグループ化し、リスクを生成します。リスクが生成されたら、それらを軽減する方法を特定できます。

始める前に
必要なロール：sn_risk.manager

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース > ライブラリー > リスクフレームワーク.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

リスクフレームワークフォーム

フィールド	説明
番号	一意の識別番号。
有効	リスクフレームワークがアクティブかどうかを示すオプション。 **注:** リスクフレームワークが非アクティブまたは廃止されると、関連付けられているすべてのリスクステートメントとリスクレコードも非アクティブになります。
名前	リスクフレームワークの名前。
説明	リスクフレームワークの説明。
追加情報	このリスクフレームワークの追加情報。

4. [保存] をクリックします。
5. エンティティタイプからエンティティを追加するには、[エンティティタイプ] 関連リストをクリックします。
   a. [追加] をクリックします。
   b. エンティティタイプを選択します。
   c. [追加] をクリックします。
6. リスクステートメントを追加するには、[リスクステートメント] 関連リストをクリックして、以下のいずれかを実行します。

タスクの結果
新しいリスクフレームワークが作成されます。

リスクワークスペースでリスクステートメントを作成

リスクを管理可能なカテゴリにグループ化するリスクステートメントを作成します。

始める前に
必要なロール：sn_risk.admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
リスクステートメントを作成すると、エンティティタイプを関連付けたり、さらにエンティティを追加してリスクを生成したりすることができます。

注:
リスクステートメントフィールド ([名前]、[説明]、[参照]、[カテゴリ]、[タイプ]、[分類]、および [証明書]) のいずれかが変更されると、関連付けられているすべてのコントロールとリスクが更新され、そのステータスが [ドラフト] に戻されます。関連付けられているすべてのリスクアセスメントもキャンセルされます。

手順

1. 移動先 すべて > リスクワークスペース > ライブラリー > リスクステートメント.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

リスクステートメントフォーム

フィールド	説明
名前	リスクステートメントの名前。
説明	リスクステートメントの説明。
親	親リスクステートメント。このフィールドを使用して階層を定義できます。
フレームワーク	このリスクステートメントが関連付けられているフレームワーク。 **注:** このフィールドは、[*Migrate to Advanced Risk Assessment*] プロパティが有効になっている場合にのみ表示されます。詳細については、「高度なリスクアセスメントのリスクスコアロールアップ」を参照してください。
カテゴリ	リスクステートメントのカテゴリ。選択肢は次のとおりです。 ○ 法務 ○ 財務 ○ 稼働 ○ 評判 ○ 法務/規制 ○ クレジット ○ 市場 ○ IT ○ プロジェクト
レベル	リスクステートメントが作成されるレベル。たとえば、リスクステートメントに親と祖父母がある場合、この新しいリスクステートメントのレベルは 3 になります。
アセスメント	このリスクステートメントにアサインされるリスクアセスメントテンプレート。アセスメントテンプレートは、リスクを評価するために使用されるアンケートです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: このフィールドは、高度なリスクプロパティを有効にしてクラシック版リスクを使用すると表示されます。
問題グループルール	レポートのためにこのリスクステートメントに割り当てられた問題グループルール。問題グループルールの目的は、ルールで定義された条件に基づいて類似の問題を親問題にグループ化することです。この機能を使用すると、類似の問題を一度に処理し、解決後に親問題をクローズすることができ、これにより、すべての子問題がクローズされます。
追加情報	このリスクステートメントの追加情報。

4. [リスク選好度] セクションのフィールドに入力するには、「リスクステートメントのリスク選好度を定義」を参照してください。
5. クラシック版リスクを使用している場合は、[デフォルトスコア] セクションでフィールドに入力します。

フィールド	説明
固有 SLE	単一損失予測 (SLE) は、イベントをチェックするコントロールがない場合に資産でのリスクの発生から予想される金銭的価値です。
残存 SLE	イベントをチェックするコントロールがない場合に資産でのリスクの発生から予想される金銭的価値。
固有 ARO	年次発生率 (ARO) は、1 年間に発生する脅威の推定頻度です。ARO は、年次損失予測 (ALE) を計算するために使用されます。このフィールドの値は、イベントをチェックするコントロールがない場合にイベントが発生する可能性を示します。
残存 ARO	このフィールドの値は、イベントをチェックするコントロールがある場合にイベントが発生する可能性を示します。

6. 高度なリスクプラグインをアクティブ化してクラシック版リスクを使用している場合は、[リスクロールアップおよび許容範囲] セクションでフィールドに入力します。

フィールド	説明
予想 ALE	ALE は、ARO と SLE の製品を指します。予想 ALE は、リスクステートメントの ALE の予想値です。予想 ALE の通貨と金額を入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: この値は、[許容可能な最大 **ALE]** 以下である必要があります。
計算済み ALE の合計	この計算は、リスクステートメントとその子リスクステートメントのすべての基礎となるリスクの計算済み ALE の合計に基づいています。
計算済み最大 ALE	この計算は、リスクステートメントとその子リスクステートメントのすべての基礎となるリスクの計算済み ALE の最大値に基づいています。
許容可能な最大 ALE	リスクステートメントの ALE のしきい値。 注: この値は、[予想 **ALE]** 以上でなければなりません。この値は、[許容範囲ステータス] フィールドに影響します。
計算済み平均 ALE	この計算は、リスクステートメントとその子リスクステートメントのすべての基礎となるリスクの計算済み ALE の平均に基づいています。
計算済み最小 ALE	この計算は、リスクステートメントとその子リスクステートメントのすべての基礎となるリスクの計算済み ALE の最小値に基づいています。
許容範囲ステータス	全体的なリスクステータス。このフィールドは、他の ALE フィールドが入力されると表示されます。
計算済みスコア	計算済み ALE に対応するスコア： ○ 低 ○ 中 ○ 高

7. [Basel カテゴリ化] セクションで、[Basel カテゴリ化階層] を選択します。
Basel のカテゴリは次のとおりです。
   - 内部詐欺：資産の不正流用、脱税、意図的な誤ったポジション、贈賄。
   - 外部詐欺：情報の盗難、ハッキングによる損害、第三者による盗難および偽造。
   - 雇用慣行と職場の安全：差別、労働者の報酬、従業員の衛生安全。
   - クライアント、製品、およびビジネスプラクティス：市場操作、反トラスト、不適切な取引、製品の欠陥、違反、アカウントの解約。
   - 物理資産への損害：自然災害、テロ、破壊行為。
   - ビジネス中断とシステム障害：ユーティリティの中断、ソフトウェア障害、ハードウェア障害。
   - 実行、配送、およびプロセス管理：データ入力エラー、会計エラー、失敗した必須レポート、クライアント資産の不注意による損失。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. [保存] をクリックします。
9. エンティティタイプを追加するには、[エンティティタイプ] 関連リストをクリックします。
   a. [追加] をクリックします。
   b. 追加するエンティティタイプを選択します。
   c. [追加] をクリックします。
10. さらにエンティティを追加するには、[追加エンティティ] 関連リストをクリックします。
    a. [追加] をクリックします。
    b. 追加するエンティティを選択します。
    c. [追加] をクリックします。
11. [保存] をクリックします。

タスクの結果
リスクステートメントが作成されます。

次のタスク
引き続き、コントロール目標、インジケーターテンプレート、および情報オブジェクトをリスクステートメントに追加できます。[リスク] タブで生成されたリスクを評価することもできます。リスクステートメントサイドバーでリスクステートメントの階層を表示することもできます。完全なリスクプロファイルを一目で確認するには、[概要] タブをクリックします。

リスクワークスペースでリスクステートメントをコントロール目標に関連付ける

リスクワークスペースでリスクステートメントにコントロール目標を関連付けます。この関連付けは、リスクに軽減コントロールを設定することで、リスクを管理するのに役立ちます。

始める前に
必要なロール：sn_risk.manager または sn_compliance.manager

このタスクについて
コントロール目標とリスクステートメントが関連付けられており、コントロールエンティティがリスクエンティティに一致する場合、リスクコントロールの関連付けが作成されます。この関連付けは、リスクと脅威を軽減するために役立ちます。

手順
1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース.
2. リスクワークスペース で、リスト アイコンを選択します。
3. 移動先 ライブラリー > コントロール目標.
4. 必要なコントロール目標を選択して開きます。
5. [リスクステートメント] 関連リストを選択します。
   a. [追加] を選択します。
   b. 追加するリスクステートメントを選択します。
   c. [追加] を選択します。
   d. [保存] を選択します。

タスクの結果
リスクステートメントに関連付けられたリスクは、一致するエンティティとコントロール目標に関連付けられたコントロールを自動的に継承します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスク管理 の共通コントロール

リスク管理 アプリケーションの共通コントロールにリスクをリンクすることで、これらの一元化されたコントロールを管理し、依存エンティティに適用するために必要な時間と労力を削減できます。たとえば、消火スプリンクラーシステムは、財務、セキュリティ、人事 (HR) などの複数の事業部門 (BU) の共通コントロールになる可能性があります。

共通コントロールの概要

すべての組織には、情報技術 (IT)、HR、経理などの複数の (BU) と共有機能があります。これらの共有機能は、BU が規制要件を満たすか、BU でリスクを管理するために使用できるポリシーとコントロールを定義します。複数の BU で、異なる部門またはチームが所有および管理する共通コントロールを使用できます。このプロセスにより、組織が特定のプロセスの一元管理を維持する一方、各 BU がこれらの共通コントロールを利用できます。共通コントロールの詳細については、「共通コントロール」を参照してください。

依存エンティティのリスクを軽減するために、リスクオーナーはリスクを共通コントロールにリンクできます。リスクをリンクすることで、リスクオーナーは、依存エンティティに対してこれらの共通コントロールを証明およびテストするために必要な労力を減らすことができます。

共通コントロールのメリット

共通コントロールには次のメリットがあります。

- 共通コントロールをテストしてすべての依存エンティティに適用できるため、共通コントロールの管理にかかる時間と労力を削減できます。
- アクティブなコントロールのみを管理する必要があるため、コントロールの全体的なレポートが改善されます。

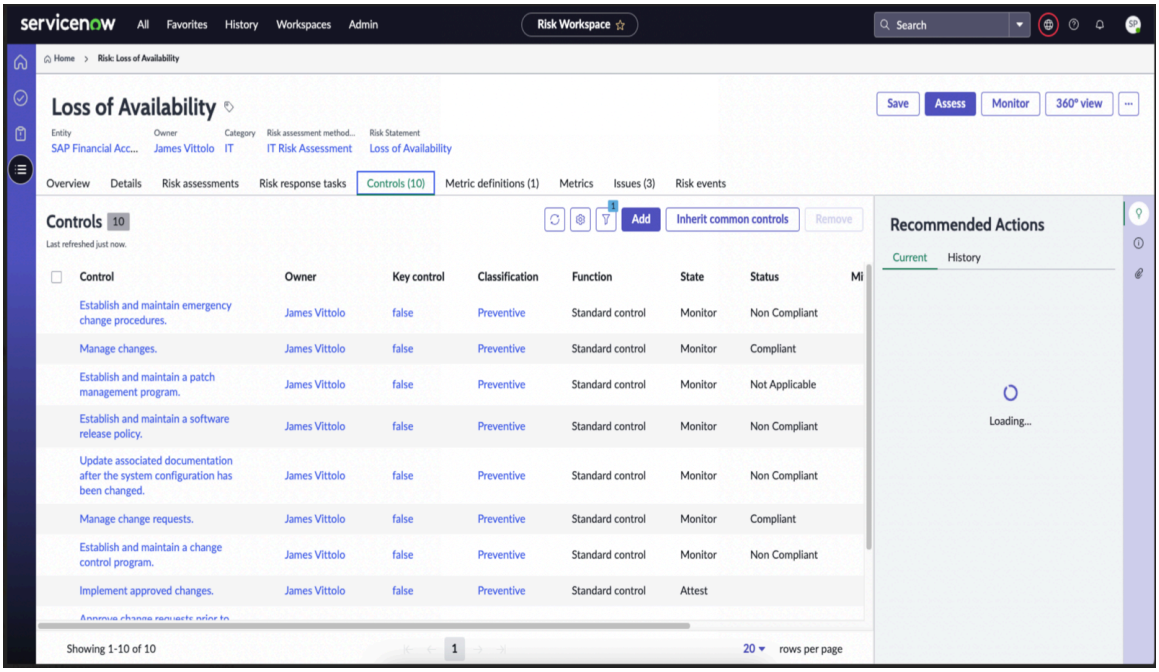
リスクの共通コントロール

コントロール目標とリスクステートメントが関連付けられており、コントロールの依存エンティティがリスクエンティティに一致する場合、リスクコントロールの関連付けが自動的に確立されます。共通コントロールでリスクエンティティが依存エンティティとしてマークされている場合は、共通コントロールをリスクに継承することもできます。リスクステートメントとコントロールの目標関係に対する変更は、リスクとコントロールの関連付けにも影響を与えます。次の例は、リスクフォームの [共通コントロールを継承] オプションを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

共通コントロールを継承

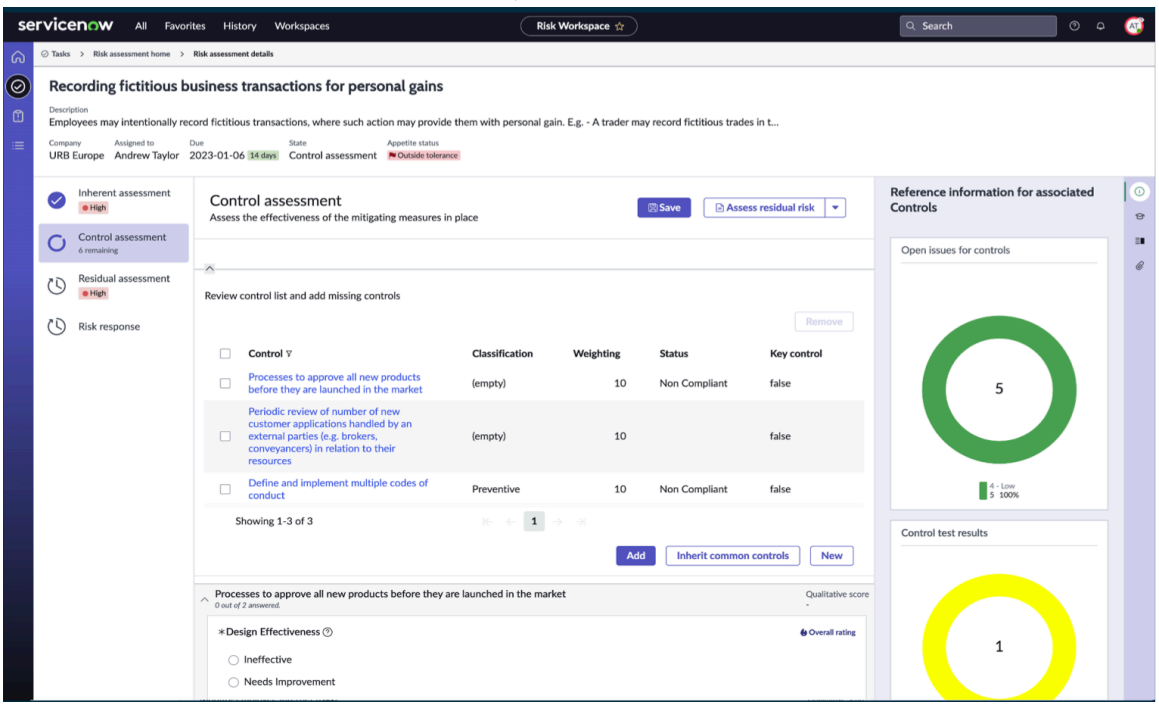


注:
リスクとコントロール間のアクティブな関係のみが維持され、履歴関係は自動的に削除されます。

リスクアセスメントの共通コントロール

共通コントロールでエンティティが依存エンティティとしてマークされている場合は、共通コントロールをリスクアセスメントに継承することもできます。次の例は、リスクアセスメントフォームの [共通コントロールを継承] オプションを示しています。

リスクアセスメントに共通コントロールを継承



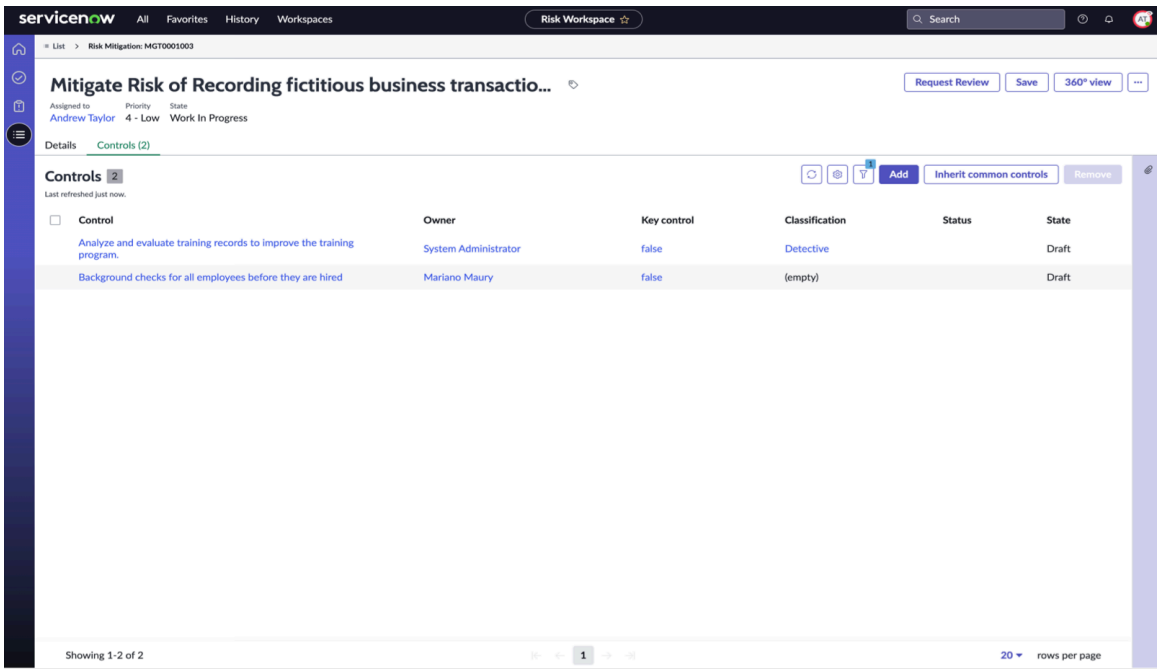
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスク軽減タスクの共通コントロール

共通コントロールでエンティティが依存エンティティとしてマークされている場合は、共通コントロールをリスク軽減タスクに継承することもできます。[ドラフト] または [対応中] ステータスの場合、共通コントロールをリスク軽減タスクに継承できます。次の例は、リスク軽減タスクフォームの [共通コントロールを継承] オプションを示しています。

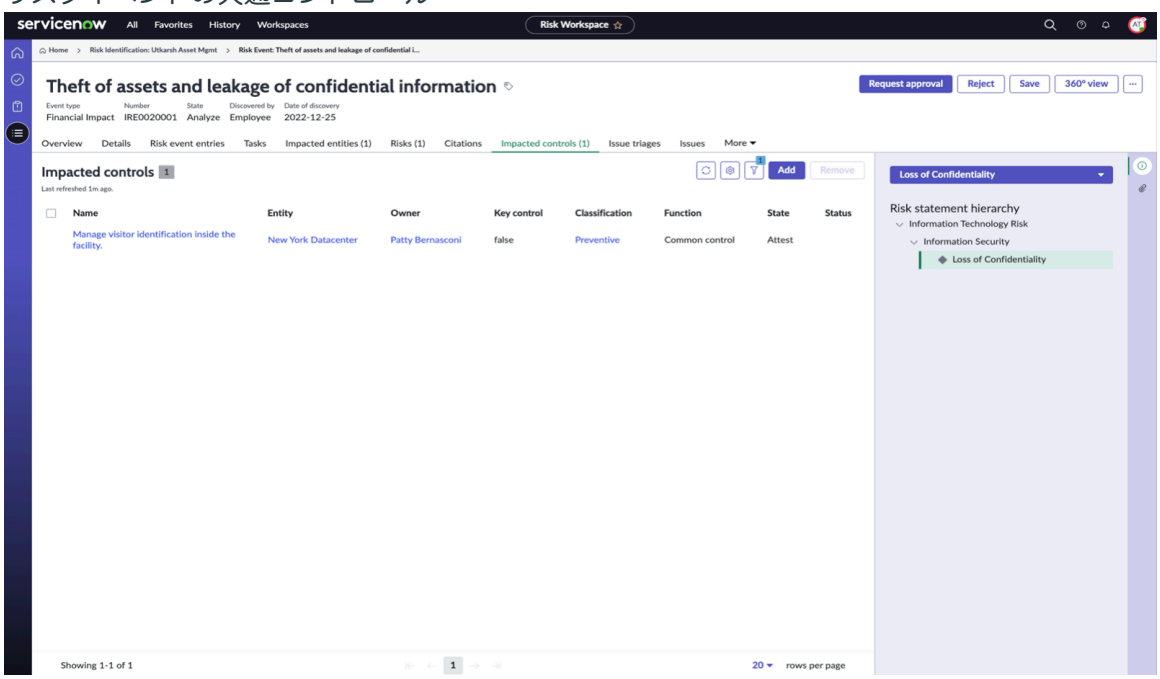
リスク軽減タスクに共通コントロールを継承



リスクイベントの共通コントロール

リスクイベントで基礎となるリスクが実体化すると、共通コントロールは自動的にリスクイベントにリンクされます。これにより、コントロールオーナーは、共通コントロールに障害が発生した場合を特定でき、共通コントロールに障害が発生した場合には即時アクションを実行できます。次の例は、リスクイベントフォームの [共通コントロールを継承] オプションを示しています。

リスクイベントの共通コントロール



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクワークスペースで手動リスクインジケーターを作成して実行

手動リスクインジケーターを作成して実行し、組織に対する将来の悪影響の可能性を特定します。インジケーターは早期警告システムであり、リスクに対して予防措置を講じることができます。手動インジケーターでは、結果はタスクアサインを使用して手動で収集されます。

始める前に

必要なロール：sn_risk.manager または sn_risk.admin

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース > インジケーター > リスクインジケーター.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

インジケーターフォーム

フィールド	説明
カテゴリ	インジケーターのカテゴリ。たとえば、リスクインジケーターを作成するには、[リスクインジケーター] を選択します。
テンプレートから継承	既存のテンプレートからインジケーターを作成するオプション。
テンプレート	インジケーターの作成に使用されるテンプレート。このフィールドは、[テンプレートから継承] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。
テンプレートを上書き	インジケーターの名前などのテンプレートのプロパティを上書きするオプション。
名前	インジケーターの名前。[テンプレート] フィールドでテンプレートを選択すると、このフィールドは自動的にテンプレート名に設定されます。
説明	インジケーターの簡潔な説明。[テンプレート] フィールドでテンプレートを選択すると、このフィールドは自動的に設定されます。
エンティティ	リスクをフィルタリングするために使用されるエンティティ。
適用するレコード	エンティティが適用されるレコード。このフィールドは自動的に設定されます。
リスク	インジケーターに関連するフィルター済みリスク。 **注:** インジケーターテンプレートを選択した場合、リスクもテンプレートに基づいてフィルタリングされます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
所有グループ	インジケーターを所有するグループ。このフィールドはリスクの所有グループに基づいて自動的に設定されます。
所有者	インジケーターのオーナー。このフィールドはリスクに基づいて自動的にオーナーの名前に設定されます。
方法 (Method)	
タイプ	インジケーターのタイプを決定するために使用される方法。[手動] を選択します。
ターゲットタイプ	ターゲット値のタイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ [なし]：インジケーターのターゲットまたはしきい値を設定しない場合は、このオプションを使用します。 ○ [パーセンテージ]：このオプションを使用して、パーセンテージ値でインジケーターの結果を決定します。 ○ [カウント]：このオプションを使用して、カウント値または合計数でインジケーターの結果を決定します。
必須の値	手動インジケーターのインジケータータスクで値を必須にする必要があるかどうかを決定するオプション。 **注:** [ターゲットタイプ] フィールドで [カウント] または [パーセンテージ] を選択すると、このオプションが自動的に選択されます。
ターゲット	インジケーターの目標である数値。この値は、インジケーターが成功 (合格) したか失敗したかを決定します。たとえば、従業員定着率の目標が 80% の場合は、値としてその目標を入力できます。結果が 80% 未満の場合は、インジケーターが失敗したことを意味します。
値がターゲット値以上の場合の結果	結果構成フィールド。選択肢は次のとおりです。 ○ 合格 ○ 失敗 たとえば、[ターゲット] フィールドに 80 を入力するとします。インジケーターの結果の出力が 80 を超えると、[インジケーターステータス] フィールドは、[ターゲット値に基づく結果 **(Result based on target value)]** フィールドに

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	設定された値に基づいて、[合格] または [失敗] になります。
データ収集の手順	データの収集方法の詳細。
参照フィールド	サポートデータテーブルとエンティティの [適用するレコード] フィールド間の接続。
基本基準	
注: このセクションは、サポートデータを指定した後にのみ表示されます。	
基準	ソーステーブルからデータをフィルターする基準。フィールド内の [条件を設定] をクリックし、条件のフィルターを作成します。
スケジュール	
収集頻度	インジケーターの結果の収集頻度。インジケータータスクと結果は、インジケータースケジュールに基づいて自動的に生成されます。
最初の開始日	インジケーターが最初に実行された日付。
次回実行日	インジケーターの結果の次回の収集時刻。このフィールドは [収集頻度] フィールドの値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドを編集して日付を変更することもできます。 注: このフィールドは、スケジュールされた実行に基づいてのみ更新され、インジケーターが手動で実行されたときは更新されません。
結果	
ステータス	インジケーターが合格か不合格かを示すインジケーターのステータス。
前のステータス	インジケーターが合格か不合格かを示すインジケーターの以前のステータス。

4. [保存] をクリックします。
5. サポートデータを収集するには、[サポートデータの指定] をクリックし、次の操作を行います。
   a. [ソーステーブル] フィールドで、サポートデータの収集に使用されるテーブルを選択します。
   b. [サポートデータフィールド] フィールドで、サポートデータの収集に使用されるソーステーブルのフィールドを選択します。
   サポートデータフィールドを指定するときに、リスクワークスペース内でドット連結することはできません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. [サンプルサイズ] フィールドで、サポートデータの収集に使用する必要があるレコードの最小数を指定します。

d. [保存] をクリックしてフォームを再ロードします。

6. [実行] をクリックします。
インジケータータスクが作成され、リスクオーナーにアサインされます。リスクオーナーがインジケータータスクをクローズすると、[インジケーター結果] 関連リストが表示されます。
7. インジケータータスクの結果を表示するには、[インジケーター結果] 関連リストをクリックし、次の操作を行います。

a. 表示する結果をクリックします。

b. サポートデータのスナップショットを表示するには、[サポートデータを表示する] をクリックします。

c. 特定のライブ レコードを表示するには、そのレコードの [表示] をクリックします。
ライブレコードは、リスクワークスペースユーザーインターフェイスではなく、常にクラシックユーザーインターフェイスで開きます。

リスクワークスペースで基本リスクインジケーターを作成して実行

基本リスクインジケーターを作成して実行し、組織に対する将来の悪影響の可能性を特定します。インジケーターは早期警告システムであり、リスクに対して予防措置を講じることができます。基本インジケーターは、インジケーターソースに基づく自動化されたインジケーターです。

始める前に
必要なロール：sn_risk.manager または sn_risk.admin

このタスクについて
基本インジケーターでは、データは指定したソースから自動的に収集されます。データをフィルターする基準を追加する前に、サポートデータを指定する必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース > インジケーター > リスクインジケーター.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

インジケーターフォーム

フィールド	説明
カテゴリ	インジケーターのカテゴリ。たとえば、リスクインジケーターを作成するには、[リスクインジケーター] を選択します。
テンプレートから継承	既存のテンプレートからインジケーターを作成するオプション。
テンプレート	インジケーターの作成に使用されるテンプレート。このフィールドは、[テンプレートから継承] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
テンプレートを上書き	インジケーターの名前などのテンプレートのプロパティを上書きするオプション。
名前	インジケーターの名前。[テンプレート] フィールドでテンプレートを選択すると、このフィールドは自動的にテンプレート名に設定されます。
説明	インジケーターの簡潔な説明。[テンプレート] フィールドでテンプレートを選択すると、このフィールドは自動的に設定されます。
エンティティ	リスクをフィルタリングするために使用されるエンティティ。
適用するレコード	エンティティが適用されるレコード。
リスク	インジケーターに関連するフィルター済みリスク。 **注:** インジケーターテンプレートを選択した場合、リスクもテンプレートに基づいてフィルタリングされます。
所有グループ	インジケーターを所有するグループ。
所有者	インジケーターのオーナー。このフィールドはリスクに基づいて自動的にオーナーの名前に設定されます。
方法 (Method)	
タイプ	インジケーターのタイプを決定するために使用される方法。[基本] を選択します。
ターゲットタイプ	ターゲット値のタイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ [なし]：インジケーターのターゲットまたはしきい値を設定しない場合は、このオプションを使用します。 ○ [パーセンテージ]：このオプションを使用して、パーセンテージ値でインジケーターの結果を決定します。 ○ [カウント]：このオプションを使用して、カウント値または合計数でインジケーターの結果を決定します。
ターゲット	インジケーターが成功 (合格) したか失敗したかを決定する値。
ターゲット値に基づく結果	結果構成フィールド。選択肢は次のとおりです。 ○ 合格 ○ 失敗

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	たとえば、[ターゲット] フィールドに 100 と入力したとします。インジケーターの結果の出力が 100 を超えると、このフィールドに設定された値に基づいて、インジケーターのステータスは [合格] または [失敗] になります。
基本基準	
注: このセクションは、サポートデータを指定した後にのみ表示されます。	
基準	ソーステーブルからデータをフィルターする基準。フィールド内の [条件を設定] をクリックし、条件のフィルターを作成します。
追加の基準	
追加の基準	ターゲット値を計算するためのデータをフィルタリングするための追加の基準。このセクションは、[ターゲットタイプ] フィールドで [パーセンテージ] が選択されている場合にのみ表示されます。フィールド内の [条件を設定] をクリックし、条件のフィルターを作成します。
スケジュール	
収集頻度	インジケーターの結果の収集頻度。インジケータータスクと結果は、インジケータースケジュールに基づいて自動的に生成されます。
最初の開始日	インジケーターが最初に実行された日付。
次回実行日	インジケーターの結果の次回の収集時刻。このフィールドは [収集頻度] フィールドの値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドを編集して日付を変更することもできます。 **注:** このフィールドは、スケジュールされた実行に基づいてのみ更新され、インジケーターが手動で実行されたときは更新されません。
結果	
ステータス	インジケーターが合格か不合格かを示すインジケーターのステータス。
前のステータス	インジケーターが合格か不合格かを示すインジケーターの以前のステータス。

4. [保存] をクリックします。
5. サポートデータを収集するには、[サポートデータの指定] をクリックし、次の操作を行います。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [ソーステーブル] フィールドで、サポートデータの収集に使用されるテーブルを選択します。

b. [サポートデータフィールド] フィールドで、サポートデータの収集に使用されるソーステーブルのフィールドを選択します。
サポートデータフィールドを指定するときに、リスクワークスペース内でドット連結することはできません。

c. [サンプルサイズ] フィールドで、サポートデータの収集に使用する必要があるレコードの最小数を指定します。

d. [保存] をクリックしてフォームを再ロードします。

6. [実行] をクリックします。
[インジケーターの結果] 関連リストが表示されます。
7. インジケーターの結果を表示するには、[インジケーター結果] 関連リストをクリックし、次の操作を行います。

a. 表示する結果をクリックします。

b. サポートデータのスナップショットを表示するには、[サポートデータを表示する] をクリックします。

c. 特定のライブ レコードを表示するには、そのレコードの [表示] をクリックします。
ライブレコードは、リスクワークスペースユーザーインターフェイスではなく、常にクラシックユーザーインターフェイスで開きます。

リスクワークスペースでスクリプト化済みリスクインジケーターを作成して実行

スクリプト化済みリスクインジケーターを作成して実行し、組織に対する将来の悪影響の可能性を特定します。スクリプト化済みインジケーターを使用すると、インジケーターを実行する独自のスクリプトを記述できます。インジケーターは早期警告システムであり、リスクに対して予防措置を講じることができます。

始める前に

必要なロール：sn_risk.manager または sn_risk.admin

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース > インジケーター > リスクインジケーター.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

インジケーターフォーム

フィールド	説明
カテゴリ	インジケーターのカテゴリ。たとえば、リスクインジケーターを作成するには、[リスクインジケーター] を選択します。
テンプレートから継承	既存のテンプレートからインジケーターを作成するオプション。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
テンプレート	インジケーターの作成に使用されるテンプレート。このフィールドは、[テンプレートから継承] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。
テンプレートを上書き	インジケーターの名前などのテンプレートのプロパティを上書きするオプション。
名前	インジケーターの名前。[テンプレート] フィールドでテンプレートを選択すると、このフィールドは自動的にテンプレート名に設定されます。
説明	インジケーターの簡潔な説明。[テンプレート] フィールドでテンプレートを選択すると、このフィールドは自動的に設定されます。
エンティティ	リスクをフィルタリングするために使用されるエンティティ。
適用するレコード	エンティティが適用されるレコード。
リスク	インジケーターに関連するフィルター済みリスク。 **注:** インジケーターテンプレートを選択した場合、リスクもテンプレートに基づいてフィルタリングされます。
所有グループ	インジケーターを所有するグループ。
所有者	インジケーターのオーナー。このフィールドはリスクに基づいて自動的にオーナーの名前に設定されます。
方法 (Method)	
タイプ	インジケーターのタイプを決定するために使用される方法。[スクリプト] を選択します。 **a.** スクリプトを追加するには、フォームを保存し、[スクリプトを追加] をクリックします。 **b.** [保存] をクリックします。
ターゲットタイプ	ターゲット値のタイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ [なし]：インジケーターのターゲットまたはしきい値を設定しない場合は、このオプションを使用します。 ○ [パーセンテージ]：このオプションを使用して、パーセンテージ値でインジケーターの結果を決定します。 ○ [カウント]：このオプションを使用して、カウント値または合計数でインジケーターの結果を決定します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ターゲット	インジケーターが成功 (合格) したか失敗したかを決定する値。
スケジュール	
収集頻度	インジケーターの結果の収集頻度。インジケータータスクと結果は、インジケータースケジュールに基づいて自動的に生成されます。
最初の開始日	インジケーターが最初に実行された日付。
次回実行日	インジケーターの結果の次回の収集時刻。このフィールドは [収集頻度] フィールドの値に基づいて自動的に設定されます。このフィールドを編集して日付を変更することもできます。 **注:** このフィールドは、スケジュールされた実行に基づいてのみ更新され、インジケーターが手動で実行されたときは更新されません。
結果	
ステータス	インジケーターが合格か不合格かを示すインジケーターのステータス。
前のステータス	インジケーターが合格か不合格かを示すインジケーターの以前のステータス。

4. サポートデータを収集するには、フォームを保存し、[サポートデータの指定] をクリックし、次の操作を行います。

   a. [ソーステーブル] フィールドで、サポートデータの収集に使用されるテーブルを選択します。

   b. [サポートデータフィールド] フィールドで、サポートデータの収集に使用されるソーステーブルのフィールドを選択します。
   サポートデータフィールドを指定するときに、リスクワークスペース内でドット連結することはできません。

   c. [保存] をクリックしてフォームを再ロードします。

5. [実行] をクリックします。
   [インジケーターの結果] 関連リストが表示されます。
6. インジケーターの結果を表示するには、[インジケーター結果] 関連リストをクリックし、次の操作を行います。

   a. 表示する結果をクリックします。

   b. サポートデータのスナップショットを表示するには、[サポートデータを表示する] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. 特定のライブ レコードを表示するには、そのレコードの [表示] をクリックします。
ライブレコードは、リスクワークスペースユーザーインターフェイスではなく、常にクラシックユーザーインターフェイスで開きます。

リスクワークスペースでのイシュー管理

リスクワークスペースの問題ランディングページでは、ログインしているマネージャーとユーザーに、問題を管理するために必要なすべての情報を 1 つのページで提供します。ランディングページには、実用的なインサイト、クイックアクションボタン、フィルターがあり、オープンな問題のトリアージにアクセスできます。

[問題] ランディングページは、以下のワークスペースで使用できます。

- コンプライアンスワークスペース
- 監査ワークスペース
- プライバシーワークスペース
- リスクワークスペース

[問題の概要] ランディングページを開く

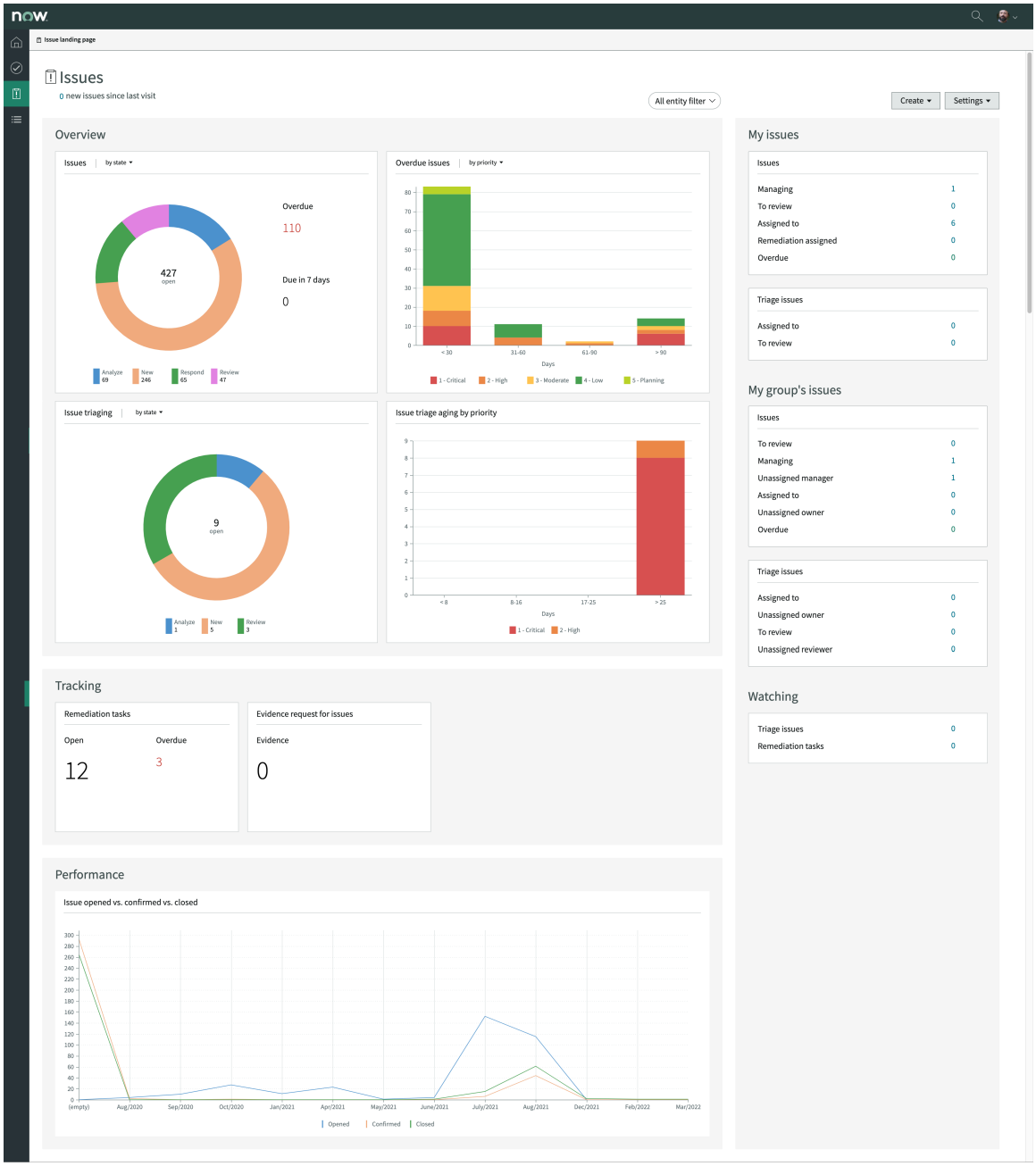
リストされている各ワークスペースで、[問題の概要] アイコン () をクリックして問題にアクセスできます。

このアイコンをクリックして、[問題の概要] ランディングページを開きます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

問題の概要ランディングページ



[問題の概要] ランディングページのセクション

[問題の概要] ランディングページのチャートとグラフ

概要	
問題	このチャートには、ステータス、問題タイプ、問題評価、または優先度別に分類された問題が表示されます。期限切れの問題と 7 日後に期限切れになる問題の数も表示されます。
期限切れの問題	この経過時間グラフには、さまざまな時間範囲で期限切れの問題が表示されます。たとえば、61 ～ 90 日間過ぎた問題を一目で特定できます。グラフは、優先度と問題の評価でフィルタリングできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[問題の概要] ランディングページのチャートとグラフ (続く)

問題のトリアージ	このグラフには、ステータス、問題タイプ、または優先度別に分類された問題トリアージが表示されます。問題マネージャーが、問題をトリアージし、優先順位付けする方法を識別するのに役立ちます。
優先度別のエイジングの問題のトリアージ	この経過時間グラフは、問題が未解決である期間の概要を示します。
追跡中	
修復タスク	このウィジェットは、問題に関連付けられている未解決で期限切れの修復タスクのステータスを表示します。
問題の証拠要求	このウィジェットには、問題に対してオープンされた証拠要求数が表示されます。
パフォーマンス	
オープン、確認済み、クローズ済みの問題	このグラフには、オープン、確認済み、およびクローズ済みの問題の傾向データが経時的に表示されます。
自分の問題	
問題	このセクションには、ログインしているユーザーに割り当てられたレビューできる問題、再アサインできる問題、修正にアサインされた問題、期限切れの問題が表示されます。
トリアージ問題	このセクションには、再アサインされレビューできる、ログインしているユーザーに割り当てられたトリアージ問題が表示されます。
自分のグループの問題	
問題	このセクションには、ログインしているユーザーのグループのメンバーにアサインされた問題が表示されます。
トリアージ問題	このセクションには、ログインしているユーザーのグループにアサインされたトリアージ問題が表示されます。
監視対象	
トリアージ問題	このセクションには、ログインしているユーザーのウォッチリストに含まれている問題のトリアージ数が表示されます。
修復タスク	このセクションには、ログインしているユーザーがウォッチリストに含まれている修復タスクの数が表示されます。

リスクワークスペースでリスクアセスメントスコープを作成

リスク管理 アプリケーションを使用して、エンティティのリスクの特定や、査定人と承認者の定義、アセスメント頻度の設定、およびアセスメントの開始のためのリスクアセスメントスコープを作成します。

始める前に

必要なロール：
sn_risk_workspace.IT_risk_manager、sn_risk_workspace.operational_risk_manager または sn_risk_workspace.business_op_risk_manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
リスクアセスメントスコープを作成すると、アセスメントが効果的に実行され、その結果としてリスク管理チームに貴重なインサイトがもたらされ、情報に基づいた意思決定が可能になります。プレイブックを使用すれば、ガイドに従って操作しながらリスクアセスメントスコープを作成できます。プレイブック内の各ステージには、完了する必要がある 1 つ以上のアクティビティが含まれており、リスクアセスメントスコープに対する構造化されたアプローチを提供します。プレイブックでは各ステージについて説明し、必要なアクティビティを推奨し、ワークフローの包括的な対応を可能にします。ステージには、アセスメント開始時の査定人へのメールの自動送信など、自動化されたアクティビティを含めることもできます。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース.
2. リスト アイコンを選択します。
3. リストから、[リスクアセスメント計画] に移動し、[スコープ対象エンティティ]を選択します。
4. [新規] を選択します。
   リスクアセスメントスコープのプレイブックが開き、リスクアセスメント方法 (RAM) とアセスメント可能なエンティティを定義するための最初のアクティビティ (スコープ定義ステージ) が開始されます。
5. [スコープ定義] アクティビティカードで、フィールドに入力します。

[スコープ定義] カード

フィールド	説明
リスクアセスメント方法	リスクを評価するために使用するリスクアセスメント方法論 (RAM)。
アセスメント可能なエンティティ	RAM の [適用可能なエンティティクラス] フィールドで選択されたエンティティクラスに関連するエンティティ。このフィールドの値は、選択した RAM で指定されたエンティティクラスに基づいて変更されます。選択したクラスに属するエンティティのみがこのフィールドに表示されます。
所有者	エンティティのオーナー。このフィールドはアセスメント可能なエンティティに基づいて自動的に設定されます。

6. [続行] を選択します。
   [リスク選択 (Risks selection)] アクティビティカードが開きます。選択した RAM を使用して、エンティティに関連するリスクを選択して評価できます。
7. 既存のリスクを追加するには、[追加] を選択し、次の操作を行います。
   a. 追加するリスクを選択します。
   b. [追加] を選択します。
8. オプション: リスクを作成するには、[リスクを作成] を選択し、次の操作を行います。
   a. 新しいリスクの詳細を入力します。
   b. [保存] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

9. オプション: リスク分類からリスクを作成するには、[リスクを作成] ボタンの横にある下矢印アイコンを選択し、[リスクステートメントから作成 **(Create from risk statements)]** を選択して、次の手順を実行します。
   a. 追加するリスクステートメントを選択します。
   b. [追加] を選択します。
10. [完了としてマーク] を選択します。
    リスクアセスメントスコープの Playbook でアサインステージが開きます。
11. [アサイン] アクティビティカードで、フィールドに入力します。

アサインカード

フィールド	説明
査定人タイプ	リスクの評価を担当するグループまたはユーザー。選択肢は次のとおりです。 ○ エンティティオーナーと同じ ○ リスクオーナーと同じ ○ ユーザーの指定 ○ グループの指定
査定人	リスクの評価を担当するユーザー。このフィールドは、[査定人タイプ] フィールドから [ユーザーを指定] が選択された場合のみ表示されます。
査定人グループ	リスクの評価を担当するグループ。このフィールドは、[査定人タイプ] フィールドから [グループの指定] が選択された場合のみ表示されます。
承認者タイプ	リスクの承認を担当するユーザーまたはグループ。選択肢は次のとおりです。 ○ エンティティオーナーと同じ ○ 査定人のマネージャーと同じ ○ ユーザーの指定 ○ グループの指定 ○ なし
承認者	アセスメントの承認を担当するユーザー。このフィールドは、[承認者タイプ] フィールドから [ユーザーを指定] が選択された場合のみ表示されます。
承認者グループ	アセスメントの承認を担当するグループ。このフィールドは、[承認者タイプ] フィールドから [グループの指定] が選択された場合のみ表示されます。

12. [完了としてマーク] を選択します。
    リスクアセスメントスコープの Playbook で、アセスメント頻度ステージが開きます。
13. [アセスメント頻度] アクティビティカードで、フィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[アセスメント頻度] カード

フィールド	説明
アセスメント頻度	リスクを評価する頻度。選択肢は次のとおりです。 ○ なし ○ 週次 ○ 月次 ○ 四半期ごと ○ 半年ごと ○ 年の月と日 **注:** 次回の再アセスメント日より前に予定されていないリスクアセスメントを実施した場合、後続のアセスメント日は前回のアセスメントで設定された頻度によって決定されます。たとえば、頻度が月次に設定されていて、1 月 1 日に最初のアセスメントを実行したとします。そして、1 月 15 日に予定されていないアセスメントを実行した場合、次のアセスメントは引き続きこの最終アセスメント日に基づいて決定されます。
期限切れまでの日数	アセスメントを開始してから完了を要求されている日数。たとえば、このフィールドの値が 10 の場合、アセスメントの期日はアセスメントが開始された日から 10 日後に設定されます。デフォルト値は 5 です。

14. [完了としてマーク] を選択します。
リスクアセスメントスコープの Playbook の [アセスメントを開始] ステージが開きます。
15. アセスメントを開始するには、[すべてのアセスメントの開始] を選択します。
アセスメントを生成すると、査定人または査定人のグループに、アセスメントが査定人または査定人のグループにアサインされたことを示すメール通知が届きます。
16. オプション: ワークフローに戻ってスコープ、アサイン、または頻度を変更するには、メニューアイコンを選択してから [スコープの再定義] を選択します。

リスクワークスペースでリスクアセスメントをスケジュール

複数のエンティティのリスクアセスメントを自動的にスケジュールします。リスクアセスメントスケジューラーは、希望する頻度に基づいてアセスメントを自動的に開始することで、リスクアドミンの時間を節約します。

始める前に

必要なロール：sn_risk_workspace.IT_risk_manager および sn_risk_workspace.operational_risk_manager

このタスクについて

ほとんどの組織では、第二線のリスクマネージャーがリスクアセスメントの調整を担当します。このグループは、アセスメントが必要なエンティティと関連リスクを識別します。また、これらのリスクの評価担当者も決定します。ただし、この継続的なリスクアセスメントサイクルでは、リスクマネージャーが個々のリスクアセスメントスコープを作成してアセスメントを開始する必要があるため、大幅に時間が失われます。この問題に対処するには、リスクアセスメントスケジューラーを活用できま

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

す。スケジューラーを利用することで、アセスメントをスケジュールし、その頻度を指定することができます。定義された頻度に基づいて、アセスメントが自動的に開始されます。また、各アセスメントの査定人と承認者を指定できます。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース.
2. アセスメントスケジューラープレイブックにアクセスするには、次のいずれかを実行します。
   - リスクワークスペースホームページの [クイックアクション] で、[リスクアセスメントのスケジュール] を選択します。
   - リスト  アイコンを選択し、[リスクアセスメント計画]に移動し、[スケジュール設定済みアセスメント] を選択し、[新規] を選択します。

   アセスメントスケジューラーのプレイブックが開き、リスクアセスメント方法 (RAM) とアセスメント可能なエンティティを定義するための最初のアクティビティ (スコープ定義ステージ) が開始されます。
3. [スコープ定義] アクティビティカードで、フィールドに入力します。

[スコープ定義] カード

フィールド	説明
リスクアセスメント方法	リスクを評価するために使用するリスクアセスメント方法論 (RAM)。
適用可能なエンティティクラス	選択した RAM に関連するエンティティクラス。このフィールドの値は、選択した RAM で指定されたエンティティクラスに基づいて変更されます。このフィールドは選択した RAM の該当するエンティティクラスに基づいて自動的に設定されます。

4. [続行] を選択します。
   エンティティ選択アクティビティカードが開き、該当するエンティティクラスに属するアセスメント可能なエンティティを追加できます。
5. エンティティを追加するには、[追加] を選択して、次の操作を行います。
   a. 追加するエンティティを選択します。
   b. [追加] を選択します。
6. [完了としてマーク] を選択します。
   アセスメントスケジューラー Playbook でアサインステージが開きます。
7. [アサイン] アクティビティカードで、フィールドに入力します。

アサインカード

フィールド	説明
査定人タイプ	リスクの評価を担当するグループまたはユーザー。選択肢は次のとおりです。 ○ エンティティオーナー ○ リスクオーナー ○ グループ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
査定人グループ	リスクの評価を担当するグループ。このフィールドは、[査定人タイプ] フィールドから [グループ] が選択された場合のみ表示されます。
承認者タイプ	リスクの承認を担当するユーザーまたはグループ。選択肢は次のとおりです。 ○ エンティティオーナー ○ 査定人のマネージャー ○ グループ ○ なし
承認者グループ	アセスメントの承認を担当するグループ。このフィールドは、[承認者タイプ] フィールドから [グループ] が選択された場合のみ表示されます。

8. [完了としてマーク] を選択します。
   アセスメントスケジューラープレイブックでアセスメント頻度ステージが開きます。
9. [アセスメント頻度] アクティビティカードで、フィールドに入力します。

[アセスメント頻度] カード

フィールド	説明
後で開始	将来の日付でアセスメントを開始するオプション。
アセスメント開始日	アセスメントをスケジュールする日付。このフィールドは、[後で開始] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。
アセスメント頻度	リスクを評価する頻度。選択肢は次のとおりです。 ○ なし ○ 週次 ○ 月次 ○ 四半期ごと ○ 半年ごと ○ 年の月と日 **注:** 次回の再アセスメント日より前に予定されていないリスクアセスメントを実施した場合、後続のアセスメント日は前回のアセスメントで設定された頻度によって決定されます。たとえば、頻度が月次に設定されていて、1 月 1 日に最初のアセスメントを実行したとします。そして、1 月 15 日に予定されていないアセスメントを実行した場合、次のアセスメントは引き続きこの最終アセスメント日に基づいて決定されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
期限切れまでの日数	アセスメントを開始してから完了を要求されている日数。たとえば、このフィールドの値が 10 の場合、アセスメントの期日はアセスメントが開始された日から 10 日後に設定されます。デフォルト値は 30 です。

10. [完了としてマーク] を選択します。
アセスメントスケジューラープレイブックでレビューおよび開始ステージが開きます。
11. アセスメントを開始するには、[アセスメントを開始] を選択します。
アセスメントを生成すると、査定人または査定人のグループに、アセスメントが査定人または査定人のグループにアサインされたことを示すメール通知が届きます。
12. オプション: ワークフローに戻ってスコープ、アサイン、または頻度を変更するには、メニューアイコンを選択してから [スコープの再定義] を選択します。

タスクの結果
アセスメントが開始されます。スケジュール設定済みのすべてのアセスメントは、以下で表示できます。 リスクアセスメント計画 > スケジュール設定済みアセスメント.

リスクワークスペースで高度なリスクアセスメントを実行

リスクアセスメントを実施して、リスクワークスペース アプリケーションの固有リスク、コントロールの有効性、残存リスク、およびターゲットリスクを評価します。リスクアセスメントプロセス中に特定されたリスクを管理および軽減できるようにするリスク応答を定義できます。

始める前に
必要なロール：sn_grc.business_user

> **注:**
> 高度なリスクアセスメントロールを sn_grc.business_user ロールに手動でアサインする必要があります。ロールとグループの付与を調整する方法については、Now Support ナレッジベースの「How to adjust granting of roles and groups to use background jobs (バックグラウンドジョブを使用するためのロールとグループの付与を調整する方法) [KB0963693]」を参照してください。記事を表示するには Now Support にログインする必要があります。

このタスクについて
リスクアセスメントは以下に対して実行されます。

- 固有リスク
- コントロールの有効性。
- 残存リスク
- ターゲットリスク

リスクアセスメントは、リスクアセスメント方法論 (RAM) の構成に基づいて自動的に計算されるリスクスコアを生成します。自動的に計算されたスコアを変更する場合は、計算されたスコアを上書きして理由を入力できます。評価するコントロールがない場合、残存リスクスコアは固有のリスクスコアと同じになります。

アセスメントを実行した後、リスク応答を定義できます。リスク応答とは、特定されたリスクを管理するプロセスのことです。これは、リスクマネージャーが各リスクの処理方法を決定する計画および意思決定プロセスです。アセスメントの実行中は、コンテキストサイドパネルで詳細な参照情報を確

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

認できます。このパネルには、リスクイベント、未解決の問題、主要なインジケーター違反、コントロールテスト結果、およびコントロールインジケーターの失敗に関する情報が表示されます。

査定人の委任によってリスクアセスメントが実行されている場合、[査定人の代理人] フィールドには代理人の名前が表示されます。

リスクアセスメントレコードは、次のステータスで進行します。

- 新規:リスクアセスメントは作成されていますが、まだ開始されていないか、評価の準備が整っています。
- 進行中:リスクアセスメントは現在評価中です。このステータスは、アセスメントが [固有のアセスメント]、[コントロールアセスメント]、[残存アセスメント]、[ターゲットアセスメント]、または [応答] のいずれかのステータスである場合に適用されます。
- 承認待ち:リスクアセスメントが完了し、指定された承認者からのレビューまたは承認を待っています。
- 完了:リスクアセスメントは完全に承認され、確定しているため、これ以上のアクションは必要ありません。
- アーカイブ化済み:リスクアセスメントはアクティブではなくなりました。アセスメントが [完了] ステータスで、同じリスクの再アセスメントが開始されると、古いアセスメントは [アーカイブ済み] ステータスに移行します。
- キャンセル:リスクアセスメントが終了または取り消されました。

ステータスの詳細については、Now Supportナレッジベースの記事「Risk Assessment workflow changes from 19.1.x version (19.1.x バージョンからのリスクアセスメントワークフローの変更点)」を参照してください。記事を表示するには Now Support にログインする必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース > 自分のタスク.
2. 評価するリスクアセスメントを開き、次のいずれかを実行します。
   - アセスメントを開始する場合は、[始めましょう] を選択します。
   - リスクアセスメントを他のユーザーにアサインする必要があると思われる場合は、[再アサイン] を選択して必要な詳細を入力してください。
   - このリスクが以前に評価された場合、以前のアセスメントを表示するには、 [前回のアセスメントのレビュー] を選択します。
   - リスクアセスメントが進行中で、アセスメントを続行する場合は、[再開] を選択します。
3. 固有のアセスメントを実行するには、すべての固有のアセスメントの質問に回答します。
   a. オプション: 要素のガイダンスを表示するには、疑問符アイコン ( ) を選択します。
   b. オプション: 定性的および定量的重み付けを表示するには、[総合評価] アイコンを選択します。アプリケーションは回答を自動的に保存し、全体的なリスクスコアを計算します。
4. オプション: 計算された固有リスクの結果を変更するには、次の操作を行います。
   a. [計算されたスコアを変更したい] オプションを選択します。
   b. [固有リスクを上書き] リストから、適切な値を選択します。
   c. 計算されたスコアの変更の理由を説明するコメントを入力します。
5. **[Next** (次へ)] をクリックします。
6. コントロールアセスメントで、次のいずれかを実行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- コントロールの有効性を評価するには、すべてのコントロールアセスメント要素に応答します。
- 軽減コントロールを評価せずに続行するには、[コントロールアセスメントが適用されない] オプションを選択します。
- コントロールを追加せずにコントロール環境を評価するには、[計算されたスコアを変更したい] オプションを選択し、ステップ 8 を参照してください。

スコアを変更する理由を入力することで、計算されたコントロール有効性の結果を変更することもできます。

7. コントロールアセスメントにコントロールを追加または作成するには、次のいずれかを実行します。
   - 既存のコントロールを追加するには、[追加] を選択します。
   - 共通コントロールを継承するには、[共通コントロールを継承] を選択します。
   - コントロールを作成するには、[共通コントロールを継承] ボタンの横にある下向き矢印を選択し、[コントロールを作成 **(Create control)]** を選択します。
   - コントロール分類のコントロールを追加するには、[共通コントロールを継承] ボタンの横にある下向き矢印を選択し、[コントロール目標から作成] を選択します。
8. オプション: コントロールを追加せずにコントロール環境を評価するには、次の手順を実行します。
   a. [計算されたスコアを変更したい] オプションを選択します。
   b. [コントロール有効性を上書き] リストから、適切な値を選択します。
   c. 計算されたスコアの変更の理由を説明するコメントを入力します。
9. 軽減コントロールの実装後に残ったリスクを評価するには、[次へ] を選択し、残存アセスメントの要素に対応します。
   スコアを変更する理由を入力することで、計算された残存スコアを変更することもできます。
10. **注:**
    アセスメントフォームでターゲットリスクアセスメントを使用できるかどうかは、RAM で概説されている条件によって異なります。

    将来達成したい望ましいリスクレベルを評価するには、 次へ を選択し、ターゲットアセスメントの要素に対応します。
    スコアを変更する理由を入力することで、計算されたターゲットスコアを変更することもできます。
11. 適切な戦略を選択し、評価されたリスクのアクション計画を定義するには、 [次へ] を選択し、次の操作を行います。
    a. 適切なリスク対応を選択します。
    b. オプション: リスク対応タスクを作成するには、[タスクの作成 **(Create task)]** ボタンを選択し、適切な値を選択します。
    詳細については、「リスクワークスペースでリスク対応タスクを作成する」を参照してください。
    c. オプション: リスクの再評価中に、既存のリスク対応タスクをリンクしたり、タスクをリスク対応戦略とともに以前のアセスメントからコピーするには、[はい、既存のものを使用して続行します **(Yes, continue with existing)]**を選択します。
    [はい、既存のものを使用して続行します **(Yes, continue with existing)]** ボタンは、リスクを再評価する場合にのみ表示されます。別の応答を使用して続行するには、[対応を変更 **(Change response)]** を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

d. [タスクを保存] を選択し、応答を確認します。
リスク応答タスクが作成され、アサイニーにアサインされます。タスクを編集し、所有者を変更することができます。

12. 既存の問題をリスクアセスメントにリンクするには、次の手順を実行します。
この機能を使用するには、リスクアセスメント方法論 (RAM) フォームで [問題とリスクアセスメントとのリンクを許可 **(Allow issue linking with risk assessment)]** オプションを有効にする必要があります。

a. [既存の問題を追加 **(Add existing issues)]** を選択します。

b. リストから問題を選択し、[追加] を選択します。

13. リスクアセスメントの問題を作成するには、次の手順を実行します。
この機能を使用するには、リスクアセスメント方法論 (RAM) フォームで [問題とリスクアセスメントとのリンクを許可 **(Allow issue linking with risk assessment)]** オプションを有効にする必要があります。

a. [問題を作成 **(Create issue)]** を選択します。

b. 問題を作成フォームで、必要な詳細を入力します。

c. [Save (保存)] を選択します。

14. [Submit (送信)] を選択します。
検証エラーがない場合は、アセスメントホームページが表示されます。

15. オプション: アセスメントを変更する場合は、[編集] を選択します。

16. オプション: アセスメントのための実行されているアクティビティを表示するには、[アクティビティログ] アイコン を選択します。

17. 承認者を定義した場合は、[送信] を選択します。
アセスメントホームページが表示されます。アセスメントの概要を確認できます。

18. 承認を要求、アサインを編集、または再アサインするには、次のいずれかを選択します。

タスクの結果

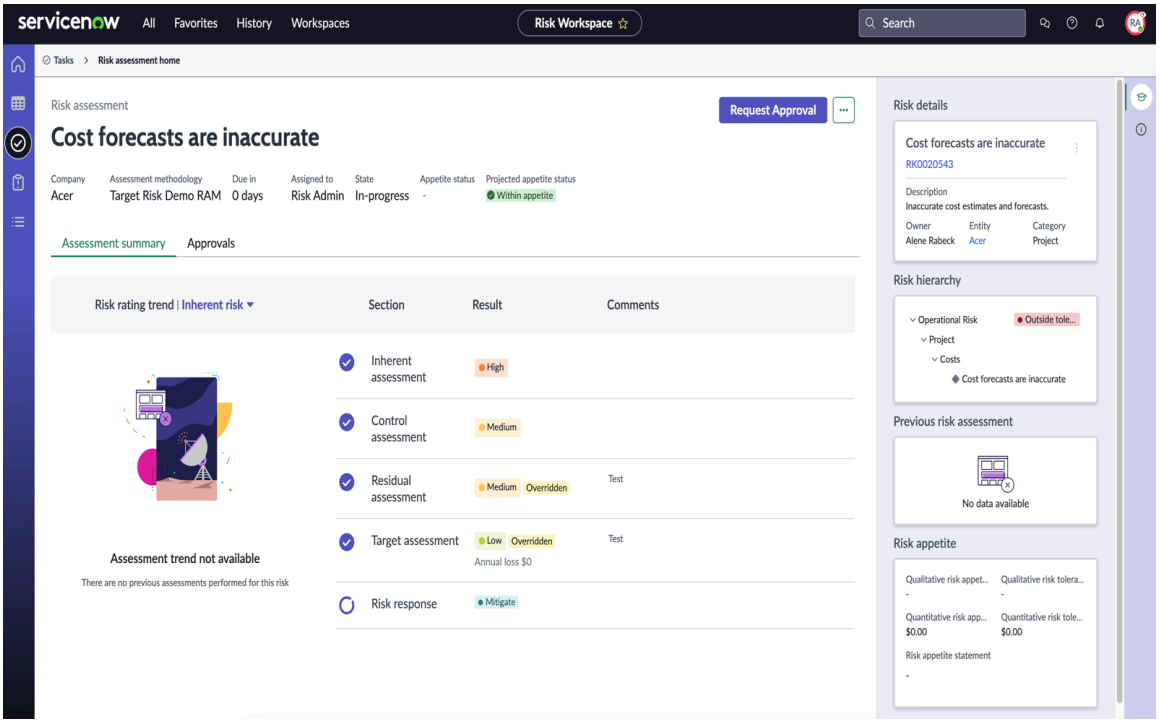
アセスメントが承認者に送信され、承認ワークフローが開始されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example:

承認を得る準備が整った進行中のリスクアセスメント



リスクワークスペースでオブジェクトアセスメントを実行

ServiceNow® でオブジェクトまたはレコードのリスクを評価します。オブジェクトアセスメントの例は、変更管理の評価または引用の評価です。

始める前に

必要なロール：sn_grc.business_user

このタスクについて

オブジェクトリスクアセスメントを実行するために、リスクの予備知識は必要ありません。リスクワークスペースでオブジェクトアセスメントを実行する場合、リスクのコンテキスト全体が必要ではないため、リスクの説明と参照情報は表示されません。オブジェクトレコードのリスクアセスメントボタンを設定して、アセスメントを開始できます。詳細については、「高度なリスクアセスメントを使用した任意のオブジェクトアセスメント」を参照してください。

手順

1. 自分のものに移動 すべて > リスク > リスクワークスペース.
2. 作業キュー ( ) をクリックします。
3. [自分の処理待ちのタスク] の [高度なリスクアセスメント] で、自分にアサインされたオブジェクトリスクアセスメントを開きます。
4. [アセスメントを開始]を選択した場合は、アセスメントの質問に回答します。
   詳細については、「リスクワークスペースで高度なリスクアセスメントを実行」を参照してください。
5. [保存] をクリックします。
6. リスクアセスメント方法論でリスク応答を構成した場合は、適切なリスク応答戦略を選択し、[リスク応答を定義] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. レビューのためにアセスメントを送信するには、[レビューと送信] をクリックします。
   アセスメントホームページが表示されます。アセスメントの概要を確認できます。
8. 承認を要求、アサインを編集、または再アサインするには、次のいずれかを選択します。承認を要求します。

リスクアセスメントのサマリーを生成

IRM 向け Now Assistアプリケーションを使用して、固有リスク、残存リスク、ターゲットリスク、およびコントロール有効性データに基づいてリスクアセスメントサマリーを生成します。承認者は、コンテキストをすばやく理解するための重要なインサイトを得ることができ、手動でのサマリーの作成にかかる時間を短縮できます。

始める前に

IRM 向け Now Assistアプリケーションをインストールして、リスクアセスメントのサマリーを生成します。詳細については、「統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assist」を参照してください。

査定人と承認者がリスクアセスメントのサマリーを生成できるようにするには、 Now Assist アドミン コンソールからリスクアセスメント要約スキルをアクティブ化します。詳細については、「での Now Assist スキルのアクティブ化 統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assist」を参照してください。

必要なロール:リスクアセスメントのサマリーを生成するには、sn_grc_sharegenai.risk_asmt_user ロールを査定人 (sn_risk_advanced.ara_assessor) ロールと承認者 (sn_risk_advanced.ara_approver) ロールに手動でアサインする必要があります。

このタスクについて

査定人は、アセスメントを送信する場合にのみ、リスクアセスメントサマリーを生成し、そのサマリーを [リスクアセスメントサマリー] フィールドに 保存できます。送信後、査定人と承認者の両方がサマリーを生成して作業メモで共有できます。オブジェクトベースのアセスメントのアセスメントを要約することもできます。

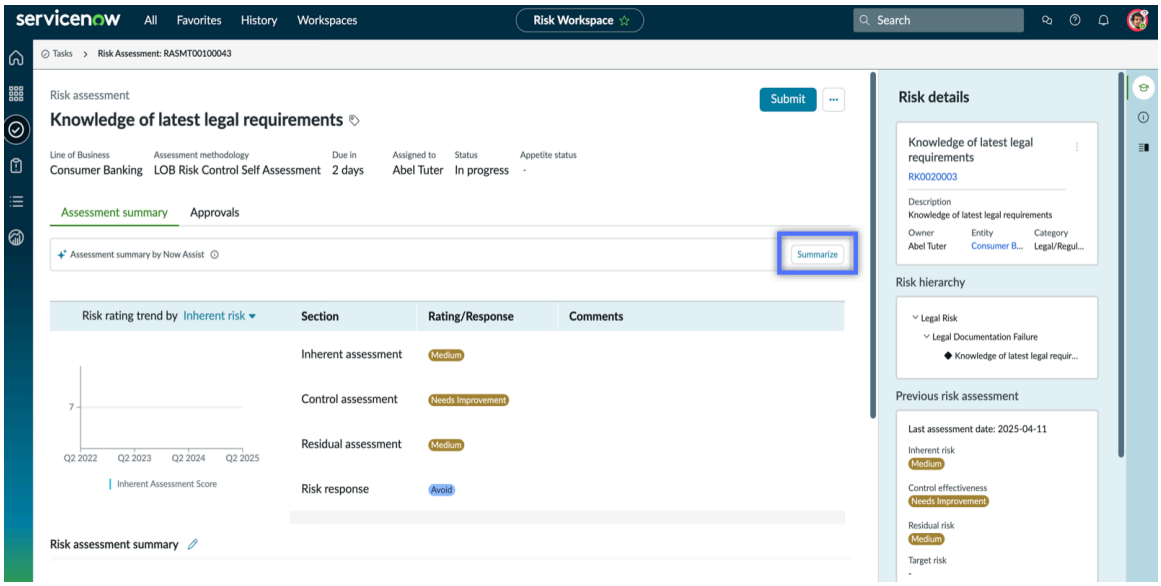
注:
この機能は、 リスクワークスペースでのみ使用できます。

手順

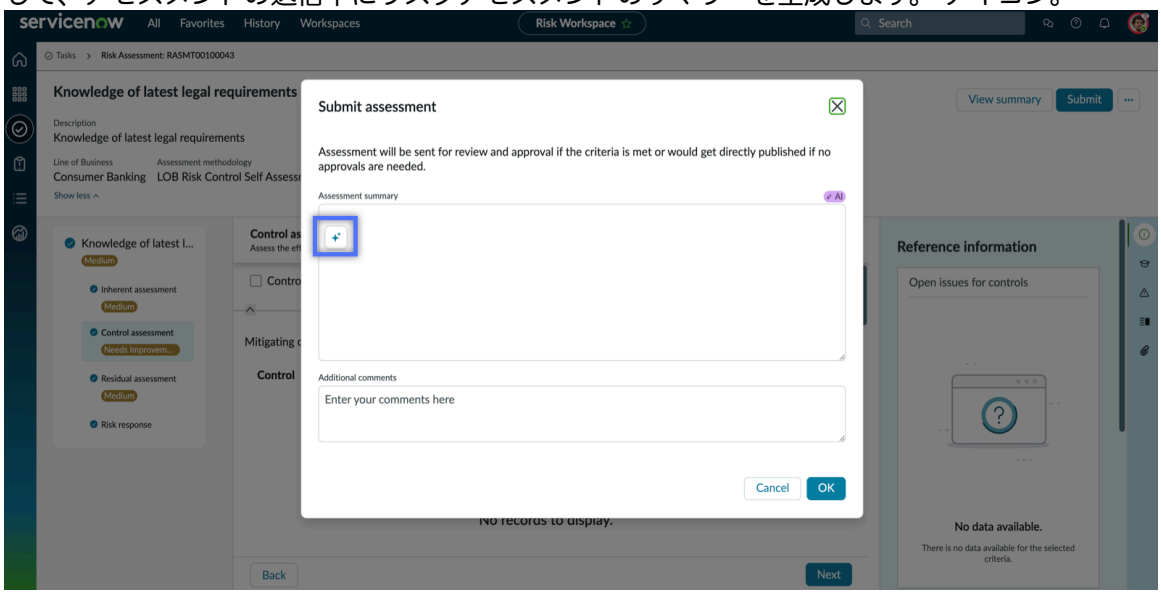
1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース > 自分のタスク.
2. リスクアセスメントサマリーを作成するリスクアセスメントを開きます。
3. [要約] を選択して、リスクアセスメントのランディングページからリスクアセスメントのサマリーを生成します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. リスク [サマリーを生成] [サマリーを要約 (Generate summary Summarize)] ボタンを選択して、アセスメントの送信中にリスクアセスメントのサマリーを生成します。 アイコン。



要約が生成されます。参照やレポートの目的で編集して保存できます。リスクアセスメントの送信後、[アセスメントサマリー] フィールドは読み取り専用になります。

でリスクイベントサマリーを生成する リスクワークスペース

リスクワークスペースで IRM 向け Now Assist アプリケーションを使用してリスクイベントサマリーを生成します。承認者は、コンテキストをすばやく理解するための重要なインサイトを得て、手動でのサマリーの作成にかかる時間を削減します。

始める前に
IRM 向け Now Assistアプリケーションをインストールして、リスクイベントのサマリーを生成します。詳細については、「統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assist」を参照してください。

Now Assist アドミンコンソールからリスクイベントの要約スキルをアクティブ化して、リスクイベントのサマリーを生成します。詳細については、「での Now Assist スキルのアクティブ化 統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assist」を参照してください。

必要なロール:sn_grc_risk_genai.risk_event_user

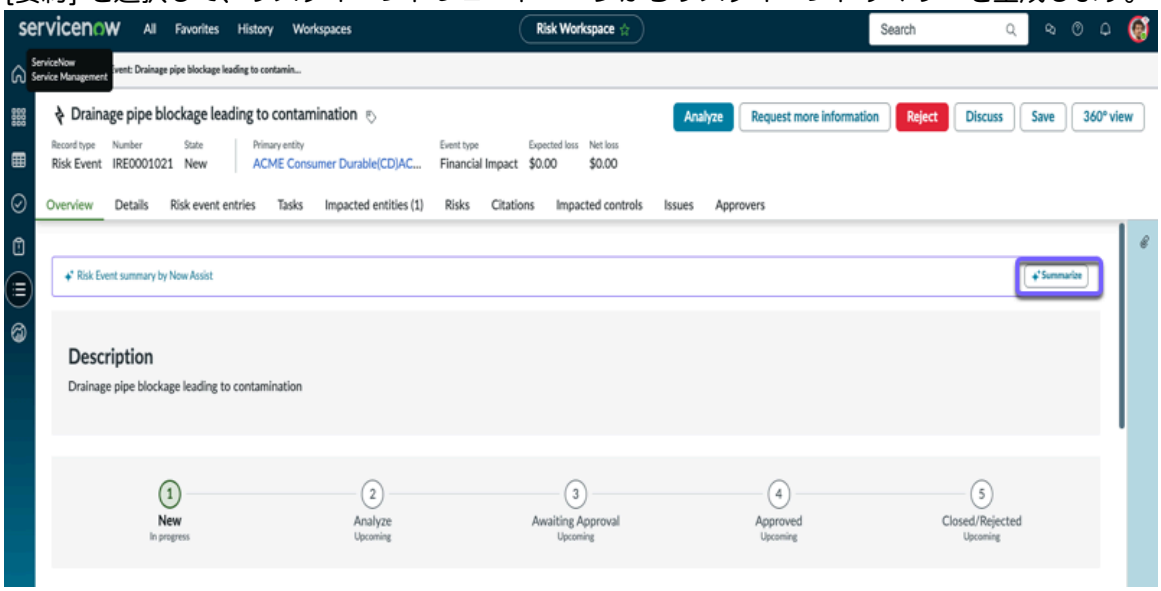
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

このタスクについて
リスクイベントの要約機能を使用すると、複数のコーディネーターが長期間にわたって関与している場合でも、リスクマネージャーはリスクイベントのコンテキストと重要な詳細をすばやく理解できます。新しいアサイニーのオンボーディングを簡素化し、AI で生成された各イベントの簡潔な要約を提供することで、特にマルチレベルの承認ワークフローにおいて、承認者の効率的な意思決定をサポートします。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース.
2. リスト アイコンを選択し、リスクイベントに移動します。
3. リスクイベントサマリーを作成するリスクイベントを開きます。
4. [要約] を選択して、リスクイベントレコードページからリスクイベントサマリーを生成します。



要約が生成されます。参照やレポートの目的で編集して保存できます。

5. 生成されたサマリーを編集して保存するには、次の手順を実行します。

   a. リスクイベントが [新規] または [分析] ステータスの場合は、[サマリーに共有] を選択します。

   b. 必要な編集を行い、[サマリーに保存] を選択します。

   c. 他のすべてのリスクイベント状況については、[作業メモに共有] を選択します。

   d. 必要な編集を行い、[作業メモに保存] を選択します。
   サマリーは、リスクイベントが [新規] または [分析] ステータスの場合は [サマリー] セクションに保存され、他のすべての状況の場合は [作業メモ] に保存されます。

リスク対応タスクのワークフロー

リスク対応タスクワークフローは、リスクの受け入れ、軽減、回避、または転移をするためのアクションプランを定義することによって、評価されたリスクを管理するための構造化されたプロセスです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスク対応タスクのユーザージャーニーの探索

リスク対応タスクのステータスは次のとおりです。

1. ドラフト：リスク対応タスクが作成されたときのデフォルトのステータス。
2. 対応中：リスク対応タスクオーナーが作業を開始し、レビューのために承認者にタスクを送信したときのステータス。
3. 承認待ち：承認者がリスク対応タスクをレビューし、タスクを承認または却下するときのステータス。
4. クローズ済み：承認者がリスク対応タスクを承認し、[クローズ済み] ステータスに移行するときのステータス。

リスク対応タスクワークフローは、次のステージで構成されています。

リスク対応タスクを作成します

査定人がリスク対応計画を特定した後、査定人はリスク対応タスクを作成します。sn_risk_advanced.ara_assessor ロールを持つユーザーは、リスク対応タスクを作成し、sn_risk.user ロールを持つリスクユーザーにアサインできます。作成後、リスク対応タスクは [ドラフト] ステータスに移行します。詳細については、「リスクワークスペースでリスク対応タスクを作成する」を参照してください。

アクションアイテムを作成します

リスク査定人は、リスク対応タスクごとに、さまざまなアクションアイテムを含む複数の戦略を作成できます。アクションアイテムは、リスクに効果的に対処および管理するために、リスク対応タスク内で定義される特定の詳細なタスクです。アクションアイテムは、リスク対応タスクが [ドラフト] ステータスまたは [対応中] ステータスのときに作成および定義できます。詳細については、「リスク対応タスクでアクションアイテムを作成する」を参照してください。

アクションアイテムには、それぞれ独立したワークフローがあります。詳細については、「リスク対応タスクのアクションアイテムのワークフロー」を参照してください。

注:
リスク受容タスクを除くすべてのタイプのリスク対応タスクに対して、リスク対応アクションアイテムを作成できます。

リスク対応タスクに対応します

リスク対応タスクがアサインされた後、リスク対応タスクオーナーはリスク対応タスクを [対応中] ステータスに移行します。このステージでは、リスク対応タスクオーナーがリスク対応タスクのアクションプランを定義します。アクションプランを定義した後、タスクオーナーは Approval Configurator で定義された承認者に承認を要求できます。デフォルトでは、すべてのタイプのリスク対応タスクに対して単一レベルの承認が有効になっており、リスクオーナーがタスクを承認できます。これらの承認は、要件に基づいて構成できます。タスクオーナーが承認を要求すると、リスク対応タスクは [承認待ち] ステータスに移行します。

重要:
リスク対応タスクを [対応中] から [承認待ち] ステータスに移行するには、リスク対応タスクに関連付けられているすべてのアクションアイテムをクローズする必要があります。

リスク対応タスクを承認または却下します

[承認待ち] ステータスでは、Approval Configurator で定義された承認者がアクションプランをレビューし、リスク対応タスクを承認または却下できます。すべての承認者がタスクを承認すると、リスク対応タスクは [クローズ済み] ステータスに移行しま

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

す。承認者のいずれかがタスクを却下した場合、リスク対応タスクは [対応中] ステータスに戻ります。

リスク対応タスクのアクションアイテムのワークフロー

アクションアイテムワークフローは、複数のステークホルダーにアサインされたリスク対応タスクに関連付けられた詳細なタスクを管理するための構造化されたプロセスです。

アクションアイテムのユーザージャーニーの探索

アクションアイテムのステータスは次のとおりです。

1. ドラフト：アクションアイテムが作成されたときのデフォルトのステータス。
2. アサイン済み：アクションアイテムがユーザーにアサインされたときのステータス。
3. 対応中：アクションアイテムのオーナーが作業を開始し、レビューのためにリスク対応タスクオーナーにアクションアイテムを送信したときのステータス。
4. レビュー:リスク対応タスクオーナーがアクションアイテムをレビューし、承認または却下したときのステータス。
5. クローズ済み：リスク対応タスクオーナーがアクションアイテムを承認し、[クローズ済み] ステータスに移行したときのステータス。

アクションアイテムワークフローは、次のステージで構成されています。

アクションアイテムを作成します

リスク査定人またはリスク対応タスクオーナーは、リスク対応タスクごとに、さまざまなアクションアイテムを含む複数の戦略を作成できます。アクションアイテムは、リスクに効果的に対処および管理するために、リスク対応タスク内で定義される特定の詳細なタスクです。リスク対応タスクオーナーは、アクションアイテムのアクションプランを定義します。アクションアイテムは、リスク対応タスクが [ドラフト] ステータスまたは [対応中] ステータスのときに作成できます。詳細については、「リスク対応タスクでアクションアイテムを作成する」を参照してください。

> **注:**
> リスク受容タスクを除くすべてのタイプのリスク対応タスクに対して、リスク対応アクションアイテムを作成できます。

アクションアイテムに対応します

リスク対応アクションアイテムのアサイニーは、アクションアイテムを [対応中] ステータスに移行します。このステージでは、アクションアイテムオーナーは、実行するアクションを他の必要なステップとともに [アサイニーのコメント **(Assignee comments)]** フィールドに指定します。アクションアイテムオーナーは、承認を得るためにアクションアイテムをリスク対応タスクオーナーに送信します。アクションアイテムオーナーが承認を要求すると、アクションアイテムは [レビュー] ステータスに移行します。

アクションアイテムを承認または却下します

[レビュー] ステータスでは、リスク対応タスクオーナーはアサイニーのコメントをレビューし、アクションアイテムを承認または却下できます。承認者がアクションアイテムを承認すると、アクションアイテムは [クローズ済み] ステータスに移行します。承認者がアクションアイテムを却下した場合、アクションアイテムは [対応中] ステータスに戻ります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **重要:**
> リスク対応タスクを [対応中] から [承認待ち] ステータスに移行するには、リスク対応タスクに関連付けられているすべてのアクションアイテムをクローズする必要があります。

リスクワークスペースでリスク対応タスクを作成する

リスク対応タスクを作成してアクション計画を定義し、責任をアサインし、優先度を設定し、評価されたリスクを確実に効果的に管理するための期限を設定します。

始める前に
必要なロール：sn_risk_advanced.ara_assessor

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース.
2. タスク ( ) アイコンを選択します。
3. リスク対応タスクを追加するリスクアセスメントを開き、[リスク対応] セクションに移動します。
4. リスク対応タスクを作成するには、選択したリスク対応計画の横にある [タスクの作成 **(Create task)]** を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

リスク対応タスクフォーム

フィールド	説明
名前	リスク対応タスクの一意の名前。
計画	識別されたリスクを管理するために実装されるアクション。アクションには、リスクを管理するために必要な手順、メソッド、およびリソースが含まれます。
アサイン先	リスク対応タスクの管理責任者。
優先度	リスク対応タスクの重要性または緊急度。
期日	リスク対応タスクを完了する必要がある日付。

6. [タスクを保存 **(Save task)]** を選択します。

リスク対応タスクでアクションアイテムを作成する

各リスク対応タスクのさまざまなアクションアイテムを使用して複数の戦略を作成します。アクションアイテムは、リスク管理に必要な特定の手順を理解して重点を置くのに役立ちます。

始める前に
必要なロール：sn_risk_advanced.ara_assessor

このタスクについて
アクションアイテムは、リスクに効果的に対処および管理するために、リスク対応タスク内で定義される特定の詳細なタスクです。これらはより広範なリスク対応タスクから昇格し、さまざまなユーザーにアサインして、必要な応答計画の実行を確実にすることができます。アクションアイテムは、リスク対応タスクが [ドラフト] ステータスまたは [対応中] ステータスのときに作成および定義できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
リスク受容タスクを除くすべてのタイプのリスク対応タスクに対して、リスク対応アクションアイテムを作成できます。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース.
2. タスク () アイコンを選択します。
3. アクションアイテムを追加するリスク対応タスクを開きます。
4. [アクションアイテム] 関連リストを選択します。
5. [新規] を選択します。
6. フォームのフィールドに入力します。

   新規アクションアイテムの作成フォームのフィールド値の説明については、「新しいアクションアイテムの作成フォーム」を参照してください。

7. [保存] を選択します。
8. アクションアイテムをアサイニーに送信するには、[アサイニーに送信 **(Sent to Assignee)]** を選択します。
   アクションアイテムが [アサイン済み (Assigned)] ステータスに移行します。

新しいアクションアイテムの作成フォーム

新しいアクションアイテムの作成フォームを使用して、アクションプランの定義、責任のアサイン、優先度の設定、アクションアイテムのマイルストーンの設定を行います。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

新しいアクションアイテムの作成フォーム

フィールド	説明
タイトル	アクションアイテムの一意の名前。
アクションプラン	識別されたリスクを管理するために実装されるアクション。アクションには、リスクを管理するために必要な手順、メソッド、およびリソースが含まれます。
レビュー担当者	アクションアイテムのレビューを担当する責任者。このフィールドには、アクションアイテムの作成者の名前が自動的に設定されます。
優先度	アクションアイテムの重要性または緊急度。
開始日	アクションアイテムの予定開始日。
アサイン先	アクションアイテムの完了を担当する責任者。
ステータス	アクションアイテムのステータス。このフィールドは自動的に [ドラフト] に設定されます。
終了日	アクションアイテムの完了予定日。
ウォッチリスト	アクションアイテムに関する通知を表示および受信できる個人のリスト。
詳細	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しいアクションアイテムの作成フォーム (続く)

フィールド	説明
[詳細] セクションは読み取り専用セクションです。	
リスク対応タスク	このアクションアイテムを含むリスク対応タスクの名前。
リスク	このアクションアイテムが作成されるリスクの名前。
優先度	リスク対応タスクの重要性または緊急度。
ステータス	リスク対応タスクのステータス。
エンティティ	関連するエンティティの名前。
期日	リスク対応タスクの完了予定日。
実行されたアクション	
アサイニーのコメント (Assignee comment)	アクションアイテムの実装を担当するアサイニーが実行するコメントまたはアクション。このフィールドは、リスク対応タスクオーナーにのみ表示されます。
追加コメント	アクションアイテムに関する追加情報または詳細。

リスクワークスペースでのリスク識別のワークフロー

ワークフローでは、GRC リスクワークスペースでリスク識別プロセスを完了するためのステップバイステップガイダンスを提供します。

リスクワークスペースでは、リスクマネージャーはリスク識別ワークフローを使用してリスクを識別できます。ワークフローには複数のステージがあります。アクティビティが完了すると、ステージの進捗状況が更新されます。リスク識別ワークフローは複数のレーンに分割されます。ワークフローの各レーンには、タスクオーナーが完了する 1 つ以上のアクティビティが含まれています。

リスク識別ワークフローを使用するメリットは、単一のインターフェイスで詳細を表示できることです。また、任意のステージに戻ってアクティビティを再開することもできます。

リスク識別では、リスク識別レコードが作成された後、情報収集アンケートがアサインされたユーザーに送信されます。アンケートに回答するためのメールのリマインダーをユーザーに送信することもできます。回答を受信した後、リスクマネージャーは次のアクティビティを実行できます。

1. 回答を表示します。
2. 回答を承認または却下します。

   注:
   却下する回答がある場合、リスクマネージャーは却下の理由を入力してアンケートを再送信できます。

3. 固有のアセスメントを開始します。
4. リスクアセスメントを実行します。
5. アセスメントスコアを表示します。
6. 推奨リスクを関連付けるか、ライブラリから関連付けます。または、リスクマネージャーがリスクを作成することもできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
推奨リスクは、情報オブジェクトから生成されたリスクです。

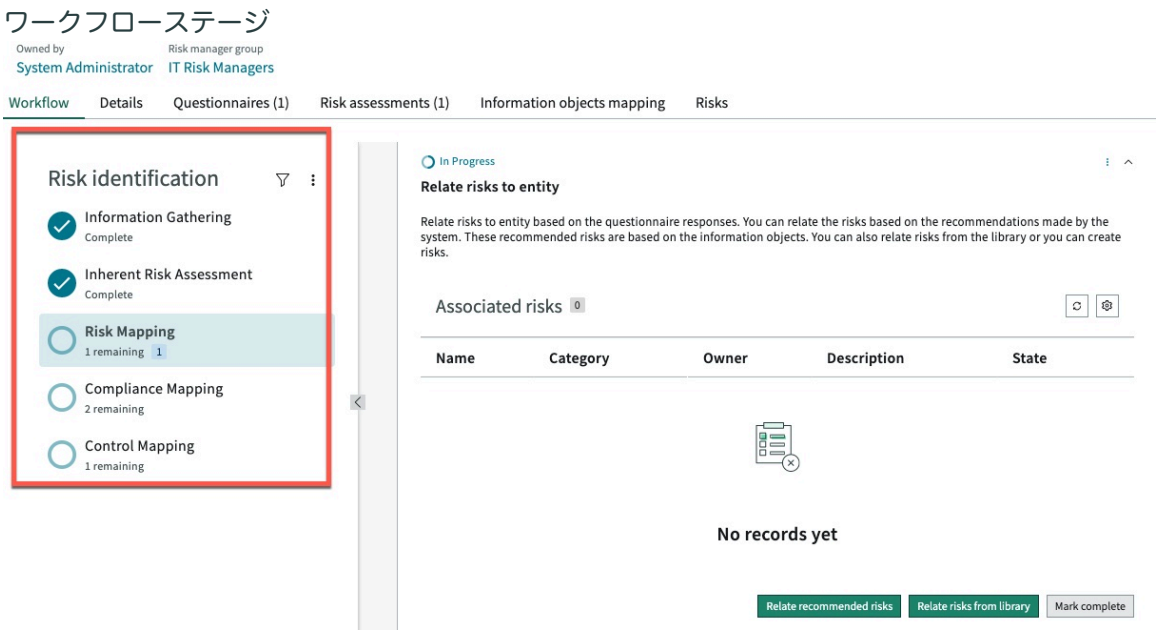
7. アクティビティを完了としてマークします。
8. 推奨ポリシーを関連付けるか、ライブラリから関連付けます。
9. さまざまなリスクとポリシーのコントロールが自動的に生成された後に、追加のコントロールを関連付けるか、作成します。
10. すべてのコントロールまたは選択的なコントロールの証明書を要求します。

以下の点に留意することが重要です。

- ワークフローでは、ステージの進行は自動的に行われますが、完了後にアクティビティを再開する場合は、手動で次のステージに移動する必要があります。
- コントロールの関連付けを終了してから再度リスクマッピングに移行すると、コントロールマッピングステージが処理待ちステータスに移行します。
- ワークフローを再開すると、新しいワークフローインスタンスが作成されます。

詳細については、「高度なリスクアセスメントを使用したアプリケーションリスクアセスメント」を参照してください。

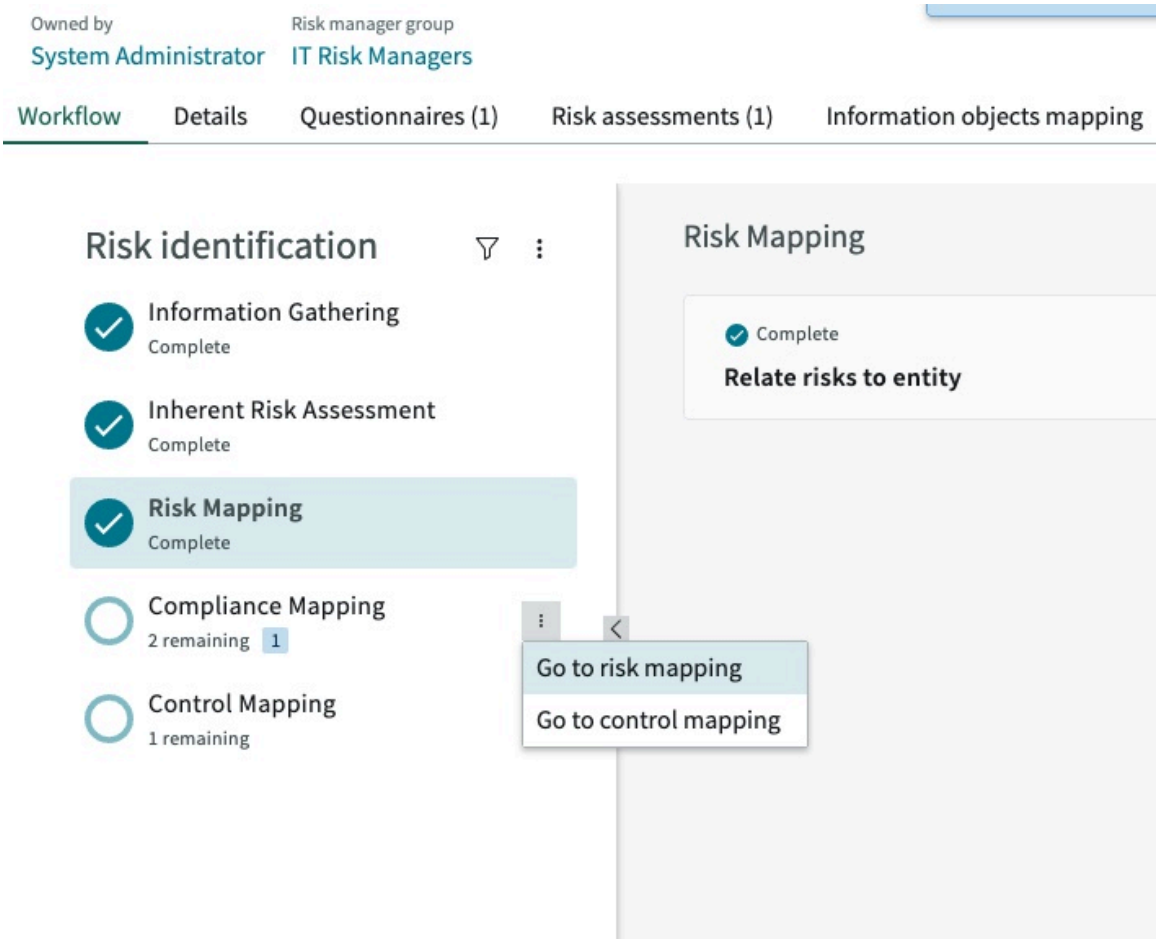
次の図は、ワークフローのステージとアクションを示しています。



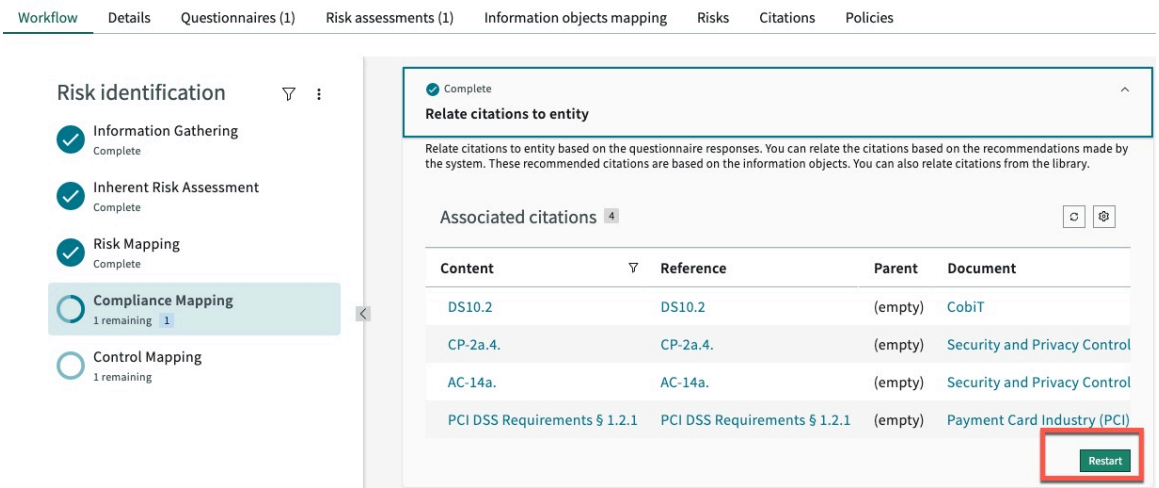
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ステージに戻る



アクティビティの再開



リスクワークスペースでリスクイベントを作成

リスクワークスペースでリスクイベントを作成します。リスクイベントは、組織内で発生する潜在的または実際の財務的および財務以外の損失、ニアミス、および利益です。

始める前に

必要なロール：sn_risk.manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
リスクイベントを作成すると、リスクイベントは分析、承認、およびクローズの定義されたライフサイクルを辿ります。リスクイベントを作成または記録することで、組織で同様のイベントの発生を防ぐことができます。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース > リスクイベント > すべてのイベント.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームで、次のフィールドを入力します。

[新規リスクイベントを作成 **(Create New Risk Event)]** フォーム

フィールド	説明
名前	ATM 盗難などのリスクイベントの名前。
説明	報告されたリスクイベントの説明。
分類	
イベントタイプ	イベントのタイプ。オプションは次のとおりです。 ○ [財務の影響]：イベントが金銭的損失につながる場合は、このオプションを選択します。 ○ [財務以外の影響]：イベントに金銭的損失がない場合は、このオプションを選択します。
カテゴリ	イベントカテゴリ。カテゴリを編集して、次のいずれかのオプションを適用できます。 ○ [個人]：従業員に発生した物理的な損害など。 ○ [法務]：従業員が利益相反のビジネスを行っていることがわかった場合など。 ○ [情報セキュリティ]：盗難、強盗、システムクラッシュなど。 ○ [ヒューマンリソース **(HR)]**：従業員による他の従業員に対する機密性の高い訴訟など。
サブタイプ	イベントサブタイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ [実績]：イベントが実際に発生した場合は、このオプションを選択します。 ○ [潜在]：イベントが発生する可能性がある場合は、このオプションを選択します。
検出者	リスクイベントを検出したユーザー。
オープン	リスクイベントの作成日。
開始者	リスクイベントを作成するユーザー。
ニアミス	リスクイベントが損失を被る可能性があったが、損失にはならなかったかどうかを指定するオプション。このフィールドは、[サブタイプ] フィールドから [潜在] が選択されている場合にのみ使用できます。
財務利益	リスクイベントの結果が損失ではなく利益であったかどうかを示すオプション。このオプションは、リスクイベントが次のいずれかの条件を満たす場合に自動的に選択されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ [サブタイプ] フィールドから [潜在] を選択し、利益のために [予想損失] フィールドまたは [潜在的損失] フィールドが負の値になっている。 ○ [サブタイプ] フィールドで [実績] が選択され、[正味損失] フィールドが負の値になっている場合。
モデリングで使用	リスクイベントレコードを、モンテカルロシミュレーションなどのシミュレーション技術を使用して高度な分析を実行する外部システムと共有するオプション。モンテカルロシミュレーションは、不確実なイベントの考えられる結果を推定するために使用される数学的手法です。
所有権	
主エンティティ	損失を負担するエンティティ。このエンティティは、レポートのためにアドミニストレーターに表示されます。
所有グループ	クローズするイベントの監視を担当するグループ。
コストセンター	エンティティのアカウント番号。
所有者	リスクイベントを所有するユーザー。リスクマネージャーはイベントオーナーになることができます。所有グループが指定されている場合、所有者は所有グループからフィルタリングされます。
キー日付	
発生日	イベントが発生した日付。
検出日	イベントが最初に検出または通知された日付。
損失/利益の推定	
予想損失	予想される損失額。予想損失は、考えられるすべての損失の確率加重平均です。この金額は、組織が失う可能性のある予想金額のユーザーの判断に基づきます。
非財務的影響	イベントに関連付けられる非財務的影響の評価。
潜在的な損失	リスクイベントによる潜在的な損失であると予想される金額。この金額は、リスクイベントの損失によってエンティティが被る可能性のある最大損失です。
クレジット/市場リスクの重複	
境界イベント	イベントを境界イベントとしてマークするオプション。境界イベントは、別のリスクカテゴリの財務的損失などの結果につながるオペレーショナルリスクイベントです。
外部リス	リスクイベントが持つ可能性がある外部リスクのタイプ。選択肢は次のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
クタイプ	○ [クレジット]：クレジットリスクとは、借り手がローンの返済や契約上の義務を履行しないことによって生じる損失の可能性です。たとえば、貸し手がクレジットカードやローンを提供している場合、借り手がローンを返済しない可能性があります。 ○ [市場]：市場リスクは、投資家が関与する金融市場のパフォーマンスに影響を与える要素によって投資家が損失を被る可能性です。たとえば、景気後退は市場全体に影響を与える可能性があります。 このオプションは、[境界イベント] が選択されている場合に表示されます。
外部リスク参照	帳簿内の調整用の ID。この値は自動的に設定されます。 このオプションは、[境界イベント] が選択されている場合に表示されます。
根本原因分析	
原因	リスクイベントが発生した主な理由。
原因の説明	リスクイベントが発生した理由に関する簡潔な説明。
結果	リスクイベントの結果。例：リスクイベントの結果として規制上の罰金が課せられる可能性があります。
実行されたアクション	問題に対処するために実行された修復アクション。これはイベントの最初のレコードです。
アクティビティ	
作業メモ	リスクイベントに関するメモ。これらのメモは外部ユーザーには表示されません。
追加コメント	リスクイベントに関する追加コメント。これらのメモは外部ユーザーに表示されます。

4. [保存] をクリックします。

類似のリスクイベントを関連付け

ガバナンス、リスク、コンプライアンス: 予測インテリジェンス プラグインをアクティブ化して、機械学習を使用する類似性ソリューション定義をトレーニングします。このソリューションにより、類似のリスクイベントを自動的に表示できます。

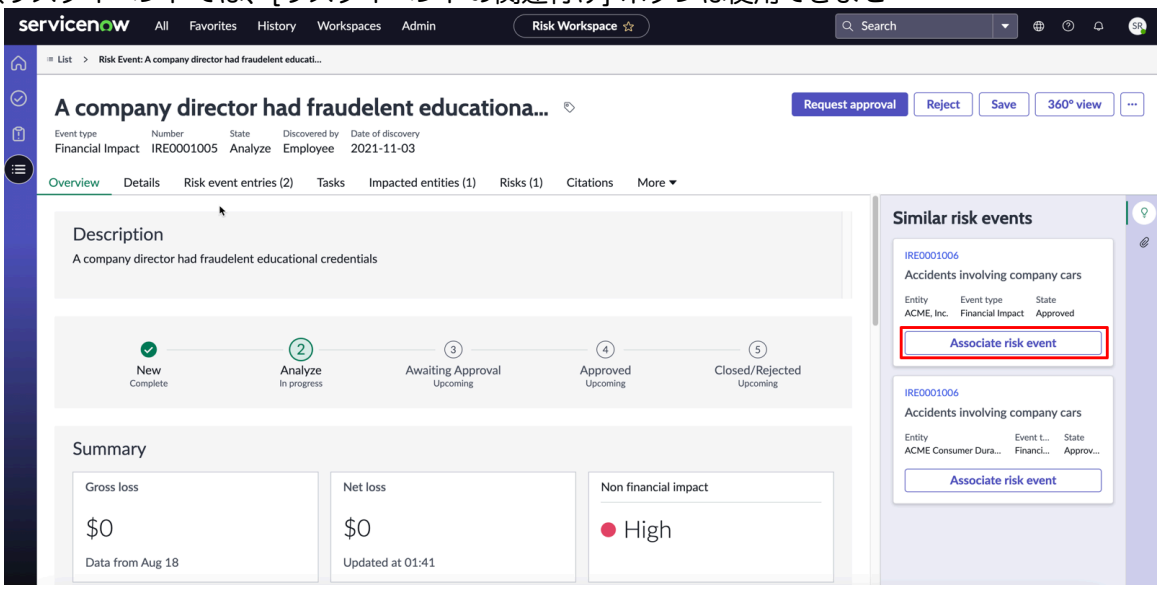
ガバナンス、リスク、コンプライアンス: 予測インテリジェンス プラグインは、人工知能 (AI) と機械学習 (ML) を使用してリスクイベントをより効率的に管理します。類似のリスクイベントを特定し、それらをグループ化して、リスクイベントの実際の影響をキャプチャして分析できます。

たとえば、複数の場所で事業展開している組織では、さまざまな場所にまたがるリスクイベントチームが類似のタイプのリスクイベントに取り組んでいる可能性があります。この課題により、組織内でリスクイベントを管理する作業が重複します。この機能により、類似のリスクイベントを管理する際の手動による労力が削減され、組織全体の効率が向上します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

類似のリスクイベントは、メインのリスクイベントが [分析] ステータスの場合にのみ関連付けることができます。また、[新規] または [却下] ステータスの類似リスクイベントでは、[リスクイベントの関連付け] ボタンは使用できませ



ん。

プラットフォーム機械学習アドミン (ml_admin) は、ソリューション定義を作成し、既存の定義を変更できます。次に移動できます リスクイベント > アドミニストレーション > プロパティ をクリックして、リスクイベントプロパティを新しいソリューション定義名で更新します。

ガバナンス、リスク、コンプライアンス: 予測インテリジェンス プラグインによるリスクの分類

ガバナンス、リスク、コンプライアンス: 予測インテリジェンス プラグインを使用すると、組織のリスクレコードにある孤立リスク (リスクステートメントを持たないリスク) のリスクステートメントを予測できます。その後、リスクの正しいリスクステートメントを特定し、それらを管理可能なカテゴリに集計できます。

通常、第一線の従業員または組織内のリスクチャンピオンがビジネスのリスクを特定します。

注:
リスクチャンピオンは、組織内のリスクの識別とレポートを担当するエグゼクティブです。

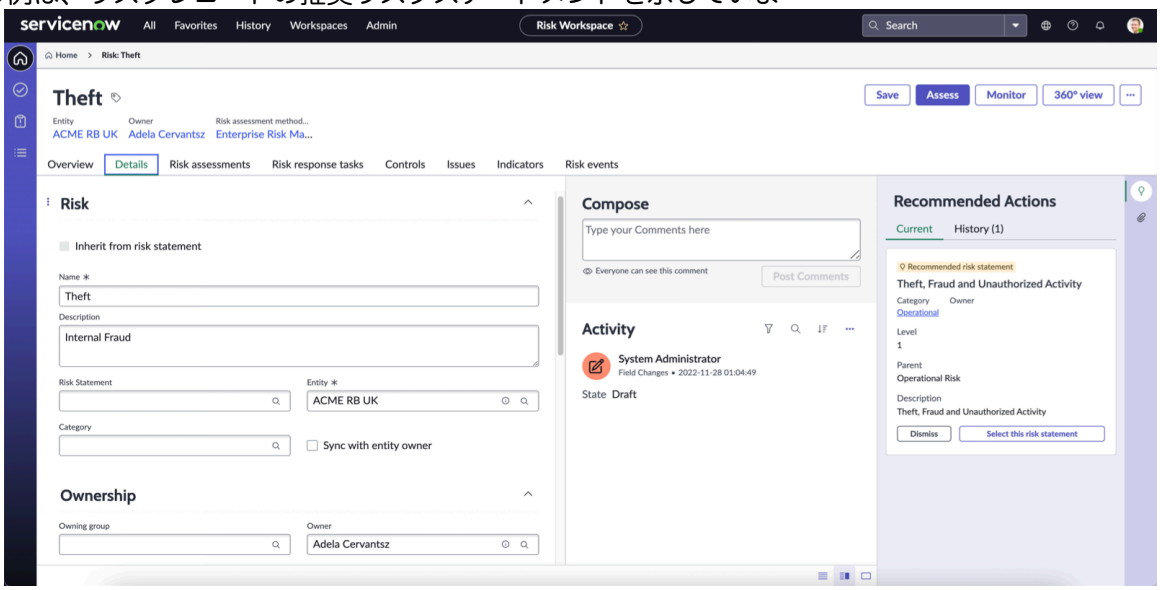
リスクチャンピオンはこれらのリスクを特定したら、リスクを正しいリスクステートメントに手動で関連付けます。これらのオペレーショナルリスクはエンタープライズリスクに集約されるため、組織の上級アドミニストレーターは組織のリスクプロファイルを可視化できます。

ただし、リスクチャンピオンは、完全なリスクライブラリを手動で検索して、識別されたリスクの正しいリスクステートメントを識別する必要があります。このアクティビティは時間がかかるため、リソースの非効率的な使用です。リスクチャンピオンがリスクステートメントを手動で検索する場合、ライブラリ全体を検索するのではなく、最も早い一致を選択する傾向があるため、リスクステートメントを含むリスクが正しく分類されません。

リスクレコードにあるリスクステートメントの予測

ガバナンス、リスク、コンプライアンス: 予測インテリジェンス プラグインは、人工知能 (AI) および機械学習 (ML) 機能を使用して、リスクレコードの関連リスクステートメントを予測します。予測インテリジェンス プラグインは、予測インテリジェンス エンジンの類似性機能を使用して、リスクの名前と説明をリスクステートメントと比較します。このプラグインを使用すると、組織では、識別されたリスクに関連付けるリスクステートメントを検索して識別するために必要な労力を減らすことができます。また、組織のリスクプロファイルの集計とレポートの精度および可視化が向上します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次の例は、リスクレコードの推奨リスクステートメントを示していま


す。

注:
リスクユーザー (sn_risk.user) は、リスクレコードでリスクステートメントが定義されていない場合に、リスクステートメントの推奨事項のみを表示できます。推奨事項に基づいて、リスクユーザーはリスクを関連するリスクステートメントに関連付けることができます。

リスクステートメントによるリスク分類のメリット

リスクステートメントを使用して組織のリスクを分類することで、さまざまなユーザーに以下のメリットがもたらされます。

- リスクオーナー：孤立リスクの正しいリスクステートメントを識別して、リスクを管理可能なカテゴリにグループ化します。
- リスクマネージャー：第一線の従業員またはリスクチャンピオンによって作成された孤立リスクの数を減らします。リスクマネージャーは、組織のリスクプロファイルの可視化を取得して、同様のタイプのリスクによる影響を分析できます。
- リスクアドミン：組織のニーズに基づいてリスクステートメントを予測するようにソリューション定義を設定します。

機能の設定

ml_admin ロールを持つリスクアドミニストレーターは、リスクワークスペース アプリケーションでリスクの分類を設定できます。組織でこの機能を使用する前に、リスクアドミニストレーターは以下のアプリケーションとプラグインをインストールしてアクティブ化する必要があります。

- リスク管理
- リスクワークスペース
- 予測インテリジェンス
- 推奨アクション - Advanced

リスクアドミニストレーターは、予測インテリジェンス プラグインを使用して、組織内のリスクのデフォルトの類似性ソリューションをトレーニングできます。

注:
類似性ソリューションは、既存のレコードを収集して新しい類似のレコードと比較する機械学習ソリューションです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細については、「類似性ソリューションの作成とトレーニング」を参照してください。

> **注:**
> 類似性アルゴリズムを機能させるには、少なくとも 1000 件のリスクレコードが必要です。

ml_admin ロールを持つリスクアドミニストレーターは、リスクのデフォルトの類似性ソリューション定義を確認し、組織のニーズに基づいて変更できます。

リスクワークスペースでリスクイベントを分析

ユーザーが送信したリスクイベントを分析します。リスクイベントに詳細を追加したり、送信者からの情報を要求したり、イベントが有効でない場合はリスクイベントを却下したりすることができます。

始める前に

必要なロール：sn_risk.manager

このタスクについて

リスクイベントが送信されると、基本的な情報が含まれいるか、またはほとんど情報が含まれていません。リスクマネージャーは、イベントが [分析] ステータスのときにリスクに詳細を追加する必要があります。これらの追加の詳細は次のとおりです。

- リスクイベントの承認者。
- イベントの根本原因。
- イベントの予防および修復アクション。
- イベントの損失を分割するためのイベントの追加エントリ。
- 信頼できるソースコンテンツ
- タスク
- 影響を受けるコントロール
- 問題

リスクイベントに関する詳細情報が必要な場合は、送信者に追加情報の提供を依頼することができます。イベントが注意に値しない、または無効であると思われる場合は、イベントを却下できます。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース > リスクイベント > すべてのイベント.
2. 分析するイベントを開き、[分析] をクリックします。
3. [詳細] 関連リストをクリックし、必要な情報を変更します。
   リスクイベントが発生したが、損失が迅速に回復した場合は、[完全な高速復旧] オプションが選択されます。リスクイベントが損失ではなく利益になった場合は、[財務利益] オプションが選択されます。リスクイベントがどのように利益をもたらすかについては、「リスクイベントを管理」を参照してください
4. [保存] をクリックします。
5. このステージでは、次のいずれかを実行できます。

6. リスクイベントに情報を追加するには、適切な関連リストをクリックして必要な詳細を追加します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
リスクイベントのサブタイプが [実績]の場合は、リスクイベントエントリを作成します。詳細については、「リスクワークスペースでリスクイベントエントリを作成」を参照してください。

リスクワークスペースでリスクイベントエントリを作成

リスクイベントエントリを作成して、リスクイベントの金銭的または金銭以外の影響を判断します。リスクイベントには複数のリスクイベントエントリを含めることができます。

始める前に
必要なロール：sn_risk.manager

このタスクについて
リスクイベントエントリは、リスクイベントのために報告された直接的および間接的な損失をキャプチャします。たとえば、組織で発生した火災のリスクイベントが報告された場合、それに関連する直接的および間接的な損失は、家具の交換、ハードウェアの交換、重要なデータの損失などになる可能性があります。これらすべての関連する損失は個別に取得する必要があります。実際のイベントに対してのみリスクイベントエントリを追加できます。潜在的なリスクイベントエントリにリスクイベントエントリを追加することはできません。損失をレポートするときに任意の通貨を選択すると、通貨換算システムによって通貨が USD に変換されます。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース > リスクイベント > すべてのイベント.
2. リスクイベントエントリを追加するイベントを開きます。
3. [リスクイベントエントリ] 関連リストをクリックします。
4. 直接的および間接的な損失、新しい損失復旧、新しい追加コスト、または新しい財務以外の影響を作成するには、必要に応じて次のアクションを実行します。
5. [保存] をクリックして、ページを更新します。
   ページで損失金額が更新されます。

ORX 外部イベントを作成

Operational Riskdata eXchange (ORX) 外部リスクイベントを作成して、会社のリスクイベントを他の組織と共有します。このリスクイベント情報の交換は、業界の他の組織の学習として機能し、同じエラーの発生を防ぐことができます。

始める前に
必要なロール：sn_risk_workspace.operational_risk_manager

このタスクについて
ORX 関連付けにより、運用および財務以外のリスクの専門家は、業界と一貫性のある効果的な方法でデータを収集、測定、および分析できます。ORX イベントを表示および作成するには、[*Show ORX External Events*] プロパティを有効にする必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース > 外部リスクイベント > **ORX** イベント.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい **ORX** 外部イベントフォーム

フィールド	説明
名前	リスクイベントの名前
説明	イベントの簡潔な説明。
会社の詳細	
会社	イベントが発生した会社。
地域	イベントが発生した地域。
会社のロール	トランザクションに関連して会社が保有していたロール。
事業部門レベル 2	イベントの事業部門。
国	イベントが発生した国。
カウンターパーティ	イベントに関与するカウンターパーティまたは請求者のタイプ。
ORX メンバー	会社が既存の ORX メンバーであるかどうかを示すオプション。
損失の詳細	
損失イベント ID	損失イベントの ID。
損失カテゴリ	損失のカテゴリ。
イベントタイプレベル 2	企業財務、マーチャントバンキングなど、レベル 2 のイベント。
プロセスコード	プロセスのコード。
製品コード	製品のコード。
オープン	リスクイベントがオープンかどうかを示すオプション。
ソース	イベントのソース。
分類	
境界リスク	別のリスクカテゴリの財務的損失など、結果をトリガーするオペレーショナルリスクイベント。
AMA ステータス	高度な測定アプローチ (AMA) は、銀行またはその他の金融機関が Basel II で使用できる 3 つの可能なオペレーショナルリスク手法の 1 つです。
財務金額	
総損失額	総損失額。
直接復旧	会社が受領した間接的な回収以外の、損失を埋め合わせた支払い。
間接復旧	保険により行われた復旧。
正味損失 (現地通貨)	現地通貨での正味損失。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
正味損失 (ユーロ)	発生した正味損失はユーロに変換されます。
キー日付	
検出日	イベントが検出された日付。
イベント開始日	イベントが開始された日付
決済日	イベントが解決された日付。
公開日	イベントが公開された日付。
イベント終了日	イベントが終了した日付。
原因	
原因レベル 3	イベントの 3 番目の原因レベル。
その他詳細	
管轄	イベントの管轄。
シナリオカテゴリ	行為、外部の詐欺、テクノロジーなどのシナリオのカテゴリ。
環境変動	イベント時に銀行が稼働していた環境または状況の側面。
アクティビティ	
作業メモ	このイベントのレスポンダー、マネージャー、またはアドミニストレーターに表示されるメモ。
追加コメント	このイベントに関する追加コメント。

自動翻訳

リスクポータルからリスクイベントを報告

リスクポータルからリスクイベントを報告します。リスクポータルは、リスクイベントを迅速に報告するための方法を提供します。

始める前に

必要なロール：sn_grc.business_user role

手順

1. 移動先 リスクポータル.
2. [レポート] で、[リスクイベント] をクリックします。
   [リスクイベントを報告] フォームが表示されます。
3. フォームのフィールドに入力します。
4. [レビューのため送信] をクリックします。

タスクの結果

リスクイベントが作成され、リスクチームのレビューのために送信されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクデータのチャートの色

リスクデータをさまざまな色で可視化して、リスクの概要をすばやく確認できます。

さまざまなリスクレポートがリスクホームページに表示されます。これらのレポートの例としては、円グラフや棒グラフなどがあります。これらのレポートでは、リスク評価がさまざまな色で表示されます。デフォルトでは、ServiceNow は高度なリスクアセスメントに以下のリスク評価に対するチャートの色を提供します。

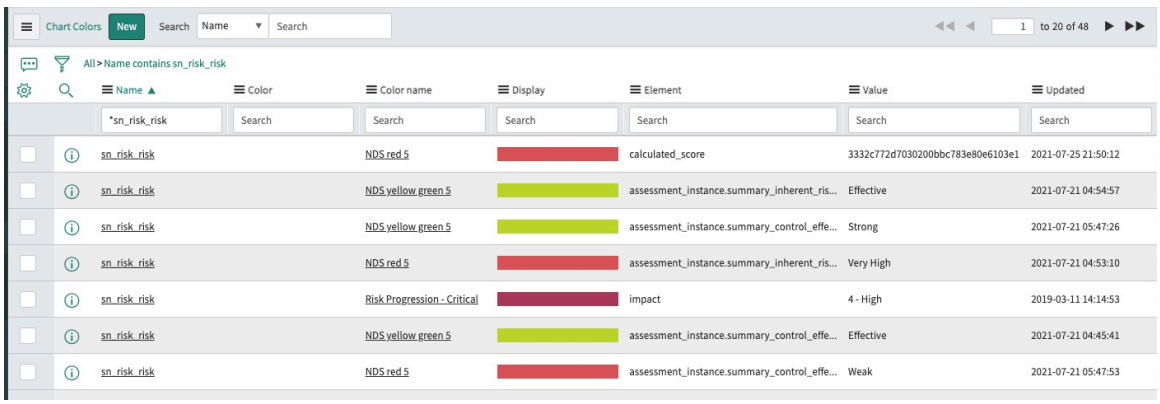
- 超高
- 重大
- 無効
- 高
- 中
- 中
- 改善が必要
- 低
- 有効
- 非常に低い

クラシック版リスクの場合、次のリスク基準がそれぞれの色で定義されます。

- 非常に低い
- 低
- 中
- 高
- 超高

リスク基準またはリスク評価を追加または変更する場合は、report_admin ロールを持つレポートアドミニストレーターがチャートの色を構成できます。チャートの色の設定の詳細については、「チャートの色を使用する」を参照してください。

チャートの色



リスクワークスペースでビジネスプロセスを作成

リスクワークスペースでビジネスプロセスを作成し、オーナー、承認者、事業上の重要度、およびプロセスのレビュー頻度を定義します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：エンタープライズアーキテクトまたはサービスオーナーまたは itil

このタスクについて
ビジネスプロセスを作成するときは、CIA のトライアドを確認することが重要です。CIA のトライアドは、機密性、完全性、可用性を指します。CIA トライアドは、セキュリティシステムとポリシーの開発の基礎を形成する一般的なモデルです。これらは、脆弱性と問題に対処する方法を特定し、ソリューションを作成するために使用されます。

手順

1. 移動先 すべて > リスクワークスペース > リスト > ビジネスプロセス.
2. [新規作成] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

ビジネスプロセスフォーム

フィールド	説明
名前	ビジネスプロセスの名前。
説明	ビジネスプロセスの説明。
親	存在する場合、ビジネスプロセスの階層を作成する親プロセス。
レビュー頻度	ビジネスプロセスをレビューする頻度。
所有権	
ライフサイクルステージ	ビジネスライフサイクルにおけるレコードのステージ。ステージによってステータスが決定され、アクションが表示されます。[ドラフト] ステータスのプロセスのフォームを保存すると、このフィールドは自動的に [観念化] に設定されます。
管理担当者グループ	このビジネスプロセスを維持するグループ。
承認グループ	ビジネスプロセスをレビューおよび承認する必要があるグループ。
所有者	ビジネスプロセスを担当するユーザー。このユーザーは、[管理担当者] グループのメンバーです。
ライフサイクルステージステータス	ライフサイクルステージ内のビジネスプロセスのステータス。[ドラフト] ステータスのプロセスのフォームを保存すると、このフィールドは自動的に [評価中] に設定されます。
次のレビュー日時	ビジネスプロセスを確認する必要がある予定日。このフィールドの値は、ビジネスプロセスが承認された後にのみ自動的に設定されます。
説明	ビジネスプロセスの簡単な説明。説明には、背景、実際のステップ、ビジネスプロセスのインタラクションを含めることができます。
ビジネスインパクト	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
宣言された事業上の重要度	主観的アセスメントに基づくビジネスプロセスの重要性。以下から選択可能です。 ○ **1-** 最重要 ○ **2-** ある程度重要 ○ **3-** やや重要 ○ **4-** 重要ではない
決定された事業上の重要度	サブプロセスのアセスメントに基づいた、このビジネスプロセスの計算された重要度。以下から選択可能です。 ○ **1-** 最重要 ○ **2-** ある程度重要 ○ **3-** やや重要 ○ **4-** 重要ではない
CIA トライアド	
機密性への影響度	プロセスの機密性損失のリスクに対するリスク評価。以下から選択可能です。 ○ 高 ○ 中 ○ 低
完全性への影響度	プロセスの完全性への影響度のリスクに対するリスク評価。以下から選択可能です。 ○ 高 ○ 中 ○ 低
可用性への影響度	プロセスの可用性損失のリスクに対するリスク評価。以下から選択可能です。 ○ 高 ○ 中 ○ 低

4. フォームを右クリックして保存します。
   レコードが [ドラフト] ステータスに移行します。

関連情報

関連資産をビジネスプロセスに追加

関連資産をビジネスプロセスに追加

関連するビジネス資産をビジネスプロセスに追加して、IT 資産とそのパフォーマンスを可視化します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：エンタープライズアーキテクトまたはサービスオーナーまたは itil

このタスクについて
ビジネスプロセスは、ビジネスアプリケーション、ネットワークサーバー、アプリケーションサーバー、およびそれらのサービスなどのさまざまな資産によってサポートされています。プロセスオーナーがその関係を確立し、これらの IT 資産とそのパフォーマンスの可視化が得られることが重要です。たとえば、従業員の休暇管理がビジネスプロセスであるとします。このビジネスプロセスは、アプリケーションに依存して自動化されます。また、アプリケーションは、サーバーに依存して実行されます。したがって、資産をプロセスに関連付けると、プロセスの全体的なパフォーマンスを追跡できます。

手順

1. 移動先 すべて > リスクワークスペース > リスト > ビジネスプロセス.
2. 資産を追加するビジネスプロセスを開き、[関連資産] 関連リストをクリックします。
3. [追加] をクリックします。
   [関連資産] ポップアップが表示されます。
4. ビジネスプロセスに追加する関連資産を選択します。
5. [追加] をクリックします。
6. [保存] をクリックします。

リスクワークスペース でテスト計画を作成する

コントロールテスト手順を文書化するテスト計画を作成します。テスト計画は、最初から作成することも、テストテンプレートを基に作成して、機能をどのようにテストするかを示すこともできます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース > コントロールテスト > コントロールテスト計画.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

新しいテスト計画の作成フォーム

フィールド	説明
番号	一意の識別番号。
名前	テスト計画の名前。
コントロール	このテスト計画がカバーするコントロール。
エンティティ	エンティティは、[コントロール] フィールドで選択された値に基づいて自動入力されます。
テストテンプレート	関連テストテンプレート。 テストテンプレートを選択すると、[設計テスト] セクションと [運用テスト] セクションのす

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	べてのフィールドにテストテンプレートの値が入力されます。
期間	テストの予定期間。
設計テスト	
想定設計	コントロールが効果的であるために適合する必要がある基本要件。
設計評価手順	コントロールの設計が、コントロール目標を達成するために効果的かどうかを判断するために従う必要がある手順またはステップ。これは、想定設計に基づいています。
運用テスト	
想定運用	コントロール目標を達成するためにコントロールが効果的に動作していることを確認するために適合する必要がある想定。
運用評価手順	コントロールが正常に動作していると判断するために実行する必要がある、想定運用を遂行するための詳細なステップ。

4. [保存] をクリックします。
5. ビジネスに影響する異なるタイプの重大な監査データ間の関係を視覚的に調べるには、**[360** 度ビュー] ボタンをクリックします。

リスクヒートマップワークベンチでデータをフィルター

リスクユーザーは、リスクヒートマップワークベンチでデータをフィルターして、リスクを詳細に表示します。

始める前に

必要なロール：
sn_risk_workspace.operational_risk_manager、sn_risk_workspace.business_op_risk_manager

このタスクについて

リスクヒートマップワークベンチでは、条件ビルダー機能を使用して、注意が必要なリスクをさらにフィルターできます。たとえば、高評価のリスクをフィルターできます。頻繁に使用する重要なフィルターがある場合は、そのフィルターを保存することもできます。

手順

1. 移動先 すべて > リスク管理 > リスクワークスペース.
2. ホームページで、ワークベンチ起動アイコン ( )を選択します。
3. フィルター ( ) アイコンを選択します。
4. [詳細ビュー] ダイアログボックスで、フィールド、演算子、および値を入力します。
5. [送信] を選択します。
   ヒートマップは、フィルタリングされた結果で更新されます。
6. 作成して適用したフィルター条件を表示するには、[フィルターの概要]を選択します。
7. フィルター条件の結果をクリアするには、[結果をクリア] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

8. フィルターを保存するには、コンテキストサイドパネルで [フィルターの保存] ボタン ( )を選択します。
   a. [タイトル] フィールドに、フィルターのタイトルを入力します。
   b. [保存] を選択します。
   保存されたフィルターが [自分の保存したフィルター] 関連リストに表示されます。
9. 作成したフィルター条件を削除するには、[フィルター] ダイアログボックスを開き、[条件を削除] ボタン ( )を選択して [送信] をクリックします。

エンティティのリスク選好度を定義

リスク管理 アプリケーションのエンティティレコードのリスク選好度を定義して、考えられるすべてのリスクを評価し、ビジネスに許容可能なリスクと許容できないリスクの境界を設定します。

始める前に

必要なロール：sn_risk.user

このタスクについて

エンティティオーナーは、リスク選好度と許容度を定義し、定性的なリスク選好度をダウンストリームエンティティにコピーできます。このタスクを実行することで、違反が発生した場合にアクションプランを定義して管理できます。定性的 (数値スケールと評価) と定量的 (金銭的価値) の選好度を定義することで、リスクユーザーはリスク選好度を理解して意思決定を行うことができます。リスク選好度と許容範囲の詳細については、「高度なリスク のリスク選好度と許容度」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース.
2. リストアイコン を選択してエンティティに移動します。
3. 新しいエンティティまたは既存のエンティティのリスク選好度を次のように定義します。
   - 新しいエンティティのリスク選好度を定義するには、[新規] を選択します。
   - 既存のエンティティのリスク選好度を定義するには、必要なエンティティレコードを選択して開きます。
4. エンティティフォームで、[リスク選好度] セクションを選択し、フィールドに入力します。

   フィールド値の説明については、「エンティティフォームの [リスク選好] フィールド」を参照して ください。

5. [保存] を選択します。
6. オプション: 定性的選好度をダウンストリームエンティティにコピーするには、フォームでその他のアクションアイコン を選択し、[定性的選好度をコピー **(Copy qualitative appetite)]** を選択します。

> **重要:**
> ダウンストリームエンティティのリスク選好度が上書きされていない場合にのみ、定性的選好度と許容度をダウンストリームエンティティにコピーできます。階層内の各レベルの定量的選好度と許容度を定義する必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンティティフォームの [リスク選好] フィールド

エンティティフォームの [リスク選好度] フィールドについて説明します。これらのフィールドを使用してリスク選好度を定義し、考えられるすべてのリスクを評価して、リスク管理 アプリケーションで許容可能なリスクと許容できないリスクの境界を設定します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

注:
エンティティフォームに表示されるリスク選好度フィールドは、リスクアドミニストレーターによって設定された高度なリスクアセスメントプロパティに応じて異なります。

エンティティフォームの [リスク選好] フィールド

フィールド	説明
定性的リスク選好度を上書き	親エンティティの定性的リスク選好度を上書きするオプション。デフォルトでは、すべてのエンティティがエンティティフォームでのアップストリームエンティティのリスク選好度を継承します。このオプションを選択すると、現在のエンティティのリスク選好度値を個別に定義できます。 **注:** このフィールドは、現在のエンティティで利用可能なアップストリームエンティティがある場合にのみ表示されます。
定性的選好度	数値スケールおよび評価用語でのリスク選好度。定性的選好度は、定性的リスクと比較され、定性的選好度ステータスが計算されます。定性的選好度は、リスクアドミニストレーターによって設定された選好度スケールに基づいて定義できます。デフォルトのオプションは次のとおりです。 • 1 - 反対 • 2 - ミニマリスト • 3 - 慎重 • 4 - オープン • 5 - 意欲的 リスクアドミニストレーターは、組織の要件に基づいてリスク選好度スケールを変更または作成できます。詳細については、「リスク選好度スケールの設定」を参照してください。 定性的要求を定義したら、それをダウンストリームエンティティにコピーできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンティティフォームの [リスク選好] フィールド (続く)

フィールド	説明
	注: sn_risk_advanced.qualitative_risk_appetite_reader ロールを持つリスクユーザーとリスクリーダーは、フォームおよびその他の場所で定性的選好度と定性的許容度値のみを表示できます。
定量的選好度	定量的条件におけるリスク選好度。定量的リスク選好度は、金額の値を使用して測定および表すことができます。定量的選好度は、組織がリスクを負うことを許容する損失額です。たとえば、組織が今年のターゲット不履行資産 (NPA) を 10,000 ドル (USD) にすると決定した場合、これは、その組織が定量的リスク選好度として 10,000 ドル (USD) を定義することを意味します。 定量的選好度は、年間損失予測 (ALE) と比較され、定量的選好度ステータスが計算されます。 注: sn_risk_advanced.quantitative_risk_appetite_reader ロールを持つリスクユーザーとリスクリーダーは、フォームおよびその他の場所で定量的選好度と定量的許容度値のみを表示できます。
定性的許容度	数値スケールおよび評価用語でのリスク許容度。リスク許容度は、定義されたリスク選好度からの標準偏差です。定性的許容度は、定性的リスクと比較され、定性的選好度ステータスが計算されます。定性的許容度は、定義された定性的選好度よりも大きくなければなりません。定性的許容度は、リスクアドミニストレーターによって設定された選好度スケールに基づいて定義できます。デフォルトのオプションは次のとおりです。 • 1 - 反対 • 2 - ミニマリスト • 3 - 慎重 • 4 - オープン • 5 - 意欲的 リスクアドミニストレーターは、組織の要件に基づいてリスク選好度スケールを変更または作成できます。詳細については、「リスク選好度スケールの設定」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンティティフォームの [リスク選好] フィールド (続く)

フィールド	説明
定量的許容度	定量的条件におけるリスク許容度。リスク許容度は、定義されたリスク選好度からの標準偏差です。定量的リスク許容度は、金額の値を使用して測定および表すことができます。たとえば、組織が今年のターゲット不履行資産 (NPA) を 15,000 ドル (USD) にすると決定した場合、これは、その組織が定量的リスク許容度として 15,000 ドルを定義することを意味します。 定量的許容度は、年間損失予測 (ALE) と比較され、定量的選好度ステータスが計算されます。 **注:** 定量的許容度は、定義された定量的選好度よりも大きくなければなりません。
リスク選好度ステータス	
定性的選好度ステータス	エンティティの定性的選好度ステータス。定性的選好度ステータスは、定義された定性的選好度を最終的リスク評価にマッピングされている定性的選好度と比較して計算されます。リスクアドミニストレーターは、リスク選好度スケールをリスクアセスメント方法論 (RAM) の最終アセスメントタイプのリスク評価基準にマッピングできます。 **注:** エンティティクラスに関連付けられているプライマリ RAM がステータス計算で考慮されます。 たとえば、定性的選好度を [2 - ミニマリスト] として定義し、[定性的許容度] を [4 - オープン] として定義すると、次のステータスが表示されます。 • 定性的リスク評価が [1- 反対] または [2- ミニマリスト] の場合、選好度ステータスは選好度内です。 • 定性的リスク評価が [3-慎重] または [4-オープン] の場合は、選好度ステータスは選好度外です。 • 定性的リスク評価が [5-意欲的] の場合は、選好度ステータスは許容度外です。
定量的選好度ステータス	エンティティの定量的選好度ステータス。年間損失予測 (ALE) 値は、定義された定量的選好度と比較され、この選好度ステータスが計算されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンティティフォームの [リスク選好] フィールド (続く)

フィールド	説明
	注: エンティティクラスに関連付けられているプライマリ RAM から集計された ALE 値がステータス計算で考慮されます。 たとえば、定量的リスク選好度を 1,000 ドル (USD) として定義し、定量的許容度を 1500 ドルとして定義すると、次のステータスが表示されます。 • ALE が 1000 ドル以下の場合、選好度ステータスは選好度内です。 • ALE の範囲が 1001 ドルから 1500 ドルの場合、選好度ステータスは選好度外です。 • 1500 ドルを超える ALE の場合、選好度ステータスは許容範囲外です。
選好度ステータス	全体的選好度ステータス。全体的な選好度ステータスでは、定性的ステータスと定量的ステータスの間の最悪のシナリオが考慮されます。たとえば、定性的選好度ステータスが選好度内であり、定量的選好度ステータスが選好度外である場合、全体的な選好度ステータスは選好度外です。

リスクのリスク選好度を定義

リスク管理 アプリケーションのリスクレコードのリスク選好度を定義して、考えられるすべてのリスクを評価し、許容可能なリスクと許容できないリスクの境界を設定します。

始める前に

必要なロール：sn_risk.user

このタスクについて

リスクは、関連付けられたリスクステートメントから選好度値を継承します。リスクオーナーは、親の値を上書きするビジネス要件がある場合、リスクフォームでリスク選好度と許容度を定義することもできます。リスク選好度と許容範囲の詳細については、「高度なリスク のリスク選好度と許容度」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース.
2. リストアイコンを選択してリスクに移動します。
3. 新しいリスクまたは既存のリスクのリスク選好度を次のように定義します。
   - 新しいリスクのリスク選好度を定義するには、[新規] を選択します。
   - 既存のリスクのリスク選好度を定義するには、必要なリスクレコードを選択して開きます。
4. リスクフォームで、[リスク選好度] セクションを選択し、フィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド値の説明については、「リスクフォームのリスク選好フィールド」を参照して ください。

5. [保存] を選択します。

リスクフォームのリスク選好フィールド

リスクフォームのリスク選好度フィールドについて説明します。これらのフィールドを使用してリスク選好度を定義し、考えられるすべてのリスクを評価して、リスク管理 アプリケーションで許容可能なリスクと許容できないリスクの境界を設定します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

注:
エンティティフォームに表示されるリスク選好度フィールドは、リスクアドミニストレーターによって設定された高度なリスクアセスメントプロパティに応じて異なります。

リスクフォームのリスク選好フィールド

フィールド	説明
定性的リスク選好度を上書き	リスクステートメントの定性的リスク選好度を上書きするオプション。デフォルトでは、すべてのリスクがリスクフォームのリスクステートメントのリスク選好度を継承します。このオプションを選択すると、現在のリスクのリスク選好度値を個別に定義できます。 **注:** このフィールドは、現在のリスクで利用可能なリスクステートメントがある場合にのみ表示されます。
上書きの理由 (Justification for override)	現在のリスクにおけるリスクステートメントの定性的リスク選好度を上書きする理由。この情報は、リスクマネージャーが上書きのビジネスニーズを理解するのに役立ちます。 **注:** このフィールドは、[定性的リスク選好度を上書き **(Override qualitative risk appetite)]** オプションを選択したときのみ表示されます。
定性的選好度	数値スケールおよび評価用語でのリスク選好度。定性的選好度は、定性的リスクと比較され、定性的選好度ステータスが計算されます。定性的選好度は、リスクアドミニストレーターによって設定された選好度スケールに基づいて定義できます。デフォルトのオプションは次のとおりです。 • 1 - 反対 • 2 - ミニマリスト • 3 - 慎重

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクフォームのリスク選好フィールド (続く)

フィールド	説明
	• 4 - オープン • 5 - 意欲的 リスクアドミニストレーターは、組織の要件に基づいてリスク選好度スケールを変更または作成できます。詳細については、「リスク選好度スケールの設定」を参照してください。 注: sn_risk_advanced.qualitative_risk_appetite_reader ロールを持つリスクユーザーとリスクリーダーは、フォームおよびその他の場所で定性的選好度と定性的許容度値のみを表示できます。
定量的選好度	定量的条件におけるリスク選好度。定量的リスク選好度は、金額の値を使用して測定および表すことができます。定量的選好度は、組織がリスクを負うことを許容する損失額です。たとえば、組織が今年のターゲット不履行資産 (NPA) を 10,000 ドル (USD) にすると決定した場合、これは、その組織が定量的リスク選好度として 10,000 ドル (USD) を定義することを意味します。 定量的選好度は、年間損失予測 (ALE) と比較され、定量的選好度ステータスが計算されます。 注: sn_risk_advanced.quantitative_risk_appetite_reader ロールを持つリスクユーザーとリスクリーダーは、フォームおよびその他の場所で定量的選好度と定量的許容度値のみを表示できます。
定性的許容度	数値スケールおよび評価用語でのリスク許容度。リスク許容度は、定義されたリスク選好度からの標準偏差です。定性的許容度は、定性的リスクと比較され、定性的選好度ステータスが計算されます。定性的許容度は、定義された定性的選好度よりも大きくなければなりません。定性的許容度は、リスクアドミニストレーターによって設定された選好度スケールに基づいて定義できます。デフォルトのオプションは次のとおりです。 • 1 - 反対 • 2 - ミニマリスト • 3 - 慎重

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクフォームのリスク選好フィールド (続く)

フィールド	説明
	• 4 - オープン • 5 - 意欲的 リスクアドミニストレーターは、組織の要件に基づいてリスク選好度スケールを変更または作成できます。詳細については、「リスク選好度スケールの設定」を参照してください。
定量的許容度	定量的条件におけるリスク許容度。リスク許容度は、定義されたリスク選好度からの標準偏差です。定量的リスク許容度は、金額の値を使用して測定および表すことができます。たとえば、組織が今年のターゲット不履行資産 (NPA) を 15,000 ドル (USD) にすると決定した場合、これは、その組織が定量的リスク許容度として 15,000 ドル (USD) を定義することを意味します。 定量的許容度は、年間損失予測 (ALE) と比較され、定量的選好度ステータスが計算されます。 **注:** 定量的許容度は、定義された定量的選好度よりも大きくなければなりません。
リスク選好度ステートメント	組織が目標を達成するために積極的に許容するリスクの量とタイプを定義するリスク選好度ステートメント。組織が脅威と見なすものとその対応戦略を文書化します。これらのステートメントは、リスク選好度を理解するための追加のコンテキストを提供し、ビジネスがリスクに基づいた意思決定を行うのに役立ちます。たとえば、「ACME Inc. には、システムや機密データへの不正アクセスに対する選好度がないため、自社の技術インフラストラクチャに対する外部の脅威を軽減するために強力なコントロールを維持します。ACME Inc. は、信頼性の低い電気通信やシステムの可用性が原因でビジネスオペレーションの継続性が失われることに対する低い選好度を備えています。ビジネスの弾力性の計画と実行は、戦略的目標に沿っている必要があります。ACME Inc. は、急速に変化する環境でユーザーのニーズを満たす革新的なテクノロジーソリューションに対する中程度の選好度を備えています。機関は新しい技術を検討し採用する際に、適切なガバナンスと規律を行使します。」
リスク選好度ステータス	
定性的選好度ステータス	リスクの定性的選好度ステータス。定性的選好度ステータスは、定義された定性的選好度を最

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクフォームのリスク選好フィールド (続く)

フィールド	説明
	終的リスク評価にマッピングされている定性的選好度と比較して計算されます。リスクアドミニストレーターは、リスク選好度スケールをリスクアセスメント方法論 (RAM) の最終アセスメントタイプのリスク評価基準にマッピングできます。 **注:** 関連付けられているエンティティで定義されたプライマリ RAM は、ステータス計算で考慮されます。 たとえば、定性的選好度を [2 - ミニマリスト] として定義し、[定性的許容度] を [4 - オープン] として定義すると、次のステータスが表示されます。 • 定性的リスク評価が [1- 反対] または [2- ミニマリスト] の場合、選好度ステータスは選好度内です。 • 定性的リスク評価が [3-慎重] または [4-オープン] の場合は、選好度ステータスは選好度外です。 • 定性的リスク評価が [5-意欲的] の場合は、選好度ステータスは許容度外です。
定量的選好度ステータス	リスクの定量的選好度ステータス。年間損失予測 (ALE) 値は、定義された定量的選好度と比較され、この選好度ステータスが計算されます。 **注:** 関連付けられているエンティティで定義されたプライマリ RAM からのリスクアセスメント ALE 値は、ステータス計算で考慮されます。 たとえば、定量的リスク選好度を 1,000 ドル (USD) として定義し、定量的許容度を 1500 ドル (USD) として定義すると、次のステータスが表示されます。 • ALE が 1000 ドル (USD) 以下の場合、選好度ステータスは選好度内です。 • ALE の範囲が 1001 ドルから 1500 ドル (USD) の場合、選好度ステータスは選好度外です。 • 1500 ドル (USD) を超える ALE の場合、選好度ステータスは許容範囲外です。
選好度ステータス	全体的選好度ステータス。全体的な選好度ステータスでは、定性的ステータスと定量的ステータスの間の最悪のシナリオが考慮されます。たとえば、定性的選好度ステータスが選好

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクフォームのリスク選好フィールド (続く)

フィールド	説明
	度内であり、定量的選好度ステータスが選好度外である場合、全体的な選好度ステータスは選好度外です。

リスクステートメントのリスク選好度を定義

リスク管理 アプリケーションのリスクステートメントレコードのリスク選好度を定義して、考えられるすべてのリスクを評価し、許容可能なリスクと許容できないリスクの境界を設定します。

始める前に

必要なロール：sn_risk.manager

このタスクについて

リスクマネージャーは、リスクステートメントのリスク選好度と許容度を定義し、定性的なリスク選好度をダウンストリームのリスクステートメントとリスクにコピーできます。これは、企業が組織の機能内でリスクを負い、違反が発生したときにアクションプランを定義および管理するのに役立ちます。定性的 (数値スケールと評価) と定量的 (金銭的価値) の選好度を定義することで、リスクユーザーはリスク選好度を理解して意思決定を行うことができます。リスク選好度と許容範囲の詳細については、「高度なリスク のリスク選好度と許容度」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース.
2. リストアイコン を選択してリスクステートメントに移動します。
3. 新しいリスクステートメントまたは既存のリスクステートメントのリスク選好度を次のように定義します。
   - 新しいリスクステートメントのリスク選好度を定義するには、[新規] を選択します。
   - 既存のリスクステートメントのリスク選好度を定義するには、必要なリスクステートメントレコードを選択して開きます。
4. フォームで、[リスク選好度] セクションを選択し、フィールドに入力します。

   フィールド値の説明については、「リスクステートメントフォームのリスク選好フィールド」を参照して ください。
5. [保存] を選択します。
6. オプション: 定性的選好度をダウンストリームのリスクステートメントとリスクにコピーするには、フォームでその他のアクションアイコン を選択し、[定性的選考度をコピー **(Copy qualitative appetite)]** を選択します。

> **重要:**
> リスク選好度が上書きされていない場合にのみ、定性的選好度と許容度をダウンストリームのリスクとリスクステートメントにコピーできます。階層内の各レベルの定量的選好度と許容度を定義する必要があります。

リスクステートメントフォームのリスク選好フィールド

リスクステートメントフォームのリスク選好度フィールドについて説明します。これらのフィールドを使用してリスク選好度を定義し、考えられるすべてのリスクを評価して、リスク管理 アプリケーションで許容可能なリスクと許容できないリスクの境界を設定します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

> **注:**
> エンティティフォームに表示されるリスク選好度フィールドは、リスクアドミニストレーターによって設定された高度なリスクアセスメントプロパティに応じて異なります。

リスクステートメントフォームのリスク選好フィールド

フィールド	説明
定性的リスク選好度を上書き	親リスクステートメントの定性的リスク選好度を上書きするオプション。デフォルトでは、すべてのリスクステートメントが親リスクステートメントのリスク選好度を継承します。このオプションを選択すると、現在のリスクステートメントのリスク選好度値を個別に定義できます。 **注:** このフィールドは、現在のリスクステートメントで利用可能な親リスクステートメントがある場合にのみ表示されます。
定性的選好度	数値スケールおよび評価用語でのリスク選好度。定性的選好度は、定性的リスクと比較され、定性的選好度ステータスが計算されます。定性的選好度は、リスクアドミニストレーターによって設定された選好度スケールに基づいて定義できます。デフォルトのオプションは次のとおりです。 • 1 - 反対 • 2 - ミニマリスト • 3 - 慎重 • 4 - オープン • 5 - 意欲的 リスクアドミニストレーターは、組織の要件に基づいてリスク選好度スケールを変更または作成できます。詳細については、「リスク選好度スケールの設定」を参照してください。 定性的選好度を定義したら、それをダウンストリームのリスクとリスクステートメントにコピーできます。 **注:** sn_risk_advanced.qualitative_risk_appetite_reader ロールを持つリスクマネージャーは、フォームおよびその他の場所で定性的選好度と定性的許容度値のみを表示できます。
定量的選好度	定量的条件におけるリスク選好度。定量的リスク選好度は、金額の値を使用して測定および表

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクステートメントフォームのリスク選好フィールド (続く)

フィールド	説明
	すことができます。定量的選好度は、組織がリスクを負うことを許容する損失額です。たとえば、組織が今年のターゲット不履行資産 (NPA) を 10,000 ドル (USD) にすると決定した場合、これは、その組織が定量的リスク選好度として 10,000 ドル (USD) を定義することを意味します。 定量的選好度は、年間損失予測 (ALE) と比較され、定量的選好度ステータスが計算されます。 **注:** sn_risk_advanced.quantitative_risk_appetite_reader ロールを持つリスクマネージャーは、フォームおよびその他の場所で定量的選好度と定量的許容度値のみを表示できます。
定性的許容度	数値スケールおよび評価用語でのリスク許容度。リスク許容度は、定義されたリスク選好度からの標準偏差です。定性的許容度は、定性的リスクと比較され、定性的選好度ステータスが計算されます。定性的許容度は、定義された定性的選好度よりも大きくなければなりません。定性的許容度は、リスクアドミニストレーターによって設定された選好度スケールに基づいて定義できます。デフォルトのオプションは次のとおりです。 • 1 - 反対 • 2 - ミニマリスト • 3 - 慎重 • 4 - オープン • 5 - 意欲的 リスクアドミニストレーターは、組織の要件に基づいてリスク選好度スケールを変更または作成できます。詳細については、「リスク選好度スケールの設定」を参照してください。
定量的許容度	定量的条件におけるリスク許容度。リスク許容度は、定義されたリスク選好度からの標準偏差です。定量的リスク許容度は、金額の値を使用して測定および表すことができます。たとえば、組織が今年のターゲット不良資産 (NPA) を 15,000 ドル (USD) にすると決定します。これは、組織が 15000 ドル (USD) を定量的リスク許容度として定義することを意味します。 定量的許容度は、年間損失予測 (ALE) と比較され、定量的選好度ステータスが計算されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクステートメントフォームのリスク選好フィールド (続く)

フィールド	説明
	注: 定量的許容度は、定義された定量的選好度よりも大きくなければなりません。
リスク選好度ステートメント	組織が目標を達成するために積極的に許容するリスクの量とタイプを定義するリスク選好度ステートメント。組織が脅威と見なすものとその対応戦略を文書化します。これらのステートメントは、リスク選好度を理解するための追加のコンテキストを提供し、ビジネスがリスクに基づいた意思決定を行うのに役立ちます。たとえば、「ACME Inc. には、システムや機密データへの不正アクセスに対する選好度がないため、自社の技術インフラストラクチャに対する外部の脅威を軽減するために強力なコントロールを維持します。ACME Inc. は、信頼性の低い電気通信やシステムの可用性が原因でビジネスオペレーションの継続性が失われることに対する低い選好度を備えています。ビジネスの弾力性の計画と実行は、戦略的目標に沿っている必要があります。ACME Inc. は、急速に変化する環境でユーザーのニーズを満たす革新的なテクノロジーソリューションに対する中程度の選好度を備えています。機関は新しい技術を検討し採用する際に、適切なガバナンスと規律を行使します。」
次のレビュー日時	リスク選好度フィールドを更新し、リスク選好度ステートメントを確認する日付。次のレビュー日の前にリスクステートメント所有者にメール通知を送信されます。リスクアドミニストレーターは、高度なリスクアセスメントプロパティでメール通知をスケジュール設定できます。詳細については、「高度なリスク のリスク選好度と許容度を構成」を参照してください。
リスク選好度ステータス	
ステータス計算の方法論	集計結果がリスクステートメントのリスク選好度ステータスを計算するために使用されるリスクアセスメント方法論 (RAM)。
定性的選好度ステータス	リスクステートメントの定性的選好度ステータス。定性的選好度ステータスは、定義された定性的選好度を最終的リスク評価にマッピングされている定性的選好度と比較して計算されます。リスクアドミニストレーターは、リスク選好度スケールを RAM の最終アセスメントタイプのリスク評価基準にマッピングできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクステートメントフォームのリスク選好フィールド (続く)

フィールド	説明
	注: [ステータス計算の方法論 **(Methodology for status calculation)**] フィールドで選択した RAM がステータス計算で考慮されます。 たとえば、定性的選好度を [2 - ミニマリスト] として定義し、[定性的許容度] を [4 - オープン] として定義すると、次のステータスが表示されます。 • 定性的リスク評価が [1- 反対] または [2- ミニマリスト] の場合、選好度ステータスは選好度内です。 • 定性的リスク評価が [3-慎重] または [4-オープン] の場合は、選好度ステータスは選好度外です。 • 定性的リスク評価が [5-意欲的] の場合は、選好度ステータスは許容度外です。
定量的選好度ステータス	リスクステートメントの定量的選好度ステータス。年間損失予測 (ALE) 値は、定義された定量的選好度と比較され、この選好度ステータスが計算されます。 **注:** [ステータス計算の方法論 **(Methodology for status calculation)**] フィールドで選択した RAM から集計された ALE 値がステータス計算で考慮されます。 たとえば、定量的リスク選好度を 1,000 ドル (USD) として定義し、定量的許容度を 1500 ドル (USD) として定義すると、次のステータスが表示されます。 • ALE が 1000 ドル以下の場合、選好度ステータスは選好度内です。 • ALE の範囲が 1001 ドルから 1500 ドルの場合、選好度ステータスは選好度外です。 • 1500 ドルを超える ALE の場合、選好度ステータスは許容範囲外です。
選好度ステータス	全体的選好度ステータス。全体的な選好度ステータスでは、定性的ステータスと定量的ステータスの間の最悪のシナリオが考慮されます。たとえば、定性的選好度ステータスが選好度内であり、定量的選好度ステータスが選好度外である場合、全体的な選好度ステータスは選好度外です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

並行レビューとフィードバック 入力 高度なリスク

レビューとフィードバックのワークフローを使用して、2 番目と 3 番目のラインにいるマネージャーがレコードをレビューし、フィードバックをキャプチャし、フィードバックのクローズを追跡できるようにする方法について説明します。

並行レビューとフィードバックの概要

高度なリスク アプリケーションの 並行レビューとフィードバック は、組織内のさまざまな管理部門間でのコラボレーションとエンゲージメントに役立ちます。運用、IT、ビジネスのリスクマネージャーなどの 2 番目や 3 番目のラインにいるマネージャーは、ワークフローを使用することでレコードまたはレコード内のフィールドに関するフィードバックを提供できるようになります。たとえば、リスクマネージャーは、リスクイベントのフィールドレベルで根本原因分析を要求することでフィードバックを提供できます。または、リスクイベントオーナーに、同じリスクイベントのレコードレベルで追加の損失エントリの詳細を提供するように要求することもできます。リスクマネージャーは、ServiceNow テーブルで利用可能なレコードおよび外部レコードに関するフィードバックを作成できます。

並行レビューとフィードバック のメリット

並行レビューとフィードバック アプリケーションでは、次のことができます。

- ワークフローの任意のステージでフィードバックを提供します。
- サイドパネル機能を使用して、ソースレコードからフィードバック応答を直接更新する。
- 一元化されたダッシュボードから、レコードに対して発生するフィードバックワークフローを表示および管理します。
- 変更履歴を表示します。これにより、フィードバックの前と後を短時間で比較できます。
- 対応が不十分であると判断された場合は、フィードバックを再度開きます。
- 直感的なダッシュボードを通じてフィードバックを監視し、レコード所有者をフォローアップする。
- サイドバーのディスカッションチャットを通じて、レビュー担当者、応答者、その他のステークホルダーと効果的にコラボレーションする。
- フィードバックの結果として生じたアクション (問題の作成や既存の問題へのリンクなど) を開始してリンクします。
- フィードバックの作成元のテーブルまたはレコードタイプを定義できるカスタムテーブルを含む、任意のレコードタイプのフィードバック統合セットアップを構成します。

並行レビューとフィードバック のワークフロー

並行レビューとフィードバック ワークフローは、ソリューションがレコードまたはレコード内の特定のフィールドに関するフィードバックの送信を促す体系的なプロセスの概要を示します。フィードバックは、データの完全性、コンプライアンス、運用手順など、レコードレベルでの改善や推奨事項に関連している可能性があります。

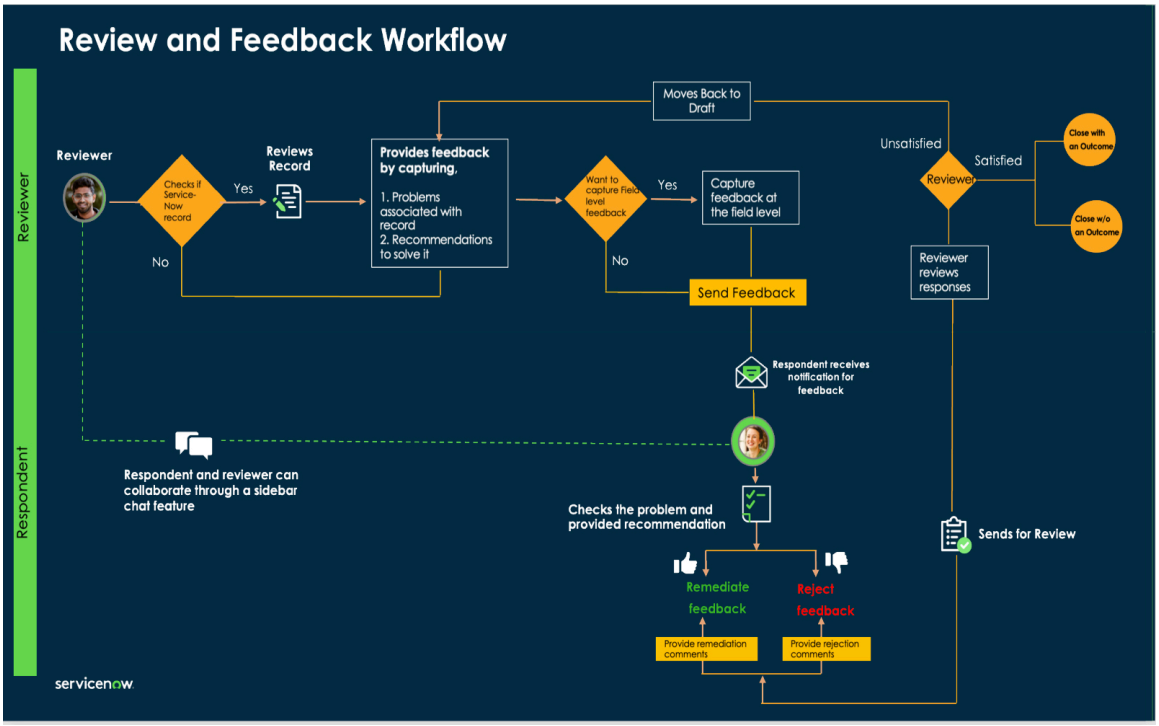
並行レビューとフィードバック のユーザー体験の探索

次の図は、レビューとフィードバックのワークフローを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

並行レビューとフィードバック のワークフロー



組織の要件に従って各ユーザーがレビューおよびフィードバックアプリケーションを使用する方法の手順を、以下で説明します。

フィードバック統合の設定

高度なリスク アプリケーションでフィードバック統合セットアップを構成し、並行レビューとフィードバック を使用するテーブルを定義します。このセットアップにより、テーブルレコードに対するフィードバックを作成するためのワークスペース、レビュー担当者、および応答者を定義できます。sn_rvw_feedback.admin ロールを持つユーザーは、フィードバック統合を構成できます。詳細については、フィードバック統合の設定を参照してください。

フィードバックの作成

sn_rvw_feedback.reviewer ロールを持つユーザーは、レビュー中のレコードに対してフィードバックを作成し、 全体的な改善やレコード内の特定のフィールドの変更を提案できます。ServiceNow および外部レコードの両方でフィードバックを作成できます。詳細については、「リスクワークスペースでのフィードバックの作成」と「レコードサイドパネルからフィードバックを作成」を参照してください。

フィードバックに応答

sn_rvw_feedback.respondent ロールを持つユーザーは、必要なアクションを実行し、送信されたフィードバックに関してコメントや説明を提供できます。適切な理由がある場合、応答者はフィードバックを修正するか拒否することができます。未解決のアイテムをすべてクローズした後、応答者はレビュー担当者にフィードバックを送信できます。詳細については、「フィードバックに応答」を参照してください。

サイドバーチャット機能によるコラボレーション

サイドバー チャット機能により、第一線および第二線のリスクユーザーがリアルタイムでフィードバックについて話し合うことができます。チャット機能を使用すると、さまざまな関係者間のコラボレーションが向上し、解決策のブレインストーミング、詳細の明確化、受け取ったフィードバックに関するアクションの調整が可能になります。詳細については、「並行レビューとフィードバック で サイドバー からチャットを開始する」を参照してください。

フィードバックを確認してクローズする

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

レビュー担当者が応答者のコメントに満足している場合、いくつかのオプションがあります。アクションの有無にかかわらず、フィードバックをクローズすることを選択できます。アクションが選択された場合、受け取ったフィードバックに基づいてさらにアクションを実行できます。これには、フォローアップと解決を促進するために、問題の作成や既存のレコードへのリンクなどの新しいアクションまたはタスクの開始が含まれます。たとえば、ある組織が不正関連リスクに関する RCSA (リスクとコントロールの自己アセスメント) を実施し、3 つのコントロールを導入することを提案しました。その後、第 2 の防御線が評価をレビューしてフィードバックを提出し、そのリスクを軽減するための世界的なベストプラクティスに沿った新しいコントロールの追加を推奨しました。この新しいコントロールを実装するには、予算の割り当てと推定約 1～2 年のスケジュールが必要です。組織は、進捗状況を追跡および管理するための問題を作成することで、フィードバックをクローズすることができます。

レビュー担当者が応答者のコメントに満足できない場合、レビュー担当者はフィードバックを [ドラフト] ステータスに移行してワークフローを再開できます。詳細については、「フィードバックを確認してクローズする」を参照してください。

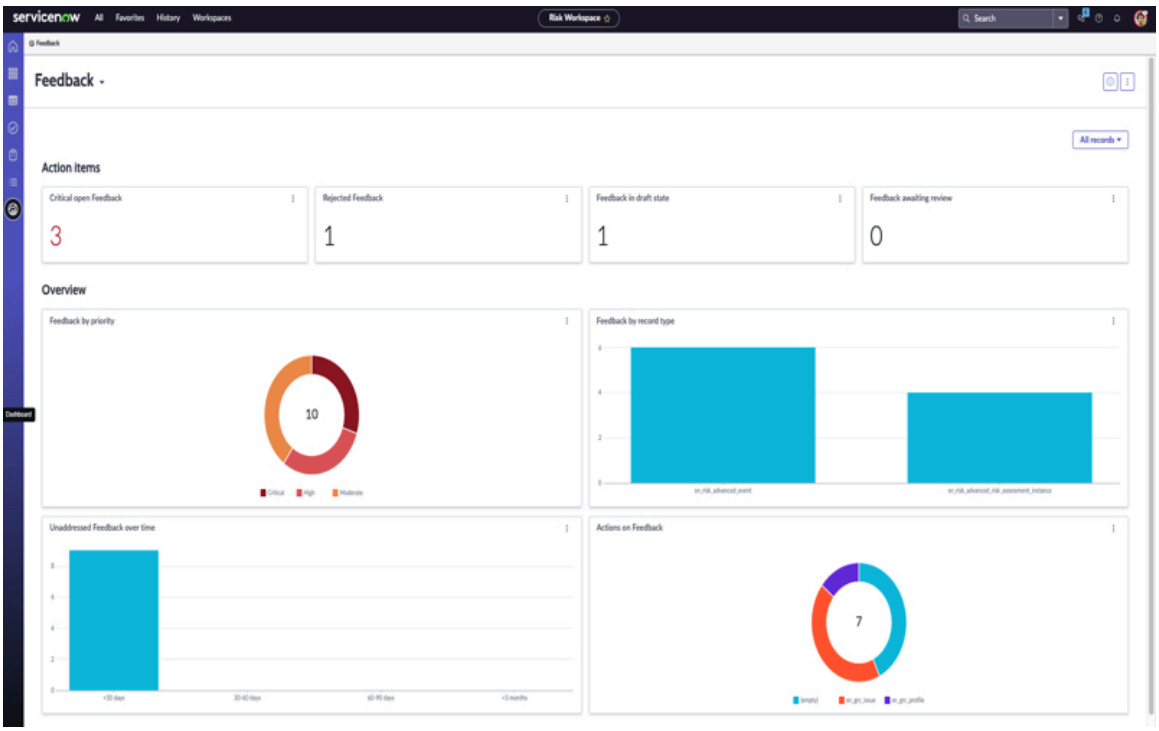
フィードバックダッシュボード

フィードバックダッシュボードで、リスクワークスペースを使用してフィードバックを追跡および管理します。フィードバックダッシュボードは、フィードバックをそのステータス、重要度、タイプ、およびその他の特定の要因に従って整理します。

フィードバックダッシュボードの起動

ランチャー アイコンを使用して、フィードバックダッシュボードを起動できます。次の例は、フィードバックダッシュボードで利用可能なカードを示しています。

フィードバックダッシュボードページ



さまざまなレコードタイプに基づいてダッシュボードをフィルタリングすることで、関連情報のみを分析および監視できます。[すべてのレコード] に移動し、それぞれのレコードタイプを選択して、関連情報をダッシュボードに表示できます。使用可能なレコードタイプは、アクティブフィードバック構成に基づいています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次の表で、フィードバックダッシュボードのランディングページで利用可能なカードについて説明します。

フィードバックダッシュボード

セクション	カード	説明
アクションアイテム	重要な未解決のフィードバック	優先度が [重大] のフィードバックを表示します。
	却下されたフィードバック	応答のあるフィードバックを [却下] として表示します。
	ドラフト状況のフィードバック	回答者にまだ送信されていないフィードバックを表示します。
	レビュー待ちのフィードバック	回答者のコメントに続いて、レビュー担当者によってまだレビューされていないフィードバックを表示します。
概要	優先度別のフィードバック	割り当てられた優先度に基づいてアクティブなフィードバックを表示します。これは、緊急度レベル別に分類されたフィードバックの割合を理解するのに役立ちます。
	レコードタイプ別のフィードバック	レコードタイプに基づいてフィードバックを表示します。これは、ソースレコードによって分類されたフィードバックの割合を理解するのに役立ちます。
	時間を経過しても未対応のフィードバック	時間を経過しても未対応のフィードバックを表示します。棒グラフには未解決のフィードバックの傾向が表示され、チームは応答性と作業負荷の分散を測定できます。
	フィードバックに対するアクション	開始されたアクションを含むクローズ済みフィードバックと、アクションが実行されていないフィードバックを表示します。これにより、フィードバックの結果として一般的にどのようなアクションが取られるかの分析が容易になります。

フィードバック統合の設定

高度なリスク アプリケーションでフィードバック統合セットアップを構成し、並行レビューとフィードバック を使用するテーブルを定義します。このセットアップにより、テーブルレコードに対するフィードバックを作成するためのワークスペース、レビュー担当者、および応答者を定義できます。

始める前に

必要なロール：sn_rvw_feedback.admin

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

手順

1. 移動先 すべて > 並行レビューとフィードバック > フィードバック > アドミニストレーション > フィードバック統合設定.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

   [フィードバック統合設定] フォームのフィールド値の説明については、「フィードバック統合構成フォーム」を参照してください。
4. [送信] を選択します。

フィードバック統合構成フォーム

フィードバック統合構成フォームを使用して、並行レビューとフィードバック のセットアップを定義します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

フィードバック統合構成フォーム

フィールド	説明
テーブル	レビューとフィードバックを統合するテーブルの名前。たとえば、リスクイベントレコードに関するフィードバックを提供する場合は、sn_risk_advanced_event テーブルを選択する必要があります。
レビュー担当者グループ	選択したテーブルレコードについてフィードバックを提供できるレビュー担当者グループ。
アクティブ	フィードバック統合設定のステータス。選択したテーブルレコードに関するフィードバックの提供では、アクティブな構成のみが考慮できます。
ワークスペース URL パス	フィードバック関連の通知を特定のワークスペースに送信するためのワークスペース URL パス。たとえば、リスクワークスペースで使用する場合は、risk/risk を選択します。
回答者	
回答者タイプ	選択したテーブルレコードに関して提起されたフィードバックに応答できる回答者。オプションは次のとおりです。 • ターゲットレコードのユーザー：フィードバックに応答できるユーザー個人。 • ターゲットレコードのグループ：フィードバックに応答できるユーザーのグループ。 • 特定のグループ：ターゲットレコードにユーザーまたはグループが含まれていない場合にフィードバックに応答できる特定のグループ。sn_rvw_feedback.respondent ロールがアサインされているグループのみ表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィードバック統合構成フォーム (続く)

フィールド	説明
回答者フィールド	ターゲットレコードのユーザーまたはグループフィールド。たとえば、提起されたフィードバックに対してレコードオーナーが応答する場合は、このフィールドで [オーナー] を選択します。

高度なリスク でのフィードバックの作成

高度なリスク アプリケーションのレコードまたはレコード内のフィールドに関するフィードバックを作成します。フィードバックにより、データの完全性、コンプライアンス、運用手順、およびその他の関連領域に関連する改善を推奨できます。

次のいずれかのオプションを使用してフィードバックを作成できます。

- リスクワークスペースでのフィードバックの作成
- レコードサイドパネルからフィードバックを作成

リスクワークスペースでのフィードバックの作成

レコードまたはレコード内のフィールドに関するフィードバックを作成し、データの完全性、コンプライアンス、運用手順、およびその他の関連領域 (処分や説明責任など) に関連する改善を推奨します。

始める前に

必要なロール：sn_rvw_feedback.reviewer

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース.
2. リスト アイコンを選択します。
3. リストから [並列レビューとフィードバック] に移動し、[フィードバック] を選択します。
4. [新規] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

   新規フィードバック作成フォームのフィールド値の説明については、「新規フィードバックの作成フォーム」を参照してください。

6. [保存] を選択します。
   フィードバックは [ドラフト] ステータスに移行します。
7. フィードバックアイテムを追加するには、[アイテム] 関連リストを選択します。
8. [新規] を選択します。
9. フォームのフィールドに入力します。

新規フィードバックアイテムの作成フォーム

フィールド	説明
状況	フィードバックアイテムのステータス。このフィールドは自動的に [オープン] に設定されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
コンテキスト	フィードバックを提供するレコードのフィールド。
レビュー担当者のコメント	選択したコンテキストに関する観察事項またはフィードバック。
回答者のコメント	回答者がフィードバックに対して提供したコメントまたは説明。これはレビュー担当者のための読み取り専用フィールドです。

10. [保存] を選択します。
11. [フィードバックを送信] を選択します。
フィードバックが作成され、回答者に割り当てられます。フィードバックは [アサイン済み] ステータスに移行します。

新規フィードバックの作成フォーム

[新規フィードバックの作成] フォームを使用して、レコードまたはレコード内のフィールドにフィードバックを提供します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

新規フィードバックの作成フォーム

フィールド	説明
名前	フィードバックの名前。
説明	フィードバックの簡単な説明。
ServiceNow レコードを参照	フィードバックを提供する ServiceNow テーブルレコードを選択するオプション。外部レコードを選択するには、このオプションをオフにします。
レコードタイプ	フィードバックを提供するフィードバック統合構成。これにより、構成で定義されたテーブルを選択できます。 注: このフィールドは、**[ServiceNow** レコードを参照] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。
Priority (優先度)	フィードバックの優先度。
レコード	フィードバックを提供するレコード。これにより、構成で定義されたテーブルに関連付けられたレコードを選択できます。
ウォッチリスト	フィードバックに関して通知されるユーザー。
レビュー担当者	
レビュー担当者グループ	フィードバックを提供しているグループ。
レビュー担当者	フィードバックを提供するユーザー。このフィールドは自動的にあなたの名前に設定されます。他

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規フィードバックの作成フォーム (続く)

フィールド	説明
	のユーザーの代わりにフィードバックを提供することもできます。
回答者	
回答者グループ	フィードバックに応答するグループ。
回答者	フィードバックに応答するユーザー個人。
応答	
応答	応答のステータス。これはレビュー担当者のための読み取り専用フィールドです。
回答者のコメント	回答者がフィードバックに対して提供したコメントまたは説明。これはレビュー担当者のための読み取り専用フィールドです。
アクティビティ	
作業メモ	フィードバックに関するメモまたは情報。たとえば、レコードと考えられる解決策に関連する問題などです。
追加コメント (顧客に表示)	顧客と共有するフィードバックに関する追加情報。

レコードサイドパネルからフィードバックを作成

高度なリスク アプリケーションを使用して、レコード内のフィールドに関するフィードバックをレコードのサイドパネルから作成します。フィードバックにより、データの完全性、コンプライアンス、運用手順、およびその他の関連領域に関連する改善を推奨できます。

始める前に

必要なロール：sn_rvw_feedback.reviewer

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース.
2. リスト アイコンを選択します。
3. フィードバックを作成するレコードを開きます。
4. サイドパネルで、リスト アイコンを選択します。
5. [新規] を選択します。
6. フォームのフィールドに入力します。

   新規フィードバック作成フォームのフィールド値の説明については、「フィードバックの詳細フォーム」を参照してください。

7. [保存] を選択します。
   フィードバックは [ドラフト] ステータスに移行します。
8. オプション: サイドバーディスカッションを開始するには、フィードバック上で [その他のアクション] アイコンを選択し、[ディスカッション] を選択します。
9. フィードバック項目を追加するには、[アイテムを追加] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

10. フォームのフィールドに入力します。

フィードバックアイテムフォーム

フィールド	説明
レコードコンテキスト	フィードバックを提供するレコードのフィールド。
コメント	選択したコンテキストに関する観察事項またはフィードバック。

11. [保存] を選択します。
12. [フィードバックを送信] を選択します。
フィードバックが作成され、回答者に割り当てられます。フィードバックは [アサイン済み] ステータスに移行します。

フィードバックの詳細フォーム

フィードバックの詳細フォームを使用して、レコードのサイドパネルから、レコードまたはレコード内のフィールドにフィードバックを提供します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

フィードバックの詳細フォーム

フィールド	説明
名前	フィードバックの名前。
説明	フィードバックの簡単な説明。
レビュー担当者グループ	フィードバックを提供しているグループ。
レビュー担当者	フィードバックを提供するユーザー。このフィールドは自動的にあなたの名前に設定されます。他のユーザーの代わりにフィードバックを提供することもできます。
回答者グループ	フィードバックに応答するグループ。
回答者	フィードバックに応答するユーザー個人。
優先度	フィードバックの優先度。

並行レビューとフィードバック で サイドバー からチャットを開始する

サイドバー チャットを開始して、さまざまなステークホルダー間でコラボレーションを行い、解決策のブレインストーミング、詳細の明確化、または受け取ったフィードバックに関するアクションの調整を行います。

始める前に
必要なロール：sn_rvw_feedback.reader

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース.
2. リスト アイコンを選択します。
3. リストから [並列レビューとフィードバック] に移動し、[フィードバック] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

4. 話し合いの対象とするフィードバックを開きます。
5. [ディスカッション] を選択します。
   [Sidebar ディスカッションを開始] ダイアログが表示されます。
6. レコードサイドパネルから Sidebar ディスカッションを開始するには、ディスカッションの対象とするレコードを開き、次の操作を行います。
   a. サイドパネルで、リスト アイコンを選択します。
   b. フィードバックを選択します。
   c. フィードバック上で [その他のアクション] アイコンを選択し、[ディスカッション] を選択します。
7. [Sidebar ディスカッションを開始] ダイアログボックスで、必要に応じてフィールドに入力します。

Sidebar ディスカッションを開始

フィールド	説明
件名	Sidebar ディスカッションのタイトルを指定するオプション。
参加者の追加	Sidebar ディスカッションの参加者を追加するオプション。 注: このレコードへのアクセス権を持つユーザーであれば、誰でもディスカッションに含めることができます。
参加者への簡単なメッセージの包含	Sidebar ディスカッションで議論されるフィードバックに関する簡単なサマリー。

8. [ディスカッションを開始] を選択します。

フィードバックに応答

高度なリスク アプリケーションを使用して、送信されたフィードバックに関するコメントや説明を入力します。正当な理由がある場合は、フィードバックを修正または却下することができます。

始める前に

必要なロール：sn_rvw_feedback.respondent

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース > 自分のタスク.
2. 応答したいフィードバックを開きます。
3. レコードのサイドパネルからフィードバックに応答するには、レコード上のリスト アイコンを選択し、次の手順を実行します。
   a. [応答] フィールドに送信されたフィードバックに関するコメントまたは説明を入力します。
      フィードバック項目を却下するには、[応答]フィールドが必要です。
   b. [修正] または [却下] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

4. レコードのフィードバックに応答するには、[応答] セクションに移動し、次の操作を行います。

   a. [応答] フィールドで応答を選択します。

   b. [応答者のコメント] フィールドに送信されたフィードバックに関するコメントまたは説明を入力します。
   応答を [却下] として選択すると、[応答者のコメント] フィールドが必須になります。

   c. [保存] を選択します。

5. フィードバックのアイテムに応答するには、[アイテム] 関連リストを選択し、次の操作を行います。
   [アイテム] 関連リストは、レビュー担当者がフィードバックの提供中にフィードバックアイテムを追加した場合にのみ表示されます。

   a. フィードバックアイテムを選択します。

   b. [状況] フィールドで応答を選択します。

   c. [応答者のコメント] フィールドに送信されたフィードバックに関するコメントまたは説明を入力します。
   応答を [却下] として選択すると、[応答者のコメント] フィールドが必須になります。

   d. [保存] を選択します。

6. [レビュー用に送信] を選択します。
   レビュー担当者にフィードバックを送信するには、開いているすべてのアイテムを閉じる必要があります。

フィードバックを確認してクローズする

フィードバックの応答を確認し、高度なリスク アプリケーションを使用してさらにアクションを実行します。

始める前に

必要なロール：sn_rvw_feedback.reviewer

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース > 自分のタスク.
2. レビューするフィードバックを開き、応答者のコメントと応答を評価します。
3. 応答に問題がない場合は、次の選択肢があります。
   - フィードバックをクローズするには、 [クローズ] を選択します。
   - アクションを使用してフィードバックをクローズするには、[クローズしてアクションを開始] を選択します。

     注:
     問題を作成したり、フィードバックを既存のレコードにリンクして、フォローアップと解決を容易にすることができます。

4. オプション: 応答に満足できない場合は、 アイコンを選択し、次の操作を行います。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

a. [ドラフトに移動] を選択します。
このアクションにより、応答者からの以前の応答者が消去されます。

b. [OK] を選択します。

並行レビューとフィードバック のロール

並行レビューとフィードバック を他のアプリケーションと統合する際は、ユーザーは、レコードのレビュー、フィードバックの取得、フィードバックのクローズの追跡に必要なロールを持っている必要があります。

他のアプリケーションのユーザーが 並行レビューとフィードバック を使用できるようにするために、次のロールが導入されました。

インストールされるロール

ロールタイトル [名前]	含まれる場所	説明
sn_rvw_feedback.admin	sn_risk.admin	このロールを持つユーザーは、フィードバック統合セットアップを構成し、並行レビューとフィードバックを使用するテーブルを定義できます。
sn_rvw_feedback.reviewer	sn_risk_workspace.IT_risk_manager sn_risk_workspace.operational_risk_manager	このロールを持つユーザーは、レビュー中のレコードに対してフィードバックを作成し、全体的な改善やレコード内の特定のフィールドの変更を提案できます。
sn_rvw_feedback.respondent	sn_risk_workspace.business_risk_manager	このロールを持つユーザーは、必要なアクションを実行し、送信されたフィードバックに関してコメントや説明を提供できます。
sn_rvw_feedback.reader	sn_risk.reader	このロールを持つユーザーには、フィードバックへの読み取りアクセス権があります。

リスクアセスメントプロジェクト

リスクアセスメントプロジェクトを作成すると、複数のリスクとコントロールのアセスメントを同時に実行できます。リスクアセスメントプロジェクトを使用すると、査定人は複数のリスクとコントロールをレビューして、潜在的な影響、可能性、および関連する緩和戦略を理解できます。

リスクアセスメントプロジェクトの概要

リスクアセスメントプロジェクトは、特にワークショップベースの RCSA (リスクとコントロールの自己アセスメント) 環境内で、複数のリスクとコントロールを同時に評価するように設計された構造化されたプロセスです。効率的なデータ収集、ステークホルダーからの共同入力、および自動レポート作成を可能にすることで、手動によるデータ入力や断片化されたワークフローを置き換えます。リスクアセスメントプロジェクトは、リスクを集合的かつ確実に評価するための統一されたワークスペースを提供することで、調整を簡素化し、プロセスをスピードアップし、データの精度を向上させます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
複数のリスクとコントロールのアセスメントは、 リスクワークスペースでのみサポートされています。

リスクアセスメント プロジェクトの利点

リスクアセスメントプロジェクトの主なメリットは次のとおりです。

- 複数のリスクとコントロールを同時に評価できるようにすることで RCSA プロセスを簡素化し、手動でのデータ収集にかかる時間を節約します。
- 自動エラー処理を使用し、アセスメントを完了する前に包括的なエラーサマリーを提供することで、エラーや不整合の可能性を低減します。
- 必要なすべての参加者をアセスメントプロジェクトに参加させることで、ステークホルダー間の不要なやり取りを減らします。
- リスクアセスメントの異なるステージ間を移動し、画面を切り替えることなく複数のリスクとコントロールに同時にアクセスできるようにします。
- アセスメント結果に関する詳細なサマリーレポートを提供します。
- プロジェクト内のすべてのリスクをまとめて承認するプロセスを簡素化します。
- サイドバーパネルで各リスクに関連する参照情報にアクセスできるようにします。

関係するペルソナ

リスクアセスメントプロジェクトには、次のペルソナが関与します。

プロジェクトオーナー
: プロジェクトオーナーは、リスクアセスメントプロジェクトを作成および管理します。これには、プロジェクトコンテキストの設定、関連するステークホルダーの特定、評価する必要があるリスクの範囲の定義が含まれます。

査定人
: プロジェクト査定人は、リスクアセスメントプロジェクト内の複数のリスクとコントロールのアセスメントを実行します。各リスクを分析し、既存のコントロールの有効性を評価して、リスク対応戦略を作成します。

承認者
: プロジェクト承認者は、完了したリスクアセスメントをレビューし、プロジェクトの最終的なサインオフを提供します。すべてのスコープ対象のリスクが評価されていることを確認し、リスクアセスメントを承認または却下します。

必要なロール

リスクアセスメントプロジェクトには、次のロールが必要です。

- リスクアセスメントプロジェクトリーダー [sn_risk_advanced.risk_asmt_project_reader]:リスクアセスメントプロジェクトに対する読み取り専用アクセス権を付与します。
- リスクアセスメントプロジェクトユーザー [sn_risk_advanced.risk_asmt_project_user]:リスクアセスメントプロジェクトを作成し、ユーザーが作成したプロジェクトのみを更新または削除する機能を提供します。
- リスクアセスメントプロジェクトマネージャー [sn_risk_advanced.risk_asmt_project_manager]:リスクアセスメントプロジェクトを作成、更新、削除する機能を提供します。

詳細については、「GRC リスクワークスペース と一緒にインストールされるロール」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

リスクアセスメントプロジェクトのワークフロー

リスクアセスメントプロジェクトを作成

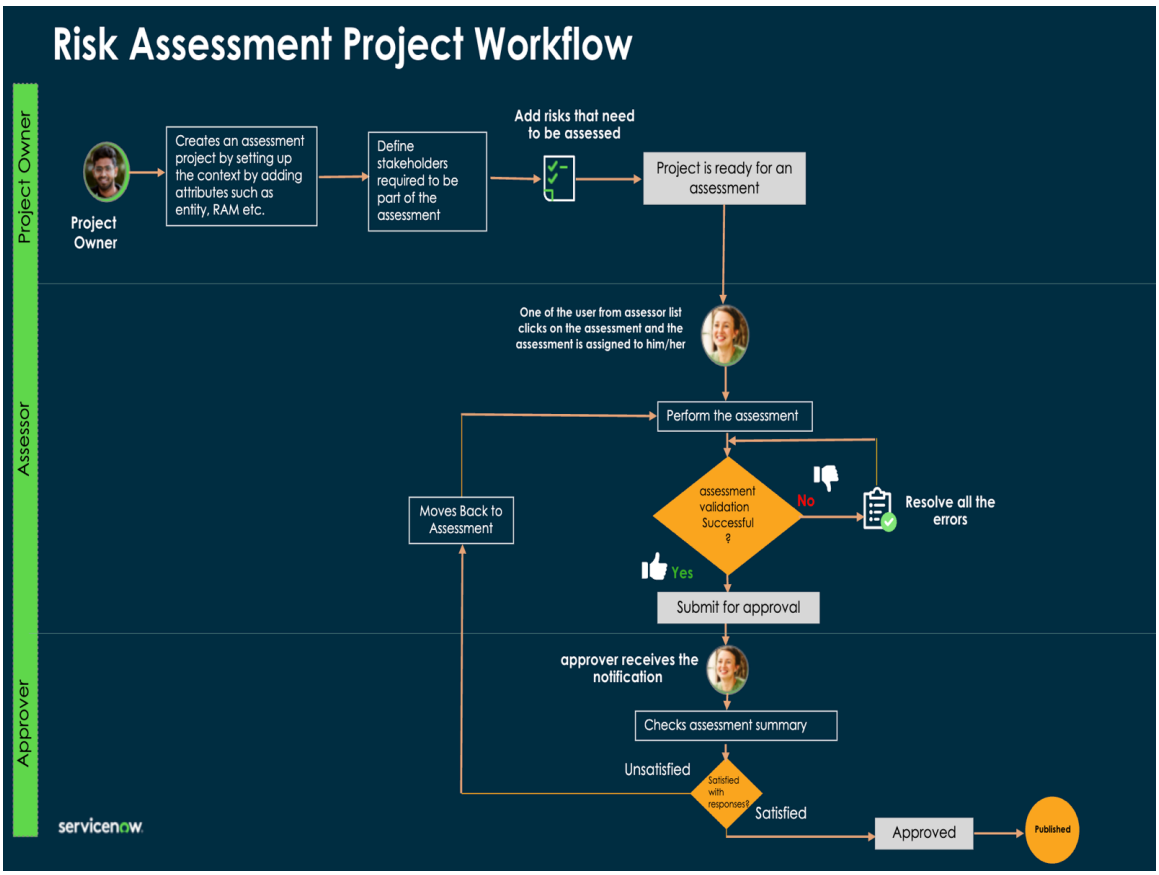
リスクアセスメントプロジェクトのワークフロー

リスクアセスメントプロジェクトワークフローは、 リスクワークスペースを使用して複数のリスクとコントロールを同時に評価するための構造化されたプロセスです。

リスクアセスメントプロジェクトのユーザージャーニーの探索

次の図は、リスクアセスメントプロジェクトのワークフローを示しています。

リスクアセスメントプロジェクトワークフロー



リスクアセスメントプロジェクトのステージは次のとおりです。

1. 定義:このステージでは、リスクアセスメントプロジェクトが作成されます。リスクアセスメントプロジェクトユーザー ([sn_risk_advanced.risk_asmt_project_user]) またはリスクアセスメントプロジェクトマネージャー ([sn_risk_advanced.risk_asmt_project_manager]) は、リスクアセスメントプロジェクトを作成し、次のタスクを実行できます。
   a. アセスメント可能なエンティティとリスクアセスメント方法論 (RAM) を含めて、コンテキストを定義します。
   b. プロジェクト名と説明を指定します。
   c. プロジェクトオーナー、査定人、ウォッチリストユーザーなど、関連するステークホルダーを特定して追加します。
2. リスクスコーピング:このステージでは、リスクアセスメントプロジェクトオーナーが評価するリスクの定義を担当します。選択した複合エンティティまたは単一エンティティのリスクをマッピングするために使用できるオプションは次のとおりです。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

上流エンティティからリスクを作成する

選択したエンティティとの基本的な関係に基づいてリスクを追加するオプション。リスクは、基礎となるエンティティから自動的にマッピングされます。基になるエンティティから削除せずに削除できます。このオプションは、複合エンティティに固有です。

アドホックリスクを作成

ライブラリにないリスクを追加するオプション。

リスクステートメントからリスクを作成

リスクステートメントからリスクを追加するオプション。

3. アセスメント:このステージでは、査定人が定義された RAM を使用してスコープ対象の各リスクを評価します。アセスメント全体を通して、査定人はアセスメントのサマリーにアクセスできます。自動エラー処理により、査定人はリスクアセスメントプロジェクトを検証し、エラーや不整合の可能性を減らすことができます。アセスメントが完了すると、査定人は承認のためにアセスメントを送信します。

   注:
   査定人は、アセスメントステージ中にリスクとコントロールを追加することもできます。

4. 承認:このステージでは、Approval Configurator で構成された承認者がアセスメントのサマリーをレビューします。アセスメントに対する承認者の満足度に基づいて、承認者は次のいずれかを実行できます。

   承認

   プロジェクトが [完了] ステージに移行します。

   却下

   プロジェクトは査定人のアセスメントステージに移行し、特定された問題に対処し、必要な改訂を行います。

注:
プロジェクトが [完了] ステータスになったら、同じ RAM とエンティティを使用して新しいプロジェクトを作成できます。新しいプロジェクトが [完了] ステータスになると、古いプロジェクトは [アーカイブ済み] ステータスに移行します。

リスクアセスメントプロジェクトを作成

リスクアセスメントプロジェクトを作成し、 リスクワークスペースを使用して複数のリスクとコントロールのアセスメントを同時に実行します。アセスメント可能なエンティティ、リスクアセスメント方法論 (RAM)、プロジェクト名、説明などのプロジェクトコンテキストを定義し、ステークホルダーを特定して追加できます。

始める前に

必要なロール:sn_risk_advanced.project_user または sn_risk_workspace.operational_risk_manager または sn_risk_workspace.IT_risk_manager、または sn_risk_workspace.business_op_risk_manager

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース.
2. リスト  アイコンを選択します。
3. リストから リスクアセスメントプロジェクト に移動し、 新規 を選択します。
4. **[New** (新規)] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

5. 定義ステージで、次の操作を行います。

a. [コンテキスト] セクションで、フィールドに入力します。

コンテキスト

フィールド	説明
アセスメント可能なエンティティ	評価する必要がある単一または複合エンティティ。
リスクアセスメント方法	プロジェクト内のリスクを評価するために使用するリスクアセスメント方法論 (RAM)。

b. **[Next** (次へ)] をクリックします。

c. [詳細] セクションで、フィールドに入力します。

詳細

フィールド	説明
名前	リスクアセスメントプロジェクトの名前。名前は、選択したアセスメント可能なエンティティに基づいて自動的に生成され、その後に現在の月と年が続き、それらの間にセパレーターが続きます。必要に応じて名前を変更できます。
説明	リスクアセスメントプロジェクトに関する説明。これは、査定人がプロジェクトを詳細に理解するのに役立ちます。

d. **[Next** (次へ)] をクリックします。

e. [ステークホルダー] セクションで、フィールドに入力します。

ステークホルダー

フィールド	説明
所有者	プロジェクトオーナーの名前。このフィールドはプロジェクトを作成したユーザーに自動的に設定されますが、必要に応じて変更できます。
査定人タイプ	プロジェクトの評価を担当するユーザーまたはグループ。選択肢は次のとおりです。 ▪ ユーザー:プロジェクトの評価を担当するユーザーを選択するオプション。 ▪ グループ:プロジェクトの評価を担当するユーザーのグループを選択するオプション。 ▪ エンティティオーナー:査定人としてアセスメント可能なエンティティオーナーを選択するオプション。 ▪ エンティティのステークホルダー:アセスメント可能なエンティティのステークホルダーリストから査定人を選択するオプション。
査定人	プロジェクトの評価を担当するユーザー。このフィールドは、[ユーザー] が [査定人タイプ] から選択されている場合にのみ表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
査定人グループ	リスクの評価を担当するグループ。このフィールドは、[グループ] が [査定人タイプ] から選択されている場合にのみ表示されます。
エンティティの査定人	アセスメント可能なエンティティのステークホルダーリストからの査定人。このフィールドは、査定人タイプからエンティティのステークホルダーが選択されている場合にのみ表示されます。
ウォッチリストタイプ	プロジェクトに関する通知を表示および受信できるユーザーまたはグループ。選択肢は次のとおりです。 ▪ ユーザー:プロジェクトに関する通知を表示および受信できるユーザーを選択するオプション。 ▪ グループ:プロジェクトに関する通知を表示および受信できるユーザーのグループを選択するオプション。 ▪ エンティティのステークホルダー:アセスメント可能なエンティティのステークホルダーリストからウォッチリストユーザーを選択するオプション。
ウォッチリストユーザー	プロジェクトに関する通知を表示および受信できるユーザー。このフィールドは、ウォッチリストタイプから [ユーザー] が選択されている場合にのみ表示されます。
ウォッチリストグループ	プロジェクトに関する通知を表示および受信できるグループ。このフィールドは、[グループ] が [ウォッチリスト] タイプから選択されている場合にのみ表示されます。
エンティティのウォッチリストユーザー	アセスメント可能なエンティティのステークホルダーリストのウォッチリストユーザー。このフィールドは、ウォッチリストタイプからエンティティのステークホルダーが選択されている場合にのみ表示されます。

プロジェクトが [スコープリスク] ステージに移行し、基礎となるエンティティからマッピングされたリスクのリストが表示されます。

6. スコープリスクステージにリスクを追加するには、次の手順を実行します。
   a. オプション: リスクステートメントからリスクを作成するには、[リスクステートメントから作成] を選択します。
   b. オプション: ライブラリにないリスクを追加するには、[アドホック リスクの作成] を選択します。
   c. オプション: 基になるエンティティからリスクを削除せずにアセスメントから削除するには、リスクを選択して [削除] を選択します。
   d. オプション: 削除されたリスクを追加するには、[リスクの追加] を選択します。
7. **[Next** (次へ)] をクリックします。
   プロジェクトが [評価] ステージに移行し、査定人に通知が送信されます。

スタックビューでリスクアセスメントプロジェクトのアセスメントを実行する

リスクワークスペースを使用して、リスクアセスメントプロジェクトで複数のリスクとコントロールのアセスメントを同時に実行します。固有リスク、コントロールの有効性、残存リスク、およびターゲットリスクを評価できます。リスクアセスメントプロセス中に特定されたリスクを管理および軽減できるようにするリスク応答を定義できます。

始める前に

必要なロール:sn_grc.business_user、sn_risk_workspace.IT_risk_manager、および sn_risk_workspace.operational_risk_manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
リスクアセスメントプロジェクトのアセスメントを実行するには、sn_risk_advanced.risk_asmt_project_reader ロールと sn_risk_advanced.ara_assessor ロールを sn_grc.business_user に手動で追加する必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース > 自分のタスク.
2. 評価するリスクアセスメントプロジェクトを開きます。
3. リスクアセスメントプロジェクトを評価するには、[スタックビュー] を選択します。
4. [アセスメントを開く] を選択します。
5. 評価を開始するには、[開始しましょう] を選択します。
   再アセスメントを実行する場合は、[リスクアセスメントをコピー] ダイアログボックスが表示されます。以前のリスクアセスメントから回答をコピーするには、[はい] を選択します。
6. オプション: プロジェクトを再アサインするには、[⋮] を選択して [再アサイン] を選択します。
7. オプション: プロジェクトにリスクを追加するには、次の操作を行います。
   a. リスクステートメントからリスクを作成するには、[⋮] アイコンを選択し、[リスクステートメントから作成] を選択します。
   b. ライブラリにないリスクを追加するには、[⋮] アイコンを選択し、[アドホックリスクを作成] を選択します。
   c. 削除された根本的なリスクを追加するには、[⋮] アイコンを選択し、[リスクを追加] を選択します。
   進行中のアセスメントを含むリスクをリスクアセスメントプロジェクトの一部として追加することはできません。
8. オプション: プロジェクトからリスクを削除するには、次の操作を行います。
   削除されたスコープ対象のリスクはプロジェクトの一部として残りますが、レポート目的では適用外としてマークされます。ただし、削除されたアドホックリスクは完全に削除されます。
   a. [アクション] を選択します。
   b. [リスクの削除] を選択します。
      [リスクを削除] ダイアログボックスが表示されます。
   c. [リスクを削除] ダイアログボックスで、理由を入力して [削除] を選択します。
      選択したリスクが、関連するすべての応答とともに削除されます。
9. 固有、コントロール、および残存アセスメントのすべての要素に対応し、プロジェクト内の各リスクのリスク対応戦略を定義します。
   アプリケーションは回答を自動的に保存し、全体的なリスクスコアを計算します。
10. アセスメントの完全な概要を表示するには、[概要の表示] を選択します。
11. アセスメントを送信する前にアセスメントにエラーがないか確認するには、[⋮] アイコンを選択し、[検証] を選択します。
    選択したリスクのサイドパネルで、解決する必要があるエラーがある場合はそのリストを確認できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

12. エラーを特定して解決します。
13. [検証] を選択して、エラーが解決されたかどうかを確認します。
14. 承認のためにリスクアセスメントプロジェクトを送信するには、 [送信] を選択し、 [送信の確認] を選択します。
    アセスメントはこのステージで再度検証されます。送信する前にアセスメントの概要を確認します。送信後の変更はできません。

グリッドビューでリスクアセスメントプロジェクトのアセスメントを実行する

グリッドビューを使用して、リスクアセスメントプロジェクトで複数のリスクとコントロールのアセスメントを同時に実行します。固有リスク、コントロールの有効性、残存リスク、およびターゲットリスクを評価できます。リスクアセスメントプロセス中に特定されたリスクを管理および軽減できるようにするリスク応答を定義できます。

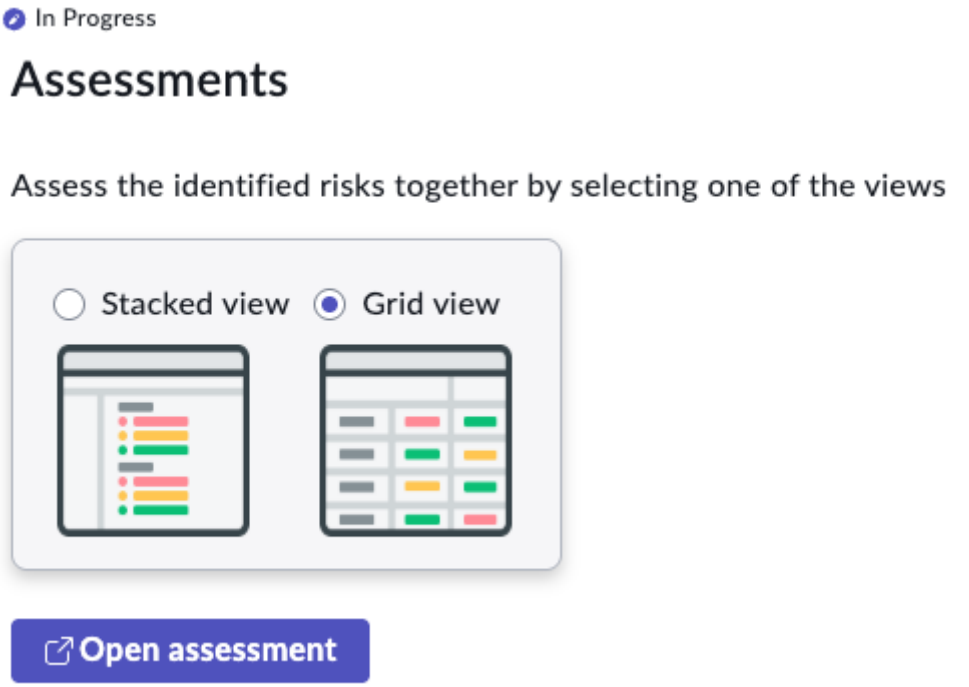
始める前に

必要なロール:sn_grc.business_user、sn_risk_workspace.IT_risk_manager、および sn_risk_workspace.operational_risk_manager

> **注:**
> リスクアセスメントプロジェクトのアセスメントを実行するには、sn_risk_advanced.risk_asmt_project_reader ロールと sn_risk_advanced.ara_assessor ロールを sn_grc.business_user に手動で追加する必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース > 自分のタスク.
2. 評価するリスクアセスメントプロジェクトを開き、次のいずれかを実行します。
3. グリッドビューを選択して、リスクアセスメントプロジェクトを評価します。

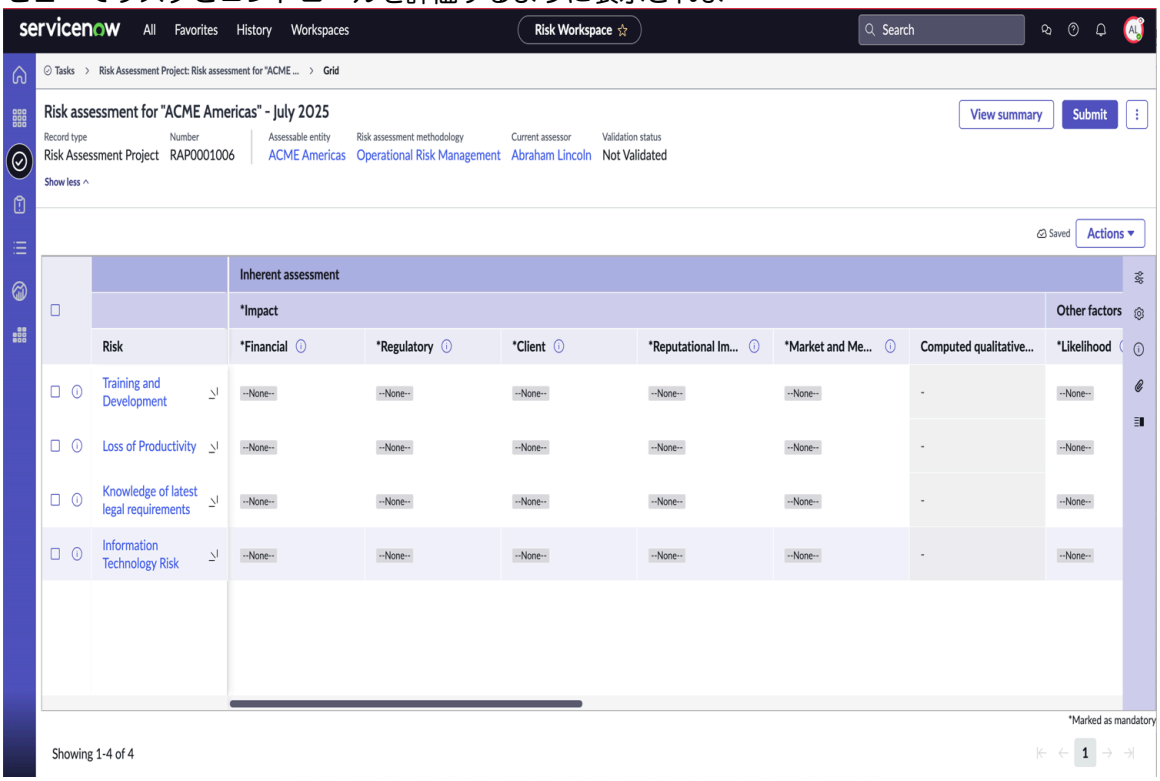


4. [アセスメントを開く] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スプレッドシートスタイルのインターフェイスが、グリッドベースのビューでリスクとコントロールを評価するように表示されます。

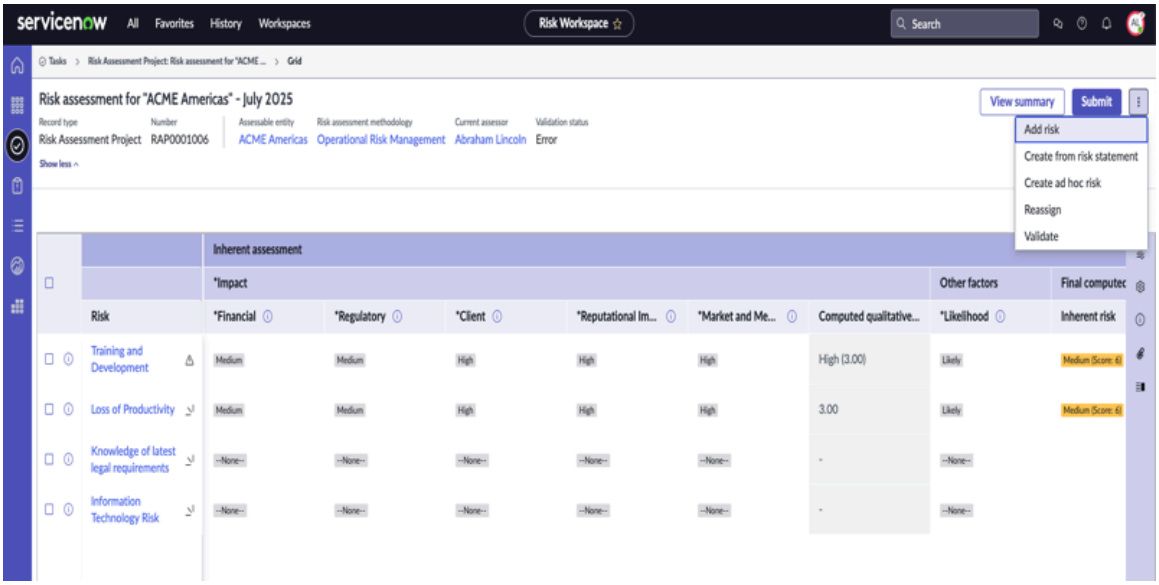


5. オプション: プロジェクトを再アサインするには、[⋮] を選択して [再アサイン] を選択します。
6. オプション: プロジェクトにリスクを追加するには、次の操作を行います。
   a. リスクステートメントからリスクを作成するには、[⋮] アイコンを選択し、[リスクステートメントから作成] を選択します。
   b. ライブラリにないリスクを追加するには、[⋮] アイコンを選択し、[アドホックリスクを作成] を選択します。
   c. 削除された根本的なリスクを追加するには、[⋮] アイコンを選択し、[リスクを追加] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

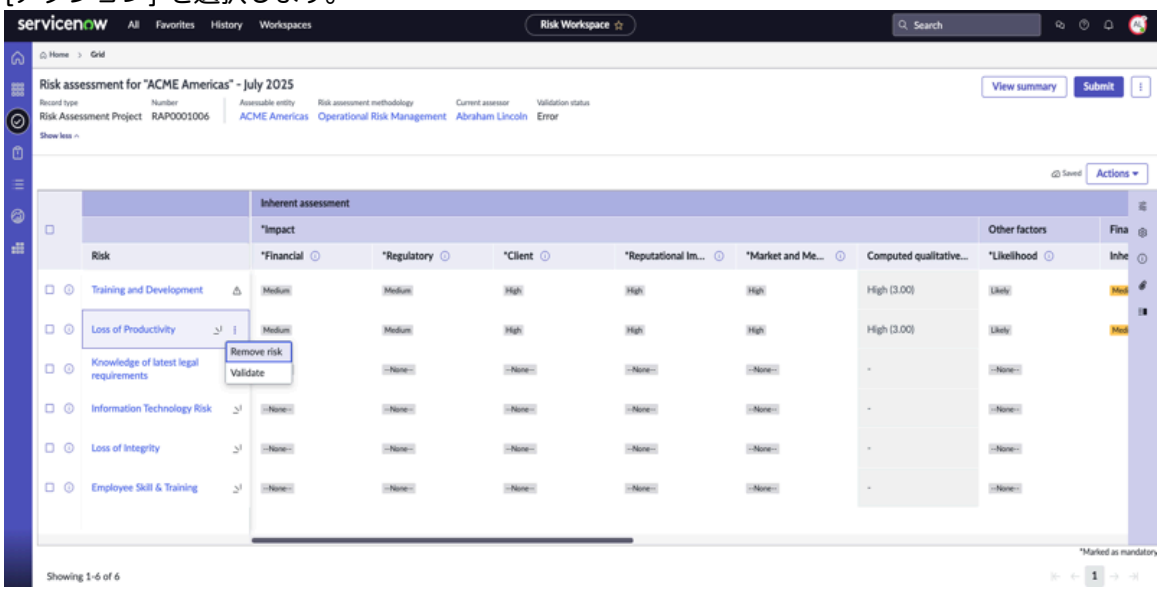
進行中のアセスメントを含むリスクをリスクアセスメントプロジェクトの一部として追加することはできませ



ん。

7. オプション: プロジェクトからリスクを削除するには、次の操作を行います。
削除されたスコープ対象のリスクはプロジェクトの一部として残りますが、レポート目的では適用外としてマークされます。ただし、削除されたアドホックリスクは完全に削除されます。

a. [アクション] を選択します。



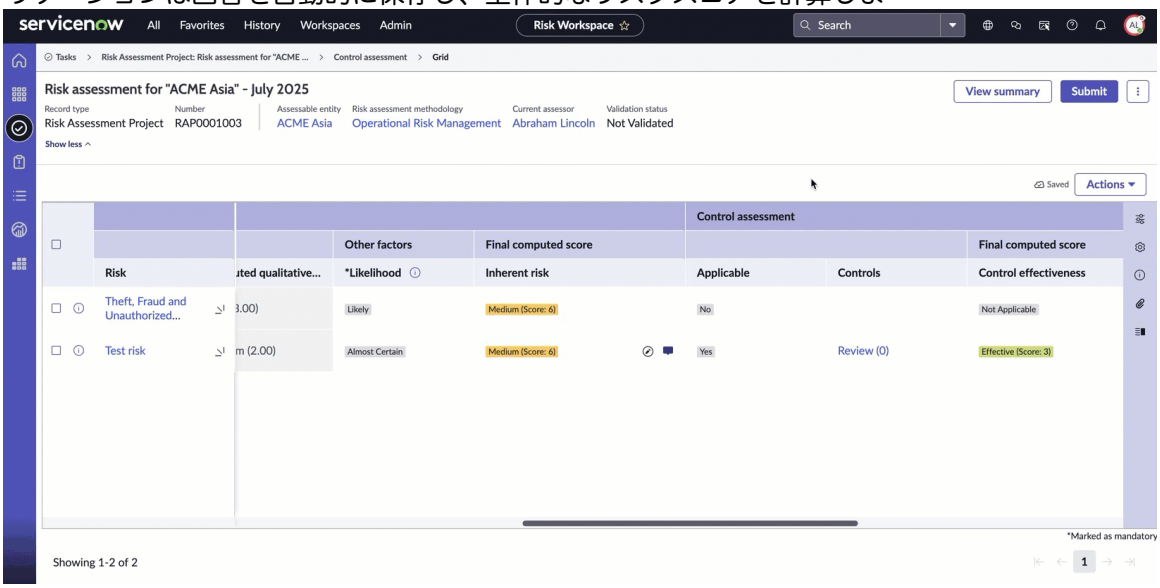
b. [リスクの削除] を選択します。
[リスクを削除] ダイアログボックスが表示されます。

c. [リスクを削除] ダイアログボックスで、理由を入力して [削除] を選択します。
選択したリスクが、関連するすべての応答とともに削除されます。

8. プロジェクト内の各リスクの固有のアセスメントのすべての要素に対応します。

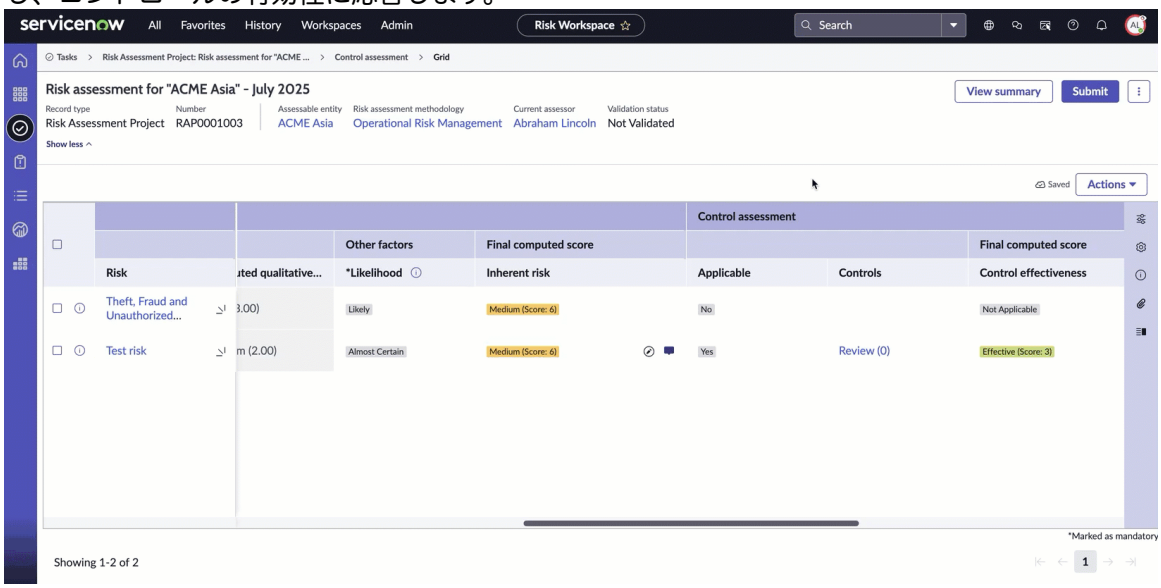
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションは回答を自動的に保存し、全体的なリスクスコアを計算しま



す。

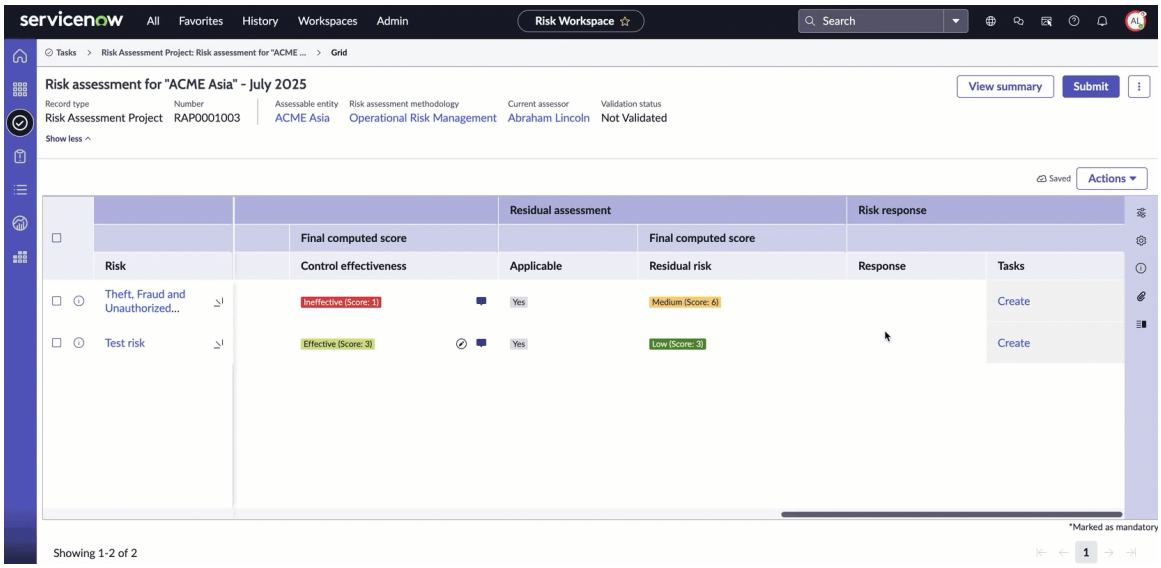
9. コントロールを評価するには、[コントロールアセスメント] の [適用可能] 列で [はい] を選択し、コントロールの有効性に応答します。



10. 残存アセスメントとターゲットアセスメントを評価するには、[適用可能] 列で [はい] を選択します。
アプリケーションは、個々のアセスメントの最終的な計算済みスコアを自動的に計算します。
11. リスク対応戦略を選択し、リスク対応タスクを作成します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



12. アセスメントの完全な概要を表示するには、[概要の表示] を選択します。
13. アセスメントを送信する前にアセスメントにエラーがないか確認するには、[⋮] アイコンを選択し、[検証] を選択します。
    選択したリスクのサイドパネルで、解決する必要があるエラーがある場合はそのリストを確認できます。
14. エラーを特定して解決します。
15. [検証] を選択して、エラーが解決されたかどうかを確認します。
16. 承認のためにリスクアセスメントプロジェクトを送信するには、 [送信] を選択し、 [送信の確認] を選択します。
    アセスメントはこのステージで再度検証されます。送信する前にアセスメントの概要を確認します。送信後の変更はできません。

リスクアセスメントプロジェクトの再評価

リスクアセスメントプロジェクトを再評価して、完了したリスクアセスメントプロジェクトを評価します。組織の目標との整合性を維持しながら、新しいインサイトや変化する条件を反映するようにリスクがレビューおよび更新されていることを確認します。

始める前に

必要なロール:sn_grc.business_user、sn_risk_workspace.IT_risk_manager、および sn_risk_workspace.operational_risk_manager

> **注:**
> リスクアセスメントプロジェクトのアセスメントを実行するには、sn_risk_advanced.risk_asmt_project_reader ロールと sn_risk_advanced.ara_assessor ロールを sn_grc.business_user に手動で追加する必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース.
2. リスト アイコンを選択します。
3. リストから リスクアセスメントプロジェクト に移動し、 完了 を選択します。
4. 再評価するリスクアセスメントプロジェクトを開きます。
5. [再評価] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[プロジェクトの再評価] ダイアログボックスが表示されます。

6. 再アセスメントの理由を選択し、[プロジェクトの再評価] ダイアログボックスに追加のコンテキストを入力します。
7. [**Confirm** (確認)] を選択します。
   リスクアセスメントプロジェクトが作成され、[スコープリスク] ステージに移行します。[定義] ステージの詳細は前回のアセスメントから事前に入力されています。
8. オプション: リスク アセスメント プロジェクトの詳細を変更するには、 [再定義] を選択します。

次のタスク

スタックビューでリスクアセスメントプロジェクトのアセスメントを実行する

リスクアセスメントプロジェクトの査定人を再アサイン

ステークホルダーの移行中の中断を最小限に抑えるために、進行中の複数のリスクアセスメントプロジェクトの査定人を同時に再アサインします。

始める前に

必要なロール:sn_risk_advanced.risk_asmt_project_manager

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース.
2. リスト アイコンを選択します。
3. リストから [リスクアセスメントプロジェクト] に移動し、[対応中] を選択します。
4. 査定人を再アサインするリスクアセスメントプロジェクトを選択します。
   [プロジェクトを再アサイン] ダイアログボックスが表示されます。
5. [プロジェクトを再アサイン] ダイアログボックスの [査定人を選択] フィールドで査定人を選択します。
6. [**Confirm** (確認)] を選択します。

のマトリクスレポート リスクワークスペース

マトリクスレポートは、 リスクワークスペースでグリッド形式またはテーブル形式で表示するように構成できる構造化レポートです。マトリクスレポートを使用すると、リスク、コントロール、KRI、イベントなどのエンティティ関連データを使用して、組織のリスク体制にアクセスして分析できます。

マトリクスレポートは、 リスクワークスペース内で構成可能なグリッドベースのビューを提供し、リスク、コントロール、KRI、イベントなどのエンティティ関連のリスクデータへのアクセスを一元化して簡素化するように設計されています。マトリクスレポートは、断片化された情報を単一のインターフェイスに統合することで、リスクマネージャーにエンティティのリスク体制の明確で包括的な全体像を提供します。

マトリクスレポートには、エンティティリスクプロファイルマトリクスのランディングページと個々のエンティティレコードページの両方からアクセスできます。マトリクスレポートは、異なるビューを切り替える必要性を減らし、エンティティの全体的なリスクプロファイルの評価を容易にします。データギャップの迅速な特定をサポートし、より効率的なリスク分析と意思決定を可能にします。

マトリクスレポートのメリット

マトリクスレポートのメリットは次のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- エンティティにリンクされたリスク、コントロール、KRI、イベントを 1 か所に表示することで、複数のレコードやページ間を移動する必要性が軽減されます。
- データ要素間の関係をより簡単に理解するのに役立つグリッドベースのレイアウトを提供します。
- アドミニストレーターが要件に基づいて列を設定できるようにします。
- 重要なデータをまとめることで、アプリケーションの異なるセクションの切り替えにかかる時間を最小限に抑えます。
- リスクマネージャーがエンティティのリスク体制を評価し、注意が必要なギャップや問題を特定するのに役立ちます。

マトリクスレポートレジストリの構成

マトリクスレポートレジストリを構成して、ベーステーブルを選択します。ベースとターゲットテーブルの関係を作成して、エンティティ関連レコードまたはランディングページのレポートの詳細を構成できます。

始める前に

必要なロール:sn_matrix_report.admin

手順

1. 移動先 すべて > マトリクスレポート > マトリクスレポートレジストリ.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. [名前] フィールドにマトリクスレポートレジストリの名前を入力します。
4. [ベーステーブル] フィールドでエンティティ **[sn_grc_profile]** を選択します。
5. **[Submit** (送信)] を選択します。
   マトリクスレポートレジストリが作成され、リストビューに表示されます。
6. 作成したマトリクスレポートレジストリを選択します。
   構成のベースレベルが自動的に入力され、ベースターゲットテーブルがそこに入力され、任意のフィルター条件を選択できます。次のレベルの構成では、マトリクスレポートのベーステーブルとターゲットテーブルの間に新しい関係を追加します。
7. [マトリクス関係] 関連リストで、[新規] を選択します。
8. フォームで、フィールドに入力します。
   フィールド値の説明については、「マトリクス関係フォーム」を参照してください。
9. **[Submit** (送信)] を選択します。
   マトリクスレポート構成のレベル 0 であるベーステーブルを構成しました。新しい構成を追加することもできます。たとえば、ベーステーブルを [エンティティ] として選択した場合、そのエンティティに関連するリスクなどの構成 (レベル 1) を追加できます。レベル 2 では、コントロールと問題の関係を構成できます。ソースとしての親レコードは、データが取得されるレコードを識別するのに役立ちます。

   注:
   ソース テーブルとリレーションシップは、マトリックス レポート レジストリで同じにすることはできません。

次のタスク

マトリクス関係が完了したら、 ターゲットテーブルフィールドをマトリクスレポートの列として構成できます。

のマトリクスレポート構成の作成 リスクワークスペース

レポートに名前を付け、表示タイプ (ランディングページまたはレコードページ) を選択し、ベーステーブルにフィルター条件を設定して、マトリクスレポート構成を作成します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

始める前に
必要なロール:sn_matrix_report.admin

手順

1. 移動先 すべて > マトリクスレポート > マトリクスレポート構成.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。
   フィールド値の説明については、「マトリクスレポート構成フォーム」を参照してください。
4. [送信] を選択します。

マトリクスレポート構成フォーム

マトリクスレポート構成フォームを使用して、 リスクワークスペースでマトリクスレポートを構成します。

マトリクスレポート構成フォーム

フィールド	説明
名前	レポートに表示されるマトリクスのタイトル。例:エンティティリスクプロファイルマトリクス。
マトリクスレポート	マトリクスレポートレジストリ参照。
ベーステーブル	マトリクスレポートレジストリのベーステーブル。
ワークスペース	このレポート構成が適用されるワークスペース。リスクワークスペースを選択する必要があります。
表示タイプ	表示のタイプ。オプションは次のとおりです。 • ランディングページ:この構成を [エンティティリスクプロファイルマトリクス] ページに適用するかどうかを選択するオプション。 • レコードページ:この構成を個々のエンティティレコードに適用するかどうかを選択するオプション。
デフォルトである	デフォルトの表示タイプのオプション。このフィールドは、[表示タイプ] でランディングページが選択されている場合にのみ表示されます。
マトリクス構成	
フィルターオン	ベーステーブルに適用される追加のフィルター条件。 この構成またはレポートが表示されるレコードまたはテーブル。このフィールドは、[表示タイプ] でランディングページが選択されている場合にのみ表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

マトリクスレポート構成フォーム (続く)

フィールド	説明
構成対象	この構成またはレポートが表示されるレコードまたはテーブル。 このフィールドは、[表示タイプ] で [レコードページ] が選択されている場合にのみ表示されます。
フィルター条件	構成されたテーブルのフィルター条件。
ベーステーブル関係	構成済みテーブルとベーステーブルの間の関係。

リスクワークスペースのランディングページとレコードページでマトリクスレポートを表示

一元化された構成可能なグリッドベースのビューで、リスク、コントロール、KRI、イベントなどのエンティティ関連データを使用して、組織のリスク体制にアクセスして分析します。マトリクスレポートは、ビューの切り替えに費やす時間を短縮し、リスクマネージャーがデータをより簡単に評価できるようにすることで、よりプロアクティブで簡素化されたリスク管理につながります。

始める前に

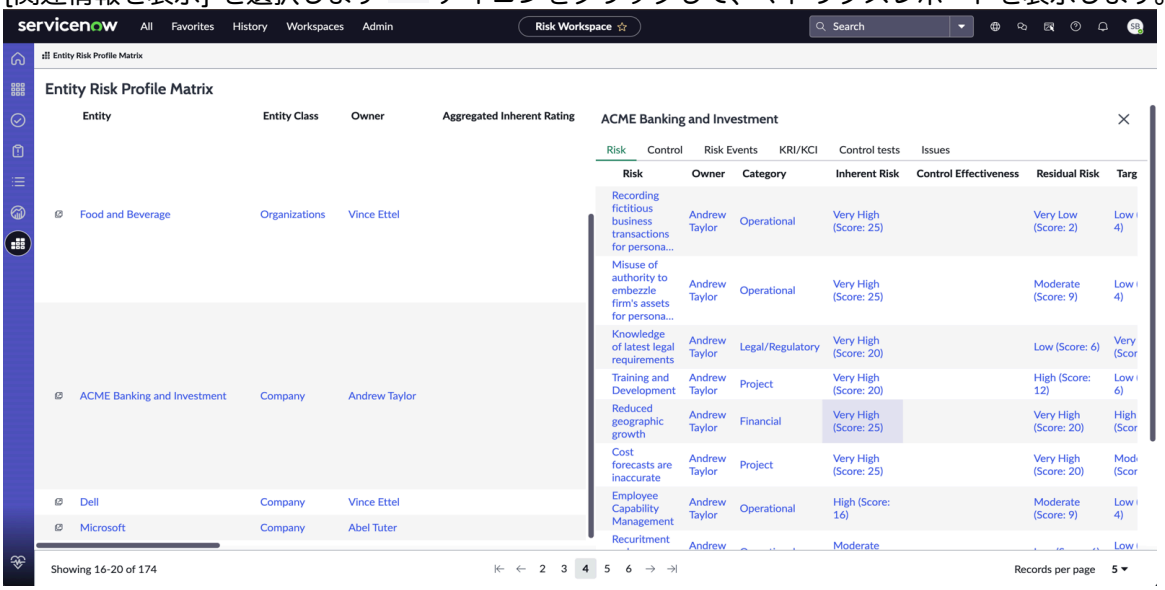
必要なロール:sn_risk_workspace.operational_risk_manager または sn_risk_workspace.IT_risk_manager または sn_risk_workspace.business_op_risk_manager

リスクワークスペース この機能を使用するには、マトリクスレポートプラグインをインストールする必要があります。

このタスクについて

手順

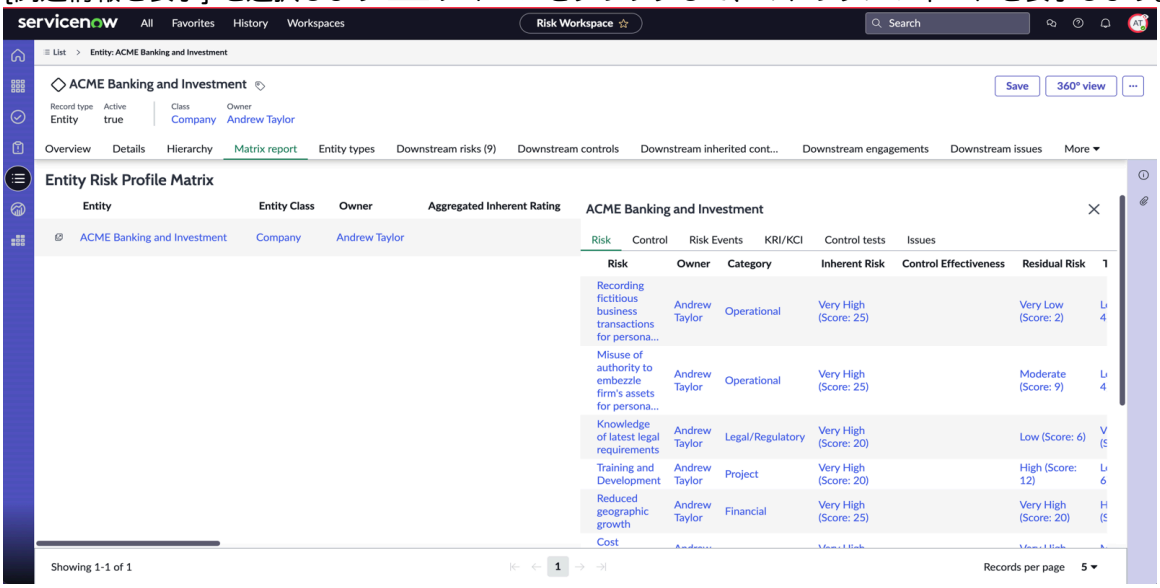
1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース.
2. [エンティティリスクプロファイルマ
   ランディングページの表示タイプのマトリクス構成については、 リスクワークスペースでマトリクスレポートを表示できます。
3. [関連情報を表示] を選択します アイコンをクリックして、マトリクスレポートを表示します。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

4. エンティティレコードページでマトリクスレポートを表示するには、リスト
5. マトリクスレポートを表示するエンティティレコードを開き、[マトリクスレポート] 関連リストを選択します。
6. [関連情報を表示] を選択します アイコンをクリックして、マトリクスレポートを表示します。



統合リスク管理 の GRC：メトリクス

リスクメトリクスは、特定のリスクのステータスを追跡および評価するために使用される定量化可能なメトリクスとして定義されます。メトリクスは、リスクのエクスポージャーを経時的に追跡するのに役立ちます。

リスクインジケーターは、オペレーショナルリスク管理内の重要なツールです。インジケーターは、リスクの監視とコントロールを容易にします。したがって、リスク識別、リスクおよびコントロールのアセスメント、効果的なリスク選好度の実装、リスク管理とガバナンスのフレームワークなど、さまざまなオペレーショナルリスク管理アクティビティとプロセスをサポートするために使用できます。インジケーターは、合格または不合格と呼ばれる 1 つのタイプの結果のみをサポートし、数値、パーセンテージ、金額などのデータタイプはサポートしていません。メトリクスは、インジケーターのエスカレーションと通知のメカニズムを改善し、データ所有者の特定の定義とインジケーターの分類を可能にします。

メトリクスの主なメリットは次のとおりです。

- リスクとコントロールのパフォーマンスを継続的に可視化します。
- リスクとコントロールパフォーマンスの変更についてそれぞれのオーナーにアラートを送信します。
- メトリクスデータ収集タスクを自動化して、組織の時間を節約します。
- 組織全体のリスク情報を効率的に監視して共有します。

での GRC：メトリクス の使用 **IRM**

GRC：メトリクスアプリケーションは、統合リスク管理 などのさまざまなアプリケーションで使用されます。

リスク管理と ESG (Environmental, Social, and Governance) はいくつかの点で交差する概念であり、ESG は投資家が企業の持続可能性を評価するために使用する基準を指します。ESG 要素では、気候変動、人権、多様性と包含、コーポレートガバナンス、サプライチェーン管理などの問題が考慮

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

されます。リスク管理では、財務、運用、評判のリスクなど、組織の目標達成能力に影響を与える可能性のあるリスクの特定、評価、および緩和を行います。管理が不十分な ESG 要素は企業に重大なリスクをもたらす可能性があるため、リスク管理と ESG の関係は強力です。たとえば、環境慣行が不十分な会社は、法務および規制、評判、および運用上のリスクに直面する可能性があります。同様に、ガバナンス慣行が不十分な会社は、法務および評判のリスクに加えて、利益相反や不適切な意思決定に関連するリスクに直面する可能性があります。ESG 要素をリスク管理プロセスに統合することで、企業はこれらのリスクを特定して軽減し、より持続可能で弾力性のあるビジネスモデルにつながることができます。たとえば、環境リスクを特定して軽減する企業は、将来の環境規制へのエクスポージャーを減らすことができますが、ガバナンスプラクティスを改善する企業は、評判および法務リスクへのエクスポージャーを減らすことができます。したがって、ESG リスクを効果的に管理する企業は、全体的なリスク管理機能を向上させ、長期的な価値を生み出し、ビジネスモデルの持続可能性を確保できます。

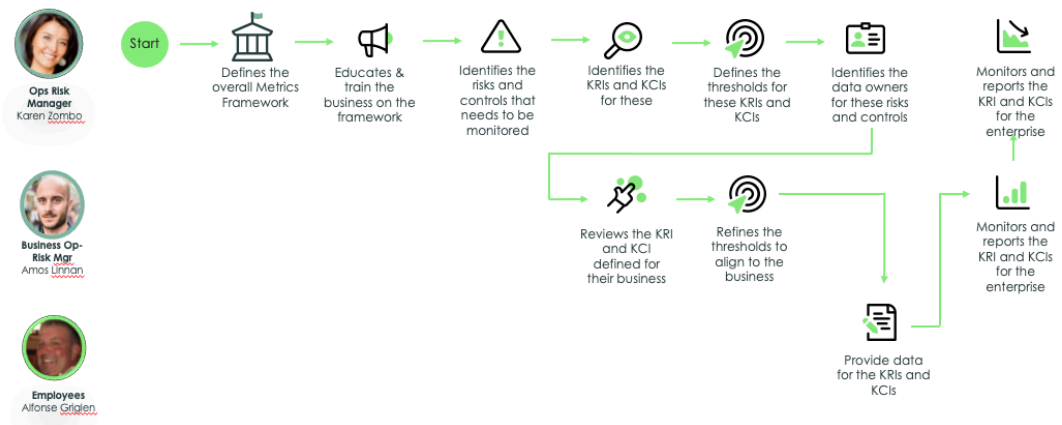
メトリクスのタイプ

メトリクスのタイプは次のとおりです。

- 重要なリスクインジケーター (KRI)：これらのインジケーターは、特定のリスクまたは一連のリスクに対するエクスポージャーの量を特定します。KRI の例としては、従業員サーベイによって決定されたスタッフの士気、IT に対して試行されたハッキングの数、損失イベント後の否定的なソーシャルメディア投稿の数などがあります。
- キーコントロールインジケーター (KCI)：これらのインジケーターは、特定のリスクエクスポージャーを削減または緩和するために実装されたコントロールの有効性を特定します。
- 重要業績評価指標 (KPI)：これらのインジケーターは、リスクエクスポージャーがどの程度効果的に管理されているかを示します。これらのインジケーターは、目標に対する達成度を示します。

次の画像は、メトリクスのワークフローを示しています。

メトリクスのワークフロー



インジケーターとメトリクスの差

インジケーターは自動化されたコントロールテストまたはアセスメントとして使用され、メトリクスは KRI および KCI モニタリングツールとして使用されます。次の表に、インジケーターとメトリクスの違いを列挙します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インジケーターとメトリクス

GRC インジケーター	メトリクス
リスクとコントロールの継続的な監視、およびサポートデータの収集に使用されます。	システム、コンポーネント、またはプロセスが特定の属性をどの程度持っているかを測定するために使用されます。☒
リスクまたはコントロールを監視するために使用できます。	任意の GRC オブジェクトを測定するために使用できます。
合格や不合格などのバイナリ値のみを指定できます。	定量的 (数値) または定性的 (テキスト) の任意の値を設定できます。

[store-future: BEGIN review]

GRC：メトリクス の探索

メトリクスは、組織のプロセスの有効性を測定および評価するために使用します。1 つのメトリクスまたは組み合わせたメトリクスにより、システム、コンポーネント、またはプロセスに関するインサイトが得られます。

GRC：メトリクスの概要

GRC：メトリクス アプリケーションは、他のアプリケーションでプロセスのパフォーマンスを評価、比較、追跡することを可能にします。

GRC：メトリクス ユーザー

GRC：メトリクス の探索

ユーザー

ユーザー	説明

ワークフロー

TBD

1.
2.

のメリット

のメリット

メリット	機能	ユーザー

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次に探索する内容

の構成と使用の詳細については、以下を参照してください。
-
-
-

[End]

GRC：メトリクス の探索

メトリクスは、組織のプロセスの有効性を測定および評価するために使用します。1 つのメトリクスまたは組み合わせたメトリクスにより、システム、コンポーネント、またはプロセスに関するインサイトが得られます。GRC：メトリクス アプリケーションは、他のアプリケーションでプロセスのパフォーマンスを評価、比較、追跡することを可能にします。

メトリクス

GRC：メトリクス アプリケーションは、ServiceNow® Store から ESG Management アプリケーションとともに自動的にインストールされます。メトリクスの定義とメトリクスの読み取り、作成、更新の責任を担うユーザーロールは、ESG Management メトリクスマネージャー (sn_esg.metrics_manager) です。

GRC：メトリクス アプリケーションでは、[メトリクス] フォームを使用してメトリクスを定義できます。メトリクスは、メトリクスの定義とエンティティの組み合わせです。メトリクスの定義をエンティティに適用すると、メトリクスが作成されます。メトリクスが定義されると、プロセスの有効性とパフォーマンスを追跡するためのデータが収集されます。たとえば、インシデントの解決にかかる時間を計算することでインシデント解決プロセスの有効性を測定するメトリクスを考えてみます。

すべての組織には、独自のメトリクス分析をビルドおよび構造化するためのさまざまなデータソースがあります。有用なメトリクスを確立するために、メトリクスマネージャーは最初に目標を評価して設定する必要があります。次に、マネージャーは、ビジネス上の意思決定と統合されるメトリクスのターゲットを設定します。

定性的メトリクスと定量的メトリクス

メトリクスは、定性的測定と定量的測定に分類できます。

ESG Management の定性的メトリクスは、他の情報に基づいて作成した主観的な意見から得られます。ESG Management セクターの定性的メトリクスの例には、ブランドの信頼性、企業価値などがあります。

ESG Management 内の定量的メトリクスは、特定の式で具体的な値として測定できるメトリクスです。組織の定量的メトリクスの例には、レポートされるエネルギーの総使用量、地域別のエネルギー使用量などがあります。

メトリクスの例

組織内のビジネスエンティティの温室効果ガス排出量を測定する例を考えてみましょう。温室効果ガス排出は、国際的な温室効果ガス (GHG) プロトコルによりスコープと呼ばれている 3 つのグループに分類されます。

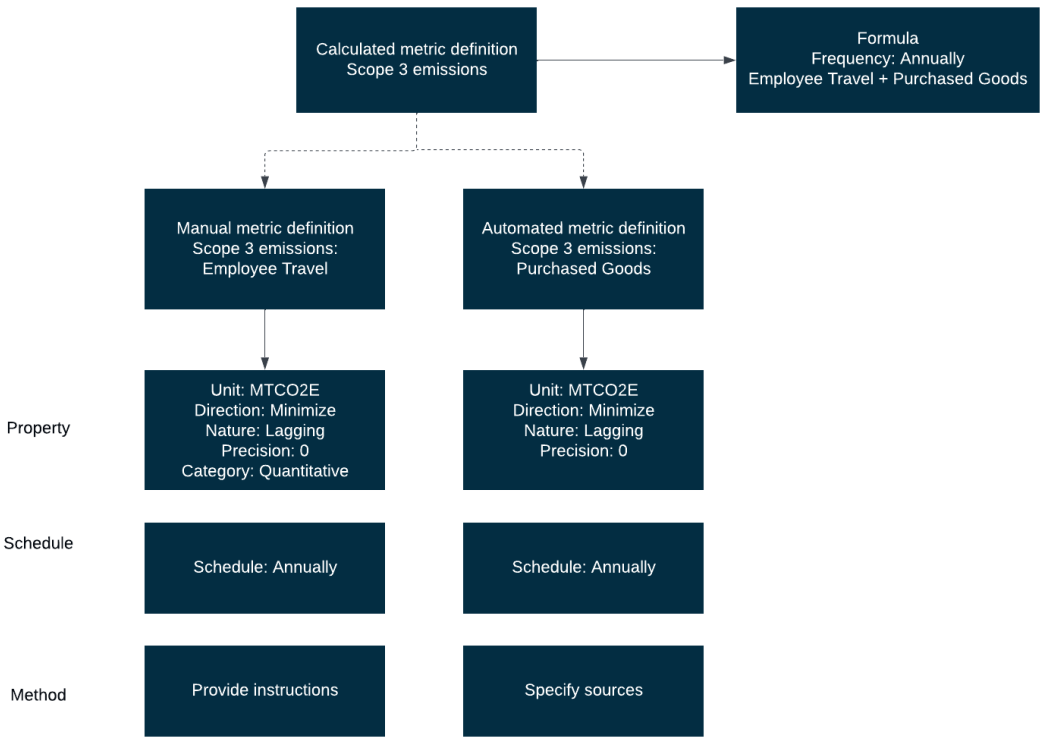
従業員の出張と購入品というカテゴリに対して、スコープ 3 の排出のメトリクスを測定するとします。従業員の出張ポリシーは、組織内のすべての従業員に適用されます。メトリクスの定義で手順を指定することで、従業員の出張ポリシーのメトリクスを手動で収集できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

一方、購入品のメトリクスは、メトリクスの定義で指定された条件、メソッド、スケジュール、およびコアプロパティに基づいて自動的に収集されます。メトリクスの収集プロセスを次の図に示します。

メトリクスの定義



エンティティ別のメトリクスデータ

エンティティ別のメトリクスデータテーブル (sn_grc_metric_data_by_entity) には、エンティティのメトリクスの定義データとメトリクスデータ、およびエンティティ階層で定義された親エンティティのアグリゲートデータが入っています。たとえば、ESG レポート開示マネージャーが特定の場所での年間総排出量を把握する必要があり、その場所に複数のサブ場所がある場合は、データを集計してレポート目的に使用することもできます。たとえば、組織の場所が日本であるとします。そして日本には東京と京都の 2 つのサブ場所があるとします。日本での 2022 年のスコープ 1 の年間総排出量を求める必要があるとします。時間次元機能を使用すれば、データを集計すると年間総排出量を出すことができます。レポート要件に応じて、四半期、週、または月のデータを集計することもできます。このテーブルのデータは、メトリクスまたはエンティティのカレンダーに従って収集されます。

GRC：メトリクス のコンポーネント

メトリクスは、メトリクスの定義、メトリクスデータ、メトリクスの定義データ、メトリクスのデータタスクといった複数のコンポーネントで構成されています。これらの要素やパーツはすべて、さまざまな方法でメトリクスの収集プロセスに貢献します。

メトリクスの定義

メトリクスの定義は、メトリクスのコアプロパティの設定に役立つテンプレートレベルのレコードです。これらのプロパティには、メトリクスの単位、方向、性質、精度、データ収集の頻度、およびカテゴリが含まれます。メトリクス自体がスコアを収集して、定義されたメトリクステンプレートにそのスコアが集計されます。メトリクスの定義を作成して使用することのメリットは、このようなメトリクスの定義テンプレートを使用することで、メトリクスを作成するプロセスを簡素化できることにあります。たとえば、複数の事業部門があり、それぞれの収益データを収集する必要があるとします。メトリクスの定義がないと、事業部門ごとに個別のテンプレートを作成し、メトリクスのプロパ

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ティを繰り返し指定する必要があります。しかし、メトリクスの定義を使用すると、このタスクを簡素化できます。メトリクスの定義を作成すれば、エンティティ (この場合は事業部門) を簡単に添付し、同じ作業を何度も行うことなくメトリクスを収集できます。

GRC：メトリクス アプリケーションには、次のタイプのメトリクスの定義が入っています。

- 自動メトリクスの定義：データは自動的に収集されます。
- 手動メトリクスの定義：データは手動で収集されます。
- 計算済みメトリクスの定義：データは、他の子メトリクスからデータを集計することによって収集されます。

メトリクスデータ

メトリクスを実行すると、メトリクスデータが作成されます。手動メトリクス定義の場合は、メトリクスデータタスクがクローズされると、メトリクスデータの値がメトリクスデータタスクからコピーされます。既存のメトリクス定義とメトリクスに関する最新情報のオフサイクル要求に対応するために、手動メトリクスでアドホックメトリクスデータタスクを作成できます。メトリクスデータフォームの [アドホック] オプションは、メトリクスデータタスクがアドホックタスクとして作成されたかどうかを示します。これらのアドホックタスクは、集計されたメトリック定義データに寄与せず、エンティティ階層のロールアップでは考慮されず、しきい値評価の差異 (%) では評価されないことに注意してください。ただし、計算済みメトリクス定義で [計算レベル] が [エンティティ] に設定されており、手動メトリクス定義からのアドホックタスクがある場合、これらのタスクが集計されて計算済みメトリクス定義データが導出されます。

スクリプト化された自動メトリクスの定義の場合は、スクリプトを実行すると値が更新されます。基本的な自動メトリクスの定義の場合は、選択したテーブルから値が更新されます。[不一致 **(%)**] フィールドには、現在の期間と前の期間のメトリクスデータの差異が表示されます。値はパーセンテージで表示されます。[前回の期間データ] フィールドは、前の期間のメトリクスデータを参照します。

メトリクスの定義データ

メトリクスの定義が実行されて集計されると、メトリクスの定義データが自動的に作成されます。メトリクスの定義データのページの [不一致 **(%)**] フィールドに、現在の期間と前の期間のメトリクスの定義データの差異が表示されます。値はパーセンテージで表示されます。[前回の期間データ] フィールドは、前の期間のメトリクスの定義データを参照します。

メトリクスのデータタスク

メトリクスのデータタスクは、手動メトリクスの定義にのみ適用されます。これらのタスクは、手動メトリクスが実行され、データ所有者がこれらのタスクに対する応答を手動で入力するたびに生成されます。メトリクスデータテーブルを使用すると、複数のメトリクスデータタスクに応答を入力できます。詳細については、「メトリクスデータテーブル」を参照してください。

メトリクスマネージャーには、メトリクスデータタスクに承認が必要かどうかを判断する権限があります。承認が必要な場合は、次の 2 つの方法から選択できます。つまり、`Metric approval`プロパティを使用して、簡易承認または詳細承認から選択できます。このプロパティの詳細については「Components installed with ESG Management」を参照してください。

メトリクスの定義のタイプ

メトリクスマネージャーは、メトリクスの定義を作成することで、メトリクスを定義します。メトリクスの定義はテンプレートレベルのレコードです。メトリクスの定義では、単位、方向、性質、精度、カテゴリなどのメトリクスのコアプロパティを設定します。メトリクスはスコアを収集し、これらのスコアはメトリクスの定義にロールアップされます。

GRC：メトリクス アプリケーションは、次のタイプのメトリクスの定義を提供します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 自動メトリクスの定義：データは自動的に収集されます。
- 手動メトリクスの定義：データは手動で収集されます。
- 計算済みメトリクスの定義：データは、他の子メトリクスからスコアを集計することによって収集されます。

これらのタイプのメトリクスの定義については、以降のセクションで詳しく説明します。

自動メトリクスの定義

自動メトリクスの定義では、メトリクスのプロパティ、メソッド、スケジュールなど、メトリクスの定義で定義された条件に基づいて、データが自動的に収集されます。このメソッドの場合、メトリクスマネージャーは、メトリクスデータの収集に使用するソーステーブルまたはスクリプトと、メトリクスデータをフィルタリングするためのフィルタリング基準を指定します。詳細については、「自動メトリクスの定義の作成」を参照してください。

手動メトリクスの定義

手動メトリクスの定義では、データ収集のモードは手動です。特定のメトリクスのデータ所有者は、手順に従ってメトリクスデータを提供します。メトリクスマネージャーは、メトリクスの定義に対しメトリクスのプロパティ、メソッド、およびスケジュールを定義する必要があります。このメソッドの場合、メトリクスマネージャーとしてメトリクスの定義の手順を指定します。また、データ所有者タイプ、データ所有者、承認の詳細などのデータ収集の詳細を指定します。

手動メトリクスの定義では、メトリクスの定義で定義されている頻度に応じて、メトリクスデータタスクが生成されます。メトリクスマネージャーは、タスクのデータを提供するデータ所有者にタスクをアサインできます。詳細については、「手動メトリクスの定義の作成」を参照してください。メトリクスデータタスクが作成されると、システムで生成されたメール通知がタスク所有者に送信されます。メトリクスデータの所有者は、メトリクスタスクモジュール ( )を使用して複数のメトリクスのデータを提供できます。詳細については、「複数のメトリクスのデータの入力」を参照してください。

メトリクスデータタスクにはそれぞれ、手動メトリクスの定義フォームで定義された期日があります。デフォルトでは、期日は 8 時 ～ 5 時のスケジュールに従って決まります。ただし、リスクアドミニストレーターがスケジュールを変更することもできます。詳細については、「Create a new schedule」を参照してください。リスクアドミニストレーターがスケジュールを上書きしたい場合は、*sn_grc_metric.metric_data_task_schedule* プロパティを変更できます。

メトリクスの定量的カテゴリと定性的のカテゴリはいずれも、手動メトリクスの定義を使用して作成できます。

手動メトリクスの定義を自動メトリクスの定義に、自動メトリクスの定義を手動メトリクスの定義に変換することができます。手動メトリクスの定義にオープンタスクがある場合は、手動メトリクスの定義を変換する前に、まずそのタスクをクローズする必要があります。

計算済みメトリクスの定義

計算済みメトリクスの定義は、その子からスコアを計算します。これには、自動および手動のメトリクスの定義、メトリクス (定量的)、および同じ頻度のその他の計算済みメトリクスの定義を含めることができます。メトリクスマネージャーは、メトリクスの定義スコアの計算方法と計算頻度を指定する必要があります。

計算済みメトリクスの定義は、その子からスコアをロールアップします。計算済みメトリクスの定義で定義されるロールアッププロパティは、ロールアップ式とロールアップ頻度のスケジュールから構成されています。計算済みメトリクスの定義には、自動および手動のメトリクスの定義と、その子として、親の計算済みメトリクスの定義と同じ頻度のメトリクスを含めることができます。詳細については、「計算済みメトリクスの作成」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンティティへのメトリクスの定義の適用

メトリクスの定義を組織内のエンティティに適用できます。各エンティティにメトリクスを定義する代わりに、メトリクスの定義を一旦定義してから、そのメトリクスの定義を複数のエンティティに適用することができます。

たとえば、組織内のエンティティの温室効果ガス排出量を測定するとします。各エンティティのメトリクスを定義するのは時間がかかるプロセスです。メトリクスの定義を作成することで、メトリクスを一旦定義してから、そのメトリクスの定義をエンティティに適用することができます。

次の図は、メトリクスデータ定義をエンティティに適用する方法を示しています。購入品のメトリクスカテゴリに対する自動メトリクスの定義がある場合は、そのメトリクスを組織内の製品エンティティと IT エンティティに適用できます。従業員の出張などの手動メトリクスの定義がある場合は、出張ポリシーが企業全体の全員に適用されるため、組織内の Enterprise エンティティにメトリクスを適用できます。

エンティティへのメトリクスデータ定義の適用



統合リスク管理 のしきい値

メトリクスのコンテキストでは、しきい値は、メトリクスのパフォーマンスを評価するために使用される事前定義された値または制限を参照します。これらのしきい値は通常、特定の基準または目標に基づいて定義され、測定値またはパフォーマンスが目的のレベルを満たしているか、超えているか、下回るかを判断するための参照ポイントとして機能します。

しきい値の 3 色 (赤、オレンジ、緑) は、パフォーマンスまたはステータスのさまざまなレベルを示すために一般的に使用されます。これらの色はステータスを示します。緑色はメトリクスが期待どおりに良好に実行されていることを示し、オレンジは注意または警告を示し、赤色は重大な状況を示します。たとえば、メトリクスの方向を [最小化] に設定して、信用リスクの軽減を目的としたメトリクスの定義を確立したシナリオを考えてみましょう。この場合、メトリクス値は指定されたしきい値よりも低くなければなりません。この要件は、汚染の増加を防ぎ、代わりにその削減を促進するという意図から発生します。メトリクス値が定義された制限よりも高い場合、値は赤またはオレンジで表示されます。しきい値は、定量的メトリクスの定義にのみ適用されます。

しきい値のタイプ

メトリクスのしきい値には 2 つのタイプがあります。

- 静的：メトリクスまたはメトリクスの定義の静的しきい値は、メトリクスを追跡するための制限として使用される固定値を参照します。
- 動的：動的しきい値はパーセンテージで指定されます。つまり、パーセンテージの差異は、方向と前のデータの 2 つの要素に基づいて計算されます。

  たとえば、2023 年 6 月の離職率は業界平均に基づいて 12% であり、リスクレベルが比較的低いことを示しています。その目的は、離職リスクを最小限に抑えることであるため、メトリクス値の増加は望ましくないと見なされます。2023 年 7 月に新しいメトリクスデータが収集され、離職リスクメトリクスが 5% 逸脱していることが示されています。この増加の重要性を評価するため

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

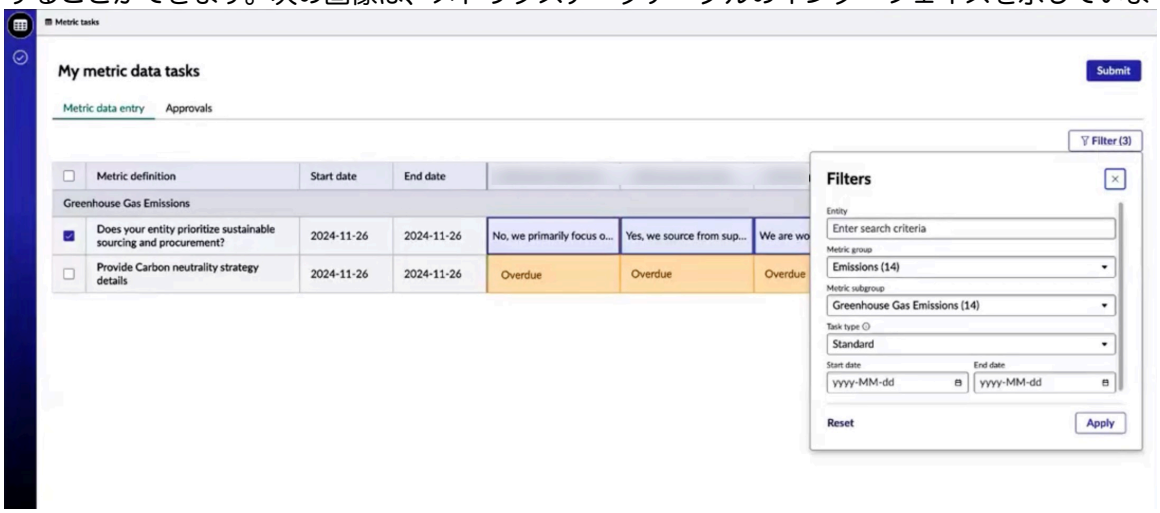
に、さまざまなレベルの変更を表すさまざまなしきい値を定義できます。これらのしきい値は、前の期間のデータ (この場合は 2023 年 6 月から) との差異パーセンテージとして表されます。たとえば、組織が 5% ~ 10% のしきい値範囲を設定しているとします。6 月から 7 月までの離職リスクメトリクスの変化率がこの範囲内にある場合、しきい値ステータスは「オレンジ」に分類されます。これは中程度のレベルの変化を示し、メトリクスが目的のターゲット値から逸脱しているが、まだ重大ではないことを示しています。ただし、離職リスクメトリクスの変化率が 15% を超えるか、15% に達すると、しきい値ステータスは「赤」に分類されます。これは、目的のターゲット値から大きく逸脱しているため、即時の注意または是正処置が必要な重大な変更を意味します。これらのしきい値レベルを監視することで、組織は増加する離職リスクを迅速に特定して対処し、効果的なリスク管理を実現できます。

詳細については、「メトリクスの定義のしきい値を作成」を参照してください。

メトリクスデータテーブル

メトリクスデータテーブルを使用すると、複数のフィルターを備えたスプレッドシートやタスク管理ワークフローなどの使いやすいインターフェイスを使用して、組織全体のメトリクスのデータを収集できます。

データ所有者は、メトリクスデータテーブル ( ) にアクセスして、自分にアサインされたタスクを完了することができます。次の画像は、メトリクスデータテーブルのインターフェイスを示しています。



メトリクスデータテーブルには次のメリットがあります。

- 組織全体のデータ収集が簡素化されます。
- 複数のタスク間を移動しなくても、データ所有者が対応すべきすべてのメトリクスを 1 か所で表示できます。
- 一度に最大 700 件のタスクを表示します。
- エンティティ、メトリクスグループ、メトリクスサブグループ、開始日、終了日、および承認レベルでメトリクスデータタスクをフィルタリングできるようにすることで、データ提供プロセスを簡素化します。
- オープンタスクの数を括弧内に表示します。
- データに対するすべての変更と変更を行ったユーザーの監査記録を維持します。
- メトリクスをエンティティごとに分けて表示できます。
- データを入力する際に従うべき指示など、追加情報が参照用にデータ所有者に提供されます。
- ユーザーがコンテキストサイドパネルでファイルを添付し、関連するドキュメントとリンクを添付できるようになります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ESG プログラムマネージャーとメトリクスマネージャーは、データ所有者によって送信されたデータを表示し、コメント付きで複数のデータタスクを承認または却下できます。
- データ所有者が [アクティビティ] タブで却下コメントを表示できるようにします。
- 定量的メトリクスの過去 3 つのデータの傾向を確認できるようになります。
- タスクの承認者と承認ステータスを確認できます。
- 前の期間のデータと比較したときのデータの差異の割合が表示されます。
- メトリクスがしきい値を超えた場合に、しきい値ステータスが表示されます。
- 最後の期間のデータを確認できます。

メトリクスの構成

GRC：メトリクスを構成して、組織のニーズを満たすことができます。

メトリクスアドミニストレーターは、次のことを実行できます。

- 手動メトリクスの定義の作成
- 計算済みメトリクスの作成
- 自動メトリクスの定義の作成
- メトリクスの更新
- メトリクス単位の作成
- メトリクスの作成
- メトリクスの定義のしきい値を作成

手動メトリクスの定義の作成

メトリクスのデータを手動で収集するための手動メトリクスの定義を作成します。

始める前に

必要なロール：sn_grc_metric.manager、sn_risk.user、および sn_compliance.user

このタスクについて

手動メトリクスの定義では、データ収集のモードは手動です。定性的および定量的メトリクスを設定するためのオプションがあります。

注:
自動メトリクスの定義または手動メトリクスの定義を作成するためのフォームは、同じ sn_grc_metric_definition テーブルを指します。2 つのフォームの違いは収集のメソッドです。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース > リスト > メトリクス > 手動メトリクスの定義.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。
   フィールドの詳細については、「[手動メトリクスの定義] のフィールド」を参照してください。
4. [保存] をクリックします。

タスクの結果

メトリクスの定義は [メトリクスの定義] リストに保存されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
エンティティタイプを関連付けて、メトリクスを作成し、メトリクスの定義に信頼できるソースコンテンツを追加することができます。詳細については、「メトリクスの定義の更新」を参照してください。

[手動メトリクスの定義] のフィールド

[手動メトリクスの定義] フォームのフィールドについて詳しく説明します。

新しい手動メトリクスの定義のフォーム

フィールド	説明
基本的な詳細	
名前	手動メトリクスの定義の名前。たとえば、「インシデントの数」。
アクティブ	手動メトリクスの定義をアクティブとしてマークするオプション。
説明	手動メトリクスの定義の簡潔な説明。
カテゴリ	メトリクスデータのカテゴリ。選択肢は次のとおりです。 • 定性的：定性的データは本質的に無形であり数値ではありません。プロセスまたはビジネスアクティビティの特性によって定義されます。 • 定量的：定量的データは本質的に有形であり数値で表されます。数値または重要業績評価指標によって定義されます。 **注:** [性質]、[方向]、[精度]、および [単位] の各フィールドは、手動メトリクスの定義のカテゴリが [定量的] の場合にのみ表示されます。
カレンダー	メトリクスのアグリゲーションに使用するカレンダー。構成されたカレンダーオプションのみ選択できます。このフィールドは自動的に [標準カレンダー **(Standard Calendar)]** に設定されます。 **注:** 標準カレンダーとは、グレゴリオ暦を指します。
アグリゲーション方法	すべてのエンティティのメトリクスデータを計算するために使用される方法。たとえば、人員、部門、地域など、複数のエンティティについて測定する際のメトリクスがある場合、各エンティティのスコアをどのように計算すれば、全体的なパフォーマンスを表す単一のスコアを算出できるかを知りたい場合があります。アグリゲーション方法の選択は、メトリクスの収集

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい手動メトリクスの定義のフォーム (続く)

フィールド	説明
	の目標によって異なります。たとえば、全体的なパフォーマンスに関心があり、エンティティ間のスケールやサイズの違いを考慮する必要がある場合は、合計または平均の方が適している可能性があります。最もパフォーマンスの高いエンティティを特定する場合は最大値がより適切であり、最もパフォーマンスの低いエンティティを特定する場合は最小値がより適切であると思われます。集計は、メトリクスの定義で指定された頻度に基づいて、期間全体で行われます。頻度が月次の場合、計算は毎月行われます。集計方法の 4 つの選択肢は次のとおりです。 • 合計：すべてのエンティティのメトリクスデータの合計によって、単一のスコアが作成されます。 • 平均：すべてのエンティティのメトリクスデータの平均によって、単一のスコアが作成されます。 • 最大：すべてのエンティティの中で最も高いメトリクスデータが単一スコアとして使用されます。 • 最小：すべてのエンティティの中で最も低いメトリクスデータが単一スコアとして使用されます。
単位	手動メトリクスの定義の単位。
精度	スコアの小数点以下の桁数。このフィールドは自動的に **0** に設定されます。 精度が 0 に設定されている場合、結果は最も近い整数に丸められます。たとえば、精度が 0 のメトリクスの定義で値 7 + (5 / 2) を計算した場合、結果は 10 に丸められます。 精度が 0 より大きな値に設定されている場合、結果は、指定された精度に最も近い小数点に丸められます。たとえば、精度が 1 の場合、4.45 の結果は 4.5 に丸められます。
頻度	メトリクスの定義でスコアを収集する必要がある頻度。選択肢は次のとおりです。 • 日次 • 週次 • 毎月 • 四半期ごと

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい手動メトリクスの定義のフォーム (続く)

フィールド	説明
	• 半年ごと • 年次
最初の開始日	頻度に応じたデータ収集のメトリクス定義の実行開始日。
データコレクション	
データ所有者アサインタイプ	メトリクスの定義内のメトリクスに対するデータ所有者アサインのタイプ。選択肢は次のとおりです。 • シンプル 指定されたデータ所有者またはデータ所有者グループがメトリクスにアサインされます。 • **Advanced** (詳細) アサイン構成に基づいてデータ所有者がアサインされます。ESG アドミン [sn_esg.admin] またはリスクアドミン [sn_risk.admin] は、データ所有者を動的に割り当てるためのアサイン構成を設定できます。アサイン構成の作成の詳細については、「Create an assignment configuration」および「アサイン構成の新規レコード」を参照してください。 **注:** これは、 GRC：承認コンフィギュレーター アプリケーションがインストールされている場合に使用できます。詳細については、「承認コンフィギュレーターを使用した承認の設定」を参照してください。
データ所有者タイプ	手動メトリクスの定義を担当するデータ所有者のタイプ。選択肢は次のとおりです。 • ユーザー • ユーザーグループ
データ所有者	手動メトリクスの定義を担当するデータ所有者。リストからデータ所有者を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい手動メトリクスの定義のフォーム (続く)

フィールド	説明
	注: [データ所有者] 割り当てタイプの詳細オプションを選択した場合、割り当て構成が結果を返さないと、このデータ所有者が割り当てられます。
結果タイプ	アサインされたメトリクスデータタスクの応答に使用できるようにする形式。これは、応答と上書きされた応答に適用されます。 • テキスト:ユーザーはプレーンテキストの応答を入力できます。 • HTML:ユーザーは応答として HTML コードを入力できます。 • 選択肢:ユーザーはリストから選択肢を選択できます。 このフィールドは、[カテゴリ] フィールドが [定性的] に設定されている場合に表示されます。
選択肢テーブル	選択肢の入力元のテーブル。このフィールドは、[カテゴリ] フィールドが [定性的] に設定されている場合に表示されます。
選択肢フィールド	各選択肢に対して表示される、選択したテーブルのフィールドとその値。このフィールドは、[カテゴリ] フィールドが [定性的] に設定されている場合に表示されます。
選択条件	設定された条件で [選択肢] フィールド内の特定のフィールドまたは特定の値のみを表示するオプション。[条件の設定] を選択して条件ビルダーを開きます。このフィールドは、[カテゴリ] フィールドが [定性的] に設定されている場合に表示されます。
説明	データ所有者向けの説明。手動メトリクスの定義の収集方法。
承認が必要	手動メトリクスの定義に承認が必要かどうかを示すオプション。 注: [承認が必要] オプションを有効にすると、[承認者タイプ] フィールドと [承認者] フィールドが表示されます。
承認者タイプ	メトリクスの定義の承認者のタイプ。選択肢は次のとおりです。 • ユーザー • ユーザーグループ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい手動メトリクスの定義のフォーム (続く)

フィールド	説明
	注: このフィールドは、メトリクスの承認プロパティが [簡易 **(Simple)]** に設定されている場合にのみ表示されます。詳細については、「Components installed with ESG Management」を参照してください。
承認者	メトリクスの定義を承認する承認者ユーザーまたは承認者グループ。選択肢は次のとおりです。 • 承認者：[ユーザー] オプションが選択されている場合に表示されます。 • 承認者グループ：[ユーザー] オプションが選択されている場合に表示されます。 注: このフィールドは、メトリクスの承認プロパティが [簡易 **(Simple)]** に設定されている場合にのみ表示されます。詳細については、「Components installed with ESG Management」を参照してください。
メトリクスのプロパティ	
タイプ	スコアが手動で収集されるか、自動で収集されるかを決定するために使用される方法。選択肢は次のとおりです。 • 自動 • 手動 [手動] を選択します。
エンタープライズ所有者タイプ	手動メトリクスの定義を担当するエンタープライズ所有者のタイプ。選択肢は次のとおりです。 • ユーザー • ユーザーグループ
方向	メトリクスを表示する方向。選択肢は次のとおりです。 • なし：メトリクスの方向を変更しない場合は、このオプションを選択します。 • 最小化：目的のメトリクスの方向が下向きである場合は、このオプションを選択します。 • 最大化：目的のメトリクスの方向が上向きである場合は、このオプションを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい手動メトリクスの定義のフォーム (続く)

フィールド	説明
	• マイルストーン：メトリクスの方向が適用されないが、メトリクスがマイルストーンに対して追跡される場合は、このオプションを選択します。 **注:** しきい値は、 マイルストーンを除くすべての方向に設定できます。しきい値の作成の詳細については、次を参照してください。 Create a threshold for a metric
グループ	メトリクスが関連する領域。
レポート分類	測定基準をカテゴリ分けする際に使用するタグ。
期日オフセット	メトリクスデータタスクが期限切れになるスケジュール最終日からの経過日数。たとえば、メトリクスの定義の頻度が月次で、このフィールドに 15 を入力すると、メトリクスデータタスクの期日は月の終了から 15 日後に期限切れになります。
エンタープライズ所有者	手動メトリクスの定義のエンタープライズ所有者。
性質	手動メトリクスの定義の性質。選択肢は次のとおりです。 • なし：メトリクスの方向を変更しない場合は、このオプションを選択します。 • 先行 (予測型) メトリクス：予測型であり、将来の結果を予測するために役立ちます。この場合、企業は、生産単位あたりのエネルギー消費量など、GHG 排出量に関連する主要なメトリクスを使用できます。エネルギー消費を追跡することで、使用するエネルギー源と生産プロセスの効率に基づいて、将来の GHG 排出量を予測できます。この主要なメトリクスにより、企業は改善が必要な領域を事前に特定し、情報に基づいた意思決定を行うことで、排出量を削減できます。 • 遅行 (影響度を測定する) メトリクス：過去のアクションまたはイベントの影響度を測定します。この例では、GHG 排出量に関連する遅行メトリクスは、特定の年に会社が生産した総排出量である可能性があります。このメトリクスにより、会社の過去の環境に対する影響のアセスメントが行われます。このメトリクスを経時的に監視することで、会社は排出削減への取り組みの有効性を評価し、さらに改善が必要な領域を特定できます。遅行メトリクスは、過去のアクションの結果を測定

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい手動メトリクスの定義のフォーム (続く)

フィールド	説明
	し、将来の戦略に対して情報を提供するために役立ちます。 • 現在のメトリクス：進行中のプロセスを監視し、リアルタイムの改善領域を特定します。GHG 排出量の場合、現在のメトリクスは、生産単位あたりの排出量を測定する排出原単位である可能性があります。排出原単位を追跡することで、企業は、排出量の増加に寄与している事業内の特定の領域を特定できます。このメトリクスは、エネルギー使用の最適化、エネルギー効率の高いテクノロジーの導入、再生可能エネルギー源の採用など、企業がリアルタイムでの改善の機会を特定するために役立ちます。
サブグループ	メトリクスが関連するサブグループ。
主要メトリクス	ビジネスの重要なメトリクスであるかどうかを示すオプション。
機密性	
注: このセクションは、次の場合にのみ表示されます。 • GRC プロパティの下で *sn_grc.enable_record_confidentiality* プロパティが有効になっている。 • レコードが [ドラフト] ステータスである。	
機密	レコードを機密としてマークするオプション。
許可されたユーザー	レコードを表示できるユーザー。 注: デフォルトでは、ログインしているユーザーは機密ユーザーのリストに追加されます。
許可されたグループ	レコードを表示できるグループ。

アサイン構成の作成

手動メトリクス定義のアサイン構成を作成して、データ所有者がメトリクスに動的にアサインされるようにします。

始める前に

必要なロール:admin、sn_esg.admin、または sn_risk.admin

このタスクについて

手動メトリクスの定義では、データ所有者をアサインするための簡単なオプションまたは高度なオプションを選択できます。詳細オプションでは、新しいアサイン設定レコードを作成して、データ所有

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

者のアサイン方法を設定する必要があります。手動メトリクスの定義のフォームとフィールドの詳細については、「 [手動メトリクスの定義] のフィールド」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > アサイン構成および承認構成 > アサイン構成.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。
   フィールドの詳細については、「アサイン構成の新規レコード」を参照してください。

   注:
   同じ優先度で複数の承認構成をテーブルに適用することはできません。

4. **[Save** (保存)] を選択します。

タスクの結果
データ所有者は、アサイン構成で設定されたパラメーターに基づいてメトリクスにアサインされます。

注:
アサイン構成で結果が返されない場合は、メトリクスの定義レコードの [データ所有者] フィールドで定義されたユーザーがデータ所有者としてアサインされます。

自動メトリクスの定義の作成

メトリクスのデータを収集するための自動メトリクスの定義を作成します。メトリクスの定義では、メトリクスの方法と主要なプロパティ (メトリクスの単位、方向、性質など) を指定します。

始める前に
必要なロール：sn_grc_metric.manager、sn_risk.user、および sn_compliance.user

このタスクについて
自動メトリクスの定義では、メトリクスの定義で定義された条件に基づいて、データが自動的に収集されます。条件内に、メトリクスデータの収集に使用するテーブルを指定します。たとえば、特定の月に記録されたすべてのインシデントのデータを取得する場合は、インシデントテーブルをデータ収集のソースとして指定できます。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース > リスト > メトリクス > 自動メトリクスの定義.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。
   フィールドの詳細な説明については、「自動メトリクスの定義のフィールド」を参照してください。
4. [保存] をクリックします。

   注:
   新しい自動メトリクスの定義フォームには、[詳細] タブのみが表示されます。新しい自動メトリクスの定義が作成されると、追加の関連リストが [詳細] タブとともにフォームに表示されます。

タスクの結果
自動メトリクスの定義は [メトリクスの定義] リストに保存されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

次のタスク
エンティティタイプを関連付けて、メトリクスを作成し、メトリクスの定義に信頼できるソースコンテンツを追加することができます。詳細については、「メトリクスの定義の更新」を参照してください。

自動メトリクスの定義のフィールド

このトピックでは、[自動メトリクスの定義] フォームのフィールドについて説明します。

新しい自動メトリクスの定義フォーム

フィールド	説明
基本的な詳細	
名前	自動メトリクスの定義の名前たとえば、「インシデントの数」。
アクティブ	自動メトリクスの定義をアクティブとしてマークするオプション。
説明	自動メトリクスの定義の簡潔な説明。
単位	自動メトリクスの定義の単位。データを表示する際の単位を定義できます。
集計方法	集計方法とは、すべてのエンティティのメトリクスデータを計算するために使用される方法を指します。たとえば、人、部門、地域など、複数のエンティティについて測定する際のメトリクスがある場合、各エンティティのデータをどのように計算すれば、全体的なパフォーマンスを表す単一のスコアを算出できるかを知りたい場合があります。アグリゲーション方法の選択は、メトリクスの収集の目標によって異なります。たとえば、全体的なパフォーマンスに関心があり、エンティティ間での規模やサイズの違いを考慮する必要がある場合は、合計または平均がより適切であると思われます。最高のパフォーマンスを発揮するエンティティを特定するには最大値が適切であり、最もパフォーマンスの低いエンティティを特定するには最小値が適切であると思われます。集計は、メトリクスの定義で指定された頻度に基づいて、期間全体で行われます。頻度が月次の場合、計算は毎月行われます。集計方法の 4 つの選択肢は次のとおりです。 • 合計：すべてのエンティティのメトリクスデータの合計によって、単一のスコアが作成されます。 • 平均：すべてのエンティティのメトリクスデータの平均によって、単一のスコアが作成されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい自動メトリクスの定義フォーム (続く)

フィールド	説明
	• 最大：すべてのエンティティの中で最も高いメトリクスデータが単一スコアとして使用されます。 • 最小：すべてのエンティティの中で最も低いメトリクスデータが単一スコアとして使用されます。
クラス	メトリクスの定義が属するクラス。選択肢は次のとおりです。 • **KPI**：目標に対してリスクエクスポージャーがどの程度管理されているかを示します。このオプションを使用して、エンティティと追加エンティティをメトリクスの定義に追加します。 • **KRI**：指定されたリスクまたは一連のリスクに対するエクスポージャーの量を示します。このオプションを使用して、メトリクスの定義にリスクとリスクステートメントを追加します。このオプションは、高度なリスク プラグインがアクティブ化されている場合に使用できます。 • **KCI**：特定のリスクエクスポージャーを削減または緩和するために実装されたコントロールの有効性を示します。このオプションを使用して、コントロールとコントロール目標をメトリクスの定義に追加します。このオプションは、ポリシーとコンプライアンス管理 プラグインがアクティブ化されている場合に使用できます。 **重要:** このフィールドは、IRM アプリケーションスイートからメトリクスの定義が作成された場合にのみ表示されます。環境、社会、ガバナンス管理 では表示されません。
精度	スコアの小数点以下の桁数。 インジケーターの [精度] が 0 の場合、インジケーターは結果を最も近い整数に丸めます。たとえば、[精度] が 0 のインジケータが値 7 + (5 / 2) を計算した場合、結果は 10 に丸められます。 インジケーターの [精度] が 0 より大きい場合、指定された精度に最も近い小数点に丸めます。たとえば、[精度] が 1 のインジケーターは、4.45 の結果を 4.5 に丸めます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい自動メトリクスの定義フォーム (続く)

フィールド	説明
カレンダー	メトリクスのアグリゲーションに使用するカレンダー。構成されたカレンダーオプションのみ選択できます。このフィールドは自動的に [標準カレンダー **(Standard Calendar)**] に設定されます。 **注:** 標準カレンダーとは、グレゴリオ暦を指します。
頻度 (Frequency)	メトリクスが実行される収集頻度。メトリクスの定義でデータを収集する頻度を示します。選択肢は次のとおりです。 • 日次 • 週次 • 毎月 • 四半期ごと • 半年ごと • 年次
最初の開始日	自動メトリクスの定義の収集頻度スケジュールの開始日。
データコレクション	
メソッドタイプ	自動メトリクスのタイプ。選択肢は次のとおりです。 • 基本：合計、平均、最大、最小、個別のカウントなどの集計方法を使用することを示します。 • スクリプト：カスタムスクリプトを使用してデータを収集することを示します。複数のテーブルからデータを収集する場合などにこのオプションを使用できます。 • 外部ソース：データが外部ソースから収集されることを示します。たとえば、組織内の従業員数とその性別比に関するデータを入手したい場合は、ヒューマンリソース (HR) データを格納するアプリケーションである Workday などの外部ソースから情報を取得できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい自動メトリクスの定義フォーム (続く)

フィールド	説明
	注: [スクリプト化] を選択した場合は、フォームを保存し、[スクリプトを追加] を選択してスクリプトを追加する必要があります。sn_grc_metric.developer ロールを持つユーザーのみがスクリプトを追加できます。
テーブル	メトリクスに対するデータの取得元のテーブル。このフィールドは、[メソッドタイプ] フィールドが [基本] に設定されている場合にのみ表示されます。
基準	データの収集元となるレコードの条件。フィールド、演算子、および値を含む条件を追加することでフィルターを作成し、[設定] をクリックします。たとえば、期日が当月にあるインシデントのみのデータを収集するという条件を作成できます。 注: このフィールドを変更する前に、[テーブル] フィールドの値を選択します。
集計	選択したテーブルからデータを集計するために使用される方法または計算。[集計] フィールドでオプションを選択すると、[集計] フィールドの横に新しい [集計フィールド] が表示されます。[集計フィールド] には、選択したレコードが表示されます。[集計] フィールドの選択肢は次のとおりです。 • カウント：選択したテーブルから取得されたレコードの数。たとえば、インシデントの数が必要な場合は、このオプションを選択します。 注: [カウント] が選択されている場合、[集計フィールド] は表示されません。 • 合計：[集計フィールド] で選択されている列の合計。 • 平均：[集計フィールド] で選択された列の値の平均。 • 最大：[集計フィールド] で選択された列の最大値。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい自動メトリクスの定義フォーム (続く)

フィールド	説明
	• 最小：[集計フィールド] で選択された列の最小値。 • 個別のカウント：[集計フィールド] でグループ化された結果セット内のグループの数。
テーブルフィールド	[テーブル] フィールドで選択されているテーブルの列またはフィールド。たとえば、インシデントテーブルの [問い合わせユーザー] 列を選択できます。この選択により、インシデントテーブルに関連付けられている問い合わせユーザーを把握し、自身のエンティティの問い合わせユーザーと比較できます。 **注:** このフィールドを変更する前に、テーブルを選択します。
集計フィールド	集計を実行する必要がある [テーブル] フィールドで選択されているテーブルの列またはフィールド。 **注:** [集計] フィールドで [カウント] が選択されている場合、このフィールドは表示されません。
エンティティフィールド	エンティティテーブルの列またはフィールド。エンティティは、[テーブルフィールド] で選択されたフィールドと [エンティティフィールド] で選択されたフィールドに基づいて照合されます。このフィールドは自動的に [適用するレコード] に設定されます。この手順のインシデントテーブルのコンテキストでは、このフィールドを使用して、たとえば、どのインシデントがどの発信者によってログに記録されたかを比較できます。
メトリクスデータタスクを作成	メトリクスデータタスクの作成をマークするオプション。
データ所有者アサインタイプ	メトリクスの定義内のメトリクスに対するデータ所有者アサインのタイプ。選択肢は次のとおりです。 • シンプル 指定されたデータ所有者またはデータ所有者グループがメトリクスにアサインされます。 • **Advanced** (詳細)

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい自動メトリクスの定義フォーム (続く)

フィールド	説明
	アサイン構成に基づいてデータ所有者がアサインされます。ESG アドミン [sn_esg.admin] またはリスクアドミン [sn_risk.admin] は、データ所有者を動的に割り当てるためのアサイン構成を設定できます。アサイン構成の作成の詳細については、「Create an assignment configuration」および「アサイン構成の新規レコード」を参照してください。 **注:** これは、 GRC：承認コンフィギュレーター アプリケーションがインストールされている場合に使用できます。詳細については、「承認コンフィギュレーターを使用した承認の設定」を参照してください。
データ所有者タイプ	メトリクスの定義を担当するデータ所有者のタイプ。選択肢は次のとおりです。 • ユーザー • ユーザーグループ
データ所有者	メトリクスの定義を担当するデータ所有者。リストからデータ所有者を選択します。 **注:** [データ所有者] 割り当てタイプの詳細オプションを選択した場合、割り当て構成が結果を返さないと、このデータ所有者が割り当てられます。
説明	データ所有者向けの説明。
提出データを含む	サポートデータの収集を有効にするオプション。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい自動メトリクスの定義フォーム (続く)

フィールド	説明
	注: 収集されたサポートデータは、データの頻度に応じて保持期間が変化し、一定期間が経過すると自動的に削除されます。 • 日次:30 日後 • 週次:30 日後 • 月次:3 か月後 • 四半期ごと:3 四半期後 • 半年ごと:半年ごと 3 期間後 • 年次:3年後
サポートデータフィールド	サポートデータに表示するデータフィールドを指定します。 **注:** データが広範囲にわたる場合は、最適なパフォーマンスを得るために、選択を 4 ～ 5 個のフィールドに制限してください。これより多くのフィールドを選択すると、パフォーマンスの問題が発生する可能性があります。
承認が必要	メトリクスの定義に承認が必要かどうかを示すオプション。 **注:** [承認が必要] オプションを有効にすると、[承認者タイプ] フィールドと [承認者] フィールドが表示されます。
承認者タイプ	メトリクスの定義に対する承認者のタイプを指定します。選択肢は次のとおりです。 • ユーザー • ユーザーグループ **注:** このフィールドは、メトリクスの承認プロパティが [簡易 **(Simple)]** に設定されている場合にのみ表示されます。詳細については、「Components installed with ESG Management」を参照してください。
承認者	メトリクスの定義を承認する承認者ユーザーまたは承認者グループ。選択肢は次のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい自動メトリクスの定義フォーム (続く)

フィールド	説明
	• 承認者：[ユーザー] オプションが選択されている場合に表示されます。 • 承認者グループ：[ユーザー] オプションが選択されている場合に表示されます。 **注:** このフィールドは、メトリクスの承認プロパティが [簡易 **(Simple)]** に設定されている場合にのみ表示されます。詳細については、「Components installed with ESG Management」を参照してください。
メトリクスのプロパティ	
タイプ	データが手動で収集されるか、自動で収集されるかを決定するために使用される方法。選択肢は次のとおりです。 • 自動 • 手動 自動メトリクスの定義を作成する手順であるため、[自動] を選択します。
エンタープライズ所有者タイプ	自動メトリクスの定義を担当するエンタープライズ所有者のタイプ。選択肢は次のとおりです。 • ユーザー • ユーザーグループ
方向	メトリクスを表示する方向。選択肢は次のとおりです。 • なし：メトリクスの方向を変更しない場合は、このオプションを選択します。 • 最小化：目的のメトリクスの方向が下向きまたは降順である場合は、このオプションを選択します。たとえば、燃料消費量を最小限に抑える場合です。 • 最大化：目的のメトリクスの方向が上向きまたは昇順である場合は、このオプションを選択します。たとえば、組織内で天然資源の使用を最大化する場合です。 • マイルストーン：メトリクスの方向が適用されないが、メトリクスがマイルストーンに対して追跡される場合は、このオプションを選

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい自動メトリクスの定義フォーム (続く)

フィールド	説明
	択します。たとえば、組織が新しい再生可能エネルギー製品を市場に投入する場合、今後の発売日がマイルストーンと見なされます。
グループ	メトリクスが関連する領域。たとえば、メトリクスは、性別の多様性、エネルギー、水の消費量などの分野に関連していたり、スコープ 3 排出量に関連している場合があります。
レポート分類	メトリクスをカテゴリ分けする際に使用するタグ。
Enterprise 所有者	メトリクスの所有者であり、メトリクスを担当するユーザー。たとえば、収益の収集などのメトリクスの場合、事業部門の副社長またはゼネラルマネージャーがエンタープライズ所有者になる可能性があります。
性質	自動メトリクスの定義の性質。選択肢は次のとおりです。 • なし：メトリクスの方向を変更しない場合は、このオプションを選択します。 • 先行 (予測型) メトリクス：予測型であり、将来の結果を予測するために役立ちます。この場合、企業は、生産単位あたりのエネルギー消費量など、GHG 排出量に関連する主要なメトリクスを使用できます。エネルギー消費を追跡することで、使用するエネルギー源と生産プロセスの効率に基づいて、将来の GHG 排出量を予測できます。この主要なメトリクスにより、企業は改善が必要な領域を事前に特定し、情報に基づいた意思決定を行うことで、排出量を削減できます。 • 遅行 (影響度を測定する) メトリクス：過去のアクションまたはイベントの影響度を測定します。この例では、GHG 排出量に関連する遅行メトリクスは、特定の年に会社が出した総排出量である可能性があります。このメトリクスにより、会社の過去の環境に対する影響のアセスメントが行われます。このメトリクスを経時的に監視することで、会社は排出削減への取り組みの有効性を評価し、さらに改善が必要な領域を特定できます。遅行メトリクスは、過去のアクションの結果を測定し、将来の戦略に対して情報を提供するために役立ちます。 • 現在のメトリクス：進行中のプロセスを監視し、リアルタイムの改善領域を特定します。GHG 排出量の場合、現在のメトリクスは、生産単位あたりの排出量を測定する排出原単位である可能性があります。排出原単位

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい自動メトリクスの定義フォーム (続く)

フィールド	説明
	を追跡することで、企業は、排出量の増加に寄与している事業内の特定の領域を特定できます。このメトリクスは、エネルギー使用の最適化、エネルギー効率の高いテクノロジーの導入、再生可能エネルギー源の採用など、企業がリアルタイムでの改善の機会を特定するために役立ちます。
サブグループ	メトリクスが関連するサブグループ。
主要メトリクス	メトリクスがビジネスの重要なメトリクスであるかどうかを示すオプション。
機密性	
注: このセクションは、次の場合にのみ表示されます。 • GRC プロパティの下で *sn_grc.enable_record_confidentiality* プロパティが有効になっている。 • レコードが [ドラフト] ステータスである。	
機密	レコードを機密としてマークするオプション。
許可されたユーザー	レコードを表示できるユーザー。 注: デフォルトで、ログインしたユーザーは機密ユーザーのリストに追加されます。
許可されたグループ	レコードを表示できるグループ。

計算済みメトリクスの作成

自動メトリクスの定義および手動メトリクスの定義を集計して、計算済みメトリクスの定義を作成します。

始める前に

必要なロール：sn_grc_metric.manager、sn_risk.user、および sn_compliance.user

このタスクについて

自動メトリクスの定義および手動メトリクスの定義を子として、親の計算済みメトリクスの定義に追加します。この 2 つのメトリクスの定義を集計する頻度とメソッドを指定します。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース > リスト > メトリクス > 計算済みメトリクスの定義.
2. **[New]** をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

フィールドの詳細については、「計算済みメトリクスの定義のフォーム」を参照してください。

4. [保存] をクリックします。

タスクの結果
メトリクスの定義は [メトリクスの定義] リストに保存されます。

次のタスク
エンティティタイプを関連付けて、メトリクスを作成し、メトリクスの定義に信頼できるソースコンテンツを追加することができます。詳細については、「メトリクスの定義の更新」を参照してください。

計算済みメトリクスの定義のフォーム

このトピックでは、計算済みメトリクスの定義のフォームのフィールドについて説明します。

新しい計算済みメトリクスの定義のフォーム

フィールド	説明
基本的な詳細	
名前	計算済みメトリクスの定義の名前。たとえば、「従業員の数」。
アクティブ	計算済みメトリクスの定義をアクティブとしてマークするオプション。
説明	計算済みメトリクスの定義の簡潔な説明。
単位	メトリクスの定義の単位。スコアの表示単位を定義できます。よく使用される単位は、デフォルトで提供されています。
精度	スコアの小数点以下の桁数。このフィールドは自動的に **0** に設定されます。 精度が 0 に設定されている場合、結果は最も近い整数に丸められます。たとえば、精度が 0 のメトリクスの定義で値 7 + (5 / 2) を計算した場合、結果は 10 に丸められます。 精度が 0 より大きな値に設定されている場合、結果は、指定された精度に最も近い小数点に丸められます。たとえば、精度が 1 の場合、4.45 の結果は 4.5 に丸められます。
カレンダー	メトリクスのアグリゲーションに使用するカレンダー。構成されたカレンダーオプションのみ選択できます。このフィールドは自動的に [標準カレンダー **(Standard Calendar)]** に設定されます。 **注:** 標準カレンダーとは、グレゴリオ暦を指します。
頻度 (Frequency)	計算済みメトリクスの定義の頻度。このフィールドは、メトリクスの定義でスコアをロール

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい計算済みメトリクスの定義のフォーム (続く)

フィールド	説明
	アップする頻度を示します。選択肢は次のとおりです。 • 日次 • 週次 • 毎月 • 四半期ごと • 半年ごと • 年次
計算	
計算レベル	計算が実行されるレベル。選択肢は次のとおりです。 • メトリクスの定義：メトリクスの定義レベルでデータを計算する場合、すべての子メトリクスの定義または子メトリクスにわたるデータが計算に使用されます。 • エンティティ：エンティティレベルでデータを計算し、計算式ビルダーを使用して計算方法を指定すると、すべての子メトリクスの定義にわたる共通エンティティが照合され、エンティティごとにデータが計算されます。データをアグリゲートしてメトリクスの定義レベルで全体的なスコアを取得するには、[エンティティ] を選択します。
アグリゲーション方法	エンティティレベルでメトリクススコアを集計する方法。選択肢は次のとおりです。 • なし • 合計 • 平均 • 最大 • 最小 このフィールドは、[計算レベル] フィールドが [エンティティ] に設定されている場合にのみ表示されます。
メトリクスのプロパティ	
エンタープライズ所有者タイプ	計算済みメトリクスの定義を担当するエンタープライズ所有者。選択肢は次のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい計算済みメトリクスの定義のフォーム (続く)

フィールド	説明
	• ユーザー • ユーザーグループ
Enterprise 所有者	メトリクスの定義の Enterprise 所有者。
方向	メトリクスを表示する方向。選択肢は次のとおりです。 • なし：メトリクスの方向を変更しない場合は、このオプションを選択します。 • 最小化：目的のメトリクスの方向が下向きである場合は、このオプションを選択します。たとえば、データセンターからの炭素排出量を最小限に抑える場合です。 • 最大化：目的のメトリクスの方向が上向きである場合は、このオプションを選択します。たとえば、組織内でエネルギー効率の高いリソースの使用を最大化する場合です。 • マイルストーン：メトリクスの方向が適用されず、メトリクスがマイルストーンに対して追跡される場合は、このオプションを選択します。たとえば、組織が 2029 年末までに 100% 再生可能エネルギーを使用することを目標としている場合、その目標の日付がマイルストーンと見なされます。
性質	計算済みメトリクスの定義の性質。選択肢は次のとおりです。 • なし： • 先行 (予測型) メトリクス：予測型であり、将来の結果を予測するために役立ちます。この場合、企業は、生産単位あたりのエネルギー消費量など、GHG 排出量に関連する主要なメトリクスを使用できます。エネルギー消費を追跡することで、使用するエネルギー源と生産プロセスの効率に基づいて、将来の GHG 排出量を予測できます。この主要なメトリクスにより、企業は改善が必要な領域を事前に特定し、情報に基づいた意思決定を行うことで、排出量を削減できます。 • 遅行 (影響度を測定する) メトリクス：過去のアクションまたはイベントの影響度を測定します。この例では、GHG 排出量に関連する遅行メトリクスは、特定の年に会社が出した総排出量である可能性があります。このメトリクスにより、会社の過去の環境に対する影響のアセスメントが行われます。このメトリクスを経時的に監視することで、会社は排出削

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい計算済みメトリクスの定義のフォーム (続く)

フィールド	説明
	減への取り組みの有効性を評価し、さらに改善が必要な領域を特定できます。遅行メトリクスは、過去のアクションの結果を測定し、将来の戦略に対して情報を提供するために役立ちます。 • 現在のメトリクス：進行中のプロセスを監視し、リアルタイムの改善領域を特定します。GHG 排出量の場合、現在のメトリクスは、生産単位あたりの排出量を測定する排出原単位である可能性があります。排出原単位を追跡することで、企業は、排出量の増加に寄与している事業内の特定の領域を特定できます。このメトリクスは、エネルギー使用の最適化、エネルギー効率の高いテクノロジーの導入、再生可能エネルギー源の採用など、企業がリアルタイムでの改善の機会を特定するために役立ちます。
グループ	メトリクスが関連する領域。たとえば、メトリクスは、エネルギーや水の排出量などの領域に関連している場合があります。
レポート分類	メトリクスをカテゴリ分けする際に使用するタグ。
サブグループ	メトリクスが関連するサブグループ。
主要メトリクス	ビジネスの重要なメトリクスであるかどうかを示すオプション。
機密性	
注: このセクションは、次の状況が当てはまる場合にのみ表示されます。 • GRC プロパティの下で *sn_grc.enable_record_confidentiality* プロパティが有効になっている。 • レコードが [ドラフト] ステータスである。	
機密	レコードを機密としてマークするオプション。
許可されたユーザー	レコードを表示できるユーザー。 **注:** デフォルトで、ログインしたユーザーは機密ユーザーのリストに追加されます。
許可されたグループ	レコードを表示できるグループ。

計算済みメトリクスの定義で計算式をビルドする

計算済みメトリクスの定義では、必要に応じて計算を実行する式を作成できます。

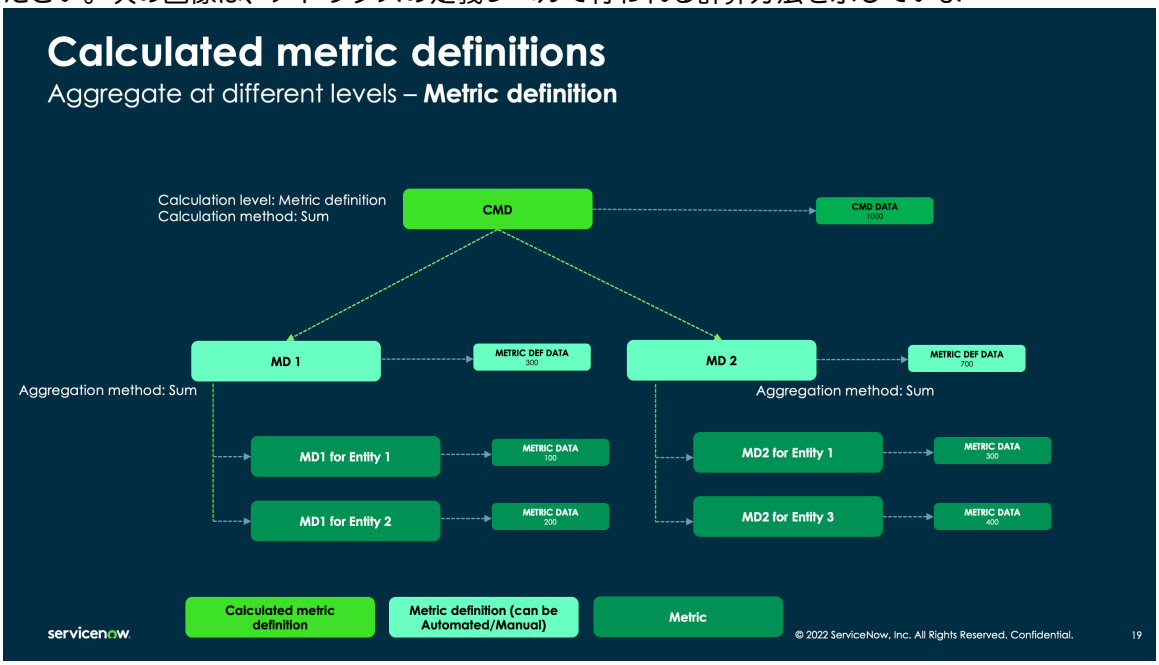
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

計算式は、オペランド、演算子、および関数で構成されます。たとえば、2 つのメトリクス定義 (男性従業員数と女性従業員数) から合計従業員数を計算する場合、選択されたメトリクス定義がオペランドであり、演算子はオペランドに対して特定の演算を実行して結果を取得する記号または関数です。演算子の例としては、加算 (+)、減算 (-)、乗算 (*)、除算 (/) などがあります。

計算済みメトリクスの定義で式を作成するときは、メトリクスの定義レベルまたはエンティティレベルのいずれかでビルドすることができます。計算済みメトリクスの定義フォームを保存し、メトリクスの定義スコア計算の式をビルドする前に、計算済みメトリクスの定義フォームで計算レベルを指定する必要があります。2 つのレベルは次のとおりです。

- メトリクスの定義：[計算レベル **(Calculation level)]** フィールドで [メトリクスの定義] を選択した場合、すべての子メトリクスの定義または子メトリクスにわたるデータが計算に使用されます。[実行]を選択すると、式が適用され、計算されたメトリクスの定義データが生成されます。詳細については、「計算式ビルダーの構成」を参照してください。次の画像は、メトリクスの定義レベルで行われる計算方法を示しています：

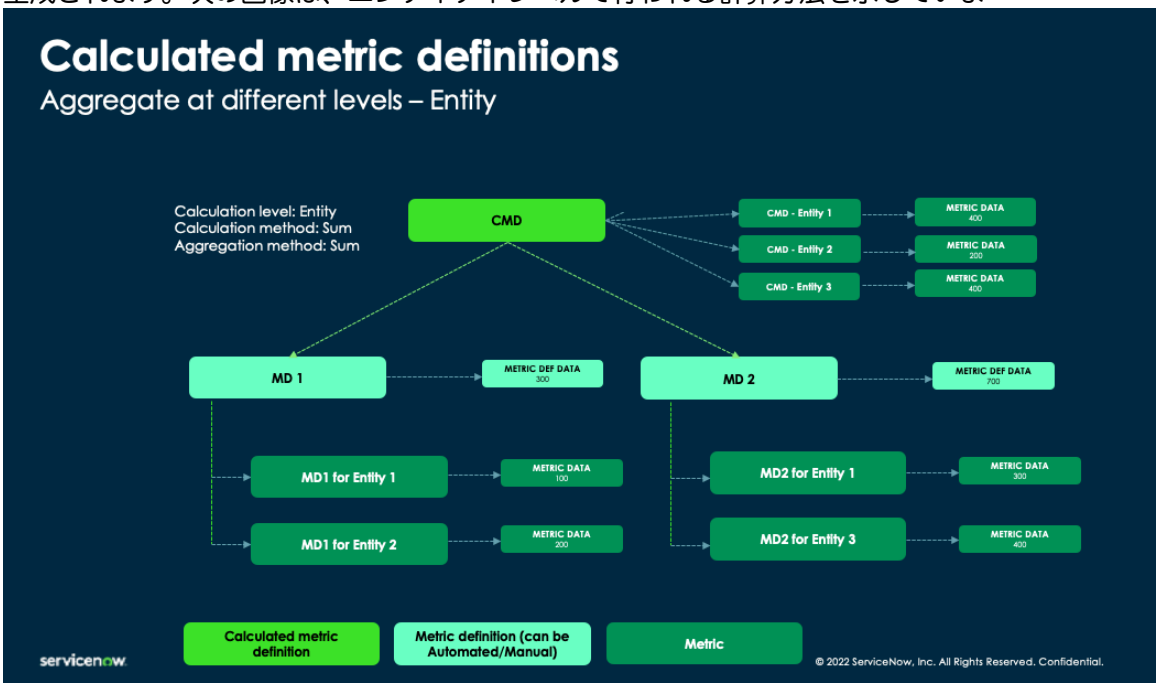


- エンティティ：[計算レベル **(Calculation level)]** フィールドで [エンティティ] を選択し、計算式ビルダーを使用して計算方法を指定すると、計算済みメトリクスの定義に対して子メトリクスが作成されます。これらのメトリクスは、式でオペランドとして使用されているメトリクスの定義に関連付けられている個別のエンティティごとに作成されます。メトリクスの定義を実行すると、式が適用され、メトリクスデータが生成されます。メト

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リクスの定義を集計すると、メトリクスデータが集計され、計算されたメトリクスデータが生成されます。次の画像は、エンティティレベルで行われる計算方法を示しています：



計算式ビルダーの構成

計算式を作成する前に、式のコンテキスト、テーブル、および識別子を指定します。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

計算済みメトリクスの定義で計算式を作成する前に、計算式ビルダーを構成する必要があります。構成時に、計算式のコンテキスト、使用するテーブル、その他の条件を指定できます。ESG Management のコンテキストで、メトリクスの定義レベルで計算式をビルドする場合は、構成時にメトリクスの定義テーブルとメトリクステーブルを選択する必要があります。エンティティレベルで計算式を作成するには、メトリクスの定義と排出係数テーブルを選択する必要があります。他のアプリケーションは、使用に必要なテーブルを使用できます。計算式の作成時に、排出係数とともに表示する列とそのラベルを構成できます。これらのラベルは、排出係数を簡単に識別するのに役立ちます。

手順

1. 移動先 すべて > 計算式ビルダー > 設定.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

計算式ビルダーの構成フォーム

フィールド	説明
式のコンテキスト	特定のオプションの計算式の作成に使用できる構成。ESG の選択肢は次のとおりです。 ○ 計算レベル：エンティティ ○ 計算レベル：メトリクスの定義

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: 他のアプリケーションのユーザーは、さまざまなコンテキストオプションを選択できます。
アプリケーション	アプリケーションのスコープ。このフィールドは自動的に設定されます。
テーブル	計算式をビルドする際に使用するテーブル。
条件	式をビルドするときに、選択したテーブルからレコードをフィルタリングするために使用する基準。たとえば「ドメインが **ESG** である」という条件を作成できます。
表示フィールド	[名前] フィールドや **[ID]** フィールドなどのオペランドで一意に表示される名前。
識別子	特定のテーブル名に関連付けられている小文字の 2 文字の短縮形の組み合わせ。たとえば、テーブル名が「ハードウェアアクセサリ (Hardware accessories)」の場合、識別子は `ha` になります。 注: `fn` は関数を参照するため、識別子として `fn` を使用することはできません。
追加の列を表示 (Show additional columns)	追加の列を表示するかどうかを決定するオプション。 注: このオプションは、排出係数名が重複している場合に便利です。追加の詳細を表示すると、メトリクスマネージャーが適切な排出係数を選択するのに役立ちます。
プライマリ列	計算式の構築中に排出係数に表示するプライマリ列。たとえば、[開始単位 **(From unit)]** を選択すると、排出係数の開始単位が係数名とともに表示されます。
セカンダリ列	計算式の構築中に排出係数に表示するセカンダリ列。たとえば、[終了単位 **(To unit)]** を選択すると、排出係数の終了単位が係数名とともに表示されます。
プライマリ列のラベル	選択されたプライマリ列の優先ラベル。たとえば、[プライマリ列] フィールドで [簡単な説明 **(Short Description)]** を選択した場合は、優先ラベルを `Short Desc` として指定できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
セカンダリ列のラベル	選択されたセカンダリ列の優先ラベル。

4. [送信] を選択します。

計算式の作成

エンティティまたはメトリクスの定義を使用して独自の計算式を作成します。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

sn_risk.user (リスクユーザーの場合)

このタスクについて

計算式の作成では、最大、最小、平均などの関数と、+、-、/、* などの演算子を使用して計算方法を定義できます。計算式を正常に作成するには、少なくとも 1 つのメトリクス定義オペランドまたはエンティティオペランドが存在することが重要です。

注:
この計算式は、Safari を除くすべてのブラウザーを使用して作成できます。

手順

1. 計算式の作成に使用しているアプリケーションに応じて、次のいずれかの場所に移動します。
   - すべて > 環境、社会、ガバナンス > **ESG** ワークスペース > メトリクス > 計算済みメトリクスの定義.
   - すべて > リスク管理 > リスクワークスペース > メトリクス > 計算済みメトリクスの定義.
2. 計算式を作成するメトリクスの定義を開き、 計算式をビルド > 計算式ビルダー.
3. 計算式のテキストフィールドに「\」と入力して、計算式の作成を開始します。
4. メトリクスの定義レベルまたはエンティティレベルで式を作成するには、次の手順を実行します。
   a. メトリクスの定義レベルで計算式をビルドするには、メトリクスの定義またはメトリクスを 2 つ選択し、その間の演算子を選択します。

      Example
      たとえば、従業員の通勤による GHG 排出量 + データセンター排出量 (市場ベース) を選択して合計を計算できます。

   b. エンティティレベルで計算式を作成するには、メトリクスの定義または排出係数を 2 つ選択し、その間の演算子を選択します。
5. 数式をコピー、リセット、またはプレビューするには、次の手順を実行します。
   a. 計算式をコピーするには、[コピー] を選択します。
   b. 計算式を初期状態にリセットするには、リセット を選択します。
   c. 識別子のない数式をきちんとした形式で表示するには、[プレビュー] を選択します。
6. 数式を保存するには、[計算式を保存] を選択します。
7. 数式を実行するには、[実行] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

数式を実行する前に保存することが重要です。

8. 計算式ビルダーページで、[サポートが必要な場合] を選択すると、計算式の作成に必要な手順に関するガイダンスが表示されます。

メトリクスの定義の更新

新しいメトリクスを収集するために、既存のメトリクスの定義を更新します。新しい目標、ターゲット、およびエンティティをメトリクスの定義に関連付けることができます。

始める前に

必要なロール：sn_grc.metric_manager、sn_risk.user、および sn_compliance.user

このタスクについて

同じフォームを使用して、自動メトリクスの定義、手動メトリクスの定義、および複合メトリクスの定義を更新できます。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース > メトリクス.
2. リストからメトリクスの定義を選択します。
3. フォームで、必要に応じてフィールドを更新します。

メトリクスの定義のタブと関連リストを更新する

フィールド	説明
タブと関連リスト	
[詳細] タブ	自動メトリクスの定義におけるメトリクスの定義、メトリクスのプロパティ、メソッド、スケジュールなどのメトリクスの詳細。 手動メトリクスの定義における収集方法、スケジュール、データ収集の詳細、承認などのメトリクスの詳細。 計算済みメトリクスの定義におけるメトリクス、メトリクスのプロパティ、およびロールアッププロパティの詳細。[詳細] タブのフィールドについては、[メトリクスの定義] フォームで説明されています。
エンティティタイプ	メトリクスに関連付けるエンティティタイプの詳細。たとえば、名前、説明、および条件 (アクティブ、更新が必要、処理中のエンティティなど) が表示されます。新しいエンティティタイプを追加するには、[追加] をクリックします。 **注:** [エンティティタイプ] 関連リストは、自動メトリクスの定義と手動メトリクスの定義に対してのみ表示されます。計算済みメトリクスの定義に対しては表示されません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
追加エンティティ	メトリクスの定義に関連付けることができる追加のエンティティ。名前、所有者、クラス、コンプライアンススコア (%) などの詳細を表示します。新しいエンティティを追加するには、[追加] をクリックします。 注: この関連リストは、自動メトリクスの定義と手動メトリクスの定義に対してのみ表示されます。計算済みメトリクスの定義に対しては表示されません。
子メトリクスの定義	親メトリクスの定義に関連付けられた子メトリクスの定義。子メトリクスの定義の名前、頻度、説明などの詳細を表示します。新しい子メトリクスの定義を追加するには、[追加] をクリックします。 注: この関連リストは計算済みメトリクスの定義に対してのみ表示されます。自動メトリクスの定義と手動メトリクスの定義に対しては表示されません。
メトリクス	メトリクスの名前、関連エンティティ、アクティブ状況などのメトリクスの詳細。新しいメトリクスを追加するには、[新規] をクリックします。
信頼できるソースコンテンツ	参照、名前、各種法令・基準等、説明、コンプライアンススコア (%) などの信頼できるソースコンテンツの詳細。新しい信頼できるソースコンテンツを追加するには、[追加] をクリックします。
目標	名前、状態、カテゴリ、開始日、終了日、所有者、ステータスなどの目標の詳細。新しい目標を追加するには、[追加] をクリックします。
ターゲット	名前、所有者、状態、ステータス、進捗状況、実際の値、ターゲット値、終了日などのターゲットの詳細。新しいターゲットを追加するには、[追加] をクリックします。
メトリクスの定義データ	収集頻度、収集定義、間隔終了日、値、状態などのメトリクスの定義データの詳細。 注: この関連リストは、自動メトリクスの定義と手動メトリクスの定義に対してのみ表示されます。計算済みメトリクスの定義に対しては表示されません。
計算済みメトリクスデータ	間隔終了日、ロールアップ頻度、値など、計算済みメトリクスデータの詳細。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: この関連リストは計算済みメトリクスの定義に対してのみ表示されます。自動メトリクスの定義と手動メトリクスの定義に対しては表示されません。

4. メトリクスの定義を保存するには、[保存] をクリックします。
5. 複合メトリクスの定義の複合メトリクスデータを計算するには、[集計] をクリックします。[集計] アクションは、現在の間隔終了日とその親メトリクスの定義へのロールアップ頻度について、複合メトリクスデータを計算します。複合メトリクスデータレコードは、[複合メトリクスデータ] 関連リストに表示されます。現在の間隔に存在しない場合は、複合メトリクスの定義スコアが作成されます。
6. メトリクスの定義を削除するには、[削除] をクリックします。
7. メトリクスの定義の 360 度の関係ビューを視覚的に探索するには、**[360 度ビュー (360° view)]** をクリックします。

メトリクスの作成

データに対して計算を実行するためのメトリクスを作成します。

始める前に

必要なロール：
sn_grc_metric.manager、sn_risk.user、および sn_compliance.user

このタスクについて

メトリクスを作成するには、メトリクスの定義とエンティティが必要です。メトリクスの定義により、エンティティのスコアを収集する方法が定義されます。メトリクスの定義がエンティティに関連付けられると、メトリクスが作成されます。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース > リスト > メトリクス > メトリクス.
2. **[New]** をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

新しい自動測定基準の定義のフォーム

フィールド	説明
名前	自動メトリクスの定義の名前たとえば、「インシデントの数」。
説明	自動メトリクスの定義の簡潔な説明。
アクティブ	自動メトリクスの定義をアクティブとしてマークするオプション。
クラス	メトリクスの定義が属するクラス。選択肢は次のとおりです。 ○ **KPI**：目標に対してリスクエクスポージャーがどの程度管理されているかを示します。このオプションを使用して、エンティティと追

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	加エンティティをメトリクスの定義に追加します。 ○ **KRI**：指定されたリスクまたは一連のリスクに対するエクスポージャーの量を示します。このオプションを使用して、メトリクスの定義にリスクとリスクステートメントを追加します。このオプションは、高度なリスク プラグインがアクティブ化されている場合に使用できます。 ○ **KCI**：特定のリスクエクスポージャーを削減または緩和するために実装されたコントロールの有効性を示します。このオプションを使用して、コントロールとコントロール目標をメトリクスの定義に追加します。このオプションは、ポリシーとコンプライアンス管理 プラグインがアクティブ化されている場合に使用できます。
タイプ	スコアが手動で収集されるか、自動で収集されるかを決定するために使用される方法。このフィールドは自動的に [自動] に設定されますが、メトリクスの定義を選択してそのメトリクス定義のタイプに更新すると、値が変更されます。
主要メトリクス	メトリクスがビジネスの重要なメトリクスであるかどうかを示すオプション。
ドメイン領域	メトリクスの定義の作成元ワークスペース。このフィールドは自動的に設定されます。たとえば、リスクワークスペース からメトリクスの定義を作成すると、このフィールドは [リスク] に設定されます。
エンタープライズ所有者タイプ	自動メトリクスの定義を担当するエンタープライズ所有者のタイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ ユーザー ○ ユーザーグループ
メトリクススコアの集計 (Metric Score Aggregation)	メトリクスの定義レベルでスコアを要約するために使用される方法。選択肢は次のとおりです。 ○ 合計：すべてのアクティブなメトリクスの合計。 ○ 平均：すべてのアクティブなメトリクスの平均。 ○ 最大：すべてのアクティブなメトリクスの最大値。 ○ 最小：すべてのアクティブなメトリクスの最小値。
値	メトリクスが実行された後に取得された値。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
Enterprise 所有者	自動メトリクスの定義のエンタープライズ所有者。
メトリクスのプロパティ	
方向	自動メトリクスの定義の方向選択肢は次のとおりです。 ○ なし：メトリクスの方向を変更しない場合は、このオプションを選択します。 ○ 最小化：目的のメトリクスの方向が下向きまたは降順である場合は、このオプションを選択します。たとえば、燃料消費量を最小限に抑える場合です。 ○ 最大化：目的のメトリクスの方向が上向きまたは昇順である場合は、このオプションを選択します。たとえば、組織内で天然資源の使用を最大化する場合です。 ○ マイルストーン：メトリクスの方向が適用されないが、メトリクスがマイルストーンに対して追跡される場合は、このオプションを選択します。たとえば、組織が新しい再生可能エネルギー製品を市場に投入する場合、今後の発売日がマイルストーンと見なされます。
精度	スコアの小数点以下の桁数。 インジケーターの [精度] が 0 の場合、インジケーターは結果を最も近い偶数の整数に丸めます。たとえば、[精度] が 0 のインジケータが値 7 + (5 / 2) を計算した場合、結果は 10 に丸められます。ただし、式が 2 + (5 / 2) を計算した場合、インジケーターは結果を 4 に丸めます。 インジケーターの [精度] が 0 より大きい場合、指定された精度に最も近い小数点に丸めます。たとえば、[精度] が 1 のインジケーターは、4.45 の結果を 4.5 に丸めます。
単位	自動メトリクスの定義の単位。スコアの表示単位を定義できます。よく使用される単位は、デフォルトで提供されています。
性質	自動メトリクスの定義の性質。選択肢は次のとおりです。 ○ なし ○ [先頭]：メトリクスが将来のイベントの場合は、このオプションを選択します。たとえば、ある店舗での新しいソーラーバッテリの販売数を考えてみましょう。この数は、この店舗が将来受け取る可能性のあるサポート要求の先行インジケーターです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ [遅行]：メトリクスが過去のイベントの場合は、このオプションを選択します。たとえば、店舗で前年に行った販売数を考えてみましょう。この数は、この店舗が過去受け取ったサポート要求の遅行インジケーターです。 ○ [現在]：メトリクスがイベントの現在のステータスである場合は、このオプションを選択します。たとえば、店舗での今年の販売数を考えてみましょう。この数は、店舗が受けている現在のサポート要求のインジケーターです。
方法 (Method)	
メソッドタイプ	自動メトリクスのタイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ 基本 ○ スクリプト化 **注:** [スクリプト化] を選択した場合は、フォームを保存し、[スクリプトを追加] を選択してスクリプトを追加する必要があります。sn_grc.developer ロールを持つユーザーのみがスクリプトを追加できます。
テーブル	自動メトリクスの定義を作成するためにクエリされるテーブル。
基準	スコアを取得するレコードの条件。フィールド、演算子、および値を含む条件を追加することでフィルターを作成し、[設定] をクリックします。 **注:** このフィールドを変更する前に、[テーブル] フィールドの値を選択します。
集計	自動メトリクスの定義のスコアを集計するメソッド。[集計] フィールドでオプションを選択すると、[集計] フィールドの横に新しい [集計フィールド] が表示されます。[集計フィールド] には、選択したレコードが表示されます。[集計] フィールドの選択肢は次のとおりです。 ○ カウント：フィルター基準に設定されているテーブルクエリによってレンダリングされるレコードの数。 ○ 合計：[集計フィールド] の選択された値に基づくパラメーターの値の合計。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ 平均：[集計フィールド] の選択された値に基づくパラメーターの値の平均。 ○ 最大：[集計フィールド] の選択された値に基づくパラメーターの値の最大値。 ○ 最小：[集計フィールド] の選択された値に基づくパラメーターの値の最小値。 ○ 個別のカウント：[集計フィールド] でグループ化された結果セット内のグループの数。 **注:** [集計フィールド] は、[カウント] を除くすべてのオプションに対して表示されます。
参照フィールド	メトリクスデータを分離するときに基づくフィールド。このフィールドは、選択したスコアリングテーブルにエンティティを接続し、エンティティに固有のスコアを計算します。 **注:** 参照フィールドが指しているテーブルが、関連付けられているエンティティが指すレコードのテーブルと一致していることを、エンティティフォームの [適用先] フィールドで確認します。 **注:** メモに記載されている基準はシステムで検証されないため、検証するのはユーザーの責任です。このフィールドを変更する前に、テーブルを選択します。
スケジュール	
カレンダー	メトリクスの収集に使用するカレンダー。構成されたカレンダーオプションのみ使用できます。このフィールドは自動的に [標準カレンダー **(Standard Calendar)]** に設定されます。標準カレンダーとは、グレゴリオ暦を指します。このフィールドは、このメトリクスのメトリクス定義で標準カレンダーを使用しない場合にのみ変更できます。
周期	メトリクスの定義の収集頻度。このフィールドは選択したメトリクスの定義の頻度に基づいて自動的に設定されます。
最初の実行日	メトリクスが初めて実行された日付。
期日オフセット	メトリクスデータタスクが期限切れになるスケジュール最終日からの経過日数。たとえば、メトリクスの定義の頻度が月次で、このフィールドに 15 を入力した場合、メトリクスデータタスクの期日はその月の終了から 15 日後になり

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	ます。このフィールドは、メトリクスに関連付けられたメトリクス定義のタイプが手動の場合にのみ表示されます。
次回実行日	メトリクスが実行される日付。
期間日	データ収集期間の開始日と終了日を指定するために使用する日付。
データ収集の詳細	
データ所有者タイプ	データ所有者タイプ (ユーザーなど)。
データ所有者	データ所有者であるユーザーの名前。
承認 **注:** このセクションは、[メトリクスの承認] プロパティが [シンプル] に設定されている場合にのみ表示されます。詳細については、「高度なリスクでインストールされるプロパティ」を参照してください。	
承認が必要	承認が必要かどうかを示すオプション。
承認者タイプ	メトリクスの定義の承認者のタイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ ユーザー ○ ユーザーグループ
ユーザー	メトリクスの定義を承認する承認者ユーザーまたは承認者グループ。選択肢は次のとおりです。 ○ 承認者：[ユーザー] オプションが選択されている場合に表示されます。 ○ 承認者グループ:[ユーザーグループ] オプションが選択されている場合に表示されます。 **注:** デフォルトでは、承認者はメトリクスの定義で指定されたユーザーですが、これはメトリクスレベルで上書きできます。
分類	
グループ	メトリクスが関連する領域。
レポート分類	メトリクスをカテゴリ分けする際に使用するタグ。
サブグループ	メトリクスが関連するサブグループ。
機密性	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
注: このセクションは、次の場合にのみ表示されます。 ○ GRC プロパティの下で *sn_grc.enable_record_confidentiality* プロパティが有効になっている。 ○ レコードが [ドラフト] ステータスである。	
機密	レコードを機密としてマークするオプション。
許可されたユーザー	レコードを表示できるユーザー。 注: デフォルトで、ログインしたユーザーは機密ユーザーのリストに追加されます。
許可されたグループ	レコードを表示できるグループ。

4. [保存] をクリックします。

   注:
   新しいメトリクスが作成されると、関連リストが [詳細] タブとともにフォームに表示されます。[概要] タブでメトリクスデータの概要を確認できます。メトリクスを実行すると、[メトリクスの概要 (Metrics overview)] ページに、メトリクスデータの詳細が、データの収集期間とともに表示されます。

タスクの結果
メトリクスは [メトリクス] リストに保存されます。

メトリクス単位の作成

メトリクススコアを表示するときの単位を定義します。単位は、数値、パーセンテージ、通貨、時間数、または定義したその他の任意の単位にすることができます。よく使用される単位は、デフォルトで提供されています。

始める前に
必要なロール：sn_grc_metric.manager、sn_risk.user および sn_compliance.user.

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース > メトリクス > 単位.
2. [**New**] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

   新しいメトリクス単位フォーム

フィールド	説明
名前	単位の名前。例：$。
フォーマット	単位の形式。たとえば、{0} MWh とすると、略語 MWh でメガワット時数が表現されます。

4. メトリクス単位を保存するには、[保存] をクリックします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

タスクの結果
メトリクス単位は [メトリクス] リストに保存されます。

単位ファミリーの作成

単位ファミリーを作成して、類似の単位をグループ化します。たとえば、マイルやキロメートルなどのさまざまな距離単位をグループ化できます。単位ファミリーは、単位変換の際に単位を整理するのに役立ちます。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
単位ファミリーの作成では、単位の変換もサポートされます。メトリクスデータ入力時の単位が、メトリクスの定義のレポート単位と異なる場合があります。このような場合は、単位を変換する必要があります。たとえば、メトリクスデータが米国ガロンで入力され、メトリクスの定義のレポート単位がリッターであるとします。ガロンとリッターが体積などの同じ単位ファミリーに属していれば、単位を変換できます。

さまざまな単位の変換に、さまざまな式が使用されます。メトリクスの定義のレポート単位が、[計算済み] の変換係数を持つ単位ファミリーに属する場合、そのメトリクスのメトリクスデータタスクは、メトリクスの定義と同じ単位で指定する必要があります。たとえば、メトリクスの定義における温度のレポート単位が摂氏であり、温度の変換係数が [計算済み] に設定されている場合、そのメトリクスの定義のすべてのメトリクスデータタスクは摂氏でのみ指定できます。このような場合、ユーザーは変換に使用する必要がある式を指定できます。詳細については、「計算済みメトリクスの定義で計算式をビルドする」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > アドミニストレーション > 単位ファミリー

2. **[New** (新規)] を選択します。

3. フォームのフィールドに入力します。

[単位ファミリー **(Unit family)]** フォーム

フィールド	説明
名前	単位ファミリーの名前。たとえば、「温度」。
変換係数	ファミリーから単位を変換するときに適用する必要がある変換係数。選択肢は次のとおりです。 ○ 直接：ファミリー内での単位の変換を直接実行できる場合に、このオプションを使用します。たとえば、直接変換を使用してキロメートルをマイルに変換できます。 ○ 計算済み：変換式が複雑な場合に、このオプションを使用します。たとえば、摂氏の温度を華氏に変換する場合、式は ˚F = ˚C × (9/5) + 32 になります。

4. [送信] を選択します。

メトリクスデータの別の単位への変換

メトリクスデータを優先レポート単位に変換します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
データの優先レポート単位は、メトリクスの定義で指定されます。ユーザーがメトリクスデータタスクにデータを入力するときに、メトリクスの定義で設定されている単位とは異なる単位で入力する可能性があります。たとえば、ユーザーは水使用量に関するデータをリッターで入力しても、組織は米国ガロンでのレポートを必要としていることがあります。したがって、メトリクスの定義もガロンに設定されています。この場合、リッターはガロンに変換する必要があります。

注:
メトリクスデータタスクでは、同じ単位ファミリーに属する単位のみをこのデータに使用できます。単位変換は、単位ファミリー変換係数が [直接] に設定されている単位にのみ適用されます。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > アドミニストレーション > 単位変換.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

[単位変換] フォーム

フィールド	説明
名前	単位変換の名前。たとえば、リッターからガロン。
変換前の単位	変換元の単位。
変換後の単位	変換先の単位。
単位ファミリー	単位が属する単位ファミリー。たとえば、「体積」。
値	変換値。たとえば、リッターからガロンへの変換値は 0.264172 です。

4. [送信] を選択します。

メトリクスの更新

メトリクスを更新して、目標、メトリクスデータ、およびターゲットを追加します。信頼できるソースコンテンツをメトリクスに関連付けます。

始める前に
必要なロール：sn_grc_metric.manager、sn_risk.user、および sn_compliance.user

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース > リスト > メトリクス > メトリクス.
2. リストからメトリクスを選択します。
3. フォームで、必要に応じてフィールドを更新します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メトリクスのタブと関連リストの更新

フィールド	説明
タブ	
名前	メトリクスの名前。たとえば、「インシデントの数 - ACME アジア」。
説明	メトリクスの簡潔な説明。
メトリクスの定義	メトリクスに関連付けられたメトリクスの定義。
エンティティ	メトリクスに関連付けられたエンティティ。
エンタープライズ所有者タイプ	メトリクスを担当するエンタープライズ所有者のタイプ。このフィールドは、エンタープライズ所有者タイプを表示するように自動的に設定されます。
タイプ	自動メトリクスの定義のタイプ。このフィールドは自動的に設定されます。
アクティブ	メトリクスの定義をアクティブとしてマークするオプション。
主要メトリクス	メトリクスの定義を主要メトリクスとしてマークするオプション。
エンタープライズ所有者	メトリクスの定義のエンタープライズ所有者。このフィールドは自動的に設定されます。
メトリクスのプロパティ	
方向	メトリクスの定義の方向。このフィールドは自動的に設定されます。
精度	メトリクスの定義の精度。このフィールドは自動的に設定されます。
単位	メトリクスの定義の単位。このフィールドは自動的に設定されます。
性質	メトリクスの定義の性質。このフィールドは自動的に設定されます。
メソッド	
メソッドタイプ	測定基準データの収集に使用されるメソッドのタイプ。
テーブル	メトリクスの定義を作成するためにクエリされるテーブル。このフィールドは自動的に設定されます。
基準	テーブルをクエリするための条件。このフィールドは自動的に設定されます。
集計	メトリクスの定義を集計する方法。このフィールドは自動的に設定されます。
参照フィールド	メトリクスの定義方法の参照フィールド。このフィールドは自動的に設定されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
スケジュール	
スケジュール	メトリクスの定義の収集頻度。このフィールドは自動的に設定されます。
最初の実行日	初回実行時間の日付。このフィールドは自動的に設定されます。
次回実行日	次回実行時間の日付。
データ収集の詳細	
データ所有者タイプ	データ所有者タイプ (ユーザーなど)。
データ所有者	データ所有者であるユーザーの名前。
承認	
承認が必要	メトリクスで承認が必要な場合に有効にするオプション。
[メトリクスのデータタスク] タブ	名前、番号、担当者、優先度、状態などのメトリクスデータタスクに関する情報。
関連リスト	
目標	名前、状態、カテゴリ、開始日、終了日、所有者、ステータスなどのメトリクスに関連付けられた目標の詳細。新しい目標を追加するには、[追加] をクリックします。
メトリクスデータ	開始日、終了日、値、コレクターメトリクスのデータ、収集頻度、タイプなどのメトリクスデータの詳細。 開始日：この開始日は、データ収集の開始日です。 終了日：この終了日は、スコアが計算される間隔が決まる、期間の終了日です。終了日は、メトリクスの定義の頻度によって異なります。終了日はスコアの追跡に使用されます。すべてのスコアは時間に依存しており、間隔終了日への参照があります。 収集頻度：[収集頻度] フィールドのオプションは次のとおりです。 ○ 日次:毎日作成されるスコア。 ○ 週次:週末の日付 (日曜日) までに作成されるスコア。月曜日が週の始まりで、日曜日が週の終わりです。 ○ 月次:月末までに作成されるスコア。 ○ 四半期ごと:四半期末までに作成されるスコア。たとえば、Q1 は 3 月 31 日に終了し、Q2 は 6 月 30 日に終了し、Q3 は 9 月 30 日に終了し、Q4 は 12 月 31 日に終了します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ 半年ごと:6 か月期間の終わりまでに作成されるスコア。半年の終了日は 6 月 30 日と 12 月 31 日です。 ○ 年次:年末までに作成されるスコア。年の終了日は 12 月 31 日です。
ターゲット	名前、状態、所有者、開始日、終了日、タイプ、測定などのメトリクスに関連付けられたターゲットの詳細。新しいターゲットを追加するには、[追加] をクリックします。
信頼できるソースコンテンツ	参照、名前、各種法令・基準等、説明、コンプライアンススコア (%) などの信頼できるソースコンテンツの詳細。新しい信頼できるソースコンテンツを追加するには、[追加] をクリックします。

4. メトリクスを保存するには、[保存] をクリックします。
5. メトリクスの定義を削除するには、[削除] をクリックします。
6. メトリクスを実行するには、[実行] をクリックします。
   現在の間隔に存在しない場合は、メトリクスデータスコアが作成されます。現在の間隔のメトリクスまたはメトリクスの定義を再実行すると、スコアのみが更新されます。
7. メトリクスの定義の 360 度の関係ビューを視覚的に探索するには、**[360 度ビュー (360° view)]** をクリックします。

手動で作成したメトリクスの更新

手動で作成した手動メトリクスを更新して、目標、メトリクスデータ、およびターゲットを追加します。信頼できるソースコンテンツをメトリクスに関連付けます。

始める前に

必要なロール：sn_grc.metric_manager、sn_risk.user、および sn_compliance.user

このタスクについて

同じフォームを使用して、自動メトリクスの定義、手動メトリクスの定義、および複合メトリクスの定義を更新できます。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース > メトリクス.
2. リストからメトリクスの定義を選択します。
3. フォームで、必要に応じてフィールドを更新します。

メトリクスのタブと関連リストの更新

フィールド	説明
タブ	
名前	メトリクスの名前。たとえば、「インシデントの数 - ACME アジア」。
説明	メトリクスの簡潔な説明。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
メトリクスの定義	メトリクスに関連付けられたメトリクスの定義。
エンティティ	メトリクスに関連付けられたエンティティ。
エンタープライズ所有者タイプ	メトリクスを担当するエンタープライズ所有者のタイプ。このフィールドは、エンタープライズ所有者タイプを表示するように自動的に設定されます。
タイプ	メトリクスの定義のタイプ。このフィールドは自動的に設定されます。
アクティブ	メトリクスの定義をアクティブとしてマークするオプション。このフィールドは自動的に設定されます。
主要メトリクス	メトリクスの定義を主要メトリクスとしてマークするオプション。このフィールドは自動的に設定されます。
エンタープライズ所有者	メトリクスの定義のエンタープライズ所有者。このフィールドは自動的に設定されます。
メトリクスのプロパティ	
方向	メトリクスの定義の方向。このフィールドは自動的に設定されます。
精度	メトリクスの定義の精度。このフィールドは自動的に設定されます。
単位	メトリクスの定義の単位。このフィールドは自動的に設定されます。
性質	メトリクスの定義の性質。このフィールドは自動的に設定されます。
メソッド	
説明	データ所有者向けの説明。手動メトリクスの定義の収集方法。このフィールドは自動的に設定されます。
スケジュール	
カレンダー	メトリクスのアグリゲーションに使用するカレンダー。構成されたカレンダーオプションのみ選択できます。このフィールドは自動的に [標準カレンダー **(Standard Calendar)]** に設定されます。 **注:** 標準カレンダーとは、グレゴリオ暦を指します。
頻度 (Frequency)	メトリクスが実行される収集頻度。メトリクスの定義でデータを収集する頻度を示します。選択肢は次のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ 日次 ○ 週次 ○ 毎月 ○ 四半期ごと ○ 半年ごと ○ 年次 このフィールドは自動的に設定されます。
最初の実行日	初回実行時間の日付。このフィールドは自動的に設定されます。
次回実行日	次回実行時間の日付。
期間日	データ収集期間の開始日と終了日を指定するために使用する日付。
期日オフセット	メトリクスデータタスクが期限切れになるスケジュール最終日からの経過日数。たとえば、メトリクスの定義の頻度が月次で、このフィールドに 15 を入力すると、メトリクスデータタスクの期日は月の終了から 15 日後に期限切れになります。このフィールドは自動的に設定されます。
データ収集の詳細	
データ所有者タイプ	データ所有者タイプ (ユーザーなど)。
データ所有者	データ所有者であるユーザーの名前。
承認	
承認が必要	メトリクスで承認が必要な場合に有効にするオプション。
[メトリクスのデータタスク] タブ	名前、番号、アサイン先、優先度、ステータスなどのメトリクスデータタスクに関する情報
分類	
グループ	メトリクスが関連する領域。このフィールドは自動的に設定されます。
サブグループ	メトリクスをカテゴリ分けする際に使用するタグ。このフィールドは自動的に設定されます。
レポート分類	測定基準の定義と測定基準を分類したときのタグ。たとえば、**GRI**、**SASB**、または運営委員会レビュー。
関連リスト	
目標	名前、状態、カテゴリ、開始日、終了日、所有者、ステータスなどのメトリクスに関連付けられた目標の詳細。新しい目標を追加するには、[追加] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
メトリクスデータ	開始日、終了日、値、コレクターメトリクスのデータ、収集頻度、タイプなどのメトリクスデータの詳細。 開始日:開始日はデータ収集の開始日です。 終了日：この終了日は、スコアが計算される間隔が決まる、期間の終了日です。終了日は、メトリクスの定義の頻度によって異なります。終了日はスコアの追跡に使用されます。すべてのスコアは時間に依存しており、間隔終了日への参照があります。 収集頻度：[収集頻度] フィールドのオプションは次のとおりです。 ○ 日次:毎日作成されるスコア。 ○ 週次:週末の日付 (日曜日) までに作成されるスコア。月曜日が週の始まりで、日曜日が週の終わりです。 ○ 月次:月末までに作成されるスコア。 ○ 四半期ごと:四半期末までに作成されるスコア。たとえば、Q1 は 3 月 31 日に終了し、Q2 は 6 月 30 日に終了し、Q3 は 9 月 30 日に終了し、Q4 は 12 月 31 日に終了します。 ○ 半年ごと:6 か月期間の終わりまでに作成されるスコア。半年の終了日は 6 月 30 日と 12 月 31 日です。 ○ 年次:年末までに作成されるスコア。年の終了日は 12 月 31 日です。
ターゲット	名前、状態、所有者、開始日、終了日、タイプ、測定などのメトリクスに関連付けられたターゲットの詳細。新しいターゲットを追加するには、 [追加] を選択します。
引用	参照、名前、各種法令・基準等、説明、コンプライアンススコア (%) などの信頼できるソースコンテンツの詳細。新しい引用を追加するには、 [追加] を選択します。
しきい値	タイプ、関連メトリクス、有効期限、しきい値の色、ターゲット値など、メトリクスに関連付けられたしきい値の詳細。新しい引用を追加するには、 [追加] を選択します。

4. メトリクスを保存するには、 [保存] を選択します。
5. メトリクスの定義を削除するには、 [削除] を選択します。
6. メトリクスを実行するには、[実行] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

現在の間隔に存在しない場合は、メトリクスデータスコアが作成されます。現在の間隔のメトリクスまたはメトリクスの定義を再実行すると、スコアのみが更新されます。

7. メトリクスの定義の 360 度の関係ビューを視覚的に探索するには、[**360** 度ビュー] を選択します。

メトリクスの定義のしきい値を作成

メトリクスの定義のしきい値を定義して、定量的メトリクス定義のパフォーマンスを評価します。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

メトリクスの定義を作成した後、メトリクスのしきい値制限とメトリクスの定義を定義して、メトリクスのパフォーマンスを決定できます。しきい値に違反するか、しきい値を超えると、システムは関連するオーナーに通知されます。たとえば、メトリクスの定義を作成して従業員の離職を監視し、指定された期間のメトリクスのターゲット値、オレンジのしきい値、および赤色のしきい値を定義できます。ここで、しきい値を 5、オレンジの値を 8、赤色の値を 10 として定義したとします。これは、8 人離職した場合は、システムがメトリクスのパフォーマンスをオレンジとして通知することを意味します。離職が 10 人に達すると、メトリクスのパフォーマンスを赤として通知します。この通知により、適切なアクションを実行できます。メトリクスに対して複数のしきい値を作成できます。メトリクスが作成される前にしきい値が定義されている場合、メトリクスはしきい値のルールを継承します。すべてのタイプのメトリクスの定義に対してしきい値を作成できます。この手順では、自動メトリクスの定義を例として使用します。

メトリクス定義が作成された後にしきい値が作成された場合は、しきい値をメトリクスにコピーできます。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース > メトリクス > メトリクス.
2. しきい値を定義するメトリクスを選択して開きます。
3. [しきい値] 関連リストを選択します。
4. [新規] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

メトリクス定義のしきい値フォーム

フィールド	説明
しきい値タイプ	しきい値のタイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ 静的：メトリクスまたはメトリクスの定義の静的しきい値は、メトリクスを追跡するための制限として使用される固定値を参照します。 ○ 動的：動的しきい値はパーセンテージで指定されます。つまり、パーセンテージの差異は、方向と前のデータの 2 つの要素に基づいて計算されます。 詳細については、「Thresholds for metrics」を参照してください。
オレンジのしきい値	ターゲット値の分散の中程度の変化を示すパーセンテージ値。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
有効期限開始	データが有効になる日付。
ターゲット値	パーセンテージの差異の比較対象である前のデータ。
赤色のしきい値	ターゲット値の分散の重大な変化を示すパーセンテージ値。
有効期限	データの有効期限。

6. [送信] を選択します。
7. しきい値をメトリクスにコピーするには、[しきい値のコピー] を選択します。

GRC：メトリクス を使用したデータ提供

GRC：メトリクス アプリケーションを使用すると、ビジネスゴールを追跡し、主なリスクインジケーター (KRI) と重要業績評価指標 (KPI) を定義して、アドミニストレーターに進捗状況に関するインサイトを提供するレポートを生成できます。

メトリクスデータタスクのデータ入力

メトリクスデータタスクを使用して、手動メトリクスのデータを入力します。

始める前に
必要なロール:sn_grc_metric.user、sn_risk.reader、および sn_compliance.reader

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース > メトリクス > 自分のメトリクスデータタスク.
2. データを提供するタスクを開きます。
3. [対応中に移動] を選択します。
4. メトリクス情報フォームの [メトリクスの入力] セクションで、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
メトリクスデータ	メトリクスの値。このフィールドは、メトリクスフォームの [カテゴリ] フィールドで [定量的] が選択されている場合にのみ表示されます。
単位	データの単位。たとえば、米国ガロン。 **注:** データは任意の単位で入力でき、メトリクスの定義で指定されたレポート単位に変換されます。
応答	メトリクスの応答。このフィールドは、メトリクスフォームの [カテゴリ] フィールドで [定性的] が選択されている場合にのみ表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
送信した応答が正確であることを認定して承認します。 (I certify and acknowledge that the response I have submitted is accurate.)	データの正確性を認定するオプション。
追加コメント (顧客に表示)	メトリクスデータの追加情報。

5. [保存] を選択します。
6. 証拠またはサポート情報を提供するには、[関連ドキュメント] 関連リストで [新規] を選択します。
7. 関連ドキュメントフォームのフィールドに入力します。

関連ドキュメントフォーム

フィールド	説明
名前	サポート情報の名前を提供します。
URL	サポート URL を追加するには、ロックアイコンを選択します。
メトリクスのデータタスク	このフィールドには、情報を提供しているメトリクスデータタスクの名前が自動的に設定されます。

8. [送信] を選択します。

複数のメトリクスの応答の提供

メトリクスタスクモジュールを使用すると、複数のメトリクスの応答を使いやすい形式で提供できます。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

データ所有者は、複数のメトリクスデータタスクのデータまたは応答を提供する必要があります。提供するデータは、複数のソースからもたらされるため、複数のデータ所有者が存在する場合があります。このようなシナリオでは、データ入力の監査記録を維持することは困難です。メトリクスタスクモジュールを使用すると、複数のメトリクスデータタスクのデータを入力できます。エンティティ別のメトリクスデータタスク、メトリクスグループ、メトリクスサブグループ、開始日、終了日などのフィルターを使用して、データを提供するメトリクスを選択します。入力および送信した応答、およびデータまたは応答の送信の日付が過ぎているかどうかを確認できます。クローズ済みステータスでないタスクに対してのみ、メトリクスデータ応答を提供できます。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース.
2. メトリクスデータテーブルアイコン ( ) を選択します。
3. フィルターアイコン [エンティティ]、[メトリクスグループ]、[メトリクスサブグループ]、[タスクタイプ]、[開始日]、および [終了日] フィルターを設定して、データを提供するタスクを表示します。

   オープンなメトリクスデータタスクがあるグループのみがフィルターに表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

4. [**Apply** (適用)] を選択します。
5. データを入力するエンティティのセルをダブルクリックします。
6. 応答に必要な情報を入力し、[保存] を選択します。
   データを入力するセルごとにこの手順を実行します。セルをスクロールして、すべてのタスクに対して応答を入力できます。

   注:
   関連するメトリクスの定義の設定方法に応じて、選択肢を選択するか、HTML を入力するかを選択できます。これらの形式は、手動メトリクスの定義の [カテゴリ] フィールドが [定性的] に設定されている場合に使用できます。詳細については、「手動メトリクスの定義の作成」と「[手動メトリクスの定義] のフィールド」を参照してください。

7. 応答を送信するタスクを選択します。
8. 入力したデータの証拠を提供するには、コンテキストサイドパネルの [添付ファイルおよびリンク] タブを選択し、必要に応じてリンクと添付ファイルを追加します。
9. **[Submit** (送信)] を選択します。
   送信する個々のメトリクス定義のすべてのセルを選択するには、対応する行のチェックボックスをオンにします。送信するすべてのセルを選択するには、[メトリクスデータタスク] テーブルのヘッダー行にあるチェックボックスをオンにします。
10. オプション: 必要なチェックボックスをオンにして、[送信] を選択します。

メトリクスデータタスクのレビュー

メトリクスデータタスクをレビューし、レビューに基づいてタスクを承認または却下します。

始める前に
必要なロール:sn_grc_metric.admin、sn_grc_metric.manager、および sn_grc_metric.reader

このタスクについて
メトリクス定義レコードの一部として承認者としてアサインされている場合、メトリクスデータタスクの [承認] タブに承認タスクが表示されます。

手順
1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース.
2. [メトリクスデータテーブル] アイコン (
3. メトリクスデータタスクを確認し、次のいずれかのアクションを実行します。
   個々のメトリクスの定義レベルでセルを一括で承認または却下することも、メトリクスデータタスクテーブルの各行のチェックボックスまたはヘッダー行のチェックボックスをオンにしてすべてのセルに対して承認または却下することもできます。
4. オプション: 必要なチェックボックスをオンにして、[却下] または [承認] を選択します。

メトリクスデータタスク応答のオーバーライド

メトリクスマネージャーは、定量的または定性的メトリクスに指定された応答を変更する必要があると考える場合、データを編集して変更の理由を入力できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：sn_grc_metric.admin、sn_risk.admin、および sn_compliance.admin

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース > メトリクス > メトリクスデータタスク.
2. データを編集するタスクを開きます。
3. [メトリクスの入力] セクションで、[応答をオーバーライド **(Override Response)**] オプションを選択します。
4. [オーバーライドされた応答 **(Overridden response)**] フィールドに新しい応答を入力します。
5. [理由 **(Justification)**] フィールドに、前のデータを上書きするための妥当な理由を入力します。
6. 追加のコメントがある場合は、[追加コメント] フィールドに入力します。
7. [保存] を選択します。

メトリクスデータのオーバーライド

データ所有者に提供されたメトリクスデータが不正確な場合は、データ所有者に提供されたメトリクスデータを変更または上書きできます。

始める前に
必要なロール：sn_grc_metric.admin、sn_risk.admin、および sn_compliance.admin

このタスクについて
メトリクスデータタスクがクローズされた後で、リスクアドミニストレーターは必要に応じてメトリクスデータを変更できます。リスクアドミニストレーターは、データを変更するための妥当な理由を提供する必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース > リスト > メトリクス > 自分のメトリクスデータタスク.
2. 変更するレコードを開きます。
3. [メトリクス情報] フォームの [メトリクスの入力] セクションで、[メトリクスデータのオーバーライド **(Override Metric Data)**] オプションを選択します。
4. [メトリクスデータのオーバーライド **(Override Metric Data)**] フィールドに新しい値を入力します。
5. [理由 **(Justification)**] フィールドに、データを上書きするための妥当な理由を入力します。
6. 追加のコメントがある場合は、[追加コメント] フィールドに入力します。
7. [保存] を選択します。

タスクの結果
メトリクスデータタスクの値がオーバーライドされ、メトリクスデータで同じ値が更新されます。

計算式ツリーを使用した計算の詳細の確認

計算チェーン全体を構造化して視覚的に表現することで、計算済みメトリクスの定義を確認します。計算式ツリーを使用すると、計算の詳細にアクセスし、さまざまなメトリクスと排出係数がどのように相互に関連しているかを表示できます。

計算式ツリーは、計算されたメトリクス値の透明性を高めるツールです。必要な計算済みメトリクスデータレコードに移動し、計算の詳細なブレークダウンを示す計算式ツリーを表示します。オペラン

自動翻訳

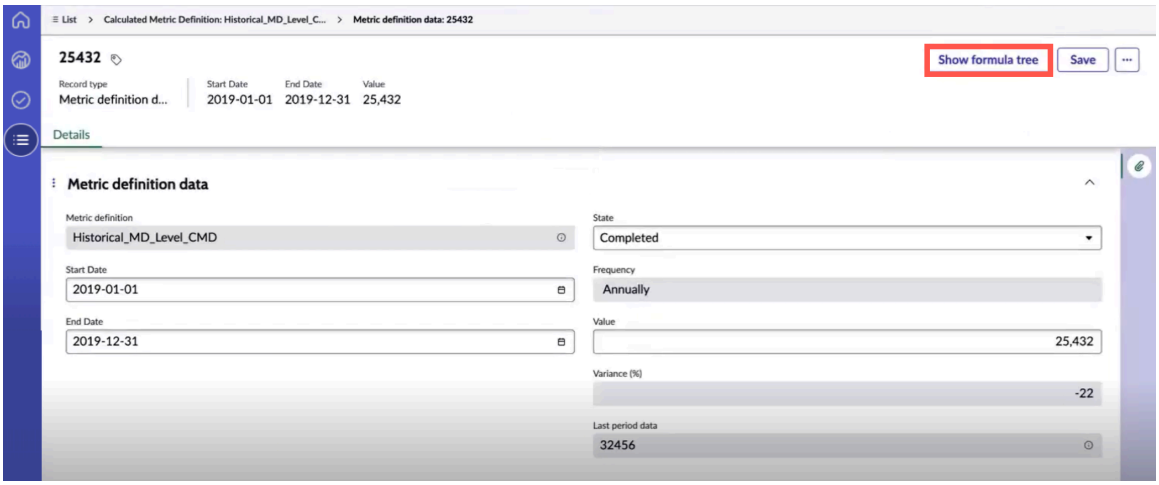
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ドの値と、それらを組み合わせて最終結果を生成する方法が表示されます。この機能は、ユーザーと監査人が複雑な計算の精度を理解して検証するのに役立ちます。

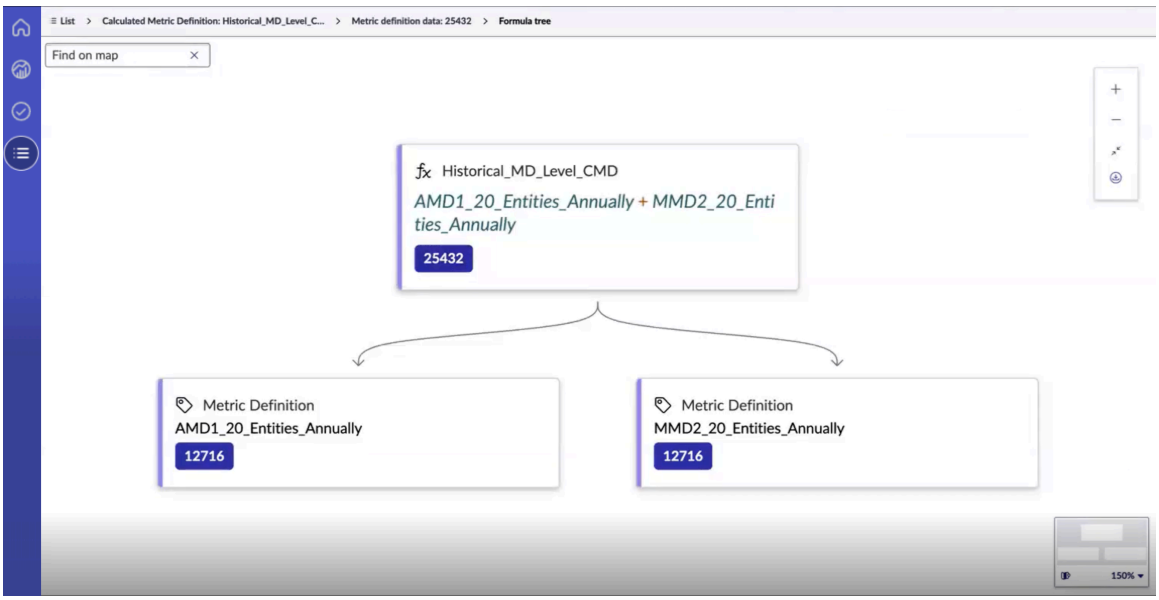
注:
計算式ツリーは、[計算レベル] が [メトリクスの定義] に設定されている場合に生成された計算済みメトリクスデータに使用でき、 計算レベル が [エンティティ] に設定されている場合に生成されたメトリクスで使用できます。計算式の構築の詳細については、「 計算済みメトリクスの定義で計算式をビルドする」を参照してください。

次の例に示すように、計算済みメトリクスデータレコードに移動し、[計算式ツリーを表示] を選択すると、関連する計算式ツリーを表示できます。

計算式ツリーへのアクセス例



計算式ツリーの例



注:
計算式ツリーは、CMD で指定された精度レベルを適用してオペランドの値を表示します。

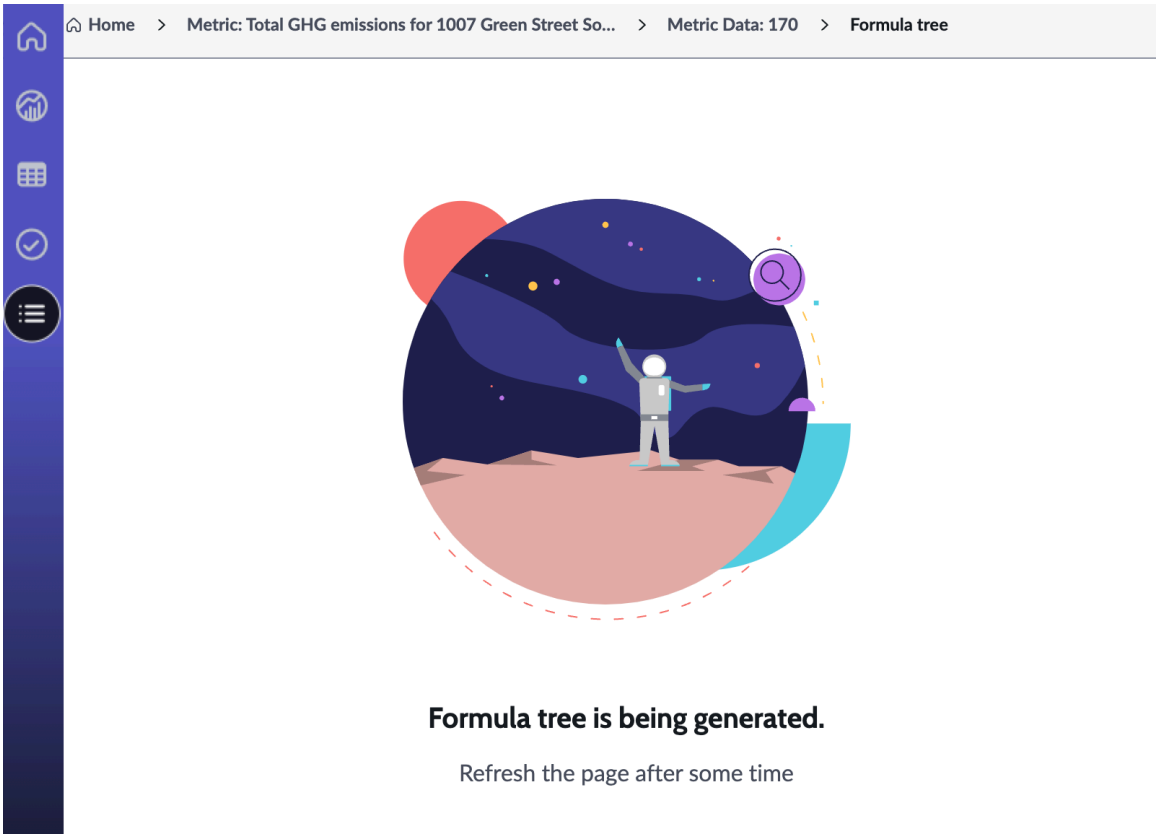
たとえば、CMD で小数点以下 2 桁の精度が指定されている場合、実際の値の小数点以下の桁数が多かれ少なかれ、式ツリーにはすべてのオペランド値が小数点以下 2 桁で表示されます。

次の例に示すように、空のページが表示されている場合は、数式ツリーまたは数式オペランドが現在空であり、非同期に更新されているためです。エラー ページが表示される場合は、修正が必要な数式オペランドのエラーが原因です。

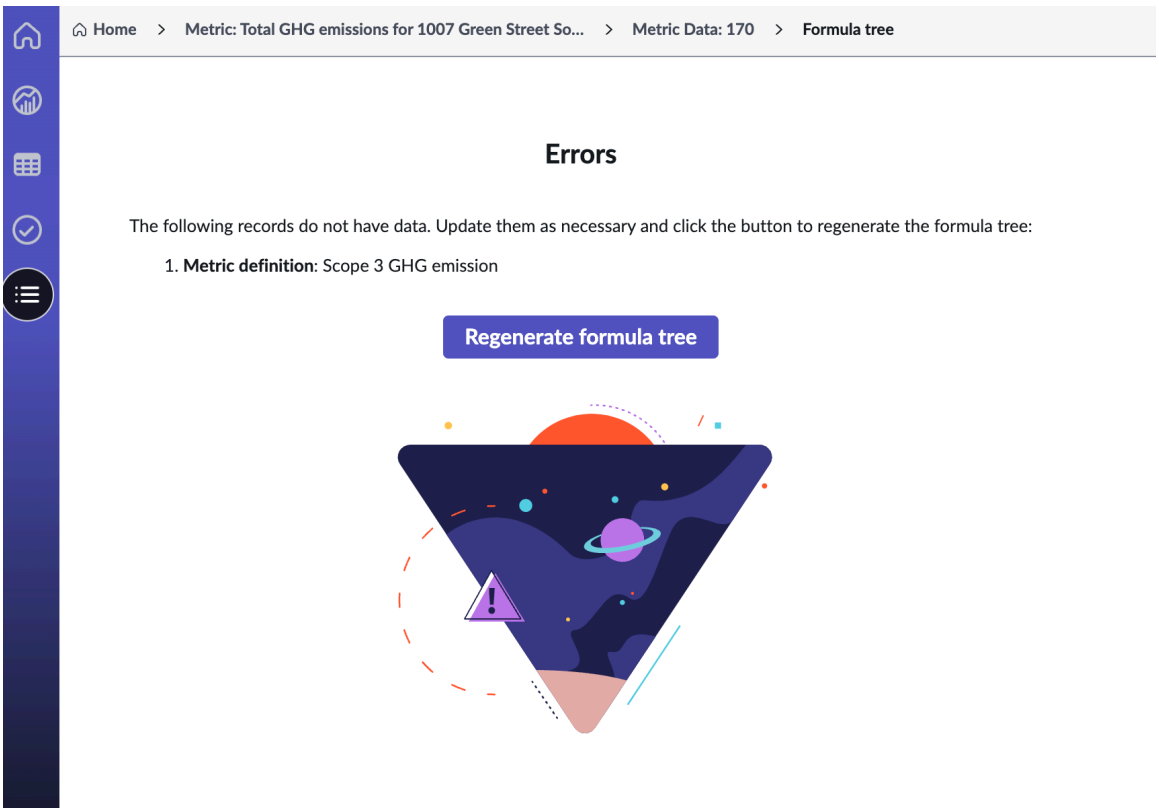
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

空のページの例



エラーページの例



計算式ツリーの詳細については、以下を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

計算ツリーでの計算ブレークダウンの表示

計算チェーン全体の構造化された視覚的表現を表示します。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin、sn_esg.metric_manager、sn_esg.program_manager、sn_esg.reporting_disclosure_manag

sn_risk.user (リスクユーザーの場合)

このタスクについて

計算式ツリーは、すべてのオペランドと演算を含む値の計算方法の詳細なブレークダウンを表示することで、透明性を提供します。これは、データの監査とデバッグに特に役立ちます。

手順

1. 使用しているアプリケーションに応じて、次のいずれかの場所に移動します。
   - すべて > 環境、社会、ガバナンス > **ESG** ワークスペース > メトリクス > 計算済みメトリクスの定義.
   - すべて > リスク管理 > リスクワークスペース > メトリクス > 計算済みメトリクスの定義.
2. 計算式ツリーデータを表示するメトリクスの定義を開き、[計算済みメトリクスデータ] を選択します。
3. 必要な計算済みメトリクスデータレコードを選択し、[計算式ツリーを表示] を選択します。
   計算チェーン全体を視覚的に表示できます。計算式、関連するメトリクスの定義、サブ計算式、関数などが表示されます。

   注:
   空のページが表示されている場合は、計算式ツリーまたは計算式オペランドが現在空であり、非同期で更新されているためです。エラー ページが表示される場合は、修正が必要な数式オペランドのエラーが原因です。

GRC：メトリクスの参照

複数のプロパティ、テーブル、およびロールが GRC：メトリクス アプリケーションとともにインストールされます。

GRC：メトリクス アプリケーションとともにインストールされるコンポーネント

リスク管理 アプリケーションがアクティブになると、GRC：メトリクス アプリケーションが自動的にインストールされます。GRC：メトリクス アプリケーションによって、ここにリストされているロールが追加されます。

インストールされるロール

次のロールが GRC：メトリクス アプリケーションとともにインストールされます。

GRC：メトリクス アプリケーションとともにインストールされるロール

ロール	説明	内容
sn_grc_metric.admin	このロールは、アプリケーション内でアドミニストレーターとして機能し、メトリクスマネージャーロールの責任を含みます。このロールには、メトリクスデータタスクでメトリクスデータの結果を上書きする	sn_grc_metric.manager、schedule_admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC：メトリクス アプリケーションとともにインストールされるロール (続く)

ロール	説明	内容
	機能と、メトリクスの定義とメトリクスを削除する権限があります。通常、このロールは、プロダクトオーナーまたはアプリケーションアドミニストレーターとしての役職を持つ個人にアサインされます。	
sn_grc_metric.manager	このロールでは、メトリクスの定義とメトリクスの読み取り、作成、更新を行うことができます。これは主に、それぞれの責任領域内でメトリクスを定義する権限を必要とするリスクマネージャー、コンプライアンスマネージャー、またはビジネスマネージャーに割り当てられます。	sn_grc_metric.user
sn_grc_metric.reader	このロールは読み取り専用アクセスに制限されています。メトリクスの定義またはメトリクスを作成、編集、または更新する権限はありません。ただし、メトリクスリーダーとして、このロールには、承認者として指定されているメトリクスデータタスクをレビューおよび承認する権限があります。このロールは、メトリクスデータを使用してダッシュボードにアクセスしてメトリクスのパフォーマンスを監視する場合に、マネージャーとエグゼクティブにアサインできます。	なし
sn_grc_metric.user	このロールは主にデータ所有者に割り当てられ、手動メトリクスデータ入力タスクに対応できるようにします。通常、これらのユーザーはビジネスから選ばれ、組織内で所有権を持ちます。	sn_grc.reader、sn_grc_metric.reader
sn_grc_metric.developer	このロールを持つユーザーは、データ収集自動メトリクス定義のスクリプトを作成および編集する権限を持ちます。	なし

リスク管理 のアナリティクスおよびレポート作成ソリューション

プラットフォームアナリティクスソリューション には事前構成済みのダッシュボードが含まれます。これらのダッシュボードには、アクション可能なデータ表示方法が豊富に用意されており、ビジネスプロセスとビジネスプラクティスの改善に役立ちます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

この プラットフォームアナリティクスソリューション は ServiceNow Store で利用できます。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

プラットフォームアナリティクス データの可視化では、 パフォーマンスアナリティクス インジケーター データを使用してデータを経時的に表示し、ビジネスプロセスを分析して改善が必要な領域を特定するのに役立ちます。プラットフォームアナリティクスソリューション を使用すると、最小限のセットアップで パフォーマンスアナリティクス からアプリケーションに関する値を取得できます。いつでも独自のオブジェクトを作成することもできます。

GRC：リスク管理の分析およびレポートソリューションを有効にするには、次の手順を実行します。

1. ServiceNow Store にアクセスし、パフォーマンスアナリティクス - GRC：リスク管理アプリケーションおよび関連アプリケーションのエンタイトルメントを取得します。「」を参照してください。 をインストールする ServiceNow 製品 ServiceNow Store。
2. インスタンスで、次に移動します: システムアプリケーション > すべてのアプリケーション > すべて.
3. パフォーマンスアナリティクス - GRC：リスク管理アプリケーションを見つけてインストールします。

リスク管理 アプリケーションでは、次のレポートとダッシュボードを使用できます。

> **重要:**
>
> リスク管理アプリケーションのバージョン 18.1.0 以降では、リスク管理のアナリティクスおよびレポート作成ソリューションを ネクストエクスペリエンス UI フレームワークで使用できます。

リスクワークスペースの高度なリスクアセスメントのオペレーショナルリスクヒートマップ

オペレーショナルリスクマネージャーは、リスクワークスペースでリスクヒートマップを構成および管理できます。

リスクヒートマップは、組織を脅かす特定のリスクを伝えるために使用されるデータ可視化ツールです。ヒートマップは、より注意が必要なリスクを特定するのに役立つため、エンタープライズリスク管理の重要なコンポーネントと見なされています。リスクワークスペースでは、UI ビルダーを使用して高度なリスクアセスメントヒートマップを構成できます。ヒートマップは、固有のリスクと残存リスクに関する詳細な情報を提供します。ヒートマップの軸は、固有リスクと残存リスクの構成で設定できます。ヒートマップの軸の詳細を設定する方法については、「固有のアセスメントを構成」および「残存アセスメントを構成」を参照してください。

オペレーショナルリスクヒートマップを表示するには、次のことを確認してください。

- GRC：リスク管理ワークスペース (com.sn_risk_workspace) プラグインをアクティブ化します。
- GRC：高度なリスク (com.sn_risk_advanced) プラグインをアクティブ化します。
- `Migrate to Advanced Risk Assessments` プロパティを有効にします。

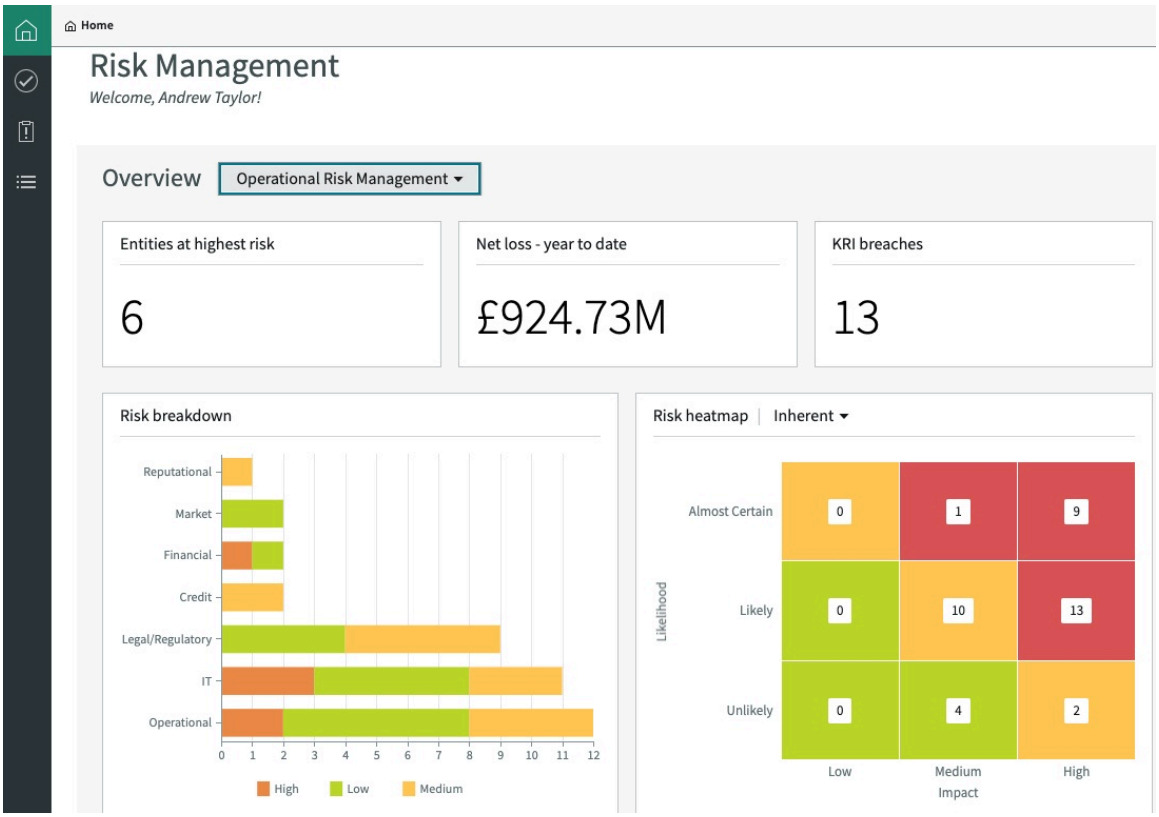
[サマリー] フィールドで、ヒートマップを表示するリスクアセスメント方法論を選択できます。ヒートマップの任意のタイルをクリックすると、その特定のリスクアセスメント方法論で評価されたすべてのリスクとそのスコアを表示できます。これらのリスクに対して選択されたリスク対応戦略を表示

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

できます。ヒートマップの色を定義する場合は、設定に従って色を定義できます。詳細については、「リスクの色のスタイルを作成」を参照してください。

オペレーショナルリスクヒートマップ



他のページまたはワークスペースでヒートマップを追加または設定するには、Now Support ナレッジベースの記事「Risk Heatmap Documentation (リスクヒートマップドキュメント) [KB0994328]」を参照してください

クラシック版リスクアセスメントのリスクヒートマップ

オペレーショナルリスクマネージャーが、クラシック版リスクアセスメントを使用して組織内のリスクを評価することを選択した場合、リスクヒートマップを表示して組織のリスク体制の概要を把握できます。

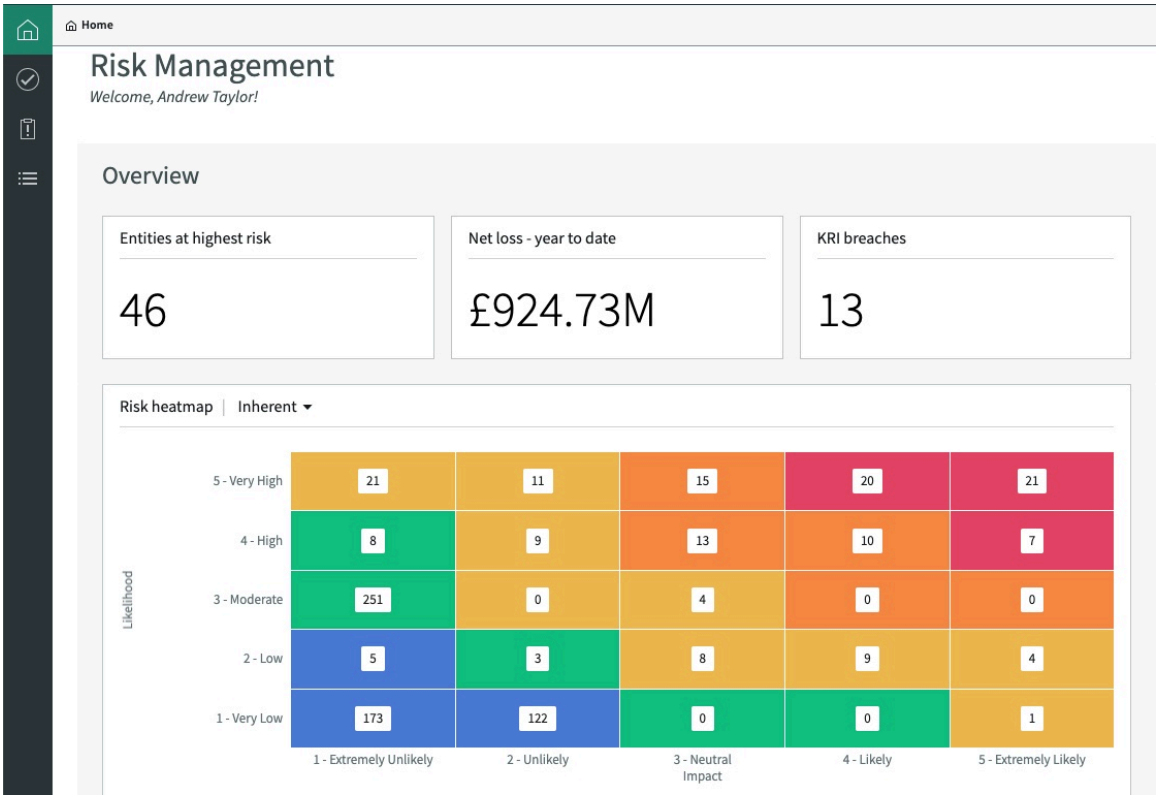
リスクヒートマップは、組織を脅かす特定のリスクを伝えるために使用されるデータ可視化ツールです。リスクヒートマップは、より注意が必要なリスクを特定するのに役立つため、エンタープライズリスク管理の重要なコンポーネントと見なされています。

オペレーショナルリスクヒートマップを表示するには、GRC：リスク管理 (sn_risk) プラグインをアクティブ化していることを確認してください。ヒートマップの任意のタイルをクリックすると、リスクレコードが表示され、エンティティ、リスクステートメント、所有グループ、所有者、および計算済みスコアを確認できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クラシック版リスクアセスメントヒートマップ



リスクヒートマップワークベンチ

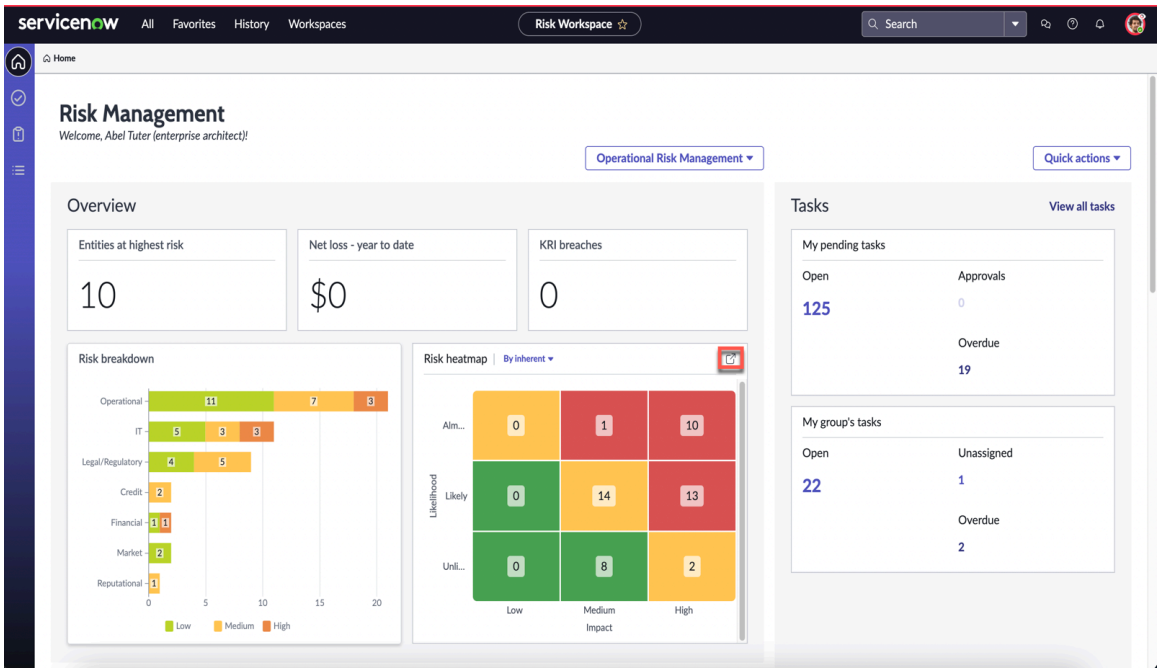
オペレーショナルリスクマネージャーは、高度なリスク アプリケーションのリスクヒートマップワークベンチを使用して、リスクの詳細を可視化し、エンティティのリスク体制の理解を深めることができます。

ヒートマップワークベンチの概要

リスクヒートマップは、リスクデータを図で表したもので、マトリクスに含まれる個々の値が、意味を示す色で表されます。リスクヒートマップを使用すると、リスクアセスメント結果を便利で、視覚的に魅力的な簡潔な形式で確認できます。バージョン 14.0 以降、ワークベンチ起動アイコン ( ) を使用してリスクヒートマップワークベンチを起動できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



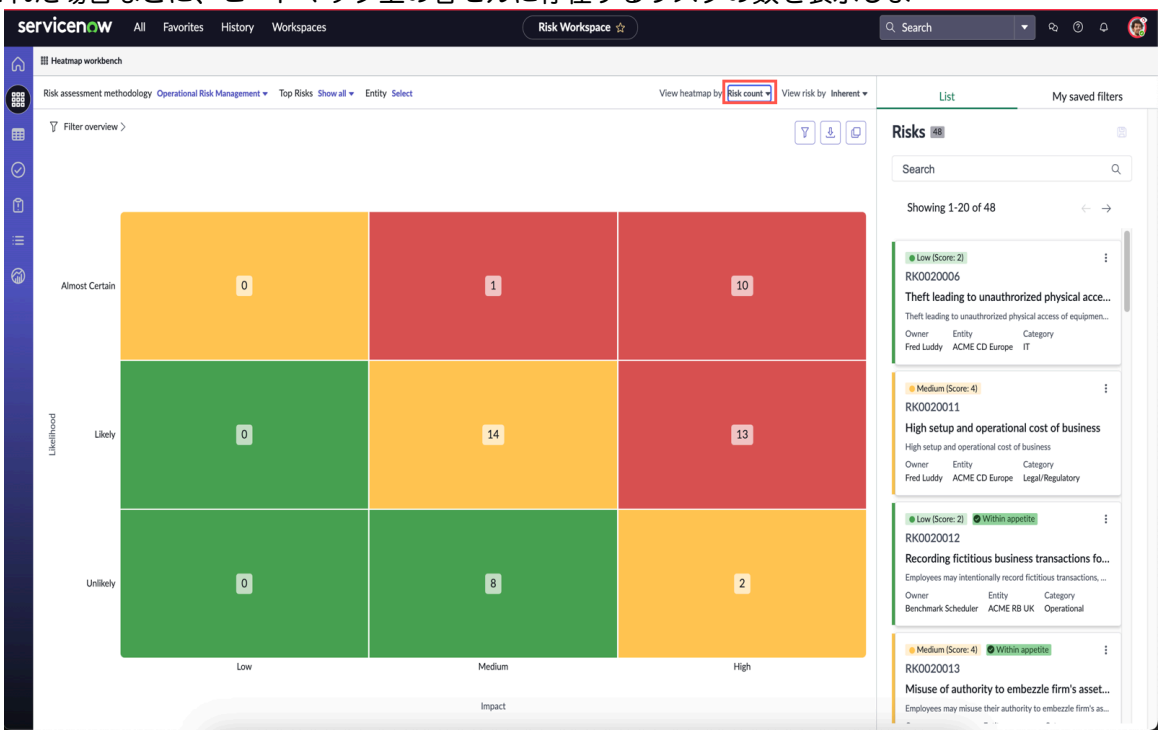
ヒートマップワークベンチの機能

リスクヒートマップワークベンチを使用すると、リスクの次の側面を表示できます。

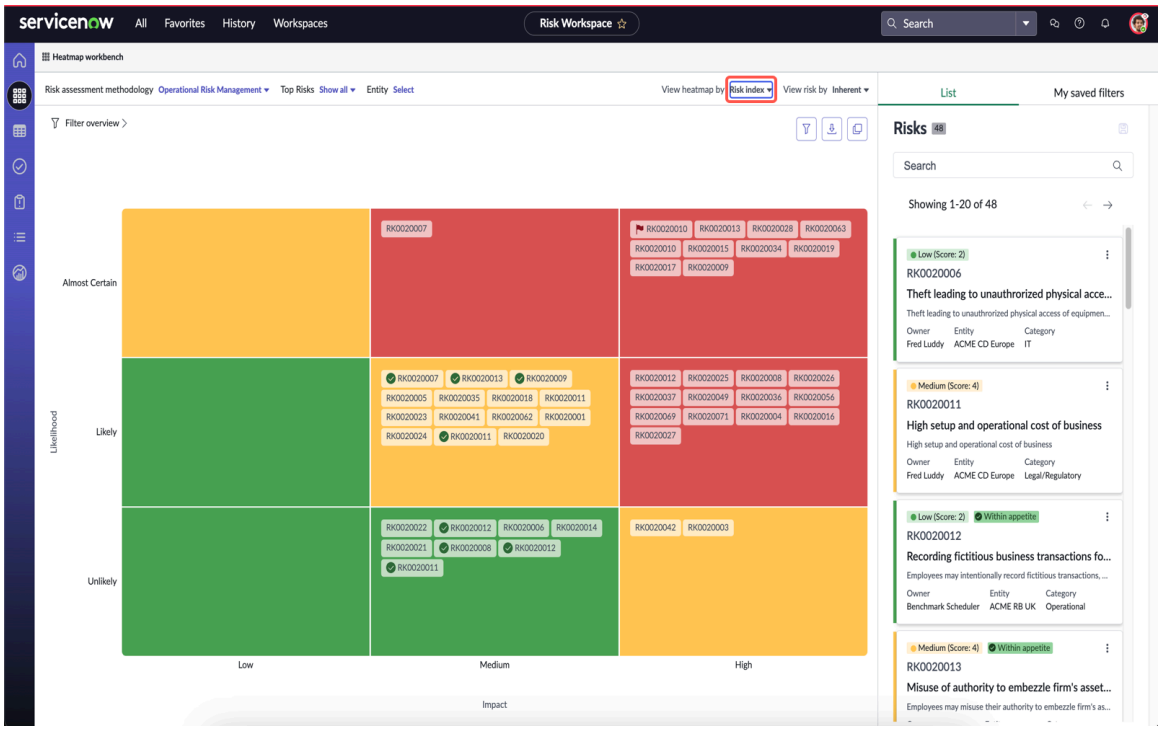
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- リスクカウント：影響度などの X 軸の要素が可能性などの Y 軸の要素と組み合わされた場合などに、ヒートマップ上の各セルに存在するリスクの数を表示します。



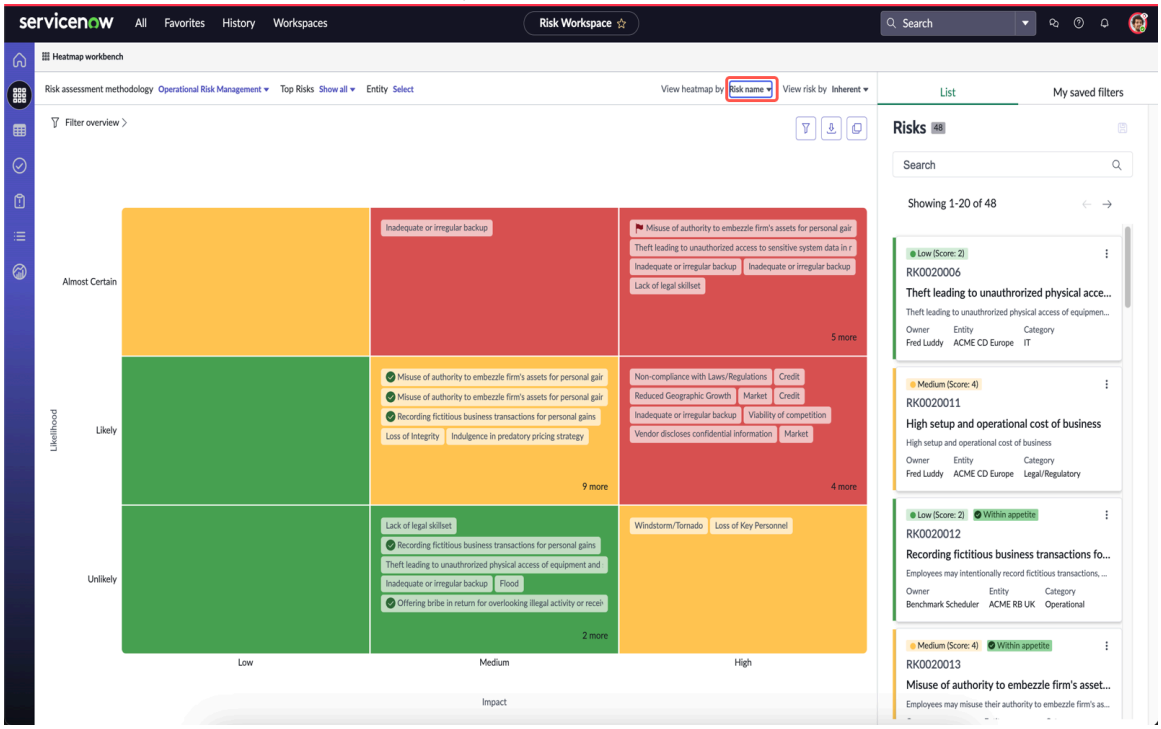
- リスクインデックス：各セルのリスク ID と各リスクの詳細をコンテキストサイドパネルに表示します。



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- リスク名：各セル内のすべてのリスクの名前を表示しま



す。

- 上位リスク：ヒートマップワークベンチの上位リスクを表示します。たとえば、[上位リスク] フィルター選択リストから [10] を選択すると、ヒートマップで選択したリスクアセスメント方法論 (RAM) に関連付けられている上位 10 件のリスクが表示されます。
- エンティティ：ヒートマップワークベンチの特定のエンティティとそのダウンストリームエンティティに関連付けられているリスクを表示します。RAM で定義されている特定のエンティティに関連付けられているリスクをフィルターできます。

各リスクをポイントすることで、リスクの詳細をすばやく取得できます。たとえば、リスクオーナーが誰であるか、リスクが属するエンティティ、リスクのカテゴリを確認できます。コンテキストサイドパネルには、1 ページに一度に 20 件のエントリが表示されます。表示するエントリの合計数を設定できます。すべてのリスクをカードとして表示するか、1 つのリスクを選択してその詳細を表示できます。ヒートマップセルからリスクを選択すると、そのリスクの詳細がサイドパネルに表示されます。たとえば、リスク評価、リスク応答、リスク追跡、およびリスク階層を表示できます。アクティビティログは、リスクに対して実行されるすべてのアクティビティをキャプチャします。その他のアクションアイコン ⋮ をクリックすると、次のオプションが表示されます。

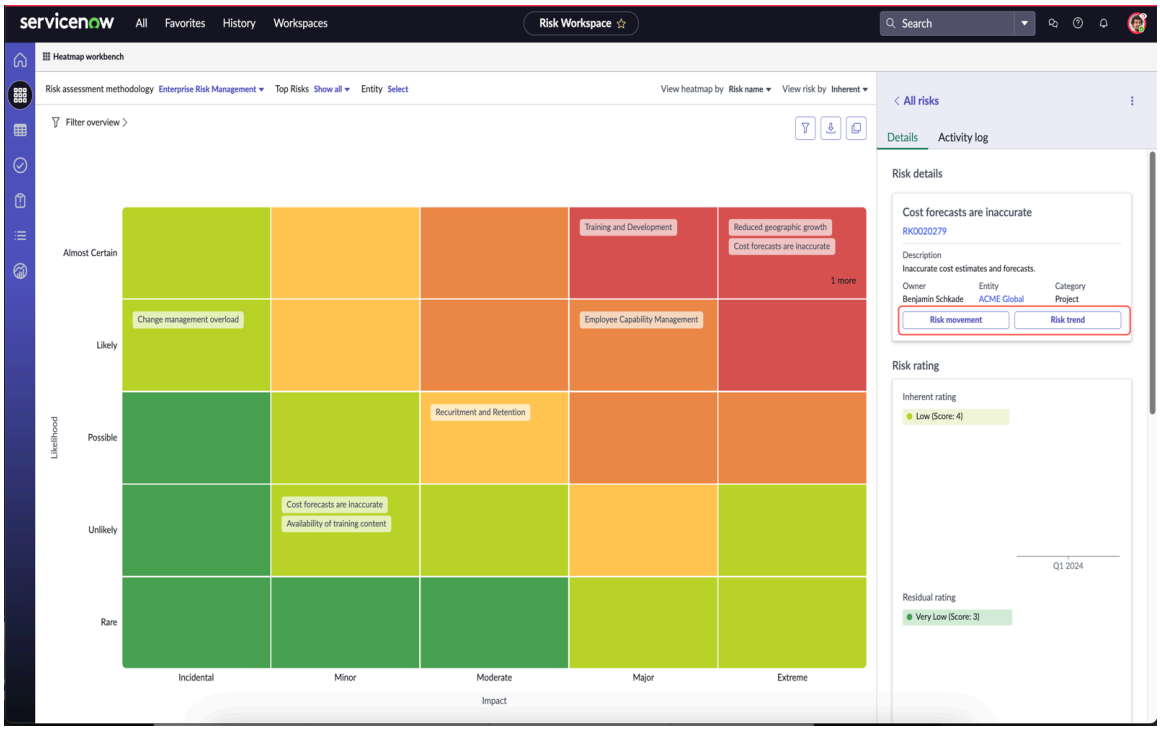
- [オープン]：リスクレコードを提供します。
- **[360** 度ビュー]：関連付けられているエンティティ、コントロール、リスクステートメント、リスクアセスメント、およびリスク応答タスクの概要を提供します。
- [アセスメントを表示]：リスクのアセスメントサマリーを表示します。

ヒートマップワークベンチでのレポート

ヒートマップワークベンチは、リスクのレポートと分析に使用する主要なツールです。リスクの動きとリスクの傾向を確認することで、組織のリスクプロファイルを可視化し、その情報をステークホルダーと共有できます。

自動翻訳

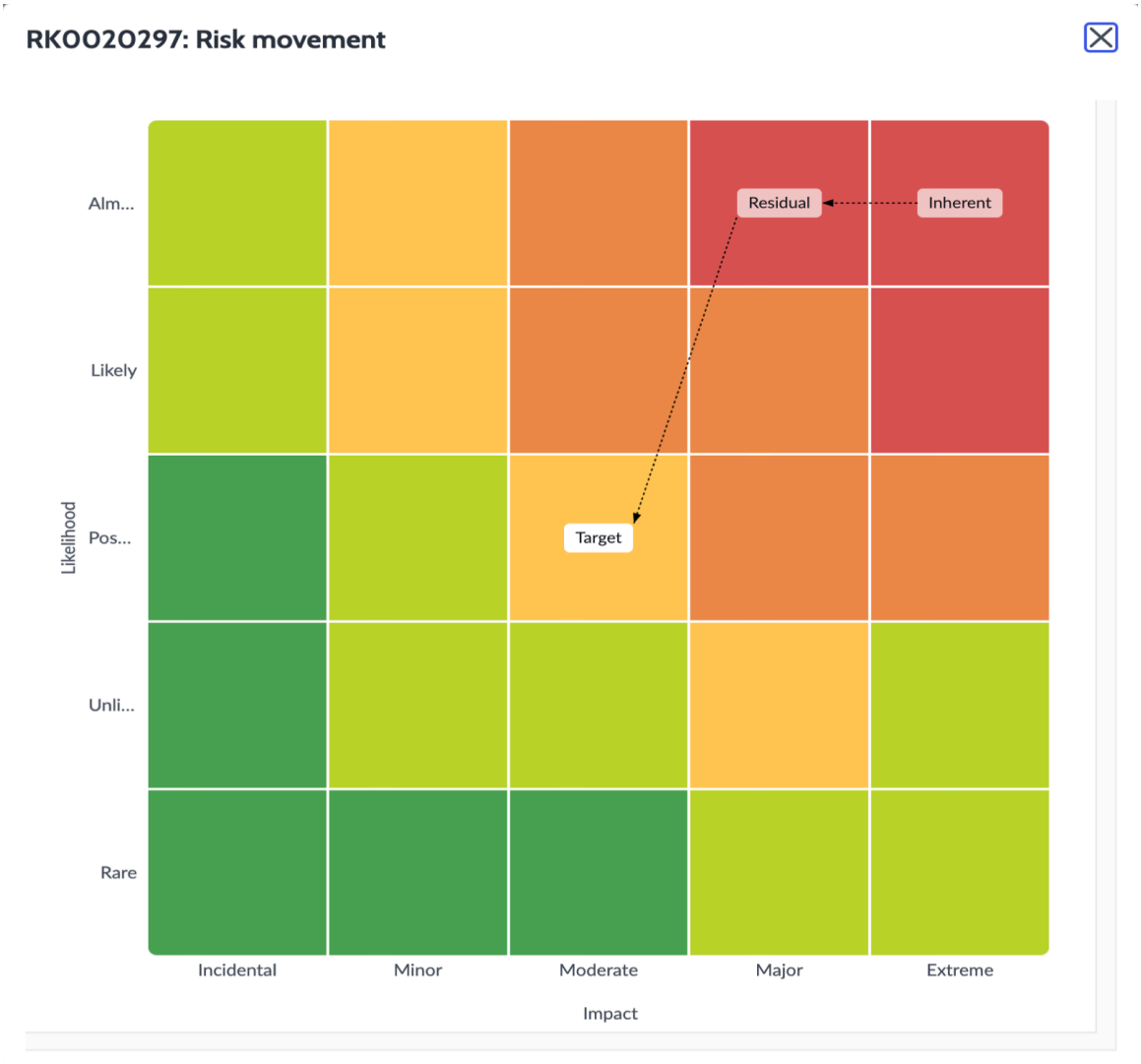
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



ヒートマップワークベンチでは、固有リスク (コントロールまたは軽減アクションのないリスクレベル) から残存リスク (コントロールの実装後に残るリスク)、最後にターゲットリスク (将来的に達成したいリスクレベル) へのリスクの移動を表示できます。この情報は、リスクを軽減するためにアサインされたコントロールが有効かどうかを分析するのに役立ちます。リスク移動は、残存リスクが固有リスクと同じ要素を持つ RAM でのみ使用できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



ヒートマップワークベンチでは、複数のアセスメントでのリスクスコアの移動を表示できます。リスク傾向は、リスクがどのように変化したかを示し、リスクをどのように管理しているかを分析します。リスク傾向は、過去 5 回のリスクアセスメントで利用できます。ヒートマップ上の傾向ラインを無効にして、明確で整理されたビューを表示することもできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



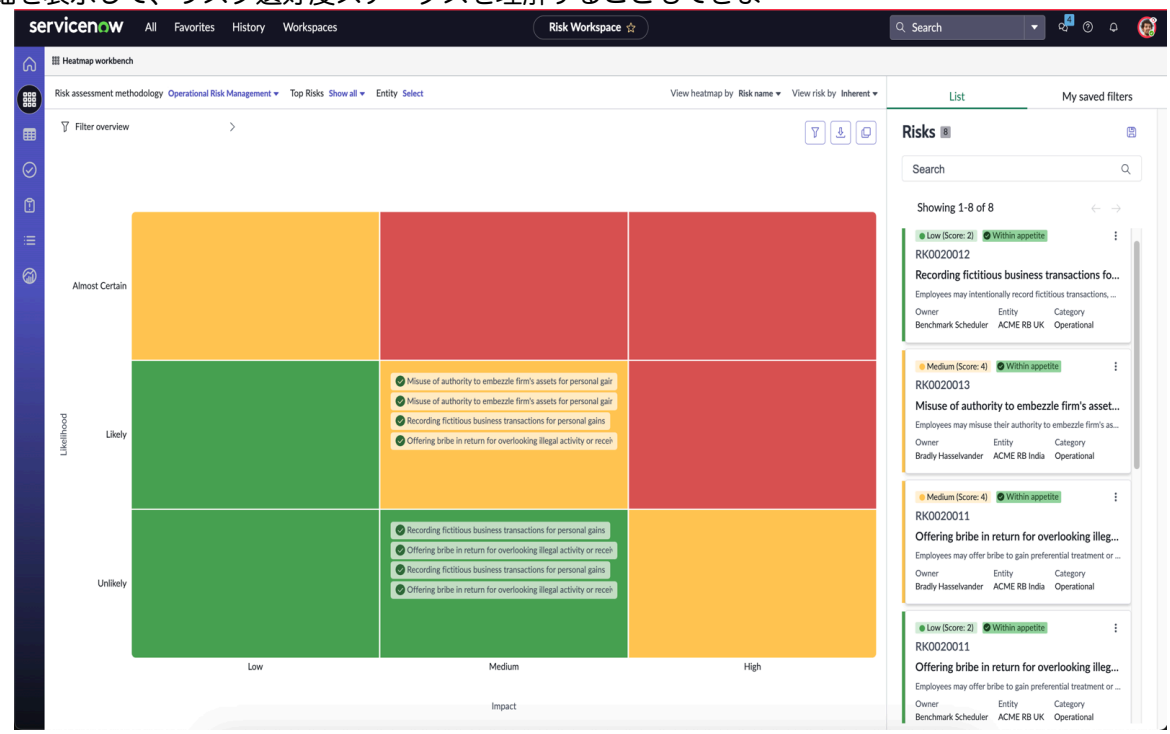
ヒートマップワークベンチでのリスク選好度

ヒートマップワークベンチでリスク選好度のステータスを表示できます。リスク選好度の傾向もヒートマップで確認できます。リスクの

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細を表示して、リスク選好度ステータスを理解することもできま



す。

ヒートマップワークベンチでのフィルタリング

ヒートマップワークベンチに表示されるデータをフィルターできます。たとえば、ヒートマップに 40 のエントリがあり、エンティティが ACME Global であるリスクをフィルターするとします。条件ビルダーを使用してフィルターを適用できます。フィルターが適用されると、ヒートマップが更新され、適用したフィルター条件に基づいてデータが表示されます。データをフィルターする方法の詳細については「リスクヒートマップワークベンチでデータをフィルター」を参照してください。フィルター機能は、ワークベンチビューでのみ使用できます。[自分の保存したフィルター] セクションで、頻繁に使用するフィルターを保存できます。

ヒートマップワークベンチでのダウンロードとコピー

必要に応じて、リスクヒートマップ情報をダウンロードまたはコピーしてレポートに含めたり、関連するステークホルダーと共有したりすることができます。[ ] というダウンロードアイコンを使用すると、ヒートマップを画像としてダウンロードできます。[ ] というアイコンを使用すると、ヒートマップ情報をクリップボードにコピーできます。その後、メール、レポート、プレゼンテーション、またはその他のドキュメントに貼り付けて、必要に応じてビジュアルデータ表現を共有できます。

ヒートマップワークベンチでの検索

リスクユーザーは、特定のリスクを探しているときに、名前、所有者、またはカードに表示されているその他の情報でリスクをすばやく検索できます。リスクを検索してデータをフィルターすることもできます。コンテキストサイドパネルで、検索フィールドにキーワードを入力すると、フィルターされた結果が表示されます。

注:
検索機能では、カードに表示されるリスク名、リスクの説明、およびフィールドが考慮されます。たとえば、「オペレーショナル」という単語を検索すると、「オペレーショナル」という単語を含むすべてのリスクが検索結果に表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

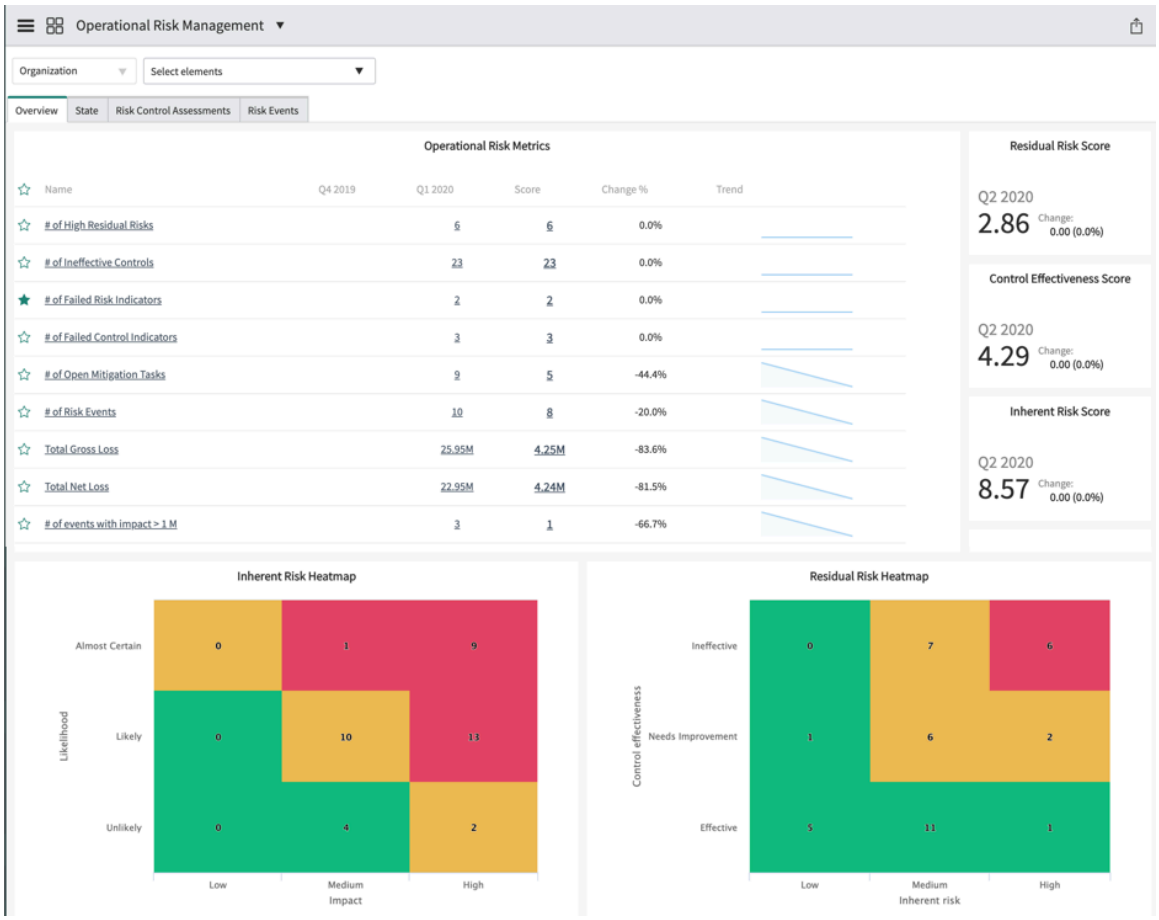
ヒートマップワークベンチの没入型ビュー

ヒートマップの没入型ビューでは、X 軸と Y 軸の値がハイライト表示された展開形式のヒートマップを表示できます。このビューの利点は、1 つのゾーンに情報が多すぎる場合に、そのゾーンに焦点を当てて各リスクを分析できることです。ページネーションを使用すると、すべてのレコードを表示できます。リスクを指し示すことで、リスクの詳細をすばやく把握できます。値をクリックして、両方の軸の異なる値を表示することもできます。たとえば、ヒートマップで X 軸の値が「低」、「中」、「高」で、Y 軸の値が「可能性が低い」、「可能性が高い」、「ほぼ確実」であるとします。両方の軸の値をクリックすると、その組み合わせのリスクが表示されます。

オペレーショナルリスク管理ダッシュボード

sn_risk.user ロールを持つエンティティオーナーは、オペレーショナルリスク管理ダッシュボードを使用して、企業の完全なリスク体制を単一の統合レポートで表示できます。このダッシュボードを使用すると、リスク体制を効率的に分析し、損失がないことを確認するために必要な是正措置を講じることができます。

オペレーショナルリスクダッシュボード



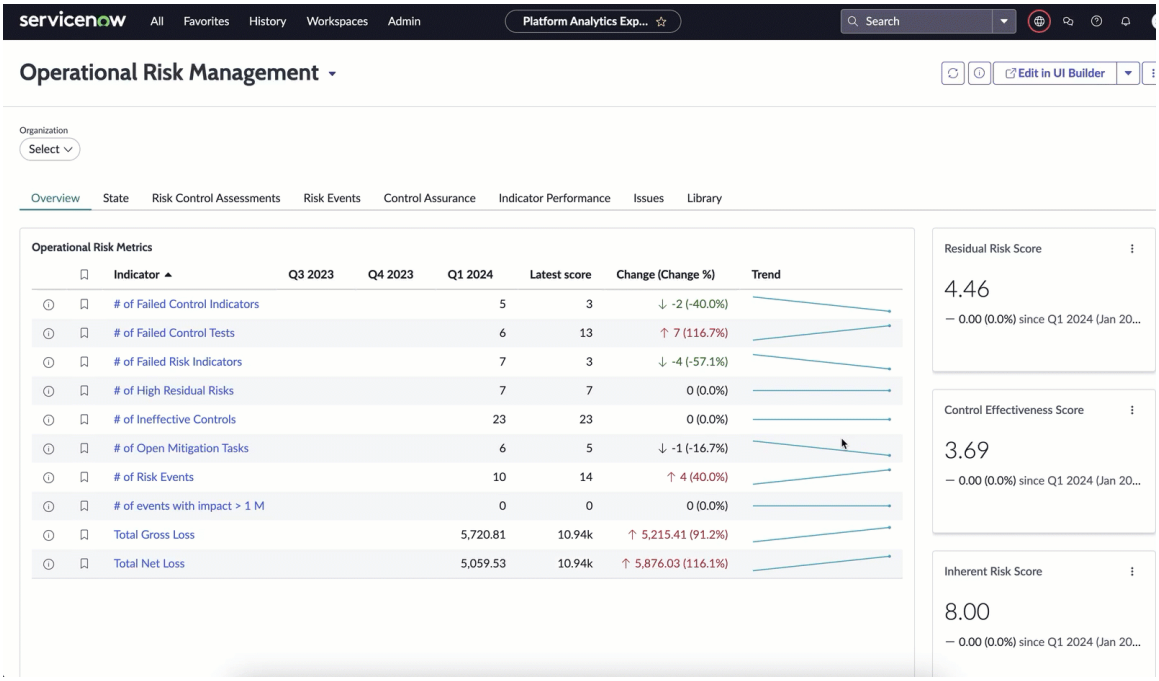
重要:
高度なリスクアプリケーションのバージョン 18.1.0 以降、ネクストエクスペリエンス UI フレームワークでオペレーショナルリスク管理ダッシュボードを使用できます。

Vancouverまたは Washington DCを使用している場合は、ネクストエクスペリエンス UI フレームワークでダッシュボードを表示できます。

ダッシュボードを開くには、次の場所に移動します。 すべて > 高度なリスクアセスメント > アナリティクスオペレーショナルリスクダッシュボード.

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ネクストエクスペリエンス のオペレーショナルリスク管理ダッシュボード



エンドユーザーとロール

エンドユーザーと目標	必要なロール	利点
リスクユーザー：オペレーショナルリスクは、事業継続性計画、環境リスク、プロセスシステム、オペレーショナルリスク、およびユーザー関連リスクをキャプチャします。	sn_risk.user	• ビジネスオペレーションの信頼性を向上させます。 • リスク管理操作の有効性を向上させます。 • 意思決定プロセスを強化します。 • 特定されていない、または十分に特定されていないリスクによって発生する損失を削減します。 • 違法なアクティビティを早期に検出します。 • コンプライアンスコストを削減します。 • 将来のリスクによる潜在的な損害を軽減します。

オペレーショナルリスクは、不適切または非効率的な内部プロセス、人員、およびシステムによって、または外部イベントによって発生する損失のリスクです。オペレーショナルリスクは、組織の完全なリスク体制を提供するために次のものをキャプチャします。

- リスク識別とアセスメント
- リスクイベントデータ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 内部コントロールの識別と評価
- リスクのモニタリングとレポート

インジケーター

インジケーターは、定期的な間隔で実行されるビジネスサービス、アクティビティ、または組織行動のパフォーマンス測定値を定義します。これらのパフォーマンス測定値では、時間とともに一連のインジケータースコアを得られます。このダッシュボードを表示するには、高度なリスク および ポリシーとコンプライアンス管理 プラグインをアクティブ化する必要があります。

関連付けられているすべてのプラグインのすべてのインジケーターのリストを表示するには、以下を参照してください。

- GRC 高度なリスク プラグインインジケーター
- GRC ポリシーとコンプライアンス管理 プラグインインジケーター
- GRC 監査管理 プラグインインジケーター
- GRC リスク管理 プラグイン パフォーマンスアナリティクス インジケーター
- GRC Profiles プラグインインジケーター

注:
このダッシュボードのデータを収集するには、2 つのジョブを実行する必要があります。

- [日次データコレクタージョブ **(Daily Data Collector job)**]：このジョブは、インジケーターのデータを収集するために使用されます。このジョブは毎日実行されます。このジョブを実行するには、[実行方法] フィールドに適切な値を入力する必要があります。このジョブは事前構成されています。
- [履歴データコレクタージョブ **(Historical Data Collector job)**]：このジョブは、一定期間データを収集するために使用されます。通常、このジョブはデモデータで事前設定されています。そのため、プラグインをアクティブ化しているときにデモデータを有効にすると、このジョブを表示できます。このジョブを実行するには、[実行方法] フィールドに適切な値を入力する必要があります。

ブレークダウン

組織 (エンティティ)

データの可視化

タイトル	タイプ	説明
残存リスク評価によるリスク応答	ヒートマップ	残存リスクごとに異なるリスク対応タスクの数を示すヒートマップ。
オーナー別コントロール	水平バー	所有者に基づいて分布するコントロール。
オーナー別リスク	水平バー	所有者に基づいて分散されるリスク。
カテゴリ別固有リスク	水平バー	クレジット、市場などのリスクステートメントカテゴリ別にグループ化された、さまざまな固

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タイトル	タイプ	説明
		有リスクレベルを持つリスクアセスメントの数。
カテゴリ別残存リスク	水平バー	クレジット、市場などのリスクステートメントカテゴリ別にグループ化された、さまざまな残存リスクレベルを持つリスクアセスメントの数。
コントロールテスト	リスト	すべてのコントロールの一覧。
コントロールインジケーター	リスト	各コントロールに関連付けられたインジケーター。
リスクインジケーター	リスト	各リスクに関連付けられたインジケーター。
分類別のコントロール	円グラフ	予防や発見などの分類に基づくコントロールの分布。
証明頻度別のコントロール	円グラフ	証明書の頻度に基づいて分布するコントロール。
カテゴリ別リスク	円グラフ	カテゴリに基づくリスク分布。
期限切れの問題	単一スコア	終了予定日を過ぎても未解決の問題の数。
アクティブリスクイベント	単一スコア	アクティブなリスクイベントの数。
処理待ちの証明書	単一スコア	証明書を待機しているコントロールの数。
期限切れのアセスメントタスク	単一スコア	サブステートが [期限切れ] のリスクアセスメントの数。
予定されている受け入れ期限	単一スコア	今後 10 日間の受け入れ終了日を含むリスク受容タスクの数。
オープンな軽減タスク	単一スコア	オープンな軽減タスクの数。
オープンインジケータータスク	単一スコア	開かれているインジケータータスクの数。
期限切れのコントロールテスト	単一スコア	終了予定日を過ぎても未解決のコントロールテストの数。

GRC 高度なリスク プラグインインジケーター

GRC 高度なリスク プラグインにはさまざまなインジケーターが含まれています。

高度なリスク プラグインには、次のインジケーターが含まれています。

高残存リスクの数
: 四半期あたりの高残存リスクの数。

無効なコントロールの数
: 四半期ごとの非効率的なコントロールの数。

この四半期に対して計算された最大 ALE の最大値
: この四半期に対して計算された最大 ALE の最大値。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

この四半期の許容可能な最大損失予測の最大値

現在の四半期で更新されたすべてのアクティブなリスクステートメント。また、maximum_acceptable_loss_expectancy の平均を計算します。

オープンな軽減タスクの数

この四半期のオープンステータスのリスク軽減タスクの数。

リスクイベントの数

この四半期に報告されたリスクイベントの数。

合計総損失

四半期ごとの財務リスクイベントからの合計総損失。

合計正味損失

四半期ごとの財務リスクイベントからの合計正味損失。

アクティブイベント

四半期ごとのアクティブなリスクイベントの数。

影響度 > 1 M のイベント数

100 万米ドルを超える財務の影響があるリスクイベントの数。

平均残存リスク

四半期ごとの平均残存リスクスコア。

平均コントロール有効性

四半期あたりの平均コントロール有効性。

平均固有リスク

四半期ごとの平均固有リスクスコア。

リスクアセスメント (オープン)

オープンリスクアセスメント。

問題 (今四半期作成)

四半期に作成された問題。

インジケータータスク (今四半期作成)

四半期ごとのインジケータータスク。

コントロールテスト (今四半期作成)

四半期ごとのコントロールテスト。

監視状況のリスクアセスメント

監視状況のリスクアセスメント。

非財務リスクイベント

四半期ごとの財務以外のリスクイベントの数。

合計潜在的損失

四半期ごとの財務リスクイベントからの合計潜在的損失。

合計予想損失

四半期ごとの財務リスクイベントからの合計予想損失。

財務以外の影響度が高いイベント数

四半期ごとの財務以外の影響度が高いリスクイベントの数。

イベントあたりの平均総損失

アクティブなリスクイベントごとに発生した総損失の平均。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

イベントあたりの平均正味損失

イベントあたりの平均正味損失。正味損失 = 総損失 - 回収損失。

損失イベントあたりの平均復旧数

四半期ごとの損失イベントあたりの平均復旧数。

イベントあたりの平均追加コスト

四半期ごとの財務リスクイベントあたりの平均追加コスト。

年間損失予測

月次平均 ALE は、月単位で測定されます。

エンティティ数

アクティブ状況で、この四半期中またはこの四半期以前に更新されたエンティティの数。

ニアミス

四半期ごとのニアミスリスクイベントの数。

リスクステートメントの数

アクティブ状況で、この四半期中またはこの四半期以前に更新されたリスクステートメントの数。

合計コントロールインジケーター

四半期ごとに実行されているコントロールインジケーターの数

失敗したインジケーターのある高リスク

四半期で評価が高く、失敗したインジケーターが存在するリスクの数。

期限切れのインジケータータスク

四半期で期限切れになるインジケータータスクの数。

失敗したリスクインジケーターの割合

失敗したリスクインジケーターの割合。

四半期ごとの合計失敗インジケーター

四半期で失敗したインジケーターの数。

失敗したコントロールのある高リスク

失敗したコントロールテストのある高リスクの数

合計リスクインジケーター

四半期ごとに実行されているリスクインジケーターの数。

無効なコントロールの数

四半期ごとの非効率的なコントロールの数。

失敗したリスクインジケーターの数。

四半期ごとの失敗したリスクインジケーターの数。

失敗したコントロールテストの数

四半期ごとの失敗したコントロールテストの数。

失敗したコントロールテスト (四半期ごと)

失敗したコントロールテストの数 (四半期ごと)。

今四半期

今四半期で完了する必要がある修復タスクの合計数。

失敗したインジケーターのあるキーコントロール

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

失敗したインジケーターのあるキーコントロールは四半期ごとに測定されます

GRC 監査管理 プラグインインジケーター

GRC 監査管理 プラグインにはさまざまなインジケーターが含まれています。

監査管理 プラグインには、次のインジケーターが含まれています。

テストされていないキーコントロール
: テストされていないキーコントロールの数。

失敗したコントロール
: コントロールテストが無効になっているコントロールの数。

オープンな監査問題
: オープンな監査問題の数。

成功したコントロール
: コントロールテストが有効になっているコントロールの数。

進行中のコントロールテスト
: 進行中のコントロールテストの数。

失敗したコントロールテスト (四半期ごと)
: 四半期に失敗したコントロールテストの数。

新しいコントロール
: 新しいコントロールの数。

GRC ポリシーとコンプライアンス管理 プラグインインジケーター

GRC ポリシーとコンプライアンス管理 プラグインにはさまざまなインジケーターが含まれています。

ポリシーとコンプライアンス管理 プラグインには、次のインジケーターが含まれています。

失敗したコントロールインジケーターの数
: 四半期ごとの失敗したコントロールインジケーターの数。

コントロール (廃止されていない)
: 廃止されていないコントロールの数。

証明されていないコントロール
: ステータスがドラフトまたは証明であるコントロールの数。

孤立コントロール
: コントロール目標のないコントロールの数。

必須コントロール
: 適用が必須であるコントロールの数。

キーコントロール
: キーコントロールの数

テスト計画のないコントロール
: テスト計画のないコントロールの数。

免除されたコントロール
: 免除されたコントロールの数。

KCI のないコントロール
: インジケーターのないコントロールの数。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティブコントロール

アクティブなコントロールの数。

GRC リスク管理 プラグイン パフォーマンスアナリティクス インジケーター

GRC リスク管理 プラグインにはさまざまな パフォーマンスアナリティクス インジケーターが含まれています。

GRC: リスク管理 プラグインには、次の パフォーマンスアナリティクス インジケーターが含まれています。

コントロールを軽減しないリスク

コントロールを軽減しないリスクの数。

アクティブなリスク

アクティブなリスクの数

新しいリスク

ドラフト状況のリスクの数。

KRI のないリスク

KRI のないリスクの数。

孤立リスク

リスクステートメントのないリスクの数。

未評価リスク

評価されていないリスクの数。

GRC Profiles プラグインインジケーター

GRC プロファイルプラグインにはさまざまなインジケーターが含まれています。

GRC: Profiles プラグインには、次のインジケーターが含まれています。

オープンな修復タスク

オープンな修復タスクの数。

今日

今日クローズされた問題の数。

今日

今日作成された問題の数。

今年

今年までに解決する必要がある問題の合計数。

今四半期

今四半期で解決する必要がある問題の合計数。

今月

今月までに解決する必要がある問題の合計数。

すべての未解決の問題

オープンな問題の数

すべての未アサインの問題

未アサインの問題の数。

修復タスクの経過時間インジケーター

ステータスに基づく修復タスク経過時間分布。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

すべてのオープンな問題 (前四半期比)

四半期ごとのすべてのオープンな問題

経過時間インジケーターの問題

ステータスに基づく問題の経過時間分布。

今週

今週までに解決する必要がある問題の合計数。

今四半期

今四半期にクローズされた問題の数。

新しい問題

新しい問題の数。

今月

今月作成された問題の数。

今日

今日で完了する必要がある修復タスクの合計数。

今週

今週クローズされた問題の数。

今週

今週作成された問題の数。

今日

今日までに解決する必要がある問題の合計数。

今四半期

今四半期に作成された問題の数。

今年

今年で完了する必要がある修復タスクの合計数。

今月

今月完了する必要がある修復タスクの合計数。

今週

今週で完了する必要がある修復タスクの合計数。

今月

今月クローズされた問題の数。

リスクワークスペース でのリスク登録

リスク登録には、識別されたリスク、リスク分析の結果 (リスクスコアなど)、およびリスク応答計画が含まれています。リスク登録を使用すると、組織のリスクを監視および制御できます。

リスク登録は、企業のリスク管理で使用される重要なリスク分析ツールです。識別されたリスクの情報のレコードです。リスク登録は、規制コンプライアンスに使用され、リスクマネージャーをエンタープライズリスクについて最新の状態に保ちます。リスクと応答を定期的に監視することが重要です。リスク登録を使用すると、次のことが一目でわかるため、タスクを簡素化できます。

- どのリスクが存在するか？
- 最も脅威的なリスクはどれか？
- 企業はこれらのリスクにどのように対処する必要があるか？

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 一部のリスクを受け入れる必要があるか？
- 軽減計画の内容はどのようなものか？

リスク登録を表示するには、次に移動します: リスクワークスペース > リスクアセスメント > リスク登録

リスク登録のコンポーネントは次のとおりです。

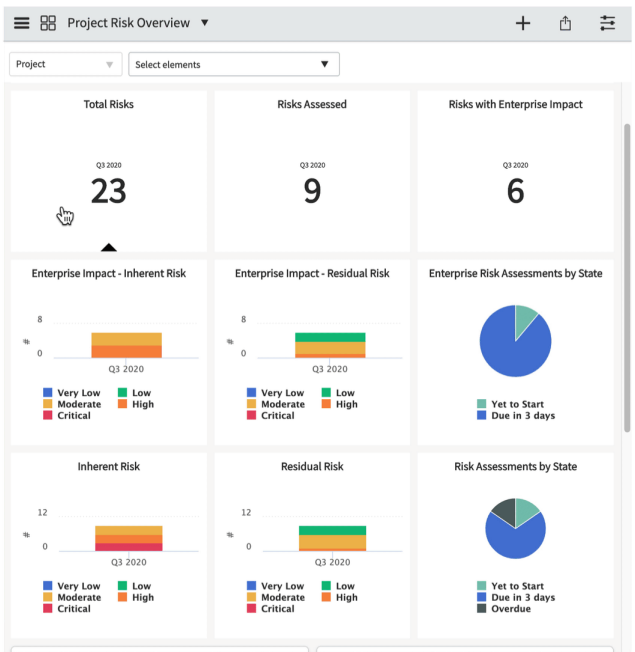
- リスクについて評価されるエンティティ。
- リスクアセスメントに使用されるリスクアセスメント方法論。
- リスクアセスメントの査定人
- 次のリスクアセスメントスコア：
  - 固有リスク
  - コントロール有効性
  - 残存リスク
- 各リスクのリスク応答。

プロジェクトリスク概要ダッシュボード

プロジェクトリスクダッシュボードは、プロジェクトマネージャーとエンタープライズリスクマネージャーに役立ちます。このダッシュボードを使用すると、プロジェクトマネージャーとエンタープライズリスクマネージャーは、リスクパフォーマンスと全体的なリスク体制を表示できます。このダッシュボードは、リスクマネージャーが組織内の全体的なリスクを減らすのに役立ちます。

重要:
高度なリスク および リスク管理 アプリケーションのバージョン 18.1.0 以降、プロジェクトリスク概要ダッシュボードは廃止されました。従来のリリースを使用している場合、またはすでにダッシュボードを使用している場合は、引き続き使用できます。

プロジェクトリスク概要ダッシュボード



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

必要なロール

- ダッシュボードを編集するには、it_pps_admin ロールまたは sn_risk.admin ロールが必要です。
- ダッシュボードを表示するには、sn_risk.reader ロール、it_project_manager ロール、または sn_ppm.read ロールが必要です。
- レコードの詳細を表示するには、sn_grc.business_user ロールが必要です。

ユースケース

組織内のさまざまなユーザーがこのダッシュボードをどのように使用するかの例については、次のユースケースを参照してください。

ユーザー	ダッシュボードの使用法
エンタープライズリスクマネージャー	エンタープライズリスクマネージャーは、さまざまなエンタープライズリスクを表示し、重大、高、中、低、および超低のリスクの数を把握できます。このダッシュボードは、企業の全体的なリスク体制を理解するのに役立ちます。
プロジェクトマネージャー	プロジェクトマネージャーは、リスクを表示するプロジェクトを選択できます。四半期ごとのリスクの傾向、評価されたリスクの数、企業に影響を与えるリスクの数などを表示できます。ヒートマップは、評価されたすべてのプロジェクトリスクを集計します。悪いリスクを追跡し、それらを管理するのに役立ちます。これにより、組織の全体的なリスクが減少します。

インジケーター

PPM - 合計リスク

親プロジェクトのあるすべてのリスクの数。

PPM - エンタープライズリスクアセスメント

リスクアセスメント方法論がプロジェクトのエンタープライズアセスメントであり、エンティティクラスがプロジェクトであるすべてのリスクアセスメントの数。

PPM - プロジェクトリスクエンタープライズ

リスクアセスメント方法論がプロジェクトリスクアセスメントであり、テーブルがリスクであるすべてのリスクアセスメントの数。

PPM - 評価されたリスク

プロジェクトリスクアセスメントが監視状況にあるすべてのリスクの数。

PPM - 企業に影響を与えるリスク

エンタープライズリスクアセスメントが監視状況にあるすべてのリスクの数。

ブレークダウン

- プロジェクト
- プロジェクトおよびエンタープライズリスクアセスメントの状況
- 定性的評価基準：企業固有アセスメント
- 定性的評価基準：企業残存アセスメント

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 定性的評価基準：プロジェクト固有アセスメント
- 定性的評価基準：プロジェクト残存アセスメント

データの可視化

このダッシュボードには以下の可視化が含まれます。

タイトル	タイプ	説明
合計リスク	単一スコア 42	特定されたプロジェクトリスクの合計数。
評価されたリスク	単一スコア 42	評価されたプロジェクトリスクの合計数。
企業に影響を与えるリスク	単一スコア 42	企業に影響を与えるリスクの合計数。
企業への影響度 - 固有リスク	棒グラフ	企業に影響を与える固有リスクの数。
企業への影響度 - 残存リスク	棒グラフ	企業に影響を与える残存リスクの数。
ステータス別のエンタープライズリスクアセスメント	円グラフ	状況別のエンタープライズリスクアセスメントの数。
固有リスク	棒グラフ	固有のプロジェクトリスクの数。
残存リスク	棒グラフ	残存プロジェクトリスクの数。
ステータス別のリスクアセスメント	円グラフ	状況別のプロジェクトリスクアセスメントの数。
可能性と影響度別の固有リスク	ヒートマップ	すべての固有のプロジェクトリスクとその影響度の集計。
可能性と影響度別の残存リスク	ヒートマップ	すべての残存プロジェクトリスクとその影響度の集計。

リスク識別の概要ダッシュボード

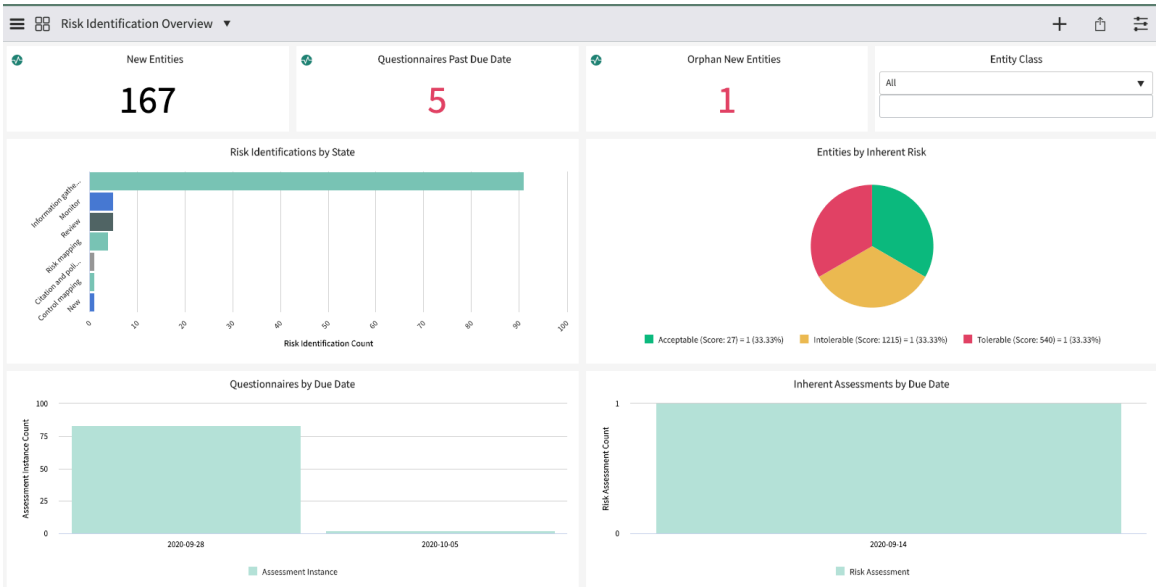
リスク識別ダッシュボードは、リスクマネージャーに役立ちます。リスク識別ワークフローで移行中のさまざまなレコードまたはオブジェクトを追跡するのに役立ちます。

このダッシュボードは、ユーザーにさまざまなインサイトを提供します。これらのインサイトにより、リスクマネージャーは必要なアクションを決定し、注意が必要なリスク識別レコードに優先順位を付けることができます。たとえば、期日を過ぎたアンケートがある場合、リスクマネージャーはアンケートを割り当てられているユーザーをフォローアップすることができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスク識別の概要

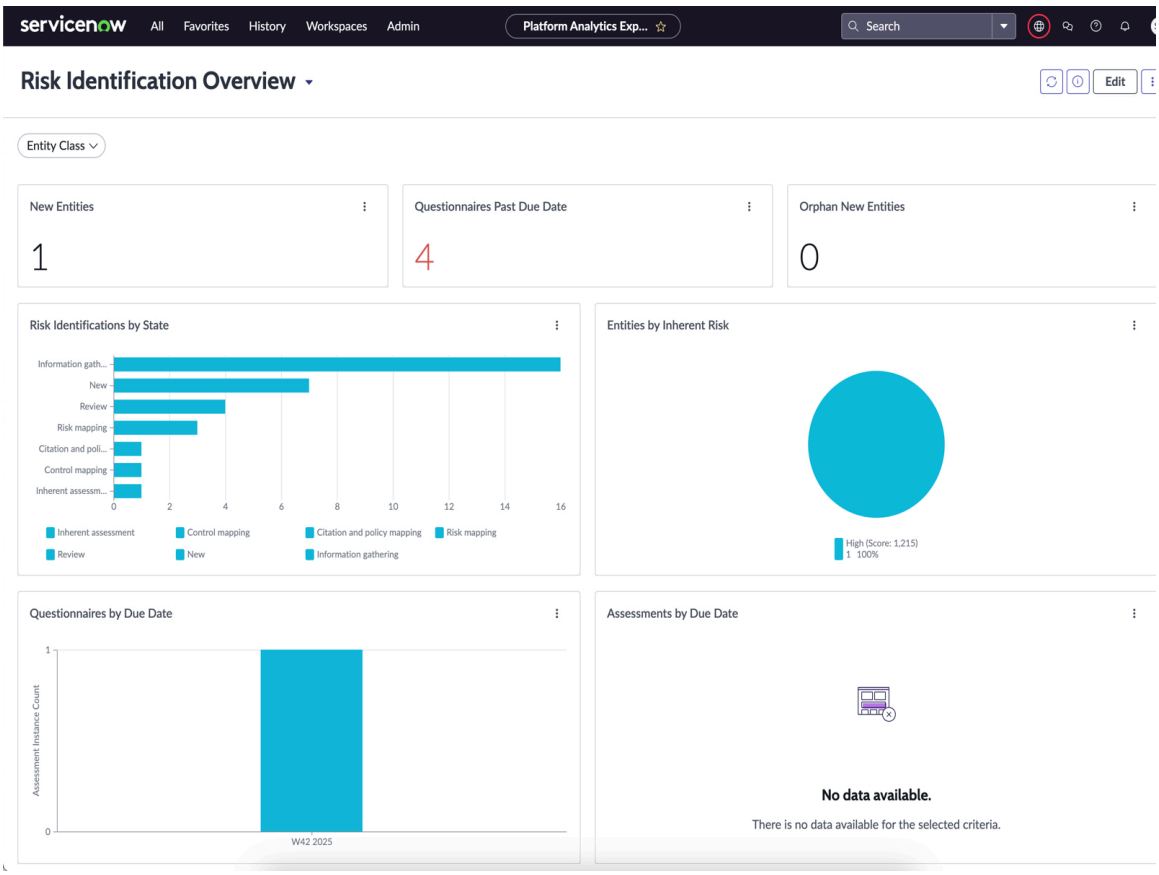


重要:
リスク管理 および 高度なリスク アプリケーションのバージョン 18.1.0 以降では、リスク識別概要ダッシュボードを ネクストエクスペリエンス UI フレームワーク で使用できます。

Vancouverまたは Washington DCを使用している場合は、ネクストエクスペリエンス UI フレームワークでダッシュボードを表示できます。

ダッシュボードを開くには、次の場所に移動します。 すべて > 高度なリスクアセスメント > リスク識別 > アナリティクス概要.

ネクストエクスペリエンス でのリスク識別の概要



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レポート

このダッシュボードには、次のレポートが表示されます。

タイトル	タイプ	説明
新しいエンティティ	単一スコア 42	GRC で先週作成された新しいエンティティの数。このレポートは、新しいエンティティをリスクマネージャーに通知します。リスクマネージャーは、新しいエンティティのリスクとコントロールをマッピングし、リスク識別ワークフローが開始されているかどうかを確認できます。
アンケートの期日超過 (Questionnaires Past Due Date)	単一スコア 42	期日を過ぎたアンケートの数。これにより、リスクマネージャーは期限切れのアンケートの数を追跡し、必要な措置を講じることができます。
孤立した新しいエンティティ (Orphan New Entities)	単一スコア 42	週ごとに作成された、オーナーのない新しいエンティティの数。孤立エンティティにはリスクとコントロールがあり、誰もそれらのリスクに対処していません。このレポートにより、リスクマネージャーは、所有者がいないエンティティを追跡し、サーベイに回答する所有者を特定できます。
ステータス別のリスク識別 (Risk Identifications by State)	水平棒グラフ	次のような、ステータス別にグループ化されたリスク識別レコードの数。 • 新規 • 情報収集 • コントロールマッピング • 引用とポリシー • リスクマッピング • レビュー • 監視
固有リスク別のエンティティ (Entities by Inherent Risk)	円グラフ	固有リスク評価別にグループ化されたリスク識別の数。このレポートにより、リスクマネージャーは固有リスク評価に基づいてリスク識別を追跡し、すぐに対応する必要がある重要なエンティティをハイライト表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タイトル	タイプ	説明
期日別の固有のアセスメント (Inherent Assessments by Due Date)	棒グラフ	期日に基づく、ユーザーに割り当てられた、予定されている固有のアセスメントの数。これは週次レポートです。
期日別のアンケート (Questionnaires by Due Date)	棒グラフ	期日に基づく、ユーザーに割り当てられた、予定されているアンケートの数。これは週次レポートです。

Basel ダッシュボード

Basel ダッシュボードは、Basel レポートを外部の Basel 規制機関と共有するための手段です。このダッシュボードは、Basel レポートを共有することが義務付けられている銀行および財務ドメインに役立ちます。

ビジネスユーザーは、*Risk Event Properties* で *Show Basel attributes and properties* プロパティを設定することで、このダッシュボードの表示を有効または無効にすることができます。

このダッシュボードには次の 2 つのタブがあります。

- LOB からカテゴリへのマッピングレポート：
  - 事業部門 & カテゴリ別の正味損失 (YTD)
  - 事業部門 & カテゴリ別の正味損失 (QTD)
  - 事業部門 & カテゴリ別のイベントの数 (YTD)
  - 事業部門 & カテゴリ別のイベントの数 (QTD)
- オープン & クローズ済み状態別のリスクイベントレポート：
  - Basel カテゴリ別のオープンリスクイベント
  - Basel カテゴリ別のクローズ済みリスクイベント
  - LOB (基幹業務) 別のオープンリスクイベント
  - LOB (基幹業務) 別のクローズ済みリスクイベント

重要:
リスク管理および高度なリスクアプリケーションのバージョン 18.1.0 以降では、Basel ダッシュボードを ネクストエクスペリエンス UI フレームワークで使用できます。

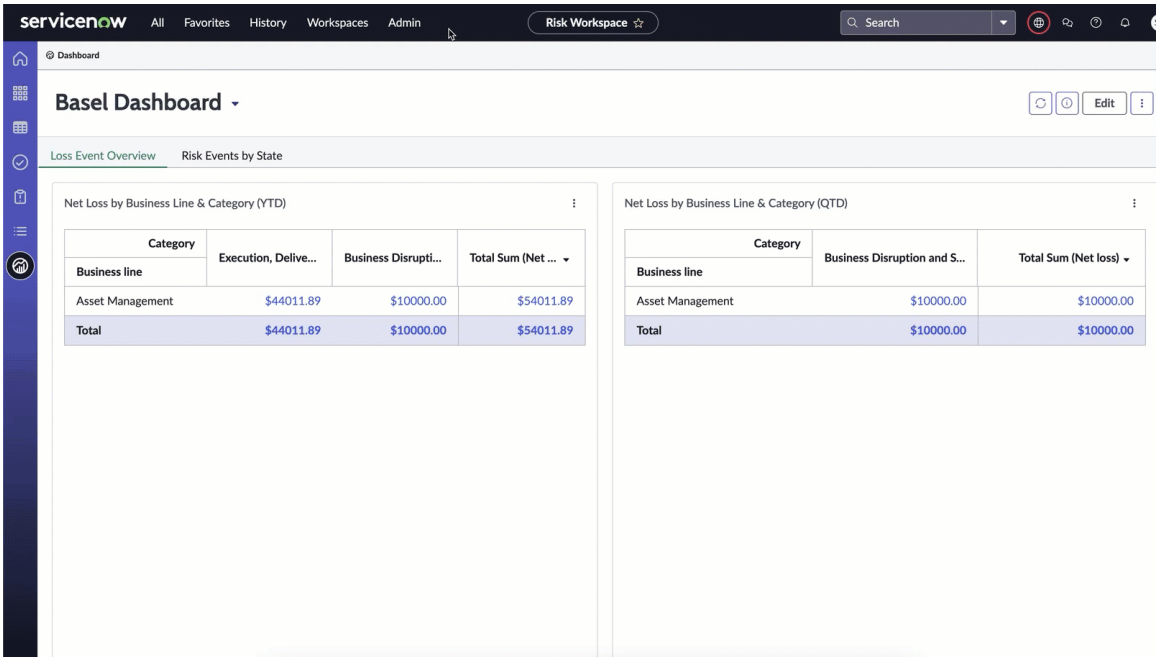
Vancouverまたは Washington DCを使用している場合は、ネクストエクスペリエンス UI フレームワークでダッシュボードを表示できます。

ダッシュボードを開くには、次の場所に移動します。 すべて > リスクイベント > アナリティクス **Basel** ダッシュボード.

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ネクストエクスペリエンス の **Basel** ダッシュボード



Basel ダッシュボードには次の 2 つのタブがあります。

- 損失イベントの概要 (Loss Event Overview)：
  - 事業部門 & カテゴリ別の正味損失 (YTD)
  - 事業部門 & カテゴリ別の正味損失 (QTD)
  - 事業部門 & カテゴリ別のイベントの数 (YTD)
  - 事業部門 & カテゴリ別のイベントの数 (QTD)
- ステータス別のリスクイベント (Risk Events by State)：
  - Basel カテゴリ別のオープンリスクイベント
  - Basel カテゴリ別のクローズ済みリスクイベント
  - LOB (基幹業務) 別のオープンリスクイベント
  - LOB (基幹業務) 別のクローズ済みリスクイベント

GRC リスク概要ダッシュボード

リスク概要ダッシュボード は、固有および残存のエンタープライズおよび IT リスクのステータスとワークフローに対するエグゼクティブビューを提供します。ユーザーは、フレームワーク、応答、および例外別にリスクをドリルダウンできます。

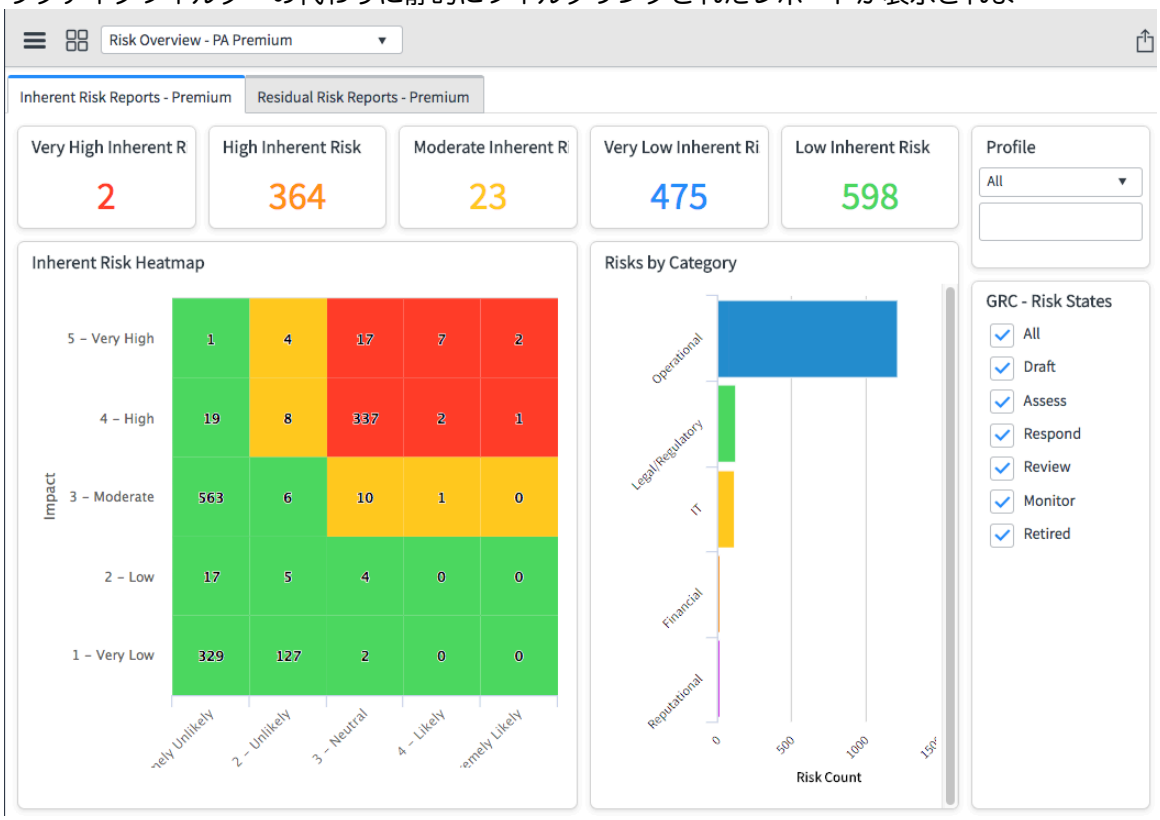
このダッシュボードには 2 つのバージョンがあります。プレミアム版ではインタラクティブフィルターが使用され、ライセンスされたバージョンの パフォーマンスアナリティクス が必要です。

リスク概要ダッシュボード には 2 つのビューがあり、1 つは固有リスクレポートで、もう 1 つは残存リスクレポートです。インタラクティブフィルターを使用するプレミアム版のダッシュボードが表示されます。ダッシュボードのもう 1 つのバージョンには、イ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ンタラクティブフィルターの代わりに静的にフィルタリングされたレポートが表示されま



す。

重要:
リスク管理および高度なリスクアプリケーションのバージョン 18.1.0 以降、リスク概要 PA プレミアム版ダッシュボードは ネクストエクスペリエンス UI フレームワークで利用できますが、リスク概要ダッシュボードに名前が変更されています。

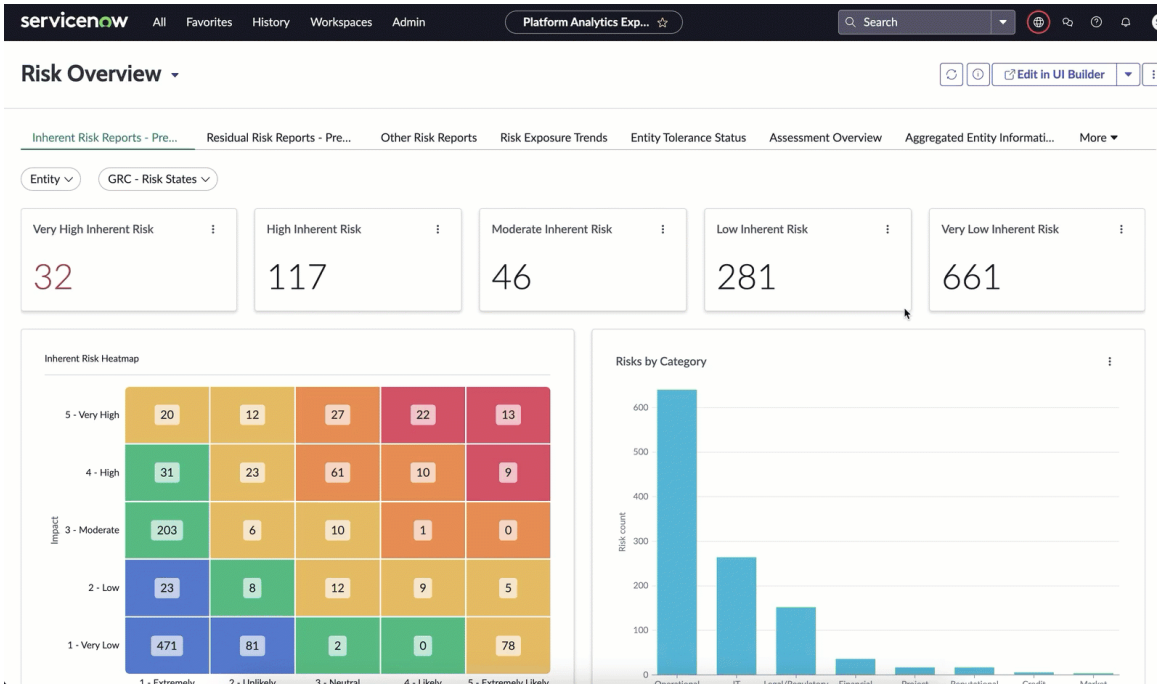
Vancouverまたは Washington DCを使用している場合は、ネクストエクスペリエンス UI フレームワークでダッシュボードを表示できます。

ダッシュボードを開くには、次の場所に移動します。 すべて > リスク > アナリティクス概要.

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ネクストエクスペリエンス のリスク概要ダッシュボード



エンドユーザー

エンドユーザーと目標	必要なロール
監査マネージャー：組織内の脆弱性の全体的なステータスと量に対する明確な可視化が必要です。	sn_risk.manager
監査アドミン：懸案分野をすばやく特定する必要があります	sn_risk.admin
監査アナリスト：組織にとっての重要度に基づいて、どのリスク/タスクに焦点を当てるかを迅速に優先順位付けする必要があります。	sn_risk.user

データの可視化

リスク概要ダッシュボード には、以下の可視化が含まれています。

名前	タイプ	説明
高固有リスク (High Inherent Risk)	単一スコア	高固有リスクステータスのリスクの数
高残存リスク	単一スコア	高残存リスクステータスのリスクの数。
固有年次損失エクスポージャー	ボックス	固有年次損失予測 (ALE) の計算。
固有リスク	バブル	リスクの可能性と重大性からの固有リスクスコアの計算。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前	タイプ	説明
固有リスクヒートマップ	ヒートマップ	超高リスク、高リスク、中リスク、低リスク、および超低リスク別のリスクの合計数を提供する固有リスクヒートマップ。
低固有リスク (Low Inherent Risk)	単一スコア	低固有リスクの数 (カウント) を表示します。
低残存リスク (Low Residual Risk)	単一スコア	低残存リスクの数 (カウント) を表示します。
中固有リスク (Moderate Inherent Risk)	単一スコア	中固有リスクの数 (カウント) を表示します。
中残存リスク (Moderate Residual Risk)	単一スコア	中残存リスクの数 (カウント) を表示します。
残存年次損失エクスポージャー	ボックス	残存年次損失予測 (ALE) の計算。
残存リスク	バブル	リスクの可能性と重大性からの残存リスクスコアの計算。
残存リスクヒートマップ	ヒートマップ	超高リスク、高リスク、中リスク、低リスク、および超低リスク別の残存リスクの合計数。
エンティティ別のリスク (Risk by Entity)	棒グラフ	プロファイル別のアクティブなリスクの合計数。
リスク例外	リスト	すべてのリスクの例外のリスト。
フレームワーク別のリスク問題 (オープン日)	線グラフ	フレームワーク別の経時的なオープンリスクの合計数。
カテゴリ別のリスク (Risks by Category)	水平バー	カテゴリ別のオープンリスクの合計数。
対応ごとのリスク	水平バー	応答別のオープンリスクの合計数。
超高固有リスク (Very High Inherent Risk)	単一スコア	超高固有リスクの数 (カウント) を表示します。
超高残存リスク (Very High Residual Risk)	単一スコア	超高残存リスクの数 (カウント) を表示します。
超低固有リスク (Very Low Inherent Risk)	単一スコア	超低固有リスクの数 (カウント) を表示します。
超低残存リスク (Very Low Residual Risk)	単一スコア	非常に低い残存リスクの数を表示します。

詳細 ガバナンス、リスク、コンプライアンス アプリケーションリスクダッシュボード

GRC アプリケーションリスクとコンプライアンスの概要ダッシュボードは、企業で使用されているビジネスアプリケーションのリスクとコンプライアンスの側面の最新のビューを提供します。

自動翻訳

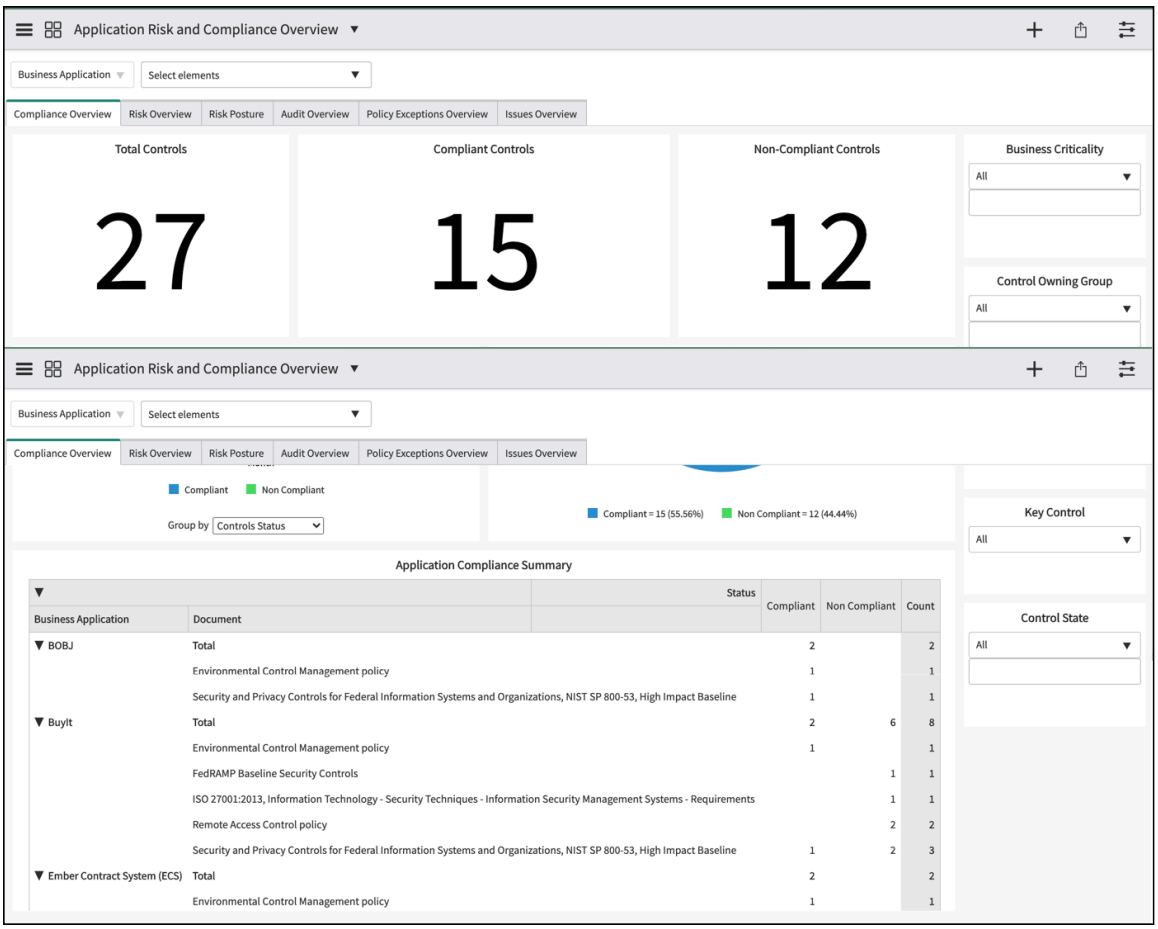
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションリスクダッシュボードは、最高情報責任者 (CIO) とアプリケーションオーナーに役立ちます。これらの両方のユーザーは、ダッシュボードを表示するために、sn_compliance.reader、sn_risk.reader、および sn_audit.user ロールが必要です。移動先 詳細 **GRC** ダッシュボード > アプリケーションリスクダッシュボード.[アプリケーションリスクとコンプライアンスの概要ダッシュボード] が表示されます。

注:
このダッシュボードを表示できるようにするには、GRC: Advanced Dashboards (com.sn_grc_pa_advanced) プラグインと GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 (sn_compliance) プラグインをアクティブ化する必要があります。

[アプリケーションリスクとコンプライアンスの概要] ダッシュボードは、組織内のすべてのビジネスアプリケーションのリスクとコンプライアンス体制の詳細なレポートを提供します。

アプリケーションリスクとコンプライアンスダッシュボード



このダッシュボードは、次の点をハイライト表示します。

- 使用中のアプリケーションのコンプライアンスへの影響。
- アプリケーションのリスク体制。
- 問題の修正および例外アクティビティのステータス。
- アプリケーションとステータスに関する監査アクティビティ。

このダッシュボードは、CIO とアプリケーションオーナーが関心を持つ、次の質問に対する回答を提供します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. 主要なアプリケーションは何であり、それらはすべて運用され、必要なサービスを最適に提供しているか？
2. アプリケーションが準拠する必要があるポリシーと各種法令・基準等は何か？アプリケーションはそれらに準拠しているか？
3. アプリケーションが直面するリスクは何か？それらのいずれかは懸念を提起する可能性が高いか？十分な軽減策が実施されているか？適切なコントロールがあり、効果的に機能しているか？
4. 修正が必要なアプリケーションについて、修正はサービスレベルアグリーメント (SLA) に従って適宜実施されているか？最大数の問題を生成するアプリケーションはどれか？
5. アプリケーションで例外が頻繁に求められているか？また、その理由は何か？管理可能な範囲内か？
6. アプリケーションの監査は随時可能か？アプリケーションはこれらの監査でどのような実績であったか？

ダッシュボードは、棒グラフ、ドーナツグラフ、トレンドチャートなどのさまざまな表現を提供します。アプリケーションオーナーは、ダッシュボードでさまざまなフィルターを使用して、重要なビジネスアプリケーション、特定のビジネスアプリケーションに関連する必須コントロール、または優先度の高い問題など、所有するビジネスアプリケーションに関連するレポートを表示できます。

コンプライアンスの概要

ポリシーとコンプライアンスプラグインをアクティブ化すると、[コンプライアンスの概要] タブが表示されます。[コンプライアンスの概要] タブには、ビジネスアプリケーションのコンプライアンス体制の概要が表示され、次のレポートが表示されます。

- コントロール合計：このレポートには、アクティブなコントロールの合計数が表示されます。
- 準拠コントロール：このレポートには、ドラフトまたは廃止ステータスではない準拠コントロールの合計数が表示されます。
- 非準拠コントロール：このレポートには、ドラフトまたは廃止ステータスではない非準拠コントロールの合計数が表示されます。
- 月別のコンプライアンスステータス：このレポートには、月別のアクティブなコントロールの数が表示されます。

  注:
  この棒グラフは、当月のコンプライアンスステータスを示し、コントロールステータスまたはビジネスアプリケーションのいずれかでグループ化できます。

- コンプライアンス %：このレポートは、準拠、非準拠、適用外などのアクティブなコントロールのさまざまな状況の割合を示します。
- アプリケーションコンプライアンスのサマリー：このレポートには、ビジネスアプリケーションに関連付けられているポリシー、各種法令・基準等、およびコントロールのサマリーが表示されます。

次のフィルターを使用して、レポートのデータをフィルタリングできます。

- ビジネスアプリケーション
- 事業上の重要度
- エンティティオーナー
- 強制または任意のコントロールなどの適用
- キーコントロール

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- コントロールステータス
- コントロール所有グループ

リスク概要

高度なリスクプラグインをアクティブ化すると、[リスク概要] タブが表示されます。[リスク概要] タブには、ビジネスアプリケーションに関連付けられているリスクの概要が表示され、次のレポートが表示されます。

- アプリケーション重要度別のリスクヒートマップ：このレポートには、アプリケーションの重要度とアプリケーションのリスク評価を比較したアプリケーションリスクのヒートマップが表示されます。
- リスク応答タスクの概要：このレポートには、リスクに対して作成された対応タスクと、それらのタスクのさまざまな状況が表示されます。

  注:
  この棒グラフは、リスク応答、リスク応答ステータス、リスク計算済みスコア、リスク応答のアサイン先、またはビジネスアプリケーション別にグループ化およびスタックできます。

- アプリケーションリスクサマリー：このレポートには、アプリケーションの全体的なリスク評価に寄与する、アプリケーションに直接関連付けられたリスクのサマリーが表示されます。アプリケーションリスク評価に寄与する他のダウンストリームリスクは、このレポートには表示されません。このレポートで考慮されるリスクは、非常に高い、高、中です。
- アプリケーションリスク軽減コントロールのステータス：このレポートには、アプリケーションのリスクと関連付けられているコントロールに関する情報が表示されます。このレポートで考慮されるリスクは、非常に高い、高、中です。コントロールのステータスがドラフトまたは廃止である必要があります。1 年間のリスクのみが表示されます。

次のフィルターを使用して、レポートのデータをフィルタリングできます。

- ビジネスアプリケーション
- 重要度
- リスク評価
- アプリケーションオーナー
- 事業主

リスク体制

リスクプラグインをアクティブ化すると、[リスク体制] タブが表示されます。[リスク体制] タブは、ビジネスアプリケーションのリスクエクスポージャーに関する情報を提供します。このタブのレポートは、ビジネスアプリケーションフィルターを使用してフィルタリングすることもできます。[リスク体制] タブには以下が表示されます。

- 超高リスク：このレポートには、アプリケーションの超高リスクが表示されます。
- 高リスク：このレポートには、アプリケーションの高リスクが表示されます。
- 中リスク：このレポートには、アプリケーションの中リスクが表示されます。
- 受け入れタスクの有効期限：このレポートには、現在の日、現在の週、現在の月、現在の四半期、および現在の年に有効期限があるリスク応答受け入れタスクが表示されます。
- 貢献リスクの傾向：このレポートには、ビジネスアプリケーションに直接関連付けられているリスクの傾向と、一定期間のリスクのパフォーマンスが表示されます。アプリケーションリスク評価に寄与する他のダウンストリームリスクは、このレポートには表示されません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

監査の概要

Audit プラグインをアクティブ化すると、[監査の概要] タブが表示されます。[監査の概要] タブには、ビジネスアプリケーションに関連する監査と監査アクティビティの概要が示され、次のレポートが表示されます。

- オープン監査エンゲージメント：このレポートには、オープンステータスの監査エンゲージメントの数が表示されます。
- 無効なコントロール：このレポートには、監査エンゲージメントに対して無効なコントロールの数が表示されます。
- オープンな問題：このレポートには、監査エンゲージメントのオープンな問題の数が表示されます。
- 期限切れの問題：このレポートには、アプリケーションの期限切れの監査の問題の数が表示されます。
- 今後の監査エンゲージメント：このレポートには、今後の監査エンゲージメントの月次カウントが表示されます。
- 監査エンゲージメント別のオープンな問題：このレポートには、オープンな監査問題の月次カウントが表示されます。
- 監査エンゲージメント別の期限切れの問題：このレポートには、一定期間の期限切れの監査の問題が表示されます。
- 監査エンゲージメント別の無効なコントロール：このレポートには、監査エンゲージメントと関連付けられている無効なコントロールに関する情報が表示されます。

次のフィルターを使用して、レポートのデータをフィルタリングできます。

- ビジネスアプリケーション
- 監査エンゲージメント
- 重要度

ポリシー例外の概要

ポリシーとコンプライアンスプラグインをアクティブ化すると、[ポリシー例外の概要] タブが表示されます。[ポリシー例外の概要] タブには、ビジネスアプリケーションに対して要求されたポリシー例外に関する情報が表示されます。[ポリシー例外の概要] タブに表示されるデータは、ビジネスアプリケーションフィルターを使用してフィルタリングできます。このタブには次のレポートが表示されます。

- 新しい例外：このレポートは、要求された新しい例外に関する情報を提供します。
- 承認済み例外：このレポートは、承認済み例外の数に関する情報を提供します。
- 却下された例外：このレポートは、却下された例外の数に関する情報を提供します。
- 期限切れの例外：このレポートは、期限切れの例外の数に関する情報を提供します。
- 承認待ちの例外：このレポートは、現在の日付、現在の週、現在の月、および現在の四半期に期限が来る、承認待ちの例外に関する情報を提供します。
- 承認待ちの延長：このレポートは、現在の日付、現在の週、現在の月、および現在の四半期に期限が来る、承認待ちの延長に関する情報を提供します。
- 予定されている例外の有効期限：このレポートは、現在の日付、現在の日付の翌日、現在の週、現在の週の次の週、および現在の月に期限切れになる予定の例外に関する情報を提供します。
- 例外要求数と承認数：このレポートは、月ごとの要求された例外と承認された例外の数に関する情報を提供します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

問題の概要

リスク管理 プラグインまたは ポリシーとコンプライアンス管理 プラグインをアクティブ化すると、[問題の概要] タブが表示されます。[問題の概要] タブには、ビジネスアプリケーションに関連付けられているさまざまなコンプライアンスとリスクの問題に関する情報が表示されます。[問題の概要] タブに表示されるデータは、ビジネスアプリケーションフィルターを使用してフィルタリングできます。このタブには次のレポートが表示されます。

- オープンな問題：このレポートには、オープンステータスの問題の数が表示されます。
- 重要な優先度の問題：このレポートには、重要な優先度の問題の数が表示されます。
- 最優先の問題：このレポートには、最優先の問題の数が表示されます。
- 承認された問題：このレポートには、承認された問題の数が表示されます。
- 期限切れの問題：このレポートには、期限切れの問題の数が表示されます。
- 解決する問題：このレポートには、現在の日付、現在の週、現在の月、現在の四半期、および現在の年に解決する必要がある問題の数が表示されます。
- 完了する修復タスク：このレポートには、現在の日付、現在の週、現在の月、現在の四半期、および現在の年に完了する必要がある修復タスクの数が表示されます。
- 期限切れの問題：このレポートには、一定期間の期限切れの問題の数が表示されます。
- 期限切れの修復タスク：このレポートには、一定期間の期限切れの修復タスクの数が表示されます。
- 問題作成の傾向：このレポートには、一定期間の問題の作成方法の傾向が表示されます。
- 問題クローズの傾向：このレポートには、一定期間の問題のクローズ方法の傾向が表示されます。
- 修復タスク作成の傾向：このレポートには、一定期間の修復タスクの作成方法の傾向が表示されます。
- 修復タスククローズの傾向：このレポートには、一定期間の修復タスクのクローズ方法の傾向が表示されます。

リスクイベントとリスク階層の パフォーマンスアナリティクスダッシュボード

パフォーマンスアナリティクス(PA) ダッシュボードを使用して、リスクイベントとリスク階層の包括的なデータを表示します。アナリティクスハブを使用して、任意の期間のデータを表示します。

デフォルトでは、sn_risk.manager ロールを持つユーザーは 6 か月間のデータを表示 できます。さまざまな期間のデータを表示するには、パフォーマンスアナリティクス プレミアム版プラグインを購入してアクティブ化します。sn_risk.manager ロールを持つユーザーは、ServiceNow ガバナンス、リスク、コンプライアンス(GRC)*`Entity and risk statement historical data collection`*ジョブを実行して 1 年間の履歴データを照合できます。

> **注:**
> 履歴データ収集 ジョブは 1 回のみ実行してください。この ジョブを複数回実行すると、一貫性のないデータ収集が発生し、前のデータが失われる可能性があります。

リスクイベントダッシュボード

リスクイベントダッシュボードには、次のデータが表示されます。

- リスクイベント概要：このダッシュボードには、次の傾向が表示されます。
  - 総損失
  - 正味損失
  - イベント

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

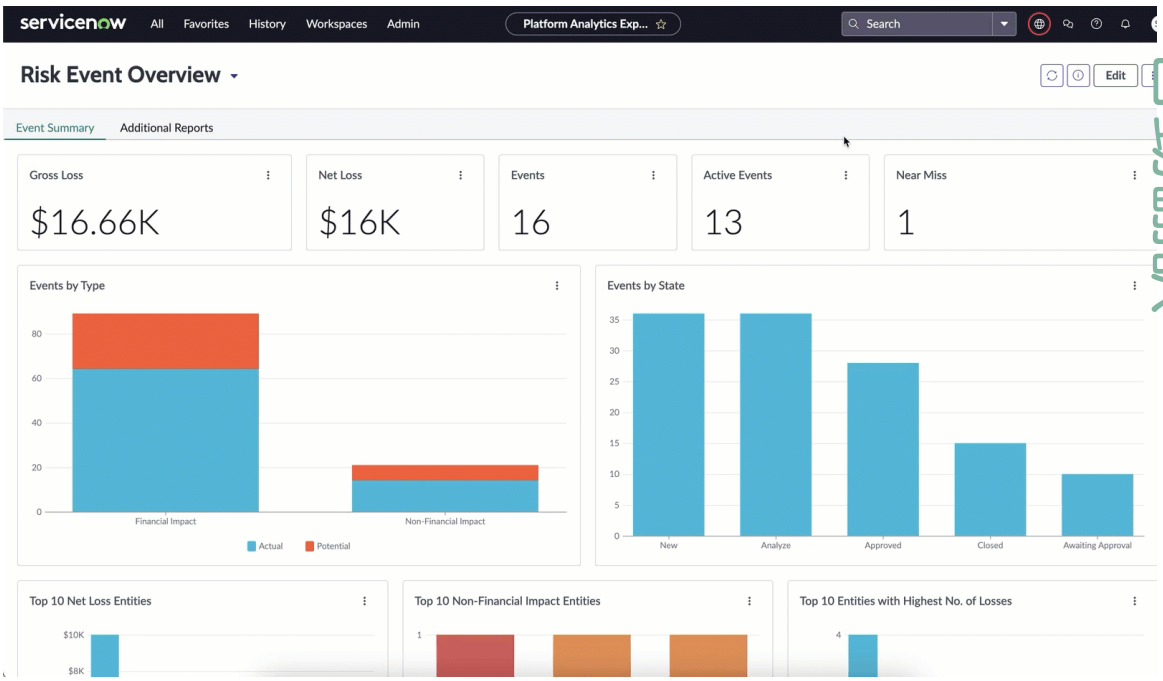
- アクティブイベント
- ニアミス
- タイプ別イベント
- ステータス別イベント
- 上位 10 件の正味損失エンティティ
- 上位 10 件の財務以外の影響エンティティ
- 上位 10 件の損失数が最も多いエンティティ

重要:
リスク管理および 高度なリスクアプリケーションのバージョン 18.1.0 以降では、リスクイベント概要ダッシュボードを ネクストエクスペリエンス UI フレームワークで使用できます。

Vancouverまたは Washington DCを使用している場合は、ネクストエクスペリエンス UI フレームワークでダッシュボードを表示できます。

ダッシュボードを開くには、次の場所に移動します。 すべて > リスクイベント > アナリティクス概要.

ネクストエクスペリエンスのリスクイベント概要ダッシュボード



- エンティティ別のリスクイベントダッシュボード：sn.risk_user ロールを持つエンティティオーナーは、月次の総損失、正味損失、およびイベント数の集計情報を表示できます。ダッシュボードには、イベントあたりの平均総損失、イベントあたりの平均正味損失、イベントあたりの平均追加コストも表示されます。sn.risk_user ロール を持つエンティティオーナーは、特定のエンティティの次のリスクイベントの傾向も表示できます。sn.risk_admin ロールを持つアドミニストレーターは、このダッシュボードを編集できます。
  - 総損失
  - 正味損失
  - イベント
  - アクティブイベント

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

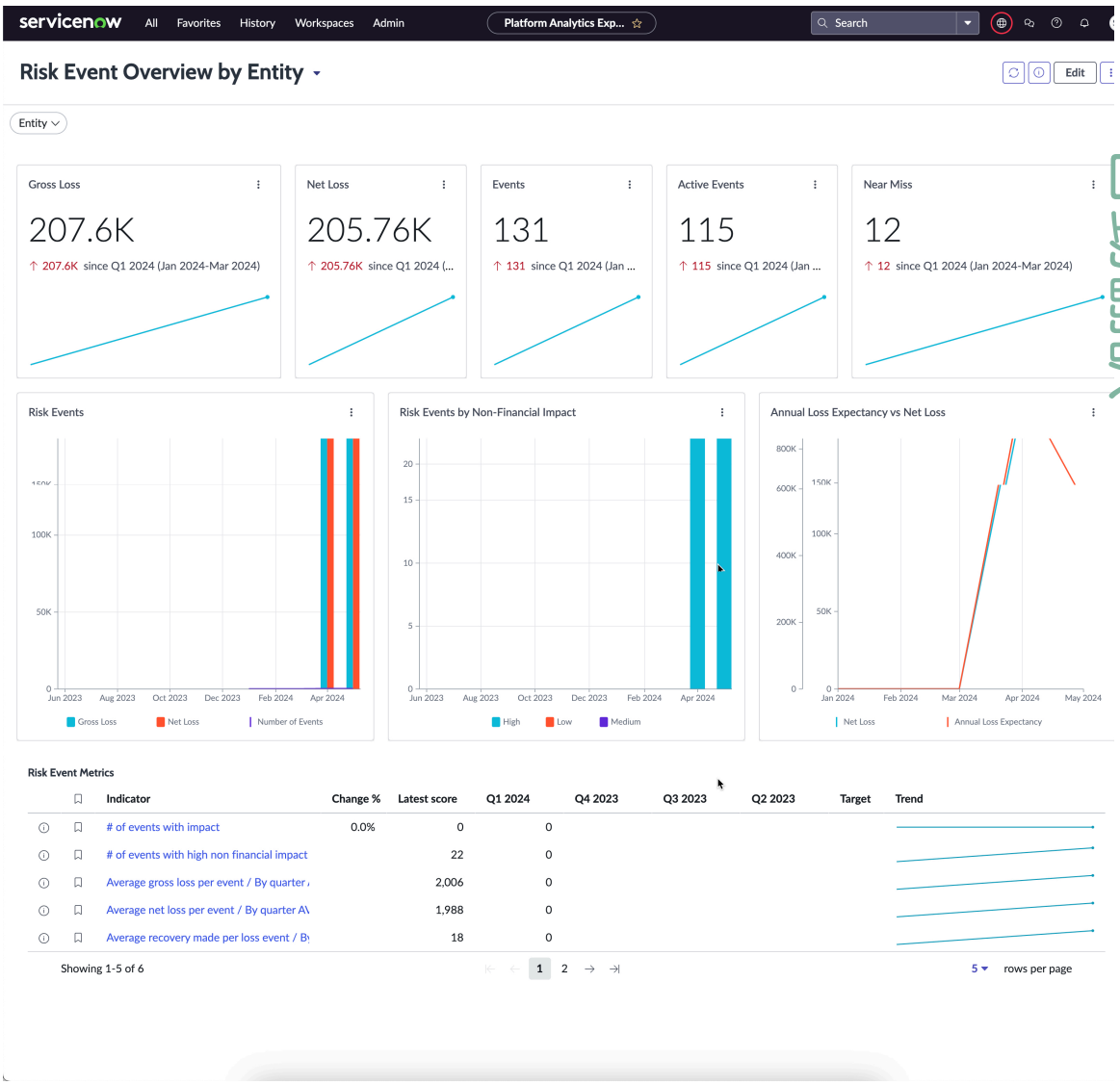
- ニアミス
- リスクイベント
- 財務以外の影響別のリスクイベント
- 年次損失予測と正味損失
- リスクイベントメトリクス

重要:
リスク管理および高度なリスクアプリケーションのバージョン 18.1.0 以降では、エンティティ別のリスクイベント概要ダッシュボードを ネクストエクスペリエンス UI フレームワークで使用できます。

Vancouverまたは Washington DCを使用している場合は、ネクストエクスペリエンス UI フレームワークでダッシュボードを表示できます。

ダッシュボードを開くには、次の場所に移動します。 すべて > リスクイベント > エンティティ別アナリティクスの概要.

ネクストエクスペリエンスのエンティティ別のリスクイベント概要ダッシュボード



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

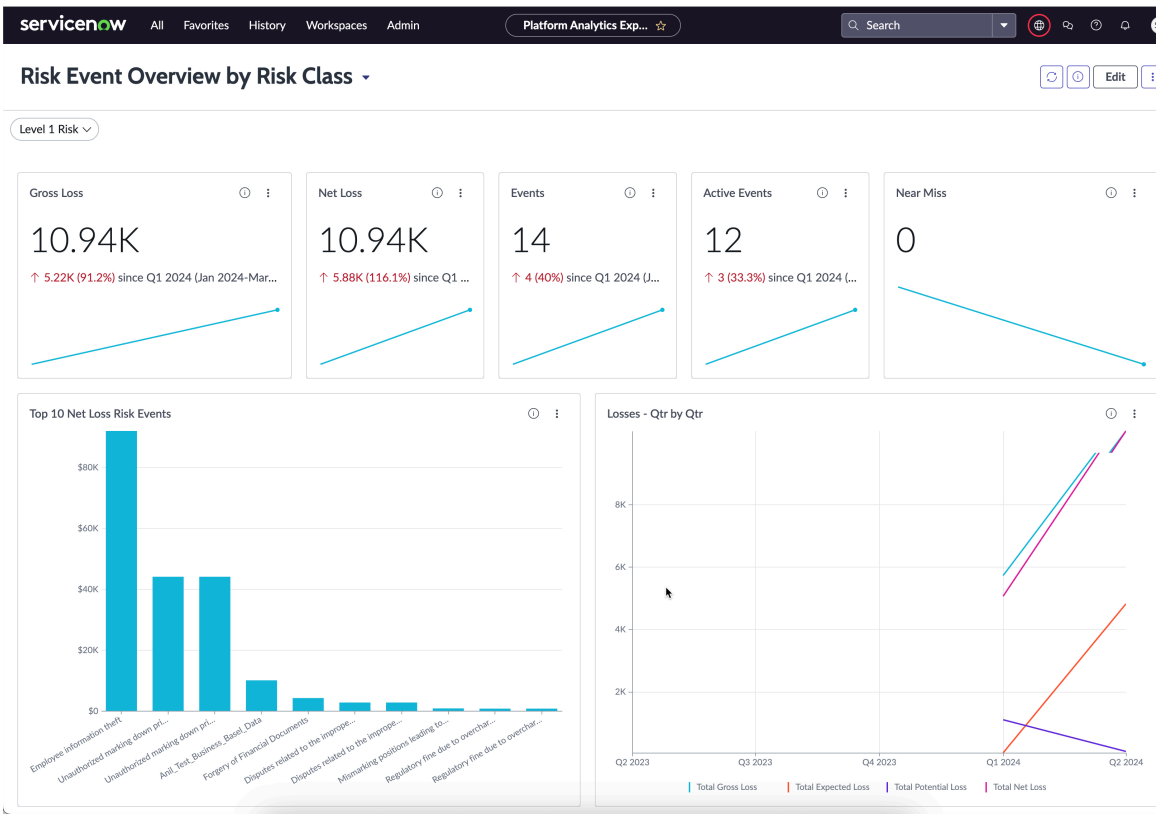
- リスククラス別のリスクイベント概要ダッシュボード：sn_risk.manager ロールを持つユーザーは、レベル 1 のリスクイベントの傾向を表示できます。ユーザーは、集計された総損失、正味損失、作成されたイベントの数、アクティブなイベントの数、およびニアミスイベントの合計数を把握することができます。また、このダッシュボードには、次の傾向が表示されます。
  - 総損失
  - 正味損失
  - イベント
  - アクティブイベント
  - ニアミス
  - 上位 10 件の純損失リスクイベント
  - 年次損失予測と正味損失

重要:
リスク管理および高度なリスクアプリケーションのバージョン 18.1.0 以降では、リスククラス別リスクイベント概要ダッシュボードを ネクストエクスペリエンス UI フレームワークで使用できます。

Vancouverまたは Washington DCを使用している場合は、ネクストエクスペリエンス UI フレームワークでダッシュボードを表示できます。

ダッシュボードを開くには、次の場所に移動します。 すべて > リスクイベント > リスククラス別アナリティクスの概要.

ネクストエクスペリエンスのリスククラス別のリスクイベント概要ダッシュボード



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクステートメント別のエクスポージャーダッシュボード

リスクステートメント別のエクスポージャーダッシュボードを表示するには、次に移動します: リスク > リスクステートメント別のエクスポージャー. このダッシュボードは、sn_risk.manager ロールを持つユーザーに役立ちます。このダッシュボードは、ダッシュボードにリスクステートメント別のリスクも表示される点を除いて、エンティティ別のエクスポージャーダッシュボードに似ています。このダッシュボードは、許容範囲ステータスと計算されたスコア、および年次損失予測傾向に基づいてエンティティの分布を提供します。許容範囲ステータス別のリスク評価のヒートマップが含まれています。リスクステートメント別のエクスポージャーダッシュボードには、次の傾向が表示されます。

- 許容範囲ステータスあたりのリスクステートメント
- 評価あたりのリスクステートメント
- 年間損失予測
- 許容範囲ステータス別のリスク評価

重要:
高度なリスクおよびリスク管理アプリケーションのバージョン 18.1.0 以降、リスクステートメント別のエクスポージャーダッシュボードは廃止されました。従来のリリースを使用している場合、またはすでにダッシュボードを使用している場合は、引き続き使用できます。

エンティティ別のエクスポージャーダッシュボード

リスクステートメント別のエクスポージャーダッシュボードを表示するには、次に移動します: リスク > エンティティ別のエクスポージャー. このダッシュボードは、特定のエンティティクラスを担当するエンティティオーナーに役立ちます。ダッシュボードには、[許容できない]、[要注意]、および [許容] のステータスを表示することで、エンティティの健全性も表示されます。このダッシュボードを使用して、年次損失予測 (ALE) に基づいて四半期間の傾向を比較します。このダッシュボードは、許容範囲ステータス別のリスク評価をヒートマップ形式で表示します。ヒートマップは、注意が必要なエンティティを識別するのに役立ちます。年次損失予測の傾向と、許容範囲ステータス別のリスク評価のヒートマップも表示されます。リスクステートメント別のエクスポージャーダッシュボードには、次の傾向が表示されます。

- 許容範囲ステータスあたりのエンティティ
- 評価あたりのエンティティ
- エンティティ年次損失予測
- 許容範囲ステータス別のリスク評価

重要:
高度なリスクおよびリスク管理アプリケーションのバージョン 18.1.0 以降、エンティティ別のエクスポージャーダッシュボードは廃止されました。従来のリリースを使用している場合、またはすでにダッシュボードを使用している場合は、引き続き使用できます。

高度なリスクアセスメントダッシュボード

リスクアセスメントのインスタンスに基づくリスクアセスメント方法のパフォーマンスの概要については、高度なリスクアセスメントの概要ダッシュボードを使用します。

高度なリスクアセスメント概要

重要:
高度なリスクアプリケーションのバージョン 18.1.0 以降、高度なリスクアセスメント概要ダッシュボードは廃止されました。従来のリリースを使用している場合、またはすでにダッシュボードを使用している場合は、引き続き使用できます。

自動翻訳

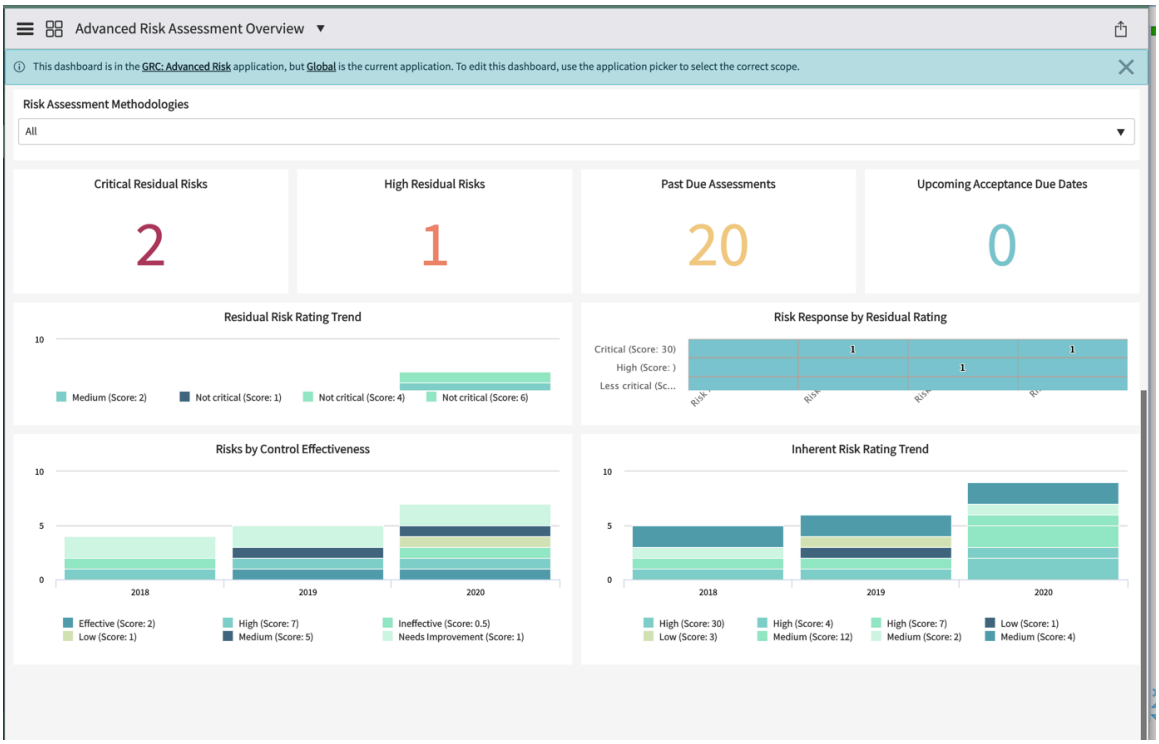
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

移動先 高度なリスクアセスメント > 概要. 高度なリスクアセスメントの概要ダッシュボードには、以下が表示されます。

- 重大な残存リスク (Critical Residual Risks)：
- 高残存リスク
- 期限切れのアセスメント (Past Due Assessments)
- 予定されている受け入れ期日 (Upcoming Acceptance Due Dates)
- 残存リスク評価の傾向
- 残存評価別のリスク応答 (Risk Response by Residual Rating)
- コントロール有効性別のリスク (Risks by Control Effectiveness)
- 固有リスク評価の傾向 (Inherent Risk Rating Trend)
- 予定されている受け入れ期日 (Upcoming Acceptance Due Dates)：この数値は、受け入れ期日が次の 30 日以内にあるタスクの数を示します。

このダッシュボードは、sn_risk.manager ロールを持つユーザーにのみ表示されます。

高度なリスクダッシュボード



高度なリスクアセスメントリスク登録

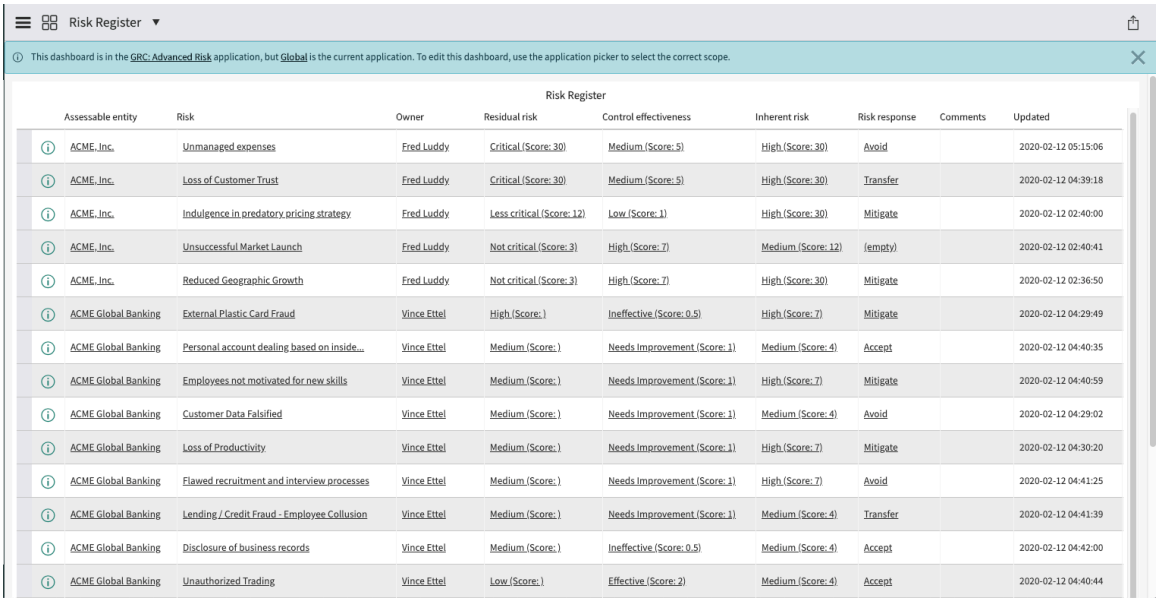
重要:
高度なリスクアプリケーションのバージョン 18.1.0 以降、リスク登録ダッシュボードは廃止されました。従来のリリースを使用している場合、またはすでにダッシュボードを使用している場合は、引き続き使用できます。

リスク登録ダッシュボードは、残存リスク別にソートされたリストビューのリスクアセスメントインスタンスを表示します。

このダッシュボードは、sn_risk.user ロールを持つユーザーに表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスク登録ダッシュボード



Assessable entity	Risk	Owner	Residual risk	Control effectiveness	Inherent risk	Risk response	Comments	Updated
ACME, Inc.	Unmanaged expenses	Fred Luddy	Critical (Score: 30)	Medium (Score: 5)	High (Score: 30)	Avoid		2020-02-12 05:15:06
ACME, Inc.	Loss of Customer Trust	Fred Luddy	Critical (Score: 30)	Medium (Score: 5)	High (Score: 30)	Transfer		2020-02-12 04:39:18
ACME, Inc.	Indulgence in predatory pricing strategy	Fred Luddy	Less critical (Score: 12)	Low (Score: 1)	High (Score: 30)	Mitigate		2020-02-12 02:40:00
ACME, Inc.	Unsuccessful Market Launch	Fred Luddy	Not critical (Score: 3)	High (Score: 7)	Medium (Score: 12)	(empty)		2020-02-12 02:40:41
ACME, Inc.	Reduced Geographic Growth	Fred Luddy	Not critical (Score: 3)	High (Score: 7)	High (Score: 30)	Mitigate		2020-02-12 02:36:50
ACME Global Banking	External Plastic Card Fraud	Vince Ettel	High (Score:)	Ineffective (Score: 0.5)	High (Score: 7)	Mitigate		2020-02-12 04:29:49
ACME Global Banking	Personal account dealing based on inside...	Vince Ettel	Medium (Score:)	Needs Improvement (Score: 1)	Medium (Score: 4)	Accept		2020-02-12 04:40:35
ACME Global Banking	Employees not motivated for new skills	Vince Ettel	Medium (Score:)	Needs Improvement (Score: 1)	High (Score: 7)	Mitigate		2020-02-12 04:40:59
ACME Global Banking	Customer Data Falsified	Vince Ettel	Medium (Score:)	Needs Improvement (Score: 1)	Medium (Score: 4)	Avoid		2020-02-12 04:29:02
ACME Global Banking	Loss of Productivity	Vince Ettel	Medium (Score:)	Needs Improvement (Score: 1)	High (Score: 7)	Mitigate		2020-02-12 04:30:20
ACME Global Banking	Flawed recruitment and interview processes	Vince Ettel	Medium (Score:)	Needs Improvement (Score: 1)	High (Score: 7)	Avoid		2020-02-12 04:41:25
ACME Global Banking	Lending / Credit Fraud - Employee Collusion	Vince Ettel	Medium (Score:)	Needs Improvement (Score: 1)	Medium (Score: 4)	Transfer		2020-02-12 04:41:39
ACME Global Banking	Disclosure of business records	Vince Ettel	Medium (Score:)	Ineffective (Score: 0.5)	Medium (Score: 4)	Accept		2020-02-12 04:42:00
ACME Global Banking	Unauthorized Trading	Vince Ettel	Low (Score:)	Effective (Score: 2)	Medium (Score: 4)	Accept		2020-02-12 04:40:44

リスク管理の参照

参照トピックには、リスク管理 アプリケーションとともにインストールされるテーブル、ロール、およびプロパティなどの追加の情報が記載されています。

リスク管理 とともにインストールされるコンポーネント

リスク管理 プラグインが有効になると、いくつかのタイプのコンポーネント (テーブル、ユーザーロール、スケジュール済みジョブなど) がインストールされます。

注:
アプリケーションファイルテーブルには、このアプリケーションとともにインストールされたコンポーネントがリストされています。このテーブルへのアクセス手順については、「アプリケーションとともにインストールされているコンポーネントの検索」を参照してください。

この機能ではデモデータを利用できます。

リスク管理 とともにインストールされるロール

ロールは、GRC: リスク管理 のアクティブ化とともに追加されます。

インストールされているロール

ロール タイトル [名前]	説明	含んでいるロール
リスクリーダー [sn_risk.reader]	継承された権限に加えて、リスクリーダーにはリスクアプリケーションとモジュールへの読み取り専用アクセス権があります。リスクリーダーは、GRC スコープで次のことを実行できます。 • 自分に割り当てられた問題に対処します。 • すべてのインジケーターテンプレートへの読み取りアクセス権があります。	• sn_grc.reader • survey_reader • sn_rvw_feedback.reader

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インストールされているロール (続く)

ロール タイトル [名前]	説明	含んでいるロール
	• 自分にアサインされたインジケータータスクを処理できます。 • インジケーターへの読み取りアクセス権があります。 • エンティティへの読み取りアクセス権があります。 リスクリーダーは、リスク管理アプリケーションで次の操作を実行できます。 • 自分にアサインされた修復タスクに対処します。 • リスクに対する読み取りアクセス権があり、リスクのオーナーになることができます。 • 古いリスクアセスメントを取得します。 • リスクステートメントおよびリスクフレームワークに対する読み取りアクセス権があります。 • 高度なリスクアセスメントを実行します。 • リスクイベントを作成します。 • リスクイベントのタスクと問題を処理します。 • すべてのリスクイベントとリスクダッシュボードにアクセスします。 • フィードバックへの読み取りアクセス権があります。	
リスクユーザー [sn_risk.user]	sn_grc スコープのリーダーとビジネスユーザーロール、および sn_grc スコープの リスク管理 アプリケーションのリーダーロールとビジネスユーザーロールが含まれています。継承された権限に加えて、リスクユーザーは以下を表示できます。 • エンティティタイプ • エンティティ • リスク	• sn_grc.user • sn_compliance.reader • sn_risk.reader • survey_reader • sn_grc.business_user • sn_risk_advanced.ara_creator

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インストールされているロール (続く)

ロール タイトル [名前]	説明	含んでいるロール
	• 修復タスク • コントロール • コントロール目標 • ポリシー例外 リスクユーザーはリスクを作成することもできます。リスクユーザーにはリスクをアサインすることができ、ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションとモジュールへの読み取り専用アクセス権があります。リスクユーザーは、リスクリーダーが実行できるすべてのことを実行できます。リスクリーダーは、リスク管理アプリケーションで次の操作を実行できます。 • リスク受容タスクと修復タスクを処理します。 • リスクを作成します。 • 高度なリスク関連のダッシュボードにアクセスします。 • 高度なリスクのリスク識別機能への読み取りアクセス権があり、リスク識別に関連するアセスメントを実行できます。 • アセスメントスコープを作成します。	
リスクマネージャー [sn_risk.manager]	sn_grc スコープのリーダー、ユーザー、マネージャーロール、および リスク管理 アプリケーションのリーダーおよびユーザーロールを含みます。継承された権限に加えて、リスクマネージャーは GRC スコープで次のことができます • 問題と問題評価を作成します。 • エンティティ、エンティティタイプ、エンティティクラス、およびクラスルールを作成します。	• sn_grc.manager • sn_risk.user

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インストールされているロール (続く)

ロール タイトル [名前]	説明	含んでいるロール
	• コンテンツ参照を作成します。 • インジケータとインジケーターテンプレートを作成します。 • エンティティ層に対する読み取りアクセス権があります。 リスク管理アプリケーションでは、リスクマネージャーは次のことができます。 • リスクフレームワークを作成します。 • リスクステートメントを作成します。 • リスクを作成します。 • リスクイベント応答テンプレートを作成します。 • リスク識別を作成し、リスク識別に関連するダッシュボードを表示できます。 • 修復タスクを作成します。 • アセスメントスケジューラーを作成します。 • [リスクステートメントの関連付け (Associate risk statements)] モジュールを使用して、リスクステートメントを情報オブジェクトに関連付けます。	
リスクアドミン [sn_risk.admin]	リーダー、ユーザー、マネージャー、admin ロールが sn_grc スコープに含まれ、リーダー、ユーザー、マネージャーロールが リスク管理 アプリケーションに含まれます。継承された権限に加えて、リスクアドミニストレーターは GRC スコープでエンティティ層を作成できます。リスク管理アプリケーションでは、リスクアドミニストレーターは次のことができます。	• sn_grc.admin • sn_risk.user • sn_risk.manager • sn_grc_appr.admin • sn_rvw_feedback.admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インストールされているロール (続く)

ロール タイトル [名前]	説明	含んでいるロール
	• リスクフレームワークを削除する。 • エンティティ、テーブル、インジケーター、リスク、問題、タスクを削除します。 • リスクステートメントおよびリスクを作成します。 • アドミンプロパティを変更します。 • リスク基準を変更します。 • リスクイベントの原因と結果を作成します。 • リスク、高度なリスク関連プロパティにアクセスします。 • リスク識別構成を作成します。 • リスクアセスメント方法論、すべてのタイプの要素を作成します。 • 管理アクティビティを実行します。 • 任意のレコードタイプのフィードバック統合セットアップを構成します。	
アセスメント作成者 [sn_risk.asmt_creator]	アセスメント作成者は、GRC リスクアセスメントメトリクスタイプを作成するために使用されます。	assessment_admin
GRC ビジネスユーザー [sn_grc.business_user]	このロールを持つユーザーは、次のタスクを実行できます。 • リスクアセスメントを行います。 • リスク応答タスクを作成します。 • リスクステートメントを表示します。 • リスクアセスメントスコープを表示します。 • リスクイベントを表示および報告します。 • アサインされたリスクイベントタスクを実行します。	なし

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インストールされているロール (続く)

ロール タイトル [名前]	説明	含んでいるロール
	• インジケーターサポートデータを表示します。 • インジケータータスクに応答します。 • リスク識別アンケートに応答します。 • メトリクスデータタスクに応答します。 • 問題を報告します。 • 問題のトリアージ要求を送信します。 • アサイン済み修復タスクを実行します。 • アサインされた問題を実行します。 • プロジェクトポートフォリオ管理 との統合がある場合は、以下を行うことができます。 ○ プロジェクトリスク概要ダッシュボードを表示します。 ○ ライブラリからリスクを作成します。 ○ エンタープライズリスクを昇格します。 ○ オブジェクトアセスメントを開始します。	

GRC リスクワークスペース と一緒にインストールされるロール

GRC: リスクワークスペース アプリケーションは、ユーザーがそれぞれのタスクを実行するために、オペレーショナルリスクマネージャーと IT リスクマネージャーのロールをインストールします。

ロールと説明

ロールタイトル [名前]	説明	含んでいるロール
オペレーショナルリスクマネージャー (sn_risk_workspace.operational_risk_manager)	オペレーショナルリスクマネージャーは、組織のリスク体制を管理するオペレーショナルリスク チームの一員です。次のタスクを実行できます。	• sn_risk.manager • sn_compliance.manager • sn_audit.manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールと説明 (続く)

ロールタイトル [名前]	説明	含んでいるロール
	• リスクアセスメントを実行します。 • リスクイベント関連データを表示します。 • リスクアセスメントのヒートマップを表示します。 • レコードまたはレコード内のフィールドに関するフィードバックを作成する • リスクアセスメントプロジェクトを作成、変更、削除します。 **注:** オペレーショナルリスクマネージャーロールは、リスクワークスペース と 高度なリスク の両方のアプリケーションがインストールされている場合にのみ使用できます。	• sn_rvw_feedback.reviewer • sn_risk_advanced.risk_asmt_project_manag
IT リスクマネージャー (sn_risk_workspace.IT_risk_manager)	IT リスクマネージャーは、さまざまなステークホルダーと協力して、IT リスクが組織のリスク選好度の範囲内で管理されるようにします。次のタスクを実行できます。 • 評価するリスクを識別します。 • リスク応答を管理します。 • 主なリスクインジケーターを作成します。 • レコードまたはレコード内のフィールドに関するフィードバックを作成する • リスクアセスメントプロジェクトを作成、変更、削除します。	• sn_risk.manager • sn_compliance.manager • sn_audit.manager • sn_rvw_feedback.reviewer • sn_risk_advanced.risk_asmt_project_manag
ビジネスオペレーショナルリスクマネージャー (sn_risk_workspace.business_risk_manager)	ビジネスオペレーショナルリスクマネージャーは、個々の LOB (基幹業務) の防御の第一線を担います。特定の事業部門のリスク体制を管理する責任があります。	• sn_risk.user • sn_compliance.user • sn_audit.user

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールと説明 (続く)

ロールタイトル [名前]	説明	含んでいるロール
		• sn_rvw_feedback.respondent • sn_risk_advanced.risk_asmt_project_user

リスク管理でインストールされるプロパティ

プロパティは、GRC: リスク管理 のアクティブ化とともに追加されます。

インストールされるプロパティ

名前	説明
リスクがアクティブである状況 (最初の状況はデフォルトのアクティブ状況) sn_risk.active_states	• タイプ：文字列 • デフォルト値： draft、assess、review、monitor • [**Location** (場所)]： リスク > アドミニストレーション > プロパティ
リスクが非アクティブである状況 (最初の状況はデフォルトの非アクティブ状況) sn_risk.closed_states	• タイプ：文字列 • デフォルト値：retired • [**Location** (場所)]： リスク > アドミニストレーション > プロパティ
リスクアセスメントに使用されるアセスメントメトリクスタイプの名前 sn_risk.default_assessment	• タイプ：文字列 • デフォルト値：Risk Assessment • [**Location** (場所)]： リスク > アドミニストレーション > プロパティ
定性的な影響度を示すスコアを入力として使用します sn_risk.qualitative_impact	• タイプ：true または false • デフォルト値：false **注:** Geneva (以前) または Helsinki (以降) からアップグレードし、値が以前に true に設定されていた場合、この値はアップグレード後に true に設定されます。 • [**Location** (場所)]： リスク > アドミニストレーション > プロパティ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インストールされるプロパティ (続く)

名前	説明
定性的な可能性を示すスコアを入力として使用します sn_risk.qualitative_likelihood	• タイプ：true または false • デフォルト値：false • [**Location** (場所)]： リスク > アドミニストレーション > プロパティ
リスクでリスクステートメントを必須にする sn_risk.risk_statement_mandatory	• タイプ：true または false • デフォルト値：**false**。 注: false の場合、関連付けられたリスクステートメントなしでリスクの作成を許可します。true の場合、リスクステートメントはリスクの作成に必須です
次に基づいてリスク許容範囲を比較 sn_risk_advanced.risk_tolerance	• タイプ：選択リスト • デフォルト値：Sum • [**Location** (場所)]： リスク > アドミニストレーション > プロパティ 注: このプロパティは、高度なリスク プラグインをアクティブ化した場合にのみ使用できます。
計算されたリスクスコアを次と比較 sn_risk_advanced.risk_rating_config	• タイプ：選択リスト • デフォルト値：計算済み平均 ALE • [**Location** (場所)]： リスク > アドミニストレーション > プロパティ 注: このプロパティは、高度なリスク プラグインをアクティブ化した場合にのみ使用できます。
アップストリームおよびダウンストリームのリスクを非表示 sn_risk.hide_upstream_downstream_risks	• タイプ：true または false • デフォルト値： true。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インストールされるプロパティ (続く)

名前	説明
	• [**Location** (場所)]： リスク > アドミニストレーション > プロパティ 注: このプロパティは、高度なリスク プラグインをアクティブ化した場合にのみ使用できます。
インジケーターによって作成された問題を自動クローズ sn_grc.auto_indicator_issue_closure	• タイプ：yes または no • デフォルト値：いいえ。 • [**Location** (場所)]： リスク > アドミニストレーション > プロパティ
リスクフォームの [適用先] フィールドで利用可能なテーブルのリスト。 sn_risk.risk_applies_to_tables	• タイプ：文字列 • デフォルト値：Risk Assessment • [**Location** (場所)]： リスク > アドミニストレーション > プロパティ

リスク管理 とともにインストールされるテーブル

テーブルは、GRC: リスク管理 のアクティブ化とともに追加されます。

インストールされるテーブル

テーブル	説明
リスク [sn_risk_risk]	アイテムテーブル [sn_grc_item] を拡張し、エンティティに関連付けられた特定のリスクを格納します。
リスクステートメント [sn_risk_definition]	コンテンツテーブル [sn_grc_content] を拡張し、リスクの定義を格納します。
リスクフレームワーク [sn_risk_framework]	ドキュメントテーブル [sn_grc_document] を拡張し、すべてのリスクフレームワーク (リスクステートメントのコレクション) を格納します
リスクフレームワークからエンティティタイプ [sn_risk_m2m_framework_profile_type]	ドキュメントをエンティティタイプテーブル [sn_grc_m2m_document_profile_type] に拡張します。これは、リスクフレームワークとエンティティタイプ間の関係を管理するために使用される多対多の関係テーブルです。
リスクステートメントに対するエンティティタイプ [sn_risk_m2m_risk_definition_profile_type]	コンテンツからエンティティタイプテーブル [sn_grc_m2m_content_profile_type] を拡張します。これは、エンティティタイプとリスクス

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インストールされるテーブル (続く)

テーブル	説明
	テートメント間の関係を管理するために使用される多対多の関係テーブルです。
リスクタスク [sn_risk_m2m_risk_task]	リスクとタスク間の多対多の関係を保存します。
リスク移転 [sn_risk_transfer_task]	リスクを分析する場合、それに対応する方法は 4 つあります。このテーブルは、リスクマネージャーがリスクを転送する方法を提供します。
色の設定 [sn_risk_color_setting]	このテーブルは、影響度/可能性をパレットの色と関連付けるために使用されます。
リスク回避 [sn_risk_avoidance_task]	リスクを分析する場合、それに対応する方法は 4 つあります。このテーブルは、リスクマネージャーがリスクを回避する方法を提供します。たとえば、カリフォルニアで建物を所有すると、地震のリスクにさらされます。カリフォルニアに建物を持たないことを選択することで、このリスクを回避できます。
リスク受容 [sn_risk_acceptance_task]	リスクを分析する場合、それに対応する方法は 4 つあります。このテーブルは、リスクマネージャーがリスクを承認 (受容) または却下できるようにする承認プロセスを提供します。
リスク軽減 [sn_risk_mitigation_task]	リスクを分析する場合、それに対応する方法は 4 つあります。このテーブルは、リスクマネージャーがリスクを軽減する方法を提供します。
リスクからコントロール sn_risk_m2m_risk_control	リスクとコントロールの関係が含まれています。
コントロール目標に対するリスクステートメント sn_risk_m2m_risk_definition_policy_statement	コントロール目標に対するリスクステートメントの関係が含まれています。これにエントリを追加すると、コントロールに対する関連リスクの関係が一致するエンティティによりリスクからコントロールテーブルに作成されます。
コントロールに対するリスク軽減 sn_risk_m2m_risk_mitigation_control	リスクを軽減するためにタスクのフローの一部としてリスク軽減タスクに追加されたコントロールがこのテーブルに追加されます。
リスク関係性 sn_risk_m2m_risk_risk	2 つのリスク間のアップストリーム-ダウンストリーム/親-子関係が含まれます。
リスク応答タスク sn_risk_response_task	ベーステーブルからリスク受け入れ、リスク回避、リスク軽減、リスク移転タスク。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
依存プラグインによってインストールされる追加のテーブルはすべて GRC: リスク管理 にも必要です。

高度なリスク とともにインストールされるコンポーネント

GRC: 高度なリスク (sn_risk_advanced) プラグインをアクティブ化すると、複数のテーブル、ユーザーロール、およびその他のコンポーネントが追加または変更されます。高度なリスク プラグインを使用すると、高度なリスクアセスメントを実行し、リスクイベントを管理できます。

注:
アプリケーションファイルテーブルには、このアプリケーションとともにインストールされたコンポーネントがリストされています。このテーブルへのアクセス手順については、「アプリケーションとともにインストールされているコンポーネントの検索」を参照してください。

注:
この機能ではデモデータを利用できます。

高度なリスク とともにインストールされるテーブル

テーブルは、GRC: 高度なリスク のアクティブ化とともに追加されます。

テーブル	説明
リスクイベントタスク [sn_risk_advanced_mitigation]	報告されたリスクイベントに関連付けられた軽減タスクを追跡します。
集計されたリスクレポート [sn_risk_advanced_risk_report_definition]	顧客がエンティティを選択し、これらのエンティティにいくつかのリスクステートメントを関連付けて、集計されたリスクスコアをレポートできる、この定義を作成します。
リスクレポート [sn_risk_advanced_risk_report]	集計されたリスクレポートの定義に基づいて、エンティティとリスクステートメントの各組み合わせのレコードが作成されます。許容範囲ステータスと計算されたスコアも表示されます。
イベントエントリ [sn_risk_advanced_event_impact]	分析ステータス中にリスクマネージャーによって追加されるリスクイベントの影響度エントリ。
リスクに対するリスクイベント [sn_risk_advanced_m2m_event_risk]	各リスクイベントは、該当するリスクに関連付けることができます。このテーブルにより、リスクに対するリスクイベントの関係を追跡できます。
リスクイベント [sn_risk_advanced_event]	さまざまなユーザーによって報告された損失または利益イベントを追跡します。
関連リスクイベント [sn_risk_advanced_m2m_event_event]	リスクイベントは、他の複数のリスクイベントにリンクできます。このテーブルには、これらの関連付けが含まれています。
エンティティに対するリスクイベント [sn_risk_advanced_m2m_event_profile]	リスクマネージャーは、リスクイベントによって影響を受ける複数のエンティティを関連付けることができます。このテーブルは、リスクイベントにリンクされた影響を受けるエンティティを追跡します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブル	説明
コントロールするリスクイベント [sn_risk_advanced_m2m_event_control]	リスクマネージャーは、リスクイベントにリンクされているエンティティに関連する複数のコントロールを関連付けることができます。このテーブルは、リスクイベントにリンクされた影響を受けるエンティティを追跡します。
引用に対するリスクイベント [sn_risk_advanced_m2m_event_citation]	リスクマネージャーは、リスクイベントを規制上の義務と引用に関連付けることができます。この関連付けにより、違反のレポートと規制への準拠が容易になります。

注:
依存プラグインによってインストールされる追加のテーブルはすべて GRC: 高度なリスク にも必要です。

高度なリスクアセスメントを実行するためのロール

高度なリスクアセスメントを他のアプリケーションと統合する場合は、ユーザーがアセスメントを実行して承認するために必要なロールを持っていることを確認する必要があります。

バージョン 14.1.2 以降、他のアプリケーションのユーザーが高度なリスクアセスメント機能を正常に使用できるように、いくつかの新しいロールが導入されています。これらの独立したロールは、リスクアドミン、GRC ビジネスユーザーなど 統合リスク管理 の特定のロールを必要とせずに高度なリスクアセスメントを実行するために必要な機能をユーザーに提供するために作成されました。

注:
高度なリスクアセスメントロールを sn_grc.business_user ロールに手動でアサインする必要があります。ロールとグループの付与を調整する方法については、Now Support ナレッジベースの「How to adjust granting of roles and groups to use background jobs (バックグラウンドジョブを使用するためのロールとグループの付与を調整する方法) [KB0963693]」を参照してください。GRC ビジネスユーザーロールの詳細については、Now Support ナレッジベースの Now Support ナレッジベース記事「GRC ビジネスユーザー [KB0864247]」を参照してください。記事を表示するには Now Support にログインする必要があります。

自動翻訳

インストールされるロール

ロールタイトル [名前]	含まれる場所	説明	含んでいるロール
sn_risk_advanced.ara_admin	sn_risk.admin	このロールを持つユーザーは、次のことができます。 • リスクアセスメント方法論を作成します。 • 要素を作成して管理します。	• sn_risk_advanced.ara_creator • sn_risk_advanced.ara_assessor • sn_risk_advanced.ara_approver • sn_risk_advanced.ara_reader
sn_risk_advanced.ara_creator	sn_risk.user	このロールを持つユーザーは、オブジェクトアセスメントを作成できます。	sn_risk_advanced.ara_reader
sn_risk_advanced.ara_assessor	sn_grc.business.user	このロールを持つユーザーは、次のことができます。	sn_risk_advanced.ara_reader

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インストールされるロール (続く)

ロールタイトル [名前]	含まれる場所	説明	含んでいるロール
		• アセスメントを取得します。 • アセスメントの実施、アセスメントへの対応または再アサインなどのアセスメント関連アクションを実行します。	
sn_risk_advanced.ara_approver	sn_grc.business.user	このロールを持つユーザーは、アセスメントの承認などのアセスメント関連のアクションを実行できます。	sn_risk_advanced.ara_reader
sn_risk_advanced.ara_reader	sn_risk.reader	このロールを持つユーザーは、リスクアセスメントインスタンスのすべての情報を読み取ることができます。このロールを持つユーザーには、高度なリスクアセスメント内のすべてのテーブルに対する読み取りアクセス権があります。レポートに対するアクセスのみが必要なユーザーがいる場合は、このロールを使用できます。	
sn_risk_advanced.qualitative_risk_appetite_reader	sn_risk.user sn_risk.reader	ユーザーは、定性的リスク選好度フィールドを表示できます。	
sn_risk_advanced.quantitative_risk_appetite_reader	sn_risk.user	ユーザーは、定量的リスク選好度フィールドを表示できます。	

高度なリスクでインストールされるプロパティ

プロパティは、GRC: 高度なリスク のアクティブ化とともに追加されます。リスクイベントや高度なリスクアセスメントなどのさまざまな機能に使用できるプロパティもあります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

高度なリスク のプロパティ

高度なリスク のすべてのプロパティが [システムのプロパティ] ページに一覧表示されます。[システムのプロパティ] ページにアクセスするには、フィルターナビゲーターで「*sys_properties.list*」と入力します。

高度なリスクプラグインのプロパティ

プロパティ	説明
リスク階層の最大レベル数 sn_risk_advanced.risk_hierarchy_max_levels	リスク階層の最大レベル数を設定します。 • タイプ：整数 • デフォルト値：5
リスク評価を設定 sn_risk_advanced.risk_rating_config	計算されたリスクスコアを、計算された最大 ALE、計算された最小 ALE、計算された平均 ALE のいずれかと比較します。 • タイプ：選択リスト • デフォルト値：avg **注:** このプロパティは、クラシック版リスクスコアリングで機能します。
リスク許容範囲を比較 sn_risk_advanced.risk_tolerance	[平均]、[最大]、[最小]、[合計] のいずれかの選択肢に基づいてリスク許容度を比較します。 • タイプ：選択リスト • デフォルト値：sum
GRC エンタープライズリスクライセンス機能を有効にする sn_risk_advanced.enable_irm_advanced_risk_enterprise	このプロパティは、GRC エンタープライズリスクライセンス機能を有効にします。 • タイプ：true または false • デフォルト値：false

リスクイベントのプロパティ

リスクイベントプロパティにアクセスするには、次に移動します: すべて > リスクイベント > アドミニストレーション > プロパティ.

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクイベントプロパティ

プロパティ	説明
類似のリスクイベントを予測するための機械学習ソリューション ml_sn_sn_grc_pred_intel_global_similar_risk_events	類似のリスクイベントを予測するためのソリューション定義。
Basel の属性とレポートを表示 sn_risk_advanced.show_basel_attr_reports	リスクイベントの Basel 分類を有効にする場合は、このプロパティを true に設定します。このプロパティは、バンキングドメインの顧客に役立ちます。 • タイプ：true または false • デフォルト値：false
リスクイベント通貨換算構成を定義 sn_risk_advanced.risk_event_currency_conversion_date_config	リスクイベントエントリの通貨換算日を定義するためのプロパティ。影響日のみに依存して純損失を計算するのではなく、通貨換算の特定の日付を選択できます。オプションは次のとおりです。 • リスクイベントエントリ日 **(Risk event entry date)** • 最初の損失エントリ日 **(First loss entry date)** • 前回の損失エントリ日 **(Last loss entry date)** • 最初の復旧エントリ日 **(First recovery entry date)** • 前回の復旧エントリ日 **(Last recovery entry date)** • カスタム日付 **(Custom date)**

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクイベントプロパティ (続く)

プロパティ	説明
	注: リスク応答テンプレート構成で、定義された通貨換算日を上書きすることもできます。これらの変更は、新規および進行中のリスクイベントワークフローの両方に適用されます。
リスクイベントとリスクの関係を必須にする sn_risk_advanced.make_riskevent_to_risk_relation_mandatory	各リスクイベントに対応するリスクがあることを確認する場合は、このプロパティを true に設定します。 • タイプ：true または false • デフォルト値：false
迅速な復旧分類の日数 sn_risk_advanced.no_of_days_for_rapid_recovery_classification	ユーザーが迅速な復旧のしきい値として設定できる日数をカスタマイズします。 • タイプ：整数 • デフォルト値：5
ORX 外部イベントを表示 sn_risk_advanced.show_orx_events	ユーザーは、ORX 外部イベントを表示することを選択できます。ORX は、世界中の高品質のオペレーショナルリスク損失データを安全に交換するためのプラットフォームを提供します。このプロパティは、バンキングドメインの顧客に役立ちます。 顧客は、ORX 組織で共有されている ORX 情報をインポートします。この情報は、リスクステートメントまたはコントロール目標に関連付けることができます。この情報はユーザーが変更できます。 • タイプ：true または false • デフォルト値：false

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクイベントプロパティ (続く)

プロパティ	説明
レポートに表示するリスクイベントデータの年数 sn_risk_advanced.number_of_years_report_data	レポートに表示するリスクイベントデータの年数を選択します。 • タイプ：整数 • デフォルト値：2 **注:** このプロパティは [システムのプロパティ] ページに表示されます。

高度なリスクアセスメントのプロパティ

高度なリスクアセスメントのプロパティにアクセスするには、次に移動します: すべて > 高度なリスクアセスメント > アドミニストレーション > プロパティ.

高度なリスクアセスメントのプロパティ

プロパティ	説明
高度なリスクアセスメントに移行 sn_risk_advanced.hide_risk_legacy_lifecycle	高度なリスクアセスメントに移行します。 • タイプ：yes または no • デフォルト値：no
高度なリスク PPM 統合を有効化 sn_risk_advanced.enable_advanced_risk_ppm_integration	プロジェクトリスクアセスメントを実行します。it_pps_admin または sn_ risk.admin ロールを持つユーザーのみが、このプロパティを有効にできます。 • タイプ：yes または no • デフォルト値：no 詳細については、「プロジェクトポートフォリオ管理 および 高度なリスク 統合を設定」を参照してください。 **注:** このプロパティは、プロジェクトポートフォリオ管理 がインストールされている場合にのみ使用できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

高度なリスクアセスメントのプロパティ (続く)

プロパティ	説明
sn_risk_advanced.metric_approval	リスクアドミニストレーターが、すべてのメトリクスとメトリクス定義に対して簡易承認フローまたは詳細承認フローのいずれかを定義できるようにします。 **注:** このプロパティは、sn_grc_appr プラグインが有効になっている場合にのみ使用でき、 ESG Management アプリケーションを構成するときに設定する必要があります。 選択肢は次のとおりです。 • シンプル:このオプションを選択すると、手動メトリクスの定義フォームとメトリクス内で [承認] セクションが有効になります。このセクションを使用して、測定基準の定義フォームで承認者を直接指定することができます。 • 詳細:このオプションを選択すると、手動メトリクスの定義フォームとメトリクスフォームで [承認] セクションが使用できなくなります。代わりに、GRC: Approver Configurator アプリケーションで承認条件、テーブル、および承認者を設定することで承認を構成できます。このアプリケーションでは、複数レベルの承認を定義することもできます。詳細については、「承認コンフィギュレーターを使用した承認の設定」を参照してください。

ビジネスプロセスロール

ビジネスプロセスユーザーとマネージャーは、さまざまなロールを使用できます。

次の表に、ビジネスプロセスの管理に使用する必要があるロールを示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ビジネスプロセスの管理に使用されるロール

ロールタイトル	説明
ビジネスプロセスアドミン business_process_admin	このロールは、ビジネスプロセス内のすべてのレコードへのアクセス権とその関係を作成、読み取り、更新、および削除 (CRUD) できます。このロールは、アドミンであり、ビジネスプロセスに関する十分な情報を持ち、トレーニングを受けたユーザーに割り当てられます。GRC のコンテキストで、GRC アプリケーションとそのセットアップを管理する sn_grc.admin ロールを持つユーザーは、このロールに自動的にアクセスできます。このアクセス権により、GRC アドミニストレーターは他の GRC テーブルと同様にビジネスプロセスとそのレコードを管理できます。
ビジネスプロセスマネージャー business_process_manager	このロールは通常、専門家であり、組織内の複数のビジネスプロセスを管理するビジネスプロセスマネージャーに割り当てられます。ビジネスプロセスを作成、読み取り、更新し、ビジネスプロセスと他のレコードとの関係を管理できます。このようなユーザーは通常、ビジネスプロセスで他の従業員とともに作業する、ビジネスプロセスのエキスパートです。GRC のコンテキストでは、sn_grc.manager ロールを持つユーザーは、組織全体のビジネスプロセスを管理できるようになるこのロールを自動的に継承します。
ビジネスプロセスユーザー business_process_user	このロールは、所有するビジネスプロセスを管理するそれぞれのプロセスオーナーに割り当てる必要があります。このロールでは、所有するビジネスプロセスを更新できます。また、任意のビジネスプロセスを読み取ることもできます。このロールは、組織内のビジネスプロセスを表示してよりよく理解する必要があるユーザーにも提供できます。GRC のコンテキストでは、sn_risk.user ロールを持つユーザーは、所有するビジネスプロセスを管理してすべてのビジネスプロセスを読み取ることができるこのロールが自動的に割り当てられます。

リスク管理のドメインセパレーション

リスク管理 ではドメインセパレーションがサポートされています。ドメインセパレーションでは、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

サポートレベル：ベーシック

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- アプリケーションサービスプロバイダーのユースケースに合わせてデータが適切なドメインに送られるようにするビジネスロジックが存在します。
- このアプリケーションは、ドメインセパレーションを完全にサポートしています。ドメインセパレーションには、ユーザーインターフェイス、キャッシュキー、レポート、ロールアップ、および集計からのドメインの分離が含まれます。
- インスタンスのオーナーは、複数のテナント間で正常に機能するようにアプリケーションをセットアップする必要があります。

サンプルユースケース：サービスプロバイダーがチャットを使用してテナント顧客のメッセージに応答する場合、お客様がサービスプロバイダーの応答を確認できるようにする必要があります。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメインセパレーションのサポート」を参照してください。

ドメインセパレーションの概要

ドメインセパレーションは、以下の顧客にとって最適です。

- ビジネスエンティティ間で絶対的なデータ分離を適用する必要がある (データ分離)。
- 各ドメインのビジネスプロセス定義とユーザーインターフェイスをカスタマイズする (委任管理)。
- 単一のインスタンスでグローバルなプロセスとグローバルなレポートを維持します。

これらのユーザーは、ドメインスコープを展開するか折りたたんで、他のドメインからのデータを表示または非表示にすることができます。

注:
ユーザーは、ドメインの可視化によって明示的に付与されたドメインのデータに常にアクセスできます。

GRC におけるドメインセパレーションの仕組み

- GRC はデータの分離をサポートしていますが、ロジックおよびプロセスの分離を完全にはサポートしていません。

- GRC アプリケーション内のタイプのレコードの多くは、ユーザープロセスによって自動的に生成されます。エンティティ、コントロール、リスク、インジケーター、およびコントロールテストはすべて、自動的に生成できるフィールドです。自動的に生成されるレコードの場合、レコードのドメインは、ジョブに構成されたドメイン反復子によって決定されます。それ以外の場合は、デフォルトドメイン (定義されている場合) またはグローバルドメインがデフォルトになります。手動で生成されたレコードの場合、ドメインはレコードを作成するユーザーのドメインから派生します。

  ドメインセパレーションされた GRC 実装で作業する場合は、自動生成を念頭に置いておく必要があります。ユーザーは、適切なドメインレベルでレコードを作成および生成して、それらが適切なユーザーセットに表示されるようにする必要があります。

  たとえば、次のようなドメインがあるとします。

  - グローバル
  - トップ
    - ドメイン A
    - ドメイン B

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ドメイン A および B のユーザーによって評価されるリスクまたはコントロールがある場合は、リスクまたはコントロールをグローバルレベルで生成するか、手動で作成する必要があります。リスクまたはコントロールがドメイン B で作成された場合、インデックス作成が原因で、ドメイン A でリスクまたはコントロールを再作成することはできません。
- トップおよびドメイン A のユーザーによって評価されるリスクまたはコントロールがある場合は、ドメイン A でリスクまたはコントロールを作成できます。

リスクとコントロールがグローバルドメイン内にない限り、ユーザーは上位のドメイン内にあるリスクまたはコントロールケースを、下位のドメインのユーザーにアサインできません。上記の例では、トップドメインにコントロールがある場合、証明書のために、そのコントロールをドメイン A または B のユーザーにアサインしないでください。これらのユーザーはコントロールにアクセスできないため、証明書またはアセスメントのアンケートは生成されません。

同様に、ユーザーは、上位ドメインのコントロール目標とリスクステートメントを下位ドメインの証明書とアセスメントにアサインしないでください。アサインすると、証明書またはアセスメントアンケートが生成されません。

ユースケース

IT 用の GRC データを他の部門の GRC データから分離できます。GRC アプリケーションを使用している各ビジネスエリアは、他の部門と共有できない分離データを保有できます。そのため、各部門には独自のエンティティ、ポリシー、コントロール、リスクなどがあります。

IT ドメインからのコントロールを調べる場合、ユーザーはドメインスコープを展開してファイナンスドメインの値を表示するか、ドメインスコープを折りたたんで IT ドメインに一致するコントロールのみを表示するかを選択できます。

デフォルトでは、ドメインセパレーションは、タスク [task] および構成アイテム [cmdb_ci] テーブルとその拡張に、ドメインフィールドを追加します。

sys_domain および sys_domain_path フィールドをテーブルの辞書定義に追加することで、作成する任意の新しいテーブルにドメインセパレーションを拡張することができます。デフォルトでは、システム専用ドメインは、適切な場合に、プラットフォームとベースラインアプリケーションテーブルを分離します。

⚠ 警告:
ServiceNow では、予期しない結果が生じる可能性があるため、ドメインセパレーションプラットフォームテーブル (辞書エントリ [sys_dictionary] や辞書エントリの上書き [sys_dictionary_override] テーブルなど、sys_prefix を持つテーブル) は推奨されません。

このユースケースでは、クライアントスクリプト、ビジネスルール、ワークフロー、プロセスなどをドメインセパレーションできます。

ドメインセパレーションでの動作がマルチテナントのサポートを提供している間は、マルチテナントはまだ単一のインスタンス内に含まれています。つまり、一部のグローバルプロパティ、グローバルデータ、およびグローバルプロセスは、すべてのドメインで共有されます。たとえば、ログインページのシステムの [記憶する] オプションはグローバルであり、ドメインごとに指定できません。

すべてのシステムのプロパティを完全に分離する必要があり、グローバルレポートまたはグローバルプロセスを必要としない場合、インスタンスの分離が最適なオプションです。

ドメイン値を GRC オブジェクトに割り当てる方法

自動的に生成されるレコード。レコードのドメインは、ジョブに構成されたドメイン反復子によって決定されます。次の表は、ドメイン値がさまざまな GRC オブジェクトにどのように割り当てられるかを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC オブジェクト	ドメインソース
リスク	エンティティからドメイン値を取得します。
リスクアセスメント	リスクからドメイン値を取得します。
オブジェクトアセスメント	オブジェクトからドメイン値を取得します。
リスクアセスメント応答	リスクアセスメント事例からドメイン値を取得します。
リスク識別	エンティティからドメイン値を取得します。
集計されたリスク	エンティティとリスクステートメントからドメイン値を取得します。
Basel レポート	リスクイベントからドメイン値を取得します。
リスクからコントロール (Risk to control)	リスクからドメイン値を取得します。

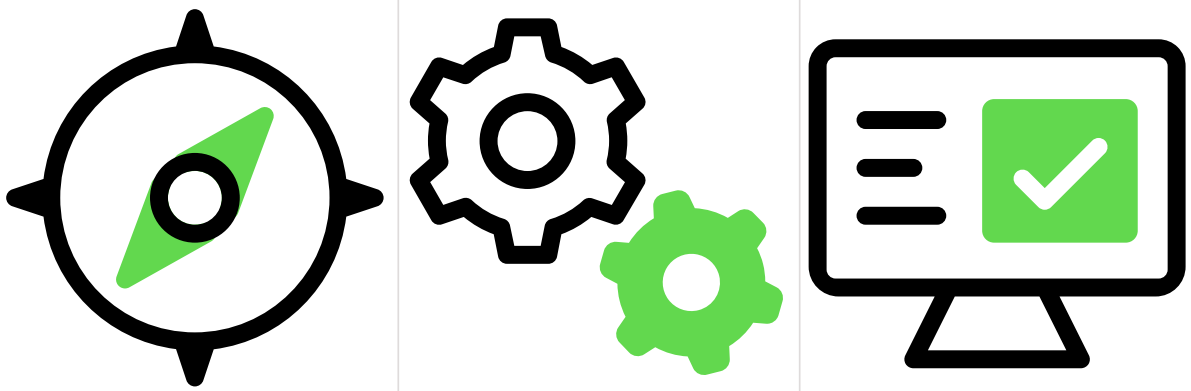
注:
ドメインソースがグローバルまたは nil の場合、そのオブジェクトのドメインは [デフォルト] に設定されます。

スマートアセスメントエンジン

ServiceNow® スマートアセスメントエンジン (SAE) アプリケーションは、自動化によってアセスメントプロセスの手作業による負担とコストを削減するのに役立ちます。

開始

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアに要求を送信する方法について確認します。リリースされたすべてのアプリのリリースメモ情報については、「ServiceNow Store バージョンの履歴リリースノート」を参照してください。



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



トラブルシューティングとサポート

- 既知のエラーポータルで既知のエラー記事を検索する。
- 開発者サイトでアプリの詳しいビルド方法を確認する。
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート.

スマートアセスメントエンジン の探索

スマートアセスメントエンジン アプリケーションを使用して、さまざまな状況、側面、またはレコードを評価するためのアセスメントを作成し、従業員に配布できます。

スマートアセスメントエンジン のメリット

次の表で スマートアセスメントエンジンアプリケーションの利点を紹介します。

メリット	機能	ユーザー
すべてのアセスメントテンプレート関連情報の概要を表示します。公開済みおよび未公開のアセスメントテンプレートを確認し、テンプレートデザイナーにアクセスできます。	アセスメントワークスペースでのテンプレートへのアクセス	テンプレートリーダー [sn_smart_asmt.template_reader]、テンプレート マネージャー [sn_smart_asmt.template_manager]、またはアセスメントアドミン [sn_smart_asmt.assessment_admin]
次のタスクにはテンプレートデザイナーを使用します。	テンプレートデザイナーの使用 アセスメントテンプレートを作成する	テンプレート マネージャー [sn_smart_asmt.template_manager] またはアセスメントアドミン [sn_smart_asmt.assessment_admin]

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メリット	機能	ユーザー
• コントロール証明書やリスク識別など、さまざまなタイプに対応するアセスメントテンプレートを作成およびカスタマイズします。 • 質問タイプ、理由、条件付き表示設定などのアセスメントパラメーターを設定します。 • テンプレートデザイナーを使用して、手順、質問、および参照情報を追加します。	アセスメントテンプレートに手順と質問を追加する アセスメントテンプレートに参照情報を追加する	
ワークフロースタジオ の ワークフロースタジオまたはスクリプトを使用してアセスメントをトリガーします。	アセスメントをトリガーする	フローデザイナー [flow_designer]
アセスメントに回答し、ワークスペース内で回答を収集します。作業が自動的に保存されるため、査定人は手動で保存する必要がなくなり、データの損失を防ぐことができます。進行中のアセスメントを別のユーザーに再アサインしたり、不要になったアセスメントをキャンセルしたりすることもできます。	アセスメントに回答する	アセスメントアクター [sn_smart_asmt.actor]
アサインされた複数のアセスメントを 1 つの簡素化されたビューにまとめます。これらの統合アセスメントを一度に管理、送信、または再アサインできます。[一括送信 (Bulk Submit)] または [一括再アサイン (Bulk Reassign)] を使用して、すべてのアセスメントを 1 回のアクションで処理します。	アセスメントを 1 つの送信にまとめる	アセスメントアクター [sn_smart_asmt.actor]
メトリクスタイプを SAE アセスメントテンプレートに移行して、作成済みのアセスメント設計を使用します。	従来のメトリクスタイプをアセスメントテンプレートに移行する	アセスメントアドミン [sn_smart_asmt.assessment_admin]

自動翻訳

SAE ユーザーのロール

アセスメントアクター

アセスメントアクター [sn_smart_asmt.actor] ロールを持つユーザーは、自分にアサインされたアセスメントに回答できます。また、これらのアセスメントを再アサインすることもできます。

アセスメントリーダー

アセスメントリーダー [sn_smart_asmt.assessment_reader] ロールを持つユーザーは、アサインされているカテゴリー内のアセスメントを読むことができます。さらに、作成したアセスメントを読んでコメントしたり、それらのテンプレートから生成されたアセスメントを表示したりコメントしたりすることができます。

> **注:**
> テンプレートの [アセスメントリーダーロール] フィールドによって、アセスメントの表示とコメントに必要な最小限のユーザーロールが決まります。指定されたロールとアセスメントリーダー [sn_smart_asmt.assessment_reader] ロールを持つユーザーのみが、このテンプレートから生成されたアセスメントにアクセスできます。

アセスメントアドミン

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントアドミン [sn_smart_asmt.assessment_admin] ロールを持つユーザーは、テンプレートカテゴリとアセスメントテンプレートのどちらも作成、表示、更新、および削除できます。さらに、このロールを持つユーザーは、すべてのアセスメントを表示したり、ステータスを変更したり、アセスメントを再アサインしたり、既存のメトリクスタイプを新しいアセスメントテンプレートに移行したりすることができます。

テンプレートリーダー

テンプレートリーダー [sn_smart_asmt.template_reader] ロールを持つユーザーは、テンプレートにマッピングされたカテゴリに基づく特定のアセスメントテンプレートを読むことができます。

注:
各テンプレートは、1 つ以上のテンプレートカテゴリにマッピングする必要があります。そのカテゴリにマッピングされているテンプレートを表示するには、テンプレートリーダーはこのロールを持っている必要があります。テンプレートリーダーは、テンプレートを表示するためにテンプレートカテゴリにアクセスできる必要があります。

テンプレートマネージャー

テンプレートマネージャー [sn_smart_asmt.template_manager] ロールを持つユーザーは、これらのテンプレートにマッピングされているカテゴリに基づいて、特定のアセスメントテンプレートを読む、書く、または作成することができます。作成プロセス中のテンプレートカテゴリへのアクセスは、テンプレートリーダーに適用されるものと同じルールによって管理されます。

テンプレート開発者

テンプレートアドミニストレーターまたはテンプレートマネージャーロールとテンプレート [sn_smart_asmt.developer] ロールを持つユーザーは、アセスメント質問で応答自動化のスクリプトの読み取り、書き込み、および作成を行うことができます。

詳細については、「スマートアセスメントエンジン でのロール」を参照してください。

アセスメントワークスペースでのテンプレートへのアクセス

アセスメントテンプレートに関連するすべての情報は、アセスメントワークスペースのランディングページで確認できます。スマートアセスメントエンジン アプリケーションを使用して、公開済みおよび未公開のアセスメントテンプレートを確認し、アセスメントテンプレートを作成できます。

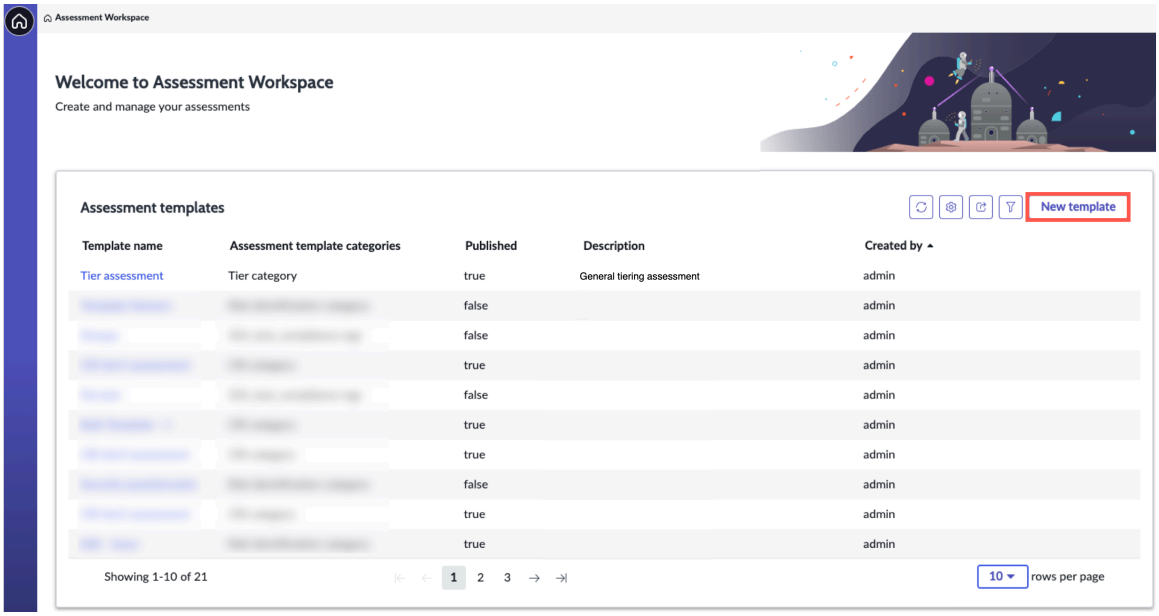
スマートアセスメントワークスペース

に移動すると、アセスメントテンプレートに関連するすべての情報を表示できます ワークスペース > アセスメントワークスペース. sn_smart_asmt.assessment_admin ロールまたは sn_smart_asmt.template_manager ロールを持っている場合は、アセスメントワークスペースでアセスメントテンプレートを作成するか、未公開のアセスメントテンプレートを更新できます。テンプレートマネージャーがアセスメントテンプレートを作成または更新できるかどうかは、カテゴリロールによって決まります。テンプレートリーダー [sn_smart_asmt.template_reader] ロールを持つチームメンバーは、自分のカテゴリロールの特定のテンプレートを表示できます。アセスメントカテゴリの詳細については、「アセスメントテンプレートカテゴリを作成する」を参照してください。

ホームアイコン を選択して、アセスメントワークスペースのランディングページにアクセスすることもできます。

次の例に示すように、公開済みおよび未公開のすべてのアセスメントテンプレートを、その名前、カテゴリ、および説明とともに表示できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



アセスメントテンプレートの作成

テンプレートを作成するには、[新規テンプレート] を選択し、テンプレートの詳細フォームに入力します。詳細については、「アセスメントテンプレートを作成する」と「テンプレートデザイナーの使用」を参照してください。

ドメインセパレーションと スマートアセスメントエンジン (SAE)

スマートアセスメントエンジン ではドメインセパレーションがサポートされています。 ドメインセパレーションでは、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

サポートレベル：ベーシック

- アプリケーションサービスプロバイダーのユースケースに合わせてデータが適切なドメインに送られるようにするビジネスロジックが存在します。
- このアプリケーションは、ドメインセパレーションを完全にサポートしています。ドメインセパレーションには、ユーザーインターフェイス、キャッシュキー、レポート、ロールアップ、および集計からのドメインの分離が含まれます。
- インスタンスのオーナーは、複数のテナント間で正常に機能するようにアプリケーションをセットアップする必要があります。

サンプルユースケース：サービスプロバイダーがチャットを使用してテナント顧客のメッセージに応答する場合、お客様がサービスプロバイダーの応答を確認できるようにする必要があります。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメインセパレーションのサポート) 」を参照してください。

スマートアセスメントの概要

ServiceNow® スマートアセスメントエンジン (SAE) アプリケーションは、自動化によってアセスメントプロセスの手作業による負担とコストを削減するのに役立ちます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スマートアセスメントエンジン アプリケーションを使用して、さまざまな状況、側面、またはレコードを評価するためのアセスメントを作成し、従業員に配布できます。

スマートアセスメントエンジンにおけるドメインセパレーションの仕組み

- ドメインセパレーションされたモデルを使用するには、プラットフォームバージョンが Xanadu リリース以降である必要があります。
- SAE のテンプレートはプロセス分離されています。
- アセスメントはデータ分離されています。
- アセスメントグループを含むすべてのアクターは、同じドメインまたはグローバルドメインに属している必要があります。
- アセスメントテンプレートは、アセスメントが作成された共通のドメインでアクセスできる必要があります。
- ドメインの上書きはサポートされていません。

注:
ドメインセパレーションを使用するには、Smart Assessment Connected プラグイン [com.sn_smart_asmt_connect] をインストールする必要があります。

このテーブルには、アセスメントドメイン内のさまざまなシナリオが表示され、スコープアイテムのドメインとアセスメントアクターのドメインの関係が示されます。各行は異なるシナリオを表し、アセスメントアクターがアセスメントテンプレートにアクセスできるかどうかを示します。

スコープアイテム	アセスメントアクター	アセスメント
ドメイン A	ドメイン B	不可能
ドメイン A	ドメイン A	ドメイン A
適用外	ドメイン A	ドメイン A
グローバル	ドメイン A	ドメイン A
ドメイン A	グローバル	ドメイン A

ドメインセパレーションテーブル

- sn_smart_asmt_template
- sn_smart_asmt_section
- sn_smart_asmt_question
- sn_smart_asmt_response_option
- sn_smart_asmt_template_category
- sn_smart_asmt_context_item
- sn_smart_asmt_instance
- sn_smart_asmt_combined_assessment
- sn_smart_asmt_m2m_instance_combined_assessment
- sn_smart_asmt_section_instance
- sn_smart_asmt_question_instance
- sn_smart_asmt_response_option_instance

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- sn_smart_asmt_m2m_instance_persona
- sn_smart_asmt_m2m_instance_scope_item
- sn_smart_asmt_condition
- sn_smart_asmt_condition_result
- sn_smart_asmt_condition_result_set
- sn_smart_asmt_m2m_question_condition
- sn_smart_asmt_duration
- sn_smart_asmt_assessment_group

関連情報

サービスプロバイダーのドメインセパレーション

スマートアセスメントエンジンの構成

ServiceNow Store から スマートアセスメントエンジン アプリケーションをダウンロードし、ニーズに合わせて初期セットアップのチェックリストにある設定を構成することで、アプリケーションをアクティブ化またはアップグレードできます。

構成の概要

ServiceNow® スマートアセスメントエンジンのセットアップタスク (SAE) チェックリストのタスクを実行することで、SAEアプリケーションをアップグレードまたはインストールできます。

注:
Yokohama リリース以降では、お客様はこれらのセットアップタスクを利用できます。

SAE の初期セットアップのチェックリスト

次のチェックリストを印刷して、完了したタスクにチェックを入れることを検討してください。PDF を生成するには、**[PDF** として保存] ( ) を選択し、[選択したトピック] を選択します。

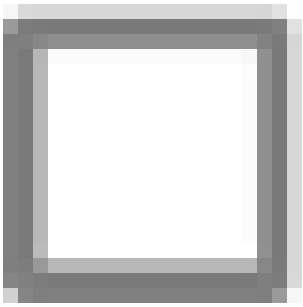
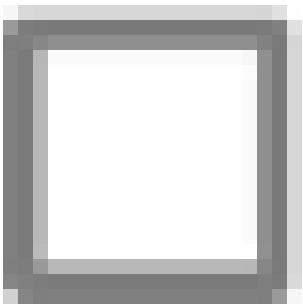
標準 **SAE** アプリケーションのセットアップタスク

タスク	説明
	Smart Assessment Core プラグイン [com.sn_smart_asmt] を有効にします。ServiceNow® Store から GRC アプリケーションをダウンロードする手順については、「初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする」を参照してください。 必要なロール：admin

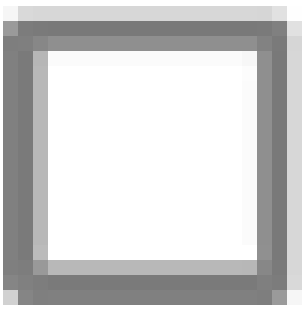
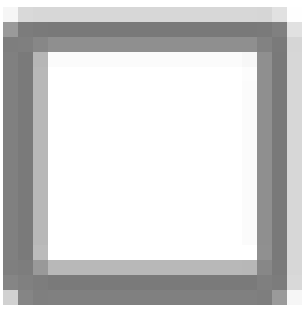
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

標準 **SAE** アプリケーションのセットアップタスク (続く)

タスク	説明
	スマートアセスメントデザイナープラグイン® [com.sn_smart_asmt_desg] を有効にします。ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする手順については、「初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする」を参照してください。 必要なロール：admin
	Smart Assessment Connected プラグイン® [com.sn_smart_asmt_conn] を有効にします。ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする手順については、「初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする」を参照してください。 必要なロール：admin

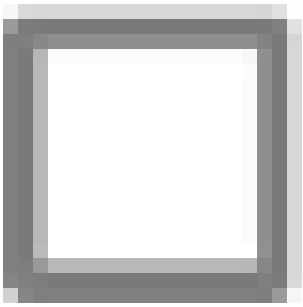
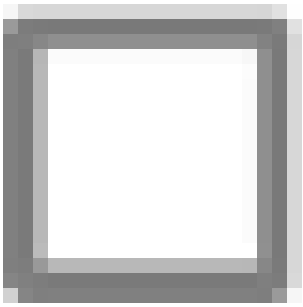
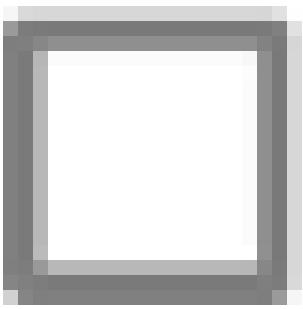
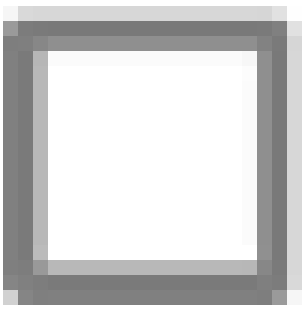
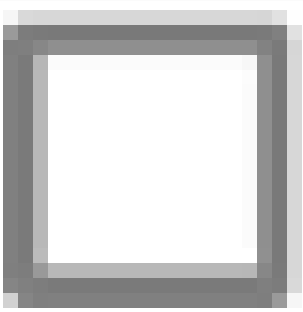
高度な **SAE** 機能のセットアップタスク

タスク	説明
	Smart Assessment Migration Tools プラグイン® [com.sn_smart_asmt_mig] を有効にします。ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする手順については、「初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする」を参照してください。 必要なロール：admin **注:** 移行プラグインは、既存のアセスメント設計がある場合にのみ必要です。このユーティリティを使用して、既存のメトリクスタイプを新しいアセスメントテンプレートに移行できます。メトリクスタイプをアセスメントテンプレートに移行する方法の詳細については、「 従来のアセスメントメトリクスタイプからアセスメントテンプレートを作成する」を参照してください。
	Smart Assessment Dependencies プラグイン® [com.sn_smart_asmt_dep] を有効にします。ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする手順については、「初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする」を参照してください。 必要なロール：admin **注:** 機能、ドメインセパレーション、およびアセスメント後のアクションを使用する場合は、依存関係プラグインが必要です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

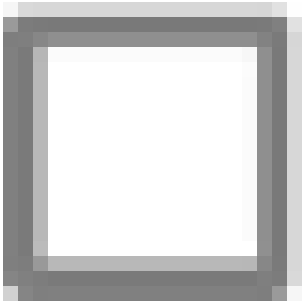
高度な **SAE** 機能のセットアップタスク (続く)

タスク	説明
	Smart Assessment Post-assessment Actions プラグイン [com.sn_impact_fwk] および [com.sn_smart_imp_auto] を有効にします。ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする手順については、「初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする」を参照してください。 必要なロール：admin **注:** スマートアセスメントの事後アセスメントアクションプラグインをインストールする前に、スマートアセスメントの依存関係プラグインをインストールする必要があります。
	Smart Assessment Response Automation プラグイン [com.sn_smart_resp_auto] を有効にします。ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする手順については、「初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする」を参照してください。 必要なロール：admin
	Smart Assessment Scoring プラグイン [com.sn_smart_scoring] を有効にします。ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする手順については、「初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする」を参照してください。 必要なロール：admin
	Smart Assessment プラグイン (com.sn_smart_collab) の Smart Assessment Collaboration 機能をアクティブ化します。ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする手順については、「初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする」を参照してください。 必要なロール：admin
	ユーザーおよびユーザーグループに SAE のロールをアサインします。詳細については、「スマートアセスメントエンジン でのロール」を参照してください。 必要なロール：admin ロールにより、スマートアセスメントエンジン アプリ内の権限とアクセスが決定されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

高度な **SAE** 機能のセットアップタスク (続く)

タスク	説明
	オプション：言語を有効にします。詳細については、「Activate a language」を参照してください。 必要なロール：admin デフォルトでは ServiceNow AI Platform はアメリカ英語を使用します。別の言語を使用するように SAE を構成することもできます。

注:
必要なプラグインをインストールした後、アップストリームアプリケーションのドキュメントで詳細な手順を参照してください。たとえば、 ポリシーとコンプライアンス管理スマートアセスメントを有効にするには、上記のプラグインのインストール後に特定のプロパティをアクティブ化する必要があります。参考として、 GRC 証明書テンプレートに基づくコントロールアセスメントを参照してください。

アセスメントをトリガーする

ワークフロースタジオ またはスクリプトから スマートアセスメントエンジン アセスメントをトリガーできます。どちらの方法でも、公開されたアセスメントテンプレート、回答する査定人、およびその他のオプションの入力を指定します。

重要:
公開されたアセスメントテンプレートからのみアセスメントを作成できます。公開済みテンプレートを更新できるのは、テンプレートに関連付けられているアクティブなアセスメントがない場合のみです。

ワークフロースタジオ からアセスメントをトリガーする

スマートアセスメントエンジン アセスメントを開始して指定された査定人に送信するように、[スマートアセスメントフローをトリガー] アクションを設定します。次に、アクションをフローに追加します。

詳細については、「[スマートアセスメントフローをトリガー (Trigger Smart Assessment Flow)] アクションを構成する」を参照してください。

スクリプトからアセスメントをトリガーする

スクリプトを使用して [スマートアセスメントフローをトリガー] アクションを実行し、スマートアセスメントエンジン アセスメントを生成して査定人にアサインします。

トリガー条件の例としては、コントロールテーブルのステータスが [証明] に変わることがあります。

詳細については、「スクリプトからアセスメントをトリガーする」を参照してください。

関連情報

- Flow Designer
- Building flows
- Create a flow in Workflow Studio

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

[スマートアセスメントフローをトリガー **(Trigger Smart Assessment Flow)]** アクションを構成する

スマートアセスメントエンジン アセスメントを開始して指定された査定人に送信するように、[スマートアセスメントフローをトリガー] アクションを設定します。次に、アクションをフローに追加します。

始める前に
必要なロール：flow_designer

このタスクについて
このフローには、トリガー条件と [スマートアセスメントフローをトリガー (Trigger Smart Assessment Flow)] アクションの両方が含まれています。

トリガー条件の例としては、コントロールテーブルのステータスが [証明] に変わることがあります。

手順

1. 移動先 すべて > プロセス自動化 > ワークフロースタジオ.
2. [アクション] タブで、[スマートアセスメントをトリガー **(Trigger Smart Assessment)]** を選択します。
3. [スマートアセスメントアクションをトリガー (Trigger Smart Assessment)] フォームに入力します。
   フォームの設定については、「[スマートアセスメントのトリガー (Trigger Smart Assessment)] アクションフォーム」を参照してください。
4. Building flows の説明に従ってアクションをテストします。
   すべての設定については「[テストアクション (Test action)] ポップアップウィンドウの設定」を参照してください。
5. [保存] を選択します。

> **注:**
> 構成を保存したら、[アクティブ化] を選択してアセスメントをトリガーします。

タスクの結果
アセスメントがトリガーされます。

関連情報

- Flow Designer
- Building flows
- Create a flow in Workflow Studio

スクリプトからアセスメントをトリガーする

スクリプトを使用して [スマートアセスメントフローをトリガー] アクションを実行し、スマートアセスメントエンジン アセスメントを生成して査定人にアサインします。

始める前に
必要なロール：flow_designer

このタスクについて
スクリプトには、生成されたアセスメントのアセスメントテンプレートと、アセスメントをトリガーする条件を指定します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > プロセス自動化 > ワークフロースタジオ.
2. [アクション] タブで、[スマートアセスメントのトリガー **(Trigger Smart Assessment)]** を選択します。
3. [その他のアクション] アイコン ( ) で、[コード スニペットを作成] を選択し、スニペットをコピーしてスクリプトに貼り付けます。

タスクの結果

注:
スニペットには、アクションを同期的に実行するか非同期的に実行するかを指定するオプションがあります。非同期オプションを選択することで、特に大きなテンプレートを処理する場合に停止しないようにすることができます。

これで、[スマートアセスメントのトリガー (Trigger Smart Assessment)] アクションの呼び出しがスクリプトの一部になりました。

次のタスク

アクションの必須の入力設定およびオプションの入力設定を指定します。これらの設定は、[スマートアセスメントのトリガー (Trigger Smart Assessment)] アクションフォームで定義され、[スマートアセスメントのトリガー (Trigger Smart Assessment)] アクションフォームに説明が記載されています。

関連情報

Flow Designer

従来のアセスメントメトリクスタイプからアセスメントテンプレートを作成する

メトリクスタイプを スマートアセスメントエンジン アセスメントテンプレートに移行することによって、作成済みのアセスメント設計を使用できます。既存のアセスメント設計を活用して、SAE アセスメントの自動化、分析、およびレポートをサポートできます。

移行プロセスの概要

ServiceNow® アセスメントとサーベイ アプリケーションで定義された質問のセットは [メトリクスタイプ]として保存され、SAE に移行します。従来のメトリクスタイプを SAE アセスメントテンプレートに移行すると、元のメトリクスは質問タイプとして保存されます。サポートされているメトリクスタイプと、それらを SAE にマッピングする方法の詳細については、「従来のメトリクスタイプをテンプレートのセクションに移行する方法」を参照してください。

移行プロセスでは、ServiceNow® アセスメントとサーベイ アプリケーションのすべてのメトリクスタイプがサポートされているわけではありません。次の表に、サポートされていないメトリクスタイプを示します。

移行がサポートされていないメトリクスタイプ

メトリクスタイプ	説明
カスタム	非標準の質問を作成するために使用されるメトリクスタイプ。
期間	期間に関連する質問の作成に使用されるメトリクスタイプ。たとえば、アセスメントの予定期間または実際の期間に関する質問などです。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

移行がサポートされていないメトリクスタイプ (続く)

メトリクスタイプ	説明
画像スケール	ユーザーがスケールに使用する画像を選択する質問の作成に使用されるメトリクスタイプ。
パーセンテージ	ユーザーがパーセンテージを入力する質問の作成に使用されるメトリクスタイプ。
ランキング	ユーザーがオプションごとに異なる順番の番号を選択してランク付けできる質問の作成に使用されるメトリクスタイプ。
評価	ユーザーが評価を入力できる質問の作成に使用されるメトリクスタイプ。

注:
イメージフラグを選択できるようにするデータ型テンプレートのメトリクスの移行はサポートされていません。

移行プロセス

次のプロセスに従って、既存のメトリクスタイプからアセスメントテンプレートを生成します。

1. フォームに入力します。
   - 移行するメトリクスタイプを指定します。
   - テンプレートを関連付けるアセスメントテンプレートカテゴリを指定します。アセスメントテンプレートカテゴリは、テンプレートにアクセスできるユーザーのグループを指定します。
2. 移行プロセスを開始します。次のアクティビティは、メトリクスタイプのデータを SAE アセスメントテンプレートに変換します。
   - メトリクスカテゴリは、テンプレート内の [セクション] になります。
   - メトリクスはテンプレート内の [質問] になります。
   - メトリクスの定義は、テンプレート内の [回答オプション] になります。
   - テンプレートには、元のメトリクスタイプの名前が付けられます。
   - テンプレートは、フォームで指定したテンプレートカテゴリにマッピングされます。

   注:
   メトリクスデータタイプがテンプレートの場合、テンプレート定義は回答オプションとして移行されます。

   詳細については、「従来のメトリクスタイプをテンプレートのセクションに移行する方法」を参照してください。
3. アセスメントワークスペースで、アセスメントテンプレートを検証し、必要に応じて更新します。テンプレートが公開されると、それを使用してアセスメントを生成できるようになります。

   注:
   移行されたアセスメントテンプレートは、移行後はドラフトステータスになります。アセスメントに使用できるようにするには、テンプレートをレビューして公開する必要があります。

従来のメトリクスタイプの移行の詳細については、「従来のメトリクスタイプをアセスメントテンプレートに移行する」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

関連情報

従来のメトリクスタイプをテンプレートのセクションに移行する方法

メトリクスカテゴリをアセスメントテンプレートに移行した結果

従来のメトリクスタイプをアセスメントテンプレートに移行する

既存のメトリクスタイプを SAE アセスメントテンプレートに移行します。スマートアセスメントエンジン を使用するときに、既存のアセスメント設計を活用できます。

始める前に

必要なロール：sn_smart_asmt.assessment_admin

このタスクについて

SAE は、移行するメトリクスデータと同じインスタンスで実行されている必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > スマートアセスメントエンジン > アドミニストレーション > テンプレートの移行.
2. [アセスメントテンプレートの移行] リストで、[新規] を選択し、[アセスメントテンプレートの移行] フォームに入力します。

   移行するメトリクスタイプと、アセスメントテンプレートを関連付けるテンプレートカテゴリを指定します。その他の設定は自動的に入力されます。

アセスメントテンプレート移行フォーム

フィールド	説明
番号	システムによってメトリクスタイプの移行レコードに割り当てられた、「ATMIG」というテキストで始まる一意の番号。番号を使用してレコードを検索できます。
ソースのメトリクスタイプ	アセスメントテンプレート形式に移行するメトリクスタイプ。
目的	新しいアセスメントテンプレートがメンバーになる目的。たとえば、リスク、パフォーマンス、セキュリティ、個人データなどです。 テンプレートの目的 テンプレートのデータ分離を強制します。目的は、テンプレートを表示できるユーザーを制御します。各アセスメントテンプレートは目的に関連付けられています。特定の目的のテンプレートを表示するには、その目的に関連付けられたカテゴリロールが必要です。 デフォルトでは、新しく定義されたテンプレートカテゴリがアクティブになっています。 **注:** 選択できる目的は 1 つだけです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
移行ステータス	この値は、テンプレートの移行プロセスが進むにつれて変化します。 ○ 新規：移行を開始する前のテンプレート移行定義のステータス。 ○ 処理中：移行プロセスを開始すると、プロセスのステータスは移行が完了するまで [処理中] になります。 ○ 完了：すべてのアイテム (メトリクスタイプ、メトリクスカテゴリ、およびメトリクス) が移行された場合のテンプレート移行のステータス。これは、テンプレートをレビュー、更新、および最終的に公開する準備ができていることを意味します。 ○ 一部完了：質問やセクション、メトリクスカテゴリなどのダウンストリーム要素のいずれかが正常に移行されなかった場合のステータス。これが表示された場合は、エラーに対処して移行プロセスを再度開始する必要があります。 ○ エラー：移行中にエラーが発生した場合のステータス。これが表示された場合は、エラーに対処して移行プロセスを再度開始する必要があります。
ターゲットアセスメントテンプレート	既存のメトリクスタイプの移行先となる新しいテンプレート。 **重要:** 移行ステータスが [エラー] の場合、このフィールドには値が表示されません。

3. [移行]を選択します。

タスクの結果
セクション移行関連リストは、移行が進むと更新されます。メトリクスタイプから スマートアセスメントエンジン アセスメントテンプレートに移行されたデータは、アセスメントテンプレート移行フォームの関連リストで確認できます。「メトリクスカテゴリをアセスメントテンプレートに移行した結果」を参照してください。

関連情報

従来のメトリクスタイプをテンプレートのセクションに移行する方法
メトリクスカテゴリをアセスメントテンプレートに移行した結果

スマートアセスメントのライフサイクルの管理

テンプレートデザイナーを使用してアセスメントテンプレートを作成します。テンプレートが公開されると、査定人はアサインされたアセスメントに回答し、進捗状況を追跡して、入力を自動的に保存できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

このセクションを使用して、テンプレートの設計から回答の送信まで、スマートアセスメントのライフサイクル全体を管理します。テンプレートデザイナーを使用すると、テンプレートマネージャーとアドミニストレーターは、手順、質問、参照情報を含む構造化されたアセスメントテンプレートを作成し、自動化を構成できます。テンプレートが公開されると、査定人はアサインされたアセスメントに回答し、進捗状況を追跡して、入力を自動的に保存できます。

テンプレートデザイナーの使用

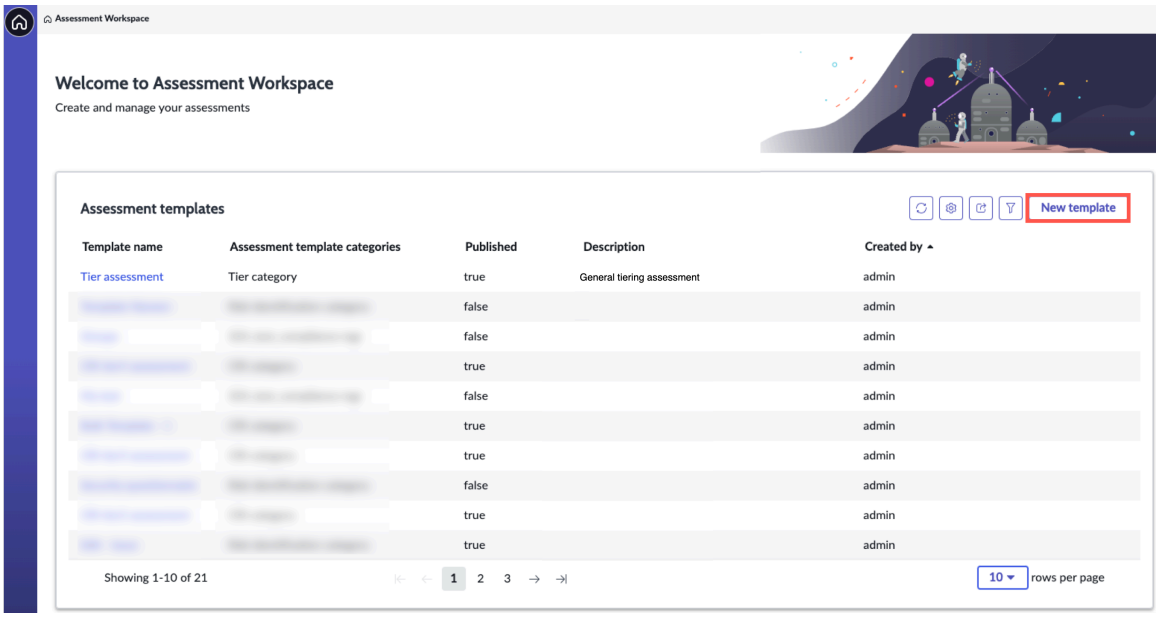
スマートアセスメントエンジン アプリケーションのテンプレートデザイナーを使用して、アセスメントテンプレートを作成し、手順、質問、および参照情報を追加できます。スマートアセスメントは、さまざまな状況、側面、または記録を評価するのに役立ちます。

スマートアセスメントテンプレートデザイナー

テンプレートマネージャー [sn_smart_asmt.template_manager] またはアセスメントアドミン [sn_smart_asmt.assessment_admin] ロールを持っている場合は、次の場所に移動してアセスメントテンプレートを作成および更新できます ワークスペース > アセスメントワークスペース テンプレートデザイナーを開きます。テンプレートを作成または更新するには、アセスメントワークスペースのランディングページにアクセスし、既存の未公開のアセスメントテンプレートを選択するか、[新しいテンプレート] を選択します。

次の例は、すべてのテンプレートを表示し、テンプレートデザイナーを開くことができるアセスメントワークスペースのランディングページを示しています。

アセスメントテンプレートビューの例

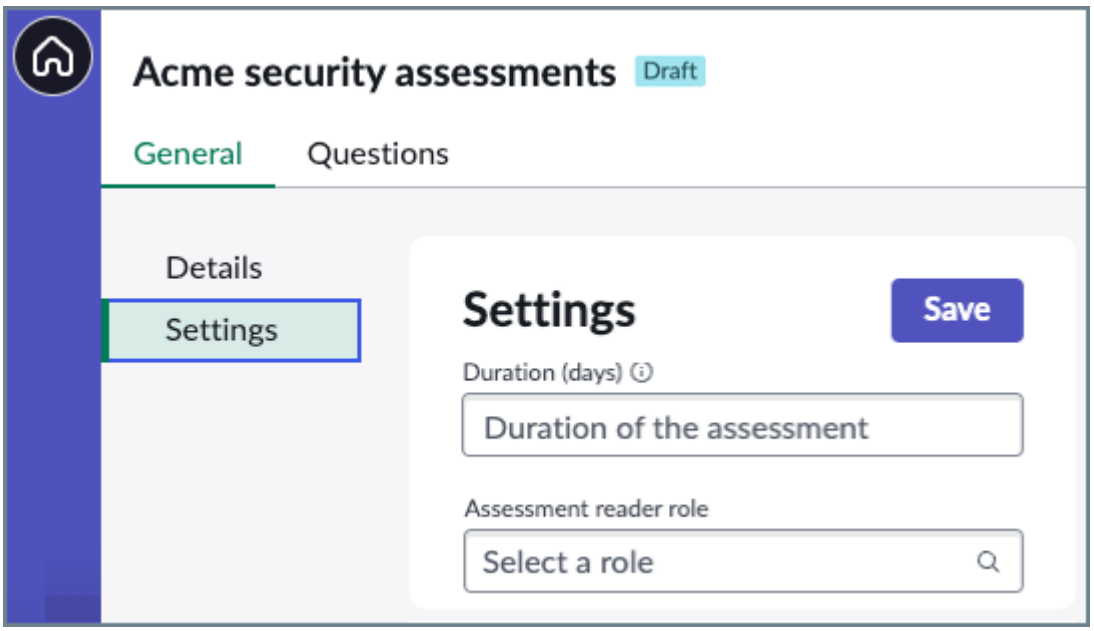


テンプレートデザイナーの [全般] タブで、アセスメントテンプレートの詳細を表示および編集できます。このタブから [設定] ページにアクセスして、回答者がアセスメントを完了するための期間を設定するアセスメント期間などの主要な設定を構成できます。

次の例は、アセスメントのドラフトの設定ページを示しています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

設定ページの例



アセスメントをトリガーする

これらのテンプレートを完成させて公開した後、それらを使用してアセスメントをトリガーできます。アセスメントをトリガーする詳細については、「アセスメントをトリガーする」を参照してください。

> **注:**
> 公開されたアセスメントテンプレートからのみアセスメントを作成できます。関連付けられたアクティブなアセスメントがない場合は、これらの公開済みテンプレートを変更して再度公開できます。

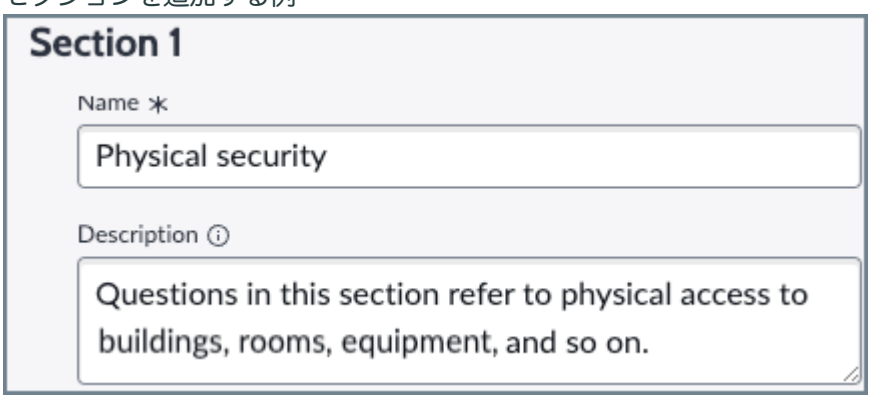
詳細については、「アセスメントワークスペースでのテンプレートへのアクセス」と「アセスメントテンプレートを作成する」を参照してください。

手順と質問をテンプレートに追加する

新しいアセスメントテンプレートまたは既存の未公開アセスメントテンプレートの一部として、手順と質問を追加できます。テンプレートデザイナーを開いて [質問] タブに移動し、手順と質問を追加します。[手順] テキストボックスに手順を入力することで、回答者に期待されることを明確に示すことができます。セクションを追加して、質問を異なる分野に分類することもできます。各セクションには、名前と具体的な質問が必要になります。

以下の例は、セクションを追加する方法を示しています。

セクションを追加する例



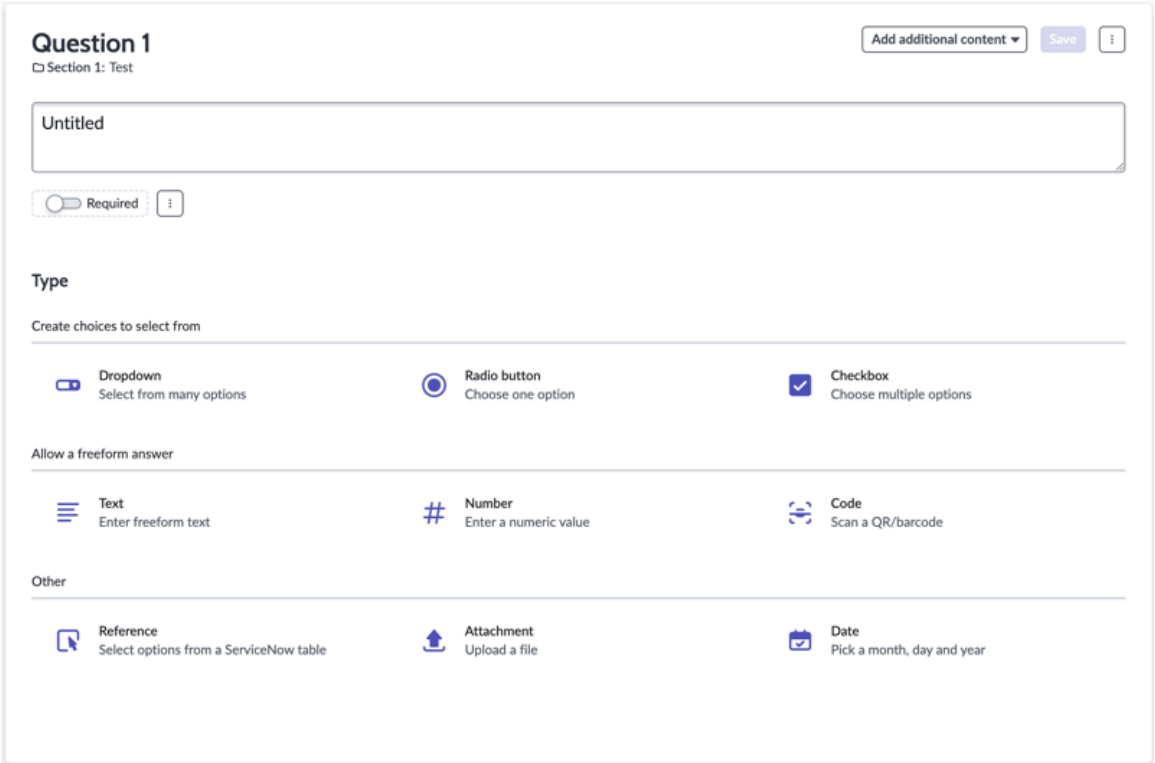
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

さまざまなタイプの質問を使用し、チェックボックス、テキスト、日付などをカスタマイズ可能な属性 (ヴィジビリティ、回答、理由などの条件) とともに含めることができます。

次の例は、使用できるいくつかの質問タイプを示しています。

質問タイプ



手順と質問を使用して、回答者から正確かつ関連性の高い情報を収集できます。詳細については、「アセスメントテンプレートに手順と質問を追加する」を参照してください。

テンプレートへの参照情報の追加

アセスメントを実施しているときに査定人が確認できる参照情報を追加できます。参照情報には、アセスメントスコープのライブデータを含めることができます。たとえば、関連するインシデント、作業メモ、またはドメインに関する情報を含めることができます。必要な参照情報をアセスメントに追加することで、外部参照の必要性を最小限に抑えることができます。詳細については、「アセスメントテンプレートに参照情報を追加する」を参照してください。

アセスメントテンプレートのカテゴリを作成する

新規または既存の未公開のアセスメントテンプレートにアセスメントテンプレートカテゴリを追加できますが、テンプレートデータの分離に使用するには、テンプレートカテゴリをまず作成する必要があります。アセスメントテンプレートに対して選択されたテンプレートカテゴリによって、テンプレートにアクセスできるユーザーが決まります。テンプレートデザイナー内でテンプレートカテゴリの作成を完了することはできません。テンプレートカテゴリを作成するには、次に移動します: すべて > スマートアセスメントエンジン > アドミニストレーション > テンプレートカテゴリ. アセスメントテンプレートカテゴリの作成の詳細については、「アセスメントテンプレートカテゴリを作成する」を参照してください。

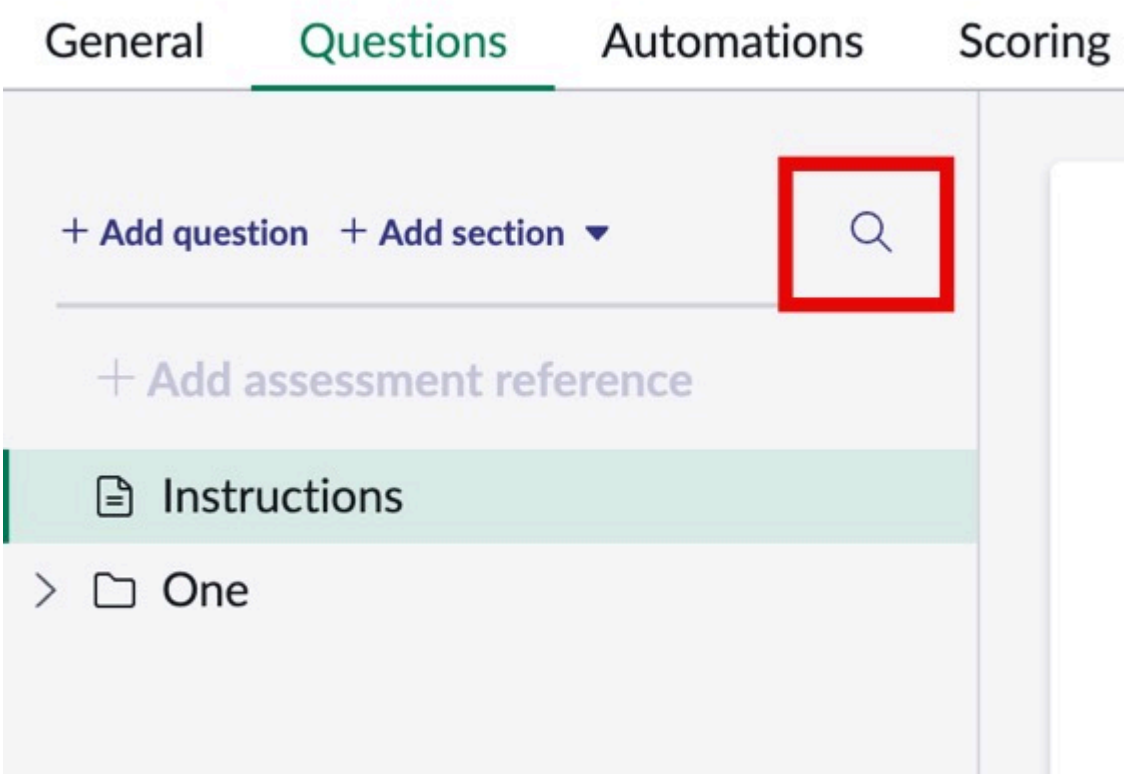
アセスメントテンプレートでの検索

アセスメントテンプレートのセクション、サブセクション、または質問内のテキストを検索します。コンテンツツリーの代わりに検索結果が表示され、最初に一致したものが強調表示されます。一致す

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

るものが見つからない場合は、「結果が見つかりませんでした」というメッセージが表示されます。
ナビゲーションペインの検索アイコンを選択すると、検索ボックスが表示されます。

アセスメント検索



アセスメントテンプレートを作成する

スマートアセスメントエンジン アプリケーションを使用して、アセスメントテンプレートに名前を付け、カテゴリを指定し、オプションでレコードを含むテーブルをアセスメントターゲットまたはスコープとして指定して、アセスメントテンプレートを作成します。その後、質問やその他の属性をテンプレートに追加できます。 または、すべての質問、セクション、手順、および既存の構成を含む既存のテンプレートをコピーすることもできます。

始める前に
必要なロール：sn_smart_asmt.template_manager

このタスクについて

重要:
公開されたアセスメントテンプレートからのみアセスメントを作成できます。公開済みテンプレートを更新できるのは、テンプレートに関連付けられているアクティブなアセスメントがない場合のみです。

手順

1. 移動先 ワークスペース > アセスメントワークスペース をクリックして、アセスメントワークスペースのランディングページにアクセスします。
2. 次のオプションを使用して、新しいテンプレートを作成するか、既存のテンプレートをコピーしてカスタマイズします。

3. **[Save** (保存)] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果

- 新しいテンプレートを選択した場合は、空のテンプレートが生成されます。空のテンプレートを開くと、[全般] タブが表示されます。次に、全体的な手順、質問、質問に回答するためのガイダンス (オプション)、および関連する質問をグループ化するセクションをテンプレートに入力します。「アセスメントテンプレートに手順と質問を追加する」を参照してください。
- 既存のものを選択した場合は、すべての質問、セクション、手順、構成を含むテンプレートが既存のテンプレートとして生成されます。これで、必要に応じてカスタマイズできるようになりました。

関連情報

アセスメントテンプレートカテゴリを作成する

アセスメントテンプレートに手順と質問を追加する

スマートアセスメントエンジン アプリケーションを使用して、アセスメントテンプレートに手順と質問を追加します。手順と質問を使用して、指定された回答者から正確かつ関連性の高い情報を収集できます。

このタスクについて

手順と質問を追加して既存のテンプレートを更新するか、新しいテンプレートを作成してその中に手順と質問を含めることができます。

始める前に

必要なロール：sn_smart_asmt.template_manager または sn_smart_asmt.assessment_admin

手順

1. アセスメントテンプレートを更新するには、ランディングページから既存のテンプレートを開くか、新しいテンプレートを作成して保存します。
   [全般] タブの [詳細] ページには、テンプレートの作成時に指定した情報が表示されます。
2. [設定] ページを選択し、値を入力します。

   設定ページ

フィールド	説明
期間	アセスメントが送信されてから、完了したアセスメントを回答者が返送すると予想されるまでのデフォルトの期間 (日数)。 この設定は、このテンプレートから生成されるアセスメントの [期日] の値を計算するために使用されます。
アセスメントリーダーロール	このテンプレートから生成されたアセスメントを表示するために必要なロール。

3. アセスメントに手順を追加します。
   a. [質問] タブで、[手順の追加 **(Add instructions)**] を選択します。
   b. 回答者に役に立つと思われる情報を [手順] テキストボックスに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

この情報には、アセスメントの目的、回答が使用または分析される方法などを含めることができます。

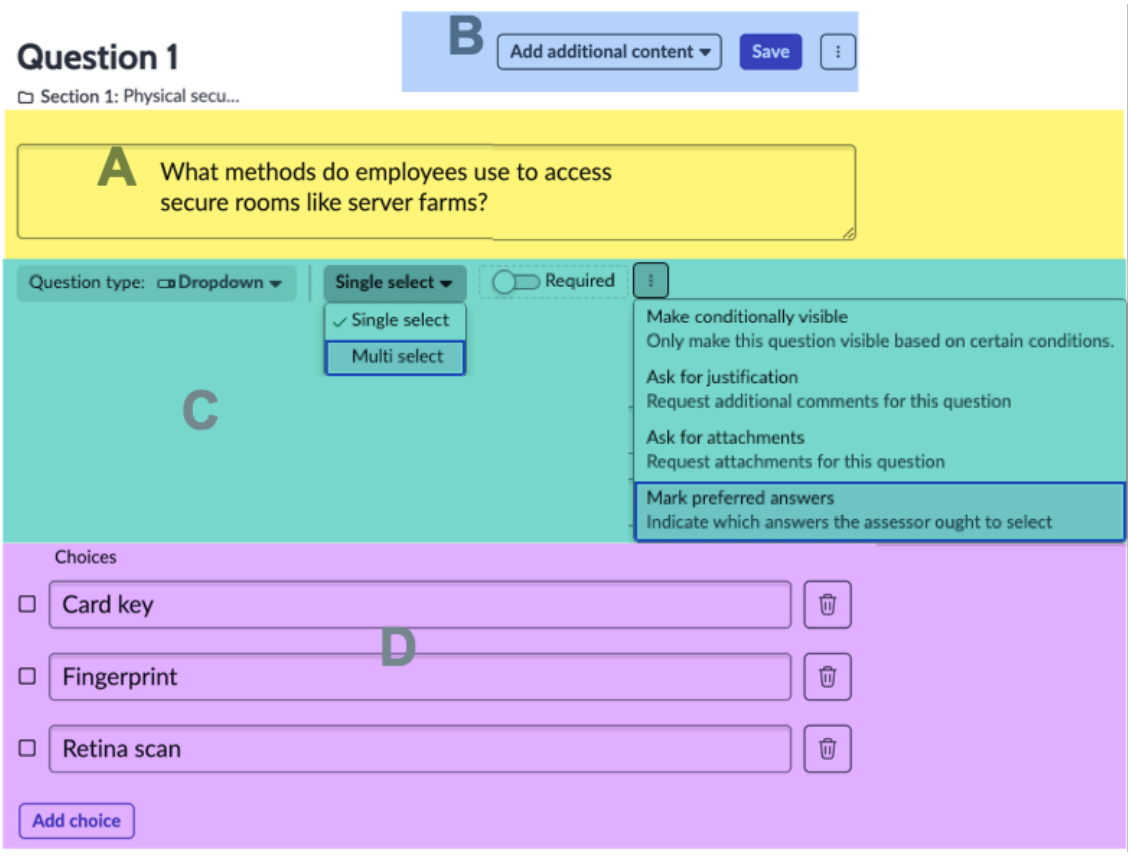
c. [保存] を選択します。

4. [セクションを追加] を選択して、質問を配置できるセクションを追加します。
セクションは、質問を管理可能なグループに整理します。たとえば、ある分野について知識が豊富な査定人は、あるセクションのすべての質問に回答し、別の専門分野を持つ査定人は別のセクションの質問に回答することができます。セクションには、サブセクションまたは質問のいずれかを含めることができますが、両方を含めることはできません。サブセクションには質問のみを含めることができ、他のサブセクションを含めることはできません。

> **注:**
> 必要なときに、リストからセクションを選択し、[削除] を選択してそのセクションを削除できます。

5. セクションの名前と説明を入力し、[保存] を選択します。

6. リストからセクションを選択し、[質問を追加] を選択します。



質問タイプごとに、次の設定を構成します。

A：質問のテキストを入力します

査定人が読む質問のテキストを入力します。

B：追加コンテンツを追加します (オプション)

[質問の説明] を選択して、質問の後に表示されるプレーンテキストの説明と、HTMLまたは画像を含めることが可能なガイダンステキストを追加します。質問のテキストに加えて表示される説明テキストを提供し、質問に回答する最善の方法に関するガイダンスを提供することができます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

C：質問タイプを指定し、タイプの属性を設定します

いくつかの質問タイプ (チェック ボックス、テキスト、日付など) のいずれかを設定します。

回答を必須にするか、指定した条件が満たされた場合にのみ質問を表示するか、特定の回答を正しいとするかまたは優先するか、理由を含める必要があるかどうかなどの属性を使用して、各タイプの質問をカスタマイズできます。

注:
1 つの質問に対する回答として 1 つまたは複数のレコードを選択するオプションは、ドロップダウンリスト、チェックボックス、および参照タイプの質問タイプでのみ利用できます。

D：使用できる回答を指定します

一部の質問タイプに対して、使用可能な回答の指定セットを構成します。

質問の構成の詳細については、次のいずれかのトピックを参照してください。

説明	場所
テキストタイプの質問を作成および設定する	テキストの質問を作成する
ドロップダウンリストタイプの質問を作成および設定する	ドロップダウンリストの質問を作成する
ラジオボタンタイプの質問を作成および設定する	ラジオボタンの質問を作成する
チェックボックスタイプの質問を作成および設定する	チェックボックスの質問を作成する
番号タイプの質問を作成および設定する	番号の質問を作成する
参照タイプの質問を作成および設定する	参照の質問を作成する
添付ファイルタイプの質問を作成および設定する	添付ファイルの質問を作成する
日付タイプの質問を作成および設定する	日付の質問を作成する
コードタイプの質問を作成および設定します。	コード質問の作成

テキストの質問を作成する

アセスメントで査定人が質問に対して簡単なテキストで回答できるようにします。 スマートアセスメントエンジン アプリケーションを使用して、回答が必要かどうかやアセスメントテンプレートの一部として添付ファイルが要求されているかどうかなど、質問を修飾するいくつかの属性のいずれかを指定します。

始める前に

必要なロール：sn_smart_asmt.template_manager または sn_smart_asmt.assessment_admin

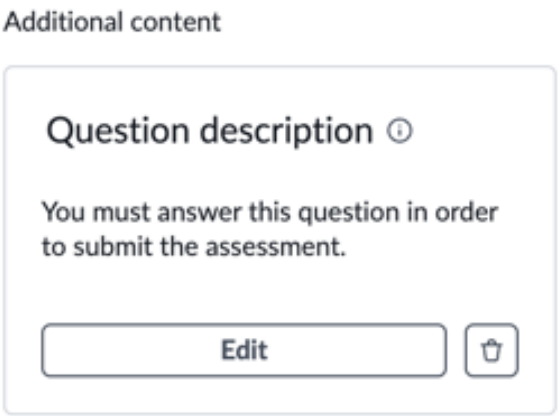
手順

1. アセスメントテンプレートを更新するには、ランディングページから既存のテンプレートを開くか、新しいテンプレートを作成して保存します。

自動翻訳

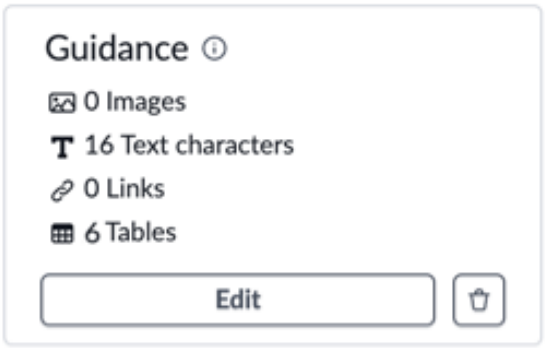
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. テンプレートの [質問] タブで、質問を追加するセクションを選択し、[質問を追加] を選択します。
3. [タイプ] セクションで [テキスト] を選択し、テキスト ボックスに質問を入力します。
   [プレビュー] セクションには、査定人が回答に使用するテキストボックスの例が表示されます。
4. 質問に対して任意の数の属性を指定します。
5. [保存] を選択します。
6. オプション: 査定人がこの質問に回答するのに役立つコンテンツを追加する場合は、[コンテンツを追加] を選択します。

オプション	説明
質問の説明	(Optional) 査定人が質問にアクセスしたときに質問の後に表示される説明テキストを入力します。 確認ボックスには、査定人に表示されるとおりのテキストが表示されます。[編集] を選択してテキストを更新します。 
ガイダンス	質問に回答する最善の方法を説明する内容を入力します。書式設定されたテキスト、表、画像、リンク、および添付ファイルを追加します。[画像を添付] オプションを使用すると、アセスメント質問のガイダンスセクションに説明的な画像を添付できます。つまり、テンプレートマネージャーは、回答者を支援するために役立つビジュアルを含めることができ、指示をより明確で理解しやすくすることができます。質問ごとに 1 つの画像を含めることができます。代替テキストは必須です。査定人が質問にアクセスすると、コンテンツがポップアップウィンドウに表示されます。 確認ボックスに、査定人に提供されるアイテムのリストが表示されます。[編集] を選択してコンテンツを更新します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	Additional content 

7. [保存] を選択します。

ドロップダウンリストの質問を作成する

査定人がリストから 1 つ以上の選択肢を選択することでドロップダウンリストの質問に回答できるようにします。 スマートアセスメントエンジン アプリケーションを使用して、回答が必要かどうかやアセスメントテンプレートの一部として添付ファイルが要求されているかどうかなど、質問を修飾するいくつかの属性のいずれかを指定します。

始める前に

必要なロール：sn_smart_asmt.template_manager または sn_smart_asmt.assessment_admin

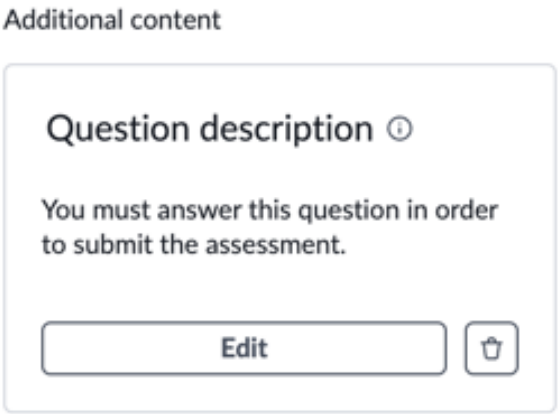
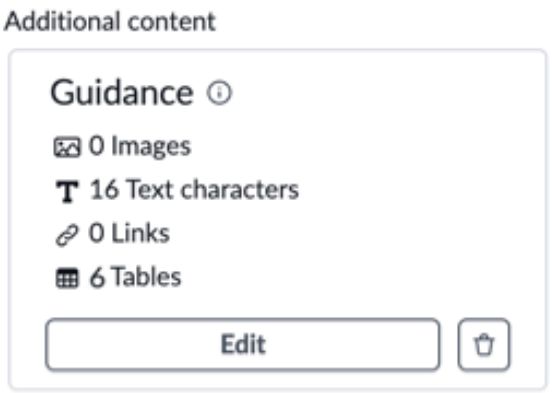
手順

1. アセスメントテンプレートを更新するには、ランディングページから既存のテンプレートを開くか、新しいテンプレートを作成して保存します。
2. テンプレートの [質問] タブで、質問を追加するセクションを選択し、[質問を追加] を選択します。
3. [タイプ] セクションで [ドロップダウン リスト] を選択し、テキストボックスに質問を入力します。
   2 つの 選択肢テキストフィールドが追加されます。
4. [選択肢] セクションで、アセスメントで査定人に表示される回答の選択肢のテキストを入力します。
   [選択肢を追加] を選択して、追加の選択肢を作成します。
5. 質問に任意の数の属性を指定し、変更するたびに [保存] を選択します。
6. オプション: 査定人がこの質問に回答するのに役立つコンテンツを追加する場合は、[コンテンツを追加] を選択します。

オプション	説明
質問の説明	(Optional) 査定人が質問にアクセスしたときに質問の後に表示される説明テキストを入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	確認ボックスには、査定人に表示されるとおりのテキストが表示されます。[編集] を選択してテキストを更新します。 
ガイダンス	質問に回答する最善の方法を説明する内容を入力します。書式設定されたテキスト、表、画像、リンク、および添付ファイルを追加します。[画像を添付] オプションを使用すると、アセスメント質問のガイダンスセクションに説明的な画像を添付できます。つまり、テンプレートマネージャーは、回答者を支援するために役立つビジュアルを含めることができ、指示をより明確で理解しやすくすることができます。質問ごとに 1 つの画像を含めることができます。代替テキストは必須です。査定人が質問にアクセスすると、コンテンツがポップアップウィンドウに表示されます。 確認ボックスに、査定人に提供されるアイテムのリストが表示されます。[編集] を選択してコンテンツを更新します。 

7. [保存] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ラジオボタンの質問を作成する

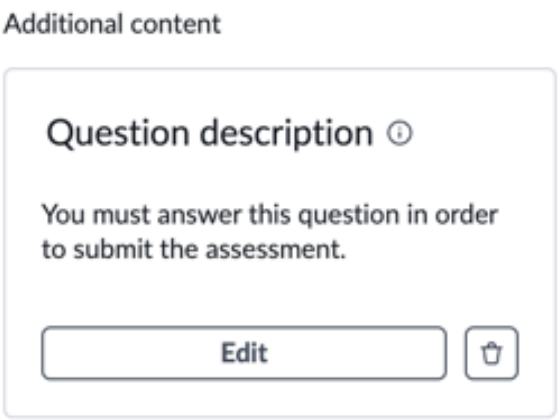
査定人が、限定されたオプションのリストからオプションを選択してラジオボタンの質問に回答できるようにします。この質問タイプで選択できる選択肢は 1 つのみです。 スマートアセスメントエンジン アプリケーションを使用して、回答が必要かどうかやアセスメントテンプレートの一部として添付ファイルが要求されているかどうかなど、質問を修飾するいくつかの属性のいずれかを指定します。

始める前に

必要なロール：sn_smart_asmt.template_manager または sn_smart_asmt.assessment_admin

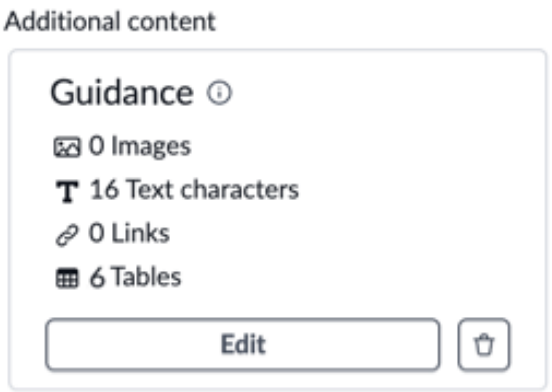
手順

1. アセスメントテンプレートを更新するには、ランディングページから既存のテンプレートを開くか、新しいテンプレートを作成して保存します。
2. テンプレートの [質問] タブで、質問を追加するセクションを選択し、[質問を追加] を選択します。
3. [タイプ] セクションで [ラジオ ボタン] を選択し、テキスト ボックスに質問を入力します。
   2 つの 選択肢テキストフィールドが追加されます。
4. [選択肢] セクションで、アセスメントで査定人に表示される回答の選択肢のテキストを入力します。
   [選択肢を追加] を選択して、追加の選択肢を作成します。
5. 質問に任意の数の属性を指定し、変更するたびに [保存] を選択します。
6. オプション: 査定人がこの質問に回答するのに役立つコンテンツを追加する場合は、[コンテンツを追加] を選択します。

オプション	説明
質問の説明	(Optional) 査定人が質問にアクセスしたときに質問の後に表示される説明テキストを入力します。 確認ボックスには、査定人に表示されるとおりのテキストが表示されます。[編集] を選択してテキストを更新します。 

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
ガイダンス	質問に回答する最善の方法を説明する内容を入力します。書式設定されたテキスト、表、画像、リンク、および添付ファイルを追加します。[画像を添付] オプションを使用すると、アセスメント質問のガイダンスセクションに説明的な画像を添付できます。つまり、テンプレートマネージャーは、回答者を支援するために役立つビジュアルを含めることができ、指示をより明確で理解しやすくすることができます。質問ごとに 1 つの画像を含めることができます。代替テキストは必須です。査定人が質問にアクセスすると、コンテンツがポップアップウィンドウに表示されます。 確認ボックスに、査定人に提供されるアイテムのリストが表示されます。[編集] を選択してコンテンツを更新します。 

7. [保存] を選択します。

チェックボックスの質問を作成する

査定人が、指定されたオプションのリストから 1 つ以上のオプションを選択して、チェックボックスの質問に回答できるようにします。 スマートアセスメントエンジン アプリケーションを使用して、回答が必要かどうかやアセスメントテンプレートの一部として添付ファイルが要求されているかどうかなど、質問を修飾するいくつかの属性のいずれかを指定します。

始める前に

必要なロール：sn_smart_asmt.template_manager または sn_smart_asmt.assessment_admin

手順

1. アセスメントテンプレートを更新するには、ランディングページから既存のテンプレートを開くか、新しいテンプレートを作成して保存します。

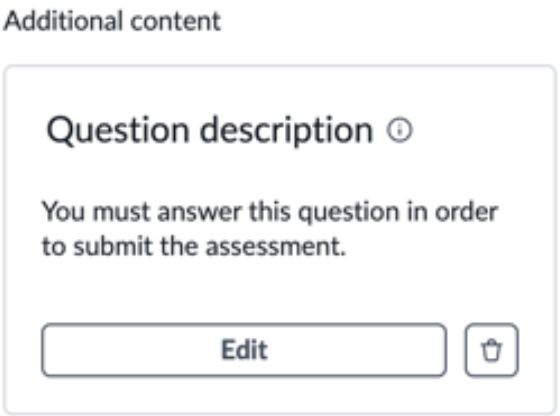
2. テンプレートの [質問] タブで、質問を追加するセクションを選択し、[質問を追加] を選択します。

3. [タイプ] セクションで **[** チェック ボックス] を選択し、テキストボックスに質問を入力します。2 つの 選択肢テキストフィールドが追加されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

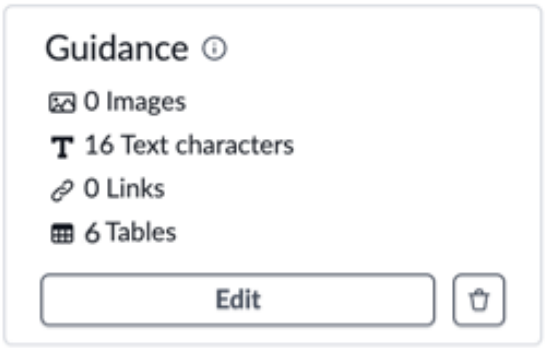
自動翻訳

4. [選択肢] セクションで、アセスメントで査定人に表示される回答の選択肢のテキストを入力します。
   [選択肢を追加] を選択して、追加の選択肢を作成します。
5. 質問に任意の数の属性を指定し、変更するたびに [保存] を選択します。
6. オプション: 査定人がこの質問に回答するのに役立つコンテンツを追加する場合は、[コンテンツを追加] を選択します。

オプション	説明
質問の説明	(Optional) 査定人が質問にアクセスしたときに質問の後に表示される説明テキストを入力します。 確認ボックスには、査定人に表示されるとおりのテキストが表示されます。[編集] を選択してテキストを更新します。 
ガイダンス	質問に回答する最善の方法を説明する内容を入力します。書式設定されたテキスト、表、画像、リンク、および添付ファイルを追加します。[画像を添付] オプションを使用すると、アセスメント質問のガイダンスセクションに説明的な画像を添付できます。つまり、テンプレートマネージャーは、回答者を支援するために役立つビジュアルを含めることができ、指示をより明確で理解しやすくすることができます。質問ごとに 1 つの画像を含めることができます。代替テキストは必須です。査定人が質問にアクセスすると、コンテンツがポップアップウィンドウに表示されます。 確認ボックスに、査定人に提供されるアイテムのリストが表示されます。[編集] を選択してコンテンツを更新します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	Additional content 

7. [保存] を選択します。

番号の質問を作成する

査定人が番号の質問に数値で回答できるようにします。 スマートアセスメントエンジン アプリケーションを使用して、回答が必要かどうかやアセスメントテンプレートの一部として添付ファイルが要求されているかどうかなど、質問を修飾するいくつかの属性のいずれかを指定します。

始める前に

必要なロール：sn_smart_asmt.template_manager または sn_smart_asmt.assessment_admin

手順

1. アセスメントテンプレートを更新するには、ランディングページから既存のテンプレートを開くか、新しいテンプレートを作成して保存します。

2. テンプレートの [質問] タブで、質問を追加するセクションを選択し、[質問を追加] を選択します。

3. [タイプ] セクションで [番号] を選択し、テキストボックスに質問を入力します。
[プレビュー] セクションには、査定人が回答に使用するテキストボックスの例が表示されます。

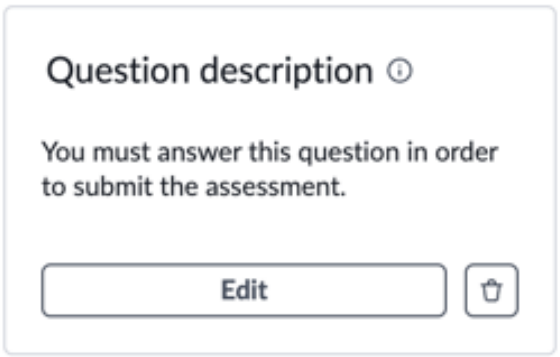
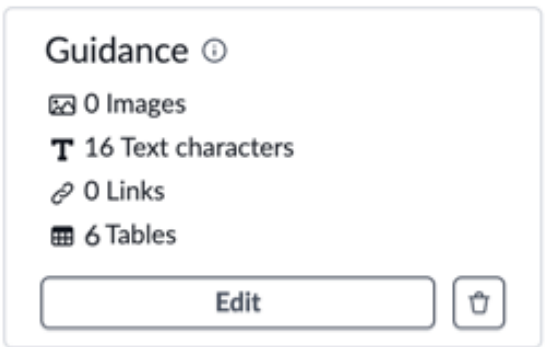
4. 質問に任意の数の属性を指定し、変更するたびに [保存] を選択します。

5. オプション: 査定人がこの質問に回答するのに役立つコンテンツを追加する場合は、[コンテンツを追加] を選択します。

オプション	説明
質問の説明	(Optional) 査定人が質問にアクセスしたときに質問の後に表示される説明テキストを入力します。 確認ボックスには、査定人に表示されるとおりのテキストが表示されます。[編集] を選択してテキストを更新します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	Additional content 
ガイダンス	質問に回答する最善の方法を説明する内容を入力します。書式設定されたテキスト、表、画像、リンク、および添付ファイルを追加します。[画像を添付] オプションを使用すると、アセスメント質問のガイダンスセクションに説明的な画像を添付できます。つまり、テンプレートマネージャーは、回答者を支援するために役立つビジュアルを含めることができ、指示をより明確で理解しやすくすることができます。質問ごとに 1 つの画像を含めることができます。代替テキストは必須です。査定人が質問にアクセスすると、コンテンツがポップアップウィンドウに表示されます。 確認ボックスに、査定人に提供されるアイテムのリストが表示されます。[編集] を選択してコンテンツを更新します。 Additional content 

6. [保存] を選択します。

参照の質問を作成する

査定人がリストからアイテムを選択して参照の質問に回答できるようにします。リストは、指定したテーブルのデータから動的に生成されます。 スマートアセスメントエンジン アプリケーションを使用して、回答が必要かどうかやアセスメントテンプレートの一部として添付ファイルが要求されているかどうかなど、質問を修飾するいくつかの属性のいずれかを指定します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：sn_smart_asmt.template_manager または sn_smart_asmt.assessment_admin

手順

1. アセスメントテンプレートを更新するには、ランディングページから既存のテンプレートを開くか、新しいテンプレートを作成して保存します。

2. テンプレートの [質問] タブで、質問を追加するセクションを選択し、[質問を追加] を選択します。

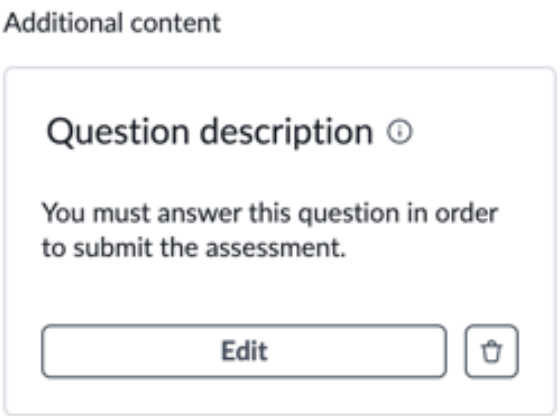
3. [タイプ] セクションで [参照] を選択し、テキストボックスに質問を入力します。
使用できる回答のソースと内容を設定できるようにするための 2 つのフィールドがシステムによって追加されます。

参照タイプの質問を設定する

テーブル	使用できる回答として動的に利用可能になるデータのソース。
ドロップダウンリストに表示するフィールド	指定されたテーブル内のフィールドで、このフィールドのデータが潜在的な回答として提示される。

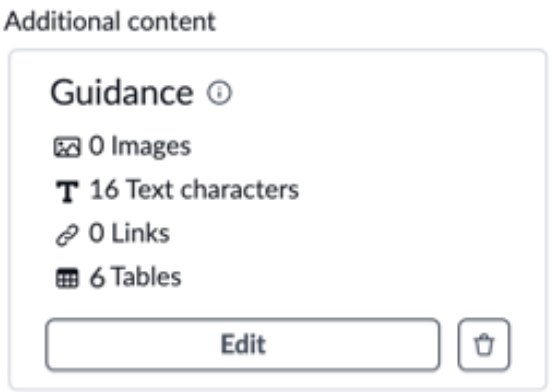
4. 質問に任意の数の属性を指定し、変更するたびに [保存] を選択します。

5. オプション: 査定人がこの質問に回答するのに役立つコンテンツを追加する場合は、[コンテンツを追加] を選択します。

オプション	説明
質問の説明	(Optional) 査定人が質問にアクセスしたときに質問の後に表示される説明テキストを入力します。 確認ボックスには、査定人に表示されるとおりのテキストが表示されます。[編集] を選択してテキストを更新します。 

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
ガイダンス	質問に回答する最善の方法を説明する内容を入力します。書式設定されたテキスト、表、画像、リンク、および添付ファイルを追加します。[画像を添付] オプションを使用すると、アセスメント質問のガイダンスセクションに説明的な画像を添付できます。つまり、テンプレートマネージャーは、回答者を支援するために役立つビジュアルを含めることができ、指示をより明確で理解しやすくすることができます。質問ごとに 1 つの画像を含めることができます。代替テキストは必須です。査定人が質問にアクセスすると、コンテンツがポップアップウィンドウに表示されます。 確認ボックスに、査定人に提供されるアイテムのリストが表示されます。[編集] を選択してコンテンツを更新します。 

6. [保存] を選択します。

添付ファイルの質問を作成する

添付ファイルの質問への回答として査定人が 1 つ以上のファイルを追加して回答できるようにします。 スマートアセスメントエンジン アプリケーションを使用して、回答が必要かどうかやアセスメントテンプレートの一部として添付ファイルが要求されているかどうかなど、質問を修飾するいくつかの属性のいずれかを指定します。

始める前に

必要なロール：sn_smart_asmt.template_manager または sn_smart_asmt.assessment_admin

手順

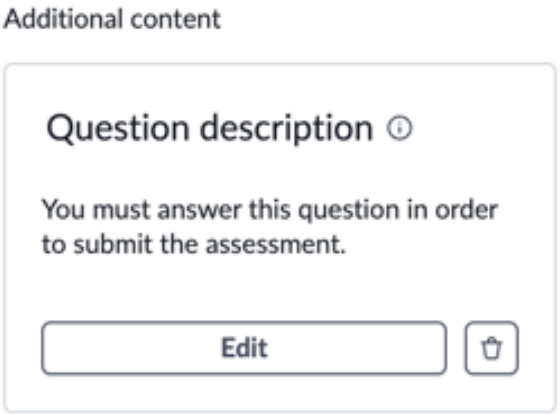
1. アセスメントテンプレートを更新するには、ランディングページから既存のテンプレートを開くか、新しいテンプレートを作成して保存します。
2. テンプレートの [質問] タブで、質問を追加するセクションを選択し、[質問を追加] を選択します。
3. [タイプ] セクションで [添付ファイル] を選択し、テキスト ボックスに質問を入力します。[プレビュー] セクションには、添付ファイルが査定人にどのように表示されるかの例が表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

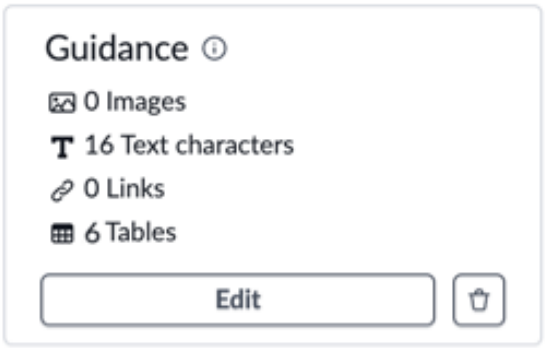
4. 質問に任意の数の属性を指定し、変更するたびに [保存] を選択します。

5. オプション: 査定人がこの質問に回答するのに役立つコンテンツを追加する場合は、[コンテンツを追加] を選択します。

オプション	説明
質問の説明	(Optional) 査定人が質問にアクセスしたときに質問の後に表示される説明テキストを入力します。 確認ボックスには、査定人に表示されるとおりのテキストが表示されます。[編集] を選択してテキストを更新します。 
ガイダンス	質問に回答する最善の方法を説明する内容を入力します。書式設定されたテキスト、表、画像、リンク、および添付ファイルを追加します。[画像を添付] オプションを使用すると、アセスメント質問のガイダンスセクションに説明的な画像を添付できます。つまり、テンプレートマネージャーは、回答者を支援するために役立つビジュアルを含めることができ、指示をより明確で理解しやすくすることができます。質問ごとに 1 つの画像を含めることができます。代替テキストは必須です。査定人が質問にアクセスすると、コンテンツがポップアップウィンドウに表示されます。 確認ボックスに、査定人に提供されるアイテムのリストが表示されます。[編集] を選択してコンテンツを更新します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	Additional content 

6. [保存] を選択します。

日付の質問を作成する

査定人が日付または日時を指定することで日付の質問に回答できるようにします。 スマートアセスメントエンジン アプリケーションを使用して、回答が必要かどうかやアセスメントテンプレートの一部として添付ファイルが要求されているかどうかなど、質問を修飾するいくつかの属性のいずれかを指定します。

始める前に

必要なロール：sn_smart_asmt.template_manager または sn_smart_asmt.assessment_admin

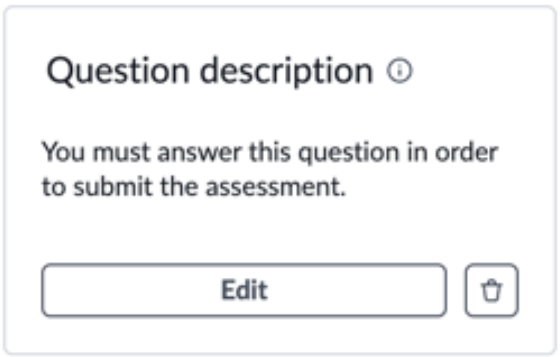
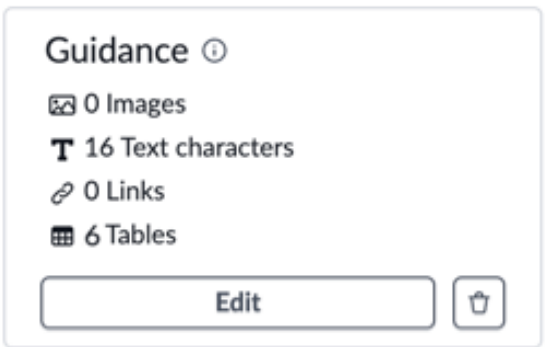
手順

1. アセスメントテンプレートを更新するには、ランディングページから既存のテンプレートを開くか、新しいテンプレートを作成して保存します。
2. テンプレートの [質問] タブで、質問を追加するセクションを選択し、[質問を追加] を選択します。
3. [タイプ] セクションで [日付] を選択し、テキスト ボックスに質問を入力します。
   [プレビュー] セクションには、[日付] フィールドまたは [日時] フィールドが査定人にどのように表示されるかの例が表示されます。
4. 質問に任意の数の属性を指定し、変更するたびに [保存] を選択します。
5. オプション: 査定人がこの質問に回答するのに役立つコンテンツを追加する場合は、[コンテンツを追加] を選択します。

オプション	説明
質問の説明	(Optional) 査定人が質問にアクセスしたときに質問の後に表示される説明テキストを入力します。 確認ボックスには、査定人に表示されるとおりのテキストが表示されます。[編集] を選択してテキストを更新します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	Additional content 
ガイダンス	質問に回答する最善の方法を説明する内容を入力します。書式設定されたテキスト、表、画像、リンク、および添付ファイルを追加します。[画像を添付] オプションを使用すると、アセスメント質問のガイダンスセクションに説明的な画像を添付できます。つまり、テンプレートマネージャーは、回答者を支援するために役立つビジュアルを含めることができ、指示をより明確で理解しやすくすることができます。質問ごとに 1 つの画像を含めることができます。代替テキストは必須です。査定人が質問にアクセスすると、コンテンツがポップアップウィンドウに表示されます。 確認ボックスに、査定人に提供されるアイテムのリストが表示されます。[編集] を選択してコンテンツを更新します。 Additional content 

6. [保存] を選択します。

コード質問の作成

査定人がアセスメントでバーコード番号を入力するか QR コードをスキャンして質問に回答できるようにします。

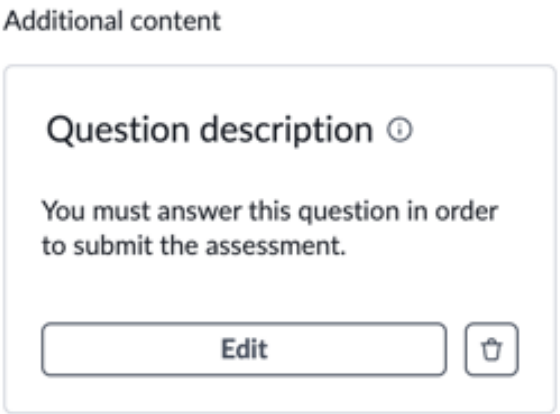
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

始める前に
必要なロール：sn_smart_asmt.template_manager または sn_smart_asmt.assessment_admin

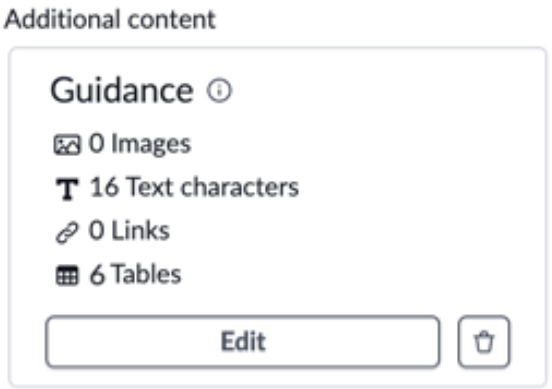
手順

1. アセスメントテンプレートを更新するには、ランディングページから既存のテンプレートを開くか、新しいテンプレートを作成して保存します。
2. テンプレートの [質問] タブで、質問を追加するセクションを選択し、[質問を追加] を選択します。
3. [タイプ] セクションで、[コード] を選択します。
4. バーコードを手動で入力するか、スキャナーを選択してQRコードをスキャンします。
   [プレビュー] セクションには、査定人が回答に使用するコードまたはスキャンされた QR コードを含むテキストボックスの例が表示されます。
5. 質問に対して任意の数の属性を指定します。
6. **[Save** (保存)] を選択します。
7. オプション: 査定人がこの質問に回答するのに役立つコンテンツを追加する場合は、[コンテンツを追加] を選択します。

オプション	説明
質問の説明	(Optional) 査定人が質問にアクセスしたときに質問の後に表示される説明テキストを入力します。 確認ボックスには、査定人に表示されるとおりのテキストが表示されます。[編集] を選択してテキストを更新します。 
ガイダンス	質問に回答する最善の方法を説明する内容を入力します。書式設定されたテキスト、表、画像、リンク、および添付ファイルを追加します。[画像を添付] オプションを使用すると、アセスメント質問のガイダンスセクションに説明的な画像を添付できます。つまり、テンプレートマネージャーは、回答者を支援するために役立つビジュアルを含めることができ、指示をよ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	り明確で理解しやすくすることができます。質問ごとに 1 つの画像を含めることができます。代替テキストは必須です。査定人が質問にアクセスすると、コンテンツがポップアップウィンドウに表示されます。 確認ボックスに、査定人に提供されるアイテムのリストが表示されます。[編集] を選択してコンテンツを更新します。 

8. [保存] を選択します。

アセスメントテンプレートに参照情報を追加する

アセスメントテンプレートに参照情報を追加して、査定人がアセスメントに回答する際に スマートアセスメントエンジン を使用して必要な情報にアクセスできるようにします。アセスメントテンプレートを使用すると、外部参照の必要性を最小限に抑え、アセスメントプロセスの効率を向上させることができます。

始める前に

アセスメントテンプレートの一部として 1 つ以上のアセスメントターゲットを選択する必要があります。アセスメントターゲットは、アセスメント対象として選択されたテーブルレコードであり、アセスメントスコープとも呼ばれます。複数のテーブルをアセスメントターゲットとして追加できるので、スコープは各テーブルのレコードの組み合わせになります。詳細については、「アセスメントテンプレートを作成する」を参照してください。

必要なロール：sn_smart_asmt.template_manager または sn_smart_asmt.assessment_admin

手順

1. ランディングページに移動するか、テンプレートを作成して保存するときに、更新用のアセスメントテンプレートを開きます。
[全般] タブの [詳細] ページには、テンプレートの作成時に指定した情報が表示されます。

2. [質問] タブを選択し、[アセスメント参照の追加 **(Add assessment reference)]**を選択します。

3. [カードの説明] フィールドに、参照カードで提供されている情報を説明するテキストを入力します。

4. 参照カードの [アセスメントターゲット] を選択します。
このテーブルは、参照カードに情報を入力するときに参照されます。現在のアセスメントターゲット (アプリケーションスコープ) 内で利用可能なフィールドを選択するか、ドット連結してアセスメントターゲットの関連テーブルのフィールドにアクセスすることができます。テンプレートに対

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

してアセスメントターゲットが 1 つのみ選択された場合、[アセスメントターゲット] フィールドは自動的に入力されます。

5. [利用可能な列] セクションで、参照カードの入力に使用するフィールドを選択します。
[列を選択] セクションで、選択済みフィールドを任意の順序にドラッグできます。情報は参照カードに同じ順序で表示されます。
6. [追加] を選択し、[保存] を選択します。

アセスメントテンプレートカテゴリを作成する

関連するアセスメントテンプレートを整理してアクセス権を付与できるように、スマートアセスメントエンジン アプリケーションでアセスメントテンプレートカテゴリを作成します。

始める前に
必要なロール：sn_smart_asmt.assessment_admin

このタスクについて
テンプレートの目的 テンプレートのデータ分離を強制します。目的は、テンプレートを表示できるユーザーを制御します。各アセスメントテンプレートは目的に関連付けられています。特定の目的のテンプレートを表示するには、その目的に関連付けられたカテゴリロールが必要です。

手順
1. 移動先 すべて > スマートアセスメントエンジン > アドミニストレーション > テンプレートカテゴリ.
2. アセスメントテンプレートカテゴリリストで、[新規] を選択し、フォームに入力します。

アセスメントテンプレートカテゴリフォーム

フィールド	説明
名前	テンプレートカテゴリの一意でわかりやすい名前。たとえば、食品保管コンプライアンスなどです。
カテゴリロール	このカテゴリのメンバーであるテンプレートを表示するために必要な最小限のロール。特定のカテゴリのテンプレートを表示するには、カテゴリに関連付けられているカテゴリロールのいずれかが必要です。各カテゴリには 1 つのカテゴリロールがあります。
説明	このカテゴリにテンプレートを含める目的を他のユーザーが理解するのに役立つテキスト。
アクティブ	カテゴリをアクティブ化するためのオプション。 デフォルトでは、新しく定義されたテンプレートカテゴリがアクティブになっています。
テンプレートのデフォルトを設定	
スコア付けを有効にする	このカテゴリがアセスメントテンプレートにアサインされると、自動的にスコア付けが有効になります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
正規化を有効にする	このカテゴリがアセスメントテンプレートにアサインされると、正規化が自動的に有効になります。このフィールドは、[採点フィールドを有効にする] が選択されている場合にのみ表示されます。
正規化戦略	利用可能な正規化戦略。このフィールドは、[正規化を有効にする] フィールドが選択されている場合にのみ表示されます。
デフォルトの正規化戦略	このカテゴリでアサインされたアセスメントのデフォルトの正規化戦略。このフィールドは、[正規化を有効にする] フィールドが選択されている場合にのみ表示されます。

3. **[Submit** (送信)] を選択します。
   アセスメントテンプレートカテゴリが生成され、アセスメントテンプレートの設計時に指定できるカテゴリのリストに追加されます。アクティブなカテゴリは、テンプレートの分類時にのみ使用できます。

アセスメントテンプレートのコピー

すべての質問、セクション、手順、および既存の構成を含む、 スマートアセスメントエンジン内の既存のアセスメントテンプレートのコピーを作成することで、時間を節約し、テンプレートを最初から手動で作成する手間を省くことができます。その後、新しい要件やシナリオに合わせて、コピーしたテンプレートをカスタマイズできます。

始める前に
必要なロール:sn_smart_asmt.template_manager および sn_smart_asmt.assessment_admin

このタスクについて
ドラフトまたは公開済みステータスのアセスメントテンプレートをコピーできます。テンプレートをコピーするユーザーは作成者としてマークされ、複製時間は作成時間として追加されます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > アセスメントワークスペース をクリックして、アセスメントワークスペースのランディングページにアクセスします。
2. コピーする既存のアセスメントテンプレートを開きます。
   テンプレートの詳細が表示されます。
3. 
   - ユーザーはコピーされたテンプレートに移動し、コピープロセスが開始されますが、これには時間がかかる場合があります。
   - コピーの進行中は、ソースとコピーテンプレートの両方が編集できるようにロックされます。
   - コピーが完了したら、必要に応じてアセスメントテンプレートの詳細を更新できます。

タスクの結果
システムは、コピーされたテンプレートをドラフトステータスで生成します。テンプレートを開くと、すべての質問、セクション、手順、および既存のすべての設定が元のテンプレートとして表示されます。必要に応じて更新できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントでの採点

スマートアセスメントエンジンでのスコアリングは、アセスメント内のさまざまな質問に対する回答を評価する体系的な方法です。スコアを回答に関連付けることで、定性的な回答を定量的データに変換し、各アセスメントの測定可能で比較可能な結果を提供できます。

採点の詳細

スマートアセスメントエンジン では、採点には、事前定義された基準に基づいて応答に数値を割り当てることが含まれます。個々の質問、または質問のセクション全体またはサブセクションにスコアを適用できます。採点は、ラジオボタン、チェックボックス、ドロップダウンリスト、数値フィールドなど、さまざまな質問タイプに対して実行できます。考えられる各回答にスコアを事前に割り当てることも、回答の範囲または組み合わせに基づいてスコアを計算することもできます。採点は、アセスメントで与えられた応答の明確で客観的な測定値を提供します。また、生のスコア (質問で獲得した実際のスコア) が標準化された範囲または分布に変換されるスコアを正規化することもできます。詳細については、「アセスメントの正規化」を参照してください。

採点レベル

スコアは、アセスメント内のさまざまなレベルで事前定義された機能を使用して計算できます。

アセスメントレベル
: そのアセスメント内のすべてのセクションと質問のスコアを集計します。

セクションレベル
: すべてのサブセクションとそのセクション内の質問のスコアを集計します。

サブセクションレベル
: そのサブセクション内のすべての質問のスコアを集計します。

質問レベル
: 個々の質問のスコアを計算します。

合計、最小、最大、平均、加重平均などの機能は、アセスメント、セクション、サブセクションのレベルで使用できます。質問レベルでは、 加重平均 を除くすべての関数が利用可能です。ただし、すべてのレベルで定義できる機能は 1 つだけです。

採点結果

重み付けに基づいて、値をより高い重要度に割り当てます。計算するには、各質問、セクション、またはサブセクションのスコアにその重みを掛け、結果を合計して、それを合計の重みで割ります。

重み付けに基づいて、値をより高い重要度に割り当てます。計算するには、各質問、セクション、またはサブセクションのスコアにその重みを掛け、結果を合計して、それを合計の重みで割ります。

採点が完了すると、最終スコアは次のように表示されます。

- 質問レベルのスコアは、個々の質問の質問インスタンス テーブルに保存されます。
- セクション、サブセクション、およびアセスメントレベルのスコアは、(sn_smart_scoring_metric_instance) テーブルに保存されます。

採点のメリット

スマートアセスメントエンジンでの採点には多くのメリットがあり、アセスメント結果を効果的に理解して使用できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 明確で客観的なメトリクスを提供することで、複雑なデータの分析と情報に基づいた意思決定を支援します。
- スコアはさまざまな方法で割り当てて計算できるため、アセスメントを特定の目標とニーズに合わせます。
- 結果の解釈プロセスを簡素化します。定性的なデータをふるいにかける代わりに、数値スコアをすばやく確認してパフォーマンスを分析できます。
- すべての応答が一貫して評価され、バイアスの可能性が低減されることを確認します。

アセスメントのスコアリングの構成

アセスメント応答のスコアリングを設定して、アセスメント、セクション、またはサブセクションのレベルで意味のあるスコアを計算します。

始める前に

- スマートアセスメント採点プラグイン [com.sn_smart_scoring] がインストールされていることを確認します。
- 必要なロール:sn_smart_asmt.template_manager および sn_smart_asmt.assessment_admin

このタスクについて

- スコアリングはドラフトテンプレートでのみ設定できます。テンプレートが公開されると、スコア付けを設定できなくなります。
- 質問がスキップされて回答されない場合、その質問はスコア計算から除外されます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > アセスメントワークスペース をクリックして、アセスメントワークスペースのランディングページにアクセスします。
2. アセスメントを作成するか、ドラフト状況の既存のアセスメントテンプレートを開いて採点を構成します。
3. [採点] タブを選択します。
4. [スコアリング設定] で、[このテンプレートのスコア付けを有効にする] オプションを選択します。
   - [このテンプレートのスコア付けを有効にする] オプションを使用すると、アセスメント、セクション、サブセクション、および質問レベルでスコア付けを適用できます。
   - スコアリングを有効にすると、正規化を有効にしてデフォルト設定を構成できます。詳細については、次を参照してください アセスメントでの正規化の構成
5. オプション: アセスメントレベルで採点を有効にするには、[アセスメントスコア] オプションを選択します。
   [アセスメントスコア] オプションを有効にすると、アセスメントレベルスコアの計算が開始され、セクションまたは質問ごとにグループ化できます。
6. フォームで、フィールドに入力します。

アセスメント採点フォーム

フィールド	説明
グループ	アセスメントスコアの計算方法を選択するオプション。 すべてのセクションをまとめる

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	スコアは、すべてのセクションのスコアを合算して計算されます。 すべての質問をまとめて スコアは、すべての個々の質問のスコアを合算して計算されます。
関数を適用	アセスメントスコアの計算に使用される関数。たとえば、合計を選択すると、質問のスコアが追加され、それが最終スコアになります。 次の関数を使用できます。 平均 すべてのスコアの合計は、セクションまたは質問の数で除算されます。 最大 すべてのセクションまたは質問の中で最大スコアが選択されます。 最小 すべてのセクションまたは質問の最小スコアが選択されます。 合計 すべてのセクションまたは質問のスコアが追加されます。 加重平均 加重平均では、重み付けに基づいて値に高い重要度が割り当てられます。計算するには、各質問、セクション、またはサブセクションのスコアにその重みを掛け、結果を合計して、重みの合計で割ります。

7. **[Save** (保存)] を選択します。
8. [質問] タブを選択します。
9. スコアリングを構成する質問の切り替えスイッチをオンにします。
10. フォームで、フィールドに入力します。

質問スコア付けフォーム

フィールド	説明
スコア	オプションの関連スコア。番号の質問タイプの場合、査定人の数値の応答がスコアとして使用されます。
質問の重み付け	質問の重み付けは、セクションまたはサブセクション内での質問の重要性を示します。セクションまたはサブセクションのスコアへの影響

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	に影響します。デフォルトでは、重み付けは 1 として加算されます。必要に応じて更新できます。
未回答の場合のスコア付け	質問に回答がない場合、この設定によって採点方法が決まります。 **注:** デフォルトでは、[質問に回答がない場合はスコア付けをスキップする] オプションがオンになっています。このオプションをオフにすると、[デフォルトスコア] フィールドが表示されます。
デフォルトスコア	質問のデフォルトスコア。質問が未回答の場合に使用されます。

注:
採点ロジックは質問タイプによって異なります。

- 複数選択では、オプションへのスコアの割り当て、機能の適用、および質問の重み付けの設定を行うことができます。
- ラジオオプションでは、選択肢にスコアを割り当てたり、質問の重み付けを設定したりできます。
- 数値タイプの質問の場合、査定人の数値の回答がスコアとして直接使用されます。

11. **[Save** (保存)] を選択します。
12. オプション: スコアリングを構成するサブセクションの切り替えスイッチをオンにします。
13. フォームで、フィールドに入力します。

サブセクションの採点フォーム

フィールド	説明
関数を適用	サブセクションスコアの計算に使用される関数。たとえば、合計を選択すると、質問のスコアが追加され、それが最終スコアになります。 次の関数を使用できます。 平均 すべてのスコアの合計は、セクションまたは質問の数で除算されます。 最大 すべてのセクションまたは質問の中で最大スコアが選択されます。 最小 すべてのセクションまたは質問の最小スコアが選択されます。 合計

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

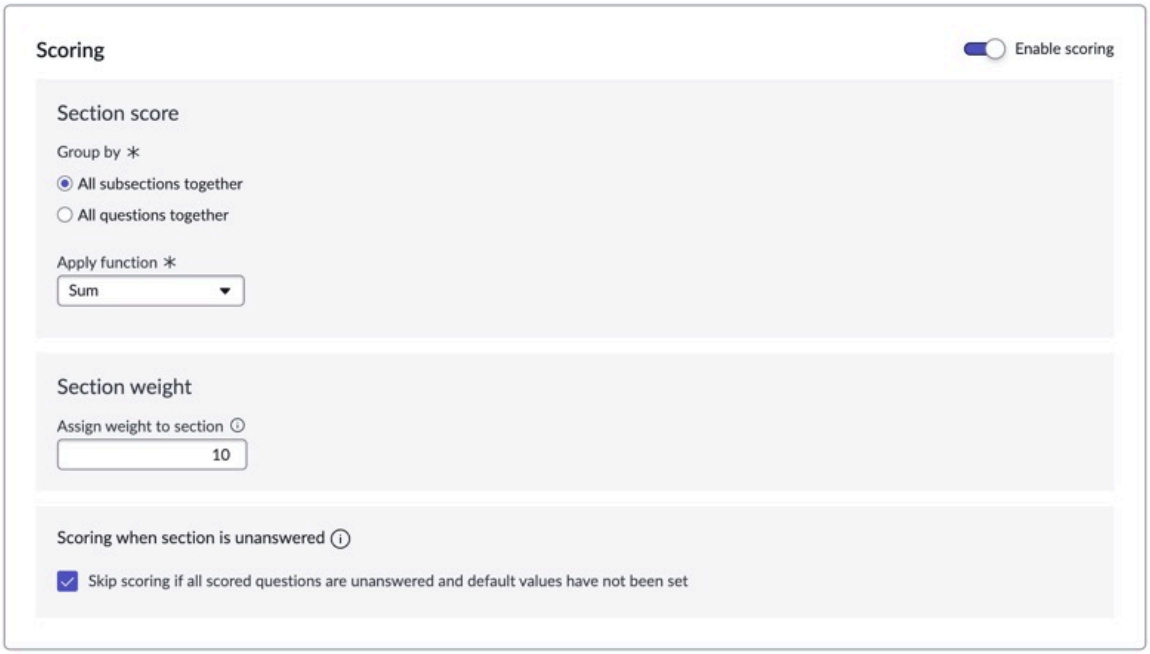
フィールド	説明
	すべてのセクションまたは質問のスコアが追加されます。 加重平均 加重平均では、重み付けに基づいて値に高い重要度が割り当てられます。計算するには、各質問、セクション、またはサブセクションのスコアにその重みを掛け、結果を合計して、重みの合計で割ります。
サブセクションの重み付け	サブセクションの重み付けは、サブセクションがセクション内でどの程度重要かを示し、セクションのスコアへの貢献度に影響します。デフォルトでは、重み付けは 1 として加算されます。必要に応じて更新できます。
サブセクションが未回答の場合のスコア付け	サブセクション内のすべての質問が未回答のままである場合、この設定によって採点方法が決まります。 注: デフォルトでは、[スコア付けされたすべての質問に回答がなく、デフォルト値が設定されていない場合はスコア付けをスキップ する] オプションがオンになっています。このオプションをオフにすると、[サブセクションのデフォルトスコアを設定] フィールドが表示されます。
サブセクションのデフォルトスコアを設定	サブセクションのデフォルトスコア。サブセクション内のすべての質問が未回答の場合に使用されます。

注:
サブセクションのスコアは、定義された基準に基づいて質問のスコアをグループ化することによって計算されます。

14. **[Save** (保存)] を選択します。
15. オプション: スコアリングを構成するセクションの切り替えスイッチをオンにします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



16. フォームで、フィールドに入力します。

セクション採点フォーム

フィールド	説明
グループ	セクションスコアの計算方法を選択するオプション。 すべてのサブセクションをまとめて スコアは、すべてのサブセクションのスコアを合算して計算されます。 すべての質問をまとめて スコアは、すべての個々の質問のスコアを合算して計算されます。
関数を適用	セクションスコアの計算に使用される関数。たとえば、合計を選択すると、質問のスコアが追加され、それが最終スコアになります。 次の関数を使用できます。 平均 すべてのスコアの合計は、セクションまたは質問の数で除算されます。 最大 すべてのセクションまたは質問の中で最大スコアが選択されます。 最小 すべてのセクションまたは質問の最小スコアが選択されます。 合計

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	すべてのセクションまたは質問のスコアが追加されます。 加重平均 加重平均では、重み付けに基づいて値に高い重要度が割り当てられます。計算するには、各質問、セクション、またはサブセクションのスコアにその重みを掛け、結果を合計して、重みの合計で割ります。
セクションの重み	セクションの重み付けは、アセスメント内でセクションがどの程度重要かを示し、アセスメントのスコアへの貢献度に影響します。デフォルトでは、重み付けは 1 として加算されます。必要に応じて更新できます。
セクションが未回答の場合のスコア付け	セクション内のすべての質問が未回答のままである場合、この設定によって採点方法が決まります。 注: デフォルトでは、[スコア付けされたすべての質問に回答がなく、デフォルト値が設定されていない場合はスコア付けをスキップ する] オプションがオンになっています。このオプションをオフにすると、[セクションのデフォルトスコアを設定] フィールドが表示されます。
セクションのデフォルトスコアを設定	セクションのデフォルトスコア。セクション内のすべての質問が未回答の場合に使用されます。

17. [Save (保存)] を選択します。

タスクの結果
これで、必要なすべてのレベルでスコアリングが構成されました。

アセスメントの正規化

スマートアセスメントエンジンの正規化とは、アセスメント質問のスコアを共通のスケールに調整して、公平な比較と優先順位付けを促進することです。

正規化の詳細

スマートアセスメントエンジンのスコアリングにより、定性的な回答を定量的データに変換し、各アセスメントの測定可能な比較可能な結果を提供できます。スコアリングの詳細については、 アセスメントでの採点を参照してください。採点の正規化は、異なる評価間で一貫性のない採点尺度の問題に対処し、公平性と比較可能性を促進します。これにより、質問の難易度や形式の変化に関係なく、スコアの正確な集計と分析が可能になります。正規化を行わないと、さまざまなアセスメントやセクションのスコアが誤解を招き、不公平な評価や不正確なインサイトにつながる可能性があります。正規化は、番号、ドロップダウン、ラジオボタン、およびチェックボックスタイプの質問でサポートされています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

正規化は、生のスコア (質問で獲得した実際のスコア) を標準化された範囲または分布に変換するプロセスです。この変換により、さまざまな質問、セクション、サブセクション、またはアセスメント全体を比較しやすくなります。正規化機能は、構造、難易度、または採点方法が異なる可能性のあるさまざまなコンポーネントのスコアが共通のスケールに調整されていることを確認します。これは、公正な比較、正確な分析、および一貫したインサイトを提供するために不可欠です。正規化は、これらの測定値を標準化し、さまざまなメトリクスやスコアを同じスケールで評価するのに役立ちます。

アセスメントアドミンは、テンプレートカテゴリのデフォルトの正規化戦略を定義し、アセスメント全体で一貫した採点ロジックを確認します。また、正規化式を構成したり、カスタム式を作成したりすることもできます。

アセスメントマネージャーは次の操作を実行できます。

- スコアリングとアグリゲーションの詳細が設定された後に正規化を有効または無効にします。
- さまざまなアグリゲーションレベル (アセスメント、セクション、またはサブセクション) で正規化パラメーターを定義します
- デフォルトの正規化パラメーターを上書きして、アセスメントに最適な戦略を決定します。

正規化によって個々のアセスメントスコアを共通のスケールに調整し、異なるアセスメント間での比較を可能にする方法について説明します。詳細については、「スコア正規化」を参照してください。

デフォルトの正規化

テンプレートの目的によって、デフォルトの正規化設定 (正規化を有効にするかどうか、どの正規化戦略を使用するかなど) が決まります。目的を変更すると正規化設定がリセットされますが、テンプレートの値を更新するには目的を再割り当てする必要があります。デフォルトの正規化構成を定義し、アセスメント自体、セクション、サブセクション、個々の質問など、アセスメント内のさまざまなレベルで自動的に適用することができます。線形正規化戦略はデフォルトで使用できます。カスタム正規化戦略を作成することもできます。詳細については、「正規化戦略の作成」を参照してください。

正規化構成の動作

正規化構成の動作は、特定のレベルで上書きされるかどうかによって異なります。デフォルト設定とは異なる特定のレベルで正規化構成を変更すると、上書きが発生します。それには次のようなものがあります。

- デフォルトでオフになっているレベルで正規化を有効にします。
- デフォルトで有効になっているレベルでの正規化を無効にします。
- 正規化戦略または入力値が有効になっている場合に、レベルで変更します。

正規化構成が上書きされない場合:

- レベルでスコアリングを有効にすると、デフォルト値を使用した正規化が自動的に有効になります。
- デフォルトの正規化構成への変更は自動的に適用されます。
- いずれかのレベルで無効にすると、正規化が削除されます

正規化構成が上書きされている場合、デフォルト構成への変更はレベルに影響しません。

正規化のステータス

正規化ステータスは、使用する正規化戦略またはそれに加えられた更新に基づいて、すべてのレベルで変化する可能性があります。

テンプレート設定のデフォルト戦略

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このステータスは、デフォルトの正規化が有効になっていて、構成が上書きされていない場合に表示されます。

いくつかの上書きを含むデフォルト戦略

このステータスは、デフォルトの正規化が有効になっており、デフォルトと同じ戦略で入力値のみが変更されると表示されます。

カスタム戦略

この状態は、正規化戦略がデフォルトと異なる場合、またはデフォルトではオフになっているにもかかわらず、正規化がレベルで明示的に有効になっている場合に表示されます。

正規化の設定

この状態は、デフォルト設定または明示的なユーザーアクションのために、レベルで正規化がオフになっている場合に表示されます。

正規化のメリット

スマートアセスメントエンジンの正規化には多くのメリットがあり、すべてのスコアが同じスケールであることを確認し、データの集計と分析を容易にします。

- 正規化により、スコアが共通のスケールに調整されるため、アセスメントプロセスの透明性が向上し、結果を理解しやすくなります。
- 正規化では、さまざまなスコアリングスケールと方法論にわたってスコアを集計する複雑さを取り除くことで、集計を簡素化します。
- 正規化により、統一されたスコアリングモデルが作成され、一貫性のある公平な比較が可能になり、同一条件での比較が容易になります。
- 正規化により、スコアはすべて同じスケールであるため、スコアの理解と解釈が容易になります。
- 正規化により、意思決定者は一貫性のある公正なスコア比較に基づいているため、より多くの情報に基づいた意思決定を行うことができます。

スコア正規化

スマートアセスメントエンジン正規化では、実際のスコアが標準化されたスケール (通常は 0 ～ 100) にマッピングされ、統一された評価フレームワークが可能になります。

正規化アプローチの概要

スマートアセスメントエンジン正規化では、個々のアセスメントスコアを共通のスケールに調整して、異なるアセスメント間での比較を可能にします。アセスメントスコアの正規化は、2 つのアプローチで実現できます。スコアが高いほど望ましい値の最大化と、スコアが低いほど望ましい値の最小化です。

価値を最大化するために	値が大きいほど良い場合は、値を最大化します。正規化されたスコアを取得するには、次の式を使用します。 正規化されたスコア (高) = ((生のスコア - 最小スコア) / (最大スコア - 最小スコア)) * (尺度値最大値 - 尺度値最小値) + 尺度値の最小値
値を最小化するには	値が小さいほど良い場合は、値を最小化します。正規化されたスコアを取得するには、次の式を使用します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

	正規化されたスコア (高) = (1 - (生のスコア - 最小スコア) / (最大スコア - 最小スコア)) * (尺度値最大値 - 尺度値最小値) + 尺度値の最小値

ここで、

- Raw スコア = 計算された実際のスコア
- 最小スコア = 現在のスケールの最小値。
- 最大スコア = 現在のスケールの最大値。
- 尺度係数の最大値 = 目標尺度の最小値。
- 尺度係数の最小値 = 目標尺度の最大値。
- スケール定義 = スコアの方向を指定します。スコアが高いほど「高」、低いスコアが良い場合は「低」です。
- 相対スケーリング = 有効にすると、正規化されたスコアが最大値を基準にして計算されます。

アセスメントでの正規化の構成

アセスメント応答の正規化を設定して、個々のスコアをアセスメント、セクション、またはサブセクションのレベルで共通のスケールに調整します。

始める前に

- スマートアセスメント採点プラグイン [com.sn_smart_scoring] がインストールされていることを確認します。
- 必要なロール:sn_smart_asmt.template_manager および sn_smart_asmt.assessment_admin

このタスクについて

- 正規化を構成するには、まずスコアリングを設定します。詳細については、「アセスメントのスコアリングの構成」を参照してください。
- 正規化は、番号、ドロップダウン、ラジオボタン、およびチェックボックスタイプの質問でサポートされています。

手順

1. 移動先 ワークスペース > アセスメントワークスペース をクリックして、アセスメントワークスペースのランディングページにアクセスします。
2. アセスメントを作成するか、ドラフト状況の既存のアセスメントテンプレートを開いて正規化を構成します。
3. [採点] タブを選択します。
4. [このテンプレートの正規化を有効にする] オプションを選択します。
   - テンプレートで正規化を有効にするには、そのテンプレートに割り当てられた目的で正規化とそのデフォルトを有効にする必要があります。詳細については、「アセスメントテンプレートカテゴリを作成する」を参照してください。
   - [このテンプレートの正規化を有効にする] オプションを使用すると、セクション、サブセクション、および質問レベルで正規化ルールを適用できます。
5. オプション: セクション、サブセクション、および質問の各レベルで自動的に適用されるデフォルトの正規化値を定義するには、[デフォルトの正規化を定義してさまざまなレベルに自動的に適用] オプションを選択し、フォームのフィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
以下に示す入力フィールドは、デフォルトの線形正規化戦略に固有のものです。別の正規化戦略を使用する場合は、フィールドが異なる場合があります。

デフォルトを設定

フィールド	説明
正規化戦略	使用されるデフォルトの正規化戦略。
最小	現在のスケールの最小値。
最大	現在のスケールの最大値。
新しいスケールの最小値	ターゲットスケールの最小値。
新しいスケール最大値	目標スケールの最大値。
スケール定義	スコア付けの方向を指定します。スコアが高い場合は「高」、スコアが低い場合は「低」になります。
相対スケーリング	有効にすると、正規化されたスコアが最大値を基準にして計算されます。
これらのデフォルトを適用する場所を選択	
アセスメントレベル	デフォルトの正規化値は、アセスメントレベルスコアに適用されます。
すべてのセクション	デフォルトの正規化値は、すべてのセクションレベルのスコアに適用されます。
すべてのサブセクション	デフォルトの正規化値は、すべてのサブセクションレベルのスコアに適用されます。
すべての質問	デフォルトの正規化値は、すべての質問レベルのスコアに適用されます。

6. オプション: [アセスメントスコア] オプションが選択されている場合、アセスメントスコアを正規化するには、[正規化されたスコアをアグリゲーションに使用する] を選択します。
   a. アセスメントスコアの正規化値を編集するには、編集 アイコンを選択して正規化値を更新します。
   b. アセスメントスコアの正規化値を削除するには、[を削除] アイコンを選択し、[正規化を削除] を選択します。
7. **[Save** (保存)] を選択します。
8. [質問] タブを選択します。
9. オプション: 正規化値をカスタマイズするには、更新する特定のセクション、サブセクション、または質問を選択します。
   a. アセスメントスコアの正規化値を編集するには、編集 アイコンを選択して正規化値を更新します。
   b. アセスメントスコアの正規化値を削除するには、[を削除] アイコンを選択し、[正規化を削除] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

デフォルトの正規化は、複数のレベルのセクション、サブセクション、および個々の質問で自動的に適用されます。

10. **[Save** (保存)] を選択します。

正規化戦略の作成

必要に応じてカスタム正規化戦略を作成できます。

始める前に

- スマートアセスメント採点プラグイン [com.sn_smart_scoring] がインストールされていることを確認します。
- 必要なロール:sn_smart_asmt.template_manager または sn_smart_asmt.assessment_admin および sn_smart_asmt.developer

手順

1. 移動先 すべて > スマートアセスメントエンジン > アドミニストレーション > 正規化戦略.
2. [スコアリング正規化戦略] リストで、[新規] を選択し、フォームに入力します。

採点正規化戦略フォーム

フィールド	説明
名前	正規化戦略の一意でわかりやすい名前。
公開済み	正規化戦略が公開されると、オンが表示されます。
廃止	正規化戦略が廃止されたときにオンを表示します。
説明	他のユーザーがこの正規化戦略の目的を理解するのに役立つテキスト。
戦略	正規化戦略のスクリプトを有効にします。

3. **[Save** (保存)] を選択します。
新しい関連リスト [スコアリング正規化戦略の入力] が表示されます。
4. [スコアリング正規化戦略の入力] リストで [新規] を選択し、フォームに入力します。

採点正規化戦略の入力フォーム

フィールド	説明
正規化戦略	入力を作成する正規化戦略の名前。
順序	入力の順序。
タイプ	入力のタイプ。例:数字や選択肢。
ラベル	入力のラベル。
名前	入力の名前。
説明	他のユーザーがこの入力の目的を理解するのに役立つテキスト。

5. **[Submit** (送信)] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

これらの手順を繰り返して、必要に応じて入力を追加します。

6. 選択肢の入力に選択肢を追加するには、[スコアリング正規化戦略の入力] リストから対応する選択肢ラベルを選択します。
7. 関連リストの [採点正規化戦略の入力] 選択肢リストで、[新規] を選択し、フォームに入力します。

採点正規化戦略の入力フォーム

フィールド	説明
正規化戦略入力	選択肢を作成する正規化戦略入力の名前。
順序	入力選択肢の順序。
ラベル	選択肢のラベル。
値	選択肢の値。

8. **[Update** (更新)] を選択します。
これらの手順を繰り返して、必要に応じて入力選択肢の追加を続行します。
9. 生のスコアを正規化するために新しく作成された入力値を組み込むように戦略スクリプトを更新します。
   - スクリプトを作成して、他の質問、テーブル、テンプレートなどのさまざまなソースからのデータを取得、変換、および応答にマッピングできます。
   - スクリプト内で条件を設定することもできます。
   - **result.value** の入力が、数値タイプの質問に整数値があるなど、対応する質問タイプと一致することを確認できます。
10. **[Publish** (公開)] を選択します。
カスタム戦略を作成したら、ドラフトに戻して編集したり、不要になったときに廃止したり、完全に削除したりすることで、さらに管理できます。

正規化戦略を編集する

ドラフト状況の正規化戦略を編集できます。

始める前に

- スマートアセスメント採点プラグイン [com.sn_smart_scoring] がインストールされていることを確認します。
- 必要なロール:sn_smart_asmt.template_manager および sn_smart_asmt.assessment_admin

手順

1. 移動先 すべて > スマートアセスメントエンジン > アドミニストレーション > 正規化戦略.
2. [スコアリング正規化戦略] リストで、更新する正規化戦略を選択します。
3. 上部のパネルで、[下書きに移動] を選択します。
正規化戦略を更新するには、ドラフト状況である必要があります。戦略が現在公開されている場合は、編集を行う前にドラフトステータスに戻す必要があります。
4. 必要な更新を行い、[保存] を選択します。
5. **[Publish** (公開)] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

正規化戦略の廃止

正規化戦略を廃止して、アクティブでなくなったことを確認できます。いったん廃止されると、再アクティブ化したり、ドラフトや公開に戻したりすることはできません。ただし、現在この戦略を使用している目的は引き続き使用されます。

始める前に

- スマートアセスメント採点プラグイン [com.sn_smart_scoring] がインストールされていることを確認します。
- 必要なロール:sn_smart_asmt.template_manager および sn_smart_asmt.assessment_admin

手順

1. 移動先 すべて > スマートアセスメントエンジン > アドミニストレーション > 正規化戦略.
2. [採点正規化戦略] リストで、廃止する正規化戦略を選択します。
3. 上部のパネルで、[廃止] を選択します。
   正規化戦略は廃止され、非アクティブステータスに移行します。

正規化戦略の削除

正規化戦略は削除できます。戦略を削除すると完全に削除されるため、続行する前に使用されなくなったことを確認してください。

始める前に

- スマートアセスメント採点プラグイン [com.sn_smart_scoring] がインストールされていることを確認します。
- 必要なロール:sn_smart_asmt.template_manager および sn_smart_asmt.assessment_admin

手順

1. 移動先 すべて > スマートアセスメントエンジン > アドミニストレーション > 正規化戦略.
2. [スコアリング正規化戦略] リストで、削除する正規化戦略を選択します。
3. 上部のパネルで、[下書きに移動] を選択します。
   正規化戦略を削除するには、ドラフト状況である必要があります。戦略が現在公開されている場合は、まずドラフトステータスに戻す必要があります。
4. 上部のパネルで [削除] を選択します。
   警告を含む確認メッセージが表示されます。慎重に確認してください。
5. [削除] を選択します。

応答の自動化

査定人がアセスメントをより迅速に完了し、より良い結果を提供できるように、質問に対するデフォルトの応答を設定します。

応答の自動化は、手動によるデータ入力を減らし、応答を自動化する静的応答またはスクリプトベースのアプローチを提供することで、アセスメントプロセスをより効率的にすることを目的としています。テンプレートマネージャーは、回答を読み取り専用または編集可能にすることができます。自動応答は次のように設定できます。

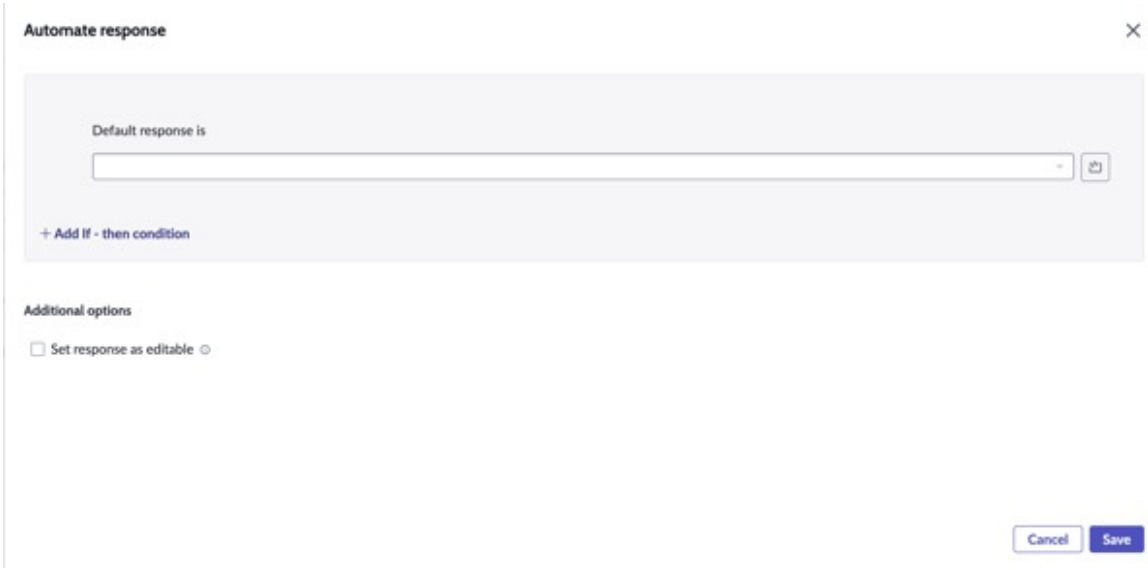
デフォルトの応答

テキスト、ドロップダウン、ラジオボタン、チェックボックス、日付、日時、および数字の質問タイプのデフォルトの回答を設定できます。条件のないデフォルトの応答を選択するか、複数の条件に依存するデフォルトの応答を選択できます。査定人は、これら

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

のデフォルトの回答を検証、調整、または保持できるため、時間と労力を節約できま

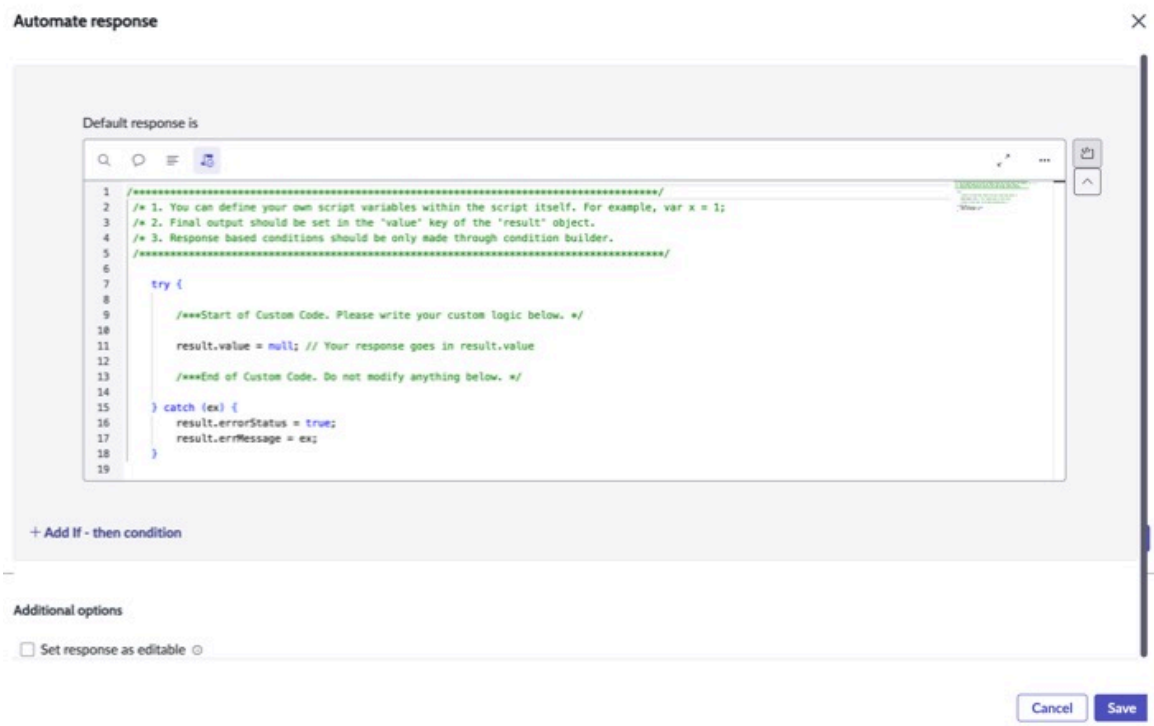


す。

スクリプト

動的な自動応答を作成できます。他の質問、テーブル、テンプレートなどのさまざまなソースからデータを取得、変換、およびマッピングするスクリプトを作成し、このデータを応答に統合できます。これらのスクリプトを使用すると、次のことができます。

- 他の質問に基づいてデフォルトの動的応答を生成し、リアルタイムの適応性を有効にします。
- テーブルにクエリを実行して特定のデータをフェッチし、それを応答に組み込んで、関連情報が含まれていることを確認します。
- スクリプト内に条件を設定してさまざまなシナリオを処理し、複雑で動的な自動化ワークフローを有効にします。



自動応答を設定するときは、if-then 条件を使用して、応答に必要な条件を作成できます。詳細については、「質問の自動応答の設定」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

質問の自動応答の設定

特定の条件に基づき、静的な回答またはスクリプトベースの回答を使用して、アセスメント質問に対する自動応答を設定します。テキスト、ドロップダウン、ラジオボタン、チェックボックス、日付、および数字の質問タイプのデフォルトの応答を構成できます。この機能により、回答が必要な質問の数を減らすことで、査定人の時間と労力を節約できます。

始める前に

- スマートアセスメント応答自動化プラグイン [com.sn_smart_resp_auto] がインストールされていることを確認します。
- 必要なロール:sn_smart_asmt.assessment_admin または sn_smart_asmt.template_manager および sn_smart_asmt.developer

注:
アセスメントアドミンまたはテンプレートマネージャーのロールがアサインされているユーザーは、質問のデフォルトまたは条件付きのデフォルト応答を設定できます。スクリプトを作成するには、アセスメントアドミンまたはテンプレートマネージャーロールに加えて、開発者ロールが必要です。

手順

1. 移動先 ワークスペース > アセスメントワークスペース をクリックして、アセスメントワークスペースのランディングページにアクセスします。
2. アセスメントテンプレートを作成するか、既存のアセスメントテンプレートを開きます。
3. 自動応答を設定する質問を選択します。
4. ⋮ を使用して [自動応答] を選択します。 省略記号メニュー。
   [自動応答] ポップアップが表示されます。
5. デフォルトの応答を設定するために必要な詳細を入力します。

   a. [デフォルトの回答] フィールドでは、質問タイプに基づいて質問のデフォルトの回答を選択できます。

   b. オプション: [**If-then**条件の追加]を選択して条件を設定し、それに基づいて応答を決定します。

   c. **[If** 条件] で **[+** 新しい条件セット] を選択して条件を設定します。

      If

      ここで条件条件を設定します。 **then** 条件で指定された応答が満たされた場合に使用されます。

      の場合

      If 条件に対するデフォルトの応答が指定されている条件。

      注:
      [+ 新しい条件セット] を選択すると、1 つの **If** 条件内に複数の条件を設定できます。1 つの条件行内で、 **AND** または **OR** 論理 演算子を使用して複数の条件を組み合わせることができます。

   d. オプション: 後続の **[If-then** を追加] 条件 を追加し、if-then 条件を使用してもう 1 つの条件セットを設定します。

      それ以外の場合

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

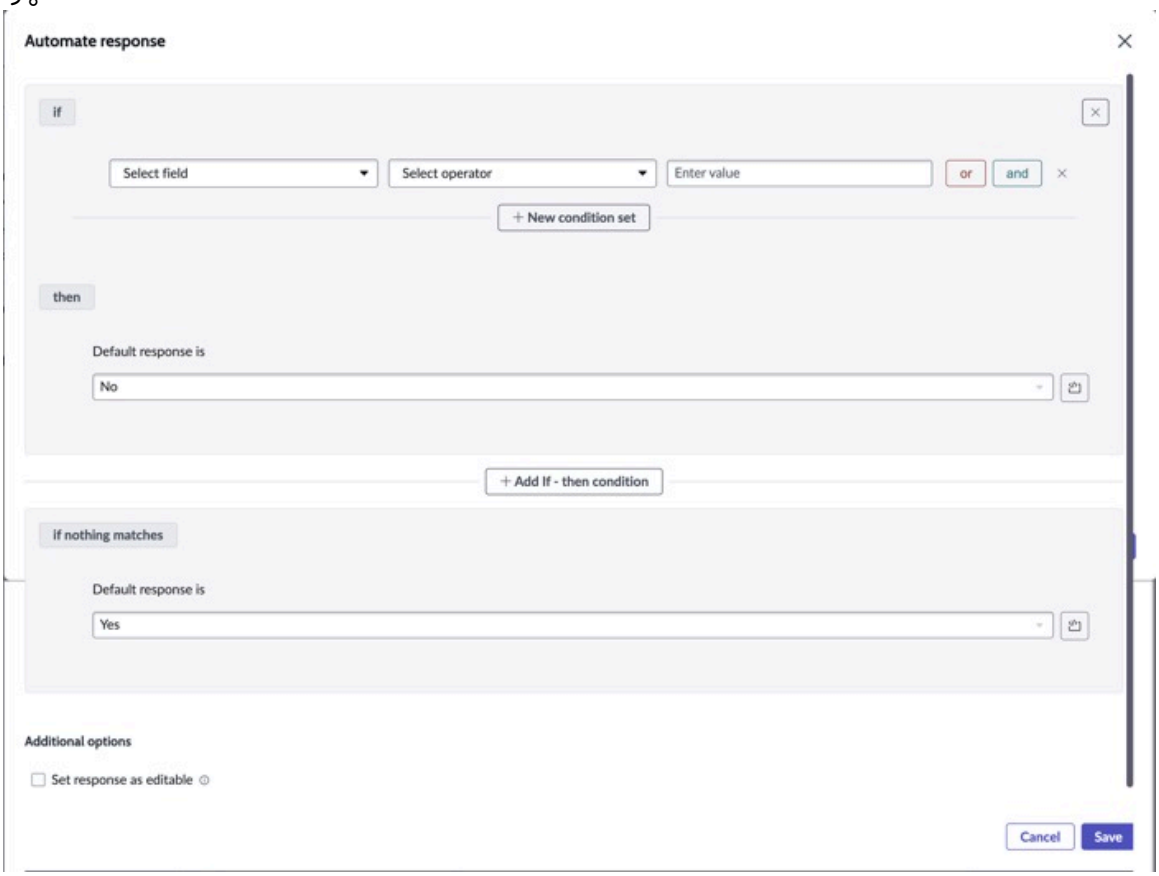
複数の if-then 条件を追加すると、後続の各 **If** 条件は [それ以外の場合] として追加されます。最初の [if-then] 条件が満たされない場合は、次の [それ以外の場合] 条件が優先されます。

の場合

「それ以外の場合」条件に対するデフォルトの応答が指定されている条件。

注:
必要に応じて、複数の条件の追加を続行します。条件を満たす最初の条件がデフォルトの応答をトリガーします。優先度は、条件が設定される順序によって決まります。たとえば、3 つの条件があり、最初の条件が true の場合、残りの 2 つはチェックされません。

e. オプション: 条件で、 一致するものがない場合に 、上記の条件セットのいずれも設定された基準を満たさない場合に備えて、[デフォルトの応答] フィールドにデフォルトの応答を設定します。



f. オプション: を選択し、スクリプトを作成して動的応答を設定します。

- スクリプトを作成して、他の質問、テーブル、テンプレートなどのさまざまなソースからのデータを取得、変換、および応答にマッピングできます。
- スクリプト内で条件を設定することもできます。
- スクリプトでは、 **result.value** は応答を保持します。**result.value** の入力が対応する質問タイプと一致することを確認します。たとえば、テキストタイプの質問には文字列値が必要ですが、数値タイプの質問には整数値が必要です。

必要な情報が欠落している行がある場合、条件を保存できません。

6. [追加オプション] で [応答を編集可能に設定] オプションを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- [応答を編集可能に設定] オプションを選択すると、査定人は応答を編集できます。選択しない場合、応答は読み取り専用になり、必須ではなくなり、査定人が編集することもできません。
- 質問を 必須としてマークするには、[応答を編集可能に設定] オプションを選択する必要があります。[応答を編集可能に設定] がオフの場合、[必須] オプションは自動的にオフになります。
- [応答を編集可能として設定] オプションが有効になっている場合、応答の自動化条件はアセスメントがトリガーされたときにのみ評価されます。[応答を編集可能として設定] オプションが無効になっている場合、依存する質問が修正されるたびに応答の自動化条件が再評価されます。

7. [Save (保存)] を選択します。

タスクの結果

自動応答が質問に追加されました。同じアプローチを使用して、他の質問への自動応答を追加できます。

アセスメント後の自動化

スマートアセスメントエンジン のアセスメント後の自動化は、アセスメント後のアクションとも呼ばれ、アセスメント後にアセスメントに対して実行されるアクションです。これらのアクションは、アセスメントの回答に基づいてタスクを自動化するように設計されています。アセスメント後のアクションは、アセスメントで提供された応答に基づいてレコードを更新するなどのタスクを自動化し、手動操作の必要性をなくすのに役立ちます。

アセスメント後のアクション

アセスメント後のアクションは、意思決定プロセスを自動化するように設計されています。特定の条件に基づいてルールを実行するように構成することも、条件なしで自動的に実行することもできます。構造化された分かりやすいインターフェイスを提供し、技術的な専門知識がなくてもこれらのルールを設定できます。テンプレートデザイナーは、アセスメント後のアクションを使用して、フィールドの更新、フォローアップアセスメントの作成、その他のレコードの生成などのアクションを設定できます。これらのアクションは、アセスメントが送信されると自動的に実行されます。Impact の自動化に関連する主要なコンポーネントと概念は次のとおりです。

アクションセット

アクションセットを使用すると、条件と対応するアクションを設定することで、タスクを自動化できます。アクションセットを使用すると、タスクを効率的に自動化し、最も重要な基準が最初にチェックされるようにすることができます。アクションセットには、条件付きとスタンドアロンの 2 種類があります。

条件付きアクションセット

条件付きアクションセットでは、「If」ブロックに条件を設定し、「Then」ブロックにアクションを設定します。複数の条件を追加でき、システムは各条件を順番にチェックします。true である最初の条件が見つかると、対応するアクションがトリガーされ、残りのチェックを停止します。たとえば、3 つの条件があり、最初の条件が true の場合、システムは最初の条件のアクションのみを実行し、他の 2 つは無視します。

スタンドアロンアクションセット

一方、スタンドアロンアクションセットでは、特定の条件なしで実行する必要があるアクションを設定できます。単一のスタンドアロンアクションセットに複数のアクションを追加できます。

自動化されたアクション

これらは、特定の条件に基づいて自動的に実行できる事前定義された一連のアクションまたはプロセスであるサブフローです。これらはフローデザイナーの一部であり、アセスメントプロセス内のタスクを自動化するために使用されます。サブフローは、特定のテンプレートアセスメントカテゴリにマッピングされているアクションカテゴリにマッピングされます。実行時にアセスメントが送信されると、条件が評価され、対応する

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サブフローが実行されます。たとえば、特定の質問の回答が定義された条件を満たす場合、サブフローをトリガーして、レコードの作成または更新、通知の送信、またはその他の自動化されたタスクを実行できます。

トリガー条件

これらは、アセスメント応答に基づくユーザー定義の条件セットであり、満たされると自動アクションがトリガーされます。たとえば、質問への回答が「高リスク」の場合、アクションがトリガーされることがあります。

評価基準

構成されたアセスメント後のアクションは、アセスメントが送信されると実行されます。

アセスメント後のアクションは、次のようないくつかのメリットをユーザーに提供します。

効率

この機能により、日常的なタスクが自動化されるため、より戦略的なアクティビティに集中できます。

一貫性

事前定義されたルールにより、すべてのアセスメントでアクションが一様に実行され、標準化が維持されます。

精度パーセンテージ

自動化により、手動処理中に発生する可能性のあるエラーのリスクが軽減されます。

スケーラビリティ

システムは、手動介入なしで大量のアセスメントとアクションを処理できます。

アセスメント後のアクションの自動化の構成

スマートアセスメントエンジン のアセスメント後のアクション機能を使用すると、アセスメント応答に基づいてアクションを自動化できます。テンプレート設計者は、ルールエンジンを使用して、フィールドの更新、フォローアップアセスメントの作成、他のレコードの生成などのアクションを事前定義できます。

始める前に

- サブフローが利用可能であることを確認します。サブフローが、アセスメント後のアクションを構成するアセスメントテンプレートカテゴリにマッピングされていることを確認します。サブフローを構築する方法の詳細については「 Building subflows 」を参照し、サブフローを作成するには「 Create a subflow in Workflow Studio 」を参照してください。
- スマートアセスメントのアセスメント後アクションプラグイン [com.sn_impact_fwk] および [com.sn_smart_imp_auto] がインストールされていることを確認します。
- 必要なロール:sn_smart_asmt.assessment_admin または sn_smart_asmt.template_manager および sn_smart_imp_auto.automation_creator

注:
自動化作成者ロールに加えて、アセスメントアドミンまたはテンプレートマネージャーロールを持つユーザーは、アセスメント後の自動化を構成できます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > アセスメントワークスペース をクリックして、アセスメントワークスペースのランディングページにアクセスします。
2. アセスメントテンプレートを作成するか、アセスメント後のアクションを構成する既存のアセスメントテンプレートを開きます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメント後のアクションは、公開されたアセスメントテンプレートにのみ設定でき、手動でアクティブ化するまでドラフト状況のままになります。テンプレートが公開されたままの場合、アクティブ化されたアセスメント後のアクションをドラフトステータスに戻すことはできません。非アクティブ化のみ可能です。

3. [自動化] タブを選択します。
4. [自動化を作成] を選択します。
5. フォームで、フィールドに入力します。

自動化の作成

フィールド	説明
名前	自動化に一意の名前を付けます。
説明	自動化の説明を入力します。

アクションセットが表示されます。

6. アクションセットを選択:
   - 条件付きアクションセットを追加します。
   - スタンドアロンアクションセットを追加します。

   単一の自動化に複数のアクションセットを追加できます。不要になったアクションセットを編集または削除することもできます。
7. 条件付きアクションセットが選択されている場合、条件を設定するには **[If]** を選択します。
   a. **[+** 新しい条件セット] を選択して条件を追加します。
   b. フォームで、フィールドに入力します。

条件を設定

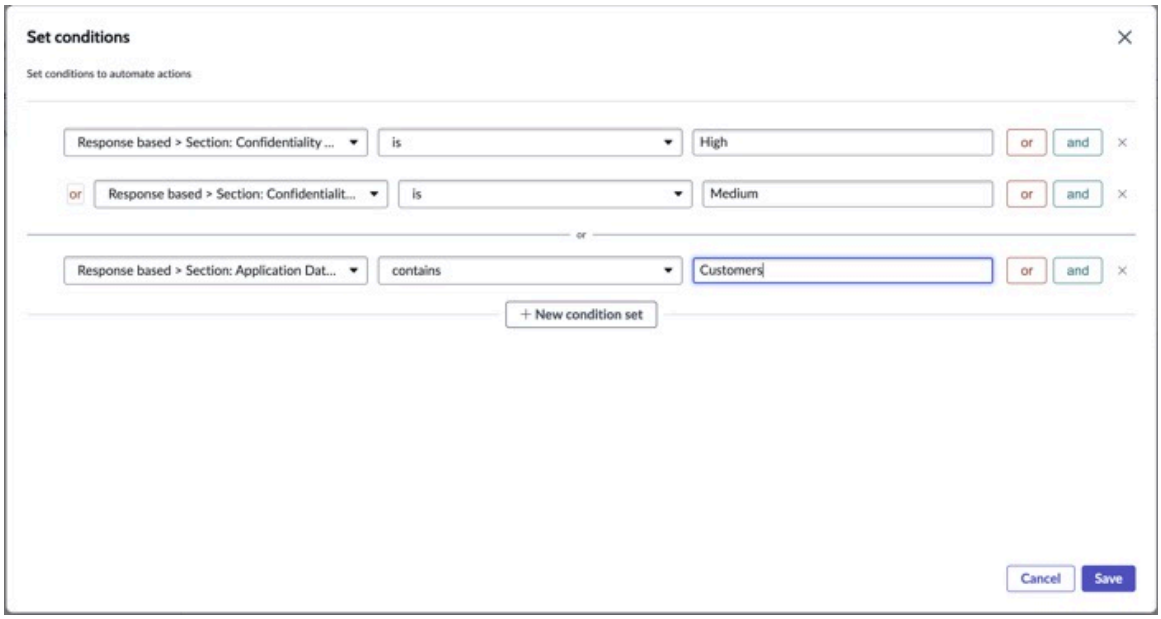
フィールド	説明
フィールドを選択	条件が設定されている質問の応答。ドット連結を使用して質問を選択できます。
演算子を選択	フィールドをチェックする演算子 (空など)。
値を入力	条件が true か false かを判断するために質問の回答と比較される値。
論理演算子 OR/AND	1 つの条件に複数の条件セットを追加するための論理演算子。

> **注:**
> **[+** 新しい条件セット] を選択して、複数の条件を追加できます。

   c. **[Save** (保存)] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



8. 条件付きアクションセットで、アクションを設定するには、 **then**を選択します。
9. [アクションタイプ] リストのオプションを選択します。
   選択したアクションタイプに基づいて、追加の詳細を必要とするフィールドが表示されます。
   - [アクションタイプ] フィールドに表示されるオプションは、選択したテンプレートのカテゴリにリンクされたサブフローです。サブフローは、特定の条件に基づいて自動的に実行できる、事前定義された一連のアクションまたはプロセスです。これらはフローデザイナーの一部であり、タスクを自動化するために使用されます。
   - サブフローは、特定のテンプレートアセスメントカテゴリにマッピングされているアクションカテゴリにマッピングされます。このマッピングにより、特定のテンプレートカテゴリについて、対応するアクションカテゴリに関連するサブフローのみが表示されることを確認します。
10. [アクションの設定] ダイアログボックスで、必要に応じてフィールドに入力します。
11. スタンドアロンアクションセットが選択されている場合、アクションを設定するには **then** を選択します。
12. [アクションタイプ] リストのオプションを選択します。
    選択したアクションタイプに基づいて、追加の詳細を必要とする新しいフィールドが表示されます。
    - [アクションタイプ] フィールドに表示されるオプションは、選択したテンプレートのカテゴリにリンクされたサブフローです。サブフローは、特定の条件に基づいて自動的に実行できる、事前定義された一連のアクションまたはプロセスです。これらはフローデザイナーの一部であり、タスクを自動化するために使用されます。
    - サブフローは、特定のテンプレートアセスメントカテゴリにマッピングされているアクションカテゴリにマッピングされます。このマッピングにより、特定のテンプレートカテゴリについて、対応するアクションカテゴリに関連するサブフローのみが表示されることを確認します。
13. **[Activate** (アクティブ化)] を選択します。
14. [自動化は今後編集できないことを理解しています] オプションを選択し、[アクティブ化] を選択します。
    自動化が有効になり、確認メッセージが表示されます。査定人がアセスメントを送信すると、設定した自動化が実行されます。

関連情報

Flow Designer

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントに回答する

査定人がサーベイ要求を完了するには、 スマートアセスメントエンジン アプリケーションを使用します。進捗状況を追跡し、システムに情報を自動的に保存させます。アドミニストレーターとテンプレートマネージャーは、アセスメントプロセスを管理します。

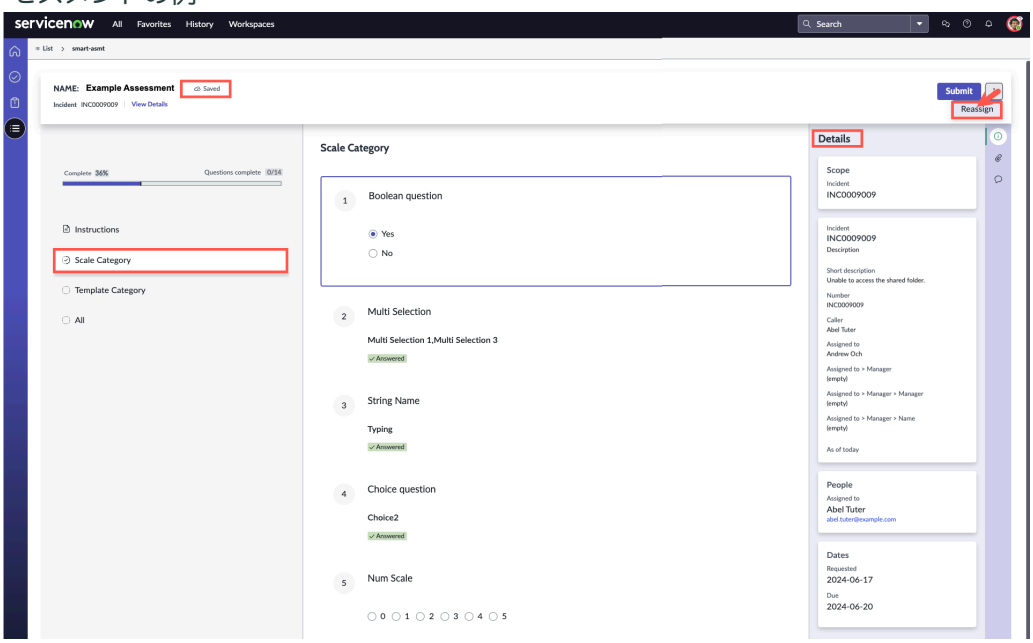
アセスメントアクター [sn_smart_asmt.actor] ロールを持っている場合は、アサインされたアセスメントへの回答を送信できます。その他の主な機能は次のとおりです。

- 進行状況インジケーターには、完了したアセスメントの量が表示されます。
- 質問はページネーションされているため、アセスメント内を簡単に移動できます。
- 作業は自動的に保存されるため、データが失われるリスクがなくなります。
- アセスメントアドミニストレーター [sn_smart_asmt.assessment_admin] は、不要になったアセスメントをキャンセルできます。

アセスメントの再アサイン [sn_smart_asmt.reassign] ロールを持っている場合は、進行中のアセスメントを別のユーザーに再アサインできます。テンプレートマネージャーまたはアドミニストレーターがスコープに関連する追加情報などの参照情報を追加した場合は、アセスメントの詳細セクションでそれらの情報を表示できます。アセスメントのステータスに関連する場合、スコープ、要求者、アサイニー、要求日、および期日がデフォルトで [詳細] セクションにリストされます。詳細については、「テンプレートデザイナーの使用」と「アセスメントテンプレートに参照情報を追加する」を参照してください。

次の例は、進捗状況、保存ステータス、アセスメントステータス、参照情報、アクションなどがアセスメントビューにどのように表示されるかを示しています。

進行中のアセスメントの例



アセスメント応答機能

アセスメントのナビゲーション

アセスメントアクター [sn_smart_asmt.actor] は、回答する準備ができている質問のセクションを選択することで、アセスメント内を移動できます。

アセスメントの保存

アセスメントの進捗状況は自動的に保存され、保存ステータスは保存済みバッジ Saved で示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

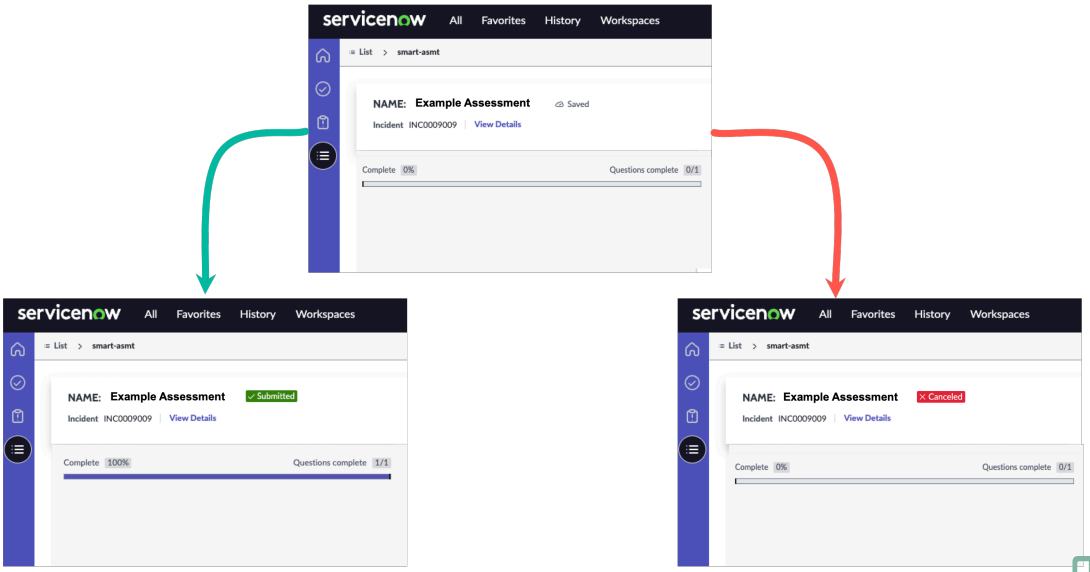
自動翻訳

アセスメントでの進捗状況の追跡

進捗状況バーは、必須およびオプションの質問を含め、アセスメントに残っている質問の数を示します。

次の例は、アセスメントを完了して送信またはキャンセルしたときに、進捗状況バーとステータスバッジがどのように更新されるかを示しています。

進捗状況バーとステータスバッジの例



アセスメントに応答する

自分のキューにアサインされたアセスメントに回答します。アセスメントへの回答は、スマートアセスメントエンジン アプリケーションを使用して、情報に基づいた意思決定を行い、ターゲットを絞ったアクションを実行するのに役立ちます。

始める前に

必要なロール：sn_smart_asmt.actor

このタスクについて

アセスメントに応答するタスクがアサインされた場合、関連するワークスペース内でアセスメントへの応答を送信します。スマートアセスメントは、コントロール証明書とリスク識別で使用できます。応答は、コントロールが実装されていることを証明する証拠の収集や、潜在的なリスクにつながる可能性のあるギャップの識別に役立ちます。

手順

1. ワークスペースに移動します。
2. アサインされたアセスメントのリストに移動します。
   コンプライアンスワークスペースでこのリストに移動する方法の例を次に示します。
   a. 移動先 ワークスペース > コンプライアンスワークスペース
   b. タスクアイコン (を選択し、次に移動します: 自分の保留中タスク > コントロール証明書 > スマートアセスメント.
3. 手順または参照情報を確認します。
   質問を完了すると、確認用の追加の質問ガイダンステキストが表示される場合があります。
4. アンケートで関連するすべての質問に回答します。
   回答は自動的に保存されます。
5. [送信] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントを送信

アセスメントを完了して送信するには、アセスメントアクターロールが必要です。すべての必須質問に回答すると、[送信] ボタンが有効になります。

始める前に
必要なロール:sn_smart_asmt.reassign

このタスクについて
送信ボタンの横にあるロックアイコンは、残りの必須質問の数を示します。ロックアイコンにカーソルを合わせると正確な数が表示され、進捗状況を追跡するのに役立ちます。

手順

1. ワークスペースに移動し、アセスメントのリストに移動します。
   コンプライアンスワークスペースでこのリストに移動する方法の例を次に示します。
   a. 移動先 ワークスペース > コンプライアンスワークスペース
   b. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
   c. 移動先 コントロール証明書 > スマートアセスメント.
2. 送信するアセスメントを選択します。
3. アセスメントを送信するには、上部ペインで [送信] を選択します。
   [送信] ダイアログボックスが表示されます。
4. 確認メッセージを読んで、チェックボックスをオンにします。
5. **[Submit** (送信)] を選択します。

アセスメントの再アサイン

アセスメントを再アサインして別のユーザーにリダイレクトし、柔軟なタスク管理を有効にします。

始める前に
必要なロール:sn_smart_asmt.reassign

このタスクについて
アセスメント再割り当て [sn_smart_asmt.reassign] と、アセスメントテンプレートに関連付けられたテンプレートカテゴリロールを持っている場合は、誰にでもアセスメントを再アサインできます。

手順

1. ワークスペースに移動し、アセスメントのリストに移動します。
   コンプライアンスワークスペースでこのリストに移動する方法の例を次に示します。
   a. 移動先 ワークスペース > コンプライアンスワークスペース
   b. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
   c. 移動先 コントロール証明書 > スマートアセスメント.
2. 再アサインするアセスメントを選択します。
3. アセスメントを再アサインするには、上部ペインで [その他のアクション] アイコン を選択し、[再アサイン] を選択します。
   再アサインダイアログボックスが表示されます。
4. [再アサイン] ダイアログボックスの [再アサイン先] フィールドで査定人名を選択します。
5. [再アサイン] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

未回答の質問をフィルタリングする

アセスメントをフィルタリングして未回答の質問のみを表示し、迅速に完了できるようにします。未回答の質問を一目で効率的に特定できるため、個別に確認する必要がなくなります。

始める前に
必要なロール：sn_smart_asmt.actor

手順

1. ワークスペースに移動し、アセスメントのリストに移動します。
   コンプライアンスワークスペースでこのリストに移動する方法の例を次に示します。
   a. 移動先 ワークスペース > コンプライアンスワークスペース
   b. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
   c. 移動先 コントロール証明書 > スマートアセスメント.
2. 質問をフィルタリングするアセスメントを選択します。
3. 未回答の質問のみを表示するには、上部ウィンドウでフィルターを [すべての質問からの未回答の質問] に変更します。
   すべての質問を表示するには、フィルターを [すべての質問] に戻します。

アセスメントへの添付ファイルの追加

アセスメントの追加情報を提供するドキュメントまたは画像ファイルがある場合は、これらのドキュメントをオープンステータスのアセスメントに添付できます。これらのドキュメントと画像ファイルは、参照用に添付ファイルとしてアセスメントに追加できます。

始める前に
必要なロール：sn_smart_asmt.actor

手順

1. ワークスペースに移動し、アセスメントのリストに移動します。
   コンプライアンスワークスペースでこのリストに移動する方法の例を次に示します。
   a. 移動先 ワークスペース > コンプライアンスワークスペース
   b. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
   c. 移動先 コントロール証明書 > スマートアセスメント.
2. 添付ファイルを追加するアセスメントを選択します。
3. コンテキストサイドバーから、[添付ファイル] アイコン [
   [添付ファイル] サイドバーが表示されます。
4. [ファイルを選択] ボタンを選択します。
5. ローカル コンピューターからファイルを選択し、[開く] を選択します。
   選択したファイルが [添付ファイル] リストに表示されます。
6. このプロセスを繰り返して、複数の添付ファイルを追加します。

アセスメントにコメントを追加する

コメントは、現在の状態に関係なく、所有者または貢献者がいつでもアセスメントに追加できます。この機能により、質問やアセスメントのその他の側面を明確にすることができます。

始める前に
必要なロール：sn_smart_asmt.actor

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. ワークスペースに移動し、アセスメントのリストに移動します。
   コンプライアンスワークスペースでこのリストに移動する方法の例を次に示します。
   a. 移動先 ワークスペース > コンプライアンスワークスペース
   b. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
   c. 移動先 コントロール証明書 > スマートアセスメント.
2. コメントを追加するアセスメントを選択します。
3. コンテキストサイドバーから、[コメント] アイコン
4. [コメント] フィールドにコメントを入力します。
5. **[Post Comments** (コメントを投稿)] を選択します。
   コメントがコメントリストに表示されます。

アセスメントをキャンセル

アセスメントが不要になった場合は、キャンセルして進行を終了できます。キャンセルされると、アセスメントは読み取り専用になります。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. ワークスペースに移動し、アセスメントのリストに移動します。
   コンプライアンスワークスペースでこのリストに移動する方法の例を次に示します。
   a. 移動先 ワークスペース > コンプライアンスワークスペース
   b. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
   c. 移動先 コントロール証明書 > スマートアセスメント.
2. キャンセルするアセスメントを選択します。
3. アセスメントをキャンセルするには、上部ペインで [その他のアクション] アイコン を選択し、[キャンセル] を選択します。
4. 確認ダイアログボックスで、確認 を選択します。

以前のアセスメントからの回答のコピー

以前のアセスメントから回答をコピーして、時間を節約し、繰り返しを減らすことができます。

スマートアセスメント応答アクションをコピー

フローデザイナー [flow_designer] またはシステムアドミニストレーター権限を持っている場合は、[スマートアセスメントの応答をコピー] ワークフロースタジオ アクションをフローとサブフローに追加できます。このフローアクションにより、以前のアセスメントからの回答を再利用できます。

次の表は、[スマートアセスメントの回答をコピー (Copy smart assessment responses)] アクションのフォームを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[スマートアセスメントの回答をコピー **(Copy smart assessment responses)]** アクションのフォーム

フィールド	説明
ソースアセスメント [スマートアセスメントインスタンス]	再利用のために回答をコピーする元のアセスメント。この選択には、アセスメントインスタンスレコード参照を使用する必要があります。
ターゲットアセスメント [スマートアセスメントインスタンス]	回答のコピー先のアセスメント。この選択には、アセスメントインスタンスレコード参照を使用する必要があります。

コピー元のソースアセスメントと回答を再利用するためのターゲットアセスメントの両方が、同じテンプレートに基づいている必要があります。ターゲットアセスメントは [オープン] ステータスである必要があります。このフローアクションが実装されると、ソースアセスメントからの回答が査定人の回答として自動的に利用できるようになります。

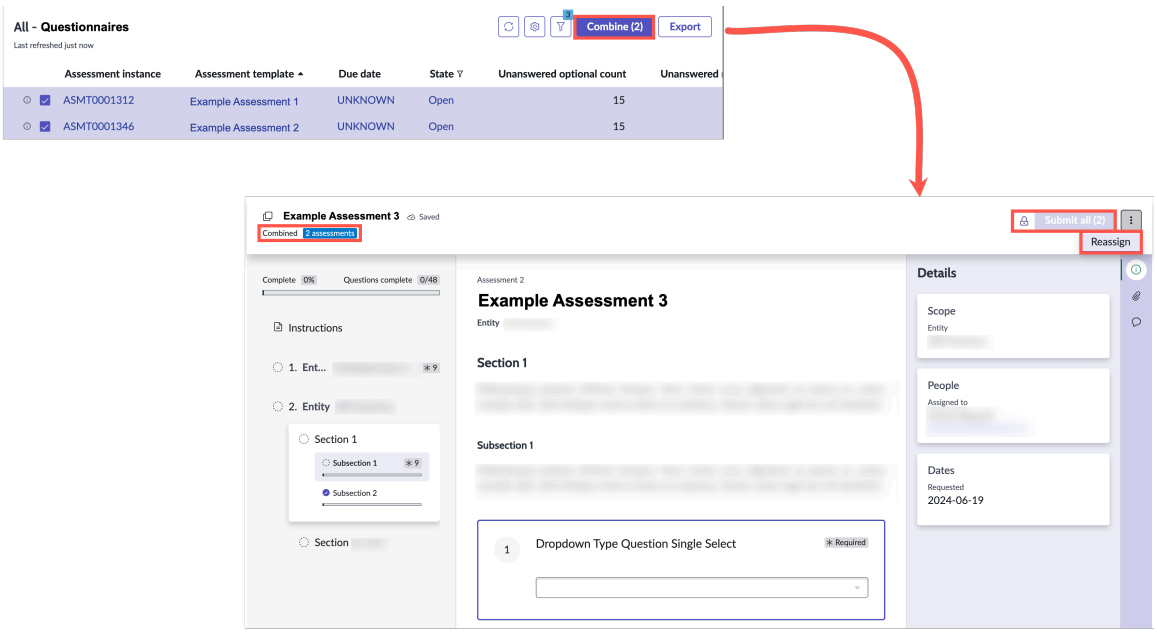
ワークフロースタジオ でフローにアクションを追加する方法の詳細については、「Create a flow in Workflow Studio」を参照してください。

アセスメントを結合

自分にアサインされた複数のアセスメントを 1 つの簡素化されたビューにまとめて、一度に送信または再アサインすることができます。この機能により、すべてのアセスメントをより効率的にまとめて処理できます。

アセスメントを結合すると、一括送信または一括再アサインして、すべてのアセスメントを 1 回のアクションで処理できます。自動コピーを有効にすると、該当するすべてのアセスメントにわたって回答の自動複製が開始されるため、手動で回答したり、すべての質問をコピーしたりする必要がなくなります。同じテンプレートから作成されたアセスメントのみを組み合わせることができます。

アセスメントの結合例



詳細については、「アセスメントを 1 つの送信にまとめる」を参照してください。

アセスメントを1つの送信にまとめる

スマートアセスメントエンジン アセスメントを結合して、1 つのビューですべてのアセスメントに回答できるようにします。また、該当するすべてのアセスメントにわたって回答を自動複製するよう

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

に構成して、毎回手動でコピーする必要をなくすこともできます。このようにして、回答プロセスを簡素化し、アセスメントの処理をより容易に行えるようにします。

始める前に
必要なロール：sn_smart_asmt.actor

手順

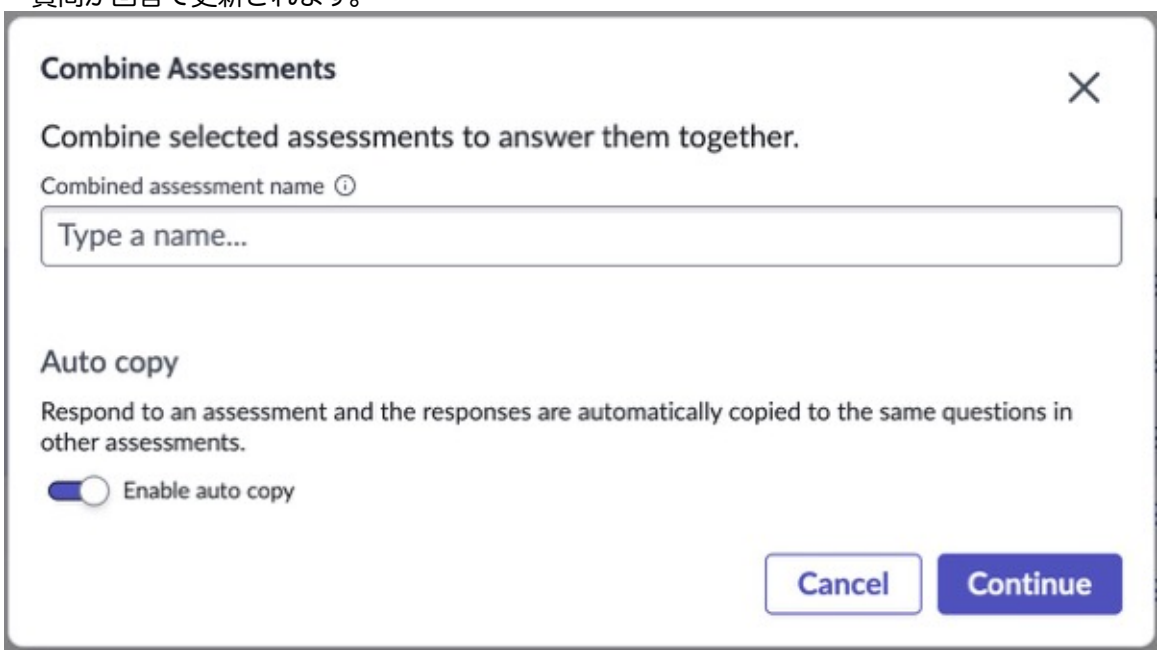
1. ワークスペースに移動します。
2. アセスメントのリストに移動します。
   コンプライアンスワークスペースでこのリストに移動する方法の例を次に示します。
   a. 移動先 ワークスペース > コンプライアンスワークスペース
   b. リストアイコン (を選択し、 コントロール証明書 > スマートアセスメント.
3. 結合する各アセスメントのオプションを選択します。

   アセスメントを組み合わせるときは、すべてが同じテンプレートから作成されるようにしてください。異なるテンプレートのアセスメントを組み合わせることはできません。

4. [結合 **(Combine)]**を選択します。
5. [アセスメントを結合] ポップアップで次の操作を行います。

   a. 結合アセスメントのオプションの名前を入力します。

   b. 必要に応じて自動コピーを有効にします。
      - 統合アセスメントでは、自動コピートグルを有効にすると、グループ内の該当するすべてのアセスメントで回答が自動的に複製されます。
      - この機能は、結合アセスメントの作成時にアクティブ化され、後から変更することはできません。
      - サイドパネルの添付ファイルとコメントは、個々のアセスメントに固有のものです。
      - 結合されたグループ内の任意のアセスメントの質問に回答でき、他のアセスメントの対応する質問が回答で更新されます。



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

選択したすべてのアセスメントを 1 つのアセスメントビュー内に表示する結合されたアセスメントインスタンスに移動します。元の各アセスメントのスコープ、参照情報、および手順は保持されます。

6. アセスメントのすべての質問に回答します。
7. [すべて送信] を選択します。

タスクの結果

この 1 つのアセスメントビュー内に結合された各アセスメントが、回答とともに送信されています。

アセスメントでのコラボレーション

スマートアセスメントエンジン でのコラボレーションを使用すると、複数の貢献者をアセスメントに追加し、リアルタイムの更新でライブコラボレーションをサポートできます。また、誰がアセスメントのどこにいるかを示すプレゼンスインジケーターも表示されます。

コラボレーションの詳細

スマートアセスメントエンジンのコラボレーション機能は、複数のユーザーがリアルタイムで共同作業できるようにすることで、チームベースのアセスメントの効率と有効性を高めることを目的としています。これにより、複数の貢献者にアセスメントをアサインしたり再アサインしたりできます。複数のユーザーが他のユーザーと同時にアセスメントで作業して、各ユーザーの変更をリアルタイムで表示し、現在アセスメントに参加しているユーザーを示すプレゼンスインジケーターを提供できます。

所有者は、アセスメントを複数の個人またはグループにアサインまたは再アサインし、共同作業するユーザーを決定し、貢献者を追加または削除する権限を持っています。オーナーのみがレビューまたは完了のためにアセスメントを送信でき、貢献者が作成したコメントや添付ファイルの管理など、一連のコラボレーション機能にアクセスできます。貢献者は、自分にアサインされたアセスメントを表示し、サイドパネルに関与するすべての協力者を確認できますが、アセスメントを再アサインまたは送信することはできません。代わりに、貢献者はアセスメントにコメントと添付ファイルを追加することもできます。

コラボレーションのメリット

スマートアセスメントエンジンでのコラボレーションにより、複数のステークホルダーがリアルタイムでコンテンツを寄稿、レビュー、改善できます。これにより、柔軟性、説明責任、および品質の向上がプロセスに導入されます。

- タスクを分散して並行して完了できるため、ターンアラウンドタイムが大幅に短縮されます。
- すべての変更が追跡されるため、説明責任が確保され、誰がいつ何に貢献したかについての透明性の高いビューが提供されます。
- 複数の専門家の知識を活用することで、より徹底的で信頼性の高い評価が保証されます。
- 大規模で複雑なアセスメントは、貢献者間で作業を分割することで管理可能になります

コラボレーションにより、アセスメントが孤立したサイロ化されたアクティビティから動的なチーム主導のプロセスに変わります。構造化されたコラボレーションを可能にすることで、組織は評価の質と速度を向上させるだけでなく、チーム間の整合性、透明性、意思決定の信頼性を高めることができます。

貢献者をアセスメントに追加

アセスメントオーナーは、必要に応じてアセスメントに貢献者を追加できるため、複数の個人が効果的にコラボレーションできます。貢献者は同時にアセスメントを処理できるため、リアルタイムのコラボレーションと効率的な進捗状況が可能になります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール:sn_smart_asmt.assessment_admin または sn_smart_asmt.template_manager

手順

1. ワークスペースに移動し、アセスメントのリストに移動します。
   コンプライアンスワークスペースでこのリストに移動する方法の例を次に示します。
   a. 移動先 ワークスペース > コンプライアンスワークスペース
   b. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
   c. 移動先 コントロール証明書 > スマートアセスメント.
2. 貢献者を追加するアセスメントを選択します。
   アセスメントオーナーとアドミニストレーターは、アセスメントに貢献者を追加できます。
3. コンテキストサイドバーから、[貢献者] アイコン [
4. [+ 追加] ボタンを選択します。
5. [貢献者を追加] ポップアップで、[このアセスメントに追加するユーザーを選択] フィールドにユーザーの名前を追加します。
6. [共同作成者の追加] を選択します。

アセスメント貢献者を削除

アセスメントオーナーは、必要に応じてアセスメントから貢献者を削除できます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. ワークスペースに移動し、アセスメントのリストに移動します。
   コンプライアンスワークスペースでこのリストに移動する方法の例を次に示します。
   a. 移動先 ワークスペース > コンプライアンスワークスペース
   b. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
   c. 移動先 コントロール証明書 > スマートアセスメント.
2. 貢献者を削除するアセスメントを選択します。
   アセスメントオーナーとアドミニストレーターは、アセスメントから貢献者を削除できます。
3. コンテキストサイドバーで [貢献者] アイコン [
4. [を使用して、[ユーザーの削除] オプションを選択します。 削除する共同作成者タイルで選択します。
5. 確認ダイアログの警告メッセージを読み、[ユーザーを削除] を選択します。

スマートアセスメントエンジンの参照

参照トピックでは、スマートアセスメントエンジン アプリケーションとともにインストールされるテーブル、プロパティ、フォーム、およびロールについて詳しく説明します。

スマートアセスメントエンジン でのロール

ロールにより、スマートアセスメントエンジン アプリ内の権限とアクセスが決定されます。

フルフィルメントサブフロー定義のフローアクション

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

ワークフロースタジオ で独自の遂行サブフローを定義する場合は、ServiceNow AI Platformで利用可能な標準フローアクションを使用できます。各アクションは、フルフィルメントまたはインベントリメンテナンスのさまざまな側面を処理します。これにより、データの取得方法と更新方法に一貫性を持たせることができます。

スマートアセスメントエンジン でのロール

ロールにより、スマートアセスメントエンジン アプリ内の権限とアクセスが決定されます。

フルフィルメントサブフロー定義のフローアクション

ワークフロースタジオ で独自の遂行サブフローを定義する場合は、ServiceNow AI Platformで利用可能な標準フローアクションを使用できます。各アクションは、フルフィルメントまたはインベントリメンテナンスのさまざまな側面を処理します。これにより、データの取得方法と更新方法に一貫性を持たせることができます。

[テストアクション (Test action)] ポップアップウィンドウの設定

[スマートアセスメントのトリガー] アクションフォームで [テスト] を選択して、アセスメントの設計をテストします。次に、[アクションのテスト (Test action)] ポップアップウィンドウでテストの設定を指定します。

[スマートアセスメントのトリガー (Trigger Smart Assessment)] アクションフォーム

[スマートアセスメントアクションをトリガー] フォームを使用して、アセスメントアクションをフローに追加したり、スマートアセスメントエンジン アセスメントをトリガーするプロセスの一部としてスクリプトのコードスニペットを取得したりします。

スマートアセスメントエンジン でのロール

ロールにより、スマートアセスメントエンジン アプリ内の権限とアクセスが決定されます。

フルフィルメントサブフロー定義のフローアクション

ワークフロースタジオ で独自の遂行サブフローを定義する場合は、ServiceNow AI Platformで利用可能な標準フローアクションを使用できます。各アクションは、フルフィルメントまたはインベントリメンテナンスのさまざまな側面を処理します。これにより、データの取得方法と更新方法に一貫性を持たせることができます。

[テストアクション (Test action)] ポップアップウィンドウの設定

[スマートアセスメントのトリガー] アクションフォームで [テスト] を選択して、アセスメントの設計をテストします。次に、[アクションのテスト (Test action)] ポップアップウィンドウでテストの設定を指定します。

[スマートアセスメントのトリガー (Trigger Smart Assessment)] アクションフォーム

[スマートアセスメントアクションをトリガー] フォームを使用して、アセスメントアクションをフローに追加したり、スマートアセスメントエンジン アセスメントをトリガーするプロセスの一部としてスクリプトのコードスニペットを取得したりします。

従来のメトリクスタイプをテンプレートのセクションに移行する方法

従来のメトリクスタイプは、スマートアセスメントエンジン アプリケーションのアセスメントテンプレートの特定のセクションに移行されます。

メトリクスカテゴリをアセスメントテンプレートに移行した結果

アセスメントテンプレート移行フォームを使用して、移行する従来のメトリクスタイプを指定し、移行の結果を表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スマートアセスメントエンジン でのロール

ロールにより、スマートアセスメントエンジン アプリ内の権限とアクセスが決定されます。

フルフィルメントサブフロー定義のフローアクション

ワークフロースタジオ で独自の遂行サブフローを定義する場合は、ServiceNow AI Platformで利用可能な標準フローアクションを使用できます。各アクションは、フルフィルメントまたはインベントリメンテナンスのさまざまな側面を処理します。これにより、データの取得方法と更新方法に一貫性を持たせることができます。

[テストアクション (Test action)] ポップアップウィンドウの設定

[スマートアセスメントのトリガー] アクションフォームで [テスト] を選択して、アセスメントの設計をテストします。次に、[アクションのテスト (Test action)] ポップアップウィンドウでテストの設定を指定します。

[スマートアセスメントのトリガー (Trigger Smart Assessment)] アクションフォーム

[スマートアセスメントアクションをトリガー] フォームを使用して、アセスメントアクションをフローに追加したり、スマートアセスメントエンジン アセスメントをトリガーするプロセスの一部としてスクリプトのコードスニペットを取得したりします。

従来のメトリクスタイプをテンプレートのセクションに移行する方法

従来のメトリクスタイプは、スマートアセスメントエンジン アプリケーションのアセスメントテンプレートの特定のセクションに移行されます。

メトリクスカテゴリをアセスメントテンプレートに移行した結果

アセスメントテンプレート移行フォームを使用して、移行する従来のメトリクスタイプを指定し、移行の結果を表示できます。

スマートアセスメントエンジン でのロール

ロールにより、スマートアセスメントエンジン アプリ内の権限とアクセスが決定されます。

SAE ロール

SAE ロール

ロール	権限
アセスメントアクター [sn_smart_asmt.actor]	• アサインされたアセスメントに対応します。 • アサインされたアセスメントを再アサインします。
アセスメントリーダー [sn_smart_asmt.assessment_reader]	• アセスメントリーダーロールが割り当てられているカテゴリのアセスメントを読みます。 • アセスメントリーダーロールを持つアセスメントの要求者は、アセスメントの読み取り、再アサイン、およびコメントを行うことができます。 • テンプレートのアセスメントリーダーロールフィールドでロールが構成されているユーザーは、そのテンプレートから生成されたアセスメントを表示してコメントすることができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SAE ロール (続く)

ロール	権限
アセスメントアドミン [sn_smart_asmt.assessment_admin]	assessment_admin ロールが含まれます。 SAE アプリケーションのアドミニストレーター。 • アセスメントワークスペースにアクセスします。 • テンプレートカテゴリを作成、表示、更新、または削除します。テンプレートカテゴリは、テンプレートが添付されている場合には削除できないことに注意してください。 • アセスメントテンプレートを作成、表示、更新、または削除します。 • すべてのアセスメントを表示するか、アセスメントをキャンセルするか、アセスメントを再アサインします。 • 既存のメトリクスタイプをアセスメントテンプレートへ移行します。
アセスメントの再アサイン [sn_smart_asmt.reassign]	アセスメントを再アサインできます。
テンプレートリーダー [sn_smart_asmt.template_reader]	• すべての詳細が読み取り専用モードで表示されるアセスメントワークスペースにアクセスします。 • ユーザーがアセスメントテンプレートに関連付けられたテンプレートカテゴリロールを持つ場合は、テンプレートを読みます。
テンプレートマネージャー [sn_smart_asmt.template_reader]	template_reader ロールが含まれます。 • テンプレートにマッピングされているカテゴリに基づく特定のアセスメントテンプレートを読み、書き、作成します。 • テンプレートの作成中にテンプレートカテゴリにアクセスするときは、テンプレートリーダーの場合と同じロジックによって制御されます。
テンプレート開発者 [sn_smart_asmt.developer]	アセスメント質問の応答自動化のためのスクリプトを読み、書き、作成します。 **注:** スクリプトの読み取り、書き込み、および作成を行うには、テンプレート開発者ロールに加えて、アセスメントアドミンまたはテンプレートマネージャーロールのいずれかが必要です。テンプレート開発者ロールだけでは不十分です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SAE ロール (続く)

ロール	権限
自動化リーダー [sn_smart_imp.auto.automation_reader]	• アセスメントテンプレート用に作成された自動化を読み取ります。 • アセスメントワークスペースにアクセスします。 • アセスメントテンプレートに関連付けられたテンプレートカテゴリロールがある場合は、テンプレートをお読みください。
自動化クリエーター [sn_smart_imp.auto.automation_creator]	• アセスメントテンプレートの読み取り、書き込み、および自動作成を行います。 • アセスメントワークスペースにアクセスします。 • アセスメントテンプレートに関連付けられたテンプレートカテゴリロールがある場合は、テンプレートをお読みください。

フルフィルメントサブフロー定義のフローアクション

ワークフロースタジオ で スマートアセスメントエンジン アプリケーションに対して独自のフルフィルメントサブフローを定義する場合は、ServiceNow AI Platform で利用可能な標準フローアクションを使用できます。各アクションは、フルフィルメントまたはインベントリメンテナンスのさまざまな側面を処理します。これにより、データの取得方法と更新方法に一貫性を持たせることができます。

ServiceNow AI Platformに付属しているデモデータのフルフィルメントフローでは、次の表のフローアクションを使用します。

ベースシステムの一部として利用可能なフローアクション

アクション名	説明
[スマートアセスメントのトリガー] アクション	アセスメントを作成してアサインするフローアクション。 フローアクションは、顧客の注文明細行、構成アイテム (CI)、および販売済み製品を入力として受け取り、インストールベースアイテムとインストール済み製品を作成します。
構成アイテムを更新	構成アイテムの受注処理サブフローを更新するための規範的な方法を含むフローアクション。 フローアクションは、販売済み製品、製品モデル ID、およびコメントを入力として受け取り、インストールベースアイテムに基づいて対応する構成アイテムを更新します。
販売済み子製品を取得	顧客注文の仕様に関連する販売済み製品を取得するための規範的な方法を含むフローアクション。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ベースシステムの一部として利用可能なフローアクション (続く)

アクション名	説明
	フローアクションは、仕様と親販売済み製品を入力として受け取り、それぞれの階層から販売済み子製品を取得します。このフローアクションを使用すると、フルフィルメントプロセスの最後に発生するインベントリの更新に役立ちます。
顧客の注文特性値を取得	顧客の注文明細品目と特性を入力として受け取り、顧客の注文明細品目の特性値を返すフローアクション。特性が顧客の注文明細品目に存在しない場合は、それぞれの注文明細品目オファリングの特性のデフォルト値が返されます。

関連情報

- Flow Designer
- Building flows
- Create a flow in Workflow Studio

[テストアクション **(Test action)**] ポップアップウィンドウの設定

[スマートアセスメントのトリガー (Trigger Smart Assessment)] アクションフォームで [テスト] を選択して、スマートアセスメントエンジン のアセスメントの設計をテストできます。次に、[テストアクション (Test action)] ポップアップウィンドウでテストの設定を指定します。

[テストアクション **(Test action)**] ポップアップウィンドウ

[テストアクション **(Test action)**] ポップアップウィンドウの設定

設定	説明
アセスメントテンプレート	生成されたアセスメントの基礎となるアセスメントテンプレート。
査定人	アセスメントについて通知され、通常はアセスメントに回答するか、別のユーザーにアサインする担当者。各査定人に 1 つのアセスメントインスタンスがアサインされます。 査定人は、アセスメントアクター [sn_smart_asmt.actor] ロールを持ちます。「スマートアセスメントエンジン でのロール」を参照してください。
要求者	査定人からの質問が送られる連絡先。生成された各アセスメントには、連絡先情報が含まれます。
説明	生成されたアセスメントの意図を他のユーザーが理解するのに役立つテキスト。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[テストアクション **(Test action)**] ポップアップウィンドウの設定 (続く)

設定	説明
テンプレートカテゴリ	アセスメントテンプレートが属するカテゴリ。たとえば、リスク、パフォーマンス、セキュリティ、個人データなどです。 テンプレートの目的 テンプレートのデータ分離を強制します。目的は、テンプレートを表示できるユーザーを制御します。各アセスメントテンプレートは目的に関連付けられています。特定の目的のテンプレートを表示するには、その目的に関連付けられたカテゴリロールが必要です。 詳細については、「アセスメントテンプレートカテゴリを作成する」を参照してください。 **注:** 公開されたアセスメントテンプレートからのみアセスメントを作成できます。公開済みテンプレートを更新できるのは、テンプレートに関連付けられているアクティブなアセスメントがない場合のみです。
アセスメントターゲット	アセスメントの対象として選択されたテーブルレコード (アセスメントスコープとも呼ばれます)。複数のテーブルをアセスメントターゲットとして追加できるので、スコープは各テーブルのレコードの組み合わせになります。

[スマートアセスメントのトリガー **(Trigger Smart Assessment)**] アクションフォーム

[スマートアセスメントアクションをトリガー] フォームを使用して、アセスメントアクションをフローに追加したり、スマートアセスメントエンジン アセスメントをトリガーするプロセスの一部としてスクリプトのコードスニペットを取得したりします。

[スマートアセスメントのトリガー **(Trigger Smart Assessment)**] アクションフォーム

[スマートアセスメントのトリガー **(Trigger Smart Assessment)**] アクションフォーム

フィールド	説明
アセスメントテンプレート	アセスメントの生成に使用されるスマートアセスメントテンプレートレコード。
査定人	アセスメントについて通知され、通常はアセスメントに回答するか、別のユーザーにアサインする担当者。各査定人に 1 つのアセスメントインスタンスがアサインされます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[スマートアセスメントのトリガー **(Trigger Smart Assessment)**] アクションフォーム (続く)

フィールド	説明
	査定人は、アセスメントアクター [sn_smart_asmt.actor] ロールを持ちます。「スマートアセスメントエンジン でのロール」を参照してください。
共同アセスメント	複数の貢献者がいる可能性があるアセスメント。 **注:** これを機能させるには、「スマートアセスメントのコラボレーション機能」プラグインをインストールする必要があります。
プライマリ査定人 (共同作業に必要)	共同アセスメントのアセスメントオーナー。
要求者	査定人からの質問が送られる連絡先であるユーザー。生成された各アセスメントには、連絡先情報が含まれます。
期日	アセスメントに表示される期日。 この設定は、[期間] 設定およびテンプレートの [期間] 設定よりも優先されます。
期間	アセスメントの期日を算出するために使用される、アセスメントがトリガーされた日からの期間。 この設定は、テンプレートの [期間] 設定よりも優先されます。
重複の処理	重複するアセスメントが存在する場合に実行するアクション。 **注:** 同じテンプレート、スコープアイテム、グループ、または査定人を持つオープン中の別のアセスメントがある場合、アセスメントは重複であると見なされます。 • 重複アセスメントを作成しない • 重複アセスメントを作成する • 新しいアセスメントを作成して既存のアセスメントをキャンセルする アセスメントを作成し、既存のアセスメントのステータスを [キャンセル] に変更します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[スマートアセスメントのトリガー **(Trigger Smart Assessment)**] アクションフォーム (続く)

フィールド	説明
アセスメントグループ	生成されたアセスメントが関連付けられているアセスメントグループ。 **注:** 選択するアセスメントグループは、ステータスがオープンであり、使用しているものと同じアセスメントテンプレートにリンクされているアセスメントを含んでいる必要があります。 アセスメントグループを選択すると、グループがオープンであるかクローズ済みであるかがシステムによって確認されます。 • オープン：システムはまず、同じアセスメントテンプレートにリンクされているアセスメントが既存のグループに 1 つ以上含まれていることを検証します。存在する場合、生成されたアセスメントは既存のグループに追加されます。 • クローズ済み：アセスメントを既存のグループに追加することはできません。 **注:** アセスメントグループを選択しない場合、生成されたすべてのアセスメントは新たに作成されたグループにグループ化されます。
スコープ	生成されたアセスメントが適用されるすべてのスコープアイテムのリスト。 各スコープアイテムには、テーブルとレコードの 2 つのキーがあります。 テンプレートレベルで構成されたコンテキストアイテムごとに、対応するスコープアイテムを設定する必要があります。たとえば、テンプレートのコンテキストアイテムにコントロール [sn_compliance_control] やエンティティ [sn_grc_profile] などのテーブルが含まれている場合、少なくとも 2 つのスコープアイテムを構成する必要があります。1 つはテーブル：エンティティ [sn_grc_profile]、レコード：[profile_record_id] を使い、もう 1 つはテーブル：コントロール [sn_compliance_control]、レコード：[control_record_id] を使います。 アセスメントの対象となるテーブルレコードは、アセスメントスコープとも呼ばれます。複

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[スマートアセスメントのトリガー **(Trigger Smart Assessment)**] アクションフォーム (続く)

フィールド	説明
	数のスコープアイテムを追加できますが、同じテーブルから追加することはできません。

従来のメトリクスタイプをテンプレートのセクションに移行する方法

従来のメトリクスタイプは、スマートアセスメントエンジン アプリケーションのアセスメントテンプレートの特定のセクションに移行されます。

メトリクスタイプのマッピング方法

このテーブルは、既存のメトリクスタイプをアセスメントテンプレートのセクションに移動させるために使用するマッピングを示しています。

アセスメントタイプ用のメトリクスタイプ

既存のメトリクスタイプ	マップ先：
名前 (翻訳されたテキスト) (最大長 255)	アセスメントテンプレートテーブルの [名前] (翻訳されたテキスト) フィールド。
説明 (翻訳されたテキスト) (最大長 1000)	アセスメントテンプレートテーブルの [説明] (翻訳された html) フィールド。
テーブル (テーブル名)	コンテキストアイテムテーブルの [テーブル] (テーブル名) フィールド。

メトリクスカテゴリのマッピング方法

このテーブルは、既存のメトリクスカテゴリをアセスメントテンプレートのセクションテーブルに移動させるために使用するマッピングを示しています。

メトリクスカテゴリは セクションテーブルにマッピングされます

既存のメトリクスタイプ	セクションテーブルにマッピングされます
名前 (翻訳されたテキスト) (最大長 255)	[名前] (翻訳されたテキスト) フィールド。
説明 (翻訳されたテキスト) (最大長 1000)	[説明] (翻訳されたテキスト) フィールド。
順序 (整数)	[順序] (順序インデックス) フィールド。

メトリクスのマッピング方法

このテーブルは、既存のメトリクスをアセスメントテンプレートの質問テーブルに移動させるために使用するマッピングを示しています。

メトリクスは質問テーブルにマッピングされます

既存のメトリクスタイプ	質問テーブルにマッピングされます
追加情報を許可 (True/False)	[理由を有効にする **(Enable justification)**] (True/False) フィールド。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メトリクスは質問テーブルにマッピングされます (続く)

既存のメトリクスタイプ	質問テーブルにマッピングされます
データタイプ (文字列) (最大長 40)	**[** データタイプ **]** フィールドの値に基づいて、適切な質問タイプの参照が質問テーブルに追加されます。データタイプは文字列です。
詳細 (翻訳された html) (最大長 8000)	[ガイダンスステートメント **(Guidance statment)]** (翻訳された html) フィールド。
質問 (翻訳されたテキスト) (最大長 512)	[ラベル] (翻訳されたテキスト) フィールド。
必須 (True/False)	[必須] (True/False) フィールド
最大 (整数)	[最大数] (10 進数) フィールド
最小 (整数)	[最小数] (10 進数) フィールド
順序 (整数)	[順序] (順序インデックス)

メトリクスタイプを質問タイプに移行する方法

移行後、すべての質問レコードはテキストデータタイプとして設定されます。

移行後、ソースメトリクスがテンプレート/数値スケールであるすべての質問レコードは、水平の応答レイアウトで設定されます。

このテーブルは、既存のメトリクスタイプをアセスメントテンプレートの質問タイプに移動させるために使用するマッピングを示しています。

メトリクスタイプマッピング

既存のメトリクスタイプ	マップ先：
添付ファイル	添付ファイル
選択肢	ドロップダウンリスト
日付	日付
日付/時刻	日付/時刻
リッカートスケール	ラジオボタン
複数選択	チェックボックス
数値スケール	ラジオボタン
参照	参照
はい/いいえ	ラジオボタン

フィールドのマッピング方法

このテーブルは、既存のフィールドをアセスメントテンプレートの質問テーブルに移動させるために使用するマッピングを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールドは質問テーブルにマッピングされます

既存のテーブルのフィールド	質問テーブルにマッピングされます
参照テーブル	[テーブル] フィールド。
条件	[フィルター条件] フィールド。

メトリクスの定義のマッピング方法

このテーブルは、既存のメトリクス定義をアセスメントテンプレートの選択肢テーブルに移動させるために使用するマッピングを示しています。

メトリクスの定義は選択肢テーブルにマッピングされます

既存のテーブルのメトリクス定義	選択肢テーブルにマッピングされます
表示	選択肢テーブルの [テキストラベル] フィールド
順序	整数データタイプは、特定のテンプレートに関連付けられている [値] フィールドのテンプレート定義レコードの同じ昇順に基づく選択肢テーブルの [順序] フィールドにマップされます。

アセスメントメトリクステンプレートのマッピング方法

[画像を許可] フィールドが False に設定されているテンプレートのみが移行されます。このテーブルではフィールドマッピングは行われません。

データタイプがテンプレートであるメトリクスは、テンプレートレベルで [画像を許可] フィールドが False に設定されている場合、ラジオボタンタイプの質問として移行されます。

アセスメントテンプレートの定義のマッピング方法

このテーブルは、既存のテンプレートをアセスメントテンプレートの選択肢テーブルに移動させるために使用するマッピングを示しています。

アセスメントテンプレートの定義は選択肢テーブルにマッピングされます

既存のテーブルのアセスメントテンプレートの定義	選択肢テーブルにマッピングされます
表示	[テキストラベル] フィールド。
値	整数データタイプは、特定のテンプレートに関連付けられている [値] フィールドのテンプレート定義レコードの同じ昇順に基づく選択肢テーブルの [順序] フィールドにマップされます。

メトリクスカテゴリをアセスメントテンプレートに移行した結果

メトリクスタイプから スマートアセスメントエンジン アセスメントテンプレートに移行されたデータは、アセスメントテンプレート移行フォームの関連リストで確認できます。

アセスメントテンプレートの移行の追跡

アセスメントテンプレート移行フォームに入力して移行プロセスを開始した後、進行状況を表示して、正常に完了したかどうか、またはエラーが発生したかどうかを確認できます。移行プロセスの

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細については、「従来のアセスメントメトリクスタイプからアセスメントテンプレートを作成する」、「従来のメトリクスタイプをアセスメントテンプレートに移行する」、および「従来のメトリクスタイプをテンプレートのセクションに移行する方法」を参照してください。

移行結果の表示

移行結果を表示するには、次に移動します: すべて > スマートアセスメントエンジン > アドミニストレーション > テンプレートの移行. アセスメントテンプレートの移行リストで、移行番号を選択します。メトリクスタイプの各移行レコードには、ATMIG というテキストで始まる一意の番号がアサインされます。フォームには、テンプレートの生成に使用された値が表示されます。関連リストには、移行されたデータのステータスと内容が表示されます。[セクションの移行] テーブルには、関連リストのフィールドの説明が表示されます。

移行の結果

次の表では、セクションの移行関連リストのフィールドを説明します。

セクションの移行関連リスト

フィールド	説明
番号	セクションの移行レコードに含まれる「ATSMIG」というテキストで始まる一意の番号。番号を使用してレコードを検索できます。
ソースメトリクスカテゴリ	メトリクスタイプの移行後にセクションから作成されるメトリクスカテゴリ。
ターゲットセクション	移行中に入力されたセクション。
移行ステータス	移行ステータス： • 完了：移行は正常に完了しました。 • エラー：移行中にエラーが発生しました。
エラーの詳細	移行が失敗したときに発生したエラーの説明。

セクションの下矢印を選択して、そのセクション内の質問のリストを表示します。次の表では、質問の移行関連リストのフィールドを説明します。

質問の移行関連リスト

フィールド	説明
番号	システムによって質問の移行レコードに割り当てられた、「ATQMIG」というテキストで始まる一意の番号。番号を使用してレコードを検索できます。
ソースメトリクス	アセスメントテンプレートの移行後に質問から作成されるメトリクス。
ターゲットの質問	移行後に作成された質問。
移行ステータス	移行ステータス：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

質問の移行関連リスト (続く)

フィールド	説明
	• 完了：移行は正常に完了しました。 • サポート対象外：元のメトリクスタイプのメトリクスは、移行のサポート対象外です。 • エラー：移行中にエラーが発生しました。
エラーの詳細	移行が失敗したときに発生したエラーの説明。

質問の下矢印を選択して、質問の応答オプションのリストを表示します。次の表では、応答オプションの移行関連リストのフィールドを説明します。

応答オプションの移行関連リスト

フィールド	説明
応答オプションの移行	
番号	システムによって回答オプションの移行レコードに割り当てられた、「ATROMIG」というテキストで始まる一意の番号。番号を使用してレコードを検索できます。
ソースメトリクスの定義	質問に対する移行されるオプションのメトリクスの定義。
ソーステンプレートの定義	ソースメトリクスのデータタイプがテンプレートの場合に自動的に入力される応答オプションからのテンプレート定義で参照されるフィールド。
ターゲット応答オプション	ソースの移行後に作成された応答オプションを表示するフィールド。
移行ステータス	移行ステータス： • 完了：移行は正常に完了しました。 • エラー：移行中にエラーが発生しました。
エラーの詳細	移行が失敗したときに発生したエラーの説明。

関連情報

従来のメトリクスタイプをテンプレートのセクションに移行する方法

スマートアセスメントエンジン のフォームフィールドの情報

スマートアセスメントエンジン で使用されるフォームのフィールド情報。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントテンプレートの作成フォーム

[アセスメントテンプレートを作成] フォームのフィールドについて説明します。このフォームを使用して、新しいアセスメントテンプレートを作成します。

アセスメントテンプレートの作成フォーム

フィールド	説明
テンプレート名	テンプレートの一意でわかりやすい名前。
アセスメント名	テキストを追加アイコン T+ これには、生成されたアセスメントのオプションの代替名が含まれます。回答者には、テンプレート名ではなくこの名前が表示されます。
説明	他のユーザーがテンプレートの使用目的を理解するのに役立つテキスト。
目的	新しいアセスメントテンプレートがメンバーになる目的。たとえば、リスク、パフォーマンス、セキュリティ、個人データなどです。 テンプレートの目的 テンプレートのデータ分離を強制します。目的は、テンプレートを表示できるユーザーを制御します。各アセスメントテンプレートは目的に関連付けられています。特定の目的のテンプレートを表示するには、その目的に関連付けられたカテゴリロールが必要です。 詳細については、「アセスメントテンプレートカテゴリを作成する」を参照してください。 **注:** 公開されたアセスメントテンプレートからのみアセスメントを作成できます。公開済みテンプレートを更新できるのは、テンプレートに関連付けられているアクティブなアセスメントがない場合のみです。
アセスメントターゲット	アセスメントの対象として選択されたテーブルレコード (アセスメントスコープとも呼ばれます)。複数のテーブルをアセスメントターゲットとして追加できるので、スコープは各テーブルのレコードの組み合わせになります。

サードパーティリスク管理

ServiceNow® GRC：サードパーティリスク管理(TPRM) アプリケーションを使用すると、サードパーティとの関係に関連するリスクを積極的に特定、アセスメント、軽減できます。TPRM はサードパーティのポートフォリオの管理、リスクの評価とスコアリング、修正の実行のための一元的なプロセスを提供します。

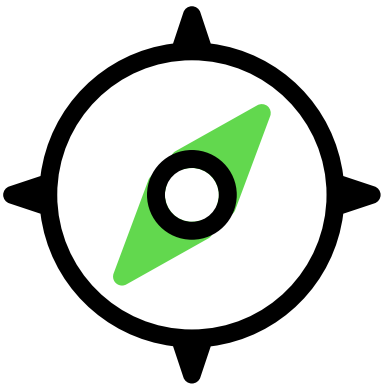
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

開始

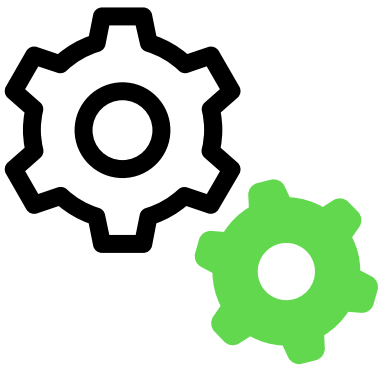
ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリの累積リリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

探索



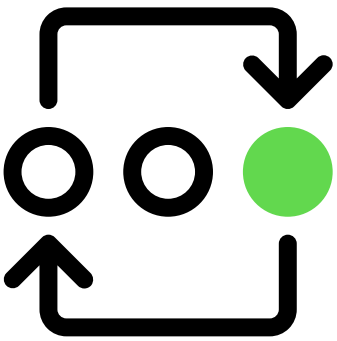
サードパーティリスクマネージャー、サードパーティリスクユーザー、およびサードパーティリスクアドミニストレーターが サードパーティリスク管理 アプリケーションを使用する方法について説明します。

構成



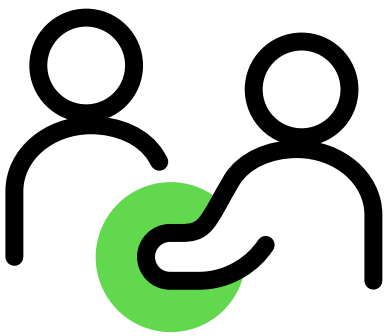
ServiceNow Store からアプリケーションをダウンロードし、ニーズに合わせて設定を構成することで、 TPRM をアクティブ化またはアップグレードできます。

統合



他のアプリケーションと統合することで、 TPRM 機能を拡張します。

サードパーティリスクデューデリジェンスを要求



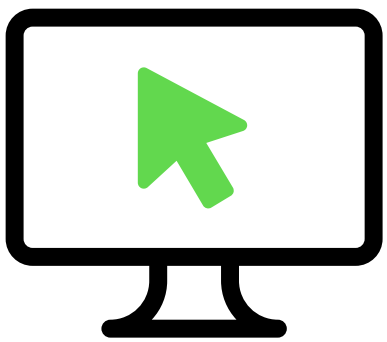
サードパーティリスクデューデリジェンスを要求して、サードパーティとのやり取りとそのエンゲージメントのリスクレベルを判断します。

サードパーティリスクのアセスメント



サードパーティとの関係に関連する潜在的なリスクを特定し、アセスメントを行うために サードパーティリスク管理 を使用します。

サードパーティリスクの監視



サードパーティとの関係に関連する潜在的なリスクを監視するために サードパーティリスク管理 アプリケーションを使用します。

自動翻訳

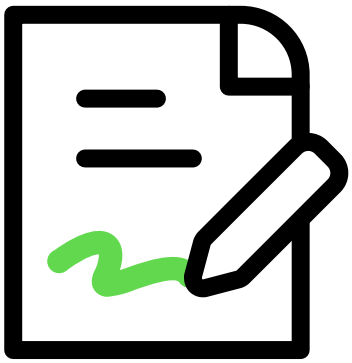
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デューデリジェンスの要求を承認または却下する



アンケートの回答とデューデリジェンスプロセスの結果を確認した後、サードパーティリスク管理 アプリケーションでデューデリジェンス要求を承認または却下するために使用するデューデリジェンス要求の承認レベルとルールをセットアップします。

契約リスクプロセスの管理



特定されたリスクに対処できるように、特定の契約条項を組み込むことにより、サードパーティリスク契約の交渉担当者として組織の利益を保護します。

VRMクラシックユーザーインターフェイスでの作業



従来のユーザーインターフェイスを使用して、すべての ベンダーリスク管理 タスクを実行します。

デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿を使用する



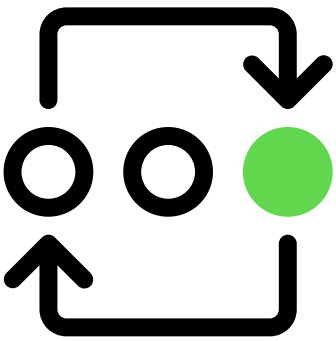
ベンダー管理ワークスペース のデジタルレジリエンスサードパーティ登録アプリケーションを使用して、ICT サードパーティサービスプロバイダーとの契約上の取り決めの登録を設定および管理します。

リスクインテリジェンスレポートの使用



外部のリスクインテリジェンスコンテンツプロバイダーからのリスクインテリジェンスレポートまたはスコアの管理および要求を行います。

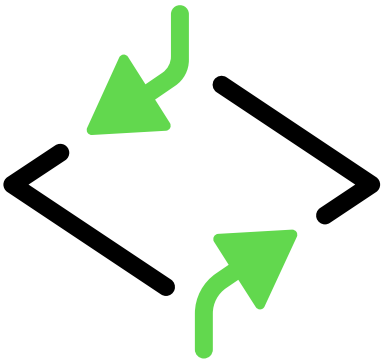
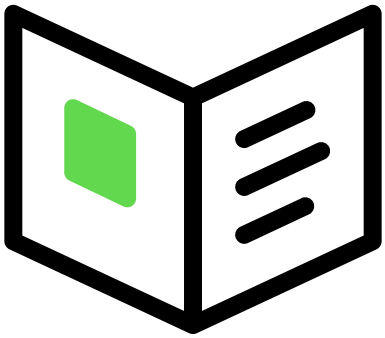
リスクインテリジェンスプロバイダーからのスコアの統合



リスクインテリジェンスプロバイダーからスコアを統合します。スコアは、特定のサードパーティがどの程度信頼でき、安全であるかについてのインサイトを提供します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティポータルの使用	参照	
		
サードパーティのポータルを使用して、アンケート、ドキュメントの要求、タスク、および問題に応答します。ポータルは、サードパーティの連絡先とリスク査定人の間のやり取りのポイントです。	参照トピックでは、アプリと共に サードパーティリスク管理 インストールされるテーブル、プロパティ、フォーム、およびロールについて詳しく説明します。	

トラブルシューティングとヘルプの取得

- GRC コミュニティで質問や回答をする。
- 既知のエラーポータルで既知のエラー記事を検索する。
- 開発者サイトでアプリの詳しいビルド方法を確認する。
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート.

サードパーティリスク管理 の探索

サードパーティリスク管理 アプリケーションは、サードパーティリスク管理プログラムのプロセス、調達資料、責任者、およびメソッドを一元化して標準化します。サードパーティのポートフォリオを管理し、サードパーティに関して発生する問題を特定、追跡、軽減することで、業務を改善できます。

サードパーティリスク管理 の概要

組織の資産、評判、および運用を保護するために、サードパーティリスク管理プログラムは、外部関係者に関連するリスクを特定、評価、および軽減する必要があります。TPRM アプリケーションは、アウトソーシングプロバイダー、パートナー、およびサプライヤーがビジネスの中断やビジネスパフォーマンスへの悪影響を発生させるのを防ぐのに役立ちます。TPRM アプリケーションを使用することで、自動化によってリスクアセスメントプロセスの手作業による負担とコストを削減できます。

TPRM は、すべてのサードパーティリスク情報を 1 つの環境にまとめます。

次の主要な機能により、より効果的なリスクアセスメントを行うことができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- オンボーディング、オフボーディング、更新、および追加のデューデリジェンスワークフロー
- アセスメント管理
- 継続的なリスク監視
- リスクパフォーマンス管理

サードパーティリスク管理 ユーザー

ユーザー

ユーザー	説明
デューデリジェンス要求者	要求者は、エンゲージメントのオンボーディング、再評価、または退職に関心のある組織の従業員であれば誰でもかまいません。 さまざまなタイプのデューデリジェンス要求の詳細については、「サードパーティリスクデューデリジェンスを要求する」を参照してください。
TPRM 査定	TPRM 査定人はリスクマネージャーのチームのメンバーであり、デューデリジェンスプロセスを通じて収集された情報をレビューすることで、潜在的なエンゲージメントのリスクの軽減を支援します。エンゲージメントに関する専門知識に基づいて、デューデリジェンス要求の所有者としてアサインされる可能性があります。 さまざまなタイプの査定人の例と、それらが TPRMのデューデリジェンスプロセスにどのように影響するかを以下に示します。 • コンプライアンスリスク査定人:エンゲージメントが業界標準、法的要件、および契約上の義務に準拠していることを確認します。コンプライアンスを確保するために、エンゲージメントのプロセスとアクティビティを定期的にレビューします。 • サイバーセキュリティリスク査定人:データ侵害やサイバー脅威から保護するためのサイ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーザー (続く)

ユーザー	説明
	バーセキュリティプラクティスとエンゲージメントのインフラストラクチャを評価します。彼らは定期的にエンゲージメントのセキュリティ対策を見直し、必要な強化を提案します。 • オペレーショナルリスク査定人:事業継続性、サプライチェーンロジスティクス、サービス品質などの側面に焦点を当てて、エンゲージメントの既存の運用プラクティスを分析します。エンゲージメントの運用プラクティスを定期的にレビューして、組織の基準に沿っていることを確認し、潜在的な中断に備えて適切な不測の事態が実施されていることを確認します。
TPRM 承認	TPRM 承認者は通常、組織内の上級メンバーです。デューデリジェンス結果の最終レビューと承認を担当します。エンゲージメントのオンボーディング、継続、オフボーディングのいずれを含むかにかかわらず、サードパーティエンゲージメントを進める前に、すべてのリスク管理要件が十分に対処されていることを確認するのに役立ちます。 さまざまなタイプの承認者の例を次に示します。 • シニアリスクマネージャー:リスク管理戦略と組織の目標との整合性を監督します。 • 最高コンプライアンス責任者:会社が法的基準と内部ポリシーを遵守する責任があります。 • 法務担当役員:すべての契約上および規制上の要件が満たされていることを確認する法務チームの上級メンバー。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーザー (続く)

ユーザー	説明
契約交渉者	契約交渉担当者は、組織と潜在的なエンゲージメントとの間の契約を調整し、最終決定します。デューデリジェンスプロセスを通じて収集されたすべての情報を使用して、すべての契約に戦略的利益が反映され、リスク管理プロトコルに準拠していることを確認します。
リスクマネージャー	リスクマネージャーは、サードパーティとエンゲージメントの徹底的なリスクアセスメントを主導します。リスクマネージャーとそのチームによって収集およびレビューされた情報に基づいて、リスクに優先順位を付け、軽減戦略を策定し、 TPRM を使用して進行中のサードパーティ関係を効果的に監視および管理します。
TPRM アドミン	アドミニストレーターは、ユーザーロール、権限、およびシステム設定を管理して、組織固有のリスク管理のニーズとコンプライアンス要件を満たす TPRM を設定します。

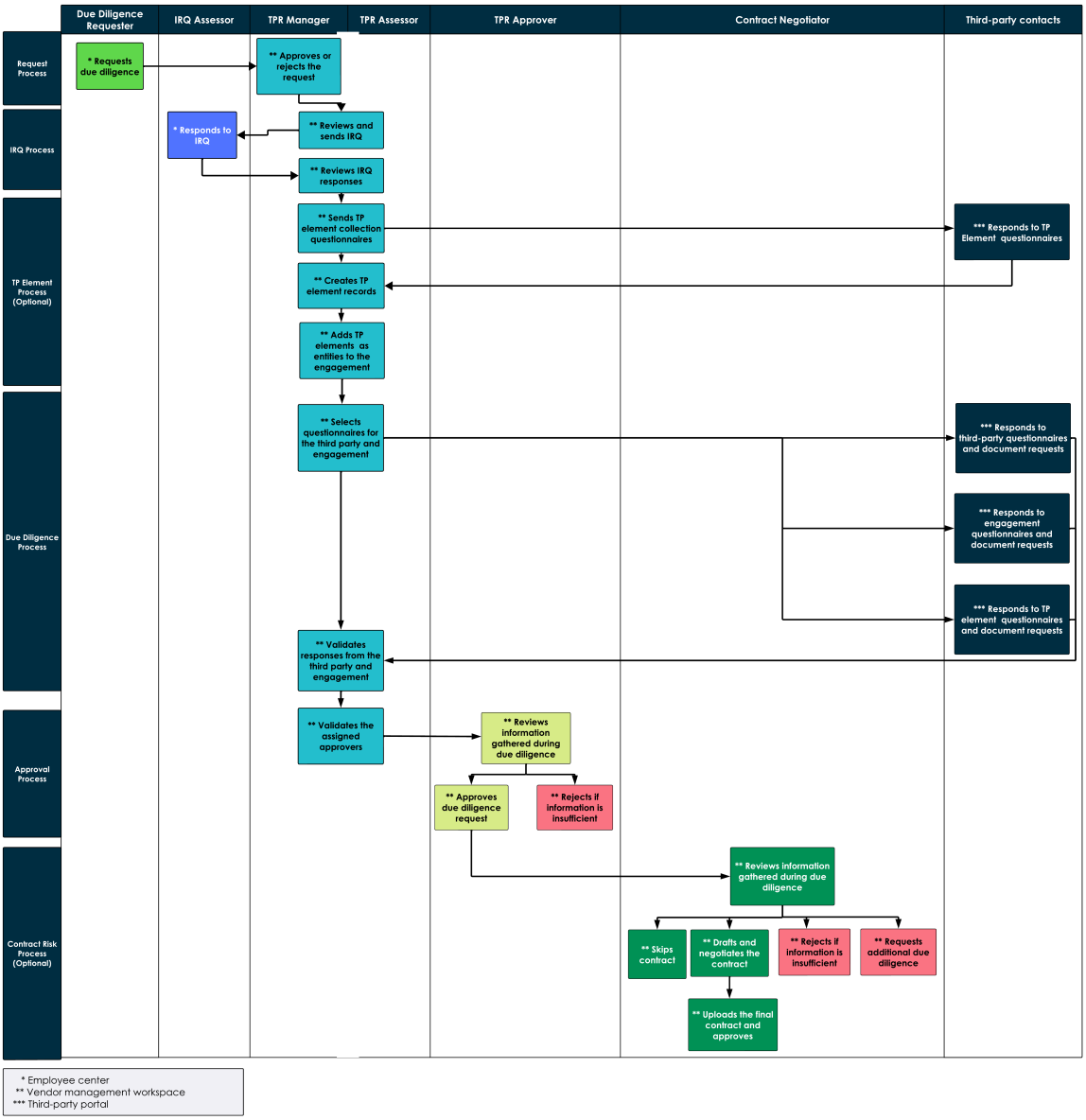
TPRMのロールに関する詳細については、「サードパーティリスク管理 でのロール」を参照してください。

サードパーティリスク管理 のワークフロー

次のインフォグラフィックは、リスク管理に使用できる最も重要なプロセスのワークフローを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



エンゲージメントのデューデリジェンスを要求する

組織の従業員がサードパーティエンゲージメントのデューデリジェンスを要求します。デューデリジェンス要求は、サードパーティリスク (TPR) マネージャー [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager] によってレビューおよび承認されます。

詳細については、「サードパーティリスクデューデリジェンスを要求する」を参照してください。

固有のリスクに関するアンケート (IRQ) を含む内部アセスメントを使用してリスクを評価します

IRQ は、サードパーティまたはエンゲージメントに必要なデューデリジェンスをスコアリングし、範囲を設定する一連の質問です。デューデリジェンス要求のオーナーとしてアサインされた TPR マネージャーまたは TPR 査定人 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor] によってデューデリジェンス要求が承認された後、IRQ を選択して内部アセスメントに添付します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> IRQ プロセスが IRQ 対応中ステータスになったら、デューデリジェンス要求に関連付けられたリスクインテリジェンスレポートを要求できます。詳細については、「リスクインテリジェンスレポートとスコアの使用」と「デューデリジェンス要求に関連付けられたリスクインテリジェンスレポートを要求する」を参照してください。

詳細については、「サードパーティリスクのアセスメント」を参照してください。

サードパーティ要素とそのエンティティの作成

デューデリジェンス要求の IRQ プロセスが完了した後、TP 要素が必要な場合、TPR マネージャーまたはデューデリジェンス要求の所有者は [収集の開始] を選択し、収集タスクが作成されます。サードパーティ要素アンケートがエンゲージメント連絡先に送信されます。TPR マネージャーまたは所有者は、応答に基づいてサードパーティ要素レコードを手動で作成します。エンティティレコードは、要素ごとに自動的に生成されます。TPR マネージャーまたは所有者は、これらの要素をエンティティとして手動で追加します。

詳細については、「サードパーティリスクのアセスメント」と「サードパーティ要素の監視」を参照してください。

外部アセスメントを使用してリスクを評価する

IRQ プロセスまたは TP 要素収集プロセスが完了した後、TPR マネージャーまたは所有者は、サードパーティまたはエンゲージメントに送信するために外部アセスメントに添付する文書のアンケートと要求を選択します。アセスメントの作成の詳細については、「 外部アセスメントを作成 と サードパーティのリスクアセスメントフォーム」を参照してください。

このプロセスの詳細については、「 サードパーティリスクのアセスメント と サードパーティ要素の監視」を参照してください。

> **注:**
> 統合されたリスクインテリジェンスがある場合は、この時点で関連情報がプルされます。

リスクインテリジェンスプロバイダーを使用してスコアを統合

組織は、個人のクレジットスコアに類似したデータを返すプロバイダーからサービスを購入できます。スコアは、特定のサードパーティがどの程度信頼でき、安全であるかについてのインサイトを提供します。

詳細については、「リスクインテリジェンスプロバイダーからのスコアの統合」を参照してください。

リスクインテリジェンスレポートとスコアの要求

TPR 査定人であり、デューデリジェンス要求の所有者であるか、TPR マネージャーロールを持っている場合は、 TPRM アプリケーションのリスクインテリジェンス要求フォームを使用して、サードパーティのスコアまたはレポートを要求できます。リスクインテリジェンスプロバイダーによってレポートとスコアが生成された後、これらのレポートへのリンクが配信され、そのリスクインテリジェンスレポートレコードに関連付けられます。統合されたリスクインテリジェンスがある場合は、この時点で関連情報がプルされます。詳細については、「リスクインテリジェンスレポートとスコアの使用」を参照してください。

スコアと関連情報の表示

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

収集された情報はスコアリングされ、デューデリジェンスプロセスの単一のビューに結合されて、すべてのスコア、完了したアンケート、問題、承認、およびコメントが表示されます。

スコアリングの詳細については、「 従来のアセスメントエンジンを使用したスコア計算 と 従来のアセスメントエンジンを使用したスコア計算の検証」を参照してください。アセスメントおよびアンケートレベルでスコアリングを構成する方法については、クラシックアセスメントの構成 を参照してください。

デューデリジェンス要求の承認

すべての承認者は、承認を行う前にデューデリジェンスを確認し、詳細情報を確認できます。すべての承認者がデューデリジェンス要求を承認した後、契約を交渉しているユーザーがすべてのデューデリジェンス情報を利用できます。契約リスクプロセスは、契約が必要な場合にのみ適用されます。

詳細については、「デューデリジェンスの要求の承認または却下」を参照してください。

契約の交渉

契約交渉者がすべてのスコアとアンケートの詳細情報を表示できます。追加のデューデリジェンスが必要な場合は、契約交渉者がそれを要求できます。契約交渉者がサードパーティとの契約を正常に履行した場合、契約をアップロードして契約が実行されることを指定できます。このアクションにより、すべての主要なステークホルダーに契約のステータスが自動的に通知されます。契約交渉担当者は、契約リスクプロセスをスキップしたり、デューデリジェンス要求を拒否したり、契約が実行されていないことやサードパーティがビジネスに関与していないことを指定したりすることもできます。

> **注:**
> サードパーティリスクマネージャーまたはオーナーがデューデリジェンスプロセス中に [契約リスクプロセスをスキップ] オプションを選択した場合、アサインされた契約交渉担当者には通知されず、契約リスクプロセスのステータスはスキップされます。承認者とオーナーは、承認プロセスが完了するまで [契約リスクプロセスをスキップ] の選択を更新できます。このプロセスの詳細については、「デューデリジェンス要求プロセス管理」を参照してください。

プロセスの詳細については、「契約リスクプロセスの管理」を参照してください。

サードパーティリスクの監視

TPR マネージャー、TPR 査定人、およびサードパーティアセスメントレビュー担当者 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessment_reviewer] は、 ベンダー管理ワークスペースを使用してサードパーティのパフォーマンスを監視およびレビューできます。

詳細については、「サードパーティリスクの監視」を参照してください。

サードパーティポータルの管理

TPR マネージャーは、ログインの作成、ロールのアサイン、サードパーティポータルを介したアンケートやタスクの進捗状況の追跡など、サードパーティの連絡先を管理できます。サードパーティの連絡先は、ポータルを使用してアセスメントへの回答、タスクの委任、およびそれらの情報の管理を行うことができます。また、回答に Microsoft Excel テンプレートまたは SIG Questionnaire を使用するオプションもあります。

詳細については、「契約リスクプロセスの管理」を参照してください。

TPRMデューデリジェンスワークフローの詳細については、「デューデリジェンスワークフロー」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
サードパーティリスク管理アプリケーションのバージョン 19.1.x 以降、階層アンケートと外部アセスメントリマインダーワークフローは廃止され、 ワークフロースタジオに移行されました。これらのワークフローをカスタマイズした場合、この変更の一部として廃止されたり移行されたりすることはありません。

サードパーティリスク管理 のメリット

次の表で サードパーティリスク管理アプリケーションの利点を紹介します。

メリット	機能	ユーザー
重要なリスク情報を表示し、アクションにすばやくアクセスします。	TPRM ホームページへ。	TPRM 人の全ユーザー
デューデリジェンス管理レポートを使用して、責任の追跡、優先順位付け、および管理を行います。	TPRM デューデリジェンス管理レポート	TPRM 人の全ユーザー
サードパーティとの関係に関連付けられている潜在的なリスクを特定してアセスメントを行います。	TPRM リスクアクティビティページ	TPRM 人の全ユーザー
アクティブなサードパーティとエンゲージメントの地理的な場所が正確に示されます。フィルターを設定して、特定のリスク評価とエンゲージメントタイプを表示できます。	TPRM リスク集中マップ	TPRM 人の全ユーザー
注意が必要なアセスメント、問題、およびタスクに優先順位を付けます。	TPRM リスクアクティビティページ	TPRM 人の全ユーザー
自分とグループのメンバーにアサインされたタスクにアクセスできます。	TPRM タスクページ	TPRM 人の全ユーザー
TPRM で表示または操作できるすべてのアイテムにアクセスできます。	TPRM リストページ	TPRM 人の全ユーザー
エンゲージメントページを使用して、サードパーティまたはエンゲージメントに関する現在のすべての情報やステータスにアクセスします。	サードパーティの概要を取得	すべての内部ユーザー
他のシステム (Aravo プラットフォーム、ProcessUnity プラットフォームなど) から既存のデータ (サードパーティ、エンゲージメント、アセスメント、アンケート、問題など) をインポートします。データのインポートに対して課金されることはありません。	他のシステムからの既存データのインポート	TPR マネージャーと TPR アドミニストレーター
デューデリジェンスリクエストのワークフロー内のすべてのプロセス (IRQ、外部デューデリジェンス、承認、契約リスク、クローズ済みの要求) で作業できます。	デューデリジェンス要求プロセスの監視	TPR マネージャーと TPR アドミニストレーター
サードパーティポータルをサードパーティとリスク査定人がやり取りする主要なポイントとして使用します。	サードパーティポータルの管理	TPR マネージャー、TPR 査定人、およびサードパーティ

TPRMで使用される用語の詳細については、「用語」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次に探索する内容

サードパーティリスク管理を構成して使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- サードパーティリスク管理の構成
- クラシックアセスメントの構成
- スマートアセスメント構成
- サードパーティリスクデューデリジェンスを要求する
- サードパーティリスクのアセスメント
- サードパーティリスクの監視
- デューデリジェンスの要求の承認または却下
- 契約リスクプロセスの管理
- VRM Classic ユーザーインターフェイスでの作業
- デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿の使用
- サードパーティポータルの管理
- リスクインテリジェンスレポートとスコアの使用
- リスクインテリジェンスプロバイダーからのスコアの統合
- サードパーティリスク管理の参照

関連情報

でのスマートアセスメント サードパーティリスク管理

リスクプロファイル

リスクプロファイル は、特定のサードパーティに関連付けられている潜在的なリスクの包括的なアセスメントです。リスクプロファイルを生成するには、サードパーティの運用、プラクティス、および関係のいくつかの側面を評価して文書化します。目的は、それらが組織にもたらす可能性のあるリスクのレベルを理解することです。

リスクプロファイルを使用すると、サードパーティに関連するリスクの関与、監視、および軽減について、情報に基づいた意思決定を行うことができます。サードパーティとの関係をリスク許容度および戦略的目標に合わせるために、懸念事項領域を特定し、リスク軽減戦略を実装し、継続的な監視プロセスを確立します。

リスクに優先順位を付けて効果的に管理するために、多くのリスク要因にスコアまたは評価を付けて、それらを集計してサードパーティの全体的なリスクアセスメントを生成します。TPRM ホームページにリスクプロファイル情報を表示します。

サードパーティのリスクプロファイルのコンポーネント

サードパーティ情報

名前、場所、連絡先情報、サイズ、所有権構造などの基本的な詳細。

複合リスク評価

- IRQ 結果
- 外部アセスメント評価
- エンゲージメント評価
- リスクインテリジェンス評価

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクドメイン

- 財務の安定性：契約上の義務を履行する能力を評価するための、サードパーティの財務健全性のアセスメント。収益、収益性、負債レベルなどの要素が含まれます。
- オペレーショナルリスク：製品またはサービスを一貫して確実に提供する能力を含む、サードパーティのビジネスオペレーションおよびプロセスの評価。
- コンプライアンスおよび法務リスク：関連する法律、規制、および業界標準に対するサードパーティのコンプライアンスのレビュー。これには、データ保護、セキュリティ、倫理基準への準拠のアセスメントが含まれる場合があります。
- サイバーセキュリティリスク：機密情報を保護する能力を判断するための、サードパーティのサイバーセキュリティ対策とデータ保護対策の評価。
- 地政学的リスク：自国の政治的安定性や規制の変更など、サードパーティの事業に影響を与える可能性のある地政学的要因の分析。
- 評判リスク：組織のブランドに影響を与える可能性のある過去のインシデントや論争を含む、業界におけるサードパーティの評判の考慮。
- 事業継続性リスク：中断または災害が発生した場合に運用を維持するためのサードパーティの計画と機能の評価。

リスクインテリジェンス

リスクインテリジェンスプロバイダーは、さまざまなサードパーティリスクドメインのリスクスコアを生成します。組織は、個人のクレジットスコアに類似したデータを返すプロバイダーからサービスを購入できます。スコアは、特定のサードパーティがどの程度信頼でき、安全であるかについての洞察を提供します。

デューデリジェンスを実施する理由

サードパーティに対してデューデリジェンスを実施することは、包括的なサードパーティリスクプログラムの重要なコンポーネントです。デューデリジェンスを実施してサードパーティに関連するリスクを認識し、関係を形成する方法を安心して決定できるようにします。

サードパーティリスク管理は、外部関係者によって導入されたリスクの評価と管理に重点を置いています。これには、サイバーセキュリティリスク、データプライバシーコンプライアンス、財務の安定性、規制コンプライアンス、エンゲージメントに関連する運用のレジリエンスなどの要素の評価が含まれます。デューデリジェンス (事業関係リスクの調査または精査) を実施し、情報に基づいた意思決定を行い、適切なコントロールを確立し、サードパーティとの関与による潜在的な悪影響を軽減します。

デューデリジェンスの目標

規制への準拠

企業は多くの場合、サードパーティに対してデューデリジェンスの実施を義務付けるさまざまな規制や法的要件の対象となっています。これらの規制は、マネーロンダリング、汚職、詐欺、その他の形態の財務上の不正行為などの違法行為を防止することを目的としています。デューデリジェンスを実行することで、コンプライアンスとリスク軽減へのコミットメントを実証できます。「サードパーティリスクに影響する規制」を参照してください。

評判を保護する

サードパーティとの関わりは、会社の評判に直接影響を与える可能性があります。デューデリジェンスを実施することで、ブランドイメージや一般の認識を損なう可能性のある否定的な関連性やアクティビティを明らかにすることができます。これにより、エンゲージメントを続行するか、適切な緩和アクションを実行するかについて、情報に基づいた意思決定を行うことができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

運用中断に対する保護

サプライヤー、サービスプロバイダーなどのサードパーティまたはパートナーは、組織の運用において重要な役割を果たします。パフォーマンスの低下、財務の不安定性、またはサードパーティとのその他の問題は、運用やサプライチェーンを混乱させ、遅延、品質の問題やその他の問題につながる可能性があります。デューデリジェンスは、サードパーティの信頼性と機能を評価し、運用中断のリスクを軽減するのに役立ちます。

機密情報を保護する

顧客データ、知的財産、企業秘密などの機密情報をサードパーティと共有する可能性があります。デューデリジェンスは、サードパーティのデータセキュリティ対策、プライバシー慣行、および機密情報を保護するための全体的なコミットメントを評価するのに役立ちます。これは、データの完全性を維持し、侵害や不正な開示を防ぐうえで重要です。

財務リスクを軽減

財務的に不安定なサードパーティと関わることは、重大な財務リスクをもたらす可能性があります。デューデリジェンスは、潜在的なパートナーまたはサードパーティの財務健全性、信用力、および支払履歴を評価するのに役立ちます。サードパーティに関連する財務リスクを評価し、財務の安定性と実績に基づいて情報に基づいた意思決定を行うことができます。

内部ポリシーに準拠

サードパーティと関与するための基準を決定する内部ポリシーと標準がある場合があります。デューデリジェンスは、潜在的なサードパーティが、持続可能性プラクティス、多様性と包含の要件、倫理的ガイドラインなどのポリシーに準拠していることを確認するのに役立ちます。

関連情報

デューデリジェンスのタイプ

デューデリジェンスのタイプ

デューデリジェンスプロセスでは、通常、いくつかのタイプのデューデリジェンスを実施して、関連情報を収集し、サードパーティのさまざまな側面を評価します。実施する特定のタイプのデューデリジェンスは、エンゲージメントの性質と重要度、および関連するリスクによって異なります。

情報セキュリティデューデリジェンス

情報セキュリティデューデリジェンスは重要です。これには、サードパーティのデータ保護プラクティス、サイバーセキュリティ対策、および情報処理プロセスの評価が含まれます。これには、データセキュリティポリシー、インシデント応答機能、暗号化プラクティス、およびデータ保護に関する従業員トレーニングの評価が含まれます。目的は、機密情報を保護し、データ違反や不正アクセスのリスクを軽減することです。

財務デューデリジェンス

財務デューデリジェンスでは、サードパーティの財務健全性と安定性を評価します。これには、財務諸表のレビュー、収益性、流動性、負債レベル、キャッシュフロー、およびその他の財務インジケーターの分析が含まれます。目標は、サードパーティの財務的な実行可能性を理解し、義務を履行する能力があるよう支援を行うことです。

法的デューデリジェンス

法務デューデリジェンスでは、サードパーティの法務および規制コンプライアンスを調査します。これには、契約、合意、ライセンス、許可、および法務ドキュメントのレビューが含まれます。目的は、組織の利益に影響を与える可能性のある法的リスク、法的責任、進行中の訴訟、または規制違反を特定することです。

運用デューデリジェンス

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

運用デューデリジェンスは、サードパーティの運用機能とプロセスの評価に重点を置いています。これには、組織の要件を満たすためのインフラストラクチャ、施設、サプライチェーン、生産プロセス、品質コントロール、およびキャパシティの評価が含まれます。目標は、サードパーティが目的の製品またはサービスを効果的に提供できるよう支援することです。

コンプライアンスデューデリジェンス

コンプライアンスデューデリジェンスでは、サードパーティが適用される法律、規制、および業界標準を遵守していることを確認します。これには、腐敗防止、データプライバシー、情報セキュリティ、環境慣行、労働基準などの分野に関連するコンプライアンスプログラム、ポリシー、および手順の評価が含まれます。目的は、組織の法務または評判の問題につながる可能性のあるコンプライアンスのギャップまたはリスクを特定することです。

評判デューデリジェンス

評判デューデリジェンスは、サードパーティの評判、完全性、および過去のパフォーマンスの評価に重点を置いています。これには、経歴チェックの実施、参考文献のレビュー、ニュースやメディア報道の検索、過去の論争や倫理的問題の評価が含まれます。その目的は、サードパーティの評判を高め、組織の価値観や期待に沿うよう支援することです。

単一のサードパーティと複数のエンゲージメントを行う可能性がある理由

特定のサードパーティのオンボーディング中に、サードパーティとの異なるタイプの関係ごとに個別のエンゲージメントを実施する場合があります。サードパーティによる組織のソフトウェア開発に関連するリスクを評価するためのエンゲージメントや、サードパーティが提供する施設管理サービスの別のエンゲージメントがあります。

同じサードパーティのさまざまなエンゲージメントでは、さまざまなレベルのリスクアセスメントが必要になる場合があります

注:
エンゲージメント要求が承認された後の最初の内部ステップでは、IRQ プロセスを開始し、サードパーティのリスクスコアを決定することでリスクの範囲を設定します。 エンゲージメントは [非アクティブ] ステータスで開始されます。契約が締結されている場合、またはサードパーティとのアクティブな関係に参加している場合、エンゲージメントは [アクティブ] ステータスに移行します。

提供されるサービスの性質、機密データや重要なシステムへのアクセスレベル、および組織のインフラストラクチャへの潜在的な影響が異なるため、同じサードパーティのさまざまなエンゲージメントに対して異なるレベルのリスクアセスメントが必要になる場合があります。エンゲージメントごとに個別のリスクアセスメントを実施することで、リスク管理戦略とコントロールを調整して、各エンゲージメントに関連するリスクに効果的に対処できます。

例：サードパーティが **2** つの異なるサービスを提供します

この例では、組織は次の 2 つの異なるサービスについてサードパーティと連携します。

サービス：ソフトウェア開発エンゲージメント

サードパーティは、金融機関向けのカスタムソフトウェアアプリケーションの開発を担当します。このエンゲージメントでは、サードパーティが顧客の機密データにアクセスして処理し、重要なシステムと統合し、組織のインフラストラクチャに変更を導入する可能性があります。

サービス：施設管理

このサードパーティは、金融機関のオフィスビルの物理的なセキュリティとメンテナンスの管理も担当します。このエンゲージメントには、セキュリティ担当者の提供、アク

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

セスコントロールシステムの管理、施設の全体的な安全性とメンテナンスの確認が含まれます。

サービスにはさまざまなリスクプロファイルがあり、個別のリスクアセスメントエンゲージメントが必要です。

ソフトウェア開発サービスのエンゲージメント

このエンゲージメントには、次の要因により、より高いレベルのリスクが関係しています。

- 機密データへのアクセス：サードパーティは顧客データにアクセスでき、これには、不正アクセスやデータ侵害を防ぐために、厳格なデータ保護とプライバシーコントロールが要求されます。
- システム統合：サードパーティのソフトウェアは重要なシステムと統合する必要があり、それらのシステムの安定性、可用性、またはセキュリティに影響を与える可能性があります。システム障害や脆弱性のリスクを最小限に抑えるには、適切なテストと品質保証の手順が重要です。
- 変更管理：新しいソフトウェアを導入したり、既存のシステムを変更したりすると、互換性の問題、システムの中断、ソフトウェアの脆弱性などのリスクが発生する可能性があります。これらのリスクを軽減するには、強力な変更管理手法とコードレビュープロセスが必要です。

施設管理サービスのエンゲージメント

このエンゲージメントにも同じサードパーティが関与していますが、ソフトウェア開発エンゲージメントと比較すると、リスクプロファイルは低くなります。

- 物理的セキュリティ：ここでは、アクセス制御や監視システムなどの物理的なセキュリティ対策の管理に重点を置いています。物理セキュリティに関連するリスクは依然として重要ですが、通常、サイバーセキュリティリスクと比較してより単純で管理が容易です。
- メンテナンスと安全性：サードパーティの責任は、主に一般的なメンテナンスと安全な作業環境の推進に関連しています。建物のメンテナンスに関連するリスク (安全上の問題など) はまだありますが、ソフトウェア開発エンゲージメントにおける複雑なサイバーセキュリティリスクと比較すると、予測可能で管理しやすい可能性があります。

サードパーティとのエンゲージメントのタイプ

特定のサードパーティエンゲージメントは、業界、規模、および運用要件によって異なります。各エンゲージメントには独自のリスクセットがあり、利益を守るために適切なリスク管理手段 (デューデリジェンス) が必要です。

エンゲージメントのタイプ

すべてのサードパーティは、会社 [core_company] テーブルで「ベンダー」として分類する必要があります。

この分類の構造の詳細については、「 サードパーティリスク管理のデータモデル」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティのタイプ	説明	エンゲージメントの考えられるタイプ
広告代理店	組織に代わって広告キャンペーンを作成および実行する会社。	マーケティング戦略の開発、広告キャンペーンの作成、メディアプレースメントの管理。
関連会社/子会社	組織の企業構造の一部である関連会社または子会社。	組織のタイプによって異なります。
監査人	財務監査を実施し、財務諸表の正確性を検証するための保証サービスを提供する独立企業。	財務監査を実施し、内部コントロールアセスメントを提供し、リスク管理に関するアドバイスを提供します。
ビジネスパートナー	合弁事業、パートナーシップ、または戦略的提携において組織と協力する会社または組織。	共同マーケティングイニシアチブ、製品の共同開発、リソースの共有。
ビジネスプロセスアウトソーサー (BPO)	特定のビジネスプロセスまたは機能を担当するサードパーティプロバイダー。	カスタマーサポート、給与処理、IT ヘルプデスクサポート。
コールセンター	顧客の問い合わせ、サポート、テレマーケティングアクティビティを処理するサービスプロバイダー。	カスタマーサービスホットライン、テクニカルサポート、営業電話。
クライアント	組織のサービスを利用したり、製品を購入したりするエンティティまたは個人。	クライアントサービス
クラウドサービスプロバイダー (CSP)	クラウドベースのインフラストラクチャ、プラットフォーム、またはソフトウェアソリューションを提供する企業。	データストレージとバックアップ、クラウドコンピューティング、サービスとしてのソフトウェア (SaaS) ソリューション。
取立代行業者	組織に代わって未払いの負債または延滞金を回収するために関与するサードパーティ。	債権回収サービス、借金の取り立て、債務者との交渉。
コンサルタント	特定の分野で専門家のアドバイス、ガイダンス、およびソリューションを提供する個人または企業。	経営コンサルティング、IT コンサルティング、プロセス改善、戦略開発。
請負業者	特定のタスク、サービス、またはプロジェクトを実行するために雇用された個人または会社。	建設プロジェクト、ソフトウェア開発、マーケティングキャンペーン、イベント計画。
カウンターパーティ	組織が契約上の合意またはビジネス関係を結んでいるエンティティまたは個人。	サプライヤー契約、パートナーシップ契約、ライセンス契約。
クレジットカード処理業者	支払処理を容易にし、クレジットカードトランザクションを管理するエンティティ。	クレジットカード支払処理、不正防止、マーチャントサービス。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティのタイプ	説明	エンゲージメントの考えられるタイプ
顧客	組織から物品またはサービスを購入する個人またはエンティティ。	製品販売、サービスサブスクリプション、クライアント契約。
データセンター	デジタルデータと IT インフラストラクチャの安全なホスティング、ストレージ、および管理を提供する施設。	サーバーのコロケーション、データのバックアップと復旧、ネットワーク管理。
データプロセッサー	組織に代わって機密データを処理または処理するサードパーティ	クラウドストレージプロバイダー。
デジタルマーケティングエージェンシー	デジタルマーケティングの戦略と戦術を専門とする機関。	検索エンジン最適化 (SEO)、ソーシャルメディアマーケティング、コンテンツ作成、オンライン広告。
ディストリビューター	メーカーまたはサプライヤーに代わって製品またはサービスを配布または販売する責任を負うサードパーティ。	製品流通契約、サプライチェーン管理、販売パートナーシップ。
e コマースプラットフォーム	企業がインターネットを介して製品やサービスを顧客に直接販売できるようにするオンラインプラットフォーム。	オンラインストアのセットアップ、支払処理の統合、受注処理。
従業員福利厚生サービスプロバイダー	従業員福利厚生管理サービスを提供する会社。	健康保険の適用範囲、退職金制度、従業員ウェルネスプログラム。
エネルギープロバイダー	組織の運営に必要な電気、ガス、またはその他の形態のエネルギーを供給するエンティティ。	エネルギー供給契約、ユーティリティサービス、エネルギー管理コンサルティング。
環境コンサルタント	環境への影響、コンプライアンス、および持続可能性の問題を評価してガイダンスを提供する専門家。	環境影響度評価、規制コンプライアンスコンサルティング、持続可能性計画。
イベント管理会社	企業イベント、会議、見本市、または販促活動を計画、組織、および実施するサービスプロバイダー。	イベントの計画、会場の調整、ロジスティクス管理。
施設管理会社	物理的な施設の管理と維持を担当するサードパーティ。	セキュリティサービス、クリーニングとメンテナンス、修理とリノベーション。
ファイナンシャルアドバイザー	ファイナンシャルプラン、投資戦略、および資産管理に関するアドバイスとガイダンスを提供するプロフェッショナル。	ファイナンシャルプラン、投資ポートフォリオ管理、退職金制度。
貨物フォワーダー	物品の輸送を管理および調整するエンティティ。	貨物ロジスティクス、通関手続き、サプライチェーン管理。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティのタイプ	説明	エンゲージメントの考えられるタイプ
フランチャイズ	組織のブランドおよびビジネスモデルの下でビジネスを運営する権限を付与されたエンティティまたは個人。	フランチャイズ契約、ブランドライセンス、フランチャイズサポートサービス。
政府機関	組織がやり取りする政府機関またはエンティティ。	規制コンプライアンス、許可とライセンス、政府との契約。
ヒューマンリソース (HR) アウトソーサー	さまざまな人事機能を処理するサービスプロバイダー。	給与処理、従業員福利厚生管理、採用アウトソーシング。
保険プロバイダー/ブローカー	保険補償またはリスク管理サービスを提供する会社またはブローカー。	保険証券、リスクアセスメント、請求管理。
合弁事業パートナー	組織との合弁事業を締結する会社または組織。	共同事業開発、共有マーケティングキャンペーン、共同制作契約。
法務サービスプロバイダー	法務に関する事項に対処するために従事する法律事務所または法務サービスプロバイダー。	契約書の作成、訴訟支援、規制コンプライアンスに関するアドバイス。
マーケティングおよび広告代理店	マーケティング、広告、または広報活動に携わる外部機関またはコンサルタント。	マーケティング戦略の開発、広告キャンペーンの実施、ブランドポジショニング。
アウトソーシングプロバイダー	特定のビジネス機能またはプロセスを処理するサードパーティ。	IT アウトソーシング、財務および会計サービス、製造アウトソーシング。
規制/コンプライアンスエンティティ	政府機関、規制機関、またはコンプライアンスコンサルタント。	コンプライアンス監査、規制報告、業界認定。
リセラー/ディストリビューター	組織の製品またはサービスを配布または再販するサードパーティ。	小売パートナーシップ、流通契約、リセラーネットワーク。
研究開発パートナー	大学、研究機関、または専門の研究開発会社。	共同研究プロジェクト、テクノロジーライセンス、イノベーションパートナーシップ。
サービスプロバイダー	組織の運用をサポートするさまざまなサービスを提供する外部エンティティ。	IT サポート、施設メンテナンス、コンサルティングサービス。
ソフトウェアプロバイダー	組織の運用をサポートするソフトウェアソリューションを提供する会社。	エンタープライズソフトウェアライセンス、ソフトウェアメンテナンスおよびサポート、カスタマイズされたソフトウェアの開発。
協力会社	特定のタスクを実行するために請負会社またはベンダーが関与するサードパーティ。	下請けの建設作業、特殊なサービスの下請け、プロジェクト固有のアウトソーシング。
サプライヤー	組織の運用に必要な物品または資材を提供する外部エンティティ。	調達契約、供給契約、およびサードパーティパートナーシップ。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティのタイプ	説明	エンゲージメントの考えられるタイプ
テクノロジープロバイダー	テクノロジーソリューション、ソフトウェア、またはハードウェアを提供する会社。	IT インフラストラクチャの展開、ソフトウェアの統合、ネットワークのセットアップと管理。
電気通信プロバイダー	音声、データ、インターネット接続などの通信サービスを提供する会社。	電話およびインターネットサービス、仮想プライベートネットワーク (VPN)、ネットワークセキュリティソリューション。
テストおよび品質保証プロバイダー	ソフトウェアのテストおよび品質保証サービスを提供する会社。	ソフトウェアのテスト、品質保証アセスメント、ユーザーエクスペリエンステスト。
トレーニングおよび開発プロバイダー	トレーニングおよび開発プログラム、コース、またはワークショップを提供するエンティティ。	従業員トレーニング、リーダーシップ開発、スキルワークショップ。
輸送プロバイダー	物品または人の輸送サービスを提供するエンティティ。	貨物輸送、乗客輸送、ロジスティクスの調整。
旅行代理店	旅行の手配、予約、旅程計画を支援する会社。	企業出張管理、旅行予約サービス、グループ旅行調整。
ユーティリティプロバイダー	水道、ガス、電気などの重要なユーティリティを供給する会社。	水道、ガスサービス、配電。
ベンダー	組織の運用に必要な物品またはサービスを提供する外部エンティティ。	サプライチェーンマネジメント、調達契約、およびサードパーティパートナーシップ。
倉庫およびロジスティクスプロバイダー	倉庫、保管、およびロジスティクスサービスを提供する会社。	インベントリ管理、受注処理、配送ネットワーク管理
Web 開発およびデザインエージェンシー	Web 開発、デザイン、およびデジタルエクスペリエンスを専門とするエージェンシー。	Web サイト開発、ユーザーインターフェイス設計、e コマースプラットフォームの統合。
卸売業	物品を一括購入し、小売業者またはディストリビューターに再販するエンティティ。	卸売販売契約、サプライチェーン管理、一括購入。
人材派遣会社	一時的または派遣労働力ソリューションを提供する会社。	派遣社員、契約社員、オンデマンド労働。

サードパーティリスクに影響する規制

サードパーティリスク管理プログラムを実装するときは、規制を慎重に考慮する必要があります。適用される規制は、業界、地理的な場所、管轄、および業務の性質によって異なります。

一般的にサードパーティリスク管理プログラムに影響を与える規制

サードパーティとの関係に関連する特定の規制状況を判断するには、法務およびコンプライアンスの専門家に相談する必要があります。サードパーティリスクを評価するときに通常考慮される規制のリストは次のとおりです。

マネーロンダリング防止 (AML) およびテロ資金供与対策 (CTF) 規制

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

これらの規制は、マネーロンダリング、テロ資金供与、およびその他の不正な財務活動を防止することを目的としています。企業は、サードパーティの本人確認、資金源の評価、適用される AML および CTF の法律へのコンプライアンスの確認が求められます。

腐敗防止および贈賄防止法

米国の海外不正行為防止法 (FCPA) や英国の贈賄防止法などの規制では、贈賄や汚職を防止するための厳格な要件が企業に課されています。デューデリジェンスは、サードパーティの業務および関係における贈賄や汚職に関連する潜在的なリスクを特定するのに役立ちます。

データ保護およびプライバシー規制

データ保護とプライバシーへの関心が高まる中、欧州連合の一般データ保護規則 (GDPR) やカリフォルニア州消費者プライバシー法 (CCPA) などの規制により、企業は個人データを保護する必要があります。デューデリジェンスには、これらの規制に確実に準拠するために、サードパーティのデータ保護およびプライバシー慣行を評価することが含まれます。

制裁と通商禁止

政府は、貿易を制限し、違法行為の支援を防止するために、特定の国、個人、または団体に制裁および通商禁止を課します。企業は、サードパーティが制裁や通商禁止の対象ではなく、これらの制限に違反するアクティビティに関与していないことを確認する必要があります。

財務規制

業界に応じて、企業は、株式公開会社向けの米国企業改革法 (SOX) などの財務規制や、金融機関向けの Dodd-Frank 法などのセクター固有の規制を考慮する必要があります。これらの規制では、多くの場合、企業は財務の安定性、レポートの正確性、およびサードパーティの内部コントロールを評価する必要があります。

労働法と雇用法

企業は、最低賃金、労働時間、衛生安全、雇用機会均等に関連する規制を含め、サードパーティが労働法および雇用法に準拠していることを確認する必要があります。これにより、労働法違反や風評被害の可能性に関連するリスクを軽減できます。

環境規制

企業は、特にサードパーティが環境に影響を与えるアクティビティに関与している場合、サードパーティの環境規制へのコンプライアンスを評価する必要があります。これには、環境慣行、廃棄物管理、公害防止対策、および持続可能性基準への準拠の評価が含まれます。

サードパーティリスク管理プログラムのメリット

サードパーティリスク管理プログラムを使用すると、サードパーティとの関係に関連するリスクを積極的に特定、評価、および軽減できます。サードパーティのリスクを効果的に管理することで、全体的なレジリエンスを強化し、利益を保護して、持続可能で信頼できるビジネス関係をビルドできます。

堅牢なサードパーティリスク管理プログラムを実装する主なメリットと価値提案を以下に示します。

リスク低減および緩和

サードパーティリスク管理プログラムを使用すると、サードパーティとの関係に関連する潜在的なリスクを特定して評価できます。デューデリジェンスを実施し、アクティビティを監視して、リスク軽減戦略を実装することで、コンプライアンス違反、財務的不安定、データ侵害、風評被害、運用の中断、法的責任などのリスクの可能性と影響を軽減できます。

コンプライアンスおよび規制への準拠

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

包括的なサードパーティリスク管理プログラムは、適用される法律、規制、および業界標準に準拠するのに役立ちます。サードパーティがさまざまな規制要件に準拠していることを確認することで、コンプライアンス違反に起因する法的ペナルティ、風評被害、およびビジネスの中断を回避できます。

評判とブランド保護の強化

サードパーティと関わることは、評判とブランドにリスクをもたらします。サードパーティリスク管理プログラムを通じてこれらのリスクを積極的に管理することで、評判を保護し、ステークホルダーの信頼を維持し、倫理的なビジネス慣行と責任あるサプライチェーン管理へのコミットメントを示すことができます。

運用効率と継続性

サプライヤー、ベンダー、サービスプロバイダーなどのサードパーティは、運用において重要な役割を果たします。サードパーティのリスクを効果的に管理することで、サプライチェーンの信頼性、パフォーマンス、および継続性を検証できます。これにより、運用効率と顧客満足度に影響を与える可能性がある中断、遅延、または品質の問題の可能性が低減されます。

コスト削減と財務保護

サードパーティリスク管理プログラムを実装すると、コスト削減と財務保護につながる可能性があります。サードパーティの財務の安定性を評価することで、支払いの不履行や商品やサービスの提供の失敗の可能性がある財務的に脆弱なエンティティとの関与を回避できます。さらに、法務および規制非準拠の問題の未然に防ぐのを支援することで、多額の罰金、ペナルティ、訴訟、および関連経費を回避できます。

意思決定と情報に基づくパートナーシップの強化

適切に構成されたサードパーティリスク管理プログラムは、サードパーティに関する包括的な情報とインサイトを提供します。これにより、サードパーティを選択して関与する際の意思決定が向上し、価値、基準、およびビジネスゴールに沿ったパートナーを選択できるようになります。また、信頼と共有されたリスク認識に基づいて、より強力で信頼性の高い関係を育成するのにも役立ちます。

サイバーセキュリティとデータ保護の強化

サードパーティとの関係は、重大なサイバーセキュリティおよびデータ保護リスクをもたらす可能性があります。サードパーティリスク管理プログラムは、サードパーティのサイバーセキュリティプラクティスとデータ保護対策を評価し、データ侵害、不正アクセス、またはデータ漏洩の可能性を減らすのに役立ちます。これは、機密情報を保護し、データ保護規制へのコンプライアンスを維持するのに役立ちます。

自動翻訳

例 - サードパーティのオンボーディング

大規模な製造会社である Acme は、生産ラインに要なコンポーネントを供給するために、新しいサードパーティをオンボーディングしています。サードパーティの信頼性を確保し、潜在的なリスクを軽減するために、Acme は徹底したサードパーティリスク管理オンボーディングプロセスを開始します。

オンボーディングプロセスの例

要求プロセス

従業員 (通常、サードパーティと取引を行うユーザー) は、リスクアセスメントのデューデリジェンスプロセスを開始するビジネスケースを作成します。

サードパーティリスク (TPR) マネージャーは、エンゲージメントのデューデリジェンスの要求をレビューして承認します。

固有のリスクに関するアンケート (IRQ) プロセス

要求が承認されると、IRQ 査定人は IRQ に応答して内部アセスメントを完了します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

収集された情報に基づいて、Acme はサードパーティに関連する潜在的なリスクを評価します。財務の安定性、運用キャパシティ、品質基準への準拠、規制へのコンプライアンス、サードパーティのデリバリタイムラインを満たす能力などの要素を評価します。このアセスメントは、Acme がサードパーティのリスクプロファイルを理解し、適切なリスク軽減戦略を決定するのに役立ちます。

デューデリジェンスプロセス：コンプライアンス検証、データセキュリティ、プライバシーアセスメント

IRQ プロセスが完了すると、Acme の TPRM アプリケーションはアンケートとドキュメントの要求をサードパーティに送信します。アセスメントの一環として、複数のアンケートや文書要求を送信する場合があります。Acme はサードパーティの認定、ライセンス、またはコンプライアンスを検証するための監査レポートなどのドキュメントを要求する場合があります。

注:
この種のサードパーティにどのアンケートや文書要求を送信するかを決定するプロセスを簡素化および自動化するために、Acme のスタッフはアセスメントテンプレートを開発しました。アンケートテンプレート、文書要求テンプレート、またはその両方を定義し、それらをアセスメントテンプレートにグループ化しました。Acme はテンプレートを再利用して、今後のアセスメントにおいて、適切なアンケート、文書要求、またはその両方を同様のサードパーティに送信できます。

Acme は、サードパーティの応答と内部分析を使用して、サードパーティが必要なコンプライアンス要件をすべて満たしているかどうかを判断します。これには、環境規制、労働法、腐敗防止ポリシーなど、適用される法律および規制に対するサードパーティのコンプライアンスの検証が含まれます。

関連するコンポーネントの機密性を考慮して、Acme はサードパーティのデータセキュリティとプライバシー慣行を評価します。サードパーティの情報セキュリティ対策、データ保護ポリシー、アクセス制御、および脆弱性管理プロセスを評価します。サードパーティが Acme の専有情報または顧客データにアクセスできる場合、サードパーティに対してサイバーセキュリティ監査を受けるか、データ保護対策の証拠を提供するように要求する場合があります。

契約上の合意とリスク軽減

相手の利益を保護するために、Acme の TPR 契約交渉担当者 (多くの場合、企業顧問) は、特定されたリスクに対処するための特定の契約規定を組み込んでいます。契約交渉担当者は、IRQ およびデューデリジェンスプロセスで得られた情報を使用して、コンプライアンス、品質基準、機密性、データ保護、事業継続性、および紛争解決メカニズムに関連する条項を含めます。契約には、パフォーマンスメトリクス、期待値、および非準拠または違反が発生した場合の契約の解除条項の概要も含めることができます。

継続的な監視とレビュー

Acme は、サードパーティのパフォーマンスと合意された条件の遵守を定期的に評価するために、継続的な監視プロセスを確立します。組織の担当者が、定期的な財務レビュー、品質監査、サイト訪問、またはサーベイを手動で実行する場合があります。また、サードパーティのリスクプロファイルの懸念事項や変更に対処するためのコミュニケーションチャネルも確立します。

デューデリジェンスワークフロー

サードパーティリスク管理 (TPRM) プロセスでは、サードパーティリスク管理プログラムに一貫したフレームワークを提供します。組織のニーズに合わせてワークフロープロセスをカスタマイズできます。

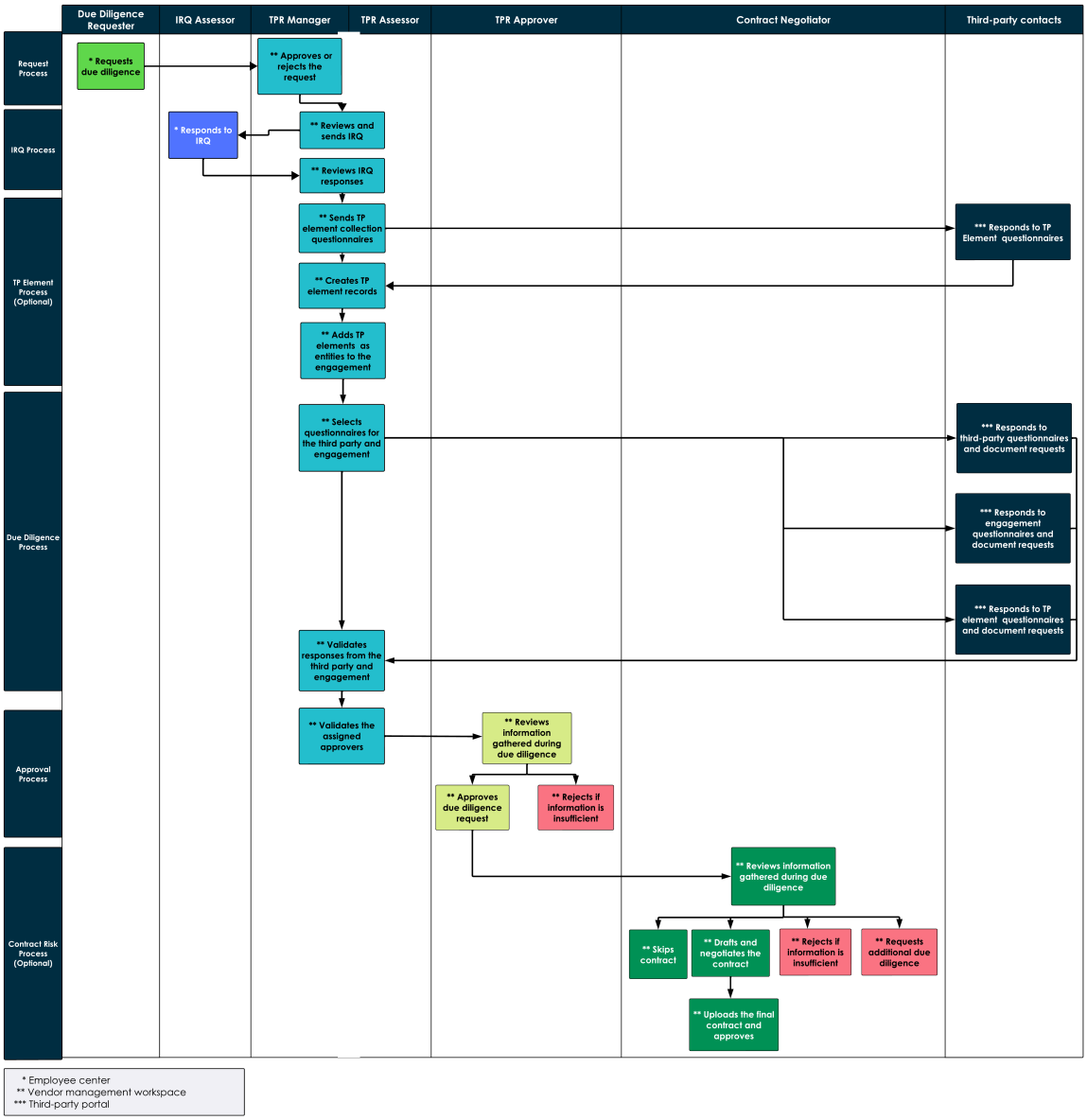
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デューデリジェンスワークフローのプロセス

プロセス内の各タスクは、次のタスクを開始する前に完了する必要があります。さまざまなタスクを実行するユーザーのロールについては、「サードパーティリスク管理 でのロール」で説明されています。次の図は、デューデリジェンスワークフローを示しています。

デューデリジェンスワークフロー



要求プロセス：新しいエンゲージメントの開始、既存エンゲージメントの再評価またはオフボーディングの要求

1. 組織の従業員がサードパーティエンゲージメントのデューデリジェンスを要求します。
   a. 従業員は、自分のインスタンスで 従業員センター にログインします。デューデリジェンス要求フォームを開き、サードパーティの名前と要求の理由を指定します。
      - 新しいエンゲージメントのオンボーディング
      - 既存エンゲージメントのリスクを再評価
      - 契約更新の準備のために既存エンゲージメントを再評価

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- エンゲージメントのオフボーディング (デューデリジェンスあり)
- エンゲージメントのオフボーディング (デューデリジェンスなし)

> **注:**
> デューデリジェンスなしでエンゲージメントをオフボーディングする場合、TP 要素の収集とデューデリジェンスプロセスは適用されません。

b. 従業員はサードパーティおよびエンゲージメントに関する詳細を提供します。この情報には、このエンゲージメントで評価される必要がある製品またはサービス、固有のリスクに関するアンケート査定人 (IRQ) に対応するユーザー、および外部アンケートに回答するサードパーティ (TP) の連絡先またはエンゲージメントの連絡先が含まれます。

c. サードパーティリスク (TPR) マネージャーがアプリケーションの構成中にリスクインテリジェンスプロバイダーのサービスを統合している可能性があるため、外部リスクインテリジェンスプロバイダーは、いつでもサードパーティのリスクデータを更新する可能性があります。

d. 従業員がフォームを送信します。

e. 要求を行った従業員にメール通知が送信されます。

f. デューデリジェンス要求アサイン先グループにメール通知が送信されます。グループのメンバーは、TPR マネージャーまたは TPR 査定人を要求オーナーとしてアサインできます。このアクションにより、TPR マネージャーのタスクがトリガーされます。

2. TPR マネージャーは、要求のスコープを設定し、必要に応じて更新してから、承認または却下します。

a. TPR マネージャーは ベンダー管理ワークスペース にログインし、[デューデリジェンス管理 (Due diligence management)] ページに移動して、要求をレビューして更新します。

- TPR マネージャーは、IRQ 査定人に提案された人物のレビューを行います。必要であれば、別の人を IRQ 査定人に指定できます。
- TPR マネージャーは、 [ディスカッション **(Discuss)]** を選択することで、要求者および他のユーザーとのディスカッションを開始できます。メッセージは、[詳細] タブの [アクティビティ] セクションに記録されます。

b. TPR マネージャーは、要求を却下または承認します。TPR マネージャーが要求を受け入れると、IRQ プロセスが開始されます。

> **注:**
> TPR 査定人は、定期的なサードパーティアセスメントを作成して、定期的にリスクを再評価できます。詳細については、「スケジュールで繰り返すようにリスクアセスメントを構成する」と「イベント駆動型管理 — アセスメントプロセスの自動化」を参照してください。

IRQ プロセス：リスクをスコープ

1. TPR マネージャーは、IRQ をレビューして承認します。

a. ベンダー管理ワークスペースでは、TPR マネージャーがシステム上のリストから IRQ をレビューして承認します。

TPR アドミニストレーターは、組織のカスタム IRQ を作成できます。各 IRQ の内容は、質問の対象となるビジネスエリア、地域、またはサードパーティを担当するユーザーによって作成および管理されます。IRQ を定義するには、TPR アドミ

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

ニストレーターはサンプル質問をアンケートテンプレートに追加し、必要に応じて質問を変更します。サンプルの質問は ベースシステムで提供されています。IRQ の定義はコード不要のプロセスです。

> **ヒント:**
> TPR アドミニストレーターは、IRQ の質問に対する回答を利用して、評価対象のサードパーティに送信するアンケートを決定できます。 この機能は、サードパーティリスク管理アプリをアクティブ化している場合にのみ使用できます。

詳細については、「外部アンケートをアセスメントに自動的に添付するように内部アンケートの回答を設定する」を参照してください。

b. TPR マネージャーは、デューデリジェンス要求を却下または承認します。要求が承認されると、組織の内部ステークホルダーである IRQ 査定人に IRQ が送信されます。

c. IRQ 査定人には、メールとキュー内の新しいタスクの両方で IRQ が通知されます。

> **注:**
> また、リスクスコアに変更が生じた場合、サードパーティのリスクアセスメントを自動送信することもできます。

2. 内部ユーザーが IRQ に回答します。

a. 従業員センター では、エンゲージメントに関心のあるすべてのユーザーが IRQ を開き、回答します。

いくつかの回答から、さらに明確な質問が生成されます。回答によって、どの外部アンケートが自動生成され、サードパーティ連絡先およびエンゲージメント連絡先に送られるセットに追加されるかを決定できます。

たとえば、IRQ 査定人から、サードパーティがエンゲージメントの一環として政府関係者とやり取りすると回答された場合、サードパーティの国に適した贈賄防止アンケート (米国では ABAC、EU では FCBA など) が含まれます。

b. IRQ 査定人は、記入が終わった IRQ を送信します。このアクションにより、TPR マネージャーのタスクがトリガーされます。

3. 内部ステークホルダー (サードパーティアセスメントのレビュー担当者、TPR 査定人、TPR 承認者、TPR マネージャー、または TPR アドミニストレーター) が IRQ 回答をレビューします。

a. ベンダー管理ワークスペース では、ユーザーは IRQ 応答をレビューします。

b. TPR マネージャーは IRQ 査定人に明確な説明を求め、IRQ 回答を却下または承認します。

c. 内部ステークホルダーユーザーが IRQ 回答 を承認すると、エンゲージメント要求をクローズすることで次のプロセスに進みます。

> **注:**
> IRQ プロセスが IRQ 対応中ステータスになったら、デューデリジェンス要求に関連付けられたリスクインテリジェンスレポートを要求できます。詳細については、「リスクインテリジェンスレポートとスコアの使用」と「デューデリジェンス要求に関連付けられたリスクインテリジェンスレポートを要求する」を参照してください。

TP 要素収集プロセス：サードパーティ要素情報の収集 (オプション)

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

1. TPR マネージャーまたはデューデリジェンス要求の所有者が、サードパーティ要素の収集を開始します。
   a. ベンダー管理ワークスペースで、サードパーティの要素が必要な場合、TPR マネージャーまたは所有者が [収集を開始 **(Start collection)]** を選択すると、収集タスクが作成されます。
   b. TPR マネージャーまたは所有者は、[収集タスク] タブに移動し、関連するサードパーティ要素収集アンケートを要素収集のための外部アセスメントにアサインします。

      注:
      ベースシステムの一部として、施設、プリンシパル、製品、またはその他として分類されたサードパーティ要素に対して、収集とアセスメントのためのサンプルアンケートを使用できます。

   c. TPR マネージャーまたは所有者がアンケートをレビューして承認し、エンゲージメントに送信します。
2. エンゲージメントの関係者にメール通知が自動的に送信されます。メッセージは、サードパーティ要素収集アンケートに回答するようエンゲージメント連絡先に通知します。
3. サードパーティポータルでは、エンゲージメント連絡先がアンケートに直接回答するか、組織の他の連絡先にタスクをアサインします。
4. エンゲージメント連絡先は、完了したアンケートを返します。
5. アセスメントのステータスが [回答を受信済み **(Reponses received)]** に変更され、TPR マネージャーと所有者にアラートが送信されます。
6. ベンダー管理ワークスペースで、TPR マネージャーまたは所有者はアンケートを開き、必要な情報がすべて提供されたことを確認します。
7. TPR マネージャーまたは所有者は、サードパーティ要素のリストに移動し、アンケートの回答セットごとにサードパーティ要素レコードを手動で作成します。
8. すべてのサードパーティ要素が作成された後、TPR マネージャーまたは所有者はアセスメントをクローズします。
9. 要求のステータスが [収集レビュー中 **(Collection in review)]** に変更されます。
10. 内部ステークホルダー (TPR 査定人、TPR 承認者、TPR マネージャー、または TPR アドミニストレーター) が要素レコードをレビューして承認します。
11. ベンダー管理ワークスペースで、TPR マネージャーまたは所有者はエンゲージメントを開き、[エンティティ] タブに要素をエンティティとして手動で追加します。
12. すべてのサードパーティ要素エンティティをエンゲージメントに割り当てた後、デューデリジェンスプロセスを開始できます。

デューデリジェンスプロセス：情報を収集してリスクスコアを生成

1. 次のいずれかのプロセスにより、外部デューデリジェンスアンケートが選択されます。
   - ベンダー管理ワークスペース では、TPR マネージャーがサードパーティ連絡先およびエンゲージメント連絡先が回答するアンケートを選択します。
   - 選択を行うために設定された構成に従って、システムが自動的にアンケートを選択します。内部アンケートの回答に基づいて選択されるように外部アンケートを設定

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

する方法の詳細については、「外部アンケートをアセスメントに自動的に添付するように内部アンケートの回答を設定する」を参照してください。

- 選択を行うために定義されたビジネスルールに従って、システムが自動的にアンケートを選択します。

2. ステップ 1 で使用した選択方法に関係なく、次の 2 つの外部デューデリジェンスアンケートが選択されます。

   - 1 つのセットは、サードパーティ組織に関する情報を収集します。サードパーティの連絡先がそのアンケートに回答します。
   - もう 1 つのセットは、エンゲージメントの対象であるサードパーティ組織内の事業部門に関する情報を収集します。エンゲージメント連絡先 (デューデリジェンス要求で指定) がそのアンケートに回答します。

   注:
   オプションの TP 要素収集プロセスが完了したら、作成した各サードパーティ要素のアセスメントの一部としてアンケートを選択し、アサインする必要があります。エンゲージメント連絡先がサードパーティ要素のアンケートに回答します。

3. ベンダー管理ワークスペース では、TPR マネージャーは、サードパーティ連絡先およびエンゲージメント連絡先が回答する自動選択されたアンケートを確認します。TPR マネージャーは、選択内容を検証または変更してから、一連のアンケートを承認します。外部アセスメントの作成の詳細については、「 外部アセスメントを作成」を参照してください。
4. サードパーティの関係者にメールが自動的に送信されます。メッセージは、外部アンケートに回答するように TP 連絡先とエンゲージメント連絡先に通知します。

   注:
   アンケートテンプレートは、既に使用後は変更しないでください。代わりに、コピーを作成することでテンプレートを複製できます。外部アセスメントの一部として送信されたアンケートに変更を加えた場合、それらの更新はサードパーティポータルに表示されるアンケートに表示されません。詳細については、「アンケートや文書要求テンプレートを作成する」と「デザイナーを使用してアンケートや文書要求テンプレートを作成する」を参照してください。

5. サードパーティポータルでは、TP 連絡先およびエンゲージメント連絡先がアンケートに直接回答するか、サードパーティ組織の他の連絡先にタスクをアサインします。

   注:
   サードパーティポータルは、組織のインスタンスから完全に分離されています。

   反復プロセスでは、TPR マネージャーがアセスメントをクローズする前に、TPR マネージャーが非準拠の問題とタスクを生成できます。TPR マネージャーは、コメントを使用して TP 連絡先およびエンゲージメント連絡先とコミュニケーションを取り、問題とタスクをクローズします。TPR マネージャーは、必要に応じてさまざまな連絡先をアサインすることもできます。 詳細については、「問題を管理します。」を参照してください。

6. TP 連絡先とエンゲージメント連絡先は、完了したアンケートを返します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. 要求のステータスが **[TPRM 承認準備完了 (Ready for TPRM approval)]** に変更され、TPR マネージャーにアラートが送信されます。
8. ベンダー管理ワークスペース で、TPR マネージャーは、アンケートが受領され、完了し、必要に応じて署名されていることを検証し、アセスメントフェーズをクローズして承認プロセスを開始します。

> **注:**
> サードパーティリスクマネージャーまたはオーナーがデューデリジェンスプロセス中に [契約リスクプロセスをスキップ] オプションを選択した場合、アサインされた契約交渉担当者には通知されず、契約リスクプロセスのステータスはスキップされます。承認者とオーナーは、承認プロセスが完了するまで [契約リスクプロセスをスキップ] の選択を更新できます。このプロセスの詳細については、「デューデリジェンス要求プロセス管理」を参照してください。

承認プロセス：内部ステークホルダーによるリスクの各側面の分析

すべての内部ステークホルダー (承認者) が、サードパーティ連絡先およびエンゲージメント連絡先からのアンケートの回答とサポートドキュメントをレビューします。回答に問題がなければ、1 人以上の承認者が DD 要求を承認してクローズします。契約の準備が整うと、承認された要求が契約リスクプロセスに移ります。

- 承認者は要求を承認または却下して、クローズすることができます。
- 要求をクローズすると、契約リスクプロセスに移るか、または契約が関与しない場合は、エンゲージメントが開始されます。

契約リスクプロセス

承認されると、すべてのデューデリジェンス情報を契約交渉担当者が利用できるようになります。契約交渉担当者は、ベンダー管理ワークスペース を使用して、これまでのプロセスで生成されたすべてのデータにアクセスし、契約を設計し解決します。

- 契約が不要になった場合、契約交渉担当者は契約リスクプロセスをスキップできます。
- 契約交渉担当者は、必要に応じて追加のデューデリジェンスを要求できます。
- 契約交渉担当者がサードパーティとの契約を正常に履行した場合、その契約をアップロードし、契約の履行を指定することで、すべての主要なステークホルダーに自動的に通知することができます。
- 契約交渉担当者は、契約の不履行、およびサードパーティの業務への関与の禁止について明記することができます。
- 契約交渉担当者は、契約の終了、およびサードパーティの業務への関与の禁止について明記することができます。

> **注:**
> サードパーティリスク管理アプリケーションのバージョン 19.1.x 以降、階層アンケートと外部アセスメントリマインダーワークフローは廃止され、 ワークフロースタジオに移行されました。これらのワークフローをカスタマイズした場合、この変更の一部として廃止されたり移行されたりすることはありません。

でのスマートアセスメント サードパーティリスク管理

アンケートテンプレートを作成し、ベンダー管理ワークスペースでスマートアセスメントエンジン (SAE) を使用してテンプレートを作成することで、手順、質問、および参照情報を追加できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

SAEの概要

ベンダー管理ワークスペース のスマートアセスメントエンジンを使用すると、構成可能なテンプレート、質問の論理グループ化、インラインガイダンス、および自動化を使用して、内部アンケートと外部アンケートの両方を作成できます。

スマートアセスメントエンジンアプリケーションの詳細については、「スマートアセスメントエンジン の探索」を参照してください。

注:
スマートアセスメントエンジンを使用するには、スマートアセスメントエンジンが有効になっている [sn_vdr_risk_asmt.sae_enabled] プロパティを有効にする必要があります。このプロパティを設定した後、クラシックアセスメントエンジンを使用して新しいアセスメントとアンケートを作成することはできなくなります。

スマートアセスメントエンジンエクスペリエンスを使用するメリット

新しいアセスメントエクスペリエンスには次のメリットがあります。

- ナビゲーションの強化:ユーザーエクスペリエンスを向上させるために、改善されたナビゲーションを使用します。
- アセスメントサポート:内部と外部の両方の関係者のアセスメントを 1 つの標準 UI で実施します。TPRM SAEアンケートテンプレートが拡張され、リスク領域や以前の回答を含めるオプションなど、ベースSAEテンプレートでは利用できない追加の属性を含めることができます。TPRM SAEテンプレートは、必要な属性を含めてTPRMアセスメントに使用できるように、ベンダー管理ワークスペース内で直接作成する必要があります。
- 質問を整理する:質問をサブセクションとセクションにグループ化して、整理しやすくします。
- 添付ファイルを追加:個々の質問にファイルを直接添付します。
- 参照情報の追加:アンケートテンプレートに参照情報を追加して、査定人と回答者がアンケートの入力時に必要な情報にアクセスできるようにします。
- 質問のフィルタリング:未回答の質問をすばやく特定してフィルタリングします。
- アンケートの自動保存:アンケート内の各質問を完了すると、作業内容が自動的に保存されます。
- 標準化されたリスク評価スケールの定義:内部アセスメントと外部アセスメントの両方のテンプレートレベルでデフォルトのリスク評価スケールを上書きします。
- アセスメント期間:アンケートテンプレートを作成するときにアセスメントの期間を定義します。
- アセスメントの結合:単一の簡素化されたビューで同じ SAE テンプレートを使用してアンケートに回答します。
- 一括テンプレート移行:クラシックテンプレートを スマートアセスメント テンプレート形式に一括で移行します。テンプレートが TPRM で正しく機能するようにするには、 サードパーティリスク管理 アプリケーションを使用してテンプレートを移行する必要があります。
- リスクスコアの正規化: SAEで利用可能なより柔軟なスコアリング設定を使用して、一貫した評価のためにリスクスコアを標準化します。
- GRC ポータルおよびサードパーティポータルのサポート:GRCポータルを使用して内部アセスメントにアクセスして完了し、サードパーティポータルを使用して外部アセスメントを完了します。

スマートアセスメントエンジン の制限事項

TPRM SAEアンケートテンプレートには次の制限があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- サードパーティリスク査定人は、クラシックアセスメントエンジンを使用してアセスメントを作成できなくなりました。
- サードパーティリスク査定人は、[応答を表示] ページから問題を作成できなくなりました。
- サードパーティリスク査定人は、質問に対するコメントを作成できなくなりました。
- 署名機能はサポートされていません。
- 次の質問タイプはサポートされていません。パーセンテージ、ランキング、画像スケール、およびカスタムメトリクスはサポートされていません。移行前にこれらの質問タイプをサポートされている形式に変換するか、移行後にテンプレートデザイナーで新しい質問を作成する必要があります。

  注:
  パーセンテージと画像スケールの質問タイプでは、顧客はそれぞれ数値タイプとラジオボタンタイプを使用できます。ランキングとカスタムメトリクスの質問タイプはサポートされていません。移行前にこれらの質問タイプをサポートされている形式に変換するか、移行後にテンプレートデザイナーで新しい質問を作成する必要があります。

- クラシックテンプレートのセクションにサポートされていない質問のみが含まれている場合、TPRM SAE テンプレートに空のセクションが作成されます。空のセクションを含む TPRM SAE テンプレートは公開できません。したがって、これらのセクションに代替の質問を追加するか、公開する前に空のセクションを削除する必要があります。

  移行結果、移行の制限、および TPRM SAE アンケートの作成の詳細については、「テンプレートを TPRM SAE テンプレートに移行した結果 と TPRM SAEアンケートまたは文書要求テンプレートの作成」を参照してください。

- インスタンス間で TPRM SAE アンケートテンプレートを転送する場合、更新セットには期間情報が含まれません。ユーザーは、 sn_smart_asmt_duration テーブルから期間情報を手動でエクスポートし、ターゲットインスタンスにインポートする必要があります。
- アセスメントテンプレートが SAE アセスメントをサポートするように更新されていない場合、関連する階層ベース、プロバイダーベース、およびイベント駆動型の管理ルールは期待どおりに実行されません。
- TPRMスコアリングの移行は、テンプレートの移行中にエラーがなかった場合にのみ続行されます。エラーが発生した場合、 TPRM スコアの移行は行われません。
- スマートアセスメントエンジンが有効になっている [sn_vdr_risk_asmt.sae_enabled] プロパティをアップグレードして有効にすると、第 4 の関係者のアセスメント、モニタリング、および管理はサポートされません。

注:
移行結果と移行の制限の詳細については、「テンプレートを TPRM SAE テンプレートに移行した結果」を参照してください。

次に探索する内容

サードパーティリスク管理 を使用したSAEの構成と使用の詳細については、以下を参照してください。

- スマートアセスメント構成
- テンプレートを SAE テンプレートに移行する
- テンプレートを TPRM SAE テンプレートに移行した結果
- 従来のメトリクスタイプをテンプレートのセクションに移行する方法
- TPRM SAEアンケートまたは文書要求テンプレートの作成

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- アセスメントテンプレートに手順と質問を追加する
- アセスメントテンプレートに参照情報を追加する
- アセスメントでの採点
- アセスメントの正規化

サードパーティリスク管理の構成

ServiceNow Store からアプリケーションをダウンロードし、ニーズに合わせて設定を構成することで、 TPRM をアクティブ化またはアップグレードできます。

構成の概要

TPRM チェックリストのセットアップタスクでタスクを実行することで、TPRMアプリケーションをアップグレードまたはインストールできます。タスクを完了したら、「クラシックアセスメントの構成」の説明に従って追加の構成を実行できます。

注:

作成するカスタムメッセージについて、対応する sys_ui_message レコードを生成するのはユーザーの責任です。この手順は、カスタムメッセージを抽出して翻訳する場合に重要です。

TPRM の初期セットアップとアップグレードのチェックリスト

次のチェックリストを印刷して、完了したタスクにチェックを入れることを検討してください。PDF を生成するには、**[PDF** として保存] ( ) を選択し、[選択したトピック] を選択します。

TPRM のセットアップタスク

タスク	説明
サードパーティリスク管理 アプリ [com.sn_vdr_risk_asmt] を有効にします。	ServiceNow® Store から GRC アプリケーションをダウンロードする手順については、「初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする」を参照してください。 **重要:** ベースシステム には、質問バンクで使用できる多くの質問例が含まれています。質問集を含めるには、アプリのインストール中に [デモデータのロード] を選択します。 必要なロール：admin
デューデリジェンス要求ワークフローアプリケーション [com.sn_tprm_dd] を有効にします。	ServiceNow® Store から GRC アプリケーションをダウンロードする手順については、「初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする」を参照してください。 必要なロール：admin
ベンダーリスク管理ワークスペースアプリケーション [sn_vrm_ws] を有効にします。	ServiceNow® Store から GRC アプリケーションをダウンロードする手順については、「初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする」を参照してください。 必要なロール：admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

TPRM のセットアップタスク (続く)

タスク	説明
認証ポリシーを追加して、外部サードパーティの安全なアクセスを有効にします。	詳細については、「認証ポリシーを追加して、外部サードパーティの安全なアクセスを有効にする」を参照してください。 必要なロール：admin プラットフォームの認証後ポリシーを使用して、サードパーティがインスタンスへのアクセスを保護できるようにします。この背景情報については、「Post-authentication context」を参照してください。
ユーザーおよびユーザーグループに TPRM のロールをアサインします。	サードパーティリスク管理 アプリケーションを実装または使用する前に、グループにロールをアサインします。適切に整理された方法でロールを割り当てることで、プロセス管理が簡素化および改善され、責任範囲のタスクがユーザーに迅速に通知されます。 詳細については、「ユーザーおよびユーザーグループに TPRM のロールをアサインする」を参照してください。 必要なロール：admin
責任に基づいてユーザーをグループに追加します。	サードパーティリスク管理 アプリケーションを実装または使用する前に、グループにロールをアサインします。各グループには、特定のロールを持つユーザーが含まれています。適切に編成されたユーザーグループは、プロセス管理を簡素化および改善し、ユーザーに各自の責任範囲のタスクを迅速に通知するのに役立ちます。 詳細については、「責任に基づいてユーザーをグループに追加する」を参照してください。 必要なロール：admin
TPRM のプロパティを構成します。	さまざまな TPRM 操作のプロパティ設定を構成します。 詳細については、「TPRM プロパティの設定」を参照してください。 必要なロール：admin
TPRMリスク集中マップを有効にします。	このタスクはオプションです。詳細については、「TPRM リスク集中マップを有効にする」を参照してください。 必要なロール：admin リスク集中マップ機能をインストールした後、Google ライセンスをインストールして機能を有効にする必要があります。
サードパーティの連絡先を含むメールを有効にします。	サードパーティの連絡先とのメール通信を構成して、アセスメントと問題のメール通知を有効にします。 詳細については、「サードパーティの連絡先を含むメールを有効にする」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

TPRM のセットアップタスク (続く)

タスク	説明
	必要なロール：admin
他のシステムから既存のデータをインポートします。	このタスクはオプションです。 他のシステム (Aravo プラットフォーム、ProcessUnity プラットフォームなど) から既存のデータ (サードパーティ、エンゲージメント、アセスメント、アンケート、問題など) をインポートします。データのインポートに対して課金されることはありません。 詳細については、「他のシステムからの既存データのインポート」を参照してください。 必要なロール：admin
サードパーティの連絡先を設定します。	サードパーティ連絡先は、サードパーティ組織にいる外部ユーザーです。サードパーティポータルを使用して、アセスメントのためのアンケートへの応答、タスクの実行、問題に関するリスクアセスメントスタッフとのコミュニケーションなどのタスクを安全に整理、優先順位付け、実行します。サードパーティポータルへのアクセスを許可し、サードパーティの連絡先の権限を指定します。 詳細については、「サードパーティ連絡先の設定」を参照してください。 必要なロール：admin or sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager
言語をアクティブ化する	このタスクはオプションです。 デフォルトでは ServiceNow AI Platform はアメリカ英語を使用します。別の言語を使用するように TPRM を構成することもできます。 詳細については、「Activate a language」を参照してください。 必要なロール：admin
サードパーティリスク管理のクイックスタートテストを実行します。	このタスクはオプションです。 アップグレードの適用やアプリケーションの開発などの構成変更を行った後も、TPRM が変わらず正常に動作することを検証します。クイックスタートテストをコピーしてカスタマイズし、インスタンス固有のデータを使用する際に渡します。 詳細については、「サードパーティリスク管理 のクイックスタートテストの実行」を参照してください。

関連情報

- クラシックアセスメントの構成
- スマートアセスメント構成

ユーザーおよびユーザーグループに **TPRM** のロールをアサインする

サードパーティリスク管理 アプリケーションを実装または使用する前に、グループにロールをアサインします。適切に整理された方法でロールを割り当てることで、プロセス管理が簡素化および改善され、責任範囲のタスクがユーザーに迅速に通知されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
この手順で説明するロールについては、「サードパーティリスク管理 でのロール」で説明しています。

手順

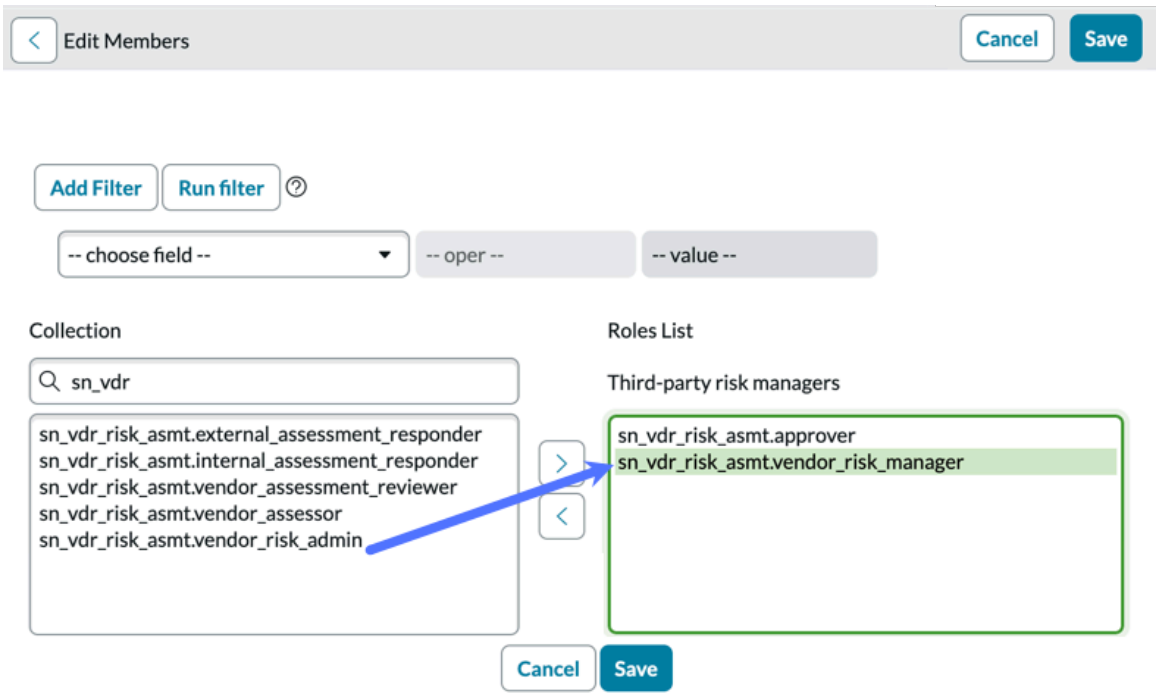
1. 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > アドミニストレーション > ユーザーグループ.
2. [ロール] 関連リストを選択して、グループにロールをアサインします。

   a. [コレクション] リストの検索フィールドに「sn_vdr」と入力して、TPRM アプリケーションに関連するロールのリストを表示します。

      TPRM ロールについては、「サードパーティリスク管理 でのロール」で説明されています。

   b. グループに適したロールを [コレクション] リストから [ロール] リストに移動し、[保存] を選択します。

      この例では、**sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager** ロールは、ユーザーが「サードパーティリスクマネージャー」という名前を付けたグループにアサインされています。



3. [グループメンバー] 関連リストで、[編集] を選択します。
4. 適切なユーザー全員を [コレクション] リストから [グループメンバーリスト] に移動し、[保存] を選択します。
5. オプション: [グループ] 関連リストを使用して、定義しているグループにサブグループを追加します。

関連情報

サードパーティリスク管理 でのロール

TPRM と Explicit Roles プラグイン

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

責任に基づいてユーザーをグループに追加する

サードパーティリスク管理 アプリケーションを実装または使用する前に、グループにロールをアサインします。各グループには、特定のロールを持つユーザーが含まれています。適切に編成されたユーザーグループは、プロセス管理を簡素化および改善し、ユーザーに各自の責任範囲のタスクを迅速に通知するのに役立ちます。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
TPRM アプリをアクティブ化すると、複数のユーザーグループが作成されます。この手順では、各グループにユーザーを追加します。この手順で説明するロールについては、「サードパーティリスク管理 でのロール」で説明しています。

特定のロールを持つすべてのユーザーをグループに含めることで、次のような重要かつ実用的なメリットが得られます。たとえば、グループメンバーが休暇などで不在の場合でも、リスク管理プロセスが影響を受けません。

重要:
これは継続的なプロセスであり、グループマネージャーとして割り当てられたユーザーがグループメンバーシップの継続的な更新を担当するプロセスと考えてください。

デューデリジェンス要求アサイン者

グループのメンバーは、サードパーティリスク (TPR) 査定人 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor] ロールを持っています。

各メンバーは、デューデリジェンスに関する新しい要求のメール通知を受け取ります。[新規] または [未アサイン] ステータスの要求については、[アサイン先] フィールドに誰も指定されていません。どのグループメンバーも、要求をアサインしたり、要求にアサインされたりすることができます。

監査目的でアセスメントを所有し、アセスメントプロセス全体を監視および管理する個人。所有者は、サードパーティによってアセスメントが適時に完了していることを確認し、回答をレビューし、問題を作成して解決する責任があります。アセスメントを完了まで進めるために、アセスメントが特定のマイルストーンに到達したときに通知されます。TPR マネージャーまたは TPR 査定人ロールが必要です。

サードパーティリスクマネージャー

グループメンバーには、TPR 承認者ロール [sn_vdr_risk_asmt.approver] と TPR マネージャーロール [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager] の両方があります。

メンバーは、デューデリジェンスプロセス全体を監視および管理し、デューデリジェンスの新しい要求を承認できます。

サードパーティリスクレビュー担当者 (外部アセスメントレビュー担当者)

グループメンバーには、サードパーティアセスメントレビュー担当者のロール [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessment_reviewer] が与えられます。

メンバーは、外部デューデリジェンスプロセス中にサードパーティの連絡先とのやり取りを監視および管理できます。

契約リスク交渉担当者

グループメンバーは、契約リスク交渉担当者 [sn_vdr_risk_asmt.contract_negotiator] ロールを持っています。

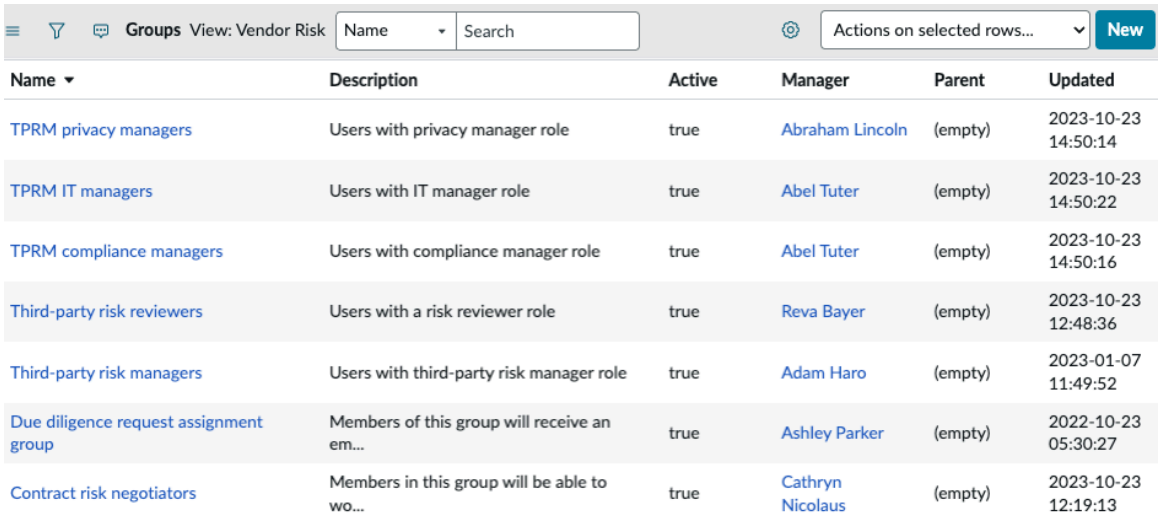
メンバーは契約リスクプロセスで作業します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > アドミニストレーション > ユーザーグループ.
   ユーザーグループのリストが表示されます。



Name	Description	Active	Manager	Parent	Updated
TPRM privacy managers	Users with privacy manager role	true	Abraham Lincoln	(empty)	2023-10-23 14:50:14
TPRM IT managers	Users with IT manager role	true	Abel Tuter	(empty)	2023-10-23 14:50:22
TPRM compliance managers	Users with compliance manager role	true	Abel Tuter	(empty)	2023-10-23 14:50:16
Third-party risk reviewers	Users with a risk reviewer role	true	Reva Bayer	(empty)	2023-10-23 12:48:36
Third-party risk managers	Users with third-party risk manager role	true	Adam Haro	(empty)	2023-01-07 11:49:52
Due diligence request assignment group	Members of this group will receive an em...	true	Ashley Parker	(empty)	2022-10-23 05:30:27
Contract risk negotiators	Members in this group will be able to wo...	true	Cathryn Nicolaus	(empty)	2023-10-23 12:19:13

2. 更新するグループの名前を選択します。
3. オプション: グループのマネージャーを指定します。
   グループマネージャーは、グループメンバーシップを継続的に更新する責任があります。グループマネージャーは通常、メンバーと同じ (またはそれ以上) のロールを持ちます。
4. オプション: グループのメールエイリアスを指定します。
   - エイリアスを指定しない場合、各メンバーに個別のメール通知が送信されます。
   - エイリアスを指定すると、[宛先：] リスト内のすべてのメンバーを含む単一のメール通知が送信されます。
5. [グループメンバー] 関連リストで、[編集] を選択します。
6. 適切なユーザー全員を [コレクション] リストから [グループメンバー] リストに移動し、[保存] を選択します。
7. オプション: [グループ] 関連リストを使用して、定義しているグループにサブグループを追加します。
   このオプションを使用すると、ユーザーを実用的なサブセットに整理できます。
8. 各グループでこの処理を繰り返します。

関連情報

サードパーティリスク管理 でのロール

TPRM と Explicit Roles プラグイン

TPRM プロパティの設定

さまざまな TPRM 操作のプロパティ設定を構成します。

始める前に
必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin

このタスクについて
次のプロパティ設定を指定できます。

組織名 [sn_vdr_risk_asmt.company.name]

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティの連絡先には、サードパーティポータルのすべての参照でこの名前が表示されます。

Excel セルテキスト区切り文字 [sn_vdr_risk_asmt.excel_choice_delimiter]

タイプが「選択肢」と「複数選択」の質問の応答テキストを区切る文字列。

一般的な区切り文字：\r、\n、\t、\r\n、およびカンマ文字。

Excel ファイルの最大サイズ [sn_vdr_risk_asmt.excel_file_max_size]

インポートできる最大ファイルサイズ (MB)。

応答を再利用するための最大経過時間 [sn_tprm_dd.max_age_for_questionnaire_reuse]

新しいアンケートで回答を事前に入力するために使用されるアンケートの最大経過日数。最後にクローズされたアセスメントのアンケートが使用されます。この設定は、ユーザーがアンケートまたはアンケートテンプレートを構成するときに [以前の応答を含める] オプションを選択したときに適用されます。

査定人がサードパーティの連絡先のアンケートに回答/編集できるようにする [sn_svdp.allow_assessor_edit]

次のオプションを設定できます。

- 回答を入力して、TPR 査定人 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor] が質問に回答したり、回答を変更したりできるようにします (デフォルト)。
- TPR 査定人が応答を変更できるようにするには 、「edit 」と入力します。
- TPR 査定人が質問に回答したり、回答を変更したりできないようにするには 、false を入力します。

スマートアセスメントエンジン有効 [sn_vdr_risk_asmt.sae_enabled]

スマートアセスメントエンジンまたはアセスメントエンジンを使用するオプション。

- TPRMスマートアセスメントエンジンを有効にするには、チェックボックスをオンにします。
- チェックボックスが選択されていない場合スマートアセスメントエンジンTPRMに対して有効になりません。

> ⚠ 警告:
> この設定を「true」に設定すると、元に戻すことはできません。このプロパティを有効にすると、この選択を元に戻すことはできません。

手順

1. 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > アドミニストレーション > プロパティ
2. プロパティごとに、ニーズを満たす値を入力します。
   - 各プロパティエントリは、入力する値を説明しています。
   - プロパティの名前を表示するには、ヘルプアイコン ( )

TPRM リスク集中マップを有効にする

リスク集中マップ機能をインストールした後、Google ライセンスをインストールして機能を有効にする必要があります。

始める前に
必要なロール：admin

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

手順

Set up Google Maps API の指示に従います。

ジオマップコンポーネントの Google Maps API については、KB 記事：KB1588661 を参照してください。

サードパーティの連絡先を含むメールを有効にする

サードパーティの連絡先とのメール通信を構成して、アセスメントと問題のメール通知を有効にします。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて

注:
サードパーティの連絡先には、サードパーティポータルのすべての参照で組織の名前が表示されます。名前は sn_vdr_risk_asmt.company.name プロパティの設定で指定します。「TPRM プロパティの設定」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > システムプロパティ > メールプロパティ.
2. [メール送信の有効化] と [メール受信の有効化] チェックボックスの両方を選択して、[保存] を選択します。



他のシステムからの既存データのインポート

他のシステム (Aravo プラットフォーム、ProcessUnity プラットフォームなど) から既存のデータ (サードパーティ、エンゲージメント、アセスメント、アンケート、問題など) をインポートします。データのインポートに対して課金されることはありません。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
インスタンスにデータをインポートするプロセス全体については、「Import sets 」を参照してください。

データのインポートプロセスを順を追って説明する学習モジュールは、https://developer.servicenow.com/dev.do#!/learn/courses/sandiego/app_store_learnv2_importingdata_sandiego_importing_data_into_servicenow にあります。

変換マップの実行に関する記事が https://developer.servicenow.com/dev.do#!/learn/courses/sandiego/app_store_learnv2_importingdata_sandiego_importing_data_into_servicenow/app_store_learnv2_importingdata_sandiego_importing_data/app_store_learnv2_importingdata_sandiego_run_a_transform_map に表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

重要:
課金されずにデータをインポートするには、変換マップを実行してデータをインポートする前に、「[ビジネスルールを実行] オプションをオフにする」必要があります。ビジネスルールをオフにしない場合、インポートされたデータレコードはアクティビティとしてマークされ、ライセンスの課金が発生します。

手順

1. 変換マップを作成します。
   手順については、「Create a transform map」を参照してください。

   重要:
   変換マップを実行する前に、[ビジネスルールを実行] チェックボックスをオフにします。

2. 変換マップを実行し、データセットごとにこのプロセスを繰り返します。

関連情報

スプレッドシートからアンケートをインポートする

サードパーティリスク管理 のクイックスタートテストの実行

アップグレードの適用やアプリケーションの開発などの構成変更を行った後も、TPRM が変わらず正常に動作することを検証します。クイックスタートテストをコピーしてカスタマイズし、インスタンス固有のデータを使用する際に渡します。

GRC：ベンダー管理ワークスペース および サードパーティリスク管理 クイックスタートテストでは ベンダー管理ワークスペース および サードパーティリスク管理 プラグイン (com.sn_vdr_risk_asmt) をアクティブ化して、デモデータをロードする必要があります。

GRC：ベンダーリスク管理 および サードパーティリスク管理 クイックスタートテスト

テスト	説明
GRC：エンゲージメントリスクアセスメントの作成	エンゲージメントリスクアセスメントを作成し、エンゲージメントに送信します。
GRC：ベンダーリスクスコアリング - エンゲージメントのアセスメントをキャンセル	エンゲージメントの 1 つのアセスメントがキャンセルされた後、リスク評価を再計算する要求がエンゲージメントおよびサードパーティに対して自動的に作成されることを確認します。
GRC：ベンダー発行 ATF	サードパーティのリスク問題フォームとサードパーティのリスクタスクフォームを作成して送信します。
GRC：ベンダーリスクアセスメントの作成	ベンダーリスクアセスメントを作成し、ベンダーに送信します。
GRC：ベンダーポータル - アセスメントの回答および返送	ベンダー連絡先が Service Vendor Portal でアセスメントに回答し、送信します。
GRC：ベンダー階層アセスメント	期間を変更した後、アセスメントを選択して各査定人に送信します。

関連情報

クイックスタートテスト

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クラシックアセスメントの構成

TPR マネージャーロールと TPR アドミンロールには、さまざまな責任があります。TPRM ベースシステム を設定したら、毎日のリスクアセスメントタスクを有効にして強化する追加の設定を構成します。

アセスメントセットアップの概要

TPRMのアセスメントセットアップチェックリストのタスクを実行することで、TPRMアプリケーションを設定および構成して、従来のアセスメントエンジンを使用してサードパーティ、エンゲージメント、およびその他のエンティティのリスクをスコアリングおよび評価するための独自の要件に対処します。

注:

作成するカスタムメッセージについて、対応する `sys_ui_message` レコードを生成するのはユーザーの責任です。この手順は、カスタムメッセージを抽出して翻訳する場合に重要です。

のアセスメントセットアップチェックリスト **TPRM**

アセスメントとアンケートのセットアップタスク

タスク	説明
アセスメントとアンケートを採点するためのリスク評価スケールを設定します。	すべてのアンケートに対してデフォルトで選択されているリスク評価スケールを構成できます。 詳細については、「採点用のリスク評価スケールの設定」を参照してください。 必要なロール：admin or sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager
サードパーティリスクのドメインまたは領域を設定します。	特定のリスク領域に関連付けられているすべてのサードパーティに対してデフォルトで選択されている採点方法と重み付けを設定できます。 詳細については、「サードパーティリスクドメインを定義」を参照してください。 必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager
サードパーティのタイプに適用されるリスクドメインまたは領域のグループであるサードパーティリスク領域基準を設定します。	基準定義内の各リスク領域の重み付けと採点方法を調整できます。 詳細については、「サードパーティリスク領域基準を定義」を参照してください。 必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager
サードパーティおよびエンゲージメントコンポーネントの基準を設定します。	コンポーネントは、リスクを評価できるエンティティです。コンポーネント基準は、特定のタ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントとアンケートのセットアップタスク (続く)

タスク	説明
	イプのサードパーティまたはエンゲージメントに関連するコンポーネントのグループです。 新しいコンポーネントを追加したり、既存のコンポーネントを変更したりすることはできません。ただし、コンポーネントの評価に使用する基準 (採点方法と重み付け) を定義することはできます。[デフォルトの採点方法] を更新して、各リスク領域の複数のスコアを計算する方法を指定できます。[デフォルトの重み付け] を使用して、サードパーティの総合リスク評価におけるサードパーティプロバイダースコアの重み付けを調整できます。 次のコンポーネント分類を使用できます。 • サードパーティコンポーネント ○ サードパーティのリスクアセスメント (外部リスクアセスメント) ○ 子会社 ○ エンゲージメント ○ リスクインテリジェンス評価 • エンゲージメントコンポーネント ○ エンゲージメントリスクアセスメント ○ 製品 ○ プリンシパル ○ 施設 ○ その他 コンポーネント基準の設定の詳細については、「コンポーネント基準を定義する」を参照してください。 エンゲージメントコンポーネントがサードパーティ要素に与える影響の詳細については、「サードパーティ要素の監視」を参照してください。 必要なロール： sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager
サードパーティおよびエンゲージメントのリスクスコアリングルールを設定します。	リスクスコアに基づいて、アセスメントが必要なサードパーティまたはエンゲージメントを決定する基準を定義します。サードパーティリスク採点ルールは、子会社、エンゲージメント、およびサードパーティリスク領域に適用されます。エンゲージメントリスク採点ルールはエンゲージメントにのみ適用されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントとアンケートのセットアップタスク (続く)

タスク	説明
	詳細については、「サードパーティリスク採点ルールを定義」と「エンゲージメントリスク採点ルールを定義する」を参照してください。 必要なロール： sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager
アンケートまたは文書要求テンプレートを作成します。	アンケートテンプレートと文書要求テンプレートを再利用して、新しいアンケートと文書要求の作成を簡素化できます。 次のテンプレート分類を使用できます。 • アンケートテンプレート • 文書要求テンプレート • 階層アンケートのテンプレート • 第 4 の関係者のテンプレート • IRQ テンプレート • 収集テンプレート 詳細については、「アンケートや文書要求テンプレートを作成する」と「デザイナーを使用してアンケートや文書要求テンプレートを作成する」を参照してください。 必要なロール：admin または sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin
Excel スプレッドシートを使用してアンケートをインポートします。	このタスクはオプションです。 Excel スプレッドシートを準備したら、データをインポートして、テンプレートから自動的にアンケートを作成できます。 詳細については、「スプレッドシートからアンケートをインポートする」を参照してください。 必要なロール： sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager
メトリクスカテゴリ (質問集) を設定します。これは、アセスメントのタイプに関連する質問のグループです。	質問集に質問を追加して、アンケートテンプレートの質問セットを再利用できるようにします。新しい質問を追加したり、既存のアンケートから質問を追加したりすることができます。 詳細については、「質問集の設定と維持」を参照してください。 必要なロール：admin または sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントとアンケートのセットアップタスク (続く)

タスク	説明
アセスメント要件を満たす質問を作成します。	カスタムの質問を作成したり、既存の質問を追加したり、 ベースシステムに含まれているサンプルの質問を追加してカスタマイズしたりできます。 詳細については、「質問の定義」を参照してください。 必要なロール：admin or sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager
スコアリングに正規化値を使用するオプションを設定します。	[最大正規化入力] 設定を使用すると、正規化された値を使用して、[採点済み] チェックボックスがオフになっている選択肢または複数選択肢の質問のアセスメントスコアを計算できます。値を正規化すると、異なるエンティティ間で一貫した比較を行うことができます。 この設定がスコアにどのように影響するかについて詳しくは、「 メトリクスのスコアの正規化」を参照してください。 注: このオプションは、アセスメントメトリクス (質問) レコードの [質問タイプ] タブで使用できます。質問の設定の詳細については、「 質問の定義」を参照してください。 必要なロール：admin or sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager
外部アンケートのアセスメントテンプレートを作成します。	設定された期間の要件とデフォルトで添付されたアンケートを使用してアセスメントテンプレートを作成することで、さまざまなタイプのサードパーティやエンゲージメントのアセスメントプロセスを簡素化することができます。 詳細については、「外部アセスメントテンプレートの作成」を参照してください。 必要なロール：admin or sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager
問題生成ルールを作成します。	このタスクはオプションです。 外部アセスメントの問題を自動生成するルールを設定します。サードパーティリスクアセスメント、アンケートテンプレート、ルールを適用する質問、およびルールの生成時に使用する問題テンプレートとタスクテンプレートを指定します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントとアンケートのセットアップタスク (続く)

タスク	説明
	これらのルールの設定の詳細については、「問題生成ルールを作成する」を参照してください。 必要なロール：admin または sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin
定期的なアセスメントをスケジュールします。	このタスクはオプションです。 サードパーティまたはエンゲージメントに対して繰り返しアセスメントをスケジュールすることができます。作成したアセスメントテンプレートを使用することも、必要に応じてアンケートや文書要求を手動で添付することもできます。 詳細については、「スケジュールで繰り返すようにリスクアセスメントを構成する」を参照してください。 必要なロール： sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor
内部アンケートの応答を設定して、応答、計算されたリスク階層、またはその両方に基づく外部アセスメントにアンケートを自動的に添付します。	このタスクはオプションです。 詳細については、「外部アンケートをアセスメントに自動的に添付するように内部アンケートの回答を設定する」を参照してください。 必要なロール：admin または sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin
イベント駆動型管理ルールを設定します。	このタスクはオプションです。 アンケートとドキュメント要求を自動生成してエンゲージメントおよびサードパーティに送信するルールを設定します。定義したクライテリアを満たすエンゲージメントやサードパーティに対して、スケジュールとアセスメントのテンプレートを指定します。オンボーディングを除くすべての要求タイプを自動化できます。 これらのルールの設定の詳細については、「イベント駆動型管理 — アセスメントプロセスの自動化」を参照してください。 必要なロール： sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager
リスク評価とスコア計算を検証します。	このタスクはオプションです。 アンケートのスコアとリスク評価を確認し、重み付け、正規化値、採点方法、およびリスク評価スケールの正しい適用を検証することで、リスクスコアリングの正確性と一貫性を確保します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントとアンケートのセットアップタスク (続く)

タスク	説明
	詳細については、「従来のアセスメントエンジンを使用したスコア計算の検証」を参照してください。

リスク評価とスコアリングの計算の詳細については、「 従来のアセスメントエンジンを使用したスコア計算」を参照してください。

アセスメントとスコア関連の自動化の詳細については、「 外部アンケートをアセスメントに自動的に添付するように内部アンケートの回答を設定する」、「 サードパーティリスクのアセスメント」、「 アサインされたリスク階層が変更されたときに、 VRM 自動リスクアセスメントを作成します」、「 イベント駆動型管理 — アセスメントプロセスの自動化」、「 リスクインテリジェンスの更新時のアクションを自動化する」を参照してください。

採点用のリスク評価スケールの設定

リスク評価スケールは、ビジネスユーザーがリスクアセスメント結果をよりよく理解するのに役立ちます。たとえば、デフォルト設定では、20 ~ 39 のリスクスコアは高リスクを示し、60 ~ 79 のスコアは低リスクを示します。

始める前に

必要なロール：admin or sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager

このタスクについて

注:
多くの組織では、デフォルト設定がニーズを適切に表しており、設定を変更しません。

手順

1. 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > アセスメントのセットアップ > リスク評価スケール をクリックして、リスク評価スケールを変更または絞り込みます。

   ベースシステムには、5 つの評価が含まれています。最大値と最小値をカスタマイズできます。

Default risk rating scales View: Vendor Risk | Actions on selected rows... | New

Risk rating	Order ▲	Minimum	Maximum
1 - Very High	1	0	19
2 - High	2	20	39
3 - Moderate	3	40	59
4 - Low	4	60	79
5 - Very Low	5	80	100

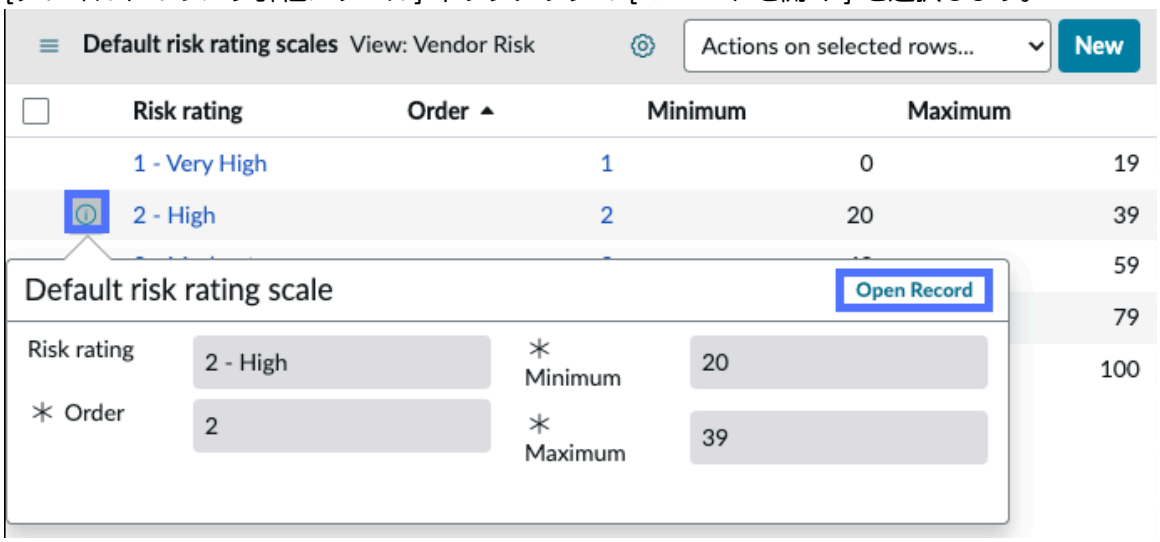
2. 既存の値を絞り込みます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. 更新するリスク評価にカーソルを合わせ、 情報 アイコンを選択してリスク 評価スケール レコードをプレビューします。

b. [デフォルトのリスク評価スケール] ポップアップで [レコードを開く] を選択します。



3. [最小] と [最大] をカスタマイズして、リスク評価スケール範囲内にある最小値と最大値を調整します。

4. **[Update** (更新)] を選択します。

サードパーティリスクドメインを定義

リスクドメインは、サードパーティのために評価するリスクのタイプを定義します。たとえば、セキュリティリスクの観点からデータ管理サードパーティを評価し、財務リスクの観点から銀行を評価することができます。セキュリティリスクと財務リスクはリスクドメインです。一部のプラットフォームアプリケーションでは、リスクドメインを「リスク領域」と呼びます。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager

このタスクについて

注:
リスクドメインは、一部のプラットフォームアプリケーションでは「リスク領域」と呼ばれます。

リスクを評価するビジネスのドメインを特定し、各ドメインの重要性 (重み付け) を定量化することで、サードパーティが組織にもたらすリスクをよりよく理解して軽減できます。

- セキュリティリスクドメイン：インフラストラクチャで機密性の高い個人データを扱うサードパーティは、セキュリティ体制を評価する必要がある場合があります。
- 風評被害のリスクドメイン：その個人データが侵害された場合、メディアの批判的な注目を集めて評判が低下する可能性があります。
- 財務リスクドメイン：サードパーティが納期に間に合わなかった場合、罰金や和解金、またはその両方を支払う必要が生じて、財務的損失が発生する可能性があります。

この手順では、リスクドメイン定義を作成します。各定義では、特定のタイプのリスクについてどの組織のアセスメントを行う必要があるかを決定する基準を指定します。

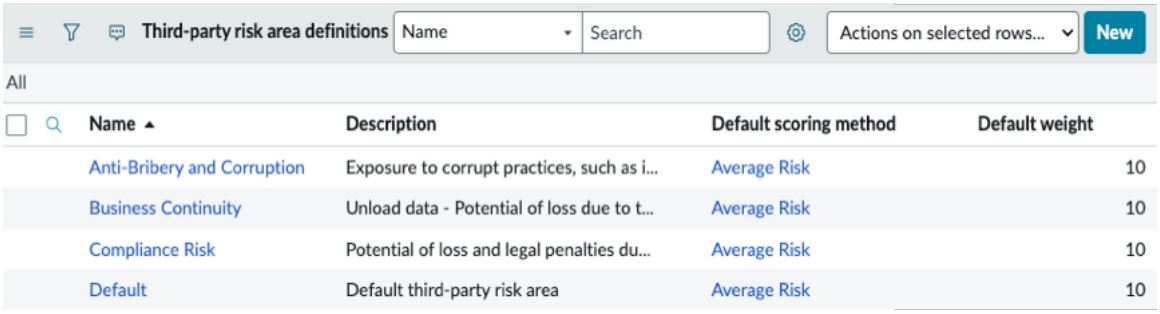
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
リスクドメインの定義は、フォーム上ではリスクドメイン定義と呼ばれます。

手順

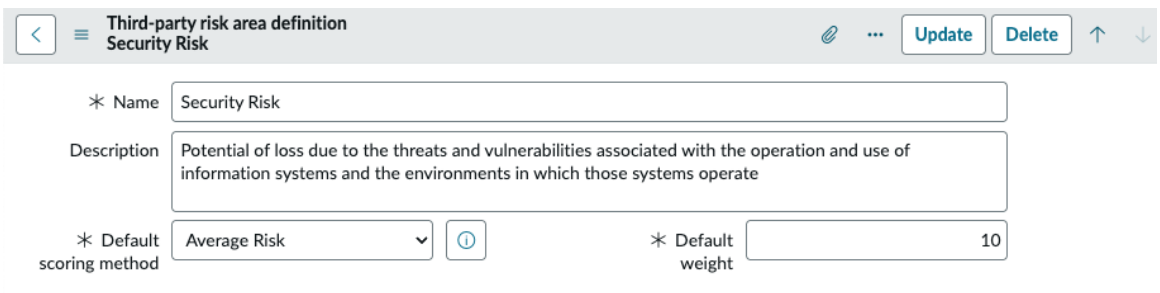
1. 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > スコアリングセットアップ > リスクドメイン.



2. [新規] を選択し、フォームに入力して [送信] を選択します。

サードパーティリスク領域定義フォーム

フィールド	説明
名前	リスクドメインの名前。
説明	同僚が定義の意図を理解するのに役立つリスクドメインの説明。例を参照してください。
デフォルトの採点方法	このリスクドメインにおけるサードパーティのデフォルトの採点方法。採点方法は、サードパーティの連絡先が 100 の質問にどれだけ答えるかによって決まります。 ○ 平均リスク：評価の丸め平均により、サードパーティの平均リスク (中) が得られます。 ○ 最大リスク：スコアが 0 の場合は、すべての質問への回答が間違っていて、そのサードパーティのリスクが最大リスク (重大) であることを示します。 ○ 最小リスク：スコアが 100 の場合は、すべての質問への回答が正しく、そのサードパーティのリスクが最小リスク (マイナー) であることを示します。 **注:** 特定のリスクドメイン内の各組織は、リスク領域定義の採点方法と重み付けを継承します。サードパーティリスクマネージャーは、必要に応じて値を変更できます。
デフォルトの重み付け	このリスクドメインにおけるサードパーティのデフォルトの重み付け。



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティリスク領域基準を定義

サードパーティリスク領域基準は、特定のタイプのサードパーティに適用されるリスクドメイン (他のプラットフォーム機能ではリスク領域とも呼ばれる) のグループです。

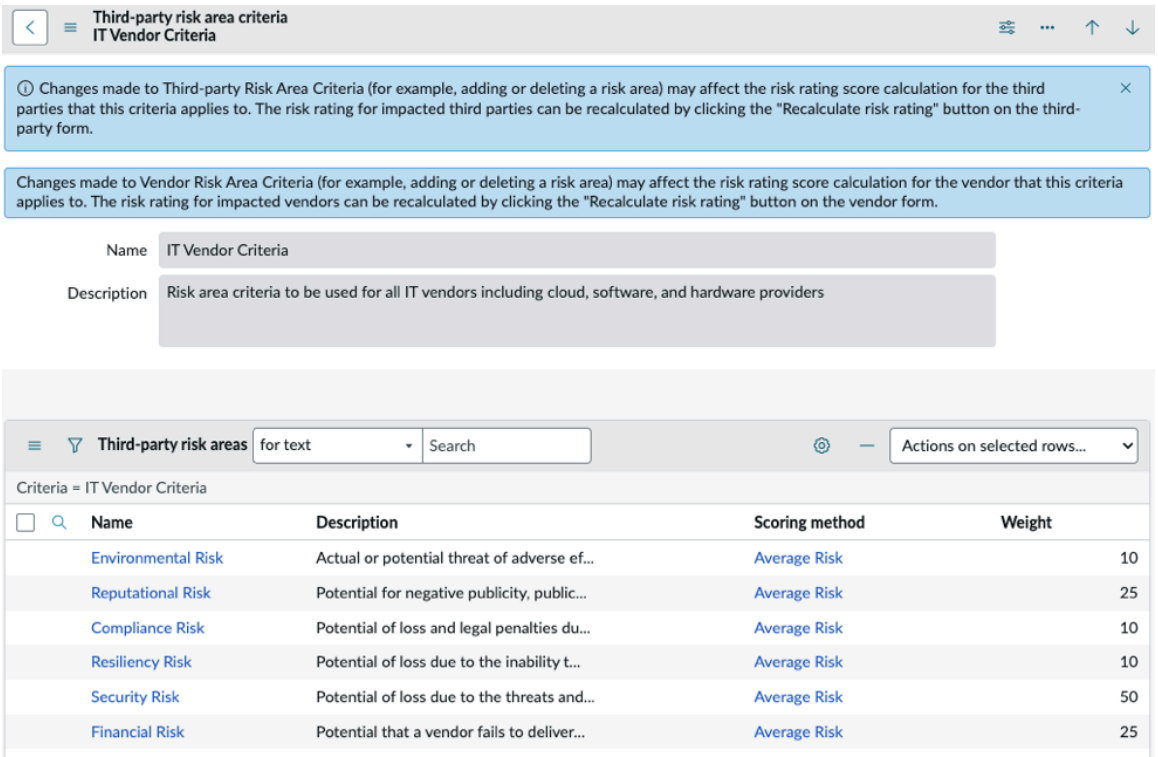
始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager

このタスクについて

これは、IT サービスプロバイダーに適用できるリスク領域基準に含めるリスクドメインのグループの例です。

注:
リスクドメインは、一部のプラットフォームアプリケーションでは「リスク領域」と呼ばれます。



手順

1. 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > スコアリングセットアップ > リスクドメイン基準.
2. [新規] を選択し、[名前] と [説明] を入力して、レコードを保存します。
   [サードパーティリスク領域] 関連リストが表示されます。次の手順では、リスク領域基準に含めるリスク領域を指定します。
3. [サードパーティリスク領域] 関連リストで、[編集] を選択します。
4. [メンバーの編集] ページで、サードパーティリスク領域基準レコードに追加するサードパーティリスク領域を選択し、[保存] を選択します。

   - 選択したサードパーティリスク領域が、[サードパーティリスク領域] 関連リストに表示されます。
   - 採点方法と重み付けがリスク領域からコピーされます。

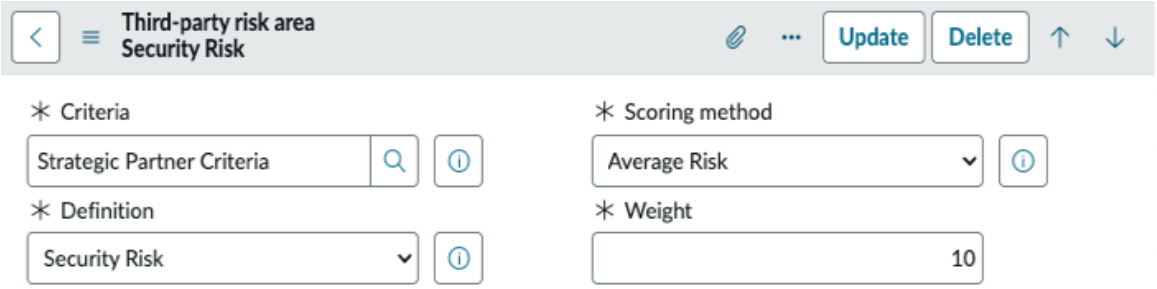
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 基準定義内で、各リスク領域の重み付けを調整できます。
- 必要に応じて値を上書きできます。

5. オプション: [採点方法] と [重み付け] を編集するには、サードパーティリスク領域の名前を選択します。

> **重要:**
> 採点方法と重み付けに加えた変更は、サードパーティリスク領域基準レコードに使用されますが、個々のリスク領域定義レコードには保存されません。



Example:
財務とセキュリティの 2 つのリスク領域を持つサードパーティリスク領域基準を作成しているとします。財務の採点方法は [最小リスク] で、重み付けは 10 です。

- 会社はセキュリティ関連の基準を重視しているため、セキュリティリスク領域の採点方法は [平均リスク] で、重み付けは 20 です。
- 両方のリスク領域の重み付けは合計 30 です。その結果、重み付けが 10 のリスク領域は 10/30、つまり約 33% と計算されます。
- 重み付けが 20 のリスク領域は 20/30、つまり約 66% と計算されます。
- 両方のリスク領域の重み付けが 10 の場合、それぞれ 50% の重み付けが適用されます。

コンポーネント基準を定義する

コンポーネントは、リスクを評価できるエンティティです (子会社やエンゲージメントなど)。「コンポーネント基準」は、特定のタイプのサードパーティまたはエンゲージメントに適用する必要があるコンポーネントのグループです。

始める前に
必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager

このタスクについて
コンポーネントは、リスクを評価できるエンティティです。ベースシステム には、次のタイプのコンポーネントが付属しています。

- サードパーティコンポーネント
  - サードパーティのリスクアセスメント (外部リスクアセスメント)
  - 子会社
  - エンゲージメント
  - リスクインテリジェンス評価
- エンゲージメントコンポーネント
  - エンゲージメントリスクアセスメント
  - 製品

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

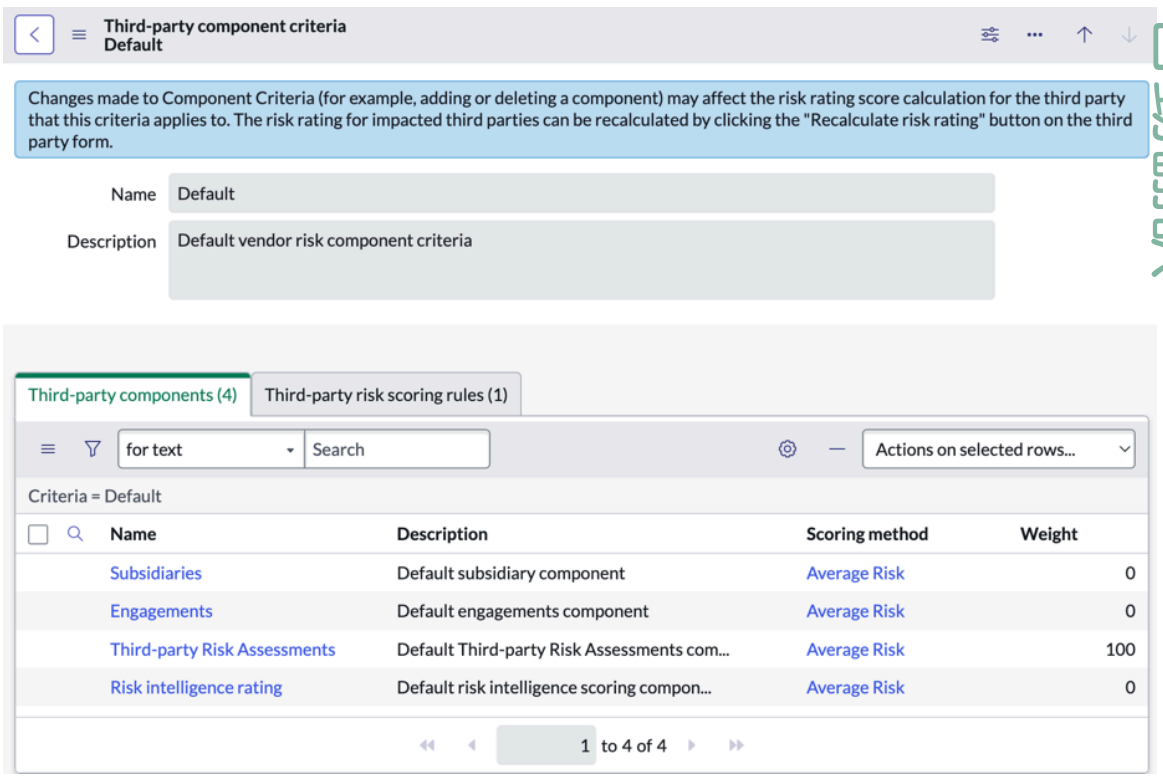
- プリンシパル
- 施設
- その他

サードパーティまたはエンゲージメントコンポーネントを表示するには、次に移動します: サードパーティリスク管理 > スコアリングセットアップ > サードパーティコンポーネント または サードパーティリスク管理 > スコアリングセットアップ > エンゲージメントコンポーネント.

注:
新しいコンポーネントを追加したり、既存のコンポーネントを変更したりすることはできません。ただし、コンポーネントの評価に使用する基準 (採点方法と重み付け) を定義することはできます。[デフォルトの採点方法] を更新して、各リスク領域の複数のスコアを計算する方法を指定できます。[デフォルトの重み付け] を使用して、サードパーティの総合リスク評価におけるサードパーティプロバイダースコアの重み付けを調整できます。

手順

1. 移動先 サードパーティリスク管理 > スコアリングセットアップ > サードパーティコンポーネント基準 または サードパーティリスク管理 > スコアリングセットアップ > エンゲージメントコンポーネント基準.
2. [デフォルト] エントリを選択してデフォルトの基準を開きます。



3. 会社が各コンポーネントタイプをどの程度重視しているかに基づいて、各コンポーネントを開き、重み付けを割り当てます。

   たとえば、次のように、サードパーティリスクアセスメントを重視する、すべての IT サードパーティのコンポーネント基準を作成できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例：**IT** サードパーティのコンポーネントへの重み付け

コンポーネント	重み付け
子会社	5
エンゲージメント	5
外部リスクアセスメント	90

4. 重み付けの割り当てが完了したら、[更新] を選択します。

サードパーティリスク採点ルールを定義

リスクスコアに基づいて、アセスメントが必要なサードパーティを決定する基準を定義します。サードパーティリスク採点ルールは、子会社とエンゲージメント、およびサードパーティリスク領域に適用されます。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager

手順

1. 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > スコアリングセットアップ > サードパーティリスクスコアリングルール.
2. [新規] を選択し、フォームに入力して [送信] を選択します。

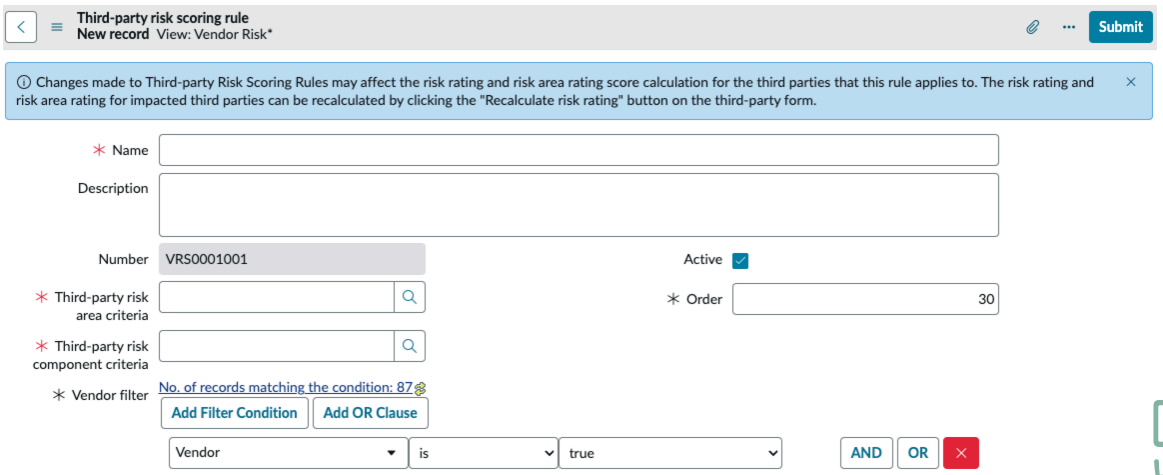
[サードパーティリスク採点ルール] フォーム

フィールド	説明
名前	採点ルールの名前。
説明	他のユーザーがその意図を理解するのに役立つ採点ルールの説明。
番号	サードパーティリスク採点ルールごとに、テキスト「VRS」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。 一意の ID は、アイテムへのすべての参照で使用されます。この ID を使用して、作業するアイテムを検索またはフィルタリングできます。
サードパーティリスク領域基準	このエンゲージメントリスク採点ルールに適用されるリスク領域基準。 サードパーティリスク領域基準は、特定のタイプのサードパーティに適用されるリスクドメイン (他のプラットフォーム機能ではリスク領域とも呼ばれる) のグループです。 基準の定義方法の詳細については、「サードパーティリスク領域基準を定義」を参照してください。
サードパーティリスクコンポーネント基準	このリスク採点ルールに適用される、サードパーティリスクアセスメント、エンゲージメント、および子会社の基準。 コンポーネントは、リスクを評価できるエンティティです (子会社やエンゲージメントなど)。「コンポーネント基準」は、特定のタイプのサードパーティまたはエンゲージメントに適用する必要があるコンポーネントのグループです。 「コンポーネント基準を定義する」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
アクティブ	ルールをアクティブ化するためのオプションアクティブなルールのみが適用されます。
順序	ルールの優先順位を示す順序を選択します。複数のルールが同じサードパーティのリスク領域、エンゲージメント、または子会社に適用される場合、優先順位のより高いルールが適用されます。
ベンダーフィルター	条件ビルダー を使用して、サードパーティを選択するためのルールを定義します。たとえば、取引が多いサードパーティ (サイズが 1,000,000 ドル) や特定のカテゴリ内のサードパーティ (カテゴリがソフトウェア) をフィルタリングできます。



エンゲージメントリスク採点ルールを定義する

エンゲージメントリスク採点ルールは、アセスメント対象として選択されるエンゲージメントを決定するコンポーネント基準を指定します。たとえば、ルールにより、年間 40,000 ドルを超えるビジネスに関連するエンゲージメントのアセスメントを有効にすることができます。エンゲージメント採点ルールはエンゲージメントにのみ適用されます。

始める前に

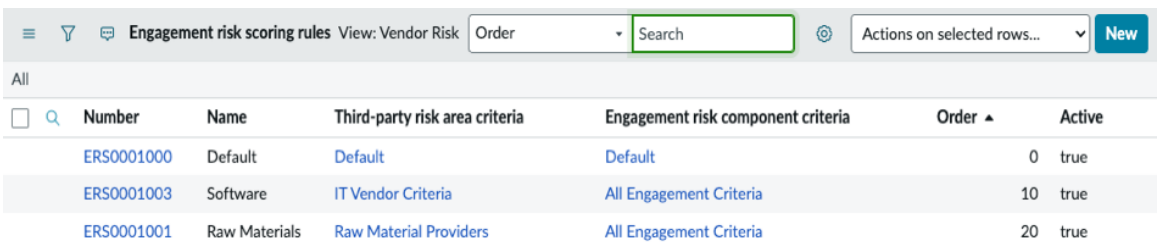
必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager

このタスクについて

重要:
エンゲージメントリスク採点ルールはエンゲージメントにのみ適用され、親サードパーティには適用されません。したがって、エンゲージメントリスク評価スコアは、エンゲージメントのリスクアセスメントにのみ適用されます。

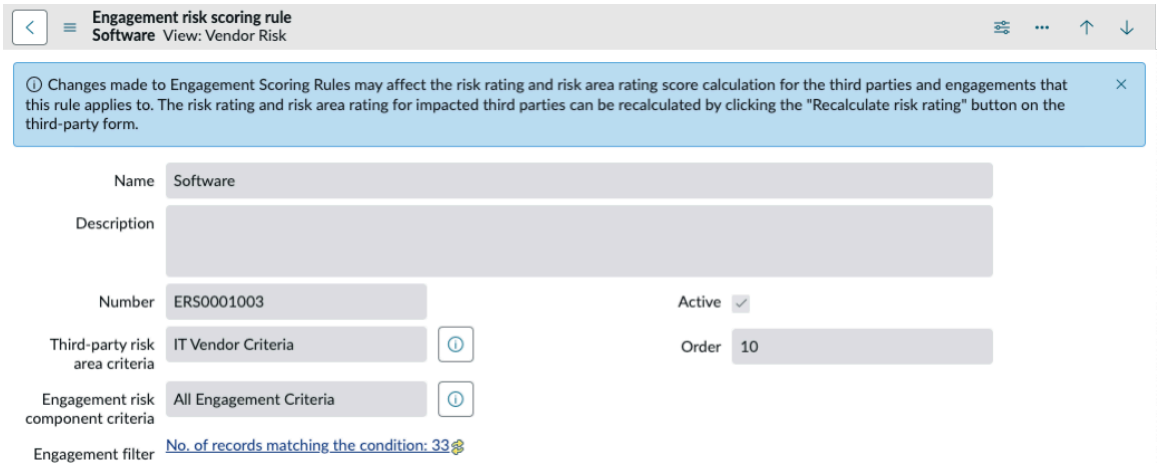
手順

1. 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > スコアリングセットアップ > エンゲージメントリスクスコアリングルール.



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. [新規] を選択し、フォームに入力して [送信] を選択します。



エンゲージメントリスクスコアリングルールフォーム

フィールド	説明
名前	採点ルールの名前。
説明	採点ルールの説明。
番号	エンゲージメントリスク採点ルールごとに、テキスト「ERS」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。 一意の ID は、アイテムへのすべての参照で使用されます。この ID を使用して、作業するアイテムを検索またはフィルタリングできます。
サードパーティリスク領域基準	このエンゲージメントリスク採点ルールに適用されるサードパーティのリスク領域基準。 サードパーティリスク領域基準は、特定のタイプのサードパーティに適用されるリスクドメイン (他のプラットフォーム機能ではリスク領域とも呼ばれる) のグループです。基準の定義方法の詳細については、「サードパーティリスク領域基準を定義」を参照してください。
エンゲージメントリスクコンポーネント基準	このエンゲージメントリスク採点ルールに適用されるエンゲージメントリスクコンポーネント基準。 コンポーネントは、リスクを評価できるエンティティです (子会社やエンゲージメントなど)。「コンポーネント基準」は、特定のタイプのサードパーティまたはエンゲージメントに適用する必要があるコンポーネントのグループです。
アクティブ	ルールをアクティブ化するためのオプションアクティブなルールのみがエンゲージメントに適用されます。
順序	ルールの優先順位を示す順序を指定します。同じエンゲージメントに複数のルールが適用される場合は、優先順位のより高いルールが適用されます。
エンゲージメントフィルター	エンゲージメントを選択するための基準。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	条件ビルダー を使用して、基準を定義します。 たとえば、取引が多いサードパーティ (年間支出額が $40,000 を超える)、または特定のカテゴリ内のサードパーティ (カテゴリがソフトウェア) に対してアセスメントを実行できます。

イベント駆動型管理 – アセスメントプロセスの自動化

イベント駆動型管理機能を使用して、アンケートとドキュメント要求を自動生成してエンゲージメントおよびサードパーティに送信するルールを構成します。定義したクライテリアを満たすエンゲージメントやサードパーティに対して、スケジュールとアセスメントのテンプレートを指定します。オンボーディングを除くすべてのアセスメントタイプを自動化できます。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager

手順

1. プロセスを開始するには、次のいずれかの方法を使用します。
   - ワークスペース:選択 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース.[リスク] タブで、を選択します。[イベント駆動型管理] リストで、[アクティブ]、[非アクティブ]、または [すべて] のいずれかのオプションを選択します。
   - 従来:移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > イベント駆動型管理 をクリックし、任意のオプション (アクティブ、 非アクティブ、または すべて) を選択します。
2. [新規] を選択してから、フォームに入力します。

   次の設定は、ワークスペースページのセクションに表示され、また従来のフォームでも関連リストとして表示されます。

[Event-driven management rule (イベント駆動型管理ルール)] フォーム

フィールド	説明
Name (名前)	他の人が意図と操作を理解するのに役立つわかりやすいルールの名前。
番号	イベント駆動型管理ルールごとに、テキスト「EMR」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。ルール実行 (実行) の履歴テーブルでは、テキスト「EMH」で始まる実行ごとにシステムによって一意の ID 番号が自動的に割り当てられます。 一意の ID は、アイテムへのすべての参照で使用されます。この ID を使用して、作業するアイテムを検索またはフィルタリングできます。
ビジネスの根拠	自動化プロセスを定義するビジネス上の理由。
Technical description (技術的な説明)	実行をトリガーする条件と、影響を受けるサードパーティの種類。
スコープ：生成するアセスメントの種類と使用するテンプレートを指定します。	

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

フィールド	説明
カテゴリ	○ 外部アセスメント：アンケートとドキュメント要求を送信します。[適用先] フィールドで、資料をサードパーティに送信するか、エンゲージメントに送信するかを指定します。 ○ エンゲージメントの再評価：条件が変化したときに既存のエンゲージメントを再評価します。たとえば、不利なニュースを聞いたり、サードパーティの供給ラインに変更があった場合などです。追加のデューデリジェンスを実施して、リスクを再評価する必要があるかもしれません。 ○ 契約更新のエンゲージメントの再評価：組織が現在のサードパーティとの契約やエンゲージメントを更新する前に、デューデリジェンスを実施してリスクを再評価します。 ○ エンゲージメントのオフボーディング (デューデリジェンスあり)：デューデリジェンスを実施して、エンゲージメントを伴う退職 (関係終了) が最適なアクションであるかどうかを判断します。たとえば、サードパーティやエンゲージメントの現在のパフォーマンスが期待に満たないとしても、それを変更するのはリスクが高すぎる可能性があります。 ○ エンゲージメントのオフボーディング (デューデリジェンスなし)：エンゲージメントが終了した場合、または他の理由で別のサードパーティに切り替えたい場合は、エンゲージメントを完全に終了するように要求します。この場合、通常は追加のデューデリジェンスを実施する必要はありません。ただし、このプロセスには、エンゲージメントによって提供されるサービスが継続されないことを確認するための通常の固有のリスクに関するアンケート (IRQ) プロセスが含まれます。重要な詳細については、エンゲージメントのオフボーディング (デューデリジェンスなし) を参照してください。
適用先	このフィールドは、カテゴリを [外部アセスメント] として設定した場合にのみ編集できます。 アンケートとドキュメント要求をサードパーティに送信するかエンゲージメントに送信するかを指定します。
内部アンケートテンプレート	このフィールドは、[外部アセスメント] 以外のカテゴリを選択した場合に表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

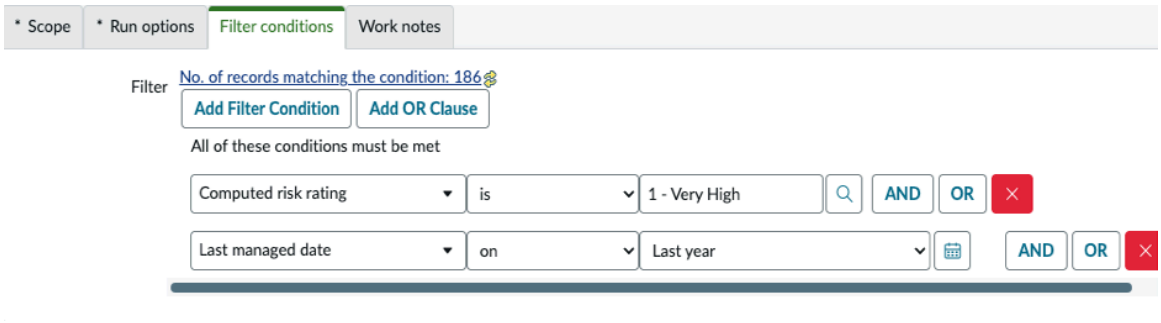
フィールド	説明
	Inherent Risk Questionnaire (IRQ：固有のリスクに関するアンケート) の内容を指定するテンプレートです。 **注:** ルールがデューデリジェンス要求に関連していて、 スマートアセスメントエンジン が有効になっていない場合、IRQ テンプレートはクラシックテンプレートテーブル (asmt_metric_type) を参照します。スマートアセスメントエンジンが有効になっている場合は、TPRM テンプレートテーブル (sn_vdr_risk_asmt_sae_questionnaire_template) が参照されます。
アセスメントテンプレート	このフィールドは、カテゴリを [外部アセスメント] として設定した場合にのみ表示されます。 送信するアンケートとドキュメント要求を指定するテンプレート。
実行オプション：アセスメントを生成するためのトリガーとスケジュールを定義します。	
実行タイプ	ルールをトリガーする方法を指定します。 ○ **1**回限り：[開始日] フィールドで指定した日付にサードパーティリスクアセスメントを送信します。 ○ 繰り返し：[周期] 設定で指定したスケジュールでサードパーティリスクアセスメントを送信します。 ○ オンデマンド：ユーザーが [今すぐ実行] を選択した場合にのみ、ルールが実行されます。 **注:** [実行タイプ] の設定に関係なく、いつでも [今すぐ実行] を選択してルールをすぐに実行できます。このようなオンデマンド実行は、今後のスケジュールされた実行には影響しません。実行履歴では、実行のアクションをトリガーが [手動] として記録されます。
Frequency (頻度)	このフィールドは、[繰り返し] の実行タイプを選択した場合にのみ表示されます。 ルールを実行する頻度を指定します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
Start date (開始日時)	このフィールドは、[繰り返し] または **[1** 回限り] の実行タイプを選択した場合にのみ表示されます。 アクティブなルールを実行できる最初の日付 (指定したフィルター条件による)。1 回限りのルールは開始日に実行されます。
終了日	このフィールドは、[繰り返し] の実行タイプを選択した場合にのみ表示されます。 アクティブなルールを実行できる最後の日付 (指定したフィルター条件による)。ルールは、終了日後に非アクティブになります。 終了日を指定しない場合、ルールは削除または更新するまで続行されます。

3. フィルター条件を指定します。
フィルターエディターを使用して、アンケートとドキュメント要求を受け取るサードパーティまたはエンゲージメントを決定する条件を指定します。



[設定] を選択すると、フィルターが適用され、フィルター条件に一致するエンゲージメントまたはサードパーティのリストを表示できるリンクが表示されます。

4. フィルター条件に一致するエンゲージメントまたはサードパーティに対して、サードパーティリスク (TPR) 査定人 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor]、オーナー、および契約リスク交渉担当者 [sn_vdr_risk_asmt.contract_negotiator] を選択する方法を指定します。

オプション	説明
最後に使用	エンゲージメントの機能を最後に実行したユーザーをアサインします。
オンボーディングの使用	エンゲージメントのオンボーディング中に最後に機能を実行したユーザーをアサインします。
今すぐ指定	このオプションを選択すると、ユーザーを指定するための選択ボックスが開きます。
後で指定	このオプションを選択すると、ルールが保存された後に、自分または別のユーザーが、後でワークフロー中に適切な TPR 査定人または契約リスク交渉担当者を指定できます。このオプ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	ションは、オーナーの選択には表示されません。

5. ワークスペースで [保存] を選択するか、フォームで [送信] をクリックします。
   - ルールが保存されます。
   - [実行タイプ] の設定に関係なく、いつでも [今すぐ実行] を選択してルールをすぐに実行できます。このようなオンデマンド実行は、今後のスケジュールされた実行には影響しません。実行履歴では、実行のアクションをトリガーが [手動] として記録されます。
   - ワークスペースの [詳細] タブとフォームには、以下の追加の読み取り専用値が表示されます。

その他の値

フィールド	説明
アクティブ	ルールをアクティブ化するためのオプションデフォルトでは、新しく定義されたルールはアクティブではありません。 ○ 指定した条件が満たされると、[実行状況] の値が [準備完了] のアクティブなルールのみを実行できます。 ○ ただし、[オンデマンド] として設定されたルールは、アクティブかどうかに関係なく実行できます。
実行状況	○ 準備完了：ルールが定義され、フィルター条件とスケジュールの決定に従って実行できます。 **注:** 指定した条件が満たされると、[実行状況] の値が [準備完了] のアクティブなルールのみを実行できます。 ○ 実行中：ルールは現在実行中です (アンケートと文書要求が送信されています)。 現在実行中のルールの場合：[実行開始] タイムスタンプと現在時刻の間の期間は、ルールが実行されている時間を示します。 **注:** [実行タイプ] の設定に関係なく、いつでも [今すぐ実行] を選択してルールをすぐに実行できます。このようなオンデマンド実行は、今後のスケジュールされた実行には影響しません。実行履歴では、実行のアクションをトリガーが [手動] として記録されます。 ルールの実行が長時間停止していると思われる場合：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	a. 検索項目 プロセス自動化 > フロー管理 > イベントキュー. **b.** sn_vdr または sn_tprm で始まる名前の、エラーステータスになっているプラットフォーム バックグラウンドタスクを見つけます。
次回実行予定	繰り返しの実行タイプのルールの場合、次にスケジュールされた実行の読み取り専用の日付は、指定されたフィルター条件と周期設定に基づいて計算されます。
前回成功した実行	[成功] ステータスになっている最新の実行のタイムスタンプ。

関連情報

イベント駆動型管理ルールの実行履歴を表示する

イベント駆動型管理ルールの実行履歴を表示する

イベント駆動型管理ルールが実行されると、アンケートとドキュメント要求が自動生成され、サードパーティに送信されます。すべての実行のルールの現在の状態 (実行中、成功、または取り消し済み) を表示できます。レコード番号を選択して詳細を表示し、ルールによって生成された一連のアセスメントを表示します。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager

手順

1. プロセスを開始するには、次のいずれかの方法を使用します。
   - ワークスペース:選択 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース.[リスク] タブで、を選択します。[イベント駆動型管理] リストで、[アクティブ]、[非アクティブ]、または [すべて] のいずれかのオプションを選択します。
   - 従来:移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > イベント駆動型管理 をクリックし、任意のオプション (アクティブ、 非アクティブ、または すべて) を選択します。
2. ワークスペースで [イベント駆動型管理履歴] タブを選択するか、フォームで [イベント駆動型管理履歴] 関連リストを表示します。

   実行の各レコードには、次の読み取り専用値が含まれます。

イベント駆動型管理履歴

フィールド	説明
番号	番号を選択して、実行の [詳細] タブを表示します。 イベント駆動型管理ルールごとに、テキスト「EMR」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。ルール実行 (実行) の履歴テーブルでは、テキスト「EMH」で始まる実行ごとにシステムによっ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	て一意の ID 番号が自動的に割り当てられます。 一意の ID は、アイテムへのすべての参照で使用されます。この ID を使用して、作業するアイテムを検索またはフィルタリングできます。
アクションをトリガー	○ スケジュール済みジョブ：[周期] 設定で指定されたスケジュールでルールが実行されました。 ○ 手動：ユーザーが [今すぐ実行] を選択したときにルールが実行されました。
実行開始	ルールの実行が開始された日時。 現在実行中のルールの場合：[実行開始] タイムスタンプと現在時刻の間の期間は、ルールが実行されている時間を示します。
実行完了	ルールの実行が終了した日時。
状況	○ 実行中：ルールは現在実行中です (アンケートと文書要求が送信されています)。 現在実行中のルールの場合：[実行開始] タイムスタンプと現在時刻の間の期間は、ルールが実行されている時間を示します。 ○ 成功：ルールが完了し、すべてのアンケートとドキュメント要求がサードパーティに送信されました。 ○ 取り消し中：ルールが取り消され、現在、サードパーティポータルからアンケートとドキュメント要求を削除しています。 ○ 取り消し済み：ルールの実行が完了した後、ユーザーがサードパーティのリスクアセスメントを取り消しました。「イベント駆動型のアンケートとドキュメント要求の取り消し」を参照してください。

イベント駆動型管理ルールによって生成されたアセスメントを表示する

イベント駆動型管理ルールが実行されると、アンケートとドキュメント要求が自動生成され、サードパーティに送信されます。すべての実行のルールの現在の状態 (実行中、成功、または取り消し済み) を表示できます。レコード番号を選択して詳細を表示し、ルールによって生成された一連のアセスメントを表示します。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. ベンダー管理ワークスペース ではプロセスを開始するには、次のいずれかの方法を使用します。
   - 特定のルールのすべての DD 要求とアセスメントを表示するには:
     a. リストアイコン を選択します。
     b. [イベント駆動型管理ルール] リストで、[アクティブ]、[非アクティブ]、または [すべて] のいずれかのオプションを選択します。
     c. [イベント駆動型管理] リストで、[アクティブ]、[非アクティブ]、または [すべて] のいずれかのオプションを選択します。
     d. ルールを選択します。
     e. [イベント駆動型管理履歴] タブで、実行を選択します。
     f. 適切なタブを選択して、ルールから送信された DD 要求またはアセスメントを表示します。
   - ルールの特定の実行に対する DD 要求とアセスメントを表示するには、次の手順を実行します。
     a. リストアイコン を選択します。
     b. [イベント駆動型管理] リストで、[成功した実行 **(Successful runs)]** または [取り消された実行 **(Recalled runs)]** のいずれかのオプションを選択します。
     c. [実行] を選択します。
     d. 適切なタブを選択して、ルールから送信された DD 要求またはアセスメントを表示します。
2. 従来のインターフェイスでは、次の方法を使用します。
   - ルールの特定の実行に対する DD 要求とアセスメントを表示するには、次の手順を実行します。
     a. 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > イベント駆動型管理 をクリックし、[成功した実行]、[取り消された実行] のいずれかのオプションを選択します。
     b. [実行] を選択します。
     c. 適切なタブを選択して、ルールから送信された DD 要求またはアセスメントを表示します。
3. [詳細] タブを選択して、実行のレコードを表示します。

   各レコードには、次の読み取り専用の値が含まれています。

イベント駆動型管理履歴

フィールド	説明
番号	イベント駆動型管理ルールごとに、テキスト「EMR」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。ルール実行 (実行) の履歴テーブルでは、テキスト「EMH」で始まる実行ごとにシステムによって一意の ID 番号が自動的に割り当てられます。 一意の ID は、アイテムへのすべての参照で使用されます。この ID を使用して、作業するアイテムを検索またはフィルタリングできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
アクションをトリガー	○ スケジュール済みジョブ：[周期] 設定で指定されたスケジュールでルールが実行されました。 ○ 手動：ユーザーが [今すぐ実行] を選択したときにルールが実行されました。
実行開始	ルールの実行が開始された日時。 現在実行中のルールの場合：[実行開始] タイムスタンプと現在時刻の間の期間は、ルールが実行されている時間を示します。 ルールの実行が長時間停止していると思われる場合： **a.** 検索項目 プロセス自動化 > フロー管理 > イベントキュー. **b.** sn_vdr または sn_tprm で始まる名前の、エラーステータスになっているプラットフォーム バックグラウンドタスクを見つけます。
実行完了	ルールの実行が終了した日時。
状況	○ 実行中：ルールは現在実行中です (アンケートと文書要求が送信されています)。 現在実行中のルールの場合：[実行開始] タイムスタンプと現在時刻の間の期間は、ルールが実行されている時間を示します。 ○ 成功：ルールが完了し、すべてのアンケートとドキュメント要求がサードパーティに送信されました。 ○ 取り消し済み：ルールの実行が完了した後、ユーザーがアンケートとドキュメント要求を取り消しました。「イベント駆動型のアンケートとドキュメント要求の取り消し」を参照してください。

イベント駆動型のアンケートとドキュメント要求の取り消し

イベント駆動型管理ルールによって送信されたサードパーティのリスクアセスメント (アンケートと文書要求) を取り消すことができます。まだ回答していないすべてのサードパーティまたはエンゲージメントについて、サードパーティポータルからアイテムが削除されます。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager

このタスクについて

重要:
アンケートと文書要求は、アイテムがまだ返されていないサードパーティの場合にのみサードパーティポータルから削除されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. プロセスを開始するには、次のいずれかの方法を使用します。
   - ワークスペース:選択 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース.[リスク] タブで、  を選択します。[イベント駆動型管理] リストで、[アクティブ]、[非アクティブ]、または [すべて] のいずれかのオプションを選択します。
   - 従来:移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > イベント駆動型管理 をクリックし、任意のオプション (アクティブ、 非アクティブ、または すべて) を選択します。
2. [取り消しの理由] フィールドにアイテムを取り消す理由を説明するテキストを入力し、[取り消し] を選択します。

   影響を受けるサードパーティポータルからサードパーティリスクアセスメントが削除され、ルールの [ステータス] 値が [取り消し済み] に設定されます。

メトリクスのスコアの正規化

[最大正規化入力] 設定を使用すると、正規化された値を使用して質問 (メトリクス) のアセスメントスコアを計算できます。

「最大正規化入力」が適用されている場合

[最大正規化入力] フィールドは、次の場合にのみ表示されます。

- 質問のデータタイプは [選択肢] または [複数選択] です。
- [スコアリング済み] チェックボックスが選択されていません。

正規化スコアを使用するには、各メトリクス (質問) の各メトリクス定義 (考えられる回答) に割り当てられた値が一意である必要があります。

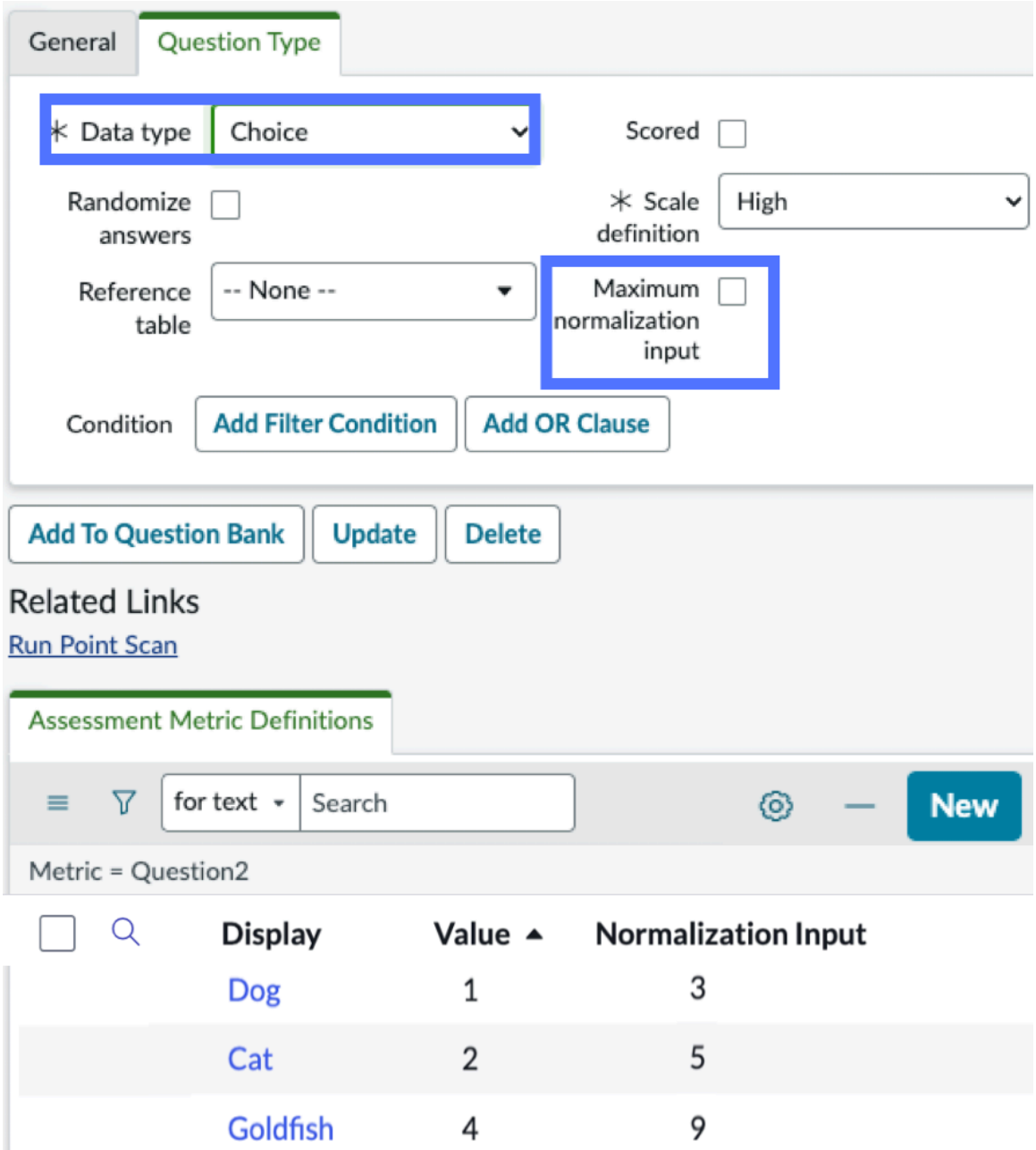
次の例では、[スケール定義] は [高] です (より大きい数値が適切です)。

「選択肢」タイプの質問

「最大正規化入力」が選択されていない場合

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



計算式：([回答の値] – [最小値]) / ([最高値] – [最小値]) * 100。
この例では、質問では、 値が 1、2、4 の回答から選択できます。

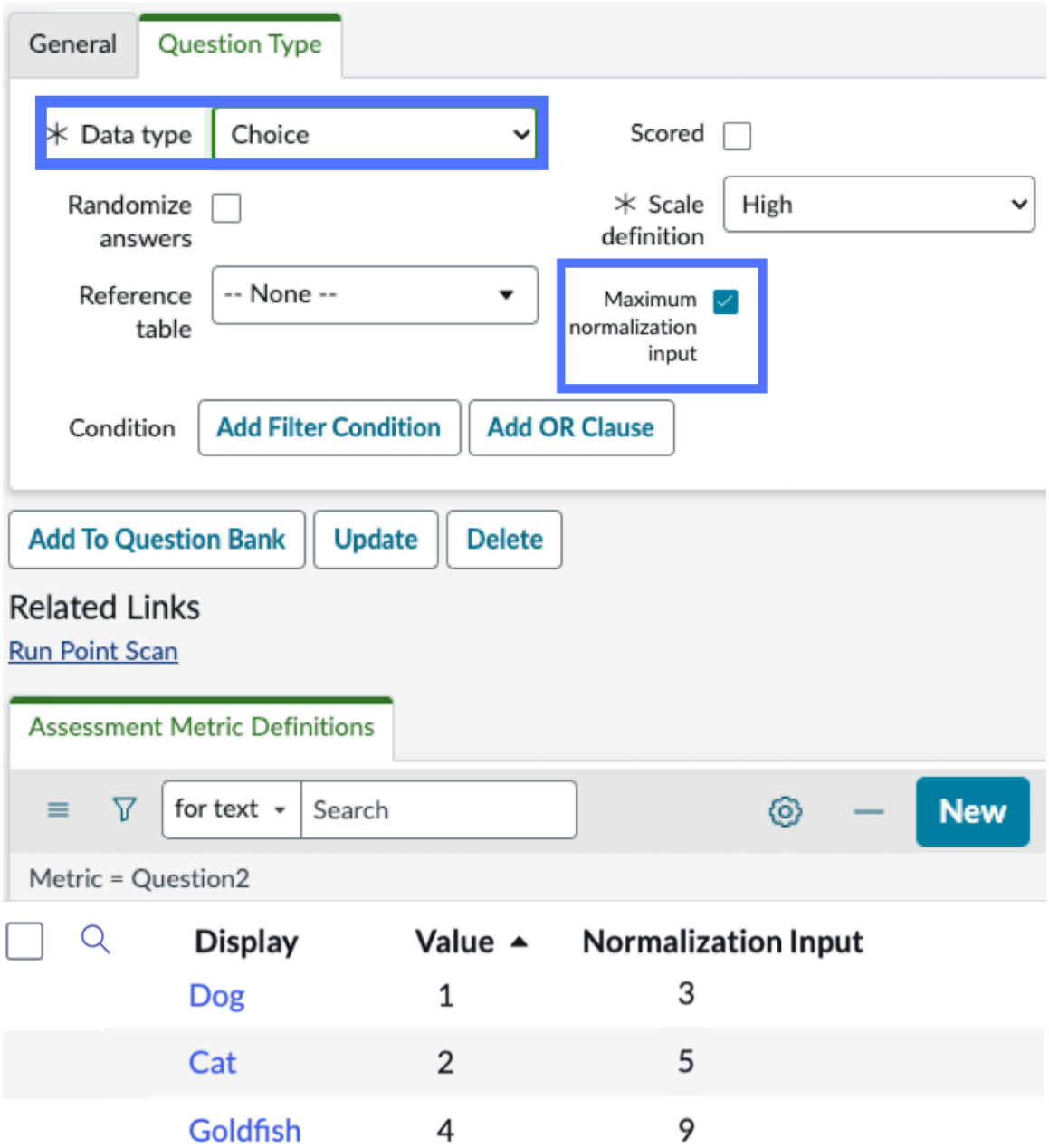
スコア

応答	計算	スコア
犬	[(1-1)/(4-1)] * 100	0
猫	[(2-1)/(4-1)] * 100	33
金魚	[(4-1)/(4-1)] * 100	100

「最大正規化入力」が選択されている場合

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



計算式：([回答の値] / [最大値]) * 100。

この例では、質問では、値が 1、2、および 4 の回答と、正規化入力値がそれぞれ 3、5、および 9 から選択できます。

スコア

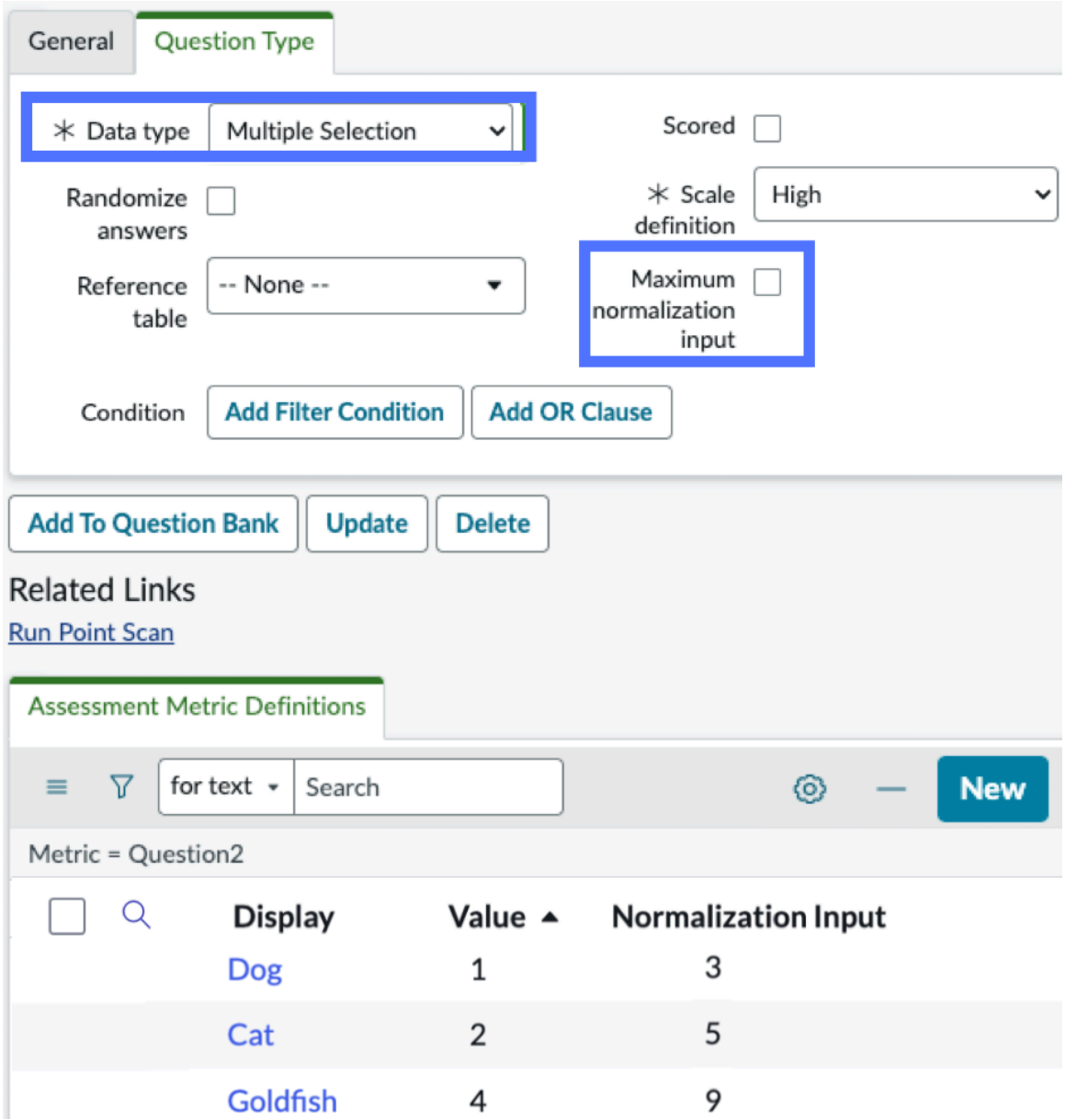
応答	計算	スコア
犬	(1 / 4) * 100	25
猫	(2 / 4) * 100	50
金魚	(4 / 4) * 100	100

「複数選択」タイプの質問

「最大正規化入力」が選択されていない場合

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳



計算式：([選択した回答の正規化入力値の合計] / [全正規化入力値の合計]) * 100

この例では、質問では、値が 1、 2、 4 の回答と、正規化入力値がそれぞれ 3、 5、 9 から複数選択できます。

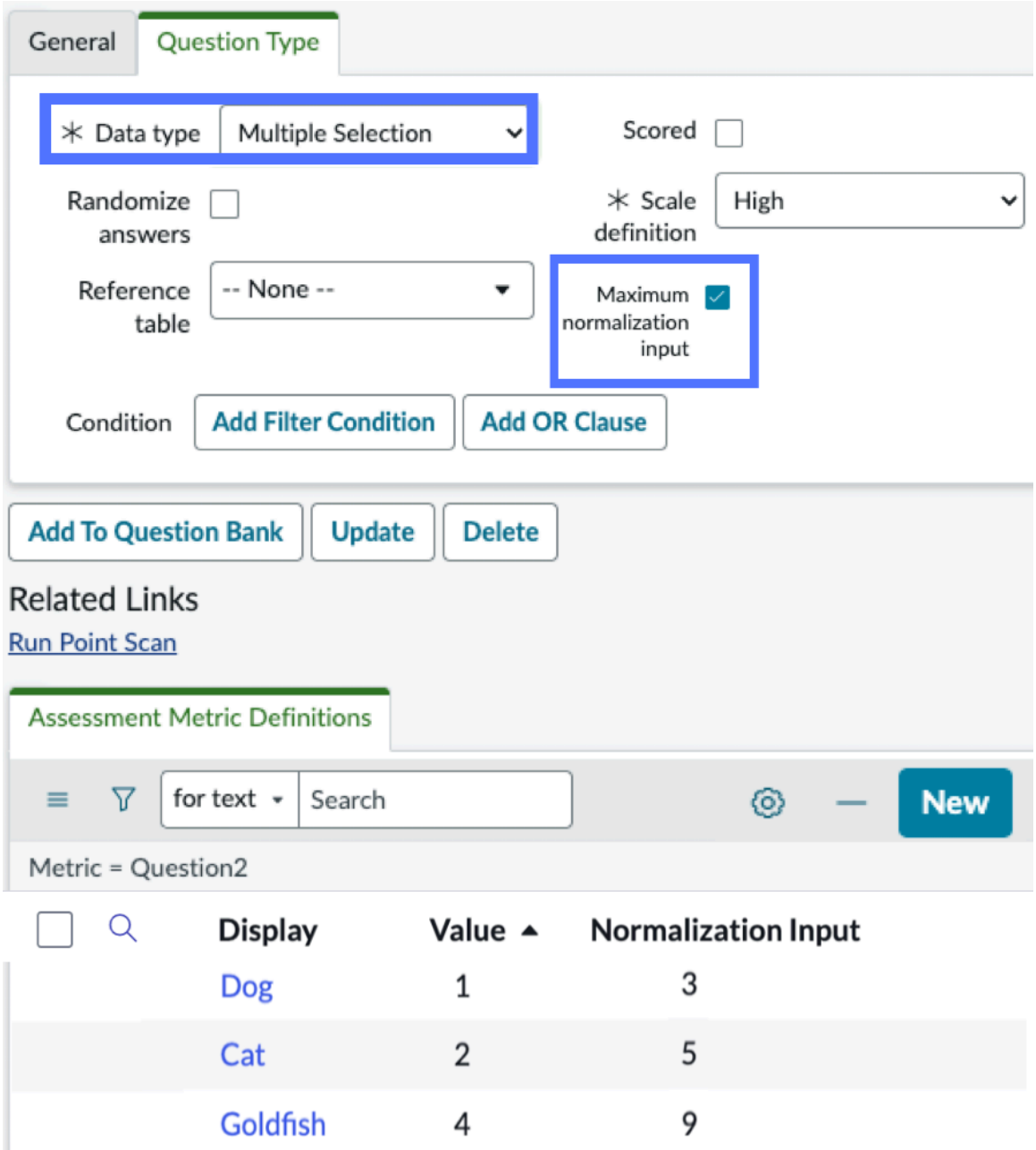
スコア

応答	計算	スコア
犬と猫	([3+5] / 17) * 100	47
猫	(5 / 17) * 100	29
猫と金魚	([5+9] / 17) * 100	82
金魚	(9 / 17) * 100	53

「最大正規化入力」が選択されている場合

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



- システムは、最小値を持つ応答に値 0 を使用します。この例では、[犬] 応答に値 0 が割り当てられます。
- 各選択の計算式: ([選択した回答の最も高い正規化入力値] / [正規化入力値の最大値]) * 100。
- メトリクス (質問) のスコアは、すべての応答の中で計算された最大スコアです。

この例では、ユーザーは [犬] と [猫] を選択します。

- 犬の応答のスコアは、(0 / 9) * 100 = 0 です。
- 猫の応答のスコアは (5 / 9) * 100 = 55.5 です。
- メトリクス全体のスコアは 55.5 です。

計算式：(選択した回答の正規化入力値の最大値 / すべての正規化入力値の最大値) * 100

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

この例では、質問では、値が 1、 2、 4 の回答と、正規化入力値がそれぞれ 3、 5、 9 から複数選択できます。

スコア

応答	計算	スコア
犬と猫	(5 / 9) * 100	56
猫	(5 / 9) * 100	56
猫と金魚	(9 / 9) * 100	100
金魚	(9 / 9) * 100	100

質問集の設定と維持

質問集に質問を追加した後は、質問をアセスメントにドロップすることで、任意のアセスメントで再利用できます。カスタム質問を作成したり、既存の質問を追加したり、ベースシステム に含まれているサンプルの質問を追加してカスタマイズしたりすることができます。

始める前に

必要なロール：admin または sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin

手順

1. に移動してアセスメントカテゴリを定義します すべて > サードパーティリスク管理 > アドミニストレーション > 質問集をクリックし、 新規 を選択します。
2. アセスメントカテゴリのわかりやすい名前と説明を入力し、[保存] を選択します。
3. 新しいアセスメントカテゴリの名前を選択してレコードを開きます。
4. 次のいずれかの方法を使用して、アセスメントメトリクス (質問) をカテゴリに追加します。
5. [更新] を選択して、質問を現在のアセスメントカテゴリの質問集に保存します。

質問の定義

質問集に質問を追加した後は、質問をアセスメントにドロップすることで、任意のアセスメントで再利用できます。カスタム質問を作成したり、既存の質問を追加したり、ベースシステム に含まれているサンプルの質問を追加してカスタマイズしたりすることができます。

始める前に

必要なロール：admin or sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager

このタスクについて

TPRM の用語

用語	説明
メトリクスまたはアセスメントメトリクス	アンケートテンプレート内の 1 つの質問。
メトリクスタイプまたはアセスメントメトリクスタイプ	アンケートテンプレート。
カテゴリまたはアセスメントカテゴリ	アンケートテンプレート内の関連する一連の質問。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

TPRM の用語 (続く)

用語	説明
	注: 1 つのメトリクスタイプ内に複数のカテゴリが存在する場合があります。

採点済みオプション (採点済み チェックボックス) の選択はオプションです。特に明記されていない限り、すべての質問の回答は採点されます。スコアリング済みオプションは、スコアリング動作を変更します。[採点済み] オプションが選択されている場合、スコアは常に 0 または 100 で、回答が正しいか正しくないかを反映し、questionRating 式と questionPercentContribution 式は使用されません。正規化値は 0 または 100 に直接設定されます。[採点済み] チェックボックスが選択されていない場合、スコアは questionRating および questionPercentContribution 式を使用して計算され、正規化値が決定されます。[最大正規化] 入力フィールドの選択は、[採点済み] チェックボックスがオフの場合にのみ適用されます。これは、正規化の最大値を定義するために使用され、スコアは入力値と重み付けに基づいて変化する可能性があるためです。[採点済み] チェックボックスがオンになっている場合、[最大正規化] 入力フィールドは適用されず、[正規化値] は単に 0 または 100 になります。スコアリングと正規化されたスコアの詳細については、「 従来のアセスメントエンジンを使用したスコア計算 と メトリクスのスコアの正規化」を参照してください。

手順

1. 追加する予定の質問に適したアセスメントカテゴリを定義または選択します。
   - 既存のアセスメントカテゴリを選択するには、次に移動します: すべて > サードパーティリスク管理 > アドミニストレーション > 質問集をクリックし、リストで選択します。
   - アセスメントカテゴリを定義する手順については、「質問集の設定と維持」を参照してください。
2. アセスメントメトリクス (質問) を作成します。

   アセスメントカテゴリの [アセスメントメトリクス] 関連リストで、[新規] を選択して、フォームに入力します。

   アセスメントメトリクスフォーム

フィールド	説明
名前	アセスメントメトリクスの名前。
必須	質問に回答する必要があるかどうかを示します。
重み付け	このメトリクスの重要性を他のメトリクスと比較するために使用される数値。 **注:** 重み付けの値は整数である必要があります。小数点以下桁数を使用すると、スコアが不正になります。たとえば、0.56 ではなく 56 を使用します。
カテゴリ	メトリクスが関連付けられているカテゴリ。
質問	質問はアンケートに表示されます。
説明	サードパーティの連絡先が質問を理解しやすくなるためのツールヒントのテキスト。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
詳細	アセスメントの受験者に表示される質問の詳細な説明。詳細には、テキスト、画像、ビデオ、および外部 Web サイトまたはその他のコンテンツへのリンクを含めることができます。 **注:** アセスメントレベルまたはカテゴリレベルで詳細を定義できます。

3. [全般] タブを選択し、値を入力します。

アセスメントメトリクスフォーム - [全般] タブ

フィールド	説明
メソッド	メトリクスのために使用されるデータを収集する手法。 ○ アセスメント ○ デフォルトの回答元フィールド ○ デフォルトの回答元スクリプト ○ スクリプト
順序	質問がアンケートに表示される順番。[順序] の値が小さい質問は、アンケートの前半に表示されます。
アクティブ	アセスメントおよび結果の計算のためのメトリクスをアクティブ化します。
依存する作業指示タスク	個別のメトリクス (質問) の識別子。このフィールドで指定されている質問に対する応答によって、現在定義している質問をユーザーに表示するかどうかが決まります。 このフィールドは、[方法] フィールドで [アセスメント] を選択した場合にのみ表示されます。
デフォルトの回答	質問に対するデフォルトの回答を指定するフィールド。 このフィールドは、[方法] フィールドで [デフォルトの回答元フィールド] を選択した場合にのみ表示されます。
質問する	デフォルト値が指定されている場合に質問に回答が必要かどうかを指定します。 このフィールドは、[方法] フィールドで [デフォルトの回答元フィールド] または [デフォルトの回答元スクリプト] を選択した場合にのみ表示されます。
スクリプト	アセスメントの生成時に関連付けられているメトリクスのパフォーマンスインジケーターを作成するために使用されるスクリプト。 このフィールドは、[メソッド] フィールドで [デフォルトの回答元] または [スクリプト] を選択した場合にのみ表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: スクリプトにタブ文字を入力するには、**Tab** キーを使用します。タブアクションでは、タブ間で進む場合は **Esc** を、戻る場合は **Shift+Esc** を押します。

4. [質問タイプ] タブを選択し、フォームに入力します。

注:
表示されるフィールドは、選択する [データタイプ] に依存します。

アセスメントメトリクス質問フォーム - [質問タイプ] タブ

データタイプ	[説明] と追加フィールド
添付ファイル	アンケートで、ユーザーは質問に 1 つまたは複数のファイルを添付します。 この質問タイプは、デフォルトでは採点されません。
チェックボックス	アンケートでは、ステートメントのチェックボックスをオンにするか、オフのままにします。 データタイプに対して採点される単一のメトリクスを定義するには、[採点済み] を選択し、質問に対して [正しい回答] を選択します。 [採点済み] チェックボックスをオンにしなかった場合は、[スケール定義] を設定します。選択したチェックボックスが良スコアに等しい場合、このフィールドを [高] に設定します。小さな数値を正のスコアとして解釈する必要がある場合は、このフィールドを [低] に設定します。
選択肢	アンケートで、ユーザーはカスタム回答オプションのリストから値を選択します。各回答オプションのメトリクス定義を作成します。 注: 回答オプションの 1 つでカンマを使用すると、アンケートがスプレッドシートとしてエクスポートされるときにハイフンとして表示されます。たとえば、「はい、詳細情報を追加します」が回答オプションの 1 つである場合、エクスポートされたスプレッドシートでは「はい、詳細情報を追加します」と表示されます。 [選択肢のランダム表示] チェックボックスをオンにすると、質問の回答オプションの順序がランダムになります。 参照データタイプの質問に使用する [参照テーブル] を選択します。 条件を定義して、選択基準を満たすものに選択肢を制限します。 データタイプに対して採点される単一のメトリクスを定義するには、[採点済み] を選択し、質問に対して正しい回答を選択します。 [採点済み] チェックボックスをオンにしなかった場合は、[スケール定義] の値を設定します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データタイプ	[説明] と追加フィールド
	○ 選択したチェックボックスが良スコアである場合は、このフィールドを [高] に設定します。 ○ 小さな数値が良スコアである場合は、[低] に設定します。 [最大正規化入力] チェックボックスをオンにすれば、正規化入力値を使用して質問のアセスメントスコアを計算できます。詳細については、「メトリクスのスコアの正規化」を参照してください。
日付	アンケートで、ユーザーは日付を選択します。 この質問タイプは、デフォルトでは採点されません。
日付/時刻	アンケートで、ユーザーは日付と時刻を選択します。 この質問タイプは、デフォルトでは採点されません。
期間	アンケートで、ユーザーが [最小/最大] の範囲内の回答を指定します。 期間が依存する [依存プラグイン] を選択します。 ○ 資産管理 ○ CMDB ○ コア ○ コスト管理 ○ 調達 ○ ソフトウェア資産管理 データタイプに対して採点される単一のメトリクスを定義するには、[採点済み] を選択し、質問に対して [正しい回答] を選択します。 [採点済み] チェックボックスをオンにしなかった場合は、[スケール定義] を設定します。 ○ 大きな数値が良スコアである場合は、このフィールドを [高] に設定します。 ○ 小さな数値が肯定的なスコアである場合は、このフィールドを [低] に設定します。
画像スケール	アンケートで、ユーザーは画像スケールを選択します。 データタイプに対して採点される単一のメトリクスを定義するには、[採点済み] を選択し、質問に対して [正しい回答] を選択します。変更するには、[正しい回答] フィールドのロックを解除する必要があります。 [採点済み] チェックボックスをオンにしなかった場合は、[スケール定義] を設定します。 ○ 大きな数値が良スコアである場合は、[高] に設定します。 ○ 小さな数値が良スコアである場合は、[低] に設定します。
リッカートスケール	アンケートで、ユーザーは回答オプションのカスタムスケールから値を選択します。スケールの選択ボタンで表される各回答オプションのメトリクス定義を作成します。アプリケーションの使いやすさを評価するリッカート尺度メトリクスには、[簡単]、[平均]、および [困難] というメトリクス定義が存在する場合があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データタイプ	[説明] と追加フィールド
	[選択肢のランダム表示] を選択すると、質問の回答オプションの順序がランダムになります。 データタイプに対して採点される単一のメトリクスを定義するには、[採点済み] を選択し、質問に対して [正しい回答] を選択します。変更するには、[正しい回答] フィールドのロックを解除する必要があります。 [採点済み] チェックボックスをオンにしなかった場合は、[スケール定義] を設定します。 ○ 大きな数値が良スコアである場合は、[高] に設定します。 ○ 小さな数値が良スコアである場合は、[低] に設定します。
複数選択	アンケートで、カスタム回答オプションのリストから 1 つ以上の値を選択します。[複数選択] データタイプでは、テーブルのどの値を一覧に表示するかをフィルター処理する [参照テーブル] と条件を指定するオプションがあります。 たとえば、[国 **[core_country]]** を参照テーブルとして選択し、条件を [名前] + [次の値で始まる] + **[B]** に設定すると、クエリは 231 か国のリスト全体ではなく、文字 B で始まる 19 か国のみを返します。 このデータタイプに対して採点される単一のメトリクスを定義するには、[採点済み] を選択し、質問に対して [正しい回答] を選択します。変更するには、[正しい回答] フィールドのロックを解除する必要があります。 [採点済み] チェックボックスをオンにしなかった場合は、[スケール定義] を設定します。 ○ 大きな数値が良スコアである場合は、[高] に設定します。 ○ 小さな数値が良スコアである場合は、[低] に設定します。 [最大正規化入力] チェックボックスをオンにすれば、正規化入力値を使用して質問のアセスメントスコアを計算できます。詳細については、「メトリクスのスコアの正規化」を参照してください。
番号	アンケートで、ユーザーが 最小/最大 の範囲内の数値を入力します。 このデータタイプに対して採点される単一のメトリクスを定義するには、[採点済み] を選択し、質問に対して [正しい回答] を選択します。 [採点済み] チェックボックスをオンにしなかった場合は、[スケール定義] を設定します。 ○ 大きな数値が良スコアである場合は、[高] に設定します。 ○ 小さな数値が良スコアである場合は、[低] に設定します。
数値スケール	アンケートで、ユーザーが 最小/最大 の範囲内の数値を入力します。 このデータタイプに対して採点される単一のメトリクスを定義するには、[採点済み] を選択し、質問に対して [正しい回答] を選択します。 [採点済み] チェックボックスをオンにしなかった場合は、[スケール定義] を設定します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データタイプ	[説明] と追加フィールド
	○ 大きな数値が良スコアである場合は、[高] に設定します。 ○ 小さな数値が良スコアである場合は、[低] に設定します。
パーセンテージ	アンケートで、ユーザーが 最小/最大 の範囲内のパーセンテージを入力します。 このデータタイプに対して採点される単一のメトリクスを定義するには、[採点済み] を選択し、質問に対して [正しい回答] を選択します。 [採点済み] チェックボックスをオンにしなかった場合は、[スケール定義] を設定します。 ○ 大きな数値が良スコアである場合は、[高] に設定します。 ○ 小さな数値が良スコアである場合は、[低] に設定します。
ランキング	アンケートで、オプションごとに異なる順番の番号をユーザーが選択してランク付けできます。ユーザーは、番号を入力するか、オプションをドラッグできます。 [選択肢のランダム表示] を選択すると、質問の回答オプションの順序がランダムになります。 [スケール定義] を設定します。 ○ 大きな数値が良スコアに等しい場合、この値を [高] に設定します。 ○ 小さな数値を正のスコアとして解釈する必要がある場合は、このフィールドを [低] に設定します。
参照	アンケートで、指定された [参照テーブル] から生成されているリストからユーザーが値を選択します。たとえば、参照テーブルとしてユーザー [sys_user] を指定する場合、ユーザーは質問に回答してユーザー名を選択できます。 参照テーブルから取得する情報を管理可能なチャンクに制限するための [条件] を指定するオプションもあります。
文字列	アンケートで、ユーザーがテキストを入力します。[文字列] フィールドのサイズは、選択した [文字列オプション] によって異なります。 ○ 1 行 ○ 1 行幅 ○ 複数行 この質問タイプは、デフォルトでは採点されません。
テンプレート	アンケートで、事前定義された一連の回答オプションからユーザーが値を選択します。このデータタイプを使用するために定義された少なくとも 1 つのテンプレートが存在する必要があります。テンプレートの場合、各回答オプションに対してテンプレート定義があり、ラジオボタンで表されます。 このデータタイプに対して採点される単一のメトリクスを定義するには、[採点済み] を選択し、質問に対して [正しい回答] を選択します。変更するには、[正しい回答] フィールドのロックを解除する必要があります。 [採点済み] チェックボックスをオンにしなかった場合は、[スケール定義] を設定します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データタイプ	[説明] と追加フィールド
	○ 大きな数値が良スコアである場合は、[高] に設定します。 ○ 小さな数値が良スコアである場合は、[低] に設定します。
はい/いいえ	アンケートで、リストからユーザーが [はい] または [いいえ] を選択します。 このデータタイプに対して採点される単一のメトリクスを定義するには、[採点済み] を選択し、質問に対して [正しい回答] を選択します。 [採点済み] チェックボックスをオンにしなかった場合は、[スケール定義] を設定します。 ○ [はい] の回答が良スコアである場合は、[高] に設定します。 ○ [いいえ] の回答が良スコアである場合は、[低] に設定します。

5. [更新] を選択して質問を質問集に保存します。

ベースシステム のサンプル質問の表示

TPRM には、組織のアンケートテンプレートを定義するために使用できるサンプルアンケートが含まれています。

始める前に

サンプルの質問集を含めるには、[インストール中にデモデータをロード] を選択します。TPRMインストール手順については、「サードパーティリスク管理の構成」を参照してください。

必要なロール：admin または sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin

このタスクについて

- サンプル質問には、採点や正解/不正解は含まれません。ユーザーがこれらの属性を定義します。
- サンプルの質問は、規制の変更をサポートするために更新されるのではなく、ユーザーが変更を管理します。

手順

移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > アセスメントのセットアップ > アンケートテンプレート.

TPRM の用語

用語	説明
メトリクスまたはアセスメントメトリクス	アンケートテンプレート内の 1 つの質問。
メトリクスタイプまたはアセスメントメトリクスタイプ	アンケートテンプレート。
カテゴリまたはアセスメントカテゴリ	アンケートテンプレート内の関連する一連の質問。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

用語	説明
	注: 1 つのメトリクスタイプ内に複数のカテゴリが存在する場合があります。

[アセスメントメトリクスタイプ] リストには、メトリクスタイプのリストが表示されます。各メトリクスタイプには、1 つ以上のメトリクスカテゴリが含まれています。各メトリクスカテゴリには、複数のサンプル質問が含まれています。

関連情報

リスクアセスメントに SIG Questionnaire を使用する

外部アセスメントテンプレートの作成

アセスメントテンプレートを定義するときに、サードパーティリスクマネージャーはサードパーティリスクアセスメントのスケジュール情報を提供します。

始める前に
必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager

このタスクについて
アセスメントの一環として、TPR マネージャーは、アセスメントテンプレートを使用して複数のアンケートと文書要求を送信できます。TPR アドミニストレーターは最初に必要なアンケートテンプレートと文書の要求テンプレートを定義し、次に TPR マネージャーはそれらをアセスメントテンプレートにグループ化します。TPR マネージャーは出来上がったアセスメントテンプレートを使用して、今後のアセスメントにおいて、適切なアンケート、文書要求、またはその両方を送信できます。

注:

新しいアセスメントテンプレートを作成し、 スマートアセスメントエンジン プロパティを有効にしている場合、テンプレートを保存した後、デフォルトで [スマートアセスメントをサポート] オプションが選択されます。

既存のアセスメントの場合、すべてのクラシックエンジンテンプレートが削除されると、[スマートアセスメントのサポート] オプションが自動的に設定されます。スマートアセスメントエンジンに移行されて公開された、関連するアンケートテンプレートと文書要求テンプレートを追加できます。

手順

1. 次のいずれかに移動します。
   - すべて > サードパーティリスク管理 > アセスメントのセットアップ > 外部アセスメントテンプレート.
   - ワークスペース > ベンダー管理ワークスペースをクリックし、リストアイコン ( )を選択して、 アセスメントのセットアップ > 外部アセスメントテンプレート.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームで、フィールドに入力します。

   フィールドの説明の詳細については、「 新しい外部アセスメントテンプレートの作成フォーム」を参照してください。
4. **[Submit** (送信)] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. 次のいずれかの方法を使用して、アンケートまたは文書要求テンプレートをアセスメントテンプレートに追加します。
   アセスメントテンプレートを使用する準備ができました。

関連情報

- アンケートや文書要求テンプレートを作成する
- デザイナーを使用してアンケートや文書要求テンプレートを作成する
- TPRM SAEアンケートまたは文書要求テンプレートの作成

スケジュールで繰り返すようにリスクアセスメントを構成する

サードパーティまたはエンゲージメントのリスク結果を定期的に更新するために、サードパーティリスクアセスメントをスケジュールで繰り返すように構成します。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor

このタスクについて

クラシックアセスメントエンジンを使用している場合は、繰り返しアセスメントを作成できます。スマートアセスメントエンジンを使用している場合は、イベント駆動型管理機能を使用して、アンケートとドキュメント要求を自動生成してエンゲージメントやサードパーティに送信するルールを構成できます。詳細については、「スケジュールで繰り返すようにリスクアセスメントを構成する」と「イベント駆動型管理 — アセスメントプロセスの自動化」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > 外部リスクアセスメント > アセスメントのスケジューリング.
2. [新規] をクリックしてフォームに入力し、[送信] をクリックします。

繰り返しアセスメントフォーム

フィールド	説明
番号	外部リスクアセスメントごとに、テキスト「VRA」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。 一意の ID は、アイテムへのすべての参照で使用されます。この ID を使用して、作業するアイテムを検索またはフィルタリングできます。
説明	繰り返しアセスメントの詳細な説明。
名前	繰り返しアセスメントの名前。
アセスメントテンプレート	現在のアセスメントを作成するために使用するテンプレート。
適用先	アセスメントが適用されるエンティティ。サードパーティとエンゲージメントのいずれかです。
サードパーティ	評価対象のサードパーティを選択します。
エンゲージメント	評価対象のエンゲージメントを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	このフィールドは、[適用先] フィールドで [エンゲージメント] を選択した場合にのみ表示されます。
アクティブ	現在の繰り返し行われるアセスメントを、スケジュールどおりに実行できるようにするオプション。
次回アセスメント作成 (月数)	次回アセスメントは、前回のアセスメントの終了後から指定された月数の経過後に作成されます。
次回アセスメント終了日 (月数)	前回のアセスメントがクローズされた後の新しいアセスメントの終了日。
アセスメント結果有効期間 (日数)	アセスメントの結果が有効である日数。

[アセスメントの発生] 関連リストには、アセスメントが行われた各回のステータスと、アセスメントの結果であるリスク評価が表示されます。

スプレッドシートからアンケートをインポートする

Microsoft Excel スプレッドシートを使用してアンケートを管理している場合は、スプレッドシートのデータを TPRM テーブルに直接インポートすると、時間と労力を節約できます。そうすることで、テンプレートから自動的にアンケートを作成できます。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager

このタスクについて

アンケートをインポートする前に、スプレッドシートのデータが特定の要件を満たしていることを確認する必要があります。スプレッドシートのインポート前の作業をしやすくするため、フォーマット要件を確認し、サンプルのスプレッドシートを表示またはダウンロードしてガイドとして使用できます。「スプレッドシートデータをインポートするためのガイドライン」を参照してください。

次のプロパティ設定を指定できます。

スプレッドシートのテキスト区切り文字 [sn_vdr_risk_asmt.excel_choice_delimiter]

タイプが「選択肢」と「複数選択」の質問の応答テキストを区切る文字列。

一般的な区切り文字：\r、\n、\t、\r\n、およびカンマ文字。

スプレッドシートファイルの最大サイズ [sn_vdr_risk_asmt.excel_file_max_size]

インポートできる最大ファイルサイズ (MB)。

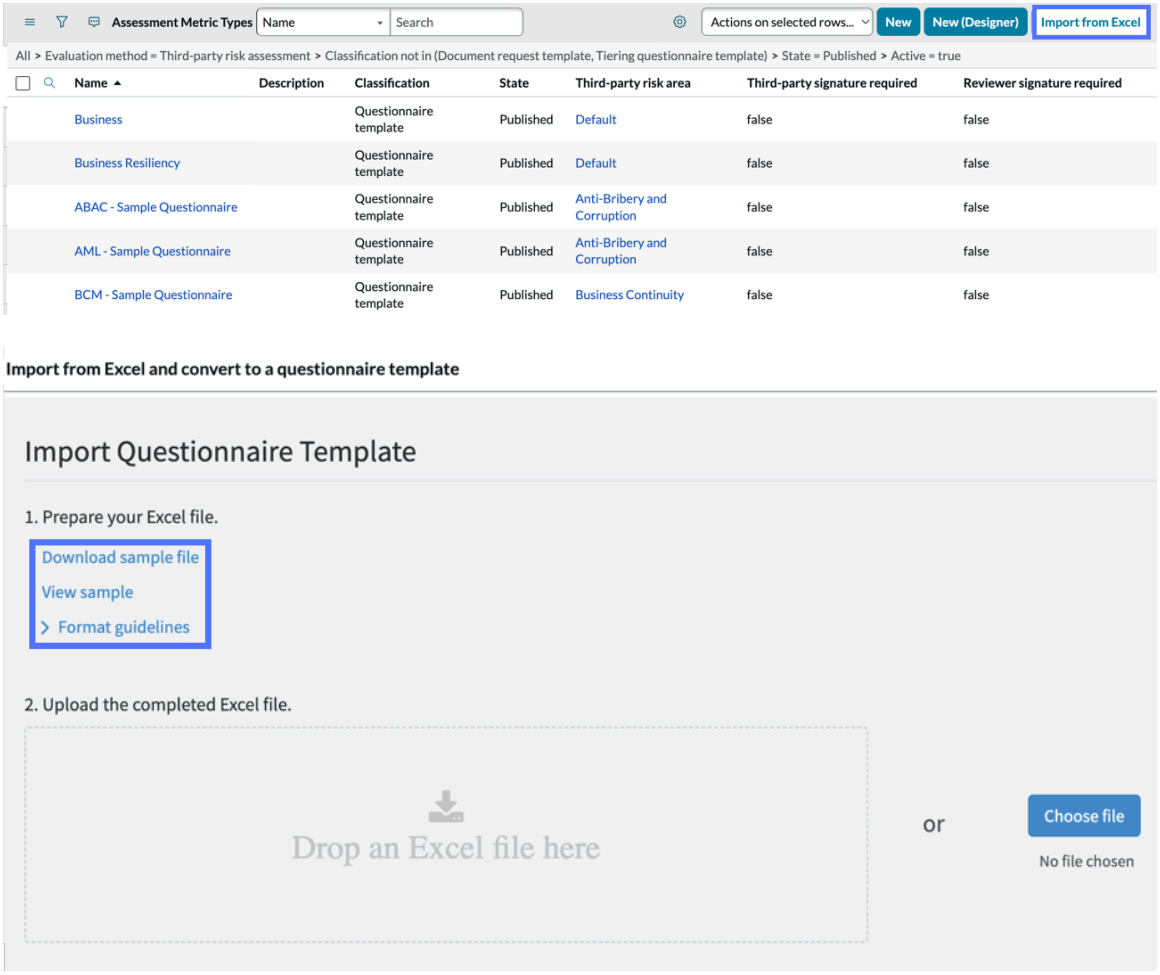
「TPRM プロパティの設定」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > アセスメントのセットアップ > アンケートテンプレート または サードパーティリスク管理 > 階層のセットアップ > 階層アンケートのテンプレート.
2. [**Excel** からインポート] を選択して、[アンケートテンプレートのインポート] フォームを開きます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



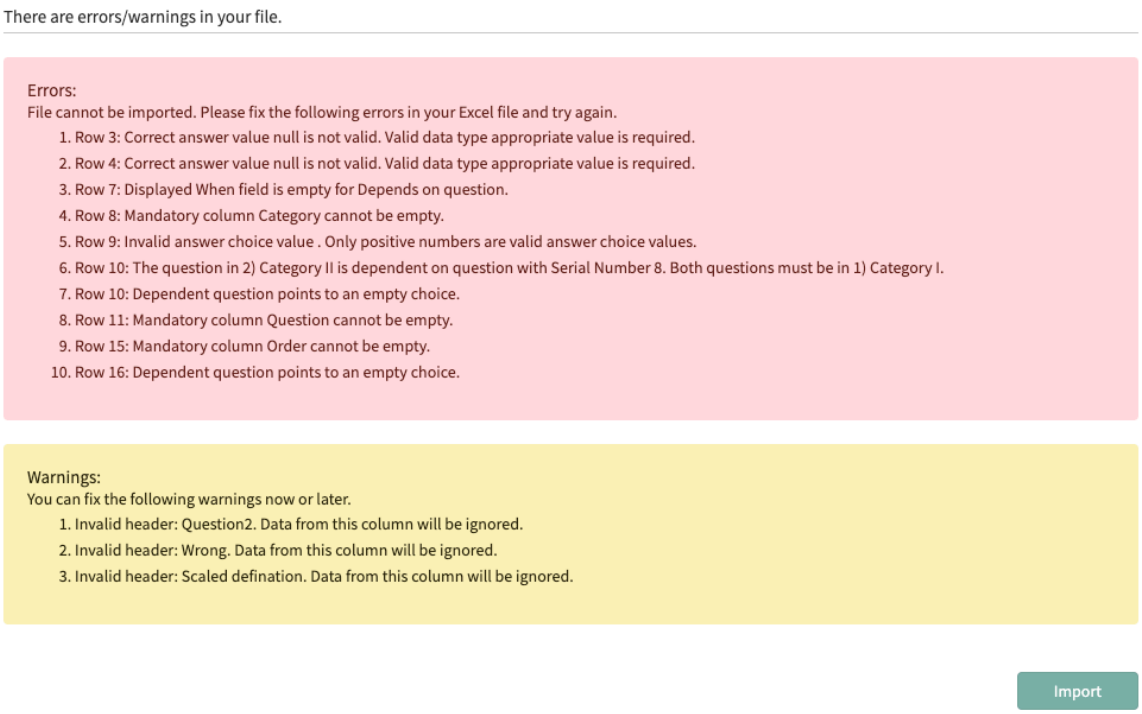
注:
書式設定の要件を確認し、サンプルスプレッドシートを表示またはダウンロードして、例として使用することができます。サンプルファイルを参照すると、想定される形式の値を使用していることを確認できます。

3. **[Excel** ファイルを準備します。] セクションで、次の手順のいずれかまたはすべてを実行します。
   - [サンプル ファイルのダウンロード] を選択して、 サードパーティリスク管理 にインポートできるように適切に書式設定されたアクティブなワークシートをダウンロードします。このサンプルをガイドとして使用して、独自のスプレッドシートを再フォーマットすることや、スプレッドシートからサンプルにデータをコピーすることができます。
   - [サンプルを表示] を選択して、適切に書式設定されたワークシートの画像を開きます。これを既存のワークシートと比較して、同じ列と質問形式が含まれていることを確認できます。
   - [フォーマットガイドライン] を選択して スプレッドシートデータをインポートするためのガイドラインを表示します。
4. スプレッドシートをインポートする準備ができたら、[ここに **Excel** ファイルをドロップ する] ボックスにドラッグするか、[ファイルの選択] を選択して Excel ファイルに移動し、[開く] を選択します。

   ファイルの形式が正しくない場合、エラーと警告が表示されます。アンケートをインポートする前に、すべてのエラーを修正する必要があります。警告のみのファイルはインポート可能ですが、結果の質問データに問題が発生する可能性があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

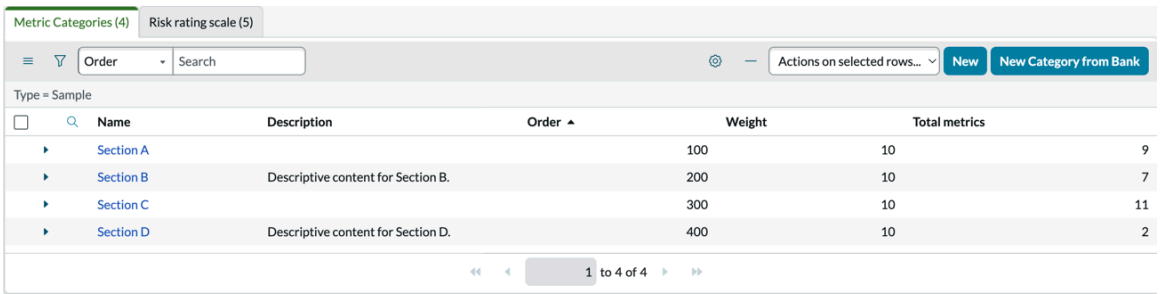


注:
警告が表示されている場合はインポートを続行できますが、問題が発生する可能性があります。すべてのエラーと警告を修正してからアンケートをインポートすることを検討してください。

5. エラーと警告を修正したら、テンプレートの名前を入力し、[インポート] を選択します。

名前は一意である必要があります。名前のデフォルトは、スプレッドシートのワークシート名です。

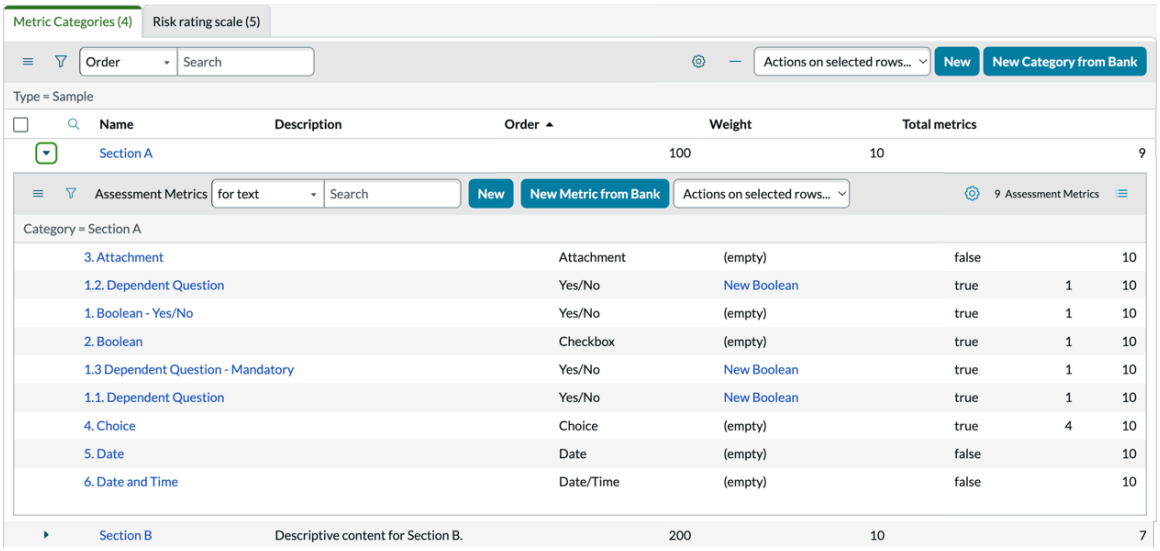
確認ポップアップに、インポートされたアンケートが表示されます。



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. カテゴリを展開すると、各カテゴリの質問が表示されます。



関連情報

- スプレッドシートデータをインポートするためのガイドライン
- 他のシステムからの既存データのインポート

アンケートや文書要求テンプレートを作成する

アンケートテンプレートと文書要求テンプレートを再利用することで、新しいアンケートと文書要求の作成を短時間で行うことができます。

始める前に

必要なロール：admin または sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin

このタスクについて

テンプレートを定義するときに、組織のルールまたは連邦規制で義務付けられているとおりに、アンケートまたは文書要求でサードパーティ、レビュー担当者、またはその両方の電子署名を必要とするかどうかを指定します。既存のアンケートテンプレートをコピーする方法については、次のオプションの手順を参照してください。

TPRM の用語

用語	説明
メトリクスまたはアセスメントメトリクス	アンケートテンプレート内の 1 つの質問。
メトリクスタイプまたはアセスメントメトリクスタイプ	アンケートテンプレート。
カテゴリまたはアセスメントカテゴリ	アンケートテンプレート内の関連する一連の質問。 **注:** 1 つのメトリクスタイプ内に複数のカテゴリが存在する場合があります。

注: アンケートテンプレートには少なくとも 1 つのカテゴリが必要です。各カテゴリには、少なくとも 1 つの質問が含まれている必要があります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

手順

1. 次のいずれかに移動します。
   - すべて > サードパーティリスク管理 > アセスメントのセットアップ > アンケートテンプレート または サードパーティリスク管理 > アセスメントのセットアップ > 文書要求テンプレート.
   - ワークスペース > ベンダー管理ワークスペースをクリックし、リストアイコン (を選択して、 アセスメントのセットアップ > アンケートテンプレート.
2. 次のいずれかのオプションを実行して、新しいテンプレートを作成するか、既存のテンプレートをコピーします。

関連情報

外部アセスメントを作成

サードパーティリスクのアセスメント

問題生成ルールを作成する

デザイナーを使用してアンケートや文書要求テンプレートを作成する

アンケートテンプレートデザイナーを使用して、他のテンプレートの基礎として使用できるアンケートテンプレートまたは文書要求テンプレートを作成および編集します。

始める前に
必要なロール：admin または sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin

TPRM の用語

用語	説明
メトリクスまたはアセスメントメトリクス	アンケートテンプレート内の 1 つの質問。
メトリクスタイプまたはアセスメントメトリクスタイプ	アンケートテンプレート。
カテゴリまたはアセスメントカテゴリ	アンケートテンプレート内の関連する一連の質問。 注: 1 つのメトリクスタイプ内に複数のカテゴリが存在する場合があります。

注:
アンケートテンプレートには少なくとも 1 つのカテゴリが必要です。各カテゴリには、少なくとも 1 つの質問が含まれている必要があります。

手順

1. 次のいずれかに移動します。
   - すべて > サードパーティリスク管理 > アセスメントのセットアップ > アンケートテンプレート または サードパーティリスク管理 > アセスメントのセットアップ > 文書要求テンプレート.
   - ワークスペース > ベンダー管理ワークスペースをクリックし、リストアイコン (を選択して、 アセスメントのセットアップ > アンケートテンプレート.
2. [新規 (デザイナー)] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デザイナーのタブ

タブ	説明
コントロール	サポートされている質問データのタイプは [Controls] パレットで利用可能です。コントロールをデザイナーキャンバスにドラッグして、そのタイプの質問を作成します。
質問	さまざまなカテゴリの質問のライブラリで、各アンケートを最初からビルドする必要はありません。
カテゴリ	[デザイン] ビューで開いたアセスメント。アンケートの [名前] フィールドが、キャンバスの最初のカテゴリの上に表示されます。空白の質問フィールドが、カテゴリコンテナーに表示されます。

3. 名前を入力し、コントロールをデザインキャンバスにドラッグアンドドロップして、そのタイプの質問を作成します。

注:
採点済みオプション (採点済み チェックボックス) の選択はオプションです。特に明記されていない限り、すべての質問の回答は採点されます。スコアリング済みオプションは、スコアリング動作を変更します。選択した場合、スコアは回答が正しいか不正解かを反映するバイナリシステム (0 または 100) に基づきます。選択しない場合、スコアは questionRating、questionPercentContribution、および questionNormalizedValue 式を含むスケール定義を使用して計算され、MaximumNormalizationInput フィールドは正規化値に影響を与える可能性があります。詳細については、「従来のアセスメントエンジンを使用したスコア計算」と「メトリクスのスコアの正規化」を参照してください。

質問コントロール

データタイプ	説明	採点済み
添付ファイル	ユーザーが 1 つまたは複数のファイルを添付できる、[添付ファイルを管理] アイコンがある質問。	Y
ブーリアン	ユーザー応答のためのチェックボックスまたは [はい/いいえ] リストがある質問。	N
選択肢	事前定義済みオプションのリスト。詳細については、[選択肢] の定義を選択してください。	Y
日付	[日付] フィールド。	N
日付/時刻	[日付/時刻] フィールド。	N
番号	事前定義された最小値と最大値を持つ数値フィールド。デフォルトは 1 ～ 10 です。	N
パーセンテージ	範囲が指定されている [パーセンテージ] フィールド。	N
スケール	事前定義されたリッカート尺度。回答オプションはラジオボタンとして表示されます。	Y

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データタイプ	説明	採点済み
数値スケール	選択可能な数値スケール。デフォルトは 1 ～ 5 です。回答オプションはラジオボタンとして表示されます。	Y
文字列	1 行または複数行のテキスト フィールド。	N
テンプレート	オプションの事前定義済みスケールを示すテンプレートの選択リスト。	Y
参照	指定された参照テーブルからのフィールドの選択リスト。このデータタイプは参照修飾子をサポートしていません。	N
画像スケール	スケールに使用できる画像の選択リスト。	N
複数選択	選択可能な選択肢のリスト。複数の選択肢を指定できます。	N
ランキング	ランク付けの選択肢の選択可能なスケール。	N

4. コンテキストメニューから、次のいずれかのオプションを選択します。

オプション	説明
保存	現在のアンケートまたは文書要求を保存します。
プレビュー	アンケートまたは文書要求のプレビューを、現在の設定とともに表示します。
新しいアセスメント	新規アンケートまたは文書要求の新しいキャンバスを開きます。
アセスメントをロード	使用可能な既存のアンケートまたは文書要求のリストを開きます。
アセスメントをコピー	編集可能なアンケートまたは文書要求のコピーを作成します。

自動翻訳

問題生成ルールを作成する

外部アセスメントに対する質問の回答に基づいて自動的に問題を作成する問題生成ルールを作成します。問題は、サードパーティまたはエンゲージメントに関する懸念を確実に修正するのに役立ちます。

始める前に

必要なロール：admin または sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin

このタスクについて

反復プロセスでは、TPR マネージャーがアセスメントをクローズする前に、TPR マネージャーが非準拠の問題とタスクを生成できます。TPR マネージャーは、コメントを使用して TP 連絡先およびエンゲージメント連絡先とコミュニケーションを取り、問題とタスクをクローズします。TPR マネージャーは、必要に応じてさまざまな連絡先をアサインすることもできます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > 問題 > 問題生成ルール または ワークスペース > ベンダー管理ワークスペースをクリックし、リストアイコン ( を選択して、 アセスメントのセットアップ > 問題生成ルール.
2. [新規] を選択して問題生成ルールを作成し、フォームに入力します。

問題生成ルールフォーム

フィールド	説明
名前	ルールの名前または簡単な説明。
問題テンプレート	問題を生成するときに使用される問題テンプレート。
タスクテンプレート	問題を生成した後に使用されるタスクテンプレート。
アクティブ	アセスメントと質問の問題生成ルールを有効にするオプション。
スマートアセスメントをサポートします	問題生成ルールを スマートアセスメントエンジンで使用できることを示すオプション。 **注:** 既存のルールの場合、移行および公開されていないクラシックアンケートと文書要求テンプレートがある場合、このオプションは設定されません。このオプションは、 SAE アンケートまたは文書要求テンプレートが手動で追加されたときに自動的に設定されます。 新しいルールテンプレートを作成し、 スマートアセスメントエンジン プロパティを有効にしている場合、テンプレートを保存した後、このフィールドはデフォルトで選択されます。
Questions (質問)	
アンケートテンプレート	ルールが適用されるアンケートテンプレート。
質問	回答に基づいて問題を生成する質問。
SAE の質問	
アンケートテンプレート	ルールが適用されるアンケートテンプレート。
質問	回答に基づいて問題を生成する質問。

3. **[Submit** (送信)] を選択します。

タスクの結果
TPR 査定人がアセスメントのステータスを [所見を生成中] ステータスに移行すると、これらのルールに基づいて問題が生成されます。
TPR 査定人は、 ベンダー管理ワークスペース の外部アセスメントの [問題] タブに移動して、生成された問題を表示できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

関連情報

サードパーティリスクのアセスメント

サードパーティまたはエンゲージメントに問題を作成

外部アンケートをアセスメントに自動的に添付するように内部アンケートの回答を設定する

サードパーティリスク管理 を使用して、回答、計算されたリスク階層、またはその両方に基づく外部アセスメントにアンケートを自動的に添付するように、内部アンケートの回答を設定します。この構成を設定することは、リスク階層の変更や内部アンケートの回答に対応する能力を向上させるのに役立ちます。

始める前に

必要なロール：admin または sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin

このタスクについて

内部アンケートへの回答、計算されたリスク階層、またはその両方に基づいて、外部アセスメントに自動的に追加されるようにアンケートを設定できます。リスク階層は、内部アセスメントが完了した後に収集された応答に基づいて決定されます。アンケートを自動的に添付するために使用されるリスク階層を、固有リスクアンケート (IRQ) の完了後に計算するか、内部アセスメントの一部としてエンゲージメントに対して計算するかを構成できます。リスク階層の詳細については、「VRM サードパーティのリスク階層アセスメント」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > アセスメントのセットアップ > アンケートテンプレート.
2. 使用する内部アンケートテンプレートを選択します。

   注:
   アンケートには IRQ テンプレート分類が必要です。

3. [メトリクスカテゴリ] 関連リストとカテゴリ名を選択し、設定する質問を [アセスメントメトリクス] 関連リストから選択します。
   さまざまなタイプの質問とその定義方法の詳細については、「質問の定義」を参照してください。
4. [新規] を選択して、[アンケートテンプレート] 関連リストに構成を追加します。
5. フォームで、フィールドに入力します。

[アンケートの質問 **(Question to Questionnaire)]** フォーム

フィールド	説明
質問	設定しているアンケートの質問のタイプ。たとえば、選択肢や文字列の質問などです。
回答	この回答の場合、アンケートが外部アセスメントに添付されます。
階層	このリスク階層の場合、アンケートが外部アセスメントに添付されます。
レベルの階層	参照されるリスク階層が計算されるレベル：IRQ アセスメントまたはエンゲージメント。 たとえば、固有リスクのアンケートアセスメント中に計算されたリスク階層が [階層] フィー

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	ルドで選択したものと一致した場合、アンケートは外部アセスメントに添付されます。
アンケート	このフォームで定義した条件が満たされた場合に添付されるアンケート。
適用先	アンケートが添付されている外部アセスメントのタイプ。

6. [送信] を選択します。

スマートアセスメント構成

TPR マネージャーロールと TPR 管理者ロールには、さまざまな責任があります。TPRM ベースシステムが設定されたら、スマートアセスメントエンジン固有の設定と、日常的なリスクアセスメントタスクを有効にして拡張する他のアセスメント設定を構成します。

アセスメントセットアップの概要

TPRM のアセスメントセットアップチェックリストのタスクを実行することで、TPRMアセスメントのスマートアセスメントエンジンを使用するサードパーティ、エンゲージメント、およびその他のエンティティのリスクをスコアリングおよび評価するための独自の要件に対応するように TPRM アプリケーションを設定および構成します。

注:

作成するカスタムメッセージについて、対応する `sys_ui_message` レコードを生成するのはユーザーの責任です。この手順は、カスタムメッセージを抽出して翻訳する場合に重要です。

との スマートアセスメントエンジン 統合のためのアセスメントセットアップチェックリスト **TPRM**

アセスメントとアンケートのセットアップタスク

タスク	説明
スマートアセスメントエンジンを有効にする [sn_vdr_risk_asmt.sae_enabled] プロパティを設定します。	このプロパティを設定すると、 SAE がデフォルトのアセスメントエンジンになり、従来のエクスペリエンスに置き換わります。 **警告:** このオプションを有効にすると、この選択を元に戻すことはできません。 詳細については、「TPRM プロパティの設定」と「Third-party Risk Management upgrade information」を参照してください。 必要なロール： sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin
アンケートテンプレートを移行します。	このタスクはオプションです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントとアンケートのセットアップタスク (続く)

タスク	説明
	既存のアンケートテンプレートまたは文書要求テンプレートを SAE テンプレートに移行できます。 **注:** TPRM のアセスメントを初めて設定する場合は、このタスクを完了する必要はありません。 詳細については、「テンプレートを SAE テンプレートに移行する」、「テンプレートを TPRM SAE テンプレートに移行した結果」、「従来のメトリクスタイプをテンプレートのセクションに移行する方法」を参照してください。 必要なロール： sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin
アセスメントテンプレートと問題生成ルールを更新します。	このタスクはオプションです。 公開された SAE アンケートテンプレートを、関連するすべてのアセスメントテンプレートと問題生成ルールに追加します。詳細については、「外部アセスメントテンプレートの作成」と「問題生成ルールを作成する」を参照してください。 **注:** アセスメントテンプレートが SAE テンプレートと互換性があるように更新されていない場合、階層ベース、プロバイダーベース、問題生成、およびイベント駆動型の管理ルールは期待どおりに実行されません。 必要なロール： sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin
アセスメントとアンケートを採点するためのリスク評価スケールを設定します。	このタスクは、 TPRM の初期セットアップに必要です。 すべてのアンケートに対してデフォルトで選択されているリスク評価スケールを構成できます。 詳細については、「採点用のリスク評価スケールの設定」を参照してください。 必要なロール：admin or sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager
サードパーティリスクのドメインまたは領域を設定します。	このタスクは、 TPRM の初期セットアップに必要です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントとアンケートのセットアップタスク (続く)

タスク	説明
	特定のリスク領域に関連付けられているすべてのサードパーティに対してデフォルトで選択されている採点方法と重み付けを設定できます。 詳細については、「サードパーティリスクドメインを定義」を参照してください。 必要なロール： sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager
サードパーティのタイプに適用されるリスクドメインまたは領域のグループであるサードパーティリスク領域基準を設定します。	このタスクは、 TPRM の初期セットアップに必要です。 基準定義内の各リスク領域の重み付けと採点方法を調整できます。 詳細については、「サードパーティリスク領域基準を定義」を参照してください。 必要なロール： sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager
サードパーティおよびエンゲージメントコンポーネントの基準を設定します。	このタスクは、 TPRM の初期セットアップに必要です。 コンポーネントは、リスクを評価できるエンティティです。コンポーネント基準は、特定のタイプのサードパーティまたはエンゲージメントに関連するコンポーネントのグループです。 新しいコンポーネントを追加したり、既存のコンポーネントを変更したりすることはできません。ただし、コンポーネントの評価に使用する基準 (採点方法と重み付け) を定義することはできます。[デフォルトの採点方法] を更新して、各リスク領域の複数のスコアを計算する方法を指定できます。[デフォルトの重み付け] を使用して、サードパーティの総合リスク評価におけるサードパーティプロバイダースコアの重み付けを調整できます。 次のコンポーネント分類を使用できます。 • サードパーティコンポーネント ○ サードパーティのリスクアセスメント (外部リスクアセスメント) ○ 子会社 ○ エンゲージメント ○ リスクインテリジェンス評価 • エンゲージメントコンポーネント ○ エンゲージメントリスクアセスメント ○ 製品

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントとアンケートのセットアップタスク (続く)

タスク	説明
	○ プリンシパル ○ 施設 ○ その他 コンポーネント基準の設定の詳細については、「 コンポーネント基準を定義する」を参照してください。 エンゲージメントコンポーネントがサードパーティ要素に与える影響の詳細については、「 サードパーティ要素の監視」を参照してください。 必要なロール： sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager
サードパーティおよびエンゲージメントのリスクスコアリングルールを設定します。	このタスクは、 TPRM の初期セットアップに必要です。 リスクスコアに基づいて、アセスメントが必要なサードパーティまたはエンゲージメントを決定する基準を定義します。サードパーティリスク採点ルールは、子会社、エンゲージメント、およびサードパーティリスク領域に適用されます。エンゲージメントリスク採点ルールはエンゲージメントにのみ適用されます。 詳細については、「サードパーティリスク採点ルールを定義」と「エンゲージメントリスク採点ルールを定義する」を参照してください。 必要なロール： sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager
アンケートまたは文書要求テンプレートを作成します。	このタスクは、 TPRM の初期セットアップに必要です。 アンケートテンプレートと文書要求テンプレートを再利用して、新しいアンケートと文書要求の作成を簡素化できます。 次のテンプレートの目的 (分類) を使用できます。 • TPRM 外部サードパーティ要素アンケート • TPRM 外部の第 4 の関係者アンケート • TPRM 外部文書要求 • TPRM 外部アンケート • TPRM 内部 IRQ • TPRM 内部階層アンケート

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントとアンケートのセットアップタスク (続く)

タスク	説明
	詳細については、「TPRM SAEアンケートまたは文書要求テンプレートの作成」を参照してください。 必要なロール： sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin
外部アンケートのアセスメントテンプレートを作成します。	このタスクは、 TPRM の初期セットアップに必要です。 設定された期間の要件とデフォルトで添付されたアンケートを使用してアセスメントテンプレートを作成することで、さまざまなタイプのサードパーティやエンゲージメントのアセスメントプロセスを簡素化することができます。 詳細については、「外部アセスメントテンプレートの作成」を参照してください。 必要なロール：admin or sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager
問題生成ルールを作成します。	このタスクはオプションです。 外部アセスメントの問題を自動生成するルールを設定します。サードパーティリスクアセスメント、アンケートテンプレート、ルールを適用する質問、およびルールの生成時に使用する問題テンプレートとタスクテンプレートを指定します。 これらのルールの設定の詳細については、「 問題生成ルールを作成する」を参照してください。 必要なロール：admin または sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin
イベント駆動型管理ルールを設定します。	このタスクはオプションです。 アンケートとドキュメント要求を自動生成してエンゲージメントおよびサードパーティに送信するルールを設定します。定義したクライテリアを満たすエンゲージメントやサードパーティに対して、スケジュールとアセスメントのテンプレートを指定します。オンボーディングを除くすべての要求タイプを自動化できます。 これらのルールの設定の詳細については、「 イベント駆動型管理 — アセスメントプロセスの自動化」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントとアンケートのセットアップタスク (続く)

タスク	説明
	注: イベント駆動型管理ルール機能は、アセスメントをスケジュールするためのデフォルトのオプションであり、繰り返しアセスメントに代わるものです。 必要なロール： sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager
アンケートのスコアリングを設定します。	このタスクは、 TPRM の初期セットアップに必要です。 アンケートと文書要求のスコアリング方法を構成できます。 詳細については、「アセスメントのスコアリングの構成」と「アセスメントの正規化」を参照してください。 必要なロール： sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin

テンプレートを **SAE** テンプレートに移行する

既存のアンケートまたは文書要求テンプレートを SAE テンプレートに移行します。TPRMでスマートアセスメントエンジンを使用しながら、既存のアンケートと文書要求のデザインを活用できます。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin

移行プロセスを開始する前に、次の点に注意し、それに応じて計画してください。

- 割合、ランキング、画像スケール、カスタムメトリクスの質問タイプはサポートされていません。移行前にこれらの質問タイプをサポートされている形式に変換するか、移行後にテンプレートデザイナーで新しい質問を作成する必要があります。
- クラシックテンプレートのセクションにサポートされていない質問のみが含まれている場合、TPRM SAE テンプレートに空のセクションが作成されます。空のセクションを含む TPRM SAE テンプレートは公開できません。したがって、これらのセクションに代替の質問を追加するか、公開する前に空のセクションを削除する必要があります。
- インスタンス間で TPRM SAE アンケートテンプレートを転送する場合、更新セットには期間情報が含まれません。ユーザーは、 `sn_smart_asmt_duration` テーブルから期間情報を手動でエクスポートし、ターゲットインスタンスにインポートする必要があります。
- アセスメントテンプレートが SAE アセスメントをサポートするように更新されていない場合、関連する階層ベース、プロバイダーベース、およびイベント駆動型の管理ルールは期待どおりに実行されません。
- TPRMスコアリングの移行は、テンプレートの移行中にエラーがなかった場合にのみ続行されます。エラーが発生した場合、 TPRM スコアの移行は行われません。
- 以前のアセスメントからの回答は移行されません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- イベント駆動型管理ルールは、アセスメントをスケジュールするためのデフォルトのオプションであり、繰り返しアセスメントに代わるものです。
- 第 4 の関係者によるアセスメント、モニタリング、および管理は、 SAEのアップグレード後にはサポートされません。

注:

移行結果と移行の制限の詳細については、「 テンプレートを TPRM SAE テンプレートに移行した結果」を参照してください。

SAEアンケートの作成の詳細については、「TPRM SAEアンケートまたは文書要求テンプレートの作成」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > アセスメントのセットアップ > アンケートテンプレート または文書要求テンプレート。
2. 1 つのアンケートを移行するには、必要なアンケートテンプレートを選択し、 移行 を選択します。
   複数のアンケートを一括で移行するには、必要な各アンケートの横にあるチェックボックスをオンにして、 移行 を選択します。
3. 情報メッセージ内のリンクを選択して、生成されたアセスメントテンプレート移行レコードを表示します。
   に移動すると、すべてのアセスメントテンプレート移行レコードを表示できます すべて > サードパーティリスク管理 > アセスメントのセットアップ > クラシックテンプレートの移行. クラシックテンプレート移行テーブルと移行結果の詳細については、「 テンプレートを TPRM SAE テンプレートに移行した結果」を参照してください。
   移行ジョブの実行後、[移行ステータス] フィールドは次のいずれかで更新されます。
   - 完了：移行は正常に完了しました。
   - 一部完了:一部の要素のみが正常に移行されました。
   - エラー：移行中にエラーが発生しました。
4. クラシックテンプレート移行テーブルの [移行ステータス] に移動して、正常に移行されたテンプレートまたはエラーが発生したテンプレートを表示し、移行するアンケートテンプレートのエラーを修正します。
5. すべてのエラーが解決され、アンケートが正常に移行されるまで、手順を繰り返します。
6. 移動先 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース 移行したアンケートを確認します。
7. 以下を入力して、すべての質問、セクション、スコアが期待どおりに表示されることをレビューして確認します。

   a. サポートされていない質問タイプを特定します。
      - パーセンテージ
      - ランキング
      - 画像スケール
      - カスタムメトリクス

   b. サポートされていない質問タイプを変換します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- パーセンテージの質問には、数値タイプを使用します。
- 画像スケールの質問では、ラジオ ボタン タイプを使用します。
- ランキングとカスタムメトリクスの質問タイプはサポートされていません。

c. 空のセクションを削除します。
クラシックテンプレートのセクションにサポートされていない質問のみが含まれている場合、新しいテンプレートに空のセクションが作成されます。空のセクションを含むテンプレートは公開できません。

d. [スコアリング] タブに移動し、すべての設定が期待どおりに表示されることを確認します。
詳細については、「アセスメントのスコアリングの構成」と「アセスメントの正規化」を参照してください。

8. [Publish (公開)] を選択します。
TPR アドミニストレーターはアンケートを編集し、変更を加えて公開できます。

タスクの結果
元のアンケートテンプレートレコードの [SAE アンケートテンプレート] および [SAE ドキュメントテンプレート] 関連リストが更新され、移行されたテンプレートが含まれます。詳細については、「テンプレートを TPRM SAE テンプレートに移行した結果」を参照してください。

次のタスク
アセスメントテンプレートがある場合は、公開された SAE アンケートテンプレートを関連するすべてのアセスメントテンプレートに追加します。問題生成ルールがある場合は、公開された SAE アンケートテンプレートとそれに関連する質問を関連する各生成ルールに追加します。詳細については、「外部アセスメントテンプレートの作成」と「問題生成ルールを作成する」を参照してください。

TPRM SAEアンケートまたは文書要求テンプレートの作成

アンケートテンプレートと文書要求テンプレートを再利用して、 サードパーティリスク管理 アプリケーションの新しいアンケートと文書要求の作成を短時間で行うことができます。リスク識別のSAEをサポートするTPRM SAEアンケートまたは文書要求テンプレートを作成します。

始める前に
必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin

このタスクについて
サードパーティリスク領域、[以前の回答を含める]、[採点を有効にする] オプションなどの サードパーティリスク管理 (TPRM) 特定の情報をアンケートテンプレートに追加するには、 ベンダー管理ワークスペースを使用してテンプレートを作成する必要があります。アンケートを保存すると、アンケートテンプレートが アセスメントワークスペース で開き、 スマートアセスメント テンプレートデザイナーを使用して編集できます。

> **重要:**
> すべてのカスタマイズが完了したらアンケートテンプレートを公開し、 ベンダー管理ワークスペースで使用できるようにする必要があります。TPR アドミニストレーターはアンケートを編集し、変更を加えて再公開できます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペースをクリックし、リストアイコン (を選択して、 アセスメントのセットアップ > アンケートテンプレート.

2. 次のいずれかのオプションを完了し、新しいテンプレートを作成するか、既存のテンプレートをコピーしてカスタマイズします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

次のタスク

- 新しいテンプレートを作成する場合は、空のテンプレートが生成されます。対応する各タブに移動して、全体的な手順、質問、質問に回答するためのガイダンス (オプション)、関連する質問をグループ化するセクション、およびスコアリングを定義します。詳細については、「アセスメントテンプレートに手順と質問を追加する」、「アセスメントテンプレートに参照情報を追加する」、「アセスメントのスコアリングの構成」、および「アセスメントの正規化」を参照してください。
- 既存のテンプレートをコピーすることを選択した場合、システムは既存のテンプレートのすべての質問、セクション、指示、および構成を含むテンプレートを生成します。これで、必要に応じてカスタマイズできるようになりました。

注:
すべての質問タイプがサポートされているわけではありません。パーセンテージ、ランキング、画像スケール、およびカスタムメトリクスはサポートされていません。パーセンテージと画像スケールの質問タイプでは、顧客はそれぞれ数値タイプとラジオボタンタイプを使用できます。ランキングとカスタムメトリクスの質問タイプはサポートされていません。移行前にこれらの質問タイプをサポートされている形式に変換するか、移行後にテンプレートデザイナーで新しい質問を作成する必要があります。

関連情報

テンプレートデザイナーの使用

他のアプリケーションとの **TPRM** の統合

TPRMの機能を拡張します。

関連情報

Complete a risk assessment from the Supplier Collaboration Portal

Streamlining the supplier risk assessment workflow

サードパーティまたはエンゲージメントにコントロールを手動で追加する

コントロール目標を質問に手動で追加する

サードパーティリスク管理と GRC：ポリシーとコンプライアンス管理の統合

GRC：ポリシーとコンプライアンス管理統合は、サードパーティまたはエンゲージメントからのアンケートの回答に基づいて、コントロールとコントロール目標のコンプライアンスステータスを更新します。サードパーティアドミニストレーターは、コントロールを特定の質問、サードパーティ、およびエンゲージメントに関連付けることができます。

ポリシーとコンプライアンス管理アプリケーションがインストールされている場合、アドミニストレーターはサードパーティコンプライアンスの管理と評価に役立ついくつかの重要なタスクを実行できます。

- サードパーティとエンゲージメントを特定のコントロール目標に関連付けることができます。この関連付けにより、サードパーティまたはエンゲージメントのコントロールが作成され、サードパーティとコンプライアンス管理プロセスとの直接的な接続が確立されます。

  詳細については、「サードパーティまたはエンゲージメントにコントロールを手動で追加する」を参照してください。

- アンケートテンプレートの各質問について、質問を複数のコントロール目標に個別にリンクできます。これにより、コンプライアンスのきめ細かく詳細なアセスメントが可能になります。

  詳細については、「コントロール目標を質問に手動で追加する」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- サードパーティとエンゲージメントがアンケートに回答すると、リンクされたコントロールのコンプライアンスステータスが自動的に更新されます。間違った回答が返された場合、関連付けられたコントロールは非準拠としてマークされます。逆に、正解するとコントロールのコンプライアンスが維持されます。

注:
コントロール目標を SAE アンケートの質問に直接マッピングすることはできませんが、 SAE では、アセスメント後のアクションを通じて、準拠または非準拠のコントロールにフラグを付けることができます。

すべてのサードパーティは、ベンダーと呼ばれるエンティティタイプに自動的に分類されます。これにより、各サードパーティとエンゲージメントがエンティティとして表されます。

サードパーティやエンゲージメントなどのエンティティがコントロール目標に関連付けられている場合、そのエンティティに対応するコントロールが作成されます。この関連付けは、サードパーティまたはエンゲージメントをコントロールにリンクし、コントロールのコンプライアンスステータスに影響を与える可能性があります。

サードパーティリスク管理コンテキストでは、アンケートテンプレートの各質問は、関連リストを介して複数のコントロール目標に個別にリンクできます。アンケートがサードパーティに送信され、サードパーティが誤った回答で応答した場合、リンクされたコントロール目標に関連付けられたコントロールは非準拠としてマークされます。逆に、サードパーティが正しい回答を提供した場合、コントロールは準拠したままになります。

この機能により、コントロールのコンプライアンスステータスがサードパーティまたはエンゲージメントの応答に基づいて動的に更新され、コンプライアンスがリアルタイムで正確に評価されます。ポリシーとコンプライアンス管理ユーザーとサードパーティリスク査定人 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor] の両方が、コントロールのステータスを監視できます。

ポリシーとコンプライアンス管理の実装の詳細については、「ポリシーとコンプライアンス管理 の実装」を参照してください。

関連情報

- サードパーティまたはエンゲージメントにコントロールを手動で追加する
- コントロール目標を質問に手動で追加する
- サードパーティリスクのアセスメント
- ポリシーとコンプライアンス管理 の実装

サードパーティまたはエンゲージメントにコントロールを手動で追加する

ポリシーとコンプライアンス管理 と サードパーティリスク管理 の両方を使用している場合は、コントロールをサードパーティとエンゲージメントに関連付けることができます。コントロールは、準拠または非準拠としてマークできます。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
ポリシーをエンティティタイプに関連付ける場合、またはエンティティタイプをコントロール目標に関連付ける場合、コントロールは自動的に生成されます。コントロールは、コントロール目標のエンティティタイプにリストされている各エンティティに対して作成されます。コントロールは手動で作成することもできます。

ポリシーとコンプライアンス管理 でポリシーを作成する方法の詳細については、「ポリシーの作成」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

コントロール目標とコントロールの違いを理解するには、「ポリシーとコンプライアンス管理 の構造の概要」を参照してください。

手順

1. 移動先 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース.
2. リストアイコン ( )を選択し、 サードパーティ > すべてのサードパーティ または エンゲージメント > すべてのエンゲージメント
3. 必要なサードパーティまたはエンゲージメントを選択します。
4. サードパーティまたはエンゲージメントの [コントロール] タブに移動します。
5. [新規] を選択して、エンゲージメントにコントロールをアサインします。
6. フォームで、フィールドに入力します。
   各フィールドの説明については、「新しいコントロールフォームを作成」を参照してください。
7. **[Submit** (送信)] を選択します。
   コントロールの管理の詳細については、「 コントロールを管理」を参照してください。
   コントロールが作成され、すべての関連リストが表示されます。

関連情報

- サードパーティリスク管理と GRC：ポリシーとコンプライアンス管理の統合
- 新しいコントロールフォームを作成
- コントロール目標を質問に手動で追加する
- コントロール目標フォーム

コントロール目標を質問に手動で追加する

ポリシーとコンプライアンス管理とサードパーティリスク管理の両方を使用している場合は、コントロール目標とコントロールを質問に関連付けることができます。コントロールは、質問への回答に基づいて準拠または非準拠としてマークできます。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
コントロール目標は、会社のインタラクションと運用のガイダンスとして機能する目標、指示、または標準です。コントロール目標は、カテゴリ化、分類、およびポリシーへの関連付けが可能です。

ポリシーとコンプライアンス管理 でポリシーを作成する方法の詳細については、「ポリシーの作成」を参照してください。

コントロール目標とコントロールの違いを理解するには、「ポリシーとコンプライアンス管理 の構造の概要」を参照してください。

> **注:**
> コントロール目標を SAE アンケートの質問に直接マッピングすることはできませんが、 SAE では、アセスメント後のアクションを通じて、準拠または非準拠のコントロールにフラグを付けることができます。

手順

1. 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > アセスメントのセットアップ > アンケートテンプレート をクリックし、必要なアンケートテンプレートを選択します。
2. 関連リストから必要なメトリクスカテゴリを選択し、必要な質問を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

3. [コントロール目標] 関連リストに移動し、[新規] を選択してコントロール目標を作成します。
4. フォームで、フィールドに入力します。
   各フィールドの説明については、「コントロール目標フォーム」を参照してください。
5. **[Submit** (送信)] を選択します。
   コントロールの管理の詳細については、「 コントロールを管理」を参照してください。
   コントロール目標が作成され、すべての関連リストが表示されます。

関連情報

- サードパーティリスク管理と GRC：ポリシーとコンプライアンス管理の統合
- サードパーティまたはエンゲージメントにコントロールを手動で追加する
- コントロール目標フォーム
- 新しいコントロールフォームを作成

リスクインテリジェンスプロバイダーからのスコアの統合

リスクインテリジェンスプロバイダーは、さまざまなサードパーティリスクドメインのリスクスコアを生成します。組織は、個人のクレジットスコアに類似したデータを返すプロバイダーからサービスを購入できます。スコアは、特定のサードパーティがどの程度信頼でき、安全であるかについての洞察を提供します。

リスクインテリジェンスプロバイダーからのデータの操作

注:
サードパーティのリスクデータを要求できますが、エンゲージメントのリスクデータを要求することはできません。

- リスクインテリジェンスプロバイダーに登録した後、使用するプロバイダーの採点サービスまたは評価サービスを指定します。評価が TPRM の評価にどのようにマッピングされるかも指定します。 詳細については、「 リスクインテリジェンスプロバイダーを登録する」、「 リスクインテリジェンスプロバイダーサービスのセットアップ」、「 プロバイダーの要求タイプの設定」を参照してください。
- プロバイダーからの生のスコアを、サードパーティのプロバイダーサービスレコードに追加します。指定したマッピングを使用して、値が適切な TPRM 評価に正規化されます。詳細については、「サードパーティリスクデータにリスクインテリジェンススコアを追加する」を参照してください。
- プロバイダーベースの送信ルールは、一連の条件とアクションです。ルールでは、リスクインテリジェンスプロバイダーからの評価の更新が、ルールで指定されたアクションをトリガーする条件であることを指定できます。アクションには、サードパーティのリスクアセスメント、問題、タスク、またはメールの作成や送信があります。詳細については、「リスクインテリジェンスの更新時のアクションを自動化する」を参照してください。

統合タイプ

ServiceNow と ServiceNow のパートナーがサポートする統合タイプの例を次に示します。

- 独立系ソフトウェアベンダー (ISV) 統合タイプには、EcoVadis や Black Kite などの ISV サービスの統合が含まれます。
- コンテンツ統合タイプには、規制データベースや業界標準などの外部コンテンツソースの統合が含まれます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- データ統合タイプでは、外部データソースを統合して、財務システム、セキュリティツール、ベンダー管理システムからのデータなど、関連データを収集および分析します。

- 環境、社会、ガバナンス (ESG) 統合タイプでは、ESG 要素を TPRM プロセスに組み込みます。

ServiceNow によりサポートされる統合

注:
統合アプリは ServiceNow Store にあります。

ServiceNow によりサポートされる統合

プロバイダー	製品名	コンテンツ	提供されるサービス	タイプ
共有アセスメント	標準情報収集 (SIG) アンケート	標準アセスメント	アセスメントで使用する業界標準のアンケート。	コンテンツ
EcoVadis	EcoVadis	持続可能性評価	評価と継続的な監視の裏付けとなる持続可能性スコア。	ISV、データ、ESG

ServiceNow パートナーによりサポートされる統合

注:
統合アプリは ServiceNow Store にあります。

パートナーによりサポートされる統合

プロバイダー	製品名	コンテンツ	ユースケース	タイプ
BitSight	BitSight	サイバーリスク評価	評価と継続的なサードパーティリスク監視の裏付けとなるサイバーリスクスコア。	ISV、データ
Security Scorecard	Security Scorecard	サイバーリスク評価	評価と継続的なサードパーティリスク監視の裏付けとなるサイバーリスクスコア。	ISV、データ
RiskRecon	RiskRecon	サイバーリスク評価	評価と継続的なサードパーティリスク監視の裏付けとなるサイバーリスクスコア。	ISV、データ
Upguard	Upguard ベンダーリスク	サイバーリスク	評価と継続的なサードパーティリスク監視の裏付けとなるサイバーリスクスコア。	ISV、データ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パートナーによりサポートされる統合 (続く)

プロバイダー	製品名	コンテンツ	ユースケース	タイプ
Recorded Future	Recorded Future Intelligence	サイバーリスク評価	評価と継続的なサードパーティリスク監視の裏付けとなるサイバーリスクスコア。	ISV、データ
Black Kite	Black Kite	サードパーティリスク管理	テクニカルセキュリティ、財務リスク、ランサムウェア感受性指数、コンプライアンススコアを加えた全体的なセキュリティ評価。	ISV
Interos	Interos	サプライチェーンと複数のドメインの評価	リスクアセスメントと監視をサポートするための、サイバー、財務、ESG、地政学、運用、制限の各評価。	ISV、コンテンツ
TruSight	TruSight	サードパーティのリスクアセスメント	TruSight で検証されたサードパーティリスクアセスメントへのアクセス。	ISV
ISS Corporate Solutions	ベンダーリスク管理の ISS ESG サイバーリスクスコア	ESG 評価	サイバーリスクとサプライチェーンを通じて、ISS Corporate Solutions のサイバーリスク管理プログラムの包括的なビューにアクセスできます。	ISV
Securitybricks	CMMC - NIST-800-171 - ベンダーコンプライアンスアセスメント	テンプレート	連邦政府機関の自動アセスメントにアクセスできます。	データ、コンテンツ
Templarshield	HECVAT-高等教育のためのアンケート	コンテンツ	高等教育機関向けの自動アンケートにアクセスできます。	ISV、コンテンツ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

- リスクインテリジェンススコアを表示する
- リスクインテリジェンスプロバイダーを登録する
- リスクインテリジェンスプロバイダーサービスのセットアップ
- プロバイダーの要求タイプの設定

リスクインテリジェンスプロバイダーを登録する

レポートを要求するリスクインテリジェンスプロバイダーごとにレコードを作成します。リスクインテリジェンスプロバイダーが生成するリスクスコアと評価は、個人のクレジットスコアに似ています。スコアは、特定のサードパーティがどの程度信頼でき、安全であるかについてのインサイトを提供します。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessment_reviewer

手順

1. 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > リスクインテリジェンスプロバイダーのセットアップ > プロバイダー.
2. [新規] をクリックしてフォームに入力し、[送信] をクリックします。

リスクインテリジェンスプロバイダーフォーム

フィールド	説明
名前	リスクインテリジェンスプロバイダーの一意の名前
簡単な説明	プロバイダーの説明、および場合によっては提供されるサービスの説明。
マルチファクター	プロバイダーが複数の異なるスコアタイプ (財務リスクやセキュリティリスクなど) を返すことができるように指定するオプション。
レポートの注文	リスクインテリジェンスレポート要求に対してプロバイダーを選択できることを指定するオプション。
URL	プロバイダーの Web サイトの URL。これにより、同僚がプロバイダーにアクセスしてレビューできるようになります。
注意	利用可能なスコアリング サービスの説明や組織がプロバイダーを使用することにした理由など、同僚に追加情報を提供するテキストコメント。
プロバイダーロゴ	プロバイダーのロゴの画像。この画像はプロバイダーの TPRM レポートに表示されます。

タスクの結果

これで、後でプロバイダーに要求する可能性のあるサービスとサービスのレベルを指定できます。

プロバイダーに関連付けたサービスが、[リスクインテリジェンスプロバイダーサービス (Risk intelligence provider services)] 関連リストに表示されます。サービスを追加するには、関連リストで [新規] を選択し、リスクインテリジェンスプロバイダーサービスのセットアップ の指示に従います。

重要:
プロバイダーがリスクインテリジェンスレポート要求に対応できるには、[リスクインテリジェンスプロバイダー] フォームの [レポートの注文] オプションを選択する必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクインテリジェンスプロバイダーサービスのセットアップ

リスクインテリジェンスプロバイダーに登録した後、使用するプロバイダーの採点サービスまたは評価サービスを指定します。評価が TPRM の評価にどのようにマッピングされるかも指定します。

始める前に

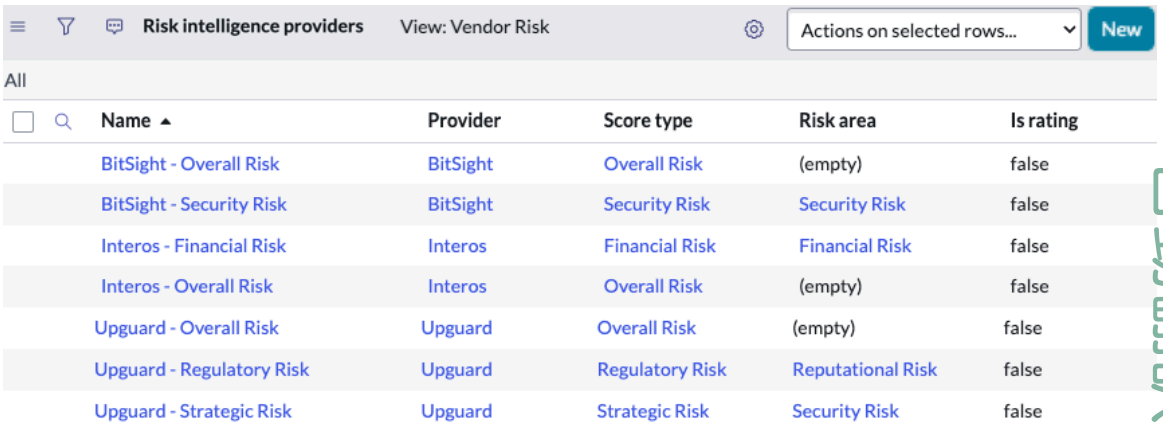
必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessment_reviewer

手順

1. 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > リスクインテリジェンスプロバイダーのセットアップ > プロバイダーサービス.

   現在のリスクインテリジェンスプロバイダーサービスが、[サードパーティプロバイダーサービス] 関連リストに表示されます。

   注:
   プロバイダーサービスのリストは、プロバイダーの登録時にも関連リストとして表示されます。 システムは、プロバイダー名とスコアタイプを連結することによって、サービスの一意の名前を自動生成します。



Risk intelligence providers View: Vendor Risk Actions on selected rows... New

All

Name	Provider	Score type	Risk area	Is rating
BitSight - Overall Risk	BitSight	Overall Risk	(empty)	false
BitSight - Security Risk	BitSight	Security Risk	Security Risk	false
Interos - Financial Risk	Interos	Financial Risk	Financial Risk	false
Interos - Overall Risk	Interos	Overall Risk	(empty)	false
Upguard - Overall Risk	Upguard	Overall Risk	(empty)	false
Upguard - Regulatory Risk	Upguard	Regulatory Risk	Reputational Risk	false
Upguard - Strategic Risk	Upguard	Strategic Risk	Security Risk	false

2. [新規] を選択して、フォームのフィールドに入力します。

リスクインテリジェンスプロバイダーサービスフォーム

フィールド	説明
プロバイダー	この採点サービスのリスクインテリジェンスプロバイダーの名前。
スコアタイプ	プロバイダーが提供する各サービスは、財務リスクやセキュリティリスクなど、特定のタイプのリスク評価またはスコアを返します。 プロバイダーごとに、少なくとも 2 つのサービスを定義します。 ○ サードパーティの全体的なリスクスコアを返すサービスを定義します。 ○ プロバイダーが返すことができるスコアの追加タイプごとにサービスを定義します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	重要: ○ プロバイダーの [多要素] 設定は、プロバイダーが複数の異なるスコアタイプを返すことができることを示します。マルチファクターとして構成するプロバイダーの場合、プロバイダーの他のサービスを作成する前に、[スコアタイプ] = [スコア全体スコア] でサービスを定義する必要があります。プロバイダーから総合スコアが返されたら、データを追加します。正規化された値は、プロバイダーのカードの [リスクインテリジェンススコア] タブの「全体」値として表示されます。 ○ マルチファクター以外として設定するプロバイダーの場合は、スコアタイプを 1 つだけ指定します。プロバイダーによって返されるスコアまたは評価は、正規化された TPRM スコアに変換されます。正規化値は、プロバイダーのカードの [リスクインテリジェンススコア] タブの「全体」値としても表示されます。
名前	設定するプロバイダーサービスの名前。 システムは、プロバイダー名とスコアタイプを連結することによって、サービスの一意の名前を自動生成します。
リスク領域	スコアタイプに関連付けられたサードパーティリスクドメインを選択します。 詳細については、「サードパーティリスクドメインを定義」を参照してください。 **注:** リスクドメインは、一部のプラットフォームアプリケーションでは「リスク領域」と呼ばれます。
マッピングのコピー元：	該当する場合は、構成しているサービスと同じマッピングを使用する既存のサービスをこのプロバイダーで指定します。 ○ マッピングが現在のレコードにコピーされます。 ○ マッピングは読み取り専用になります。

3. [マッピング] エリアまでスクロールし、次のいずれかのアクションを実行します。

- プロバイダーの評価を TPRM で使用される評価にマッピングするには、[評価] チェックボックスをオンにして、対応するプラットフォームの評価の横に各プロバイダーの評価を入力します。
- プロバイダースコアの範囲を各 TPRM 評価に関連付けるには、[評価] を選択しないでください。各行は、評価の最小値と最大値を識別します。[開始] 列に最小値を入力し、[終了] 列に最大値を入力します。

少なくとも 3 つの行を入力する必要があります。

- すべての行が評価または範囲である必要があります。2 つのタイプを混在させることはできません。
- 戻り値が行よりも多い場合は、適切な行の値をグループ化し、カンマで区切ります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. [送信] を選択します。

プロバイダーに後で要求する要求のタイプを指定できるようになりました。

要求タイプは、プロバイダーが利用できるレポートの名前です。詳細については、「プロバイダーの要求タイプの設定」を参照してください。

プロバイダーの要求タイプの設定

リスクインテリジェンスプロバイダーとサービスを登録した後、自分と組織が使用する利用可能な要求タイプを指定します。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessment_reviewer

このタスクについて

要求タイプは、プロバイダーが利用できるレポートの名前です。要求タイプは、レベル 1 (一般的なリスクインテリジェンス) からレベル 3 (私立探偵の雇用などの詳細なリスク調査) の範囲として定義できます。要求のレベルまたは説明が自分とリスクインテリジェンスプロバイダーの両方にとって意味がある限り、制限はありません。たとえば、 Black Kite から注文された、サイバーリスク情報の概要を示すリスクインテリジェンスレポートは、「レベル 1 - 一般サイバーリスクレポート」要求タイプに分類できます。

手順

1. 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > リスクインテリジェンスプロバイダーのセットアップ > 要求タイプ をクリックし、 新規 を選択します。
2. プロバイダーを選択し、要求タイプを入力して [送信] を選択し、要求タイプごとにこのプロセスを繰り返します。
3. プロセス全体を繰り返し、プロバイダーが返すことができる追加のスコアタイプごとにサービスを定義します。

タスクの結果

リスクインテリジェンスプロバイダーに異なるタイプのリスクスコアを要求できるようになりました。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティリスクデータにリスクインテリジェンススコアを追加する

プロバイダーからの生のスコアを、サードパーティのプロバイダーサービスレコードに追加します。指定したマッピングを使用して、値が適切な TPRM 評価に正規化されます。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessment_reviewer

このタスクについて

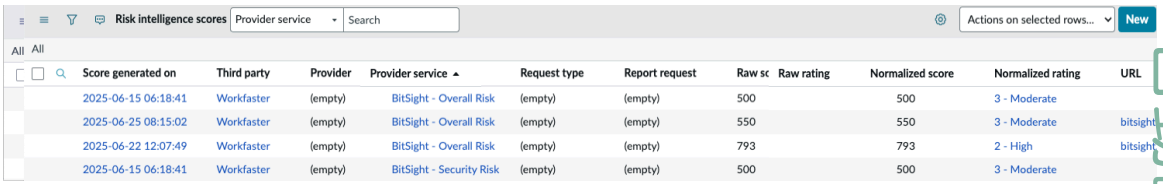
通常、リスクインテリジェンススコアテーブルに入力するには、ServiceNow Store から作成またはインストールした統合を使用します。この手順では、リスクインテリジェンススコアを手動で更新するプロセスについて説明します。

サードパーティのリスクスコアを要求すると、リスクインテリジェンスプロバイダーは指定された URL でスコアを返します。サードパーティのリスクデータにスコアと URL を手動で追加するには、次の手順に従います。

手順

1. 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > リスクインテリジェンスプロバイダーのセットアップ > スコア.

   リスクインテリジェンススコア関連リストには、現在のプロバイダーサービスと関連するスコアのリストが表示されます。



2. [新規] をクリックし、リスクインテリジェンススコアフォームに入力して、[送信] をクリックします。

   この手順では、スコアと、プロバイダーがスコアを返した URL をサードパーティまたはエンゲージメントのデータに追加します。

   リスクインテリジェンスプロバイダーからの評価を入力すると、値が正規化されて適切な TPRM 評価に変換されます。リスクインテリジェンスプロバイダーからのスコアを入力すると、TPRM は正規化された評価と正規化された数値スコアの両方を生成します。

リスクインテリジェンススコアフォーム

フィールド	説明
プロバイダー	リスクインテリジェンスプロバイダーの一意の名前選択リストに、登録したプロバイダーが入力されます。
プロバイダーサービス	リスクインテリジェンスプロバイダー名とリスクデータを返した特定のサービスを連結した名前。リスクインテリジェンスプロバイダーサービスのセットアップ で指定したプロセスを使用してサービスを構成しました。
サードパーティ	プロバイダーによって採点されたサードパーティ。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
要求タイプ	サービスに対して定義したスコアタイプの分析レベル。 たとえば、プロバイダーが [財務リスク] スコアタイプに対して、レベル 1、レベル 2、およびレベル 3 の 3 つの要求タイプを提供する場合があります。「レベル 3」レポートは、「レベル 1」レポートよりもはるかに詳細な情報を返す場合があり、コストが大幅にかかる可能性があります。
URL	プロバイダーが要求に対して返したサイトの URL。 このサイトでは、プロバイダーからの評価またはスコアと追加情報が提供されます。
生の評価/生のスコア	指定された URL でプロバイダーによって返された生の値。
正規化されたスコア	プロバイダーからの生のスコアを入力した場合は、計算済みの正規化 TPRM スコアになります。
正規化された評価	プロバイダーから数値の生のスコアまたは生の評価を入力した場合、これは計算された正規化された TPRM 評価になります。
スコア生成日	スコアがこのレコードに追加された日時。 **注:** これは、プロバイダーによってデータが生成された日時ではありません。

自動翻訳

3. オプション: サードパーティのリスクデータにサブファクターデータを追加します。
サブファクターデータは検証されず、TPRM スコア/評価データにマッピングされませんが、入力すると直接保存されます。

   a. 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > リスクインテリジェンスプロバイダーのセットアップ > サブファクター をクリックし、[新規] をクリックします。

   b. スコア/評価のデータを入力したときと同じ方法でフォームに入力します。

   リスクインテリジェンスサブファクターフォーム

フィールド	説明
プロバイダー	リスクインテリジェンスプロバイダーの一意の名前選択リストに、登録したプロバイダーが入力されます。
プロバイダーサービス	リスクインテリジェンスプロバイダー名とリスクデータを返した特定のサービスを連結した名前。リスクインテリジェンスプロバイダーサービスのセットアップ で指定したプロセスを使用してサービスを構成しました。
名前	サブファクターの名前。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
サードパーティ	プロバイダーによって採点されたサードパーティ。
スコア	プロバイダーによって返される生の値。 **注:** このフィールドには、数値またはアルファベットのテキストを入力できます。値は検証されません。
作成日時	(Optional) スコアがこのレコードに追加された日時。 **注:** これは、プロバイダーによってデータが生成された日時ではありません。

タスクの結果
サードパーティに関連付けたデータがレポートに表示されます。詳細は、「リスクインテリジェンススコアを表示する」を参照してください。データは次の場所に表示されます。

- この手順で説明されているリスクインテリジェンススコア関連リスト。
- ワークスペースの [リスクの概要] タブ。
- ワークスペースの [リスクインテリジェンススコア] タブ。

リスクインテリジェンスの更新時のアクションを自動化する

プロバイダーベースの送信ルールは、一連の条件とアクションです。ルールでは、リスクインテリジェンスプロバイダーからの評価の更新が、ルールで指定されたアクションをトリガーする条件であることを指定できます。アクションには、サードパーティのリスクアセスメント、問題、タスク、またはメールの作成や送信があります。

始める前に
必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessment_reviewer

このタスクについて
リスクインテリジェンスプロバイダーからの評価を入力すると、値が正規化されて適切な TPRM 評価に変換されます。リスクインテリジェンスプロバイダーからのスコアを入力すると、TPRM は正規化された評価と正規化された数値スコアの両方を生成します。

プロバイダーが更新された評価またはスコアを送信したときにアクションを実行するルールを定義するには、次の手順に従います。

手順

1. 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > アセスメント送信ルール > プロバイダーベースの送信.
2. [新規] をクリックし、フォームに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

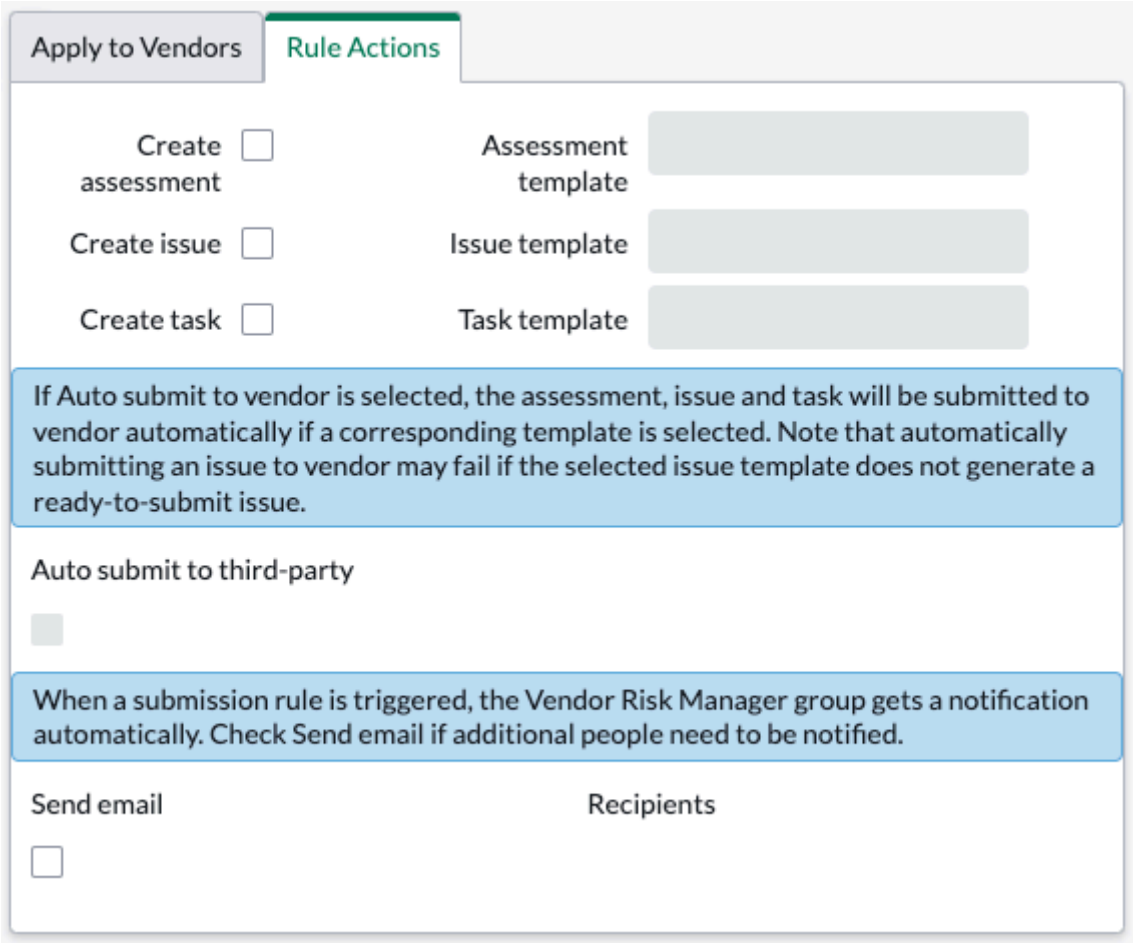
プロバイダーベースの送信ルールフォーム

フィールド	説明
プロバイダーサービス	ルールに関連付けられているリスクインテリジェンスプロバイダーから採点サービスを選択します。
順序	ルールの実行順序を入力します。同じリスクインテリジェンスプロバイダーに対して複数のルールが定義されている場合は、[順番] の値が最も小さいルールのみが実行されます。
名前	ルールの自動生成された名前。
○ 変更タイプ ○ 範囲の変更 ○ 正規化された割合/正規化スコア/正規化されたリスク評価	ルールをトリガーする外部スコア変更の基準と変更の範囲を次のように選択します。 ○ [変更タイプ] が [正規化された割合] の場合は、[リスク増加割合] または [リスク減少割合] を選択し、[正規化割合] フィールドで割合を選択します。 ○ [変更タイプ] が [正規化されたスコア] の場合は、[リスク増加割合]、[リスク減少割合]、または [しきい値] を選択し、[正規化スコア] フィールドでスコアを選択します。 ○ 変更タイプ = 正規化された評価の場合は、ルールをトリガーするリスク評価しきい値を [正規化されたリスク評価] フィールドに入力します。

3. [サードパーティに適用] タブを選択します。
   a. 条件ビルダー を使用して、ルールに影響を受けるサードパーティを特定するための条件を定義します。
   b. [送信] をクリックします。
4. [ルールアクション] タブを選択して、フィールドに入力し、[送信] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



プロバイダーベースの送信ルールフォーム – [ルールアクション] タブ

フィールド	説明
アセスメントを作成	[サードパーティに適用] タブで特定されたサードパーティのアセスメントを作成するには、このチェックボックスをオンにします。[サードパーティに自動送信] チェックボックスもオンにすると、ルールがトリガーされたときにアセスメントが自動的にサードパーティに送信されます。
問題を作成	[サードパーティに適用] タブで特定されたサードパーティに対して問題を作成するには、このチェックボックスをオンにします。[サードパーティに自動送信] チェックボックスもオンにして、[問題テンプレート] フィールドからテンプレートを選択した場合、ルールがトリガーされるとサードパーティに対して問題が自動生成されます。 **注:** 自動生成を有効にするには、問題が作成されるときに次の 3 つのフィールドが入力されていることを検証する必要があります。 ○ ベンダー ○ 推奨事項 ([推奨事項] タブ上) ○ 説明 ([推奨事項] タブ上)

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
タスクの作成	[サードパーティに適用] タブで特定されたサードパーティのタスクを作成するには、このチェックボックスをオンにします。 [サードパーティに自動送信] チェックボックスもオンにして、[タスクテンプレート] フィールドからテンプレートを選択した場合、ルールがトリガーされるとサードパーティに対してタスクが自動的に作成されます。
アセスメントテンプレート	[アセスメントを作成] チェックボックスを選択した場合は、アセスメントの作成に使用するアセスメントテンプレートを選択します。
問題テンプレート	[問題を作成] チェックボックスをオンにした場合は、必要に応じて、[ベンダーに適用] タブで特定されたサードパーティの問題を作成するために使用する問題テンプレートを選択できます。 [サードパーティに自動送信] チェックボックスもオンにした場合、ルールがトリガーされるときに問題が自動的に作成されるようにするには、問題テンプレートも選択する必要があります。
タスクテンプレート	[問題を作成] チェックボックスをオンにした場合は、必要に応じて、[ベンダーに適用] タブで特定されたサードパーティのタスクを作成するために使用するタスクテンプレートを選択できます。 [サードパーティに自動送信] チェックボックスもオンにした場合、ルールがトリガーされるときにタスクが自動的に作成されるようにするには、タスクテンプレートも選択する必要があります。
サードパーティに自動送信	前のフィールドの説明に従って、[サードパーティに適用] タブで特定されたサードパーティにアセスメント、問題、またはタスクを自動的に送信します。
メールを送信/受信者	ルールがトリガーされると、TPR マネージャーロールを持つユーザーがメール通知を受信します。他の個人にメール通知を送信するには、[メールを送信] を選択して [受信者] を指定します。

EcoVadisと サードパーティリスク管理の統合

EcoVadis をサードパーティリスク管理プログラムに統合することで、持続可能性と企業の社会的責任 (CSR) に関連するリスクを評価して軽減する能力を高めることができます。EcoVadis の包括的な持続可能性評価を活用することで、サードパーティの環境的、倫理的、社会的慣行に関する詳細なインサイトを得ることができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

EcoVadis のベンダーリスク管理統合アプリケーションの構成

EcoVadis のベンダーリスク管理統合アプリケーションを使用するには、次の前提条件を設定する必要があります。

- EcoVadis のベンダーリスク管理統合アプリケーション [com.sn_app_grc_ecovadis] をアクティブ化します。ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする手順については、「初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする」を参照してください。
- 接続を作成し、EcoVadis で認証情報を認証するには、「EcoVadis の接続と構成を作成する」を参照してください。
- EcoVadis Web サイトを使用してEcoVadis評価を要求します。要求が承認されると、スコアは TPRMで利用可能になります。EcoVadis Web サイトの詳細については、「https://support.ecovadis.com/hc/en-us」を参照してください。

注:
EcoVadisのシステムプロパティをカスタマイズできます。詳細については、「EcoVadis 統合のためにシステムプロパティをカスタマイズする」を参照してください。

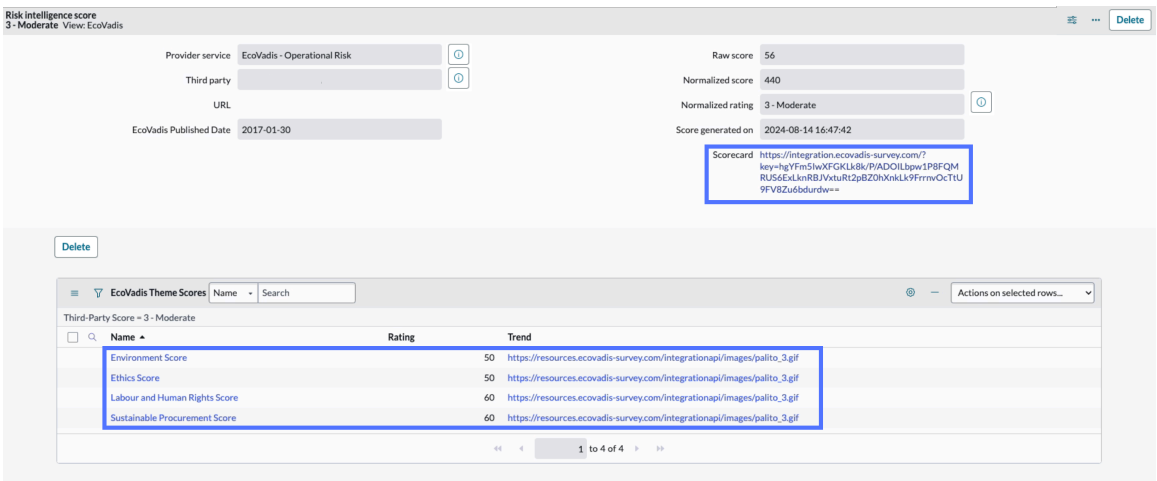
EcoVadis 統合アクション

TPRM との EcoVadis 統合の一環として、テーマスコアやスコアカードを含むリスクインテリジェンススコアをEcoVadisからフェッチして表示できます。

詳細については、「EcoVadis スコアをフェッチして表示する」を参照してください。

次の例は、スコアをフェッチした後に表示できるテーマスコアとスコアカードのリンクを示しています。

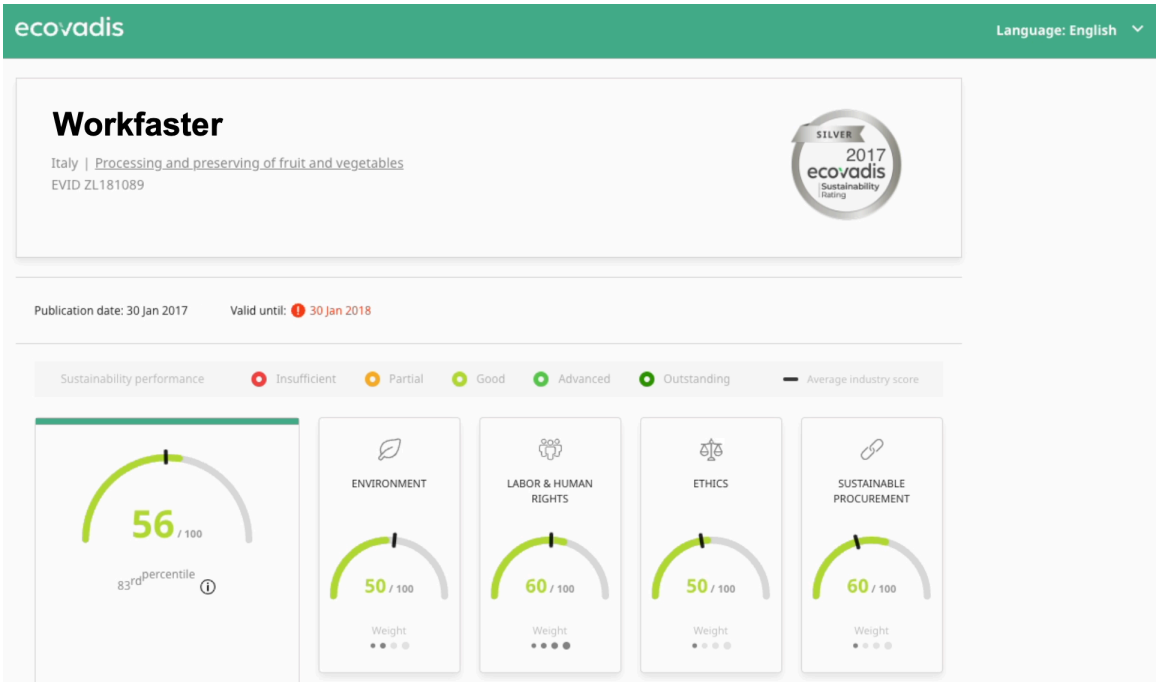
EcoVadisリスクインテリジェンススコアレコードの例



次の例は、環境、労働慣行、倫理、持続可能な調達という 4 つの主要分野にわたる企業の持続可能性パフォーマンスを示しています。会社の強みと改善すべき領域の詳細な内訳と、100点満点の最終的な総合スコアを提供します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

EcoVadisスコアカードの例



注:
EcoVadis を使用して評価するすべてのサードパーティが、サードパーティレコードにリストされている Web サイトを持っていることを確認します。EcoVadis は、Web サイトの URL を参照して、サードパーティが登録されていることを確認します。

EcoVadis の接続と構成を作成する

EcoVadis からスコアをフェッチおよび更新する接続を作成し、サードパーティリスク管理 を使用するときにリスクとテーマの最新のスコアを得られるようにします。

始める前に

EcoVadis のベンダーリスク管理統合アプリケーション [com.sn_app_grc_ecovadis] をアクティブ化します。ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする手順については、「初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする」を参照してください。

必要なロール：admin

手順

1. 移動先 すべて > サードパーティリスク管理向け **EcoVadis** > 接続および資格情報エイリアス をクリックし、[**EcoVadis** 接続エイリアス] を選択します。
2. [新しい接続 & 資格情報を作成] 関連リンクを選択します。
3. フォームに記入します。

接続と資格情報フォームを作成

フィールド	説明
接続名	接続の名前。
接続 URL	EcoVadis の API ベースアドレス。
認証情報名	EcoVadis 認証情報の名前です。
ユーザー名	EcoVadis でのユーザーのユーザー名。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

フィールド	説明
パスワード	EcoVadis でのユーザーのパスワード。

4. **[Create** (作成)] を選択します。
5. 接続を作成したら、次に移動して構成を設定します: すべて > サードパーティリスク管理向け **EcoVadis** > 設定.
6. **[New** (新規)] を選択します。
7. 名前を入力し、作成した EcoVadis 構成接続を選択します。

> **注:**
> 作成できる構成は 1 つのみです。

EcoVadis 統合のためにシステムプロパティをカスタマイズする

必要に応じて、sn_ecovadis.token_uri および sn_ecovadis.score_uri システムプロパティのデフォルト値をカスタマイズできます。これらのプロパティは、トークンを管理し、サードパーティリスク管理 を使用するときに EcoVadis からリスクスコアにアクセスします。

始める前に

EcoVadis の接続と構成を作成します。詳細については、「EcoVadis の接続と構成を作成する」を参照してください。

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] を選択し、ナビゲーションフィルター で「sys_properties.list」と入力します。
2. sn_ecovadis.token_uri プロパティまたは sn_ecovadis.score_uri プロパティに移動します。
3. 必要なプロパティを選択し、[値] を更新します。
   カスタマイズできるその他のプロパティは次のとおりです。
   - sn_ecovadis.app_scope_sys_id:サードパーティリスク管理アプリケーションのEcoVadisの sys id。
   - sn_ecovadis.connection_credential_alias_sys_id: EcoVadis で構成された接続および資格情報エイリアスの sys ID。
   - sn_ecovadis.ecovadis_provider_service: EcoVadis プロバイダーサービスの Sys ID。
4. **[Update** (更新)] を選択します。
   EcoVadis のベンダーリスク管理統合アプリケーション [com.sn_app_grc_ecovadis] が更新され、使用できるようになります。

EcoVadis スコアをフェッチして表示する

オンデマンドで、またはサードパーティリスク管理を使用して設定された時間間隔で、EcoVadis から現在のスコアとスコアカードを取得します。EcoVadis[スコアスケジュラーをフェッチ (Fetch Score Scheduler)] の設定をカスタマイズすると、必要なときに最新のスコアを取得できます。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

EcoVadis 評価は、サードパーティの環境的、倫理的、社会的慣行に関する詳細なインサイトを得るのに役立ちます。これらのスコアを定期的にフェッチすることで、コンプライアンスとパフォーマンスに関する最新情報を常に把握できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
EcoVadis を使用して評価するすべてのサードパーティが、サードパーティレコードにリストされている Web サイトを持っていることを確認します。EcoVadis は、Web サイトの URL を参照して、サードパーティが登録されていることを確認します。

手順

1. すべて > **Ecovadis** によるサードパーティリスク管理 > スケジュール済みジョブ
2. **[EcoVadis** フェッチスコアスケジューラー **(EcoVadis fetch Score Scheduler)]** を選択します。
3. オンデマンドまたはスケジュールされた時刻にスコアをフェッチします。
   - [今すぐ実行] を選択して、最新のスコアを取得します。
   - [アクティブ] オプションを選択してから次のフィールドを設定し、[更新] を選択して、特定の頻度でスコアをフェッチします。

フィールド	説明
実行	EcoVadis スコアがフェッチされる頻度または設定された日付。 ▪ 日次 ▪ 週次 ▪ 月次 ▪ 定期的 ▪ 1 回 ▪ オンデマンド ▪ ビジネスカレンダー：エントリ開始/終了
タイムゾーン	スコアをフェッチする指定の時間に適用されるタイムゾーン。
時刻	スコアがフェッチされる時刻。

注:
スケジュール済みジョブは 1 日に 1 回実行されます。

4. 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > サードパーティ > すべてのサードパーティ をクリックし、目的のサードパーティを選択します。
5. [リスクインテリジェンススコア] 関連リストを選択します。
6. [スコア生成日 **(Score generated on)]** 列から日付と時刻を選択してスコアを表示します。

注:
スコアレコードが EcoVadis ビューにある場合は、EcoVadis テーマスコアとスコアカードを含むすべてのスコアを表示できます。

タスクの結果
[EcoVadis テーマスコア (EcoVadis Theme Scores)] 関連リストで EcoVadis サードパーティのテーマスコアを表示し、[スコアカード] フィールドで URL を選択して EcoVadis スコアカードにアクセスできます。

スコアは、EcoVadisのリスクインテリジェンスプロバイダーとプロバイダーサービスにマッピングされます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

注:
次に移動すると、スコアがフェッチされていることを確認できます: すべて > サードパーティリスク管理向け **EcoVadis** > アプリケーションログ.

リスクインテリジェンスプロバイダーの統合

サードパーティリスク管理 アプリケーションは、リスクインテリジェンスプロバイダーの統合をサポートしています。これらのガイドラインは、組織において、サードパーティのリスクインテリジェンスレポート (RIR) 要求とデューデリジェンス要求のためのリスクインテリジェンスプロバイダー統合を開発するのに役立ちます。

統合の要件

TPRM アプリケーションを使用すると、組織は外部のリスクインテリジェンスコンテンツプロバイダーと統合を図ることができます。サードパーティリスク (TPR) 査定人 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_assessor] または TPR マネージャー [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager] ロールを持っている場合は、リスクインテリジェンス要求フォームを使用して、サードパーティのスコアまたはレポートを要求できます。プロバイダーによってレポートが生成された後、レポートへのリンクが サードパーティリスク管理 アプリケーションにアップロードされ、関連するサードパーティに関連付けられます。

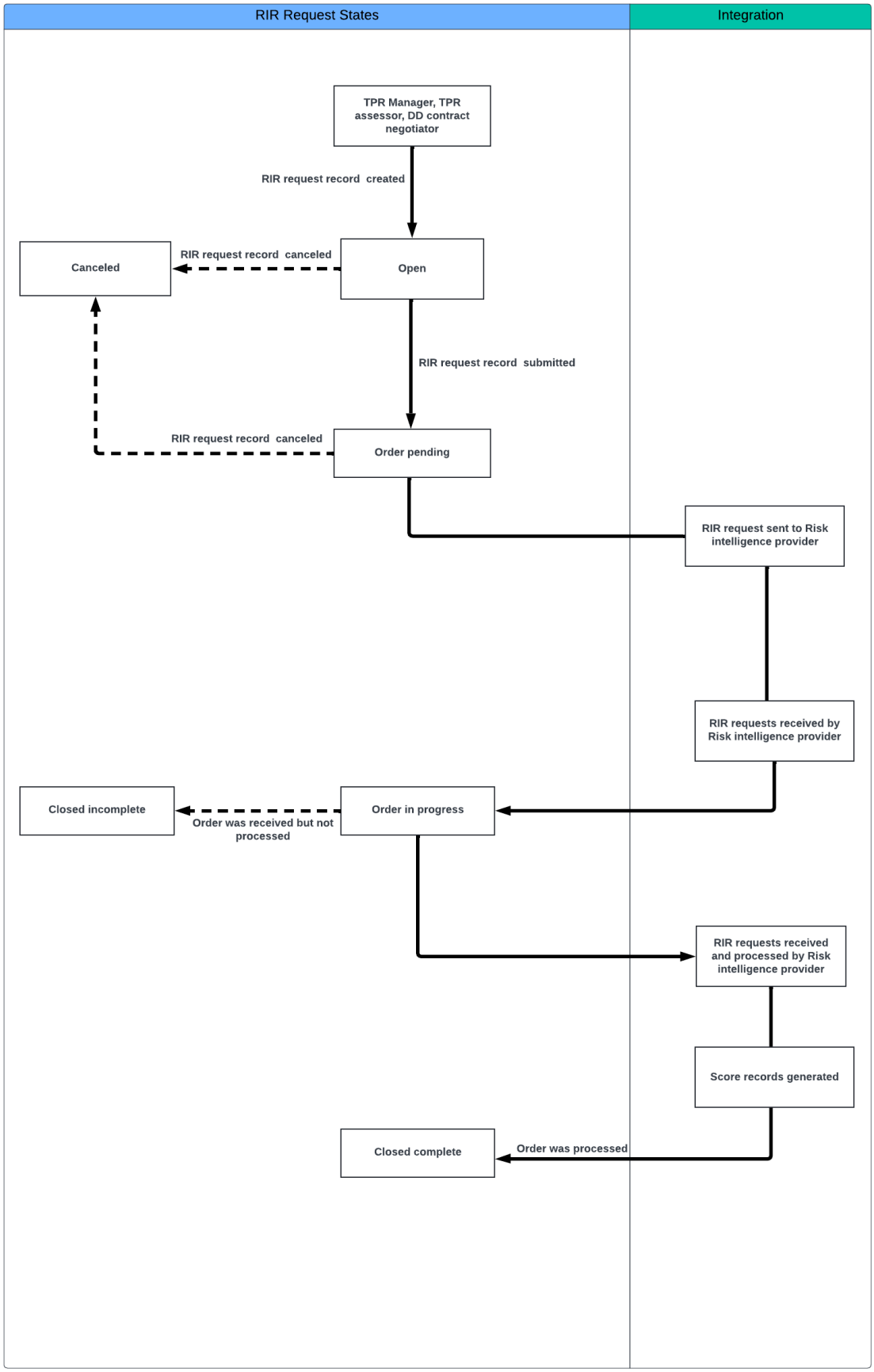
注:
レポートとスコアを要求する前に、TPR アセスメントレビュー担当者 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessment_reviewer] ロールを持つチームメンバーがプロバイダーを登録し、サードパーティリスク管理 アプリケーションでプロバイダーと要求タイプの両方を設定する必要があります。詳細については、「リスクインテリジェンスプロバイダーを登録する」、「リスクインテリジェンスプロバイダーサービスのセットアップ」、「プロバイダーの要求タイプの設定」を参照してください。

次の図は、RIR 要求フローのステータスと、リスクインテリジェンスプロバイダーの統合要件との関係を示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RIR 要求の統合



統合プロセス：

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

1. [注文処理待ち] ステータスのすべての RIR 要求は、リスクインテリジェンスプロバイダーに送信する準備ができています。
2. [注文処理待ち] ステータスのレポート要求レコードをチェックするために、統合 API によって夜間ジョブが設定されます。
3. 統合 API は、RIR 要求レコードのステータスを [注文進行中 (Order in progress)] に更新します。
4. 統合 API は、レコードの名前とそれに対応するソーステーブルを含むパケットをプロバイダーに送信します。
   - rir_sysid [sn_tprm_dd_risk_intel_request]
   - provider_sysid [sn_vdr_risk_asmt_tpss_provider_basic]
   - third_party_sysid [core_company]
   - third_party_name [core_company]
   - request_type_sysid [sn_tprm_dd_risk_intel_request_type]
   - request_type_name [sn_tprm_dd_risk_intel_request_type]
   - provider_service_sysid [sn_vdr_risk_asmt_tpss_provider]
5. パケットが正常に送信されない場合、統合 API は RIR 要求のステータスを [未完了でクローズ] に更新します。
6. RIR 要求を受信した後、リスクインテリジェンスプロバイダーはそれを処理し、URL、スコア、コンテンツなどの情報を収集します。
7. リスクインテリジェンスプロバイダーは、サードパーティリスク管理 アプリケーションにアップロードするパケットを返します。

   パケットには、次のレコードの名前、対応するソーステーブル、およびコンテンツが含まれています。
   - rir_sysid [sn_tprm_dd_risk_intel_request]
   - provider_sysid [sn_vdr_risk_asmt_tpss_provider_basic]
   - third_party_sysid [core_company]
   - request_type_sysid [sn_tprm_dd_risk_intel_request_type]
   - provider_service_sysid [sn_vdr_risk_asmt_tpss_provider]
   - URL
   - スコア
   - 評価
   - コンテンツ

   注:
   スコアまたは評価は、プロバイダーのスコアまたは評価である必要があります。プロバイダーは、プロバイダーサービスレコードを使用して、プロバイダーのスコアを ServiceNow のスコアに変換するためのマッピングを設定する必要があります。
8. 統合 API は、パケット情報を使用して、リスクインテリジェンススコアレコード [sn_vdr_risk_asmt_security_score] を作成し、[URL] フィールドに入力します。この URL は、

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レポートをダウンロードして関連する RIR 要求レコード [sn_tprm_dd_risk_intel_request] に添付するために使用されます。

9. 統合 API は、リスクインテリジェンスプロバイダーがレポートを完了したか、送信に失敗して注文のクローズを決定したかに応じて、RIR 要求のステータスを [注文進行中 (Order in progress)] から [完了してクローズ] または [未完了でクローズ] に更新します。

制限事項

統合 API は、スコアテーブルのスコアレコードを更新しません。スコアレコードの作成時に API がフィールドへの入力に失敗した場合は、既存のレコードを更新する代わりに、新しいスコアレコードが作成されます。たとえば、API が RIR 要求にスコアを関連付けなかった場合は、API を再度呼び出して新しいスコアを作成し、それを RIR 要求に関連付ける必要があります。

リスクインテリジェンスレポート要求のステータス

リスクインテリジェンスレポート要求には、次のステータスがあります。

オープン

デューデリジェンス要求にアサインされたサードパーティリスク (TPR) マネージャー、TPR 査定人、または契約交渉担当者によってレコードが作成され、保存された後、RIR 要求はこのステータスになります。 リスクインテリジェンス要求ごとに、テキスト [RIR] で始まる一意の ID 番号が自動的にアサインされます。

注文の処理待ち

デューデリジェンス要求にアサインされたサードパーティリスク (TPR) マネージャー、TPR 査定人、または契約交渉担当者によってレコードが送信された後、RIR 要求はこのステータスになります。

次の変更が行われます。

- プロバイダーに注文が送信されました。
- [要求日] フィールドには、このレコードが送信された日付が入力されています。
- [リスクインテリジェンスレポート要求] セクションのすべてのフィールドは読み取り専用です。

進行中の注文

プロバイダーが注文を受領した後、RIR 要求はこのステータスになります。

次の変更が行われます。

- スコアレコードはレポート要求と一緒に生成されます。
- [スコア生成日] フィールドが更新されます。

未完了でクローズ

プロバイダーが注文を受領したがエラーのために処理できず、注文をクローズすると、RIR 要求はこのステータスになります。

完了してクローズ

プロバイダーが注文を受領して処理すると、RIR 要求はこのステータスになります。

キャンセル

TPR マネージャー、TPR 査定人、または契約交渉担当者がレポート要求をキャンセルすると、RIR 要求はこのステータスになります。TPR マネージャー、TPR 査定人、または契約交渉担当者は、要求をキャンセル必要がある場合、要求が [オープン] または

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[注文の処理待ち] ステータスのときにキャンセルできます。RIR 要求がキャンセルされると、そのレコードは編集できなくなります。レコードを作成する必要があります。

サードパーティリスクデューデリジェンスを要求する

サードパーティ、エンゲージメント、または第 4 の関係者とのやり取りのリスクレベルを判断するために、サードパーティリスク管理 を使用してサードパーティリスクデューデリジェンスを要求します。デューデリジェンスを実施して関連するリスクを認識し、情報に基づいた意思決定を行い、適切なコントロールを確立し、外部関係者と協力する際の潜在的な悪影響を軽減できるようにします。

組織の従業員であれば誰でも、エンゲージメントに関する事業関係リスクの調査や精査であるデューデリジェンスを要求できます。

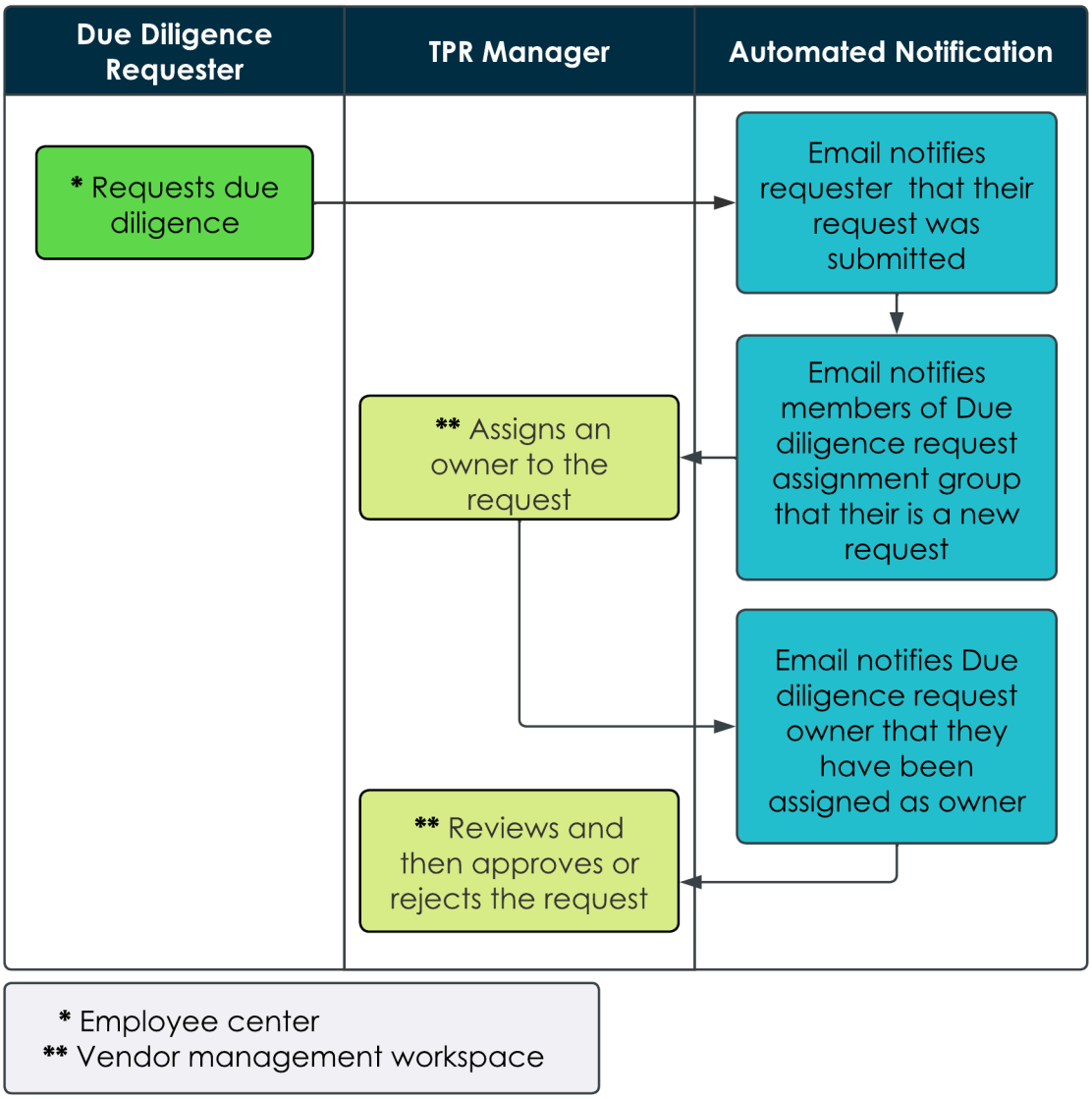
- エンゲージメントは、組織をリスクにさらす可能性があるサードパーティと形成する予定の非公式または契約上の関係です。エンゲージメントでは、サードパーティが提供するサービスや製品、および関係のその他の詳細について概要を説明します。
- サードパーティとは、ユーザーとやり取りしたり、ビジネス関係を結んだりした組織または個人のことです。サードパーティは、子会社を持つことができ、第 4 の関係者と契約することができます。たとえば、部門は子会社です。
- 第 *4* の関係者は、さらに別の関係者と契約することができます。第 4 の関係者から第 n の関係者までのすべての下流関係者は、サードパーティと同じ方法でリスクを負います。

これらのセクションで使用される用語、またはデューデリジェンスを実施する理由の詳細については、「 用語 」および「 デューデリジェンスを実施する理由」を参照してください。

次のインフォグラフィックは、デューデリジェンス要求プロセスを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

デューデリジェンス要求プロセスのステップは次のとおりです。

1. 組織の従業員がサードパーティエンゲージメントのデューデリジェンスを要求します。
2. 要求を行った従業員にメール通知が送信されます。
3. デューデリジェンス要求アサイン先グループにメール通知が送信されます。
4. グループのメンバーは、サードパーティリスク (TPR) マネージャー [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager] または TPR 査定人 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor] を要求のオーナーとしてアサインできます。
5. デューデリジェンス要求のアサインされたオーナーにメール通知が送信されます。
6. TPR マネージャーは、エンゲージメントのデューデリジェンスの要求をレビューして承認します。要求者から提供された情報が不十分であった場合、または組織でエンゲージメントが不可能な場合、TPR マネージャーはその要求を却下します。
7. IRQ プロセスは、TPR マネージャーがデューデリジェンスの要求を承認した後に開始されます。

デューデリジェンス要求の作成または監視の詳細については、「サードパーティエンゲージメントのデューデリジェンス要求 と デューデリジェンス要求プロセスの監視」を参照してください。

デューデリジェンス要求を作成する場合、次のオプションを使用できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 新しいエンゲージメントのオンボーディング 既存のサードパーティとの新しいエンゲージメントのためのオンボーディングプロセスを開始します。 このタイプのオンボーディングの詳細については、「例 - サードパーティのオンボーディング」を参照してください 。
- 既存エンゲージメントの再評価 条件が変化したときに既存のエンゲージメントを再評価します。たとえば、不利なニュースを聞いたり、サードパーティの供給ラインに変更があった場合などです。追加のデューデリジェンスを実施して、リスクを再評価する必要があるかもしれません。
- 契約更新の既存のエンゲージメントの再評価 組織が現在のサードパーティとの契約やエンゲージメントを更新する前に、デューデリジェンスを実施してリスクを再評価します。
- エンゲージメントのオフボーディング (デューデリジェンスあり) デューデリジェンスを実施して、エンゲージメントを伴う退職 (関係終了) が最適なアクションであるかどうかを判断します。たとえば、サードパーティやエンゲージメントの現在のパフォーマンスが期待に満たないとしても、それを変更するのはリスクが高すぎる可能性があります。

  酌量すべき状況が決定に寄与する可能性があります。たとえば、サードパーティが入手困難な資料を調達している場合、プロバイダーの切り替えにはコストがかかり、追加のリスクが発生する可能性があります。このような場合、中断の可能性とより高いリスクを軽減するために、長期的な関係が存在する既存のサードパーティとの契約を継続することが望ましい場合があります。

- エンゲージメントのオフボーディング (デューデリジェンスなし) エンゲージメントが終了した場合、または他の理由で別のサードパーティに切り替えたい場合は、エンゲージメントを完全に終了するように要求します。この場合、通常は追加のデューデリジェンスを実施する必要はありません。ただし、このプロセスには、エンゲージメントによって提供されるサービスが継続されないことを確認するための通常の固有のリスクに関するアンケート (IRQ) プロセスが含まれます。 このタイプのオフボーディングの詳細については、「エンゲージメントのオフボーディング (デューデリジェンスなし) 」を参照してください。

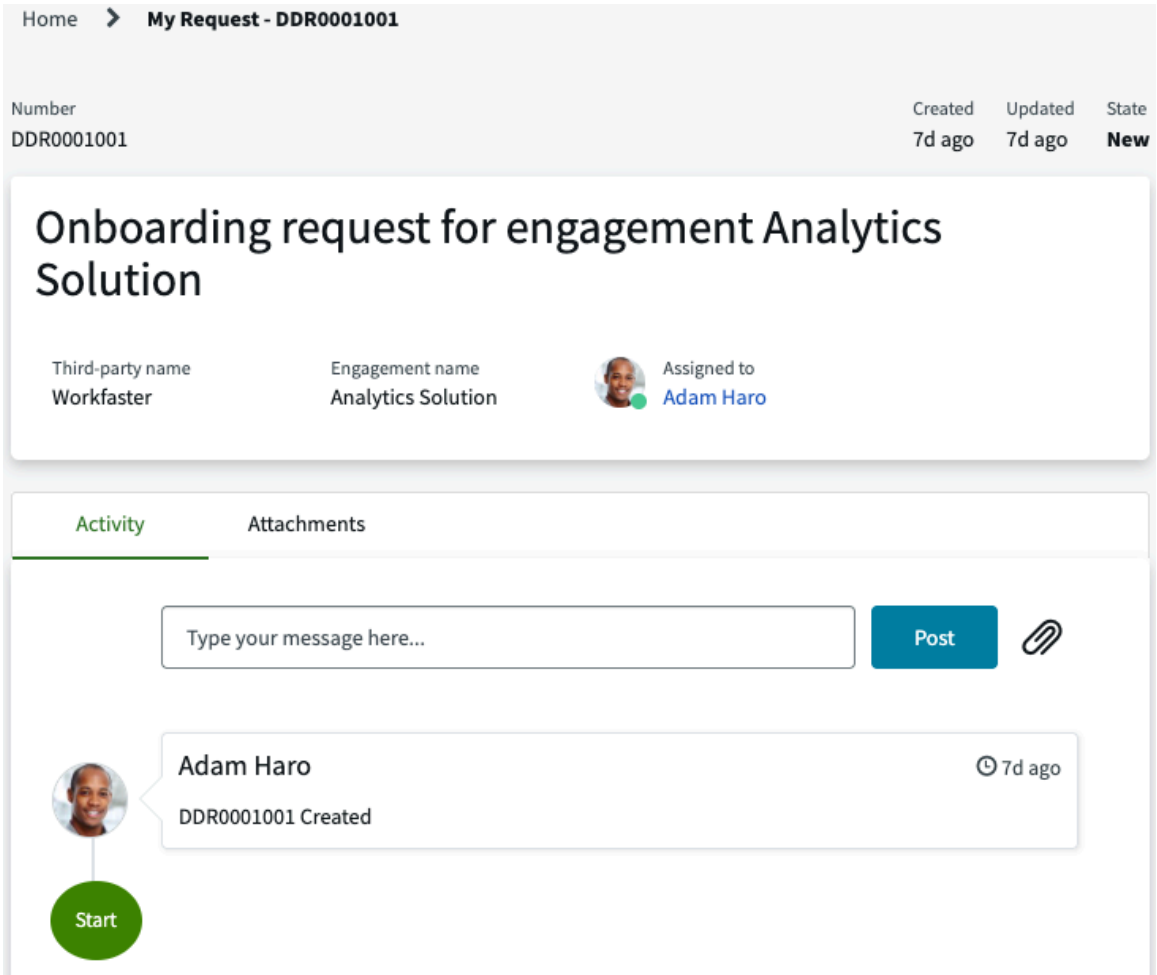
デューデリジェンス要求ごとに、テキスト「DDR」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。この ID を使用して要求を追跡します。レビュー担当者にメッセージを投稿し、ページから添付ファイルを追加できます。

次の例は、新しいデューデリジェンス要求がどのように表示されるかを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デューデリジェンス要求の追跡例



デューデリジェンスワークフロー全体を構成するさまざまなプロセスの詳細については、「デューデリジェンスワークフロー と サードパーティリスクのアセスメント」を参照してください。

サードパーティエンゲージメントのデューデリジェンス要求

デューデリジェンスを要求し、エンゲージメントに関連するビジネスのリスクを評価します。デューデリジェンスを実施することで、事業関係の締結を決定する前に、最新かつ包括的で正確な情報にアクセスすることができます。

始める前に

必要なロール：snc_internal

このタスクについて

組織はサードパーティとのビジネスに関連するリスクを評価するため、サードパーティとのエンゲージメントに対してデューデリジェンスを実行します。デューデリジェンスを要求する際は、サードパーティの名前と要求理由を指定します。たとえば、既にエンゲージメントしたサードパーティとの新しいエンゲージメントを開始するため、契約更新の準備としてデューデリジェンスを実行するためなどです。次に、組織のサードパーティ (TPR) マネージャーと TPR 査定人がデューデリジェンスプロセスを進めるのに役立つ詳細を指定します。要求が受け入れられると、最初に IRQ プロセスが実行されます。IRQ プロセスの後、デューデリジェンスプロセスの一環として、サードパーティのリスクアセスメントが 2 つ開始されます。1 つはサードパーティに対するアセスメントで、もう 1 つはエンゲージメントに対するアセスメントです。詳細については、「デューデリジェンスワークフロー」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> この機能は、サードパーティリスク管理アプリをアクティブ化している場合にのみ使用できます。リスク集中マップ機能をインストールした後、Google ライセンスをインストールして機能を有効にする必要があります。リスク集中マップ機能を有効にするには、「TPRM リスク集中マップを有効にする」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > セルフサービス > 従業員センター 従業員センターを開き、 リスクとコンプライアンス.
2. [サードパーティリスクのデューデリジェンスを要求] カードを選択します。
3. 要求フォームで、要求の目的を指定します。
   - 新しいエンゲージメントのオンボーディング
   - 既存エンゲージメントの再評価
   - 契約更新の既存エンゲージメントの再評価
   - エンゲージメントのオフボーディング (デューデリジェンスあり)
   - エンゲージメントのオフボーディング (デューデリジェンスなし)

     詳細については、「エンゲージメントのオフボーディング (デューデリジェンスなし)」を参照してください。

   デューデリジェンス要求の各タイプの説明については、「サードパーティリスクデューデリジェンスを要求する」を参照してください。
4. オプション: [添付ファイルを追加] を選択して、要求を伴うドキュメントを含めます。
5. エンゲージメントのサードパーティを指定します。

   既に連携しているサードパーティとのエンゲージメント、または新しいサードパーティとのエンゲージメントのいずれかに対して、デューデリジェンスを要求できます。

   > **注:**
   > [終了] ステータスのサードパーティを再有効化できます。終了したサードパーティは、[オンボーディング] の新しいエンゲージメントタイプの要求のリストに表示されます。このような要求が受け入れられてクローズされると、サードパーティのステータスは [アクティブ] に変更されます。

   - 既存のサードパーティ、またはサードパーティの部門、パートナー、子会社、または第 4 の関係者とのエンゲージメントの場合：
     a. リストからサードパーティを選択します。
     b. フォームが展開され、住所や連絡先の詳細など、サードパーティの重要な情報が自動的に入力されます。
     c. 次のステップでは、エンゲージメントの住所や連絡先の詳細などの重要な情報を入力します。
   - 新しいサードパーティの場合：
     a. [サードパーティがリストされていません] チェックボックスをオンにします。
     b. 新しいサードパーティの名前を入力します。
     c. フォームが展開されます。次のステップでは、サードパーティとエンゲージメントの住所や連絡先の詳細などの重要な情報を入力します。

   既存のサードパーティを選択した場合は、情報の多くが自動的に入力されています。これらのフィールドの説明については、「サードパーティリスクデューデリジェンスの要求フォームの要求」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. [送信] を選択します。
   - [自分の要求] ページの [アクティビティ] タブが開きます。デューデリジェンス要求ごとに、テキスト「DDR」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。この ID を使用して要求を追跡します。レビュー担当者にメッセージを投稿し、ページから添付ファイルを追加できます。
   - 要求が送信されたことを知らせる確認メールが送信されます。このメッセージには、サードパーティリスク管理 アプリケーションの要求の詳細へのリンクが含まれています。
   - アサイン先グループで指定された [グループ] 内のすべてのユーザーにメール通知が送信されます。このメッセージは、要求が受信され、[新規]状況であることを示しています。このメッセージには、要求の詳細ページへのリンクも含まれています。

   注:
   新しいデューデリジェンス要求の場合、[アサイン先グループ] は [デューデリジェンス要求アサイン者] に設定されます。TPR マネージャーまたはオーナーは、デューデリジェンス要求の [詳細] タブで、どのグループをアサイン先グループにするかを指定できます。詳細については、「デューデリジェンス要求プロセス管理」と「責任に基づいてユーザーをグループに追加する」を参照してください。

関連情報

エンゲージメントのオフボーディング (デューデリジェンスなし)

エンゲージメントのオフボーディング (デューデリジェンスなし)

エンゲージメントが終了した場合、または他の理由で別のサードパーティに切り替えたい場合は、エンゲージメントを完全に終了するように要求します。この場合、通常は追加のデューデリジェンスを実施する必要はありません。ただし、このプロセスには、エンゲージメントによって提供されるサービスが継続されないことを確認するための通常の固有のリスクに関するアンケート (IRQ) プロセスが含まれます。

IRQ 査定人として割り当てられたユーザーは、エンゲージメントが不要になった理由を明記するアンケートに回答する責任があります。IRQ が完了すると、承認プロセスによってエンゲージメントが正式にオフボードされ、[非アクティブ] ステータスに設定されます。

エンゲージメントが非アクティブとして設定されている場合、今後自動スケジュールされたデューデリジェンスや情報要求はエンゲージメントの連絡先に送信されなくなります。

サードパーティリスクのアセスメント

サードパーティとの関係に関連する潜在的なリスクを特定し、アセスメントのために サードパーティリスク管理 を使用します。内部アンケート、外部アンケート、および文書の要求から収集された情報は、サードパーティのリスクプロファイルを理解し、適切なリスク軽減戦略を決定し、サードパーティまたはエンゲージメントが必要なすべてのコンプライアンス要件を満たしているかどうかを判断するのに役立ちます。

アンケートへの回答

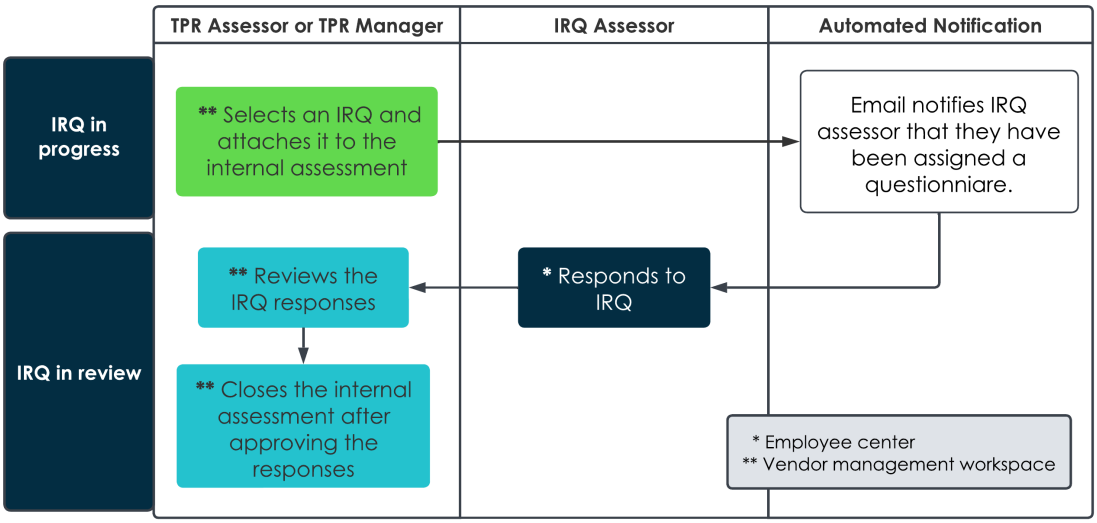
次のプロセスは、内部および外部のアンケートに回答するタイミングと方法の概要を示しています。

固有のリスクに関するアンケート (IRQ) プロセス

次のインフォグラフィックは、IRQ プロセスを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



IRQ プロセスの手順は次のとおりです。

1. デューデリジェンス要求のオーナーとしてアサインされたサードパーティリスク (TPR) マネージャー [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager] または TPR 査定人 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor] によってデューデリジェンス要求が承認された後、IRQ を選択して内部アセスメントに添付します。
2. IRQ 査定人としてアサインされた従業員にメール通知が送信されます [snc_internal]。
3. IRQ 査定人は、IRQ に回答して内部アセスメントを完了します。
4. IRQ 査定人が回答を送信し、TPR マネージャーまたはオーナーが IRQ のレビューを行ってクローズした後、デューデリジェンス要求のステータスは [IRQ 対応中 (IRQ in progress)] から [IRQ レビュー中 (IRQ in review)] に更新されます。

> **注:**
> 内部アセスメントの一部として送信した後は、アンケートテンプレートを変更しないでください。代わりに、コピーを作成してテンプレートを複製し、新しいコピーで変更を加えます。送信後にアンケートを更新すると、IRQ 査定人に表示されるバージョンに変更が反映されません。更新されたバージョンを送信するには、既存のアンケートを内部アセスメントから切り離してキャンセルし、更新されたテンプレートを使用してアンケートを追加する必要があります。詳細については、「アンケートや文書要求テンプレートを作成する」と「デザイナーを使用してアンケートや文書要求テンプレートを作成する」を参照してください。

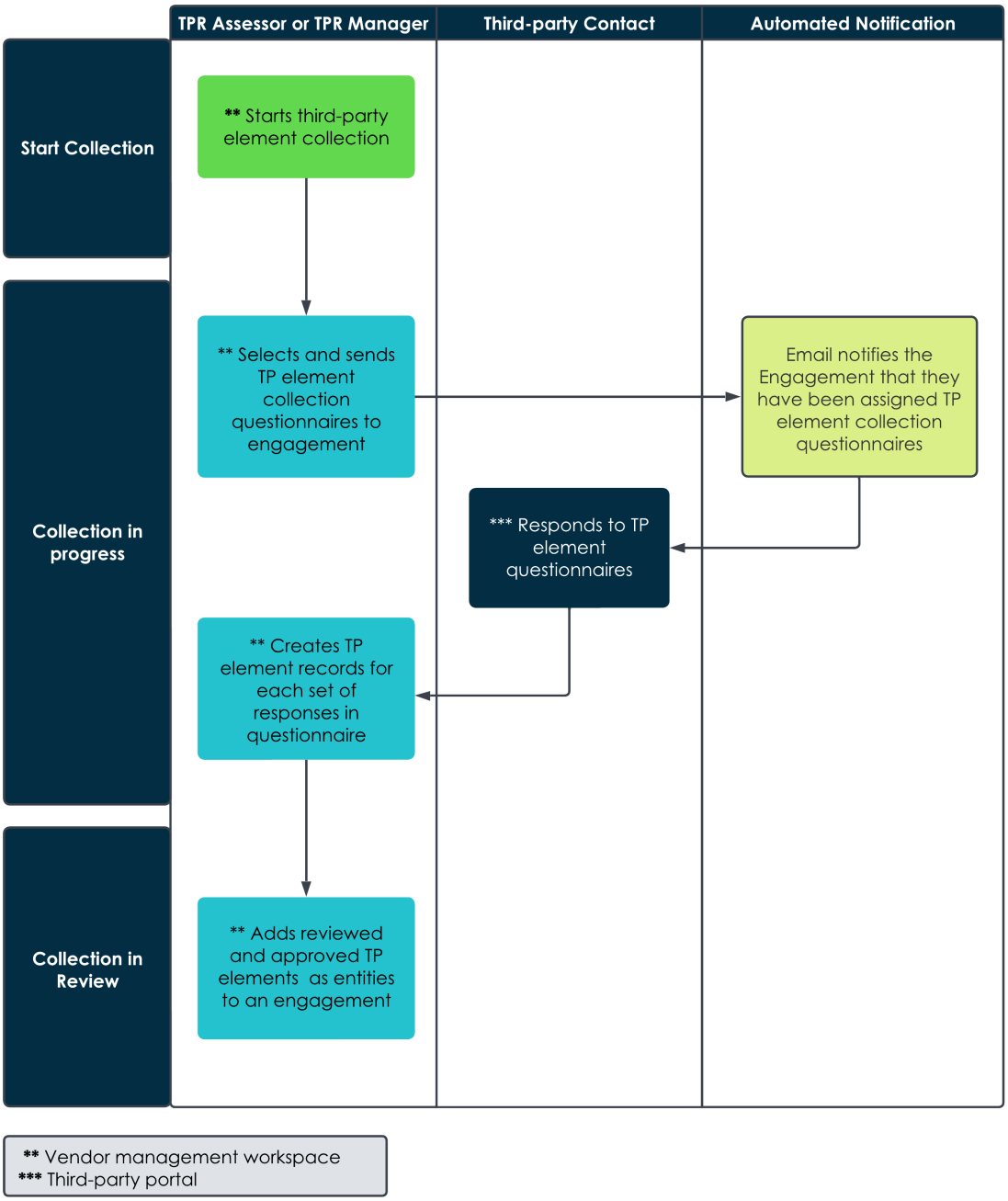
収集された情報に基づいて、TPR マネージャーとそのチームは、エンゲージメントに関連付けられている潜在的なリスクを評価します。財務の安定性、運用キャパシティ、品質基準への準拠、規制へのコンプライアンス、サードパーティのデリバリタイムラインを満たす能力などの要素を評価します。このアセスメントは、チームがサードパーティのリスクプロファイルを理解し、適切なリスク軽減戦略を決定するのに役立ちます。

IRQ または内部評価の詳細については、「 内部アセスメントを作成 と 内部アセスメントに回答する」を参照してください。

サードパーティ (TP) 要素収集プロセス:TP 要素情報の収集

次のインフォグラフィックは、TP 要素収集プロセスを示しています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



TP 要素収集プロセスのステップは次のとおりです。

1. デューデリジェンス要求の IRQ プロセスが完了した後、TP 要素が必要な場合、TPR マネージャーまたはデューデリジェンス要求の所有者は [収集の開始] を選択し、収集タスクが作成されます。
2. TPR マネージャーまたは所有者は、要素を収集するための外部アセスメントに TP 要素アンケートをアサインして、そのアセスメントをエンゲージメントに送信し、TP 要素に必要な情報を収集します。
3. TP 要素アンケートがアサインされたサードパーティエンゲージメント連絡先にメール通知が送信されます。
4. サードパーティエンゲージメント連絡先が回答を送信した後、TPR マネージャーまたは所有者は、アンケートで必要なすべての情報が提供されたことをレビューして確認します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. TPR マネージャーまたは所有者は、次にサードパーティ要素のリストに移動し、各アンケートの回答セットごとにサードパーティ要素レコードを手動で作成します。

   詳細については、「サードパーティ要素レコードの作成」を参照してください。

6. すべての TP 要素を作成した後、TPR マネージャーまたは所有者は、収集タスクのアセスメントをクローズします。要求のステータスが [収集中] から [収集中] に変更されます。
7. 内部ステークホルダー (TPR 査定人、TPR 承認者、TPR マネージャー、または TPR アドミニストレーター) が要素レコードをレビューして承認します。

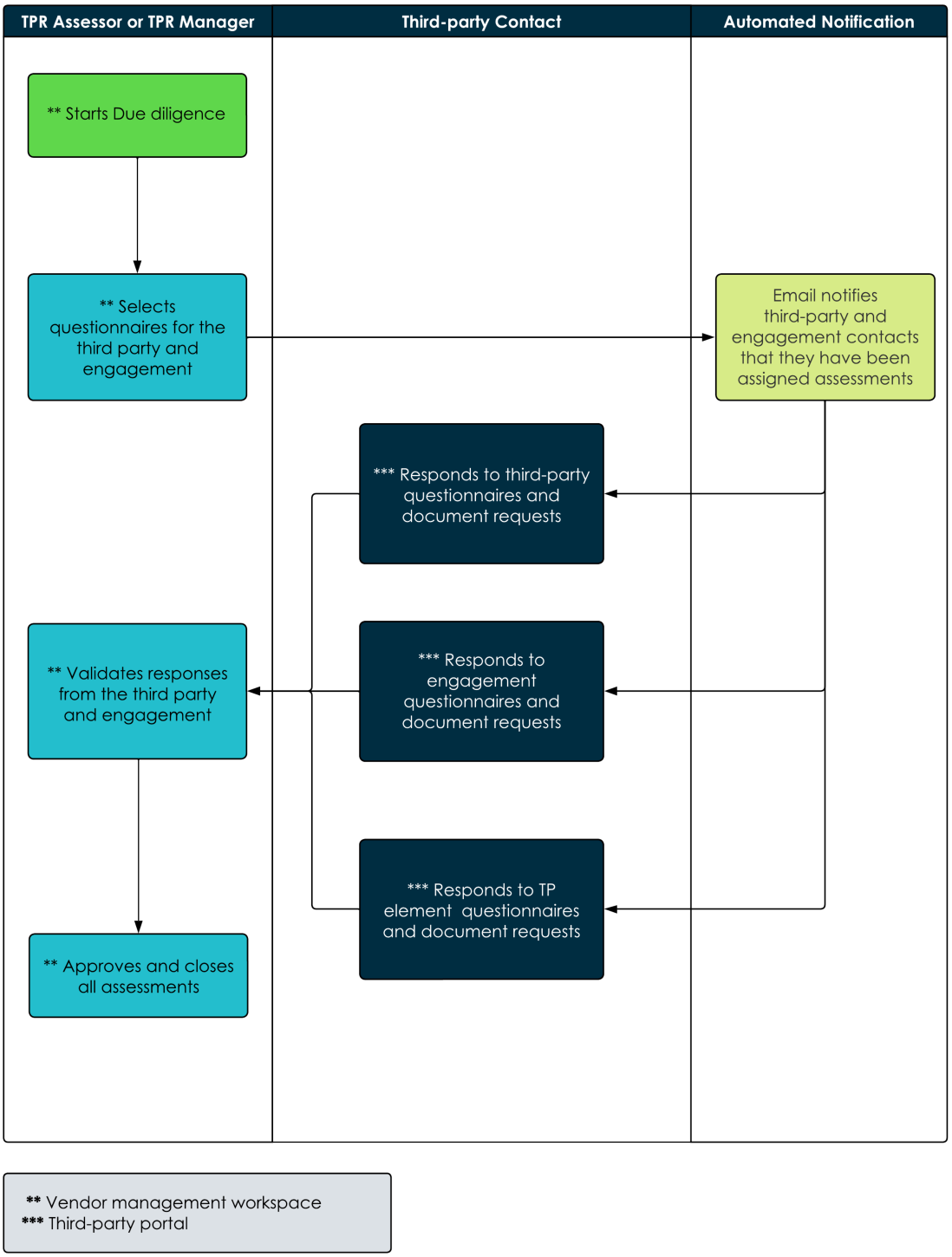
これは、TP 要素を収集してエンゲージメントにアサインし、全体的なデューデリジェンスワークフローの一部として評価できるようにするためのオプションのプロセスです。TP 要素の詳細については、「サードパーティ要素の監視」を参照してください。

デューデリジェンスプロセス：コンプライアンス検証

次のインフォグラフィックは、デューデリジェンスプロセスを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



デューデリジェンスプロセスのステップは次のとおりです。

1. IRQ プロセスまたは TP 要素収集プロセスが完了した後、TPR マネージャーまたは所有者は、サードパーティまたはエンゲージメントに送信するために外部アセスメントに添付する文書のアンケートと要求を選択します。アセスメントの作成の詳細については、「外部アセスメントを作成 と サードパーティのリスクアセスメントフォーム」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> オプションの TP 要素収集プロセスが完了したら、作成した各サードパーティ要素のアセスメントの一部としてアンケートを選択し、アサインする必要があります。エンゲージメント連絡先が TP 要素のアンケートに回答します。

2. 各アセスメントがアサインされたサードパーティ連絡先とエンゲージメント連絡先にメール通知が送信されます。

> **注:**
> 外部アセスメントの一部として送信した後は、アンケートテンプレートを変更しないでください。代わりに、コピーを作成してテンプレートを複製し、新しいコピーで変更を加えます。送信後にアンケートを更新すると、サードパーティポータルに表示されるバージョンに変更が反映されません。更新されたバージョンを送信するには、既存のアンケートを外部アセスメントから関連付け解除してキャンセルし、更新されたテンプレートを使用してアンケートを追加する必要があります。詳細については、「アンケートや文書要求テンプレートを作成する」と「デザイナーを使用してアンケートや文書要求テンプレートを作成する」を参照してください。

3. サードパーティ連絡先とエンゲージメント連絡先が回答を送信した後、TPR マネージャーまたは所有者は、アセスメントで必要なすべての情報が提供されたことをレビューして確認します。修正または追加情報が必要な場合は、問題とタスクが作成されます。
4. TPR マネージャーまたは所有者が各アセスメントを承認してクローズします。

TPR マネージャーは、このタイプのサードパーティに送信するアンケートと文書要求を決定するプロセスを簡素化および自動化するための アセスメントテンプレートを開発することができます。TPR アドミニストレーターはアンケートテンプレートまたはドキュメント要求テンプレートを定義し、TPR マネージャーはそれらをアセスメントテンプレートにグループ化することができます。組織は、テンプレートを再利用して、今後のアセスメントで類似するサードパーティにアンケートと文書要求を送信できます。テンプレートの詳細については、「 外部アセスメントテンプレートの作成」、「 アンケートや文書要求テンプレートを作成する」、および「 デザイナーを使用してアンケートや文書要求テンプレートを作成する」を参照してください。

TPR マネージャーとそのチームは、サードパーティの応答と内部分析を使用して、サードパーティが必要なすべてのコンプライアンス要件を満たしているかどうかを判断します。これらの要件には、環境規制、労働法、腐敗防止ポリシーなど、適用される法律および規制に対するサードパーティのコンプライアンスの検証などが含まれることがあります。

> **注:**
> サードパーティリスク査定人、マネージャー、または管理者は、サードパーティまたはエンゲージメントの代わりに質問に回答し、応答を変更し、外部アンケートを送信できます。詳細については、「サードパーティまたはエンゲージメントのためにアンケートに回答する」を参照してください。

関連するアイテムの機密性が高いため、TPR マネージャーとそのチームは、サードパーティのデータセキュリティとプライバシーの慣行を評価します。サードパーティの情報セキュリティ対策、データ保護ポリシー、アクセス制御、および脆弱性管理プロセスを評価します。サードパーティが専有情報または顧客データにアクセスできる場合、サードパーティに対してサイバーセキュリティ監査を受けるか、データ保護対策の証拠を提供するように要求する場合があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

応答のレビューの詳細については、「外部アンケートの応答を確認する」を参照してください。

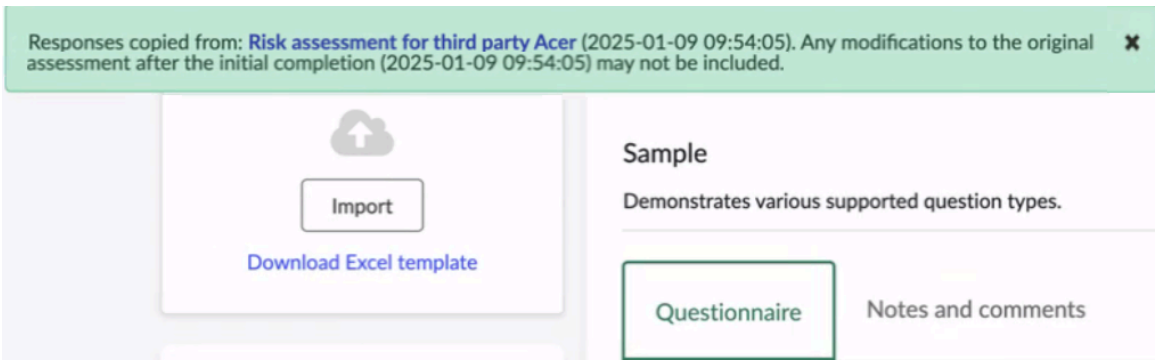
注:
TPR 査定人は、受信または返送されたアンケートを Microsoft Excel スプレッドシートにエクスポートできます。このオプションを使用すると、組織はスプレッドシート環境を使用して質問と回答を確認できます。アンケート回答のエクスポートの詳細については、「アンケート回答をスプレッドシートにエクスポートする」を参照してください 。

アンケートに応答を事前入力

TPR マネージャーまたは TPR 査定人は、サードパーティ、エンゲージメント、およびエンティティのアンケートに、同じサードパーティに関連付けられた完了したアンケートからの回答を事前に入力できます。アセスメントの送信後、アンケートには、元の関連付けられたアセスメントが完了したかどうかに関係なく、そのアンケートの最新の完了したバージョンからのすべての回答が事前に入力されます。これは、回答の一貫性を保つことが期待されるアンケートで、プロセスが迅速化され、サードパーティの連絡先が必要な場合にのみ回答を確認および更新できるようにするのに役立ちます。アセスメントの作成の詳細については、「 外部アセスメントを作成」を参照してください。

重要:
TPR マネージャーまたは TPR 査定人がアセスメントにアンケートを追加すると、アンケートページで [以前の回答を含める] オプションを選択または選択解除することができます。アンケートがサードパーティに送信された後は、このオプションを変更できません。詳細については、「アンケートや文書要求テンプレートを作成する」と「アセスメントメトリクスタイプフォーム」を参照してください。

サードパーティまたはエンゲージメントの連絡先が、事前に入力されたアンケートをサードパーティポータルで開くと、回答が以前のアンケートからコピーされたという通知を受け取ります。次の例に示すように、通知には、応答を提供したアセスメントへのリンクとその最終更新日が含まれています。



制限事項：

- 添付ファイル、期間、署名の質問タイプなど、一部の質問タイプとその回答を事前に入力することはできません。これらの質問の回答は空白のままになり、以前の回答は含まれません。
- 回答は、元のアセスメント (アセスメント A) から新しいアセスメント (アセスメント B) に 1 回コピーされます。このコピーは、アセスメント B がサードパーティまたはエンゲージメントに送信されたときに発生します。後でアセスメント A に加えた変更は、アセスメント B には反映されません。両方の評価は別々のままです。

問題とタスク

タスクと問題の両方を作成および管理するには、TPR 査定人 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor] ロールが必要です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

TPR マネージャー、TPR 査定人、または契約交渉者は、チームメンバーまたはサードパーティ連絡先がアンケートの回答または要求された文書に関する懸念に確実に対応できるようにするためのタスクを作成できます。既存のタスクを管理して、アサインされたチームメンバーまたはサードパーティの連絡先がタスクに応答し、必要に応じてタスクを更新することを確認できます。問題の作成と管理の詳細については、「サードパーティまたはエンゲージメントにタスクを作成」および「サードパーティまたはエンゲージメントのタスク管理」を参照してください。

TPR マネージャー、TPR 査定人、または契約交渉者は、サードパーティまたはエンゲージメントに関するチームの懸念が確実に解決されるよう、問題を作成できます。また、既存の問題を管理して、問題を理解し、適切な担当者と共有し、必要に応じて対処しているかを検証することもできます。タスクの作成と管理の詳細については、「サードパーティまたはエンゲージメントに問題を作成」と「問題を管理します。」を参照してください。

他のアセスメントアクション

TPR マネージャー、デューデリジェンス要求の所有者、または契約交渉者は、エンゲージメントに影響を与える新しい情報が入手できたり、何らかの変更が生じたりしたため、アセスメントを再オープンしなければならない場合があります。詳細については、「デューデリジェンスを実施する理由」を参照してください。

TPR マネージャー、デューデリジェンス要求の所有者、または契約交渉者がエンゲージメントからさらに多くの情報を収集する必要がある場合は、アセスメントを再オープンして次のアクションを実行することで、追加のアンケートまたは文書要求を送信できます。

1. 該当する **[DDR]** 番号を選択して、[デューデリジェンス要求] レコードページに移動します。
2. [外部アセスメント] タブで **VRA** 番号を選択して、関連するサードパーティリスクアセスメントを表示します。
3. [再オープン **(Re-open)]** を選択します。

デューデリジェンス要求のステータスが [TPRM 承認準備完了 (Ready for TPRM approval)] から [デューデリジェンス] に更新されます。TPR マネージャー、所有者、または契約交渉者は、必要に応じてアンケートや文書要求を求めることができます。詳細については、「アセスメントの再オープン」を参照してください。

TPR マネージャー、デューデリジェンス要求の所有者、または契約交渉者が、進行中のエンゲージメントのアセスメントを必要としない場合、またはエンゲージメントのオンボーディングや更新のために迅速にクローズする必要がある場合、次のアクションを実行してアセスメントをキャンセルできます。

1. 該当する **[DDR]** 番号を選択して、[デューデリジェンス要求] レコードページに移動します。
2. [外部アセスメント] タブで **VRA** 番号を選択して、関連するサードパーティリスクアセスメントを表示します。
3. [キャンセル] を選択します。

1 つまたはすべてのアセスメントがキャンセルされた場合でも、デューデリジェンス要求は承認プロセスに進みます。

内部アセスメントを作成

サードパーティリスク管理を使用して、デューデリジェンス要求または継続的なリスクモニタリングの一部として内部アセスメントを作成します。内部アセスメントは、後でサードパーティまたはエンゲージメントに送信されるアンケートに影響を与える可能性があります。

始める前に

サードパーティリスク (TPR) 査定人は、ステップ 5 を完了するために、TPR マネージャーロールを持つチームメンバーに連絡する必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager または
sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor

このタスクについて
オンデマンドの内部アセスメントを作成する場合、TPR マネージャーまたは TPR 査定人はアセスメントを作成し、アンケートを追加できます。TPR マネージャーはアセスメントを送信し、アサインされた回答者がアセスメントを完了します。一度に複数の回答者を選択して、アセスメントを自動的にトリガーすることができます。

重要:
スマートアセスメントは ベンダー管理ワークスペースで表示する必要があります。

手順

1. 次のいずれかに移動します。
   - すべて > サードパーティリスク管理 > 内部リスクアセスメント > すべてのアセスメント.
   - ワークスペース > ベンダー管理ワークスペースをクリックし、リストアイコン (を選択して、 内部リスクアセスメント > すべてのアセスメント.
2. 新規 を選択して内部アセスメントを作成し、フォームに入力します。
   各フィールドの説明については、「[新規内部アセスメントを作成 (Create new internal assessment)] フォーム」を参照してください。
3. **[Submit** (送信)] を選択します。
4. 次のいずれかを実行して、既存のアンケートをアセスメントに関連付けます。
   TPR アドミニストレーターはアンケートを作成し、アセスメントに関連付けることができます。詳細については、「アンケートや文書要求テンプレートを作成する」と「TPRM SAEアンケートまたは文書要求テンプレートの作成」を参照してください。
5. **[Submit** (送信)] を選択します。
   このステップは、TPR マネージャーが完了できます。
   - アセスメントのステータスが [応答待ち] に変わります。
   - 回答者は、アセスメントへのリンクを含むメール通知を受け取ります。

次のタスク
内部アセスメントにアサインされたオーナーは、回答者と協力してアセスメントをクローズします。内部アセスメントに回答する方法については、「 内部アセスメントに回答する」を参照してください。

関連情報

サードパーティリスクのアセスメント

内部アセスメントに回答する

IRQ プロセス管理

内部アセスメントに回答する

キューにアサインされた固有のリスクに関するアンケート (IRQ) または内部アセスメントに回答します。アンケートへの応答は、プロセスが進行するかどうかを決定するのに役立ち、サードパーティまたはエンゲージメントに送信されるアンケートに影響を与える可能性があります。

始める前に
必要なロール：snc_internal

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
組織内の誰かがデューデリジェンス要求を作成すると、デューデリジェンスプロセス全体のオーナーがその最初の IRQ に誰が回答するかを指定します。内部アセスメントはオンデマンドで作成することもでき、オーナーはアンケートを IRQ 査定人または回答者にアサインします。IRQ 査定人または回答者は、アサインされたアンケートへのリンク、関連するアセスメントの名前、および期限が記載されたメールを受信します。この情報は、「従業員センター」のアンケートの一部としても提供されます。詳細については、「サードパーティリスクのアセスメント」、「内部アセスメントを作成」、「サードパーティリスクデューデリジェンスを要求する」、および「デューデリジェンスワークフロー」を参照してください。

注:
要求が作成されると、システムは最初のデューデリジェンス要求者とデューデリジェンス要求アサイン先グループのすべてのユーザーにアラートを送信します。グループのメンバーは、サードパーティリスク (TPR) マネージャーまたは TPR 査定人を要求のオーナーとしてアサインできます。

手順

1. 移動先 すべて > セルフサービス > 従業員センター をクリックして 従業員センターを開きます。
2. 内部アセスメントに応答するには、次のいずれかを実行します。
3. アンケートで関連するすべての質問に回答し、[送信] を選択します。

関連情報

- サードパーティリスクのアセスメント
- 内部アセスメントを作成
- デューデリジェンスを実施する理由

外部アセスメントを作成

アセスメントを作成し、 サードパーティリスク管理を使用してサードパーティリスクアセスメントライフサイクルを開始します。外部アセスメントでは、サードパーティまたはエンゲージメントの詳細を指定し、アセスメントを完了するための計画を定義します。

始める前に
必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager または
sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor

このタスクについて
アセスメントは、オンデマンドで作成することも、指定されたスケジュールで繰り返すこともできます。オンデマンド外部アセスメントを作成する場合、サードパーティリスク (TPR) マネージャーまたは TPR 査定人は、アンケートテンプレートまたは文書要求テンプレート、およびサードパーティを選択します。一度に複数のサードパーティを選択して、アセスメントを自動的にトリガーすることができます。

手順

1. 次のいずれかに移動します。
   - すべて > サードパーティリスク管理 > 外部リスクアセスメント > すべてのアセスメント.
   - ワークスペース > ベンダー管理ワークスペースをクリックし、リストアイコン (を選択して、 外部リスクアセスメント > すべてのアセスメント.

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **重要:**
> スマートアセスメントは ベンダー管理ワークスペースで表示する必要があります。

2. 新規 を選択して外部アセスメントを作成し、フォームに入力します。
   各フィールドの説明については、「サードパーティのリスクアセスメントフォーム」を参照してください。
3. **[Submit** (送信)] を選択します。

   追加の関連リストが表示されます。[アセスメントテンプレート] フィールドを空のままにし、アセスメントテンプレートを使用して複数のアンケートまたは文書要求をこのアセスメントに関連付ける場合は、[アンケート] または [文書の要求] 関連リストを使用します。
4. 次の手順を実行して、既存のアンケートまたは文書要求をアセスメントに関連付けます。
   a. [アンケート] または [文書要求] 関連リストを開きます。
   b. [編集] を選択し、使用するアンケートまたは文書の要求を選択して、[保存] を選択します。
   c. 必要に応じて、他のタイプの質問について繰り返します。
   TPR アドミニストレーターは、アンケートまたは文書要求テンプレートを作成し、それらをアセスメントに関連付けることができます。詳細については、「アンケートや文書要求テンプレートを作成する」を参照してください。
5. **[Submit to third party** (サードパーティに送信)] を選択します。

> **重要:**
> TPR マネージャーまたは TPR 査定人がアセスメントにアンケートを追加すると、アンケートページで [以前の回答を含める] オプションを選択または選択解除することができます。アンケートがサードパーティに送信された後は、このオプションを変更できません。詳細については、「アンケートや文書要求テンプレートを作成する」と「アセスメントメトリクスタイプフォーム」を参照してください。

   - アセスメントのステータスが [サードパーティに送信済み] に変わります。
   - 選択したテンプレートによって、アンケートまたは文書要求が生成されます。
   - アンケートの [以前の応答を含む (Include previous responses)] オプションが選択されている場合、以前の回答がコピーされ、送信アンケートに追加されます。サードパーティポータルの通知には、応答を提供した前回のアセスメントの番号、名前、および最終更新日が含まれます。通知には、アセスメントへのリンクも含まれています。
   - サードパーティの主要連絡先に、サードパーティポータル内のアセスへのリンクを含むメール通知が届きます。

> **注:**
> [以前の回答を含める] オプションを使用すると、回答が元のアセスメント (アセスメント A) から新しいアセスメント (アセスメント B) に 1 回コピーされます。後でアセスメント A に加えた変更は、アセスメント B には反映されません。両方の評価は別々のままです。

6. サードパーティの連絡先担当者は、アセスメントに回答する準備ができた時点で、サードパーティポータルでアセスメントを開きます。

> **注:**
> 署名を要求するようにアンケートが設定されている場合、サードパーティまたはレビュー担当者は、アンケートまたは文書要求を送信する前に保存して電子署名する必要があります。署名機能は、 SAE アンケートではサポートされていません。詳細については、「アンケートまたは文書要求の電子署名」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. TPR 査定人は、アセスメントのステータスを [所見を生成中] に移行します。

   この間に、TPR 査定人は [リスクの概要] タブに移動し、[アンケートと文書要求] セクションで 名前 または アンケートインスタンス を選択して応答を表示できます。クラシックエンジンでは、必要に応じてコメントを提供したり、応答を変更したりできます。

   問題が発生した場合は、TPR 査定人が問題を作成して修正プロセスを追跡します (サードパーティとの最終処理)。

8. TPR 査定人は、アセスメントを [クローズ済み] ステータスに移行します。

次のタスク
TPR 査定人は、サードパーティポータルを通じてサードパーティと連携してアセスメントをクローズします。

関連情報

サードパーティリスクのアセスメント

外部アンケートの応答を確認する

サードパーティまたはエンゲージメントのためにアンケートに回答する

サードパーティリスク管理 を使用して、サードパーティまたはエンゲージメントのために質問に回答したり、回答を変更したり、外部アンケートを送信したりします。以前のアンケートでサードパーティまたはエンゲージメントが必要な情報を既に提供している場合に、サードパーティまたはエンゲージメントに代わって回答することで、貴重な時間を節約できます。

始める前に
査定人がサードパーティの連絡先のアンケートに回答/編集できるようにするプロパティ (*sn_svdp.allow_assessor_edit*) が有効である必要があります。プロパティの構成方法の詳細については「TPRM プロパティの設定」を参照してください。

必要なロール：
sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor、sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager、sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_

手順

1. 移動先 すべて > セルフサービス > サードパーティリスク管理 > 外部リスクアセスメント > オープンステータス.
2. [ドラフト] または [サードパーティに送信済み] ステータスのアセスメントの外部アセスメント (VRA) 番号を選択します。
3. [リスク概要] タブの [アンケートと文書要求] セクションで、 名前 または アンケートインスタンス を選択して必要なアンケートを開き、質問を入力します。

   注:
   アンケートテンプレートを使用してアンケートに回答するには、「 外部アンケートに Microsoft Excel スプレッドシートテンプレートを使用する と Microsoft Excelテンプレートを使用して応答」を参照してください。

4. **[Submit** (送信)] を選択します。

外部アンケートの応答を確認する

サードパーティの連絡先は、サードパーティポータルを使用してアセスメントを完了し、各質問のコメントセクションで TPR マネージャーと共同作業を行います。アセスメントでギャップが明らかに

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

なった場合、TPR マネージャーまたは TPR 査定人は問題またはタスクを作成できます。さらに、ベンダー管理ワークスペース アプリケーションは問題を自動生成できます。

始める前に
必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor

このタスクについて
TPR マネージャーまたは TPR 査定人は、アセスメントの応答が不十分であると判断した場合、アセスメントの質問または文書要求の一部を差し戻すことができます。質問に対する回答が不適切な場合に自動的に問題を生成することや、質問から手動で問題を生成することができます。コメントは、サードパーティの連絡先に対する問題を特定します。

TPR 査定人が応答を変更できるようにするには、**[TPR** 査定人がサードパーティアンケートの応答を変更することを許可] [sn_svdp.allow_assessor_edit] システムプロパティを設定します。次のオプションを設定できます。

- TPR 査定人が質問に応答したり、応答を変更したりできるようにする (デフォルト)
- TPR 査定人が応答を変更できるようにする
- TPR 査定人が質問に応答したり、応答を変更したりできないようにする

TPRM プロパティの設定 を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > セルフサービス > サードパーティリスク管理 > 外部リスクアセスメント > オープンステータス.
2. [応答を受信済み **(Responses received)**] ステータスになっているアセスメントの外部アセスメント (VRA) 番号を選択します。
3. [リスク概要] タブの [アンケートと文書要求] セクションで [テンプレート] 関連リストを選択し、[名前] または [アンケートインスタンス] を選択して、必要なアンケートを開きます。
4. クラシックアセスメントエンジンを使用している場合は、次のフィールドに入力できます。

サードパーティの応答

フィールド	説明
レビュー担当者のコメント	応答のステータスに関する内部情報を提供するテキスト。
フォローアップのみを表示	チェックボックスをオンにすると、フォローアップが必要としてフラグが付けられた質問のみが表示されます (更新のためにアセスメントがサードパーティに返されたときに [フォローアップ] チェックボックスはオンになっています)。
不適切または採点されていない回答のみを表示	誤った回答または回答のない質問のみを表示するには、これを選択します。
未回答の質問のみを表示	回答のない質問のみを表示するには、このチェックボックスを選択します。
コメントを非表示	すべてのコメントテキストボックスを非表示にするチェックボックスをオンにします。
問題の作成時にこの質問を含める	この質問を扱う問題を作成することを示すには、チェックボックスをオンにします。[内部コメント] を追加できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: 質問の問題を既に作成している場合、質問に対して追加の問題を作成できないように、このフィールドは非アクティブになります。
フォローアップ	外部コメントをサードパーティに表示するには、これを選択します。
サードパーティへのコメント	[外部コメント] をサードパーティに追加するチェックボックスを選択します。

5. アセスメントを確認してコメントを追加した後、次のいずれかの手順を実行します。

アセスメントの再オープン

アセスメントを再オープンして、サードパーティまたはエンゲージメントから必要な追加情報を収集するために、さらにアンケートや文書要求を送信します。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor または sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager

このタスクについて

TPR マネージャー、TPR 査定人、またはデューデリジェンス要求のオーナーは、内部ステークホルダー要求があった場合または新しい情報がエンゲージメントに影響を与える場合、アセスメントを再オープンできます。デューデリジェンス要求がデューデリジェンス、承認、契約のいずれかのプロセスを経た後、アセスメントを再オープンできます。アセスメントを再オープンするには、デューデリジェンス要求が [クローズ済み (Closed)] ステータスになっている必要があります。アセスメントを再オープンした後、[アンケートテンプレート] タブと [ドキュメントテンプレート] タブから送信する追加のアンケートと文書要求を選択できます。

手順

1. ベンダー管理ワークスペースで、リストアイコン (を選択し、 デューデリジェンス要求 > すべての要求.
2. 関連する **[DDR]** 番号を選択します。
3. [外部アセスメント] タブで **VRA** 番号を選択して、関連するサードパーティリスクアセスメントを表示します。
4. [再オープン **(Re-open)]** を選択します。

サードパーティまたはエンゲージメントに問題を作成

問題を作成して、サードパーティまたはエンゲージメントに関する懸念が確実に修正されるようにします。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor

このタスクについて

反復プロセスでは、TPR マネージャーがアセスメントをクローズする前に、TPR マネージャーが非準拠の問題とタスクを生成できます。TPR マネージャーは、コメントを使用して TP 連絡先およびエンゲージメント連絡先とコミュニケーションを取り、問題とタスクをクローズします。TPR マネージャーは、必要に応じてさまざまな連絡先をアサインすることもできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. TPRM ホームページの [クイックアクション] ボックス ( ) で、[問題を作成] をクリックします。
2. オプション: フォームの複数のフィールドに入力するテンプレートを選択します。
   テンプレートリストをフィルタリングし、カスタムの [自分のテンプレート] リストにテンプレートを追加できます。
3. フォームに入力し、[保存] を選択します。

サードパーティリスクの問題フォーム

フィールド	説明
名前	テンプレートの役に立つタグ。フィールドはテンプレートによって入力される場合があります。
説明	他のユーザーが問題を理解するのに役立つテキスト。
番号	問題ごとに、テキスト「VRI」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。 一意の ID は、アイテムへのすべての参照で使用されます。この ID を使用して、作業するアイテムを検索またはフィルタリングできます。
適用先	○ [サードパーティ]：問題は親サードパーティの組織に適用されます。 ○ [エンゲージメント]：問題はエンゲージメントに適用されます。 ○ [エンティティ]：問題はサードパーティ要素エンティティに適用されます。
サードパーティ	問題が関連付けられているサードパーティ。
アセスメント	問題が関連付けられているアセスメント。
ステータス	問題に関連付けられているアクションを実行すると、問題のステータスが更新されます。[リスクの概要] タブの上部にあるワークフローチェーンは、問題の現在のステータスを示します。「問題を管理します。」を参照してください。
優先度	優先度を指定します。値は、問題を含むすべてのレポートに表示されます。
アサイン先グループ	要求の作業が可能な、認定済みの個人のグループ。
アサイン先	問題の管理とレビューを担当するユーザー。
サードパーティの連絡先	問題が関連付けられているサードパーティの連絡先。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ウォッチリスト	他のユーザーを追加して、問題のステータスとその他の値の更新が表示されるようにします。
サードパーティポータルに表示	サードパーティポータルでサードパーティ連絡先に問題を表示するオプション。
推奨セクション	
推奨事項	○ 修復するサードパーティ：TP 連絡先が問題を修復してクローズできるようにすることを想定しています。 ○ 問題を承認：問題に関連するリスクが許容可能であり、それ以上のアクションは必要ないと判断します。 ○ 追加情報の要求：TP 連絡先に追加情報を要求します。 フィールドはテンプレートによって入力される場合があります。
説明	フィールドはテンプレートによって入力される場合があります。

[サードパーティポータルに表示] が選択されている場合、サードパーティの連絡先に問題のアラートが送信されます。

タスクの結果

最も優先度の高い問題は、ホームページの [優先度別の問題] セクションに一覧表示されます。[アサイン先] ユーザーは、[問題管理] ページのタブで問題を管理できます。「問題を管理します。」を参照してください。

関連情報

TPRM ホームページへ。

問題生成ルールを作成する

問題を管理します。

問題を管理します。

リスクアセスメントに関連する問題が理解され、適切な担当者に伝達され、必要に応じて対処されるよう検証します。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor

手順

1. プロセスを開始するには、次のいずれかの方法を使用します。

- TPRM ホームページ ( ) で、最も優先度の高い問題は、[優先度別の問題] セクションに一覧表示されます。問題名を選択すると、問題ページの [リスクの概要] タブが表示されます。
- [リスト] ページ ( ) で、[問題] セクションのいずれかのリストから問題名を選択して、問題ページの [リスクの概要] タブを表示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> 問題ごとに、テキスト「VRI」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。 一意の ID は、アイテムへのすべての参照で使用されます。この ID を使用して、作業するアイテムを検索またはフィルタリングできます。

2. オプション: アクションを選択します。
   - [ディスカッション] を選択して、他のユーザーにメッセージを送信します。メッセージは、[詳細] タブの [アクティビティ] セクションに記録されます。
   - [タスクを作成] を選択してタスクを作成します。「サードパーティまたはエンゲージメントにタスクを作成」を参照してください。
   - [保存] を選択して、任意のタブで値に加えた変更を保存します。
   - [削除] を選択して、問題のレコードを削除します。[14] [bundle-grc-governance-risk-compliance.ditamap]
3. 適切なタブを開きます。

   各タブの [サードパーティの概要] セクションには、サードパーティの一般的な詳細が表示されます。

   問題の [リスク概要] タブ

   - 上部にあるワークフローチェーンは、問題の現在のステータスを示します。問題に関連付けられているアクションを実行すると、ステータスが更新されます。
   - [タスク] セクション：関連するタスクをリストし、タスクの数とステータスを表示します。 問題ごとに、テキスト「VRI」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。 一意の ID は、アイテムへのすべての参照で使用されます。この ID を使用して、作業するアイテムを検索またはフィルタリングできます。
   - [終了予定日別タスク] セクション：緊急に注意が必要なタスクを特定するのに役立ちます。
   - [サードパーティの概要] セクション：サードパーティの一般的な詳細。

   問題の [詳細] タブ

   - [サードパーティリスクの問題] セクション：サードパーティに関する一般的な情報と、問題に対する推奨アクション。
   - [詳細] タブの [作成] セクションでは、レコードに永続的にテキストを追加できます。[アクティビティ] セクションは、問題とタスクに対するアクション、TP 連絡先への送信、およびユーザーがレコードに追加する作業メモとコメントで更新されます。必要に応じて、次のフィールドにテキストを追加します。
     - [作業メモ (プライベート)]：サードパーティリスクアセスメントに関する情報。作業メモは、プロセスにアサインされた内部ユーザーのみに表示されます。
     - コメント：サードパーティリスクアセスメントに関するコメントは、内部ユーザーとサードパーティの連絡先の両方に表示されます。

   問題の [タスク] タブ

   タブには、問題に関連付けられているタブの情報が表示されます。タスク番号を選択すると、タスク管理ページでタスクが開きます。[新規] をクリックしてタスクを作成します。「サードパーティまたはエンゲージメントにタスクを作成」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

問題の [質問] タブ

タブには、問題に関連付けられている質問のリストが表示されます。質問を選択すると、質問の定義と現在の応答が表示されます。

サードパーティまたはエンゲージメントにタスクを作成

組織のユーザーまたはサードパーティの連絡先が、デュー デリジェンスプロセス中にアンケートの応答や要求された文書に関する懸念事項に確実に対応できるようにするためのタスクを作成します。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor

このタスクについて

反復プロセスでは、TPR マネージャーがアセスメントをクローズする前に、TPR マネージャーが非準拠の問題とタスクを生成できます。TPR マネージャーは、コメントを使用して TP 連絡先およびエンゲージメント連絡先とコミュニケーションを取り、問題とタスクをクローズします。TPR マネージャーは、必要に応じてさまざまな連絡先をアサインすることもできます。

手順

1. TPRM ホームページの [クイックアクション] ボックス ( ) で、[タスクを作成] をクリックします。
2. フォームに入力し、[保存] を選択します。

サードパーティリスクのタスクフォーム

フィールド	説明
簡単な説明/説明	解決する必要がある問題とその解決方法に関する概要レベルの詳細情報。
番号	タスクごとに、テキスト「VRT」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。 一意の ID は、アイテムへのすべての参照で使用されます。この ID を使用して、作業するアイテムを検索またはフィルタリングできます。
適用先	○ [サードパーティ]：タスクはサードパーティの組織に適用されます。 ○ [エンゲージメント]：タスクはエンゲージメントに適用されます。 ○ [エンティティ]：タスクはサードパーティ要素エンティティに適用されます。
サードパーティ	タスクが関連付けられているサードパーティ。
アセスメント	タスクが関連付けられているアセスメント。
問題	タスクが関連付けられている問題。
ステータス	タスクの進捗状況。 ○ オープン ○ サードパーティに送信済み

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ レビュー ○ 完了してクローズ ○ 未完了でクローズ ○ キャンセルしてクローズ
優先度	優先度を指定します。値は、タスクを含むすべてのレポートに表示されます。
アサイン先	タスクの管理とクローズを担当するユーザー。
サードパーティの連絡先	タスクが関連付けられているサードパーティの連絡先。
ウォッチリスト	他のユーザーを追加して、タスクのステータスとその他の値の更新が表示されるようにします。
サードパーティポータルに表示	サードパーティポータルでサードパーティ連絡先にタスクを表示するオプション。
タスクスケジュールセクション	
計画された期間/実際の期間	タスクに必要と予想される期間と、実際の開始日と終了日から計算された実際の期間。
開始予定日/終了予定日	タスクの予定開始日と終了日。
実際の開始日/実際の終了日	最初のアクションとタスクがクローズされた日付に基づく、タスクの実際の開始日と終了日。
クローズ担当者	タスクをクローズしたユーザー (通常はオーナー - [アサイン先] ユーザー)。
作成済み/更新済み	タスクが保存された日付と最新の変更の日付。

自動翻訳

サードパーティまたはエンゲージメントのタスク管理

組織のアサイン先ユーザーまたはサードパーティ連絡先がタスクに応答し、必要に応じてタスクのステータスを更新しているか検証します。

始める前に

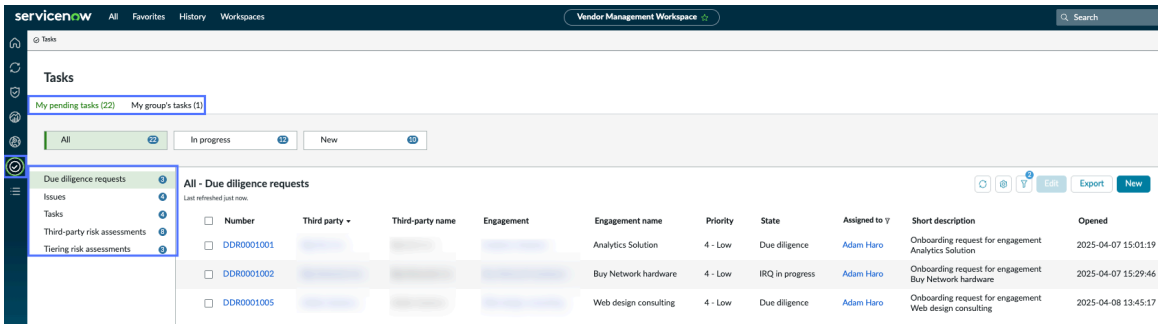
必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor

手順

1. 選択 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース をクリックし、[リスク] タブを選択してワークスペースをホームページに開き、[タスク] アイコン ()
2. [自分の保留中のタスク] または [自分のグループのタスク] タブで、[タスク] を選択し、タスク番号を選択します。

   注:
   リスト内の他のオプション ([デューデリジェンス要求]、[問題] など) を使用して、作業するタスクを選択することもできます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



サードパーティリスクのタスクフォーム

フィールド	説明
簡単な説明/説明	ユーザーに対してタスクの意図を説明し、明確にするテキスト。
番号	タスクごとに、テキスト「VRT」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。 一意の ID は、アイテムへのすべての参照で使用されます。この ID を使用して、作業するアイテムを検索またはフィルタリングできます。
適用先	○ [サードパーティ]：問題は親サードパーティの組織に適用されます。 ○ [エンゲージメント]：問題はエンゲージメントに適用されます。 ○ [エンティティ]：問題はサードパーティ要素エンティティに適用されます。
サードパーティ	タスクが関連付けられているサードパーティ。
アセスメント	タスクが関連付けられているアセスメント。
問題	タスクが関連付けられている問題。
ステータス	タスクの進捗状況。 ○ オープン ○ サードパーティに送信済み ○ レビュー ○ 完了してクローズ ○ 未完了でクローズ ○ キャンセルしてクローズ
優先度	優先度を指定します。値は、タスクを含むすべてのレポートに表示されます。
アサイン先	タスクの管理とクローズを担当するユーザー。
サードパーティの連絡先	タスクが関連付けられているサードパーティの連絡先。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ウォッチリスト	他のユーザーを追加して、タスクのステータスとその他の値の更新が表示されるようにします。
サードパーティポータルに表示	サードパーティポータルでサードパーティ連絡先にタスクを表示するオプション。
タスクスケジュールセクション	
計画された期間/実際の期間	タスクに必要と予想される期間と、実際の開始日と終了日から計算された実際の期間。
開始予定日/終了予定日	タスクの予定開始日と終了日。
実際の開始日/実際の終了日	最初のアクションとタスクがクローズされた日付に基づく、タスクの予定開始日と終了日。
クローズ担当者	タスクをクローズしたユーザー (通常は [アサイン先] ユーザー)。
作成済み/更新済み	タスクが保存された日付と最新の変更の日付。

アンケート回答をスプレッドシートにエクスポートする

受領または返却されたアンケートを Microsoft Excel スプレッドシートにエクスポートします。このオプションを使用すると、スプレッドシート環境を使用して質問と応答を確認できます。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor

このタスクについて

エクスポートできるのは、[受信済み] または [戻り] ステータスのアンケートのみです。

注:
これは、クラシックアセスメントエンジンを使用している場合に使用できます。

手順

1. 移動先 すべて > セルフサービス > サードパーティリスク管理 > 外部リスクアセスメント > オープンステータス.
2. [応答を受信済み **(Responses received)**] ステータスになっているアセスメントの外部アセスメント (VRA) 番号を選択します。
3. [リスクの概要] タブの [アンケートと文書要求] セクションで、[名前] を選択して必要なアンケートを開き、質問を入力します。

   - 単一のアンケートをエクスポートするには、次の手順を実行します。

     [応答の表示] を選択し、[応答のエクスポート] を選択します。

   - 複数のアンケートをエクスポートするには、次の手順を実行します。

     a. 必要なアンケートのチェックボックスをオンにして、[選択した行のアクション] リストから [アンケートのエクスポート] を選択します。

     b. **[Export** (エクスポート)] を選択します。

   - リストされているすべてのアンケートをエクスポートするには、次の手順を実行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [すべてエクスポート] を選択します。

b. エクスポートするアンケートがポップアップに一覧表示されます。

c. [Export (エクスポート)] を選択します。

> **注:**
> [受信済み] または [戻り] ステータスのアンケートはエクスポートできます。

アンケートごとに個別の Excel ファイルが入った圧縮ファイルが生成されます。エクスポートされるファイルでは「<アセスメント名> -<アンケート名>.xlsx」という命名規則が使用されます。

スプレッドシートの [アセスメントの詳細] タブには、アセスメントの名前とステータス、予定日と完了日、および署名者の詳細が表示されます。各 [セクション] タブには、アセスメントカテゴリの質問データが表示されます。

サードパーティリスクの監視

サードパーティリスク管理 アプリケーションを使用して、サードパーティとの関係に関連する潜在的なリスクを監視することができます。継続的な監視プロセスは、サードパーティのパフォーマンスと合意された条件の順守を定期的に評価するのに役立ちます。

継続的な監視とレビュー

ベンダー管理ワークスペース を使用して、サードパーティのパフォーマンスを監視およびレビューできます。たとえば、サードパーティが合意された条件を遵守しているかどうかを定期的に評価できます。

> **注:**
> この ベンダー管理ワークスペース は、サードパーティリスク (TPR) マネージャー [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager]、TPR 査定人 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor]、およびサードパーティアセスメントレビュー担当者 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessment_reviewer] ロールを持つユーザー向けに設計されています。

リスクレポートとその他の情報の表示

に移動すると、すべてのサードパーティとエンゲージメントのリスクレポートを表示できます ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース をクリックし、[リスク] タブを選択して、ホームページへのワークスペースを開きます。詳細については、「サードパーティリスクレポートの表示」を参照してください。

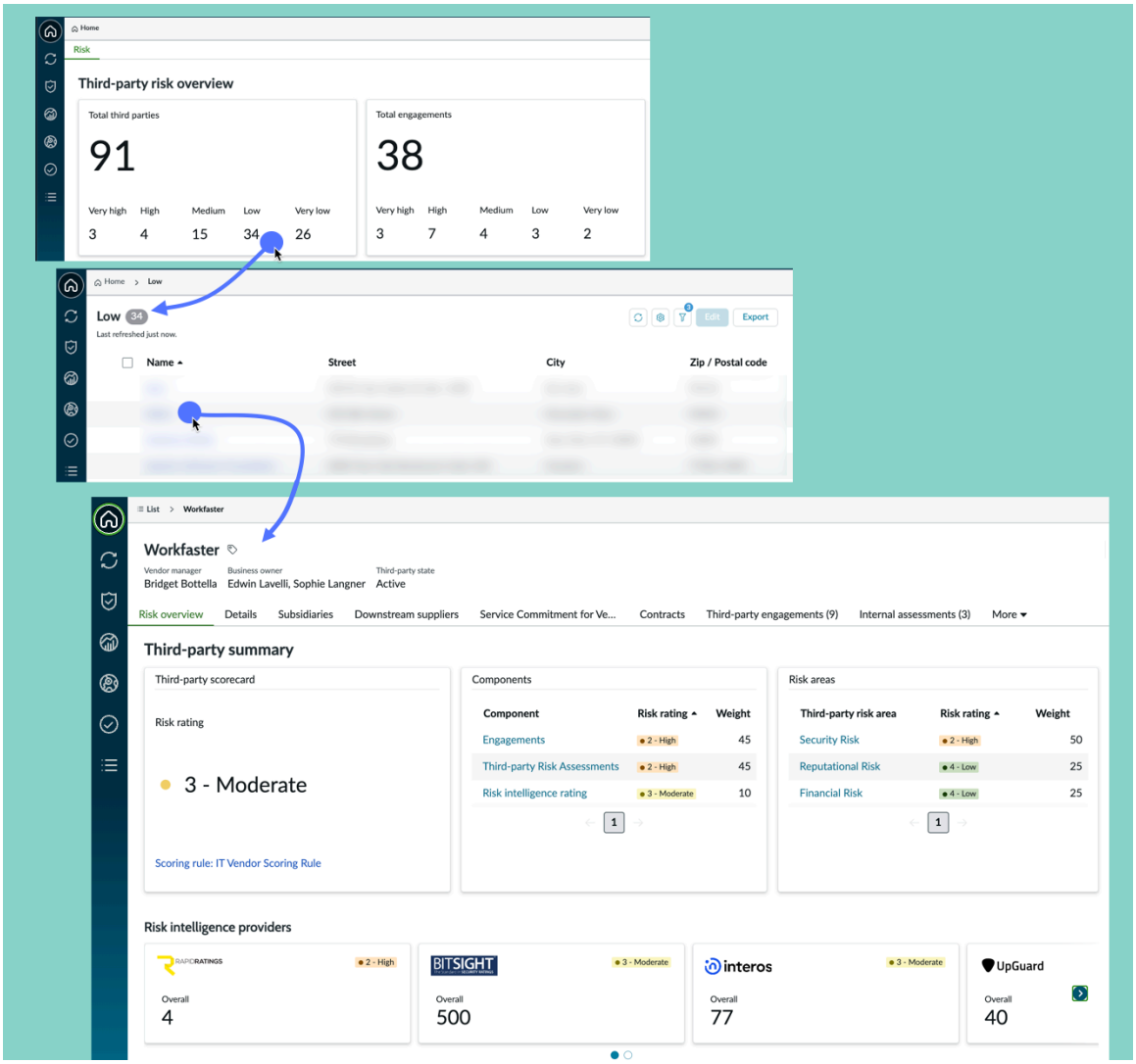
に移動し、サードパーティまたはエンゲージメントのステータスと現在のすべての情報を表示することもできます ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース. [リスク] タブで、ホームページアイコン [

以下の例に示すように、[サードパーティリスクの概要] セクションで任意の数値を選択すると、そのリスク評価値を持つサードパーティまたはエンゲージメントのリストを開くことができます。その後、サードパーティまたはエンゲージメントを選択できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスク評価別にサードパーティまたはエンゲージメントのページを開く方法



詳細については、「サードパーティの概要を取得」を参照してください。

TPRM パーソナライズされたダッシュボード

サードパーティインサイトダッシュボードとカスタムアナリティクスダッシュボードを使用して TPRM アセスメントデータをさまざまなレベルで監視および分析します。TPR マネージャー [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager] または TPR 査定人 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor] ロールを持っている場合は、独自のダッシュボードとレポートを作成して共有できます。TPR マネージャーは、レポートレイアウト、ウィジェット、およびデータビューをカスタマイズして、個々のロールとリスクプログラムに合わせて主要なメトリクスとワークフローに優先順位を付けることもできます。これらのダッシュボードは、自分とチームにカスタマイズされたインサイトを提供し、関連情報を一目で確認できるため、意思決定プロセスが改善されます。TPRMパーソナライズされたダッシュボードを表示するには、 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース をクリックし、[ダッシュボード] ページアイコン 詳細については、「TPRMダッシュボードを使用したアセスメントデータのモニタリング」を参照してください。

デューデリジェンスプロセス

デューデリジェンス要求レコードページから、次のデューデリジェンスプロセスのステータスを表示できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 要求プロセス
- 固有のリスクに関するアンケート (IRQ) プロセス
- サードパーティのリスクアセスメントプロセス
- 承認プロセス
- 契約リスクプロセス

デューデリジェンス要求レコード ページにアクセスするには、デューデリジェンス要求の DDR 番号を選択します。デューデリジェンスプロセスの詳細については、「デューデリジェンス要求プロセスの監視」を参照してください。

第 4 以上の関係者の管理

サードパーティリスク管理 を使用して、第 4 以上の関係者のサービスに依存するサードパーティに関連するリスクを特定、理解、および管理できます。第 4 以上の関係者を監視することで、第 4 以上の関係者がプライマリサードパーティと同じセキュリティおよびコンプライアンス基準に準拠していることを確認できます。第 4 以上の関係者の詳細については、「第 4 以上の関係者の監視」を参照してください。

注:
スマートアセスメントエンジン (SAE) との継続的な統合の一環として、 スマートアセスメントエンジン 有効 (**sn_vdr_risk_asmt.sae_enabled**) プロパティを設定した後、第 4 の関係者によるアセスメントはサポートされません。

サードパーティ要素の管理

サードパーティ要素収集プロセスの一部として、拡張可能なスコアリングモデル、関係分析、およびデューデリジェンスワークフロー統合を通じて、サードパーティ要素を監視できます。サードパーティ要素を監視し、その情報を活用することは、サードパーティリスクプログラムの一部として、より多くの情報に基づいたリスクアセスメントを実施するのに役立ちます。サードパーティ要素の詳細については、「サードパーティ要素の監視」を参照してください。

管理対象アクティビティの表示

契約年ごとに管理対象アクティビティが 1 つであるか多数であるかに関係なく、エンゲージメントでは 1 つのライセンスのみを使用します。管理対象アクティビティの使用は、アクティビティが開始されたときにのみトリガーされます。利用状況アナリティクスアクティビティ [sn_vdr_risk_asmt_ua_activity] テーブルでは、検証目的で管理対象アクティビティを表示できます。この読み取り専用テーブルには、管理対象アクティビティが発生するたびにレコードが保存されます。このテーブルを表示するには、サードパーティのアセスメントレビュー担当者 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessment_reviewer] ロールが必要です。[利用状況アナリティクスアクティビティ] テーブルにアクセスするには、 すべて > サードパーティリスク管理 > アドミニストレーション > 管理対象アクティビティアナリティクス. 詳細については、「管理対象アクティビティの追跡」を参照してください。

注:
利用状況アナリティクスアクティビティ [sn_vdr_risk_asmt_ua_activity] テーブルは、サードパーティリスク管理 アプリケーションを購入し、デューデリジェンス管理アプリケーションにアクセスできるユーザーのみが使用できます。ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする手順については、「初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする 」を参照してください。

自動翻訳

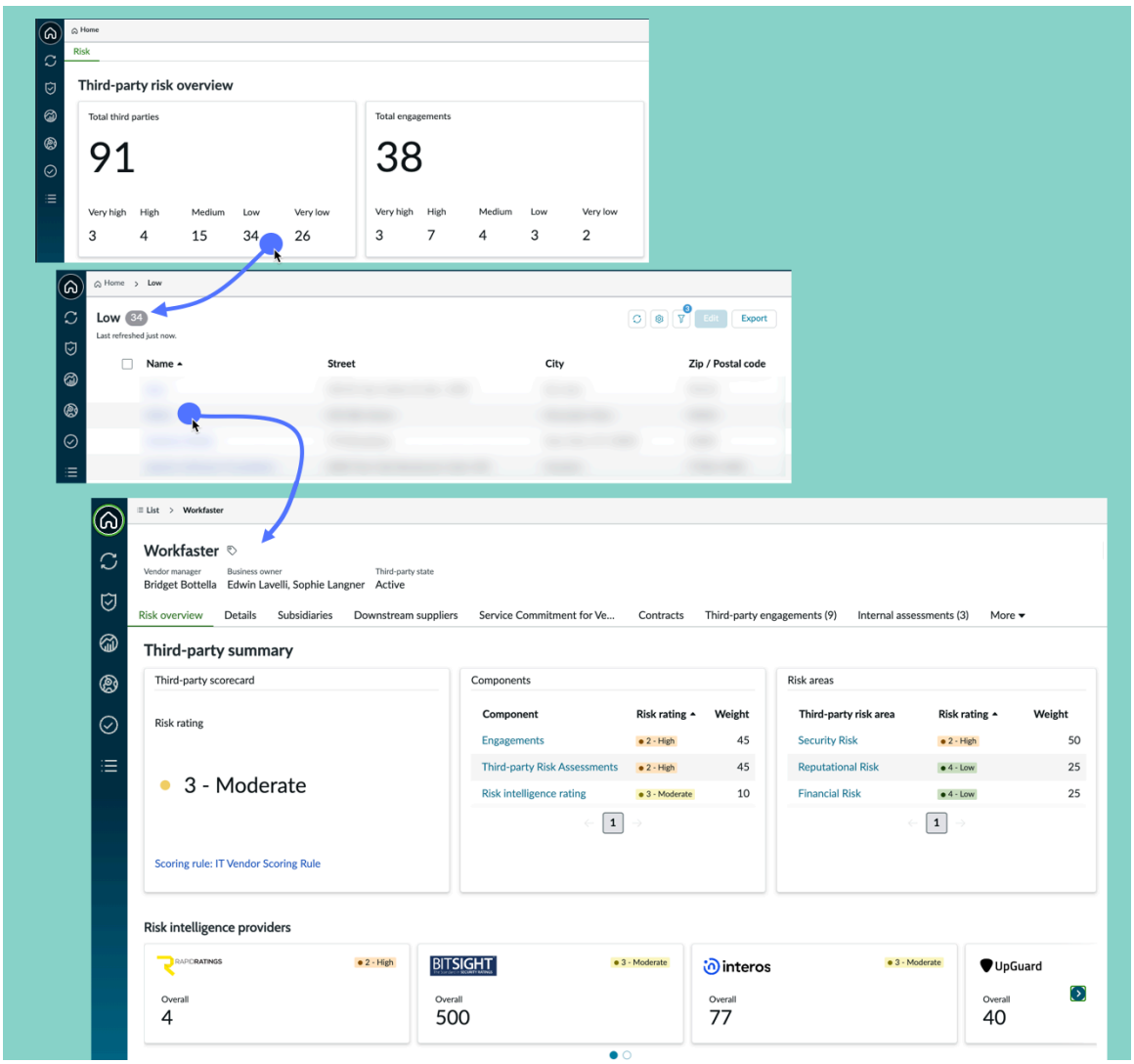
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティの概要を取得

サードパーティのページを使用して、サードパーティの現在のすべての情報とステータスにアクセスします。

サードパーティ情報へのアクセス

1. 選択 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース.
2. [リスク] タブで、 を選択します。
3. [サードパーティリスクの概要] セクションで、ボックス内の任意の番号を選択して、その値を持つサードパーティのリストを開きます。
4. サードパーティ名を選択し、適切なタブを選択します。



サードパーティのタブに関する情報

ほとんどのレポートでは、アイテムを選択して基になるデータを表示できます。

[リスク概要] タブ

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

[リスク概要] タブには、サードパーティの名前とプロセス情報、サマリーレポート、リスクインテリジェンススコア、および問題とタスクの追跡データが表示されます。。「サードパーティのリスク情報の要約の表示」を参照してください。

[詳細] タブ

[詳細] タブには、概要とプロセス追跡の情報が表示され、サードパーティまたはエンゲージメントを管理するためのアクションが提供されます。 「サードパーティの一般情報の表示」を参照

[子会社] タブ

[子会社] タブには、サードパーティの子会社に関する概要情報が表示されます。「サードパーティの子会社に関する情報の表示」を参照

[ダウンストリームサプライヤー] タブ

[ダウンストリームサプライヤー] タブには、サードパーティが関与する第 4 の関係者に関する概要情報が表示されます。。「第 4 の関係者に関する情報の表示」を参照してください。

リスクインテリジェンススコアタブ

DD 要求の場合、リスクインテリジェンススコアがリストに表示されます。個々のサードパーティの場合は、最新のスコアまたは評価、および各リスクインテリジェンスレポートのリンクがカードに表示されます。。「リスクインテリジェンススコアを表示する」を参照してください。

注:
[その他] タブを選択すると、関連するアセスメント、問題、タスク、リスクコンポーネント、エンティティ、エンティティタイプなど、他のタイプの関連情報を表示する追加のタブを表示できます。

サードパーティのリスク情報の要約の表示

[リスク概要] タブには、サードパーティの名前とプロセス情報、サマリーレポート、リスクインテリジェンススコア、および問題とタスクの追跡データが表示されます。 ほとんどのレポートでは、アイテムを選択して基になるデータを表示できます。

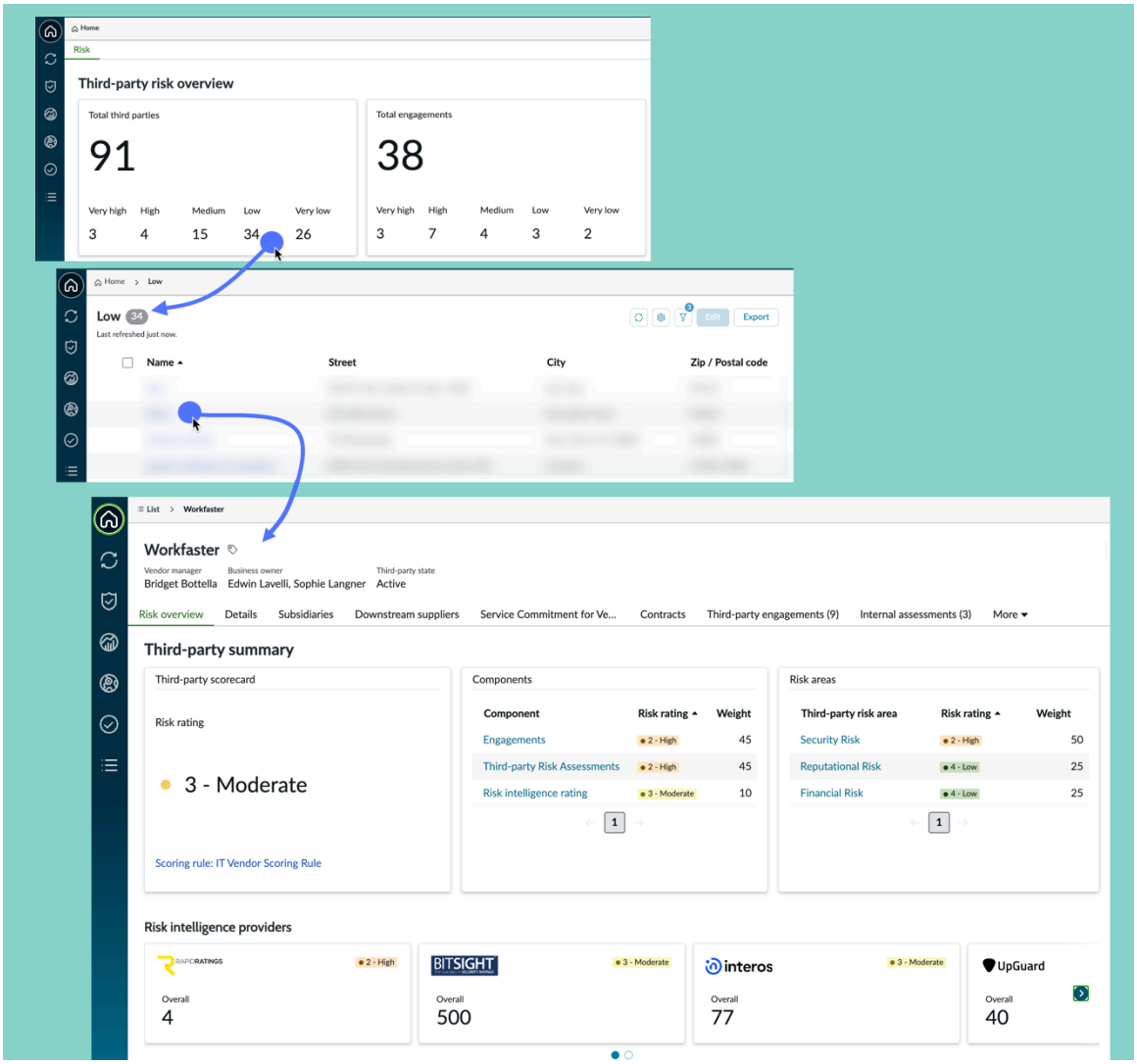
[リスク概要] タブへのアクセス

1. 選択 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース.
2. [リスク] タブで、 を選択します。
3. [サードパーティリスクの概要] セクションで、ボックス内の任意の番号を選択して、その値を持つサードパーティのリストを開きます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

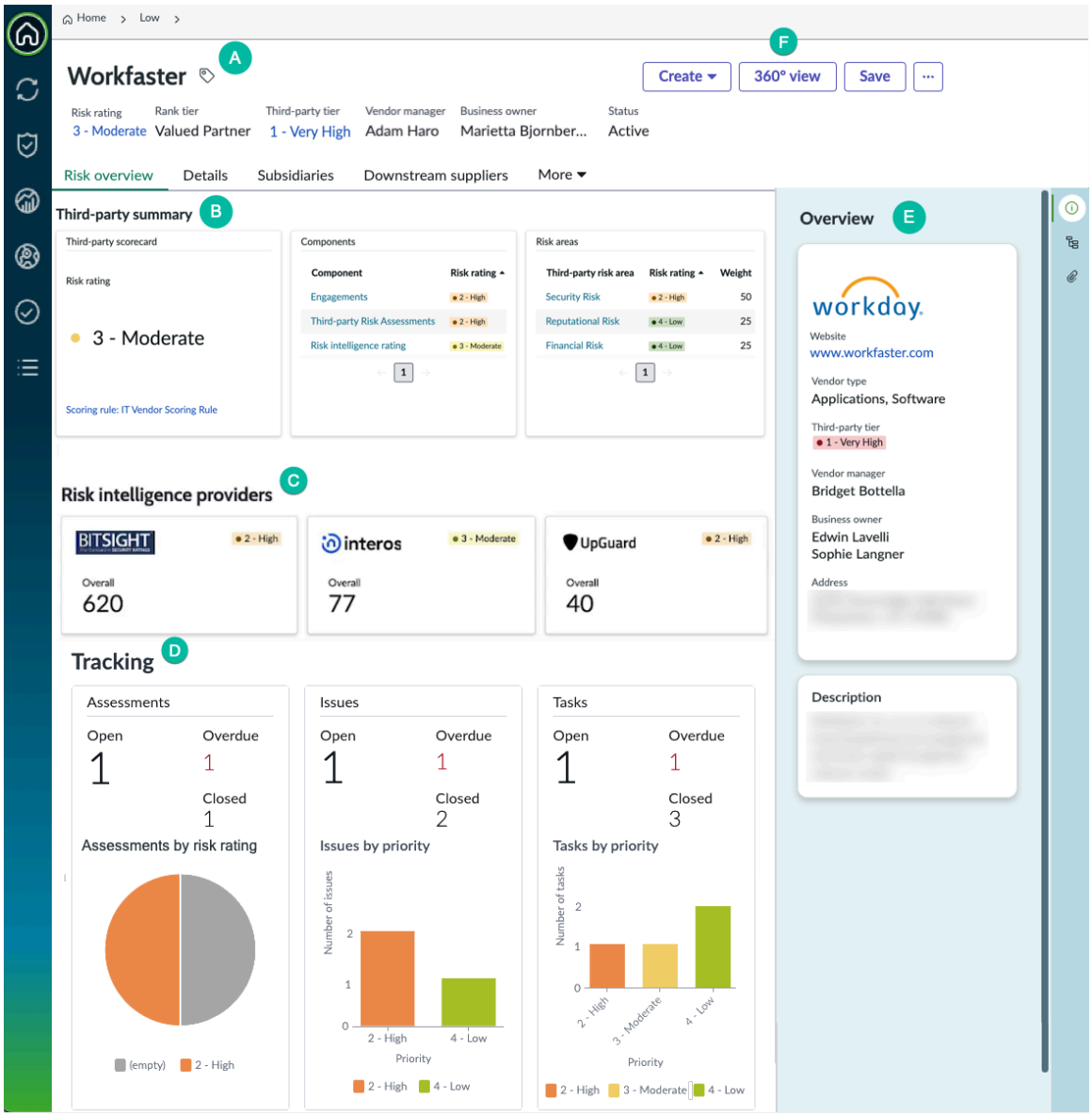
4. サードパーティ名を選択し、適切なタブを選択します。



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[リスク概要] タブに関する情報



A：名前とプロセス情報

このセクションでは、階層と連絡先情報にすばやくアクセスできます。リスク階層については、「VRM サードパーティのリスク階層アセスメント」を参照してください。

B：サードパーティサマリー

リスク評価と採点ルールについては、「採点用のリスク評価スケールの設定」を参照してください。サードパーティリスクコンポーネントは、外部アセスメント、エンゲージメント、および子会社です。コンポーネントのリスク評価が集計され、サードパーティのスコアカードにリスク評価値として表示されます。

C：リスクインテリジェンスプロバイダー

リスクインテリジェンススコアについては、「採点用のリスク評価スケールの設定」および「リスクインテリジェンススコアを表示する」で説明されています。

D：追跡

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- アセスメント：さまざまなプロセスステータスのアセスメントの数。詳細を表示する数字を選択します。
- 問題：問題については、「サードパーティまたはエンゲージメントに問題を作成」および「問題を管理します。」で説明されています。
- タスク：タスクについては、「サードパーティまたはエンゲージメントにタスクを作成」および「サードパーティまたはエンゲージメントのタスク管理」で説明されています。

E：概要

このセクションから、サードパーティに関する基本情報にすばやくアクセスできます。

F：アクション

- ディスカッション：[ディスカッション] を選択して、他のユーザーにメッセージを送信します。メッセージは、[詳細] タブの [アクティビティ] セクションに記録されます。
- 作成：問題またはタスクを生成します。「サードパーティまたはエンゲージメントに問題を作成」および「サードパーティまたはエンゲージメントにタスクを作成」を参照してください。
- **360** 度ビュー:選択したサードパーティに影響を与える既存のアセスメント、問題、タスク、製品モデル、アップストリーム、およびダウンストリームの連絡先間の関係を視覚的に探索します。360˚ Relationship Visualization を参照してください。
- 保存：ページに加えた変更を保存します。

サードパーティの一般情報の表示

[詳細] タブには、概要とプロセス追跡の情報が表示され、サードパーティまたはエンゲージメントを管理するためのアクションが提供されます。 ほとんどのレポートでは、アイテムを選択して基になるデータを表示できます。

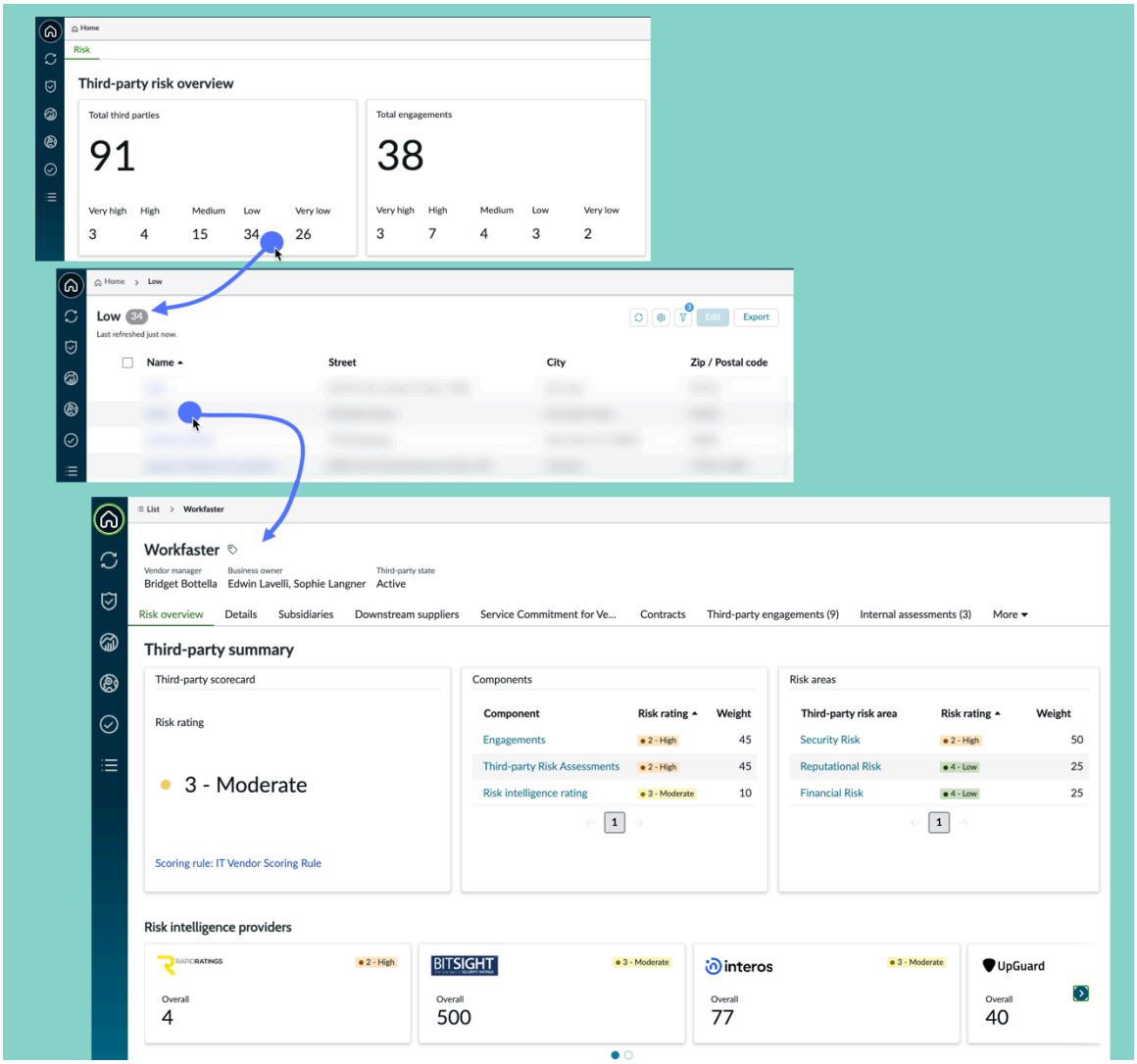
[詳細] タブへの移動

1. 選択 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース.
2. [リスク] タブで、  を選択します。
3. [サードパーティリスクの概要] セクションで、ボックス内の任意の番号を選択して、その値を持つサードパーティのリストを開きます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. サードパーティ名を選択し、適切なタブを選択します。



詳細については、「デューデリジェンス要求プロセス管理」を参照してください。

サードパーティの子会社に関する情報の表示

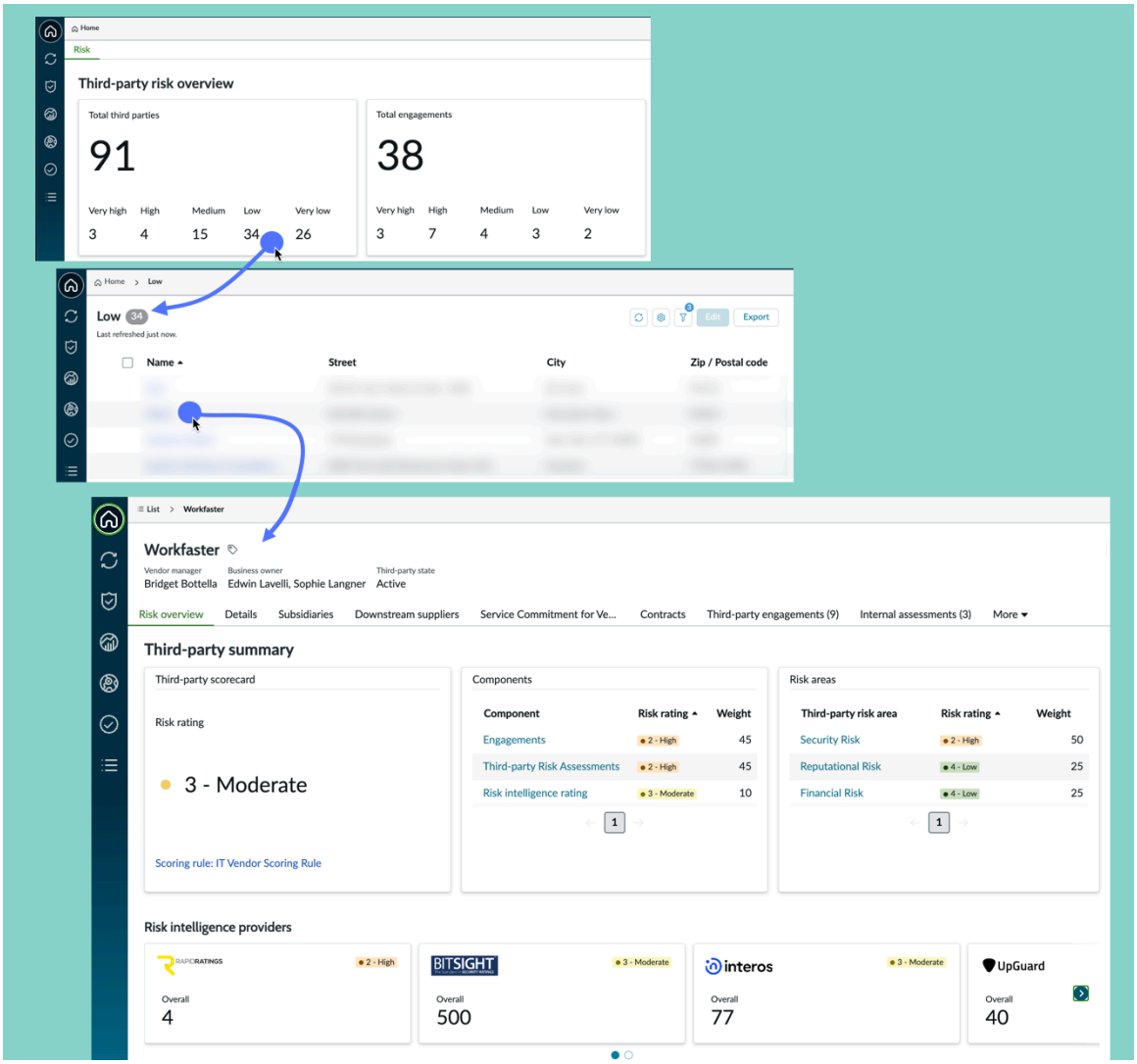
[子会社] タブには、サードパーティの子会社に関する概要情報が表示されます。 ほとんどのレポートでは、アイテムを選択して基になるデータを表示できます。

[子会社] タブへのアクセス

1. 選択 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース.
2. [リスク] タブで、 を選択します。
3. [サードパーティリスクの概要] セクションで、ボックス内の任意の番号を選択して、その値を持つサードパーティのリストを開きます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. サードパーティ名を選択し、適切なタブを選択します。



第 4 の関係者に関する情報の表示

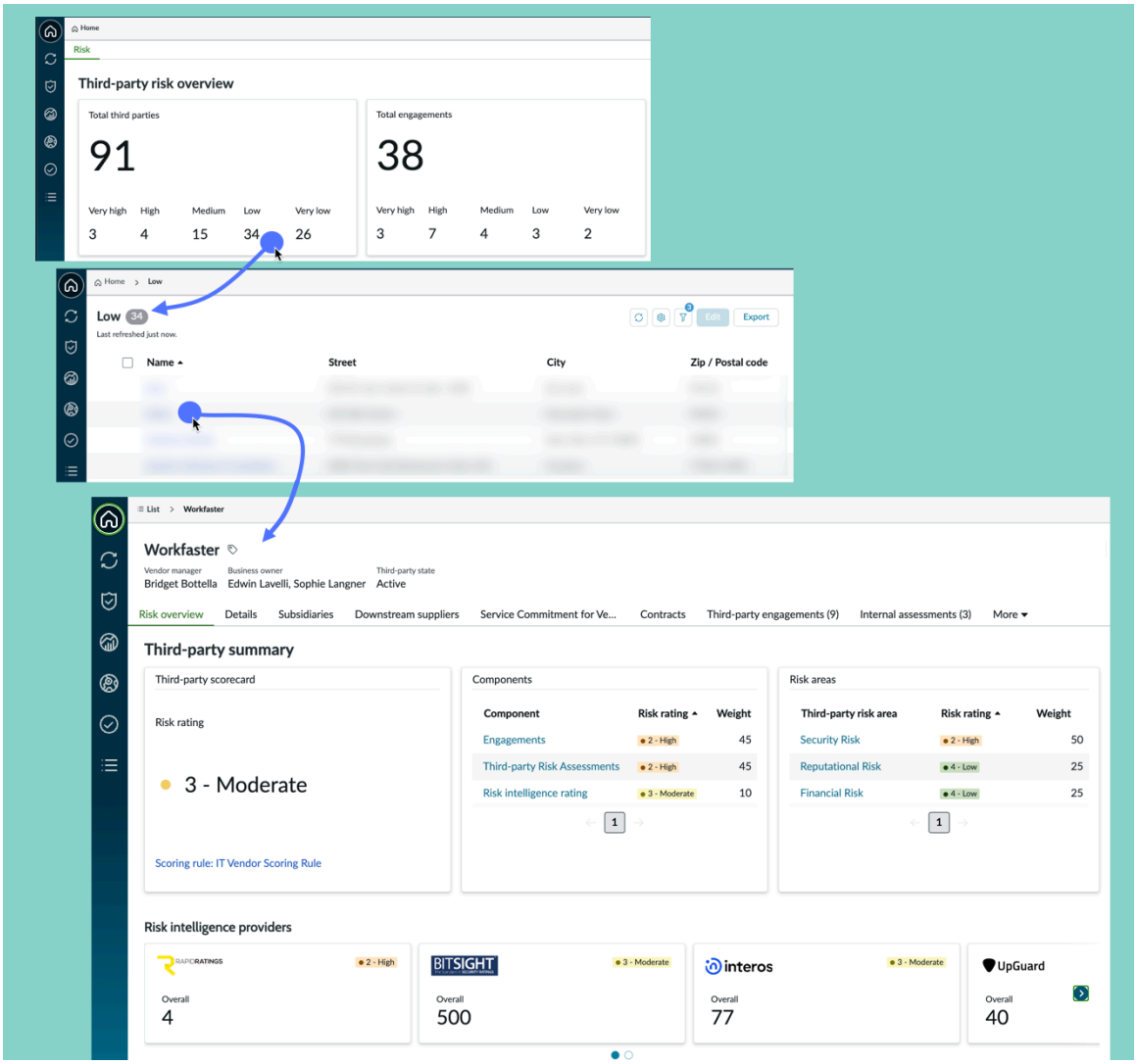
[ダウンストリームサプライヤー] タブには、サードパーティが関与する第 4 の関係者に関する概要情報が表示されます。 ほとんどのレポートでは、アイテムを選択して基になるデータを表示できます。

[ダウンストリームサプライヤー] タブへの移動

1. 選択 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース.
2. [リスク] タブで、 を選択します。
3. [サードパーティリスクの概要] セクションで、ボックス内の任意の番号を選択して、その値を持つサードパーティのリストを開きます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. サードパーティ名を選択し、適切なタブを選択します。



[ダウンストリームサプライヤー] タブの情報

4 番目のパーティの名前、Web サイト、および DUNS 番号が一覧表示されます。

リスクインテリジェンススコアを表示する

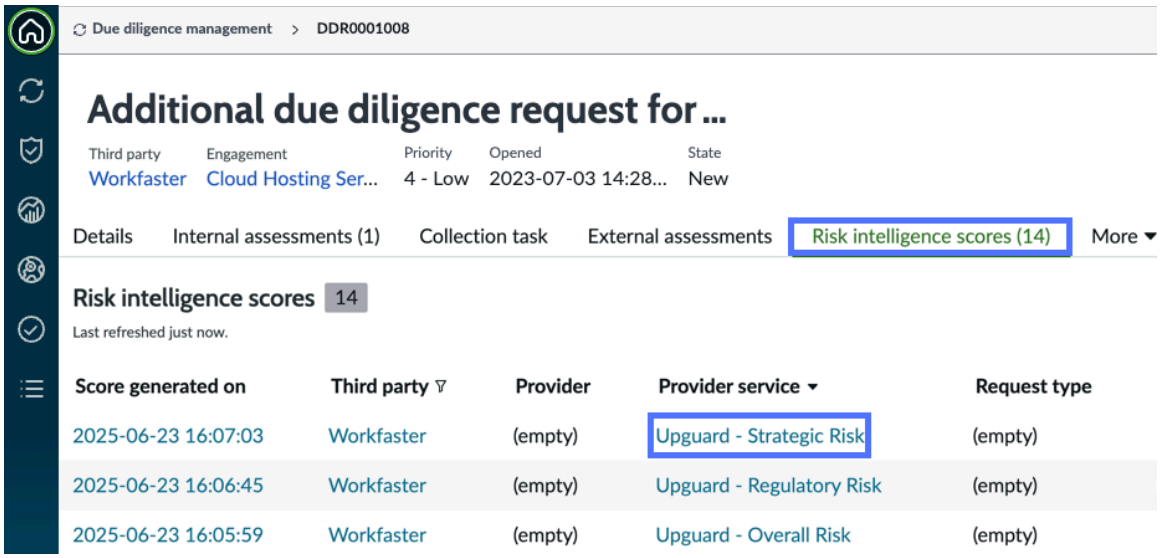
DD 要求の場合、リスクインテリジェンススコアがリストに表示されます。個々のサードパーティの場合は、最新のスコアまたは評価、および各リスクインテリジェンスレポートのリンクがカードに表示されます。

リスクインテリジェンススコアについては、「リスクインテリジェンスプロバイダーからのスコアの統合」、「リスクインテリジェンスプロバイダーサービスのセットアップ」、「サードパーティリスクデータにリスクインテリジェンススコアを追加する」で説明されています。

DD 要求のリスクインテリジェンススコア

DD 要求のデータを表示しているときに、[リスクインテリジェンススコア] タブを選択して、リスクインテリジェンスプロバイダーが返したレポートのリストを表示します。

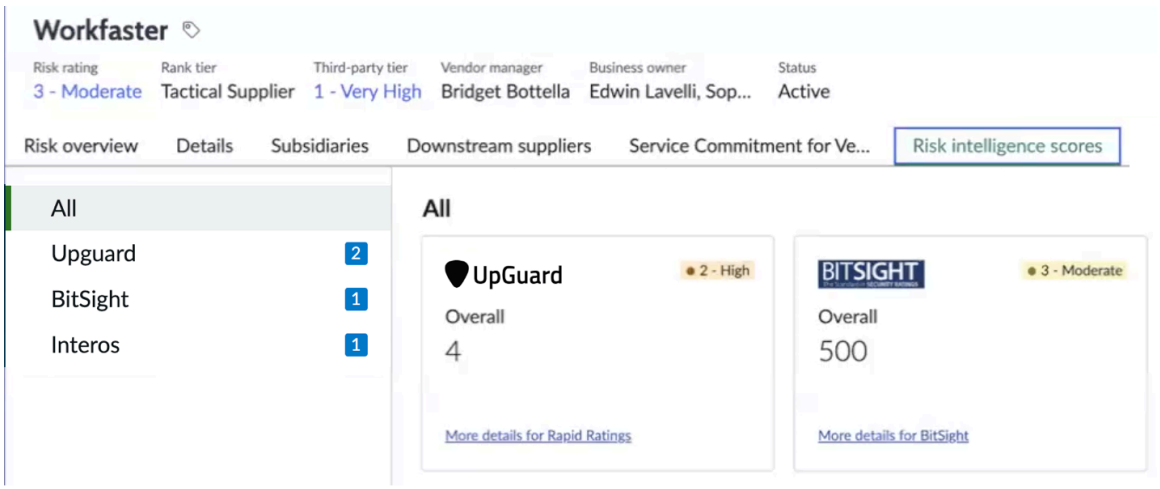
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



サードパーティのリスクインテリジェンススコア

サードパーティのデータを表示しているときに、[リスクインテリジェンススコア] タブを選択します。

サードパーティのデータを返したリスクインテリジェンスプロバイダーのリストには、サードパーティに関連付けられたスコアの数が含まれています。数字を選択してレポートの詳細を表示します。



各カードには、次の情報が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



- A. 総合値：プロバイダーから最後に追加された全体的な生のスコアまたは生の評価。
- B. 正規化された評価。プロバイダーから数値の生のスコアまたは生の評価を入力した場合、これは計算された正規化された TPRM 評価になります。プロバイダーサービスの構成時に、プロバイダーの値から TPRM評価へのマッピングを指定しました。
- C. リスクインテリジェンススコアの要求に対してプロバイダーから返されたレポートへのリンク。

関連情報

サードパーティリスクデータにリスクインテリジェンススコアを追加する

リスクインテリジェンスプロバイダーサービスのセットアップ

エンゲージメントの概要を取得

エンゲージメントページを使用して、エンゲージメントの現在のすべての情報とステータスにアクセスします。

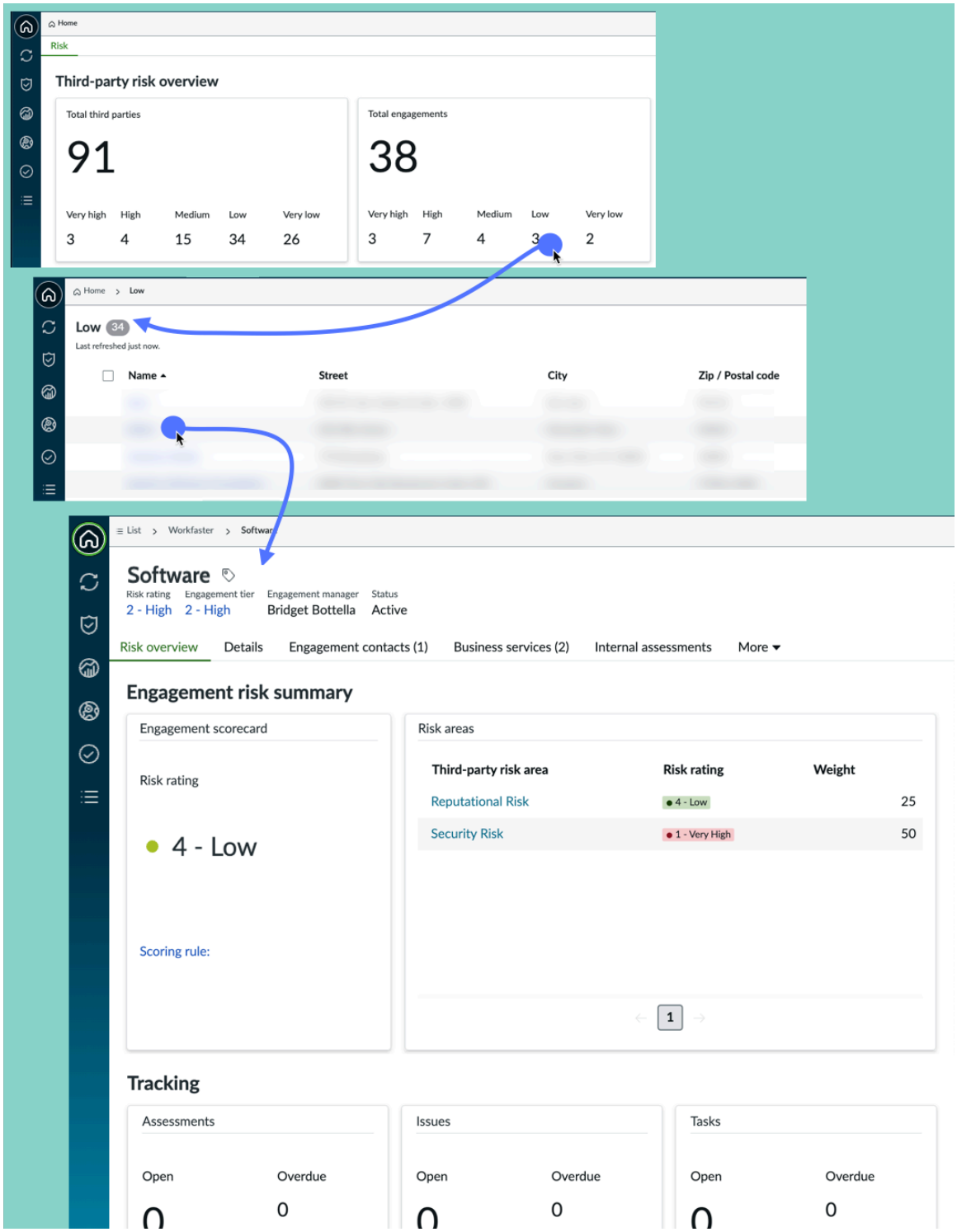
エンゲージメント情報へのアクセス

1. 選択 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース.
2. [リスク] タブで、 を選択します。
3. [サードパーティリスクの概要] セクションで、ボックス内の任意の番号を選択して、その値を持つエンゲージメントのリストを開きます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. エンゲージメント名を選択し、適切なタブを選択します。



エンゲージメントのタブに関する情報

ほとんどのレポートでは、アイテムを選択して基になるデータを表示できます。

[リスク概要] タブ

[リスク概要] タブには、エンゲージメントの名前とプロセス情報、リスクインテリジェンススコア、サマリーレポート、および問題とタスクの追跡データが表示されます。「エンゲージメントの要約されたリスク情報の表示」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

[詳細] タブ

[詳細] タブには、概要とプロセス追跡の情報が表示され、サードパーティまたはエンゲージメントを管理するためのアクションが提供されます。 「サードパーティの一般情報の表示」を参照

注:
その他 タブを選択すると、関連するアセスメント、問題、タスク、リスクコンポーネント、エンティティタイプなど、他のタイプの関連情報を表示する追加のタブを表示できます。

エンゲージメントの要約されたリスク情報の表示

[リスク概要] タブには、エンゲージメント名とプロセス情報、サマリーレポート、リスクインテリジェンススコア、および問題とタスクの追跡データが表示されます。 ほとんどのレポートでは、アイテムを選択して基になるデータを表示できます。

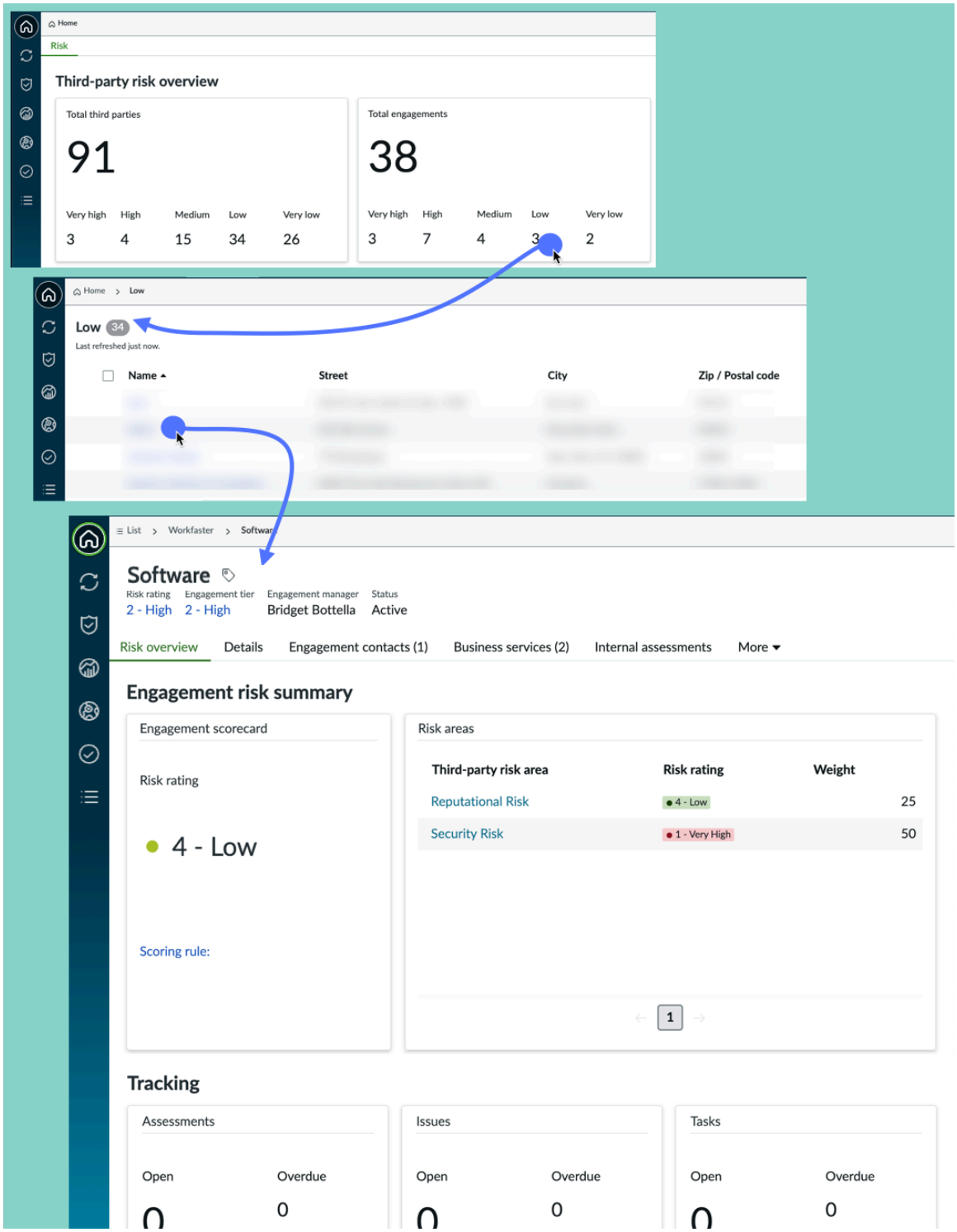
[リスク概要] タブへのアクセス

1. 選択 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース.
2. [リスク] タブで、 を選択します。
3. [サードパーティリスクの概要] セクションで、ボックス内の任意の番号を選択して、その値を持つエンゲージメントのリストを開きます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

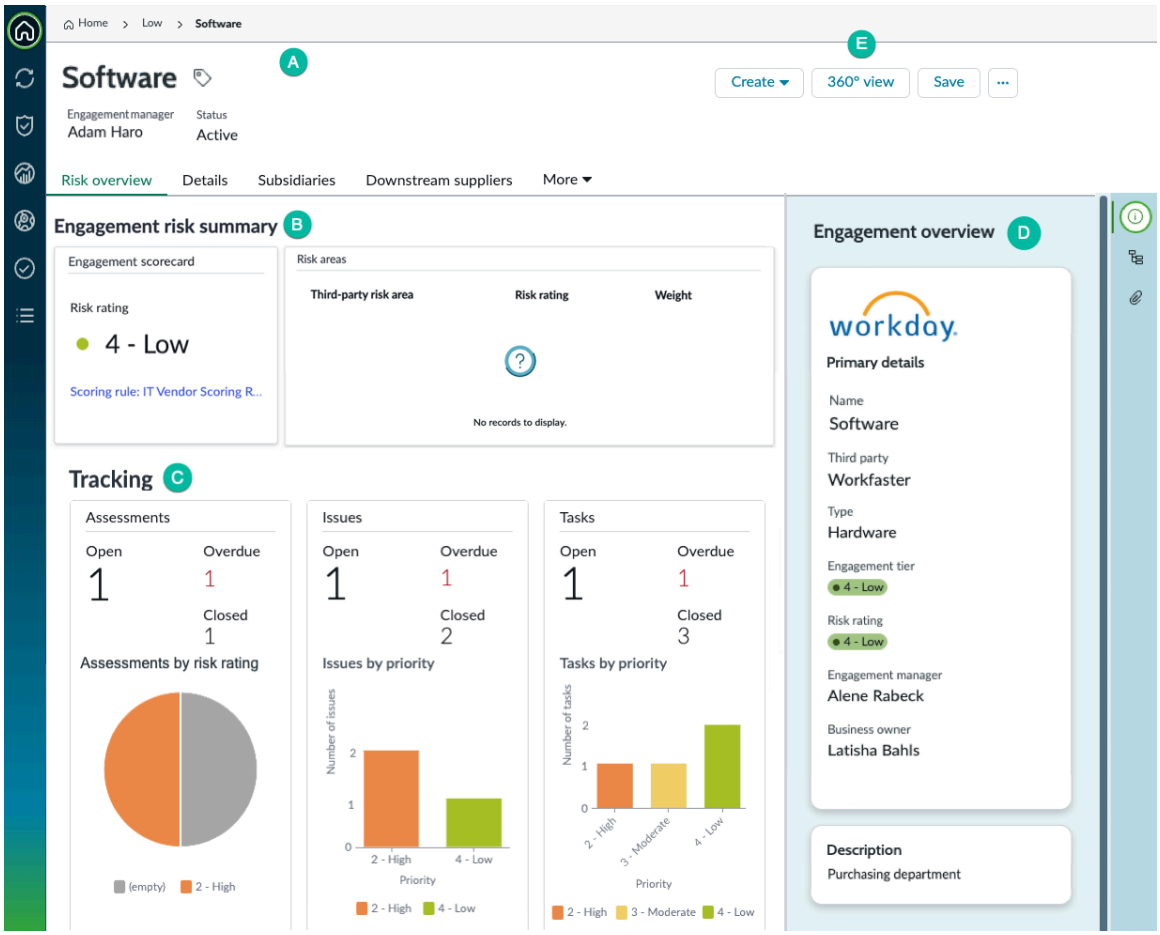
4. エンゲージメント名を選択し、適切なタブを選択します。



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[リスク概要] タブに関する情報



A：名前とプロセス情報

このセクションから、ステータスと連絡先情報にすばやくアクセスできます。

B:エンゲージメントのサマリー

リスク評価と採点ルールについては、「採点用のリスク評価スケールの設定」を参照してください。

C:トラッキング

- アセスメント：さまざまなプロセスステータスのアセスメントの数。詳細を表示する数字を選択します。
- 問題：問題については、「サードパーティまたはエンゲージメントに問題を作成」および「問題を管理します。」で説明されています。
- タスク：タスクについては、「サードパーティまたはエンゲージメントにタスクを作成」および「サードパーティまたはエンゲージメントのタスク管理」で説明されています。

D:概要

このセクションでは、エンゲージメントに関する基本情報にすばやくアクセスできます。

E:アクション

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ディスカッション：[ディスカッション] を選択して、他のユーザーにメッセージを送信します。メッセージは、[詳細] タブの [アクティビティ] セクションに記録されます。
- 作成：問題またはタスクを生成します。「サードパーティまたはエンゲージメントに問題を作成」および「サードパーティまたはエンゲージメントにタスクを作成」を参照してください。
- **360** 度ビュー:選択したサードパーティに影響を与える既存のアセスメント、問題、タスク、製品モデル、アップストリーム、およびダウンストリームの連絡先間の関係を視覚的に探索します。360˚ Relationship Visualization を参照してください。
- 保存：ページに加えた変更を保存します。

サードパーティリスクレポートの表示

ベンダー管理ワークスペース で [リスク] タブを使用して、サードパーティのポートフォリオの管理、サードパーティのリスクの評価、修復ライフサイクルの完了などのアクティビティにアクセスして優先順位を付けます。ワークスペースを使用すると、自動化が可能になり、リスクアセスメントの手動の負担とコストが削減されます。

ベンダー管理ワークスペース の移動

選択 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース をクリックし、[リスク] タブを選択して、ホームページへのワークスペースを開きます。ナビゲーションパネルの各アイコンは、専用のページを開きます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

ホームページ

ホームページには、重要なリスク情報のレポートが表示され、TPR マネージャーと TPR 査定人がアクションにすばやくアクセスできます。「TPRM ホームページへ。」を参照してください。

デューデリジェンス管理ページ

TPR マネージャーと査定人は、デューデリジェンス管理レポートを使用して、責任の追跡、優先順位付け、および管理を行います。「TPRM デューデリジェンス管理レポート」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

 リスクアクティビティページ

[リスクアクティビティ] ページを使用すると、注意が必要なアセスメント、問題、およびタスクをすばやく特定できます。。「TPRM リスクアクティビティページ」を参照してください。

 ダッシュボードページ

[ダッシュボード] ページには、サードパーティインサイトダッシュボードと TPRM カスタムアナリティクスダッシュボードが表示されます。これらのダッシュボードを使用して、カスタマイズされたインサイトを提供し、意思決定を改善し、追加要件を満たすダッシュボードを作成できます。詳細については、「TPRM ダッシュボードページ」と「TPRMダッシュボードを使用したアセスメントデータのモニタリング」を参照してください。

 リスク集中マップページ

[リスク集中マップ] ページには、アクティブなサードパーティとエンゲージメントの地理的な場所が正確に示されます。フィルターを設定して、特定のリスク評価とエンゲージメントタイプを表示できます。「TPRM リスク集中マップ」を参照してください。

 タスクページ

タスクページでは、自分とグループのメンバーにアサインされているタスクにアクセスできます。デューデリジェンス要求、サードパーティアクションのタイプ、およびリスクまたは階層アセスメントによって、タスクのリストをさらにフィルタリングできます。「TPRM タスクページ」を参照してください。

 リストページ

リストページは、TPRM で表示または操作できるすべてのアイテムにアクセスできる汎用ページです。「TPRM リストページ」を参照してください。

ベンダー管理ワークスペース を使用できるユーザー

ベンダー管理ワークスペース は、次のロールを持つユーザー向けに設計されています。

- TPR マネージャー (サードパーティリスクマネージャー) [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager]
- TPR 査定人 (サードパーティリスク査定人) [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor]
- サードパーティアセスメント レビュー担当者 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessment_reviewer]

TPRM ホームページへ。

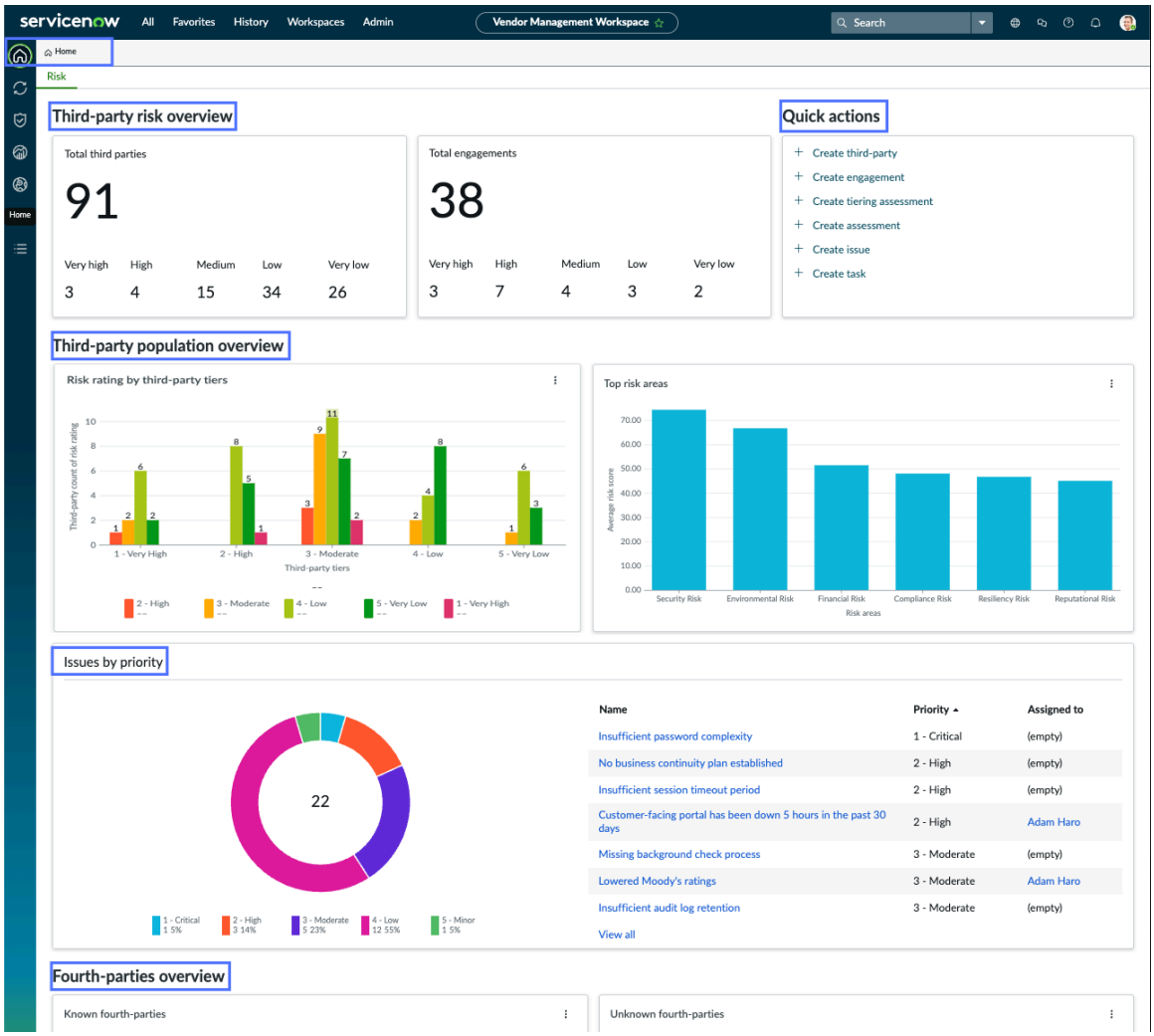
ホームページには、重要なリスク情報のレポートが表示され、TPR マネージャーと TPR 査定人がアクションにすばやくアクセスできます。

ページへのアクセス

Vendor Management Workspace でホームページを開くには、次を選択します ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース.  アイコンを選択して、[リスク] タブを選択します。

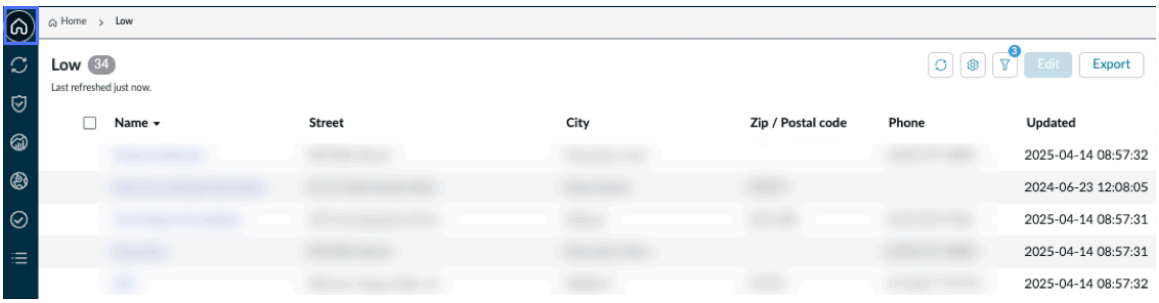
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



サードパーティリスクの概要

ボックス内の任意の番号を選択すると、サードパーティまたはエンゲージメントの関連リストが開きます。



リストを開いた後、[エクスポート] を選択してデータをエクスポートするか、[新規] を選択して新しいエンゲージメント要求を作成できます。

クイックアクション

- サードパーティレコードを作成します。組織が関与する可能性があるサードパーティの主要なデータと連絡先情報を設定します。「VRMサードパーティレコードを作成」を参照してください。
- エンゲージメントを定義します。サードパーティが提供するサービスまたは製品に関連するリスクを評価できるように、エンゲージメントを定義します。エンゲージメントは、直接的に、またはリスクを評価できる子サードパーティ (部門、パートナー)

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

から、親サードパーティに提供される製品またはサービスを表すこともあります。VRMエンゲージメントの定義。

- 階層アセスメントを作成します。組織は、リスク階層を使用して、オンボーディング時に発生する潜在的なリスクのカテゴリにサードパーティを分類します。標準的な事前定義リスク層は、[なし]、[低]、[小]、[中]、[高]、[重大] です。各リスク階層には、関連付けられたアセスメント質問と文書の要求があります。「VRM サードパーティのリスク階層アセスメント」を参照してください。
- アセスメントを作成し、サードパーティリスクアセスメントライフサイクルを開始します。「外部アセスメントの作成 - 従来のプロセス」を参照してください。
- 問題を作成して、サードパーティまたはエンゲージメントに関する懸念が確実に修正されるようにします。「サードパーティまたはエンゲージメントに問題を作成」を参照してください。
- 組織のユーザーまたはサードパーティの連絡先が、デュー デリジェンスプロセス中にアンケートの応答や要求された文書に関する懸念事項に確実に対応できるようにするためのタスクを作成します。「サードパーティまたはエンゲージメントにタスクを作成」を参照してください。

サードパーティ設定の概要

- リスク階層別のリスク評価：各サードパーティリスク階層の各リスク評価でのエンゲージメントの数。「採点用のリスク評価スケールの設定」を参照してください。
- 上位リスク領域：

  定義した各リスクドメインに関連付けられたエンゲージメントの平均リスクスコア。

  注:
  リスクドメインは、一部のプラットフォームアプリケーションでは「リスク領域」と呼ばれます。

  リスクドメインは、サードパーティのために評価するリスクのタイプを定義します。たとえば、セキュリティリスクの観点からデータ管理サードパーティを評価し、財務リスクの観点から銀行を評価することができます。セキュリティリスクと財務リスクはリスクドメインです。一部のプラットフォームアプリケーションでは、リスクドメインを「リスク領域」と呼びます。「サードパーティリスクドメインを定義」を参照してください。

優先度別の問題

優先度が最も高い未解決の問題の数と優先度。問題名を選択すると、問題ページの [リスクの概要] タブが表示されます。「問題を管理します。」を参照してください。

第 4 以上の関係者の概要

サードパーティまたはエンゲージメントに関連付けられている第 4 の関係者と不明な第 4 の関係者およびその子会社の数。対応するグラフのセグメントを選択して、既知または不明の第 4 の関係者のリストを表示します。

注:
既知の第 4 の関係者は、リスク管理プログラムで既にサードパーティとして利用されている組織であり、不明の第 4 の関係者は第 4 の関係者としてのみ分類され、サードパーティとして利用も識別もされていません。

TPRM デューデリジェンス管理レポート

TPR マネージャーと査定人は、デューデリジェンス管理レポートを使用して、責任の追跡、優先順位付け、および管理を行います。

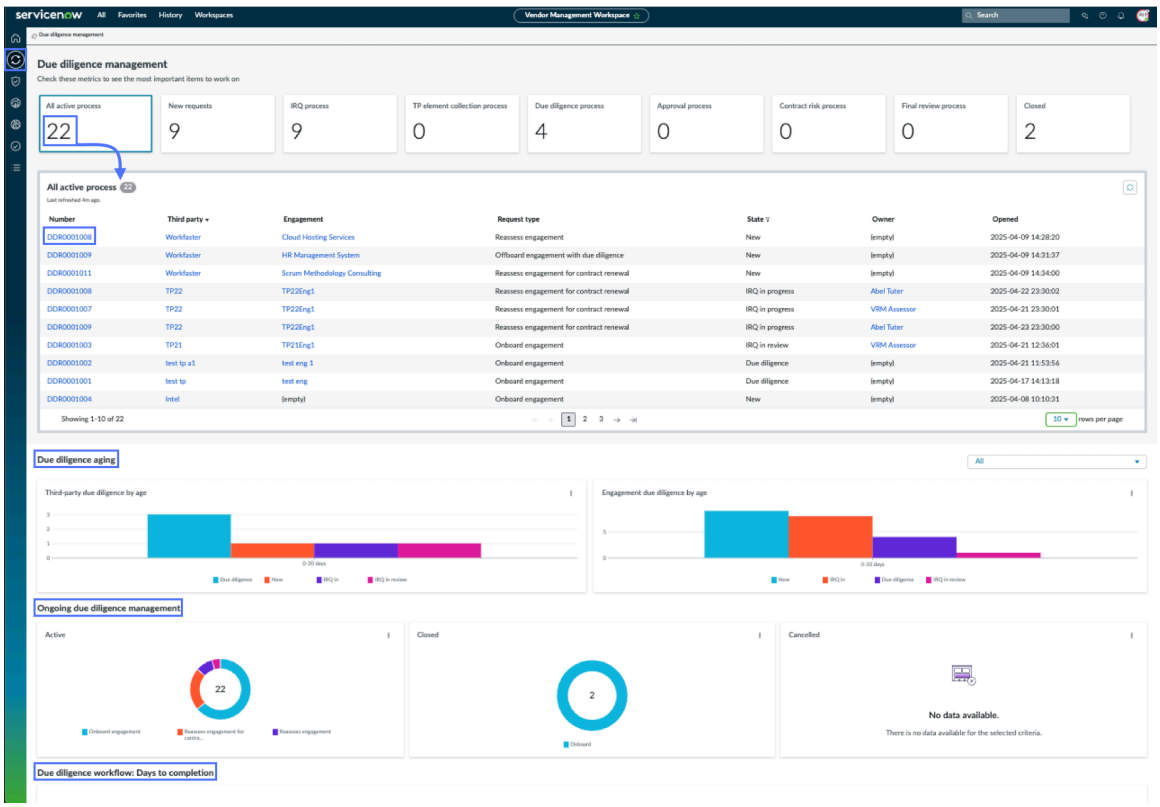
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レポートへのアクセス

デューデリジェンス管理レポートを表示するには、 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース.[リスク] タブで、を選択します。

ヒント:
TPR マネージャーと TPR アドミニストレーターは、デューデリジェンス管理ダッシュボードからさまざまなタスクを実行できます。デューデリジェンスリクエストのワークフロー内のすべてのプロセス (IRQ、外部デューデリジェンス、承認、契約リスク、クローズ済みの要求) で作業できます。



エンゲージメント要求の作業をするアイテムをリストビューで選択

デフォルトでは、ページにはすべてのアクティブなプロセス (IRQ、デューデリジェンス、承認、契約リスク、クローズ済みプロセス) が一覧表示されます。任意のカードの番号を選択すると、プロセスのアクション可能なアイテムのリストが表示されます。

- [すべてのアクティブなプロセス] カードの番号を選択して、アクティブなプロセスのリストを表示します。
- [新しい要求] カードの番号を選択すると、新しい要求のリストが表示されます。
- **[IRQ** プロセス] カードの番号を選択して、アクティブな IRQ のリストを表示します。詳細は、「IRQ プロセス管理」を参照してください。
- [デューデリジェンスプロセス] カードの番号を選択して、アクティブなサードパーティリスクアセスメントのリストを表示します。詳細は、「サードパーティ (外部) リスクアセスメント管理」を参照してください。
- [プロセスの承認] カードの番号をクリックして、承認プロセスの要求のリストを表示します。詳細は、「承認プロセスの管理」を参照してください。
- [契約リスクプロセス] カードの番号を選択して、契約プロセスの要求のリストを表示します。詳細は、「契約リスクプロセスの管理」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- [最終レビュープロセス] カードの番号をクリックして、承認プロセスの要求のリストを表示します。
- [クローズ済み] カードの数字を選択して、デューデリジェンスのクローズ済み要求のリストを表示します。

デューデリジェンス要求ごとに、テキスト「DDR」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。 任意のリストで DDR 番号を選択して要求表示します。

[デューデリジェンスエージング] セクション

[デューデリジェンスエージング] セクションには、サードパーティエンゲージメントのデューデリジェンス要求 (サードパーティおよびエンゲージメントのデューデリジェンス) の現在の期間が表示されます。リストボックスを使用して、チャートに表示するデューデリジェンス要求のタイプを指定します。

進行中のデューデリジェンス管理

[進行中のデューデリジェンス管理] セクションには、デューデリジェンスに対する [アクティブ]、[クローズ済み]、および [キャンセル済み] の要求の現在のブレークダウンが表示されます。

デューデリジェンスワークフロー：完了までの日数

デューデリジェンスワークフロー：[完了までの日数] セクションには、各ワークフローの平均完了時間が経時的に表示されます。

関連情報

IRQ プロセス管理

サードパーティ (外部) リスクアセスメント管理

契約リスクプロセスの管理

承認プロセスの管理

TPRM リスクアクティビティページ

[リスクアクティビティ] ページを使用すると、注意が必要なアセスメント、問題、およびタスクをすばやく特定できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ページへのアクセス

[リスクアクティビティ] ページを表示するには、次を選択します ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース.[リスク] タブで、 を選択します。

ページでの作業

作業キュー

ボックス内の任意の番号を選択すると、アセスメント、問題、またはタスクの関連リストが開きます。

アクティビティの概要

任意の棒グラフを選択すると、アセスメント、問題、またはタスクの関連リストが開きます。

有効期限が近いサードパーティのリスクアセスメント。

このセクションには、まもなく期限切れになるリスクアセスメントのデューデリジェンス要求が一覧表示されます。

外部リスクアセスメントごとに、テキスト「VRA」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。 [外部アセスメント] タブで、リスクアセスメントで作業する VRA 番号を選択します。

TPRM ダッシュボードページ

ダッシュボードページには、サードパーティインサイトダッシュボードと TPRM カスタムアナリティクスダッシュボード、および自分とチームが作成したその他のダッシュボードが表示されます。

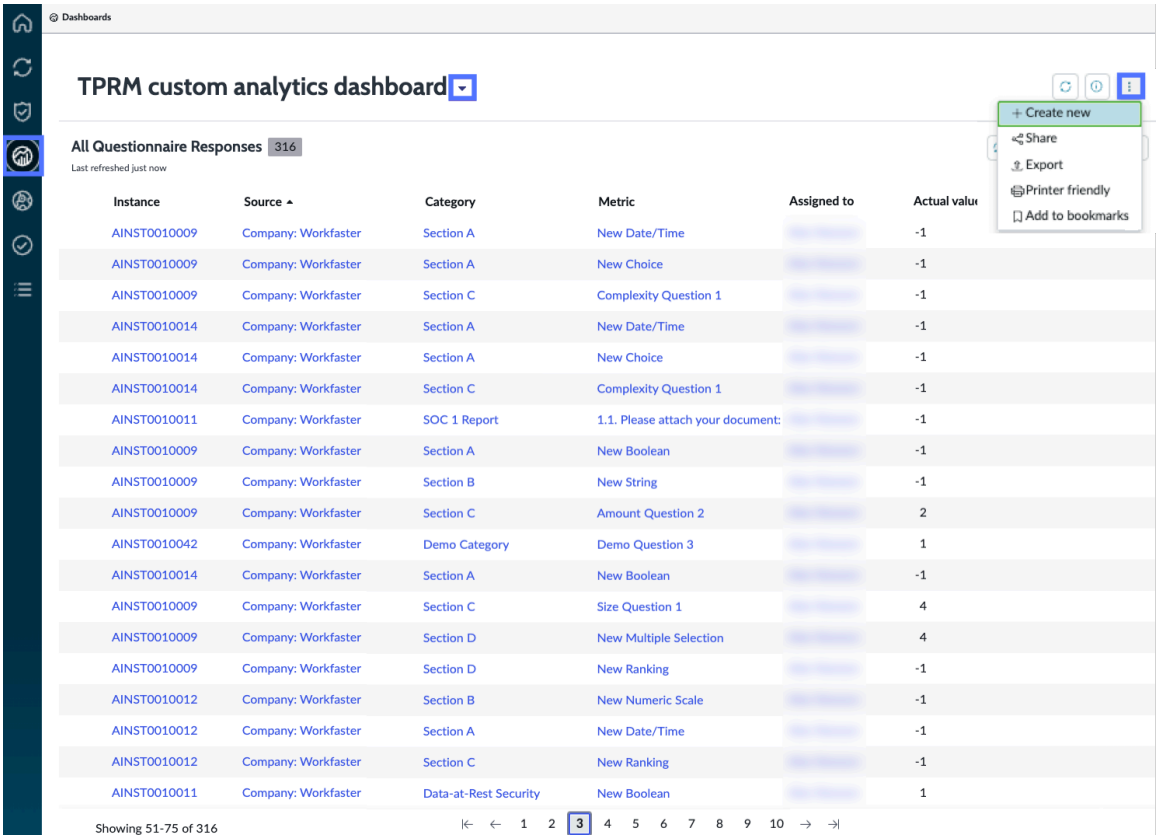
ダッシュボードへのアクセス

[ダッシュボード] ページを表示するには、次の場所に移動します。 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース をクリックし、[ダッシュボード] ページアイコン ダッシュボードページから、2 つの既存のダッシュボードを表示できます。さらにダッシュボードを作成することもできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ダッシュボードの表示



ダッシュボードの名前の横にある下向き矢印を選択してドロップダウンメニューを開き、アクセス可能なすべてのダッシュボードを表示します。TPRMダッシュボードの詳細については、「TPRMダッシュボードを使用したアセスメントデータのモニタリング」を参照してください。

関連情報

- TPRMダッシュボードを使用したアセスメントデータのモニタリング
- インラインエディターを使用した TPRM ダッシュボードの作成
- TPRMダッシュボードの詳細を編集
- TPRMダッシュボードの編集
- TPRMダッシュボード要素を編集する
- TPRMダッシュボードの共有
- TPRMダッシュボードの削除
- Dashboards in Platform Analytics

TPRM リスク集中マップ

[リスク集中マップ] ページには、アクティブなサードパーティとエンゲージメントの地理的な場所が正確に示されます。フィルターを設定して、特定のリスク評価とエンゲージメントタイプを表示できます。

ページへのアクセス

注:
この機能は、サードパーティリスク管理アプリをアクティブ化している場合にのみ使用できます。リスク集中マップ機能をインストールした後、Google ライセンスをインストールして機能を有効にする必要があります。リスク集中マップ機能を有効にするには、「TPRM リスク集中マップを有効にする」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスク集中マップを表示するには、次を選択します ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース.[リスク] タブで、 を選択します。

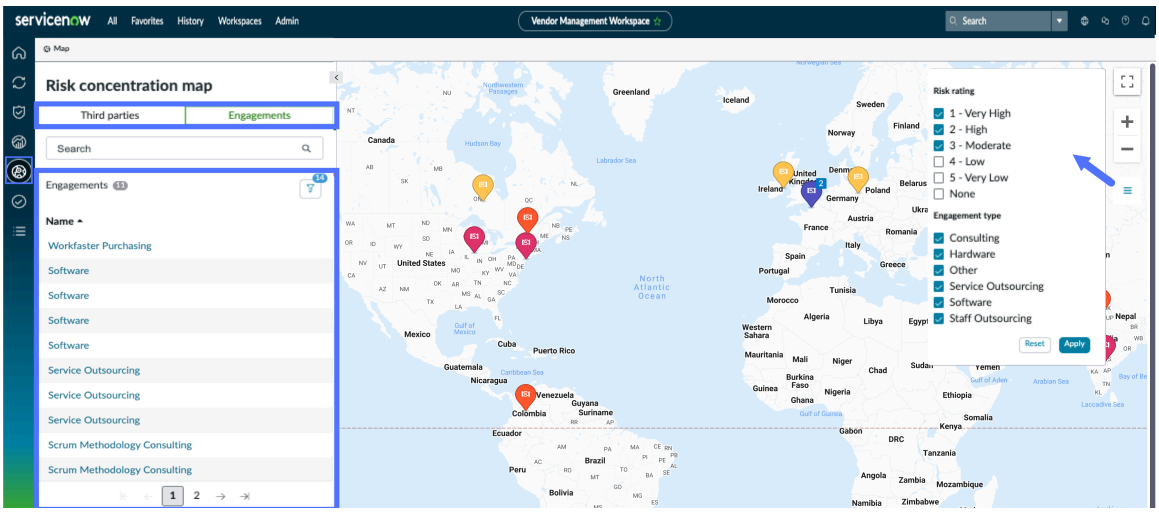
リスク集中マップアクション

- [エンゲージメント] タブからエンゲージメントを選択すると、その概要情報と特定の場所がマップ上に表示されます。
- [サードパーティ] タブからサードパーティを選択すると、サードパーティの詳細情報、関連するエンゲージメントのリスト、およびそれらのエンゲージメントがマップ上に表示されます。これは、関連するサードパーティとは異なる各エンゲージメントの場所を表示する場合に役立ちます。
- メニューアイコンを選択して、マップに適用できるフィルターのリストを開きます。

注:
リスク集中マップには、エンゲージメントの場所のみが表示されます。

次の例は、[エンゲージメント] タブが選択され、フィルターが適用されている場合のリスク集中マップビューを示しています。

リスク集中マップビューの例



注:
エンゲージメントを選択し、ベンダー管理ワークスペース でそのレコードを開いて、問題の作成、タスクのアサイン、アセスメントの開始を行うことができます。

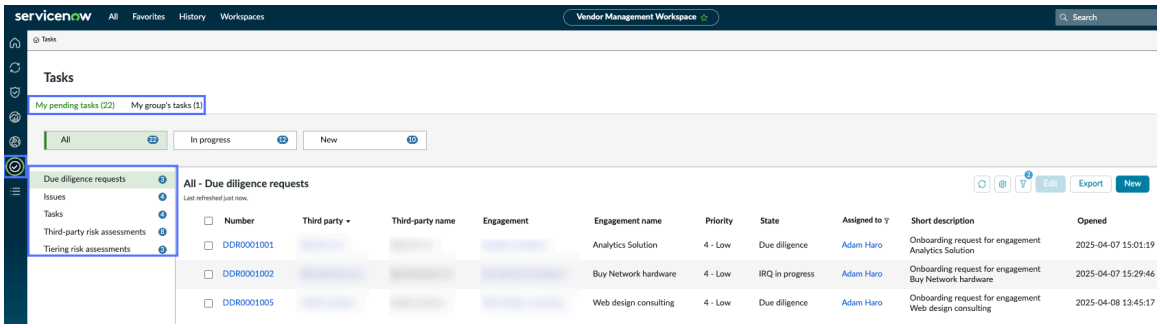
TPRM タスクページ

タスクページでは、自分とグループのメンバーにアサインされているタスクにアクセスできます。デューデリジェンス要求、サードパーティアクションのタイプ、およびリスクまたは階層アセスメントによって、タスクのリストをさらにフィルタリングできます。

ページへのアクセス

[タスク] ページを表示するには、次を選択します ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース.[リスク] タブで、 を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

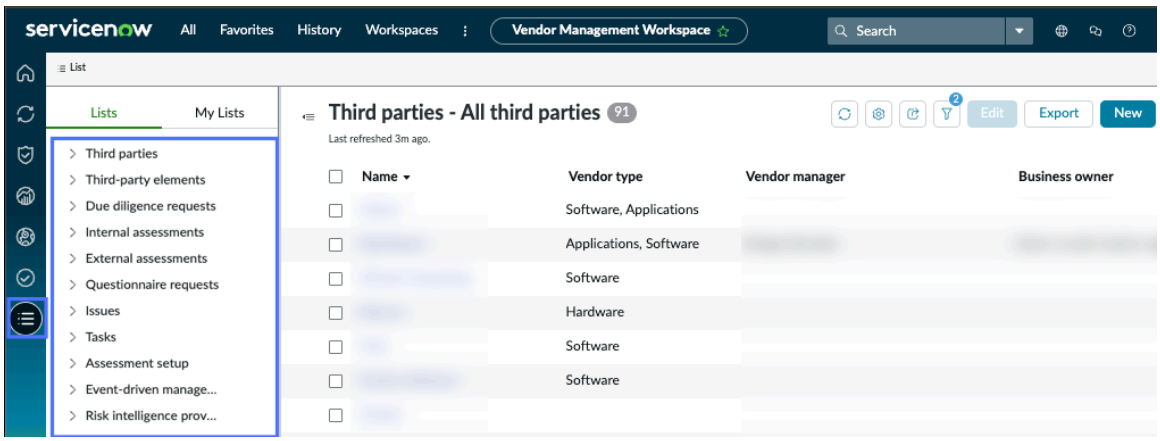


TPRM リストページ

リストページは、TPRM で表示または操作できるすべてのアイテムにアクセスできる汎用ページです。

ページへのアクセス

[リスト] ページを開くには、次を選択します。 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース.[リスク] タブで、を選択します。



各リストには、日常のタスクのリスク情報とアクションページへのリンクがあります。

TPRMダッシュボードを使用したアセスメントデータのモニタリング

サードパーティインサイトダッシュボードとカスタムアナリティクスダッシュボードを使用して、サードパーティリスク管理 アプリケーションのさまざまなレベルでアセスメントデータを監視および分析 TPRM できます。これらのダッシュボードは、自分とチームにカスタマイズされたインサイトを提供し、関連情報を一目で確認できるため、意思決定プロセスが改善されます。

のダッシュボード ベンダー管理ワークスペース

[ダッシュボード] ページを表示するには、次の場所に移動します。 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース をクリックし、[ダッシュボード] ページアイコン ダッシュボードページから、ベースシステムの一部として含まれているサードパーティのインサイトダッシュボードと TPRM カスタムアナリティクスダッシュボードを表示できます。さらにダッシュボードを作成してカスタマイズし、他のユーザーと共有することもできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ダッシュボードへのアクセス

ロール	説明
サードパーティリスク (TPR) マネージャー [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager]	[サードパーティのインサイトと TPRM カスタムアナリティクス] ダッシュボードを編集します。 階層アセスメント、内部アセスメント、サードパーティのリスクアセスメントからの応答を含む、すべてのアンケートの応答を表示します。
TPR アドミン [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin]	[サードパーティのインサイトと TPRM カスタムアナリティクス] ダッシュボードを編集します。 階層アセスメント、内部アセスメント、サードパーティのリスクアセスメントからの応答を含む、すべてのアンケートの応答を表示します。
TPR 査定人 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor]	アサインされたアンケートの回答を [サードパーティのインサイトと TPRM カスタムアナリティクス] ダッシュボードで表示します。
サードパーティアセスメント レビュー担当者 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessment_reviewer]	アサインされたアンケートの回答を [サードパーティのインサイトと TPRM カスタムアナリティクス] ダッシュボードに表示します。

注:
すべてのロールは、パーソナルダッシュボードの作成とカスタマイズ、データの可視化の追加、閲覧者またはエディターとしての他のユーザーとのダッシュボードの共有を行うことができます。admin ロールを持っている場合は、ダッシュボードと同じアプリケーションスコープ内にいる必要があり、任意のダッシュボードを削除できます。詳細については、「TPRMダッシュボードの削除」を参照してください。

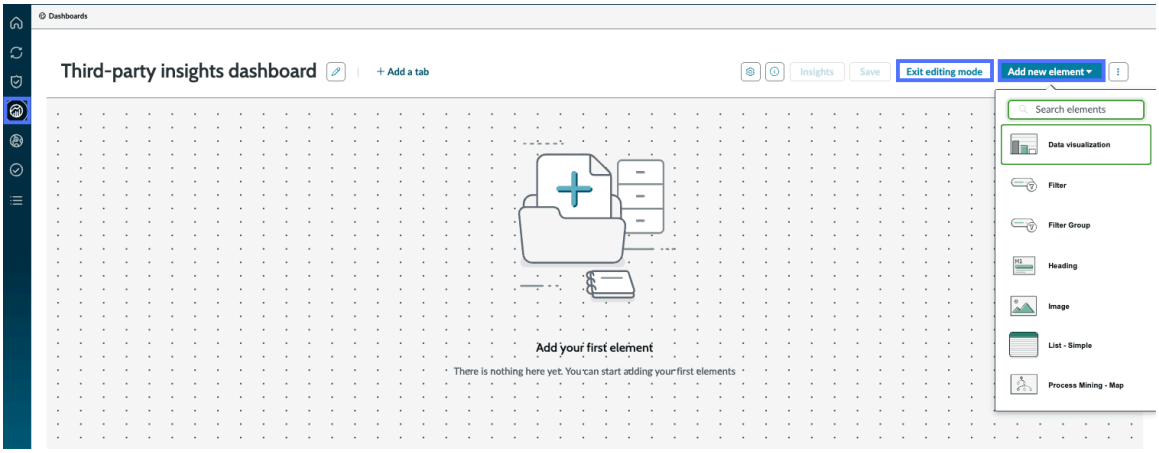
サードパーティインサイトダッシュボード

このダッシュボードは用途の広い空白のテンプレートであり、特定のニーズに合わせてダッシュボードをカスタマイズするのに役立つ手順が含まれています。データの可視化、棒グラフ、傾向分析、スコアレポートなどのさまざまな要素を追加して、カスタムセクションとデータの可視化を作成できます。TPR マネージャー、TPR 査定人、およびサードパーティアセスメントレビュー担当者はこのダッシュボードを表示できます。また、TPR マネージャーにはダッシュボードを編集および共有することもできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

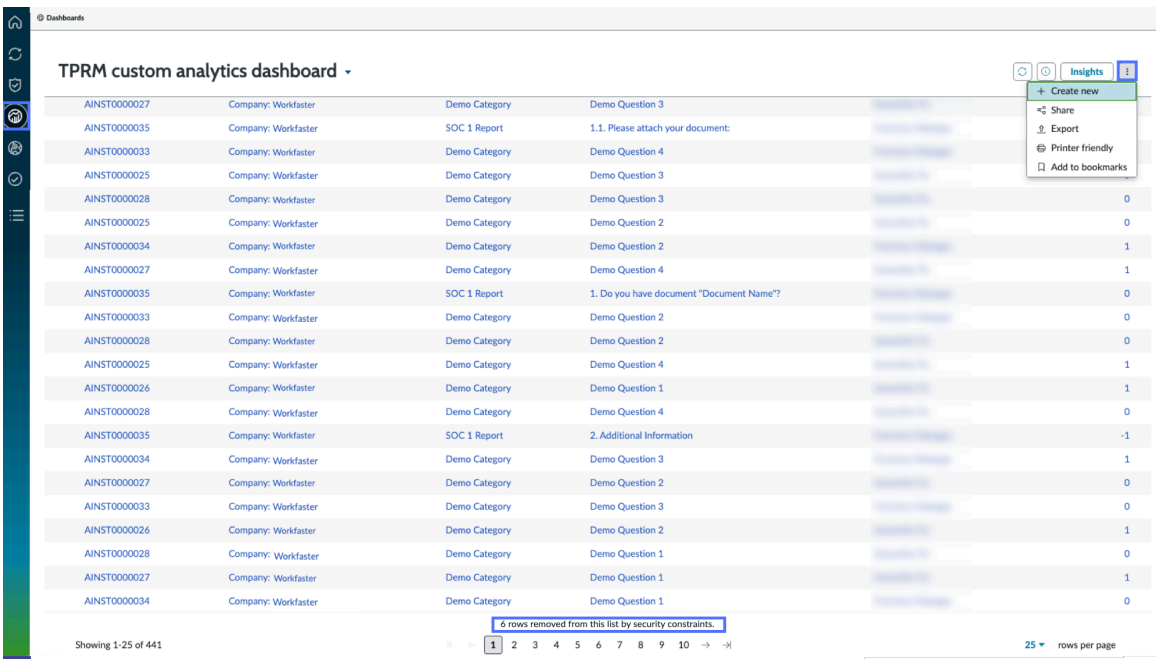
サードパーティインサイトダッシュボードの表示



TPRM カスタムアナリティクスダッシュボード

このダッシュボードは、ユーザーのロールに関連するすべてのアクティブなアンケートインスタンスを表示するデフォルトリストで事前設定されています。リストにはカスタマイズ可能な列があり、好みに応じてデータをフィルタリングしてグループ化できます。TPR マネージャーにはこのダッシュボードへのフル編集アクセス権がありますが、TPR 査定人とサードパーティアセスメントレビュー担当者には読み取りアクセス権のみがあります。このダッシュボードは、アセスメント応答を効率的に追跡および比較するための一元化されたハブとして機能し、アセスメントの管理を容易にします。

TPRMカスタムアナリティクスダッシュボードの表示



TPRMダッシュボードの作成と使用の詳細については、以下を参照してください。

- インラインエディターを使用した TPRM ダッシュボードの作成
- TPRMダッシュボードの詳細を編集
- TPRMダッシュボードの編集
- TPRMダッシュボード要素を編集する
- TPRMダッシュボードの共有

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- TPRMダッシュボードの削除
- TPRM ダッシュボードページ

ダッシュボードの詳細については、「 Dashboards in Platform Analytics 」を参照してください。

インラインエディターを使用した **TPRM** ダッシュボードの作成

データの可視化、フィルター、他のユーザーと共有できるその他の要素を含むダッシュボードを作成できます。インラインエディターから要素を作成したり、既存の要素を追加したりすることができます。

始める前に

作業内容は定期的に保存してください。

必要なロール:内部ロールを持つすべてのユーザーがダッシュボードを作成できます。

> **注:**
> テーブルデータに基づくデータの可視化は、ダッシュボードを共有しているユーザーと自動的に共有されます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース
2. [ダッシュボード] ページアイコン [
3. [その他のアクション] メニューアイコン を選択し、[新規作成] を選択します。
4. [インラインエディター] タイルを選択し、ダッシュボードに名前と説明を付けます。
   スクリプティング、データバインディング、およびその他の高度な機能を使用する場合は、[テクニカルエディター] タイルを選択して UI ビルダーを続行します。このエディターは、 UI ビルダーにアクセスできるユーザー (admin ロールまたは ui_builder_admin ロールを持つユーザー) のみが使用できます。他のロールがある場合は、手順 6 に進みます。テクニカルエディターの詳細については、「 Technical dashboards 」を参照してください。
5. **[Create new dashboard** (新規ダッシュボードを作成)] を選択します。
6. [インラインエディター] を選択します。
   テクニカルエディターオプションを選択すると、ダッシュボードとして扱われるページが UI ビルダーで開き、使用可能なコンポーネントのリストが表示されます。詳細については、「 UI ビルダー と Create a technical dashboard in UI Builder 」を参照してください。
7. [新しい要素を追加] を選択して、ダッシュボードにコンテンツを追加します。
   ダッシュボードに追加できるものについては、「 Exploring Platform Analytics dashboards 」を参照してください。

   データの視覚化を追加するときは、 [新しいデータの視覚化] を選択して新しい視覚化を作成するか、 [保存されたデータの視覚化] を選択してライブラリから 1 つ選択します。フィルターを追加するときは、[新しいフィルター] を選択して事前構成されたデータなしでフィルターを作成するか、[保存されたフィルター] を選択して既存のフィルターを再利用します。
8. ダッシュボードの詳細アイコン を選択して [詳細] パネルを開き、ダッシュボードの名前と説明を入力します。
   詳細については、「TPRMダッシュボードの詳細を編集」を参照してください。
9. キャンバス上のデータを配置して役立つようにします。
   要素の角を選択してドラッグし、キャンバス上でサイズを変更できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

10. [タブの追加] を選択して、追加のタブの詳細を表示するためのスペースを作成します。
11. 早期かつ頻繁に 保存 を選択します。
ダッシュボードインラインエディターでは、ダッシュボードの作成時にダッシュボードが自動的に保存されません。必ず定期的に作業内容を保存してください。

次のタスク

- TPRMダッシュボードの詳細を編集
- TPRMダッシュボード要素を編集する

TPRMダッシュボードの詳細を編集

ダッシュボード名の変更、説明の追加、認定、ヴィジビリティの設定、要求者、所有者、オーナーグループの指定を行うことができます。

始める前に

必要なロール:sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin または sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager は、[サードパーティインサイト] ダッシュボードと [TPRM カスタムアナリティクス] ダッシュボードを編集できます。

所有しているダッシュボードまたは編集権限を付与されているダッシュボードの任意のロール。

手順

1. 移動先 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース
2. [ダッシュボード] ページアイコン を選択し、編集するダッシュボードを選択します。
3. ダッシュボードの詳細アイコン [詳細] パネルを開きます。
[Details (詳細)] パネルでは、ダッシュボードのいくつかの側面を編集できます。

   a. [名前] フィールドを編集して、ダッシュボードの概要でのダッシュボードの表示方法を変更します。

   b. [説明] に入力して、ダッシュボードの目的に関する詳細なコンテキストを提供します。

   c. ダッシュボードを 認定 としてマークし、ダッシュボードが組織全体で使用されることをユーザーに通知します。

      注:
      ダッシュボードを 認定済みとしてマークするには、admin ロールが必要です。詳細については、「Certify a Platform Analytics dashboard」を参照してください。

   d. [ダッシュボードの可視化] で、ダッシュボードを表示できるワークスペースを表示、追加または削除します。
   admin ロールを持っている場合は、任意のダッシュボードのワークスペースを変更できます。他のユーザーは、自分が作成したダッシュボードのワークスペースのみを変更できます。詳細については、「TPRMダッシュボードの編集」を参照してください。

   e. 1 つ以上のダッシュボードカテゴリを指定します。
   詳細については、「Platform Analytics experience dashboard categories」を参照してください。

   f. ダッシュボードを要求したユーザーを指定します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このユーザーは責任ユーザーと見なされます。データの可視化は、編集権限を持って共有されます。

g. ダッシュボードの所有者を指定します。
デフォルトでは、所有者がダッシュボードの作成者ですが、作成者または所有者は別のユーザーに所有権をアサインできます。

h. オーナーグループを指定します。
ダッシュボードの所有者は、1 人ではなくグループ全体にすることができます。

i. ダッシュボードの作成者を確認します。

j. ダッシュボードが共有されているユーザーを確認します。

TPRMダッシュボードの編集

インラインエディターでダッシュボードとダッシュボードタブの情報を編集できます。ダッシュボードが共有されている場合、行った変更はすべてグローバルに適用されます。

始める前に

必要なロール:sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin または sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager は、[サードパーティインサイト] ダッシュボードと [TPRM カスタムアナリティクス] ダッシュボードを編集できます。

所有しているダッシュボードまたは編集権限を付与されているダッシュボードの任意のロール。

このタスクについて

作成したダッシュボードの詳細を編集できます。テクニカルエディターで作成されたダッシュボードのコンテンツを編集すると、UI ビルダーにリダイレクトされます。

重要:
デフォルトでは、ダッシュボードは編集ロックの対象となります。編集モードで同じダッシュボードを使用できるのは、一度に 1 人のユーザーのみです。ロックされたダッシュボードを表示している場合は、編集権限があっても編集できません。[ダッシュボードの詳細を 更新] アイコンと [表示] アイコンの横に、ロック中のユーザーのイニシャルが表示されます。イニシャルにカーソルを合わせると、ユーザーの名前、会社、ロールが表示されます。

[その他のアクション] メニューには、編集ロックをクリアするオプションが含まれています。このオプションは注意して使用してください。

手順

1. 移動先 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース.
2. [ダッシュボード] ページアイコン を選択し、編集するダッシュボードを選択します。
3. 編集するダッシュボードを選択します。
4. 次のいずれかのアクションを実行します。

注:
編集できない場合は、ダッシュボードを編集する権限がないか、編集ロックされています。

TPRMダッシュボード要素を編集する

データの可視化やフィルターなど、ダッシュボードまたはダッシュボードタブのコンテンツを編集できます。ダッシュボードは共有されているため、変更した内容はすべてグローバルに適用されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール:sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin または sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager は、[サードパーティインサイト] ダッシュボードと [TPRM カスタムアナリティクス] ダッシュボードを編集できます。

所有しているダッシュボードまたは編集権限を付与されているダッシュボードの任意のロール。

このタスクについて
ベンダー管理ワークスペースのインラインエディターとテクニカルエディターで作成されたダッシュボードの詳細を編集できます。テクニカルエディターで作成されたダッシュボードのコンテンツを編集すると、UI ビルダーにリダイレクトされます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース
2. [ダッシュボード] ページアイコン を選択し、編集するダッシュボードを選択します。
3. 次のいずれかのアクションを実行します。

> 注:
> ダッシュボードを編集できない場合は、ダッシュボードを編集する権限がありません。

関連情報

インラインエディターを使用した TPRM ダッシュボードの作成

TPRMダッシュボードの共有

TPRMダッシュボードの共有

ダッシュボードを他のユーザー、グループ、またはロールと共有して、コラボレーションに使用できるデータの共有ビューを作成します。表示権限、または表示権限と編集権限の両方を付与できます。

始める前に
必要なロール:sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin または sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager は、サードパーティのインサイトと TPRM カスタムアナリティクスダッシュボードを共有できます。

自分が所有するダッシュボードまたは共有権限を与えられたダッシュボードの任意のロール。

このタスクについて
共有が有効になっている場合は、共有されているダッシュボードを共有できます。共有されているダッシュボードを編集する権限がある場合は、その権限を共有している人に引き継ぐことができます。アドミニストレーターロールを持つユーザーは、すべてのダッシュボードを共有できます。

ダッシュボードを共有することで付与される編集権限は、ダッシュボード上の基礎となるデータ可視化には適用されません。付与された表示権限は、ダッシュボード自体の外部にあるダッシュボードの可視化には適用されません。

アドミンのみが [共有] パネルにロールを表示できます。

> 注:
> テーブルデータに基づくデータの可視化は、ダッシュボードを共有しているユーザーと自動的に共有されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース
2. [ダッシュボード] ページアイコン [ 、共有するダッシュボードを選択します。
3. [その他のアクション] メニューアイコン  を選択し、[共有] を選択します。
4. ダッシュボードを共有する 1 人以上のユーザー、グループ、またはロールの名前を入力します。
5. ダッシュボードを共有しているユーザーもダッシュボードを共有できるようにするには、[受信者にこのダッシュボードに関連付けられた共有権限の追加、編集、削除を許可する] を選択します。ユーザー、グループ、またはロールを閲覧者として追加すると、ダッシュボードを共有できるのは閲覧者のみです。ユーザー、グループ、またはロールをエディターとして追加すると、閲覧者またはエディターとしてダッシュボードを共有できます。

   重要:
   ダッシュボードまたはデータ可視化を共有する権限を付与すると、そのダッシュボードまたはデータ可視化に対する任意のユーザー、グループ、またはロールの共有権限を追加、編集、および削除する機能が含まれます。最初に編集アクセス許可が付与されていない場合、ユーザーはこの機能を使用して自分自身または他のユーザーに編集アクセス許可を付与することはできません。

6. 次のオプションのいずれかを選択します。

オプション	説明
閲覧者として追加	ダッシュボードを共有しているユーザー、グループ、またはロールにのみ表示権限を付与します。編集することはできません。
編集者として追加	ダッシュボードを共有しているユーザー、グループ、またはロールに編集権限を付与します。 ユーザーをエディターとして追加するには、ダッシュボードと同じアプリケーションスコープ内にいる必要があります。

7. オプション: [フィルターを含むリンクをコピー] または [リンクをコピー] を選択して、ダッシュボードの URL をクリップボードにコピーします。
   この URL は、[共有ダッシュボード] ダイアログを開いたときに開いていたタブを指します。[フィルターを含むリンクをコピー] では、ダッシュボードまたはダッシュボードタブで構成されているフィルターも適用されます。
8. [**Confirm** (確認)] を選択します。
9. オプション: [ダッシュボードの詳細] アイコン ⓘ で、ダッシュボードが共有されているユーザーとダッシュボードの表示場所を表示します。

TPRMダッシュボードの削除

役に立たなくなったダッシュボードは削除できます。アナリティクスセンターは、ワークフロースタジオを呼び出してインスタンスからダッシュボードを削除します。

始める前に

ダッシュボードを表示できるすべてのユーザーに、ダッシュボードを削除することを通知します。削除されたダッシュボードをブックマークしているユーザーがダッシュボードにアクセスしようとすると、エラーが表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

必要なロール:自分が作成したダッシュボードは削除できます。admin ロールを持っている場合は、ダッシュボードと同じアプリケーションスコープ内にいる必要があり、任意のダッシュボードを削除できます。

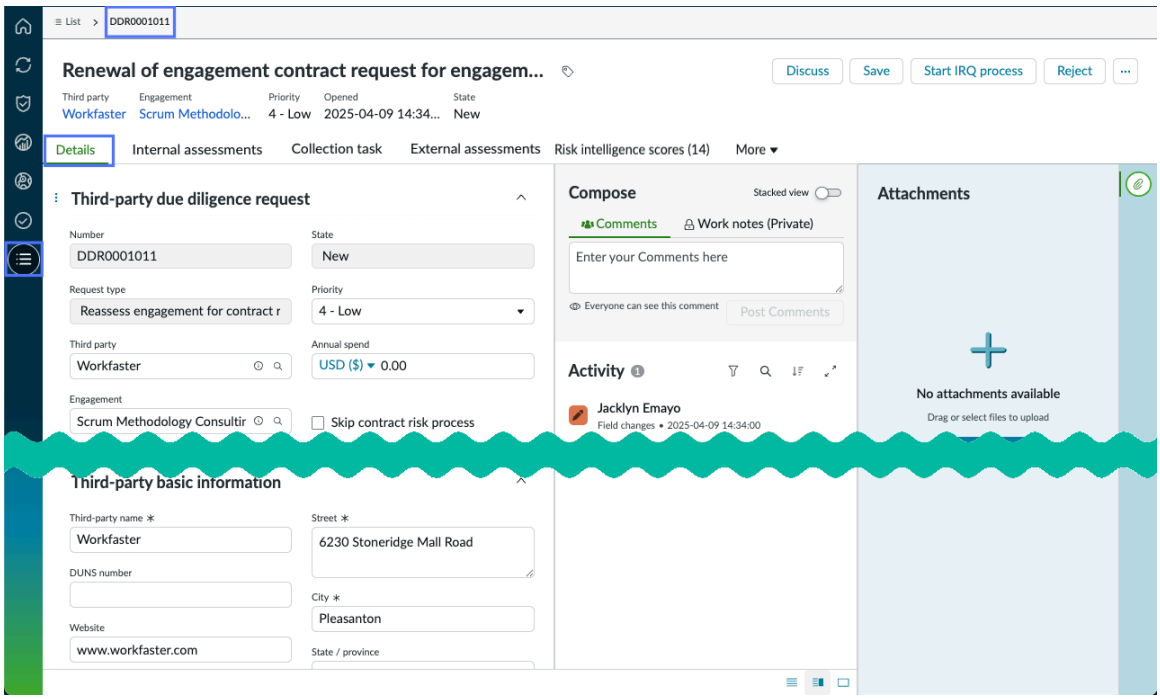
手順

1. 移動先 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース
2. [ダッシュボード] ページアイコン 次に、削除するダッシュボードを選択します。
3. [その他のアクション] メニューから [削除] を選択します。
4. 削除を確定します。
   このアクションを元に戻すことはできません。プラグインに関連付けられたダッシュボードを誤って削除した場合、アドミンはダッシュボードの元のバージョンを復元できます。
   a. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
   b. フィルター基準と検索バーを使用してプラグインを検索します。
   c. [その他のアクション] メニューボタン をクリックし、[修復] を選択します。
   d. [プラグインのアクティブ化] ウィンドウで [修理] を選択します。

デューデリジェンス要求プロセスの監視

TPR マネージャーと TPR アドミニストレーターは、デューデリジェンス管理ダッシュボードからさまざまなタスクを実行できます。デューデリジェンスリクエストのワークフロー内のすべてのプロセス (IRQ、外部デューデリジェンス、承認、契約リスク、クローズ済みの要求) で作業できます。

デューデリジェンス要求ごとに、テキスト「DDR」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。デューデリジェンス要求の **DDR** 番号を選択すると、多くの場所から [デューデリジェンス管理] ページにアクセスできます。ページが開き、 [詳細] タブが表示されます。通常は、TPRM ホームページへ。 から開始します。



要求管理ページからのプロセスの監視

[詳細] タブでの要求に関する基本情報の表示

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

[詳細] タブでは、サードパーティのデューデリジェンス要求情報を表示および調整できます。アクティビティストリームで、外部向けコメントやプライベート作業メモを記録したり、ファイルを添付したり、要求の更新を追跡したりすることもできます。「デューデリジェンス要求プロセス管理」を参照してください。

IRQ プロセスの監視

エンゲージメント要求が承認された後の最初の内部ステップでは、IRQ プロセスを開始し、サードパーティのリスクスコアを決定することでリスクの範囲を設定します。デューデリジェンス要求の **DDR** 番号を選択すると、多くの場所から [デューデリジェンス管理] ページにアクセスできます。「IRQ プロセス管理」を参照してください。

外部デューデリジェンスプロセスの監視

VRA 番号 を選択して、[デューデリジェンス管理] ページの外部アセスメントページを開きます。「サードパーティ (外部) リスクアセスメント管理」を参照してください。

承認プロセスの監視

DD 要求を承認または却下できるユーザーのリストを表示し、承認アクションの詳細を表示することもできます。さらに、要求の承認レベルを表示できます。「承認プロセスの管理」を参照してください。

サードパーティのリスクインテリジェンススコアの表示

[リスクインテリジェンススコア] タブの情報は、リスクインテリジェンスプロバイダーサービスから取得されます。任意のリンクを選択して、設定とスコアにドリルダウンします。「リスクインテリジェンススコアを表示する」を参照してください。

契約リスクプロセスの監視

サードパーティリスク管理 アプリケーションを使用して特定されたリスクに対処できるように、特定の契約条項を組み込むことにより、サードパーティリスク契約の交渉担当者 (多くの場合は企業顧問) として組織の利益を保護します。「契約リスクプロセスにある DD 要求へのアクセス」を参照してください。

[デューデリジェンス管理] ページのアクション

ヒント:
新しいレコード、たとえばデューデリジェンスまたはタスクの要求を作成 (またはシステムが生成) すると、レコード内のデータのタイプを識別するのに役立つ一意の ID 番号が自動的に割り当てられます。この ID 番号を使用して、作業するアイテムを検索またはフィルタリングできます。「TPRM レコードの一意の ID 番号」を参照してください。

アクション

アクション	説明
オンボーディングの開始	[新規] ステータスの要求の場合、このボタンにより、TPR マネージャーはプロセスを開始できます。
ディスカッション	[ディスカッション] を選択して、他のユーザーにメッセージを送信します。メッセージは、[詳細] タブの [アクティビティ] セクションに記録されます。
保存	[保存] を選択して、任意のタブで値に加えた変更を保存します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクション (続く)

アクション	説明
… 削除	エンゲージメント要求のレコードを削除するには、[削除] を選択します。
[作成] セクションでの操作	[詳細] タブの [作成] セクションでは、レコードに永続的にテキストを追加できます。[アクティビティ] セクションは、問題とタスクに対するアクション、TP 連絡先への送信、およびユーザーがレコードに追加する作業メモとコメントで更新されます。必要に応じて、次のフィールドにテキストを追加します。 • [作業メモ (プライベート)]：サードパーティリスクアセスメントに関する情報。作業メモは、プロセスにアサインされた内部ユーザーのみに表示されます。 • コメント：サードパーティリスクアセスメントに関するコメントは、内部ユーザーとサードパーティの連絡先の両方に表示されます。
添付ファイルの追加	添付ファイルを選択して追加するには、[添付ファイル] セクションで [参照] を選択します。

第 4 以上の関係者の監視

サードパーティリスク管理 アプリケーションを使用して、第 4 以上の関係者のサービスに依存するサードパーティリスクを特定して管理できます。第 4 以上の関係者を監視することで、第 4 以上の関係者がプライマリサードパーティと同じセキュリティおよびコンプライアンス基準に準拠していることを確認できます。

第 4 以上の関係者

第 4 以上の関係者は、サブサプライヤー、サービスプロバイダー、コンサルタント、またはサードパーティが製品またはサービスを提供するために依存しているその他の組織など、さまざまなエンティティを含みます。これらの関係者は、機密データ、システム、またはプロセスにアクセスできる可能性があり、潜在的なリスクの原因になります。

第 4 以上の関係者のリスクの例を以下に示します。

部品

会社ではサードパーティの物品を定期的に使用していますが、その物品は別のサプライヤーのハードウェア部品に依存しています。この場合、追加部品を提供する組織は第 4 の関係者であり、サードパーティによって提供される物品のダウンストリームリスクの潜在的な原因となります。

サービス

会社は、Automatic Data Processing (ADP) サービスを使用して給与アプリケーションを保存しています。ADP サービスは、Amazon Web サービス (AWS) を使用してデータを格納するサードパーティのサービスです。ADP サービスは、データを保護し、安全性を維持するためのセキュリティ対策とプロセスの導入に AWS に依存しています。多くの場合、AWS はプライマリサービスのサードパーティですが、この場合、AWS サービスはサードパーティ ADP の第 4 の関係者に当たります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2 つの第 4 の関係者を相互にリンクできます。たとえば、追加の部品を提供する組織が、ハードウェア部品の配送について別の第 4 の関係者に依存している場合に、リンクが発生する可能性があります。ただし、2 つの第 4 の関係者をリンクする場合は、ループを作成できません。開始ポイントは、サードパーティまたは第 4 の関係者のいずれかです。たとえば、第 4 の関係者 A に子の第 4 の関係者 B があり、さらに第 4 の関係者 B に子の第 4 の関係者 C がある場合です。第 4 の関係者 C は、第 4 の関係者 A に戻る子を持つことはできません。この制限により、第 4 の関係者間で循環依存関係が形成されないことを確認できます。

第 4 以上の関係者のアクション

リスク管理プログラムの一部として、第 4 以上の関係者の情報を手動で追加するか、第 4 の関係者の登録アンケートを使用してサードパーティから回答を収集して追加することができます。サードパーティにアンケートを送信する時間がない場合、または 1 つのレコードのみを作成する必要がある場合は、第 4 以上の関係者のレコードを手動で作成できます。これらの第 4 以上の関係者のレコードを確認して登録するか、手動で作成すると、ベンダー管理ワークスペース を使用して監視できるようになります。ビジネス関係が変化しても、第 4 以上の関係者のレコードをサードパーティレコードに昇格させることで、関連情報を最新の状態に保つことができます。このサードパーティレコードには既存の情報がすべて組み込まれており、その後既存の第 4 以上の関係者を既知の第 4 の関係者として指定します。

注:
スマートアセスメントエンジン (SAE) との継続的な統合の一環として、 スマートアセスメントエンジン 有効 (**sn_vdr_risk_asmt.sae_enabled**) プロパティを設定した後、第 4 の関係者によるアセスメントはサポートされません。

第 4 以上の関係者を管理および監視するために実行できるさまざまなアクションを次に示します。

第 4 以上の関係者を登録する

サードパーティリスク (TPR) 査定人またはマネージャーは、第 4 の関係者登録アンケートを使用して、サードパーティから回答を収集した後、第 4 以上の関係者を登録できます。第 4 の関係者登録アンケートは、サードパーティにのみ送信でき、エンゲージメントには送信できません。詳細については、「第 4 以上の関係者を登録する」を参照してください。

サードパーティに関連付けられている第 4 以上の関係者を表示する

関連するすべての第 4 以上の関係者を表示するには、ベンダー管理ワークスペース のサードパーティページの [ダウンストリームサプライヤー] タブに移動します。サードパーティにリンクされているすべての第 4 の関係者を表示することは、エンゲージメントとの関係を開始または継続するかについて、情報に基づいた意思決定を行うのに役立ちます。たとえば、サードパーティに関連付けられている第 4 の関係者が自動車業界においてリスクが高いことがわかっている場合でも、別の業界でのエンゲージメントを進めることは許容できるかもしれません。しかし、同じサードパーティとのエンゲージメントに自動車業界が関連している場合、リスクが高すぎると見なされる可能性があります。

関連するすべての第 4 以上の関係者を表示する方法の詳細については、「第 4 の関係者に関する情報の表示」を参照してください。

第 4 の関係者の概要セクションを表示する

ベンダー管理ワークスペース のホームページに移動すると、既知の第 4 の関係者 (サードパーティに関連付けられている子会社)、および不明な第 4 の関係者を表示できます。この概要ビューは、第 4 の関係者について利用できる情報の量と、それが他のサードパーティやエンゲージメントとどのように関連しているかを理解するのに役立ちます。たとえば、既知の第 4 の関係者である場合、サードパーティとして評価されている間に収集された既存のデューデリジェンス情報をすべて活用できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> 既知の第 4 の関係者は、リスク管理プログラムでサードパーティとして既に使用されている組織です。不明な第 4 の関係者は、サードパーティとして使用されていないまたは識別されていない第 4 の関係者としてのみ分類されます。

既知の第 4 の関係者 (サードパーティに関連付けられている子会社)、および不明な第 4 の関係者の表示の詳細については、「TPRM ホームページへ。」を参照してください。

第 4 以上の関係者のレコードを手動で作成する

TPR 査定人またはマネージャーは、第 4 以上の関係者のレコードを手動で作成できます。

第 4 以上の関係者のレコードを作成する方法の詳細については、「第 4 以上の関係者のレコードを作成する」を参照してください。

> **注:**
> 既存のサードパーティを第 4 以上の関係者として別のサードパーティに追加するには、ベンダー管理ワークスペースのサードパーティページの [ダウンストリームサプライヤー] タブに移動し、[追加] を選択します。追加後、既存のサードパーティは、選択したサードパーティのサードパーティおよび第 4 以上の関係者の両方として分類され、収集されたすべての情報が含まれます。

第 4 以上の関係者をサードパーティに昇格させる

TPR 査定人またはマネージャーは、第 4 以上の関係者のレコードをサードパーティに昇格させることができます。第 4 以上の関係者をサードパーティに昇格させると、サードパーティレコードが作成され、既存の第 4 以上の関係者は既知の第 4 の関係者として識別されます。

第 4 以上の関係者のレコードをサードパーティレコードに昇格させる方法の詳細については、「第 4 以上の関係者をサードパーティに昇格させる」を参照してください。

関連情報

第 4 の関係者に関する情報の表示

TPRM ホームページへ。

第 **4** 以上の関係者を登録する

サードパーティリスク管理 アプリケーションの第 4 の関係者登録アンケートを使用して、サードパーティから回答を収集した後、第 4 以上の関係者を登録します。第 4 の関係者登録アンケートを使用すると、一度に複数の第 4 以上の関係者のレコードを作成できます。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_assessor

> **注:**
> スマートアセスメントエンジン (SAE) との継続的な統合の一環として、 スマートアセスメントエンジン 有効 (**sn_vdr_risk_asmt.sae_enabled**) プロパティを設定した後、第 4 の関係者によるアセスメントはサポートされません。

手順

1. 新規またはアクティブな外部アセスメントの [第 **4** の関係者のテンプレート] タブに移動します。
2. 第 4 の関係者登録アンケートを外部アセスメントにアサインするには、[追加] を選択し、第 4 の関係者登録アンケートを選択します。

   第 4 の関係者登録アンケートは、サードパーティにのみ送信できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

ベースシステムの一部として含まれている第 4 の関係者登録アンケートを使用する必要があります。サードパーティは、各セクションの最初の 2 つの質問に回答する必要があります。各セクションの最初の 8 つの質問は、回答を新しい第 4 の関係者のレコードにマッピングするために使用されるので、変更しないでください。

アセスメントの詳細については、「サードパーティリスクのアセスメント」を参照してください。

3. サードパーティ連絡先から回答を受け取った後、アセスメントの [ダウンストリームサプライヤー] タブに移動し、収集された第 4 以上の関係者の情報を確認します。
4. リスト内の各第 4 以上の関係者を表示して、その関係者が存在するかどうかを確認し、存在しない場合は [新しい第 **4** の関係者を作成] を選択します。

ダウンストリームサプライヤーのリスト

フィールド	説明
名前	レコードに関連付けられている第 4 以上の関係者の名前。
URL	第 4 以上の関係者の URL。
ダウンストリームサプライヤー	第 4 以上の関係者が承認されてアクティブになった後に使用される第 4 の関係者のレコード。 既存の第 4 以上の関係者を入力するには、ダウンストリームサプライヤーフィールドをダブルクリック (またはキーボードショートカットを使用) し、虫眼鏡アイコン を選択します。 このアクションは、既存のレコードを表示して重複レコードの作成を回避するのに役立ちます。
DUNS 番号	単一のビジネスエンティティの一意の数値識別子。 DUNS 番号は、ビジネスには法的に義務付けられていません。
ステータス	登録プロセスの現在のステータス：レビュー中、アクティブ、または 無視。

5. 各第 4 の関係者のレコードをアクティブにするには [承認] を選択し、レコードを非アクティブのままにするには [無視] を選択します。
第 4 以上の関係者のレコードがアクティブになると、完全に登録され、リスク管理プログラムで使用できるようになります。

第 4 以上の関係者の詳細については、「第 4 以上の関係者の監視」を参照してください。

第 **4** 以上の関係者のレコードを作成する

サードパーティリスク管理 アプリケーションを使用して、第 4 以上の関係者のレコードを作成します。第 4 の関係者登録アンケートを使用する代わりに、第 4 以上の関係者のレコードを手動で作成できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_assessor

> **注:**
> スマートアセスメントエンジン (SAE) との継続的な統合の一環として、 スマートアセスメントエンジン 有効 (**sn_vdr_risk_asmt.sae_enabled**) プロパティを設定した後、第 4 の関係者によるアセスメントはサポートされません。

このタスクについて
第 4 以上の関係者のレコードを 1 つのみ作成する必要がある場合、またはサードパーティにアンケートを送信する時間がない場合は、第 4 以上の関係者のレコードを手動で作成できます。複数の第 4 以上の関係者のレコードを作成して登録するには、「第 4 以上の関係者を登録する」を参照してください。

手順

1. 移動先 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース.
2. リストアイコン ( )を選択し、 サードパーティ > すべての第 **4** の関係者.
3. **[New** (新規)] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

新規会社の作成フォーム

フィールド	説明
会社セクション	
名前	レコードに関連付けられている第 4 以上の関係者の名前。
ステータス	第 4 以上の関係者のステータス： ○ アクティブ ○ オンボーディング ○ 見込み客 ○ 無許可のアクティブ ○ 終了 ○ オンボーディングが却下されました **注:** 第 4 以上の関係者のレコードがアクティブになると、リスク管理プログラムで使用することができます。
Web サイト	第 4 以上の関係者の URL。
DUNS 番号	単一のビジネスエンティティの一意の数値識別子。 DUNS 番号は、ビジネスには法的に義務付けられていません。
メモ	第 4 以上の関係者に関する追加情報。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
連絡先セクション	
番地、市区町村、都道府県、郵便番号、国、電話番号、ファックス	サードパーティ組織の標準の連絡先情報。

5. [保存] を選択します。
6. 目的のサードパーティの [ダウンストリームサプライヤー] タブに移動し、[追加] を選択して、アクティブな第 4 以上の関係者のレコードをサードパーティに関連付けます。
   第 4 以上の関係者のレコードがアクティブで、サードパーティに関連付けられています。

   第 4 以上の関係者の詳細については、「第 4 以上の関係者の監視」を参照してください。

第 4 以上の関係者をサードパーティに昇格させる

サードパーティリスク管理 アプリケーションを使用して、第 4 以上の関係者レコードをサードパーティに昇格します。現在、サードパーティレベルで第 4 以上の関係者と協力している場合は、第 4 以上の関係者のレコードをサードパーティレコードに昇格させることで、関連情報を最新の状態に保つことができます。

始める前に
必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_assessor

> **注:**
> スマートアセスメントエンジン (SAE) との継続的な統合の一環として、 スマートアセスメントエンジン 有効 (**sn_vdr_risk_asmt.sae_enabled**) プロパティを設定した後、第 4 の関係者によるアセスメントはサポートされません。

このタスクについて
新しいエンゲージメントのデューデリジェンスを要求する準備をするときに、レコードを作成するのではなく、既存の第 4 以上の関係者のレコードをサードパーティレコードにアップグレードできます。このサードパーティレコードには、既存の第 4 以上の関係者情報が自動的に入力されますが、元の第 4 以上の関係者のレコードとその関係はそのまま残ります。

たとえば、会社 A が新しいプロジェクトを進めており、サプライヤーであるサプライヤー B とのエンゲージメントについてデューデリジェンスを実施する必要があるとします。以前は、サプライヤー B は別のサードパーティであるサプライヤー A によって管理される下請け業者であったため、第 4 の関係者と見なされていました。しかし、この新しいプロジェクトでは、会社 A は新しいプロジェクトでサプライヤー B と直接連携することにしました。会社 A は、レコード内でサプライヤー B を第 4 の関係者からサードパーティに昇格します。このシナリオは、サプライヤー B が会社 A に直接関連付けられ、会社 A がサプライヤー B との新しいエンゲージメントについてデューデリジェンスを実施できることを意味します。サプライヤー B は会社 A のサードパーティであり、かつサプライヤー A の第 4 の関係者でもあります。

手順
1. 移動先 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース.
2. リストアイコン (を選択し、 サードパーティ > すべての第 **4** の関係者.
3. 目的の第 4 の関係者を選択します。
4. [サードパーティとして追加] を選択します。
   既存の第 4 以上の関係者のレコード情報をすべて組み込んだサードパーティレコードが作成され、その第 4 以上の関係者は既知の第 4 の関係者として指定されます。既知の第 4 の関係者は、デューデリジェンスワークフローの一部としてリスク評価が実施済みか、または現在進行中です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

第 4 以上の関係者とその対応するサードパーティレベルで利用可能なすべてのデューデリジェンス情報にアクセスできます。

第 4 以上の関係者の詳細については、「第 4 以上の関係者の監視」を参照してください。

サードパーティ要素の監視

サードパーティリスク管理アプリケーションを使用して、スケーラブルなスコアリングモデル、関係分析、およびデューデリジェンスワークフロー統合を通じてサードパーティ要素を監視できます。サードパーティ要素を監視し、その情報を活用することは、サードパーティリスクプログラムの一部として、より多くの情報に基づいたリスクアセスメントを実施するのに役立ちます。

サードパーティ要素の概要

サードパーティ要素 (TP 要素) とは、エンゲージメントが商品、サービス、またはサポートの提供のために依存する外部組織のことです。これらの組織には、サプライヤー、請負業者、施設、個人、またはエンゲージメントのシステム、データ、または設備にアクセスできるその他の外部組織が含まれます。

以下に TP 要素クラスとリスクの例を示します。

データセンター

エンゲージメントまたはサードパーティがデータおよび IT インフラの保管、処理、管理を外部委託する施設または場所。データセンターでは、データ侵害、ダウンタイム、またはコンプライアンス違反が発生し、エンゲージメントが予期しないリスクにさらされる可能性があります。この例は、「施設」TP 要素として分類されます。

製造施設

エンゲージメントまたはサードパーティが製品の製造または組み立てを外部委託する施設または場所。製造施設では、サプライチェーンの中断、偽造部品、または規制コンプライアンスの問題が発生し、エンゲージメントが予期しないリスクにさらされる可能性があります。この例は、「施設」TP 要素として分類されます。

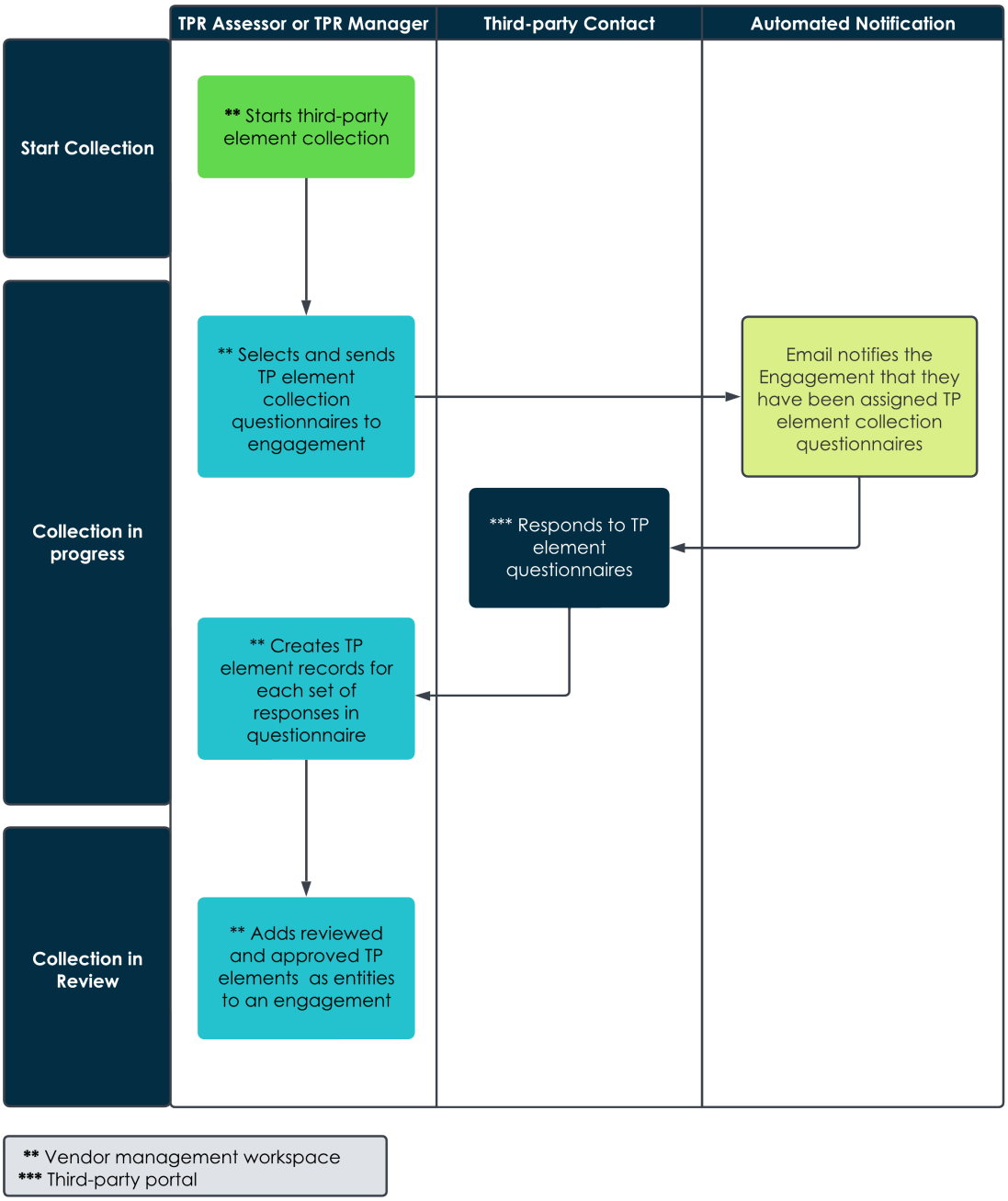
受益者

事業関係や取引に関与する組織を所有またはコントロールする個人のことです。これらの個人は、組織の登記上の所有者または法的所有者でなくても、組織の運営、意思決定、財務に対して重大な影響力またはコントロールを及ぼすことができます。この例は、「プリンシパル」TP 要素として分類されます。

次のインフォグラフィックは、TP 要素収集プロセスを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



サードパーティ (TP) 要素の詳細と、関連するコントロールと潜在的なリスクの例については、「用語」を参照してください。

サードパーティ要素の収集とレビュー

サードパーティ要素の収集とレビューはオプションです。サードパーティリスク (TPR) 査定人 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor] ロールを持っており、デューデリジェンス要求の所有者であるか、または TPR マネージャー [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager] ロールを持っている場合は、デューデリジェンス要求が固有のリスクに関するアンケート (IRQ) プロセスを完了した後に、このプロセスを開始できます。

次のプロセスに従って、TP 要素を収集してレビューします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. ベンダー管理ワークスペース で、TP 要素が必要な場合、サードパーティリスク (TPR) マネージャーまたはデューデリジェンス要求の所有者は [収集を開始] を選択し、収集タスクが作成されます。
2. TPR マネージャーまたは所有者は、要素を収集するための外部アセスメントを開き、関連する TP 要素収集アンケートを追加します。
3. TPR マネージャーまたは所有者がアンケートをレビューして承認し、エンゲージメントに送信します。アセスメントの詳細については、「サードパーティリスクのアセスメント」を参照してください。
4. ベンダー管理ワークスペース で、TPR マネージャーまたは所有者は、アンケートを開き、必要な情報がすべて提供されたことを確認します。
5. TPR マネージャーまたは所有者は、次に TP 要素のリストに移動し、各アンケートの回答セットごとに TP 要素レコードを手動で作成します。
6. すべての TP 要素を作成した後、TPR マネージャーまたは所有者は、収集タスクのアセスメントをクローズします。要求のステータスが [収集中] から [収集中] に変更されます。
7. 内部ステークホルダー (TPR 査定人、TPR 承認者、TPR マネージャー、または TPR アドミニストレーター) が要素レコードをレビューして承認します。

詳細については、「サードパーティ要素レコードの作成」を参照してください。

エンゲージメントへのサードパーティ要素の追加

ベンダー管理ワークスペース で TPR マネージャーと内部ステークホルダーによって TP 要素がレビューおよび承認された後、TPR マネージャーまたは所有者は、エンゲージメントを開き、エンゲージメントの [エンティティ] タブに、レビューおよび承認された TP 要素をエンティティとして手動で追加します。詳細については、「エンゲージメントにサードパーティ要素レコードを追加する」を参照してください。すべての TP 要素エンティティをエンゲージメントに追加したら、デューデリジェンスプロセスを開始できます。デューデリジェンスプロセス中に、作成した各 TP 要素の外部アセスメントの一部としてアンケートを選択してアサインする必要があります。サードパーティ連絡先が TP 要素のアンケートに入力します。詳細については、「サードパーティリスクのアセスメント」を参照してください。

サードパーティ要素のスコアリング

各 TP 要素は、施設、製品、プリンシパル、またはその他のいずれかのタイプに分類できます。この分類は、アセスメント基準とその後のスコアリングを整理するのに役立ちます。TP 要素のスコアリングは、関連するサードパーティリスクアセスメントのリスク評価の平均を取ることによって決定されます。同じ TP 要素に対して複数のアセスメントを実施した場合、システムは重複を無視して、各エンゲージメントの最新のアセスメントのみをスコアリングで考慮します。このプロセスによって、TP 要素のリスク評価が最新の評価を反映していることを確実にすることができます。たとえば、TP 要素に非常に高いリスク評価と非常に低いリスク評価のアセスメントがある場合、これらの評価を平均することによって、全体的なリスクは中程度になります。

要素が評価され、リスク評価が決定された後、この評価はまず、その分類 (施設など) に基づくコンポーネントスコアに集計されます。たとえば、すべての施設タイプの要素が 1 つのコンポーネントスコアに集計され、エンゲージメントの全体的なスコアに加算されます。エンゲージメントスコアは、そのエンゲージメント内の関連するすべてのコンポーネントスコアのスコアを集計することによって計算されます。複数のアセスメントまたは TP 要素がエンゲージメント内にある場合は、それぞれが個別に採点され、全体的なエンゲージメントスコアに集計されます。エンゲージメントスコアは、特定のサードパーティに関連付けられているすべてのエンゲージメントのスコアを集計することによって、サードパーティレベルにロールアップされます。このレベルでの集計は、システム内で設定されたスコアリングルールに応じて、平均化、最小スコアの取得、最大スコアの取得などのさまざまなルールに基づいて計算することができます。このロールアップスコアは、サードパーティの全体

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

的なリスクまたはパフォーマンススコアを表し、サードパーティに関連付けられているすべてのエンゲージメントと要素を反映します。

> **注:**
> 特定のリスクプログラム要件を満たすために独自の TP 要素分類を作成することができます。分類の作成とスコアリングのための重み付けの割り当ての詳細については、「サードパーティ要素フォーム」と「コンポーネント基準を定義する」を参照してください。

サードパーティ要素レコードの作成

サードパーティリスク管理 アプリケーションで収集テンプレートアンケートを使用してサードパーティから回答を収集した後、サードパーティ要素レコードを作成します。サードパーティ要素レコードが作成されると、要素エンティティをエンゲージメントにアサインできるようになります。

始める前に

サードパーティ (TP) 要素の収集プロセスを開始できるようにするために、デューデリジェンス要求が固有のリスクに関するアンケート (IRQ) プロセスを完了していることを確認してください。

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor (デューデリジェンス要求の所有者) または sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager

このタスクについて

ベンダー管理ワークスペース で、サードパーティリスク (TPR) マネージャーまたはデューデリジェンス要求の所有者がデューデリジェンス要求の [収集を開始] を選択すると、収集タスクが作成されます。収集タスクは、要素を収集するための外部アセスメントです。収集テンプレートアンケートの回答を受け取って確認した後、サードパーティリスク (TPR) マネージャーまたはデューデリジェンス要求の所有者は、サードパーティ要素レコードを作成します。サードパーティ要素レコードが作成された後に、対応するエンティティレコードが作成されます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース.
2. リストアイコン (を選択し、 デューデリジェンス要求 > すべての要求.
3. 必要なデューデリジェンス要求を選択します。
4. デューデリジェンス要求の [収集タスク] タブで、外部アセスメント (VRA) 番号を選択して、要素を収集するための外部アセスメントを開きます。
5. アンケートテンプレート タブで、追加 を選択してサードパーティ要素アンケートを外部アセスメントに割り当て、コレクションテンプレートアンケートを選択します。

   サードパーティ要素のアンケートは、サードパーティにのみ送信できます。

   アセスメントの詳細については、「サードパーティリスクのアセスメント」を参照してください。
6. エンゲージメント連絡先から回答を受け取った後に、アセスメントの [リスク概要] タブに移動します。
7. [アンケートと文書要求] セクションで、収集テンプレートアンケートを選択し、回答を確認します。
8. 必要な情報をすべて受信したことを確認したら、リストアイコン (を選択し、次に移動します: サードパーティ要素 > すべてのサードパーティ要素.
9. [新規] を選択してサードパーティ要素レコードを作成し、サードパーティ要素アンケートの各回答セットで収集された情報を使用してフォームに入力します。
   各フィールドの説明については、「サードパーティ要素フォーム」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> TP 要素の分類では、サードパーティ要素に適用されるスコアリングモデルを決定します。に移動して、新しいサードパーティ要素分類を作成できます すべて > サードパーティリスク管理 > サードパーティ要素 > 分類.

10. **[Submit** (送信)] を選択します。
    サードパーティ要素および関連付けられたエンティティが作成されました。関連付けられたエンティティレコードを表示するには、 [エンティティに移動] を選択します。

次のタスク

要素を収集するための外部アセスメントをクローズし、エンゲージメントの [エンティティ] タブで要素をエンティティとして手動で追加します。すべてのサードパーティ要素をエンゲージメントに割り当てた後、デューデリジェンスプロセスを開始できます。詳細については、「エンゲージメントにサードパーティ要素レコードを追加する」と「サードパーティ要素の監視」を参照してください。

エンゲージメントにサードパーティ要素レコードを追加する

サードパーティリスク管理 アプリケーションを使用して、エンゲージメントにサードパーティ要素レコードをアサインします。エンゲージメントに要素エンティティをアサインすると、サードパーティリスクマネージャーと内部ステークホルダーは、デューデリジェンスプロセスの一環としてそれを評価できます。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor (デューデリジェンス要求の所有者) または sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager

このタスクについて

サードパーティ要素は、サードパーティリスクマネージャーと内部のステークホルダーによってレビューおよび承認された後、エンゲージメントにアサインできます。詳細については、「サードパーティ要素の監視」と「サードパーティ要素レコードの作成」を参照してください。

手順

1. 移動先 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース.
2. リストアイコン ( を選択し、 サードパーティ > すべてのエンゲージメント.
3. エンゲージメントを選択します。
4. エンゲージメントの [エンティティ] タブに移動します。
5. [追加] を選択して、エンゲージメントにサードパーティ要素をアサインします。
   サードパーティ要素がアクティブになり、アセスメントに利用できるようになります。

管理対象アクティビティの追跡

サードパーティリスク管理 アプリケーションでの追跡と検証を目的として、利用状況アナリティクスアクティビティテーブルで管理対象アクティビティを表示します。

管理対象アクティビティの概要

利用状況アナリティクスアクティビティ [sn_vdr_risk_asmt_ua_activity] テーブルでは、管理対象アクティビティを追跡および検証できます。

契約年ごとに管理対象アクティビティが 1 つであるか多数であるかに関係なく、エンゲージメントでは 1 つのライセンスのみを使用します。管理対象アクティビティの使用は、アクティビティが開始されたときにのみトリガーされます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デューデリジェンスオンボーディングワークフローを経ている新しいサードパーティに関連するアクティビティは、管理対象アクティビティとしてカウントされません。つまり、新しいサードパーティは、会社 [core_company] テーブルに存在しない会社として定義されます。

以下のアクティビティのいずれかが、デューデリジェンスオンボーディングワークフローを経ている新しいサードパーティに関連していない場合、それらは管理対象アクティビティとしてカウントされます。

- システムによって送信される固有のリスクに関するアンケート (IRQ) のステータスは、[応答待ち **(Awaiting response)]** です。詳細については、「サードパーティリスクのアセスメント」を参照してください。
- システムによって送信されるアンケートによる階層アセスメントのステータスは、 [応答待ち **(Awaiting response)]** です。詳細については、「VRM階層アセスメントを作成」を参照してください。
- システムによって送信されるアンケートによるサードパーティリスクアセスメントのステータスは、[サードパーティに送信済み] です。詳細については、「外部アセスメントのライフサイクル状況」を参照してください。
- サードパーティリスクアセスメントのタスクまたは問題の作成。詳細については、「サードパーティまたはエンゲージメントにタスクを作成」と「サードパーティまたはエンゲージメントに問題を作成」を参照してください。

サードパーティのリスクアセスメントまたはデューデリジェンス要求がイベント駆動型管理ルールによって自動的に作成され、後で取り消された場合、それらは管理対象アクティビティとしてカウントされません。イベント駆動型管理ルールに関連するアセスメントは、サードパーティに送信されるまでは取り消すことができます。詳細については、「イベント駆動型管理 — アセスメントプロセスの自動化」を参照してください。

注:
アセスメントがイベント駆動型管理ルールに関連していない場合、取り消すことはできず、管理対象アクティビティとしてカウントされます。アセスメントがキャンセルされても、管理対象アクティビティとみなされます。

検証のための利用状況アナリティクスアクティビティテーブルの使用

利用状況アナリティクスアクティビティテーブルには、管理対象アクティビティが発生するたびにレコードが格納されます。このテーブルは読み取り専用です。2 年以上経過したレコードは自動的にアーカイブされます。このテーブルを表示するには、サードパーティのアセスメントレビュー担当者 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessment_reviewer] ロールが必要です。

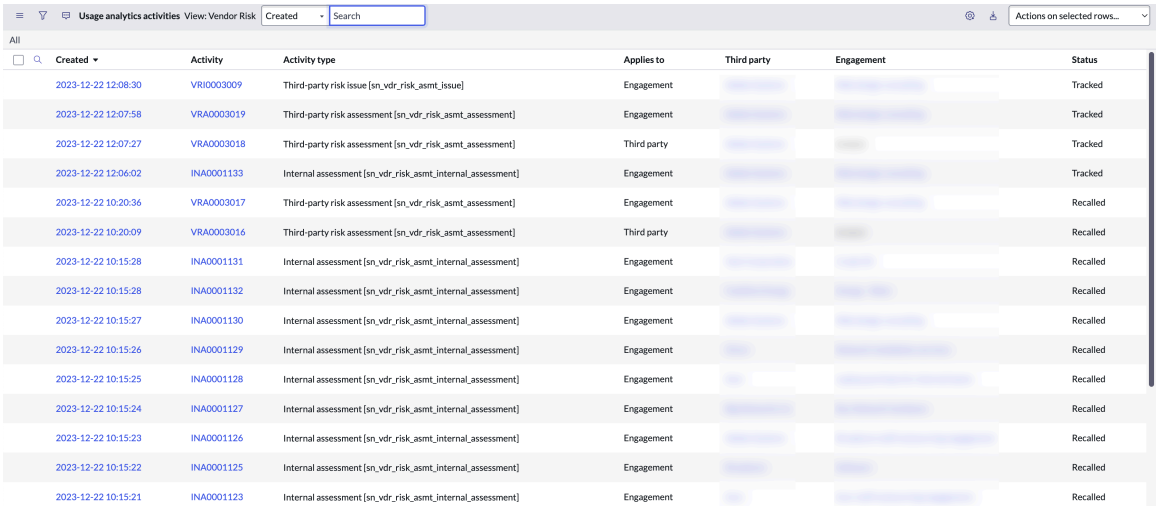
[利用状況アナリティクスアクティビティ] テーブルにアクセスするには、 すべて > サードパーティリスク管理 > アドミニストレーション > 管理対象アクティビティアナリティクス.

次の例と表は、利用状況アナリティクスアクティビティ [sn_vdr_risk_asmt_ua_activity] テーブルを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

利用状況アナリティクスアクティビティテーブル



Created	Activity	Activity type	Applies to	Third party	Engagement	Status
2023-12-22 12:08:30	VRI0003009	Third-party risk issue [sn_vdr_risk_asmt_issue]	Engagement			Tracked
2023-12-22 12:07:58	VRA0003019	Third-party risk assessment [sn_vdr_risk_asmt_assessment]	Engagement			Tracked
2023-12-22 12:07:27	VRA0003018	Third-party risk assessment [sn_vdr_risk_asmt_assessment]	Third party			Tracked
2023-12-22 12:06:02	INA0001133	Internal assessment [sn_vdr_risk_asmt_internal_assessment]	Engagement			Tracked
2023-12-22 10:20:36	VRA0003017	Third-party risk assessment [sn_vdr_risk_asmt_assessment]	Engagement			Recalled
2023-12-22 10:20:09	VRA0003016	Third-party risk assessment [sn_vdr_risk_asmt_assessment]	Third party			Recalled
2023-12-22 10:15:28	INA0001131	Internal assessment [sn_vdr_risk_asmt_internal_assessment]	Engagement			Recalled
2023-12-22 10:15:28	INA0001132	Internal assessment [sn_vdr_risk_asmt_internal_assessment]	Engagement			Recalled
2023-12-22 10:15:27	INA0001130	Internal assessment [sn_vdr_risk_asmt_internal_assessment]	Engagement			Recalled
2023-12-22 10:15:26	INA0001129	Internal assessment [sn_vdr_risk_asmt_internal_assessment]	Engagement			Recalled
2023-12-22 10:15:25	INA0001128	Internal assessment [sn_vdr_risk_asmt_internal_assessment]	Engagement			Recalled
2023-12-22 10:15:24	INA0001127	Internal assessment [sn_vdr_risk_asmt_internal_assessment]	Engagement			Recalled
2023-12-22 10:15:23	INA0001126	Internal assessment [sn_vdr_risk_asmt_internal_assessment]	Engagement			Recalled
2023-12-22 10:15:22	INA0001125	Internal assessment [sn_vdr_risk_asmt_internal_assessment]	Engagement			Recalled
2023-12-22 10:15:21	INA0001123	Internal assessment [sn_vdr_risk_asmt_internal_assessment]	Engagement			Recalled

利用状況アナリティクスアクティビティ

フィールド	説明
作成日時	アクティビティが発生した日時。
アクティビティ	アクティビティに関連するレコード。
アクティビティタイプ	階層アセスメント、内部アセスメント、サードパーティリスクアセスメント (TPRA)、問題、およびタスクに関連付けることができる管理対象アクティビティ。
適用先	• [サードパーティ]：アクティビティは親サードパーティの組織に適用されます。 • [エンゲージメント]：アクティビティはエンゲージメントに適用されます。
サードパーティ	アクティビティに関連するサードパーティ。
エンゲージメント	アクティビティに関連するエンゲージメント。
ステータス	アクティビティのステータス: • 追跡済み：アクティビティがログに記録されます。 • 取り消し済み：アクティビティが発生した後にユーザーによって取り消されました。

注:
アセスメントによって更新される算出されたリスクスコアは、管理対象アクティビティです。ただし、それらは使用状況アナリティクスアクティビティ [sn_vdr_risk_asmt_ua_activity] テーブルには記録されません。リスクインテリジェンススコアプロバイダーからのスコア更新は、管理対象アクティビティではありません。リスクインテリジェンススコアの詳細については、「リスクインテリジェンススコアを表示する」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デューデリジェンスの要求の承認または却下

アンケートの回答とデューデリジェンスプロセスの結果を確認した後、サードパーティリスク管理アプリケーションでデューデリジェンス要求を承認または却下するために使用するデューデリジェンス要求の承認レベルとルールをセットアップします。

承認プロセスの概要

承認レベルとルールは、デューデリジェンス要求の承認者としてアサインするチームメンバーを決定するために使用されます。承認プロセスでは、承認者が、サードパーティ連絡先から提供された外部アンケートの回答とサポートドキュメントをレビューします。また、承認者は、デューデリジェンスプロセス中に収集されたその他の情報も考慮します。承認者は、レビューされた情報の解釈に応じて、デューデリジェンス要求を承認または却下できます。

承認、承認レベル、および承認ルールの管理の詳細については、「 承認プロセスの管理」を参照してください。

注:
ワークフローに関連するマルチレベルの承認では、 ワークフロースタジオを使用して更新する必要があります。ワークフロースタジオ を使用してフローを作成する方法の詳細については、「Create a flow in Workflow Studio 」を参照してください。

承認レベルとルールの設定

デューデリジェンス要求の承認レベルとルールを作成するには、アドミンまたはサードパーティリスク (TPR) アドミン [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin] ロールが必要です。それぞれに異なる承認ルールを含む、最大 10 の異なる承認レベルを作成できます。各承認レベルでは、アサインされた承認者に適用される、さまざまなフィルター条件を持つ 1 つ以上のルールをアサインできます。たとえば、エンゲージメントのリスク評価と場所に応じて、デューデリジェンス要求に異なる承認者をアサインする必要がある場合があります。

サードパーティデューデリジェンスのデフォルト構成では、承認レベル 1、2、3 の 3 つのレコードを作成できます。レベル 1 には 3 つのルール、レベル 2 には 2 つのルール、レベル 3 には 2 つのルールがあります。次の例は、フィルター条件を使用してこれらのルールをアサインする方法を示しています。

- レベル 1
  - ルール 1：リスク評価の低いエンゲージメントを承認するために、ユーザー A とユーザー B がアサインされます。
  - ルール 2：リスク評価が中程度のエンゲージメントを承認するために、ユーザー C とユーザー D がアサインされます。
  - ルール 3：リスク評価の高いエンゲージメントを承認するために、ユーザー E とユーザー F がアサインされます。
- レベル 2
  - ルール 1:アジア/太平洋地域でのエンゲージメントを承認するために TPR マネージャーがアサインされます。
  - ルール 2：ヨーロッパ/北米でのエンゲージメントを承認するために、TPR マネージャーがアサインされます。
- レベル 3
  - ルール 1： リスク評価が高い特定の地域でのエンゲージメントを承認するために、すべての TPR アドミニストレーターがアサインされます。
  - ルール 2：リスク評価が非常に高い特定の地域でのエンゲージメントを承認するために、すべての TPR アドミニストレーターがアサインされます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

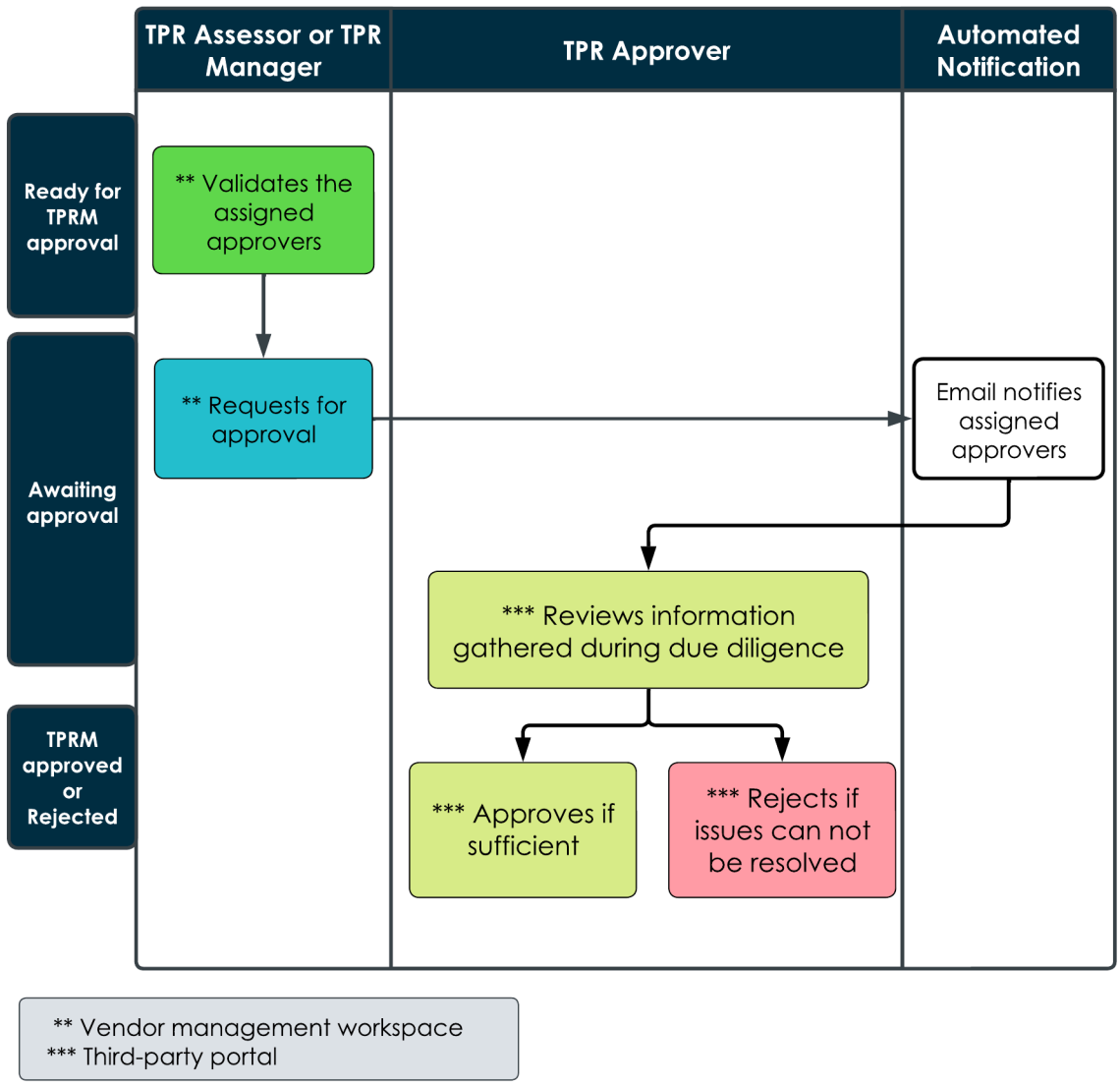
承認プロセスでは、最初にレベル 1 がトリガーされます。アサインされたすべてのユーザーがレベル 1 の条件を承認すると、レベル 2 がトリガーされ、以下同様に続きます。レベル 1 でアサインされたユーザーがデューデリジェンス要求を却下した場合、レベル 2 はトリガーされず、デューデリジェンス要求は却下されます。可能な評価の定義の詳細については、「採点用のリスク評価スケールの設定」を参照してください。

注:
ベースシステムの一部として含まれているサードパーティのデューデリジェンスのデフォルト構成を使用することも、デフォルト構成を非アクティブ化して、別のテーブルに適用される承認構成を作成することもできます。詳細については、「承認構成レコードを設定する」を参照してください。

承認レベルとルールの設定の詳細については、「デューデリジェンス要求の承認レベルの設定」および「デューデリジェンス要求の承認ルールの設定」を参照してください。

デューデリジェンス要求の承認

次のインフォグラフィックは、承認プロセスを示しています。



すべてのアセスメントがクローズされると、デューデリジェンス要求は TPRM 承認準備完了ステータスになります。デューデリジェンス要求のオーナーとしてアサインされた TPR マネージャー [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager] または TPR 査定人

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor] は、承認者がデューデリジェンス要求にアサインされていることを確認します。アサインされた承認者を検証した後、TPR マネージャーまたは所有者は承認を要求します。デューデリジェンス要求が [承認待ち] ステータスになり、アサインされたすべての承認者にメール通知が送信されます。

すべての内部ステークホルダー (承認者) が、サードパーティ連絡先から提供された外部アンケートの回答とサポートドキュメントをレビューします。承認を行うには、サードパーティリスク (TPR) マネージャーユーザーグループに属している必要があります。承認者は、ベンダー管理ワークスペース または VRM クラシックユーザーインターフェイスを使用してすべてのアクションを実行します。承認者は、[タスク] ページに移動して、自分の処理待ちの [自分の承認]、[タスク]、および [問題] をすべて表示できます。

ベンダー管理ワークスペースで [タスク] ページを表示するには、 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース. 次に、[タスク] アイコン を選択します。

アサインされた承認を表示するには、[自分の承認] を選択します。

VRMクラシックユーザーインターフェイスで [自分の承認] を表示するには、 すべて > セルフサービス > サードパーティリスク管理 > デューデリジェンス要求 > 自分の承認

このビューから、次のタスクを実行できます。

- 外部アンケートの応答を確認します。

  デューデリジェンス要求 (DDR) 番号を選択し、[内部アセスメント] タブで内部アセスメント (INA) 番号を選択して、[デューデリジェンス要求] レコードページに移動します。詳細については、「IRQ プロセス管理」を参照してください。

- リスクインテリジェンススコアをレビューします。

  DDR 番号を選択し、[リスクインテリジェンススコア] タブを選択して、[デューデリジェンス要求] レコードページに移動します。詳細については、「リスクインテリジェンススコアを表示する」を参照してください。

- 外部アンケートの応答とサポートドキュメントをレビューします。

  DDR 番号を選択し、[外部アセスメント] タブで外部アセスメント (VRA) 番号を選択して、[デューデリジェンス要求] レコードページに移動します。詳細については、「サードパーティ (外部) リスクアセスメント管理」を参照してください。

- 承認要求レコードページにアクセスします。

  リストから 要求 済み状況のいずれかを選択して、承認要求レコードページを開きます。このページから、[承認] または [却下] を選択できます。詳細については、「承認プロセスの管理」を参照してください。

回答が要件を満たしている場合、1 人以上の承認者が要求を承認し、オーナー (TPR マネージャーまたは TPR 査定人) がデューデリジェンス要求とエンゲージメントをクローズします。サードパーティまたはエンゲージメントのステータスが [アクティブ] になりました。契約を準備する場合は、承認者、TPR マネージャー、またはオーナーが [契約交渉担当者に送信] を選択し、契約交渉担当者をアサインします。承認されたデューデリジェンス要求のステータスが [契約リスクプロセス] ステータスに更新され、契約リスク交渉担当者に自動メールで通知されます。

詳細については、「契約リスクプロセスの管理」を参照してください。

デューデリジェンス要求の却下

問題を解決できない場合、またはデューデリジェンス要求がキャンセルされた場合、承認者はコメントを入力してデューデリジェンス要求を却下できます。[自分の承認] を表示するには、タスクページ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

に移動して [自分の承認] を選択し、リストから [要求済み] ステータスを選択して承認要求レコードページを開きます。このページから、[却下] を選択して要求を却下できます。

デューデリジェンス要求が却下された後、次のアクションが発生します。

1. デューデリジェンス要求のステータスが [承認待ち] から [却下] に更新されます。
2. [コメント] フィールドにデューデリジェンス要求を却下する理由を入力する必要があります。
3. デューデリジェンスプロセスのステータスが [却下] に更新され、エンゲージメントが却下されたことがすべてのステークホルダーに通知されます。

> **注:**
> オーナーは、[すべての要求] リストからデューデリジェンス要求を選択することで、承認プロセスを再開できます。オーナー は、承認プロセスを再開する理由を入力する必要があります。

デューデリジェンス要求の承認レベルの設定

サードパーティリスク管理 アプリケーションでデューデリジェンス要求を承認するユーザーまたはグループに 1 つ以上の承認レベルをアサインします。承認レベルは繰り返し適用され、各レベルには異なるルールが含まれているため、適切なユーザーまたはグループが承認者としてアサインされようにすることができます。

始める前に
必要なロール：admin または sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin

手順

1. 移動先 すべて > **Approval Configurator** > 承認構成.
2. [サードパーティのデューデリジェンスのデフォルト構成 **(Third-party due diligence default configuration)]** を選択します。
3. [新規] を選択して承認レベルを作成します。
   [サードパーティのデューデリジェンスのデフォルトレベル **(Third-party due diligence default level)]** は、ベースシステムの一部として含まれています。
4. フォームのフィールドに入力します。

承認レベルフォーム

フィールド	説明
名前	承認レベルの名前。
レベル	承認のステージ。

> **注:**
> 承認構成では、複数の承認レベルを同じレベル番号にすることはできません。各レベルのルールは、順番に適用されます。

5. [送信] を選択します。

レベルに割り当てるルールの設定については、「デューデリジェンス要求の承認ルールの設定」を参照してください。

承認レベルとルールの詳細については、「デューデリジェンスの要求の承認または却下」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

デューデリジェンス要求の承認ルールの設定

デューデリジェンス要求の承認ルールの設定

サードパーティリスク管理 アプリケーションで必要な承認者タイプと承認数を選択して、デューデリジェンス要求の各承認レベルでルールを設定します。各ルールに適用されるテーブル条件をフィルタリングして、正しいユーザーまたはグループが承認者として確実にアサインされるようにすることもできます。

始める前に

承認レベルを設定します。詳細については、「デューデリジェンス要求の承認レベルの設定」を参照してください。

必要なロール：admin または sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin

このタスクについて

ルールごとに、個々の承認者、サードパーティのデューデリジェンス要求 [sn_tprm_dd_request] テーブルの承認者、または動的承認者を選択できます。動的承認者とは、承認ルールフォームで定義された承認者テーブルに基づいて承認者としてアサインされる個人またはグループを意味します。サードパーティリスク (TPR) マネージャーまたは TPR アドミニストレーターが承認者になることができます。

各承認レベルには、複数の承認ルールを含めることができます。各承認ルールは、承認レコードのテーブルまたは承認テーブルの他の関連テーブルに作成できます。

手順

1. 移動先 すべて > **Approval Configurator** > 承認構成.
2. 承認構成レコードを選択します。
3. [承認レベル] セクションの [名前] 列で、承認レベルレコードをクリックします。
4. [承認ルール] セクションで [新規] を選択します。
5. 承認ルールフォームで、ルールの名前を指定します。
6. 承認ルールの簡単な説明を入力します。
7. 要求のソースを選択します。
   各フィールドの説明については、「承認ルールフォーム」を参照してください。
8. [送信] を選択します。

関連情報

デューデリジェンス要求の承認レベルの設定

[store-future: BEGIN review]

マルチレベル承認の例

この例では、デューデリジェンス要求の IRQ のマルチレベル承認を追加する方法を示します。

マルチレベル承認を追加する例

チームは、デューデリジェンス後に収集される承認に加えて、特定のデューデリジェンス要求について内部従業員が固有のリスクアンケートを完了した後に承認を収集したいと考えています。IRQ のマルチレベル承認を追加するには、admin ロールを持つチームメンバーが次のように入力します。

デューデリジェンスフローの更新

ワークフロースタジオを追加

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しいステータスの追加

新しいステータスの **IRQ** 承認 をデューデリジェンスワークフローに追加できます。

条件を編集しています

デューデリジェンス **UI** アクションの開始の条件を編集して、デューデリジェンスが **IRQ** 承認済みステータスの場合にのみ表示されるようにします。

ビジネスルールの変更

- 更新時に実行するように [承認レコードを作成] ビジネスルールを変更し、ソーステーブルに基づいて次の承認レベルのステータスを [要求済み] に設定します。
- ソース承認を含むすべての承認レベルが完了したときにデューデリジェンスレコードを [承認済み] に更新するように、[**TPRM** 承認のロールアップと **DD** の更新] ビジネスルールを変更します。

ビジネスルールの作成

承認 [sn_tprm_approval] テーブルに新しいビジネスルールを作成して承認フローを管理し、ソース承認を含むすべてのレベルが承認されたときにデューデリジェンスレコードを更新します。

承認レベルの設定

承認ルールの設定

1. **IRQ** 承認を新しいステータスとしてデューデリジェンスワークフローに追加します。
2. デューデリジェンス **UI** アクションの開始の条件を編集して、デューデリジェンスが **IRQ** 承認済みステータスの場合にのみ表示されるようにします。
3. 更新時に実行するように [承認レコードを作成] ビジネスルールを変更し、ソーステーブルに基づいて次の承認レベルのステータスを [要求済み] に設定します。
4. ソース承認を含むすべての承認レベルが完了したときにデューデリジェンスレコードを [承認済み] に更新するように、[**TPRM** 承認のロールアップと **DD** の更新] ビジネスルールを変更します。
5.
6. 承認構成テーブルで承認レベルとルールを設定して、ソース固有の条件を含む、各承認レベルのシーケンスと条件を定義します。

[End]

契約リスクプロセスの管理

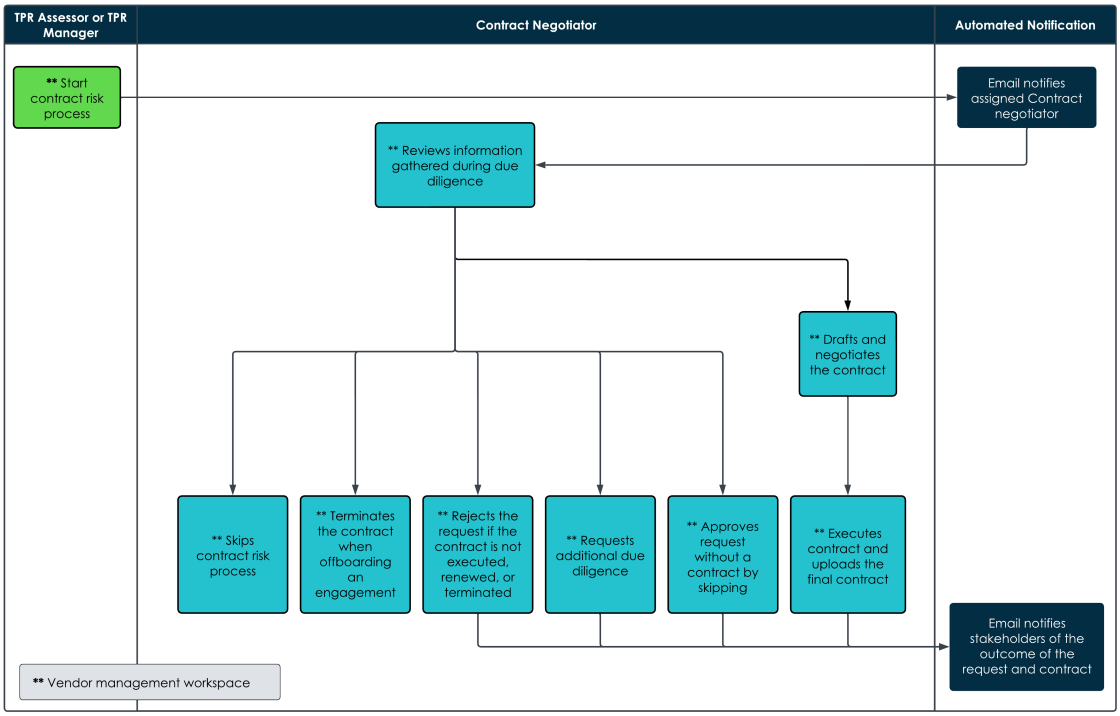
サードパーティリスク管理 アプリケーションを使用して特定されたリスクに対処できるように、特定の契約条項を組み込むことにより、サードパーティリスク契約の交渉担当者 (多くの場合は企業顧問) として組織の利益を保護します。

契約がエンゲージメントまたはサードパーティと交渉されている場合、すべての承認が処理された後、デューデリジェンス要求は [契約] リスクプロセスステータスになります。アサインされた契約交渉担当者には、すべての承認が処理されると、自動メールで通知されます。

次のインフォグラフィックは、契約リスクプロセスを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



注:
[sn_vdr_risk_asmt.contract_negotiator] ロールが必要であり、契約交渉担当者は、ベンダー管理ワークスペース または VRM クラシックユーザーインターフェイスを使用してすべてのアクションを実行します。

[タスク] ページに移動すると、保留中の [デューデリジェンス要求]、[タスク]、[問題] をすべて表示できます。

[タスク] ページを表示するには、次を選択します ワークスペース > ベンダー管理ワークスペースを選択し、タスクアイコン

アサインされた要求を表示するには、[交渉担当者のデューデリジェンス要求] を選択します。

VRMクラシックユーザーインターフェイスで交渉担当者のデューデリジェンス要求を表示するには、 すべて > セルフサービス > サードパーティリスク管理 > デューデリジェンス要求 > 契約プロセス中の自分の要求

このビューから、次のタスクを実行できます。

- 外部アンケートの応答を確認します。

  デューデリジェンス要求 (DDR) 番号を選択して、[デューデリジェンス要求] レコードページに移動します。[内部アセスメント] タブで内部アセスメント (INA) 番号を選択すると、関連する内部アンケートの応答を表示できます。詳細については、「IRQ プロセス管理」を参照してください。

- リスクインテリジェンススコアをレビューします。

  DDR 番号を選択して、[デューデリジェンス要求] レコードページに移動します。[リスクインテリジェンススコア] タブを選択すると、関連するリスクインテリジェンススコアを表示できます。詳細については、「リスクインテリジェンススコアを表示する」を参照してください。

- 外部アンケートの応答とサポートドキュメントをレビューします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

DDR 番号を選択して、[デューデリジェンス要求] レコードページに移動します。[外部アセスメント] タブでサードパーティリスクアセスメント (VRA) 番号を選択して、関連する外部アンケートの応答とサポートドキュメントを表示します。詳細については、「サードパーティ (外部) リスクアセスメント管理」を参照してください。

> **注:**
> デューデリジェンスワークフローのプロセスの詳細については、「 デューデリジェンスワークフロー」を参照してください。

契約リスクプロセス (エンゲージメントが契約される場合のみ)

エンゲージメントに契約が含まれている場合は、契約交渉者として契約を準備し、次のアクションを実行します。

1. 要求、IRQ、デューデリジェンス、および承認プロセス中に生成されたすべてのデータにアクセスして、契約を設計および決済し、次のアイテムを評価します。
   - サードパーティリスク査定人による初期固有リスクアンケート (IRQ) の応答とコメント。詳細については、「IRQ プロセス管理」を参照してください。
   - リスクインテリジェンスプロバイダーからのリスクデータ。詳細については、「リスクインテリジェンススコアを表示する」を参照してください。
   - サードパーティのアンケートとエンゲージメントアンケートへの回答。詳細については、「サードパーティ (外部) リスクアセスメント管理」を参照してください。
   - TPR マネージャーによってアサインされたサードパーティ連絡先用の問題とタスク。アサインされた問題とタスクは、タスクページに一覧表示されます。
2. すべての当事者が契約に完全に署名 (締結) したら、契約を添付し、[契約実行済み] を選択してエンゲージメントをアクティブ化し、デューデリジェンス要求レコードページの [詳細] タブで次のアクションを完了します。
   a. エンゲージメントの契約開始日を設定します。
   b. サードパーティの契約開始日をまだ設定していない場合は、設定します。
   c. エンゲージメントの契約有効期限を、要求された終了日に設定します。
   d. デューデリジェンス要求のステータスを [契約リスクプロセス] から [エンゲージメント契約済み] に更新します。

契約が実行されると、[契約開始日] フィールドと [契約有効期限] フィールドが読み取り専用になり、ベンダー管理ワークスペースのサードパーティとエンゲージメントの [詳細] タブで表示できるようになります。

> **注:**
> 割り当てられたタスクを開いた後、[添付ファイル] セクションの [参照] を選択し、契約を選択して追加します。

ステップ 2 と同じプロセスに従って、デューデリジェンス要求のエンゲージメントをアクティブ化し、エンゲージメントをオンボーディングし、契約更新のエンゲージメントを再評価します。

契約リスクプロセス (契約はスキップされます

エンゲージメントに契約が必要ない場合は、デューデリジェンス要求レコードページの [詳細] タブから [契約をスキップ] を選択して契約をスキップできます。

次の変更が行われます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. 契約開始日がエンゲージメント開始日に変更されます。
2. 契約終了日がエンゲージメントの有効期限に変更されます。
3. 必須の [理由] フィールドが表示されます。契約をスキップする理由を入力します。
4. デューデリジェンス要求のステータスが [契約リスクプロセス] から [契約リスクプロセスをスキップ済み] に更新されます。
5. オーナーが要求をクローズすると、エンゲージメントは [アクティブ]になります。

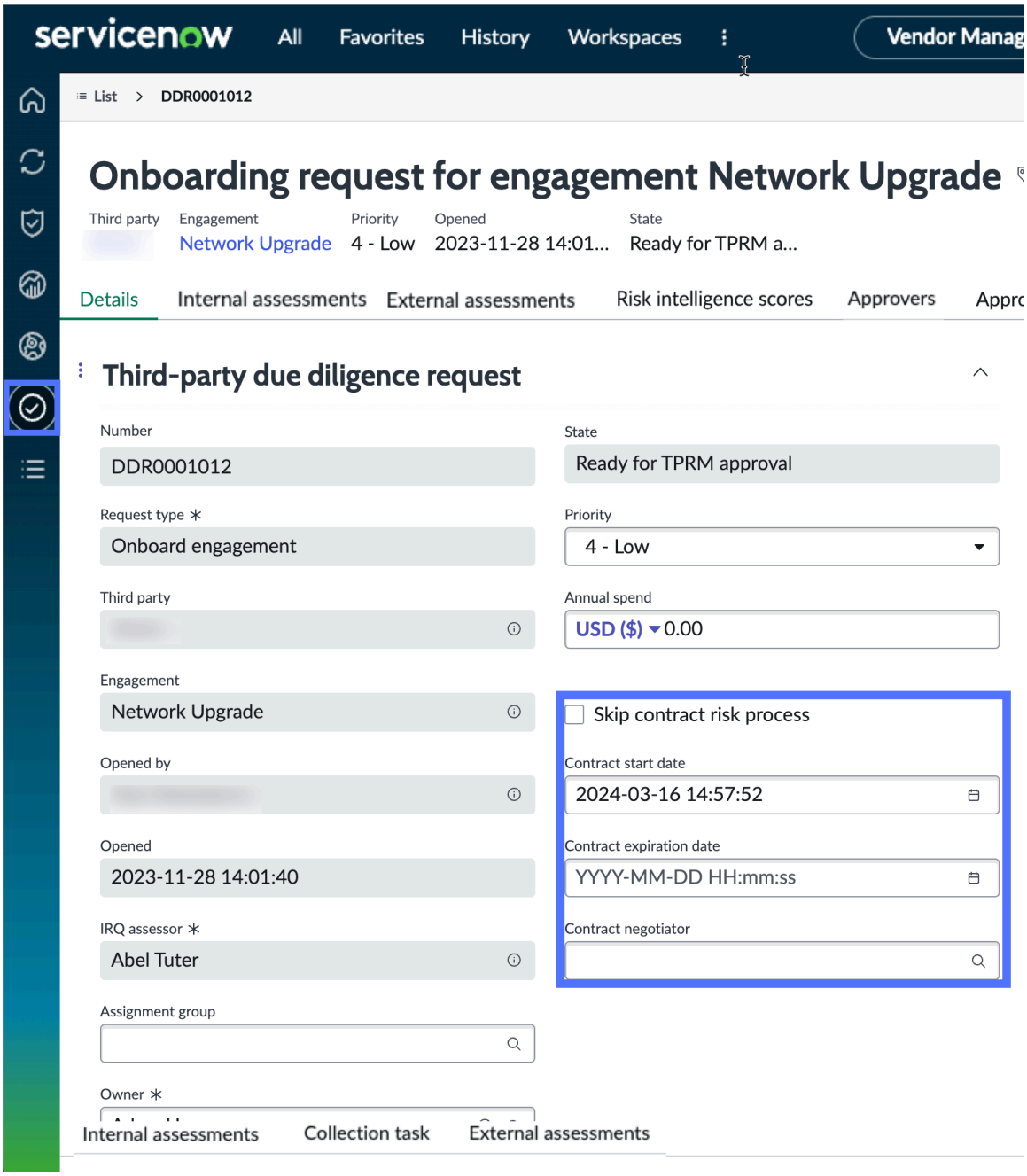
注:
このコンテキストでのスキップは、最初にスケジュールまたは予期された契約リスクプロセスに意図的に参加しない方法です。

次の例は、[契約リスクをスキップ] プロセスを選択した前後の契約の開始日と有効期限を示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

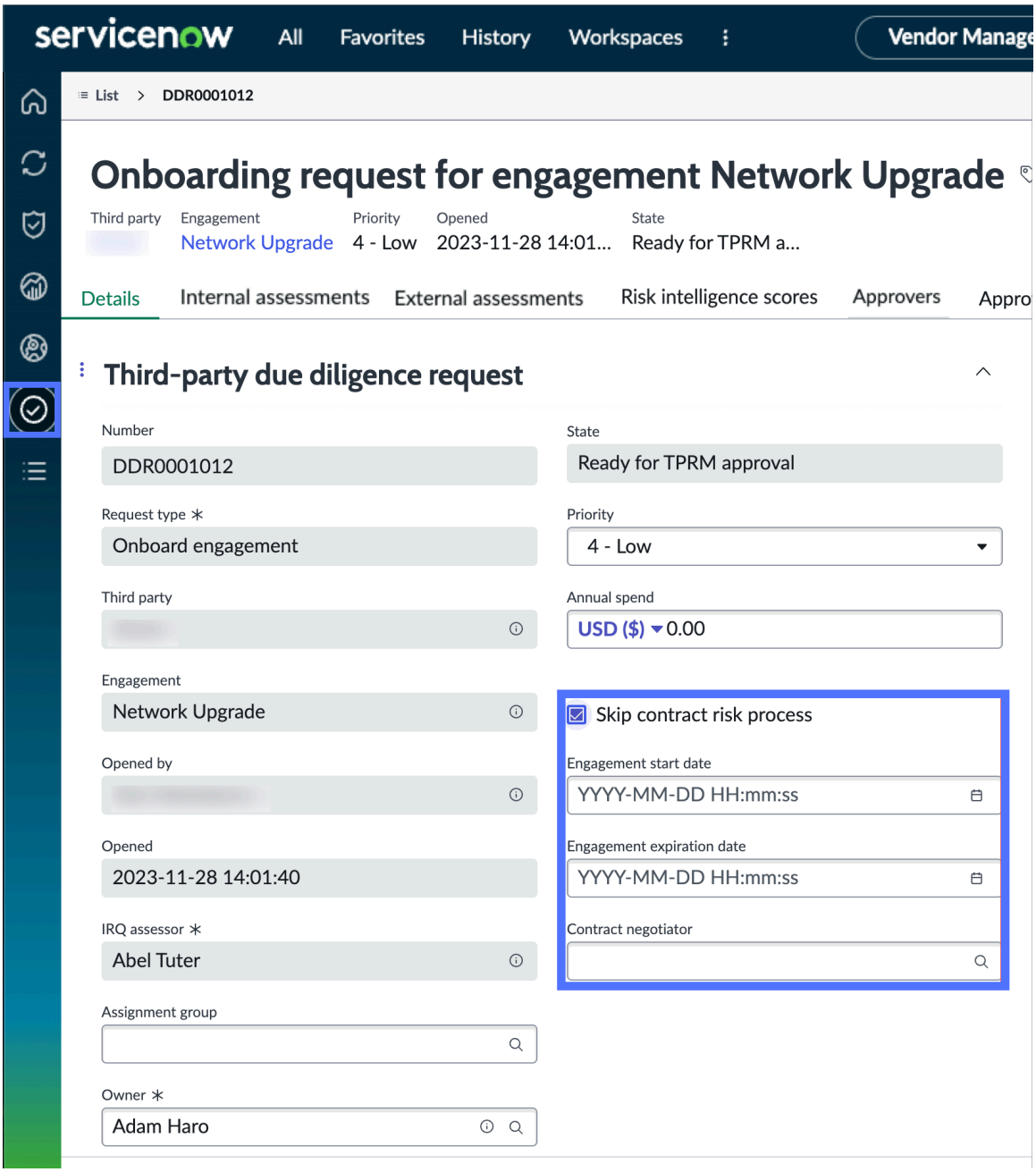
契約リスクプロセスをスキップする前のビューの例



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

契約リスクプロセスをスキップした後のビューの例



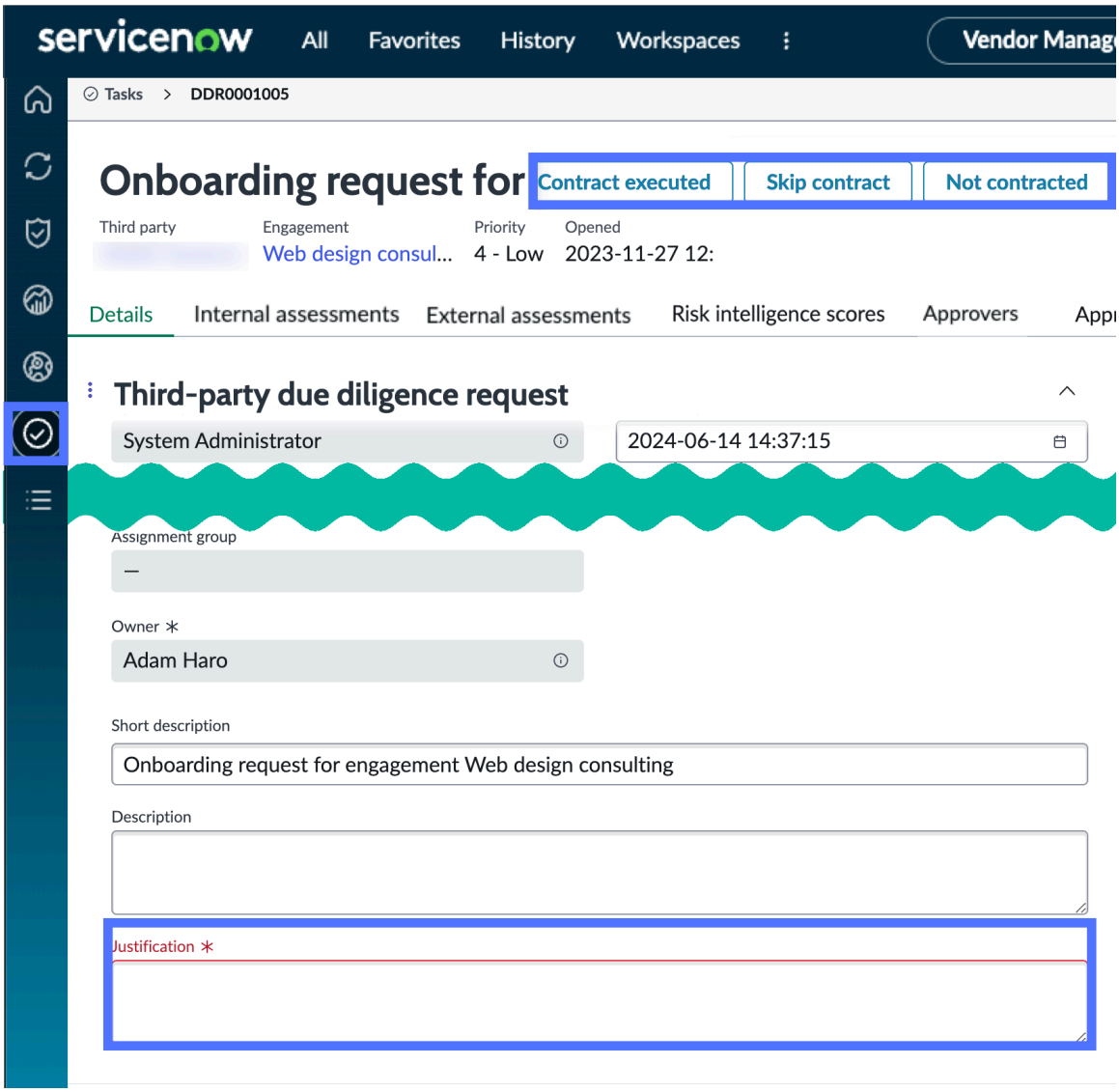
自動翻訳

注:
サードパーティリスクマネージャーまたはオーナーがデューデリジェンスプロセス中に [契約リスクプロセスをスキップ] オプションを選択した場合、アサインされた契約交渉担当者には通知されず、契約リスクプロセスのステータスはスキップされます。承認者とオーナーは、承認プロセスが完了するまで [契約リスクプロセスをスキップ] の選択を更新できます。このプロセスの詳細については、「デューデリジェンス要求プロセス管理」を参照してください。

次の例は、利用可能な選択肢と、必要な位置揃えボックスが表示される場所を示しています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

利用可能な選択と必要な理由の例



契約リスクプロセス (未契約、オンボーディングエンゲージメントは拒否されます)

問題を解決できない場合、またはデューデリジェンス要求がキャンセルされた場合は、デューデリジェンス要求レコードページの [詳細] タブから [未契約] を選択してエンゲージメントを却下できます。

次のアクションが実行されます。

1. 必須の [理由] フィールドが表示されます。エンゲージメントを却下する理由を入力する必要があります。
2. デューデリジェンス要求のステータスが [契約リスクプロセス] から [未契約] に更新されます。
3. オーナーが要求をクローズすると、デューデリジェンス要求が [未契約] から [却下] に変更されます。
4. エンゲージメントが契約されておらず、オンボーディングが拒否されていることがすべてのステークホルダーに通知されます。

オーナーは要求を再オープンでき、デューデリジェンス要求のステータスが [TPRM 承認準備完了] ステータスに更新されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

契約リスクプロセス (契約終了)

エンゲージメントがオフボーディングされ、契約が不要になった場合は、契約終了 を選択して 契約の終了を承認できます。その後、次のアクションが実行されます。

1. デューデリジェンス要求のステータスが [契約リスクプロセス] から [契約終了] に更新されます。
2. 終了日が現在の日付に更新されます。

契約リスクプロセス (契約解除なし)

エンゲージメントがオフボーディング中 (関係終了) で契約を終了できない場合は、デューデリジェンス要求レコードページの [詳細] タブから [契約解除なし] を選択して要求を却下できます。

その後、次のアクションが実行されます。

1. 必須の [理由] フィールドが表示されます。要求を却下する理由を入力する必要があります。
2. デューデリジェンス要求のステータスが [契約リスクプロセス] から [契約終了なし] に更新されます。
3. オーナーが要求をクローズすると、エンゲージメントは却下され、すべてのステークホルダーに契約が終了しないことが通知されます。

契約リスクプロセス (契約更新なし)

エンゲージメントが更新のためにレビューされており、契約を更新できない場合は、[契約更新なし] を選択してエンゲージメントを却下できます。

その後、次のアクションが実行されます。

1. 必須の [理由] フィールドが表示されます。エンゲージメントを却下する理由を入力します。
2. デューデリジェンス要求のステータスが [契約リスクプロセス] から [契約更新なし] に更新されます。
3. オーナーが要求をクローズすると、エンゲージメントは却下され、すべてのステークホルダーに契約が更新しないことが通知されます。

契約リスクプロセス (追加のデューデリジェンスを要求)

追加のデューデリジェンスが必要な場合は、デューデリジェンス要求レコードページの [詳細] タブから [追加のデューデリジェンスの要求] を選択して、エンゲージメントを却下できます。

その後、次のアクションが実行されます。

1. 必須の [理由] フィールドが表示されます。追加のデューデリジェンスを要求するための説明を入力する必要があります。
2. デューデリジェンス要求のステータスが [契約リスクプロセス] から [デューデリジェンス] に更新されます。
3. オーナーが要求をクローズすると、要求はデューデリジェンスプロセスステータスに更新され、エンゲージメントに追加のデューデリジェンスが必要であることがすべてのステークホルダーに通知されます。
4. 契約交渉担当者またはオーナーは、アセスメントを再オープンし、新しいアンケートを添付してプロセスを再開できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

契約リスクプロセスが完了すると、オーナーはメール通知を受信します。デューデリジェンス要求をクローズできるのは、サードパーティのリスクマネージャーまたはオーナーのみです。

> **注:**
> デューデリジェンス要求に関連付けられた契約の表示の詳細については、「契約リスクプロセスにある DD 要求へのアクセス」を参照してください。

契約リスクプロセスにある DD 要求へのアクセス

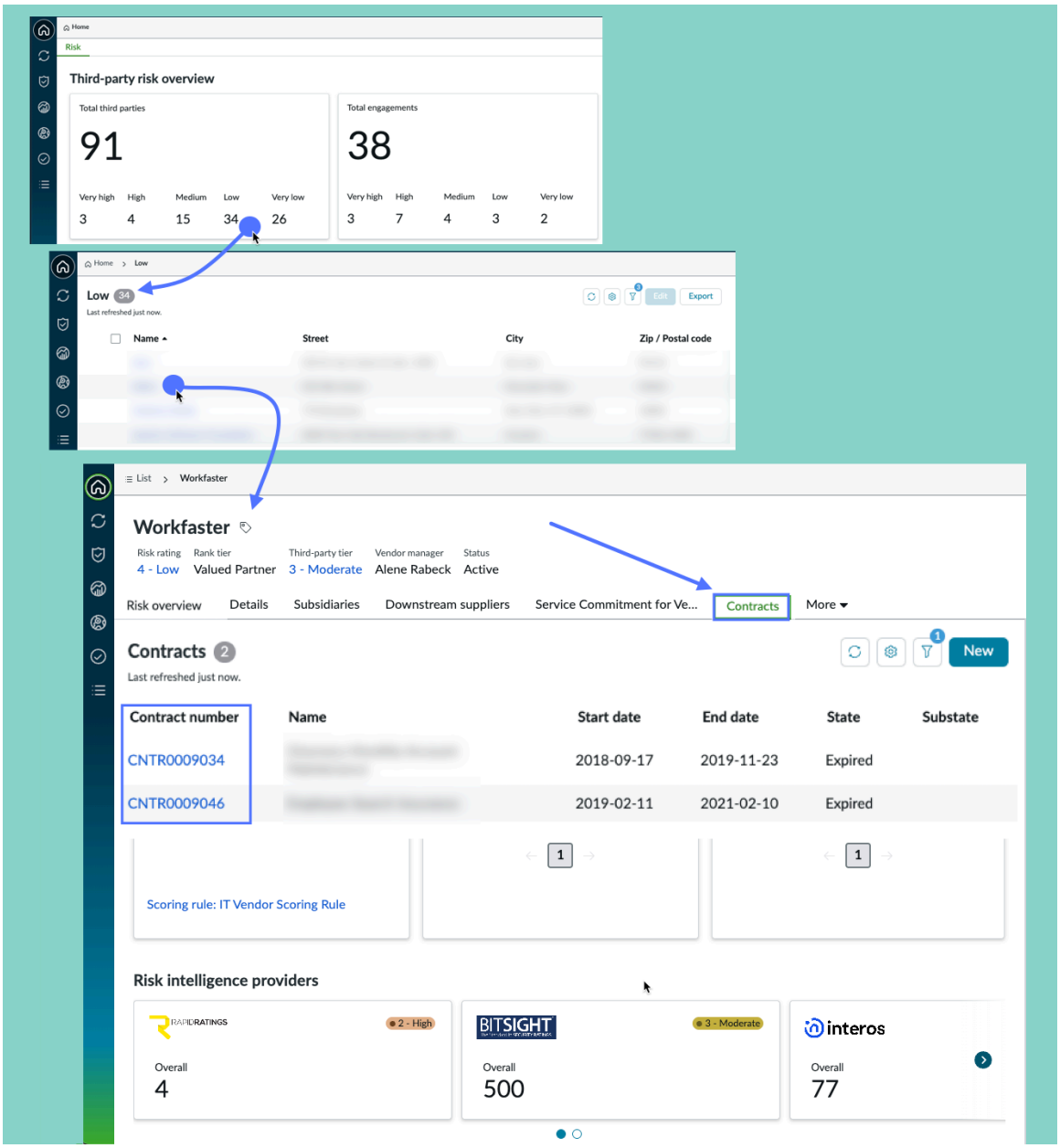
各エンゲージメントまたはサードパーティに関連付けられた契約を、有効期限、開始日、終了日、ステータスなどの詳細情報とともに表示できます。契約プロセスを管理および更新することもできます。

契約情報へのアクセス

1. 選択 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース.
2. [リスク] タブで、ホームページアイコン ( ) を選択します。
3. [サードパーティリスクの概要] セクションで、ボックス内の任意の番号を選択して、その値を持つサードパーティまたはエンゲージメントのリストを開きます。
4. サードパーティまたはエンゲージメントの名前を選択してアイテムのすべてのタブを開き、[契約] タブを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. 契約番号を選択すると、詳細情報が表示されます。

契約リストの表示

[契約] タブ

列	説明
契約番号	契約に割り当てられた ID。 一意の ID は、アイテムへのすべての参照で使用されます。この ID を使用して、作業するアイテムを検索またはフィルタリングできます。
名前	契約の目的の簡単な要約。
開始日、終了日	エンゲージメントとのやり取りの開始日と終了日。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[契約] タブ (続く)

列	説明
状況	契約の現在のステータス：[ドラフト]、[有効]、[期限切れ]、 [キャンセル]など。
サブステート	契約の現在のサブステート:拡張アクティブ、更新アクティブ、レビュー待ち、レビュー中、承認済み、承認された更新、却下された更新、承認された延長、却下された延長。
有効期限	有効期限の現在のステータス：(空)、期限切れ、30 日以内。

[契約] タブのアクション

アクション

アクション	説明
新規	契約を作成するには、[新規] を選択します。
保存	[保存] を選択して、任意のタブで値に加えた変更を保存します。
… 削除	[削除] を選択して、契約のレコードを削除します。
添付ファイルの追加	添付ファイルを選択して追加するには、[添付ファイル] セクションで [参照] を選択します。

契約ページからプロセスを管理する

[詳細] タブで契約に関する基本情報を表示する

[詳細] タブでは、契約情報を表示および調整できます。ファイルを添付することもできます。

子契約の表示

現在の契約を親として持つすべての契約を表示します。CNTR 番号を選択して、子契約ページを開きます。

契約の管理

「Contract Management」を参照してください。

VRM Classic ユーザーインターフェイスでの作業

従来のユーザーインターフェイスを引き続き使用して ベンダーリスク管理 タスクを実行できますが、ベンダー管理ワークスペース には拡張された TPRM 機能とより便利なレポートが用意されています。

スケジュールで繰り返すようにリスクアセスメントを構成する

サードパーティまたはエンゲージメントのリスク結果を定期的に更新するために、サードパーティリスクアセスメントをスケジュールで繰り返すように構成します。

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

VRMサードパーティレコードを作成

サードパーティまたはエンゲージメントのリスク結果を定期的に更新するために、サードパーティリスクアセスメントをスケジュールで繰り返すように構成します。

必要なロール：admin or sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager。

サードパーティの階層とエンゲージメント VRM の設定

サードパーティの親とそのすべての子会社の間の親子関係を定義して、サードパーティ階層を作成します。このタスクを実行するのは、組織によっては、ビジネスに潜在的なリスクをもたらす可能性のある子会社 (または子会社の子会社) を持つサードパーティと連携している場合があるためです。個々の子会社組織でアセスメントを実行し、結果をロールアップして親サードパーティの全体的なリスクスコアを計算できます。

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager または sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor。

VRMエンゲージメントの定義

サードパーティが提供するサービスまたは製品に関連するリスクを評価できるように、エンゲージメントを定義します。エンゲージメントは、直接的に、またはリスクを評価できる子サードパーティ (部門、パートナー) から、親サードパーティに提供される製品またはサービスを表すこともあります。

ヒント:
組織のインスタンスへのアクセス権を持つすべてのユーザーがエンゲージメントを要求できます。このプロセスは通常、ここで説明するプロセス (サードパーティリスク (TPR) マネージャーまたは TPR 査定人がエンゲージメントを定義するプロセスよりも簡素化され、効果的です。詳細については、「サードパーティエンゲージメントのデューデリジェンス要求」を参照してください。

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager または sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor。

VRM サードパーティのリスク階層アセスメント

組織は、リスク階層を使用して、オンボーディング時に発生する潜在的なリスクのカテゴリにサードパーティを分類します。標準的な事前定義リスク層は、[なし]、[低]、[小]、[中]、[高]、[重大] です。各リスク階層には、関連付けられたアセスメント質問と文書の要求があります。

外部リスクアセスメントの管理 - 従来のプロセス

TPR マネージャーがアセスメントをクローズする前に、通常は [所見を生成中] ステータスの間に、ステークホルダーが問題とタスクを作成します。TPR のアセスメント担当者が必要に応じてサードパーティをアサインし、コメントストリームを使用してやり取りし、非準拠を解決します。サードパーティの主要連絡先が、サードパーティポータルを使用してすべてのアセスメントを表示します。

外部アセスメントの作成 - 従来のプロセス

アセスメントを作成し、サードパーティリスクアセスメントライフサイクルを開始します。

重要:
サードパーティリスク管理 のバージョン 18.1.3 以降、ベンダーリスク概要ダッシュボードは廃止されました。サードパーティリスク管理 が 18.1.3 より前にインストールされた場合は、ベンダーリスク概要ダッシュボードを引き続き使用できます。

VRMサードパーティレコードを作成

組織が関与するサードパーティの主要なデータと連絡先情報を設定します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
サードパーティのポートフォリオを更新する前にシステムアドミニストレーターにお問い合わせください。
必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager または sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin

このタスクについて
新しいレコードの追加に加え、TPR マネージャーは、リスクセキュリティのスコア、リスク階層、重要なサードパーティの連絡先、サードパーティが実施するビジネスサービスといったサードパーティ情報を、継続的に更新します。

スプレッドシートからサードパーティデータのインポート、オンボーディングシステムからのデータ統合、ベンダーテーブルからのデータインポートを行えます。

手順

1. プロセスを開始するには、次のいずれかの方法を使用します。
   - ベンダー管理ワークスペースで、リストアイコン ( ) をクリックし、 サードパーティ > すべてのサードパーティ.
   - 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > すべてのサードパーティ.
2. [新規] をクリックして、各フィールドに入力します。

[サードパーティ] フォーム

フィールド	説明
名前	サードパーティの名前。
Web サイト	サードパーティの URL。
DUNS 番号	単一のビジネスエンティティの一意の数値識別子。DUNS 番号は企業にとって法的に必須ではありません。
業界	業界のタイプ。
ベンダータイプ	サードパーティが提供する製品やサービスのタイプを指定します。
親	サードパーティ階層を設定し、このサードパーティが子会社である場合は、親サードパーティを選択します。
合計年間消費量	このサードパーティに毎年費やすと予想される金額。
セキュリティスコア	リスクインテリジェンスプロバイダーに提供されるセキュリティスコア。
スコアプロバイダー	正規化されたセキュリティスコアを提供したリスクインテリジェンスプロバイダー。
ステータス	サードパーティのステータス。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
契約開始日	契約したエンゲージメントを開始する日付。
リスク評価	サードパーティリスクアセスメント応答を受信すると、コンポーネント (つまり、アセスメント、エンゲージメント、および子会社のリスク評価) の加重平均が計算されてこの値になります。詳細については、「サードパーティの階層とエンゲージメント VRM の設定」を参照してください。
ランク	サプライヤーのタイプ。
サードパーティ階層	階層スコアをリスク層にマッピングすることによって計算された、サードパーティのリスク層。
ベンダーマネージャー	このサードパーティを管理するためにアサインされた従業員。
事業主	日常業務でこのサードパーティを使用する従業員。
メモ	追加情報。
[連絡先] タブ	
番地	サードパーティの所在地の番地。
市区町村	サードパーティの所在地の市区町村。
都道府県	サードパーティの所在地の都道府県。
郵便番号	サードパーティの所在地の郵便番号。
国	サードパーティの国。
電話	サードパーティの電話番号。
FAX	サードパーティのファックス番号。
[プロファイル] タブ	
株式公開	サードパーティが株式公開されているかどうか。
在庫記号	サードパーティの銘柄記号。
1 年あたりの収益	サードパーティの年間収益。
従業員数	サードパーティの従業員数。
バナーイメージ	サードパーティのバナー画像。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
バナーテキスト	サードパーティのバナーテキスト。
[リスクスコアリング] タブ	
計算済みリスク評価	サードパーティリスク領域のリスク評価の平均。
リスク評価を上書き	サードパーティの計算されたリスク評価を上書きできます。
アセスメントリスク評価	計算されたリスクアセスメント評価。 リスク評価スケールは、ビジネスユーザーがリスクアセスメント結果をよりよく理解するのに役立ちます。たとえば、デフォルト設定では、20 ~ 39 のリスクスコアは高リスクを示し、60 ~ 79 のスコアは低リスクを示します。
エンゲージメントリスク評価	計算されたエンゲージメント評価。 リスク評価スケールは、ビジネスユーザーがリスクアセスメント結果をよりよく理解するのに役立ちます。たとえば、デフォルト設定では、20 ~ 39 のリスクスコアは高リスクを示し、60 ~ 79 のスコアは低リスクを示します。
子会社のリスク評価 子サードパーティのリスク評価	子会社の計算済みリスク評価。 リスク評価スケールは、ビジネスユーザーがリスクアセスメント結果をよりよく理解するのに役立ちます。たとえば、デフォルト設定では、20 ~ 39 のリスクスコアは高リスクを示し、60 ~ 79 のスコアは低リスクを示します。
リスクインテリジェンス評価	「リスクインテリジェンスプロバイダーからのスコアの統合」を参照してください。
優先リスク評価	[リスク評価を上書き] を選択した場合、新しいリスク評価を入力します。
上書き日	[リスク評価を上書き] を選択した場合は、上書きが発生した日付。
正当性	[リスク評価を上書き] を選択した場合、上書きの理由を入力する必要があります。

3. サードパーティリスク管理 が他の GRC アプリケーションと統合されている場合、またはベンダー階層 (つまり、サードパーティリスクドメイン、コンポーネント基準、およびリスク採点ルール) を設定している場合は、フォームに次の関連リストの一部またはすべてを含めることができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細については、「サードパーティの階層とエンゲージメント VRM の設定」を参照してください。

> **注:**
> リスクドメインは、一部のプラットフォームアプリケーションでは「リスク領域」と呼ばれます。

- 子ベンダー：このテーブルには、子会社のすべての情報が格納されます。子会社のリスク評価は自動的に集計され、[サードパーティ] フォームの [リスク評価] タブに表示されます。
- ベンダー連絡先：このテーブルには、すべてのサードパーティステークホルダーの情報が保存されます。通常、顧客はサードパーティの主要連絡先 1 つとセカンダリ連絡先 1 つ以上を作成します。プライマリ連絡先が、他の連絡先をリストに追加します。
- [ビジネスサービス]：サービステーブルは CMDB の一部です。サードパーティを、そのサードパーティが提供するサービスに関連付けます。たとえば、IT チームが「ビデオ会議サービス」と呼ばれるサービスを所有しており、これを社内の従業員が社内および顧客と通信するために使用するとします。そのビジネスサービスには、自社でビルドするのではなく、Zoom から提供されるサービスを使用すると決定しました。
- ベンダーエンゲージメント：このテーブルには、サードパーティのすべてのエンゲージメント情報が保存されます。エンゲージメントリスク評価は自動的に集計され、サードパーティフォームの [リスク評価] タブに表示されます。
- 階層アセスメント：このテーブルには階層アセスメントの履歴が保存されます。
- 繰り返しアセスメント：このテーブルには繰り返しアセスメントの履歴が保存されます。
- アセスメント：このテーブルにはアセスメントの履歴が保存されます。アセスメントリスク評価は自動的に集計され、サードパーティフォームの [リスク評価] タブに表示されます。
- ベンダーリスクコンポーネント：このテーブルには、すべてのサードパーティリスクコンポーネントが格納されます。サードパーティリスクコンポーネント (つまり、アセスメント、エンゲージメント、または子会社) が存在する場合、そのリスク評価が自動的に集計され、サードパーティフォームの [リスク評価] タブに表示されます。
- 問題： このテーブルには、問題の履歴が保存されます。
- タスク： このテーブルには、タスクの履歴が保存されます。

サードパーティの階層とエンゲージメント **VRM** の設定

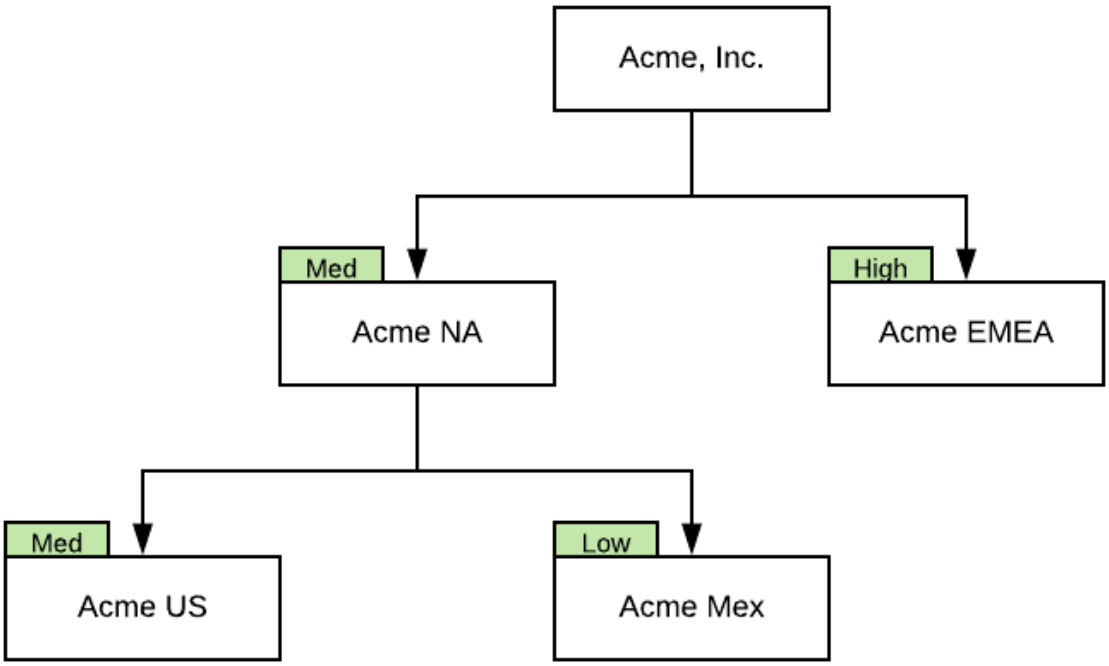
サードパーティの親とそのすべての子会社の間の親子関係を定義して、サードパーティ階層を作成します。このタスクを実行するのは、組織によっては、ビジネスに潜在的なリスクをもたらす可能性のある子会社 (または子会社の子会社) を持つサードパーティと連携している場合があるためです。個々の子会社組織でアセスメントを実行し、結果をロールアップして親サードパーティの全体的なリスクスコアを計算できます。

サードパーティ階層

この図では、親会社である Acme に 2 つの子会社があり、Acme NA に 2 つの子会社があります。この階層では、親のサードパーティとすべての子会社のリスクアセスメントを実行し、各エンティティのリスクスコアを計算します。その後、リスクスコアを集計 (ロールアップ) して、Acme のリスクスコアを計算できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

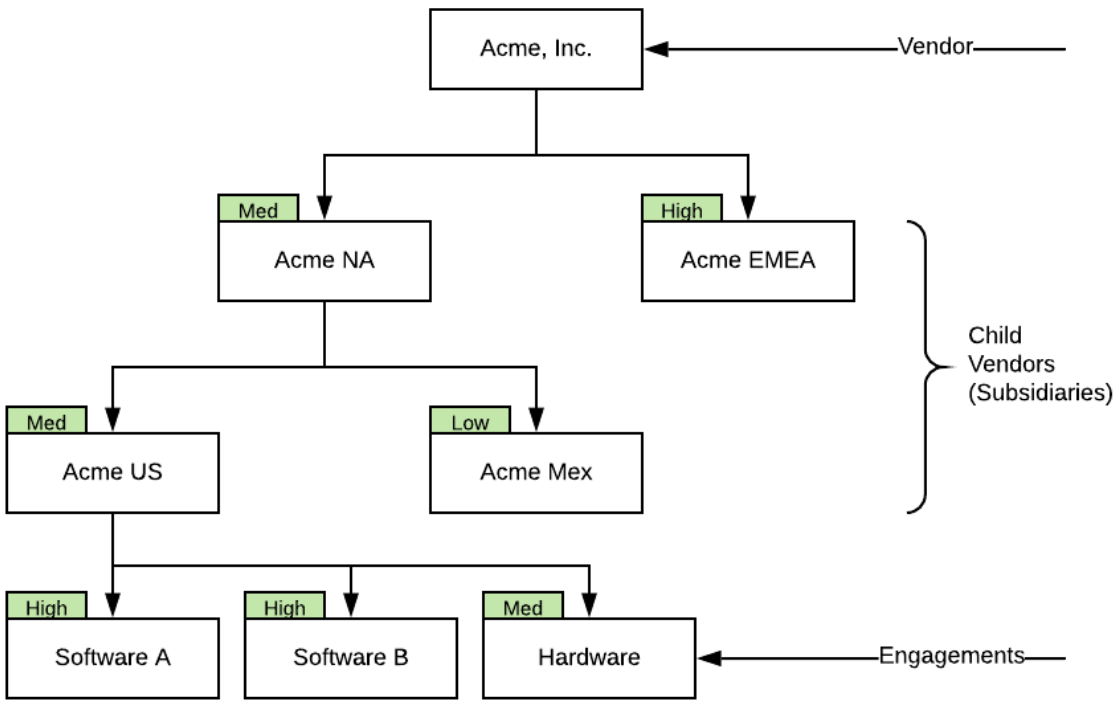


子会社とエンゲージメントを含むサードパーティ階層

エンゲージメントは、直接的に、または子会社から、親組織に提供される、リスクを評価できる製品またはサービスを表します。子会社がエンゲージメントを提供している場合、エンゲージメントにアサインされたリスクスコアは、子会社のリスクスコアを計算するためにロールアップされた後、親組織にロールアップされます。

この例では、子会社 Acme US には 3 つのエンゲージメントがあります。前の例と同様に、親、そのすべての子会社、およびそのすべてのエンゲージメントについてリスクが評価されます。リスクスコアは、親のリスクスコアを計算するためにロールアップされます。

自動翻訳



VRMエンゲージメントの定義 を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

概要：サードパーティ階層の設定

注:
このセクションのセットアップ手順は、マルチレイヤーのサードパーティで作業する場合にのみ適用されます。つまり、子会社を運営するサードパーティです。また、子会社が提供するエンゲージメントのセットアップについても説明します。これらが取引先サードパーティのタイプではなく、サードパーティ階層を設定しない場合、これらの手順はオプションです。

サードパーティ階層のセットアップ手順

セットアップ手順	説明
サードパーティリスク領域を定義します。	リスクドメインは、サードパーティのために評価するリスクのタイプを定義します。たとえば、セキュリティリスクの観点からデータ管理サードパーティを評価し、財務リスクの観点から銀行を評価することができます。セキュリティリスクと財務リスクはリスクドメインです。一部のプラットフォームアプリケーションでは、リスクドメインを「リスク領域」と呼びます。 「サードパーティリスクドメインを定義」を参照してください。
サードパーティリスク領域基準を定義します。	サードパーティリスク領域基準は、特定のタイプのサードパーティに適用されるリスクドメイン (他のプラットフォーム機能ではリスク領域とも呼ばれる) のグループです。 「サードパーティリスク領域基準を定義」を参照してください。
コンポーネント基準を定義します。	コンポーネントは、リスクを評価できるエンティティです。ベースシステム には、エンゲージメント、外部モニタリング、子会社、およびサードパーティリスクアセスメントのコンポーネントが含まれています。コンポーネントごとにリスクが計算されてから、リスクが集計され、ロールアップされてサードパーティリスク評価が計算されます。 「コンポーネント基準を定義する」を参照してください。
サードパーティのエンゲージメントを定義します	サードパーティが提供するサービスまたは製品に関連するリスクを評価できるように、エンゲージメントを定義します。エンゲージメントは、直接的に、またはリスクを評価できる子サードパーティ (部門、パートナー) から、親サードパーティに提供される製品またはサービスを表すこともあります。 エンゲージメントを定義すると、サードパーティとエンゲージメントの両方で主連絡先とセカンダリ連絡先を指定できます。各タイプの連絡先は、サードパーティポータルで特定のアクティビティを実行できます。 VRMエンゲージメントの定義 を参照してください。
エンゲージメントリスク採点ルールを定義します。	エンゲージメントリスク採点ルールは、アセスメント対象として選択されるエンゲージメントを決定するコンポーネント基準を指定します。たとえば、ルールにより、年間 40,000 ドルを超えるビジネスに関連するエンゲージメントのアセスメントを有効に

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティ階層のセットアップ手順 (続く)

セットアップ手順	説明
	することができます。エンゲージメント採点ルールはエンゲージメントにのみ適用されます。 「エンゲージメントリスク採点ルールを定義する」を参照してください。
サードパーティリスク採点ルールを定義します。	リスクスコアに基づいて、アセスメントが必要なサードパーティを決定する基準を定義します。サードパーティリスク採点ルールは、子会社とエンゲージメント、およびサードパーティリスク領域に適用されます。 「サードパーティリスク採点ルールを定義」を参照してください。

VRMエンゲージメントの定義

サードパーティが提供するサービスまたは製品に関連するリスクを評価できるように、エンゲージメントを定義します。エンゲージメントは、直接的に、またはリスクを評価できる子サードパーティ (部門、パートナー) から、親サードパーティに提供される製品またはサービスを表すこともあります。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager または sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor

手順

1. ベンダー管理ワークスペース の [リスク] タブで、クイックアクションボックスの [エンゲージメントを作成] を選択します。
   [サードパーティエンゲージメントの作成] フォームが [詳細] タブで開きます。
2. オプション: 添付ファイルを選択して追加するには、[参照] をクリックします。
3. フォームに入力して [保存] をクリックします。

[サードパーティエンゲージメントの作成] フォーム

フィールド	説明
サードパーティエンゲージメントセクション	
名前	エンゲージメントの一意の名前。理想的には、エンゲージメントの対象である製品またはサービスについて言及します。
サードパーティ (ベンダー)	このエンゲージメントレコードを作成するサードパーティ。
タイプ	エンゲージメント組織によって提供される製品またはサービスのタイプ。
開始/終了日	開始日と終了日を入力して、エンゲージメントの有効期間を定義します。
契約開始日/終了日	サードパーティとのやり取りの開始と終了の希望日。
契約の有効期限	エンゲージメントが正式かつ合法的に終了する日付。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ステータス	エンゲージメントの現在のステータスを選択します。 ○ アクティブ ○ オンボーディング ○ 見込み客 ○ 無許可のアクティブ ○ 終了 ○ オンボーディングが却下されました **注:** エンゲージメントは [非アクティブ] ステータスで開始されます。契約が締結されている場合、またはサードパーティとのアクティブな関係に参加している場合、エンゲージメントは [アクティブ] ステータスに移行します。
リスク評価	アセスメントが実行された後にエンゲージメントに割り当てられたリスク評価を表示します。
エンゲージメント階層	このエンゲージメントに使用される階層。階層の決定方法の詳細については、「VRM サードパーティのリスク階層アセスメント」を参照してください。
年間消費量/値	このエンゲージメントのサービスに関連付けられた年間支出額。
エンゲージメントマネージャー	外部のアンケート、問題、およびタスクに対する回答を監視し、優先順位を付け、対応するユーザーを指定します。ロックアイコンをクリックして、フィールドをロックまたはロック解除します。
事業主	エンゲージメント組織と、エンゲージメントする製品またはサービスに精通している人物を指定します。ロックアイコンをクリックして、フィールドをロックまたはロック解除します。
メモ	他のユーザーにエンゲージメントを説明するテキストを入力します。
連絡先セクション	
番地、市区町村、都道府県、郵便番号、国、電話番号、ファックス	エンゲージメント組織の標準的な連絡先情報。
緯度と経度	[緯度] と [経度] の値は、リスク集中マップ上の場所をマークするために使用されます。「TPRM リスク集中マップ」を参照してください。
[リスク評価] セクション	
計算済みリスク評価	計算された計算済みリスク評価。 値は、第三者の全体的なリスク評価であり、アセスメント後にすべての TPR 査定人のリスク評価をロールアップして計算されます。
リスク評価を上書き	計算された評価を上書きするオプション。 チェックボックスをオンにする場合は、次の値を指定します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ 優先リスク評価。新しいリスク評価を選択します。 ○ 上書き日：上書きが発生した日付が自動入力されます。 ○ 理由：値を上書きした理由を入力します。

VRM サードパーティのリスク階層アセスメント

組織は、リスク階層を使用して、オンボーディング時に発生する潜在的なリスクのカテゴリにサードパーティを分類します。標準的な事前定義リスク層は、[なし]、[低]、[小]、[中]、[高]、[重大] です。各リスク階層には、関連付けられたアセスメント質問と文書の要求があります。

より完全な IRQ プロセスが階層化に取って代わります

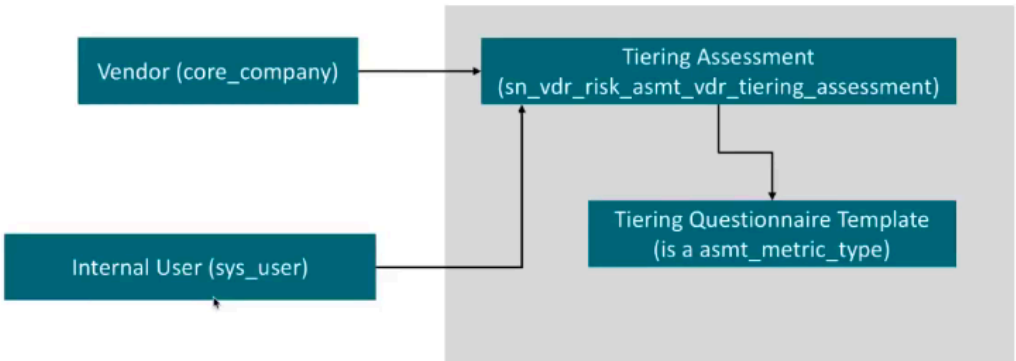
TPRM アプリケーションでは、IRQ は内部アンケートであり、元の階層アセスメントプロセスを改善するものです。IRQ は、柔軟性、制御、およびスケーラビリティを向上させて内部リスクアセスメントを強化します。外部アンケートがリスク階層のみによって決定される階層アセスメントとは異なり、IRQ は回答者の回答およびリスク階層の両方に基づいて外部アンケートを動的にトリガーできます。

TPRM へのシームレスな移行を可能にするために、既存の階層アセスメントを複製して IRQ 内部アセスメントとして指定することを選択できます。リスク階層化は、変わらない従来のプロセスとしてサポートされています。

従来の操作

1. ほとんどの組織は、スプレッドシートその他のオンボーディングソリューションとの統合を通じてサードパーティポートフォリオをインポートします。サードパーティリスク (TPR) マネージャーは、リスクセキュリティスコアやリスク階層などのサードパーティ情報を、継続的に更新します。
2. TPR マネージャーまたは TPR 査定人は、サードパーティのリスクエクスポージャーのリスク階層またはカテゴリを決定します。
3. TPR マネージャーは、サードパーティを選択し、階層アンケートテンプレートをアサインし、アセスメントを完了するために必要な社内の査定人をアサインします。

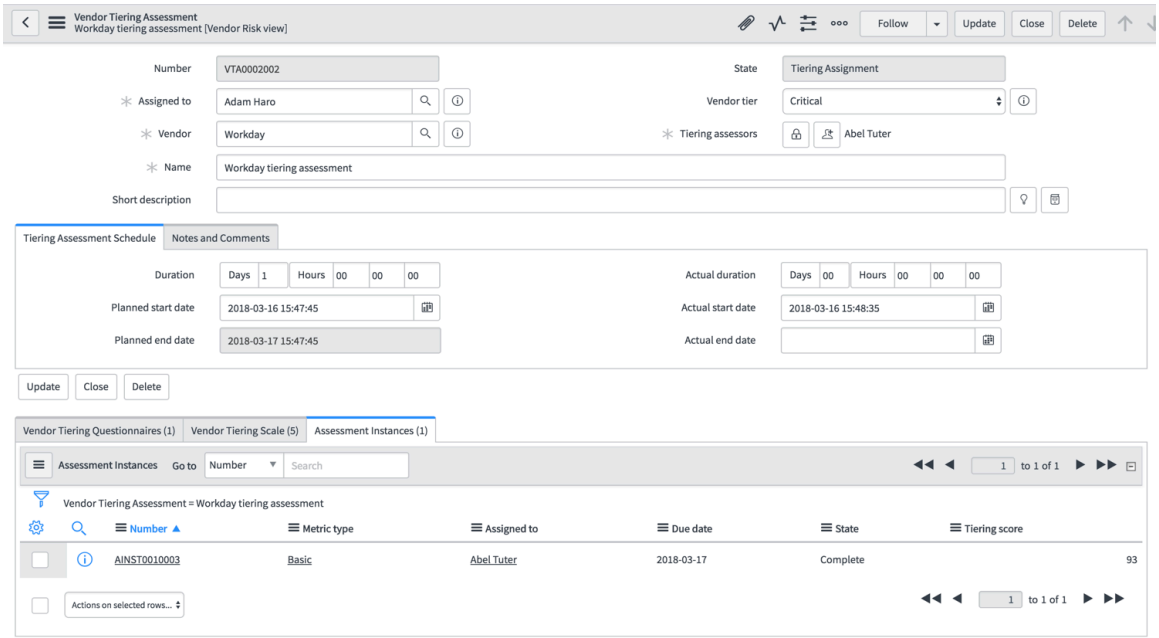
リスク階層アセスメントテーブルの関係



4. 内部ステークホルダーの移動先 セルフサービス > 自分のアセスメントとサーベイ アセスメントを完了して送信します。
5. 内部査定人がアンケートに回答した後、すべてのスコアの平均から階層スコアが計算されます。TPR マネージャーがリスクアセスメントを開始することも、設定されたビジネスルールによって自動的にリスクアセスメントを送信することもできます。アセスメントがクローズされると、階層スコアに基づいてサードパーティにリスク階層が割り当てられます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

回答に基づくリスク階層の計算



リスク階層のスケールと採点の計算

リスク階層化プロセス



自動翻訳

1. 階層アセスメントは、アサインされた内部査定人に対して 1 つのアセスメントインスタンスを開始します。
2. 応答スコアが平均化され、階層スコアが生成されます。
3. 階層スコアはリスク階層にマッピングされます。
4. 階層アセスメントがクローズされると、このリスク階層がサードパーティにアサインされます。

VRM階層アセスメントを作成

TPR 査定人はベンダーレコードから階層アセスメントを作成し、サードパーティリスク階層アセスメントライフサイクルを開始します。また、サードパーティリスクマネージャーは、一度に複数のサードパーティを選択して、複数のサードパーティリスク階層アセスメントをトリガーすることができます。

始める前に
必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor

このタスクについて
より完全な IRQ プロセスが階層化に取って代わります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

重要:

TPRM アプリケーションでは、IRQ は内部アンケートであり、元の階層アセスメントプロセスを改善するものです。IRQ は、柔軟性、制御、およびスケーラビリティを向上させて内部リスクアセスメントを強化します。外部アンケートがリスク階層のみによって決定される階層アセスメントとは異なり、IRQ は回答者の回答およびリスク階層の両方に基づいて外部アンケートを動的にトリガーできます。

TPRM へのシームレスな移行を可能にするために、既存の階層アセスメントを複製して IRQ 内部アセスメントとして指定することを選択できます。リスク階層化は、変わらない従来のプロセスとしてサポートされています。

手順

1. プロセスを開始するには、次のいずれかの方法を使用します。
   - ベンダー管理ワークスペース の [リスク] タブで、クイックアクションボックスの [階層アセスメントを作成] を選択します。
   - 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > アセスメント送信ルール > 階層ベースの送信.
2. [詳細] タブのフィールドに入力し、[保存] をクリックします。

階層アセスメントセクション

フィールド	説明
名前	階層アセスメントの名前。
簡単な説明	階層アセスメントの説明。
番号	リスク階層アセスメントごとに、テキスト「VTA」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。 一意の ID は、アイテムへのすべての参照で使用されます。この ID を使用して、作業するアイテムを検索またはフィルタリングできます。
適用先	アセスメントが適用されるエンティティ： ○ [サードパーティ]：親組織。 ○ [エンゲージメント]：製品またはサービスを提供するサードパーティ内の組織。
サードパーティ	評価対象のベンダー。
ステータス	○ ドラフト：アセスメントが定義中のときのデフォルト値。 ○ 応答待ち ○ 階層のアサイン ○ クローズ済み
アサイン先	階層アセスメントプロセスを管理するためにアサインされた TPR マネージャー。
層レベル	サードパーティのリスク階層。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ 重大 ○ 高 ○ 中 ○ 低 ○ マイナー ベンダー階層アセスメントとベンダーリスクアセスメントの結果は、この値を決定するのに役立ちます。TPR マネージャーは値を上書きできます。
階層査定人	階層アセスメントの完了を担当する内部査定人。

階層アセスメントスケジュール

フィールド	説明
階層アセスメントスケジュール	
計画された期間	アセスメントの予定期間。
開始予定日/終了予定日	階層アセスメントの作業の開始および終了予定日時。
実際の期間	階層アセスメントの完了に要した時間。この値は、[実開始日] と [実終了日] を使用して計算されます。
実際の開始日/実際の終了日	階層アセスメントの作業を開始および終了した日時。
メモとコメント	
作業メモ	アセスメントプロセスに関する情報。作業メモは、問題にアサインされているユーザーに表示されます。
追加コメント (顧客に表示)	ベンダーリスクアセスメントに関する公開情報。

3. [保存] をクリックします。

   [詳細] タブの [作成] セクションでは、レコードに永続的にテキストを追加できます。[アクティビティ] セクションは、問題とタスクに対するアクション、TP 連絡先への送信、およびユーザーがレコードに追加する作業メモとコメントで更新されます。必要に応じて、次のフィールドにテキストを追加します。

   ○ [作業メモ (プライベート)]：サードパーティリスクアセスメントに関する情報。作業メモは、プロセスにアサインされた内部ユーザーのみに表示されます。

   ○ コメント：サードパーティリスクアセスメントに関するコメントは、内部ユーザーとサードパーティの連絡先の両方に表示されます。

4. [階層アンケート] タブを選択し、階層アセスメントに使用するアンケートを選択し、[追加] をクリックし、[追加] をクリックします。

   注:
   ベースシステム には、[基本] と呼ばれるサンプルの階層アンケートが含まれています。ニーズに合わせてアンケートを変更して保存します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. [保存] をクリックします。

6. すべての設定が正しければ、[アセスメントを送信] をクリックします。

階層アセスメント応答 **VRM** レビューします

GRC：TPRM バージョン 15.0.0 以降、リスク階層化は、実行する必要のないレガシープロセスになりました。代わりに、ベンダー管理ワークスペース で IRQ プロセスを使用します。

始める前に
必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor

このタスクについて
より完全な IRQ プロセスが階層化に取って代わります。

> **重要:**
>
> TPRM アプリケーションでは、IRQ は内部アンケートであり、元の階層アセスメントプロセスを改善するものです。IRQ は、柔軟性、制御、およびスケーラビリティを向上させて内部リスクアセスメントを強化します。外部アンケートがリスク階層のみによって決定される階層アセスメントとは異なり、IRQ は回答者の回答およびリスク階層の両方に基づいて外部アンケートを動的にトリガーできます。
>
> TPRM へのシームレスな移行を可能にするために、既存の階層アセスメントを複製して IRQ 内部アセスメントとして指定することを選択できます。リスク階層化は、変わらない従来のプロセスとしてサポートされています。

TPR 査定人は、内部のステークホルダーがアセスメントを送信した後に階層アセスメントの応答を表示し、スコアリングを適切に調整できます。

手順

1. プロセスを開始するには、次のいずれかの方法を使用します。

- ベンダー管理ワークスペースで、リストアイコン () をクリックし、 階層リスクアセスメント > 自分にアサインされた未完了.
- 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > 階層アセスメント > 自分のオープンアセスメント.

2. 必要に応じて、回答をレビュー、追加、または変更します。

アサインされたリスク階層が変更されたときに、 **VRM** 自動リスクアセスメントを作成します

階層ベースのアセスメント送信ルールを使用して、サードパーティのリスク階層が変更されたときにリスクアセスメントを作成します。このプロセスにより、階層変更の原因がエンゲージメントまたはサードパーティである場合に、リスクアセスメントを自動的に開始できます。

始める前に
必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager

このタスクについて
包括的な固有のリスクに関するアンケート (IRQ) プロセスは階層化に代わるものです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

重要:

TPRM アプリケーションでは、IRQ は内部アンケートであり、元の階層アセスメントプロセスを改善するものです。IRQ は、柔軟性、制御、およびスケーラビリティを向上させて内部リスクアセスメントを強化します。外部アンケートがリスク階層のみによって決定される階層アセスメントとは異なり、IRQ は回答者の回答およびリスク階層の両方に基づいて外部アンケートを動的にトリガーできます。

TPRM へのシームレスな移行を可能にするために、既存の階層アセスメントを複製して IRQ 内部アセスメントとして指定することを選択できます。リスク階層化は、変わらない従来のプロセスとしてサポートされています。

手順

1. 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > アセスメント送信ルール > 階層ベースの送信.
2. ルールレコードを選択するか、[新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

セキュリティスコアプロバイダーフォーム

フィールド	説明
サードパーティ	ルールを適用するサードパーティの名前。このルールは、選択したサードパーティのエンゲージメントにも適用されます。 **注:** すべてのサードパーティとエンゲージメントにルールを適用するには、このフィールドを空のままにします。
アクティブ	階層ベースのアセスメント送信ルールをオンまたはオフにするオプション。 チェックボックスをオンにすると、階層ベースのアセスメント送信ルールがオンになります。チェックボックスをオフにすると、ルールはオフになります。 **注:** すべてのルールがオフになっている場合、階層の変更によってサードパーティのリスクアセスメントが自動的に生成されることはありません。
階層	外部アセスメントを自動的に生成する必要があるリスク階層: ○ なし ○ 重大 ○ 高 ○ 中 ○ 低 ○ マイナー
アセスメントテンプレート	リスク階層スケールがルールで指定された階層に変更されたときに送信されるテンプレート。
サードパー	外部アセスメントが生成された後に、外部アセスメントをサードパーティまたはエンゲージメントに自動的に送信するオプション。このオプションが選択されていない場

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ティに自動送信	合、外部アセスメントは作成された後も [ドラフト **(Draft)]** ステータスのままになります。

4. **[Update** (更新)] を選択します。

   階層の変更によってルールがアクティブ化されると、外部アセスメントが生成され、サードパーティまたはエンゲージメントのいずれかに送信されます。外部アセスメントは、階層変更のソースにのみ送信されます。サードパーティまたはエンゲージメントによって階層が変更された場合、外部アセスメントはサードパーティとエンゲージメントの両方に送信されます。

外部リスクアセスメントの管理 - 従来のプロセス

TPR マネージャーがアセスメントをクローズする前に、通常は [所見を生成中] ステータスの間に、ステークホルダーが問題とタスクを作成します。TPR のアセスメント担当者が必要に応じてサードパーティをアサインし、コメントストリームを使用してやり取りし、非準拠を解決します。サードパーティの主要連絡先が、サードパーティポータルを使用してすべてのアセスメントを表示します。

外部アセスメントワークフロー

1. TPR アドミニストレーターがアンケートと文書要求テンプレートを作成します。
2. TPR マネージャーは、内部アセスメントと外部アセスメントのテンプレートを作成し、ワークフローに関連付けられた通知も作成します。
3. TPR マネージャーが、IRQ を準備して、社内のステークホルダーに送信します。
4. 社内のステークホルダーがアセスメントを完了し、送信します。
5. 完了したリスク階層アセスメントを受け取った後、TPR 評価担当者が階層アセスメントを更新してクローズします。
6. TPR マネージャーが、アセスメントをサードパーティの主要連絡先に送信します。外部リスクアセスメントは、リスクスコアまたはリスク階層の変更に基づいて自動的に送信されます。
7. サードパーティの担当者が、サードパーティポータルにサインインしてリスクアセスメントを完了します。

   サードパーティポータルに、アセスメントのリストとそれぞれのステータスが表示されます。ポータルから、主要連絡先はアセスメントの一部を完了するために他のサードパーティの協力者を招待できます。他の協力者が特定されると、主連絡先がアセスメントを送信します。

8. TPR アセスメント担当者は、アセスメントの結果をレビューして各サードパーティアセスメントをクローズし、必要に応じて修正が必要な問題を作成します。特定の質問に対して問題が作成されると、その質問に対するサードパーティポータルにビジュアルインジケーターが表示されます。

   修正

   問題の修正とは、コントロールの失敗またはリスクへの暴露の原因となっている根本的な問題が修正されることを意味します。

   受け入れ

   問題の受け入れとは、既知のコントロールの失敗またはリスクに対する例外を作成することを意味します。[受入れ済み] のコントロールは、コントロールが再評価されるまでは、非準拠ステータスのままになります。これにより、監査中に所見を文書化するために問題を使用することができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

外部アセスメントのライフサイクル状況

外部アセスメントの作成 - 従来のプロセス

アセスメントを作成し、サードパーティリスクアセスメントライフサイクルを開始します。 外部アセスメントでは、サードパーティまたはエンゲージメントの詳細を指定し、アセスメントを完了するための計画を定義します。

始める前に

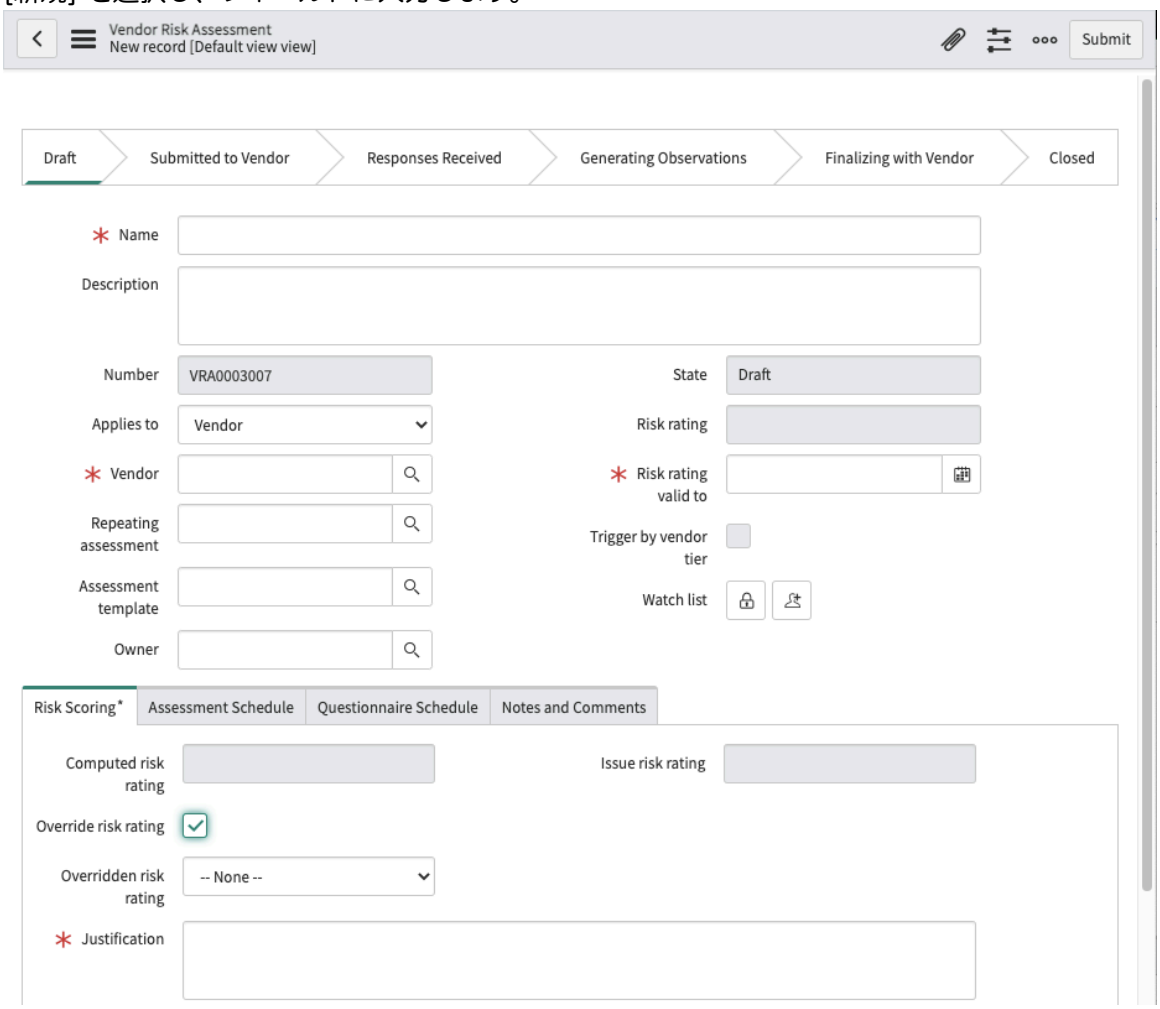
必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager または sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor

このタスクについて

アセスメントは、オンデマンドで作成することも、指定されたスケジュールで繰り返すこともできます。オンデマンド外部アセスメントを作成する場合、TPR マネージャーはアンケートテンプレートまたは文書要求テンプレートとサードパーティを選択します。TPR マネージャーは、一度に複数のサードパーティを選択してアセスメントをトリガーすることができます。

手順

1. 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > 外部リスクアセスメント > すべてのアセスメント.
2. [新規] を選択し、フィールドに入力します。



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ベンダーリスクアセスメント] フォーム

フィールド	説明
名前	すべてのフォームとリストでサードパーティのリスクアセスメントを識別する名前。
説明	問題のより詳細な説明。
番号	外部リスクアセスメントごとに、テキスト「VRA」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。 一意の ID は、アイテムへのすべての参照で使用されます。この ID を使用して、作業するアイテムを検索またはフィルタリングできます。
適用先	アセスメントが適用されるエンティティ。サードパーティとエンゲージメントのいずれかです。
ベンダー	評価済みのサードパーティ。 **注:** [終了] ステータスのサードパーティを再有効化できます。このような要求が受け入れられてクローズされると、サードパーティのステータスは [アクティブ] に変更されます。
エンゲージメント	評価対象のエンゲージメントを選択します。このフィールドは、[適用先] フィールドで [エンゲージメント] を選択した場合にのみ表示されます。
繰り返しアセスメント	現在のアセスメントを作成するために使用するアセスメント。 **注:** クラシックアセスメントエンジンを使用している場合は、繰り返しアセスメントを作成できます。スマートアセスメントエンジンを使用している場合は、イベント駆動型管理機能を使用して、アンケートとドキュメント要求を自動生成してエンゲージメントやサードパーティに送信するルールを構成できます。詳細については、「スケジュールで繰り返すようにリスクアセスメントを構成する」と「イベント駆動型管理 — アセスメントプロセスの自動化」を参照してください。
アセスメントテンプレート	このアセスメントのアンケートまたは文書要求を作成する際のアセスメントテンプレートを選択します。 複数のテンプレートを使用して、アセスメントに対して複数のアンケートまたは文書要求を作成するには、フィールドを空白のままにします。
所有者	監査目的でアセスメントを所有し、アセスメントプロセス全体を監視および管理する個人。所有者は、サードパーティによってアセスメントが適時に完了していることを確認し、回答をレビューし、問題を作成して解決する責任があります。アセスメントを完了まで進めるために、アセスメントが特定のマイルストーンに到達したときに通知されます。TPR マネージャーまたは TPR 査定人ロールが必要です。 新しい要求で [オーナー] フィールドが空の場合、「アサイン先グループで指定された [グループ] 内のすべてのユーザーにメール通知が送信されます。このメッセージは、要求が受信され、[新規]状況であることを示しています。このメッセージには、要求の

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	詳細ページへのリンクも含まれています。」というアクションが発生します。「責任に基づいてユーザーをグループに追加する」を参照してください。 注: [オーナー] フィールドが空の場合に **[IRQ プロセスの開始 (Start the IRQ process)]** を選択すると、ユーザー本人がオーナーになります。
アサイン先グループ	新しい要求の場合、[アサイン先グループ] は [デューデリジェンス要求アサイン者] に設定されます。 アサイン先グループで指定された [グループ] 内のすべてのユーザーにメール通知が送信されます。このメッセージは、要求が受信され、[新規]状況であることを示しています。このメッセージには、要求の詳細ページへのリンクも含まれています。 デューデリジェンス要求フォームで、次の操作を行います。 ○ グループのすべてのメンバーは、[自分にアサイン] を選択するか、[所有者] フィールドをグループの他のメンバーに設定できます。 ○ TPR マネージャーまたは TPR 査定人は、[アサイン先グループ] フィールドをクリアするか、[所有者] 選択リストで別の TPR 査定人から選択する値を変更できます。
状況	サードパーティからアセスメントデータを収集するプロセスは、状況が何度か変わります。詳細については、「外部アセスメントのライフサイクル状況」を参照してください。
リスク評価	サードパーティの全体的なリスク評価。 ○ 重大 ○ 高 ○ 中 ○ 低 ○ マイナー 注: [リスク評価] は、リスクスコアが該当するリスク評価スケール範囲を見つけることによって決定されます。アセスメントスコアの最小範囲と最大範囲を定性的リスクスコアにマッピングする方法を定義します。
リスク評価の有効期限 (Risk rating valid until)	リスク評価の有効期限が切れる日付。この日付は、関連付けられているアンケートまたは文書要求の [リスク評価の有効期限] よりも後でなければなりません。
リスク層によるトリガー (Trigger	サードパーティのリスク階層が変更されたときにアセスメントを開始するには、このチェックボックスをオンにします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
by risk tier)	
ウォッチリスト	このレコードが変更されたときに通知するユーザーを追加します。
リスクスコアリング **注:** リスク評価は、アセスメント応答が受信された後に計算され、表示されます。	
計算済みリスク評価	サードパーティリスク領域のリスク評価の平均。
リスク評価を上書き	サードパーティの計算されたリスク評価を上書きするには、チェックボックスをオンにします。選択すると、アセスメントリスク評価に対する将来の変更が、リスク評価ではなく、計算されたリスク評価にのみ影響するようになります。 **注:** オンになっていたチェックボックスをオフにすると、計算されたリスク評価がアセスメントにコピーされます。
優先リスク評価	[リスク評価を上書き] を選択した場合、新しいリスク評価を入力します。
正当性	[リスク評価を上書き] を選択した場合、上書きの理由を入力する必要があります。
問題リスク評価	評価対象のサードパーティに関連付けられている問題のリスク評価。問題のリスク評価は、クローズ済みの問題の優先度とその解決方法に基づいています。 ○ 問題が [完了してクローズ] の場合は、問題が解決されたことを示します。 ○ 問題が [未完了でクローズ] の場合は、サードパーティが関連付けられている質問を完了しなかったことを示します。 ○ 問題が [キャンセルしてクローズ] の場合は、問題を解決する必要がないことを示します。 問題がクローズ済みで、アセスメントのステータスがクローズまたはキャンセルされていない場合、[問題のリスク評価] が再計算されて表示されます。 **注:** [計算済みリスク評価] はこの計算の影響を受けません。
リスク評価を上書き	サードパーティの計算されたリスク評価を上書きするオプション。選択すると、アセスメントリスク評価に加えられた将来の変更は、リスク評価ではなく、計算されたリスク評価にのみ影響します。 **注:** チェックボックスをオンにしてからオフにすると、計算されたリスク評価が使用されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
優先リスク評価	[リスク評価を上書き] を選択した場合、新しいリスク評価を入力します。
正当性	[リスク評価を上書き] を選択した場合、上書きの理由を入力する必要があります。
アセスメントスケジュール	
計画された期間 (日数)	アセスメントの予定期間
開始予定日/終了予定日	アセスメントの作業の開始予定日時と完了予定日時。
作成者	このレコードを作成したユーザー。
作成済み	レコードが作成された日時。
実際の期間	サードパーティリスクアセスメントの完了に要した時間。このフィールドは、[実開始日] と [実終了日] を使用して計算されます。
開始実績日時	アセスメントの作業が開始された日時。
終了実績日	アセスメントの作業が完了した日時。
更新日時	レコードの最終更新日時。
アンケートのスケジュール	
計画された期間 (日数)	サードパーティがアセスメントを完了するために与えられた時間。この値フィールドは [開始予定日] と [終了予定日] を使用して計算されます。
レビュー期間 (日数)	顧客がすべてのアンケートを確認するために割り当てられた時間。
期日	サードパーティがすべてのアンケートに回答して返却する期限。
完了日	サードパーティがすべてのアンケートを完了した実際の日付。
サードパーティに送信済み	サードパーティアンケートの配送日。
サードパーティに	アンケートがサードパーティに再送信された日付。

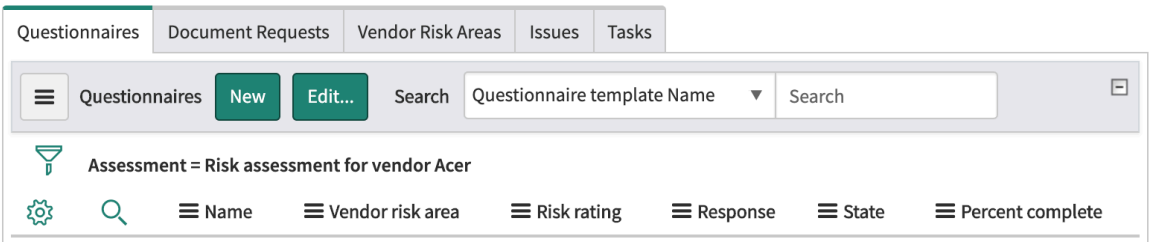
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
再送信済み	
応答期限	サードパーティの連絡先から応答が返されると組織が想定している日付。
メモとコメント	
作業メモ	アセスメントに関する情報。作業メモは、問題にアサインされているユーザーに表示されます。
追加コメント(顧客に表示)	アセスメントに関する公開情報。

3. レコードを保存します。

   追加の関連リストが表示されます。[アセスメントテンプレート] フィールドを空白のままにして、アセスメントテンプレートを使用してこのアセスメントに複数のアンケートや文書要求を関連付ける場合は、[アンケート] または [文書要求] 関連リストを使用します。



4. 既存のアンケートや文書要求をアセスメントに関連付けるには、次の手順を実行します。
   a. [アンケート] または [文書要求] 関連リストを開きます。
   b. [編集] を選択し、使用するアンケートまたは文書の要求を選択して、[保存] を選択します。
   c. 必要に応じて、他のタイプの質問について繰り返します。
5. 新しいアンケートや文書要求テンプレートを作成してアセスメントに関連付けるには、「アンケートや文書要求テンプレートを作成する」を参照してください。

> **重要:**
> 次のステップで、アンケートをサードパーティに送信することを選択できます。直近にクローズされたアセスメントからの回答をアンケートに事前入力するには、サードパーティに送信する前に [以前の応答を含む **(Include previous responses)**] オプションを選択する必要があります。アンケートがサードパーティに送信された後は、設定を変更できません。「アンケートや文書要求テンプレートを作成する」を参照してください。

6. [サードパーティに送信] を選択します。
   - アセスメントのステータスが [サードパーティに送信済み] に変わります。
   - 選択したテンプレートによって、アンケートや文書要求が生成されます。
   - アンケートの [以前の応答を含む **(Include previous responses)**] オプションが選択されている場合、以前の回答がコピーされ、送信アンケートに追加されます。サードパーティポータルの通知には、応答を提供したアセスメントの番号、名前、およびクローズ日が含まれています。通知には、アセスメントへのリンクも含まれています。

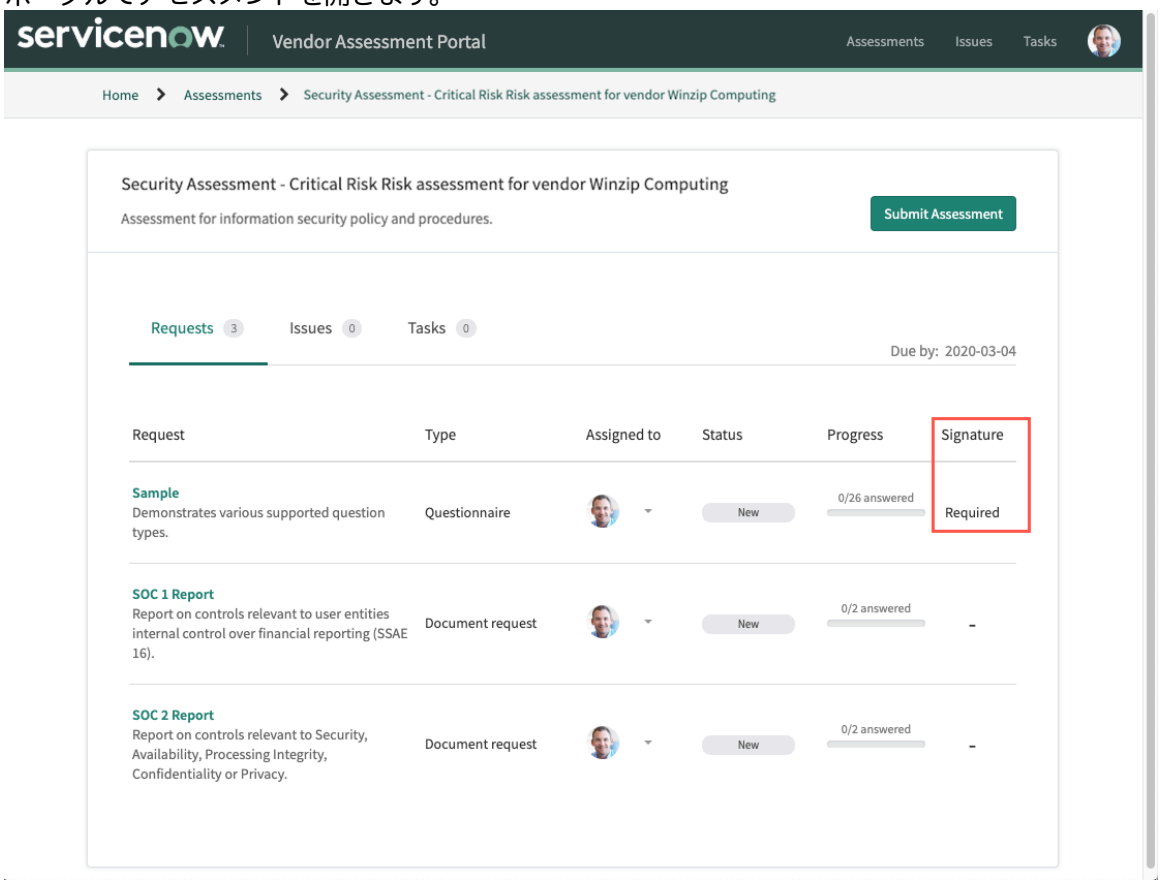
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- サードパーティの主要連絡先に、サードパーティポータル内のアセスへのリンクを含むメール通知が届きます。

  注:
  [以前の回答を含める] オプションを使用すると、回答がアセスメント A からアセスメント B に 1 回コピーされます。後でアセスメント A に加えた変更は、アセスメント B には反映されません。両方の評価は別々のままです。

7. サードパーティの連絡先担当者は、アセスメントに回答する準備ができた時点で、サードパーティポータルでアセスメントを開きます。



注:
この例では、アンケートのうちいずれか 1 つに署名が必要です。サードパーティまたはレビュー担当者は、アンケートまたはドキュメントの要求を送信する前に、保存して電子署名する必要があります。詳細については、「アンケートまたは文書要求の電子署名」を参照してください。

8. TPR 査定人は、アセスメントのステータスを [所見を生成中] に移行します。

   この間に、TPR 査定人は [文書の要求] または [アンケート] 関連リストの [応答を表示] リンクを選択して応答を表示し、必要に応じてコメントを提供したり、応答を変更したりできます。

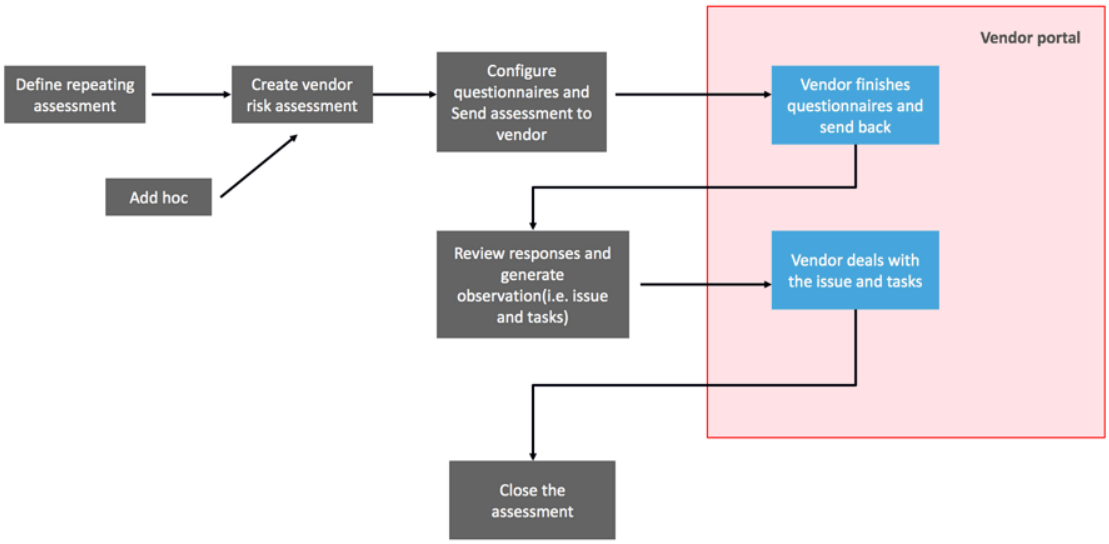
   問題が発生した場合は、TPR 査定人が問題を作成して修正プロセスを追跡します (サードパーティとの最終処理)。

9. TPR 査定人がアセスメントを [クローズ済み] ステータスに移行します。

次のタスク
TPR 査定人は、サードパーティポータルを通じてサードパーティと連携してアセスメントをクローズします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳



デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿の使用

ベンダー管理ワークスペースの デジタルレジリエンスサードパーティ情報登録 アプリケーションを使用して、アセスメント、支店、法人などを作成、更新、追跡し、ICTサードパーティサービスプロバイダーとの契約上の取り決めの登録を維持します。

デジタルレジリエンスサードパーティ登録

リリース 19.1.x 以降、デジタルレジリエンスサードパーティ情報登録 アプリケーションは ベンダー管理ワークスペース のDORAコンプライアンスでサポートされています。

デジタルレジリエンスサードパーティ情報登録 アプリケーションは、デジタルレジリエンスサードパーティ登録のダウンロードに使用されます。アプリケーションには、レポート用のすべてのタブを含む Microsoft Excel テンプレートが含まれています。これは、金融機関が個々の取引主体、準連結、および連結レベルで ICT サードパーティサービスプロバイダー との契約上の取り決めの包括的な登録を維持するのに役立ちます。

デジタルレジリエンスサードパーティ登録を使用して、Microsoft Excelアップロードおよびダウンロード機能を使用して、アセスメント、支店、契約、機能、法人、サプライチェーン、サードパーティ、またはサードパーティエンゲージメントのレコードを一括または個別に作成または編集できます。

> **注:**
> IRM Professional ライセンスのユーザーは、オペレーショナルレジリエンスワークスペース内のデジタルレジリエンスサードパーティ登録にアクセスできます。ライセンスユーザーがアクセスできるTPRMライセンスデジタルレジリエンスサードパーティ登録TPRM ワークスペース。

デジタルレジリエンスサードパーティ登録アプリケーションは、エンティティに対して次の複数の機能を果たします。

- エンティティがサードパーティリスク ICT 追跡するのを支援します。
- 欧州連合の管轄当局に、金融機関内のICTおよびサードパーティリスク管理を監督する権限を与えます。
- 欧州監督当局 (ESA) がEUレベルの監督のための重要な ICT サードパーティサービスプロバイダー (CTPP) を特定するのを支援します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デジタルレジリエンスサードパーティ登録の構成とその考えられるユースケースの詳細については、「デジタルレジリエンスサードパーティ登録の構成と情報登録簿を更新するユースケース」を参照してください。

デジタルオペレーショナルレジリエンス

デジタル オペレーショナルレジリエンス とは、金融機関が運用の完全性と信頼性を構築、保証、およびレビューする能力を指します。これにより、エンティティは、ネットワークと情報システムを保護するために必要なすべての ICT 関連機能を確実に備えることができます。これらのシステムは、金融サービスの継続的な提供をサポートし、混乱時でもその品質を維持します。継続性は、 ICT サードパーティサービスプロバイダーが提供するサービスで直接的または間接的に実現できます。

デジタルオペレーショナルレジリエンスアクション

デジタル オペレーショナルレジリエンス はデジタルオペレーショナルレジリエンスアクション (DORA)と一致しています。これは、2023 年 1 月 16 日に発効した 欧州連合 (EU) 規制で、2025 年 1 月 17 日から適用されます。欧州監督当局(ESA)が監督する金融機関のICTセキュリティを強化し、欧州の金融セクターを大規模なデジタルディスラプションから保護します。

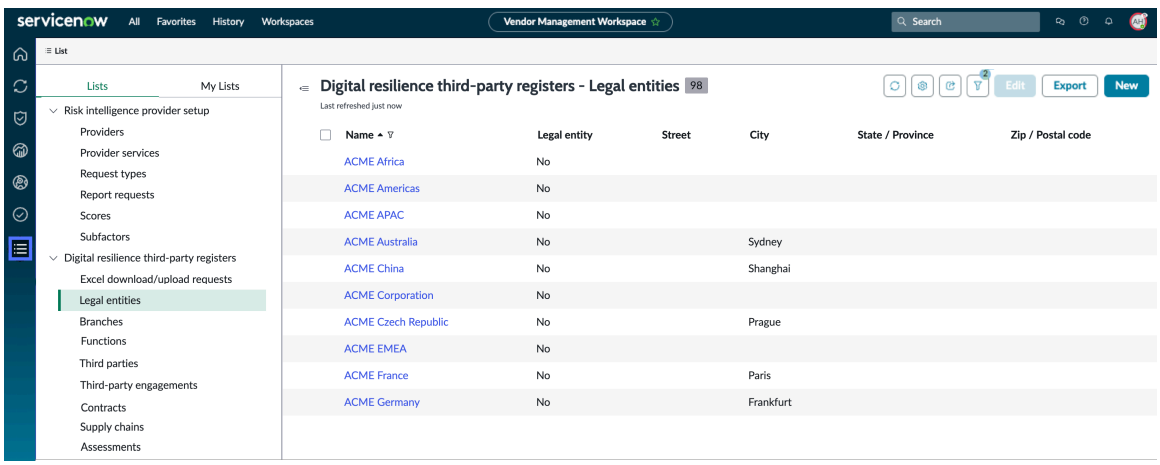
DORA と デジタルレジリエンスサードパーティ情報登録 アプリケーションの詳細については、「https://www.eba.europa.eu/activities/direct-supervision-and-oversight/digital-operational-resilience-act とデジタルレジリエンスサードパーティ登録 の探索」を参照してください。

のレコードを作成しています デジタルレジリエンスサードパーティ登録

サードパーティリスク (TPR) 査定人 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor] と TPR マネージャー [sn_vdr_risk_asmt.vendor_manager] は、ベンダー管理ワークスペース内のデジタルレジリエンスサードパーティ登録に移動して、これらのレコードを作成および更新できます。これらのレコードは、特定の順序で作成または更新する必要があります。このシーケンスの詳細については、「 レコードの作成とレビュー」を参照してください。

> **注:**
> TPR 査定人と TPR マネージャーは、サードパーティ、サードパーティエンゲージメント、契約のレコードを削除できます。TPR アドミニストレーター [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin] は、個々のレコードに移動して [削除] を選択することで、すべてのレコードタイプを削除できます。

次の例は、ベンダー管理ワークスペースのデジタルレジリエンスサードパーティ登録にレコードがどのように表示されるかを示しています。



次のレコードは手動で作成および更新できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

法人

法人レコードを作成するには、ベンダー管理ワークスペース内のデジタルレジリエンスサードパーティ登録に移動します。ここでは、既存の法人を表示し、 DORA 規制に準拠するためにデジタルレジリエンス情報を強化できます。デジタルレジリエンスサードパーティ情報登録アプリケーションをインストールすると、サードパーティとしてまだ定義されていない既存の会社に [法人] 関連リストが追加され、その詳細を追加できるようになります。法人レコードには、取引主体識別子 (LEI)、名前、登録国、取引主体タイプなど、規制報告に不可欠なフィールドが含まれています。これらのフィールドは、システム内で選択リストとして提供されます。システムはエンティティ階層を認識し、最終的な親に追加の詳細は必要ありませんが、子会社は親エンティティを指定する必要があります。各法人の登録日も表示されます。さらに、テクニカルサービスのアウトソーシングのために外部サードパーティと連携するエンティティの規制当局の要求に応じて、最終更新日、統合日、削除ステータス、削除日、使用通貨、総資産価値などの具体的な詳細がエンティティごとに文書化されます。規制当局は、テクニカルサービスのアウトソーシングのために外部サードパーティと連携する法人に対して、これらの特定の詳細を義務付けています。

注:
既存のサードパーティは [法人] リストに表示されません。会社レコードは、サードパーティまたは法人としてのみ定義できます。会社および法人の場合、[仕入先] オプションは **[False]** に設定されます。(このチェックボックスはオンになっていません)。

詳細については、「 法人の作成とデジタルレジリエンスデータの強化」、「 新規会社の作成フォーム」、「 新しい法人の作成フォーム」を参照してください。

分岐

分岐レコードを作成するには、ベンダー管理ワークスペース内のデジタルレジリエンスサードパーティ登録に移動します。これにより、支店のデジタルレジリエンス情報を強化して、 DORA 規制へのコンプライアンスを確保できます。法人は、さまざまな都市や国で複数の支店を運営でき、これらすべての支店を文書化できます。新しい支店が設立されたら、その情報を規制報告に含める必要があります。キャプチャされる一般的な詳細には、支店の名前と説明、オーナーの詳細、レポート用の事業部門と部門、支店が本社か別のタイプか、支店 ID、発信国などがあります。支店番号が自動生成され、すべての詳細が完了すると、情報を情報登録簿にキャプチャする準備が整います。

詳細については、「分岐を作成してデジタルレジリエンスデータを強化」および「[新しい分岐を作成] フォーム」を参照してください。

関数

ベンダー管理ワークスペース内のデジタルレジリエンスサードパーティ登録に移動すると、機能レコードを作成できます。ここでは、機能識別子、ライセンスアクティビティ、機能名、重要度または重要性アセスメントなどの詳細を追加できます。各機能は、デジタルオペレーショナルレジリエンス法 (DORA) で定義されている特定のサービスまたはサービスグループを表します。機能レコードは、説明テキストなど、各機能に関する詳細情報をキャプチャするために使用されます。機能レコードが作成されると、デジタルレジリエンス情報を強化して DORA 規制へのコンプライアンスを確保し、サードパーティが提供する ICT サービスの使用状況を効果的に文書化できます。

詳細については、「機能の作成とデジタルレジリエンスデータの強化」および「新しい関数の作成フォーム」を参照してください。

サードパーティ

既存のサードパーティレコードにアクセスして表示するには、ベンダー管理ワークスペースのデジタルレジリエンスサードパーティ登録内にある [サードパーティ] リストを選択します。デジタルレジリエンスサードパーティ登録をインストールすると、デジ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タルレジリエンス情報関連リストがサードパーティのページに追加され、デジタルレジリエンス情報の詳細を設定できるようになります。

ここでは、付加価値税 (VAT) 番号または会社登録番号 (CRN) で取得できるサードパーティの法人 ID を表示できます。登録国とそのコードを指定できます。登録国は、システムによって ID の生成に使用されます。さらに、サードパーティが Ultimate か子会社かを示し、 ICT サードパーティの名前と提供するサービスのタイプ (サービスとしてのソフトウェアなど) を含め、必要に応じて個人が組織を代表して行動するかどうかに注意することができます。レポート通貨を選択し、このエンゲージメントの年間経費の合計を入力することもできます。

詳細については、「 サードパーティを作成し、デジタルレジリエンスデータを強化」、「 新規会社の作成フォーム」、「 [新しい ICT サードパーティサービスプロバイダーの作成] フォーム」を参照してください。

エンゲージメント

既存のサードパーティエンゲージメントレコードにアクセスして表示するには、ベンダー管理ワークスペースのデジタルレジリエンスサードパーティ登録内にある [サードパーティエンゲージメント] リストを選択します。デジタルレジリエンスサードパーティ登録をインストールすると、[デジタルレジリエンス情報] 関連リストがサードパーティエンゲージメントページに追加され、デジタルレジリエンス情報の詳細を設定できるようになります。

ここでは、サードパーティの名前、そのタイプ、年間消費量、エンゲージメント階層、およびその他の関連情報を表示できます。ICTサードパーティサービスプロバイダーレコードを作成することで、レコードのデジタルレジリエンス情報を強化できます。サービスプロバイダーの名前、識別コード、ICTサービスのタイプ、通貨などのサードパーティサービスプロバイダーの詳細ICTを追加します。これにより、 DORA 規制に準拠するための関連するサードパーティエンゲージメントのデジタルレジリエンス情報が強化されます。

詳細については、「 サードパーティエンゲージメントを作成し、デジタルレジリエンスデータを強化します」、「 新しいサードパーティエンゲージメントの作成フォーム」、「 サードパーティエンゲージメントへのデジタルレジリエンス情報の追加」を参照してください。

契約

契約レコードを作成するには、ベンダー管理ワークスペース内のデジタルレジリエンスサードパーティ登録に移動します。ここでは、ベンダー名、開始日と終了日、ステータス、サブステート、その他の関連情報などの詳細を追加できます。契約レコードが確立されたら、デジタルレジリエンス情報を拡張して、 DORA 規制へのコンプライアンスを確保できます。

デジタルレジリエンスサードパーティ登録は、組織内の誰が外部アウトソーシングされた ICT サービスを使用しているか、どの機能と支店がそれらを使用しているか、およびサードパーティプロバイダーとそのエンゲージメントが誰であるかについての詳細を提供します。契約は、これらの側面間のリンクとして機能し、法人、支店、および機能をサードパーティとそのエンゲージメントに拘束します。

これらの契約には、 デジタルレジリエンスサードパーティ登録の [契約] リストからアクセスできます。または、特定の法人のレコードに移動し、[法人] 関連リストを開いて、関連するすべての契約情報にアクセスします。法人の契約を表示するには、法人のレコードに移動し、[法人] 関連リストを開いて、さまざまな [契約] 関連のタブに移動します。契約に署名するエンティティがそれを使用するエンティティと異なる場合、その詳細はサービスプロバイダーとともにレコードに含まれます。これらのレコードにキャプチャされる詳細には、データのストレージと処理の場所、データの機密性とサービスプロバイダーの信頼性、契約と終了の詳細、年次アセスメント、契約参照番号などがあります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

詳細については、「契約を作成し、デジタルレジリエンスデータを強化」、「[新規契約を作成] フォーム」、「[新しい契約上の取り決めを作成 (Create New Contractual Arrangement)] フォーム」を参照してください。

サプライチェーン

サプライチェーンレコードを作成するには、ベンダー管理ワークスペース内のデジタルレジリエンスサードパーティ登録に移動します。ここでは、 ICT サービスのタイプ、ICT サービスを提供する取引主体の取引主体識別子 (LEI) など、サプライチェーンの詳細をキャプチャできます。

詳細については、「サプライチェーンの構築とデジタルレジリエンスデータの強化」および「[新しい契約上の取り決めを作成 (Create New Contractual Arrangement)] フォーム」を参照してください。

アセスメント

ICTサービスレコードのアセスメントを作成するには、ベンダー管理ワークスペース内のデジタルレジリエンスサードパーティ登録に移動します。ここでは、 ICT サードパーティサービスプロバイダーの契約上の取り決め参照番号、識別コード、コードのタイプなどの詳細を追加できます。アセスメントが作成されたら、デジタルレジリエンス情報を強化して、 DORA 規制へのコンプライアンスを確保できます。契約とサードパーティを毎年レビューする必要があります。

ICTサードパーティサービスプロバイダーの契約上の取り決め参照番号、識別コード、コードタイプなどの詳細を追加します。その後、 DORA 規制に準拠するためにデジタルレジリエンス情報を強化できます。

詳細については、「アセスメントを作成し、デジタルレジリエンスデータを強化」および「[新しい契約上の取り決めを作成 (Create New Contractual Arrangement)] フォーム」を参照してください。

デジタルレジリエンスサードパーティ登録の使用に関連するロールの詳細については、「サードパーティリスク管理 でのロール」を参照してください。

レコードのアップロードとダウンロード

個々のレコードの作成に加えて、TPR 査定人と TPR マネージャーは、Excel のダウンロード/アップロード要求機能を使用してレコードのダウンロードを要求できます。詳細については、「 Microsoft Excelダウンロード要求の作成」および「 Excel のダウンロード/アップロード要求フォームの新規作成」を参照してください。

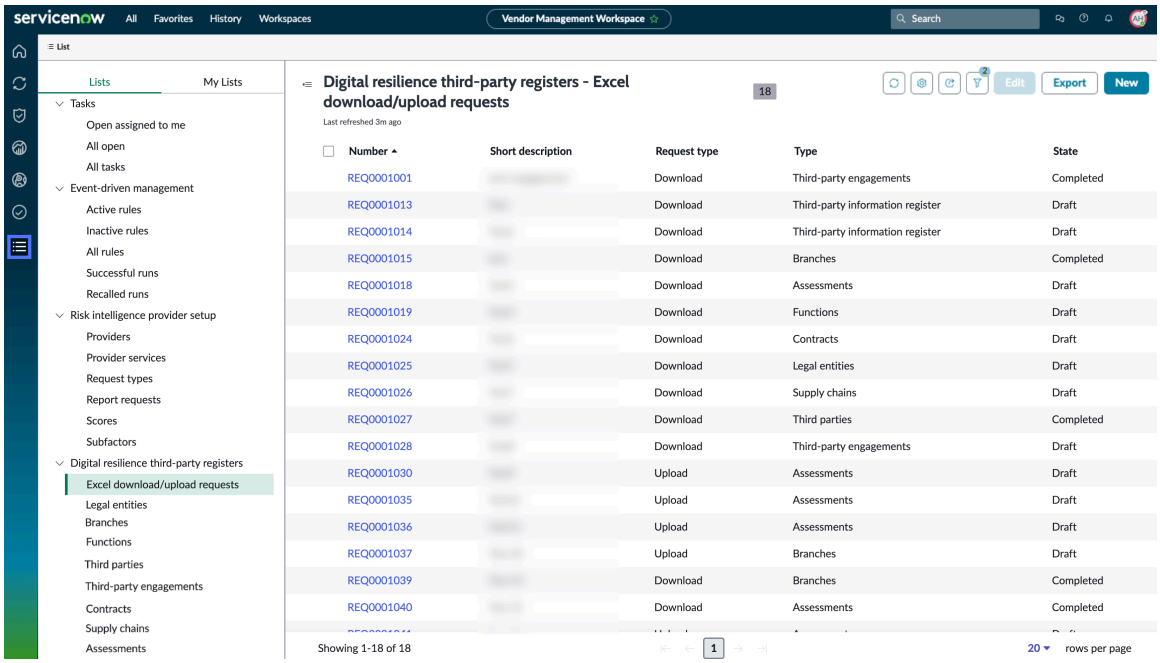
注:
Excel のダウンロード/アップロード要求を編集および削除するには、TPR アドミンロールが必要です。

TPR アドミニストレーターは、Excel のダウンロード/アップロード要求機能を使用して、レコードを一括で作成および更新できます。詳細については、「レコードの一括作成」と「既存のレコードの一括更新」を参照してください。

次の例は、Excel のダウンロード/アップロード要求を表示および作成できる場所を示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



注:
サードパーティアセスメントレビュー担当者 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessment_reviewer] ロールを持っている場合は、ベンダー管理ワークスペースデジタルレジリエンスサードパーティ登録で必要なレコードリストに移動して、各レコードタイプのリストをエクスポートできます。

法人の作成とデジタルレジリエンスデータの強化

サードパーティリスク管理を使用してデジタルレジリエンスサードパーティ登録で法人レコードを作成します。その後、名前、タイプ、国、階層などの法人のデジタルレジリエンス情報を構成できます。

始める前に
必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor

このタスクについて
ベンダー管理ワークスペースのデジタルレジリエンスサードパーティ登録内にある [法人] リストを選択すると、システム内の既存の法人レコードを表示できます。

注:
既存のサードパーティは [法人] リストに表示されません。会社レコードは、サードパーティまたは法人としてのみ定義できます。会社および法人の場合、[仕入先] オプションは **[False]** に設定されます。(このチェックボックスはオンになっていません)。

デジタルレジリエンスサードパーティ登録をインストールすると、サードパーティとしてまだ定義されていない既存の会社レコードページに 法人 タブが追加されます。タブを選択して、その法人の詳細を設定できます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペースをクリックし、リストアイコン ( )を選択して、 デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿に移動します。
2. 法人 を選択し、新規 を選択して会社レコードを作成します。
3. フォームで、フィールドに入力します。
   各フィールドの説明については、「新規会社の作成フォーム」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

4. **[Save** (保存)] を選択します。

   会社レコードが設定されます。ユーザーは、会社の法人と、会社レコードの 法人 タブでデジタルレジリエンス情報を設定できます。

5. 法人レコードを作成し、 DORA 規制のデジタルレジリエンス情報を設定するには、 法人 タブに移動し、 新規 を選択します。

   法人レコードには、法人の規制報告に必要な情報を提供するフィールドが含まれています。これには、取引主体識別子 (LEI)、名前、登録国、取引主体タイプ (規制当局が定義) などの詳細が含まれます。これらのフィールドは、ユーザーが選択できるシステム内の選択リストとして提供されます。

   法人のデジタルレジリエンス情報の設定については、「 新しい法人の作成フォーム」を参照してください。

6. **[Save** (保存)] を選択します。
   これで、会社レコードが法人に関連付けられました。これを確認するには、[法人] リストの [法人] 列を確認します。列フィールドに [はい] が表示されている場合、法人は会社レコードに関連付けられています。

7. 法人レコードを編集するには、会社レコードの [法人] タブに移動し、必要な法人を選択して、編集後に [保存] を選択します。

8. 法人レコードをエクスポートするには、 エクスポート を選択します。

次のタスク

法人の支店を設定します。詳細については、「分岐を作成してデジタルレジリエンスデータを強化」を参照してください。

新規会社の作成フォーム

[新しい会社を作成] フォームで、法人のフィールドに入力します。

新規会社の作成フォーム

フィールド	説明
名前	会社の一意の名前。
Web サイト	会社の Web サイトの詳細。
DUNS 番号	アプリケーションによって生成された会社の一意の識別番号。データユニバーサルナンバーシステム番号は、ビジネスを識別する一意の9桁の番号です。
ランク	会社のランク。利用可能なオプションは次のとおりです： • 戦略的パートナー • 価値あるパートナー • 戦術的サプライヤー • 対象外サプライヤー • その他
サードパーティ階層	会社にアサインされた階層。利用可能なオプションは次のとおりです：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規会社の作成フォーム (続く)

フィールド	説明
	• **1:**非常に高い • **2 -** 高 • **3 -** 中 • **4 -** 低 • 5：非常に低い
ベンダーマネージャー	会社のベンダーマネージャー。
事業主	会社の事業主のリスト。
親	企業階層を決定する親組織。
ステータス	会社の現在の地位。利用可能なオプションは次のとおりです： • 未選択 • 選択済み • オンボーディング • 見込み客 • **Active** (アクティブ) • 未承認のアクティブ • 終了 • オンボーディングが却下されました
リスク評価	リスク評価に基づいて会社に割り当てられた評価。このフィールドは自動入力されます。
合計年間消費量	会社が年間に費やす合計金額。このフィールドは自動入力されます。
メモ	会社に関するその他の発言またはコメント。
全般	
業種	会社のセクターまたは業種分類。利用可能なオプションは次のとおりです： • 農業 • アパレル • 銀行 • バイオテクノロジー • 化学物質 • コミュニケーション • 作成 • コンサルティング

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規会社の作成フォーム (続く)

フィールド	説明
	• 教育 • 電子機器 • エネルギー • 開発/構築 • エンターテイメント • 環境 • 財務 • 料理と飲料 • 政府機関 • 医療 • ホスピタリティ • 保険 • 機械 • 製造業 • メディア • 非営利目的 • レクリエーション
ベンダー	会社をベンダーとして識別するための選択肢。既定では、会社および法人の場合、このオプションは **False** に設定されます (チェック ボックスは選択されていません)。
メーカー	ユーザーが調達するアイテムを生産するメーカー。
従業員数	会社の従業員数。
バナーイメージ	高さが 60～70 ピクセルの会社のバナー画像。
イメージを添付	バナー画像を添付するオプション。
バナーテキスト	バナー画像とともに表示されるバナーテキスト。
場所	
番地、市区町村、都道府県、郵便番号、国、電話番号、FAX	会社の標準的な連絡先情報。
緯度と経度	リスク集中マップ上で会社の場所をマークするために使用される値。
財務	
株式公開	会社が株式公開であるかどうかをマークするオプション。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規会社の作成フォーム (続く)

フィールド	説明
銘柄コード	会社の銘柄記号。
株価	会社の株価。
1 年あたりの収益	会社の 1 年間の収益。
時価総額	同社の時価総額。
利益	会社の利益。
会計年度	会社の会計年度 (YYYY-MM-DD 形式)。
リスク評価	
計算済みリスク評価	計算されたリスク評価。このフィールドは自動入力されます。 値は会社の全体的なリスク評価であり、アセスメント後にすべての TPR 査定人のリスク評価をロールアップして計算されます。
リスク評価を上書き	計算されたリスク評価を上書きするオプション。 チェックボックスをオンにする場合は、次の値を指定します。 • 上書きされたリスク評価:新しいリスク評価を選択します。 • 上書き日:上書きされたリスクの評価または理由が更新される日付。 • 理由:値を上書きする理由を入力します。
上書きされたリスク評価	ユーザーによって手動で変更された評価で、システムによって計算された評価を上書きします。利用可能なオプションは次のとおりです： • **1:**非常に高い • **2 -** 高 • **3 -** 中 • **4 -** 低 • 5：非常に低い
上書き日	上書きされたリスク評価またはその理由が最後に更新された日付。
理由	リスク評価を上書きする理由。
アセスメントリスク評価	アセスメントのリスクレベル。このフィールドは自動入力されます。
エンゲージメントリスク評価	エンゲージメントのリスクレベル。このフィールドは自動入力されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新規会社の作成フォーム (続く)

フィールド	説明
子会社のリスク評価	子会社のリスクレベル。このフィールドは自動入力されます。
リスクインテリジェンス評価	リスクイベントの可能性と影響度を反映するスコア。このフィールドは自動入力されます。

新しい法人の作成フォーム

[新しい法人の作成 (Create New Legal entity)] フォームで、フィールドに入力してデジタルレジリエンス情報を設定します。

新しい法人の作成フォーム

新しい法人の作成フォーム

フィールド	説明
デジタルレジリエンスの情報	
取引主体の LEI	法人識別子。情報登録簿に報告されたエンティティの一意のグローバル識別子。ISO 17442 標準に基づく 20 文字の英数字コードを使用します。
取引主体の名前	情報登録簿を維持および更新するエンティティの正式名。
取引主体の国	情報登録簿に記載されているエンティティのライセンスまたは登録が発行された 2 文字の国コード。
取引主体のタイプ	エンティティのタイプ。次のいずれかのオプションを使用して、エンティティのタイプを識別します。 • 信用機関 • 投資会社 • 中央カウンターパーティ **(CCP)** • 資産管理会社 • アカウント情報サービスプロバイダー • 電子マネー機関 • 暗号資産サービスプロバイダー • 中央セキュリティ保管庫 • 取引場所 • 取引情報蓄積機関 • 支払機関 • その他の金融機関 • 証券化リポジトリ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい法人の作成フォーム (続く)

フィールド	説明
	• クラウドファンディングサービスプロバイダー • 重要なベンチマークのアドミニストレーター • 信用格付機関 • 企業年金制度 • 保険仲介業者、再保険仲介業者、付帯保険仲介業者 • 保険および再保険事業 • データレポートサービスプロバイダー • オルタナティブ投資ファンドの運用会社 • 非金融機関：**ICT** グループ内サービスプロバイダー以外 • 非金融機関：**ICT** グループ内サービスプロバイダー • 資産参照トークンの発行者
グループ内の取引主体の階層	次のいずれかのオプションを使用して識別されるグループ内のエンティティの階層。 • 最終的な親 • 最終的な親以外の親 • 子会社 • グループの取引主体以外の取引主体 • アウトソーシング
取引主体の直接の親会社の LEI	情報登録簿に報告されている取引主体の直接の親会社の取引主体識別子 (LEI)。このフィールドは、 グループフィールド内のエンティティの階層 が次のいずれかの値を持つ場合に表示されます。 • 最終的な親以外の親 • 子会社 • グループの取引主体以外の取引主体 • アウトソーシング
最終更新日	エンティティに関連する情報登録簿で最後に行われた YYYY-MM-DD 形式の更新日。
情報登録簿の統合日	エンティティが情報登録簿に追加された YYYY-MM-DD 形式の日付。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい法人の作成フォーム (続く)

フィールド	説明
金融機関は情報登録で削除されていますか？	金融機関が情報登録で削除されたかどうかなど、法人の情報。利用可能なオプションは次のとおりです： • はい: 情報登録簿フィールドの削除日 を表示します。 • いいえ:金融機関が情報登録簿から削除されている場合、日付は次のフィールドに自動的に入力されます。 情報 登録簿の削除日。
通貨	金融機関の財務諸表の作成に使用される通貨コード。
金融機関の総資産価値	前年度の財務諸表に基づく、ICT サービスを使用する取引主体の総資産の金銭的価値。

分岐を作成してデジタルレジリエンスデータを強化

サードパーティリスク管理を使用してデジタルレジリエンスサードパーティ登録で分岐レコードを作成します。その後、 DORA 規制に準拠するためにデジタルレジリエンス情報を強化できます。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor

このタスクについて

法人は、さまざまな都市や国で複数の支店を運営でき、そのすべてをフォームに文書化できます。新しい支店が開設された場合、その情報は規制報告にも必要です。

手順

1. 移動先 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペースをクリックし、リストアイコン (を選択して、 デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿に移動します。
2. 分岐 を選択し、新規 を選択して分岐を作成します。
3. フォームで、フィールドに入力します。
   各フィールドの説明については、「[新しい分岐を作成] フォーム」を参照してください。

   ユーザーは通常、分岐の次の詳細を入力します。
   - 分岐名とその説明
   - オーナーの詳細
   - レポート目的での事業部門と部門のタグ付け
   - 支店を本社または本社以外の別の支店として指定する
   - 支店の ID と発信国

   分岐の番号が自動生成されます。分岐の詳細が完了すると、情報を情報登録にキャプチャする準備が整います。
4. **[Save** (保存)] を選択します。
5. 法人レコードを編集するには、会社レコードの [法人] タブに移動し、必要な法人を選択して、編集後に [保存] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. 分岐レコードを編集するには、リストから選択し、編集後に 保存 を選択します。
7. 分岐レコードをエクスポートするには、 エクスポート を選択します。

次のタスク

分岐に関連付けられている関数を指定します。詳細については、「機能の作成とデジタルレジリエンスデータの強化」を参照してください。

[新しい分岐を作成] フォーム

[新しい分岐を作成] フォームで、フィールドに入力します。

[新しい分岐を作成] フォーム

フィールド	説明
SysID	インスタンス内の各分岐レコードを識別する一意の 32 文字の GUID (グローバル一意識別子)。既存のレコードを更新する場合は、この値を指定します。システムに新しいレコードを作成する場合は、値 -1 を指定します。
名前	分岐の名前。
説明	分岐の説明。
番号	アプリケーションによって生成される分岐の一意の識別番号 (BRN0001005 など)。このフィールドは自動入力されます。
部門	支店が属する部門 (カスタマーサポート、製品管理など)。
所有者	分岐の所有者の名前。
業務部門	支店に関連付けられている事業部門の名前 (HR、IT、法務など)。
デジタルレジリエンスの情報	
支店が金融機関の本店と異なるかどうか	支店が本社と異なるかどうかを確認するオプション。利用可能なオプションは次のとおりです： • はい: [はい] オプションを選択すると、[識別コードタイプ] フィールドと [分岐の識別コード] フィールドが表示されます。 • **No** (なし)
識別コードタイプ	分岐に使用される識別コードのタイプ。利用可能なオプションは次のとおりです： • **LEI** • その他
支店の識別コード	金融機関の海外支店で、FB97521 などの特定のコードで一意に識別されます。金融機関は、支店の取引主体識別子 (LEI) またはその他の識別コードを使用して支店を区別します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新しい分岐を作成] フォーム (続く)

フィールド	説明
支店の金融機関本店の LEI	支店が属する金融機関の本店の取引主体識別子 (LEI) (例:LEIACMEGermany001 または LEIACMEAmericas001)
支店の名前	識別に使用される分岐の名前。支店の金融機関本店の LEI を入力すると、このフィールドは自動入力されます (例:フランクフルト支店)。
支店の国	支店がある 2 文字の国コード。支店の金融機関本店の LEI を入力すると、このフィールドは自動入力されます (例:ドイツ)。

機能の作成とデジタルレジリエンスデータの強化

機能識別子、ライセンスアクティビティ、機能名、重要度、重要性アセスメントの詳細などの機能の詳細を構成できるサードパーティリスク管理を使用して、デジタルレジリエンスサードパーティ登録で機能レコードを作成します。その後、 DORA 規制に準拠するためにデジタルレジリエンス情報を強化できます。

始める前に
必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor

このタスクについて
法人は複数の支店を持つことができ、これらの支店全体でさまざまな機能が動作します。したがって、法人、支店、および機能は、アウトソーシングされる ICT サービスのユーザーです。

機能は、サービス、サービスオファリング、またはプロセスにすることができます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペースをクリックし、リストアイコン (を選択して、 デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿に移動します。
2. 関数 を選択し、新規 を選択して関数を作成します。
3. フォームで、フィールドに入力します。

   各フィールドの説明については、「新しい関数の作成フォーム」を参照してください。

4. **[Save** (保存)] を選択します。

   組織にはさまざまな機能があり、それぞれが デジタルオペレーショナルレジリエンスアクション (DORA) で定義されている特定のサービス、サービスオファリング、またはサービスのグループ、またはそのサービスオファリングを表します。これらの機能を選択して表示できます。関数フォームは、各関数に関する詳細情報をキャプチャするように設計されています。

   フォームに説明テキストを追加することもできます。完了すると、サードパーティから提供された情報および通信技術 ICT サービス使用状況に関する詳細がキャプチャされます。

5. 機能レコードを編集するには、リストから選択し、編集後に [保存] を選択します。
6. 関数レコードをエクスポートするには、[エクスポート] を選択します。

新しい関数の作成フォーム

[新しい関数を作成] フォームで、フィールドに入力します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

新しい関数の作成フォーム

フィールド	説明
名前	機能の名前 (例:財務会計)。
説明	関数の説明。
番号	アプリケーションによって生成される機能の一意の識別番号 (FUN0001003 など)。このフィールドは自動入力されます。
部門	経理などの機能が属する部門。
所有者	関数の所有者の名前。
業務部門	HR、IT、法務など、職務に関連付けられている事業部門の名前。
デジタルレジリエンスの情報	
機能識別子	文字 F (大文字) とそれに続く自然数で構成される機能識別子 (たとえば、1 番目の関数識別子は「F1」、n 番目の関数識別子は「Fn」で、「n」は自然数です)。たとえば、新しい関数を作成すると、F1、F2、F3 のようになります。このフィールドは自動入力されます。
ライセンスを受けたアクティビティ	附属書 II で異なる種類の金融機関について言及されているライセンスされた活動。関数が関連するアクティビティのリスト。ライセンスアクティビティは、ユーザーによって提供された特定のドロップダウンリストと、規制当局が要求する値のセットです。
関数名	金融機関の内部組織に応じた機能名 (財務会計など)。
金融機関の LEI	LEI、20 文字の英数字コードを使用する金融機関 (例:LEIACMEGermany001)。
機能タイプ	関数のタイプ。 利用可能なオプションは次のとおりです： • ビジネス機能 • ビジネスサービス • **Business process** (ビジネスプロセス) • サービスオファリング • 独立したオブジェクトであるか [ビジネスケイパビリティ] オプションを選択すると、[ビジネスケイパビリティを選択] フィールドが表示されます。 [ビジネスサービス]、[ビジネスプロセス]、または [サービスオファリング] のオプションを選択すると、次のフィールドが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい関数の作成フォーム (続く)

フィールド	説明
	• ビジネスサービスを選択する • ビジネスプロセスを選択する • サービスオファリングを選択
非常に重要または重要アセスメント	金融機関のアセスメントに基づく機能の重要度または重要性。利用可能なオプションは次のとおりです： • **Yes** (あり) • **No** (なし) • アセスメントが実行されませんでした
非常に重要または重要な理由	機能を重要または重要に分類する理由の簡単な説明。最大 300 文字が許可されます。
非常に重要または重要な最後のアセスメントの日付	ICT サードパーティサービスプロバイダーが提供する ICT サービスによって機能がサポートされている場合の、非常に重要または重要な最後のアセスメントの日付。 オペレーショナルレジリエンスがある場合、この情報は自動入力されます。オペレーショナルレジリエンスがなく、TPRM でアプリケーションを使用している場合は、この情報を手動で入力する必要があります。 関数がサービス関連で、 オペレーショナルレジリエンスがあり、重要性と影響度のアセスメントを完了すると、デフォルト値がそのアセスメントからコピーされます。
機能の目標復旧時間	機能の目標復旧時間 (時間数)。目標復旧時間が 1 時間未満の場合、「1」と報告されます。機能の目標復旧時間が定義されていない場合は、「0」が報告されます。 ビジネスプロセス、サービス、またはサービスオファリングに対してビジネスインパクトアナリシス (BIA) が実施され、事業継続性管理 (BCM) も同じインスタンスに設定されている場合、値はこの機能の関連する BIA からコピーされます。
機能の目標復旧時点	機能の目標復旧時点 (時間数)。目標復旧時点が 1 時間未満の場合、「1」と報告されます。機能の目標復旧時点が定義されていない場合は、「0」が報告されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい関数の作成フォーム (続く)

フィールド	説明
	ビジネスプロセス、サービス、またはサービスオファリングに対してビジネスインパクトアナリシス (BIA) が実施され、事業継続性管理 (BCM) も同じインスタンスに設定されている場合、値はこの機能の関連する BIA からコピーされます。
機能利用停止の影響	金融機関の評価に従って機能利用を停止した場合の影響。対応するドロップダウンリストにあるオプションのうちの 1 つが使用されます。利用可能なオプションは次のとおりです： • やや複雑 • 中 • 高 • アセスメントが実行されませんでした

サードパーティを作成し、デジタルレジリエンスデータを強化

サードパーティリスク管理を使用して、デジタルレジリエンスサードパーティ登録でサードパーティレコードを作成します。名前、住所、電話番号、ベンダーマネージャーなど、サードパーティ会社の詳細を追加します。その後、 DORA 規制に準拠するためにデジタルレジリエンス情報を強化できます。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor

このタスクについて

ベンダー管理ワークスペースからデジタルレジリエンスサードパーティ登録内の [サードパーティ] リストを選択すると、システム内の既存のサードパーティにアクセスして表示できます。

デジタルレジリエンスサードパーティ登録をインストールすると、サードパーティの [デジタルレジリエンスの情報] タブが追加されます。このタブを開いて、デジタルレジリエンスの情報の詳細を設定できます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペースをクリックし、リストアイコン (を選択して、 デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿に移動します。
2. [サード パーティ] を選択し、 [新規] を選択してサード パーティを作成します。
3. フォームで、フィールドに入力します。

   各フィールドの説明については、「新規会社の作成フォーム」を参照してください。
4. **[Save** (保存)] を選択します。
5. DORA規制のデジタルレジリエンス情報を設定するには、サードパーティの デジタルレジリエンス情報 タブに移動し、新規 を選択します。
6. フォームで、フィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

各フィールドの説明については、「[新しい ICT サードパーティサービスプロバイダーの作成] フォーム」を参照してください。

7. サードパーティの会社レコードを編集するには、リストから選択し、編集後に [保存] を選択します。
8. サードパーティの会社レコードをエクスポートするには、 エクスポート を選択します。
9. サードパーティの会社レコードを削除するには、リストから選択して [削除] を選択します。

新規会社の作成フォーム

[新しい会社を作成] フォームで、サードパーティのフィールドに入力します。

新規会社の作成フォーム

フィールド	説明
名前	サードパーティの名前。
電話	サードパーティの電話番号。
FAX	サードパーティのファックス電話番号。
番地、市区町村、都道府県、郵便番号	サードパーティの標準の連絡先情報。
メーカー	サードパーティをメーカーとしてマークするオプション。
ベンダー	サードパーティをベンダーとしてマークするオプション。
銘柄コード	サードパーティの銘柄記号。
株価	サードパーティの株価。
メモ	サードパーティのその他の詳細。

[新しい **ICT** サードパーティサービスプロバイダーの作成] フォーム

[新しい ICT サードパーティサービスプロバイダーを作成 (Create New ICT third-party service provider)] フォームで、フィールドに入力します。

[新しい **ICT** サードパーティサービスプロバイダーの作成] フォーム

フィールド	説明
ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ	ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するために使用されるコードのタイプ。 利用可能なオプションは次のとおりです： • **LEI** • **EUID** • 国**Code_CRN**:会社登録番号 • 国**Code_VAT**:付加価値税識別番号 • 国**Code_PNR**:搭乗者名レコード • 国**Code_NIN**:国民識別番号

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新しい **ICT** サードパーティサービスプロバイダーの作成] フォーム (続く)

フィールド	説明
ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード	ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード。
ICT サービスプロバイダーを識別するための追加識別コードのタイプ	ICT サービスプロバイダーを識別するための追加の識別コードのタイプ。 利用可能なオプションは次のとおりです： • **LEI** • **EUID** • 国**Code_CRN**:会社登録番号 • 国**Code_VAT**:付加価値税識別番号 • 国**Code_PNR**:搭乗者名レコード • 国**Code_NIN**:国民識別番号
ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するための追加の識別コード	ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するための追加の識別コード。
ICT サードパーティサービスプロバイダーの人間のタイプ	ICT サードパーティサービスプロバイダーの個人のタイプ。利用可能なオプションは次のとおりです： • 法人 (ビジネス上の立場で行動する個人を除く) • ビジネス上の立場で行動する個人
ICT サードパーティサービスプロバイダーの本部の国	ICT サードパーティサービスプロバイダーの本社がある国。
ICT サードパーティサービスプロバイダーの正式名	ICT サードパーティサービスプロバイダーの正式名。
ICT サードパーティサービスプロバイダーの名前	ICT サードパーティサービスプロバイダーの名前。 このフィールドには、ICT サードパーティサービスプロバイダーが運営する一般的に使用されるブランド名または商号をリストできますが、正式名と正確には一致しない場合があります。
通貨	ICT サードパーティサービスプロバイダーの本社がある国の通貨。
ICT サードパーティサービスプロバイダーの年次経費または概算コストの合計	ICT サードパーティサービスプロバイダーの年次経費または概算コストの合計。
サードパーティは最終的なサードパーティですか?	サードパーティが最終的なサードパーティかどうかを確認するオプション。 利用可能なオプションは次のとおりです： • **Yes** (あり) • **No** (なし)

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新しい **ICT** サードパーティサービスプロバイダーの作成] フォーム (続く)

フィールド	説明
ICT サービスプロバイダーの最終的な親会社の識別コード	ICT サービスプロバイダーの最終的な親の識別コード。
ICT サービスプロバイダーの最終的な親を識別するためのコードのタイプ	ICT サービスプロバイダーの最終的な親を識別するために使用されるコードのタイプ。 利用可能なオプションは次のとおりです： • **LEI** • **EUID** • 国**Code_CRN**:会社登録番号 • 国**Code_VAT**:付加価値税識別番号 • 国**Code_PNR**:搭乗者名レコード • 国**Code_NIN**:国民識別番号

サードパーティエンゲージメントを作成し、デジタルレジリエンスデータを強化します

サードパーティリスク管理を使用して、デジタルレジリエンスサードパーティ登録でサードパーティエンゲージメントレコードを作成します。サードパーティの名前、そのタイプ、年間消費量、エンゲージメント階層など、サードパーティエンゲージメントの詳細を追加します。その後、 DORA 規制に準拠するためにデジタルレジリエンス情報を強化できます。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor

このタスクについて

ベンダー管理ワークスペースからデジタルレジリエンスサードパーティ登録内の [サードパーティエンゲージメント] メニューアイテムを選択すると、システム内の既存のサードパーティエンゲージメントにアクセスして表示できます。

サードパーティエンゲージメントモジュールでも デジタルレジリエンス情報 タブを使用でき、サードパーティエンゲージメントについてより詳細なレベルでレポートを作成できます。

デジタルレジリエンスサードパーティ登録をインストールすると、サードパーティエンゲージメントに [デジタルレジリエンス情報] タブが追加されます。このタブを開いて、デジタルレジリエンスの情報の詳細を設定できます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペースをクリックし、リストアイコン (を選択して、 デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿に移動します。
2. [サードパーティエンゲージメント] を選択し、[新規] を選択してサードパーティエンゲージメントを作成します。
3. フォームで、フィールドに入力します。
   各フィールドの説明については、「新しいサードパーティエンゲージメントの作成フォーム」を参照してください。
4. **[Save** (保存)] を選択します。
5. デジタルレジリエンスの情報を追加します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細については、「サードパーティエンゲージメントへのデジタルレジリエンス情報の追加」を参照してください。

6. サードパーティエンゲージメントレコードを編集するには、リストから選択し、編集後に [保存] を選択します。
7. サードパーティエンゲージメントレコードをエクスポートするには、[エクスポート] を選択します。

新しいサードパーティエンゲージメントの作成フォーム

新しいサードパーティエンゲージメントの作成フォームを使用して、サードパーティリスク管理を使用してデジタルレジリエンスサードパーティ登録でサードパーティエンゲージメントレコードを作成するために必要なすべての情報を取得します。サードパーティリスク査定人は、サードパーティエンゲージメントレコードを作成できます。

新しいサードパーティエンゲージメントの作成フォーム

フィールド	説明
名前	エンゲージメントの一意の名前。理想的には、エンゲージメントの対象である製品またはサービスについて言及します。
サードパーティ	このエンゲージメントレコードを作成するサードパーティ。
タイプ	エンゲージメント組織によって提供される製品またはサービスのタイプ。
開始日	開始日と終了日を入力して、エンゲージメントの有効期間を定義します。
終了日	サードパーティとのやり取りの開始と終了の希望日。
ステータス	エンゲージメントの現在のステータスを選択します。利用可能なオプションは次のとおりです： • **Active** (アクティブ) • オンボーディング • 見込み客 • 無許可のアクティブ • 終了 • オンボーディングが却下されました
リスク評価	アセスメントが実行された後にエンゲージメントに割り当てられたリスク評価を表示します。
エンゲージメント階層	このエンゲージメントに使用される階層。階層の決定方法の詳細については、「VRM サードパーティのリスク階層アセスメント」を参照してください。
年間消費量	このエンゲージメントのサービスに関連付けられた年間支出額。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しいサードパーティエンゲージメントの作成フォーム (続く)

フィールド	説明
エンゲージメントマネージャー	外部のアンケート、問題、およびタスクに対する回答を監視し、優先順位を付け、対応するユーザーを指定します。フィールドをロック/ロック解除するためのロックを選択します。
事業主	エンゲージメント組織と、エンゲージメントする製品またはサービスに精通している人物を指定します。フィールドをロック/ロック解除するためのロックを選択します。
メモ	他のユーザーにエンゲージメントを説明するテキストを入力します。
サードパーティエンゲージメント:連絡先	
番地、市区町村、都道府県、郵便番号、国、電話番号、ファックス	エンゲージメント組織の標準的な連絡先情報。
緯度と経度	[緯度] と [経度] の値は、リスク集中マップ上の場所をマークするために使用されます。「TPRM リスク集中マップ」を参照してください。
リスク評価	
計算済みリスク評価	計算済み 計算済みリスク評価。このフィールドは自動入力されます。 値は、第三者の全体的なリスク評価であり、アセスメント後にすべての TPR 査定人のリスク評価をロールアップして計算されます。
リスク評価を上書き	計算された評価を上書きするオプション。 チェックボックスをオンにする場合は、次の値を指定します。 • 上書きされたリスク評価:新しいリスク評価を選択します。 • 上書き日:上書きされたリスクの評価または理由が更新される日付。 • 理由:値を上書きする理由を入力します。
上書きされたリスク評価	ユーザーによって手動で変更された評価で、システムによって計算された評価を上書きします。利用可能なオプションは次のとおりです： • **1:**非常に高い • **2 -** 高 • **3 -** 中

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しいサードパーティエンゲージメントの作成フォーム (続く)

フィールド	説明
	• **4 -** 低 • 5：非常に低い
上書き日	上書きされるリスク評価または理由が更新される日付。
理由	値を上書きする理由。
アセスメントリスク評価	アセスメントのリスク評価。このフィールドは自動入力されます。
エンゲージメントリスク評価	エンゲージメントのリスク評価。このフィールドは自動入力されます。
子会社のリスク評価	子会社のリスク評価。このフィールドは自動入力されます。
リスクインテリジェンス評価	リスクイベントの可能性と結果に対応するスコア。このフィールドは自動入力されます。
フォーム上の関連リスト	
エンゲージメント連絡先	サードパーティエンゲージメントのエンゲージメント連絡先。
ビジネスサービス	サードパーティエンゲージメントに関連するビジネスサービス。
階層アセスメント	サードパーティエンゲージメントの階層アセスメント。
繰り返しアセスメント	サードパーティエンゲージメントの繰り返しアセスメント。 **注:** クラシックアセスメントエンジンを使用している場合は、繰り返しアセスメントを作成できます。スマートアセスメントエンジンを使用している場合は、イベント駆動型管理機能を使用して、アンケートとドキュメント要求を自動生成してエンゲージメントやサードパーティに送信するルールを構成できます。詳細については、「スケジュールで繰り返すようにリスクアセスメントを構成する」と「イベント駆動型管理 — アセスメントプロセスの自動化」を参照してください。
アセスメント	サードパーティエンゲージメントのアセスメント。
サードパーティリスク領域	サードパーティエンゲージメントに関連するリスク領域。
問題	サードパーティエンゲージメントに関連する問題。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しいサードパーティエンゲージメントの作成フォーム (続く)

フィールド	説明
タスク	サードパーティエンゲージメントに関連するタスク。
エンティティタイプ	サードパーティエンゲージメントに関連するエンティティタイプ。
デジタルレジリエンスの情報	サードパーティエンゲージメントのデジタルレジリエンスに関する情報。次のパラメーターを追加できます。 • 名前 • サードパーティ • ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード • ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ • ICT サードパーティサービスプロバイダーの名前

サードパーティエンゲージメントへのデジタルレジリエンス情報の追加

サードパーティリスク管理を使用して デジタルレジリエンスサードパーティ登録 で ICT サードパーティサービスプロバイダーレコードを作成することにより、デジタルレジリエンス情報をサードパーティエンゲージメントに追加します。サービスプロバイダーの名前、識別コード、ICT サービスのタイプ、通貨などの詳細を追加します。これにより、 DORA 規制に準拠するための関連するサードパーティエンゲージメントのデジタルレジリエンス情報が強化されます。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor

手順

1. 移動先 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペースをクリックし、リストアイコン ( ) を選択して、 デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿に移動します。
2. [サードパーティエンゲージメント] を選択し、必要なエンゲージメントレコードを選択します。
3. デジタルレジリエンス情報 タブを選択し、新規 を選択してICTサードパーティサービスプロバイダーを作成します。
4. フォームで、フィールドに入力します。
   各フィールドの説明については、「[新しい ICT サードパーティサービスプロバイダーの作成] フォーム」を参照してください。
5. **[Save** (保存)] を選択します。
   ICTサードパーティサービスプロバイダーレコードが作成され、その詳細がICTサードパーティサービスプロバイダーレコードの [詳細] タブに表示されます。[サードパーティエンゲージメント] リストの [デジタルレジリエンス情報] 列を確認することで、どのサードパーティエンゲージメントにデジタルレジリエンス情報が関連付けられているかを確認できます。列フィールドに [はい] が表示されている場合、デジタルレジリエンス情報はサードパーティエンゲージメントレコードに関連付けられています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

契約を作成し、デジタルレジリエンスデータを強化

ベンダー名、開始日と終了日、ステータス、サブステートなどの契約の詳細を追加するサードパーティリスク管理を使用して、デジタルレジリエンスサードパーティ登録で契約レコードを作成します。その後、 DORA 規制に準拠するためにデジタルレジリエンス情報を強化できます。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor

このタスクについて

デジタルレジリエンスサードパーティ登録には、組織内の誰が外部アウトソーシングされた ICT サービスを使用しているか、どの機能と支店がそれらを使用しているか、サードパーティのプロバイダーとそのエンゲージメントが誰であるかについての詳細が含まれます。契約はこれら2つの側面を結びつけます。

契約は、情報を使用する当事者と提供する当事者の両方を結び付けます。基本的に、それらは法人、支店、および機能をサードパーティおよびサードパーティエンゲージメントにバインドします。

デジタルレジリエンスサードパーティ登録 の [契約] メニューアイテムから契約に移動できます。または、法人レコードに移動し、法人 タブを開いて、契約に移動することもできます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペースをクリックし、リストアイコン ( を選択して、 デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿に移動します。
2. 契約 を選択し、新規 を選択して契約を作成します。
3. フォームで、フィールドに入力します。
   各フィールドの説明については、「[新規契約を作成] フォーム」を参照してください。
4. **[Save** (保存)] を選択します。
5. レビューのために契約を送信するには、[レビューのため送信] を選択します。
6. 契約に関連付けられた ICT サービスを使用する契約に署名するエンティティを追加するには、契約レコードの [サービスを使用する契約に署名するエンティティ **(Entities signing contract to use service**)] 関連リストに移動し、[追加] を選択します。
7. **[Save** (保存)] を選択します。
8. 契約に関連付けられた ICT サービスを使用してエンティティを追加するには、契約レコードの [サービスを利用するエンティティ] 関連リストに移動し、[追加] を選択します。
9. **[Save** (保存)] を選択します。

   注:
   ICT サービスを使用して複数の取引主体を作成する場合、LEI と取引主体の性質の組み合わせは一意である必要があります。取引主体の性質が支店である場合、取引主体のLEI、取引主体の性質、および支店の識別コードの組み合わせは一意である必要があります。

10. 契約に関連する ICT サービスを提供する契約に署名するエンティティを追加するには、契約レコードの [サービスを提供するエンティティ] 関連リストに移動し、[追加] を選択します。
11. **[Save** (保存)] を選択します。
12. 契約に署名して契約に関連付けられた ICT サービスを提供するサードパーティを追加するには、契約レコードの [サービスを提供するサードパーティと契約 に署名する] 関連リストに移動し、[追加] を選択します。
13. **[Save** (保存)] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

14. 契約に署名して契約に関連付けられた ICT サービスを提供するサードパーティエンゲージメントを追加するには、契約レコードの [契約 に署名するサードパーティエンゲージメント] 関連リストに移動し、[追加] を選択します。
15. **[Save** (保存)] を選択します。
16. DORA規制のデジタルレジリエンス情報を設定するには、[特定の情報] 関連リストに移動し、[新規] を選択して契約上の取り決めを作成します。
17. フォームで、フィールドに入力します。
18. **[Save** (保存)] を選択します。
19. グループ内契約上の取り決めを追加するには、契約の グループ内契約上の取り決め タブに移動し、 追加 を選択します。
20. **[Save** (保存)] を選択します。
21. 契約に関連付けられた ICT サービスのサプライチェーンを追加するには、契約の **ICT** サービスのサプライチェーン タブに移動し、 新規 を選択してフィールドに入力します。
22. **[Save** (保存)] を選択します。
23. 契約に関連付けられた ICT サービスのアセスメントを追加するには、契約の **[ICT** サービスのアセスメント] タブに移動し、[新規] を選択してフィールドに入力します。
24. **[Save** (保存)] を選択します。
    各フィールドの説明については、「[新しい契約上の取り決めを作成 (Create New Contractual Arrangement)] フォーム」を参照してください。
25. 契約レコードを編集するには、リストから選択し、編集後に [保存] を選択します。
26. 契約レコードをエクスポートするには、[エクスポート] を選択します。
27. 契約レコードを削除するには、リストから選択して [削除] を選択します。

[新規契約を作成] フォーム

[新規契約を作成] フォームのフィールドに入力します。

[新規契約を作成] フォーム

フィールド	説明
契約	
契約番号	契約上の取り決めの一意の識別子番号 (CNTR0009002 など)。このフィールドは自動入力されます。
契約上の取り決め参照番号	金融機関によって割り当てられた契約上の取り決めの内部参照番号。これは、金融機関と直接 ICT サードパーティサービスプロバイダーとの間の契約上の取り決めを特定するために使用されます。
名前	契約の名前と簡単な説明。
契約上の取り決めのタイプ	対応するドロップダウンリストに含まれるオプションのうちの 1 つを使用して識別される契約上の取り決めのタイプ:

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新規契約を作成] フォーム (続く)

フィールド	説明
	• スタンドアロン取り決め • 包括的な取り決め • 後続または関連する取り決め
状況	契約のステータスたとえば、[ドラフト] ステータスなどです。
契約モデル	サービス契約や購入契約など、作成される契約のタイプ。
通貨	金額のレポートに使用される通貨のコード。
過去 1 年間の年次経費または概算コスト	過去 1 年間の ICT サービスの取り決めの年次経費または概算コスト (またはグループ内転送)。
説明	契約の詳細な説明。

[新しい契約上の取り決めを作成 **(Create New Contractual Arrangement)]** フォーム

[新しい契約上の取り決めを作成 (Create New Contractual Arrangement)] フォームのフィールドに入力します。

[新しい契約上の取り決めを作成 **(Create New Contractual Arrangement)]** フォーム

[新しい契約上の取り決めを作成 **(Create New Contractual Arrangement)]** フォーム

フィールド	説明
契約上の取り決め	
契約番号	契約上の取り決めの一意の識別子番号 (CNTR0009002 など)。このフィールドは自動入力されます。
契約上の取り決め参照番号	金融機関によって割り当てられた契約上の取り決めの内部参照番号。これは、金融機関と直接 ICT サードパーティサービスプロバイダーとの間の契約上の取り決めを特定するために使用されます。
名前	契約の名前と簡単な説明。
契約上の取り決めのタイプ	対応するドロップダウンリストに含まれるオプションのうちの 1 つを使用して識別される契約上の取り決めのタイプ: • スタンドアロン取り決め • 包括的な取り決め • 後続または関連する取り決め
状況	契約のステータスたとえば、[ドラフト] ステータスなどです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新しい契約上の取り決めを作成 **(Create New Contractual Arrangement)]** フォーム (続く)

フィールド	説明
契約モデル	サービス契約や購入契約など、作成される契約のタイプ。
通貨	金額のレポートに使用される通貨のコード。
過去 1 年間の年次経費または概算コスト	過去 1 年間の ICT サービスの取り決めの年次経費または概算コスト (またはグループ内転送)。
説明	契約の詳細な説明。
サービスを使用する契約に署名するエンティティ	
契約上の取り決めを締結している取引主体の LEI	契約上の取り決めを締結する取引主体を識別するための取引主体識別子 (LEI) コード (LEI0000000000000000B など)。
取引主体の名前	契約上の取り決めを締結するエンティティの名前 (ACME NA など)。
サービスを利用する取引主体	
ICT サービスを利用する取引主体の LEI	サービスを利用する取引主体の LEI (LEI0000000000000000C など)。
取引主体の名前	サービスを利用するエンティティの名前 (ACME SA など)。
ICT サービスを利用する取引主体の性質	金融機関の支店など、サービスを利用する取引主体の性質。
支店の識別コード	サービスを利用する支店の識別コード (例:ACMESAbranch2LEI)。
サービスを提供する取引主体	
ICT サービスを利用する取引主体の LEI	サービスを利用する取引主体の LEI (LEI0000000000000000C など)。
取引主体の名前	サービスを提供するエンティティの名前 (ACME AMERICAS など)。
情報を提供するために契約に署名するサードパーティ	
ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード	ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード (LEI0000000000EXTTPP2 など)。
ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ	ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ (例:LEI)。
ICT サードパーティサービスプロバイダーの名前	Adobe などの ICT サードパーティサービスプロバイダーの名前。
契約に署名するサードパーティエンゲージメント	
ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード	ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード (LEI0000000000EXTTPE1 など)。
ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ	ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ (例:LEI)。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新しい契約上の取り決めを作成 **(Create New Contractual Arrangement)]** フォーム (続く)

フィールド	説明
ICT サードパーティサービスプロバイダーの名前	ICT サードパーティエンゲージメントサービスプロバイダーの名前 (例:Acer エンゲージメント 1)。
特定の情報	
契約上の取り決め参照番号	契約の契約上の取り決め参照番号 (CNTR0009002 など)。
ICT サービスを利用する取引主体の LEI	ICT サービスを利用する取引主体の LEI (例:LEI0000000000000000C)。
機能識別子	金融機関によって定義された機能 (F3、F1 など)。
ICT サービスのタイプ	エンティティによって使用される ICT サービスのタイプ (計算、データ分析など)。

サービスプロバイダータイプ	• サードパーティ:このオプションを選択すると、次のフィールドが表示されます。
	  ○ ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード
	  ○ ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ
	• サードパーティエンゲージメント:このオプションを選択すると、次のフィールドが表示されます。
	  ○ ICT サードパーティエンゲージメントサービスプロバイダーの識別コード
	  ○ ICT サードパーティエンゲージメントサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ
	• 取引主体:このオプションを選択すると、ICT サービスを提供する取引主体の LEI が表示されます。

ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード	ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコード (LEI0000000000000000D など)。
ICT サードパーティエンゲージメントサービスプロバイダーの識別コード	ICT サードパーティエンゲージメントサービスプロバイダーの識別コード。
ICT サービスを提供する取引主体の LEI	LEI と、ISO 17442 標準に基づく 20 文字の英数字コード (LEI0000000000000000D など) を使用して ICT サービスを提供する取引主体。
ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ	ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ (例:LEI)。
契約上の取り決めの開始日	契約上の取り決めが発効した日付 (2025-07-01 など)。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新しい契約上の取り決めを作成 **(Create New Contractual Arrangement)]** フォーム (続く)

フィールド	説明
契約上の取り決めの終了日	契約上の取り決めに規定されている終了日 (2028-07-01 など)。
契約上の取り決めの終結または終了の理由	契約上の取り決めを終了または終了する理由。利用可能なオプションは次のとおりです： • 正当な理由ではない終了:期限切れで更新されていない • 正当な理由による終了：適用法、規制、または契約条項に違反したプロバイダー • 正当な理由による終結：サポートされている機能を変更できるプロバイダーで障害が認められた • 正当な理由による終了:機密データまたは情報の管理とセキュリティに関するプロバイダーの弱点 • 終了:管轄当局の要求による場合 • その他の終結理由
ICT サービスを利用する金融機関への通知期間	通常業務の場合に ICT サービスを利用する金融機関による契約上の取り決めを終了するための通知期間。
ICT サードパーティサービスプロバイダーへの通知期間	通常業務の場合に、直接 ICT サードパーティサービスプロバイダーによる契約上の取り決めを終了するための通知期間。
契約上の取り決めの準拠法の国	契約を監督する法制度がある国。
ICT サービスを提供する国	ICT サービスが提供されている国。
データのストレージ	ICT サービスがデータのストレージに関連しているかどうかを指定するオプション。利用可能なオプションは次のとおりです： • **Yes** (あり) • **No** (なし)
ICT サービスプロバイダーによって保存されるデータの機密性	ICT サービスプロバイダーによって保存または処理されるデータの機密性のレベルを識別するオプション。利用可能なオプションは次のとおりです： • やや複雑 • 中 • 高
ICT サービスへの依存度	ICT サービスへの依存度を指定するオプション。利用可能なオプションは次のとおりです：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新しい契約上の取り決めを作成 **(Create New Contractual Arrangement)]** フォーム (続く)

フィールド	説明
	• 重要ではない • 低信頼性 • 材料への依存度 • 完全な信頼性
グループ内契約上の取り決め	
この契約上の取り決めにリンクされた契約上の取り決め	この契約上の取り決めにリンクされた契約番号 (CNTR0009004 など)。
名前	グループ内の契約上の取り決めの名前 (人材派遣会社など)。
ICT サービスのサプライチェーン	
番号	契約に関連付けられた ICT サービスのサプライチェーン番号 (SCHAIN0001002 など)。
再委託 ICT サービスの受領者	サプライチェーンの下請け ICT サービスの受領者。これは親サプライヤーです。
再委託 ICT サービスの受領者の識別コード	サプライチェーンの下請け ICT サービスの受領者の識別コード。このフィールドは自動入力されます。
再委託 ICT サービスの受領者を識別するためのコードのタイプ	サプライチェーンの下請け ICT サービスの受領者を識別するためのコードのタイプ。このフィールドは自動入力されます。
ICT サービスのタイプ	サプライチェーンに関連付けられた ICT サービスのタイプ (データストレージなど)。
契約上の取り決め参照番号	サプライチェーンに関連付けられた契約番号 (CNTR0009002 など)。

サービスプロバイダータイプ	• サードパーティ:このオプションを選択すると、次のフィールドが表示されます。
	  ○ ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード
	  ○ ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ
	• サードパーティエンゲージメント:このオプションを選択すると、次のフィールドが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新しい契約上の取り決めを作成 **(Create New Contractual Arrangement)]** フォーム (続く)

フィールド	説明
	○ ICT サードパーティエンゲージメントサービスプロバイダーの識別コード ○ ICT サードパーティエンゲージメントサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ • 取引主体:このオプションを選択すると、ICT サービスを提供する取引主体の LEI が表示されます。
ICT サービスを提供する取引主体の LEI	LEI と、ISO 17442 標準に基づく 20 文字の英数字コード (LEI00000000000000000D など) を使用して ICT サービスを提供する取引主体。
ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード	ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード (LEI0000000000EXTTPP1 など)。
ICT サードパーティエンゲージメントサービスプロバイダーの識別コード	ICT サードパーティエンゲージメントサービスプロバイダーの識別コード。
ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ	ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ (例:LEI)。
ランク	サプライチェーンのランク (1 や 2 など)。
ICT サービスのアセスメント	
名前	<first-name.last-name> 形式のアセスメントの名前。
説明	アセスメントの説明。
番号	アプリケーションによって生成されるアセスメントの一意の識別番号。例:TPA0001001。このフィールドは自動入力されます。
部門	アセスメントが属する部門。
所有者	アセスメントのオーナーの名前。
業務部門	アセスメントに関連付けられている事業部門の名前。
契約番号	契約上の取り決めの一意の識別子番号 (CNTR0009002 など)。このフィールドは自動入力されます。
契約上の取り決め参照番号	アセスメントに関連付けられた契約番号 (CNTR0009002 など)。
サービスプロバイダータイプ	• サードパーティ:このオプションを選択すると、次のフィールドが表示されます。 ○ ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード ○ ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新しい契約上の取り決めを作成 **(Create New Contractual Arrangement)]** フォーム (続く)

フィールド	説明

	• サードパーティエンゲージメント:このオプションを選択すると、次のフィールドが表示されます。
	  ○ ICT サードパーティエンゲージメントサービスプロバイダーの識別コード
	  ○ ICT サードパーティエンゲージメントサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ
	• 取引主体:このオプションを選択すると、ICT サービスを提供する取引主体の LEI が表示されます。

ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード	ICT サードパーティサービスプロバイダーの識別コード (LEI0000000000EXTTPP1 など)。
ICT サードパーティエンゲージメントサービスプロバイダーの識別コード	ICT サードパーティエンゲージメントサービスプロバイダーの識別コード。
ICT サービスを提供する取引主体の LEI	LEI と、ISO 17442 標準に基づく 20 文字の英数字コード (LEI00000000000000000D など) を使用して ICT サービスを提供する取引主体。
ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ	ICT サードパーティサービスプロバイダーを識別するためのコードのタイプ (例:LEI)。
ICT サービスのタイプ	ICT サービスのタイプ (データ分析など)。
ICT サードパーティサービスプロバイダーの代替可能性	ICT サードパーティサービスプロバイダーの代替可能性。次のオプションが使用可能です。 • 代替不可 • 代替が容易 • 代替可能性の点で中程度の複雑さ • 非常に複雑な代替可能性
代替可能性分類の理由	分類の理由。
ICT サードパーティは監査を受けていますか？	ICT サードパーティが監査を受けたかどうかを指定するオプション。利用可能なオプションは次のとおりです： • **Yes** (あり) • **No** (なし)
ICT サードパーティサービスプロバイダーの前回の監査の日付	前回の監査が実行された日付。
出口計画の存在	出口計画の可用性。次のオプションが使用可能です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新しい契約上の取り決めを作成 **(Create New Contractual Arrangement)]** フォーム (続く)

フィールド	説明
	• はい • いいえ
契約した ICT サービスの再統合の可能性	契約した ICT サービスの再組み込みの実現可能性を検証するための選択肢。利用可能なオプションは次のとおりです： • **Easy** (簡単) • 難しい • 非常に複雑
ICT サービス利用中止による影響	ICT サービスの利用中止による影響を指定する選択肢。利用可能なオプションは次のとおりです： • やや複雑 • 中 • 高 • アセスメントが実行されませんでした
代替の ICT サードパーティサービスプロバイダーが識別されていますか？	他の ICT サードパーティサービスプロバイダーが識別されているかどうかを示す選択肢。利用可能なオプションは次のとおりです： • **Yes** (あり) • **No** (なし) • アセスメントが実行されませんでした チェックボックスをオンにした場合、[代替 **ICT TPP** の識別] フィールド値を指定します。
代替 ICT TPP の特定	代替 ICT サードパーティプロバイダー (TPP) の特定に関する補足の詳細。

サプライチェーンの構築とデジタルレジリエンスデータの強化

サードパーティリスク管理を使用して、デジタルレジリエンスサードパーティ登録で情報および通信技術 (ICT) サービスサプライチェーンレコードを作成します。その後、 ICT サービスのタイプ、ICT サービスを提供する取引主体の取引主体識別子 (LEI) など、サプライチェーンの詳細を構成できます。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペースをクリックし、リストアイコン ( を選択して、 デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿に移動します。
2. 契約 を選択し、サプライチェーンレコードを関連付ける契約レコードを選択します。
3. [ICT サービスのサプライチェーン] 関連リストに移動し、[新規] を選択します。
4. フォームで、フィールドに入力します。
   各フィールドの説明については、「[新しい契約上の取り決めを作成 (Create New Contractual Arrangement)] フォーム」を参照してください。
5. **[Save** (保存)] を選択します。
6. サプライチェーンレコードを編集するには、次の手順を実行します。
   a. [サプライチェーン] に移動し、リストから必要なレコードのチェックボックスをオンにします。
   b. [編集] を選択し、必要に応じてフィールドを更新します。
   c. **[Update** (更新)] を選択します。
7. サプライチェーンレコードをエクスポートするには、次の手順を実行します。
   a. [サプライチェーン] に移動し、リストから必要なレコードのチェックボックスをオンにします。
   b. **[Export** (エクスポート)] を選択します。
   c. ファイルタイプを選択します。
      利用可能な選択肢は次のとおりです。
      - **Excel**
      - **CSV**
      - **JSON**
      - [**PDF**] を選択します。
   d. [配送タイプ] を選択します。
      利用可能な選択肢は次のとおりです。
      - ダウンロード
      - メール

アセスメントを作成し、デジタルレジリエンスデータを強化

サードパーティリスク管理を使用して、デジタルレジリエンスサードパーティ登録で情報および通信技術 (ICT) サービスのアセスメントを作成します。ICTサードパーティサービスプロバイダーの契約上の取り決め参照番号、識別コード、コードタイプなどの詳細を追加します。その後、 DORA 規制に準拠するためにデジタルレジリエンス情報を強化できます。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor

このタスクについて

契約とサードパーティを毎年レビューする必要があります。アセスメントフォームには、次のアセスメントの詳細を入力できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 次の詳細を識別するのに役立つ契約参照番号:
  - 契約のユーザー
  - 契約のプロバイダー
  - 自動的に取り込まれるその他の関連詳細
- 監査情報:
  - サードパーティプロバイダーは監査を受けていますか?
  - 監査が最後に実施されたのはいつですか?
- 出口戦略の詳細:
  - 出口計画の存在
  - 終了した場合、 ICT サービスプロバイダーと統合する可能性
  - ICTサービス利用中止の影響度評価
  - 代替案の特定

手順

1. 移動先 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペースをクリックし、リストアイコン ()を選択して、 デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿に移動します。
2. [契約] を選択し、アセスメントレコードを関連付ける契約レコードを選択します。
3. [ICT サービスのアセスメント] 関連リストに移動し、[新規] を選択します。
4. フォームで、フィールドに入力します。
   各フィールドの説明については、「[新しい契約上の取り決めを作成 (Create New Contractual Arrangement)] フォーム」を参照してください。
5. **[Save** (保存)] を選択します。
6. アセスメントレコードを編集するには、次の手順を実行します。
   a. [アセスメント] に移動し、リストから必要なレコードのチェックボックスをオンにします。
   b. [編集] を選択し、必要に応じてフィールドを更新します。
   c. **[Update** (更新)] を選択します。
7. アセスメントレコードをエクスポートするには、次の手順を実行します。
   a. [アセスメント] に移動し、リストから必要なレコードのチェックボックスをオンにします。
   b. **[Export** (エクスポート)] を選択します。
   c. ファイルタイプを選択します。
      利用可能な選択肢は次のとおりです。
      - **Excel**
      - **CSV**
      - **JSON**
      - [**PDF**] を選択します。
   d. [配送タイプ] を選択します。
      利用可能な選択肢は次のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ダウンロード
- メール

次のタスク
すべての詳細がキャプチャされたら、次のタスクを実行できます。

- Microsoft Excelダウンロード機能を使用して情報をダウンロードします。詳細については、「Microsoft Excelダウンロード要求の作成」を参照してください。
- 必要に応じて、更新されたレコードをアップロードします。詳細については、「既存のレコードの一括更新」を参照してください。

Microsoft Excelダウンロード要求の作成

監査目的でサードパーティリスク管理を使用してデジタルレジリエンスサードパーティ登録からレコードをダウンロードするMicrosoft Excelダウンロード要求を作成します。

始める前に
必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor

このタスクについて
デジタルレジリエンスサードパーティ登録 の Excel のダウンロード/アップロード要求モジュールを使用して、レコードをMicrosoft Excel形式でエクスポートします。欧州連合監査人と規制当局は、監査、レビュー、および適切なアクションのためにこれらのレコードをダウンロードできます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペースをクリックし、リストアイコン ( ) を選択して、 デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿に移動します。
2. **Excel** のダウンロード/アップロード要求 を選択し、新規 を選択して Excel のダウンロード/アップロード要求を作成します。
3. フォームで、フィールドに入力します。
   各フィールドの説明については、「Excel のダウンロード/アップロード要求フォームの新規作成」を参照してください。
4. **[Save** (保存)] を選択します。
   ダウンロード要求を保存した後、対応するタブに移動して、ダウンロードするレコードを選択できます。たとえば、サードパーティ情報登録のダウンロード要求の場合は [契約] タブに移動し、アセスメントのダウンロード要求の場合は [アセスメント] タブに移動します。
5. リストから必要なレコードを選択し、次のいずれかの手順を実行します。
6. Microsoft Excel ファイルの名前を追加し、[保存] を選択します。

   デジタルレジリエンスサードパーティ登録 の 21.x.x より前のリリースでは、契約をダウンロードすると、すべての契約データを含む単一のシートが作成されます。デジタルレジリエンスサードパーティ登録 のバージョン 21.x.x 以降では、契約に関するレポートを生成すると、UI がミラーリングされ、エンティティ、サードパーティ、サードパーティエンゲージメントに関する情報、Microsoft Excelシートの特定の契約情報などの詳細が提供されます。

   規制当局に直接提出できる Microsoft Excel シートが生成されます。このファイルは、規制当局が発行したテンプレートの形式に厳密に準拠しており、サードパーティエンゲージメントを報告するために必要なすべての詳細が含まれています。

   デジタルレジリエンスサードパーティ登録 のバージョン 20.x.x 以降では、ダウンロードした Microsoft Excel ファイルで選択値または参照値を確認できます。たとえば、部門を「研究開発」

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

としてシステムに作成することができます。関数がダウンロードされると、部門の値が選択用の Microsoft Excel テンプレートのオプションとして表示されます。テンプレートには、部門、事業部門、およびその他の「はい/いいえ」の質問のドロップダウンリストが含まれています (分岐テンプレートを参照)。国、通貨などのドロップダウンが追加されます。

アプリケーションは、ヘッダーやドロップダウンオプションなどのメタデータの翻訳も処理します。

法人、機能などのデータをダウンロードした後、重複レコードが存在しないことを確認します。テンプレートをダウンロードするときは、サードパーティの行が重複していないことを確認してください。たとえば、1 つの DORA サードパーティと 2 つの DORA エンティティを作成し、同じエンティティを使用して同じベンダーの DORA 契約を作成すると、ダウンロードしたテンプレートにはサードパーティ行が 1 つだけ存在し、重複する行は 2 つになりません。新しい取引主体を追加し、契約レコードを再度ダウンロードすることなく、ダウンロードした契約ファイルに LEI を入力できます (ドロップダウンリストにない場合でも)。変更した契約レコードをアプリケーションにアップロードすることができます。

7. Excel のダウンロード/アップロード要求をエクスポートするには、必要な要求を選択してから [エクスポート] を選択します。

Excel のダウンロード/アップロード要求フォームの新規作成

[新しい Excel のダウンロード/アップロード要求を作成 (Create New Excel download/upload request)] フォームを使用して、サードパーティリスク管理 アプリケーションを使用してデジタルレジリエンスサードパーティ登録のダウンロード/アップロード要求を作成するために必要なすべての情報を取得します。サードパーティリスクマネージャーまたはサードパーティリスク査定人は、Excel のダウンロード/アップロード要求レコードを作成できます。

Excel のダウンロード/アップロード要求フォームの新規作成

フィールド	説明
簡単な説明	要求の簡潔な説明例:legal_entity_template。
ダウンロードタイプ	ダウンロード要求のタイプ。選択肢は次のとおりです。 • アセスメント • 分岐 • 契約 • 関数 • 法人 • サプライチェーン • サードパーティ • サードパーティエンゲージメント • サードパーティ情報登録簿
番号	要求の番号。このフィールドは自動入力されます。
要求タイプ	要求のタイプ。選択肢は次のとおりです。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Excel のダウンロード/アップロード要求フォームの新規作成 (続く)

フィールド	説明
	• アップロード • ダウンロード
状況	レコードのステータス。このフィールドは [ドラフト] ステータスに自動入力されます。
情報登録簿を管理する取引主体 **注:** これらのフィールドは、[ダウンロードの種類] として [サードパーティの情報登録] を選択すると表示されます。	
情報登録簿を管理する取引主体の LEI	取引主体は、ISO 17442 標準に基づく LEI と、20 文字の英数字コードを使用して、情報登録簿を維持および更新します。
取引主体の名前	情報登録簿を維持および更新するエンティティの正式名。
取引主体の国	情報登録簿に記載されているエンティティのライセンスまたは登録が発行された国。
取引主体のタイプ	エンティティのタイプ。次のオプションがあります。 • 信用機関 • 投資会社 • 中央カウンターパーティ **(CCP)** • 資産管理会社 • アカウント情報サービスプロバイダー • 電子マネー機関 • 暗号資産サービスプロバイダー • 中央セキュリティ保管庫 • 取引場所 • 取引情報蓄積機関 • 支払機関 • その他の金融機関 • 証券化リポジトリ • クラウドファンディングサービスプロバイダー • 重要なベンチマークのアドミニストレーター • 信用格付機関 • 企業年金制度

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Excel のダウンロード/アップロード要求フォームの新規作成 (続く)

フィールド	説明
	• 保険仲介業者、再保険仲介業者、付帯保険仲介業者 • 保険および再保険事業 • データレポートサービスプロバイダー • オルタナティブ投資ファンドの運用会社 • 非金融機関：**ICT** グループ内サービスプロバイダー以外 • 非金融機関：**ICT** グループ内サービスプロバイダー • 資産参照トークンの発行者
所轄官庁	情報登録簿が報告される規則(EU)2022/2554の第46条に基づく所轄官庁。
レポートの日付	レポート日の ISO 8601 (yyyy-mm-dd) コード

レコードの一括作成

単一または複数のエンティティに対して一度に 1 つのレコードを作成するのではなく、サードパーティリスク管理を使用してデジタルレジリエンスサードパーティ登録からレコードを一括で作成します。一度に複数のレコードを処理することで、時間と労力を節約できます。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin

このタスクについて

DORAアドミンのみが [アップロード] オプションを表示してこのタスクを実行できます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペースをクリックし、リストアイコン ( ) を選択して、 デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿に移動します。
2. **Excel** のダウンロード/アップロード要求 を選択し、新規 を選択して Excel アップロード要求を作成します。

   注:
   DORAアドミンのみが [アップロード] オプションを表示してこのタスクを実行できます。

3. フォームで、要求タイプとして [アップロード] を選択し、残りのフィールドに入力します。
   各フィールドの説明については、「Excel のダウンロード/アップロード要求フォームの新規作成」を参照してください。

   注:
   アップロード要求ごとにアップロードできるレコードのタイプは 1 つだけです。たとえば、アセスメントレコードのアップロード要求を行った場合、テンプレートに含めることができるのはアセスメントレコード情報のみです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. **[Save** (保存)] を選択します。
   テンプレートファイルが生成され、ダウンロードできるようになります。
5. [テンプレートのダウンロード] を選択してデフォルトのテンプレートをダウンロードし、入力します。
   テンプレートファイルの [説明] タブに移動すると、テンプレートの入力手順を表示できます。[デジタルレジリエンスの情報] タブに移動してテンプレートに入力することで、レコード作成情報を追加できます。
6. [ファイルの添付] を選択し、ローカルハードドライブからファイルを選択して、完成したテンプレートファイルを添付します。
7. **[Upload** (アップロード)] を選択します。
8. アップロード要求 の [結果] セクションに移動して、正常にアップロードされたレコードとエラーを表示します。
   a. Microsoft Excelスプレッドシートのエラーを修正します。
9. すべてのエラーが解決され、すべてのレコードが正常にアップロードされるまで、手順を繰り返します。
   レコードは、 デジタルレジリエンスサードパーティ登録から一括でアップロードされます。

既存のレコードの一括更新

サードパーティリスク管理を使用して、デジタルレジリエンスサードパーティ登録から既存のレコードを一括更新します。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin

このタスクについて

DORAアドミンのみが [アップロード] オプションを表示してこのタスクを実行できます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペースをクリックし、リストアイコン ( を選択して、 デジタルレジリエンスのサードパーティ登録簿に移動します。
2. **Excel** のダウンロード/アップロード要求 を選択し、新規 を選択して Excel のダウンロード要求を作成します。
3. フォームで、要求タイプとして [ダウンロード] を選択し、残りのフィールドに入力します。
   各フィールドの説明については、「Excel のダウンロード/アップロード要求フォームの新規作成」を参照してください。
4. **[Save** (保存)] を選択します。
   ダウンロード要求を保存した後、対応するタブに移動して、ダウンロードするレコードを選択できます。たとえば、サードパーティ情報登録のダウンロード要求の場合は [契約] タブに移動し、アセスメントのダウンロード要求の場合は [アセスメント] タブに移動します。
5. リストから更新するレコードを選択し、[**Excel** にエクスポート] を選択します。
6. Microsoft Excel ファイルの名前を追加し、[保存] を選択します。

   選択したレコードを一括更新するために使用できる Microsoft Excel シートが作成されます。

   テンプレートをダウンロードして参照フィールドにオプションを追加すると、アップロードテンプレートは、値をハードコーディングするのではなく、選択フィールドと参照フィールドのドロップダウンを含む動的な形式に更新されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

動的テンプレートは、ヘッダーと参照フィールドオプションの翻訳を自動的に処理します。これらの要素をリアルタイムでフェッチし、手動で更新しなくても最新の状態に保たれます。オプションは動的に生成されるため、デフォルトのテンプレートは最新の状態に保たれます。

テンプレートファイルの [説明] タブに移動すると、テンプレートの入力手順を表示できます。[デジタルレジリエンス情報] タブに移動してテンプレートに入力することで、更新されたレコード作成情報を追加できます。

> **注:**
> 要求ごとに 1 つのタイプのレコードのみをアップロードまたはダウンロードできます。たとえば、アセスメントレコードのアップロード要求を行った場合、テンプレートに含めることができるのはアセスメントレコード情報のみです。

7. テンプレートファイルの指示に従って、更新された情報を追加します。
8. **Excel** のダウンロード/アップロード要求に移動し、[新規] を選択して、アップロード要求を作成します。
9. フォームで、要求タイプとして [アップロード] を選択し、残りのフィールドに入力します。
   各フィールドの説明については、「Excel のダウンロード/アップロード要求フォームの新規作成」を参照してください。

   > **注:**
   > DORAアドミンのみが [アップロード] オプションを表示してこのタスクを実行できます。

10. **[Save** (保存)] を選択します。
11. [ファイルの添付] を選択し、ローカルハードドライブからファイルを選択して、更新されたテンプレートファイルを添付します。
12. **[Upload** (アップロード)] を選択します。
13. アップロード要求 の [結果] セクションに移動して、正常にアップロードされたレコードとエラーを表示します。
    a. Microsoft Excelスプレッドシートのエラーを修正します。
14. すべてのエラーが解決され、すべてのレコードが正常にアップロードされるまで、手順を繰り返します。
    更新されたレコードは、 デジタルレジリエンスサードパーティ登録 から一括アップロードされます。

サードパーティポータルの管理

サードパーティの連絡先がアンケート、ドキュメントの要求、タスク、およびサードパーティポータル上の問題に応答します。ポータルは、サードパーティとリスク査定人がやり取りするポイントです。

サードパーティ連絡先

サードパーティ連絡先とは、サードパーティを代表する個人です。サードパーティポータルを使用することで、アンケートに回答したり、タスクに取り組んだり、サードパーティのリスクアセスメントチームが提起した問題に対処したりできます。サードパーティ連絡先には、主要連絡先と予備連絡先があります。主要連絡先は、アセスメントアンケートを受け取るアサインされた個人です。各サードパーティには少なくとも 1 つの主要連絡先が必要です。サードパーティエディター [vendor_editor]、サードパーティリスク (TPR) マネージャー [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager]、TPR 査定人

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

[sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor]、または主要連絡先は、サードパーティ連絡先を作成できます。

[主要連絡先]責任をアセスメントの質問に直接応答できるサードパーティの連絡先にアサインすることも、質問に応答するサードパーティの別の連絡先をアサインすることもできます。主要連絡先は、サードパーティの他の連絡先を管理できます。

サードパーティ連絡先には、vendor_contact と snc_external という 2 つのロールが自動的にアサインされます。vendor_contact ロールはサードパーティ連絡先にサードパーティポータルへのアクセス権を提供し、snc_external ロールはサードパーティポータルへのアクセスのみを制限する安全策です。snc_external ロールにより、インスタンスへの不正なアクセスを防ぐことができます。詳細については、「サードパーティ連絡先の設定」を参照してください。

注:
サードパーティの連絡先には、サードパーティポータルのすべての参照で組織の名前が表示されます。名前は sn_vdr_risk_asmt.company.name プロパティの設定で指定します。「TPRM プロパティの設定」を参照してください。

サードパーティ連絡先のタスク

サードパーティの主要連絡先は、次のタスクを実行できます。

- アンケート、タスク、および問題を他のサードパーティの連絡先に委任する。
- サードパーティの連絡先情報を表示して更新する。
- 通知設定を更新する。

サードパーティの予備連絡先は、ポータルを使用して次のタスクを実行できます。

- 「自分にアサインされた」アセスメントを表示して応答する。
- パスワードの変更またはパスワードの変更要求を行う。

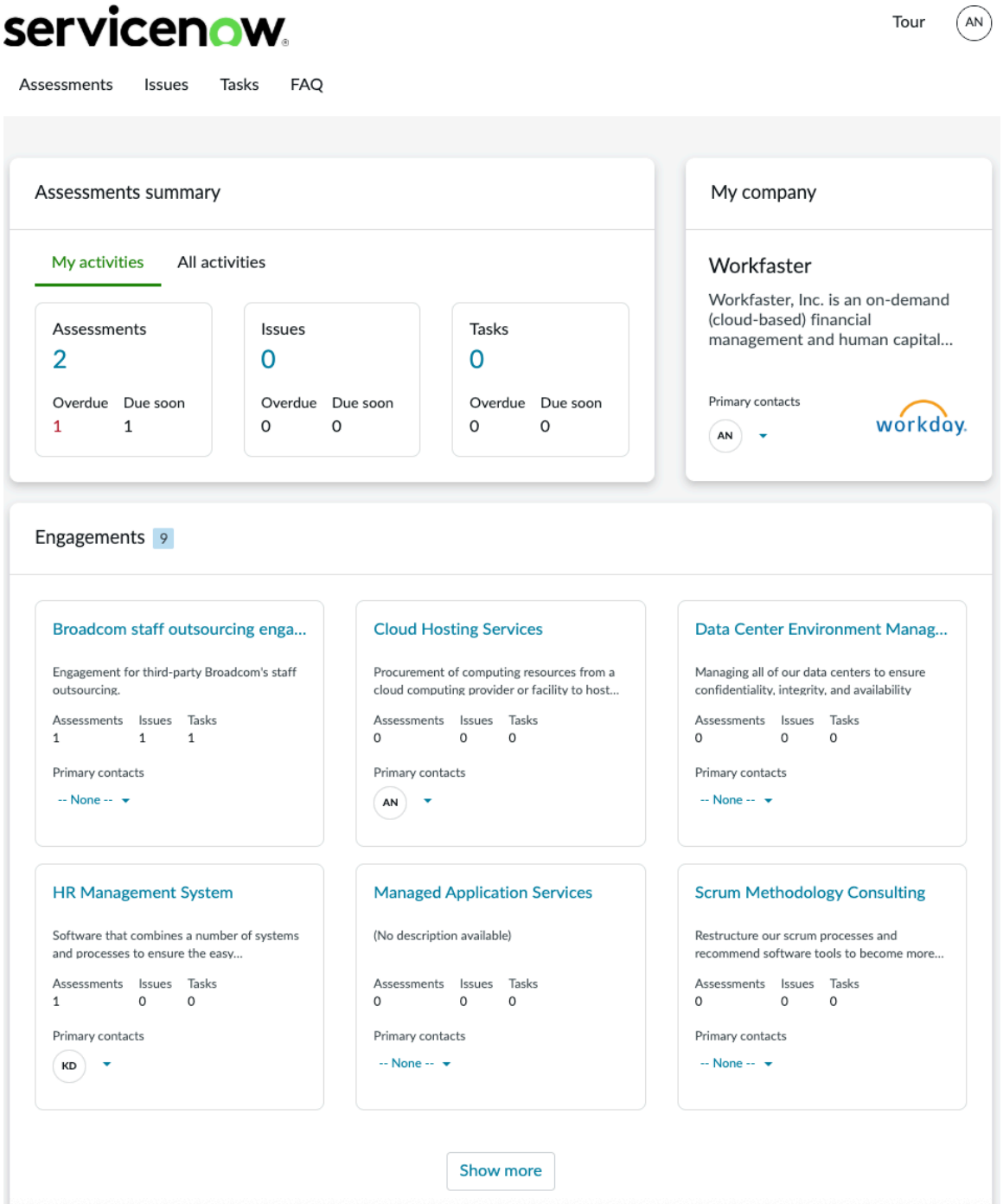
重要:
サードパーティ連絡先ロールは、外部連絡先にのみ使用する必要があります。このロールは、ServiceNow AI Platform へのアクセスを禁止し、サードパーティポータルへのアクセスのみを許可します。

サードパーティの連絡先には、次の例に示すようにポータルが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティポータルの例



アンケートと文書要求のステータス

進捗状況はアセスメント要求で追跡され、進捗状況はアンケートと文書要求内の要求のステータスによって示されます。要求の考えられる状況は次のとおりです。

新規

アンケートと文書要求が送信されると、[新規] ステータスになります。

進行中

サードパーティまたはエンゲージメントの連絡先がアンケートまたは文書要求で回答の提供を開始すると、要求は [処理中] ステータスになります。

完了

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティまたはエンゲージメントの連絡先がアンケートまたは文書要求のすべての質問に回答して保存すると、要求は [完了] ステータスになります。

> **注:**
> すべての要求が [完了] ステータスになったら、アセスメントページに戻ってアセスメントを送信する必要があります。

Microsoft Excelテンプレートを使用したアンケートへの回答

サードパーティの連絡先は、 Microsoft Excel テンプレートを使用して、テンプレートをダウンロードして記入し、最終バージョンをサードパーティポータルにインポートすることで、アンケートに回答できます。Microsoft Excelアンケートテンプレートには、テンプレートに入力するための手順が含まれています。これにより、サードパーティの連絡先がサードパーティポータルの外部から情報を提供できるようになり、デューデリジェンスプロセスが簡素化されます。詳細については、「外部アンケートに Microsoft Excel スプレッドシートテンプレートを使用する」と「Microsoft Excel テンプレートを使用して応答」を参照してください。

SIG アンケートを使用したアセスメントへの回答

サードパーティは、サードパーティリスク管理 アプリケーションでアセスメントドキュメントを提供するために、共有アセスメント Standardized Information Gathering (SIG) アンケートを使用できます。サードパーティ連絡先は、事前に入力された SIG スプレッドシートをアップロードするか、インスタンスにインポートされるフォームベースのアンケートによって取得できます。詳細については、「リスクアセスメントに SIG Questionnaire を使用する」と「SIG を使用した応答」を参照してください。

> **注:**
> サードパーティの連絡先は、[その他のアクション] メニューアイコン を選択し、[再アサイン] を選択することで、アンケートを別のチームメンバーに再アサインできます。アンケートを再アサインすると、ユーザーはアンケートにアクセスできなくなります。

ポータルの起動

サードパーティの連絡先は、[あなたのインスタンス **URL]/svdp** を使用してポータルを起動します。

ポータルの使用方法の学習 - **FAQ** ページ

サードパーティの連絡先は、**[FAQ]** を選択して、追加のユーザーをポータルに招待する方法や、主連絡先をサードパーティまたはエンゲージメントレコードに割り当てる方法など、一般的な質問に対する回答を表示します。

サードパーティ連絡先の管理

TPR 査定人ロール [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor] を持つ組織内のユーザーは、 TPRM を使用して次のサードパーティ連絡先アクティビティを管理します。

- 新しいサードパーティ連絡先のログインを作成する。
- サードパーティ連絡先ログインを有効化または無効化する。
- サードパーティ連絡先のパスワードをリセットする。
- サードパーティ連絡先にユーザーロールをアサインする。
- サードパーティ連絡先をアセスメントにアサインする。
- 顧客の連絡先情報を表示して更新する。
- 完了したアセスメントにアクセスする。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細については、「サードパーティ連絡先の設定」と「サードパーティ連絡先のアクセスの管理」を参照してください。

注:
必要に応じて、サードパーティまたはエンゲージメントの代わりにアンケートに回答できます。詳細については、「サードパーティまたはエンゲージメントのためにアンケートに回答する」を参照してください。

査定人がサードパーティの連絡先のアンケートに回答/編集できるようにするプロパティ (*sn_svdp.allow_assessor_edit*) が有効である必要があります。プロパティの構成方法の詳細については「TPRM プロパティの設定」を参照してください。

関連情報

アンケートまたは文書要求の電子署名

外部アンケートに Microsoft Excel スプレッドシートテンプレートを使用する

リスクアセスメントに SIG Questionnaire を使用する

TPRM と Explicit Roles プラグイン

サードパーティ連絡先の設定

サードパーティ連絡先を設定して、サードパーティリスク管理 でこれらの連絡先を使用して、アセスメントを送信したり、問題に対処したり、必要な追加情報を伝えたりできるようにします。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager、ステップ 4 と 5 については admin

このタスクについて

サードパーティ連絡先は、サードパーティ組織にいる外部ユーザーです。サードパーティポータルを使用して、アセスメントのためのアンケートへの応答、タスクの実行、問題に関するリスクアセスメントスタッフとのコミュニケーションなどのタスクを安全に整理、優先順位付け、実行します。サードパーティポータルへのアクセスを許可し、サードパーティの連絡先の権限を指定します。 サードパーティリスク (TPR) マネージャーは、ステップ 4 と 5 を完了するために、admin ロールを持つチームメンバーに連絡する必要があります。

重要:
サードパーティ連絡先ロールは、外部連絡先にのみ使用する必要があります。このロールは、ServiceNow AI Platform インスタンスへのアクセスを禁止し、サードパーティポータルへのアクセスのみを許可します。

手順

1. 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > サードパーティ > サードパーティ連絡先 サードパーティ連絡先が既にアサインされているかどうかを判断するため。

   連絡先の数は、サードパーティ連絡先ページでサードパーティごとに表示されます。

2. サードパーティ連絡先ページで、サードパーティを選択して、関連付けられた連絡先のリストを表示します。
   - 既存の連絡先を管理するには：
     - 各連絡先を選択し、連絡先が適切なサードパーティに関連付けられ、アクティブであり、該当する場合は主要連絡先として指定されていることを確認します。

       注:
       連絡先に現在アサインされているアンケート、文書要求、および問題が、関連付けられたタブに一覧表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

- admin ロールがない場合は、admin ロールを持っているユーザーに、[ロール] 関連リストにそのユーザーの vendor_contact ロールが表示されていることを確認してもらってください。admin ロールを持っているユーザーが [ロール] 関連リストを表示できない場合は、ステップ 4 に進んでください。admin ロールを持っているユーザーが、そのユーザーの vendor_contact ロールを表示できない場合は、ステップ 5 に進んでください。

  注:
  サードパーティ連絡先の管理の詳細については、「サードパーティ連絡先のアクセスの管理」を参照してください。

◦ 連絡先を追加するには、 [新規] を選択し、次の手順に進みます。

注:
vendor_contact ロールに含まれているため、連絡先に snc_external ロールがあるのは正常です。

3. フォームのフィールドに入力します。

サードパーティ連絡先フォーム

フィールド	説明
名、姓、メール、役職、所属	サードパーティ組織のユーザーの標準の連絡先情報。
ユーザー ID	サードパーティポータルインスタンスへのログインに使用される ID。
サードパーティ	連絡先のサードパーティ組織。
言語、タイムゾーン	サードパーティ組織のユーザーの優先言語とタイムゾーン。
アクティブ	サードパーティポータルで作業する資格を得るために連絡先を有効にするオプション。
主要連絡先	アセスメントの質問に直接回答したり、質問に回答するサードパーティの別の連絡先をアサインできるサードパーティ連絡先。サードパーティの他の連絡先を管理することもできます。

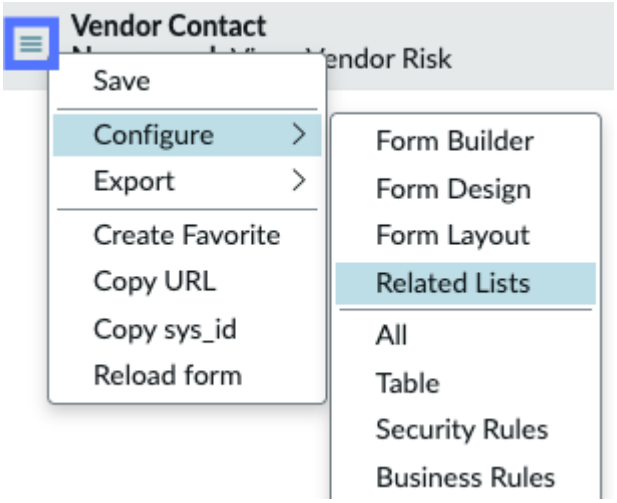
注:
フォームが送信されると、新しいサードパーティ連絡先にメール通知が送信されます。このメールには、サードパーティポータルへのリンクとログイン認証情報が含まれています。

4. オプション: [ベンダー連絡先] ページに [ロール] の値を追加して、各連絡先にvendor_contact ロールがあることを検証します。

自動翻訳

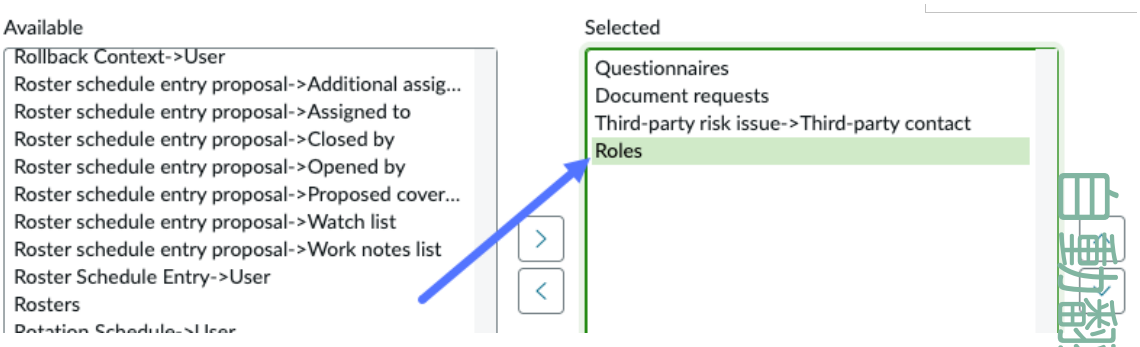
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. アクションアイコンを選択して [ロール] 関連リストを追加します。 構成 > 関連リスト.



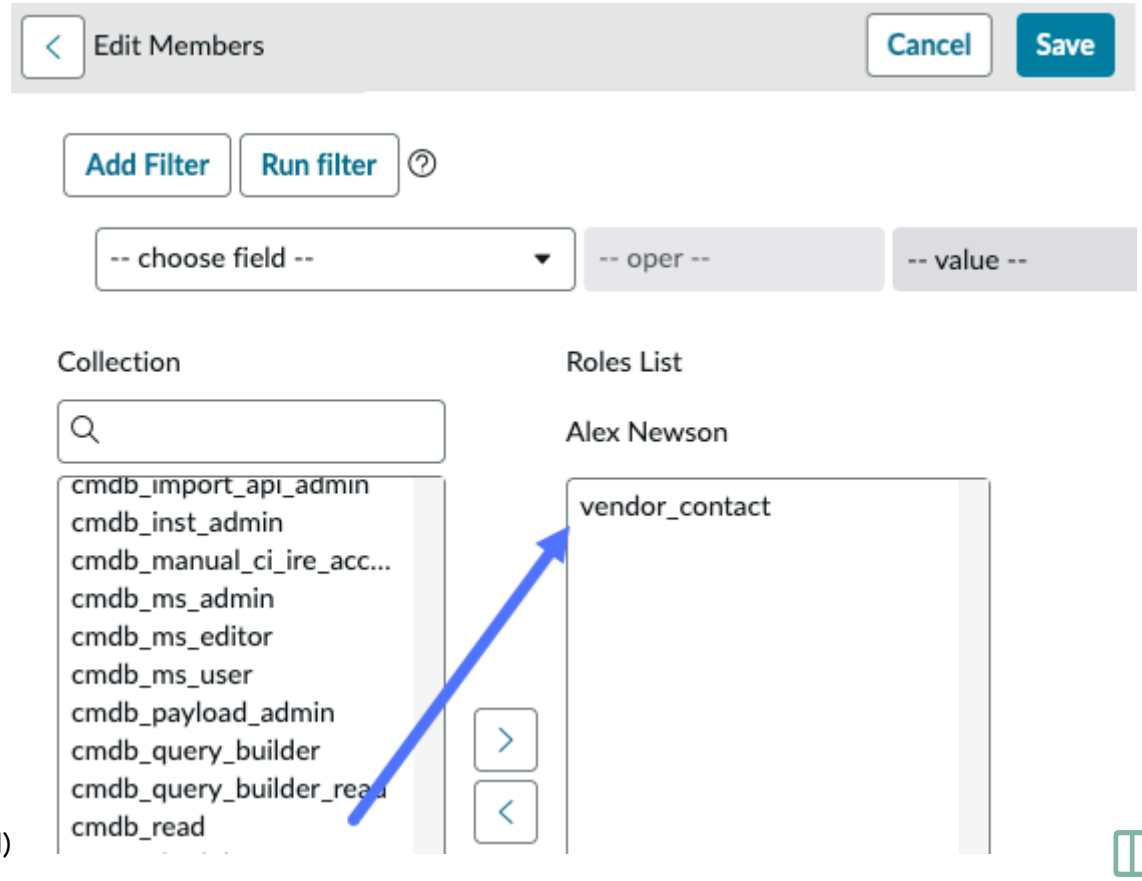
b. [ロール] 関連リストを [選択済み (Selected)] リストに移動し、[保存] を選択します。

(Optional)



5. オプション: [編集] を選択し、[ロール] リストに **[vendor_contact]** を追加することで、サードパーティ連絡先にサードパーティポータルへのアクセス権を付与します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



(Optional)

警告:
ユーザーに、snc_internal などの他のロールがある場合、そのユーザーも、プラットフォームにログインして、重要なレコードを表示できる可能性があります。

サードパーティ連絡先のアクセスの管理

サードパーティリスク管理 を使用して、既存のサードパーティ連絡先を表示し、必要に応じてその情報とアクセス権限を調整します。連絡先の詳細を最新の状態にしておくことで、サードパーティの連絡先が不正にアクセスしたり、サードパーティポータルへの許可されたアクセスを失ったりすることを防ぐことができます。

始める前に

サードパーティリスク (TPR) マネージャーは、ステップ 3 の最後の 3 つのオプションを完了するために、admin ロールを持つチームメンバーに連絡する必要があります。

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager と、ステップ 3 の最後の 3 つのオプションを完了するためには admin

このタスクについて

サードパーティ連絡先は、サードパーティ組織にいる外部ユーザーです。それらのユーザーは、サードパーティポータルを使用して、アセスメントのためのアンケートに回答する、リスクアセスメントスタッフと問題に関するコミュニケーションを取るなどのタスクを安全に整理、優先順位付け、および実行します。サードパーティ連絡先のサードパーティポータルへのアクセス許可およびアクセス権限を調整することもできます。

自動翻訳

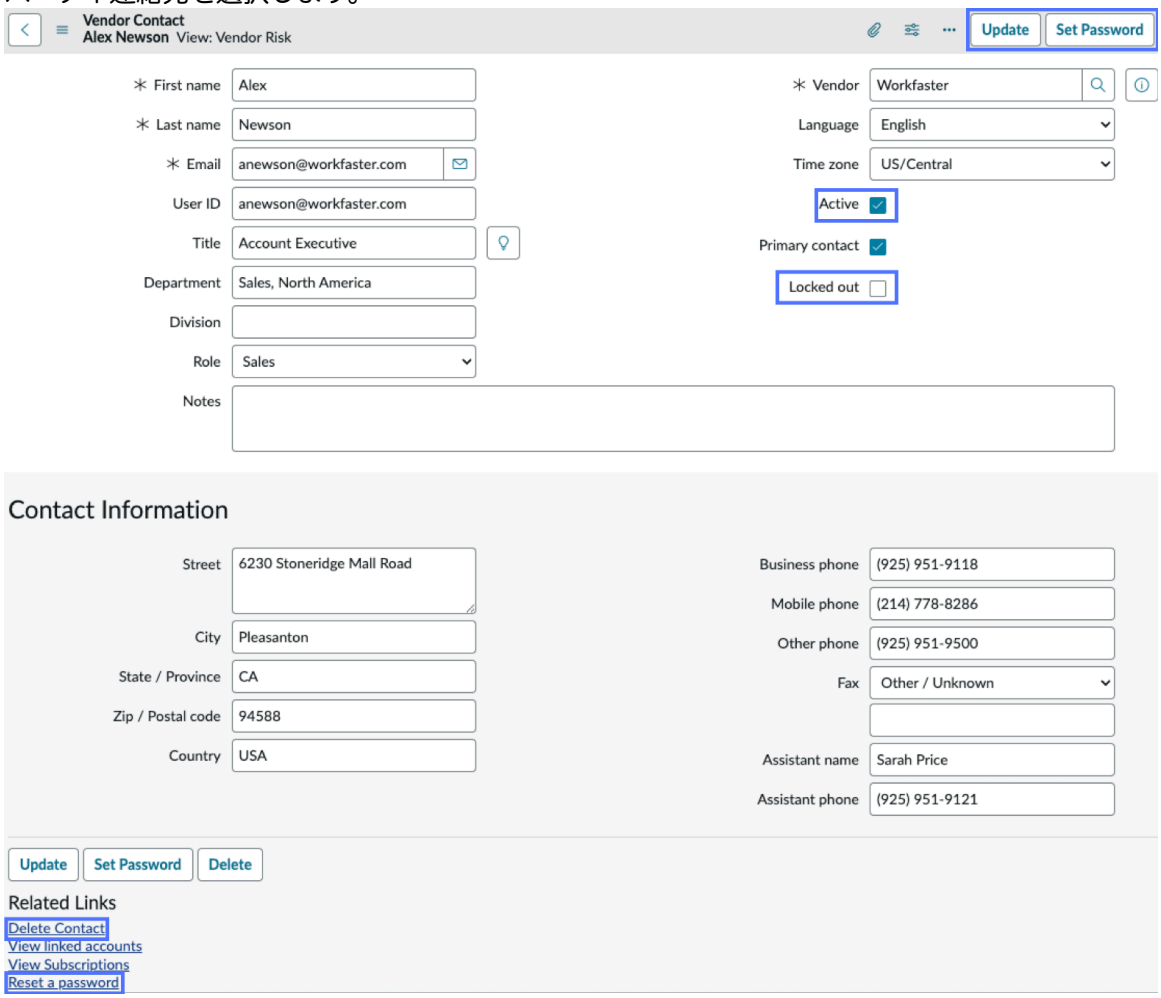
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > サードパーティ > サードパーティ連絡先 をクリックして、既存のサードパーティ連絡先を表示します。

   連絡先の数は、サードパーティ連絡先ページでサードパーティごとに表示されます。

2. サードパーティを選択して、サードパーティに関連付けられた連絡先のリストを表示し、サードパーティ連絡先を選択します。



3. オプション: サードパーティ連絡先のポータルへのアクセスを管理します。

4. [更新] を選択します。

> **注:**
> サードパーティ連絡先の設定の詳細については、「サードパーティ連絡先の設定」と「サードパーティの連絡先を含むメールを有効にする」を参照してください。

アンケートまたは文書要求の電子署名

アンケートまたは文書要求では、サードパーティの連絡先やレビュー担当者の電子署名が必要になる場合があります。

始める前に

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager または sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor

自動翻訳

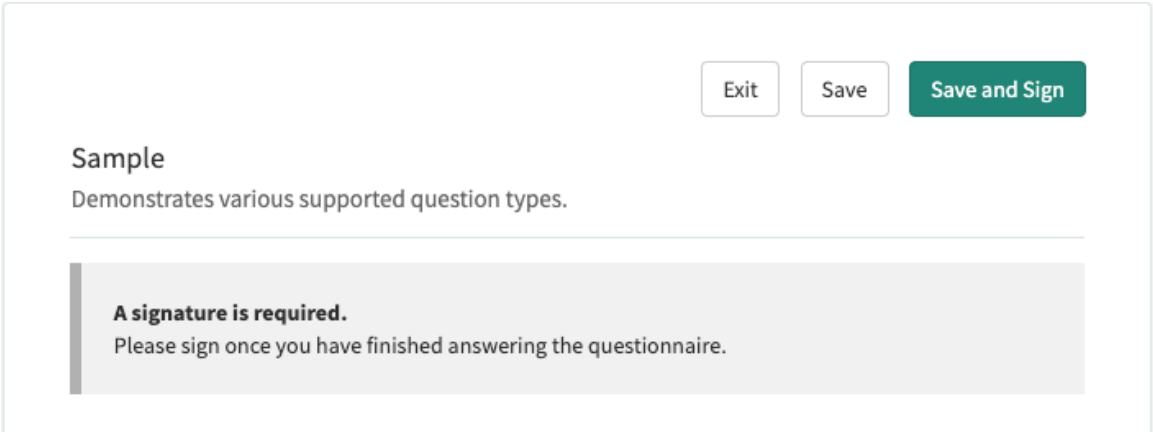
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
アンケートまたは文書要求がサードパーティに送信されると、サードパーティリスク (TPR) マネージャーまたは TPR 査定人に、レコードへのリンクを含むメール通知が届きます。

注:
署名機能は、 SAE アンケートではサポートされていません。

手順

1. リンクをクリックしてアンケートまたは文書要求を開きます。

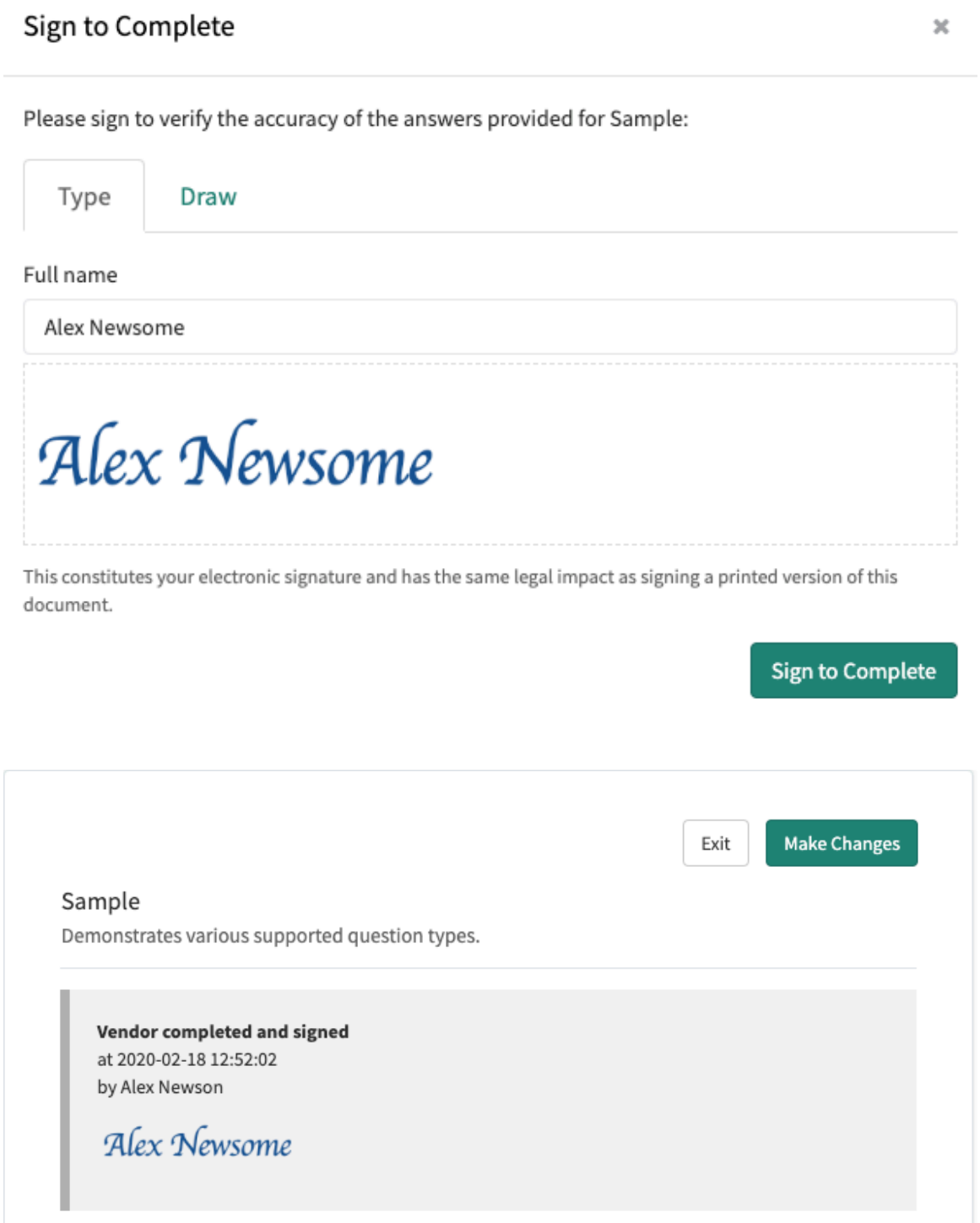


注:
サンプル のアンケートで署名が必要になっていることに注意してください。署名が必要なアンケートを開きます。

2. アンケートまたは文書の要求を完了し、質問に回答したら、[保存して署名] をクリックします。
3. [タイプ] タブを使用して名前を入力するか、[描画] タブを使用して自由形式の署名を入力して、[署名して完了] をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

4. 何らかの方法でアンケートまたは文書要求の回答を更新するには、[変更を加える] をクリックします。
   変更を加えた後は、署名が削除されるため、再度署名する必要があります。
5. アセスメントを完了して署名したら、[終了] をクリックし、アセスメントの追加のアンケートまたは文書の要求に対してこのプロセスを繰り返します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. アセスメントのすべてのアンケートと文書要求を完了したら、[アセスメントを送信] をクリックします。

   注:
   電子署名を必要とするすべてのアイテムが署名されるまで、アセスメントを送信することはできません。

タスクの結果
アセスメントのステータスが [応答を受信済み] に変更され、リスクスコアが計算されます。

TPRM と Explicit Roles プラグイン

プラグインをアクティブ化すると、Explicit Roles サードパーティリスク管理 プラグインもインストールされます。アドミニストレーターは、snc_internal ロールおよび snc_external ロールをアサインして、内部および外部のユーザーにインスタンスへのアクセスを提供します。

サードパーティの連絡先は、作成されると自動的に snc_external ロールがアサインされ、サードパーティポータルに関連するリソースへのアクセス権が付与されます。

さまざまなテーブルが、[ロール] フィールドを設定することで、レコードへのロールベースのアクセスを提供します。[ロール] フィールドが空の場合、すべてのユーザーがそのレコードにアクセスできます。たとえば、サービスカタログ アイテムの [ロール] フィールドの [ロール] フィールドが空の場合、すべてのユーザーがその サービスカタログ アイテムにアクセスできます。

ただし、Explicit Roles プラグインがインストールされている場合、[ロール] フィールドは **snc_internal** に更新されます。また、すべてのユーザーに snc_internal ロールが付与されます。前の例を続けます。

- Explicit Roles プラグインをインストールする前は、サービスカタログ アイテムの [ロール] フィールドが空の場合、すべてのユーザーがアクセスできました。
- Explicit roles プラグインをインストールすると、サービスカタログ アイテムの [ロール] フィールドが snc_internal に更新され、既存のすべてのユーザーに snc_internal ロールが付与され、それらのユーザーがカタログアイテムにアクセスできるようになります。
- その後、すべての新しいユーザーに snc_internal ロールを割り当てる必要があります。これを行わないと、その サービスカタログ アイテムにアクセスできません。

次の表では、Explicit Roles プラグインによって影響を受けるテーブルの変更について説明します。

Explicit Roles プラグインの影響を受けるテーブル

テーブル	変更
アクセス制御 [sys_security_acl]	ロール要件のない既存および新規作成のすべての ACL には、snc_internal ロールが割り当てられます。
カタログアイテム [sc_cat_item]	[ロール] フィールドが空のすべてのレコードに対して、snc_internal ロールが追加されます。glide.sc.use_user_criteria プロパティが false に設定されている場合、新しく作成されたカタログアイテムには snc_internal ロールが自動的に割り当てられます。プロパティが true に設定されている場合、SNC 外部ユーザー基準が新しく作成されたカタログアイテムに追加され、外部ユーザーはレコードを表示できません。
ページ	[読み込みロール] フィールドが空のログインページを持つすべてのサイトに対して、snc_internal ロールが追加されます。ログイ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Explicit Roles プラグインの影響を受けるテーブル (続く)

テーブル	変更
[content_page]	ンページがないサイトや、自動的にコンテンツページが作成されているサイトの場合は、パブリックロールが追加されます。
ナビゲーションメニュー [sys_app_application]	[ロール] フィールドが空のすべてのレコードに対して、snc_internal ロールが追加されます。[ロール] フィールドが空の状態で新しく作成されたナビゲーションメニューにも、snc_internal ロールが自動的に割り当てられます。
概要ヘルプパネル [sys_ui_overview_help_panel]	[ロール] フィールドが空のすべてのレコードに対して、snc_internal ロールが追加されます。[ロール] フィールドが空の状態で新しく作成された概要パネルにも、snc_internal ロールが割り当てられます。
ポータルページ [sys_portal_page]	[読み込み] ロールフィールドが空のすべてのレコードに対して、snc_internal ロールが追加されます。[読み込みロール] フィールドが空の状態で新しく作成されたポータルページにも、snc_internal ロールが自動的に割り当てられます。
プロセッサー [sys_processor]	[ロール] フィールドが空のすべてのレコードに対して、snc_internal ロールが追加されます。[ロール] フィールドが空の状態で新しく作成されたプロセッサーにも、snc_internal ロールが自動的に割り当てられます。
レポート [sys_report]	[ロール] フィールドが空のすべてのレコードに対して、snc_internal が追加されます。共有の際に、[ロール] フィールドが空の状態で新しく作成されたレコードにも、snc_internal ロールが自動的に割り当てられます。

自動翻訳

外部アンケートに **Microsoft Excel** スプレッドシートテンプレートを使用する

サードパーティとエンゲージメントは、 Microsoft Excel スプレッドシートを使用してテンプレートをダウンロードして記入し、最終バージョンをサードパーティポータルにインポートすることで、アンケートに回答できます。これにより、回答者はサードパーティポータルの外部で情報を提供できます。

アンケートテンプレートのダウンロード

アンケートテンプレートには、 ベンダー管理ワークスペース、クラシックユーザーインターフェイス、またはサードパーティポータルからアクセスできます。

サードパーティリスク (TPR) 査定人 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor] または TPR マネージャー [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager] ロールを持っている場合は、必要なアンケートに移動して [応答を表示] を選択することで、アンケートテンプレートをダウンロードできます。アンケートテンプレートプロセスの詳細については、「 Microsoft Excelテンプレートを使用して応答」を参照してください。

クラシックユーザーインターフェイスを使用してアンケートを表示するには、次を選択します すべて > セルフサービス > サードパーティリスク管理 > 外部リスクアセスメント > オープンステータスをクリックし、必要なアセスメントを選択して、[アンケート] 関連リストで必要なアンケートの横にある [応答を表示] を選択します。アンケートページが開いたら、[Excel テンプレートのダウンロード] リンクを選択します。

ベンダー管理ワークスペースを使用してアンケートを表示するには、次を選択します ワークスペース > ベンダー管理ワークスペースをクリックし、リストアイコン [外部リスクアセスメント] に

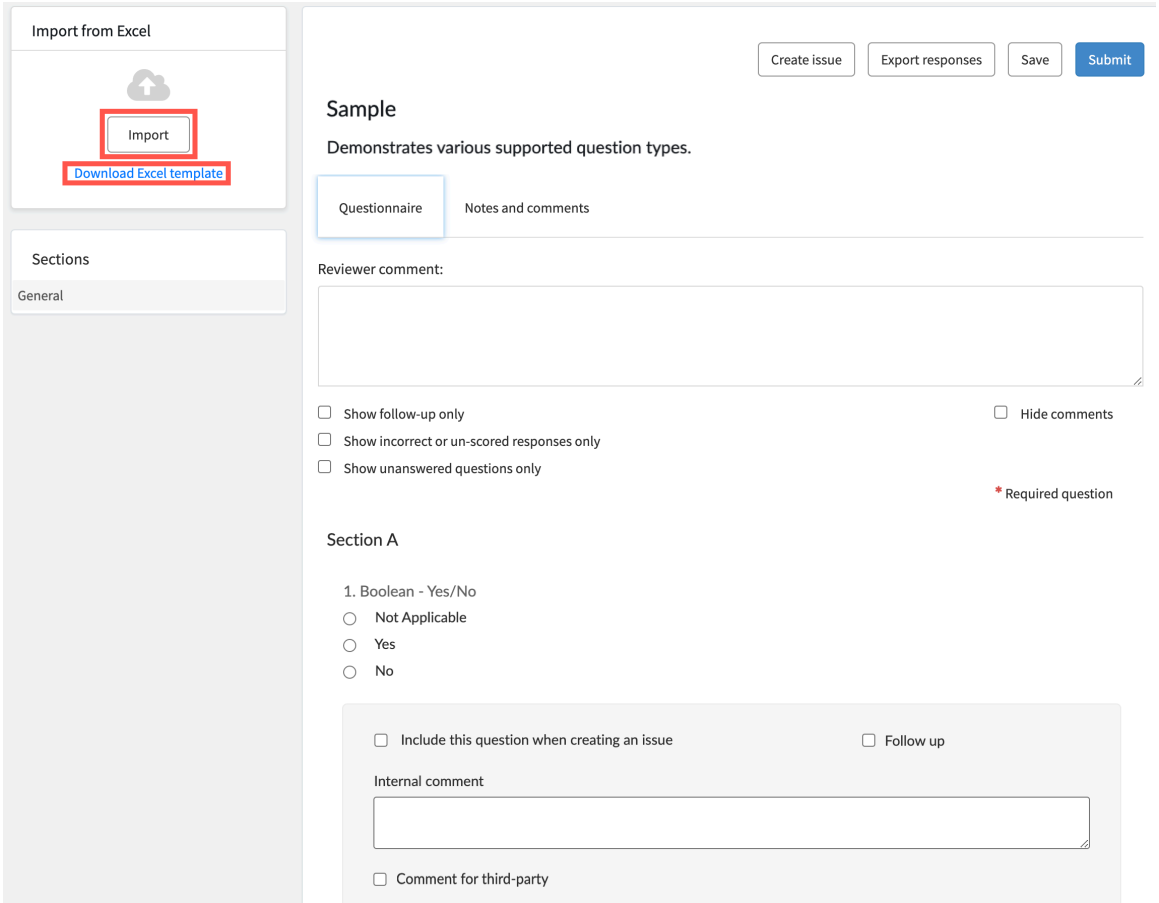
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

移動します。必要なアセスメントを選択したら、[リスク概要] タブの [アンケートと文書要求] セクションに移動し、必要なアンケートを選択します。アンケートページが開いたら、[Excel テンプレートのダウンロード] リンクを選択します。

注:
TPR 査定人または TPR マネージャーは、[査定人にサードパーティ連絡先のアンケートへの回答/編集を許可] プロパティ (*sn_svdp.allow_assessor_edit*) がアクティブな場合、サードパーティまたはエンゲージメント連絡先に代わってこのプロセスを完了した後にアンケートを送信できます。このプロパティの構成とアンケートへの回答の詳細については、「TPRM プロパティの設定」、「サードパーティまたはエンゲージメントのためにアンケートに回答する」、および「外部アンケートの応答を確認する」を参照してください。

次の例は、アンケートページを示しています。

サンプルアンケートの例



重要:
アンケートテンプレートは.xlsx形式でダウンロードされ、完了したら同じ形式でアップロードする必要があります。

アンケートテンプレートの記入

アンケートテンプレートファイルの [説明] タブに移動すると、テンプレートに入力するための手順を表示できます。アンケートの各セクションに質問データを追加するには、対応するタブに移動します。各タブには、そのセクションの名前が付けられ、関連する質問データが含まれています。

重要:
各質問タイプと列エントリの指示に従う必要があります。[質問の詳細]、[依存先]、および [必須] 列のエントリは、参照されるタグ、質問名、またはアクションと一致する必要があります。アンケートテンプレートの検証は制限されています。

自動翻訳

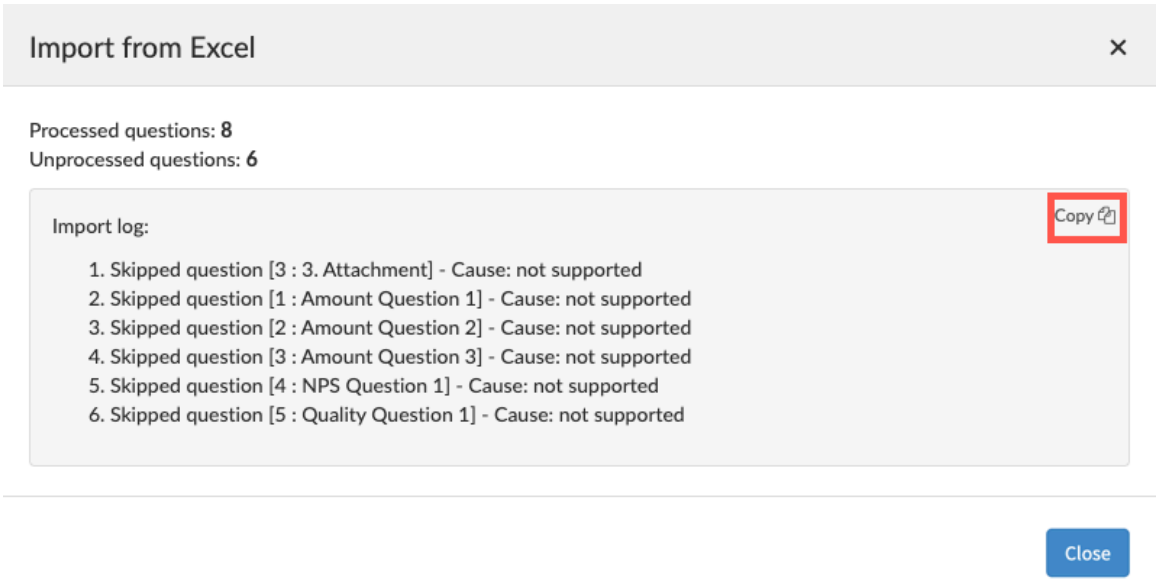
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アンケートテンプレートのインポート

完了したアンケートをインポートするには、[インポート] を選択し、ファイルブラウザーからファイルを選択します。回答がインポートされると、アンケートテンプレートの進捗状況がダイアログボックスに表示されます。インポートが完了したら、結果を確認し、該当する場合は [コピー] を選択してインポートログをクリップボードにコピーできます。更新されたテンプレートをアップロードする前に、インポートログを確認し、エラーを修正してください。

次の例は、ダイアログボックスとインポートログを示しています。

インポートログの例



制限事項

アンケートテンプレートには次の制限と要件があります。

- 文書の構造や書式は変更しないでください。指示に従って選択するか、内容を入力してください。
- すべての質問タイプに検証があるわけではないため、一部の回答の正確性または完全性がチェックされない可能性があります。
- すべての必須の質問に答えてください。未回答のままにしておくと、送信が不完全になる可能性があります。
- 添付ファイル、参照、画像スケール、テンプレートなどの特定の質問タイプは、ServiceNow インスタンスで、またはテンプレートがサポートされていないため、サードパーティの担当者の助けを借りて入力します。
- [依存先] 列に示されているように、前の質問に対する回答に応じて条件付き質問の [必須条件] 列で指定された追加条件に従います。
- [質問の詳細] 列は、質問に関する追加のコンテキストや情報を提供しているため、注意深く確認してください。
- フィルターを使用すると質問が非表示になる可能性があるため、アンケートテンプレートのフィルターを無効にして、すべての質問を表示して回答できるようにします。
- ドキュメントを無断で変更または配布することは、著作権契約に違反し、あなたまたはあなたの組織に罰則が科せられる可能性があるため、避けてください。

アンケートテンプレート要件の詳細については、アンケートテンプレートファイルの [説明] タブを参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティの連絡先に送信する手順については、「Microsoft Excelテンプレートを使用して応答」を参照してください。

> **注:**
> ライセンスの制限により、標準化された情報収集 (SIG) アンケートテンプレート 共有アセスメント ダウンロードすることはできません。SIG Questionnaire の使用の詳細については、「リスクアセスメントに SIG Questionnaire を使用する」を参照してください。

Microsoft Excelテンプレートを使用して応答

Microsoft Excelテンプレートを使用して、テンプレートをダウンロードして記入し、最終バージョンをサードパーティポータルにインポートすることで、アンケートに回答します。Microsoft Excelアンケートテンプレートには、テンプレートに入力するための手順が含まれています。

始める前に
必要なロール：vendor_contact

このタスクについて
Microsoft Excelアンケートテンプレートを使用すると、サードパーティおよびエンゲージメントの連絡先がサードパーティポータルの外部から情報を提供できるようになり、デューデリジェンスプロセスが簡素化されます。詳細については、「外部アンケートに Microsoft Excel スプレッドシートテンプレートを使用する」を参照してください。

手順

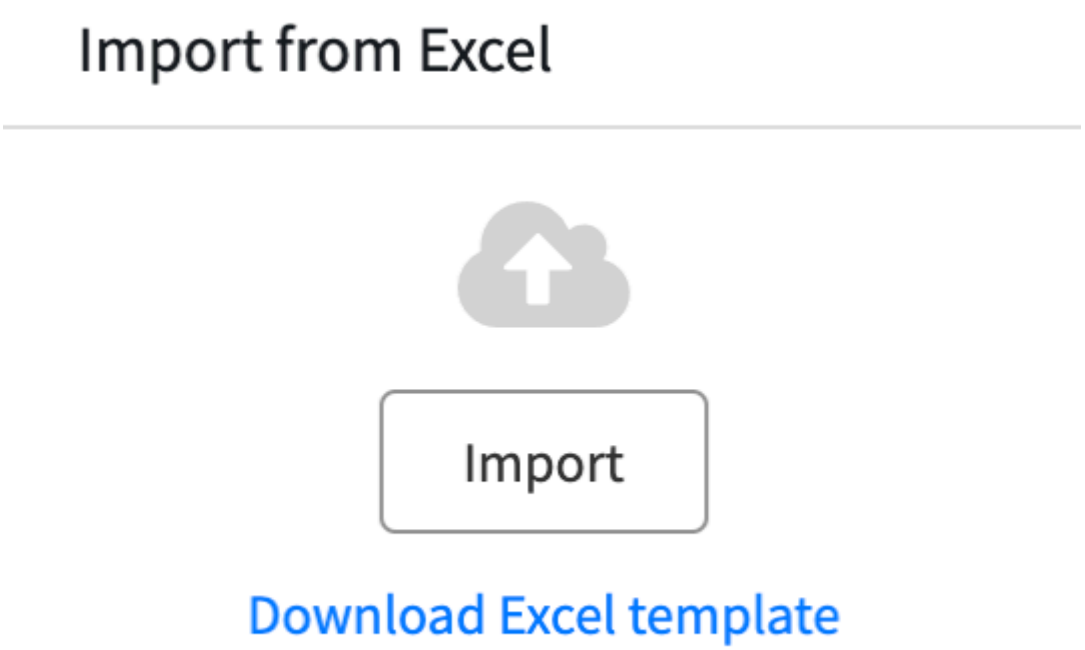
1. https://<myCompany>.service-now.com/svdp で、サードパーティポータルにログインします。
2. [アセスメント] タブを選択し、回答するアセスメントとアンケートを選択します。
3. [Excel テンプレートのダウンロード] リンクを選択します。
   テンプレートファイルが生成され、自動的にダウンロードされます。ダウンロードされたファイルでは、次のファイル命名規則が使用されます。 <questionnaireName_id>.xlsx
4. 指示に従ってテンプレートに入力します。
   テンプレートファイルの [説明] タブに移動すると、テンプレートの入力手順を表示できます。アンケートの各セクションに質問データを追加するには、対応するタブに移動します。各タブには、そのセクションの名前が付けられ、関連する質問データが含まれています。

   > **重要:**
   > 各質問タイプと列エントリの指示に従う必要があります。[質問の詳細]、[依存先]、および [必須] 列のエントリは、参照されるタグ、質問名、またはアクションと一致する必要があります。アンケートテンプレートの検証は制限されています。

5. [インポート] を選択して完了したアンケートをアップロードし、ファイルブラウザーからファイルを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



アンケートテンプレートアップロードの進捗状況がダイアログボックスに表示されます。アップロードが完了したら、結果を確認できます。

6. 結果を確認し、該当する場合は [コピー] を選択してインポートログをクリップボードにコピーします。
7. **[Close** (閉じる)] を選択します。
   a. インポートログを確認し、 Microsoft Excel アンケートテンプレートのエラーを修正します。
8. すべてのエラーが解決されるまで、手順 5 ～ 7 を繰り返します。
   アンケートテンプレートが正常にアップロードされ、完全なアンケートテンプレートのすべての質問データでアンケートが更新されました。
9. **[Submit** (送信)] を選択します。
   これで、完全なアンケートが要求者によるレビューに利用できるようになりました。

リスクアセスメントに **SIG Questionnaire** を使用する

サードパーティは、サードパーティリスク管理 アプリケーションでアセスメントドキュメントを提供するために、共有アセスメント Standardized Information Gathering (SIG) アンケートを使用できます。サードパーティ連絡先は、事前に入力された SIG スプレッドシートをアップロードするか、インスタンスにインポートされるフォームベースのアンケートによって取得できます。

サポートされている **SIG** のバージョン

TPRM は、現在の SIG バージョンから 2 つ前のバージョン (2021) までをサポートしています。次の SIG バージョンがサポートされています。

- SIG Full 2025、2024、2023、2022、2021
- SIG Core 2025、2024、2023、2022、2021
- SIG Lite 2025、2024、2023、2022、2021

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
SIG 2020 バージョンは再アクティブ化可能です。SIG 2020 バージョンはデフォルトで非アクティブ化されています。

重要:

ベースシステム には、サンプルの SIG アンケートが含まれています。これらのアンケートには、正解は記載されていません。共有アセスメント で提供されるテンプレートにも正解は記載されていません。正解と不正解はユーザーが決めなければなりません。

サンプル SIG アンケートの「はい/いいえ」の質問に採点ロジックは含まれていません。デフォルトでは、サンプルのすべての「はい」の回答が正しいと評価されます。ユーザーが、ニーズに合わせてロジックを構成する必要があります。

SIG の制限事項

SIG を使用すると、サードパーティは次の問題に遭遇する可能性があります。

- サードパーティが、サポートされている最古の SIG より前のバージョンをアップロードした場合、一致する質問に対するすべての回答がインポートされ、一致しない質問は、後でサードパーティが回答できるように、空白の回答としてインポートされます。
- サードパーティが現在のバージョンよりも古いバージョンの SIG からデータをロード (たとえば、SIG Full 2022 で SIG Full 2021 のデータをロード) しようとすると、一部の質問が正しくマッピングまたは解析されない場合があります。
- 2021 年より前のバージョンの SIG のロードはサポートされていません。

注:
GRC: SIG Questionnaire Integration プラグインの使用に関する詳細については、「SIG (標準化された情報収集) Questionnaire Integration」、「GRC：SIG アンケート統合をインストールします。」、「サードパーティリスク管理 で SIG Questionnaire Integration を検証する」を参照してください。

サードパーティの連絡先に送信する手順については、「SIG を使用した応答」を参照してください。

SIG を使用した応答

サードパーティポータルでアセスメントドキュメントを提供するために、共有アセスメントの Standardized Information Gathering (SIG) アンケートを使用できます。事前に入力された SIG スプレッドシートをアップロードするか、フォームベースのアンケートをインポートします。

始める前に
必要なロール：vendor_contact

このタスクについて
TPRM は、現在の SIG バージョンから 2 つ前のバージョン (2021) までをサポートしています。次の SIG バージョンがサポートされています。

- SIG Full 2025、2024、2023、2022、2021
- SIG Core 2025、2024、2023、2022、2021
- SIG Lite 2025、2024、2023、2022、2021

注:
SIG 2020 バージョンは再アクティブ化可能です。SIG 2020 バージョンはデフォルトで非アクティブ化されています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされている最古の SIG より前のバージョンをアップロードした場合、一致する質問に対するすべての回答がインポートされ、一致しない質問は、後で回答できるように、空白の回答としてインポートされます。

重要:
現在のバージョンよりも古いバージョンの SIG からデータをロード (たとえば、SIG Full 2023 で SIG Full 2022 のデータをロード) しようとすると、一部の質問が正しくマッピングまたは解析されない場合があります。2021 より前のバージョンの SIG をロードすることはできません。

手順

1. https://<myCompany>.service-now.com/svdp で、サードパーティポータルにログインします。
2. 完了したアンケートをアップロードするか、アンケートを完了します。
3. サードパーティポータルで SIG Questionnaire を送信します。
   これで、要求者が完全な SIG Questionnaire を確認できるようになりました。

リスクインテリジェンスレポートとスコアの使用

サードパーティリスク管理 アプリケーションを使用して、外部のリスクインテリジェンスコンテンツプロバイダーにリスクインテリジェンスレポートまたはスコアを直接要求します。この情報は、個々のサードパーティの重要性やリスクレベルに基づいて要求および管理できます。

リスクインテリジェンスの概要

リスクインテリジェンスプロバイダー は、さまざまなサードパーティリスクドメインのリスクスコアの分析と生成を専門とする企業です。これらのプロバイダーは、個人のクレジットスコアリングシステムと同様のサービスを提供し、組織がサードパーティを評価するのに役立つデータを提供します。

サードパーティリスク (TPR) 査定人 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_assessor] を持っていて、デューデリジェンス要求の所有者であるか、TPR マネージャー [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager] ロールである場合は、 TPRM アプリケーションを使用して、リスクインテリジェンス要求フォームを使用してサードパーティのスコアまたはレポートを要求できます。リスクインテリジェンスプロバイダーによってレポートとスコアが生成された後、これらのレポートへのリンクが配信され、そのリスクインテリジェンスレポートレコードに関連付けられます。

これらのレポートの情報は、サードパーティとのやり取りに影響する可能性のある地政学的リスク、経済の安定性、業界固有の傾向、規制の変更など、さまざまなトピックをカバーします。特定のリスク管理プログラムの要件に合わせて、クレジットリスクレポート、コンプライアンスレポート、戦略的リスクレポートなどのさまざまなタイプのレポートを注文できます。

リスクインテリジェンスプロバイダーと要求タイプの設定

TPR アセスメントレビュー担当者 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessment_reviewer] ロールを持っている場合は、レポートを要求する前に、プロバイダーを登録し、サードパーティリスク管理アプリケーションでプロバイダーと要求タイプの両方を設定する必要があります。詳細については、「リスクインテリジェンスプロバイダーを登録する」、「リスクインテリジェンスプロバイダーサービスのセットアップ」、「プロバイダーの要求タイプの設定」を参照してください。

注:
サードパーティのリスクレポートは要求できますが、エンゲージメントのリスクレポートは要求できません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクインテリジェンスの要求

TPR マネージャー [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager]、デューデリジェンス要求の所有者である TPR 査定人 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_assessor]、またはデューデリジェンス要求にアサインされた契約交渉担当者 [sn_vdr_risk_asmt.contract_negotiator] は、リスクインテリジェンスレポート (RIR) またはスコアを要求して、特定のサードパーティがどの程度信頼できるかについてのインサイトを得ることができます。リスクインテリジェンスレポートまたはスコアを要求するには、次のプロセスに従います。

1. [RIR request (RIR 要求)] フォームに入力します。RIR 要求は、サードパーティまたはデューデリジェンス要求に関連付けることができます。RIR 要求をデューデリジェンス要求に関連付けると、レビュー担当者と承認者は、ベンダー管理ワークスペース [var.vendor-management-ws] の [リスクインテリジェンスレポート要求] タブから、関連するすべてのアクティビティ、スコア、レポート、および詳細にさらに簡単にアクセスできます。詳細については、「リスクインテリジェンスレポートを要求する」と「デューデリジェンス要求に関連付けられたリスクインテリジェンスレポートを要求する」を参照してください。

   注:
   RIR 要求をデューデリジェンス要求に関連付ける場合は、固有のリスクに関するアンケート (IRQ) が完了した後 (つまり、デューデリジェンス要求が IRQ 対応中ステータスになった後) に行う必要があります。

2. TPR マネージャー [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager] とそのチームが要求をレビューします。
3. TPR マネージャー [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager]、デューデリジェンス要求の所有者である TPR 査定人 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_assessor]、またはデューデリジェンス要求にアサインされた契約交渉担当者 [sn_vdr_risk_asmt.contract_negotiator] は、要求が承認されれば送信できます。要求が送信され、[Order pending (オーダー保留中)] ステータスになると、[Risk Intelligence report request (リスクインテリジェンスレポート要求)] セクションのすべてのフィールドは読み取り専用になるため、プロバイダーに誤ったオーダーが送信されるのを防ぐことができます。

   注:
   TPR マネージャー、TPR 査定人、または契約交渉担当者は、要求が [オープン] または [注文の処理待ち] ステータスのときに RIR 要求をキャンセルできます。サードパーティに影響を与える新しい情報やその他の変更によりレポートが不要になった場合も、RIR 要求をキャンセルできます。

4. リスクインテリジェンスプロバイダーによってレポートとスコアが生成されると、これらのレポートとスコアへのリンクが提供され、リスクインテリジェンスレポート要求に関連付けられます。その後、RIR 要求は [完了してクローズ] ステータスになります。

RIR 要求とそのプロセスのステータスの詳細については、「リスクインテリジェンスレポート要求の管理」を参照してください。

注:
同じプロバイダー、要求タイプ、またはサードパーティーで複数の RIR 要求を行うことはできません。たとえば、RIR 要求を既にサードパーティに関連付けている場合、エンゲージメントのデューデリジェンス要求の一部として同じプロバイダーに同じレポートを要求することはできません。このプロセスは、重複した注文がプロバイダーに送信されるのを防ぐのに役立ちます。

サードパーティにスコアを手動で追加し、[リスクインテリジェンススコア] 関連リストを使用して、サードパーティの既存のスコアに関する背景情報を確認できます。詳細については、「サードパーティリスクデータにリスクインテリジェンススコアを追加する」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

制裁関連情報の追跡

サードパーティに関する制裁関連情報を追跡することで、そのサードパーティが政府の制裁または規制によって禁止または制限されているアクティビティに関与しているかどうかを確認できます。サードパーティの制裁関連情報を記録して更新することで、サードパーティリスクプログラムの一環としてデューデリジェンス要求をレビューして承認する際に、チームに常に最新情報を提供できます。制裁関連情報の追跡の詳細については、「制裁関連情報の追跡」を参照してください。

リスクインテリジェンスレポートを要求する

サードパーティリスク管理 アプリケーションを使用して、リスクインテリジェンスレポート (RIR) またはスコアを要求し、特定のサードパーティを信頼できるかどうかに関するインサイトを取得します。

始める前に

すべてのリスクインテリジェンスプロバイダーを設定して登録し、リスクインテリジェンスレポートフォームで選択肢として使用できるように要求タイプを設定する必要があります。詳細については、「リスクインテリジェンスプロバイダーを登録する」、「リスクインテリジェンスプロバイダーサービスのセットアップ」、「プロバイダーの要求タイプの設定」を参照してください。

必要なロール：sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager

このタスクについて

特定のリスク管理プログラムの要件に合わせて、クレジットリスクレポート、コンプライアンスレポート、戦略的リスクレポートなどのさまざまなタイプのリスクインテリジェンスレポートを注文できます。

注:
サードパーティのアクティブな要求は、各タイプで 1 つのみ存在できます。たとえば、Workfaster がすでにレベル 1 レポートを要求している場合、最初のレポートがまだ処理されている間は、別のレベル 1 レポートを要求することはできません。

手順

1. 移動先 すべて > セルフサービス > サードパーティリスク管理 > リスクインテリジェンスプロバイダーのセットアップ > レポートの要求.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

   各フィールドの説明については、「リスクインテリジェンスレポート要求フォーム」を参照してください。デューデリジェンス要求に関連付けられたリスクインテリジェンスレポート要求を作成するには、「デューデリジェンス要求に関連付けられたリスクインテリジェンスレポートを要求する」を参照してください。

4. オプション: フォームの [制裁] セクションで、制裁に関連する情報を入力します。
   制裁スクリーニング情報を追跡する方法については、「制裁関連情報の追跡」を参照してください。
5. [保存] を選択します。

   サードパーティリスク RIR 要求が開きます。リスクインテリジェンス要求ごとに、テキスト [RIR] で始まる一意の ID 番号が自動的にアサインされます。この ID を使用して要求を追跡します。このページから添付ファイルを追加したり、チームとのディスカッションを開始したりすることができます。

6. [要求を送信] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RIR 要求がプロバイダーに送信されました。

注:
次のアクションを使用して、サードパーティレコードページからリスクインテリジェンス要求を作成できます。

a. ベンダー管理ワークスペース で、リストアイコン ( ) を選択し、[すべてのサードパーティ] に移動します。
b. 関連するサードパーティを選択して、サードパーティレコードページに移動します。
c. [リスクインテリジェンスレポート要求] タブで、[新規] を選択し、[プロバイダー] と [要求タイプ] を指定します。
d. [保存] を選択します。
e. [要求を送信] を選択します。

RIR 要求をプロバイダーに送信しました。

デューデリジェンス要求に関連付けられたリスクインテリジェンスレポートを要求する

サードパーティリスク管理 アプリケーションを使用して、デューデリジェンス要求プロセスの一環として、リスクインテリジェンスレポート (RIR) またはスコアを要求し、特定のサードパーティを信頼できるかどうかに関するインサイトを取得します。RIR 要求をデューデリジェンス要求に関連付けることで、すべてのアクティビティ、スコア、レポート、および詳細を確認できるようになります。

始める前に

すべてのリスクインテリジェンスプロバイダーを設定して登録し、リスクインテリジェンスレポート要求フォームで選択肢として使用できるように、要求タイプを設定する必要があります。詳細については、「リスクインテリジェンスプロバイダーを登録する」、「リスクインテリジェンスプロバイダーサービスのセットアップ」、「プロバイダーの要求タイプの設定」を参照してください。

必要なロール:デューデリジェンス要求の所有者である sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor、デューデリジェンス要求にアサインされた sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager、または sn_vdr_risk_asmt.contract_negotiator

このタスクについて

特定のリスク管理プログラムの要件に合わせて、クレジットリスクレポート、コンプライアンスレポート、戦略的リスクレポートなどのさまざまなタイプのリスクインテリジェンスレポートを注文できます。

注:
サードパーティのアクティブな要求は、各タイプで 1 つのみ存在できます。たとえば、Workfaster がすでにレベル 1 レポートを要求している場合、最初のレポートがまだ処理されている間は、別のレベル 1 レポートを要求することはできません。

手順

1. 移動先 ワークスペース > ベンダー管理ワークスペース.
2. リストアイコン ( ) を選択し、 デューデリジェンス要求 > すべての要求.
3. 該当する **[DDR]** 番号を選択して、[デューデリジェンス要求] レコードページに移動します。
4. [リスクインテリジェンスレポート要求] タブで、[新規] を選択し、[プロバイダー] と [要求タイプ] を指定します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

各フィールドの説明については、「リスクインテリジェンスレポート要求フォーム」を参照してください。

5. オプション: フォームの [制裁] セクションで、制裁に関連する情報を入力します。
制裁スクリーニング情報を追跡する方法については、「制裁関連情報の追跡」を参照してください。
6. [保存] を選択します。

サードパーティのリスクインテリジェンス要求が開きます。リスクインテリジェンス要求ごとに、テキスト [RIR] で始まる一意の ID 番号が自動的にアサインされます。この ID を使用して要求を追跡します。このページから添付ファイルを追加したり、チームとのディスカッションを開始したりすることができます。

7. [要求を送信] を選択します。
RIR 要求をプロバイダーに送信しました。

制裁関連情報の追跡

サードパーティリスク管理 アプリケーションを使用して、リスクインテリジェンスレポートとスコアを要求するプロセスの一部として、制裁関連情報を追跡します。サードパーティの制裁関連情報を記録して更新することで、サードパーティリスクプログラムの一環としてデューデリジェンスを実施する際にチームに最新情報を提供できます。

始める前に

必要なロール:デューデリジェンス要求の所有者である sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor、デューデリジェンス要求にアサインされた sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager、または sn_vdr_risk_asmt.contract_negotiator

手順

1. 移動先 すべて > セルフサービス > サードパーティリスク管理 > リスクインテリジェンスプロバイダーのセットアップ > レポートの要求.
2. 目的の RIR 番号を選択します。
3. フォームで、[はい] または [いいえ] を選択してサードパーティが制裁を受けているかどうかを指定し、フィールドに入力します。
各フィールドの説明については、「リスクインテリジェンスレポート要求フォーム」を参照してください。
4. [更新] を選択します。
RIR 要求の制裁関連のセクションが更新されました。

サードパーティリスク管理の参照

参照トピックでは、アプリと共に サードパーティリスク管理 インストールされるテーブル、プロパティ、フォーム、およびロールについて詳しく説明します。

用語

TPRM アプリケーションで使用される主要な概念と用語の詳細について説明します。

サードパーティ、第 **4** の関係者、および **n** 番目の関係者

サードパーティとは、ユーザーとやり取りしたり、ビジネス関係を結んだりした組織または個人のことです。サードパーティは、子会社を持つことができ、第 4 の関係者と契約することができます。たとえば、部門は子会社です。第 *4* の関係者は、他の関係者 (第 5、第 6 など、第 n の関係者と呼ぶ)

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

と契約できます。すべての下流関係者 (第 4 の関係者から第 n の関係者) は、サードパーティと同じ方法でリスクを伴う可能性があります。

ベンダーは、独自の商品またはサービスを生産または配送するために使用する商品またはサービスを提供します。すべてのベンダーはサードパーティですが、すべてのサードパーティがベンダーであるわけではありません。他のタイプのサードパーティのリストを次に示します。

- サプライヤー
- 関連会社
- カウンターパーティ
- コンサルタント
- パートナー
- プロフェッショナルサービス
- アドバイザー
- フランチャイズ
- ディーラー
- リセラー
- ディストリビューター
- 顧客
- クライアント
- アウトソーシングスタッフ

エンゲージメント

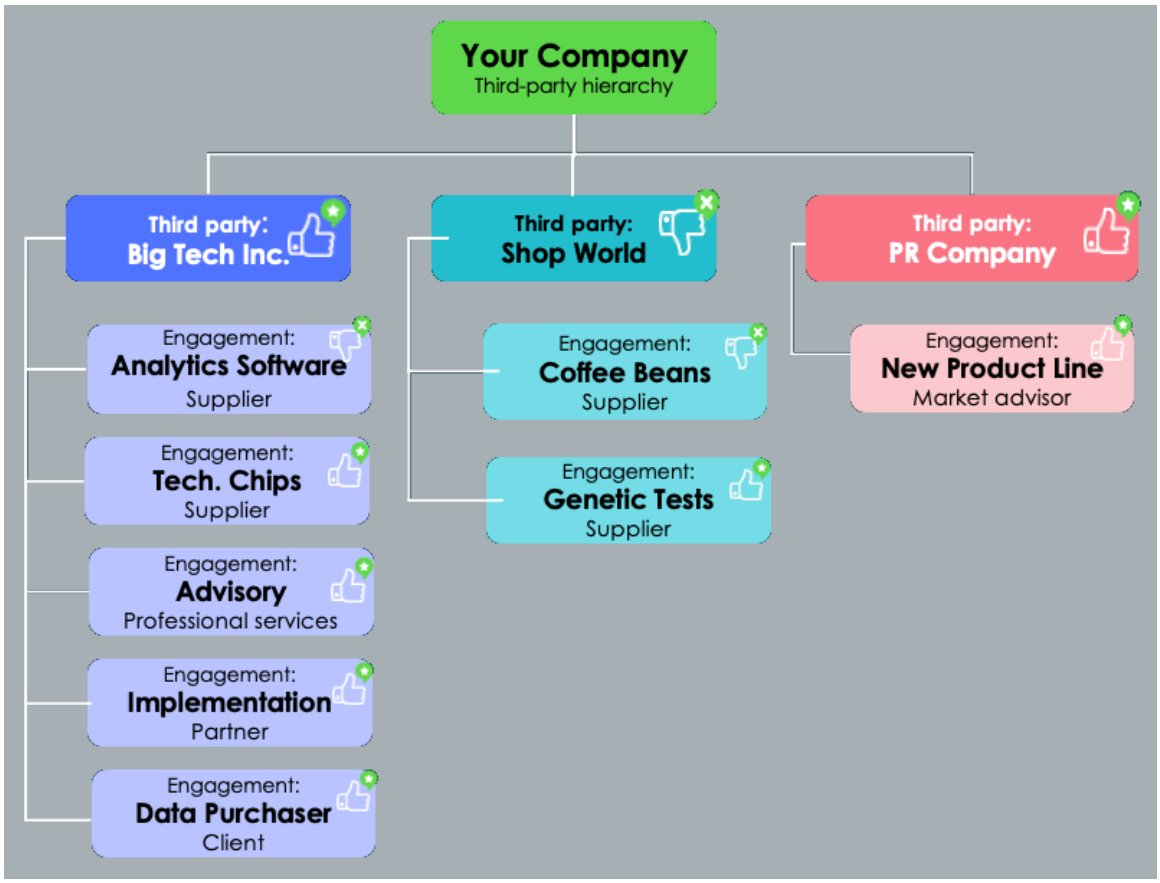
エンゲージメントは、組織をリスクにさらす可能性があるサードパーティと形成する予定の非公式または契約上の関係です。エンゲージメントでは、サードパーティが提供するサービスや製品、および関係のその他の詳細について概要を説明します。これらの詳細には、支払い条件、機密性要件、および関係の期間を含めることができます。

内部および外部のアセスメントを使用して各エンゲージメントを評価できます。問題、タスク、内部アセスメント、および外部アセスメントはエンゲージメントに関連付けられています。

この例では、会社は 3 つのサードパーティとやり取りし、それらの間で複数のエンゲージメントを管理しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



特定のサードパーティエンゲージメントは、業界、規模、および運用要件によって異なります。各エンゲージメントには独自のリスクセットがあり、利益を守るために適切なリスク管理手段 (デューデリジェンス) が必要です。

- 詳細な説明と例については、「単一のサードパーティと複数のエンゲージメントを行う可能性がある理由」を参照してください。
- 実行できるエンゲージメントの種類のリストについては、「サードパーティとのエンゲージメントのタイプ」を参照してください。

子会社

子会社は、サードパーティが所有または管理する組織であり、サードパーティの組織の一部と見なされます。これらは通常、サードパーティのリスクプロファイルの一部として管理されます。これらは、サードパーティと契約を結び、そのサードパーティによって所有または管理されていない第 4 の関係者から第 n の関係者とは異なります。

子会社のリスクアセスメントは、他のサードパーティのリスクアセスメントと同じです。子会社のリスク評価は、支配するサードパーティのスコアに寄与します。

IRQ – 固有のリスクアンケート

内部アセスメントプロセスでは、組織の内部従業員が IRQ の質問に回答します。これらの回答は、サードパーティとの関わりに伴う固有のリスクを評価するのに役立ちます。固有リスクとは、リスク軽減策を実装する前のリスクのレベルを指します。IRQ は、次のアクティビティをサポートしています。

危険因子の決定

- サードパーティが提供するサービスの性質。
- 関連するデータの機密性。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

- サードパーティの地理的な場所。
- サードパーティの全体的なセキュリティ体制。

採点または評価の決定

アンケートへの回答は、サードパーティに関連する固有リスクを定量化するために、多くの場合スコア付けまたは評価されます。このスコアリングシステムは、リスク管理の取り組みの優先順位付けに役立ちます。

意思決定

IRQ の結果は、意思決定プロセスで使用されます。サードパーティリスク (TPR) アドミニストレーターとマネージャーは、質問に対する特定の回答に基づいて、特定の外部アセスメント (デューデリジェンス) アンケートをサードパーティに送信するように IRQ を構成できます。

- サードパーティとやり取りする必要がありますか？
- どのレベルのデューデリジェンスが必要ですか？
- 具体的にどのようなリスク軽減策を実施すべですか？

進行中のデューデリジェンス

IRQ は、サードパーティの運用、セキュリティ慣行、またはその他の関連要因の変更を説明するために定期的にを再アセスメントされる、継続的な管理の一部である場合もあります。

デューデリジェンス (DD)

デューデリジェンスは、潜在的なビジネスパートナー、サプライヤー、またはベンダーの完全性、評判、財務の安定性、法令遵守、運用能力、サプライチェーン、およびその他の関連要因の徹底的な調査または調査を実施するプロセスです。サードパーティに対してデューデリジェンスを実施することは、包括的なサードパーティリスクプログラムの重要なコンポーネントです。デューデリジェンスを実施してサードパーティに関連するリスクを認識し、関係を形成する方法を安心して決定できるようにします。 デューデリジェンスワークフローを使用して、新しいエンゲージメントをオンボーディングしたり、既存のエンゲージメントを再評価または廃止したりします。デューデリジェンスワークフローには、内部アセスメント、外部アセスメント、およびリスクインテリジェンスを通じた情報の収集が含まれます。これらのステップのすべてのスコアは、エンゲージメントのオンボーディング、再評価、または廃止のいずれを行うかを決定するために、サードパーティリスクマネージャーによって分析されます。デューデリジェンスには、デューデリジェンスワークフローをクローズする前に行われる、オプションの契約交渉プロセスもあります。

「デューデリジェンスを実施する理由」および「デューデリジェンスのタイプ」を参照してください。

サードパーティのリスクアセスメント

サードパーティリスクアセスメント (TPRA) は、サードパーティおよびエンゲージメントのリスクを評価するために、サードパーティの連絡先または内部ユーザーに送信できる一連のアンケートです。内部ユーザーに送信するアセスメントは、内部アセスメントとして分類されます。サードパーティの連絡先に送信するアセスメントは、外部アセスメントと呼ばれます。

内部アセスメントは、サードパーティ階層とエンゲージメント階層を計算するために使用します。アンケートテンプレートテーブルで内部アンケートを識別するために使用する分類は、固有のリスクに関するアンケートテンプレート [irq_template] です。内部アセスメントから受け取った回答に従って、外部アセスメントに必要なアンケートを自動的に添付できます。このオプションは、アンケートから質問へのマッピングテーブル [sn_tprm_dd_m2m_question_to_questionnaire] で設定できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

外部アセスメントは、サードパーティ連絡先から受け取った回答に従って、サードパーティとエンゲージメントに関連するリスクを評価するために使用します。外部アセスメントからのリスク評価は、アセスメントに添付されているすべてのアンケートを使用して、アセスメントレベルで計算されます。これらのアセスメント評価は集計され、サードパーティとエンゲージメントにロールアップされます。集計は、最小値、最大値、または平均値のいずれかで、スコアリング設定で構成できます。サードパーティポータル https://<myCompany>.service-now.com/svdp からのサードパーティ連絡先 (外部ユーザー) が、これらの外部アセスメントに回答します。

スコアリングの詳細については、「従来のアセスメントエンジンを使用したスコア計算」を参照してください。

リスクインテリジェンスプロバイダー

リスクインテリジェンスプロバイダーは、さまざまなサードパーティリスクドメインのリスクスコアを生成します。組織は、個人のクレジットスコアに類似したデータを返すプロバイダーからサービスを購入できます。スコアは、特定のサードパーティがどの程度信頼でき、安全であるかについての洞察を提供します。

「リスクインテリジェンスプロバイダーからのスコアの統合」を参照してください。

リスクインテリジェンススコア

リスクインテリジェンススコアは 、特定の組織に関連するリスクのレベルを評価する数値によるアセスメントです。これらのスコアは、幅広いデータソースを収集および分析するリスクインテリジェンスプロバイダーによって生成されます。スコアには、評価や数値など、あらゆる形式を使用できます。スコア値はシステムによって適切な TPRM 評価にマッピングされます。これらのスコアは、サードパーティとの関わり、コンプライアンスの管理、潜在的なリスクの軽減について、組織が十分な情報に基づいた意思決定を行う上で役立ちます。リスクインテリジェンススコアは、Washington DC リリースの時点でサードパーティに利用可能です。リスク評価は、スコアリングセットアップでエンゲージメントに関連付けられているスコアリングルールによって計算されます。

サードパーティスコア

サードパーティスコアは、リスクインテリジェンススコアと外部アセスメント (エンゲージメントアンケートおよびサードパーティリスクアンケート) によって決定されたスコアを集約した数値によるアセスメントです。

これらのスコアは、組織がサードパーティとの関係を選択および管理する際に、十分な情報に基づいた意思決定を行うことに役立ち、自社のリスク許容度とコンプライアンス要件に適合できるようにします。サードパーティスコアを評価することで、組織は潜在的なリスクを特定し、デューデリジェンスに優先順位を付け、適切なリスク軽減戦略を実施することができます。

リスク評価コンポーネント

コンポーネントは、リスクを評価できるエンティティです。ベースシステムには、エンゲージメント、外部モニタリング、子会社、およびサードパーティのリスクアセスメントが含まれます。コンポーネントごとにリスクが計算されてから、リスクが集計され、ロールアップされてサードパーティリスク評価が計算されます。

コンポーネント基準は、コンポーネントがサードパーティによってどのように使用されるかの定義です。「コンポーネント基準」は、特定のタイプのサードパーティまたはエンゲージメントに適用する必要があるコンポーネントのグループです。

注:
新しいコンポーネントを追加したり、既存のコンポーネントを変更したりすることはできません。ただし、コンポーネントの評価に使用する基準 (採点方法と重み付け) を定義することはできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスク領域またはドメインは、サードパーティのために評価するリスクのタイプを定義します。これは通常、サードパーティが事業を行っている、またはサードパーティが製品/サービスを提供する分野/ドメインに沿っています。たとえば、セキュリティリスクの観点からデータ管理サードパーティを評価し、財務リスクの観点から銀行を評価することができます。

リスク領域基準は、サードパーティによってリスク領域がどのように使用されるかの定義であり、リスク領域基準で定義されます。サードパーティリスク領域基準は、特定のタイプのサードパーティに適用されるリスクドメインまたは領域のグループ (またはグループ) です。たとえば、セキュリティ、財務、評判のリスクドメインは、サードパーティに適用されるリスク領域基準にグループ化できます。リスクを評価するビジネスのドメインを特定し、各ドメインの重要性 (重み付け) を定量化することで、サードパーティが組織にもたらすリスクをよりよく理解して軽減できます。

採点ルール

採点ルールは、コンポーネント基準とリスク領域基準をサードパーティおよびエンゲージメントのリスク領域基準に適用するメカニズムを提供します。

サードパーティの場合、コンポーネント基準によって、適用可能な特定のコンポーネントと各コンポーネントに関連する採点方法が決まります。これらのコンポーネントには、地理的な場所、全体的なセキュリティ体制、内部および外部のアセスメントの結果が含まれる場合があります。これらのコンポーネントのスコアリング方法は、スコアリング設定で構成されます。たとえば、地理的な場所と全体的なセキュリティ体制に関する内部アセスメントは内部アセスメントプロセスの一部ですが、外部アセスメントでは最小、最大、平均などの方法を使用してリスク評価を計算します。さらに、外部プロバイダーからのリスクインテリジェンススコアが適切な評価にマッピングされ、外部アセスメントスコアと組み合わされて、サードパーティ全体のスコアが形成されます。

サードパーティの場合は、リスク領域基準によって、適用可能な特定のリスク領域 (またはドメイン) と、各リスク領域に関連する採点方法が決まります。

これらのリスク領域には、次のものが含まれます。

- データ漏洩
- ダウンタイム
- コンプライアンス違反
- サプライチェーンの混乱
- 偽造部品
- 規制コンプライアンスの問題
- 所有権の非表示
- 風評被害のリスク
- 財務リスク

各リスク領域のスコアリング方法は、スコアリング設定で構成でき、組織の設定とリスクの性質に応じて、最小、最大、または平均のいずれかになります。

エンゲージメントの場合、リスク領域基準によって、次のような該当するリスク領域またはドメインが決まります。

- 地理的な場所
- セキュリティ体制
- サービスの性質
- データの機密性
- サードパーティ要素

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

特定のリスク領域の採点方法は、最小、最大、または平均として構成できます。この方法では、内部および外部のアセスメントからリスク評価を集計して、サードパーティ全体のスコアを決定します。

注:

アセスメントの構成とスコアリングの詳細については、「クラシックアセスメントの構成」、「従来のアセスメントエンジンを使用したスコア計算」、および「従来のアセスメントエンジンを使用したスコア計算の検証」を参照してください。

サードパーティ要素

サードパーティの要素とは、 サードパーティまたはエンゲージメントが商品、サービス、またはサポートの提供のために依存する外部組織のことです。これらの組織には、ベンダー、サプライヤー、請負業者、個人、またはサードパーティやエンゲージメントのシステム、データ、または設備にアクセスできるその他の外部組織が含まれます。このようなサードパーティの要素に脆弱性や障害があれば、サードパーティやエンゲージメントの運用、評判、セキュリティに重大な影響を与える可能性があります。これらの各コントロールルールを実施し、関連するリスクに対処することで、組織はサードパーティとその要素による潜在的な悪影響をコントロールし、軽減できるようになります。これらのコントロールを定期的に再評価して更新することは、事業環境や規制状況の変化に適応するうえで不可欠です。

ここでは、サードパーティ要素とそれに関連するコントロール、および潜在的なリスクの例をいくつか示します。

データセンター

サードパーティまたはエンゲージメントがデータおよび IT インフラの保管、処理、管理を外部委託する設備または場所。

コントロール：

- ベンダーのセキュリティアセスメント： クラウドホスティングやデータストレージなどのサービスを提供するサードパーティベンダーのセキュリティ対策とセキュリティプラクティスを定期的に評価します。
- データ暗号化：データセンターに保存されているデータが、不正なアクセスから保護するために暗号化されていることを確認します。
- アクセス制御：厳格なアクセス制御を実施して、データセンターの設備およびサーバーへの物理的および仮想的なアクセスを制限します。
- インシデント応答計画：セキュリティインシデントに迅速に対処するために、包括的なインシデント応答計画を策定し、維持します。

リスク：

- データ漏洩：サードパーティのデータセンターでの情報漏洩は、不正アクセスや機密情報の流出につながる可能性があります。
- ダウンタイム：サードパーティのデータセンターに依存すると、サービスプロバイダーに技術的な問題が発生した場合、組織はダウンタイムのリスクにさらされます。
- コンプライアンス違反：データセンターが業界または規制のコンプライアンス標準を遵守しなかった場合、組織に法的および財務上の影響が生じる可能性があります。

製造設備

サードパーティまたはエンゲージメントが製品の製造または組み立てを外部委託する設備または場所。

コントロール：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- サプライヤー監査：製造プロセスに重要なコンポーネントやサービスを提供するサプライヤーのセキュリティプラクティスを定期的に監査し、評価します。
- 品質保証基準：原材料とコンポーネントの完全性と安全性を促進するために、サードパーティサプライヤーに対して品質保証基準を施行します。
- サプライチェーンの可視化：サプライチェーン全体の可視化を維持し、潜在的な脆弱性を特定して対処します。
- 契約上の合意：サプライヤーとの間で、セキュリティ要件と非準拠の場合の結果について概説した明確な契約上の合意を締結します。

リスク：

- サプライチェーンの混乱：サードパーティサプライヤーに依存することで、組織はサプライチェーンが寸断され、生産に影響を及ぼすリスクにさらされます。
- 偽造部品：サプライチェーンでのコントロールが不十分な場合、偽造コンポーネントや規格外コンポーネントが使用され、製品の品質が損なわれる可能性があります。
- 法令遵守の問題：サプライヤーが規制基準を遵守しなかった場合、製造設備に法的および規制上の影響が生じる可能性があります。

受益者

事業関係や取引に関与する組織を最終的に所有またはコントロールする個人のことです。これらの個人は、組織の登記上の所有者または法的所有者でなくても、組織の運営、意思決定、財務に対して重大な影響力またはコントロールを及ぼすことができます。

コントロール：

- デューデリジェンス：必要に応じて、身元調査、書類調査、面談を含む、受益所有者を特定し確認するための堅牢なデューデリジェンスプロセスを組み込みます。
- 契約上の義務：サードパーティとの契約に、受益所有権の変更を開示し、適用される法律および規制の遵守を確認することを義務付ける条項を盛り込みます。
- 監視と報告：サードパーティのリスクプロファイルに影響を与える可能性のある変更や事態の進展を検出するために、受益所有者を継続的に監視するシステムを確立します。
- トレーニングと意識向上：危険フラグや報告手順など、受益所有権の理解と監視の重要性について、関連スタッフにトレーニングを実施します。
- 法令遵守プログラム：報告および開示の要件を含む、受益所有権に関連するすべての関連法規の遵守を検証するプログラムを開発して維持します。
- エスカレーション手順：受益所有権に関連する懸念や不正が特定された場合の明確なエスカレーション手順を確立し、時宜を得た適切な対応を促進します。

リスク：

- 持ち分の隠蔽：受益所有者が意図的に所有権を隠蔽し、サードパーティへの影響力に関連する潜在的なリスクを評価することを困難にしている場合があります。
- 風評被害のリスク：受益所有者に疑わしい評判がある場合、彼らと関わると組織の評判が損なわれる可能性があります。
- 規制コンプライアンス：受益所有権の報告と透明性に関する規制を遵守しなかった場合、法的および規制上の影響が生じる可能性があります。
- 財務リスク：受益所有者が財務的に不安定であったり、不正行為に関与している場合、サードパーティ、ひいては組織に財務上のリスクをもたらす可能性があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティリスク管理 でのロール

ロールは、TPRM の権限とアクセス権を決定します。

TPRM ロール

分かりやすい名前 [ロール名]	説明	含まれるロール
サードパーティリーダー [vendor_reader]	サードパーティの連絡先レコードに対する読み取りアクセス。	なし
サードパーティエディター [vendor_editor]	サードパーティの連絡先レコードを作成/更新/削除します。	なし
サードパーティアセスメントレビュー担当者 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessment_reviewer]	アセスメントとアンケートデータを表示します。表示に加えて次のテーブルにコメントを残すことができます。 • 階層アセスメント • 内部アセスメント • 外部アセスメント • サードパーティリスクの問題 • サードパーティリスクのタスク • サードパーティリスクのデューデリジェンス要求	次を含む： • compliance_reader • risk_reader • task_editor • vendor_reader • sn_dora_accel.user • sn_smart_asmt.template_reader • sn_smart_asmt.assessment_reader
TPR 査定人 (サードパーティリスク査定人) [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor]	• サードパーティアセスメントレビュー担当者ロールのすべての権限に加えて、次の権限が含まれます：サードパーティ、サードパーティの連絡先、外部リスクアセスメント、および問題の管理。 • *sn_svdp.allow_assessor_edit* プロパティには、次のオプションを設定できます。 ○ TPR 査定人がサードパーティのアンケートで質問に回答したり、回答を変更したりできるようにします (デフォルト)。 ○ TPR 査定人が回答を変更できるようにします。	次を含む： • compliance_reader • vendor_assessment_reviewer • vendor_editor • vendor_reader • sn_dora_accel.manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

分かりやすい名前 [ロール名]	説明	含まれるロール
	○ TPR 査定人が質問に回答したり、回答を変更したりできないようにしないでください。 「TPRM プロパティの設定」を参照してください。	
TPR 承認者 [sn_vdr_risk_asmt.approver]	サードパーティアセスメントレビュー担当者ロールのすべての権限に加えて、IRQ の承認が含まれます。	次を含む： • vendor_assessment_reviewer • sn_dora_accel.user
TPR マネージャー (サードパーティリスクマネージャー) [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager]	TPR 査定人ロールのすべての権限に加えて、次の権限が含まれます。 • サードパーティアセスメントテンプレートとスケジュール設定済みアセスメントを管理します。 • エンゲージメントとエンゲージメントの連絡先を管理します。 • サードパーティとエンゲージメントの両方の採点ルールを管理します。	次を含む： • vendor_assessor • sn_dora_accel.manager
TPR アドミン (サードパーティリスクアドミン) [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin]	TPR マネージャーロールのすべての権限に加えて、次の権限が含まれます。 次のアイテムを作成および編集します。 • サードパーティアセスメントテンプレート • リスク階層テンプレート • リスク階層アンケートテンプレート • サードパーティアンケートテンプレート • 文書要求テンプレート • スケジュール設定済みアセスメント	次を含む： • vendor_risk_manager • assessment_admin • sn_dora_accel.admin • sn_smart_asmt.assessment_admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

分かりやすい名前 [ロール名]	説明	含まれるロール
契約リスク交渉担当者 [sn_vdr_risk_asmt.contract_negotiator]	TPR 査定人ロールのすべての権限に加えて、次の権限が含まれます。 法務部門のユーザーに、契約ステータス、開始日、有効期限を変更するためのアクセス権を付与します。 このロールを持つユーザーを契約リスク交渉担当者ユーザーグループに追加できます。「責任に基づいてユーザーをグループに追加する」を参照してください。	次を含む： • vendor_assessor • sn_dora_accel.manager
[vendor_contact] • サードパーティの外部アンケート/タスク/問題に応答するときは「サードパーティの連絡先」と呼ばれます。 • エンゲージメントのアンケート/タスク/問題に応答するときは「エンゲージメント連絡先」と呼ばれます。	リスクが評価対象のサードパーティ組織のユーザーに、サードパーティ連絡先ロールをアサインします。サードパーティの連絡先は、snc_external ロールをアサインされ、サードパーティポータルのリソースとアクションにアクセスできます。 **重要:** サードパーティ連絡先ロールは、外部連絡先にのみ使用する必要があります。このロールは、ServiceNow AI Platform インスタンスへのアクセスを禁止し、サードパーティポータルへのアクセスのみを許可します。 [主要連絡先]責任をアセスメントの質問に直接応答できるサードパーティの連絡先にアサインすることも、質問に応答するサードパーティの別の連絡先をアサインすることもできます。主要連絡先は、サードパーティの他の連絡先を管理できます。	次を含む:snc_external

へのアクセスに必要なロール デジタルレジリエンスサードパーティ登録

次のいずれかのロールを持つユーザーは、ベンダー管理ワークスペース内のデジタルレジリエンスサードパーティ登録関連モジュールにアクセスできます。

- TPRM DORA ユーザー [sn_dora_accel.user] ロール

  サードパーティアセスメントレビュー担当者と TPR 承認者には、このロールが含まれます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- TPRM DORA マネージャー [sn_dora_accel.manager] ロール

  TPR 査定人と TPR マネージャーには、このロールが含まれます。

- TPRM DORA アドミン [sn_dora_accel.admin]

  TPR アドミニストレーターにはこのロールが含まれています。

DORA関連ロールの詳細については、「デジタルレジリエンスサードパーティ登録とともにインストールされるロール」を参照してください。

を使用するために必要なロール スマートアセスメントエンジン

次のいずれかのロールを持つユーザーは、 アセスメントワークスペースでテンプレートを表示できます。

- TPRM SAE テンプレートリーダー [sn_smart_asmt.template_reader] ロール

  サードパーティアセスメントレビュー担当者にはこのロールが含まれます。

- TPRM SAE アセスメントリーダー [sn_smart_asmt.assessment_reader] ロール

  サードパーティアセスメントレビュー担当者にはこのロールが含まれます。

次のいずれかのロールを持つユーザーは、 ベンダー管理ワークスペース、GRC ポータル、またはサードパーティポータルでアンケートに回答できます。

- TPRM SAE 内部アセスメントユーザー [sn_vdr_risk_asmt.internal_assessment_responder]

  このロールは、アサインされた IRQ 査定人または内部アセスメント回答者に自動的にアサインされます。

  このロールは、GRC ポータルを使用して内部/IRQ アセスメントアンケートに回答するために必要です。

  このロールには、sn_grc_business_user、canvas_user、および sn_smart_asmt.actor のロールが含まれています。

- TPRMSAE 外部アセスメントユーザー [sn_vdr_risk_asmt.external_assessment_responder]

  このロールは、アサインされたサードパーティ連絡先に自動的にアサインされます。

  このロールは、サードパーティポータルを使用して外部アンケートに回答するために必要です。

  これにはロール sn_smart_asmt.actor が含まれます。

TPRM SAEアドミン [sn_smart_asmt.assessment_admin] ロールを持つユーザーは、Configure domain separation for Vendor Management Workspace およびアセスメントワークスペースでSAEテンプレートを作成できます。

サードパーティアドミニストレーターにはこのロールが含まれます。

> **重要:**
> サードパーティアセスメントレビュー担当者 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessment_reviewer] ロールは、TPRM 外部アンケート、TPRM 外部ドキュメント要求、TPRM 内部階層アンケート、および TPRM 内部 IRQ 目的のメンバーであるテンプレートを表示するために必要な最小限のロールです。

SAE関連ロールの詳細については、「スマートアセスメントエンジン でのロール」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

関連情報

- ユーザーおよびユーザーグループに TPRM のロールをアサインする
- デジタルレジリエンスサードパーティ登録とともにインストールされるロール
- スマートアセスメントエンジン でのロール

TPRM レコードの一意の ID 番号

新しいレコード、たとえばデューデリジェンスまたはタスクの要求を作成 (またはシステムが生成) すると、レコード内のデータのタイプを識別するのに役立つ一意の ID 番号が自動的に割り当てられます。この ID 番号を使用して、作業するアイテムを検索またはフィルタリングできます。

レコードのタイプを識別する ID 番号の一意のテキストプリフィックス

- アンケート要求:アンケートテンプレートがアセスメントに追加されて送信されると、テンプレートごとにアセスメントのインスタンスが生成されます。これらの各インスタンスには、テキスト「AINST」で始まる一意の ID 番号が自動的に割り当てられます。
- 契約：契約ごとに、テキスト「C」または「CNTR」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。
- コントロール：コントロールごとに、テキスト「CTRL」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。
- デューデリジェンス要求：デューデリジェンス要求ごとに、テキスト「DDR」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。
- エンゲージメントリスクスコアリングルール：エンゲージメントリスク採点ルールごとに、テキスト「ERS」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。
- イベント駆動型管理：イベント駆動型管理ルールごとに、テキスト「EMR」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。ルール実行 (実行) の履歴テーブルでは、テキスト「EMH」で始まる実行ごとにシステムによって一意の ID 番号が自動的に割り当てられます。
- **IRQ**：IRQ プロセスごとに、テキスト「INA」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。
- リスクインテリジェンス要求：リスクインテリジェンス要求ごとに、テキスト [RIR] で始まる一意の ID 番号が自動的にアサインされます。
- 問題：問題ごとに、テキスト「VRI」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。
- タスク：タスクごとに、テキスト「VRT」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。
- 外部アセスメント (サードパーティの連絡先が情報の要求に対応する外部デューデリジェンスプロセス):外部リスクアセスメントごとに、テキスト「VRA」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。
- サードパーティリスク採点ルール：サードパーティリスク採点ルールごとに、テキスト「VRS」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。
- リスク階層アセスメント：リスク階層アセスメントごとに、テキスト「VTA」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。

テンプレートを TPRM SAE テンプレートに移行した結果

スマートアセスメント形式に移行されたテンプレートを表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テンプレート移行の追跡

移行プロセスを開始した後、進行状況を表示して、正常に完了したかどうか、またはエラーが発生したかどうかを確認できます。移行プロセスの詳細については、「 テンプレートを SAE テンプレートに移行する と 従来のアセスメントメトリクスタイプからアセスメントテンプレートを作成する」を参照してください。

移行結果の表示

移行結果を表示するには、次に移動します: すべて > サードパーティリスク管理 > アセスメントのセットアップ > クラシックテンプレートの移行. アセスメントテンプレートの移行リストで、移行番号を選択します。メトリクスタイプの各移行レコードには、ATMIG というテキストで始まる一意の番号がアサインされます。フォームには、テンプレートの生成に使用された値が表示されます。関連リストには、移行されたデータのステータスと内容が表示されます。

次の表では、[アセスメントテンプレートの移行] リストのフィールドについて説明します。

アセスメントテンプレート移行リスト

フィールド	説明
番号	アンケートの移行レコードに含まれる「ATSMIG」というテキストで始まる一意の番号。番号を使用してレコードを検索できます。
ソースメトリクスタイプ	移行されたクラシックテンプレート。
ターゲットアセスメントテンプレート	スマートアセスメント ソーステンプレートから移行されたテンプレート。
目的	移行されたテンプレートの目的。 **注:** クラシックアセスメントエンジンではテンプレート分類と呼ばれ、クラシックテンプレート分類ごとに目的TPRMがあります。 TPRM 目的のオプションは次のとおりです。 • TPRM 外部サードパーティ要素アンケート • TPRM 外部の第 4 の関係者アンケート • TPRM 外部文書要求 • TPRM 外部アンケート • TPRM 内部 IRQ • TPRM 内部階層アンケート TPRM SAEアンケートテンプレートを表示するには、TPR アセスメントレビュー担当者ロール [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessment_reviewer] が必要です。 アセスメントテンプレートの目的の作成の詳細については、「 アセスメントテンプレートカテゴリを作成する」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

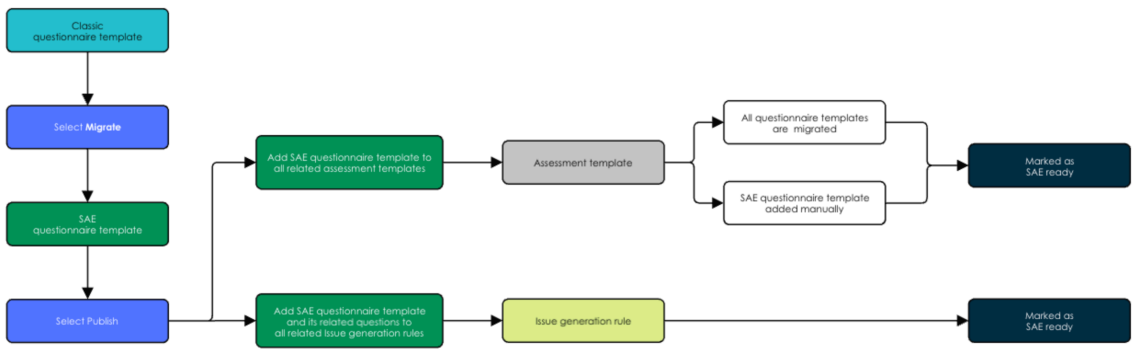
アセスメントテンプレート移行リスト (続く)

フィールド	説明
	注: 公開されたアセスメントテンプレートからのみアセスメントを作成できます。公開済みテンプレートを更新できるのは、テンプレートに関連付けられているアクティブなアセスメントがない場合のみです。
移行ステータス	この値は、テンプレートの移行プロセスが進むにつれて更新されます。 • 処理中:移行プロセスを開始した後、プロセスが終了するまで処理中であることのステータス。 • 完了：移行は正常に完了しました。 • 一部完了:一部の要素のみが正常に移行されました。 • エラー：移行中にエラーが発生しました。
エラーの詳細	移行が失敗したときに発生したエラーの説明。
作成日時	移行ジョブが作成された日時。

テンプレートの移行結果

次の図は、テンプレート移行ワークフロー TPRM SAE アンケートを示しています。

SAE 移行ワークフロー



1. テンプレートを 1 つずつ、または一括で移行します。移行後、すべてのテンプレートが [ドラフト] ステータスになります。
2. 移行された各アンケートテンプレートを個別にレビューし、テンプレートが正確で完全であることを確認します。
3. アンケートテンプレート TPRM SAE 公開します。公開後、次のアクションが自動的に実行されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- TPRM SAE テンプレートは、関連するすべてのアセスメントテンプレートに関連付けられています。
- TPRM SAE テンプレートは、関連するすべての問題生成ルールに関連付けられています。

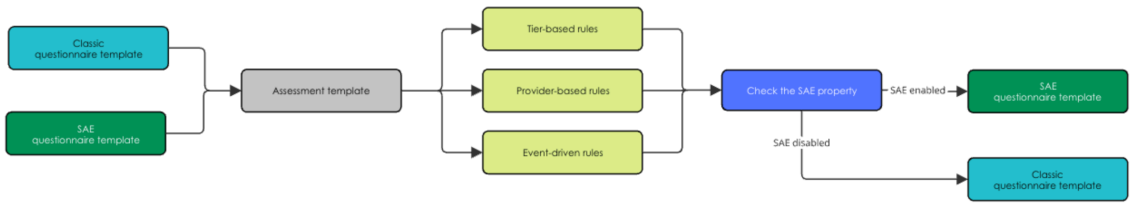
注:
問題生成ルールを TPRM SAE アセスメントテンプレートに適用したときに想定どおりに機能するには、少なくとも 1 つの質問で [優先応答を有効にする] オプションを true に設定する必要があります。

4. アセスメントテンプレートに関連するすべてのアンケートテンプレートを移行して公開したら、[スマートアセスメントをサポート] としてマークし、使用できるようにする必要があります。
5. 各アセスメントテンプレートをレビューし、[スマートアセスメントのサポート] としてマークされていることを確認します。アセスメントテンプレートが [スマートアセスメントをサポート] としてマークされていない場合は、新しい TPRM SAE アンケートテンプレートを手動で追加すると、そのステータスが更新されます。
6. アンケートテンプレートが移行されて公開されると、関連する問題生成ルールが自動的に [スマートアセスメントをサポート] としてマークされ、使用できるようになります。

詳細については、「テンプレートを SAE テンプレートに移行する」、「TPRM SAEアンケートまたは文書要求テンプレートの作成」、「外部アセスメントテンプレートの作成 」、および「問題生成ルールを作成する」を参照してください。

次の図は、アップグレード後のアセスメントテンプレートとアンケートの関係を示しています。

アップグレード後のアセスメントテンプレート



- スマートアセスメントエンジン有効 (*sn_vdr_risk_asmt.sae_enabled*) プロパティを設定する前は、デフォルトで以下が使用されます。
  - 既存のアンケートテンプレート
  - 既存のアセスメント
- スマートアセスメントエンジン有効 (*sn_vdr_risk_asmt.sae_enabled*) プロパティを設定すると、デフォルトで以下が使用されます。
  - SAE アンケートテンプレート (新規または移行済み)。
  - [スマートアセスメントをサポート] としてマークされたアセスメント。
  - 階層ベース、プロバイダーベース、およびイベント駆動型の管理ルールは、[スマートアセスメントのサポート] としてマークされたアセスメントでのみ機能します。

注:
テンプレートと質問をレビューして、[スマートアセスメントをサポート] としてマークされていることを確認する必要があります。アセスメントテンプレートと質問が [スマートアセスメントのサポート] としてマークされると、問題生成ルールを適用できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

テンプレート移行のスコア付け結果

[クラシックテンプレートからスコアを移行] ビジネスルールは、クラシックテンプレートから TPRM SAE テンプレートへのスコアの移行を自動化し、一貫したスコアリング構成を確保します。新しいテンプレートを作成する場合、ユーザーは手動でスコアリングを有効にし、正しいオプションを定義して、スコアを設定する必要があります。詳細については、「アセスメントでの採点」、「アセスメントのスコアリングの構成」、「アセスメントの正規化」を参照してください。

移行の制限

アセスメントの移行プロセスには、次の制限と要件があります。

- 割合、ランキング、画像スケール、カスタムメトリクスの質問タイプはサポートされていません。移行前にこれらの質問タイプをサポートされている形式に変換するか、移行後にテンプレートデザイナーで新しい質問を作成する必要があります。
- クラシックテンプレートのセクションにサポートされていない質問のみが含まれている場合、TPRM SAE テンプレートに空のセクションが作成されます。空のセクションを含む TPRM SAE テンプレートは公開できません。したがって、これらのセクションに代替の質問を追加するか、公開する前に空のセクションを削除する必要があります。
- インスタンス間で TPRM SAE アンケートテンプレートを転送する場合、更新セットには期間情報が含まれません。ユーザーは、 sn_smart_asmt_duration テーブルから期間情報を手動でエクスポートし、ターゲットインスタンスにインポートする必要があります。
- アセスメントテンプレートが SAE アセスメントをサポートするように更新されていない場合、関連する階層ベース、プロバイダーベース、およびイベント駆動型の管理ルールは期待どおりに実行されません。
- TPRMスコアリングの移行は、テンプレートの移行中にエラーがなかった場合にのみ続行されます。エラーが発生した場合、 TPRM スコアの移行は行われません。
- 以前のアセスメントからの回答は移行されません。

関連情報

従来のメトリクスタイプをテンプレートのセクションに移行する方法

スプレッドシートデータをインポートするためのガイドライン

Microsoft の Excel スプレッドシートから サードパーティリスク管理 テーブルにアンケートデータをインポートする前に、その形式が特定のガイドラインを満たしていることを懸賞する必要があります。

スプレッドシートのデータに影響するプロパティ設定

次のプロパティ設定を指定できます。

スプレッドシートのテキスト区切り文字 [sn_vdr_risk_asmt.excel_choice_delimiter]

タイプが「選択肢」と「複数選択」の質問の応答テキストを区切る文字列。

一般的な区切り文字：\r、\n、\t、\r\n、およびカンマ文字。

スプレッドシートファイルの最大サイズ [sn_vdr_risk_asmt.excel_file_max_size]

インポートできる最大ファイルサイズ (MB)。

「TPRM プロパティの設定」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされている列

必須列には * の印が付いています。列見出しはスプレッドシートの最初の行に表示する必要があります。

- シリアル番号*
- カテゴリ*
- 質問*
- 順序 *
- データタイプ*
- 説明
- 採点済み
- 正しい回答
- スケール定義
- 表示する評価基準
- 表示するタイミング
- 最小
- 最大
- 重み付け
- 必須
- 補足情報を許可
- 該当なしを許可
- アセスメントメトリクス [asmt_metric] テーブルの他のすべての列

サポートされている質問タイプ

- チェックボックス
- はい/いいえ
- 選択肢
- 添付ファイル
- 日付
- 日付/時刻
- パーセンテージ
- 文字列
- 複数選択
- 数値
- 数値スケール

サポートされている **Excel** 形式

要件：

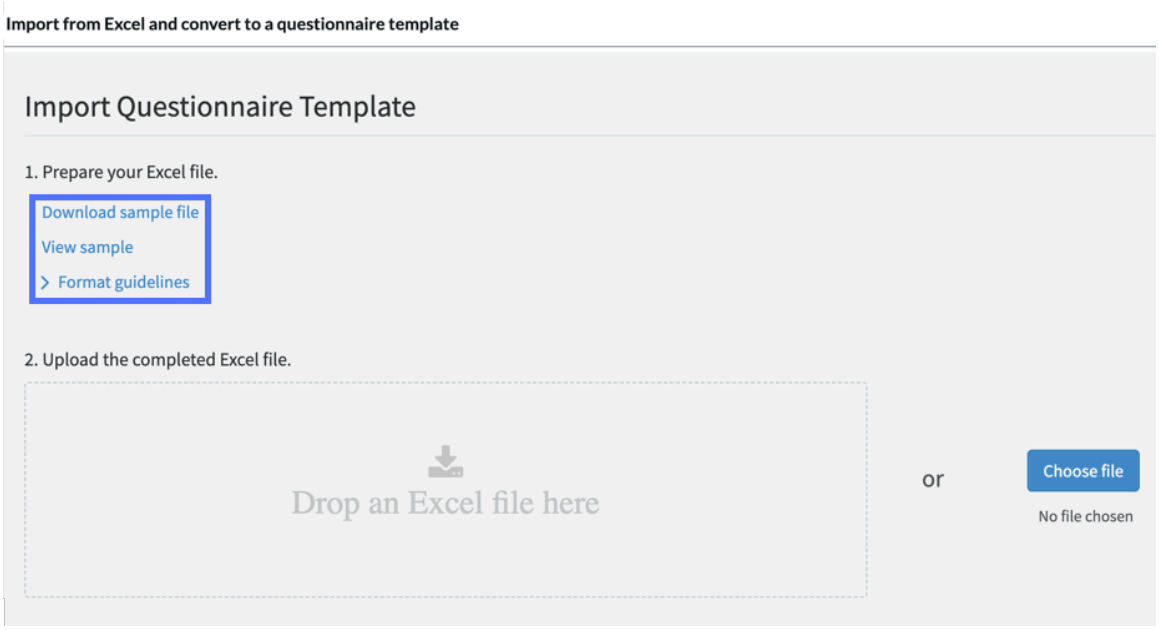
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 各ファイルには 1 つのワークシートのみを含めることができます。
- セル内の複数の選択肢は、改行 (Alt/Option + Enter) で区切ることができます。その他のオプションは [システムのプロパティ] で使用できます。

- .xlsx
- .xls
- .xlm
- .xltx
- .xlt
- .xlw
- .xlsb
- .csv

注:
書式設定の要件を確認し、サンプルスプレッドシートを表示またはダウンロードして、例として使用することができます。サンプルファイルを参照すると、想定される形式の値を使用していることを確認できます。



関連情報

スプレッドシートからアンケートをインポートする

TPRM プロパティの設定

サンプルアンケート

使用するアンケートは、業界、地域、管轄、または業務の性質によって異なります。これらのアンケートはベースシステムの一部として提供されるサンプルなので、法務部門がレビューおよび承認する前にリスク管理プログラムに実装すべきではありません。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アンケートテンプレートのタイプ

これらのアンケートテンプレートを表示するには、次に移動します: すべて > サードパーティリスク管理 > アセスメントのセットアップ > アンケートテンプレート.

名前	リスク領域	規制または目的	分類
IRQ - サードパーティエンゲージメント、オンボーディング	なし	スコープ、外部デューデリジェンスを送信済み	IRQ テンプレート
IRQ - サードパーティエンゲージメント、オンボーディング - シンガポール	なし	スコープ、外部デューデリジェンスを送信済み	IRQ テンプレート
IRQ - サードパーティエンゲージメント、オンボーディング - EU	なし	スコープ、外部デューデリジェンスを送信済み	IRQ テンプレート
IRQ - サードパーティエンゲージメント、追加のデューデリジェンス	なし	スコープ、外部デューデリジェンスを送信済み	IRQ テンプレート
IRQ - サードパーティエンゲージメント、更新	なし	スコープ、外部デューデリジェンスを送信済み	IRQ テンプレート
IRQ - サードパーティエンゲージメント、オフボーディング、デューデリジェンスなし	なし	スコープ、外部デューデリジェンスを送信済み	IRQ テンプレート
IRQ - サードパーティエンゲージメント、オフボーディング、デューデリジェンスあり	なし	スコープ、外部デューデリジェンスを送信済み	IRQ テンプレート
OSHA - サンプルアンケート	コンプライアンスリスク	OSHA	アンケートテンプレート
FDA - サンプルアンケート	コンプライアンスリスク	FDA	アンケートテンプレート
金融 - サンプルアンケート	財務リスク		アンケートテンプレート
ABAC - サンプルアンケート	贈収賄防止と汚職のリスク		アンケートテンプレート
輸出管理 - サンプルアンケート	事業継続性のリスク		アンケートテンプレート
サプライチェーン - サンプルアンケート	事業継続性のリスク		アンケートテンプレート

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前	リスク領域	規制または目的	分類
CCPA - サンプルアンケート	プライバシーリスク		アンケートテンプレート
HIPPA - サンプルアンケート	プライバシーリスク		アンケートテンプレート
GDPR - サンプルアンケート	プライバシーリスク		アンケートテンプレート
BCM - サンプルアンケート	事業継続性のリスク		アンケートテンプレート
NIST - サンプルアンケート	セキュリティリスク		アンケートテンプレート
環境フル - サンプルアンケート	環境リスク		アンケートテンプレート
環境 (簡易) - サンプルアンケート	環境リスク		アンケートテンプレート
ESG - サンプルアンケート	環境リスク		アンケートテンプレート
CAIQ 4.0.2 サンプルアンケート	セキュリティリスク		アンケートテンプレート
FCPA サンプルアンケート - 英国	贈収賄防止と汚職のリスク		アンケートテンプレート
TPRM 一般的な質問サンプルアンケート	コンプライアンスリスク		アンケートテンプレート
ドイツのサプライチェーンデューデリジェンス - サンプルアンケート-EU	事業継続性のリスク		アンケートテンプレート
PCI DSS - サンプルアンケート	コンプライアンスリスク		アンケートテンプレート
SOX - サンプルアンケート	コンプライアンスリスク		アンケートテンプレート
AML - サンプルアンケート	贈収賄防止と汚職のリスク		アンケートテンプレート

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前	リスク領域	規制または目的	分類
SEC - サンプルアンケート	財務リスク		アンケートテンプレート
CFPB - サンプルアンケート	コンプライアンスリスク		アンケートテンプレート
FTC - サンプルアンケート	コンプライアンスリスク		アンケートテンプレート
CAA 大気浄化法 - サンプルアンケート	環境リスク		アンケートテンプレート
CWA 水質浄化法 - サンプルアンケート	環境リスク		アンケートテンプレート
FAA 連邦航空管理者向けサンプルアンケート - 米国	コンプライアンスリスク		アンケートテンプレート
DOT 運輸省 - サンプルアンケート - 米国	コンプライアンスリスク		アンケートテンプレート
IRS 内国歳入庁 - サンプルアンケート - 米国	コンプライアンスリスク		アンケートテンプレート
運用上の回復力 - サンプルアンケート	対障害弾力性リスク		アンケートテンプレート
競争 - サンプルアンケート	コンプライアンスリスク		アンケートテンプレート
サプライチェーンの回復力 - サンプルアンケート	対障害弾力性リスク		アンケートテンプレート
12CFR Part 1016 プライバシー - サンプルアンケート	プライバシーリスク		アンケートテンプレート
GLBA グラムリーチブライリー法 - サンプルアンケート - 米国	プライバシーリスク		アンケートテンプレート
RBI インド準備銀行 - サンプルアンケート - インド	財務リスク		アンケートテンプレート
医療費請求 - サンプルアンケート	コンプライアンスリスク		アンケートテンプレート

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前	リスク領域	規制または目的	分類
MiFID II 第 2 次金融商品市場指令 - サンプルアンケート - EU	財務リスク		アンケートテンプレート
PSD2 支払い - サンプルアンケート - EU	コンプライアンスリスク		アンケートテンプレート
紛争鉱物 - サンプルアンケート	評判リスク		アンケートテンプレート
HITRUST Health Info Trust Alliance - サンプルアンケート	セキュリティリスク		アンケートテンプレート
2010 年贈収賄防止法 - サンプルアンケート	贈収賄防止と汚職のリスク		アンケートテンプレート
CPRA カリフォルニア州プライバシー権法 - サンプルアンケート	プライバシーリスク		アンケートテンプレート
CIS Critical Security Controls - サンプルアンケート	セキュリティリスク		アンケートテンプレート
Cyber Essentials - サンプルアンケート	セキュリティリスク		アンケートテンプレート
MAS シンガポール金融管理庁 BCM - サンプルアンケート- シンガポール	事業継続性のリスク		アンケートテンプレート
PDPA (個人情報保護法) - サンプルアンケート- シンガポール	コンプライアンスリスク		アンケートテンプレート
CSA シンガポールサイバーセキュリティ庁 - サンプルアンケート - シンガポール	セキュリティリスク		アンケートテンプレート
Sustainable Singapore Blueprint - サンプルアンケート - シンガポール	環境リスク		アンケートテンプレート
戦略物資 (管理) 法 - サンプルアンケート- シンガポール	事業継続性のリスク		アンケートテンプレート
職場安全衛生法 (WSHA) - サンプルアンケート- シンガポール	コンプライアンスリスク		アンケートテンプレート
シンガポールの汚職および贈収賄防止規制 - サンプルアンケート- シンガポール	贈収賄防止と汚職のリスク		アンケートテンプレート

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前	リスク領域	規制または目的	分類
TradeFirst - サンプルアンケート - シンガポール	事業継続性のリスク		アンケートテンプレート
EU-OSHA - サンプルアンケート- EU	コンプライアンスリスク		アンケートテンプレート
要素製品リスク - サンプル			アンケートテンプレート
要素施設リスク - サンプル			アンケートテンプレート
要素施設データセンターリスク - サンプル			アンケートテンプレート
要素受益者リスク - サンプル			アンケートテンプレート
要素 - 製品情報収集 - サンプル		サードパーティ要素収集	アンケートテンプレート
要素 - 施設基本情報収集 - サンプル		サードパーティ要素収集	アンケートテンプレート
要素 - 施設データセンター情報収集 - サンプル		サードパーティ要素収集	アンケートテンプレート
要素 - 受益者情報収集 - サンプル		サードパーティ要素収集	アンケートテンプレート
生成 AI - サンプルアンケート			アンケートテンプレート

自動翻訳

デューデリジェンス要求プロセス管理

[詳細] タブでは、サードパーティのデューデリジェンス要求情報を表示および調整できます。アクティビティストリームで、外部向けコメントやプライベート作業メモを記録したり、ファイルを添付したり、要求の更新を追跡したりすることもできます。

デュー デリジェンス要求 [詳細] タブには、次のセクションの情報が表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティのデューデリジェンス要求

サードパーティのデューデリジェンス要求

フィールド	説明
番号	デューデリジェンス要求ごとに、テキスト「DDR」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。
状況	デューデリジェンスプロセスの現在の状態: IRQ、外部デュー デリジェンス、承認、契約リスク、または終了。
要求タイプ	• 新しいエンゲージメントのオンボーディング。 既存のサードパーティとの新しいエンゲージメントのためのオンボーディングプロセスを開始します。 • 既存エンゲージメントの再評価。 条件が変化したときに既存のエンゲージメントを再評価します。たとえば、不利なニュースを聞いたり、サードパーティの供給ラインに変更があった場合などです。追加のデューデリジェンスを実施して、リスクを再評価する必要があるかもしれません。 • 契約更新の既存のエンゲージメントの再評価。 組織が現在のサードパーティとの契約やエンゲージメントを更新する前に、デューデリジェンスを実施してリスクを再評価します。 • エンゲージメントのオフボーディング (デューデリジェンスあり)。 デューデリジェンスを実施して、エンゲージメントを伴う退職 (関係終了) が最適なアクションであるかどうかを判断します。たとえば、サードパーティやエンゲージメントの現在のパフォーマンスが期待に満たないとしても、それを変更するのはリスクが高すぎる可能性があります。 • エンゲージメントのオフボーディング (デューデリジェンスなし)。 エンゲージメントが終了した場合、または他の理由で別のサードパーティに切り替えたい場合は、エンゲージメントを完全に終了するように要求します。この場合、通常は追加のデューデリジェンスを実施する必要はありません。ただし、このプロセスには、エンゲージメントによって提供されるサービスが継続されないことを確認するための通常の固有のリスクに関するアンケート (IRQ) プロセスが含まれます。
優先度	要求の優先度。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティのデューデリジェンス要求 (続く)

フィールド	説明
	• **1** - 重大 • **2** - 高 • **3** - 中 • **4** - 低 • **5** - 計画中
サードパーティ	要求が関連付けられているサードパーティ。
年間消費量	サードパーティ組織で 1 年間に費やされた金額。
エンゲージメント	要求が関連付けられているエンゲージメント。 **注:** 要求者によってデューデリジェンス要求が送信された後、TPR マネージャーまたはデューデリジェンス要求の所有者は、🔍を選択して、既存のエンゲージメントでこのフィールドを更新できます。これにより、既存のエンゲージメントのオンボーディングを回避できます。
契約リスクプロセスをスキップ	契約リスクプロセスをスキップするオプション。 チェックボックスをオンにすると、[契約交渉] ステータスがバイパスされます。[契約開始日] フィールドと [契約有効期限] フィールドは、[エンゲージメント開始日] と [エンゲージメントの有効期限] に置き換えられます。「契約リスクプロセス」を参照してください。 **注:** サードパーティリスク (TPR) マネージャーが要求を承認すると、要求は契約交渉担当者に送信されず、要求はクローズされます。
要求者	要求の作成者。
オープン	要求がオープンされた日付。
契約開始日、有効期限	エンゲージメントとのやり取りの開始および終了の希望日。
エンゲージメント開始日、エンゲージメント有効期限	エンゲージメントとのやり取りの開始および終了の希望日。
IRQ 査定人	IRQ に応答する組織のユーザー。「IRQ プロセス管理」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティのデューデリジェンス要求 (続く)

フィールド	説明
契約交渉者	契約の準備、交渉、承認を行う組織のユーザー。
アサイン先グループ	要求の作業が可能な、認定済みの個人のグループ。 新しい要求の場合、[アサイン先グループ] は [デューデリジェンス要求アサイン者] に設定されます。 アサイン先グループで指定された [グループ] 内のすべてのユーザーにメール通知が送信されます。このメッセージは、要求が受信され、[新規]状況であることを示しています。このメッセージには、要求の詳細ページへのリンクも含まれています。 デューデリジェンス要求フォームで、次の操作を行います。 • グループのすべてのメンバーは、[自分にアサイン] を選択するか、[所有者] フィールドをグループの他のメンバーに設定できます。 • TPR マネージャーまたは TPR 査定人は、[アサイン先グループ] フィールドをクリアするか、[所有者] 選択リストで別の TPR 査定人から選択する値を変更できます。
アサイン先	デューデリジェンス要求にアサインされた個人。 所有者は、サードパーティによってアセスメントが適時に完了していることを確認し、回答をレビューし、問題を作成して解決する責任があります。アセスメントを完了まで進めるために、アセスメントが特定のマイルストーンに到達するとオーナーに通知されます。所有者には、TPR マネージャーまたは TPR 査定人ロールが必要です。
簡単な説明、説明	他のユーザーが作成者の意図と要件を理解するのに役立つ要求の説明。

サードパーティ基本情報

サードパーティ基本情報

フィールド	説明
サードパーティ名	要求が関連付けられているサードパーティの名前。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティ基本情報 (続く)

フィールド	説明
DUNS 番号	単一のビジネスエンティティの一意の数値識別子。DUNS 番号は、ビジネスには法的に義務付けられていません。 **注:** サードパーティのデューデリジェンス要求 [sn_tprm_dd_request] テーブルには、2 つの DUN 番号列があります。vdr_duns_number はサードパーティの DUN 番号を示し、eng_duns_number はエンゲージメント DUN 番号を示します。
番地、市区町村、都道府県、郵便番号、国、電話番号、ファックス	サードパーティ組織の標準の連絡先情報。
Web サイト	サードパーティの URL。
タイプ	サードパーティのタイプ
業界	サードパーティが関与する業界。
名、姓、役職、メールアドレス、電話番号	サードパーティ連絡先の標準連絡先情報。

エンゲージメント基本情報

エンゲージメント基本情報

フィールド	説明
エンゲージメント名	要求が関連付けられているエンゲージメントの名前。
タイプ	このエンゲージメントの製品またはサービスのタイプ。
法人住所を使用	サードパーティと同じ法人住所を使用するオプション。 チェックボックスをオンにすると、関連フィールドにサードパーティ組織の連絡先情報が自動入力されます。
番地、市区町村、都道府県、郵便番号、国、電話番号、ファックス	エンゲージメント組織の標準的な連絡先情報。
同じ連絡先を使用	サードパーティと同じ連絡先情報を使用するオプション。 チェックボックスをオンにすると、関連するフィールドにサードパーティの連絡先情報が自動的に入力されます。
名、姓、役職、メールアドレス、電話番号	アンケートに回答するエンゲージメント連絡先の標準連絡先情報。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスク評価

フィールドは、要求の IRQ プロセスの現在のステージによって自動入力されます。

フィールド	説明
固有のアセスメント評価	IRQ プロセスによって決定される評価。
リスクインテリジェンス評価	リスクインテリジェンスサービスプロバイダーからのデータによって決定される評価。
サードパーティアセスメント評価	外部アセスメントプロセス中の応答によって決定される評価。
エンゲージメント評価	エンゲージメントに対して決定された評価。

進行状況のサマリー

デューデリジェンスプロセスのステータス。フィールドは、デューディリジェンス要求の各アセスメントの現在のステージに応じて自動入力されます。

- 固有リスクアセスメント
- サードパーティのリスクアセスメント
- エンゲージメントリスクアセスメント

作成、アクティビティ、添付ファイル

[詳細] タブの [作成] セクションでは、レコードに永続的にテキストを追加できます。[アクティビティ] セクションは、問題とタスクに対するアクション、TP 連絡先への送信、およびユーザーがレコードに追加する作業メモとコメントで更新されます。必要に応じて、次のフィールドにテキストを追加します。

- [作業メモ (プライベート)]：サードパーティリスクアセスメントに関する情報。作業メモは、プロセスにアサインされた内部ユーザーのみに表示されます。
- コメント：サードパーティリスクアセスメントに関するコメントは、内部ユーザーとサードパーティの連絡先の両方に表示されます。

関連情報

- サードパーティリスクデューデリジェンスを要求する
- サードパーティエンゲージメントのデューデリジェンス要求
- エンゲージメントのオフボーディング (デューデリジェンスなし)
- サードパーティリスクデューデリジェンスの要求フォームの要求
- 新しいサードパーティエンゲージメントの作成フォーム

サードパーティリスクデューデリジェンスの要求フォームの要求

デューデリジェンス要求フォームは、デューデリジェンスプロセスを開始するために必要なすべての初期情報を取得します。組織内のどの従業員でもデューデリジェンスを要求できます。既存のサードパーティを選択した場合は、情報の多くが自動的に入力されます。

サードパーティリスクデューデリジェンスフォームの要求

フィールド	説明
[サードパーティ情報] セクション	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティリスクデューデリジェンスフォームの要求 (続く)

フィールド	説明
名前、DUNS 番号、電話、業種、Web サイト、ファックス	親組織の標準的な情報。 DUNS 番号は、ビジネスには法的に義務付けられていません。 **注:** • ここで特定するサードパーティは、要求のターゲットである場合もあれば、エンゲージメントする組織の親である場合もあります。次の [エンゲージメントの住所] セクションにエンゲージメント組織に関する情報を追加します。 • サードパーティのデューデリジェンス要求 [sn_tprm_dd_request] テーブルには、2 つの DUN 番号列があります。vdr_duns_number はサードパーティの DUN 番号を示し、eng_duns_number はエンゲージメント DUN 番号を示します。
[エンゲージメント情報] セクション	
名前	すべてのフォームとリストでこのエンゲージメントを識別する名前。
タイプ	関与した組織が提供する製品またはサービスのタイプ。
電話/ファックス	エンゲージメントが関連する部門または子会社組織の電話番号とファックス番号。この番号は、親サードパーティの番号とは異なる場合があります。
要求開始日	サードパーティとのエンゲージメントを可能にするためにエンゲージメントをアクティブにする必要がある日付。この情報は、サードパーティリスク (TPR) マネージャーが要求に優先順位を付けるのに役立ちます。
要求終了日	エンゲージメントの終了予定日。
最初の IRQ に応答するユーザー	IRQ に回答する必要がある IRQ 査定人ロールを持つ人物。詳細については、「内部アセスメントに回答する」を参照してください。 **注:** このデューデリジェンスの要求を確認する際に、TPR マネージャーまたはオーナーは別のユーザーを指定できます。
[サードパーティの住所] セクション	
番地、市区町村、都道府県、郵便番号、国	親組織の標準的な住所情報。
[エンゲージメントの住所] セクション	
番地、市区町村、都道府県、郵便番号、国	エンゲージメント組織の標準的な住所情報。 エンゲージメント要求のターゲットが親サードパーティ組織である場合は、[サードパーティの住所と同じ **(Same as third-party address)]** を選択します。
[サードパーティの主連絡先] セクション	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティリスクデューデリジェンスフォームの要求 (続く)

フィールド	説明
名、姓、役職、メール、電話	サードパーティの主要連絡先となる人物の、サードパーティ組織での標準的な連絡先情報。 サードパーティ連絡先ロールの役割の説明については、「サードパーティリスク管理 でのロール」を参照してください。
[エンゲージメントの主連絡先] セクション	
名、姓、役職、メール、電話	サードパーティの主要連絡先となる人物の、エンゲージメント組織での標準的な連絡先情報。 エンゲージメント要求のターゲットが親サードパーティ組織である場合は、[サードパーティの主連絡先と同じ **(Same as third-party primary contact)]** を選択します。 サードパーティ連絡先ロールの役割の説明については、「サードパーティリスク管理 でのロール」を参照してください。

関連情報

- サードパーティリスクデューデリジェンスを要求する
- サードパーティエンゲージメントのデューデリジェンス要求

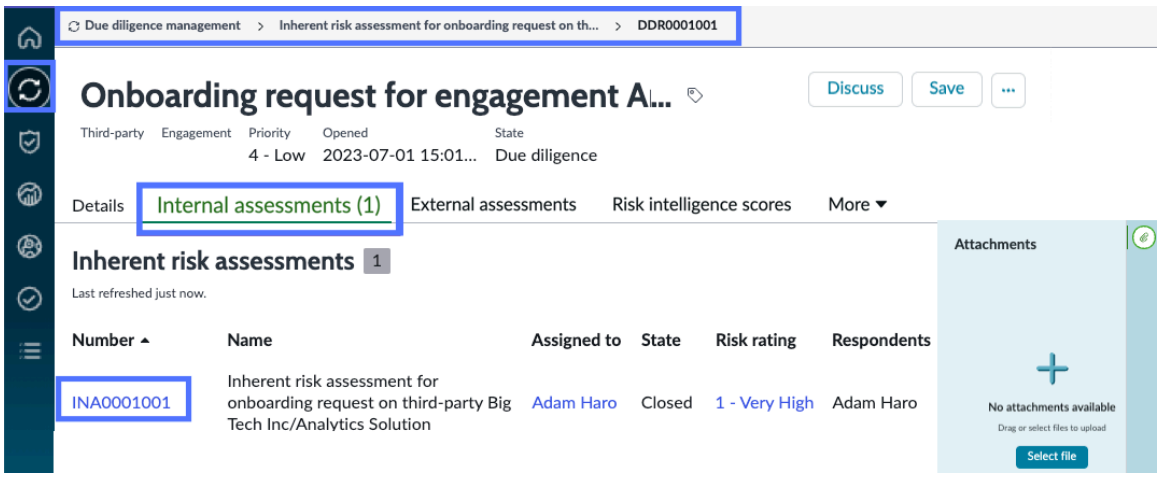
IRQ プロセス管理

エンゲージメント要求が承認された後の最初の内部ステップでは、IRQ プロセスを開始し、サードパーティのリスクスコアを決定することでリスクの範囲を設定します。

IRQ プロセスへのアクセス

[デューデリジェンス管理] ページで、デューデリジェンス要求の **DDR** 番号を選択し、[内部アセスメント] タブを選択します。

このタブには、エンゲージメント要求のすべての IRQ プロセスのリストが表示されます。 IRQ プロセスごとに、テキスト「INA」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

固有リスクアセスメントのリストの表示

[内部アセスメント] タブ

[内部アセスメント] タブ

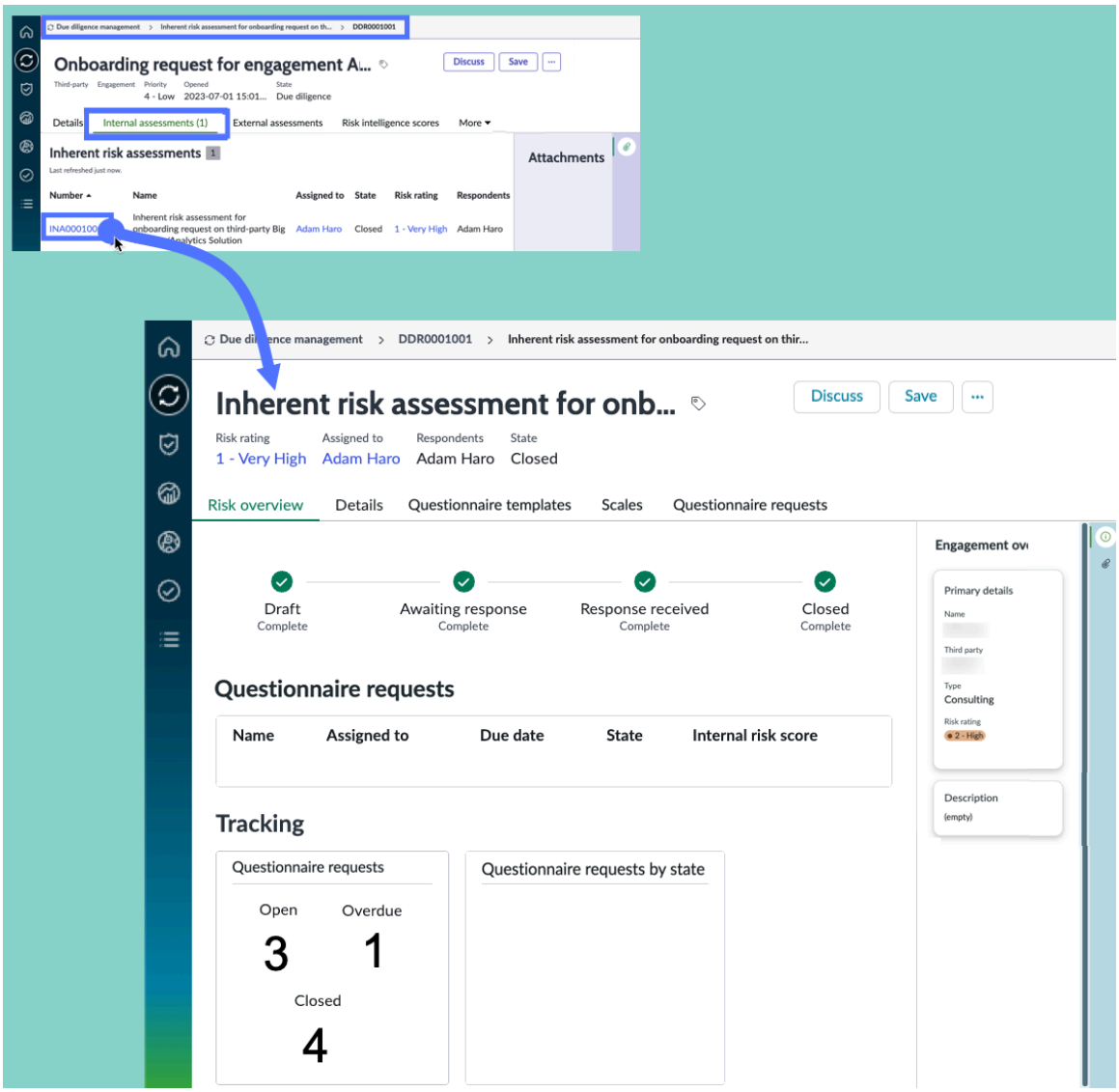
列	説明
番号	IRQ プロセスごとに、テキスト「INA」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。 [内部アセスメント] ページの [リスクの概要] タブで作業する INA 番号を選択します。 一意の ID は、アイテムへのすべての参照で使用されます。この ID を使用して、作業するアイテムを検索またはフィルタリングできます。
名前、アサイン先、リスク評価	エンゲージメント要求からのデータ。
状況	内部アセスメントの現在のステータス: [ドラフト]、[応答待ち]、[応答を受信済み]、または [クローズ済み]。
回答者	要求に応答したユーザー。

[内部アセスメント] ページの [リスクの概要] タブ

IRQ プロセスごとに、テキスト「INA」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。 [内部アセスメント] ページで、IRQ プロセスで作業する INA 番号を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

- 記号は、要求の IRQ プロセスの各ステージのステータスを示します。



- [アンケート要求] セクション:サードパーティに関連付けられているアンケートのリスト。[名前] を選択すると、各アンケートを表示できます。
- [追跡中] セクション:サードパーティに関連付けられた、[オープン]、[期限切れ]、および [クローズ 済み] ステータスのアセスメントの数。

[内部アセスメント] ページの [詳細] タブ

- 内部アセスメントセクション:サードパーティに関する一般情報と、エンゲージメントデューデリジェンス要求からの全体的なアセスメントのスケジュールとアンケートの期日。

- [詳細] タブの [作成] セクションでは、レコードに永続的にテキストを追加できます。[アクティビティ] セクションは、問題とタスクに対するアクション、TP 連絡先

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

への送信、およびユーザーがレコードに追加する作業メモとコメントで更新されます。必要に応じて、次のフィールドにテキストを追加します。

- [作業メモ (プライベート)]：サードパーティリスクアセスメントに関する情報。作業メモは、プロセスにアサインされた内部ユーザーのみに表示されます。
- コメント：サードパーティリスクアセスメントに関するコメントは、内部ユーザーとサードパーティの連絡先の両方に表示されます。

- [サードパーティの概要] セクションには、エンゲージメント要求に関連付けられているサードパーティに関する重要な情報が表示されます。

[内部アセスメント] ページの [アンケートテンプレート] タブ

このタブには、開いているすべての IRQ が一覧表示されます。詳細を表示するアンケートを選択します。

[内部アセスメント] ページの [スケール] タブ

このタブには、計算された評価と階層の値の定義が一覧表示されます。設定を定義する手順については、「採点用のリスク評価スケールの設定」および「VRM サードパーティのリスク階層アセスメント」を参照してください。

[内部アセスメント] ページの [アンケート要求] タブ

タブのすべての値は、エンゲージメントの 3 番目のパートで実施された内部アセスメントから取得されます。

[アンケート要求] タブ

列	説明
番号	アンケートテンプレートがアセスメントに追加されて送信されると、テンプレートごとにアセスメントのインスタンスが生成されます。これらの各インスタンスには、テキスト「AINST」で始まる一意の ID 番号が自動的に割り当てられます。 一意の ID は、アイテムへのすべての参照で使用されます。この ID を使用して、作業するアイテムを検索またはフィルタリングできます。
アセスメント番号	外部リスクアセスメントごとに、テキスト「VRA」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。 一意の ID は、アイテムへのすべての参照で使用されます。この ID を使用して、作業するアイテムを検索またはフィルタリングできます。
メトリクスタイプ	アセスメントに使用されるアンケートを決定するアンケート。
アサイン先	IRQ の管理と応答を担当するユーザー。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[アンケート要求] タブ (続く)

列	説明
期日	サードパーティがすべてのアンケートに回答して返却する期限。
ステータス	エンゲージメント要求の IRQ プロセスの現在のステージ。
内部リスクスコア	エンゲージメントリスク採点ルールは、アセスメント対象として選択されるエンゲージメントを決定するコンポーネント基準を指定します。たとえば、ルールにより、年間 40,000 ドルを超えるビジネスに関連するエンゲージメントのアセスメントを有効にすることができます。エンゲージメント採点ルールはエンゲージメントにのみ適用されます。 「エンゲージメントリスク採点ルールを定義する」を参照してください。

関連情報

- サードパーティリスクのアセスメント
- 内部アセスメントに回答する

[新規内部アセスメントを作成 **(Create new internal assessment)]** フォーム

内部アセスメントフォームを使用して、内部アセスメントの作成に必要なすべての情報を取得します。サードパーティリスク査定人は、アセスメントテンプレートを作成できます。

内部アセスメントフォーム

フィールド	説明
名前	すべてのフォームとリストでサードパーティのリスクアセスメントを識別する名前。
簡単な説明	アセスメントの目的のより詳細な説明。
番号	外部リスクアセスメントごとに、テキスト「VRA」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。 一意の ID は、アイテムへのすべての参照で使用されます。この ID を使用して、作業するアイテムを検索またはフィルタリングできます。
適用先	アセスメントが適用される関係者: サードパーティ または エンゲージメント。
サード	評価するサードパーティを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

内部アセスメントフォーム (続く)

フィールド	説明
パーティ	**注:** [終了] ステータスのサードパーティを再有効化できます。このような要求が受け入れられてクローズされると、サードパーティのステータスは [アクティブ] に変更されます。
エンゲージメント	評価対象のエンゲージメントを選択します。このフィールドは、[適用先] フィールドで [エンゲージメント] を選択した場合にのみ表示されます。
デューデリジェンス要求	このアセスメントに関連付けられた既存のデューデリジェンス要求がある場合は、ここにリストされます。
アセスメントエンジン	サードパーティリスクアセスメントに使用されるアセスメントエンジン。 このフィールドは [スマート] に設定されます。 このフィールドは、スマートアセスメントエンジンが有効になっている [sn_vdr_risk_asmt.sae_enabled] プロパティを有効にしている場合にのみ表示されます。このプロパティの詳細については、「TPRM プロパティの設定」を参照してください。 **注:** 以前のアセスメントを確認する場合は、このフィールドをオンにすることで、使用されたエンジンを特定できます。アセスメントがクラシックアセスメントエンジンを使用して作成された場合、フィールドに は [クラシック] と表示されます。
状況	内部アセスメントプロセスの現在のステージ。
アサイン先	監査目的でアセスメントを所有し、アセスメントプロセス全体を監視および管理する個人。所有者は、サードパーティによってアセスメントが適時に完了していることを確認し、回答をレビューし、問題を作成して解決する責任があります。アセスメントを完了まで進めるために、アセスメントが特定のマイルストーンに到達したときに通知されます。TPR マネージャーまたは TPR 査定人ロールが必要です。
リスク評価	サードパーティの全体的なリスク評価。 • 重大 • 高 • 中 • 低 • マイナー

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

内部アセスメントフォーム (続く)

フィールド	説明
	注: [リスク評価] は、リスクスコアが該当するリスク評価スケール範囲を見つけることによって決定されます。アセスメントスコアの最小範囲と最大範囲を定性的リスクスコアにマッピングする方法を定義します。
回答者	内部アセスメントに応答するようにアサインされた個人。 複数の回答者を内部アセスメントに割り当てることができます。
アセスメントスケジュール	
計画された期間 (日数)	アセスメントの予定期間。 注: この見積もりには、応答を受信し、内部および外部のユーザーがレビューするのに必要な時間が含まれます。
開始予定日/終了予定日	アセスメントの作業の開始予定日時と完了予定日時。 注: 終了予定日は、開始予定日から 1 か月後に自動的に設定されます。アセスメントの保存後は、この日付を変更できません。
実績期間	サードパーティリスクアセスメントの完了に要した時間。このフィールドは、[実開始日] と [実終了日] を使用して計算されます。
開始実績日時	アセスメントの作業が開始された日時。
終了実績日	アセスメントの作業が完了した日時。
メモとコメント	
作業メモ	アセスメントに関する情報。作業メモは、問題にアサインされているユーザーに表示されます。
追加コメント (顧客に表示)	アセスメントに関する公開情報。

関連情報

外部アセスメントテンプレートの作成

自動翻訳

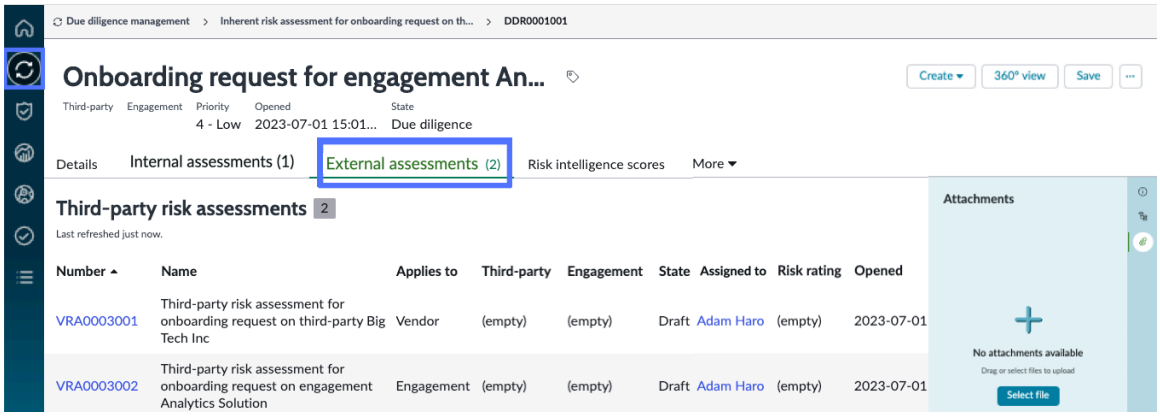
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティ (外部) リスクアセスメント管理

IRQ プロセスが完了したら、アンケートとドキュメント要求をサードパーティの連絡先に送信します。連絡先と協力して応答が完全かつ正確であることを確認することで、サードパーティのリスクアセスメントを管理します。

外部アセスメントへのアクセス

[デューデリジェンス管理] ページで、エンゲージメントデューデリジェンス要求の **DDR** 番号を選択し、[外部アセスメント] タブを選択します。このタブには、選択したエンゲージメント要求のすべてのサードパーティリスクアセスメント (外部デューデリジェンスプロセス) のリストが表示されます。

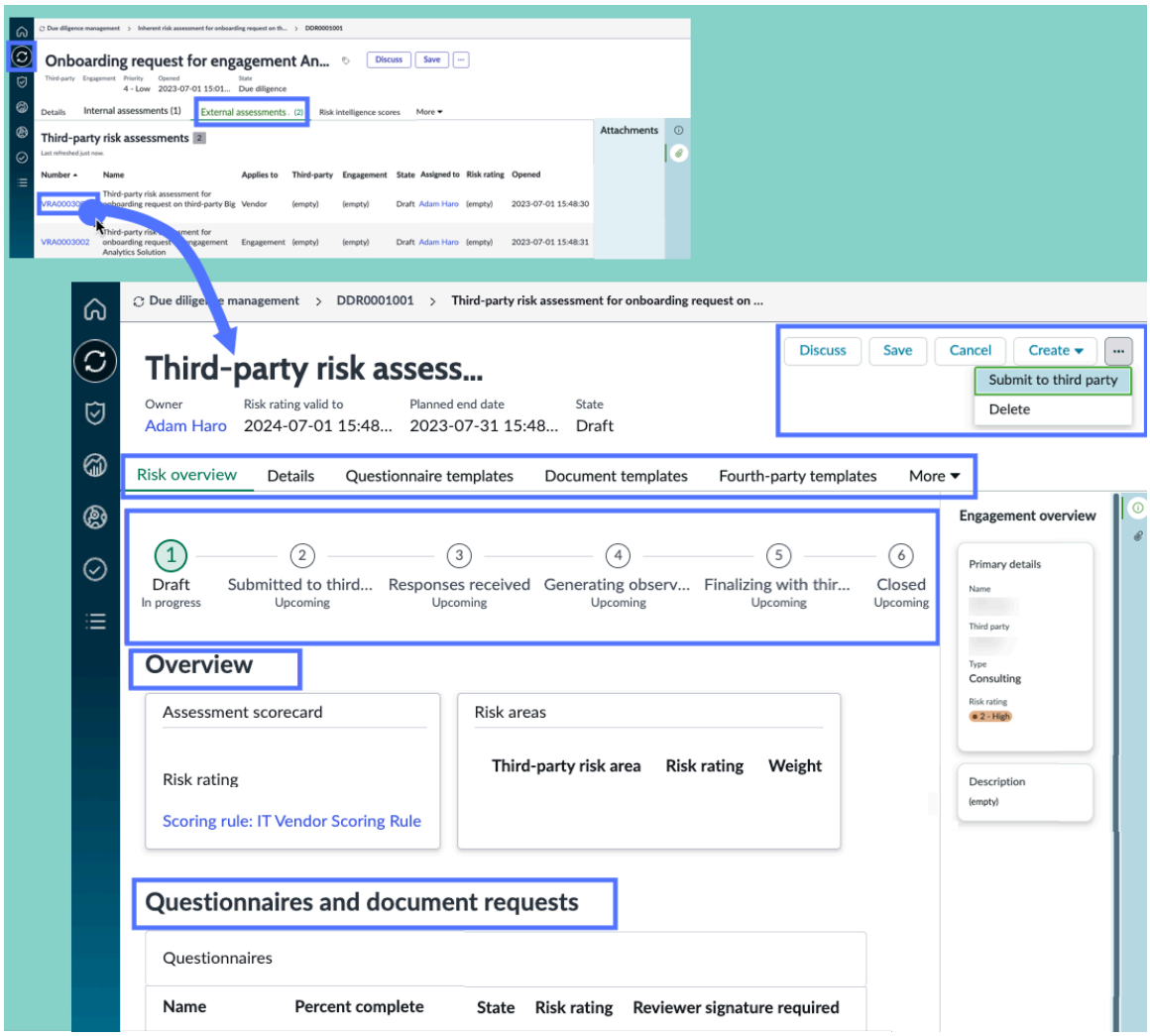


サードパーティのリスクアセスメントでの作業

外部リスクアセスメントごとに、テキスト「VRA」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。リスクアセスメントは、サードパーティ組織のエンゲージメント要求または親組織を持つグループのエンゲージメント要求の作業を表すことができます。[外部アセスメント] タブで、リスクアセスメントで作業する VRA 番号を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



任意のタブでのアクション

アクション

アクション	説明
ディスカッション	[ディスカッション] を選択して、他のユーザーにメッセージを送信します。メッセージは、[詳細] タブの [アクティビティ] セクションに記録されます。
作成	次のセクションの説明に従って、問題またはタスクを作成します。
保存	[保存] を選択して、任意のタブで値に加えた変更を保存します。
サードパーティに送信	すべてのアンケートと文書要求を TP 連絡先に送信します。アクションは、[詳細] タブの [アクティビティ] セクションに記録されます。
… 削除	エンゲージメント要求のレコードを削除するには、[削除] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

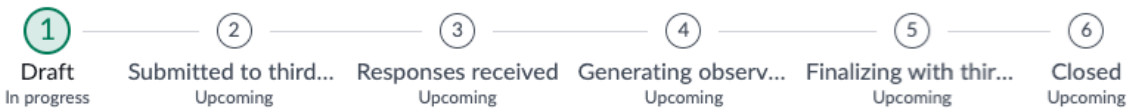
アクション (続く)

アクション	説明
添付ファイルの追加	[添付ファイル] セクションで [参照] を選択するか、添付ファイルアイコンを選択して添付ファイルを選択して追加します。

サードパーティのリスクアセスメントでの作業

[外部アセスメント] ページの [リスクの概要] タブ

- 記号は、エンゲージメント要求の外部アセスメントプロセスの現在のステータスを示します。状況の説明については、「外部アセスメントのライフサイクル状況」を参照してください。



- [概要] セクション：エンゲージメントに関連付けられているアセスメントのリスト。
- [アンケートと文書要求] セクション：エンゲージメントのアンケートと文書要求のリスト。
- 第 **4** の関係者のアンケートセクション :エンゲージメントに関連付けられている第 4 の関係者およびその子会社向けのアンケートと文書要求のリスト。
- [追跡] セクション：[オープン]、[期限切れ]、および [クローズ済み] ステータスにあるサードパーティに関連付けられたアセスメントの数。

[外部アセスメント] ページの [詳細] タブ

- [サードパーティリスクアセスメント] セクション：サードパーティに関する一般情報と、エンゲージメントデューデリジェンス要求からの全体的なアセスメントのスケジュールとアンケートの期日。

- [詳細] タブの [作成] セクションでは、レコードに永続的にテキストを追加できます。[アクティビティ] セクションは、問題とタスクに対するアクション、TP 連絡先への送信、およびユーザーがレコードに追加する作業メモとコメントで更新されます。必要に応じて、次のフィールドにテキストを追加します。
  - [作業メモ (プライベート)]：サードパーティリスクアセスメントに関する情報。作業メモは、プロセスにアサインされた内部ユーザーのみに表示されます。
  - コメント：サードパーティリスクアセスメントに関するコメントは、内部ユーザーとサードパーティの連絡先の両方に表示されます。

[外部アセスメント] ページの [アンケートテンプレート] タブ

このタブは、サードパーティの連絡先が応答するアンケートをリストします。詳細を表示する名前を選択します。詳細については、「アンケートや文書要求テンプレートを作成する」と「デザイナーを使用してアンケートや文書要求テンプレートを作成する」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

TPR 査定人が応答を変更できるようにするには、**[TPR** 査定人がサードパーティアンケートの応答を変更することを許可] [sn_svdp.allow_assessor_edit] システムプロパティを設定します。次のオプションを設定できます。

- TPR 査定人が質問に応答したり、応答を変更したりできるようにする (デフォルト)
- TPR 査定人が応答を変更できるようにする
- TPR 査定人が質問に応答したり、応答を変更したりできないようにする

TPRM プロパティの設定 を参照してください。

[外部アセスメント] ページの [ドキュメントテンプレート] タブ

このタブには、サードパーティ連絡先が返す必要があるドキュメントの要求が一覧表示されます。列の情報は、サードパーティの連絡先をフォローアップする際に作業に優先順位を付けるのに役立ちます。特に、ステータスと完了率の値は重要なインジケーターです。詳細を表示する名前を選択します。詳細については、「アンケートや文書要求テンプレートを作成する」と「デザイナーを使用してアンケートや文書要求テンプレートを作成する」を参照してください。

[外部アセスメント] ページの [第 4 の関係者のテンプレート] タブ

このタブには、サードパーティの連絡先が回答する第 4 の関係者のアンケートが一覧表示されます。詳細を表示する名前を選択します。詳細については、「第 4 以上の関係者の監視」を参照してください。

[外部アセスメント] ページの [サードパーティリスク領域] タブ

リスクドメインは、サードパーティのために評価するリスクのタイプを定義します。たとえば、セキュリティリスクの観点からデータ管理サードパーティを評価し、財務リスクの観点から銀行を評価することができます。セキュリティリスクと財務リスクはリスクドメインです。一部のプラットフォームアプリケーションでは、リスクドメインを「リスク領域」と呼びます。。「サードパーティリスクドメインを定義」を参照してください。

[外部アセスメント] ページの [問題] タブ

反復プロセスでは、TPR マネージャーがアセスメントをクローズする前に、TPR マネージャーが非準拠の問題とタスクを生成できます。TPR マネージャーは、コメントを使用して TP 連絡先およびエンゲージメント連絡先とコミュニケーションを取り、問題とタスクをクローズします。TPR マネージャーは、必要に応じてさまざまな連絡先をアサインすることもできます。「サードパーティまたはエンゲージメントに問題を作成」および「問題を管理します。」を参照してください。

[外部アセスメント] ページの [タスク] タブ

反復プロセスでは、TPR マネージャーがアセスメントをクローズする前に、TPR マネージャーが非準拠の問題とタスクを生成できます。TPR マネージャーは、コメントを使用して TP 連絡先およびエンゲージメント連絡先とコミュニケーションを取り、問題とタスクをクローズします。TPR マネージャーは、必要に応じてさまざまな連絡先をアサインすることもできます。「サードパーティまたはエンゲージメントにタスクを作成」および「サードパーティまたはエンゲージメントのタスク管理」を参照してください。

関連情報

外部アセスメントのライフサイクル状況

サードパーティリスクドメインを定義

問題を管理します。

サードパーティまたはエンゲージメントのタスク管理

アセスメントメトリクスタイプフォーム

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティのリスクアセスメントフォーム

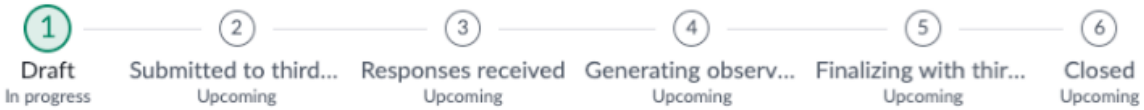
サードパーティ要素フォーム

外部アセスメントのライフサイクル状況

サードパーティからアセスメントデータを収集するプロセスは、状況が何度か変わります。たとえば、[サードパーティに送信済み] ステータスでは、サードパーティはタスクや問題に対応し、アンケートへの回答作業を行います。

サードパーティアセスメントの状況

サードパーティアセスメントの状況



ドラフト

外部アセスメントレコードは、[ドラフト] ステータスでオープンされます。

- アセスメントテンプレート：IRQ 応答に基づいて自動生成される一連の外部アンケートと文書要求。または、アドミニストレーターがアンケートと文書要求を手動で指定することもできます。
- リスク評価：IRQ 応答に基づいて自動生成される全体的なリスク評価。
- 所有者：所有者は監査目的でアセスメントを所有し、アセスメントプロセス全体を監視および管理するユーザーです。所有者は、サードパーティによってアセスメントが適時に完了していることを確認し、回答をレビューし、問題を作成して解決する責任があります。アセスメントを完了まで進めるために、アセスメントが特定のマイルストーンに到達するとオーナーに通知されます。所有者には、TPR マネージャーまたは TPR 査定人ロールが必要です。

サードパーティに送信済み

アセスメントのアンケートと文書要求がサードパーティの連絡先に送信されました。内部ステークホルダーが応答を待っています。

応答を受信済み

サードパーティの連絡先がアンケートと文書要求をすべて完了すると、内部のサードパーティリスクチームが応答をレビューし、分析します。チームは、フォローアップ、説明、または不足している応答を求めて特定の質問を返す場合があります。

所見を生成中

すべての応答が完了すると、誤った応答の問題を自動生成できます。

サードパーティの連絡先が問題に対応します。社内のサードパーティリスクチームが、対応を受け入れるか問題を修正するかを最終決定します。

サードパーティの最終処理を実行中

サードパーティリスクチームは、すべてのアセスメントデータをレビューします。場合によっては、チームはアセスメントを [ドラフト] ステータスにリセットして、アセスメントのライフサイクルを再開します。

クローズ

すべてのデータが許容できる場合、アセスメントは完了し、チームのメンバーがアセスメントをクローズします。エンゲージメントが契約される場合は、[クローズ済み] ステータスで契約リスクプロセスが開始されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コントロール目標フォーム

コントロール目標フォームを使用して、 サードパーティリスク管理 アプリケーションを使用してコントロールを質問に関連付けるために必要なすべての情報を取得します。サードパーティリスクアドミンは、コントロール目標を作成できます。

コントロール目標フォーム

フィールド	説明
名前	コントロール目標の名前。
ソース	コントロール目標のソース。たとえば、コントロール目標がサードパーティプロバイダーからのものである場合は、どのプロバイダーかを示します。
ソース ID	このコントロール目標をカタログ化するためにソースによって使用される一意の識別番号。
参照	一意の数値識別子。
親	現在のコントロール目標の子ではないコントロール目標。これは、循環する親子関係を避けるためです。
コンプライアンススコア (%)	このコントロール目標に対して計算されたコンプライアンススコアの割合とそのカラーコード： • 80 以上：緑 • 50 ～ 80：黄 • 50 未満：赤
有効	コントロール目標がアクティブかどうかを示すオプション。
コントロールを自動的に作成	コントロールがコントロール目標から自動的に作成されることを示すオプション。 **注:** コントロール目標がコントロールとしても機能する場合は、このオプションを選択します。
カテゴリ	オプションのリスト： • 施設、技術、サービスの取得または販売 • 監査およびリスク管理 • コンプライアンスおよびガバナンスのスタイルマニュアル • ヒューマンリソース (HR) 管理 • リーダーシップおよび高いレベルの達成目標 • モニタリングおよび測定 • 運用管理 • 物理的保護および環境保護 • 情報およびデータのプライバシー保護 • レコード管理 • 構成管理によるシステムのハードニング

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コントロール目標フォーム (続く)

フィールド	説明
	• システム継続性 • システム設計、ビルド、および実装 • テクニカルセキュリティ • サードパーティおよびサプライチェーンの監督 • ルート
分類	オプションのリスト： • 予防 • 是正 • 探知
タイプ	オプションのリスト： • 資産またはサービスの取得/販売 • アクション可能なレポートまたは測定 • 監査およびリスク管理 • 動作 • ビジネスプロセス • 連絡 • 設定 (Configuration) • データおよび情報管理 • 複製 • ロールの設定 • ドキュメントの作成/維持管理 • ヒューマンリソース (HR) 管理 • 調査 • IT インパクトゾーン • ログ管理 • メンテナンス • 発生の監視および評価 • 物理的保護および環境保護 • プロセスまたはアクティビティ • レコード管理 • システム継続性 • システム設計、ビルド、および実装 • テクニカルセキュリティ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コントロール目標フォーム (続く)

フィールド	説明
	• テスト • トレーニング
証明書	オプションリスト。 • デフォルトで **GRC** 証明書 が選択されている • 注: ユーザーがコントロール証明書を変更すると、関連するコントロール目標証明書タイプも変更されます。
問題グループルール	このコントロール目標にアサインされたグループルール。
説明	コントロール目標の説明。
機能ドメイン	コントロール目標の機能ドメイン。

関連情報

コントロール目標を質問に手動で追加する

新しいコントロールフォームを作成

新しいコントロールの作成フォームを使用して、 サードパーティリスク管理 アプリケーションを使用してコントロールをサードパーティまたはエンゲージメントに関連付けるために必要なすべての情報をキャプチャします。サードパーティリスクアドミンは、コントロールを作成できます。

コントロールフォーム

フィールド	説明
名前	コントロールの名前。
番号	一意の識別番号。
エンティティ	関連エンティティ。 注: エンティティのステータスを [廃止] ステータスから [アクティブ] に変更すると、エンティティに対して手動で作成されたコントロールも [ドラフト] ステータスに移行します。
コントロール目標から継承	アイテム生成プロセスを通じてコントロールを作成するかどうかを示すオプション。詳細については、「一意のエンティティとコントロール目標の組み合わせに対する複数のコントロール」を参照してください。
コントロー	関連コントロール目標。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コントロールフォーム (続く)

フィールド	説明
ル目標	
所有グループ	ポリシーを所有するグループ。
所有者	ポリシーを所有するユーザー。 注: オーナーは常に回答者として追加されます。選択したコントロールオーナーは、所有グループに属しています。
エンティティオーナーと同期	エンティティオーナーとコントロールを同期するオプション。
キーコントロール	コントロールがキーコントロールであることを示すインジケーター。
重み	コントロールスコアの有効性の計算に使用される値。コントロールの重み付けに基づいて、コントロールスコアで有効性の値が計算されます。
ステータス	コントロールステータス。利用可能な選択肢は次のとおりです。 • 準拠 • 非準拠 • 適用外
状況	コントロールステータス。利用可能な選択肢は次のとおりです。 • [ドラフト] このステータスでは、すべてのコンプライアンスユーザーがコントロールを変更できます。ワンオフコントロールを作成する場合のみ利用できます。ワンオフコントロールは可能ですが、推奨されません。 • [証明] コントロールがコントロール目標から作成された場合、コントロールはこのステータスになります。 注: コントロールをドラフトに戻すと、証明書はキャンセルされます。 • [レビュー] コントロールは、証明書フェーズからレビューに自動的に移行されます。 • [監視] このステータスでは、すべてのコンプライアンスマネージャーがコントロールをレビューから監視に移動できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コントロールフォーム (続く)

フィールド	説明
	• [廃止] コンプライアンスマネージャーまたはアドミニストレーターは、コントロールを [監視] から [廃止] に移動できます。 **注:** コントロールが廃止された場合： ○ 関連付けられているインジケーターが実行されない ○ 関連付けられている証明書がキャンセルされる ○ 関連付けられているコントロール目標を変更してもコントロールが更新されない
適用対象外	コントロールを免除としてマークします。
関数	オプションのリスト： • 標準コントロール • 共通コントロール **注:** 既存のコントロールはすべて標準コントロールと呼ばれます。必要に応じて、標準コントロールを共通に変換し、その機能を標準に戻すことができます。ただし、デフォルトでは、既存でも作成されたものでも、すべてのコントロールが標準です。 詳細については、「標準コントロールを共通コントロールに変換して、依存エンティティを追加」を参照してください。
サブスクリプションの適用	オプションのリスト： • 必須 • 任意
カテゴリ	オプションのリスト： • 施設、技術、サービスの取得または販売 • 監査およびリスク管理 • コンプライアンスおよびガバナンスのスタイルマニュアル • ヒューマンリソース (HR) 管理 • リーダーシップおよび高いレベルの達成目標 • モニタリングおよび測定 • 運用管理 • 物理的保護および環境保護 • 情報およびデータのプライバシー保護

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コントロールフォーム (続く)

フィールド	説明
	• レコード管理 • 構成管理によるシステムのハードニング • システム継続性 • システム設計、ビルド、および実装 • テクニカルセキュリティ • サードパーティおよびサプライチェーンの監督 • ルート • 不使用
タイプ	オプションのリスト： • 資産またはサービスの取得/販売 • アクション可能なレポートまたは測定 • 監査およびリスク管理 • 動作 • ビジネスプロセス • 連絡 • 設定 (Configuration) • データおよび情報管理 • 複製 • ロールの設定 • ドキュメントの作成/維持管理 • ヒューマンリソース (HR) 管理 • 調査 • IT インパクトゾーン • ログ管理 • メンテナンス • 発生の監視および評価 • 物理的保護および環境保護 • プロセスまたはアクティビティ • レコード管理 • システム継続性 • システム設計、ビルド、および実装 • テクニカルセキュリティ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コントロールフォーム (続く)

フィールド	説明
	• テスト • トレーニング
分類	オプションのリスト： • 予防 • 是正 • 探知 • IT インパクトゾーン
周期	コントロールがテストされる頻度。このフィールドは、コントロールのテストとレポートを目的としています。 オプションのリスト： • イベント駆動型 • 日次 • 週次 • 月次 • 四半期ごと • 半年ごと • 年次 注: コントロールの [頻度] フィールドとエンティティの [証明書頻度] フィールドの違いについては、KB0694607 を参照してください。
説明	コントロールの説明。
追加情報	コントロールに関する追加情報。
証明書	
証明書	オプションのリストから選択します。 • 他の証明書タイプを構成できます。 • このフィールドに値が入力されると、[証明書の回答者] フィールドが自動的に必須になり、オーナーが回答者になります。 注: ユーザーがコントロール目標で証明書タイプを変更すると、関連するすべてのコントロールも変更されます。
証明書の回答者	• このコントロールの証明書にアサインされたユーザー。 • sn_grc.user ロールを持つユーザーのみを応答者として追加できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コントロールフォーム (続く)

フィールド	説明
	注: [証明書] と [証明書回答者] の両方のフィールドが設定されている場合、[証明書] をクリックすると証明書が作成されます。
証明頻度	コントロールの証明書がトリガーされる頻度。フィールドで値が選択されていない場合、関連付けられたエンティティの [証明頻度] の値はデフォルトでこのフィールドに設定されます。 証明頻度のオプション。 • 日次 • 週次 • 月次 • 四半期ごと • 半年ごと • 年次 **注:** 証明書が完了すると、コントロールは [レビュー] および [監視] 状況に移行します。その後、コントロールは証明書の次の期日について監視されます。証明書の 作成日 または最後に完了した証明書 の更新日に基づいて、コントロールの証明書の頻度をトリガーするオプションがあります。このオプションは *Trigger control attestations based on the created or updated date of the last completed attestation* システムプロパティの値に基づいています。
アクティビティジャーナル	
追加コメント	コントロールに関する公開情報。
設定	
機能ドメイン	コントロール目標の機能ドメイン。

関連情報

サードパーティまたはエンゲージメントにコントロールを手動で追加する

アセスメントメトリクスタイプフォーム

アセスメントメトリクスタイプフォームを使用して、 サードパーティリスク管理 アプリケーションでアンケートテンプレートを作成するために必要なすべての情報を取得します。サードパーティリスクアドミンは、アンケートテンプレートを作成できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントメトリクスタイプフォーム

フィールド	説明
名前	テンプレートの名前。
サードパーティリスク領域	アンケートや文書要求を受け取るサードパーティのタイプに適用されるサードパーティリスクドメインを選択します。たとえば、セキュリティリスクドメインを選択した場合、そのリスクドメインに割り当てられたサードパーティのみがアンケートまたは文書要求を受け取ることができます。 詳細については、「サードパーティリスクドメインを定義」を参照してください。
サードパーティ署名が必要	サードパーティポータルで電子署名を提供するようサードパーティの主要連絡先に要求するオプション。 **注:** 電子署名を使用して、サードパーティの連絡先がアンケート回答または文書要求を正常にレビューして承認したことを証明できます。
レビュー担当者の署名が必要	アセスメント応答の有効性を確認し、最終承認として電子署名を提供するようレビュー担当者に要求するオプション。
説明	テンプレートの説明。
以前の回答を含む	完了したアンケート (ステータスが [完了]) からの回答をアンケートに事前入力するオプション。 **重要:** TPR 査定人 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor] ロールを持っている場合は、アンケートの編集中にアンケートテンプレートで指定されたオプションを上書きできます。 サードパーティポータルのエントリは、応答がコピーされたことをサードパーティの連絡先に通知します。通知には、応答を提供したアセスメントへのリンクとその最終更新日が含まれています。 • 新しいアンケートがサードパーティの連絡先に送信されると、応答が入力されます。 • ソースアンケートは、現在のアンケートと同じテンプレートに基づいている必要があります。 • 回答は、最後に完了したアンケートから入力されます。 • 添付ファイル、期間、署名タイプの回答はコピーされません。 • アンケートがサードパーティに送信された後は、設定を変更できません。 ソースアンケートの最大経過時間を指定するには、[応答を再利用するための最大経過時間] sn_vdr_risk_asmt.max_age_for_questionnaire_reuse システムプロパティを構成します。TPRM プロパティの設定 を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

- アンケートや文書要求テンプレートを作成する
- デザイナーを使用してアンケートや文書要求テンプレートを作成する
- サードパーティリスクのアセスメント

新しい外部アセスメントテンプレートの作成フォーム

外部アセスメントテンプレートフォームを使用して、外部アセスメントテンプレートの作成に必要なすべての情報を取得します。サードパーティリスクマネージャーは、アセスメントテンプレートを作成できます。

アセスメントテンプレートフォーム

フィールド	説明
名前	アセスメントテンプレートの名前。
アセスメント結果有効期間 (日数)	デフォルトのアセスメントが有効になる日数。
アセスメント期間 (日数)	外部アセスメント全体を完了するために設定された時間。
アンケート期間 (日数)	査定人がアセスメントのアンケート部分を完了するために割り当てられた時間。
アンケートレビュー期間 (日数)	サードパーティリスクアドミニストレーターがアンケートに提供された回答をレビューするために割り当てられた時間。
作成者	テンプレートを作成したユーザー。
作成済み	テンプレートが作成された時刻。
更新日時	テンプレートが最後に更新された時刻。
スマートアセスメントをサポートします	アセスメントテンプレートを スマートアセスメントエンジンで使用できることを示すオプション。 **注:** 既存のアセスメントでは、移行も公開もされていないクラシックアンケートと文書要求テンプレートがある場合、このオプションは設定されません。このオプションは、 SAE アンケートまたは文書要求テンプレートが手動で追加されたときに自動的に設定されます。 新しいアセスメントテンプレートを作成し、 スマートアセスメントエンジン プロパティを有効にしている場合、テンプレートを保存した後、このフィールドはデフォルトで選択されます。
説明	アセスメントの説明。
アンケートテンプレート	
名前	アンケートテンプレートの名前。
サードパーティリスク領域	このアンケートテンプレートに適用されるサードパーティリスク領域。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントテンプレートフォーム (続く)

フィールド	説明
説明	アンケートテンプレートの説明。
文書要求テンプレート	
名前	文書要求テンプレートの名前。
サードパーティリスク領域	このドキュメント要求テンプレートに適用されるサードパーティリスク領域。
説明	文書要求テンプレートの説明。
SAE アンケートテンプレート	
名前	アンケートテンプレートの名前。
サードパーティリスク領域	このアンケートテンプレートに適用されるサードパーティリスク領域。
説明	アンケートテンプレートの説明。
SAE ドキュメントテンプレート	
名前	文書要求テンプレートの名前。
サードパーティリスク領域	このドキュメント要求テンプレートに適用されるサードパーティリスク領域。
説明	文書要求テンプレートの説明。

関連情報

外部アセスメントテンプレートの作成

[新規 **TPRM SAE** アンケートテンプレートを作成] フォーム

[新規TPRMアンケートテンプレートを作成] フォームを使用して、スマートアセスメントテンプレートデザイナーでTPRM SAEアンケートテンプレートを作成するために必要なすべての情報を取得します。サードパーティリスクアドミンは、アンケートテンプレートを作成できます。

[新規 **TPRM** アンケートテンプレートの作成 **(Create New TPRM questionnaire template)]** フォーム

フィールド	説明
テンプレート名	テンプレートの一意でわかりやすい名前。
サードパーティリスク領域	このアンケートテンプレートに適用されるサードパーティリスク領域。 **注:** このオプションは、 ベンダー管理ワークスペースを使用してアンケートテンプレートを作成する場合にのみ使用できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新規 **TPRM** アンケートテンプレートの作成 **(Create New TPRM questionnaire template)**] フォーム (続く)

フィールド	説明
目的	新しいテンプレートの目的。 **注:** クラシックアセスメントエンジンではテンプレート分類と呼ばれ、クラシックテンプレート分類ごとに目的TPRMがあります。 TPRM 目的のオプションは次のとおりです。 • TPRM 外部サードパーティ要素アンケート • TPRM 外部の第 4 の関係者アンケート • TPRM 外部文書要求 • TPRM 外部アンケート • TPRM 内部 IRQ • TPRM 内部階層アンケート TPRM TPRMアンケートテンプレートを表示するには、TPR アセスメントレビュー担当者ロール [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessment_reviewer] が必要です。 アセスメントテンプレートの目的の作成の詳細については、次を参照してください。 アセスメントテンプレートカテゴリを作成する **注:** 公開されたアセスメントテンプレートからのみアセスメントを作成できます。公開済みテンプレートを更新できるのは、テンプレートに関連付けられているアクティブなアセスメントがない場合のみです。
以前の回答を含む	完了したアンケート (ステータスが [完了]) からの回答をアンケートに事前入力するオプション。 **重要:** TPR 査定人 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor] ロールを持っている場合は、ドラフト状況のアンケートを編集するときに、アンケートテンプレートで指定されたオプションを上書きできます。 サードパーティポータルのエントリは、応答がコピーされたことをサードパーティの連絡先に通知します。通知には、応答を提供したアセス

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新規 **TPRM** アンケートテンプレートの作成 **(Create New TPRM questionnaire template)**] フォーム (続く)

フィールド	説明
	メントへのリンクとその最終更新日が含まれています。 • 新しいアンケートがサードパーティの連絡先に送信されると、応答が入力されます。 • ソースアンケートは、現在のアンケートと同じテンプレートに基づいている必要があります。 • 回答は、最後に完了したアンケートから入力されます。 • 添付ファイル、期間、署名タイプの回答はコピーされません。 • アンケートがサードパーティに送信された後は、設定を変更できません。 ソースアンケートの最大経過時間を指定するには、[応答を再利用するための最大経過時間] sn_vdr_risk_asmt.max_age_for_questionnaire_reuse システムプロパティを構成します。「TPRM プロパティの設定」を参照してください。 **注:** このオプションは、 ベンダー管理ワークスペースを使用してアンケートテンプレートを作成する場合にのみ使用できます。
説明	回答者がアンケートに回答するときに役立つ可能性がある情報。

自動翻訳

関連情報

TPRM SAEアンケートまたは文書要求テンプレートの作成

サードパーティのリスクアセスメントフォーム

サードパーティリスクアセスメントフォームを使用して、 サードパーティリスク管理 アプリケーションでアセスメントを作成するために必要なすべての情報を取得します。サードパーティのリスク査定人またはマネージャーは、外部アセスメントを作成できます。

サードパーティのリスクアセスメントフォーム

フィールド	説明
名前	すべてのフォームとリストでサードパーティのリスクアセスメントを識別する名前。
説明	アセスメントの目的のより詳細な説明。
番号	外部リスクアセスメントごとに、テキスト「VRA」で始まる一意の ID 番号がシステムによって自動的に割り当てられます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティのリスクアセスメントフォーム (続く)

フィールド	説明
	一意の ID は、アイテムへのすべての参照で使用されます。この ID を使用して、作業するアイテムを検索またはフィルタリングできます。
適用先	アセスメントが適用されるパーティ: サードパーティ、 エンゲージメント、 エンティティ。
サードパーティ	評価済みのサードパーティ。 **注:** [終了] ステータスのサードパーティを再有効化できます。このような要求が受け入れられてクローズされると、サードパーティのステータスは [アクティブ] に変更されます。
エンゲージメント	評価対象のエンゲージメントを選択します。このフィールドは、[適用先] フィールドで [エンゲージメント] を選択した場合にのみ表示されます。
エンティティ	評価するエンティティを選択します。このフィールドは、[適用先] フィールドで [エンティティ] を選択した場合にのみ表示されます。 **注:** これは、サードパーティ要素収集プロセスの一部として作成されたエンティティレコードです。詳細については、「サードパーティ要素の監視」を参照してください。
繰り返しアセスメント	現在のアセスメントを作成するために使用するアセスメント。 **注:** クラシックアセスメントエンジンを使用している場合は、繰り返しアセスメントを作成できます。スマートアセスメントエンジンを使用している場合は、イベント駆動型管理機能を使用して、アンケートとドキュメント要求を自動生成してエンゲージメントやサードパーティに送信するルールを構成できます。詳細については、「スケジュールで繰り返すようにリスクアセスメントを構成する」と「イベント駆動型管理 — アセスメントプロセスの自動化」を参照してください。
アセスメントテンプレート	このアセスメントのアンケートまたは文書要求を作成する際のアセスメントテンプレートを選択します。 複数のテンプレートを使用して、アセスメントに対して複数のアンケートまたは文書要求を作成するには、フィールドを空白のままにします。
デューデリジェンス要求	このアセスメントに関連付けられた既存のデューデリジェンス要求がある場合は、ここにリストされます。
アセスメントエンジン	サードパーティリスクアセスメントに使用されるアセスメントエンジン。 このフィールドは [スマート] に設定されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティのリスクアセスメントフォーム (続く)

フィールド	説明
	このフィールドは、スマートアセスメントエンジンが有効になっている [sn_vdr_risk_asmt.sae_enabled] プロパティを有効にしている場合にのみ表示されます。このプロパティの詳細については、「TPRM プロパティの設定」を参照してください。 **注:** 以前のアセスメントを確認する場合は、このフィールドをオンにすることで、使用されたエンジンを特定できます。アセスメントがクラシックアセスメントエンジンを使用して作成された場合、フィールドに は [クラシック] と表示されます。
状況	サードパーティからアセスメントデータを収集するプロセスは、状況が何度か変わります。詳細については、「外部アセスメントのライフサイクル状況」を参照してください。
リスク評価	サードパーティの全体的なリスク評価。 • 重大 • 高 • 中 • 低 • マイナー **注:** [リスク評価] は、リスクスコアが該当するリスク評価スケール範囲を見つけることによって決定されます。アセスメントスコアの最小範囲と最大範囲を定性的リスクスコアにマッピングする方法を定義します。
リスク評価の有効期限	リスク評価の有効期限が切れる日付。この日付は、関連付けられているアンケートまたは文書要求の [リスク評価の有効期限] よりも後でなければなりません。
サードパーティ階層によってトリガー	サードパーティのリスク階層が変更されたときにアセスメントを開始するには、このチェックボックスをオンにします。
アサイン先	監査目的でアセスメントを所有し、アセスメントプロセス全体を監視および管理する個人。所有者は、サードパーティによってアセスメントが適時に完了していることを確認し、回答をレビューし、問題を作成して解決する責任があります。アセスメントを完了まで進めるために、アセスメントが特定のマイルストーンに到達したときに通知されます。TPR マネージャーまたは TPR 査定人ロールが必要です。
ウォッチリスト	このレコードが変更されたときに通知するユーザーを追加します。
リスクスコアリング	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティのリスクアセスメントフォーム (続く)

フィールド	説明
	注: リスク評価は、アセスメント応答が受信された後に計算され、表示されます。
計算済みリスク評価	サードパーティリスク領域のリスク評価の平均。
問題リスク評価	評価対象のサードパーティに関連付けられている問題のリスク評価。問題のリスク評価は、クローズ済みの問題の優先度とその解決方法に基づいています。 • 問題が [完了してクローズ] の場合は、問題が解決されたことを示します。 • 問題が [未完了でクローズ] の場合は、サードパーティが関連付けられている質問を完了しなかったことを示します。 • 問題が [キャンセルしてクローズ] の場合は、問題を解決する必要がないことを示します。 問題がクローズ済みで、アセスメント のステータス がクローズまたはキャンセルされていない場合、 問題リスク評価 が再計算されて表示されます。 **注:** [計算済みリスク評価] はこの計算の影響を受けません。
リスク評価を上書き	サードパーティの計算されたリスク評価を上書きするオプション。選択すると、アセスメントリスク評価に加えられた将来の変更は、リスク評価ではなく、計算されたリスク評価にのみ影響します。 **注:** チェックボックスをオンにしてからオフにすると、計算されたリスク評価が使用されます。
上書きされたリスク評価	現在計算されているリスク評価を上書きするリスク評価。 [リスク評価を上書き] を選択した場合、新しいリスク評価を入力します。
理由	上書きされたリスク評価の理由。 [リスク評価を上書き] を選択した場合、上書きの理由を入力する必要があります。
アセスメントスケジュール	
計画された期間 (日数)	アセスメントの予定期間。 **注:** この見積もりには、応答を受信し、内部および外部のユーザーがレビューするのに必要な時間が含まれます。
開始予定	アセスメントの作業の開始予定日時と完了予定日時。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティのリスクアセスメントフォーム (続く)

フィールド	説明
日/終了予定日	注: 終了予定日は、開始予定日から 1 か月後に自動的に設定されます。アセスメントの保存後は、この日付を変更できません。
実績期間	サードパーティリスクアセスメントの完了に要した時間。このフィールドは、[実開始日] と [実終了日] を使用して計算されます。
開始実績日時	アセスメントの作業が開始された日時。
終了実績日	アセスメントの作業が完了した日時。
アンケートのスケジュール	
計画された期間 (日数)	サードパーティまたはエンゲージメントがすべてのアンケートを完了するために与えられた時間。
レビュー期間 (日数)	アセスメントレビュー担当者がすべてのアンケートをレビューするために割り当てられた時間。 注: サードパーティアセスメントレビュー担当者 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessment_reviewer] ロールを持つユーザーは、以下を確認してコメントを残すことができます。 • 階層アセスメント • 内部アセスメント • 外部アセスメント • サードパーティリスクの問題 • サードパーティリスクのタスク • サードパーティリスクデューデリジェンス要求
サードパーティに送信済み	サードパーティアンケートの配送日。
期日	サードパーティがすべてのアンケートに回答して返却する期限。 注: デフォルトでは、 期日 は 10 日間に設定されています。アンケートの期日を延長するには、[計画期間 (日数)] を延長します。ただし、アセスメントの終了 予定日 は更新されません。
完了日	サードパーティがすべてのアンケートを完了した実際の日付。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティのリスクアセスメントフォーム (続く)

フィールド	説明
回答期限	サードパーティの連絡先から応答が返されると組織が想定している日付。
メモとコメント	
作業メモ	アセスメントに関する情報。作業メモは、問題にアサインされているユーザーに表示されます。
追加コメント (顧客に表示)	アセスメントに関する公開情報。

関連情報

サードパーティリスクのアセスメント

サードパーティ要素フォーム

サードパーティ要素フォームを使用して、サードパーティリスク管理 アプリケーションでサードパーティ要素レコードを作成するために必要なすべての情報を取り込みます。サードパーティリスクマネージャー、サードパーティリスク査定人、またはデューデリジェンス要求所有者は、サードパーティ要素レコードを作成できます。

サードパーティ要素フォーム

フィールド	説明
名前	すべてのフォームとリストでこのサードパーティ要素を識別する名前。
分類	サードパーティ要素のタイプ • 施設 • 製品 • プリンシパル • その他 注: この選択により、サードパーティ要素に適用されるスコアリングモデルが決まります。に移動して、新しいサードパーティ要素分類を作成できます すべて > サードパーティリスク管理 > サードパーティ要素 > 分類.
説明	サードパーティ要素の背景を説明し、明確にするテキスト。
メモ	サードパーティ要素に関する追加情報。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティ要素フォーム (続く)

フィールド	説明
代替名	サードパーティ要素を参照するための代替名。 代替名は、サードパーティによって提供された正式名称とは異なる簡略化された名前、ブランド名、またはローカライズされた名前にすることができます。
作成者	サードパーティ要素を作成したユーザー。
連絡先の詳細セクション	
名、姓、連絡先の部門、連絡先の役職、連絡先の電話番号、連絡先のメールアドレス	サードパーティの主要連絡先となる人物の、サードパーティ組織での標準的な連絡先情報。 サードパーティ連絡先ロールの役割の説明については、「サードパーティリスク管理 でのロール」を参照してください。
番地、市区町村、都道府県、郵便番号、国	サードパーティ組織の標準的な住所情報。
緯度と経度	リスク集中マップ上の場所をマークするために使用されます。詳細については、「TPRM リスク集中マップ」を参照してください。

関連情報

- サードパーティ要素の監視
- サードパーティ要素レコードの作成
- エンゲージメントにサードパーティ要素レコードを追加する

承認プロセスの管理

DD 要求を承認または却下できるユーザーのリストを表示し、承認アクションの詳細を表示することもできます。さらに、要求の承認レベルを表示できます。

承認プロセス

承認プロセスでは、リスクの各側面が適切な社内ステークホルダーによって分析されます。 すべての内部ステークホルダー (承認者) が、サードパーティ連絡先およびエンゲージメント連絡先からのアンケートの回答とサポートドキュメントをレビューします。回答に問題がなければ、1 人以上の承認者が DD 要求を承認してクローズします。契約の準備が整うと、承認された要求が契約リスクプロセスに移ります。

デューデリジェンス管理ページへのアクセス

デューデリジェンス要求の **DDR** 番号を選択すると、多くの場所から [デューデリジェンス管理] ページにアクセスできます。[承認者] タブまたは [承認レベル] タブのいずれかを選択します。

[承認者] タブ

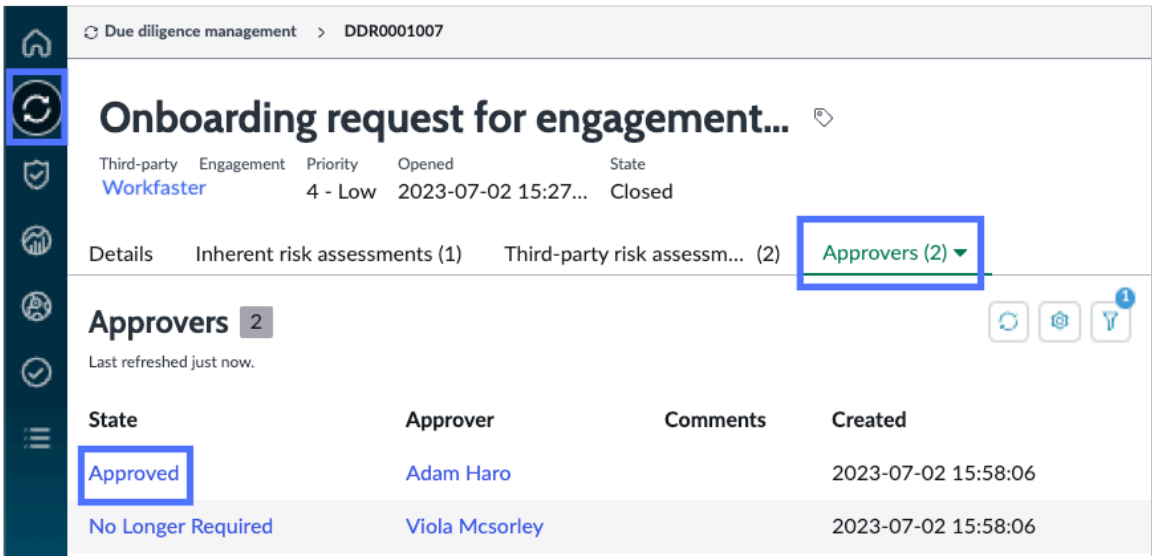
このタブには、エンゲージメント要求に応答したユーザーがリストされます。[ステータス] の値を選択すると、承認者が実行した承認アクションの詳細が表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

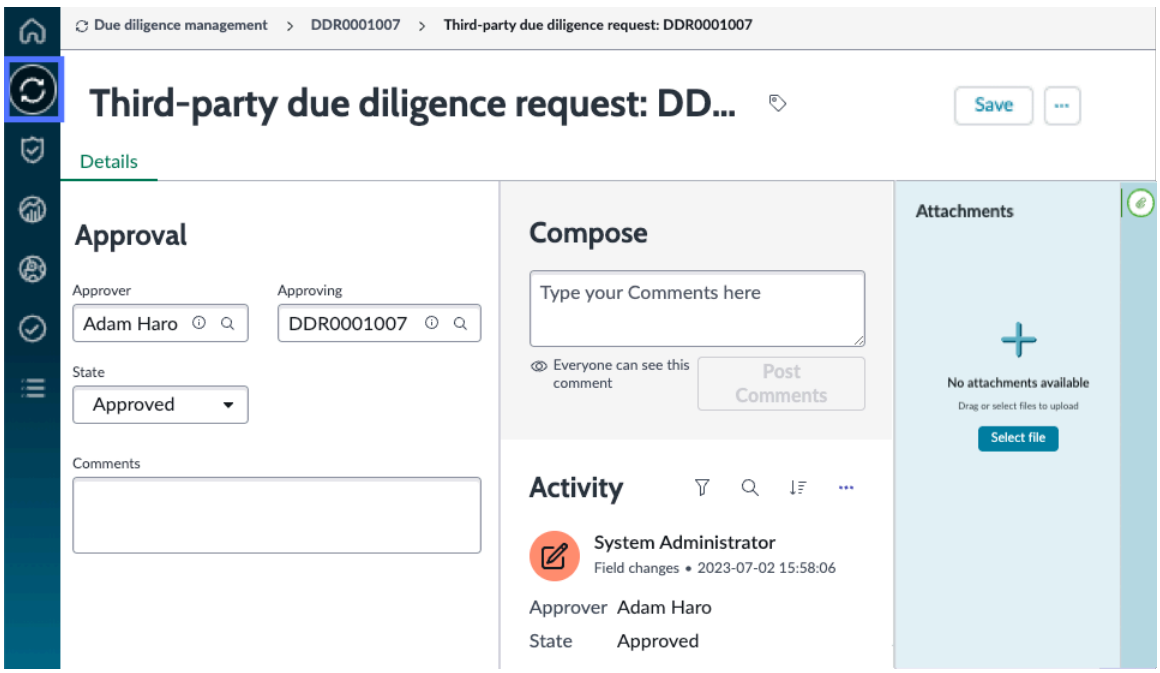
自動翻訳

承認のステータスは、次のいずれかの値になります。

- 未要求
- 要求済み
- 承認済み
- 却下
- キャンセル
- 不要



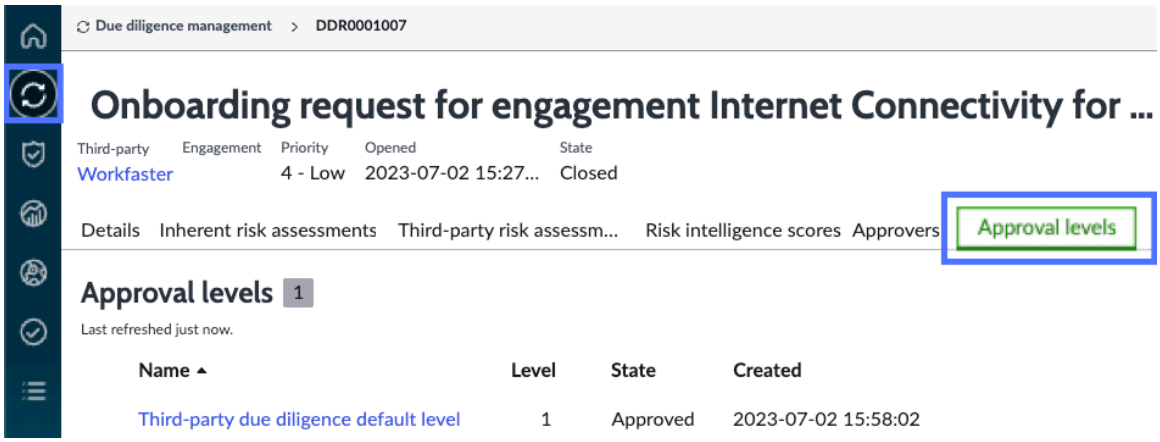
要求の [ステータス] の値を選択して、要求の [詳細] タブを表示します。



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[承認レベル] タブ



注:
サードパーティリスク (TPR) アドミニストレーターが承認レベルとルールを設定する方法の詳細については、「デューデリジェンス要求の承認レベルの設定 と デューデリジェンス要求の承認ルールの設定」を参照してください。

承認ビジネスルール

TPR アドミン [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin] ロールを持っている場合は、次の場所に移動してすべてのビジネスルールを表示できます すべて > システム定義 > ビジネスルール.

サードパーティリスクデューデリジェンス [sn_tprm_dd] アプリケーションがアクティブ化されると、次のビジネスルールが含まれます。

サードパーティリスクデューデリジェンスビジネスルール

ビジネスルール	ソーステーブル	説明
承認レコードを作成	サードパーティのデューデリジェンス要求 [sn_tprm_dd_request]	デューデリジェンス要求のステータスが [承認待ち] に更新されたときに、評価された承認者の承認レコードを作成し、最初のレコードを [要求済み] に、後続のレコードを [未要求] に設定します。
承認をロールアップして DD を更新	承認 [sn_tprm_approval]	複数の承認が必要な場合、次の承認レコードを 要求済み としてマークします。必要なすべての承認レコードが承認されると、デューデリジェンスレコードのステータスが [承認済み] に更新されます。
既存の承認をキャンセル	サードパーティのデューデリジェンス要求 [sn_tprm_dd_request]	承認レコードのステータスが [不要] に更新された場合、承認要求をキャンセルします。

関連情報

デューデリジェンスの要求の承認または却下

デューデリジェンス要求の承認レベルの設定

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デューデリジェンス要求の承認ルールの設定
承認ルールフォーム

承認ルールフォーム

承認ルールフォームには、承認ルールの作成に必要なすべての情報が取り込まれます。アドミンまたはサードパーティリスクアドミンは、承認ルールを作成できます。

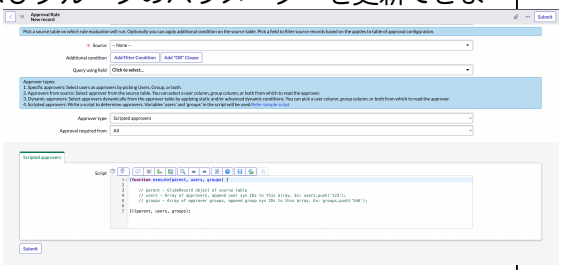
承認ルールフォーム

フィールド	説明
名前	承認ルールの名前。
ソース	承認ルールが適用されるテーブル。 サードパーティのデューデリジェンス要求 [sn_tprm_dd_request] テーブルは、デューデリジェンス要求のソーステーブルです。
フィールドを使用するクエリー	承認テーブルとソーステーブルを接続するフィールド。 **注:** このフィールドは、サードパーティのデューデリジェンス要求 [sn_tprm_dd_request] テーブルをソースとして使用していない場合にのみ必要です。
他の条件	ソーステーブルに適用できるフィルター条件。 これらのフィルター条件によって、ルールが適用されるかが決まります。
承認者タイプ	承認のタイプ： • 特定の承認者：選択した承認者。 • ソースからの承認：ソーステーブルからのユーザーまたはグループ。 • 動的承認者：任意のテーブルから動的に選択された承認者。 • スクリプト化済み承認者：承認者を決定するためのスクリプト。次の例は、[承認者タイプ] として [スクリプト化済み承認者] が選択された、新しい承認ルールレコードを示していま

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認ルールフォーム (続く)

フィールド	説明
	す。スクリプトが開始され、親、ユーザー、およびグループのパラメーターを更新できます。  す。 **注:** セキュリティ上の理由から、アドミンロールのユーザーには、承認ルールフォームの [スクリプト] フィールドへの書き込みアクセス権がありません。承認コンフィギュレーター 開発者のみに、承認ルールフォームの [スクリプト] フィールドへの作成および書き込みアクセス権があります。 アドミンロールを持っている場合は、[承認者タイプ] リストから次のタイプの承認者のみを選択して承認ルールを設定できます。 • 特定の承認者 • ソースからの承認 GRC：承認コンフィギュレーター アプリケーションのロールの詳細については、「GRC：承認コンフィギュレーターとともにインストールされるロール」を参照してください。
次の承認が必要：	承認してもらう必要があるいずれかのユーザーまたはすべてのステークホルダー。
説明	承認ルールに関する簡単なメモ。
承認者	
次からの承認者：	承認者テーブル。 このフィールドは、承認者タイプが [ソースからの承認] または [動的承認者] である場合のみ使用できます。承認者がソーステーブルから取得された場合、このフィールドはデフォルトでソーステーブルになります。
フィルター基準	承認者テーブルからのレコードをフィルターするための条件。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認ルールフォーム (続く)

フィールド	説明
	このフィールドは、承認者タイプが [動的承認者] である場合のみ使用できます。
詳細	スクリプト化された動的条件を設定するためのオプション。
ユーザーフィールド	承認者テーブルからのユーザー参照または承認者のリスト。
グループフィールド	承認者テーブルからの承認者としてのユーザーグループ参照。
動的条件	承認者テーブルに高度なフィルターを適用するためのスクリプトフィールド。
ユーザー	承認者として指定された 1 人以上のユーザー。
グループ	承認者のグループ。
スクリプト化済み承認者	
スクリプト	承認者を決定するためのスクリプト。スクリプト内のユーザーおよびグループが承認者として選択されます。

自動翻訳

リスクインテリジェンスレポート要求の管理

リスクインテリジェンスレポート (RIR) 要求、要求に関連付けられたプロバイダー、スコア、およびレポート URL のリストを表示できます。さらに、 サードパーティリスク管理 アプリケーションを使用して、要求を作成し、更新を行うことができます。

リスクインテリジェンスレポート要求プロセス

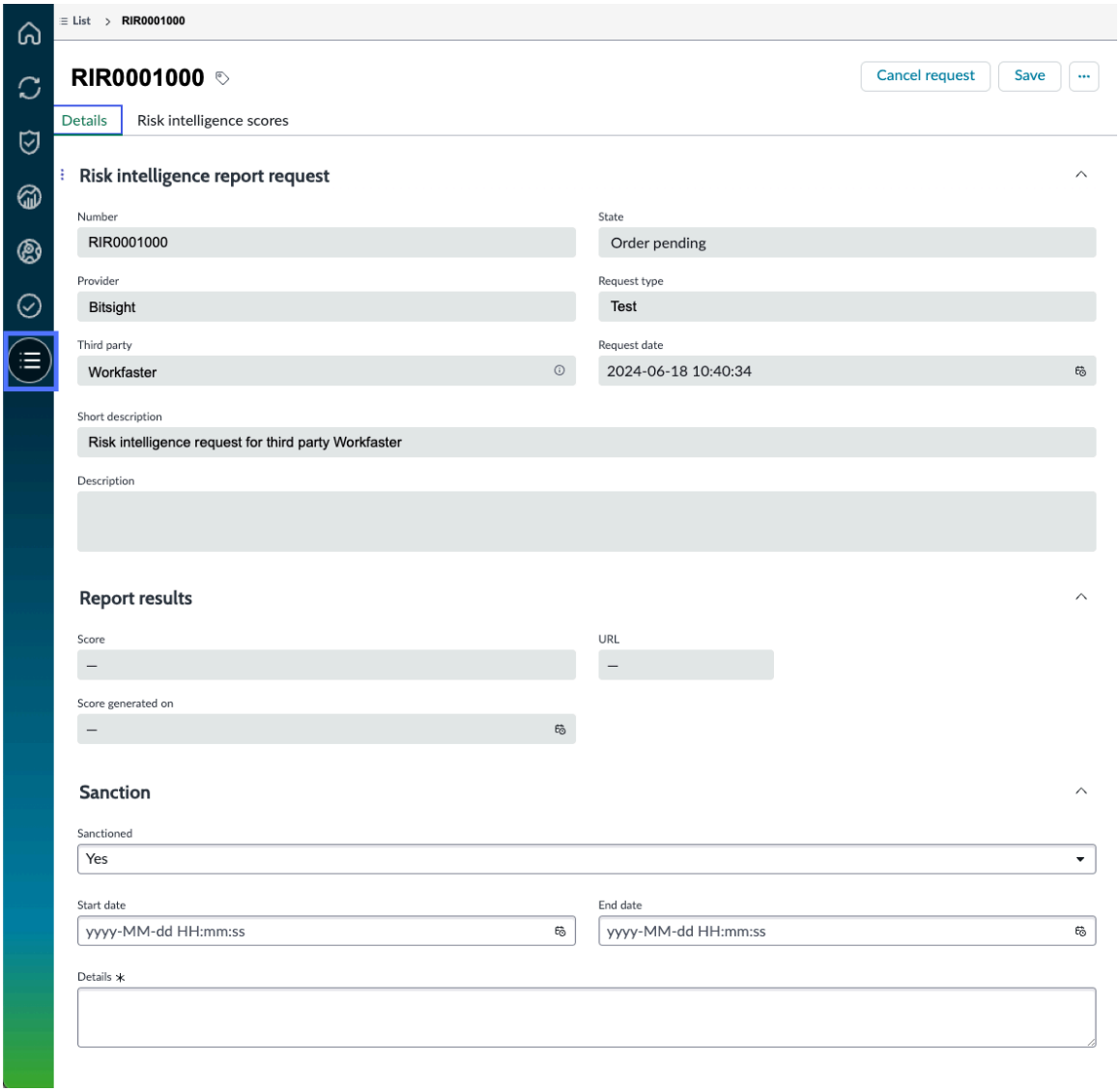
サードパーティリスク (TPR) 査定人 [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_assessor] または TPR マネージャー [sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager] ロールを持っている場合は、RIR またはスコアを要求できます。サードパーティまたはデューデリジェンス要求に関連付けられた RIR 要求を作成できます。RIR 要求をデューデリジェンス要求に関連付ける場合は、固有のリスクに関するアンケート (IRQ) が完了した後 (つまり、デューデリジェンス要求が IRQ 対応中ステータスになった後) に行う必要があります。[制裁] セクションはいつでも更新できます。

詳細については、「リスクインテリジェンスレポートを要求する」、「デューデリジェンス要求に関連付けられたリスクインテリジェンスレポートを要求する」、「リスクインテリジェンスレポート要求フォーム」、および「制裁関連情報の追跡」を参照してください。

次の例は、新しいリスクインテリジェンスレポート要求が ベンダー管理ワークスペース でどのように表示されるかを示しています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクインテリジェンスレポート要求の例



次の表は、RIR 要求で取り込まれる情報を示しています。

リスクインテリジェンスレポート要求

フィールド	説明
リスクインテリジェンスレポート要求セクション	
番号	自動的にアサインされる、テキスト「RIR」で始まる一意の ID 番号。
プロバイダー	要求のリスクインテリジェンス情報の生成を担当する組織。
要求タイプ	提供されるレポートまたはスコアのタイプ。 プロバイダーが提供する各サービスは、特定のタイプのリスク評価またはスコアを返します。たとえば、財務リスクやセキュリティリスクなどです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクインテリジェンスレポート要求 (続く)

フィールド	説明
	注: 使用可能な要求タイプは、プロバイダーの設定内容によって異なります。詳細については、「プロバイダーの要求タイプの設定」を参照してください。
サードパーティ	プロバイダーによって採点されるサードパーティ。
デューデリジェンス要求	リスクインテリジェンス要求に関連付けられているデューデリジェンス要求。デューデリジェンス要求の一部としてリスクインテリジェンスを要求するオプションがあります。 詳細については、「デューデリジェンス要求に関連付けられたリスクインテリジェンスレポートを要求する」を参照してください。
簡単な説明 / 説明	ステークホルダーに対する要求の意図を説明し、明確にするテキスト。
ステータス	要求の現在のステータス。 • オープン • 注文の処理待ち • 進行中の注文 • 完了してクローズ • 未完了でクローズ
要求日	オーダーが保留され、プロバイダーに送信できるようになった日付。
受領日	プロバイダーからの応答を受信した日付。
レポート結果セクション	
スコア	プロバイダーによって決定される総合的なリスクスコア。
URL	生成されたスコアの作成元に関する追加情報へのリンク。
スコア生成日	スコアが生成された日付。
制裁セクション	
制裁	サードパーティが制裁を受けていることを示すために [はい] を選択できるオプション。このフィールドのデフォルトは [いいえ] に設定されています。
開始日	制裁の執行の開始日。
終了日	制裁の執行の終了日。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクインテリジェンスレポート要求 (続く)

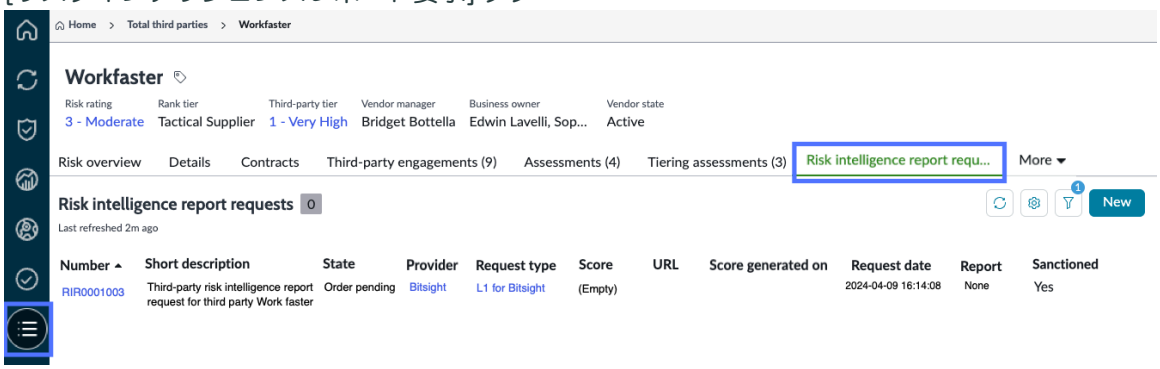
フィールド	説明
詳細	制裁のタイプと、それがサードパーティとのビジネス関係にどのような影響をもたらすかを説明し、明確にするテキスト。

[リスクインテリジェンスレポート要求] タブ

サードパーティのデータを表示しているときに、[リスクインテリジェンスレポート要求] タブを選択してレポート要求のリストを表示できます。

次の例は、ベンダー管理ワークスペース の [リスクインテリジェンスレポート要求] タブを示しています。

[リスクインテリジェンスレポート要求] タブ



RIR 要求の詳細については、「リスクインテリジェンスレポートとスコアの使用」を参照してください。

リスクインテリジェンスレポート要求のステータス

RIR 要求には、次のステータスがあります。

オープン

デューデリジェンス要求にアサインされたサードパーティリスク (TPR) マネージャー、TPR 査定人、または契約交渉担当者によってレコードが作成され、保存された後、RIR 要求はこのステータスになります。 リスクインテリジェンス要求ごとに、テキスト [RIR] で始まる一意の ID 番号が自動的にアサインされます。

注文の処理待ち

デューデリジェンス要求にアサインされたサードパーティリスク (TPR) マネージャー、TPR 査定人、または契約交渉担当者によってレコードがレビューおよび送信された後、RIR 要求はこのステータスになります。

次の変更が行われます。

- プロバイダーに注文が送信されました。
- [要求日] フィールドには、このレコードが送信された日付が入力されています。
- [リスクインテリジェンスレポート要求] セクションのすべてのフィールドは読み取り専用です。

進行中の注文

プロバイダーが注文を受領した後、RIR 要求はこのステータスになります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次の変更が行われます。

- スコアレコードはレポート要求と一緒に生成されます。
- [スコア生成日] フィールドが更新されます。

未完了でクローズ

プロバイダーが注文を受領したがエラーのために処理できず、注文をクローズすると、RIR 要求はこのステータスになります。

完了してクローズ

プロバイダーが注文を受領して処理すると、RIR 要求はこのステータスになります。

キャンセル

TPR マネージャー、TPR 査定人、または契約交渉担当者がレポート要求をキャンセルすると、RIR 要求はこのステータスになります。要求をキャンセルする必要がある場合は、その要求が [オープン] または [注文の処理待ち] ステータスであればキャンセルできます。キャンセルされた要求の複製を作成しようとしても、そのレコードを編集することはできません。新しい RIR 要求を作成する必要があります。

関連情報

リスクインテリジェンスプロバイダーからのスコアの統合

リスクインテリジェンスレポート要求フォーム

リスクインテリジェンスプロバイダーの統合

EcoVadisと サードパーティリスク管理の統合

リスクインテリジェンスレポート要求フォーム

リスクインテリジェンス要求フォームを使用して、サードパーティリスク管理 を使用してリスクインテリジェンスを要求するために必要なすべての情報を取得します。デューデリジェンス要求にアサインされたサードパーティリスクマネージャー、サードパーティリスク査定人、および契約交渉者は、リスクインテリジェンスを要求できます。

リスクインテリジェンスレポート要求

フィールド	説明
リスクインテリジェンスレポート要求セクション	
番号	テキスト「RIR」で始まる一意の ID 番号が自動的にアサインされます。
プロバイダー	要求のリスクインテリジェンス情報の生成を担当する組織。
要求タイプ	提供されるレポートまたはスコアのタイプ。 プロバイダーが提供する各サービスは、特定のタイプのリスク評価またはスコアを返します。 たとえば、 Black Kite から注文された、サイバーリスク情報の概要を示すリスクインテリジェンスレポートは、「レベル 1 - 一般サイバーリスクレポート」要求タイプに分類できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクインテリジェンスレポート要求 (続く)

フィールド	説明
	注: 使用可能な要求タイプは、プロバイダーの設定内容によって異なります。詳細については、「プロバイダーの要求タイプの設定」を参照してください。
サードパーティ	プロバイダーによって採点されるサードパーティ。
デューデリジェンス要求	リスクインテリジェンス要求に関連付けられているデューデリジェンス要求。デューデリジェンス要求の一部としてリスクインテリジェンスを要求するオプションがあります。 詳細については、「デューデリジェンス要求に関連付けられたリスクインテリジェンスレポートを要求する」を参照してください。
簡単な説明 / 説明	ステークホルダーに対する要求の意図を説明し、明確にするテキスト。
ステータス	要求の現在のステータス。 • オープン • 注文の処理待ち • 進行中の注文 • 完了してクローズ • 未完了でクローズ
要求日	オーダーが保留され、プロバイダーに送信できるようになった日付。
受領日	プロバイダーからの応答を受信した日付。
レポート結果セクション	
スコア	プロバイダーによって決定される総合的なリスクスコア。
URL	生成されたスコアの作成元に関する追加情報へのリンク。
スコア生成日	スコアが生成された日付。
制裁セクション	
制裁	サードパーティが制裁を受けていることを示すために [はい] を選択できるオプション。このフィールドのデフォルトは [いいえ] に設定されています。
開始日	制裁の執行の開始日。
終了日	制裁の執行の終了日。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクインテリジェンスレポート要求 (続く)

フィールド	説明
詳細	制裁のタイプと、それがサードパーティとのビジネス関係にどのような影響をもたらすかを説明し、明確にするテキスト。

関連情報

- リスクインテリジェンスレポートとスコアの使用
- リスクインテリジェンスレポートを要求する
- デューデリジェンス要求に関連付けられたリスクインテリジェンスレポートを要求する
- 制裁関連情報の追跡

従来のアセスメントエンジンを使用したスコア計算

サードパーティリスク管理 アプリケーションを使用して、複数の評価とスコアを計算する際に、包括的な外部リスクアセスメントを実行します。全体的な計算プロセスをより深く理解し、ユーザー定義のパラメーターと構成がアンケート結果にどのような影響を与えるかを知ることができます。

リスク評価スケール

アンケートが作成されるたびに、デフォルトのリスク評価が適用されます。カテゴリ、最小値、最大値を含むリスク評価スケールを構成すると、アセスメントごとに異なる特定のアンケートのニーズを満たすことができます。たとえば、リスク評価値を、**[1-**非常に高い **(1-Very High)]** から **[5-**非常に低い **(5-Very Low)]** ではなく、色で定義することができます。

次の例は、ベースシステムの一部として提供されるデフォルトのリスク評価を示しています。

デフォルトのリスク評価スケール

Default Risk Rating Scales View: Third-party risk New

Risk rating	Order ▲	Minimum	Maximum
1 - Very High	1	0	19
2 - High	2	20	39
3 - Moderate	3	40	59
4 - Low	4	60	79
5 - Very Low	5	80	100

スコア計算メカニズム

各外部アセスメントのスコア計算メカニズムでは、 ServiceNow AI Platform® アセスメントスコア計算エンジンが使用されます。このエンジンは、動的に再計算される一連の関連する式を使用することで、計算を実行します。計算されたアセスメント評価に影響する次のパラメーターを定義します。

- 質問 (メトリクス)

  質問を定義する方法の詳細については、「質問の定義」を参照してください。

- メトリクススケールの定義

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

メトリクスを定義する方法の詳細については、「質問の定義」を参照してください。

- カテゴリ

  カテゴリを定義する方法の詳細については、「質問集の設定と維持」を参照してください。

- 重み付け

  重み付けを定義する方法の詳細については、「コンポーネント基準を定義する」を参照してください。

- リスク評価スケール

  リスク評価スケールを定義する方法の詳細については、「採点用のリスク評価スケールの設定」を参照してください。

- ビジネスサービス評価スケール

  スコア計算の最後に、サービス [cmdb_ci_service] テーブルで定義したビジネスサービスにサードパーティまたはエンゲージメントが関連付けられている場合、計算にはその重要度の重み付けが組み込まれます。ビジネスサービスによって、関連するリスクのレベルは異なります。重要度の重み付けを調整することで、結果の値を使用してリスク軽減戦略を調整できます。

  注:
  回答された質問のみが全体的な計算に寄与します。

  重要度の重み付けを定義するには、次に移動します: すべて > セルフサービス > サードパーティリスク管理 > アセスメントのセットアップ > ビジネスサービス評価スケール.

  ベースシステムの一部として、4 つの評価が定義されています。

  - 1 - 最重要
  - 2：ある程度重要
  - 3：やや重要
  - 4 - 重要ではない

  各サードパーティまたはエンゲージメントを複数のビジネスサービスに関連付けることができます。

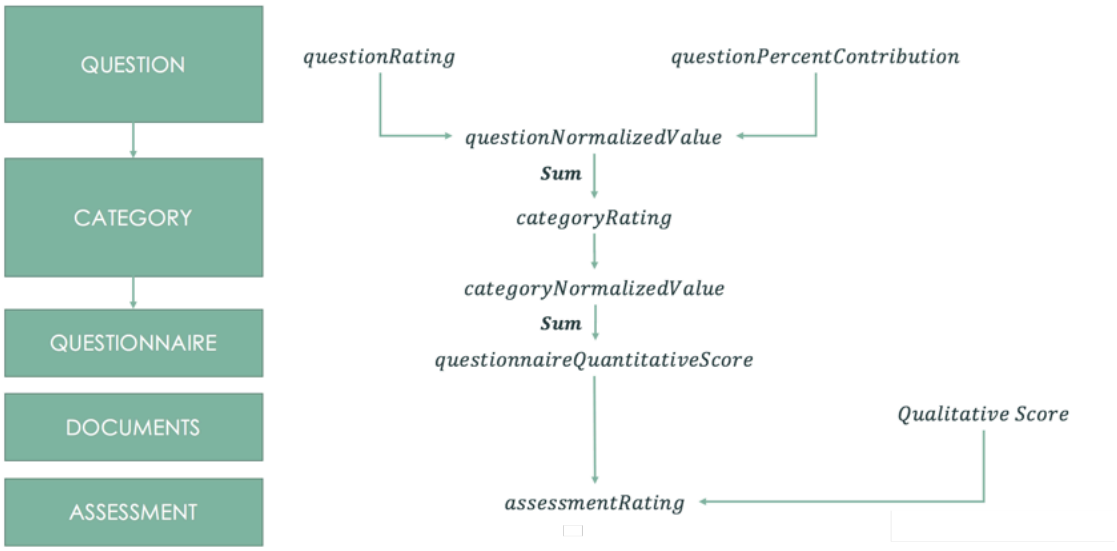
注:
ビジネスサービスとは、メール、IT サービス、e-コマースなどのサービスを提供するために定義された一連のタスクまたはアクティビティのことです。

次のインフォグラフィックは、アセスメント評価の計算プロセスを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメント評価の計算プロセス



1. アンケートの各質問では次の値が計算されます。
   a. questionRatings：各質問の評価は回答によって計算されます。評価は、メトリクススケールの定義と回答に関連付けられた値によって決定されます。questionRating は、テーブルに格納される値ではありません。
   b. questionPercentContribution：カテゴリ内の各質問の寄与率は、この計算によって決定されます。この値は、サードパーティのリスクマネージャーによって質問にアサインされた重み付けとカテゴリ全体の重み付けに基づいています。questionPercentContribution は、テーブルに格納される値ではありません。
   c. questionNormalizedValue：各質問の正規化値は、質問の評価、質問の寄与率、および定数値 (100) を乗算して計算されます。この値を使用すると、異なる重み付けと評価を持つ質問を比較できます。
2. 各アンケートのカテゴリでは、次の評価が計算されます。
   a. categoryRating：各カテゴリの評価は、カテゴリ内のすべての質問の正規化値を合計することによって計算されます。カテゴリ評価は、関連付けられているリスク評価スケールから導き出されます。
   b. categoryNormalizedValue：カテゴリ評価は、すべてのカテゴリの値を比較できるように、カテゴリの重み付けを乗算することで正規化されます。
3. Questionnaire、questionnaireQuantitativeScore：アセスメントの全体的な定量スコアは、正規化されたカテゴリスコアの合計によって計算されます。このスコアは、アンケートのリスクスコアを表します。
4. Documents、Qualitative Score：文書要求の定性的リスク評価の計算は、文書要求のデフォルトの質問「文書「文書名」をお持ちですか？」に対する回答に基づいています。この評価は、必要に応じて、サードパーティリスク査定人が変更できます。
5. Assessment、assessmentRating：アセスメントの最終評価は、各サードパーティリスク領域内のアンケートと文書要求の加重平均を取ることによって計算されます。重み付けは、リスク領域の採点方法によって決定されます。

注:
回答された質問のみが全体的な計算に寄与します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

質問の [採点済み] オプション

採点済みオプション (採点済み チェックボックス) の選択はオプションです。特に明記されていない限り、すべての質問の回答は採点されます。スコアリング済みオプションは、スコアリング動作を変更します。[採点済み] オプションが選択されている場合、スコアは常に 0 または 100 で、回答が正しいか正しくないかを反映し、questionRating 式と questionPercentContribution 式は使用されません。正規化値は 0 または 100 に直接設定されます。[採点済み] チェックボックスが選択されていない場合、スコアは questionRating および questionPercentContribution 式を使用して計算され、正規化値が決定されます。[最大正規化] 入力フィールドの選択は、[採点済み] チェックボックスがオフの場合にのみ適用されます。これは、正規化の最大値を定義するために使用され、スコアは入力値と重み付けに基づいて変化する可能性があるためです。[採点済み] チェックボックスがオンになっている場合、[最大正規化] 入力フィールドは適用されず、[正規化値] は単に 0 または 100 になります。質問と正規化されたスコアの詳細については、「 質問集の設定と維持、 質問の定義 、および メトリクスのスコアの正規化」を参照してください。

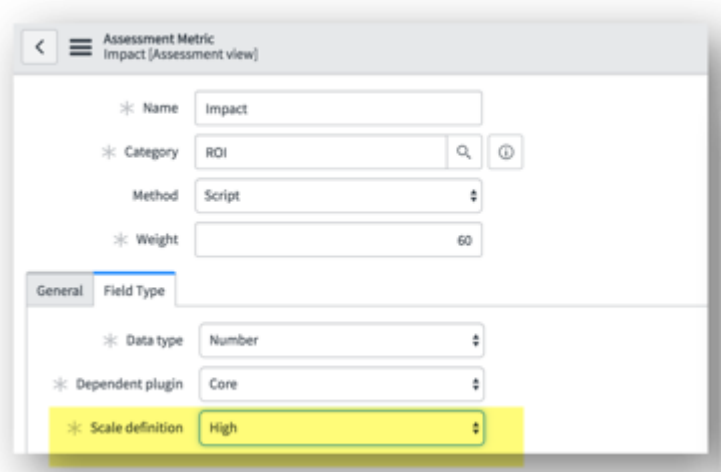
questionRating の計算

questionRating の計算を使用すると、他のメトリクスと比較した場合の、個別のアセスメントメトリクスの相対的な重要度を定義できます。これは、プロセスの後半で正規化値を計算する際の重要な変数です。

個々のアセスメントメトリクスの [スケール定義] は、[高 **(High)]** または [低 **(Low)]** に設定して定義できます。

次の例では、[アセスメントメトリクス (Assessment Metric)] フォームでメトリクススケール定義フィールドがどのように定義されたかを示しています。

メトリクススケール定義の例



- [高] は、大きな数値が肯定的な結果を示していることを意味します。メトリクススケール定義が高い場合は、次の式が使用されます。

  `questionRating = (value - minValue) / (maxValue - minValue)`

- [低] は、小さな数値が肯定的な結果を示していることを意味します。メトリクススケール定義が低い場合は、次の式が使用されます。

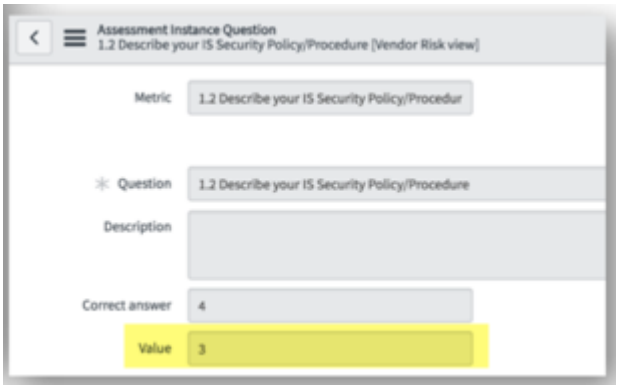
  `questionRating = 1 - ((value - minValue) / (maxValue - minValue))`

次の例は、[インスタンスのアセスメントの質問] フォームで定義されている質問値フィールドを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントの質問値の例



式で使用される [値] は、質問に対する回答から取得されます。メトリクスの設定では、正解 (値) と、他の不正解または望ましくない回答に関連付けられた他の値を定義します。questionRating は、テーブルに格納される値ではありません。

questionPercentContribution の計算

questionPercentContribution は、アセスメントメトリクスが含まれているカテゴリ内での、そのアセスメントメトリクスの重要度を定義します。これは、プロセスの後半で正規化値を計算する際に使用される重要な変数です。

questionPercentContribution の計算には、以下の式が使用されます。

questionPercentContribution = (questionWeight / sumOfAllQuestionWeightsWithinCategory)

注:
sumOfAllQuestionWeightsWithinCategory は、回答された質問のカテゴリ内の重み付けの合計です。

[カテゴリ] は、アセスメント可能なレコードを評価するためのテーマをメトリクスタイプで表します。このカテゴリの例として、投資利益率 (ROI)、リスク、パフォーマンス、セキュリティ、個人データなどを定義することができます。

[重み付け] は、他のメトリクスと比較して、メトリクスの重要度を示す数値です。カテゴリの全体的な重み付けに比例して重み付けが大きいほど、最終スコアに強く影響します。重み付けを定義し、任意の整数に設定して、質問とカテゴリに適用できます。

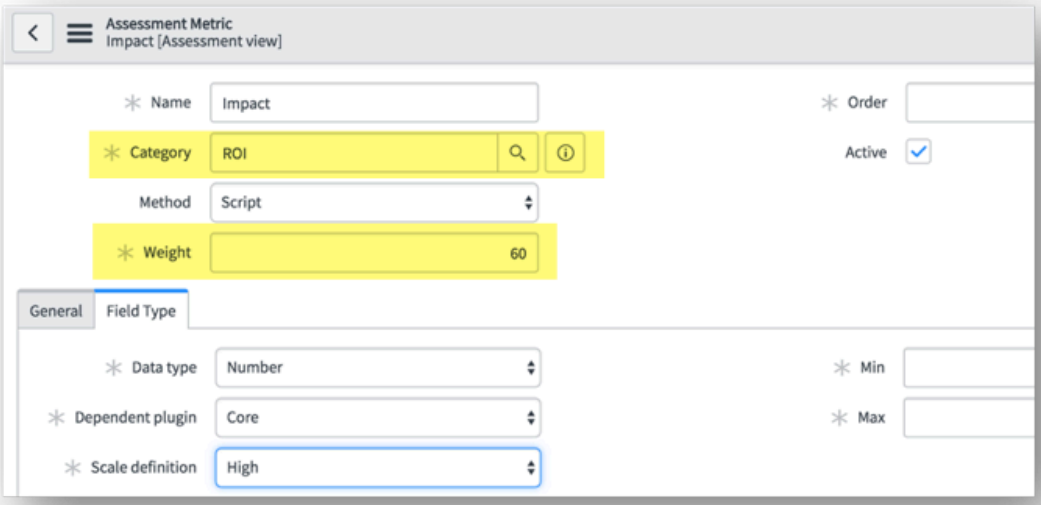
注:
questionPercentContribution は、テーブルに格納される値ではありません。

次の例では、[アセスメントメトリクス (Assessment Metric)] フォームで定義できる質問の [カテゴリ] と [重み付け] フィールドを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントの質問カテゴリと重み付けの例



questionNormalizedValue の計算

questionNormalizedValue は、異なる重み付けと評価を持つ質問を同じスケールで同等に比較できるようにします。

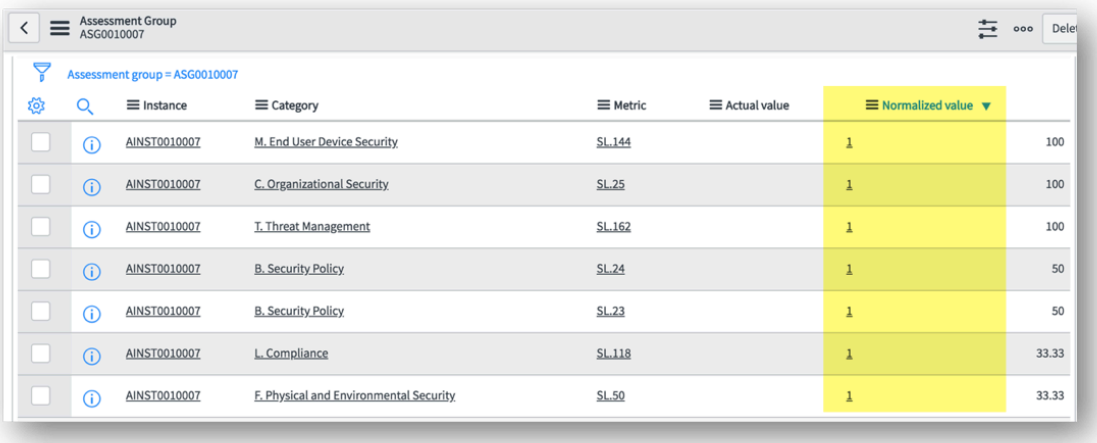
questionNormalizedValue の計算には、以下の式が使用されます。

questionNormalizedValue = 100 * questionRating * questionPercentContribution

アンケートのすべての質問 (アセスメントメトリクス) に対する回答には、[正規化値 **(Normalized Value)]** があります。この正規化値により、後でカテゴリと全体的なアセスメント結果にロールアップされる意味のある比較を行うことができます。

次の例は、アセスメントグループの正規化値のリストを示しています。

アセスメントグループの正規化値リストの例



categoryRating の計算

カテゴリ内のメトリクスごとに正規化値があるため、categoryRating は、カテゴリ間の比較を容易にするために、categoryNormalizedValue 式を使用して正規化できるカテゴリ全体の値を計算します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

questionPercentContribution の計算には、以下の式が使用されます。

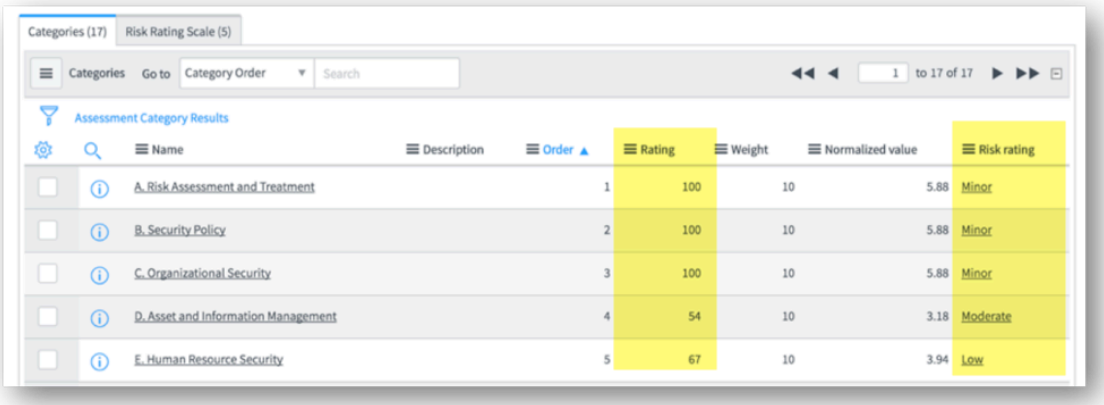
categoryRating = sumOfAllQuestionNormalizedValuesWithinCategory

カテゴリ [評価] は、カテゴリ内のメトリクスのすべての正規化値の合計です。

各カテゴリの指定された [リスク評価] は、関連付けられているリスク評価スケールから導出されます。

次の例は、アセスメントカテゴリのカテゴリ評価とリスク評価のリストを示しています。

カテゴリ評価とリスク評価のリストの例



categoryNormalizedValue の計算

カテゴリ評価が確立されると、categoryNormalizedValue 式は、この評価とカテゴリの重み付けを使用してすべてのカテゴリの結果を正規化します。

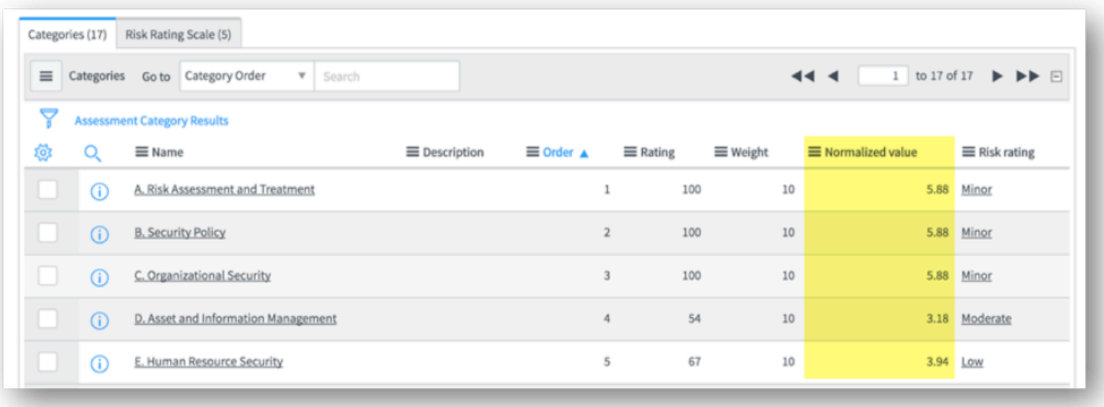
categoryNormalizedValue の計算には、以下の式が使用されます。

categoryNormalizedValue = categoryRating * (categoryWeight / sumOfAllCategoryWeights)

この正規化値は、後でカテゴリと全体的なアセスメント結果にロールアップされる、より意味のある比較を実施します。**categoryWeight** 値が大きいほど、カテゴリの正規化値が増加します。

次の例は、アセスメントカテゴリの正規化値のリストを示しています。

カテゴリ正規化値のリストの例



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

questionnaireQuantitativeScore の計算

すべてのカテゴリを正規化すると、アセスメントの全体的な定量的スコアが計算されます。

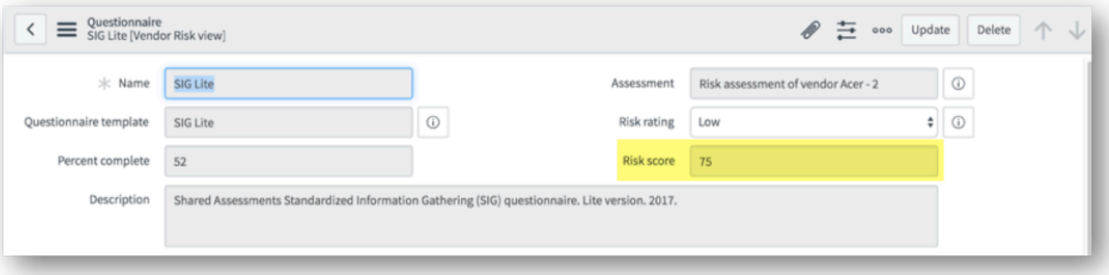
questionnaireQuantitativeScore の計算には、以下の式が使用されます。

questionnaireQuantitativeScore = sumOfAllCategoryNormalizedValues

questionnaireQuantitativeScore 式の出力は、正規化されたカテゴリスコアの合計です。アンケートのレコードに [リスクスコア] として表示されます。

次の例は、アンケートのリスクスコアを示しています。

リスクスコアを含むアンケートレコードの例



ドキュメントの定性的スコア

文書要求には、定性的スコアであるリスク評価があります。予備的なリスク評価は、「『文書名』という文書はありますか？」というデフォルトの質問に対する回答に基づいています。

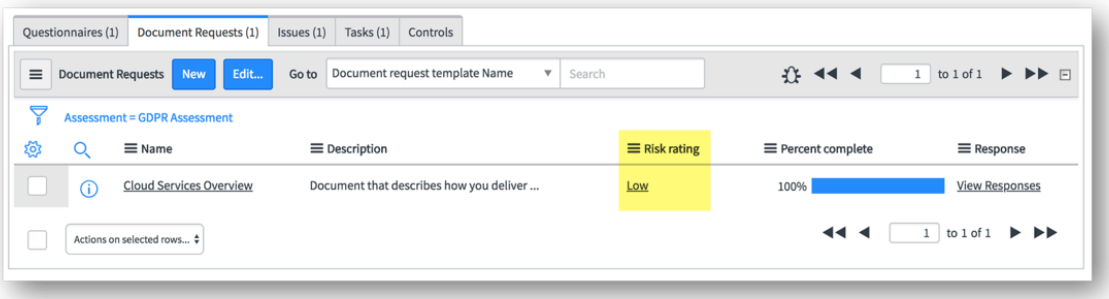
文書のリスク評価では、次のテーブルに示されているスケールを使用します。

文書のリスク評価スケール

応答	リスク評価
はい	低
いいえまたは未応答	高
適用外	中

次の例は、文書の要求のリスク評価を示しています。

文書の要求のリスク評価の例



文書をレビューすると、欠陥があることが判明する場合があるため、サードパーティリスク査定人はデフォルトの評価を変更できます。アセスメントでは、現在の [リスク評価] と [元のリスク評価] が

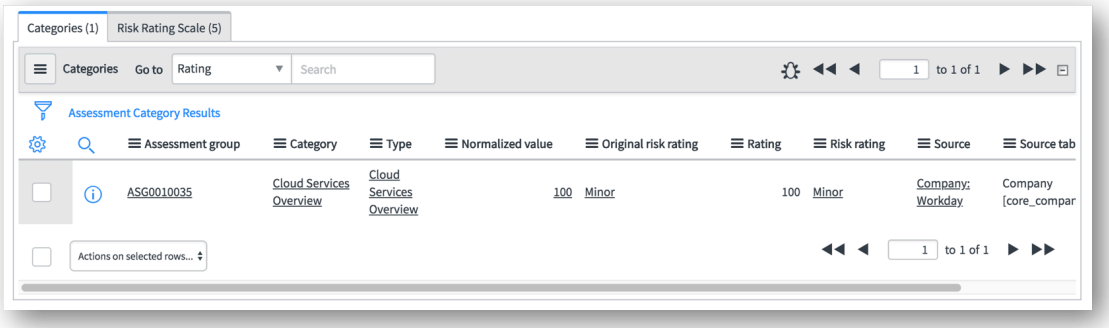
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

保持されます。各カテゴリの指定された [リスク評価] は、関連付けられているリスク評価スケールから導出されます。

次の例は、元のリスク評価と現在のリスク評価を含む [カテゴリ] 関連リストを示しています。

カテゴリ関連リストの例



assessmentRating の計算

外部アセスメントの場合、アセスメントの最終評価は、各サードパーティリスク領域内のアンケートと文書要求の加重平均として計算されます。

assessmentRating の計算には、以下の式が使用されます。

assessmentRating = (AVG (リスク領域に関するアンケート + 文書要求) * そのリスク領域にアサインされた重み付け + (別のリスク領域に関するアンケート + 文書要求) * そのリスク領域にアサインされた重み付け) / 重み付けの合計

- アンケート 1 = セキュリティリスク領域で定義
- アンケート 2 = 財務リスク領域で定義
- アンケート 3 = 財務リスク領域で定義
- 文書要求 1 = セキュリティリスク領域で定義

リスク領域基準は、下表の例のように設定されます。

リスク領域基準

リスク領域	採点方法	重み付け
セキュリティリスク	平均リスク	10
財務リスク	最大リスク	20

アセスメントの最終評価は次の式を使用して計算されます。

assessmentRating = AVG (アンケート 1 + 文書要求 1) * 10 + MAX (アンケート 2 + アンケート 3) * 20 / (10 + 20)

最終評価は、サードパーティまたはエンゲージメントに対して実施されたすべてのアセスメントのスコアと評価を考慮した総合的なアセスメント評価になります。これは、各リスク領域内のアンケートと文書要求の加重平均を取ることによって計算されます。この計算プロセスでは、これらのパラメーターと構成の定義方法に基づいて、関連するすべてのメトリクス、カテゴリ、および重み付けが確実に考慮されます。この計算プロセスと関連する要素は、最終的な評価に基づいて、十分な情報に基づいて意思決定を行い、適切な措置を講じるのに役立ちます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
リスク評価とスコアリング計算の検証については、「 従来のアセスメントエンジンを使用したスコア計算の検証」を参照してください。

関連情報

従来のアセスメントエンジンを使用したスコア計算の検証

従来のアセスメントエンジンを使用したスコア計算の検証

アンケートでスコアとリスク評価を確認し、重み付け、正規化値、採点方法、およびリスク評価スケールの正しい適用を検証することで、リスクスコアリングの正確性と一貫性を確保できます。割り当てたさまざまな重み付けに基づいて、 サードパーティリスク管理 はこれらの値を平均し、リスク全体の複合スコアを生成します。

検証チェックリスト

ベンダー管理ワークスペース または VRM クラシックユーザーインターフェイスを使用して関連するすべてのアクションを実行するには、[sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor] または [sn_vdr_risk_asmt.vendor_manager] ロールが必要です。アセスメントの構成と設定の詳細については、「 クラシックアセスメントの構成」を参照してください。

スコアとリスク評価を確認する際に確認できる構成の一部を次に示します。

チェックリストアイテム

構成	説明
採点方法	正しい採点方法が選択されていることを確認します。 リスク領域ドメイン、リスク領域基準、およびコンポーネント基準の採点方法を選択または更新できます。たとえば、平均リスクではなく最小リスクがアセスメント目標に合致している場合は、その方法が使用されていることを確認します。 詳細については、「サードパーティリスクドメインを定義」、「サードパーティリスク領域基準を定義」、「コンポーネント基準を定義する」を参照してください。
重み付け	リスク領域、リスク基準、リスクコンポーネント、および質問に適用される重み付けの正確性を検証します。 カスタムの重み付けを適用して、さまざまなタイプのリスクの重要性と優先度を反映させることができます。 質問の重み付け値は整数である必要があります。小数点以下桁数を使用すると、スコアが不正になります。たとえば、0.56 ではなく 56 を使用します。 重み付けをアサインまたは更新する方法の詳細については、「 サードパーティリスクドメインを定義」、「 サードパーティリスク領域基準を定義」、「 コンポーネント基準を定義する」、および「 質問の定義」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

チェックリストアイテム (続く)

構成	説明
採点計算	計算、正規化値、未回答の質問が想定どおりに機能していることを確認します。たとえば、未回答の質問がスコア計算に含まれていないことを考慮していることを確認します。 スコアと評価の計算に使用されるさまざまな式の詳細については、「従来のアセスメントエンジンを使用したスコア計算」を参照してください。 正規化値を使用して、採点済みチェックボックスがオフになっている選択肢または複数選択の質問のアセスメントスコアを計算する方法については メトリクスのスコアの正規化。

リスク評価の表示方法

個々のサードパーティ、エンゲージメント、アセスメント、アンケートのリスク評価を表示できます。

次のリスク評価を表示できます。

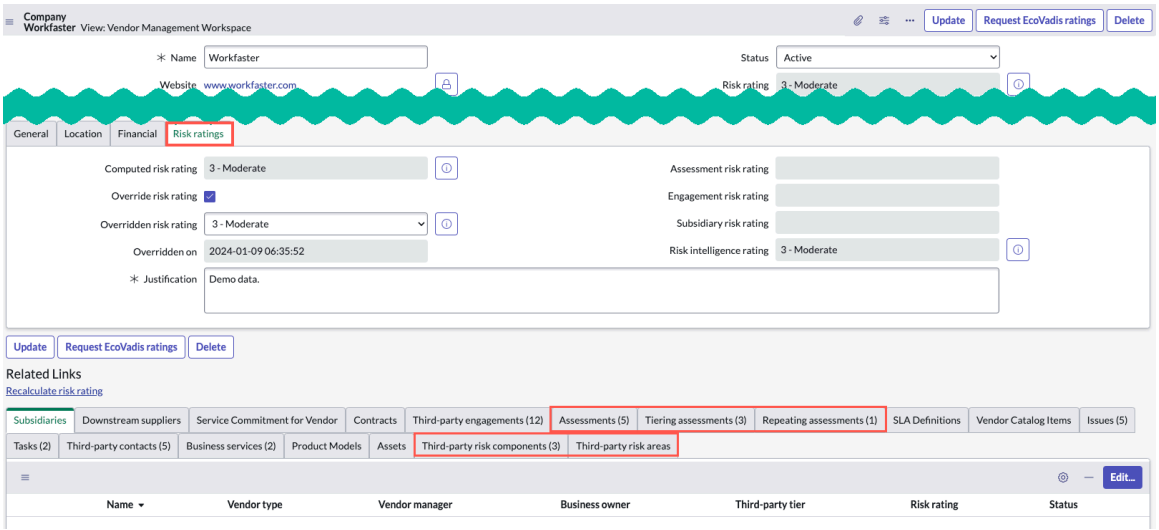
- 計算済みリスク評価:アセスメント後に計算された、サードパーティの全体的なリスク評価。
- サードパーティ評価:すべてのエンゲージメント評価の集計。
- エンゲージメントリスク評価:コンポーネント基準によって決定
- 子会社のリスク評価:company1 に子会社として company2 と company3 がある場合、company2 と company3 の最終評価の合計が company1 の子会社の評価になります。
- リスクインテリジェンス評価:すべてのプロバイダー評価の集計。
- アセスメント評価:カテゴリや計算などで定義された重み付けによって決定されます。

> **注:**
> リスク評価とスコアは、アセスメントが完了し、プロバイダーからスコアが統合された後にのみ表示できます。

サードパーティに関連付けられているすべての評価を表示するには、その [リスク評価] 関連リストに移動します。移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > サードパーティ > すべてのサードパーティ をクリックし、目的のサードパーティを選択します。次の例は、利用可能なすべてのリスク評価に加えて、サードパーティリスクコンポーネント、サードパーティリスク領域、アセスメント、階層アセスメント、繰り返しアセスメント関連リストなどを表示できることを示しています。

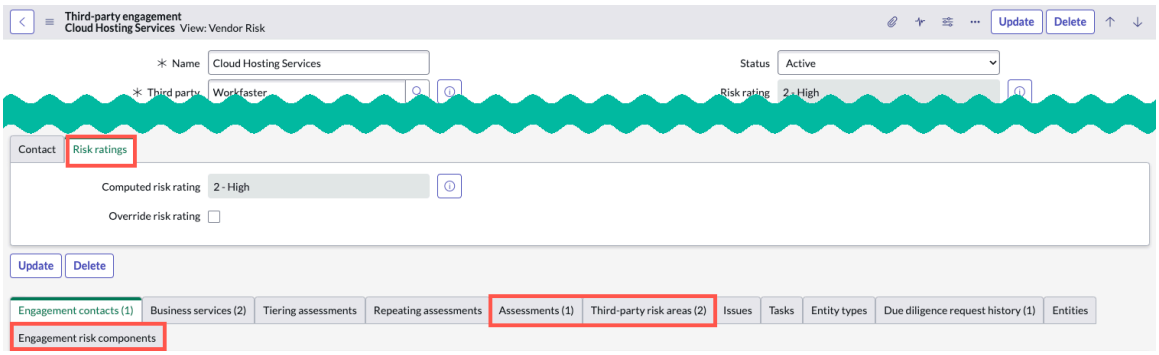
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティレコードの例



[リスク評価] 関連リストに移動すると、エンゲージメントに関連付けられているすべての評価を表示できます。移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > エンゲージメント > すべてのエンゲージメント をクリックし、目的のエンゲージメントを選択します。次の例は、利用可能なすべてのリスク評価に加えて、エンゲージメントリスクコンポーネント、サードパーティリスク領域、アセスメント、階層アセスメント、繰り返しアセスメント関連リストなどを表示できることを示しています。

エンゲージメントレコードの例

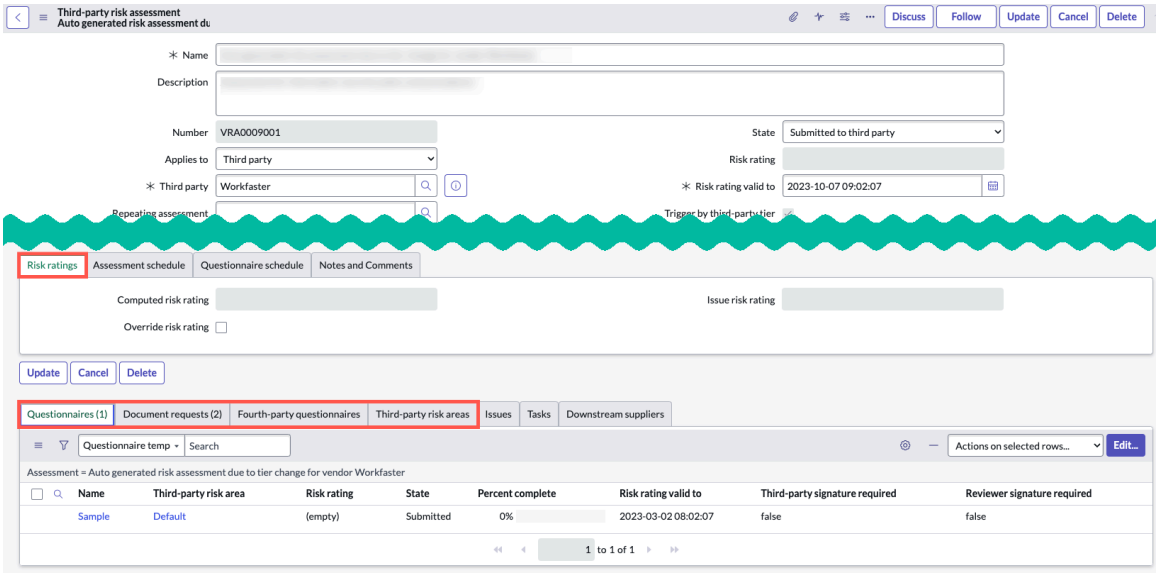


リスク評価関連リストに移動すると、アセスメントに関連付けられているすべての評価を表示できます。移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > 外部リスクアセスメント > すべてのアセスメント をクリックし、必要なアセスメントを選択します。次の例は、利用可能なすべてのリスク評価に加えて、サードパーティリスク領域、アンケート、文書要求、ダウンストリームサプライヤー関連リストなどを表示できることを示しています。

自動翻訳

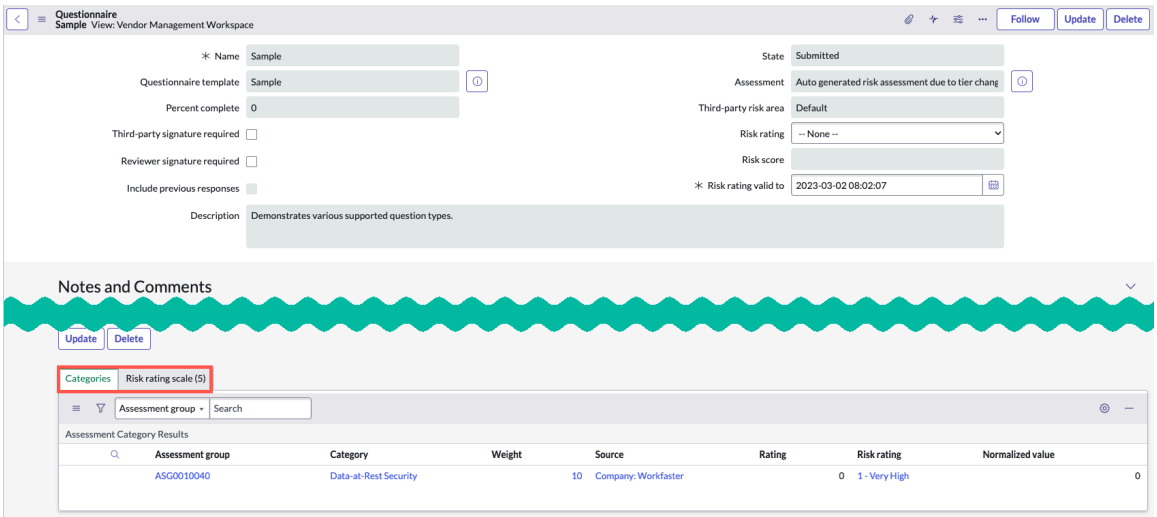
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アセスメントレコードの例



アンケートのリスク評価リストに移動すると、アンケートに関連付けられているすべての評価を表示できます。アセスメントに移動した後、表示するアンケートを選択します。次の例は、利用可能なすべてのリスク評価、リスクスコアなどを表示できることを示しています。

アンケートレコードの例



サードパーティリスク管理のデータモデル

サードパーティリスク管理 (TPRM) データモデルを使用して、リスク管理プログラムのリスクを評価、監視、および軽減します。

TPRM データモデルの概要

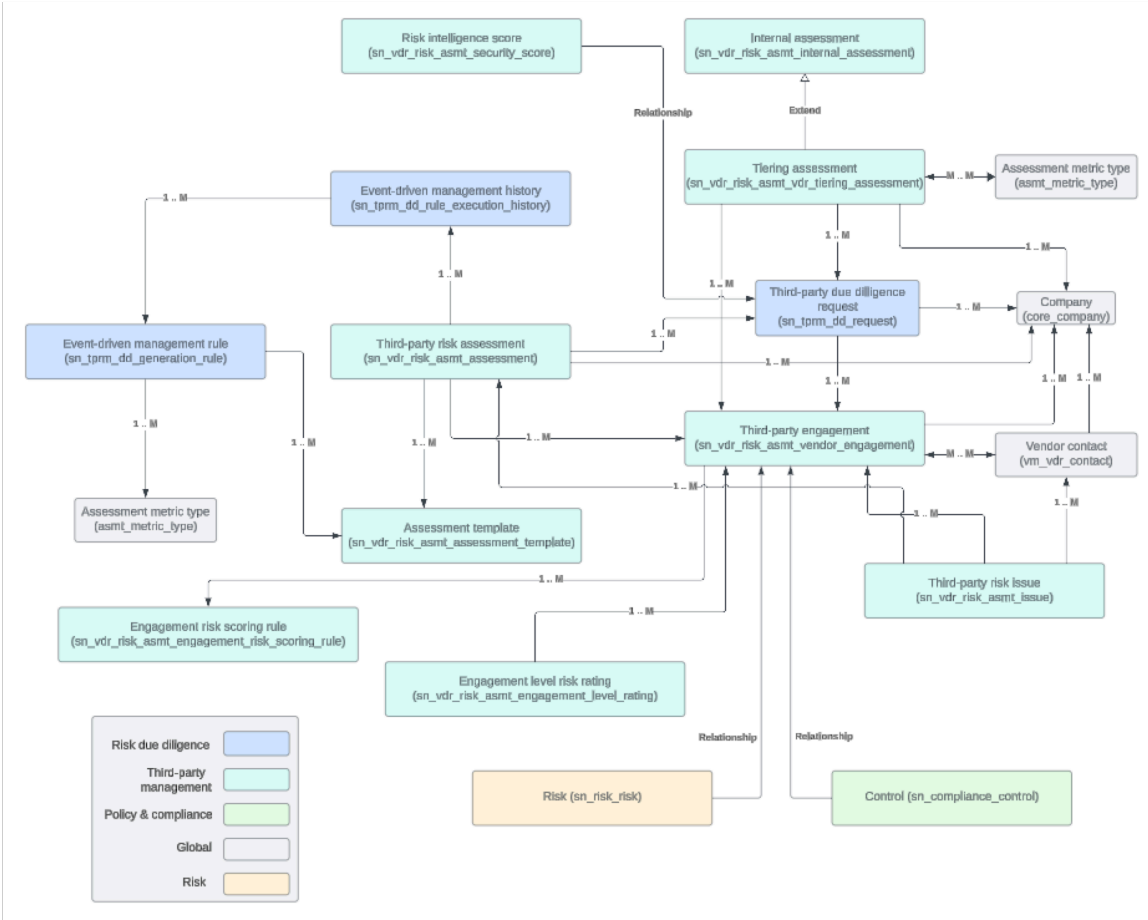
サードパーティリスク管理 アプリケーションは、ガバナンス、リスク、コンプライアンス 製品の 1 つです。

次のモデルは、TPRM の機能をサポートするために使用されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

TPRM データモデル



サードパーティリスクアセスメントのデータモデルには、さまざまなコンポーネントと関係が含まれています。

コンポーネント：

- リスクインテリジェンススコア [sn_vdr_risk_asmt_security _score]
- 内部アセスメント [sn_vdr_asmt_internal_assessment]
- 階層アセスメント [sn_vdr_risk_asmt_vdr_tiering_assessment]
- イベント駆動型管理履歴 [sn_tprm_dd_rule_execution_history]
- サードパーティのデューデリジェンス要求 [sn_tprm_dd_request]
- 会社 [core_company]
- イベント駆動型管理ルール [sn_tprm_dd_generation_rule]
- サードパーティリスクアセスメント [sn_vdr_risk_asmt_assessment]
- サードパーティエンゲージメント [sn_vdr_risk_asmt_vendor_engagement]
- ベンダー連絡先 [vm_dr_contact]
- アセスメントメトリクスタイプ [asmt_metric_type]
- アセスメントテンプレート [sn_vdr_risk_asmt_assessment_template]
- サードパーティリスク問題 [sn_vdr_risk_asmt_issue]
- エンゲージメントリスクスコアリングルール [sn_vdr_risk_asmt_engagement_risk_scoring_rule]

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- エンゲージメントレベルリスク評価 [sn_vdr_risk_asmt_engagement_level_rating]
- リスク [sn_risk_risk]
- コントロール [sn_compliance_control]

関係：

- サードパーティリスクアセスメントコンポーネントは、次のコンポーネントと 1 対多の関係を持つことができます。
  - イベント駆動型管理履歴
  - サードパーティのデューデリジェンス要求
  - 会社
  - サードパーティエンゲージメント
  - サードパーティリスクの問題
  - アセスメントテンプレート
- イベント駆動型管理履歴コンポーネントは、イベント駆動型管理ルールコンポーネントと多対 1 の関係を持つことができます。
- イベント駆動型管理ルールコンポーネントは、アセスメントメトリクスタイプコンポーネントおよびアセスメントテンプレートコンポーネントと 1 対多の関係を持つことができます。
- サードパーティエンゲージメントコンポーネントは、次のコンポーネントと 1 対多の関係を持つことができます。
  - 会社
  - エンゲージメントリスクスコアリングルール
  - サードパーティリスクの問題
- サードパーティエンゲージメントコンポーネントは、ベンダー連絡先コンポーネントと多対多の関係を持つことができます。
- ベンダー連絡先コンポーネントは、会社およびサードパーティリスク問題コンポーネントと 1 対多の関係を持つことができます。
- エンゲージメントレベルリスク評価コンポーネントは、サードパーティエンゲージメントコンポーネントと 1 対多の関係を持つことができます。
- サードパーティエンゲージメントコンポーネントは、リスクおよびコントロールコンポーネントに関連しています。
- リスクインテリジェンススコアコンポーネントは、サードパーティのデューデリジェンスコンポーネントに関連しています。
- 階層アセスメントコンポーネントは、次のコンポーネントと 1 対多の関係を持つことができます。
  - サードパーティデューデリジェンス
  - サードパーティエンゲージメント
  - 会社
- 階層アセスメントコンポーネントは、アセスメントメトリクスタイプコンポーネントと多対多の関係を持つことができます。
- サードパーティのデューデリジェンスコンポーネントは、次のコンポーネントと 1 対多の関係を持つことができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- イベント駆動型管理履歴
- サードパーティのリスクアセスメント
- 会社

- 次のコンポーネントは、リスクデューデリジェンスに関連しています。
  - イベント駆動型管理ルール
  - イベント駆動型管理履歴
  - サードパーティリスクデューデリジェンス要求
- 次のコンポーネントは、サードパーティ管理に関連しています。
  - リスクインテリジェンススコア
  - 内部アセスメント
  - 階層アセスメント
  - サードパーティのリスクアセスメント
  - サードパーティエンゲージメント
  - アセスメントテンプレート
  - サードパーティリスクの問題
  - エンゲージメントリスクスコアリングルール
  - エンゲージメントレベルリスク評価
- 内部アセスメントコンポーネントは、階層アセスメントコンポーネントの拡張です。
- コントロールコンポーネントは ポリシーとコンプライアンス管理 に関連しています。
- リスクコンポーネントは リスク管理に関連しています。
- 次のコンポーネントはグローバルです。
  - ベンダー連絡先
  - 会社
  - アセスメントメトリクスタイプ

次の表に、TPRM データモデルのコンポーネントに必要なロールを示します。

TPRM データモデルのロール

ロール	説明
sn_vdr_risk_asmt.approver	サードパーティリスク管理プロセスでデューデリジェンス要求を承認します。
sn_vdr_risk_asmt.contract_negotiator	オンボーディングプロセスの契約リスクプロセスステージで作業します。
sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessment_reviewer	アセスメントを編集します。
sn_vdr_risk_asmt.vendor_assessor	サードパーティ、サードパーティの連絡先、サードパーティのリスクアセスメント、および問題を管理し、サードパーティリスクアセスメントの要求を完了します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

TPRM データモデルのロール (続く)

ロール	説明
sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_admin	すべてのベンダーリスク管理データとアセスメントメトリクスタイプを完全にコントロールできます。
sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager	サードパーティ、サードパーティ連絡先、サードパーティアセスメントテンプレート、アンケートテンプレート、ドキュメント要求テンプレート、およびスケジュール設定済みアセスメントを管理します。

ロールに関する詳細については、「サードパーティリスク管理 でのロール」を参照してください。

コアコンポーネント

TPRM は、アセスメントを送信し、受け取った回答からスコアを計算することに基づいています。

次のコアコンポーネントを使用して、アセスメントを実行できます。

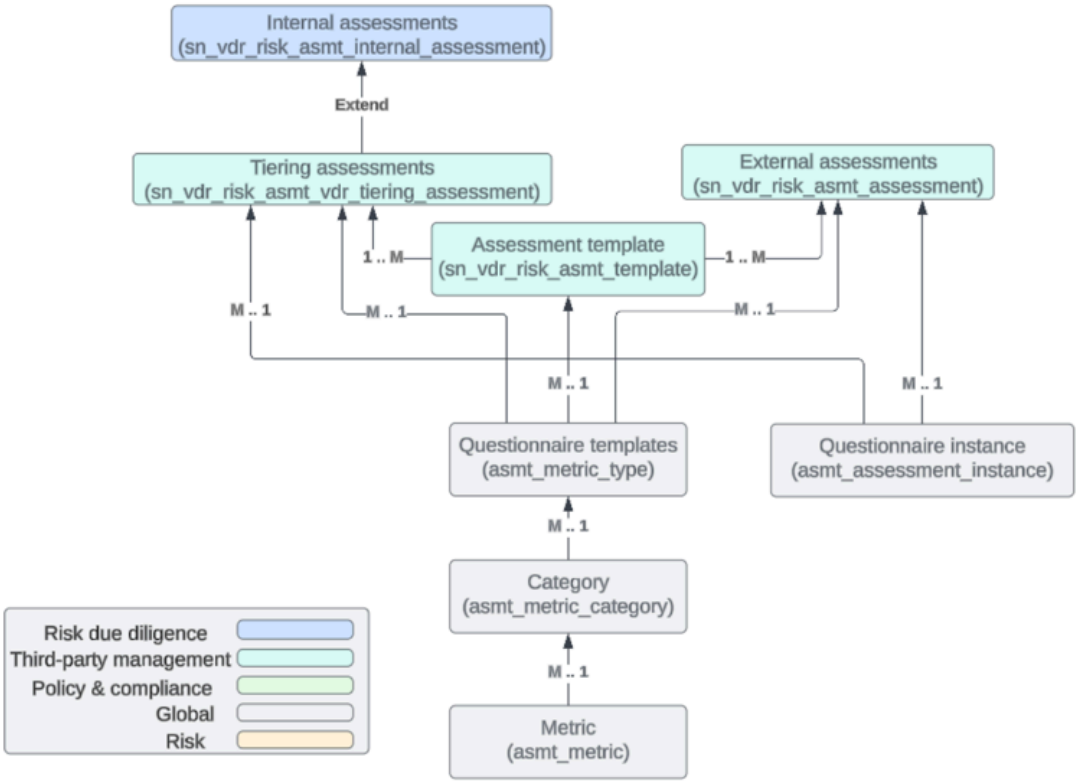
- サードパーティのリスクアセスメント
- サードパーティエンゲージメント
- サードパーティデューデリジェンス
- スコアリングセットアップ
- リスクインテリジェンス

次の図は、TPRM データモデルのサードパーティリスクアセスメントの主なテーブルとフローを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サードパーティリスクアセスメントのデータモデル



サードパーティリスクアセスメントのデータモデルを構成するコンポーネントと関係は次のとおりです。

コンポーネント：

- 内部アセスメント [sn_vdr_risk_asmt_internal_assessment]
- 階層アセスメント [sn_vdr_risk_asmt_vdr_tiering_assessment]
- 外部アセスメント [sn_vdr_risk_asmt_internal_assessment]
- アセスメントテンプレート [sn_vdr_risk_asmt_template]
- アンケートテンプレート [asmt_metric_type]
- アンケートインスタンス [asmt_assessment_instance]
- カテゴリ [asmt_metric_category]
- メトリクス [asmt_metric]

関係：

- メトリクスコンポーネントは、カテゴリコンポーネントと多対 1 の関係を持つことができます。
- カテゴリコンポーネントは、アンケートコンポーネントと多対 1 の関係を持つことができます。
- アンケートテンプレートコンポーネントは、次のコンポーネントと多対 1 の関係を持つことができます。
  - アセスメントテンプレート
  - 階層アセスメント
  - 外部アセスメント

自動翻訳

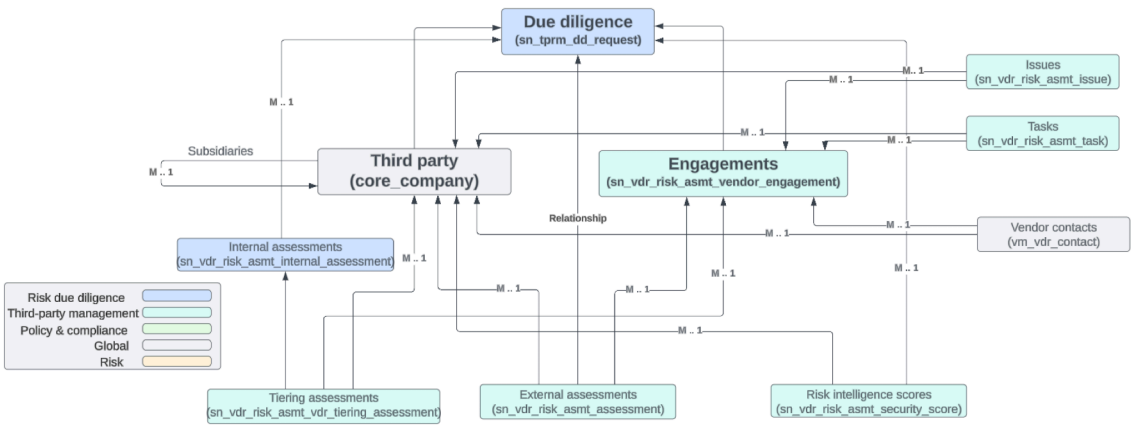
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- アンケートインスタンスコンポーネントは、次のコンポーネントと多対 1 の関係を持つことができます。
  - 外部アセスメント
  - 階層アセスメント
- アセスメントテンプレートコンポーネントは、次のコンポーネントと 1 対多の関係を持つことができます。
  - 階層アセスメント
  - 外部アセスメント
- 内部アセスメントコンポーネントは、階層アセスメントコンポーネントの拡張です。
- 内部アセスメントコンポーネントは、リスクデューデリジェンスに関連しています。
- 次のコンポーネントは、サードパーティ管理に関連しています。
  - 階層アセスメント
  - 外部アセスメント
  - アセスメントテンプレート
- 次のコンポーネントはグローバルです。
  - アンケートテンプレート
  - カテゴリ
  - メトリクス
  - アンケートインスタンス

アセスメントの詳細については、「サードパーティリスクのアセスメント」を参照してください。

次の図は、TPRM データモデルのデューデリジェンスに使用される主なテーブルとフローを示しています。

デューデリジェンスデータモデル



デューデリジェンスデータモデルを構成するコンポーネントと関係は次のとおりです。

コンポーネント：

- サードパーティ [core_company]
- エンゲージメント [sn_vdr_risk_asmt_vendor_engagement]
- デューデリジェンス [sn_tprm_dd_request]

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 問題 [sn_vdr_risk_asmt_issue]
- タスク [sn_vdr_risk_asmt_task]
- ベンダー連絡先 [vm_vdr_contact]
- リスクインテリジェンススコア [sn_vdr_risk_asmt_security_score]
- 外部アセスメント [sn_vdr_risk_asmt_internal_assessment]
- 階層アセスメント [sn_vdr_risk_asmt_vdr_tiering_assessment]
- 内部アセスメント [sn_vdr_risk_asmt_vdr_internal_assessment]

関係：

- サードパーティコンポーネントは、子会社と 1 対多の関係にあります。
- サードパーティコンポーネントは、次のコンポーネントと 1 対多の関係にあります。
  - ベンダー連絡先
  - 内部アセスメント
  - 外部アセスメント
  - 階層アセスメント
  - リスクインテリジェンススコア
  - 問題
  - タスク
- デューデリジェンスコンポーネントは、次のコンポーネントと 1 対多の関係にあります。
  - ベンダー連絡先
  - 内部アセスメント
  - 階層アセスメント
  - リスクインテリジェンススコア
- エンゲージメントコンポーネントは、次のコンポーネントと 1 対多の関係にあります。
  - ベンダー連絡先
  - 内部アセスメント
  - 外部アセスメント
  - 階層アセスメント
  - 問題
  - タスク
- サードパーティコンポーネントは、デューデリジェンスコンポーネントに関連しています。
- エンゲージメントコンポーネントは、デューデリジェンスコンポーネントに関連しています。
- 外部アセスメントコンポーネントは、デューデリジェンスコンポーネントに関連しています。
- 内部アセスメントコンポーネントは、階層アセスメントコンポーネントの拡張です。
- 次のコンポーネントは、リスクデューデリジェンスに関連しています。
  - デューデリジェンス
  - 内部アセスメント
- 次のコンポーネントは、サードパーティ管理に関連しています。

自動翻訳

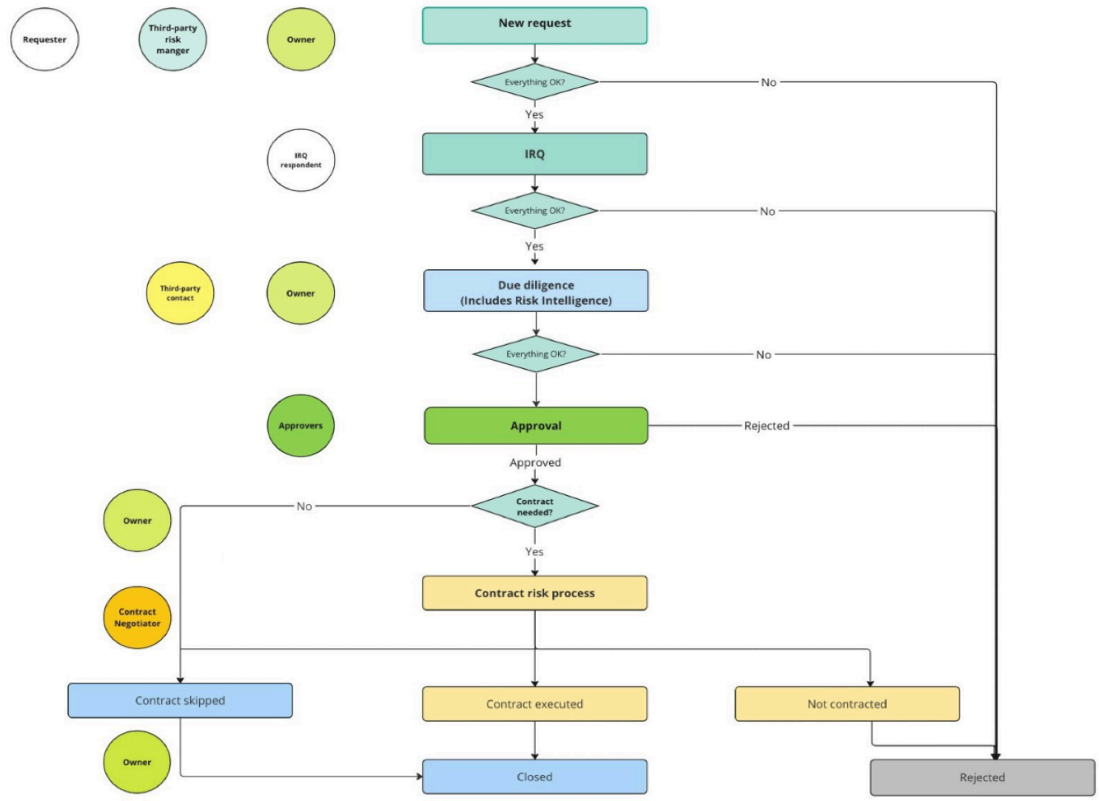
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- エンゲージメント
- 問題
- タスク
- リスクインテリジェンススコア
- 外部アセスメント
- 階層アセスメント

- 次のコンポーネントはグローバルです。
  - サードパーティ
  - ベンダー連絡先

次の図は、デューデリジェンスワークフローの一部である必要なロール、プロセス、および選択肢を示しています。

デューデリジェンスワークフロー



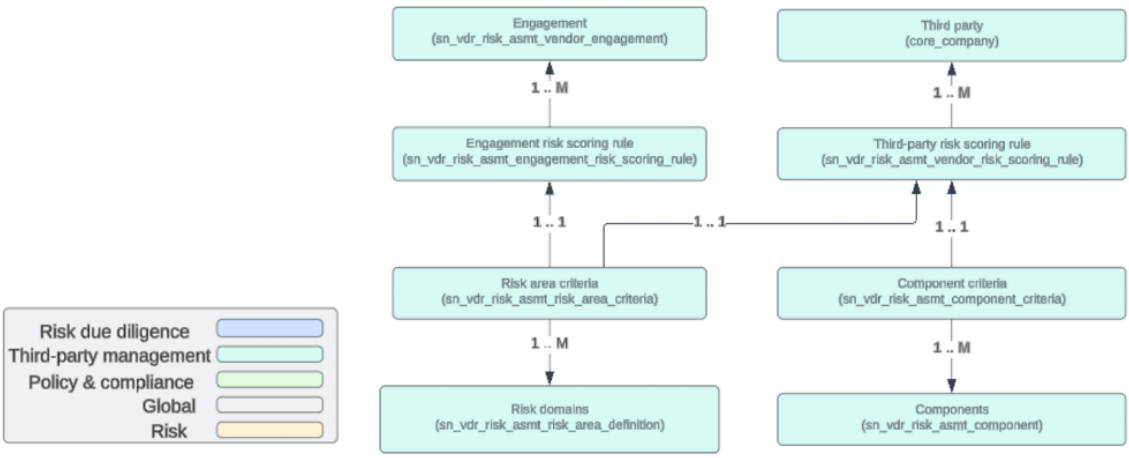
デューデリジェンスワークフローの詳細については、「デューデリジェンスワークフロー」を参照してください。

次の図は、TPRM データモデルのスコアリングに使用される主なテーブルを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スコアリングデータモデル



ここでは、スコアリングデータモデルを構成するコンポーネントと関係を示します。

コンポーネント：

- サードパーティ [core_company]
- サードパーティリスクスコアリングルール [sn_vdr_risk_asmt_vendor_risk_scoring _rule]
- コンポーネント基準 [sn_vdr_risk_asmt_component_criteria]
- コンポーネント [sn_vdr_risk_asmt_component]
- エンゲージメント [sn_vdr_risk_asmt_vendor_engagement]
- エンゲージメントリスクスコアリングルール [sn_vdr_risk_asmt_engagement_risk_scoring_rule]
- リスク領域基準 [sn_vdr_risk_asmt_risk_area_criteria]
- リスクドメイン [sn_vdr_risk_asmt_risk_area_definition]

関係：

- リスク領域基準コンポーネントは、リスクドメインコンポーネントと 1 対多の関係にあります。
- リスク領域基準コンポーネントは、エンゲージメントリスクスコアリングルールコンポーネントおよびサードパーティリスクスコアリングルールコンポーネントと 1 対 1 の関係にあります。
- エンゲージメントリスクスコアリングルールは、エンゲージメントコンポーネントと 1 対多の関係にあります。
- コンポーネント基準は、コンポーネントと 1 対多の関係にあります。
- コンポーネント基準は、サードパーティリスクスコアリングルールコンポーネントと 1 対 1 の関係にあります。
- サードパーティリスクスコアリングルールコンポーネントは、サードパーティコンポーネントと 1 対多の関係にあります。
- これらのコンポーネントはすべてサードパーティ管理に関連しています。

TPRM のスコアリングセットアップを使用して、外部リスクアセスメントのスコアをエンゲージメントとサードパーティに集計する方法を設定します。基準テーブルには、複数のレコードのスコア (最小、最大、平均) または複数のテーブルのスコア (各テーブルの重み付け) の集計に関連する情報が含まれています。スコアリングルールを使用して、サードパーティまたはエンゲージメントをグループ化し、基準をアサインします。これらのテーブルのすべてのレコードは、カスタマイズせずに構成できます。

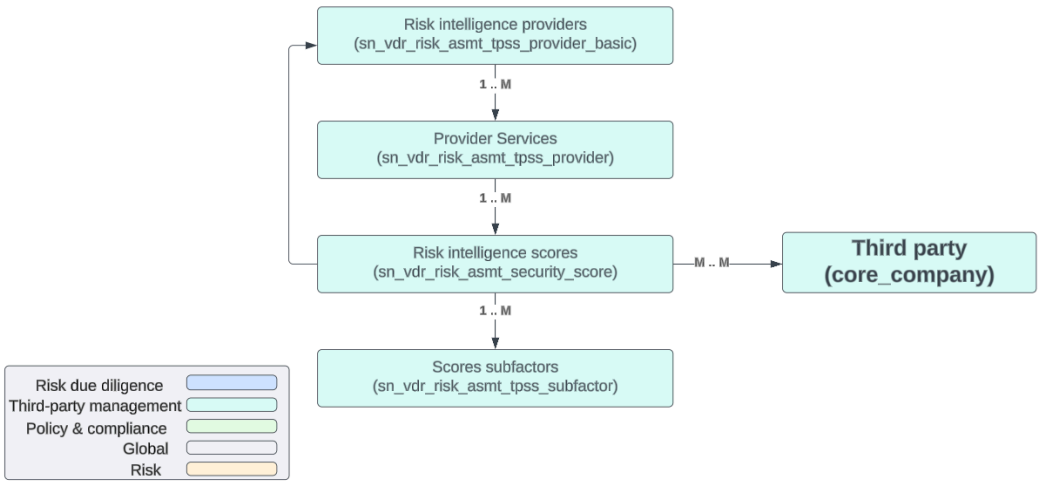
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スコアリングの詳細については、「従来のアセスメントエンジンを使用したスコア計算」を参照してください。

次のモデル図は、TPRM データモデルのリスクインテリジェンスに使用される主なテーブルを示しています。

リスクインテリジェンスモデル



リスクインテリジェンスデータモデルを構成するコンポーネントと関係は次のとおりです。

コンポーネント：

- サードパーティ [core_company]
- プロバイダーサービス [sn_vdr_risk_asmt_tpss_provider]
- リスクインテリジェンススコア [sn_vdr_risk_asmt_security_score]
- スコアサブファクター [sn_vdr_risk_asmt_tpss_subfactor]

関係：

- リスクインテリジェンスプロバイダーコンポーネントは、プロバイダーサービスコンポーネントと 1 対多の関係にあります。
- プロバイダーサービスコンポーネントは、リスクインテリジェンススコアコンポーネントと 1 対多の関係にあります。
- リスクインテリジェンススコアコンポーネントは、スコアサブファクターコンポーネントと 1 対多の関係にあります。
- リスクインテリジェンススコアコンポーネントは、リスクインテリジェンスプロバイダーコンポーネントに関連しています。
- これらのコンポーネントはすべてサードパーティ管理に関連しています。

リスクインテリジェンスの詳細については、「リスクインテリジェンスレポート要求の管理」を参照してください。

ドメインセパレーションと サードパーティリスク管理

TPRM ではドメインセパレーションがサポートされています。 ドメインセパレーションでは、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートレベル：ベーシック

- アプリケーションサービスプロバイダーのユースケースに合わせてデータが適切なドメインに送られるようにするビジネスロジックが存在します。
- このアプリケーションは、ドメインセパレーションを完全にサポートしています。ドメインセパレーションには、ユーザーインターフェイス、キャッシュキー、レポート、ロールアップ、および集計からのドメインの分離が含まれます。
- インスタンスのオーナーは、複数のテナント間で正常に機能するようにアプリケーションをセットアップする必要があります。

サンプルユースケース：サービスプロバイダーがチャットを使用してテナント顧客のメッセージに応答する場合、お客様がサービスプロバイダーの応答を確認できるようにする必要があります。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメインセパレーションのサポート」を参照してください。

ドメインセパレーションの概要

ServiceNow® GRC：サードパーティリスク管理(TPRM) アプリケーションを使用すると、サードパーティとの関係に関連するリスクを積極的に特定、アセスメント、軽減できます。TPRM はサードパーティのポートフォリオの管理、リスクの評価とスコアリング、修正の実行のための一元的なプロセスを提供します。 TPRM は、基本レベル (レベル 0 またはデータレベル) でのドメインセパレーションをサポートしています。マネージドサービスプロバイダーは、ドメインセパレーションのプロセスレベルで構成TPRMできます。

TPRMにおけるドメインセパレーションの仕組み

- すべての TPRM テーブルは、ドメインセパレーションのデータレベルをサポートしています。フォームビューまたはリストビューにドメイン関連の列を追加する以外に、特別なセットアップは必要ありません。
- TPRM がドメインセパレーションが有効になっているインスタンスに をインストールすると 、すべての TPRM データが自動的にドメインセパレーションされます。詳細については、プラットフォームのドメインセパレーションに関するドキュメントを参照してください。

ユースケース

テナントドメインは、インスタンスでデータを管理するのと同じ方法で、独自のアプリケーションデータを管理します。

ドメインセパレーションテーブル

TPRM アプリケーションテーブルに [メイン] 列がありません。

すべての TPRM テーブルは、sys_domain 列と sys_domain_path 列を使用したデータレベルのドメインセパレーションをサポートしています。

関連情報

サービスプロバイダーのドメインセパレーション

ベンダーリスクの概要レポート – 従来のビュー

[ベンダーリスクの概要] ページは、ベンダー管理ワークスペース のサードパーティリスクレポートに置き換えられました。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レポートの表示

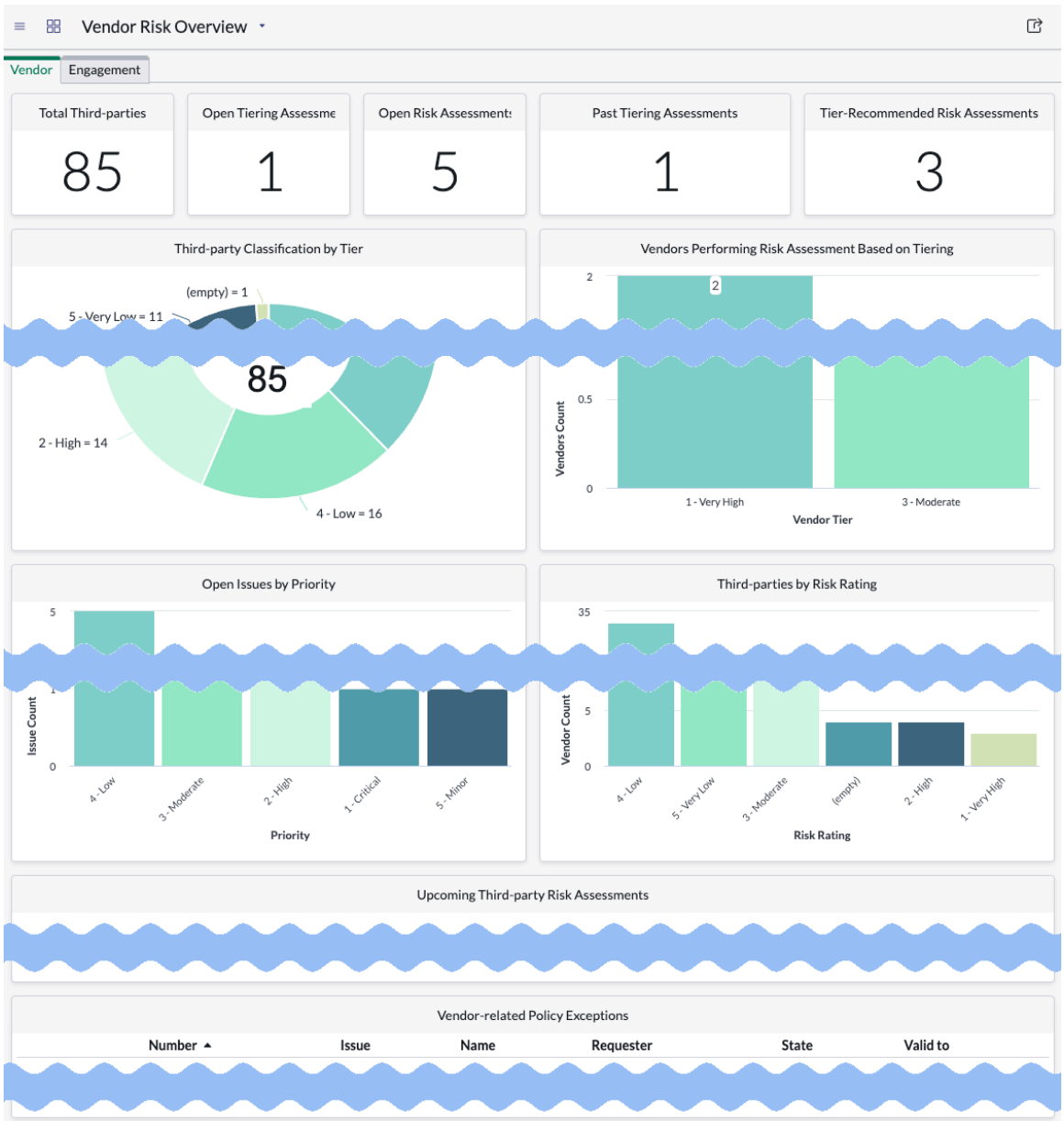
ベンダーリスクの概要を開くには、 すべて > サードパーティリスク管理 > 概要. このページには、サードパーティリスク管理プログラムに関するインサイトを提供するレポートが表示されます。-

より完全な **IRQ** プロセスが階層化に取って代わります

TPRM アプリケーションでは、IRQ は内部アンケートであり、元の階層アセスメントプロセスを改善するものです。IRQ は、柔軟性、制御、およびスケーラビリティを向上させて内部リスクアセスメントを強化します。外部アンケートがリスク階層のみによって決定される階層アセスメントとは異なり、IRQ は回答者の回答およびリスク階層の両方に基づいて外部アンケートを動的にトリガーできます。

TPRM へのシームレスな移行を可能にするために、既存の階層アセスメントを複製して IRQ 内部アセスメントとして指定することを選択できます。リスク階層化は、変わらない従来のプロセスとしてサポートされています。

ベンダーリスクの概要 - [ベンダー] タブ



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

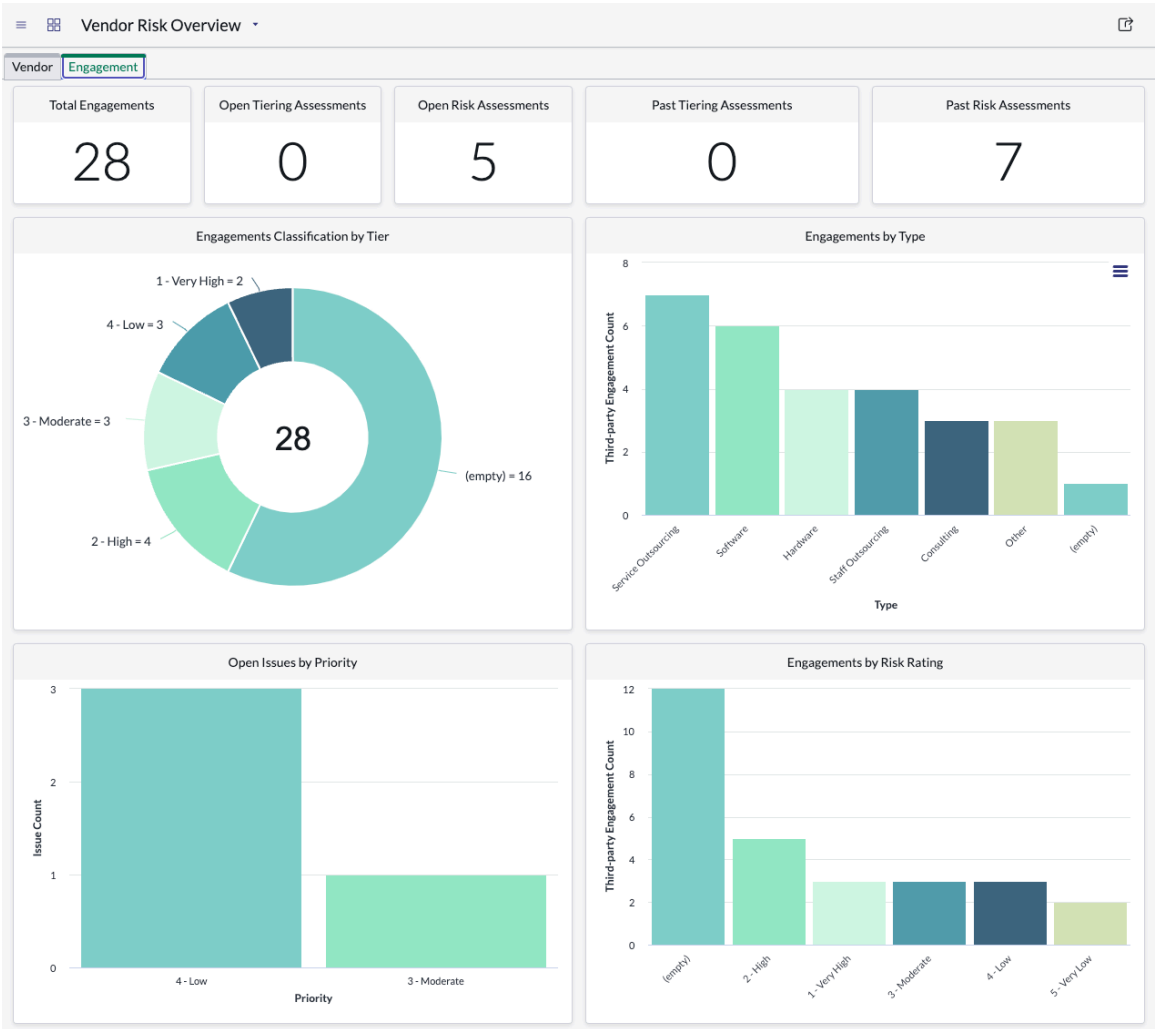
[ベンダー] タブのレポート

レポート	説明
ベンダー総数	サードパーティの合計数。
オープン階層アセスメント	アクティブな階層アセスメントが未完了なサードパーティの数。
オープンリスクアセスメント	アクティブなリスクアセスメントが未完了なサードパーティの数。
過去の階層アセスメント	アセスメント期間内に階層アセスメントを完了していないサードパーティの数。
階層推奨リスクアセスメント	階層に基づいてリスクアセスメントを実行するサードパーティの数。
階層別ベンダー分類	各リスク階層にアサインされたサードパーティの数を示すドーナツレポート。
階層に基づいてリスクアセスメントを実行するベンダー	サードパーティリスクでソートされた、アクティブな階層ベースのリスクアセスメントを持つサードパーティの数。
優先度別のオープンな問題	優先度でソートされたすべてのサードパーティリスクの未解決問題。
リスク評価別ベンダー	リスク評価でソートされたサードパーティの数。
今後のベンダーリスクアセスメント	スケジュール済みのサードパーティリスクアセスメントの数。
ベンダーに関連するポリシー例外	サードパーティリスクの問題から生成されたすべてのポリシー例外。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ベンダーリスクの概要 - [エンゲージメント] タブ



[エンゲージメント] タブのレポート

レポート	説明
合計エンゲージメント	エンゲージメントの合計。
オープン階層アセスメント	アクティブな階層アセスメントが未完了なエンゲージメントの数。
オープンリスクアセスメント	アクティブなリスクアセスメントが未完了なエンゲージメントの数。
過去の階層アセスメント	アセスメント期間内に階層アセスメントを完了していないエンゲージメントの数。
過去のリスクアセスメント	アクティブな階層ベースのリスクアセスメントを持つエンゲージメントの数。
階層別エンゲージメント分類	各階層にアサインされたエンゲージメントの数を示すドーナツレポート。
タイプ別エンゲージメント	各タイプのエンゲージメントの数。
優先度別のオープンな問題	優先度別にソートされた、すべてのエンゲージメントの未解決の問題。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[エンゲージメント] タブのレポート (続く)

レポート	説明
リスク評価別エンゲージメント	リスク評価でソートされたエンゲージメント数。

重要:
サードパーティリスク管理 のバージョン 18.1.3 以降、ベンダーリスク概要ダッシュボードは廃止されました。サードパーティリスク管理 が 18.1.3 より前にインストールされた場合は、ベンダーリスク概要ダッシュボードを引き続き使用できます。

共通の ガバナンス、リスク、コンプライアンス 機能

各 ガバナンス、リスク、コンプライアンス アプリケーションには独自の機能があります。さらに、すべての GRC アプリケーションに共通する機能が多数あります。

たとえば、ServiceNow® モバイルアプリケーションを使用してGRCアプリケーションを実行できます。コンテンツパックと統合は、複数の GRC アプリケーションから利用できます。ドメインセパレーションのサポートレベルなどの情報も含まれています。

規制以外のアラートのアサイン構成担当者

アサインルールは、アクションタスクなどの組織のタスクレコードと、問題、インシデント、規制アラートなどの非タスクレコードを自動化するのに役立ちます。

Assignment Configurator モジュールを使用すると、一連の条件が発生し、問題、インシデント、コンプライアンスケース、リスク、コントロールなどの統合リスク管理レコードベースのテーブルに適用される場合に、assigned_to フィールドと assignment_group フィールドに値を自動的に設定できます。

アサインルールを実行するには、次の追加基準も満たす必要があります。

- タスクレコードが作成または更新されていること。フォーム上の保存されていない変更箇所にアサインルールは適用されません。
- タスクレコードのアサインを解除する必要があります。レコードでは、`assigned_to` または `assignment_group` フィールドのいずれかに値を格納することはできません。アサインルールは、既存のアサイン (デフォルト値で設定されたアサインまたは以前に実行されたアサインルールを含む) を上書きすることはできません。
- アサインルールは、テーブルと条件に一致する最初のルールです。複数のアサインルールが条件に一致する場合、順序値が最も小さいルールのみが実行されます。

アサインの構成

アサイン構成ルールは、アクションタスクなどの組織のタスクレコードと、問題、インシデント、規制アラートなどの非タスクレコードを自動化するのに役立ちます。

始める前に
承認およびアサインの構成のための GRC: Assignment and Approval Configurations (sn_grc_appr) アプリケーションは、GRC：コンプライアンスケース管理アプリケーションとともにインストールされます。

必要なロール：admin

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > アサイン構成および承認構成 > アサイン構成.
2. **[New** (新規)] を選択します。

   アサイン構成の新しいレコードが表示されます。
3. フォームのフィールドに入力します。
   フォーム内のフィールドの詳細については、「アサイン構成の新規レコード」を参照してください。

   注:
   同じ優先度で複数の承認構成をテーブルに適用することはできません。
4. [送信] を選択します。

規制機関ライブラリ

規制機関ライブラリ は、ServiceNow Store からダウンロードしてアクティブ化できる新しいアプリケーションです。

必要なペルソナ:GRC 実務者。

規制機関ライブラリ は、特定の分野、アクティビティ、またはビジネスオペレーションにおける法律、基準、またはガイドラインの施行を担当する独立機関です。

規制機関ライブラリ は、各管轄内の業界またはセクターの監督を担当する関連する規制当局を特定するために、機関の一元化されたライブラリを確立します。一元化されたライブラリは、メールを介したすべての規制コミュニケーションを統合し、報告されたコンプライアンスケースのデータプライバシーまたはセキュリティ違反の通知ルールを実装します。

- 対象となる地理的管轄区域を特定します。
- 規制の焦点または業界ベースのセクターに基づいて分類します。
- 機関とそれが規制するエンティティとの間のコミュニケーションと相互作用のポイントを確立します。
- コンプライアンスチームが規制との接続を整理および簡素化して、規制とポリシーを効果的に管理できるようにします。

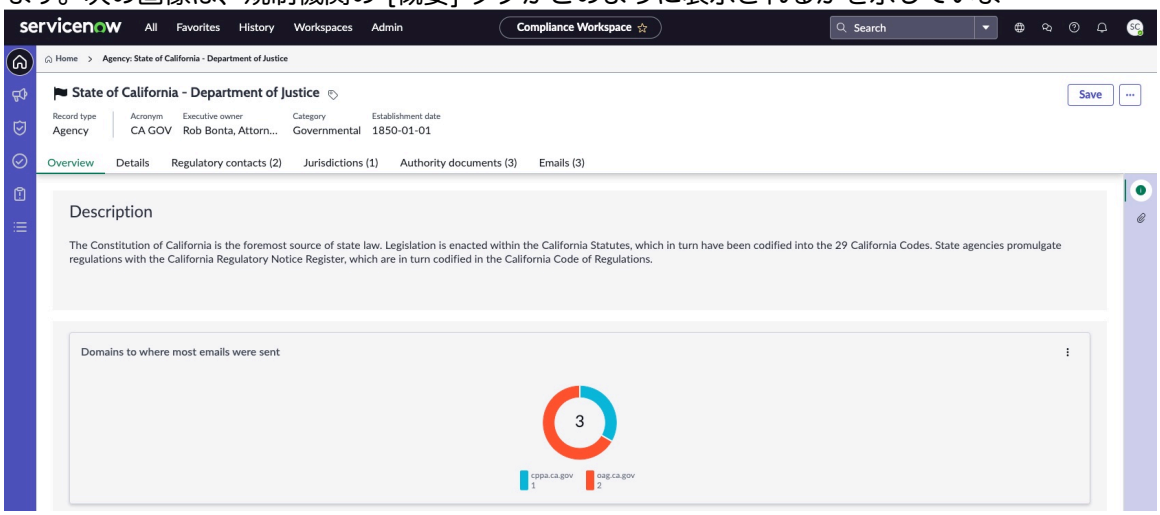
規制機関ライブラリ アプリケーションをアクティブ化すると、テーブルやユーザーロールなど、いくつかのタイプのコンポーネントがインストールされます。詳細については、「規制機関ライブラリとともにインストールされるロールとテーブル」を参照してください。

機関レコードの概要

規制機関が作成された後、機関の [概要] タブで、さまざまな規制機関ドメインに送信されたメールの合計数を示す円グラフを表示できます。この機能を使用すると、最大数のメールが送信されたドメインを表示できます。ドリルダウン機能を使用すると、機関レコードからメールトラッカーページに直接アクセスできるため、特定の機関に送信された関連メールのみをフィルタリングして表示できるため、コミュニケーションの追跡と管理が容易に

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

なります。次の画像は、規制機関の [概要] タブがどのように表示されるかを示していま


す。

規制機関ライブラリ プラグインをダウンロードしてアクティブ化する

アドミンロールを持っている場合は、GRC: 規制機関ライブラリ アプリケーションをアクティブ化できます。このアプリケーションにはデモデータが含まれており、規制機関プロファイルにアクセスできます。

始める前に

ServiceNow Store で、アプリケーションとその依存アプリケーションのエンタイトルメント (またはライセンス) があることを確認する必要があります。

必要なロール：admin

手順

1. 移動先 システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて > .
2. フィルター基準と検索バーを使用して 規制機関ライブラリ アプリケーションを検索します。

   名前または ID でアプリケーションを検索できます。アプリケーションが見つからない場合は、ServiceNow Store へのリクエストが必要になることもあります。

   ServiceNow Store Web サイトにアクセスして、利用可能なすべてのアプリを表示し、要求をストアに送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのこれまでのリリースメモ情報については、「ServiceNow Store のバージョン履歴リリースノート」を参照してください。
3. [インストール] を選択します。
4. アプリケーションのインストールダイアログボックスで、アプリケーションの依存関係を確認します。

   使用中のアプリケーションが他のアプリケーションを必要とし、それがまだインストールされていない場合は、先にアクティブ化しておいてください。

   アプリケーションをインストールする時点で、依存アプリケーションがインストールされていない場合は、それらが自動的にインストールされます。
5. デモデータが利用可能になり、ロードするには、[デモデータのロード] を選択します。

   一部のアプリケーションには、デモデータ (一般的なユースケース向けのアプリケーション機能を説明するサンプルレコード) が含まれています。開発またはテストインスタンスで初めてアプリケーションをアクティブ化する場合は、デモデータを読み込みます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:

インストール時にストアアプリケーションの [デモデータのロード] チェックボックスをオンにしないと、後でアプリケーションマネージャーからデモデータをアクティブ化できません。初期インストール後にデモデータをアクティブ化または再アクティブ化する方法については、ナレッジベースで「Workaround to install demo data if application is already installed (アプリケーションが既にインストールされている場合にデモデータをインストールする方法) [KB0722909]」記事を参照してください。

6. [インストール] を選択します。

規制機関の追加

コンプライアンスワークスペース に規制機関を追加して、各管轄内の業界またはセクターの監督を担当する関連する規制当局を特定します。

始める前に

必要なロール：sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst

このタスクについて

ケースアナリストは、コンプライアンスケースに関連する規制機関を選択して追加できます。デフォルトでは、システムに存在するすべての規制機関が表示されます。規制機関を追加した後で、違反している規制を分析し、そのレポートステータスを設定する必要があります。レポートステータスは、規制をレポートする必要があるかどうかの判断に役立ちます。

ServiceNow AI Platform では、規制機関はコンプライアンスライブラリにキャプチャされます。規制機関をコンプライアンスライブラリに追加すると、侵害または違反している規制を特定し、組織にペナルティや罰金が課されないようにすることができます。

ケースアナリストは、コンプライアンスケースに関連する規制機関を選択して追加できます。デフォルトでは、システムに存在するすべての規制機関が表示されます。規制機関を追加した後で、違反している規制を分析し、そのレポートステータスを設定する必要があります。レポートステータスは、規制をレポートする必要があるかどうかの判断に役立ちます。

自動翻訳

手順

1. 移動先 すべて > コンプライアンスワークスペース > リスト > 規制情報 > 機関.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. [新しい機関の作成 (Create New Agency)] フォームの各フィールドに入力します。
   フィールドの説明については、「新しい機関の作成フォーム」を参照してください。
4. [保存] を選択します。

新しい機関の作成フォーム

コンプライアンスワークスペース で新しい機関の作成フォームを使用して、規制機関を作成します。規制機関は、規制の変更やコンプライアンスケース管理を処理する新しいレコードタイプです。

新しい機関の作成フォーム

フォームのフィールド値の説明については、次の表を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい機関の作成フォーム

フィールド	説明
名前	規制機関の名前。
サマリー	規制機関の簡単な概要。
説明	規制機関の詳細な説明。
頭字語	規制機関の頭字語 (存在する場合)。
ロゴ	規制機関のロゴ。
エグゼクティブオーナー	規制機関のエグゼクティブオーナー。
Web サイトリンク	規制機関がリストされている Web サイトのリンク。
その他詳細	
セクター	規制機関を分類するセクター。
設立日	規制機関の設立日。
タイプ	規制機関を分類するタイプ。
テーマ	規制機関のテーマ。
カテゴリ	規制機関 (規制、法令、アセンブリなど) のカテゴリ。新しい規制アラートを追加する場合、デフォルト値は [規制] です。
設定	
機能ドメイン	規制機関の機能ドメイン。

規制担当連絡先を機関に追加する

特定の規制機関またはコンプライアンスワークスペースの管轄内に規制担当連絡先を追加します。規制担当連絡先を特定の機関にマッピングすることにより、ケースのレポート、ケースの監査、およびケースのクローズが発生したときに、この連絡先に通知されます。

始める前に

必要なロール:compliance_case_manager

このタスクについて

compliance_case_managerとして、1 つまたは複数の連絡先を規制機関にマッピングできます。デフォルトでは、システムにあるすべての規制担当連絡先が表示されます。規制担当連絡先を追加するときは、それがどの管轄に属するのかを分析する必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > コンプライアンスワークスペース > リスト > 規制情報 > 規制に関する連絡先.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. [新しい規制担当連絡先の作成 (Create New Regulatory Contact)] フォームの各フィールドに入力します。
   フィールドの説明については、「新しい規制担当連絡先の作成フォーム」を参照してください。
4. [保存] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい規制担当連絡先の作成フォーム

コンプライアンスワークスペース で新しい規制担当連絡先の作成フォームを使用して、規制機関または管轄に対する規制連絡先を作成します。

新しい規制担当連絡先の作成フォーム

フォームのフィールド値の説明については、次の表を参照してください。

新しい規制担当連絡先の作成フォーム

フィールド	説明
名前	規制担当連絡先の名前。
規制機関	規制担当連絡先を追加する規制機関。
アクティブ	規制担当連絡先をアクティブにするかどうかを選択するオプション。
ユーザー	規制担当連絡先のユーザー名。
メール	規制担当連絡先のメールアドレス。
電話番号	規制担当連絡先の電話番号。
住所	規制担当連絡先の連絡先住所。
指定	規制担当連絡先の指定。
グローバルな管轄に適用 (Apply to global jurisdiction)	グローバルな管轄にも適用される連絡先。

規制機関のコンプライアンスケースまたは要求に関するメールを作成して送信する

コンプライアンスワークスペースを使用して、規制機関のコンプライアンスケースまたは要求に関するメールを作成し、組織内外の複数のステークホルダーに送信します。

始める前に

必要なロール：sn_grc_case_mgmt.grc_case_analyst

このタスクについて

規制機関ページから、コンプライアンスケースまたは複数のステークホルダーへの要求について作成して送信したメールを管理できます。

手順

1. 移動先 すべて > 規制変更管理 > コンプライアンスワークスペース.
2. リスト アイコンを選択します。
3. コンプライアンスケースまたはコンプライアンス要求のメールを作成します。
4. [その他のアクション] アイコン ( ) を選択します。
5. [メールの作成] を選択します。
6. フォームのフィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メールのドラフトフォーム

フィールド	説明
宛先 (To)	受信者のメール ID。このフィールドに複数のメール ID をカンマで区切って追加して、複数の受信者にメールを送信できます。
件名	メールの簡単な概要またはタイトル。
メールメッセージ	メッセージの本文には、受信者に伝える情報、要求、または詳細を記載します。このセクションには、テキストの書式設定、添付ファイルの追加、およびリンクを含めることができます。 **注:** インスタンスへのアクセス権を持たない内部ユーザーと外部のステークホルダーの両方にメールを送信できます。参照しているレコードがユーザーにわかるように、メールの件名または本文に基本的なレコードの詳細を入力する必要があります。

7. オプション: 添付ファイルを追加するには、[ファイルの添付 **(Attach File)]** を選択します。
8. [メール送信] を選択します。

推奨のコンテキストとテンプレート

ガバナンス、リスク、コンプライアンス 推奨フレームワークを使用すると、推奨コンテキストとテンプレートを使用して、ユーザーインターフェイス内で AI 主導のインサイトをユーザーに直接提供できます。これらのインサイトにより、ユーザーは情報に基づいた意思決定を行い、迅速なアクションを実行できます。

推奨事項のコンテキストとテンプレートの概要

ガバナンス、リスク、コンプライアンス推奨テンプレートプラグイン (app-grc-reco-template) を使用して、インターフェイスでユーザーに表示される推奨事項をキャプチャ、文書化、および送信できるようにします。

推奨コンテキストとは、ユーザーの好みやニーズを形成する情報と条件を指します。推奨フレームワークは、推奨事項をユーザーの状況に適応させることで、関連する提案をユーザーに提供します。

ガバナンス、リスク、コンプライアンス推奨コンテキストフレームワークを使用すると、推奨コンテキストを作成して、関連レコードを推奨するためのテンプレートを構築するための構成を定義できます。推奨事項テンプレートを作成して、主要なビジネスオペレーションを特定するためのデータセットを使用して AI モデルをトレーニングすることもできます。推奨事項テンプレートを作成する前に、推奨事項のコンテキストが必要です。

推奨コンテキストの作成の詳細については、「 推奨コンテキストの作成」を参照してください。

推奨事項テンプレートの作成の詳細については、「 推奨テンプレートの作成」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC 管理メニュー

sn_reco_template.recommendation_config_reader ロールを持つユーザーは GRC 管理メニューから推奨コンテキストを読み取ることができ、sn_reco_template.recommendation_config_writer を持つユーザーは推奨コンテキストを作成または編集できます。

移動先 すべて > **GRC Administration** > 推奨事項のコンテキスト をクリックして、利用可能な推奨事項コンテキストのリストを表示します。[規制アラートの影響を受けるビジネスオペレーションを提案] 推奨事項コンテキスト (基本推奨コンテキスト) は、規制アラートに対して次の推奨事項を提案します。

- 引用
- コントロール目標
- コントロール

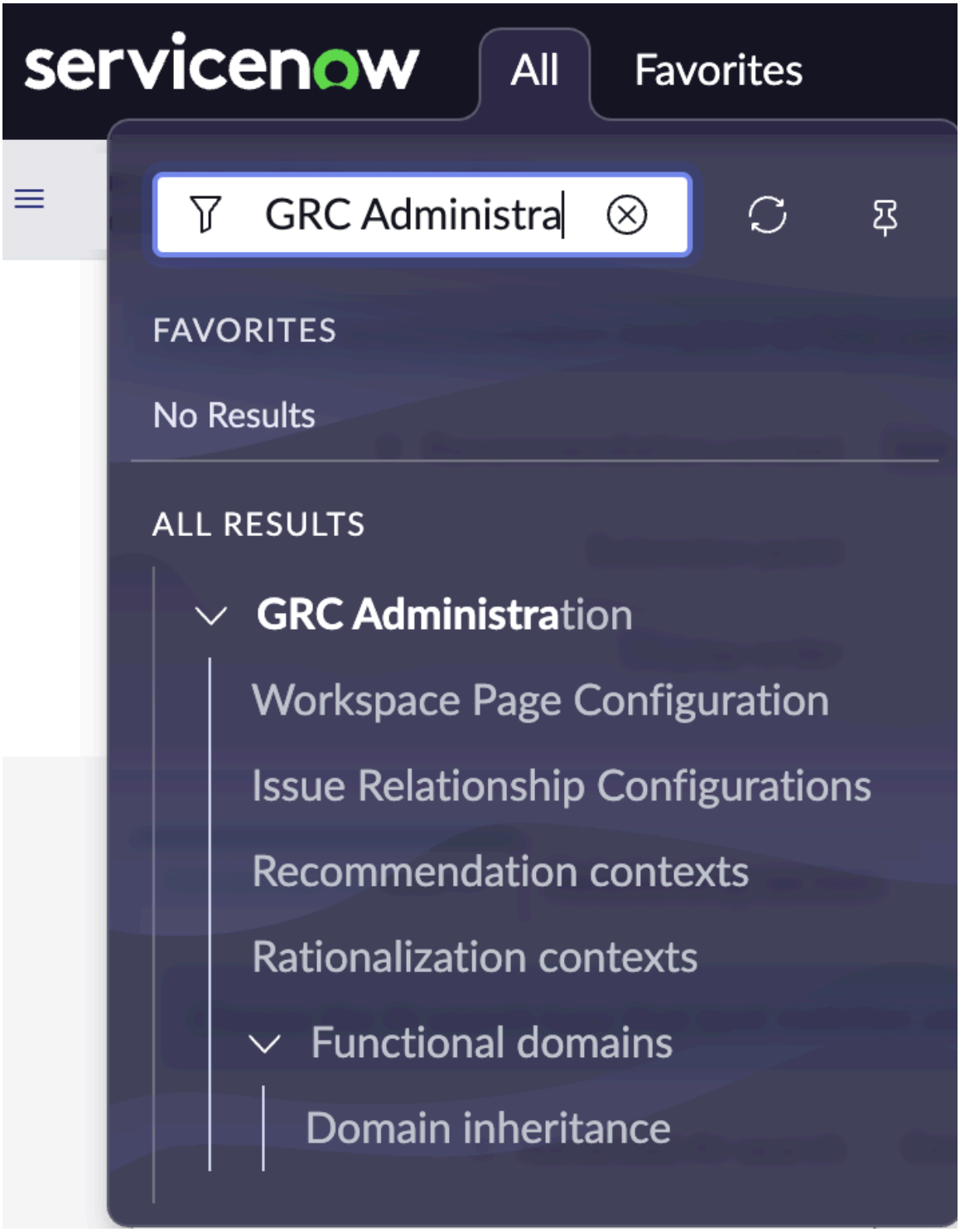
このメニュー項目にアクセスできるユーザーロールの詳細については、「 推奨コンテキストのユーザーロール」を参照してください。

次の例は、[GRC 管理] メニューを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC 管理メニュー



コンテキストに適合するアイテムを選択して、関連するレコードを推奨するためのテンプレートをビルドできます。既存の構成をそのまま使用することも、更新することもできます。コンテキストと基準に基づいて関連アイテムを推奨するためのユーザーのニーズに合った AI 検索タイプを選択することもできます。さらに、各推奨事項の関連アイテムを表示し、そのタイトルを指定する関係セクションを構成できます。詳細については、「推奨テンプレートの作成」を参照してください。

拡張ポイント

推奨コンテキストは、拡張ポイントを使用して、元のアプリケーションコードを変更せずにアプリケーションの機能を拡張します。開発者は、既存の拡張ポイントを使用することも、カスタムアプリ

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

ケーションの拡張ポイントを追加することもできます。拡張ポイントの詳細については、「 拡張ポイント」を参照してください。

推奨コンテキストのユーザーロール

さまざまなロールを持つユーザーは、規制アラートの推奨コンテキストの読み取り、作成、または編集を行うことができます。

ユーザーロール

ユーザーロール	説明
sn_reco_template.recommendation_config_reader	このロールを持つユーザーは、推奨事項の構成を読むことができます。
sn_reco_template.recommendation_config_writer	このロールを持つユーザーは、推奨事項の構成を作成および編集できます。
sn_reco_template.recommendation_reader	このロールを持つユーザーは、推奨事項テンプレートを読むことができます。
sn_reco_template.recommendation_writer	このロールを持つユーザーは、推奨事項テンプレートを作成および編集できます。

拡張ポイント

拡張ポイントを使用して、元のアプリケーションコードを変更せずにアプリケーションの機能を拡張します。推奨コンテキストは、拡張ポイントを使用して、推奨コンテキストまたはテンプレートを構成するときに追加機能を有効にします。

拡張ポイントの概要

開発者は、インスタンスでカスタムアプリケーションを開発するときに、既存の拡張ポイントを使用することも、拡張ポイントを追加することもできます。推奨コンテキストで拡張ポイントを使用すると、アプリケーションコードのコアコンポーネントを変更することなくカスタマイズを統合できます。拡張ポイントを使用すると、カスタムコードをアプリケーションコードに直接埋め込むとアップグレード後によく発生するカスタムコードのインタラクションの中断を回避できます。

アプリケーションコードに埋め込まれた拡張ポイントは、データをカスタムコードに渡すアウトポイントとして、そして返される結果を処理するインポイントとして機能します。アプリケーションを作成する場合、返されるデータまたはオブジェクトは、開発者が拡張ポイントに対して定義する要件に準拠する必要があります。たとえば、ベース拡張ポイントRCM_Recommendation_ExtensionPointを使用して、規制アラートの推奨コンテキストまたはテンプレートを構成できます。

拡張ポイントのタイプ

次のタイプのアーティファクトを使用するカスタムコードを処理する拡張ポイントを作成できます。

スクリプト拡張ポイント

JavaScript 関数とオブジェクトクラスを格納するサーバー側スクリプトインクルードの拡張ポイント。

UI 拡張ポイント

HTML 拡張などのサーバー側 UI マクロで使用される拡張ポイント。

クライアント拡張ポイント

クライアント側 UI スクリプトで使用される拡張ポイント。通常はフォームの変更に使用されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

拡張ポイントの詳細については、「 拡張ポイントを使用してアプリケーション機能を拡張する 」を参照してください。

推奨コンテキストの作成

推奨コンテキストを作成して、関連するレコードを推奨するためのテンプレートをビルドする構成を定義します。

始める前に

必要なロール:sn_reco_template.recommendation_writer または sn_grc_comp_genai.reg_change_ai_user

このタスクについて

推奨コンテキストに必要なロールの詳細については、「 推奨コンテキストのユーザーロール」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > **GRC Administration** > 推奨事項のコンテキスト > 新規.
2. フォームで、フィールドに入力します。
   フィールド値の説明については、「 フォーム」を参照してください。
3. **[Submit** (送信)] を選択します。

タスクの結果

新しい推奨コンテキストが作成されます。推奨事項テンプレートを作成できるようになりました。

推奨事項のコンテキストフォーム

推奨事項コンテキストフォームを使用して構成を作成します。

推奨事項のコンテキストフォーム

フィールド	説明
名前	推奨コンテキストの名前。たとえば、[修復タスクの提案 (Suggest remediation tasks)] などです。
適用先	推奨コンテキストが適用されるテーブル。たとえば、問題 [sn_grc_issue] です。
拡張ポイント	構成の拡張ポイント。拡張ポイントの詳細については、「 拡張ポイント」を参照してください。
アクティブ	構成を有効にするオプション。
見出しタイトル	推奨事項カードのタイトル。たとえば、修復タスクなどです。

推奨テンプレートの作成

主要なビジネスオペレーションを識別するためのデータセットを使用して AI モデルをトレーニングするための推奨事項テンプレートを作成します。主要な事業運営には、規制変更の管理、リスクの評価、コンプライアンスガイドラインの遵守などがあります。

始める前に

推奨テンプレートを作成する前に、推奨コンテキストを作成します。詳細については、「推奨のコンテキストとテンプレート」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なロール:sn_reco_template.recommendation_config_writer または sn_reco_template.recommendation_writer

手順

1. 移動先 すべて > **GRC Administration** > 推奨事項のコンテキスト.
2. 推奨テンプレートを追加する推奨コンテキストを選択します。

   a. [推奨事項テンプレート] 関連リストで、[新規] を選択します。

   b. [推奨アイテム] ドロップダウンリストから、アイテムを選択します。

      選択した推奨アイテムは、[推奨事項テンプレート] 関連リストに推奨事項テンプレートとして表示されます。

      たとえば、問題の修復タスクを提案するためのテンプレートを作成するとします。この場合、推奨アイテムとして 修復タスク を選択します。



   c. [拡張ポイント] フィールドに、拡張ポイントを入力します。

   d. [表示順序] フィールドに、拡張ポイントを表示する順序を入力します。

   e. 推奨事項テンプレートを有効にする場合は、[アクティブ] チェックボックスをオンにします。

   f. 推奨事項テンプレートで [関係性] セクション タブを表示する場合は、[関係性を表示] チェックボックスをオンにします。

3. [高度な **AI** 検索] タブで、必要な入力内容を入力します。

   a. [高度な AI 検索] ドロップダウンリストで、[予測インテリジェンス] オプションまたは **[GenAI**] オプションを選択します。
   コンテキストと基準に基づいて関連アイテムを推奨するためのニーズに最も適した AI 検索タイプを選択します。
      - [予測インテリジェンス] を選択した場合は、AI モデルを選択する必要があります。
      - **GenAI** を選択した場合は、スキルを選択する必要があります。

4. [関係] セクション タブで、「 見出し 」と 「小見出し」を入力します。
   見出しとサブ見出しは、レコードのワークスペースビューの [関係] セクションに表示されます。

   たとえば、IRM 向け Now Assist アプリケーションを使用して、問題の修復タスクの推奨事項をフェッチできます。

5. フォームヘッダーで [保存] を選択します。
6. [推奨事項テンプレート] 関連リストから、推奨事項テンプレートを選択します。
7. [カードの詳細] 関連リストから [新規] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [フィールド] ドロップダウンリストから値を選択します。
選択した各フィールドは、推奨事項カードにその値とともにフィールドとして表示されます。

b. [表示順序] フィールドに、推奨事項テンプレートを表示する順序の値を入力します。

c. 推奨事項カードに [キー] フィールドを表示する場合は、[アクティブ] を選択します。

d. ワークスペースビューの推奨事項カードに表示するすべてのフィールドについて、手順 a ～ c を繰り返します。

8. [サブヘッダーの詳細] 関連リストから [新規] を選択します。

a. [フィールド] ドロップダウンリストから値を選択します。
選択した各フィールドは、推奨事項カードにその値とともにフィールドとして表示されます。

b. [表示順序] フィールドに、推奨事項テンプレートを表示する順序の値を入力します。

c. 推奨事項カードに [キー] フィールドを表示する場合は、[アクティブ] チェックボックスをオンにします。

d. ワークスペースビューの推奨事項カードに表示するすべてのフィールドについて、手順 a ～ c を繰り返します。

9. [詳細] 関連リストから [新規] を選択します。

a. [フィールド] ドロップダウンリストから値を選択します。
選択した各フィールドは、推奨事項カードにその値とともにフィールドとして表示されます。

b. [表示順序] フィールドに、推奨事項テンプレートを表示する順序の値を入力します。

c. 推奨事項カードに [キー] フィールドを表示する場合は、[アクティブ] チェックボックスをオンにします。

d. ワークスペースビューの推奨事項カードに表示するすべてのフィールドについて、手順 a ～ c を繰り返します。

10. [関係レジストリ] 関連リストから、[新規] を選択します。

スコープ指定の推奨レコードタイプで意図した結果を得るために必要な依存レコードタイプを特定します。

関係レジストリは、レコードとテーブルで定義されているオブジェクトとの関係を示します。名前、ソース、テーブル名、フィルター条件などの詳細を構成できます。

追加した各エントリは、ワークスペースビューの推奨事項の子関係セクションに列として表示されます。

a. 関係レジストリ タブで、新規 を選択します。

b. [関係レジストリ] フィールドで、レコードを検索して選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

選択したレコードは、[リレーションシップテーブル] フィールドに読み取り専用の値として表示されます。たとえば、[子コントロール目標] を選択すると、関係テーブルフィールドに *[sn_compliance_policy_statement]* が表示されます。

c. オプション: [条件] フィールドで、要件の条件を追加します。

d. [表示順序] フィールドに値を入力します。

e. レジストリの詳細を有効にする場合は、[アクティブ] チェックボックスをオンにします。

f. **[Submit** (送信)] を選択します。

11. **[Update** (更新)] を選択します。

タスクの結果
選択した推奨コンテキストに対して推奨テンプレートが構成されます。

ガバナンス、リスク、コンプライアンスのモバイルエクスペリエンス

お使いのモバイルデバイスから、GRC アプリケーションの作業、タスクのアサイン、要求、承認、その他のフォローアップアクションを管理できます。現在のアラートだけではなく、重要な資産、ベンダー、影響を受ける中核のビジネスサービスのリスクとコンプライアンスステータスの通知を逐一受信します。

New York 以降、次のアプリケーションがモバイルアクセスを提供します。

- GRC Policy and Compliance のモバイルエクスペリエンスの管理
- GRC リスク管理 のモバイルエクスペリエンス

ガバナンス、リスク、コンプライアンス アプリケーションの用語の更新と業界の用語

次の用語は、GRC アプリケーション内または GRC 業界で使用されています。

GRC 用語の更新

以前のリリースから、すべての GRC コアアプリケーション内の多くの用語が更新されました。

注:
これらの用語の更新は、すべてのナビゲーション ラベル、ボタン、情報メッセージ、レポートタイトル、関連リンク、タブ、およびその他の UI 要素に適用されます。

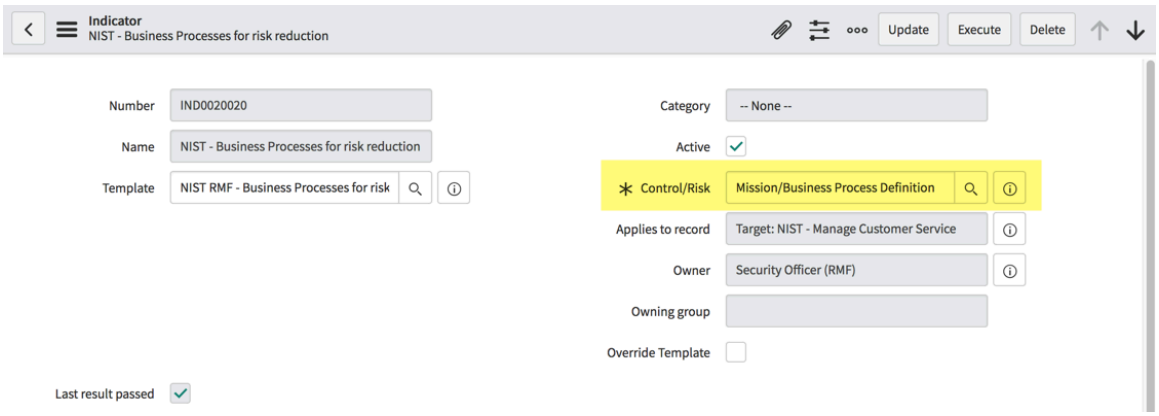
GRC モジュール	前へ	現在
スコーピング	プロフィール	エンティティ
	プロファイルタイプ	エンティティタイプ
	プロファイルクラス	エンティティクラス
	自分のプロファイル	自分のエンティティ
	すべてのプロファイル	すべてのエンティティ

自動翻訳

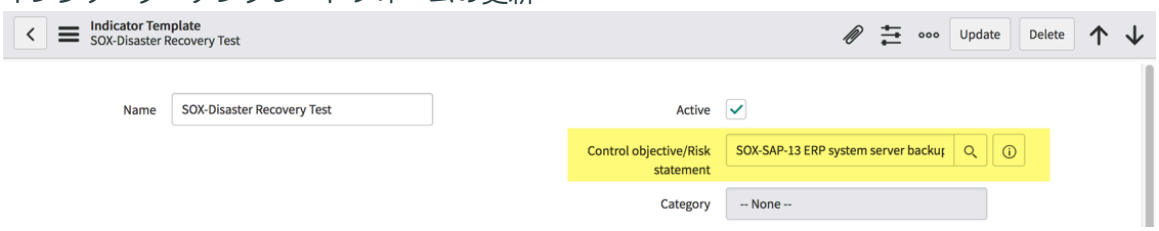
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC モジュール	前へ	現在
管理	プロファイル層	エンティティ層
	プロファイルクラスルール	エンティティクラスルール
Indicators (インジケーター)	インジケーター > アイテム field	コントロール/リスクフィールド
		カテゴリフィールドはコンプライアンスインジケーターかリスクインジケーターかを示す
	インジケーターテンプレート > コンテンツ field	コントロール目標/リスクステートメント
Issues (問題)	詳細 > コンテンツ field	コントロール目標/リスクステートメント
	詳細 > アイテム field	コントロール/リスク
Policy and Compliance	ポリシーステートメント	コントロール目標
Risk (リスク)	すべてのリスク > ステートメント > **field**	自分のリスク > リスクステートメント field
	自分のリスク > ステートメント field	自分のリスク > リスクステートメント field

インジケーターフォームの更新



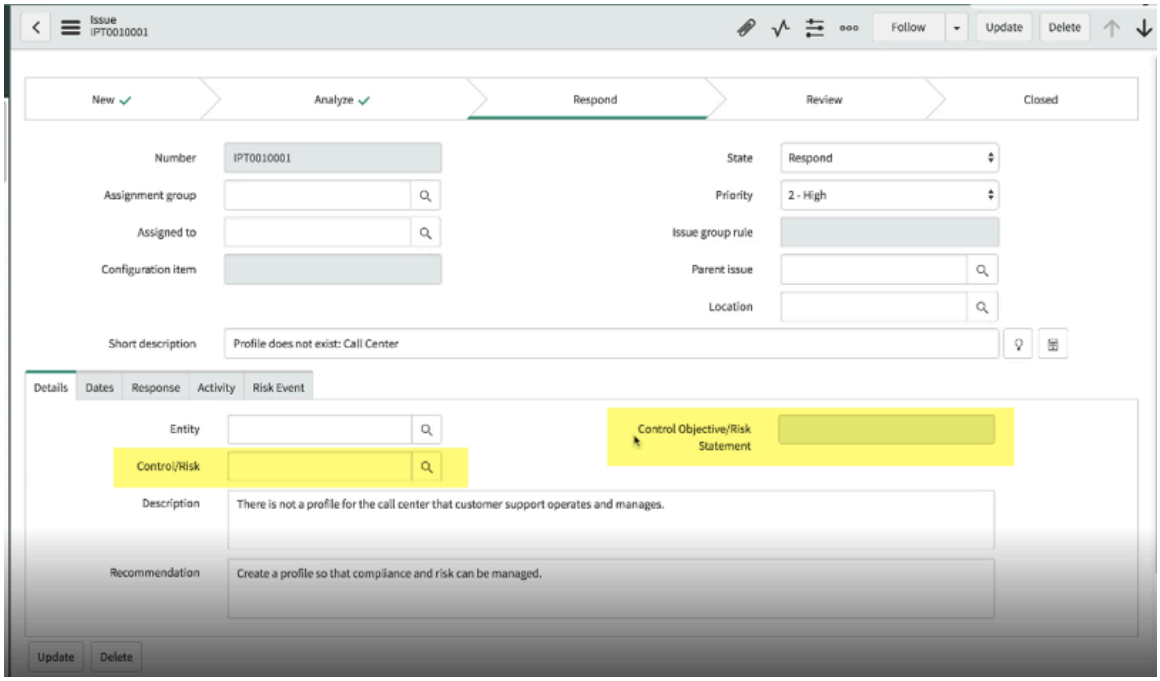
インジケーターテンプレートフォームの更新



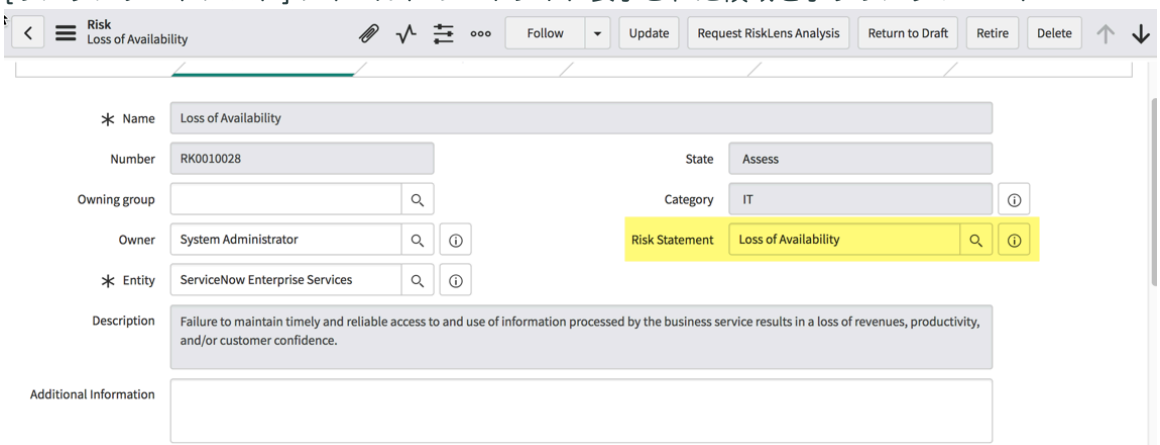
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

問題フォームの更新



[リスクステートメント] フィールドのハイライト表示された領域を示すリスクレコード



業界基準

- ENISA 用語集
- ISACA 用語集
- ISO リスク用語集
- OCEG 用語集
- PCI コンプライアンスガイド

業界の略語

用語	定義
バーゼル III	銀行が潜在的なリスクをオフセットするために必要な資本の額について規制を行う際に規制当局が使用できる銀行の国際標準。銀行が持つリスクが大きいほど、支払能力を維持するためにより多くの資本を用意する必要があります。この規制は、バーゼル銀行監督委員会によって発行さ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

業界の略語 (続く)

用語	定義
	れた 3 番目の基準であり、そのためバーゼル III という名前が付けられました。
CISA	Cybersecurity Information Sharing Act (サイバーセキュリティ情報共有法)
CISM	Certified Information Security Manager (認定情報セキュリティマネージャー)
COBIT	Control Objectives for Information and Related Technologies (情報および関連技術のコントロール目標) (COBIT) は、ベストプラクティスに基づいてリスクとコンプライアンスの問題を管理するための IT ガバナンスフレームワークを提供します。IT ガバナンス研究所および情報システム監査コントロール協会 (ISACA) によって公開されています。
COSO	Committee of Sponsoring Organizations of the Treadway Commission (トレッドウェイ委員会組織委員会) (COSO) は、不正財務レポートに関する国内委員会を支援するために 1985 年に形成されました。COSO は、不正な財務レポートにつながる可能性のある原因を調査し、公開企業、SEC、およびその他の規制機関や教育機関に対して推奨事項を作成した独立した民間セクターのイニシアチブです。
EDPA	European Data Privacy Act (欧州データプライバシー法)
ENISA	European Network & Information Security Agency (欧州ネットワーク情報セキュリティ機関)
EUP	Energy use in products (エネルギー使用製品) (EUP) は、企業にエネルギー使用量の少ない製品を設計するように義務付ける EU 指令です。
データ保護に関する欧州指令	特にインターネットのプライバシーに対処する、データプライバシー法の最初の最重要事項の 1 つ。
FCA	Financial Conduct Authority (金融行為監督機構)
GDPR	General Data Protection Regulation (一般データ保護規則) (GDPR) は、2018 年 5 月 25 日に発効した規制で、欧州連合市民のデータ保護権利を強化および調和させることを目的としたデータ保護指令 95/46/ec に代わるものです。
GRI	Global Reporting Initiative (グローバルレポートイニシアチブ) (GRI) は、持続可能性レポートの G3 フレームワークを作成した国際的なグループです。
ITGI	IT Governance Institute (IT ガバナンス研究所)
PII	Personal Identifying Information / Personally Identifiable Information (個人識別情報/個人識別可能情報) (PII) は、個人の身元を直接的または間接的に推測できる情報です。
PCI DSS	Payment Card Industry Data Security Standard (PCI DSS) は、クレジットカード情報の受け入れ、処理、保存、または送信を行うすべての会社が安全な環境を確実に維持するために設計された一連のセキュリティ標準です。
ソルベンシー II	ソルベンシー II
SOX	Sarbanes-Oxley Act (サーベンスオクスリー法) (SOX) により、公開会社会計監視委員会が設置され、株式公開会社、その役員、役員会、監査人に要件が追加されました。これにより、企業の財務詐欺に対するペ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

業界の略語 (続く)

用語	定義
	ナルティが増加しました。この米国の法律は、注目を浴びた Enron と WorldCom の財務スキャンダルに対応して制定されました。その目的は、企業内の会計上の誤りや詐欺行為から株主と一般市民を保護することです。SOX は米国で株式公開を行う企業に適用されます。

業界用語

用語	定義
ALE	年間予測損失額 (ALE) = 単一損失予想 (SLE) x 年間発生率 (ARO)。定量的リスクスコアリングで使用されます。
ARO	年間発生率。
受け入れ	経営陣は、特定のリスクが一定レベルの許容範囲にある場合、またはいっそうの軽減や制御を行うなら、リスクから生じる影響 (または重大性) よりも大きなコストがかかると見込まれる場合、それを受け入れて、より厳しい制御や高いレベルの軽減のための、さらなる投資を中止することがあります。
アサーション	経営陣によって行われた主題に関する正式な宣言または一連の宣言。
アセスメント	構造化保証イニシアチブの対象ではない要素を含む、会社または部門のさまざまな側面の広範なレビュー。
証明書	何かが真実であることを検証するプロセス。たとえば、コントロールの有効性やコンプライアンスは、履行者が電子的に署名するアンケートによって証明できます。
監査	標準や一連のガイドラインが守られているか、記録が正確か、効率および有効性の目標が達成されているかを確認するための正式な調査と検証。ServiceNow　では、組織は一度にテストするすべてのコントロールを特定し、監査全体の責任を 1 人に割り当てます。単一のタスクですべてのコントロールのテストを管理します。
監査アクティビティ	監査を実行するために個人にアサインされる監査内のタスクの 1 つ。
監査委員会	多くの場合、取締役会のメンバーで構成され、財務レポートと内部管理を監督する責任を担う委員会。
監査ドキュメント (ワーキングペーパー)	適用された手順、実行されたテスト、取得された情報、およびエンゲージメントで到達した関連する結論についての監査人によって保持される記録。ドキュメントは、監査人のレポートの主要な根拠を提供します。
監査証拠	監査中の財務諸表に関する意見を形成するための合理的な基盤を提供する、監査手順中に収集された事実。
監査目標	財務諸表のアサーションを裏付ける証拠を取得する場合、監査人はそれらのアサーションに照らして特定の監査目標を策定します。たとえば、インベントリ残高の完全性アサーションに関連する目標は、インベントリ数量にすべての製品、資料、および消耗品が含まれていることです。
監査観察事項	内部監査人がコントロールギャップを特定したり、新しいリスクを特定したりするために使用します。
自動コントロール	コンピューターシステムによって自動的に実行される内部コントロール。手動コントロールは、そのタスクの担当者によって実行され、通常はトランザクションとデータのサブセットに対して実行されます。自動

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

業界用語 (続く)

用語	定義
	コントロールは、関連するすべてのトランザクションまたはデータ要素で実行できるため、少ない労力で高い精度を確保できます。
各種法令・基準等	組織が選択した、または規制に準拠するために必要な規制、認定、フレームワーク、標準、およびベストプラクティス。各種法令・基準等は、コントロール、リスク、およびポリシーに関連しています。
ビジネスリスク	エンティティが目標を達成し、戦略を実行する能力に悪影響を与える可能性のあるリスク。
計算済みスコア	計算済みスコアは、全体的な結果としての固有スコアと残存スコアから導出されます。実装されたコントロールシステムの品質に基づく実際のリスクのエクスポージャーを指します。
一連の管理	証拠の有効性と完全性に関する法的原則。法的手続きで証拠として使用されるものはすべて説明責任が必要です。これにより確実に、収集された時点から裁判所に提示する時点までを説明することができます。
最高コンプライアンス責任者 (CCO)	組織内のコンプライアンス問題の監督と管理を担当する企業の役員。この担当者は、会社が規制要件に準拠し、および会社が内部のポリシーと手順に準拠するように確保します。
最高執行責任者 (COO)	業務最高責任者とも呼ばれ、会社の日常業務を担当する役員。
最高リスク責任者 (CRO)	最高リスク管理責任者とも呼ばれ、企業のリスク管理とコンプライアンスの取り組みを担当する役員。
信頼できるソースコンテンツ	各種法令・基準等で引用された特定の要件を含むレコード。引用レコードは、各種法令・基準等を該当するコントロールに関連付けます。
コンプライアンス	法律、規制、またはポリシーに忠実に従い、その遵守を明確に示す行為。コンプライアンスは、財務、環境、国際貿易、従業員の安全性、プライバシーなど、多くの分野の規制に関連しています。
機密性	プライバシーと機密情報を保護する手段を含む、アクセスと開示に関する許可された制限の維持。
格納コントロール	リスクが発生した場合に、その影響 (または重大性) を制限するように設計されたコントロール。
コントロール	組織が実行する、実際のコントロールアクティビティ。コントロールレコードには、コントロールに関する基本的な必須情報 (オーナー、アクティビティ、頻度など) が含まれます。コントロールは、信頼できるソースコンテンツ、ポリシー、およびリスクに関連付けることができます。 リスクを管理するために経営陣、取締役会、およびその他の関係者が行ったアクション。経営陣は、目的と目標が達成されるという合理的な保証を提供するために十分なアクションのパフォーマンスを計画、整理、指示します。コントロールレコードには、コントロールに関する基本的な必須情報 (オーナー、アクティビティ、頻度など) が含まれます。コントロールは、信頼できるソースコンテンツ、ポリシー、およびリスクに関連付けることができます。
コントロールフレームワーク	財務的損失や情報の損失を防止するため、またはより一般的には企業内のリスクを防止するために、コントロールのクロスマッピングを実行および保持する基本的なコントロールのセット。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

業界用語 (続く)

用語	定義
コントロールインスタンス	定期的またはオンデマンドでのコントロールテスト定義の実際の実行。結果データサンプル、証明書、またはテストアクティビティの手動結果を表示します。
コントロールテスト定義	コントロールテスト定義は、テストのステップ、期待される結果、テストを担当するグループまたは個人、テストスケジュールを含め、いつどのようにコントロールをテストするかを指定します。コントロールテストインスタンスは、テストスケジュールから自動的に生成されます。コントロールテストが失敗した場合、または監査の観察事項が記録された場合、修正が自動的に作成されます。
是正コントロール	問題が検出されると有効になる内部コントロール。たとえば、過剰な権限を持つユーザーからのアクセス権の削除や、物理的な災害が発生した後のバックアップおよび復旧計画の実行などです。
企業パフォーマンス管理	企業パフォーマンス管理 (CPM) は、戦略管理、計画立案、レポート作成、統合、および収益、コスト、収益性のモデル化を組み合わせたもので、企業がパフォーマンスを測定して改善できるようにします。
検出	目標に向けた進行中の進捗状況、および管理アクションとコントロールを使用した実際のおよび潜在的な望ましくない条件およびイベント。
発見的コントロール	意図しないイベントまたは結果を検出するように設計されたコントロール。また、特定のリスクが発生したかどうか、いつ発生したかを検出することもできます。
効果	何かに対するイベントの可能性、タイミング、および影響度の測定値。
有効な内部コントロール	運用目標が達成され、公開された財務諸表が確実に準備され、エンティティが適用可能な法律および規制に準拠しているという合理的な保証。
エンゲージメント	一連の目的または目標を達成する監査タスクを含むことがある監査プロジェクト。
イベント	観測可能なアクション、発生、または条件の変化。イベントには、条件が変更されていない場合でも、条件に関するナレッジの変更が含まれます。
エンティティ	GRC の基本的な概念。エンティティは、コントロールとリスクを関連付けることができる企業要素をモデル化するために使用されます。例：事業部門、サーバー、ラップトップ。
エンティティタイプ	複数の類似したエンティティを参照するために使用されます。例：アジア/太平洋事業部門、Linux サーバー、MacBook Pro。
評価	基準に対して何かを測定すること。
証拠 (証拠物件)	監査人が根拠に基づいて結論を下せる、書面および電子的な情報 (小切手、電子送金の記録、請求書、契約書、その他の情報など) が含まれます。
詐欺	偽り、隠蔽、または信頼の侵害を特徴とする不法行為。これらの行為は、暴力の脅威または物理的な力を伴うわけではありません。詐欺は、金銭、財産、またはサービスを入手し、支払いやサービスの損失を回避したり、個人的またはビジネス上の利益を確保したりするために関係者と組織によって行われるものです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

業界用語 (続く)

用語	定義
一般的なコントロール	ネットワーク運用、ソフトウェアの取得とメンテナンス、アクセスセキュリティの制御など、コンピューターシステムの適切な運用を保証するためのポリシーと手順。
ガバナンス、リスク、コンプライアンス (GRC)	ガバナンス、リスク管理、および規制への準拠は、従来は個別の企業機能でした。GRC は、組織が不確実性に対処し、誠実に行動しながら、目標を確実に達成することを可能にするための機能の統合されたコレクションです。これには、ガバナンス、保証、管理パフォーマンス、リスク、およびコンプライアンスが含まれます。 GRC とは、組織がパフォーマンスを最適化するために、外部および内部の標準に準拠し続けながら、リスク管理を通じてどのように運用するかという業務です。GRC は、プロセス、コントロール、セキュリティ、および文化を統合して組織の完全性を確保する方法を採用しています。
影響	リスクの重大度を、その可能性とともに評価するために使用されます。特定のリスクが発生した場合に組織に及ぼす結果のレベルを評価します。
インジケーター	コントロールとリスクを監視するためのデータの収集と、監査証拠の収集のために使用されるメトリクス。
可能性	回答戦略が実装される前に識別済みリスクが発生する可能性。
固有リスク	関連する内部コントロールがなく、軽減アクションがまだ実施されていない場合の、可能性と影響度 (または重大性) に関するリスクエクスポージャーのレベル。
固有スコア	回答戦略が実装される前のリスクのスコア。
有意性	回答戦略が実装される前のリスクの重大性。
完全性	情報、情報システム、またはシステムのコンポーネントが不正な方法で変更または破壊されていないプロパティ。 情報がソースによって生成された時点から、送信、格納、および最終的に宛先で受信されるまで未変更のままの状態。
内部監査	価値を付加し、組織の運用を改善するために設計された、独立した客観的な保証およびコンサルティングサービスを提供する部門、部署、コンサルタントチーム、またはその他の施術者。内部監査アクティビティは、体系的で統制のとれたアプローチを採用して、ガバナンス、リスク管理、およびコントロールプロセスの有効性を評価して改善することで、組織の目標達成を支援します。
内部監査人	分析、評価、保証、推奨事項、およびその他の情報をエンティティの経営陣および取締役会に提供する責任を負うクライアントの従業員。内部監査人の重要な責任は、コントロールのパフォーマンスを監視することです。
内部コントロール	ビジネスゴールが達成され、望ましくないイベントが防止または検出されて修正されるという合理的な保証を提供するように設計されたポリシー、手順、プラクティス、および組織構造。
問題	エンドユーザーがコントロールとリスクの問題を文書化し、問題を修正または承認するための対応を追跡できるようにする GRC タスク。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

業界用語 (続く)

用語	定義
IT ガバナンス	企業の IT が企業の戦略と目標を維持および拡張することを保証するリーダーシップ、組織構造、およびプロセス。経営幹部と取締役会の責任です。
IT GRC	確立されたベストプラクティスに基づいて、IT の観点からコンプライアンスとリスク管理の取り組みをサポートするために使用されるソフトウェアとハードウェア、および関連するポリシーと手順を含みます。
可能性	何かが発生する見込み。
管理	エンティティ、プロセス、またはリソースを内部的に指示、制御、および評価する行為。
手動コントロール	コンピューターではなく手動で実行されるコントロール。
重要 (重要性)	財務的影響度を計算できる場合、リスクは重要とされます。
軽減	ルールの特定の違反に関連付けられたリスクを減らすこと。リスクが発生する前に、関連する可能性のあるコントロールの失敗を解決したり、リスクのエクスポージャーを削減したりするために、適切な軽減アクションが実施されます。
目標	エンティティが到達または達成しようとしているもの。
運用監査	部署または部門のさまざまな内部コントロール、経済性、および効率性を評価するように設計された監査。
運用コントロール	すべての目標が達成されるように確保するための、会社または企業の日常業務に関連するコントロール。
運用リスク	組織のミッションと目標を達成するために必要な人、プロセス、およびシステムに関連するリスク。
客観性	先入観や偏見を持たずにクライアントレコードを評価する能力。
義務	義務についてのアサーションは、責任が特定の日付におけるエンティティの義務であるかどうかに関係しています。たとえば、経営陣は、貸借対照表のリースについて資産計上された金額がリース資産に対するエンティティの権利のコストを表し、対応するリース負債がエンティティの義務を表していると主張します。
オーナー	リスク、コントロール、または軽減/修復タスクのオーナーは、その説明責任を受け入れます。所有権に関連する一部のタスクは委任できますが、組織に対する責任は残ります。
ピアレビュー	ある CPA 事務所の監査文書が他の事務所の独立したパートナーによって定期的にレビューされ、専門職の基準に準拠していることを判断する実務モニタリングプログラム。
プラン	監査の計画立案では、監査の実施とスコープに関する全体的な戦略を策定します。計画立案の性質、範囲、およびタイミングは、エンティティのサイズと複雑さ、エンティティの経験、およびビジネスのナレッジによって異なります。監査人は、監査の計画立案時に、エンティティのビジネスとその業界、会計ポリシーと手順、会計情報の処理に使用される方法、コントロールリスクの予定評価レベル、および監査の重要性に関する監査人の予備的判断を検討します。
ポリシー	決定された高レベルの原則または一連のアクションを記録するドキュメント。意図された目的は、現在および将来の意思決定に影響を与え、企業の経営チームによって確立された理念、目標、および戦略的計画に

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

業界用語 (続く)

用語	定義
	沿ったものになるように導くことです。ポリシーには、ポリシーの内容に加えて、ポリシーに準拠しない場合の結果、例外の処理方法、およびポリシーへの準拠のチェックと測定の方法が記載されています。 ServiceNow® では、承認されたポリシーは ナレッジベース で公開されます。ポリシーは、各種法令・基準等とコントロールレコードに関連しています。ポリシーステートメントは、プロセスがポリシー内で従う特定の詳細を定義します。
予防コントロール	意図しないイベントを回避するように設計されたコントロール。
手順	監査プログラムの一部として、またはクライアントの内部コントロールの一部として実行されるステップなどのアクション。 ポリシーの「ハウツー」を提供し、その実装を導きます。手順は対象者固有で、所定のポリシーに確実に準拠するための正確な指示を提供します。ServiceNow® はポリシーと手順を同じように扱います。したがって、これらの用語は同じ意味で使用される場合があります。これは、ポリシーと手順を 2 つの別々のアイテムとして定義する COBIT 5.1 などのフレームワークとは異なる場合があります。
職業的懐疑心	常に疑問を抱きつつ監査に臨むこと。
定性的な影響度	影響度 (リスクの重大性を指す) と可能性 (リスクが発生する可能性を指す) の評価が含まれます。スコアは、影響度に可能性を乗算して計算されます。影響度は、通常、順序スケールまたは名義スケールを使用して表されます。
定量的な影響度	金融資産、有形資産、無形資産、事業継続性、および衛生安全に対するプラス/マイナスの影響。単一損失予測 (SLE) x 年間発生率 (ARO) = 年間予測損失額 (ALE) として算出します。定量的な影響度は数値で表されます。
アンケート	内部コントロールアンケートは、監査フィールドワーク中に回答される内部コントロールシステムに関する質問のリストです (「はい」、「いいえ」、「該当なし」などの回答を含む)。アンケートは、クライアントの内部コントロールに関する監査人の理解を示すドキュメントの一部です。
ランダムサンプル (乱数サンプリング)	母集団の各アイテムが選択される確率が同一であるようなサンプリング。乱数を使用して母集団からランダムにサンプルを選択することもできます。
合理的な保証 (内部コントロール)	内部コントロールは、どれほど適切に設計および運用されていても、すべての内部コントロールシステムに固有の制限があるため、エンティティの目標が満たされることを保証できません。
修正	障害が特定され評価された後、問題を軽減または排除するために適切な修正を行うことができます。 残りの可能性：回答戦略が実装された後に特定済みのリスクが発生する可能性。
要件	約束の結果としてエンティティが対処する必要があるもの。
残りの可能性	回答戦略が実装された後に特定済みのリスクが発生する可能性。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

業界用語 (続く)

用語	定義
残存リスク	関連する内部コントロールと軽減アクションが実施されて有効になった後の、可能性と影響度 (または重大性) に関するリスクエクスポージャーのレベル。
残存スコア	回答戦略が実装された後のリスクのスコア。
残りの重大性	回答戦略が実装された後のリスクの重大性。
リスク	リスクとは、組織のビジネスゴールに悪影響を与える可能性のある脅威または脆弱性のことです。すべてのリスクは 1 つのリスクリポジトリに含まれます。リスクは、アイテム、ポリシー、コントロール、および修復タスクに関連している場合があります。即時または継続的な注意が必要なリスクは、定義されたコントロールと関連するコントロールテストを使用して軽減、防止、または制御できます。リスクステートメントは、脅威が脆弱性を利用した場合に発生する可能性がある定義済みの結果です。 リスクは、影響度 (または重大性) と可能性の観点から測定されます。リスクのタイプには、運用リスク (詐欺など)、非準拠のリスク (法律に準拠するための適切な文書を提出していない)、および戦略的リスク (ブランドの評判に影響を与えるインシデントなど) が含まれます。ビジネスリスクは、企業内の IT の使用、所有権、運用、関与、影響、および採用に関連付けられています。
リスク分析	指定されたイベントが発生する頻度とその結果の規模を判断するために利用可能な情報を体系的に調べること。
リスク選好度	組織がその目標を達成するために許容するリスクのレベル。
リスクアセスメント	エンティティ、資産、システムまたはネットワーク、組織の運用、個人、地理的領域、その他の組織、または社会が直面しているリスクの評価です。どの程度の不利な状況またはイベントが有害な結果を生じるかについての判断が含まれます。
リスク基準	リスクのレベルが評価される定量的または定性的な値です。
リスク管理	リスク管理の目的は、不確実性を減らすことです。これは、組織の目標達成を追求しながら、リスクに対処するプロセスとリソースを管理する行為です。リスクを特定、分析、評価、および伝達し、実行したアクションに関連するコストとメリットを考慮して、リスクを受け入れ、回避、転送、または許容可能なレベルに制御するプロセスです。
リスク管理フレームワーク	明示的にリスクを管理するための形式化されたプロセス。フレームワークはリスクアセスメント、応答、リスクの説明責任、およびリスクに関連した軽減アクティビティから構成されます。
リスク軽減	リスクを軽減する、ポリシー、フレームワーク、説明責任などの制御環境に組み込まれたプロセス。
リスク登録	潜在的および既知の IT リスクの問題の主要な属性のリポジトリ。属性には、名前、説明、オーナー、予想/実際の頻度、固有/残存レベル、潜在的/実際のビジネスインパクト、および軽減/修正計画が含まれる場合があります。
リスク対応	リスクを受け入れるか、リスクを拒否するか、リスクを処理または軽減するか、または他の関係者とリスクを共有するかの決定。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

業界用語 (続く)

用語	定義
リスクステートメント	組織のいずれかの場所で生じる可能性のある潜在的なリスクや脅威に関する全般的なステートメント。
リスク許容度	組織が目標を達成するために超えたくないリスクのレベル。特定のリスクカテゴリに対して組織内のさまざまな管理レベルに与えられたしきい値 (一般に財務) に関するリスク選好の表現。
サンプルサイズ	母集団からサンプルが抽出されたときに選択された母集団アイテムの数。
サンプリング	レコードの母集団全体を表せるように、少数だが適切な代表レコードを選択すること。
サンプリングリスク	サンプルから導き出された結論が母集団全体の正しい結論を表していない可能性。
職務の分離 (SoD)	トランザクションの承認、トランザクションの記録、および資産の保管の維持の責任をさまざまな人にアサインすること。職務の分離により、1 人の担当者がエラーや詐欺を実行したり、隠蔽したりする機会を減らすことができます。
重大性	リスクの重大度を、その可能性とともに評価するために使用されます。特定のリスクが発生した場合に組織に及ぼす結果のレベルを評価します。
SLE	単一損失予測 (SLE) = 単一損失予測 = 資産価値 x エクスポージャー係数。
ステークホルダー	組織のアクション、目標、およびポリシーに影響を与える、またはそれらによって影響を受ける可能性があるため、組織に直接的または間接的に出資している個人、グループ、または組織。
標準	幅広い内部監査アクティビティを実行し、内部監査のパフォーマンスを評価するための要件を説明する、内部監査標準委員会によって公示された専門的な意見書。
戦略的リスク	政治的要因、顧客の優先順位、ブランド、評判などの戦略的目標に関連するもの。
ターゲット	エンティティが達成しようとする測定可能な値。
テスト	母集団の特性を推定するための母集団からのサンプル。
テスト計画	単一のコントロールの設計と運用の有効性に関する特定の監査テスト。
脅威	目標の達成に、どちらかと言えば望ましくない影響を与えるイベント。
許容範囲	ターゲットからの逸脱の許容レベル。
Unified Compliance Framework (UCF)	Network Frontiers の Unified Compliance Framework (UCF) には、ServiceNow インスタンスにインポートできる各種法令・基準等が含まれています。詳細については、「Unified Compliance Framework」を参照してください。
不確実性	何かを完全に予測、決定、または定義できない状態。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ガバナンス、リスク、コンプライアンス コンテンツパック

コンテンツパックには、定義済みのスコープ、特定のポリシー、コントロール、リスク、監査、テスト計画、ダッシュボード、およびレポートなどが含まれており、顧客は、様々な規制やフレームワークを採用する際、運用面で有利なスタートを切ることができます。

ServiceNow Store での GRC コンテンツパックのインストール、検証、レポート機能については、次のドキュメントを参照してください。

特に示さない限り、各コンテンツパックでは、ServiceNow GRC 製品がインスタンスにインストールされ、有効化されている必要があります。

サーベンスオクスリー (SOX) コンテンツパック

サーベンスオクスリー法 (SOX) コンテンツパックは、ServiceNow® GRC アプリケーションを使用して運用上の SOX コンプライアンスの達成に向けたアクティビティを開始および管理するための組織向けの基本的な SOX コンテンツを提供します。コンテンツパックには、定義済みのスコープ、特定のポリシー、コントロール、リスク、監査、テスト計画、ダッシュボード、レポートなどが含まれており、ServiceNow® GRC のユーザーは、SOX コンプライアンス関連のアクティビティに向けたアプリケーションを使用する際に有利なスタートを切ることができます。

組織のコンプライアンスアドミニストレーター (sn.compliance.admin)、リスクアドミン (sn.risk.admin)、または監査アドミン (sn.audit.admin) の GRC アドミンロールを持つユーザーは、組織の SOX 要件に適合するようにコンテンツを編集する責任を負います。SOX コンテンツパックは、ServiceNow® GRC の 3 つのコアアプリケーション、つまり ポリシーとコンプライアンス管理、リスク管理、監査管理 を対象としており、これらのアプリケーションのさまざまなコンテンツ要素間の関係を確立します。

SOX コンテンツパックをインストールする

コア GRC アプリケーションで使用する SOX コンテンツパックをインストールします。

始める前に
必要なロール：sn_compliance.admin、sn_risk.admin、または sn_audit_admin、admin

インストールの前に、次のセットアップチェックリストを完了します。これらのセットアップタスクは、インストールをスムーズに行うために必要です。

セットアップタスク	説明
ServiceNow プラグインが有効化されていることを確認します。	次の GRC プラグインの 1 つを有効にします。 • GRC: ポリシーとコンプライアンス管理 (com.sn_compliance) • GRC リスク管理 (com.sn_risk) • GRC: 監査管理 (com.sn_audit) このプラグインがアクティブであることを確認するには、 サブスクリプション管理 > サブスクリプション インスタンス内にありますリストには、組織で購入したサブスクリプションが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 「info re: Legal Notice」と入力します。
2. アプリケーションをインストールしていない場合は、指示に従ってインストールします。

   a. アプリケーションをインストールするインスタンスにログインします。

   b. 移動先 システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
   インストール可能なアプリのリストが表示されます。

   c. アプリを見つけて選択し、[インストール] をクリックします。

      アプリがインスタンスに自動的にインストールされます。

      アプリをアンインストールするときに、プロファイルタイプのプロファイルとインジケーターを保持するには、このチェックボックスをオンにします。

ポリシーとコンプライアンス管理で **SOX** コンテンツパックを確認する

SOX コンテンツパックをインポートした後、ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーション内でプロファイルタイプ、プロファイル、ポリシー、ポリシーステートメント、コントロール、インジケーターテンプレート、およびインジケーターを確認および編集します。

始める前に
必要なロール：コンプライアンスアドミニストレーター (sn_compliance.admin)

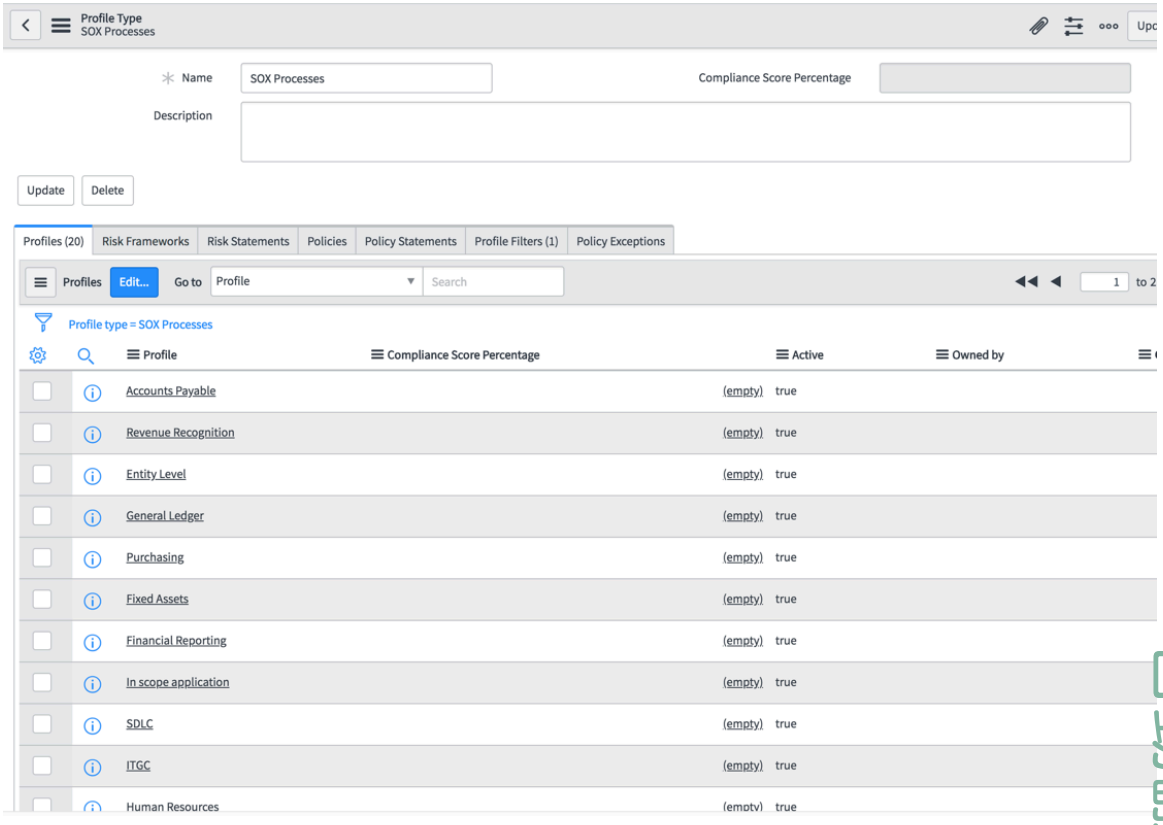
手順

1. 移動先 すべて > ポリシーとコンプライアンス > スコーピング > エンティティタイプ.
   [SOX プロセス] エンティティタイプが追加され、SOX プロファイルの生成に使用されます。
   - 売掛金
   - 買掛金
   - コミッション
   - 株式
   - エンティティレベル
   - 財務レポート
   - 固定資産
   - 総勘定元帳
   - ヒューマンリソース (HR)
   - スコープ内のアプリケーション
   - インベントリ
   - ITGC
   - 給与
   - 購入
   - 収益認識
   - SAP
   - SDLC

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

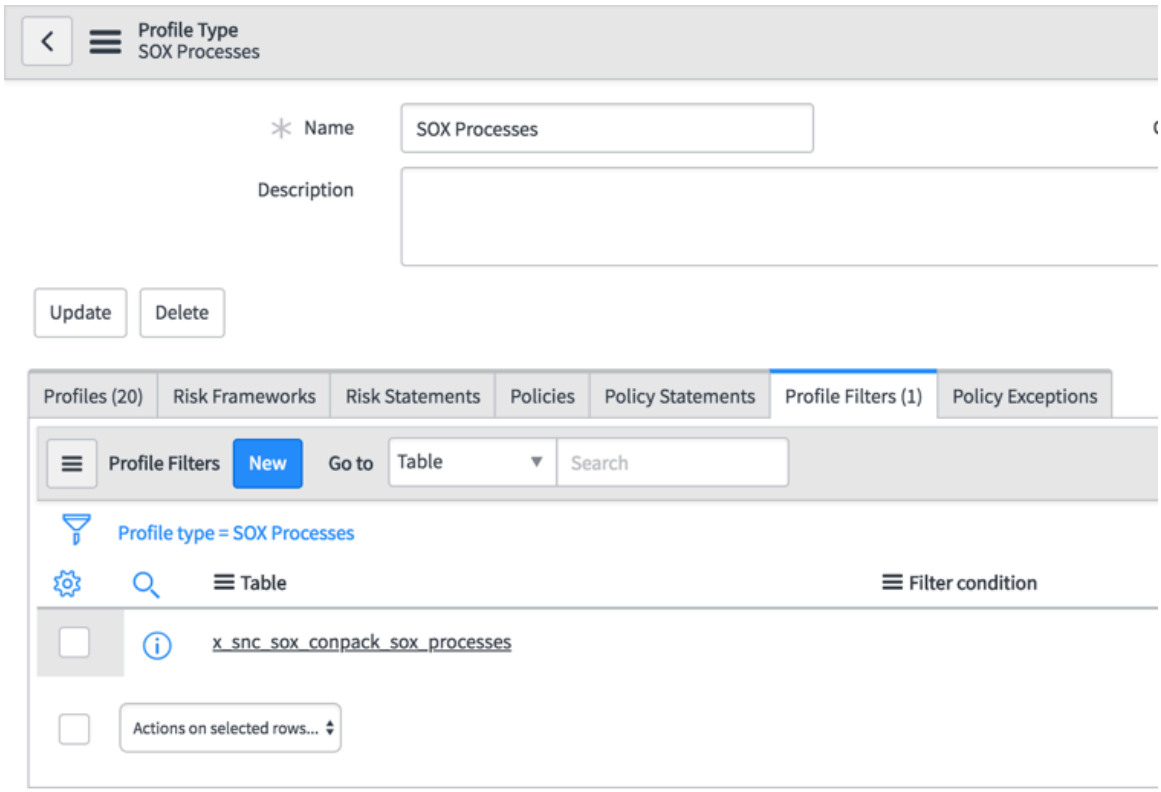
- 税
- 出張費と経費
- 財務省



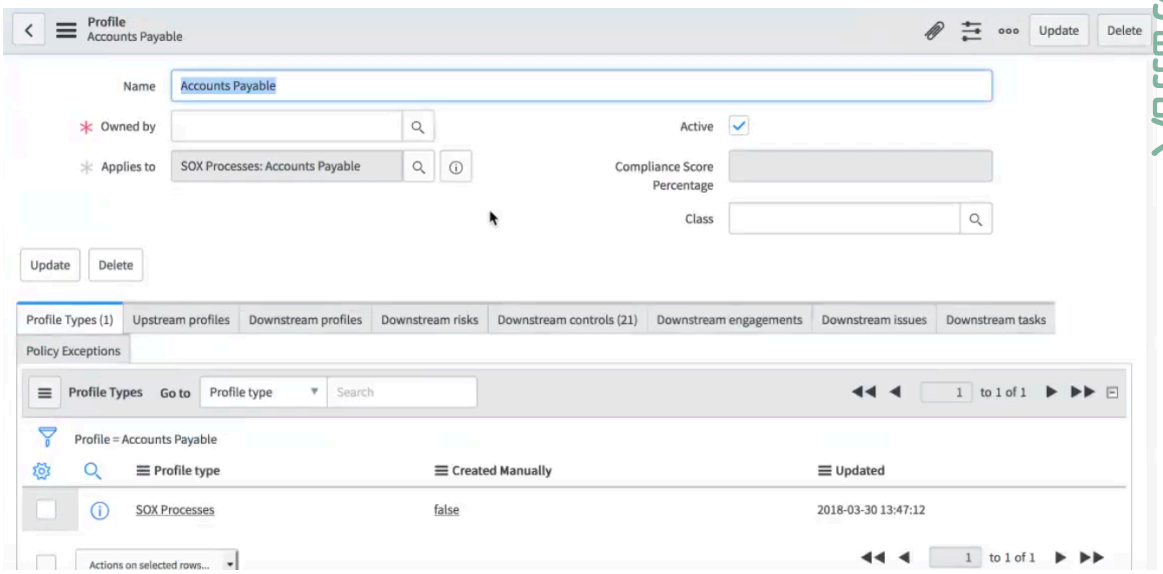
2. Kingston SOX コンテンツパックを使用している場合、[エンティティフィルター] 関連リストの下に、SOX エンティティの生成について SOX プロセステーブルをクエリーするためのフィルターが追加されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



3. エンティティを開くと、下流のすべてのコントロールが表示されます。



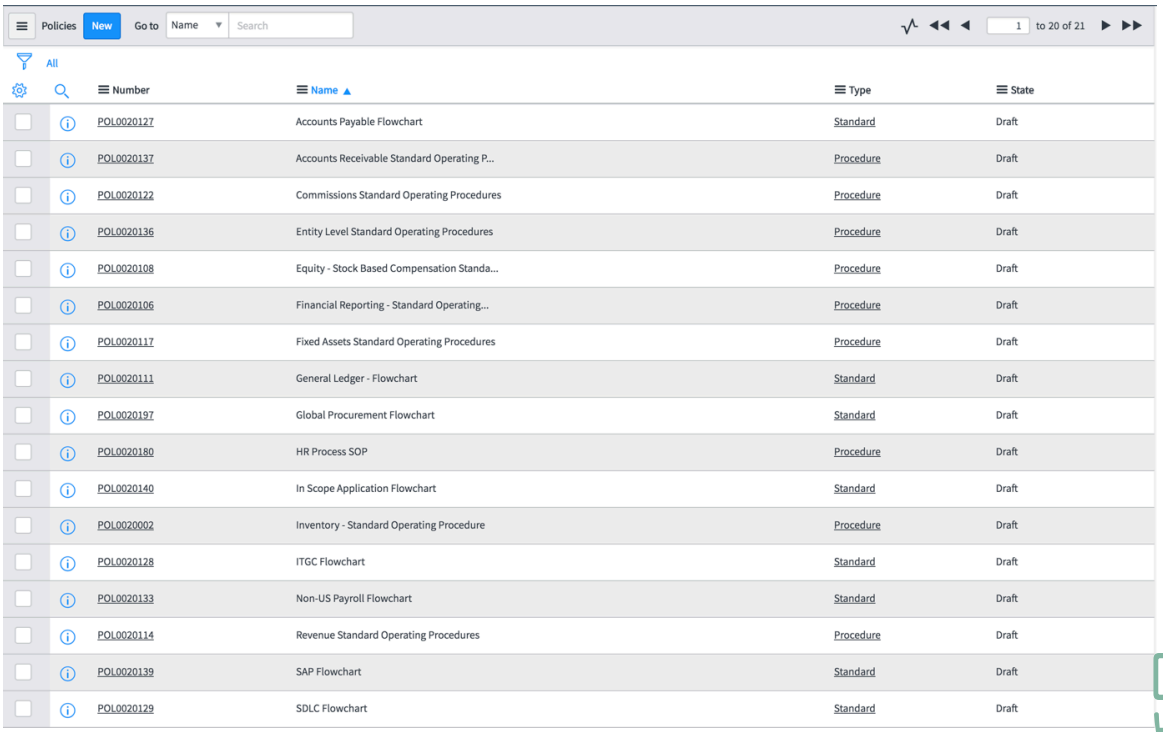
4. 移動先 ポリシーとコンプライアンス > ポリシーおよび手順 > 方針.
すべての SOX ポリシーが [ドラフト] ステータスで追加されています。

- 買掛金フローチャート
- 売掛金標準運用手順
- コミッション標準運用手順
- エンティティレベル標準運用手順
- 株式 - 株式ベースの報酬標準運用手順

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

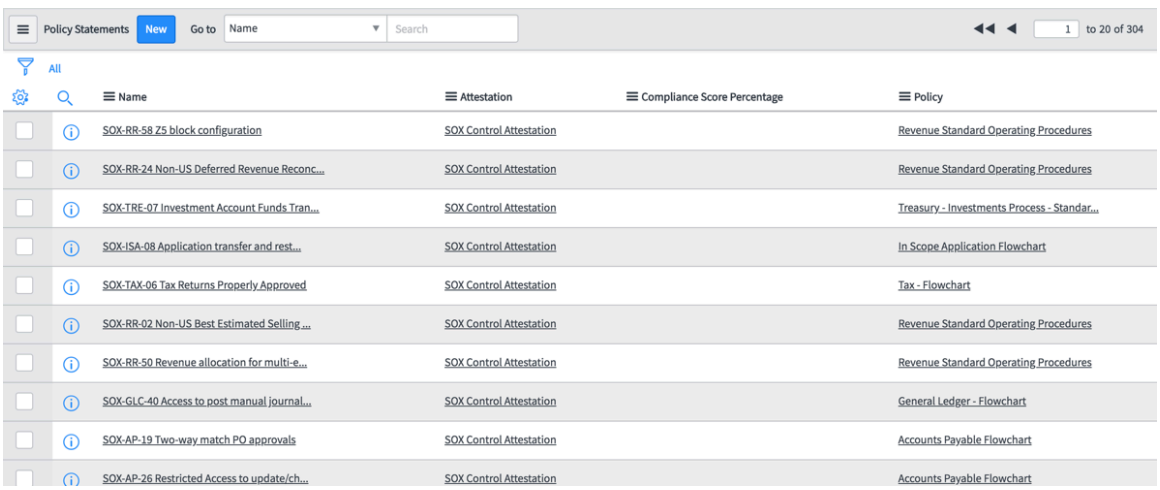
- 財務レポート - 標準運用手順
- 固定資産標準運用手順
- 総勘定元帳 - フローチャート



5. SOX ポリシーレコードを開きます。
   ポリシーにテキストがないことに注意してください。独自のポリシーを作成し、ポリシーのライフサイクルを開始します。
6. 移動先 ポリシーとコンプライアンス > ポリシーおよび手順 > ポリシーステートメント.
7. 検索バーで、[名前] フィールドに「SOX」と入力します。

   注:
   SOX 関連のポリシーステートメントの名前はすべて、**SOX** で始まります。

   - すべての SOX ポリシーステートメントが作成され、SOX ポリシーにアサインされます。
   - SOX コントロール証明書が作成され、ポリシーステートメントに追加されます。



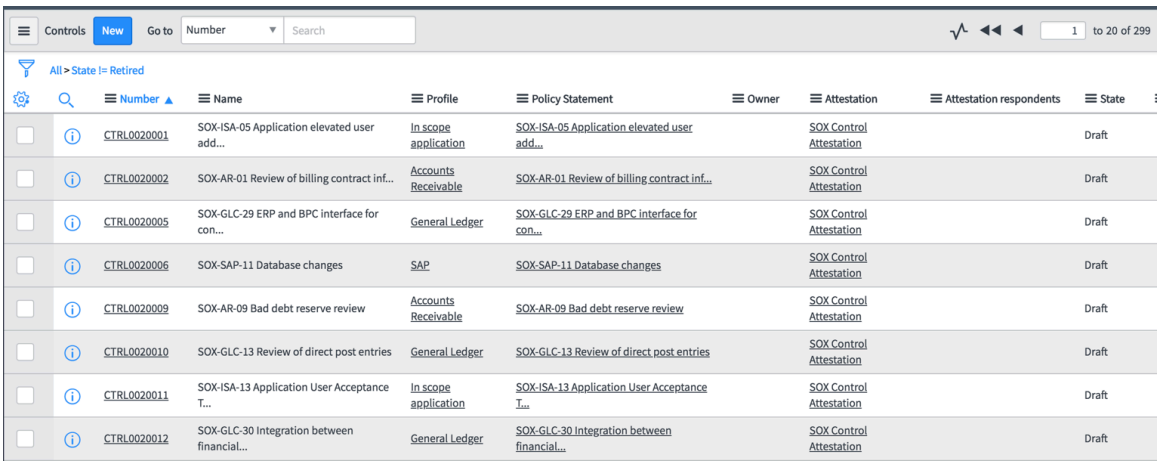
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. 移動先 ポリシーとコンプライアンス > コントロール.
9. 検索バーで、[名前] フィールドに「SOX」と入力します。

   注:
   SOX 関連のコントロールの名前はすべて、**SOX** で始まります。

   - すべての SOX コントロールはエンティティごとに作成されます。
   - SOX コントロール証明書は、証明書の回答者がいないすべてのコントロールに追加されます。

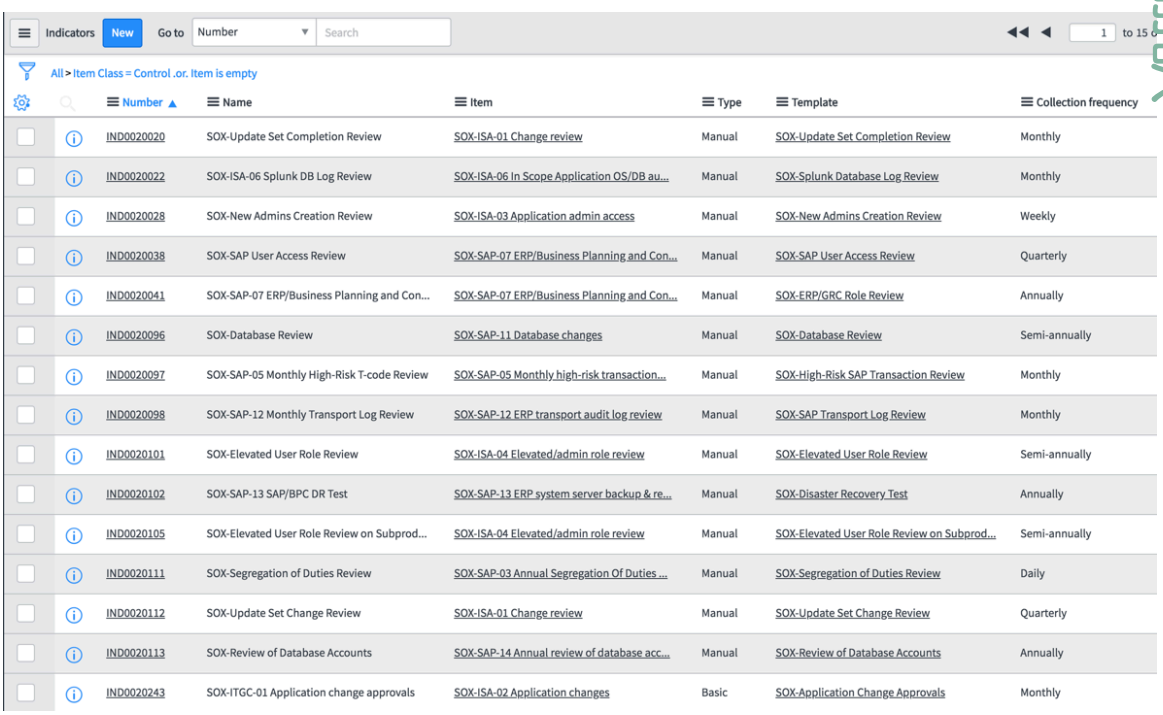


Controls New Go to Number Search 1 to 20 of 299

All > State != Retired

Number ▲	Name	Profile	Policy Statement	Owner	Attestation	Attestation respondents	State
CTRL0020001	SOX-ISA-05 Application elevated user add...	In scope application	SOX-ISA-05 Application elevated user add...		SOX Control Attestation		Draft
CTRL0020002	SOX-AR-01 Review of billing contract inf...	Accounts Receivable	SOX-AR-01 Review of billing contract inf...		SOX Control Attestation		Draft
CTRL0020005	SOX-GLC-29 ERP and BPC interface for con...	General Ledger	SOX-GLC-29 ERP and BPC interface for con...		SOX Control Attestation		Draft
CTRL0020006	SOX-SAP-11 Database changes	SAP	SOX-SAP-11 Database changes		SOX Control Attestation		Draft
CTRL0020009	SOX-AR-09 Bad debt reserve review	Accounts Receivable	SOX-AR-09 Bad debt reserve review		SOX Control Attestation		Draft
CTRL0020010	SOX-GLC-13 Review of direct post entries	General Ledger	SOX-GLC-13 Review of direct post entries		SOX Control Attestation		Draft
CTRL0020011	SOX-ISA-13 Application User Acceptance T...	In scope application	SOX-ISA-13 Application User Acceptance T...		SOX Control Attestation		Draft
CTRL0020012	SOX-GLC-30 Integration between financial...	General Ledger	SOX-GLC-30 Integration between financial...		SOX Control Attestation		Draft

10. 移動先 ポリシーとコンプライアンス > インジケーター.
    SOX コントロールインジケーターが追加され、インジケーターテンプレートがアサインされました。



Indicators New Go to Number Search 1 to 15

All > Item Class = Control .or. Item is empty

Number ▲	Name	Item	Type	Template	Collection frequency
IND0020020	SOX-Update Set Completion Review	SOX-ISA-01 Change review	Manual	SOX-Update Set Completion Review	Monthly
IND0020022	SOX-ISA-06 Splunk DB Log Review	SOX-ISA-06 In Scope Application OS/DB au...	Manual	SOX-Splunk Database Log Review	Monthly
IND0020028	SOX-New Admins Creation Review	SOX-ISA-03 Application admin access	Manual	SOX-New Admins Creation Review	Weekly
IND0020038	SOX-SAP User Access Review	SOX-SAP-07 ERP/Business Planning and Con...	Manual	SOX-SAP User Access Review	Quarterly
IND0020041	SOX-SAP-07 ERP/Business Planning and Con...	SOX-SAP-07 ERP/Business Planning and Con...	Manual	SOX-ERP/GRC Role Review	Annually
IND0020096	SOX-Database Review	SOX-SAP-11 Database changes	Manual	SOX-Database Review	Semi-annually
IND0020097	SOX-SAP-05 Monthly High-Risk T-code Review	SOX-SAP-05 Monthly high-risk transaction...	Manual	SOX-High-Risk SAP Transaction Review	Monthly
IND0020098	SOX-SAP-12 Monthly Transport Log Review	SOX-SAP-12 ERP transport audit log review	Manual	SOX-SAP Transport Log Review	Monthly
IND0020101	SOX-Elevated User Role Review	SOX-ISA-04 Elevated/admin role review	Manual	SOX-Elevated User Role Review	Semi-annually
IND0020102	SOX-SAP-13 SAP/BPC DR Test	SOX-SAP-13 ERP system server backup & re...	Manual	SOX-Disaster Recovery Test	Annually
IND0020105	SOX-Elevated User Role Review on Subprod...	SOX-ISA-04 Elevated/admin role review	Manual	SOX-Elevated User Role Review on Subprod...	Semi-annually
IND0020111	SOX-Segregation of Duties Review	SOX-SAP-03 Annual Segregation Of Duties ...	Manual	SOX-Segregation of Duties Review	Daily
IND0020112	SOX-Update Set Change Review	SOX-ISA-01 Change review	Manual	SOX-Update Set Change Review	Quarterly
IND0020113	SOX-Review of Database Accounts	SOX-SAP-14 Annual review of database acc...	Manual	SOX-Review of Database Accounts	Annually
IND0020243	SOX-ITGC-01 Application change approvals	SOX-ISA-02 Application changes	Basic	SOX-Application Change Approvals	Monthly

タスクの結果
SOX コンプライアンスダッシュボードの詳細については、「SOX コンテンツパックのダッシュボードとレポート」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスク管理で SOX コンテンツパックを確認する

SOX コンテンツパックをインポートした後、リスク管理 アプリケーション内のエンティティタイプ、エンティティ、リスクステートメント、リスク、およびアセスメントを確認および編集します。

始める前に

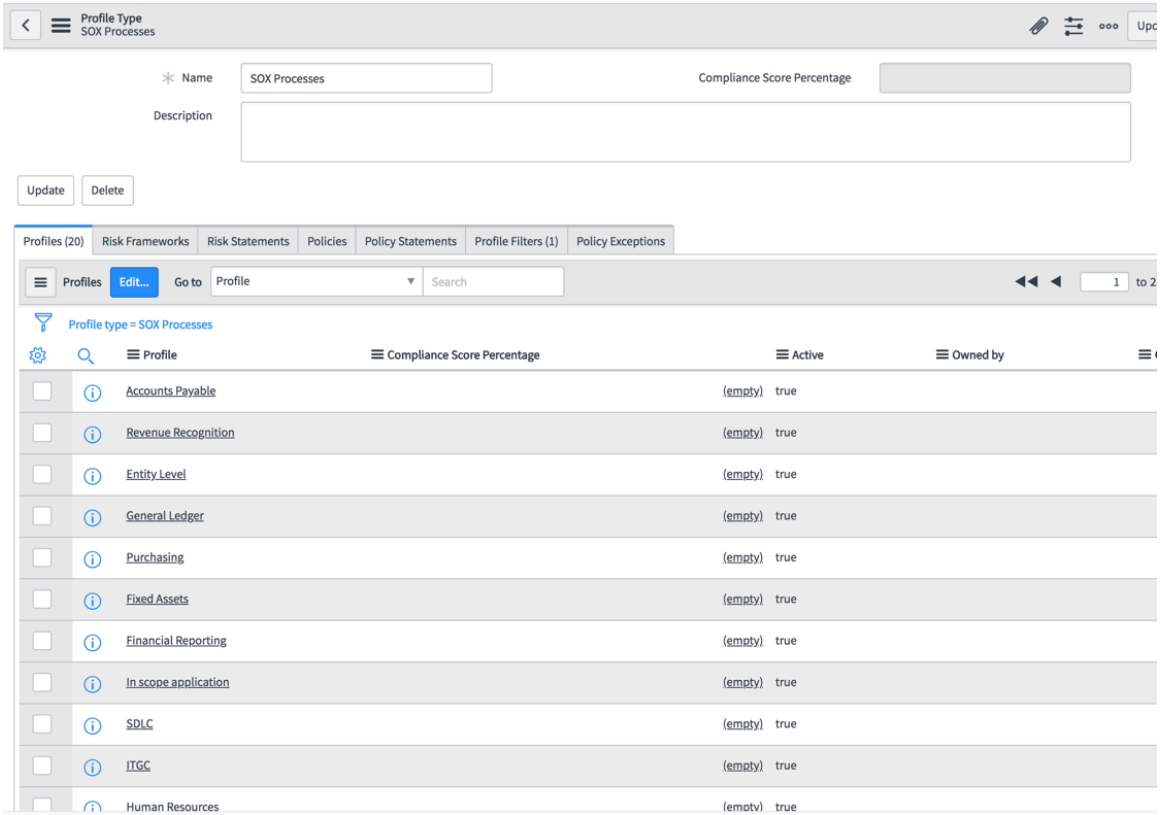
必要なロール： リスクアドミン (sn_risk.admin)

手順

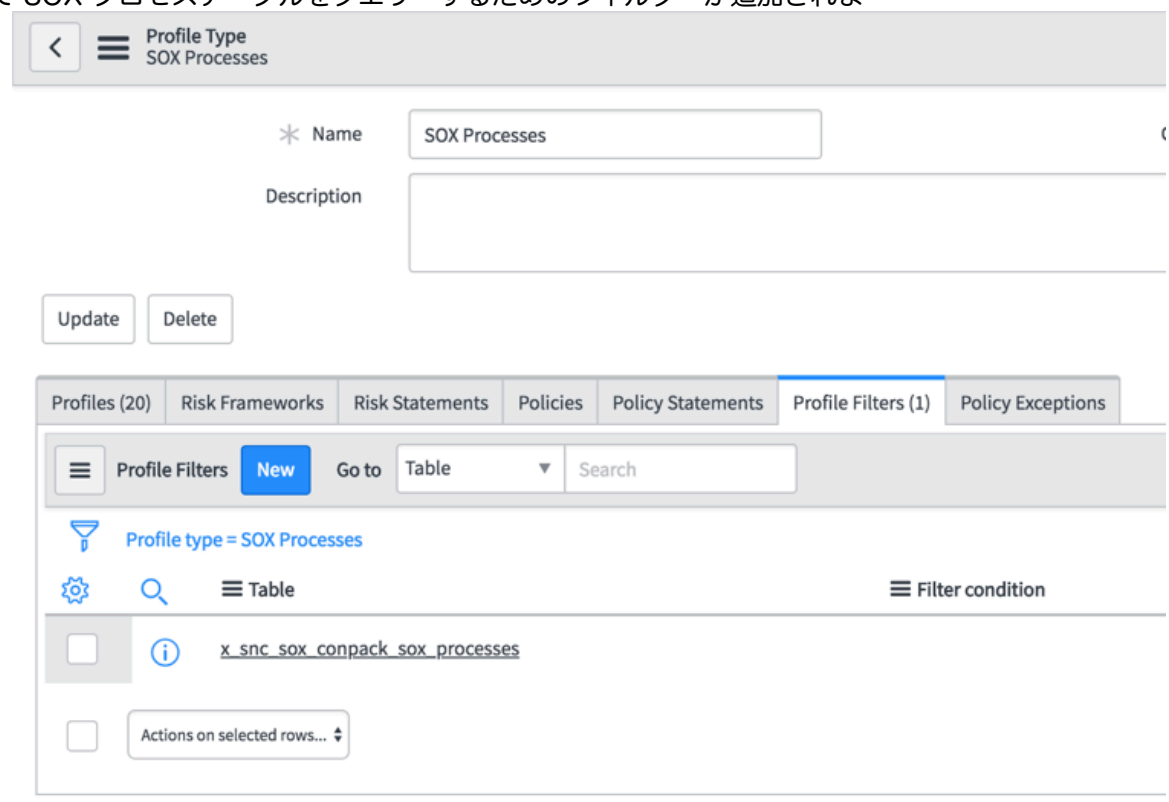
1. 移動先 すべて > リスク > スコーピング > プロファイルタイプ.
   [SOX プロセス] エンティティタイプが追加され、SOX エンティティの生成に使用されます。
   - 売掛金
   - 買掛金
   - コミッション
   - 株式
   - エンティティレベル
   - 財務レポート
   - 固定資産
   - 総勘定元帳
   - ヒューマンリソース (HR)
   - スコープ内のアプリケーション
   - インベントリ
   - ITGC
   - 給与
   - 購入
   - 収益認識
   - SAP
   - SDLC
   - 税
   - 出張費と経費
   - 財務省

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



2. [プロファイルフィルター] 関連リストの下に、SOX プロファイルの生成について SOX プロセステーブルをクエリーするためのフィルターが追加されま

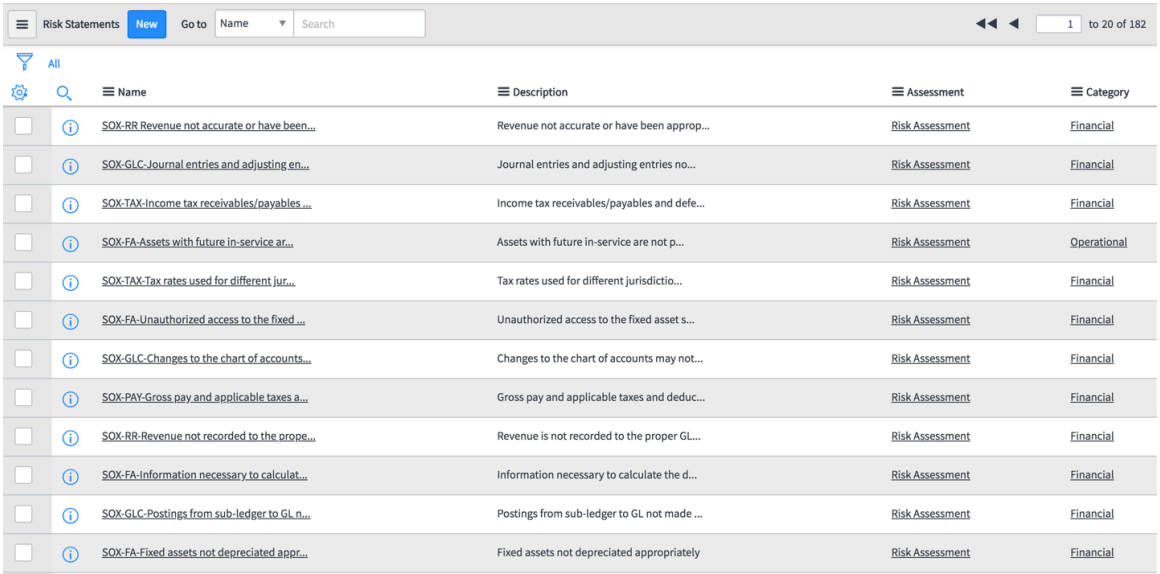


す。

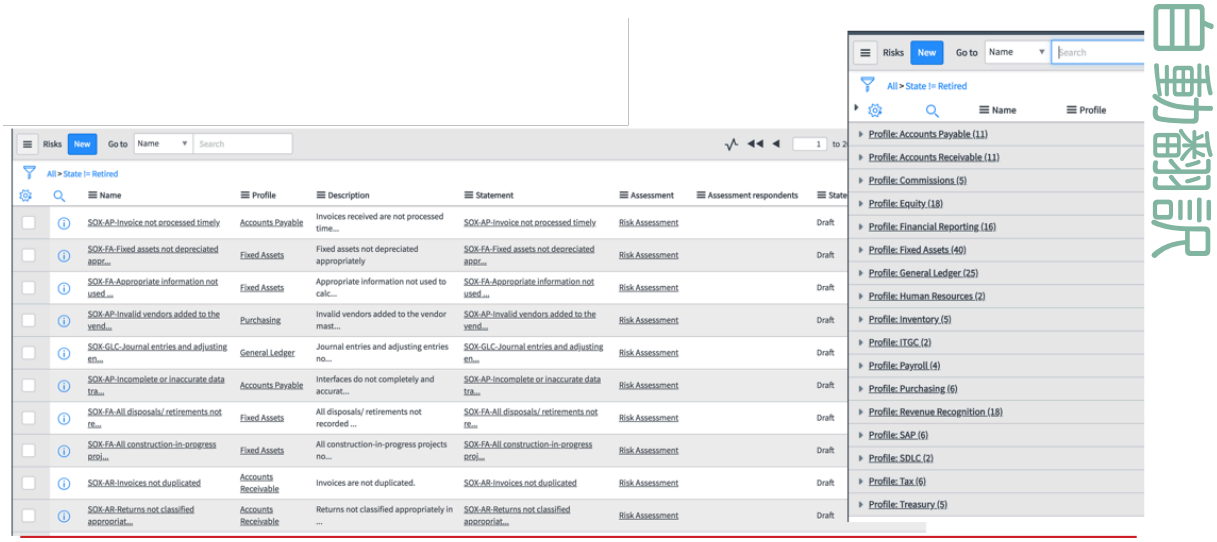
3. 移動先 リスク > リスクライブラリー > リスクステートメント.

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

すべての SOX リスクステートメントが [ドラフト] ステータスで追加されており、リスクアセスメントがアサインされます。



4. 移動先 リスク > リスク登録 > リスク.
すべての SOX リスクステートメントが [ドラフト] ステータスで追加されており、リスクアセスメントがアサインされます。



タスクの結果
SOX リスクダッシュボードの詳細については、「SOX コンテンツパックのダッシュボードとレポート」を参照してください。

監査管理 で **SOX** コンテンツパックを確認する

SOX コンテンツパックをインポートした後、監査管理 アプリケーション内のエンティティタイプ、エンティティ、監査エンゲージメント、監査タスク、テストテンプレート、およびテスト計画を確認および編集します。

始める前に
必要なロール：監査アドミン (sn_audit.admin)

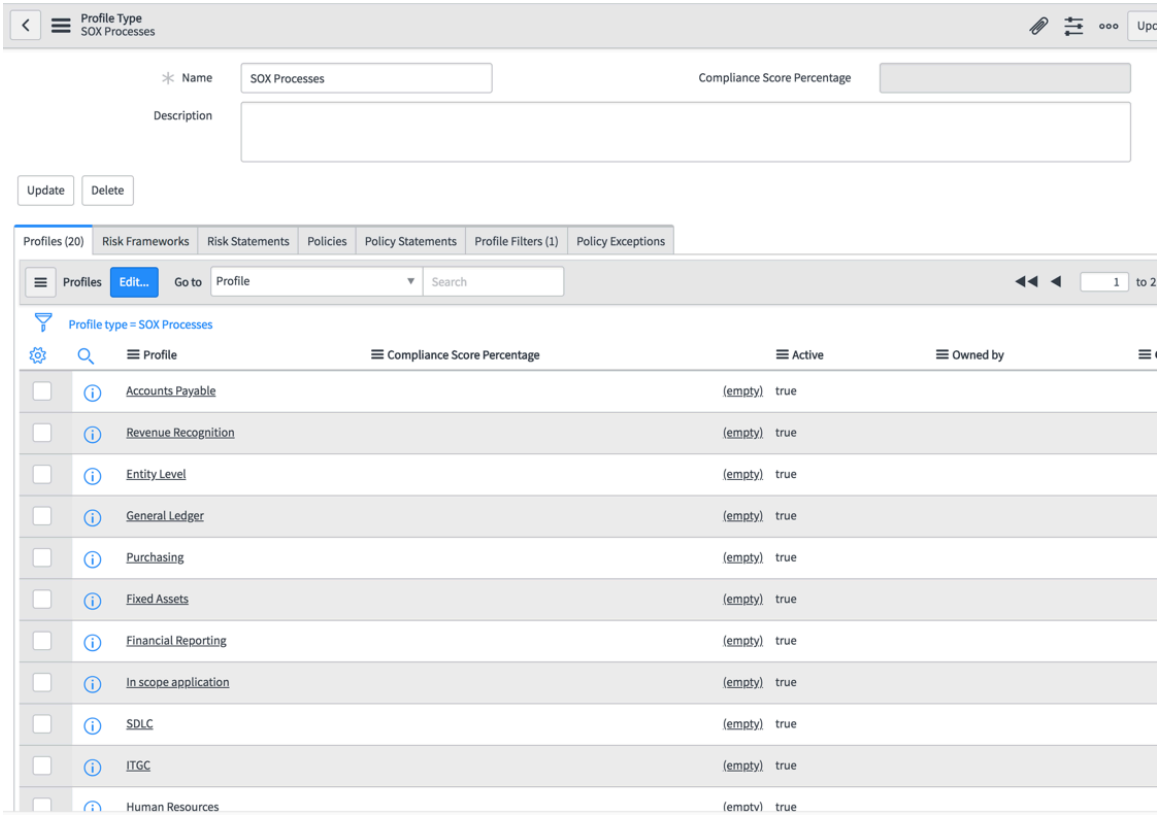
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

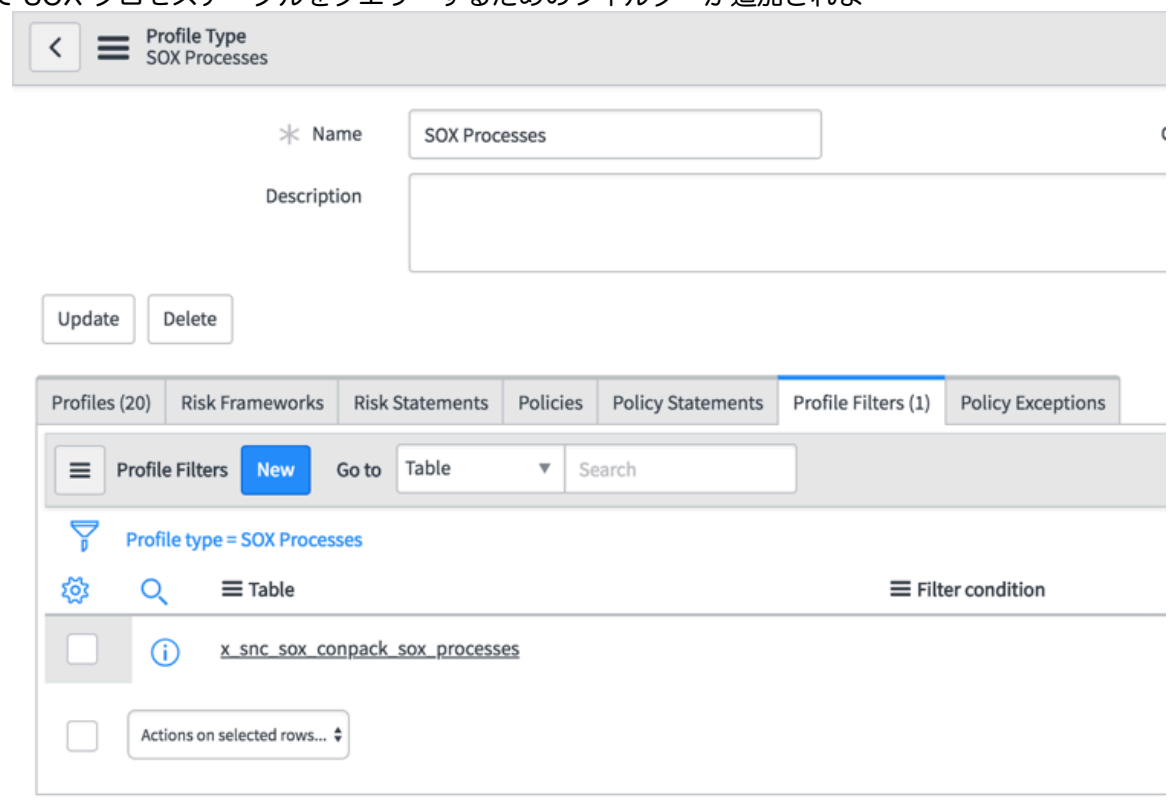
1. 移動先 すべて > 監査 > エンティティタイプ.
   [SOX プロセス] エンティティタイプが追加され、SOX エンティティの生成に使用されます。
   - 売掛金
   - 買掛金
   - コミッション
   - 株式
   - エンティティレベル
   - 財務レポート
   - 固定資産
   - 総勘定元帳
   - ヒューマンリソース (HR)
   - スコープ内のアプリケーション
   - インベントリ
   - ITGC
   - 給与
   - 購入
   - 収益認識
   - SAP
   - SDLC
   - 税
   - 出張費と経費
   - 財務省

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



2. [プロファイルフィルター] 関連リストの下に、SOX プロファイルの生成について SOX プロセステーブルをクエリーするためのフィルターが追加されま



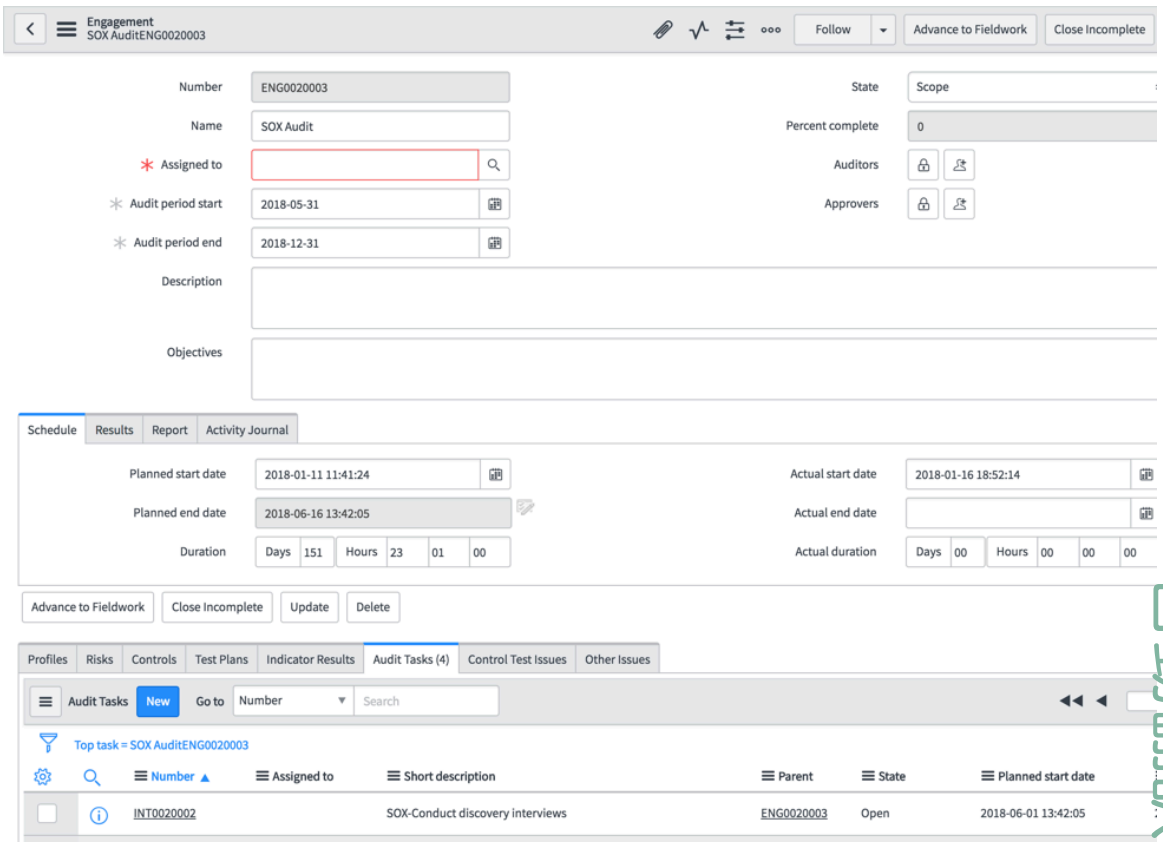
す。

3. 移動先 監査 > すべてのエンゲージメント.

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[SOX 監査] エンゲージメントが [スコープ] ステータスに追加されます。次のフィールドは空に設定されます。

- アサイン先
- 監査ツール
- 承認者



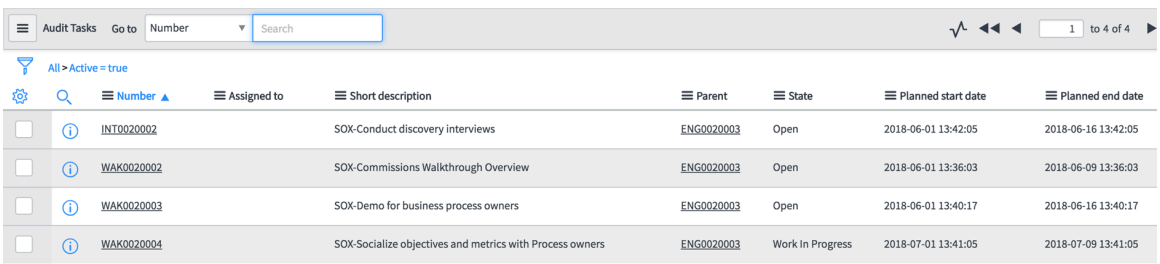
4. 移動先 監査 > すべての監査タスク.

5. 検索バーで、[名前] フィールドに「SOX」と入力します。

> **注:**
> SOX 関連の監査タスクの名前はすべて、**SOX** で始まります。

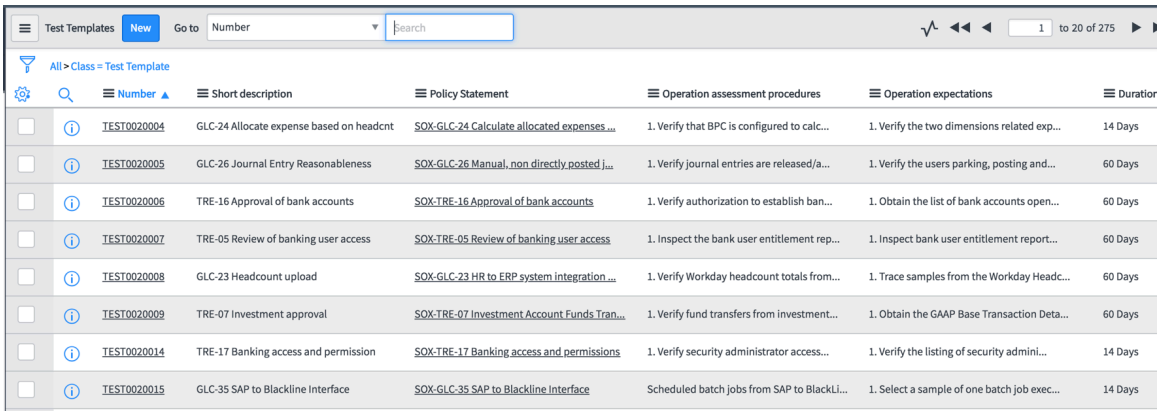
SOX 監査タスクに次のフィールドが追加されています。

- [タイプ] は面談またはウォークスルー
- [アサイン先] は空
- [アサインされた親 (エンゲージメント) **(Assigned parent (engagement))]** は SOX 監査



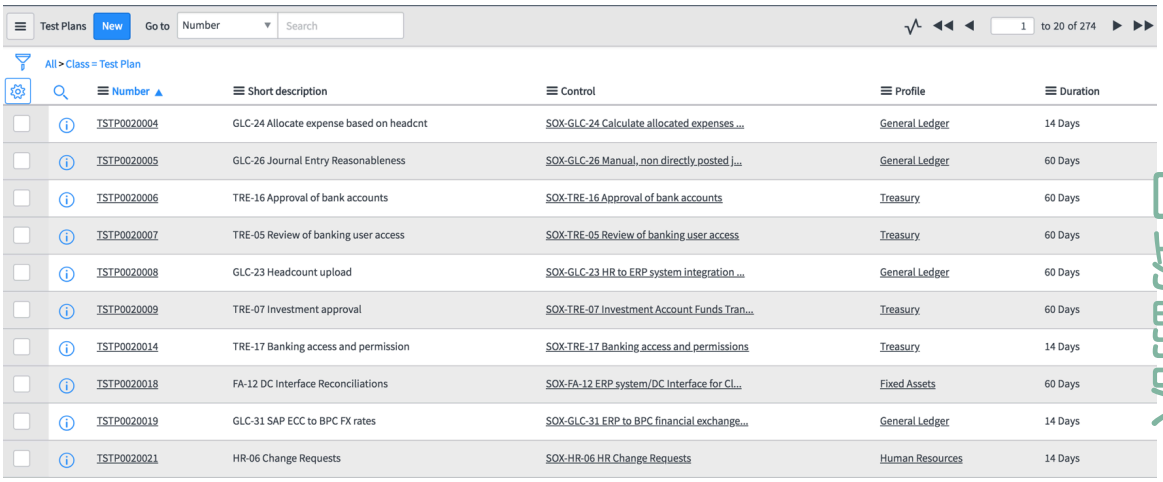
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. 移動先 監査 > 監査テスト > テストテンプレート.
SOX テストテンプレートが追加され、ポリシーステートメントにアサインされます。



Number	Short description	Policy Statement	Operation assessment procedures	Operation expectations	Duration
TEST0020004	GLC-24 Allocate expense based on headcnt	SOX-GLC-24 Calculate allocated expenses ...	1. Verify that BPC is configured to calc...	1. Verify the two dimensions related exp...	14 Days
TEST0020005	GLC-26 Journal Entry Reasonableness	SOX-GLC-26 Manual, non directly posted j...	1. Verify journal entries are released/a...	1. Verify the users parking, posting and...	60 Days
TEST0020006	TRE-16 Approval of bank accounts	SOX-TRE-16 Approval of bank accounts	1. Verify authorization to establish ban...	1. Obtain the list of bank accounts open...	60 Days
TEST0020007	TRE-05 Review of banking user access	SOX-TRE-05 Review of banking user access	1. Inspect the bank user entitlement rep...	1. Inspect bank user entitlement report...	60 Days
TEST0020008	GLC-23 Headcount upload	SOX-GLC-23 HR to ERP system integration ...	1. Verify Workday headcount totals from...	1. Trace samples from the Workday Headc...	60 Days
TEST0020009	TRE-07 Investment approval	SOX-TRE-07 Investment Account Funds Tran...	1. Verify fund transfers from investment...	1. Obtain the GAAP Base Transaction Deta...	60 Days
TEST0020014	TRE-17 Banking access and permission	SOX-TRE-17 Banking access and permissions	1. Verify security administrator access...	1. Verify the listing of security admini...	14 Days
TEST0020015	GLC-35 SAP to Blackline Interface	SOX-GLC-35 SAP to Blackline Interface	Scheduled batch jobs from SAP to BlackLi...	1. Select a sample of one batch job exec...	14 Days

7. 移動先 監査 > 監査テスト > テスト計画.
テストテンプレートに基づいてコントロールの SOX テスト計画が生成されています。



Number	Short description	Control	Profile	Duration
TSTP0020004	GLC-24 Allocate expense based on headcnt	SOX-GLC-24 Calculate allocated expenses ...	General Ledger	14 Days
TSTP0020005	GLC-26 Journal Entry Reasonableness	SOX-GLC-26 Manual, non directly posted j...	General Ledger	60 Days
TSTP0020006	TRE-16 Approval of bank accounts	SOX-TRE-16 Approval of bank accounts	Treasury	60 Days
TSTP0020007	TRE-05 Review of banking user access	SOX-TRE-05 Review of banking user access	Treasury	60 Days
TSTP0020008	GLC-23 Headcount upload	SOX-GLC-23 HR to ERP system integration ...	General Ledger	60 Days
TSTP0020009	TRE-07 Investment approval	SOX-TRE-07 Investment Account Funds Tran...	Treasury	60 Days
TSTP0020014	TRE-17 Banking access and permission	SOX-TRE-17 Banking access and permissions	Treasury	14 Days
TSTP0020018	FA-12 DC Interface Reconciliations	SOX-FA-12 ERP system/DC Interface for CI...	Fixed Assets	60 Days
TSTP0020019	GLC-31 SAP ECC to BPC FX rates	SOX-GLC-31 ERP to BPC financial exchange...	General Ledger	14 Days
TSTP0020021	HR-06 Change Requests	SOX-HR-06 HR Change Requests	Human Resources	14 Days

自動翻訳

タスクの結果
SOX 監査ダッシュボードの詳細については、「SOX コンテンツパックのダッシュボードとレポート」を参照してください。

SOX コンテンツパックのダッシュボードとレポート

SOX コンテンツパックダッシュボードは、1 つの画面に複数の SOX レポートを表示します。さまざまな GRC ロールには、これらのダッシュボードに対する読み取りまたは編集アクセス権があります。

SOX の ポリシーとコンプライアンス管理 ロール

- コンプライアンスリーダー (sn_compliance.reader) は、**SOX** コンプライアンスダッシュボードと **SOX** プロセスを読み取ることができます
- コンプライアンスマネージャー (sn_compliance.manager) は、**SOX** コンプライアンスダッシュボード、**SOX** リスクダッシュボードを読み取り、**SOX** プロセスを編集することができます
- コンプライアンスアドミニストレーター (sn_compliance.admin) は、**SOX** リスクダッシュボードを読み取り、**SOX** コンプライアンスダッシュボードと **SOX** プロセスを編集することができます

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SOX の リスク管理 ロール

- リスクリーダー (sn_risk.reader) は **SOX** リスクダッシュボードと **SOX** プロセスを読み取ることができます
- リスクマネージャー (sn_risk.manager) は、**SOX** コンプライアンスダッシュボード、**SOX** リスクダッシュボードを読み取り、**SOX** プロセスを編集することができます
- リスクアドミン (sn_risk.admin) は、**SOX** コンプライアンスダッシュボードを読み取り、**SOX** リスクダッシュボードと **SOX** プロセスを編集することができます

SOX の 監査管理 ロール

- 監査ユーザー (sn_audit.user) は、**SOX** コンプライアンスダッシュボード、**SOX** リスクダッシュボード、および **SOX** プロセスを読み取ることができます
- 監査アドミン (sn_audit.admin) は、**SOX** コンプライアンスダッシュボードと **SOX** リスクダッシュボードを読み取り、**SOX** 監査ダッシュボードと **SOX** プロセスを編集することができます。

SOX コンプライアンスダッシュボード

SOX コンプライアンスダッシュボードには、すべてのコントロール、証明書、およびコントロールの問題の概要が表示されます。移動先 **SOX** > **SOX** コンプライアンスダッシュボード. 次のレポートを利用できます。

コンプライアンスの概要

このダッシュボードには、SOX のポリシーとコントロールのコンプライアンスの概要、および SOX プロセスに関連するエンティティへの影響が表示されます。また、次の情報も表示されます。

- キーコントロール
- プロファイル別のコントロール
- コンプライアンスのコントロール
- タイプ別のコントロール
- 失敗したコントロール
- コントロール例外

証明書の概要

このダッシュボードは、SOX コントロールに関連するすべての証明書の概要を提供し、コンプライアンスチームが追跡する証明書のステータスと進捗状況を監視するのに役立ちます。次の情報が表示されます。

- 処理待ちの証明書
- 期限切れの証明書
- プロファイル別の証明書
- 自分の証明書

問題の概要

このダッシュボードには、SOX コントロールに関連するすべての問題の概要が表示されます。次の情報が表示されます。

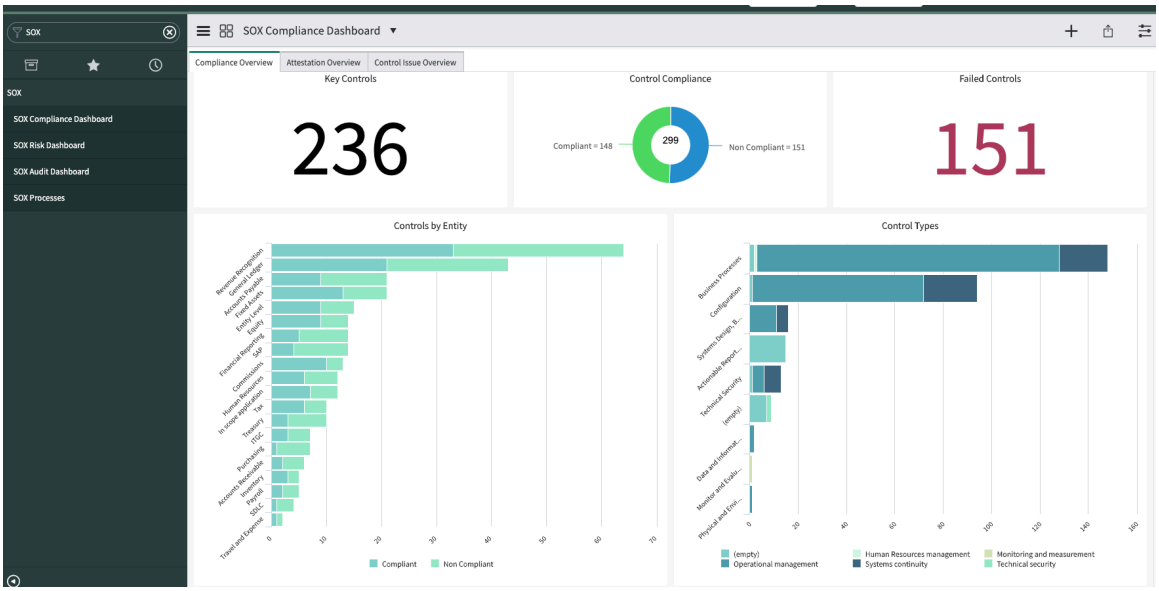
- 90 日経過した問題
- 処理待ちが 30 ～ 90 日の問題

自動翻訳

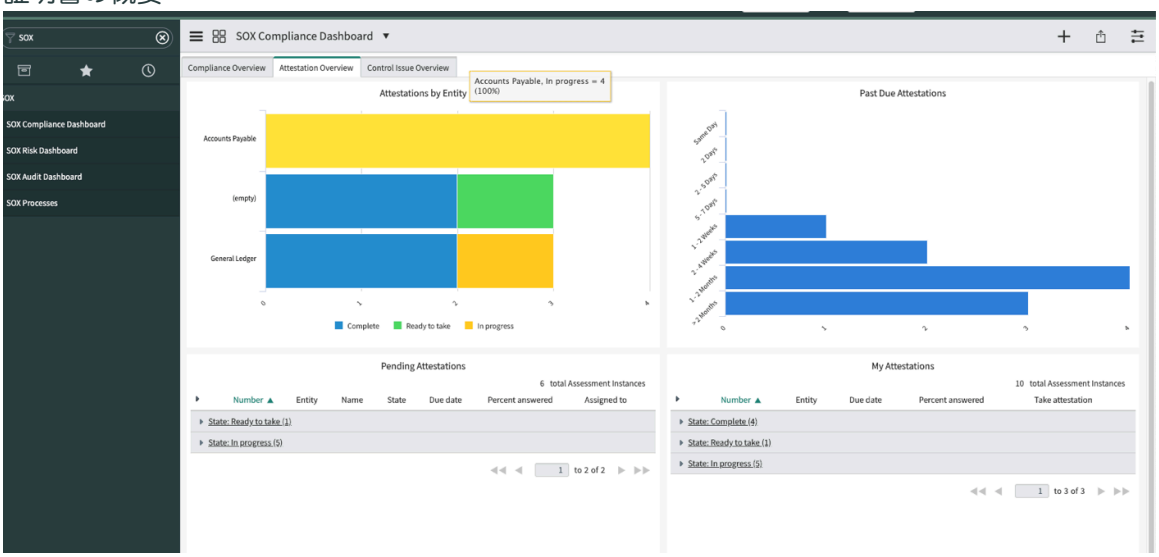
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 処理待ちが 30 日未満の問題
- 30 日以内に期限が切れる問題
- プロファイル別の問題
- オーナー別の処理待ちの問題
- 問題クローズ率
- ポリシー別のコントロール問題

コンプライアンスの概要



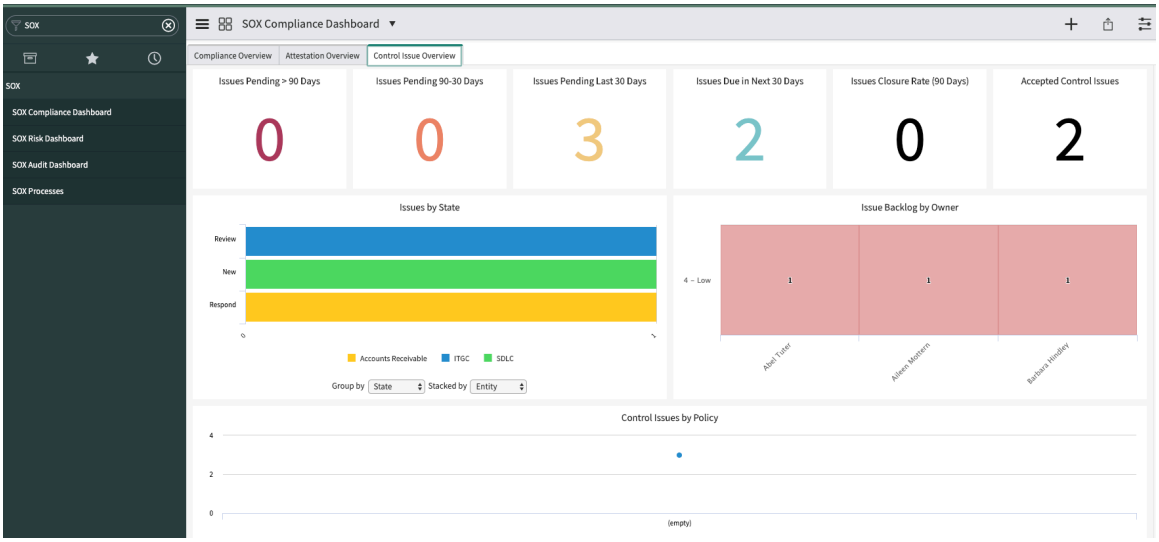
証明書の概要



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コントロール問題の概要



SOX リスクダッシュボード

SOX リスクダッシュボードには、すべてのリスク、アセスメント、およびリスク問題の概要が表示されます。移動先 **SOX** > **SOX** リスクダッシュボード. 次のレポートを利用できます。

リスク概要

このダッシュボードには、SOX プロセスとコントロールに関連するリスクの概要が表示されます。次の情報が表示されます。

- 非常に高いリスク
- 高リスク
- 中リスク
- 低リスク
- 非常に低いリスク
- プロファイル別のリスク
- 対応ごとのリスク
- 固有リスクヒートマップ
- 残存リスクヒートマップ
- コンプライアンス別のリスク
- リスク例外

アセスメントの概要

このダッシュボードには、SOX プロセスとコントロールに関連するリスクのリスクアセスメントの概要が表示されます。次の情報が表示されます。

- 処理待ちのアセスメント
- 期限切れのアセスメント
- プロファイル別のアセスメント
- 自分のアセスメント

問題の概要

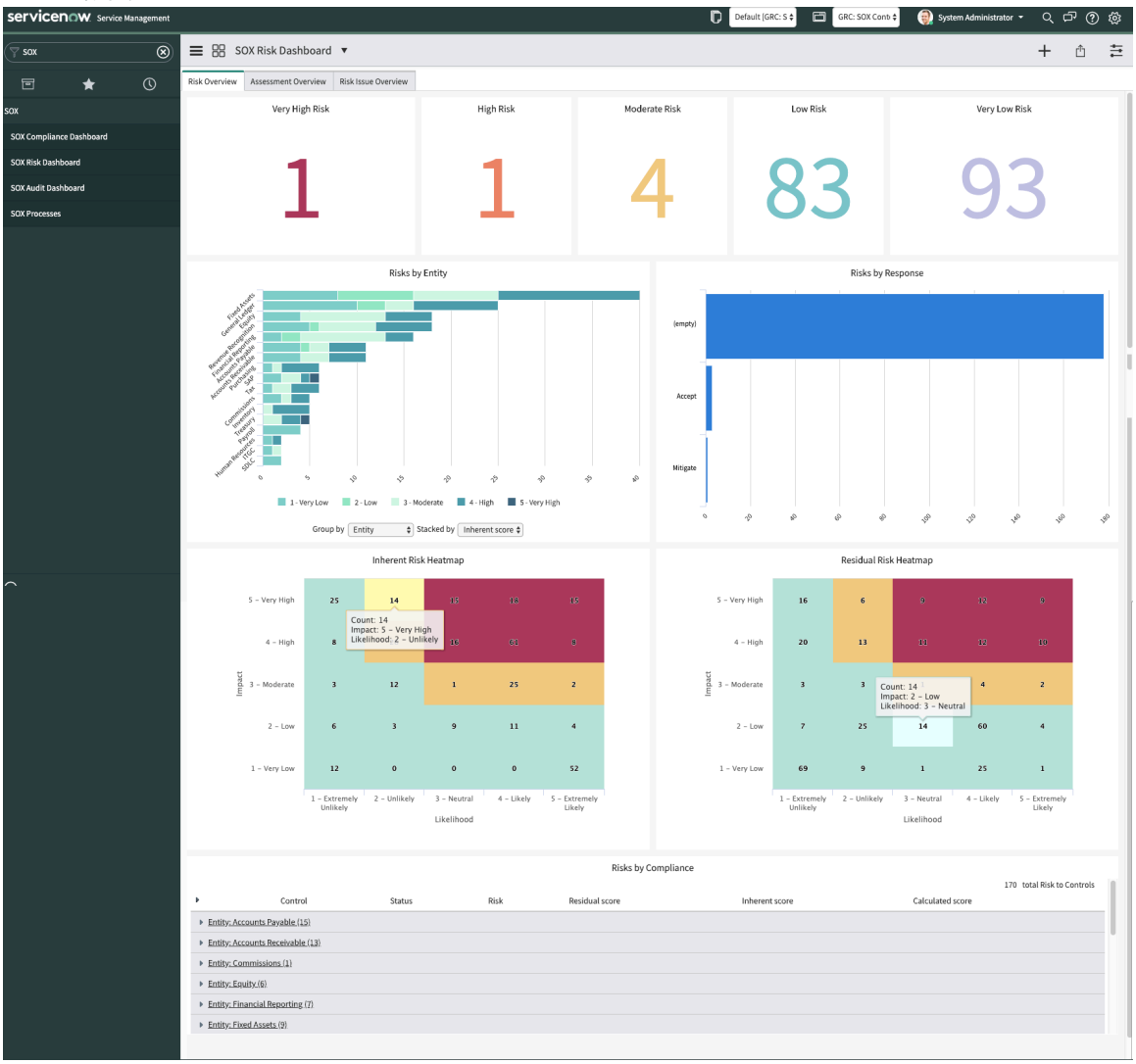
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このダッシュボードは、SOX のプロセスとコントロールに関連するリスク問題の概要を提供し、リスクチームがオーナーにアサインされているオープンな問題を監視するのに役立ちます。次の情報が表示されます。

- 90 日経過した問題
- 処理待ちが 30 ～ 90 日の問題
- 処理待ちが 30 日未満の問題
- 30 日以内に期限が切れる問題
- プロファイル別の問題
- オーナー別の処理待ちの問題
- 問題クローズ率
- ポリシー別のリスク問題

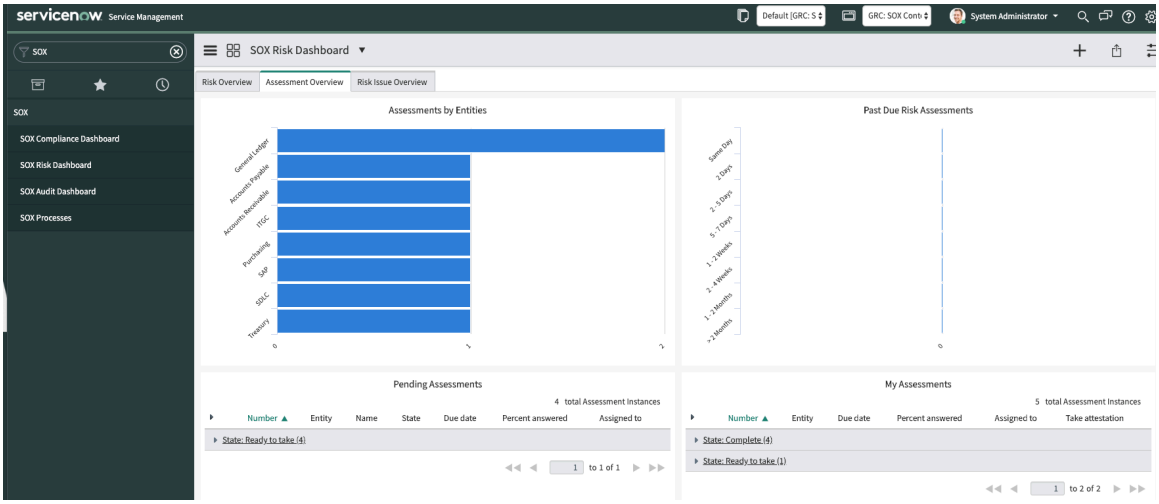
リスク概要



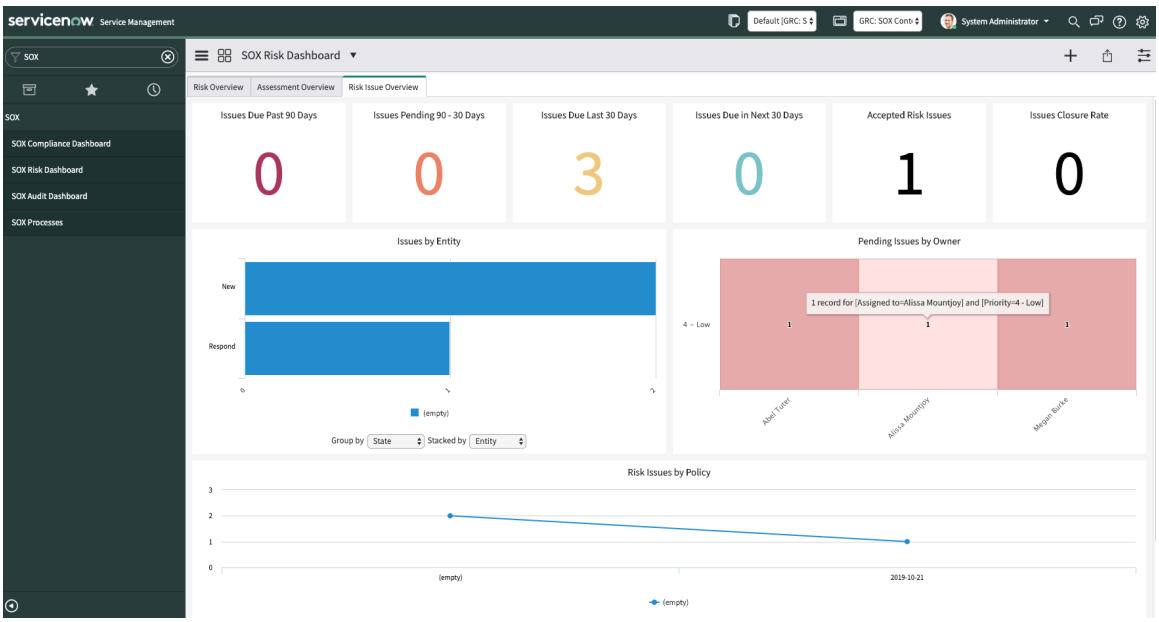
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

アセスメントの概要



リスク問題の概要



SOX 監査ダッシュボード

SOX 監査ダッシュボードには、すべての監査と監査の問題の概要が表示されます。移動先 **SOX** > **SOX** 監査ダッシュボード. 次のレポートを利用できます。

監査の概要

このダッシュボードでは、進行中の SOX 監査の進捗状況を確認し、さまざまな監査タスクを監視できます。これは監査マネージャーにとって役立ちます。次の情報が表示されます。

- 期限が切れて 90 日以上経過した監査タスク
- 期限が切れて 90 ～ 30 日経過した監査タスク
- 期限が切れて 30 日未満経過した監査タスク
- 30 日以内に期限が切れる監査タスク

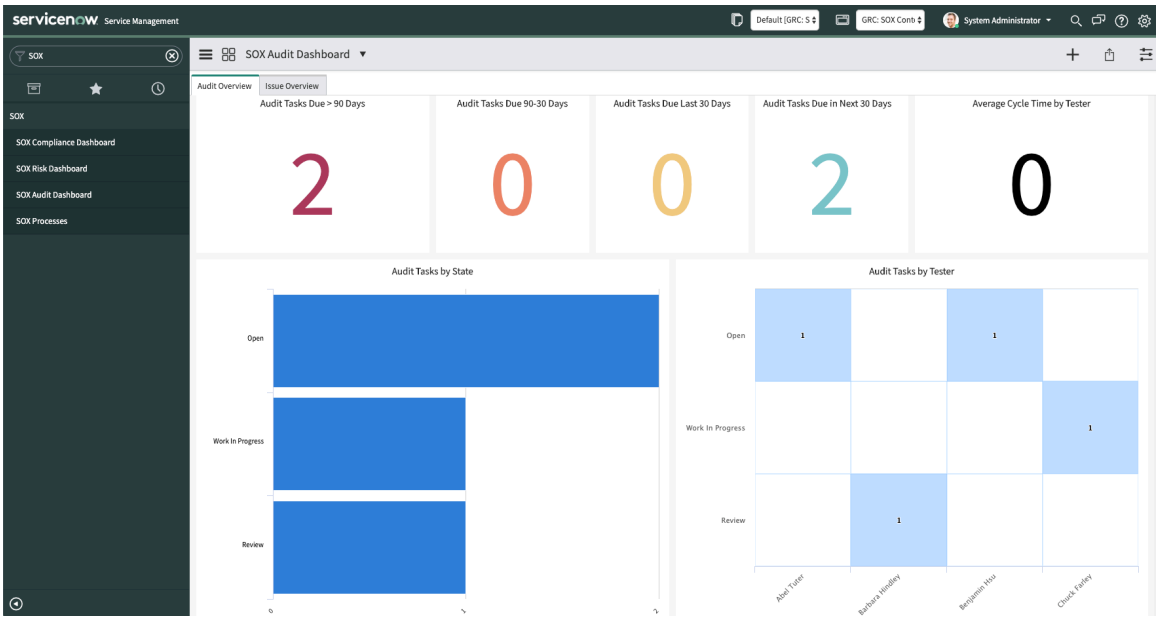
問題の概要

このダッシュボードは問題の進捗状況を示し、監査チームが処理待ちの問題を監視するために役立ちます。次の情報が表示されます。

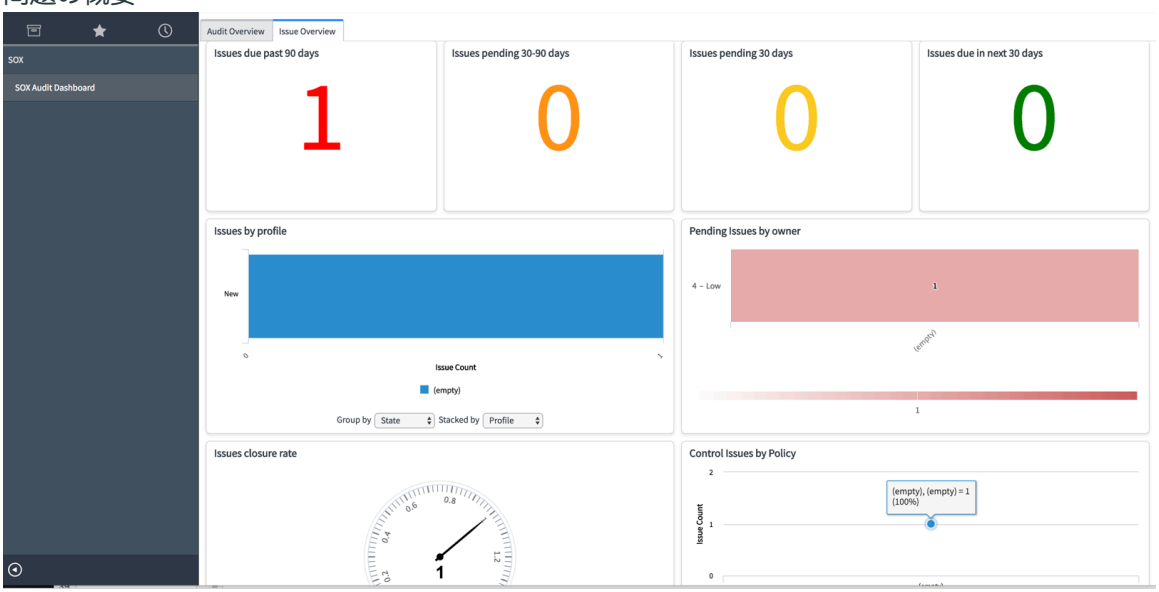
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 期限が切れて 90 日以上経過した問題
- 期限が切れて 30～90 日経過した問題
- 期限が切れて 30 日未満経過した問題
- 30 日以内に期限が切れる問題
- プロファイル別の問題
- オーナー別の問題
- エンティティ別の処理待ちの問題

監査の概要



問題の概要



ガバナンス、リスク、コンプライアンス の統合

統合により ServiceNow® GRC 製品オファリングが拡張され、ユーザーはサードパーティアプリケーションと統合できるようになります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

ServiceNow Store での GRC 統合のインストール、検証、レポート機能については、次のドキュメントを参照してください。

特に示さない限り、各統合では、ServiceNow GRC 製品がインスタンスにインストールされ、有効化されている必要があります。

Thomson Reuters® Regulatory Intelligence との GRC 統合

ServiceNow® 規制変更管理 アプリケーションは、規制データの収集、監視、分析を行い、複雑な規制環境下での動向を把握するのに役立ちます。

Thomson Reuters® Regulatory Intelligence と統合するメリット

ServiceNow® Thomson Reuters Regulatory Intelligence との GRC 統合 アプリケーションを使用して、Thomson Reuters プラットフォームと統合し、Thomson Reuters Regulatory Intelligence (TRRI) フィードを ServiceNow インスタンスに取り込みます。

この統合は、急速に変化する複雑な規制環境下で、規制データの収集、監視、分析を行うのに役立ちます。これにより、リスクを効率的に管理および軽減できます。 Thomson Reuters Regulatory Intelligence との GRC 統合 追加のライセンスコストがかかります。

Thomson Reuters Regulatory Intelligence Integration (TRRI) は、さまざまな規制変更を含む規制フィードを提供します。規制変更管理 アプリケーションは、フィードを変換してマッピングします。規制変更管理 アプリケーションは、規制フィードテーブルの情報を提供します。

Thomson Reuters ガイド付きセットアップでは、次のことを実行できます。

- 組織に関連する規制フィードを Thomson Reuters プラットフォームから取得します。
- 規制分類を Thomson Reuters プラットフォームから内部規制分類に変換してマッピングします。
- 変換されたデータを ServiceNow インスタンスにロードし、規制の変更を管理します。

ガイド付きセットアップでは、複数のタスクとサブタスクを実行できます。

- 接続を作成：接続を作成して検証します。Thomson Reuters プラットフォームとの統合には接続が必要です。このステップのタスクは次のとおりです。
  - 接続を作成
  - 接続を検証
  - OAuth 認証情報を提供
- 統合フローを有効化：スケジュールを設定し、さまざまなタイミングでフローを有効にします。フロー間に 12 時間の間隔をあけるなど、時間差をつけてフローを実行します。このステップのタスクは次のとおりです。
  - フィードレジストリにフィードファイルを挿入するフローを設定します。
  - 処理済みフィードを宛先ディレクトリーに移動するフローを設定します。
- 内部分類を作成：分類を作成して、規制コンテンツを分類および区分けします。内部分類は、複数階層構造にできます。
- 外部分類を内部分類にマッピング：Thomson Reuters プラットフォームのソース分類を、作成した内部分類とマッピングします。

統合を設定するときは、次のステージを経由します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. フィード設定を構成：Thomson Reuters Regulatory Intelligence (TRRI) フィードプラットフォームで、フィードのコンテンツ、配信設定、および配信場所の構成と設定を行います。配信場所は、フィードが配信先です。
2. MID サーバー を設定：Thomson Reuters プラットフォームは、規制フィードファイルを Thomson Reuters ポータルに構成された SFTP サーバーに送信します。アドミニストレーターは、Thomson Reuters Regulatory Intelligence との GRC 統合 アプリケーションの SSH 機能を備えた MID サーバー を設定する必要があります。

   MID サーバー は、SFTP サーバーから ServiceNow インスタンスにフィードファイルデータを取り込みます。MID サーバー は、Windows サービスまたは UNIX デーモンとして動作し、インスタンスと外部アプリケーション間の通信を促進します。
3. SFTP 接続を設定：Thomson Reuters プラットフォームは、Thomson Reuters プラットフォームポータルに構成された SFTP の場所に規制フィードファイルを保管します。SFTP 接続を作成し、ServiceNow インスタンスにフィードファイルをインポートします。詳細については、「SFTP または REST API 接続を確立する」を参照してください。

インポートセットを使用すると、アドミニストレーターはさまざまなデータソースからデータをインポートし、そのデータを ServiceNow テーブルにマッピングできます。

Thomson Reuters から 規制変更管理 アプリケーションに系列データを取り込む

[系列ドキュメント] 関連リストを使用すると、提案されたステージから最終ステージまでの規制変更の動向を追跡できます。関連するイベントを 1 つの場所で確認できます。[規制フィード] フォームには、系列名、および Thomson Reuters 系列の一部である規制イベントが表示されます。Thomson Reuters 系列データは、規制フィードフォームの [系列データ] セクションで表示できます。フィードの系列名とシーケンス番号が、規制フィードフォームの [系列データ] セクションの下に表示されます。このセクションは、規制イベントの詳細を把握し、イベントの適用性に関する意思決定を行うために役立ちます。

規制フィードテーブルが、規制フィードフォームの [系列データ] セクションに表示されます。Thomson Reuters 系列データの規制フィードテーブルに、次の新しい列が追加されます。

- シリーズ名：規制イベントの系列名を表示します。
- シーケンス番号：規制イベントのシーケンス番号を表示します。
- シリーズ ID：規制イベントの系列識別番号を表示します。リストビューからシリーズ ID を選択できます。シリーズ ID が表示されます。

[系列ドキュメント] 関連リストは、規制フィードフォームの一部です。フィードには次の詳細が表示されます。

- 番号：Thomson Reuters から受信した規制フィードの番号。例：REG0001023
- タイトル：Thomson Reuters から受信した規制フィードのタイトル。例： CFPB-2019-0021 住宅ローンの開示 (規制 C)。
- シーケンス番号：Thomson Reutersから受信した規制フィードのシーケンス番号。たとえば、シーケンス番号 7 で、すべてのデータがある場合、前の 6 つのイベントが関連リストに表示され、系列の 7 番目のイベントが表示されます。

> **注:**
> [系列データ] セクションと [系列ドキュメント] 関連リストは、フィードタイプが規制イベントで、規制フィードのソースが Thomson Reuters である場合にのみ、規制フィードフォームに表示されます。

Thomson Reuters プラットフォームから受信した規制データが処理され、ServiceNow インスタンスのステージングテーブルに取り込まれます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

統合タスクを自動化するアクション

Thomson Reuters Regulatory Intelligence との GRC 統合 アプリケーションは Thomson Reuters 統合タスクを自動化するための次のアクションを提供します。

- 規制イベントに関連するソースドキュメントを取得します。
- SFTP ソースパスからファイル名をフィードするため、Thomson Reuters プラットフォームを取得します。
- Thomson Reuters プラットフォームによる処理済みファイルを宛先パスに移動します。
- SFTP サーバーからファイル名を取得後、Thomson Reuters プラットフォームのスケジュール済みインポートジョブをトリガーします。
- 新しい SFTP 接続のパスと認証情報を検証します。

自動化の手順の詳細については、ソフトウェアとともに送信されるガイド付きセットアップファイルを参照してください。

Thomson Reuters Regulatory Intelligence との GRC 統合アプリケーションのインストール

Thomson Reuters Regulatory Intelligence との GRC 統合 アプリケーション (com.sn_grc_int_tr) をインストールします。アプリケーションには、デモデータが含まれています。まだインストールされていない場合は、関連する ServiceNow Store アプリケーションとプラグインをインストールします。

始める前に

- アプリケーションとその関連するすべての ServiceNow Store アプリケーションに有効な ServiceNow エンタイトルメントがあることを確認してください。詳細については、次を参照してください。 のエンタイトルメントを取得する ServiceNow 製品またはアプリケーション.

Thomson Reuters Regulatory Intelligence との GRC 統合 には ServiceNow Store からの ServiceNow　規制変更管理 アプリケーションが必要です。Thomson Reuters Regulatory Intelligence との GRC 統合 アプリケーションをインストールする前に、このアプリケーションがインストールされていることを確認してください。

必要なロール：sn_grc_reg_change.admin

このタスクについて

次のアイテムは、Thomson Reuters Regulatory Intelligence との GRC 統合 アプリケーションとともにインストールされます。

- ストアアプリケーション
- スケジュール済みジョブ
- テーブル

手順

1. 移動先 すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
2. フィルター基準と検索バーを使用して、Thomson Reuters Regulatory Intelligence との GRC 統合 アプリケーション (com.sn_grc_int_tr) を検索します。

   名前または ID でアプリケーションを検索できます。アプリケーションが見つからない場合は、ServiceNow Store にリクエストする必要が生じる場合があります。

   ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリース

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

3. アプリケーションのインストールダイアログボックスで、アプリケーションの依存関係を確認します。

   依存するプラグインとアプリケーションがインストールされている場合、現在インストールされている場合、またはインストールする必要がある場合は、リストに表示されます。インストールする必要があるプラグインまたはアプリケーションがある場合は、Thomson Reuters Regulatory Intelligence との GRC 統合アプリケーションをインストールする前にインストールする必要があります。

4. **[Install** (インストール)] を選択します。

SFTP または REST API 接続を確立する

Thomson Reuters Regulatory Intelligence との GRC 統合 アプリケーションの SFTP または REST API 接続を確立します。Thomson Reuters プラットフォームに付属する接続および資格情報エイリアスを使用して、SFTP サーバーとの SFTP または REST API 接続を作成できます。

始める前に
必要なロール：sn_grc_reg_change.admin

このタスクについて
Thomson Reutersは、Thomson Reutersポータルに構成された SFTP の場所に規制フィードファイルを保管します。SFTP の場所から ServiceNow インスタンスにフィードファイルをインポートするために、この SFTP サーバーとの接続を作成できます。

手順

1. 移動先 すべて > 規制変更管理 > **Thomson Reuters** > 接続と認証情報エイリアス.
   出荷時には次の 2 つの接続および資格情報エイリアスが Thomson Reuters プラットフォームに含まれます。
   - Thomson Reuters プラットフォーム REST API
   - Thomson Reuters プラットフォーム SFTP
2. Thomson Reuters プラットフォーム REST API エイリアスまたは Thomson Reuters プラットフォーム SFTP エイリアスのいずれかで、[新しい接続および資格情報を作成] 関連リンクを選択します。
   REST エイリアスまたは SFTP エイリアスのいずれかを使用して接続を作成できますが、両方を使用することはできません。SFTP エイリアスと REST エイリアスでは互いに提供される詳細が異なります。
   接続および資格情報エイリアスを作成フォームに詳細を入力すると、新しい接続が作成されます。
3. フォームのフィールドに入力します。
   - 接続および認証情報 SFTP エイリアスを作成フォームを選択した場合は、次のフィールドに入力します。

接続および認証情報 **SFTP** エイリアスを作成フォーム

フィールド	説明
接続情報	
名前	SFTP 接続の名前。
ホスト	SFTP サーバーホストに関する情報。
ポート	SFTP サーバーのポート番号。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
認証情報	
名前	SFTP サーバーへのアクセスに使用される認証情報名。
ユーザー名	SFTP サーバーへのアクセスに使用されるユーザー名。
パスワード	SFTP サーバーへのアクセスに使用されるパスワード。
後処理情報	
ソースパス	規制フィードファイルを含むディレクトリの場所。
宛先パス	正常にインポートされたファイルが配置されるディレクトリの場所。

- 接続および認証情報 REST エイリアスを作成フォームを選択した場合は、次のフィールドに入力します。

接続および認証情報 **REST** エイリアスを作成フォーム

フィールド	説明
認証情報	
OAuth クライアント ID	サードパーティの OAuth OIDC サーバーに登録されているアプリケーションのクライアント ID。
OAuth クライアントシークレット	サードパーティの OAuth OIDC サーバーに登録されているアプリケーションのクライアントシークレット ID。

4. 前のステップに応じて、SFTP エイリアスフォームで [作成] を選択するか、REST エイリアスフォームで **[OAuth** トークンを作成して取得] を選択します。
ファイル接続情報レコードが作成されます。

タスクの結果
新しい接続が確立されると、インスタンスでファイル接続情報レコードが作成されます。ファイル接続情報レコードが作成された後は、[接続] 関連リストで [新規] を選択しても、ファイル接続情報レコードをこれ以上作成することはできなくなります。

Thomson Reuters Regulatory Intelligence との **GRC** 統合 アプリケーションのモジュール

Thomson Reuters Regulatory Intelligence との GRC 統合 アプリケーションには、さまざまなモジュールが含まれています。

Thomson Reuters Regulatory Intelligence との GRC 統合 アプリケーションの下に次のモジュールが表示されます。

アプリケーションのモジュール

モジュール	説明
Thomeson Reuters ガイド付きセットアップ	アプリケーションを構成および設定するための手順。
接続および資格情報エイリアス	SFTP および OAuth に対応する接続および資格情報エイリアス。
接続	Thomson Reuters プラットフォームからのファイル接続情報レコード。[検証] をクリックして接続を検証

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

アプリケーションのモジュール (続く)

モジュール	説明
	します。接続の検証中に問題が発生した場合は、データ連携ログを使用してトリアージします。 接続を使用しない場合は、[ドラフトに移動] をクリックして [ドラフト] ステータスに移動できます。統合では、システムはステータスが [検証済み] のファイル接続情報レコードのみを使用します。
OAuth レジストリエントリ	出荷時の接続および資格情報エイリアスを介して OAuth 接続と資格情報が作成されたときのレコード。
OAuth 認証情報	OAuth 認証情報が作成されたときのレコード。
フィードレジストリ	SFTP の場所のソースディレクトリにある各フィードファイルのレコード。
統合ログ	統合の詳細を含む統合ログ。ログには、接続の検証中に観測されたエラーなど、統合フローで発生したエラーが含まれています。
データソース	SFTP の場所からフィードファイルを取り込んで規制フィードテーブルにレコードを自動的に作成するデータソース。
スケジュール済みインポート	フィードレジストリ内の最も古いエントリをスキャンして検索するスケジュール済みインポート。
分類 XML 構成	Thomson Reuters プラットフォームの一部として出荷されるレコード。アップロードされた Thomson Reuters プラットフォーム分類ファイルを XML 形式で解析するために必要な XPath と属性が含まれます。
TR | 規制機関	Thomson Reuters プラットフォームの外部規制機関分類レコード。
TR | コンテンツタイプ	Thomson Reuters プラットフォームの外部コンテンツタイプ分類レコード。
TR | 管轄	Thomson Reuters プラットフォームの外部管轄分類レコード。
TR | テーマ	Thomson Reuters プラットフォームの外部テーマ分類レコード。
TR | セクター	Thomson Reuters プラットフォームの外部セクター分類レコードを表示します。
分類マッパー	Thomson Reuters プラットフォームの分類から内部分類へマッピングします。

次のテーブルに保存されているアプリケーションモジュールを介してアクセスされるデータ：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションデータを保存するためのテーブル

テーブル	フィールド
sn_grc_reg_change_external_theme	外部規制テーマ
sn_grc_reg_change_external_regulatory_body	外部規制機関
sn_grc_reg_change_external_sector	外部規制セクター
sn_grc_reg_change_external_content_type	外部規制コンテンツタイプ
sn_grc_reg_change_external_jurisdiction	外部規制管轄
sn_grc_reg_change_ theme	規制テーマ
sn_grc_reg_change_ regulatory_body	規制機関
sn_grc_reg_change_sector	規制セクター
sn_grc_reg_change_ content_type	規制コンテンツタイプ
sn_grc_reg_change_ jurisdiction	規制管轄

GRC：サードパーティコンテンツとの統合

GRC：サードパーティコンテンツとの統合 アプリケーションは、コンテンツプロバイダーに共通のフレームワークを提供することで、さまざまな GRC アプリケーション間でコンテンツ統合プロセスを標準化するために役立ちます。

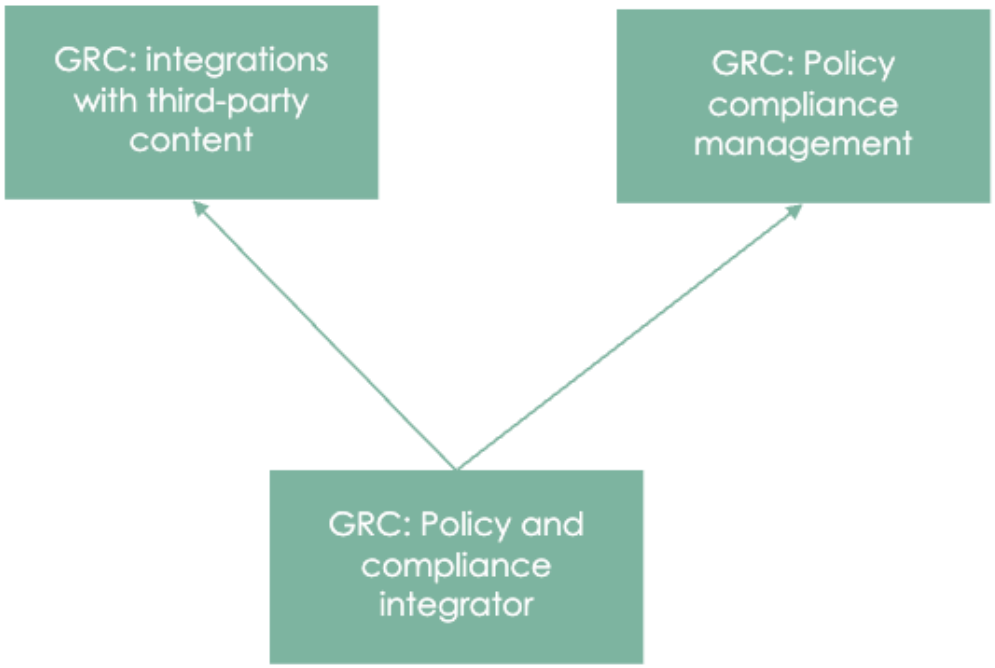
Yokohama では、GRC：サードパーティコンテンツとの統合 アプリケーションを GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター アプリケーションとともに使用できます。GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター アプリケーションは、データをレビュー、承認、および ポリシーとコンプライアンス管理 テーブルにインポートできるようにするためのオプションを提供します。

GRC：サードパーティコンテンツとの統合 アプリケーションは ServiceNow Store とは個別にインストールできます。ServiceNow Store から GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター アプリケーションをダウンロードすると、次の図に示すように、 GRC：サードパーティコンテンツとの統合 アプリケーションがインスタンスに自動的にダウンロードされます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター アプリケーションのダウンロード構造



自動翻訳

注:
GRC：サードパーティコンテンツとの統合 アプリケーションは、 インスタンスのアプリケーションナビゲーターには表示されません。

GRC：サードパーティコンテンツとの統合 および GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター アプリケーションがインスタンスにダウンロードされると、sn_grc_cim.admin ロールを持つユーザーはアプリケーションワークフローに関連するタスクを実行できます。

ユーザーロールの詳細については、「統合プロセスのユーザーロール」および「sn_grc_cim.admin ロールを持つユーザーを作成する」を参照してください。

統合プロセスのユーザーロール

GRC：サードパーティコンテンツとの統合 および GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター アプリケーションに関連付けられている統合プロセス全体に必要なユーザーロールをアサインする必要があります。

GRC：サードパーティコンテンツとの統合 および GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター アプリケーションでは、次のロールをアサインすることができます。

ユーザーロール

ロールタイトル	説明
sn_grc_cim.admin	sn_grc_cim.admin ロールを持つユーザーは、GRC：サードパーティコンテンツとの統合 アプリケーションの API とテーブルにアクセスできます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーザーロール (続く)

ロールタイトル	説明
sn_grc_cim.manager	sn_grc_cim.manager ロールを持つユーザーは、GRC：サードパーティコンテンツとの統合 アプリケーションのテーブルへの読み取りおよび書き込みアクセス権があります。
sn_compliance.manager	sn_compliance.manager ロールは sn_grc_cim.manager ロールを継承します。sn_compliance.manager ロールを持つユーザーは、GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションのテーブルへの読み取りおよび書き込みアクセス権があります。
sn_compliance.admin	sn_compliance.admin ロールは sn_grc_cim.admin ロールを継承します。sn_compliance.admin ロールを持つユーザーは、GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションのテーブルにアクセスできます。

sn_grc_cim.admin ロールを持つユーザーを作成する

コンテンツ統合およびインポートプロセスに関連するタスクを実行するには、sn_grc_cim.admin ロールを持つユーザーを作成します。

始める前に

注:
インスタンスに GRC：サードパーティコンテンツとの統合 アプリケーションがインストールされていることを確認します。詳細については、「GRC：サードパーティコンテンツとの統合」を参照してください。

必要なロール：sn_grc_cim.admin、sn_compliance.admin

手順

1. sn_compliance.admin ロールでインスタンスにログインし、sn_grc_cim.admin ロールをユーザーにアサインします。

   注:
   sn_compliance.manager ロールは sn_grc_cim.manager ロールを継承します。同様に、sn_compliance.admin ロールは sn_grc_cim.admin ロールを継承します。

   sn_grc_cim.admin ロールを持つユーザーは、レコードを GRC：サードパーティコンテンツとの統合 アプリケーションに挿入するために必要な、すべての API にアクセスできます。sn_grc_cim.manager ロールを持つユーザーは、GRC：サードパーティコンテンツとの統合 アプリケーションのテーブルへの書き込みアクセス権があります。

2. インスタンス内の GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター アプリケーションに移動して、ワークフローを実行します。
   GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター アプリケーションワークフローで実行する必要がある次の手順については、「GRC：ポリシーとコンプライアンスのインテグレーター のワークフロー」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SIG (標準化された情報収集) Questionnaire Integration

サードパーティから必要なアセスメントドキュメントを取得するには、共有アセスメント SIG (標準化された情報収集) アンケートを使用します。サードパーティ連絡先は、事前に入力された SIG スプレッドシートをアップロードするか、インスタンスにインポートされるフォームベースのアンケートによって取得できます。

GRC:SIG Questionnaire Integration バージョン 20.1.x には、2025、2024、2023、2022、2021 用の SIG テンプレートが含まれています。ベンダーが 2021 SIG より前のバージョンをアップロードした場合、一致する質問に対するすべての回答がインポートされ、一致しない質問に対する回答は、後でベンダーが回答できるように、回答は空白のままインポートされます。

GRC：SIG アンケート統合をインストールします。

GRC：SIG アンケート統合プラグインは、GRC: サードパーティリスク管理アプリケーションで使用する SIG アンケートテンプレートをインストールします。

始める前に
必要なロール：sn_vdr_risk.admin、admin
インストールの前に、次のセットアップチェックリストを完了します。これらのセットアップタスクは、インストールをスムーズに行うために必要です。

セットアップタスク	説明
ServiceNow プラグインが有効化されていることを確認します。	サードパーティリスク管理 (com.sn_vdr_risk_asmt) プラグインを有効にします。 このプラグインがアクティブであることを確認するには、 サブスクリプション管理 > サブスクリプション インスタンス内にありますリストには、組織で購入したサブスクリプションが表示されます。 詳細については、「サードパーティリスク管理の構成」と、「ServiceNow Store」からエンタイトルメントされた GRC アプリケーションをアクティブ化するための手順：「エンタイトルメントされた GRC ServiceNow Store アプリケーションを有効化する」および「初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする」を参照してください。

手順

1. アプリケーションをインストールするインスタンスにログインします。
2. 移動先 システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
   インストール可能なアプリのリストが表示されます。
3. アプリを見つけて選択し、[インストール] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリはGRC：サードパーティリスク管理(com.sn_vdr_risk_asmt) プラグインとGRC：SIG アンケート統合 (com.snc.sig_asmt_core) プラグインをインストールします。

> **注:**
> アプリをアンインストールするときに、プロファイルタイプのプロファイルとインジケーターを保持するには、このチェックボックスをオンにします。

サードパーティリスク管理 で **SIG Questionnaire Integration** を検証する

SIG Questionnaire Integration をインストールした後、サードパーティリスク管理 アプリケーション内で SIG Questionnaire テンプレートを利用できることを確認します。

始める前に
必要なロール：サードパーティリスクマネージャー (sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager)

手順

1. 移動先 すべて > サードパーティリスク管理 > アセスメントのセットアップ > アンケートテンプレート.
2. 次のアンケートが利用可能であることを確認します。
   - SIG Full 2025、2024、2023、2022、2021
   - SIG Core 2025、2024、2023、2022、2021
   - SIG Lite 2025、2024、2023、2022、2021

ガバナンス、リスク、コンプライアンス ユースケースアクセラレータ

ユースケースアクセラレータには、事前定義されたスコープ、特定のポリシー、コントロール、リスク、監査、テスト計画、ダッシュボード、およびレポートが含まれており、顧客は様々な規制やフレームワークを採用する際、運用面で有利なスタートを切ることができます。

ServiceNow Store での GRC ユースケースアクセラレータのインストール、検証、およびレポート機能については、次のドキュメントを使用してください。

特に記載のない限り、各ユースケースアクセラレータでは、ServiceNow GRC 製品がインスタンスにインストールされ、有効化されている必要があります。

Cyber Risk Institute アクセラレーター

Cyber Risk Institute (CRI) は、金融セクターや規制当局と協力して、リスク管理全体の標準化を簡素化することに重点を置いています。サイバーコンプライアンス管理を改善するために、CRI は金融セクターのコンセンサスを含む CRI Profile を提供します。

CRI フレームワークプロファイルは NIST CSF v2.0 に準拠しています。CRI Profile とアセスメントは、CRI フレームワークを実装してサイバーコンプライアンス管理を強化するのに役立ちます。このフレームワークには、FFIEC CAT などからの金融サービスの引用といった金融サービス規制基準にマッピングされる、NIST CSF 2.0 に従ったコントロール目標などの詳細な診断ステートメントが含まれています。

Cyber Risk Institute (CRI) Accelerator の一環として、次のことができます。

- NIST CSF に基づいて、関連する各種法令・基準等、引用、およびコントロール目標を含む CRI Profile をインポートします。
- スマートアセスメントエンジンを使用して実施される CRI アセスメントの自動階層化と選択により、コンプライアンスプロセスを簡素化します。
- 階層に基づいてコントロールを自動的に作成し、エンティティレベルにロールアップする CRI アセスメント応答からコンプライアンススコアを生成します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

詳細については、以下を参照してください。

- CRI 階層アンケートを実行して、エンティティの階層値を決定します。
- NIST CSF ユースケースアクセラレーター を検証する。

Cybersecurity Controls Accelerator™

Cybersecurity Controls Accelerator™ を使用すると、The Center for Internet Security™ の CIS Controls を簡単に導入して、全体的なセキュリティ準備とサイバー防御体制を強化できます。

主要なサイバーセキュリティ方法論の対象をユーザーの成熟度と準備レベルに合わせることで、CIS Control の採用がさらに強化されます。

Cybersecurity Controls Accelerator には、CIS Controls バージョン 7.1 の各種法令・基準等、191 の関連付けられた CIS 各種法令・基準内項目、およびその各種法令・基準内項目に関連する 191 の CIS Controls 目標が含まれています。

Cybersecurity Controls Accelerator を使用するためにダウンロードする必要がある Technology Controls Monitoring Accelerator アプリケーション (com.sn_grc_infosec) には、CIS Controls にマッピングされる 171 (基本 26) のインジケーターテンプレートが含まれています。これらのインジケーターテンプレートは、自動化されたコントロールの検証と継続的な監視を提供します。

CIS Controls™ v8 のサポート

Yokohama リリース以降、Cybersecurity Controls Accelerator は引用に関連する CIS Controls v8 の各種法令・基準等、引用、およびコントロール目標をサポートしています。

CSA CCM v4.0 の内容

Yokohama リリース以降、Cybersecurity Controls Accelerator は各種法令・基準等、引用、コントロール目標などの Cloud Security Alliance Cloud Controls Matrix (CSA CCM v4.0) コンテンツをサポートしています。

Cybersecurity Controls Accelerator をダウンロードする

インスタンスで GRC：Cybersecurity Controls Accelerator アプリケーションを実行する前に、ServiceNow Store からダウンロードする必要があります。

始める前に
Cybersecurity Controls Accelerator アプリケーションを実行する前に、次の GRC アプリケーションをダウンロードして有効化する必要があります。

- GRC: ポリシーとコンプライアンス管理
- GRC: Profiles
- GRC：Technology Controls Monitoring Accelerator

必要なロール：admin

手順

初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする の指示に従います。

サイバーセキュリティコントロールを監視する

Cybersecurity Controls Accelerator にアクセスすると、次のモジュールを使用してコントロールを監視できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

Cybersecurity Controls Accelerator モジュール

アプリケーション/モジュール	説明
CIS Controls	
各種法令・基準等	各種法令・基準等モジュールは、CIS Controls v7.1 および v8 の各種法令・基準等を含む各種法令・基準等のリストを提供します。この各種法令・基準等には、各種法令・基準内項目およびコントロール目標への参照が含まれています。 各種法令・基準等は、各種法令・基準等テーブル [sn_compliance_authority_document] に保存されます。
信頼できるソースコンテンツ	各種法令・基準内項目モジュールは、CIS Controls v7.1 および v8 の各種法令・基準等に含まれる各種法令・基準内項目のリストを提供します。各種法令・基準内項目のそれぞれには 1 つ以上のコントロール目標を含めることができ、以下を参照します。 • コンテンツ参照 • 情報オブジェクト 各種法令・基準内項目は、各種法令・基準内項目テーブル [sn_compliance_citation] に保存されます。
コントロール目標	コントロール目標モジュールは、CIS Controls v7.1 および v8 の各種法令・基準等に含まれる各種法令・基準内項目に関連付けられたコントロール目標のリストを提供します。各コントロール目標には、次のアイテムを 1 つまたは複数含めることができます。 • エンティティタイプ • 追加エンティティ • ポリシー • コントロール • インジケーターテンプレート • ポリシー例外 • 問題 • リスクステートメント • コンテンツ参照 コントロール目標は、 コントロール目標テーブル [sn_compliance_policy_statement] に保存されます
インジケーターテンプレート	インジケーターテンプレートモジュールは、 CIS Controls にマッピングされる事前定義されたインジケータ テンプレートのリストを提供します。インジケーターテンプレートは、コントロールの検証を自動化し、継続的な監視を提供します。 インジケーターテンプレート参照先コンテンツ [sn_grc_m2m_ind_temp_cont]

前述のとおり、Technology Controls Monitoring Accelerator アプリケーション (com.sn_grc_infosec) は、Cybersecurity Controls Accelerator アプリケーションをダウンロードするときの依存アプリケーションです。Technology Controls Monitoring Acceleratorアプリ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ケーションは、CIS コントロールにマッピングされる事前定義済みインジケーターテンプレートを提供します。

> **注:**
> Cybersecurity Controls Acceleratorアプリケーションを実装しないことにした場合でも、Technology Controls Monitoring Acceleratorを使用して、ポリシーとコンプライアンス管理アプリケーションから Unified Compliance Framework (UCF) を介して CIS および ISO 27002 に準拠しているか検証できます。詳細については、「Technology Controls Monitoring Accelerator」を参照してください。

インジケータテンプレートにマッピングされた **UCF** コントロール

UCF からインポートされた CIS または ISO 各種法令・基準等を使用する場合でも、285 (171 CIS および 114 ISO) の自動監視インジケーターテンプレートを使用してコンプライアンスアクティビティを管理できます。

171 のインジケータテンプレートは、Cybersecurity Controls Accelerator アプリケーションが提供する 171 の CIS コントロール目標にマッピングされます。

> **注:**
> 26 の基本インジケーターテンプレートの情報は、次の例に示すように、さまざまな ServiceNow ITx アプリケーションから取得されます。

CIS Controls の基本インジケーターテンプレート

CIS Control	説明	**ITx** ソースアプリケーション
CIS Control 1.1	アクティブディスカバリーツールを使用して、組織のネットワークに接続されているデバイスを特定し、ハードウェア資産のインベントリを更新します。	ディスカバリー
CIS Control 1.2	パッシブなディスカバリーツールを使用して、組織のネットワークに接続されているデバイスを特定し、組織のハードウェア資産のインベントリを自動的に更新します。	ディスカバリー
CIS Controls 1.4	情報を保存または処理する可能性があるすべてのテクノロジー資産の正確かつ最新のインベントリを維持します。このインベントリには、組織のネットワークに接続されているかどうかにかかわらず、すべてのハードウェア資産が含まれます。	ディスカバリー
CIS Control 1.5	ハードウェア資産在庫に、各資産のネットワークアドレス、ハードウェアアドレス、マシン名、データ資産オーナー、部門、およびハードウェア資産がネットワークへの接続が承認されているかどうかが記録されていることを確認します。	ディスカバリー
CIS Control 1.6	許可されていない資産がネットワークから削除されるか、隔離されるか、またはインベントリが適切なタイミング適宜更新されるように確保します。	ディスカバリー
CIS Control 1.7	802.1x 標準に従って、ポートレベルのアクセス制御を使用して、ネットワークに対して認証できるデバイスを制御します。認証システムをハードウェア資産インベントリデータに関連付けて、認可済みデバイスのみがネットワークに接続できるようにする必要があります。	ディスカバリー
CIS Control 1.8	クライアント証明書を使用して、組織の信頼できるネットワークに接続するハードウェア資産を認証します。	ディスカバリー

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS Controls の基本インジケーターテンプレート (続く)

CIS Control	説明	ITx ソースアプリケーション
CIS Control 2.1	任意のビジネスシステムで、企業内のビジネス目的で必要なすべての認可済みソフトウェアの最新リストを維持します。	ソフトウェア資産管理
CIS Control 2.2	現在ソフトウェアのベンダーによってサポートされているソフトウェアアプリケーションまたはオペレーティングシステムのみが、組織の認可済みソフトウェアインベントリに追加されていることを確認します。サポートされていないソフトウェアは、インベントリシステムでサポート対象外としてタグ付けする必要があります。	ソフトウェア資産管理
CIS Control 2.3	組織全体でソフトウェアインベントリツールを使用して、ビジネスシステム上のすべてのソフトウェアのドキュメントを自動化します。	ソフトウェア資産管理
CIS Control 2.4	ソフトウェアインベントリシステムは、組織によって認可されたオペレーティングシステムを含む、すべてのソフトウェアの名前、バージョン、公開者、およびインストール日を追跡する必要があります。	ソフトウェア資産管理
CIS Control 2.5	ソフトウェアインベントリシステムは、すべてのデバイスと関連付けられたソフトウェアを 1 つの場所から追跡できるように、ハードウェア資産インベントリに関連付ける必要があります。	CMDB
CIS Control 3.1	最新の SCAP 準拠の脆弱性スキャンツールを使用して、ネットワーク上のすべてのシステムを毎週またはそれ以上の頻度で自動的にスキャンし、組織のシステムの潜在的な脆弱性をすべて特定します。	脆弱性対応
CIS Control 3.2	各システムでローカルに実行されているエージェント、またはテスト対象のシステムで昇格された権利で設定されたリモートスキャナーを使用して、認証済み脆弱性スキャンを実行します。	脆弱性対応
CIS Control 3.6	継続的な脆弱性スキャンの結果を定期的に比較して、脆弱性が適切なタイミングで修正されていることを確認します。	脆弱性対応
CIS Control 3.7	リスク評価プロセスを使用して、検出された脆弱性の修正を優先します。	脆弱性対応
CIS Control 15.1	有線ネットワークに接続されている認可済み無線アクセスポイントのインベントリを管理します。	CMDB
CIS Control 16.1	オンサイトまたはリモートサービスプロバイダーにあるものを含む、組織の各認証システムのインベントリを管理します。	CMDB
CIS Control 18.5	標準化され、広範囲にわたってレビューされた暗号化アルゴリズムのみを使用します。	ディスカバリー

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS Controls の基本インジケーターテンプレート (続く)

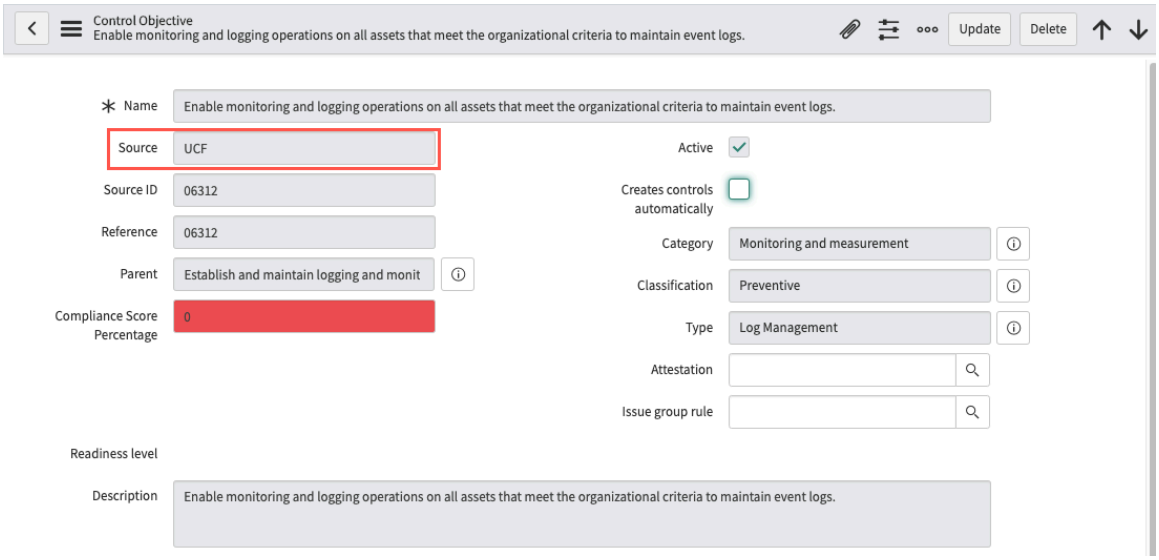
CIS Control	説明	ITx ソースアプリケーション
CIS Control 18.8	外部エンティティがセキュリティグループに連絡する手段を提供するなど、ソフトウェアの脆弱性のレポートを受け入れて対処するプロセスを確立します。	脆弱性対応
CIS Control 19.1	担当者のロールとインシデントの処理/管理のフェーズを定義する、書面によるインシデント応答計画があることを確認します。	セキュリティインシデントレスポンス
CIS Control 19.2	コンピューターとネットワークのインシデントを処理するための役職と職務を特定の個人にアサインし、解決までのインシデント全体の追跡と文書化を行います。	セキュリティインシデントレスポンス
CIS Control 19.3	重要な意思決定のロールを担うことによってインシデント処理プロセスをサポートする管理担当者およびバックアップを指定します。	セキュリティインシデントレスポンス
CIS Control 19.4	システムアドミニストレーターおよび他の人員メンバーがインシデント処理チームに例外イベントをレポートするために必要な時間、そのようなレポートのメカニズム、およびインシデント通知に含める必要がある情報の種類について、組織全体の標準を策定します。	セキュリティインシデントレスポンス
CIS Control 19.6	インシデント処理チームへのコンピューターの例外とインシデントのレポートに関する情報を、すべての従業員に公開します。このような情報は、定期的な従業員の認識向上アクティビティに含める必要があります。	セキュリティインシデントレスポンス
CIS Control 19.8	組織への既知の影響または潜在的な影響に基づいて、インシデントのスコアリングと優先順位付けのスキーマを作成します。スコアを使用して、ステータスの更新頻度とエスカレーション手順を定義します。	セキュリティインシデントレスポンス

次に示すように、UCF からダウンロードされるコントロール目標には、ソースとして UCF があります。

自動翻訳

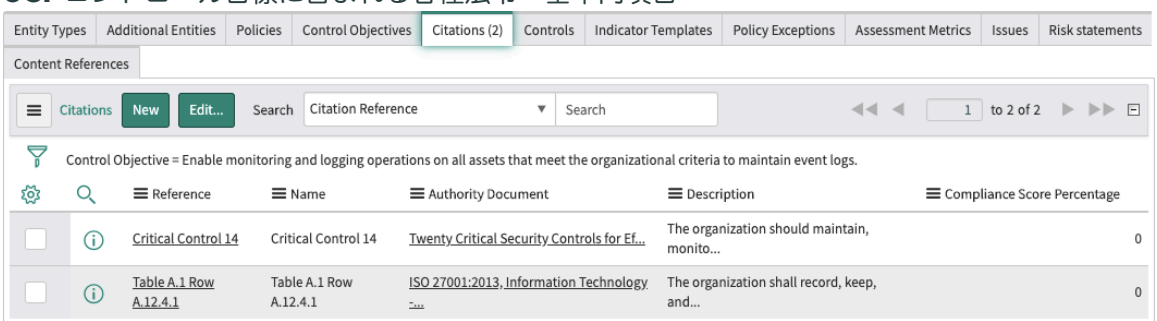
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UCF コントロール目標



[各種法令・基準内項目] 関連リストをクリックすると、2 つの各種法令・基準内項目が存在することがわかります。1 つは CIS から取得され、もう 1 つは UCF から取得された ISO 27001 各種法令・基準等です。

UCF コントロール目標に含まれる各種法令・基準内項目

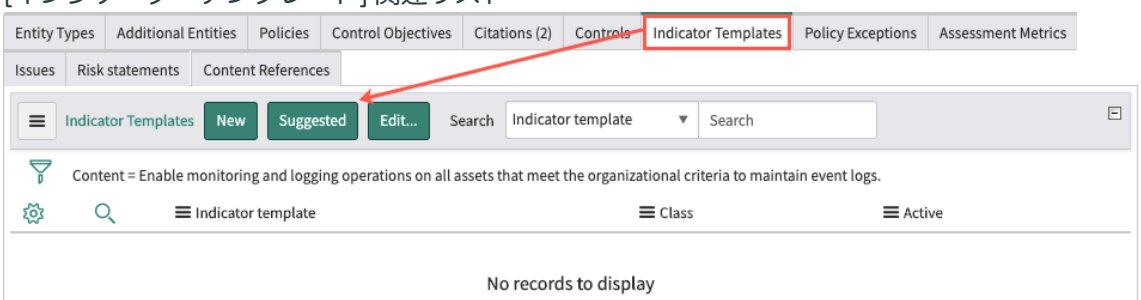


自動翻訳

これらの各種法令・基準内項目により、Cybersecurity Controls Accelerator アプリケーションに含まれる CIS Controls の代わりに、UCF からダウンロードした CIS コントロールを使用し、コントロールを提供されたインジケーターテンプレートに関連付けることができます。

この UCF コントロール目標を類似のインジケーターテンプレートに関連付ける場合は、[インジケーターテンプレート] 関連リストをクリックし、[提案済み] ボタンをクリックします。

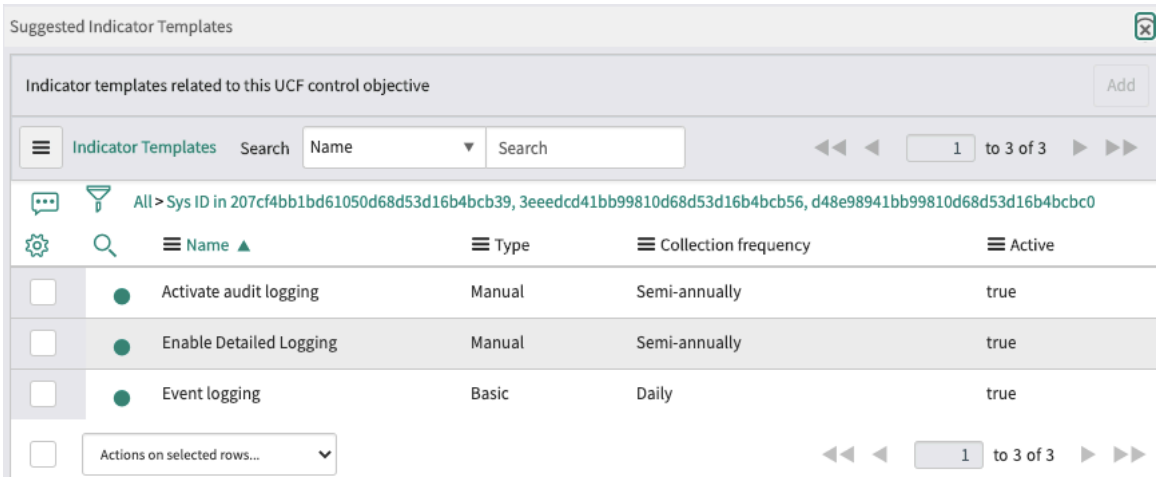
[インジケーターテンプレート] 関連リスト



選択したコントロール目標に適用できるインジケーターテンプレートのリストが表示されます。

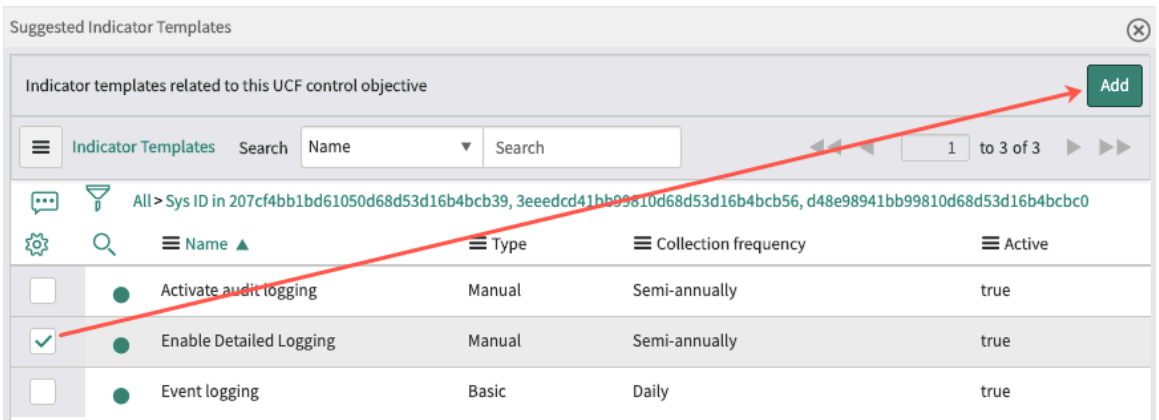
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

提案されたインジケーターテンプレート



UCF コントロール目標にマッピングするインジケーターテンプレートを選択し、[追加] をクリックします。

インジケーターテンプレートの **UCF** コントロール目標へのマッピング



ファイナンシャルサービスコントロールアクセラレーター

Financial Services Control Accelerator は、Financial Services Control を採用する際に、お客様が運用面で有利なスタートを切ることができるようにします。アクセラレータをダウンロードして GRC アプリケーションでアクティブ化すると、事前設定された各種法令・基準等、引用、およびコントロール目標。

連邦金融機関検査評議会**(FFIEC)**のコンテンツ

Zurich リリース以降、Financial Services Control Accelerator は、次の事項に関する各種法令・基準等、引用、コントロール目標などの FFIEC コンテンツをサポートしています。

- FFIEC アーキテクチャ、インフラストラクチャ、および運用 (AIO) IT 試験ハンドブック
- FFIEC事業継続性管理(BCM)IT試験ハンドブック
- FFIEC 開発、取得、および保守 (DAM) IT 試験ハンドブック。

ニューヨーク州金融サービス局 **(NYDFS)** のコンテンツ

Zurich リリース以降、Financial Services Control Accelerator は、各種法令・基準等、引用、コントロール目標などの 23 の NYCRR 500 コンテンツに対するニューヨーク州金融サービス局 (NYDFS) の第 2 修正をサポートしています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

このアクセラレーターには、FFIEC および NYDFS コントロール目標と引用の CRI 引用およびコントロール目標へのマッピングも含まれています。詳細については、「Cyber Risk Institute アクセラレーター」を参照してください。

Financial Services Control Accelerator アプリケーションを実行する前に、次の GRC アプリケーションをダウンロードしてアクティブ化する必要があります。

- GRC：ポリシーとコンプライアンス管理
- GRC：Profiles

注:
初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする の指示に従います。

ファイナンシャルサービスコントロールアクセラレーターのコントロール

Financial Services Control Accelerator にアクセスすると、これらのモジュールを使用してさまざまな規制機関のデータにアクセスできます。

ファイナンシャルサービスコントロールアクセラレーターモジュール

アプリケーション/モジュール	説明
各種法令・基準等	各種法令・基準等モジュールは、FFIEC および NYDFS 各種法令・基準等を含む各種法令・基準等のリストを提供します。この各種法令・基準等には、各種法令・基準内項目およびコントロール目標への参照が含まれています。 各種法令・基準等は、各種法令・基準等テーブル [sn_compliance_authority_document] に保存されます。
引用	引用モジュールは、FFIEC および NYDFS 各種法令・基準等に含まれる引用のリストを提供します。各引用にはコンテンツ参照を含めることができます。 各種法令・基準内項目は、各種法令・基準内項目テーブル [sn_compliance_citation] に保存されます。
コントロール目標	コントロール目標モジュールは、FFIEC および NYDFS 各種法令・基準等の引用に関連付けられたコントロール目標のリストを提供します。各コントロール目標には、1 つ以上のコンテンツ参照を含めることができます。 コントロール目標は、コントロール目標テーブル [sn_compliance_policy_statement] に保存されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

NIST CSF ユースケースアクセラレーター

NIST CSF ユースケースアクセラレーター を使用すると、NIST CSF を採用することで運用を有利に開始できます。アクセラレータをダウンロードして GRC アプリケーションで有効にすると、事前設定されたポリシー、スコープ (プロファイル、プロファイルタイプの推奨事項)、インジケーター、リスク、およびその他の GRC 要素が表示されます。

NIST CSF ユースケースアクセラレーター の使用者

ペルソナ	説明
リスク担当役員	組織全体でリスクが特定され、一貫して管理されるように確保します。 次のセクションへのアクセスが定義されています。 • **NIST CSF** > 概要 • **NIST CSF** > フレームワークコア • **NIST CSF** > フレームワークプロファイリング • **NIST CSF** > コンテンツ
セキュリティ責任者	組織のサイバーセキュリティのギャップ、非準拠コントロール、リスク、問題、失敗したインジケーター、およびアクションプランに対応します。 次のセクションへのアクセスが定義されています。 • **NIST CSF** > フレームワークコア • **NIST CSF** > フレームワークプロファイリング
コントロールプロバイダー	組織のサイバーセキュリティコントロールのライブラリーのビルドを促進します。 次のセクションへのアクセスが定義されています。 • **NIST CSF** > フレームワークコア • **NIST CSF** > コンテンツ
システムアドミニストレーター	次のセクションへアクセスできます。 **NIST CSF** > アドミニストレーション
GRC アドミン	次のセクションへアクセスできます。 **NIST CSF** > アドミニストレーション

NIST CSF ユースケースアクセラレーター をインストールする

NIST Cybersecurity Framework (CSF) ユースケースアクセラレーター は GRC コアアプリケーション (ポリシーとコンプライアンス管理、リスク管理、および 監査管理 アプリケーション) で使用されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

始める前に
必要なロール：なし。インストールの前に、次のセットアップチェックリストを完了します。これらのセットアップタスクは、インストールをスムーズに行うために必要です。

セットアップタスク	説明
次のアプリケーションがインストールされていることを確認します。 • ポリシーとコンプライアンス管理 • リスク管理 • 監査管理	これらのアプリケーションがアクティブ化されていることを確認するには、 サブスクリプション管理 > サブスクリプション インスタンス内にありますリストには、組織で購入したサブスクリプションが表示されます。
必要なロールがあることを確認します。	システムアドミニストレーター (admin) は、次のロールをアサインします。 • ポリシーとコンプライアンス管理 ロール ○ 証明書作成者 (sn_compliance.attestation_creator) ○ コンプライアンスアドミニストレーター (sn_compliance.admin) ○ コンプライアンス開発者 (sn_compliance.developer) ○ コンプライアンスマネージャー (sn_compliance.manager) ○ コンプライアンスリーダー (sn_compliance.reader) ○ コンプライアンスユーザー (sn_compliance.user) • リスク管理 ロール ○ リスクアドミン (sn.risk.admin) ○ リスクリーダー (sn.risk.reader) ○ リスクマネージャー (sn.risk.manager) ○ リスクユーザー (sn.risk.user) • 監査管理 ロール ○ 監査アドミン (sn_audit.admin) ○ 監査開発者 (sn_audit.developer) ○ 監査マネージャー (sn_audit.manager) ○ 監査ユーザー (sn_audit.user) ○ 外部監査人 (sn_audit.external_auditor)

手順

1. アプリケーションをインストールするインスタンスにログインします。

2. 移動先 システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. **GRC: NIST CSF Accelerator** アプリケーションを検索します。
4. デモデータをロードする場合には、[デモデータ] チェックボックスをオンにします。
5. [インストール] をクリックします。

NIST CSF ユースケースアクセラレーター を検証する

GRC: NIST Cybersecurity Framework (CSF) ユースケースアクセラレーター をインストールした後、NIST CSF アプリケーション構造、コアコンテンツ、およびデモデータ (インストール中に選択した場合) をレビューします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. 移動先 すべて > ユーザー管理 > ロール をクリックし、 NIST CSF アプリケーションとともにインストールされているロールを確認します。

   これらのロールの名前には nist_csf が含まれています (例： sn_irm_nist_csf.security_officer)。ロールは NIST CSF アプリケーションモジュールに関連付けられ、ユーザーのロールに基づいてアクセス権が提供されます。

   > **注:**
   > アプリケーションにアクセスするには、基本的な NIST CSF ユーザーロールが必要です。このロールには、アプリケーションの ServiceNow GRC スイートのリーダーまたはユーザーのロールが含まれています。

2. アプリケーションナビゲーターで「**NIST CSF**」と入力し、アプリケーションのコアコンテンツを検証します。

移動先	検証
NIST CSF > コンテンツ > 各種法令・基準等	NIST CSF 用にインストールされた各種法令・基準等をレビューします。
NIST CSF > コンテンツ > 引用	NIST CSF 用にインストールされた引用をレビューします。
NIST CSF > コンテンツ > コントロール目標	NIST CSF 用にインストールされたコントロール目標をレビューします。
NIST CSF > コンテンツ > リスクステートメント	NIST CSF 用にインストールされたリスクフレームワークとリスクステートメントをレビューします。
NIST CSF > コンテンツ > テストテンプレート	NIST CSF 用にインストールされたテストテンプレートをレビューします。
NIST CSF > コンテンツ > インジケーターテンプレート	NIST CSF 用にインストールされたインジケーターテンプレートをレビューします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

移動先	検証
NIST CSF > コンテンツ > 証明書タイプ	NIST CSF 用にインストールされたコントロール証明書タイプをレビューします。
NIST CSF > コンテンツ > アセスメントタイプ	NIST CSF 用にインストールされたリスクアセスメントタイプをレビューします。

3. アプリケーションのデモコンテンツを検証します (ロードされている場合)。

移動先	検証
NIST CSF > ターゲットを方向付ける	NIST CSF アプリケーションで使用するためにシステムにインストールされているサンプルターゲットをレビューします。
ユーザー管理 > ユーザー	NIST CSF アプリケーションで使用するためにシステムにインストールされているサンプルペルソナユーザーをレビューします。これらのユーザーのユーザー ID は .CSF で終わり、名前には CSF が含まれています。
ポリシーとコンプライアンス > スコーピング > プロファイルクラス	[名前] フィールドに「**with NIST**」が含まれているプロファイルクラスを検索します。それぞれのプロファイルクラスのフィールドへのロールアップをレビューして、関係を確認します。
ポリシーとコンプライアンス > スコーピング > エンティティタイプ	[名前] フィールドが「**NIST CSF**」で始まるエンティティタイプを検索します。
ポリシーとコンプライアンス > ポリシーおよび手順 > すべてのコントロール	**Source = NIST CSF** であるコントロール目標を参照するすべてのコントロールを検索します。
リスク > リスク登録 > すべてのリスク	**Source = NIST CSF** であるリスクステートメントを参照するすべてのリスクを検索します。
監査 > 監査テスト > テスト計画	「**NIST CSF**」で始まるテストテンプレートを使用してテスト計画を検索します。
ポリシーとコンプライアンス > インジケーター > インジケーター	**Item.Content.Source = NIST CSF** のすべてのインジケーターを検索します。
リスク > インジケーター > インジケーター	**Item.Content.Source = NIST CSF** のすべてのインジケーターを検索します。
ポリシーとコンプライアンス > 問題 > すべての問題	**Item.Content.Source = NIST CSF** のすべての問題を検索します。
リスク > 問題 > すべての問題	**Item.Content.Source = NIST CSF** のすべての問題を検索します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

移動先	検証
ポリシーとコンプライアンス > 修復タスク > すべてのオープンな修正タスク	修復タスクで特定された問題に **Item.Content.Source = NIST CSF** があるすべての修復タスクを検索します。
リスク > 修復タスク > すべてのオープンな修正タスク	修復タスクで特定された問題に **Item.Content.Source = NIST CSF** がある場合は、すべての修復タスクを検索します。

NIST CSF サポートの概念

NIST CSF ガイダンスから開発されたこれらの概念を理解してください。

概念	説明
ターゲット	ターゲットは、NIST Cybersecurity Framework (CSF) ユースケースアクセラレーター および関連するすべての概念の基盤です。 ターゲットは、ServiceNow® GRC 製品といくつかのユースケースアクセラレーターの間で共有されるテーブルです。これらは、コア GRC アプリケーションのエンティティの概念に似ています。オプションでプロファイルにリンクされますが、ユースケースアクセラレーターに固有の属性に使用されます。
重要なインフラストラクチャ (または NIST CSF アプリケーションの使用で重要)	サイバーセキュリティ、国家経済の安全保障、および国民の健康または安全に重大な影響を与える重要な物理または仮想システムおよび資産。
実装階層	組織がサイバーセキュリティリスクとそれらのリスクを管理するために使用するプロセスを表示するために役立ちます。 階層は、サイバーセキュリティ目標を達成するために優先されます。NIST CSF アプリケーションを使用すると、組織はターゲットテーブルの階層属性を使用する実装階層ビューからターゲットを評価できます。
サイバーセキュリティアクティビティ	サイバーセキュリティのポリシーと要件は ServiceNow® GRC ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーション内に存在します。アプリケーションは、サイバーセキュリティプラクティスを強化し、セキュリティコンプライアンスを向上させるために達成する必要がある、サイバーセキュリティの成果を理解するためのガイドラインを提供します。 NIST CSF アプリケーションのこれらのアクティビティは、ターゲット、機能、およびカテゴリの組み合わせです。NIST CSF アクティビティは、ギャップ、非準拠コントロール、リスク、問題、失敗したインジケーター、アクション計画、およびいつ対処するかについての詳細

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

概念	説明
	なインサイトを提供するターゲットのサイバーセキュリティ要件を評価します。また、組織がセキュリティコンプライアンスの状況を強化するためにも役立ちます。
機能	機能は、基本的なサイバーセキュリティアクティビティを最上位レベルで整理します。これらの機能は、識別、保護、検出、応答、復旧、および統制です。情報を整理し、リスク管理の意思決定を可能にし、脅威に対処し、サイバーセキュリティリスクの管理を改善するためにそれ以前のアクティビティから学ぶことで、組織を支援します。 NIST CSF では、機能がアクティビティに関連するサイバーセキュリティの成果を選択し、整理します。
カテゴリ	カテゴリは、サイバーセキュリティの成果をグループに分類する機能の下位区分です。カテゴリの例：資産管理、ID 管理とアクセス制御、およびディスカバリープロセス。 サブカテゴリは、カテゴリを技術的および管理アクティビティの特定の成果に分割するために使用されます。これらは、各カテゴリの成果の達成をサポートできるようにする一連の結果を提供します。サブカテゴリの例としては、「外部情報システムのカタログ化」、「保存データの保護」、「検出システムからの通知の調査」などがあります。 フレームワークコアは、各機能の基礎となるカテゴリとサブカテゴリをサイバーセキュリティポリシーとして、その詳細をポリシーステートメントとして特定します。NIST CSF カテゴリは、ターゲットのサイバーセキュリティアクティビティを定義し、関連付けられたサブカテゴリを使用してサイバーセキュリティ要件を評価して追加のインサイトを提供します。
実装ステータス	サイバーセキュリティアクティビティのステータス (実装済みか、将来に向けて計画済みか)。サイバーセキュリティアクティビティの実装ステータスは文書化することができます。
ギャップ	サイバーセキュリティアクティビティで識別されたターゲットのプロファイルに対しコントロールが設定されていない、サイバーセキュリティポリシーのコントロール目標。
非準拠コントロール	実装の問題のために非準拠と見なされ、ターゲットのエンティティに対して検出され、サイバーセキュリティアクティビティで特定されたサイバーセキュリティコントロール。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

概念	説明
リスク	ターゲットエンティティに実装されたコントロールに関連付けられた、サイバーセキュリティアクティビティで特定されたリスク。
問題	ターゲットエンティティのコントロールとリスクに関連した、サイバーセキュリティアクティビティで特定された問題。
失敗したインジケーター	ターゲットエンティティに実装されたコントロールとリスクに関連した、サイバーセキュリティアクティビティで特定された、失敗したインジケーター。
アクションプラン	ターゲットのエンティティの問題に関連した、サイバーセキュリティアクティビティで特定されたアクションプラン。

NIST CSF テーブル

いくつかのテーブルが NIST CSF ガイダンスの影響を受けます。

テーブル	目的
ターゲット [sn_grc_target]	ターゲットは、ServiceNow GRC アプリケーションと GRC ユースケースコンテンツパックの間で共有される設計のコアテーブルです。ターゲットは、その目的においてエンティティに似ていますが、ユースケースコンテンツパックに固有の属性を追跡するために使用されます。2 つのターゲットレコードが同じエンティティを参照することはできません。
NIST CSF アクティビティ [sn_irm_nist_csf_nist_csf_activity]	NIST CSF アクティビティテーブルは、ターゲットに関連するサイバーセキュリティアクティビティを追跡するために使用されます。また、このアクティビティは、サイバーセキュリティアクティビティのギャップ、非準拠コントロール、リスク、問題、失敗したインジケーター、およびアクションプランを特定するギャップ分析を実行するのにも役立ちます。
ギャップ [sn_irm_nist_csf_m2m_policy_state_nist_csf_act]	NIST CSF のギャップテーブルは、ギャップとしてまだ実装されていないコントロール目標を追跡するために使用されます。このテーブルは、レポートやドリルダウンに便利です。ギャップをターゲットに関連付ける m2m テーブルです。
非準拠コントロール [sn_irm_nist_csf_m2m_cxontrols_nist_csf_act]	NIST CSF の非準拠コントロールテーブルは、非準拠として識別されたコントロールを追跡するために使用されます。フレームワークコアによって定義された、コントロールとして実装され、非準拠のサイバーセキュリティコントロール目標のみが追跡されます。このテーブルは、レポートやドリルダウンに便利です。これは、非準拠コントロールをターゲットに関連付ける m2m テーブルです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブル	目的
リスク [sn_irm_nist_csf_m2m_risks_nist_csf_activities]	NIST CSF のリスクテーブルは、フレームワークコアによって定義されたサイバーセキュリティコントロール目標に実装されたコントロールに関連付けられているリスクを追跡するために使用されます。このテーブルは、レポートやドリルダウンに便利です。これは、リスクをターゲットに関連付ける m2m テーブルです。
問題 [sn_irm_nist_csf_m2m_issues_nist_csf_act]	NIST CSF の問題テーブルは、フレームワークコアによって定義されたサイバーセキュリティコントロール目標に実装されたコントロールに関連する問題を追跡するために使用されます。これらのコントロールに関連するリスクの問題もメトリクスに含まれます。このテーブルは、レポートやドリルダウンに便利です。問題をターゲットに関連付ける m2m テーブルです。
アクションプラン [sn_irm_nist_csf_m2m_remediation_nist_csf_act]	NIST CSF のアクションプランテーブルは、問題に対して特定されたアクションプランを追跡するために使用されます。このテーブルは、レポートやドリルダウンに便利です。これは、アクションプラン (修復タスク) をターゲットに関連付ける m2m テーブルです。
失敗したインジケーター [sn_irm_nist_csf_m2m_indicators_nist_csf_act]	NIST の失敗したインジケーターテーブル CSF は、ターゲットとコントロールまたはリスクの失敗したインジケーターを追跡するために使用されます。このテーブルは、レポートやドリルダウンに便利です。これは、失敗したインジケーターをターゲットに関連付ける m2m テーブルです。
関連コントロール目標 [sn_compliance_m2m_policy_stmt_policy_stmt]	NIST CSF の関連コントロール目標テーブルは、コントロール目標間の関連性を追跡するために使用されます。基本実装では、親と子のコントロール目標がサポートされていますが、この表では、コントロール目標を同じレベルで関連付ける概念を紹介します。

NIST CSF ユースケースアクセラレーター ダッシュボードおよびレポート

さまざまなレポートが含まれています。NIST Cybersecurity Framework (CSF) ユースケースアクセラレーター には、さまざまなダッシュボードに表示されるさまざまなレポートが含まれており、NIST CSF プロセスの各セクションで利用できます：

概要レポート

で利用可能なリポト **NIST CSF** > 概要.

レポート	目的
フレームワークコア	NIST CSF の機能別に整理されたサイバーセキュリティポリシーの概要を示します。
重要なターゲット	エンティティクラスまたは階層別の重要なターゲットの概要を示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

概要レポート

で利用可能なリポト **NIST CSF** > 概要.

(続く)

レポート	目的
サイバーセキュリティアクティビティのない重要なターゲット	サイバーセキュリティアクティビティのない、エンティティクラスまたは階層別の重要なターゲットの概要を示します。
現在のサイバーセキュリティアクティビティ	現在実行されているサイバーセキュリティアクティビティの概要をエンティティクラス、エンティティ、またはサイバーセキュリティ機能別に表示します。
望ましいサイバーセキュリティアクティビティ	望ましいサイバーセキュリティアクティビティの概要をエンティティクラス、エンティティ、またはサイバーセキュリティ機能別に表示します。
ギャップ分析サマリー	サイバーセキュリティ、サイバーセキュリティ機能、またはターゲット自体によってグループ化されたターゲットのギャップ、非準拠コントロール、リスク、問題、失敗したインジケーター、およびアクションプランのサマリーを提供します。

フレームワークプロファイリングレポート

で利用可能なレポート **NIST CSF** > フレームワークプロファイリング > 概要.

レポート	目的
ギャップ	サイバーセキュリティアクティビティに存在するギャップの概要を表示します。ギャップは、ポリシー、エンティティクラス、プロファイル、または機能別にグループ化されます。
リスク	サイバーセキュリティアクティビティに存在するリスクの概要を表示します。リスクは、ポリシー、プロファイルクラス、エンティティ、または機能別にグループ化されます。
非準拠コントロール	サイバーセキュリティアクティビティに存在する非準拠コントロールの概要を表示します。非準拠コントロールは、ポリシー、エンティティクラス、プロファイル、または機能別にグループ化されます。
失敗したインジケーター	サイバーセキュリティアクティビティの失敗したインジケーターの概要を表示します。インジケーターは、ポリシー、エンティティクラス、エンティティ、または機能別にグループ化されます。
問題	サイバーセキュリティアクティビティの問題の概要を表示します。問題は、ポリシー、エンティティクラス、エンティティ、または機能別にグループ化されます。
アクション プラン	サイバーセキュリティアクティビティに存在するアクションプランの概要を表示します。アクションプランは、ポリシー、エンティティクラス、エンティティ、または機能別にグループ化されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

NIST CSF プロセスの概要

NIST CSF ナビゲーション構造は、NIST が特別に発行した「Framework for Improving Critical Infrastructure Cybersecurity」バージョン 1.1 およびバージョン 2.0 で説明されているように、特定と優先順位付けのアクティビティを通じて NIST サイバーセキュリティの管理を容易にします。

NIST CSF プロセスの概要

1. リスク担当役員やセキュリティ責任者は、サイバーセキュリティポリシーとしてカテゴリとサブカテゴリを特定します。
2. リスク担当役員やセキュリティ責任者は、サイバーセキュリティアクティビティを優先順位付けします。
3. NIST CSF 概要ダッシュボードを監視します

フレームワークコアを特定する

NIST CSF アプリケーション内で、[フレームワークコア] セクションは、サイバーセキュリティポリシーおよびそのステートメントポリシーとしてカテゴリとサブカテゴリを特定するために使用されます。

アプリケーションは、カテゴリを使用してターゲットのサイバーセキュリティアクティビティを定義し、サブカテゴリを使用してサイバーセキュリティ要件を評価してコンプライアンスに関する追加の詳細を提供します。

NIST CSF ガイダンスを使用すると、アプリケーションはカテゴリとサブカテゴリを機能にグループ化し、それらをアクティビティとして表します。NIST CSF は、次の 5 つのモジュールを使用して個々の機能を指定します。

- 特定
- 保護
- 検知
- 応答
- 復旧
- 統制

各モジュールは、その機能に関連するポリシーとコントロール目標のグループ化を指します。

フレームワークコアをレビューします

NIST CSF アプリケーションでアクティブ化されるフレームワークコアをレビューします。

始める前に

ポリシーとコンプライアンス管理 必要なロール：admin

NIST CSF の必要なロール：sn_irm_nist_csf.risk_executive または sn_irm_nist_csf.security_officer

手順

1. 移動先 すべて > **NIST CSF** > フレームワークコア 次のいずれかのモジュールを選択します。
   - 特定
   - 保護
   - 検知
   - 応答

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 復旧
- 統制

2. コントロール目標に対するポリシーフォームで、いずれかのポリシーステートメントをクリックして情報をレビューします。

   注:
   ポリシーステートメントは、NIST CSF ガイドラインに基づいてポリシー別にグループ化されます。

3. 必要に応じて、追加情報でレコードを更新します。
4. [更新] をクリックします。

サイバーセキュリティアクティビティの調整と優先順位付け

NIST CSF アプリケーション内の [フレームワークプロファイリング] セクションは、組織がサイバーセキュリティアクティビティを要件、リスク許容度、およびリソースに合わせて調整し、優先順位付けするために役立ちます。

まず、エンティティまたはエンティティタイプからターゲットが作成されます。アプリケーションフローは [ターゲットを方向付ける] から始まります。ユーザーはターゲットを検索し、基本情報を提供する NIST CSF で使用するように設定します。次に、ユーザーはターゲットが重要かどうかを特定し、NIST ガイドラインに従ってターゲットの階層を確立します。

注:
NIST は、サイバーセキュリティリスクを優先順位付けするために重要なターゲットに重点を置くことを推奨しています。

次に、ユーザーはサイバーセキュリティアクティビティをログに記録します。アクティビティでは、ユーザーが関連付けられたターゲット、機能、およびカテゴリを識別する必要があります。

注:
これらのアクティビティは、同じターゲットに対して重複するアクティビティを作成しないように一意に作成されます。

アクティビティが作成されると、ユーザーはこれらのアクティビティの実装ステータスを決定します。

次に、ユーザーはサイバーセキュリティアクティビティのギャップ分析を実行します。分析により、セキュリティの状況に関する詳細なインサイトが得られ、特定のサイバーセキュリティアクティビティのターゲットが評価されます。

アプリケーションの ServiceNow® GRC スイートは、これらのメトリクスを有効にするデータを追跡する上で重要なロールを担います。NIST CSF アプリケーションは、サイバーセキュリティフレームワークを提供するように設計されていますが、ServiceNow GRC 製品によって完全に有効になります。

エンティティのターゲットを生成する

エンティティのターゲットレコードを生成して、そのエンティティの NIST CSF 属性を追跡します。

始める前に

必要なロール：admin、sn_irm_nist_csf.risk_executive または sn_irm_nist_csf.security_officer

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. エンティティのターゲットを生成します。

   a. 移動先 ポリシーとコンプライアンス > スコーピング をクリックし、次のいずれかのモジュールを選択します。
      - エンティティタイプ
      - 自分のエンティティ
      - すべてのエンティティ

   b. いずれかのレコードを選択します。

   c. エンティティフォームで、**[** ターゲットを生成] をクリックします。

      注:
      [ターゲットを生成] をクリックすると、エンティティが GDPR DPIA などの他のフレームワークに使用されていない場合にのみターゲットが生成されます。

   d. [更新] をクリックします。

2. ターゲットを特定します。
   a. 移動先 **NIST CSF** > フレームワークプロファイリング > ターゲットを方向付ける.
   b. [名前] または [プロファイル] フィールドを使用してターゲットを検索します。
   c. ターゲットがリストに表示されていることを確認します。

NIST CSF フレームワークのターゲットを設定する

ターゲットを特定した後、NIST CSF フレームワークで使用するターゲットレコードを設定します。

始める前に
NIST CSF 必要なロール：none. sn_irm_nist_csf.risk_executive or sn_irm_nist_csf.security_officer

手順

1. 移動先 すべて > **NIST CSF** > フレームワークプロファイリング > ターゲットを方向付ける.
2. [名前] または [プロファイル] フィールドを使用してターゲットを検索します。
3. ターゲットレコードを開きます。
4. [フレームワーク] フィールドをクリックし、**[NIST CSF]** を選択します。
5. [更新] をクリックします。
6. [ターゲット] リストで、レコードを再度開きます。
7. [ターゲット] フォームの情報を確認します。
8. [NIST CSF] セクションで、フィールドに入力します (フィールドの説明については表を参照)。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
重要	サイバーリスク時にターゲットが重視されていることを示すチェックボックス。NIST CSF は、組織が重要なターゲットのサイバーセキュリティアクティビティを優先することを推奨しています
階層	サイバーリスクに対処する機能を説明するターゲットの階層。

9. [アクティビティ] 関連リストをクリックし、ターゲットに関連付けられているアクティビティを検証します。

ターゲットを方向付ける

ターゲットを特定した後、NIST CSF フレームワークで使用するターゲットを方向付けます。

始める前に

ポリシーとコンプライアンス管理必要なロール：admin

NIST CSF の必要なロール：sn_irm_nist_csf.risk_executive または sn_irm_nist_csf.security_officer

手順

1. 移動先 すべて > **NIST CSF** > フレームワークプロファイリング > ターゲットを方向付ける.
2. [名前] または [プロファイル] フィールドを使用してターゲットを検索します。
3. レコードを開きます。
4. [フレームワーク] フィールドで **[NIST CSF]** が選択されていることを確認します。
5. NIST CSF フォームのフィールドが正確であることを確認します。
6. [更新] をクリックします。

アクティビティを作成

ターゲットのサイバーセキュリティアクティビティを作成します。

始める前に

ポリシーとコンプライアンス管理 必要なロール：admin

NIST CSF 必要なロール:sn_irm_nist_csf.risk_executive または sn_irm_nist_csf.security_officer または sn_irm_nist_csf.control_provider

手順

1. 移動先 すべて > **NIST CSF** > フレームワークプロファイリング > アクティビティを作成 をクリックし、新しいレコードを作成します (フィールドの説明についてはテーブルを参照)。

NIST CSF アクティビティフォーム

フィールド	説明
数値	アクティビティを特定する番号。
ターゲット	アクティビティが関連付けられているターゲットの名前。
機能	アクティビティをグループ化する機能のタイプ。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ 識別 ○ 保護 ○ 検知 ○ 応答 ○ 復旧 ○ 統制
カテゴリ	ポリシーとして特定されるサイバーセキュリティアクティビティ。
実装ステータス	アクティビティのステータス (実行中または計画済みのアクティビティ)。

2. [送信] をクリックします。

> **注:**
> サイバーセキュリティアクティビティが作成されるたびに、システムはターゲット、機能、およびカテゴリの組み合わせの一意性を検証します。

ギャップ分析の実行

サイバーセキュリティアクティビティのギャップ分析を実行します。

始める前に

ポリシーとコンプライアンス管理 必要なロール：admin

NIST CSF sn_irm_nist_csf.risk_executive または sn_irm_nist_csf.security_officer

このタスクについて

> **注:**
> ギャップ分析プロセスは 1 分以内に完了します。メトリクスを最新の状態にするために、ユーザーのギャップ分析を実行する週ごとのジョブ。

手順

1. 移動先 すべて > **NIST CSF** > フレームワークプロファイリング > ギャップ分析.
2. [名前] または [プロファイル] フィールドを使用してターゲットを検索します。
3. ターゲットレコードを開きます。
4. [アクティビティ] 関連リストをクリックし、アクティビティを選択します。
5. アクティビティをレビューし、[ギャップ分析] をクリックしてギャップ分析を開始します。
6. ターゲットのプロファイルに対しコントロールが設定されていないサイバーセキュリティポリシーのコントロール目標を表示するには、[ギャップ] 関連リストをクリックします。
7. 実装の問題により非準拠のサイバーセキュリティコントロールの問題を表示するには、[非準拠コントロール] 関連リストをクリックします。
8. ターゲットのプロファイルのコントロールとリスクの失敗したインジケーターを表示するには、[失敗したインジケーター] 関連リストをクリックします。
9. ターゲットのプロファイルのコントロールに関連付けられたリスクを表示するには、[リスク] 関連リストをクリックします。
10. ターゲットのプロファイルのコントロールとリスクに関連する問題を表示するには、[問題] 関連リストをクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

11. ターゲットのプロファイルのアクションプランを表示するには、[アクションプラン] 関連リストをクリックします。
12. [保存] をクリックします。

アクションプランをレビューする

サイバーセキュリティアクティビティに関連付けられたコントロールまたはリスクに対して作成された修復タスクをレビューします。GRC スイートに対する十分な権限がある場合にのみ、アクションプランを編集または更新できます。

始める前に
ポリシーとコンプライアンス管理 必要なロール：admin

NIST CSF 必要なロール:sn_irm_nist_csf.risk_executive または sn_irm_nist_csf.security_officer または sn_irm_nist_csf.control_provider

このタスクについて
アクションプランは通常、ポリシーとコンプライアンス管理、リスク管理、または 監査管理 アプリケーションを介して ServiceNow　GRC 製品で作成されます。

手順

1. 移動先 すべて > **NIST CSF** > フレームワークプロファイリング > アクションプラン.
2. 関連付けられている問題、コントロール、リスクなどのパラメーターを使用して、アクションプランを検索します。
3. レコードを開きます。
4. アクションプランをレビューします。

NIST RMF ユースケースアクセラレーター

NIST RMF ユースケースアクセラレーター を使用すると、NIST RMF を採用することで運用を有利に開始できます。アクセラレータをダウンロードして GRC アプリケーションで有効にすると、事前設定されたポリシー、スコープ (プロファイル、プロファイルタイプの推奨事項)、インジケーター、リスク、およびその他の GRC 要素が表示されます。

注:
バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

NIST RMF ユースケースアクセラレーター の使用者

ペルソナ	説明
リスク担当役員	組織全体でリスクが特定され、一貫して管理されるように確保します。 次のセクションへのアクセスが定義されています。 • **NIST RMF** > 概要 • **NIST RMF** > 分類 • **NIST RMF** > 選択 • **NIST RMF** > 実装

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ペルソナ	説明
	• **NIST RMF** > 評価 • **NIST RMF** > 許可 • **NIST RMF** > 監視 • **NIST RMF** > コンテンツ
認可担当者	ターゲットが許容可能なリスクレベル内で動作していることを確認します。 次のセクションへのアクセスが定義されています。 • のすべてのモジュール **NIST RMF** > 概要 > • **NIST RMF** > 許可 > ターゲット • **NIST RMF** > 許可 > 自分の承認
セキュリティ責任者	ターゲットの現在のセキュリティ手順と機能についてのインサイトと理解を提供し、コントロールを実装し、問題を管理し、修復タスクを完了します 次のセクションへのアクセスが定義されています。 • **NIST RMF** > 分類 • **NIST RMF** > 選択 > ターゲット • **NIST RMF** > 実装 • **NIST RMF** > 評価 > 概要 • **NIST RMF** > 評価 > コントロール証明書 • **NIST RMF** > 評価 > コントロール有効性 • **NIST RMF** > 評価 > 修復タスク • **NIST RMF** > 許可 • **NIST RMF** > 監視
コントロールプロバイダー	組織内のセキュリティコントロールの作成とカスタマイズを支援します。 次のセクションへのアクセスが定義されています。 • **NIST RMF** > 選択 > ベースラインコントロールのレビュー **(Review Baseline Controls)** • **NIST RMF** > 選択 > ベースラインコントロールのカスタマイズ • **NIST RMF** > コンテンツ
システムアドミニストレーター	次のセクションへアクセスできます。 **NIST RMF** > アドミニストレーション
GRC アドミン	次のセクションへアクセスできます。 **NIST RMF** > アドミニストレーション

NIST RMF ユースケースアクセラレーター をインストールする

NIST RMF ユースケースアクセラレーター は GRC コアアプリケーション (ポリシーとコンプライアンス管理、リスク管理、および 監査管理 アプリケーション) で使用されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

始める前に
必要なロール：なし。

注:
バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

インストールの前に、次のセットアップチェックリストを完了します。これらのセットアップタスクは、インストールをスムーズに行うために必要です。

セットアップタスク	説明
次のアプリケーションがインストールされていることを確認します。 • ポリシーとコンプライアンス管理 • リスク管理 • 監査管理	これらのアプリケーションがアクティブ化されていることを確認するには、 サブスクリプション管理 > サブスクリプション インスタンス内にありますリストには、組織で購入したサブスクリプションが表示されます。 リスク管理 プラグインのセットアップと有効化の詳細については、「リスク管理のインストール (Install Risk Management)」を参照してください。
必要なロールがあることを確認します。	システムアドミニストレーター (admin) は、次のロールをアサインします。 • ポリシーとコンプライアンス管理 ロール ◦ 証明書作成者 (sn_compliance.attestation_creator) ◦ コンプライアンスアドミニストレーター (sn_compliance.admin) ◦ コンプライアンス開発者 (sn_compliance.developer) ◦ コンプライアンスマネージャー (sn_compliance.manager) ◦ コンプライアンスリーダー (sn_compliance.reader) ◦ コンプライアンスユーザー (sn_compliance.user) • リスク管理 ロール ◦ リスクアドミン (sn.risk.admin) ◦ リスクリーダー (sn.risk.reader) ◦ リスクマネージャー (sn.risk.manager) ◦ リスクユーザー (sn.risk.user) • 監査管理 ロール ◦ 監査アドミン (sn_audit.admin) ◦ 監査開発者 (sn_audit.developer)

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

セットアップタスク	説明
	○ 監査マネージャー (sn_audit.manager) ○ 監査ユーザー (sn_audit.user) ○ 外部監査人 (sn_audit.external_auditor)

手順

1. アプリケーションをインストールするインスタンスにログインします。
2. 移動先 システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて.
3. **GRC: NIST RMF Accelerator** アプリケーションを検索します。
4. デモデータをロードする場合には、[デモデータ] チェックボックスをオンにします。
5. [インストール] をクリックします。

NIST RMF ユースケースアクセラレーター を検証する

GRC: NIST RMF ユースケースアクセラレーター をインストールした後、NIST RMF アプリケーション構造、コアコンテンツ、およびデモデータ (インストール中に選択した場合) をレビューします。

始める前に

注:
バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

必要なロール：admin

手順

1. 移動先 すべて > ユーザー管理 > ロール をクリックし、 NIST RMF アプリケーションとともにインストールされているロールを確認します。

   これらのロールの名前には nist_rmf が含まれています (例： sn_irm_nist_rmf.security_officer)。ロールは NIST RMF アプリケーションモジュールに関連付けられ、ユーザーのロールに基づいてアクセス権が提供されます。

   注:
   アプリケーションにアクセスするには、基本的な NIST RMF ユーザーロールが必要です。このロールには、アプリケーションの ServiceNow GRC スイートのリーダーまたはユーザーのロールが含まれています。

2. アプリケーションナビゲーターで「**NIST RMF**」と入力し、アプリケーションのコアコンテンツを確認します。

移動先	検証
NIST RMF > コンテンツ > コントロール目標	NIST RMF 用にインストールされたポリシーおよびコントロール目標をレビューします。
NIST RMF > コンテンツ > リスクステートメント	NIST RMF 用にインストールされたリスクフレームワークとリスクステートメントをレビューします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

移動先	検証
NIST RMF > コンテンツ > テストテンプレート	NIST RMF 用にインストールされたテストテンプレートをレビューします。
NIST RMF > コンテンツ > インジケーターテンプレート	NIST RMF 用にインストールされたインジケーターテンプレートをレビューします。
NIST RMF > コンテンツ > 証明書タイプ	NIST RMF 用にインストールされたコントロール証明書タイプをレビューします。
NIST RMF > コンテンツ > アセスメントタイプ	NIST RMF 用にインストールされたリスクアセスメントタイプをレビューします。

3. アプリケーションのデモコンテンツを検証します (ロードされている場合)。

移動先	検証
NIST RMF > 影響分析	NIST RMF アプリケーションで使用するためにシステムにインストールされているサンプルターゲットをレビューします。
ユーザー管理 > ユーザー	NIST RMF アプリケーションで使用するためにシステムにインストールされているサンプルペルソナユーザーをレビューします。これらのユーザーのユーザー ID は .RMF で終わり、名前には RMF が含まれています。
ポリシーとコンプライアンス > スコーピング > プロファイルクラス	[名前] フィールドに「**with NIST**」が含まれているプロファイルクラスを検索します。それぞれのプロファイルクラスのフィールドへのロールアップをレビューして、関係を確認します。
ポリシーとコンプライアンス > スコーピング > プロファイルタイプ	[名前] フィールドが **NIST RMF** で始まるプロファイルタイプを検索します。
ポリシーとコンプライアンス > ポリシーおよび手順 > すべてのコントロール	**Source = NIST 800-53-r4** であるコントロール目標を参照するすべてのコントロールを検索します。
リスク > リスク登録 > すべてのリスク	**Source = NIST 800-53-r4** であるリスクステートメントを参照するすべてのリスクを検索します。
監査 > 監査テスト > テスト計画	**NIST RMF** で始まるテストテンプレートを使用してテスト計画を検索します。
ポリシーとコンプライアンス > インジケーター > インジケーター	**Item.Content.Source = NIST 800-53-r4** のすべてのインジケーターを検索します。
リスク > インジケーター > インジケーター	**Item.Content.Source = NIST RMF** のすべてのインジケーターを検索します。
ポリシーとコンプライアンス > 問題 > すべての問題	**Item.Content.Source = NIST 800-53-r4** のすべての問題を検索します。
リスク > 問題 > すべての問題	**Item.Content.Source = NIST 800-53-r4** のすべての問題を検索します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

移動先	検証
ポリシーとコンプライアンス > 修復タスク > すべてのオープンな修正タスク	修復タスクで特定された問題に **Item.Content.Source = NIST 800-53-r4** があるすべての修復タスクを検索します。
リスク > 修復タスク > すべてのオープンな修正タスク	修復タスクで特定された問題に **Item.Content.Source = NIST 800-53-r4** がある場合は、すべての修復タスクを検索します。

NIST RMF サポートの概念

NIST RMF ガイダンスから開発されたこれらの概念を理解してください。

注:
バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

概念	説明
ターゲット	ターゲットは、NIST RMF ユースケースアクセラレーター および関連するすべての概念の基盤です。 ターゲットは、ServiceNow® GRC 製品といくつかのユースケースアクセラレーターの間で共有されるテーブルです。これらは、コア GRC アプリケーションのプロファイルの概念に似ています。オプションでプロファイルにリンクされますが、ユースケースアクセラレーターに固有の属性に使用されます。 **注:** 各 NIST RMF ターゲットは、その RMF ライフサイクルを通じて単一のプロファイルを一意に表します。
機密性 (C)	機密性は、ターゲットのセキュリティ目標であり、個人のプライバシーと機密情報を保護する手段を含む、情報のアクセスと開示に対する認可された制限を維持する行為として定義されます。機密性は、高、中、低の値で表されます。
完全性 (I)	完全性は、ターゲットのセキュリティ目標であり、不適切な情報の変更または破壊に対して保護する行為として定義され、情報の否認防止と信頼性の確保が含まれます。完全性は、高、中、低の値で表されます。
可用性 (A)	可用性は、ターゲットのセキュリティ目標であり、情報へのタイムリーかつ信頼性の高いアクセスと使用を保証する行為として定義されます。可用性は、高、中、低の値で表されます。
ベースラインコントロール	ベースラインコントロールは、米国国立標準技術研究所 (NIST) が推奨する一連のセキュリティコントロールであり、実装され、有効であると判断された場合、セキュリティ要件に準拠しながらセキュリティリスクを軽減します。ベースラインコントロールには指定された影響度の値があり、これは高、中、または低の値の組み合わせとなります。
影響分析	影響分析は、ターゲットまたはその運用環境に対する提案された変更または実際の変更がターゲットのセキュリティステータスにどの程度影響を与える可能性があるか、または影響を与えたかを判断します。3 つの CIA セキュリティ目標がすべて「低」と評価されたターゲットは、「低」影響と見なされ、「低」の影響度値としてタグ付けされたセキュリティコ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

概念	説明
	ントロールのいずれかを使用します。3 つの CIA セキュリティ目標がのいずれかが「中」と評価されたターゲットは、「中」影響と見なされ、「中」の影響度値としてタグ付けされたセキュリティコントロールのいずれかを使用します。同様に、3 つの CIA セキュリティ目標のいずれかが「高」と評価されたターゲットは、「高」影響と見なされ、「高」の影響度値としてタグ付けされたセキュリティコントロールのいずれかを使用します。
保証	保証コントロールにより、ターゲットの機能が正しく、完全で、一貫しており、セキュリティリスクを軽減し、セキュリティ要件への準拠を支援するというセキュリティの強度と信頼度の両方が向上します
共通	共通コントロールは、1 つ以上のターゲットによって継承可能なコントロールです
補完	補完コントロールは、推奨されるベースラインセキュリティコントロールの代わりに使用できるコントロールであり、ターゲットに等価または同等の保護を提供します
補足	補足コントロールは、ターゲットのリスク管理のニーズを十分に満たす追加のセキュリティコントロールとして使用できるコントロールです。
調整	調整とは、以下に基づいてセキュリティコントロールのベースラインを変更するプロセスです：(i) ターゲットスコーピングガイダンス、(ii) セキュリティコントロールの仕様 (必要な場合の補完など)、(iii) 組織の仕様 - 明示的なアサインおよび選択ステートメントによるセキュリティコントロールの定義済みパラメーター

NIST RMF ユースケースアクセラレーター ダッシュボードおよびレポート

NIST RMF ユースケースアクセラレーター には、さまざまなダッシュボードに表示されるさまざまなレポートが含まれており、分類、選択、実装、評価、認可、監視といった、NIST RMF プロセスの各セクションで使用できます。

注:
バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

概要レポート

下のレポート **NIST RMF** > 概要.

レポート	目的
セキュリティコンプライアンスの概要	セキュリティポリシーの全体的なコンプライアンスサマリーを提供します。
プロファイルコンプライアンスの概要	セキュリティコントロールを実装しているプロファイルの全体的なコンプライアンスサマリーを提供します。
セキュリティコンプライアンスの詳細	セキュリティポリシーの詳細なコンプライアンスサマリーを提供します。
固有のセキュリティリスクヒートマップ	リスクの固有の定性的結果に基づくセキュリティリスクのヒートマップ。
残存セキュリティリスクヒートマップ	リスクの残存する定性的結果に基づくセキュリティリスクのヒートマップ。
固有セキュリティリスク	リスクの固有の定量的結果の平均に基づくセキュリティリスクのバブルチャート。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

概要レポート

下のレポート **NIST RMF** > 概要.

(続く)

レポート	目的
残存セキュリティリスク	リスクの固有の定量的結果の平均に基づくセキュリティリスクのバブルチャート。
固有の年次損失エクスポージャーセキュリティリスク	さまざまなセキュリティリスクの固有の年間損失予測 (ALE) に関するインサイトを提供します。
残存年次損失エクスポージャーセキュリティリスク	さまざまなセキュリティリスクの残存する年間損失予測 (ALE) に関するインサイトを提供します。
問題サマリー	週単位で 1 週間にセキュリティポリシーに関して記録された問題をプロットします。

レポートを分類する

下のレポート **NIST RMF** > 分類 > 概要.

ベースラインコントロールのないターゲット	ベースラインコントロールが生成されていないが、セキュリティ影響分析が完了したターゲット。ベースラインコントロールは、米国国立標準技術研究所 (NIST) が推奨する一連のセキュリティコントロールであり、実装され、有効であると判断された場合、セキュリティ要件に準拠しながらセキュリティリスクを軽減します。実装するベースラインコントロールは、ターゲットの推奨ベースラインポリシーステートメントから決定できます。
影響分析処理待ちのターゲット	組織により実施された場合のセキュリティ影響分析では、ターゲットまたはその運用環境に対する提案された変更または実際の変更がターゲットのセキュリティステータスにどの程度影響を与えたかを判断します。ターゲットまたはその運用環境への変更は、現在配置されているセキュリティコントロール (システム固有、ハイブリッド、および共通コントロールを含む) に影響を与えたり、ターゲットに新しい脆弱性が生じたり、以前は必要なかった新しいセキュリティコントロールの要件が生成されたりする可能性があります。
ターゲットステータス	リスク管理プロセスの現在のステータス別に整理されたターゲット。リスク管理プロセスは、米国国立標準技術研究所 (NIST) によって提供されています。 Risk Management Framework (RMF) は、情報セキュリティとリスク管理アクティビティを統合する、統制の取れた構造化されたプロセスです。
機密性に及ぼす影響度	機密性評価値ごとにグループ化されたターゲット。米国国立標準技術研究所 (NIST) では、機密性を、個人のプライバシーと機密情報を保護する手段を含む、情報のアクセスと開示に対する認可された制限を維持する行為として定義しています。機密性は、高、中、低の値で表されます。
完全性に及ぼす影響度	完全性評価値ごとにグループ化されたターゲット。米国国立標準技術研究所 (NIST) は、完全性を、不適切な情報の変更または破壊に対して保護する行為として定義し、情報の否認防止と信頼性の確保を含めています。完全性は、高、中、低の値で表されます。
可用性に及ぼす影響度	可用性評価値ごとにグループ化されたターゲット。米国国立標準技術研究所 (NIST) は、可用性を情報へのタイムリーで信頼性の高いアクセスと使用の確保として定義しています。可用性は、高、中、低の値で表されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レポートを分類する

下のレポート **NIST RMF** > 分類 > 概要.

(続く)

影響	影響の評価値ごとにグループ化されたターゲット。米国国立標準技術研究所 (NIST) では、影響を、機密性、完全性、または可用性の損失であり、(i) 限定的な悪影響、(ii) 重大な悪影響、(iii) 組織の運用、組織の資産、または個人に対する重大または壊滅的な悪影響を及ぼすことが予測されるものとして定義しています。一方、セキュリティ影響分析は、セキュリティステータスがどの程度影響を受けるかを組織が判断するものとして定義されています。影響は、高、中、低の値で表されます。
ベースラインコントロールのレビュー (Review Baseline Controls)	ベースラインポリシーステートメントとコントロールのレビューを容易にするために、フレームワークの NIST Risk Management 選択ステップの概要を示します。[NIST RMF] > [選択] > [ベースラインコントロールのレビュー (Review Baseline Controls)] により、このダッシュボードが起動します。
ベースラインセキュリティポリシーステートメント	ベースラインセキュリティポリシーステートメントは、米国国立標準技術研究所 (NIST) が推奨する一連のセキュリティコントロール定義であり、実装され、有効であると判断された場合、セキュリティ要件に準拠しながらセキュリティリスクを軽減します。
ベースラインセキュリティコントロール	ベースラインセキュリティコントロールは、米国国立標準技術研究所 (NIST) が推奨する一連のセキュリティコントロールであり、実装され、有効であると判断された場合、セキュリティ要件に準拠しながらセキュリティリスクを軽減します。

自動翻訳

ベースラインコントロールレポート

下のレポート **NIST RMF** > 選択 > ベースラインコントロールのレビュー **(Review Baseline Controls)**.

レポート	目的
ベースラインセキュリティポリシーステートメント	ベースラインセキュリティポリシーステートメントは、米国国立標準技術研究所 (NIST) が推奨する一連のセキュリティコントロール定義であり、実装され、有効であると判断された場合、セキュリティ要件に準拠しながらセキュリティリスクを軽減します。
ベースラインセキュリティコントロール	ベースラインセキュリティコントロールは、米国国立標準技術研究所 (NIST) が推奨する一連のセキュリティコントロールであり、実装され、有効であると判断された場合、セキュリティ要件に準拠しながらセキュリティリスクを軽減します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ベースラインコントロールをカスタマイズする

下のレポート **NIST RMF** > 選択 > ベースラインコントロールのカスタマイズ.

レポート	目的
ベースライン保証ポリシーステートメント	ベースラインセキュリティ保証ポリシーステートメントは、米国国立標準技術研究所 (NIST) が推奨する一連のセキュリティコントロール定義で、保証コントロール定義として指定されるものであり、実装された場合、セキュリティの強度と、機能の正しさ、完全さ、および一貫性に対する信頼度の両方を高め、セキュリティ要件に準拠しながらセキュリティリスクを軽減します。
ベースライン保証コントロール	ベースラインセキュリティ保証コントロールは、米国国立標準技術研究所 (NIST) が推奨する一連のセキュリティコントロール定義で、保証コントロールとして指定されるものであり、セキュリティの強度と、機能の正しさ、完全さ、および一貫性に対する信頼度の両方を高め、セキュリティ要件に準拠しながらセキュリティリスクを軽減することを目的として実装されます。
ベースライン共通ポリシーステートメント	ベースラインセキュリティ共通ポリシーステートメントは、米国国立標準技術研究所 (NIST) の一連のセキュリティコントロール定義であり、組織によって共通コントロール定義として指定された場合、1 つ以上の組織ターゲットによって継承可能であることが示されます。
ベースライン共通コントロール	ベースラインセキュリティ共通コントロールは、米国国立標準技術研究所 (NIST) の一連のセキュリティコントロール定義であり、実装され、組織によって共通コントロールとして指定された場合、1 つ以上の組織ターゲットによって継承可能であることが示されます。
ベースライン補完ポリシーステートメント	ベースラインセキュリティ補完ポリシーステートメントは、米国国立標準技術研究所 (NIST) の一連のセキュリティコントロール定義であり、組織によって補完コントロール定義として指定された場合、他のセキュリティコントロールの代わりに採用することができ、組織ターゲットのための等価または同等な保護を提供します。
ベースライン補完コントロール	ベースラインセキュリティ補完コントロールは、米国国立標準技術研究所 (NIST) の一連のセキュリティコントロール定義であり、実装され、組織によって補完コントロールとして指定された場合、他のセキュリティコントロールの代わりに採用することができ、組織ターゲットのための等価または同等な保護を提供します。
ベースライン補完ポリシーステートメント	ベースラインセキュリティ補完ポリシーステートメントは、米国国立標準技術研究所 (NIST) の一連のセキュリティコントロール定義であり、組織によって補完コントロール定義として指定された場合、組織ターゲットのリスク管理上のニーズを十分に満たすためにセキュリティコントロールに追加できることが示されます。
ベースライ	ベースラインセキュリティ補完コントロールは、米国国立標準技術研究所 (NIST) の一連のセキュリティコントロール定義であり、実装され、組織によって補完コントロール

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ベースラインコントロールをカスタマイズする

下のレポート **NIST RMF** > 選択 > ベースラインコントロールのカスタマイズ.

(続く)

レポート	目的
ン補完コントロール	として指定された場合、組織ターゲットのリスク管理上のニーズを十分に満たすためにセキュリティコントロールに追加できることが示されます。

証明書およびアセスメントレポート

下のレポート **NIST RMF** > 評価 > 概要.

レポート	目的
完了したコントロール証明書	完了した NIST Risk Management コントロール証明書の数を表示します。
期日の近いコントロール証明書	期日が 7 日以内の NIST リスク管理コントロール証明書の数を表示します。
期日が 7 日先以降のコントロール証明書	期日が 7 日先以降の NIST Risk Management コントロール証明書の数を表示します。
期日に間に合わないコントロール証明書	期日に間に合わない NIST Risk Management コントロール証明書の数を表示します。
プロファイル別のコントロール証明書	プロファイルごとにグループ化された NIST Risk Management コントロール証明書の概要を提供します。
期限切れのコントロール証明書	期日ごとにグループ化された NIST Risk Management コントロール証明書の概要を提供します。
完了したリスクアセスメント	完了した NIST Risk Management リスク証明書の数を表示します。
期日の近いリスクアセスメント	期日が 7 日以内の NIST Risk Management リスクアセスメントの数を表示します。
期日が 7 日先以降のリスクアセスメント	期日が 7 日先以降の NIST Risk Management リスクアセスメントの数を表示します。
期日に間に合わないリスクアセスメント	期日に間に合わない NIST Risk Management リスクアセスメントの数を表示します。
プロファイル別のリスクアセスメント	プロファイルごとにグループ化された NIST Risk Management リスクアセスメントの概要を提供します。
期限切れのリスクアセスメント	期日ごとにグループ化された NIST Risk Management リスクアセスメントの概要を提供します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認レポート

下のレポート **NIST RMF** > 許可 > 概要.

レポート	目的
ターゲット承認ステータス	ターゲットの現在の承認ステータスの概要を提供します。
リスク担当役員の承認者	リスク担当役員の承認者にアサインされたターゲットの概要を提供します。
認定担当の承認者	認定担当の承認者にアサインされたターゲットの概要を提供します。

監視レポート

下のレポート **NIST RMF** > 監視 > 概要.

レポート	目的
無効なプロファイル	無効としてフラグが付けられたセキュリティコントロールのコントロールテストを少なくとも 1 つ含むプロファイルの合計数。
無効なコントロール	無効としてフラグが付けられたコントロールテストを少なくとも 1 つ含むセキュリティコントロールの合計数。
無効なテストプラン	無効としてフラグが付けられたセキュリティコントロールのコントロールテストを少なくとも 1 つ含むテストプランの合計数。
非準拠コントロール	ステータスが非準拠のセキュリティコントロールの合計数。
リスク	セキュリティコントロールに関連付けられているリスクの合計数。
問題	セキュリティコントロールとリスクに関連する問題の合計数。
コンプライアンスのコントロール	セキュリティコントロールのコンプライアンスの概要を提供します。
プロファイル有効性	関連付けられたコントロールテストの有効性に基づいて、セキュリティコントロールを持つプロファイルの有効性の概要を提供します。
コントロール有効性	関連付けられたコントロールテストの有効性に基づいて、セキュリティコントロールのコントロールの有効性の概要を提供します。
テスト計画の有効性	関連付けられたコントロールテストの有効性に基づいて、セキュリティコントロールのテストプランの有効性の概要を提供します。
リスク	プロファイル別にグループ化され、セキュリティコントロールに関連付けられているリスクのリスト。

NIST RMF プロセスの概要

NIST RMF ナビゲーション構造は、分類、選択、実装、アセスメント、認可、および監視のアクティビティを通じて NIST セキュリティコントロールの管理を容易にします。これらのセキュリティコントロールは、NIST 800-37.r1 特別出版物で説明されています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

NIST RMF プロセスの概要

1. リスク担当役員および/またはセキュリティ責任者は、ターゲットを分類します。
2. リスク担当役員、セキュリティ責任者および/またはコントロールプロバイダーは、ベースラインコントロール定義を選択します。
3. リスク担当役員および/またはセキュリティ責任者は、ベースラインセキュリティコントロールを実装します。
4. セキュリティアクセサー、リスク担当役員、および/またはセキュリ責任者は、セキュリティコントロールを評価します。
   a. 問題を管理して対処します
   b. 修復タスクを管理して対処します
5. 認定担当者、リスク担当役員および/またはセキュリティ責任者は、ターゲットを認可します。
6. リスク担当役員および/またはセキュリティ責任者は、セキュリティコントロールを監視します。
   a. インジケーターをレビューして管理します
   b. NIST RMF 概要ダッシュボードを監視します

ターゲットを分類する

NIST RMF アプリケーション内の [分類] セクションは、予備的なリスクアセスメントと影響分析を通じてターゲットの分類を容易にします。

注:
バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

まず、エンティティまたはエンティティタイプからターゲットが作成されます。アプリケーションフローは影響分析から始まります。ユーザーはターゲットを検索し、基本情報を提供する NIST RMF で使用するように設定します。次に、ユーザーは、[機密性] 、[完全性] 、および [可用性] の各パラメーターについて潜在的な影響度の値を決定する予備リスクアセスメントを実行します。これらの値の最も高い影響度評価によって影響度の値が決まります。

注:
ユーザーは、必要に応じて影響度の値を上書きできます。

影響度の値は、NIST 800-53.r4 特別出版カタログに基づいて、ターゲットに推奨されるベースラインセキュリティポリシーステートメントを特定するために使用されます。ユーザーは、ベースラインセキュリティポリシーステートメントをレビューし、そのターゲット (プロファイルなど) のセキュリティコントロールを実装します。標準的なアプローチは ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションで概説されています。

プロファイルまたはエンティティタイプからターゲットを生成する

NIST RMF 属性を追跡するプロファイルのターゲットレコードを生成します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

注:
バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

ポリシーとコンプライアンス管理

NIST RMF の必要なロール：sn_irm_nist_rmf.risk_executive または sn_irm_nist_rmf.security_officer

手順

1. 次のいずれかに移動します。
   - ポリシーとコンプライアンス > スコーピング > プロファイルタイプ
   - ポリシーとコンプライアンス > スコーピング > プロファイル
   - ポリシーとコンプライアンス > スコーピング > すべてのプロファイル
2. プロファイルレコードの [プロファイルタイプ] を選択して開きます。
3. [ターゲットを生成] をオンにし、[更新] をクリックします。
4. ターゲットを特定します：
   a. 移動先 **NIST RMF** > 分類 > 影響分析.
   b. [名前] または [プロファイル] フィールドを使用してターゲットを検索します。
   c. ターゲットがリストに表示されていることを確認します。

NIST RMF で使用するターゲットを設定する

ターゲットを設定し、基本情報を入力します。

始める前に

注:
バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

必要なロール：sn_irm_nist_rmf.risk_executive または sn_irm_nist_rmf.security_officer

手順

1. 移動先 すべて > **NIST RMF** > 分類 > 影響分析.
2. [名前] または [プロファイル] フィールドを使用してターゲットを検索します。
3. ターゲットレコードを開きます。
4. [フレームワーク] で、**[NIST RMF]** を選択し、[更新] をクリックします。
5. ターゲットレコードを再度開き、次のフィールドを更新します。

注:
これらのフィールドの詳細については、「NIST RMF サポートの概念」を確認してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- **RMF** ステータス：ターゲットの現在の NIST RMF ステータスを特定します。
- スコーピングの考慮事項：実装するセキュリティコントロールの選択に関するガイダンスを提供します。

6. NIST RMF 関連リストが表示されていることを確認します。
   - ベースラインポリシーステートメント
   - ベースラインコントロール
   - リスク
   - 承認

予備的なリスクアセスメントと影響分析を実行する

ターゲットの予備的なリスクアセスメントと影響分析を実行します。

始める前に

注:
バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

必要なロール：sn_irm_nist_rmf.risk_executive または sn_irm_nist_rmf.security_officer

手順

1. 移動先 すべて > **NIST RMF** > 分類 > 影響分析.
2. [名前] または [プロファイル] フィールドを使用してターゲットを検索します。
3. ターゲットレコードを選択して開きます。
4. ターゲットレコードを再度開き、[NIST RMF] セクションの次のフィールドを更新します。

注:
これらのフィールドの詳細については、「NIST RMF サポートの概念」を確認してください。

[NIST RMF] セクション

フィールド	説明
機密性	機密性に基づくターゲットカテゴリ。セキュリティ目標を「高」、「中」、または「低」として特定します。
完全性	完全性に基づくターゲットカテゴリ。セキュリティ目標を「高」、「中」、または「低」として特定します。
可用性	可用性に基づくターゲットカテゴリ。セキュリティ目標を「高」、「中」、または「低」として特定します。
影響	ターゲットの機密性、完全性、または可用性が失われた場合のビジネス機能への影響。影響度は自動的に決定され、上書きされる場合があります。
スコーピングの考慮事項	ターゲットの運用または環境スコーピングの考慮事項。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
リスク担当役員	確実なリスクの特定と管理を担当する人物の名前。
認定担当者	ターゲットが許容可能なレベルのリスクで動作していることを検証するユーザーの名前。
正当性	リスク担当役員、認定担当者、およびオーナーのセキュリティ体制の説明。
承認ステータス	ターゲットのセキュリティコンプライアンス体制のステータス。

5. NIST RMF 関連リストが表示されていることを確認します。
   - ベースラインポリシーステートメント
   - ベースラインコントロール
   - リスク
   - 承認
6. **[NIST RMF]** タブに移動し、[ベースラインポリシーステートメント] をレビューします。
7. ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションで概説されている標準的なアプローチに従って、ターゲットのセキュリティコントロールを実装します。

NIST RMF 分類の概要を監視する

NIST RMF 分類アクティビティダッシュボードは、ターゲットの全体的なステータスに関するインサイトを提供します。

始める前に

注:
バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

必要なロール：sn_irm_nist_rmf.risk_executive または sn_irm_nist_rmf.security_officer

手順

1. 移動先 すべて > **NIST RMF** > 分類 > 概要
2. ダッシュボードのすべてのレポートをレビューします。
3. ダッシュボードとレポートのセクションでレポートの詳細をレビューします。

ベースラインコントロール定義を選択する

NIST RMF アプリケーション内の [選択] セクションは、ベースラインコントロール定義の初期セットのレビューに重点を置いています。組織の要件に基づいてコントロール定義にタグ付けし、それらをカスタマイズすることもできます。

注:
バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

影響分析を実行した後、ユーザーはそのターゲットのベースラインコントロールを選択してカスタマイズします。ダッシュボードには、実装されているベースラインコントロールのカタログとともに、カタログ内のベースラインポリシーステートメントの概要が表示されます。

次に、ユーザーはベースラインコントロールをカスタマイズします。別のダッシュボードには、保証、共通、補完、補足としてタグ付けされたベースラインコントロールとともに、ベースラインポリシーステートメントの詳細を示すいくつかのレポートが含まれています。

注:
[ベースラインコントロールのレビュー **(Review Baseline Controls)**] と [ベースラインコントロールのカスタマイズ **(Tailor Baseline Controls)**] の両方で、標準の ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーション手順に従って必要なすべてのコントロールを実装する必要があります。これらのコントロールを選択してカスタマイズするため、これらのダッシュボードに戻ります。

ベースラインコントロールをレビューする

ベースラインポリシーステートメントとベースラインコントロールをレビューします。

始める前に

注:
バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

[ベースラインコントロールのレビュー **(Review Baseline Controls)**] では、標準の ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーション手順に従って必要なすべてのコントロールを実装する必要があります。

必要なロール：sn_irm_nist_rmf.risk_executive、sn_irm_nist_rmf.security_officer、または sn_irm_nist_rmf.control_provider

手順

1. 移動先 すべて > **NIST RMF** > 選択 > ベースラインコントロールのレビュー **(Review Baseline Controls)**.
2. ダッシュボードのすべてのレポートをレビューします。
3. ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションで概説されている標準的なアプローチに従って、ベースラインポリシーステートメントとベースラインコントロールの変更を実装します。

ベースラインコントロールをカスタマイズする

ベースラインポリシーステートメントとベースラインコントロールをカスタマイズします。

始める前に

注:
バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

[ベースラインコントロールをカスタマイズ **(Tailor Baseline Controls)**] では、標準の ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーション手順に従って必要なすべてのコントロールを実装する必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なロール：sn_irm_nist_rmf.risk_executive、sn_irm_nist_rmf.security_officer、または sn_irm_nist_rmf.control_provider

手順

1. 移動先 すべて > **NIST RMF** > 選択 > ベースラインコントロールのカスタマイズ.
2. ダッシュボードのすべてのレポートをレビューします。
3. ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションで概説されている標準的なアプローチに従って、ベースラインポリシーステートメントとベースラインコントロールの変更を実装します。

セキュリティコントロールを実装する

NIST RMF アプリケーション内の [実装] セクションは、ベースラインセキュリティコントロールの物理的な実装に重点を置いています。NIST RMF アプリケーションには、ターゲットまたはその運用環境で既に使用されている他の標準セキュリティコントロールが含まれている場合もあります。

注:
バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

ユーザーは、NIST 800-53.r4 ポリシーステートメントに由来するすべてのコントロールのリストを表示し、実装の詳細を更新して、コントロールを更新できます。

注:
NIST RMF アプリケーションは、セキュリティコントロールへの読み取り専用アクセスを提供します。標準の ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーション手順に従って、これらのコントロールを更新します。

コントロール実装の重要な側面は、適切にテストすることです。ユーザーは、NIST 800-53 r4 のポリシーステートメントソースでセキュリティコントロールに対して作成されたすべてのコントロールテストのリストを表示できます。

注:
NIST RMF アプリケーションは、セキュリティコントロールテストへの読み取り専用アクセスを提供します。標準の 監査管理 アプリケーション手順に従って、これらのテストを更新します。

コントロールを管理および実装する

NIST 800-53.r4 ポリシーステートメントに基づくセキュリティコントロールのリストから、コントロールをレビューし、実装の詳細を更新します。

始める前に

注:
バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

必要なロール：sn_irm_nist_rmf.risk_executive または sn_irm_nist_rmf.security_officer

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > **NIST RMF** > 実装 > アクティブコントロール.
2. ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションで概説されている標準的なアプローチに従って、各コントロールをレビューし、物理的に実装します。

コントロールテストを管理および実装する

NIST 800-53.r4 ポリシーステートメントに基づくセキュリティコントロールのリストから、コントロールテストをレビューし、実装の詳細を更新します。

始める前に

注:
バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

必要なロール：sn_irm_nist_rmf.risk_executive または sn_irm_nist_rmf.security_officer

手順

1. 移動先 すべて > **NIST RMF** > 実装 > アクティブなコントロールテスト.
2. 監査管理 アプリケーションで概説されている標準的なアプローチに従って、各コントロールテストをレビューし、物理的に実装します。

コントロール、リスク、問題、および修復タスクを評価する

NIST RMF アプリケーション内の [評価] セクションでは、セキュリティコントロール証明書の実行、コントロールの有効性の評価、関連付けられたリスクと問題の管理、および修復タスクの実行を行います。

注:
バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

大まかに言うと、アセスメントには、セキュリティコントロールの実装に起因するコントロール、リスク、問題、および修復タスクの管理も含まれます。

注:
NIST RMF アプリケーションは、コンテンツへの読み取り専用アクセスを提供します。ポリシーとコンプライアンス管理、リスク管理、および/または 監査管理 アプリケーションで概説されている標準的な GRC 手順に従ってコンテンツを更新します。

ユーザーは次のことができます。

- 現在システム内にある NIST RMF セキュリティ証明書に関連するコントロール証明書をレビューして実行する
- すべてのコントロールテストを表示し、実施されている各コントロールテストのコントロールと現在の有効性をハイライト表示する
- コンテンツソースが NIST 800-53.r4 であるリスクステートメントに起因するリスクを管理および対処する

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- リスクを特定して、アセスメントを実行する
- コンテンツソースが NIST 800-53 r4 のセキュリティコントロールおよび関連リスクの実装に起因する問題と修復タスクのリストを表示する

コントロール証明書をレビューして実行する

NIST RMF セキュリティ証明書に関連するコントロール証明書をレビューして実行します。

始める前に

注:
バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

必要なロール：sn_irm_nist_rmf.security_accessor、sn_irm_nist_rmf.risk_executive、または sn_irm_nist_rmf.security_officer

手順

1. 移動先 すべて > **NIST RMF** > 評価 > コントロール証明書.
2. 各コントロール証明書とその結果をレビューします。
3. ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションで概説されている標準的なアプローチに従って、アサインされたコントロール証明書を実行します。

コントロール有効性をレビューして評価する

NIST-800.53.r4 に関連するコントロールテストを実行して、コントロールの有効性をレビューして評価します。

始める前に

注:
バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

必要なロール：sn_irm_nist_rmf.security_accessor、sn_irm_nist_rmf.risk_executive、または sn_irm_nist_rmf.security_officer

手順

1. 移動先 すべて > **NIST RMF** > 評価 > コントロール有効性.
2. 各コントロールテストと関連するセキュリティコントロールをレビューします。
3. システム内のコントロール有効性の結果をレビューします。
4. 監査管理 アプリケーションで概説されている標準的なアプローチに従って、アサインされたコントロールテストを実行します。

リスクを管理して対処する

コンテンツソースが NIST 800-53.r4 であるリスクステートメントに起因するリスクをレビューして管理します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

注:
バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

必要なロール：sn_irm_nist_rmf.security_accessor または sn_irm_nist_rmf.risk_executive

手順

1. 移動先 すべて > **NIST RMF** > 評価 > リスク.
2. 各リスクとそれに関連するリスクステートメントをレビューします。
3. リスク管理 アプリケーションで概説されている標準的なアプローチに従って、リスクを管理して対処します。

リスクアセスメントをレビューして実行する

NIST RMF セキュリティアセスメントに関連するリスクアセスメントをレビューして実行します。

始める前に

注:
バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

必要なロール：sn_irm_nist_rmf.security_accessor または sn_irm_nist_rmf.risk_executive

手順

1. 移動先 すべて > **NIST RMF** > 評価 > リスクアセスメント.
2. 各リスクアセスメントとその結果をレビューします。
3. リスク管理 アプリケーションで概説されている標準的なアプローチに従って、アサインされたリスクアセスメントを実行します。

問題を管理して対処します

NIST 800-53.r4 をソースとしてコントロールとリスクに起因するすべての問題をレビューし、それらに対処します。

始める前に

注:
バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

必要なロール：sn_irm_nist_rmf.security_officer または sn_irm_nist_rmf.risk_executive

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > **NIST RMF** > 評価 > 問題.
2. NIST 800-53.r4 をソースとして問題をレビューします。
3. リスク管理 アプリケーションで概説されている標準的なアプローチに従って、リスクを管理して対処します。

修復タスクを管理して対処します

NIST 800-53.r4 をソースとしてコントロールとリスクに起因するすべての修復タスクをレビューし、それらに対処します。

始める前に
必要なロール：なし。

注:
バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

NIST RMF

sn_irm_nist_rmf.security_officer または sn_irm_nist_rmf.risk_executive

手順

1. 移動先 すべて > **NIST RMF** > 評価 > 修復タスク.
2. NIST 800-53.r4 をソースとして問題をレビューします。
3. リスク管理 アプリケーションで概説されている標準的なアプローチに従って、リスクを管理して対処します。

NIST RMF 評価ダッシュボードを監視する

NIST RMF 評価ダッシュボードは、ターゲットの全体的なステータスに関するインサイトを提供します。

始める前に

注:
バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

必要なロール：sn_irm_nist_rmf.security_officer または sn_irm_nist_rmf.risk_executive

手順

1. 移動先 すべて > **NIST RMF** > 評価 > 概要.
2. ダッシュボードのすべてのレポートをレビューします。
3. ダッシュボードとレポートのセクションでレポートの詳細をレビューします。

ターゲットを認可する

NIST RMF アプリケーション内の [認可] セクションには、コンプライアンスとリスク体制に基づくターゲットの認可が含まれます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

ユーザーは、ターゲットフォームから直接、適切な関係者からの認証を要求します。

ターゲットを認可する

セキュリティ担当者が決定した全体的なセキュリティ体制に基づいて、ターゲットレコードを認可します。

始める前に

注:
バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

必要なロール：sn_irm_nist_rmf.security_official、sn_irm_nist_rmf.risk_executive、または sn_irm_nist_rmf.security_officer

手順

1. 移動先 すべて > **NIST RMF** > 許可 > ターゲット.
2. [名前] または [プロファイル] フィールドを使用してターゲットを検索します。
3. ターゲットレコードを選択して開きます。
4. [NIST RFM] セクションで、[承認ステータス] フィールドをレビューします。
5. [承認を要求] をクリックします。

タスクの結果

ターゲットに対して承認がトリガーされます。
承認者の場合は、[自分の承認] モジュールを使用して承認要求をレビューします。

NIST RMF 認可ダッシュボードを監視する

NIST RMF 認可ダッシュボードは、ターゲットの全体的なステータスに関するインサイトを提供します。

始める前に

注:
バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

必要なロール：sn_irm_nist_rmf.security_officer または sn_irm_nist_rmf.risk_executive

手順

1. 移動先 すべて > **NIST RMF** > 許可 > 概要.
2. ダッシュボードのすべてのレポートをレビューします。
3. ダッシュボードとレポートのセクションでレポートの詳細をレビューします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

セキュリティコントロールを監視する

NIST RMF アプリケーション内の [監視] セクションでは、ターゲットのセキュリティコントロールを継続的に監視して、それらまたは運用環境の変更を文書化し、関連付けられた変更のセキュリティ影響分析を実施して、指定された担当者にセキュリティステータスをレポートします。

> **注:**
> バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

監視は RMF プロセスの重要なステップです。有効でないターゲット (プロファイル)、コントロール、およびテスト計画を継続的に監視し、それらの既知のリスクと問題に対処できます。可能な場合はインジケーターを使用してセキュリティコントロールを自動的に監視し、修復のためのアラートをトリガーする必要があります。

セキュリティコントロールを継続的に監視するために、ユーザーは次の場所に移動して、 NIST RMF ユースケースアクセラレーター アプリケーションで提供されているインジケーターテンプレートを使用できます **NIST RMF** > コンテンツ > インジケーターテンプレート. サンプルのインジケーターテンプレートとインジケーターは **NIST** で始まります。ユーザーは、セキュリティコントロールを監視するために **NIST** で始まる新しいインジケーターを作成する必要があります。

インジケーターをレビューして管理します

NIST 用に設定されているすべてのインジケーターをレビューし、それらを管理して結果を追跡します。

始める前に

> **注:**
> バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

必要なロール：sn_irm_nist_rmf.risk_executive または sn_irm_nist_rmf.security_officer

手順

1. 移動先 すべて > **NIST RMF** > 監視 > インジケーター.
2. NIST で始まるすべてのインジケーターをレビューします。
3. [名前] フィールドを使用してインジケーターを検索します。
4. インジケーターレコードを選択して開きます。
5. レコードをレビューし、[保存] をクリックします。

RMF モニターダッシュボードを監視する

NIST RMF モニターダッシュボードは、ターゲットの全体的なステータスに関するインサイトを提供します。

始める前に

> **注:**
> バージョン 10.1.0 以降、NIST RMF ユースケースアクセラレーター は現在製品を使用している顧客に対してのみサポートされます。新規および既存のお客様は、GRC： Continuous Authorization Monitoring アプリケーションの使用を検討してください。詳細については、「継続的な承認とモニタリング」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なロール：sn_irm_nist_rmf.security_officer または sn_irm_nist_rmf.risk_executive

手順

1. 移動先 すべて > **NIST RMF** > 監視 > 概要.
2. ダッシュボードのすべてのレポートをレビューします。
3. ダッシュボードとレポートのセクションでレポートの詳細をレビューします。

Technology Controls Monitoring Accelerator

Technology Controls Monitoring Accelerator は、データの収集を容易にし、テクノロジーコントロールの検証と継続的な監視を支援するように設計された、事前定義されたインジケーターテンプレートのコレクションです。このアプリケーションは、Cybersecurity Controls Accelerator とともに実行することも、スタンドアロンアプリケーションとして実行することもできます。

Technology Controls Monitoring Accelerator に含まれるインジケーターテンプレートは、次のような標準およびフレームワークのコンプライアンス検証を可能にする特定の ServiceNow® アプリケーションにリンクされています。

- ISO/IEC 27001
- ISO/IEC 27002
- CIS Controls

これらのパッケージ化されたインジケーターテンプレートは、Unified Compliance Framework (UCF) の関連する共通コントロールにもマッピングされ、幅広い規制と業界標準に対してコントロールを検証できます。インジケーターテンプレートを使用して、カスタムポリシーの関連するコントロール目標へのコンプライアンスを検証できます。CIS Controls に登録していない場合でも、CIS Controls™ または CIS か ISO 27002 に共通のテクノロジーコントロールを介して取得したコントロールを監視できます。Technology Controls Monitoring Accelerator のインジケーターを使用して、UCF からのデータを監視することもできます。

CIS Controls™ の継続的な監視 v8

CIS Controls™ は、システムやネットワークに対するサイバー攻撃を軽減するための優先順位付けされた一連の安全策です。これらのコントロールは、複数の法務、規制、およびポリシーフレームワークにマッピングされ、参照されます。CIS Controls™ v8は、企業が作業モデルを完全なクラウドおよびハイブリッド環境に移行する際に、クラウドベースのコンピューティング、仮想化、モビリティ、アウトソーシングなどの最新のシステムとソフトウェアを引き続きサポートするように強化されています。

Yokohama のリリース以降、Technology Controls Monitoring Accelerator は事前に パッケージ化された CIS v8 コントロールとインジケーターテンプレートを提供し、それらを監視するために、さまざまな標準にマッピングされた共通コントロールとともに提供します。

CIS Controls™ v8 では、次の機能拡張がサポートされています。

- 事前定義されたインジケーターテンプレートを使用して、CIS Controls™ v8 の継続的な監視を有効にします。
- CIS V8 にマッピングされた ISO 27002、PCI DSS 4.0、NIST 800-53、NIST CSF、CSA CCM 4.0 からの共通コントロールの監視を有効にします。

Technology Controls Monitoring Accelerator をダウンロードする

インスタンスで Technology Controls Monitoring Accelerator アプリケーションを実行する前に、ServiceNow Store からダウンロードする必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
Cybersecurity Controls Accelerator アプリケーションをダウンロードした場合、このアプリケーションは Cybersecurity Controls Accelerator アプリケーションの依存関係としてインストールされているため、この手順をスキップできます。

Technology Controls Monitoring Accelerator アプリケーションを実行する前に、次の GRC アプリケーションをダウンロードして有効化する必要があります。

- GRC: ポリシーとコンプライアンス管理
- GRC: Profiles

必要なロール：admin

手順

初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする の指示に従います。

適切なインジケーターテンプレートがすべて有効になっていることを確認する

GRC: Technology Controls Monitoring Accelerator アプリケーションをダウンロードすると、すべてのインジケーターテンプレートが利用可能になりますが、まだアクティブになっていません。それらを有効にする前に、必要なアプリケーションが有効になっており、インジケーターテンプレートにマッピングされているテーブルにアクセスできることを確認する必要があります。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
Technology Controls Monitoring Accelerator アプリケーションのバージョン 12.0.1 以降、[手動] だったいくつかのインジケーターが [基本] または [スクリプト化] に変換されました。この追加された自動化により、継続的な監視に関連付けられた多くのタスクがより容易になります。

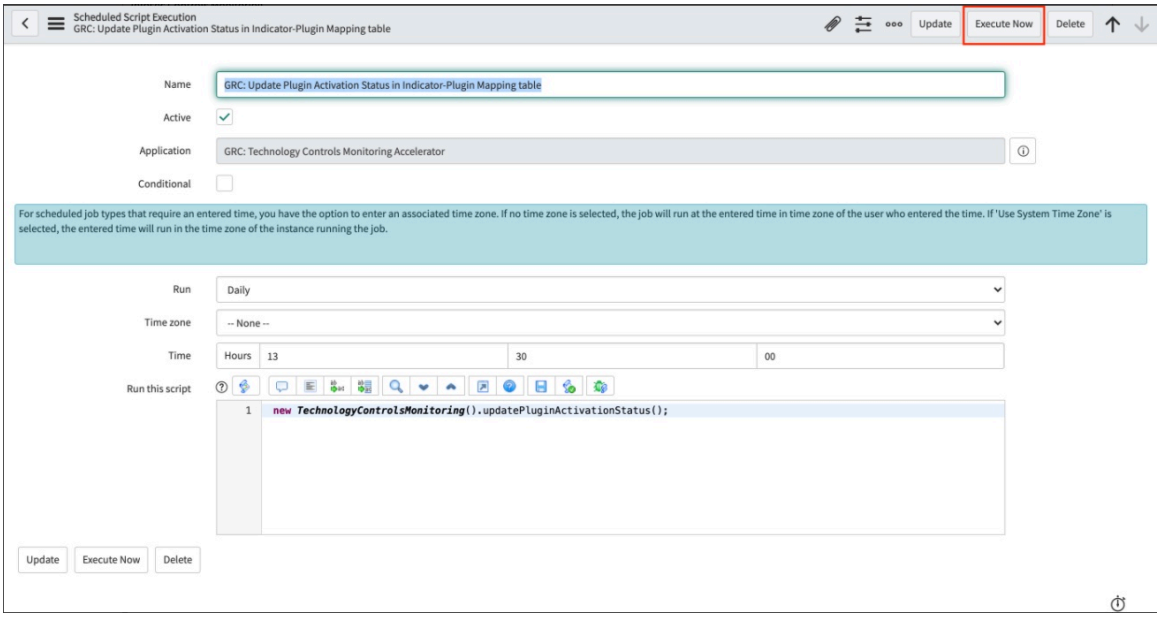
手順

1. 移動先 すべて > システムスケジューラ > スケジュール済みジョブ.
2. インジケーターとプラグインのマッピングテーブルで **GRC: Update Plugin Activation Status** を検索して開きます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スケジュール済みスクリプト実行



3. [今すぐ実行] をクリックします。
   このジョブは、インスタンスのインジケーターテンプレートとプラグインのマッピングテーブル [sn_grc_ind_template_plugin_mapping_details] をスキャンし、1) インジケーターテンプレートを監視するために Technology Controls Monitoring Accelerator を使用できるどのアプリケーションがインスタンスにインストールされているかを判別し、2) これらのアプリケーションのテーブルにマッピングされたインジケーターテンプレートを自動的に有効にします。

   注:
   このアプリケーションをアップグレードするたびに、このプロセスを繰り返す必要があります。

自動翻訳

運用ステータスを表示する

CIS Controls とテクノロジーに関するコントロールのリストについては、運用ステータスモジュールを表示します。各コントロールには、コンプライアンスの検証に使用されるテクノロジー、利用可能なインジケーターテンプレートのタイプ、およびコントロールのソーステーブルも含まれています。

始める前に

必要なロール：admin または sn_compliance.reader

このタスクについて

バージョン 12.0.2 以降、運用ステータスモジュールは、特定の CIS/ISO コントロールにマッピングされたすべての CIS Controls および/または ISO 27002 ベースのインジケーターテンプレートのビューを提供します。この情報は、コントロールとシステムの健全性を監視するために役立ちます。アプリケーションは、各コントロールを検証してデータを保護するために利用可能なさまざまなテクノロジーとともに、インスタンスをスキャンして、どのコントロールが実装されているかを判別できます。

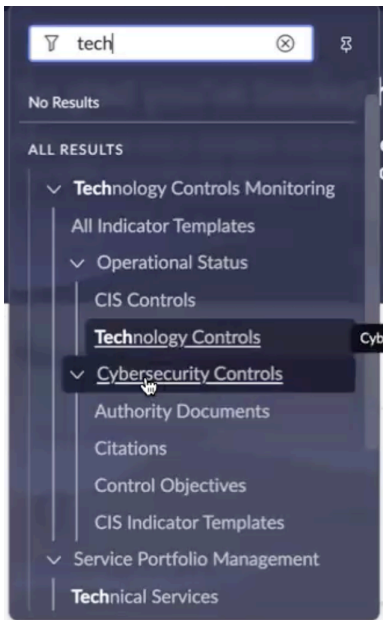
Yokohama リリース以降、Technology Controls Monitoring Accelerator は事前にパッケージ化された CIS v8 Control とインジケーターテンプレートを提供します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > テクノロジーコントロールモニタリング > 運用ステータス.

   例に示すようにモジュールを表示できます。



   注:
   CIS コントロールモジュールの名前が CIS Controls @Rから Cybersecurity Controls に変更されました。インジケーターテンプレートモジュールの名前が CIS インジケーターテンプレートに変更されました。

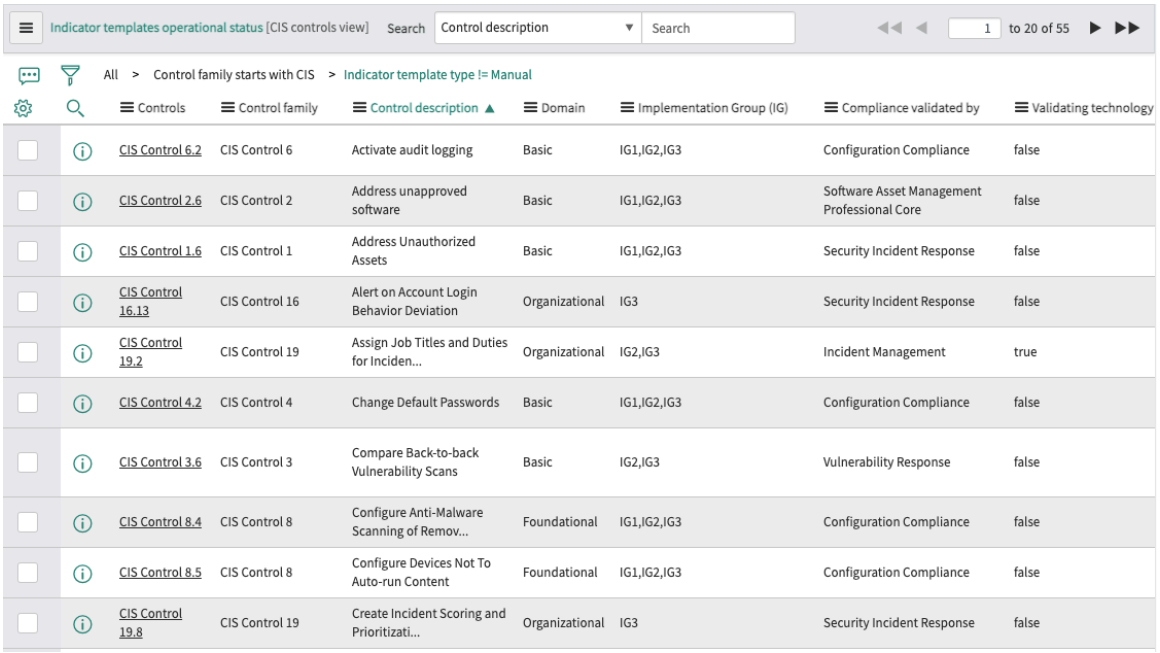
2. [**CIS Controls]** または **[Technology Controls]** を選択します。

   注:
   下に示す画面は、**[CIS Controls]** を選択すると表示されます。[テクノロジーコントロール] を選択した場合、デフォルトの列がわずかに異なります。ただし、必要に応じて歯車アイコンを選択して列を追加または削除できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インジケーターテンプレートの運用ステータス



Controls	Control family	Control description ▲	Domain	Implementation Group (IG)	Compliance validated by	Validating technology
CIS Control 6.2	CIS Control 6	Activate audit logging	Basic	IG1,IG2,IG3	Configuration Compliance	false
CIS Control 2.6	CIS Control 2	Address unapproved software	Basic	IG1,IG2,IG3	Software Asset Management Professional Core	false
CIS Control 1.6	CIS Control 1	Address Unauthorized Assets	Basic	IG1,IG2,IG3	Security Incident Response	false
CIS Control 16.13	CIS Control 16	Alert on Account Login Behavior Deviation	Organizational	IG3	Security Incident Response	false
CIS Control 19.2	CIS Control 19	Assign Job Titles and Duties for Inciden...	Organizational	IG2,IG3	Incident Management	true
CIS Control 4.2	CIS Control 4	Change Default Passwords	Basic	IG1,IG2,IG3	Configuration Compliance	false
CIS Control 3.6	CIS Control 3	Compare Back-to-back Vulnerability Scans	Basic	IG2,IG3	Vulnerability Response	false
CIS Control 8.4	CIS Control 8	Configure Anti-Malware Scanning of Remov...	Foundational	IG1,IG2,IG3	Configuration Compliance	false
CIS Control 8.5	CIS Control 8	Configure Devices Not To Auto-run Content	Foundational	IG1,IG2,IG3	Configuration Compliance	false
CIS Control 19.8	CIS Control 19	Create Incident Scoring and Prioritizati...	Organizational	IG3	Security Incident Response	false

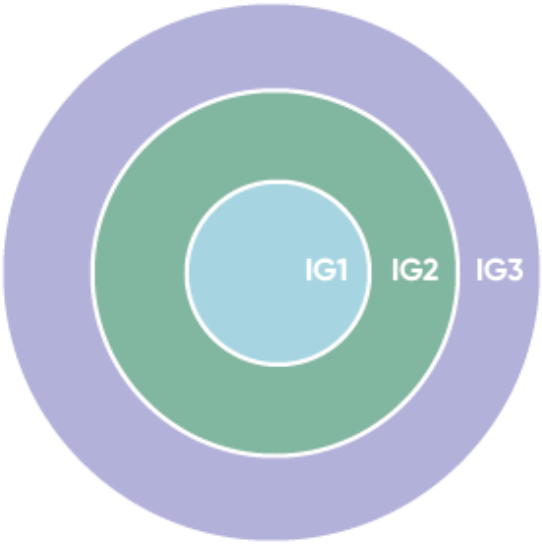
各コントロールには次の情報が含まれます。

運用ステータス

フィールド	説明
コントロール	Cybersecurity Controls Accelerator アプリケーションをダウンロードして有効にしたときに含まれるコントロール。
コントロールファミリと説明	CIS Controlsで定義されているコントロールのファミリーと説明。
ドメイン	コントロールのドメイン： ○ 基本 ○ 基盤 ○ 組織
実装グループ (IG)	コントロールが含まれている実装グループ：IG1、IG2、または IG3。IG1 は、基盤として機能する重要なセキュリティコントロールのほとんどをカバーしています。その後、セキュリティ体制を改善するために、必要に応じて IG2 と IG3 を追加して、追加レベルのサポートを提供できます。 ここに示すように、IG2 には IG1 に含まれるすべてのコントロールが含まれ、IG3 には IG1 と IG2 のすべてのコントロールが含まれます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	
コンプライアンスの検証者	コントロールの検証を自動化するために使用できるインスタンスのテクノロジー。
テクノロジーの検証を有効化しましたか?	指定されたテクノロジーがインスタンスで有効になっているかどうかを特定します。
コントロールは実装されていますか?	コントロール目標を採用してシステムに展開したかどうかを特定します。
インジケーターテンプレートタイプ	コントロールの検証と監視を開始できるように、インジケーターテンプレートタイプが定義されているかどうか特定します。利用可能なタイプは、 [基本]、 [手動]、および [スクリプト] です。
ソーステーブル	コントロールによって監視されているデータのソーステーブル。

サイバーセキュリティコントロールモジュールの表示

サイバーセキュリティコントロールモジュールを表示して、ドメイン、実装グループ、および ISO コントロール別に分類された特定の CIS コントロールにマッピングされた各種法令・基準等、コントロール、コントロール目標、および CIS インジケーターテンプレートのリストを確認します。

始める前に
必要なロール：admin または sn_compliance.reader

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

注:
各種法令・基準等、コントロール、およびコントロール目標には、ソース CIS、CIS v8、および CSA CCM v4 に関連するデータが表示されます。モジュールフィルターでは、次のデータが表示されます。

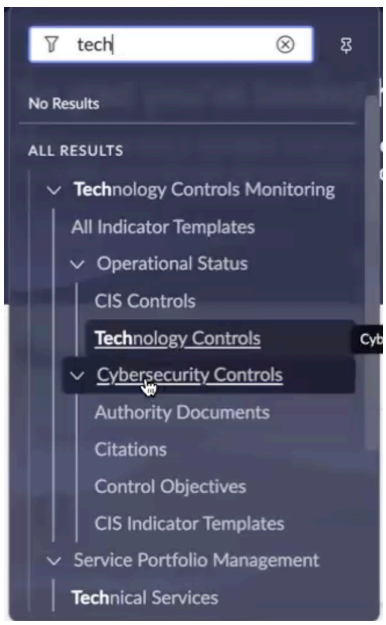
- 各種法令・基準等：ソースが CIS または CIS v8 または CSA CCM v4 です。
- 引用 - ソースは CIS、CIS v8、または CSA CCM v4 です。
- コントロール目標 - ソースは CIS、CIS v8、または CSA CCM v4 です。
- インジケーターテンプレート：ソースは CIS または CIS v8 です。

Yokohama リリース以降、Technology Controls Monitoring Accelerator は事前にパッケージ化された CIS v8 Control とインジケーターテンプレートを提供します。

手順

1. 移動先 すべて > テクノロジーコントロールモニタリング > サイバーセキュリティコントロール.

   例に示すようにモジュールを表示できます。



注:
CIS コントロールモジュールの名前が CIS Controls @Rから Cybersecurity Controls に変更されました。インジケーターテンプレートモジュールの名前が CIS インジケーターテンプレートに変更されました。

2. [選択された各種法令・基準等] を選択します。

   例に示すように、ソース CIS、CIS v8、および CSA CCM v4 の各種法令・基準等がリストされます。

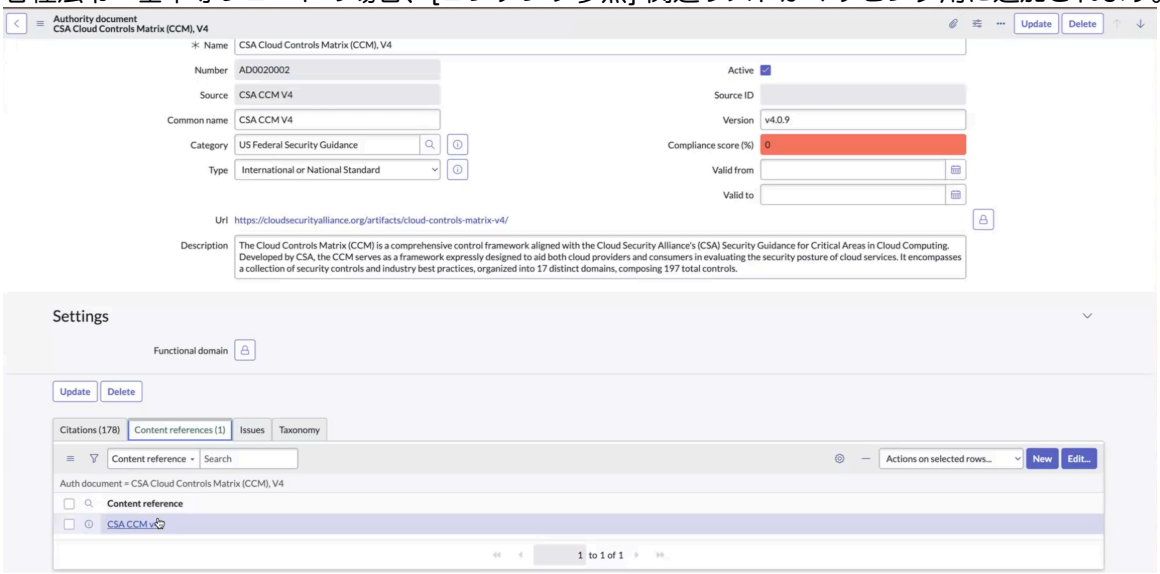


自動翻訳

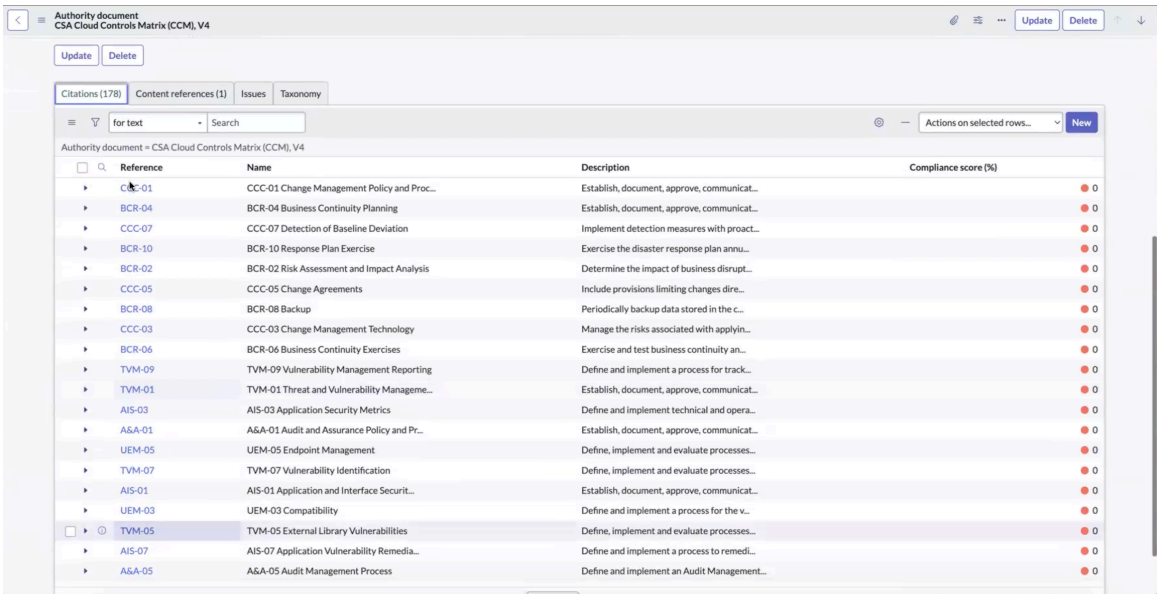
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

各種法令・基準等 ADCIS10002 が CIS v8 に追加されます。同様に、CSACCMv4 にも AD0020002 が追加されます。

各種法令・基準等レコードの場合、[コンテンツ参照] 関連リストがマッピング用に追加されます。



例には、各種法令・基準等に関連付けられた引用が示されています。

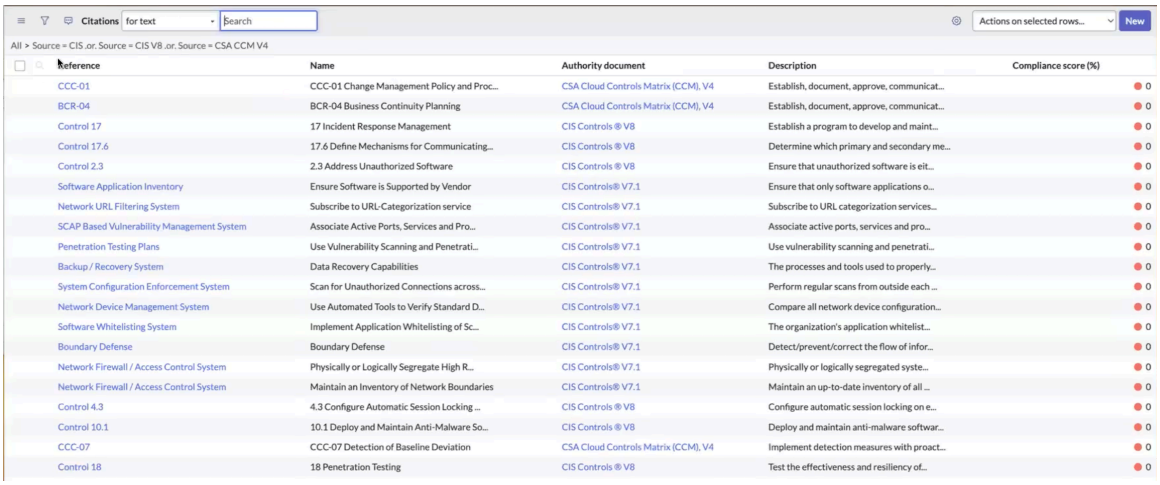


3. [引用] を選択します。

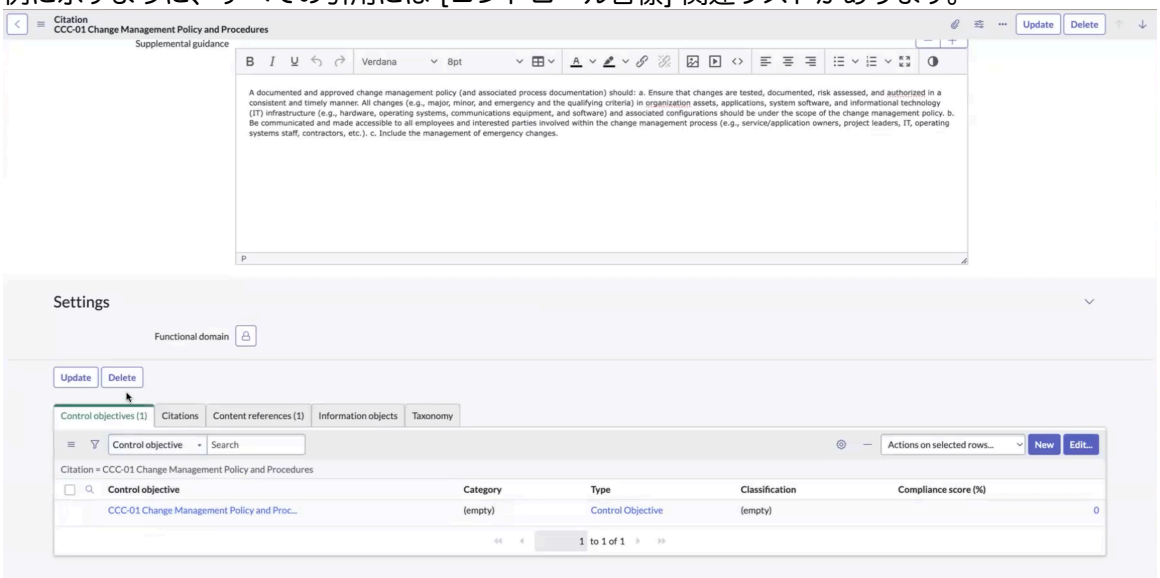
例に示すように、ソース CIS、CIS v8、および CSA CCM v4 の引用がリストされます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

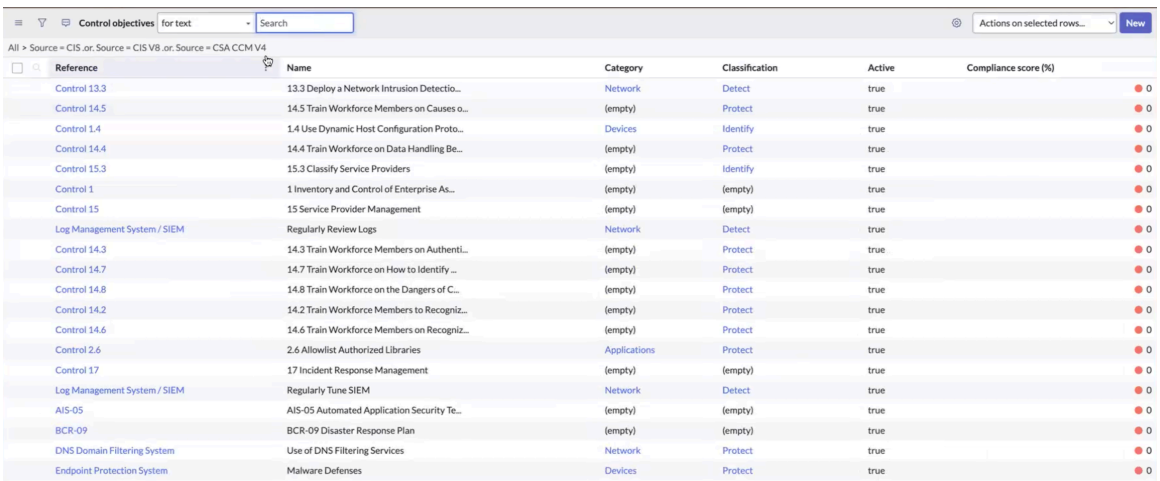


例に示すように、すべての引用には [コントロール目標] 関連リストがあります。



4. [コントロール目標] を選択します。

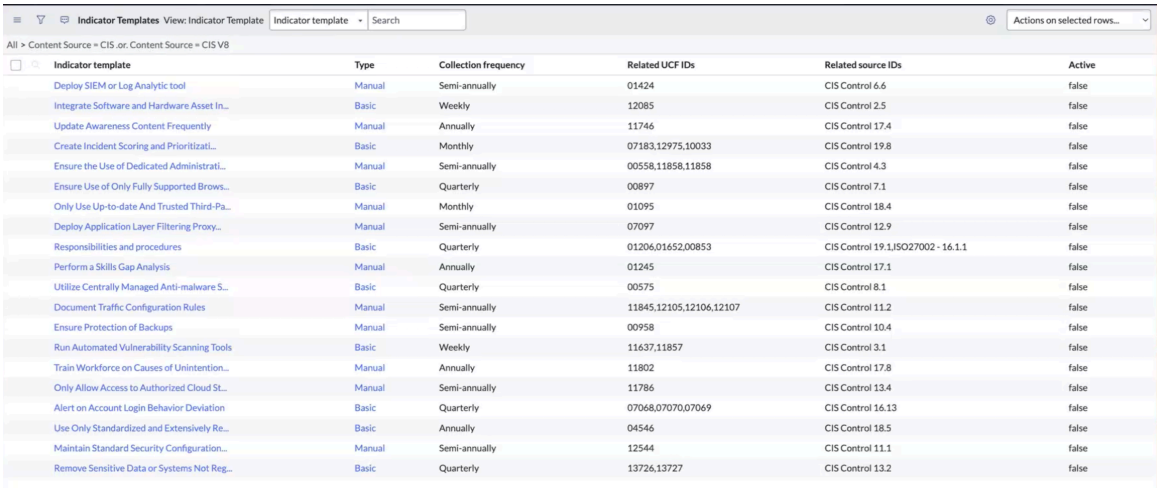
例に示すように、ソース CIS、CIS v8、および CSA CCM v4 の制御目標がリストされます。



5. [CIS インジケーターテンプレート] を選択します。

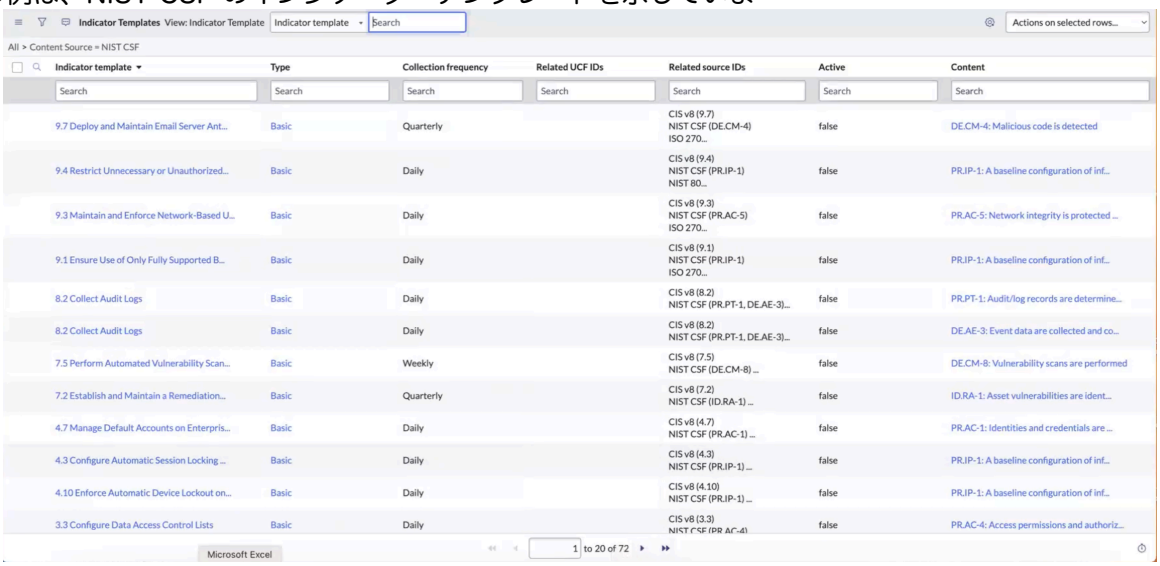
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例に示すように、ソース CIS、CIS v8、および CSA CCM v4 の CIS インジケーターテンプレートがリストされます。



Indicator template	Type	Collection frequency	Related UCF IDs	Related source IDs	Active
Deploy SIEM or Log Analytic tool	Manual	Semi-annually	01424	CIS Control 6.6	false
Integrate Software and Hardware Asset In...	Basic	Weekly	12085	CIS Control 2.5	false
Update Awareness Content Frequently	Manual	Annually	11746	CIS Control 17.4	false
Create Incident Scoring and Prioritizati...	Basic	Monthly	07183,12975,10033	CIS Control 19.8	false
Ensure the Use of Dedicated Administrati...	Manual	Semi-annually	00558,11858,11858	CIS Control 4.3	false
Ensure Use of Only Fully Supported Brows...	Basic	Quarterly	00897	CIS Control 7.1	false
Only Use Up-to-date And Trusted Third-Pa...	Manual	Monthly	01095	CIS Control 18.4	false
Deploy Application Layer Filtering Proxy...	Manual	Semi-annually	07097	CIS Control 12.9	false
Responsibilities and procedures	Basic	Quarterly	01206,01652,00853	CIS Control 19.1,ISO27002 - 16.1.1	false
Perform a Skills Gap Analysis	Manual	Annually	01245	CIS Control 17.1	false
Utilize Centrally Managed Anti-malware S...	Basic	Quarterly	00575	CIS Control 8.1	false
Document Traffic Configuration Rules	Manual	Semi-annually	11845,12105,12106,12107	CIS Control 11.2	false
Ensure Protection of Backups	Manual	Semi-annually	00958	CIS Control 10.4	false
Run Automated Vulnerability Scanning Tools	Basic	Weekly	11637,11857	CIS Control 3.1	false
Train Workforce on Causes of Unintention...	Manual	Annually	11802	CIS Control 17.8	false
Only Allow Access to Authorized Cloud St...	Manual	Semi-annually	11786	CIS Control 13.4	false
Alert on Account Login Behavior Deviation	Basic	Quarterly	07068,07070,07069	CIS Control 16.13	false
Use Only Standardized and Extensively Re...	Basic	Annually	04546	CIS Control 18.5	false
Maintain Standard Security Configuration...	Manual	Semi-annually	12544	CIS Control 11.1	false
Remove Sensitive Data or Systems Not Reg...	Basic	Quarterly	13726,13727	CIS Control 13.2	false

さまざまなソースのインジケーターテンプレートを表示できます。
次の例は、NIST CSF のインジケーターテンプレートを示していま



Indicator template	Type	Collection frequency	Related UCF IDs	Related source IDs	Active	Content
9.7 Deploy and Maintain Email Server Ant...	Basic	Quarterly		CIS v8 (9.7) NIST CSF (DE.CM-4) ISO 270...	false	DE.CM-4: Malicious code is detected
9.4 Restrict Unnecessary or Unauthorized...	Basic	Daily		CIS v8 (9.4) NIST CSF (PR.IP-1) NIST 80...	false	PR.IP-1: A baseline configuration of inf...
9.3 Maintain and Enforce Network-Based U...	Basic	Daily		CIS v8 (9.3) NIST CSF (PR.AC-5) ISO 270...	false	PR.AC-5: Network integrity is protected ...
9.1 Ensure Use of Only Fully Supported B...	Basic	Daily		CIS v8 (9.1) NIST CSF (PR.IP-1) ISO 270...	false	PR.IP-1: A baseline configuration of inf...
8.2 Collect Audit Logs	Basic	Daily		CIS v8 (8.2) NIST CSF (PR.PT-1, DE.AE-3)...	false	PR.PT-1: Audit/log records are determine...
8.2 Collect Audit Logs	Basic	Daily		CIS v8 (8.2) NIST CSF (PR.PT-1, DE.AE-3)...	false	DE.AE-3: Event data are collected and co...
7.5 Perform Automated Vulnerability Scan...	Basic	Weekly		CIS v8 (7.5) NIST CSF (DE.CM-8) ...	false	DE.CM-8: Vulnerability scans are performed
7.2 Establish and Maintain a Remediation...	Basic	Quarterly		CIS v8 (7.2) NIST CSF (ID.RA-1) ...	false	ID.RA-1: Asset vulnerabilities are ident...
4.7 Manage Default Accounts on Enterpris...	Basic	Daily		CIS v8 (4.7) NIST CSF (PR.AC-1) ...	false	PR.AC-1: Identities and credentials are ...
4.3 Configure Automatic Session Locking ...	Basic	Daily		CIS v8 (4.3) NIST CSF (PR.IP-1) ...	false	PR.IP-1: A baseline configuration of inf...
4.10 Enforce Automatic Device Lockout on...	Basic	Daily		CIS v8 (4.10) NIST CSF (PR.IP-1) ...	false	PR.IP-1: A baseline configuration of inf...
3.3 Configure Data Access Control Lists	Basic	Daily		CIS v8 (3.3) NIST CSF (PR.AC-4)	false	PR.AC-4: Access permissions and authoriz...

す。

[関連ソース ID] 列には、インジケーターテンプレートのソース ID が表示されます。

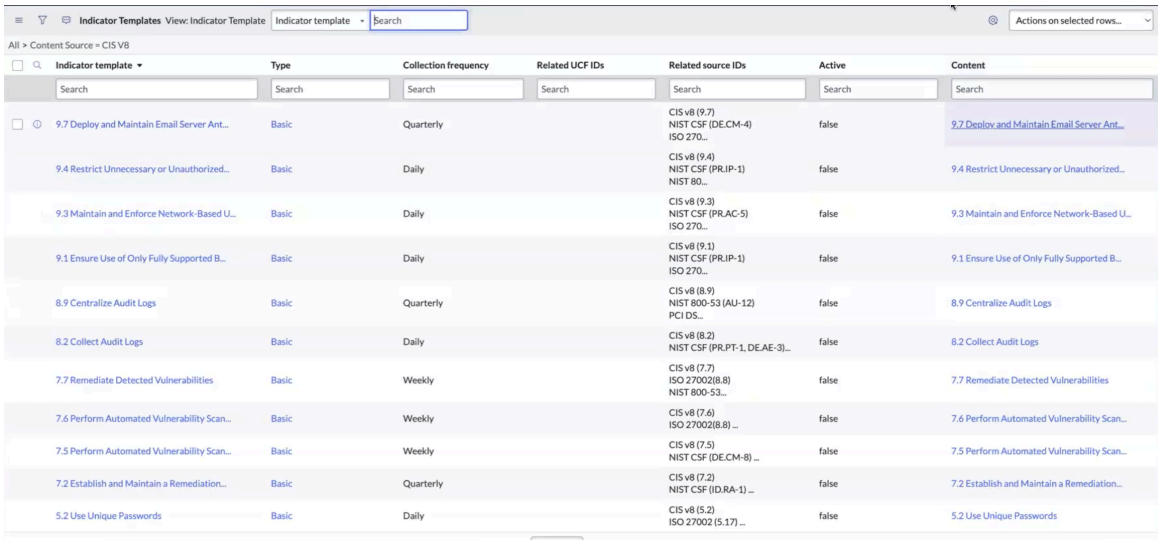


Indicator template	Type	Collection frequency	Related UCF IDs	Related source IDs	Active	Content
1.1						
1.1 Establish and Maintain Detailed Ente...	Basic	Weekly		CIS v8 (1.1) NIST CSF (ID.AM-1, PR.DS-3)...	false	PR.DS-3: Assets are formally managed thr...
1.1 Establish and Maintain Detailed Ente...	Basic	Weekly		CIS v8 (1.1) NIST CSF (ID.AM-1, PR.DS-3)...	false	ID.AM-1: Physical devices and systems wi...

例に示すように、インジケーターテンプレートが [コンテンツ] 列にマッピングされます。 インジケーターテンプレートは

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



列にマップされます。

6. **[CIS** インジケーターテンプレート] を選択します。
   CIS インジケーターテンプレートがインスタンスに表示されます。

インジケーターテンプレートを使用する

インジケーターは、単一のコントロールまたはリスクを監視するためのデータを収集します。インジケーターテンプレートを使用すると、類似のコントロールまたはリスクに対して複数のインジケーターを作成できます。Technology Controls Monitoring Accelerator アプリケーションには、サイバーセキュリティコントロールを監視するための 171 の事前定義済みのインジケーターテンプレートのコレクションが用意されています。

インジケーターとインジケーターテンプレート

インジケーターは、コントロールとリスクを監視するためにデータを収集し、監査証拠を収集します。インジケーターは単一のコントロールまたはリスクを監視します。

インジケーターテンプレートを使用すると、類似するコントロールまたはリスクに複数のインジケーターを作成できます。

Technology Controls Monitoring Accelerator アプリケーションで取得したインジケーターテンプレートには、次のセクションで説明するように、ユーザーがインジケーターを実行するために必要な指示を提供します。

これらのインジケーターのサポート情報は、自動データ収集または手動タスクによって収集できます。インジケーターの結果は、次のタスクを実行するために使用されます。

- コントロールの問題を作成します。
- リスクスコアを更新します。
- 監査アクティビティとコントロールテストのサポート情報を提供

次の種類のインジケーターを使用できます。

1. 基本：証拠はソーステーブルから収集されます。
2. 手動：証拠は収集されません。このタイプのインジケーターには、サードパーティのデータソースが必要です。
3. スクリプト：証拠は複数のソーステーブルから収集できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インジケータープロセスのフロー

インジケータープロセスは、次のステップで構成されています。

- インジケーターテンプレートを設定します。
- インジケーターテンプレートをリスクステートメントまたはコントロールに適用します。コントロールまたはリスクステートメントのスコープがエンティティタイプまたは特定のエンティティである場合、そのコントロール目標またはリスクステートメントのすべてのコントロールまたはリスクに対してインジケーターが生成されます。

インジケーターは自動または手動にすることができます。インジケーターの最終状況を示すインジケータータスクが生成されます。

自動インジケーターと手動インジケーターの例

自動インジケーターの例としては、CMDB 内のすべてのサーバーが最新であることを確認することが挙げられます。別の例として、すべての LDAP パスワードが 3 か月未満であることを確認することです。

手動インジケーターの例としては、ネットワークアドミニストレーターに、毎年のネットワークペネトレーションテストを実施し、結果をタスクに添付するように依頼することが挙げられます。結果が不合格または不合格を示した場合、GRC 問題の作成をトリガーするために使用されます。

インジケーターテンプレートの使用

インジケーターテンプレートをポリシーステートメントまたはリスクステートメントにリンクして、コントロールまたはリスクのインジケーターが自動的に作成されるようにすることができます。コントロールのステータスも、リンクされたインジケーターの結果によって自動的に計算され、リンクされたリスクに影響を与える可能性があります。たとえば、コントロールに関連付けられたインジケーターが失敗した場合、ユーザーが修復タスクをクローズしない限り、全体的なステータスを完了することはできません。

リスクの計算済みリスクスコアも、リスクのインジケーター結果によって自動的に調整されます。リスクテーブルのインジケーター失敗ファクタフィールドには、障害の影響が表示されます。

注:
インジケーターは重み付けされません。コントロールまたはリスクへの影響を比較検討すると、均等化と見なされます。リスクとコントロールが [廃止] ステータスの場合、インジケーターは実行されません。

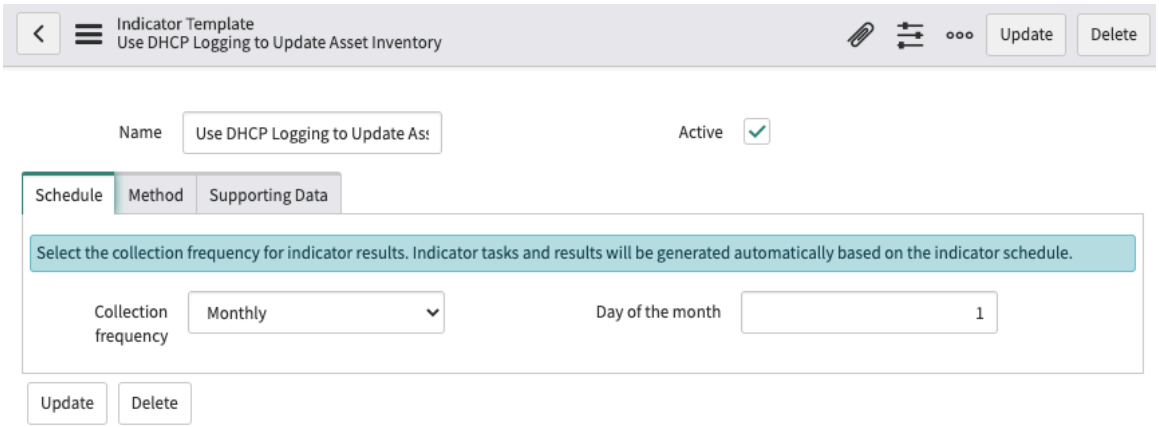
インジケーターテンプレートの収集頻度

各インジケーターテンプレートには、次に示すように、データ収集の頻度を特定するためのスケジュールが含まれています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インジケーターテンプレートのスケジュール



[スケジュール] タブ

フィールド	説明
収集頻度	インジケーターの結果の収集頻度。インジケータータスクと結果は、インジケータースケジュールに基づいて自動的に生成されます。 • 日ごと • 週ごと：収集を実行する曜日。 • 月ごと：収集を実行する日付。 • 四半期ごと：最初の収集を実行する日付。 • 半年ごと：最初の収集を実行する日付。 • 年ごと：収集を実行する月と日付。

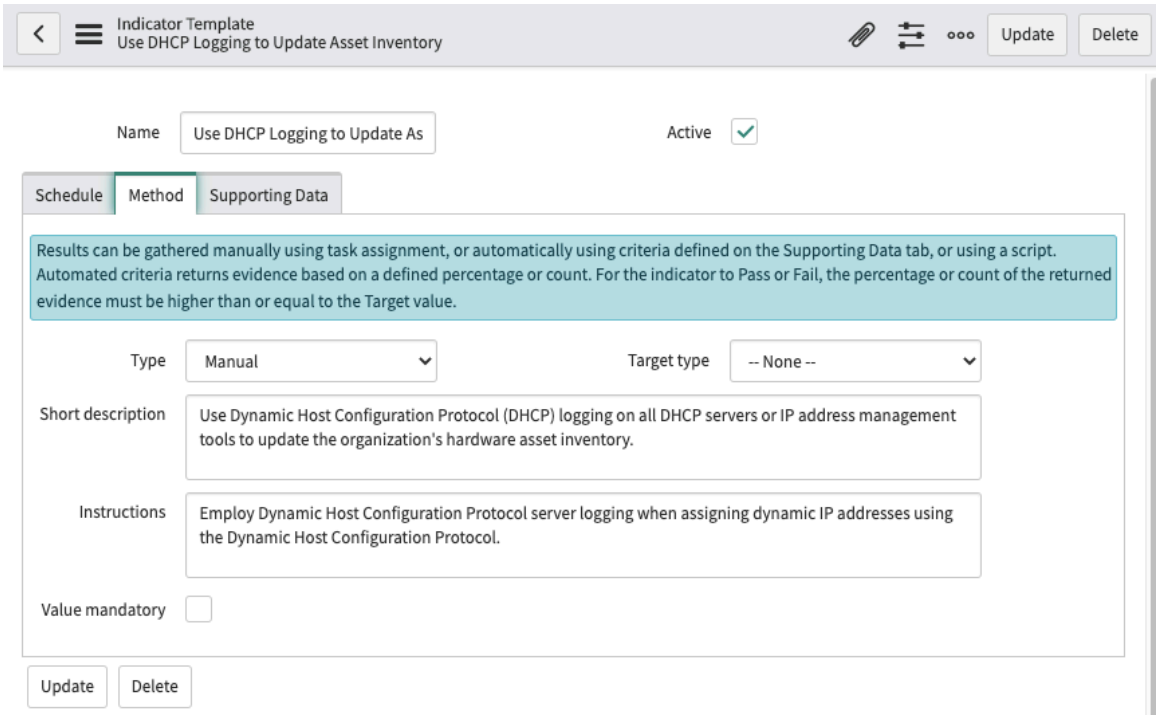
インジケーターテンプレートの収集方法

[メソッド] タブは、次に示すように、結果の収集方法を特定します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インジケーターテンプレートの収集方法



[メソッド] タブ

フィールド	説明
タイプ	結果は、タスクのアサインにより手動で、または基本フィルター条件、パフォーマンスアナリティクス、またはスクリプトを使用して自動的に収集できます。
ターゲットタイプ	ターゲットが割合かカウントかを識別します。
簡単な説明	**Type = Manual** の場合、問題の簡単な説明。
説明	**Type = Manual** の場合、インジケーターの結果の収集に関する指示。
必須の値	**Type = Manual** の場合、このチェックボックスは、インジケータータスクに値が必須かどうかを示します。
成功/失敗	**Type = Basic** で、[サポートデータ] タブで定義された条件が満たされ、結果が [ターゲット] 値を超えた場合、インジケーターが成功か失敗かが示されます。
ターゲット	**Type = Basic** の場合、[サポートデータ] タブで定義された条件に基づいて結果が返されるしきい値によって、インジケーターテンプレートが成功か失敗かが示されます。
PA しきい値	**Type = PA Indicator** の場合、関連付けられた PA しきい値。
スクリプト	**Type = Script** の場合、必要なシステム情報を取得するスクリプト。

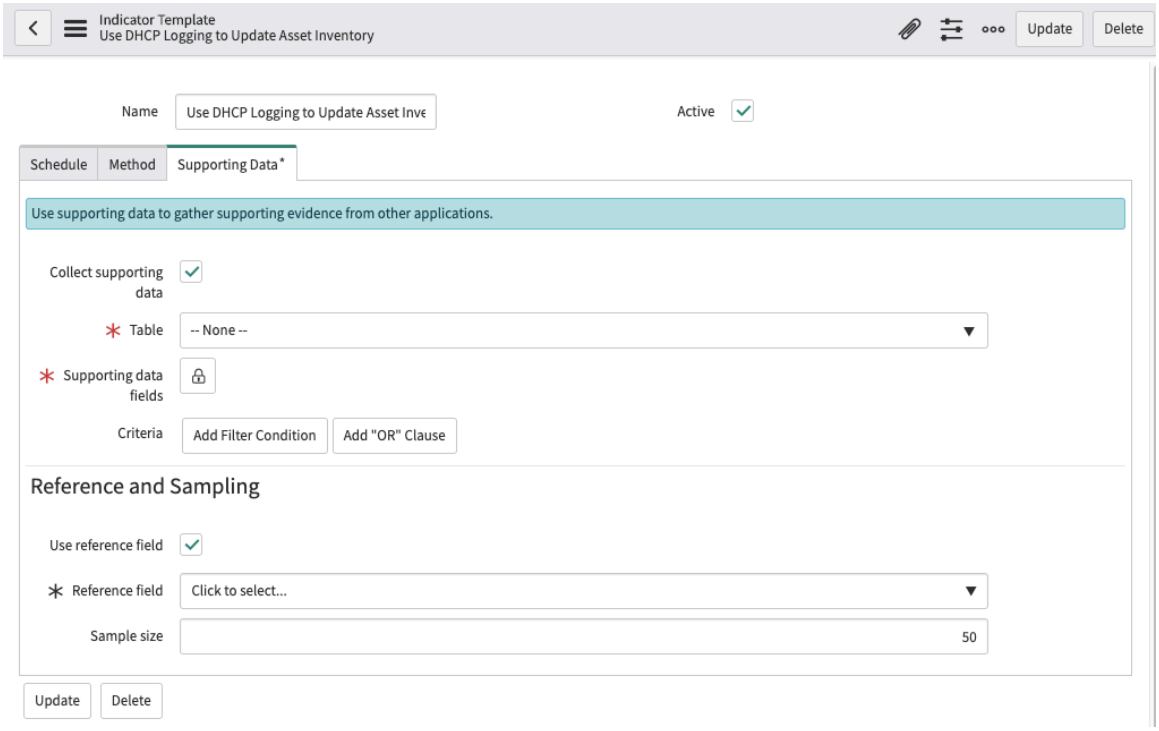
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インジケーターテンプレートのサポートデータ

バージョン 10.1 以降、[サポートデータ] タブには、インジケータ結果またはインジケータタスクからのサポートデータレコードの実際の履歴データが表示されます。以前のバージョンでは、収集されたレコードのリアルタイムステータスのみを表示できました。

インジケーターテンプレートのサポートデータ



インジケーターテンプレートのサポートデータ

フィールド	説明
提出データを含む	サポートデータを収集することを示します。次の 3 つのフィールドが表示されます。
テーブル	サポートデータテーブル。
サポートデータフィールド	考慮されるサポートデータテーブルのフィールド。
基準	フィルター条件。
参照フィールドを使用	参照フィールドを使用することを示します。次の 2 つのフィールドが表示されます。
参照フィールド	サンプリングに使用する参照フィールド。
サンプルサイズ	データサンプリングに使用するレコードの数。

次のタブでも情報を表示できます。

- インジケーター
- コントロール目標/リスクステートメント
- コンテンツ参照

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
[コントロール目標/リスクステートメント] タブを使用すると、同じテンプレートを複数のコントロール目標またはリスクステートメントに再利用できます。

コントロールのインジケーターテンプレート

Technology Controls Monitoring Accelerator には、 CIS v7 の場合、273 のインジケーターテンプレート (94 の基本、174 の手動、および 5 のスクリプト) が含まれ、CIS v8 の場合、新しい 67 個のインジケーターテンプレート (64 の基本および 3 のスクリプト) が含まれています。

Technology Controls Monitoring Accelerator を Cybersecurity Controls Accelerator アプリケーションとともに使用すると、Cybersecurity Controls Accelerator アプリケーション内でインジケーターテンプレートを管理できます。

ただし、Technology Controls Monitoring Accelerator をスタンドアロンアプリケーションとして実行する場合でも、ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションと組み合わせて実行することができます。また、UCF コントロールをインジケーターテンプレートにマッピングすることもできます (ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションとの組み合わせから)。

注:
さまざまなタイプのインジケーターテンプレートの詳細については、「インジケーターテンプレートを使用する」を参照してください。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート

次の表に、CIS v8 Controls のインジケーターテンプレートを示します。

注:
現在、基本またはスクリプト化のインジケーターテンプレートのいずれかでカバーされていないコントロールには、コンプライアンス検証の目的で定義された手動インジケーターテンプレートがあります。CIS v8 インジケータテンプレートの詳細については、 KB0555526 を参照してください。

自動翻訳

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
CIS Control V8 1.1	詳細なエンタープライズ資産インベントリの確立と維持： エンドユーザーデバイス (ポータブルおよびモバイルを含む)、ネットワークデバイス、非コンピューティング/IoT デバイス、サーバーなど、データを保存または処理する可能性のあるすべてのエンタープライズ資産の正確で詳細かつ最新のインベントリの確立と維持：インベントリに、ネットワーク アドレス (静的な場合)、ハードウェアアドレス、マシン名、データ資産所有者、各資産の部門、および資産のネットワークへの接続が承認されているかどうかが記録されていることを確認します。モバイルエンドユーザー	基本	HAM	cmdb_ci_hardware	CIS v8 (1.1) CSF (ID.AM-1、PR.DS-3) ISO 27002 (5.9、8.8) PCI (9.5.1、9.5.1.1、11.2、11.2.2、12.5、12.5.1) CCM (UEM-04)

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
	デバイスの場合、 MDM タイプのツールは、必要に応じてこのプロセスをサポートできます。このインベントリには、物理的、仮想的、リモートでインフラストラクチャに接続された資産、およびクラウド環境内の資産が含まれます。 さらに、企業の管理下に ない場合でも、企業のネットワークインフラストラクチャに定期的に接続されている資産も含まれます。すべてのエンタープライズ資産のインベントリを半年ごと、またはそれ以上の頻度で確認および更新します。				
CIS Control V8 1.2	不正な資産への対応： 不正資産への対応プロセスを毎週実施していることを確認します。企業は、ネットワークから資産を削除するか、資産によるネットワークへのリモート接続を拒否するか、資産を隔離するかを選択できます。	基本	CMDB	cmdb_ci	CIS v8 (1.2) NIST (CM-8) PCI (11.2.1)
CIS Control V8 1.3	アクティブディスカバリーツールを使用： アクティブディスカバリーツールを使用して、企業のネットワークに接続されている資産を特定します。アクティブディスカバリーツールを毎日、またはそれ以上の頻度で実行するように構成します。	基本	ディスカバリー	cmdb_discovery	CIS v8 (1.3) CSF (DE.CM-7) NIST (CM-8(1)) CCM (UEM-05)
CIS Control V8 1.4	動的ホスト構成プロトコル (DHCP) ログを使用してエンタープライズ資産インベントリを更新します。 すべての DHCP サーバーまたはインターネットプロトコル (IP) アドレス管理ツールで DHCP ログを使用して、企業の資産インベントリを更新します。ログを確認して使用し、企業の資産インベントリを毎週、またはそれ以上の頻度で更新します。	マニュアル	NA	NA	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
CIS Control V8 1.5	受動的資産ディスカバリーツールを使用： 受動的資産ディスカバリーツールを使用して、企業のネットワークに接続されている資産を特定します。スキャンを確認して使用し、少なくとも毎週、またはそれ以上の頻度で企業の資産インベントリを更新します。	基本	ディスカバリー	discovery_network_track	CIS v8 (1.5) CSF (DE.CM-7) NIST (CM-8(3))
CIS Control V8 2.1	ソフトウェアインベントリの確立と保守： エンタープライズ資産にインストールされているすべてのライセンス済みソフトウェアの詳細なインベントリを確立して維持します。ソフトウェアインベントリには、各エントリのタイトル、発行元、最初のインストール/使用日、およびビジネス目的を文書化する必要があります。必要に応じて、ユニフォームリソースロケーター (URL)、アプリストア、バージョン、展開メカニズム、および使用停止の日付を含めます。ソフトウェアインベントリを 2 年に 1 回、またはそれ以上の頻度で確認して更新します。	基本	SAM	cmdb_ci_application	CIS v8 (2.1) CSF (ID.AM-2) ISO (5.9) NIST (SI-4) PCI (1.2.5、6.3.2) CCM (UEM-02)
CIS Control V8 2.2	認可済みソフトウェアが現在サポートされていることを確認する 現在サポートされているソフトウェアのみが、エンタープライズ資産のソフトウェアインベントリで認可済みとして指定されていることを確認します。ソフトウェアがサポートされていないが、企業の使命を果たすために必要な場合は、コントロールの軽減と残存リスクの受容を詳述した例外を文書化します。例外のないサポート対象外のソフトウェアドキュメントについては、未許可として指定します。ソフトウェアリストを確認して、少なくとも毎月、またはそれ以上の頻度でソフトウェアサポートを確認します。	マニュアル	NA	NA	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
CIS Control V8 2.3	不正なソフトウェアへの対処： 不正なソフトウェアがエンタープライズ資産での使用から削除されるか、文書化された例外を受け取ることを確認します。毎月、またはそれ以上の頻度でレビューします。	スクリプト	SAM	cmdb_sam_sw_install	CIS v8 (2.3) CSF (DE.CM-7) ISO (8.7) NIST (CM-8(3)) PCI (12.3.4)
CIS Control V8 2.4	自動ソフトウェアインベントリツールの利用： 可能な場合は、企業全体でソフトウェアインベントリツールを使用して、インストールされているソフトウェアの検出と文書化を自動化します。	基本	SAM	cmdb_ci_application_software	CIS v8 (2.4) CSF (DE.CM-7) NIST (SI-4)
CIS Control V8 2.5	許可されたソフトウェアを許可リストに登録： アプリケーションの許可リストなどの技術的なコントロールを使用して、許可されたソフトウェアのみが実行またはアクセスできるようにします。半年ごと、またはそれ以上の頻度で再評価を実施します。	スクリプト	SAM	cmdb_sam_sw_install	CIS v8 (2.5) CSF (DE.CM-7) ISO (8.7、8.17) PCI (1.2.5、2.2.4)
CIS Control V8 2.6	許可リスト認証ライブラリ： テクニカルコントロールを使用して、特定の .dll、.ocx、.so などのファイルなど、許可されたソフトウェアライブラリーのみをシステムプロセスにロードできるようにします。許可されていないライブラリがシステムプロセスに読み込まれるのをブロックします。半年ごと、またはそれ以上の頻度で再評価を実施します。	基本	VR	sn_vulc_result	CIS v8 (2.6) CSF (DE.CM-7) ISO (8.19) PCI (1.2.5、2.2.4)
CIS Control V8 2.7	許可リスト承認スクリプト： デジタル署名やバージョン管理などの技術的なコントロールを使用して、特定の .ps1、.py などのファイルなどの承認されたスクリプトのみが実行できるようにします。許可されていないスクリプトの実行を	基本	VR	sn_vulc_result	CIS v8 (2.7) CSF (PR.IP-1、PR.PT-3) NIST (CM-8) PCI (1.2.5、2.2.4、6.4.3)

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
	ブロックします。半年ごと、またはそれ以上の頻度で再評価を実施します。				
CIS Control V8 3.1	データ管理プロセスの確立と維持： データ管理プロセスを確立し、維持します。このプロセスでは、企業の機密性と保持度の基準に基づいて、データの機密性、データ所有者、データの処理、データ保持の制限、および廃棄の要件に対処します。毎年、またはこの保護対策に影響を与える可能性のある重大な企業変更が発生した場合には、ドキュメントを確認して更新します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 3.10	転送中の機密データを暗号化： 転送中の機密データを暗号化します。実装例としては、Transport Layer Security (TLS) や Open Secure Shell (OpenSSH) などがあります。	基本	ディスカバリー	sn_disco_certificate_cmdb_installed_c	CIS v8 (3.10) CSF (PR.IP-6、PR.DS-2) ISO (5.1、5.9、8.1、5.14) NIST (CM-7(1)、CM-11) PCI (9.4、9.4.2、2.2.7、4.1.1 CCM (DSP-01、DSP-06、GRC-
CIS Control V8 3.11	保存中の機密データを暗号化： 機密データを含むサーバー、アプリケーション、およびデータベースに保存されている機密データを暗号化します。ストレージレイヤー暗号化は、サーバー側暗号化とも呼ばれ、この保護対策の最小要件を満たしています。追加の暗号化方法には、クライアント側暗号化とも呼ばれるアプリケーション層の暗号化が含まれる場合がありますが、データストレージデバイスへのアクセスではプレーンテキストデータへのアクセスが許可されません。	基本	CMDB	cmdb_rel_ci	CIS v8 (3.11) CSF (PR.DS-1) ISO (5.33) NIST (CM-7) PCI (3.1.1、3.3.2、3.3.3、3.5.1、3.5.1.2、3.5.1.3、8.3.2) CCM (DSP-10、CEK-03)

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
CIS Control V8 3.12	機密性に基づいてデータの処理と保存をセグメント化： データの機密性に基づいてデータ処理とストレージをセグメント化します。機密性の低いデータを対象としたエンタープライズ資産の機密データを処理しないでください。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 3.13	データ損失防止ソリューションの展開： ホストベースのデータ損失防止 (DLP) ツールなどの自動化ツールを実装して、オンサイトまたはリモートサービスプロバイダーにあるものを含め、エンタープライズ資産を通じて保存、処理、または送信されるすべての機密データを特定し、企業の機密データインベントリを更新します。	基本	CMDB	cmdb_rel_ci	CIS v8 (3.13) CSF (PR.DS-5) ISO (5.13、8.12) NIST (CM-7) CCM (DSP-10、UEM-11)
CIS Control V8 3.14	機密データアクセスのログ記録： 変更や破棄を含む機密データへのアクセスをログに記録します。	基本	VR	sn_vulc_result	CIS v8 (3.14) ISO (-8.15) NIST (CM-7(1)) PCI (10.2.1、10.2.1.1) CCM (DSP-17、IAM-12、LOG-
CIS Control V8 3.2	データインベントリの確立と管理： 企業のデータ管理プロセスに基づいて、データインベントリを確立および維持します。少なくとも機密データをインベントリします。少なくとも年に 1 回、機密データを優先してインベントリを確認および更新します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 3.3	データアクセスコントロールリストの構成： ユーザーの知る必要性に基づいて、データアクセスコントロールリストを設定します。データ アクセスコ	基本	VR	sn_vulc_result	CIS v8 (3.3) CSF (PR.AC-4) ISO (5.1、5.15、

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
	ントロールリスト (アクセス許可とも呼ばれます) を、ローカルおよびリモートのファイルシステム、データベース、およびアプリケーションに適用します。				8.3、8.4) NIST (SA-22) PCI (1.3.1、 7.1) CCM (DSP-17、IAM-05)
CIS Control V8 3.4	データ保持を強制： 企業のデータ管理プロセスに従ってデータを保持します。データ保持には、最小タイムラインと最大タイムラインの両方を含める必要があります。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 3.5	データの安全な廃棄： 企業のデータ管理プロセスで概説されているように、データを安全に廃棄します。廃棄のプロセスと方法がデータの機密性に見合ったものであることを確認してください。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 3.6	エンドユーザーデバイス上のデータの暗号化： 機密データを含むエンドユーザーデバイスのデータを暗号化します。実装例としては、Windows BitLocker™、Apple FileVault™、Linux dm-crypt などがあります。	基本	CMDB	cmdb_rel_ci	CIS v8 (3.6) ISO (6.7、7.1、8.1) NIST (CM-100) CCM (CEK-03、UEM-08)
CIS Control V8 3.7	データ分類スキームの確立と管理： 企業の全体的なデータ分類スキームを確立し、維持します。企業は、「機密」、「機密」、「公開」などのラベルを使用し、それらのラベルに従ってデータを分類できます。毎年、またはこの保護対策に影響を与える可能性のある重大な企業変更が発生した場合には、分類スキームを見直して更新します。	マニュアル	NA	NA	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
CIS Control V8 3.8	ドキュメントデータフロー： ドキュメントデータフローデータフローのドキュメントには、サービスプロバイダーのデータフローが含まれており、企業のデータ管理プロセスに基づいている必要があります。毎年、またはこの保護対策に影響を与える可能性のある重大な企業変更が発生した場合には、ドキュメントを確認して更新します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 3.9	リムーバブルメディア上のデータを暗号化： リムーバブルメディア上のデータを暗号化します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 4.1	安全な構成プロセスの確立と維持： エンタープライズ資産 (ポータブルおよびモバイルを含むエンドユーザーデバイス、非コンピューティング/IoT デバイス、およびサーバー) とソフトウェア (オペレーティングシステムとアプリケーション) の安全な構成プロセスを確立し、維持します。 毎年、またはこの保護対策に影響を与える可能性のある重大な企業変更が発生した場合には、ドキュメントを確認して更新します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 4.10	ポータブルエンドユーザーデバイスに自動デバイスロックアウトを適用： サポートされている場合は、ポータブルエンドユーザーデバイスでのローカル認証試行失敗の事前定義されたしきい値に従って自動デバイスロックアウトを強制します。ラップトップの場合は、20 回を超える認証試行の失敗を許可しないでください。タブレットおよびスマートフォンの場合、認証試行の失敗は 10 回以内です。実装の例には、MicrosoftInTune デバイスロックとApple構成プロファイル	基本	VR	sn_vulc_result	CIS v8 (4.10) CSF (PR.IP-1) ISO (8.1、8.5、8.9) NIST (SI-7、PM-5(1)) PCI (1.1.1、1.2.1、1.2.6、1.5 1、1.2.7、2.1.1、2.2.1、 CCM (CCC-01、GRC-03、IVS-

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
	maxFailedAttempts が含まれます。				
CIS Control V8 4.11	ポータブルエンドユーザーデバイスにリモートワイプ機能を適用： デバイスの紛失や盗難など、適切と思われる場合、または個人が企業をサポートしなくなった場合に、企業所有のポータブルエンドユーザーデバイスから企業データをリモートでワイプします。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 4.12	モバイルエンドユーザーデバイス上の個別のエンタープライズワークスペース： サポートされている場合は、モバイルエンドユーザーデバイスで個別のエンタープライズワークスペースが使用されていることを確認します。実装例としては、Apple構成プロファイルAndroidまたは仕事プロファイルを使用して、エンタープライズアプリケーションとデータを個人用アプリケーションとデータから分離することが含まれます。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 4.2	ネットワークインフラストラクチャの安全な構成プロセスの確立と維持： ネットワークデバイスの安全な構成プロセスを確立および維持します。毎年、またはこの保護対策に影響を与える可能性のある重大な企業変更が発生した場合には、ドキュメントを確認して更新します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 4.3	エンタープライズ資産の自動セッションロックの設定： 定義された非アクティブ期間が経過した後、企業資産の自動セッションロックを構成します。汎用オペレーティングシステムの場合、期間は 15 分を超えてはなりません。モバイルエンドユーザーデバイスの場	基本	VR	sn_vulc_result	CIS v8 (4.3) CSF (PR.IP-1) ISO (8.5、8.9) PCI (8.2.8) CCM (UEM-06)

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
	合、期間は 2 分を超えてはなりません。				
CIS Control V8 4.4	サーバーにファイアウォールの実装と管理： サポートされている場合は、サーバー上でファイアウォールを実装および管理します。実装例としては、仮想ファイアウォール、オペレーティングシステムのファイアウォール、サードパーティのファイアウォールエージェントなどがあります。	基本	VR	sn_vulc_result	CIS v8 (4.4) PCI (1.2.1、1.4.1)
CIS Control V8 4.5	エンドユーザーデバイスでのファイアウォールの実装と管理： 明示的に許可されているサービスとポートを除くすべてのトラフィックをドロップするデフォルトの拒否ルールを使用して、エンドユーザーデバイスにホストベースのファイアウォールまたはポートフィルタリングツールを実装および管理します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 4.6	エンタープライズ資産とソフトウェアを安全に管理： 企業の資産とソフトウェアを安全に管理します。実装例としては、バージョン管理されたコードとしてのインフラストラクチャを使用した構成の管理や、Secure Shell (SSH) やハイパーテキスト転送プロトコルセキュア (HTTPS) などのセキュアなネットワークプロトコルを介した管理インターフェイスへのアクセスなどがあります。Telnet (Teletype Network) や HTTP などの安全でない管理プロトコルは、運用上必要でない限り使用しないでください。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 4.7	エンタープライズ資産およびソフトウェアのデフォルトアカウントの管理：	基本	VR	sn_vulc_result	CIS v8 (4.7) CSF (PR.AC-1) ISO (8.2、8.9) NIST

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
	ルート、アドミニストレーター、その他の事前設定されたベンダーアカウントなど、エンタープライズ資産およびソフトウェアのデフォルトアカウントを管理します。実装例としては、既定のアカウントを無効にしたり、使用できないようにしたりすることなどがあります。				(SI-12) PCI (2.2.2、2.3.1)
CIS Control V8 4.8	エンタープライズ資産とソフトウェア上の不要なサービスをアンインストールまたは無効にします。 未使用のファイル共有サービス、Web アプリケーションモジュール、サービス機能など、エンタープライズ資産およびソフトウェア上の不要なサービスをアンインストールするか、無効にします。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 4.9	エンタープライズ資産で信頼できる DNS サーバーの構成： エンタープライズ資産で信頼できる DNS サーバーを構成します。実装例には、エンタープライズが管理する DNS サーバーや信頼できる外部からアクセス可能な DNS サーバーを使用するように資産を構成することが含まれます。	基本	VR	sn_vulc_result	CIS v8 (4.9) NIST (PM-5(1))
CIS Control V8 5.1	アカウントのインベントリの作成と維持： エンタープライズで管理されているすべてのアカウントのインベントリの作成と維持。インベントリには、ユーザーアカウントとアドミニストレーターアカウントの両方が含まれている必要があります。インベントリには、少なくとも、個人の名前、ユーザー名、開始日/終了日、および部門が含まれている必要があります。すべてのアクティブなアカウントが、少なくとも四半期ごと、またはそれ以上の頻度で繰り返されるスケジュールで承認されていることを確認します。	マニュアル	NA	NA	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
CIS Control V8 5.2	一意のパスワードの使用： すべてのエンタープライズ資産に対して一意のパスワードを使用します。ベストプラクティスとしては、MFA を使用しているアカウントには 8 文字以上、MFA を使用していないアカウントには 14 文字以上のパスワードを設定することを推奨します。	基本	VR	sn_vulc_result	CIS v8 (5.2) ISO (5.17) NIST (AC-5) PCI (2.2.2、8.3.5、8.5.6、8.6 CCM (IAM-02)
CIS Control V8 5.3	休眠アカウントの無効化： サポートされている場合は、非アクティブ状態が 45 日間続いた後に休眠アカウントを削除または無効にします。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 5.4	アドミニストレーター権限を専用のアドミンアカウントに制限： アドミニストレーター権限をエンタープライズ資産に対する専用のアドミニストレーターアカウントに制限します。ユーザーのプライマリ特権のないアカウントから、インターネット閲覧、メール、生産性スイートの使用などの一般的なコンピューティングアクティビティを実行します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 5.5	サービスアカウントのインベントリの確立と維持： サービスアカウントのインベントリを確立して維持します。インベントリには、少なくとも部門オーナー、レビュー日、および目的が含まれている必要があります。定期的にサービスアカウントのレビューを最低でも四半期ごとに実施し、アクティブなアカウントが適切に承認されていることを確認します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 5.6	アカウント管理を一元化：	マニュアル	NA	NA	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
	ディレクトリまたは ID サービスを通じてアカウント管理を一元化します。				
CIS Control V8 6.1	アクセスを許可するプロセスの確立： ユーザーの新規雇用、権利の付与、またはロールの変更時に企業資産へのアクセスを許可するためのプロセス (できれば自動化) を確立し、これに従います。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 6.2	アクセス取り消しプロセスの確立： ユーザーの終了、権利の取り消し、またはロールの変更の際に直ちにアカウントを無効にすることで、企業資産へのアクセスを取り消すためのプロセス (できれば自動化) を確立し、これに従います。監査証跡を保持するために、アカウントを削除する代わりにアカウントを無効にする必要がある場合があります。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 6.3	外部に公開されたアプリケーションに MFA を要求： サポートされている場合は、外部に公開されているすべてのエンタープライズまたはサードパーティ製アプリケーションに MFA の適用を要求します。ディレクトリサービスまたは SSO プロバイダーを通じて MFA を適用することは、この保護対策の十分な実装です。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 6.4	リモートネットワークアクセスに MFA を要求： リモート ネットワークアクセスに MFA を要求します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 6.5	管理アクセスに MFA を要求： サポートされている場合は、オンサイトで管理されているか、サードパーティのプロバイダーを介して管	マニュアル	NA	NA	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
	理されているかに関係なく、すべてのエンタープライズ資産のすべての管理アクセスアカウントに対して MFA を要求します。				
CIS Control V8 6.6	認証および認可システムのインベントリの確立と維持： オンサイトまたはリモートサービスプロバイダーでホストされているシステムを含む、企業の認証および認可システムのインベントリを確立および維持します。少なくとも、年に 1 回、またはそれ以上の頻度で、インベントリを確認および更新します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 6.7	アクセスコントロールの一元化： サポートされている場合は、ディレクトリサービスまたは SSO プロバイダーを使用して、すべてのエンタープライズ資産のアクセスコントロールを一元化します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 6.8	ロールベースのアクセスコントロールの定義と管理： 企業内の各ロールがアサインされた職務を正常に遂行するために必要なアクセス権を決定および文書化することにより、ロールベースのアクセスコントロールを定義および維持します。エンタープライズ資産のアクセスコントロールレビューを実行して、すべての特権が、少なくとも年に 1 回、またはそれ以上の頻度で繰り返しスケジュールで承認されていることを確認します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 7.1	脆弱性管理プロセスの確立と維持： エンタープライズ資産の脆弱性管理プロセスを文書化して確立し、維持します。毎年、またはこの保護対策に影響を与える可能性のある重大な企業変更が発生した場合には、ドキュメントを確認して更新します。	マニュアル	NA	NA	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
CIS Control V8 7.2	修正プロセスを確立と維持： リスクベースの修復戦略を確立して維持し、毎月またはそれ以上の頻度でレビューを行い、修復プロセスで文書化します。	基本	VR	sn_vul_m2m_cis_v8_srv_status	CIS v8 (7.2) CSF (ID.RA-1) ISO (8.8) NIST (IA-5) PCI (6.3.1、6.4.1) CCM (A&A-03、TVM-08、
CIS Control V8 7.3	オペレーティングシステムの自動パッチ管理の実行： 毎月またはそれ以上の頻度で、自動パッチ管理を通じてエンタープライズ資産のオペレーティングシステムの更新を実行します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 7.4	自動アプリケーションパッチ管理の実行： 毎月またはそれ以上の頻度で、自動パッチ管理を通じてエンタープライズ資産のアプリケーション更新を実行します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 7.5	社内のエンタープライズ資産の自動脆弱性スキャンの実行： 四半期ごとまたはそれ以上の頻度で、社内のエンタープライズ資産の自動脆弱性スキャンを実行します。SCAP 準拠の脆弱性スキャンツールを使用して、認証済みスキャンと非認証スキャンの両方を実行します。	基本	VR	sn_vul_ds_import_q_entry	CIS v8 (7.5) CSF (DE.CM-8) ISO (8.8) NIST (SC-8(1)) PCI (11.3.1、11.3.1.1、11.3.1 CCM (TVM-07)
CIS Control V8 7.6	外部に公開されたエンタープライズ資産の自動脆弱性スキャンの実行： SCAP 準拠の脆弱性スキャンツールを使用して、外部に公開されたエンタープライズ資産の自動脆弱性スキャンを実行します。毎月、またはそれ以上の頻度でスキャンを実行します。	基本	VR	sn_vul_ds_import_q_entry	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
CIS Control V8 7.7	検出された脆弱性の修正： 修正プロセスに基づいて、プロセスとツールを通じてソフトウェアで検出された脆弱性を月次またはそれ以上の頻度で修正します。	基本	VR	sn_vul_app_vulnerability	CIS v8 (7.7) ISO (8.8) NIST (SC-28) PCI (11.3.1、11.3.2、11.3.2.1 CCM (TVM-03)
CIS Control V8 8.1	監査ログ管理プロセスの確立と維持： 企業のログ記録要件を定義する監査ログ管理プロセスを確立し、維持します。少なくとも、エンタープライズ資産の監査ログの収集、レビュー、および保持に対処します。毎年、またはこの保護対策に影響を与える可能性のある重大な企業変更が発生した場合には、ドキュメントを確認して更新します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 8.1	監査ログの保持： エンタープライズ資産全体の監査ログを最低 90 日間保持します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 8.11	監査ログレビューの実施： 監査ログのレビューを実施して、潜在的な脅威を示す可能性のある異常または異常なイベントを検出します。毎週、またはそれ以上の頻度でレビューを実施します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 8.12	サービスプロバイダーのログを収集： サポートされている場合は、サービスプロバイダーのログを収集します。実装例には、認証イベントと承認イベント、データの作成と破棄イベント、ユーザー管理イベントの収集などがあります。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 8.2	監査ログの収集：	基本	VR	sn_vulc_result	CIS v8 (8.2) CSF (PR.PT-1、DE.AE-3)

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
	監査ログを収集します。企業の監査ログ管理プロセスに従って、エンタープライズ資産全体でログ記録が有効になっていることを確認します。				ISO (8.15、8.2) PCI (5.3.4、6.4.1、6.4.2、10. CCM (LOG-08)
CIS Control V8 8.3	適切な監査ログのストレージを確保する： ロギングの宛先が、企業の監査ログ管理プロセスに準拠するのに十分なストレージを維持していることを確認します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 8.4	時刻同期の標準化： 時刻同期を標準化します。サポートされている場合は、エンタープライズ資産全体で少なくとも 2 つの同期されたタイム ソースを構成します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 8.5	詳細な監査ログを収集します。 機密データを含むエンタープライズ資産の詳細な監査ログを構成します。イベントソース、日付、ユーザー名、タイムスタンプ、ソースアドレス、宛先アドレス、およびフォレンジック調査に役立つその他の有用な要素を含めます。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 8.6	DNS クエリ監査ログを収集します。 エンタープライズ資産の DNS クエリ監査ログを、適切でサポートされている場合に収集します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 8.7	URL 要求監査ログを収集： エンタープライズ資産の URL 要求監査ログ (適切かつサポートされている場合) を収集します。	マニュアル	NA	NA	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
CIS Control V8 8.8	コマンドライン監査ログを収集： コマンドライン監査ログを収集します。実装例として ™ は、PowerShell 、BASH 、およびリモート管理端末からの監査ログの収集があります。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 8.9	監査ログの一元化： 監査ログの収集と保持を企業資産全体で可能な限り一元化します。	基本	CMDB	cmdb_ci	CIS v8 (8.9) NIST (AU-12) PCI (10.3.3)
CIS Control V8 9.1	完全にサポートされているブラウザーとメールクライアントのみ使用： 完全にサポートされているブラウザとメールクライアントのみが企業内で実行できるようにし、ベンダーから提供される最新バージョンのブラウザと電子メールクライアントのみを使用します。	基本	VR	sn_vulc_result	CIS v8 (9.1) CSF (PR.IP-1) ISO (8.1) NIST (CM-2)
CIS Control V8 9.2	DNS フィルタリングサービスの使用： すべてのエンタープライズ資産で DNS フィルタリングサービスを使用して、既知の悪意のあるドメインへのアクセスをブロックします。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 9.3	ネットワークベースの URL フィルタの維持および適用： ネットワークベースの URL フィルターを適用および更新して、エンタープライズ資産が悪意のある可能性がある Web サイトや未承認の Web サイトに接続するのを制限します。実装例としては、カテゴリベースのフィルタリング、評判ベースのフィルタリング、またはブロックリストの使用などがあります。すべてのエンタープライズ資産にフィルターを適用します。	基本	VR	sn_vulc_result	CIS v8 (9.3) CSF (PR.AC-5) ISO (8.7、8.23) NIST (CM-7) PCI (1.2.6、1.4.2)

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
CIS Control V8 9.4	不要または許可されていないブラウザおよびメールクライアントの拡張機能の制限： 承認されていない、または不要なブラウザーまたはメールクライアントのプラグイン、拡張機能、およびアドオンアプリケーションをアンインストールまたは無効化することによって制限します。	基本	VR	sn_vulc_result	CIS v8 (9.4) CSF (PR.IP-1) NIST (CM-7(1)) PCI (2.2.4)
CIS Control V8 9.5	DMARC の実装： 有効なドメインからのなりすましメールや変更されたメールの可能性を下げるには、送信者ポリシーフレームワーク (SPF) とドメインキー識別メール (DKIM) 標準の実装から始めて、DMARC ポリシーと検証を実装します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 9.6	不要なファイルタイプをブロック： 企業のメールゲートウェイに入ろうとする不要なファイルタイプをブロックします。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 9.7	メールサーバーのマルウェア対策保護の展開と維持： 添付ファイルのスキャンやサンドボックス化など、メール サーバーのマルウェア対策保護を展開して維持します。	基本	CMDB	cmdb_rel_ci	CIS v8 (9.7) CSF (DE.CM-4) ISO (8.7) NIST (SA-80) PCI (5.2.1、5.4.1) CCM (TVM-02)
CIS Control V8 10.1	マルウェア対策ソフトウェアの展開と保守： マルウェア対策ソフトウェアをすべてのエンタープライズ資産に展開して維持します。	基本	CMDB	cmdb_ci	CIS v8 (10.1) CSF (DE.CM-4) ISO (8.1, 8.7) NIST (SA-10) PCI (5.1.1、5.2.1、5.2.2、5.3 CCM (TVM-02、UEM-09)

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
CIS Control V8 10.2	マルウェア対策署名の自動更新の構成： すべてのエンタープライズ資産のマルウェア対策署名ファイルの自動更新を構成します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 10.3	リムーバブルメディアの自動実行と自動再生を無効にする： リムーバブルメディアの自動実行と自動再生の自動実行機能を無効にします。	基本	VR	sn_vulc_result	CIS v8 (10.3) CSF (PR.PT-2) ISO (7.1) NIST (AC-18(1))
CIS Control V8 10.4	リムーバブルメディアの自動マルウェア対策スキャンを構成： リムーバブルメディアを自動的にスキャンするようにマルウェア対策ソフトウェアを構成します。	基本	VR	sn_vulc_result	CIS v8 (10.4) CSF (DE.CM-4) ISO (7.1, 8.7) NIST (AC-18(3)) PCI (5.3.3)
CIS Control V8 10.5	悪用防止機能を有効にする： 可能な場合は、データ実行防止 (DEP)、 Windows Defender Exploit Guard (WDEG)、システム整合性保護 (SIP)、Appleゲートキーパー などのMicrosoftエンタープライズ資産とソフトウェアのエクスプロイト対策機能を有効にします。	基本	VR	sn_vulc_result	CIS v8 (10.5) CSF (DE.CM-4) ISO (8.7) NIST (CM-2)
CIS Control V8 10.6	マルウェア対策ソフトウェアを一元管理： マルウェア対策ソフトウェアを一元管理します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 10.7	動作ベースのマルウェア対策ソフトウェアを使用する： 動作ベースのマルウェア対策ソフトウェアを使用します。	基本	CMDB	cmdb_rel_ci	CIS v8 (10.7) CSF (DE.CM-4) ISO (8.1、8.7) NIST (CM-7)

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
					PCI (5.3.2)
CIS Control V8 11.1	データ復旧プロセスを確立して維持する ： データ復旧プロセスを確立して維持します。その過程で、データ復旧アクティビティの範囲、復旧の優先順位付け、バックアップデータのセキュリティについて検討します。毎年、またはこの保護対策に影響を与える可能性のある重大な企業変更が発生した場合には、ドキュメントを確認して更新します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 11.2	自動バックアップの実行 ： スコープ内のエンタープライズ資産の自動バックアップを実行します。データの機密性に基づいて、毎週、またはそれ以上の頻度でバックアップを実行します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 11.3	復旧データを保護する： 元のデータと同等のコントロールで復旧データを保護します。要件に基づく参照暗号化またはデータ分離。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 11.4	復旧データの分離されたインスタンスを確立して維持する ： 復旧データの保護：実装例には、オフライン、クラウド、またはオフサイトのシステムまたはサービスを介したバックアップ先のバージョン管理が含まれます。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 11.5	テストデータ復旧： バックアップの復旧を四半期ごとに、またはより頻繁にテストして、スコープ内のエンタープライズ資産のサンプリングを確認します。	マニュアル	NA	NA	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
CIS Control V8 12.1	ネットワークインフラストラクチャが最新であることの確認： ネットワークインフラストラクチャが最新の状態に保たれていることを確認します。実装例としては、ソフトウェアの最新の安定版リリースの実行や、現在サポートされているサービスとしてのネットワーク (NaaS) オファリングの使用などがあります。毎月、またはそれ以上の頻度でソフトウェアのバージョンを確認し、ソフトウェアのサポートを検証します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 12.2	安全なネットワークアーキテクチャの確立と維持： 安全なネットワークアーキテクチャを確立し、維持します。セキュリティで保護されたネットワークアーキテクチャは、少なくともセグメンテーション、最小特権、および可用性に対処する必要があります。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 12.3	ネットワークインフラストラクチャを安全に管理： ネットワークインフラストラクチャを安全に管理します。実装の例には、バージョン管理されたコードとしてのインフラストラクチャ、SSH や HTTPS などのセキュリティで保護されたネットワークプロトコルの使用などがあります。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 12.4	アーキテクチャ図の確立と維持： アーキテクチャ図やその他のネットワークシステムのドキュメントを確立し、維持します。毎年、またはこの保護対策に影響を与える可能性のある重大な企業変更が発生した場合には、ドキュメントを確認して更新します。	マニュアル	NA	NA	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
CIS Control V8 12.5	ネットワーク認証、許可、および監査 (AAA) を一元化します。 ネットワーク AAA を一元化します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 12.6	安全なネットワーク管理および通信プロトコルの使用 ： 安全なネットワーク管理および通信プロトコル (802.1X、Wi-Fi Protected Access 2 (WPA2) Enterprise 以降など) を使用します。	基本	VR	sn_vulc_result	CIS v8 (12.6) CSF (PR.AC-7、PR.DS-2) ISO (8.21) NIST (SC-7(5))
CIS Control V8 12.7	リモートデバイスが VPN を利用し、企業の AAA インフラストラクチャに接続する： エンドユーザーデバイスのエンタープライズリソースにアクセスする前に、エンタープライズ管理の VPN および認証サービスに対する認証をユーザーに要求します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 12.8	すべての管理作業のための専用のコンピューティングリソースの確立と維持： すべての管理タスクまたは管理アクセスを必要とするタスクのために、物理的または論理的に分離された専用のコンピューティングリソースを確立して維持します。コンピューティングリソースは、企業のプライマリネットワークからセグメント化する必要があり、インターネットアクセスを許可しないでください。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 13.1	セキュリティイベントアラートの一元化： ログの相関付けと分析のために、エンタープライズ資産全体のセキュリティイベントアラートを一元化します。ベストプラクティスの実装では、ベンダー定義のイベント相関アラートを含む SIEM を使用する必	マニュアル	NA	NA	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
	要があります。セキュリティ関連の相関アラートで構成されたログアナリティクスプラットフォームも、この保護対策を満たしています。				
CIS Control V8 13.1	アプリケーション層のフィルタリングの実行： アプリケーション層のフィルタリングを実行します。実装例としては、フィルタリングプロキシ、アプリケーション層ファイアウォール、ゲートウェイなどがあります。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 13.11	セキュリティイベントアラートしきい値の調整： セキュリティイベントアラートしきい値を毎月、またはそれ以上の頻度で調整します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 13.2	ホストベースの侵入検知ソリューションの展開： ホストベースの侵入検知ソリューションをエンタープライズ資産に展開します (適切またはサポートされている場合)。	基本	CMDB	cmdb_rel_ci	CIS v8 (13.2) CSF (DE.CM-1) ISO (8.16) NIST (CM-6) PCI (6.4.2)
CIS Control V8 13.3	ネットワーク侵入検知ソリューションの展開： 必要に応じて、ネットワーク侵入検知ソリューションをエンタープライズ資産に展開します。実装例としては、ネットワーク侵入検知システム (NIDS) または同等のクラウドサービスプロバイダー (CSP) サービスの使用などがあります。	基本	CMDB	cmdb_ci	CIS v8 (13.3) CSF (DE.CM-1) ISO (8.16, 8.21) NIST (CM-7) PCI (11.5.1, 12.10.5) CCM (IVS-09)
CIS Control V8 13.4	ネットワークセグメント間でトラフィックフィルタリングの実行：	マニュアル	NA	NA	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
	必要に応じて、ネットワーク セグメント間でトラフィックのフィルタリングを実行します。				
CIS Control V8 13.5	リモート資産のアクセスコントロールの管理： エンタープライズリソースにリモート接続する資産のアクセスコントロールを管理します。以下に基づいてエンタープライズリソースへのアクセスの量を決定します。インストールされている最新のマルウェア対策ソフトウェア、企業の安全な構成プロセスへの構成コンプライアンス、オペレーティングシステムとアプリケーションが最新であること。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 13.6	ネットワークトラフィックフローログの収集： ネットワークトラフィックフローログやネットワーク トラフィックを収集して、ネットワークデバイスから確認して警告します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 13.7	ホストベースの侵入防御ソリューションの展開： ホストベースの侵入防止ソリューションをエンタープライズ資産に展開します (適切またはサポートされている場合)。実装例には、Endpoint Detection and Response (EDR) クライアントまたはホストベースの IPS エージェントの使用が含まれます。	基本	CMDB	cmdb_ci	CIS v8 (13.7) CSF (DE.CM-1) ISO (8.8) NIST (AC-7)
CIS Control V8 13.8	ネットワーク侵入防止ソリューションの展開： 必要に応じて、ネットワーク侵入防止ソリューションを展開します。実装例としては、ネットワーク侵入防止システム (NIPS) または同等の CSP サービスの使用が含まれます。	基本	CMDB	cmdb_ci	CIS v8 (13.8) CSF (DE.CM-1) ISO (8.8) NIST (AC-19) PCI (6.4.2、11.5.1、12.10.5) CCM (IVS-09)

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
CIS Control V8 13.9	ポートレベルのアクセスコントロールを展開： ポートレベルのアクセスコントロールを展開します。ポートレベルのアクセスコントロールは、802.1x、または証明書などの同様のネットワークアクセスコントロールプロトコルを利用し、ユーザーやデバイスの認証を組み込むことができます。	基本	CMDB	cmdb_ci_endpoint	CIS v8 (13.9) CSF (PR.AC-1) ISO (8.8) NIST (AC-19) PCI (1.2.1、1.2.5、1.2.6、2.2 CCM (IVS-03)
CIS Control V8 14.1	セキュリティ認識向上プログラムの確立と維持： セキュリティ認識向上プログラムを確立し、維持します。セキュリティ認識向上プログラムの目的は、企業の資産とデータを安全な方法で操作する方法について、企業の従業員を教育することです。雇用時、少なくとも毎年トレーニングを実施します。毎年、またはこの保護対策に影響を与える可能性のある重大な企業変更が発生した場合には、内容を確認して更新します。	基本	ラーニングコア	sn_lc_user_course_activity	CIS v8 (14.1) CSF (ID.AM-6、ID.GV-1、PR.A ISO (6.3) NIST (SC-39) PCI (12.6、12.6.1、12.6.2、1 CCM (GRC-05、HRS-11、GRC
CIS Control V8 14.2	ソーシャルエンジニアリング攻撃を認識するように従業員メンバーをトレーニング： フィッシング、プレテキストメッセージ、テールゲートなどのソーシャルエンジニアリング攻撃を認識するように従業員メンバーをトレーニングします。	基本	ラーニングコア	sn_lc_user_course_activity	CIS v8 (14.2) CSF (PR.AT-1) ISO (8.7) PCI (12.6.3.1) CCM (HRS-11)
CIS Control V8 14.3	認証のベストプラクティスについて従業員メンバーをトレーニング： 認証のベストプラクティスについて従業員メンバーをトレーニングします。トピックの例には、MFA、パスワード構成、および認証情報管理が含まれます。	基本	ラーニングコア	sn_lc_user_course_activity	CIS v8 (14.3) CSF (PR.AT-1) ISO (6.3) PCI (8.3.8) CCM (GRC-05, HRS-11)

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
CIS Control V8 14.4	データ処理のベストプラクティスについて従業員をトレーニング： 機密データを特定し、適切に保存、転送、アーカイブ、破棄する方法について、従業員メンバーをトレーニングします。これには、エンタープライズ資産から離れたときに画面をロックする、会議の最後に物理および仮想のホワイトボードを消去する、データと資産を安全に保存するなど、明確な画面とデスクのベストプラクティスに関する従業員のトレーニングも含まれます。	基本	ラーニングコア	sn_lc_user_course_activity	CIS v8 (14.4) CSF (PR.AT-1) ISO (5.1) NIST (AC-2) CCM (DSP-17、GRC-01、HRS-
CIS Control V8 14.5	意図しないデータ漏えいの原因について従業員をトレーニング： 意図しないデータ漏えいの原因を認識するように人員メンバーをトレーニングします。トピックの例としては、機密データの誤配信、ポータブルエンドユーザーデバイスの紛失、意図しない対象者へのデータの公開などがあります。	基本	ラーニングコア	sn_lc_user_course_activity	CIS v8 (14.5) CSF (PR.AT-1) ISO (6.3) NIST (IA-5(1)) CCM (GRC-01、HRS-11)
CIS Control V8 14.6	セキュリティインシデントの認識とレポートについて、人員メンバーをトレーニング： 潜在的なインシデントを認識し、そのようなインシデントを報告できるように、人員メンバーをトレーニングします。	基本	ラーニングコア	sn_lc_user_course_activity	CIS v8 (14.6) CSF (PR.AT-1) ISO (6.8) NIST (AC-2(3)) CCM (HRS-11)
CIS Control V8 14.7	エンタープライズ資産にセキュリティ更新プログラムがない場合に識別して報告する方法について、従業員をトレーニング： 古いソフトウェアパッチや、自動化されたプロセスやツールの障害を検証してレポートする方法を理解するよう、従業員をトレーニングします。このトレーニングの一部には、自動化されたプロセスとツールの障害をIT担当者に通知することを含める必要があります。	基本	ラーニングコア	sn_lc_user_course_activity	CIS v8 (14.7) CSF (PR.AT-1) ISO (6.3) NIST (AC-6(2)) CCM (HRS-11)

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
CIS Control V8 14.8	安全でないネットワークを介して企業データに接続して送信することの危険性について、従業員をトレーニング： 企業活動のために安全でないネットワークに接続し、データを送信する危険性について、従業員メンバーをトレーニングします。企業にリモートワーカーがいる場合、トレーニングには、すべてのユーザーがホームネットワークインフラストラクチャを安全に構成するためのガイダンスを含める必要があります。	基本	ラーニングコア	sn_lc_user_course_activity	CIS v8 (14.8) CSF (PR.AT-1) ISO (6.3) NIST (AC-6(5)) PCI (12.6.3.2) CCM (GRC-01、HRS-04)
CIS Control V8 14.9	ロール固有のセキュリティ認識とスキルのトレーニングを実施： ロール固有のセキュリティ認識とスキルのトレーニングを実施します。実装例としては、ITプロフェッショナル向けの安全なシステム管理コース (Webアプリケーション開発者向けのOWASP トップ10の脆弱性認識と防止トレーニング、および著名なロール向けの高度なソーシャルエンジニアリング認識トレーニング) が含まれます。	基本	ラーニングコア	sn_lc_user_course_activity	CIS v8 (14.9) CSF (PR.AT-1、PR.AT-2、R.AT ISO (6.3) NIST (AC-2) PCI (9.5.1、9.5.1.3、12.10.40 CCM (HRS-09、HRS-12)
CIS Control V8 15.1	サービスプロバイダーのインベントリの確立と維持： サービスプロバイダーのインベントリを確立して維持します。インベントリは、すべての既知のサービスプロバイダーをリストし、分類を含めて、各サービスプロバイダーのエンタープライズ連絡先を指定するためのものです。毎年、またはこの保護対策に影響を与える可能性のある重大な企業変更が発生した場合には、インベントリを確認して更新します。	基本	VRM	core_company	CIS v8 (15.1) CSF (ID.SC-2) ISO (5.19) NIST (AC-2(1)) PCI (12.8.1) CCM (STA-07)
CIS Control V8 15.2	サービスプロバイダー管理ポリシーの確立と維持：	マニュアル	NA	NA	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
	サービスプロバイダー管理ポリシーを確立して維持します。ポリシーがサービスプロバイダーの分類、インベントリ、アセスメント、監視、および廃止に対応していることを確認します。毎年、またはこの保護対策に影響を与える可能性のある重大な企業変更が発生した場合には、ポリシーを確認して更新します。				
CIS Control V8 15.3	サービスプロバイダーの分類： サービスプロバイダーを分類します。分類の考慮事項には、データの機密性、データ量、可用性要件、適用される規制、固有リスク、軽減されたリスクなど、1 つ以上の特性が含まれる場合があります。毎年、またはこの保護対策に影響を与える可能性のある重大な企業変更が発生した場合には、分類を更新して確認します。	基本	VRM	core_company	CIS v8 (15.3) CSF (ID.SC-2) ISO (5.19) PCI (12.8.5) CCM (GRC-02、STA-03)
CIS Control V8 15.4	サービスプロバイダー契約に次のセキュリティ要件が含める： サービスプロバイダーの契約にセキュリティ要件が含まれていることを確認します。要件の例には、最小セキュリティプログラム要件、セキュリティインシデントおよび/またはデータ侵害の通知と応答、データ暗号化要件、およびデータ廃棄コミットメントが含まれる場合があります。これらのセキュリティ要件は、企業のサービスプロバイダー管理ポリシーと一致する必要があります。サービスプロバイダーの契約を 1 年に 1 回レビューし、契約にセキュリティ要件が備わっていないことを確認します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 15.5	サービスプロバイダーの評価： 企業のサービスプロバイダー管理ポリシーに準拠したサービスプロバイダーを評価します。アセスメントの範囲は分類によって異なる場合があり、サービス組織コントロー	基本	VRM	core_company	CIS v8 (15.5) CSF (ID.SC-4、ID.SC-2) ISO (5.19) NIST (IA-5) PCI

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
	ル 2 (SOC 2) やペイメントカード業界 (PCI) コンプライアンス証明書 (AoC)、カスタマイズされたアンケート、またはその他の適切に厳格なプロセスなどの標準化されたアセスメントレポートのレビューが含まれる場合があります。サービスプロバイダーを年に 1 回、最低でも再評価するか、新規契約や更新契約で再評価します。				(12.8.3) CCM (STA-12、STA-13)
CIS Control V8 15.5	サービスプロバイダーの評価： 企業のサービスプロバイダー管理ポリシーに準拠したサービスプロバイダーを評価します。アセスメントの範囲は分類によって異なる場合があり、サービス組織コントロール 2 (SOC 2) やペイメントカード業界 (PCI) コンプライアンス証明書 (AoC)、カスタマイズされたアンケート、またはその他の適切に厳格なプロセスなどの標準化されたアセスメントレポートのレビューが含まれる場合があります。サービスプロバイダーを年に 1 回、最低でも再評価するか、新規契約や更新契約で再評価します。	基本	VRM	core_company	CIS v8 (15.5) CSF (ID.SC-4、ID.SC-2) ISO (5.22、5.23) NIST (IA-5) PCI (12.8.30) CCM (STA-12、STA-13)
CIS Control V8 15.6	サービスプロバイダーの監視： 企業のサービスプロバイダー管理ポリシーに準拠したサービスプロバイダーを監視します。監視には、サービスプロバイダーのコンプライアンスの定期的な再評価、サービスプロバイダーのリリースノートの監視、ダークウェブの監視が含まれる場合があります。	基本	VRM	core_company	CIS v8 (15.6) CSF (DE.CM-6) ISO (5.2、5.19、5.21、5.22) NIST (AC-1) PCI (8.2.7、12.4.2、12.4.2.1、 CCM (STA-14)
CIS Control V8 15.7	サービスプロバイダーの安全な廃止： サービスプロバイダーを安全に廃止します。考慮事項の例には、ユーザーおよびサービスアカウントの非アクティブ化、データフローの終了、サービスプロバイダーシステム	基本	VRM	core_company	CIS v8 (15.7) CSF (PR.AC-1) ISO (5.19、5.2) NIST (AC-2、AC-2(1))

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
	内での企業データの安全な廃棄などが含まれます。				
CIS Control V8 16.1	安全なアプリケーション開発プロセスの確立と維持： 安全なアプリケーション開発プロセスを確立し、維持します。このプロセスでは、安全なアプリケーション設計標準、安全なコーディングプラクティス、開発者トレーニング、脆弱性管理、サードパーティコードのセキュリティ、アプリケーションセキュリティテスト手順などの項目に対処します。毎年、またはこの保護対策に影響を与える可能性のある重大な企業変更が発生した場合には、ドキュメントを確認して更新します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 16.1	アプリケーションアーキテクチャに安全な設計原則を適用： 安全な設計原則をアプリケーションアーキテクチャに適用します。安全な設計原則には、最小特権の概念と、ユーザーが行うすべての操作を検証するためのメディエーションの強制が含まれており、「ユーザー入力を決して信頼しない」という概念を推進します。たとえば、サイズ、データ型、許容範囲や形式など、すべての入力について明示的なエラーチェックが実行され、文書化されていることを確認します。セキュリティで保護された設計は、保護されていないポートとサービスのオフ、不要なプログラムとファイルの削除、既定のアカウントの名前変更や削除など、アプリケーション インフラストラクチャの攻撃対象領域を最小限に抑えることも意味します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 16.11	アプリケーションセキュリティコンポーネント用に検証済みのモジュールまたはサービスを活用： ID 管理、暗号化、監査、ログ記録などのアプリケーションセキュリ	マニュアル	NA	NA	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
	ティコンポーネントに対して、検証済みのモジュールまたはサービスを活用します。重要なセキュリティ機能でプラットフォーム機能を使用すると、開発者の作業負荷が軽減され、設計エラーや実装エラーの可能性が最小限に抑えられます。最新のオペレーティングシステムは、識別、認証、および承認のための効果的なメカニズムを提供し、それらのメカニズムをアプリケーションで使用できるようにします。標準化され、現在受け入れられ、広範囲にレビューされた暗号化アルゴリズムのみを使用します。オペレーティングシステムには、セキュリティで保護された監査ログを作成および維持するためのメカニズムも用意されています。				
CIS Control V8 16.12	コードレベルのセキュリティチェックの実装： アプリケーションのライフサイクル内で静的および動的分析ツールを適用して、安全なコーディングプラクティスに従っていることを確認します。	マニュアル	NA		
CIS Control V8 16.13	アプリケーションのペネトレーションテストの実行： アプリケーションのペネトレーションテストを実行します。重要なアプリケーションの場合、認証された侵入テストは、コードスキャンや自動セキュリティテストよりもビジネスロジックの脆弱性の検出に適しています。ペネトレーションテストは、認証済みユーザーと非認証ユーザーとしてアプリケーションを手動で操作するテスターのスキルに依存しています。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 16.14	脅威モデルの実行： 脅威のモデル化を実行します。脅威モデリングは、コードを作成する前に、設計内のアプリケーションセ	マニュアル	NA	NA	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
	キュリティ設計の欠陥を特定して対処するプロセスです。これは、アプリケーションの設計を評価し、各エントリポイントとアクセスレベルのセキュリティリスクを評価する特別な訓練を受けた個人を通じて実施されます。目標は、アプリケーション、アーキテクチャ、およびインフラストラクチャを構造化された方法でマッピングし、その弱点を理解することです。				
CIS Control V8 16.2	ソフトウェアの脆弱性を受け入れて対処するためのプロセスを確立と維持： 外部団体が報告する手段を提供するなど、ソフトウェアの脆弱性の報告を受け入れて対処するプロセスを確立および維持します。このプロセスには、レポートプロセスを特定する脆弱性処理ポリシー、脆弱性レポートを処理する責任者、取り込み、アサイン、修復、修復テストのプロセスなどのアイテムを含めます。プロセスの一部として、重大度評価と、脆弱性の特定、分析、修復のタイミングを測定するためのメトリクスを含む脆弱性追跡システムを使用します。毎年、またはこの保護対策に影響を与える可能性のある重大な企業変更が発生した場合には、ドキュメントを確認して更新します。	基本	VR	sn_vul_remediation_task	CIS v8 (16.2) CSF (RS.AN-5) ISO (8.8) NIST (AC-2) PCI (6.3.1) CCM (AIS-07、AIS-03)
CIS Control V8 16.3	セキュリティ脆弱性の根本原因分析を実行： セキュリティ脆弱性の根本原因分析を実行します。脆弱性を確認する場合、根本原因分析は、コードに脆弱性を作成する根本的な問題を評価するタスクであり、開発チームは、個々の脆弱性が発生したときに修正するだけではありません。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 16.4	サードパーティ製ソフトウェアコンポーネントのインベントリの確立と管理：	マニュアル	NA	NA	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
	開発で使用されるサードパーティ製コンポーネント (「部品表」と呼ばれることが多い) と、将来使用する予定のコンポーネントの更新されたインベントリを確立して管理します。このインベントリには、各サードパーティコンポーネントがもたらす可能性のあるリスクを含めます。少なくとも月に 1 回はリストを評価して、これらのコンポーネントに対する変更や更新を特定し、コンポーネントがまだサポートされていることを検証します。				
CIS Control V8 16.5	最新の信頼できるサードパーティ製ソフトウェアコンポーネントの使用： 最新の信頼できるサードパーティ製ソフトウェアコンポーネントを使用します。可能であれば、適切なセキュリティを提供する確立され実績のあるフレームワークとライブラリを選択してください。使用前に、信頼できるソースからこれらのコンポーネントを入手するか、ソフトウェアの脆弱性を評価してください。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 16.6	アプリケーションの脆弱性に対する深刻度評価システムとプロセスの確立と維持： 検出された脆弱性を修正する順序の優先順位付けを容易にする、アプリケーションの脆弱性の重大度評価システムとプロセスを確立して維持します。このプロセスには、コードまたはアプリケーションをリリースするためのセキュリティ受容性の最小レベルの設定が含まれます。深刻度評価は、脆弱性をトリアージする体系的な方法をもたらし、リスク管理を改善し、最も重大なバグが最初に修正されるようにするのに役立ちます。システムとプロセスを毎年確認および更新します。	基本	VR	sn_vul_vulnerable_item	CIS v8 (16.6) CSF (RS.AN-1) ISO (8.8) NIST (AC-19) PCI (6.3.1) CCM (AIS-07、TVM-08)

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
CIS Control V8 16.7	アプリケーションインフラストラクチャの標準ハードニング構成テンプレートの使用： アプリケーションインフラストラクチャコンポーネントには、業界で推奨される標準のハードニング構成テンプレートを使用します。これには、基盤となるサーバー、データベース、および Web サーバーが含まれ、クラウド コンテナー、サービスとしてのプラットフォーム (PaaS) コンポーネント、および SaaS コンポーネントに適用されます。自社開発のソフトウェアで構成の強化を弱めないようにしてください。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 16.8	本番システムと非本番システムを分離： 本番システムと非本番システムで別々の環境を維持します。	スクリプト	CMDB	cmdb_ci	CIS v8 (16.8) CSF (PR.DS-7) ISO (8.31) NIST (IA-2(2)) PCI (6.5.3) CCM (IVS-05)
CIS Control V8 16.9	アプリケーションセキュリティの概念とセキュアコーディングについての開発者のトレーニング： すべてのソフトウェア開発担当者が、特定の開発環境と責任に合わせて安全なコードを記述するためのトレーニングを受けられるようにします。トレーニングには、一般的なセキュリティ原則とアプリケーションセキュリティの標準プラクティスが含まれます。少なくとも年に 1 回トレーニングを実施し、開発チーム内のセキュリティを促進する方法で設計し、開発者の間でセキュリティの文化をビルドします。	基本	ラーニングコア	sn_lc_user_course_activity	CIS v8 (16.9) CSF (PR.AT-1, PR.AT-2) ISO (8.28) NIST (IA-2(1)) PCI (6.2.2)

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
CIS Control V8 17.1	インシデント処理を管理する担当者の指名： 企業のインシデント処理プロセスを管理する 1 人のキーパーソンと少なくとも 1 人のバックアップを指定します。管理担当者は、インシデント応答と復旧作業の調整と文書化を担当し、企業内部の従業員、サードパーティベンダー、またはハイブリッドアプローチで構成できます。サードパーティベンダーを使用している場合は、サードパーティの作業を監督する社内の担当者を少なくとも 1 人指名します。年に 1 回、またはこの保護対策に影響を与える可能性のある企業の重大な変更が発生した場合にレビューします。	基本	SIR	sys_user_has_role	CIS v8 (17.1) CSF (PR.IP-9, DE.DP-1) ISO (5.24) NIST (AC-5) PCI (12.10.3, 12.10.4) CCM (BCR-01、SEF-03)
CIS Control V8 17.2	セキュリティインシデントを報告するための連絡先情報の確立と管理： セキュリティインシデントを通知する必要がある関係者の連絡先情報を確立して管理します。連絡先には、社内スタッフ、サードパーティベンダー、法執行機関、サイバー保険会社、関連する政府機関、情報共有およびアナリティクスセンター (ISAC) パートナー、またはその他のステークホルダーが含まれる場合があります。連絡先を毎年検証して、情報が最新であることを確認します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 17.3	インシデントを報告するためのエンタープライズプロセスの確立と維持： 人員がセキュリティインシデントを報告するためのエンタープライズプロセスを確立し、維持します。このプロセスには、報告の時間枠、報告する担当者、報告のメカニズム、および報告する最小限の情報が含まれます。プロセスがすべての人員に公開されるように確保します。年に 1 回、またはこの保護対策に影響を与	基本	SIR	kb_knowledge	CIS v8 (17.3) CSF (PR.IP-9, PR.AT-1) ISO (6.8) NIST (AC-6(1)) PCI (12.10)

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
	える可能性のある企業の重大な変更が発生した場合にレビューします。				
CIS Control V8 17.4	インシデント応答プロセスの確立と維持： ロールと責任、コンプライアンス要件、およびコミュニケーション計画に対応するインシデント応答プロセスを確立し、維持します。年に 1 回、またはこの保護対策に影響を与える可能性のある企業の重大な変更が発生した場合にレビューします。	マニュアル	SIR	NA	
CIS Control V8 17.5	主なロールと責任のアサイン： 必要に応じて、法務、IT、情報セキュリティ、施設、広報、人事、インシデント対応者、アナリストのスタッフを含む、インシデント応答の主要なロールと責任をアサインします。年に 1 回、またはこの保護対策に影響を与える可能性のある企業の重大な変更が発生した場合にレビューします。	基本	SIR	sys_user_has_role	CIS v8 (17.5) CSF (DE.DP-4, RS.CO-2, RS.CO-3、RS.CO-4) ISO (5.2, 5.24) NIST (AU-9(4)) PCI (12.10.3) CCM (SEF-03)
CIS Control V8 17.6	インシデント応答時の通信メカニズムを定義： セキュリティインシデント中の通信とレポートに使用するプライマリおよびセカンダリメカニズムを決定します。メカニズムには、電話、メール、または手紙を含めることができます。セキュリティインシデントの発生中は、メールなどの特定のメカニズムが影響を受ける可能性があることに注意してください。年に 1 回、またはこの保護対策に影響を与える可能性のある企業の重大な変更が発生した場合にレビューします。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 17.7	日常的なインシデント応答訓練の実施：	マニュアル	NA	NA	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
	インシデント応答プロセスに関与する主要な担当者を対象に、定期的なインシデント応答の訓練とシナリオを計画および実施し、実際のインシデント応答に備えます。演習では、コミュニケーションチャネル、意思決定、およびワークフローをテストする必要があります。少なくとも毎年テストを実施してください。				
CIS Control V8 17.8	以下のインシデント後のレビューの実施： インシデント後のレビューを実施します。インシデントの事後レビューは、学んだ教訓とフォローアップアクションを特定することで、インシデントの再発防止に役立ちます。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 17.9	セキュリティインシデントしきい値の確立と維持： 少なくともインシデントとイベントの区別を含む、セキュリティインシデントのしきい値を設定して維持します。例としては、異常なアクティビティ、セキュリティの脆弱性、セキュリティの脆弱性、データ侵害、プライバシーインシデントなどがあります。年に 1 回、またはこの保護対策に影響を与える可能性のある企業の重大な変更が発生した場合にレビューします。	基本	SIR	sn_si_calculator	cisv8 (17.9) CSF (RS.AN-5) ISO (5.24, 5.25) NIST (RA-5) PCI (12.10.5) CCM (SEF-05)
CIS Control V8 18.1	ペネトレーションテストプログラムの確立と維持： 企業の規模、複雑さ、および成熟度に適したペネトレーションテストプログラムを確立し、維持します。ペネトレーションテストプログラムの特性には、スコープ (ネットワーク、Web アプリケーション、アプリケーションプログラミングインターフェイス (API)、ホストされたサービス、物理前提コントロールなど)、頻度 (許容される時間や除外される攻撃の種類などの制限。連絡先情報)、修正 (検出結果が内部で	マニュアル	NA	NA	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS v8 Controls のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	タイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連コントロール目標
	どのようにルーティングされるかなど)、遡及的な要件が含まれます。				
CIS Control V8 18.2	定期的な外部ペネトレーションテストを実行： プログラムの要件に基づいて、毎年以上の定期的な外部ペネトレーションテストを実行します。外部ペネトレーションテストには、悪用可能な情報を検出するために、エンタープライズおよび環境の偵察を含める必要があります。ペネトレーションテストには専門的なスキルと経験が必要であり、資格のある当事者を通じて実施する必要があります。テストは、クリアボックスまたは不透明なボックスである可能性があります。	基本	VR	sn_vul_remediation_task	CIS v8 (18.2) ISO (8.8) NIST (RA-7) PCI (11.4.3)
CIS Control V8 18.3	ペネトレーションテストの結果を修正： 修復の範囲と優先順位付けに関する企業のポリシーに基づいて、ペネトレーションテスト結果を修復します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 18.4	セキュリティ対策の検証： 各ペネトレーションテスト後にセキュリティ対策を検証します。必要に応じて、ルールセットと機能を変更して、テスト中に使用された手法を検出します。	マニュアル	NA	NA	
CIS Control V8 18.5	定期的な内部侵入テストを実行： NA	基本	VR	sn_vul_remediation_task	CIS v8 (18.5) ISO (8.8) NIST (RA-5) PCI (11.4.2)

CIS Controls v7 のインジケーターテンプレート

次の表に、CIS Controls v7 の [基本] および [スクリプト] インジケーターテンプレートを示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:
現在、基本またはスクリプト化のインジケーターテンプレートのいずれかでカバーされていないコントロールには、コンプライアンス検証の目的で定義された手動インジケーターテンプレートがあります。

CIS Controls v7 の基本インジケーターテンプレート

コントロール	名前/説明	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
CIS Control 1.1	アクティブディスカバリーツールを使用： アクティブディスカバリーツールを使用して、組織のネットワークに接続されているデバイスを特定し、ハードウェア資産のインベントリを更新します。	構成管理 (CMDB)	CMDB ディスカバリー [cmdb_discovery]	07054 00693
CIS Control 1.2	受動的資産ディスカバリーツールを使用： パッシブなディスカバリーツールを使用して、組織のネットワークに接続されているデバイスを特定し、組織のハードウェア資産のインベントリを自動的に更新します。	ディスカバリー	ネットワークディスカバリートラッキング [discovery_network_track]	01472
CIS Controls 1.4	詳細な資産インベントリを管理： 情報を保存または処理する可能性があるすべてのテクノロジー資産の正確かつ最新のインベントリを維持します。このインベントリには、組織のネットワークに接続されているかどうかにかかわらず、すべてのハードウェア資産が含まれます。	構成管理 (CMDB)	ハードウェア [cmdb_ci_hardware]	06631 00691

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS Controls v7 の基本インジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
CIS Control 1.5	資産インベントリ情報を管理： ハードウェア資産インベントリに、各資産のネットワークアドレス、ハードウェアアドレス、マシン名、データ資産オーナー、部門、およびハードウェア資産がネットワークへの接続が承認されているかどうかが記録されていることを確認します。	構成管理 (CMDB)	ベース構成アイテム [cmdb]	06638 06640 12084 06636 13721 13722
CIS Control 1.7	ポートレベルのアクセスコントロールを展開： 802.1x 標準に従って、ポートレベルのアクセスコントロールを使用して、ネットワークに対して認証できるデバイスをコントロールします。認証システムをハードウェア資産インベントリデータに関連付けて、認可済みデバイスのみがネットワークに接続できるようにする必要があります。	構成管理 (CMDB)	ACL エンドポイント [cmdb_ci_endpoint_acl]	11841 13718
CIS Control 1.8	クライアント証明書を使用してハードウェア資産を認証： クライアント証明書を使用して、組織の信頼できるネットワークに接続するハードウェ	認定コア	監査 [cert_audit]	01429

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS Controls v7 の基本インジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
	ア資産を認証します。			
CIS Control 2.1	認可済みソフトウェアのインベントリを管理： 任意のビジネスシステムで、企業内のビジネス目的で必要なすべての認可済みソフトウェアの最新リストを維持します。	構成管理 (CMDB)	アプリケーションソフトウェア [cmdb_ci_application_software]	12093 13723
CIS Control 2.2	ソフトウェアがベンダーによってサポートされていることを確認： 現在ソフトウェアのベンダーによってサポートされているソフトウェアアプリケーションまたはオペレーティングシステムのみが、組織の認可済みソフトウェアインベントリに追加されていることを確認します。サポートされていないソフトウェアは、インベントリシステムでサポート対象外としてタグ付けする必要があります。	ソフトウェア資産管理	ソフトウェア製品ライフサイクル [sam_sw_product_lifecycle]	07054
CIS Control 2.3	ソフトウェアインベントリツールを使用： 組織全体でソフトウェアインベントリツールを使用して、ビジネスシステム上のすべてのソフトウェアのドキュメントを自動化します。	構成管理 (CMDB)	アプリケーションソフトウェア [cmdb_ci_application_software]	11736 12196 13720 13725

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS Controls v7 の基本インジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
CIS Control 2.4	ソフトウェアインベントリ情報の追跡： ソフトウェアインベントリシステムは、組織によって認可されたオペレーティングシステムを含む、すべてのソフトウェアの名前、バージョン、公開者、およびインストール日を追跡する必要があります。	ソフトウェア資産管理コア	ソフトウェアインストール [cmdb_sam_sw_install]	12085
CIS Control 2.5	ソフトウェア資産とハードウェア資産のインベントリを統合： ソフトウェアインベントリシステムは、すべてのデバイスと関連付けられたソフトウェアを 1 つの場所から追跡できるように、ハードウェア資産インベントリに関連付ける必要があります。	構成管理 (CMDB)	アプリケーションソフトウェア [cmdb_ci_application_software]	11637 11857
CIS Control 3.1	自動脆弱性スキャンツールを実行： 最新の SCAP 準拠の脆弱性スキャンツールを使用して、ネットワーク上のすべてのシステムを毎週またはそれ以上の頻度で自動的にスキャンし、組織のシステムの潜在的な脆弱性をすべて特定します。	脆弱性対応	脆弱性データソースインポートキューエントリ [sn_vul_ds_import_q_entry]	10635

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS Controls v7 の基本インジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
CIS Control 3.2	認証された脆弱性スキャンを実行： 各システムでローカルに実行されているエージェント、またはテスト対象のシステムで昇格された権利で設定されたリモートスキャナーを使用して、認証済み脆弱性スキャンを実行します。	Security Operations	検出されたアイテム [sn_sec_cmn_src_ci]	00706
CIS Control 3.6	継続的な脆弱性スキャンの比較： 継続的な脆弱性スキャンの結果を定期的に比較して、脆弱性が適切なタイミングで修正されていることを確認します。	脆弱性対応	脆弱性修復ステータス [sn_vul_m2m_ttr_status]	06080
CIS Control 4.2	デフォルトのパスワードを変更 新しい資産を展開する前に、すべてのデフォルトパスワードを管理レベルのアカウントと一致する値に変更します。	コンフィグレーションコンプライアンス	構成テスト [sn_vulc_test]	01698 12122
CIS Control 4.4	一意のパスワードを使用 マルチファクター認証がサポートされていない場合 (ローカルアドミニストレーター、ルート、サービスアカウントなど)、アカウントはそのシステムに一意のパスワードを使用します。	コンフィグレーションコンプライアンス	構成テスト [sn_vulc_test]	01915 01337

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS Controls v7 の基本インジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
CIS Control 4.8	管理グループメンバーシップの変更に関するログとアラート 管理権限がアサインされたグループに対してアカウントが追加または削除されたときに、ログエントリとアラートを発行するようにシステムを設定します。	コンフィグレーションコンプライアンス	構成テスト [sn_vulc_test]	06312
CIS Control 4.9	失敗した管理アカウントログイン時のログとアラート 管理アカウントへのログイン失敗時にログエントリーとアラートを発行するようにシステムを設定します。	コンフィグレーションコンプライアンス	構成テスト [sn_vulc_test]	06312 06331
CIS Control 6.2	監査ログを有効化： すべてのシステムとネットワークデバイスでローカルログ記録が有効になっているように確保します。	コンフィグレーションコンプライアンス	構成テスト [sn_vulc_test]	00897
CIS Control 6.3	詳細なログ記録を有効化： イベントソース、日付、ユーザー、タイムスタンプ、ソースアドレス、宛先アドレス、その他の有用な要素などの詳細情報を含むシステムログ記録を有効にします。	コンフィグレーションコンプライアンス	構成テスト [sn_vulc_test]	00575
CIS Control 7.1	完全にサポートされているブラウ	脆弱性対応	アプリケーション脆弱性	00575

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS Controls v7 の基本インジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
	ザーとメールクライアントのみ使用： 完全にサポートされている Web ブラウザーとメールクライアントのみが組織内での実行が許可されるように確保します。理想的には、ベンダーが提供する最新バージョンのブラウザーとメールクライアントのみを使用します。		一致アイテム [sn_vul_app_vulnerable_item]	00576
CIS Control 8.1	一元管理されたマルウェア対策ソフトウェアを使用 エンタープライズクラスのすべての AV ソフトウェアにこの機能があります。一元管理された AV を使用することで、個々の要件を簡単に有効にすることができます。	コンフィグレーションコンプライアンス	構成テスト [sn_vulc_test]	11861
CIS Control 8.2	マルウェア対策ソフトウェアと署名の更新を確保 AV の品質はその署名によって決まります。純粋な署名ベースのディスカバリーはもはや実行不可能ですが、例外ベースのエンジンでも定期的に更新する必要があります。更新が自動的にロールアウトされていることを確認し、ツールを使用して署名が実際に最新	コンフィグレーションコンプライアンス	構成テスト [sn_vulc_test]	01790

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS Controls v7 の基本インジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
	であることを検証します。			
CIS Control 8.3	オペレーティングシステムのエクスプロイト対策機能の有効化/エクスプロイト対策技術の展開 DISA ハードニングガイドでは、これらの設定などを有効にする手順を詳しく説明しています。	コンフィグレーションコンプライアンス	構成テスト [sn_vulc_test]	11637 10678
CIS Control 8.4	リムーバブルデバイスのマルウェア対策スキャンを設定 ほとんどの AV では、この機能がデフォルトでオンになっていますが、実際に引き続き有効になっていることを検証することが重要です。USB スティックを介して侵入するマルウェアは、ほぼすべての組織にとって実行可能な攻撃ベクトルです。	コンフィグレーションコンプライアンス	構成テスト [sn_vulc_test]	11927 04824 06735 00561 00564 04546
CIS Control 8.5	コンテンツを自動実行しないようにデバイスを設定 スキャンを希望しないのと同じ理由で、マウントされている場合は実行しないようにします。これは簡単に有効にできる設定で、CIS と DISA の両方のハードニングガイドに、自動実行を無効にす	コンフィグレーションコンプライアンス	構成テスト [sn_vulc_test]	適用外

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS Controls v7 の基本インジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
	る詳細な手順が記載されています。一部の SCM ツールでは、環境内のすべてのエンドポイントをすばやくチェックして、この設定が無効になっていることを確認できます。			
CIS Control 9.3	定期的な自動ポートスキャンを実行： すべてのシステムに対して自動ポートスキャンを定期的に実行し、システムで許可されていないポートが検出された場合にアラートを発行します。	脆弱性対応	脆弱性スキャナー [sn_vul_scanner]	適用外
CIS Control 11.3	自動ツールを使用して標準的なデバイス構成を検証し、変更を検出 すべてのネットワークデバイス構成を、使用中の各ネットワークデバイスに対して定義された承認済みセキュリティ構成と比較し、逸脱が検出された場合にアラートを発行します。	コンフィグレーションコンプライアンス	構成テスト [sn_vulc_test]	06428 07058
CIS Control 11.4	すべてのネットワークデバイスに最新の安定したバージョンのセキュリティ関連の更新をインストール： すべてのネットワークデバイス	脆弱性対応	脆弱性一致アイテム [sn_vul_vulnerable_item]	01696

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS Controls v7 の基本インジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
	に最新の安定したバージョンのセキュリティ関連の更新をインストールします。			
CIS Control 12.6	ネットワークベースの IDS センサーを展開： ネットワークベースの侵入検知システム (IDS) センサーを展開して、異常な攻撃メカニズムを探し、組織の各ネットワーク境界でこれらのシステムの侵害を検出します。	構成管理 (CMDB)	侵入検知システム [cmdb_ci_ids_network]	00581
CIS Control 13.2	機密データまたは組織が定期的にアクセスしないシステムを削除： 機密データまたは組織が定期的にアクセスしないシステムをネットワークから削除します。これらのシステムは、時々システムを使用する必要がある事業部門により (ネットワークから切断されて) スタンドアロンシステムとしてのみ使用されるか、完全に仮想化されて、必要になるまではオフにされます。	コンフィグレーションコンプライアンス	構成テスト [sn_vulc_test]	13726 13727
CIS Control 13.9	USB ストレージデバイスのデータを暗号化 従業員が USB ドライブ上のデータのリスクを認識	コンフィグレーションコンプライアンス	構成テスト [sn_vulc_test]	11927

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS Controls v7 の基本インジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
	できるように、トレーニングを提供します。次に、組織の重要なデータを保護するツールを提供します。			
CIS Control 14.4	転送中のすべての機密情報を暗号化： 転送中のすべての機密情報を暗号化します。	コンフィグレーションコンプライアンス	構成テスト [sn_vulc_test]	00564
CIS Control 15.1	認可済み無線アクセスポイントのインベントリを管理： 有線ネットワークに接続されている認可済み無線アクセスポイントのインベントリを管理します。	構成管理 (CMDB)	無線アクセスポイント [cmdb_ci_wap_network]	00693
CIS Control 16.1	認証システムのインベントリを管理： オンサイトまたはリモートサービスプロバイダーにあるものを含む、組織の各認証システムのインベントリを管理します。	構成管理 (CMDB)	Active Directory ドメインコントローラ [cmdb_ci_ad_controller]	13724
CIS Control 16.4	すべての認証情報を暗号化またはハッシュ： 保存されるときに、すべての認証情報をソルトで暗号化またはハッシュします。	コンフィグレーションコンプライアンス	構成テスト [sn_vulc_test]	06735
CIS Control 16.5	ユーザー名と認証情報の送信を暗号化：	コンフィグレーションコンプライアンス	構成テスト [sn_vulc_test]	00564

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS Controls v7 の基本インジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
	すべてのアカウントのユーザー名と認証情報が、暗号化されたチャネルを使用してネットワーク経由で送信されるように確保します。			
CIS Control 16.11	非アクティビティの後のワークステーションセッションをロック： 標準的な非アクティビティ期間が経過すると、ワークステーションセッションを自動的にロックします。	コンフィグレーションコンプライアンス	構成テスト [sn_vulc_test]	04490
CIS Control 16.13	アカウントログイン動作の逸脱に関するアラート： 時刻、ワークステーションの場所、期間など、ユーザーが通常のログイン動作から逸脱した場合にアラートを発行します。	セキュリティインシデントレスポンス	セキュリティインシデント [sn_si_incident]	07068 07070 07069
CIS Control 18.5	標準化され、広範囲にわたってレビューされた暗号化アルゴリズムのみを使用： 標準化され、広範囲にわたってレビューされた暗号化アルゴリズムのみを使用します。	CMDB CI クラスモデル	一意の証明書 [cmdb_ci_certificate]	00037
CIS Control 18.8	ソフトウェア脆弱性のレポートを受け入れて対処するプロセスを確立：	脆弱性対応	ディスカバリーモデルと脆弱なソフトウェアの照合 [sn_vul_discovery_model_software_match]	04810

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS Controls v7 の基本インジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
	外部エンティティがセキュリティグループに連絡する手段を提供するなど、ソフトウェアの脆弱性のレポートを受け入れて対処するプロセスを確立します。			
CIS Control 19.2	インシデント応答の役職と職務のアサイン： コンピューターとネットワークのインシデントを処理するための役職と職務を特定の個人にアサインし、解決までのインシデント全体の追跡と文書化を行います。	インシデント管理	ユーザーロール [sys_user_has_role]	07061 00691
CIS Control 19.3	インシデント処理をサポートする管理担当者を指定： 重要な意思決定のロールを担うことによってインシデント処理プロセスをサポートする管理担当者およびバックアップを指定します。	インシデント管理	ユーザーロール [sys_user_has_role]	01211
CIS Control 19.6	コンピューターの例外とインシデントのレポートに関する情報を公開： インシデント処理チームへのコンピューターの例外とインシデントのレポートに関する情報を、すべての従業員に公開します。このような情報は、定期的な従	セキュリティインシデントレスポンス	ナレッジ [kb_knowledge]	12093

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS Controls v7 の基本インジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
	業員の認識向上アクティビティに含める必要があります。			
CIS Control 19.8	インシデントの採点と優先順位付けのスキーマを作成： 本番システムと非本番システムで別々の環境を維持します。開発者は本番環境に監視なしでアクセスできません。	セキュリティインシデントレスポンス	セキュリティインシデント計算機 [sn_si_calculator]	12093 13723

CIS Controls v7 のスクリプトインジケーターテンプレート

コントロール	名前/説明	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
CIS Control 18.9	本番システムと非本番システムを分離： 本番システムと非本番システムで別々の環境を維持します。開発者は本番環境に監視なしでアクセスできません。	構成管理 (CMDB)	構成アイテム [cmdb_ci]	00922

ISO コントロールのインジケーターテンプレート

次の表に、ISO コントロールの基本およびスクリプトインジケーターテンプレートを一覧します。

注:
現在、基本またはスクリプト化のインジケーターテンプレートのいずれかでカバーされていないコントロールには、コンプライアンス検証の目的で定義された手動インジケーターテンプレートがあります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ISO コントロールの基本インジケーターテンプレート

コントロール	名前/説明	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
ISO27002 - 5.1.1	情報セキュリティのポリシー： 幹部によって承認され、情報セキュリティ目標を管理するための組織のアプローチを規定する「情報セキュリティポリシー」を定義します。情報セキュリティポリシーはトピック固有のポリシーによってサポートされており、次を含む情報セキュリティコントロールの実装がさらに義務付けられています：アクセスコントロール、情報の分類 (および処理)、物理的および環境的なセキュリティ、バックアップ、情報の転送、マルウェアからの保護、技術的な脆弱性の管理、暗号化コントロール、通信セキュリティ、プライバシーと個人識別可能な情報の保護、サプライヤーとの関係およびエンドユーザー向けのトピック (1) 資産の許容可能な使用、2) クリアデスクとクリアスクリーン、3) 情報の転送、4) モバイルデバイスと在宅勤務、5) ソフトウェアのインストールと使用に関する制限など)。	GRC：ポリシーとコンプライアンス管理	コンプライアンスポリシー [sn_compliance_policy]	適用外

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ISO コントロールの基本インジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
ISO27002 - 6.1.1	情報セキュリティロールと責任： 個々の資産を保護する責任が資産インベントリで特定されていることを確保します。情報セキュリティの開発と実装のためのロールと責任が明確に定義されていることを確認します。	GRC：ポリシーとコンプライアンス管理	コントロール [sn_compliance_control]	適用外
ISO27002 - 6.2.1	モバイルデバイスポリシー： 承認済みのディスク全体の暗号化ソフトウェアを使用して、すべてのモバイルデバイスのハードドライブを暗号化します。	GRC：ポリシーとコンプライアンス管理	コンプライアンスポリシー [sn_compliance_policy]	07054 01472 12109 06631 00691 06638 06640 12084 06636 13721 13722 12093 11736 12196 13720 13725 00693 13724
ISO27002 - 6.2.2	在宅勤務： 従業員と請負業者にリモートアクセ	GRC：ポリシーとコンプライアンス管理	コンプライアンスポリシー [sn_compliance_policy]	適用外

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ISO コントロールの基本インジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
	スポリシーを適用します。			
ISO27002 - 7.1.1	スクリーニング： 会社の資産へのアクセス権を付与する前に、すべての従業員と請負業者に対してバックグラウンド検証チェックが実行されるように確保します。	ヒューマンリソース (HR)：コア	HR 人材管理ケース [sn_hr_core_case_talent_management]	12001 00897 04490 12100 12099 04594 04476
ISO27002 - 7.1.2	雇用条件： すべての新規雇用の従業員または請負業者が、情報セキュリティに対する責任を含む雇用条件に署名および同意するように確保します。	ヒューマンリソース (HR)：コア	sn_hr_core_task	01429
ISO27002 - 8.1.1	資産のインベントリ： ハードウェア資産インベントリに、各資産のネットワークアドレス、ハードウェアアドレス、マシン名、データ資産オーナー、部門、およびハードウェア資産がネットワークへの接続が承認されているかどうかが記録されていることを確認します。	構成管理 (CMDB)	ベース構成アイテム [cmdb]	00562 00561 01915 01337 01421 06440
ISO27002 - 8.1.2	資産の所有権： ハードウェア資産インベントリに、各資産のネットワークアドレス、	構成管理 (CMDB)	ベース構成アイテム [cmdb]	06080 01273

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ISO コントロールの基本インジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
	ハードウェアアドレス、マシン名、データ資産オーナー、部門、およびハードウェア資産がネットワークへの接続が承認されているかどうかが記録されていることを確認します。			
ISO27002 - 8.1.3	資産の許容可能な使用： 従業員と請負業者が、情報および情報処理施設およびリソースに関連付けられた組織資産の情報セキュリティ要件を認識するように確保します。従業員と請負業者は、情報処理リソースの使用およびその責任の配下で実行される該当する使用について責任を負う必要があります。	GRC：ポリシーとコンプライアンス管理	コンプライアンスポリシー [sn_compliance_policy]	12001 00897 04490 12100 12099 04594 04476
ISO27002 - 9.3.1	シークレット認証情報を使用： クライアント証明書を使用して、組織の信頼できるネットワークに接続するハードウェア資産を認証します。	コンフィグレーションコンプライアンス	構成テスト [sn_vulc_test]	01429
ISO27002 - 9.4.2	安全なログオン手順： 組織のネットワークへのすべてのリモートログインアクセスで、転送中のデータの暗号化と、マルチファク	コンフィグレーションコンプライアンス	構成テスト [sn_vulc_test]	00562 00561 01915 01337 01421

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ISO コントロールの基本インジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
	ター認証の使用を義務付けます。			06440
ISO27002 - 9.4.3	パスワード管理システム： マルチファクター認証がサポートされていない場合 (ローカルアドミニストレーター、ルート、サービスアカウントなど)、アカウントはそのシステムに一意のパスワードを使用します。	コンフィグレーションコンプライアンス	構成テスト [sn_vulc_test]	06080 01273
ISO27002 - 10.1.1	暗号化コントロールの使用に関するポリシー： 暗号化に関するポリシーが存在し、データ分類要件に従って適用、実装、および強制されているように確保します。	GRC：ポリシーとコンプライアンス管理	コンプライアンスポリシー [sn_compliance_policy]	07058 06428
ISO27002 - 10.1.2	キー管理： 暗号化キーの管理は、キーのライフサイクル全体にわたって正式なポリシーと手順に従って行われるように確保します。	GRC：ポリシーとコンプライアンス管理	コンプライアンスポリシー [sn_compliance_policy]	00897 00575 00576 11861 01790
ISO27002 - 11.2.9	クリアデスクとクリアスクリーンポリシー： 従業員と請負業者がクリアデスクポリシーに適合するように確保します。	GRC：ポリシーとコンプライアンス管理	コンプライアンスポリシー [sn_compliance_policy]	06312 00577 12210
ISO27002 - 12.1.2	マルウェアに対するコントロール：	コンフィグレーションコンプライアンス	構成テスト [sn_vulc_test]	適用外

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ISO コントロールの基本インジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
	完全にサポートされている Web ブラウザーとメールクライアントのみが組織内での実行が許可されるように確保します。理想的には、ベンダーが提供する最新バージョンのブラウザーとメールクライアントのみを使用します。			
ISO27002 - 12.2.1	マルウェアに対するコントロール： 完全にサポートされている Web ブラウザーとメールクライアントのみが組織内での実行が許可されるように確保します。理想的には、ベンダーが提供する最新バージョンのブラウザーとメールクライアントのみを使用します。	コンフィグレーションコンプライアンス	構成テスト [sn_vulc_test]	適用外
ISO27002 - 12.4.1	イベントログ記録： すべてのシステムとネットワークデバイスでローカルログ記録が有効になっているように確保します。	インスタンスセキュリティセンター	セキュリティダッシュボードイベントログ [appsec_security_dashboard_event_logs]	適用外
ISO27002 - 12.4.2	ログ情報の保護： ログが不正アクセスから安全に保護されるように確保します。		アクセスロール [sys_security_acl_role]	適用外
ISO27002 - 12.4.3	アドミンおよびオペレーターのログ：	コンフィグレーションコンプライアンス	構成テスト [sn_vulc_test]	適用外

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ISO コントロールの基本インジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
	機密データへのアクセスまたは機密データの変更について詳細な監査ログ記録を強制します (ファイルの完全性監視またはセキュリティ情報およびイベント監視などのツールを使用)。			
ISO27002 - 13.2.1	情報転送のポリシーと手順： あらゆる種類の通信設備を使用して情報の転送を保護するために、正式な転送ポリシー、手順、およびコントロールが設定されるように確保します。	GRC：ポリシーとコンプライアンス管理	コンプライアンスポリシー [sn_compliance_policy]	適用外
ISO27002 - 14.1.1	情報セキュリティ要件の分析と仕様： 情報セキュリティ関連の要件が、新しい情報システムの要件または既存の情報システムの拡張要件に含まれるように確保します。	GRC：高度なリスク	リスクアセスメント [sn_risk_advanced_risk_assessment_instance]	適用外
ISO27002 - 14.2.2	オペレーティングプラットフォームの変更後のアプリケーションの技術的レビュー： 運用プラットフォームが変更された場合でも、組織の運用やセキュリティに悪影響がないように確保するため、ビジネスクリティカルなア	変更要求	変更要求 [change_request]	適用外

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ISO コントロールの基本インジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
	プリケーションを確実にレビューおよびテストします。			
ISO27002 - 14.2.3	ソフトウェアパッケージの変更に関する制限： ソフトウェアパッケージへの変更が抑制、または必要な変更に制限されており、すべての変更が厳密に管理されるように確保します。	変更要求	変更要求 [change_request]	適用外
ISO27002 - 14.2.4	システムセキュリティテスト： 安全なコードレビューや脆弱性スキャンなどのセキュリティテストが開発ライフサイクル中に確実に実行されるように確保します。確実に、特定された脆弱性を文書化し、修復を実行します。	変更要求	変更要求 [change_request]	適用外
ISO27002 - 14.2.8	システム受け入れテスト： システム受け入れテストに、情報セキュリティ要件のテストと安全なシステム開発プラクティスの遵守が含まれるように確保します。	DevOps	ビルドテスト結果 [sn_devops_build_test_result]	適用外
ISO27002 - 14.2.9	システム受け入れテスト： システム受け入れテストに、情報セキュリティ要件のテストと安全なシ	DevOps	タスク実行 [sn_devops_task_execution]	適用外

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ISO コントロールの基本インジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
	ステム開発プラクティスの遵守が含まれるように確保します。			
ISO27002 - 15.1.1	サプライヤー関係の情報セキュリティポリシー： 取引を行ったり、資産へのアクセス権をベンダーに付与したりする前に、サプライヤーが情報セキュリティコントロールに対処し、解決しているように確保します。	GRC：ベンダーリスク管理	ベンダーリスクアセスメント [sn_vdr_risk_asmt_assessmentsn_vdr_risk_asmt_as	適用外
ISO27002 - 15.1.3	情報および通信技術のサプライチェーン： ビジネスを行い、サプライヤーとベンダーに資産へのアクセス権を付与する前にリスクアセスメントを実行し、セキュリティコントロールと要件に同意を得て、それらをサプライヤー/ベンダー契約に文書化するように確保します。	GRC：ベンダーリスク管理	ベンダーリスクアセスメント [sn_vdr_risk_asmt_assessmentsn_vdr_risk_asmt_as	適用外
ISO27002 - 15.2.1	サプライヤーサービスの監視とレビュー： サプライヤーが定期的に監視およびレビューを実行し、確実に、契約の情報セキュリティ条件を遵守し、情報セキュリティのインシデントと問題を適切に	GRC：ベンダーリスク管理	ベンダーリスクアセスメント [sn_vdr_risk_asmt_assessmentsn_vdr_risk_asmt_as	適用外

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ISO コントロールの基本インジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
	管理していることを確保します。			
ISO27002 - 15.2.2	サプライヤーサービスの変更の管理： サービスのプロビジョニングに変更がある場合でも、サードパーティのリスクアセスメントを確実に実行します。既存の情報セキュリティポリシー、手順、およびコントロールの維持と改善を含む、サプライヤーによるサービスのプロビジョニングに対する変更が管理されるように確保します。	GRC：ベンダーリスク管理	繰り返しアセスメント [sn_vdr_risk_asmt_repeating_assessment]	適用外
ISO27002 - 16.1.2	情報セキュリティイベントのレポート： 正式なインシデント管理プログラムがあり、すべての担当者とサードパーティがセキュリティインシデントを認識してレポートする方法についてトレーニングを受けるように確保します。	セキュリティインシデントレスポンス	セキュリティインシデント [sn_si_incident]	適用外
ISO27002 - 16.1.4	情報セキュリティイベントのアセスメントと決定： レポートとエスカレーションのために、合意されたセキュリティイベントとインシデント分類スケールを含める正式な情報セ	セキュリティインシデントレスポンス	セキュリティインシデント [sn_si_incident]	適用外

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ISO コントロールの基本インジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
	キュリティイベント管理が存在するように確保します。確実に、脅威とリスクの分類スキームを文書化します。インシデント応答通知が維持されるように確保します。確実に、インシデントの分類に使用される影響度しきい値を文書化します。			
ISO27002 - 16.1.5	情報セキュリティインシデント応答： 情報セキュリティインシデントが文書化された手順に従って対応および管理されるように確保します。	セキュリティインシデントレスポンス	セキュリティインシデント [sn_si_incident]	適用外
ISO27002 - 16.1.6	情報セキュリティインシデントからの学習： インシデント監視手順が、インシデントを文書化するためのインシデント管理プログラムに含まれるように確保し、今後のインシデントを削減するためにセキュリティイベントを定期的に分析します。	セキュリティインシデントレスポンス	セキュリティインシデント [sn_si_incident]	適用外
ISO27002 - 17.1.1	情報セキュリティ継続性の計画： 情報セキュリティと情報セキュリティ管理の継続性が計画され、事業継続性計画または災害復旧計画に含	GRC：ビジネスインパクトアナリシス	影響分析 [sn_bia_analysis]	適用外

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ISO コントロールの基本インジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
	まれるように確保します。			
ISO27002 - 17.1.2	情報セキュリティ継続性の実装： 事業継続性または災害復旧計画が正式に文書化されるように確保します。	GRC：ビジネスインパクトアナリシス	影響分析 [sn_bia_analysis]	適用外
ISO27002 - 17.1.3	情報セキュリティ継続性の検証、レビュー、および評価： 事業継続性または災害復旧計画を年に 1 回実施して、困難な状況下適切なセキュリティコントロールが有効で実効性があることを検証します。	GRC：ビジネスインパクトアナリシス	影響分析 [sn_bia_analysis]	適用外
ISO27002 - 17.2.1	情報処理施設の可用性： フェイルオーバーおよび復旧コンポーネントが意図したとおりに機能するように確保します。	GRC：危機管理	イベント [sn_recovery_event]	適用外
ISO27002 - 18.1.3	レコードの保護： レコードやデータが、立法者、規制、契約、およびビジネスの要件に従って、損失、破棄、改ざん、不正アクセス、および不正なリリースから保護されるように確保します。	GRC：ポリシーとコンプライアンス管理	コンプライアンスポリシー [sn_compliance_policy]	適用外
ISO27002 - 18.1.4	プライバシーと個人識別可能情報の保護：	GRC：ポリシーとコンプライアンス管理	コンプライアンスポリシー [sn_compliance_policy]	適用外

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ISO コントロールの基本インジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
	プライバシーと個人識別可能情報が保護され、該当する場合は法律や規制に従って処理されるように確保します。			
ISO27002 - 18.2.2	セキュリティポリシーおよび標準へのコンプライアンス： 確実に、コンプライアンスおよび規制要件に対するスコープ内システム構成のテストを定期的に実行します。システムのベースライン構成標準が文書化され、業界のベストプラクティスに基づくように確保確認します。	コンフィグレーションコンプライアンス	ポリシー [sn_vulc_policy]	01422 01355
ISO27002 - 18.2.3	技術的コンプライアンスのレビュー： 定期的な脆弱性スキャンとペネトレーションテストが実行され、コンプライアンスおよび規制要件に対してスコープ内システム構成がテストされるように確保します。	コンフィグレーションコンプライアンス	テスト結果 [sn_vulc_result]	適用外

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ISO コントロールのスクリプトインジケーターテンプレート

コントロール	名前/説明	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
ISO27002 - 8.1.4	資産の返却： 組織が所有していた、または組織に委託されたすべての発行済みの物理的および電子的な資産の返却を含む、正式な終了プロセスを確保します。	ヒューマンリソース (HR)：コア資産管理	• HR プロファイル [sn_hr_core_profile] • 資産 [alm_asset]	適用外
ISO27002 - 12.1.4	開発、テスト、運用の環境の分離： 本番システムと非本番システムで別々の環境を維持します。開発者は本番環境に監視なしでアクセスできません。	構成管理 (CMDB)	構成アイテム [cmdb_ci]	01698 12122 00644 00596

CIS および **ISO** コントロールに共通のインジケーターテンプレート

次の表に、CIS および ISO コントロールに共通の基本およびスクリプトインジケーターテンプレートを示します。

注:
現在、基本またはスクリプト化のインジケーターテンプレートのいずれかでカバーされていないコントロールには、コンプライアンス検証の目的で定義された手動インジケーターテンプレートがあります。

CIS および **ISO** コントロールに共通のインジケーターテンプレート

コントロール	名前/説明	インジケーターテンプレートタイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
CIS Control 2.6、ISO27002 - 12.5.1	未承認のソフトウェアへの対処： ソフトウェア資産を確実に管理し、定期的に更新します。	スクリプト	• ソフトウェア資産管理コア • ソフトウェア資産管理プロコア	• ソフトウェアインストール [cmdb_sam_sw_install] • ソフトウェアモデル [cmdb_software_product_model]	11637 00656 11624
CIS Control 3.7、ISO27002 - 12.6.1	リスク評価プロセスを使用：	基本	脆弱性対応	脆弱性一致アイテム [sn_vul_vulnerable_item]	01273

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS および **ISO** コントロールに共通のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	インジケーターテンプレートタイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
	リスク評価プロセスを使用して、検出された脆弱性の修正を優先します。				
CIS Control 7.2、ISO27002 - 12.6.2	ソフトウェアインストールの制限： 許可されていないブラウザーまたはメールクライアントのプラグインまたはアドオンアプリケーションをアンインストールするか、無効にします。	スクリプト	• ソフトウェア資産管理コア • ソフトウェア資産管理プロコア	• ソフトウェアインストール [cmdb_sam_sw_install] • ソフトウェアモデル [cmdb_software_product_model]	00575 00574
CIS Controls 18.1、ISO27002 - 14.2.1	安全なコーディングプラクティスの確立： 使用しているプログラミング言語と開発環境に適した安全なコーディングプラクティスを確立します。	基本	GRC：ポリシーとコンプライアンス管理	ポリシー [sn_compliance_policy]	11863
CIS Control 19.1、ISO27002 - 16.1.1	インシデント応答手順の文書化： 担当者のロールとインシデントの処理/管理のフェーズを定義する、書面によるインシデント応答計画がある	基本	セキュリティインシデントレスポンス	セキュリティインシデント [sn_si_incident]	11780

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CIS および **ISO** コントロールに共通のインジケーターテンプレート (続く)

コントロール	名前/説明	インジケーターテンプレートタイプ	コンプライアンスの検証者	ソーステーブル	関連 **UCF ID**
	ことを確認します。				
CIS Control 19.4、ISO27002 - 16.1.3	情報セキュリティの弱点のレポート： システムアドミニストレーターおよび他の人員メンバーがインシデント処理チームに例外イベントをレポートするために必要な時間、そのようなレポートのメカニズム、およびインシデント通知に含める必要がある情報の種類について、組織全体の標準を策定します。	基本	セキュリティインシデントレスポンス	セキュリティインシデント [sn_si_incident]	07183 12975 10033

自動翻訳

360° Relationship Visualization

360˚ Relationship Visualization アプリケーションを使用すると、コントロール、リスク、問題など、ビジネスに影響するさまざまなタイプの重要なデータ間の関係を視覚的に探索できます。ビジュアル化により、関係の追加、問題のクローズ、ポリシー例外の承認など、情報に基づく迅速なアクションも容易になります。

360˚ Relationship Visualization アプリケーションを使用する前に、データレジストリを設定して、表示する関係の種類を定義し、360 度ビューに表示するデータのビューを構成する必要があります。

360° Relationship Visualization の使用者

360˚ Relationship Visualization は、コンプライアンスマネージャーとアナリスト、リスクマネージャーとアナリスト、監査人などの GRC 実務者によって使用されます。360˚ Relationship Visualization は、GRC 実務者がビジネスに影響する重要なデータを理解するために役立ちます。また、経営幹部やアプリケーションオーナーやビジネスサービスオーナーなどのビジネスユーザーに、関係とその影響を効果的に伝えるのにも役立ちます。

この表は、360º Relationship Visualization アプリケーションとデータレジストリに関わるすべてのステークホルダーの責任を示しています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

360° Relationship Visualization とデータレジストリのロールと責任

ロールタイトル	説明	含んでいるロール
データレジストリアドミン [sn_data_registry.admin]	データレジストリアドミニストレーターは、360 度ビューのすべてのレコードに CRUD アクセスできます。	csn_data_registry.reader
データレジストリリーダー [sn_data_registry.reader]	データレジストリのリーダーロールは、360° Relationship Visualization が有効な GRC フォームで作業しているすべての GRC ユーザー (コンプライアンスマネージャーとアナリスト、リスクマネージャーとアナリスト、監査人など) に付与される必要があります。	• canvas_user • workspace_user

GRC: 360° Relationship Visualization およびデータレジストリアプリケーションをダウンロードして有効化する

自分のインスタンスで GRC: 360° Relationship Visualization (com.servicenow_sn_grc_360_resolution_visualization) およびデータレジストリ (com.sn_app_grc_data_registry) アプリケーションを実行する前に、ServiceNow Store からダウンロードする必要があります。

始める前に
必要なロール：admin

手順

初めて ServiceNow Store から GRC アプリケーションをダウンロードする の指示に従います。

360 度ビューを設定する

360° Relationship Visualization アプリケーションを効果的に使用するには、表示するデータのタイプ間の既存の関係を登録し、360 度ビューでそのデータを表示する方法を設定する必要があります。

360 度の関係を登録する

データレジストリを設定する最初のステップは、360° Relationship Visualization に表示する関係を登録することです。

始める前に
必要なロール：データレジストリアドミン

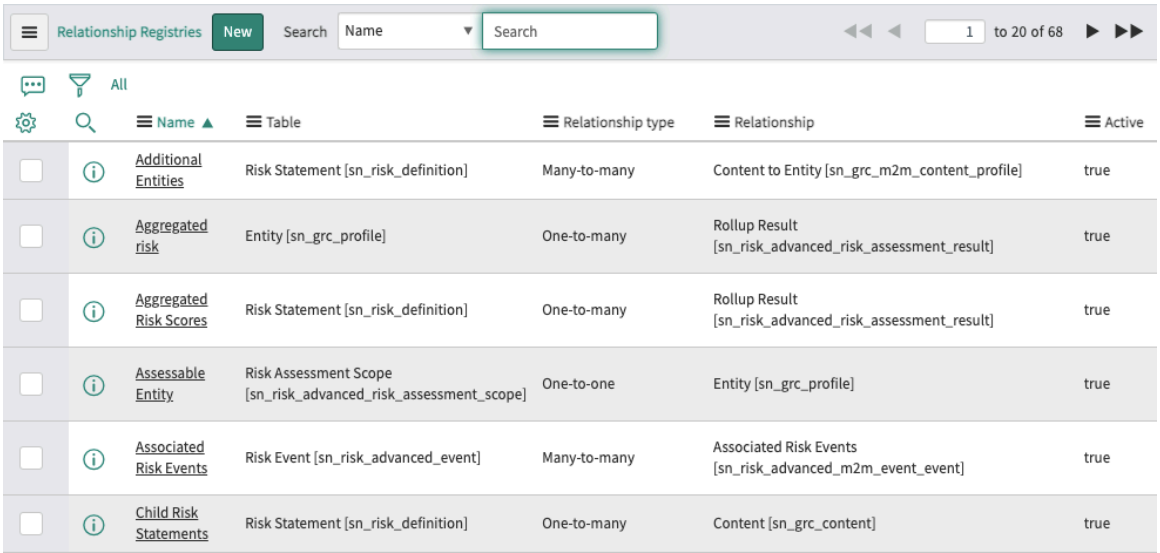
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 **360** 度ビューの構成 > 関係のレジストリ.

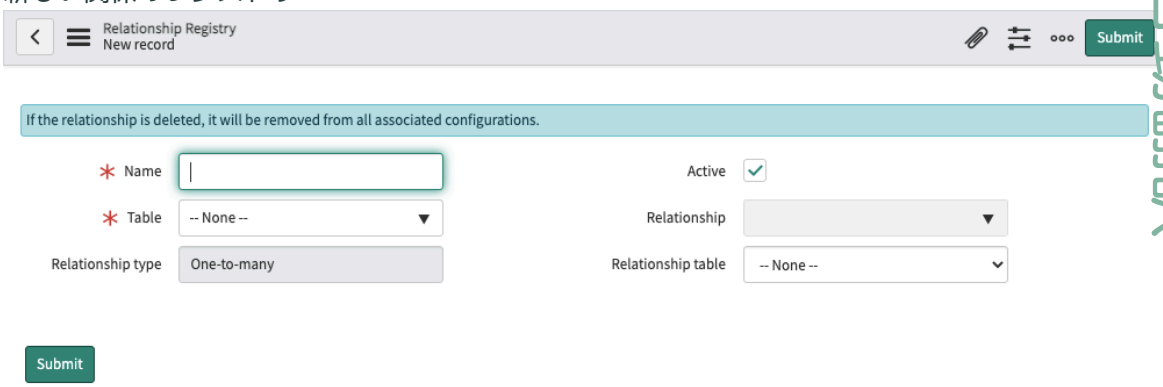
関係レジストリ



Name	Table	Relationship type	Relationship	Active
Additional Entities	Risk Statement [sn_risk_definition]	Many-to-many	Content to Entity [sn_grc_m2m_content_profile]	true
Aggregated risk	Entity [sn_grc_profile]	One-to-many	Rollup Result [sn_risk_advanced_risk_assessment_result]	true
Aggregated Risk Scores	Risk Statement [sn_risk_definition]	One-to-many	Rollup Result [sn_risk_advanced_risk_assessment_result]	true
Assessable Entity	Risk Assessment Scope [sn_risk_advanced_risk_assessment_scope]	One-to-one	Entity [sn_grc_profile]	true
Associated Risk Events	Risk Event [sn_risk_advanced_event]	Many-to-many	Associated Risk Events [sn_risk_advanced_m2m_event_event]	true
Child Risk Statements	Risk Statement [sn_risk_definition]	One-to-many	Content [sn_grc_content]	true

2. [新規] をクリックします。

新しい関係のレジストリ



3. フォームのフィールドに入力します。

新しい関係のレジストリを作成する

フィールド	説明
名前	このレジストリのわかりやすい名前。
テーブル	関係を定義するテーブル。
関係性タイプ	定義する関係のタイプ： ○ 1 対多 ○ 多対多 ○ スクリプト化：ServiceNow AI Platform からのカスタム関係 ○ 1 対 1：選択したテーブルのフィールドとして利用可能な関係

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
有効	関係が有効な場合に選択します。
関係	選択した関係タイプの関係テーブル。たとえば、エンティティテーブルの関係を定義していて、多対多の関係タイプを選択した場合、関係テーブルのリストは、エンティティテーブルに適用されるすべての多対多の関係で構成されます。
関係テーブル	[関係] フィールドで選択したテーブル名。

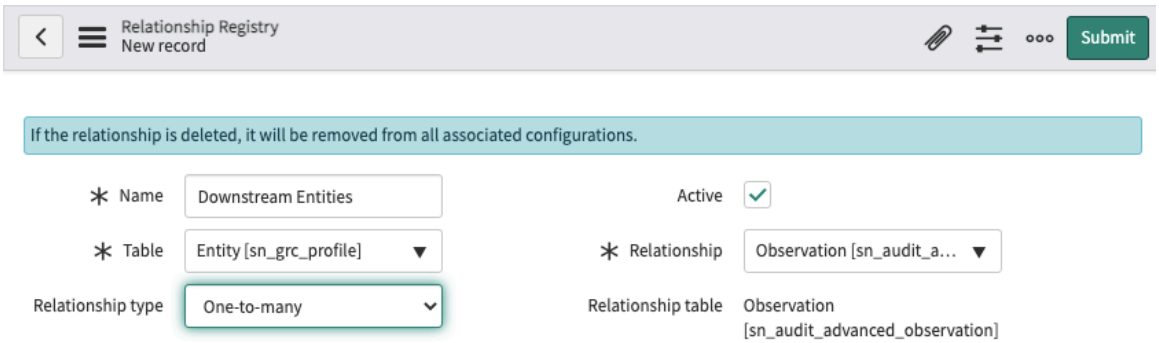
4. [送信] をクリックします。
5. 360° Relationship Visualization インターフェイスに表示するすべての関係について、このプロセスを繰り返します。

360 度の関係の例

これらのスクリーンショットは、登録できるさまざまな関係タイプを示しています。

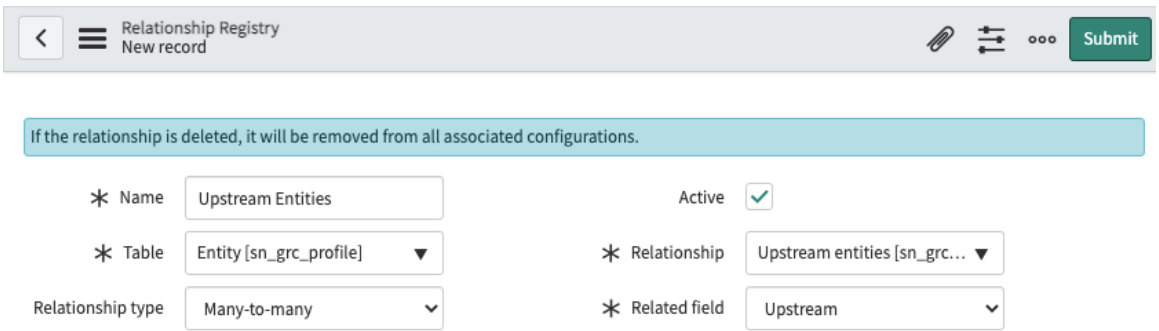
1 対多の関係

1 対多の関係



多対多の関係

多対多の関係

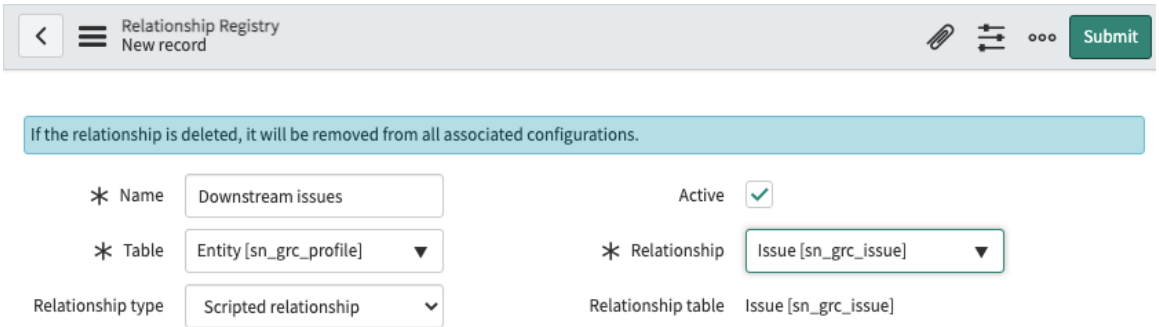


自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

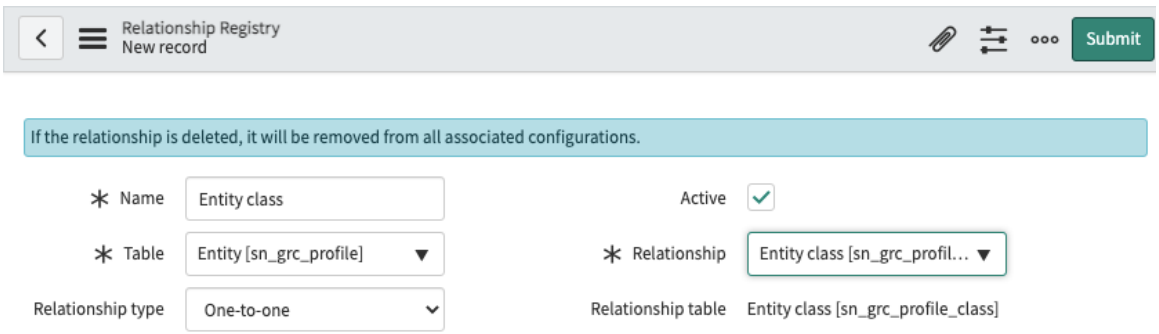
スクリプト化された関係

スクリプト化された関係



1 対 1 の関係

1 対 1 の関係



360 度ビューを構成する

データレジストリを定義したら、作成した関係を効果的に表示するために 360° Relationship Visualization を構成できます。

始める前に

必要なロール：データレジストリアドミン

このタスクについて

1 つのテーブルに複数の 360 度関係ビューを構成できます。たとえば、エンティティテーブルは、コンプライアンスビュー、リスクビュー、監査ビューなどの複数のビューで構成できます。

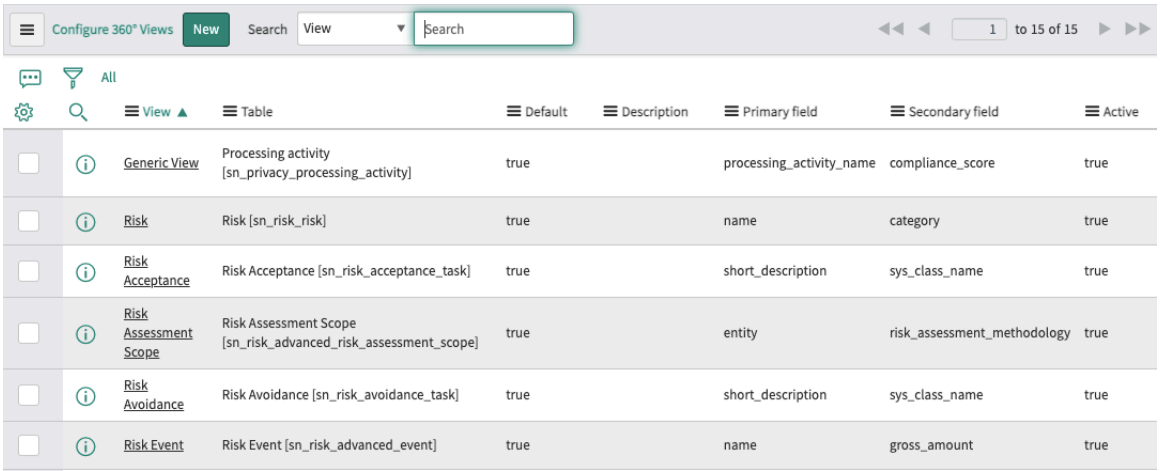
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 **360** 度ビューの構成 > **360** 度ビューの構成.

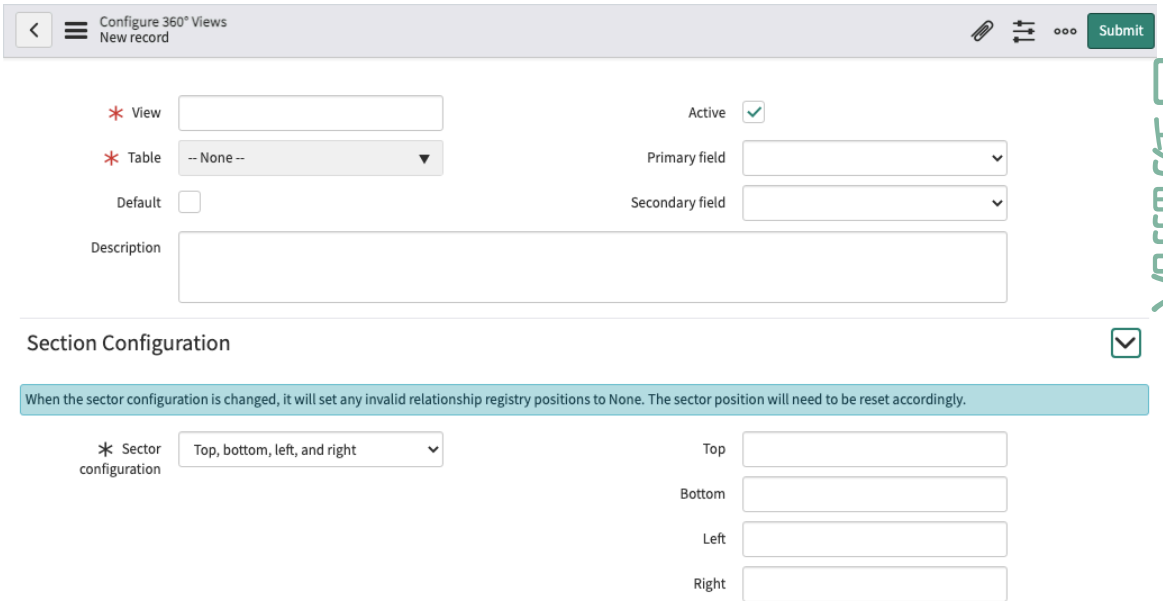
360 度ビューを構成する



View ▲	Table	Default	Description	Primary field	Secondary field	Active
Generic View	Processing activity [sn_privacy_processing_activity]	true		processing_activity_name	compliance_score	true
Risk	Risk [sn_risk_risk]	true		name	category	true
Risk Acceptance	Risk Acceptance [sn_risk_acceptance_task]	true		short_description	sys_class_name	true
Risk Assessment Scope	Risk Assessment Scope [sn_risk_advanced_risk_assessment_scope]	true		entity	risk_assessment_methodology	true
Risk Avoidance	Risk Avoidance [sn_risk_avoidance_task]	true		short_description	sys_class_name	true
Risk Event	Risk Event [sn_risk_advanced_event]	true		name	gross_amount	true

2. [新規] をクリックします。

新しい **360** 度ビューを構成する



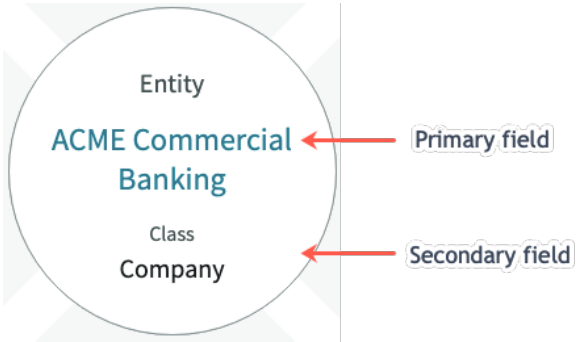
3. フォームのフィールドに入力します。

360 度ビューを作成する

フィールド	説明
ビュー	このビューのわかりやすい名前。
テーブル	ビューを定義するテーブル。
デフォルト	これが定義する最初のビューか、または唯一のビューの場合に選択します。
有効	この 360 度ビューが有効な場合に選択します。

自動翻訳

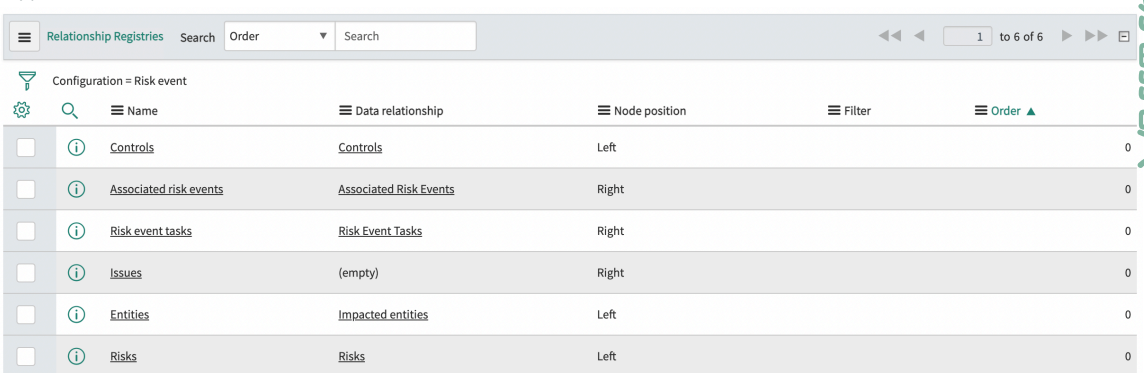
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
プライマリフィールドとセカンダリフィールド	メインオブジェクトのタイトルとセカンダリタイトルを表示するために使用される、選択されたテーブルのプライマリフィールドとセカンダリフィールド  (図を参照)。
説明	360 度ビューの説明。
セクションの構成	
セクター構成	360 度ビューに表示するセクターの数を選択します。たとえば、[上、下、左、右] を選択して、4 つのセクターが必要であることを示します。
上、下、左、右	[セクター構成] の選択に基づいて、各セクターのラベルを入力します。

4. レコードを保存します。

   [関係のレジストリ] 関連リストが表示されます。

   関係のレジストリ



5. [関係の選択] をクリックします。
6. フォームのフィールドに入力します。

   データの関係に対する **DataNav** 構成

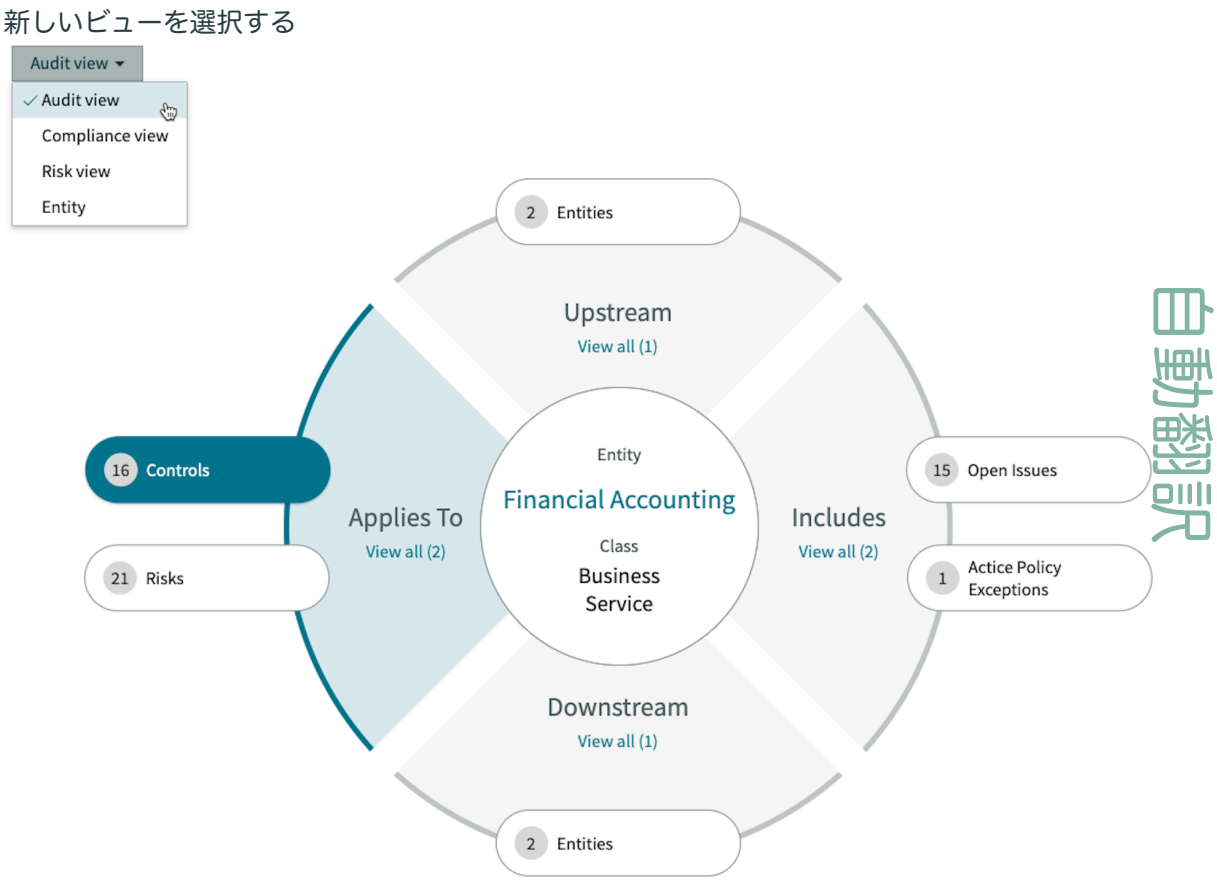
フィールド	説明
名前	この関係を特定する名前。
データの関係	以前に定義したデータの関係。
関係テーブル	選択したデータの関係に関連付けられたテーブル。
ノード位置	この関係の追加先に定義済みのセクター。
フィルター	表示する関係のタイプを定義する条件を入力します。たとえば、失敗したすべてのコントロールの条件を定義できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
設定 (Configuration)	関係に対して定義された構成。
テーブル	関係に対して定義されたテーブル。
順序	指定された [順序] の値に基づいて、360 度ビュー内の要素の位置が変更されます。 たとえば、要素の順序値を 0 から 1 に変更すると、360 度ビューでその位置が隣に移動します。

7. [送信] をクリックします。
これで、定義した新しいビューが 360 度ビューで利用できるようになります。



360 度ビューを探索する

使用するテーブルのデータレジストリを正常に設定すると、360 度ビュー機能を使用して、選択したレコードと関連オブジェクト (コントロール、リスク、エンティティタイプなど) との関係を表示できます。

特定のレコードから 360 度ビューを起動すると、選択したレコードと関連付けられたすべてのオブジェクトとの間の関係が特徴的にビジュアル化されて表示されるため、オブジェクトがどのように相互作用するかを即座に理解できます。関係はデータにリンクされているため、表示されたレコードに対して、ドリルダウンして追加の詳細を表示したり、新しいレコードを作成したりといったアクションを実行できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスク：可用性損失エンティティの **360** 度ビュー



上の画面には、選択したメインオブジェクト (この場合は、リスク：可用性損失エンティティ) のデータレジストリで設定した関係が表示されます。お分かりのように、1 つのエンティティと 1 つのコントロールがメインオブジェクトに適用されます。メインオブジェクトには、リスク対応タスク、内部リスクイベント、およびリスクアセスメントに関連するさまざまな関係が含まれます。さらに、メインオブジェクトのアップストリームにリスクステートメント関係があります。メインオブジェクトに対するこれらの関係はすべて一目でわかります。

360 度ビューを起動する

データレジストリを設定すると、GRC ワークスペースアプリケーションの任意のレコード画面から 360 度ビューを起動して、選択したレコードに関連付けられたさまざまなタイプのデータ間の関係を表示できます。

始める前に

必要なロール：データレジストリリーダー

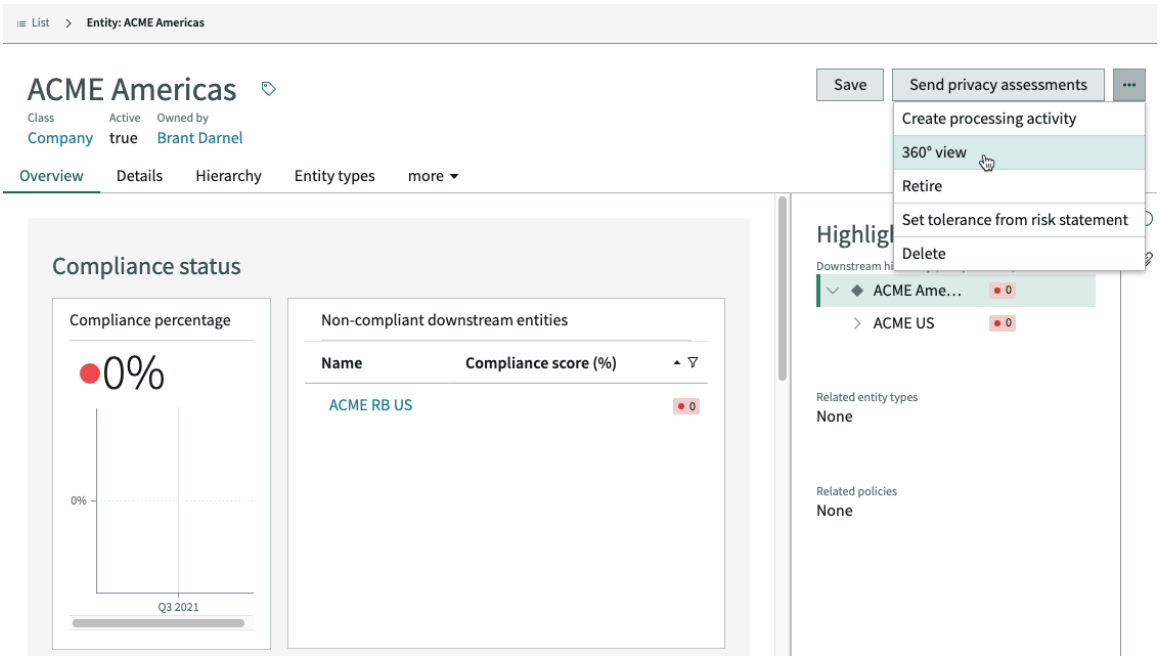
手順

1. 任意の GRC ワークスペース (Compliance ワークスペースなど) に移動します。
2. 360 度ビューで開くレコードを開きます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークスペースのレコード



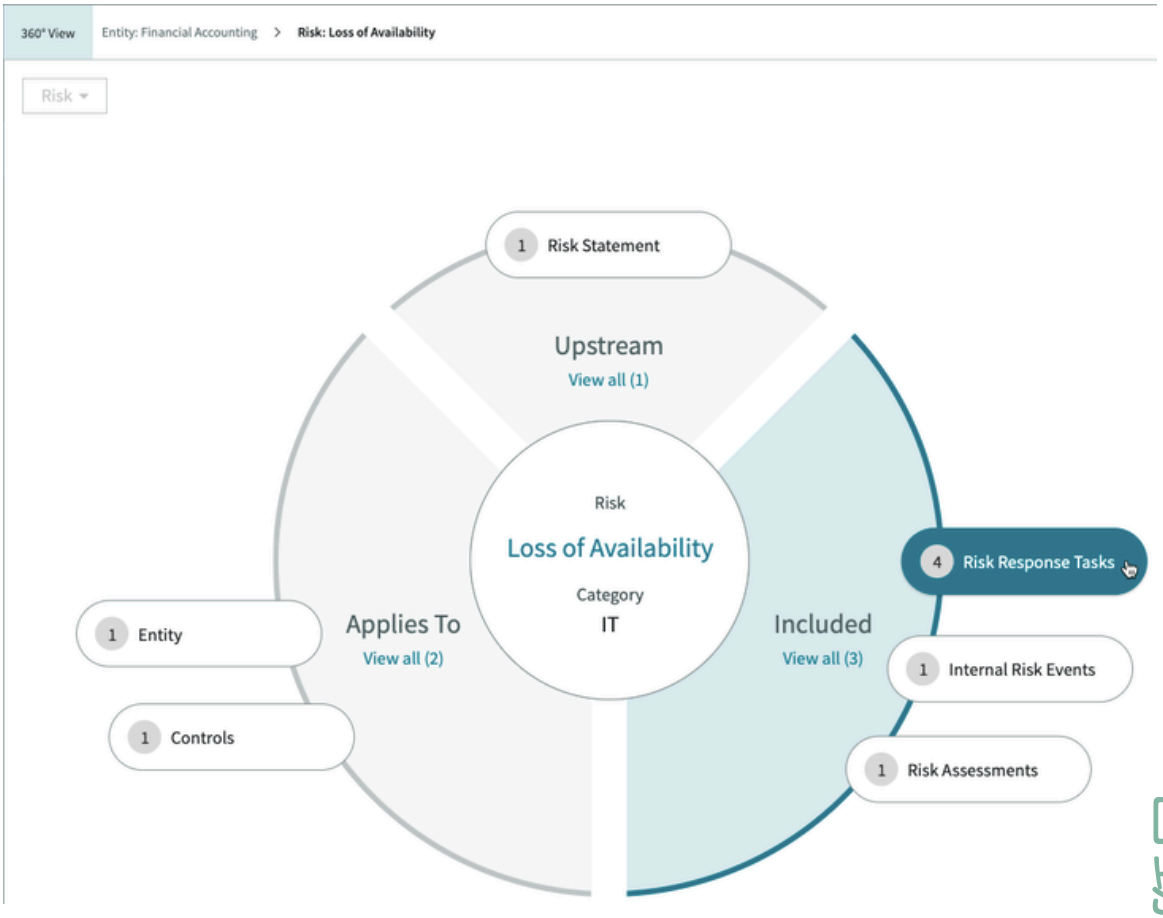
注:
レコード画面によっては、**[360 度ビュー (360° view)]** ボタンを表示するために省略記号アイコンをクリックする必要があります。

3. **[360 度ビュー (360° view)]** をクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

選択したレコードの **360** 度ビュー



注:
データレジストリを設定する前に 360 度ビューを起動した場合、または 360 度ビュー内で設定されていないオブジェクトをクリックした場合は、ビジュアル化画面が代替 (または、未構成) モードで開きます。オブジェクトのすべての 1 対多と多対多の関係が自動的に計算され、ビューに表示されます。

`sn_data_registry.max_count_of_fallback_relationships` というシステムプロパティを使用すると、360 度ビューに表示する関係の最大数を定義できます。デフォルト値は 25 です。

360 度の詳細をドリルダウンする

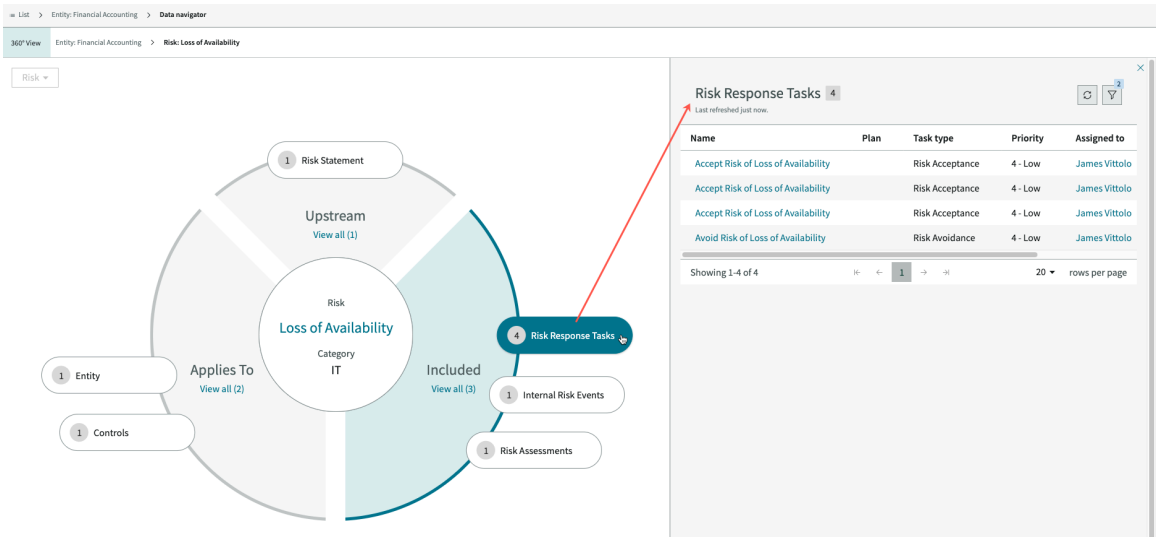
360 度ビューでは、任意の関係をクリックして詳細を表示できます。

たとえば、[リスク] 関係をクリックすると、4 つのリスクの詳細を表示できます。

自動翻訳

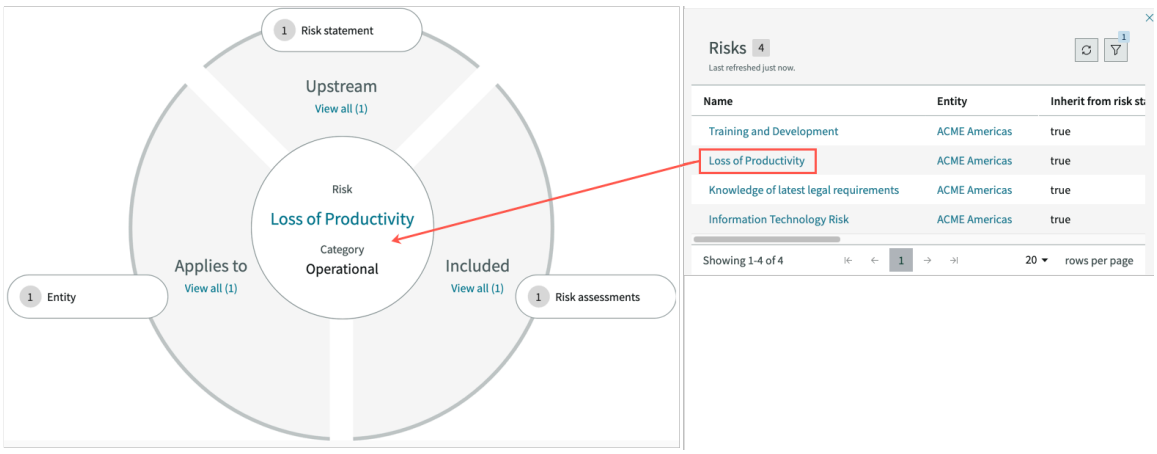
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リスクをドリルダウンする



いずれかのリスクレコードを選択して、そのリスクレコードに固有の関係を表示できます。

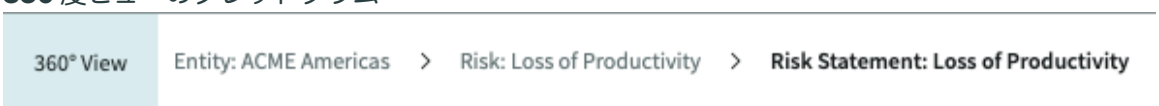
選択したリスクの関係を表示する



ブレッドクラムを使用して **360** 度ビューを移動する

360 度ビューの関係ビジュアル化を移動すると、上端に沿ったブレッドクラムが移動した場所を追跡するため、以前に表示した情報に戻ることができます。

360 度ビューのブレッドクラム



[エンティティ：**ACME Americas]** ブレッドクラムをクリックすると、これらの関係のビジュアル化に戻ります。

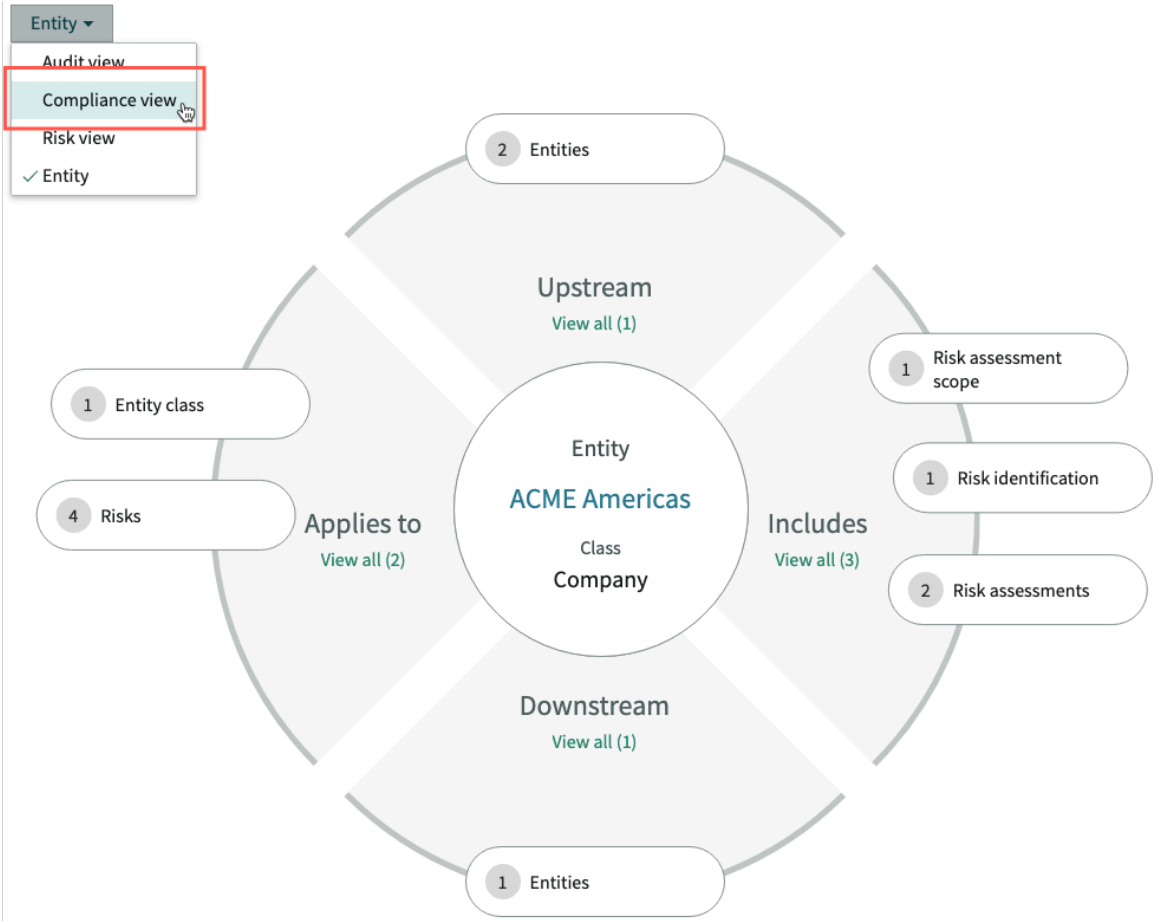
さまざまな **360** 度ビューを選択する

さまざまなビューを定義している場合は、どの 360 度ビューのビジュアル化からも選択できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

さまざまなビューを選択する

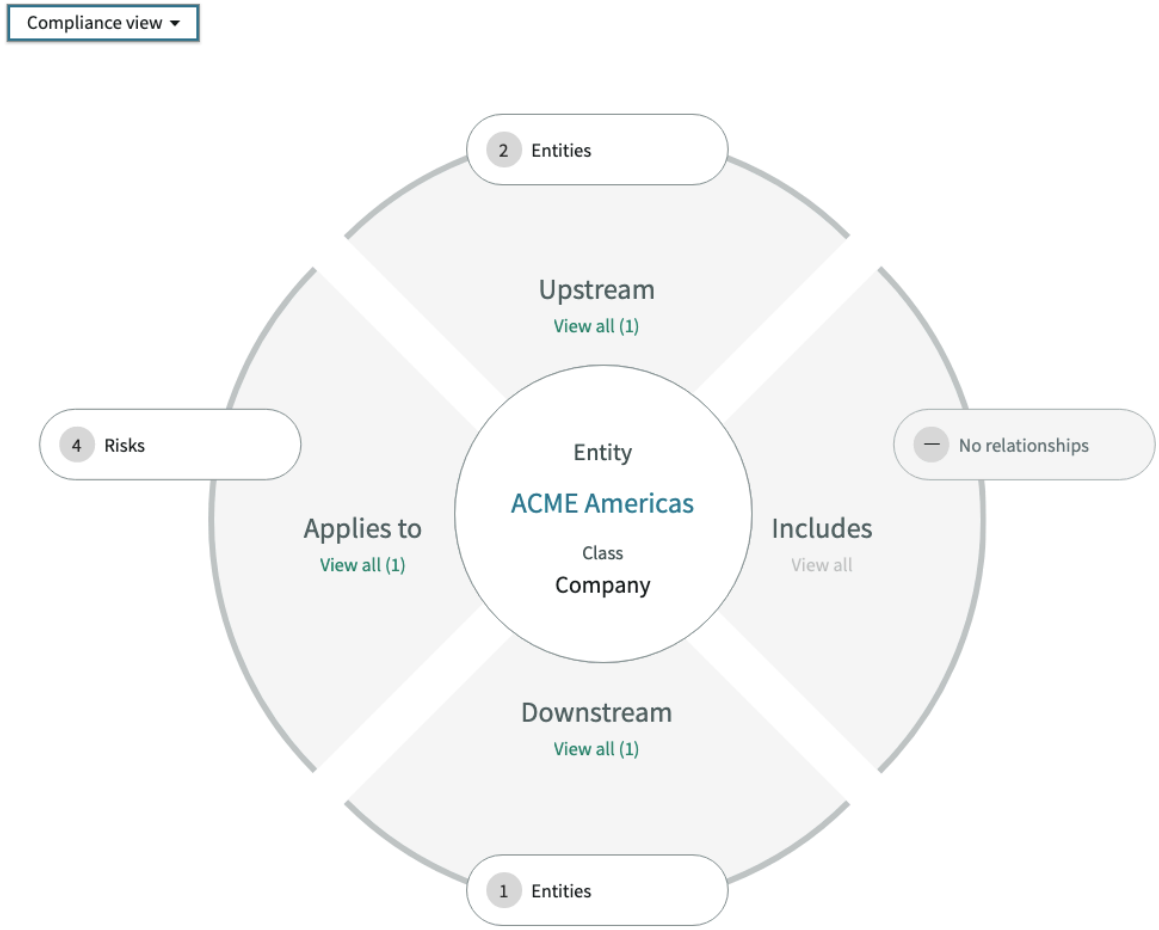


コンプライアンスビューには、コンプライアンスに固有のメインオブジェクトの関係が構成に従って表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンプライアンスビュー



関連情報

360 度ビューを構成する

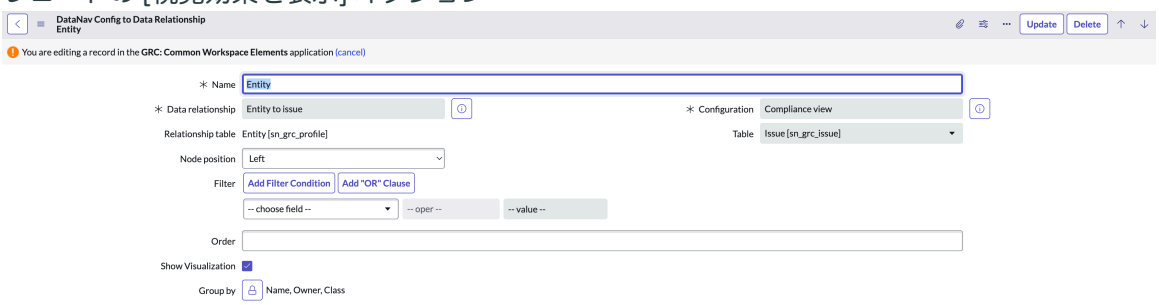
360 度ビューの機能拡張

GRC の更新の一部として、各レコードの 360 度ビューでいくつかの機能拡張を設定できます。

更新された 360 度ビューでは、次の機能拡張とバグ修正がサポートされています。

- インタラクティブなドーナツグラフの表示：各レコードの [視覚効果を表示] オプションを有効にし、[グループ] リストの表示列を選択できます。以下の例を参照してください。

  レコードの [視覚効果を表示] オプション

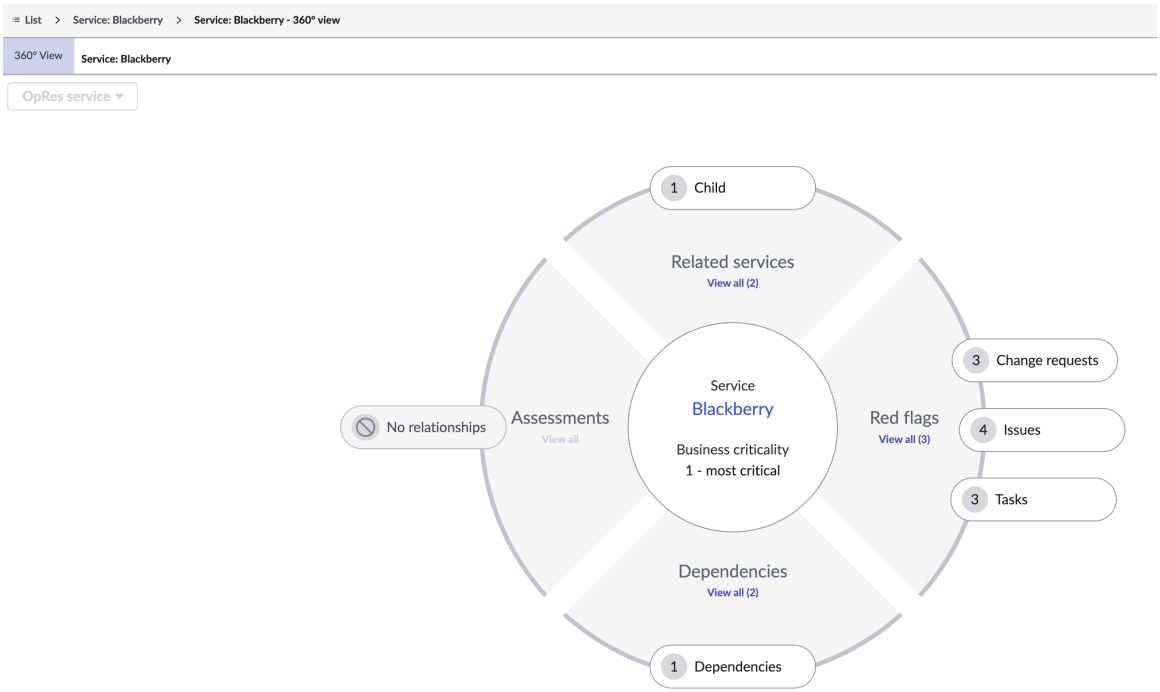
  

  レコードの [視覚効果を表示] オプションを有効にすると、360 度ビューが表示されます。360 度ビューでは、次の例に示すように、レコードに関連付けられているすべてのオブジェクトを表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

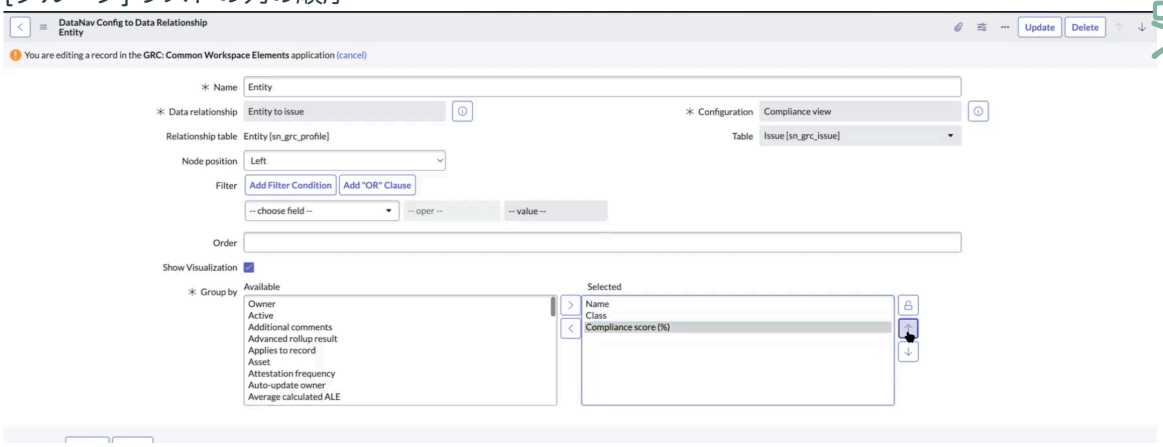
レコードの **360** 度ビュー



ドーナツグラフのいずれかのセクターをクリックすると、選択したオブジェクトに関連付けられている関連リストが更新されます。オブジェクトピルをクリックすると、選択したオブジェクトのドーナツグラフがサイドパネルに表示されます。

- [グループ] リストの設定： [グループ] リストの列の数と順序を設定できます。次の例に示すように [グループ] リストの列を更新すると、選択した列のドーナツグラフが更新されます。

  [グループ] リストの列の順序



[グループ] リストで列の特定の順序を選択すると、列の同じ順序が UI に反映されます。[選択済み] リストに表示される最初の列は、顧客に表示されるデフォルト値です。

- ピルの順序：[順序] フィールドで各セクションのピルの順序を設定できます。ピルの順序を設定しておらず、すべてのピルの順序値が同じ場合 (たとえば、各ピルの順序値が 1 の場合)、ピルはアルファベット順に表示されます。
- 欠陥の修正は次のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 関連リストの欠陥の修正：関連リストの欠陥が修正されました。同じテーブルを参照する関連リスト間の競合を回避するために、新しい sys_relationship フィールドがコードに追加されました。
- Apple iPad Pro デバイスの欠陥の修正：以前は、より小さな 12.9 インチ (0.328 メートル) の Apple iPad デバイスや、16 インチ (0.406 メートル) の Apple iPad Pro デバイスのデフォルトビューに、複数の垂直および水平スクロールが表示されていました。より小型の Apple iPad デバイスのビューに関連する欠陥が修正されました。Apple iPad デバイスでは、ビューをスクロールしなくても 360 度コンポーネント全体を表示できます。
- ナビゲーションパスの欠陥の修正：以前のリリースに存在していたキャッシュの問題に関連する欠陥が修正されました。レコードのナビゲーションパスを正しく表示できるようになりました。

機能ドメインでのレコードのタグ付け

機能ドメインのタグ付けは、それらがサポートする特定のビジネス機能、プロセス、またはユースケースに基づいてリスクレコードを分類できるようにするメカニズムです。機能ドメインは、サイバーセキュリティとリスク、IT リスクとコンプライアンス、コンプライアンス、サードパーティリスク、オペレーショナルリスクなどの論理グループを表します。

さまざまなビジネス機能での機能のアダプションを把握するために、手動または自動化によって機能ドメインタグをレコードに適用できます。このタグ付けにより、組織はさまざまなチーム、部門、およびユースケースで 統合リスク管理 機能がどのように使用されているかを識別できます。

機能ドメインのタグ付けは、ドメイン全体の実際のビジネス使用状況を反映した構造化メタデータをキャプチャするメカニズムを提供します。このレコードのタグ付けは、アダプションの傾向を理解し、使用率のギャップを特定し、的を絞ったイネーブルメントの取り組みに情報を提供するために重要です。ドメイン固有の使用状況データを集計することで、組織はレポート、継続的改善、およびステークホルダーの調整のためのメトリクスを生成できます。

主な特長

次のメリットは、機能ドメインのタグ付けを実装する価値を示しています。

- 事業部門全体のリスク機能の導入に関するターゲット分析を容易にします。
- 製品計画とイネーブルメントのために、より多くの情報に基づいた意思決定を可能にします。
- ドメイン固有のガイダンスとベストプラクティスの推奨事項をサポートします。
- 採用指標とレポートフレームワークの開発に貢献します。

レコードのタグ付け

正確で最新のアダプションメトリクスを維持するために、「 機能ドメインメトリクステーブルの毎週の入力 (Populate Functional Domain Metrics table Weekly)」という名前のスケジュール済みジョブが実装されました。このジョブは、 *sn_risk*、 *sn_control*、 *sn_citation*などの主要なリスク関連テーブルを体系的に照会し、機能ドメインでタグ付けされたレコードを識別してカウントします。次に、タグ付けされたレコードの数を計算し、データを集計して、結果を 機能ドメインメトリクス (sn_grc_functional_domain_metrics) テーブルに挿入します。この自動化されたプロセスにより、ドメインレベルの使用状況に対する信頼性の高い可視性が確保され、採用の追跡と分析のための情報に基づいたレポートがサポートされます。

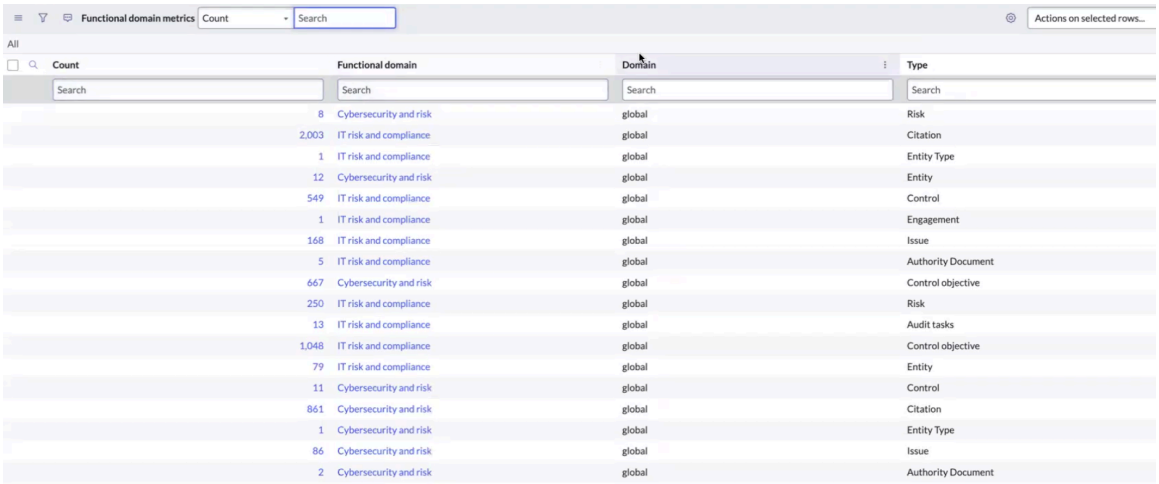
スケジュール済みジョブは、毎週月曜日の午前 1:00 に実行するように構成されています。正常に実行されると、 機能ドメインメトリクス テーブルが最新の集計データで更新されます。usage_admin ロールを持つユーザーは、このテーブルのデータを表示できます。

機能ドメインメトリクステーブルには、[カウント]、[機能ドメイン]、[ドメイン]、および [タイプ] の列が含まれています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

機能ドメインメトリクステーブル



Count	Functional domain	Domain	Type
8	Cybersecurity and risk	global	Risk
2,003	IT risk and compliance	global	Citation
1	IT risk and compliance	global	Entity Type
12	Cybersecurity and risk	global	Entity
549	IT risk and compliance	global	Control
1	IT risk and compliance	global	Engagement
168	IT risk and compliance	global	Issue
5	IT risk and compliance	global	Authority Document
667	Cybersecurity and risk	global	Control objective
250	IT risk and compliance	global	Risk
13	IT risk and compliance	global	Audit tasks
1,048	IT risk and compliance	global	Control objective
79	IT risk and compliance	global	Entity
11	Cybersecurity and risk	global	Control
861	Cybersecurity and risk	global	Citation
1	Cybersecurity and risk	global	Entity Type
86	Cybersecurity and risk	global	Issue
2	Cybersecurity and risk	global	Authority Document

サポートされているレコードタイプ

サポートされているレコードタイプのリストは次のとおりです。

- リスク
- コントロール
- 問題
- 各種法令・基準等
- 監査タスク
- エンゲージメント
- 引用
- ポリシー
- コントロール目標
- エンティティ
- エンティティクラス
- エンティティタイプ
- リスクステートメント

アイテム生成プロセスを使用してコントロールとリスクを生成する

アプリケーションの ServiceNow® GRC スイートは、拡張されたアイテム生成プロセスを使用して、組織のコントロールとリスクを自動的に生成できます。バージョン 13.x.x の拡張アイテム生成プロセス (v2) は、バージョン 12.x.x およびそれ以前のリリースのアイテム生成プロセス (v1) からの停止とパフォーマンスの問題を修正します。

アイテム生成プロセスの概要

ガバナンス、リスク、コンプライアンス アプリケーションを使用すると、アイテム生成プロセスを使用して組織のコントロールとリスクを生成できます。

コントロールは、組織が実行する実際のコントロールアクティビティです。たとえば、コントロールは、信頼できるソースコンテンツ (法務記事、規制、または公開レコード)、ポリシー、およびリスクに関連している場合があります。ポリシーをエンティティタイプ (一連のフィルター条件に一致するエンティティのグループ化) に関連付けるか、またはエンティティタイプをコントロール目標に

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連付けると、コントロールが自動的に生成されます。コントロールの詳細については、「Manage controls (コントロールの管理)」を参照してください。

リスクとは、組織のビジネスゴールに悪影響を与える可能性のある脅威または脆弱性のことです。たとえば、リスクは、任意のアイテム、ポリシー、コントロール、または修復タスクに関連する場合があります。リスクフレームワークまたはリスクステートメントとエンティティタイプを関連付けると、リスクが自動的に生成されます。

注:
リスクステートメントは、組織で発生する可能性のある潜在的なリスクまたは脅威に関する一般的なステートメントです。リスクフレームワークは、リスクアセスメント、応答、およびそれに関連するリスクおよび軽減アクティビティの説明責任で構成されます。

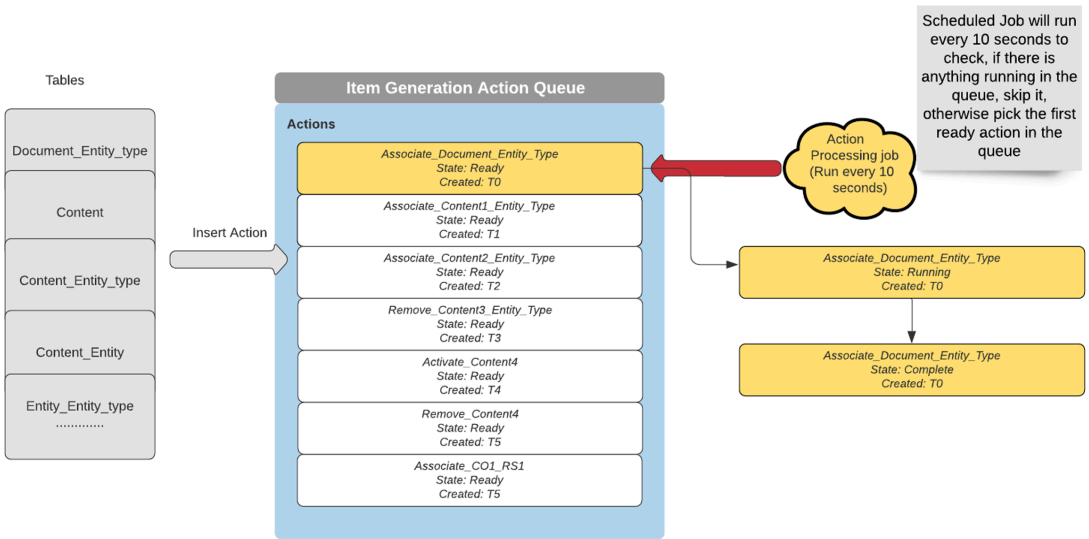
リスクの詳細については、「Using Risk Management (リスク管理の使用)」を参照してください。

バージョン 12.x.x およびそれ以前のリリースのアイテム生成プロセス (v1) では、アクションキュー内の停止したアクションが原因で非同期の更新が生成されていました。拡張アイテム生成プロセス (v2) により、停止する問題が解消され、コントロールとリスクの処理時間が大幅に改善されます。たとえば、従来のアイテム生成プロセス (v1) は約 13.7 分で 10,000 のリスクを生成しましたが、新しいアイテム生成プロセス (v2) では約 5.27 分で 10,000 のリスクを生成できます。

アイテム生成のプロセスフロー

アイテム生成プロセスは、アクションをアクションキューに挿入し、アクションを 1 つずつ順番に実行します。スケジュール済みジョブが定期的に実行され、アクションキューがチェックされます。アクションがキューで実行されている場合、スケジュール済みジョブはそれをスキップします。現在の実行中のアクションが完了し、他のアクションが進行中でない場合は、次の例に示すように、スケジュール済みジョブはキュー内の [準備完了] ステータスのアクションを取得します。

アイテム生成のプロセスフロー



アイテム生成プロセスのメリット

新しいアイテム生成プロセスには、次の主なメリットがあります。

- アイテム生成アクションのイベントキューを使用して、コントロールとリスクを迅速に処理します。
- 不整合な更新を生成したキュー内の停止したアクションと競合状態を排除します。
- アイテム生成アクションの履歴とステータスをログに記録します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

- アイテム生成アクションのイベントキューのエラーに関する詳細情報を提供します。問題を迅速かつ効率的に追跡してトラブルシューティングするために役立ちます。
- コンプライアンスマネージャーとリスクマネージャーが、ほとんどメンテナンスを行わずにオートパイロットモードでコントロールとリスクを管理するために役立ちます。

アイテム生成プロセスで使用されるアプリケーション

次の GRC アプリケーションが、 アイテム生成プロセスで使用されます。

- GRC：ポリシーとコンプライアンス管理
- GRC: リスク管理
- GRC: Profiles

GRC: Profiles アプリケーションは、GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 または GRC: リスク管理 アプリケーションが有効化されると、自動的にインストールされます。

アップグレードシナリオと既存の実装へのそれらの影響

ポリシーとコンプライアンス管理 と リスク管理 の両方のアプリケーションをバージョン 13.x.x にアップグレードする必要があります。ポリシーとコンプライアンス管理 および リスク管理 アプリケーションをバージョン 13.x.x にアップグレードすると、新しいアイテム生成プロセス (v2) が従来のアイテム生成プロセス (v1) に置き換わります。

注:
ポリシーとコンプライアンス管理 および リスク管理 アプリケーションをバージョン 13.x.x にアップグレードすると、GRC: Profiles アプリケーションがバージョン 13.x.x に自動的にアップグレードされます。

必要なバージョンの ポリシーとコンプライアンス管理 および リスク管理 アプリケーションがインスタンスにインストールされていることを確認します。インストールされているアプリケーションに次のいずれかのシナリオが該当する場合、画面にエラーメッセージが表示されます。

- 以前に ポリシーとコンプライアンス管理 と リスク管理 の両方のアプリケーションがインスタンスにインストールされていて、そのうちの 1 つだけをバージョン 13.x.x にアップグレードする
- ポリシーとコンプライアンス管理 または リスク管理 のいずれかのアプリケーションのみがインスタンスにインストールされており、GRC: Profiles アプリケーションをバージョン 13.x.x にアップグレードする
- インスタンスに ポリシーとコンプライアンス管理 と リスク管理 の両方のアプリケーションがインストールされており、GRC: Profiles アプリケーションをバージョン 13.x.x にアップグレードする

エラーメッセージには、次の例に示すように、ポリシーとコンプライアンス管理 と リスク管理 の両方のアプリケーションをバージョン 13.x.x にアップグレードする必要があることが示されます。

アプリケーションをアップグレードするためのメッセージ



アップグレードしても、アイテム生成プロセスの既存の実装に目に見える影響はありません。

注:
バージョン 13.x.x にアップグレードしていない場合でも、従来のアイテム生成プロセスは引き続きサポートされます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

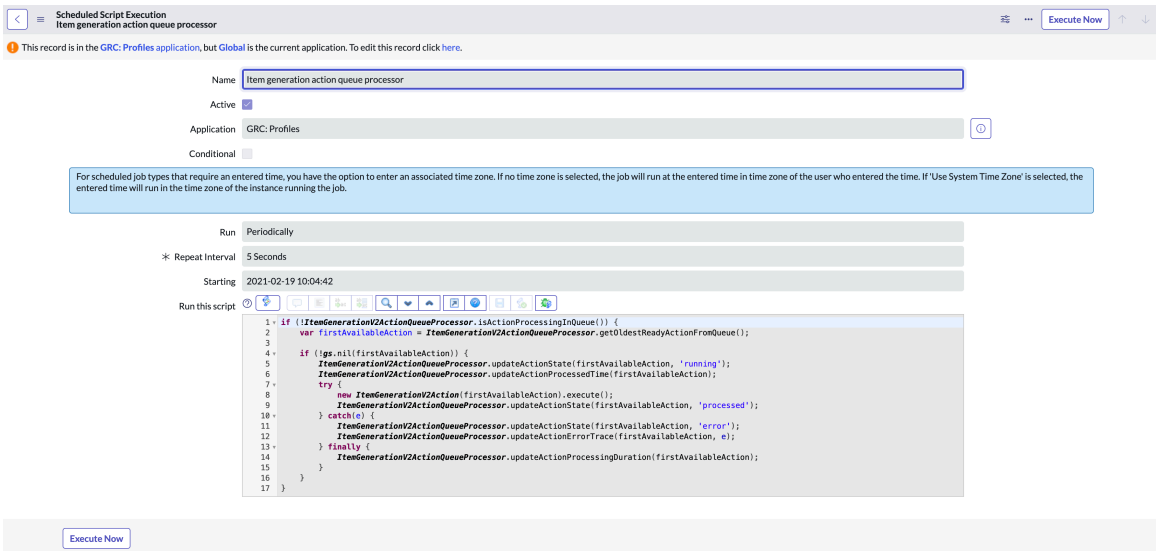
アイテム生成プロセスで使用されるコンポーネント

アイテム生成プロセスでは、テーブル、スケジュール済みジョブ、アクションハンドラーなどのいくつかのタイプの参照コンポーネントが使用されます。アイテム生成プロセスで使用されるコンポーネントの詳細については、「アイテム生成プロセスとともにインストールされるコンポーネント」を参照してください。

スケジュール済みジョブとアクションイベントキューを使用する

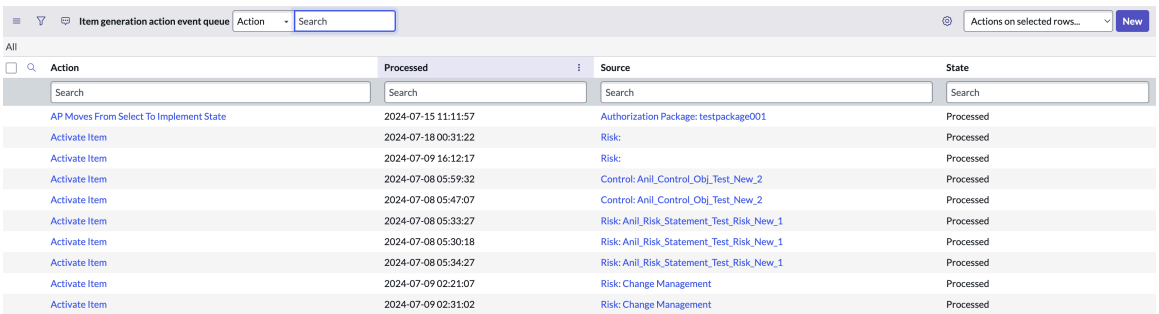
アイテム生成プロセスは、*Item generation action queue processor* スケジュール済みジョブとアクションイベントキューをバックグラウンドで使用します。sn_grc.admin ロールを持つユーザーは、次の例に示すように、スケジュール済みジョブの頻度を設定できます。

スケジュール済みジョブの頻度を設定する



コントロールまたはリスクを生成、更新、または削除するアクションを開始すると、スケジュール済みジョブによって sn_grc_item_generation_action_event_queue.list テーブルに各アクションのレコードが挿入されます。アイテム生成アクションのイベントキューを次の例に示します。

アイテム生成アクションのイベントキュー

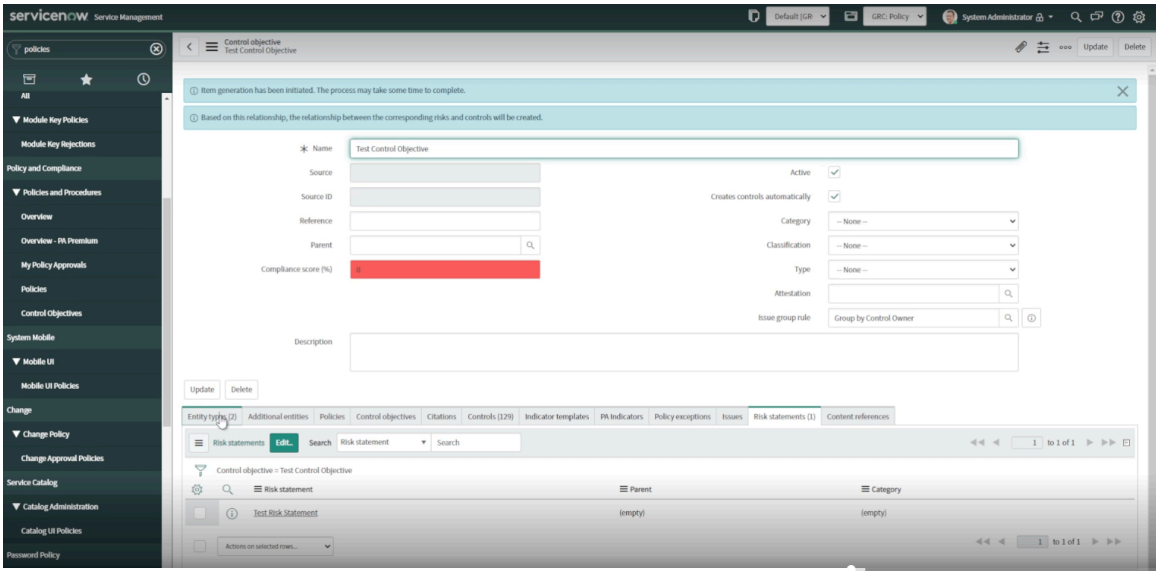


アイテム生成プロセスを使用してアクションが生成されると、アイテム生成プロセスが開始されたというメッセージが表示されます。たとえば、コントロール目標にリスクステートメントを追加すると、次の例に示すメッセージが表示されます。

自動翻訳

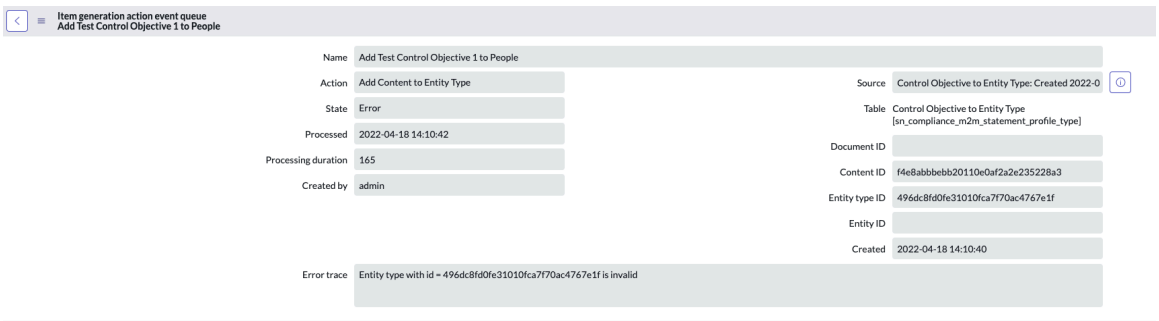
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アイテム生成プロセスの開始



キュー内のアクションの処理中にエラーが発生した場合、アイテム生成プロセスはエラーに関する詳細情報を表示します。たとえば、次の例に示すように、オブジェクト ID を含むエラートレースが表示される場合があります。

エラートレース



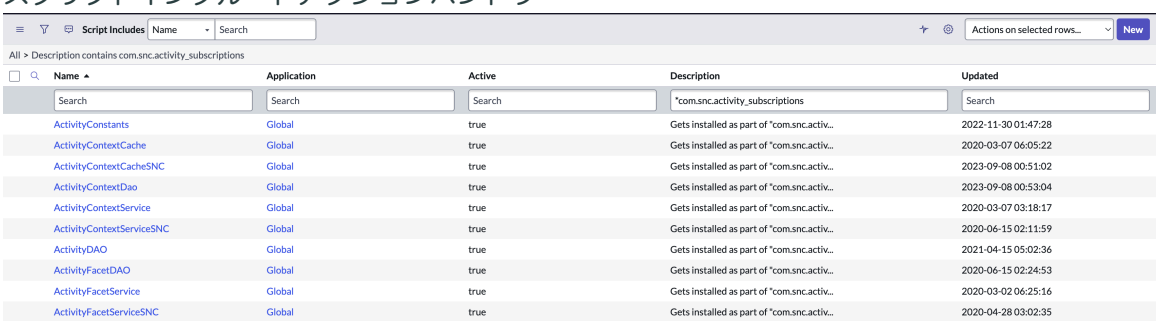
キュー内のエラートレースとその他の詳細を使用して、問題の追跡とトラブルシューティングを行うことができます。

スクリプトインクルードアクションハンドラー

アイテム生成プロセスは、ポリシーとコンプライアンス管理 および リスク管理 アプリケーションのアクションを処理するスクリプトインクルードアクションハンドラーを使用します。

サポートされているアクションハンドラーのリストを表示するには、次の例に示すように、アプリケーションナビゲーターの [スクリプトインクルード] に移動します。

スクリプトインクルードアクションハンドラー

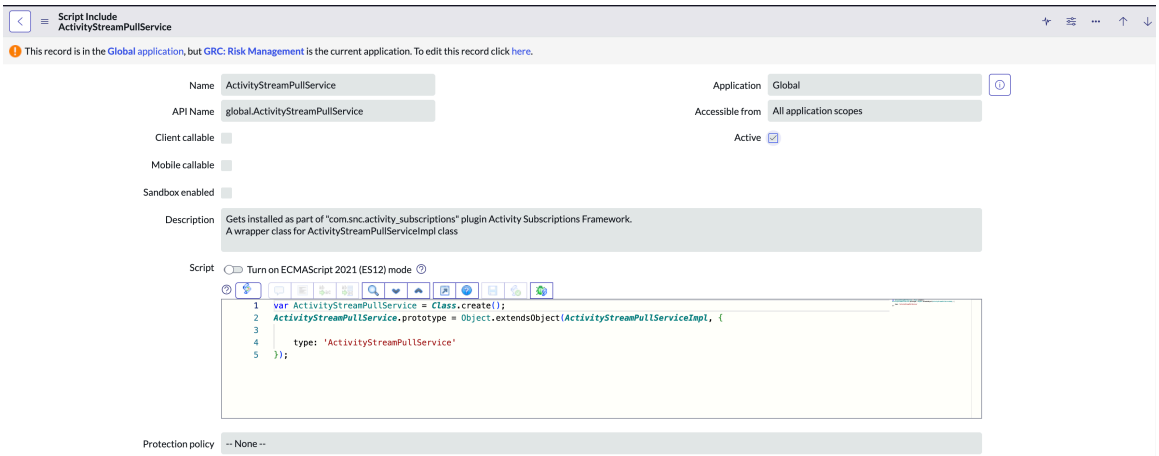


Name	Application	Active	Description	Updated
ActivityConstants	Global	true	Gets installed as part of "com.snc.activ...	2022-11-30 01:47:28
ActivityContextCache	Global	true	Gets installed as part of "com.snc.activ...	2020-03-07 06:05:22
ActivityContextCacheSNC	Global	true	Gets installed as part of "com.snc.activ...	2023-09-08 00:51:02
ActivityContextDao	Global	true	Gets installed as part of "com.snc.activ...	2023-09-08 00:53:04
ActivityContextService	Global	true	Gets installed as part of "com.snc.activ...	2020-03-07 03:18:17
ActivityContextServiceSNC	Global	true	Gets installed as part of "com.snc.activ...	2020-06-15 02:11:59
ActivityDAO	Global	true	Gets installed as part of "com.snc.activ...	2021-04-15 05:02:36
ActivityFacetDAO	Global	true	Gets installed as part of "com.snc.activ...	2020-06-15 02:24:53
ActivityFacetService	Global	true	Gets installed as part of "com.snc.activ...	2020-03-02 06:25:16
ActivityFacetServiceSNC	Global	true	Gets installed as part of "com.snc.activ...	2020-04-28 03:02:35

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

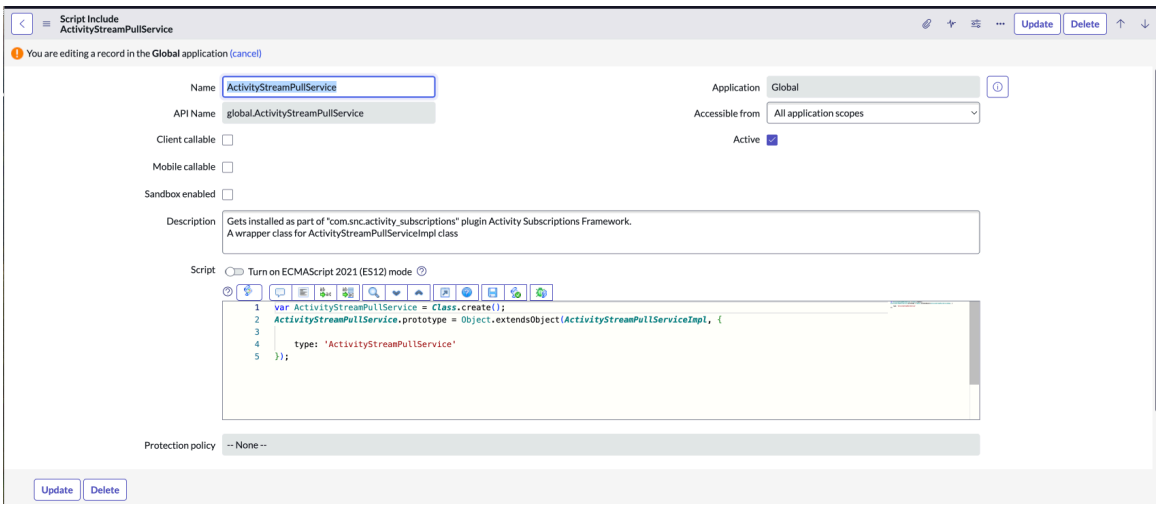
すべてのスクリプトインクルードアクションハンドラーには、基本バージョンと拡張バージョンが含まれています。アイテム生成プロセスでは、アクションを処理するために基本バージョンが使用されます。sn_grc.manager ロールを持つユーザーは、次の例に示すように、アクションハンドラーにリストされている基本機能を確認できます。

基本機能



script_include_admin ロールを持つユーザーは、次の例に示すように、基本機能を上書きすることでコントロールまたはリスクのアクション戦略を変更できます。

基本機能を上書きする



アイテム生成プロセスとともにインストールされるコンポーネント

アイテム生成プロセスとともに、いくつかのタイプのコンポーネント (テーブル、スケジュール済みジョブ、アクションハンドラーなど) がインストールされます。

次のコンポーネントは、バージョン 13.x.x のアイテム生成プロセスとともにインストールされます。

アイテム生成プロセスとともにインストールされるコンポーネント

コンポーネント	説明
テーブル	
アイテム生成アクション のイベントキューテーブル (sn_grc_item_generation_action_event_queue)	アイテム生成プロセス中に生成されるアクションを一覧表示するテーブル。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アイテム生成プロセスとともにインストールされるコンポーネント (続く)

コンポーネント	説明
スケジュール済みジョブ	
アイテム生成アクションのキュープロセッサ	アクションキューを処理するスケジュール済みジョブ。デフォルトでは、ジョブは 5 秒ごとに実行されます。
アクションハンドラー	
ItemGenerationV2Action	アイテムの生成に使用されるすべてのアクションハンドラーの単一のビュー。
IGContentToEntityTypeActionHandler	次のいずれかのアクションを実行したときに呼び出されるハンドラー。 • エンティティタイプにコントロール目標とリスクステートメントを追加する。 • エンティティタイプからコントロール目標とリスクステートメントを削除する。
IGDocumentToEntityTypeActionHandler	次のいずれかのアクションを実行したときに呼び出されるハンドラー。 • エンティティタイプにポリシーとリスクフレームワークを追加する。 • エンティティタイプからポリシーとリスクフレームワークを削除する。
IGEntityTypeActionHandler	次のいずれかのアクションを実行したときに呼び出されるハンドラー。 • エンティティタイプを有効化する。 • エンティティタイプを削除する。 • エンティティタイプを非アクティブ化する。
IGEntityToEntityTypeActionHandler	次のいずれかのアクションを実行したときに呼び出されるハンドラー。 • エンティティタイプにエンティティを追加する。 • エンティティタイプからエンティティを削除する。
IGContentActionHandler	次のいずれかのアクションを実行したときに呼び出されるハンドラー。 • コントロール目標とリスクステートメントを有効化する。 • コントロール目標とリスクステートメントを非アクティブ化する。 • コントロール目標とリスクステートメントを作成する。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アイテム生成プロセスとともにインストールされるコンポーネント (続く)

コンポーネント	説明
	• 自動コントロール作成フラグを設定する。 • リスクステートメントにコントロール目標を追加する。 • リスクステートメントからコントロール目標を削除する。 • コントロール目標とリスクステートメントを削除する。
IGDocumentActionHandler	次のいずれかのアクションを実行したときに呼び出されるハンドラー。 • ポリシーとリスクフレームワークを有効化する。 • ポリシーとリスクフレームワークを非アクティブ化する。 • コントロール目標とリスクステートメントをポリシーとリスクフレームワークに追加する。 • コントロール目標とリスクステートメントをポリシーとリスクフレームワークから削除する。
IGEntityActionHandler	次のいずれかのアクションを実行したときに呼び出されるハンドラー。 • エンティティを有効化する。 • エンティティを非アクティブ化する。
IGContentToAddtlEntityActionHandler	次のいずれかのアクションを実行したときに呼び出されるハンドラー。 • 追加のエンティティにコントロール目標とリスクステートメントを追加する。 • 追加のエンティティからコントロール目標とリスクステートメントを削除する。
IGItemActionHandler	次のいずれかのアクションを実行したときに呼び出されるハンドラー。 • アイテムを有効化する。 • アイテムを非アクティブ化する。 • アイテムを削除する。
IGItemToEntityActionHandler	次のいずれかのアクションを実行したときに呼び出されるハンドラー。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アイテム生成プロセスとともにインストールされるコンポーネント (続く)

コンポーネント	説明
	• アイテムにエンティティを追加する。 • アイテムへのエンティティを有効化する。 • アイテムからエンティティを削除する。 • アイテムへのエンティティを非アクティブ化する。
IGItemToEntityTypeActionHandler	次のいずれかのアクションを実行したときに呼び出されるハンドラー。 • アイテムにエンティティタイプを追加する。 • アイテムからエンティティタイプを削除する。

注:
共通コントロールのアイテム生成プロセスの詳細については、「アイテムの生成における 新しいアクションタイプ」を参照してください。

新しいアイテム生成プロセスのロールとユーザー

sn_grc.admin または sn_risk.manager ロールを持つユーザーは、インスタンスの sn_grc_item_generation_action_event_queue.list テーブルにアクセスして、アイテム生成アクションキューを表示できます。

アイテム生成プロセスをトリガーするコンプライアンスおよびリスクのユーザーロールと、それらに関連付けられたタスクを次の表に示します。

注:
この表に記載されているコンプライアンスおよびリスクのユーザーロールは、バージョン 12.x.x およびそれ以前のリリースで利用可能です。

コンプライアンスおよびリスクのユーザーロールと関連タスク

コンプライアンスとリスクのユーザーロール	関連付けられたタスク
• sn_compliance.admin • sn_risk.admin	• ポリシーを削除する。 • リスクフレームワークを削除する。 • コントロール目標とリスクステートメントを削除する。 • エンティティを削除する。 • エンティティタイプを削除する。
• sn_compliance.manager • sn_risk.manager	• ポリシーまたはリスクフレームワークをエンティティに関連付ける。 • ポリシーまたはリスクフレームワークをエンティティから削除する。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンプライアンスおよびリスクのユーザーロールと関連タスク (続く)

コンプライアンスとリスクのユーザーロール	関連付けられたタスク
	• ポリシーまたはリスクフレームワークをエンティティタイプに関連付ける。 • ポリシーまたはリスクフレームワークをエンティティタイプから削除する。 • エンティティタイプを有効化する。 • エンティティタイプを非アクティブ化する。 • エンティティタイプにエンティティを関連付ける。 • エンティティタイプからエンティティを削除する。 • リスクステートメントにコントロール目標を追加する。 • リスクステートメントからコントロール目標を削除する。
• sn_compliance.manager • sn_risk.manager • エンティティオーナー	• エンティティを有効化する。 • エンティティを非アクティブ化する。
• sn_compliance.user • sn_risk.user	• コントロール目標とリスクステートメントを作成する。 • [コントロールを自動的に作成] オプションを有効にする。
sn_risk.manager	• リスクフレームワークにリスクステートメントを追加する。 • リスクフレームワークに追加されたリスクステートメントを変更する。

共通コントロールのアイテム生成における操作の変更

アイテムの生成で操作上の変更が行われるのは、主にアイテムの生成によってコントロールが作成されるか、既存の標準コントロールが有効化されるためです。コントロールをエンティティに関連付ける場合は、そのエンティティのコントロールを作成するよりも、依存エンティティを共通コントロールに関連付けることが優先されます。

コントロールの作成

システム内の既存のコントロールをエンティティのテストに使用できる場合は、既存のデータを利用してコントロールの作成を回避できます。多数のコントロールがあると、コントロールの急増につながる場合があります。それが実現不可能な場合は、プライマリエンティティを共通コントロールに関連付けて、共通コントロールをテストし、共通コントロールの依存エンティティにテスト結果を実装できます。これらのオプションが両方とも機能しない場合は、コントロールを作成できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

共通コントロールを作成するには、コントロールフォームの [機能] フィールドで [共通] を選択します。[共通に変換] リスト UI アクションを選択します。共通コントロールは検証時に作成されます。標準コントロールを共通コントロールに変換する前に、コントロール目標を選択する必要があります。

依存エンティティを共通コントロールに関連付ける

1. コントロールフォームの [依存エンティティ] 関連リストを使用して、個々のエンティティを共通コントロールに追加します。[削除] ボタンを使用して依存エンティティを削除することもできます。
2. コントロールフォームの [依存エンティティタイプ] 関連リストを使用して、エンティティタイプを共通コントロールに追加します。[削除] ボタンを使用して依存エンティティタイプを削除することもできます。
3. リスクフォームの [コントロール] 関連リストの [共通コントロールを継承] UI アクションを使用して、コントロール目標別にグループ化された共通コントロールを選択します。

注:
共通コントロールの依存エンティティの関連付けの詳細については、「Compliance ワークスペースを使用してコントロールを作成する」および「標準コントロールを共通コントロールに変換して依存エンティティを追加する」を参照してください。

アイテムの生成 - 仮定

- 共通コントロールの自動生成はありません。
- 共通コントロールの存在または依存エンティティの共通コントロールまたは標準コントロールへの関連付けがチェックされるときには、コントロールの名前、エンティティ、およびコントロール目標が一致する必要があります。
- 標準コントロールと共通コントロールの優先順位：
  - 依存関係と標準コントロールが存在しない場合は、アクションタイプに基づいて標準コントロールが作成されます。アクションタイプには、[エンティティタイプにコンテンツを追加]、[エンティティタイプにドキュメントを追加]、[コンテンツをアクティブ化]、[ドキュメントをアクティブ化] などがあります。
  - 依存関係と標準コントロールが存在しない場合は、アクションタイプに基づいて共通コントロールへの依存関係が作成されます。アクションタイプは、[共通コントロールにエンティティタイプを追加 (Add entity type to common control)] になります。
  - ユーザーの意図がアクションタイプから明確でなく、標準コントロールがまだ存在しない場合、競合するエンティティタイプでは、標準コントロールの作成より、共通コントロールへの依存エンティティの関連付けが優先されます。アクションタイプは、たとえば [エンティティタイプにエンティティを追加] になります。

アイテム生成の変更

アイテムの生成における新しいアクションタイプ

アイテム生成アクションタイプ	説明
共通コントロールにエンティティタイプを追加 (Add entity type to common control)	エンティティが共通アイテムに関連付けられていない場合、アプリケーションは 2 つの間で m2m 関連付けを作成してエンティティを共通アイテムに関連付けます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アイテムの生成における新しいアクションタイプ (続く)

アイテム生成アクションタイプ	説明
共通コントロールからエンティティタイプを削除 (Remove entity type from common control)	エンティティが共通アイテムに関連付けられていて、 [エンティティタイプ] フィールドに他のエンティティタイプがあるか、m2m レコードで **Individly_added** が true の場合、アプリケーションはエンティティタイプ ID を [エンティティタイプ] 列から削除するか、共通アイテムの m2m レコードへのエンティティを削除します。
エンティティをアイテムに追加	リスク管理 がインストールされている場合、コントロール目標に関連付けられたリスクステートメントに基づいて、依存エンティティが考慮された後に、共通コントロール m2m レコードに対するリスクがエンティティへのコントロール m2m テーブルに追加されます。
アイテムからエンティティを削除	• リスク管理 がインストールされている場合、コントロール目標に関連付けられたリスクステートメントに基づいて、依存エンティティが考慮された後に、共通コントロール m2m レコードに対するリスクが削除されます。 • プライバシー管理 がインストールされている場合、依存エンティティに基づく共通コントロール m2m 関連付けに対する処理アクティビティと、コントロール目標 m2m 関連付けに対する処理アクティビティも削除されます。
アイテムへのエンティティをアクティブ化 (Activate entity to item)	リスク管理 がインストールされている場合、コントロール目標に関連付けられたリスクステートメントに基づいて、その依存エンティティが考慮された後に、共通コントロール m2m レコードに対するリスクがエンティティへのコントロール m2m テーブルに追加されます。
アイテムへのエンティティを非アクティブ化 (Deactivate entity to item)	• リスク管理 がインストールされている場合、コントロール目標に関連付けられたリスクステートメントに基づいて、コントロールの依存エンティティが考慮された後に、共通コントロール m2m レコードに対するリスクが削除されます。 • プライバシー管理 がインストールされていて、処理アクティビティが依存エンティティに対応している場合、共通コントロール m2m 関連付けに対する処理アクティビティと、コントロール目標 m2m 関連付けに対する処理アクティビティも削除されます。
アイテムをアクティブ化	以下の場合、共通アイテムが追加されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アイテムの生成における新しいアクションタイプ (続く)

アイテム生成アクションタイプ	説明
	1. 同じ名前、コンテンツ (コントロールとコントロール目標)、およびエンティティの組み合わせを持つ標準コントロールが存在しない場合。 2. エンティティが同じ名前、コンテンツ、およびエンティティを持つ他の共通アイテムに依存していない場合。 3. エンティティがアクティブな場合。 以下の場合、標準アイテムが追加されます。 1. リスク管理 および ポリシーとコンプライアンス管理 のプラグインがインストールされている場合 2. リスクステートメントとコントロール目標の関連付けに基づいて、リスクがコントロールに関連付けられている場合。
アイテムを非アクティブ化	• 共通アイテム：すべてのエンティティへのコントロール m2m レコードを非アクティブにします。 • 標準アイテム：リスクステートメントとコントロール目標の関連付けに基づいて、コントロールへのリスクの関連付けが削除されます。

自動翻訳

承認コンフィギュレーターを使用した承認の設定

GRC：承認コンフィギュレーターアプリケーションは、ビジネスアサインルール構成に基づいて複数のレベルの承認を定義する機能を提供します。

アプリケーションで複数のレベルの承認を設定するには、次の設定手順を完了する必要があります。

1. 承認構成レコードを設定します。詳細については、「承認構成レコードを設定する」を参照してください。
2. 承認レベルを設定します。詳細については、「承認設定レコードの承認レベルをアサインする」を参照してください。
3. アサイン構成を設定します。詳細については、「規制アラートを自動アサインする構成」を参照してください。
4. 承認ルールを設定します。詳細については、「承認レベルの承認ルールの設定」を参照してください。

注:

GRC：承認コンフィギュレーター アプリケーションのロールの詳細については、「GRC：承認コンフィギュレーターとともにインストールされるロール」を参照してください。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認構成レコードを設定する

複数レベルの承認を有効にする承認構成レコードを設定し、承認ルールに基づいて各レベルの承認者を選択します。

始める前に

承認構成のための GRC：承認コンフィギュレーター (sn_grc_appr) アプリケーションに GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションをインストールします。

必要なロール：sn_grc_appr.admin, sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst、sn_compliance_ws.corporate_compliance_manager

手順

1. 移動先 すべて > **Approval Configurator** > 承認構成.
2. **[New** (新規)] を選択します。

   承認構成の新しいレコードが表示されます。



3. フォームのフィールドに入力します。
   フォーム内のフィールドの詳細については、「承認構成の新規レコード」を参照してください。

   注:
   同じ優先度で複数の承認構成をテーブルに適用することはできません。

4. [送信] を選択します。

承認構成の新規レコード

[承認構成の新規レコード] フォームを使用して、承認構成レコードを作成します。

承認構成の新規レコード

[承認構成] フォーム

フィールド	説明
Priority (優先度)	承認構成の優先度。
フィルター条件	[適用先] フィールドを参照してテーブルに適用される条件。 承認者の評価用に、ビジネスドキュメントのフィルター条件に一致する優先度の高い承認構成が選択されます。
ドメイン	承認設定レコード用に選択されたドメイン。
アクティブ	承認構成を有効にするオプション。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[承認構成] フォーム (続く)

フィールド	説明
名前	承認構成の名前。
適用先	承認のためのレコードの送信元となるテーブル。たとえば、ビジネスインパクトアナリシスや任意のテーブルなどです。

アサイン構成の新規レコード

アサイン構成の新規レコードフォームを使用して、規制アラートタイプの規制イベントの自動アサインを作成します。

アサイン構成の新規レコード

アサイン構成の新規レコードフォーム

フィールド	説明
名前	アサイン構成の名前。たとえば、「Assignment configuration 1」などです。
適用先	アサイン構成が適用されているテーブルの名前。
順序	実行するアサイン構成を選択するためにアサイン構成エンジンによって使用される値。たとえば、同じテーブルに条件が異なる複数のアサイン構成がある場合、最小値を持つものが実行対象として選択されます。
アクティブ	アサイン構成情報レコードをアクティブとしてマークするオプション。
条件	
フィールドを選択	条件を適用するフィールド。
演算子	必須の演算子。
値	条件を適用しているフィールドの値。
アクション	
アサイン先	• ユーザーのフルネームの影響を受ける個人。 • 関連付けられたコンテキストで参照される個人。 • プログラムロジックに基づく個人。
影響を受けるユーザー (User Influenced by)	構成をアサインするユーザーカテゴリ。 • なし。 • アサイン先 (Assigned to)。 • クローズ担当者 (Closed by)。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アサイン構成の新規レコードフォーム (続く)

フィールド	説明
	• 問題マネージャー (Issue manager)。 • 開始者 (Opened by)。
影響を受けるグループ (Group Influenced by)	構成をアサインするユーザーグループカテゴリ。 • アサイン先グループ (Assignment group)。 • 問題マネージャーグループ (Issue manager group)。
アサイニー (ユーザー)	構成をアサインするユーザー。
アサイニー (グループ)	構成をアサインするユーザーグループ。

承認設定レコードの承認レベルをアサインする

承認の各ステップをサポートするために、承認設定レコードに 1 つ以上の承認レベルをアサインします。

始める前に

必要なロール：sn_grc_appr.admin

手順

1. 移動先 すべて > **Approval Configurator** > 承認構成.
2. リスト内の承認設定レコードをクリックして、承認レベルを設定します。
3. [承認レベル] セクションで [新規] をクリックします。
4. フォームのフィールドに入力します。

承認レベルフォーム

フィールド	説明
名前	承認レベルの名前。
レベル	承認のステージ。

注:
同じレベルで承認構成の複数の承認レベルを使用することはできません。

5. [送信] をクリックします。

[承認レベルの新規レコード] フォーム

[承認レベルの新規レコード] フォームを使用して、ポリシーレコードの承認構成を作成します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認レベルの新規レコード

[承認レベルの新規レコード] フォーム

フィールド	説明
名前	承認レベルの名前。たとえば「レベル 1」などです。
レベル	ポリシーレコードの承認レベルの番号。たとえば「レベル 1」などです。ポリシーレコードには、最大 10 レベルの承認を設定できます。

承認レベルの承認ルールの設定

承認レベルの承認ルールを設定します。ソース、承認ルールが適用されるソーステーブルのフィルター条件、承認者タイプ、およびレコードの承認者を定義できます。

始める前に
必要なロール：sn_grc_appr.admin

このタスクについて
承認ルールは、そのレベルの承認がトリガーされる条件を定義するため、承認レベルに必要です。たとえば、リスクアドミニストレーターまたは BCM アドミニストレーターの承認ルールを作成できます。

特定の承認者、選択したソーステーブルからの承認者、動的承認者、またはビジネスドキュメントを承認するために選択した承認者を選択できます。たとえば、承認者には、リスクアドミニストレーター、BIA オーナー、BCM アドミン、貢献者などが考えられます。

手順

1. 移動先 すべて > アサイン構成および承認構成 > 承認構成.
2. リスト内の承認構成レコードをクリックします。
3. [承認レベル] セクションで [名前] 列の承認レベルレコードをクリックします。
4. [承認ルール] セクションで [新規] をクリックします。
5. 承認ルールフォーム のフィールドに入力します。
6. [**Submit** (送信)] を選択します。

承認ルールフォーム

承認ルールフォームを使用して、承認ルールを作成します。

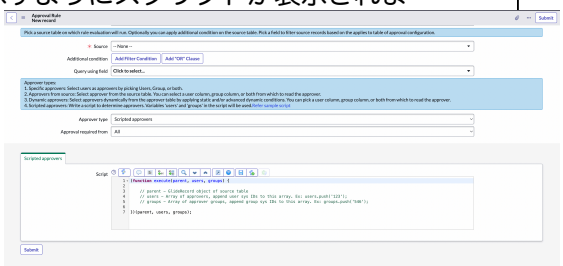
承認ルールフォーム

フィールド	説明
名前	承認ルールの名前。
ソース	承認ルールが適用されるテーブル。
フィールドを使用するクエリー	承認テーブルとソーステーブルを接続するフィールド。
他の条件	ソーステーブルに適用されるフィルター条件。
承認者タイプ	承認者のタイプ。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認ルールフォーム (続く)

フィールド	説明
	• 特定の承認者：選択した承認者。 • ソースからの承認：ソーステーブルからのユーザーまたはグループ。 • 動的承認者：任意のテーブルから動的に選択された承認者。 • スクリプト化済み承認者：承認者を決定するためのスクリプト。下の例に示すようにスクリプトが表示されます。  **注:** セキュリティ上の理由から、BCM アドミニストレーターは、承認ルールフォームの [スクリプト] フィールドへの書き込みアクセス権がありません。承認コンフィギュレーター 開発者のみに、承認ルールフォームの [スクリプト] フィールドへの作成および書き込みアクセス権があります。 BCM admin ロールを持っている場合は、[承認者タイプ] リストから次のタイプの承認者のみを使用して承認ルールを設定できます。 • 特定の承認者 • ソースからの承認 GRC：承認コンフィギュレーター アプリケーションのロールの詳細については、「GRC：承認コンフィギュレーターとともにインストールされるロール」を参照してください。
次の承認が必要：	承認してもらう必要がある 1 人以上のステークホルダー。
説明	承認ルールに関する簡単なメモ。
承認者	
次からの承認者：	承認者テーブル。このフィールドは、承認者タイプが [ソースからの承認] または [動的承認者] である場合のみ使用できます。[ソースからの承

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認ルールフォーム (続く)

フィールド	説明
	認] の場合は、デフォルトでソーステーブルになります。
フィルター基準	承認者テーブルからのレコードをフィルターするための条件。 このフィールドは、承認者タイプが [動的承認者] である場合のみ使用できます。
詳細	スクリプト化された動的条件を設定するためのオプション。
ユーザーフィールド	承認者テーブルからのユーザー参照または承認者のリスト。
グループフィールド	承認者テーブルからの承認者としてのユーザーグループ参照。
動的条件	承認者テーブルに高度なフィルターを適用するためのスクリプトフィールド。
ユーザー	承認者として指定された 1 人以上のユーザー。
グループ	承認者のグループ。
スクリプト化済み承認者	
スクリプト	承認者を決定するためのスクリプト：スクリプト内のユーザーおよびグループが承認者として選択されます。

[承認ルールの新規レコード] フォーム

[承認ルールの新規レコード] フォームを使用して、ポリシーレコードの承認レベルに対して承認ルールを作成します。

承認ルールフォーム

フィールド	説明
名前	承認ルールの名前。たとえば「承認ルール 1」などです。
説明	承認ルールに関する簡単な説明。
アクティブ	承認ルールレコードをアクティブとしてマークするオプション。
ソース	承認ルールが適用されるソーステーブル。必要に応じて、ソーステーブルに追加条件を適用できます。承認構成内で記入する [適用先] テーブルに基づいて、ソースレコードをフィルタリングするフィールドを選択します。
他の条件	ソーステーブルに適用可能な追加フィルター条件。
フィールドを使用するクエリー	承認テーブルとソーステーブルを接続するフィールド。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認ルールフォーム (続く)

フィールド	説明
承認者タイプ	ポリシーの承認者のタイプ。承認者タイプについては、次のオプションを参照してください。 • 特定の承認者：ユーザー、グループ、またはその両方を選択し、ユーザーを承認者として選択します。 • ソースからの承認：ソーステーブルから承認者を選択します。承認者を読み取るユーザー列、グループ列、またはその両方を選択できます。 • 動的承認者：静的および / または高度な動的条件を適用して、承認者テーブルから承認者を動的に選択します。承認者を読み取るユーザー列、グループ列、またはその両方を選択できます。 • スクリプト化済み承認者：承認者を決定するためのスクリプトを記述します。**users** 変数と **groups** 変数がスクリプトで使用されます。 **注:** セキュリティ上の理由から、承認コンフィギュレーター 開発者が持っているのは、承認ルールフォームの [スクリプト] フィールドへの読み取りおよび書き込みアクセス権です。承認ルールのセットアップについての詳細は、「承認レベルの承認ルールの設定」を参照してください。
次の承認が必要：	承認してもらう必要がある 1 人以上のステークホルダー。
承認者タイプ (レコードに対して選択された承認者)	
オプション 1：特定の承認者	承認者タイプが [特定の承認者] の場合、承認者は次のようになります。 • ユーザー：承認者テーブルからのユーザー参照または承認者のリスト。 • グループ：承認者テーブルからの承認者としてのユーザーグループ参照。
オプション 2：ソースからの承認	承認者タイプが [ソースからの承認者] の場合、承認者は次のようになります。 • [次の承認が必要：] フィールドで使用可能なオプションは、次のとおりです。 ○ すべて ○ 任意の人

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

承認ルールフォーム (続く)

フィールド	説明
	• [承認者] セクションで使用可能なオプションは、次のとおりです。 ○ 次からの承認者： ○ ユーザーフィールド ○ グループフィールド
オプション 3：動的承認者	承認者タイプが [動的承認者] の場合、承認者は次のようになります。 • [次の承認が必要：] フィールドで使用可能なオプションは、次のとおりです。 ○ すべて ○ 任意の人 • [承認者] セクションで使用可能なオプションは、次のとおりです。 ○ 次からの承認者： ○ フィルター基準 ○ 詳細 ○ ユーザーフィールド ○ グループフィールド
オプション 4：スクリプト化済み承認者	承認者タイプが [スクリプト化済み承認者] の場合、承認者は次のようになります。 • [次の承認が必要：] フィールドで使用可能なオプションは、次のとおりです。 ○ すべて ○ 任意の人 • [スクリプト化済み承認者] セクションに、承認構成のカスタムスクリプトが表示されます。 **注:** 開発者ロールを持つユーザーのみがカスタムスクリプトを変更できます。

で構成されたベースシステムテーブル GRC：承認コンフィギュレーター

GRC：承認コンフィギュレーター を使用すると、特定のテーブルに存在する任意のレコードの承認を構成できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC：承認コンフィギュレーター機能を使用するように構成されたテーブル

アプリケーション	テーブル
サードパーティリスク管理	sn_tprm_dd_request
事業継続性管理	• sn_recovery_event • sn_bcp_plan • sn_bia_analysis
統合リスク管理	• sn_risk_advanced_mitigation_task • sn_risk_advanced_risk_assessment_instance • sn_risk_acceptance_task • sn_risk_avoidance_task • sn_risk_mitigation_task • sn_risk_advanced_risk_assessment_instance • sn_risk_transfer_task
ポリシーとコンプライアンス	• sn_compliance_policy • sn_compliance_policy_exception

自動翻訳

GRC：承認コンフィギュレーターとともにインストールされるロール

さまざまなロールが、GRC：承認コンフィギュレーター アプリケーションのの有効化と同時にインストールされます。

GRC：承認コンフィギュレーター と一緒にインストールされるロール

ロール タイトル [名前]	説明	ロールを含む
承認コンフィギュレーター admin [sn_grc_appr.admin]	承認構成、承認レベル、および承認ルールテーブルに対してアクセスを作成、読み取り、更新、および削除します。 **注:** 承認コンフィギュレーター アドミニストレーターには、承認ルールフォームの [スクリプト] フィールドへの読み取りアクセス権があります。	なし
承認コンフィギュレーター 承認者 [sn_grc_appr.approver]	承認者テーブルに対する作成、読み取り、更新、および削除アクセス権。	なし

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC：承認コンフィギュレーター と一緒にインストールされるロール (続く)

ロール タイトル [名前]	説明	ロールを含む
承認コンフィギュレーター 開発者 [sn_grc_appr.developer]	• 承認構成、承認レベル、および承認ルールテーブルに対してアクセスを作成、読み取り、更新、および削除します。 • スクリプトフィールドへのアクセス権を作成して書き込みます。 **注:** 承認コンフィギュレーター 開発者には、承認ルールフォームの [スクリプト] フィールドへの作成および書き込みりアクセス権があります。	sn_grc_appr.admin

機密レコード

機密 GRC レコードを機密としてマークできます。これにより、適切なユーザーにこれらのレコードへのアクセス権があることを確認できます。

レコードの機密オプションを設定することで、機密 GRC レコードを機密としてマークできます。このアクションを実行することで、特定のユーザーまたは特定のユーザーグループのユーザーのみがこれらの機密レコードにアクセスできるように確保できます。

機密プロパティ

機密性を有効にするために、レコードレベルの GRC プロパティで新しいオプション *`Enable record level confidentiality`* を使用できます。

重要:
デフォルトでは、*`Enable record level confidentiality`* プロパティはオフになっています。有効にすると、再度オフにすることはできません。

GRC の機密レコードは、GRC 機密モジュールの下に一覧表示されます。GRC 機密レコードモジュールは、*`Enable record level confidentiality`* プロパティを有効にした場合にのみアプリケーションナビゲーターに表示されます。

San Diego 以降、監査管理、GRC コア、ポリシーとコンプライアンス管理、および リスク管理 アプリケーションで GRC 機密レコードモジュールを利用できます。

レコードの機密性をマーク解除する

レコードの機密性のマーク解除すると、そのレコードの許可されたユーザーとグループが削除され、すべてのユーザーが ACL に基づいてレコードにアクセスできるようになります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

機密レコードへのアクセスに必要なユーザーロール

GRC 機密ユーザー (sn_grc.confidential_user) ロールを持つユーザーは、機密レコードにアクセスできます。このロールは、GRC のユーザーではなく、GRC 機密レコードへのアクセスを希望するユーザーのためのものです。

アクセス権を持ち、レコードに指定されているユーザーは、既存の GRC ロールを持つレコードに引き続きアクセスできます。

さまざまなロールについて、次の例を検討してください。

- リスクユーザーであり、以前にリスクレコードへのアクセス権が付与されていました。現在は、同じレコードの [許可されたユーザー] リストに属しています。そのため、sn_grc.confidential_user ロールを持っていない場合でも、このレコードへのアクセス権があり、現在、自分の名前が [許可されたユーザー] リストに表示されています。
- 自分の名前はレコードにリストされているが、sn_grc.confidential_user ロールを持っていません。レコードにアクセスするには、まず sn_grc.confidential_user ロールが必要です。

レコードが機密としてマークされると、レコードにアクセスするために必要なアサインとロールについて通知するメール通知がユーザーとユーザーグループのメンバーに送信されます。[許可されたユーザー] および [許可されたグループ] リストに記載されているすべてのユーザーは、レコードのアサインに関するメール通知を受け取ります。

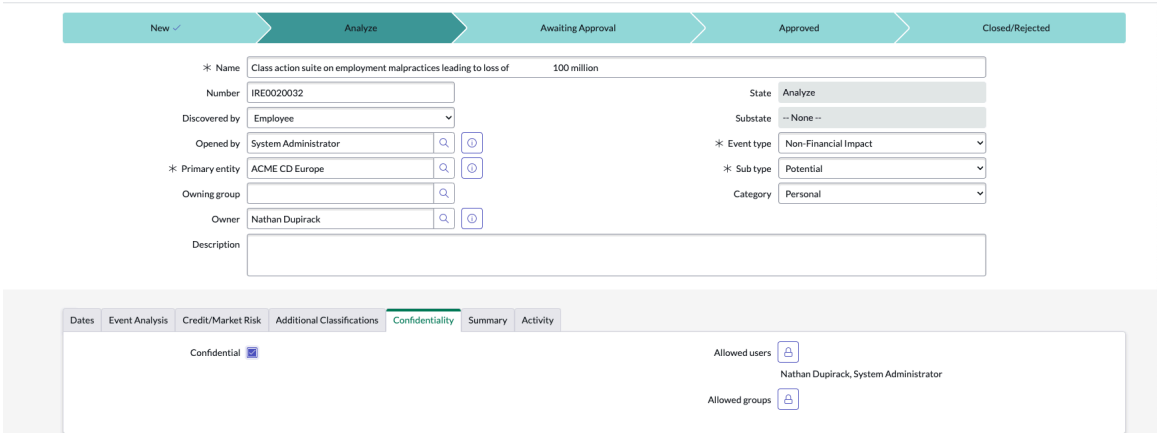
フォームの [機密性] タブ

フォームの [機密性] タブには、次のリストとオプションが表示されます。

- [機密] オプション：[機密性] タブの [機密] オプションを有効にすると、次の図に示すように [許可されたユーザー] と [許可されたグループ] のリストが表示されます。

  注:
  レコードへの書き込みアクセス権を持つユーザーは、[機密性] タブの [機密] オプションを有効にできます。

  フォームの [機密性] タブ



- [許可されたユーザー] リスト：レコードが機密としてマークされている場合、[許可されたユーザー] リストのユーザーのみがレコードにアクセスできます。[許可されたユーザー] リストにリストされているユーザーは、レコードへの読み取りアクセス権を持っているか、機密レコードにアクセスするための sn_grc.confidential_user ロールを持っている必要があります。

  [機密] オプションを有効にしたログインユーザーは、[許可されたユーザー] リストに自動的に入力されます。タブの [機密] オプションを有効にしたユーザーは、[許可されたユーザー] リストにデ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フォルトで自動的に追加されます。レコードへの書き込みアクセス権を持つユーザーは、[許可されたユーザー] リストのロックを解除して更新できます。

> **注:**
> [許可されたユーザー] リストに追加できるユーザーに制限はありません。GRC ロールを持たないユーザーがレコードにアクセスするには、sn_grc.confidential_user ロールが必要です。ロール要件に関するメール通知もユーザーに送信されます。

- [許可されたグループ] リスト：レコードが機密としてマークされている場合、[許可されたグループ] リストに記載されているユーザーのみがレコードにアクセスできます。レコードへの書き込みアクセス権を持つユーザーは、[許可されたグループ] リストのロックを解除して更新できます。

  > **注:**
  > 機密レコードは、[許可されたユーザー] または [許可されたグループ] リストに記載されているユーザーに表示されます。デフォルトでは、管理者も機密レコードを表示することができます。管理者に機密レコードを表示しない場合は、「KB1497382」で説明されている手順に従います。

GRC ユーザーロールを持っていないが、[許可されたユーザー] リストまたは [許可されたグループ] リストに記載されているユーザーには、機密レコードにアクセスするための sn_grc.confidential_user ロールをアサインできます。

機密性は次のテーブルでサポートされています。

機密性がサポートされているテーブル

テーブルラベル	テーブル名	アプリケーションスコープ	[許可されたユーザー] リストに自動入力されるユーザー	[許可されたグループ] リストに自動入力されるグループ
監査タスク	sn_audit_task	GRC：Audit Management	アサイン先、エンジニアリングリード、エンジニアリング監査人、エンジニアリング承認者	適用外
エンゲージメント	sn_audit_engagement	GRC：Audit Management	監査人、承認者、エンゲージメントリード	適用外
証拠要求タスク	sn_grc_advanced_evidence_request	GRC：Advanced Core	要求者、アサイン先、承認者、ウォッチリスト、代理で要求済み	アサイン先グループ
問題	sn_grc_issue	GRC：Profiles	アサイン先、問題マネージャー、作成者	問題マネージャーグループ、アサイン先グループ
観察事項	sn_audit_advanced_observation	GRC：Advanced Audit	オーナー、回答者、ピアレビュー担当者、レビュー担当者、ウォッチリストユーザー、エンゲージメントリード、エンジニアリング監査人、	アサイン先グループ

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

機密性がサポートされているテーブル (続く)

テーブルラベル	テーブル名	アプリケーションスコープ	[許可されたユーザー] リストに自動入力されるユーザー	[許可されたグループ] リストに自動入力されるグループ
			エンジニアリング承認者	
ポリシー例外	sn_compliance_policy_exception	GRC：ポリシーとコンプライアンス管理	要求者、承認者、ウォッチリスト	承認グループ
修復タスク	sn_grc_task	GRC：Profiles	アサイン先、ウォッチリスト、問題マネージャー、問題の担当者	適用外
リスクイベント	sn_risk_advanced_event	GRC：高度なリスク	現在ログインしているユーザー、オーナー、承認者	所有グループ、承認グループ
開示	sn_esg_disclosure	ESG Management and Reporting	ログインユーザー、レビュー担当者、アサイン先	適用外
重要なトピック	sn_esg_material_topic	ESG Management and Reporting	ログインユーザー、レビュー担当者	適用外
メトリクス	sn_grc_metric	ESG Management and Reporting	ログインユーザー、エンタープライズオーナー、データオーナー	エンタープライズオーナーグループ、データオーナーグループ
メトリクスの定義	sn_grc_metric_definition	ESG Management and Reporting	ログインユーザー、エンタープライズオーナー、データオーナー	エンタープライズオーナーグループ、データオーナーグループ
複合メトリクスの定義	sn_grc_composite_metric_definition	ESG Management and Reporting	ログインユーザー、エンタープライズオーナー	エンタープライズオーナーグループ

Utah 以降、sn_esg_material_topic、sn_grc_metric、sn_grc_metric_definition、sn_grc_composite_metric_definition を除く、すぐに利用可能で機密性が有効なすべての GRC テーブルの機密構成が sn_grc_confidentiality_configuration テーブルに設定されて出荷されます。この構成から、レコードの許可されたユーザーとグループに自動入力されるユーザーとグループのフィールドを更新したり削除したりできます。

機密性機能の詳細については、「KB1218856」を参照してください。

GRC テーブルで機密性を設定する

GRC テーブルの機密性を有効にするには、クライアントスクリプトの更新やアクセス制御リスト (ACL) の更新などの追加の構成を実行する必要があります。特定の ServiceNow プラットフォームテーブルの構成を更新すると、それらのテーブルのフォームで機密性機能を使用できます。

GRC テーブルで機密性を有効にする方法については、「KB1497382」を参照してください。

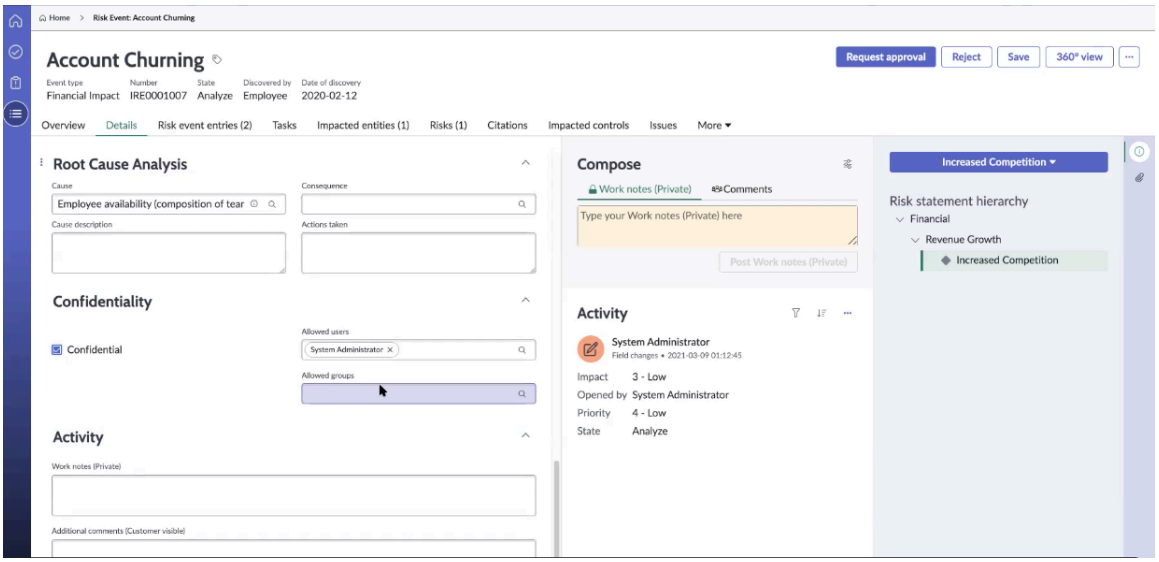
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

注:
ナレッジベース 記事を表示するには、Now Support にログインする必要があります。

次の図に示すように、ワークスペースビューのフォームで機密性を有効にすることもできます。

ワークスペースビューの機密性



機密レコードを作成する

特定のロールを持つユーザーのみがアクセスできるように確保するため、レコードを作成して機密としてマークします。

始める前に

必要なロール：sn_grc.admin、リスクイベントを開いた sn_grc.business_user、sn_audit.user、sn_compliance.user、sn_esg.user、sn_risk.user

手順

1. 移動先**GRC** プロパティ**>**すべての**>**管理.
2. [レコードレベルの機密性を有効にする] プロパティで [はい] を選択し、[保存] をクリックします。
   [必要なロール] セクションで定義されている sn_grc.business_user ロールまたはモジュール固有のロールでログインして、次の手順を実行します。
3. 機密としてマークする必要があるレコードに移動し、[機密性] タブを選択します。
4. [機密性] タブで、[機密] オプションを選択します。
   [許可されたユーザー] と [許可されたグループ] のリストが表示されます。[機密] オプションを有効にしたユーザーは、[許可されたユーザー] リストにデフォルトで自動的に追加されます。
5. ユーザーを追加するには、[許可されたユーザー] リストを更新します。
   許可されたユーザーは機密レコードを更新できます。
6. グループを追加するには、[許可されたグループ] リストを更新します。
   許可されたグループは機密レコードを更新できます。
7. **[Update** (更新)] をクリックします。

タスクの結果

選択したレコードが機密としてマークされます。[許可されたユーザー] リストまたは [許可されたグループ] リストに属するユーザーのみが、この機密レコードにアクセスできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC テーブルで機密性を設定する

GRC テーブルで機密性設定レコードを作成できます。

始める前に

テーブルで機密性設定を開始する前に、機密性を有効にするテーブルに 3 つの新しい列を作成する必要があります。

必要なロール：sn_grc.admin

機密性を有効にするフィールド

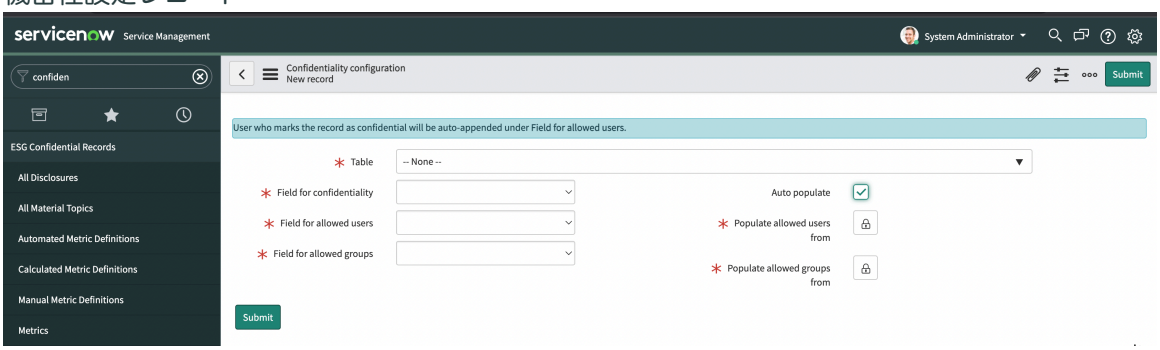
タイプ	コメント	列の名前の例	説明
ブール	機密	u_confidential	フィールドが機密かどうかをマークまたはマーク解除するフラグ。
リスト、sys_user テーブルへの参照	許可されたユーザー	u_allowed_users	機密レコードにアクセスできるユーザーのリストを含むフィールド。
リスト、sys_user_group テーブルへの参照	許可されたグループ	u_allowed_groups	機密レコードにアクセスできるユーザーグループのリストを含むフィールド。

詳細については、「KB1497382」を参照してください。

手順

1. 移動先 すべて > **GRC Administration** > 機密性の設定 をクリックし、[新規] をクリックします。
2. 新しい機密設定フォームで、GRC テーブルの機密性を有効にするために必要なフィールドに入力します。
   このフィールドの詳細については、「機密性設定フォーム」を参照してください。

機密性設定レコード



3. [送信] をクリックします。

タスクの結果

選択した GRC テーブルの機密性が有効になります。

機密性設定フォーム

機密性設定フォームは、GRC テーブルの機密レコードの構成に使用されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

機密性設定フォーム

フィールド	説明
テーブル	機密性機能を追加するテーブル。
機密性のフィールド	機密性を有効にできるブール値フィールド。
許可されたユーザーのフィールド	機密レコードにアクセスできる許可されたユーザーを追加できるフィールド。
許可されたグループのフィールド	機密レコードにアクセスできる許可されたユーザーグループを追加できるフィールド。
許可されたユーザーを入力	GRC テーブルの列のリストに基づいて、許可されたユーザーが自動的に入力されるフィールド。
許可されたグループを入力	GRC テーブルの列のリストに基づいて、許可されたユーザーグループが自動的に入力されるフィールド。

注:
[許可されたユーザーを入力] および **[**許可されたグループを入力] フィールドは、[自動入力] フィールドが選択されている場合にのみ表示されます。

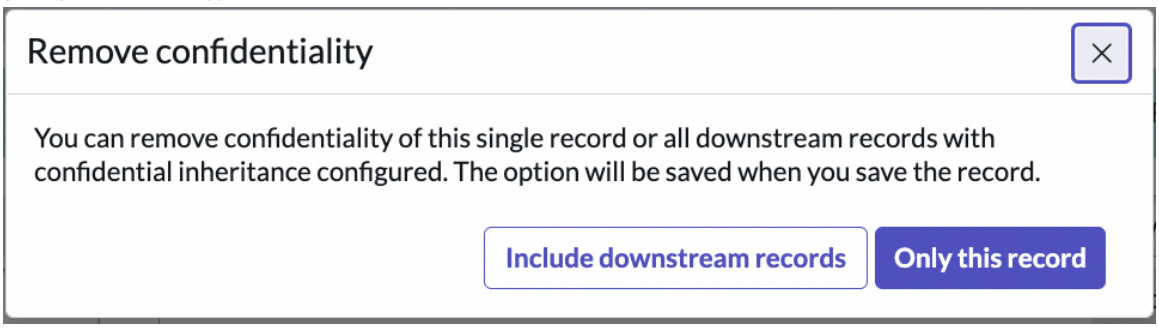
テーブルで機密継承を設定する

機密性設定モジュールで既に構成されているテーブルで機密性の継承を設定できます。GRC アプリケーションでは、親レコードが機密としてマークまたはマーク解除されると常に、その関連するテーブルレコードも機密としてマークまたはマーク解除されます。

問題を機密としてマークすると、関連する修復タスクが自動的に機密としてマークされます。たとえば、問題 A を見てみましょう。問題 A には、P、Q、R の修復タスクがあります。問題 A が機密としてマークされると、修復タスク P、Q、R も機密としてマークされます。許可されたユーザーとグループは、修復タスクの機密性設定レコードに基づいて自動的に追加されます。問題 A の許可されたユーザーとグループは、継承されたレコード P、Q、R に自動的に追加されます。

問題の機密性がマーク解除されると、対応する修復タスクの機密性もマーク解除されます。問題 A をもう一度見てみましょう。問題 A には修復タスク P、Q、R があります。問題 A の機密性がマーク解除されると、関連タスク P、Q、R のすべての機密性をマーク解除してもよいか、問題 A のみの機密性をマーク解除するか確認するダイアログボックスが表示されます。次の例では、選択内容に基づいて、関連レコードの機密がマーク解除されます。

機密性のマーク解除



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例のダイアログボックスに示すように、[ダウンストリームレコードを含める] が選択されている場合、すべてのダウンストリームレコードの機密性がマーク解除されます。[このレコードのみ] を選択した場合は、その単一のレコードの機密性のみがマーク解除されます。

関連する機密レコードへのアクセス権があり、親レコードの機密性を削除すると、関連レコードも機密ではなくなります。

注:
親テーブルと継承テーブルの間に継承構成が存在している必要があります。

機密性の継承の例

継承は、親レコードを機密としてマークする時点でのみ機能します。次の 2 つの例を見てみましょう。

1. 親レコードが機密としてマークされると、継承された構成により、関連する機密でないレコードも機密としてマークされます。ただし、関連レコードが後から追加された場合は、自動的に機密としてマークされません。
2. 親レコードで機密性がマークされ、継承が関連レコードに渡されない場合、親レコードの許可されたユーザーおよびグループに後から加えられた変更は関連レコードに継承されません。

機密性継承構成の詳細については、「KB1213404」を参照してください。ナレッジベース の記事を表示するには Now Support にログインする必要があります。

機密性継承を作成する

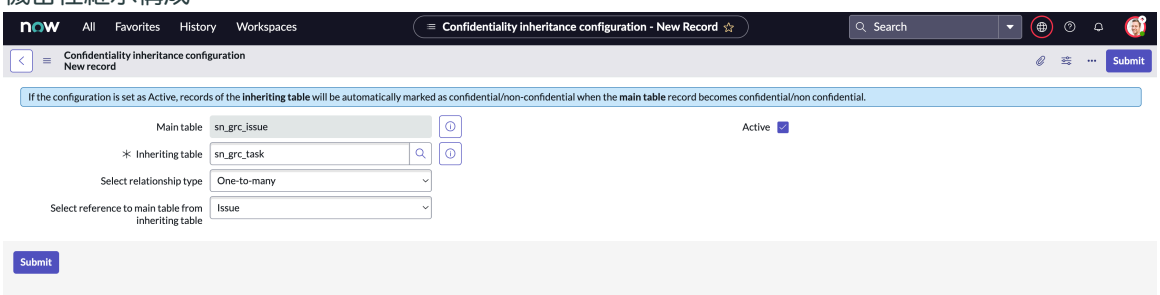
機密性設定モジュールで既に構成されているテーブルで機密性継承を作成できます。GRC アプリケーションで、継承レコードも設定されている場合、親レコードが機密としてマークまたはマーク解除されるたびに、その関連テーブルレコードも機密としてマークまたはマーク解除されます。

始める前に
必要なロール：sn_grc.admin

手順

1. 移動先 すべて > **GRC Administration** > 機密性の設定.
2. 継承を設定するテーブルを選択します。
3. [機密性継承構成] 関連リストで、[新規] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。
   次の例は、機密性継承の構成方法を示しています。このフィールドの詳細については、「機密性継承構成フォーム」を参照してください。

機密性継承構成



© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. [送信] を選択します。

注:

この構成は、親テーブルおよび継承テーブルのレコードの既存の機密性には影響しません。

[有効] としてマークされたレコードのみが継承をサポートします。

タスクの結果

新しい継承設定レコードが機密性継承構成関連リスト下に作成されます。

機密性継承構成フォーム

GRC アプリケーションの機密性継承構成フォームを使用して、継承設定レコードを作成します。

機密性継承構成フォーム

フィールド	説明
有効	選択すると、メインテーブルの継承テーブルを機密としてマークするオプション。
メインテーブル	機密性の設定で選択されたテーブルを表示するメインテーブル。
継承テーブル	機密性がマークまたはマーク解除されているレコードを含むテーブル。
関係タイプを選択 (Select relation type)	メインテーブルと継承テーブルの間に存在する関係タイプ。
関連テーブルを選択	関連テーブルを選択するオプション。[関連テーブルを選択] フィールドは、関係タイプとして [多対多] または [スクリプト化された関係] を選択した場合にのみ表示されます。
関連/継承テーブルからメインテーブルへの参照を選択 (Select reference to main table from relationship/inheriting table)	メインテーブルと継承テーブルへの参照。

注:
フォームのメインテーブルと継承テーブルのフィールドの間に関係が 1 つしか存在しない場合、残りのフィールドは自動的に入力され、フォーム上で非表示になります。

ユーザー階層

ユーザー階層を使用すると、マネージャーは自分の部下であるユーザーのレコードを表示できます。

ユーザー階層は、sys_user テーブルの構成に基づいています。ユーザー階層は GRC テーブルに個別に保存されます。

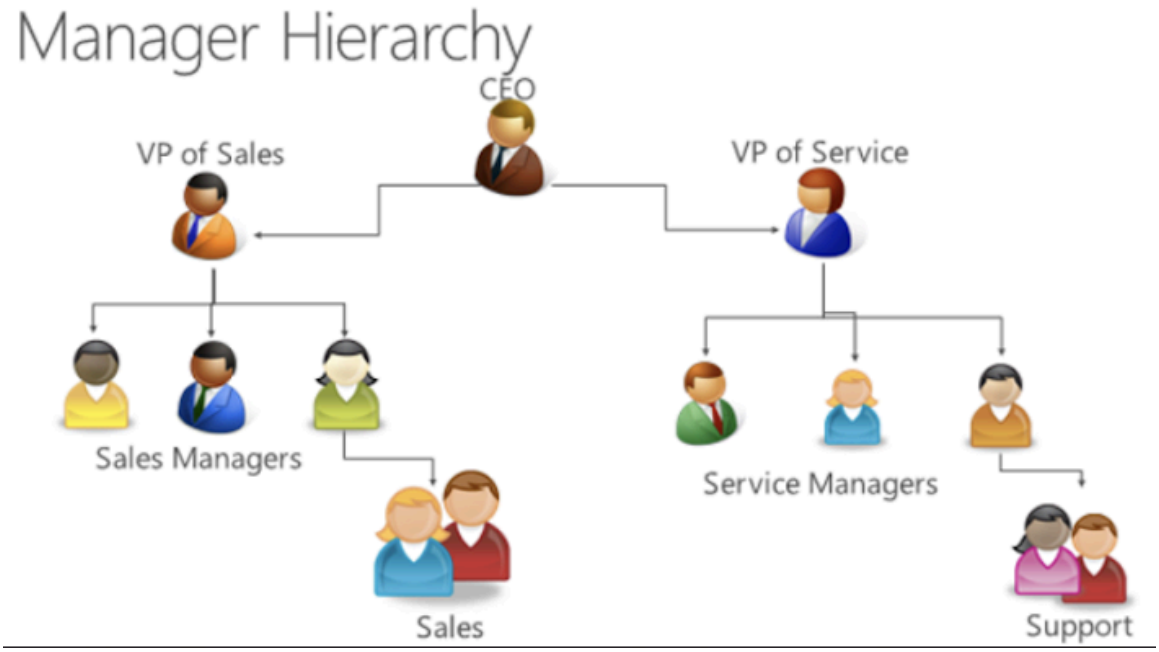
ユーザー階層がどのように機能するかを理解するために、次の例を見てみましょう。ユーザーの Abel と Jack は、Adam の部下です。Adam の上司は Daniel です。ユーザー階層を使用して、Adam は Abel と Jack が実行した作業を表示できます。同様に、Daniel は、Adam、Abel、Jack によって実行された作業を表示できます。

マネージャーとユーザー階層の別の例を見てみましょう。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

マネージャーとユーザー階層



この例では、営業マネージャーは営業チームが送信したデータを表示できます。営業担当 VP は、営業マネージャーと営業チームによって送信されたデータまたはレポートを表示できます。

サービス担当 VP は、サービスマネージャーとサポートチームによって送信されたデータを表示できます。組織の CEO は、営業チームとサービスチームの両方が行った作業を表示できます。

ユーザー階層機能のプロパティを有効にする

GRC アドミニストレーターは、インスタンスの GRC プロパティモジュールで次のプロパティを有効にできます。

ユーザー階層のプロパティ

プロパティ	アクション
Enable user hierarchy access control	*Enable user hierarchy access control* プロパティで [はい] オプションを選択して、ユーザー階層機能を有効にします。デフォルトでは、このプロパティはオフになっています。このプロパティを有効にした後、再度オフにすることもできます。
Frequency of user hierarchy recalculation	*Frequency of user hierarchy recalculation* プロパティを使用して、sn_grc_user_hierarchy_configuration テーブル内のすべてのレコードのユーザー階層を計算できます。デフォルトでは、このプロパティは [週次] に設定されています。 異なる間隔でレコードのユーザー階層を計算するには、*sn_grc.user_hierarchy_sync_frequency*

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーザー階層のプロパティ (続く)

プロパティ	アクション
	を選択し、スケジュールを [週次] から [日次] または [月次] に変更します。
Maximum batch size while recalculating hierarchy for user hierarchy records	レコードのユーザー階層を再計算できるように、*Maximum batch size while recalculating hierarchy for user hierarchy records* プロパティを使用して最大バッチサイズでレコードを処理します。デフォルトでは、このプロパティは 1000 に設定されています。 レコードのユーザー階層を再計算するには、プロパティを選択し、最大バッチサイズを整数値に更新します。

注:
ユーザー階層プロパティを有効にすると、ユーザー階層機能は特定のテーブルセットでのみサポートされます。これらのテーブルの詳細については、次のセクションを参照してください。

ユーザー階層機能をサポートするために使用されるテーブル

次のテーブルは、ユーザー階層機能をサポートするために使用されます。

ユーザー階層機能をサポートするために使用されるテーブル

テーブル	説明
sn_grc_hierarchy	ユーザーの階層を維持するテーブル。
sn_grc_user_hierarchy	ユーザーの名前、管理階層、および最後に同期された詳細を表示するテーブル。sn_grc.user_hierarchy_reader ロールを持つユーザーは、このテーブルのレコードを読み取ることができます。他のユーザーがこのテーブルのレコードを手動で作成、更新、または削除することはできません。
sn_grc_user_hierarchy_configuration	ユーザー階層アクセス制御が有効になっているテーブルごとに個別のレコードを含むテーブル。GRC アドミニストレーターは、このテーブルのレコードを手動で作成および削除できます。sn_grc.user_hierarchy_admin ロールを持つユーザーも、このテーブルのレコードを読み取り、または更新することができます。

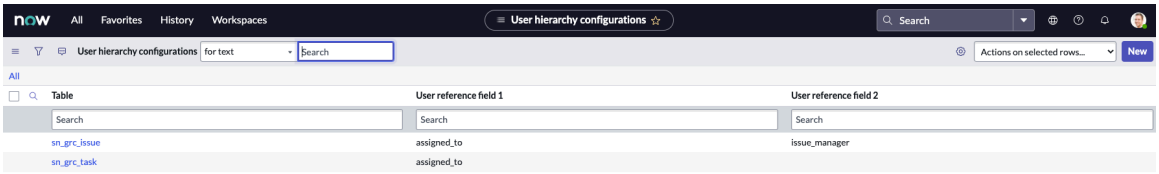
ユーザー階層の設定モジュール

ユーザー階層の設定モジュールは、ユーザー階層プロパティを有効にした後にのみインスタンスに表示されます。次の例に示すユーザー階層の設定モジュールは、ユーザー階層機能を有効にしたテーブルを一覧表示します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

ユーザー階層の設定モジュール



アクセス制御リスト (ACL)：デフォルトでは、いくつかのアクセス制御リストが GRC アプリケーションに付属しており、sys_security_acl テーブルに保存されています。ユーザー階層のアクセス制御が有効になっているかどうかを確認するフィルター条件を定義できます。構成と要件に応じて、独自のアクセス制御リストを作成できます。

カスタムテーブルのユーザー階層アクセス制御を構成する方法については、「KB1095957」を参照してください。

注:
ナレッジベース 記事を表示するには、Now Support にログインする必要があります。

ユーザー階層の設定レコードを作成する

マネージャーが部下であるユーザーのレコードを表示できるように、テーブルのユーザー階層の設定レコードを作成します。

始める前に

必要なロール：sn_grc.admin

手順

1. 移動先 すべて > **GRC** ユーザー階層**>**ユーザー階層の設定.
   ユーザー階層のアクセス制御が有効になっているテーブルが表示されます。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

ユーザー階層の設定フォーム

フィールド	説明
テーブル	ユーザー階層を設定するために使用できるテーブル。たとえば、問題 [sn_grc_issue] です。
有効	ユーザー階層を有効にするオプション。このオプションを有効にすると、テーブルレコードでユーザー階層機能が有効になります。
ユーザー参照フィールド 1	ユーザーテーブルのユーザー参照フィールド 1 に対応するフィールド。たとえば、ユーザー

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	参照フィールド 1 の値を [アサイニー] または [アサイン先] として選択できます。
ユーザー参照フィールド 2	ユーザーテーブルのユーザー参照フィールド 1 に対応するフィールド。たとえば、ユーザー参照フィールド 2 の値を [承認者] または [問題マネージャー] として選択できます。
ユーザー階層フィールド 1	ユーザー参照フィールド 1 のユーザー階層を設定するフィールド。
ユーザー階層フィールド 2	ユーザー参照フィールド 2 のユーザー階層を設定するフィールド。
ユーザー階層ステータスフィールド	選択したテーブル内のユーザー階層の処理ステータスを表すフィールド。
トリガーされたイベント	ソーステーブルレコードのユーザー階層を再計算するために使用されるイベント。

4. [**Submit** (送信)] を選択します。

GRC テーブルでのユーザーグループベースのアクセス

GRC テーブルにユーザーグループを作成することで、一連のユーザーに特定のレコードのみへのアクセスを許可できます。ユーザーグループを作成すると、特定の基準に基づいてデータを分離し、ユーザーグループに属するユーザーのみにデータを表示できます。

注:
ユーザーグループベースのアクセスは、ベースシステムの一部としては、どの ServiceNow テーブルでも有効になっていません。機能を実装し、GRC フォームで [アクセスグループ] オプションを設定するには、「KB1514113」に記載されている手順に従います。

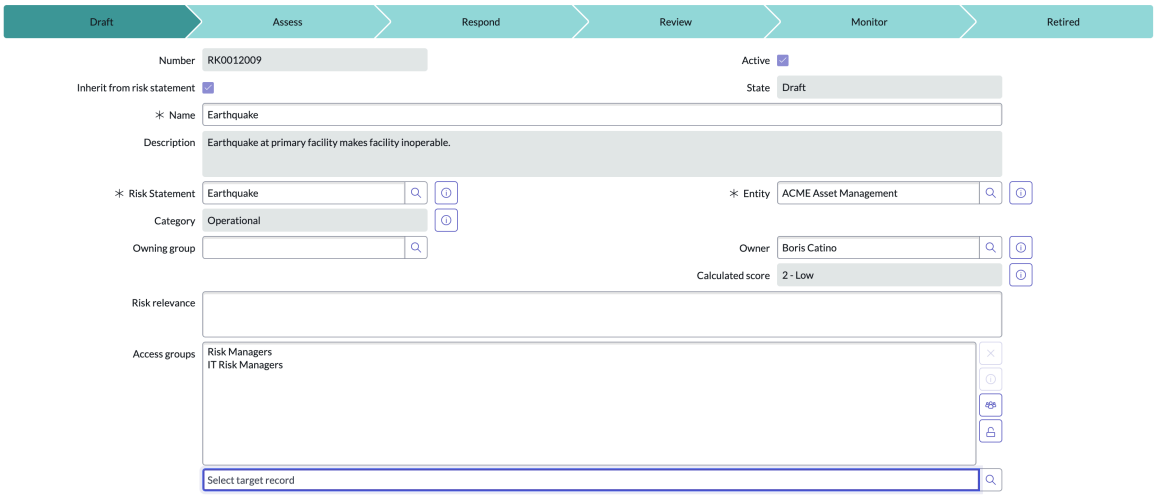
ユーザーグループベースのアクセスを設定したそれぞれのテーブルで [アクセスグループ] オプションを表示するには、GRC プロパティモジュールで *Enable access groups* プロパティを有効にする必要があります。

次の例は、ユーザーグループベースのアクセスを有効にしたときに表示されるフォームの [アクセスグループ] オプションを示しています。フォームのレイアウトは構成によって異なります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フォームの [アクセスグループ] オプション



[アクセスグループ] リストで値が選択されている場合、リストに記載されているグループのメンバーのみが同じロール内のデータにアクセスできます。

たとえば、次のシナリオを考えます。リスクマネージャーアクセスグループ内には、財務リスクを処理できる 2 人のマネージャーと、運用リスクを処理できる他のマネージャーがいます。このアクセスグループ内のすべてのマネージャーに同じリスクマネージャーロールを付与することで、最初の 2 人のマネージャーを財務グループにアサインし、他のマネージャーを運用リスクグループにアサインすることができます。

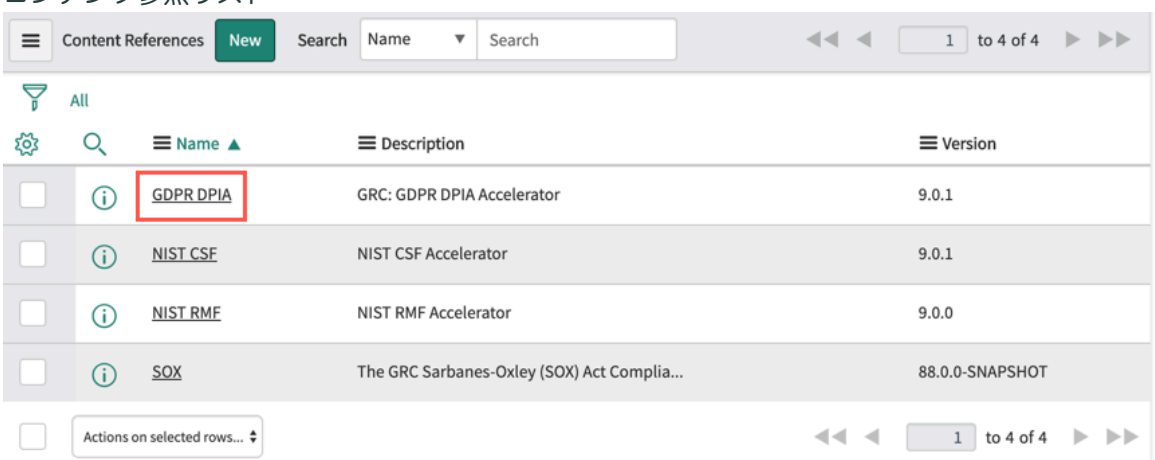
GRC でのコンテンツ参照

GRC コンテンツパック、統合、ユースケースアクセラレータ、またはそれらのレコードを使用する新しい規制を参照する GRC アプリケーションで定義されたほぼすべてのタイプのレコードにタグを追加できます。レコードにタグを付けた後、コンテンツ参照タグをフィルターして、各アプリケーション内で使用されているレコードを特定できます。

たとえば、NIST RMF 統合のスコープ対象であるすべての SOX コントロール目標にタグを付けることができます。特定の統合やユースケースアクセラレータなどのタグ付けされた関連レコードを表示するレポートを作成することもできます。

レコードにタグを付けた後、それぞれのコンテンツ参照モジュールを表示することで、特定の GRC アプリケーション内で使用されているすべてのコンテンツ参照にアクセスできます。たとえば、ポリシーとコンプライアンスでは、一連の関連リスト内の GDPR DPIA ユースケースアクセラレータのすべてのタグ付けされたレコードを表示できます。

コンテンツ参照リスト

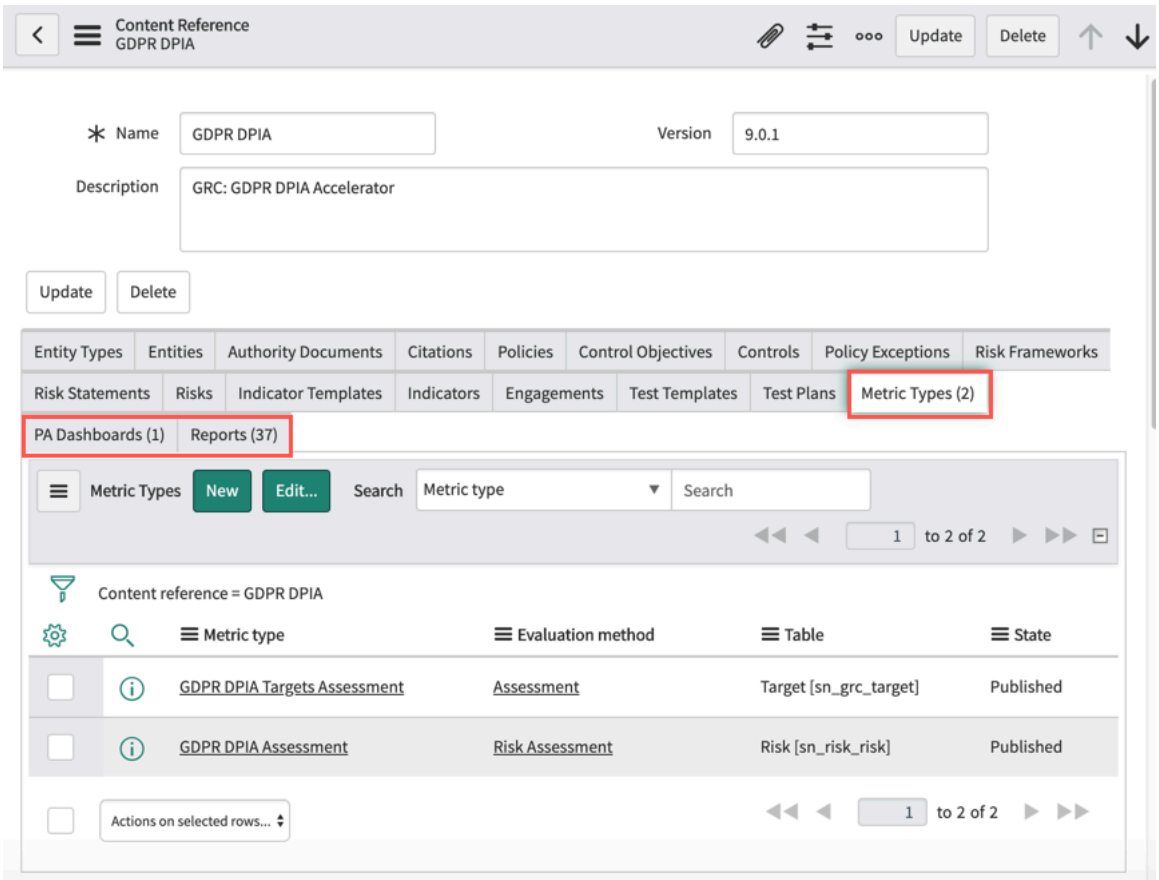


自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GDPR DPIA を選択すると、一連の関連リストに GDPR DPIA Use Case Accelerator へのコンテンツ参照でタグ付けされたすべてのレコードが表示されます。

GDPR DPIA のコンテンツ参照



コンテンツ参照でタグ付けできるレコード

GRC 監査管理、ポリシーとコンプライアンス管理、および リスク管理 アプリケーションでは、次のいずれかのタイプのレコードにタグを付けることができます。

注:
これらのレコードのすべてが、上記の各 GRC アプリケーションで使用できるわけではありません。ただし、各アプリケーションに表示される関連リストには、使用可能かどうかにかかわらず、すべてのレコードタイプが含まれます。

- 各種法令・基準等
- 信頼できるソースコンテンツ
- コントロール目標
- コントロール
- エンゲージメント
- エンティティタイプ
- エンティティ
- インジケーターテンプレート
- インジケーター
- メトリクスタイプ

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ダッシュボード
- ポリシー
- ポリシー例外
- レポート
- リスクフレームワーク
- リスクステートメント
- リスク
- テスト計画
- テストテンプレート

レコードにコンテンツ参照タグを追加する

GRC アプリケーションで利用可能なさまざまなタイプのレコードのいずれかを分析する際に、レコードにコンテンツ参照タグを追加して、特定の統合、コンテンツパック、ユースケースアクセラレータなどに関連付けられたレコードの検索を実行するときにそのレコードを含めることができます。

始める前に

必要なロール：admin

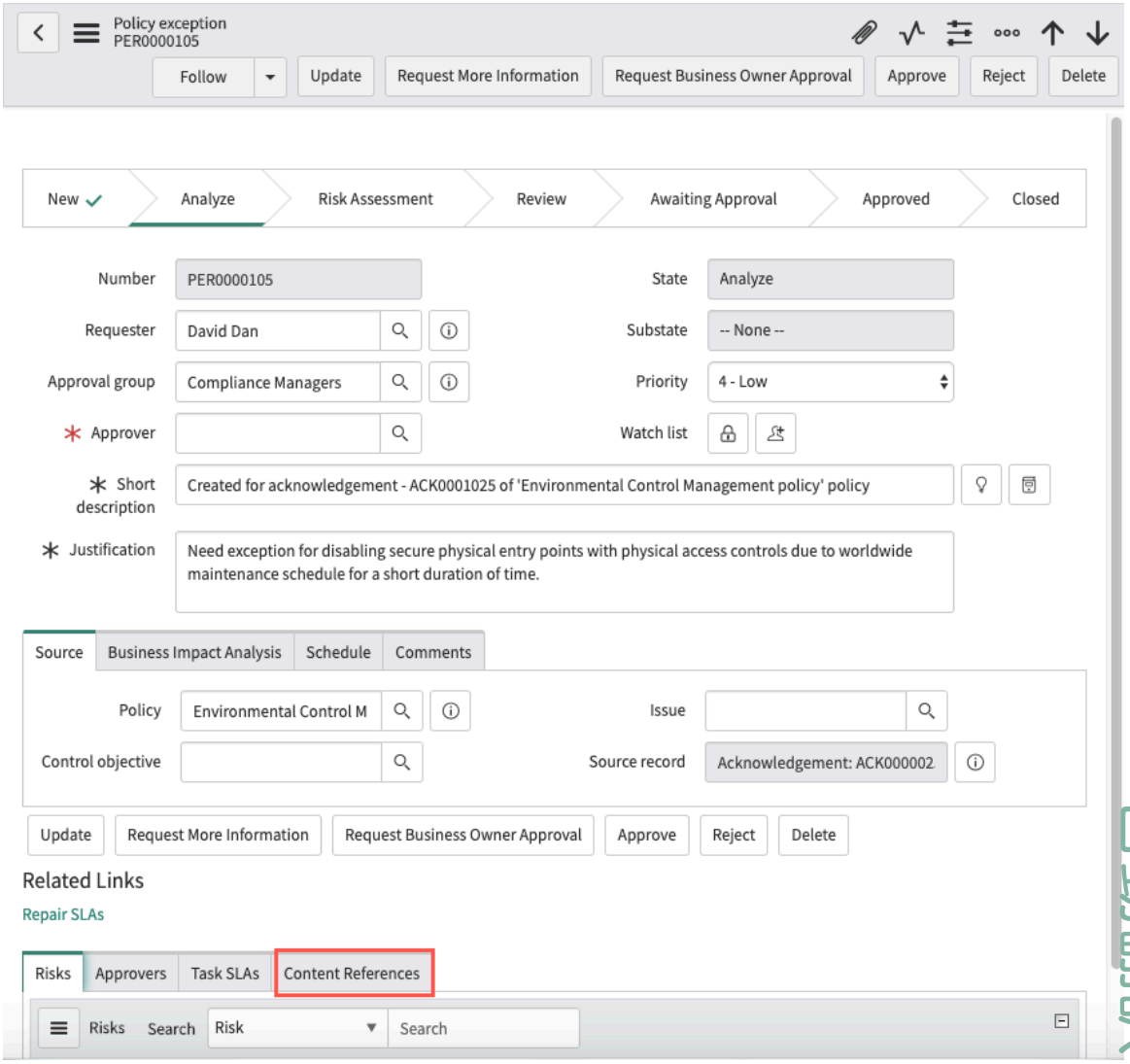
手順

1. 移動先 ポリシーとコンプライアンス > ポリシー例外 > 自分のポリシー例外をクリックし、特定のポリシー例外レコードを開きます。
   特定の GRC アプリケーション内で既に作業している場合は、コンテンツ参照タグを追加するレコードを開きます。それ以外の場合は、レコードに移動します。

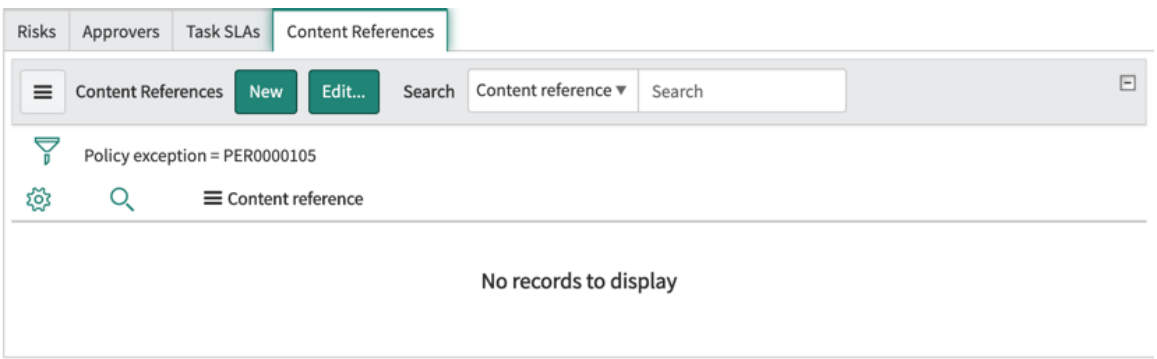
   注:
   例として、ポリシー例外レコードを使用して、GRC レコードにコンテンツ参照を追加する方法を示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

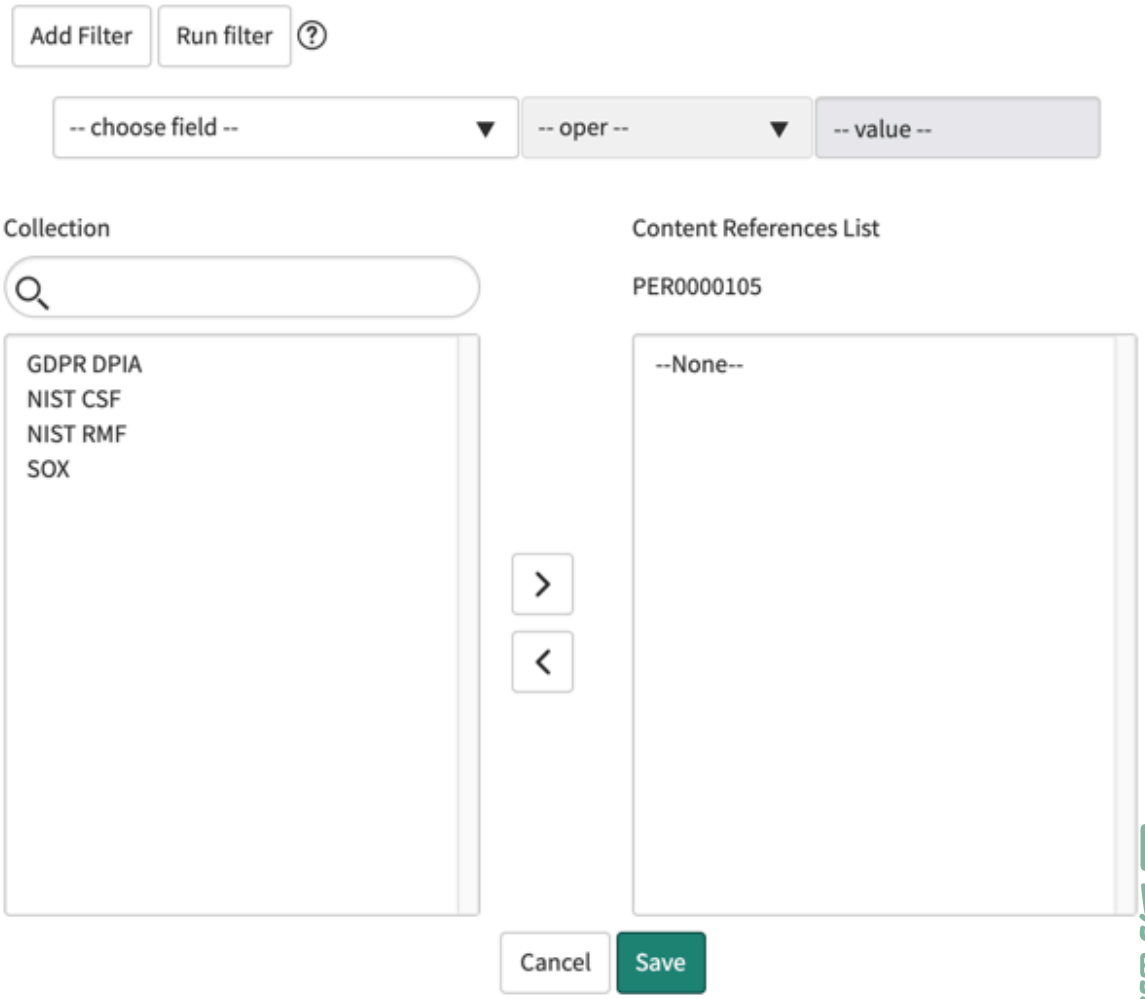


2. 下にスクロールして、[コンテンツ参照] 関連リストをクリックします。

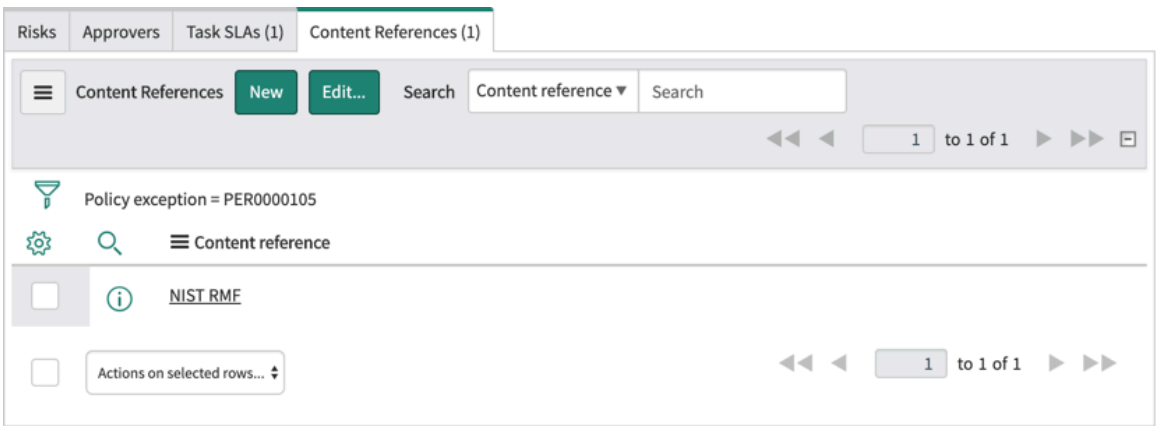


3. [編集] をクリックします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. [保存] をクリックします。
このポリシー例外レコードに関連付ける統合、ユースケースアクセラレータなどを [コレクション] ボックスから [コンテンツ参照リスト] に移動し、[保存] をクリックします。この例では、ポリシー例外レコード PER0000105 が NIST RMF ユースケースアクセラレーター に関連付けられているものとしてとタグ付けされています。

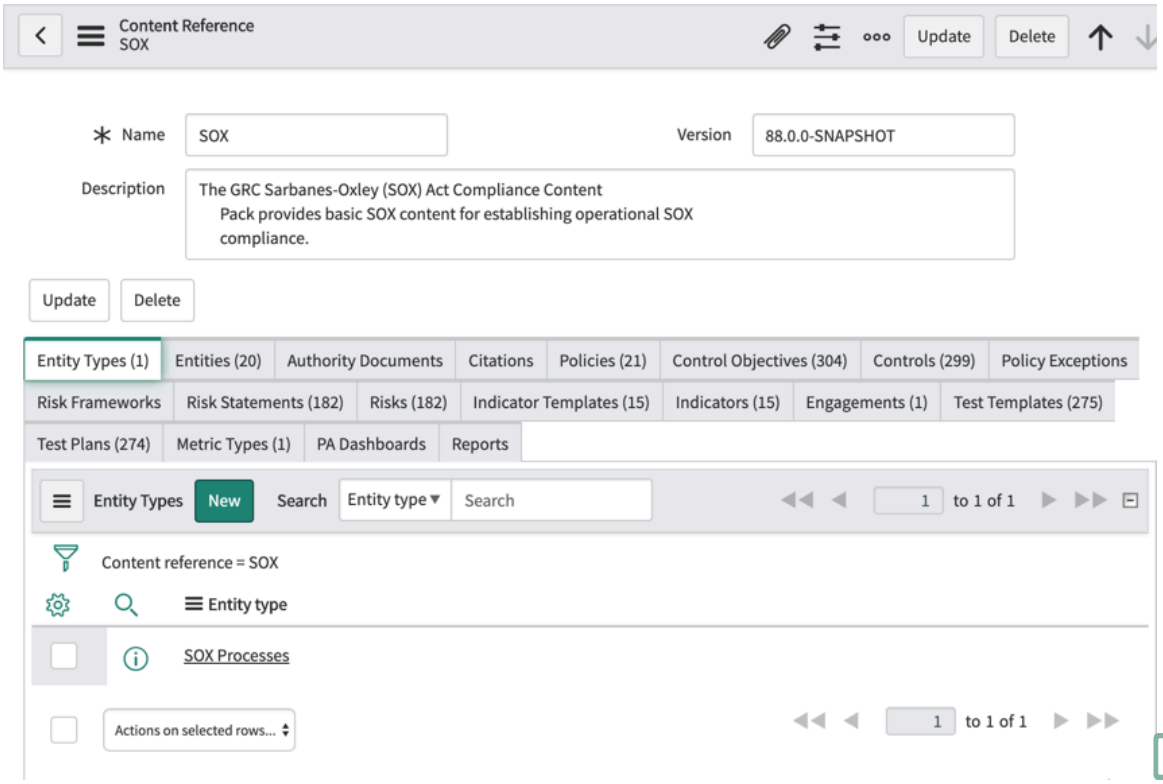


5. そのアプリケーションの [コンテンツ参照] モジュールに移動し、関連付けられたユースケースアクセラレータを選択します。
特定の GRC アプリケーション内の特定のユースケースアクセラレータに対してタグ付けされたすべてのレコードを表示するには (たとえば、SOX コンテンツパックの リスク管理 でコンテンツ参

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

照でタグ付けされたすべてのレコードを表示するには、次の場所に移動します リスク > アドミニストレーション > コンテンツ参照をクリックし、[**SOX**] をクリックします。



6. 番号が表示されているいずれかの関連リストをクリックすると、SOX のコンテンツ参照としてタグ付けされたレコードが表示されます。

コンテンツ参照タグを作成する

必要に応じて、新しいコンテンツ参照タグを定義して、新たに生じた規制に適応できます。いずれかの GRC アプリケーションで新しいタグを定義すると、すべての GRC アプリケーションで利用可能になります。

始める前に

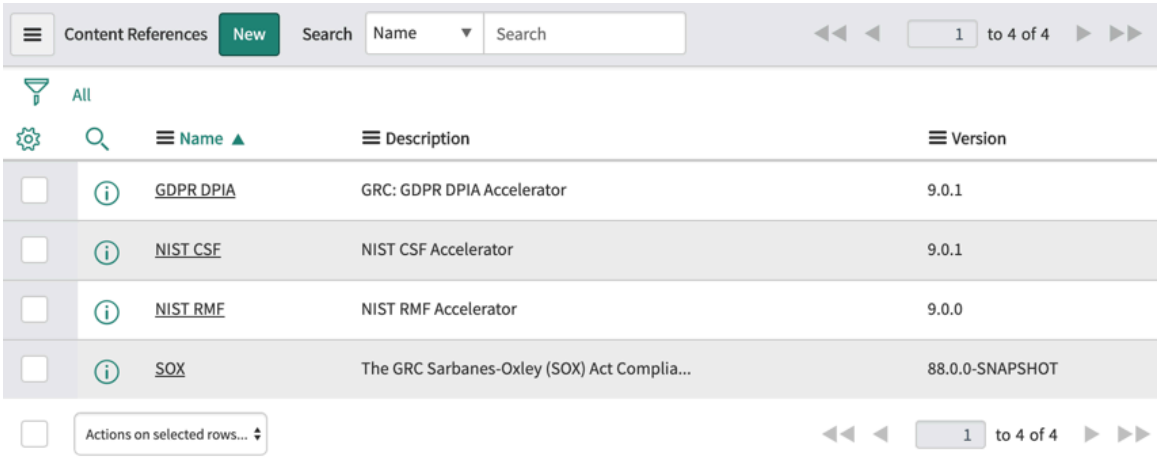
必要なロール：admin

手順

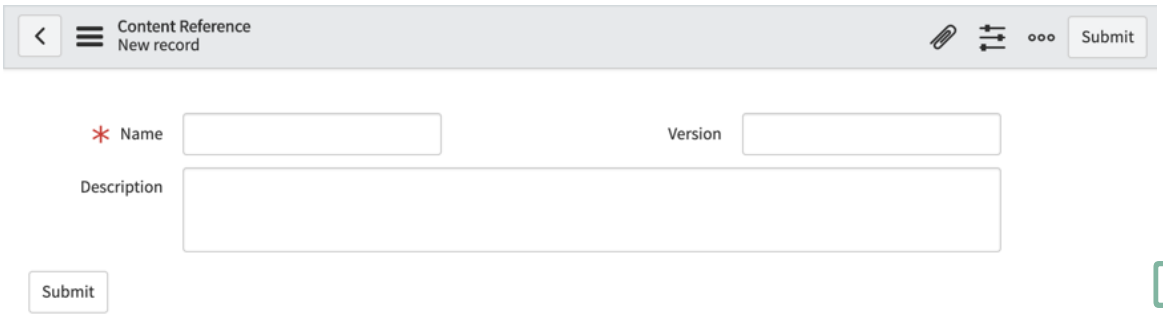
1. いずれかの GRC アプリケーションのコンテンツ参照モジュールに移動します。
   たとえば、 すべて > 監査 > アドミニストレーション > コンテンツ参照

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



2. [新規] をクリックします。



3. 新しいタグの [名前]、[バージョン番号]、および [説明] を入力します。

> **注:**
> バージョン番号は、ServiceNow Store からリリースされたソフトウェアのバージョン番号にすることができます。

4. [送信] をクリックします。
新しいコンテンツ参照タグがリストに追加され、GRC 監査管理、ポリシーとコンプライアンス管理、および リスク管理 アプリケーションのコンテンツ参照モジュールから利用できるようになります。

エンティティベースのアクセス

エンティティベースのアクセス (EBA) アプリケーションを使用すると、エンティティに基づいてレコードのデータを分離できます。エンティティベースのアクセスアドミニストレーターは、このツールを使用して、さまざまなオブジェクトに対する安全で制御されたアクセスを設定できます。

エンティティベースのアクセスの概要

Yokohamaリリース以前は、ユーザー制限はシステム内のロールのみに基づいており、地理的な場所や特定の機能は考慮されていませんでした。リスク、コントロール、問題などのオブジェクトへのアクセスは広く管理されていました。たとえば、北米のリスクマネージャーは、自分の地域だけでなく、すべての地域のリスクレコードにアクセスできました。

Yokohama リリース以降、 エンティティベースのアクセス はエンティティを介したオブジェクトアクセスを容易にします。エンティティを特定のユーザーまたはユーザーグループにマッピングして、きめ細かなレベルのアクセス制御を行うことができます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンティティベースのアクセスを使用すると、データを分離し、アクセスを管理して、ユーザーがエンティティベースのアクセスを介してのみ許可されたデータにアクセスできるようにすることができます。アドミニストレーターは、エンティティの関連レコードへのアクセス権を付与できます。アクセスするユーザーまたはユーザーグループを追加できます。また、エンティティユーザーフィールドまたはエンティティユーザーグループフィールドを介してアクセス権を付与することもでき、不必要なデータ漏洩のリスクを最小限に抑えます。

エンティティベースのアクセス構成を使用するには、インスタンスのエンティティベースのアクセス構成に移動します。

エンティティベースのアクセス の主な機能

エンティティベースのアクセス構成の主な機能は次のとおりです。

- システム内のエンティティを介したさまざまなオブジェクトへのアクセスを詳細に制御します。
- 多彩な構成オプション。たとえば、エンティティ階層内で エンティティベースのアクセス を構成して、エンティティとそのダウンストリーム関連レコードへのアクセスを制限したり、エンティティクラスまたはエンティティタイプを使用してエンティティのグループ全体でアクセスを制限したりできます。一括アクセス更新構成では、スコープ対象のレコードにアクセス制限を選択的に適用できます。アクセス制限を段階的に実装することで、運用を中断することなくスムーズに導入することができます。
- エンティティベースのアクセス構成に特定のユーザーフィールドまたはユーザーグループフィールドを含めることで提供されるアクセス。構成の一部であるユーザーは、レコードへの動的アクセス権を取得します。

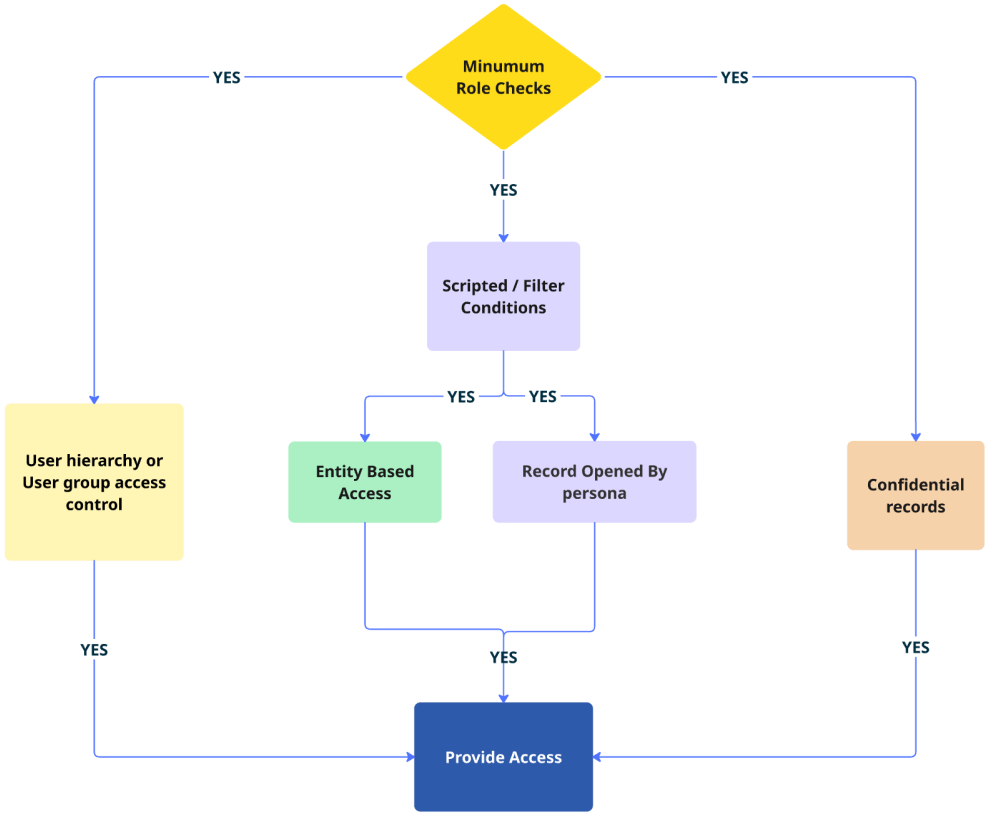
注意すべきポイント エンティティベースのアクセス

エンティティベースのアクセス 次の図に示すように、構成に基づいてレコードへのアクセスをユーザーに制限します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンティティベースのアクセスセキュリティフロー



自動翻訳

エンティティベースのアクセスセキュリティフローの詳細は次のとおりです。

- ユーザー階層アクセスまたはユーザーグループアクセスが有効になっている場合、 エンティティベースのアクセスは使用できません。
- 機密ユーザーは、エンティティベースのアクセス構成に含まれているかどうかにかかわらず、機密レコードに引き続きアクセスできます。

重要:

- パフォーマンスの制限の詳細については、「 KB2069935 」を参照してください。
- カスタムテーブルで エンティティベースのアクセス を使用する方法については、「 KB1646304 」の手順を参照してください。
- エンティティベースのアクセスの制限については、「https://support.servicenow.com/kb?id=kb_article_view&sysparm_article=KB2054513 」を参照してください。

サンプルユースケースシナリオ

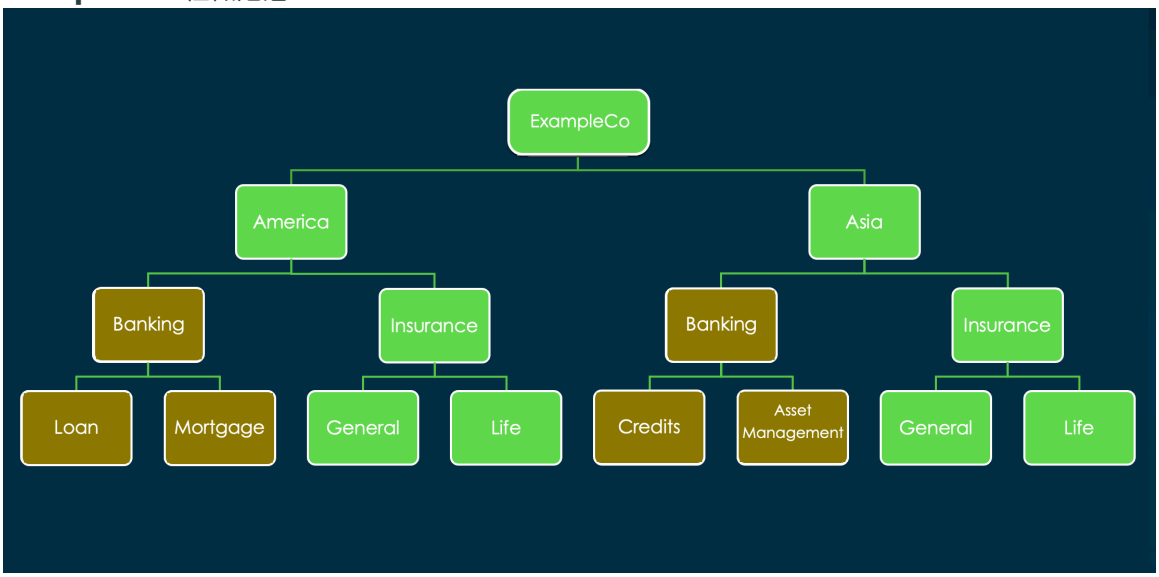
ユースケースシナリオでは、 エンティティベースのアクセス アプリケーションを使用する理由を明確かつ包括的に説明しています。

ユースケースシナリオの概要

ExampleCoは、アメリカ大陸とアジア大陸で事業を展開する多国籍組織です。同社は保険および銀行業界を専門としています。次の例は、この会社の組織階層を示しています。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ExampleCo の組織階層



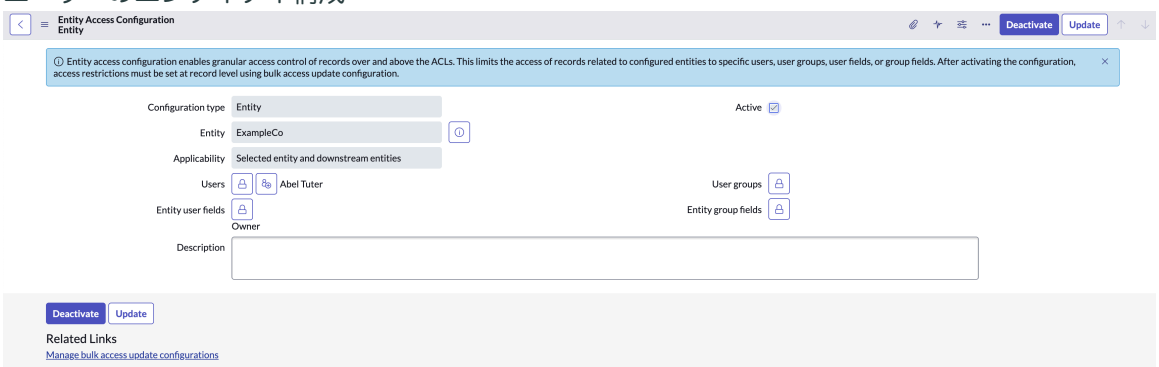
ユースケースシナリオ **1**

アジアオペレーションの責任者である Abel Tutor は、アジア大陸に固有のレコードにアクセスする必要があります。

この結果を得るには、 エンティティベースのアクセス アプリケーションを使用して、ユーザーに適用されるエンティティベースのアクセス制限を構成します。次に、一括アクセス更新構成を使用して、レコードレベルでエンティティベースのアクセス制限を適用します。

次に、ExampleCo Asia を選択し、エンティティ構成で Abel にマップします。または、Abel が属するユーザーグループにマッピングすることもできます。次の例は、アジア大陸のすべてのレコードへのアクセス権が Abel に付与されていることを示しています。

ユーザーのエンティティ構成



ユースケースシナリオ **2**

2 つ目のユースケースシナリオでは、バンキングドメインの運用責任者である Beth Anglin に、銀行関連レコードへのアクセス権のみを付与することができます。

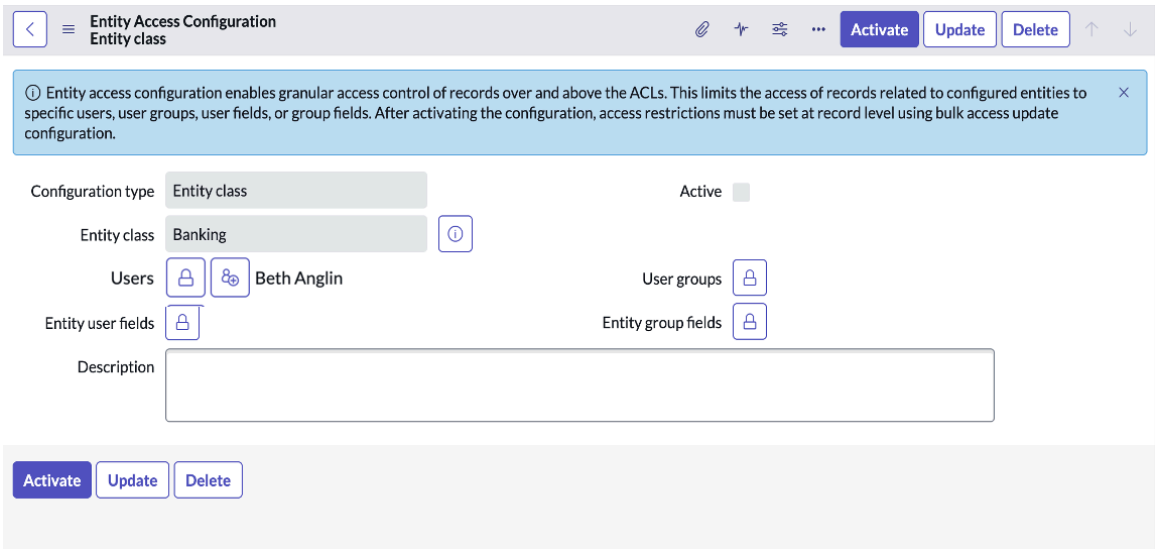
この結果を得るには、 エンティティベースのアクセス アプリケーションを使用して、エンティティクラス構成と該当するユーザーを構成します。エンティティクラスは、アクセス制限を適用できるレコードのグループを示します。次に、一括アクセス更新構成を使用して、レコードレベルでエンティティベースのアクセス制限を適用します。

Banking エンティティクラスを選択し、それを Beth にマッピングします。または、Beth が属するユーザーグループにマップすることもできます。次の例は、Banking エンティティクラスが Beth にマッピングされていることを示しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーザーのエンティティクラス構成



のユーザーロール エンティティベースのアクセス

特定のユーザーロールを持つユーザーは、 エンティティベースのアクセス 構成の読み取りまたは更新、または一括アクセス更新構成にアクセスできます。

エンティティベースのアクセス ユーザーロール

ユーザーロール	説明
sn_grc_ent_access.admin	エンティティベースのアクセスアプリケーションの一部であるロール。 エンティティプロパティに関連するレコードタイプへのエンティティベースのアクセスを有効または無効にし、エンティティベースのアクセスを構成する必要があるユーザーに、このロールをアサインします。
sn_grc_ent_access.reader	エンティティベースのアクセスアプリケーションの一部であるロール。 エンティティベースのアクセス構成への読み取りアクセス権を必要とするユーザーにこのロールを割り当てます。
sn_grc_ent_access.bulk_access_config_admin	エンティティベースのアクセスアプリケーションの一部であるロール。 一括アクセス更新構成への書き込みおよび更新アクセス権が必要なユーザーに、このロールを割り当てます。
sn_grc_ent_access.bulk_access_config_reader	エンティティベースのアクセスアプリケーションの一部であるロール。 一括アクセス更新構成への読み取りアクセス権を必要とするユーザーにこのロールを割り当てます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンティティベースのアクセス ユーザーロール (続く)

ユーザーロール	説明
sn_grc.eba_restriction_field_editor	エンティティベースのアクセスアプリケーションの一部であるロール。 問題レコードの エンティティベースのアクセス制限 フィールドへの書き込みおよび更新アクセスを必要とするユーザーに、このロールをアサインします。

除外されるロール

ユーザーロール	説明
sn_grc_reg_change.user	規制変更管理ユーザー。このロールは エンティティベースのアクセス 構成から除外されます。
sn_ai_governance.ai_steward	AI スチュワードロール。このロールは エンティティベースのアクセス 構成から除外されます。

エンティティベースのレコードアクセス更新ユーティリティ

エンティティベースのレコードアクセス更新ユーティリティは、大量のレコードにわたるアクセス制限の有効化または無効化の適用を簡素化するように設計されたガイド付き支援ツールです。

ガイド付きアシスタンスは、ユーザーフレンドリーなステップバイステップのインターフェイスを提供します。これにより、権限を持つユーザーは、一貫性のある監査可能な方法で一括更新を設定および実行できます。動的スコープ、条件付きフィルタリング、およびリアルタイムフィードバックをサポートし、制御された透過的な更新プロセスを促進します。このユーティリティは、アクセス管理作業を効率的にスケーリングするのに役立ちます。これにより、全体的な運用効率が向上し、ガバナンスが強化されます。

一括レコードアクセス更新プロセスは、明確さと制御のために設計された 4 ステップのプロセスに従います。

1. スコープエンティティ – この手順では、関連レコードがユーティリティの影響を受けるエンティティ、エンティティクラス、またはエンティティタイプを選択します。エンティティには、個人、部門、プロセス、システム、またはアプリケーションを含めることができます。この手順により、選択したエンティティの関連レコードに更新の焦点が当てられるようになります。
2. スコープ関連レコードタイプ – 選択したエンティティの関連レコードを定義します。レコードタイプには、リスク、コントロール、またはエンティティベースのアクセスをサポートするその他のスコープ対象テーブルを含めることができます。この詳細なスコーピングは、意図しない更新を防止し、エンティティベースのアクセス制限を段階的に適用するのに役立ちます。オプションで条件を定義して、スコープをさらに絞り込むことができます。前のステップでスコープされたエンティティはプライマリフィルターとして機能し、さらにフィルターを追加できます。
3. レコード数のプレビュー (オプション) – 実行前に、選択内容の概要プレビューが表示されます。このステップには、選択したレコードタイプと、影響を受けるレコード数を含むセカンダリ情報が含まれます。スコープに基づいて潜在的な影響を確認および確認するように求められます。アクセス制限を有効または無効にするボタンを使用してアクセスを設定できます。
4. 結果の表示 - エンティティベースのレコードアクセス更新の結果と更新されたレコードの数を表示します。

確認後、システムは制御された非同期の方法で更新ジョブを実行します。ジョブの実行が完了した後に結果を確認できます。この設定レコードに固有のログデータを確認できます。

自動翻訳

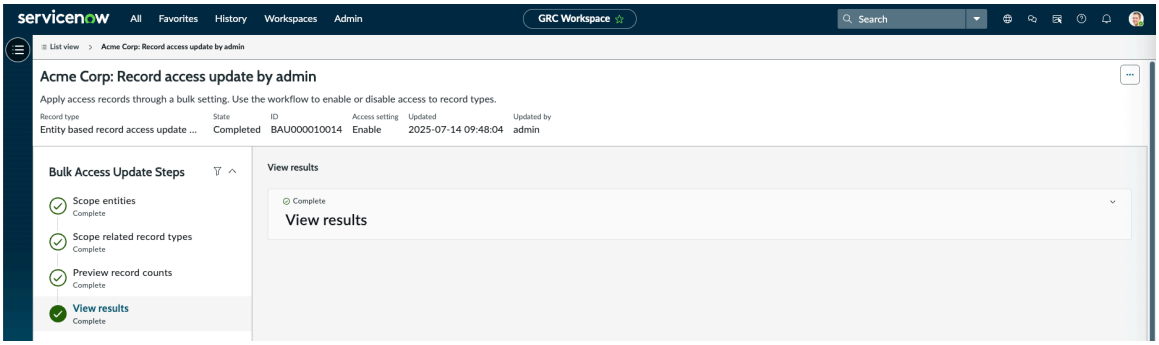
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

システムがサポートする更新状態は次のとおりです。

- 更新キューに格納 – 更新はアクティブに処理されています。
- 完了 - 選択したすべてのレコードに更新が正常に適用されました。
- 失敗 - 構成の問題またはシステムエラーにより、更新を実行できませんでした。この状態では [再試行] ボタンが表示され、更新を再度トリガーできます。

次の画像は、エンティティベースのレコードアクセス更新ユーティリティ画面を示しています。

エンティティベースのレコードアクセス更新ユーティリティのガイド付きアシスタンス



新しいレコードを保護するためのエンティティベースのレコードアクセスルール

エンティティベースのレコードアクセスルールにより、アドミンは新規レコードまたは変更されたレコードに制限を自動的に適用できます。この構成により、アクセス設定が引き続き適用されます。レコードを作成または変更するときに手動で更新する必要はありません。

エンティティベースのレコードアクセスルールを使用すると、新しく作成または変更されたレコードにアクセス制限を自動的に適用できます。これらのルールは、特定のプライマリレコードタイプ (リスクや問題など) に対して各ルールを定義して、 コア UI内のモジュール内で直接構成してアクティブ化できます。アクティブ化後、関連付けられたセカンダリレコード (リスク対応タスクや修復タスクなど) は、対応するプライマリレコードからアクセス制限を自動的に継承します。アクティブな構成を持つエンティティにリンクされている場合、ルールは新規または変更されたレコードに適用されます。

エンティティベースのアクセス制限をサポートするために、システムはアクティブ化されたルールに基づいて新しいレコードにアクセス制限を適用します。

- エンティティクラスとエンティティタイプの調整が評価され、アクセスへの影響が自動的に処理されます。
- EBA 管理階層内でエンティティが追加、削除、または移動されると、システムは自動的にアクセスを評価して強制します。この適用により、ダウンストリームレコードの正しいアクセス設定を維持し、新しい構造に沿った状態に保つことができます。

エンティティベースのアクセス構成の非アクティブ化

エンティティベースのアクセス (EBA) を非アクティブ化すると、構成が無効になるだけでなく、レコードレベルのアクセス評価が自動化されるため、アドミンワークフローも簡素化されます。

EBA 構成の非アクティブ化を開始すると、システムによって評価が実行されます。選択した構成が、関連するエンティティレコードのアクセス制限に影響を与える唯一のアクティブな構成であるかどうかを評価します。唯一のアクティブな構成として識別された場合、対応する EBA 制限がレコードレベルで自動的に無効になります。このアクションにより、古いアクセス制御が削除され、アドミニストレーターが手動更新を実行する必要がなくなります。

他のアクティブな構成が存在する場合、EBA 制限は保持され、非アクティブ化される構成にリンクされているユーザーに対してのみアクセスが制限されます。この条件付きアプローチは、非アクティ

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

ブ化アクションが他のアクティブなアクセス制御に誤って影響を与えないようにするのに役立ちます。

非アクティブ化プロセスを自動化するメリット

- 影響度評価を自動化することで、手作業による管理作業を削減します。
- 該当する場合、レコードレベルのアクセス制限をリリースする際の一貫性を強化します。
- 構成変更中の意図しないデータの露出やアクセスギャップのリスクを最小限に抑えます。

エンティティベースのアクセスの構成

ServiceNow Store からインストールし、インスタンスでエンティティベースのアクセスプロパティを設定して、エンティティベースのアクセス アプリケーションを構成します。

エンティティベースのアクセスアプリケーションのインストール

GRC：エンティティベースのアクセス アプリケーションをインストールします。

始める前に
Yokohama パッチ 3 以降のリリースのインスタンスがあることを確認します。

必要なロール：admin

手順

1. 移動先 すべて > システム定義 > プラグイン.
2. フィルター基準と検索バーを使用して エンティティベースのアクセス アプリケーションを検索します。
3. リストからバージョンを選択し、[インストール] を選択します。
4. プロンプトが表示された場合は、ServiceNow Store へのリンクに従って、依存関係のエンタイトルメントを取得します。
5. オプション: 利用できるデモデータをインストールするには、[デモデータのロード] チェックボックスをオンにします。
   デモデータは、一般的なユースケース向けのアプリケーション機能を説明するサンプルレコードです。開発またはテストインスタンスで初めてアプリケーションをインストールする場合は、デモデータを読み込みます。
6. **[Install** (インストール)] を選択します。
   エンティティベースのアクセス アプリケーションがインスタンスで利用可能である。

エンティティベースのアクセス プロパティの設定

エンティティに関連付けられているオブジェクトへのアクセスを制御する エンティティベースのアクセス プロパティを有効または無効にします。

始める前に
必要なロール:sn_grc_ent_access.admin

手順

1. 移動先 すべて > エンティティベースのアクセス構成 > プロパティ.
   次の表のプロパティが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンティティベースのアクセス のプロパティ

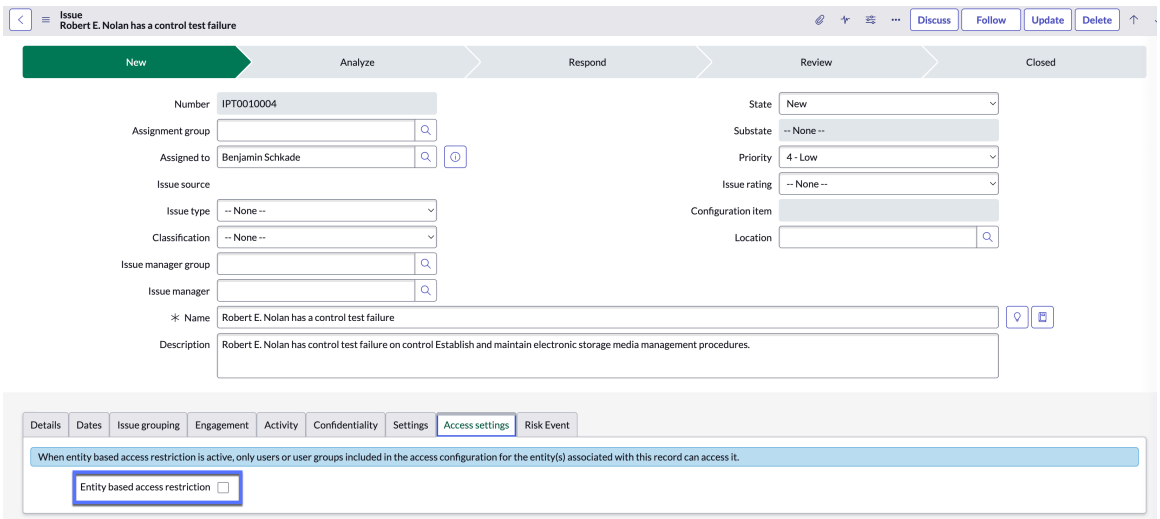
プロパティ	オプション	説明
エンティティに関連するレコードタイプへのエンティティベースのアクセス [sn_grc_ent_access.enable_entity_based_accesss]	有効化	エンティティベースのアクセスのオプション。既定では、エンティティベースのアクセスはオフになっています。エンティティベースのアクセスアドミニストレーターは、ユーザーに対してこれらのプロパティをアクティブ化する責任があります。
エンティティベースのアクセスを使用するレコードタイプのデータフィルターを有効にする [sn_grc_ent_access.enable_datafilters_for_eba]	イエスかノーか答えてください	レコードタイプのデータフィルターを有効にするオプション。既定では、エンティティベースのアクセスは [はい] です。このプロパティを有効にすると、エンティティベースのアクセス構成に基づいてレコードがフィルタリングされます。

2. **[Save** (保存)] を選択します。

   選択した設定に基づいて、エンティティベースのアクセスプロパティがシステムで構成されます。

3. エンティティベースのアクセスを設定するレコードに移動します。

4. [アクセス設定] タブで、[エンティティベースのアクセス制限] を選択します。
   [エンティティベースのアクセス制限] フィールドは、問題フォームでのみ使用できます。他のすべてのレコードについては、一括アクセス更新を構成してエンティティベースのアクセス制限を有効にする必要があります。



タスクの結果
システムでのエンティティベースのアクセスプロパティの設定が完了しました。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンティティベースのアクセス の管理

エンティティベースのアクセスアプリケーションを使用して、システム内のオブジェクトまたはレコードタイプへのアクセスを管理できます。エンティティ、エンティティクラス、またはエンティティタイプ構成を使用してアクセスを制限できます。

エンティティベースのアクセス制限は、2 ステップのプロセスで適用できます。

1. 次のタイプのエンティティベースのアクセス制限を構成します。
   - ユーザーまたはユーザーグループにアクセス権を付与するエンティティアクセス。
   - ビジネスプロセス、ビジネスサービス、データベースなどのエンティティクラスを定義し、その特定のエンティティクラスにリンクされているエンティティのオブジェクトアクセスを管理するためのエンティティクラス。
   - 会社やベンダーなどのエンティティタイプを指定し、そのエンティティタイプにリンクされているエンティティのオブジェクトアクセスを制御するエンティティタイプ。
2. 一括アクセス更新を構成して、エンティティに関連するすべてのレコードにわたって制限を設定します。

> **重要:**
> エンティティベースのアクセス制限を有効にするには、これらの両方の手順を完了してください。

エンティティの関連レコードへのアクセスを構成する

ユーザーまたはユーザーグループがエンティティの関連レコードにアクセスできるように、エンティティへのアクセスを構成します。

始める前に
必要なロール:sn_grc_ent_access.admin

このタスクについて
エンティティにリンクされているオブジェクトに対して詳細なアクセス制御を提供できます。特定のエンティティに関連付けられたレコードへのアクセスを制限して、指定されたユーザーとユーザーグループのみがアクセスできるようにすることもできます。

手順

1. 移動先 すべて > エンティティベースのアクセス構成 > エンティティ構成.
2. **[New** (新規)] を選択します。

   エンティティベースのアクセスフォームが表示されます。

   選択したエンティティに構成を適用するには、[適用性] フィールドで [選択したエンティティのみ] オプションを選択します。選択したエンティティとそのダウンストリームエンティティに構成を適用するには、 選択したエンティティとダウンストリームエンティティ オプションを選択します。

3. フォームのフィールドに入力します。
   フィールド値の説明については、「エンティティ構成フォーム」を参照して ください。

   エンティティベースのアクセス構成レコードが表示されます。

   選択したエンティティにのみ構成を適用すると、選択したユーザーはそのエンティティに関連付けられているすべてのオブジェクトにアクセスできます。

   選択したエンティティとそのダウンストリームエンティティに構成が適用されると、選択したユーザーは、そのエンティティとそのダウンストリームエンティティに関連付けられているすべてのオブジェクトにアクセスできます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

4. [アクティブ化] を選択して、構成をアクティブ化します。

選択したエンティティのアクセス権セットアップの概要が説明され、インスタンスに表示されます。レコードへのアクセス権は、エンティティ構成で設定された条件に従って、指定されたユーザーとユーザーグループに付与されます。

エンティティ構成フォーム

エンティティ構成フォームを使用して、エンティティを介したオブジェクトへのアクセスを構成します。

エンティティ構成フォーム

フィールド	説明
構成タイプ	エンティティアクセス構成のタイプ (エンティティなど)。
エンティティ	エンティティベースのアクセスが構成されるエンティティの名前。
適用	構成の適用性を定義するオプション。選択したエンティティのエンティティアクセスのみを構成することも、選択したエンティティとそのダウンストリームエンティティのエンティティアクセスを構成することもできます。利用可能なオプションは次のとおりです： • 選択したエンティティのみ • 選択したエンティティと下流エンティティ
アクティブ	エンティティ構成を有効または無効にするオプション。
ユーザー	アクセス権が構成されているユーザー。
ユーザーグループ	アクセスが構成されているユーザーグループ。
エンティティユーザーフィールド	アクセス権を付与するエンティティテーブル [sn_grc_profile] のユーザーフィールド。
エンティティグループフィールド	アクセス権を付与するエンティティテーブル [sn_grc_profile] のユーザーグループフィールド。
説明	エンティティ構成の説明。

リンクされたオブジェクトのエンティティクラスの構成

エンティティベースのアクセス アプリケーションを使用して、リンクされたオブジェクトのエンティティクラスを構成します。ビジネスプロセス、ビジネスサービス、データベースなどのエンティティクラスを定義し、そのエンティティクラスにリンクされているエンティティのオブジェクトアクセスを管理できます。

始める前に
必要なロール:sn_grc_ent_access.admin

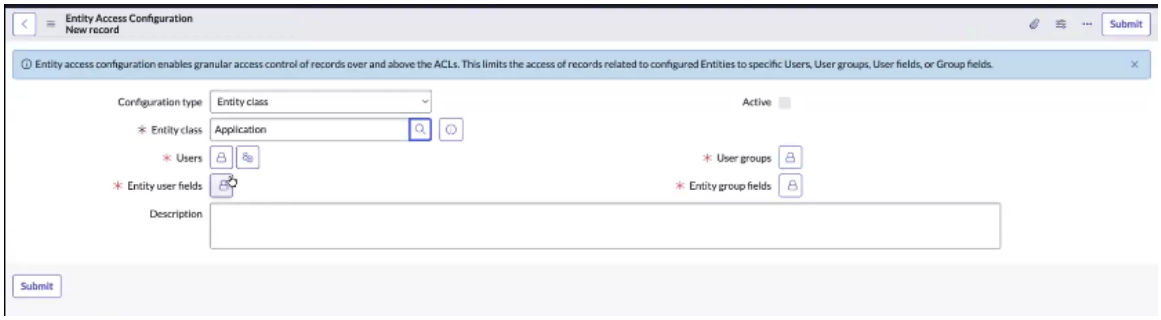
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 移動先 すべて > エンティティベースのアクセス構成 > エンティティクラス構成.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。
   フィールド値の説明については、「エンティティクラス構成フォーム」を参照して ください。

   次の例では、Application をエンティティクラスとして定義します。エンティティがアプリケーションエンティティクラスにリンクされている場合、そのオブジェクトアクセスは エンティティベースのアクセス 構成で管理されます。



4. [アクティブ化] を選択して、構成をアクティブ化します。

   エンティティクラス構成が構成されます。このエンティティクラスに関連付けられているエンティティのオブジェクトアクセスを制御できるようになりました。

エンティティクラス構成フォーム

エンティティクラス構成フォームを使用して、エンティティクラスにリンクされているすべてのエンティティに対するアクセス制御を設定します。

エンティティクラス構成フォーム

フィールド	説明
構成タイプ	エンティティアクセス構成のタイプ (エンティティなど)。
エンティティクラス	エンティティクラスの名前。
アクティブ	エンティティクラス構成を有効にするオプション。
ユーザー	アクセス権が構成されているユーザー。
ユーザーグループ	アクセスが構成されているユーザーグループ。
エンティティユーザーフィールド	アクセス権を付与する必要があるエンティティテーブル [sn_grc_profile] のユーザーフィールド。
エンティティグループフィールド	アクセス権を付与する必要があるエンティティテーブル [sn_grc_profile] のユーザーグループフィールド。
説明	エンティティクラス構成の説明。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リンクされたオブジェクトのエンティティタイプの構成

エンティティベースのアクセス アプリケーションを使用してエンティティタイプを構成します。会社やベンダーなどのエンティティタイプを指定し、そのエンティティタイプにリンクされているエンティティのオブジェクトアクセスを管理できます。

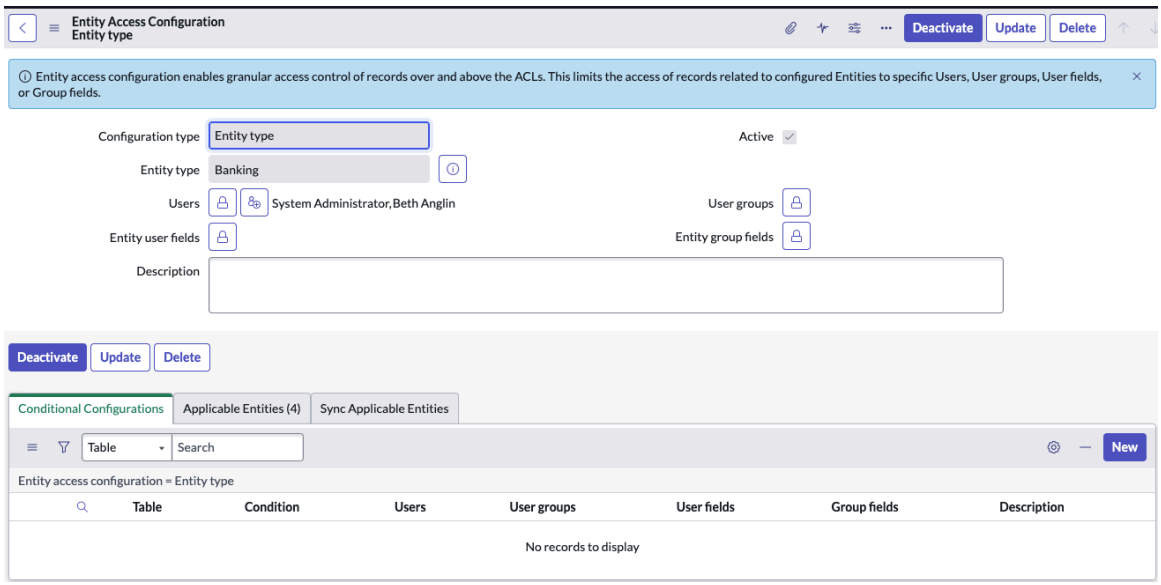
始める前に

必要なロール:sn_grc_ent_access.admin

手順

1. 移動先 すべて > エンティティベースのアクセス構成 > エンティティタイプ構成.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。
   フィールド値の説明については、「エンティティタイプ構成フォーム」を参照して ください。

   次の例は、銀行がエンティティタイプとして定義されていることを示しています。エンティティのエンティティタイプが [銀行] として定義されている場合、そのオブジェクトアクセスは エンティティベースのアクセス 構成で管理されます。



4. [アクティブ化] を選択して、構成をアクティブ化します。

   エンティティタイプが設定され、そのエンティティタイプに関連付けられているエンティティのオブジェクトアクセスを管理できます。例に示されている構成は、選択したエンティティタイプに属するエンティティに関連付けられているすべてのシステムオブジェクトへのアクセス権をユーザー、Anglin およびアドミニストレーターに付与します。

エンティティタイプ構成フォーム

[エンティティタイプ構成] フォームを使用して、 エンティティベースのアクセス アプリケーション内でエンティティタイプ構成を作成します。

エンティティタイプ構成フォーム

フィールド	説明
構成タイプ	エンティティタイプなどのエンティティアクセス構成のタイプ。
エンティティタイプ	エンティティタイプの名前。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

エンティティタイプ構成フォーム (続く)

フィールド	説明
アクティブ	エンティティタイプ構成を有効にするオプション。
ユーザー	アクセス権が構成されているユーザー。
ユーザーグループ	アクセスが構成されているユーザーグループ。
エンティティユーザーフィールド	アクセス権を付与する必要があるエンティティテーブル [sn_grc_profile] のユーザーフィールド。
エンティティグループフィールド	アクセス権を付与する必要があるエンティティテーブル [sn_grc_profile] のユーザーグループフィールド。
説明	エンティティタイプ構成の説明。

エンティティベースのレコードアクセス更新ユーティリティを使用してアクセス制限を設定する

エンティティベースのレコードアクセス更新ユーティリティのガイド付きエクスペリエンスを使用して、既存のレコードへのアクセス制限を一括で設定します。ワークフローを使用して、レコードタイプへのアクセスを有効または無効にします。

始める前に

必要なロール:sn_grc_ent_access.bulk_access_config_admin

このタスクについて

一括アクセス更新を設定することで、エンティティベースのアクセス制限を複数のレコードに一括で適用できます。

システムは、完了、失敗、または更新キューに格納された更新操作のリアルタイムのステータス追跡を提供します。更新のたびに、更新されたレコード、適用されたスコープ、および実行結果の詳細を示す包括的なログが生成されます。

手順

1. 移動先 すべて > エンティティベースのアクセス構成 > エンティティベースのレコードアクセス更新ユーティリティ.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. [スコープエンティティ] セクションで、次の操作を行います。

   a. [エンティティスコープの選択基準] ドロップダウンリストからエンティティスコープを選択します。

   b. エンティティ、エンティティタイプ、またはエンティティクラスを選択します。

   c. マーク 下流エンティティをスコーピングに含める場合 も、下流エンティティを選択します 。

   > 注:
   > このオプションは、エンティティを 1 つ選択した場合にのみ表示されます。

   d. [完了としてマークして続行] を選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [関連レコードのスコープ] セクションで、アクセス権を設定する関連レコードを選択し、次の操作を行います。
   a. [レコードタイプを追加] ドロップダウンリストからレコードタイプを選択します。
   b. オプション: [別のレコードタイプを追加] ドロップダウンリストから別のレコードタイプを選択します。
   c. オプション: 各レコードタイプに条件を適用します。
   d. [完了としてマークして続行] を選択します。
5. オプション: [レコード数をプレビュー] セクションで、選択したエンティティとレコードタイプのスコープに基づいて、影響を受ける各レコードタイプのレコードの数をプレビューします。
   a. [プレビューする] を選択して、レコード数をプレビューします。
   b. 関連レコードを選択できる前のステップに移動するには、[関連レコードのスコープに戻る] を選択します。
   c. [アクセスの設定] から、スコープ対象のエンティティとレコードタイプの [アクセス制限を有効にする] または [アクセス制限を無効にする] のいずれかを選択します。
   d. [続行] を選択して、選択したレコードへのアクセス制限の適用を確認します。
6. [結果を表示] セクションで、更新操作のステータスを確認できます。

タスクの結果
エンティティベースの制限は、スコープ対象のエンティティタイプのレコードレベルで有効または無効になります。

レコードタイプに対するエンティティベースのレコードアクセスルールの構成

レコードタイプにエンティティベースのレコードアクセスルールを設定して、新しいレコードにアクセス制限を自動的に適用します。

始める前に
必要なロール:sn_grc_ent_access.admin または sn_grc_ent_access.bulk_access_admin

手順
1. 移動先 すべて > エンティティベースのアクセス構成 > エンティティベースのレコードアクセスルール.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. [テーブル] ドロップダウンリストから、エンティティベースのレコードアクセスルールを構成するテーブルを選択します。
   エンティティベースのアクセスが有効になっているレコードタイプのみが選択対象として表示されます。

   注:
   プライマリレコードタイプごとに作成できるルールは 1 つだけです。

4. ルールをアクティブとしてマークする場合は、[アクティブ] を選択します。
5. ルールを保存します。
   このルールは、アクティブなエンティティベースのアクセス (EBA) 構成を持つエンティティの関連レコードにのみ適用されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
エンティティベースのアクセス制限は、プライマリレコードの選択と新しいレコードのルールのアクティブ化に基づいて、プライマリレコードタイプとセカンダリレコードタイプの両方に自動的に適用されます。

エンティティベースのアクセス構成の非アクティブ化

エンティティベースのアクセス (EBA) 構成を非アクティブ化して、関連レコードからのアクセス制限を無効にし、アクティブで適切な構成のみがデータアクセスを制御するようにします。

始める前に
必要なロール:sn_grc_ent_access.admin

このタスクについて
エンティティレコードから古いアクセス制限や冗長なアクセス制限を削除し、現在の構成のみがアクティブで関連性のあるままであることを検証します。

手順

1. 移動先 すべて > エンティティベースのアクセス構成.
2. 非アクティブ化するエンティティベースのアクセス構成を見つけます。
3. 設定レコード名を選択してレコードを開きます。
4. ユーザー、ユーザーグループ、適用性などの構成の詳細を確認します。
5. [非アクティブ化] を選択します。

   システムは、この構成が関連レコードのアクセス制限に影響する唯一のアクティブな構成であるかどうかを評価します。システムは検証チェックを実行して、アクセスに対する潜在的な影響や依存関係の競合を特定します。

   同じレコードに適用される他のアクティブな構成が存在する場合は、確認プロンプトが表示されます。

タスクの結果
構成が更新され、影響を受けるレコードのアクセス制限が、関連レコードで唯一のアクティブな構成である場合のみ削除されます。

エンティティベースのアクセスの参照

エンティティベースのアクセス制限は、一部の GRC テーブルに適用できます。

エンティティベースのレコードアクセス更新ユーティリティ構成ステータス

エンティティベースのアクセス構成状況は、定義された権限と制御設定を表します。

エンティティベースのアクセス構成の状況

状況	説明
ドラフト	構成は作成されていますが、まだアクティブでも確定もされていません。これは編集可能なままで、適用されません。
失敗	アプリケーションまたは検証中にエラーが発生したため、構成が処理されませんでした。
プレビュー	構成はレビューと影響分析に使用できますが、まだ適用されていません。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

エンティティベースのアクセス構成の状況 (続く)

状況	説明
進行中	構成を適用中または検証中です。プロセスは開始されましたが、完了していません。
完了	構成が適用され、アクティブになっています。すべての変更が確定し、有効になります。

エンティティベースのアクセスを適用可能なレコードタイプ

エンティティベースのアクセス適用可能なレコードタイプは、エンティティベースのアクセスルールを定義できるシステム内の特定のテーブルまたはレコードカテゴリを参照します。このテーブルには、すべての EBA 対応テーブルと、エンティティテーブルまたはプライマリテーブルとの関係に関する情報が保持されます。

ドメイン	テーブル名
GRC リスク	sn_risk_risk (プライマリテーブル)
	sn_risk_response_task (セカンダリテーブル)
	sn_risk_response_sub_task (セカンダリテーブル)
GRC 高度なリスク	sn_risk_advanced_event (プライマリテーブル)
	sn_risk_advanced_risk_identification (プライマリテーブル)
	sn_risk_advanced_risk_assessment_project (セカンダリテーブル)
	sn_risk_advanced_risk_assessment_instance (セカンダリテーブル)
GRC コンプライアンス	sn_complaince_control (プライマリテーブル)
GRC 監査	sn_audit_engagement (プライマリテーブル)
	sn_audit_control_test (セカンダリテーブル)
	sn_audit_test_plan (セカンダリテーブル)
	sn_audit_advanced_observation (プライマリテーブル)
GRC プロファイル	sn_grc_issue (プライマリテーブル)
	sn_grc_task (セカンダリテーブル)
	sn_grc_indicator (セカンダリテーブル)
	sn_grc_indicator_task (セカンダリテーブル)
	asmt_assessment_instance (セカンダリテーブル)
GRC メトリクス	sn_grc_metric_metric (プライマリテーブル)

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ドメイン	テーブル名
	sn_grc_metric_metric_data (セカンダリテーブル)
	sn_grc_metric_metric_data_task (セカンダリテーブル)
GRC Advanced Core	sn_grc_advanced_triage (プライマリテーブル)

問題を管理します。

会社のリスク管理プログラムの有効性は、リスクとコンプライアンスの問題をどのぐらい迅速かつ完全に特定して対処するかによって測定できます。

問題は、関連するユーザーのタイプに応じて 2 つの方法を使用して送信できます。

- 社内の従業員とビジネスユーザーは、次のことができます。 問題を自己識別し、 ServiceNow® サービスポータル. 送信後、トリアージ問題が自動的に作成され、問題のトリアージプロセスが開始されます。
- GRC ユーザーは、インスタンス内から手動で問題を作成し、監査の観察事項と修正、およびコンプライアンスとリスクの問題を文書化できます。

注:
さまざまなタイプの問題も、次の条件下で自動的に生成されます (これらのタイプの問題はトリアージされません)。

- コントロールの問題：コントロールが実装されていないことを示すコントロール証明書が完了したとき、またはインジケーターが失敗したときに作成されます。
- コントロールテストの問題：コントロール有効性が無効に設定された状態でコントロールテストが完了してクローズしたときに作成されます。

問題管理の目標

イシュー管理の目標は、次のとおりです。

- ノイズを排除する。
- 重複する問題を統合する。
- 組織を最大のリスクにさらす問題に焦点を当てる。
- 修正アクションを特定し優先順位付けする。
- ビジネスオペレーション全体にわたり新しい問題を特定する。
- ポリシー、プロセス、およびコントロールの運用上の脆弱性を分析する。

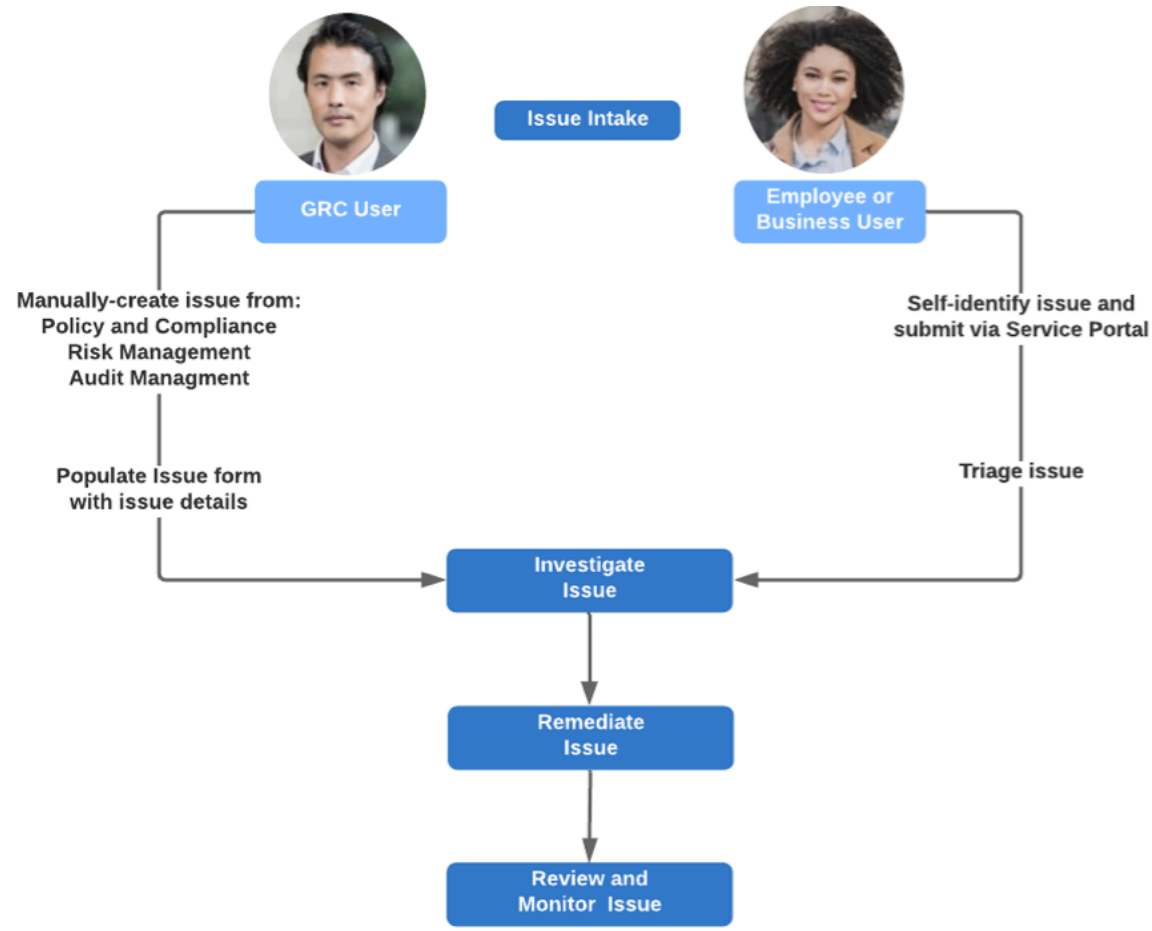
イシュー管理ワークフローとライフサイクル

問題を修正することで、コントロールのコンプライアンスを維持し、リスクを軽減できます。ここでは、イシュー管理のワークフローとライフサイクルについて説明します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

イシュー管理ワークフロー



イシュー管理ライフサイクル

ステージ	説明
問題の取り込み	前述のとおり、問題は、関連するユーザーのタイプに応じて 2 つの方法を使用して送信できます。 • 社内の従業員とビジネスユーザーは、問題を自己識別し、ServiceNow サービスポータルを介してそれを送信できます。送信後、トリアージ問題が自動的に作成され、問題のトリアージプロセスが開始されます。 • GRC ユーザーは、インスタンス内から手動で問題を作成できます。これらのタイプの問題はトリアージされません。
問題の調査	調査フェーズ中に、問題について追加の調査が必要かどうかが判断されます。トリアージが実行されている場合、トリアージ問題は分析のためにトリアージチームにアサインされます。トリアージチームは、問題の作成者に詳細情報を要求する場合があります。チームは、オプションで、トリアージ結果とともにコンプライアンスマネージャー、リスクマネージャー、または

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

イシュー管理ライフサイクル (続く)

ステージ	説明
	トリアージマネージャーに問題を送信することもできます。
問題の修正	チームが問題を確認した後、それを修正するために必要な手順が実行されます。トリアージが実行された場合、トリアージ問題は実際の問題またはリスクイベントに変換されます。チームは、問題を推奨事項として追跡するか、問題ではないとしてクローズすることもできます。
問題のレビューと監視	問題をクローズする前に、ポリシー所有者が問題をレビューして承認します。このレビューにより、組織は次のこともできます。 • 期限切れのタスクを追跡する • 問題のタイムラインのベンチマーク • 損失を軽減できた場所を特定する • 将来のギャップを削減する

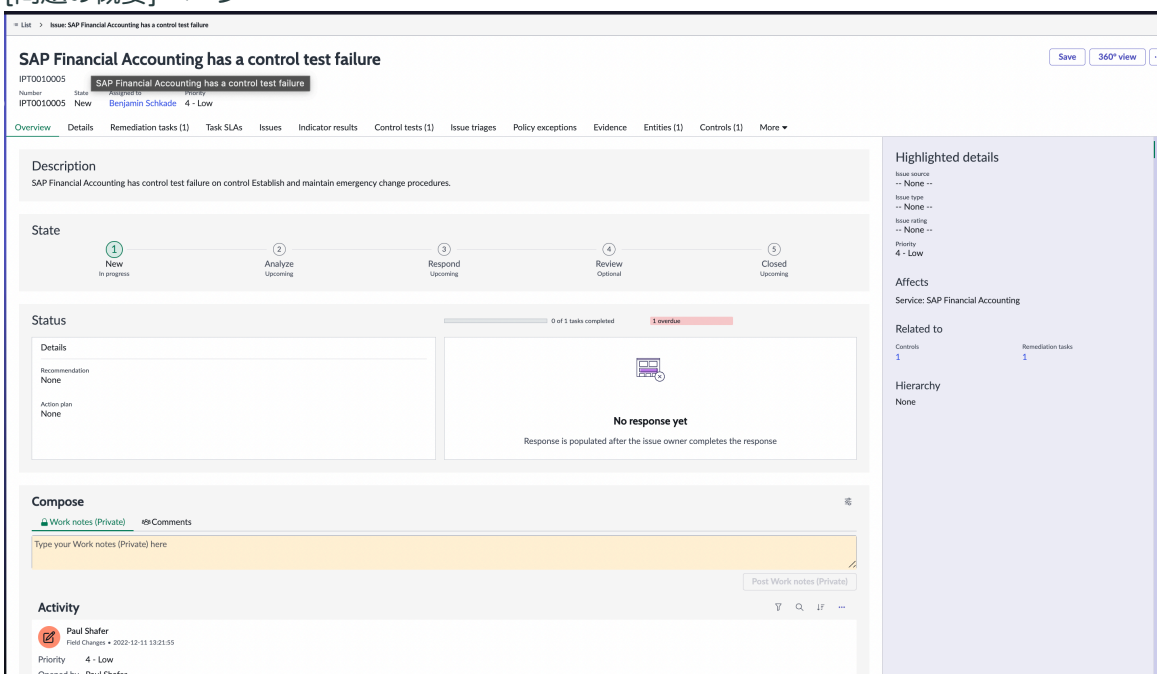
ワークスペース内の問題

ワークスペースからすべての問題または 1 つの特定の問題を追跡できます。問題は、ワークスペースのリストビューの問題モジュールの下に一覧表示されます。

問題の概要ページ

問題フォームには、問題の詳細が表示されます。問題の説明、ステータス、作業メモ、これまでに発生したアクティビティに関する情報を確認できます。問題に関する情報は、次の例に示すように、[概要] タブや [詳細] タブなどのさまざまなタブに整理されています。

[問題の概要] ページ



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[詳細] タブでは、問題、アサイン、スケジュール、問題のグループ化、アクションプラン、機密性、およびアクティビティと設定に関する情報を確認できます。

注:
[詳細] セクションは [詳細] タブから削除されました。

問題に関連するオブジェクトを関連付ける

GRC 問題ペルソナのユーザー、ビジネスユーザー、またはビジネスユーザー Lite は、コントロール、リスク、リスクイベント、エンティティ、エンゲージメント、コントロール目標、リスクステートメント、ポリシー、各種法令・基準等、処理アクティビティなどのオブジェクトを関連付けたり、問題に関連する既存のオブジェクトを削除したりできます。

たとえば、関連リストとして選択できるエンティティを考えてみましょう。エンティティフォームの [追加] または [削除] UI ボタンを使用して、他の関連エンティティを追加することも、既存のエンティティを削除することもできます。

問題フォームの関連リストには、問題に関連する依存関係が表示されます。次の表は、[問題] フォームのタブとサイドバーについて説明しています。

問題フォームのタブとサイドバー

タブ	説明
概要	説明、状態、ステータス、作業メモ、アクティビティなどの問題の概要。
詳細	アサイン、スケジュール、問題のグループ化、アクションプラン、機密性、アクティビティ、設定、作業メモなどの問題の詳細。[問題のグループ化 (Issue grouping)] セクションには、親問題や問題グループルールなどのグループ化情報が表示されます。高度な問題グループ化を有効にすると、親、子、スタンドアロンのいずれの問題であるかを示す [グループレベル] フィールドが表示されます。また、親問題と子問題のどちらから個別に管理されているかを示す [管理方法] フィールドも表示されます。
ハイライトされた詳細	問題ソース、問題タイプ、問題評価、優先度、影響、関連先、階層などのハイライト表示された情報。
影響	この問題の影響を受けるエンティティ。
関連先	コントロール、リスク、ポリシー、各種法令・基準等、エンゲージメント、規制変更タスク、修復タスク、リスクイベントなど、この問題の影響を受けるさまざまなオブジェクトの数。
階層	問題の階層。

次の表に、 [問題] セクションの関連リストを示します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[問題] セクションの関連リスト

関連リスト	説明
修復タスク	名前、番号、ステータス、アサイン先、優先度、終了予定日、実際の日付などの修復タスクの詳細。
SLA タスク	SLA 定義、タイプ、ターゲット、ステージ、対応残り時間、対応経過時間、対応経過時間の割合 (%)、開始時間、終了時間などのタスクの Service Level Agreement (SLA) の詳細。
問題	名前、番号、問題ソース、問題タイプ、ステータス、問題マネージャー、アサイン先、優先度、期日などの関連する問題の詳細。
インジケーターの結果	名前、結果、インジケーター、データオーナーなどのインジケーター結果の詳細。
コントロールテスト	名前、番号、親、アサイン先、開始予定日、終了予定日などのコントロールテストの詳細。
問題のトリアージ	名前、番号、ソース、問題タイプ、ステータス、サブステート、トリアージオーナー、レビュー担当者などの問題のトリアージの詳細。
ポリシー例外	名前、番号、要求者、理由、ポリシー、コントロール目標、ステータス、サブステート、有効開始日、有効期限、リスク評価などのポリシー例外の詳細。
証拠	名前、番号、証拠対象、要求理由、ステータス、サブステート、要求者、アサイン先、期日などの証拠の詳細。
エンティティ	エンティティ、説明、クラス、オーナーなどのエンティティの詳細。
コントロール	名前、番号、エンティティ、機能、状態、ステータス、免除、オーナー、説明などのコントロールの詳細。
リスク	名前、番号、エンティティ、リスクステートメント、所有グループ、オーナー、ステータス、リスクアセスメント方法などのリスクの詳細。
エンゲージメント	名前、番号、タイプ、エンゲージメントリード、ステータス、エンゲージメントの開始予定日、エンゲージメント終了予定などのエンゲージメントの詳細。
コントロール目標	名前、ソース ID、ソース、親、カテゴリ、分類、タイプ、コンプライアンスなどのコントロール目標の詳細。
リスクステートメント	名前、フレームワーク、カテゴリ、説明、選好度ステータスなどのリスクステートメントの詳細。

自動翻訳

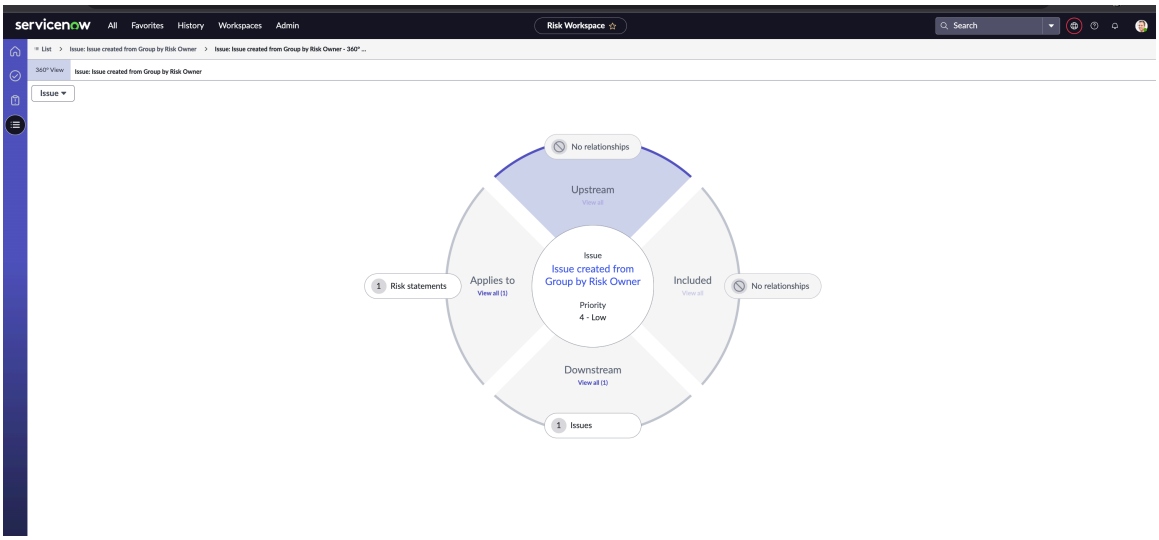
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[問題] セクションの関連リスト (続く)

関連リスト	説明
ポリシー	名前、タイプ、オーナー、ステータス、有効開始日、有効終了日、コンプライアンススコアなどのポリシーの詳細。
各種法令・基準等	名前、共通名、タイプ、コンプライアンススコアなどの各種法令・基準等の詳細。
リスクイベント	リスクイベント、プライマリエンティティ、イベントタイプ、サブタイプ、ステータス、検出日、正味損失、予想損失、非財務的影響度などのリスクイベントの詳細。
処理アクティビティ	処理アクティビティ、処理アクティビティカテゴリ、オーナー、プライバシーアナリストなどの処理アクティビティの詳細。

次の例は、問題に関連付けられているアップストリームの問題、ダウンストリームの問題、コントロール、修復タスクなど、選択した問題の関係全体の 360 度ビューを示しています。

問題の **360** 度の関係

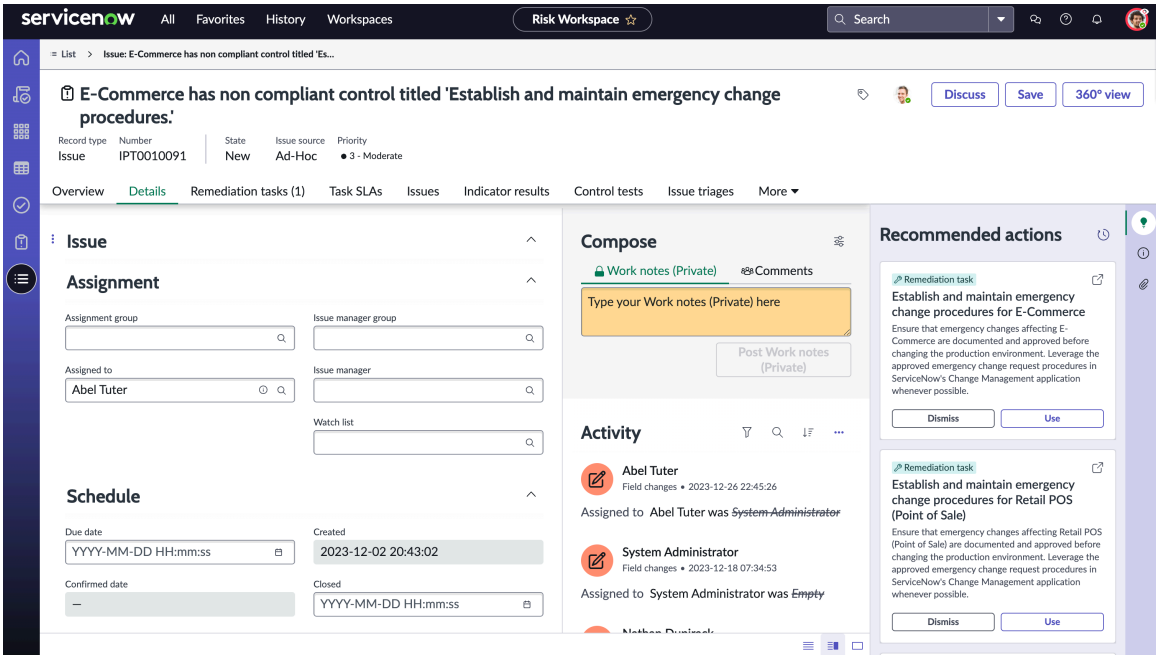


推奨アクション

推奨アクションは、システム生成の提案であり、修復タスクをすばやく選択したり、問題を適切な担当者にアサインしたりするために役立ちます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

修復タスクの推奨アクション



図に示すように、修復タスクの推奨アクションが右側のペインに表示されます。推奨アクションのリストを表示し、次の操作を実行できます。

- 使用: [使用] ボタンを選択すると、データが事前に入力されたフォームが表示されます。[アサイン先] フィールドを使用して任意のユーザーにアサインでき、[保存] を選択します。このレコードは [修復タスク] タブで確認できます。
- 却下: 推奨されるアクションを使用しない場合は、 却下 を選択します。

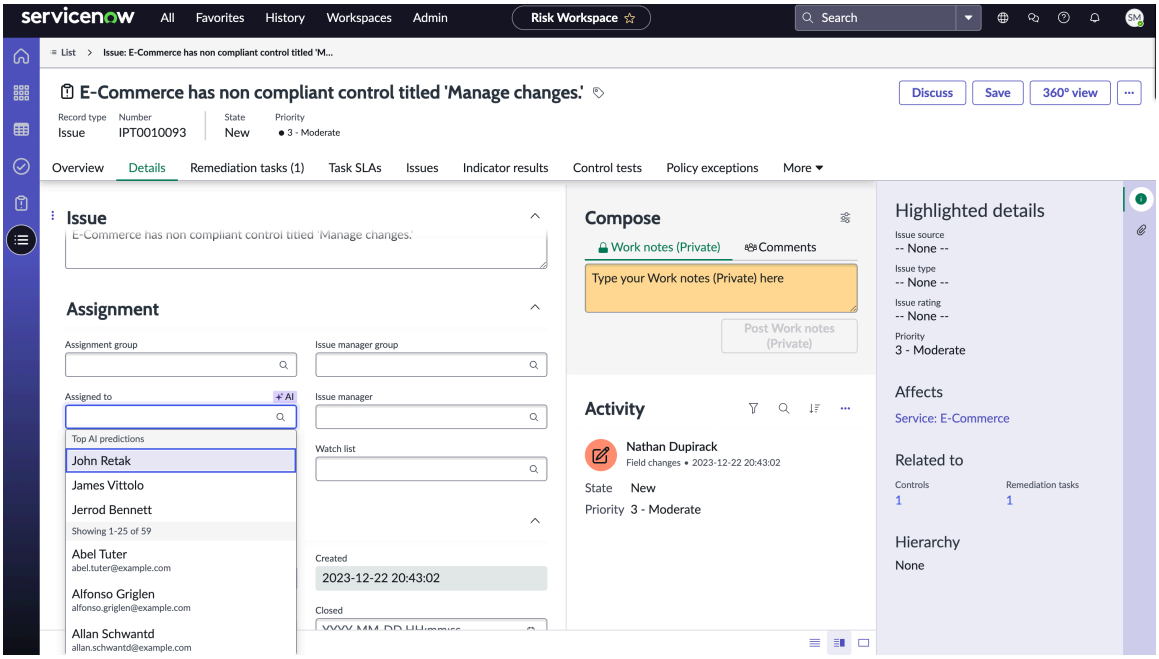
重要:
推奨事項は、次のロールを持つユーザーにのみ表示されます。

1. sn_grc.business_user、sn_grc.business_user_lite の最小ロールを持つユーザー。sn_nb_action.next_best_action_use ロールを sn_grc.business_user と sn_grc.business_user_lite に追加する必要があります。
2. 問題ペルソナの一部ではないが、 sn_grc.user の最小ロールを持つユーザー。
3. sn_grc.business_user および sn_grc.business_user_lite の最小ロールを持つユーザーは、問題ペルソナに含まれている必要があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[アサイン先] フィールドの推奨アクション



図に示すように、システム生成の推奨事項が [アサイン先] フィールドに表示されます。上位 3 件の予測 (John Retak、James Vittolo および Jerrod Bennett) が、アルファベット順ユーザーリストの上に表示されます。

問題の関係を構成する

問題が再利用不可能で、さまざまなコントロール、リスクステートメント、またはコントロール目標に対して複数の類似した問題が作成されていることがわかっている場合でも、引き続き、GRC アプリケーションで問題を再利用するために問題の関係を構成できます。

同じ問題を再利用することで、問題の重複を避けることができます。さまざまなオブジェクトに追加する必要があるだけです。問題がコントロールまたはリスクにリンクされると、エンティティ、コントロール目標またはコントロールやリスクのリスクステートメントに自動的にリンクされます。

GRC 管理モジュールの [問題の関係の構成 **(Issue Relationship Configuration)]** タブを使用すると、さまざまなオブジェクトに問題を追加できます。

注:
このモジュールは、ワークスペースがインストールされている場合にのみ表示されます。

問題への関連オブジェクトの自動リンクを停止することで、問題の関係を無効にすることもできます。詳細については、「問題の関係を構成する」を参照してください。

問題の関係を構成する

問題を GRC アプリケーションの関連オブジェクトに自動的にリンクできるように、問題の関係の設定レコードを有効または無効にします。

始める前に
必要なロール：sn_grc.admin

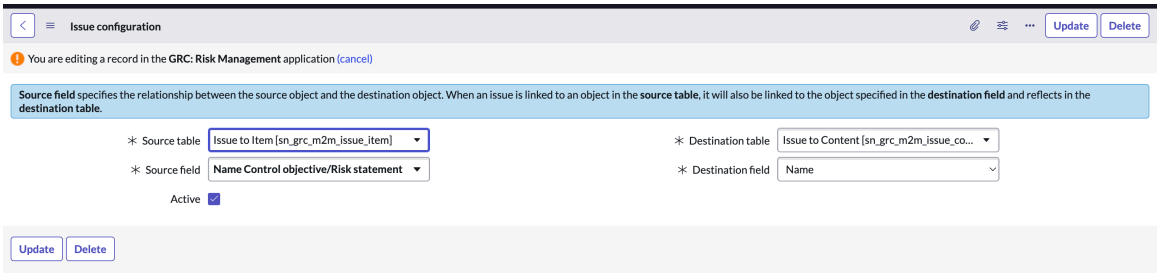
手順

1. 移動先 すべて > **GRC Administration** > 問題の関係の構成.
2. 問題の関係を設定するレコードを選択します。
3. [アクティブ] フィールドを選択または選択解除して、設定レコードを有効または無効にします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

問題の関係の構成フォーム



問題の関係の構成フォームのフィールドの詳細については、「問題の関係の構成フォーム」を参照してください。

問題の関係の構成フォーム

GRC アプリケーションの問題の関係の構成フォームを使用して、問題がソースレコードにリンクされている場合に、宛先レコードに問題を自動的にリンクします。

問題の関係の構成フォーム

フィールド	説明
ソーステーブル	問題をオブジェクトにリンクするときに元のレコードが作成される多対多 (MtoM) テーブル。 たとえば、問題がコントロールにリンクされている場合、関係レコードがこのテーブルに作成されます。
宛先テーブル	問題が宛先オブジェクトにリンクされている場合に、レコードが作成されるターゲットテーブル。 たとえば、[ソーステーブル] フィールドでコントロールにリンクする問題を選択したとします。[宛先テーブル] フィールドでエンティティ MtoM にリンクする問題を選択した場合、問題はコントロールのエンティティにリンクされます。
ソースフィールド	ソースオブジェクトと宛先オブジェクトの関係を表示するソースフィールド。
宛先フィールド	[宛先テーブル] フィールドの問題にリンクされているオブジェクトを含む宛先フィールド。 たとえば、[宛先テーブル] フィールドでエンティティ関係にリンクする問題を選択した場合、宛先フィールドの値は [エンティティ] です。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

問題の関係の構成フォーム (続く)

フィールド	説明
	注: ソースフィールドと宛先フィールドで選択するオブジェクトタイプは同じタイプである必要があります。

注:

- ソースオブジェクト：手動で問題にリンクされている元のオブジェクトです。
- 宛先オブジェクト：問題の関係の構成によって自動的に問題にリンクされるオブジェクトです。

ワークスペースで問題をグループ化する

ワークスペース内の問題をグループ化して、関連する問題を整理および管理します。類似の問題をグループ化することで、ワークフローを簡素化し、時間を節約できます。

始める前に

必要なロール：risk_admin、risk_manager、または sn_risk.user

このタスクについて

親の下に類似の問題をグループ化することで、ワークフローを簡素化し、時間を節約できます。すべての子問題は単一の親の下で管理されるため、まとめて追跡して対処することが容易になります。問題が同じプロジェクトまたは監査に属する場合、異なるタイプの問題を単一の親の下にグループ化して、各種問題がどのように管理されているかを包括的に把握できます。問題を親の下にグループ化すると、問題の整理と優先順位付け、類似の問題解決の冗長性の削減、調整された方法での問題への対処に役立ちます。

高度な問題グループ化機能プロパティを有効にして、問題のグループ化やスタンドアロンの問題を親にするための管理方法など、高度な問題グループ化機能を使用できます。詳細については、「ガバナンス、リスク、コンプライアンス のプロパティ」を参照してください。

重要:
機密性を有効にして問題をグループ化すると、機密性の高い親問題の下にのみ機密の子問題を追加できます。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース.
   特定のワークスペースに移動できます。
2. リストアイコンを選択して問題に移動します。
3. グループ化する問題の横にあるチェックボックスをオンにします。
4. [グループ] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

問題のグループ化 **(Group issues)** フォーム

フィールド	説明
グループタイプ	グループタイプを選択するオプション。利用可能なオプションは次のとおりです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	○ グループを作成：新しい親問題を作成してグループを形成するオプション。 ○ 既存のグループに追加：既存の親問題でグループを作成するオプション。 ○ スタンドアロンの問題を親として作成 **(Make standalone issue as a parent)**：既存のスタンドアロンの問題を選択して親にし、グループを作成するオプション。 **注:** [スタンドアロンの問題を親として作成 **(Make standalone issue as a parent)**] オプションは、高度な問題のグループ化機能プロパティが有効になっている場合にのみ使用できます。詳細については、「ガバナンス、リスク、コンプライアンス のプロパティ」を参照してください。
親問題名 (Parent issue name)	新しい親問題の名前。このフィールドは、[グループタイプ] フィールドから [グループを作成] が選択された場合のみ表示されます。
親問題	既存の親問題を選択するか、既存のスタンドアロンの問題を選択して親にするオプション。このフィールドは、[グループタイプ] フィールドで [グループを作成] または [スタンドアロンの問題を親として作成 **(Make standalone issue as a parent)**] が選択されている場合にのみ表示されます。
管理方法 (Management method)	問題を親問題から管理するか、個々の子問題として管理するかを指定するオプション。利用可能なオプションは次のとおりです。 ○ 親の管理 **(Manage parent)**：管理方法として [親の管理 **(Manage parent)**] を選択すると、子問題は親問題の [ステータス **(State)**]、[応答]、および [説明] フィールドの値を継承します。 ○ 子の管理 **(Manage child)**：[子の管理 **(Manage child)**] を選択すると、子問題は独自の [ステータス **(State)**]、[応答]、および [説明] フィールドを個別に保持します。 **注:** [管理方法 **(Mangement method)**] フィールドは、高度な問題グループ化機能プロパティが有効になっている場合にのみ使用できます。詳細については、「ガバナンス、リスク、コンプライアンス のプロパティ」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
説明	問題グループに関する追加情報。

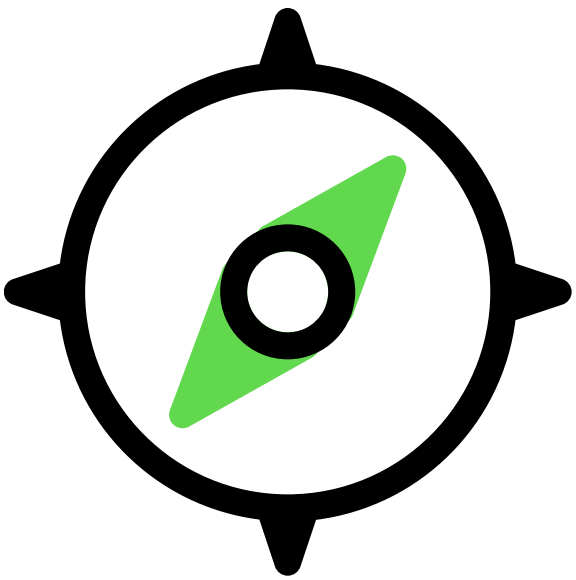
6. [グループ] を選択します。

統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assist

統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assist アプリケーションを使用して、スキルとエージェントワークフローを使用します。

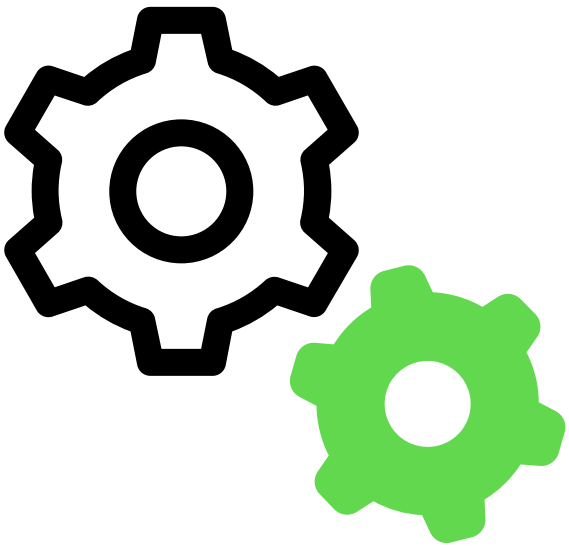
開始

探索



IRM 向け Now Assist に関する詳細

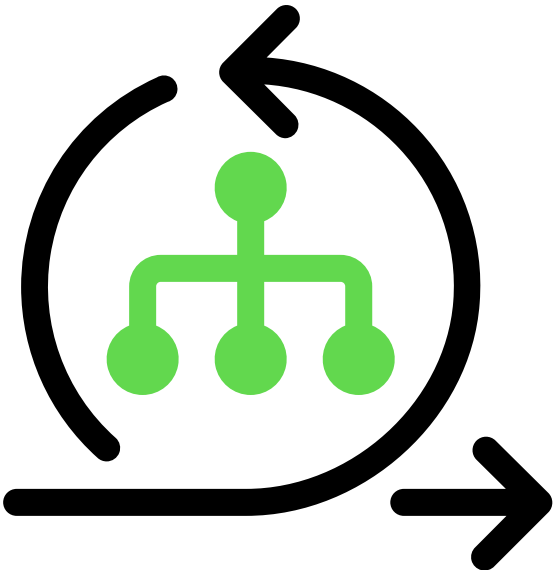
構成



IRM 向け Now Assistスキルを構成して開始する

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

使用方法	使用方法
	
が提供するスキルを使用する IRM 向け Now Assist	が提供するエージェントワークフローを使用する IRM 向け Now Assist

重要:

- 国内の SKU をお持ちのお客様は、すべてのモデルプロバイダーを利用できるわけではなく、一部の Now Assist 製品/機能は現在、国内のお客様はご利用いただけません。詳細については、Now Support ナレッジベースの KB1584492 記事を参照してください。将来のリリースでモデルプロバイダーの可用性の更新を必ず確認してください。
- 現在、 Now Assist 製品/機能の一部は、FedRAMP、NSC DOD IL5、オーストラリアの IRAP で保護されたデータセンターのお客様、セルフホスト型のお客様、またはその他の制限された環境ではご利用いただけません。詳細については、Now Support ナレッジベース記事「KB0743854」を参照してください。将来のリリースで可用性の更新を必ず確認してください。
- 現在、一部の Now Assist 製品/機能は一部の地域の顧客のみが利用できます。将来のリリースで可用性の更新を必ず確認してください。

トラブルシューティングとサポート

- AI とインテリジェンスの ServiceNow コミュニティ
- 既知のエラーポータルで既知のエラー記事を検索する
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート

AI の制限事項

このアプリケーションは、データ内のパターンに基づいて予測を生成する急速に進化している研究分野である人工知能 (AI) と機械学習を使用しています。その結果、このアプリケーションは必ずしも正確、完全、または適切な情報を生成するとは限りません。さらに、このアプリケーションがユースケースに合わせて完全にトレーニングまたはテストされているという保証はありません。これらの問題を軽減するために、ユースケースに対する正確性、害、および適切性について、このアプリケーションの使用をテストおよび評価し、出力を人間が監視し、意思決定の目的で AI で生成された出力のみに依存しないようにするのは、ユーザーの責任です。これは、医療、ファイナンス、法務、雇

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

用、セキュリティ、インフラストラクチャなど、結果が影響を与える分野にこのアプリケーションを展開することを選択した場合に特に重要です。ServiceNow の AI 利用規定 に従うことに同意するものとします。このポリシーは ServiceNow によって更新される場合があります。

データ処理

このアプリケーションでは、ServiceNow 顧客の個々のインスタンスから一元化された ServiceNow 環境にデータを転送する必要があります。この環境は、インスタンスが存在するデータセンターとは異なるデータセンターリージョンに配置されている可能性があり、場合によっては Microsoft Azure などのサードパーティクラウドプロバイダーにも転送されます。このデータは、コアコンプライアンスポータル から利用可能なポリシーを含む、ServiceNow の内部ポリシーと手順に従って処理されます。

データコレクション

ServiceNow は、このアプリケーションの入力、出力を収集して使用し、出力を編集して、ServiceNow モデルや AI 製品などの ServiceNow テクノロジーを開発および改善します。さらに、このアプリケーションは インシデントデータ (インシデント支援およびナレッジ支援の場合) およびチャットのトランスクリプト (チャット支援の場合)。 お客様は、「Now Assistオプトアウトに関するページ 」の説明に従って、いつでも将来のデータコレクションをオプトアウトできます。

詳細については、 Now Assist ドキュメント .

統合リスク管理 **(IRM)** 向け **Now Assist** の探索

統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assist アプリケーションでは、生成 AI スキルとエージェントワークフローを使用できます。

IRM 向け **Now Assist** スキル/ワークフローのメリット

Now AssistIRM 向け Now Assistを活用したスキルは、時間を節約し、手作業を減らし、生産性を向上させます。

生成 AI エージェントを利用したエージェントワークフローは、タスクを完了するために、自律的に、またはユーザーと協力して推論、計画、および行動できます。

IRM 向け **Now Assist** のメリット

スキル/エージェントのワークフロー	スキル	機能	ユーザーロール
スキル	問題の要約	生成 AI を利用したこのスキルを使用して、説明、アクティビティログ、修復タスクなどの問題レコードを分析します。必要な情報をキャプチャする簡潔なサマリーを生成します。生成 AI を使用すると、組織の効率、チーム間の調整、および生産性を向上させることができます。	• sn_grc_genai.issue_user • sn_irm_gen_ai.user

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

IRM 向け **Now Assist** のメリット (続く)

スキル/エージェントのワークフロー	スキル	機能	ユーザーロール
	類似するコントロール目標の推奨事項	コントロール目標の合理化は、冗長または重複するコントロール目標を排除することでリスクとコンプライアンス管理を簡素化し、コンプライアンスを確保しながら効率を向上させます。	• sn_irm_gen_ai.user • sn_comp_case.compliance_c • sn_comp_case.compliance_c
	リスクアセスメントの要約	Now LLM サービスを使用して、固有リスク、残存リスク、ターゲットリスク、およびコントロール有効性データからリスクアセスメントサマリーを生成します。これらのサマリーでは、主要な要因と関連するコメントが強調表示されるため、査定人と承認者が実用的なインサイトを得るのに役立ちます。	• sn_grc_sharegenai.risk_asmt • sn_risk_advanced.ara_asses • sn_risk_advanced.ara_appro • sn_irm_gen_ai.user
	規制アラートの要約	Now LLM サービスの機能を使用して、規制情報を抽出して、コンプライアンスに関する最も重要な変更、期限、アクションをリアルタイムで強調する簡潔なビジネス関連の概要を作成します。	• sn_irm_gen_ai.user • sn_grc_reg_change.user • sn_grc_comp_genai.reg_cha
	規制アラートがコントロール目標に影響する	このスキルを使用すると、組織は受信した規制変更に関連付ける関連コントロール目標を特定できます。このスキルは、コンプライアンスプロセスの簡素化に役立ちます。また、手作業も削減されます。	• sn_irm_gen_ai.user • sn_grc_reg_change.user • sn_grc_comp_genai.reg_cha
	規制アラートの影響を受ける引用	このスキルを使用すると、組織は受信した規制変更に関連する引用を特定できます。このスキルは、コンプライアンスプロセスの簡素化に役立ちます。また、手作業も削減されます。	• sn_irm_gen_ai.user • sn_grc_reg_change.user • sn_grc_comp_genai.reg_cha

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

IRM 向け **Now Assist** のメリット (続く)

スキル/エージェントのワークフロー	スキル	機能	ユーザーロール
	規制アラートの影響を受けるコントロール	このスキルは、組織が受信した規制変更に関連付ける関連コントロールを識別するのに役立ちます。このスキルは、コンプライアンスプロセスの簡素化に役立ちます。また、手作業も削減されます。	• sn_irm_gen_ai.user • sn_grc_reg_change.user • sn_grc_comp_genai.reg_cha
GRC 問題解決 エージェントワークフローの最適化		AI エージェントの力を活用してアクションプランを生成し、 GRC 問題の修復タスクを提案します。	• sn_grc_genai.issue_user • sn_irm_gen_ai.user • sn_grc_genai.issue_aiagent_

次に探索する内容

IRM 向け Now Assistを構成して使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- IRM の Now Assist のサポート情報
- IRM の Now Assist の構成
- IRM の Now Assist でスキルをアクティブ化
- IRM 向け Now Assist でのエージェントワークフローのアクティブ化
- 問題の要約スキルのカスタマイズ
- IRM 向け Now Assist スキルの使用
- 問題の要約
- でのエージェントワークフローの使用 IRM
- GRC 問題解決の最適化

統合リスク管理 **(IRM)** 向け **Now Assist** の構成

admin ロールを持っている場合は、エージェントが リスクワークスペース および コア UI で生成 AI スキルを使用できるように 統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assist アプリケーションを構成できます。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

Now Assist アドミン コンソールを使用して、IRM 向け Now Assist を構成します。このコンソールには、プラグインのインストールと生成 AI スキルの構成に必要なものがすべて含まれています。詳細については、 Now Assist アドミンコンソール を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AI エージェントのアクティブ化の詳細については、「Now Assist AI エージェントのインストール」を参照してください。

ServiceNow AI 開発プログラムとデータを共有することで、予測精度とユーザーエクスペリエンスの向上に役立つ関連データを提供できます。また、ビジネスニーズに合わせて製品をカスタマイズし、アクティブ化されたスキルの幻覚を減らすこともできます。

Now Assist アドミン コンソールから、ServiceNowインスタンスからのデータ共有をオプトアウトすることを選択できます。詳細については、「Now Assist のデータ共有をオプトアウトする」を参照してください。Now Assist の機能を使用するすべてのインスタンスに対してオプトアウトプロセスを繰り返します。

次の表に、Now Assist アドミンコンソールからアクセスできる機能とスキルを示します

Now Assist アドミンコンソールの **IRM** 機能とスキル/ワークフロー

IRM 機能	スキル/エージェント **AI** ワークフロー
問題のサマリーを生成	問題の要約 スキル
問題の解決	GRC 問題解決 エージェント AI ワークフローの最適化
リスクアセスメントのサマリーを生成	リスクアセスメントの要約 スキル
重複するコントロール目標の推奨事項を生成	類似のコントロール目標スキルの推奨事項
規制アラートのサマリーの生成	規制アラートの要約 スキル
コントロール目標など、影響を受ける領域に関する推奨事項を生成します	規制アラートの影響を受けるコントロール目標 スキル
引用など、影響領域の推奨事項を生成します	規制アラートの影響を受ける引用 スキル
ゆがみなどの影響領域に関する推奨事項を生成します	規制アラートの影響を受けるコントロール スキル

注:
Now LLM サービス は、この Now Assist アプリケーションのスキルの唯一のプロバイダーです。

以前のバージョンの場合は、 アプリケーションマネージャー に移動して新しいバージョンにアップグレードしてください。

手順

IRM 向け Now Assist プラグイン (sn_irm_gen_ai) をインストールします。

- プラグインの依存関係とプラグインのアクティブ化順序の詳細については、「アプリケーション情報」を参照してください。
- インストールプロセスの詳細については、「Now Assist プラグインのインストール」を参照してください。

での **Now Assist** スキルのアクティブ化 統合リスク管理 **(IRM)** 向け **Now Assist**

統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assist アプリケーションの生成 AI 機能を使用する前に、スキルをアクティブ化します。

始める前に
IRM 向け Now Assist プラグイン (sn_irm_gen_ai) をインストールします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

必要なロール：sn_nowassist_admin.nsa_admin

手順

1. 移動先 すべて > アドミンセンター > **Now Assist** アドミン.
2. **[Now Assist** スキル] タブの [テクノロジーワークフロー] グループで、[**IRM**] を選択します。
3. [IRM のスキルを Now Assist] ページで、[スキルのアクティブ化] を選択してスキルをアクティブ化します。
4. 各タブでスキルの詳細を確認し、スキルを構成して、[保存して続行] を選択します。

   [戻る] ボタンを使用して、前の手順に戻ることができます。

5. 選択内容を確認し、[アクティブ化] を選択します。
   スキルが構成されました。

次のタスク
sn_generative_ai.nsa_admin ロールを持っている場合は、 Now Assist スキルに対して次のアクションを実行できます。

- Now Assist スキルを編集します。
- Now Assist スキルのコピーを作成します。
- Now Assist スキルのトラブルシューティングを行います。

でのエージェントワークフローのアクティブ化 統合リスク管理 **(IRM)** 向け **Now Assist**

タスクを実行するには、1 つ以上の AI エージェントを含む一連の LLM 指示を含むエージェントワークフローをアクティブ化する必要があります。

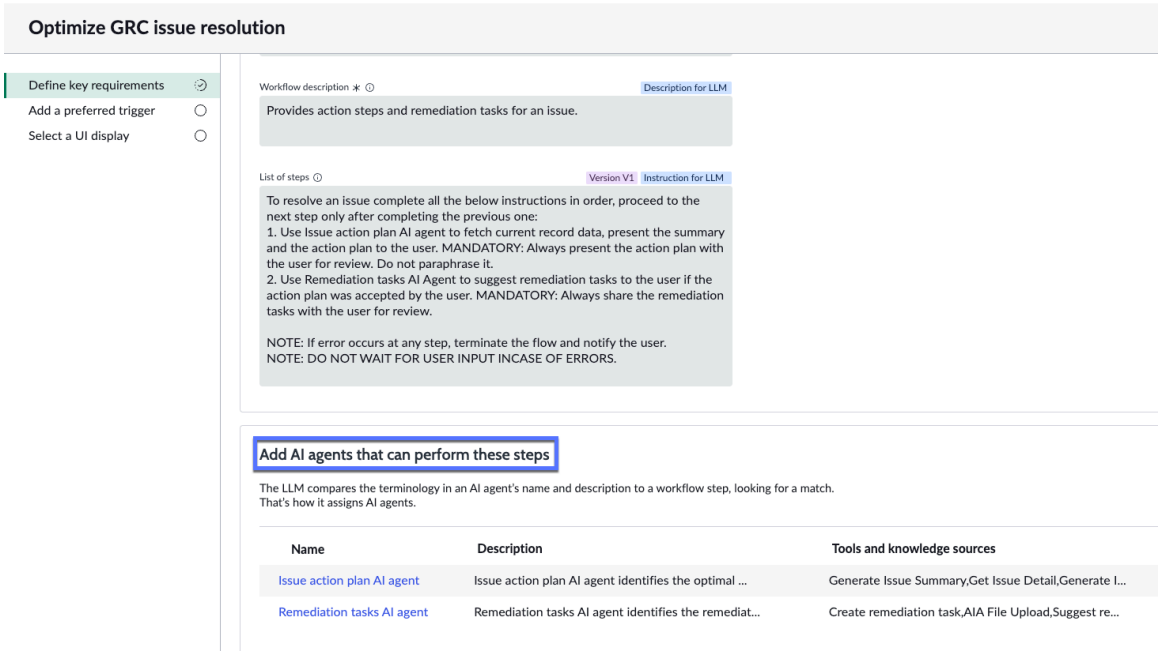
始める前に
IRM 向け Now Assist プラグイン (sn_irm_gen_ai) をインストールします。

必要なロール:sn_nowassist_admin.nsa_admin または sn_aia.admin

手順

1. 移動先 すべて > **AI** エージェントスタジオ > 概要.
2. 有効にするエージェントワークフローを選択します。
3. エージェントワークフローページの [これらの手順を実行できる **AI** エージェントを追加 **(Add AI agents that can perform these steps**)] セクションで、AI エージェントを選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



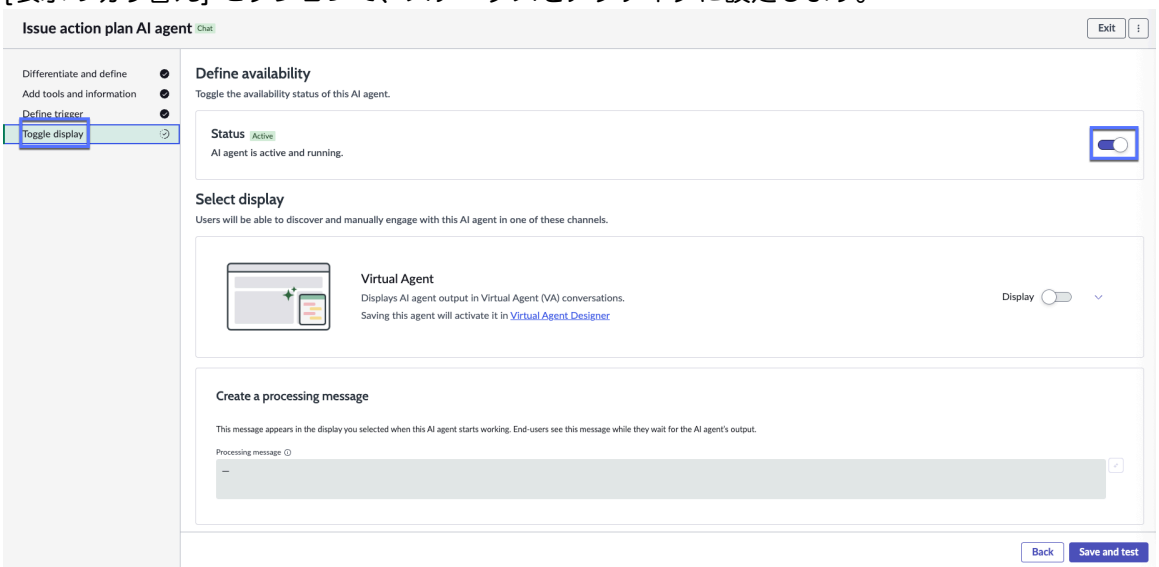
4. [AI エージェント] ページで、次の手順を実行します。

a. [差別化と定義] で、詳細を確認し、 [続行] を選択して次のセクションに進みます。

b. [ツールと情報の追加] セクションで詳細を確認し、[続行] を選択して次のセクションに進みます。

c. [トリガーを定義] セクションで詳細を確認し、[続行] を選択して次のセクションに進みます。

d. [表示の切り替え] セクションで、ステータスをアクティブに設定します。



e. [保存してテスト] を選択します。

f. [AI 推論のテスト] ページで、[バージョン] を選択し、[タスク] の詳細を入力します。

g. [テストの開始] を選択して、AI エージェントのテストを開始します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. すべての AI エージェントに対してステップ 4 を繰り返します。
6. エージェントワークフローページで、次の手順を実行します。
   a. [キー要件の定義] で、詳細を確認し、 [続行] を選択して次のセクションに進みます。
   b. [優先トリガーの追加] セクションで詳細を確認し、 [続行] を選択して次のセクションに進みます。
   c. [**UI** 表示を選択] セクションで、表示をアクティブに設定します。
   d. [保存してテスト] を選択します。
   e. [AI 推論のテスト] ページで、[バージョン] を選択し、[タスク] の詳細を入力します。
   f. [テストの開始] を選択して、エージェントワークフローのテストを開始します。
7. をオンにする Now Assist パネル .

タスクの結果
エージェントワークフローとワークフロー内のすべての AI エージェントがアクティブになります。

での問題要約スキルのカスタマイズ 統合リスク管理 **(IRM)** 向け **Now Assist**

admin ロールを持っている場合は、ユーザーが リスクワークスペース および コア UIで生成 AI スキルを使用できるように、問題の要約スキルをカスタマイズできます。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
Now Assist アドミンコンソールから、スキルのさまざまなステータスの入力データを選択し、それらをサマリーに含めるようにプロンプトヘッダーを構成できます。

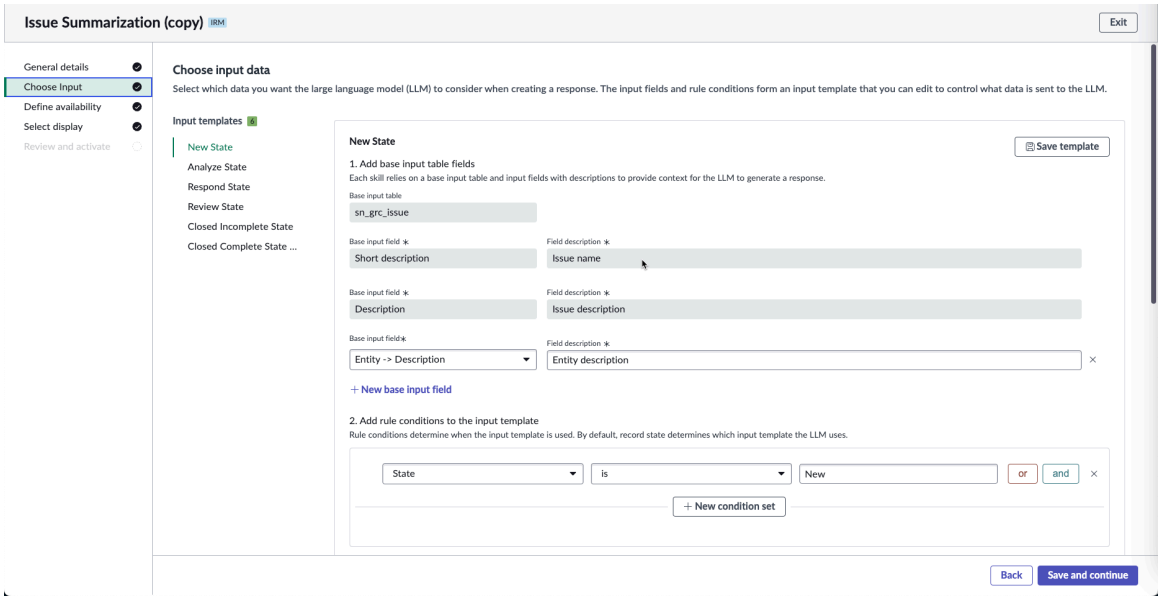
手順
1. 移動先 すべて > アドミンセンター > **Now Assist** アドミン > **Now Assist** スキル Now Assist アドミンコンソールのタブ。
2. テクノロジーワークフローグループで、IRM のスキルを表示します。
3. カスタマイズ用に問題の要約スキルをコピーします。
   a. カスタマイズするスキルに関連付けられている機能カードで、オプション ( ) アイコンを選択し、 コピーを作成 を選択します。
   b. 確認ダイアログで、[コピーを作成] を選択します。
4. [一般的な詳細] ステップで、フィールドに入力します。
   a. スキルの名前と説明を入力します。
   b. **[Save and continue** (保存して続行)] を選択します。
5. 各スキルの入力データとベース入力フィールドを表示します。

   スキルのベース入力テーブルフィールドを構成します。

   各スキルは、Now LLM サービス が応答を生成するためのコンテキストを提供する説明を含むベース入力テーブルと入力フィールドに依存しています。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



a. **[Save and continue** (保存して続行)] を選択します。

b. 前の手順に進むには、[戻る] を選択します。

6. ユーザーがスキルをどのように利用できるかを定義します。

a. ユーザーが常にスキルを利用できるように構成することも、スキルが利用可能になる前に満たす必要がある条件を選択することもできます。
[スキルの可用性をカスタマイズ **(Customize skill availability)]** を選択すると、条件ビルダーが表示され、さらにデータをフィルターできます。

b. **[Save and continue** (保存して続行)] を選択します。

c. 前の手順に進むには、[戻る] を選択します。

7. [表示を選択] ステップで、問題の要約スキルを表示する場所を構成します。

製品内デスクトップ:選択すると、 Now Assist スキルがフォームとワークスペースに表示されます。

a. スキルを表示するロールを選択します。

b. **[Save and continue** (保存して続行)] を選択します。

c. 前の手順に進むには、[戻る] を選択します。

8. レビューおよびアクティブ化ステップでは、スキルをアクティブ化する前にすべての詳細を確認します。

9. **[Activate** (アクティブ化)] を選択します。

10. オプション: 前の手順に進むには、[戻る] を選択します。

タスクの結果

[問題の要約を作成 (**Summarize** in an issue)] を選択して、問題の要約を生成できます。

統合リスク管理 **(IRM)** 向け **Now Assist**スキルの使用

統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assist アプリケーションでサポートされている生成 AI スキルを使用して、問題のあるクイックアクションを実行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRCのサマリーを生成することで、ユーザーはコンテキストをより早く理解できます。

IRM 向け Now Assistスキルの指示を変更する

Yokohamaパッチ 3 リリース以降、IRM 向け Now Assistがインストールされているユーザーは、IRM 向け Now Assist を利用したスキルを使用できます。

スキルのプロンプトを変更するには、「 KB1806035 」に記載されている手順に従います。

を使用して問題を要約 統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assist

統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assist アプリケーションを使用して問題を要約します。サマリーを使用して、問題に関するコンテキストと認識をすばやく取得します。

始める前に
必要なロール:sn_grc_genai.issue_user および sn_irm_gen_ai.user

このタスクについて
Now Assist のインテリジェンスは、説明、アクティビティログ、修復タスクを含む問題レコードを分析します。問題の要約スキルを使用すると、必要な情報をキャプチャする簡潔なサマリーを生成できます。

手順

1. 移動先 ワークスペース > リスクワークスペース.
2. [問題] に移動し、新規、対応中、またはクローズ済みの問題を開きます。

   注:

   エンタイトルメントを確認して、問題の要約スキルにアクセスできるかどうかを確認してください。

3. [概要] タブで [問題を要約する] を選択します。
   問題の定義、実行されたアクション、修復タスクなど、すべての重要な詳細のサマリーが生成されます。
4. オプション: サマリーが生成されたら、サマリーの詳細の表示、保存、展開または折りたたみ、フィードバックの提供、コピー、または再生成を行います。

   (Optional) AI によって生成されるサマリーでは、重要な詳細が欠落している可能性があります。要約の正確性と完全性を確認してからサマリーを使用することをお勧めします。

タスクの結果
問題の要約スキルによって問題のサマリーが生成されます。

でのエージェントワークフローの使用 IRM

統合リスク管理 AI エージェントコレクションを使用して、タスクを自律的に完了できるようにします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Integrated Risk Management AI エージェントコレクションに利用可能なエージェントワークフロー

エージェントワークフロー名	説明	利用可能な **AI** エージェント
GRC 問題解決の最適化	問題マネージャーとアナライザーが、アクションプランを自動的に生成し、問題の修復タスクを作成できるようにします。	• 問題アクションプラン AI エージェント • 修復タスク AI エージェント

重要:
デフォルトでは、すべてのエージェントワークフローと AI エージェントレコードは読み取り専用です。

AI エージェントを自律的に実行するには、まず エージェントワークフローを複製 してから、次の手順に進む必要があります。

- ワークフローを有効にします。
- ワークフロー内のすべてのエージェントを有効にします。
- エージェントワークフローを自動的に呼び出すトリガーをアクティブ化します。手動で呼び出す場合は、トリガーをアクティブ化する必要はありません。

エージェントワークフローで使用されていない AI エージェントが、 Now Assist アプリケーションとともにインストールされている場合があります。利用可能なすべてのエージェントを表示する方法については、「 AI エージェントを検索する 」を参照してください。

GRC問題解決の最適化

Now Assistパネルの GRC 問題解決エージェントの最適化ワークフローを使用して、GRC問題解決計画を最適化します。このエージェントワークフローは、問題のアクションプランを生成し、問題を解決するための修復タスクを提案します。

始める前に

必要なロール:sn_grc_genai.issue_user または sn_irm_gen_ai.user

問題の要約スキルをアクティブ化します。詳細については、「での Now Assist スキルのアクティブ化 統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assist」を参照してください。

このタスクについて

重要:
エージェントワークフロー、AI エージェント、またはツールを変更する場合は、それに応じてすべての指示を更新してください。

GRC 問題解決の最適化ワークフローを変更するには、 それを複製 し、要件に応じて設定を調整します。トリガーをアクティブにし、 Now Assist パネルが含まれるように表示設定を設定することで、ワークフローテンプレートをアクティブ化できます。

手順

1. リスクワークスペースに移動し、[分析] ステータスの問題を選択します。
2. エージェントワークフローを使用して解決する問題を開きます。
3. Now Assist ( )
   Now Assistパネルが表示されます。
4. 問題アクションプランを生成し、推奨される修復タスクを生成して、GRC の問題を解決します。

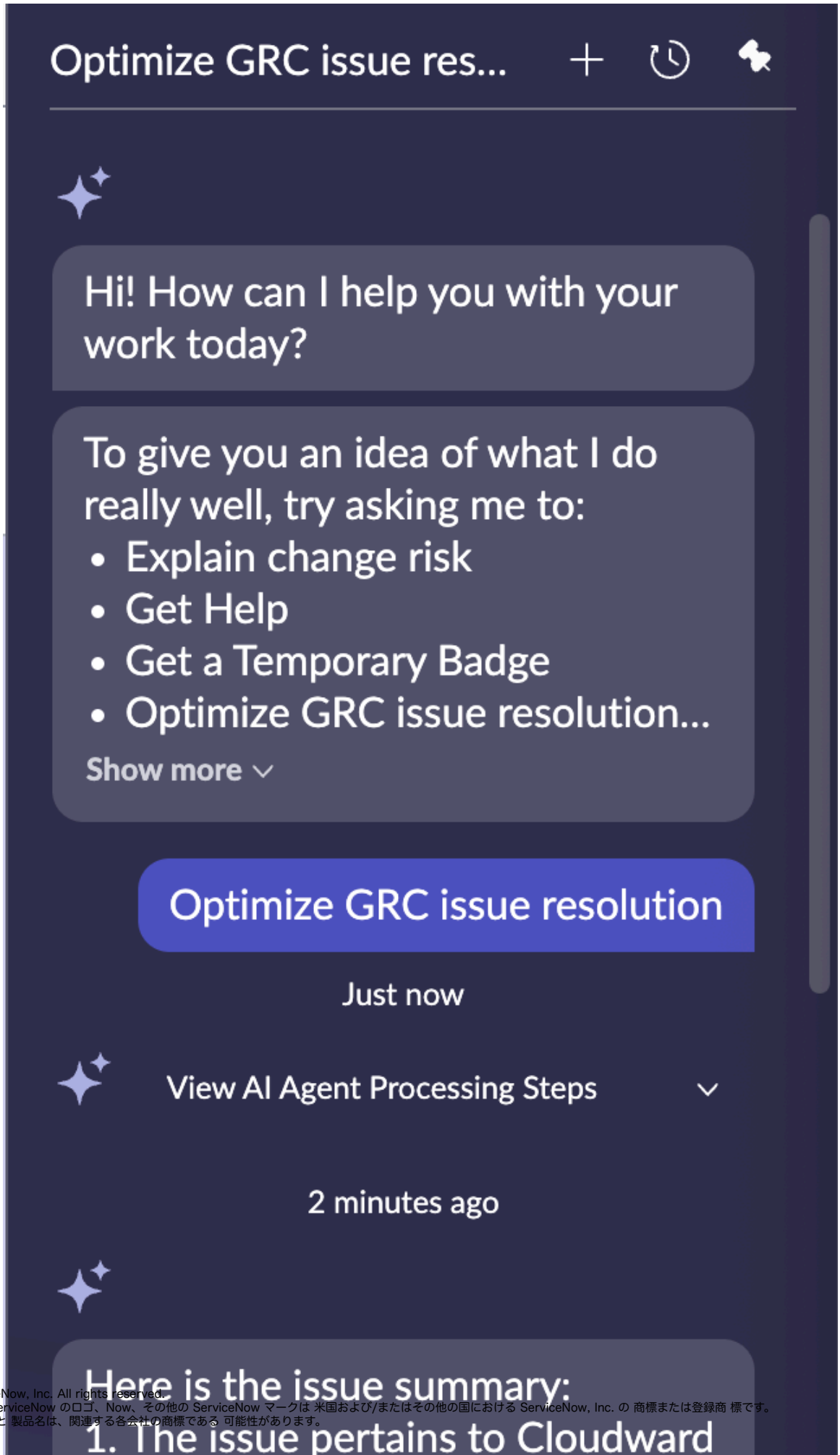
自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
問題アクションプランの生成	[Now Assist] パネルで、「 アクションプランを生成 」と入力するか、[**GRC** の問題解決を生成] を選択して、自然言語で GRC の問題解決ワークフローを最適化するようにエージェントに依頼します。 **注:** ○ 「問題のアクションプランを生成:IPT0020240」などの問題番号を指定すると、ワークフローは提案された問題に作用し、以前の同様の問題に基づいてアクションプランを生成します。 ○ 提案された問題番号を指定することで、 Now Assist パネルから任意の問題に対するアクションプランを生成できます。 ○ アクションプランを承認できます。 ○ 生成されたアクションプランを編集するには 、[削除 1]、[2]、[追加] <テキスト>、 または [結合 1]、[4] などの入力を指定します。 ○ 生成されたアクションプランを破棄し、代わりに手動でアクションプランを作成できます。
推奨される修復タスクを生成	アクションプランを承認すると、 Now Assist 仮想エージェントは修復タスクを提案できます。次のいずれかのアクションを実行できます。 ○ 修復タスクを承認します。 **注:** 重複する修復タスクがないか確認します。 ○ 提案を編集します。削除 1、2、追加 <テキスト>、結合 1、4 などの入力を指定します。推奨される修復タスクを更新できます。 ○ 推奨事項を破棄し、手動で修復タスクを作成します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Now Assistパネルでは、インタラクションが生成されたときにエージェントが通知を受信し、ユーザーは画面の指示に従ってタスクを完了できます。

統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assist に関するサポート情報

統合リスク管理 (IRM) 向け Now Assist アプリケーションに関連する重要な情報の簡単な概要を把握できます。

サポート対象のバージョン

IRM 向け Now Assist は、 Yokohama パッチ 3 リリース以降でサポートされています。

サポート対象のユーザーインターフェイス

IRM 向け Now Assistアプリケーションには、次の表に示すスキルとエージェントワークフローが含まれています。

IRM 向け Now Assist のサポート対象のインターフェイス

インターフェイス	スキル	ワークフロー
リスクワークスペース	• 問題の要約 • リスクアセスメントの要約 • 類似するコントロール目標の推奨事項 • 合理化	GRC 問題解決エージェントワークフローの最適化
コア UI	問題の要約	
コンプライアンスワークスペース	• 問題の要約 • 規制アラートの要約 • 規制アラートの影響を受ける引用 • 規制アラートがコントロール目標に影響する • 規制アラートの影響を受けるコントロール	

セキュリティの強化

AI エージェントのセキュリティ強化の詳細については、「 Implement access control in Now Assist AI agents 」を参照してください。

アプリケーション情報

スキルとエージェントワークフローを使用するには、 IRM 向け Now Assist ストアアプリ (sn_irm_gen_ai) をアクティブ化します。

このストアアプリには、次の依存関係があります。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Now Assist プラットフォーム。
- GRC Common 生成 AI。
- GRC 共有生成 AI。
- GRC コンプライアンス生成 AI。
- 推奨事項テンプレート。

詳細については、「 統合リスク管理 (IRM) の Now Assist の構成」を参照してください。

GRCのドメインセパレーション

ここではドメインセパレーションと ガバナンス、リスク、コンプライアンス アプリケーションの概要を示します。 ドメインセパレーションでは、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

ドメインセパレーションは、以下の顧客にとって最適です。

- ビジネスエンティティ間で絶対的なデータ分離を適用する必要がある (データ分離)。
- 各ドメインのビジネスプロセス定義とユーザーインターフェイスをカスタマイズする (委任管理)。
- 単一のインスタンスでグローバルなプロセスとグローバルなレポートを維持します。

これらのユーザーは、ドメインスコープを展開するか折りたたんで、他のドメインからのデータを表示または非表示にすることができます。

注:
ユーザーは、ドメインの可視化によって明示的に付与されたドメインのデータに常にアクセスできます。

サポートレベル：ベーシック

- アプリケーションサービスプロバイダーのユースケースに合わせてデータが適切なドメインに送られるようにするビジネスロジックが存在します。
- このアプリケーションは、ドメインセパレーションを完全にサポートしています。ドメインセパレーションには、ユーザーインターフェイス、キャッシュキー、レポート、ロールアップ、および集計からのドメインの分離が含まれます。
- インスタンスのオーナーは、複数のテナント間で正常に機能するようにアプリケーションをセットアップする必要があります。

サンプルユースケース：サービスプロバイダーがチャットを使用してテナント顧客のメッセージに応答する場合、お客様がサービスプロバイダーの応答を確認できるようにする必要があります。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメインセパレーションのサポート) 」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC におけるドメインセパレーションの仕組み

- GRC はデータの分離をサポートしていますが、ロジックおよびプロセスの分離を完全にはサポートしていません。

- GRC アプリケーション内のタイプのレコードの多くは、ユーザープロセスによって自動的に生成されます。エンティティ、コントロール、リスク、インジケーター、およびコントロールテストはすべて、自動的に生成できるフィールドです。自動的に生成されるレコードの場合、レコードのドメインは、ジョブに構成されたドメイン反復子によって決定されます。それ以外の場合は、デフォルトドメイン (定義されている場合) またはグローバルドメインがデフォルトになります。手動で生成されたレコードの場合、ドメインはレコードを作成するユーザーのドメインから派生します。

  ドメインセパレーションされた GRC 実装で作業する場合は、自動生成を念頭に置いておく必要があります。ユーザーは、適切なドメインレベルでレコードを作成および生成して、それらが適切なユーザーセットに表示されるようにする必要があります。

  たとえば、次のようなドメインがあるとします。

  - グローバル
  - トップ
    - ドメイン A
    - ドメイン B

- ドメイン A および B のユーザーによって評価されるリスクまたはコントロールがある場合は、リスクまたはコントロールをグローバルレベルで生成するか、手動で作成する必要があります。リスクまたはコントロールがドメイン B で作成された場合、インデックス作成が原因で、ドメイン A でリスクまたはコントロールを再作成することはできません。
- トップおよびドメイン A のユーザーによって評価されるリスクまたはコントロールがある場合は、ドメイン A でリスクまたはコントロールを作成できます。

リスクとコントロールがグローバルドメイン内にない限り、ユーザーは上位のドメイン内にあるリスクまたはコントロールケースを、下位のドメインのユーザーにアサインできません。上記の例では、トップドメインにコントロールがある場合、証明書のために、そのコントロールをドメイン A または B のユーザーにアサインしないでください。これらのユーザーはコントロールにアクセスできないため、証明書またはアセスメントのアンケートは生成されません。

同様に、ユーザーは、上位ドメインのコントロール目標とリスクステートメントを下位ドメインの証明書とアセスメントにアサインしないでください。アサインすると、証明書またはアセスメントアンケートが生成されません。

ユースケース

IT 用の GRC データを他の部門の GRC データから分離できます。GRC アプリケーションを使用している各ビジネスエリアは、他の部門と共有できない分離データを保有できます。そのため、各部門には独自のエンティティ、ポリシー、コントロール、リスクなどがあります。

IT ドメインからのコントロールを調べる場合、ユーザーはドメインスコープを展開してファイナンスドメインの値を表示するか、ドメインスコープを折りたたんで IT ドメインに一致するコントロールのみを表示するかを選択できます。

デフォルトでは、ドメインセパレーションは、タスク [task] および構成アイテム [cmdb_ci] テーブルとその拡張に、ドメインフィールドを追加します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

sys_domain フィールドをテーブルの辞書定義に追加することで、作成する任意の新しいテーブルにドメインセパレーションを拡張することができます。デフォルトでは、システム専用ドメインは、適切な場合に、プラットフォームとベースラインアプリケーションテーブルを分離します。

警告:
ServiceNow では、予期しない結果が生じる可能性があるため、ドメインセパレーションプラットフォームテーブル (辞書エントリ [sys_dictionary] や辞書エントリの上書き [sys_dictionary_override] テーブルなど、sys_prefix を持つテーブル) は推奨されません。

このユースケースでは、クライアントスクリプト、ビジネスルール、ワークフロー、プロセスなどをドメインセパレーションできます。

ドメインセパレーションでの動作がマルチテナントのサポートを提供している間は、マルチテナントはまだ単一のインスタンス内に含まれています。つまり、一部のグローバルプロパティ、グローバルデータ、およびグローバルプロセスは、すべてのドメインで共有されます。たとえば、ログインページのシステムの [記憶する] オプションはグローバルであり、ドメインごとに指定できません。

すべてのシステムのプロパティを完全に分離する必要があり、グローバルレポートまたはグローバルプロセスを必要としない場合、インスタンスの分離が最適なオプションです。

ドメイン値を GRC オブジェクトに割り当てる方法

自動的に生成されるレコード。レコードのドメインは、ジョブに構成されたドメイン反復子によって決定されます。次の表は、ドメイン値がさまざまな GRC オブジェクトにどのように割り当てられるかを示しています。

GRC オブジェクト	ドメインソース
エンティティ	Applies_to からドメイン値を取得します。
エンティティからエンティティタイプ (Entity to entity type)	エンティティタイプからドメイン値を取得します。
アイテムアセスメント	アイテム (リスクまたはコントロール) からドメイン値を取得します。
イシュー	アイテム (リスクまたはコントロール) からドメイン値を取得します。
エンティティから情報オブジェクト	エンティティからドメイン値を取得します。
インジケーター	コントロールまたはリスクからドメイン値を取得します。
インジケータータスク	インジケーターからドメイン値を取得します。
サポートデータ	インジケーターからドメイン値を取得します。
インジケーターの結果	インジケーターからドメイン値を取得します。

注:
ドメインソースがグローバルまたは nil の場合、そのオブジェクトのドメインは [デフォルト] に設定されます。

関連情報

サービスプロバイダーのドメインセパレーション

ドメインを作成する

[domain] テーブルにレコードを作成することで、ドメインを作成できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
新しいドメインを作成するときは、次の点に注意してください。

- 1 つのドメインのみをデフォルトドメインにすることができます。
- 1 つのドメインのみをプライマリドメインにすることができます。

手順

1. 移動先 すべて > ドメイン管理 > ドメイン.
2. [**New**] をクリックします。
3. 必要なフィールドに入力します (表を参照)。
4. [送信] をクリックします。

ドメインフォームのフィールド

フィールド	説明
名前	ドメインの一意の名前を入力します。
タイプ	ドメインを説明するドメインタイプを選択します。デフォルトでは、ドメインタイプはベンダー、顧客、および *MSP* です。独自の選択肢を追加することもできます。
プライマリ	このドメインを階層のトップレベルドメインにする場合は、このチェックボックスをオンにします。トップレベルドメインには子ドメインのみがあり、親ドメインはありません。
デフォルト	このドメインを階層のデフォルトドメインにする場合に選択します。
親	このドメインを含む階層の上位のドメインの名前を選択します。このフィールドには、ドメインマップに表示されるドメインの値が必要です。
有効	このチェックボックスをオンにしてドメインを使用できるようにします。このドメインをドメインマップに表示するには、このオプションを選択する必要があります。
説明	ドメインの説明を入力します。

各ドメインレコードには、次の複数の関連レコードを含めることもできます。

- 会社
- 包含ドメイン
- 次のものに含まれる：

次のタスク
ドメイン階層を変更するには、包含ドメイン関連リストに移動し、包含関係の子 (含まれている) ドメインであるドメインレコードを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

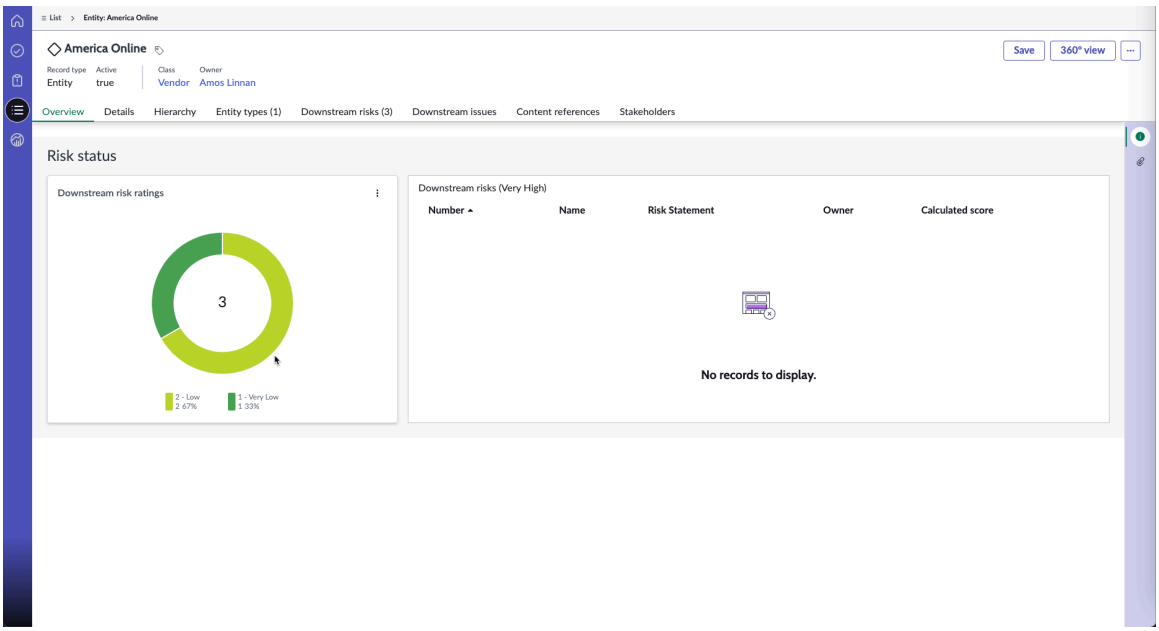
ブレッドクラムナビゲーション

ServiceNow® Yokohamaリリースでは、ワークスペースを含むすべてのGRCモジュールのブレッドクラムナビゲーションがサポートされています。ブレッドクラムは、関連するコンテンツを含むリンクされたページの階層を移動するための、ブラウザーパスを提供します。

ブレッドクラムはコンテキストと一貫性を提供し、ユーザーはすぐに使い慣れることができます。ブレッドクラムスタイルのナビゲーションでは、ユーザーが現在のコンテンツにカーソルを合わせたときにデジタル記録が表示され、各リンクに移動することができます。

ブラウザーパスを提供するブレッドクラムスタイルナビゲーションを使用して、関連するコンテンツを含むリンクされたページの階層を移動できます。ブレッドクラムは簡易形式のフィルターナビゲーションです。左から右に並べられます。左側の条件が最も一般的で、右側の条件が最も具体的です。たとえば、ワークスペースビューでエンティティのナビゲーションパスを確認できます。

エンティティのブレッドクラムナビゲーション



ナビゲーションパス リスト > エンティティ:America **Online** この例では、リストビューの [エンティティ] メニューから [America Online] ページに移動できることを示しています。パス内の任意のリンクを選択すると、選択した画面に戻ります。

GRC のタクソノミー管理

分類 (タクソノミー) は、構造化されていないコンテンツの要素を整理、分類、およびラベル付けするために使用されます。コンテンツは、コンテンツのコンテキストに関する追加情報を提供する詳細な要素に整理されます。

新しい GRC：タクソノミー管理 アプリケーションを使用して、 分類モジュールを使用して GRC モジュール全体のコンテンツ分類のカテゴリを管理します。さらに、GRC：タクソノミー管理 アプリケーションを使用して分類を保存することもできます。GRC：タクソノミー管理 アプリケーションは、GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションとともに自動的にインストールされます。

さまざまなセグメントや製品間でコンテンツを効率的に適応させて再利用するために役立ちます。GRC：タクソノミー管理 アプリケーションは分類を保存し、すべての GRC モジュールの UI コンポーネントを介して分類をマッピングする方法を提供します。

新しい GRC：タクソノミー管理 アプリケーションには次のメリットがあります。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

- 規制との整合性が向上します。
- GRC モジュール内で規制コンテンツを簡単に分類できます。
- 内部分類を設定するか、外部プロバイダーから分類をマッピングして、各種法令・基準等および各種法令・基準内項目のさまざまなタイプのライブラリーオブジェクトを分類します。
- 次のすぐに利用可能な (OOTB) 分類要素が提供されます。
  - コンテンツタイプ
  - 管轄
  - 規制機関
  - セクター
  - テーマ
- すぐに利用可能な (OOTB) 分類カテゴリに加えて、新しい分類クラスレコードを使用して新しい分類カテゴリを柔軟に追加できます。
- 規制コンプライアンスの簡素化、規制要件の追跡、外部規制の更新に役立ちます。

注:
以前に 規制変更管理 アプリケーションをダウンロードし、Yokohama GA リリースにアップグレードする場合は、古い分類テーブルから新しい分類テーブルにデータをコピーしてください。

ランディングページ構成モジュール

GRC アドミニストレーターは、クラシックユーザーインターフェイスの GRC ランディングページ構成モジュールを使用して、ワークスペースの「タスクおよび問題の概要」ランディングページを構成できるようになりました。ランディングページ構成モジュールのタスク、問題、およびその他のアイテムを構成するために必要なロールは、sn_grc_workspace.task_admin ロールです。GRC アドミニストレーターには、デフォルトで sn_grc_workspace.task_admin ロールがアサインされます。

ランディングページ構成モジュール

GRC ランディングページ構成モジュールには、次のモジュールが表示されます。

- タスクページ構成
- 問題ページの構成

タスクページ構成モジュール

クラシックユーザーインターフェイスのタスクページ構成モジュールには、ワークスペースのランディングページの [タスク] セクションに関連する構成が表示されます。タスクページ構成モジュールの構成は、ユーザーがさまざまなワークスペースでデータを表示するために役立ちます。

sn_grc_workspace.task_admin ロールを持つユーザーのみが、クラシックユーザーインターフェイスのタスクページ構成モジュールを使用して、ワークスペースのタスクランディングページを構成できます。アドミニストレーターには、デフォルトで sn_grc_workspace.task_admin ロールがアサインされています。

GRC アドミニストレーターは、このモジュールのワークスペース、タブ、およびフィルター構成を含むタスクページの構成を実行します。ユーザーは、テーブルレベルまたはステータスレベルで適用されるすべてのフィルター条件に基づいて、ワークスペースのタスクランディングページでデータを表示できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークスペースのホームページビューで、 [自分のタスク] や [自分のグループの作業] などのタスクについて表示されるウィジェットは、UI ビルダーを使用して構成されます。ホームページビューでこれらのウィジェットをクリックすると、ワークスペースのタスクページに移動します。

監査ワークスペース、Compliance ワークスペース、プライバシーワークスペース、およびリスクワークスペースには、次のタブがデフォルトで事前構成されています。

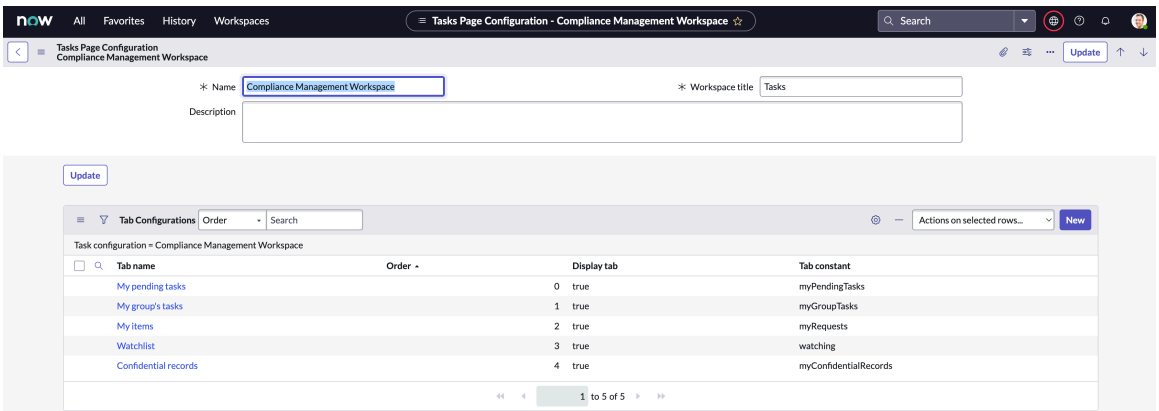
- 自分の処理待ちのタスク
- 自分のグループのタスク
- 自分のアイテム
- ウォッチリスト

GRC：共通ワークスペース要素 アプリケーションバージョン 14.x 以降、sn_grc_workspace.task_admin ロールを持つアドミニストレーターは、タスク設定レコードのタブを追加または削除できます。また、タブの優先順位付けや順序付けを行うこともできます。タスクページ構成モジュールのタスク設定レコードにタブが作成されると、ワークスペース UI に表示されます。

タスクアドミニストレーターは、UI のタブの順序を変更できます。2 つのタブに同じ順序が設定されている場合、タブはアルファベット順に表示されます。

次の画像は、更新されたタスク設定レコードを示しています。

タスク設定レコード



GRC アドミニストレーターは、ランディングページに表示されるタスク設定レコードの名前を設定できます。アドミニストレーターは次の操作を実行できます。

- クラシックユーザーインターフェイスでレコードの名前と説明を更新する。クラシックユーザーインターフェイスでこのデータを表示できるのはアドミンのみです。エンドユーザーは、このデータをワークスペースビューで表示できません。
- ワークスペースのタスクランディングページに表示されるワークスペースのタイトルを更新する。エンドユーザーは、このデータをワークスペースビューで表示できます。
- 該当するテーブルのタイトル、フィルター条件、列名を更新する。
- タブのフィルター条件を更新する。
- 該当するテーブルのグループ選択に基づいてレコードをフィルターする。
- テーブルのステータスラベルを追加、更新、削除、または上書きする。
- グループタブや通常のタブなど、タブのタイプを更新する。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクページ設定レコードを更新する

クラシックユーザーインターフェイスでタスクページ設定レコードを更新して、さまざまなワークスペースにタスク構成を表示します。タスクページ設定レコードには、エンドユーザーが各ワークスペースの [自分のタスク] ランディングページで表示できる構成が表示されます。

始める前に

必要なロール：sn_grc.admin、sn_grc_workspace.task_admin

このタスクについて

GRC アドミニストレーターは、ワークスペースユーザーがワークスペースで表示できるタスクを設定できます。次のタブを使用してタスクを設定します。これらのタブはデフォルトで各ワークスペースに提供されます。

- 自分の処理待ちのタスク
- 自分のグループのタスク
- 自分のアイテム
- ウォッチリスト

ワークスペースの選択に応じて、次の構成可能なタブがワークスペースに表示されます。GRC アドミニストレーターは、ランディングページ構成モジュールを使用してこれらのタブを変更できます。

ステータスフィルターまたは第 2 レベルフィルターは、 [自分の処理待ちのタスク]、 [自分のグループのタスク]、 [自分のアイテム]、および [ウォッチリスト] タブで使用できます。

手順

1. 移動先 すべて > **GRC** ランディングページ構成 > タスクページ構成.
   タスクページ設定レコードには、次の各ワークスペースの設定レコードが表示されます。
   - 監査ワークスペース
   - コンプライアンスワークスペース：[ポリシーとコンプライアンス] モジュールの下に表示されます。
   - Operational Resilience ワークスペース
   - プライバシーワークスペース
   - 規制変更管理ワークスペース：[Policy and Compliance] モジュールの下に表示されます。
   - リスクワークスペース
   - リスクポータル
   - Vendor Management Workspace
2. 作業しているワークスペースの設定レコードをクリックします。
3. 必要に応じて、フォームのフィールドを更新します。

   選択したワークスペースのタスクページ設定レコードには、次のフィールドが表示されます。

   タスクページ設定レコード

フィールド	説明
名前	タスクページ設定レコードに表示されるタスク構成の名前。
説明	更新できるタスク構成の説明。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ワークスペースのタイトル	ワークスペースに表示される [自分のタスク] ページのタイトル。

[タブ構成] 関連リストには、タスク設定レコードの次のタブが表示されます。

- 自分の処理待ちのタスク
- 自分のグループのタスク
- 自分のアイテム
- ウォッチリスト
- 機密レコード

タスク設定レコードのすべてのタブには、次の設定レコードが表示されます。

タスク設定レコードのフィールド

フィールド	説明
タブ名	ワークスペースに表示されるタブの名前。
順序	ワークスペース内のタブの順序。
タブを表示	UI にタブを表示するオプション。このオプションを有効にすると、タブが UI に表示されます。同様に、このオプションを無効にすると、タブは UI に表示されません。
グループ選択を有効にする	フィルター内のグループを選択するオプション。このオプションを有効にすると、アドミニストレーターは該当するテーブルのグループ選択に基づいてレコードをフィルターできます。

各タブの関連リスト内には次の情報が表示されます。

タスク設定レコードの各タブの関連リスト

フィールド	説明
アプリケーションテーブル	ワークスペースに表示され、 リリースに付属するテーブルのリスト。これらのテーブルは、ユーザーが一致条件に基づいて操作できるレコードです。 新しい適用可能なテーブルを作成するか、リストから既存の適用可能なテーブルをクリックして、その設定レコードを更新できます。 ○ テーブル設定レコードには、選択した適用可能なテーブルに関連するフィールドが表示されます。 ○ [マップス状況] 関連リストには、選択した適用可能なテーブルに適用可能な状況が表示されます。ワークスペースのタブに正しく表示されるように、ステータスを選択し、そのフィルター条件を更新できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
適用可能な状況	タブに適用可能な状況のリスト。これらの状況は、 [上書きされたラベル] 列とともにワークスペースに表示されます。[上書きされたラベル] 列に更新されたステータス名を追加することで、ステータスの名前を設定および更新できます。

4. 必要に応じて、 [適用可能なテーブル] 関連リストで、次の操作を行って既存のテーブルを更新します。

   a. テーブルをクリックしてその設定レコードを開きます。

   b. [タスクタイトル]、[テーブル]、[タブレベルフィルター]、および [表示される列] フィールドを設定し、[更新] をクリックします。
   選択したテーブルの更新されたフィールドが、ワークスペースでエンドユーザーに表示されます。

   c. [上書きされたラベル] 列に更新されたステータス名を追加してステータスの名前を設定します。

5. [自分の処理待ちのタスク] タブをクリックし、必要に応じて構成フィールドを更新します。

   [自分の処理待ちのタスク] タブの構成には、使用可能な構成とタブ内で構成されたタスクのリストが表示されます。

6. [自分のグループのタスク] タブをクリックし、必要に応じて構成フィールドを更新します。

   [自分のグループのタスク] タブ構成には、自分のグループにアサインされたタスクのリストが表示されます。

   注:
   [自分のグループのタスク] タブとその関連付けられたフィールドのタブ名は、[自分の処理待ちのタスク] タブと同様に設定できます。

7. [自分のアイテム] タブをクリックし、必要に応じてフィールドを更新します。

   [自分のアイテム] タブ構成には、自分が作成したアイテムまたは自分が開いたアイテムのリストが表示されます。

   注:
   [自分のアイテム] タブとその関連付けられたフィールドのタブ名は、[自分の処理待ちのタスク] タブと同様に設定できます。

8. [ウォッチリスト] をクリックし、必要に応じてフィールドを更新します。

   [自分のウォッチリスト] タブ構成には、自分が含まれるウォッチリストのタスクのリストが表示されます。

   注:
   [自分のウォッチリスト] タブとその関連付けられたフィールドのタブ名は、[自分の処理待ちのタスク] タブと同様に設定できます。

9. [機密レコード] をクリックし、必要に応じて構成フィールドを更新します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[機密レコード] タブ構成には、選択したテーブルの機密レコードが表示されます。

10. [タブ構成] 関連リストで [新規] をクリックして、タスク設定レコードに新しいタブを追加します。
    a. フォームのフィールドに入力します。
    b. [送信] をクリックします。
    選択したグループの情報を含む新しいタブが UI に表示されます。
11. [更新] をクリックしてタスク設定レコードを更新します。

問題ページの構成モジュール

問題ページの構成モジュールには、さまざまなワークスペースの問題の概要ランディングページに関連する構成が表示されます。問題の概要ランディングページに表示されるデータは、クラシックユーザーインターフェイスの問題ページの構成モジュールを使用して設定されます。問題の概要ランディングページには、問題、問題のトリアージ、問題の追跡ステータス、および監査観察事項のページが含まれています。

問題の概要ランディングページは、次のワークスペースで利用できます。

- 監査ワークスペース
- Compliance ワークスペース
- プライバシーワークスペース
- リスクワークスペース

GRC アドミニストレーターは、問題ページの構成モジュールを使用して状況、フィルター条件、およびテーブルをマッピングすることで、アクティブなワークスペースの問題を設定、監視、およびレポートできます。

問題ページの構成モジュールで実行された構成に基づいて、ワークスペースユーザーは、ワークスペースの問題の概要ランディングページで自分にアサインされたデータを表示できます。

アドミニストレーターは、問題ページの構成モジュールを使用して次のタスクを実行できます。

- ワークスペースの問題の概要ページに表示されるクラシックユーザーインターフェイスで、新しい問題ページ設定レコードを作成する。
- 選択したテーブルのテーブル、追跡、問題のトリアージ、および観察事項に関連する問題を構成し、ポリシー例外や証拠などを追跡する。

各ワークスペースのホームページには、次の情報を提供する [問題] セクションが表示されます。

- [自分の問題] セクションには、 [問題] および [トリアージ問題] セクションが番号形式で表示されます。[問題] サブセクションには、[アサイン先]、[管理]、[修復がアサインされました]、[レビューするには]、[期限切れ] などの詳細が表示されます。[トリアージ問題] サブセクションには、[アサイン先] や [レビューするには] などの詳細が表示されます。
- [自分のグループの問題] セクションには、 [問題] および [トリアージ問題] セクションが番号形式で表示されます。[問題] サブセクションには、[アサイン先]、[管理]、[未アサインのマネージャー]、[レビューするには]、[期限切れ] などの詳細が表示されます。[トリアージ問題] サブセクションには、[アサイン先]、[未アサインの所有者]、[レビューするには]、[未アサインのレビュー担当者] などの詳細が表示されます。
- [監視対象] セクションには、[トリアージ問題] や [修復タスク] などの詳細が番号形式で表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい問題ページの設定レコードを作成する

クラシックユーザーインターフェイスの問題ページの構成モジュールで、新しい問題ページの設定レコードを作成します。問題ページの構成モジュールには、ワークスペースのランディングページの [問題] セクションに関連する構成が表示されます。新しく作成された問題は、選択したワークスペースの問題の概要ランディングページに表示されます。

始める前に

必要なロール：sn_grc.admin

手順

1. 移動先 ランディングページ構成 > 問題ページの構成.
2. [**New**] をクリックします。
   問題ページの設定レコードが表示されます。
3. フォームのフィールドに入力します。

問題ページの構成フォーム

フィールド	説明
名前	ワークスペースの設定可能な名前。これはワークスペースに表示されるタブの名前です。
[問題] タブ	
テーブル	ワークスペースに表示される問題の構成に使用されるテーブルの名前。[フィルター] フィールドには、一致するレコードを設定して表示できるフィルター条件が表示されます。
[追跡] タブ	
ポリシー例外	Compliance ワークスペースの [追跡] セクションにポリシー例外を表示するオプション。 **注:** リスクワークスペースでは、ポリシー例外はデフォルトでは表示されません。
証拠要求	Compliance ワークスペースの [追跡] セクションに証拠要求を表示するオプション。このオプションは、Advanced Core プラグインがインスタンスにインストールされている場合にのみ使用できます。
[問題のトリアージ] タブ	
このタブは、Advanced Core プラグインがインスタンスにインストールされている場合にのみ使用できます。	
問題のトリアージを表示	ワークスペースで問題のトリアージを表示または非表示にするオプション。 **注:** 監査ワークスペースの場合、このオプションはデフォルトで非アクティブです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
テーブル	問題のトリアージを設定するために使用されるテーブルの名前。
フィルター	一致するレコードを設定して表示できるフィルター条件。
[観察事項] タブ	
このタブは、Advanced Audit プラグインがインスタンスにインストールされている場合にのみ使用できます。	
観察事項を表示	ワークスペースで監査観察事項を表示または非表示にするオプション。 **注:** 監査ワークスペースの場合、このオプションはデフォルトで選択されています。
テーブル	観察事項に使用されるテーブルの名前。
フィールド	一致するレコードを設定して表示できるフィルター条件。

4. [送信] をクリックします。

タスクの結果
新しい問題ページの設定レコードが作成されます。

新しい問題ページの設定レコードをワークスペースにリンクする

新しい問題ページの設定レコードを作成し、クラシックユーザーインターフェイスから目的のワークスペースにリンクします。問題ページの設定レコードをリンクした後、ワークスペースビューには問題の概要ランディングページの新しい設定が表示されます。

始める前に
新しい構成を目的のワークスペースにリンクするには、ワークスペースの *issuePageConfigId* プロパティを更新する必要があります。

必要なロール：sn_grc.admin

このタスクについて
新しい問題構成が作成されて問題ページの設定レコードに保存された場合、目的のワークスペースにリンクした後にのみ、ワークスペースに表示されます。

手順

1. 問題ページの設定レコードで、新しい問題構成を作成します。
   手順については、「新しい問題ページの設定レコードを作成する」を参照してください。
2. 新しい構成の sys_id をコピーし、メモしておきます。
   後で sys_id を使用して問題ページ設定レコードを更新します。
3. クラシックユーザーインターフェイスの [エクスペリエンス] リストに移動します。
4. [UX アプリケーション] リストから、変更を統合するワークスペースを選択します。
5. 選択したワークスペースで、*issuePageConfigId* プロパティを選択します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

6. issuePageConfigId プロパティページで、[値] フィールドを新しい構成の sys_id に設定し、[保存] をクリックします。

   注:
   ワークスペースでは複数の設定レコードを構成できます。ただし、*issuePageConfigId* プロパティで sys_id が構成されている設定レコードのみがワークスペースに表示されます。

タスクの結果
新しい問題ページの構成設定が目的のワークスペースビューに表示されます。

問題ページの設定レコードを更新する

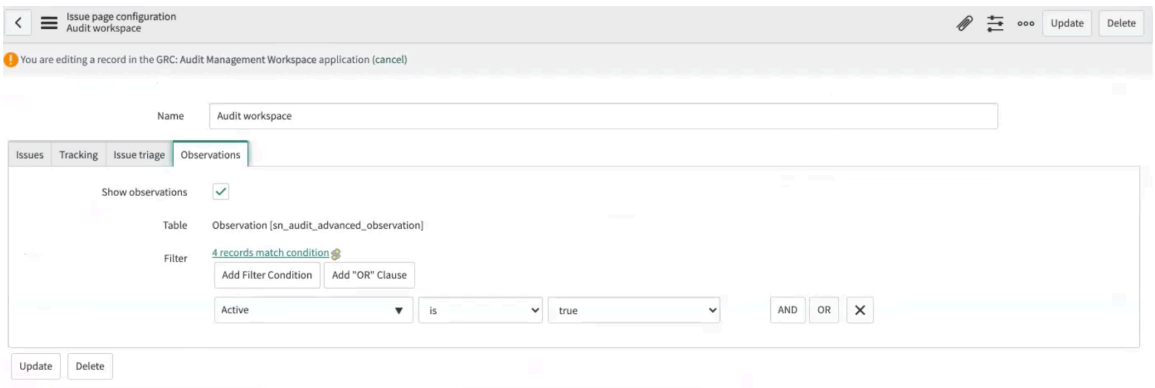
ワークスペースの問題の概要ランディングページに表示される、問題ページの構成を更新するために、クラシックユーザーインターフェイスの既存の問題ページの設定レコードを更新します。問題ページの設定レコードの構成を変更すると、問題、問題のトリアージ、および問題の追跡ステータスが目的のワークスペースのユーザーに表示されます。

始める前に
必要なロール：sn_grc.admin

手順

1. 移動先 ランディングページ構成 > 問題ページの構成.
   利用可能なワークスペースの名前は、問題ページの設定レコードに一覧表示されます。
2. 更新するワークスペース設定レコードを選択します。
   選択したワークスペースの問題ページの設定レコードには、タブのリストが表示されます。各タブに表示されている選択したテーブルのフィルター条件を確認し、必要に応じてフィールドを更新できます。
   - 名前：ワークスペースに表示されるタブの名前。
   - 問題：ワークスペースに問題ウィジェットを表示するために実行する構成。
   - 問題のトリアージ：ワークスペースに問題のトリアージウィジェットを表示するために実行する構成。
   - 追跡：ワークスペースにポリシー例外と証拠要求を表示するために実行する構成。
   - 観察事項：ワークスペースに監査観察事項を表示するために実行する構成。

問題ページの構成のタブ



3. [問題] タブでは、選択したテーブルのフィルター条件を確認し、必要に応じてフィールドを更新します。
4. [問題のトリアージ] タブでは、選択したテーブルのフィルター条件を確認します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. [追跡] タブで、[ポリシー例外] および [証拠] オプションを選択します。
6. [観察事項] タブで、[監査ワークスペースに観察事項を表示 **(Show observations in the Audit workspace)]** オプションを選択し、フィルター条件を更新します。
   ページには、観察事項 (sn_audit_advanced_observation) のテーブルの名前と、**[Active is True]** などの選択されたフィルター条件が表示されます。

   注:
   観察事項ウィジェットは、監査ワークスペースにのみ表示されます。

7. 問題ページの設定レコードを更新するには、[更新] をクリックします。

ワークスペースの自分のタスク

GRC アドミニストレーターは、 GRC ランディングページ構成モジュールで個々のユーザーとユーザーグループのタスクを構成できます。これらの構成に基づき、ワークスペースのユーザーは、ワークスペースビューの [タスク] ページで、個々のユーザータスク、ユーザーグループタスク、自分のアイテム、およびウォッチリストを表示できます。

ワークスペースの設定と表示に必要なロールを以下に示します。

ワークスペースで [タスクページ構成] を構成し、[タスク] ページを表示するために必要なロール

ロール	ワークスペースのロールに関連付けられたアクション
sn_grc.admin、sn_grc_workspace.task_admin	すべてのワークスペースでタスクページ構成レコードを構成します。
sn_grc.business_user	リスクポータルワークスペースの [タスク] ページを表示します。
sn_audit_ws.supervisor、sn_audit_ws.auditor	監査ワークスペースの [タスク] ページを表示します。
sn_compliance.admin	コンプライアンスワークスペースの [タスク] ページを構成して表示します。
sn_oper_res.admin	Operational Resilience ワークスペースの [タスク] ページを構成して表示します。
sn_privacy.admin	プライバシーワークスペースの [タスク] ページを構成して表示します。
sn_grc_reg_change.it_admin	コンプライアンスワークスペースの [タスク] ページを表示します。
sn_risk_workspace.IT_risk_manager および sn_risk_workspace.operational_risk_manager	リスクワークスペースの [タスク] ページを表示します。
sn_vdr_risk_asmt.vendor_risk_manager	Vendor Management Workspace の [タスク] ページを表示します。

アドミニストレーターによって設定されたタスクに基づいて、ワークスペースの構成レコードの次のタブにタスクが表示されます。

- 自分の処理待ちのタスク
- 自分のグループのタスク
- 自分のアイテム

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ウォッチリスト
- 機密レコード

次のワークスペースで [タスク] ページを表示できます。

- 監査ワークスペース
- Operational Resilience ワークスペース
- ポリシーとコンプライアンスワークスペース：ポリシーとコンプライアンスモジュールの下に表示されます。
- プライバシーワークスペース
- ポリシーとコンプライアンスワークスペースの規制変更管理 ワークスペース
- リスクワークスペース
- リスクポータル
- Vendor Management Workspace

> **注:**
> 自分のアイテムとウォッチリストは Vendor Management Workspace には表示されません。

ワークスペースの [タスク] ページで自分のタスクを監視する

ワークスペースでアサインされたユーザーに関連するタスクを設定および監視します。ランディングページ構成モジュールを使用して、ワークスペースに表示されるランディングページとウィジェットを構成します。ランディングページの構成モジュールを使用して実行する構成は、さまざまなワークスペースに表示されるデータをフィルターするために役立ちます。

始める前に

必要なロール：
sn_grc.admin、sn_grc_workspace.task_admin、sn_grc_workspace.task_reader

このタスクについて

個々のワークスペースに移動して、個々のユーザーおよびユーザーグループのタスク、アイテム、およびウォッチリストを表示します。

手順

1. 次の方法のいずれかで適切なワークスペースに移動します。
   - すべて > 監査 > 監査ワークスペース.
   - すべて > オペレーショナルレジリエンス > オペレーショナルレジリエンスワークスペース.
   - すべて > ポリシーとコンプライアンス > **Compliance** ワークスペース.
   - すべて > プライバシー > プライバシーワークスペース.
   - すべて > 規制変更管理 > **Compliance** ワークスペース.
   - すべて > リスク > リスクワークスペース.
   - すべて > リスク > リスクポータル.
   - すべて > ベンダー管理 > ワークスペース.
2. [タスク] ページに移動するには、タスクアイコン ( ) をクリックします。
3. 表示するタブに移動し、タスクを監視します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[タスク] ページには、ワークスペースの構成に基づいて次のタブが表示されます。

- 自分の処理待ちのタスク：自分にアサインされた処理待ちのタスクを監視します。タスクページ構成モジュールの [自分の処理待ちのタスク] タブの下にある [適用可能なテーブル] タブに、タスクに適用可能なテーブルのリストが表示されます。データがユーザーに関連し、定義された条件に一致する場合、ワークスペース UI の [自分の処理待ちタスク] タブにデータが入力されます。

  関連するデータがない場合、またはアサインされたタスクがない場合は、[自分の処理待ちのタスク] タブにデータは表示されません。自分にアサインされたオープンで有効なタスクのみが [自分の処理待ちのタスク] タブに表示されます。

- [自分のグループタスク]：自分が属するユーザーグループにアサインされたタスクを監視します。[自分のグループタスク] ページには、自分が属するユーザーグループにアサインされた処理待ちのタスクが表示されます。ユーザーグループに処理待ちのタスクがない場合は、 [すべてのタスクが完了しました] というメッセージが表示されます。タスクをフィルターするグループをリストから選択します。
- [自分のアイテム] ：自分にアサインされたタスクと、自分が報告した問題を監視します。[自分のアイテム] タブには、自分が作成した、または自分が開いたアイテムのリストが表示されます。
- ウォッチリスト：自分が含まれるウォッチリストのタスクを監視します。[自分のウォッチリスト] タブ構成には、自分が含まれるウォッチリストのタスクのリストが表示されます。
- 機密レコード：機密レコードを機密としてマークし、適切なユーザーがこれらのレコードにアクセスするように確保します。[機密レコード] タブ構成には、選択したテーブルの機密レコードが表示されます。

> **注:**
> ユーザーまたはユーザーグループに処理待ちのタスクまたは関連付けられたタスクがない場合は、それぞれのタブに [すべてのタスクが完了しました] というメッセージが表示されます。

エンティティを探索する

エンティティは、ガバナンス、リスク、コンプライアンス を使用するための最も基本的で重要な要素の 1 つです。エンティティには、リスクに関して調査する人、プロセス、部門、アプリケーションまたはオブジェクトを指定できます。

組織のリスクとコンプライアンスの領域を効果的に維持するには、エンティティタイプ、エンティティクラス、およびエンティティ階層を定義する必要があります。リスク領域は、組織が直面する、または将来直面する可能性のあるリスクのリストです。リストには、各リスクの重要度と頻度の説明が含まれています。

エンティティは、GRC のすべてのオファリング (GRC：ポリシーとコンプライアンス管理、監査管理、GRC: プライバシー管理、GRC：規制変更管理 など) 内で使用されます。

GRC のエンティティ

ガバナンス、リスク、コンプライアンス では、エンティティは、エクスポージャーを管理する必要がある、人、プロセス、部門、アプリケーションまたはオブジェクトである可能性があります。これらのエンティティには、ステータスを表示するためのコントロールが定義されています。

エンティティを理解するために、次の例を考えてみましょう。新規 GRC ユーザーで、すべての重要な財務システムに変更管理プロセスを実装するとします。すべてのシステムは個別のエンティティと見なすことができます。すべてのシステムを Financial というエンティティクラスにマッピングします。重要と識別されたシステムを決定するために、重要な財務システムのエンティティタイプフィルターを設定します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

エンティティを作成する主なメリットは、各エンティティに所有者が存在するため、説明責任を維持できることです。このメリットを理解するために、すべてのサーバーを新しい方法で構成するとします。構成が完了した後、監査を実行したところ、1 つのサーバーのみが新しい構成に準拠していないことがわかりました。すべてのエンティティを定義していない場合、監査結果全体が不合格と見なされます。ただし、エンティティが定義されているため、すべてのサーバーではなく、非準拠のサーバーエンティティとその識別された所有者のみが説明責任を負います。

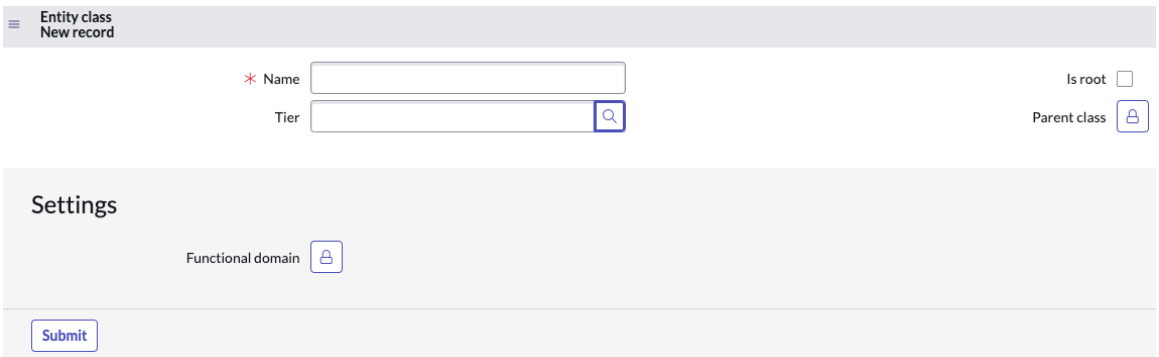
エンティティを定義すると、エンティティオーナーを特定し、それらのエンティティに適切なコントロールを適用できます。また、非準拠エンティティの追跡にも役立ちます。子エンティティを持つエンティティは、ダウンストリームエンティティを持つと言うことができます。親エンティティを持つエンティティは、アップストリームエンティティを持つと言うことができます。

エンティティを作成した後、個別にエンティティクラスを定義するか、既存のエンティティクラスにリンクさせることによって、類似のエンティティにタグを付けることができます。

エンティティクラス

エンティティクラスは、エンティティに関する概念情報を追加したりエンティティにタグを付けたりするために使用されます。エンティティクラスの概念を理解するために、例を考えてみましょう。ある会社が 3 つの都市に支店を持っているとします。オフィススペースはエンティティと見なされ、これらのエンティティのエンティティクラスはロケーションになります。エンティティクラスを作成するには、次の例に示すようにエンティティ層に関連付けます。

エンティティクラスのサンプル構成



エンティティクラスルール

エンティティクラスルールは、テーブルレベルでエンティティにクラスをアサインするために役立ちます。テーブルに作成された新しいエンティティは、そのエンティティクラスを自動的に取得します。エンティティクラスは、エンティティにタグ付けするために使用されます。

特定のテーブルでエンティティを作成する場合は、そのテーブルに関連付けられているクラスは自動的にそのエンティティにアサインされます。テーブルの新しいエンティティクラスルールを設定できます。

エンティティタイプ

エンティティタイプは、フィルタリングに基づいてエンティティをグループ化したものです。エンティティタイプを使用すると、一連のフィルター条件に一致するエンティティを検索および作成できます。エンティティクラス内に階層を作成できます。

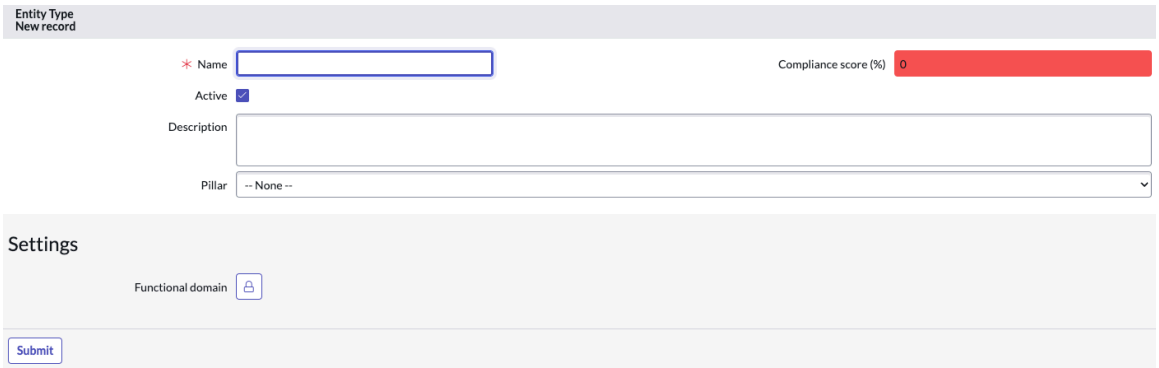
エンティティタイプを使用すると、あまり時間をかけずに各エンティティのリスクとコントロールを作成できます。たとえば、組織は、経理、HR、IT などの複数の部門を持つことができます。これらの部門はすべてエンティティと見なすことができ、部門と呼ばれるエンティティタイプの下にグループ化できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンティティタイプを作成するには、次の例に示すように、テクノロジーや施設などのコアビジネスのピラーに関連付けます。

エンティティタイプのサンプル構成



エンティティ層

エンティティ層を作成する場合、エンティティクラスにレベルまたは階層を適用します。このレベルは、そのエンティティクラスにあるすべてのエンティティに適用されます。次の例に示すように、エンティティ層では、ビジネスでの最重要項目のステータスを選択して、表示できます。

エンティティ層のリストビュー

Name	Label	Domain	Tier level
application	Application	global	20
business	Business	global	10
it_asset	IT Asset	global	30

の複合エンティティ ガバナンス、リスク、コンプライアンス

ガバナンス、リスク、コンプライアンスの複合エンティティは、異なるエンティティクラスから作成された 2 つ以上のエンティティの組み合わせです。コンポジットエンティティ管理アプリケーションを使用すると、多次元エンティティを作成し、より詳細なレベルで管理できます。

複合エンティティの概要

複合エンティティは、異なるエンティティクラスのエンティティで構成される多次元エンティティです。単一のエンティティ構造では、個々のエンティティでのみリスクとコンプライアンスを管理できるため、多面的な構造を持つ複雑な組織の可視化とコントロールが制限されます。複合エンティティ構造を使用すると、関連するエンティティクラスを設定して複合エンティティを作成することで、有効な組み合わせを定義できます。複合エンティティは既存のワークフローに統合されるため、スタンドアロンエンティティと同じ深さと柔軟性でリスクとコンプライアンスを管理できます。複合エンティティを使用すると、異なるエンティティクラスの複数のエンティティの組み合わせにわたるリスクとコンプライアンスを評価および管理できます。

たとえば、組織のリテールバンキング部門が、英国での事業内の KYC (Know Your Customer) プロセスを評価する必要があるとします。複合エンティティ「Retail Banking |KYC |UK」は、KYC、リテールバンキング部門、および英国の拠点のステークホルダーが、各分野に影響を与えるリスク、コンプライアンス、およびコントロールを評価および監視できるようにします。このアプローチにより、複数の事業部門と場所を持つ大規模な組織にとって重要な、よりきめ細かく相互接続されたリスク管理が可能になります。

注:
複合エンティティ機能を使用するには、 `sn_grc_comp_ent` プラグインをアクティブ化します。

複合エンティティのメリット

複合エンティティの主なメリットは次のとおりです。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- リスクとコンプライアンスのワークフローを複数のレベルで管理し、会社 |部門 |より明確で詳細なアセスメントコンテキストのためのビジネスプロセス。
- 影響を受けるエンティティ階層全体のリスクとコンプライアンス体制を自動的に集計し、正確なリスクスコアのロールアップを確認します。
- 複合エンティティに関連するカスタマイズ可能なロールを持つステークホルダーを追加し、チームがアセスメントプロジェクトに効果的に関与できるようにします。
- 関連するリスクとコントロールを、リスクアセスメントプロジェクトに使用できる複合エンティティにマッピングします。

関連情報

エンティティクラスの作成

複合エンティティの作成

複合エンティティの作成

コンポジットエンティティ管理 アプリケーションを使用して、異なるエンティティクラスの 2 つ以上のエンティティを組み合わせて、多次元エンティティを作成します。ガバナンス、リスク、コンプライアンス では、エンティティにはユーザー、プロセス、部門、アプリケーションまたはオブジェクトを指定できます。

始める前に

必要なロール：sn_grc.manager、sn_risk_workspace.IT_risk_manager、および sn_risk_workspace.operational_risk_manager

複合エンティティを作成するには、 コンポジットエンティティ管理 アプリケーションと リスクワークスペース をインストールする必要があります。

このタスクについて

2 つ以上の個別のエンティティを組み合わせて複合エンティティを作成すると、複合エンティティは、関連する個々のエンティティごとに自動的にダウンストリームエンティティになります。たとえば、「ドキュメントの引き渡し |メキシコ」というエンティティを使用すると、複合エンティティは「ドキュメントの引き渡し」と「メキシコ」の両方のダウンストリームエンティティとして表示されます。この構造は、関連データを整理し、エンティティ間の依存関係の追跡を簡素化するのに役立ちます。

手順

1. 移動先 すべて > リスク > リスクワークスペース.
2. リストビューに移動し、[エンティティ] を選択します。
3. **[New** (新規)] を選択します。
4. フォームで、フィールドに入力します。
   [新規エンティティを作成] フォームのフィールド値の説明については、「 新しい複合エンティティの作成フォーム」を参照してください。
5. **[Save** (保存)] を選択します。

> **注:**
> エンティティを作成すると、[詳細] タブのみが表示されます。エンティティが作成されると、[概要] タブ、[詳細] タブ、およびその他の関連リストが表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンティティを保存すると、[詳細] タブ、[階層] タブ、および次の関連リストを含むエンティティフォームが表示されます。

関連リストのフィールドについては、「ワークスペースビュー内のエンティティ」を参照してください。

関連情報

エンティティクラスの作成

新しい複合エンティティの作成フォーム

[新規エンティティを作成] フォームでは、 コンポジットエンティティ管理 アプリケーションを使用して異なるエンティティクラスの 2 つ以上のエンティティを組み合わせて複合エンティティを作成します。

フィールド値の説明については、次の表を参照してください。

新しいエンティティの作成フォーム

フィールド	説明
構造	エンティティの構造。オプションは次のとおりです。 • 単一:単一のディメンションエンティティを作成するオプション。 • 複合:多次元エンティティを作成するオプション。 **注:** 複合エンティティを作成する場合は、このオプションを選択します。
アクティブ	エンティティのステータス。
クラス	複合エンティティを作成する複合エンティティクラスを選択するオプション。複合エンティティクラスを作成する方法の詳細については、「エンティティクラスの作成」を参照してください。
所有者	複合エンティティの所有者。
適用可能なエンティティ	各エンティティクラスのエンティティを選択するオプション。[+] を選択します。エンティティを検索すると、アプリケーションによってエンティティ階層が表示され、完全なコンテンツツリーを表示することもできます。
名前	複合エンティティの名前。名前は、選択したエンティティクラスに基づいて自動的に生成され、その間にセパレータが入ります。セパレーターを変更するには、「ガバナンス、リスク、コンプライアンス のプロパティ」を参照してください。
説明	複合エンティティに関する情報。
アクティビティジャーナル	
追加コメント	複合エンティティに関する追加情報。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しいエンティティの作成フォーム (続く)

フィールド	説明
設定	
機能ドメイン	複合エンティティの機能ドメイン。

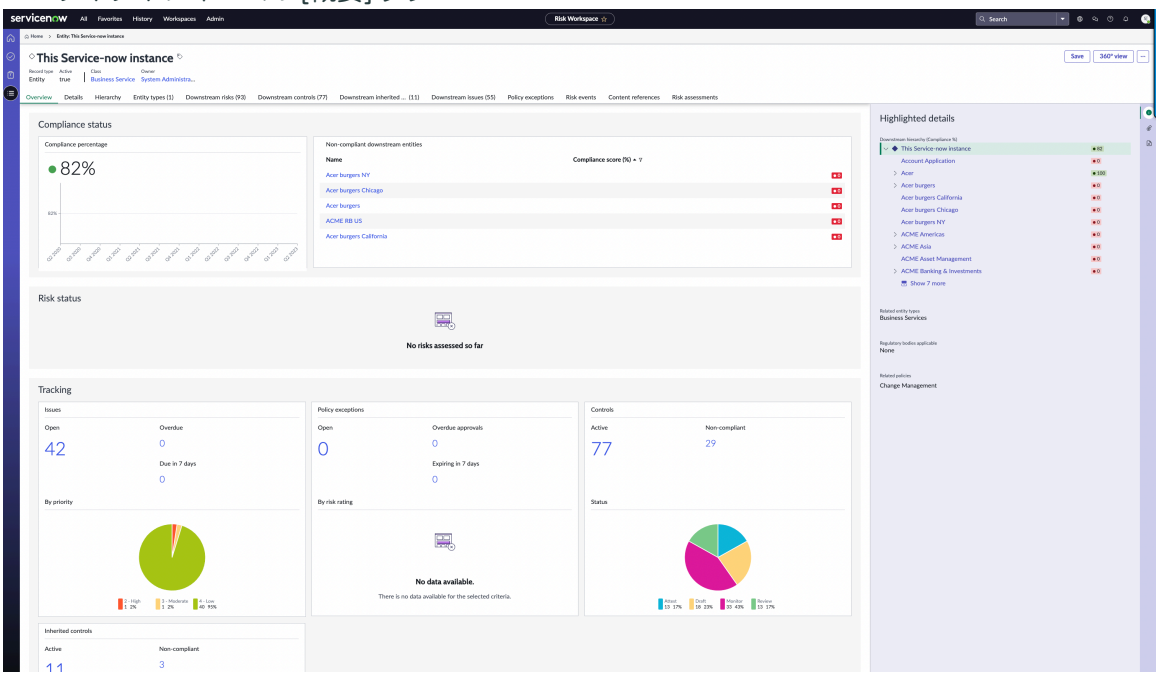
ワークスペースビュー内のエンティティ

ワークスペースのエンティティフォームは、組織全体のエンティティの完全なビューを提供します。エンティティフォームは、ワークスペースのリストビューの [ライブラリー] メニューにリストされます。リストビューでエンティティを選択すると、その概要、詳細、階層、エンティティタイプ、またはダウンストリームのリスクを表示できます。

エンティティフォームの概要の詳細

エンティティフォームには、コンプライアンスステータス、リスクステータス、追跡などのエンティティの詳細が表示されます。エンティティに関する情報は、次の例に示すように、[概要]、[詳細]、[階層] などのさまざまなタブに整理されています。

エンティティフォームの [概要] タブ



エンティティフォームの関連リストには、次の表で説明されているエンティティに関連する依存関係が表示されます。

エンティティフォームのタブとハイライト表示される詳細

タブ	説明
[詳細] タブ	[エンティティ] セクションの名前、エンティティがアクティブかどうかを示すアクティブ条件、オーナー、クラス、説明、場所情報などのエンティティに関する情報。[コンプライアンス] セクションには、 [年次] などの証明書の頻度が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンティティフォームのタブとハイライト表示される詳細 (続く)

タブ	説明
	Cybersecurity Risk Profile (CRI) には、次のフィールドが表示されます。 階層 階層 1、階層 2、階層 3、階層 4 などの層レベル。 コントロールは、階層の変更に基づいて生成されます。階層の値を変更する場合は、レコードを保存します。 階層アセスメント CRI テンプレートとして階層アセスメントテンプレートを持つ、新しいスマートコントロールアセスメントエンジンに基づくアセスメント方法。 階層査定人 階層アセスメントを実行できるユーザー。
[階層] タブ	アップストリームのエンティティとダウンストリームのエンティティ、エンティティクラス、オーナー情報に関する情報。
ハイライト表示された詳細	選択したエンティティ、関連エンティティタイプ、エンティティに適用可能な規制機関、および関連ポリシーのダウンストリーム階層。

[エンティティ] セクションには、次の関連リストが表示されます。

[エンティティ] セクションの関連リスト

関連リスト	説明
エンティティタイプ	エンティティタイプ、説明、エンティティタイプが手動で作成された場合の条件、およびコンプライアンススコア (%) の詳細。
ダウンストリームリスク	番号、名前、エンティティ、クラス、リスクステートメント、リスクアセスメント方法、所有グループ、オーナーなど、選択したエンティティのダウンストリームリスクの詳細。
ダウンストリームのコントロール	名前、番号、エンティティ、コントロール目標、状態、ステータス、免除、オーナー、説明などのダウンストリームコントロールの詳細。
ダウンストリームの継承コントロール	コントロール、番号、エンティティ、依存エンティティ、機能、状態、ステータス、免除、オーナー、説明、コントロール目標などのダウンストリームの継承コントロールの詳細。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[エンティティ] セクションの関連リスト (続く)

関連リスト	説明
ダウンストリームエンゲージメント	名前、番号、タイプ、親計画、ステータス、エンゲージメントリード、残りの経費予算 (%)、残りのリソース予算 (%)、エンゲージメント開始予定などの、ダウンストリームエンゲージメントの詳細。
ダウンストリームの問題	の問題、番号、エンティティ、優先度、アサイン先、問題マネージャーなど、ダウンストリームの問題の詳細。 既存の問題を追加したり、新しい問題を作成したり、既存の問題を削除したりすることができます。
ダウンストリームタスク	名前、番号、親、ステータス、アサイン先、終了予定日などのダウンストリームタスクの詳細。
ポリシー例外	名前、番号、ステータス、サブステート、ポリシー、コントロール目標、問題、理由、要求者、有効開始日、有効終了日、リスク評価などのポリシー例外の詳細。
リスクイベント	リスクイベント、プライマリエンティティ、イベントタイプ、サブタイプ、ステータス、検出日、正味損失、予想損失、非財務的影響度などのリスクイベントの詳細。
コンテンツ参照	コンテンツ参照、説明、バージョンなど、コンテンツ参照の詳細。[追加] をクリックすると、コンテンツ参照を追加できます。
リスクアセスメント	番号、リスクアセスメント方法、アセスメント可能なエンティティ、リスク、適用するレコード、固有のリスク、コントロールの有効性、残存リスク、応答、査定人、終了日などのリスクアセスメントの詳細。
集計されたリスク	リスクアセスメント方法、残存評価、固有の評価、コントロール有効性、残存 ALE、固有 ALE、貢献リスクアセスメント、リスクロールアップステータスなどの集計リスクの詳細。
プライバシーアセスメント	番号、メトリクスタイプ、分類、期日、ステータス、アサイン先などのプライバシーアセスメントの詳細。
CRI 階層アセスメント	アセスメントテンプレート、ステータス、ユーザー、期日などのエンティティの階層アセスメントの詳細。
CRI アセスメント	アセスメントテンプレート、ステータス、ユーザー、期日などのコントロールアセスメントの詳細。
ステークホルダー	単一エンティティおよび複合エンティティに関連するカスタマイズ可能なロールを持つステークホルダーにより、チームがリスクアセスメントとプロジェクトに効果的に関与できるように

自動翻訳

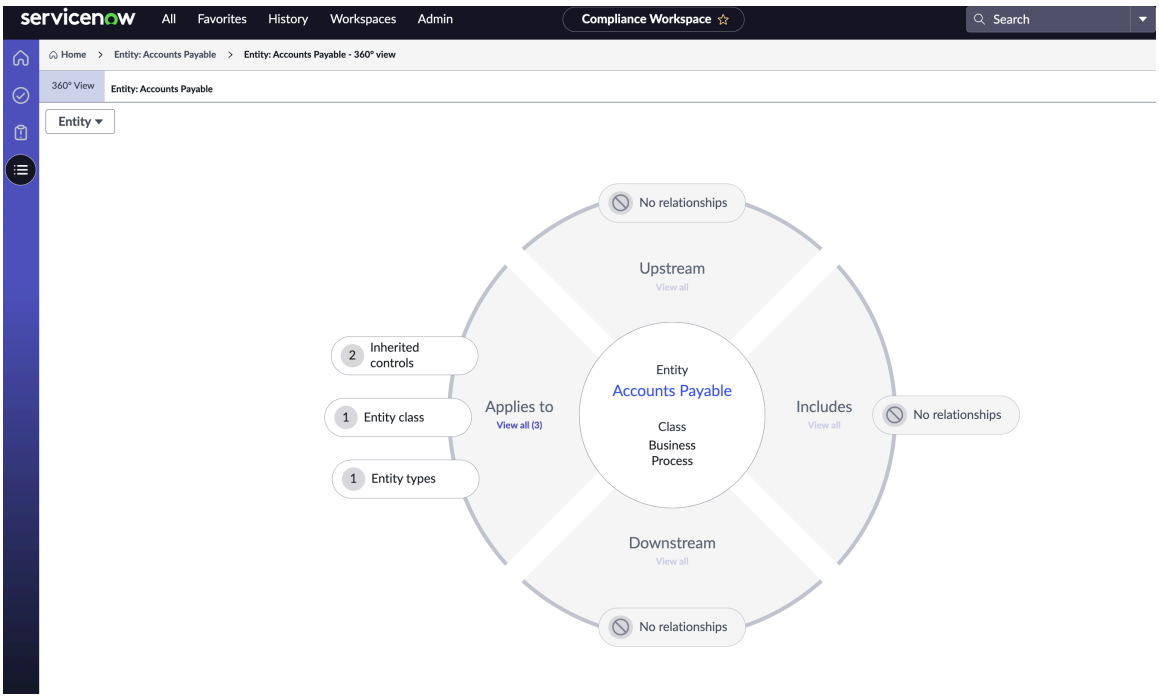
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[エンティティ] セクションの関連リスト (続く)

関連リスト	説明
	なります。ステークホルダーリストにペルソナ、グループ、およびユーザーを追加できます。

360 度ビューには、選択したエンティティの関係ビュー全体 (上流エンティティ、下流エンティティ、エンティティに関連付けられたエンティティクラスとエンティティタイプ、およびエンティティに含まれる関係) が表示されます。

エンティティの **360** 度ビュー



エンティティの作成

エンタープライズのエンティティを作成します。ガバナンス、リスク、コンプライアンス では、エンティティにはユーザー、プロセス、部門、アプリケーションまたはオブジェクトを指定できます。これらのエンティティには、エクスポージャーを軽減するように定義されたコントロールがあり、その監査を完了する必要があります。

始める前に

必要なロール：sn_grc.manager、sn_risk_workspace.IT_risk_manager、および sn_risk_workspace.operational_risk_manager

このタスクについて

エンティティはアクションのオブジェクトです。エンティティには、リスクエクスポージャーを軽減するためのコントロールがあります。組織の新しいエンティティを作成し、エンティティに関連するダウンストリーム階層、エンティティタイプ、ポリシーなどを表示するには、次の手順に従います。

手順

1. 目的のワークスペース、リストビューの順に移動して、[エンティティ] をクリックします。
2. 新しいエンティティを作成するには、[新規] をクリックします。
3. [詳細] タブに移動し、フィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンティティレコードの [詳細] タブ

フィールド	説明
既存のレコードを参照	新しいエンティティを既存のレコードに対して参照するオプション。
名前	エンティティの名前。
有効	エンティティがアクティブかどうかを示すオプション。
オーナー	システムアドミニストレーターなどのエンティティのオーナーの詳細。
クラス	アプリケーションやビジネスエンティティなどのエンティティに関連付けられたクラスの名前。
場所	所番地、市区町村、都道府県、国などの詳細を含むエンティティのロケーションレコード。
説明	エンティティの説明。
コンプライアンス	
証明頻度	日次や週次などの証明書頻度のオプション。

4. [コンプライアンス] セクションには、[週次] や [年次] などの証明書の頻度が表示されます。
5. サイドパネルにエンティティの添付ファイルを表示します。
6. エンティティを保存するには、[保存] をクリックします。

> **注:**
> 新しいエンティティを作成するときには、[詳細] タブのみが表示されます。新しいエンティティの作成後に、[概要] タブ、[詳細] タブ、およびその他の関連リストが表示されます。

新しいエンティティの保存後に、新しいエンティティフォームが、[詳細] タブ、[階層] タブ、および以下の関連リストとともに表示されます。

- エンティティタイプ
- ダウンストリームリスク
- ダウンストリームのコントロール
- ダウンストリームエンゲージメント
- ダウンストリームの問題
- ダウンストリームタスク
- ポリシー例外
- プライバシーアセスメント
- CRI 階層アセスメント
- CRI アセスメント

関連リストのフィールドについては、「ワークスペースビュー内のエンティティ」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. エンティティに関連するダウンストリーム階層、エンティティタイプ、ポリシーなどの情報について、ハイライト表示された詳細サイドパネルを表示します。
8. エンティティへの更新を保存するには、[保存] をクリックします。

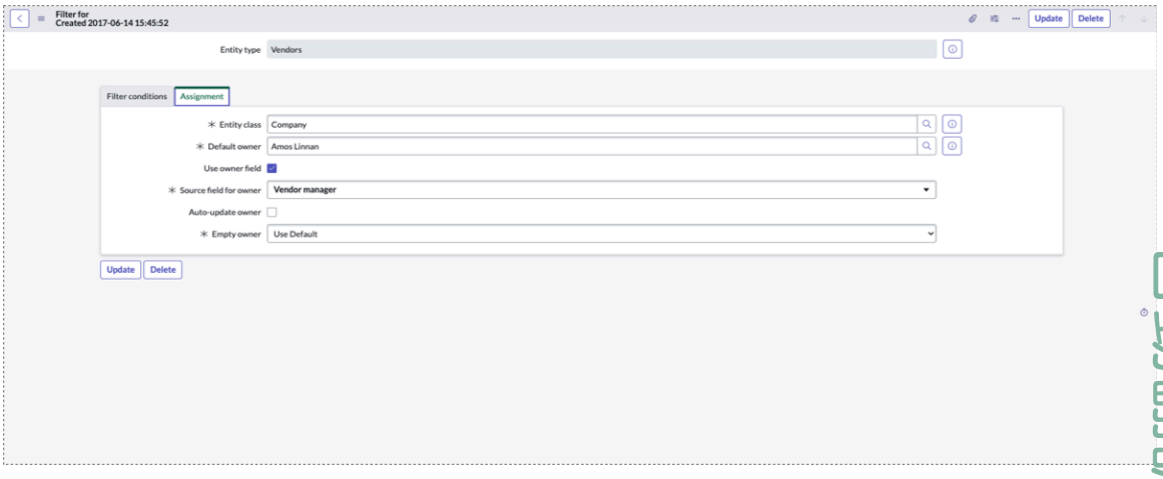
エンティティの機能拡張

GRC の更新の一部として、エンティティでいくつかの機能拡張を設定できます。

エンティティでは次の拡張機能を利用できます。

- メール通知：エンティティオーナーの値を更新するか、エンティティに新しいオーナーをアサインすると、エンティティのアサインに関するメール通知がエンティティオーナーに送信されます。
- エンティティオーナーの自動更新：[オーナーを自動更新] オプションを選択すると、エンティティオーナーとその参照 (ソース) フィールドの値との同期を維持できます。以下の例を参照してください。

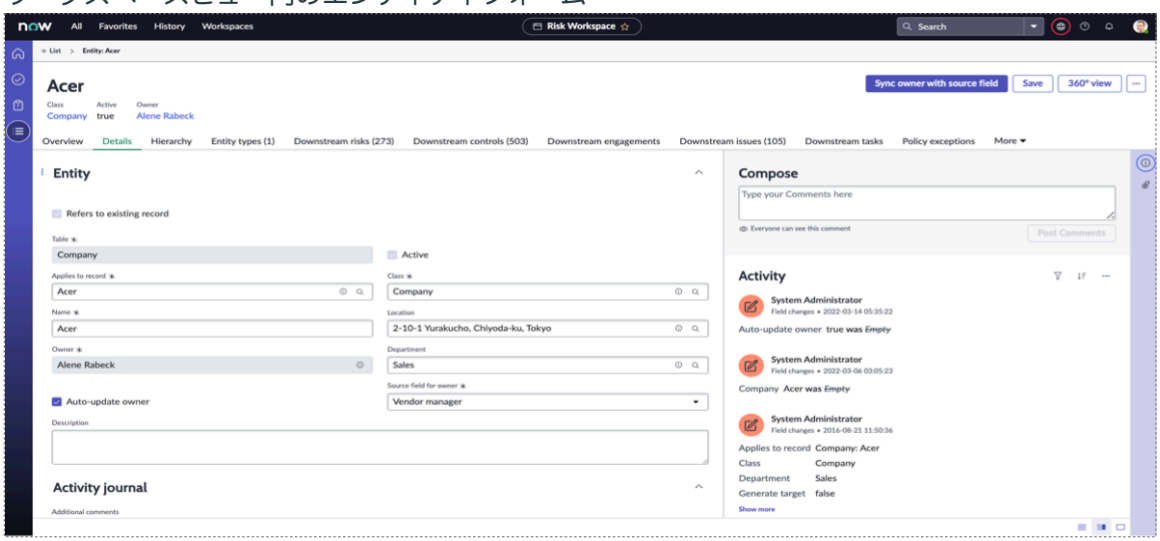
エンティティオーナーの自動更新オプション



[オーナーを自動更新] オプションは、エンティティフィルターを使用して作成し、フィルターの [オーナーフィールドを使用] オプションを使用して有効にしたエンティティに対してのみ表示されます。

ワークスペースビューのエンティティフォームで [オーナーを自動更新] オプションを表示することもできます。以下の例を参照してください。

ワークスペースビュー内のエンティティフォーム

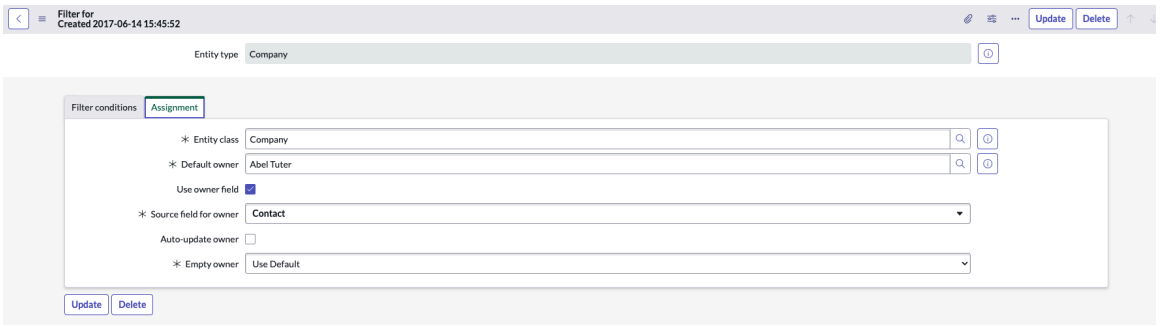


自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

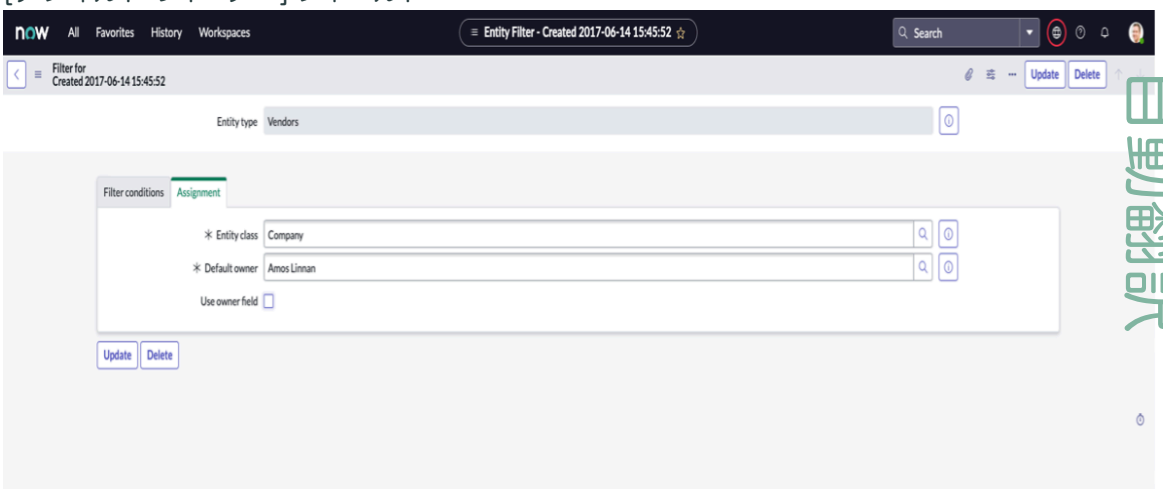
- フォームデザインの変更：次のフォームデザインの変更がエンティティフォームとエンティティフィルターフォームに導入されています。
  - 次の例に示すように、フォームの [エンティティクラス] フィールドと [デフォルトのオーナー] フィールドに入力する必要があります。

エンティティフォームのクラスフィールドとオーナーフィールド



  - 次の例に示すように、[オーナーフィールドを使用] をオフにした場合でも、[デフォルトのオーナー] フィールドに入力する必要があります。この更新により、作成されたすべてのエンティティにオーナーがアサインされます。

[デフォルトのオーナー] フィールド

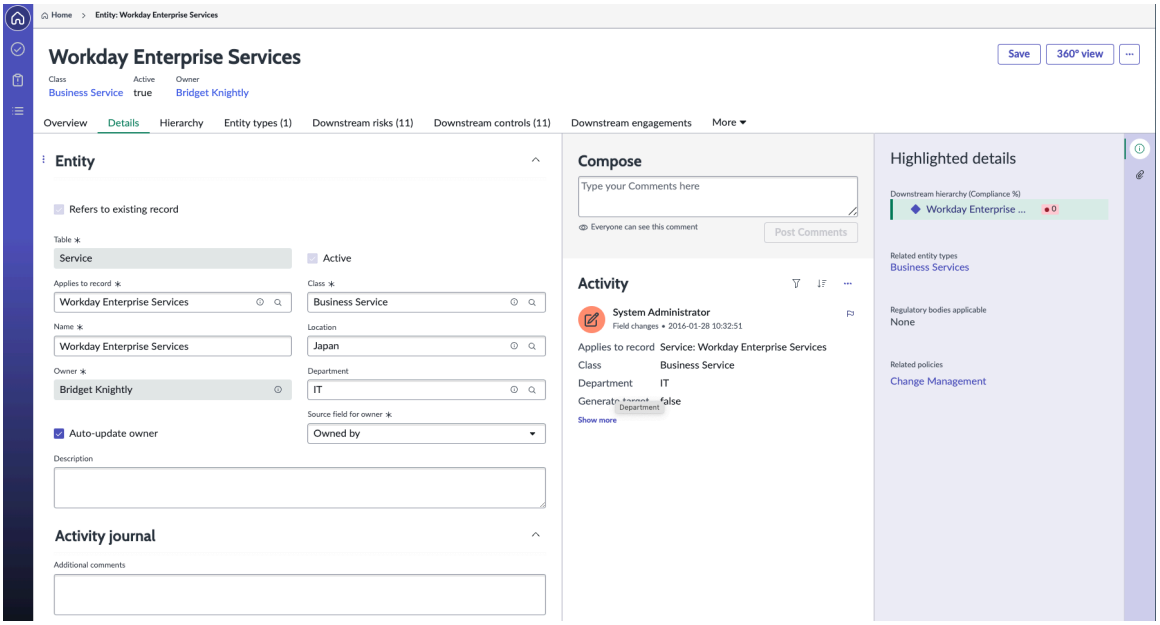


  - [部門] フィールドがエンティティフォームに追加されます。部門、場所、およびクラスのフィールドを選択することで、エンティティにコンテキストを追加できます。
  - [オーナーを自動更新] および [オーナーのソースフィールド] フィールドがフォームに表示されます。[オーナーのソースフィールド] は、次の例に示すように **[** オーナーを自動更新] フィールドを有効にしている場合にのみ表示されます。

自動翻訳

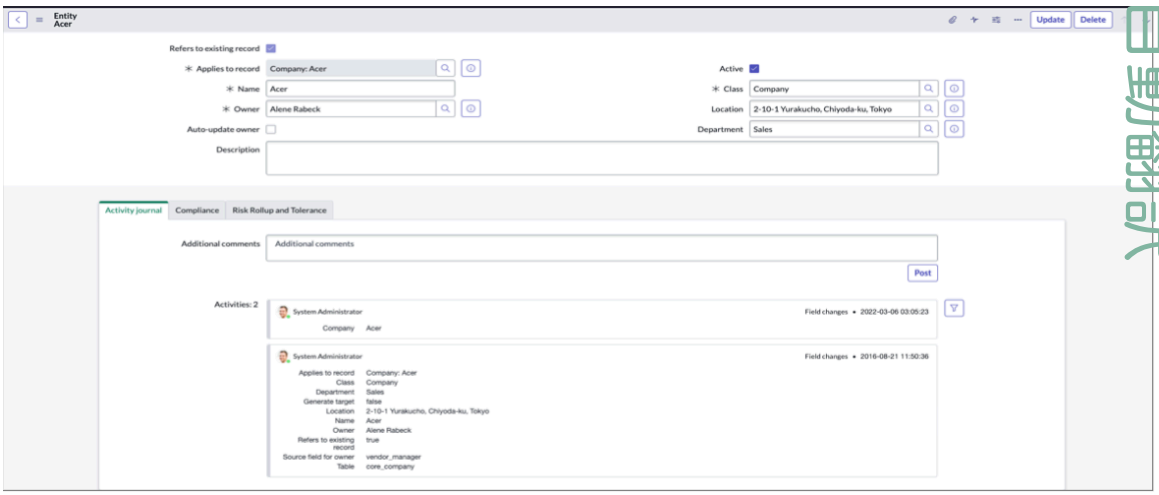
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[オーナーを自動更新] および [オーナーのソースフィールド] フィールド



- アクティビティジャーナルには、次の例に示すように、フィールドに加えられた変更のログが表示されます。

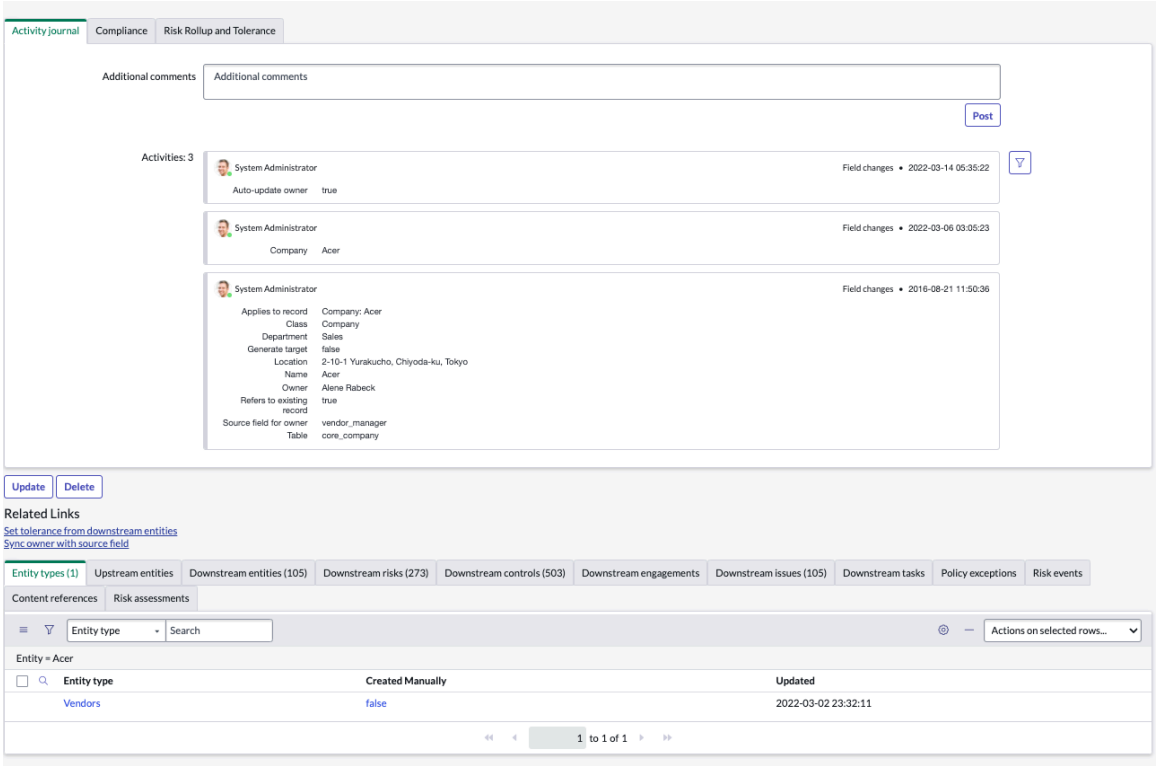
エンティティフォームのアクティビティジャーナル



- 次の例に示すように、新しい [オーナーをソースフィールドと同期] 関連リンクがエンティティフォームに表示されます。エンティティのオーナーをそのソースレコードのフィールド値と同期します。ソースフィールドの値とエンティティのオーナーが同期していない場合にのみ、フォームに表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[オーナーをソースフィールドと同期] **UI** アクション



- プロパティを有効にする前に、エンティティオーナーを同期するジョブをアクティブ化します。GRC プロパティで [エンティティオーナーをソースレコードと同期する頻度] プロパティを有効にして、エンティティオーナーをそのソースレコードと日次、週次、または月次ベースで同期できます。

  プロパティを有効にする前に、エンティティオーナーを同期するジョブをアクティブ化します。GRC プロパティで [エンティティオーナーをソースオーナーと同期するときの最大バッチサイズ] プロパティを有効にして、最大バッチサイズを整数値に設定できます。このアクションを実行すると、エンティティオーナーがそのソースレコード値と同期されます。

GRC でのエンティティスコーピング

エンティティスコーピングは、各コア GRC アプリケーションで許可されています。スコーピングは、さまざまなレベルでリスクとコントロールを割り当てる方法を提供します。依存関係は、GRC ワークベンチの依存関係マップを使用して作成されます。

エンティティスコーピングの概要

注:
New York リリース以降、「プロファイル」という用語は「エンティティ」という用語に置き換えられました。更新されたすべての GRC アプリケーション用語の詳細については、「ガバナンス、リスク、コンプライアンス アプリケーションの用語の更新と業界の用語」を参照してください。

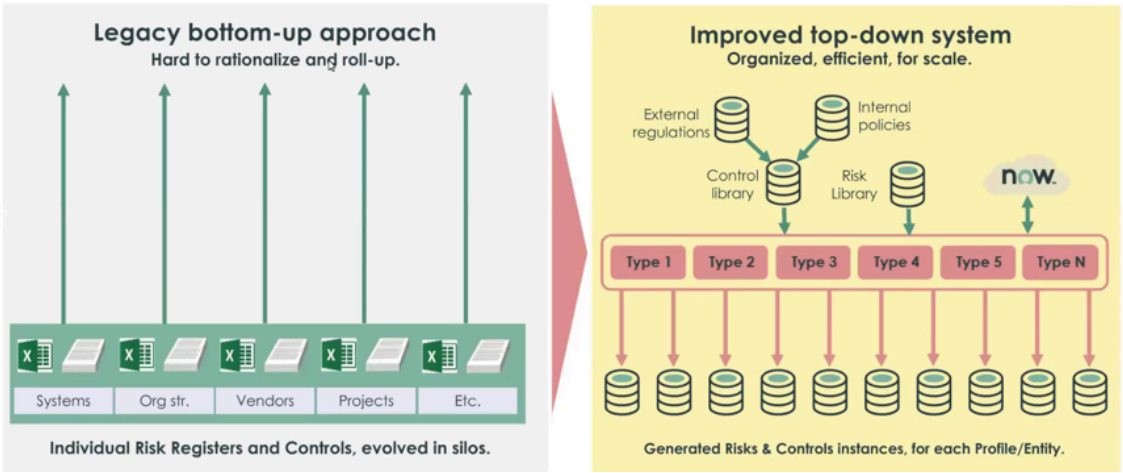
組織には、さまざまなシステム、プロジェクト、組織などのコンプライアンスを追跡するための個々のファイルとスプレッドシートを管理するさまざまなコントロールオーナーがいます。この環境では、リスクマネージャーは、共有エンティティに作成されるリスクやコントロールの重複を防ぐことも、認識することもできません。エンティティスコーピングの全体的な目的は、リスクとコントロールの両方の階層ライブラリであるリスク領域を維持するためのトップダウンアプローチを提供することです。健全なリスク体制を持つ成熟した組織では、ほとんどのリスクが標準的で繰り返し発生し

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

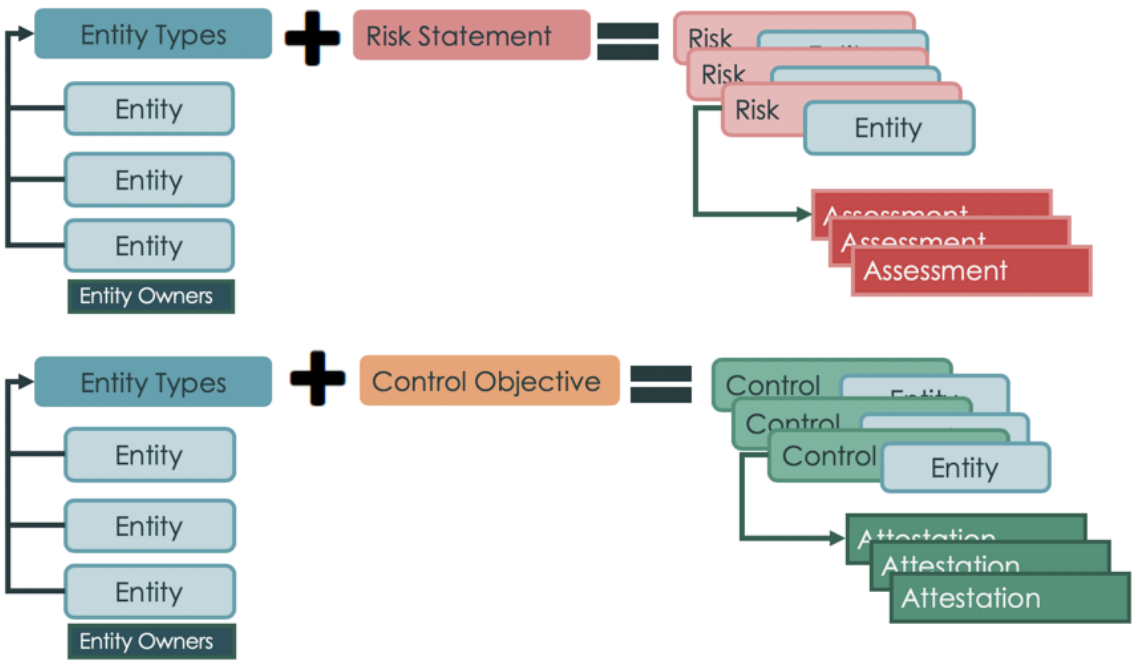
ていることがわかります。エンティティスコーピングは、関連エンティティのロールアップに基づいて、アップストリームおよびダウンストリームのリスクとコントロールをカタログ化および可視化するために役立ちます。

有機的なアプローチから構造化されたシステムへ



1. エンティティタイプを作成または編集し、エンティティフィルターを使用して既存の ServiceNow テーブルにマッピングします。
2. コントロール目標とリスクステートメントを使用して、これらのエンティティタイプを外部規制と内部ポリシーにマッピングします。
3. 関連エンティティのリスクとコントロールのインスタンスを生成します。
4. エンティティの集計計算と、リスクロールアップのリスクスコアのすべてのコンボによって、リスク選好度とスコアリング結果を維持します。

スコーピングプロセス



エンティティタイプからリスクとコントロールを生成する

エンティティタイプを作成および編集し、コンプライアンスを追跡する必要がある既存の ServiceNow テーブルにマッピングします (アプリケーション、部門、地域、プロセス、システム

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

など)。エンティティは、すべてのエンティティタイプのコントロールとリスクを生成するコントロール目標とリスクステートメントにアサインされます。

始める前に

必要なロール：

- sn_compliance.admin または sn_compliance.manager
- sn_risk.admin または sn_risk.manager
- sn_audit.admin または sn_audit.manager

このタスクについて

エンティティタイプは、エンティティをグループ化する方法を提供します。エンティティタイプは、次の例で説明できます。 特定の地域内のすべてのデータセンターに対して地震のリスクを生成するものとします。「データセンター」と呼ばれるエンティティタイプを作成し、その地域のすべてのエンティティをリスクステートメントに基づいて地震のリスクに関連付けることができます。

手順

1. 次のいずれかに移動します。
   - ポリシーとコンプライアンス > スコーピング > エンティティタイプ.
   - リスク > スコーピング > エンティティタイプ.
   - 監査 > スコーピング > エンティティタイプ.
2. 次のいずれかのアクションを実行します。

オプション	説明
新しいエンティティタイプを作成するには	[新規] をクリックします。
エンティティタイプを編集するには	リストからエンティティタイプを開きます。
エンティティタイプを削除するには	リストからエンティティタイプを開いて、[削除] をクリックします。 アイテム生成プロセスは、これらのアクションをバックグラウンドで実行します。アイテム生成プロセスの従来の実装 (v1) では、削除対象としてマークされたエンティティタイプは即座に削除されます。 アイテム生成プロセス (v2) の実装では、削除対象としてマークされたエンティティタイプは、アイテム生成プロセスによって即座には削除されませんが、削除対象としてマークされます。夜間にスケジュール済みジョブが実行されると、エンティティタイプが削除されます。 アイテム生成プロセスの詳細については、「アイテム生成プロセスを使用してコントロールとリスクを生成する」を参照してください。

3. フォームでフィールドに入力し、必要に応じて、[送信] または [更新] をクリックします。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンティティタイプ

名前	説明
名前	エンティティタイプの名前。
説明	エンティティタイプの説明と、ユーザーに役立つ追加情報。

4. エンティティタイプを保存したら、[エンティティフィルター] タブをクリックし、フォームのフィールドに入力します。

エンティティフィルター

名前	説明
エンティティタイプ	フィルターが属するエンティティタイプを示します。
テーブル	クエリ対象のレコードを含むテーブル。
フィルター条件	エンティティを生成するためのソーステーブルのフィルター条件。
オーナーフィールド	エンティティタイプから生成された新しいエンティティの所有者。 ソーステーブルのユーザー参照フィールドを特定して、リスクおよびコントロールのオーナーを自動的に特定します。オーナーフィールドが空の場合、デフォルトオーナーを使用して単一のユーザーにリスクをアサインします。
空のオーナー	○ 作成 ○ 作成しない ○ デフォルトを使用

5. [送信] をクリックします。
6. [エンティティタイプ] フォームで、[フィルターからエンティティを更新] をクリックします。「このエンティティタイプのエンティティを更新しています」という情報メッセージが表示されます。

独立したエンティティを作成する

エンティティは、エンティティタイプから生成するのではなく、手動で作成できます。資産、アプリケーション、ビジネスサービス、プロセスなどの既存の ServiceNow テーブルを参照する必要なく、エンティティを作成することもできます。

始める前に

必要なロール：

- sn_compliance.admin または sn_compliance.manager
- sn_risk.admin または sn_risk.manager
- sn_audit.admin または sn_audit.manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 次のいずれかに移動します。
   - ポリシーとコンプライアンス > スコーピング > すべてのエンティティ.
   - リスク > スコーピング > すべてのエンティティ.
   - 監査 > スコーピング > すべてのエンティティ.
2. 次のアクションのいずれかを実行します。

オプション	説明
新しいエンティティを作成するには	[新規] をクリックします。
エンティティを編集するには	リストからエンティティを開きます。

3. エンティティフォームで、必要に応じて、フィールドに入力します。

エンティティフォーム

名前	説明
既存のレコードを参照	エンティティが既に ServiceNow® テーブルレコードの一部である場合は、このチェックボックスをオンにします。スタンドアロンのエンティティを作成するには、このチェックボックスをオフにします。
適用するレコード	テーブル名と対応するドキュメントを選択します。このフィールドは、[既存のレコードを参照 **(Refer to existing record)]** チェックボックスがオンになっている場合にのみ表示されます。
有効	エンティティをアクティブ化するチェックボックス。
名前	エンティティの名前。
コンプライアンススコア (%)	ダウンストリームコントロールから導出されたコンプライアンスのパーセンテージ。
オーナー	このエンティティのコントロールオーナーを選択します。違反が発生した場合、エンティティオーナーとリスクマネージャーに通知が自動的に送信されます。 **注:** コントロールオーナーは有効なアクティブなユーザーである必要があります。エンティティが非アクティブなユーザーにアサインされている場合、レポートで観察されない限り、そのエンティティは無視されます。
クラス	アプリケーションが属するエンティティクラス。
ターゲットを生成	ターゲットを作成する場合は、このチェックボックスをオンにします。 システムでエンティティが作成されるたびに、ターゲットレコードも作成されます。このフィールドは、ユースケースアクセラレータアプリケーションが少なくとも 1 つインストールされている場合にのみ表示されます。

4. [コンプライアンス] 関連リストの [証明頻度] フィールドで、適切なオプションを選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このフィールドは、証明書が証明書の回答者に送信される頻度を示しています。ここでの値は、コントロール頻度のデフォルトです。コントロールオーナーがコントロールレベルで異なる頻度を希望する場合は、上書きできます。

5. [リスクロールアップおよび許容範囲] 関連リストをクリックし、必要に応じてフォームに入力します。
この関連リストは、高度なリスク がダウンロードされた場合にのみ表示されます。

[リスクロールアップおよび許容範囲] 関連リスト

フィールド	説明
予想 ALE	年次損失予測 (ALE) は、年次発生率 (ARO) と単一損失予測 (SLE) の積を指します。予想 ALE は、リスクステートメントの ALE の予想値です。予想 ALE の通貨と金額を入力します。 注: この値は、[許容可能な最大 **ALE]** 以下である必要があります。
許容可能な最大 ALE	リスクステートメントの ALE のしきい値。 注: この値は、[予想 **ALE]** 以上である必要があります。この値は、[許容範囲ステータス] フィールドに影響します。
計算済み ALE の合計	この計算は、リスクステートメントとその子リスクステートメントのすべての基礎となるリスクの計算済み ALE の合計に基づいています。
計算済み平均 ALE	この計算は、リスクステートメントとその子リスクステートメントのすべての基礎となるリスクの計算済み ALE の平均に基づいています。
計算済み最大 ALE	この計算は、リスクステートメントとその子リスクステートメントのすべての基礎となるリスクの計算済み ALE の最大値に基づいています。
計算済み最小 ALE	この計算は、リスクステートメントとその子リスクステートメントのすべての基礎となるリスクの計算済み ALE の最小値に基づいています。
許容範囲ステータス	許容値に基づいて自動的に計算されます。 ○ [計算済み **ALE]** が [予想 **ALE]** 以下の場合 = 緑色の [許容範囲内] ○ [計算済み **ALE]** が [予想 **ALE]** より大きいものの、[許容可能な最大 **ALE]** 以下の場合 = オレンジの [要注意] ○ [計算済み **ALE]** が [許容可能な最大 **ALE]** より大きい場合 = 赤の [許容できない]

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: [許容範囲ステータス] が [要注意] または [許容できない] に変わると、調査のためにエンティティオーナーとリスクマネージャーにメールが自動的に送信されます。
計算済みスコア	計算済み ALE に対応するスコア： ○ 低 ○ 中 ○ 高

6. [Basel 事業部門] 関連リストの **[Basel** 事業部門] フィールドで、エンティティを Basel 事業部門にマッピングします。
7. 選択した Basel 事業部門をすべてのダウンストリームエンティティに継承させる場合は、[ダウンストリームエンティティ事業部門の更新] をクリックします。
8. [送信] または [更新] をクリックします。

エンティティを相互に関連付ける

エンティティ間の関係を作成して、コントロールとリスクが互いにどのように影響し、それらが企業にどのように影響するかを理解します。

始める前に

必要なロール：

- sn_compliance.admin または sn_compliance.manager
- sn_risk.admin または sn_risk.manager
- sn_audit.admin または sn_audit.manager

手順

1. 以下のオプションのいずれかを使用して移動します。
   - ポリシーとコンプライアンス > スコーピング > すべてのエンティティ.
   - リスク > スコーピング > すべてのエンティティ.
   - 監査 > スコーピング > すべてのエンティティ.
2. リストからエンティティレコードを開きます。
3. 次のアクションのいずれかを実行します。

オプション	説明
現在のエンティティが別のエンティティのダウンストリームにあることを指定するには	[アップストリームエンティティ] 関連リストの [追加] ボタンをクリックします。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
現在のエンティティが別のエンティティのアップストリームにあることを指定するには	[ダウンストリームエンティティ] 関連リストの [追加] ボタンをクリックします。

4. 現在のエンティティを関連付ける目的のエンティティを選択し、[関係を作成] をクリックします。

タスクの結果
[アップストリームエンティティ] または [ダウンストリームエンティティ] 関連リストで [追加] をクリックした後に表示されるエンティティは、現在のエンティティのクラスとそれが属する階層に基づいて制限されます。

注:
現在のエンティティに関連付けることができる適格なエンティティがない場合、[追加] ボタンは [アップストリームエンティティ] または [ダウンストリームエンティティ] 関連リストに表示されません。

エンティティクラス

エンティティクラスは、エンティティに関する概念情報を追加したりエンティティにタグを付けたりするために使用されます。これらはエンティティを分類するために使用され、同じ属性を持つエンティティのコレクションを表します。

エンティティクラスの概念を理解するために、例を考えてみましょう。ある会社が 3 つの都市に支店を持っているとします。オフィススペースはエンティティと見なされ、これらのエンティティのエンティティクラスはロケーションになります。たとえば、エンティティとしてのリスクはプロセスの場合もあれば、組織内の部門の場合もあります。エンティティクラスは、この例でプロセスとして属するかクラスとして属するかを定義します。

エンティティクラスは、ワークスペースビューの [リスト] の下に一覧表示されます。リストビューでエンティティクラスをクリックすると、その詳細が表示されます。

エンティティクラスフォームの [詳細] タブには、次のフィールドが表示されます。

- 名前
- 階層
- 親クラス
- 説明
- [ルートである] チェックボックス条件

エンティティクラスページには、次の関連リストが表示されます。

エンティティクラスフォームの関連リスト

関連リスト	説明
エンティティ	エンティティに関する情報： • 名前 • オーナー • コンプライアンススコア (%)
子クラス	子クラスに関する情報：

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンティティクラスフォームの関連リスト (続く)

関連リスト	説明
	• 名前 • 階層 • [ルートである] チェックボックス

新しく作成されたエンティティクラス構成を保存するには、[保存] をクリックします。

エンティティクラスの作成

エンティティに関連付けられるエンティティクラスを作成します。エンティティクラスは、エンティティに関する概念情報を追加し、エンティティを分類するために使用されます。これらは、部門、事業部門、ビジネスサービスなどの同じ属性を持つエンティティのコレクションを表します。エンティティクラスに基づいてエンティティに関するデータを収集できます。

始める前に

必要なロール：sn_grc.manager、sn_risk_workspace.IT_risk_manager、および sn_risk_workspace.operational_risk_manager

このタスクについて

エンティティクラスは、エンティティを分類してタグ付けするために使用されます。エンティティにタグを付けたら、エンティティクラスに基づいてエンティティに関するデータを収集できます。

手順

1. 目的のワークスペース、リストビューの順に移動して、 エンティティクラスを選択します。
2. エンティティクラスを作成するには、 新規 を選択します。
3. [詳細] タブで、フィールドに入力します。

新しいエンティティクラスの作成フォーム

フィールド	説明
構造	エンティティクラスの構造。オプションは次のとおりです。 ○ 単一:単一のディメンションエンティティクラスを構成するオプション。 ○ 複合:多次元エンティティクラスを構成するオプション。 **注:** 複合エンティティクラスを構成するには、 コンポジットエンティティ管理 アプリケーションをインストールする必要があります。
ディメンションの数	必要な数のエンティティクラスディメンションを選択するオプション。このフィールドは、構造から「複合」が選択されている場合にのみ表示されます。 **注:** 最大 5 つのディメンションを選択できます。
適用可能なエンティティクラス	必要なエンティティクラスを選択するオプション。選択した順序はリスクロールアップには影響しませんが、同じ順序で各クラスからエンティティが選択さ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	れます。このフィールドは、構造から「複合」が選択されている場合にのみ表示されます。
名前	エンティティクラスの名前。 **注:** [構造] フィールドで [複合] を選択すると、選択したエンティティクラスに基づいて名前が自動的に生成され、その間にセパレーターが表示されます。
説明	エンティティクラスに関する追加情報。
親クラス	新しいエンティティクラスに関連付けられている親クラス (会社や部門など)。このフィールドは、[構造] で [単一] が選択されている場合にのみ表示されます。
ルートである	新しいエンティティクラスがルートであるかどうかを確認する条件。オプションは **[True]** または **[False]**です。このフィールドは、[構造] で [単一] が選択されている場合にのみ表示されます。
プライマリーリスクアセスメント方法	エンティティクラスのプライマリ方法として使用する必要があるリスクアセスメント方法。
階層	新しいエンティティクラスの階層 (アプリケーションやビジネスなど)。このフィールドは、[構造] で [単一] が選択されている場合にのみ表示されます。
添付ファイル	サイドパネルに表示されるエンティティクラスに関連付けられた添付ファイル。

4. **[Save** (保存)] を選択します。
   保存後、新しいエンティティクラスがリストビューの [エンティティクラス] リストに表示されます。新しいエンティティクラスを選択すると、次の追加の関連リストが表示されます。
   - エンティティ
   - 子クラス
5. [エンティティ] 関連リストに移動し、[エンティティクラス] セクションの下のフィールドに入力します。

[エンティティ] 関連リストのエンティティクラス情報

フィールド	説明
名前	エンティティの名前。
オーナー	エンティティのオーナー。
コンプライアンススコア (%)	エンティティのコンプライアンススコア (%)。

6. [子クラス] 関連リストに移動し、[エンティティクラス] セクションの下のフィールドに入力します。

[子クラス] 関連リストのエンティティクラス情報

フィールド	説明
名前	エンティティクラスの名前。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
階層	新しいエンティティクラスの階層。
ルートである	新しいエンティティクラスがルートであるかどうかを確認する条件。オプションは [True] または [False]です。

7. エンティティクラスを保存するには、 保存 を選択します。

複数のエンティティのエンティティクラスを更新する

クラスフィールドが空の複数のエンティティのエンティティクラスを指定します。エンティティクラスは、エンティティに関する概念情報を追加し、エンティティを分類するために使用されます。アドミニストレーターは、複数のエンティティのエンティティクラスを 1 回のクリックで更新できます。

始める前に
必要なロール：sn_grc.admin

このタスクについて
クラスは、フィルター条件に一致し、エンティティクラスが関連付けられていないエンティティに対してのみ追加されます。クラシックユーザーインターフェイスの [エンティティクラスの一括更新] オプションを使用して、次のさまざまな方法でアクションを実行できます。

- クラスが空のすべてのエンティティ：フィルター基準に一致するすべてのテーブルで空のクラスフィールドを持つすべてのエンティティに共通のクラスを適用するには、このオプションを使用します。アドミニストレーターは、フィルター条件を設定できます。
- テーブルを選択：選択したテーブルで空のクラスフィールドを持つすべてのエンティティに共通のクラスを適用するには、このオプションを使用します。

手順

1. クラシックユーザーインターフェイスで、次に移動します: アドミニストレーション > エンティティクラスの一括更新.
2. エンティティを選択するには、次のいずれかを実行します。
   - [レコード選択] フィールドで、[クラスが空のすべてのエンティティ] を選択します。

     該当する場合は、**ADD** または **OR** 句を使用してフィルター条件を追加します。
   - [レコード選択] フィールドで、[テーブルを選択] を選択してテーブルからエンティティを選択します。
3. レコードを選択した後、[リフレッシュ] をクリックします。
   フィルター条件に一致する更新されたレコードの数が表示されます。クラスは、フィルター条件に一致し、クラスが関連付けられていないエンティティに対してのみ追加されます。
4. 選択したレコードに適用するクラスを選択するには、[エンティティクラスを次に設定 **(Set the entity class as)]** フィールドを使用します。
5. [送信] をクリックします。

タスクの結果
複数のエンティティのエンティティクラスが更新されます。

ガバナンス、リスク、コンプライアンス のスケジュール済みジョブ

スケジュール済みジョブは、特定の時間または繰り返しスケジュールで実行できる自動化された作業です。GRC アドミニストレーターは、スケジュール済みジョブをオンデマンドで実行し、エンティ

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ティクラスルールに応じてエンティティにエンティティクラスを設定するなどのタスクを自動化します。

Yokohama リリース以降、次のスケジュール済みジョブが GRCで提供されています。

- *GRC set entity class on entities based on entity class rule*：このスケジュール済みジョブを使用して、一度に複数のエンティティのエンティティクラスルールを入力します。スケジュール済みジョブスクリプトは、すべてのエンティティクラスルールをチェックし、エンティティクラスフィールドが空のすべてのエンティティをチェックして、複数のエンティティのエンティティクラスを更新します。

- *GRC set entity class on entities same as pillar*：このスケジュール済みジョブは、GRC：オペレーショナルレジリエンス アプリケーションユーザーに提供されます。

  オペレーショナルレジリエンス ベースシステムは 5 つのピラーで構成されています。ピラーは、関連付けられたエンティティタイプからプルされたリスクデータを整理するために使用されるカテゴリです。GRC：オペレーショナルレジリエンス アプリケーションがインスタンスにインストールされている場合、[ピラー] フィールドには、エンティティタイプがアサインされているアプリケーションのピラーが表示されます。エンティティクラスがエンティティタイプに対して定義されていない場合は、*GRC set entity class on entities same as pillar* ジョブを使用して [ピラー] フィールドに表示される値にマッピングされます。

エンティティクラスルール

エンティティクラスルールは、テーブルレベルでエンティティにクラスをアサインするために役立ちます。テーブルに作成された新しいエンティティは、そのエンティティクラスを自動的に取得します。エンティティクラスは、エンティティにタグ付けするために使用されます。

テーブルのエンティティを作成すると、そのテーブルに関連付けられたクラスが自動的にエンティティにアサインされます。エンティティクラスに新しいルールを設定できます。エンティティクラスルールは、クラスレベルでエンティティのカテゴリを提供します。[エンティティクラスルール] オプションが、ワークスペースビューの [リスト] の下に表示されます。[エンティティクラスルール] をクリックすると、その詳細が表示されます。

エンティティクラスルールフォームの [詳細] タブには、次の情報が表示されます。

エンティティクラスルールページの [詳細] タブ

フィールド	説明
テーブル	エンティティクラスルールの作成後にエンティティクラスが関連付けられるテーブルの名前。
クラス	新しいエンティティクラスルールを使用するテーブルに関連付けられるエンティティクラスの名前。

エンティティクラスルールのフィルター

[エンティティクラスルール] フィルターがエンティティクラスルールページに追加され、追加のフィルターが提供されます。以前は、テーブルのレコードに関連付けることできるのは 1 つのエンティティクラスのみでした。[エンティティクラスルール] フィルターを使用すると、同じテーブルのレコードに異なるクラスを関連付けることができます。

[エンティティクラスルールのフィルター] テーブルには、次の情報が表示されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

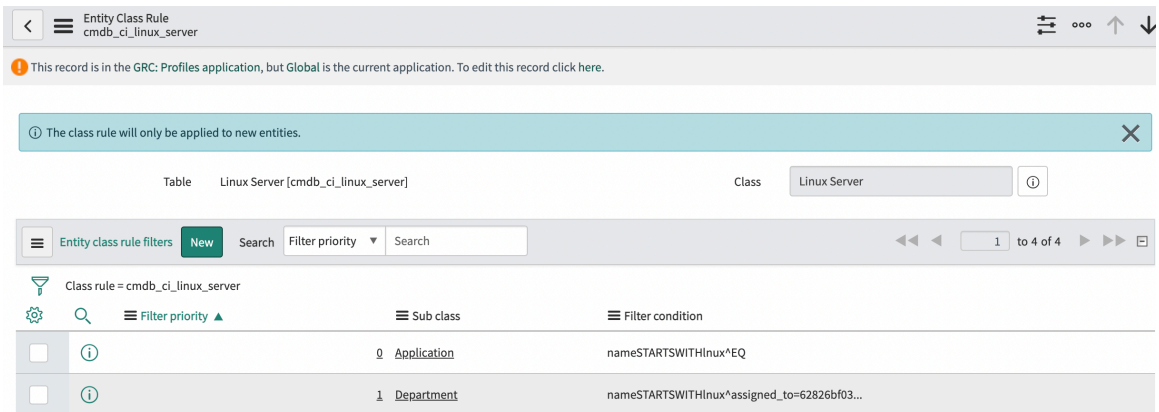
エンティティクラスルールのフィルター

フィールド	説明
フィルターの優先度	フィルターの優先度はサブクラスの範囲です。クラスは、指定された優先度に基づいてエンティティフォームに入力されます。
サブクラス	サブクラスは、エンティティクラスルールの [詳細] タブに表示される親クラスの子クラスです。
フィルター条件	フィルター条件は、エンティティクラスルールを定義するテーブルのレコードを除外するために使用されます。 たとえば、異なる条件を持つ 2 つのサブクラスがある場合、サブクラスの代わりに親クラスが入力されます。 **注:** サブクラスは、同じフィルター条件を満たす場合にのみエンティティフォームに表示されます。

エンティティクラスをアサインするためのロジック

cmdb_ci_linux_server テーブルにレコードがあり、このテーブルにエンティティクラスルールが関連付けられているとします。エンティティクラスルールには、次のクラスルールフィルターがあります。

エンティティクラスルール



シナリオ **1**：エンティティのソースレコードが cmdb_ci_linux_server テーブルに属し、2 番目のフィルターのすべての条件に一致する場合、エンティティのクラスはサブクラス **Department** として自動的に入力されます。

シナリオ **2**：エンティティのソースレコードが cmdb_ci_linux_server テーブルに属し、その名前が linux で始まる場合 (両方のフィルターを満たす)、サブクラス **Application** がエンティティクラスとして自動的に入力されます。

シナリオ **3**：エンティティのソースレコードがどのクラスルールフィルターも満たさない場合、クラス **Linux Server** がエンティティクラスとして自動的に入力されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンティティクラスルールを作成する

エンティティクラスのルールを作成します。エンティティクラスルールは、クラスレベルでエンティティの分類を提供します。テーブルに関連付けられているエンティティクラスの新しいエンティティクラスルールを作成できます。新しいエンティティクラスルールを作成すると、エンティティクラスルールテーブルが新しいレコードで更新されます。

始める前に

必要なロール：sn_grc.manager、sn_risk_workspace.IT_risk_manager、および sn_risk_workspace.operational_risk_manager

手順

1. 目的のワークスペース、リストビューの順に移動して、[エンティティクラスルール] をクリックします。

   注:
   コンプライアンスワークスペースからエンティティクラスルールを作成することはできません。コア UIでのみ作成できます。

2. [**New**] をクリックします。
   [詳細] タブを含む新しいエンティティクラスの作成ページが表示されます。
3. フォームのフィールドに入力します。

   エンティティクラスルールフォームの作成

フィールド	説明
テーブル	エンティティクラスが属するテーブル。
クラス	エンティティに関連付けられているクラス (事業部門やアプリケーションなど)。

4. エンティティクラスルールを保存するには、[保存] をクリックします。

エンティティクラスルールフィルターを作成する

エンティティクラスルールフィルターを作成して、クラスルールで定義されているものと同じテーブルのクラスをフィルターレベルでアサインすることができます。

始める前に

必要なロール：sn_grc.manager、sn_risk_workspace.IT_risk_manager、および sn_risk_workspace.operational_risk_manager

手順

1. 目的のワークスペース、リストビューの順に移動して、[エンティティクラスルール] をクリックします。

   注:
   コンプライアンスワークスペースからエンティティクラスルールフィルターを作成することはできません。コア UIでのみ作成できます。

2. リストから任意のエンティティクラスルールを選択します。
3. 新しいエンティティクラスルールフィルターを追加するには、[エンティティクラスルールフィルター] タブで [新規] をクリックします。
4. テーブルのフィールドに入力します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このフィールドの詳細については、「エンティティクラスルールのフィルターのフィールド」を参照してください。

5. [**Submit** (送信)] を選択します。

タスクの結果

エンティティクラスルールフォームの [エンティティクラスルールフィルター] タブに新しいレコードが作成されます。

エンティティクラスルールのフィルターのフィールド

エンティティクラスルールのフィルターを作成するには、[エンティティクラスルールのフィルター] 関連リストで [新規] オプションをクリックした後に表示されるフィールドに入力します。

エンティティクラスルールのフィルターのフィールド

フィールド	説明
テーブル	関連付けられたエンティティクラスルールから自動入力されるテーブル。
サブクラス	ソースレコードがクラスルールフィルターに一致するすべてのエンティティに適用されるエンティティクラス。
フィルター条件	テーブルからレコードを除外できる条件。サブクラスで指定されたエンティティクラスは、これらのレコードのいずれかに関連付けられているエンティティに (クラスアサインルールに従って) 適用できます。
フィルターの優先度	フィルターの優先度。エンティティのソースレコードが複数のクラスルールフィルター条件を満たす場合、クラスは優先度が最も低いフィルターから選択されます。 たとえば、それぞれ優先度が 0 と 1 の 2 つのサブクラスアプリケーションと部門がある場合、優先度の低いアプリケーションサブクラスがルールとコントロールのフォームに自動的に入力されます。

エンティティタイプ

エンティティタイプは、一連のフィルター条件に一致するエンティティをグループ化します。エンティティクラス内にエンティティタイプの階層を作成できます。[エンティティタイプ] オプションが、ワークスペースビューの [リスト] ビューの下に表示されます。エンティティタイプをクリックすると、その詳細が表示されます。

エンティティタイプは、フィルタリングに基づいてエンティティをグループ化したものです。エンティティタイプを使用すると、一連のフィルター条件に一致するエンティティを検索および作成できます。エンティティクラス内に階層を作成できます。エンティティタイプを使用すると、あまり時間をかけずに各エンティティのリスクとコントロールを作成できます。たとえば、組織は、経理、HR、IT などの複数の部門を持つことができます。これらの部門はすべてエンティティと見なすことができ、部門と呼ばれるエンティティタイプの下にグループ化できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンティティタイプ内で、オーナーとエンティティクラスをアサインできます。コントロール目標とリスクステートメントをエンティティタイプに関連付けて、それらのエンティティのリスクとコントロールが自動的に作成されるようにすることができます。エンティティタイプを使用して作成されたすべてのエンティティに対して、エンティティクラスとエンティティオーナーが自動的にアサインされるように構成とフィルターが適用されます。

エンティティタイプを作成して、リスクステートメントとコントロール目標をそれに関連付ける場合、すべてのエンティティにリスクとコントロールが自動的に作成されます。エンティティタイプを作成するメリットは、各エンティティに関連付けられたリスクとコントロールを含む複数のスプレッドシートを維持する必要がなくなることです。エンティティタイプを適用すると、エンティティタイプ内に存在するエンティティフィルターを使用してエンティティをすばやく作成できます。エンティティタイプには、さまざまなクラスに関連付けられたエンティティを含めることができます。

エンティティのグループ化は、リスクアセスメントが実行された後にリスクスコアをロールアップおよび集計するためにも役立ちます。グループ化エンティティがリスクスコアのロールアップにどのように寄与するかを理解するために、次の例を考えてみましょう。Acer ファイナンス という銀行組織があるとします。Acer Finance には、銀行と小売業の 2 つの事業部門があります。銀行部門には、商業銀行やプライベートバンキングなどのサブ部門があります。リスクアセスメントは通常、最下位のレベルで実行されます。この例では、アセスメントは商業銀行およびプライベートバンキングのレベルで実行されます。ただし、レポートは最上位レベルで行われます。これは、商業銀行およびプライベートバンキングのリスクアセスメントスコアが銀行レベルでロールアップされ、集計されることを意味します。同様に、銀行および投資のスコアは Acer Finance の組織レベルにロールアップされます。

エンティティタイプのエンティティは、エンティティフィルターで設定された条件に基づいて作成されます。エンティティフィルターでは、次のフィルター条件が定義されています。

- 独自の条件を作成：エンティティフィルターは、表示用に各エンティティタイプにプルされるデータの取得元テーブルを定義します。[エンティティタイプ] の下の [エンティティフィルター] 関連リストのオプションが変更され、[独自の条件を作成] が以前の条件ビルダーと同じになっています。
- 事前定義されたクエリから選択：構成管理データベース (CMDB) クエリを使用する [事前定義されたクエリから選択] として新しいオプションが導入されています。

エンティティタイプページの [詳細] タブには、次の情報が表示されます。

- 名前
- コンプライアンススコア (%)
- エンティティタイプが有効な場合に表示するチェックボックス条件
- 説明

エンティティタイプページには、次の関連リストが表示されます。

[エンティティタイプ] セクションの関連リスト

関連リスト	説明
エンティティ	エンティティに関する情報： • エンティティ • 説明 • クラス • オーナー

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[エンティティタイプ] セクションの関連リスト (続く)

関連リスト	説明
	• 残存評価 • コンプライアンススコア (%)
エンティティフィルター	エンティティフィルターに関する情報： • エンティティフィルタータイプ • テーブル • フィルター条件 • オーナーフィールドを使用 • オーナーフィールド
リスクフレームワーク	リスクフレームワークの詳細。[追加] をクリックして、新しいリスクフレームワークレコードを追加します。
リスクステートメント	リスクステートメント、フレームワーク、カテゴリ、説明などのリスクステートメントの詳細。
ポリシー	番号、名前、タイプ、オーナー、ステータス、有効開始日、有効終了日、コンプライアンススコア (%) などのポリシーの詳細。
コントロール目標	コントロール目標、カテゴリ、タイプ、分類、コンプライアンススコア (%) などのコントロール目標の詳細。
エンティティフィルター	エンティティフィルタータイプ、テーブル、フィルター条件、クエリ、情報オブジェクト、オーナーフィールドを使用、オーナーフィールドなどのエンティティフィルターの詳細。
ポリシー例外	ポリシー例外の詳細。
コンテンツ参照	コンテンツ参照の詳細。
プライバシーアセスメント	エンティティタイプのプライバシーアセスメントの詳細。
添付ファイル	サイドパネルに表示されるエンティティタイプに関連付けられた添付ファイル。

エンティティタイプの作成

システム内のエンティティのエンティティタイプを作成します。エンティティタイプを使用すると、一連のフィルター条件に一致するエンティティを検索および新規作成できます。エンティティクラス内にエンティティタイプの階層を作成できます。

始める前に

必要なロール：sn_grc.manager、sn_risk_workspace.IT_risk_manager、および sn_risk_workspace.operational_risk_manager

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 目的のワークスペース、リストビューの順に移動して、[エンティティタイプ] をクリックします。
2. [新規] をクリックします。
   [詳細] タブを含む新しいエンティティタイプの作成ページが表示されます。
3. [詳細] タブで、フィールドに入力します。

新しいエンティティタイプの作成ページの [詳細] タブ

フィールド	説明
名前	エンティティタイプの名前。
コンプライアンススコア (%)	エンティティタイプにアサインされたコンプライアンススコア (%)。
有効	エンティティタイプをアクティブに設定するオプション。
説明	エンティティタイプの説明。

4. エンティティタイプを保存するには、[保存] をクリックします。
   エンティティタイプを保存すると、他の関連リストがエンティティタイプページに表示されます。該当する場合は関連リストを更新します。
   - 詳細
   - エンティティ
   - エンティティフィルター
   - リスクフレームワーク
   - リスクステートメント
   - ポリシー
   - コントロール目標
   - ポリシー例外
   - コンテンツ参照
   - プライバシーアセスメント

   詳細については、「ワークスペースビュー内のエンティティ」を参照してください。
5. エンティティタイプを保存するには、[保存] をクリックします。

エンティティフィルター

エンティティタイプを使用すると、一連のフィルター条件に一致するエンティティを検索および作成できます。エンティティタイプには、ユーザーインターフェイスに表示されるデータを定義する事前定義されたエンティティフィルターが含まれています。エンティティフィルターは、表示用に各エンティティタイプにプルされるデータの取得元テーブルを定義します。

エンティティタイプのエンティティは、エンティティフィルターで設定された条件に基づいて作成されます。新しいエンティティフィルターを作成するには、リストビューの [エンティティタイプ] タブに移動します。

[エンティティタイプ] の下の [エンティティフィルター] タブのオプションは変更され、[独自の条件をビルド] 条件ビルダーは以前の条件ビルダーで使用されていたものと同じオプションを使用しています。さらに、新しい [事前定義されたクエリから選択] オプションは、構成管理データベース

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

(CMDB) クエリを活用します。[エンティティタイプ] の下の [エンティティフィルター] 関連リストで次のオプションを使用できるようになりました。

- 独自の条件を作成。
- 構成管理データベース (CMDB) クエリビルダーを使用する、事前定義されたクエリから選択。

[エンティティフィルター] タブには、次の情報が表示されます。

- エンティティフィルタータイプ： [独自の条件をビルド] や [事前定義されたクエリから選択] などのエンティティフィルタータイプ。
- テーブル：sn_audit_advanced_auditable_unit などのクエリ対象のレコードを含むテーブル。
- フィルター条件：エンティティを生成するためのソーステーブルのフィルター条件。
- オーナーフィールドを使用：オーナーフィールドが空の場合、デフォルトオーナーを使用して単一のユーザーにリスクをアサインします。
- オーナーフィールド：エンティティタイプから生成された新しいエンティティの所有者。ソーステーブルのユーザー参照フィールドを特定して、リスクおよびコントロールのオーナーを自動的に特定します。

エンティティタイプの下のエンティティフィルターの新しい [エンティティクラス] フィールドを使用して、エンティティフィルターにエンティティクラスをアサインします。エンティティフィルターを使用してエンティティを作成すると、エンティティクラスが自動的にアサインされます。

エンティティフィルターの作成

ワークスペースビューのエンティティタイプの下にエンティティフィルターを作成します。エンティティタイプのエンティティは、エンティティフィルターで設定された条件に基づいて作成されます。エンティティフィルターは、表示用に各エンティティタイプにプルされるデータの取得元テーブルを定義します。

始める前に

必要なロール：sn_grc.manager、sn_risk_workspace.IT_risk_manager、および sn_risk_workspace.operational_risk_manager

このタスクについて

エンティティタイプには、次のいずれかのフィルター条件を使用できます。

- 独自の条件を作成
- 事前定義されたクエリから選択

手順

1. 目的のワークスペース、リストビューの順に移動して、[エンティティタイプ] をクリックします。
2. リスト内のエンティティタイプをクリックし、[エンティティフィルター] タブに移動します。
3. 新しいエンティティフィルターを作成するには、[新規] をクリックします。
   新しいエンティティフィルターの作成ページが表示されます。
4. [詳細] タブで、フィールドに入力します。

新しいエンティティフィルターの作成フォームの [詳細] タブ

フィールド	説明
フィルター対象	
エンティティタイプ	新しいエンティティフィルターが作成されるエンティティタイプの名前。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
フィルター条件	
エンティティフィルタータイプ：独自の条件を作成	データのフィルタリングに使用されるエンティティフィルターのタイプ。構成管理データベース (CMDB) クエリビルダーを使用して、独自のクエリを作成します。 構成管理データベース (CMDB) は、データベースでエンティティを検索するために使用されます。次のフィルタリング手法が用意されています。 ○ 独自の条件を作成 ○ 事前定義されたクエリから選択 [独自の条件を作成] エンティティフィルタータイプの場合、次の手順を実行します。 **a.** [エンティティフィルタータイプ] フィールドで、エンティティフィルタータイプとして [独自の条件を作成] を選択します。 **b.** [テーブル] フィールドで、設定されたリストからテーブルを選択します。 **c.** [フィルター条件] フィールドで [条件を設定] をクリックし、フィルター条件を作成して [設定] をクリックし、一致する結果を表示します。
エンティティフィルタータイプ：[事前定義されたクエリから選択] オプション	エンティティをスコープするための事前定義されたクエリ。[事前定義されたクエリから選択] オプションの場合は、次の手順を実行します。 **a.** [クエリ] フィールドで、選択したエンティティに適用可能な [情報オブジェクトを使用するビジネスアプリ **(Business Apps using Information Object)]** などの事前定義されたクエリを選択します。 事前定義されたクエリが選択されたときにエンティティに関連付けられたテーブル。テーブルは自動的に入力されます。 **b.** [情報オブジェクト] フィールドで、情報オブジェクトが関連付けられているアプリケーションとプロセスのみを選択します。情報オブジェクトを追加するには、[情報オブジェクト] をクリックし、「`メール`」などの情報オブジェクトを入力します。 **注:** エンティティスコーピングに事前定義された CMDB クエリを使用するには、GRC アドミニストレーターが選択した CMDB クエリに **GRC** スコーピングタグをアサインする必要があります。 sn_grc.admin ユーザーとして、次の場所に移動します。 **GRC** プロパティ**>**ポリシーとコンプライアンス**>**管理 または、 **GRC** プロパティ**>** リスク管理 インスタンスで、[**CMDB** クエリのエンティティスコーピングを有効にする] プロパティを [はい] に設定し、[保存] をクリックします。
アサイン	
エンティティクラス	エンティティタイプに関連付けられるエンティティクラス。エンティティタイプの下でエンティティフィルターにエンティティクラスをアサインできるようになりました。エンティティフィルターを使用して新しいエンティティを作成すると、エンティティクラスが自動的にアサインされます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
オーナーフィールドを使用	オーナーフィールドを使用するためのオプション。オーナーは、エンティティタイプに関連付けられている特定されたリスクオーナーです。この条件は、クエリの [オーナー] フィールド情報を使用します。このフィールドのチェックボックスをオンにすると、次のフィールドが表示されます。 ○ [オーナー] フィールド：[オーナー] フィールドを変更する前に、テーブルを選択します。次に、新しいエンティティフィルターに関連付けるオーナーを選択します。 ○ [デフォルトのオーナー] フィールド：リストからデフォルトのオーナーを選択します。 ○ [空のオーナー] フィールド：次のいずれかのオプションを選択します。 ▪ [作成]：エンティティフィルターのオーナーを作成します。 ▪ [作成しない]：エンティティフィルターの新しいオーナーを作成しません。 ▪ [デフォルトを使用]：エンティティフィルターのデフォルトのオーナーを使用します。
添付ファイル	サイドパネルに表示されるエンティティに関連付けられた添付ファイル。

5. エンティティフィルターを保存するには、[保存] をクリックします。

でエンティティフィルターを作成する コア **UI**

クラシックユーザーインターフェイスのエンティティタイプで、エンティティフィルターを作成します。エンティティフィルターは、表示用に各エンティティタイプにプルされるデータの取得元テーブルを定義します。エンティティがアプリケーションに属している場合、エンティティに関連付けられているエンティティクラスへのアクセス権を持つユーザーは、それらのエンティティのみを表示できます。

始める前に

必要なロール：sn_grc.manager

手順

1. クラシックユーザーインターフェイスで、 エンティティタイプ の一番下に配置されます。

2. リスト内のエンティティタイプをクリックし、[エンティティフィルター] タブに移動します。

3. 新しいエンティティフィルターを作成するには、[新規] をクリックします。

エンティティフィルターの作成フォーム

フィールド	説明
エンティティタイプ	エンティティタイプの名前。
エンティティフィルタータイプ	エンティティフィルターのタイプ。オプションは次のとおりです。 ○ 独自の条件を作成 ○ 事前定義されたクエリから選択
テーブル	レコードがフィルターされるテーブルの名前。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
フィルター条件	一致する結果を表示するフィルター条件。
エンティティクラス	エンティティタイプのエンティティクラス。
オーナーフィールドを使用	クエリの [オーナー] フィールド情報を使用するオプション。オーナーは、エンティティタイプに関連付けられている特定されたリスクオーナーです。このオプションをオンにすると、次のフィールドが表示されます。 ○ [オーナー] フィールド：[オーナー] フィールドを変更する前に、テーブルを選択します。次に、新しいエンティティフィルターに関連付けるオーナーを選択します。 ○ [デフォルトのオーナー] フィールド：リストからデフォルトのオーナーを選択します。 ○ [空のオーナー] フィールド：次のいずれかのオプションを選択します。 ▪ [作成]：エンティティフィルターのオーナーを作成します。 ▪ [作成しない]：エンティティフィルターの新しいオーナーを作成しません。 ▪ [デフォルトを使用]：エンティティフィルターのデフォルトのオーナーを使用します。

4. エンティティフィルターを保存するには、[送信] をクリックします。

エンティティ層

エンティティ層を作成すると、エンティティクラスにレベルまたは階層を適用できます。このレベルは、エンティティクラスに関連付けられているすべてのエンティティに適用されます。エンティティ層を使用すると、ビジネスで最も重要なアイテムのステータスを選択して表示できます。

次の例を考えてみましょう。組織の最高製品責任者が、最も重要な財務ビジネスアプリケーションのみのステータスの確認を希望しているとします。エンティティの階層または一連の層を作成した場合は、層 1 のエンティティをフィルターして、必要なデータを表示できます。各エンティティクラスは 1 つの層にのみ属することができます。

エンティティ層を作成することで、下位層のエンティティが上位層のエンティティにどのように影響するかをより適確に把握できます。たとえば、ビジネスが層 1、アプリケーションが層 2、IT 資産が層 3 であるエンティティ階層を作成したとします。そのため、層 3 のエンティティのリスクは層 2 のエンティティに影響し、さらに層 1 に影響します。このロールアップまたは集計により、正確なリスクスコアが得られます。

[エンティティ層] オプションは、ワークスペースのリストビューの下に表示されます。エンティティ層をクリックすると、その詳細が表示されます。エンティティ層ページの [詳細] タブには、次の情報が表示されます。

エンティティ層ページの [詳細] タブ

フィールド	説明
ラベル	「アプリケーション」や「ビジネス」などのユーザーインターフェイスに表示されるエンティティ層のラベル。
層レベル	15 または 20 などのエンティティ層の層レベル。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エンティティ層ページの [詳細] タブ (続く)

フィールド	説明
名前	アプリケーションやビジネスなどのエンティティ層の名前。

エンティティ層を作成する

組織内のエンティティクラスのエンティティ層を作成します。エンティティ層を作成すると、エンティティクラスにレベルまたは階層を適用できます。階層レベルは、エンティティクラスに関連付けられているすべてのエンティティに適用されます。

始める前に
必要なロール:sn_grc.admin

手順

1. 移動先 アドミニストレーション > エンティティ層 コア UI。
   [エンティティ層] リストが表示されます。
2. [新規] をクリックします。
   [詳細] タブを含む新しいエンティティ層の作成ページが表示されます。ブレッドクラムナビゲーションメニューがページの上部に表示されます。
3. [詳細] タブで、フィールドに入力します。

エンティティ層フォームの [詳細] タブ

フィールド	説明
ラベル	新しいエンティティ層のラベル。
層レベル	新しいエンティティ層の層ラベル。
名前	新しいエンティティ層の名前。
添付ファイル	サイドパネルに表示されるエンティティに関連付けられた添付ファイル。

4. エンティティ層を保存するには、[保存] をクリックします。

ガバナンス、リスク、コンプライアンス 例外の表示と更新

ビジネスプロセスにおける重大な問題を迅速に特定して対処することが企業にとって極めて重要であるため、例外が問題になる前にそれらを報告します。例外を使用したエラーの管理は、従来のエラー管理手法よりも優れています。

始める前に
必要なロール：sn_grc.admin

このタスクについて
例外レポートは、実際のパフォーマンスが予想から逸脱しているインスタンスを一覧表示するドキュメントです。GRC 例外は、ビジネス例外を記録したり、GRC オブジェクト (各種法令・基準内項目、自動要素など) に関連付けたりすることができる機能です。各例外レコードには、例外のカテゴリ、テーブル内のレコード、例外が関連付けられているフィールドなどの詳細が含まれています。アドミニストレーターは、例外のリストを表示して解決できます。例外が発生するたびに、例外を解決するためのソリューションも例外の説明で提示されます。アドミニストレーターは、提案されたソリューションを使用して例外を解決します。例外の例として、ユーザーがリスクアセスメント方法を

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

設定していないが、オブジェクトアセスメントを実行しようとしている場合があります。アドミニストレーターが 1 つのタイプの例外を解決すると、他の同様の例外がすべて解決されます。

手順

1. 移動先 **GRC** 例外 > 例外レポート.
2. 解決する例外レコードを開きます。
3. フォームのフィールドに入力します。

例外フォーム

フィールド	説明
数値	発生した例外の一意の番号。
例外カテゴリ	例外が属するカテゴリ。以下から選択可能です。 ○ 構成：例：リスクアドミニストレーターは、フォームを構成し、ユーザーに適切なロールがないタスクを実行するための権限をそのユーザーに付与しようと試みます。 ○ ランタイム：例：インジケーターなど何かが自動的に実行される場合です。
状況	例外のステータス。デフォルトのステータスは [オープン] です。
アプリケーション	例外が属するアプリケーション。
説明	例外の詳細な説明と、解決するための考えられるソリューション。
例外レコードの詳細	
ソーステーブル	例外が発生したテーブル。
レコード参照	例外が発生したレコード。たとえば、リスクアセスメントのインスタンス応答で例外が発生します。
列参照	レコードを含む列。
アクティビティ	
追加コメント	例外の解決に関するメモまたはその他の追加情報。
アクティビティ	例外に関するアクティビティのストリームを表示します。

4. 例外のステータスを変更した後、[更新] をクリックします。
5. [削除] をクリックしてレコードを削除します。

最高情報セキュリティ責任者向けのサイバーセキュリティエグゼクティブダッシュボード

サイバーセキュリティエグゼクティブダッシュボードは、組織のセキュリティ体制スコアの包括的な概要を最高情報セキュリティ責任者に提供します。ただし、コンプライアンスとリスクのユーザー

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

は、[リスクとコンプライアンス] ページを使用して、すべての GRC メトリクスの包括的な全体像を取得できます。

[リスクとコンプライアンス (Risk and compliance)] ダッシュボードとアクセス制御の制限にアクセスするには、「 Risk and compliance dashboard for GRC: Metrics 」を参照してください。

サイバーセキュリティエグゼクティブダッシュボードの機能の詳細については、「 Cybersecurity Executive Dashboard 」を参照してください。

詳細 ガバナンス、リスク、コンプライアンス アプリケーションリスクダッシュボード

GRC アプリケーションリスクとコンプライアンスの概要ダッシュボードは、企業で使用されているビジネスアプリケーションのリスクとコンプライアンスの側面の最新のビューを提供します。

アプリケーションリスクダッシュボードは、最高情報責任者 (CIO) とアプリケーションオーナーに役立ちます。これらの両方のユーザーは、ダッシュボードを表示するために、sn_compliance.reader、sn_risk.reader、および sn_audit.user ロールが必要です。移動先 詳細 **GRC** ダッシュボード > アプリケーションリスクダッシュボード.[アプリケーションリスクとコンプライアンスの概要ダッシュボード] が表示されます。

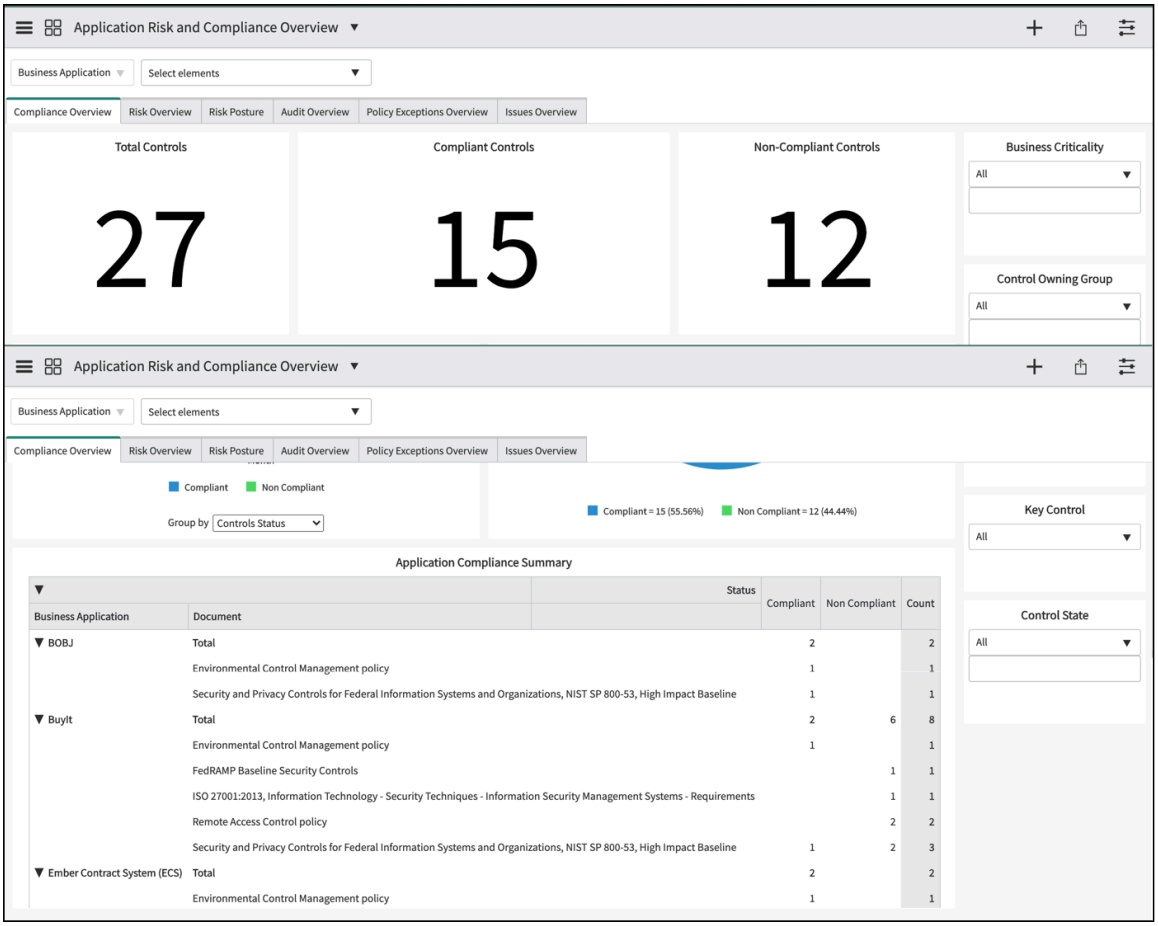
> **注:**
> このダッシュボードを表示できるようにするには、GRC: Advanced Dashboards (com.sn_grc_pa_advanced) プラグインと GRC：ポリシーとコンプライアンス管理 (sn_compliance) プラグインをアクティブ化する必要があります。

[アプリケーションリスクとコンプライアンスの概要] ダッシュボードは、組織内のすべてのビジネスアプリケーションのリスクとコンプライアンス体制の詳細なレポートを提供します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションリスクとコンプライアンスダッシュボード



このダッシュボードは、次の点をハイライト表示します。

- 使用中のアプリケーションのコンプライアンスへの影響。
- アプリケーションのリスク体制。
- 問題の修正および例外アクティビティのステータス。
- アプリケーションとステータスに関する監査アクティビティ。

このダッシュボードは、CIO とアプリケーションオーナーが関心を持つ、次の質問に対する回答を提供します。

1. 主要なアプリケーションは何であり、それらはすべて運用され、必要なサービスを最適に提供しているか？
2. アプリケーションが準拠する必要があるポリシーと各種法令・基準等は何か？アプリケーションはそれらに準拠しているか？
3. アプリケーションが直面するリスクは何か？それらのいずれかは懸念を提起する可能性が高いか？十分な軽減策が実施されているか？適切なコントロールがあり、効果的に機能しているか？
4. 修正が必要なアプリケーションについて、修正はサービスレベルアグリーメント (SLA) に従って適宜実施されているか？最大数の問題を生成するアプリケーションはどれか？
5. アプリケーションで例外が頻繁に求められているか？また、その理由は何か？管理可能な範囲内か？
6. アプリケーションの監査は随時可能か？アプリケーションはこれらの監査でどのような実績であったか？

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ダッシュボードは、棒グラフ、ドーナツグラフ、トレンドチャートなどのさまざまな表現を提供します。アプリケーションオーナーは、ダッシュボードでさまざまなフィルターを使用して、重要なビジネスアプリケーション、特定のビジネスアプリケーションに関連する必須コントロール、または優先度の高い問題など、所有するビジネスアプリケーションに関連するレポートを表示できます。

コンプライアンスの概要

ポリシーとコンプライアンスプラグインをアクティブ化すると、[コンプライアンスの概要] タブが表示されます。[コンプライアンスの概要] タブには、ビジネスアプリケーションのコンプライアンス体制の概要が表示され、次のレポートが表示されます。

- コントロール合計：このレポートには、アクティブなコントロールの合計数が表示されます。
- 準拠コントロール：このレポートには、ドラフトまたは廃止ステータスではない準拠コントロールの合計数が表示されます。
- 非準拠コントロール：このレポートには、ドラフトまたは廃止ステータスではない非準拠コントロールの合計数が表示されます。
- 月別のコンプライアンスステータス：このレポートには、月別のアクティブなコントロールの数が表示されます。

  注:
  この棒グラフは、当月のコンプライアンスステータスを示し、コントロールステータスまたはビジネスアプリケーションのいずれかでグループ化できます。

- コンプライアンス %：このレポートは、準拠、非準拠、適用外などのアクティブなコントロールのさまざまな状況の割合を示します。
- アプリケーションコンプライアンスのサマリー：このレポートには、ビジネスアプリケーションに関連付けられているポリシー、各種法令・基準等、およびコントロールのサマリーが表示されます。

次のフィルターを使用して、レポートのデータをフィルタリングできます。

- ビジネスアプリケーション
- 事業上の重要度
- エンティティオーナー
- 強制または任意のコントロールなどの適用
- キーコントロール
- コントロールステータス
- コントロール所有グループ

リスク概要

高度なリスクプラグインをアクティブ化すると、[リスク概要] タブが表示されます。[リスク概要] タブには、ビジネスアプリケーションに関連付けられているリスクの概要が表示され、次のレポートが表示されます。

- アプリケーション重要度別のリスクヒートマップ：このレポートには、アプリケーションの重要度とアプリケーションのリスク評価を比較したアプリケーションリスクのヒートマップが表示されます。
- リスク応答タスクの概要：このレポートには、リスクに対して作成された対応タスクと、それらのタスクのさまざまな状況が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:**
> この棒グラフは、リスク応答、リスク応答ステータス、リスク計算済みスコア、リスク応答のアサイン先、またはビジネスアプリケーション別にグループ化およびスタックできます。

- アプリケーションリスクサマリー：このレポートには、アプリケーションの全体的なリスク評価に寄与する、アプリケーションに直接関連付けられたリスクのサマリーが表示されます。アプリケーションリスク評価に寄与する他のダウンストリームリスクは、このレポートには表示されません。このレポートで考慮されるリスクは、非常に高い、高、中です。
- アプリケーションリスク軽減コントロールのステータス：このレポートには、アプリケーションのリスクと関連付けられているコントロールに関する情報が表示されます。このレポートで考慮されるリスクは、非常に高い、高、中です。コントロールのステータスがドラフトまたは廃止である必要があります。1 年間のリスクのみが表示されます。

次のフィルターを使用して、レポートのデータをフィルタリングできます。

- ビジネスアプリケーション
- 重要度
- リスク評価
- アプリケーションオーナー
- 事業主

リスク体制

リスクプラグインをアクティブ化すると、[リスク体制] タブが表示されます。[リスク体制] タブは、ビジネスアプリケーションのリスクエクスポージャーに関する情報を提供します。このタブのレポートは、ビジネスアプリケーションフィルターを使用してフィルタリングすることもできます。[リスク体制] タブには以下が表示されます。

- 超高リスク：このレポートには、アプリケーションの超高リスクが表示されます。
- 高リスク：このレポートには、アプリケーションの高リスクが表示されます。
- 中リスク：このレポートには、アプリケーションの中リスクが表示されます。
- 受け入れタスクの有効期限：このレポートには、現在の日、現在の週、現在の月、現在の四半期、および現在の年に有効期限があるリスク応答受け入れタスクが表示されます。
- 貢献リスクの傾向：このレポートには、ビジネスアプリケーションに直接関連付けられているリスクの傾向と、一定期間のリスクのパフォーマンスが表示されます。アプリケーションリスク評価に寄与する他のダウンストリームリスクは、このレポートには表示されません。

監査の概要

Audit プラグインをアクティブ化すると、[監査の概要] タブが表示されます。[監査の概要] タブには、ビジネスアプリケーションに関連する監査と監査アクティビティの概要が示され、次のレポートが表示されます。

- オープン監査エンゲージメント：このレポートには、オープンステータスの監査エンゲージメントの数が表示されます。
- 無効なコントロール：このレポートには、監査エンゲージメントに対して無効なコントロールの数が表示されます。
- オープンな問題：このレポートには、監査エンゲージメントのオープンな問題の数が表示されます。
- 期限切れの問題：このレポートには、アプリケーションの期限切れの監査の問題の数が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 今後の監査エンゲージメント：このレポートには、今後の監査エンゲージメントの月次カウントが表示されます。
- 監査エンゲージメント別のオープンな問題：このレポートには、オープンな監査問題の月次カウントが表示されます。
- 監査エンゲージメント別の期限切れの問題：このレポートには、一定期間の期限切れの監査の問題が表示されます。
- 監査エンゲージメント別の無効なコントロール：このレポートには、監査エンゲージメントと関連付けられている無効なコントロールに関する情報が表示されます。

次のフィルターを使用して、レポートのデータをフィルタリングできます。

- ビジネスアプリケーション
- 監査エンゲージメント
- 重要度

ポリシー例外の概要

ポリシーとコンプライアンスプラグインをアクティブ化すると、[ポリシー例外の概要] タブが表示されます。[ポリシー例外の概要] タブには、ビジネスアプリケーションに対して要求されたポリシー例外に関する情報が表示されます。[ポリシー例外の概要] タブに表示されるデータは、ビジネスアプリケーションフィルターを使用してフィルタリングできます。このタブには次のレポートが表示されます。

- 新しい例外：このレポートは、要求された新しい例外に関する情報を提供します。
- 承認済み例外：このレポートは、承認済み例外の数に関する情報を提供します。
- 却下された例外：このレポートは、却下された例外の数に関する情報を提供します。
- 期限切れの例外：このレポートは、期限切れの例外の数に関する情報を提供します。
- 承認待ちの例外：このレポートは、現在の日付、現在の週、現在の月、および現在の四半期に期限が来る、承認待ちの例外に関する情報を提供します。
- 承認待ちの延長：このレポートは、現在の日付、現在の週、現在の月、および現在の四半期に期限が来る、承認待ちの延長に関する情報を提供します。
- 予定されている例外の有効期限：このレポートは、現在の日付、現在の日付の翌日、現在の週、現在の週の次の週、および現在の月に期限切れになる予定の例外に関する情報を提供します。
- 例外要求数と承認数：このレポートは、月ごとの要求された例外と承認された例外の数に関する情報を提供します。

問題の概要

リスク管理 プラグインまたは ポリシーとコンプライアンス管理 プラグインをアクティブ化すると、[問題の概要] タブが表示されます。[問題の概要] タブには、ビジネスアプリケーションに関連付けられているさまざまなコンプライアンスとリスクの問題に関する情報が表示されます。[問題の概要] タブに表示されるデータは、ビジネスアプリケーションフィルターを使用してフィルタリングできます。このタブには次のレポートが表示されます。

- オープンな問題：このレポートには、オープンステータスの問題の数が表示されます。
- 重要な優先度の問題：このレポートには、重要な優先度の問題の数が表示されます。
- 最優先の問題：このレポートには、最優先の問題の数が表示されます。
- 承認された問題：このレポートには、承認された問題の数が表示されます。
- 期限切れの問題：このレポートには、期限切れの問題の数が表示されます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 解決する問題：このレポートには、現在の日付、現在の週、現在の月、現在の四半期、および現在の年に解決する必要がある問題の数が表示されます。
- 完了する修復タスク：このレポートには、現在の日付、現在の週、現在の月、現在の四半期、および現在の年に完了する必要がある修復タスクの数が表示されます。
- 期限切れの問題：このレポートには、一定期間の期限切れの問題の数が表示されます。
- 期限切れの修復タスク：このレポートには、一定期間の期限切れの修復タスクの数が表示されます。
- 問題作成の傾向：このレポートには、一定期間の問題の作成方法の傾向が表示されます。
- 問題クローズの傾向：このレポートには、一定期間の問題のクローズ方法の傾向が表示されます。
- 修復タスク作成の傾向：このレポートには、一定期間の修復タスクの作成方法の傾向が表示されます。
- 修復タスククローズの傾向：このレポートには、一定期間の修復タスクのクローズ方法の傾向が表示されます。

GRC ライセンスのサマリーダッシュボード

GRCライセンスの概要ダッシュボードを使用して、ライセンス使用の傾向と翌月の予測される使用状況を追跡します。さまざまな製品ファミリーのライセンス消費の集計数を確認できます。また、ロールを検索して、これらのロールがユーザーに割り当てられているときに、組み合わせた GRC ライセンスの扱いを特定することもできます。

GRCライセンスの概要ダッシュボードには、統合リスク管理、事業継続性管理、プライバシー管理など、さまざまな製品ファミリーのライセンス消費の月次集計数が表示されます。

ダッシュボードにアクセスするには、製品所有者ロール (sn_irm_shared_cmn.product_owner) が必要です。移動先 すべて > **GRC** ライセンスの概要 > ライセンスのサマリーダッシュボード.

GRC ライセンスの概要ダッシュボードのタブ

GRCライセンスの概要ダッシュボードには、次の 3 つのタブがあります。

- ライセンス消費:ライセンス使用状況、製品ファミリーのフィルターを使用した使用状況の傾向分析、および前月比のライセンス使用状況を表示します。
- 来月の推定使用量:ユーザーにアサインされている現在のロールのみに基づいて、翌月の推定ライセンス使用量が表示されます。
- ライセンスマッピングへのロール属性:デフォルトの GRC ロールのライセンスマッピング、ユーザーライセンスの扱い、ユーザーグループに割り当てられたロールに基づくユーザーグループに属するユーザーのライセンスの扱い、および複数のロールの組み合わせに基づくライセンスの扱いを表示します。

[ライセンス消費] タブ

名前	説明
IRM オペレーター	前月の IRM オペレーターの数。 **注:** IRM オペレーターカードは、[製品ファミリー] フィールドで [IRM オペレーター] が選択されている場合にのみ使用できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動翻訳

[ライセンス消費] タブ (続く)

名前	説明
IRM Lite オペレーター	前月の IRM Lite オペレーターの数。 **注:** IRM Lite オペレーターカードは、[製品ファミリー] フィールドで [IRM オペレーター] が選択され、 GRC: Business User – Lite アプリケーションがインストールされている場合にのみ使用できます。
PRM オペレーター	前月の PRM オペレーターの数。 **注:** PRM オペレーターカードは、[製品ファミリー] フィールドで [PRM オペレーター] が選択されている場合にのみ使用できます。
PRM Lite オペレーター	前月の PRM Lite オペレーターの数。 **注:** PRM Lite オペレーターカードは、[製品ファミリー] フィールドで [PRM オペレーター] が選択され、 GRC: Privacy Lite User アプリケーションがインストールされている場合にのみ使用できます。
BCM オペレーター	前月の BCM オペレーターの数。 **注:** BCM オペレーターカードは、[製品ファミリー] フィールドで [BCM オペレーター] が選択されている場合にのみ使用できます。
BCM Lite オペレーター	前月の BCM Lite オペレーターの数。 **注:** BCM Lite オペレーターカードは、[製品ファミリー] フィールドで [BCM オペレーター] が選択され、 GRC: Business Continuity Management User - Lite アプリケーションがインストールされている場合にのみ使用できます。
使用状況の傾向の分析	指定した期間におけるさまざまなタイプのライセンスの使用パターンを表示します。この情報を使用して、時間の経過に伴うライセンス消費の変化と傾向を追跡します。さらに、事前定義された日付範囲またはカスタムの日付範囲に基づいて使用傾向をフィルタリングできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ライセンス消費] タブ (続く)

名前	説明
月次のライセンスの使用状況 (License utilization month on month)	さまざまなライセンスタイプの過去 12 か月間の使用状況 (実際の期間やカウントを含む) を表示します。数を選択すると、ユーザー、ライセンス可能なアプリケーションファミリー、ライセンスタイプ、ライセンス貢献ロールなどの詳細情報が表示されます。

[ライセンス使用状況] 列

名前	説明
ユーザー	ユーザー名を表示します。
ライセンス可能なアプリケーションファミリー	ユーザーが属するライセンス可能なファミリを表示します。
ライセンスタイプ	ライセンスタイプが使用量ベースかロールベースかを示します。
ライセンスの貢献ロール	ユーザーのライセンスの扱いに寄与するすべてのロールを表示します。

来月の推定使用量

名前	説明
IRM オペレーター	翌月の IRM Operator の推定数。 **注:** IRM オペレーターカードは、[製品ファミリー] フィールドで [IRM オペレーター] が選択されている場合にのみ使用できます。
IRM Lite オペレーター	翌月の IRM Lite オペレーターの推定数。 **注:** IRM Lite オペレーターカードは、[製品ファミリー] フィールドで [IRM オペレーター] が選択され、 GRC: Business User – Lite アプリケーションがインストールされている場合にのみ使用できます。
PRM オペレーター	翌月の PRM オペレーターの推定数。 **注:** PRM オペレーターカードは、[製品ファミリー] フィールドで [PRM オペレーター] が選択されている場合にのみ使用できます。
PRM Lite オペレーター	翌月の PRM Lite オペレーターの推定数。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

来月の推定使用量 (続く)

名前	説明
	注: PRM Lite オペレーターカードは、[製品ファミリー] フィールドで [PRM オペレーター] が選択され、 GRC: Privacy Lite User アプリケーションがインストールされている場合にのみ使用できます。
BCM オペレーター	翌月の BCM オペレーターの推定数。 注: BCM オペレーターカードは、[製品ファミリー] フィールドで [BCM オペレーター] が選択されている場合にのみ使用できます。
BCM Lite オペレーター	翌月の BCM Lite オペレーターの推定数。 注: BCM Lite オペレーターカードは、[製品ファミリー] フィールドで [BCM オペレーター] が選択され、 GRC: Business Continuity Management User - Lite アプリケーションがインストールされている場合にのみ使用できます。
ユーザーロール割り当て	ユーザーの概要、ユーザーが関連付けられているライセンス可能なアプリケーションファミリー、およびユーザーにアサインされたロールが表示されます。この情報を使用して、各ユーザーへの現在のロール割り当てに基づいて、翌月の推定ライセンス使用状況を可視化します。

ライセンスマッピングへのロール属性

名前	説明
デフォルトロールのライセンスの扱い	デフォルトの GRC ロールと、それらがマッピングされているライセンス可能なアプリケーションファミリーの概要を示します。デフォルトの GRC ロールに関連付けられているライセンスを確認すると、各ロールの正しいライセンスの扱いを特定するのに役立ちます。
ユーザー/ユーザーグループのライセンスの扱い	特定のユーザーのライセンスの扱いを表示します。ユーザーを検索し、アサインされたロールに基づいて、ユーザーが属するライセンス可能なアプリケーションファミリーを確認できます。

自動翻訳

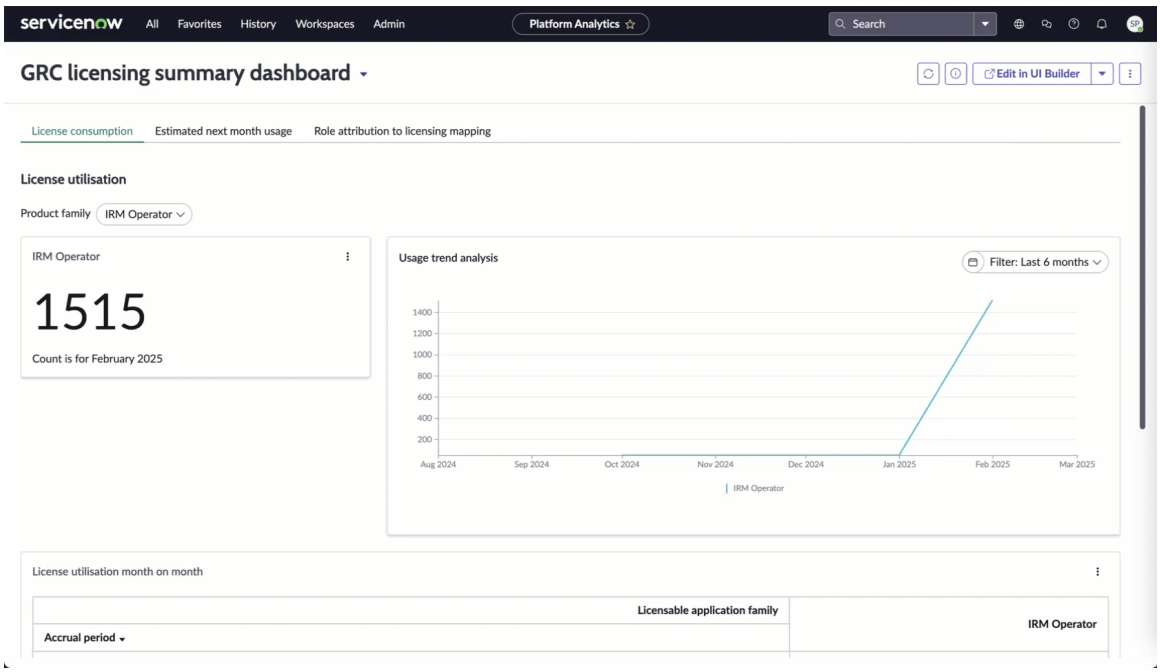
© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ライセンスマッピングへのロール属性 (続く)

名前	説明
	ユーザーグループに割り当てられているロールに基づいてユーザーグループに追加されたときのユーザーのライセンスの扱いを理解するのに役立ちます。
ロールに基づくライセンスの扱い	ロールの特定の組み合わせに対するライセンスの扱いを表示します。ロールを検索して、これらのロールがユーザーに割り当てられているときに、組み合わせた GRC ライセンスの処理を特定できます。 **注:** 組み合わせたロールライセンスの処理結果は、お客様のライセンスエンタイトルメントとインストールされているアプリケーションに基づいています。

次の図は、[GRC ライセンスの概要 (licensing summary)] ダッシュボードで使用できるタブ、セクション、およびカードを示しています。

GRC ライセンスのサマリーダッシュボード



ユーザーのロール階層の表示

ロール階層ノードマップには、ロールベースのユーザーのライセンス貢献ロール間の関係が表示され、ユーザーのライセンスの扱いに関するインサイトが提供されます。

ユーザーに子ロールを持つ直接ロールが割り当てられている場合、ユーザーは子ロールのすべての権限を継承します。このような場合、ユーザーのライセンスの扱いは、ロールの組み合わせによって異なります。

GRC ユーザーは、使用量ベースまたはロールベースのライセンスを使用できます。ライセンス使用状況が使用量ベースの場合、選択したユーザーのロール階層はありません。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

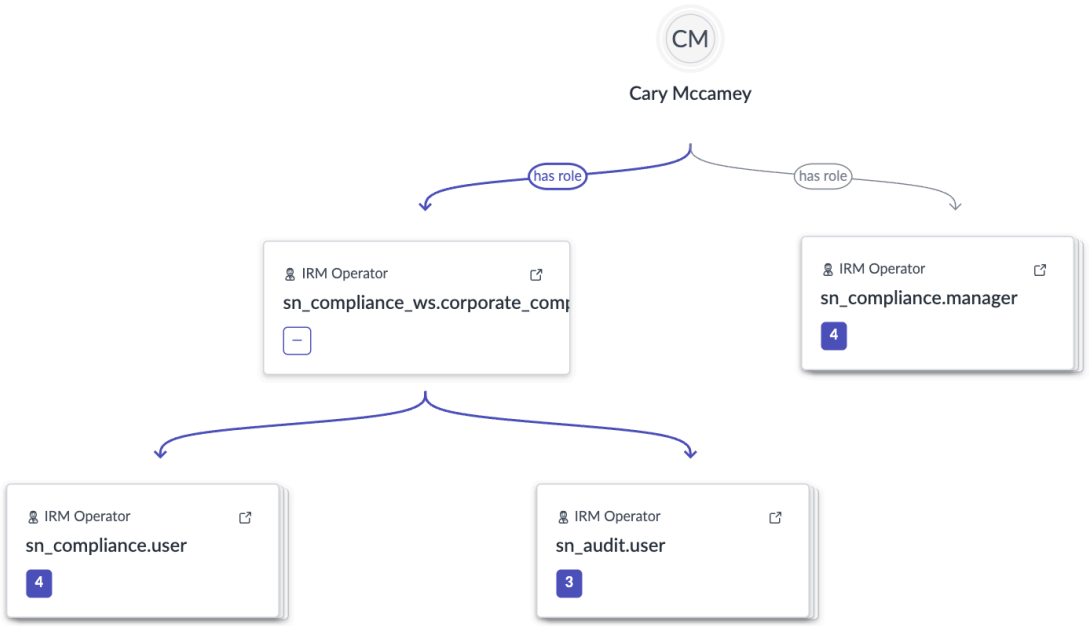
ユーザーのロール階層を表示するには、次のいずれかの方法を使用します。

- GRC ライセンスの概要ダッシュボードの [ライセンスの消費] タブで、ユーザー数を選択し、次にユーザーを選択して [ロール階層の表示] を選択します。
- GRC ライセンスの概要ダッシュボードの [来月の推定使用量] タブで、ユーザー数を選択し、次にユーザーを選択して [ロール階層の表示] を選択します。または、[ユーザー ロールの割り当て] でユーザーを選択し、[ロール階層の表示] を選択します。

ロール階層ノードマップには、ユーザーの子関係が表示されます。ユーザーに複数のロールがアサインされている場合、ロール階層ノードマップには階層全体が表示されます。

注:
ライセンス消費は、計算時に利用可能なライセンス可能なロールに基づいて計算されます。ロール階層ノードマップを表示した時点では、同じロールが使用できない場合があります。

次の図は、ユーザー Cary Mccamey のノードマップのサンプルを示しています。Cary は、sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst および sn_compliance.manager のロールを持っています。sn_compliance_ws.corporate_compliance_analyst ロールには、sn_compliance.user ロールと sn_audit.user ロールが含まれています。各ノードでカウントを選択すると、さらに展開されます。



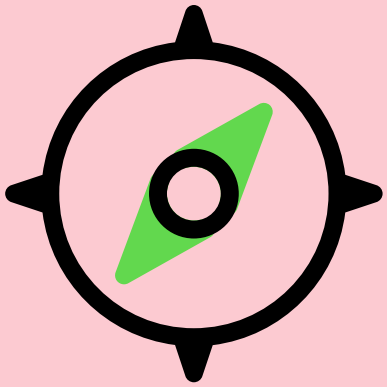
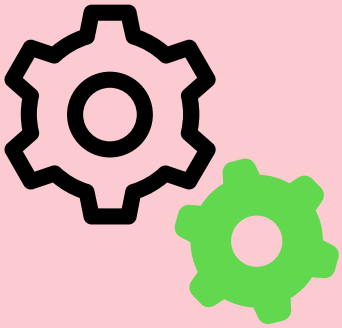
[store-future: BEGIN review]

Microsoft Word を使用したベースの監査レポートテンプレート ドキュメントデザイナー

Microsoft Word ベースの監査レポートは、監査管理者にとってアクセスしやすく、分かりやすいレポートです。技術的な専門知識がないユーザーでも、特定のニーズに合わせて、テンプレートを簡単に構成できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

探索	構成	使用
		
Microsoft Word ベースの監査レポートテンプレートがどのように機能するかを学習します。	Microsoft Word ベースの監査レポートテンプレートが機能するように構成します。	Microsoft Word ベースの監査レポートテンプレートを使用します。

[End]
[store-future: BEGIN review]

Microsoft Word ベースの監査レポートテンプレートの詳細

Word テンプレートを使用して、監査レポートテンプレートを作成およびカスタマイズします。このテンプレートは、特定のニーズに合わせて構成できます。テンプレートを設定したら、1 つ以上の監査エンゲージメントに適用して、Word 形式の監査レポートを自動生成できます。

この機能により、顧客は Word テンプレートを使用して、監査レポートテンプレートを作成できます。テンプレートを構成し、それを 1 つ以上の監査エンゲージメントに適用して、Word 形式で監査レポートを生成できます。生成されたレポートは、ドキュメントデザイナーを使用して共同で編集できるため、レビューと承認のプロセスが簡素化されます。

Word ベースの監査レポートテンプレートのメリット

1. 構成の容易さ：Word ベースのテンプレートを使用すると、高度な技術的知識がなくても、監査レポートテンプレートを簡単に設定およびカスタマイズできます。
2. コラボレーションの強化：生成された監査レポートは、ドキュメントデザイナーとシームレスに統合された Word ドキュメントであるため、簡単にリアルタイムにコラボレーションできます。この方法は、現在の方法 (公開された KB 記事の編集を含む) よりも効率的です。

[End]

Word アドインでドキュメントデザイナーを使用したドキュメントテンプレートの構成

ServiceNow ドキュメントデザイナーと Word アドインを使用して、監査レポートテンプレートを構成します。

ServiceNow ドキュメントデザイナーと Word アドインを正常に構成し、監査レポートテンプレートを作成するには、次の手順を実行します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ドキュメントデザイナーのテンプレートの構成

テンプレートを構成して、データを取得して、監査レポートに表示する必要があるフィールドを指定します。

データの関係を作成する

テンプレート構成のレコードから必要なテーブルに移動するパスを作成します。これらのパスを作成すると、監査レポートテンプレートの各パスから必要なデータを取得できます。

コンテンツ構成を作成する

監査レポートを作成する時は、レコードリストまたは集計のいずれの場合も、表示またはフェッチするデータを定義します。たとえば、修復タスクのリストを表示するか、優先度の高い上位 5 つの問題のリストを表示するかを指定します。任意のテーブルから最大 200 件のレコードをフェッチできます。

Set up Microsoft 365 reporting configuration

Microsoft 365レポート構成レコードを設定して、開示レポートの目的でMicrosoft Wordドキュメントにインポートするデータポイントとレポートを指定します。

Add additional reporting configuration filters for a Microsoft 365 configuration record

レポートフィルターを追加して、テーブルから開示レポートにインポートする必要があるデータを詳細なレベルで指定します。

ServiceNow Document Designer アドインをインストールする

ServiceNow Document Designer アドインを Microsoft Word ドキュメントにインストールします。このアドインは、監査および CAM レポートテンプレートを作成するために必要です。

ServiceNow Document Designer を使用して監査レポートテンプレートを作成する

テンプレート構成を使用して、ニーズに合わせた監査レポートテンプレートのプレースホルダーを作成します。

自動翻訳

ドキュメントデザイナーのテンプレートの構成

テンプレートを構成して、データを取得して、監査レポートに表示する必要があるフィールドを指定します。

始める前に

必要なロール：sn_grc_doc_design.admin および sn_audit.admin

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査レポート > テンプレート構成.
2. **[New** (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

テンプレート構成フォーム

フィールド	説明
名前	テンプレート構成の名前。たとえば、エンゲージメントテンプレート構成を指定できます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ビジネスドメイン	テンプレートの構成元のドメイン。この例では、[監査] に設定されています。
テーブル	レポートが生成されるテーブル。
フィールド	レポートにデータを表示する必要があるフィールド。必要なフィールドを [利用可能] リストから [選択済み] リストに移動します。

4. **[Submit** (送信)] を選択します。

次のタスク
テンプレート構成からデータ関係パスを作成して、必要なテーブルに移動します。詳細については、「データの関係を作成する」を参照してください。

データの関係を作成する

テンプレート構成のレコードから必要なテーブルに移動するパスを作成します。これらのパスを作成すると、監査レポートテンプレートの各パスから必要なデータを取得できます。

始める前に
必要なロール：sn_grc_doc_design.admin および sn_audit.admin

このタスクについて
たとえば、監査エンゲージメントのデータの関係を作成する場合、問題、修復タスク、テスト計画などをテンプレート関係レジストリのレコードにどのように関連付けるかを指定し、各レコードに移動するためのパスを作成できます。関係は必要な数だけ作成できます。

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査レポート > テンプレート構成.
2. 作成したテンプレート構成を開きます。
3. [データの関係] 関連リストで、[新規] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

データの関係フォーム

フィールド	説明
名前	移動先のレベル。たとえば、[問題へのエンゲージメント (Engagement to issues)] を指定できます。
ソース	
親関係	データの関係の親。
ソーステーブル	作成されたデータの関係に使用されるソーステーブル。このフィールドは自動的に設定されます。
ターゲット	
ターゲット関係	既存の関係を選択するか、ターゲットの関係を作成します。たとえば、[エンゲージメントする問題 **(Issues to engagement)]** を選択できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: 詳細については、「Setting up the 360° views (360 度ビューの設定)」を参照してください。登録できるのは、表示するデータのタイプ間の既存の関係のみです。
関係性タイプ	多対多や 1 対多などの関係性のタイプ。このフィールドは、[ターゲット関係] フィールドでの選択に基づいて自動的に入力されます。
ターゲットテーブル	データの取得元のテーブル。このフィールドは、自動的に入力されます。

5. **[Submit** (送信)] を選択します。

次のタスク

コンテンツ構成を作成して、レポートでフェッチするデータのタイプを指定します。詳細については、「コンテンツ構成を作成する」を参照してください。

コンテンツ構成を作成する

監査レポートを作成する時は、レコードリストまたは集計のいずれの場合も、表示またはフェッチするデータを定義します。たとえば、修復タスクのリストを表示するか、優先度の高い上位 5 つの問題のリストを表示するかを指定します。任意のテーブルから最大 200 件のレコードをフェッチできます。

始める前に

必要なロール：sn_grc_doc_design.admin および sn_audit.admin

手順

1. 移動先 すべて > 監査 > 監査レポート > テンプレート構成.
2. コンテンツ構成を作成するテンプレートを開きます。
3. [コンテンツ構成] 関連リストで、[新規] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

コンテンツ構成フォーム

フィールド	説明
名前	コンテンツ構成の名前。たとえば、「修復タスクのリスト」など。
テンプレート構成	コンテンツ構成を定義するテンプレート構成。このフィールドは、ステップ 2 で選択した構成に基づいて自動的に設定されます。
ターゲットテーブル	データのフェッチ元のテーブル。
データの関係	コンテンツ構成を作成するデータの関係。以前に作成したデータの関係のみを選択できます。

5. 必要に応じて、フィルター基準と集計基準を作成します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. コンテンツブロックにテーブルとして挿入するテーブルまたはデータを指定するには、[コンテンツブロック基準] タブを選択します。
   a. [親ブロック構成] フィールドで、必要なコンテンツ構成を選択します。
   b. **[Submit** (送信)] を選択します。
7. [データ列] 関連リストで、選択したテーブルからレポートに使用する列を指定します。使用可能な標準列を指定するか、列のカスタムスクリプトを記述できます。

   注:
   テーブルとコンテンツブロックに最大 20 列を追加できます。

8. 監査レポートテンプレートに表示する必要がある列の順序を指定します。
9. [更新] を選択します。

ServiceNow Document Designer アドインをインストールする

ServiceNow Document Designer アドインを Microsoft Word ドキュメントにインストールします。このアドインは、監査および CAM レポートテンプレートを作成するために必要です。

始める前に

次のプラグインがアクティブであることを確認してください。

- sn_grc_doc_design
- sn_outlook_addin

必要なロール： sys_admin

手順

1. 移動先 すべて > **Office** 用 **ServiceNow** アドイン > **Office** アドインマニフェスト.
2. [Office マニフェスト] リストから、**[ServiceNow Document Designer]** を選択します。
3. [マニフェストをダウンロード] を選択します。
4. アドインを有効にするには、ステップ 3 でダウンロードしたマニフェストファイルを使用できる Microsoft 365 アカウントマネージャーにお問い合わせください。

次のタスク

マニフェストファイルの展開方法の詳細な手順については、Now Support ナレッジベースで「Deploy add-ins in the Microsoft 365 admin center (Microsoft 365 アドミンセンターでアドインを展開する) [KB1307378]」の記事を参照してください。

ブラウザーで Microsoft Word のアドインに対して HTTP 応答ヘッダーを構成するには、Now Support ナレッジベースで「Response header resolution (応答ヘッダー解決) [KB1434453]」の記事を参照してください。

ドキュメントデザイナー の参照情報

ドキュメントデザイナー プラグインとともにインストールされるプロパティがいくつかあります。これらのプロパティは、プラグインの動作のさまざまな側面を制御するのに役立ちます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インストールされるプロパティ

プロパティ	説明
com.snc.word_doc_api.size_limit_mb	このプロパティは、契約ドキュメントのサイズをメガバイト単位で制限します。デフォルト値は 5 です。
com.snc.word_doc_api.unzip_word_size_limit_mb	このプロパティは、解凍される Word ドキュメントのサイズをメガバイト単位で制限します。デフォルト値は 10 です。
com.snc.word_doc_api.supported_image_types	このプロパティにより、プロパティで指定された画像タイプのみがプラグインによって処理され、Word ドキュメントに挿入されます。サポートされている画像タイプは、png、jpg、jpeg、gif です。
com.snc.word_doc_api.disable_wordapi	このプロパティにより、プロパティが true に設定されている場合に API が機能しなくなります。デフォルト値は false です。
com.snc.word_doc_api.image_size_limit_kb	このプロパティにより、画像サイズ (KB) がプロパティ値より大きい場合、プラグインは処理を開始せず、ステータスエラーとエラーメッセージが表示されます。デフォルト値は 100 です。
com.snc.word_doc_api.max繰り返し	このプロパティは、リピーターブロック (コンテンツの定義されたセクション) が複製され、Word 文書に連続して挿入される回数を設定します。繰り返すたびに、前のブロックの直後にブロックの新しいインスタンスが追加され、繰り返されるセクションの連続したチェーンが作成されます。デフォルト値は 100 です。

自動翻訳

ServiceNow Document Designer を使用して監査レポートテンプレートを作成する

テンプレート構成を使用して、ニーズに合わせた監査レポートテンプレートのプレースホルダーを作成します。

始める前に
ServiceNow Document Designer with Word (sn_grc_doc_design) プラグインをインストールしてアクティブ化します。詳細については、「ServiceNow Document Designer アドインをインストールする」を参照してください。

テンプレートが構成されていることを確認します。詳細については、「ドキュメントデザイナーのテンプレートの構成」を参照してください。

レポートコンテンツを挿入および更新する場合は、 Microsoft 365 レポートを設定します。詳細については、「Set up Microsoft 365 reporting configuration」および「Add additional reporting configuration filters for a Microsoft 365 configuration record」を参照してください。

必要なロール：sn_audit.manager および sn_grc_doc_design.reader

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. テンプレートの作成に使用する Microsoft Word ドキュメントに移動します。
2. プレースホルダーを作成するには、リボンの [デザイン テンプレート] を選択します。
3. ServiceNow インスタンスにログインするには、監査マネージャーの認証情報を使用して、[ログイン] を選択します。
   a. ServiceNow のログイン画面で認証情報を入力します。
   b. [許可] を選択します。
4. [ServiceNow ドキュメントデザイナー (ServiceNow Document Designer)] ペインで、次のフィールドに入力します。
   a. [ビジネスドメイン] フィールドで、[監査] を選択します。
   b. [テンプレート構成 **(Template configuration)]** フィールドで、挿入する構成情報レコードを選択します。
   c. 選択したテンプレート構成を確認するには、[確認] を選択します。
   d. [データ] タブを選択してから [データ要素] フィールドを選択し、リストからテンプレートに表示するフィールドを選択します。
   設定されたフィールドのみを選択できます。
   e. データを挿入する位置にマウスデバイスを移動させて、[ロゴ]、[タイプ]、[名前] などのフィールドを挿入します。
   f. [テーブル] タブを選択し、[テーブル要素] フィールドで、リストからテンプレートに表示する構成済みのテーブル要素を選択します。
   たとえば、優先度の高い上位 5 つの問題のリストなどです。
5. 繰り返し表示できるスタイルを持つコンテンツブロックを挿入するには、[ブロック] を選択します。
   a. ドキュメントで、スタイルを繰り返すために使用する必要があるコンテンツを追加します。
   b. [コンテンツブロックのソース (Content block source)] フィールドで、コンテンツブロックにマッピングするアイテムを選択します。
   c. [コンテンツブロックを追加] を選択します。
   ドキュメント内のコンテンツはコンテンツブロックにラップされ、[データ] オプションと [テーブル] オプションを使用できます。
   d. コンテンツブロックの構成済みの列からデータを挿入するには、[データ] を選択します。
   e. **[Add** (追加)] を選択します。
   f. テーブルからコンテンツを挿入するには、[テーブル] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

目的のテーブルを選択したら、[列の編集] を選択して、必要に応じて列を並べ替えることができます。

g. **[Add** (追加)] を選択します。

6. レポート コンテンツを挿入するには、リボンの [コンテンツの挿入] を選択します。

a. [**Data** (データ)] タブを選択します。

b. [ビジネスドメイン] フィールドで、[監査] を選択します。

c. [レポートアイテム] フィールドで、必要な設定レコードを選択します。

d. 利用可能なフィールドで、テンプレートに表示する項目を選択します。
設定されたフィールドのみを選択できます。

e. コンテンツを挿入する位置にマウス デバイスを移動し、[追加] を選択します。
データがテンプレートに挿入されます。挿入されるテキストには、ドキュメントの書式が使用されます。必要に応じて書式設定を変更できます。

f. [テーブル] タブを選択します。

g. [ビジネスドメイン] フィールドで、[監査] を選択します。

h. [レポートアイテム] フィールドで、必要な設定レコードを選択します。

i. 利用可能なフィールドで、テンプレートに表示する項目を選択します。
設定されたフィールドのみを選択できます。

j. テーブルを挿入する位置にマウス デバイスを移動し、[追加] を選択します。
テーブルがテンプレートに挿入されます。挿入されたテーブルには、ドキュメントの書式が使用されます。必要に応じて書式設定を変更できます。

k. [チャート] タブを選択します。

l. [ビジネスドメイン] フィールドで、[監査] を選択します。

m. [レポートアイテム] フィールドで、必要な設定レコードを選択します。

n. 利用可能なフィールドで、テンプレートに表示する項目を選択します。
設定されたフィールドのみを選択できます。

o. グラフを挿入する位置にマウス デバイスを移動し、[追加] を選択します。
グラフがテンプレートに挿入されます。挿入したグラフを好みに応じて変更できます。たとえば、色やグラフの種類などを変更できます。

7. レポートコンテンツを更新するには、[コンテンツを更新] を選択します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. 更新されたデータを取得するフィールドを選択し、[表示してリンクを更新] を選択します。
テーブルに追加されたフィールドのみが選択可能です。
選択したフィールドとコンテンツは、利用可能な最新のデータで更新されます。

注:

潜在的なエラーを回避するには:

- 別のコンテンツブロック内にコンテンツブロックを追加しないでください。
- 10 個を超える画像を追加しないでください。
- 1 つのコンテンツブロック内に複数のテーブルを追加しないでください。
- 2 つを超えるコンテンツブロックを追加しないでください。

8. テンプレートを保存します。

関連情報

Set up Microsoft 365 reporting configuration

Add additional reporting configuration filters for a Microsoft 365 configuration record

Add related fields to a Microsoft 365 configuration record

ワークスペースページ構成

すべての GRC アプリケーション内で共通のレコードページを使用および設定できます。

GRC ワークスペース内のテーブルをカスタマイズするために、共通のレコードページテンプレートが導入されました。レコードページを設定して、アイコン、セパレーター、およびステッパーコンポーネントを表示できます。ワークスペースの構成方法の詳細については、「ワークスペースページの構成」トピックを参照してください。

ワークスペースページの構成

すべての GRC アプリケーションの外観が類似するようにワークスペースを構成およびカスタマイズできます。

始める前に
必要なロール：sn_grc_workspace.admin

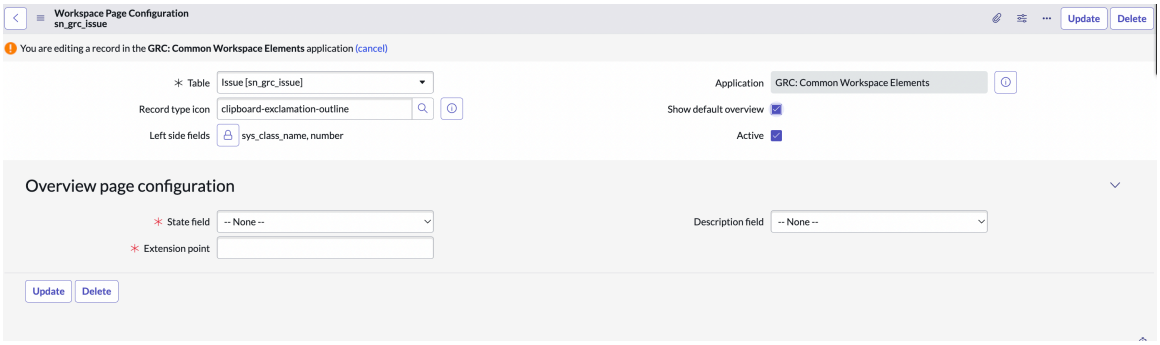
手順

1. 移動先 すべて > **GRC Administration** > ワークスペースページ構成.
2. 構成するレコードを選択します。
3. レコードを開き、フォーム上でここをクリックしてレコードを編集します。
フォームのフィールドに入力します。詳細については、「[ワークスペースページ構成] フォーム」を参照してください。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ワークスペースページ構成] フォーム



4. [更新] をクリックします。

タスクの結果
ワークスペースは構成に従ってカスタマイズされ、すべての GRC アプリケーションで類似しています。

[ワークスペースページ構成] フォーム

ワークスペース構成フォームのフィールド値の説明。

[ワークスペースページ構成] フォーム

フィールド	説明
テーブル	レコードページを構成する対象のテーブル。
アプリケーション	現在のアプリケーションスコープ。
レコードタイプアイコン	存在するすべてのベースシステムアイコンのリスト。 **注:** Now Platform で利用可能なアイコンを使用します。カスタムアイコンを作成することはできません。
左側のフィールド	レコードの標準情報がこれらのフィールドに与えられます。レコードタイプは、選択されたレコードに基づいてデフォルトでレコードページに表示されます。 **注:** 左側に設定されていないセカンダリヘッダーフィールドは、セパレーターの右側にデフォルトフィールドとして表示されます。
デフォルトの概要を表示	レコードページのデフォルトの概要ページを選択するオプション。
アクティブ	このオプションが選択されている場合にのみ、カスタマイズがレコードページに表示されます。
概要ページの構成	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ワークスペースページ構成] フォーム (続く)

フィールド	説明
ステータスフィールド	デフォルトの概要ページのステッパー耐震コンポーネントのプロセスフロー情報。 ワークフローのステータス情報は、現在のレコードのプロセスフローテーブルからキャプチャされます。
説明フィールド	デフォルトの概要ページのレコードに関する追加情報またはコンテキスト。
拡張ポイント	デフォルトの概要ページのステッパー耐震コンポーネントのカスタムプロセスフロー情報。 **注:** [ステータス] フィールドが選択されている場合、このフィールドはグレー表示になります。

レコードページテンプレートを **17.x** より前のバージョンに戻す

既存の顧客で、カスタマイズされたレコードページがある場合は、その古いページに戻すことができます。

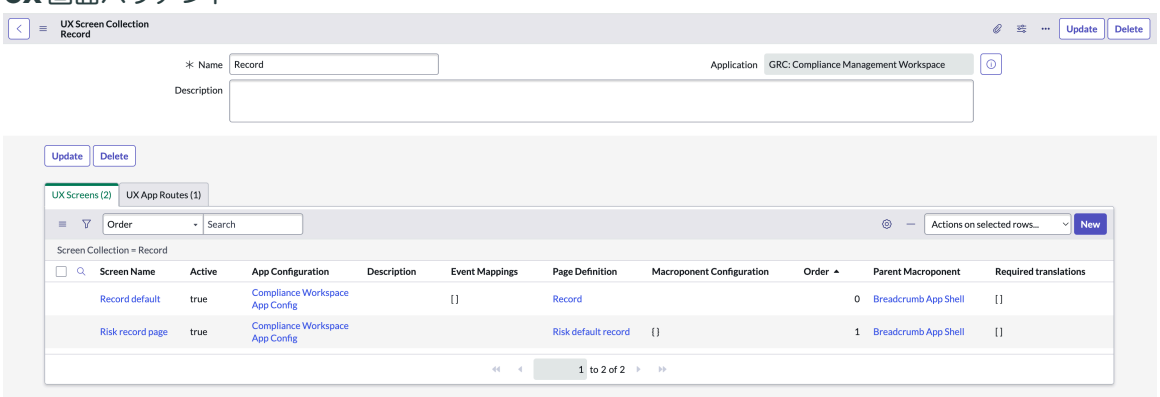
始める前に

必要なロール：workspace_admin。

手順

1. 移動先 すべて > **Now Experience** フレームワーク > **UI** ビルダー.
2. [自分のエクスペリエンス] リストから、変更を加えるワークスペースをクリックします。
3. ワークスペースに属する [レコード] ページをクリックします。
4. レコードページで、[メニュー] タブにリストされている [開発者] をクリックし、[バリアントコレクションを開く] をクリックします。

UX 画面バリアント



自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[UX 画面] タブには、[レコードの デフォルト] と [リスクレコードページ] の 2 つの画面が表示されます。

> **注:**
> 2 つの画面は、バージョン 17.x にアップグレードする場合にのみ表示されます。

5. 順序を変更するバリアントをクリックします。
上位の値を指定すると、古いレコードページに戻ります。新しいレコードページに切り替える場合は、下位の値に設定します。

GRC 共通ワークスペース要素 のフォーム用に構成されたレコードタイプアイコン

このテーブル、監査ワークスペース および コンプライアンスワークスペース のフォームに設定されているアイコンのリストを示しています。

監査ワークスペース のフォームに設定されたアイコン

フォーム名	テーブル名	レコードアイコンタイプ	アイコン名
証拠要求	sn_grc_advanced_evide	e_request	panel-display-popout-outline
証拠応答	sn_grc_advanced_evide	e_response	pop-in-outline
エンゲージメント	sn_audit_engagement		calendar-days-clock-outline
インジケーター	sn_grc_indicator		chart-speedometer-outline
プラン	sn_audit_advanced_pla		calendar-days-outline
観察事項	sn_audit_advanced_obs	vation	eye-outline
面談	sn_audit_interview		conference-room-outline
アクティビティ	sn_audit_activity		checklist-outline
マイルストーン	sn_audit_advanced_mil	one	flag-event-outline
監査可能単位	sn_audit_advanced_auc	ble_unit	component-outline

コンプライアンスワークスペース のフォーム用に構成されたアイコン

フォーム名	テーブル名	レコードアイコンタイプ	アイコン名
ポリシー例外	sn_compliance_policy_e	eption	diamond-exclamation-outline
確認応答	sn_compliance_policy_a	nowledgement_instance	script-check-outline
各種法令・基準等	sn_compliance_authorit	document	document-certificate-outline
ポリシー	sn_compliance_policy		form-outline

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フォーム名	テーブル名	レコードアイコンタイプ	アイコン名
確認応答キャンペーン	sn_compliance_policy_a	nowledgement	calendar-check-outline
コントロール	sn_compliance_control		clipboard-check-outline
信頼できるソースコンテンツ	sn_compliance_citation		connect-view-document-outline
コントロール目標	sn_compliance_policy_s	tement	clipboard-lines-outline

ガバナンス、リスク、コンプライアンスの参照

参照トピックには、GRC アプリケーションとともにインストールされるテーブル、ロール、およびプロパティに関する情報が記載されています。

ガバナンス、リスク、コンプライアンスとともにインストールされるコンポーネント

参照トピックには、GRC プラグインのアクティブ化とともにインストールされるコンポーネントに関する追加情報が記載されています。これらのコンポーネントには、テーブル、ユーザーロール、およびプロパティが含まれます。

注:
アプリケーションファイルテーブルには、このアプリケーションとともにインストールされたコンポーネントがリストされています。このテーブルへのアクセス手順については、「アプリケーションとともにインストールされているコンポーネントの検索」を参照してください。

この機能ではデモデータを利用できます。

ガバナンス、リスク、コンプライアンスの共通のロール

特定の共通のロールが複数の GRC モジュールで使用されます。

共通のロール

ロールタイトル [名前]	説明	含んでいるロール
GRC ビジネスユーザー [sn_grc.business_user]	GRC プロファイルアプリケーションの一部であるロール。アサインされたタスクを実行するために、GRC アプリケーションへのアクセスのみを必要とするユーザーにこのロールをアサインし、それらのタスクに関連するデータと情報へのアクセスを制限します。たとえば、証明書またはリスクアセスメントに対応する必要がある、または問題を修正する必要があるビジネスユーザーに、このロールをアサインします。 14.x リリース以降、sn_grc.business_user	• sn_grc.user_hierarchy_reader • workspace_user • sn_grc_workspace.task_reader • canvas_user

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

共通のロール (続く)

ロールタイトル [名前]	説明	含んでいるロール
	ロールを持つユーザーは次の権限を使用できます。 ポリシーとコンプライアンス管理： • 問題を作成し、その問題またはグループにアサインされたすべての問題を表示します。 • 証拠応答を受け入れて、承認します。 • 修復タスクをアサインします。 • ポリシーを確認します。 • ポリシーに寄稿します。 • 証明書をグループ化およびグループ解除します。 • ポリシーの例外を要求または承認します。 • 問題を報告します。 • 観察事項に応答します。 • 問題のトリアージを送信して要求します。 • 証明書を取得します。 リスク管理： • その問題またはグループにアサインされたすべての問題を作成または表示します。 • インジケータータスクをアサインします。 • 問題をアサインします。 • 修復タスクをアサインします。 • リスクイベントタスクをアサインします。 • リスク応答タスクをアサインします。 • 高度なリスクアセスメントを承認または評価します。 • インジケータータスクに応答します。 • リスク識別アンケートに回答します。	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

共通のロール (続く)

ロールタイトル [名前]	説明	含んでいるロール
	• メトリクスデータタスクに対応します。 • 問題を報告します。 • 問題のトリアージ要求を送信します。 • リスクアセスメントを受けます。 • リスクアセスメントスコープを表示します。 • リスクステートメントを表示します。 • リスクアセスメントスコープを表示します。 • リスクイベントを表示および報告します。 • インジケーターサポートデータを表示します。 プロジェクトポートフォリオ管理との統合： • ライブラリからリスクを作成します。 • エンタープライズリスクを昇格します。 • オブジェクトアセスメントを開始します。 • プロジェクトリスク概要ダッシュボードを表示します。 GRC：プロファイルをバージョン 11.x またはバージョン 12.x にアップグレードしている間、過去 90 日間に GRC 操作を実行したユーザーには、sn_grc.business_user ロールが自動的にアサインされます。これは 1 回限りのイベントです。グループとロールは、11.x または 12.x のアップグレード中に 1 回アサインされます。 sn_grc.business_user ロールの詳細については、「KB0864247」を参照してください。	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

共通のロール (続く)

ロールタイトル [名前]	説明	含んでいるロール
	注: ナレッジベース 記事 を表示するには、Now Support にログインする必要があります。 **注:** GRC ユーザーロール で GRC レコードにアクセスできるユーザー を管理できます。以前は、snc_internal ロールを持つユーザーも GRC レコードにアクセスできました。セキュリティ更新の一環として、各 GRC アプリケーションは、アクセス制御リスト (ACL) を変更し、GRC レコードへのアクセスを GRC ロールを持つユーザーのみに制限しています。 **注:** ユーザー (GRC ユーザー) がジョブを実行してレコードを作成すると、一意のユーザーテーブルにユーザーへのエントリが作成されます。	
GRC Business User – Lite [sn_grc.business_user_lite]	このロールを持つユーザーは、sn_grc.business_user によって実行できるタスクのサブセットのみを実行できます。このロールは、ServiceNow Store から GRC: Business User – Lite アプリケーションを使用する資格があり、インストール済みの顧客にのみ適用されます。Risk Lite Operator は、リストされている操作を 1 つ以上実行する権限を持つユーザーです。このロールを持つユーザーは、次のアクティビティを実行できます。 • ポリシーの確認、コントロール証明書、証明書の取得、それらにアサインされた問題、修復タスク、または証拠要求	• sn_grc_workspace.task_reader • canvas_user • sn_grc.user_hierarchy_reader

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

共通のロール (続く)

ロールタイトル [名前]	説明	含んでいるロール
	を読み取りまたは更新します。 • 送信された問題、リスクイベント、またはポリシー例外を報告または読み取ります。 リスク管理 • 問題を更新するか、その問題またはグループにアサインされたすべての問題を表示します。 • 高度なリスクアセスメントを承認します。 **注:** Lite オペレーターが高度なリスクアセスメントを承認できるようにするには、アドミニストレーターが sn_risk_advanced.ara_approver ロールを GRC：ビジネスユーザーライトに手動で追加する必要があります。 • リスク対応タスクに応答します。 • リスク対応タスクを承認します。 • リスクイベントをレビュー、承認、または却下します。 • リスク識別アンケートに応答します。 • アサインされたリスクイベントタスクを更新します。 • メトリクスデータタスクをレビューまたは応答します。 • インジケータータスクをアサインします。 • インジケータータスクの要求に応答します。 • インジケータータスクに応答します。 • ポリシーの例外と証拠要求を承認します。	

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

共通のロール (続く)

ロールタイトル [名前]	説明	含んでいるロール
GRC アドミン [sn_grc.admin]	このロールは、アプリケーションとモジュールの GRC スイートへの管理アクセス権をユーザーに付与します。	• business_process_admin • sn_grc.user_hierarchy_admin • sn_grc_workspace.task_admin • sn_grc.manager • sn_data_registry.admin
GRC システムアドミニストレーター sn_grc.sn_grc_system_admin	このロールは、スケジュール済みジョブを実行するためのシステムロールです。このロールは、管理者ロールと同等です。たとえば、ポリシーの確認のためにスケジュール済みジョブを実行する場合は、GRC アドミンとしてジョブを実行するようにシステムを設定できます。GRC システムアドミニストレーターは、sn_grc.sn_grc_system_admin ロールを持つデフォルトのユーザーです。 **注:** このロールはユーザーにアサインされません。スケジュール済みジョブを実行するために使用される技術的バックエンドロールです。	• admin • import_admin • sn_grc.admin
GRC リーダー [sn_grc.reader]	このロールは、アプリケーションとモジュールの GRC スイートへの読み取りアクセス権をユーザーに付与します。	• pa_viewer • cmdb_read • sn_data_registry.reader
GRC マネージャー [sn_grc.manager]	このロールは、アプリケーションとモジュールの GRC スイートへの管理アクセス権をユーザーに付与します。	• sn_grc.user • sn_grc.compliance_manager • business_process_manager • cmdb_query_builder_read
GRC ユーザー [sn_grc.user]	このロールは、アプリケーションとモジュールの GRC スイートへの管理アクセス権をユーザーに付与します。	• sn_grc.reader • business_process_user • sn_grc_pa.sn_grc_pa_viewer

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

共通のロール (続く)

ロールタイトル [名前]	説明	含んでいるロール
GRC 開発者 [sn_grc.developer]	このロールを持つユーザーは、GRC で、スクリプト化された要素、高度なリスクアセスメント用のスクリプト化された式、スクリプト化されたインジケーターの記述など、スクリプトベースの作業を実行できます。	sn_grc.admin
GRC 機密ユーザー [sn_grc.confidential_user]	このロールは、GRC 機密レコードへのアクセス権をユーザーに付与します。	なし
GRC ユーザー階層リーダー [sn_grc.user_hierarchy_reader]	このロールは、sn_grc_user_hierarchy テーブルのレコードの読み取りアクセス権をユーザーに付与します。	なし
GRC ユーザー階層アドミン [sn_grc.user_hierarchy_admin]	このロールを持つユーザーは、sn_grc_user_hierarchy_configuration テーブルのレコードを作成および削除できます。	なし
ワークスペースタスクリーダー [sn_grc_workspace.task_reader]	このロールを持つユーザーは、タブ構成や適用可能なテーブルなどの構成テーブルのレコードを読み取ることができます。	なし
監査リーダー [sn_audit.reader]	このロールを持つユーザーは、監査および監査関連テーブルを読み取ることができます。このロールは、ServiceNow Store から GRC: Business User – Lite アプリケーションを使用する資格があり、インストール済みの顧客にのみ適用されます。	なし
監査承認者 [sn_audit.approver]	このロールを持つユーザーは、監査を承認できます。このロールは、ServiceNow Store から GRC: Business User – Lite アプリケーションを使用する資格があり、インストール済みの顧客にのみ適用されます。	なし
このロールは、GRC 従業員ユーザーアプリケーションとともにインストールされます。		

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

共通のロール (続く)

ロールタイトル [名前]	説明	含んでいるロール
注: 次のロールは、GRC 従業員ユーザーアプリケーションを使用する資格があり、インストール済みの顧客にのみ適用されます。詳細については、サブスクリプションダッシュボードでエンタイトルメントを確認するか、ServiceNow カスタマーサービスにお問い合わせください。		
GRC 従業員 [sn_grc_emp_user.grc_employee]	このロールは、GRC 従業員ユーザーアプリケーションを使用する資格があり、ServiceNow Storeからインストール済みの顧客にのみ適用されます。このロールを持つユーザーは、従業員センターから次のアクティビティを実行できます。 • 組織のポリシーを読んで確認する。 • リスクイベントと問題を報告する。 • ポリシー例外を要求する。 • コンプライアンスケースをコンプライアンスチームに報告する。 • コンプライアンスチームに問い合わせや要求を行う。	

GRC 従業員ユーザーアプリケーションと GRC ビジネスユーザー Lite アプリケーションがインストールされている場合、次のオペレーターロールは Lite オペレーターロールとして再分類されます。

- sn_grc.business_user
- sn_risk_advanced.ara_assessor
- sn_irm_cont_auth.authorization_official
- sn_irm_cont_auth.reader
- sn_irm_cont_auth.executive_read

注:
この再分類は、GRC 従業員ユーザーアプリケーションを使用する資格があり、すでにインストールされている顧客にのみ適用されます。詳細については、サブスクリプションダッシュボードでエンタイトルメントを確認するか、ServiceNow カスタマーサービスにお問い合わせください。

GRC 機能ロール

GRC 機能ロールは、特定の GRC 機能またはアプリケーション領域の機能へのアクセスを許可する特殊なロールです。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC 機能ロールプラグイン

ServiceNow Store から GRC Feature roles プラグイン (sn_grc_ftr_role) をダウンロードしてインストールし、個々の IRM 機能へのアクセスを詳細に取得します。GRC 機能ロールは、IRM 機能セット全体へのアクセス権を付与するのではなく、個々の 統合リスク管理 (IRM) 機能へのアクセスを提供します。このアプローチにより、ユーザーはコンプライアンスライブラリ、ポリシー管理、コントロール証明書とモニタリングなどの特定の機能にきめ細かくアクセスできます。また、非IRM製品と共有されるものを正確に制御することもできます。

機能セット

GRC 機能は、論理的に機能セットにグループ化されます。機能ロールは特定の機能セットに関連付けられ、その機能セットで利用可能な機能へのアクセスを提供します。

IRM以外のユーザーは、適切な機能ロールがアサインされている場合、次のアクションを実行できます。

- ライブラリと制御の機能セット
  - 各種法令・基準等、引用、コントロール目標などのライブラリオブジェクトを作成および管理します。
  - エンティティとエンティティタイプをコントロール目標に関連付け、コントロールを生成します。
  - コントロールワークフローを管理し、証明書とインジケーターを使用してコントロールを効果的に監視し、問題を生成します。
- ポリシー機能セット
  - ポリシーとポリシーライフサイクルを作成および管理します。
  - ポリシーの確認応答とポリシー例外を作成します。
- 監査機能セット

  これらのエンゲージメント内でエンゲージメント、アクティビティ、およびスコーピングエンティティを作成および管理します。このロールは、監査ワークスペースのライトバージョンへのアクセスも提供します。
- 証拠機能セット

  証拠要求、収集の詳細、および証拠応答を作成および管理します。

重要:
GRC 機能ロールでは、個々のレコードの機能ドメインフィールドを使用して、レコードのタイプを識別します。レコードへのアクセスは機能ドメインに基づいて制限され、それを必要とするユーザーに必要なアクセスが可能になります。機能ドメインの詳細については、「機能ドメインでのレコードのタグ付け」を参照してください。

GRC 機能ロール

ロール	説明
sn_compliance.library_employee_reader [従業員オペレーター]	このロールを持つユーザーには、すべてのライブラリオブジェクト (各種法令・基準等、引用、コントロール目標、ポリシー) への読み取りアクセス権があります。
sn_compliance.policy_exception_employee_user	このロールを持つユーザーは、ライブラリと実装への読み取りアクセス権を持ち、ポリシー拡張の延長を要求できます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC 機能ロール (続く)

ロール	説明
[従業員オペレーター]	
sn_compliance.control_employee_reader [従業員オペレーター]	このロールを持つユーザーは、ライブラリ、コントロールなどの実装オブジェクト、およびコントロール要件への読み取りアクセス権があります。
sn_compliance.policy_ack_employee_user [従業員オペレーター]	このロールを持つユーザーには、ライブラリ、ポリシー、および確認ポリシーへの読み取りアクセス権があります。
sn_grc.issue_employee_user [従業員オペレーター]	このロールを持つユーザーには、ライブラリおよびポリシーへの読み取りアクセス権があります。
sn_grc.library_reader [Lite オペレーター]	このロールを持つユーザーには、エンティティ、コンテンツ、ドキュメント、対象者、対象者フィルターへの読み取りアクセス権があります。
sn_grc.compliance_assurance_reader [Lite オペレーター]	このロールを持つユーザーには、アイテム、問題、アセスメント、インジケーター、およびインジケーターテンプレートへの読み取りアクセス権があります。
sn_compliance.library_reader [Lite オペレーター]	このロールを持つユーザーには、コンプライアンスライブラリ (各種法令・基準等、引用、コントロール目標、ポリシー) への読み取りアクセス権があります。
sn_compliance.control_framework_reader [Lite オペレーター]	このロールを持つユーザーには、コントロールとコントロール要件への読み取りアクセス権があります。
sn_compliance.policy_reader [Lite オペレーター]	このロールを持つユーザーには、ポリシー、ポリシー例外、およびポリシー確認への読み取りアクセス権があります。
sn_grc.compliance_assurance_business_user [Lite オペレーター]	このロールを持つユーザーは、問題の作成、インジケータータスクへの応答、修復タスクの作成、および関連するオブジェクトへの問題の関連付けを行うことができます。
sn_compliance.control_framework_business_user [Lite オペレーター]	このロールを持つユーザーは、影響を受けるコントロールをポリシー例外に関連付けることができます。
sn_compliance.policy_business_user [Lite オペレーター]	このロールを持つユーザーは、ポリシーの例外、延長、確認ポリシーを要求し、ポリシーに寄稿することができます。
sn_grc.shared_configurator [Lite オペレーター]	このロールを持つユーザーは、機能セットに関係なく、一般的な機能にアクセスできます。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC 機能ロール (続く)

ロール	説明
sn_grc.library_user [演算子]	このロールを持つユーザーは、ドキュメント/コンテンツを情報オブジェクト、問題、エンティティなどの関連オブジェクトに関連付けることができます。
sn_grc.compliance_assurance_user [演算子]	このロールを持つユーザーは、アイテムの作成、アセスメントのグループ化の定義、エンティティ/エンティティタイプへのアイテムの関連付け、エンティティのコンテンツ、ドキュメント、インジケーター、およびインジケーターテンプレートへの関連付けを行うことができます。
sn_compliance.library_user [演算子]	このロールを持つユーザーは、コントロール目標とポリシーを作成できます。
sn_compliance.control_framework_user [演算子]	このロールを持つユーザーは、コントロール、コントロール要件を作成し、コントロールをエンティティに関連付けることができます。
sn_compliance.policy_user [演算子]	このロールを持つユーザーは、ポリシー、確認応答キャンペーンを作成し、ポリシー例外関連レコードを定義できます。
sn_grc.library_manager [演算子]	このロールを持つユーザーは、コンテンツ、ドキュメント、対象者、インジケーターテンプレート、エンティティ、およびエンティティタイプを作成できます。
sn_grc.control_framework_manager [演算子]	このロールを持つユーザーは、アイテムの管理、関連オブジェクトへのアイテムの関連付け、インジケーターとサポートデータの作成、関連オブジェクトへのインジケーターの関連付け、証明書デザイナー、タイプ、グループ化基準、インジケーターテンプレート、エンティティ、およびエンティティタイプへのコントロール目標の関連付けを行うことができます。
sn_compliance.library_manager [演算子]	このロールを持つユーザーは、各種法令・基準等、引用、コントロール目標、ポリシーを作成し、ライブラリを分類に関連付けることができます
sn_compliance.policy_mgr [演算子]	このロールを持つユーザーは、コンプライアンスライブラリオブジェクトの管理、ポリシーライフサイクルの実行、例外理由の設定、ポリシー例外承認ルールの定義、および動的承認ルールの設定を行うことができます。
sn_grc.library_admin [演算子]	このロールを持つユーザーは、ライブラリを削除または非アクティブ化できます。
sn_grc.compliance_assurance_admin	このロールを持つユーザーは、インジケーター、アイテム、アセスメント基準の削除、お

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC 機能ロール (続く)

ロール	説明
[演算子]	よび機能ドメインレジストリレコードの作成または削除を行うことができます。
sn_compliance.library_admin [演算子]	このロールを持つユーザーは、ライブラリを削除または非アクティブ化できます。
sn_compliance.control_framework_admin [演算子]	このロールを持つユーザーは、コントロール、コントロール要件を削除し、コントロール目標およびコンプライアンススコアレコードへのコントロール間の関連付けを作成できます。
sn_compliance.policy_admin [演算子]	このロールを持つユーザーは、ポリシーの削除、キャンペーンの確認、ポリシー、およびポリシー例外を行うことができます。

ガバナンス、リスク、コンプライアンスとともにインストールされるテーブル

GRC プラグインを有効にするとテーブルが追加されます。

インストールされるテーブル

テーブル	説明
コントロール目標からオブジェクトステージングテーブル [sn_grc_pci_control_objective_object_staging]	コントロール目標と構成テストのマッピングのステージング済みデータを格納します。
コントロール目標マッピングのインポート構成 [sn_grc_pci_control_objective_mapping_import_configuration]	ステージングテーブルからターゲットテーブルにデータを配送するために必要な構成情報を格納します。
コントロール目標マッピングのインポート追加フィールド構成 [sn_grc_pci_control_objective_mapping_import_additional_fields_configuration]	ターゲット m2m テーブルの追加列に関連するキーと値のペアを格納します。
各種法令・基準等へのコンテンツ参照 sn_grc_m2m_cont_ref_auth_doc	コンテンツ参照と各種法令・基準等の間でマッピングされたデータを格納する多対多の関係テーブル。
引用へのコンテンツ参照 [sn_grc_m2m_cont_ref_citation]	コンテンツ参照と引用の間でマッピングされたデータを格納する多対多の関係テーブル。
コントロール目標へのコンテンツ参照 [sn_grc_m2m_cont_ref_ps]	コンテンツ参照とコントロール目標の間でマッピングされたデータを格納する多対多の関係テーブル。
機能ドメイン [sn_grc_functional_domain]	機能ドメインのリストのメタデータを格納します。
機能ドメイン構成 [sn_grc_functional_domain_configuration]	IT 関連として分類されているすべての監査およびコンプライアンスオブジェクトの構成情報を保存します。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インストールされるテーブル (続く)

テーブル	説明
機能ドメイン構成の m2m 関係レジストリ [sn_grc_functional_domain_config_m2m_relationship_registry]	親テーブル、子テーブル、および両者間の関係を決定する関係レジストリの m2m マッピングを格納します。
GRC 機能ドメインユーザーアクション [sn_grc_functional_domain_user_action]	オブジェクトを IT 関連として追加および削除する、手動でトリガーされたユーザーアクションを保存します。
問題からコンテンツ [sn_grc_m2m_issue_content]	問題とコントロール目標の間の関係を管理するために使用される多対多の関係テーブル。
問題からドキュメント [sn_grc_m2m_issue_document]	問題とポリシーテーブルの間、および問題と各種法令・基準等の間の関係を管理するために使用される多対多の関係テーブル。
エンゲージメントの問題 [sn_grc_m2m_issue_engagement]	問題とエンゲージメントの間の関係を管理するために使用される多対多の関係テーブル。
アイテムへの問題 [sn_grc_m2m_issue_item]	問題とコントロールの間の関係を管理するために使用される多対多の関係テーブル。
アイテムからエンティティ [sn_grc_m2m_item_entity]	共通コントロールを持つ関連付けられている依存エンティティを格納する多対多の関係テーブル。
アイテムからエンティティタイプ [sn_grc_m2m_item_entity_type]	エンティティタイプの関連付けのエンティティタイプ ID レコードを保存します。
インジケーター [sn_grc_indicator]	インジケーターの詳細を保存します。
Supporting Data [sn_grc_indicator_supporting_data]	インジケータージョブの実行 (GRC インジケーターの夜間実行) の後に収集されたサポートデータを保存します。
データ統計をサポートするインジケーター [sn_grc_indicator_supporting_data_statistics]	サポートデータ収集ジョブによって利用される、サポートデータを収集するためのインジケーターの統計情報を保存します。

自動翻訳

ガバナンス、リスク、コンプライアンス のプロパティ

ポリシーとコンプライアンスとリスク管理に共通の GRC プロパティは次のとおりです。

共通の **GRC** プロパティ

移動先 ポリシーとコンプライアンス > アドミニストレーション > **GRC** プロパティ. または、 リスク > アドミニストレーション > **GRC** プロパティ.

GRC のプロパティ

プロパティ	説明
インジケータージョブの実行時にインジケーター結果ビジネスルールの実行を検討する sn_grc.indicator_result_execute_business_rules_on_indicator_job_run	このプロパティは、インジケータージョブ実行で実行された結果ビジネスルールの GRC インジケーターであり、 GRC：プロファイル中です。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC のプロパティ (続く)

プロパティ	説明
	• タイプ：true または false • デフォルト値：false
インジケータージョブの実行時にインジケータータスクビジネスルールの実行を検討する sn_grc.indicator_task_execute_business_rules_on_indicator_job_run	このプロパティは、インジケータージョブ実行で実行されるタスクビジネスルールの GRC インジケーターであり、 GRC：プロファイル中です。 • タイプ：true または false • デフォルト値：false
インジケータージョブの実行時にインジケータービジネスルールの実行を検討する sn_grc.indicator_execute_business_rules_on_indicator_job_run	このプロパティは、インジケータージョブの実行時に実行されたビジネスルールの GRC インジケーターであり、 GRC：プロファイル中です。 • タイプ：true または false • デフォルト値：false
同じ応答アセスメントグループ化オプションを有効にします。sn_grc.enable_consolidate_asmt	このプロパティは、「証明書応答の統合」機能で使用されます。これが true に設定されている場合、[すべてのアセスメントに同じ応答を提供] オプションがグループ化の選択肢に追加されます。 • タイプ：[はい] または [いいえ] • デフォルト値：はい
異なる応答タイプのグループ化されたアセスメントで許可されている質問の合計数 = 1 つのアセスメントでの質問数 * 選択されたアセスメントの数。sn_grc.grouped_questions_limit	このプロパティは、証明書/リスクアセスメントのグループ (さまざまな応答タイプ) を作成するときに使用されます。式の合計数を超えると、グループ内の質問が過多になるのを防ぐために、グループの作成を制限するエラーがスローされます。顧客がこのプロパティを増やすと、パフォーマンスに影響する可能性があります。
アイテムのインジケーターを自動的に作成します。sn_grc.auto_create_indicator	このプロパティが true に設定されている場合、コンテンツ (リスクステートメント/コントロール目標) がインジケーターテンプレートにリンクされると、インジケーターが自動的に生成されます。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC のプロパティ (続く)

プロパティ	説明
	• タイプ：[はい] または [いいえ] • デフォルト値：はい
許可されたインジケーターイベントの最大数。sn_grc.indicator_max_events	これらは、スケジュールされたインジケーターの実行中の発生が許可されたインジケーター実行関連のイベントの最大数です。通常、発生するイベントの数は、実行するインジケーターの合計数/インジケーターのバッチサイズによって決定されます。結果イベント数がインジケーターイベントの最大数を超えた場合、バッチサイズ ID はインジケーターの合計/許可されたインジケーターイベントの最大数に調整されます。
実行するインジケーターのバッチサイズ。sn_grc.indicator_min_batch_size	このプロパティは、バッチで実行する必要があるインジケーターの数を制御します。インジケーターは常にバッチで実行されます。バッチごとに、実行するインジケーターの sys_id を持つイベントが発生します。たとえば、インジケーターの合計数が 10000 でバッチサイズが 1000 の場合、10 個のイベントが発生し、各イベントには実行される 1000 個のインジケータのリストがあります。
同じ応答タイプのグループ化されたアセスメントで許可されている質問の合計数 = 1 つのアセスメントでの質問数 * 選択されたアセスメントの数。sn_grc.consolidated_questions_limit	このプロパティは、証明書/リスクアセスメントのグループ (同じ応答タイプ) を作成するときに使用されます。式の合計数を超えると、グループ内の質問が過多になるのを防ぐために、グループの作成を制限するエラーがスローされます。顧客がこのプロパティを増やすと、パフォーマンスに影響する可能性があります。
開かれているインジケータータスクの最大数。sn_grc.max_open_indicator_tasks	実行される各インジケーターでは、sn_grc_indicator_task テーブルに関連付けられたタスクが作成されます。このプロパティは、任意の時点でアクティブなインジケータータスクの数を制御します。インジケーターがカウントを超えると、sn_grc.max_tasks_exceeded イベントが発生します。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC のプロパティ (続く)

プロパティ	説明
	詳細については、「KB0788099」を参照してください。
関連するすべての修復タスクがクローズされると、問題を自動的にクローズします。sn_grc.automatically_close_all_issues_when_all_tasks_closed	このプロパティが true に設定されている場合、すべての子タスクがクローズされたときに問題は自動的にクローズされます。それ以外の場合は、ユーザーが手動で問題をクローズする必要があります。 • タイプ：[はい] または [いいえ] • デフォルト値：はい
問題アサイニーの提案の基準。sn_grc_pred_intel.issue_assignee_suggest	このプロパティが None に設定されている場合、問題フォームの [アサイン先] フィールドの横に提案アイコンは表示されません。Similarity Analysis に設定されている場合、提案アイコンが利用可能になり、ユーザーが提案アイコンをクリックすると、[問題アサイニーの予測の機械学習ソリューション] プロパティに指定された類似ソリューション定義名に基づいてアサインが予測されます。
問題アサイニーの予測の機械学習ソリューション。sn_grc_pred_intel.ml_solution_for_issue_assigned_to	このプロパティは、アサイン先の問題の予測に使用される類似ソリューション定義の名前を記述するために使用されます。このフィールドが空白のままであるか、類似ソリューション定義名が不適切または存在しない場合、[問題の担当者] フィールドの横にある提案アイコンをクリックするとエラーが発生します。ユーザーは、自分のインスタンスに多数の既存の類似したソリューションを持っている可能性があります。これにより、適切なソリューション定義名をある程度柔軟に指定できます。
インジケーターテンプレートとインジケーターのデフォルトのサンプルサイズ。sn_grc.indicator.default.sample_size	インジケーターテンプレートとインジケーターのデフォルトのサンプルサイズを設定するために使用されるプロパティ。
データコレクションジョブをサポートするインジケーターによって処理されるレコードの最大数。sn_grc.max_supporting_data_records_to_process	このプロパティは、サポートデータ収集ジョブが実行されるたびに、サポートデータ統計テーブル

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC のプロパティ (続く)

プロパティ	説明
	から設定された数だけレコードを収集するために使用されます。デフォルト値は 500 です。
% ベースのサンプリングによるインジケーターのデータ制限をサポートします。sn_grc.supporting_data_percentage_max_records_limit	インジケーターテンプレートまたはインジケーターフォームの [サポートデータ (Supporting Data)] タブでサンプルのコレクションタイプとして [パーセンテージ] を選択している場合に、収集するレコードの割合を設定していても、サポートデータ収集の上限を設定するためにこのプロパティが使用されます。
高度な問題グループ化機能	このプロパティは、問題のグループ化の管理方法やワークスペース内の問題のグループ化のなど、高度な問題グループ化機能を有効にするために使用されます。このプロパティを有効にすると、次の変更が行われます。 • システム内のグループ化されたすべての問題は、[子の管理 (Manage child)] に設定された管理方法で更新されます。 • 子問題のない親問題は、スタンドアロンの問題としてマークされます。 • 機密でない親問題の下にある機密の子問題はグループから削除され、スタンドアロンの問題としてマークされます。 • 機密ではないとマークされた機密の親問題は、機密の子問題がグループから除去され、スタンドアロンの問題としてマークされます。 • 問題の自動グループ化機能のデフォルトの管理方法は [子の管理 (Manage child)] になります。 • 子問題をクローズするときに、管理方法が [子の管理 (Manage child)] の場合、親問題は自動的にクローズされません。 • 管理方法が [親の管理 (Manage parent)] の場合、子問題で [ステータス **(Status)**]、[応答]、[説明] などのフィールドを編集することはできません。

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GRC のプロパティ (続く)

プロパティ	説明
	• 管理方法が [親の管理 (Manage parent)] の場合、親問題の [ステータス **(Status)**]、[応答]、および [説明] フィールドは子問題によって継承されます。 **注:** 子問題の [アサイン先 **(Assigned to)**] や [問題マネージャー **(Issue manager)**] フィールドなどの必須フィールドが空の場合、子問題はそれらのフィールドを親課題から継承します。 **注:** このプロパティを有効にした後で無効にすることはできません。
インジケーターの実行後に保留中のアクションを非同期で実行します。sn_grc.execute_indicator_next_actions_async	このプロパティが True に設定されている場合、2 つのカスタムキューを利用してインジケーターを高レベルで処理します。このプロパティが False に設定されている場合、インジケーターはデフォルトのキュープロセッサーで処理されます。
コレクションジョブを使用してインジケーターのサポートデータを非同期に収集。sn_grc.process_indicator_supporting_data_async	True の場合、サポートデータ収集ジョブがサポートデータをサポートデータ統計テーブルに収集します。False の場合、サポートデータはデフォルトキューから収集されます。この場合、サポートデータ収集ジョブは活用されません。
期限切れ通知を送信するインジケータータスクの期限日からの経過日数。	このプロパティは、期日から経過した日数をユーザーに通知するために使用されます。
リマインダー通知を送信するインジケータータスクの期限日までの日数。	このプロパティは、インジケータータスクの期日が近づいていることをユーザーに通知するために使用されます。

複合エンティティのプロパティ

移動先 すべて > 複合エンティティ > プロパティ.

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンポジットエンティティ管理 のプロパティ

プロパティ	説明
複合エンティティおよび複合エンティティクラスの名前を自動生成するために使用されるセパレーター [sn_grc_comp_ent.name_separator]	複合エンティティおよび複合エンティティクラス名に使用されるセパレーターを指定するプロパティ。
コンテンツツリー内に表示できるエンティティの最大数 [sn_grc_comp_ent.max_content_tree_entity_count]	エンティティ検索中にコンテンツツリーに表示されるエンティティの最大数を定義するプロパティ。

自動翻訳

© 2025 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。